国立国語研究所学術情報リポジトリ

鳩間方言辞典

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-07-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加治工, 真市, Kajiku, Shinichi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002991

鳩間方言辞典

加治工真市

序

沖縄方言は、大きく分けて本島北部方言と中南部方言に分けられる。その境界は、東は旧石川市と金武町屋嘉の間、西はほぼ恩納村谷茶・冨着・前兼久のあたり以北の諸方言と、伊江島方言、津堅島方言、久高島方言を加えた諸方言を沖縄本島北部方言という『沖縄今帰仁方言辞典』。沖縄本島中南部方言には、沖縄本島中南部の諸方言と久米島方言、慶良間諸島方言、粟国島方言、伊是名島方言、伊平屋島方言が含まれる。

南琉球方言には宮古諸方言と八重山諸方言が属する。宮古諸方言には、（１）大神方言、狩俣方言、（２）宮古本島平良方言、池間方言、西原方言、佐良浜方言、長浜方言、佐和田方言、伊良部方言、仲地方言、国仲方言、（３）多良間方言、水納島方言が属し、八重山諸方言には、（１）石垣方言系 1石垣方言、2小浜方言、3新城方言、4古見方言、5川平方言、6宮良方言、7大浜方言、8平得方言、前里方言、9黒島方言、10鳩間方言。（２）波照間方言系 1波照間方言、2白保方言。（３）与那国方言系1与那国祖納方言、2与那国比川方言）が認められる。『八重山島年来記』によると、鳩間村は「1629 年の条では大浜村、崎原村、大城村、白保村、桴海村、平久保村、西表村、慶田城村、与那国村と同じ、大浜間切の 10 カ村の一つに数えられることになった」という。1644 年の『正保国絵図』には、鳩間島について「こみ間切り之内鳩間嶋人居有島廻廿弐町船かかり不成ひけ川村より鳩間嶋迄海上三里半歩渡り平瀬先」とあり、さらに『八重山島年来記』によると、「鳩間村は行政的には早くから鬚川村と合わせて一村として扱われ、順治八年（1651）の人口は両村で 70 人」であったという。また、「一七〇一年に黒島保里村から六〇人余の寄百姓をして、人口も百人余に増加したため、翌年与人・目差役の設置を申請したが・・・」『竹富町史第六巻鳩間島』20 頁とあるから、少なくとも今から約 400 年前には現在地に小さな鳩間村（人口 60 人程度）が存在し、˺シマムニ [˺ʃimamuni]（島言葉＜鳩間方言＞）が話されていたと考えられる。『鳩間方言辞典』に収録された方言は、このシマムニに繋がる言葉と考えられる。

目次

序 i
凡例 v
1 収録語 v
2 見出し語 v
3 見出し語の配列 v
4 方言形の表記 vi
5 アクセント vi
6 文法 vi
7 略語表 vi
7.1 見出し語に関するもの vi
7.2 説明文に関するもの viii
8 鳩間方言のモーラ表 ix
解説 xi
1 国語の母音と鳩間方言母音の音韻対応 xi
2 国語の子音と鳩間方言子音の音韻対応 xi
2.1 カ行子音の音韻対応 xi
2.2 国語サ行子音の音韻対応 xi
2.3 国語タ行子音の音韻対応 xii
2.4 国語のナ行子音の音韻対応 xii
2.5 国語のハ行子音の音韻対応 xii
2.6 国語のマ行子音の音韻対応 xiii
2.7 国語のヤ行子音の音韻対応 xiii
2.8 国語のラ行音の音韻対応 xiii
2.9 国語のワ行音の音韻対応 xiv
3 鳩間方言の語法 xiv
3.1 代名詞 xiv
4 動詞 xvii
4.1 規則変化活用表 xvii
4.2 準規則変化活用表 xviii
4.3 不規則変化活用表 xviii
4.4 一・二段系動詞の活用表 xix
5 形容詞 xxi
5.1 鳩間方言形容詞の活用表 xxii
6 助動詞 xxiii
7 助詞 xxiv
7.1 格助詞 xxiv

7.2 係助詞 . . . xxv
7.3 副助詞 . . . xxv
7.4 接続助詞 . . . xxvi
7.5 並立助詞 . . . xxvii
7.6 終助詞 . . . xxvii
8 数詞 . . . xxix
8.1 数詞 . . . xxix
8.2 助数詞 (接辞の一つ) . . . xxix
ア . . . 1
イ . . . 129
ウ . . . 207
エ . . . 331
オ . . . 333
カ . . . 345
キ . . . 487
ク . . . 549
ケ . . . 617
コ . . . 623
サ . . . 639
シ . . . 697
ス . . . 845
ソ . . . 889
タ . . . 909
チ . . . 985
ツ . . . 993
テ . . . 1027
ト . . . 1057
ナ . . . 1121
ニ . . . 1181
ヌ . . . 1207
ネ . . . 1237
ノ . . . 1239
ハ . . . 1243
ヒ . . . 1351
フ . . . 1417
ヘ . . . 1525
ホ . . . 1531
マ . . . 1541
ミ . . . 1607
ム . . . 1659
メ . . . 1703
モ . . . 1707
ヤ . . . 1709
ユ . . . 1755
ヨ . . . 1791

ラ 1799
リ 1803
ル 1807
レ 1809
ロ 1811
ワ 1813
ン 1817
後書き 1841

凡例

1　収録語

(1) 収録語は、著者の語彙を中心に、両親加治工伊佐 (< ティジリビー、男性神職者 >)、加治工モウシヤ、叔母加治工千代 (司)、同大城サカイ (西村の˺カッティ [˺katti]< 取り上げ婆 >)、同宮良ヲナリ氏、叔母大工良 (鰹節製造工場経営者の妻) の使用していた生活語彙を採録した。神事用語や歌謡語等については花城イガ氏 (司)、米盛クヤ氏 (司)、慶田城マカト氏 (前竹富村議員、鰹節製造工場経営者の妻) からも採録した。

(2) 収録語はすべて著者の発音に従って IPA 表記とカタカナ表記で並記して示した。

(3) 体系的な語彙収集に当たっては、『沖縄今帰仁方言辞典』仲宗根政善著 (角川書店)、『石垣方言辞典』宮城信勇著、加治工真市監修 (沖縄タイムス社)、『宮良當壮全集 8 八重山語彙 (甲・乙) 編』宮良當壮著 (第一書房)、『沖縄語辞典』国立国語研究所資料集 5、大蔵省印刷局。『久高島方言基礎語彙辞典』福治友邦・加治工真市共著 (法政大学沖縄文化研究所) を参考にした。

(4) 現今では使用をはばかるような差別用語などの不適切な語彙も、死語化することを思い、研究資料・歴史的資料として残すため、敢えて収録した。

2　見出し語

(1) 見出し語は、カタカナ表記、簡略 IPA(国際音声字母) 表記、品詞名、活用の種類 (活用語の場合) で示し、語の解説では、意味記述、用例、参考資料の順に示した。

(2) すべての見出し語及び例文にはアクセント記号を付して示した。

(3) 活用語は原則として終止形を掲げ、動詞の場合は ( ) 内に自動詞、他動詞の区別を略字で示した。また、活用の種類を文法編末尾の活用表と対応させ、略記号で示した。

(4) すべての見出し語に用例を付すことを原則とした。

3　見出し語の配列

(1) カタカナ表記で単純五十音順に配列した。

(2) 長音は、その前の音の重複とみなし、その位置に配した。(例)、アーサ → アアサの位置

(3) 右下に小さく書き添えた文字は一文字とみなした。例えば、シャは二文字と扱う。

(4) 清濁音の配列は、清音・濁音・半濁音の順とした。

(5) 音韻がまったく同じ語は、次のように配列した。

a. 語素、略語表の品詞の順に配した。

b. 同じ語形で、品詞も同じ語のうち、アクセントの位置が異なる語は、平板を先にしアクセント (上り核) が前にあるものから順に並べた。

4 方言形の表記

(1) 方言形の表記は、音声的なカタカナ表記と簡略 IPA 表記により、すべて本書に掲げた「鳩間方言モーラ表」に従って示した。

(2) 音声的な中舌母音 [ɨ] は、イ段音のカナに「ゥ」を添えて「シゥ」のように示した。

(3) 長母音は、長音符号「ー」で示した。

(4) 母音の無声化は、カナ表記には示さなかったが、IPA 表記では、母音の下に「̥」記号を添え、[u̥] のように示した。鳩間方言では、狭母音 [i]、[u] が無声子音に挟まれると無声化するのが原則であるが、無声化しない場合もあり、また広母音 [a] まで無声化する場合もある。ここでは著者の発音に従って表記した。

5 アクセント

(1) 収録語のアクセントは、著者の発音を著者自身が内省して表記したものである。著者と著者の両親との間でアクセントに相違を実感したことはなかった。

(2) アクセント表記で、˞ 記号は上り核を、˩ 記号は下がり核を表し、パ˞トゥ˩マ [pḁ˞tu˩ma](鳩間) のように、上がる音節に˞ 記号を付し、下がる音節の直前に˩ を付してを示した。文末に現れる中低アクセントは˧ 記号で表記した。

6 文法

(1) 活用語は、語形替変の形式を重視し、『沖縄今帰仁方言辞典』に示された考えを参考にして整理した。

(2) 助詞については、文中における文法的職能を重視して分類し、適切な例文を配置した。

7 略語表

7.1 見出し語に関するもの

(名) 名詞: 事物の名称を表す語。自立語で活用がなく、主語になることができる。代名詞とともに体言と総称される。

(代) 代名詞: 名詞に近い性質を持つ。同一人物が「これ、それ、あれ」と違った代名詞で表され、同一の事物が「これ、それ、あれ」と違った代名詞で表される。話し手との関係において人や事物を「指し示す」働きが文法上の特徴。(人代名詞 < 人称代名詞 >、指示代名詞の二つに分ける。)

(固) 固有名詞: ある個人、または個物、個体に特有の名称を表す語。

(数詞) 数詞: 体言の一つ。人や事物の数量または数による順序を表す語。「ひとつ、ふたり、みっか、四本、五匹」(数量数詞、基数詞、などと言うこともある)。第一章、第二章、三つめ、四番、五級 < 順序数詞、序数詞 > などということもある)

(助数) 助数詞: 接辞の一つ。数詞に付属する接尾語。ひとつ、ふたつ、ふたり、みっか、四箱、五棟、六皿、七本、八軒、九冊、十首など。数に付属する接尾語が多い。接頭語及び接尾語を助数詞という。名詞の独立性が薄れて接辞化したものが多い。「数詞の構成要素となる接尾語、接頭語を助数詞という」

(接頭) 接頭語: 接辞の一つ。単独では用いられず、常に他の語の上に付いて意味を添え、または調子を整える。「お茶」の「お」、「かぼそい」の「か」、「ぶちまける」の「ぶち」など。接頭辞。

(接尾) 接尾語: 接辞の一つ。単独では用いられず、常に他の語の下に付く。また、その語の所属する品詞を変えることもある。「君たち」の「たち」、「大きさ」の「さ」、「春めく」の「めく」など。接尾辞。接辞。

(形式名) 形式名詞: その語自体には実質的な意味が乏しく、に具体的な意味内容示す連体修飾語を受けて使用される名詞。(こと。ほど。ところ。)

動詞: 自立語で活用のあるもの。終止形がウン [uŋ] で、ヤン [jaŋ]、ッサン [ssaŋ](形)、サン [saŋ](形)、アーン [aːŋ] とならないもの。

(自動) 自動詞: その表す動作・作用が他に及ばないで、主体の動きや変化として述べられる動詞。˹パルン [˹paruŋ]（行く）、˹ナー˺ルン [˹naːruŋ]（流れる）、バ˹リルン [ba˹riruŋ]（割れる）の類。

(他動) 他動詞: 動詞の中で、その表す動作・作用が直接他に及ぶ意味をもつもの。動作・作用が及ぶ対象は格助詞「を」のついた目的語として表される。˹ジー˺　カクン [˹ʤiː˺ kakuŋ]（字を書く）、ミ˹ジ˺　ヌムン [mi˹ʤi˺ numuŋ]（水を飲む）、˺ヤー　ス˹ク˺ルン [˺jaː su˹ku˺run]（家を作る）等。

(形) 形容詞: 事物の性質・状態・人間の感覚・感情などを表す自立語で、活用がある。動詞・形容動詞とともに用言に属する。終止形がヤン [jaŋ]、サン [saŋ] などとなるもの。˹カイ˺ヤン [˹kai˺jaŋ]（美しい）、˹ヌッ˺サン [˹nus˺saŋ]（温い）、サ˹ニ˺ヤン [sa˹ni˺jaŋ]（嬉しい）等。

(連) 連語: 二つ以上の単語が連結して一つのまとまった意味を表すが、その結合のしかたが、一語となるには弱すぎ、また文をなすほど大きくないもの。それぞれの単語より複雑なまとまりの概念を表す語で、一つの単語と同じような働きをするもの。ア˹ザラン˺ナカーラ [ʔa˹dzaran˺nakaːra]（言うにことかいて）など。

(副) 副詞: 自立語で活用がなく、主語・述語にならない語のうち、主として連用修飾語として用いられるもの。情態副詞 (たちまち・のんびり・ちらちら)、程度副詞 (やや・さらに・すこぶる)、陳述副詞 (もし・あたかも・決して) などに分けられる。

(連体) 連体詞: 単独で文節を構成し、もっぱら連体修飾語として用いられ、文の成分として、主語・述語・被修飾語あるいは独立語となりえないもの。他に連体修飾、連用修飾の文法的職能を持っていないもの。活用のない自立語でもっぱら体言を修飾するもの。「この本」「ある人物」「ほんの少々」「あらゆる文献」の「この・ある・ほんの・あらゆる」など。

(接続) 接続詞: 自立語で活用がなく、前の語句や文を受けて後の語句や文に続ける働きを持つ語。「山また山を超えていく」の「また」、「安くて、しかもうまい店」の「しかも」、「電車またはバスを利用する」の「または」、「この電車は値段が高い。しかし性能はいい」の「しかし」など。

(感動) 感動詞: 自立語で活用がなく、単独で文になれるが、主語にも修飾語にもならないもの。話し手の感動を表す「ああ」「おや」「まあ」、呼びかけを表す「おい」「もし」「ねえ」、応答を表す「はい」「うん」「いいえ」、あいさつを表す「おはよう」「さようなら」など。間投詞、感嘆詞。

(助動) 助動詞: 付属語のうち活用のあるもの。用言や体言、そして他の助動詞に付いて意味を加え、叙述の働きを与える。その表す意味によって使役・受け身・自発・可能・尊敬・打ち消し・過去・完了・推量・意志・希望・伝聞などに分類される。

(助) 助詞: 付属語のうち活用しないもの。常に自立語または自立語を含む連語に付属し、その語句と他の語句との関係を示したり、陳述に一定の意味を添えたりする。「この団体は国から補助金をもらっている」の「は」、「から」、「を」、「て」など。格助詞、副助詞、接続助詞、終助詞、間投助詞などに分類される。

(格助) 格助詞: 体言、または体言に準ずる成分につき、それが文中で他の成分とどのような関係にあるかを示す助詞。「が」、「の」、「に」、「へ」、「と」、「より」、「から」、「で」の類。

(接助) 接続助詞: 用言・助動詞に付いて前の語句と後ろの語句を接続し、前後の語句の意味上の関係を示す。

(係助) 係助詞: 種々の語句に付いて強調などの意を添え、その部分を受ける文節にかかって呼応関係を生じさせる助詞。係り結びの関係で、結びの述語に影響を及ぼすもの。鳩間方言では、ドゥ [du]、ル [ru]（ぞ）の類。

(副助) 副助詞: 種々の語句に付いて、その語句に補助的な意味を添え、下にくる用言や活用語を修飾限定する働きをもつ助詞。˹バー˺キ [˹baː˺ki]（まで）、˺ドーレー [doːreː]（など）、˺ブカラ [bukara]（くらい）などの類。副詞に似た機能を持つ助詞の意。

(間助) 間投助詞: 文中または文末の文節について語調を整え、感動、余剰、強調などの意を添えるもの。˹ナー [˹naː]（なあ）、˹ヨー [˹joː]（ねえ）、˹ゲ˺ラ [˹ge˺ra]（さ）など。

(並立) 並立助詞: 二つ以上の事物を並べていうのにもちいるもの。対等の関係に立つ語を接続せしめる機能を果たす助詞。「と」「や」「か」など。

(終助) 終助詞: 文の終わりにあって、命令、禁止、疑問、願望、感動、強意、反語などの意を添える助詞。口語では、「か・な・や・よ・わ・と・も・ぞ・かい」などの類。

(語素) 単語を構成する最小の意味単位である形態素に対応する形式。

(補動) 補助動詞: 動詞で、本来の意味と独立性を失って付属的に用いられるもの。

(助動) 助動詞: 付属語で活用のある語。

(擬態) 擬態語: 物事の状態や身振りなどを描写する語。

7.2 説明文に関するもの

(動) 動物: 鳩間島及び西表島で観察される動物（海中動物を含む）。

(植) 植物: 鳩間島及び西表島で観察される植物（海中植物を含む）。

(地) 地名: 鳩間島の自然地名、西表北部の稲作に関する地名、水産業に関する地名、及び海底地名。

(人) 人名: 戸籍上の名前以外の伝統的な名。島で著名な人名など。

(幼) 幼児語: 幼児期にのみ用いられる語。

(家) 屋号: 昭和 30 年頃まで存在したもの。

8 鳩間方言のモーラ表

	イ	エ	ア	オ	ウ	ヤ	ヨ	ユ	ワ
/’/	/’i/	/’e/	/’a/	/’o/	/’u/	/ja/	/jo/	/ju/	/wa/
	[ʔiíi]	[ʔeíe]	[ʔaía]	[ʔoío]	[ʔuíu]	[ja]	[jo]	[ju]	[wa]
	ヒ	ヘ	ハ	ホ	フ	ヒャ	ヒョ	ヒュ	フゥ
/h/	/hi/	/he/	/ha/	/ho/	/hu/	/hja/	/hjo/	/hju/	/hwa/
	[çi]	[he]	[ha]	[ho]	[ɸu]	[ça]	[ço]	[çu]	[ɸa]
	キ	ケ	カ	コ	ク	キャ	キョ	キュ	クゥ
/k/	/ki/	/ke/	/ka/	/ko/	/ku/	/kja/	/kjo/	/kju/	/kwa/
	[ki]	[ke]	[ka]	[ko]	[ku]	[kja]	[kjo]	[kju]	[kwa]
	ギ	ゲ	ガ	ゴ	グ	ギャ	ギョ	ギュ	グゥ
/g/	/gi/	/ge/	/ga/	/go/	/gu/	/gja/	/gjo/	/gju/	/gwa/
	[gi]	[ge]	[ga]	[go]	[gu]	[gja]	[gjo]	[gju]	[gwa]
	ピ	ペ	パ	ポ	プ	ピャ	ピョ	ピュ	–
/p/	/pi/	/pe/	/pa/	/po/	/pu/	/pja/	/pjo/	/pju/	–
	[p’i]	[p’e]	[p’a]	[p’o]	[p’u]	[p’ja]	[p’jo]	[p’ju]	–
	ビ	ベ	バ	ボ	ブ	ビャ	ビョ	ビュ	–
/b/	/bi/	/be/	/ba/	/bo/	/bu/	/bja/	/bjo/	/bju/	–
	[bi]	[be]	[ba]	[bo]	[bu]	[bja]	[bjo]	[bju]	–
	ミ	メ	マ	モ	ム	ミャ	ミョ	ミュ	–
/m/	/mi/	/me/	/ma/	/mo/	/mu/	/mja/	/mjo/	/mju/	–
	[mi]	[me]	[ma]	[mo]	[mu]	[mja]	[mjo]	[mju]	–
	ふィ	ふェ	ふァ	ふォ	ふゥ	–	–	ふュ	–
/f/	/fi/	/fe/	/fa/	/fo/	/fu/	–	–	/fju/	–
	[fi]	[fe]	[fa]	[fo]	[fu]	–	–	[fju]	–
	ティ	テ	タ	ト	トゥ	–	–	–	トゥ
/t/	/ti/	/te/	/ta/	/to/	/tu/	–	–	–	/twa/
	[ti]	[te]	[ta]	[to]	[tu]	–	–	–	[twa]
	ディ	デ	ダ	ド	ドゥ	–	–	–	–
/d/	/di/	/de/	/da/	/do/	/du/	–	–	–	–
	[di]	[de]	[da]	[do]	[du]	–	–	–	–
	ニ	ネ	ナ	ノ	ヌ	–	–	ニュ	–
/n/	/ni/	/ne/	/na/	/no/	/nu/	–	–	/ɲu/	–
	[ni]	[ne]	[na]	[no]	[nu]	–	–	[ɲu]	–
	リ	レ	ラ	ロ	ル	–	リョ	リュ	–
/r/	/ri/	/re/	/ra/	/ro/	/ru/	–	/rjo/	/rju/	–
	[ri]	[re]	[ra]	[ro]	[ru]	–	[rjo]	[rju]	–
	チ	チェ	ツァ	ツォ	ツ	チャ	チョ	チュ	–
/c/	/ci/	/ce/	/ca/	/co/	/cu/	/cja/	/cjo/	/cju/	–
	[ʧi]	[ʧe]	[tsa]	[tso]	[tsu]	[ʧa]	[ʧo]	[ʧu]	–
	ジ	ジェ	ザ	ゾ	ズ	ジャ	ジョ	ジュ	–
/z/	/zi/	/ze/	/za/	/zo/	/zu/	/zja/	/zjo/	/zju/	–
	[ʤi]	[ʤe]	[ʤa]	[ʤo]	[ʤu]	[ʤa]	[ʤo]	[ʤu]	–
	[ízi]	[íze]	[íza]	[ízo]	[ízu]	[ízja]	[ízjo]	[ízju]	–
	シ	シェ í セ	サ	ソ	ス	シャ	ショ	シュ	–
/s/	/si/	/se/	/sa/	/so/	/su/	/sja/	/sjo/	/sju/	–
	[ʃi]	[ʃeíse]	[sa]	[so]	[su]	[ʃa]	[ʃo]	[ʃu]	–
/Q/	(促音ッ)	[p, t, k, ʧ, ts, s, ʃ, f]							
/N/	(撥音ン)	[m, n, ɲ, ŋ]							

解説

1　国語の母音と鳩間方言母音の音韻対応

(1) 国語の母音/a/は鳩間方言の/a/に対応する。[ˈʔami](雨)、[ˈkạ̥ta](肩)、[sạ̥ˈki](酒)、[tạˈki](竹)。[naˈʧi](夏)、[pạʧi](初)、[maʧi](松)、[ˈjama](山)、[tuˈra](虎)

(2) 国語の母音/i/は、鳩間方言の/i/に対応する。[ʔiˈʃi](石)、[ˈki̥ku](菊)、[ˈʃima](島)、[ˈʃiː](血)、[ˈniː](荷)、[ˈpiː](火)、[ˈmiː](身)

(3) 国語の母音/u/は、鳩間方言の/u/に対応するのが原則で、摩擦音、破擦音に続く場合は/i/に対応する。[ʔui](上)、[ɸu̥ki](茎)、[ˈnuka](糠)、[ˈmuku](婿)、[ˈjukka](床)、[ˈkaʃi](糟。粕)、[ˈkaʤi](数)、[naˈʧi](夏)

(4) 国語の母音/e/は、鳩間方言の/i/に対応する。[sạˈki](酒)、[pạˈtaˈki](畑)、[ʔaˈgiruŋ](上げる)、[ˈʔairuŋ](揚げる)、[ˈʔaʃi](汗)、[ɸu̥ˈʃi](癖)、[ˈkạ̥ʃi](絕[カセ])、[ʔaˈtiruŋ](当てる)。[paˈni](羽)、[kaˈmi](亀)、[ˈʔami](雨)、[tuˈmiruŋ](止める)、[saˈrikiː](枯れ木)、[baˈrikami](割れ瓶)

(5) 国語の母音/o/は、鳩間方言の/u/に対応する。[ʔuˈku](奥)、[ʔuˈtu](音)、[ˈkui](声)、[ku̥ˈʃi](腰)、[kuˈtuˈba](ことば)、[su̥ˈku](底)、[ˈsuba](側)、[ˈpatuʤa](鳩)、[duˈru](泥)、[ˈkadu](角)、[ˈnudu](喉)、[kaˈmui](鴨居)、[ˈtumu](艫)、[ˈjuːˈru](夜)、[kuˈrubuŋ](転ぶ)

2　国語の子音と鳩間方言子音の音韻対応

2.1　カ行子音の音韻対応

(1) 国語カ行音の /ka/は、鳩間方言の /ka/ に対応する。[ˈkaːˈra](瓦)、[ˈkạ̥sa](傘)、[ˈkạ̥ta](肩)、[kaˈmaʧi](竈)、[kaˈbi](紙)

(2) (国語カ行子音の /ki/ は、鳩間方言子音の /ki/ に対応する。[ki̥ˈsuŋ](着る)。[ˈki̥suŋ](切る)。[ˈkiŋ](着物)、[ˈkimu](肝)、[ˈʃi̥ki](月)

(3) 国語カ行音の/ke/ は、鳩間方言子音の /ki/ に対応する。[ˈki̥ta](桁)。[kiˈboːʃi](煙)。[ˈʔuːˈki](桶)、[tạˈki](竹)。[sạˈki](酒)

(4) 国語カ行音の /ko/ は、鳩間方言の /ku/ に対応する。[ˈkui](声)、[ku̥ˈkuˈru](心)、[ku̥ˈʃi](腰)、[ˈkuʤu](こぞ < 去年 >)、[kuˈri](これ)、[ˈkutu](琴)

2.2　国語サ行子音の音韻対応

(1) 国語サ行音の /sa/ は、鳩間方言の /sa/ に対応する。[sạˈki](酒)、[sạˈka](坂)、[ˈsạ̥kuŋ](咲く)、[ˈsạ̥ta](砂糖)

(2) 国語サ行音の /si/ は、鳩間方言子音の /si/ [ʃi] に対応する。[ˈʃi̥ta](舌)、[ʃiˈnuŋ](死ぬ)、[ˈʃima](島)、[ˈʃiru](汁)

(3) 国語サ行音の /su/ は、鳩間方言子音の /si/ [ʃi]、/ci/[ʧi] (若年層) に対応する。[ˀʔuʃi](臼)、[ˀkạʃi](糟)、[ˀʃiʤi](筋)、[ɸụˠʃiˀru](薬 < 老年層 >)、[ɸụˠʧiˀru](薬 < 若年層 >)

(4) 国語サ行音の /se/ は、鳩間方言子音の /si/ [ʃi] に対応する。[ˀʔaʃi](汗)、[ɸuˠʃi](癖)、[ʃiˀbaːˀŋ](狭い)、[ˀkaʃiː](加勢)

(5) 国語サ行音の /so/ は、鳩間方言の /su/ [su] に対応する。[sụˠku](底)、[ˀsuni](曽根)、[suˠdaˀtuŋ](育てる)、[suˠdi](袖)、[ˀsuba](側)、[suˠmaruŋ](染まる)

(6) 国語サ行音の連母音 /sai/ は、鳩間方言の /sai/ に対応する。[ˀʔusai](御馳走、御采)、[ˠsaiˀku](大工、細工)、

(7) 国語サ行音の連母音 /sau/ は、鳩間方言の /soo/ に対応し、例外的に/sau/< 老年層 > に対応する。[ˠsoː](心配)、[ˠsau](左右 (ソウ、サウ)< たより >)

2.3 国語タ行子音の音韻対応

(1) 国語タ行音の /ta/ は、鳩間方言の/ta/に対応する。[ˀtạki](身長 < 丈 >)、[tạˠki](竹)、[ˀtạku](蛸)、[taˠbi](旅)

(2) 国語タ行音の /ci/ [ʧi] は、鳩間方言の/si/ [ʃi](若年層)、/sï/ [sï](老年層) に対応する。[sï̥kara](力 < 老年 >)。[ʃi̥ˠkara](力)、[sï̥kaːŋ](近い < 老年 >)[ʃi̥ˠkaːˀŋ](近い)、[ʃiˠduˀri](千鳥)

(3) 国語タ行音の /cu/ [tsu] は、原則的に鳩間方言の /si/ [ʃi] に対応する。[ˀʃi̥ki](月)、[ˀʃimi](爪)、[ʃiˠmuŋ](積む)、[ˀʃira](面、顔)、[ʃiˠru](釣瓶、弦)、[ˠʧinˀʧi](唾)

(4) 国語タ行音の /te/ は、鳩間方言の /ti/ に対応する。[ˀtiː](手)、[tiˠgaˀmi](手紙)、[tiˠra](寺)、[ˀtima](手間賃)、[ˠtiŋ](天)

(5) 国語タ行音の /to/ は、鳩間方言の /tu/ に対応する。[ˀtụki](時計)、[ˀtụku](徳)、[ˀtụʃi](年)、[tuˠbuŋ](飛ぶ)、[tuˠmuŋ](止める)、[tuˠra](虎)、[tuˠru](鶏)

2.4 国語のナ行子音の音韻対応

(1) 国語ナ行音の /na/ は、鳩間方言の /na/ に対応する。[naˠka](中)、[naˠkuŋ](泣く)、[naʧi](夏)、[ˀnabi](鍋)

(2) 国語ナ行音の /ni/ は、原則的に鳩間方言の /ni/ に対応し、/ŋ/は (例外。逆行同化による)。[ˀniː](荷)、[ˠnifˀfaːŋ](憎い)、[ˠniːruŋ](似る)、[ˠniːˀruŋ](握る)、[ˠniːruŋ](煮える)、[ŋˠgaːˀŋ](苦い)

(3) 国語ナ行音の /nu/ は、鳩間方言の /nu/ に対応する。/zo/は例外。[ˠnuːnu](布)、[ˀnuːŋ](縫う)、[ˀnuka](糠)、[ˠnuʃi](主)、[ˠnuʃi̥ˀturu](盗人)。例外、[ˠʤoffuŋ](濡れる)

(4) 国語ナ行音の /ne/ は、鳩間方言の /ni/ に対応する。[ˀniː](根)、[ˀniʧi](熱)、[niˠbuŋ](眠る)

(5) 国語ナ行音の /no/ は、鳩間方言の /nu/ に対応する。[nuˠki](軒)、[nuˠkiˀru](鋸)、[ˀnudu](喉)、[nuˠbaˀsuŋ](伸ばす)、[ˀnuŋ](鑿)、[ˠnuːruŋ](乗る)

(6) 国語ナ行音の nai、nae は、鳩間方言の /nai/ に対応する。[ˀnai](地震)、[ˀnai](苗)

(7) 国語のナ行音の連母音/nau/は、鳩間方言の連母音/nau/(綯う)< 老年 >、/nuu/(綯う)(若年) に対応する。[ˀnauŋ](綯う)< 老年 >、[ˀnuːŋ](綯う)< 若年 >

2.5 国語のハ行子音の音韻対応

(1) 国語ハ行音の /ha/ は、鳩間方言の /pa/ に対応する。[ˠpaː](葉)、[ˀpaː](歯)、[ˀpạʃi](箸)、[pạˠʃi](橋)。[ˀpana](花)、[paˠna](鼻)

(2) 国語ハ行音の /hi/ は、鳩間方言の /pi/ (pu は中舌母音の ï の転訛) 対応する。[ˈpiː](火)、[pi̥ˈkoːˈŋ](低い)、[pi̥ˈsoːˈŋ](広い)、[piˈni](鬚)、[pu̥ˈsu](人)。[pu̥ˈsuma](昼間)

(3) 国語ハ行音の /hu/ は、鳩間方言の [ɸu] に対応する。[ɸu̥ˈkuˈru](袋)、[ɸu̥ˈtaːʧi](二つ)、[ˈɸuni](舟)

(4) 国語ハ行音の /he/ は鳩間方言の /pi/ に対応する。[ˈpiːnuːru](舳乗り。舳先に乗る人)、[piˈdaˈtuŋ](隔てる。隔つ)、[piˈnaruŋ](減る)。[ˈpira](箆(ヘラ))、[ˈpiru](畳の縁)

(5) 国語ハ行音の /ho/ は鳩間方言の [pu] に対応する。[ˈpuː](帆)、[ˈpuː](穂)、[ˈpuʃi](星)、[ˈpuni](骨)

(6) 国語ハ行音の連母音 /hai/、/hae/ は鳩間方言の [pai] に対応する。[ˈpai](灰)、[ˈpai](南)、[ˈpaiˈkaʤi](南風)、[ˈpaiˈta](南方。南の島、西表島)、[ˈpai](蝿)、[ˈpaiˈnaː](延縄)

(7) 国語ハ行音の連母音 /hau/ は鳩間方言の [pau] に対応する。[pauŋ](這う、延う)。[ˈpoːˈki](箒。これは、au → oː < 開拗音現象 > に因るか)

2.6 国語のマ行子音の音韻対応

1. 国語マ行音の /ma/ は鳩間方言の [ma] に対応する。[ˈmai](米)、[maˈgaruŋ](曲がる)、[ˈmafˈfa](枕)、[ˈmata](股)、[ˈmatʃi](松)、[ˈmatuŋ](待つ)、[ˈmami](豆)
2. 国語マ行音の語頭の /mi/ は鳩間方言の [mi]、語末の /mi/ は [ŋ] に対応する。[miˈki](神酒)、[ˈmiʧi](道)、[ˈʔaŋ](網)、[ˈmiŋ](耳)
3. 国語マ行音の /mu/ は鳩間方言の [mu]、[ŋ](例外) に対応する。[muˈkaˈʃi](昔)、[ˈmuku](婿)、[ˈmusu](筵)、[ʔŋˈkaˈʤa](むかで)、[ʔŋˈkai](迎え)
4. 国語マ行音の /me/ は鳩間方言の [mi] に対応する。[ˈmiː](目)、[miˈʤiraˈsaŋ](珍しい)、[ˈkami](甕)、[ˈʔimi](夢)
5. 国語マ行音の /mo/ は鳩間方言の [mu] に対応する。[ˈmutu](本、元)、[ˈmuiruŋ](燃える)、[muˈʧi](餅)、[ˈmutuŋ](持つ)、[muˈru](岡、森)、[ˈmuruŋ](もろみ)、[muˈruŋ](盛る)
6. 国語マ行音の /mai/ は鳩間方言の [mai] に対応する。[ˈmai](米)、[paˈmai](飯米)

2.7 国語のヤ行子音の音韻対応

(1) 国語ヤ行音の /ja/ は鳩間方言の [ja] に対応する。[jaˈkuŋ](焼く)、[ˈjakoŋ](薬缶)、[ˈjasˈsaŋ](安い)、[ˈjama](山、林)、[ˈjamuŋ](痛む。病む)、[ˈjaruŋ](破る)

(2) 国語ヤ行音の /ju/ は鳩間方言の [ju]、[i] に対応する。[ˈjuː](湯)、[ˈjukka](サバニの床板)、[juŋ](弓)、[ʔimi](夢)

(3) 国語ヤ行音の /jo/ は鳩間方言の [ju] に対応する。[ˈjuku](欲)、[ˈjuːˈru](夜)、[ˈjuːʧi](四つ)、[juˈmi](嫁)、[ˈjumuŋ](読む。数える)、[ˈjuːruŋ](寄る)

2.8 国語のラ行音の音韻対応

(1) 国語ラ行音の /ra/ は鳩間方言の [ra][sa] に対応する。[ʔaˈrauŋ](洗う)。[ʔiˈraˈka](蕀(イラカ))、[tuˈra](虎)。ただし irV→isV の法則に基づく語例も認められる。[kiˈsaˈnu](切らない)、[sˈsanu](知らない)、[ˈssai](白髪)、[ˈssauŋ](米を搗く。精げる)

(2) 国語ラ行音の /ri/ は鳩間方言の [ru](中舌母音の転訛)、[ri]、[ʃi] に対応する。[tuˈru](鶏、鳥)、[maˈbuˈru](守り神、守護霊)、[ki̥ʃiti](切って)

(3) 国語ラ行音の /ru/ は鳩間方言の [ru]、[su] に対応する。[ˈkiruŋ](蹴る)、[ˈmiruŋ](見る)。(irV→isV の法則によるもの) [ˈki̥suŋ](切る)、[ki̥ˈsuŋ](着る)、[sˈsuˈmunu](白物、白い物)

(4) 国語ラ行音の /re/ は鳩間方言の [ri]、[ʃi] に対応する。[kuˈri](これ)、[buˈri](群れ)。((3) の によるもの) [kiˈʃiˀba](着れよ)、[ˀkiʃiba](切れよ)

(5) 国語ラ行音の /ro/ は鳩間方言の [ru]、[ssu](iro→iru→ssu) に対応する。[ˀʔiru](色)、[kuˈrubuŋ](転ぶ)、[sˈsuˀmunu](白物、白い物)、[fˈfuˀmunu](古物、古い物。kuro→furu→ffu)

(6) 国語ラ行音の /ira/ は鳩間方言の [ssa] に対応する。[ˀssai](白髪)、[sˈsanu](知らない)、[ssaŋ](虱)、(ira→ssa の法則)

(7) 国語ラ行音の /rau/ は鳩間方言の [rau] に対応する。[baˈrauŋ](笑う)

2.9 国語のワ行音の音韻対応

(1) 国語ワ行音の /wa/ は鳩間方言の [ba] に対応する。[baˈrauŋ](笑う)、[baˈraˀɸu̥ta](稲わら < 藁 >)、[baˈkaːˀŋ](若い)、[ˀbakuŋ](分ける)

(2) 国語ワ行音の (ヰ) /wi/ は鳩間方言の [bi] に対応する。[ˀbiː](藺草)、[biˈruŋ](坐る)、[buŋ](居る)

(3) 国語ワ行音の /we/ は鳩間方言の [bi] に対応する。[ˈbiːˀruŋ](酔う)、[ʔiˈbiruŋ](植える)

(4) 国語ワ行音の /wo/ は鳩間方言の [bu] に対応する。[ˀbuː](麻糸)、[buˈduru](踊り)、[ˈbuːˀnu](斧)、[buˈtu](夫)、[buˈnaru](をなり、姉妹)

3 鳩間方言の語法

3.1 代名詞

鳩間方言の人代名詞と指示代名詞には、次のような体系が認められる。

3.1.1 人代名詞

				尊敬	対等	卑下
一人称	単数	(私)		Œ	baː (baŋ)	Œ
	複数	(私達)	聞き手含む	Œ	beː (betaː)	Œ
		(私達)	聞き手含まぬ	Œ	bantaː	Œ
二人称	単数	(君)		waː (あなた)	waː (君)	wandʑa (お前、貴様)
	複数	(君達)		waːtaː (あなた方)	waːtaː (君達)	wandʑammeː (貴様等)
三人称	近称	単数		kunupusu (この人)	kuri (これ)	kundʑa (こいつ)
		複数		kunupusuŋkeː (この方々、この人々)	kuttsaː (これら)	kundʑammeː (こいつら)
	中称	単数		ʔunupusu (その人)	ʔuri (それ)	ʔundʑa (そいつ)
		複数		ʔunupusuŋkeː (その方々)	ʔuttsaː (それら)	ʔundʑammeː (そいつら)
	遠称	単数		kanupusu (あの人)	kari (あれ)	kandʑa (あいつ)
		複数		kanupusuŋkeː (あの人達)	kattsaː (彼ら)	kandʑammeː（あいつら）
不定称		単数		taː (誰) taru (誰)	taː (誰)	tandʑa (どいつ)
		複数		tattaː (taːtaː) (誰ら)	tattaː (taːtaː)	tandʑammeː (どいつら)

一人称 (自称) 代名詞の複数形には、聞き手を含むˈベー [beː] (我々)、ˈベーター [beːtaː] (我々) と、聞き手を含まないˈバンˀタ [ˈbanˀta] (僕ら) の語彙的対立が認められる点、特徴的である。例えば次のように表現することがで

きる。˩ベー˥　ムー˩ル˥　パ˩トゥ˥マ　プス˩ダー　[˩beː˥ muː˩ruˬ pa̯˩tuˬmapu̯su˩daː] (我々 (聞き手を含む) は皆鳩間出身 < 鳩間人 > だよ)。ア˩スヌ　バン˥ター　˩インヌムラプス　ワーター　アンヌムラプス　ヤッタ˥ ダ˩ナー [ʔa˩sunu banˬta: ˩ʔinnumurapusu waːta: ʔannumurapusu jattaˬ da˩naː] (だがしかし、僕たち < 聞き手を含まない > は西村の人、君たちは東村の人だったよねえ)

また、二人称代名詞には、首里方言のように、身分に応じてッヤー [ʔjaː] (君)、ナー [naː] (あんた)、ウンジュ [ʔundʒu] (あなた < 目上に >)、ヌンジュ [nundʒu] (貴方様 < 貴族に >)、ミュンジ [mjundʒu] (貴方様 < 貴族に >) のように、身分に応じて呼び方を区別した待遇表現はない。鳩間方言では身分の上下、年齢の上下、社会的地位の上下に関係なく、人称代名詞˩ワー [waː] (あなた) 一語ですべての人を表現する。

待遇表現 (敬語表現) は、用言 (動詞、助動詞) と文末助詞の使用によって決定され、次のように表現される。

(1) ˩ワー˥　キュー　イ˩サナケー　オールン [˩waːˬ kjuː ʔi˩sanakeː ʔoːruŋ] (あなたは今日石垣へいらっしゃいますか)　(目上に対して)

(2) ˩ワー˥　キュー　イ˩サナケー˥　パ˩ルン [˩waːˬ kjuː ʔi˩sanakeːˬ pa˩ruŋ] (君は今日石垣へ行くか) (同等、目下に対して)

鳩間方言の敬語 (待遇) 表現を決定する一般社会生活上の基準は、年上か、年下か、の年齢が絶対的基準となる。従って話題が肉親に及んで、肉親が聞き手より年上である場合、話者は聞き手に配慮することなく、次のように肉親を敬語で待遇して表現するのが普通である。˩バン˥テヌ　˩アー˥ヤー (˥アチャー)　イ˩サナケー　オー˥ルンティ　ス˩コーリ　オー˥ル˩ダー [˩banˬtenu ˩ʔaːˬja:(ˬʔatʃaː)ʔi˩sanake: ʔoːˬrunti su ˩koːri ʔoːˬru˩daː] (私の家のお父さんは、石垣へ行かれるとて準備しておられますよ)

3.1.2　指示代名詞

鳩間方言の指示代名詞の体系は、次のように表示することができる。

		事物	場所	方向	連体的用法	副詞的用法
近称	単数	kuri (これ) kunaː (ここに)	kuma (ここ)	kumaː (ここへ)	kunu (この) kunna (こんな) kaibutsa (こんなの)	kaini (このように)
	複数	kuttsa (これら)				
中称	単数	ʔuri (それ)	ʔuma (そこ) ʔunaː (そこに)	ʔumaː (そこへ)	ʔunu (その) ʔunna (そんな) ʔaibutsa (そんなの)	ʔaini (そう)
	複数	ʔuttsaː (それら)				
遠称	単数	kari (あれ)	kama (あそこ) kanaː (あそこに)	kamaː (あそこへ) kamantaː (あちらへ)	kanu (あの) kanna (あんな) kaibutsa (あんなの)	ʔaini (あのように)
	複数	kattsaː(あれら)				
不定称	単数	nuː (何) dʒiri(どれ)	manaː (どこに)	maː (どこへ)	nuːnu (どの) nuttsaː(如何なる)	nuːʃi (どう)
	複数	nuttsaraː (どいつら)				

これらの指示代名詞は、次のような文中に現れる。

(1) ク˩レー˥　ヌーヤ　[ku˩reːˬ nuːja] (これは何か)

(2) ク˩リトゥ˥　カ˩リトー　ヌー˥ル　˩ダイヤー˥　タ˩カー˥ワ [kuritu　karitoː　˩nuːˬru ˩daijaːˬ ta˩kaːˬwa] (これと

あれとは、どれが値段は高いか)

(3) ˥クマー　マーヤ [kuma: ma:ja](ここは何処か)

(4) クˈヌ　キン˥マー　バン　カˈラシ　[kuˈnu kim˥ma: baŋ kaˈraʃi] (この着物は私に貸せ)

(5) クˈマ˥ル　ˈバン˥テーˈダー　[kuˈma˥ru ˈban˥teːˈdaː] (此処が私の家だよ)

(6) ˈクン˥ナ　˥クトー (˥カイブ　クトー) イッˈカ　シェー˥　ナˈラ˥ヌ　[ˈkun˥na kuto: ʔikˈka ʃeː˥ naˈra˥nu] (こんなことは決してしてはいけない)

(7) ˈジーヤ˥　カイニ　カˈキバ˥ル　カˈキヤッ˥サ　[ˈʤiːja˥ kaini kaˈkiba˥ru kaˈkijas˥sa] (文字はこう < このように > 書いた方が書きやすい)

(8) ˥クナー　ˈギューチ˥　ヌˈカ˥レーワ　[˥kuna: ˈgjuːtʃi˥ nuˈka˥reːwa] (ここに幾つ残っているか)

(9) ˈクッ˥ツァー　˥ッサリティ　ッˈふァーラヌ　[ˈkut˥tsa: ˥ssariti fˈfaːranu] (これらは腐って食べられない)

(10) ウˈリル　ワー˥ムヌ　クˈレー　ワー˥ムノー　アˈラ˥ヌ [ʔuˈriru waː˥munu kuˈreː waː˥munoː ʔaˈra˥nu] (それが君のものだ。これは君のものではない)

(11) ˥ウマナール　ウˈヌプソー˥　マˈローッ˥タツォー [˥ʔumanaːru ʔuˈnupusoː˥ maˈroːt˥tatsoː] (そこに < ぞ >、その人は、お生まれになったそうだ)

(12) ˈウン˥ナ　˥ムノー　ウˈマー˥　ヤˈラスナ [ˈʔun˥na ˥munoː ʔuˈmaː˥ jaˈrasuna] (そんな物は、そこへ寄越すな < やるな >)

(13) アイˈブ˥ツァ　˥ムヌバ　˥アイニ　ンˈマー˥ンティ　アˈジアー˥ク [ʔaiˈbu˥tsa munuba ˥ʔaini ʔmˈmaː˥nti ʔaˈʤiʔaː˥ku] (あんな物を、あのように美味しいと言っている)

(14) ウナー　ˈヌー˥ヌ　アˈル˥ワ [˥ʔunaː ˈnuː˥nu ʔaˈru˥wa] (そこに何があるか)

(15) ˈウッ˥ツァー　ˈカーシ˥ミサン [ˈʔut˥tsa: ˈkaːʃi˥misaŋ] (それらは売ってよい)

(16) クˈリトゥ˥　カˈリトゥ˥　マˈザー˥シティ　カˈマー˥　ムティパリ [kuˈritu˥ kaˈritu˥ maˈʤaː˥ʃi̥ti kaˈmaː˥ mutipari] (これとあれと混ぜてあそこへ持って行きなさい)

(17) カイˈブ˥ツァ　˥ムノー　˥カナー　˥シキバ [kaiˈbu˥tsa ˥munoː ˥kanaː ˥ʃi̥kiba] (こんなものは、あそこに置きなさいよ)

(18) ˥アイニ　˥ムネー　イˈズナ [˥ʔaini ˥muneː ʔiˈʤuna] (あんなに < あのように > ものを言うな。あのような物言いをするな)

(19) ˥カナー　プˈソー˥　ブˈラーンバ　マー˥ビン　˥カマンター　˥ナリバ [˥kanaː pu̥ˈsoː˥ buˈraːmba maː˥biŋ ˥kamantaː ˥nariba] (あそこには人がいないから、もっとあちら側へ寄りなさい)

(20) ˈカッ˥ツァー　˥マナー　ˈベー˥ワ (アˈル˥ワ) [ˈkat˥tsa: manaː ˈbeː˥wa(ʔaˈru˥wa)] (彼らは < あれなどは > どこにいるか < どこにあるか >)

(21) ˈヌー˥ヌ　パˈナシ˥バ　ˈシーベー˥ワ [ˈnuː˥nu paˈnaʃi˥ba ˈʃiːbeː˥wa] (何の話 < どんな話 > をしているのか)

(22) ˥ヌーッツァ　クˈトゥ˥ヌ　˥アイブ　˥クトゥティ　アˈル˥ワ [˥nuːttsa ku̥ˈtu˥nu ˥ʔaibu ku̥tuti ʔaˈru˥wa] (何たるわけで < 何たることが > あんなこととてあるものか)。

(23) ヌッˈツァラー˥ヌドゥ　˥カイブ　クˈトゥ˥バ　シˈザシ˥　シケーワ [nutˈtsaraː˥nudu ˥kaibu ku̥ˈtu˥ba ʃiˈʤaʃi˥ʃikeːwa] (何奴がこのようなことを為出かしてあるのか)

4 動詞

鳩間方言の動詞は、ものごとの動作や作用、存在などを時間的な変化に応じて表現する語である。動詞は文中で、他の語との切れ続きによって語形変化を起こす。これを活用という。鳩間方言動詞の活用体系は、I「国語の四段系動詞の活用形」と、II「国語の一、二段系動詞の活用」の二つの型にに大きく分かれる。次に I の活用形を示す。

4.1 規則変化活用表

	1(書く)	2(剥ぐ)	3(飛ぶ)	4(待つ)	5(孵化する)	6(する)
志向形	˺kaka	˺paga	tuˈba	˺mata	˺ʃida	ˈsaː
未然形	kaˈka˺nu	paˈga˺nu	tuˈbanu	maˈta˺nu	ʃiˈda˺nu	saˈnu
連用形	kaˈki-˺pusaŋ	paˈgi-˺pusaŋ	tuˈbi˺-pusaŋ	maˈti-˺pusaŋ	ʃiˈdi-˺pusaŋ	ˈʃiː-˺pusaŋ
終止形	˺kakuŋ	˺paguŋ	tuˈbuŋ	˺matuŋ	˺ʃiduŋ	ˈsuŋ
連体形	˺kaku-munu	˺pagu-munu	tuˈbu-munu	˺matu-kutu	˺ʃidu-kutu	ˈsuː-˺kutu
完了形	˺kakeːŋ	˺pageːŋ	tuˈbeː˺ŋ	˺mateːŋ	˺ʃideːŋ	ˈʃeː˺ŋ
命令形	˺kaki	˺pagi	tuˈbi	˺mati	˺ʃidi	ˈʃiː
条件形	˺kakeː	˺pageː	tuˈbeː	˺mateː	˺ʃideː	ˈʃeː
敬譲形	kaˈkoː˺ruŋ	paˈgoː˺ruŋ	tuˈboː˺ruŋ	maˈtoː˺ruŋ	ʃiˈdoː˺ruŋ	ˈsoː˺ruŋ

	7(言う)	8(勝つ)	9(濡れる)	10(読む)	11(死ぬ)	12(取る)
志向形	ʔaˈʤa	˺katsa	ˈʤoffa	˺juma	ʃiˈna	˺tura
未然形	ʔaˈʤanu	kaˈtsa˺nu	ˈʤoffanu	juˈma˺nu	ʃiˈnanu	tuˈra˺nu
連用形	ʔaˈʤi-˺pusaŋ	kaˈʧi-˺pusaŋ	ˈʤoffi˺-pusaŋ	juˈmi˺-pusanŋ	ʃiˈni˺-pusaŋ	tuˈri-˺pusaŋ
終止形	ʔaˈʤuŋ	˺katsuŋ	ˈʤoffuŋ	˺jumuŋ	ʃiˈnuŋ	˺turuŋ
連体形	ʔaˈʤu-˺kutu	˺katsu-kutu	ˈʤoffu-˺kutu	˺jumu-kutu	ʃiˈnu-˺kutu	˺turu-kutu
完了形	ʔaˈʤeː˺ŋ	˺katʃeːŋ	ˈʤoffeː˺ŋ	˺jumeːŋ	ʃiˈneː˺ŋ	˺tureːŋ
命令形	ʔaˈʤi	˺katʃi	ˈʤoffi	˺jumi	ʃiˈni	˺turi
条件形	ʔaˈʤeː	˺katʃeː	ˈʤoffeː	˺jumeː	ʃiˈneː	˺tureː
敬譲形	ʔaˈʤoː˺ruŋ	kaˈtsoː˺ruŋ	ˈʤoffoː˺ruŋ	juˈmoː˺ruŋ	ʃiˈnoː˺ruŋ	tuˈroː˺ruŋ

活用形の文例

a. 志向形 [ˈban˺tu ˈmaːʤun ʤiː˺ kạ̊kaː] (私と一緒に字を書こう)

b. 未然形 [maˈna˺maː kạ̊ˈka˺nu] (今は書かない)

c. 連用形 [ˈɸunto:˺ja kạ̊ˈki˺pusandaˈre˺ː] (本当 < 実 > は書きたいのだよ)

d. 終止形 [ˈban˺nun ˈʤiː˺ kakuŋ] (私も字を書く)

e. 連体形 [ˈʤiː˺ kạ̊ku pụ̊ˈsoː taː˺ja] (字を書く人は誰か)

f. 完了形 [ˈʤiːja˺ kisaːˈti˺ kạ̊keːŋ] (字は既に書いた < 書いてある >)

g. 命令形 [kuˈnu ʤiːja waː ˺kaki] (この字は君が書け)

h. 条件形 [˺duːʃi kakeː ˺misamunu] (自分で < 自力で > 書けばよいのに)

i. 敬譲形 [˺ʔabuʤeːn ˈʤiː˺ kạ̊ˈkoː˺ruŋ] (お祖父さんも字を書かれる)

4.2 準規則変化活用表

	1(買う)	2(漕ぐ)
志向形	˩kaː	˥koː
未然形	˩kaːnu	˩koː˥nu
連用形	˩kai-˥pusaŋ	˩kui-˥pusaŋ
終止形	˩kauŋ	˥kuːŋ
連体形	˩kau-pusu	˥kuː-kutu
完了形	˩kaijaː˥ŋ	˩kui˥jaːŋ
命令形	˩kai	˥kui
条件形	˩kaijaː	˩kui˥jaː
敬譲形	˩kaijoː˥ruŋ	kui˩joː˥ruŋ

活用形の文例

a. 志向形 ma˩tʃijaː˥ra ʔm˩maː˥munu ˩kaː˥diː (お店から美味しいものを買おうよ)
b. 未然形 ʔaː˩ji kjuː˥ja ˩kaːnu (いや、今日は買わない)
c. 連用形 ˥baː ˩kai˥pu̥saː ˩naː˥nu (私は買いたくない)
d. 終止形 ku˩reː˥ baː ˩kauŋ (これは私が買う)
e. 連体形 ku˩ri kaupu̥soː taː˥ja (これを買う人は誰か)
f. 完了形 ku˩reː˥ki̥saː˩ti kaijaː˥ŋ (これはすでに買った)
g. 命令形 ku˩reː˥ jaː˩diŋ waː kai˥ba (これは必ず君が買えよ)
h. 条件形 ˩paː˥ku ˩kaijaː˥ misamunu (早く買えばよいのに)
i. 敬譲形 ku˩reː˥ ʔappaːŋ ˩kaijoː˥runtsoː (これはお祖母さんも買われるそうだ)

4.3 不規則変化活用表

	1(来る)	2(居る 1)	3(居る 2)	4(有る)
志向形	kuː˩-diː	bu˩ra	˩beː˥ra	–
未然形	˩kuː˥nu	bu˩raːnu	˩beːra˥nu	–
連用形	˩kiː-˥pusaŋ	bu˩ri-˥pusaŋ	˩beːri-˥pusaŋ	ʔa˩ri-˥pusaŋ
終止形	˥kuːŋ	˩buŋ	˩beː˥ŋ	˥ʔaŋ
連体形	kuː-pu˩su	˩buː-pusu	˩beː˥-pu˩su	˥ʔaru-kutu
完了形	˥keːŋ	–	–	˥ʔareːŋ
命令形	˥kuː	bu˩ri	˩beː˥ri	–
条件形	˥keː	bu˩reː	˩beː	˥ʔareː(ʔa˩ri˥ba)
敬譲形	˩ʔoː˥ruŋ	˩ʔoː˥ruŋ	–	ʔa˩roː˥ruŋ

活用形の文例

a. 志向形 go˩ʤiba:˥kina ku˩maː˥ ku:˩di: (五時までにここへ来ようと)
b. 未然形 ˥ɸune: ˩kjuː˥ja ˩kuː˥nu (船は、今日は来ない)
c. 連用形 ˩ban˥nuŋ ku˩ma: kiː˥pusaŋ (私もここへ来たい)
d. 終止形 ˥ɸune: ˥ʔatsa: ˥kuːntsoː (船は明日来るそうだ)
e. 連体形 ˥kamaːra ˥kuː pu̥˩soː taː˥ja (あそこから来る人は誰か)
f. 完了形 ˥ɸune: ˥keːŋkaja: (船は来たか < 到着したか > ね)
g. 命令形 ˥ʔatsa: ja:˩diŋ˥ kuː (明日は必ず来い)
h. 条件形 ˥kjuːʤuːna ˥keː ˥misamunu (今日中に来れば良いのに)
i. 敬譲形 ˥ʔaboːŋ ˩ʔoː˥runtsoː (お母さんもいらっしゃる < 来られる > そうだ)

4.4 一・二段系動詞の活用表

		1(起きる)	2(落ちる)	3(朽ちる)	4(並べる)	5(下げる)	6(茹でる)
志向形	（イ）	ʔuˈkiˀra	ʔuˈtiˀra	kuˈʧiˀra	naˈrabira	saˈgiˀra	juˈdiˀra
	（ロ）	ˀʔuka	ˀʔuta	ˀkutsa	naˈraba	ˀsaga	ˀjuda
未然形	（イ）	ʔuˈkiraˀnu	ʔuˈtiraˀnu	kuˈʧiraˀnu	naˈrabiranu	saˈgiraˀnu	juˈdiraˀnu
	（ロ）	ʔuˈkaˀnu	ʔuˈtaˀnu	kuˈtsaˀnu	naˈrabanu	saˈgaˀnu	juˈdaˀnu
連用形	（イ）	–	–	–	–	–	–
	（ロ）	ʔuˈki-ˀpusaŋ	ʔuˈti-ˀpusaŋ	kuʧi-ˈnaːˀnu	naˈrabiˀ-pusaŋ	saˈgi-ˀpusaŋ	juˈdi-ˀpusaŋ
終止形	（イ）	ʔuˈkiˀruŋ	ʔuˈtiˀruŋ	kuˈʧiˀruŋ	naˈrabiruŋ	saˈgiˀruŋ	juˈdiˀruŋ
	（ロ）	ˀʔukuŋ	ˀʔutuŋ	ˀkutsuŋ	naˈrabuŋ	ˀsaguŋ	ˀjuduŋ
連体形	（イ）	ʔuˈkiˀru-kutu	ʔuˈtiˀru-kutu	kuˈʧiˀru-kutu	naˈrabiruˀ-kutu	saˈgiˀru-kutu	juˈdiˀru-kutu
	（ロ）	ˀʔuku-kutu	ˀʔutu-kutu	ˀkutsu-kutu	naˈrabuˀ-kutu	sagu-kutu	ˀjudu-kutu
完了形	（イ）	–	–	–	–	–	–
	（ロ）	ˀʔukeːŋ	ˀʔuteːŋ	kutʃeːŋ	naˈrabeːˀŋ	ˀsageːŋ	ˀjudeːŋ
命令形	（イ）	ʔuˈkiˀri	ʔuˈtiˀri	kuˈʧiˀri	naˈrabiri	saˈgiˀri	juˈdiˀri
	（ロ）	ˀʔuki	ˀʔuti	ˀkutʃi	naˈrabi	ˀsagi	ˀjudi
条件形	（イ）	ʔuˈkiˀreː	ʔuˈtiˀreː	kuˈʧiˀreː	naˈrabireː	saˈgiˀreː	juˈdiˀreː
	（ロ）	ˀʔukeː	ˀʔuteː	ˀkutʃeː	naˈrabeː	ˀsageː	ˀjudeː
敬譲形	（イ）	–	–	–	–	–	–
	（ロ）	ʔuˈkoːˀruŋ	ʔutoːruŋ	–	naˈraboːˀruŋ	saˈgoːˀruŋ	juˈdoːruˀŋ

		7(交差する)	8(乗せる)	9(別れる)	10(集める)	11(捏ねる)
志向形	（イ）	ʔaˈʤiˀra	ˈnuːʃira	baˈkariˀra	ʔaˈtsamiˀra	kuˈnira
	（ロ）	ˀʔaʤa	ˈnuːsa	baˈkaˀra	ʔaˈtsaˀma	kuˈna
未然形	（イ）	ʔaˈʤiraˀnu	ˈnuːʃiranu	baˈkariraˀnu	ʔaˈtsamiraˀnu	kuˈniranu
	（ロ）	ʔaˈʤaˀnu	ˈnuːsanu	baˈkaraˀnu	ʔaˈtsamaˀnu	kuˈnanu
連用形	（イ）	–	–	–	–	–
	（ロ）	ʔaʤi-ˈnaːˀnu	ˈnuːʃi-ˀpusaŋ	baˈkari-ˀpusaŋ	ʔaˈtsami-ˀpusaŋ	kuˈni-ˀpusaŋ
終止形	（イ）	ʔaˈʤiˀruŋ	ˈnuːʃiruŋ	baˈkariˀruŋ	ʔaˈtsamiˀruŋ	kuˈniruŋ
	（ロ）	ˀʔaʤuŋ	ˈnuːsuŋ	baˈkaˀruŋ	ʔaˈtsaˀmuŋ	kuˈnuŋ
連体形	（イ）	ʔaˈʤiˀru-kutu	ˈnuːʃiruˀ-kutu	baˈkariˀru-kutu	ʔaˈtsamiˀru-kutu	kuˈniruˀ-kutu
	（ロ）	ˀʔaʤu-kutu	ˈnuːsuˀ-kutu	baˈkaˀru-kutu	ʔaˈtsaˀmu-kutu	kuˈnuˀ-kutu
完了形	（イ）	–	–	–	–	–
	（ロ）	ˀʔaʤeːŋ	ˈnuːʃeːˀŋ	baˈkaˀreːŋ	ʔaˈtsaˀmeːŋ	kuˈneːˀŋ
命令形	（イ）	ʔaˈʤiˀri	ˈnuːʃiri	baˈkariˀri	ʔaˈtsamiˀri	kuˈniri
	（ロ）	ˀʔaʤi	ˈnuːʃi	baˈkaˀri	ʔaˈtsaˀmi	kuˈni
条件形	（イ）	ʔaˈʤiˀreː	ˈnuːʃireː	baˈkariˀreː	ʔaˈtsamiˀreː	kuˈnireː
	（ロ）	ˀʔaʤeː	ˈnuːʃeː	baˈkaˀreː	ʔaˈtsaˀmeː	kuˈneː
敬譲形	（イ）	–	–	–	–	–
	（ロ）	ʔaˈʤoːˀruŋ	ˈnuːsoːˀruŋ	baˈkaˀroːruŋ	ʔaˈtsaˀmoːruŋ	kuˈnoːˀruŋ

		12 (濡れる 1)	13 (濡れる 2)	(濡れよう)
志向形	（イ）	ˈʤoffira	ˈʤo:rira	
	（ロ）	ˈʤoffa	ˈʤo:ra	(濡れよう)
未然形	（イ）	ˈʤoffiranu	ˈʤo:riranu	(濡れない)
	（ロ）	ˈʤoffanu	ˈʤo:ranu	(濡れない)
連用形	（イ）	–	–	
	（ロ）	ˈʤoffi-ˀpusaŋ	ˈʤo:ri-ˀpusaŋ	(濡れたい)
終止形	（イ）	ˈʤoffiruŋ	ˈʤo:riruŋ	(濡れる)
	（ロ）	ˈʤoffuŋ	ˈʤo:ruŋ	(濡れる)
連体形	（イ）	ˈʤoffiruˀ-kutu	ˈʤo:riruˀ-kutu	(濡れること)
	（ロ）	ʤoffuˀ-kutu	ˈʤo:ruˀ-kutu	(濡れること)
完了形	（イ）	–	–	
	（ロ）	ˈʤoffe:ˀŋ	ˈʤo:re:ˀŋ	(濡れた。濡れている)
命令形	（イ）	ˈʤoffiri	ˈʤo:riri	(濡れろ < 濡れれ >)
	（ロ）	ˈʤoffi	ˈʤo:ri	(濡れろ)
条件形	（イ）	ˈʤoffire:	ˈʤo:rire:	(濡れれば。濡れたら)
	（ロ）	ˈʤoffe:	ˈʤore:	(濡れれば。濡れたら)
敬譲形	（イ）	–	–	
	（ロ）	ˈʤoffo:ˀruŋ	ʤo:ro:ruŋ	(濡れられる。お濡れになる)

1 ウˈキˀルン [ʔukiruŋ] (起きる) の文例

志向形（イ）goˈʤiˀna: maːˈʤunŋˀ ʔuˈkiˀra (五時に一緒に起きよう)
志向形（ロ）ˀʔatsa: goˈʤiˀna ʔuka-ˈdi: (明日は五時に起きよう)
未然形（イ）ˀba: goˈʤiˀna: ʔuˈkiraˀnu (私は五時には起きない)
未然形（ロ）maˈnaˀma: ʔuˈkaˀnu (今は起きない)
連用形（イ）–

連用形（ロ）ˈbanˀnun goˈʤiˀna ʔuˈki-ˀpusaŋ (私も五時に起きたい)
終止形（イ）ʔuˈreːˀ goˈʤiˀna ʔuˈkiˀruŋkaja: (それ < 彼 > は五時に起きるかね)
終止形（ロ）ʔuˈreːˀ goˈʤiˀna ˀʔukuŋkaja: (それ < 彼 > は五時に起きるかね)
連体形（イ）goˈʤiˀna ʔuˈkiˀru-kuto: ˀnaruŋ (五時に起きることはできる)
連体形（ロ）goˈʤiˀna ˀʔuku-kuto: ˀnaruŋ (五時に起きることはできる)
完了形（イ）–
完了形（ロ）ʃiˈtumuˀti ˈpaiˀsa:ra ˀʔukeːŋ (朝早くから起きた < 起きている >)
命令形（イ）muːˈru paiˀsa ʔuˈkiˀri (皆早く起きろ)
命令形（ロ）muːˈru paːˀku ˀʔukiba (皆早く起きよ)
条件形（イ）ˈtunnakinˀna ʔuˈkiˀre: misamunu (鶏鳴の刻に起きればよいのに)
条件形（ロ）ʃiˈtumuˀti ˈpaiˀsa ˀʔuke: ˀmisamunu (朝早く起きればよいのに)
敬譲形（イ）–
敬譲形（ロ）ˈʔuiˀpu̥so: ʃiˈtumuˀti ˈpaiˀsa ʔuˈkoːˀruŋ (老人は早朝に起きられる)

		1 (考える)	2 (越える)
志向形	（イ）	˹kaŋgai˺ra	˹kuira
	（ロ）	˹kaŋ˺ga:	˹ko:
未然形	（イ）	˹kaŋgaira˺nu	˹kuiranu
	（ロ）	˹kaŋga:˺nu	˹ko:nu
連用形	（イ）	–	–
	（ロ）	˹kaŋgai-˺pusaŋ	˹kui-˺pusaŋ
終止形	（イ）	˹kaŋgai˺ruŋ	˹kuiruŋ
	（ロ）	˹kaŋ˺gauŋ	˹ku:ŋ
連体形	（イ）	˹kaŋgai˺ru-kutu	˹kuiru-˺kutu
	（ロ）	˹kaŋ˺gau-kutu	˹ku:-˺kutu
完了形	（イ）	–	–
	（ロ）	˹kaŋgai˺jaŋ	˹kuija˺ŋ
命令形	（イ）	˹kaŋgai˺ri	˹kuiri
	（ロ）	˹kaŋ˺gai	˹kui
条件形	（イ）	˹kaŋgai˺re:	˹kuire:
	（ロ）	˹kaŋgai˺ja:	˹kuija:
敬譲形	（イ）	–	–
	（ロ）	˹kaŋ˺gaiʔo:ruŋ	˹kuiʔo:˺ruŋ

1 動詞 [˹kaŋ˺gauŋ] (考える) 活用形の文例

志向形（イ）ʔu˹nu˺ kʰuto: ˹ma:ʤuŋ˺ʃi˹kaŋgai˺ra˹na: (そのことは、一緒に考えようね)
志向形（ロ）˹ma:ʤuŋ˺ʃi ʔato:ra ˹kaŋ˺ga:˹na: (一緒に後で考えようね)
未然形（イ）ʔa˹tu˺nu ˺kʰuto: no:˹ŋ kaŋgai˺nu (後のことは何も考えない)
未然形（ロ）ʔa˹tu˺nu ˺kʰuto: no:˹ŋ kaŋga:˺nu (後々 < 将来 > のことは何も考えない)
連用形（イ）–
連用形（ロ）ʔa˹tu˺nu kʰutuŋ ˹kaŋgai˺pusaŋ (将来のことも考えたい)
終止形（イ）˹wa:˺ kutuŋ ˹kaŋgai˺ruŋ (君のことも考える < 配慮する >)
終止形（ロ）˹du:˺nu ˺kʰuto: ˺du:ʃi ˹kaŋ˺gauŋ (自分の事は自分で考える < 心配する >)
連体形（イ）˹kaŋgai˺ru ˺kuto: no:˹n na:˺nu (考えることは何も無い)
連体形（ロ）m˹be:ma kaŋ˺gau kʰu˹tu˺nu ʔaŋ (少し考えることがある)
完了形（イ）–
完了形（ロ）ʔu˹nu˺ kʰuto: kisa:˹ti kaŋgai˺jaŋ (そのことは既に考えた)
命令形（イ）ʔu˹ja˺nu kʰutuŋ ʔm˹be:ma kaŋgai˺ri (親の事も少しは考えろ)
命令形（ロ）˺ʔaibu ˺kʰuto: ˺du:ʃi ˹kaŋ˺gai (そういうことは自分で考えろ)
条件形（イ）˹ma:˺biŋ ˹kaŋgai˺re: ˺misamunu (もっと考えればよいのに)
条件形（ロ）ʔu˹ti˺ʃi̥ki ˹kaŋgai˺ja: ˺misamunu (落ち着いて考えればいいのに)
敬譲形（イ）–
敬譲形（ロ）˹ʔa:˺ja: f˹fanu˺ kʰutu ˹kaŋ˺gai˹ʔo:˺ruŋ (父親は子供のことを考えられる < よくお考えなさる >)

5 形容詞

琉球方言の形容詞には、その語構成上、1語幹 + サ + アリの系統と、2語幹 + ク + アリ系統があって、宮古方言 (一部は除く) 以外はすべて1の系統に属するといわれている。例えば、1系統の形容詞の活用語尾を示すと、～サン、～サーン、～サイン、～シェーン、～ハン、ハーン、～ハイン、～ヘン、～ホン、～アーン、～ヤン、～オーン、～ウワン、等が認められる。鳩間方言形容詞の語彙構造は、その音節構造の違いによって次のような形容詞の語尾形態の変化過程を示すといえる。つまり、形容詞の語幹末尾が CVCV(C= 子音、V= 母音) 構造のとき、

(1) 形容詞の語幹末尾が-a の場合、
taka (高) + sa (接尾辞) + ʔaŋ (有り) → takasaaŋ → takahaaŋ → takaːŋ (高い)

(2) 形容詞の語幹末尾が-i の場合、
piraki (涼し) + sa (接尾辞)+ʔaŋ (有り) → pirakisaaŋ → pirakiʃahaŋ → pirakihaaŋ → pirakiheeŋ → pirakeːŋ (涼しい)

(3) 形容詞の語幹末尾が -u の場合、
piku (低) + sa (接尾辞) + ʔaŋ (有り) → pikusaaŋ → pikuhaaŋ → pikoːŋ (低い)

(4) 形容詞の語幹末尾が-ii の場合、
pii (冷え) + sa (接尾辞) + ʔaŋ (有り) → piːʃaaŋ (口蓋化) → piːjaŋ (寒い)

(5) 形容詞の語幹末尾が-uu の場合、
suu (強) + sa (接尾辞) + ʔaŋ (有り) → suuwaŋ (唇音化) → suːwaŋ (強い)

5.1 鳩間方言形容詞の活用表

	1 (高い)	2 (軽い)	3 (涼しい)	4(嬉しい)	5(強い)	6(珍しい)
未然形	taˈkaːnaːˀnu	kaˈroːnaːˀnu	piˈrakeːnaːˀnu	saˈnijanaːˀnu	ˈsuːwanaːˀnu	miˈʤirasanaːˀnu
	taˈkaːˀrabaŋ	kaˈroːˀrabaŋ	piˈraˀkeːrabaŋ	saˈniˀjarabaŋ	ˈsuːˀwarabaŋ	miˈʤiraˀsarabaŋ
連用形	taˈkaːˀnaruŋ	kaˈroːˀnaruŋ	piˈraˀkeːnaruŋ	saˈniˀjanaruŋ	ˈsuːˀwanaruŋ	miˈʤiraˀsaˈsuŋ
理由形	taˈkaːˀti(ˀnu)	kaˈroːˀti	piˈraˀkeːti	saˈniˀjati	ˈsuːˀwati	miˈʤiraˀsati
終止形	taˈkaːˀŋ	kaˈroːˀŋ	piˈraˀkeːŋ	saˈniˀjaŋ	ˈsuːˀwaŋ	miˈʤiraˀsaŋ
連体形	taˈkaːˀmunu	kaˈroːˀmunu	piˈraˀkeːtoŋ	saˈniˀjaru	ˈsuːˀwaru	miˈʤiraˀsaru
du 結び ru	taˈkaːˀ(ru)	kaˈroːˀru	piˈraˀkeːru	saˈniˀjakaː	ˈsuːˀwakaː	miˈʤiraˀsakaː
条件形	taˈkaːˀkaː	kaˈroːˀkaː	piˈraˀkeːkaː	saˈniˀjataŋ	ˈsuːˀwataŋ	miˈʤiraˀsataŋ
	taˈkaːˀrabaŋ	kaˈroːˀrabaŋ	piˈraˀkeːrabaŋ	sanijarabaŋ	suːwarabaŋ	miʤirasarabaŋ
過去形	taˈkaːˀtaŋ	kaˈroːˀtaŋ	piˈraˀkeːtaŋ	saˈniˀjataŋ	ˈsuːˀwataŋ	miˈʤiraˀsataŋ

1 形容詞タˈカーˀン [taˈkaːˀŋ] (高い) の活用文例

a. 未然形 ˈdaijaːˀ taˈkaːnaːˀnu (値段は高くない)
b. 連用形 ˈdaijaː ʃindaiˀ taˈkaːˀnaruŋ (値段は次第に高くなる)
c. 理由形 ˈdainuˀ taˈkaːˀti ˈkaːŋʃeŋ (値段が高いので買わなかった)
d. 終止形 ˀtakeː ʔikˈkenaˀ taˈkaːˀŋ (身長 < 丈 > は非常に高い)
e. 連体形 ˈdainuˀ taˈkaːˀmunoː ˈkauna (値段の高いものは買うな)
f. du 結び ˈdaijaːˀ kuˈririˀ tạˈkaːˀru kaˈreːˀ tạˈkaːnaːˀnu (値段は此れが高いのであって < 此れぞ高かる >、あれは高くない)
g. 条件形 ʔaini taˈkaːˀkaː ˈkaːranu (あんなに高ければ買うことができ < 買え > ない)
h. 過去形 ˀkuʤoː ˈmaːˀbin taˈkaːˀtaŋ (去年はもっと < 値段が > 高かった)

6 形容詞ミˈジラˀサン [miˈʤiraˀsaŋ] (珍しい) の活用文例

a. 未然形 kuˈreː nanˀʤoː miˈʤirasanaːˀnu (これはあまり珍しくない)
b. 連用形 jaˈraˀbeː ʔikˈkenaˀ miˈʤiraˀsa ˈsuŋ (子供は非常に珍しくする < 珍しく思う。不思議に思う >)
c. 理由形 miˈʤirasaˀnu naˈraˀnu (めずらしくて < 不思議で > たまらない)
d. 終止形 ʔuˈreːˀ ʔikˈkenaˀ miˈʤiraˀsaŋ (それは非常に珍しい < 不思議だ >)
e. 連体形 ˀkunaː miˈʤiraˀsa muˈnuˀnu ˀʔaŋ (ここに珍しい物がある)
f. du 結び ʔuˈririˀ miˈʤiraˀsaru (それが < ぞ > 珍しいのだ < 不思議だ >)
g. 条件形 miˈʤiraˀsakaː ˀmiriba (珍しかったら見ろよ)
h. 過去形 ˈkaːˀrajaːja muˈkaˀʃeː miˈʤiraˀsataŋ (瓦葺家は、昔は珍しかった)

6 助動詞

助動詞は付属語で活用する単語のことをいう。自立語に付いて、1 -スン [suŋ] (〜せる)< 使役 >、2 -シミルン [ʃimiruŋ] (〜させる)< 使役 > 3 -リン [riŋ] (〜れる)< 受身 >、4 -リン (〜れる)< 可能 >、5 -リン [riŋ] (〜れる)< 自発 >、6 -プサン [pusaŋ] (〜たい < 欲しい >)< 希望 >、7 -ヌ [nu] (〜ない)< 打消し >、8 -ヤン [jaŋ] (〜である。〜だ)< 断定 >、9 -タン [taŋ](〜た)< 過去 >、10 -オールン [ʔoːruŋ] (〜なさる)< 尊敬 >、11 -ヤッサン [jassaŋ] (やすい)< 容易 >、12 -ングリサン [ŋgurisaŋ] (〜しにくい)< 困難だ > 13 -ンギサン [ŋgisaŋ] (〜そうだ)< 様態 > などの意味を付け加える職能を持っている。

	1 (使役) < セル >	2 (使役) < サセル >)	3 (受け身) < レル >	4 (可能) < レル >	5 (自発) < ラレル >	6 (希望) <〜タイ、ホシイ >
未然形	-sanu。	-ʃimiranu。 -ʃiˈmuˀnu。	-ranu。 -runu。	-ranu。 -runu。	-raranu -rarunu。	-pusanaːˀnu。
連用形	-ʃiː-pusaŋ。	ʃiˈmiˀ-pusaŋ。	-ri-	-ri-	-rari-	-pusanari-
接続形	-ʃiti-	-ʃiˈmiti-	-riti-	-riti-	-rariti-	-pusati-
終止形	-suŋ。	-ʃiˈmiruŋ。 -ʃiˈmuŋ。	-riŋ。	-riŋ。	-rariŋ。	-pusaŋ。
連体形	-su-	-ʃiˈmiru- -ʃiˈmu-	-riru- -ri-	-riru- -ri-	-rariru- -rari-	-pusaru- -pusa-
結び	-suː。	-ʃiˈmiru。 -ʃiˈmu。	-riru。 -ri。	-riru。 -ri。	-rariru。 -rari。	-pusaru。 -pusa。
条件形	-ʃeː-	-ʃiˈmireː- -ʃiˈmeː-	-rireː- -reː-	-rireː- -reː-	-rareː-	-pusaka-
完了形	-ʃeːŋ。	-ʃiˈmeːˀŋ	-reːŋ。	-reːŋ。	-rareːŋ。	-pusataŋ。

	7 (打消) <〜ナイ >	8 (断定) <〜ダ。デアル >	9 (過去) < タ >	10 (尊敬) <〜イラッシャル >	11 (容易) <〜ヤサシイ >	12 (困難) <〜クルシイ、〜しにくい >	13 (様態) <〜ヨウダ >
未然形	–	-jaranu。 -ʔaranu。	–	-ʔoːranu。	-jassanaːnu。	-ŋgurisanaːnu-	-ŋgisanaːnu
連用形	-naː-	-jariŋ-gisaŋ。	–	-ʔoːriŋ-gisaŋ	-jassanari-	-ŋgurisari-	-ŋgisari-
接続形	-muti-	-jariti-	–	-ʔoːriti-	-jassati-	-ŋgurisati-	-ŋgisariti-
終止形	-nu。	-jaŋ。	-taŋ。	-ʔoːruŋ。	-jassaŋ。	-ŋgurisaŋ。	-ŋgisaŋ。
連体形	-ŋ-	-jaru-	-taru- -ta-	-ʔoːru-	-jassaru- -jassa-	-ŋgurisaru- -ŋgurisa-	-ŋgisaru- -ŋgisa-
結び	-nu。	-jaru。	-taru。 -ta。	-ʔoːru。	-jassaru。 -jassa。	-ŋgurisaru。 -ŋgurisa。	-ŋgisaru。 -ŋgisa。
条件形	-ŋkaː-	-jareː-	-takaː	-ʔoːreː-	-jassakaː-	-ŋgurisakaː-	-ŋgisakaː-
完了形	-ŋʃeŋ。	-jareːŋ。	–	-ʔoːreːŋ。	-jassataŋ。	-ŋgurisataŋ。	-ŋgisataŋ。

助動詞の文例

1 使役 ˈwan ʤiːˀ kạˈkaˀsuŋ (君に字を書かせる)
ˀkunaː pạˈtarakaʃimiˀ fˈfoːˀri (ここで働かせてください)

2 使役 kuˈnu ʤiːjaˀ kaˈriŋˀ kạˈkaʃimiˀriba (この字は、あれ < 彼 > に書かせなさいよ)

3 受身 ˀʔujaŋ ʔiˈʤariti naˈkibeː (親に叱られて泣いている)

4 可能 ʔuˈnu ʔataˀroː ˈbanˀnuŋ kạˈkaˀriŋ (この程度は私にも書ける)

5 自発 kuˈnuˀ ʔuta sụˈkuˀkaː ʔuˈjaˀnu ˀkụtu ʔuˈmoːˀriŋ (この歌を聞くと親のことが思われる < 思い出される >)

6 希望 ˈwattuˀ maˈʤumˀ paˈriˀpusaŋ (君と一緒に行きたい)

7 打消 kuˈnuˀ suˈmuˀʧeː ˀbaː juˈmaˀnu (この本は、私は読まない)

8 断定 ʔuˈnuˀ paˈnaˀʃeː ˈɸunˀtoː ˈjamˀmiː (この話は本当だね)
9 過去 kiˈnoːˀja ˈbanˀnun ˈʤiːˀ kạˈkuˀtaŋ (昨日は私も字を書いた)
10 尊敬 ˈʔaːˀjaːn ˈʤiːˀ kạˈkoːˀruŋ (お父さんも字を書かれる < お書きになる >)
11 容易 kuˈreːˀ kạˈkijasˀsaŋ (これは書きやすい)
12 困難 kuˈnu ʤiːjaˀ kạˈkiŋguriˀsaŋ (この字は書きにくい)
13 様態 kuˈnuˀ jaˈraˀbeː ˈʤiːˀ kạˈkiŋˀgisaŋ (この子 < 童 > は字を書きそうだ)

7 助詞

7.1 格助詞

(1) 主格。-ヌ [nu] (が)
kaˈʤi-nu suːŋ (風がそよぐ < そよそよとふく >)。kaˈʤinuˀ ɸụkuŋ (台風が吹く < 吹き荒れる >)

(2) 属格。-ヌ [nu] (の)
ɸuˈniˀ-nu ˀparaː ˀtatiba (舟の帆柱を立てなさいよ)

(3) 場所格。-ナ [na] (に)
kuˈreː jaːˀna ʔaŋ (これは家にある)

(4) 与格 1、-ニ [ni] (に)
ˈwaː taːˀni ʔaˈʤutaː (君は誰に言ったのか)

(5) 与格 2、-ン [-ŋ] (に)
ʃiˈgutoːˀ kaˈriŋˀ ʃiˈmiri (仕事は彼にさせなさい)

(6) 与格 3、-ンナーニ [-nnaːni] (-naːni) (に)
pụˈsunnaːˀneː ʔaˈʤuna (他人には言うな)

(7) 共格 (相手格)、-トゥ [-tu] (と)
ˈbanˀtu ˈmaːʤumˀ paruŋ (私と一緒に行く)

(8) 場所格、-ティ [-ti] (で)
ˈjaːˀnaːti ʔaˈsabiˀba (家で遊びなさいよ)

(9) 奪格 (出どころ格)、-ラ [-ra] (から)
ˈwaːˀ maːra ˈkuːˀta (君はどこから来たか)

(10) 到達点、-バーキ (-マーキ) [-baːki(-maːki)] (まで)
ˈjaːbaːˀki ˈsaːriˀpari (家まで連れていけ)

(11) 手段格 (材料)、-シ [-ʃi] (で)
saˈkeː maiˀʃi sụˈkuˀru (酒は米で造る)

(12) 手段格 (道具)、-シ [-ʃi] (で)
ˀjukuŋʃi ˈpikˀkiba (銛で突きなさいよ)

(13) 手段格 (道具)、-サーリ [-saːri] (で)
ˀparusaːri ˀnuiba (針で縫いなさいよ)

(14) 目的格。-バ [-ba] (を)
ˈtaŋgaˀʃi ɸuˈniˀba ˈpauta (一人で舟を接いだ < 造った >)

7.2 係助詞

7.2.1 -ル [-ru] (ぞ)(強調)

文中に係助詞ル [ru](ドゥ [du]< 文語文の「ぞ」に対応する >) が来ると、それと呼応する活用語が連体形を取る現象を係り結びの法則といっている。鳩間方言では、係助詞ハ、モが文中における動詞の終止形と呼応している現象も一種の係り結びといえる。ドゥ [du] は歌謡や諺などに現れ、会話文では語末の-n の後ろという音声環境で現れる。それ以外ではル [ru] で現れる。

a. ʔaˈtsaˀru kuː ˈkjuːˀja ˈkuːˀnu (明日ぞ < が > 来る。今日は来ない)
b. ˀbaː kuˈriruˀ pu̥saru、kaˈreːˀ pu̥saˈnaːˀnu (私はこれ < ぞ > が欲しいのだ。あれは欲しくない)

7.2.2 -ヤ [ja] (は)(取り立て強調)

上接する語の末尾の音節構造によって、次のような形態をとる。

1. CV_1CV_2(C= 子音、V= 母音) 音節構造で、

(イ) V_2 が a の場合、a + ja (は) → aː となる。例: kasa + ja → kasaː (笠は)

(ロ) V_2 が i の場合、i + ja (は) → eː となる。例: ɸuni + ja → ɸuneː (舟は)

(ハ) V_2 が u の場合、u + ja (は)→ oː となる。例: pḁku + ja → pḁkoː (箱は)

2. 上接する語の末尾の音節構造が CVV (C= 子音、V= 母音) で、

(二) VV が ai の場合、ai + ja → aija となる。例: mai + ja → maija (米は)

(ホ) VV が ui の場合、ui + ja → uija となる。例: kui + ja → kuija (声は)

(ヘ) VV が au の場合、au + ja → auwa となる。例: kau + ja → kauwa(線香は)

(ト) VV が uu の場合、uu + ja → uuja (uuwa) となる。例: suu + ja → suuja (潮は)< 若年層 >。suu + ja → suuwa (潮は)< 老年層 >

3. 上接語の末尾音節構造が CVN(N= 撥音) の場合

(チ) CVN + ja → CVmma となる。例: ʔaŋ + ja → ʔammaː (網は)、tiŋ + ja → timmaː (天は)

7.3 副助詞

(1) saːgi (さえ)
名詞や動詞の連用形に付く。下に条件句を伴い、上接語の意味内容だけで十分に条件が満たされる意を表す。
ˀparisaːgi ˈsuːˀkaː ʃiˈgutoː sanˀtantim misaŋ (行きさえすれば、仕事はしなくてもよい)

(2) ˀntsaŋ (すら、だに、さえ)
ある基準となる事例を比較の基準に強調提示し、本件の事柄が基準よりも甚だ劣ることを暗示する。
jaˈrabiˀnu ʔaˈtaroːntsaŋˀ ʃiˈgutu ʃiːjuːsanu (子供ぐらいさえも仕事をすることができない)

(3) kaːˈni (だけ)
範囲を限定する。
ʔiˈɖzoːˀ ʃinˈtuˀ pu̥ˈsukˀkara kaːˈniru hoːsaˀreː (魚はたった一匹だけ釣れた < たった一匹しか釣れてない >)

(4) -keŋ (まで)
時間的、空間的、心理的、感覚的、到達点を表す。
1 fˈfanuˀ ʔuˈkiˀruŋkem matiˈbeːˀri (子供が起きるまで待っておれ)
2 ˈtaŋˀgoːra ʔaˈbakkairuŋˀkem miˈʤibaˀ ʔiˈribeː (たご < 担桶 > から溢れるまで水を入れている)
3 kiˈmuˀnu ɸuˈguŋˀkem ʔaˈsabiˀba (満足するまで遊びなさいよ)

(5) -ˈbaːˀki (まで)
特定のものを例示して、他を暗示する。程度や限界点、範囲を表す。
1 ˈwaːbaːˀki ʔairu ˈkaŋgairu (君までがそう考えるのか)
2 ʔubiˈbaːkiˀru ˀnaru ˈmaːbimˀmaː naˈraˀnu (そこまでが出来る < そこまでしか出来ない >、それ以上はできない)

(6) -su̥ku (ほど。ぐらい)
特定のものを例示し、それと同じ程度を表す。
1 ˈwaːˀsu̥koː pḁˈtarakijuːsanu (君ほど < くらい > 働けない)
2 nuˈmiˀpu̥sasukoː nuˈmaˀʃiba (飲みたいだけ飲ませなさいよ)

(7) -bukara (ほど、ぐらい、ばかり)
数量を表す語に付いて、程度を表す。
1 ˀpu̥suibukaraː ˈteːˀnai ˈʃiː ffiːranˀnoːreː (一日ぐらい < ほど、ばかり > 手伝ってくれないかね)
2 ʔubibukaraˈbaːkiˀru ˈteːnaiˀjaː naru ˈmaːbimˀmaː naˈraˀnu (これぐらいまでが < までしか > 手伝いはできる < できない >。それ以上は出来ない)

(8) -ʔataru (ぐらい)
物事に付いて、程度、分量の基準、範囲を表す。
1 ˈwaːˀ ʔuˈnuˀ ʔaˈtaruˀnu ʃiˈgutuntsaŋ ʃiːjuːsaˈnu (君はその程度 < それぐらい > の仕事すら < さえも > できないのか < し得ないのか >)
2 ˈtiːˀba ˈʔuːkaˀsu ʔaˈtarunuˀ ʃiˈgutoː banˀnun naruŋ (手を動かす程度の仕事は私にもできる)

7.4 接続助詞

(1) -ti (て)。順態接続。後続文の内容、原因、理由が先行文より推論される接続。
1 ˀkumaː kaˈʤinu suitiˀ piˈraˀkeːŋ (此処は風が吹いて < そよいで > 涼しい) 理由。
2 paˈnaˀnu ˈkaiˀjatiru naːˈjiˀ miriˈbeː (花が美しいのでじっと見ている)

(2) nu (ので)。形容詞の連用形に付く。
1 kuˈnu kiːˀja taˈkaːˀnu ˈnuːraranu (この木は高くて登れない)。原因理由。
2 ŋˈgamasaˀnu niˈbaranu (うるさくて眠れない)。原因理由。

(3) -nu (〜が、〜だが、〜けれど) 動詞、形容詞の連体形につく。逆態接続。後続文の内容が先行文から推論される内容とは逆の意味になる接続。
1 ˈʤiːjaˀ juˈmuˀnu kḁˈkijuːsaˀnu (字は読めるが < 読むが > 書けない)
2 ʃiˈgutoːˀ paˈjaːˀnu ˈdaːssaːnaːˀnu (仕事は早いが内容が良くない)

(4) -ba (〜ば、〜たら) 未然形接続 (未定、仮定条件)、已然形接続 (確定条件)
1 ˀbaː kḁˈkaˀba ˈwannuŋˀ kakiˈjoː (私が書いたら < 書くから >< 未定 > 君も書けよ)
2 ˀbaː ˀkakeːtʃiba ˈwaːˀ kḁˈkanˀtantim misaŋ (私は書いたので、君は書かなくてもよい)

(5) -ka: (〜たら、〜なら) 連体形接続。仮定条件 < もし〜したら > を表す。
1 ˺jadu ʔaˬku˺ka: ʔikˬkem˺ piˬra˺ke:ŋ (戸を開けたら非常に涼しい)
2 ˬpi:˺jaka: ˬʔa:ʃi˺kiŋ kiˬʃi˺ba (寒かったら 袷(アワセ) を着なさい)

(6) ˬ-do:˺ʃi (〜ずに。〜ないで) 否定形に付いて連用接続する。
1 ˬkju:˺ja ˬbaʃikirando:˺ʃi ʔaˬʤi˺da: (今日は忘れずに言いなさいよ)
2 naˬkando:˺ʃi fˬfai˺ba (泣かないで食べなさい)

(7) ˬ-de:˺ka: (〜なら。〜だったら。限定的強調。du-jaruka: の転訛)
1 kuma:ranˬde:˺ka: miˬra˺rim ˺paʤi (ここかなら見えるはずだ)
2 ˬwa:˺ parunˬde:˺ka: ˬban˺num ˺paruŋ (君が行くなら私も行く)

(8) ˺-baŋ (〜ても <bamo>) 動詞の未然形に付いて仮定表現を表し、後件が前件に拘束されないことを表す。
1 gju:ˬsa mo:ka˺ban taˬra:nu (いくら稼いで < 儲けて > も足りない)
2 ʔaˬmi˺nu ˬho:˺baŋ ʃiˬguto: ʃi:su (雨が降っても仕事はする)

(9) -nte:na (〜ながら) 連用形に付いて、動作や事柄の同時進行を表す。
1 ʔaˬsabinte:na ʤi:˺ narauŋ (遊びながら字を習う)
2 ˺ʔi: fˬfainte:na:˺ paˬnasu˺na (ご飯を食べながら話すな)

7.5 並立助詞

(1) -tiba (〜やら、〜や、< てば >) 名詞に付いて、それらを並べあげる。列挙。
1 ʔiˬʤutiba˺ takutiba jaˬmaʃi˺ka tuˬro:˺re:taŋ (魚やらタコやら沢山漁獲された)
2 biˬkidumutiba˺ miˬdu˺mutiba ˬbu:kaka˺ra: mu:ˬru˺ ʔaˬtsa˺mari ˺ke:ntso: (男やら女やら、居る限りみんな集まって来ているそうだ)

(2) -nuja: (〜やら、〜だの) 名詞や代名詞に付いて、並べ立てる。列挙。
1 ˬnu:˺nuja: ˬkuinu˺ja:ti ˬʃi:˺ ʔnˬʤi˺mai ka:ˬniru˺ turu (なんだの、かんだのと言って分担金 < 出し前 > だけを取る)
2 muˬʧinu˺ja: kaˬmabukunu˺ja:ti ˬʃi: kot˺ʧi suˬko:ri be: (餅だの < やら > 蒲鉾だの < やら > といって御馳走を作っている)

7.6 終助詞

(1) -wa (か) 動詞の連体形に付き、疑問詞と呼応して、文末に用いられる。
1 ˬwa:˺ nunti ʃiˬgutu saŋwa (君はなぜ仕事をしないのか)
2 ʔuˬre:˺ mana: ʔaˬru˺wa (それはどこにあるか)

(2) -ware: (< なんと >〜ことよ) 形容詞の語幹に付き、詠嘆の意を表す。
1 ʔuˬnu˺ paˬna˺nu ˬkai˺jaware: (その花の美しいことよ)
2 kaˬnu˺ miˬdumu˺nu ʔaˬba˺re:waˬre: (あの女の美しいことよ)

(3) -mi: (〜ね) 確認。同意を求める。いろいろな語や動詞、形容詞の終止形に付いて、確認の意を表す。〜ŋ + ʔi → mi のように音韻変化したもの。
1 ˬwa: ɸun˺to: ˺parummi: (君は確かに行く < だろう > ね)
2 ʔuˬre: kai˺jammi: (それは美しい < だろう > ね)

(4) ˬ-mi: (〜< て > 見よ。〜< て > ごらんよ) 動詞の連用形に付いて、優しく「試みることの勧誘、誘いかけること」を表す。

1 ˩waː˥ duːʃi kaki˩mi: (君は自分 < 独力 > で書いてごらんよ)
2 ku˩maː˥ kiː˩mi: (此処へ来てごらんよ)

(5) -ja (〜か) 常に「疑問詞〜ja」の呼応関係で用いられる。
1 ka˩nu˥ pu̥˩so: taː˥ja (あの人は誰か)
2 ku˩reː˥ nuːja(これは何か)
3 ˩waː˥ tuʃe: ˩gjuːtʃi˥ja(君は何歳か < 君は、年はいくつか >)

(6) -kaja: (〜だろうか。〜かな?) 1 名詞や2 動詞、3 形容詞、4 助動詞の終止形に付いて、軽い疑問、疑いの意を表す。
1 ˥kana: mi˩ra˥rimo: ɸunikaja: (あそこに見えるのは舟だろうかね)
2 ˩kjuː˥ja ʃi˩gutu suŋ˥kaja: (今日は仕事をするだろうかね)
3 ʔu˩nu kim˥ma: ˩kai˥jaŋkaja: (その着物は美しいかね)
4 kḁ˩tsuʃimma: ˥ʔuke: ʔn˩ʤu˥taŋkaja: (カツオ漁船は沖へ出漁したかね)

(7) -tu: (〜って?、〜だって?、〜ものか) 反問。
1 ˥ʔaibu ˥subuttunu pḁ˩tarakun˧tu: (あんな怠け者が働くものか)
2 ˩ɸun˥to: parun˩tu: (本当に行くって?< 行きやしないよ >)

(8) ˥-tso: (〜< だ > そうだ) 低平アクセント。用言の終止形に付いて伝聞の意を表す。
1 ʃi˩ʤamidoːŋ˥ffa: ʔik˩kena˥ ʔa˩ba˥reːntso: (姉は非常に美しいそうだ)

(9) ˩tso: (〜ですよ。〜ますよ。〜ってば) 高平アクセント。用言の終止形に付いて、断定強調、念押し、の意を表す。
1 ˩ʔuʃi̥˥tuŋ ʔu˩ki˥na: parun˩tso: (弟も沖縄へ行くんですよ)
2 ʔu˩nu˥ mi˩doːŋ˥ffaŋ ʔa˩ba˥reːn˩tso: (その娘さんも美しいんですよ)

(10) ˩-do: (〜< だ > ぞ。〜よ) 動詞の終止形に付いて、許諾を求める意を表す。
1 ku˩reː˥ ba: kakun˩do: (これは私が書くぞ < 書くよ、よろしいですね >)
2 ni˩ʤaram˥ba ˥ba: parun˩do: (我慢できないから、私は行くよ、良いね)

(11) ˩-jo: (よ) 動詞の命令形や、禁止の終助詞-na (〜な。禁止) に付いて、軽い命令や禁止確認の意を表す。
1 ˩waː˥ jaː˩diŋ˥ go˩ʤi˥na kuː˩jo: (君は必ず 5 時に来なさいよ)(命令)
2 ˩waː˥ ma˩na˥ma: kḁ˩ku˥na˩jo: (君は、今は書くなよ)(禁止の確認)

(12) ˩-ge˥ra (さ。よ) 老年層。˩-gja˥: (さ。よ) 若年層が多用する。
動詞の連用形や形容詞の語幹に付いて、親しみをこめて、言外に「勿論」の意を表す。
1 ˩waː˥ kḁkuka: ˩ban˥nuŋ kḁki˩ge˥ra (君が書くなら、勿論私も書くさ)
2 ʔa˩ʤan˥tantim misa˩gja˥: (言わなくてもいいさ)< 若年層 >

(13) ˥-na (〜な) 動詞の連体形に付いて「禁止」の意を表す。
1 ˩wa: ʤiː˥ kḁ˩ku˥na (君は字を書くな)
2 ʔa˩bu˥tsa ˥muno: mi˩ru˥na (あんなものは見るな)
3 ˩waː˥ ʃi˩guto:˥ su˩na (君は仕事はするな)
4 ku˩maː˥ja ˩taŋga˥ʃe: ˩kuː˥na (此処へは一人では来るな)

(14) ˥-ba (〜よ) 動詞の命令形に付いて、柔らかい命令、指示の意を表す。
1 ju˩naraŋ˥kem ˩paː˥ku ˥pariba (暮れないうちに、早く行きなさいよ)
2 ʔm˩beːma˥ joː˩nnaː˥ f˩fai˥ba (少しゆっくり食べなさいよ)
3 ʔu˩ja˥tu ˩maːʤuŋ˥ kuːba (親と一緒に来なさいよ)
4 ka˩ʃiːkaʃiː˥ ʃi˩gutu ʃiː˥ba (ちゃんと、しっかり仕事をしなさいよ)
5 si̥˩kai˩tu kiː˥ʃi̥ki miriba (しっかり注意して < 気をつけて > 見なさいよ)

(15) ˥-sa: (〜さ、〜よ) 形容詞型助動詞の未然形に付いて、比況、様態、< 話者の推定、不確実な判断 > の意を表す。
1 ʔaˬmi˥nu ˬɸuiŋ˥gisasa: (どうも雨が降りそうだよ)
2 ʃiˬguto:˥ kaˬriru ʃi:ŋ˥gisasa: (仕事は彼がしそうだよ)

(16) -saˬna: (〜< だ > ねえ) 形容詞の語幹に付いて詠嘆的念押しの意を表す。
1 ˬwa: sak˥ko: ˬgan˥ʤo:sana: (君は非常に健康 < 頑丈 > だねえ)
2 ˬkju:˥ja ˬsak˥ko: ʔatsasaˬna: (今日はとても暑いねえ)
3 ʔuˬnu˥ miˬdo:ŋ˥ffa: ˬsak˥ko: ʔaˬba˥re:saˬna: (この娘 < 女の子 > は非常に美しいねえ <「あわれなり」の転訛か >)

(17) ˬ-ju: (〜ます。〜です) 名詞や動詞、形容詞、助動詞などの活用語の終止形に付いて、丁寧、謙譲の意を表し、聞き手を敬う。
1 kuˬre:˥ ba: ˬʔuʃi̥˥tuˬju: (これは私の弟です)
2 tiˬga˥me: ba: kakuŋˬju: (手紙は私が書きます)
3 kḁˬtsunamaʃe:˥ ʔikˬkena˥ ʔmˬma:ŋ˥ju: (カツオの刺身は非常に美味しいです)
4 kuˬnu ʤi:ja ban˥nuŋ juˬma˥riŋˬju: (この字は私にも読まれ < 読め > ます)

8 数詞

8.1 数詞

数や量を表す鳩間方言の基数詞は、19 までは和語系の累加的呼称を用いる。それ以上は漢語系の数詞を用いる。

a. ˬpi:˥ʧi (一つ)。ɸu̥ˬta:ʧi (二つ)。ˬmi:ʧi (三つ)。ˬju:ʧi (四つ)。ʔiˬʧi˥ʧi (五つ)。

b. ˬmu:ʧi (六)。naˬna˥ʧi (七つ)。ˬja:ʧi (八つ)。ku̥ˬkunu˥ʧi (九つ)。ˬtu: (十)。

c. ˬtu:pi:˥ʧi (十一)。ˬtu:ɸu̥ta:ʧi (十二)。ˬtu:mi:ʧi (十三)。ˬtu:ju:ʧi (十四)。ˬtu:itʃitʃi (十五)。

d. ˬtu:mu:ʧi (十六)。ˬtu:nana˥ʧi (十七)。tu:ja:ʧi (十八)。ˬtu:kukunu˥ʧi (十九)。ˬnin˥ʤu (二十)。

e. ˬsan˥ʤu (三十)。ˬʃin˥ʤu (四十)。ˬgun˥ʤu (五十)。ruˬkun˥ʤu (六十)。

f. ʃi̥ˬʧin˥ʤu (七十)。paˬʧin˥ʤu (八十)。ˬkun˥ʤu (九十)。

g. ˬpja:˥ku (百)。˥ʃiŋ (千)。˥maŋ (万)

8.2 助数詞 (接辞の一つ)

数量を表す語の下に付ける接辞。鳩間方言には次のような語が認められる。これらの助数詞は特定の対象物を表すのに用いられる。

(1) -kiˬbu˥ru (軒) 家を数える際に用いる。平安時代の日本古語では、「けぶり (介布利)」『和名抄』とある。ˬja:˥ja pu̥ˬsukiburu˥ru ʔaru (家は一軒しかない < 一軒ぞある >)。ˬja:˥ja ˬgju:kiburu˥ ʔaˬru˥wa (家は何軒あるか)。ˬja:˥ja ɸu̥ˬtakiburuŋ˥ ʔaŋ (家は二軒もある)。

(2) ˥-kkara (匹) 家畜一般、魚類、鳥類、昆虫類、蛇類を数えるのに用いる。ʔuˬʃe:˥ pu̥ˬsuk˥kara ˬʔo:ja˥ ɸu̥ˬtakkara˥ si̥ˬka˥nai buŋ (牛は一頭 < 一匹 >、豚は二匹飼育して < 養って > いる)。

(3) ˥-ru (り)。人間を数える際に用いる。pu̥ˬsu˥ru (一人)。ɸu̥ˬta:ru (二人)。miˬtsa:ru (三人)。juˬta:ru (四人)。biˬkidumu˥ ɸu̥ˬta:ru˥ taˬna˥miba (男二人頼み < 雇い > なさい)。gjuˬta:ru˥ taˬnamu˥wa (何人頼む < 雇う > か)。

(4) ˥-muʃi (回。度(タビ)) pu̥ˬsumu˥ʃi (一回、一度)。ɸu̥ˬtamuʃi (二回)。ˬgju:muʃi (何回)。ˬgju:muʃi˥ jumuka: ʔuˬbo:ri˥wa (何度読んだら覚えられるか)。pu̥ˬsumu˥ʃi ˥jumuka: ʔuˬbo:˥riŋ (一度読んだら覚えられる)

(5) ˩-keː˥ra (回、度) 一往復する回数を表す。「ただひとかへり舞ひ〜て」(『源氏物語 < 若菜 >』の転訛か) ʔu˩ki˥naː pu̥˩sukeː˥ra ˩giːmit˥taŋ (沖縄には一度行ってみた < ことがある >)

(6) ˥-ki (食)。食物、食事を表す。古辞書『類聚名義抄』に、「食、クヒモノ、ケ」とある。pu̥˩su˥ki (一食)。ɸu̥˩taki (二食)。˩miːki (三食)。˥pu̥sui ˩miːki ʔunnu˥ʔiː f˩faijaː˥tiru ʔu˩bu˥pu̥su narikeː˩daː (一日三食イモご飯を食べて成長してきたよ)

(7) ˥kku (個) 卵、石、壷、甕、瓶、等を数える際に用いる。pu̥˩suk˥ku (一個)、ɸu̥˩takku (二個)、˩mikku (三個)、˩jukku (四個)、ʔi˩ʧik˥ku (五個)、˩mukku (六個)、na˩nak˥ku (七個)、˩jakku (八個)、ku˩nuk˥ku (九個)、˩tukku (十個)。˩gjukku (何個)。tu˩runu koː˥ma ˩mikku˥ naʃeːŋ (鶏が卵を三個産んだ)。

(8) ˥ira (枚)。紙、皿、板、筵等の平たいものを数える際に用いる。s˩su˥kabi pu̥˩sui˥ra f˩fiːri (白紙を一枚 < 私に > 呉れ)。˥surui ɸu̥˩taira ʔu˩ta˥ʃi ba˩riʃitinaː˥nu (皿を二枚落として割ってしまった)。

(9) ˥ʃiʤi (粒) 粒状の細かい物を数えるのに用いる助数詞。pu˩su˥ʃiʤi (一粒)。ɸu̥˩tasiʤi (二粒)。˩mai˥ pu̥˩su˥ʃiʤi pa˩sa˥mituri (米粒を一粒挟んで取れ)。

参考文献

[1] 天野鉄夫著, 1989, (昭和 64 年) 『琉球列島有用樹木誌』, 琉球列島有用樹木誌刊行会.

[2] 池宮正治著, 1995, (平成 7 年) 『琉球古語辞典混効験集の研究』, 第一書房.

[3] 伊是名島方言辞典編集委員会 (編), 2004, (平成 16 年) 『伊是名島方言辞典』, 伊是名村教育委員会.

[4] 市川三喜・服部四郎編, 1955 (昭和 30 年),『世界言語概説』下巻, 付琉球語.

[5] 稲福盛輝著・加治工真市 (監修), 1992, (平成 4 年) 『医学沖縄語辞典』, ロマン書房本店.

[6] 内間直仁著, 1984, (昭和 59 年) 『琉球方言文法の研究』, 笠間書院.

[7] 内間直仁著, 1994, (平成 6 年) 『琉球方言助詞と表現の研究』, 武蔵野書院.

[8] 内間直仁・野原三義編著, 2006, (平成 18 年) 『沖縄語辞典: 那覇方言を中心に』, 研究社.

[9] 大城學著, 2003, (平成 15 年) 『沖縄の祭祀と民俗芸能の研究』, 砂小屋書房.

[10] 大友信一・木村晟 (編輯), 1979, (昭和 54 年) 『琉球館訳語本文と索引』, 小林印刷出版部.

[11] 大野晋・佐竹昭広・前田金五郎 (編), 1974, (昭和 49 年) 『岩波古語辞典』, 岩波書店.

[12] 沖縄古語大辞典編集委員会 (編), 1995, (平成 7 年) 『沖縄古語大辞典』, 角川書店.

[13] 長田須磨・須山名保子, 1977, 1980, (昭和 52、55 年) 『奄美方言分類辞典』上・下, 笠間書院.

[14] 生塩睦子著, 1999, (平成 11 年) 『沖縄伊江島方言辞典』, 伊江村教育委員会.

[15] 澤瀉久孝 (編集代表), 1970, (昭和 45 年) 『時代別国語大辞典』上代編, 三省堂.

[16] 澤瀉久孝著, 1983, (昭和 58 年) 『万葉集注釋』巻 1〜20、本文編、索引編, 中央公論社.

[17] 加治工真市, 1973,『沖縄県八重山鳩間島』, 国立国語研究所はなしことば研究室.

[18] 加治工真市, 1961,「鳩間方言の音韻体系について」,『琉球方言』第 3 号.

[19] 加治工真市, 1976,「沖縄県八重山鳩間方言動詞の活用」,『人文学報』東京都立大学.

[20] 加治工真市, 1983,「八重山鳩間方言の助詞」,『琉球の方言』8 号, 法政大学.

[21] 加治工真市, 1998,「沖縄県八重山鳩間方言の文末助詞」, 『日本語文末助詞の研究』.

[22] 加治工真市, 2002,「八重山・鳩間島方言」, 『国文学解釈と鑑賞』第 67 巻 7 号, 至文堂.

[23] 加治工真市, 2015,『竹富町史第六巻鳩間島』.

[24] 菊千代・高橋俊三著, 2005, (平成 17 年) 『与論方言辞典』, 武蔵野書院.

[25] 九州方言学会 (編), 1991, (平成 3 年) 『九州方言の基礎的研究』, 風間書房.

[26] 金田一春彦著, 1977, (昭和 52 年) 『日本語方言の研究』, 東京堂出版.

[27] 金田一春彦著, 1972 (昭和 47 年), 『日本語音韻の研究』4 版, 東京堂出版.

[28] 具志堅宗弘著, 1972, (昭和 47 年) 『原色沖縄の魚』.

[29] 久野マリ子著, 2005, (平成 17 年) 『日本方言基礎語彙の研究』, おうふう.

[30] 國學院大學日本文化研究所, 1979, (昭和 54 年) 『周辺地域方言基礎語彙の研究』,

[31] 国立国語研究所編, 1963 (昭和 38 年),『沖縄語辞典』, 大蔵省印刷局.

[32] 柴田武著, 1977, (昭和 52 年) 『言語地理学の方法』, (再販), 筑摩書房.

[33] 柴田武, 1978, (昭和 53 年) 『日本方言の語彙』, 日本方言研究会.

[34] 下地一秋著, 1979, (昭和 54 年) 『宮古群島語辞典』,

[35] 下地賀代子編, 2017, (平成 29 年) 『つかえるたらまふつ辞典―多良間方言基礎語彙―』, 多良間村教育委員会.

[36] 尚学図書編集, 1989, (昭和 64 年) 『日本方言大辞典』(全三巻), 小学館.

[37] 申叔舟 (編), 中村栄孝 (解説), 1975, (昭和 50 年) 『海東諸國紀』, 国書刊行会.

[38] 申叔舟著, 田中健夫 (訳注) 1991, (平成 3 年) 『海東諸国紀』, 岩波文庫.

[39] 新村出 (編), 1998, (平成 10 年) 『広辞苑』第 5 版, 岩波書店.

[40] 第二版編集委員会, 2001, (平成 13 年) 『日本国語大辞典』第二版第十二巻, 小学館.

[41] 多和田眞一郎著, 2010, (平成 22 年) 『沖縄語音韻の歴史的研究』, 渓水社.

[42] 土井忠生・森田武・長南実 (編訳), 1980, (昭和 55 年) 『邦訳日葡辞書』, 岩波書店.

[43] 富浜定吉著, 2013, (平成 25 年) 『宮古伊良部方言辞典』, 沖縄タイムス社.

[44] 仲宗根盛善著, 1983, (昭和 58 年) 『沖縄今帰仁方言辞典』, 角川書店.

[45] 仲宗根政善著, 1987, (昭和 62 年) 『琉球方言の研究』, 新泉社.

[46] 仲原善忠・外間守善著, 1967, (昭和 42 年) 『おもろさうし辞典・総索引』第二版, 角川書店.

[47] 中本正智著, 1976, (昭和 51 年) 『琉球方言音韻の研究』法政大学出版局.

[48] 中本正智著, 1981, (昭和 56 年) 『図説琉球語辞典』, 力富書房金鶏社.

[49] 日本放送協会 (編), 1972 (昭和 47 年), 『全国方言資料第 10 巻琉球編』日本放送出版協会.

[50] N., ネフスキー, 岡正雄 (編), 1987, (昭和 62 年) 『東洋文庫 185 月と不死』, 平凡社.

[51] 野原三義著, 1998, (平成 10 年) 『新編琉球方言助詞の研究』, 国学院大学博士論文.

[52] 服部四郎著, 1951 (昭和 26 年), 『音声学』, 岩波書店.

[53] 服部四郎著, 1959 (昭和 34 年),『日本語の系統』, 岩波書店.

[54] 服部四郎著, 1960 (昭和 35 年),『言語学の方法』, 岩波書店.

[55] 原田のぶ雄 (訳注), 1982, (昭和 57 年) 『完訳中山伝信録』, 言叢社.

[56] 原田章之進著, 1993, (平成 5 年) 『長崎県方言辞典』, 風間書房.

[57] 平山輝男著, 1957 (昭和 32 年),『日本語音調の研究』, 明治書院.

[58] 平山輝男編著, 1983, (昭和 58 年) 『琉球宮古諸島方言基礎語彙の総合的研究』, 桜楓社.

[59] 平山輝男編著, 1988, (昭和 63 年) 『南琉球の方言基礎語彙』, 桜楓社.

[60] 平山輝男編著, 1986, (昭和 61 年) 『奄美方言基礎語彙の研究』, 角川書店.

[61] 平山輝男・中本正智著, 1964 (昭和 39 年),『琉球与那国方言の研究』, 東京堂.

[62] 福島邦道著, 1993, (平成 5 年) 『日本館訳語巧』, 笠間書院.

[63] 福治友邦・加治工真市共著, 2012, (平成 24 年) 『久高島方言基礎語彙辞典』, 法政大学沖縄文化研究所.

[64] 法政大学沖縄文化研究所, 1986～1997 年, 『琉球の方言』10 号、13、14、15、16、17、18、19、21 号.

[65] 外間守善著, 1970 (昭和 45 年), 『混効験集校本と研究』, 角川書店.

[66] 外間守善・西郷信綱, 1972, (昭和 47 年) 『おもろさうし』日本思想体系 18, 岩波書店.

[67] 前新透著, 2011, (平成 23 年) 『竹富方言辞典』, 南山舎.

[68] 宮良當壯, 1966, (昭和 41 年) 『八重山語彙』(再版), 東洋文庫.

[69] 宮城信勇著・加治工真市 (監修), 2003, (平成 15 年) 『石垣方言辞典』, 沖縄タイムス社.

ア

˥ア **[ʔa]** 【語素】1遠称の指示語を作る。˥アドー　パ˩ララ˥ヌ [˥ʔado: pa˩rara˥nu](あんなに遠くへは行けない)。ア˩ダカ˥ヌ　˥ムノー　˩カーラヌ [˥ʔa˩daka˥nu ˥muno: ˩ka:ranu](あんなに高いものは買えない)。2話題の事実を指し示す指示語を作る。˥アイヤーナ˩ラ˥ヌ [˥ʔaija: na˩ra˥nu](そうは出来ない)。˥アイブ　ク˩トゥ˥ヌ　˩アン [˥ʔaibu kṵ˩tu˥nu ˩ʔaŋ](そんなことがあるものか)。

˥アー **[˥ʔa:]** 【名】 (植) 粟。五穀の一つ。粘り気のある、ム˩チアー [mu˩ʧiʔa:](糯粟) と粘り気のない、サ˩ク˥アー [sạ˩ku˥ʔa:](粳粟) があった。粟は水田耕作の出来ない島々でよく栽培された。˩アーヌ˥イー [˩ʔa:nu˥ʔi:](粟のご飯、粟の飯)、˩アー˥ムチ [˩ʔa:˥muʧi](粟餅)。ム˩チアー [mu˩ʧiʔa:](糯粟)。サ˩ク˥アー [sạ˩ku˥ʔa:](粳粟)。サ˩ク˥マイナー　ム˩チアー˥　マ˩ザー˥シティ　バ˩カス˥カー　イッ˩ケナ˥　ン˩マー˥ン [sạ˩ku˥maina: mu˩ʧiʔa:˥ ma˩ʤa:˥ʃi̥ti ba˩kasu ˥ka: ʔik˩kena˥ ʔm˩ma:˥ŋ](粳米に糯粟を混ぜて炊くと非常に美味しい)。

˩アー **[˩ʔa:]** 【感】ああ。感動した時に発する声。˩アー　フントー˥ヌシェー　ウ˩レー [˩ʔa: ɸunto:˥nuʃe: ʔu˩re:](ああ、本当だよ、それは)。˩アー˥　ウ˩ムッサリ˥ブバン [˩ʔa:˥ ʔu˩mussari˥buban](ああ、おもしろいよ)。˩アー˥　イ˩ナムヌ˥ダラ [˩ʔa:˥ ʔi˩namunu˥ dara](ああ、残念だ)。˩アー　キュー˥ヌ　シ˩キ˥ヌ　˩カイ˥ヤー˩ヨー [˩ʔa: kju:˥nu ʃi̥˩ki˥nu ˩kai˥ja:˩jo:](ああ、今日 < 今夜 > の月の何と美しいことよ)。

˩アー **[˩ʔa:]** 【副】人が口を大きく開けた様子。ああん。˩アー˥ティ　フ˩チ　アキ˥ミリ　˩ミー [˩ʔa:˥ti ɸṵ˩ʧi ʔaki˥miri˩mi:](ああんと口を開けてごらん)。

˩アーアー **[˩ʔa:ʔa:]** 【副】あああ (嗚呼嗚呼)。嘆き悲しむさま。深く思い悩むさま。˥アボーヤ　ビ˩コーンッふァバ　ピー˥タイ　トゥ˩ラ˥リ　イ˩ク˥サナ　シ˩ナシティル　ピーズ　アーアー˥シ　˩オー˥ル [˥ʔabo:ja bi˩ko:nffaba pi:˥tai tu˩ra˥ri ʔi˩ku˥sana ʃi ˩naʃitiru pi:ʤu ʔa:ʔa:˥ʃi ˩ʔo:˥ru](お母さんは男の子を徴兵され、戦争で死なせてしまって毎日嘆き悲しんでおられる)。

アー˩イ **[ʔa:˩i]** 【感】いいえ。いや。いや、そうではない。いや、ちがう。村落内では目上、同等、目下の人にも使える。特に待遇表現上留意すべき外来の村長や校長、巡査などに対しては、ウー˩ウー˥ウー　ア˩ラ˥ヌ˩ユー [ʔu:˩ʔu:˥ʔu: ʔa˩ra˥nu˩ju:](いいえ、ちがいます) のようにいう。アー˩イ˥　マ˩ナ˥マー　パ˩ラ˥ヌ [ʔa:˩i˥ ma˩na˥ma: pa˩ra˥nu](いや、今は行かない)。アー˩イ˥　ウ˩レー˥　アイヤ　ア˩ラ˥ヌ [ʔa:˩i˥ ʔu˩re:˥ ʔaija: ʔa˩ra˥nu](いや、それはそうではない)。アー˩イ　ワンマー˥　ッ˩ふィーラヌ [ʔa:˩i wamma: ˥ f˩fi:ranu](いや < 否 >、君には上げ < 呉れ > ない)。

˩アー˥ガイ **[ʔa:˥gai]** 【名】魚の名前。和名、ヒブダイ。ブダイ科の魚。体長 30〜40 センチの成魚がよく漁獲される。肉は柔らかい。刺身にして、肝臓の味噌和えにして食すると美味しい。˩アーガイ˥ヌキ˩ムバ　˩ミー˥スナ　˥タリ　カ˩ケー˥シティ　ナ˩マ˥シ　˩スー˥カ　イッ˩ケン˥　ン˩マー˥ン [˩ʔa:gai˥nu ki˩mu˥ba ˩mi:˥suna ˥tari kạ˩ke:˥ʃi̥ti na˩ma˥ʃi ˩su:˥ ka ʔik˩kem˥ ʔm˩ma:˥ŋ](アーガイの肝臓を擂りつぶして溶かし、味噌に混ぜ合わせて刺身につけると非常に美味しい)。

˩アーガ˥チャー **[˩ʔa:ga˥ʧa:]** 【名】 (動) 魚の名。和名、イロブダイ (雄)。その雌魚は˥ミーハガー [˥mi:haga:] という。ブダイ科の魚。体長 60〜80 センチに成長するものがいる。普通は体長 40〜50 センチのものが多く網にかかる。白身の魚肉は淡白な味であるが、刺身にして、その肝を味噌和えにしてミカン (九年母) の汁をかけて食すると美味である。また、蒲鉾の素材としても重宝されている。˩アーガチャー˥ヌ　ピ˩サー˥　ウ˩コー˥シティ　ナ˩マ˥シ　˥キシバ [˩ʔa:gaʧa:˥nu pi̥˩sa:˥ ʔu˩ko:˥ʃi̥ti na˩ma˥ʃi ˥ ki̥ʃiba](イロブダイを三枚おろしにして < 平を起こして > 刺身にしなさい)。

アーガ˞ヤー [ʔaːgaˢjaː] 【感】ああ。ああ残念。ああ気の毒に。ああ、仕舞った。強調表現は、アーガ˞ヤー [ʔaːgaˢjaː](ああ残念) という。ア (ー) ガ˞ヤー˥ キ˞ムイ˥ツァー ˞ヌー˥シター ˥ウレー [ʔa(ː)gaˢjaː˩ ki˞mui˥tsaː ˞nuːʃi̥˥taː ˥ʔureː](ああ可哀相に、どうしたのか、それは)。

˞アー˥グル [˞ʔaː˥guru] 【名】1粟を脱穀した後の茎。˞アー˥グル ア˞ツァ˥ミキー ˞モーシ˥バ˞ヨー [˞ʔaː˥guru ʔa˞tsa˥miki: ˞moːʃi˥ba˞joː](粟殻を集めて燃やしなさいよ)。2粟を収穫した後の畑。˞アー˥グル ˞カイ˥シティ ˥ウン イ˞バ˥ナー [˞ʔaː˥guru ˞kai˥ʃi̥ti ˥ʔuŋ ʔi˞ba˥naː](粟を収穫した後の畑を耕して芋を植えようね)。

˞アー˥クン [˞ʔaː˥kuŋ] (1)【自動】いる (居る)。˞ブンとも言う。あるく。ア˞ラ˥クン [ʔa˞ra˥kuŋ](歩く) の転訛した形。˥ミサレーティ ˞アー˥クン [˥misareːti ˞ʔaː˥kuŋ](元気でいる < 暮らしている >)。˞ワー˥マナー ˞アーク˥ワ [˞waː˥ manaː ˞ʔaːku˥wa](君は何処に居るのか)。˥カナー ˞アー˥クンケン ˞サンガリ パッ˥タヤー [˥kanaː ˞ʔaː˥kuŋken ˞saŋgari pat˥tajaː](あそこに居るところを引っ張られていったよ)。˥アイブ ˥ントンナー ˞アー˥キ ˥ミサカー ˞アー˥ク ˥クトー ナ˞ルン˥ドゥ ˞アーカン˥バル マ˞シト ナー [˥ʔaibu ˥tonnaː ˞ʔaː˥ki ˥misakaː ˞ʔaː˥kukuto: na˞run˥du ˞ʔaːkam˥baru ma˞ʃiɦ-naː](あんな所に居てよければ居ることは出来るが、居ないほうが良いよねえ)。˥ウナー ˞アー˥ケー ˥ミサムヌ [˥ʔunaː˞ʔaː˥keː ˥misamunu](そこに居れば良いのに)。˞アー˥キバ [˞ʔaː˥kiba](居れよ)。 **(2)**【助動】～ている。ア˞サビアー˥クン [ʔa˞sabiʔaː˥kuŋ](遊んでいる。遊びまわっている < 遊びあるく >)。˞ヨータビアー˥クン [˞joːtabiʔaː˥kuŋ](よたよたとふらついている < あるく >。千鳥足で歩く)。

˞アー˥クン [˞ʔaː˥kuŋ] (1)【自動】本動詞として用いられ、「ある状態で進行している」、「居る」、「存在する」、「働いている」、等の意味を表す。「歩く」の転訛したもの。˥カナー ˞アー˥ク プ˞ソー ター˥ヤ [˥kanaː ˞ʔaː˥ku pu̥˞soː taː˥ja](あそこにいる人は誰か)。マー˞ズン アー˥クンティ [maː˞ʤuŋ ʔaː˥kunti](一緒にいるさ、ほら)。 **(2)**【補動】動詞の連用形に付いて、˞～ている (現在進行形)」の意味を表す。本来は、ア˞ラ˥クン [ʔa˞ra˥kuŋ](歩く) であったのが、補助動詞として用いられるなかでアスペクト的意味表現を分担するようになって、r 音が脱落したものと考えられる。ヤ˞ラ˥ビンケーヤ ˥マナール ア˞サビ アー˥クカヤー [ja˞ra˥biŋkeːja ˥manaːru ʔa˞sabi ʔaː˥kukajaː](子供たちは何処に遊んで居る < 遊んで歩く > のだろうか)。2シ˞グトー シー アー˥クンカヤー [ʃi˞gutoː ʃiː ʔaː˥kuŋkajaː](仕事はしている < してあるく > かねえ。< 仕事をして生活していることが継続進行している意を表す >)。

˞アー˥サ [˞ʔaː˥sa] 【名】(植) 和名、あおさ (石蓴)。ヒトエグサ。緑藻類の海草の一種。海岸の珊瑚礁の岩に生える。干潮時に島の女性たちが採集し、天日乾燥して貯蔵する。日常の食事には、魚肉や豆腐のお汁に入れて食する。特に家造り共同作業の大量炊事には欠かせない食品で、豆腐や魚肉のお汁に入れて提供された。共同作業の際に提供される定番のスープの食材である。美味で忘れられない故郷の「味の素」である。˥インアーサ [˥ʔiŋʔaːsa] は形は似ているが食用に適さない。˞ヤースクリヤー˥ヌ ˞アーサ˥ヌ ˞スー˥ヌ ン˞マー˥ワ˞レー˥ プ˞ソー˥ フ˞バリティル˥ ッ˞ふァーリト ツォー [˞jaːsukurijaː˥nu ˞ʔaːsa˥nu ˞suː˥nu ʔm˞maː˥wa˞reː˥ pu̥˞soː˥ ɸu˞baritiru˥ f˞faːriɦ-tsoː](家造り普請の家のアーサ汁の美味しいことよ。他人には食わせてやれない < 独占したい > ほど美味しい < 他人は縛り付けておいてぞ食べられる > んだよ)。˥インアーサ [˥ʔiŋʔaːsa] 参照。

˞アー˥ザ [˞ʔaː˥ʤa] 【名】兄。総称。親族名称、呼称。「'u-ra sin-ca 'a-ri(汝兄あるか)」「語音翻訳」『海東諸国紀』と関係があるとする説『図説琉球語辞典』がある。˞アー˥ザー ˥マナー ˞オール˥ワ [˞ʔaː˥ʤaː ˥manaː ˞ʔoːru˥wa](兄さんは何処に居られますか)。この語彙には、ウ˞ボー˥ザ [ʔu˞boː˥ʤa](長 < 大 > 兄)、˥ナカザー [˥nakaʤaː](中兄)、アー˞ザ˥マ [ʔaː˞ʤa˥ma](末 < 小 > 兄) の部分体系 < 序列 > がある。上に固有名詞を付ける際には、˞イシ˥トザー [˞ʔiʃi˥toʤaː](石戸兄)˞サン˥ドーザー [˞san˥doːzaː](三郎兄) ˥タローザー [˥taroːʤaː](太郎兄) のように～˥ザ [～˥ʤa] となる。˞アー˥ザー ˞マー オーッ˥タカヤー [˞ʔaː˥ʤaː ˞maː ʔoːt˥takajaː](兄さんは何処へいらっしゃったかねえ)。

˞アーサ˥ヌ ˥スー [˞ʔaːsa˥nu ˥suː] 【連】アオサのお汁。アオサと豆腐のお汁は非常に美味で食も進むことから、家屋建築等の大勢の賄(マカナ)いには定番の賄い料理として調理された。˞ヤースクリヤー˥ヌ ˞アーサ˥ヌ ˥スー ッ˞ふァイン˥ パラ˞ディー [˞jaːsu̥kurija˥nu ˞ʔaːsa˥nu ˥suː f˞faim˥ para˞diː](家屋を建築する家のアーサのお汁を食しに行こうよ)。

アー˞ザ˥マ [ʔaː˞ʤa˥ma] 【名】三兄。「小兄」の義。˞ア

ー˞ザ [˞ʔaː˞ʤa](兄) に、-マ [-ma](小さいもの。指小辞) が付いて形成された語。親族名称、呼称。˞バン˞テヌ　アー˞ザ˞マー　イッ˞ケン　ウイゾー˞ジ˞ダー [˞ban˞tenu ʔaː˞ʤa˞maː ʔik˞keŋ ʔuiʤoː˞ʤi˞daː](私の家の三兄は非常に泳ぎ上手だよ)。アー˞ザ˞マー˞ギューチ˞　ナロー˞ル˞ワ [ʔaː˞ʤa˞maː ˞gjuːtʃi˞ naroː ˞ru˞wa](三兄はいくつになられますか)。

˞アーサラカー˞サラ [˞ʔaːsarakaː˞sara] 【副】あれこれと。あれやこれやと。ヌー˞サラクイサラ [nuː˞sarakuisara](あれやこれやと)、˞ヌー˞ヤクイヤ [˞nuː˞jakuija](なんやかんや) もいう。˞アーサラカー˞サラ　ム˞ヌ˞バウムイ　ムシ˞トゥ　ニバラヌ [˞ʔaːsarakaː˞sara mu˞nu˞ba ʔumui muʃi̥˞tu˞ ni˞baranu](あれやこれやと心配して < 物思いして > ちっとも眠れない)。

˞アー˞シ [˞ʔaː˞ʃi] 【名】制裁。罰。厳格な躾。˞アー˞シ　シ˞キ˞ルン [˞ʔaː˞ʃi ʃi̥˞ki˞ruŋ](制裁する、罰を与える)。ウ˞ヤ˞ヌ　˞ムニ　シゥ˞カン　ムノー　アー˞シ　˞シキ　トゥ˞ラ˞シ [ʔu˞ja˞nu ˞muni si̥˞kam munoː ʔaː˞ʃi ˞ʃi̥ki tu˞ra˞ʃi](親の言うことを聞かない子は厳罰を与えてやれ)。

アー˞シ [ʔaː˞ʃi] 【接尾】たびに。ごとに (毎)。名詞や動詞の連体形、終止形に付いて、「そのたびに」の意味を表す。「〜風に不令遇 < アハセズ > つつみ無く〜。万、1021」の、「合わす」の連用形「合わせて」が接尾語化したもの。˞ウン˞ネー　タ˞ジ˞ナイ　パルアー˞シ　ヤー˞ナ　ブ˞ラーヌ [˞ʔun˞neː ta˞ʤi˞nai paruʔaː˞ʃi jaː˞na bu˞raːnu](あの家に訪ねて行くたびに家にいない)。

˞アーシ˞キン [˞ʔaːʃi˞kiŋ] 【名】袷 (あわせ)。「袷衣」の転訛したもの。˞シンダイ　ピー˞ヤ　ナリ˞キー˞バ　˞アーシキン˞ヌ　ス˞コールン　サン˞カー　ナ˞ラ˞ヌ [˞ʃindai piː˞ja nari˞kiː˞ba ˞ʔaːʃikiŋ˞nu su˞koːrun ˞saŋ˞kaː na˞ra˞nu](次第に寒くなってくるので袷の準備もしないといけない)。˞アーシキン˞マー　˞ギュックビ˞　ア˞ル˞ワ [˞ʔaːʃikim˞maː ˞gjukkubi˞ ʔa˞ru˞wa](袷は何着あるか)。˞アーシキン˞バ　カ˞サビ˞　キ˞スタンティン　ピー˞ヤー　ニ˞ジララ˞ヌ [˞ʔaːʃikim˞ba kḁ˞sabi˞ ki̥˞sutantim piː˞jaː ni˞ʤirara˞nu](袷を重ねて着ても寒さは堪えられない)。裏地の付いた冬用の着物。平常は˞バサキン [˞basakiŋ](芭蕉布の単衣) か、˞ブーキン [˞buːkiŋ](麻布の単衣) を着て過ごした。ク˞トゥシヌ˞　フ˞ヨー　アーシ˞キン　プ˞スッ˞クビシ　˞コーシェー˞チバン [ku̥˞tuʃinu˞ ɸu˞joː ʔaːʃi˞kim pu̥˞suk˞kubiʃi ˞koːʃeː˞tʃibaŋ](今年の冬は袷一着で越して < 過ごして > しまったよ)。

˞アー˞シジ [˞ʔaː˞ʃidʒi] 【名】粟粒。粟。˞アー˞シジェー　˞ピッ˞チンッツァン　˞ナー˞ヌ [˞ʔaː˞ʃidʒeː ˞pittʃintsan ˞naː˞nu](粟粒はたった一つ < 一粒 > さえもない)。˞アーシジ˞ヌ　カタチニ　ナ˞チアシブヌ˞　ンジ　˞アーリ˞キー　˞ビーヨー˞ヌ　ナ˞ラ˞ヌ [˞ʔaːʃidʒi˞nu kḁtatʃini na˞tʃiʔaʃibunu˞ ʔndʒi ˞ʔaːri˞kiː ˞biːjoː˞nu na˞ra˞nu](粟粒のような吹き出物 < 夏あせも > が吹き出てきて痒くてならない)。

˞アー˞シ　シ˞キ˞ルン [ʔaː˞ʃi ʃi̥˞ki˞ruŋ] 【連】指導や教育のため、体罰を与える。懲らしめる。いじめ (苛) る。ク˞ヌ　ッふァー˞　イッ˞ケナ　アー˞シ　シ˞キラ˞レーティル　˞マイフナー˞　マ˞レー˞ダー [ku˞nu ffaː ˞ʔik˞kena ʔaː˞ʃi ʃi̥˞kira˞reːtiru ˞maiɸunaː˞ ma˞reː˞daː](この子はひどく懲らしめられて立派な人に育ったのだよ)。ヤ˞ナクトー　シーティル　アー˞シ　シ˞キラ˞リ˞ベ˞ー [ja˞nakutoː ʃiːtiru ʔaː˞ʃi ʃi̥˞kira˞ri˞be˞ː](悪事を働いてひどく懲らしめられている)。

˞アーシッ˞クナー [˞ʔaːʃik˞kunaː] 【名】喧嘩をさせあうこと。「あわせくらべ」の義。トゥ˞ル　アーシッ˞クナー　˞スン [tu˞ru ʔaːʃik˞kunaː ˞suŋ](闘鶏をする)。シ˞ダミ˞ヌ　˞グル　アーシッ˞クナー　˞スン [ʃi˞dami˞nu gu˞ru ʔaːʃik˞kunaː ˞suŋ](蝸牛殻の尻の潰し合いをする子供の遊び)。

˞アーシパウ˞ル [˞ʔaːʃipau˞ru] 【名】袷羽織。˞アーシハウ˞リ [˞ʔaːʃihau˞ri] ともいう。羽織は、ごく限られた家にあるだけで、一般の家庭にはなかった。˞タッ˞テナール　˞アーシパウ˞ロー　ア˞ロール˞ワ [˞tat˞tenaːru ˞ʔaːʃipau˞roː ʔa˞roːru˞wa](誰の家に < どこの家に > 袷羽織はございますか < あられるのですか >)。ク˞レー　ター　アーシパウ˞ルヤ [ku˞reː taː ʔaːʃipau˞ruja](これは誰の袷羽織か)。

˞アーシ˞フチ [˞ʔaːʃi˞ɸu̥tʃi] 【名】合わせ目。二つ、またはそれ以上のものを接着するところ。「合わせ口」の義。˞アーシ˞ミー [˞ʔaːʃi˞miː](合わせ目) ともいう。˞アーシフチ˞ヌ　ガッ˞ツリ　アー˞ン˞ベーティ˞ル　ミ˞ジェー˞　ム˞リ˞ル [˞ʔaːʃiɸu̥tʃi˞nu gat˞tsuri ʔaː˞m˞beːti˞ru mi˞dʒeː˞ mu˞ri˞ru](合わせ目がぴったりと合っていないから < ぞ > 水は漏れるのだ)。

˞アーシ˞ムヌ [˞ʔaːʃi˞munu] 【名】酢の漬物、酢漬け。野菜や魚などを塩や味噌で混ぜる。「調和、塩安不 < しほあふ >」『新撰字鏡』に「もの」がついて形成されたものか。˞ダイクニ˞ヌ　˞アーシ˞ムヌ [˞

daikuni˞nu ˞ʔaːʃi˞munu](大根の酢漬け)。

˞アー˞シラ **[˞ʔaː˞ʃira]** 【名】粟を刈り取って、保存のため穂がついたまま稲叢のように積み上げもの。˞アー˞シラシ˞ミ˞ シケー [˞ʔaː˞ʃira ʃi˞mi˞ ʃi̥keː](粟のシラ＜稲叢＞を積んで＜置いて＞ある)。シ˞ラ参照。

˞アースク˞ブ **[˞ʔaːsuku˞bu]** 【名】粟殻。「あわすくも」の義。「粟・すくも (葦、茅の枯れたもの)」の転訛したもの。˞アー ッサイ ˞ソー˞キナ イ˞リティ ソーキ˞バ ˞アウ˞リティル ˞アースク˞ブ トゥ˞バソー˞タ [˞ʔaː ssai ˞soː˞kina ʔi˞riti soːki˞ba ˞ʔau˞ritiru ˞ʔaːsuku˞bu tu˞basoːt˞ta](粟を精げ、ソーキに入れてソーキを煽って粟殻を飛ばされた)。

˞アースクリ˞ジマ **[˞ʔaːsu̥kuri˞dʒima]** 【名】粟を生産する島。水田がなく、米作の出来ない粟作の島。˞アー˞ジマ [˞ʔaː˞dʒima](粟島) ともいう。タ˞キ˞ドゥン フ˞シ˞マーヤ ˞アースクリ˞ジマティ ア˞ザリ アー˞バ ム˞トゥ˞バシー ス˞ク˞ロール [tḁ˞ki˞duŋ ɸu̥˞ʃi˞maːja ˞ʔaːsu̥kuri˞dʒimati ʔa˞ʤari ʔaː˞ba mu˞tu ˞baʃiː su̥˞ku˞roːru](竹富、黒島は粟作り島といわれ、粟を中心に耕作しておられる)。

˞アースン **[˞ʔaːsuŋ]** 【他動】 1木を揺すって実を落とす。「～置きて枯らしみ安由流＜アユル＞實波～。万、4111」の他動詞化したもの。「Aye,uru,eta(アユル)、シモの地方では、果実、穀粒、麦などが自然に落ちたり、汗血などがしたたり落ちる」『邦訳日葡辞書』の他動詞化したもの。フ˞ナ˞ブ ˞アースン [ɸu˞na˞bu ˞ʔaːsuŋ](九年母＜蜜柑、シークヮーサー＞の実を揺すって落とす)。˞ゴーナキ˞ヌナロー マ˞ダ ウーマン˞バ ˞アーサラヌ [˞goːnaki˞nunaroː ma˞da ʔuːmam˞ba ˞ʔaːsaranu](桑の実はまだ熟れないから揺すって落とすことが出来ない)。フ˞ナ˞ブ ˞アーシ˞ミサン [ɸu˞na˞bu ˞ʔaːʃi˞misaŋ](蜜柑の木を揺すって蜜柑を落としてよい)。˞アース˞ クトー ナ˞ラ˞ヌ [˞ʔaːsu˞ ku̥toː na˞ra˞nu](揺すって落とすことは、してはならない)。˞アーシェー˞ ミサムヌ [˞ʔaːʃeː˞ misamunu](揺すって落とせばいいのに)。˞アーシ˞バ [˞ʔaːʃi˞ba](揺すって落とせよ)。˞ゴーナキー˞ヌ ˞ナル ˞アースン [˞goːnakiː˞nu ˞naru ˞ʔaːsuŋ](桑の実をゆすって落とす)。˞アーサヌ [˞ʔaːsanu](落とさない)。˞アーシ˞プサン [˞ʔaːʃi˞ pu̥saŋ](落としたい)。˞アース˞ プ˞ソー˞ ブ˞ラーヌ [˞ʔaːsu˞ pu̥˞soː˞ bu˞raːnu](落とす人はいない)。˞アーシェー˞ ミサムヌ [˞ʔaːʃeː˞ misamunu](落とせば良いのに)。˞キー˞ヌ ˞ナル ˞アーシ [˞kiː˞nu ˞naru ˞ʔaːʃi](木の実を落とせ)。2乳を出す＜流す＞。˞シー ˞アーシ˞バ [˞ʃiː ˞ʔaːʃi˞ba](お乳を搾って出しなさい)。

˞アースン **[˞ʔaːsuŋ]** 【他動】出来物や腫れ物の化膿したものを潰して膿を出す。ア˞シ˞ブ ˞アースン [ʔa˞ʃi˞bu ˞ʔaːsuŋ](できものを潰して膿を出す)。ク˞ヌ アシ˞ボー マ˞ナ˞マー ˞アーサラヌ [ku˞nu ʔaʃi˞boː ma˞na˞maː ˞ʔaːsaranu](この出来物は、今は潰されない)。˞アーシ˞ ミサカー ˞アース˞クトー ˞ナルン [˞ʔaːʃi˞ misakaː ˞ʔaːsu˞ ku̥toː ˞naruŋ](腫れ物を潰してよければ、潰すことはできる)。˞アーシェー˞ ミサムヌ [˞ʔaːʃeː˞ misamunu](腫れ物を潰せばいいのに)。˞パー˞ク アーシ [˞paː˞ku ˞ʔaːʃi](早く潰せ)。

˞アースン **[˞ʔaːsuŋ]** 【他動】乳を搾り出す (搾乳する)。˞シー˞バ ˞アーシティ˞ ッ˞ふァン シーッふァー˞スンティ ˞ベー˞ヌンドゥ ˞シー˞ヤ ˞アーサラヌ [˞ʃiː˞ba ˞ʔaːʃi̥ti˞ f˞faŋ ʃiː ffaː˞sunti ˞beː˞nundu ˞ʃiː˞ja ˞ʔaːsaranu](母乳を絞り出して子どもに乳を与えようとするが、乳が絞り出せない)。˞シー ˞アーシ˞ ミサンカヤー [˞ʃiː ˞ʔaːʃi˞ misaŋkajaː](搾乳してよいかねえ)。˞シー ˞アース˞ クトー ス˞ナ [˞ʃiː ˞ʔaːsu˞ ku̥toː su˞na](搾乳することはするな)。˞シー ˞アーシェー˞ ミサムヌ [˞ʃiː ˞ʔaːʃeː˞ misamunu](搾乳すればいいのに)。˞シー ˞アーシ [˞ʃiː ˞ʔaːʃi](搾乳しなさい)。

˞アースン **[˞ʔaːsuŋ]** 【他動】脱穀する。˞マイ アースン [˞mai ʔaːsuŋ](稲を脱穀する)。˞キュー˞ヤ オシキヌ カイ˞ヤンダ ˞マイ アーサバル˞ ナル [˞kjuː˞ja ˞ʔoʃikinu kai˞janda ˞mai ʔaːsabaru˞ naru](今日は天気がよいから稲の脱穀をしないといけない)。˞アーシ˞ ミサカー ˞キューズーナ ˞アース˞クトー ˞ナルン [˞ʔaːʃi˞ misakaː ˞kjuːʤuːna ˞ʔaːsu˞ ku̥toː ˞naruŋ](脱穀してよければ、今日中に脱穀することは出来る)。˞キュー˞ヤ ˞アーサラヌ [˞kjuː˞ja ˞ʔaːsaranu](今日は脱穀できない)。˞パー˞ク ˞アーシェー˞ ミサムヌ [˞paː˞ku ˞ʔaːʃeː˞ misamunu](早く脱穀すればいいのに)。ヤー˞ディン アーシ˞ダー [jaː˞diŋ ʔaːʃi˞daː](必ず＜きっと＞脱穀しなさいよ)。

˞アー˞スン **[˞ʔaː˞suŋ]** 【他動】1合わせる。くっつける。一つにする。照合する。「～風に不令遇＜アハセズ＞～。万、1021」、沖縄古語「あはす」[オ・古・琉・組・混]。˞ワー ジン˞トゥ バー ジン ˞アー˞スカー ˞ギュー˞サ ナ˞ル˞ワ [˞waː ʤin˞tu baː ʤiŋ ˞ʔaː˞su̥kaː ˞gjuːsa na˞ru˞wa](君の金と私の金を合わ

せるといくらになるか)。˞アー˞スンティ　˞ウムーカ　˞アー˞ス　˞クトー　ナ˞ルン˞ドゥ　˞アーサン˞ツォー [˞ʔaː˞sunti ˞ʔumuːka ˞ʔaː˞su ˞kuto: na˞run˞du ˞ʔaːsan˞tsoː](合わせようと思えば合わせることは出来るが、合わさないそうだ)。˞アー˞シェー　˞ミサムヌ [˞ʔaː˞ʃeː ˞misamunu](合わせれば良いのに)。˞アー˞シバ [˞ʔaː˞ʃiba](合わせなさいよ)。2喧嘩させる。戦わせる。トゥ˞ル　アー˞シティ　ア˞サビ　ベー [tu˞ru ʔaː˞ʃi̥ti ʔa˞sabi beː](鶏を喧嘩させて < 鶏闘させて > 遊んでいる)。3捏ね合わせる。混合させる。ム˞チ　アー˞スン [mu˞tʃi ʔaːsu˞ŋ](餅 < 漆喰 > を捏ね合わせる)。4和える。酢や味噌で和える。ナ˞マ˞シェー　フ˞ナブ˞ヌ　シ˞ル˞トゥ　˞ミース˞トゥシ　˞アー˞スカー　ン˞マー˞ン [na˞ma˞ʃeː ɸu˞nabu˞nu ʃi˞ru˞tu ˞miːsu˞tuʃi ˞ʔaː˞su̥ka: ʔm˞maː˞ŋ](刺身は九年母の汁と味噌で和えると美味しい)。

˞アー˞スン [˞ʔaː˞suŋ] 【他動】和える。混ぜ合わせる。フ˞ナ˞ブシ　˞シー　ス˞クリティ　˞ミース˞トゥ　˞アー˞シティ　ナ˞マ˞シ　ッ˞ふァイ˞バ [ɸu˞na˞buʃi ˞ʃiː su̥˞ku˞riti ˞miːsu˞tu ˞ʔaː˞ʃi̥ti na˞ma˞ʃi f˞fai˞ba](蜜柑 < ヒラミレモン > の汁で酢を作って味噌と和えて刺身を食べなさい)。˞ミース˞トゥ　˞アー˞スン [˞miːsu˞tu ˞ʔaː˞suŋ](味噌と和える)。˞アーサ˞ヌ [˞ʔaːsa˞nu](和えない)。˞アー˞ス　˞ムノー　˞ナー˞ヌ [˞ʔaː˞su ˞muno: ˞naː˞nu](和える物はない)。˞シー˞トゥ　˞アー˞シェー　˞ミサムヌ [˞ʃiː˞tu ˞ʔaː˞ʃeː ˞misamunu](酢と和えればいいのに)。˞ミース˞トゥ　˞アー˞シ [˞miːsu˞tu ˞ʔaː˞ʃi](味噌と和えよ)。

˞アー˞ダニ [˞ʔaː˞dani] 【名】粟の種子。˞エン˞ヌ　˞アー˞ダネー　˞トゥリ　˞シケーンカヤー [˞jen˞nu ˞ʔaː˞dane: ˞turi ˞ʃi̥keːŋkajaː](来年の粟の種子 < 来年蒔く粟の種子 > は取っておいてあるだろうかなあ)。

アーダ˞リー [ʔaːda˞riː] 【感】まあ汚い。ああ嫌だ。ああつまらない。アーダ˞リー˞　ヌーヤ　ウ˞レー [ʔaːda˞riː˞ nuːja ʔu˞reː](まあ汚い。何だこれは)。

˞アー˞ッスン [˞ʔaː˞ssuŋ] 【名】粟包み。脱穀した粟を袋に入れて包装したもの。˞アー˞ッスン　˞ピー˞ク [˞ʔaː˞ssum ˞piː˞ku](粟包みを手に提げて持ってきなさい)。

˞アー˞ツベー [˞ʔaː˞tsubeː] 【名】泡。粟粒。˞アー˞ツメー [˞ʔaː˞tsumeː](粟粒) ともいう。ミ˞チ˞スー　˞ナルカー　ス˞ナカ˞ナー　˞アー˞ツベーヌ　ウ˞ケールン [mi˞tʃiˀsu: ˞naruka: su˞naka˞naː ˞ʔaː˞tsubeːnu ʔu˞keːruŋ](満ち潮になると海には泡が浮かぶ < 浮く >)。

˞アー˞ツメー [˞ʔaː˞tsumeː] 【名】泡。泡粒。˞アー˞ツベー [˞ʔaː˞tsubeː](泡粒) ともいう。˞アッツァサーリウ˞シ˞　シゥ˞カウタール˞　ウ˞シェー　アーフキティ˞　フ˞チヌマール˞ナー　˞アー˞ツメー　˞フキ　˞ゴー˞ダー　˞シーベー [˞ʔattsasaːri ʔu˞ʃiˀ si̥˞kautaːru ˞ʔu˞ʃeː ʔaːɸukiti˞ ɸu̥˞tʃinumaːru˞naː ˞ʔaː˞tsumeː ˞ɸu̥ki ˞goː˞daː ˞ʃiːbeː](暑い最中に牛をこき使ったので、牛は泡を吹いて口の周りにいっぱい泡をつけている < 泡だらけになっている >)。

˞アーティン˞ポー [˞ʔaːtim˞poː] 【名】あわて者 (慌て者)。そそっかしい人。粗忽もの。落ち着きが無く、物事を急ぎすぎて失敗しやすい人。˞アーティンポー˞ヤ　ノー˞ン　シミリバン˞　ヤ˞ブリ˞ル　シ˞ティル [˞ʔaːtimpoː˞ja noː˞ŋ ʃimiribaŋ˞ ja˞buri˞ru ʃi̥˞tiru](粗忽者は何事をさせても失敗する < 壊して、やぶってしまう >)。

˞アートートゥ [˞ʔaːtoːtu] 【感】あな尊と。ああ尊と。˞アー [˞ʔaː](ああ) は、「阿那於茂志呂 < あなおもしろ >、古語事之甚切、皆阿那 < あな > といふ」『古語拾遺』の転訛か。˞トートゥ [˞toːtu](尊い。畏敬すべきである。有り難い) の義。˞アー˞トートゥ　˞ウー˞トートゥ [˞ʔaː˞toːtu ˞ʔuː˞totu] のように重ねて用いられる。˞ウー˞トートゥ [˞ʔuː˞toːtu] も同じ意味。˞アー˞トートゥ　˞ウー˞トートゥ　˞カンヌ˞マイ　ウ˞ヤプス˞ヌマイ　シカイ˞トゥ˞　ニ˞ガイ˞シキ˞オーサバ˞　ウ˞キ˞シキ　タ˞ボー˞ローリ [˞ʔaː˞toːtu ˞ʔuː˞toːtu ˞kannu˞mai ʔu˞japusu˞numai ʃi̥kai˞tu ˞ni˞gai˞ʃi̥ki ˞ʔoːsaba˞ ʔu˞ki˞ʃi̥ki ta˞boː˞roːri](あな尊と、神様ご先祖様、しかと祈り上げ願いあげますので、お聞き届け受つけ賜りますようにお願い致します)。

˞アー˞ニヤー [˞ʔaː˞nijaː] 【名】固有名詞。花城英行氏宅の名称。屋敷名。˞アー˞ニヤーテー [˞ʔaː˞nijaːteː](アーニヤー氏の家)。本来は、˞アンヌ˞ヤー [˞ʔannu˞jaː](分家した東の家) の意味であったのが、˞花城家本家から分家した東の家」を確立した人名に変化したものであろう。˞アー˞ニヤーテーヤ　パ˞ナシケー˞ラヌ　˞ヤーバカ˞リティバン　˞ナー [˞ʔaː˞nijaːteːja pa˞naʃi̥keː˞ranu ˞jaːbaka˞ritiban ˞naː](アーニヤーという家は花城家からの分家 < ということ > らしいいねえ)。

˞アーヌ˞イー [˞ʔaːnu˞ʔiː] 【名】粟飯。˞アーヌ˞イーン　ン˞マー˞ンドゥ　˞マイヌイー˞ヤ　ウ˞レー˞ラン　˞マービン˞ドゥ　ン˞マー˞ティ　˞ムカーヤ [˞ʔanu˞ ʔiːm ʔm˞maː˞ndu ˞mainuʔiː˞ja ʔu˞reː˞ram ˞maːbin˞du

ʔmˈmaːˈti ˈmukaːja](粟飯も美味いが、米の飯はそれよりも更に＜ぞ＞美味しいというものだよ)。普段は粳 (うるち) 粟と芋の飯を炊き、祝祭日には糯 (もち) 粟と米の飯を炊いたりした。サˈクˈマイナ　ムˈチアーˈ　イˈリティ　アーヌˈイーバˈカスˈカー　ムˈチミーンˈ　ンジティ　ンˈマーˈタン [sḁˈkuˈmaina muˈʧiʔaːˈ ʔiˈriti ʔaːnuˈʔiː baˈkasuˈkaː muˈʧimiːnˈ ʔnʤiti ʔmˈmaːˈtaŋ](粳米に糯粟を入れて粟飯を炊くと粘り気が出て美味しかった)。

ˈアーˈヌ　イˈバˈチ [ˈʔaːˈnu ʔiˈbaˈʧi] 【連】糯粟で作ったイˈバˈチ [ʔiˈbaˈʧi](飯初)。粟の新穀を煮て円錐形に握ったもの。ˈアーˈヌ　イˈバˈチ　トゥˈクニˈナ　マˈチオーシ [ʔaːˈnu ʔiˈbaˈʧi tuˈkuniˈna maˈʧiʔoːʃi](粟の飯初を仏壇にお供えしなさい)。

ˈアーˈヌ　ˈカイ [ˈʔaːˈnu ˈkai] 【連】粟粥。粟のお粥。ˈアーˈヌ　ˈカイˈ　タˈキˈ　ッˈふァーサㅏナー [ˈʔaːˈnu ˈkaiˈ tḁˈkiˈ fˈfaːsaㅏnaː](粟の粥を炊いてあげよう＜食べさせよう＞ね)。

ˈアーˈヌ　ˈシジ [ˈʔaːˈnu ˈʃiʤi] 【連】粟の粒。粟粒。ˈアーˈヌ　シˈジˈヌ　ˈポッツァーリ　ベー [ˈʔaːˈnu ʃiˈʤiˈnu ˈpottsaːri beː](粟粒が散らばって＜散乱して＞いる)。

ˈアーˈヌ　ˈパンˈビン [ˈʔaːˈnu ˈpamˈbiŋ] 【連】粟の粉で作った芯のないてんぷら。「半片」の義か。ˈアーˈヌ　ˈパンビンˈマー　ンˈマーˈタン [ˈʔaːˈnu ˈpambimˈmaː ʔmˈmaːˈtaŋ](粟粉のてんぷら＜はんぺん＞はおいしかった)。

ˈアーˈヌ　ピˈサシˈイー [ˈʔaːˈnu pi̥ˈsaʃiˈʔiː] 【連】粟と米のこわいい (強飯)。米に粟を混ぜて炊き上げた御飯。ˈアーˈヌ　ピˈサシˈイーン　ンˈマーˈタン [ˈʔaːˈnu pi̥ˈsaʃiˈʔiːm ʔmˈmaːˈtaŋ](米と粟のこわいい＜強飯＞も美味しかった)。

ˈアーˈヌ　ˈプー [ˈʔaːˈnu ˈpuː] 【連】粟の穂。粟穂。沖縄古語「あわほ」[琉]。ˈアーˈヌ　ˈプーˈヤ　キンˈキンˈシ　ˈミーリティˈ　ダˈリッサーˈリ　ˈベー [ˈʔaːˈnu ˈpuːˈja kiŋˈkiŋˈʃi ˈmiːritiˈ daˈrissaːˈri ˈbeː](粟の穂は黄色く熟して＜稔って＞、垂れ下がっているよ)。

ˈアーヌミーˈス [ˈʔaːnumiːˈsu] 【名】粟味噌。ˈアーヌミーˈソーラン　ˈマイヌミースˈル　ンˈマーˈタ [ˈʔaːnumiːˈsoːram ˈmainumiːsuˈru ʔmˈmaːˈta](粟味噌よりも米味噌の方が美味しかった)。

ˈアーヌˈムチ [ˈʔaːnuˈmuʧi] 【名】粟餅。粟を碾いて粉にし、それを練って成形し、蒸籠で蒸して造った餅。鳩間島ではめったに作らなかった。ˈアーヌˈムチス　ˈクˈル　プˈスン　オーッˈタン [ˈʔaːnuˈmuʧi su̥ˈkuˈru pu̥ˈsuŋ ʔoːtˈtaŋ](粟餅を作る人もおられた)。

ˈアーˈヌン [ˈʔaːˈnuŋ] 【名】 (動) 南京虫。ムˈカˈシェー　タˈタミヌˈピルナーン　ˈキンˈヌ　ˈヌイˈミーナーン　ˈアーヌンˈマー　シˈディˈシタ [muˈkaˈʃeː tḁˈtaminuˈpirunaːŋ ˈkinˈnu ˈnuiˈmiːnaːŋ ˈʔaːnumˈmaː ʃiˈdiˈʃi̥ta](昔は畳の縁にも着物の縫い目にも南京虫は湧いた＜孵化した＞ものだよ)。

ˈアーˈネー [ˈʔaːˈneː] 【名】東隣の家。ˈバンˈテヌ　ˈアーˈネーヤ　アˈザテー　イーˈネーヤ　トゥˈムシェー　ヤッタ [ˈbanˈtenu ˈʔaːˈneːja ʔaˈʤateː ʔiːˈneːja tˈumuʃeː jatta](我が家の東隣は東里家、西隣は宮良家＜友寄家＞であった)。

ˈアーˈパ [ˈʔaːˈpa] 【名】老婆。待遇価値の落ちた、卑しめた表現。相手を多少見下した言い方。卑語に近い。ヤˈナアーパ [jaˈnaʔaːpa](いやな老婆、悪老婆)、ウˈヌ　アーˈパー　プˈスヌˈ　クーカー　イˈシマコーバ　シーˈ　ヤˈリフン　シーソーˈル [ʔuˈnu ʔaːˈpaː puˈsunuˈ kuːkaː ʔiˈʃimakoːba ʃiːˈ jaˈriɸuŋ ʃiːsoːˈru](その老婆は人が来ると石を投げたり、怒鳴りつけたりされる)。

ˈアーˈパ [ˈʔaːˈpa] 【名】ˈプーザン [ˈpuːʤaŋ](帆桁) の最下段の桟の約四分の一上手に付けてある縄。サバニの帆桟やプーシンの帆桁を帆柱にしっかり結わえておくのに用いる縄。ˈプーˈ　ピˈクˈカー　ˈアーˈパ　ギッˈティˈ　フˈバリ [ˈpuːˈ pi̥ˈkuˈkaː ˈʔaːˈpa gitˈtiˈ ɸuˈbari](帆を上げ＜引い＞たら、アーパ縄を帆柱にぎゅっと縛れ)。

アーˈパーˈマ [ʔaːˈpaːˈma] 【名】老婆。お婆さん。-マ [-ma] は指小辞。親愛の情を示す。親しみをこめた表現。ˈウンˈネーナ　アーˈパーマˈヌ　ˈオーˈルン [ˈʔunˈneːna ʔaːˈpaːmaˈnu ˈʔoːˈruŋ](その家にお婆さんがおられる)。ˈカンˈネナー　ˈコーˈグマガリ　アーˈパーマˈヌ　ˈオーッˈタン [ˈkanˈnenaː ˈkoːˈgumagari ʔaːˈpaːmaˈnu ˈʔotˈtaŋ](あの家には腰の曲がった老婆がおられた)。

ˈアーパーレー [ˈʔaːpaːreː] 【名】新室寿ぎ歌。正式の名称は、ˈヤーˈヌ　ˈフンシキˈ　アーパーレー [ˈjaːˈnu ˈɸunʃi̥kiˈ ʔaːpaːreː](新室の風水＜基礎固め・鎮め＞歌アーパーレー) という。歌は前半のナˈガミˈク [naˈgamiˈku](長め句) と後半のハˈヤミˈク [haˈjamiˈku](早め句) からなる。ナˈガミˈクでは新室の構造体を美辞麗句で歌い上げ (室誉めし)、後半のハヤミクでは新室の中の奇怪な形相の動物等を客観的に表現して「魔除け」とし、へんばい (反閇) し

て山の神、海の神、野の神々を鎮めて歌い終わる歌形構造を有する。新築の屋根が葺き上がる日没時になると、建築作業に従事した全員が作業着のまま新室の中に入って座り、儀式に参加した。先ず全員でアーパーレーの歌を歌う。鐘と銅鑼、太鼓に合わせて歌い終わる。そして村の道化役者をもって任ずる二人が出て家主の夫婦に扮し、新室が完成するまでの苦労話を面白おかしく語った後、抱いていた˹ユイプス [˹juipusu](藁人形) を家の中柱に結わえた後、˹ワンヌン　ビー˥ティ　˹バンヌン　ビー˥ティ　シッ˹トウイシットウイ (貴方も酔って、私も酔って、あな尊や) と叫んで神酒を棟桁に投げかけて終わる儀式。

˥アーパーレー [˥ʔaːpaːreː] 【名】新築家屋の室褒め儀礼。新築落成の夜、˹ユイプスガナシ [˹juipu̥sug-anaʃi](新築家屋の守護神、茅で作った人形) を迎え、アーパーレー歌謡を歌いながら祓い清める儀式。新室の当主とその妻に扮した男二人が新築に至るまでの苦労を話し、村人の協力に感謝の辞を述べ、神々へ新室守護の祈願をしたのち、参加者全員でアーパーレーを歌い、両足で強く床板や土間を踏み鳴らし、反閉 (へんばい) をして邪気を祓う。˹アー˥ザー　˹ヤー˥バ　ス˹ク˥ローッタ　˥ピンヌ　˥アーパレーヤ　ミリ˹ミッ˥タン [˹ʔaː˥ʤaː ˹jaː˥ba su̥˹ku˥roːtta ˥pinnu ˥ʔaːpaːreːja miri˹mit˥taŋ](兄さんが家を作られた時のアーパーレーは見たことがある < 見てみた >)。

˥アーパーレーウタ [˥ʔaːpaːreːʔuta] 【名】新室寿ぎの歌。新築家屋の邪気祓えの歌。ナ˹ガミ˥ク (長め声、第 1 連から第 9 連まで) とハ˹ヤミ˥ク (早め声、第 10 連から第 37 連まで) の二部構成になっている。アーパーレー (ナガミク)**(1)** シルウチヌ　メーヌウチニ　ヤーバスクリ　アンティス　ウリユー　ミユナーキャームイ **(2)** シルウチヌ　メーヌウチニ　ヤーバスクリ　アンティス　ウリユー　ミユナーキャームイ **(3)** スブチダマ　イシジバシ　ヤーバスクリ　アンティス　ウリユー　ミユナーキャームイ **(4)** カクガニバ　パラーバシー　ヤーバスクリ　アンティス　ウリユー　ミユナーキャームイ **(5)** バンゾンガニバ　ヌキギバシー　ヤーバスクリ　アンティスー　ウリユー　ミユナーキャームイ **(6)** クルキカニバ　キタバシー　ヤーバスクリ　アンティスー　ウリユー　ミユナーキャームイ **(7)** ナンチャクガニ　ウダティシー　ヤーバスクリ　アンティスー　ウリユー　ミユナーキャームイ **(8)** カクガニバ　ミニバシー　ヤーバスクリ　アンティスー　ウリユー　ミユナーキャームイ **(9)** ヤーカラダキバ　キチバシー　ヤーバスクリ　アンティスー　ウリユー　ミユナーキャームイ　(ハヤミク)**(10)** ヤー　タマシダル　ユチルバシー　ヤーバスクリアンティスー **(11)** ヤー　トゥルパニバ　ガヤーバシー　ヤーバスクリ　アンティスー **(12)** ヤースルガニバ　ティブクシー　ヤーバスクリ　アンティスー　**(13)** ヤー　イツピピルバ　シミナーシー　ヤーバスクリ　アンティスー　**(14)** ヤーダディクダキバ　アムヌバシー　ヤーバスクリ　アンティスー　**(15)** ヤー　ナンツァヨージバ　マーリザシー　ヤーバスクリ　アンティスー　**(16)** ヤー　クンピピルバ　カキナーシー　ヤーバスクリ　アンティスー　**(17)** ヤー　クヌヤーヌ　ウチナカー　テイダヌカタ　アンティスー **(18)** ヤーティダヌカタミリバ　ティリユーナードゥシーユール　**(19)** ヤー　クヌヤーヌ　ウチナカー　シキヌカタ　アンティス　**(20)** ヤー　シキヌカタミリバ　ガリユーナードゥシーユール　**(21)** ヤー　クヌヤーヌ　ウチナカー　ピトゥヌカタアンティス　**(22)** ヤー　ピトゥヌカタミリバ　バガウヤードゥシーユール　**(23)** ヤー　クヌヤーヌ　ウチナカー　ンーマヌカタ　アンティス　**(24)** ヤー　ンーマヌカタミリバ　キリユーナードゥ　シーユール　**(25)** ヤー　クヌヤーヌウチナカー　ウシヌカタ　アンティス　**(26)** ヤー　ウシヌカタミリバ　シキユーナードゥシーユール　**(27)** ヤー　クヌヤーヌウチナカー　インヌカタ　アンティス　**(28)** ヤー　インヌカタミリバ　フイユナードゥシーユール　**(29)** ヤー　クヌヤーヌウチナカー　マヤヌカタ　アンテイス　**(30)** ヤー　マヤヌカタミリバ　ガジユーナードゥシーユール　**(31)** ウクダカエンヤー　カニブーヤーヌ　サイヤリ　**(32)** ウクダカエンヤー　ニヌブーヤーヌ　サイヤリ　**(33)** アーパレー　キユーヌピーバ　ムトゥバシ　**(34)** アーパーレー　クガニピーバ　ニシキシ　**(35)** アーパーレー　イシカマーシ　イワイス　**(36)** アーパーレー　ナンカマーシ　イワイス　**(37)** アーパーレー　トゥズミヌ　カイサヤ。

˹アー˥ビ [˹ʔaː˥bi] 【名】　(動) 貝の名。あわび。ミミガイ科の巻貝の一種。和名、イボアナゴウ。殻長 5〜7 センチ。殻の表面にイボまたはコブ状の突起ができる。穴が数個あり、イノーの浅い岩礁に生息する。煮たり, 茹でたりして食する。˹アー˥ベー　ユ

ディティ　シ˞タ˜ディ　˜シキティ　ッ˞ふー˜カーン˞マー˜ン [˞ʔaː˜beː ˜juditi ʃi˞ta˜di ˜ʃikiti f˞fuː˜kaː ʔm˞maː˜ŋ](あわびは茹でて醤油をつけて食べるとおいしい)。

˞アーピキ˜ウシ [˞ʔaːpiki˜ʔuʃi] 【名】粟碾き臼。粟を精白する石臼。イ˞ソーシ [ʔi˞soːʃi](大豆を碾く石臼) に似た形をしているが、臼に歯がない。˞アーピキウシ˜ヌ　イ˞ソーシ˜ナー　˞パー˜ヤ　タ˞ティラ˜ヌ [˞ʔaːpikiʔuʃi˜nu ʔi˞soːʃi˜naː ˞paː˜ja ta˞tira˜nu](粟碾き臼には歯は立てない)。

˞アープー˜ル [˞ʔaːpuː˜ru] 【名】粟の豊作祈願祭。粟の豊年祭。対語は˞マイプール [˞maipuːru](稲の豊年祭)。鳩間島の豊年祭は稲の豊作祈願が主で、併せて五穀の豊作祈願もなされる。フ˞シマ˜ヌ　˞プー˜ロー　˞アープールー˜バ　ム˞トゥ˜シ　˞ソー˜ルティバン [ɸu˞ʃima˜nu ˞puːro: ˞ʔaːpuːru˜ba mu˞tu˜ʃi ˞soː˜rutibaŋ](黒島の豊年祭は粟の豊年祭を中心にしてなされるとのことだ)。

˞アーフキカー˜フキ [˞ʔaːɸukikaː˜ɸu̥ki] 【副】荒い息づかいをして。激しく呼吸をして。喘ぎあえぎ。˞アーフキカー˜フキ　˞シェー˜ティ　˞ヤットゥ˜シ　˜パリ　˞クー˜タ [˞ʔaːɸu̥kikaː˜ɸu̥ki ˞ʃeː˜ti jat˞tu˜ʃi ˜pari ˞kuː˜ta](喘ぎ喘ぎしながらやっとのことで走ってきた)。

˞アーブ˜ク [˞ʔaːbu˜ku] 【名】泡 (あわ)。あぶく。気泡。豆腐を煮詰める際に沸きあがる泡。「沫蕩、此をば阿和那伎 (アワなぎ) と云ふ」『日本書紀　神代上』。サッ˞フン˜シ　キン　ア˞ラシトゥンティ　シター　アーブク˜ヌ　˞イッ˜パイ　˜ンジケーン [saɸ˞ɸuŋ˜ʃi kiŋ ʔa˞raʃi̥tuntiʃi̥taː ʔaːbuku˜nu ˞ʔip˜pai ˜ʔndʒikeːŋ](石鹸で着物を洗おうとしたら泡がたくさん出てきた)。

˞アーフクン [˞ʔaːɸukuŋ] 【自動】あえぐ (喘ぐ)。激しく呼吸する。息切れする。「泡吹く」の転訛したものか。カ˞キッツァー˜シ　˜パルカー　˞アーフクンドゥ　キュー˜ヤ　˞アーフカンシェン [kḁ˞kittsaː˜ʃi ˜paruka: ˞ʔaːɸu̥kundu kjuː˜ja ˞ʔaːɸu̥kaŋʃeŋ](駆けて走ると激しくあえぐが、今日は喘がなかった)。ヌー˞スンティ˜　アイニ　˞アーフケー˜ティ　˞アーク˜ワ [˜nuː˞sunti˜ ʔaini ˞ʔaːɸukeː˜ti ˞ʔaːku˜wa](何故そんなに喘いでいるのか)。ウ˞ビッ˜チン　˜パリティ　˞アーフクプソー˜　ブ˞ラーヌ [ʔu˞bit˜tsim ˜pariti ˞ʔaːɸu̥ku˜ pu̥˞soː˜ bu˞raːnu](これぽっち走って喘ぐ人はいない)。˞マー˜ビン　˞アーフケー˜　ミサムヌ [˞maː˜biŋ ˞ʔaːɸu̥keː˜ misamunu](もっと喘げばいいのに)。˞パー˜ク　˞アーフキ˜バ [˞paː˜ku ˞ʔaːɸu̥ki˜ba](早く喘げよ)。

˞アーミーボー˜サー [˞ʔaːmiːboː˜saː] 【名】雨宿り。ア˞タアミヌ　フータ˜ル　˞ウン˜ネーナ　˞アーミーボー˜サー　˞シーティ　クー˜タ˞ダー [ʔa˞taʔamini ɸuːta˜ru ˞ʔun˜nena ˞ʔaːmiːboː˜saː ˞ʃiːti kuː˜ta˞daː](にわか雨 < 驟雨 > が降ったので、あの家に雨宿りをして来たのだよ)。

˞アー˜ミキ [˞ʔaː˜miki] 【名】粟で造った神酒。˞アー˜ミキ　マ˞ラソー˜リ [˞ʔaː˜miki ma˞rasoː˜ri](粟の神酒を醸造なさいませ)。

˞アー˜ムチ [˞ʔaː˜mutʃi] 【名】粟餅。糯粟を石臼で挽いた粉でつくった餅。˞アー˜ムチン　ッ˞ふァイミッ˜タン [˞ʔaː˜mutʃiŋ f˞faimit˜taŋ](粟餅も食べてみたことがある)。ム˞チアーシ˜ル　˞アー˜ムチェー　ス˞ク˜ル [mu˞tʃiʔaːʃi˜ru ˞ʔaː˜mutʃeː su̥˞ku˜ru](糯粟で < ぞ > 粟餅は作る)。

˞アー˜ムル [˞ʔaː˜muru] 【名】泡盛。島酒。˞アー˜ムルン　˜ウンミサクン　マ˞ラソー˜リ˞ヨー [˞ʔaː˜muruŋ ʔummisakum ma˞rasoː˜ri˞joː](泡盛も芋神酒も醸造なされよ < 生まらせなされよ >)。一般的には、サ˞キ˜　タルン [sḁ˞ki˜ tarunŋ](酒を醸造する) というが、˞アー˜ムル (泡盛の神酒) や、˞アーミサ˜ク (粟神酒)、˜ウンミサク [˜ʔummisaku](芋神酒) は、マ˞ラスン [ma˞rasuŋ](生まれさせる) という。イ˞クサユー˜ヌ　˜アトゥ　パ˞トゥ˜マナーン　˞アー˜ムルサキ　タ˞ローッ˜タン [ʔi˞kusajuː˜nu ˜ʔatu pḁ˞tu˜manaːŋ ˞ʔaː˜murusaki ta˞roːt˜taŋ](終戦後、鳩間島にも泡盛酒を醸造された)。

˞アー　メー [˞ʔaː meː] 【感】ああ、もう。もう大変だ。始末に負えない。˞アー　メー˜　ナ˞ラ˜ヌ　ク˞ヌ˜　イトー　ア˞ザー˜リ　˜クザーリ　シ˞ティ　ユー˜ゾー　˞ナー˜ヌ [˞ʔaː meː˜ na˞ra˜nu ku˞nu˜ ʔito: ʔa˞ʤaː˜ri ˜kuʤaːri ʃi̥˞ti juː˜ʤo: ˞naː˜nu](ああ、もう、だめだ。どうにもならない。この糸は散々に縺れて養生 < 手当て > 出来ない。手がつけられない)。

˞アー˜ヤ [˞ʔaː˜ja] 【名】父。父親。親族名称。呼称。明治生まれの古老が用いる。[ʔa](吾)・[uja](親)　→　[˞ʔaː˜ja](父)、「〜よし名は告らせ父母 < オヤ > はしるとも。万、363」の転訛したものか。多くの若年層では、˜アチャー [˜ʔatʃaː](父。父親。親族名称、呼称) ともいう。これは、˞ア (吾)・ヂ「知 (父『古事記中、應神謡 49』)・ア (*a< 指小辞 >)」によって形成されたものであろう。また、˜イーヤ [˞ʔiːja](父。名称、呼称。?i:ja<uja(万、363 の転訛した

ものか)。˺ユージェヌ　˺イーヤ [˺juːʤenu ˺ʔiːja]< 松竹家のお父さん >) という家もあり、˹チャー˺チャー [˹ʧaː˺ʧaː](父。名称。˹ヨー˺カヤーヌ　˹チャー˺チャー [˹joː˺kajaːnu ˹ʧaː˺ʧaː]< 西原家のお父さん >) という家もある。˹バン˺テヌ　˹アー˺ヤー　サ˹キゾーグ [˹ban˺tenu ˹ʔaː˺jaː saˬ˹kiʤoːgu](私の父は酒上戸だ)。アー˹ヤー　ワー　マー　オール˺ワ [ʔaː˹jaː waː maː ʔoːru˺wa](お父さん、貴方は何処へいらっしゃい < 行かれ > ますか)。ク˹レー　バン˺テヌ　˹アー˺ヤ [ku˹reː ban˺tenu ˹ʔaː˺ja](これは私の家のお父さんです < 名称 >)、アー˹ヤー　キュー˺ヤ　イ˹ソー　オールン [ʔaː˹jaː kjuː˺ja ʔi˹soː ʔoːruŋ](お父さん、今日は漁にいらっしゃいますか < 呼称 >)。

˹アー˺ヤブイ [˹ʔaː˺jabui] 【名】海底地名。˹アー˺ヤ (お父さん。「吾親」の転訛したもの。寄合三戸氏) が立てられた、ブイ (航路標識。英語の buoy< 浮標 > の転訛) のある曽根の意。タ˹カビ˺ヌ　フ˹チ [taˬ˹kabi˺nu ɸuˬ˹ʧi](高干瀬の津口) を回って鳩間港へ向かう途中にある。

˹アーラ [˹ʔaːra] 【名】東。太陽の上がる方向。「上がる辺」の転訛したものか。˹アーンタ [˹ʔaːnta](東方、東の所) ともいう。˹アーラキ [˹ʔaːraki](東側、東の所) 参照。トゥ˹ロー　アーラー　ンカイ˺　トゥ˹ビパッ˺タツォー [tu˹roː ʔaːraː ʔŋkai˺ tu˹bipat˺tatsoː](鳥は東の方へ向かって飛んでいったそうだ)。ティダー　˹アーラーラ˺ル　˹ヌール [˺tidaː ˹ʔaːraːra˺ru ˹nuːru](太陽は東から < ぞ > 昇る)。

˹アーラー˺　ッ˹サー˺ケーン [˹ʔaːraː˺ s˹saː˺keːŋ] 【文】東の空は白んできた (夜が白白と明けてきた)。

˹アーラキ [˹ʔaːraki] 【名】東側。東の所。パ˹タキ˺ヌ　˹アーラキ˺ナー　˹バンスル˺ヌ　ムイ˹ベー˺ン [paˬ˹taki˺nu ˹ʔaːraki˺naː ˹bansuru˺nu mui˹beː˺ŋ](畑の東側に蕃ざくろが生えている)。

˹アーラシパク [˹ʔaːraʃipaku] 【名】蒸し器。蒸し箱。板で作った箱状の蒸篭で、二段重ねで用いる蒸し器。甑とは形が異なる。˹アーラシパコー　ベー˺ナーン　˹アッ˺タン [˹ʔaːraʃipakoː beː˺naːŋ ˹ʔat˺taŋ](蒸し箱は我が家にもあった)。

˹アーラ˺スン [˹ʔaːra˺suŋ] 【他動】配る。配分する。公平に分配する。沖縄古語「あらす (有らす)」[古・琉]。˹コー˺シェー　˹ムール˺ニ　˹ミックナー　アーラ˺シバ [˹koː˺ʃeː ˹muːru˺ni ˹mikkunaː ʔaːra˺ʃiba](菓子は皆に三個ずつ配りなさいよ)。˹アーラ˺スンティ　ウ˹ムーン˺ドゥ　˹ムール˺ネー　˹アーラサラ˺ヌ [˹ʔaːra˺sunti ʔu˹muːn˺du ˹muːru˺neː ˹ʔaːrasara˺nu](配ろうと思うが、全員には配れない)。˹ピーチ˺ナー　˹アーラ˺シ　˺ミサカー　˹アーラ˺ス　˺クトー　˺ナルン [˹piːʧi˺naː ˹ʔaːra˺ʃi ˺misakaː ˹ʔaːra˺su ˺kuˬto: ˺naruŋ](一つずつ配って良ければ配ることは出来る)。˹アーラ˺シェー　˺ミサムヌ [˹ʔaːra˺ʃeː ˺misamunu](配れば良いのに)。均等に配分する。ク˹ヌ˺　ム˹チェー　ヤーニン˺ズ　マー˹タキナー　アーラ˺シ [ku˹nu˺ mu˹ʧeː jaːnin˺ʤu maː˹takinaː ʔaːra˺ʃi](この餅は家族全員に均等に配分しなさい)。˹アーラサ˺リン [˹ʔaːrasa˺rin](均等に配分できる)。

˹アーラスン [˹ʔaːrasuŋ] 【他動】慌てさせる。騒がせる。急がせる。ウ˹リヌ˺　クーカー　プ˹ス　アーラスンダ˺　ウ˹ティシゥカ˺ヌ [ʔu˹rinu˺ kuːkaː puˬ˹su ʔaːrasunda˺ ʔu˹tisiˬkaˬ˺nu](彼が来ると人を騒がせるから、落ち着かない)。プ˹ス　アーラス˺　クトース˹ナ [puˬ˹su ʔaːrasu˺ kuˬto: su˹na](人を慌てさせることはするな)。˹アーラサンドー˺シ　シ˹グトゥ˺シ˹ミリ [˹ʔaːrasandoː˺ʃi ʃi˹gutu˺ ʃi˹miri](慌てさせないで仕事をさせなさい)。˹アーラシェー˺　ミサムヌ [˹ʔaːraʃeː˺ misamunu](慌てさせたら良いのに)。˹アーラシ˺バ [˹ʔaːraʃi˺ba](慌てさせなさいよ)。

˹アーラスン [˹ʔaːrasuŋ] 【他動】沸騰させて吹きこぼれさせる。吹きあげさせる。「上がらす」の転訛したもの。˺ドゥク　˺ピー　˹モース˺カー　˺スー　˹アーラスン˺ダー　˹アーラサン˺ヨーニ　˹ピー˺ヤ　ピ˹キ˺バ [˺duku ˺piː ˹moːsu˺kaː ˺suː ˹ʔaːrasun˺daː ˹ʔaːrasaŋ˺joːni ˹piː˺ja piˬ˹ki˺ba](あまり火を焚くとお汁を吹き零れさせるぞ。吹き零れさせないように、火を引けよ)。˹アーラシ˺　ミサカー　˹アーラス˺クトゥン　˺ナルン [˹ʔaːraʃi˺ misakaː ˹ʔaːrasu˺ kuˬtun ˺naruŋ](吹き零れさせて良ければ、吹き零れさせることもできる)。ナー˹イ　アーラシェー˺　ミサムヌ [naː˹i ʔaːraʃeː ˺misamunu](ただ放置して吹き零れさせれば良いのに)。˹マー˺ビン　˹アーラシ [˹maː˺biŋ ˹ʔaːraʃi](もっと吹き零させろ)。

˹アーラスン [˹ʔaːrasuŋ] 【他動】餅やカステラ等を蒸す。ム˹チ　アーラスン [mu˹ʧi ʔaːrasuŋ](餅を蒸す < 蒸して煮る >)。ク˹リ˺シェー　˹アーラサラヌ [ku˹riˬ˺ʃeː ˹ʔaːrasaranu](これでは蒸されない)。˹クシ˺キシェー　˹アーラシ　ヤッ˺サン [˹kuʃiˬ˺kiʃeː ˹ʔaːraʃi jas˺saŋ](甑では蒸しやすい)。˹アーラス˺プ˹ソー˺　ブ˹ラーヌ [˹ʔaːrasu˺ puˬ˹soː˺ bu˹raːnu](蒸す人はいない)。˹パー˺ク　˹アーラシェー˺　ミサムヌ [˹paː˺ku ˹ʔaːraʃeː˺ misamunu](早く蒸せば良い

のに)。ム˹チ　アーラシ˺バ [muˈtʃi ʔaːraʃi˺ba](餅を蒸しなさい)。˹ヨイ˺ヌ　ア˹ラシコーシ　アーラスンティ　キッ˺ス　˹シーベー [ˈjoi˺nu ʔaˈraʃikoːʃi ʔaːrasunti kis˺su ˈʃiːbeː](お祝いの蒸し餅 < 蒸し菓子 > を蒸し上げようとして急いでいる)。˺アブジェ　˹ソーニヨイヌヨイヌ˺　ア˹ラシコーシ　アーラスンティ　ベート ダー [ʔabudʒeː ˈsoːnijoinu˺ ʔaˈraʃikoːʃi ʔaːrasunti beːt̪daː](おじいさんの生年祝いの菓子を作ろうと < 蒸し上げよう > としているんだよ)。

˹アーラスン [ˈʔaːrasuŋ] 【他動】臼の歯をたてる。ウ˹シ˺ヌ　˺パー　˹アーラスンティ˺　ウ˹ムーン˺ドゥ　˹ヌン˺ヌ　˹ナーン˺　ベーティ　˹アーラサラヌ [ʔuˈʃi˺nu ˺paː ˈʔaːrasunti˺ ʔuˈmuːn˺du ˈnun˺nu ˈnaːm˺ beːti ˈʔaːrasaranu](臼の歯を立てようと思うが、鑿が無いので歯が立てられない)。˺ドゥーシ　˹アーラシ˺　ミサカー　˹アーラス˺　クトー　˺ナルン [ˈduːʃi ˈʔaːraʃi˺ misakaː ˈʔaːrasu˺ kṵtoː ˺naruŋ](自分で臼の歯を立てて良ければ立てることは出来る)。˺ドゥーシ　˹アーラシェー˺　ミサムヌ [˺duːʃi ˈʔaːraʃeː˺ misamunu](自分で臼の歯を立てればいいのに)。ウ˹シ˺ヌ　パー　アーラシ [ʔuˈʃi˺nu ˺paː ˈʔaːraʃi](臼の歯をたてなさい。臼の歯を鑿で削ってたてなさい)。ウ˹シ˺ヌ　˺パー　˺タトゥン [ʔuˈʃi˺nu ˺paː ˺tạtuŋ](臼の歯を立てる) ともいう。

˹アーラスン [ˈʔaːrasuŋ] 【他動】せき立てる。急がせる。慌てさせる。˹アールン [ˈʔaːruŋ](自動、急ぐ。暴れる) の他動詞。シ˹トゥム˺ティ　˹オーパ˺ヤーラ　˹ワン　アーラサリティ˺　ブ˹ガ˺リ　˹ナー˺ヌ [ʃiˈtumu˺ti ˈʔoːpa˺jaːra ˈwan ʔaːrasariti˺ buˈga˺ri ˈnaː˺nu](早朝から君にせかされて疲れてしまった)。

˹アーラッパー [ˈʔaːrappaː] 【名】動作が荒々しいこと。荒っぽい人。粗雑な人。手荒に扱う人。手荒いこと。粗略に扱う人。ウ˹レー　アーラッパー˺　ヤ˹ルンダ˺　シ˹グトゥ˺　シ˹ミルバン　ダーッ˺サー　˹シーユーサヌ [ʔuˈreː ʔaːrappaː˺ jaˈrunda˺ ʃiˈgutu˺ ʃiˈmiruban daːs˺saː ˈʃiːjuːsanu](彼 < あれ > は荒っぽい人だから、仕事をさせても立派に < 上手に > できない)。

˹アーラッパーシー [ˈʔaːrappaːʃiː] 【名】粗雑にすること。荒っぽくすること。乱暴に扱うこと。ア˹ラッパーシー　スー˺　プ˹スンマー˺　ク˹レー˺　シ˹ミララヌ [ʔaˈrappaːʃiː suː˺ pṵˈsummaː˺ kuˈreː˺ ʃiˈmiraranu](粗雑にする < 乱暴に扱う > 人には、これはさせられない)。

˹アーラ˺ニバル [ˈʔaːra˺nibaru] 【名】 (動) 魚の名。和名、マハタ。スズキ科の魚。体長 1 メートル以上に成長する。鳩間島の˹マイ˺ズニ [ˈmai˺ʤuni](前曽根) で、ノコギリダイを生餌にして、体長 70〜90 センチのアーラニバルを釣り上げることができた。˹アーラ˺ニバロー　˹マイ˺ズニナーティ　ム˹チイズヌ˺　イ˹キムヌ˺バ　˹ムン˺ダニ　˹シェー˺ティー　˹ホー˺ソーッタン [ˈʔaːra˺nibaroː ˈmai˺ʤuninaːti mu ˈtʃiʔiʤunu˺ ʔiˈkimunu˺ba ˈmun˺dani ˈʃeː˺ti ˈhoː˺soːt-taŋ](マハタの大物は、前曽根でノコギリダイを生餌にして釣り上げられたものだ)。

˹アーラバカ [ˈʔaːrabaka] 【名】 (地) 西表島北岸伊武田地区の地名。同地区のウ˹ブ˺ミジ [ʔuˈbu˺miʤi](大見謝川) の西側の˹ケーダタバ˺ル [ˈkeːdataba˺ru](ケーダ田原) とトゥ˹マダタバル [tuˈmadatabaru](トゥマダ田原) の中間にある水田地帯の名。トゥ˹マダ田原に属するが、その中の「東の˺パカ [˺pạka](ハカ < 区域 >)」の義。ニ˹シムレー [niˈʃimureː](米盛家)、ア˹マシェー [ʔaˈmaʃeː](小浜家)、イ˹ラ˺ブレー [ʔiˈra˺bureː](西原家)、ア˹ザテー [ʔaˈʤateː](東里家)、˹ヨー˺カヤー [ˈjoːka˺jaː](西原家)、ク˹メー [kuˈmeː](小浜家) 等の水田が広がっていた。

˹アーラバカミナトゥ [ˈʔaːrabakaminatu] 【名】地名。西表島伊武田地区トゥ˹マダ [tuˈmada] のアーラバカ (東区画) の小港。アーラバカ一帯の水田の˹ター˺ヌ　シ˹ビ [ˈtaː˺nu ʃiˈbi](田の排水口 < 田尻 >) が小さな港状になった舟の出入り口を形成していて、˺イダフニ [ˈʔidaɸuni](サバニ, 板舟) をそこから出入りさせて荷物の積み下ろしをしていた。ニ˹シムレーヌ˺　イダフネー　˹アーラバカミナトゥナー˺ル　フ˹バリ˺　ス˹コー˺レータ [niˈʃimureːnu˺ ʔidaɸuneː ˈʔaːrabakaminatunaː˺ru ɸuˈbari˺ sṵˈkoː˺ reːta](米盛家のサバニ < 板舟 > はアーラバカ港にもやって < 舫って > おかれた)。

˹アーラマイズニ [ˈʔaːramaiʤuni] 【名】 (海底地名)。「東前曽根」の義。鳩間島の南面約 500 メートルの海中に発達した珊瑚礁の東側に分れて発達形成された曽根。この曽根は、ナ˹カヌ˺スニ [naˈkanu˺ suni](中の曽根) へと続く。˺スニ [˺suni](曽根) とは、大潮の時にも珊瑚礁は海面に現れない所で、海底の珊瑚礁を言う。この曽根とタ˹カ˺ビー [tạˈka˺biː](高干瀬) の間に約 60 メートルのフ˹チ [ɸṵˈtʃi](津口) がある。

アーランカー [ˈʔaːraŋkaː] 【名】慌て者。粗忽者。˹

アーリムヌ [ˈʔaːrimunu](慌て者) ともいう。マーンˈベーˀマ　ウˈティˀシケーティ　アˈラキˀバ　ˀミサムヌ　ˀアイニー　ˈアーˀランカーˀ　ナリティ　ˈヌーˀスワメー [maːʔmˈbeːmaˀ ʔuˈtiˀʃi̥keːti ʔaˈrakiˀba misamunu ˀʔaini ˈʔaːraŋkaːˀ nariti ˈnuːˀsuwame](もう少し落ち着いてあるけば＜行動すれば＞よいのに、あんな慌て者になってどうするのかね)。

ˈアーリバナ **[ˈʔaːribana]** 【名】上がり始めのころ。「上がり端」の義。ティˈダˀヌ　ˈアーリバナーˀ　アガーアˈガーˀシ　スˈマリティˀ　イッˈケナ　カイˀヤン [tiˈdaˀnu ˈʔaːribanaːˀ ʔagaːʔaˈgaːˀʃi suˈmaritiˀ ʔikˈkena kaiˀjaŋ](太陽の上がり始めは真っ赤染まって非常に美しい)。

ˈアーリンーマ **[ˈʔaːrimːma]** 【名】暴れ馬。気性の荒い馬。鳩間島には馬は育たないという伝承がある。神様が馬に跨って御嶽から御嶽へと回っておられるので、それに遭遇すると馬が暴れてˈカンアタˀル [ˈkanataˀru](神当り、神罰) するという。昔から現在に至るまで鳩間島で馬が飼われたことはないという。

ˈアール **[ˈʔaːru]** 【名】(動) 蟻。アˈガアール [ʔaˈgaʔaːru](赤蟻)、ッˈふァーˀル [fˈfuʔaːˀru](黒蟻)。ッˈサーˀル [sˈsaːˀru](白蟻) 等がいる。

ˈアールカジ **[ˈʔaːrukadʒi]** 【名】東風。普通の東風はやわらかに、そよそよと吹く風である。ˈアンカジ [ˈʔaŋkadʒi](東風) ともいう。ˈアールカジヌ＜アˈンカジヌ＞　フクン [ˈʔaːrukadʒinuˀ ＜ˈʔaŋkadʒinu＞ ɸu̥kuŋ](東風が吹く)。

ˈアールティダ **[ˈʔaːrutida]** 【名】上がる太陽。ˈアーリティダ [ˈʔaːritida](上がる太陽) ともいう。ˈアールティダルˀ　ウˈガˀム [ˈʔaːrutidaruˀ ʔuˈgaˀmu](昇る太陽を拝む。神聖な太陽を拝む。転じて、勢力の大きな者に従う)。老年層には昇る太陽を神聖なものとして拝む習慣があった。ˈアールティダーˀ　フˈチˀル　ˈイールティダーˀ　ドゥク [ˈʔaːrutidaːˀ ɸu̥ˈtʃiˀru ˈʔiːrutidaːˀ duku](上がる太陽は薬、西日＜午後の太陽＞は毒)＜諺＞。ˈアールティダヌ　ペーˀルンダ　イッˈケナ　ヌッˀサン [ˈʔaːrutidanu peːˀrunda ʔiˈkkena nusˀsaŋ](東から上る太陽光線が座敷に差し込むので非常に暖かい)。

ˈアールバˀ　ユミ **[ˈʔaːrubaˀ jumi]** 【連】「蟻を数えるように」の義。転じて動作ののろい意。ˈアールバˀ　ユメーティ　アˈラカンˀドーシ　ˈダンダンˀシ　アˈラˀキパリˈツォー [ˈʔaːrubaˀ jumeːti ʔaˈrakanˀdoːʃi ˈdandaŋˀʃi ʔaˈraˀkipariˈtsoː](蟻を数えるようにのろのろ歩かないで、さっさと歩いて行きなさいよ＜行きなさいってば＞)。

ˈアールピサ **[ˈʔaːrupisa]** 【名】屋根の東側の斜面。「上がり (東) ひら」の義。ˈアンタヌピサ [ˈʔantanupi̥sa](東のひら) ともいう。ˈイールピサ [ˈʔiːrupi̥sa](西のひら)、ˈインタヌピサ [ˈʔintanupi̥sa](西のひら)。ˈマイˀピサ [ˈmaiˀpi̥sa](前のひら)、ˀマンタヌピサ [ˀmantanupi̥sa](前のひら)。ニˈシピサ [niˈʃipi̥sa](北のひら)、ニˈシンタヌピサ [niˈʃintanupi̥sa](北側のひら) 参照。

ˈアールビルティダ **[ˈʔaːrubirutida]** 【名】東の方にある太陽。午前中の太陽。「東の方に居る太陽」の義。酷暑の夏には午前十一時ごろに仕事を終え、午後は三時以降日没まで野良仕事を続けた。ˈアールビルティダヌˀ　アルンケンナー　パˈタˀキ　ˈカイˀシ　クーˈディー [ˈʔaːrubirutidanuˀ ʔaruŋkenna: pḁˈtaˀki ˈkaiˀʃi kuːˈdiː](午前の太陽のあるうちに畑を耕して来ようよ)。

ˈアールムティ **[ˈʔaːrumuti]** 【名】東の側、東側。ˈアーラムティ [ˈʔaːramuti](東側) ともいう。ˈイールムティ [ˈʔiːrumuti](西側) の対義語。ガˈバナレーヌ　アールムティナーˀル　ユˈチンˀマー　ˀアル [gaˈbanareːnu ʔaːrumutinaːˀru juˈtʃimˀmaː ʔaru](赤離れの東側にユチン (地名) はある)。

ˈアーˀルン **[ʔaːˀruŋ]** 【自動】配分されて全体に行き渡る。ムーˈルンナーˀニ　ˈアーˀルンユー　ˈピーチˀナー　ˈパイˀミリバ [muːˈrunnaːˀni ˈʔaːˀruɲuː ˈpiːtʃiˀnaː ˈpaiˀmiriba](皆に行き渡るように配分できるのかどうか、一つずつ配ってごらんよ)。ムーˈルˀネー　ˈアーラサラヌ [muːˈruˀneː ˈʔaːrasaraˀnu](皆には均等に配分出来ない)。ムーˈルˀニ　ˈアーˀル　ˀブン　ˈナーンˀカー　ナˈラˀヌ [muːˈruˀni ˈʔaːˀru ˀbun ˈnaːŋˀkaː naˈraˀnu](全員に均等に配分出来る分ないと困る)。

ˈアールン **[ˈʔaːruŋ]** 【自動】慌てる。急ぐ。騒ぐ。暴れる。ウˈヌ　パナˀシ　スˈクターˀ　キモー　ˈアーリティˀ　ムˈヌウモーラˀヌ [ʔuˈnu panaˀʃi su̥ˈkutaːˀ kimoː ˈʔaːritiˀ muˈnu ʔumoːraˀnu](その話をきいたので胸騒ぎし＜胸がどきどきし＞て、落ち着いて考えることが出来ない＜ものが思われない＞)。ウˈダラクˀタンティン　ˈアーラヌ [ʔuˈdarakuˀtantiŋ ˈʔaːranu](びっくりして＜驚いても＞も慌てない)。ウˈダラˀクカー　ターˈン　アールン [ʔuˈdaraˀkukaːtaːˈŋ ʔaːruŋ](驚いたら誰でも慌てる)。ウˈリンˀカタチニ　ˈアールˀ　プˈソーˀ　ブˈラーヌ [ʔuˈriŋˀ

kḁtatʃini ⸢ʔaːru⸣ pṵ⸢soː⸣ bu⸢raːnu](彼のように慌てる＜騒ぐ＞人はいない)。⸣アイニ　⸢アールナ [ʔaini ⸢ʔaːruna](そんなに慌てるな＜急ぐな＞)。⸣アイニ　⸢アーレー⸣ラー　ター⸢ン⸣　ム⸢ヌバシ⸣キ　⸢シース [⸣ʔaini ⸢ʔaːreː⸣raː taː⸢m⸣ mu⸢nubaʃi̥⸣ki ⸢ʃiːsu](あんなに慌てたら誰でも物忘れするよ)。

⸢**アールン [⸢ʔaːruŋ]**【自動】**1**上がる。昇る。ティ⸢ダ⸣ヌ　⸢アールン [ti⸢da⸣nu ⸢ʔaːruŋ](太陽が昇る)。⸣ティダー　マ⸢ダ　アーラヌ [⸣tidaː ma⸢da ʔaːranu](太陽はまだ昇らない)**2**蒸しあがる。ム⸢チェー　アーレーン⸣カヤー [mu⸢tʃeː ʔaːreːŋ⸣kajaː](餅は蒸しあがったかなあ)。ム⸢チヌ　アールバドゥ⸣　ナベー　ウ⸢タリル [mu⸢tʃinu ʔaːrubadu⸣ nabeː ʔu⸢tariru](餅が蒸しあがってこそ＜はじめて＞鍋は竈よりはずされる)。**3**沸騰する。⸢スー⸣ヌ　⸢アール⸣カー　⸢ミー⸣ス　イ⸢リ⸣ミサン [⸢suː⸣nu ⸢ʔaːru⸣kaː ⸢miː⸣su ʔi⸢ri⸣misaŋ](お汁が沸騰したら味噌を入れてよい)。

⸢**アールン [⸢ʔaːruŋ]**【自動】**1**荒れる。思うままにふるまう。⸢オーシケー⸣　ヤ⸢ブ⸣リ　ス⸢ナ⸣カン　⸢アーリティ⸣　フネー　ン⸢ザサラ⸣ヌ [⸢ʔoːʃi̥keː⸣ ja⸢bu⸣ri su⸢nakaŋ ⸢ʔaːriti⸣ ɸuneː ʔn⸢dʑasara⸣nu](天気は崩れ、海も荒れて船は出されない)。**2**暴れる。ク⸢ヌ⸣　ヤ⸢ラ⸣ベー　⸢アーリティ　ヨー⸣ゾー　シ⸢キララ⸣ヌ [ku⸢nu⸣ ja⸢ra⸣beː ⸢ʔaːriti joː⸣dʑoː ʃi⸢kirara⸣nu](この子供は暴れて手がつけられない)。

⸢**アールンカイ [ʔaːruŋkai]**【名】東向き。ク⸢ヌ　ヤー⸣ヤ　⸢アールンカイ　シーブー [ku⸢nu jaː⸣ja ⸢ʔaːruŋkai ʃiːbuː](この家は東向きになっている)。

⸢**アーレー [⸢ʔaːreː]**【名】あわて (慌て) 者。はしゃぎったてる者。落着きのない者。⸢アールン [⸢ʔaːruŋ](慌てる) の連用形⸢アーリ [⸢ʔaːri] に、接尾辞-ア [-a](〜者) が下接して連母音 [ia] → [eː] の音韻変化を起こしたもの。ウ⸢ヌ　ッふァー　アーレー⸣　ナリティ　ムシ⸢トゥ⸣　ウ⸢ティシゥカ⸣ヌ [ʔu⸢nu ffaː ʔaːreː⸣ nariti muʃi̥⸢tu⸣ ʔu⸢tisi̥ka⸣nu](その子は、はしゃぎまわる子になって、ちっとも落ち着かない)。ウ⸢ヌ　アーレーヤ⸣　マ⸢タ⸣　ニ⸢ム⸣チ　⸢バシキティ⸣　パリ⸢ナー⸣ヌ [ʔu⸢nu ʔaːreːja⸣ ma⸢ta⸣ ni⸢mu⸣tʃi ⸢baʃi̥kiti⸣ pari⸢naː⸣nu](あの慌て者は、また荷物を忘れて行ってしまった)。

⸢**アーレーキ [⸢ʔaːreːki]**【名】東側。⸢ヤー⸣ヌ　カ⸢クヌ　アーレーキ⸣ナ　フ⸢クンキーバ⸣　イ⸢ビス⸣コーレーン [⸢jaː⸣nu ka⸢kunu ʔaːreːki⸣na ɸṵ⸢kuŋkiːba⸣ ʔi⸢bisṵ⸣koːreːŋ](屋敷の東側に福木を植えてあられる)。

⸣**アイ [⸣ʔai] (1)**【副】そう (然う)。⸢バン⸣ヌン　⸣アイ　⸢スン [⸢ban⸣nuŋ ⸣ʔai ⸢suŋ](私もそうする)。⸣アイヤー　サ⸢ヌ [⸣ʔaijaː sa⸢nu](そうはしない)。アイ⸢スン⸣ケン　パ⸢タラカン⸣カー　ナ⸢ラヌ [ʔai⸢suŋ⸣kem pḁ⸢tarakaŋ⸣kaː na⸢ranu](それほどまでに＜そうするまで＞働かないといけないのか)。 **(2)**【感】そう。あれ! 相手の言葉に対する同意、肯定判断、感動を表す。⸣アイ　ウ⸢リル⸣　マ⸢シ [⸣ʔai ʔu⸢riru⸣ ma⸢ʃi](そうだ、それが良い)。⸣アイ　ウ⸢レー　ヌー⸣　シター [⸣ʔai ʔu⸢reː ⸢nuː⸣ ʃi̥taː](あれ! これは一体どうしたのかい)。そう。そのように。その通り。⸣アイ　⸢スーバ⸣　マ⸢シ⸣ヨー [⸣ʔai ⸢suːba⸣ ma⸢ʃi⸣joː](そうした方が良い＜増しだ＞よ)。⸣アイル　⸢スー⸣カメー [⸣ʔairu ⸢suː⸣kameː](そうしようかなあ、もう)。⸣アイ　⸢サン⸣カー　ナ⸢ラ⸣ヌ [⸣ʔai ⸢saŋ⸣kaː na⸢ra⸣nu](そうしないといけない)。相手の意見を一旦受け止め＜肯定し＞て、おもむろに話し手の意見を述べる際に言うことば。⸣アイ　ウ⸢レー　ワー⸣　アズ　⸢トゥー⸣ル　⸢バー⸣ル　⸢ワッ⸣サタ [⸣ʔai ʔu⸢reː waː⸣ ʔadʑu ⸢tuː⸣ru ⸢baː⸣ru ⸢was⸣sata](そう、それは君が言う通りだ。私が悪かった)。⸣アイ　⸢ゲ⸣ラ [⸣ʔai ⸢ge⸣ra](そうさ。そうだよ)。アイ　⸢ダー　ワー⸣　アズ　⸢トゥー⸣ル [ʔai ⸢daː waː⸣ ʔadʑu ⸢tuː⸣ru](そうだよ。君のいう通りだ)。動詞や助詞と結びついて、⸣アイニ [⸣ʔaini](そのように)、アイ⸢バー⸣キ [ʔai⸢baː⸣ki](そんなにまで)、⸣アイヤー [⸣ʔaijaː](そんなには)、⸣アイル [⸣ʔairu](そのように＜ぞ＞)、⸣アイニン [ʔainiŋ](そんなにも)、⸣アイヌ　パ⸢ナ⸣シ [⸣ʔainu pa⸢na⸣ʃi](そのようであるとのこと)、⸣アイ　⸢スン⸣ケン [⸣ʔai ⸢suŋkeŋ](そうするうちに、そうするまで) のように用いられる。

⸣**アイ [⸣ʔai]**【名】あわい (間)。あいま。あいだ。時間的、空間的あいだ (間) に用いる。⸢キュー⸣トゥ　ア⸢ツァ⸣ヌ　⸣アイナー　⸣ムティパリ [⸢kjuː⸣tu ʔa⸢tsa⸣nu ⸣ʔainaː ⸣mutipari](今日と明日の間に持って行け)。パ⸢トゥマ⸣トゥ　フ⸢ノーラ⸣ヌ　⸣アイナール　パ⸢トゥ⸣マレーヤ　⸣アル [pḁ⸢tuma⸣tu ɸu⸢noːra⸣nu ⸣ʔainaːru pḁ⸢tu⸣mareːja ⸣ʔaru](鳩間島と船浦の間に鳩離島はある)。

⸣**アイ [⸣ʔai]**【名】藍。⸢アイ⸣ヌ　⸣シル [⸢ʔai⸣nu ⸣ʃiru](藍の汁)。パ⸢トゥ⸣マナー　⸢アイ⸣ヤー　ス⸢ク⸣ローランシェン [pḁ⸢tu⸣manaː ⸢ʔai⸣jaː sṵ⸢ku⸣roːranʃeŋ](鳩間では藍は作られなかった)。⸣アイ　シゥ⸢カウン [⸣ʔai si̥⸢kauŋ](藍を使う。藍汁で糸を染める)。

⸣**アイ [⸣ʔai]**【名】喧嘩。争い。動詞⸣アウン [⸣ʔauŋ](喧

囂する) の連用形から転成した名詞形。˩アイ˥ヌ パ˩ジマレー˥ パ˩ナン˥ギラティ ア˩ザリ ブー [˩ʔai˥nu pa˩ʤimare:˥ pa˩naŋ˥girati ʔa˩ʣari bu:](喧囂の始まりは悪ふざけからだといわれている)。ン˩メーマヌ˥ クトーラル ˩アイ˥ヤ パ˩ジマルタ [ʔm˩me:manu˥ kṵto:raru ˩ʔai˥ja pa˩ʤimaruta](少しのことからが＜ぞ＞喧囂は始まった)。

˩アイ **[˩ʔai]** 【名】口蓋。上歯の歯茎から硬口蓋にかけた部分。「腭、阿岐 (あぎ)、口中上顎也」『和名抄』、「腭、アギ」『類聚名義抄』の転訛したもの。˩アイヌ˥ パギ ˥ヤミティ ˩イー˥ヤ ッ˩ふァーラヌ [˩ʔainu˥ pagi ˥jamiti ˩ʔi:˥ja ɸ˩fa:ranu](口蓋の皮膚がはがれて、痛くて飯が食べられない)。

˥アイ **[˥ʔai]** 【感】おや。まあ。あら。思いがけないことに驚いて発することば。˥アイ ˩ヌーシ˥ターク˩レー [˥ʔai ˩nu:ʃi̥˥ta: ku˩re:](おや、いったいどうしたのか。これは)。˥アイ ˥ヌンティ ナ˩クワ [˥ʔai ˥nunti na˩kuwa](あらまあ、どうして泣くの)。

˩ア˥イ **[˩ʔa˥i]** 【感】おや。まあ。あれっ。意外なとき、驚いたときに用いる語。˩ア˥イ ク˩レー ヌー˥シター [˩ʔa˥i ku˩re: nu:˥ʃi̥ta:](おや?、一体これはどうしたことだ)。

アイー˩イー **[ʔai:˩ji:]** 【感】そうか? その通りか? アイー˩イー ワール˥ カ˩リン˥ カ˩ラシター [ʔai:˩ji: wa:ru˥ ka˩riŋ˥ ka˩raʃi̥ta:](そうか?、君が彼に貸したのか?)。

アイー˩イー˥ アイル ˩ヤッター **[ʔai:˩ji:˥ ʔauru ˩jatta:]** 【連】そうか? そうだったのか。アイー˩イー˥ アイル ˩ヤッター˥ バー ノー˩ン˥ ッ˩サンシェントツォー [ʔai:˩ji:˥ ʔairu ˩jatta:˥ ba: no:˩n˥ s˩saŋʃen˧tso:](そうだったのか。私は何も知らなかったのだよ)。

˥アイアイ **[˥ʔaiʔai]** 【感】あれあれ。あれまあ。驚いた時、予想外の出来事に逢着した時に発する声。˥アイアイ ク˩レー ヌー˥シター [˥ʔaiʔai ku˩re: nu:˥ʃi̥ta:](あれまあ、これはどうしたのだ)。

アイ˩イジ˥カイイジ **[ʔai˩ʔiʤi˥kaiʔiʤi]** 【副】のらりくらり。あれこれと言い抜けるさま。「そう言い、ああ言い」の転訛したもの。˩トゥイスクバン˥ アイ˩イジ˥カイイジ ˩シー˥ イ˩ザリヌンガール シー ベー [˩tuisṵkubaŋ˥ ʔai˩ʔiʤi˥kaiʔiʤi ˩ʃi:˥ ʔi˩ʣarinuŋga:ru ʃi: be:](詰問してものらりくらりして＜そう言い、ああ言いして＞、叱責逃れしている)。

˩アイイズ **[˩ʔaiʔiʣu]** 【名】 (動) 魚の名。和名、アミアイゴ。体長約 15 センチ。背びれに毒針を有し、刺されると痛い。上げ潮の波に乗って、干瀬のヤ˩トゥ [ja˩tu](リーフの割れ目。「やと (谷)」の義か) からリーフの上に群れて上がってくるところを、石を投げて脅すと沢山のアミアイゴが珊瑚礁の岩陰や干瀬の窪みにぴたっとくっ付いて動かなくなる。そこで、干瀬を走りながら小さな銛でそれを突いて漁獲したものである。˩アイイゾー˥ フ˩ドゥブ˥カー ˩オン˥デー ˥ナルツォー [˩ʔaiʔiʣo:˥ ɸu˩dubu˥ka: ˩ʔon˥de: ˥narutso:](アミアイゴは成長するとオンデー＜はなあいご＞になるそうだ)。˩アイイズ˥ シ˩キン パッ˥タ [˩ʔaiʔiʣu˥ ʃi̥˩kim pat˥ta](アイゴを突きに行った)。

˩アイカーフン˥カー **[˩ʔaikaːɸuŋ˥kaː]** 【名】喧囂口論。˩アイカーフン˥カー ˩スン [˩ʔaikaːɸuŋ˥kaː ˩suŋ](喧囂口論をする)。˩クン˥ネーヤ ˩アイカーフンカー˥ヌ キ˩シラン˥バン [˩kun˥ne:ja ˩ʔaikaːɸuŋkaː˥nu ki̥˩ʃiram˥baŋ](この家は喧囂口論が絶えないよ)。˥ヌンティ ˩アイカーフン˥カー ˩シー ベー˥ワ [˥nunti ˩ʔaikaːɸuŋ˥kaː ˩ʃi: be:˥wa](如何して喧囂口論をしているのか)。˩ウン˥ネナー ˩アイカーフンカー˥ヌ ˥キシテー ˩ナー˥ヌ [˩ʔun˥nena: ˩ʔaikaːɸuŋkaː˥nu ˥ki̥ʃite: ˩naː˥nu](あの家では喧囂口論の絶えることがない)。˩フン˥カー [˩ɸuŋ˥kaː] は石垣方言の˩ヒ˥ンカー [˩çi˥ŋkaː](反抗、抵抗、「返歌」の義)『石垣方言辞典』の転訛したものか。

˥アイカイ **[˥ʔaikai] (1)**【名】ああこう。あれやこれや。ウ˩ヌ˥ クトー ˥アイカイ ˩シール˥ ヤッ˩トゥ˥シ タ˩ナ˥ミ シ˩ミ˥シケー [ʔu˩nu˥ kuto: ˥ʔaikai ˩ʃi:ru˥ jat˩tu˥ʃi ta˩na˥miʃike:](そのことは、あれやこれややって、やっとのことで頼んでおいてある)。 **(2)**【副】そうこう。ああこう。あんなにこんなに。˥アイカイ ˩シーミッタ˥ヌ ˩バン˥マー ナ˩ラン˥シェン [˥ʔaikai ˩ʃi:mitta˥nu ˩bam˥ma: na˩raŋ˥ʃeŋ](ああもこうもやってみたが、私には出来なかった)。˥アイカイ シ˩メーティ˥ル ヤッ˩トゥ˥シウ˩ヤ˥ヌ ˥キモートゥリ フ˩ターロー˥ マー˩ズン˥ ナシェー˩ダー [˥ʔaikai ʃi˩me:ti˥ru jat˩tu˥ʃi ʔu˩ja˥nu ˥kimo:turi ɸṵ˩ta:ro:˥ ma:˩ʣun˥ naʃe:˩da:](ああこうさせて、やっとのことで親なだめて納得を得て＜心をつかんで＞二人を一緒にさせたのだよ)。

˩アイ˥カミ **[˩ʔai˥kami]** 【名】あいかめ (藍甕)。藍を入れて醗酵させるための甕。ム˩カ˥シェー ˩アイ˥カミン ˩アッタン˥ドゥ マ˩ナ˥マー ˥ミリ ミ˩ラ˥ヌ [mu˩ka˥ʃe: ˩ʔai˥kamiŋ ˩ʔattan˥du ma˩na˥ma: ˥

miri mi˞ra˜nu](昔は藍甕もあったが、今は見たこともない < 見てみない >)。˞アイ˜カミナ　カ˞シ˜トゥ　ヌ˞キ˜　イ˞リティ˜　ス˞ミ˜バ [˞ʔai˜kamina kạ˞ʃi˜tu nu˞ki˜ ʔi˞riti˜ su˞mi˜ba](藍甕に加糸(カセイト)と貫き糸を入れて染めなさいよ)。

˞アイ˜カン [˞ʔai˜kaŋ] 【名】合鑑。あいふ (合符)。手荷物の預かり札。標準語からの借用語。運搬船で荷物を送る際に発行してもらい、石垣港や那覇港で合鑑と引き換えに荷物を受け取った。ウ˞キ˜ナーヌ　ニ˞ム˜チェー　˞アイ˜カンシ　ウ˞クルタ [ʔu˞ki˜na:nu ni˞mu˜ʧe: ˞ʔai˜kaŋʃi ʔu˞kuruta](沖縄への荷物は合鑑で送った)。

˞アイ˜ク [˞ʔai˜ku] 【名】担ぎ棒。アフゴ (杁)。「杁、和名阿布古 (あふこ)、杖名也」『和名抄』の転訛したもの。荷を担う棒。タ˞キアイク [tạ˞kiaiku](竹製の担ぎ棒)、˞キーアイ˜ク [˞ki:ai˜ku](木製の担ぎ棒)。ミ˞ジカタミアイ˜ク [mi˞ʤikatamiai˜ku](水担ぎ棒)等がある。木製のアイクは、直径約 6 センチの若木や木の枝を利用して作った。両端を尖らせて鉤状にし、紐が滑らないようにして両端に吊るして担ぐ棒。ミ˞ジタン˜ゴー　˞アイ˜クシ　カ˞タ˜ミ　パ˞ルバ˜ル　マ˞シ [mi˞ʤitaŋ˜go: ˞ʔai˜kuʃi kạ˞ta˜mi pa˞ruba˜ru ma˞ʃi](水桶 < 水担桶 > は担ぎ棒で担いで行くほうがいい)。

˜アイ˞サバン˜　カイ˞サバン [˜ʔai˞sabaŋ˜ kai˞sabaŋ] 【副】どんなにしても。いづれにしても。「ああしてもこうしても」の義。基本的には ABCDEFBCDE 型の重言。˜アイ˞サバン˜　カイ˞サバン　ノー˜リサーギ　˞スー˜カー　ミ˞サ˜ル [ʔai˞sabaŋ˜kai˞saban no:˜risa:gi ˞su:˜ka: mi˞sa˜ru](どんなにしても、直りさえすればいいよ)。

˞アイ˜ザムトゥ [˞ʔai˜ʤamutu] 【名】西村と東村の旗頭が出会う場所。小底家の東南 (巳の方角) の十字路。「会い座元」の義か。西村と東村の境界線となる縦道と沿岸道路の横道が交差した所。そこは、ピ˞ナイ˜ウガン [pi˞na˜ʔiugaŋ](鬚川御嶽) と˜サンシキ [˜saŋʃi̥ki](桟敷) を画する縦道に通ずる所でもある。友利御嶽から、朝の祈願を終えたサ˞カサ、ティ˞ジリ˜ビーの神職者たちがカンシバを頭に巻いて、道歌を歌いながら下りて来られるのを、˜サンシキで待機していたヤ˞ク˜サ [ja˞ku˜sa](村役人) や˞スー˜ダイ [˞su:˜dai](総代。部落会長) らがアイザムトゥで恭しく出迎えて、˜サンシキヌウタ [˞saŋʃi̥kinuʔuta](桟敷の歌) を歌い終える。それを合図に、アイザムトゥではドゥ˞ラーン [du˞ra:ŋ](銅鑼) が一段と強く打ち鳴らされ、東西の旗頭が合流し、東の旗頭を先頭にして˜サンシキ (桟敷) へ入場し、余興が開始される。˞パー˜レー [˞pa:˜re:](爬竜船競漕) が済んで旗頭がトゥ˞ニムトゥへ帰る際にも˞アイ˜ザムトゥで旗頭を揃え、˞アイ˜ザムトゥの歌を歌って来年の豊年豊作を予祝してそれぞれのトゥニムトゥへ帰る。

˞アイ˜ザムトゥヌ　˜ウタ [˞ʔai˜ʤamutunu ˜ʔuta] 【連】「会い座元の歌」の義。神歌の一種。西村と東村の旗頭がトゥ˞ニムトゥ [tu˞nimutu](宗家) から出てきて出会う所、またトゥ˞ニムトゥ (宗家) へと別れていく所の˞アイ˜ザムトゥ [˞ʔai˜ʤamutu](会い座元) で歌われる。˞プール˜ウタ [˞pu:ru˜ʔuta](豊年祭の歌) の項参照。

˜アイシ [˜ʔaiʃi] 【連】～の訳で。～の理由で。˞ヌー˜ヌ　˜アイシ　˜アイニ　˞クン˜ゾー　ウ˞ク˜リ　˞オー˜ルワ [˞nu:˜nu ˜ʔaiʃi ˜ʔaini ˞kun˜ʤo: ʔu˞ku˜ri ˞ʔo:ru˜wa](どういう訳であんなに怒っていらっしゃるのか)。

˞アイ˜ジ [˞ʔai˜ʤi] 【名】合図。連絡。案内。˜ミーシ　˞アイ˜ジ　˞スンドゥ˜　ムッ˞トゥ˜　ミ˞ラン˜バン [˜mi:ʃi ˞ʔai˜ʤii ˞sundu˜ mut˞tu˜ mi˞ram˜baŋ](目で合図をするのだが、ちっとも見ないよ)。˞アイジ˜ヌ　ア˞ラバ˜ル　パ˞ラリ˜ル、˞アイ˜ジェー　˞ナー˜ムヌ　˞ヌー˜シ　パ˞ラリ˜ワ [˞ʔaiʤi˜nu ʔa˞raba˜ru pa˞rari˜ru、˞ʔai˜ʤe: ˞na:˜munu ˞nu:˜ʃi pa˞rari˜wa](合図 < 案内 > があってはじめて行ける < 案内があらばこそ行かれる > のであって、案内は無いのにどうして行けようか)。

アイ˞シー˜　カイシー [ʔai˞ʃi:˜ kaiʃi:] 【連】そうこう (然う斯う) して。あれをしこれをして。あれこれと。何やかやと。「然うし斯うして」の転訛したもの。アイ˞シー˜　カイシー　˞シェー˜ティル　ヤッ˞トゥ˜シ　ス˞ダ˜ティ　ケー˞ダー [ʔai˞ʃi:˜ kaiʃi: ˞ʃe: ˜tiru: jat˞tu˜ʃi su˞da˜ti ke:˞da:](然う斯うして、やっとの事で育てあげてきたのだよ)。

˜アイシーカイシー [˜ʔaiʃi:kaiʃi:] 【副】そうこうして。のらりくらりするさま。「ああし、こうし」の転訛したもの。˜アイシーカイシー　˞シェー˜ティル　˞バン˜ター　ヤッ˞トゥ˜シ　ク˞ラシ˜　ケー˞ダー [˜ʔaiʃi:kaiʃi: ˞ʃe:˜tiru ˞ban˜ta: jat˞tu˜ʃi ku˞raʃi˜ ke:˞da:](そうこうしながら < ぞ > 私らは、やっとのことで暮らしてきたのだよ)。

アイ˞シー˜カイシー [ʔai˞ʃi:˜kaiʃi:] 【副】そうこうして (然う斯うして)。そうし、こうし。あれし、これを

しして。アイ˞シー˝カイシー　˞シェー˝ティ　ヤッ˞トゥ˝シル　˝ウカー　パ˞ラウ˝タ [ʔai˞ʃiː˝kaiʃi: ˞ʃeː˝tiru jat˞tu˝ʃiru ˝ʔuka: pa˞rau˝ta](然う斯うしながら、やっとのことで＜ぞ＞借金を支払った)。

˞**アイシチ [˞ʔaiʃᵢ̥tʃi]** 【名】挨拶 (あいさつ)。標準語の「挨拶」が転訛したもの。普通は、˝グリー [˝guriː](御礼。頭を下げること) という。˞アイシチ　スン [˞ʔaiʃᵢ̥tʃi suŋ](挨拶する)。ミ˞チェー˝ラ　˞ゲーサウバン　アイシチンツァン　サヌ [mi˞tʃeː˝ra ˞geːsaubaŋ ʔaiʃᵢ̥tʃintsan sanu](道で出会っても挨拶さえもしない)。

˞**アイシチユー [˞ʔaiʃᵢ̥tʃijuː]** 【名】挨拶用のもの。口実。形ばかりのもの。˞アイシチユーヤンツァン˝　ムティ　パ˞ラバ˝ル　ミ˞チ　ヤル [˞ʔaiʃᵢ̥tʃijuːjantsam˝muti pa˞raba˝ru mi˞tʃi jaru](形ばかりのもの＜挨拶用＞だけでも持って行ったほうが常識＜人の道というもの＞だ)。

アイシ˞ティ [ʔaiʃᵢ̥˞ti] 【接】そして (然して。而して)。そうして (丁寧な言い方)。アシ˞ティ [ʔaʃᵢ̥˞ti](そして) ともいう (ぞんざいな言い方)。パ˞ジメー　ワー˝ラ　˞シー˝　アイシ˞ティ˝　アトーラ　カ˞リン˝　シ˞ミリ [pa˞ʤime: waː˝ra ˞ʃiː˝ ʔaiʃᵢ̥˞ti˝ ʔatoːra ka˞riŋ˝ ʃi˞miri](最初は君からしなさい。そして後から彼にさせなさい)。

˞**アイジョー [˞ʔaiʤoː]** 【名】愛情。情愛。友愛。標準語からの借用語。ウ˞ヤ˝ヌ　˞アイジョーヌ˝　タ˞ラーン˝カー　ッ˞ふァー˝　ヤ˞ビ˝ス [ʔu˞ja˝nu ˞ʔaiʤoːnu˝ ta˞raːŋ˝kaː f˞faː˝ ja˞bi˝su](親の愛情が足りないと子供はぐれる＜性格がやぶれる＞)。˞ジョー [ʤoː](愛情) ともいう。普通はキム [˝kimu](心、愛情、情) という。キ˞ム˝ヌ　ア˞ツァー˝ン [˝kimu ʔa˞tsaː˝ŋ](心が篤い＜情が篤い＞)。˝キモー　˞ナー˝ヌ [˝kimoː ˞naː˝nu](愛情がない＜心がない＞)。

˝**アイシン　˝カイシン [˝ʔaiʃiŋ ˝kaiʃiŋ]** 【連】どのみち (何の道)。いずれにしても。どっちみち。「ああしても、こうしても」の義。˝アイシン　˝カイシン　˞サン˝カー　ナ˞ラン˝ムヌ [˝ʔaiʃiŋ ˝kaiʃin ˞saŋ˝kaː na˞ram˝ munu](何の道＜どっちみち＞しなければならないこと)。

˝**アイシンカイシン [˝ʔaiʃiŋkaiʃiŋ]** 【副】 1いかようにしても～ない。「そうしても、こうしても～ない」の義。どうにもこうにも～ない。続く否定の条件句を誘導し、それと呼応して意味を強調する表現。「そうしても、ああしても」の転訛したもの。˝アイシンカイシン　ナ˞ラン˝ベーティ　˞ワー˝ラ˝ナラウンティ　˞クー˝タ [˝ʔaiʃiŋkaiʃin na˞ram˝beːti ˞waː˝ra ˝naraunti ˞kuː˝ta](どうにもこうにもならなくて、貴方から習おうとやって来ました)。/ヘイヤー　アンシン　ナラナーキ　ヘイヤー　カンシン　ナラナーキ/(ヘイヤー＜囃子＞そうしても＜村建てが＞出来ないので、ああしても＜村建てが＞できないので)「パトゥマ本ジラマ」『鳩間島古典民謡古謡集』。2どのみち。どっちみち。いずれにしても。結局。アイ˞シン˝カイシン　˞サン˝カー　ナ˞ラン˝ムヌ　˞パー˝ク　˞シー˝バ [ʔai˞ʃiŋ˝kaiʃin ˞saŋ˝kaː na˞ram˝munu ˞paː˝ku ˞ʃiː˝ba](どっちみちしなければならないおだから、早くしなさいよ)。

˝**アイ˞シン˝カイシン [˝ʔai˞ʃiŋ˝kaiʃiŋ]** 【副】ああもこうも。いづれにしても。どうにもこうにも。どのみち。「ああしてもこうしても」の義。基本的にはABCDEBCD 型の重言。アイ˞シン˝カイシン　˞シーミラバ˝ル　˞フントー˝ヌ　˝クトー　ワ˞カ˝ル　˞サン˝カー　ワ˞カラ˝ヌ [ʔai˞ʃiŋ˝kaiʃiŋ ˞ʃiːmiraba˝ru wa˞ka˝ru ˞saŋ˝kaː wa˞kara˝nu](いづれにしても＜ああしてもこうしても＞してみてはじめて＜してみたらばぞ＞分かる。しないと分からない)。

アイ˞シン˝カイシン [ʔai˞ʃiŋ˝kaiʃiŋ] 【副】どうでもこうでも。ああしてもこうしても。いづれにしても。アイ˞シン˝カイシン　サ˞バドゥ˝　ヤ˞ル˝カー　˞パイ˝サ　˞スーモー　マシ [ʔai˞ʃiŋ˝kaiʃin sa˞badu˝ ja˞ru˝kaː ˞pai˝sa ˞suːmoː˝ ma˞ʃi](どうでもこうでも＜どのみち＞しなければならないのなら、早くしたほうがよい)。

˝**アイ　˞スー˝カー [˝ʔai ˞suː˝kaː]** 【連】そう＜然う＞するのなら。そうしたら。丁寧な表現。前件の前提条件を受けて後件の判断が起きる意を表す。˞ワー˝　アイ　˞スー˝カー　˝バー　˞ワーットー˝　パ˞ララ˝ヌ [˞waː˝ ʔai ˞suː˝kaː ˝baː ˞waːtto˝ pa˞rara˝nu](君がそうするのなら、私は君とは行けない＜行くことが出来ない＞)。

˝**アイ　˞スヌ [˝ʔai ˞sunu]** 【連】そうだが。だがしかし。だけれど。丁寧な言い方。普通は、ぞんざいに、ア˞スヌ [ʔa˞sunu](だが。だがしかし＜接続詞＞) という。前に述べたことと対立する事柄を逆説的に述べる際に用いる。˞ダイヤー˝　タ˞カーン˝ツォー　アイ˞スヌ˝　イッ˞ケン˝　ン˞マーン˝ティ˞ダー [˞daijaː˝ tą˞kaːn˝tsoː ʔai˞sunu˝ ʔik˞kem˝ ʔm˞maːn˝ti˞daː](値段は高いそうだ。だがしかし、非常に美味しいそうだ)。

˞**アイ˝ズミ [˞ʔai˝ʤumi]** 【名】藍染め。˞アイ˝ズミキン

ナー　ム˹シン˺　シゥ˹カ˺ヌ [˹ʔai˺ʤumikinna: mu˹ʃin si̥k˺anu](藍染めの着物には虫もつかない)。

˹アイ˺ズミキン [˹ʔai˺ʤumikiŋ] 【名】藍染の着物。˹アイ˺ズミキン　キ˹ス˺カー　ム˹シン˺　ッ˹サラン˺ツォー [˹ʔai˺ʤumikiŋ ki̥˹su˺ka: mu˹ʃin˺ s˹saran˺tso:](藍染めの着物を着ると虫に刺されないそうだ)。

˹アイ˺ズミヤー [˹ʔai˺ʤumija:] 【名】藍染め屋。パ˹トゥ˺マナー　˹アイ˺ズミヤーヤ　ナーン˺シェン [pḁ ˹tu˺mana:ja ˹ʔai˺ʤumija:ja ˹na:ŋ˺ʃeŋ](鳩間には藍染め屋はなかった)。

アイ˹スン˺ケン [ʔai˹suŋ˺keŋ] 【副】それほど～ない。そんなに～ない (丁寧な表現)。ア˹スン˺ケン [ʔa˹suŋ˺keŋ](それほど～ない。そんなに～ない)(ぞんざいな表現) ともいう。打ち消しの表現と対応して用いられる陳述副詞。ウ˹レー˺　アイ˹スン˺ケン　タ˹カー　ナー˺ヌ [ʔu˹re:˺ ʔai˹suŋ˺ken tḁ˹ka: na:˺nu](それは、そんなに高くない)。

アイ˹ダー [ʔai˹da:] 【連】そうである。そうだ。その通りだ。副詞˺アイ [˺ʔai](そう。そのように) に終助詞˹ダー [˹da:](～だよ。～よ) の付いた形。ウ˹レー˺　アイ˹ダー [ʔu˹re:˺ ʔai˹da:](それはそうだよ)。˹ダー [˹da:](～だよ。～よ) は名詞、動詞の終止形、命令形、形容詞の語幹、副詞などに付く。ク˹レー˺　フニ˹ダー [ku˹re:˺ ɸuni˹da:](これは舟だよ)。˹バン˺ヌン　パルン˹ダー [˹ban˺num parun˹da:](私も行くよ)。ヤー˹ディン˺　パリ˹ダー [ja:˹dim˺ pari˹da:](必ず行けよ)。ク˹リル　˺　パ˹ヤート ダー [ku˹riru˺ pa˹ja:ɦ-da:](これが早いよ)。

˹アイダ˺チ [˹ʔaida˺ʧi] 【名】 1木槌。大工作業などで用いる木槌。鑿を使って材木にほぞあな (枘穴) を開ける際に用いるのは、アイダ˹チェー˺マ [ʔaida ˹ʧe:˺ma](小木槌) という。˹サイ˺コー　˹アイダ˺チシ　˹ヌン˺バ　˹シッ˺ケーティ　パ˹ラー˺ヌ　˺アナー　プ˹ローッ˺タ [˹sai˺ko: ˹ʔaida˺ʧiʃi ˹num˺ba ˹ʃik˺ke:ti pa˹ra:˺nu ˺ʔana: pu˹ro:t˺ta](大工は小槌で鑿を打ち＜突き＞ながら柱の穴を掘られた)。米を搗く際に用いる大木槌状の横杵は、ウ˹ブアイダ˺チ [ʔu˹buʔaida˺ʧi](大槌) という。建築工事に用いる大槌はガ˹バ˺ラ [ga˹ba˺ra](大槌) という。˹アイダ˺チシ　˹シッ˺キティ　˹ヤーラキ˺バ [˹ʔaida˺ʧiʃi ˹ʃik˺kiti ˹ja:raki˺ba](木槌で打って柔らかくしなさい)。2横杵。˹ヨイ˺ヌ　˺ピンマー　フ˹タールナー˺シ　ウ˹ブアイダチ˺バ　˺ムテーティル　˹マイヤ˺　ッサイ˹ヨーッ˺タ [˹joi˺nu ˺pimma: ɸu̥˹ta:runa:˺ʃi ʔu˹buʔaidaʧi ˺ba ˺mute:tiru ˹maija˺ ssai˹jo:t˺ta](お祝いの際には二人ずつで横杵を持って米を搗かれた＜精げられた＞)。バ˹コーシン˺カ [ba˹ko:ʃiŋ˺ka](大勢の共同作業人) の食事を賄うには、普通の杵では米搗きが間に合わない。それで、ウ˹ブアイダ˺チ [ʔu˹buʔaida˺ʧi](大きな木槌の杵) を使って、三人一組で一つの臼に向かい、臼を二つ並べて掛け声をかけながら米搗きをした。バ˹カー˺ムンケーヤ　˹アイダ˺チシル　˹マイヤー˺　ッ˹サウ˺タ [ba˹ka:˺muŋke:ja ˹ʔaida˺ʧiʃiru ˹maija:˺ s˹sau˺ta](若者達はアイダチで米を搗い＜精げ＞た)。

アイダ˹チェー˺マ [ʔaida˹ʧe:˺ma] 【名】小槌。木工用の小槌。アイダ˹チェー˺マ　カ˹リ˺　クーバ [ʔaida˹ʧe:˺ma ka˹ri˺ ku:ba](小槌を借りてきなさい)。

˹アイ˺ツァ [˹ʔai˺tsa] 【名】斑点。色の混ざったもの。まだら。転じて、いろいろなものが混じって明確でないもの。ス˹ミ˺シケール　˹キン˺バ　ア˹ラウタ˺　クトー　イ˹ル˺ヌ　˺パギティ　˹アイ˺ツァイル　˺ナリ　˹ベー [su˹mi˺ ʃi̥ke:ru ˹kim˺ba ʔa˹rauta˺ kuto: ʔi˹ru˺nu ˺pagiti ˹ʔai˺tsaʔiru ˺nari ˹be:](染めてある着物を洗ったところ、色が脱色して＜禿て＞まだら色＜斑色＞になっている)。

˹アイツァー˺スン [˹ʔaitsa:˺suŋ] 【自動】喧嘩し合う。乱闘する。動詞˺アウン [˺ʔauŋ](喧嘩する) の連用形˺アイ [˺ʔai](喧嘩し) に、動作作用の程度の激しさを表す接尾語˹ツァー˺スン [˹tsa:˺suŋ](～散らす。散々に～する) が付いて複合動詞を形成したもの。˹ウッ˺ツァー　サ˹キ˺　ヌムカー　シ˹グ　アイツァー˺スン [˹ʔut˺tsa: sḁ˹ki˺ numuka: ʃi˹gu ʔaittsa:˺suŋ](彼らは酒を飲むと、すぐ喧嘩する)。˹アイツァーサン˺ドーシ　˺ヌミバ [˹ʔaitsa:san˺do:ʃi ˺numiba](喧嘩しないで飲めよ)。˹ピーズ　アイツァー˺シ　˹ベー [˹pi:ʤu ʔaitsa:˺ʃi ˹be:](いつも喧嘩している)。˹アイツァー˺ス　˺クトゥン　˺アン [˹ʔaitsa:˺su ˺ku̥tuŋ ˺ʔaŋ](喧嘩し合うこともある)。˹アイツァー˺シェー　˺ミサムヌ [˹ʔaitsa:˺ʃe: ˺misamunu](喧嘩し合えば良いのに)。˹アイツァー˺シバ [˹ʔaitsa:˺ʃiba](喧嘩し合えよ)。

˹アイ˺ツァウシ [˹ʔai˺tsaʔuʃi] 【名】まだら模様の牛。白黒赤毛の混じった牛。˺アガマラーウシ [˺ʔagamara:ʔuʃi](赤毛の混じった牛) と同じ。˹ウン˺ネナー　˹アイ˺ツァウシヌ　マ˹レーン˺ツォー [˹ʔun˺nena: ˹ʔai˺tsaʔuʃinu ma˹re:n˺tso:](その＜あの＞家にまだら模様の牛が生まれたそうだ)。

˹アイ˺ツァビーツァ [˹ʔai˺tsabi:tsa] 【副】点々と汚れがついている様子。˺ヌンティ　˹アイ˺ツァビーツァ

ˈキンˈバ　ユˈグシˈ　シケーワ [ˈnunti ˈʔaiˈtsabiːtsa ˈkimˈba juˈguʃiˈ ʃi̥keːwa](どうして点々と着物を汚してあるのか)。

ˈアイˈツァムニ [ˈʔaiˈtsamuni] 【名】複数の言語が交じり合って、はっきり理解できない不完全な言葉。片言交じりの言葉。発音も不完全で、たどたどしい言葉。ウˈヌ　プスヌˈ　ムネー　ˈアイˈツァムニ　ˈナリティ　シゥˈカラヌ [ʔuˈnu pu̥sunuˈ muneːˈ ʔaiˈtsamuni ˈnariti si̥ˈkaranu](彼＜その人＞の言葉は、不完全な片言交じりの言葉で分からない＜理解できない＞)。

アイˈツォー [ʔaiˈtsoː] 【連】そうなんだよ。指示代名詞ウˈリ [ʔuˈri](それ) の副詞的用法 (副詞)ˈアイ [ˈʔai](そう) に、強意の終助詞ꜜツォー [ꜜtsoː](～＜だ＞よ) が付いた形。アイˈツォー　ワーˈ　アズ　ˈトゥーˈルˈツォー [ʔaiˈtsoː waːˈ ʔadʑu ˈtuːˈruˈtsoː](そうなんだよ。君の言う通りなんだよ)。

ˈアイツォー [ˈʔaitsoː] 【連】そうなんだそうだ。その通りだそうだ。指示代名詞ウˈリ [ʔuˈri](それ) の副詞的用法 (副詞)ˈアイ [ˈʔai](そう) に、伝聞の終助詞ꜜツォー [ꜜtsoː](～＜だ＞そうだ。) が付いた形。ˈアイツォー　ˈワーˈ　ドゥˈシヌˈ　アˈズタ　トゥーˈルツォー [ˈʔaitsoːˈ waːˈ duˈʃinuˈ ʔaˈdʑuta tuːˈrutsoː](そうなんだそうだ。君の友人の言った通りだそうだ)。

アイˈツォーˈシェー [ʔaiˈtsoːˈʃeː] 【連】そうなんですってば。アイˈツォー [ʔaiˈtsoː](そうなんだよ) に、相手に同意し再確認・反省の意を表す終助詞ˈシェー [ˈʃeː](～ってば) の付いた形。アイˈツォーˈシェー　ˈマーズン　カイブレーˈバ　ˈミサタ　ˈムンヌ [ʔaiˈtsoːˈʃeː ˈmaːdʑuŋ kaibureːˈbaː ˈmisata ˈmunnu](そうなんですってば、一緒に買っておれば良かったのに＜買わなかったので損をした＞)。

ˈアイッツァーˈスン [ˈʔaitsaːˈsuŋ] 【自動】喧嘩いあう。ˈキョーˈダイザーンナリ　ˈザイサンヌクトゥシ　ˈアイッツァーˈシ　ˈミーヌッˈサン [ˈkjoːˈdaidʑaːn-nari dʑaisannu kutuʃi ˈʔaittsaːˈʃi ˈmiːnusˈsaŋ](兄弟どうし財産のことで喧嘩しあって見苦しい)。

ˈアイˈティー [ˈʔaiˈtiː] 【名】相手。ˈワー　アイˈティー　ナル　プˈソーˈ　クナー　ブˈラーヌ [ˈwaː ʔaiˈti naru puˈsoːˈ kunaː buˈraːnu](君の相手になる人は、ここにはいない)。ˈアイティˈヌ　ブˈラーンˈカー　ˈスーˈボー　ナˈラˈヌ [ˈʔaitiˈnu buˈraːŋˈkaː ˈsuːˈbo: naˈraˈnu](相手がいないと競争＜勝負＞は出来ない)。

ˈアイナˈカ [ˈʔainaˈka] 【名】あいだ。人と人の間。中間。時間的にも空間的にも用いる。ˈウンˈトゥ　ˈウンˈヌ　ˈアイナˈカナー　マˈミˈバ　イˈビˈシケー [ˈʔunˈtu ˈʔunˈnu ˈʔainaˈkanaː maˈmiˈba ʔiˈbiˈʃi̥keː](芋と芋の間に豆を植えてある)。ブˈドゥルトゥ　ブドゥルヌ　アイナˈカナー　ˈキョンˈギン　ˈピーˈーチェー　イˈリリ [buˈdurutu budurunu ʔainaˈkanaː ˈkjongim ˈpiːˈtʃeː ʔiˈriri](踊りと踊りの間に狂言を一つ入れなさい)。トゥˈジブトゥヌ　アイナˈカナー　ッˈふァーˈ　ギュˈタールˈ　ナシェーワ [tuˈdʑibu-tunu ʔainaˈkanaː fˈfaːˈ gjuˈtaːruˈ naʃeːwa](夫婦の間に子供は何人生んであるか)。フˈタールヌ　アイナˈカナ　パˈサマˈリティ　ˈウーカランˈシェン [ɸu̥ˈtaːrunu ʔainaˈkana pḁˈsamaˈriti ˈʔuːkaraŋˈʃeŋ](二人の間に挟まれて動けなかった)。

ˈアイナリカイナリ [ˈʔainarikainari] 【副】そうこうして (然う斯うして)。「然う成り斯う成り」の義。ˈアイナリカイナリ　ˈシェーˈティル　ヤッˈトゥˈシ　プˈスナミˈ　ナリ　ˈケーˈダー [ˈʔainarikainari ˈʃeːˈtiru jatˈtuˈʃi pu̥ˈsunamiˈ nari keːˈdaː](然う斯うして＜ああなり、斯うなりして＞やっとのことで人並みになってきたのだよ)。

ˈアイニ [ˈʔaini] 【副】 1そんなに。そのように。ˈアイニ　ˈスーˈカー　ヤーˈディンˈ　マˈチガイˈス [ˈʔaini ˈsuːˈkaː jaːˈdimˈ maˈtʃigaiˈsu](そのようにしたら必ず間違える)。2あんなに。あのように。ˈアイニ　ˈマイˈヤ　ˈフネー　ˈミリ　ミˈラˈヌ [ˈʔaini ˈmaiˈja ˈɸuneː ˈmiri miˈraˈnu](あのように大きな船は見たことがない)。あのように。ウˈレーˈ　アイニ　ˈスーˈカー　イˈチンバーˈキン　トゥˈララˈヌ [ʔuˈreːˈ ʔaini ˈsuːˈkaː ʔiˈtʃimbaːˈkin tuˈraraˈnu](それは、そのようにするといつまでたっても取られない)。

ˈアイニカイニ [ˈʔainikaini] 【名】ああもこうも。そうもこうも。ABCDBC 型の重言。ˈアイニカイニ　ムˈニˈバ　イˈジマーシ　カシゥカーˈシ　ˈサーパッˈタ [ˈʔainikaini muˈniˈba ʔiˈdʑimaːʃi kasïkaːˈʃi ˈsaːpatˈta](そうもこうも言葉をいいまわして賺して連れて行った)。

ˈアイヌシェー [ˈʔainuʃeː] 【感】そうだよ。なるほど、そうなんだよ。相手の判断に共鳴して相槌を打つ意。ˈアイˈヌシェー　ウˈレー　ワーˈ　アズ　ˈトゥールˈユンシェー [ˈʔaiˈnuʃeː ʔuˈreː waːˈ ʔadʑu ˈtuːruˈ juŋʃeː](そうなのだよ。それは君が言う通りなんだよ)。

ˈアイˈヌシェー [ˈʔainuˈʃeː] 【感】なるほど、そうなん

だ。相手の意見に賛同する際に発する言葉。˜ユー　˞カン˜ガイ˜ミルカー　˞アイヌ˜シェー [˜juː ˞kaŋ˜gai ˜miruka: ˞ʔai˜nuʃeː](よく考えてみるとそうなんだわい)。

˞アイ˜ヌパナ [˞ʔai˜nupana] 【名】打ち身。皮下出血して青黒くなっているもの。「藍の花」の義。˞トー˜リティ　イ˞シ˜ナ　˞パン˜バ　˜ウティシケータンドゥ　˞アイ˜ヌパナ　ンジ˞ベー˜バン [˞toː˞riti ʔi˞ʃi˜naː ˞pam˜ba ˜ʔutiʃikeːtandu ˞ʔai˜nupana ʔnʤi˞beː˜baŋ](倒れて石に足を打ちつけてあったが、青黒い打ち身＜藍の花＞が出ているよ)。

˜アイブ [˜ʔaibu] 【連体】あんな。あのような。単数を表す。˜アイブ　˜ムノー　˞カウナ [˜ʔaibu ˜munoː ˞kauna](あんな物は買うな)。˜アイブ　˜ムヌ　˞カーサリントゥー　[˜ʔaibu ˜munu ˞kaːsarinˌtuː](そんな＜あんな＞もの売れるものか＜売れるっと?>)。˜アイブ　サ˞キヌミ˜　プ˞ス˜バ　ブ˞トゥティ　ソーラ˜　ブ˞トゥ˜　ム˞タン˜モー　マ˞シ [˜ʔaibu sḁ˞kin-umi˜ pu̥˞su˜ba bu˞tuti soːra˜ bu˞tu˜ mu˞tam˜moː ma˞ʃi](あんな酒飲みを夫にするよりは結婚しない＜夫を持たない＞ほうが良い)。˜アイブ　ム˞ニ˜バ　イ˞ジアー˜キ　プ˞スン˜　バ˞ラーリン˜ダ [˜ʔaibu mu˞ni ˜ba ʔi˞ʤiʔaː˜ki pu̥˞sum˜ ba˞raːrin˜da](あのようなことを言いふらして＜言葉を言い歩いて＞人に笑われるぞ)。˜アイブ　˜クトー　˞ナー˜ヌ [˜ʔaibu ˜ku̥toː ˞naː˜nu](そんなことはない)。˜アイブ　˜クトー　イッ˞カ　ナーン˜シェン [˜ʔaibu kutoː ʔik˞ka naːŋ˜ʃeŋ](そのような事は決して＜一向に＞なかった)。

˜アイ　˞ブー　ムヌ [˜ʔai ˞buː munu] 【連】あんなだもの。そのようにしているもの。そんなだもの。˜アイ　˞ブー　ムヌ˜　バーア˞ズ˜　ムニ　ス˞クン˜カヤー [˜ʔai ˞buː munu˜ baː ʔa˞ʤu˜ muni su̥˞kuŋ ˜kajaː](そんなだもの、私の言うことなんか聞くかな)。

˞アイ˜プス [˞ʔai˜pu̥su] 【名】喧嘩をする人。喧嘩売り。サ˞キヌ˜　ザーナーテー　˞アイプス˜ヌ　ン˞ジ˜ルン [sḁ˞kinu˜ ʤaːnaːteː ˞ʔaipusu˜nu ʔn˞ʤi˜ruŋ](酒の座では喧嘩人が出る)。

アイ˞ブ˜ツァ [ʔai˞bu˜tsa] 【連体】あんな。あのような。複数を表す。ア˞ブ˜ツァ [ʔa˞bu˜tsa](あんな。あのような) ともいう。アイ˞ブ˜ツァ　˜ムヌバ　˞カイティ　ヌー˜スワ [ʔai˞bu˜tsa ˜munuba ˞kaiti nuː˜suwa](あんな物などを買ってどうするのか)。

˜アイブ　˜ムヌヌ [˜ʔaibu ˜mununu] 【連】あんな者＜物＞が。˜アイブ　˜ムヌヌ　˜ヤク　˜タトゥンカヤー [˜ʔaibu ˜mununu ˜jaku ˜tatuŋkajaː](あんな者＜物＞が役に立つかなあ)。

アイ˞ベー˜ティ [ʔai˞beː˜ti] 【接】それで。それ故に。前件を受けて、それを理由とする後件＜帰結＞を述べる際に用いる。順態接続を表す。ウ˞レー˜　イッ˞カ˜　プ˞スヌ˜　ムニ　シゥ˞カヌ˜　アイ˞ベー˜ティ　˜ウヤン　イ˞ザリ　アー˜クンティ [ʔu˞reː˜ ʔik ˞ka˜ pu̥˞sunu˜ muni si̥˞kanu˜ ʔai˞beː˜ti ˜ʔujaŋ ʔi˞ʤari ʔaː˜kunti](彼は一向に他人の言うこと＜話＞を聞かない。それで親に叱られている＜叱られてあるく＞さ)。

˞アイ˜マ [˞ʔai˜ma] 【名】合間。連続した物事のとぎれた間。˜マドゥ [˜madu](間遠) ともいう。ア˞ミ˜ヌ　˞アイマアイ˜マナール　パ˞タキシグ˜トゥン　˜ナル [ʔa˞mi˜nu ˞ʔaimaʔai˜manaːru pḁ˞takiʃigu˜tuːn ˜naru](雨の合間合間にしか畑仕事はできない＜合い間合間にこそ畑仕事も出来る＞)。シ˞グトゥヌ　アイ˜マナー　˞マーリ˜キー　ミリッ˞ふィーリ [ʃi ˞gutunu ʔai˜mana: ˞maːri˜ki: mirif˞fiːri](仕事の合間に回ってきて見てくれ)。

˞アイマー˜ルン [˞ʔaimaː˜ruŋ] 【他動】謝る。謝罪する。˞ワー　アイマー˜ルカー　˞バン˜ヌン　˞アイマー˜ルン [˞waː ʔaimaː˜ruka: ˞ban˜nuŋ ˞ʔaimaː˜ruŋ](君が謝ったら私も謝る)。˞アイマー˜リ　˜ミサカー　˞アイマー˜ル　˜クトー　˜ナルン [˞ʔaimaː˜ri ˜misaka: ˞ʔaimaː˜ru ˜ku̥toː ˜naruŋ](謝って良ければ謝ることはできる)。˞ドーン˜グ　ヤ˞ブ˜リティ　˞アイマー˜ルンティ　ウ˞ムータン˜ドゥ　イ˞ザリター　アイマーラン˜シェン [˞doːŋ˜gu ja˞bu˜riti ˞ʔaimaː˜runti ʔu˞muːtan˜du ʔi˞ʤarita: ʔaimaːraŋ˜ʃeŋ](道具を壊して、謝ろうと思ったが、叱られたので謝らなかった)。˜バーラ　˞アイマー˜リ　˜ミサカー　˞アイマー˜ル　˜クトー　˜ナルン [˜baːra ˞ʔaimaː˜ri ˜misaka: ˞ʔaimaː˜ru ˜ku̥toː ˜naruŋ](私から謝ってよければ謝ることは出来る)。˞アイマー˜レー　˜ミサムヌ [˞ʔaimaː˜reː ˜misamunu](謝ればいいのに)。˞パー˜ク　˞アイマー˜リ [˞paː˜ku ˞ʔaimaː˜ri](早く謝れ)。

˞アイマ˜チ [˞ʔaima˜ʧi] (1)【名】あやまち (過ち)。失敗。「誤錯、安夜末覩 (あやまつ)」『華厳音義私記』の転訛したもの。プ˞ソー˜　ター˞ン　アイマ˜チ　˞シース [pu̥˞soː˜ taː˞ŋ ʔaima˜ʧi ˞ʃiːsu](人は誰でも過ちを犯す＜過ちをする＞)。 **(2)**【感】ごめん。˞アイマ˜チ˞ナー　アイマ˜チ˞ナー [˞ʔaima˜ʧi˞naː ʔaima ˜ʧi˞naː](ごめんねえ、ごめんねえ)。˞アイマ˜チ　˞ダ

ー [˞ʔaima˜ʧi ˞daː](ごめんよ＜あやまちだよ＞)。本来は、˞バー˜ル　˞ワッ˜サ　˞アイ˜マチ˞ナー　˜ヌビ　ッ˞ふィーリ˜ダー [˞baː˜ru ˞was˜sa ˞ʔaima˜ʧi˞naː ˜nubi f˞fiːri˜daː](私が悪い。ごめんよ。堪忍してくれよ) という。

˞アイマ˜チ　˞スン [˞ʔaima˜ʧi ˞suŋ] 【連】謝る。「過ちする」の義。˞パー˜ク　˞アイマ˜チ　˞シー˜　クー [˞paː˜ku ˞ʔaima˜ʧi ˞ʃiː˜ kuː](早く謝って＜過ちして＞こい)。

˞アイ˜マルン [˞ʔai˜maruŋ] 【他動】謝る。詫びる。謝罪する。老年層は˜ワキ　˞スン [˜waki ˞suŋ](謝る。詫びる) を多用する。˞アイ˜マルンカヤーティ　ウ˞ムータ˜ヌ　ク˞ヌ˜　ッ˞ふァー　アイマラン˜バン [˞ʔai˜maruŋkajaːti ʔu˞muːta˜nu ku˞nu˜ f˞faː ʔaimaram˜baŋ](謝るかと思ったが、この子は謝らないよ)。˞アイ˜マリ　˜ミサカー　˞アイ˜マル˜クトー　˜ナルン [˞ʔai˜mari ˜misakaː ˞ʔai˜maru ˜kʉ̥toː ˜naruŋ](謝って良ければ謝ることは出来る)。˞パー˜ク　˞アイ˜マレー　˜ミサムヌ [˞paː˜ku ˞ʔai˜mareː ˜misamunu](早く謝れば良いのに)。˜ドゥーシ　˞アイ˜マリバ [˜duːʃi ˞ʔai˜mariba](自分で謝れよ)。

˜アイミー [˜ʔaimiː] 【連】そうだろう? そうだね。目下に対して確認する表現。˜アイ　˞ヤン˜ミー [˜ʔai ˞jam˜miː](そう・である・ね＜確認のイ＞?) の縮まった形。ク˞レー　ワー˜　ムヌ。˜アイミー [ku˞reː waː˜ munu ˜ʔaimiː](これは君のものだ。そうだろう?)。

˜アイヤー [˜ʔaijaː] 【副】そんなには。˜アイヤー　˞サンブリ˜バ [˜ʔaijaː ˞samburi˜ba](そうはするなよ＜そうはしないでおれよ＞)。

˜アイヤー　ア˞ラ˜ヌ [˜ʔaijaː ʔa˞ra˜nu] 【連】そうではない。ク˞ヌ　ジーヤ˜　カイル　˜カクミー。˞アーイ˜　アイヤー　ア˞ラ˜ヌ　˜アイニ　˜カクカー　マ˞チガイ˜ス [ku˞nu ʤiːja˜ kairu ˜kʉ̥kumiː。˞ʔaː˜ʔaija: ʔa˞ra˜nu ˜ʔaini ˜kʉ̥kuka: ma˞ʧigai˜su](この文字は、このように＜ぞ＞書くんでしょう? いや＜否＞、そうではない。そのように書くと間違えるよ)。アー˞イ˜　アイヤー　ア˞ラ˜ヌ。˞ワー˜　ムネー　ア˞タラヌ [ʔaː˞ˈ˜ ʔaija: ʔa˞ra˜nu ˞waː˜ muneː ʔa˞taranu](いや＜否＞、そうではない。君の言うこと＜言葉＞は間違っている＜当たらない＞)。

アイ˞ヤー˜カー [ʔai˞jaː˜kaː] 【接】それなら。仮にそうであれば。それであるなら。前件の仮定条件的表現を受けて後件を述べる際に用いる。˜アイ　ヤ˞ル˜カー [˜ʔai ja˞ru˜kaː](そうであるなら) の縮まった形。アイ˞ヤー˜カー　˜アイティ　ア˞ザン˜カー　ッ˞サントダー [ʔai˞jaː˜kaː ˜ʔaiti ʔa˞ʤaŋ˜kaː s˞sanˈ-daː](それならそうと言わなければ分らないよ)。

アイ˞ヤー˜ティ [ʔai˞jaː˜ti] 【接】それだから。それ故に。それで。˜アイ　ヤ˞レー˜ティ [˜ʔai ja˞reː˜ti](そうであるから) の縮まった形。順態接続を表す。アイ˞ヤー˜ティル　キ˞ノー˜ヤ　˞クーン˜　ブ˞レー˜バン˞ナー [ʔai˞jaː˜tiru ki˞noː˜ja ˞kuːm˜ bu˞reː˜ban˞naː](それだから＜それで＞昨日は来なかったんだね)。「それだから」の義。前件を受けて、それを原因・理由とする帰結を述べる接続表現。ウ˞レー˜　ニ˞チ˜ヌ　˜ンジティ　ニ˞ビベー˜ツォー　アイ˞ヤー˜ティル　キ˞ノー˜ヤ　キ˞ララン˜　ブ˞レー˜ル˞ナー [ʔu˞reː˜ ni˞ʧi˜nu ˜ʔnʤiti ni˞bibeː˜tso: ʔai˞jaː˜tiru ki˞noː˜ja ki˞raram˜ bu˞reː˜ru˞naː](彼は熱が出て寝ているそうだ。それで昨日は来られなかったん＜来られずにいたの＞だねえ)。

˜アイ　˞ヤッタ [˜ʔai ˞jatta] 【連】そうだった。˜アイ　˞ヤッタル˜シェー˞ナー˜　イ˞クサ˜ユーナー　ムー˞ル　パイ˜ター　ヒ˞ナン˜　シ˞ミラリティル˜　マ˞ラリ˜ヤ　カ˞カ˜レータルシェー [˜ʔai ˞jattaru˜ʃeː˞naː˜ ʔi˞kusa˜juːna muː˞ru pai˜taː çi˞naŋ˜ ʃi˞miraritiru˜ ma˞rari˜ja kʉ̥˞ka˜reːtaruʃeː](そうだったよねえ。戦争中に皆西表島へ強制避難させられて＜ぞ＞マラリアに罹ったものだよ)。

˜アイ　ヤ˞ラバン [˜ʔai ja˞rabaŋ] 【連】(仮に) そうであっても。それでも。仮定的前提条件。˜アイヤ˞ルバン [˜ʔai ja˞rubaŋ](そうであっても。そうであるにしても＜確定的前提条件＞) ともいう。カ˞ジヌ˜　フキティル　キ˞ララン˜シェンツォー。˜アイ　ヤ˞ラバン˜　キ˞ム˜ヌ　˜アルカー　キ˞ラリ˜シェール [ka˞ʤinu˜ ɸʉ̥kitiru ki˞raraŋ˜ʃentsoː。˜ʔai ja˞rabaŋ˜ ki˞mu˜nu ˜ʔaruka: ki˞rari˜ʃeːru](風＜台風＞が吹いて＜ぞ＞来られなかったそうだ。それでも気持ち＜肝・心・愛情＞があれば来られた＜来ることができた＞ろうよ)。

˜アイ　ヤ˞ル˜カー [˜ʔai ja˞ru˜kaː] 【連】それなら。そうであるなら。˜アイ　ヤ˞ル˜カー　˜メー　˜バー　パ˞ラ˜ヌ [˜ʔai ja˞ru˜kaː ˜meː ˜baː pa˞ra˜nu](それなら、もう私は行かない)。

˜アイ　˞ヤルヌ [˜ʔai ˞jarunu] 【連】そうだが。そうではあるが。ク˞トゥシェー　イーシ˜ヌ　˞ダイヤー˜　ム˞タン˜ツォー　˜アイ　˞ヤルヌ　カーサン˜カー　˞モーキララ˜ヌ [kʉ̥˞tuʃeː ʔiːʃi˜nu ˞daijaː˜ mu˞tan˜tso: ˜ʔai ˞jarunu kaːsaŋ˜kaː ˞moːkirara˜nu](今年はツ

ノマタの値段は高値を持たないそうだ。そうだが、売らないと儲けることが出来ない)。

˥アイ　ヤ˖ルンダ [˥ʔai ja˖runda] 【連】それだから。それゆえに。だから。前に述べた事柄が、後に述べる事柄の原因・理由になることを表す。˥アイ　ヤ˖ルンダル　ワーヨー　クー˥ナティ　ア˖ズ˥ダー [˥ʔai ja˖rundaru waːjoː kuː˥nati ʔa˖ʤu˥daː](それだから＜それゆえに＞君に来るなと言うんだよ)。

˥アイ　ヤ˖レー˥ティ [˥ʔai ja˖reː˥ti] 【連】そうであるから。それ故に。˥アイ　ヤ˖レー˥ティル　ウ˖レー　クーン˥　ブ˖レート ナー [˥ʔai ja˖reː˥tiru ʔu˖reː kuːm˥ bu˖reːꜜna:](それ故に＜そうであったのでぞ＞彼は来なかったのだねえ)。

アイ˖ヤンダ [ʔai˖janda] 【接】だから。そうだから。そういう訳だから。順態接続を表す。アイヤ˖ルンダ [ʔaija˖runda](そうであるから) の縮約形。アイ˖ヤンダル　キュー˥ヤ　キ˖ララン˥　ブ˖レー˥ル [ʔai˖jandaru kjuː˥ja ki˖raram˥ bu˖reː˥ru](だから＜そういう訳だから＞今日は来れなかった＜来れずにいた＞のだろう)。アイ˖ベー˥ティ [ʔai˖beː˥ti](それだから＜そうしているから＞)、アイヤ˖レー˥ティ [ʔaija˖reː˥ti](それで。それだから)。˥アイ　ヤ˖リ˥キー、˥アイ　ヤ˖レー˥キ [˥ʔai ja˖reː˥ki](それだから、それで) 参照。

˥アイル [ʔairu] 【副】そのように。˥アイニル [ʔainiru](そのようにぞ) の縮約形。˖ワー˥　ッ˖ふァ˥　ア˖タルヌ˥　ム˖ヌ˥ヌ　˥アイニル　˥ウヤニ　˥ムネー　イ˖ズ [˖waː˥ f˖fa˥ ʔa˖tarunu˥ mu˖nu˥nu ˥ʔainiru ˥ʔuajani ˥muneː ʔi˖ʤu](君はこどものくせに＜子供程度の者が＞、あのように＜ぞ＞親にものをいうのか)。

˥アイル　˥ムヌ [˥ʔairu ˥munu] 【連】そうであるのに。そうだのに。˥アイ　ヤ˖ル˥　ムヌ [˥ʔai ja˖ru˥ munu](そうであるのに) の縮まった形。˥アイル　˥ムヌ　˥ヌンティ　ア˖ザンワ [˥ʔairu ˥munu ˥nunti ʔa˖ʤaŋwa](そうであるのに、何故言わないのか)。

˖アイルン [˖ʔairuŋ] 【自動】木の実などが熟れて落ちる。あゆ (零ゆ)。「～置きて枯らしみ安由流＜アユル＞實は～。万、4111」の転訛したもの。˖マンズイ˥ヤ　˖ウー˥ムカー　˖アイルン [˖manʤui˥ja ˖ʔuː˥ muka: ˖ʔairuŋ](パパイヤの実は熟れたら落ちる)。

˖アイルン [˖ʔairuŋ] 【自動】1できものの膿がでる。ア˖シブ˥ヌ　˖アイル˥カー　˖ヤン˥マー　ピ˖クン [ʔa˖ʃibu˥nu ˖airu˥ka: ˖jam˥ma: pi˖kuŋ](おできの膿が出たら痛みはひく)。2乳汁が流れ出る。「～置きて枯らしみ安由流＜アユル＞實波～。万、4111」の転訛したものか。˖シー˥ヌ　˖アーン　ベー˥ティル　ッ˖ふァー　ヨーガリ　ブー [˖ʃiː˥nu ˖ʔaːm beː˥tiru f˖fa: joːgaribuː](乳が出ないので＜ぞ＞子供は痩せているのだ)。3木の実が落ちる。˖バンスル˥ヌ　˥ナロー　˖ウー˥ムカ　˖アイルン [˖bansuru˥nu ˥naro: ˖ʔuːmu˥ka: ˖ʔairuŋ](グアバ＜蕃石榴＞の実は熟れると落ちる)。

˖アイルン [˖ʔairuŋ] 【他動】上げる。ク˖リ˥　タ˖ナヌ　ウイ　アイリ [ku˖ri˥ ta˖nanu ʔui ʔairi](これを棚の上に上げなさい)。˥ドゥーシ　˖アイルンティ　スンドゥ　アイララヌ [˥duːʃi ˖ʔairunti sundu ʔairaranu](自分で上げようとするが、上げられない)。˖ニーム˥チ　タ˖ナ˥ナ　˖アイ˥　ミサカー　˖アイル˥　クトー　˥ナルン [˖niːmu˥ʧi ta˖na˥na ˖ʔai˥ misakaː ˖ʔairu˥ kṵtoː ˥naruŋ](荷物を棚に上げてよければ上げることは出来る)。˖マー˥ビン　˖アイヤー˥　ミサムヌ [˖maː˥biŋ ˖ʔaijaː˥ misamunu](もっと上げれば良いのに)。˖パー˥ク　˖アイリ [˖paː˥ku ˖ʔairi](早く上げろ)。

˥アインドゥ　ヤ˖ル˥カー [˥ʔaindu ja˖ru˥kaː] 【連】もしも＜仮に＞そうであるなら。˖ワー˥　アズニ　˖フン˥トー　˥アインドゥ　ヤ˖ル˥カー　˥バー　˖カーヌ [˖waː˥ ʔaʤuni ˖ɸun˥toː ˥ʔaindu ja˖ru˥kaː ˥baː ˖kaːnu](君が言うように、本当にそうであるならば私は買わない)。

˖アウ [˖ʔau] 【名】青い色。青 (青。緑。紺) を含む色。˖アウティン˥ナー　˥クモー　˖ピッ˥チン　˖ナー˥ヌ [˖ʔautin˥naː ˥kumoː ˖pit˥ʧin ˖naː˥nu](青空には雲は一つもない)。˖ナーンパー˥ヤ　アウー˖アウ˥シ　グ˖ダランケー˥リ　サ˖カリ　ベー [˖naːmpaː˥ja ʔauː˖ʔau˥ʃi gu˖daraŋkeː˥ri sạ˖kari beː](菜っ葉は青々と瑞々しく生い茂っている)。

˥アウ [˥ʔau] 【名】お供 (御伴)。人に付き添うこと。˖アウ˥ヌ　ブ˖ラーン˥カー　˖タンガ˥シェー　ナ˖クラー˥ヌ　パ˖ララ˥ヌ [˖ʔau˥nu bu˖raːŋ˥kaː ˖taŋga˥ʃeː na˖kuraː˥nu pa˖rara˥nu](お供＜付き添い＞がいないと、一人では怖くて行かれ＜行け＞ない)。ヤ˖マ˥アウ [ja˖ma˥ʔau](山仕事の仲間)。イ˖ソーアウ [ʔi˖soːʔau](潮干狩りに行く仲間)。˖アウ˥ヌ　ブ˖ラーン˥カー　ナ˖クラー˥ヌ　˖タンガ˥シェー　イ˖ソー˥パ˖ララ˥ヌ [˖ʔau˥nu bu˖raːŋ˥kaː na˖kuraː˥nu ˖taŋga˥ʃeː ʔi˖soː˥pa˖rara˥nu](仲間がいないと怖くて一人では潮干狩りに行けない)。

˖アウアウ˥シ [˖ʔauau˥ʃi] 【副】青々と。強調すると、ア

ウ˹アウ˺シ [ʔau˹ʔau˺ʃi](非常に青々と) のようにアクセントが変わる。˹ウンヌパー˺ヤ　アウ˹アウ˺シ　グ˹ダランケー˺リ　ムイ˹ベー [˹ʔunnupaː˺ja ʔau˹au˺ʃi gu˹daraŋkeː˺ri mui˹beː](芋かずらの葉は青々とみずみずしく生い茂っている)。

˹アウイラブチ [˹ʔauirabutʃi] 【名】 (動) 魚の名。和名、ハゲブダイ。オオモンハゲブダイ。の総称。ブダイ科の仲間。体長 25〜30 センチの成魚がよく漁獲される。刺身や煮付けにしても美味で、蒲鉾の原料として重宝される。˺アン　ウ˹ラ˺スカー　˹アウイラブチン˺　ユー　ガ˹ラサリ˺タン [˹ʔaŋ ʔu˹ra˺suka: ˹ʔauirabutʃiŋ˺ juː ga˹rasari˺taŋ](網を仕掛ける < 下ろす > とハゲブダイもよく漁獲された)。

˹アウイル [˹ʔauiru] 【名】青色。緑色、紺色などを含む。ク˹ヌ　キン˺マー　˹アウイル˺シ　ス˹ミリ [ku˹nu kim˺ma: ˹ʔauiru˺ʃi su˹miri](この着物は青色で染めなさい)。

˹アウカリ [˹ʔaukari] 【名】青田刈り。˹青刈り」の転訛。作物が十分に熟しないうちに刈り取ること。˹マイヌ　ウーミキサン˺ケン　˹アウカリ　シェー˺ティル　ム˹ミ˺ナー　˹アウシジヌ˺　マ˹ザー˺リ　˹ブー˺パジ [˹mainu ʔuːmikʲsaŋ˺keŋ ˹ʔaukari ʃeː˺tiru mu˹mi˺naː ˹ʔauʃiʤinu˺ ma˹ʤaː˺ri ˹buː˺paʤi](稲が完熟しないうちに青田刈りしたので、籾に青粒が混ざっているのだろうよ)。

˹アウガン [˹ʔaugaŋ] 【名】顔色の青いこと。青ざめたもの。顔面蒼白のもの。ヤ˹ミ˺ル　シ˹タ˺ユー　˹アウガン˺　ナリ　˹ガンドー˺レーティ　˹アー˺ク [ja˹mi˺ru ʃʲ˹ta˺juː ˹ʔaugan˺nari ˹gandoː˺reːti ˹ʔaː˺ku](病気なのか顔面蒼白になって、うなだれている)。

˹アウクー [˹ʔaukuː] 【名】食用の青色の染料。「青粉 (あおこ)」の義。戦前は蓬 (よもぎ) の葉を搗いて青汁を作り、餅粉に捏ね混ぜて緑色の青餅を作った。˹アウクーヤ　ナーン˺バ　フ˹チン˺パーシ　˹アウムチ˺　スクラ [˹ʔaukuːja naːm˺ba ɸu˹tʃim˺paːʃi ˹ʔaumutʃi˺ su˹ku˺ra](青粉がないから蓬の葉で青餅を作ろうよ)。

˹アウコージ [˹ʔaukoːdʒi] 【名】米、麦、豆などを蒸して蓆などにねかせ、それに麹菌を繁殖させたもの。味噌や醤油、地酒を造る原料とした。˹アウコージ˺　タティティ　˹ミー˺ス　スクルン [˹ʔaukoːdʒi˺ tatiti ˹miː˺su su˹ku˺ruŋ](青麹をたてて味噌を作る)。

ア˹ウサビ [˹ʔausabi] 【名】ろくしょう (緑青)。青い錆。銅の表面に生じる緑色のさび (錆) で有毒と言われていた。ア˹カガニヌ˺　サ˹ベー　アウイル　ヤッタ [ʔa˹kaganinu˺ sa˹beː ʔauiru jatta](銅 < 赤がね > の錆は青色だった)。

˹アウザムン [˹ʔauʤamuŋ] 【自動】青ばむ。青みを帯びる。˺ドゥク　ウ˹ダラ˺クカー　˺シラー　˹アウザムン [˺duku ʔu˹dara˺kukaː ˺ʃiraː ˹ʔauʤamuŋ](ひどく驚くと顔色は青ばむ)。˹ヨーガリティ˺　シラン　˹アウザミ　ベー [˹joːgariti˺ ʃiraŋ ˹ʔauʤami beː](痩せ細って顔色も青ばんでいる)。˺イルヌギティ　˹アウザム˺　クトー　˹ナー˺ヌ [˺ʔirunugiti ˹ʔauʤamu˺ kʲuto: ˹naː˺nu](顔面蒼白になって < 顔色が抜けて > 青ばむことはない)。

˹アウシース [˹ʔauʃiːsu] 【名】(植) 青紫蘇。˹アウシースーヤ˺　キ˹ザミティ˺　ナ˹マ˺シナ　カ˹ケー˺シティ　ッ˹ふー˺カー　ン˹マー˺ン [˹ʔauʃiːsuːja˺ ki˹ʤamiti˺ na˹ma˺ʃina ka˹keː˺ʃʲiti f˹fuː˺kaː ʔm˹maː˺ŋ](青紫蘇は刻んで刺身に混ぜて食べると美味しい)。

˹アウシジ [˹ʔauʃiʤi] 【名】静脈が膨らみ、浮き出たもの。青筋。˹アウシル [˹ʔauʃiru](静脈) ともいう。˹パン˺ヌ　˹アウシジヌ˺　フ˹クリ˺　ンジティ　ナ˹クラーント ダー [˹pan˺nu ˹ʔauʃiʤinu˺ ɸu˹kuri˺ ʔuʤiti na˹kuraːnˈdaː](足の静脈が膨らんで浮き出て恐いよ)。

˹アウシタダリ [˹ʔauʃitadari] 【副】瑞々しくたわわに。たわわな、滴るような瑞々しい緑色。フ˹ナ˺ボー　˹アウシタダリ　スン˺ケン　˺ナリ　ッ˹サー˺リ˹ベー [ɸu˹na˺boː ˹ʔauʃitadari suŋ˺ken ˺nari s˹saː˺ri ˹beː](蜜柑 < 九年母 > は滴るような瑞々しい緑色をなして、たわわに実っている)。˹ゴーヤー˺ヤ　˹アウシタダリ　スン˺ケン　˺ナリ　ッ˹サー˺リティ　˺アイニ　ン˹マーン˺ギサワレー [˹goːjaː˺ja ˹ʔauʃitadari suŋ˺ken ˺nari s˹saː˺riti ˺ʔaini ʔm˹maːŋ˺gisawareː](ゴーヤー < 苦瓜 > は滴るような瑞々しい緑色をして、なんと < そんなに > 美味しそうなことよ)。

˹アウシタ˺ダル [˹ʔauʃita˺daru] 【副】生臭さを衣類や肌に染み込ませているさま。じめじめして汗臭く、鮮魚の生臭さが染み付いたさま。「青滴り」の転訛したものか。カツオ節製造工場の職人たちが持つ臭気。コー˹ネー˺　アイニ　˹アウシタ˺ダル　˹シェー˺ティ　˹アーカン˺ドーシ　˹キン˺マー　ア˹ライ˺　キ˹シ˺バ [koː˹neː˺ ʔaini ˹ʔauʃʲita˺daru ˹ʃeː˺ti ˹ʔaːkan˺doːʃi ˹kim˺ma: ʔa˹rai˺ kʲ˹ʃi˺ba](坊ちゃん、あんなに薄汚れした、じめじめした格好をしていないで、着物は洗濯して着なさいよ)。

˹アウジル [˹ʔauʤiru] 【名】静脈。血管。青筋。「青弦」

の義。パ˞ダ˥ヌ　ッ˞ソー　ベー˥ティ　˞アウジロー˥　ミ˞ラリ˥ブー [pa˞da˥nu s˞so: be:˥ti ˞ʔaudʒiro:˥ mi ˞rari˥bu:](肌が白いので静脈が見えている)。

˞アウ˥タ [˞ʔau˥ta] 【名】(動) カエル (蛙)。濃緑の体色をもつ小型の蛙もいるが名称は不明。˞アウタ˥ヌ　ナ˞ク˥カー　ア˞ミ˥ヌ　フーン [˞ʔauta˥nu na˞ku˥ka: ʔa˞mi˥nu ˥ɸu:ŋ](蛙が鳴いたら雨が降る) 蛙を食べる習慣はなかったが、煎じ薬として食することはあった。

˞アウ˥ダ [˞ʔau˥da] 【名】もっこ (畚)。藁縄を網状に編んで、その四隅に吊り紐をつけ、芋や大根、南瓜などの農産物　または肥料や土などを運搬するのに用いる農具。「あうだ (篋輿)」、「Auoda. アヲダ (籠). 担架に似た一種の簡易寝台で〜」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。˞アイ˥ク [˞ʔai˥ku](おふご。「枕、和名阿布古 < あふこ >、杖名也」『和名抄』の転訛) の前方と後方に吊るして農産物を運ぶ農具。前後一対の畚に入れた荷を、プ˞スカタ˥ミ [pu̥˞sukata˥mi](一荷) という。一方だけでは、カ˞タ˥ティー [kḁ˞ta˥ti:](片手) といい、前方の荷が重いことを、˞マイ˥ニー [˞mai˥ni:](前荷) という。˞ウン˥マー　˞アウ˥ダナ　イ˞リティル˥　カ˞タ˥ミ　˞クー˥タ [˞ʔum˥ma: ˞ʔau˥dana ʔi˞ritiru˥ ka˞ta˥mi ˞ku:˥ta](芋は、もっこに入れて担いで来た)。シ˞キゴイ　アウ˥ダナ　イ˞リティ˥　カ˞タ˥ミ [ʃi̥˞kigoi ʔau˥dana: ʔi˞riti˥ kḁ˞ta˥mi](堆肥をもっこに入れて担げ)。

˞アウター [˞ʔauta:] 【名】青田。稲が青々と生い茂っている田圃。˞アウター˥ナ　˞ペー˥リ　˞トーサ˥　トゥルンティ　˞ベー [˞ʔauta:˥na ˞pe:˥ri ˞to:sa˥ turunti ˞be:](稲の生い茂った青田に入って田草を取ろう < 除草しよう > といている)。

˞アウダキ [˞ʔaudaki] 【名】青竹。ナ˞マ˥タキ [na˞ma˥taki](生竹) ともいう。˞アウダキバ˥　バ˞リティ˥　バター　˥サキティトゥリ　カー˞カーニ˥シ　˞バー˥ケー　ス˞クル˥タ [˞ʔaudakiba˥ ba˞riti˥ bata: ˥sḁkituri ka:˞ka:ni˥ʃi ˞ba:˥ke: su̥˞kuru˥ta](青竹を割って内皮を裂き除き、表皮だけで竹笊は作った)。

˞アウタ˥ヌ　ッ˞ふァ [˞ʔauta˥nu f˞fa] 【連】(動) オタマジャクシ。「蛙の子」の義。˞ター˥ナー　˞アウタ˥ヌ　ッ˞ふァヌ˥　キ˞モーッ˥サ　ウイ˞ベー˥ン [˞ta:˥na: ˞ʔauta˥nu f˞fanu˥ ki˞mo:s˞sa ʔui˞be:˥ŋ](田圃にはオタマジャクシガ気持ちよさそうに泳いでいる)。

˞アウタムヌ [˞ʔautamunu] 【名】青い薪。生木の薪。生木を約 30 センチの長さに切って斧で割った薪。「青炊き物」の転訛したものか。サ˞リタムヌ [sa˞ritamunu](枯れた薪。枯れ木を割って薪としたもの) の対義語。ナ˞マタム˥ヌ [na˞matamu˥nu](生木の薪) ともいう。˞アウタムノー˥　タ˞ム˥ヌダナヌ　˞ウイ˥ナ　˞ヌーシティ　カン˥ソー　シ˞ミリ˥バ [˞ʔautamuno:˥ ta˞mu˥nudananu ˞ʔui˥na ˞nu:ʃi̥ti kan˥so: ʃi˞miri˥ba](生木の薪は薪棚の上に乗せて乾燥させなさい)。

˞アウダン [˞ʔaudaŋ] 【名】おうだん (黄疸)。皮膚や粘膜その他の組織が黄色になる症状。˥ドゥーパダ　ムー˞ル　アウダン˥　ナリ　˞ベー˥ヌ　˞ヌー˥ヌ　˞ヤン˥マイカヤー [˥du:pada mu:˞ru ʔaudan˥ nari ˞be:˥nu ˞nu:˥nu ˞jam˥maikaja:](体全体黄疸になっているが、何の病気かね)。

˞アウッサー˥ン [˞ʔaussa:˥ŋ] 【形】生臭い。「青臭い」の義。魚や豚などの肉の生臭さなどについていう。カ˞ツ˥　バ˞ザイティ˥　キンナー　ナ˞マ˥カザ　ス˞マリティ　アウッサー˥ヌ　キ˞サラヌ [ka˞tsu˥ ba˞ʤaiti˥ kinna: na˞ma˥kaʤa su˞mariti ʔaussa:˥nu ki˞saranu](鰹を捌いて着物に生臭さがしみ込んで < 染まって > 生臭くて着れない)。

˞アウッサリ˥カザ [˞ʔaussari˥kaʤa] 【名】生臭い匂い。˞シーゾー˥ヤー　˞ペー˥ルカー　カ˞ツヌ　アウッサリカザ˥ヌ　シ˞タントダー [˞ʃi:ʤo:˥ja: ˞pe:˥ruka: kḁ˞tsunu ʔaussarikaʤa˥nu ʃi̥˞tanˈda:](鰹節製造工場に入るとカツオの生臭い匂いがしたものだよ)。ナ˞マイズ˥ヌ　˞アウッサリ˥カザー　ウ˞ティラン˥バン˞ナー [na˞maizu˥nu ˞ʔaussari˥kaʤa: ʔu˞tiram˥ban ˞na:](魚の生臭さは　消えないねえ < 落ちないねえ >)。

˞アウッサリ˥ムヌ [˞ʔaussari˥munu] 【名】生臭いもの。魚などの生臭いもの。トゥ˞カ˥ザーイゾー　˥メー　イ˞チバン˥ヌ　˞アウッサリ˥ムヌ [tu̥˞ka˥ʤa:ʔiʤo:˥me: ʔi˞tʃiban˥nu ˞ʔaussari˥munu](カンランハギは、もう、一番の生臭いもの < 魚 > だ)。

˞アウティンゾー [˞ʔautinʤo:] 【名】青空のみえる天井。「青天井」の転訛したもの。˞タイ˥フーナ　˞カー˥ラ　トゥ˞バサリティ　アウティンゾー˥　ナ˞リ˥ブー [˞tai˥ɸu:na ˞ka:˥ra tu˞basariti ʔautinʤo:˥ na ˞ri˥bu:](台風で屋根瓦が飛ばされて青い空が見える天井 < 青天井 > になっている)。˞アウティン [˞ʔautiŋ](青空)。

˞アウトゥー [˞ʔautu:] 【名】青い海。青海原。深海。外海。「青、緑、紺」を含む色合いの深海。カ˞ツシンマー　アウトゥー˥　フ˞カ˥トーラル　カ˞ツォー　˞ホー˥シクー [kḁ˞tsuʃimma: ʔautu:˥ ɸu̥˞ka˥to:raru kḁ˞

tso: ho:˺ʃiku:](鰹船は外海から＜ぞ＞鰹を釣ってくる)。

˖アウナキ [˖ʔaunaki] 【名】猫が薄気味悪い声で鳴くこと。何か悪いことの起こる予兆として嫌われた。マ˖ヤ˺ヌ ˖アウナキ シーベー˺ヌ ˺ヌーッカヤー [ma˖ja˺nu ˖ʔaunaki ʃi:be:˺nu ˺nu:kkaja:](猫が気味悪い鳴き方をしているが、何だろうか)。

˖アウナ˺ジ [˖ʔauna˺ʤi] 【名】(動) サキシマアオヘビ。「青く長いもの」の義。青色をした体長約 60 センチの無毒の蛇。˖アウナ˺ジェー ˖マーパブン˺ カタチニ˺ ドゥコー ˖ナー˺ヌ [˖ʔauna˺ʤe: ˖ma:pabuŋ ˺kạtatʃini ˺duko: ˖na:˺nu](アウナジは毒蛇のように毒を持っていない。＜毒はない＞)。

˖アウナスン [˖ʔaunasuŋ] 【他動】容器を空にする。一つの容器から他の容器へ内容物を全部移してしまう。あける。˺ティル ˖アウナスンティ スンドゥ アウナサラヌ [˺tiru ˖ʔaunasunti sundu ʔaunasaranu](笊を空にしようとするが、空に出来ない)。ク˖ヌ˺ ティロー ˖アウナシティ ウン˺ナー ビ˖チ˺ヌ ウン ˺フナイバ [ku˖nu˺ tiro: ˖ʔaunaʃiti ʔun˺na: bi˖ʧi˺nu ʔuŋ ˺ɸunaiba](この笊は空にして、それに別の芋を押し込んで入れなさい)。˖アウナス˺ ティロー ˖パー˺ク ˖アウナシ˺バ [˖ʔaunasu˺ tiro: ˖pa:˺ku ˖ʔaunaʃi˺ba](空にする笊は早く空にしなさいよ)。˖アウナシェー˺ ミサムヌ [˖ʔaunaʃe:˺ misamunu](容器を空にすれば良いのに)。ミ˖ジェー˺ カミナー イ˖リティ タン˺グ ˖アウナスンティ スンドゥ アウナサラヌ [mi ˖ʤe:˺ kamina: ʔi˖riti taŋ˺gu ˖ʔaunasunti sundu ʔaunasaranu](水は甕に入れて、たご＜担桶＞を空にしようとするが、担桶を空にできない＜され＞ない)。ク˖ヌ ウー˺ケー ˖アウナシ˺ ミサカー ˖アウナス˺ クトー ˺ナルン [ku˖nu ʔu:˺ke: ˖ʔaunaʃi˺ misaka: ˖ʔaunasu˺ kụto: ˺naruŋ](この桶は空にしてよければ空にすることはできる)。˖アウナシェー˺ ミサムヌ [˖ʔaunaʃe:˺ misamunu](空にすればいいのに)。ク˖ヌ˺ パ˖コー パー˺ク ˖アウナシ [ku˖nu˺ pạ˖ko: pa:˺ku ˖ʔaunaʃi](この箱は早く空にしなさい)。

˖アウナル [˖ʔaunaru] 【名】青い実。青い果実。未熟な実 (果実)。˖バンスル˺ヌ ˖アウナロー˺ フ˖チスボー˺ン [˖bansuru˺nu ˖ʔaunaro:˺ ɸụ˖ʧisubo:˺ŋ](ばんじろう＜蕃石榴・グアバ＞の青い実＜未熟な実＞は渋い)。

˖アウヌール [˖ʔaunu:ru] 【名】 (植)1アオノリ (青海苔)。アオゴケ (青苔)。ミ˖ナ˺カー ˖アウヌールバ˺ フイ ア˖ラカラ˺ヌ [mi˖na˺ka: ˖ʔaunu:ruba˺ ɸui ʔa˖rakara˺nu](庭は青苔が生えて歩けない)。2雨雲。˖ティンマー˺ ッふォーッ˖ふォー˺シ ˖アウヌールヌ ˺ カ˖カ˺リティ ˖ウーアミヌ フイン˺ギサーッサー [˖timma:˺ ffo:f˖fo:˺ʃi ˖ʔaunu:runu kạ˖ka˺riti ˖ʔu:ʔaminu ɸuiŋ˺gisa:ssa:](空は真っ黒に＜黒々＞雨雲がかかって大雨が降りそうだよ)。

˖アウヌン [˖ʔaunuŋ] 【自動】容器が空になる。手がすく (空く)。他の容器へ内容物が全部移されてしまう。ミ˖ジカメー アウネーン˺カヤー [mi˖ʤikame: ʔaune:ŋ˺kaja:](水甕は空になったかなあ)。ク˖ヌ˺ カメー マ˖ダ アウナヌ [ku˖nu˺ kame: ma˖da ʔaunanu](この甕はまだ空にならない)。プ˖スッ˺コー ˖アウヌン˺ パジ [pụ˖suk˺ko: ˖ʔaunum ˺ paʤi](水瓶一個は空くはずだ)。プ˖スッ˺コー ˖アウニナー˺ヌ [pu˖suk˺ko: ˖ʔaunina:˺nu](一個は空になってしまった)。˖ワー ティー˺ヌ ˖アウネー˺カー ˺バー ˖テー˺ナイ ˖シー˺ヨー [˖wa: ti:˺nu ˖ʔaune:˺ka: ˺ba: ˖te:˺nai ˖ʃi:˺jo:](君は、手が空いたのなら私の手伝いをしろよ)。˖ティー˺ヤ ˖アウネー˺ ミサムヌ [˖ti:˺ja ˖ʔaune:˺ misamunu](手が空けば良いのに)。

˖アウヌン [˖ʔaunuŋ] 【自動】 1手が空く。暇になる。ク˖ヌ˺ シ˖グトゥ˺ ウ˖チナ˺スカー ˖ティー˺ヤ ˖アウヌンドゥ˺ マ˖ナ˺マー ˖アウナヌ [ku˖nu˺ ʃi˖gutu˺ ʔu˖ʧina˺suka: ˖ti:˺ja ˖ʔaunundu˺ ma˖na˺ma: ʔa˖unanu](この仕事を終えると手は空くが、今は手が空かない)。˖ティー˺ヤ ˖アウニ ブー [˖ti:˺ja ˖ʔauni bu:](手は空いている)。˖ティー˺ヌ ˖アウヌ˺ プ˖ソー テー˺ナイ ˖シー˺バ [˖ti:˺nu ˖ʔaunu˺ pụ˖so: te:˺nai ˖ʃi:˺ba](手の空く人は手伝いしなさいよ)。2懐妊していない (˖腹が空の状態である」の比喩的表現)。˺バター ˖アウニ ブー [˺bata: ˖ʔauni bu:](お腹は空いている＜妊娠していない＞)。

˖アウパー [˖ʔaupa:] 【名】青い葉。青葉。ヤ˖サイ˺ヌ サ˖リパーヤ˺ シ˖ティティ アウパータン˺ガ ˺トゥリクーバ [ja˖sai˺nu sa˖ripa:ja˺ ʃị˖titi ʔaupa: taŋ˺ga: ˺turiku:ba](野菜の枯れ葉は捨てて、青葉だけ持って来いよ)。

˖アウパーオンギ [˖ʔaupa:ongi] 【名】「青葉扇」の義。ビロウ (蒲葵) の生の葉で作った団扇。死人が出たときにのみ作って用いた。死人が出るとすぐビロウの葉を切って小さな団扇を作り、蝿や蚊を追い払ったり弔問客の用に供した。それ以外では、ビロウの葉を切るのは朝 (午前中) と決まっていた。˖

アウパーオンギヌ˥　フカー　ク˞バヌパーヤ˥　ヤー˞ディン˥　シ˞トゥムティ˥ヌ　ウ˞チナー˥ル　キ˞ソーッ˥タ [˞ʔaupaːonginu˥ ɸu̥ka: ku˞banupaːja˥ jaː˞diŋ˥ ʃi̥˞tumuti˥nu ʔu˞tʃinaː˥ru ki̥˞soːt˥ta](青葉団扇の他は、クバの葉は必ず朝の内に切られた)。

˞アウバイ **[˞ʔaubai]** 【名】(動)「青蝿」の義。糞便や腐敗物に発生する大型の蝿。青黒い体色で、腹部に金色の光沢を有する。イ˞ズヌ˥　ッサルター　˞アウバイヌ˥　シディティ　ン˞カーラヌ [ʔi˞ʤunu˥ ssaruta: ˞ʔaubainu˥ʃiditi ʔŋ˞kaːranu](魚が腐れたので、青蝿が孵化して見ることが出来ない＜面と向かって正視できない＞)。˥ッサリイズナー　˞アウバイヌ˥　ダ˞カーリ　ベー [˥ssariʔiʤuna: ˞ʔaubainu˥ da˞kaːri beː](腐れた魚に青蝿がたかっている)。

˞アウバサ **[˞ʔaubasa]** 【名】(植)「青芭蕉」の義。台湾原産芭蕉の一種で、樹高の高い品種。タ˞カバ˥サー [ta˞kaba˥saː](高芭蕉) ともいう。芭蕉布の繊維をとるのに用いる芭蕉。˞アウバサー　トー˥シキー　˥カーパギ　˞ネーシティル˥　イトゥ　トゥ˞ル˥タ [˞ʔaubasa: toː˥ʃiki: ˥kaːpagi ˞neːʃitiru˥ ʔitu tu˞ru˥ta](青芭蕉は切り倒してきて皮を剥いで煮てから＜ぞ＞糸を取った)。

˞アウバトゥ **[˞ʔaubatu]** 【名】(動) アオバト (青鳩)。体は緑色。体長は家鳩と同じ大きさ。体は緑色を帯びている。家鳩に比して数は少なく限られた数しか飛来しなかった。˞アウバトー　ブー˥クトー　ブ˞レーシタヌ　ナン˥ゾー　ブ˞ラーンシェン [˞ʔaubatoː buː˥ku̥toː bu˞reːʃi̥tanu nan˥ʤoː bu˞raːŋʃeŋ](青鳩は、いることはいたが、あまりいなかった)。

˞アウパナダル **[˞ʔaupanadaru]** 【名】青洟 (あおばな)。子供が垂らす青みを帯びた鼻汁。ム˞カ˥シェー　˞アウパナダル˥　ッ˞サーラ˥ス　ヤ˞ラビ˥ヌ　˞ゴー˥ラタヌ　マ˞ナ˥マー　ミ˞ララン˥バン [mu˞ka˥ʃeː ˞ʔaupanadaru˥ s˞saːra˥su ja˞rabi˥nu ˞goː˥ratanu ma˞na˥maː mi˞raram˥baŋ](昔は青洟を垂らす子供が多かったが今は見られないよ)。

˥アウパナリ **[˥ʔaupanari]** 【名】(地) 西表島の東北、野原崎浜に近い海中にある大きな岩。「奥武離れ島」の転訛したもの。˥アウパナリティ　ア˞ズン˥トンマー　˞ギー˥　ミラン˥シェン [˥ʔaupanariti ʔa˞ʤun˥tomma: ˞giː˥ mi˞raŋ˥ʃeŋ](アウ＜奥武＞離れ島という所には行ったことがない＜行ってみなかった＞)。

˞アウパン **[˞ʔaupaŋ]** 【名】青斑 (蒙古斑)。赤子の尻に青色の斑紋がついているものをいう。ヤ˞ラビ˥ヌ　シ˞ビ˥ナ　˞アウパンバ˥　シ˞キラ˥リ　マ˞リ˥キー　˞ベー [ja˞rabi˥nu ʃi˞bi˥na ˞ʔaupamba˥ ʃi̥˞kira˥ri ma˞ri˥ki: ˞beː](子供の尻に青斑をつけられて生まれてきている)。

ア˞ウパン **[˞ʔaupaŋ]** 【名】蒙古斑。子供の尻の青いこと。ヤ˞ラ˥ベー　マ˞リ˥クー　˥ピンマー　ムー˞ル˥　シ˞ビ˥ナー　˞アウパン˥　シ˞キラリ˥ブー [ja˞ra˥beː ma˞ri˥kuː pimmaː muː˞ru˥ ʃi˞bi˥naː ˞ʔaupaŋ˥ ʃi̥˞kirari˥buː](子供は生まれてくる時には、みんな尻に蒙古斑＜青斑＞がついている＜つけられている＞)。

˞アウピー **[˞ʔaupiː]** 【名】青い火。鬼火。「青火」の義。˞ピー˥ダマ [˞piː˥dama](火玉) ともいう。シ˞チ˥ヌ　˞ユー˥ロー　パ˞カヌ˥　マンタナー　˞アウピーヌ˥　ミ˞ラ˥リンツォー [ʃi̥˞tʃi˥nu ˞juː˥roː pḁ˞kanu˥ mantanaː ˞ʔaupiːnu˥ mi˞ra˥rintsoː](節祭りの日の夜には墓の前に鬼火が見えるそうだ)。

˞アウピキ **[˞ʔaupiki]** 【名】　(動) 魚の名。和名、ルリスズメ。観賞用熱帯魚。枝珊瑚の中に棲息している。ノコギリダイを釣るときに釣り針に掛けた餌に群がり、餌を食いちぎる厄介な小魚である。˞アウピキヌ˥　ア˞ツァ˥マリティ　˞ムン˥ダニ　ッ˞ふァイ˥ナー　ナ˞ラ˥ヌ [˞ʔaupikinu˥ ʔa˞tsa˥mariti ˞mun˥dani f˞faiˆ˥naː na˞ra˥nu](ルリスズメが集まって餌を食ってたまらない)。

˞アウピナカン **[˞ʔaupinakaŋ]** 【名】　(動) 魚の名。和名、ナンヨウブダイ。˞オーバ˥チャー [˞ʔoːba˥tʃaː] という人もいるが、それは糸満方言だという。ブダイ科の魚。体型はグ˞ジラ˥フタイ [gu˞ʤira˥ɸu̥tai] に似るが、体長 60〜70 センチと、グジラフタイより小型で、濃紺の上体部とスカイブルーの下腹部の体色を示す点は異なる。˞アウピナカンヌン˥　イ˞ラブチ˥トゥ　ユ˞ヌ˥ムヌ˞ゲ˥ラ [˞ʔaupinakannuŋ˥ ʔi˞rabutʃi˥tu ju˞nu˥munu˞ge˥ra](アウピナカンもブダイと同じさ)。

˞アウフキ **[˞ʔauɸu̥ki]** 【名】顔色が青白くなること。青白いこと。顔色が抜けて白くなること。ナ˞ガヤン　スー˥　プ˞ソー　アウフキ˥　ナ˞リ˥ス [na˞gajan suː˥ pu̥˞soː ʔauɸu̥ki˥ na˞ri˥su](長期間病気すると＜長病みすると＞、人は青白い顔になる)。

˞アウフクリ **[˞ʔauɸukuri]** 【名】青膨れ。顔全体が青くむくんだ様子。体が青くむくんだ様子。˞ナーヤンバ　シーティル　ドゥー˥ヤ　˞アウフクリ　シーベー˥バン [˞naːjamba ʃiːtiru duː˥ja ˞ʔauɸukuri ʃiːbeː˥baŋ](長患い＜長病み＞をして体は青膨れしてい

るわい)。

˞アウボーダ [˞ʔaubo:da] 【名】 (動) 魚名。ブダイ科の魚。「青ぶだい」の義。和名、ナンヨウアオブダイ。シ˞ナカキ˜ヤー ˞シー アウボーダ˜ ヤ˞マシ˜カ ガ˞ラ˜シェーン [ʃi˞nakạ̊ki˜ja: ˞ʃi: ʔaubo:da˜ ja˞maʃi˜ka ga˞ra˜ʃe:ŋ](追込み漁をしてアウボーダをたくさん漁獲した)。

˞アウマミ [˞ʔaumami] 【名】 (植) 青大豆。˞アウマミ˜ ブリキー バ˞カシ ッふァー˜ディー [˞ʔaumami˜ buriki: ba˞kaʃi ffa:˜di:](青大豆を挽いできて炊いて食べようよ)。

˞アウミー [˞ʔaumi:] 【名】青みを帯びたもの。ク˞レー アウミー˜ シ˞キ˜ブンダ マ˞ダ˜ ッ˞ふァーラヌ [ku˞re: ʔaumi:˜ ʃi̥˞ki˜bunda ma˞da˜ f˞fa:ranu](これは青みがかっているから、まだ食べられない)。

˞アウミツァ [˞ʔaumitsa] 【名】青土。青い粘土。˞パイ˜タナー ˞アウミツァー アッ˜タン [˞pai˜tana: ˞ʔaumitsa: ʔat˜taŋ](南端(ハイバタ)< 西表島 > には青土はあった)。ア˞ガミツァ [ʔa˞gamitsa](赤土、赤粘土) の対語。

˞アウムシ [˞ʔaumuʃi] 【名】 (動) 青虫。芋虫など。芋の葉や菜っ葉などに発生して食害を起こす。˞ナーヌ˜パーナ ˞アウムシヌ˜ シディティ ッ˞ふァイッツァリ˜ シケー [˞na:nu˜pa:na ˞ʔaumuʃinu˜ ʃiditi f˞faittsari˜ ʃi̥ke:](菜っ葉に青虫が発生して食い散らしてある)。

˞アウムヌ [˞ʔaumunu] 【名】青いもの。青物。生もの (未熟な物)。˞ウーミ˜ムノー ˜ブリティ ˞アウムヌノー˜ ヌ˞カ˜シバ [˞ʔu:mi˜muno: ˜buriti ˞ʔaumuno:˜ nu˞ka˜ʃiba](熟れたものは挽いで、未熟のもの < 青もの > は残しなさいよ)。

˞アウムン [˞ʔaumuŋ] 【自動】青くなる。青む。ウ˞タ˜リン ˜トンマー ˞アウムン [ʔu˞ta˜rin ˜tomma: ˞ʔaumuŋ](打たれる所は青くなる < 青む >)。マ˞ダ アウマヌ [ma˞da ʔaumanu](まだ青くならない)。˞カイ˜リティ ヤ˞マシ˜タ ス˞ブシェー シンダイ アウミ˜キー ˞ナー˜ヌ [˞kai˜riti ja˞maʃi̥˜ta su˞buʃe: ʃindai ʔaumi˜ki: ˞na:˜nu](転んで痛めた膝は次第に青みがかってきた)。

˞アウヤサイ [˞ʔaujasai] 【名】青野菜。ナ˞チ˜ナルカー ˞アウヤサイヌ ナーン˜ナルンダ ˞ウンヌパー˜バル ˞アウヤサイ ソーッ˜タ [na˞tʃi˜ naruka: ˞ʔaujasainu na:n˜ narunda ˞ʔunnupa:ba˜ru ˞ʔaujasai so:t˜ta](夏になると青野菜が無くなるので、芋の葉を青野菜にされた)。

˞アウ˜リ [˞ʔau˜ri] 【名】1難儀苦労。˞アウ˜リ ˞スン [˞ʔau˜ri ˞suŋ](苦労をする)。˞アウリ˜ヌ ˞ゴー˜カジ ˞シーミッ˜タン [˞ʔauri˜nu ˞go:˜kaʤi ˞ʃi:mit˜taŋ](難儀苦労のありったけをしてみた < 経験した >)。2気の毒なさま。かわいそうなさま。あわれな。/フンヌヨー アワリヌ ミチヤリバ ニシカイ ンカユティ キョーモンバ ユミ (誠に無常の道 < あわれな人生 > であるから 西に向かって経文を読み、)/「ニンブツァー (念仏歌)。シザヌクイ (兄の歌 < 声 >)」。

˞アウ˜ルン [˞ʔau˜ruŋ] 【他動】あおる (煽る)。団扇で風を起こす。煽ぐ。˞オン˜グンとも言う。˞オン˜ギシ ˞アウ˜ルン [˞ʔoŋ˜giʃi ˞ʔau˜ruŋ](扇で煽る)。˞アウラ˜ヌ [˞ʔaura˜nu](煽がない)。˞アウリ˜プサン [˞ʔauri˜pusaŋ](煽ぎたい)。˞アウ˜ル プ˞ソー˜ ブ˞ラーヌ [˞ʔau˜ru pu̥˞so:˜ bu˞ra:nu](煽ぐ人はいない)。˞マー˜ビン ˞アウ˜レー ˜ミサムヌ [˞ma:˜biŋ ˞ʔau˜re: ˜misamunu](もっと煽げば良いのに)。˜ドゥーシ ˞アウ˜リバ [˜du:ʃi ˞ʔau˜riba](自分で煽げ)。

˞アウン [˞ʔauŋ] 【自動】1実が完熟して落ちる。˞アイルン [˞ʔairuŋ](実が落ちる) の項参照。フ˞ナ˜ブン ˞バン˜スルン ˞ウーミ˜タルカー ˞アウンドゥ ウーマン˜カー ˞アーヌ [ɸu˞na˜bum ˞ban˜suruŋ ˞ʔu:mi˜taruka: ˞ʔaundu ʔu:maŋ˜ka: ˞ʔa:nu](九年母もグアバも完熟したら落ちるが、熟れないと落ちない)。˞アイルン [˞ʔairuŋ](木の実が熟れて落ちる) と同じ。2乳が出る。˞シー˜ヤ イッ˞ケン アウン [˞ʃi:˜ja ʔik˞keŋ ʔauŋ](お乳は非常によく出る)。ン˞マー˜ムヌ ˞ジーシキ˜ムヌ ッ˞ふァイティ˜ シー ˞アーシ [ʔm˞ma:˜munu ˞ʤi:ʃi̥ki˜munu f˞faiti˜ ʃi: ˞ʔa:ʃi](美味しいもの、滋養のあるものを食べて母乳を出しなさい)。3膿が出る。ン˞バイムヌ˜ ッ˞ふー˜カー ア˞シ˜ボー ˞ウー˜ミティ ˞アウン [ʔm˞baimunu˜ f˞fu:ka:˜ ʔa˞ʃi˜bo: ˞u:˜miti ˞ʔauŋ](傷に悪い物を食べるとがお出来は化膿して膿が出る)。

˞アウン [˞ʔauŋ] 【他動】上げる。挙げる。揚げる。「上ぐ (下二段)」の転訛したもの。˞アイルン [˞ʔairuŋ](上げる) ともいう。˞タンガ˜シ ˜フニ ˞アウンティ スンドゥ アイララヌ [˞taŋga˜ʃi ˜ɸuni ˞ʔaunti sundu ʔairaranu](一人で舟を揚げようとするが揚げられない)。˜フニ ˞アイ˜ ミサンティバ ˞アウ˜ プ˞ス˜ タ˞ナ˜ミ ˜クー [˜ɸuni ˞ʔai˜ misantiba ˞ʔau˜ pu̥ ˞su˜ ta˞na˜mi ˜ku:](舟を陸揚げしてよいというから、揚げる人を頼んできなさい)。˜バー ˞アーヌ [˜ba: ˞ʔa:nu](私は揚げない)。˜ティー ˞アイヤー˜ ミサ

ムヌ [˞ti: ˞ʔaija:˞ misamunu](手を上げれば良いのに)。˞パー˞ク　˞アイ˞バ [˞pa:˞ku ˞ʔai˞ba](早く上げなさい)。ク˞レー　アウナ [ku˞re: ʔauna](これは上げるな)。˞アウプス [˞ʔaupusu](上げる人)。

˞アウン [˞ʔauŋ] 【自動】喧嘩する。争う。「闘、タゝカフ・アフ」『類聚名義抄』の転訛したもの。ヤ˞ラ˞ビ　˞シェーン˞ケンマー　˞キョーダイ˞サ　˞ザーン˞ナリ　˞ユー　˞アウ˞タン [ja˞ra˞bi ˞ʃe:ŋ˞kemma: ˞kjo:dai˞sa ˞ʤa:n˞nari ˞ju: ˞ʔau˞taŋ](子供の頃は兄弟同士でよく喧嘩した)。

˞アウン [˞ʔauŋ] 【自動】1会う。二つのものが合致する。マ˞ルケーティ˞ナー　ドゥ˞シトゥ˞　アウンティ　˞パッタン˞ドゥ　˞アーラン˞シェンツォー [ma˞ruke:ti˞na: du˞ʃitu˞ ʔaunti ˞pattan˞du ˞ʔa:raŋ ˞ʃentso:](たまに＜偶に＞友人に会うといって出かけて行ったが会えなかったそうだ)。˞アイ˞　プサカー　˞アウ　˞クトー　ナルン˞ダー [˞ʔai˞ pu̥saka: ˞ʔau ˞ku̥to: narun˞da:](会いたければ会うことは出来るよ)。˞アイ˞ヤー　˞ミサムヌ [˞ʔai˞ja: ˞misamunu](会えばいいのに)。ヤー˞ディン˞　アイ [ja: ˞diŋ˞ ʔai](必ず会え)。2似合う。調和する。釣り合う。ク˞ヌ　キン˞マー　˞ワー˞ナー　˞アー˞ヌ [ku˞nu kim˞ma: ˞wa:˞na: ˞ʔa:˞nu](この着物は君には似合わない)。

˞アウンタールン [˞ʔaunta:ruŋ] 【自動】青む。青くなる。青ざめる。青ばむ。青みをおびる。ウ˞ブミジ˞ヌ　˞カン˞ヌ　ク˞ム˞ロー　フ˞カー˞ンダ　アウー˞アウー˞シ　˞アウンターリティ˞　ナ˞クラーン˞ダー [ʔu ˞bumiʤi˞nu ˞kan˞nu ku˞mu˞ro: ɸu̥˞ka:˞nda ʔau:˞ʔau: ˞ʃi ˞ʔaunta:riti˞ na˞kura:n˞da:](大見謝川の川上の池＜籠り＞は深いから水面は青々と青みがかって怖いよ)。˞ナーヤン　スー˞カー　˞シラー　˞アウンタールンドゥ　ワーヤ　ピッ˞チン　˞アウンターランバン˞ナー [˞na:jan su:˞ka: ˞ʃira: ˞ʔaunta:rundu wa:ja pit˞ʧiŋ ˞ʔaunta:ramban˞na:](長患い＜長病み＞すると顔は青むが、君はちっとも青まないんだねえ)。˞アウンターリ　ナー˞ヌ [˞ʔaunta:ri na:˞nu](青ばんでしまった)。シ˞ラ˞ヌ　˞アウンタール˞　バソー　˞キー˞　シ˞キ˞リ [ʃi˞ra˞nu ˞ʔaunta:ru˞ baso: ˞ki:˞ ʃi̥˞ki ˞ri](顔が青ばむ時は気をつけなさい)。

˞アオー˞ン [˞ʔao:˞ŋ] 【形】青い。緑色である。紺色である。ク˞ヌ　バン˞スロー　˞アオー˞ンダー　ブ˞ラン˞モー　マ˞シ [ku˞nu ban˞suro: ˞ʔao:˞nda: bu˞ram ˞mo: ma˞ʃi](この蕃ざくろは青いから捥がないほうがいい)。˞アオー　ナー˞ヌ [˞ʔao: na:˞nu](青くない)。˞アオー˞　ナルン [˞ʔao:˞ naruŋ](青くなる)。˞アオー˞　ムヌ [˞ʔao:˞ munu](青い物)。

˞アカ [˞ʔaka] 【名】淦(あか)。船底に溜まった水。フ˞ニ˞ヌ　˞アカ　˞トゥリ [ɸu˞ni˞nu ˞ʔaka ˞turi](舟の淦を汲み取れ)。ク˞ヌ˞　ッ˞ふァー　サッ˞コー　˞ビー˞ラーンダ　フ˞ニ˞ヌ　˞アカ　フ˞タイ˞ナー　マ˞ミシミル˞カー　˞ミサナルンヨ [ku˞nu˞ f˞fa: sak˞ko: ˞bi:˞ra:nda ɸu˞ni˞nu ˞ʔaka ɸu̥˞tai˞na: ma˞miʃimiru˞ka: ˞misanaruŋjo](この子は非常に病弱だから船の淦を額に塗って貰うと良くなるよ)。

˞アカ [˞ʔaka] 【名】髪。頭。ヤ˞ナ˞ムノー　˞アカナーン　˞ドゥーナーン　シ˞キ˞シミ　タ˞ボーン˞ナ [ja˞na˞ muno: ˞ʔakana:n ˞du:na:ŋ ʃi̥˞ki˞ʃimi ta˞bo:n˞na](悪いもの＜魔物。妖怪＞は髪にも体にも付けさせないでください＜付けさせ賜るな＞)。

ア˞ガ [ʔa˞ga] 【接頭】まる～。素っ～。まったくの～。名詞に上接してそれを強調表現する。ア˞ガパダカ [ʔa˞gapadaka](素っ裸)。ア˞ガッふァー˞マ [ʔa˞gaffa: ˞ma](赤子。まったくの子供)。ア˞ガプリムヌ [ʔa ˞gapurimunu](おお馬鹿もの。全くの馬鹿者)。ア˞ガパジ [ʔa˞gapadʒi](赤恥、あかっぱじ)。ウ˞ヌ　シー˞ヨーシェー　マッ˞タキ˞　ア˞ガッふァー˞マ　ア˞ラン˞ノー [ʔu˞nu ʃi:˞jo:ʃe: mat˞taki˞ ʔa˞gaffa:˞ma ʔa˞ran˞no:](この様子＜仕方＞では全くの赤子同然ではないか)。ア˞ガピッチンマーンツァン˞　ッ˞ふィーラヌ [ʔa˞gapittʃimma:ntsaŋ˞ f˞fi:ranu](たったの一つすら呉れない)。

ア˞ガ [ʔa˞ga] 【接頭】赤色。ア˞ガキン [ʔa˞gakiŋ](赤い着物)。ア˞ガムノー˞マ [ʔa˞gamuno:˞ma](「火」の隠語)。ア˞ガキー [ʔa˞gaki:](赤毛)。ア˞ガキン˞　キ˞シティ˞　ヨイ　˞ソー˞ルン [ʔa˞gakiŋ˞ ki̥˞ʃiti˞ joi ˞so:˞ruŋ](赤い着物を着てお祝いをなさる)。

ア˞ガ˞ー [ʔa˞ga˞:] 【感】あいた。ああ痛い。痛い時、不意に発する声。ア˞ガ˞ー　˞ヌーンティ˞　プ˞ス˞　タ˞タック˞ワ [ʔa˞ga˞: ˞nu:nti˞ pu̥˞su˞ tḁ˞takku˞wa](あいた! 何故他人を叩くのか)。ア˞ガー˞　プ˞スヌ˞　パン　˞フンクナ [ʔa˞ga:˞ pu̥˞sunu˞ paŋ ˞ɸuŋkuna](あいた! 他人の足を踏みつけるな)。

ア˞ガーアガー˞シ [ʔa˞ga:ʔaga:˞ʃi] 【副】真っ赤に。赤々と。赤いことの強調表現。ABCABC 型の畳語。˞キンナー　ア˞ガーアガーヌ　シーヌ˞　マ˞マリベー [˞kinna: ʔa˞ga:ʔaga:nu ʃi:nu˞ ma˞mari be:](着物に真っ赤な血が塗られている)。

アガー˞ムイ˞サン [ʔaga:˞mui˞saŋ] 【形】痛がりやである。痛がる。少しの傷みも大げさに痛がる。˞アガ

ー [ˈʔagaː](痛い < 感 >) に接尾語ˈムイˈサン [ˈmuiˈsaŋ](〜がる <「思いさ・アリ」で、話し手以外の人の状態を表す >) が付いて形成された派生形容詞。ウˈレー　サッˈコー　アガーˈムイˈサンダ　ンˈメーマヌˈ　クトゥシン　アˈガーアガーˈティ　ウˈヤーˈルン [ʔuˈreː sakˈkoː ʔagaːˈmuiˈsanda ʔmˈmeːmanuˈ ku̥tuʃiŋ ʔaˈgaːʔagaːˈti ʔuˈjaːˈruŋ](彼は非常な痛がりやだから、少しのことでも痛い痛いといってわめく < 大声を出す >)。ˈピッˈチン　アガーˈムイサナーˈヌ [ˈpitˈʧiŋ ʔagaːˈmuisa naːˈnu](ちっとも痛がりやではない)。

アˈガーˈン [ʔaˈgaːˈŋ] 【形】赤い。朱、だいだい、桃色、赤茶色も含めた色。形容詞の語幹アˈガ [ʔaˈga](赤) に存在動詞ˈアン [ˈʔaŋ](在る) が下接して形成された語。ˈグジキーヌ　パナー　アˈガーˈン [ˈguʤiki:nu ˈpana: ʔaˈgaːˈŋ](デイゴの花は赤い)。クˈレー　ナンˈゾー　アˈガーナーˈヌ [kuˈreː nanˈʤoː ʔaˈgaːnaːˈnu](これはあまり赤くない)。ˈシンダイˈ　アˈガーˈ　ナルン [ˈʃindaiˈ ʔaˈgaːˈ naruŋ](次第に赤くなる)。アˈガーˈ　ムノーラ　イˈラˈビ　ˈトゥリ [ʔaˈgaːˈ munoːra ʔiˈraˈbi ˈturi](赤いものから選んで取れ)。ˈマー　ンˈベーマˈ　アˈガーˈカー　シゥˈカーリン [ˈmaː ʔmˈbeːmaˈ ʔaˈgaːˈkaː si̥ˈkaːriŋ](もう少し赤かったら使える)。

アˈガアーガイ [ʔaˈgaʔaːgai] 【名】(動) 魚の名。ひぶだいの一種。アˈガアーガイヤˈ　ナˈマˈシ　ˈスーバンˈ　ンˈマーˈン [ʔaˈgaʔaːgaijaˈ naˈmaˈʃi ˈsuːbamˈ ʔmˈmaːˈŋ](アガアーガイは刺身にしても美味しい)。

アˈガアール [ʔaˈgaʔaːru] 【名】(動) アカアリ。ˈサタカミナー　アˈガアールヌˈ　アˈツァˈマリ　ˈベー [ˈsḁtakamina: ʔaˈgaʔaːrunuˈ ʔaˈtsaˈmari ˈbeː](砂糖甕には赤蟻が集まっている)。

アˈガイー [ʔaˈgaʔiː] 【名】赤飯。「あかいひ (赤飯)」の転訛したもの。昔はアˈガマミ [ʔaˈgamami](小豆) を加えて米飯を炊き、赤飯にしたが、戦後は食紅を入れて赤飯を炊いた。祝儀や正月には赤飯を炊いて祝った。女の子が初潮をみると赤飯を炊いて祝ってやった。ˈアツァー　ˈニューガクˈシキ　ヤˈリバˈ　アˈガイーˈ　バˈカシˈ　ッˈふァーサˈナー [ˈʔatsaː ˈɲuːgakuˈʃi̥ki jaˈribaˈ ʔaˈgaʔiːˈ baˈkaʃiˈ fˈfaːsaˈnaː](明日は入学式だから赤飯を炊いて食べさせようね)。アˈガイーˈ　バˈカシティ　ゴーカクヨイ　サーˈディー [ʔaˈgaʔiːˈ baˈkaʃi̥ti goːkakujoi saːˈdiː](赤飯を炊いて合格祝いをしよう)。

アˈガイカ [ʔaˈgaʔika] 【名】(動) 赤烏賊。イˈガメーˈン　ˈゾーˈルカー　イˈガバーキヌ　ピッˈチン　アˈガイカ　ホーˈソーッタン [ʔigaˈmeːˈ ʔnˈʤoːˈrukaː ʔiˈgabaːkinu pitˈʧiŋ ʔaˈgaʔika hoːˈsoːttaŋ](烏賊釣り漁に出られると烏賊をを入れる竹笊の一杯烏賊を釣られた)。

アˈガイズ [ʔaˈgaʔiʤu] 【名】(動) 魚の名。和名、ウケグチイットウダイ (体長約 25 センチ)。和名、ホシエビス (体長約 25 センチ) にもいう。アˈガイゾーˈ　ムˈチイズ　ニーブ [ʔaˈgaiʤoːˈ muˈʧiʔiʤu niːbu](アガイズはムチイズ < のこぎりだい > に似ている)。

アˈガイトゥ [ʔaˈgaitu] 【名】赤糸。赤い糸。アˈガイトゥˈシ　ˈキンナ　ˈナーフダˈ　ヌイ　ˈシケー [ʔaˈgaituˈʃi ˈkinna ˈnaːɸudaˈ nui ˈʃi̥keː](赤糸で着物に名札を縫い付けてある)。

ˈアガイヤ [ˈʔagaija] 【感】ああ残念。あらまあ。おやまあ。あれまあ。意外に感じた時に発する声。ˈアガヤー　ˈワール　ˈクーターˈ　アˈボーˈル　ˈオーˈルカヤーティ　ˈマティ　ˈベーˈタ　ˈムヌ [ˈʔagaijaː ˈwaːru kuːtaːˈ ʔaˈboːˈru ˈʔoːˈrukajaːti ˈmati ˈbeːˈta ˈmunu](あらまあ。君が来たのか。お母さんが来られるのかと待っていたのに)。

アˈガイラブチ [ʔaˈgairabuʧi] 【名】 (動) 魚の名。和名、イチモンジブダイ。体長 25〜30 センチの成魚がよく漁獲された。刺身にしても、煮ても美味である。蒲鉾の原料として重宝された。別名、ˈナーˈブイラブチ [ˈnaːˈbuʔirabuʧi] ともいう。アˈガイラブチˈシ　カˈマブク　シッˈキバ [ʔaˈgairabuʧiˈʃi kaˈmabuku ʃikˈkiba](アガイラブチで蒲鉾を搗きなさいよ)。

アˈガイル [ʔaˈgairu] 【名】赤色。フˈニˈヌ　スˈコーˈ　アˈガイルバ　ヌーリˈシケー [ɸuˈniˈnu suˈkoːˈ ʔaˈgairuba nuːriʃikeː](船の底は赤色を塗ってある)。ˈガンダルゴーヤˈ　アˈガイルˈ　ッˈふァーサリ (ˈヌーラリ) ブタ [ˈgandaruko:jaˈ ʔaˈgairuˈ fˈfaːsari(ˈnuːrari)buta](龕は、赤色を食わされ < 塗装され >、< 塗られ > ていた)。

アガウムティ [ʔaˈgaʔumuti] 【名】赤い顔。赤ら顔。「あかおもて」の義。日焼けや発熱などで顔面が赤くなること。ˈティダナ　プˈサˈリティ　アˈガウムティˈ　ナリˈベーンˈティ [ˈtidana pu̥ˈsaˈriti ʔaˈgaʔumutiˈ nariˈbeːnˈti](太陽にほされて日焼けして赤い顔になっているさ)。

アˈカガーラ [ʔaˈkagaːra] 【名】赤瓦。鳩間島の人は赤瓦を買うために、イˈガガラス [ʔiˈgagarasu](イカ

の塩辛 < 塩漬け >) やカˈツヌˀ　バˈタガラˀス [kạˈtsunuˀ baˈtagaraˀsu](カツオの臓物の塩辛) などを沖縄本島へ輸出した。水産物を売って毎年少しずつ建材を購入した。アˈカガーランˀ　ヤˈキヌ　ヨーˀカー　ˀシディ　パˈリˀス [ʔaˈkagaːraŋˀ jaˈkinu joːˀka: ˀʃidi paˈriˀsu](赤瓦も焼成の弱いものは風化して朽ちてしまう)。

アˈカガーラヤー [ʔaˈkagaːrajaː] 【名】赤瓦葺きの家。パˈトゥˀマナー　マˈナˀマー　アˈカガーラヤーヤ　ギューキブルˀ　ヌˈカˀレーワ [pạˈtuˀmana: maˈnaˀma: ʔaˈkagaːrajaːja gjuːkiburuˀ nuˈkaˀreːwa](鳩間島には赤瓦葺きの家は何軒残っているか)。

アˈガカニ [ʔaˈgakani] 【名】銅。「銅、アカガネ」『類聚名義抄』の転訛したもの。「あかがね (赤金)」の義。アˈガカニヌ　シンˀダ　プˈスˀマキ　ˈカイˀキー　ッˈふィーリ [ʔaˈgakaninu ʃinˀda pụˈsuˀmaki ˈkaiˀki: fˈfiːri](銅の針金を一巻き買ってきてくれ)。

アˈガカビ [ʔaˈgakabi] 【名】赤紙。正月に鏡餅の下に敷く、祝いを表す紅白の紙。慶事の神酒を入れる瓶の栓やその他に用いる赤い紙。アˈガカビバˀ　ブリティ　クˈビンˀヌ　ˀザウ　ˈシーˀバ [ʔaˈgakabibaˀ buriti kuˈbinˀnu ˀʤau ˈʃiːˀba](赤紙を折って神酒を入れる瓶の栓にしなさい)。

アˈガガマジ [ʔaˈgagamadʒi] 【名】赤い髪。頭髪の赤いもの。カˈムラーマˀヌ　アˈガガマジェーˀ　ヌーシ　スˈクˀローッタカヤー [kaˈmuraːmaˀnu ʔaˈgagamadʒeːˀ nuːʃi sụˈkuˀroːttakajaː](カムラーマの赤い髪は何で作られたのかなあ)。

ˀアカカラジ [ˀʔakakaraʤi] 【名】民百姓。一般百姓。一種の文語。日常会話では用いられず、祭祀の場で、ˈカンˀフチ [ˈkaŋˀɸụtʃi](祈願の文句。祈祷文。「神口」の義) やニˈガイˀフチ [niˈgaiˀɸụtʃi](祈願の言葉。唱え、がんもん < 願文 >)、歌謡語などで用いられる。/ウマンチュヌ　ニガイヤヨー　アカカラジヌ　ニガイヤヨー　ハーリ　アミタボリ　リューガナシ(万民の願いはヨー、民百姓の願いはヨー　ハーリ　雨を賜り給え竜神さま)/(雨乞い歌。早め句)『鳩間誌』。

アˈガキー [ʔaˈgakiː] 【名】頭髪などの赤くなったもの。「赤毛」の義。イˈツォーンˀプソー　ウˈミシグˀトゥ　ˈシーˀ　ティダナ　プˈサˀリ　ˈブンダˀ　ガˈマˀジン　アˈガキーˀ　ナリˈブー [ʔiˈtsoːmˀpụso: ʔuˈmiʃiguˀtu ˈʃiːˀ tidana pụˈsaˀri ˈbundaˀ gaˈmaˀdʒiŋ ʔaˈgakiːˀ nariˈbuː](糸満の漁民は漁業をして太陽に干されているから、頭髪も赤毛になっている)。クˈヌˀグロー　ガˈマˀジ　アˈガキーˀ　スˈミルˀ　プˈスン　ブンˀダー [kuˈnuˀguroː gaˈmaˀʤi ʔaˈgakiːˀ suˈmiruˀ pụˈsum bunˀdaː](近頃は髪の毛を赤毛に染める人もいるよ)。

アˈガキン [ʔaˈgakiŋ] 【名】赤い着物。ヤˈラˀベー　アˈガキンバ　キシティˀ　サˈニンケーリ　アーˀク [jaˈraˀbeː ʔaˈgakimbaˀ kiʃitiˀ saˈniŋkeri ʔaːˀku](子供は赤い着物を着て嬉しそうにして < 喜んで > いる)。

アˈガˀクン [ʔaˈgaˀkuŋ] 【自動】懸命に働く。肉体労働をする。ヌˈチˀキシ　アˈガクンˀドゥ　ˈモーキララˀヌ [nuˈtʃiˀkiʃi ʔaˈgakunˀdu ˈmoːkiraraˀnu](一生懸命に働くが儲けられない)。ウˈシンーマˀヌ　ˀカタチニ　アˈガカンˀタンティン　イˈキラˀリン [ʔuˈʃiʔmːmaˀnu ˀkạtatʃini ʔaˈgakanˀtantiŋ ʔiˈkiraˀriŋ](牛馬のように働かなくても生きられる)。アˈガˀキ　ˀミサカー　アˈガˀク　ˀクトー　ˀナルン [ʔaˈgaˀki ˀmisakaː ʔaˈgaˀku ˀkụtoː ˀnaruŋ](働いて良ければ懸命に働くことは出来る)。ˈマーˀビン　アˈガˀケー　ˀミサムヌ [ˈmaːˀbiŋ ʔaˈgaˀkeː ˀmisamunu](もっと懸命に働けばいいのに)。ˈマーˀビン　アˈガˀキバ [ˈmaːˀbiŋ ʔaˈgaˀkiba](もっと懸命に働けよ)。

アˈガゲー [ʔaˈgageː] 【名】和名 (おきなわめぎす)、体長 18～20 センチに成長する。体表は赤みをおびる。島のイノー (礁内湖) の珊瑚礁内に棲息する。体の割りに口が大きく、食いつきがよいので子どもたちの釣りに好まれる。普通のˀゲーイズ [ˀgeːiʤu](おきなわめぎす) は体長約 16 センチのものが多い。アˈガゲー　ホーˀシン　パラˈディー [ʔaˈgageː hoːˀʃim paraˈdiː](アガゲーを釣りに行こうよ)。鳩間島方言ではˀゲーイズ [ˀgeːʔiʤu] の仲間である。和名、キツネダイの仲間 (『原色沖縄の魚』) ともいう。ゲーイズの中でも大きめで、体長が約 16 センチ以上の赤紫色を帯びた魚。よく餌に食いつくので、子供たちは屋良の浜の礁内湖や島の後ろの礁内湖で釣り上げて楽しんだ。美味ではない。アˈガゲーヤˀ　フˈチヌ　マイˀヤンダ　ˈホーシヤッˀサタン [ʔaˈgageːjaˀ ɸụˈtʃinu maiˀjanda ˈhoːʃijasˀsataŋ](アガゲーは口が大きいから釣りやすかった)。

アˈガコージ [ʔaˈgakoːʤi] 【名】赤麹 (あかこうじ)。アˈガコージˀ　タティティ　ˈミーˀス　スˈクˀラ [ʔaˈgakoːʤiˀ tatiti ˈmiːˀsu sụˈkuˀra](赤麹をたてて味噌を作ろう)。

アˈガサナイ [ʔaˈgasanai] 【名】赤い褌。アˈガサナイバˀ　キˈシティ　ケンˀグ　ˈシーティルˀ　アˈザナーˀ

シˈキラˀリ　ˈオール [ʔaˈgasanibaˀ kiˈʃiti keŋˀgu ˈʃiːtiruˀ ʔaˈʤanaːˀ ʃiˈkiraˀri ˈʔoːˀru](赤い褌を着て村芝居＜狂言＞をして＜ぞ＞、渾名を付けられておられるのだ)。鱶 (ふか) は人を襲うとき体長を比べ、鱶より小さいものを襲うといわれているので、難を避けるために赤褌をしめ、長く垂らして海に入ったという。アˈガサナイˀ　キˈシˀバ [ʔaˈgasanaiˀ kiˈʃiˀba](赤褌を着なさい)。アˈガサナイバˀ　キˈシティˀ　ンジ　ˈオールンˀドゥ　ウˈカヤˀヌ　バˈライルˀ　シˈラリタル [ʔaˈgasanaibaˀ kiˈʃitiˀ ʔnʤi ˈʔoːrunˀ du ʔuˈkajaˀnu baˈrairuˀ ʃiˈraritaru](赤い褌を着て出演して＜出て＞おられるんだが、おかしくて笑わざるを得ない＜笑いぞされる＞)。

アˈガサビ [ʔaˈgasabi] 【名】赤錆 (あかさび)。カˈタˀナー　シゥˈカーンドーˀシ　シˈティˀシケーンケンマー　アˈガサビˀ　フイˈナーˀヌ [kaˈtaˀnaː siˈkaːndoːˀʃi ʃiˈtiˀʃike:ŋkemmaː ʔaˈgasabiˀ ɸuiˈnaːˀnu](刀＜包丁＞は使わないで放置しておいたら、そのうちに赤錆がつい＜赤錆くっ＞てしまった)。

アˈガサリ [ʔaˈgasari] 【名】赤枯れ。旱魃などで植物の葉や穂先が赤く枯れること。ˈピーカジˀヌ　フキティ　スˈクリˀムヌン　ˈキーヌˀパーン　アˈガサリ　シーナーˀヌ [ˈpiːkadʒiˀnu ɸukiti suˈkuriˀmunuŋ ˈkiːnuˀpaːŋ ʔaˈgasari ʃiːnaːˀnu](雨の降らない台風＜火台風。潮風台風＞が吹いて、作物も木の葉も赤く枯れてしまった)。ˈクンドゥˀヌ　ˈタイフーˀヤ　カˈラフキ　ヤッタベーˀティ　ˈキーヌパーˀヤ　ムーˈルˀ　アˈガサリ　シー　ベー [ˈkunduˀnu ˈtaiɸuːˀja kaˈraɸuki jattabeːˀti ˈkiːnupaːˀja muːˈruˀ ʔaˈgasari ʃiːbeː](今度の台風は雨の伴わない空吹き台風だったので木の葉は全部赤く枯れている＜赤枯れしている＞)。

アˈカˀシ [ʔaˈkaˀʃi] 【名】あかし (灯)。松根の脂 (やに) が多く含まれた部分を灯火に利用したもの。鉛筆の太さに割って利用した。または炊きつけにも利用した。イˈクサユーˀヌ　ˀピンマー　ˈトゥーˀロー　ˈナーンˀユンダ　アˈカシˀバ　ˈモーシェーˀティル　ˈトゥールˀヌ　ˈカールˀ　シˈタル [ʔiˈkusajuːˀnu ˀpimmaː ˈtuːˀroː ˈnaːŋˀjunda ʔaˈkaʃiˀba ˈmoːʃeːˀtiru ˈtuːruˀnu ˈkaːruˀ ʃiˈtaru](戦争＜戦世＞の時にはランプ＜灯篭＞がないから、アカシを燃やして灯篭の代わりにしたものだよ)。

アˈガジー [ʔaˈgaʤiː] 【名】1赤い血。鮮血。アˈガシー [ʔaˈgaʃiː](赤い血) ともいう。アˈガジーˀ　パリˈベー [ʔaˈgaʤiːˀ pari ˈbeː](赤い血が流れている)。2赤地。織物の地色の赤いもの。アˈガジーˀナ　ˈアウイルˀ　マˈザーˀシ　ウˈラリベー [ʔaˈgaʤiːˀna ˈʔauiruˀ maˈʤaːˀʃi̥ti ʔuˈraribeː](赤地に青色を混ぜて織られている)。

アˈガシーシ [ʔaˈgaʃiːʃi] 【名】赤肉。赤身。「赤肉＜あかしし＞」の義。アˈガニク [ʔaˈganiku](赤肉)、ˈマーニク [ˈmaːniku](真肉)、ˈマーシーシ [ˈmaːʃiːʃi](真肉＜ましし＞) ともいう。ˈオーˀヌ　ˀニコー　アˈガシーシルˀ　ンˈマー [ˈʔoːˀnu niko: ʔaˈgaʃiːʃiruˀ ʔmˈmaː](豚肉は赤身が美味しい)。

アˈガシース [ʔaˈgaʃiːsu] 【名】 (植) 赤紫蘇。アˈガシースヌ　パーヤ　スーˀヌ　ˈオンガキ　シーˀバ [ʔaˈgaʃiːsunu paːja suːˀnu ˈʔoŋgaki ʃiːˀba](赤紫蘇の葉はおつゆの薬味にしなさいよ)。

アˈカˀシキン [ʔaˈkaˀʃi̥kiŋ] 【名】暁。夜が明けようとして、まだ暗いうち。「阿加等伎乃＜アカトキノ＞かはたれ時に～。万、4384」の転訛したもの。カˈツシンマーˀ　アˈカˀシキンラ　ˀザコー　ˀトゥリン　パˈリˀシタ [kaˈtsuʃimmaːˀ ʔaˈkaˀʃi̥kinra ˀʤakoːˀturim paˈriˀʃi̥ta](カツオ漁船は暁から餌＜雑魚＞取りに出かけたものだ)。

アˈカシキンˀブシ [ʔaˈkaʃi̥kimˀbuʃi] 【名】明けの明星。明け方東の空に見える金星。ナˈチェーˀ　アˈカシキンブシˀトゥ　ˈマーズンˀ　パˈタˀケー　パˈリˀシタ [naˈʧeːˀ ʔaˈkaʃi̥kimbuʃiˀtu ˈmaːʤumˀ pḁˈtaˀkeː paˈriˀʃi̥ta](夏は明けの明星と共に畑へ行ったものだ)。パˈトゥˀマナー　パˈボーˀ　ブˈラーンダˀ　ムˈカˀシェー　アˈカシキンブシˀトゥ　ˈマーズンˀ　パˈタˀケー　ˈオーリˀソーッタティˈダー [pḁˈtuˀmanaː paˈboːˀ buˈraːndaˀ muˈkaˀʃeː ʔaˈkaʃikimbuʃiˀtu ˈmaːʤumˀ pḁˈtaˀkeː ˈʔoːriˀsoːttatiˈdaː](鳩間島にはハブ＜毒蛇＞がいないから昔は明けの明星とともに畑へ行かれたそうだよ)。

アˈガシタダル [ʔaˈgaʃitadaru] 【名】赤くただれたさま。真っ赤なさま。果実などが真っ赤に熟れて、今にも落下しそうなさま。ˈバンˀスロー　アˈガシタダル　スンˀケン　ˈウーˀミ　ˈベー [ˈbanˀsuroː ʔaˈgaʃi̥tadaru suŋˀkeŋ ˈʔuːˀmiˈbeː](バンジロウは真っ赤に熟れて、今にも落下しそうになるほどに熟れている)。アˈシˀボー　アˈガシタダル　スンˀケン　ˈアーサムティˀ　シˈティˀシケーバン [ʔaˈʃiˀboː ʔaˈgaʃi̥tadaru suŋˀkeŋ ˈʔaːsamutiˀ ʃi̥ˈtiˀʃi̥ke:baŋ](お出来＜腫れ物＞は真っ赤になるまで、潰さないで＜化膿させて＞おいてあるよ)。

アˈカジナー [ʔaˈkaʤinaː] 【名】 (動) 魚の名。和名、

ニセスジハタ (体長約 1 メートル)。ハタの仲間 (体長約 45 センチ)。ニセスジハタ (体長約 70 センチ。体色は薄い青黒色) などの総称。アカジナーの痩せたものは食中毒をおこすといわれている。「ヨーガリ˥　アˈカジナーバ　ファイティル˥　ビー　「サン˥ソーˈマーリティ˥　ウˈガン˥ツミ　「ミッ˥タン [ˈjo:gari˥ ʔaˈkaʤina:ba faitiru˥ bi: ˈsan˥soːˈma:riti˥ ʔu ˈgan˥tsumi ˈmit˥taŋ](痩せたスジハタを食べてひどい中毒をおこし、気を失ってすっかり参ったことがあった)。

アˈガシヌマール [ʔaˈgaʃinuma:ru] 【名】(動) 魚の名。和名、みやこてんぐ。シˈヌマー˥ル (てんぐはぎ) の仲間で、尾びれの付け根部分に橙色の斑点がある。アˈガシヌマールン˥　シˈヌマール˥トゥ　ユˈヌ˥ムヌ [ʔaˈgaʃinuma:ru˥ ʃiˈnuma:ru˥tu juˈnu˥ munu](みやこてんぐも、てんぐはぎと同じものだ)。アˈガシヌマールン˥　シˈヌマール˥トゥ　ユˈヌ˥　トンナール　「ブー [ʔaˈgaʃinuma:ruŋ˥ ʃiˈnuma:ru˥tu juˈnu˥ tonna:ru ˈbu:](ミヤコテングもテングハギと同じところにいる)。

˥アカシマー [˥ʔakaʃima:] 【名】赤縞布。赤褐色の絣 (かすり) の入った布。染料のˈクール [ˈku:ru](ソメモノイモ。黄櫨) を用いて赤褐色の絣を染め、赤縞模様に織り上げた布。˥アカシマーヌ　「グイ˥フ　ウˈリ˥　ウˈサミ˥ルカー　ブˈドゥルバ　シー˥　ヨイ　「ソーッ˥タツォー [˥ʔakaʃima:nu ˈgui˥ɸu ʔuˈri˥ ʔu ˈsami˥ruka: buˈduruba ʃi:˥ joi ˈso:t˥tatso:](赤縞布の御用布を織って納めたら踊りをしてお祝いをされたそうだ)。

アˈカジュー [ʔaˈkadjzu:] 【名】(動) 魚の名。和名、ウメイロモドキ (体長約 27 センチ)。古老はムˈレー˥ジ [muˈre:˥ʤi](沖縄方言のグルクン) という。「群れ魚」の義であろう。若年層はグルクンというのが多い。

アˈカ˥ジラー [ʔaˈka˥ʤira:] 【名】赤面。恥をかくこと。恥ずかしくて顔をあからめること。「赤面 < あかつら >」の義。ウˈビ˥ヌ　プˈスヌ˥　ナカナー　ウˈリンマー˥　アˈカ˥ジラー　ナˈサ˥リˈヨー [ʔuˈbi ˥nu <juˈdun˥nu> pu̥ˈsunu˥ nakana: ʔuˈrimma:˥ ʔaˈ ka˥ʤira: naˈsa˥riˈjo:](あれだけの人の前で、彼には恥をかかされてねえ)。

アˈガジル [ʔaˈgadʒiru] 【名】赤潮。˥ユドゥン [ˈjuduŋ](赤潮) ともいう。アˈガジルヌ < ユˈドゥン˥ヌ >　ユール˥カー　イˈズン˥　ビーティ　ウˈケーリ　キー˥ス [ʔaˈgaʤirunu ju:ru˥ka: ʔiˈʤum˥ bi:ti ʔu ˈke:ri ki:˥su](赤潮が流れ寄ると魚も中毒して < 酔って > 浮いてくる)。

アˈガジル [ʔaˈgaʤiru] 【名】海底地名。タˈカ˥ビー [taˈka˥bi:](高干瀬) の鳩間津口から鳩間桟橋に向かって 200 メートルほど入港してくると右手 (東北) 方に現れる海草の生えた褐色の浅い海底。アˈガジロー˥　ミˈズヌカン˥ヌ　˥スバナール　˥アル [ʔa ˈgaʤiro:˥ miˈʤunukan˥nu ˥subana:ru ˥ʔaru](アガジルはミズヌカン < 澪の上 > の側にある)。

アˈガジル [ʔaˈgadʒiru] 【名】地渋 (ちしぶ)。水田などの水に金気 (かなけ) や灰汁 (あく) が浮き出して光っているもの。赤汁。西表島の炭鉱に近い水田などでよくみられた。これが出ると稲の発育不良を起こした。「ター˥ナ　アˈガジルヌ˥　ウˈリ˥ル　˥トンマー　カˈナジル˥　ヤˈルンダ　マイヤー　ムイラン˥セン [ˈta:˥na ʔaˈgaʤirunu˥ ʔuˈri˥ru ˥tomma: ˥kaˈ naʤiru˥ jaˈrunda maija muiraŋ˥ʃeŋ](田圃の水に赤い汁 < 地渋 > がでると、それは金気だから稲は発育しなかった)。

アˈガシルシ [ʔaˈgaʃiruʃi] 【名】赤い痣 (あざ)。「赤印」の義。˥シラナ　アˈガシルシバ˥　シˈキラリ˥ル　マˈリ˥ケー [˥ʃirana ʔaˈgaʃiruʃiba˥ ʃi̥ˈkirari˥ru maˈ ri˥ke:](顔に赤い痣を付けられて生まれてきている)。

アˈガジン [ʔaˈgaʤiŋ] 【名】銅貨。「赤銭」の義。シˈマ˥ナテー　アˈガジンヌ˥　フカー　ミリ　ミˈラン˥セン [ʃiˈma˥nate: ʔaˈgaʤinnu˥ ɸuka: ˥miri miˈran˥ ʃeŋ](島では銅貨以外は見たことがなかった)。アˈガジン˥シ　シˈナムヌヌ　ダイ˥　パˈラウ˥タ [ʔaˈ gaʤiŋ˥ʃi ʃiˈnamununu dai˥ paˈrau˥ta](銅貨で品物の代金を支払った)。

アˈガジン [ʔaˈgaʤiŋ] 【名】 (動) 魚の名。和名、バラハタ (体長約 60 センチ。薄いオレンジ色に白の斑点が鰓の部分から尾びれにかけて、点々と縞状に並んでいる)。痩せたアˈガジンは食中毒を起こすことがあるといわれている。アˈガジンヌ　ヨーガリムノー　ビー˥ルンティ　アˈザリ　ブー˥ダー [ʔa ˈgaʤinnu jo:garimuno: bi:˥runti ʔaˈʤari bu:˥da:](バラハタの痩せたのは食中毒 < 酔う > すると言われているよ)。

アˈガジンナー˥マ [ʔaˈgaʤinna:˥ma] 【名】小額の赤銭。小額の銅貨。小銭。「ナー˥マ [ˈna:˥ma](接尾指小辞)。鳩間方言の接尾指小辞は、上接語の末尾が-ン [-ŋ] で終わる場合、「-ナー˥マ [ˈ-na:˥ma] となり、上接語の末尾母音が-イ [-i] の場合は、「-エー˥

マ [ˈ-eːˀma]、例、フˈネーˀマ [ɸuˈneːˀma](小さな舟)、上接語の末尾母音が-ウ [-u] の場合は、ˈ-オーˀマ [ˈ-oːˀma]、例パˈコーˀマ [paˈkoːˀma](小さな箱)、上接語の末尾母音が-ア [-a] の場合は、ˈ-アーˀマ [ˈ-aːˀma] となる。例、パˈナーˀマ [paˈnaːˀma](小さな花)。また、上接語の末尾母音が連母音ˈ-アイ [ˈ-ai] の場合は、ˈ-ヤーˀマ [ˈ-jaːˀma] となり、例、ガイˈヤーˀマ [gaiˈjaːˀma](小匙)、連母音ˈ-アウ [ˈ-au] の場合はˈ-ワーˀマ [ˈ-waːˀma] となる。例、バウˈワーˀマ [bauˈwaːˀma](小さな棒)。

アˈカˀズミキー [ʔaˈkaˀʤumikiː] 【名】(植) 樹木の名。ヒルギ。マングローブ。アˈカˀズミ [ʔaˈkaˀʤumi] ともいう。西表島の河口の汽水域に密生している。満潮時には小魚が群れ寄る。ヒルギ林には、キˈザˀク [kiˈʤaˀku](殻の直径約 10 センチの二枚貝) も生息している。鳩間島の人はヒルギの皮を染料として用い、これを煎じてˀイダフニ [ˀidaɸuni](サバニ) の帆を染めた。アˈカˀズミキーヌ ˀカー ˀシジティ ˀイダフニヌ ˈプーˀ スˈモーッˀタ [ʔaˈkaˀʤumikiːnu ˀkaː ˀʃiʤiti ˀʔidaɸuninu ˈpuːˀ suˈmoːtˀta](ヒルギの皮を煎じてˀイダフニ＜板船＞の帆を染められた)。

アˈカˀスリ [ʔaˈkaˀsuri] 【名】垢 (あか) すり。入浴の際に垢をすり落とすのに用いるもの。標準語からの借用語。完熟したナˈベーˀラ [naˈbeːˀra](へちま) のスポンジ状の繊維を用いた。

アˈカˀスン [ʔaˈkaˀsuŋ] 【他動】1離す。ˈオーˀヌ ッˈふァーˀ マˈナˀマ ˀアヒャーオーラ アˈカサバˀル マシ [ˈʔoːˀnu fˈfaːˀ maˈnaˀma ʔaçaːʔoːra ʔaˈkasabaˀru maˈʃi](子豚は今母豚から離した方がいい)2剥がす。シˈビシキˀ シケー ˀイツァー アˈカサラˀヌ [ʃiˈbiʃi̥kiˀ ʃi̥keː ˀʔitsaː ʔaˈkasaraˀnu](くっつけてある板は剥がされない)。

アˈカˀスン [ʔaˈkaˀsuŋ] 【他動】明らかにする。ムˈヌシリˀヌ ˀヤーナーン ˈギーˀ ミレーティ ˈヌーˀ ヤˈルˀユー アˈカˀシ ˀミリバ [muˈnuʃiriˀnu jaːnaːŋ ˈgiːˀ mireːti ˈnuːˀ jaˈruˀjuː ʔaˈkaˀʃi miriba](占い師＜物識り＞の家にも行ってみて、何のことなのか明らかにしてみなさいよ)。

アˈガダイクニ [ʔaˈgadaikuni] 【名】(植) 大根の一種。和名、アカカブラ (赤蕪)。アˈガダイクネーˀンˈマーˀタンドゥ マˈナˀマー ˈナンˀゾー ミˈララˀヌ [ʔaˈgadaikuneːˀ ʔmˈmaːˀtandu maˈnaˀmaː ˈnanˀʤoː miˈraraˀnu](赤蕪は美味しかったが、今はあまり見られない)。

ˀアガダン [ˀʔagadaŋ] 【名】(動) 赤だに。牛に寄生するダニ。牛のいる原野の茅や雑草などについていて、人がそこへ行くと人の体にくっつくようになる。ウˈシˀ バˈツァˀミ ˀシケーン ˀトンマー ˀアガダンヌ ˈブントˈダー [ʔuˈʃiˀ baˈtsaˀmi ʃi̥keːn ˀtommaː ˀʔagadannu ˈbunˈdaː](牛の鼻綱を草木に括ってある所には赤だにがいるよ)。

アˈガッスˀヒャー [ʔaˈgassuˀça:] 【連】糞喰らえ。くそったれ。全然いやだ。「赤糞やろう」の義。接尾語のˀヒャー [ˀça:](くそったれ) は卑語。聞き手を貶め、対立喧嘩し、叱りつける際に用いられる。アˈガッスˀヒャー ˀワンザー ˀムネー シゥˈカヌ [ʔaˈgassuˀça: ˀwanʤa: muneː si̥ˈkanu](糞くらえ、貴様の言うことは聞かない)。

アˈガッふァーˀマ [ʔaˈgaffaːˀma] 【名】赤子。赤ん坊。ˀアイニ ˈピーˀヤムヌ アˈガッふァーマˀバ ミˈチェーˀ ンˈザˀスンティ ˈアーˀクツォー [ˀʔainiˈpiːˀjamunu ʔaˈgaffaːmaˀba miˈtʃeːˀ ʔnˈʤaˀsunti ˈʔaːˀkutsoː](あんなに寒いのに、赤ん坊を道に連れ出そうとしているそうだ)。

アˈガッふァーˀマ [ʔaˈgaffaːˀma] 【名】赤子 (あかご)。アˈブˀジェー トゥˈシˀ トゥˈローッˀター アˈガッふァーマˀンカタチニ ˈフンダイ シーオーˀル [ʔaˈbuˀdʒeː tuˈʃiˀ tuˈroːtˀta: ʔaˈgaffaːmaˀŋ kątatʃini ˈɸundai ʃiː ʔoːˀru](おじいさんは年をとられたので赤子のようにわがままなこと＜したい放題＞をしておれられる)。

アˈガティダ [ʔaˈgatida] 【名】強力な太陽の直射光線。強烈な太陽光線。「赤太陽」の義。アˈガ [ʔaˈga](赤い、真っ赤な) は強意の接頭語。アˈガティダサーリˀ パˈタキシグˀトゥ ˈスンティ アーˀキ フカイティ ˈデーˀジ ˈスンティ アークˀタˈドーˀスカーヤ [ʔaˈgatidasaːriˀ paˈtakiʃiguˀtu ˈsunti ʔaːˀki ɸu̥kaiti ˈdeːˀʤi ˈsunti ʔaːkuˀtaˈdoːˀsukaːja](炎天下で畑仕事をしようとしていて、熱射病になりかけて＜体熱が上昇して＞大変なことになるところだったってばよ)。

アˈカˀトゥビ [ʔaˈkaˀtubi] 【名】(植) 樹木の名。オオバギ。アˈカトゥビˀヌ ˈパーˀシ シˈビ ヌシˀトゥカー シˈビコーˀルンティˈダー [ʔaˈkatubiˀnu ˈpaːˀʃi ʃiˈbi nuʃi̥ˀtukaː ʃiˈbikoːˀruntiˈdaː](オオバギの葉で尻を拭くと便秘になるってよ)。

アˈカˀトゥル [ʔaˈkaˀturu] 【名】船の中の淦 (あか) を汲み取る道具。淦取り。淦汲み。ˈユーˀトゥル [ˈjuːˀturu](淦取り) ともいう。アˈカˀトゥルシ ˀイダ

フニヌ　˥アカ　˥トゥリ [ʔaˈka˥turuʃi ˥ʔidaɸuninu˥ ʔaka ˥turi](淦取りでサバニの＜板舟＞の淦を取れ＜汲め＞)。

アˈカナー [ʔaˈkanaː] 【名】(動) 魚の名。和名、バラフエダイ。ˈマイ˥ズニ [ˈmai˥dʑuni](前曽根) あたりで一本釣りをすると、体長 60〜70 センチメートルのものが釣れた。この魚も痩せたもの食すると食中毒を起こすこともあった。アˈカナーン　ヨーガリムヌ˥ナー　˥バスプソー　ˈビー˥ル　˥ムヌン　ブˈリブタ [ʔaˈkanaːŋ joːgarimunu˥naː ˥basupu̥soː ˈbiː˥ru ˥munum buˈributa](アカナーも痩せたものには、時には食中毒を起こすものもいた＜おりおった＞)。

アˈガナーサキ [ʔaˈganaːsaki] 【名】海底地名。鳩間島の東南方、タˈカ˥ビー [tḁˈka˥biː](高干瀬) の干瀬沿いに北へ延びる、ミˈズヌ˥カン [miˈdʑunu˥kaŋ](澪の上) と呼ばれる水深約 50 メートルの澪がある。その側にˈウール [ˈʔuːru](枝珊瑚) に被われた浅瀬で、魚がよく釣れるところをいう。アˈガナーサキ˥ナーン　˥ユー　˥アン　ウˈラ˥ソーッタン [ʔaˈganaːsaki˥naːŋ ˥juː ˥ʔaŋ ʔuˈra˥soːttaŋ](アガナーサキでも、よく追い込み漁をされた＜網を降ろされた＞)。

アˈガ˥ニーバル [ʔaˈga˥niːbaru] 【名】(動) 魚の名。和名、アカハタ (体長約 25 センチ。鮮やかな橙色に丸く小さな褐色の斑点が頭部に付いており、腹部から尾びれにかけて白い斑点が付いている)。磯釣りでも釣れる。魚肉は白色で、味は淡白。蒲鉾の素材となる。和名、ニジハタ (体長約 20 センチ)。和名、アザハタ (体長約 25 センチ) にもいう。アˈガ˥ニーバロー　イˈル˥イル　ブˈリブンドゥ˥　ユˈヌナー˥ル　シˈキラ˥リ　ˈブー˥　クティンクティンヌ　ˈナーヤ　ナー˥ヌ [ʔaˈga˥niːbaroː ʔiˈru˥iru buˈribundu˥ juˈnunaː˥ru ʃi̥ˈkira˥ri ˈbuː˥ kutiŋkutinnuˈnaːja naː˥nu](アカハタは、色々いるが、同じ名が付けられている。別々＜異異の＞の名前はない)。

アˈガニチ [ʔaˈganitʃi] 【名】風疹 (ふうしん)。「赤熱」の義。アˈガニチヌ˥　パˈヤー˥リティル　ヤˈラ˥ビンケン　ムーˈル˥　アˈガニチバ˥　カˈカ˥リ　ソˈーバ　シーベート ツォー [ʔaˈganitʃinu˥ paˈjaː ˥ritiru jaˈra˥biŋkem muːˈru˥ ʔaˈganitʃiba˥ kḁˈka˥ri ˈsoːba ʃiːbeːꜜtsoː](風疹が流行って子供たちみんな風疹にかかって心配をしているんですよ)。

アˈガヌーヌ [ʔaˈganuːnu] 【名】赤い布。赤色だけの布。「赤布」の義。アˈガヌーヌバ　カイ˥キー　ˈトーカキ˥ヌ　ˈヨイ˥ヌ　˥マク　スˈク˥リˈツォー [ʔaˈganuːnuba kai˥kiː ˈtoːkaki˥nu ˈjoi˥nu ˥maku su̥ˈku˥riˈtsoː](赤い布を買ってきて米寿の祝いの幕を作れよ)。

アˈガヌール [ʔaˈganuːru] 【名】朱塗り。「赤塗り」の義。アˈガジブコー˥　アˈガヌールバ˥　カˈサビカサビ　ヌーリティ˥　ピˈカラ˥シ　シケー [ʔaˈgadʑibukoː˥ ʔaˈganuːruba˥ kḁˈsabikasabi nuːriti˥ pi̥ˈkara˥ʃi ʃi̥ˈke:](赤重箱は、赤色＜赤漆＞を重ね重ねに塗って艶(ツヤ)を出してある＜光らしてある＞)。アˈガヌール˥　ッˈふァースン [ʔaˈganuːru˥ fˈfaːsuŋ](朱塗りをする＜朱塗りを食らわす＞)。

アˈカバー [ʔaˈkabaː] 【名】膿痂疹性湿疹。頭部の湿疹が黄色か皮膿汁を伴う細菌性感染にある状態。小児に多い (『医学沖縄語辞典』)。皮膚病の一種。頭から顔にかけて赤くただれ、化膿してかさぶた状になる皮膚病で、なかなか完治しにくい。ムˈカ˥シェー　アˈカバー˥　ンˈジッふァ˥ヌ　ブˈリブタヌ˥　マˈナ˥マー　ミˈララン˥バンˈナー [muˈka˥ʃeː ʔaˈkabaː˥ ʔnˈdʑiffa˥nu buˈributanu˥ maˈna˥maː miˈraram˥banˈnaː](昔は膿か疹性湿疹を患った子供がいたが＜居りおった＞が今は見られないわいねえ)。アˈカバースブル [ʔaˈkabaːsuburu](膿か疹性湿疹の皮膚病がある頭)。アˈカバー˥　カクン [ʔaˈkabaː˥ kakuŋ](膿か疹性湿疹の皮膚病を患う)。

アˈガパー [ʔaˈgapaː] 【名】赤い歯茎。歯が抜けて、歯茎だけで歯の代用をなしているもの。ˈパー˥ユン　イˈラムティ˥　ナーˈイ˥　アˈガパー　タン˥ガシ　ムˈヌ˥バ　ッˈふァイベート ツォー [ˈpaː˥juŋ ʔiˈramuti˥naːˈi˥ ʔaˈgapaː taŋ˥gaʃi muˈnu˥ba fˈfaibeːꜜtsoː](歯をも入れないで、ただ赤歯＜歯茎＞だけでものを食べているんだよ)。

アˈカバカ [ʔaˈkabaka] 【名】おおばか (大馬鹿)。全くのふ＜耄＞れ者。石垣方言からの借用語。普通はアˈガプリムヌ [ʔaˈgapurimunu](大馬鹿) という。˥アイブ　クˈトゥ˥バ　ˈマームニティ˥　スˈク˥カー　ˈワー˥　メー　アˈガバカ˥＜プˈリムヌ˥＞ヨー [ˈʔaibu kuˈtu˥ba ˈmaːmuniti˥ suˈku˥kaː ˈwaː˥ meː ʔaˈgabaka˥＜puˈrimunu˥＞joː](あんなことを本当＜真の言葉＞と聞くのならば、君はおおばかだよ)。

アˈガパギ [ʔaˈgapagi] 【名】赤はげ。赤く擦りむいてあること。クˈルビティ　パン˥マー　アˈガパギ　シー˥　シケー [kuˈrubiti pam˥maː ʔaˈgapagi ʃiː˥ ʃi̥ˈke:](転んで足は赤く擦りむいてある＜赤はげしてある＞)。

アˈガバサ [ʔaˈgabasa] 【名】(植) 小笠原種の芭蕉。

「赤芭蕉」の義。地上茎の縁が赤いのでその名があるという。台湾種のˈアウバサ [ˈʔaubasa](青芭蕉)の対。アˈガバサ　トーˀシキー　バˈサˀムトゥ　ˈシッˀキティ　ˈマッˀふァ　スˈクˀリ　シˈミティˀ　ニチ　サˈマˀシバ [ʔaˈgabasa toːˀʃikiː baˈsaˀmutu ˈʃikˀkiti ˈmafˀfa sɥˈkuˀri ʃiˈmitiˀ nitʃi saˈmaˀʃi](芭蕉を切り倒してきて幹を叩いて枕に作ってさせて < 枕にさせ > 熱を冷まさせなさいよ)。

アˈガパジ [ʔaˈgapadʒi] 【名】赤恥。プˈスヌˀ　マンˈタˀナー　アˈガパジバˀ　カˈカサˀリ　イˈナムヌトツォー [pɥˈsunuˀ manˈtaˀnaː ʔaˈgapadʒibaˀ kɥˈkasaˀri ʔiˈnamunuトtsoː](他人の前で恥をかかされて残念なんですよ)。

アˈガパジン [ʔaˈgapadʒiŋ] 【名】昆虫。蜂の一種。茅の中に巣食っている赤い小さな蜂。ˀガーパジン [ˀgaːpadʒiŋ](茅蜂) ともいう。アˈガパジンˀ　ッˈサリˀタンティン　ˈナンˀゾー　ヤˈマンˀシェン [ʔaˈgapadʒinˀ sˈsariˀtantin ˈnanˀdzoː jaˈmaŋˀʃeŋ](赤蜂に刺されても、あまり痛くなかった)。

アˈカバタ [ʔaˈkabata] 【名】(動) 魚の名。1和名、アマクチビ。体長約 70 センチ。白身魚の最高級魚。2和名、タマメイチ (体長約 50 センチ)。3和名、ナガメイチ (体長 50 センチ)。4和名、タマメイチ (体長約 50 センチ) にもいう。ˈクーˀシビー [ˈkuːʃiˀbiː](島の西側の干瀬) のˈピーヌˀクシ [piːnuˀkɥʃi](干瀬の外海) で、タˈティˀナー [tɥˈtiˀnaː](一本釣り < 立て縄 >) をして釣った。

アˈガパタ [ʔaˈgapata] 【名】大漁旗の一種。幅約 30 センチ、長さ約 2 メートルの真っ赤に染めた旗。カツオの漁獲高が 200〜300 斤ほどある時に、漁船はこの旗を立てて寄港した。カˈツシンマーˀ　アˈガパタˀ　タティティ　ˈカイˀリ　ˀケーン [kɥˈtsuʃimmaːˀ ʔaˈgapataˀ tɥti ti ˈkaiˀri ˀkeːŋ](カツオ漁船は赤旗を立てて帰ってきた)。

アˈガパダカ [ʔaˈgapadaka] 【名】赤裸。丸裸。ヤˈラビˀヌ　アˈガパダカˀナリティ　フカンター　ンˈジˀルンティ　ˈシーベー [jaˈrabiˀnu ʔaˈgapadakaˀnariti ɸɥkaː ʔnˈdʒiˀrunti ˈʃiːbeː](子供が赤裸になって外へ出て行こうとしている)。

アˈカハチ [ʔaˈkahatʃi] 【名】人名。歴史上実在した大浜の豪族。1500 年、首里王府に謀反したことで征討されたという。アˈカハチェーˀ　ウˈヤˀキアカハチティ　ˈシーˀ　パˈティルマナーˀル　マˈローッタティ　アˈザリブー [ʔaˈkahatʃeːˀ ʔuˈjaˀkiʔakahatʃiti ˈʃiːˀ pɥˈtirumanaːˀru maˈroːtˀtati ʔaˈdzaribuː](アカハチは、ウヤキアカハチと言って波照間島に生まれたといわれている)。

ˀアガパナ [ˀʔagapana] 【名】赤い花。赤花。仏桑華。ˀアガパナ、ˈキールパナ、ッˈスˀパナ、イˈルˀジナ　パˈナˀヌ　サキˈベーˀン [ˀʔagapana ˈkiːrupana sˈsuˀpana ʔiˈruˀdʒina paˈnaˀnu sakiˈbeːˀŋ](赤い花、黄色い花、白い花といろいろな花が咲いている)。ˀアガパナー　ˈヤシキˀウチナー　イˈバンシェン [ˀʔagapanaː ˈjaʃɨkiˀʔutʃinaː ʔiˈbaŋʃeŋ](仏桑華は屋敷内には植えなかった)。

アˈガパナ [ʔaˈgapana] 【名】赤い鼻。赤鼻。赤鼻の人。ˀアガパジン　パˈナˀ　ッˈサˀリティ　アˈガパナˀナリ　ˈベー [ˀʔagapadʒim paˈnaˀ sˈsaˀriti ʔaˈgapanaˀ nari ˈbeː](赤い蜂 < 茅蜂 > に鼻を刺されて赤鼻になっている)。

アˈカバニカマサー [ʔaˈkabanikamasaː] 【名】 (動) 魚の名。和名、オオメカマス (体長約 50 センチ) の細長い魚。パˈニビキˀシン　アˈカバニカマサー　ホーˀソーッタン [paˈnibikiˀʃiŋ ʔaˈkabanikamasaː hoːˀsoːttaŋ](引縄釣でもオオメカマスを釣りあげられた)。

アˈカバニブラ [ʔaˈkabanibura] 【名】(動) 魚の名。和名、フウライボラ (体長約 60 センチ。灰色がかった銀色の体色を有する)。別名、ˈキンバニ [kimbani]。群れを成して海岸に寄る。西表島の北岸一帯で、投網で漁獲した。肉質が柔らかく、あまり美味ではない。塩漬けにして保存食にした。

アˈガパンタリ [ʔaˈgapantari] 【名】丸々と肥えていること。接頭語アˈガ [ʔaˈga](真っ赤な。真の) は、程度の甚だしいさまを表す。ˈワー　ヌーˀバ　ッˈふァイティˀ　アイニ　アˈガパンタリ　シーベーˀワ [ˈwaː nuːˀba fˈfaitiˀ ʔaini ʔaˈgapantari ʃiːbeːˀwa](君は何を食べてそのように丸々と肥えているのか)。

アˈガピーカー [ʔaˈgapiːkaː] 【名】 (動) 魚の名。和名、ヒメアイゴ、マジリアイゴ、サンゴアイゴ、の総称。イˈツォンˀプソー　アˈガピーカーヨˀ　アˈケーˀティン　アˈゾーˀルンˈダー [ʔiˈtsomˀpɥsoː ʔaˈgapiːkaːjoːˀ ʔaˈkeːˀtiŋ ʔaˈdzoːˀrunˈdaː](糸満の人はアガピーカーをアケーともいわれるよ)。シˈナカキˀヤー漁でもよく漁獲されたし、ˀティル [ˀtiru](漁獲用笊) 漁でもよく漁獲された。ヒメアイゴの背びれには毒針があるので、刺されないように気を配って漁獲した。魚肉は引き締まって美味である。

アˈガピール [ʔaˈgapiːru] 【名】真昼間。昼日中。ˀマナール　アˈガピーローラˀ　サˈキバˀ　ヌム

プˈスヌ˥　ブˈラー (ˈブーワ)[ˈmanaːru ʔaˈgapiːroːra ˥ sḁˈkiba˥ numu pu̥ˈsunu˥ buˈraː(ˈbuːwa)](何処に真昼間から酒を飲む人がいるものか)。アˈガピーローラ˥　サˈキバ˥　ヌメーティ　˥ヌーヤ　ウˈレー [ʔaˈgapiːroːra˥ sḁˈkiba˥ numeːti ˥nuːja ʔuˈreː](真っ昼間から酒を飲んで何事だねえ、これは)。

アˈガピキ [ʔaˈgapiki] 【名】(動) 魚の名。和名、レモンスズメ。スズメダイ科の仲間。枝珊瑚の中に棲息している。観賞用の熱帯魚。食用に適さない。ノコギリダイを釣る時に集まってきて、よく餌を横取りする。アˈガピケー　サッ˥コー　ˈムン˥ダニ　ッˈふン [ʔaˈgapikeː sak˥koː ˈmun˥dani fˈfuŋ](アガピキは、よく餌を横取りして食う)。

アˈガピタ [ʔaˈgapita] 【名】全くの下手。へたくそ。ウˈヌ˥　ッˈふァー˥　ノーˈン˥　シˈミリバン˥　アˈガピタト ツォー [ʔuˈnu˥ fˈfaː˥ noːˈŋ˥ ʃiˈmiribaŋ˥ ʔaˈgapitaɻtsoː](その子は何をさせても全くの下手くそなんだよ < 断定、確認 >)。

アˈガピッチン [ʔaˈgapittʃiŋ] (1)【名】たった一つ。ˈバン˥マー　アˈガピッチンマーンツァン　フィーラヌ [ˈbam˥maː ʔaˈgapittʃimmaːntsaŋ fiːranu](私にはたった一つすらくれない)。 **(2)**【副】ちっとも。少しも。全く。文末の打ち消し表現と呼応して陳述副詞として用いられる。ユˈビ˥ヌ　˥クトー　˥ビーティ　アˈガピッチン˥　ウブイ　ブˈラーヌ [juˈbi˥nu ˥ku̥toː ˥biːti ʔaˈgapittʃiŋ˥ ʔubui buˈraːnu](昨夜のことは、酔っ払っていて、少しも覚えていない)。

アˈガピニ [ʔaˈgapini] 【名】赤髭。赤い髭。赤髭の人。漁師が日焼けすると鬚は赤くなった。˥カナー　アˈガピニ　モーシプス˥ヌ　ˈオー˥ルン [˥kanaː ʔaˈgapini moːʃipu̥su˥nu ˈʔoːru˥ŋ](あそこに赤い髭を生やした人がいらっしゃる)。

アˈガピンソー [ʔaˈgapinsoː] 【名】赤貧。極貧。非常に貧しい状態。ˈクン˥ネーヤ　ムˈカ˥シェー　アˈガピンソー˥　タˈタ˥キ　アˈワ˥リ　ˈソー˥レーティル　マˈナ˥マー　ˈセイコー　ソー˥レーティˈダー [ˈkun˥neːja muˈka˥ʃeː ʔaˈgapinsoː˥ tḁˈta˥ki ʔaˈwa˥ri ˈsoː˥reːtiru maˈna˥maː ˈʃeiko: soː˥reːti ˈdaː](この家は、昔は極貧にあえいで苦労をなされたので、今は成功されたそうだよ)。

アˈガブー [ʔaˈgabuː] 【名】赤い紐 (紐)。「赤緒」の義。クˈヌ˥　ミˈドーン˥ッふァヌ　アˈチ˥ツァナー < アシツァナー >　アˈガブー˥　シˈキ˥リバ [kuˈnu˥ miˈdoːŋ˥ffanu ʔaˈʧi˥tsanaː <aʃitsanaː> ʔaˈgabuː˥ ʃi̥ˈki˥riba](この女の子の下駄には赤い緒をつけなさいよ)。

アˈガフキ [ʔaˈgaɸu̥ki] 【名】植物の赤い芽。ˈナーン˥パー　アˈガフキヌ˥　ンジキー　ンˈマーン˥ギサワ　トナー [ˈnaːm˥pa: ʔaˈgaɸu̥kinu˥ ʔnʤiki: ʔmˈmaːŋ˥ gisawa ɻnaː](菜っ葉は、赤い新芽が出てきて美味しそうだねえ)。

˥アカブザ [˥ʔakabuʤa] 【名】百姓。農民。平民。˥アカ [˥ʔaka] は強意の接頭語。ムˈカ˥シェーラ　˥アカブザヌ　シˈグトー　マイ˥　スˈクリ˥ル　˥ムトゥヤˈローッ˥タ [muˈka˥ʃeːra˥ʔakabuʤanu ʃiˈguto: mai˥ su̥ˈkuri˥ru ˥mutu jaˈroːt˥ta](昔から百姓の仕事は稲作が中心 < 基本 > であられた)。

˥アカブザマイ [˥ʔakabuʤamai] 【名】(植) 稲の品種名。ˈホーライマイ˥トゥ　˥アカブザマイトー　ˈヌー˥ル　ンˈマーッ˥タカヤー [ˈhoːraimai˥tu ˥ʔakabuʤa-maito: ˈnuː˥ru ʔmˈmaːt˥takajaː](蓬莱米とアカブザ米とでは何が美味しかったかなあ)。

アˈガプスマ [ʔaˈgapusuma]【名】真昼間。正午。かんかんと照りつける正午。ˈマープスマ [ˈmaːpusuma](真昼間) ともいう。ティˈダ˥ヌ　アˈガプスマ˥　ナルンケン　ˈバー˥ケー　パˈタ˥キ　ˈカイサバ˥ル　˥ティマー　ˈイーラ˥リ [tiˈda˥nu ʔaˈgapu̥suma˥ naruŋkem ˈbaː˥keː pḁˈta˥ki ˈkaisaba˥ru ˥timaː ˈʔiːra˥ri](太陽が真昼間になるまでは畑を耕してはじめて < 耕せばぞ > 手間賃はもらえる)。

アˈガフダ [ʔaˈgaɸuda] 【名】赤札。召集令状。納税の督促状。アˈガフダヌ　キー˥ル　ˈピー˥タイ　ˈサンガリ˥　パレール [ʔaˈgaɸudanu kiː˥ru ˈpiː˥tai ˈsaŋgari˥ pareːru](赤札 < 召集令状 > がきて、それで兵隊に引っ張られていったのだ)。ˈゾー˥ノーパˈライマー˥キ　ˈベーン˥ケンマー　アˈガフダヌ˥　キーˈナー˥ヌ [ˈʤoː˥no: paˈraimaː˥ki ˈbeːŋ˥kemmaː ʔaˈgaɸudanu˥ kiːˈnaː˥nu](税金を納めかねて < 払いかねて > いるうちに赤札 < 差し押さえ状 > が来てしまった)。

アˈガフビ [ʔaˈgaɸubi] 【名】赤襟。フˈビ [ɸuˈbi] はˈ首」の転訛したもので、着物の襟の意。古典舞踊の衣装などで赤い襟をつけるコスチュームは宮廷舞踊、儀式舞踊を表している。日常の着物には赤襟はつけなかった。クˈヌ˥　キンナー　アˈガフビ˥　シˈキリバ˥ル　ˈカイ˥ヤヨー [kuˈnu˥ kinnaː ʔaˈgaɸubi˥ ʃi̥ˈkiriba˥ru ˈkai˥jajoː](この着物には赤襟を付けたほうが綺麗だよ)。

アˈガプリムヌ [ʔaˈgapurimunu] 【名】おお馬鹿もの。大たわけ。全くの気違い。プˈリムヌ [puˈrimunu](

「狂れ者」の義。馬鹿者) に強意の接頭語アˈガ [ʔaˈga](全くの。真の) が上接したもの。˥アイブ　クˈトゥ˥バ　ˈシー　ワー　フン˥トー　アˈガプリムヌ　ユン˥シェー [˥ʔaibu kṵˈtu˥ba ˈʃiː waː ɸun˥toː ʔaˈgapurimunu juŋ˥ʃeː](あんなことをし出かして、君は本当に大馬鹿者だよ)。

アˈガベー˥ル [ʔaˈgabeː˥ru] 【感】いやだ。全く嫌だ。あかんべ。拒絶する時の卑語。ˈベー˥ル [ˈbeː˥ru](嫌だ) に強意の接頭語アˈガ [ʔaˈga] の付いた形。アˈガベー˥ルヒャー　バー　ˈクン˥ネーヤ　イッˈカ˥ナシ　パˈラ˥ヌ [ʔaˈgabeː˥ruça: ba: ˈkun˥neːja ʔikˈkana˥ʃi paˈra˥nu](絶対に聞くものか、私はこの家には決して < いっかな > 行かない)。

アˈガボーダ [ʔaˈgaboːda] 【名】(動) 魚の名。和名、キツネブダイの仲間。アˈガボーダー　パン˥タリティ　ナˈマ˥シ　キˈサ˥バン　˥スー　バˈカサバン˥　イˈカムス˥ク　ンˈマー˥ワ　ˈツォー [ʔaˈgaboːda: pan ˥tariti naˈma˥ʃi kṵˈsa˥ban suː baˈkasabaŋ ʔiˈkamusu˥ku ʔmˈmaː˥waˈtsoː](アガボーダは肥えていて、刺身にしてもお汁に炊いてもどんなに < いか程 > 美味しいことか)。

アˈガマイ [ʔaˈgamai] 【名】(植) 稲の品種名。赤米。ダˈネー˥ママイ [daˈneː˥mamai] ともいう。アˈガマイヤ˥　イˈル˥ヌ　アˈガー　ベー˥ティル　˥アイニ　ˈナー˥　シˈキラ˥リ　ˈブー˥ツォー [ʔaˈgamaija˥ ʔiˈru ˥nu ʔaˈgaː beː˥tiru ˥ʔaini ˈnaː˥ ʃṵˈkira˥ri ˈbuː˥tsoː](赤米は色が赤いので、そのように名前が付けられているそうだ)。

アˈガマイヌ˥　イー [ʔaˈgamainu˥ ʔiː] 【連】赤米の御飯。赤米の飯。アˈガマイヌ　イー˥ヤ　˥アバー　ピˈキティ˥　ンˈマー˥タン [ʔaˈgamainu ʔiː˥ja ˥ʔabaː pṵˈkiti˥ ʔmˈmaː˥taŋ](赤米の御飯は油が出て < 油を引いて > 美味しかった)。

アˈガマスン [ʔaˈgamasuŋ] 【他動】赤くする。˥アブジェー　˥ミーラ　ˈピー˥ヌ　ンˈジ˥ルンケン　˥シラー　アˈガマシティ　クン˥ゾー　˥ンジ　ˈオー˥ル [˥ʔabuʤeː ˥miːra ˈpiː˥nu ʔnˈʤi˥ruŋkeŋ ˥ʃiraː ʔaˈgamaʃṵti kun˥ʤoː ˥ʔnʤi ˥ʔoː˥ru](おじいさんは目から火が出るほど顔は赤らませて怒って < 根性をだして > おられる)。赤らめる。サˈキ˥　ヌˈマ˥シティ　˥シラー　アˈガマシ˥　シケー [saṵˈki˥ nuˈma˥ʃṵti ˥ʃiraː ʔaˈgamaʃi˥ ʃṵkeː](酒を飲ませて顔を赤らめさせてある)。

˥アカマター [˥ʔakamataː] 【名】古見村、小浜島、新城島、宮良村などで篤く信仰されている来訪神の名。毎年の豊年祭に出現して豊穣を予祝し、人々を寿いで帰る神。古見村では、このほかにクロマター、シロマターの二神が出現する。この祭祀は篤い信仰にもとずく秘密結社によって厳かに執行されている。ˈクン˥ヌ　ˈプール˥ナー　˥アカマター　˥クロマタ　˥シロマターヌ　ˈカン˥ヌ　ヤˈマー˥ラ　˥ウリ　ˈオー˥ルン [ˈkun˥nu ˈpuːru˥naː ˥ʔakamataː ˥kuromataː ˥ʃiromataːnu ˈkan˥nu jaˈmaː˥ra ˥ʔuri ˈʔoː˥ruŋ](古見村の豊年祭には赤マター、黒マター、白マターの神が山から下りて来られる)。

アˈカマチ [ʔaˈkamatʃi] 【名】(動) 魚の名。和名、ハマダイ (体長約 1 メートル)。白身魚の最高級魚。アˈカマチェー˥　タˈティ˥ナーシル　ˈクー˥シビーヌ　ˈピーヌ˥クシナーティ　ˈホー˥ソーッタ [ʔaˈkamatʃeː˥ taṵˈti˥naːʃiru ˈkuː˥ʃibiːnu ˈpiːnu˥kuʃinaːti ˈhoː˥ soːtta](アカマチは一本釣り < 立て縄釣り > で、クーシビー干瀬の外海で釣られた)。

アˈガマミ [ʔaˈgamami] 【名】(植) 和名、アズキ (小豆)。「赤豆」の義。餡の原料、味噌の原料としてたくさん作付けされた。アˈガマミヌ˥　イー　バˈカスン [ʔaˈgamaminu˥ ʔiː baˈkasuŋ](アズキご飯を炊く)。

アˈガマミヌ˥　アン [ʔaˈgamaminu˥ ʔaŋ] 【連】アズキの餡。アˈガマミヌ　アンバ˥　ムˈチヌ˥　バタ　イˈリ˥　シケーンダ　ンˈマー˥ン　[ʔaˈgamaminu ʔam ˥ba muˈtʃinu˥ bata ʔiˈri˥ ʃṵkeːnda ʔmˈmaː˥ŋ](小豆の餡を餅の腸 < 餡 > に入れてあるので美味しい)。

アˈガマミヌ˥イー [ʔaˈgamaminu˥ʔiː] 【名】赤飯。「赤豆のご飯」の義。小豆と糯米を混ぜて炊いたご飯。食紅が出る以前は、小豆ご飯を赤飯といった。小豆を一晩 < 約 15 時間 > 水に浸けておいて、米と一緒に炊いた。赤褐色の小豆の色は奥行きのある色と味を演出し、糯米の粘性と小豆のさらさらした味が調和して美味であるが、子供はあまり好まなかった。アˈガマミヌイー˥ヤ　ヤˈラ˥ベー　ˈナン˥ゾー　ッˈふァーンシェン [ʔaˈgamaminuʔiː˥ja jaˈra ˥beː ˈnan˥ʤoː fˈfaːŋʃeŋ](小豆ご飯 < 赤飯 > は、子供はあまり食べなかった)。

˥アガマラー [˥ʔagamaraː] 【名】(動) 黄牛。黄褐色の毛を持つ牛。˥アガマラーウシ [˥ʔagamaraːʔusi](黄牛) ともいう。豊年の瑞兆とされ、古謡などに歌われる。「アカマワリ (赤味を帯びる)・ヤー (もの)」の転か。ˈウン˥ネナー　˥アガマラーウシヌ　プˈスッ˥カラ　ブˈタント ダー [ˈʔun˥nenaː ˥ʔagamaraːʔuʃinu pṵˈsuk˥kara buˈtanト daː](その家には黄牛が一頭 <

一匹 > いたよ)。

˥アガマラーウシ [˥ʔagamaraːʔuʃi] 【名】黄牛。黄褐色の毛を持つ牛。˥アガマラーウシェー　サ˩ニンガーリ˥ムヌ　˩ヤッタ˥ユー　˩ミッ˥タニ　ミ˩ラン˥シェン [˥ʔagamaraːʔuʃeː sa˩niŋgaːri˥munu ˩jatta˥juː ˩mit˥tani mi˩raraŋ˥ʃeŋ](黄牛は突然変異 < 種変わり > によるものなのか、めったに見られなかった)。

ア˩ガミー [ʔa˩gamiː] 【名】疲れや病気などで結膜が充血して赤くなった目。眼球が刺激によって赤くなること (『医学沖縄語辞典』)。˥アガヤー　ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　ティーシ　˩ミー˥バ　˥ッシティル　ア˩ガミー˥　ナシ　˥シケーバン [˥ʔagaja: ku˩nu˥ f˩faː˥ tiːʃi ˩miː˥ba ˥ʃʃitiru ʔa˩gamiː˥ naʃi ˥ʃi̥keːbaŋ](あらまあ、この子は、手で目をこすって < ぞ > 充血させ < 赤目になし > てあるわいな)。

ア˩ガミー [ʔa˩gamiː] 【名】赤身。肉の脂身を除いた赤い部分。若年層は、ア˩ガニク [ʔa˩ganiku](赤肉) ともいう。˩オー˥ヌ　˥ニコー (˩シー˥シェー)　ア˩ガミーラ　カイ˥クーバ [˩ʔoː˥nu nikoː(˩ʃiː˥ʃeː) ʔa˩gamiːra kai˥kuːba](豚の肉 <「肉　之之」シシ。肌膚之肉也『和名抄』> は赤身の部分 < 赤肉 > から選んで買ってきなさいよ)。

ア˩ガミース [ʔa˩gamiːsu] 【名】赤味噌。赤褐色に仕上げた味噌。原料として大豆や麦、小豆などの雑穀を用いる。米だけで作った˩マイヌミー˥ス [˩mainumiː ˥su](米味噌) の上味噌に対して、中味噌、下味噌に属する。˩スー˥ヌ　ア˩ジェー˥　ア˩ガミース˥シ　シ˩キバ˥ル　ン˩マー [˩suː˥nu ʔa˩ʤeː˥ ʔa˩gamiːsu˥ʃi ʃi̥˩kiba˥ru ʔm˩maː](お汁の味は赤味噌でつけたほうがおいしい)。

ア˩ガミツァ [ʔa˩gamitsa] 【名】赤い粘土。赤土。ム˩カ˥シェー　ア˩ガミツァ˥　タリティ　ウ˩リ˥シ　ガ˩マ˥ジ　ア˩ラウタ [mu˩ka˥ʃeː ʔa˩gamitsa˥ tariti ʔu˩ri˥ʃi ga˩ma˥ʤi ʔa˩rau˥ta](昔は赤い粘土を溶かして、それで髪を洗った)。ム˩カ˥シェー　ア˩ガミツァバ˥　タリティ　ウ˩リ˥シル　ガ˩マ˥ジェー　ア˩ラシトーッ˥タ [mu˩ka˥ʃeː ʔa˩gamitsaba˥ tariti ʔu˩ri˥ʃiru ga˩ma˥ʤeː ʔa˩raʃi̥toːt˥ta](昔は赤粘土を溶かして、それで髪を洗われたった)。

ア˩ガミツァジー [ʔa˩gamitsaʤiː] 【名】赤い粘土質の土地。赤粘土。˥クマー　ア˩ガミツァジー˥　ヤ˩ルンダ　ウン˥マー　ス˩クララ˥ヌ [˥kumaː ʔa˩gamitsaʤiː˥ ja˩runda ʔum˥maː sṵ˩kurara˥nu](ここは赤粘土質の土地だからイモは作られない)。˥クマー　ア˩ガミツァジー　ヤ˩ルンダ　シン˥ザ　カー˩ニル˥　ス˩クラ˥リ [˥kumaː ʔa˩gamitsadʒiː jarunda ʃin˥ʤa ka˩niru˥ sṵ˩kura˥ri](ここは赤粘土の土地だからサトウキビしか作れない <〜だけが作られる >)。

ア˩ガミ˥ルン [ʔa˩gami˥ruŋ] 【自動】敬う。尊敬する。崇める。ア˩ガ˥ムン [ʔa˩ga˥muŋ](崇める) のラ行四段化したもの。プ˩ス˥　ア˩ガミ˥ルンティ　ッ˩サヌ [pṵ˩su˥ ʔa˩gami˥runti s˩sanu](他人を崇めよう < 敬おう > としない < 知らない >)。ムッ˩トゥ˥　プ˩ス˥　ア˩ガミラ˥ヌ [mut˩tu˥ pṵ˩su˥ ʔa˩gamira˥nu](ちっとも他人を崇め < 敬わ > ない)。プ˩ス˥　ア˩ガミ˥ル　˥クトゥ [pṵ˩su˥ ʔa˩gami˥ru ˥kṵtu](他人を崇める < 敬う > こと)。˩マー˥ビン　ア˩ガミ˥レー　˥ミサムヌ [˩maː˥biŋ ʔa˩gami˥reː ˥misamunu](もっと崇めれば < 敬えば > 良いのに)。ア˩ガミ˥リバ [ʔa˩gami˥riba](崇め < 敬え > よ)。˥ウヤパープジ　ア˩ガミ˥ルン [˥ʔujapaːpuʤi ʔa˩gami˥ruŋ](先祖を崇める)。イッ˩ケナ˥　トゥ˩ク˥ヌ　ア˩ロー˥レーティル　ムー˩ルン˥　ア˩ガミラ˥リ　˩オー˥ル [ʔik˩kena˥ tṵ˩ku˥nu ʔa˩roː˥reːtiru muː˩ruŋ˥ ʔa˩gamira˥ri ˩ʔoː˥ru](たいそう徳があられたので、みんなに崇められておられる)。プ˩ス˥　ア˩ガミ˥ル　˥クトゥ [pṵ˩su˥ ʔa˩gami˥ru ˥kṵtu](他人を崇めること)。˩マー˥ビン　ア˩ガミ˥レー　˥ミサムヌ [˩maː˥biŋ ʔa˩gami˥reː ˥misamunu](もっと崇めれば良いのに)。ア˩ガミ˥リ [ʔa˩gami˥ri](崇めろ)。

ア˩ガムージ [ʔa˩gamuːʤi] 【名】(植) 里芋の一種。ア˩ガムージェー˥　ッ˩ふァーリン˥カヤー。マ˩ダ˥　ッ˩ふァイミラン˥サー [ʔa˩gamuːdʒeː˥ f˩faːriŋ˥kajaː。ma˩da˥ f˩faimiran˥saː](アガムージは食べられるかな。まだ食べたことない < 食べてみない > さ)。

ア˩ガムチ [ʔa˩gamutʃi] 【名】赤餅。糯米を一晩水に浸け、桶の上で水をかけながら石臼で挽き、その溶液をメリケン袋に入れて一晩水切りをすると真っ白なデンプンが残る。これに食紅を混ぜて揉み、捏ね、拳の大きさに成形してム˩チカグ [mu˩tʃikagu](餅籠。蒸籠) に入れて蒸し上げる。蒸しあがった餅は、メリケン粉か、米粉を広げた˩ソー˥キ [˩soː˥ki](箕) に取り移して粉をまぶし、成形して仕上げる。その際に餡を入れて餡餅にする。˥ヨイナー　ヤー˩ディン˥　ア˩ガムチ˥　ス˩ク˥ローッタン [˥joina: ja:˩diŋ˥ ʔa˩gamutʃi˥ sṵ˩ku˥roːttaŋ](お祝いには必ず赤餅を作られた)。

ア˩ガムチ [ʔa˩gamutʃi] 【名】(動) 魚の名。和名、ロクセンフエダイ (体長約 25 センチ)。ア˩ガムチン˥　アミツァバ　˩ムン˥ダニ　˩スー˥カー　˩ホーサ

リˈタン [ʔaˈgamutʃiŋˈ ʔamitsabaˈ munˈdaniˈ suːˈkaːˈ hoːsariˈ taŋ](クロセンフエダイもヤドカリ＜アミツァ。やどかり。寄居虫＞を餌にすると釣れた)。

アˈガムノーˈマ [ʔaˈgamunoːˈma]【名】火の隠語。「火」をˈピー [ˈpiː] と直接に表現することは「火事」を連想するのでタブーとされ、忌み嫌ってˈ赤い、小さなもの」と婉曲に表現した。パˈマウリソーˈジ [paˈmaʔurisoːˈʤi](浜下り精進) の前夜、村役人が各家を回り、裏声を使って「火の用心」を触れ回った。ッˈサレー [sˈsareː](申し上げごと)。村人は、この滑稽な声色のメッセージを神の声と信じ、竈の前の火の用心に心がけた。それでも、可笑しな声色を堪えるのに苦労した。ッˈサレーが門口より立ち去った後、家族の婦女子らはどっと噴き出して、その良し悪しを評価しあったものである。

アˈガムン [ʔaˈgamuŋ]【自動】赤くなる。赤みがつく。赤らむ。ヤˈラˈベー　ニˈチˈヌ　ンˈジˈルカー　ˈシラー　アˈガムン [jaˈraˈbeː niˈʧiˈnu ʔnˈʤiˈrukaː ˈʃiraː ʔaˈgamuŋ](子供は発熱すると＜熱が出ると＞顔が赤くなる)。アˈガミ　ベー [ʔaˈgami beː](赤らんでいる)。ノーˈンˈ　アˈガマヌ [noːˈŋˈ ʔaˈgamanu](何にも赤くならない)。ˈバー　ˈトゥイスクタールˈ　シラー　アˈガミティˈ　バˈカˈヤンギサシ　ˈピントー　シーベー [ˈbaː ˈtuisu̥kutaːruˈ ʃiraː ʔaˈgamitiˈ baˈkaˈjaŋgisaʃi ˈpintoː ʃiːbeː](私がたずねたらば＜問い聞くと＞、顔を赤らめて恥ずかしそうにして答えて＜返答して＞いる)。サˈキˈ　ヌムカー　ˈシラー　アˈガムンドゥ　ワーˈ　アˈガマンバント ナー [sḁˈkiˈ numukaː ˈʃiraː ʔaˈgamundu waːˈ ʔaˈgamam-banɦ-naː](酒を飲むと顔が赤らむが、君は赤らまないね)。シˈラˈヌ　アˈガムˈ　プˈスン　ブン [ʃiˈraˈnu ʔaˈgamuˈ pu̥ˈsum buŋ](顔が赤らむ人もいる)。ˈマーˈビン　アˈガメーˈ　ミサムヌ [ˈmaːˈbiŋ ʔaˈgameːˈ misamunu](もっと赤らめばいいのに)。ˈシラー　アˈガミティ　クンˈゾー　ンジ　ˈオーˈル [ˈʃiraː ʔaˈgamiti kunˈʤoːˈ ʔnʤi ˈʔoːˈru](顔は赤くして怒っておられる)。

アˈガˈムン [ʔaˈgaˈmuŋ]【他動】敬う。崇める。尊いものとして敬う。「奉・寵、アガム」『類聚名義抄』の転訛したもの。ˈカンヌˈマイ　アˈガˈムン [ˈkannuˈmai ʔaˈgaˈmuŋ](神様を崇める)。ˈカンヌˈマイ　アˈガマンˈカー　ノーˈン　セイコー　サヌ [ˈkannuˈmai ʔaˈgamaŋˈka: noːˈŋ ʃeiko: sanu](神様を崇めないと何事も成功しない)。アˈガˈミ　ˈミサカー　ˈバンˈヌン　アˈガˈム　ˈクトー　ˈナルン [ʔaˈgaˈmi ˈmisakaː ˈbanˈnuŋ ʔaˈgaˈmu ˈku̥toː ˈnaruŋ](崇めて良ければ私も崇めることができる)。アˈガˈメー　ˈミサムヌ [ʔaˈgaˈmeː ˈmisamunu](崇めれば良いのに)。アˈガˈミバ [ʔaˈgaˈmiba](崇めよ)。イッˈケナˈ　ウヤパープジ　アˈガˈムン [ʔikˈkenaˈ ʔujapaːpuʤi ʔaˈgaˈmuŋ](非常に先祖を崇める)。ˈドゥク　ˈアイニ　プˈスヨーˈ　アˈガムˈナˈツォー [ˈdukuˈ ʔainiˈ pu̥ˈsujoːˈ ʔaˈgamuˈnaˈtsoː](あんまり、そのように人を崇めるなってば)。ˈカンヌˈマイ　アˈガˈミ　ˈミサカー　アˈガˈムクトー　ˈナルン [ˈkannuˈmai ʔaˈgaˈmi ˈmisakaː ʔaˈgaˈmu ˈku̥toː ˈnaruŋ](神様を崇めて良ければ崇めることはできる)。ˈマーˈビン　アˈガˈメー　ˈミサムヌ [ˈmaːˈbiŋ ʔaˈgaˈmeː ˈmisamunu](もっと崇めれば良いのに)。ˈパーˈク　アˈガˈミバ [ˈpaːˈku ʔaˈgaˈmiba](早く崇めよ)。

アガˈヤ [ʔagaˈja]【感】仕舞った!! ああ残念。失敗、失望、意外など、半ば自棄気味で言う時に発する言葉。アガˈヤーˈ　アンˈデーˈカ　ウˈレー　ワーシー [ʔagaˈjaːˈ ʔanˈdeːˈka ʔuˈreː waː ˈʃiː](ああ残念。それなら、それは君がやれ)。

アガˈヤー [ʔagaˈjaː]【感】ああしまった。ああ残念。ああ惜しい。ああ気の毒だ。しくじった時に発する語。強調する際は、アガヤˈヘー [ʔagajaˈheː](ああしまった! 至極残念) という。アガˈヤーˈ　フネー　キˈサˈ　ンジパリ　ˈナーンˈバンヨー [ʔagaˈjaːˈ ɸuneː ki̥ˈsaˈ ʔnʤiipari ˈnaːmˈbaŋjoː](ああ残念、船はとっくに出発して＜出て行って＞しまったよ)。ˈアガヤー　ˈヌーˈシター　ウˈレー [ˈʔagajaː ˈnuːʃi̥ˈta: ʔuˈreː](ああ気の毒に、どうしたのだ。それは)。

ˈアガヤー [ˈʔagajaː]【感】[1]ああ。あれっ。まあ。ˈアガヤー　ˈヌーシˈター　クレー [ˈʔagajaː ˈnuːʃiˈtaː kureː](ああ、いったいどうしたのか、これは)。[2]ああ残念。ああ惜しい。アガˈヤーˈ　マーンˈベーマˈ　ヤˈルヌト ナー [ʔagaˈjaːˈ maːʔmˈbeːmaˈ jaˈrunuɦ-naː](ああ残念、もう少しだがなあ)。

アˈガヤーアガヤˈシ [ʔaˈgajaːʔagajaˈʃi]【副】ああああと。悲嘆に暮れるさま。ああ、ああと悲痛な声を出して嘆くさま。ˈウンˈネヌ　アボー　ッˈふァバˈ　シˈナシティ　ピントゥルピンˈ　アˈガヤーアガヤˈシル　ˈオーˈル [ˈʔunˈnenu ʔaboː fˈfabaˈ ʃiˈnaʃiti pinturupiŋˈ ʔaˈgajaːʔagajaˈʃiru ˈʔoːˈru](その家のお母さんは、子供を失って＜死なせて＞毎日＜日と言う日＞悲嘆に暮れて、ああああと嘆き悲しんでおられる)。

アガヤˈヘー [ʔagajaˈheː]【感】ああしまった! ああ

残念だ! 何と惜しいことよ。しくじった時に発する語。アガヤ˞ヘー˺　マー　ン˞ベーマ˺　パ˞ヤー˺タカ˞ナー˺　フネー　マ˞ニヤイ˺シタ　˺ムヌ [ʔagaja˞heː˺ maː ʔm˞beːma˺ pa˞jaː˺taka˞naː˺ ɸuneː ma˞nijai˺ʃi̥ta˺munu](ああ残念だ! もう少し早かったらなあ、船には間に合ったのに)。

ア˞ガヤラビ [ʔa˞gajarabi]【名】全くの子供。全くの未熟者。˺カイブ　˺クトゥンツァン　ッ˞サヌ˺　ア˞ガヤラビル˺　ヤ˞ルタシキン˺ドゥ　ユ˞ラ˺シ　タ˞ボー˺ローリ [˺kaibu ˺ku̥tuntsan s˞sanu˺ ʔa˞gajarabiru˺ ja˞ruta ʃi̥kin˺du ju˞ra˺ʃi ta˞boː˺roːri](このようなことさえも知らない全くの子供ですので、お許しください < 賜れ >)。

ア˞ガユクシ [ʔa˞gajukuʃi]【名】真っ赤な嘘。全くの嘘。˞ワー˺　ムネー　ア˞ガユクシ˺　ウ˞レー˺　シゥ˞カラヌ [˞waː˺ muneː ʔa˞gajukuʃi˺ ʔu˞reː˺ si̥˞karanu](君の話 < 言葉 > は真っ赤な嘘だ。それは聞けない < 聞かれない >)。

ア˞ガヨー [ʔa˞gajoː]【感】ああ痛い。アガ˞ユー [ʔaga˞juː](ああ痛い) ともいう。ア˞ガー [ʔa˞gaː](痛い!) 参照。ヤ˞ラ˺ベー　˞カイ˺リティ　ス˞ブシバ˺　バ˞リ˺　ア˞ガヨーアガヨー˺シ　ナ˞キ　ベー [ja˞ra˺be: ˞kai˺riti su˞buʃiba˺ ba˞ri˺ ʔa˞gajoːʔagajoː˺ʃi na˞ki beː](子供は転んで膝を強打して < 割って > 痛い痛いと泣いている)。

ア˞ガヨームイ˺サン [ʔa˞gajoːmui˺saŋ]【形】痛がりである。ア˞ガヨームイ˺サ (ン)　プ˞ソー˺　ン˞メーマ˺　ヤ˞ム˺バン　ア˞ガヨー˺ティ　ナ˞キス [ʔa˞gajoː-mui˺sa(m) pu̥˞soː˺ ʔm˞meːma˺ ja˞mu˺baŋ ʔa˞gajoː˺ti na˞kisu](痛がり屋はちょっと痛くても、アイターといって泣く)。

ア˞カ˺ラー [ʔa˞ka˺raː]【名】親から離されたばかりの子豚。イ˞サナケー˺ラ　ア˞カ˺ラー　フ˞タッカラ　カイ˺キー　シゥ˞カ˺ナイ　˞ベー [ʔi˞sanakeː˺ra ʔa˞ka˺raː ɸu̥˞takkara kai˺ki: si̥˞ka˺nai ˞beː](石垣から子豚を二頭 < 二匹 > 買ってきて飼っている)。

ア˞ガラパタラ [ʔa˞garapatara]【副】光り輝くさま。明るいさま。耿耿(コウコウ)と。松明がパチパチ音をたてて燃え輝くさま。ABCDEC 型の重言。˞タイ˺ヌ　˞ピー˺バ　ア˞ガラパタラ˺シ　˞モーシェー˺ティ　イ˞ソー　ソーッ˺タ [˞tai˺nu ˞piː˺ba ʔa˞garapatara˺ʃi ˞moːʃeː˺ti ʔi˞so: soːt˺ta](松明の火をあかあかと灯して漁りをなさった)。

ア˞ガリサガ˺リ [ʔa˞garisaga˺ri]【名】上がり下がり。ム˞ヌ˺ヌ　ダ˞イヤ˺　ア˞ガリサガリ˺ヌ　˺アルユンダ　˞ヤッ˺サ　˺ピンナ　˞カウバル˺　トゥク [mu˞nu˺nu ˞daija˺ ʔa˞garisagari˺nu ˺ʔarujunda ˞jas˺sa ˺pinnaː ˞kaubaru˺ tu̥ku](ものの値段は上がり下がりがあるから安い時に買った方が得だ)。

ア˞ガリ˺ザトゥ [ʔa˞gari˺ʤatu]【名】(地) 東里。竹富島にある集落の名。タ˞キ˺ドゥンナール　ア˞ガリ˺ザトゥムラ　ナ˞カ˺スジムラティ　アルティ˞ダー [tḁ˞ki˺dunnaːru ʔa˞gari˺ʤatumura na˞ka˺suʤimurati ʔaruti˞daː](竹富島に東里村、仲筋村とあるそうだよ)。

ア˞カリ˺ルン [ʔa˞kari˺ruŋ]【自動】1離れる。別れる。子豚が乳離れする。「分、アカル」『類聚名義抄』の転訛したものか。沖縄古語「あかれる」『混効験集』。˞オー˺ヌ　ッ˞ふァー˺　フ˞ドゥブ˺カー　ア˞カリルン˺ドゥ　ク˞レー˺　マ˞ダ˺　ア˞カリラ˺ヌ [˞ʔoː˺nu f˞faː˺ ɸu˞dubu˺ka: ʔa˞karirun˺du ku˞reː˺ ma˞da˺ ʔa˞karira˺nu](子豚は成長すると乳離れするが、これはまだ乳離れしない)。ヤ˞ラ˺ベー　ウ˞ヤム˺トーラ　ア˞カサ˺リ　˞パッ˺タツォー [ja˞ra˺be: ʔu˞jamu˺toːra ʔa˞kasa˺ri ˞pat˺tatsoː](子供は親元から引き離されていったそうだ)。2剥がれる。˺イツァー　シ˞ビシキ˺シケータンティン　ミ˞ジ˺ナ　˞ゾッふァス˺カー　ア˞カリ˺ルン [˺ʔitsa: ʃi˞biʃi̥ki˺ ʃi̥keːtantim mi˞dʒi˺na ˞ʤoffasu˺ka: ʔa˞kari˺ruŋ](板は貼り付けてあっても水に濡らすと剥がれる)。

ア˞カル [ʔakaru]【名】明かり。灯火。ア˞カル˺　シ˞キ˺リ [ʔa˞karu˺ ʃi̥˞ki˺ri](灯火を灯しなさい)。ア˞カルン˺　シ˞キラ˺ムティ　˞ヤーン˺ナカー　˺ピーリボール　˞シー˺　ス˞ク˺ナ [ʔa˞karuŋ˺ ʃi̥˞kira˺muti ˞jaːn˺naka: ˺piːriboːru ˞ʃiː˺ su̥˞ku˺na](灯火も点けないで、家の中を人気がなく、冷え冷えとさせておくな)。

ア˞カル [ʔa˞karu]【名】障子。老年層の使用語彙。明治生まれ以外の人は、ほとんど使用しない。ア˞カル˺　シミティ　˞トゥー˺ル　シ˞キ˺リ [ʔa˞karu˺ʃimiti ˞tuː˺ru ʃi̥˞ki˺ri](障子を閉めて灯火 < 灯篭 > を灯しなさい)。ム˞カ˺シプソー　˞ソージバ˺　ア˞カルティ˺　ア˞ゾーッ˺タ [mu˞ka˺ʃipu̥soː ˞soːʤiba˺ ʔa˞karuti˺ ʔa˞ʤoːt˺ta](昔の人は障子をアカルと言われたよ)。

ア˞ガルン [ʔa˞garuŋ]【自動】1上がる。上昇する。上方に向かう。「〜ひばり安我里 < アガリ >　情 < こころ > 悲しも〜。万、4291」の転訛したもの。˞オシキヌ˺　ヤ˞ブ˺ルカー　ム˞ヌ˺ヌ　ダ˞イヤー˺　ア˞ガルン [˞ʔoʃi̥kinu˺ ja˞bu˺ruka: mu˞nu˺nu ˞daijaː˺ ʔa˞garuŋ](天気が崩れると < 破れると > ものの値段は上がる)。ア˞ガルティダル˺　ウ˞ガ˺ム　˞イー

ルティダー˥　ウˈガマ˥ヌ [ʔaˈgarutidaru˥ ʔuˈga˥mu ˈʔiːrutidaː˥ ʔuˈgama˥nu](昇る太陽を拝む。西日 < 落日 > は拝まない < 諺 >)。2漁期が終了する。パˈチング˥チ　˥ナルカー　カˈツシンマー˥　アˈガルン [paˈtʃiŋgu˥tʃi ˥naruka: kaˈtsuʃimmaː˥ ʔaˈgaruŋ](八月になったらカツオ漁は終了する)。

アˈガロー˥ザ [ʔaˈgaroː˥ʤa] 【名】歌謡の名。アガローザ節の節名。語源は「東里 (あがりざと)」の義という説がある『石垣方言辞典』。アˈザテー [ʔaˈʤateː](東里家)、イˈザ˥テー [ʔiˈʤa˥teː](西花家 <「西里家」の義 >) 参照。ヤˈラビ˥ヌ　ˈタンカーヨイ　ソー˥ル　˥ピンマー　ヤーˈディン˥　アˈガロー˥ザ　イˈゾーッ˥タン [jaˈrabi˥nu ˈtaŋkaːjoi soː˥ru ˥pimmaː jaːˈdin˥ ʔaˈgaroː˥ʤa ʔiˈʤoːt˥taŋ](子供の誕生祝いをされる時は必ずアガローザ節を歌われた)。

アˈガロー˥ルン [ʔaˈgaroː˥ruŋ] 【自動】登られる。上がられる。アˈガルン [ʔaˈgaruŋ](上がる) の尊敬語。ˈオー˥リ　ッˈふォー˥リ　フˈコーラサ˥ユー　ˈト˥ーˈト˥ー　ウˈチンター˥　アˈガロー˥リ [ˈʔoː˥ri ˈfoː˥ri ɸuˈkoːrasa˥juː ˈto˥ːˈto˥ː ʔuˈʧintaː˥ ʔaˈgaroː˥ri](おいでくださって有難うございます。さあさあ座敷へ < 内の方へ > お上がりください < 上がりおはれ >)。

アˈカンキ [ʔaˈkaŋki] 【名】赤木。和名、アカギ。高さ 25 メートルにも達する高木だが、建築用材には使用されない。豚の飼葉桶 (ˈトー˥ニ [ˈtoː˥ni]) を作るのに利用された。実は直径 1〜1.2 センチで褐色の球形。お盆の供え物 (ムˈルムル [muˈrumuru]) にさして先祖の供養に用いる。アˈカンキーヌ˥　ナル˥ブリキー　ムˈルムルヌ　シン˥ザナ　˥ッシ　カˈザリ˥バ [ʔaˈkaŋkiːnu˥ naru ˥buriki: muˈrumurunu ʃin˥ʤana ˥ʃʃi kaˈʤari˥ba](赤木の実をもいできて、ムルムルの砂糖きびに差して供えなさいよ)。

アˈカンキー [ʔaˈkaŋkiː] 【名】 (植) 赤木。赤木の幹を刳り抜いてˈトー˥ニ [ˈtoː˥ni](田舟。水田の地均しに用いた農具) を作ったり、豚の飼い葉おけを作ったりした。アˈカンキーヌ˥　ナロー　ˈソーラン˥ヌ　ムˈルムル˥ナー　イˈローッ˥タン [ʔaˈkaŋkiːnu˥ naroː ˈsoːran˥nu muˈrumuru˥naː ʔiˈroːt˥taŋ](赤木の実はお盆のムルムルに入れられた)。

アˈガンタールン [ʔaˈganta:ruŋ] 【自動】赤くなる。赤らむ。赤む。赤みを帯びる。アˈシ˥ボー　アˈガンターリティ　ウー˥ミ　ブˈリン˥ギサバン [ʔaˈʃi˥boː ʔaˈganta:riti ʔuː˥mi buˈriŋ˥gisabaŋ](おでき < あせも > は赤らんで化膿しているらしい)。ウˈビ˥ナー　アˈガンタールン˥ケン　˥イサン　ミˈシラン˥　シケーバン [ʔuˈbi˥naː ʔaˈganta:ruŋ˥keŋ ˥ʔisam miˈʃiraŋ˥ ʃiːke:baŋ](これほど赤らむまで医者に診せないでおいてあるよ)。アˈガンターラヌ [ʔaˈganta:ranu](赤らまない)。˥ドゥク　アˈガンタール˥　ムノー　シˈティリ [˥duku ʔaˈganta:ru˥ muno: ʃiˈtiri](余り赤らむものは捨てなさい)。

˥アカンマーブシ [˥ʔakamma:buʃi] 【名】歌謡名。赤馬節。単に˥アカンマー [˥ʔakamma:] ともいう。首里王府に献上された名馬の赤馬を讃えた節歌で、石垣島では宴席の座開きの歌として演奏される目出度い歌謡。˥アカンマーブシバ　ピˈキティ˥　カルイ　シˈキ˥リバ [˥ʔakamma:buʃiba piˈkiti˥ karui ʃiˈki˥riba](赤馬節を弾いて嘉例吉の縁起をつけなさい)。

˥アキ [˥ʔaki] 【名】 1秋。アˈキ˥ヌ　˥シチ [ʔaˈki˥nu ˥ʃiʧi](秋季、秋の季節)。2稲の収穫。収穫期。スˈクリムヌ˥ヌ　˥アキーン　ウˈチナ˥ソーリ　ウˈミナーク　ソー˥レーン [suˈkurimunu˥nu ˥ʔakiːŋ ʔuˈʧina˥ soːri ʔuˈminaːku soː˥reːŋ](稲 < 作り物、作物 > の収穫 < 秋 > もすまされ、安心なされた)。

˥アキ [˥ʔaki] 【名】 (動) 魚の名。和名、クロカジキ (体長約 3 メートル)。終戦後まで鳩間島の突船は尖閣諸島の魚場へ行き、カジキを突いて漁獲していた。

アˈキ [ʔaˈki] 【名】空き間。空席。ヤˈク˥バナー　アˈキヌ˥　アンティバ　ˈワー˥　シケン　˥ウキ　ミˈラン˥ノーレー [jaˈku˥bana: ʔaˈkinu˥ ʔantiba ˈwaː˥ ʃikeŋ ˥ʔuki miˈran˥noːreː](役場に空席があるそうだから、君は試験を受けてみないか)。

アˈギ [ʔaˈgi] 【名】丘。陸。海に対していう。アˈギヌ˥　シˈグトゥル　ワー˥　ノーˈン˥シタンテイン　マˈシ˥ヨー [ʔaˈginu˥ ʃiˈguturu waː˥ noˈŋ˥ʃiːtantim maˈʃi˥joː](陸上の仕事の方が、君、何と言っても良い < ましだ > よ)。

アˈギアバ [ʔaˈgiaba] 【名】揚げ油。揚げ物用の油。菜種油と豚の脂が主に使用された。ˈオー˥ヌ　ッˈス˥アバー　˥ナビナ　˥タリティル　ˈティン˥プラー　ヤˈクタル [ˈʔoː˥nu sˈsu˥ʔaba ˥nabina ˥taritiru ˈtim ˥puraː jaˈkutaru](豚の白い脂を鍋に溶かしてテンプラを揚げた < 焼いた > よ)。

アˈギウラ˥シ [ʔaˈgiura˥ʃi] 【名】上げ下ろし。積み下ろし。ˈカイナ˥ヌ　ヤミティ　ˈティー˥ヌ　アˈギウラ˥シンツァン　ˈシーユーサヌ [ˈkaina˥nu jamiti ˈtiː˥nu ʔaˈgiura˥ʃintsaŋ ˈʃiːjuːsanu](肩や腕が痛くて、手の上げ下ろしすら出来ない)。フˈニ˥ヌ　シˈキ˥ル

カー　ˈニーˉヌ　アˈギウラシヌンドゥˉ　クˈチˉサ　ˈツォー [ɸuˈniˉnu ʃi̥ˈkiˉruka: ˈniːˉnu ʔaˈgiuraʃindu ˉkṵˈtʃiˉsaˈtsoː](船が着いたら荷物の積み下ろし＜揚げ降ろし＞が苦しいんですよ)。ˉイダフニヌ　アˈギウラˉシェー　ˈタンガˉシン　ˉナルン [ˉʔidaɸuninu ʔaˈgiʔuraˉʃeː ˈtaŋgaˉʃin naruŋ](板舟＜サバニ＞の陸揚げや海への降ろし＜進水＞は一人でも出来る)。

アˈギカウ [ʔaˈgikau] 【名】供えの香。「上げ香」の義。ˈアギ [ʔaˈgi] は、「Ague,ru,eta. アゲ、グル、ゲタ (上げ、ぐる、げた)〜身分の高い人にさし上げる、奉る。」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。仏前に供えたウˈティンˉガビ [ʔuˈtiŋˉgabi](打ち紙。紙銭) を焼く際に、長男家の分、分家からの分、嫁いだ娘達からの分のように順次線香を焚き、フˈチカザル [ɸṵˈtʃikadʒaru](口で唱える) をして焼き上げる。紙銭などの案内のために焚く香。アˈギカウˉ　シキ　ˉタティティ　ウˈティンˉガビ　ˉアビ　ˈオーシˉバ [ʔaˈgikauˉ ʃi̥ki ˉtą̥titi ʔuˈtiŋˉgabi ˉʔabi ˈʔoːʃi ˉba](上げ香を焚いて紙銭を炙って＜焼いて＞差し上げなさい)。

アˈキˉカツ [ʔaˈkiˉką̥tsu] 【名】秋かつお。秋に釣れるかつお。アˈキˉカツォー　トゥˈビダイル　ゴーˉラーター [ʔaˈkiˉką̥tsoː tuˈbidairu goːˉraːta](秋カツオは超大判のカツオが多かった)。

アˈギˉサギ [ʔaˈgiˉsagi]【名】上げ下げ。上げ下ろし。シˈダルˉヌ　アˈギˉサゲー　ˉアブジェー　ˈシーソーラˉヌ [ʃiˈdaruˉnu ʔaˈgiˉsageː ʔabudʒeː ˈʃiːsoːraˉnu](簾の上げ下げは、おじいさんは、なさることができない)。ˈジンヌˉ　アˈギˉサギ [ˈdʒinnuˉ ʔaˈgiˉsagi](お供えのお膳の上げ下ろし＜上げ下げ＞)。

アˈキザマˉルン [ʔaˈkidʒamaˉruŋ] 【自動】飽きる。飽き果てる。飽き飽きする。ヤˈラˉベー　ムˈチˉカサル　ˉムノーラ　パˈジミルˉカー　アˈキザマˉルンダ　アˈキザマラサンˉヨーニ　ˈヤッˉサル　ˉムノーラ　ナˈラーˉシバ [jaˈraˉbeː muˈtʃiˉką̥saru ˉmunoːra paˈdʒimiruˉkaː ʔaˈkidʒamaˉrunda ʔaˈkidʒamarasaŋˉjoːni ˈjasˉsaru ˉmunoːra naˈraːˉʃiba](子供は難しいものから教えると飽き果てるから、飽きさせないように易しいものから教えなさいよ)。アˈキザマˉリティ [ʔaˈkidʒamaˉriti](すっかり飽き果てて)。アˈキザマˉリ　ˈナーˉヌ [ʔaˈkidʒamaˉri ˈnaːˉnu](飽き果ててしまった)。アˈキザマˉル　ˉクトー　ˈナーˉヌ [ʔaˈkidʒamaˉru ˉkṵtoː ˈnaːˉnu](飽き果てることはない)。アˈキザマˉレー　ˉミサムヌ [ʔaˈkidʒamaˉreː ˉmisamunu](飽き果てればいいのに)。アˈキザマˉリ [ʔaˈkidʒamaˉri](飽きれよ)。

ˉアギザミヨー [ˉʔagidʒamijoː] 【感】 1ああ、しまった! ああ、大変だ。ˉアキサミヨー [ˉʔakisamijoː] ともいう。沖縄本島方言からの借用語。ˉアギザミヨー　ˈデーˉジ　ˈシー　ナーˉヌ [ˉʔagidʒamijoː ˈdeːˉdʒi ˈʃiː naːˉnu](ああ、しまった。大変なことしてしまった)。2あああああ (嗚呼嗚呼)。何だこれぽっち。なにくそ (何糞)!ˉアギザミヨー　ウˈヌˉ　アˈタˉルンツァン　カˈタマラヌー [ˉʔagidʒamijoː ʔuˈnuˉ ʔaˈtaˉruntsaŋ ką̥ˈtamaranuː](何だこれぽっち、それぐらいさえも担げないのか)。

アˈギジェー [ʔaˈgidʒeː] 【感】こんちくしょう。ええ、くそ。沖縄本島糸満方言からの借用語か。明治生まれの老年層は、アˈガヤー [ʔaˈgajaː](こんちくしょう) というのが普通である。事が成就困難なときに自暴自棄的に発する言葉。アˈギジェーˉ　ヌーンティ　アイニ　カˈカランˉワレー [ˉʔagidʒeː ˉnuːnti ˉʔaini kaˈkaranˉwareː](こんちくしょう、どうしてこんなに書けないのか)。

アˈギジマー [ʔaˈgidʒimaː] 【名】陸の人。漁師でない、陸上で働く人。特に農夫。漁の出来ない人や泳げない人を嘲っていう語。ウˈレーˉ　アˈギジマーˉ　ヤˈルンダˉ　ウイˈサヌ [ʔuˈreːˉ ʔaˈgidʒimaːˉ jaˈrundaˉ ʔuiˈsanu](彼は陸の人だから泳げない)。

アˈギゾー [ʔaˈgidzoː] 【名】「上げゾー」の義か。包み紙のこと。「上げる」とは、祈願などが「終了」することの意である。祈願が終わるごとに供物のお初を、神の苞として別に取っておくものの意味であろう。祈願が済んで、ウˈツァナˉク [ʔuˈtsanaˉku](団子の供物) の上のˈカンヌˉク、ムˈリクバンの上のˉクバンとアˈライパナを一つまみずつ包んでおく紙のこと。大きさは約 10 センチ正方形の紙である。アˈギゾーヤˉ　トゥリ　ˉシキバ [ʔaˈgidzoːjaˉturi ˉʃi̥kiba](包み紙は取っておきなさいよ)。

アˈギソッコー [ʔaˈgisokkoː] 【名】三十三年忌の法事。「上げ焼香 (終わり焼香)」の義か。ウˈブソッˉコー [ʔuˈbusokˉkoː](三十三年忌の法事、「大焼香」の義) ともいう。アˈギソッコー　シー　オースˉカー　ˉカン　ナˈローˉルンˈトゥˉツォー [ʔaˈgisokko: ʃiː ʔoːsuˉkaː ˉkan naˈroːˉrunˈtuˉtsoː](三十三年忌の法事が終わると神様になられるそうですよ)。

アˈキˉタロー [ʔaˈkiˉtaroː] 【名】 (動) 魚の名。和名、マカジキ (体長約 2、5 メートル)。終戦後、尖閣列島の漁場で体長約 2,5 メートルの大物カジキ (アˈキ

ˈタロー) を鳩間島のツˈキシェン [tsu̥ˈkiʃeŋ](突船) が漁獲していた。イカ釣り漁の時期にイカの生餌で漁獲されることもあった。イˈガメーˈラ　アˈキˈタロー　ˈホーˈソール　プˈスン　オーッˈタン [ʔiˈgameːˈra ʔaˈkiˈtaroː ˈhoːˈsoːru pu̥ˈsuŋ ʔoːtˈtaŋ](烏賊釣り漁からマカジキを釣り上げられる人もおられた)。

アˈキティンˈ　クˈリˈティン [ʔaˈkitiŋˈ kuˈriˈtiŋ] 【連】明けても暮れても。アˈキティンˈ　クˈリˈティン　ユˈヌˈムニ　カーˈニルˈ　アˈズ [ʔaˈkitiŋˈ kuˈriˈtiŋ juˈnuˈmuni kaːˈniruˈ ʔaˈʤu](明けても暮れても同じ言葉ばかりを言う)。

アˈキティンクリˈティン [ʔaˈkitiŋkuriˈtiŋ] 【連】明けても暮れても。年中。アˈキティンクリˈティン　ブˈラーンˈ　ッˈふァヌˈ　パˈナˈシカーˈニル　ソーˈル [ʔaˈkitiŋkuriˈtim buˈraːŋˈ fˈfanuˈ paˈnaˈʃi kaːˈniru soːˈru](明けても暮れても死んだ＜居ない＞子供のことだけ話される)。

アˈギドーフ [ʔaˈgidoːɸu] 【名】揚げ豆腐。油で揚げた豆腐。厚さ約 1 センチに切った豆腐を油で揚げたもの。ˈソッˈコーナー　アˈギドーフˈ　シˈキバルˈ　ナル [ˈsokˈkoːna: ʔaˈgidoːɸuˈ ʃiˈkibaruˈ naru](法事＜焼香＞には揚げ豆腐を供えないといけない＜供えたほうがよい＞)。アˈギドーホーˈ　サˈギティーˈグ (サˈギソーˈキ) ナ　イˈリティˈ　サイ　シˈキˈリ [ʔaˈgidoːhoːˈ saˈgitiːˈguna(saˈgisoːˈki) ʔiˈritiˈ sai si̥ˈkiˈri](揚げ豆腐は下げ籠＜柄の付いた籠＞に入れて吊るしておきなさい)。アˈギドーホーˈ　ヨイナーン　ˈソッˈコーナーン　ˈウサイ　スˈクˈローッタン [ʔaˈgidoːhoːˈ joinaːn ˈsokˈkoːnaːŋ ˈʔusai suˈkuˈroːttaŋ](揚げ豆腐はお祝いにも法事　＜焼香＞にも料理＜お菜＞として作られた)。

アˈキˈナイ [ʔaˈkiˈnai] 【名】商い。商売。「估、商也、交易也、阿支奈不＜あきなふ＞」『新撰字鏡』の転訛したもの。イˈズバˈ　カˈミアキˈナイ　ˈシェーˈティル　ッˈふァーˈ　シゥˈカˈナイ　ˈオーッˈタ [ʔiˈʤubaˈ kaˈmiakiˈnai ˈʃeːˈtiru fˈfaːˈ si̥ˈkaˈnai ˈʔoːtˈta](魚を頭に載せて売り歩く商売をしながら子供を養われた＜育てられた＞)。

アˈキˈナイ　ˈスン [ʔaˈkiˈnai ˈsuŋ] 【連】商売する。売買する。ガˈシˈイズン　パˈリタクンˈ　ムティˈギーˈ　アˈキˈナイ　ˈシーˈ　クーバ [gaˈʃiˈʔiʤum paˈritakum mutiˈgi: ʔaˈkiˈnai ˈʃiːˈkuːba](燻製の魚も日干しの張り蛸も持っていって商売してきなさい)。

アˈキナイˈプス [ʔaˈkinaiˈpu̥su] 【名】商売人。商人。あきんど。イˈサナキヌˈ　アˈキナイˈプソー　ヤˈマトゥプスˈル　ˈゴーˈラーター [ʔiˈsanakinuˈ ʔaˈkinaiˈ pu̥soː jaˈmatupusuˈru ˈgoːˈraːtaː](石垣島の商人は本土の人＜大和人＞が多かった)。

アˈキナイˈムヌ [ʔaˈkinaiˈmunu] 【名】商品。商いもの。アˈキナイˈムノー　ˈカッティニˈ　トゥˈルˈナˈヨー [ʔaˈkinaiˈmunoː ˈkattiniˈ tuˈruˈnaˈjoː](商品は勝手に取るなよ)。

アˈギナビ [ʔaˈginabi] 【名】油で揚げ物をする鍋。揚げ物用の鍋。「揚げ鍋」の義。アˈギナビˈナ　ピー　ˈシケーラ　ˈミー　パˈナスˈナˈヨー [ʔaˈginabiˈna piː ˈʃi̥keːra ˈmiː paˈnasuˈnaˈjoː](揚げ物鍋に火をつけたら目を離すなよ)。

アˈギニー [ʔaˈginiː] 【名】陸揚げする船荷。シˈミニー [ʃiˈminiː](積み荷) の対義語。ˈウンパンシンˈヌ　ˈペールˈター　ˈサンバˈシェー　アˈギニーヌˈ　シˈマリティˈ　アˈラカラˈヌ [ˈʔumpaŋʃinˈnu ˈpeːˈrutaː ˈsambaˈʃeː ʔaˈginiːnuˈ ʃiˈmaritiˈ ʔaˈrakaraˈnu](運搬船が入ったので桟橋は陸揚げした船荷が積まれて歩かれない)。

アˈギヌˈ　プˈス [ʔaˈginuˈ pu̥ˈsu] 【連】おか (陸) の人。陸上で働く人。農夫。アˈギヌˈ　プˈソーˈ　ウˈミˈワザ　ˈソーラˈヌ [ʔaˈginuˈ pu̥ˈsoːˈ ʔuˈmiˈwaʤa ˈsoːraˈnu](おかの人＜農夫＞は海の仕事＜漁業＞をなさらない)。

アˈキパタックン [ʔaˈkipatakkuŋ] 【他動】すっかり開け広げる。家の戸を開け放つ。着物の裾を開け広げる。「あけはだけ＜開け＞る」の義。「開、ハダクル」『運歩色葉集』の転訛したもの。ˈヤドゥ　アˈキパタックン [ˈjadu ʔaˈkipatakkuŋ](戸を開け放つ)。ˈキンˈヌ　ッˈソーˈ　アˈキパタッカンドーˈシ　キˈシˈバ [ˈkinˈnu sˈsoːˈ ʔaˈkipatakkandoːˈʃi ki̥ˈʃiˈba](着物の裾は開けはだけないで着なさいよ)。ˈヤドゥ　アˈキパタッキティˈ　カˈジ　トゥーˈシ [ˈjadu ʔaˈkipatakkitiˈ kaˈʤi tuːˈʃi](戸を開け放って風を通せ)。アˈキパタックˈ　クトー　ナˈラˈヌ [ʔaˈkipatakkuˈ ku̥to: naˈraˈnu](開け放つことは出来ない)。アˈキパタッケーˈ　ミサムヌ [ʔaˈkipatakkeːˈ misamunu](開け放てばいいのに)。アˈキパタッキ [ʔaˈkipatakki](開け放て)。

アˈキパティルン [ʔaˈkipatiruŋ] 【自動】すっかり飽きてしまう。まったく嫌になる。ムˈチンˈ　アˈキパティルンˈケン　ッˈふァイ　ミッˈタン [muˈʧiŋˈ ʔaˈkipatiruŋˈkeŋ fˈfai mitˈtaŋ](餅も飽きるほど食べてみた)。アˈキパティラヌ [ʔaˈkipatiranu](厭き果

てない)。アˈキパティナーˀヌ [ʔaˈkipatinaːˀnu](すっかり厭き果ててしまった)。アˈキパティルˀ　クトゥン　ˈアッˀタン [ʔaˈkipatiruˀ kṵtuŋ ˈʔatˀtaŋ](厭き果てることもあった)。アˈキパティレーˀ　ミサムヌ [ʔaˈkipatireːˀ misamunu](すっかり飽きてしまえばいいのに)。アˈキパティリ [ʔaˈkipatiri](厭き果ててしまえ)。

アˈキパティッサーク [ʔaˈkipatissaːku]【名】難儀で厭き果てる仕事。ˈピントゥルピンˀ　アˈキパティッサークン　オーリティ　ユーコーラˀヌ [ˈpinturupiŋˀ ʔaˈkipatissaːkuŋ ʔoːriti juːkoːraˀnu](毎日毎日、難儀で厭き果てる仕事に追いまくられて休まれない)。

アˈキパティムニ [ʔaˈkipatimuni]【名】聞くに堪えないような嫌な言葉。罵詈雑言。プˈスニンギンヌˀ　アイブ　アˈキパティムニヌバˀ　イˈザリラー＜イˈザリワ＞[pṵˈsuniŋginnuˀ ʔaibu ʔaˈkipatimunibaˀ ʔiˈʤarira: ＜iˈzariwa＞](人間として＜人間が＞あのような聞くに堪えない言葉を言うことが出来るものかねえ)。イˈカーラˀ　ノーˈンヤラバンˀ　アイブー　アˈキパティムネーˀ　イˈズナ [ʔiˈkaːraˀ noːˈŋjarabaŋˀ ʔaibu ʔaˈkipatimuneːˀ ʔiˈʤuna](幾ら何でもあのような聞くに堪えないような言葉は言うものではない＜言うな＞)。

アˈキパティルン [ʔaˈkipatiruŋ]【自動】呆れはてる。呆れる。ˀアイブ　ムニ　スˈクˀカー　ターˈンヤルバンˀ　アˈキパティルンˀヨー [ˀʔaibu muni sṵˈkuˀ kaː taːˈɲjarubaŋˀ ʔaˈkipatiruŋˀjoː](あのような言葉を聞くと誰でも呆れ果てる＜興ざめする＞よ)。アˈキパティラヌ [ʔaˈkipatiranu](呆れ果てない)。アˈキパティティˀ　ウˈリヌˀ　シラー　ミˈリˀプサー　ˈナーˀヌ [ʔaˈkipatitiˀ ʔuˈrinuˀ ʃiraː miˈriˀpṵsaː ˈnaːˀnu](呆れ返って、あいつのつら＜面＞は見たくない)。アˈキパティルˀ　クトー　ˈナーˀヌ [ʔaˈkipatiruˀ kṵtoː ˈnaːˀnu](呆れ果てることはない)。アˈキパティルンˀケン　ユˈヌシグトゥˀバ　ˈシー　ベーˀタ [ʔaˈkipatiruŋˀkeɲ juˈnuʃigutuˀba ˈʃiː beːˀta](厭き果てるほど同じ仕事をしていた)。アˈキパティランドーˀシ　シˈグトゥ　シーˀヨー [ʔaˈkipatirandoːˀʃi ʃiˈgutu ʃiːˀjoː](厭き果てないで仕事をしなさいよ)。アˈキパティルˀ　クトー　ˈナーˀヌ [ʔaˈkipatiruˀ kṵtoː ˈnaːˀnu](厭き果てることは無い)。アˈキパティレーˀ　ミサムヌ [ʔaˈkipatireːˀ misamunu](厭き果てれば良いのに)。アˈキパティリ [ʔaˈkipatiri](厭きはてろ)。

アˈキパティワザ [ʔaˈkipatiwaʤa]【名】すっかり厭きてしまう仕事。うんざりする仕事。全く嫌になる仕事。ˀシンピーズ　ユˈヌシグˀトゥ　ˈシーˀ　アˈキパティワザˀダー　ウˈレー [ˀʃimpiːʤu juˈnuʃiguˀtu ˈʃiːˀ ʔaˈkipatiwaʤaˀdaː ʔuˈreː](毎日毎日＜千日中＞同じ仕事をして、全く嫌になる仕事だよ、それは)。

アˈギパニ [ʔaˈgipani]【名】衣服に飛び散った泥。雨の日に下駄を履いて歩くと着物の後ろや裾に泥水が飛び跳ねて付着する。その泥。「Fane. ハネ (跳ね) 日本の靴＜下駄＞や草履から着物の後ろの方に跳ねてついた泥」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。アˈミˀフイナー　アˈチˀツァ＜アˈシˀツァ＞　フˈミティˀ　ミˈチェーˀ　ンˈジˀルカー　ˀキンナー　アˈギパニヌˀ　スクンˈダー [ʔaˈmiˀɸuinaː ʔaˈʧiˀtsa ＜ʔaˈʃiˀtsa＞ ɸuˈmitiˀ miˈʧeːˀ ʔnˈʤiˀrukaː ˀkinaː ʔaˈgipaninuˀ sṵkunˈdaː](雨降りに下駄を履いて道に出ると着物に泥跳ねが付くよ)。

アˈキパヤーˀン [ʔaˈkipajaːˀŋ]【形】飽きっぽい。飽きやすい。「飽き早い」の義。アˈキパヤーˀンダ　シˈグトゥˀ　ウˈティシゥカˀヌ [ʔaˈkipajaːˀnda ʃiˈgutuˀ ʔuˈtisi̥kaˀnu](飽きっぽいから仕事も落ち着かない＜定着しない＞)。

アˈギフー [ʔaˈgiɸuː]【名】揚げ麩 (あげふ)。石垣方言からの借用語。終戦後から食品として導入されるようになった。アˈギフーヤ　ナンˀゾー　ッˈふァイミランˀセン [ʔaˈgiɸuːja nanˀʤoː fˈfaimiraŋˀʃeŋ](揚げ麩はあんまり食べたことはなかった)。

アˈキフイ [ʔaˈkiɸui]【名】開け閉め。開閉。ヤˈドゥˀヌ　アˈキフヤˀ　ミスˈコーミスコーˀシ　ˈシーˀバ [jaˈduˀnu ʔaˈkiɸuijaˀ misuˈkoːmisukoːˀʃi ˈʃiːˀba](戸＜家戸＞の開け閉めは静かに＜慎重に、注意して丁寧に＞しなさい)。

アˈギマーサリン [ʔaˈgimaːsariŋ]【自動】急(セ)き立てられる。アˈギマースン [ʔaˈgimaːsuŋ](急き立てる。責め立てる) の未然形に受身・可能の助動詞ˈリン [ˈriŋ](れる) が下接して形成された受身・可能動詞。ˀウナー　ˈベーˀルカー　アˈギマーサリント ダー [ˀʔunaː ˈbeːˀrukaː ʔaˈgimaːsarinト daː](そこにいると急き立てられるよ)。ウˈヌˀ　ッˈふァンˀ　アˈギマーサリティルˀ　アˈダカˀヌ　ムˈヌˀバ　ˈカイヤーˀダ　ˈレー [ʔuˈnuˀ fˈfaŋˀ ʔaˈgimaːsaritiruˀ ʔaˈdakaˀnu muˈnuˀba ˈkaijaːˀda ˈreː](その子に急き立てられ、責め立てられてあんな高価な物を買ったのだよ、それは)。ウˈリンマーˀ　アˈギマーサラヌ [ʔuˈrimmaːˀ ʔaˈgimaːsaranu](彼には急き立てられない)。

アˈギマースン [ʔaˈgimaːsuŋ] 【他動】急き立てる。催促して急がせる。ˈサッˀコー　プˈスˀ　アˈギマースン [ˈsakˀkoː pu̥ˈsuˀ ʔaˈgimaːsuŋ](非常に人を急き立てる)。アˈギマーサンドーˀシ　パˈナˀシバ [ʔaˈgimaːsandoːˀʃi paˈnaˀʃiba](急き立てないで話せよ)。アˈギマーシˀ　ミサカー　アˈギマースˀ　クトー　ナルンˈダー [ʔaˈgimaːʃiˀ misakaː ʔaˈgimaːsuˀ ku̥toː narunˈdaː](急き立てて良ければ急き立てることはできるよ)。アˈギマーシェーˀ　ミサムヌ [ʔaˈgimaːʃeːˀ misamunu](急き立てれば良いのに)。ˈマーˀビン　アˈギマーシ [ˈmaːˀbiŋ ʔaˈgimaːʃi](もっと急き立てろ)。

アˈキミー [ʔaˈkimiː] 【名】隙間。「空き目」の義。ˈアーキˀミー [ˈʔaːkiˀmiː](隙間。物と物の間の少し開いている所。ˈ空き間」の義)、ˈピッキˀミー [ˈpikkiˀmiː](穴、小孔) ともいう。ニˈシクビˀナ　アˈキミーヌˀ　アリティル　ウˈレーˀラ　ˈピーリカジˀヌ　ˈペーˀリ　ˈクーˀバン [niˈʃikubiˀna ʔaˈkimiːnuˀ ʔaritiru ʔuˈreːˀra ˈpiːrikadʒiˀnu ˈpeːˀri ˈkuːˀban](北壁に隙間があって、それから冷たい風が入ってくるんだよ)。

アˈキミックヮー [ʔaˈkimikkwaː] 【名】文盲。「明き盲」の義。シˈマˀナー　ˈガッˀコー　アˈリˀブンダ　アˈキミックヮーヤ　ブˈラーヌ [ʃiˈmaˀnaː ˈgakˀkoː ʔaˈriˀbunda ʔaˈkimikkwaːjaˀ buˈraːnu](島には学校があるから文盲はいない)。

アˈギムスビ [ʔaˈgimusubi] 【名】手拭の結び方の名。手拭などの両端を頭の後ろから額の前に廻して結び、その両端を立てる結び方。「上げ結び」の義。ミˈドゥムˀヌ　アˈギムスベー　シティˀ　ブˈドゥルシーベーˀヌドゥ　ˈサッˀコー　ˈカイˀヤˈツォー [miˈdumuˀnu ʔaˈgimusubeː ʃitiˀ buˈduru ʃiːbeːˀnudu ˈsakˀkoː ˈkaiˀjaˈtsoː](女が上げ結びをして踊っているが、非常に美しいんだよ)。

アˈギムチ [ʔaˈgimutʃi] 【名】餅を油で揚げたもの。「揚げ餅」の義。アˈギムチェー　ピーチˀナー　ˈアーラˀシ [ʔaˈgimutʃeː piːtʃiˀnaː ˈʔaːraˀʃi](揚げ餅はひとつずつ配り < 配分し > なさい)。

アˈギムヌ [ʔaˈgimunu] 【名】揚げ物。てんぷら類。アˈギムヌˀナー　イˈズティンプラˀ　タクティンプラ　ウンティンプラ、ˀヤサイティンプラーラ　イˈズヌˀ　マˈルアギン　アッˀタン [ʔaˈgimunuˀnaː ʔiˈʤutimpuraˀ tą̊kutimpura ˀʔuntimpura ˀjasaitimpuraːra ʔiˈʤunuˀ maˈruagiːŋ ʔatˀtaŋ](揚げ物には、魚芯てんぷら、蛸芯てんぷら、芋てんぷら、野菜てんぷらから魚の丸揚げもあった)。アˈギムノーˀ　ノーˈンヤラバンˀ　スˈコーリˀバ [ʔaˈgimunoːˀ noːˈŋjarabaŋ su̥ˈkoːriˀba](揚げ物は何か < 何でもいいから > 準備しなさいよ)。

アˈギムヌパシ [ʔaˈgimunupaʃi] 【名】揚げ物用の箸。さいばし (菜箸)。アˈギムヌパシェーˀ　ナーˈナーˀシル　スˈクラˀリ　ˈブー [ʔaˈgimunupaʃeːˀ naːˈnaːˀʃiru su̥ˈkuraˀri ˈbuː](揚げ物用の菜箸は長く造られている)。

アˈキヤー [ʔaˈkijaː] 【名】空き屋。人の住んでいない家。若年層の言葉で、石垣方言からの借用語か。老年層は、ˈンーナヤー [ˈʔnːnajaː](空屋) というのが普通である。イˈサンケー　ヒッコスˀ　プˈスヌ　ゴーˀラー　ナˈルˀター　アˈキヤーˀ　カーˈニルˀ　ヌˈカˀレー [ʔiˈsaŋke: çikkosuˀ pu̥ˈsunu goːˀraː naˈruˀtaː ʔaˈkijaːˀ kaːˈniruˀ nuˈkaˀreː](石垣島へ引っ越す人が多くなったので空き屋だけが残っている)。

アˈギˀヤー [ʔaˈgiˀjaː] 【名】追い込み漁。シˈナカキˀヤー [ʃiˈnakakiˀjaː](追い込み漁) と同じ。糸満方言イˈツォーンˀプスンケーヤ　アˈギˀヤー　ˈシールˀ　イˈゾーˀ　トゥˈローッˀタ [ʔiˈtsoːmˀpu̥suŋkeːja ʔaˈgiˀjaː ˈʃiːruˀ ʔiˈʤoːˀ tuˈroːtˀta](糸満漁師たちは追い込み漁をして漁獲された)。

アˈキヤシキ [ʔaˈkijaʃiki] 【名】空き屋敷。無人の屋敷。石垣方言からの借用語か。明治生まれの老年層は、ˈンーナカク [ˈnːnakaku](空き屋敷)。ˈンーナヤシキ [ˈnːnajaʃiki](空き屋敷) というのが普通。ˈクンˀネーヤ　ニードーリ　ˈシーˀ　アˈキヤシキˀナリ　ˈベー [ˈkunˀneːja niːdoːri ˈʃiːˀ ʔaˈkijaʃikiˀ nari ˈbeː](この家は断絶して < 根倒れして > 空き屋敷になっている)。

アˈギヤドゥ [ʔaˈgijadu] 【名】はね上げて開ける戸。釣戸。「上げ戸」の義。アˈギヤドーˀ　アˈギティˀ　ボーシ　シゥˈカイリ [ʔaˈgijadoːˀ ʔaˈgitiˀ boːʃi si̥ˈkairi](釣戸は開けて棒で支えなさい)。

アˈキラミˀルン [ʔaˈkiramiˀruŋ] 【自動】諦める。断念する。思い切る。新しい借用語。老年層は、ウˈムイˀキスン [ʔuˈmuiˀkisunŋ](思い切る) という。シーˈティˀ　アˈキラミˀルンティ　ˀウムーカー　アˈキラミˀル　ˀクトー　ˀナルン [ʃiːˈtiˀ ʔaˈkiramiˀruntiˀ ʔumuːkaː ʔaˈkiramiˀru ˀku̥toː ˀnaruŋ](無理に < 強いて > 諦めようと思えば諦めることは出来る)。シˈケンˀマー　クˈリˀシ　アˈキラミランˀスコーシ　ˈマーˀ　プˈスムˀシ　ˀウキミリバ [ʃiˈkemˀmaː kuˈriˀʃi ʔaˈkiramiranˀsu̥koːʃi ˈmaːˀ pu̥ˈsumuˀʃi ˀʔukimiriba](試

験はこれで諦めずにもう一度受けてみなさいよ)。アˈキラミ　パヤーˀン [ʔaˈkirami pajaːˀŋ](諦めやすい＜早い＞)。アˈキラミˀレー　ˀミサムヌ [ʔaˈkirami ˀreː ˀmisamunu](諦めれば良いのに)。ˈパーˀク　アˈキラミˀリ [ˈpaːˀku ʔaˈkiramiˀri](早く諦めろ)。

アˈキラˀムン [ʔaˈkiraˀmuŋ]【自動】諦む。下一段、下二段系活用の四段活用化したもの。アˈキラˀムンティ　ˀウムーカー　アˈキラˀム　ˀクトー　ˀナルン [ʔaˈkiraˀmunti ˀʔumuːkaː ʔaˈkiraˀmu ˀkuto: ˀnaruŋ](諦めようと思えば諦めることは出来る)。アˈキラミ　パヤーˀン [ʔaˈkirami pajaːˀŋ](諦め易い＜早い＞)。シˈキンˀマー　アˈキラマンˀドーシ　ギューˈムシンˀ　ウキミサン [ʃiˈkimˀmaː ʔaˈkiramanˀdoːʃi gjuːˈmuʃinˀ ʔukimisaŋ](試験は諦めないで何度でも受けてよい)。ˀメー　アˈキラˀメー　ˀミサムヌ [ˀmeː ʔaˈkiraˀmeː ˀmisamunu](もう、諦めれば良いのに)。ˈパーˀク　アˈキラˀミバ [ˈpaːˀku ʔaˈkiraˀmiba](早く諦めよ)。

アˈキルトゥアーˀシ [ʔaˈkirutuʔaːˀʃi]【副】明けるや否や。夜明けとともに。「明けると合わせて」の義。普通は、ガˈルトゥアーˀシ [gaˈrutuʔaːˀʃi](明けるとともに) という。ˈユーˀヌ　アˈキルトゥアーˀシ　ˀンジ　ˈパッˀタ [ˈjuːˀnu ʔaˈkirutuʔaːˀʃi ˀʔndʒi ˈpatˀta](夜明けとともに出て行った)。ˈユーˀヌ　ガˈルトゥアーˀシ　パˈタˀケー　ˈパッˀタ [ˈjuːˀnu gaˈrutuʔaːˀʃi pḁˈtaˀkeː ˈpatˀta](夜明けとともに畑へ行った) ともいう。

アˈキルン [ʔaˈkiruŋ]【自動】1飽きる。飽食する。パˈトゥˀマナテー　カˈツナマシンˀ　イˈガナマシンˀ　アˈキルンˀケン　ッˈふァイミッˀタン [paˈtuˀmanateː kaˈtsunamaʃinˀ ʔiˈganamaʃin ʔaˈkiruŋˀken fˈfaimitˀtaŋ](鳩間では鰹の刺身も烏賊の刺身も飽きるほど食べてみた)。ギューˈサˀ　ッˈふァーバンˀ　アˈキラヌ [gjuːˈsaˀ fˈfaːbanˀ ʔaˈkiranu](いくら食べても飽きない)。アˈキリ　ナーˀヌ [ʔaˈkiri naːˀnu](飽きてしまった)。ギューˈサˀ　ッˈふァーバンˀ　アˈキルˀ　クトー　ˈナーˀヌ [gjuːˈsaˀ fˈfaːbanˀ ʔaˈkiruˀ kuto: ˈnaːˀnu](いくら食べても飽きることはない)。アˈキレーˀ　ミサムヌ [ʔaˈkireːˀ misamunu](飽きればいいのに)。ˈパーˀク　アˈキリˀバ [ˈpaːˀku ʔaˈkiriˀba](早く飽きれよ)。ユˈヌˀ　ムヌカーˈニˀ　ッˈふぅーˀカー　アˈキルンドゥˀ　クˈレーˀ　アˈキラヌ [juˈnuˀ munukaːˈniˀ fˈfuːˀka: ʔaˈkirunduˀ kuˈreːˀ ʔaˈkiranu](同じものだけ食べると飽きるが、これは飽きない)。アˈキリナーˀヌ [ʔaˈkirinaːˀnu](飽きてしまった)。ギューˈサˀ　ッˈふァーバンˀ　アˈキルˀ　クトー　ˈナーˀヌ [gjuːˈsaˀ fˈfaːbanˀ ʔaˈkiruˀ kuto: ˈnaːˀnu](いくら食べても飽きることはない)。アˈキレーˀ　ミサムヌ [ʔaˈkireːˀ misamunu](飽きれば良いのに)。アˈキリˀバ [ʔaˈkiriˀba](飽きよ)。2呆れる。あまりのひどさに驚く。ウˈリバˀ　シˈキティˀ　アˈキリティˀ　ミˈリˀプサン　ˈナーˀヌ [ʔuˈribaˀ ʃi̥ˈkitiˀ ʔaˈkiritiˀ miˈriˀpu̥san ˈnaːˀnu](それを聞いて驚き呆れて＜あっけにとられて＞、見たくも無い)。

アˈキルン [ʔaˈkiruŋ]【自動】呆れる。あまりの酷さに驚く。あっけにとられる。アˈマˀヌ　ムˈニˀヌ　ヤˈニˀヤティ　アˈキリティˀ　イˈジカイシンˀ　ナˈランˀシェン [ʔaˈmaˀnu muˈniˀnu jaˈniˀjati ʔaˈkiritiˀ ʔiˈʤikaiʃinˀ naˈraŋˀʃeŋ](あまりにも言葉が汚いので、呆れて言い返しも＜反駁も＞出来なかった)。

アˈキルン [ʔaˈkiruŋ]【他動】開ける。アˈクン [ʔaˈkuŋ](開く) ともいう。ˀヤドゥ　アˈキルン [ˀjadu ʔaˈkiruŋ](戸を開ける)。マˈナˀマー　アˈキラヌ [maˈnaˀmaː ʔaˈkiranu](今は開けない)。ˀヤドゥ　アˈキˀプサン [ˀjadu ʔaˈkiˀ pu̥saŋ](戸を開けたい)。ˀドゥーシ　アˈキルˀ　クトー　ナˈラˀヌ [ˀduːʃi ʔaˈkiruˀ kuto: naˈraˀnu](自分で開けることは出来ない)。ˀドゥーシ　アˈキレーˀ　ミサムヌ [ˀduːʃi ʔaˈkireːˀ misamunu](自分で開ければ良いのに)。ˈパーˀク　アˈキリ [ˈpaːˀku ʔaˈkiri](早く開けろ)。

アˈギルン [ʔaˈgiruŋ]【他動】1上げる。高くする。「Ague,ru,eta. アゲ、グル、エタ (上げ、ぐる、げた) 上へ持ち上げる〜。」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˀティー　アˈギルンティ　スンドゥˀ　アˈギララヌ [ˀtiː ʔaˈgirunti sunduˀ ʔaˈgiraranu](手を上げようとするが、上げられない)。ˀテイー　アˈギˀ　ミサカー　アˈギルˀ　クトー　ˀナルン [ˀtiː ʔaˈgiˀ misakaː ʔaˈgiruˀ kuto: ˀnaruŋ](手を上げて良ければ上げることは出来る)。ˈマーˀビン　アˈギレーˀ　ミサムヌ [ˈmaːˀbin ʔaˈgireːˀ misamunu](もっと上げれば良いのに)。ˈパーˀク　アˈギリ [ˈpaːˀku ʔaˈgiri](早く上げろ)。2値段を高くする。ˈダイˀ　アˈギルˀカー　ˈカーサラヌ [ˈdaiˀ ʔaˈgiruˀka: ˈkaːsaranu](値段を上げたら＜上げると＞売れない)。

アˈギルン [ʔaˈgiruŋ]【他動】供物を供える。神前や仏前に供物を供える。ˈカンヌˀマイ　パˈチˀ　アˈギティˀ　ウサンダイヤー　ˀサギ　ウˈラˀソーリバ [ˈkannuˀmai pḁˈtʃiˀ ʔaˈgitiˀ ʔusandaijaː ˀsagi ʔuˈraˀsoːriba](神前にお初を供えて、供物のお下がりは引き下げなさいませ)。

アˈク [ʔaˈku] 【名】植物に含まれる渋み、えぐみなどのある有毒成分。蘇鉄の実やキャッサバの芋などはあく抜きをし、その澱粉を加工して食品に利用した。シˈトゥッチˀヌ ˀナロー アˈクˀ ヌˈガンˀカー ˈビーˀシタ [ʃi̥ˈtuttʃiˀnu ˀnaro: ʔaˈkuˀ nuˈgaŋˀka: ˈbiːˀʃi̥ta](蘇鉄の実は灰汁を抜き取らないと食中毒＜酔い＞を起こした)。

ˀアク [ˀʔaku] 【名】1悪。悪人。悪事。悪魔。アˈクˀヌ サˈカルˀ クトー ˈナーˀヌ [ʔaˈkuˀnu sḁˈkaruˀ ku̥to: ˈnaːˀnu](悪＜悪事を働く者＞が栄えることはない)。2悪口。ヤˈナグˀチ [jaˈnaguˀtʃi](悪口) ともいう。ˈウンザーˀ ウマー カˈマˀナーティ プˈスヌˀ アク カーˈニˀ ユメーティ ˈアーˀク [ˈʔundʑaːˀ ʔumaː kaˈmaˀnaːti pu̥ˈsunuˀ ʔaku kaːˈniˀ jumeːti ˈʔaːˀku](彼奴は、あちらこちらで他人の悪口だけを言って＜唱えて＞いる＜悪口を叩いてばかりいる＞)。

アˈクˀイン [ʔaˈkuˀiŋ] 【名】悪縁。前世からの悪い因縁。沖縄方言からの借用語。アˈクインˀドゥ ˈヤッタˀユー ウˈヌˀ パˈナˀシェー ムッˈトゥ ミーˀ ナˈラˀヌ [ʔaˈkuinˀdu ˈjattaˀjuː ʔuˈnuˀ paˈnaˀʃeː mutˈtu miːˀ naˈraˀnu](悪縁だったのか、その話はちっとも良い結果を齎さない＜稔らない＞)。

アˈクザカˀリ [ʔaˈkudʑakaˀri] 【名】悪事をはたらいて栄えること。悪栄え。イˈチンバーˀキン アˈクザカリˀヌ シˈジクムノーˀ アˈラˀヌ [ʔiˈtʃimbaːˀkiŋ ʔaˈkudʑakariˀnu ʃiˈdʒiku munoːˀ ʔaˈraˀnu](いつまでも悪栄が続くものではない)。

ˀアク ˈスン [ˀʔaku ˈsuŋ] 【連】呪う。激しく恨み、悪く言う。人を悪しざまに言う。プˈストゥˀ アウカー プˈスンˀ アク シˈラリンダ アウˀナˈヨー [pu̥ˈsutuˀ ʔauka: pu̥ˈsuŋˀ ʔaku ʃiˈrarinda ʔauˀnaˈjoː](他人と喧嘩したら、他人に呪われるから喧嘩するなよ)。

アグˈダーˀマ [ʔaguˈdaːˀma] 【名】駄々をこねること。わがままっ子。「あくだう (悪童)・マ (指小辞)」の転訛したものか。クˈヌˀ ッˈふァーˀ アグˈダーˀマ ˈフシゥˀカリティ ˈヨーˀゾー ナˈラˀヌ [kuˈnu ffaːˀ ʔaguˈdaːˀma ˈfusi̥ˀkariti ˈjoːˀdʑoː naˈraˀnu](この子には悪童神がくっついて、駄々をこねてどうしようもない＜養生できない＞)。

アˈクˀニン [ʔaˈkuˀniŋ] 【名】悪人。悪事をはたらく人。ˀアイブ アˈクˀニンテー マˈダˀ ミリ ミˈラˀヌ [ˀʔaibu ʔaˈkuˀninteː maˈdaˀ miri miˈraˀnu](あんな悪人とは、いまだに見たことがない)。ウˈレーˀ アˈクˀニン ヤˈルンダˀ ピˈラーンˀモー マˈシ [ʔuˈreːˀ ʔaˈkuˀniŋ jaˈrundaˀ piˈraːmˀmoː maˈʃi](そいつは悪人だから付き合わない方がよい)。

アˈクˀヌ ˀカン [ʔaˈkuˀnu ˀkaŋ] 【連】悪神。悪い神。カˈンˀネヌ プˈソーˀ アˈクˀヌカン ンˈマヌˀリ シˈラリタムヌˀユー ヤˈナクトゥタンガーˀル ウˈクルˀバン [ˈkanˀnenu pu̥ˈsoːˀ ʔaˈkuˀnukam ʔmˈmanuˀri ʃiˈraritamunuˀjuː jaˈnaku̥tutaŋgaˀru ʔuˈkuruˀbaŋ](あの家の人は悪神に跨られた＜馬乗りされた＞のか、悪いことだけ次々に起きるよ)。

アˈクヌキ [ʔaˈkunuki] 【名】植物の灰汁＜毒気・渋み＞を抜くこと。シˈトゥッチˀヌ ˀナロー ミˈジˀナ グˈルクニˀチ シˈキティˀ アˈクヌキ サンˀカー ˈビーˀシタˈダー [ʃi̥ˈtuttʃiˀnu ˀnaro: miˈdʑiˀna guˈrukuniˀtʃi ʃi̥ˈkitiˀ ʔaˈkunuki saŋˀkaː ˈbiːˀʃi̥taˈdaː](ソテツの実は水に五六日浸けて灰汁抜きしないと中毒を起こしたよ)。

アˈクビ [ʔaˈkubi] 【名】欠伸 (あくび)。若年層が多く用いる。標準語からの借用語か。老年層は、ˀヌビ [ˀnubi](欠伸) という。ˀヌビ [ˀnubi] 参照。バˈカーˀムヌンケーヤ ˈユーキˀバ シˈティルˀ アイニ アˈクビ シーベート ナー [baˈkaːˀmununŋkeːja ˈjuːkiˀba ʃi̥ˈtiruˀ ʔaini ʔaˈkubi ʃiːbeːɾnaː](若者達は夜更かし＜夜起き＞をして、あんなに欠伸をしているんだねえ)。

アˈクˀマ [ʔaˈkuˀma] 【名】悪魔。邪悪なもの。ウˈリヌ シーワザー フンˀトー アˈクˀマ ナˈクラーˀヌ ミˈララˀヌ [ʔuˈrinu ʃiːwadʑaː ɸunˀtoː ʔaˈkuˀma naˈkuraːˀnu miˈraraˀnu](そいつの仕業は本当に悪魔だ。怖くて見てはおれない)。

ˀアクユク [ˀʔakujuku] 【名】悪欲。悪心と欲心。ウˈレーˀ アˈマˀヌ ˀアクユクヌ ˈスーˀワティ プˈスンˀ ウˈラマリˀル ˈミーˀ フˈルバシェート ダー [ʔuˈreːˀ ʔaˈmaˀnu ˀʔakujukunu ˈsuːˀwaiti pu̥ˈsuŋˀ ʔuˈramariˀru ˈmiːˀ ɸuˈrubaʃeːɾdaː](彼は、あまりにも悪欲が強いので他人に怨まれて身を滅ぼしたのだよ)。

アˈクリˀルン [ʔaˈkuriˀruŋ] 【自動】剥がれる。シˈビシキˀ シケータンドゥ ミˈジˀナ ˈゾッふァシターˀ アˈクˀリパリˈナーˀヌ [ʃiˈbiʃi̥kiˀ ʃi̥keːtandu miˈdʒiˀna: ˈdʑoffaʃi̥taːˀ ʔaˈkuˀripari ˈnaːˀnu](貼り付けて＜くっつけて＞おいたけれど、水に濡らしたら剥がれて＜行って＞しまった)。

アˈクン [ʔaˈkuŋ] 【他動】開ける。開く。フˈチˀ アˈクン [ɸu̥ˈtʃiˀ ʔaˈkuŋ](口を開ける)。ˈユーˀヌ ガˈル

˥カー　˥ヤドゥ　アˈクン [ˈjuː˥nu gaˈru˥kaː jadu ʔaˈkuŋ](夜が明けたら戸を開ける)。˥ヤドゥ　アˈキ˥　ミサン [ˈjadu ʔaˈki misaŋ](戸を開けても良い)。フˈチェー˥　アˈカンドー˥シ　パˈナ˥シ　シˈキ [ɸu̥ˈtʃeː˥ ʔaˈkandoːˈʃi paˈna˥ʃi ʃi̥ˈki](口を開けない < 喋らないで > で話を聞け)。˥ヤドゥ　アˈキ˥　ミサカー　アˈク˥　クトー　˥ナルン [ˈjadu ʔaˈki misakaː ʔaˈku˥ ku̥toː ˥naruŋ](戸を開けて良ければ開けることはできる)。˥ヤドゥ　アˈク˥　プˈスン˥　ブˈラーヌ [ˈjadu ʔaˈku˥ pu̥ˈsum˥ buˈraːnu](戸を開ける人もいない)。˥ヤドー　アˈケー˥　ミサムヌ [ˈjadoː ʔaˈkeː˥ misamunu](戸を開ければいいのに)。ˈパー˥ク　アˈキ˥バ [ˈpaː˥ku ʔaˈki˥ba](早く開けなさいよ)。

アˈクン [ʔaˈkuŋ] 【自動】あく。ひらく。クˈヌ˥　クˈビン˥ヌ　フˈター˥　アˈクンティ　シーバン˥　ムッˈトゥ　アˈカンバン [kuˈnu˥ kuˈbin˥nu ɸuˈtaː˥ ʔaˈkunti ʃiːbam˥ mutˈtu˥ ʔaˈkambaŋ](この瓶の蓋は開けようとしても一向に開かない)。

アˈグン [ʔaˈguŋ] 【他動】上げる。ˈクイ˥ヤー　マーˈンベーマ˥　アˈギティ˥　イˈジ˥バ [ˈkui˥jaː maːˈmbeːma˥ ʔaˈgiti˥ ʔiˈʤi˥ba](声はもう少し上げて歌えよ)。シˈナムヌヌ　ダイヤ˥　アˈギ˥　ミサカー　アˈグクトー　ナˈル˥ヌ　アˈガヌ [ʃiˈnamununu daija˥ ʔaˈgi˥ misakaː ʔaˈgu˥ ku̥toː naˈru˥nu ʔaˈganu](品物の値段は上げて良ければ上げることは出来るが、上げない)。ˈマー˥ビン　アˈゲー˥　ミサムヌ [ˈmaː˥biŋ ʔaˈgeː˥ misamunu](もっと上げればいいのに)。ˈパー˥ク　アˈギ˥バ [ˈpaː˥ku ʔaˈgi˥ba](早く上げなさいよ)。²吐く。嘔吐する。˥ヌーナール　アˈタルタ˥ユー　ˈファイムノー˥　ムーˈル˥　アˈギ˥　シケー [˥nuːnaːru ʔaˈtaruta˥juː fˈfaimunoː˥ muːˈru˥ ʔaˈgi˥ ʃi̥keː](何に食あたりしたのか、食べ物は全部上げてある < 嘔吐してある >)。

アˈグン [ʔaˈguŋ] 【他動】油で揚げる。豆腐はアˈグン [ʔaˈguŋ](揚げる) というのに対し、テンプラなどはヤˈクン [jaˈkuŋ](焼く) というのが普通である。ˈトー˥フーンノーン　˥アバナー　アˈギティ˥　ムティクーバ [ˈtoː˥ɸuːnnoːŋ ˥ʔabana: ʔaˈgiti˥ mutikuːba](< 何でもいいが > 豆腐でも油で揚げて持って来なさいよ)。

アˈコーキー [ʔaˈkoːkiː] 【名】(植) 樹木の名。和名、アコウ (赤秀)。オオバアコウ。˥ウシキー [˥ʔuʃikiː](あこう) ともいう。ムˈカシ˥ヌ　ˈガッコー˥ヌ　˥マンタナー　ウˈブ˥　アˈコーキー˥ヌ　ˈミームトゥ˥　ムイˈベー˥タン [muˈkaʃi˥nu ˈgakkoː˥nu manˈta˥naː ʔuˈbu˥ ʔaˈkoːkiːnu miːmutu˥ muiˈbeː˥taŋ](昔の学校の前に大きなアコウの木が三本生えていた)。

アˈゴ˥チキー [ʔaˈgo˥ʧikiː] 【名】(植) 樹木の名。西表島の北岸一帯に自生していた。伊武田地区に自生していたアゴチの葉には、白黒のグロテスクな毛を有する毛虫が付いていた。伐採して燃料用の薪にした。アˈゴ˥チキー　˥キシ　˥キー　タˈム˥ヌ　バˈリ˥バ [ʔaˈgo˥ʧikiː ˥ki̥ʃi ˥kiː taˈmu˥nu baˈri˥ba](アゴチ木を伐ってきて、薪に割りなさいよ)。

アˈゴッチェー˥マ [ʔaˈgottʃeː˥ma] 【名】(動) トンボ。古語「あきつ」に親愛の情を表す指小辞 (diminutive)-マ [-ma] がついて転訛したもの。カˈジフキヌ˥　アトー　アˈゴッチェーマ˥ヌ　ˈアーリ　キー˥シタンドゥ　マˈナ˥マー　ミˈララン˥バン [kaˈʤiɸu̥kinu˥ ʔato: ʔaˈgottʃeːma˥nu ˈʔaːri kiː˥ʃi̥tandu maˈna˥maː miˈraram˥baŋ](暴風の後にはトンボが湧いて出てきたが今は見られないわい)。

˥アゴヤ [˥ʔagoja] 【名】 (動) 蟹の一種。海岸の岩陰に生息し、人が来るとすばやく穴や岩陰に逃げ隠れる。風土病マラリアの解熱用の煎じ薬として利用されたという。ムˈカ˥シェー　ˈプーキ˥　カˈカ˥リティ　ニˈチ˥ヌ　ンˈジ˥ルカー　˥アゴヤバ　˥シジ　ヌˈマ˥ソーッタティˈダー [muˈka˥ʃeː ˈpuːki˥ kḁˈka˥riti niˈʧi˥nu ʔnˈʤi˥ruka: ˥ʔagojaba ˥ʃiʤi nuˈma˥ soːttatiˈdaː](昔はマラリア < 風気 > に罹って熱が出るとアゴヤを煎じて飲まされたそうだよ)。

˥アサ [˥asa] 【名】朝。複合語の語基として用いられ、単独用法はない。普通は、シˈトゥム˥ティ [ʃi̥ˈtumu˥ti](つとめて。「暾、日初出時也、明也、豆止女天 < つとめて >」『新鮮字鏡』) という。アˈサパナ [ʔaˈsapana](早朝。「朝端」の義)、アˈサ˥ボン [ʔaˈsa˥boŋ](朝ご飯)、アˈサカイ [ʔaˈsakai](朝影)、アˈサ˥カイ [ʔaˈsa˥kai](朝粥)、アˈサ˥キ [ʔaˈsa˥ki](朝餉。「朝食、アサケ」『鰻頭屋本節用集』)、アˈサ˥ドゥリ [ʔaˈsa˥duri](朝凪)、アˈサ˥ニビ [ʔaˈsa˥nibi](朝寝坊) 等、複合語の語基。

˥アザ [˥ʔadʥa] 【名】畦。畦道。側。畑を仕切った境界。この部分に豆を植えたり、砂糖きびを植えたりした。パˈタキ˥ヌ　アザナー　ˈキー˥ウン　イˈビ˥シケー [pḁˈtaki˥nu ˥ʔadʥana: ˈkiː˥ʔuŋ ʔiˈbi˥ʃi̥keː](畑の畦にキャッサバを植えてある)。

アˈザ [ʔaˈdʥa] 【名】字。町村内の下位の行政単位、区画。大字、小字がある。鳩間島は一つの字に属する。パˈトゥ˥マナー　ユˈクアザー˥ラ　ˈオー˥レープˈソー˥　ギュˈタール　オール˥ワ [pḁˈtu˥mana: ju

ˈkuʔadʑaːˈra ˈʔoːˈreː pu̥ˈsoːˈ gjuˈtaːru ʔoːruˈwa](鳩間島には、他字から来られた人は何人＜幾たり＞居られるか)。

アˈザ [ʔaˈdʑa] 【名】ほくろ (黒子)。フˈチヌˈ シバナ アˈザヌˈ アル ˈプソーˈ ウˈヤˈキ ˈスンˈツォー [ɸu̥ˈtʃinuˈ ʃibanaː ʔaˈdʑanuˈ ʔaru pu̥ˈsoːˈ ʔuˈjaˈki ˈsunˈtsoː](唇に黒子のある人は金持ちになるそうだ)。

アˈザーラˈスン [ʔaˈdʑaːraˈsuŋ] 【他動】もつれ (縺れ) させる。まつわりつかせる。からます。からみ (絡み) 合わせる。アˈザーˈルン [ʔaˈdʑaːˈruŋ](縺れる) の未然形アˈザーラ [ʔaˈdʑaːra] に使役の助動詞ˈスン [ˈsuŋ](～せる。～させる) が付いた形。ˈイトー アˈザーラサンˈヨーニ ˈトールタンˈドゥ アˈザーラˈシ ˈナーˈヌ [ˈʔitoː ʔaˈdʑaːrasaɲˈjoːni ˈtoːrutanˈdu ʔaˈdʑaːraˈʃi ˈnaːˈnu](糸は絡まさないように手繰ったが、絡ましてしまった)。ˈアイニ ˈトーˈルカー アˈザーラˈスンダー アˈザーラˈス プˈスンマー トーラスˈナ [ˈʔaini ˈtoːˈrukaː ʔaˈdʑaːraˈsunda ʔaˈdʑaːraˈsu pu̥ˈsummaː toːrasuˈna](あんなに手繰ったら絡ませるから、からませる人には手繰らせるな)。ˈマーˈビン アˈザーラˈシェー ˈミサムヌ [ˈmaːˈbiŋ ʔaˈdʑaːraˈʃeː ˈmisamunu](もっと絡ませればいいのに)。アˈザーラˈシバ [ʔaˈdʑaːraˈʃiba](縺れさせなさいよ)。ˈナー タˈクミカタˈヌ ˈワッˈサカー アˈザーラˈスンˈダー [ˈnaː tḁˈkumikataˈnu ˈwasˈsakaː ʔaˈdʑaːraˈsunˈdaː](縄のたたみかたが悪いともつれさせるよ)。アˈザーラサˈヌ [ʔaˈdʑaːrasaˈnu](絡ませない)。

アˈザーˈリカザーリ [ʔaˈdʑaːˈrikadʑaːri] 【副】もつれ絡まるさま。ˈイトー アˈザーˈリカザーリ シˈティ パンツァサラヌ [ˈʔitoː ʔaˈdʑaːˈrikadʑaːri ʃi̥ˈti pantsasaranu](糸は絡まって解けない)。

アˈザーリˈルン [ʔaˈdʑaːriˈruŋ] 【自動】もつれる (縺れる)。絡み合う。「糾、アザハレリ」『類聚名義抄』の転訛したもの。ˈナーˈバ ˈアイニ タˈクˈムカー アˈザーリルンˈドゥ クˈレー ナイˈロン ヤˈルンダˈ アˈザーリランˈバン [ˈnaːˈba ˈʔaini tḁˈkuˈmukaː ʔaˈdʑaːrirunˈdu kuˈreː nairoŋˈ jaˈrundaˈ ʔaˈdʑaːriramˈbaŋ](縄をあのように手繰って畳むと縺れるが、これはナイロン製だから縺れないわい)。アˈザーˈリ ˈナーˈヌ [ʔaˈdʑaːˈri ˈnaːˈnu](縺れてしまった)。アˈザーリˈル ˈクトー ˈナーˈヌ [ʔaˈdʑaːriˈru ˈku̥toːˈnaːˈnu](縺れることはない)。

アˈザーˈルン [ʔaˈdʑaːˈruŋ] 【自動】もつれる (縺れる)。絡み合う。「糾、アザハレリ」『類聚名義抄』の転訛したもの。ˈユーˈロー アˈザーˈリティ ˈパンツァサラヌ [ˈjuːˈroː ʔaˈdʑaːˈriti ˈpantsasaranu](細い紐は絡み合って解かれない＜はずされない＞)。ˈカイニ タˈクˈムカー ˈナーˈヤ アˈザーラˈヌ [ˈkaini tḁˈkuˈmukaː ˈnaːˈja ʔaˈdʑaːraˈnu](このように手繰ると縄は縺れない)。アˈザーˈル ˈイトー ˈパンツァシグリˈサン [ʔaˈdʑaːˈru ˈʔitoː ˈpantsaʃiguriˈsaŋ](縺れる糸は解きずらい)。ˈアイニ アˈザーˈレーラー プˈトゥカラˈヌ [ˈʔaini ʔaˈdʑaːˈreːraː pu̥ˈtukaraˈnu](こんなに縺れたら解けないよ)。アˈザーリˈリ [ʔaˈdʑaːriˈri](縺れろ)。ˈナーˈヤ アˈザーˈリティ ˈパンツァサラヌ [ˈnaːˈja ʔaˈdʑaːˈriti ˈpantsasaranu](縄は絡まりもつれて、解けない＜外されない＞)。サˈバナー オーˈヌ ˈシーˈ ッˈふァースˈカー アˈザーラヌ [saˈbanaː ʔoːˈnu ˈʃiːˈ fˈfaːsuˈkaː ʔaˈdʑaːraˈnu](鱶釣り縄は豚の血をつけて蒸し上げる＜食わす＞と絡まらない)。アˈザーˈリティ ˈパンツァサラヌ [ʔaˈdʑaːˈriti ˈpantsasaranu](縺れて＜絡み合って＞解け＜外され＞ない)。アˈザーˈル ˈクトー ˈナーˈヌ [ʔaˈdʑaːˈru ˈku̥toːˈnaːˈnu](絡まることはない)。ˈアイニ アˈザーˈレーラー ˈパンツァサラヌ [ˈʔaini ʔaˈdʑaːˈreːraː ˈpantsasaranu](あのようにもつれ＜縺れ＞たら解かれない＜外されない＞)。ˈコッタルムヌˈ アˈザーリˈリ [ˈkottarumunuˈ ʔaˈdʑaːriˈri](ちくしょう! 誰が知るものか、もつれて＜縺れて＞しまえ)。

アˈサーˈン [ʔaˈsaːˈŋ] 【形】1浅い。「～袖つくばかり淺乎也＜アサキヲヤ＞～。万、1381」の転訛か。ˈウマー アˈサーˈンミー [ˈʔumaː ʔaˈsaːˈmmiː](そこは浅いでしょうね)。アーˈイˈ アˈサー ナーˈヌ [ʔaːˈiˈ ʔaˈsaː naːˈnu](いや、浅くない)。ˈシンダイˈ アˈサーˈ ナリクーン [ˈʃindaiˈ ʔaˈsaːˈ nariku:ŋ](次第に浅くなってくる)。アˈサーˈ トンラ バˈタリ [ʔaˈsaːˈ tonra baˈtari](浅い所から渡れ)。ˈドゥク アˈサーˈカー ˈフネー ˈトゥーサラˈヌ [ˈduku ʔaˈsaːˈkaː ˈɸuneː ˈtuːsaraˈnu](あまり浅かったら舟は通されない)。ˈクマー アˈサーˈン [ˈkumaː ʔaˈsaːˈŋ](ここは浅い)。ピˈザフチˈヌ アˈサーˈ トンナーティル ˈウイ アˈサブˈダー [piˈdʑaɸutʃiˈnu ʔaˈsaːˈ tonnaːtiru ˈʔui ʔaˈsabuˈdaː](渚の浅いところで泳いで遊ぶのだよ)。クˈマˈル アˈサー (ˈル)[kuˈmaˈru ʔaˈsaː(ˈru)](ここが＜ぞ＞浅い)。ˈマーˈビン アˈサーˈカー ˈミサムヌ [ˈmaːˈbiŋ ʔaˈsaːˈkaː ˈmisamunu](もっと浅ければ良いのに)。2色が薄い。イˈルˈヌ アˈサーˈユンダ ˈ

ナンˉゾー　ˈカイヤーナーˉヌ [ʔiˈruˉnu ʔaˈsaːˉjunda ˈnanˉʤoː ˈkaijaːnaːˉnu](色が薄いのであまり美しくない)。

アˈサˉイミ [ʔaˈsaˉʔimi] 【名】朝みる夢。明け方にみる夢。アˈサˉイメー　ˈマーイミˉティ　アˈズンダ　キーˉ　シˈキˉリˈヨー [ʔaˈsaˉʔimeː ˈmaːʔimiˉti ʔaˈʤunda kiːˉ ʃi̥ˈkiˉriˈjoː](朝夢は真実の夢＜夢の通りにことが起こる＞というから、気をつけなさいよ)。

アˈサˉウキ [ʔaˈsaˉʔuki] 【名】早起き。「朝起き」の義。アˈツァーˉラ　ˈマイカリヌˉ　パˈジマリ　パンタˉサンダ　アˈサˉウキ　ˈシーˉヨー [ʔaˈtsaːˉra ˈmaikarinuˉ paˈdʒimari pantaˉsanda ʔaˈsaˉʔuki ˈʃiːˉjoː](明日から稲刈りが始まり、忙しいから早起きしなさいよ)。アˈサˉウキ　ˈスーˉ　ッˈふァヌル　マイフナーˉ　マˈリル [ʔaˈsaˉʔuki ˈsuːˉ fˈfanuru maiɸunaːˉ maˈriru](早起きする子が立派な人に成長する)。ˉアツァー　アˈサˉウキ　ˈシー　マイカリンˉ　パリˈヨー [ˈʔatsaː ʔaˈsaˉuki ˈʃiː maikarimˉ pariˈjoː](明日は早起きして稲刈りに行きなさいよ)。

アˈサカイ [ʔaˈsakai] 【名】午前中。朝の涼しいうち。「～朝影尓＜アサカゲニ＞吾が身はなりぬ～。万、2664」の転訛したものか。ナˈチェーˉ　アˈサカイヌˉ　ウˈチˉナー　パˈタキシグˉトー　ˈシーˉヨー [naˈʧeːˉ ʔaˈsakainuˉ ʔuˈʧiˉnaː pḁˈtakiʃiguˉtoː ˈʃiːˉjoː](夏は午前中に＜朝影のうちに＞畑仕事はしなさいね)。

アˈサˉカイ [ʔaˈsaˉkai] 【名】朝粥 (あさがゆ)。朝食べるお粥。老人が好んで食した。お盆の中日の朝食、ˈナンˉカ [ˈnaŋˉka](七日。七七忌の法事)、ˉシンズク [ˉʃinʤuku](四十九日忌)、ユˈノーˉレー [juˈnoːˉreː](一周忌)、ˈサンニンˉキ [ˈsanniŋˉki](三年忌)、ˈジューˉサンニンキ [ˈʤuːˉsanniŋki](十三年忌)、ニジューグˈニンキ [niʤuːguˈniŋki](二十五年忌)、サンジューˈサンニンˉキ [sanʤuːˈsanniŋˉki](三十三年忌) 等の朝食には朝粥と味噌汁、ラッキョウの漬物を仏前に供えることが習慣である。ˈソーランˉヌ　ナˈカヌ　ピンˉヌ　シˈトゥムˉテー　ヤーˈディンˉ　アˈサˉカイ　シˈキオーシト ダー [ˈsoːranˉnu ʃi̥ˈtumuˉteː jaːˈdiŋˉ ʔaˈsaˉkai ʃi̥ˈkioːʃiɨdaː](お盆の中日の朝食には必ず朝粥を供えてさしあげなさいよ)。

アˈザˉカイ [ʔaˈʤaˉkai] 【名】 (動) シャコガイ科の二枚貝の貝殻。しゃこ貝の貝殻。貝殻は扇形で殻長20～30センチメートル。大きいものは、殻長90センチに達するものがあった。殻の縁は波形の鋭い歯状を形成し、殻表も波形をなす。身は、ˉギラ [ˉgira] といい、美味である。サˈギフチˉル [saˈgiɸuʧiˉru](のぼせに利く食材。利尿薬) として重宝されている。大型の貝は豚の飼葉桶に利用された。ウˈブアザカイˉヤ　ˈオーˉヌ　ˈイーッふァーシˉムヌ　ˈソーッˉタン [ʔuˈbuʔaʤakaiˉja ˈʔoːˉnu ˈʔiːffaːʃiˉmunu ˈsoːtˉtaŋ](大きなシャコガイの貝殻＜アザカイ＞は豚の飼葉桶に使われた＜された＞)。大型の貝殻はミˈジクブˉサー [miˈʤikubuˉsaː](手水鉢。「水こぼし」の義か。下着洗い) や豚舎のかいばおけ＜飼葉桶＞に利用された。ˈグスクˉヌ　ナˈカˉナー　ウˈブアザカイˉヌ　ˈペーˉリ　ブˈタンˉダー [ˈgusu̥kuˉnu naˈkaˉnaː ʔuˈbuʔaʤakaiˉnu ˈpeːˉri buˈtanˉdaː](石垣の中に大きなシャコ貝の殻が入っていたよ)。

アザカイˈヤーˉマ [ʔaʤakaiˈjaːˉma] 【名】小さなしゃこ貝。ˈヤーˉマ [ˈjaːˉma](小さいもの) は接尾指小辞。指小辞-マ [-ma](小さいもの) が連母音 ai の末尾母音を有する語に付く場合、ˈ-ヤーˉマ [ˈ-jaːˉma] となる。

アˈザˉカザー [ʔaˈʤaˉkaʤaː] 【名】畦のほう。片隅。隅っこ。パˈタキˉヌ　アˈザˉカザナー　シˈミˉシケール　ˉッサー　ˈサンギˉキー　ヤˈキティˉ　コイ　ˉナシバ [pḁˈtakiˉnu ʔaˈʤaˉkaʤanaːʃiˈmiʃi̥ˉkeːru ˉssaː ˈsaŋgiˉkiː jaˈkitiˉ koi ˉnaʃiba](畑の畦の片隅に積んである草は引っ張ってきて、焼いて肥やしにしなさいよ)。

アˈサカジ [ʔaˈsakaʤi] 【名】朝風。朝の風。アˈサカジヌˉ　シˈダーシダˉシ　ˈスイティ　イーˉ　パˈダムˉチˉ　ナリケーツバン [ʔaˈsakadʒinuˉ ʃiˈdaːʃidaːˉ ʃi ˈsuiti ʔiːˉ paˈdamuˉʧi ˉnarikeːtsubaŋ](朝風が涼しく吹いて＜そよいで＞、良い肌触り＜肌持ち＞になってきたよ)。

アˈサカンガイ [ʔaˈsakaŋgai] 【名】浅い考え。浅慮。浅知恵。ˈワー　カンガイˉヤ　ˈダーッˉサ　ˈナーˉヌ　ウˈレーˉ　アˈサカンガイ [ˈwaː kaŋgaiˉja ˈdaːsˉsa ˈnaːˉnu ʔuˈreːˉ ʔaˈsakaŋgai](君の考えはよろしくない。それは浅慮とうものだ)。

アˈサカンナーˉル [ʔaˈsakannaːˉru] 【名】朝雷。朝方に鳴る雷。アˈサカンナールヌ　ナールˉカー　トゥˈナローˉ　ンˈジルˉナティル　アˈザリブー [ʔaˈsakannaːrunu naːruˉkaː tuˈnaroːˉ ʔnˈʤiruˉnatiru ʔaˈʤaribuː](朝雷が鳴ると隣家へ出かけるなと＜ぞ＞言われている)。

アˈサˉキ [ʔaˈsaˉki] 【名】朝飯。「朝餉」、「あさけ (朝食)」の義。「キ」は「食、クヒモノ・ケ」『類聚名

義抄』の転訛したもの。「Asaqe. あさけ (朝食・朝開). 卑語」『邦訳日葡辞書』。シ˞トゥム˥ティ　˞パイ˥サ　ア˞サキ˥ヌ　ス˞コーロー　シーティル˥　パ˞タ˥ケー　˞パッ˥タ [ʃi̥˞tumu˥ti ˞pai˥sa ʔa˞saki˥nu sṵ˞ko:ro: ʃi:tiru˥ pḁ˞ta˥ke: ˞pat˥ta](朝早く朝食の準備をしてから畑へ行った)。

ア˞サキジ [ʔa˞sakiʤi] 【名】浅い傷。「浅傷」の義。フ˞カキジェー˥　ア˞ラ˥ヌ　ア˞サキジ˥　ヤ˞ルンダ　ソーヤ　ナー˥ヌ [ɸṵ˞kakiʤe:˥ ʔa˞ra˥nu ʔa˞sakiʤi˥ ja˞runda so:ja na:˥nu](ふかで < 深傷 > ではない。浅い傷だから心配はない)。

ア˞サクビン [ʔa˞sakubiŋ] 【名】祭祀行事の際に酒を入れる錫製の瓶。口部は朝顔の形をしており、底はふかくない。瓶の裾が広がっていて台の部分に接着している。一対で用いられる。ア˞サクビン˥ナ　サ˞ケー　イリティ˥　ザウ　˥ッシ　シ˞キ˥リバ [ʔa˞sakubin˥na sa˞ke: ʔiriti˥ ʤau ˥ʃʃi ʃi̥˞ki˥riba](アサクビンに酒を入れて栓をしておきなさいよ)。

ア˞ザ˥ケーン [ʔa˞ʤa˥ke:ŋ] 【形】清潔である。清清(スガスガ)しい。清らかである。衛生的である。ウ˞ヌ˥　ッ˞ふァー　ドゥー˥ヌ　˞ミーマールン˥　ア˞ザケーアザケー˥シティ　ア˞タラ˥サン˞ツォー [ʔu˞nu˥ f˞fa: du:˥nu ˞mi:maruŋ˥ ʔa˞ʤake:ʔaʤake:˥ʃi̥ti ʔa˞tara˥san˞tso:](その子は身の回りも清潔で可愛いんだよ)。イッ˞ケナ˥　ア˞ザ˥ケーンティ　ス˞クタヌ˥　ア˞ザ˥ケー　˞ナーン˥シェン [ʔik˞kena˥ ʔa˞ʤa˥ke:nti sṵ˞kutanu˥ ʔa˞ʤa˥ke: ˞na:ŋ˥ʃeŋ](非常に清潔だと聞いたが清潔ではなかった)。˥アイニ　ア˞ザ˥ケー　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [˥ʔaini ʔa˞ʤa˥ke: pṵ˞so:˥ bu˞ra:nu](あのように清潔な人はいない)。

ア˞ササー [ʔa˞sasa:] 【名】朝茶。朝起きて飲む茶。老人は朝茶を飲むのが習慣であった。シ˞トゥムティ˥サー [ʃi̥˞tumuti˥sa:](朝茶) というのが普通。˞ピーリ˥サー [˞pi:ri˥sa:](冷えたお茶。愛情のないお茶の義)。˞ウイ˥プソー　ア˞ササー˥　ヌミティル　ノー˞ン　ソー˥ル [˞ʔui˥pṵso: ʔa˞sasa:˥ numitiru no:˞n so:˥ru](老人は朝茶を飲んでから何事もなさるのだ)。

ア˞サ˥シ [ʔa˞sa˥ʃi] 【名】(植) 樹木の名。和名、モチノキ (『琉球列島植物方言集』)。ア˞サ˥シキー [a˞sa˥ʃiki:](モチノキ) ともいう。子供は、ム˞チンキー [mu˞ʧiŋki:] ともいう。ア˞サ˥シキーヌ　˞カー˥バ　˞シッ˥キティ　ム˞チ˥　ス˞ク˥リティ　メ˞ジ˥ロ　シ˞ビシキ˥　クー˞ディー [ʔa˞sa˥ʃiki:nu ˞ka:˥ba ˞ʃ ik˥kiti mu˞ʧi˥ sṵ˞ku˥riti me˞dʒi˥ro ʃi˞biʃiki˥ ku:˞di:](モチノキの皮を搗いてもちを作ってメジロをくっつけて獲ってこようよ)。

ア˞サシガ˥キ [ʔa˞saʃiga˥ki] 【名】早朝より畑仕事や出漁の準備をすること。先駆け (魁け) て仕事をすること。「朝仕掛け」の義か。夏季には早朝、薄暗いうちから畑に出て働くことを奨励したので、起床と同時に˞ミーコー˥ヤー [˞mi:ko:˥ja:](お目覚め。昨夜のご飯の残り) を軽く食べて、朝露を踏んで野良仕事にでた。午前 11 時頃には帰宅して、˥アシスコール [˥ʔaʃisṵko:ru](昼食の準備) をした。ア˞サシガ˥キ　˞スー˥　ッ˞ふァー　マイフナー　ヤッタ [ʔa˞saʃiga˥ki ˞su:˥ f˞fa: maiɸuna: jatta](早朝に畑仕事をする < 朝先駆けする > 子は働き者だった)。

ア˞サ˥シュー [ʔa˞sa˥ʃu:] 【名】朝露。ナ˞チェー˥　シ˞トゥムティ˥ヌ　˞カージ˥　ア˞サシュー˥バ　フ˞メー˥ティル　パ˞タ˥ケー　˞パッ˥タ˞ダー [na˞ʧe:˥ ʃi̥˞tumuti˥nu ˞ka:dʒi˥ ʔa˞saʃu:˥ba ɸu˞me:˥ti˥ru pḁ˞ta˥ke: ˞pat˥ta˞da:](夏は毎朝 < 朝のたびに > 朝露を踏みながら畑へ行ったのだよ)。

ア˞ザッカイパラッ˥カイ [ʔa˞ʤakkaiparak˥kai] 【副】いりみだれるさま。混雑するさま。雑踏するさま。˞プール˥ヌ　シ˞ナピキ˥ヌ　ピンマー　ア˞ザッカイパラッ˥カイ　˞スン˥ケン　プ˞スヌ˥　ンジキー　ア˞ラカラン˥セン [˞pu:ru˥nu ʃi˞napiki˥nu pimmma: ʔa˞ʤakkaiparak˥kai ˞suŋ˥kem pṵ˞sunu˥ ʔnʤiki: ʔa˞rakaraŋ˥ʃeŋ](豊年祭の綱引きの日には雑踏するほど人が出てきて歩けなかった)。

ア˞ザテー [ʔa˞ʤate:] 【名】屋号。東里清光氏宅。˞ヨー˥カヤー [˞jo:˥kaja:](西原松氏宅) の分家と言われている。鳩間島西村の旗頭を保管するトゥ˞ニムトゥヤー [tu˞nimutuja:](根家) といわれている。ア˞ザテーヌ˥　イ˞ゴー˥ジザー　ア˞ラ˥カーウガンヌ　ティ˞ジリ˥ビー　ヤ˞ローッ˥タ [ʔa˞ʤate:nu˥ ʔi˞go:˥ʤiʤa: ʔa˞ra˥ka:ʔugannu ti˞ʤiri˥bi: ja˞ro:t˥ta](東里家の清光氏は新川御嶽の男性神職者 < ティジリビー > であられた)。

ア˞サティダ [ʔa˞satida] 【名】朝の太陽。朝の陽光。ア˞サティダ˥　ウ˞ガ˥ムン [ʔa˞satida˥ ʔu˞ga˥muŋ](朝の太陽を拝む)。ア˞サティダー　ヤーン˥ナカー　イ˞リルバン　イールティダー　ヤーン˥ナカー　イ˞リルナ [ʔa˞satida: ja:n˥naka: ʔi˞rirubaŋ ʔi:rutida: ja:n˥naka: ʔi˞riruna](朝の太陽 < 陽光 > は室内に入れても、西日は室内に入れるな)。

ア˞サドー˥ヤユンタ [ʔa˞sado:˥jajunta] 【名】安里家 (あさどや) ユンタ。竹富島の古謡。˞ワー˥　タ˞キドゥン˥ヌ　ア˞サドー˥ヤユンタ　シ˞キミッタン [

ˈwaːˬ tạˈkidunˬnu ʔaˈsadoːˬjajunta ʃi̥ˈkimittaŋ](君は竹富島のアサドーヤユンタを聞いたことがあるか)。

アˈサˬトゥリ [ʔaˈsaˬturi] 【名】朝凪。若年層は、アˈサˬドゥリ [ʔaˈsaˬduri](朝凪) ともいう。アˈサˬトゥリ　ˈスーˬ　ピンマー　ˈパイˬターヌ　ˈギームドゥローˬ　イッˈケン　ナンˬギ　シˈタンˬダー [ʔaˈsaˬturi ˈsuːˬ pimmaː ˈpaiˬtaːnu ˈgiːmuduroːˬ ʔikˈken naŋˬgi ʃi̥ˈtanˬdaː](朝凪する日は西表島 < 南端 > への往来 < 行き戻り > はひどく難儀をしたものだ)。

アˈサˬトゥル [ʔaˈsaˬturu] 【名】早朝畑に出て朝食用の芋を掘ってくること。朝取り。アˈサˬピキ [ʔaˈsaˬpi̥ki](朝引き) ともいう。嫁がアサトゥルすることを非常に嫌った。アˈサˬトゥル　ˈシーˬ　アˈサˬボン　マˈニアーシˬタ [ʔaˈsaˬturu ˈʃiːˬ ʔaˈsaˬbom maˈniʔaːʃi̥ˬta](朝取りをして朝食を間に合わせた)。

アˈザナー [ʔaˈʤanaː] 【名】あだ名。あざな。ヤˈラˬビ　ˈシェーンˬケン　サˈキシギリバˬ　シˈティルˬ　ウスマイティ　アˈザナーバˬ　シˈキラˬリ　ˈベーˬダˈレˬー [jaˈraˬbi ˈʃeːŋˬken sạˈkiʃigiribaˬ ʃi̥ˈtiruˬ ʔusumaiti ʔaˈʤanaːˬ ʃi̥ˈkiraˬri ˈbeːˬdaˈreˬː](子供の頃、急性アルコール中毒になって < 失神して > ウスマイというあだ名を付けられているのだよ)。

アˈザナーˬン [ʔaˈʤanaːˬŋ] 【形】物が絡み合っているさま。複雑に縺(モツ)れて歩きづらい。ものが絡み合って歩きづらい。「摎、アザナハレリ」『類聚名義抄』が転訛、形容詞化したものか。パˈタキˬミチェー　ッˈサˬヌ　ˈムイカバˬシティ　イッˈケナˬ　アˈザナーˬン [pạˈtakiˬmitʃeː sˈsaˬnu ˈmuikabaˬʃi̥ti ʔikˈkenaˬ ʔaˈʤanaːˬŋ](農道 < 畑道 > は草が生えすぎて道に絡まって歩きにくい)。ˬドゥク　アˈザナーˬヌ　アˈラカラˬヌ [ˬduku ʔaˈʤanaːˬnu ʔaˈrakaraˬnu](あまりに複雑に絡み合って歩けない)。ˬクマー　アˈザナー　ナーˬヌ [ˬkuma: ʔaˈʤana: naːˬnu](ここは絡まっていない)。クˈヌˬ　ミチェー　アˈザナーˬヌ　アˈラカラˬヌ [kuˈnuˬ mitʃeː ʔaˈʤanaːˬnu ʔaˈrakaraˬnu](この道は草が絡み合っていて歩かれない)。アˈザナーˬン　ˬトンマー　パˈルˬナ [ʔaˈʤanaːˬn ˬtomma: paˈruˬna](歩きづらい所へは行くな)。ˬアイニ　アˈザナーˬカー　パˈラˬヌ [ˬʔaini ʔaˈʤanaːˬka: paˈraˬnu](あのように絡み合いもつれて歩きづらければ行かない)。

アˈサˬニビ [ʔaˈsaˬnibi] 【名】朝寝坊。「朝寝」の義。農家は朝が早いので、嫁が朝寝坊をすると舅や姑に嫌われた。教訓歌の民謡ˈデンサーˬブシ [ˈdensaːˬbuʃi](デンサー節) では/アサニビショール　ミドゥム　アサピキショール　ミドゥム　ウリカラドゥ　キワミティ　ムンドーヤ　クヌミョール　デンサー/(朝寝をされる女、朝畑から芋を掘られる女、これからが極めて喧嘩 < 問答 > は始まる) と歌われている。アˈサˬニビ　ˈスーˬ　ミˈドゥˬモー　ˈムンドーˬヌ　ˬムトゥ [ʔaˈsaˬnibi ˈsuːˬ miˈduˬmoː ˈmundoːˬnu ˬmutu](朝寝坊をする女は家庭騒動 < 家庭問答、喧嘩 > のもとだ)。

アˈサノーˬリ [ʔaˈsanoːˬri] 【名】朝の晴天。朝晴れ。「朝直り」の義。アˈサノーˬリ　ˈシーブーヌˬ　プˈスマˬアトーラ　ˈホーˬン　ˬミサンカヤー [ʔaˈsanoːˬri ˈʃiːbuːnuˬ pụˈsumaˬʔatoːra ˈhoːmˬmisaŋkajaː](朝晴れしているが、昼あとから降らないかなあ)。

アˈサバー [ʔaˈsabaː] 【名】遊び人。働かずに遊んでいる人。怠け者。若年層の言葉。アˈサベー [ʔaˈsabeː](怠け者) と同じ。ドゥˈシトゥˬ　トゥˈレーˬシ　アˈサバーˬ　ナリティル　ムッˈトゥˬ　シˈグトゥ　サンバン [duˈʃituˬ tuˈreːˬʃi ʔaˈsabaːˬ naritiru mutˈtuˬ ʃiˈgutu sambaŋ](友人と連れ立って遊び惚けて、ちっとも仕事をしないよ)。

アˈサバスン [ʔaˈsabasuŋ] 【他動】遊ばす。遊ばせる。遊ぶようにさせる。ˬクナーティ　アˈサバスン [ˬkunaːti ʔaˈsabasuŋ](ここで遊ばせる)。アˈサバサンドーˬシ　パˈタラカシ [ʔaˈsabasandoːˬʃi pạˈtarakaʃi](遊ばさないで働かせ)。アˈサバシˬ　プサン [ʔaˈsabaʃiˬ pusaŋ](遊ばしたい)。アˈサバスˬ　プˈスヌˬ　ブˈラーヌ [ʔaˈsabasuˬ pụˈsunuˬ buˈraːnu](遊ばせる人がいない)。ˈマーˬビン　アˈサバシェーˬ　ミサムヌ [ˈmaːˬbiŋ ʔaˈsabaʃeːˬ misamunu](もっと遊ばせば良いのに)。ˈパーˬク　アˈサバシ [ˈpaːˬku ʔaˈsabaʃi](早く遊ばせ)。

アˈサˬパナ [ʔaˈsaˬpana] 【名】早朝。「朝端」の義。アˈサˬパナーラ　ˬウキティ　パˈタˬケー　ˈパッˬタ [ʔaˈsaˬpanaːra ˬʔukiti pạˈtaˬkeː ˈpatˬta](早朝から起きて畑へ行った)。「朝端 (あさはな)」の義。シˈトゥムˬティ　アˈサˬパナーラ　ˬウキティ　シˈガケーˬティ　ˈアーˬク [ʃi̥ˈtumuˬti ʔaˈsaˬpanaːra ˬʔukiti ʃiˈgakeːˬti ˈʔaːˬku](早朝から起きて人に先んじて仕事に励んでいる)。「ショングゥヂゥヌ　シゥトゥムディ　アラトゥシゥヌ　アサパナ (正月の早旦、新年の朝端)」(鶯の鳥節) と古謡に歌われている『宮良当壮全集　12』。

アˈザバライ [ʔaˈʤabarai] 【名】嘲笑うこと。嘲笑い。ˈウンザーˬ　カˈタˬフチェー　ピˈキティルˬ　アˈザ

˥バライ　ˈシーベー˥バン [ˈʔundʑaː˥ kạˈta˥ɸụtʃeː pị̥ˈkitiru˥ ʔaˈdʑa˥barai ˈʃiːbeː˥baŋ](あの野郎は薄笑いをして＜片口を引いて＞嘲笑っているよ)。

アˈザ˥バライ [ʔaˈdʑa˥barai] 【名】あざ笑い。嘲笑すること。˥バー　ˈシーユーサンティ˥　ウムイティ　ˈバイ˥ヨー　アˈザ˥バライ　ˈシーベー [ˈbaː ˈʃiːjuːsanti˥ ʔumuiti˥ ˈbai˥joː ʔaˈdʑa˥barai ˈʃiːbeː](私には出来ないと思って、私をあざ笑って＜あざ笑いして＞いる)。

アˈザ˥パライ [ʔaˈdʑa˥parai] 【名】「畦払い」の義。畦道の草刈り。田畑の畦の雑草を刈り取ること。パˈタキ˥ヌ　アˈザパライ˥ヤンツァン　ˈシー˥バ [pạˈtaki˥nu ʔaˈdʑaparai˥jantsaŋ ˈʃiː˥ba](畑の畦道の草刈だけでもしなさいよ)。

アˈザバン　ユー˥ゾー　ˈナー˥ヌ [ʔaˈdʑabaŋ juː˥dʑoː ˈnaː˥nu] 【連】言っても詮無い。言っても無益である。アˈザバン [ʔaˈdʑabaŋ](言っても) は、アˈズン [ʔaˈdʑuŋ](言う) の未然形、アザ [ʔadʑa] に仮定条件の接続助詞ˈ-バン [ˈ-baŋ](～ても) が付いた形。ˈユー˥ゾー　ˈナー˥ヌ [ˈjuː˥dʑoː ˈnaː˥nu] は、ˈユー˥ゾー [ˈjuː˥dʑoː](養生。病気の手当て) にˈナー˥ヌ [ˈnaː˥nu](無い) が付いた形で、「手の施しようがない。どうにもならない。せんない (詮無い)」の意味。

アˈサビ [ʔaˈsabi] 【名】遊び。アˈサビヌ˥　クトゥカーˈニ˥　ウムイティ　ˈピッ˥チン　シˈグトゥ˥ナー　˥ニン　イˈランバン [ʔaˈsabinu˥ kụtu kaːˈni˥ ʔumuitiˈpit˥tʃiŋ ʃiˈgutu˥naː ˥niŋ ʔiˈrambaŋ](遊びのことだけ考えて＜思って＞、ちっとも仕事に念をいれないわい＜ネンヲイルル『日葡辞書』＞)。

アˈサビカサ˥ビ [ʔaˈsabikasa˥bi] 【名】遊んでばかりいること。ABCDBC 型の重言。カサビ [kasabi](重ね) は強意用法。シˈグトー˥　サˈムティ˥　ナーˈイ˥　アˈサビカサ˥ビ　カーˈニ　シーアー˥ク [ʃiˈgutoː˥ saˈmuti˥ naːˈi˥ ʔaˈsabikasa˥bikaːˈni ʃiːʔaː˥ku](仕事はしないでただ遊んでばかりいる)。

アˈサヒカマ˥ブク [ʔaˈsaçikama˥buku] 【名】周囲を食紅で赤く染めた円形のかまぼこ。「朝日かまぼこ」の義。祝儀用のかまぼこ。石垣方言からの借用語。普通は、アˈガカマブク [ʔaˈgakamabuku](赤かまぼこ) という。法事用には、ッˈスカマ˥ブク [sˈsukama˥buku](白かまぼこ) を用いた。

アˈサ˥ピキ [ʔaˈsa˥pị̥ki] 【名】朝になって、朝食用の甘藷を取りに畑へ行くこと。「朝引き」の義。家庭の主婦としてあるまじき行為とされていた。アˈサ˥ニビ [ʔaˈsa˥nibi](朝寝) とアˈサ˥ピキ [ʔaˈsa˥pị̥ki](朝引き、朝取り) は家庭騒動のもとといわれていた。鳩間島で伝承されている教訓歌のˈデンサー節」の一節に/アサニビ　ショール　ミドゥム　アサピキ　ショール　ミドゥム　ウリカラドゥ　キワミティ　ムンドーヤ　クヌミョール　デンサー/(朝寝をする女、朝に朝食用の芋堀りをする女、それから＜ぞ＞家庭騒動は起きるものだ) とある。アˈサ˥ピキ　ˈスー˥　ミˈドゥ˥モー　ˈムンドー˥ヌ　˥ムトゥ [ʔaˈsa˥pị̥ki ˈsuː˥ miˈdu˥moː ˈmundoː˥nu ˥mutu](朝になって芋ほりする女は家庭騒動＜問答＞のもとになる)。

アˈサビグトゥ [ʔaˈsabigutu] 【名】遊びごと。アˈサビグトゥ˥　シˈミル˥カー　ウˈリヌ　ウイ˥ナー　˥タトゥ　プˈソー˥　ブˈラーヌ [ʔaˈsabigutu˥ ʃiˈmiru˥ kaː ʔuˈrinu ʔui˥naː ˥tạtu pụˈsoː˥ buˈraːnu](遊びごとをさせると、その人の上に立つ人はいない)。

アˈサビシグトゥ [ʔaˈsabiʃigutu] 【名】楽な仕事。簡単な仕事。「遊び仕事」の義。ˈキュー˥ヌ　シˈグトー˥　アˈサビシグトゥ˥　ユネンˈバー˥キナー　トゥˈズミラ˥リン [ˈkjuː˥nu ʃiˈgutoː˥ ʔaˈsabiʃigutu˥ junemˈbaː˥kinaː tuˈdʑumira˥riŋ](今日の仕事は楽な仕事だ。夕方までには終了＜片付け＞出来る)。

アˈサビッサーク [ʔaˈsabissaːku] 【名】遊び仕事。楽な仕事。遊び半分に出来る仕事。ウˈヌ　アˈタ˥ロー　アˈサビッサーク˥ティ　˥ムカーヤ [ʔuˈnu˥ ʔaˈta˥roː ʔaˈsabissaːku˥ti ˥mukaːja](その程度は遊び仕事というものだ)。

アˈサビッふァ [ʔaˈsabiffa] 【名】婚前に遊び相手に生ませた子供。「遊び子」の義。カˈヌ　プストゥヌ˥　ナカナー　アˈサビッふァヌ˥　ブˈタン˥ツォー [kaˈnu˥ pụˈsutunu˥ nakanaː ʔaˈsabiffanu˥ buˈtan˥tsoː](あの人との間に婚前に生ませた子供がいたそうだよ)。

アˈサビドゥシ [ʔaˈsabiduʃi] 【名】遊び友達。遊び仲間。ˈウッ˥ツァー　フˈターロー˥　ヤˈラ˥ビ　ˈシェーン˥ケンラヌ　アˈサビドゥシ˥ティムカーヤ　ッˈサンシェン [ˈʔut˥tsaː ɸụˈtaːroː˥ jaˈra˥bi ˈʃeːŋ˥kenranu ʔaˈsabiduʃi˥timukaːja sˈsaŋʃeŋ](あれら二人は子供の頃からの遊び友達というもんだ。知らなかったのか)。

アˈサビナライ [ʔaˈsabinarai] 【名】遊び癖。ˈ遊び習い」の義。アˈサビナライ˥　シˈキル˥ナ [ʔaˈsabinarai˥ ʃị̥ˈkiru˥na](遊び習慣＜遊び癖＞をつけるな)。

アˈサビパダ [ʔaˈsabipada] 【名】夜遊びを楽しむ年頃。青年時代。青春時代。アˈサビパダ˥　ヤˈリバ

˩ ドゥˈシヌ˩ヤー アˈサビン˩ パルンティ ˩アイニ イˈゾーン˩ナˈヨー [ʔaˈsabipada ˩jaˈriba˩ duˈʃinu˩ ja: ʔaˈsabim˩ parunti ˩ʔaini ʔiˈʤo:n˩naˈjo:](遊びを楽しむ年頃だから、友達の家に遊びに行くといって、あんなに怒りなさるなよ)。

アˈサビバナ [ʔaˈsabibana] 【名】遊び盛り。遊び戯れる時期。ビˈコーンッふァヌ˩ アˈサビバナー˩ ナˈマキジ˩ヌ ˩キシテー ˈナー˩ヌ [biˈko:ŋffanu˩ ʔaˈsabibana:˩ naˈmakiʤi˩nu ˩kᵢʃite: ˈna:˩nu](男の子の遊び盛りは生傷が絶える＜切れる＞ことはない)。

アˈサビブリ [ʔaˈsabiburi] 【名】遊び惚けること。遊びに夢中になること。「遊び惚れ」の義。子供が日の暮れるのを忘れて遊びに耽っている時にいう。仕事を忘れて遊び耽る者にもいう。また、肉体から遊離したマˈブ˩ル [maˈbu˩ru](魂) が浮遊している際にもいう。ˈバン˩テヌ ッˈふァー˩ アˈサビブリバ シーティル˩ ムサッˈトゥ ヤー˩ナー カˈカラ˩ヌ [ˈban˩tenu fˈfa:˩ ʔaˈsabiburiba ʃi:tiru˩ musatˈtu ja:˩na kᵩˈkara˩nu](私の家の子供は遊び惚けてちっとも家に留まらない＜掛からない＞)。

アˈサビマーリ [ʔaˈsabima:ri] 【名】遊びまわり。子供が友人の家を訪ねて遊びまわること。若い男女が仕事を疎かにして、異性の家に入り浸りになること。子供の魂は、叱られるのが怖くて肉体に戻ることができず、遊びまわるといわれている。それ故、マˈブ˩ルクミ [maˈbu˩rukumi](魂籠め) の際は、マˈブ˩ル (魂) の好物である「水」、「大豆のお汁」を用意して、特に子供が空腹になる夕刻に、マˈブ˩ルクミ (魂籠め) の祈願をした。家人を始め、祈願する人も、特に優しい声で、マˈブロー˩マ マˈブロー˩マと呼んで、ミˈジーン トー˩フマミヌ ˩スーン アˈリ˩バ ˈダンティ˩ キー ッˈふァイ˩ ッˈふァイ [miˈʤi:n to:˩ɸumaminu su:ŋ ʔaˈri˩ba ˈdanti˩ ki: fˈfai˩ fˈfai](水も大豆のお汁もあるから、早く来てお食べ) と宥めすかすように呼ぶのである。

アˈサ˩ビリ [ʔaˈsa˩biri] 【名】朝の排便。「朝座り」の義。アˈサ˩ビレー シˈマ˩シテーラル ˈトゥーサーヤ˩ パルˈダー [ʔaˈsa˩bire: ʃiˈma˩ʃite:raru ˈtu:sa:ja˩ paruˈda:](朝の排便は済ませてから遠くへは行くのだよ)。

アˈサブン [ʔaˈsabuŋ] 【自動】1遊ぶ。「遊行女児、和名宇加礼女、又云阿曾比 (あそび)」『和名抄』の転訛したもの。ˈワートゥ˩ マーˈズン˩ アˈサブン˩ツォー [ˈwa:tu˩ ma:ˈʤuŋ˩ ʔaˈsabun˩tso:](君と一緒に遊ぶそうだよ)。カˈリトゥ˩カーˈニ˩ アˈサバンドー˩シ ˈバン˩トゥン アˈサビ˩バ [kaˈritu˩ka:ˈni˩ ʔaˈsabando:˩ʃi ˈban˩tuŋ ʔaˈsabi˩ba](彼とだけ遊ばないで僕とも遊べよ)。アˈサビ˩ プサンドゥ ˈワットゥ˩ アˈサブ˩ クトー ナˈラ˩ヌ [ʔaˈsabi˩ pᵤsandu ˈwattu˩ ʔaˈsabu˩ kᵤto: naˈra˩nu](遊びたいが、君と遊ぶことはできない)。ˈマー˩ビン アˈサベー˩ ミサムヌ [ˈma:˩biŋ ʔaˈsabe:˩ misamunu](もっと遊べばいいのに)。2器具の部分と部分が密着しないで隙間があって動く余裕が生じる。緩む。クˈビン˩ヌ フˈター˩ シˈマラ˩ヌ アˈサビブー [kuˈbin˩nu ɸᵤˈta:˩ ʃiˈmara˩nu ʔaˈsabibu:](瓶の蓋は閉まらない。緩んでいる＜遊んでいる＞)。

アˈサベー [ʔaˈsabe:] 【名】遊び人。遊蕩児。定職が無くぶらぶら遊び暮らしているもの。老年層の使用語。イˈチンバー˩キン アˈサベー˩ ナリ ˈアーカン˩ドーシ ˈパイ˩サ シˈグトゥ˩ トゥミティ パˈタラキ [ʔiˈʧimba:˩kiŋ ʔaˈsabe:˩ nari ˈʔa:kan˩do:ʃi ˈpai˩sa ʃiˈgutu˩ tumiti pᵩˈtaraki](いつまでも無職でぶらぶらしていないで、早く仕事を探して働きなさい)。

アˈサベー˩カサベー [ʔaˈsabe:˩kasabe:] 【副】遊びに耽って。遊び惚けて。シˈグトゥン˩ サˈムティ ピーズン˩ アˈサベー˩カサベー ˈシー アー˩ク [ʃiˈgutun˩ saˈmuti pi:ʤuŋ˩ ʔaˈsabe:˩kᵩsabe: ˈʃi: ʔa:˩ku](仕事もしないで毎日遊び惚けている)。

アˈサ˩ボン [ʔaˈsa˩boŋ] 【名】朝御飯。朝食。御飯を「飯、'om・par(n)i」『海東諸国紀・「語音翻訳」』、「飯、翁班尼」『琉球館訳語』とある。アˈサ˩ボン ッˈふァイティ˩ マーˈズン˩ パˈタ˩ケー パラˈナー [ʔaˈsa˩boŋ fˈfaiti˩ ma:ˈʤum˩ pᵩˈta˩ke: paraˈna:](朝御飯を食べて、一緒に畑へ行こうね)。アˈサ˩ンボン [ʔaˈsa˩ʔmboŋ](朝ご飯) の縮約形。「おぼのがなし 食事の敬語」『混効験集』、とある。アˈサボン˩マー ッˈふァイヤーン˩カヤー [ʔaˈsabom˩ma: fˈfaija:ŋ˩ kaja:](朝ご飯は食べただろうかねえ)。

アˈサ˩ボンジブン [ʔaˈsa˩bondʒibuŋ] 【名】朝飯時。朝食時分。「朝・飯 翁班尼＜ウバニ＞」『琉球館訳語』、「おぼのがなし 食事の敬語」『混効験集』、ˈ飯 om-pa-r(n)i」『語音翻訳』・ˈ時分」よりなる複合語。アˈサ˩ボンジブン ナˈリ˩ブバ ディーˈディー ヤー˩ パラ [ʔaˈsa˩bonʤiibun naˈri˩buba di: ˈdi: ja:˩ para](朝食時分になっているから、さあさあ家へ帰ろう)。

アˈサマイ˩リ [ʔaˈsamai˩ri] 【名】朝参り。ˈプール˩ヌ

ˈユードゥーシˈヌ　シˈトゥムˈテー　ˈカンˈプスンケーヤ　ˈヤー　カイˈローリティ　マˈタˈ　アˈサマイˈリ　ˈシー　ソーッˈタ [ˈpuːruˈnu ʃi̥ˈtumuˈteː ˈkamˈpu̥suŋkeːja ˈjaː kaiˈroːriti maˈtaˈ ʔaˈsamaiˈri ˈʃiː soːtˈta](豊年祭の夜通しの朝は神人たちは家に帰られて、また朝参りをされた＜しなさった＞)。

アˈサマシー [ʔaˈsamaʃiː] 【連体】浅ましい。惨めでいやしい。石垣方言からの借用語。ˈアイブ　クˈトゥˈバ　ˈシー　フンˈトー　アˈサマシーˈクトゥ [ˈʔaibu ku̥ˈtuˈba ˈʃiː ɸunˈtoː ʔaˈsamaʃiːˈ ku̥tu](あんなことをして誠に浅ましいことだ)。

アˈサマッˈサン [ʔaˈsamasˈsaŋ] 【形】あまりの酷さに呆れかえる。興ざめである。見苦しい。あさましい。ˈアイブー　ヤˈナシムチバˈ　ムティ　ˈヤームンˈドー　ウˈクˈシ　アˈサマッサˈヌ　ミˈララˈヌ [ˈʔaibuː jaˈnaʃimutʃibaˈ muti ˈjaːmunˈdoː ʔuˈkuˈʃi ʔaˈsamassaˈnu miˈraraˈnu](あのような悪い精神＜気持ち＞を持って家庭騒動を起こして、見苦しくて＜呆れかえって＞見ておれない)。ˈアイブー　ˈヤームンˈドー　ˈミルカー　アˈサマッˈサンダ　ˈメー　ミˈラˈヌ [ˈʔaibuː ˈjaːmunˈdoː ˈmirukaː ʔaˈsamassˈsanda ˈmeː miˈraˈnu](あんなお家騒動を見るのは見苦しいので、もう見ない)。ˈカイニ　アˈサマッˈサル　ˈクトー　ˈナーˈヌ [ˈkaini ʔaˈsamasˈsaru ˈku̥toː ˈnaːˈnu](こんなにあさましいことはない)。

アˈサマユーˈマ [ʔaˈsamajuːˈma] 【名】朝夕。「朝間夕間」の義。アˈサマユーˈマ　ˈターˈヌ　ˈミーマール　スンティ　パンタˈサ　ˈシーオーˈル [ʔaˈsamajuːˈma ˈtaːˈnu ˈmiːmaːru sunti pantaˈsa ˈʃiːoːˈru](朝夕田圃の見回りをしようとして多忙を極めて＜繁多さして＞おられる)。

アˈザˈミチ [ʔaˈdzaˈmitʃi] 【名】畦道。細道。パˈタキˈヌ　アˈザミチˈバ　ˈトゥンクイトゥンクイ　シェーˈティ　アˈラˈキ　ˈクーˈタ [pḁˈtakiˈnu ʔaˈdzamitʃiˈba ˈtuŋkituŋkui ʃeːˈti ʔaˈraˈki ˈkuːˈta](畑の畦道を跳び越え跳び越えしながら歩いて来た)。

アˈザムˈクン [ʔaˈdzamuˈkuŋ] 【他動】騙す。欺く。嘲笑する。ッˈサンコーラˈシ　ˈシーベーˈティ　プˈスバˈ　アˈザムˈクンˈダーˈ　ウˈレー [sˈsaŋkoːraˈʃi ˈʃiːbeːˈti pu̥ˈsubaˈ ʔaˈdzamuˈkunˈdaːˈ ʔuˈreː](そ知らぬふりして人を騙すんだよ、こいつは)。

アˈサˈムヌ [ʔaˈsaˈmunu] 【名】朝食。アˈサˈムヌ　ッˈふァーンˈカー　パˈタキシグˈトー　ナˈラˈヌ [ʔaˈsaˈmunu fˈfaːŋˈkaː pḁˈtakiʃiguˈtoː naˈraˈnu](朝食を食べないと畑仕事は出来ない)。

アˈサˈヤキ [ʔaˈsaˈjaki] 【名】朝焼け。標準語からの借用語。アˈサˈヤケー　ˈシー　ティンマーˈ　アˈガミベーˈヌ　ˈオシケー　ヌーˈシカヤー [ʔaˈsaˈjakeː ˈʃiː timmaːˈ ʔaˈgamibeːˈnu ˈʔoʃi̥keː nuːˈʃikajaː](朝焼けをして空は赤らんでいるが天気はどうだろうか)。

アˈサˈユー [ʔaˈsaˈjuː] 【名】朝夕。朝晩。いつも。朝な夕な。アˈサユーˈヌ　ウˈヤプスンˈマイヌ　ˈサーサーˈドー　バˈシキルナˈダー [ʔaˈsajuːˈnu ʔuˈjapu̥sumˈmainu ˈsaːsaːˈdoː ˈbaʃi̥kirunaˈdaː](朝夕の、ご先祖様の前へのおちゃとう＜お茶湯＞を忘れるなよ)。

アˈザライシ [ʔaˈdzaraiʃi] 【名】ごつごつした石。でこぼこの多い石。アˈザライシミチェーˈ　アˈラキングリサˈヌ　アˈラカラˈヌ [ʔaˈdzaraʔiʃimitʃeːˈ ʔaˈrakiŋgurisaˈnu ʔaˈrakaraˈnu](でこぼこの多い石道は歩きずらくて、歩けない)。

ˈアサラゴー [ˈʔasaragoː] 【名】1(動) 貝の名。イガイ科。和名、リュウキュウヒバリガイ、ムラサキガイの仲間。明治生まれの老年層は、ˈアサルゴー [ˈʔasarugoː] ともいう。長さ約 4 センチ、巾約 1,5 センチの細長い貝。浅い海の岩礁の上に棲息している。殻は薄くてもろい。ムラサキガイは光沢のある黒紫色を呈している。煮て食する。ˈアサラゴーンツァン　ˈコーシˈ　クーˈディˈー [ˈʔasaragoːntsaŋ ˈkoːʃiˈ kuːˈdiˈː](アサラゴー貝でも掻き剥がして漁獲してこようよ)。2潮干狩り。ˈアサラゴー　ˈシンˈ　パラˈディˈー [ˈʔasaragoː ˈʃimˈ paraˈdiˈː](潮干狩りをしに行こうよ)。

アˈザラスン [ʔaˈdzarasuŋ] 【他動】米を搗いて少し糠の出た状態にする。表面をざらざらにする。臼で米搗きをする際に始めはゆっくり、力をいれずに搗く。四、五分経つと糠が出る。この状態になると力強く搗いても米粒は臼から飛び散らない。その状態にすることをいう。「肉習○、魚肉爛也、阿佐礼太利 (あざれたり)」『新撰字鏡』、「鯲、アザル」『類聚名義抄』の転訛したものか。ˈマイヤーˈ　ヤーˈラマˈシ　ˈシキ　アˈザラシテーラˈ　シˈキバˈル　トゥˈビパラˈヌ [ˈmaijaːˈ jaːˈramaˈʃi ˈʃi̥ki ʔaˈdzaraʃi̥teːraˈ ʃi̥ˈkibaˈru tuˈbiparaˈnu](米は弱く＜柔らかく＞搗いて糠を出してから強く搗いた方が飛び散らない)。ˈウシナー　ˈマイˈ　イˈリティˈ　アˈザラスン [ˈʔuʃinaːˈ maiˈ ʔiˈritiˈ ʔaˈdzarasuŋ](臼に米を入れて、弱く搗いて糠の出た状態にする)。

アˈザラミチ [ʔaˈdzaramitʃi] 【名】石ころだらけの道。

でこぼこの多い道。アˈザラミチェー˥　アˈラキングリ˥サン [ʔaˈʤaramitʃeː˥ ʔaˈrakiŋguri˥saŋ](石ころ道は歩きづらい)。

アˈザラン˥　ナカーラ [ʔaˈʤaraŋ˥ nakaːra] 【連】言うにことかいて。言えないので。「～と言えないなかで」の義。ウˈナール　ワッ˥サティ　アˈザラン˥　ナカーラ　˥カイブ　ムˈニ˥バ　イˈジェー˥ティ　ˈアー˥ク [ʔuˈnaːru was˥sati ʔaˈʤaran˥nakaːra ˥kaibu muˈni˥ba ʔiˈʤeː˥ti ˈʔaː˥ku](己が悪いと言えないので、言うに事欠いて、このようなことを言っている＜言ってあるく＞)。

アˈザリルン [ʔaˈʤariruŋ] 【自動】米の糠がでる。表面がざらざらになる。絡み合う。「糾、アザハレリ」『類聚名義抄』の転訛したものか。ウˈシ˥ヌ　ˈマイヤー˥　ヤーˈラマ˥シ　˥ッサウカー　アˈザリルン [ʔuˈʃi˥nu ˈmaijaː˥ jaːˈrama˥ʃi ˥ssaukaː ʔaˈʤariruŋ](臼の中の米は軽く＜柔らかく＞搗くと糠が出て飛び散らない)。ˈマイヤー˥　ッサウカー　アˈザリラン˥　クトー　ˈナー˥ヌ　アˈザリル　スー [ˈmaijaː˥ ssaukaː ʔaˈʤariraŋ˥ kṵtoː ˈnaː˥nu ʔaˈʤariru suː](米は搗くと糠が出て絡まらないことはない。糠が出て絡まりあうことになる)。

アˈザリン [ʔaˈʤariŋ] 【自動】言われる。動詞アˈズン [ʔaˈʤuŋ](言う) の未然形、アˈザ [ʔaˈʤa] に受身・可能の助動詞ˈリン [ˈriŋ](～れる) が付いて形成された派生動詞 (受身・可能動詞)。ˈマイフナー˥ティシˈキン˥ヌ　プˈソーラ˥　アˈザリン [ˈmaiɸunaː˥ti ʃi̥ˈkin˥nu pṵˈsoːra˥ ʔaˈʤariŋ](働き者と世間の人から言われる)。

˥アサルゴー [˥ʔasarugoː] 【名】(動) 貝の名。和名、リュウキュウヒバリガイ。ムラサキガイの仲間。若年層は、˥アサラゴー [˥ʔasaragoː] ともいう。˥アサルゴーバ　˥シジ　バˈカシ [˥ʔasarugoːba ˥ʃiʤi baˈkaʃi](アサルゴーを煎じてお汁に炊き＜沸かし＞なさい)。

アˈサ˥ルン [ʔaˈsa˥ruŋ] 【他動】あさる (漁る)。探しまわる。ほじくりまわす。「春の野に安佐留＜アサル＞雉(キジ)の～。万、1446」の転訛したものか。カˈティ˥ムヌ　˥トゥルンティ　タˈク˥ヌヤー　アˈサルン˥ドゥ　ブˈラーンバン [kạˈti˥munu ˥turunti tạˈku˥nu ˥jaː ʔaˈsarun˥du buˈraːmbaŋ](おかず＜副食物。かてもの＞を漁獲しようと蛸の巣をほじくりまわすがいないよ)。ˈヤー˥サティ　ッˈふァイムヌ˥　アˈサ˥リ　ˈベー [ˈjaː˥sati fˈfaimunu˥ ʔaˈsa˥ri ˈbeː](ひもじいので食い物を漁っている)。ッˈふァイムヌ˥　アˈサラン˥ドーシ　ˈイー˥ヌ　ˈニールン˥ケン　˥マティバ [fˈfaimunu˥ ʔaˈsaran˥doːʃi ˈʔiː˥nu ˈniːruŋ˥kem ˥matiba](食い物を漁らないで御飯が炊ける＜煮える＞まで待てよ)。ˈヌー˥バ　ˈミス˥クユー　ˈヤー˥ヌ　˥ナカー　アˈサ˥リ　ˈベー [ˈnuː˥ba ˈmisṵ˥kujuː ˈjaː˥nu nakaː ʔaˈsa˥ri ˈbeː](何を探すのか家の中を探して＜あさって＞いる)。ˈヤー˥サカー　ッˈふァイムヌ˥　アˈサ˥ルンダ　アˈサラン˥ヨーニ　ナˈラー˥シバ [ˈjaː˥sakaː fˈfaimunu˥ ʔaˈsa˥runda ʔaˈsaraŋ˥ joːni naˈraː˥ʃiba](ひもじいと食い物を漁るので、漁らないように教えなさいよ)。ッˈふァイムヌ˥　アˈサ˥ル　プˈス [fˈfaimunu˥ ʔaˈsa˥ru pṵˈsu](食い物を漁る人)。ˈマー˥ビン　アˈサ˥レー　˥ミサムヌ [ˈmaː˥biŋ ʔaˈsa˥reː ˥misamunu](もっと漁ればいいのに)。ˈパー˥ク　アˈサ˥リバ [ˈpaː˥ku ʔaˈsa˥riba](早く漁れよ)。

アˈザルン [ʔaˈʤaruŋ] 【自動】搗臼に米を入れて軽く搗くと糠が出て縺れ合うようになるさま。絡み合う。米と糠がもつれあって飛び散らないようになる。「魚委、魚肉爛也、阿佐礼太利 (あざれたり)」『新撰字鏡』の転訛か。ˈマイヤー˥　ッサウカー　アˈザルン [ˈmaijaː˥ ssaukaː ʔaˈʤaruŋ](米は搗く＜精げる＞と糠が出て絡まる)。マˈダ˥　アˈザラヌ [maˈda˥ ʔaˈʤaranu](まだ糠が出ない。絡まない)。キˈサーティ˥　アˈザリ　ブー [kị̥ˈsaːti˥ ʔaˈʤari buː](既に糠が出ている。絡まっている)。ˈマイヌ˥　アˈザル˥　ピンマー　˥ウシェーラ　ˈトゥンジラヌ [ˈmainu˥ ʔaˈʤaru˥ pimmaː ˥ʔuʃeːra ˈtunʤiranu](米の糠が出て絡まる時は臼から飛び散らない)。ˈパー˥ク　アˈザレー˥　ミサムヌ [ˈpaː˥ku ʔaˈʤareː˥ misamunu](早く糠が出て縺れあえばいいのに)。

アˈサン˥グル [ʔaˈsaŋ˥guru] 【名】(植) 樹木の名。和名、フカノキ。軽くて火力が弱いので薪炭用としては軽視された。下駄を作るのに重用された。アˈチ˥ツァー＜アˈシ˥ツァー＞　アˈサン˥グルシル　スˈクル˥タ [ʔaˈʧi˥tsaː ＜ʔaˈʃi˥tsaː＞ ʔaˈsaŋ˥guruʃiru sṵˈkuru˥ta](下駄はアサングルで作った)。

アˈサン˥グルキー [ʔaˈsaŋ˥gurukiː] 【名】アˈサン˥グル [ʔaˈsaŋ˥guru](フカノキ) に同じ。

アˈザン˥タンティン [ʔaˈʤan˥tantiŋ] 【連】言わなくても。もちろん。当然。ウˈヌ˥　アˈタ˥ロー　アˈザン˥タンティン　ッˈシブーティ˥　ウˈモー˥リ [ʔuˈnu˥ ʔaˈta˥roː ʔaˈʤan˥tantiŋ ʃˈʃibuːti˥ ʔuˈmoː˥ri](それくらいのことは言わなくても知っていると思われる)。アˈザン˥タンティン　˥ミサン [ʔaˈʤan˥tantim

ˈmisaŋ](言わなくてもよい)。

ˈアサンユサン [ˈʔasaŋjusaŋ]【名】朝に夕に。朝も夕も。ˈアボーヤ　ˈアサンユサン　タˈビヌˈ　ッˈふァヌˈ　クトゥカーˈニル　ソーバ　シーオーˈル [ˈʔaboːja ˈʔasaŋjusan taˈbinuˈ fˈfanuˈku̥tukaːˈniru soːba ʃiːʔoːˈru](お母さんは朝に夕に、旅の子供のことだけを心配しておられる)。

ˈアシ [ˈʔaʃi]【名】汗。ˈアシ　ˈパルン [ˈʔaʃi ˈparuŋ](汗が流れ出る)。ˈアツァサーリ　ヤˈマシゥˈカ　ミˈジˈ　ヌˈムˈター　ウˈムˈテーラ　アˈシˈヌ　フˈキˈンジ　ˈケーン [ˈʔatsasaːri jaˈmasi̥ˈka miˈʤiˈ nuˈmuˈtaː ʔuˈmuˈteːra aˈʃiˈnu ɸu̥ˈkiˈ ʔnʤikeːŋ](暑い中で水をたくさん飲んだら顔 < 面 (おもて)> から汗が噴き出てきた)。アˈシˈヌ　ˈパルカー　ˈニチェー　ピˈクン [ʔaˈʃiˈnu ˈparukaː ˈnitʃeː pi̥ˈkuŋ](汗が出たら < 走ると > 熱は引く < 下がる >)。ˈアシ　ˈカクン [ˈʔaʃi ˈkąkuŋ](汗をかく)。

ˈアシ [ˈʔaʃi]【名】昼食。「朝飯 (あさ・いひ)」→「アシ」のように転訛したものか。ˈアシ [ˈʔaʃi] は本来「朝食」の意であった。後に、ˈオ・ハン (お飯)」系統の沖縄方言「'om/-pa-r(n)i」(御飯)「語音翻訳」『海東諸国紀』、「飯、翁班尼」『琉球館訳語』、「みおばに　おはに　美飯の事なり」『混効験集』が新しく導入されて、時を表すˈアサ [ˈʔasa](朝) と結びつき、アˈサˈボン [ʔaˈsaˈboŋ](朝飯) となり、それが朝食の位置に定まると、古い「アシ」が「昼食」の意味を担うようになって、アˈサˈボン (朝食)・アシ (昼食)・ˈユーˈボン (夕食) の一日三食制度が確立したものと考えられる。アˈシˈヌ　ˈスコール　ˈシーˈヨー [ʔaˈʃiˈnu ˈsu̥koːru ˈʃiːˈjoː](昼食の準備をしなさいよ)。

ˈアシ [ʔaʃi]【名】1足。足の意味での独立用法は限られた場合にのみ用いられる。ˈアシ　ハˈヤミˈリ [ˈʔaʃi haˈjamiˈri](足を早めなさい)。ˈアシェー　ˈサーラヌ [ˈʔaʃeː ˈsaːranu](足を前に運ぶことが出来ない)2背丈。ˈクマー　フˈカーˈヌ　ˈアシ　シゥˈカˈヌ [ˈkumaː ɸu̥ˈkaːˈnu ʔaʃi si̥ˈkaˈnu](ここは深くて、背が届かない < 着かない >)。3山麓。ˈクンダキヌ　ˈアシ　ビˈラスンˈケン　フˈカˈウメー　ンˈジˈル　カˈツォー　ホーシˈタ [ˈkundakinu ˈʔaʃi biˈrasuŋˈkeŋ ɸu̥ˈkaˈʔumeː ʔnˈʤiˈru ką̥ˈtsoː hoːʃi̥ˈta](古見岳の山麓がすっかり水平線に没するまで外海へ出て鰹は釣った)。4喫水線。ˈフネー　ˈアシ　ビˈルン [ˈɸuneːˈ ʔaʃi biˈruŋ](船は喫水線が深く沈む)。

ˈアジ [ˈʔaʤi]【名】機織の道具。綜棒 (あぜ竹ともいう)。経糸の中に入れて糸の乱れを調える道具。布幅より長く平たい竹、木で作った二本の棒。

アˈジ [ʔaˈʤi]【名】1味。感情。情味。アˈマアジ [ʔaˈmaʔaʤi](甘味。水っぽい味)。サˈクラアジ [są̥ˈkuraʔaʤi](塩辛い味)。サˈクラフチ [są̥ˈkuraɸu̥ʧi](塩っぱい味を好む味付け)。クˈヌ　スーˈヌ　アˈジェー　タールˈ　スˈクˈター [kuˈnu suːˈnu ʔaˈʤeː taːru ˈ su̥ˈkuˈtaː](このお汁の味は誰がつけたか)。2含蓄。深い意味。おもしろみ。ウˈリヌˈ　アˈズˈムネー　ˈピッˈチン　アˈジェー　ナーˈヌ [ʔuˈrinuˈ ʔaˈʤuˈmuneː ˈpitˈʧiŋ ʔaˈʤeː naːˈnu](あれ < 彼 > の言うことはちっとも含蓄がない < 深い意味や面白みがない >)。

アˈシ˧ ミー [ʔaˈʃi˧miː]【連】そうしてごらん。そうやってみろよ。˧ミーのアクセントは中低「˧」、半分だけ下がる。ˈドゥーシ　ˈナルンユー　アˈシ˧ ミー [ˈduːʃi ˈnaruŋjuː ʔaˈʃiˈ˧miː](自分で出来るかどうか、そうして < やって > ごらんよ)。

ˈアシー [ˈʔaʃiː]【感】嫌だ。とんでもない。誰が聞くものか。糞〜ものか。卑語。相手をののしっ (罵っ) て、嫌だと言う時にもちいる (老年層)。ˈアシェーヒャー [ˈʔaʃeːçaː](糞、嫌だ、この野郎) ともいう (若年層)。ˈアシー　ˈワンザヌ　アˈズˈムネー　シゥˈカヌ [ˈʔaʃiː ˈwanʤanu ʔaˈʤuˈmuneː si̥ˈkanu](糞、嫌だ。とんでもない。お前野郎の言うことなんか聞かない)。

ˈアシゥカイ [ˈʔasi̥kai]【名】扱い。扱うこと。扱い方。介抱。動詞ˈアシゥカウン [ˈʔasi̥kauŋ](扱う) の連用形の転成名詞。ˈアシゥカイヌ　ワッˈサン [ˈʔasi̥kainu wasˈsaŋ](扱い方が悪い)。クˈヌˈ　キˈカイˈヌ　アˈシゥカイミチェーˈ　ッˈサンˈサー [kuˈnuˈ ki̥ˈkaiˈnu ˈʔasi̥kaimiʧeːˈ sˈsanˈsaː](この機械の扱い方は知らないよ)。ヤˈミプスˈバ　ヤˈナアシゥカイ　シェーˈナˈランˈダー [jaˈmipusuˈba jaˈnaʔasi̥kai ʃeːˈ naˈranˈdaː](病人を酷い扱い方 < 悪扱い > をしてはならないよ)。

ˈアシゥカイグリˈサン [ˈʔasi̥kaiguriˈsaŋ]【形】扱いにくい。扱いづらい。操作しにくい。動詞ˈアシカウン [ˈʔasi̥kauŋ](扱う) の連用形に形容詞グˈリˈサン [guˈriˈsaŋ](辛い) が下接して形成された派生形容詞。クˈヌˈ　ッˈふァーˈ　ピˈニッˈクリティ　ˈアシゥカイグリˈサン [kuˈnuˈ fˈfaːˈ piˈnikˈkuriti ˈʔasi̥kaiguriˈsaŋ](この子は捻くれていて扱いにくい)。

ˈアシゥカイヤッˈサン [ˈʔasi̥kaijasˈsaŋ]【形】扱いやすい。操作しやすい。動詞ˈアシゥカウン [ˈʔasi̥kauŋ](扱

う) の連用形に形容詞˹ヤッ˺サン [˹jas˺saŋ](易い) が下接して形成された派生形容詞。ク˹ヌ˺　キ˹カイ˺ヤー　˹アシゥカイヤッ˺サン [ku˹nu˺ ki̥˹kai˺ja: ˹ʔasi̥kaijas˺saŋ](この機械は扱いやすい < 操作しやすい >)。

˹アシゥカウン [˹ʔasï̥kauŋ] 【他動】 1扱う。操作する。あやつる。ク˹ヌ˺　キカイ　˹アシゥカイシェー˺　プ˹ソー　ブン˺カヤー [ku˹nu˺ ki̥kai ˹ʔasï̥kaiʃe:˺ pu̥˹so: buŋ˺kaja:](この機械を操作 < 扱う > できる人はいるかね)。カ˹リンデー˺カー　˹アシゥカウン˺　パジ˹ダー [ka˹rinde:˺ka: ˹ʔasï̥kaum˺ paʤi˹da:](彼なら操作できる < 扱う > はずだよ)。˹アシゥカイ˺　ミサカー　˹バン˺ヌン　˹アシゥカウ˺　クトー　ナルン˹ダー [˹ʔasi̥kai˺ misaka: ˹ban˺nuŋ ˹ʔasi̥kau˺ ku̥to: narun˹da:](操作してよければ私も操作することは出来るよ)。˺ドゥーシ　˹アシゥカイヤー˺　ミサムヌ [˺du:ʃi ˹ʔasi̥kaija:˺ misamunu](自分で操作すればいいのに)。˹ワー˺　ドゥーシ　˹アシゥカイ˺バ [˹wa:˺ du:ʃi ˹ʔasi̥kai˺ba](君自身で操作しなさいよ)。2あしざまに使う。酷使する。扱き使う。いじめる。「あつかう」の転訛したもの。˺ウカ　パ˹ライユーサ˺ン　˹ベー˺ティ　˹ウン˺ネナー　ウ˹カ˺ヌ　˺ミーティ　˹シー˺　スズー˹コ　アシゥカーレンㅏダー [˺ʔuka pa˹raiju:sa˺m ˹be:˺ti ˹ʔun˺nena: ʔu˹ka˺nu ˺mi:ti ˹ʃi:˺ suʣu:˹ko ʔasï̥ka:re:n꜔da:](借金を払えないので、その家で借金の形にひどく扱き使われたのだよ)。

˹アシゥカリ˺ムヌ [˹ʔasï̥kari˺munu] 【名】預かり物。頼まれて保管している物。˹アシゥカリ˺ムノー　˹バシキランドー˺シ　シゥカイ˹トゥ˺　トゥ˹ドゥキ˺リ˹ダー [˹ʔasï̥kari˺muno: ˹baʃi̥kirando:˺ʃi sï̥kai˹tu˺ tu ˹duki˺ri˹da:](預かり物は忘れずにしっかり届けなさいよ)。ウ˹キ˺ナーラヌ　˹アシゥカリ˺ムヌ　トゥ˹ドゥ˺キティ　˹クイ [ʔu˹ki˺na:ranu ˹ʔasï̥kari˺munu tu˹du˺kiti ˹kui](沖縄からの預かり物を届けて来ようね)。

˹アシゥ˺カルン [˹ʔasï̥˺karuŋ]【他動】預かる。˺バー　ウ˹キ˺ナーナ　˹ギーッティ˺　クンケン　ク˹リ˺　˹アシゥ˺カリ　ッ˹ふぃーラン˺カヤー [˺ba: ʔu˹ki˺na:na ˹gi:tti˺ kuŋkeŋ ku˹ri˺ ˹ʔasï̥˺kari f˹fi:raŋ˺kaja:](私が沖縄に行って来る間これを預かってくれないかねえ)。ク˹レー˺　バー　˹アシゥ˺カルン [ku˹re:˺ ba: ˹ʔasï̥˺karuŋ](これは私が預かる)。˹バン˺マー　˹アシゥカララ˺ヌ [˹bam˺ma: ˹ʔasi̥karara˺nu](私には預かれない)。˹アシゥ˺カル　˺クトー　˺ナルン [˹ʔasi̥˺karu ˺ku̥to: ˺naruŋ](預かることは出来る)。˹アシゥ˺カレー　˺ミサムヌ [˹ʔasi̥˺kare: ˺misamunu](預かれば良いのに)。ヤー˹ディン　アシゥ˺カリ [ja:˹diŋ ʔasi̥˺kari](必ず預かれ)。

ア˹シ˺ウトゥ [ʔa˹ʃi˺utu] 【名】足音。˺カマーラ　ア˹シウトゥ˺ヌ　シゥ˹カリ　ブーヌ　タール˺　クーカヤー [˺kama:ra ʔa˹ʃiutu˺nu si̥˹karibu:nu ta:ru˺ ku:kaja:](あそこから足音が聞こえているが誰がくるのかなあ)。

˺アシェー [˺ʔaʃe:] 【感】怒って、「否」と答える際にいうことば。相手を罵倒したり、答えるに値しないもの意をこめて「否」と発することば。˹ワー˺　アツァー　シ˹グトゥ　スン [˹wa:˺ ʔatsa: ʃi˹gutu suŋ](君は明日仕事をするか) の問いに対して、˺アシェーヒャー　シ˹グトゥナー˺トー　˹スンㅏトゥー [˺ʔaʃe:ça: ʃi˹gutuna:˺to: ˹sun꜔tu:](嫌だ。とんでもない < アシェー >。仕事なんかするものか)。

˺アシェーヒャー [˺ʔaʃe:ça:] 【感】くそ野郎、とんでもない。アシェー [ʔaʃe:](野郎、嫌だ) を強めて言うことば。˺アセーヒャー　˺ワンザン˹ナー˺トッ˹ふぃールンㅏトゥー [˺ʔaʃe:ça: ˺wanʣan ˹na:˺to f˹fi:run꜔tu:](とんでもないことだ。お前になどくれてやるものか)。

ア˹ジェー˺ン [ʔa˹ʤe:˺ŋ] 【他動】 < 今 > 言った。既に言ってある。˺バー　ア˹ジェーンㅏダー [˺ba: ʔa˹ʤe:n꜔da:](私は < 今 > 言ったよ)。˹バン˺ヌン　キサー˹ティ˺　ア˹ジェーンㅏダー [˹ban˺nuŋ ki̥sa:˹ti˺ ʔa˹ʤe:n꜔da:](私も既に言ってあるよ)。˹ワーヤ˺　マ˹ダ˺　ア˹ジェー　ナー˺ヌ [˹wa:ja˺ ma˹da˺ ʔa˹ʤe: na:˺nu](君は、まだ言ってない)。˹バー˺ル　シ˹ダキ˺　ア˹ジェー˺　クトー　˹バスクナㅏヨー [˹ba:˺ru ʃi˹daki˺ ʔa˹ʤe:˺ ku̥to: ˹basu̥kuna꜔jo:](私が < 他人より > 先に言ったことは忘れるなよ)。ア˹ジェー˺タンティン [ʔa˹ʤe:˺tantiŋ](言ってあったとしても)。ア˹ジェー˺カー [ʔa˹ʤe:˺ka:](言った < 言ってある > なら)。ア˹ジェー˺バ [ʔa˹ʤe:˺ba](言った < 言ってある > ので)。

˺アシカカー [˺ʔaʃikaka:]【名】あせかき (汗掻き)。多汗症。ウ˹レー　サッ˺コー　˺アシカカー　ヤ˹ルンダ˺　ス˹バ˺ナー　ブ˹ララヌ [ʔu˹re: sak˺ko: ˺ʔaʃikaka: ja˹runda˺ su˹ba˺na: bu˹raranu](あれ < 彼 > は非常に汗かきだから、側に居れない)。ア˹シパリ˺ムヌ [ʔa˹ʃipari˺munu](汗かき) と同じ。ウ˹レー˺　アシカカー　ヤ˹ルンダ˺　サジェー　ク˹シ˺ナ　˹クシキトゥーシル　ブー [ʔu˹re:˺ ʔaʃikḁka: ja˹runda˺ saʤe: ku̥˹ʃi˺na ˹kuʃi̥kitu:ʃiru bu:](彼 < その人 > は汗かき

だから、いつも手拭を腰にさしている)。

アˈシ˥カザ [ʔaˈʃi˥kadʑa] 【名】汗のにおい (臭い)。バˈカー˥ムヌヌ　アˈシ˥カザー　ッˈサー˥ヌ　ンˈカーラヌ [baˈkaː˥mununu ʔaˈʃi˥kadʑa: sˈsaː˥nu ʔŋˈkaːranu](若者の汗の臭いは臭くて堪らない < とても向き合えない >)。

˥アジガナシ [ʔadʑiganaʃi] 【名】国王様。首里の王様。アジ [ʔadʑi] は「按司」と表記されている。ガナシ [ganaʃi] は接尾辞。文献資料では「加那志」と表記されているが、古辞書では「国王　倭王嗑吶尸 < カナシ >」『音韻字海』(周鐘等、1572) とある。ウˈキ˥ナーナール　アジガˈナ˥シェーマイヤ　ˈオーッ˥タ [ʔuˈki˥naːnaːru ʔadʑigaˈna˥ʃeːmaija ˈʔoːt˥ta](沖縄に < が > 国王様はいらっしゃった)。

アˈシカラー˥ン [ʔaˈʃikaraː˥ŋ] 【形】足が軽い。足どりが軽い。軽快な足どりである。嬉しいとき、楽しいときの足どりを表す。ˈアー˥ネーヤ　パˈリングリ˥サヌンドゥ　ˈイー˥ネーネーヤ　アˈシカラ˥サパˈラ˥リンˈダー [ˈʔaː˥neːja paˈriŋguri˥sanundu ˈʔiː˥neːneːja ʔaˈʃikara˥sa paˈra˥rinˈdaː](東隣の家には行きずらいが、西隣の家には足どりも軽く、気楽に行ける < 行きやすい > よ)。

アˈジキシ˥ムニ [ʔaˈʑikiʃi˥muni] 【名】味も素っ気もない言葉。趣きや潤いのない、理詰めで話す言葉。ˈワーン˥　カタチニ　アˈジキシ˥ムニ　カーˈニ˥　アˈズ˥カー　ターˈン˥　スˈク˥　プˈソー˥　ブˈラーヌ [ˈwaːŋ˥ kạtatʃini ʔaˈʑikiʃi˥muni kaːˈni˥ ʔaˈdʑu˥kaː taːˈn˥ sụˈku˥ pụˈsoː˥ buˈraːnu](君のように味も素っ気もない話だけ言っていたら誰も聞く人はいない)。

ˈアシキ˥ルン [ˈʔaʃi̥ki˥ruŋ] 【他動】預ける。荷物を預ける。金品を保管させる。˥シトー　ˈシン˥ドゥーン　ˈアシキル˥バ　トゥリバˈヨー [ˈʃi̥to: ˈʃin˥duːŋ ˈʔaʃi̥kiru˥ba turibaˈjoː](お土産 < 苞 > は船長に預けるから受け取りなさいね)。クˈトゥケン˥マー　ˈシン˥ドゥーン　ˈアシキルン˥ドゥ　ˈクン˥ドー　ˈアシキラン˥シェン [kụˈtukem˥maː ˈʃin˥duːŋ ˈʔaʃi̥kirun˥du ˈkun˥doː ˈʔaʃi̥kiraŋ˥ʃeŋ](いつもは < 別の時は > 船長に預けるが、今度は預けなかった)。ˈアシ˥キ˥シケー [ˈʔaʃi̥˥ki ˥ʃi̥keː](預けてある)。ˈアシキ˥ル˥クトゥ [ˈʔaʃi̥ki˥ru ˥kụtu](預けること)。ˈアシキ˥レー　˥ミサムヌ [ˈʔaʃi̥ki˥reː ˥misamunu](預ければ良いのに)。ˈアシキ˥リ [ˈʔaʃi̥ki˥ri](預けろ)。ˈウンパン˥シンナー　ニˈム˥チ　ˈアシキ˥ルンティ　ˈクー˥タ [ˈʔumpaŋ˥ʃinnaː niˈmu˥tʃi ˈʔaʃi̥ki˥runti ˈkuː˥ta](運搬船に荷物を預けようとして来た)。ˈキュー˥ヤ　ˈアシキラ˥ヌ [ˈkjuː˥ja ˈʔaʃi̥kira˥nu](今日は預けない)。ˈアシ˥キ　˥ミサカー　ˈアシキ˥ル　˥クトー　˥ナルン [ˈʔaʃi̥˥ki ˥misakaː ˈʔaʃi̥ki˥ru ˥kụto: ˥naruŋ](預けてよければ預けることは出来る)。ˈシン˥ドゥーン　ˈアシキ˥レー　˥ミサムヌ [ˈʃin˥duːŋ ˈʔaʃi̥ki˥reː ˥misamunu](船長に預ければいいのに)。ヤーˈディン　アシキ˥リˈダー [jaːˈdiŋ ʔaʃi̥ki˥riˈdaː](必ず預けなさいよ)。

アˈシ˥クシ [ʔaˈʃi˥kụʃi] 【名】足腰。ˈウイ˥プソー　アˈシ˥クシェーラル　ˈヨー˥ルティ　アˈザリブー [ˈʔui˥pụso: ʔaˈʃi˥kụʃeːraru ˈjoː˥ruti ʔaˈdʑaribuː](老人は足腰から < ぞ > 弱るといわれている)。

アˈシクバー˥ン [ʔaˈʃikubaː˥ŋ] 【形】歩くのが下手である。歩くのが頼りない。「足強し」の義。ナˈガヤン　スー˥カー　アˈシクバー˥　ナルンティˈダー [naˈgajan suː˥kaː ʔaˈʃikubaː˥ narntiˈdaː](長患いすると足どりが怪しくなる < 歩くのが頼りなくなる > そうだよ)。

アˈジシゥカスン [ʔaˈʑisi̥kasuŋ] 【他動】言い聞かせる。理由を話して教え諭す。˥バーラ　シカイˈトゥ˥　アˈジシゥカスン。ワー˥　アˈジシゥカサンダル˥　ウˈレー˥　ワˈカラ˥ヌ [˥baːra si̥kaiˈtu˥ ʔaˈʑisi̥kasuŋ。waː˥ ʔaˈʑisi̥kasandaru˥ ʔuˈreː˥ waˈkara˥nu](私からしかと言い聞かせる < 話して教え諭す >。君が言い聞かさない < 教え諭さない > から、彼は分らないのだ)。アˈジシゥカシ˥　ミサカー　アˈジシゥカス˥　クトー　ナルンˈダー [ʔaˈʑisi̥kaʃi˥ misakaː ʔaˈʑisi̥kasu˥ kụto: narunˈdaː](言い聞かせて < 教え諭して > 良ければ、言い聞かせる < 教え諭す > ことは出来るよ)。アˈジシゥカシェー˥　ミサムヌ [ʔaˈʑisi̥kaʃeː˥ misamunu](言い聞かせれば良いのに)。ヤーˈディン˥　アˈジシゥカシ [jaːˈdiŋ˥ ʔaˈʑisi̥kaʃi](必ず言い聞かせ < 教え諭せ >)。

アˈジ˥シキ [ʔaˈʑi˥ʃi̥ki] 【名】味付け。調味。アˈジシキ˥ヌ　ˈゾー˥ジ　ヤˈルンダ˥　ウˈリヌ˥　バˈカス˥　スー　˥ヌムカー　ビˈチ˥ヌ　ˈスー˥ヤ　ヌˈマラ˥ヌ [ʔaˈʑiʃi̥ki˥nu ˈdʑoː˥ʑi jaˈrunda˥ ʔuˈrinu˥ baˈkasu˥ suː ˥numuka: biˈtʃi˥nu ˈsuː˥ja nuˈmara˥nu](味付けが上手だからその人が炊くお汁を飲んだら別のお汁は飲めない)。

アˈジシキ˥ムヌ [ʔaˈʑiʃiki˥munu] 【名】調味料。塩、味噌、醤油、酢など。「味付け物」の義。アˈジシキ˥ムノー　キˈササン˥ヨーシ　スˈロー˥シ　シˈキ˥リ [aˈʑiʃiki˥muno: kị̈ˈsasaŋ˥joːʃi suˈroː˥ʃi ʃi̥ˈki˥ri](調味料は切らさないように、揃えておきなさいよ)。

アˈジˀ　シˈキˀルン [ʔaˈʤiˀ ʃi̥ˈkiˀruŋ] 【連】言っておく。話しておく。ˈワーˀ　クトー　ˀバーラ　カˈリンナーˀニ　アˈジˀ　シˈキˀルン [ˈwaːˀ kṵtoː ˀbaːra kaˈrinnaːˀni ʔaˈʤiˀ ʃi̥ˈkiˀruŋ](君のことは私からあの人＜彼＞に言っておく)。

ˀアシジブン [ˀʔaʃiʤibuŋ] 【名】昼食の時分。昼食の頃合。ˀアシジブン　ナˈリˀブーバ　ˈパーˀク　ˀアシスコール　ˈシーˀバ [ˀʔaʃiʤibun naˈriˀbuːba ˈpaːˀku ˀʔaʃisṵkoːru ˈʃiːˀba](昼食の頃合になっているので、早く昼食の準備をしなさいよ)。

ˀアシ　スˈクン [ˀʔaʃi sṵˈku] 【連】背が海中に届く。ˀクマー　ˈスーˀヌ　ˀピスカー　アシ　スˈクン [ˀkumaː ˈsuːˀnu ˀpi̥sukaː ʔaʃi sṵkuŋ](此処は潮が引いたら背が届く)。

アˈジスクン [ʔaˈʤisṵkuŋ] 【連】1味がよく効く。クˈヌ　スーˀヤ　ˈマーˀス　イˈルˀカー　アˈジスクン [kuˈnu suːˀja ˈmaːˀsu ʔiˈruˀkaː ʔaˈʤisukuŋ](このお汁は塩を入れると味が効く)。2薬が効く。効能がある。効き目がある。効果がある。ˈワーˀ　アˈゾーッˀタ　ムˈニヌˀドゥ　イッˈケナˀ　アˈジˀシキ　ブˈレートツォー　ˈウンダーˀ　メー　サˈケーˀ　ヌˈマンˀバン [ˈwaːˀ ʔaˈʤoːtˀta muˈninuˀdu ʔikˈkenaˀ ʔaˈʤiˀʃi̥ki buˈreːɦtsoː ˈʔundaːˀ meː sṵˈkeːˀ nuˈmamˀbaŋ](あなたの言われた言葉がたいそう効き目があったのでしょう。あれからはもう酒は飲まないよ＜飲まないわい＞)。

アˈジ　スン [ʔaˈʤi suŋ] 【連】味わう。味を見る。味見する。「味をする」の義。ˀバー　ˈスーˀヤ　サˈクラー　ナーンˀユー　アˈジ　シーˀ　ミリˈミー [ˀbaː ˈsuːˀja sṵˈkuraː naːɲˀjuː ʔaˈʤi ʃiːˀ miriˈmiː](私のお汁は塩っぱくないか、味見してみてくれ＜みてみれ＞)。

アˈシˀダイ [ʔaˈʃiˀdai] 【名】足の力。ˀトゥシ　トゥˈルˀター　アˈシダイˀヌ　ˈナーントツォー　シˈグˀ　クˈルビス [ˀtṵʃi tuˈruˀtaː ʔaˈʃidaiˀnu ˈnaːnɦtsoː ʃiˈguˀ kuˈrubisu](年を取ったので足の力がないんだよ。すぐ転ぶよ)。

アˈシˀダヤー [ʔaˈʃiˀdajaː] 【名】1足の力。「脚力」の義。ˀダヤー [ˀdajaː] は、ˀタイ [ˀtai](体力。持ち堪える力) がˀアシ [ˀʔaʃi](足) に下接して複合語を形成する際に、その頭子音が濁音化したもので、それに、更に接尾語ˀヤー [ˀjaː](～する者) が下接したもの。ˀタイ [ˀtai] の語源は、「～戀に不勝而＜タヘズテ＞～。万、738」の転訛したものか。ˀトゥシ　トゥˈルˀター　アˈシダヤˀヌ　ˈナーˀヌ [ˀtṵʃi tuˈruˀtaː ʔaˈʃidajaˀnu ˈnaːˀnu](年を取ったので足の力がない)。2足の力の衰えた者。ˀヤミティ　アˈシˀダヤー　ˀナリティル　ˈサッˀコー　クˈルブˀツォー [ˀjamiti ʔaˈʃiˀdajaː ˀnaritiru ˈsakˀkoː kuˈrubuˀtsoː](病気して足の力が衰えた者になって＜ぞ＞よく転ぶんですよ)。

アシˈタンティン [ʔaʃi̥ˈtaintiŋ] 【接】それでも。そうしても。ˀアイ　シˈタンティン [ˀʔai ʃi̥ˈtantiŋ](そうしても) の縮約形。ˈワーˀ　ウˈヌˀ　プˈスヌ　フーˀコー　マˈナマーˀキ　ˈシーˀケーンダ　ˀウビシミˈサˀルヨ。アシˈタンティンˀ　バー　ウˈヌˀ　プˈスヌ　ブンˀゲー　ˈカイシユーサˀヌ [ˈwaːˀ ʔuˈnuˀ pṵˈsunu ɸuːˀkoː maˈnamaːˀki ˈʃiːˀkeːnda ˀʔubiʃi miˈsaˀrujoː。ʔaʃi̥ˈtantimˀ baː ʔuˈnuˀ pṵˈsunu buŋˀgeː ˈkaiʃijuːsaˀnu](君はその人への奉公は今までしてきたのだから、それで十分だ＜いい＞よ。それでも私はその人の恩義は返すことが出来ない)。

アˈシˀツァ [ʔaˈʃiˀtsa] 【名】下駄。「屐、アシダ」『類聚名義抄』の転訛したもの。「みやしぢや」『混効験集』。アˈシツァˀヌ　パˈナブーヌˀ　キシ　ˈナーˀヌ [ʔaˈʃitsaˀnu paˈnabuːnuˀ ki̥ʃi ˈnaːˀnu](下駄の鼻緒が切れてしまった)。ムˈカˀシェー　ˀソンガチアシツァン　アˈサンˀグルキーバ　ˀキシキー　ˀドゥーシル　スˈクˀローッタ [muˈkaˀʃeː ˀsoŋgatʃiʔaʃitsŋ ʔaˈsaŋˀguruki:ba ˀki̥ʃikiː ˀduːʃiru sṵˈkuˀroːtta](昔は正月下駄もアサングル木を切ってきて自分で作られて)。

アˈジッカーˀルン [ʔaˈʤikkaːˀruŋ] 【自動】交差する。からまる。ˈサウˀバ　ˀアイニ　ˀタティ　シˈキˀルカー　アˈジッカーˀリティ　シˈグトゥˀ　サˈラヌ [ˈsauˀba ˀʔaini ˀtạti ʃi̥ˈkiˀruka: ʔaˈʤikkaːˀriti ʃiˈgutuˀ saˈranu](棹をあのように立てておくと絡まって仕事が出来ない)。

アˈシッサーˀン [ʔaˈʃissaːˀŋ] 【形】汗臭い。ˈワー　キンˀマー　アˈシッサーˀヌ　キˈサラヌ [ˈwa: kimˀma: ʔaˈʃissaːˀnu ki̥ˈsaranu](君の着物は汗臭くて着られない)。アˈシッサー　ナーˀヌ [ʔaˈʃissa: naːˀnu](汗臭くない)。アˈシッサーˀ　クトー　アˈシッサーˀンドゥ　アˈライヤッˀサン [ʔaˈʃissaːˀ kṵtoː ʔaˈʃissaːˀndu ʔaˈraijasˀsaŋ](汗臭いことは汗臭いが、洗いやすい)。

アˈシッスˀル [ʔaˈʃissuˀru] 【名】汗拭き。手ぬぐい。クˈリˀシ　アˈシッスˀル　ˈシーˀバ [kuˈriˀʃi ʔaˈʃissuˀru ˈʃiːˀba](これで汗拭きにしなさいよ)。ッˈスル [sˈsuru] は、「こする」の転訛したものか。[kosuru]

→ [kusuru] → [fusuru] → [ssuru] のように逆行同化したもの。

アシ˞ティ [ʔaʃi̥˞ti] 【接】そして。˞アイ　シ˞ティ [˞ʔai ʃi̥˞ti](そうして。そうやって) の約言。アシ˞ティ　ウンダ　ヌー˞シ　˞ナッ˞ター [ʔaʃi̥˞ti ʔunda nuː˞ʃi ˞nat˞taː](そして、それからどうなったのか)。˞キュー˞ヤ　シ˞グトー˞　メー　ウ˞ワーリ　ユー˞クイ　アシ˞ティ˞　アツァー　シ˞トゥム˞ティ　˞パイ˞サ　˞クーバ [˞kjuː˞ja ʃi˞guto:˞ me: ʔu˞waːri juː˞kui ʔaʃi̥˞ti˞ ʔatsa: ʃi̥˞tumu˞ti ˞pai˞sa ˞kuːba](今日は仕事は終わりだ。休め。そして明日は朝早く来いよ)。アシ˞ティル　ユンマー˞レーティ　˞アーク˞バン˞ナー [ʔaʃi̥˞tiru jummaː˞reːti ˞ʔaːku˞ban˞naː](それで断っているんだねえ＜断ってあるくのだねえ＞)。

˞アシ˞トゥ [˞ʔaʃi˞tu] 【名】あさって。明後日。˞アシ˞トー　˞バン˞テヌ　˞ヤースクリ˞　バコー　˞テー˞ナイ　˞シー　フォーララン˞カヤー [˞ʔaʃi̥˞to: ˞ban˞tenu ˞jaːsu̥kuri˞ bako: ˞teː˞nai ˞ʃiː ffoːraraŋ˞kajaː](あさっては私の家の家造り共同作業の手伝いをしていただけませんか＜下さいませんか＞)。˞アシトゥ˞ヌ　˞ユネン [˞ʔaʃi̥tu˞nu ˞juneŋ](あさっての晩)。˞アシ˞トーラ [˞ʔaʃi̥˞toːra](あさってから)。

ア˞ジトゥースン [ʔa˞ʤituːsuŋ] 【他動】言い通す。どこまでも言い張る。最後まで言い続ける。˞バー　ユ˞ヌムニ˞バ　ア˞ジトゥースン˞　ア˞ジトゥーサン˞カー　ター˞ン˞　シ˞キ˞　ッ˞ふィーラヌ [˞baː ju ˞numuni˞ba ʔa˞ʤituːsuŋ˞ ʔa˞ʤituːsaŋ˞kaː taː˞n˞ ʃi̥˞ki˞ f˞fiːranu](私は同じ意見を最後まで言い続ける。言い続けないと誰も聞いてくれない)。ア˞ジトゥーシ˞　ミサカー　ア˞ジトゥース˞　クトー　˞ナルン [ʔa˞ʤituːʃi˞ misakaː ʔa˞ʤituːsu˞ ku̥to: ˞naruŋ](言い張って良ければ、言い張ることはできる)。ア˞ジトゥーシェー˞　ミサムヌ [ʔa˞ʤituːʃeː˞ misamunu](言い張れば良いのに)。ア˞ジトゥーシ [ʔa˞ʤituːʃi](言い張れ＜言い通せ＞)。

˞アシトゥ˞ヌ　˞ユー [˞ʔaʃitu˞nu ˞juː] 【連】あさっての夜。明後日の夜。˞アシトゥ˞ヌ　˞ユー˞ヤー　˞バン˞テナーティ　˞ユライ　ヌ˞カーシ˞ム　ヌ˞ソー˞ラ˞ナー [˞ʔaʃi̥tu˞nu ˞juː˞jaː ˞ban˞tenaːti ˞jurai nu˞kaːʃi˞munu ˞soː˞raː˞naː](あさっての夜＜晩＞は私の家に会合＜寄り合い＞をして、小金を出し合って料理を作って食べることをしましょうね)。

ア˞シ˞ドゥミ [ʔa˞ʃi˞dumi] 【名】足止め。禁足。ユ˞ルシ˞ヌ　ウ˞リ˞ルンケンマー　˞フネー　シ˞マー˞ラ　ン˞ジル˞ナティ　ア˞シ˞ドゥミ　シ˞ラリ　ベー˞ツォー [ju˞ruʃi˞nu ʔu˞ri˞ruŋkemmaː ˞ɸuneː ʃi˞maː˞ra ʔn˞ʤiru˞nati ʔa˞ʃi˞dumi ʃi˞rari beː˞tsoː](許可がおりるまで船は島から出るなと足止めされているそうだ)。

ア˞シ˞ヌ　パ˞ダマー˞ルン [ʔa˞ʃi˞nu pa˞damaː˞ruŋ] 【文】汗ばむ。しっとりと汗が出る。汗が全身に滲み出る。パ˞ダマー˞ルンは「肌まわる」の義。˞グンガ˞チシキ　˞ペール˞ター　˞ピントゥルピン˞　アツァナリ　ア˞シ˞ヌ　パ˞ダマー˞リ　˞キー˞スバン [˞guŋga˞ʧiʃi̥ki ˞peːru˞taː ˞pinturupiŋ˞ ʔatsanari ʔa˞ʃi˞nu pa˞damaː˞ri ˞kiː˞subaŋ](五月＜の月＞に入ったので日ごとに暑くなり、汗ばんで＜汗が肌に滲み出て＞来るわい)。

ア˞シ˞バ [ʔa˞ʃi˞ba] 【連】そうしなさいよ。˞アイ　˞シー˞バ [˞ʔai ˞ʃiː˞ba](そうしなさいよ) の縮まった形。ア˞スン [ʔa˞suŋ](そうする) 参照。˞ナルカー　ア˞シ˞バ [˞naruka: ʔa˞ʃi˞ba](出来たらそうしなさい)。

ア˞ジパジミルン [ʔa˞ʤipaʤimiruŋ] 【他動】言い始める。意見を言い始める。ア˞ジパジムン [ʔa˞ʤipaʤimuŋ] ともいう。˞ウッ˞ツァー　˞ドゥー˞ヌ　˞カンガイ˞バ　ア˞ジパジミルンティ˞　ウ˞ムータ˞ヌ　ア˞ザンシェン [˞ʔut˞tsa: ˞duː˞nu ˞kaŋgai˞ba ʔa˞ʤipaʤimirunti˞ ʔu˞muːta˞nu ʔa˞ʤaŋʃeŋ](彼らは自分の考えを言い始めると思ったが、言わなかった)。ア˞ジパジミ˞　ミサカー　ア˞ジパジミル˞　クトー　˞ナルン [ʔa˞ʤipaʤimi˞ misaka: ʔa˞ʤipaʤimiru˞ ku̥to: ˞naruŋ](言い始めて良ければ言い始めることはできる)。ア˞ジパジミレー˞　ミサムヌ [ʔa˞ʤipaʤimireː˞ misamunu](言い始めれば良いのに)。˞ワー˞ラ　ア˞ジパジミリ [˞waː˞ra ʔa˞ʤipaʤimiri](君から言い始めなさい)。

ア˞シパヤー˞ン [ʔa˞ʃipajaː˞ŋ] 【形】歩くのが早い。「足早い」の義。ア˞シフコー˞ン [ʔa˞ʃiɸu̥koːŋ](足が遅い) の対義語。マー˞ズン　ヤー˞ラ　ン˞ズタヌン˞ドゥ　バ˞カー˞ムノー　ア˞シパヤー˞ンダ　˞パイ˞サ　シ˞キブ˞タ [maː˞ʤuŋ jaː˞ra ʔn˞ʤutanun˞du ba˞kaː˞muno: ʔa˞ʃipajaː˞nda ˞pai˞sa ʃi̥˞ki˞buta](一緒に家から出たんだが、若者は歩くのが早いから、早くに着いていた)。

ア˞シパヤ˞ミ [ʔa˞ʃipaja˞mi] 【副】早足で。足を早めて。急いで。˞マー˞ビン　ア˞シパヤ˞ミ　ア˞ラ˞キバ [˞maː˞biŋ ʔa˞ʃipaja˞mi ʔa˞ra˞kiba](もっと早足で＜足を早めて＞歩きなさいよ)。

ア˞シパリ˞ムヌ [ʔa˞ʃipari˞munu] 【名】汗かき。よく汗をかく人。「汗走り者」の義。目下の者に対してい

う。ˈアシパラー [ˈʔaʃipara:](汗かき) ともいう。アˈシパリˈムヌ　ヤˈルンダˈ　ナˈツェーˈ　ンˈメーマ　ウークˈバン　シˈグˈ　アシ　パˈリˈス [ʔaˈʃipariˈmunu jaˈrundaˈ naˈʧeːˈ ʔmˈmeːma ʔuːkuˈbaŋ ʃiˈguˈ ʔaʃi paˈriˈsu](汗かきだから夏は少し動いてもすぐ汗をかく＜汗が流れる＞)。

ˈアシ　パルン [ˈʔaʃi paruŋ] 【連】汗が流れる。汗が出る。アˈラˈクカー　ˈアシ　ˈパルン [ʔaˈraˈkuka: ʔaʃiˈparuŋ](歩いたら汗が出る＜流れる＞)。ˈキッˈス　ˈシーˈ　パˈタラクタンティン　ˈアシェー　パˈラˈヌ [ˈkisˈsu ˈʃiːˈ pḁˈtarakutantiŋˈ ʔaʃe: paˈraˈnu](一所懸命に＜競争して＞働いても汗は出ない＜流れない＞)。

アˈシˈブ [ʔaˈʃiˈbu] 【名】おでき。できもの。腫れ物。「Axebo. アセボ (熱沸瘡・汗瘡) あせも、または、水疱」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。小さいのは、ナˈチアシブ [naˈʧiaʃibu](夏汗疹。夏皮膚にできる粟粒ほどの、赤色の小水疱性発疹で、小児に多くできる) という。アˈシˈブ　ˈアースン [ʔaˈʃiˈbu ˈʔaːsuŋ](できものを潰す)。ナˈチアシブヌ　アーリティ　ビーヨーˈヌ　ナˈラˈヌ [naˈʧiaʃibunu ʔaːritiˈ biːjoːˈnu naˈraˈnu](夏あせもが出て＜暴れて＞痒くてたまらない＜ならない＞)。

アˈジˈ　フˈクマˈスン [ʔaˈʤiˈ ɸu̥ˈkumaˈsuŋ] 【連】味を十分にしみ込ませる。ˈダイˈクネー　イˈズダシˈナー　ˈネーシティˈ　アˈジフクマˈシ [ˈdaiˈkuneː ʔiˈʤudaʃiˈnaː ˈneːʃi̥tiˈ ʔaˈʤiɸu̥kumaˈʃi](大根は魚出しで煮て、味を十分にしみ込ませなさい)。

アˈジˈ　フˈクˈムン [ʔaˈʤiˈ ɸu̥ˈkuˈmuŋ] 【連】味が十分にしみ込む。味を含む。クˈヌ　ダイˈクネー　イッˈケナˈ　アˈジ　フクˈミティ　ンˈマーントダー [kuˈnu daiˈkuneː ʔikˈkenaˈ ʔaˈʤiɸu̥kuˈmiti ʔmˈmaːnt̚daː](この大根は非常に味がしみ込んでいて美味しいよ)。

アˈシフコーˈン [ʔaˈʃiɸu̥koːˈŋ] 【形】足が遅い。歩く動作がのろい。ビˈキドゥムッタルムヌˈ　アˈシフコーˈヌ　ミˈドゥムˈヌ　ˈスコーンツァン　アˈラキユーサˈヌ [biˈkidumuttarumunuˈ ʔaˈʃiɸu̥koːˈnu miˈdumuˈnu ˈsu̥koːntsaŋ ʔaˈrakijuːsaˈnu](男のくせに＜男たるものが＞足が遅くて＜どうにもならない＞、女の程度にさえも歩けない)。

アˈシˈフン [ʔaˈʃiˈɸuŋ] 【名】地団駄。「足踏み」の義。激怒して足を踏み鳴らすこと。ウˈヌˈ　パˈナシˈバ　シˈキティˈ　アブジェー　ˈティスクンˈドゥル　ˈシーˈ　アˈシˈフン　ˈシー　クンˈゾー　ウˈクˈローッタ [ʔuˈnuˈ paˈnaʃiˈba ʃi̥ˈkitiˈ ʔabuʤeː ˈtisu̥kunˈduru ˈʃiːˈ aˈʃiˈɸuŋ ˈʃiː kunˈʤoː ʔuˈkuˈroːtta](その話を聞いておじいさんは拳を叩き、地団駄踏んで激怒された)。

アˈシフンピサˈフン [ʔaˈʃiɸumpisaˈɸuŋ] 【名】足を踏み鳴らして激怒するさま。地団駄踏むこと。重言。ˈアブジェー　アˈシフンピサˈフン　ˈシェーティˈル　イˈゾーッˈタ [ˈʔabuʤeː ʔaˈʃiɸumpisaˈɸun ˈʃeːtiˈru ʔiˈʤoːtˈta](おじいさんは足を踏み鳴らしながら激怒して叱られた)。

アˈジˈマー [ʔaˈʤiˈmaː] 【名】 1桟を十文字に交差させたもの。豆腐や餅を作るための大豆や糯米を挽く際、桶の上に石臼を載せるのに用いる道具。縦横約 5 センチ、長さ約 50 センチ (桶の直径に合わせた長さ) の桟を、その中央の切込みに填め込んで交叉させて用いる道具。ˈウーˈキナ　アˈジˈマー　ˈシキティ　イˈソーシバˈ　ビˈシティˈ　クー　ピˈキˈバ [ˈʔuːˈkina ʔaˈʤiˈmaː ˈʃi̥kiti ʔiˈsoːʃibaˈ biˈʃitiˈ kuː pi̥ˈkiˈba](桶にアジマーを置いて石臼を据えて餅粉を挽きなさいよ)。2交差点。十字路。ミˈチˈヌ　アˈジˈマー [miˈʧiˈnu ʔaˈʤiˈmaː](十字路。道の交差点)。

アˈジマーˈン [ʔaˈʤimaːˈŋ] 【形】甘い。「味甘＜うま＞し」の義。アˈジマーˈムヌ [ʔaˈʤimaːˈmunu](甘いもの)。アˈガシンザーˈラ　クˈヌ　タイケイシューˈル　アˈジマー [ʔaˈgaʃinʤaːˈra kuˈnu taikeiʃuːˈru ʔaˈʤimaː](赤い甘蔗よりも、このタイケイ種の甘蔗が甘い)。アˈジマーナーˈヌ [ʔaˈʤimaːnaːˈnu](甘くない)。ˈドゥク　アˈジマーˈヌ　ッˈふァーラヌ [ˈduku ʔaˈʤimaːˈnu fˈfaːranu](あまりにも甘くて食べられない)。ˈシンダイˈ　アˈジマーˈ　ナルン [ˈʃindaiˈ ʔaˈʤimaːˈ naruŋ](次第に甘くなる)。アˈジマーˈ　ムノー　ノーˈン　ナーˈヌ [ʔaˈʤimaːˈ munoː noːˈn naːˈnu](甘いものは何もない)。ˈシンˈザー　アˈジマーˈン [ˈʃinˈʤa: ʔaˈʤimaːˈŋ](砂糖きびは甘い)。ˈナンˈゾー　アˈジマーナーˈヌ [ˈnanˈʤoː ʔaˈʤimaːnaːˈnu](あまり甘くない)。クˈヌ　シンˈザー　アˈジマーˈン [kuˈnu sinˈʤaː ʔaˈʤimaːˈŋ](この砂糖きびは甘い＜味甘し＞)。フˈチンˈパージルナ　ッˈふˈサタイルカー　アˈジマーˈ　ナリクンダ　ヌˈミヤッˈサ　ˈナルン [ɸuˈʧimˈpaːʤiruna fˈfuˈsata ʔiˈruˈkaː ʔaˈʤimaːˈ narikunda nuˈmijasˈsa ˈnaruŋ](蓬汁＜風邪薬＞に黒砂糖を入れると甘くなってくるので飲みやすくなる)。

アˈジマˈキ [ʔaˈʤimaˈki] 【名】たすき (襷)。着物の

袖をたくし上げるために肩から脇にかけて結ぶひも。スˈディンˈガラ [suˈdiŋˈgara](襷。袖からげ) ともいう。ˈキサー　ミˈドゥムンケーˈヤ　アˈジマˈキ　ˈシェーˈティル　ˈマイヤーˈ　ッˈサウˈタ [ˈkiʲsa: miˈdumuŋkeːˈja ʔaˈʤimaˈki ˈʃeːˈtiru ˈmaijaːˈ sˈsauˈta](以前は、女性たちは襷(タスキ)をかけて稲搗きをした＜米を精げた＞)。アˈジマˈキ　シˈティ　キンˈヌ　スˈディˈ　カライバ [ʔaˈʤimaˈki ʃiʲˈti kinˈnu suˈdiˈ karaiba](襷(タスキ)をかけて着物の袖をたくしあげなさい)。

アˈジミー [ʔaˈʤimiː] 【名】味見。味の加減をすること。クˈヌ　スーˈヤ　サˈクラーˈルユー　アˈジミー　シートミー [kuˈnu suːˈja saˈkuraːˈruju: ʔaˈʤimi: ʃiːɾmiː](このお汁は塩辛いのか、味見をしてごらんよ)。

アˈシˈミジ [ʔaˈʃiˈmiʤi] 【名】汗。汗水。アˈシˈミジ　パˈラˈシ　パˈタラキバル　マイフナーヤˈ　マˈリル [ʔaˈʃiˈmiʤi paˈraˈʃi paˈtarakibaru maiɸunaːjaˈmaˈriru](汗水を流して働いてこそ＜働けばぞ＞立派な人間になれる＜立派な人間は生まれる＞のだ)。アˈシˈミジ　パˈラˈシ　パˈタラキル　ジンˈカネー　ˈモーキˈル [ʔaˈʃiˈmiʤi paˈraˈʃi paˈtarakiru ʤiŋˈkane: ˈmo:kiˈru](汗水を流して働いて＜ぞ＞金は儲けるものだ)。

アˈシムˈトゥ [ʔaˈʃimuˈtu] 【名】足元。立っている足の下。身の回り。標準語から新しく借用された語。ˈドゥーˈヌ　アˈシムˈトーラ　カˈタミティルˈ　プˈスンˈヤン　プˈスンˈ　タˈナマˈリˈダー [ˈduːˈnu ʔaˈʃimuˈtoːra kaˈtamitiruˈ puˈsuŋˈjam puˈsunˈ taˈnamaˈriˈdaː](足元を固めてから＜ぞ＞余所の家の人にも頼まれるものだぞ)。

アˈシユーˈチムヌ [ʔaˈʃijuːˈʧimunu] 【名】四つ足動物。「足四つもの」の義。牛、馬、豚、山羊などの動物。猪などの獣害を防ぐ呪文などで、直接に獣の名を言わずに間接的に表現するときに「アシユチャ」といって用いられる。アˈシユーˈチムヌヌ　ˈシーˈシェー　ˈカンニンˈガイナー　シゥˈカイヨーランˈセン [ʔaˈʃijuːˈʧimununu ˈʃiːˈʃeː ˈkanniŋˈgainaː siʲˈkaijoːraŋˈʃeŋ](四つ足動物の肉は神事祭祀＜神祈願の祭り＞には使われなかった)。

アˈジˈルン [ʔaˈʤiˈruŋ] 【他動】十字に交差させる。交差する。絡まる。ˈサンガマˈチェー　クˈマンˈトンナ　アジティ　ˈフンˈ　ウティシキ [ˈsaŋgamaˈʧeː kuˈmanˈtonna ʔadʒiti ˈɸuŋˈ ʔutiʃiʲki](桟はここのところで十字に交差させて釘を打ち付けておきなさい)。ˈイトー　ˈヌーˈル　ッˈふァーサンˈカー　アˈジˈルンダ　アˈジラサンˈ　タˈミˈシル　ˈヌーˈロー　ッˈふァースˈダー [ˈʔitoː ˈnuːˈru fˈfaːsaŋˈkaː ʔaˈʤiˈrunda ʔaˈʤirasanˈ taˈmiˈʃiru ˈnuːˈroː fˈfaːsuˈdaː](糸は糊付けしないと交叉して絡まるから、からまさないために糊付けをするのだよ)。

アˈジンˈカシン　ˈナーˈヌ [ʔaˈʤiŋˈkaʃin ˈnaːˈnu] 【連】味も素っ気もない。アˈジンˈカシン　ˈナーンˈ　ムニカーˈニˈ　イˈズナ [ʔaˈʤiŋˈkaʃin ˈnaːmˈ munikaːˈniˈ ʔiˈʤuna](意味のない言葉＜味も素っ気もない言葉＞だけ言うな)。

アˈジングリˈサン [ʔaˈʤiŋguriˈsaŋ] 【形】意見を言いにくい。言いづらい。忠告しづらい。言うことが困難である。若年層は、アˈジグリˈサン [ʔaˈʤiguriˈsaŋ](言いづらい) ともいう。シˈザンˈナーネー　アˈジングリˈサンドゥ　アˈジングリˈサ　ˈナーンˈ　プˈスン　オーˈルン [ʃiˈʤanˈnaːne: ʔaˈʤiŋguriˈsandu ʔaˈʤiŋguriˈsa ˈnaːmˈ puˈsuŋ ʔoːˈruŋ](年上の人には意見を言いにくいが、言いにくくない人もおられる)。アˈジングリˈサ　ナリˈナーˈヌ [ʔaˈʤiŋguriˈsa nariˈnaːˈnu](言いづらくなってしまった)。アˈジングリˈサ　ˈクトー　ˈナーˈヌ [ʔaˈʤiŋguriˈsa ˈkuto: ˈnaːˈnu](言いづらいことはない)。

アˈスˈカー [ʔaˈsuˈkaː] 【接】そしたら。すると。それなら。ぞんざいな表現。前件と後件を繋ぐ接続詞。アˈスˈカー　ˈヌーˈ　スワ　ˈメー [ʔaˈsuˈkaː ˈnuːˈsuwa ˈmeː](そしたら如何しようか、もう)。

アˈスˈカー [ʔaˈsuˈkaː] 【接】そうしたら。そうすると (順接)。ˈアイ　ˈスーˈカー [ˈʔai ˈsuːˈkaː](そうしたら) の縮約形。ˈワーˈ　ヤーˈディンˈ　パˈリˈスˈーˈ　アˈスˈカー　ˈタンˈガ　ヌˈカˈル　ˈウヤー　ˈヌーˈスワ [ˈwaːˈ jaːˈdimˈ paˈriˈsuˈːˈ ʔaˈsuˈkaː ˈtaŋˈga nuˈkaˈru ˈʔujaː ˈnuːˈsuwa](君はどうしても＜必ず＞行くのか? そうしたら一人残される親はどうするのか)。ˈワーˈ　パˈラˈヌˈーˈ　アˈスˈカー　ˈヌーˈスワメー [ˈwaːˈ paˈraˈnuˈːˈ ʔaˈsuˈkaː ˈnuːˈsuwameː](君は行かないの? そしたら、如何しようか)。

アˈズˈカー [ʔaˈʤuˈkaː] 【副】いわば (言わば)。言うならば。例えば。アˈズン [ʔaˈʤuŋ](言う) の連体形に仮定の接続助詞ˈ-カー [ˈ-kaː](～たら。～なら) の付いた形。アˈズˈカー　ˈメー　チョーンˈドゥ　バンˈター　ウヤˈゲˈラ [ʔaˈʤuˈkaː ˈmeː ʧoːnˈdu banˈtaː ʔujaˈgeˈra](いわば＜例えば＞、もう、丁度＜正に＞僕たちの親だよ＜親さ＞)。アˈズˈカー　ˈワートゥ　バンˈトー　マˈタイチフˈ　ナルシジ [ʔaˈʤu

ˈkaː ˈwaːtu banˈtoː maˈtaitʃiɸuˈ naruʃiʤi](言わば君と私とは又従兄弟にあたる＜又従兄弟になる＞訳だ。ˈゲンソンˈティ　スˈワーˈ　アˈズˈカー　メー　パˈトゥˈマムニシェー　ピˈチマー　ゲˈラ [ˈgensonˈti suˈwaːˈ ʔaˈʤuˈkaː meː paˈtuˈmamuniʃeː piˈʧimaː geˈra](玄孫というのは言わば、もう鳩間方言ではピˈチマーさ＜だよ＞)。

アˈズˈ　クトゥ [ʔaˈʤuˈ ku̥tu] 【連】言うこと。ウˈリヌˈ　アˈズˈ　クトー　ˈフンˈトー　ヤˈルˈユー　ˈタシカミランˈカー　ナˈラˈヌ [ʔuˈrinuˈ ʔaˈʤuˈ ku̥toː ˈɸunˈtoː jaˈruˈjuː ˈtaʃi̥kamiraŋˈkaː naˈraˈnu](彼の言うことは本当なのか、確かめないといけない)。

ˈアスˈクン [ˈʔasu̥ˈkuŋ] 【他動】預ける。「あづく (預く) 下二段」の四段化したもの。「Azzuqe,uru,eta. アヅケ, クル, ケタ (預け, くる, けた) 保管を人に委託する」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˈシトゥ　ˈアスˈクンティ　ウˈムーンˈドゥ　ˈアシゥカランˈティ　ˈスンダ　アシキˈプサタンティン　ˈアスˈク　ˈクトゥン　ナˈラˈヌ [ˈʃi̥tu ˈʔasu̥ˈkunti ʔuˈmuːnˈdu ˈʔasi̥karanˈti ˈsunda ʔaʃi̥kiˈ pu̥satantiŋ ˈʔasu̥ˈkuˈku̥tun naˈraˈnu](お土産＜苞＞を預けようと思うが、預からないといういうから、預けたくても預けることも出来ない)。クˈレーˈ　プˈスンナーˈニ　ˈアスクˈナ　ˈドゥーシ　ˈムティ　ˈパリ [kuˈreːˈ pu̥ˈsunnaːˈni ˈʔasu̥kuˈna ˈduːʃi ˈmuti ˈpari](これは他人に預けるな。自分で持って行け)。ˈアスˈクンティ　ウˈムーンˈドゥ　ˈアシゥカランˈツォー [ˈʔasu̥ˈkunti ʔuˈmuːnˈdu ˈʔasi̥karanˈtsoː](預けようと思うが、預からないそうだ)。ˈアシˈキ　ˈミサカー　ˈアスˈ　ククトー　ˈナルン [ˈʔaʃi̥ˈki ˈmisakaː ˈʔasu̥ˈkuˈku̥toː ˈnaruŋ](預けてよければ、預けることは出来る)。ˈパーˈク　ˈアシˈケー　ˈミサムヌ [ˈpaːˈku ˈʔaʃi̥ˈkeː ˈmisamunu](早く預ければいいのに)。ヤーˈディン　アシˈキˈヨー [jaːˈdiŋ ʔaʃi̥ˈkiˈjoː](必ず＜きっと＞預けなさいよ)。

アスˈコーアスコーˈシ [ʔasu̥ˈkoːʔasu̥koːˈʃi] 【副】ほやほや熱々で。出来立ての湯気を立てたさまで。熱々と。ぬくぬく (温温) と。アスˈコーアスコーˈシ　ˈサーˈヤ　ˈヌミティ　ˈパリバ [ʔasu̥ˈkoːʔasu̥koːˈʃi ˈsaːˈja ˈnumiti ˈpariba](たて＜点て＞たばかりのお茶は湯気を立てて温温＜熱々＞と飲んでから行きなさい)。

アˈズˈシジンドゥ　ヤˈルˈカー [ʔaˈʤuˈʃiʤindu jaˈruˈkaː] 【連】言うならば。言うとおりなら。「言う筋 (訳、道理) でもあれば」の義。ˈワーˈ　アイ　アˈズˈシジンドゥ　ヤˈルッˈカー　ˈバー　メー　ノーˈンˈ　アˈザヌ [ˈwaːˈ ʔai ʔaˈʤuˈʃiʤindu jaˈrukˈkaː ˈbaːˈ meː noːˈŋˈ ʔaˈʤanu](君がそのように言うの＜言うとおり＞であるならば、私はもう何もいわない)。

アˈズトゥーˈル [ʔaˈʤutuːˈru] 【連】言う通りに。シˈザˈヌ　アˈズトゥーˈル　ˈスーˈカー　マˈチガイˈヤー　ˈナーˈヌ [ʃiˈʤaˈnu ʔaˈʤutuːˈru ˈsuːˈkaː maˈʧigaiˈja: ˈnaːˈnu](兄の言う通りにすれば間違いはないよ)。

ˈアズニ [ˈʔaʤuni] 【連】言うように。ウˈリヌˈ　アズニ　ˈサンˈカー　ナˈラヌ [ʔuˈrinuˈ ʔaʤuni ˈsaŋˈkaː naˈranu](彼が言うよう＜言う通り＞にしなければならないのか?)。

アˈスヌ [ʔaˈsunu] 【接続】だが。しかし。けれども。そうではあるが。アˈスン [ʔaˈsuŋ](そうする) の連体形に逆接の接続助詞ヌ [nu](が、だが) が付いたもの。ウˈレーˈ　イッˈケンˈ　ウˈトゥナッˈサン　アˈスヌˈ　サˈキˈ　ヌムカー　プˈソー　カウリス [ʔuˈreːˈ ʔikˈkeŋˈ ʔuˈtunasˈsaŋ ʔaˈsunuˈ sḁˈkiˈ numukaː pu̥ˈsoː kaurisu](彼は非常に大人しい。しかし酒を飲むと人が変わる)。ウˈレー　ワーˈ　アˈズ　トゥーˈル　アˈスヌˈ　バー　アˈズˈ　ムニン　シˈキˈバ [ʔuˈreː waːˈ ʔaˈʤu tuːˈru ʔaˈsunuˈ baː ʔaˈʤuˈ muniːŋ ʃi̥ˈkiˈba](それは君の言う通りだ。だが、私の言うことも聞けよ)。ˈターシグˈトー　ˈバンˈヌン　ˈナルン。アˈスヌˈヨー　クˈヌ　ターˈヤ　ˈバー　ˈタンガˈシェー　ナˈラˈヌ [ˈtaːʃiguˈtoː ˈbanˈnun ˈnaruŋˈ ʔaˈsunuˈjoː kuˈnu taːˈja ˈbaː ˈtaŋgaˈʃeː naˈraˈnu](田仕事は私にも出来る。だがしかしねえ、この田圃は私一人では出来ない)。

アˈズˈムティ [ʔaˈʤuˈmuti] 【連】言うだけ。言う分。アˈズˈカー　アˈズˈムティ　シˈキˈニン　ˈムティ　ˈサンˈカー　ナˈラˈヌ [ʔaˈʤuˈkaː ʔaˈʤuˈmuti ʃi̥ˈkiˈnimˈmuti ˈsaŋˈkaː naˈraˈnu](言ったら言うだけ＜言った分＞責任を持ってしなければならない)。

アˈスン [ʔaˈsuŋ] 【自動】そうする。ˈアイ　ˈスン [ˈʔai ˈsuŋ](そうする) の縮まった形。副詞のˈアイ [ˈʔai](そう。そのように) に、ˈスン [ˈsuŋ](する) が下接して、そ形成された動詞。「そのような行為を行う」の意味を表す。アˈスンˈ　アˈサヌー　ヌーˈシヤー [ʔaˈsuŋˈ ʔaˈsanuː nuːˈʃijaː](そうするか?、しないか?、どうするのか＜如何なんだ＞)。ˈアイヤー　アˈサンドーˈシ　ドゥˈシトゥˈ　マーˈズンˈシ　アˈシˈバ [ˈʔaijaː ʔaˈsandoːˈʃi duˈʃituˈ maːˈʤuŋˈʃi ʔaˈʃiˈba](そうはしないで、友人と一緒にしなさいよ)。

アˈシッふィーリ [ʔaˈʃiffiːri](そうしてくれ)。アˈシˀプサン [ʔaˈʃiˀpusaŋ](そうしたい)。ˈワーンドゥˀッˈふァˀマー　アˈタラˀサ　ˈスーˀカー　ˈバンˀヌン　アˈスンˀダー [ˈwaːnduˀ fˈfaˀmaː ʔaˈtaraˀsa ˈsuːˀkaː ˈbanˀnuŋ ʔaˈsunˀdaː](君が子孫を可愛がったら私もそうするよ)。アˈサˀディー [ʔaˈsaˀdiː](そうしようよ)、ˈワーˀ　アˈスˀカー　ˈバンˀヌン　アˈスン [ˈwaːˀ ʔaˈsuˀkaː ˈbanˀnuŋ ʔaˈsuŋ](君がそうするなら僕もそうする)、アˈスˀクトー　アˈスヌˀ　アトー　ッˈサントˈダ [ʔaˈsuˀkutoː ʔaˈsunuˀ atoː sˈsanˈdaː](そうすることはするが、知らないよ＜後は＞)。ˀドゥーシ　アˈシˀ　ミサカー　アˈスˀ　クトゥン　ナルンˈダー [ˀduːʃi ʔaˈʃiˀ misakaː ʔaˈsuˀ kṵtun narunˈdaː](自分でそうしてよければ、そうすることも出来るよ)。アˈシェーˀ　ミサムヌ [ʔaˈʃeːˀ misamunu](そうすれば良いのに)。

アˈズン [ʔaˈʤuŋ] 【他動】言う。話す。「叱る」の意味はない。ˈパーˀク　アˈズンティˀ　ウˈムータンˀドゥ　マˈナˀマー　アˈザヌ [ˈpaːˀku ʔaˈʤuntiˀ ʔuˈmuːtanˀdu maˈnaˀmaː ʔaˈʤanu](早く言おうと思ったが、今は言わない)。ˀバーラ　アˈジˀ　ミサカー　アˈズˀ　クトー　ˀナルン [ˀbaːra ʔaˈʤiˀ misakaː ʔaˈʤuˀ kṵtoː ˀnaruŋ](私から言って良ければ言うことは出来る)。ˈマーˀビン　アˈジェーˀ　ミサムヌ [ˈmaːˀbiŋ ʔaˈʤeːˀ misamunu](もっと言えばいいのに)。イˈズン [ʔiˈʤuŋ](言う。叱る) ともいう。ˀバーラ　アˈズンティˀ　シˈタンドゥˀ　アˈザランシェン [ˀbaːra ʔaˈʤuntiˀ ʃi̥ˈtanduˀ ʔaˈʤaraŋʃeŋ](私から言おうとしたが、言われなかった)。ˈパーˀク　アˈジˀバ [ˈpaːˀku ʔaˈʤiˀba](早く言えよ)。イˈカスˀク　アˈジˀ　シゥˈカシタンティンˀ　バー　アˈズˀムネー　シゥˈカヌ [ʔiˈkasṵˀku ʔaˈʤiˀ siˈ̈kaʃi̥tantimˀ baː ʔaˈʤuˀ muneː siˈ̈kanu](いくら私が言って聞かしても、私の言うことは聞かない)。ˀバー　アˈザヌ [ˀbaː ʔaˈʤanu](私は言わない)、マーˈズンˀ　アˈザˀディー [maːˈʤuŋˀ ʔaˈʤaˀdiː](一緒に言おうよ)、ˈバンˀヌン　アˈジˀプサン [ˈbanˀnuŋ ʔaˈʤiˀpusaŋ](私も言いたい)、カˈヌˀ　プˈスヌˀ　アˈズˀカー　ˈバンˀヌン　アˈズン [kaˈnuˀ puˈsunuˀ ʔaˈʤuˀkaː ˈbanˀnuŋ ʔaˈʤuŋ](あの人が言うなら私も言う)、クˈリンナーˀニ　アˈズˀ　プˈソーˀ　ブˈラーヌ [kuˈrinnaːˀni ʔaˈʤu-pusoːˀ buˈraːnu](この人に＜これに＞言う人はいない)、ˈマーˀビン　アˈジシゥカシェーˀ　ミサムヌ [ˈmaːˀbiŋ ʔaˈʤisïkaʃeːˀ misamunu](もっと言って聞かせたらいいのに)、ˀバーン　アˈジˀバ [ˀbaːŋ ʔaˈʤiˀba](私に言えよ)。アˈザスン [ʔaˈʤasuŋ](いわせる)。アˈザサヌ [ʔaˈʤasanu](言わせない)、アˈザバン [ʔaˈʤaban](言っても)。

アˈスンˀケン [ʔaˈsuŋˀkeŋ] 【接】すると。そうすると。そのとき。ˀキノー　パˈマˀナーティ　パˈモーˀル　カキˈベーˀタツォー。アˈスンˀケン　イˈノンヌˀ　ミーラ　ヤˈメーマヌˀ　ンジケータツォー [ˀkinoː paˈmaˀnaːti paˈmoːˀru kạ̊kiˈbeːˀtatsoː。ʔaˈsuŋkeŋ ʔiˈnonnuˀ miːra jaˈmeːmanuˀ ʔnʤikeːtatsoː](昨日、浜で蛤を掻いていたそうだ。すると砂の中から小さな亀が出てきたそうだ)。

アˈスンドゥ [ʔaˈsundu] 【接】だが。であるが。逆接の接続詞。ˀアイ・ˈスンドゥ [ˀʔai-ˈsundu](そう・するが) の縮略形。カˈリンヌンˀ　シˈミルンˀツォー。アˈスンドゥ　ワンヌンˀ　マーˈタキ　サンˀカー　ナˈランˀツォー [kaˈrinnuŋˀ ʃiˈmirunˀtsoː ʔaˈsundu wannumˀ maːˈtaki saŋˀkaː naˈranˀtsoː](彼にもさせるそうだ。だが、君も同じようにしなければならないそうだ)。

アˈゾーˀルン [ʔaˈʤoːˀruŋ] 【他動】おっしゃる (仰る)。アˈズン [ʔaˈʤuŋ](言う) の尊敬語。アˈズン [ʔaˈʤuŋ](言う) の連用形、アˈジ [ʔaʤi] に、「Vouaxi,su. ヲワシ, ス (おはし)〜高貴な方が・・・にいらっしゃる」『邦訳日葡辞書』の転訛したˈオーˀルン [ˈʔoːˀruŋ](いらっしゃる) が付いて転訛した尊敬動詞。イˈチンマーˀ　パリティ　アˈゾールンˀドゥ　ˈキューˀヤ　アˈゾーラˀヌ [ʔiˈʧimmaːˀ pariti ʔaˈʤoːrunˀdu ˈkjuːˀja ʔaˈʤoːraˀnu](いつもは行けとおっしゃるが、今日はおっしゃらない)。アˈゾーˀリ　ˀミサン [ʔaˈʤoːˀri ˀmisaŋ](おっしゃってよい)。ˈワーˀ　アˈゾーˀル　ˀクトー　ˈバシキラヌ [ˈwaːˀ ʔaˈʤoːˀru ˀkṵtoːˈbaʃi̥kiranu](貴方がおっしゃることは忘れない)。ˈパーˀク　アˈゾーˀレー　ˀミサムヌ [ˈpaːˀku ʔaˈʤoːˀreː ˀmisamunu](早くおっしゃれば良いのに)。ˈキューˀヤ　ヤーˈディンˀ　アˈゾーˀリ [ˈkjuːˀja jaːˈdiŋˀ ʔaˈʤoːˀri](今日は必ずおっしゃい＜仰せください＞)。ウˈレー　ワーˀ　アˈゾーˀル　ˈトゥーˀルˈユー [ʔuˈreː waːˀ ʔaˈʤoːˀru ˈtuːˀruˈjuː](それはあなたがおっしゃる通りです)。ˀアッパーラ　アˈゾーˀルンティ　スˈクタヌˀ　アˈゾーランˀシェン [ˀʔappaːra ʔaˈʤoːˀrunti sṵˈkutanuˀ ʔaˈʤoːraŋˀʃeŋ](おばあさんからおっしゃると聞いたが、おっしゃらなかった)。アˈゾーˀリ　ミサン [ʔaˈʤoːˀri ˀmisaŋ](おっしゃって良い)。アˈゾーˀレー　ˀミサムヌ [ʔaˈʤoːˀreː ˀmis-amunu](おっしゃれば良いのに)。アˈゾーˀリバ [ʔa

ˈʤoːˉriba](おっしゃいよ)。ˈウイˉプソー　ユˈヌムニバˉル　アˈゾーˉルティ　スˈクタヌ　バンˉテヌˉアブジェー　ユˈヌˉムネー　アˈゾーラˉヌ [ˈʔuiˉpuso: juˈnumunibaˉru ʔaˈʤoːˉruti suˈkutanu banˉtenuˉʔabuʤe: juˈnuˉmune: ʔaˈʤoːraˉnu](老人は同じ言葉を繰り返し言われると聞いたが、私の家のおじいさんは同じ言葉は言われない)。

アˈタ- [ʔaˈta-] 【接頭】突然。にわか。急な。アˈミˉヌ　アˈタフイ　シー　キンˉマー　ˈゾッふァシナーˉヌ [ʔaˈmiˉnu ʔaˈtaɸui ʃi: kimˉma: ˈʤoffaʃi naːˉnu](雨が急に降って < にわか降りして > 着物を濡らしてしまった)。アˈタシニ [ʔaˈtaʃini](突然死)。アˈタシー [ʔaˈtaʃiː](急にすること)。アˈタニチ [ʔaˈtanitʃi](突然の発熱)。ˈアッˉタニ [ˈʔatˉtani](急に、にわかに) の縮約形。アˈタファイ [ʔaˈtafai](急に食べること)。

アˈタ [ʔaˈta] 【接頭】急な。だしぬけの。突然の。名詞や動詞の連用形に上接して予期しない急な動作や突然に起きる状態を表す接頭語。アˈタアミ [ʔaˈtaʔami](にわか雨)、アˈタカジ [ʔaˈtakaʤi](俄か台風)、アˈタナキ [ʔaˈtanaki](突然に泣き出すこと)、アˈタバライ [ʔaˈtabarai](突然に笑うこと) など、アˈタヤン [ʔaˈtajaŋ](急病) など。

アˈダ [ʔaˈda] 【名】あだ (徒)。いたずら。無駄。徒労。「Adana. アダナ. または、アダノ (徒な, または, 徒の) ちょうっとした、空しい、無益な」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˈワーˉ　クˈトゥˉバ　ˉウムイティル　ˈシェーˉ　クトゥ　ヤˈルヌˉ　アˈダˉ　ナリ　ˈナーンˉバンˈナー [ˈwaːˉ kṵˈtuˉba ˉʔumuitiru ˈʃeːˉ kṵtu jaˈrunuˉ ʔaˈdaˉ nari ˈnaːmˉbanˈnaː](君のことを思ってしたことではあるが、無駄になってしまったねえ)。

アˈダーシカダーシ [ʔaˈdaːʃikadaːʃi] 【名】怒鳴りつけること。アˈダースン [ʔaˈdaːsuŋ](どやしつける、強く叱る) の重言。ABCDEBCD 型。ˈピントゥルピンˉ　アˈダーシカダーシˉ　シˈラレーˉティ　パˈタラカサリ　ベーˉムヌ　ˉミルカー　キˈムイˉツァーˈツォー [ˈpinturupiŋˉ ʔaˈdaːʃikadaːʃiˉ ʃiˈrareːˉti pạˈtarakasari beːˉmunu ˉmiruka: kiˈmuiˉtsaːˈtsoː](毎日毎日どやされて働かされているのを見ると可哀そうなんだよ)。

アˈダースン [ʔaˈdaːsuŋ] 【他動】どやす。怒鳴りつける。大声で叱りつける。ウˈレーˉ　プˈスˉ　アˈダースンダ　キーˉ　シˈキˉリˈヨー [ʔuˈreːˉ pṵˈsuˉ ʔaˈdaːsunda kiːˉ ʃị̊ˈkiˉriˈjoː](彼は他人をどやすから気をつけなさいよ)。アˈダーサンドーˉシ　アˈジˉ　シゥˈカシˉバ [ʔaˈdaːsandoːˉʃi ʔaˈʤiˉ sị̊ˈkaʃiˉba](どやさないで話して教え < 聞かせ > なさいよ)。

アˈターチマ [ʔaˈtaːʧima] 【副】暫時。しばらく。ちょっと。いっとき。アブˈジェーˉ　クˈマー　オーˉリティ　アˈターチマˉ　クˈヌ　ッふァˉ　ミリ　ッˈふォーˉリ [ʔabuˈʤeːˉ kuˈmaː ʔoːˉriti ʔaˈtaːʧaˉ kuˈnu ffaˉ miri fˈfoːˉri](おじいさん、ここへいらっしゃって、しばらくこの子を見てください)。アˈターチマˉ　マティ　ッˈふィーリト ヨー [ʔaˈtaːʧimaˉ mati fˈfiːriˊjoː](ちょっと待ってくれよね)。

アˈタアミ [ʔaˈtaʔami] 【名】にわか雨。驟雨。アˈタアミヌˉ　フイティル　ンˈジマーˉキ　ˈベート ツォー [ʔaˈtaʔaminuˉɸuitiru ʔnˈʤimaːˉki ˈbeːˊtsoː](にわか雨が降って出かねているんだよ)。アˈタアミヌˉ　フイティル　ˈキンˉバ　ˈゾーラシˉ　シケー [ʔaˈtaʔaminuˉ ɸuitiru ˈkimˉba ˈʤoːraʃiˉ ʃị̊keː](にわか雨が降って着物を濡らしてある)。

アˈタウダラキ [ʔaˈtaʔudaraki] 【名】急に驚くこと。びっくり仰天すること。アˈタウダラキ　スーˉカー　ブˈチˉクン　ˈスント ダー [ʔaˈtaʔudaraki suːˉkaː buˈʧiˉkun ˈsunˊdaː](急に驚くと失神するよ)。

アˈダウチ [ʔaˈdauʧi] 【名】仇討ち。村芝居などで演じられる仇討ちもの。イˈサナキヌˉ　シˈバヤーˉナ　アˈダウチムヌˉバ　スˈクミティ　シーベーンˉドゥ　イッˈケナˉ　ウˈムッˉサタン [ʔiˈsanakinuˉ ʃiˈbajaːˉna ʔaˈdauʧimunuˉba sṵˈkumiti ʃiːbeːnˉdu ʔikˈkenaˉ ʔuˈmusˉsataŋ](石垣の芝居小屋で仇討ち物を仕組んで上演しているが非常に面白かった)。

アˈタウヤキ [ʔaˈtaujaki] 【名】にわか分限者。成金。クˈヌ　プソー　ヌーˉシ　ˈモークˉタユー　アˈタウヤキ　シーˉ　ユˈチˉクニ　クˈラシ　ベー [kuˈnu pṵso: nuːˉʃi ˈmoːkuˉtaju: ʔaˈtaujaki ʃiːˉ juˈʧiˉkuni kuˈraʃi beː](この人はどうやって儲けたのか成金になって裕福に暮らしている)。

アˈダˉカ [ʔaˈdaˉka] 【名】あれほどの高さ。アˈダカˉナー　ˈスーˉ　シˈナムヌバ　ヌーˉシ　ˈシー　カイ　キラリˉター [ʔaˈdakaˉna ˈsuːˉ ʃiˈnamunuba nuːˉʃi ˈʃiː kai kirariˉtaː](あんなに高い品物 < 高くする品物 > をどうやって買って来れたのか)。アˈダカˉヌ　シˈナムヌ [ʔaˈdakaˉnu ʃiˈnamunu](あれほど高い < 高価な > 品物)。

アˈタカジ [ʔaˈtakaʤi] 【名】急に吹きだす台風。ˈニンガチˉ　カˈジマーˉロー　アˈタカジヌˉ　フクンダ　ˈキーˉ　シˈキˉリˈヨー [ˈniŋgatʃiˉ kaˈʤimaːˉroː ʔa

ˈtakaʤinuˀ ɸu̥kunda ˈkiːˀ ʃi̥ˈkiˀriˈjoː](旧暦二月の時化は、突然の台風が吹くから気をつけろよ)。

アˈタキシ [ʔaˈtakiʃi] 【名】断崖。絶壁。切岸。「急に切れているもの」の義。ˈキンˀタ [ˈkinˀta](断崖)、キˈダバナ [kiˈdabana](断崖、絶壁の先端) ともいう。ヤˈマˀヌ　アˈタキシˀ　ナリ　ˈブーˀトンラ　ˈキーˀバ　ˀキシ　ウˈタˀシティ　カˈタˀミ　ˈクーˀタ [jaˈmaˀnu ʔaˈtakiʃiˀ nari ˈbuːˀtonra ˈkiːˀba ˀki̥ʃi ʔuˈtaˀʃi̥tiru kḁˈtaˀmi ˈkuːˀta](山が断崖になっている所から木を伐り落として担いで来た)。野や山が急に切り立った絶壁になっているところ。「急な切れ」の義。キˈダバナーˀ　タˈカスクˀヌ　ˈヌーˀヌ　アˈタキシˀ　ナリ　ˈブーˀ　トンˈダー [kiˈdabanaːˀ tḁˈkasu̥kuˀnu ˈnuːˀnu ʔaˈtaki̥ʃiˀ nari ˈbu ーˀ tonˈdaː](キダバナの断崖はタカスクの野が急に切り立って絶壁になった所だよ)。

アˈタシニ [ʔaˈtaʃini] 【名】急死。頓死。キˈノーバーˀケー　ノーˈン　サンシェンヌˀ　アˈタシニバ　シーˀ　プˈスバˀ　ウˈバーシˀ＜ウˈダラカˀシ＞　シケーˈツォー [kiˈnoːbaːˀke: noːˈn saŋʃennuˀ ʔaˈtaʃinibaʃiːˀ pu̥ˈsubaˀ ʔuˈbaːʃiˀ ＜uˈdarakaˀʃi＞ ʃi̥keˈtsoː](昨日まではなんでもなかったが＜何もしなかったが＞急死して人を驚かせている＜驚かせておいてある＞)。

アˈタジンブン [ʔaˈtaʤimbuŋ] 【名】気転。機知。とっさの場合の分別。「咄嗟の存分 (気転)」の義。トゥˈジヌˀ　アˈタジンブンバˀ　ンˈザシˀル　ˈヌンガーラサˀレータツォー [tuˈʤinuˀ ʔaˈtaʤimbumbaˀ ʔnˈʤaʃiˀru ˈnuŋgaːrasaˀreːtatsoː](妻が咄嗟に気転を利かしたので＜急に智恵を出したので＞許されたそうだ)。

アˈタスクリ [ʔaˈtasu̥kuri] 【名】にわか作り。急ごしらえ。バˈラフˀタシ　シˈトゥˀバ　アˈタスクリ　シティ　コーˀマ　イˈリティˀ　イˈサナケーˀ　ムˈタシˀタ [baˈraɸu̥ˀtaʃi ʃi̥ˈtuˀba ʔaˈtasu̥kuri ʃi̥ti koːˀma ʔiˈritiˀ ʔiˈsanakeːˀ muˈtaʃi̥ˀta](藁で苞＜藁苞＞を急ごしらえして卵を入れて石垣へ送った＜持たせた＞)。

アˈタタクマ [ʔaˈtatakuma] 【名】急な才知。頓知。ミˈドゥムˀヌ　アˈタタクマˀティ　アˈズˀ　ムˈカˀシムニヌ　ˀアン [miˈdumuˀnu ʔaˈtatakumaˀti ʔaˈʤuˀmuˈkaˀʃimuninu ʔaŋ](「女は急場凌ぎの機知に富む(が深慮に欠ける)」という先人の言葉＜諺＞がある)。

アˈタナキ [ʔaˈtanaki] 【名】突然に泣き出すこと。ヤˈラビˀヌ　アˈタナキ　スーˀカ　ニチˈダー [jaˈrabiˀnu ʔaˈtanaki suːˀkaː nitʃiˈdaː](幼児が突然に泣き出すと発熱だよ)。

アˈダナˀシ [ʔaˈdanaˀʃi] 【名】アダン (阿檀) の気根。「アザニヌ　サーラ [ʔaʤaninu saːra](刺木の下がっているもの) の略転という説 (『八重山語彙』)」がある。アˈダナˀシ　ˀキシキー　ˀカー　ˀパギティ　ˀサキ　ティダナ　ˀプシ　グˈマーグマˀシ　ˀサキティ　アˈダナˀシジナ　ˈナウˀタヨー [ʔaˈdanaˀʃi ˀki̥ʃikiːˀkaː ˀpagiti ˀsḁki ˀtidana ˀpu̥ʃi guˈmaːgumaˀʃi ˀsḁkiti ʔaˈdanaˀʃiʤina ˈnauˀtajoː](阿檀の気根を切ってきて皮を剥いで裂き、太陽に干し、更に小さく裂いて阿檀の綱を綯ったよ)。アˈダンブラˀヌ　ˈニーバˀル　アˈダナˀシティ　アˈズˀダー [ʔaˈdamburaˀnu ˈniːbaˀru ʔaˈdanaˀʃi̥ti ʔaˈʤuˀdaː](あだん＜阿檀＞の気根をアダナシというのだよ)。

アˈダナˀシジナ [ʔaˈdanaˀʃiʤina] 【名】アダンの気根の繊維で綯った縄＜綱＞。アˈダナˀシジナー　ˈスーˀワン [ʔaˈdanaˀʃiʤinaː ˈsuːˀwaŋ](アダンの気根の繊維で綯った綱は強い)。アダンの気根 (直径 3〜4 センチ、長さ 60〜80 センチ) の皮を剥ぎ、約 2 ミリの厚さに切り割り、乾燥させたものを細かく裂いて直径約 2 ミリの太さに綯った縄をˈユーˀル [ˈjuːˀru](細い縄。「撚り」の義か) といい、直径約 1 センチ以上の太さに綯ったものを、アˈダナシˀジナ [ʔaˈdanaˀʃiʤina](アダナシ綱) という。アˈダナˀシジナ [ʔaˈdanaˀʃiʤina](アダナシ綱) は強いので、サバニのアンカーロープˀやˈアウダ [ˈʔauˀda](もっこ) を造るのに用いられた。ˈユーˀル [ˈjuːˀru](アダナシの細縄) は、民具のˈアンˀスク [ˈʔanˀsu̥ku] を造るのに有用な素材であった。

アˈダナˀシユール [ʔaˈdanaˀʃijuːru] 【名】アダン (阿檀) の気根の繊維を細かく裂いて綯った細い縄。「アダナシ・縒(ヨ)り」の転訛したもの。これでˈアンˀスク [ˈʔanˀsu̥ku](約 20 センチ立方に編んだ網袋。野外用手提げ。網びく＜網魚籠＞)。ˀソンガチヌ　ピˈキダマーˀ　アˈダナˀシユールシル　トゥˈバシタル [ˀsoŋgatʃinu pi̥ˈkidamaːˀ ʔaˈdanaˀʃijuːruʃiru tuˈbaʃi̥taru](正月の凧はアダナシの紐＜アダナシ紙縒り＞で飛ばし＜揚げ＞たものだ)。

アˈダˀニ [ʔaˈdaˀni] 【名】アダン (阿檀) の実。若年層はアˈダンブラˀヌ　ˀナル [ʔaˈdamburaˀnu ˀnaru](アダンの実) ともいう。ˈソーランˀヌ　ムˈルムルˀナー　アˈダニˀバ　ˀブリキー　マˈツォーッˀタン [ˈsoːranˀnu muˈrumuruˀnaː ʔaˈdaniˀba ˀburikiː maˈ

tsoːtˈtaŋ](お盆の供物のムルムルに阿檀の実を挽いできて供えられた)。

アˈタニチ [ʔaˈtaniʧi] 【名】急な発熱。アˈタニチヌˈンジティ　ウˈキユーサˈヌ　ニˈビベー [ʔaˈtaniʧinuˈʔnʤiti ʔuˈkijuːsaˈnu niˈbibeː](急に発熱して＜突然の熱が出て＞起きることが出来ない＜起き得ない＞。寝ている)。

アˈタバシキ [ʔaˈtabaʃi̥ki] 【名】ど忘れ。うっかり忘れること。ウˈレーˈ　ッˈシブンドゥˈヨー　アˈタバシキ　シーˈ　ウˈムイ　ンザサラˈヌ [ʔuˈreːˈ ʃˈʃibunduˈjoː ʔaˈtabaʃi̥ki ʃiːˈ ʔuˈmui ʔnʤasaraˈnu](それは知っているが、ど忘れして思い出されない)。

アˈタバライ [ʔaˈtabarai] 【名】突然に笑い出すこと。トゥˈシグルˈヌ　ミˈドーンˈッふァー　アˈタバライ　スンダˈ　プˈスˈ　ウˈバースン [tuˈʃiguruˈnu miˈdoːŋˈffaː ʔaˈtabarai sundaˈ pu̥ˈsuˈ ʔuˈbaːsuŋ](年頃の女の子は突然に笑い出すから人を驚かす)。

アˈタパリ [ʔaˈtapari] 【名】急に駆け出すこと。突然走り出すこと。ナーˈイ　ベータンˈドゥ　アˈタパリˈ　シˈティルˈ　プˈスバˈ　ウˈダラカˈシ　ˈシケーバン [naːˈi beːtanˈdu ʔaˈtapariˈ ʃi̥ˈtiruˈ pu̥ˈsubaˈ ʔuˈdarakaˈʃi ˈʃi̥keːbaŋ](じいっとしていたが、突然駆け出して＜ぞ＞人を驚かせている＜びっくりさせておいてある＞わい)。

アˈタフイ [ʔaˈtaɸui] 【名】雨が急に降るさま。雨が俄かに降ること。にわかあめ＜俄雨＞。驟雨。アˈミˈヌ　アˈタフイˈ　シˈティˈ　キン　ˈゾーラシ　ナーˈヌ [ʔaˈmiˈnu ʔaˈtaɸuiˈ ʃi̥ˈtiˈ ˈkin ˈʤoːraʃi naːˈnu](雨が俄か降りして着物を濡らしてしまった)。

アˈタヤン [ʔaˈtajaŋ] 【名】急病。ˈアイニ　ˈガンˈゾー　アˈローッˈタ　プˈスヌˈ　アˈタヤンバ　シー　マーラソーˈリ　ˈナーˈヌ [ˈʔainiˈ ganˈʤoː ˈʔaroːtta pu̥ˈsunuˈ ʔaˈtajamba ʃiː maːrasoːˈri ˈnaːˈnu](あんなに元気＜頑丈＞であられた方＜人＞が急病で＜急病をして＞お亡くなりになってしまった)。アˈタヤンバ　シール　マーラシタˈツォー [ʔaˈtajamba ʃiːru maːraʃi̥taˈtsoː](急病をして亡くなったそうだ)。

アダˈラー [ʔadaˈraː] 【感】ああ汚い。ああ汚らしい。アダˈラーˈ　ヤˈニˈヤワレー [ʔadaˈraːˈ jaˈniˈjawa reː](ああ汚い。なんと汚いことよ＜それは＞)。

アˈタラˈサ　ˈスン [ʔaˈtaraˈsa ˈsuŋ] 【連】1可愛がる。ˈマーッふァー　アˈタラˈサ　ˈスン [ˈmaːffaː ʔaˈtaraˈsa ˈsuŋ](孫を可愛がる)。2大切にする。ノーˈンヤラバン　ドーンˈゴー　アˈタラˈサ　ˈシーˈ　シゥˈカーンˈカー　ナˈラント ダー [noːˈɲjaraban doːŋˈgoː ʔaˈtaraˈsa ʃiːˈ si̥ˈkaːŋˈkaː naˈranト daː](何でも＜あっても＞道具は大切にして使わないといけないよ)。

アˈタラサマリ [ʔaˈtarasamari] 【名】人に好かれ、可愛がられるように生まれついた人。カˈヌˈ　ッˈふァーˈ　イˈカムスˈク　アˈタラサマリ　シー　ブワトツォー [kaˈnuˈ fˈfaːˈ ʔiˈkamusu̥ˈku ʔaˈtarasamari ʃiː buwaト tsoː](あの子は、なんと人に好かれる生まれつきをしていることよ)。

アˈタラˈサワレー [ʔaˈtaraˈsawareː] 【連】何と可愛いことよ。クˈヌˈ　ッˈふァヌˈ　アˈタラˈサワレー [kuˈnuˈ fˈfanuˈ ʔaˈtaraˈsawareː](この子の何と可愛いことよ)。

アˈタラˈサン [ʔaˈtaraˈsaŋ] 【形】1可愛い。可憐である。ウˈヌˈ　ッˈふァーˈ　イッˈケナˈ　アˈタラˈサン [ʔuˈnuˈ fˈfaːˈ ʔikˈkenaˈ ʔaˈtaraˈsaŋ](その子は非常に可愛い)。ターˈン　ヤラバンˈ　ッˈふァーˈ　アˈタラサˈル　ˈアル [taːˈɲ jarabanˈ fˈfaːˈ ʔaˈtarasaˈru ˈʔaru](誰でも子供は可愛い＜可愛いくぞある＞)。アˈタラサ　ナーˈヌ [ʔaˈtarasa naːˈnu](可愛くない)。2惜しい。もったいない。「あたらし (可惜し)」の義から派生転訛したもの。クˈレーˈ　アˈタラサˈヌ　シゥˈカーラヌ [kuˈreːˈ ʔaˈtarasaˈnu si̥ˈkaːranu](これは惜しくて使えない)。

アˈタラシェーˈマ [ʔaˈtaraʃeːˈma] 【名】いとし子。かわいい子。愛児。ˈアッタラシェーˈマ [ˈʔattaraʃeːˈma](愛児) ともいう。アˈタラシェーマー　ガンˈズーシ　ˈアークタン [ʔaˈtaraʃeːmaː ganˈʤuːʃi ˈʔaːkutaŋ](いとし子よ、元気にしていたか)。

アˈタラˈマイ [ʔaˈtaraˈmai] 【名】当たり前。当然、もちろん。ˈワーˈ　サˈクシˈッふァ　ヤˈルンダˈ　ウˈヤˈヌ　ˈアトゥシギ　ˈスー　ムノーˈ　アˈタラˈマイティ　ˈムカーヤ [ˈwaːˈ sḁˈkuʃiˈffa jaˈrundaˈ ʔuˈjaˈnu ˈʔatuʃigi ˈsuː munoːˈ ʔaˈtaraˈmaiti mukaja](君は長男だから親の跡継ぎをすることは当たり前というものだ)。

アˈタリ [ʔaˈtari] 【名】当たること。正解であること。命中すること。正鵠を射ること。ˈクンˈドー　ˈワールˈ　アˈタリ [ˈkunˈdoː ˈwaːruˈ ʔaˈtari](今度は君が当たりだ)。

アダˈリー [ʔadaˈriː] 【感】ああ汚い。汚いなあ。相手を軽蔑したり、嫌悪したりする感情を表す。アダˈラー [ʔadaˈraː] に同じ。アダˈリーˈ　カイブ　ムˈヌˈバ　ˈムティ　ˈクーター [ʔadaˈriːˈ kaibu muˈnuˈba ˈmuti ˈkuːtaː](ああ汚い。こんなものを持ってきた

のか)。

アˬタリクジ [ʔaˬtarikuʤi] 【名】当たり籤。当たった籤。˞イットーˬヌ　アˬタリクジバˬ　ピˬケーンˬツォー [˞ʔittoːˬnu ʔaˬtarikuʤibaˬ pi̥ˬkeːnˬtsoː](一等の当たり籤を引き当てたそうだ)。

アˬタリドゥシ [ʔaˬtariduʃi] 【名】当たり年。農作物の収穫や漁獲の多い年。縁起のよい年。良いことの多い年。˞マイン　ノーˬリ　カˬツシンヌン　タイロー　シーˬ　クˬトゥシェーˬ　アˬタリドゥシユン [˞main noːˬri kḁˬtsuʃinnun tairoː ʃiːˬ ku̥ˬtuʃeːˬ ʔaˬtariduʃijuŋ](稲も実り、カツオ漁船も大漁して、今年は当たり年だ)。

アˬタリˬマイ [ʔaˬtariˬmai] 【名】当たり前。もちろん。当然。若年層の言葉。老年層は、アˬタラˬマイ [ʔaˬtaraˬmai](当たり前) という。ウˬリヌˬ　アイ　アˬズˬクトー　アˬタリˬマイ＜アˬタラˬマイ＞[ʔuˬrinuˬ ʔai ʔaˬʤuˬku̥to: ʔaˬtariˬmai ＜aˬtaraˬmai＞](その人がそう言うことは至極当たり前だ)。アˬタリマイˬヌ　クˬトゥˬバ　˞セーˬヌンドゥ　ˬアイニ　フˬコーラサˬ　シˬラリ　カイˬテー　˞ドゥーグリサˬリバン [ʔaˬtarimaiˬnu ku̥ˬtuˬba ˞ʃeːˬnundu ˬʔaini ɸu̥ˬkoːrasaˬ ʃiˬrari kaiˬteː ˞duːgurisaˬribaŋ](当然のことをしたまでだが、あんなに感謝されて、かえって恐縮している＜心苦しい＞)。

アˬタリョーˬヤー [ʔaˬtarjoːˬjaː] 【名】村を支配するお役人様。歌謡語。「目差主＜めざししゅ＞」の対語 (『沖縄古語大辞典』)。担当の上司 (歌謡語、琉球王国時代の言語)。「当たり親」の義 (『石垣方言辞典』)。

アˬタル [ʔaˬtaru] 【名】係り。担当。「当たり」の義。˞ザーアタˬル [˞ʤaːʔataˬru](座敷係)。ヤˬマアタˬル [jaˬmaʔataˬru](山林担当)。˞ワーˬ　クˬトゥシェー　ザーアタˬル　アˬタリブタˬ　シˬキンˬドゥ　サˬカサンケーˬトゥン　ˬユー　ˬウチソーダン　˞シーˬヨー [˞waːˬ ku̥ˬtuʃeː ʤaːʔataˬru ʔaˬtaributaˬ ʃi̥ˬkinˬdu sḁˬkasaŋkeːˬtun ˬjuː ˬʔutʃisoːdaŋ ˞ʃiːˬjoː](君は今年は座敷担当に当たっているので、神司の皆さんともよく相談しなさいよ)。

アˬタˬル [ʔaˬtaˬru] 【副助】～ぐらい。～ほど。おおよその程度を表す。ウˬヌˬ　アˬタˬロー　バー˞ヤラバンˬ　ナˬリˬス [ʔuˬnuˬ ʔaˬtaˬroː baː jaˬrabanˬ naˬriˬsu](この程度＜これぐらい＞は私でも出来る)。**(1)** さらに係助詞ˬ-ル [ˬ-ru](～ぞ) が下接して限定強意を表す。˞ワーˬ　ウˬヌアタルˬル　アˬル [˞waːˬ ʔuˬnuʔataruˬru ʔaˬru](君はその程度しかない＜その程度ぞある＞のか)。**(2)** さらに格助詞ˬ-ヌ [ˬ-nu](～の) が付いて体言化する。ウˬヌˬ　アˬタルˬヌ　ˬクトー　˞バンˬヌン　ッˬシェーˬン [ʔuˬnuˬ ʔaˬtaruˬnu ˬku̥to: ˞banˬnuŋ ʃˬʃeːˬŋ](その程度のことは私も知っている)。**(3)** さらに格助詞ˬ-シ [ˬ-ʃi](～で) が付いて手段格を表す。ウˬヌˬ　アˬタˬルシェー　プˬスヌˬ　マイヤー　ナˬララˬヌ [ʔuˬnuˬ ʔaˬtaˬruʃeː pu̥ˬsunuˬ maija: naˬraraˬnu](その程度では他人より先んじることに＜他人の前に＞はなれない)。**(4)** さらに係助詞ˬ-ツァン [ˬ-tsaŋ](～すら、～さえ。～だに) が付いて、最低程度の条件を表す。ウˬヌˬ　アˬタˬルンツァン　˞シーサンˬカー　シゥˬカーラヌ [ʔuˬnuˬ ʔaˬtaˬruntsaŋ ˞ʃiːsaŋˬka: si̥ˬkaːranu](その程度さえも出来なかったら＜成し得なかったら＞使えない＜使われない＞)。

アˬタル [ʔaˬtaru] 【接尾】 1～に対して。～当たり。グˬサークマイˬヤー　プˬスルアタˬル　グˬサークˬナー　ンˬザˬソーッタ [guˬsaːkumaiˬja: pu̥ˬsuruʔataˬru guˬsaːkuˬna: ʔnˬʤaˬsoːtta](五勺米は一人当たり五勺ずつ出された)。2～担当。˞ザーアタˬロー　フˬタールナーˬ　イˬラˬボーッタン [˞ʤaːʔataˬroː ɸu̥ˬtaːrunaːˬ ʔiˬraˬboːttaŋ](座席作り＜桟敷＞担当は二人ずつ選出さ＜選ば＞れた)。

アˬタルマカシ [ʔaˬtarumakaʃi] 【副】手当たり次第に。あれこれかまわず。ところかまわず。アˬタルマカシニ　イッソーˬラ　ˬムティクー [ʔaˬtarumakaʃini ʔissoːˬra ˬmutikuː](手当たり次第にすべて持って来い)。アˬタルマカシニˬ　プˬスヨーˬ　イˬズナ [ʔaˬtarumakaʃiniˬ pu̥ˬsusujoːˬ ʔiˬʤuna](だれかれかまわず他人を叱るな)。

アˬタルン [ʔaˬtaruŋ] 【自動】 1当たる。的中する (正鵠を射る)。他人にきつく当たる。˞ワーˬ　ムネー　アˬタラヌ [˞waːˬ muneː ʔaˬtaranu](君の言うことは当らない＜正しくない＞)。ˬクジ　アˬタルン [ˬku(クジ)ʤi ʔaˬtaruŋ](籤が当たる)。˞ワˬー　アˬズタ　トゥーˬル　アˬタリ　オシケー　ノーˬレーツバン [˞waːˬ ʔaˬʤuta tuːˬru ʔaˬtari ʔoʃi̥ke: noːˬreːtsubaŋ](君が言った通り＜予言が＞的中して、天気は良くなったよ＜天気は直ったわい＞)。アˬタレーˬ　ミサムヌ [ʔaˬtareːˬ misamunu](当たれば良いのに)。アˬタリˬバ [ʔaˬtariˬba](当たれよ)。2照合して確認する。シˬキンˬマー　˞ヌーˬシ　˞ナッˬタユー　˞シンシンˬナーニン　アˬタリˬミリバ [ʃi̥ˬkimˬmaː ˞nuːˬʃi ˞natˬtaju: ˞ʃiŋʃinˬnaːniŋ ʔaˬtariˬmiriba](試験はどうなったのか先生に当ってみなさいよ)。3毒気を身に受け

る。ヤˈナˀカジナ　アˈタリティˀ　シラー　アˈガミベー [jaˈnaˀkadʒina ʔaˈtaritiˀ ʃiraː ʔaˈgamibeː](悪い風 < 邪気 > に当って顔が赤らんでいる)。4相応しい。似合う。ウˈヌ　キンˀマー　ˈワーˀナー　ガッˈツッティˀ　アˈタリ　ブー [ʔuˈnu kimˀmaː ˈwaːˀnaː gatˈtsutiˀ ʔaˈtari buː](その着物は君にぴったり合っている)。5配分を受ける。ˈピーチˀナー　アˈタルン [ˈpiːtʃiˀnaː ʔaˈtaruŋ](一個ずつ当たる)　　。

アˈタルン [ʔaˈtaruŋ] 【自動】他人の言葉が身に応える。他人の発言に内心忸怩たる < 恥じ入る > ものを覚える。ˈワーˀ　アˈズタˀ　ムニナー　アˈタリティルˀ　バˈカˀヤ　ˈシー　ベー [ˈwaːˀ ʔaˈdʒutaˀ munina: ʔaˈtaritiruˀ baˈkaˀja ˈʃiː beː](君が言った言葉が身に応えて < 言葉に当って >、恥ずかしがっている)。

アˈダンˀパー [ʔaˈdamˀpaː]【名】アダンの葉。アˈダンˀパーシ　カˈジグルˀマ　スˈクˀリ　ˈフィーラˀナー [ʔaˈdamˀpaːʃi kaˈdʒiguruˀma sɯˈkuˀri fˈfiːraˀnaː](アダンの葉で風車を作ってやろう < くれよう > ね)。

アˈダンˀパーサバ [ʔaˈdamˀpaːsaba] 【名】アダン葉で作った草履。アダン葉の刺を取り除き、幅約一センチに裂いて陰干し乾燥して草履に編んで作る。若年層は、アˈダンˀパーゾーリ [ʔaˈdamˀpaːdʒoːri](阿檀葉草履) という。ムˈカˀシェー　ˀグムゾーレー　ˈナーンˀ　ブˈレーˀンダ　ムーˈルˀ　アˈダンˀパーサババ　スˈクˀリ　フˈモーッˀタ [muˈkaˀʃeː ˀgumudʒoːreː ˈnaːmˀ buˈreːˀnda muːˈruˀ ʔaˈdamˀpaːsababa suˈkuˀri ɸuˈmoːtˀta](昔はゴム草履はなかったので、みんなアダン葉草履を作って履かれた)。

アˈダンˀパームス [ʔaˈdamˀpaːmusu]【名】アダン葉で作った蓆。アダン葉の中央と両側の刺を取り除いて乾燥し、ˀムス　フˈミˀヤマ [ˀmusu ɸuˈmiˀjama](蓆編み機) で編んだもの。編み目の粗い筵であるから座敷用には用いず、夏の暑い時期に庭先や縁側に敷いて、その上に寝たり座ったりするのに用いた。アˈダンˀパームス　シˈキティˀ　プˈスマニビˀ　シˈミリ [ʔaˈdamˀpaːmusu ʃɨˈkitiˀ pɯˈsumanibiˀ ʃiˈmiri](アダン葉蓆を敷いて昼寝をさせなさい)。

アˈダンˀブラ [ʔaˈdamˀbura] 【名】(植) 和名、タコノキ (蛸の木)。アダン (阿檀)。「清人は阿坦尼と記したり。‥アンザ・ギ (刺木) の転。海浜瘠土にもよく成長繁茂し、(『八重山語彙』)」との説がある。海岸に自生していて防風林、防砂林の機能を果たしている。葉には鋭い刺があり、それを除去してアˈダンˀパーサバ [ʔaˈdamˀpaːsaba](アダン葉草履)、アˈダンˀパームス [ʔaˈdamˀpaːmusu](アダン葉筵) を編んだ。アˈダンˀブラー　イˈスヌˀ　パˈタˀナーン　マーˈンˀナーン　ムイˈブタン [ʔaˈdamˀburaː ʔiˈsunuˀ pa̠ˈtaˀnaːm maːˈnˀnaːm muiˈbutaŋ](阿檀は海岸 < 磯端 > にも何処にも生えていた)。幹の下部から多数の気根を出す。この気根を切り取り、裂いて乾燥し、細かく裂いて縄を綯い、舟の綱にしたり、もっこ (畚) を編むのに利用した。実はパインの形状をしており、熟れると赤みを呈し、甘味が出て食べられる。それを食いにヤシガニが阿檀の木に登ってくる。アˈダンブラˀヌ　ナˈルˀヌ　ˈウーˀムカー　ˀマコヤー　ウˈリˀ　ッˈふンティ　ヌーリキーˀシタ [ʔaˈdamburaˀnu naˈruˀnu ˈʔuːˀmuka: ˀmakoja: ʔuˈriˀ fˈfunti nuːri kiːˀʃɨta](あだんの実が熟れるとヤシガニがそれを食べに登ってきたものだ)。

アˈダンブラˀヌ　ˀナル [ʔaˈdamburaˀnu ˀnaru] 【連】アダン (阿檀) の実。直径約 15 センチ、長さ約 25 センチの楕円形パインナップルの実に似た果実。実の中心部果肉の周り全体に約 3 センチ五角形の角果が付いている。8〜9 月に黄赤色に熟し芳香を発する。ˀマコヤ [ˀmakoja](ヤシガニ) の好物。旧暦のお盆には、ムˈルムル [muˈrumuru](盛物供物) として仏壇に供えた。アˈダンブラˀヌ　ˀナロー　ˈソーランˀヌ　ムˈルムルˀティ　ˈシーˀ　カˈザローッˀタン [ʔaˈdamburaˀnu ˀnaroː ˈsoːranˀnu muˈrumuruˀti ˈʃiːˀ kaˈdʒaroːtˀtaŋ](アダンの実はお盆の盛物供物として仏壇に飾られた)。

アˈダンブラˀヌ　ˀフキ [ʔaˈdamburaˀnu ˀɸɯ̠ki] 【連】あだん (阿檀) の茎。あだんの芽。石垣島では、阿檀の茎をˀユディティ [ˀjuditi](茹でて)、精進料理の食材として利用されていたが、鳩間島では食しなかった。アˈダンブラˀヌ　ˀフケー　ッˈふァーンシェン [ʔaˈdamburaˀnu ˀɸɯ̠keː fˈfaːŋʃeŋ](アダンノ茎は食べなかった)。パˈトゥˀマプソー　アˈダンブラˀヌ　ˀフケー　ンˈコーランˀシェン [pa̠ˈtuˀmapɯ̠soː ʔaˈdamburaˀnu ˀɸɯ̠keː ʔŋˈkoːraŋˀʃeŋ](鳩間人は阿檀の若芽は食され < 召し上がら > なかった)。

アˈダンˀブラヤマ [ʔaˈdamˀburajama] 【名】阿檀の林。阿檀の群生しているところ。海岸にはアダン (阿檀) が密生して防風林、防潮林の機能を果たした。アˈダンˀブラヤマナー　ˀマコヤー　ˀユー　トゥˈラリˀタン [ʔaˈdamˀburajamanaː ˀmakoja: ˀjuː tuˈrariˀtaŋ](阿檀林にはヤシガニがよく捕獲できた < 獲られた >)。

アˈチーアチーˀシ [ʔaˈtʃiːʔatʃiːˀʃi] 【副】熱く。熱々

と。蒸かしたての熱いさま。ピー˞リピーリ˜シ [piː˞ripiːri˜ʃi](冷え冷えと。冷たく) の対義語。熱そうに。更に強調する際は、アチー˞アチー˜シ [ʔatʃiː˞ʔatʃiː˜ʃi] とアクセントを後方へずらす。˞ピーリイー˜ヤ ˞ファーンドー˜シ　ア˞チーアチー˜シ　ア˞ツァ˜シティ < ア˞チラ˜シティ >　˞ファイ˜バ [˞piːriʔiː˜ja ˞faːndoː˜ʃi ˜ʔa˞tʃiːʔatʃiː˜ʃi ʔa˞tsa˜ʃi̥ti <a˞tʃira˜ʃiti> ˞fai˜ba](冷や飯は食べないで、熱く温めて食べなさい)。

ア˞チーアチー˜シ [ʔa˞tʃiːʔatʃiː˜ʃi] 【副】厚く。肉厚に。厚々と。ピ˞シーピシー˜シ [pi̥˞ʃiːpiʃiː˜ʃi](薄く) の対義語。カ˞ツシン˜ナーテー　カ˞ツナマシェー˜　ア˞チーアチー˜シル　キ˞ソーッ˜タ [kḁ˞tsuʃin˜naːteː kḁ˞tsunamaʃeː˜ ʔa˞tʃiːʔatʃiː˜ʃiru ki̥˞soːt˜ta](カツオ漁船では、カツオの刺身は厚く < 肉厚に > 切られた)。

アチー˞アチー˜シ [ʔatʃiː˞ʔatʃiː˜ʃi] 【副】非常に親しく。非常に親しそうに。非常に仲睦まじく。ABCABCD 型の重言。˞篤し」の転訛したものか。「支離、アヅシ」『類聚名義抄』と関係ある語か。˞ナン˜ゾー　˜ピライ　ミ˞ラン˜ヌンドゥ　ウ˞ヌ˜　プ˞ソー˜ アチー˞アチー˜シ　パ˞ナ˜ス˞ツォー [˞nan˜ʤoː ˜pirai mi˞ran˜nundu ʔu˞nu˜ pu̥˞soː˜ ʔatʃiː˞ʔatʃiː˜ʃi pa˞na˜su˞tsoː](あんまり付き合ったことはないのに、その人は非常に親しそうに話すんだよ)。

ア˞チ˜イー [ʔa˞tʃi˜ʔiː] 【名】熱いご飯。˞ピーリイー˜ヤ　ッ˞ふァーンドー˜シ　ア˞チ˜イーラ　ッ˞ふァイ˜バ [˞piːriʔiː˜ja ˞faːndoː˜ʃi ʔa˞tʃi˜ʔiːra ˞fai˜ba](冷や飯は食べないで熱いご飯から食べなさいよ)。

ア˞チ˜ウン [ʔa˞tʃi˜uŋ] 【名】蒸かしたての熱いサツマイモ。アチー˞アチーヌ　クーフキウン˜マー　イッ˞ケナ˜　ン˞マー˜タン [ʔatʃiː˞ʔatʃiːnu kuːɸu̥kiʔum˜maː ʔik˞kena˜ ʔm˞maː˜taŋ](蒸かしたての熱い、澱粉の多いサツマイモ < 粉噴きイモ > は非常に美味しかった)。˞キールウン˜　ア˞ガウンマー˜　ア˞ジマー˜ン　˜アリティ　プ˞ソー˜　フ˞バリテイル˜　ッ˞ふァーリタル [˞kiːruʔuŋ˜ ʔa˞gaʔummaː˜ ʔa˞ʤimaː˜ŋ ʔariti pu̥˞soː˜ ɸu˞baritiru˜ ˞faːritaru](黄色イモ、赤イモは甘味があって他人には食べさせられないほど美味しかった < 人を縛っておいてぞ食べられた >)。

˜アチェーン [˜ʔatʃeːŋ] 【連】熱くなった。温くなった。˜アツン [˜ʔatsuŋ](熱くなる。温まる) の完了形。˞スー˜ヤ　˜アチェーンカヤー [˞suː˜ja ˜ʔatʃeːŋkajaː](お汁は熱くなったかねえ)。˜アチェー　˜ムノー　˜ヌーヤ [˜ʔatʃeː ˜munoː ˜nuːja](熱くなったものは何か)。

ア˞チカビ [ʔa˞tʃikabi] 【名】厚紙。ア˞チカビ˜シ　カ˞ビパク˜　ス˞クリバ [ʔa˞tʃikabi˜ʃi ka˞bipaku˜ su̥˞ku˜riba](厚紙で紙箱を作りなさいよ)。

ア˞チ˜キ [ʔa˞tʃi˜ki] 【名】湯気。ヤ˞コン˜ヌ　ア˞チ˜キナ　ユ˞ダ˜リティ　ミ˞ジフク˜ル　˞シー　ベー [ja˞kon˜nu ʔa˞tʃi˜kina ju˞da˜riti mi˞ʤiɸu̥ku˜ru ˞ʃiː beː](湯沸し < 薬缶 > の湯気で火傷して < 茹って > 水ぶくれ < みずばれ > している)。

ア˞チ˜サー [ʔa˞tʃi˜saː] 【名】熱いお茶。茶をたてて湯気の立つ、ほやほやのお茶。心のこもった接待のお茶。ア˞チ˜サー　アス˞コーアスコー˜シ　˜ヌミティ　˜パリバ [ʔa˞tʃi˜saː ʔasu̥˞koːʔasukoː˜ʃi ˜numiti ˜pariba](熱い茶を、湯気の立つ熱いうちに < 熱々 fァッァッ/f と湯気を立てながら。温温(ヌクヌク)と。アチコーコー > 飲んで行きなさいよ)。

ア˞チチ [ʔa˞tʃitʃi] 【感】熱い!! 熱いものに触れた時に発することば。熱いものに触れた際の痛さを表すことば。ア˞チチ˜　ク˞ヌ　サー˜ヤ　イ˞ツァー˜ヌ　フ˞チ˜　ヤ˞キンギサ˜ル [ʔa˞tʃitʃi˜ ku˞nu saː˜ja ʔi˞tsaː˜nu ɸu̥˞tʃi˜ ja˞kiŋgisa˜ru](熱い!!< あちち >、このお茶は熱くて、口をやけど < 火傷 > しそうだ)。

ア˞チッサー˜ルン [ʔa˞tʃissaː˜ruŋ] 【自動】ほろ酔い加減になる。酒がまわって上機嫌になる。サ˞キ˜　イ˞チン˜ゴー　˜ヌムカー　ア˞チッサー˜ルン [sḁ˞ki˜ ʔi˞tʃiŋ˜go: ˜numukaː ʔa˞tʃissaː˜ruŋ](酒を一合飲むとほろ酔い加減になる < すっかり出来あがって上機嫌になる >)。˜アブジェー　キ˞サーティ˜　ア˞チッサー˜リ　˞オー˜ル [˜ʔabuʤeː ki̥˞saːti˜ ʔa˞tʃissaː˜ri ˞ʔoː˜ru](お祖父さんは、すでにほろ酔い加減になっておられる)。

ア˞チ˜ッス [ʔa˞tʃi˜ssu] 【名】排泄されたばかりの熱い糞便。ウ˞シヌ˜　ア˞チ˜ッス　˞フンキティ˜　ヤ˞ニヤ˜ヌ　ナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞ʃinu˜ ʔa˞tʃi˜ssu ˞ɸuŋkiti˜ ja˞nija˜nu na˞ra˜nu](牛の排泄したばかりの熱い糞を踏んで、汚くて仕方がない)。

ア˞チ˜バイ [ʔa˞tʃi˜bai] 【名】熱い灰。温灰 (ぬくばい)。「あつばい」の転訛したもの。˜ドゥク　ム˞ニ˜　ユムカー　ア˞チ˜バイ　˞ファーサリン˜ダー [˜duku mu˞ni˜ jumukaː ʔa˞tʃi˜bai ˞faːsarin˜daː](あんまり文句をいうと熱い灰を食わされるぞ)。

ア˞チ˜ビー [ʔa˞tʃi˜biː] 【名】ご飯とお粥の中間程度の柔らかさに炊いた粥。固めの粥。バ˞タ˜ヌ　˜ヤムカー　ア˞チ˜ビ　タ˞キ˜　ッ˞ふァーシ [ba˞ta˜nu ˜jamukaː ʔa˞tʃi˜bi tḁ˞ki˜ ˞faːʃi](おなかが痛かったら

アチビー粥を炊いて食べさせなさい)。

ア˞チ˥ビーカイ [ʔa˞ʧi˥biːkai] 【名】やや硬めのお粥。ア˞チ˥ビー [ʔa˞ʧi˥biː](硬めの粥) に同じ。歯のない老人達が好んで食した。病み上がりの人もア˞チ˥ビーカイを食べながら、徐々に˞コー˥イー [˞koː˥ʔiː](普通のご飯。「強飯」の転訛) へと移した。ア˞チ˥ビーカイ　タ˞キ˥　ッ˞ふァース˥カー　˥バター　˞ノー˥ルン [ʔa˞ʧi˥biːkai tạ˞ki˥ f˞faːsu˥kaː ˥bataː ˞noː˥ruŋ](固めの粥を炊いて食べさせると腹痛が治る)。バ˞タグゥイ˥ヌ　˥マサーカサー　˞ナーン˥ベーティ　ア˞チ˥ビーカイ　ッ˞ふァイベー [ba˞tagwai˥nu ˥masaːkasaː ˞naːm˥beːti ʔa˞ʧi˥biːkai f˞faibeː](腹具合がおもわしくない＜調子が悪い＞ので、アチビー粥を食べている)。

ア˞チビライ [ʔa˞ʧibirai] 【名】親交。深交。˞ウン˥ネートー　ム˞カ˥シェーラ　ア˞チビライ　シー　オー˥ル [˞ʔun˥neːto: mu˞ka˥ʃeːra ʔa˞ʧibirai ʃiː ʔoː˥ru](その家とは昔から親交を続けておられる＜篤い交際をしておられる＞)。

ア˞チブッター [ʔa˞ʧibuttaː] 【名】厚ぼったいもの。ク˞ヌ　キン˥マー　ア˞チブッター˥　ナリティ　キ˞シングリ˥サン [ku˞nu kim˥maː ʔa˞ʧibuttaː˥ nariti kị˞ʃiŋguri˥saŋ](この着物は厚ぼったくなって着ずらい)。

ア˞チミ [ʔa˞ʧimi] 【名】厚み。厚さ＜厚い薄いの程度＞。ク˞ヌ˥　イ˞ツァ˥ヌ　ア˞チミ˥　パ˞カ˥リ˞ミー [ku˞nu˥ ʔi˞tsa˥nu ʔa˞ʧimi˥ pạ˞ka˥ri˞miː](この板の厚みを計ってごらんよ)。˞コンクリー˥ヌ　ア˞チミヌ˥　ピサティ　˞トゥッ˥キ　˞ナー˥ヌ [˞koŋkuriː ˥nu ʔa˞ʧiminu˥ pị̣sati ˞tuk˥ki ˞naː˥nu](コンクリートの厚みが薄いので、陥没してしまった)。ク˞ビイツァヌ˥　ア˞チメー　ヌー˥シヤー。ピ˞サーピサーヌ　サンブイツァバ˥ル　シゥ˞カイヨーッ˥タ˞ダー [ku˞biʔitsanu˥ ʔa˞ʧimeː nuː˥ʃijaː。pị̣˞saːpisaːnu sambuʔitsaba˥ru sị̣˞kaijoːtˀta˞daː](壁板の厚みはどうかね。薄い三分板を＜ぞ＞使われたよ)。

ア˞チ˥ムヌ [ʔa˞ʧi˥munu] 【名】熱いもの。炊き立ての熱い御飯、食物。ア˞チ˥ムノー　˞ピーラシ˥ティ　ッ˞ふァイ˥バ [ʔa˞ʧi˥muno: ˞piːraʃị̣˞ti f˞fai˥ba](熱いものは冷まして食べなさい)。

˥アチャー [˥ʔatʃaː] 【名】父。名称、呼称ともに用いる。˞バン˥テヌ　˥アチャー　˥キノー　ウ˞キ˥ナー　˞オーッ˥タ [˞ban˥tenu ˥ʔatʃaː ˥kino: ʔu˞ki˥naː ˞ʔoːt ˥ta](私の家のお父さんは昨日沖縄へ行かれた)。ア˞チャー　キュー˥ヤ　˞パイ˥サ　ユクイ˞オー˥リ [ʔa ˞ʧaː kjuː˥ja ˞paiˀsa jukui˞oː˥ri](お父さん、今日は早くお休みなさい)。おもろ語の「あさ」(「親」の同義語、集落の長老) と同じことばであろう、との説がある。

ア˞チ˥ユー [ʔa˞ʧi˥juː] 【名】熱い湯。熱湯。ア˞チユー˥ヤ　ン˞メーマ　ピーラ˥シティ　˥サー　˞サウバル˥　ン˞マートダー [ʔa˞ʧijuː˥ja ʔm˞meːma piːra˥ʃị̣ti ˥saː ˞saubaru˥ ʔm˞maːɨdaː](熱湯は少し冷ましてから茶を入れた＜注いだ＞ほうが美味しいよ)。

ア˞チ˥ライ [ʔa˞ʧi˥rai] 【名】誂え。注文。シ˞ナムノー˥　トゥ˞カ˥グゥーアンマー　マ˞チヤー˥ナ　ア˞チ˥ライ˥シケーバ　˥ムティキー　˞フィーリ˥ヨー [ʃi ˞namunoː˥ tụ˞ka˥gwaːʔamma: ma˞ʧijaː˥na ʔa˞ʧi˥rai ˥ʃị̣keːba ˥mutikiː f˞fiːri˥joː](品物はトゥカグゥー姉さんのお店に注文してあるから持ってきてくれよ)。

ア˞チライ˥ルン [ʔa˞ʧirai˥ruŋ] 【他動】誂える。発注する。「嘱・勧、アツラフ」『類聚名義抄』の転訛したもの。シ˞ナムノー˥　イ˞サナケー˥　ア˞チライ˥ルンティ　タ˞ナ˥ミ　˞ベー [ʃi˞namunoː˥ ʔi˞sanakeː ˥ ʔa˞ʧirai˥runti ta˞na˥mi ˞beː](品物は石垣へ注文＜誂えようと＞しようと頼んでいる)。˥ドゥー　˞カッティニ˥　ア˞チラーラ˥ヌ [˥duː ˞kattini˥ ʔa˞ʧiraːra ˥nu](自分勝手に誂えられない)。シ˞ナムノー˥　ア˞チライ˥ル＜ア˞チ˥ラウ＞　˥クトー　˥ナルン [ʃi˞namunoː˥ ʔa˞ʧirai˥ru ＜a˞ʧ˥rau＞ ˥kụtoː ˥naruŋ](品物は誂えることは出来る)。ア˞チライ˥レー＜ア˞チライ˥ヤー＞　˥ミサムヌ [ʔa˞ʧirai˥reː ＜a˞ʧrai˥jaː＞ ˥misamunu](誂えば良いのに)。ア˞チライ˥リ [ʔa˞ʧirai˥ri](誂えよ)。

ア˞チ˥ラウン [ʔa˞ʧi˥rauŋ] 【他動】注文する。注文して作らせる。あつらえる (誂える)。「嘱・勧、アツラフ」『類聚名義抄』の転訛したもの。シ˞ナムヌ˥　ア˞チ˥ラウンティ　˞スンドゥ˥　フ˞ニ˥ヌ　˞クー˥ンダ　ア˞チラーラ˥ヌ [ʃi˞namunu˥ ʔa˞ʧi˥raunti ˞sundu˥ ɸu˞ni˥nu ˞kuː˥nda ʔa˞ʧiraːra˥nu](品物を注文しよう＜誂えよう＞とするが、船が来ないので誂えられない)。˞カッティニ˥　ア˞チ˥ライ　˥ミサカー　ア˞チ˥ラウ　˥クトー　˥ナルン [˞kattini˥ ʔa˞ʧi˥rai ˥misakaː ʔa˞ʧi˥rau ˥kụtoː˥ naruŋ](勝手に誂えて良ければ誂えるることは出来る)。˥ドゥーシ　ア˞チ˥ライ [˥duːʃi ʔa˞ʧi˥rai](自分で注文しろ＜誂えろ＞)。ア˞チライ˥ルン [ʔa˞ʧirai˥ruŋ](誂える) と同じ。ヤー˞ディンティ˥　ア˞ズ˥スクン　˞デー˥カ　バー　ア˞チ˥ラウン˞ダー [ja˞dinti˥ ʔa˞ʤu˥sụkun ˞deː˥kaː ˥baː ʔa˞ʧi˥raun˞daː](是非にというのであれば、私

は注文するよ)。アˈチラー˥ヌ [ʔaˈʧiraː˥nu](誂えない)。ˈパー˥ク　アˈチライ˥ヤー　˥ミサムヌ [ˈpaː˥ku ʔaˈʧirai˥jaː ˥misamunu](早く注文すれば良いのに)。アˈチ˥ライバ [ʔaˈʧi˥raiba](注文しなさい＜誂え＞よ)。シˈナムヌ˥　アˈチ˥ラウン [ʃiˈnamunu˥ ʔaˈʧi˥rauŋ](品物を誂える)。アˈチライ˥　プサン [ʔaˈʧirai ˥ pu̥saŋ](誂えたい)。˥プサカー　ˈパー˥ク　アˈチ˥ラウ　˥クトゥ [˥pusakaː ˈpaː˥ku ʔaˈʧi˥rau ˥ku̥tu](欲しければ早く誂えることだ)。

アˈチラ˥スン [ʔaˈʧira˥suŋ] 【他動】温める。冷めたお汁などを温める。賑やかにする。お汁を温める場合はアˈツァ˥スンとも言う。˥スー　アˈチラ˥スンティ　ˈベー˥ヌンドゥ　ムッˈトゥ˥　アˈチラサラ˥ヌ [˥suː ʔaˈʧira˥sunti ˈbeː˥nundu mutˈtu˥ ʔaˈʧirasara ˥nu](お汁を温めようとしているが、ちっとも温められない)。アˈチラ˥シ　˥ミサカー　アˈチラ˥ス＜アツァス＞　˥クトー　ナルンˈダー [ʔaˈʧira˥ʃi ˥misakaː ʔaˈʧira˥su ＜atsasu＞ ˥ku̥toː narunˈdaː](温めて良ければ温めることはできるよ)。アˈチラ˥シェー　˥ミサムヌ [ʔaˈʧira˥ʃeː ˥misamunu](温めれば良いのに)。アˈチラ˥シバ [ʔaˈʧira˥ʃiba](温めなさいよ)。

アˈチ˥ルン [ʔaˈʧi˥ruŋ] 【自動】熱くなる。お汁等が温まる。˥ピー　ˈタスク˥カー　ˈスー˥ヤ　ˈナンク˥ル　アˈチ˥ルン [˥piː ˈtasu̥ku˥kaː ˈsuː˥ja ˈnaŋku˥ru ʔaˈʧi˥ruŋ](火を焚き付けるとお汁は自然に熱くなる)。ˈスー˥ヤ　マˈダ˥　アˈチラ˥ヌ [ˈsuː˥ja maˈda˥ ʔaˈʧira˥nu](お汁はまだ温まらない)。キˈサーティ˥　アˈチ˥レーン＜アチェーン＞[kiˈsaːti˥ ʔaˈʧi˥reːŋ ＜˥ ʔaʧeːŋ＞](既に熱くなった)。アˈチ˥リ　ˈナー˥ヌ [ʔaˈʧi˥ri ˈnaː˥nu](熱くなってしまった)。ˈオーパ˥ヤー　アˈチ˥ル　˥クトー　ˈナー˥ヌ [ˈʔoːpa˥ja: ʔaˈʧi˥ru ˥ku̥toː ˈnaː˥nu](こんなに早く温まることはない)。ˈパー˥ク　アˈチ˥レー　˥ミサムヌ [ˈpaː˥ku ʔaˈʧi˥reː ˥misamunu](早く温まれば＜熱くなれば＞いいのに)。

アッ [ʔaʔ] 【感】あッ!! 突然の事態に応じて発する驚きの声。ˈアッ　デー˥ジ　ˈシーナー˥ヌ　ˈキッ˥プ　ˈバシキ˥　キーˈナー˥ヌ [ˈʔaʔ deː˥ʤi ˈʃiːnaː˥nu ˈkip˥ pu ˈbaʃi̥ki˥ kiːˈnaː˥nu](あっ!　大変だ。切符を忘れて来てしまった)。

˥アツァ [˥ʔatsa] 【名】明日。「〜安志多＜アシタ＞には門に出で立ち〜。万、4209」の転訛したもの。˥アツァ　シˈトゥム˥ティ　クーˈナー [˥ʔatsa ʃi̥ˈtumu ˥ti kuːˈnaː](明日の朝、来ようねえ)。アˈツァ˥ヌ　クトー　ッˈサヌ [ʔaˈtsa˥nu ku̥toː sˈsanu](明日　のことは知らない)。アˈツァ˥ヌ　ˈユー˥ヤ　ムーˈル˥　アˈツァ˥マリˈヨー [ʔaˈtsa˥nu ˈjuː˥ja muːˈru˥ ʔaˈtsa ˥mariˈjoː](明晩＜明日の夜＞はみんな集まれよ)。˥アツァー　アˈミ˥ヌ　˥フーンツォー [˥ʔatsaː ʔaˈmi˥ nu ˥ɸuːntsoː](明日は雨が降るそうだ)。アˈツァ˥ヌ　˥クトゥ [ʔaˈtsa˥nu ˥ku̥tu](明日のこと)。アˈツァー˥ラ　ˈガッ˥コー　パˈジマルン [ʔaˈtsaː˥ra ˈgak˥koː pa ˈʤimaruŋ](明日から学校が始まる)。

˥アツァー [˥ʔatsaː] 【名】暑さ。熱気。ˈキュー˥ヌ　˥アッツァー　ˈデー˥ジˈダー˥　ミˈナ˥カー　ˈナー˥トンˈジララ˥ヌ [ˈkjuː˥nu ˥ʔattsaː ˈdeː˥ʤiˈdaː˥ miˈna˥kaː ˈnaː˥to ʔnˈʤirara˥nu](今日の暑さは大変だぞ、庭へなど出ることは出来ない)。

アˈツァー˥ン [ʔaˈtsaː˥ŋ] 【形】熱い。イˈツァー˥ン [ʔiˈtsaː˥ŋ](熱い。痛い) ともいう。アˈチˈユー˥ヤ　アˈツァー˥ンダ　ヌˈマラ˥ヌ [aˈʧi ˈjuː˥ja ʔaˈtsaː˥nda nu ˈmara˥nu](お湯は熱いから飲めない)。˥ドゥク　アˈツァー˥ムノー　ヌˈム˥ナ　ンˈメーマ˥　ミˈジ　バイティ˥　ヌミ [˥duku ʔaˈtsaː˥muno: nuˈmu˥na ʔmˈmeːma˥ miˈʤi baiti˥ numi](あんまり熱いものは飲むな。少し水で割って＜薄めて＞飲みなさい)。アˈツァー˥ヌ　ヌˈマラ˥ヌ [ʔaˈtsaː˥nu nuˈmara˥nu](熱くて飲めない＜飲まれない＞)。ˈナン˥ゾー　アˈツァー　ナー˥ヌ [ˈnan˥ʤo: ʔaˈtsaː naː˥nu](あまり熱くない)。

アツァˈアシ˥トゥ [ʔatsaˈʔaʃi̥˥tu] 【名】明日、明後日。この一両日。アツァˈアシ˥トー　イˈサナケーラヌ˥　フニーン　ˈペー˥リ　ˈキー˥ス　˥パジ [ʔatsaˈʔaʃi̥ ˥to: ʔiˈsanakeːranu˥ ɸuniːm ˈpeː˥ri ˈkiː˥su ˥paʤi](明日明後日は石垣からの船も入港する＜入ってくる＞はずだ)。

アˈツァキクッ˥ツァーン [ʔaˈtsakikut˥tsaːŋ] 【形】暑苦しい。ティˈダ˥ヌ　ˈスー˥ワサーリ　カˈジン˥　トゥˈリティ　キュー˥ヌ　˥アツァキˈクッ˥ツァー　ムˈヌ　ウモーラ˥ヌ [tiˈda˥nu ˈsuː˥wasaːri kaˈʤin˥ tuˈriti kjuː˥nu ˥ʔatsakiˈkut˥tsaː muˈnu˥ ʔuˈmoːra˥nu](太陽の熱が強く、風も凪ぎ、無風状態で、今日の暑苦しさはとてもやりきれない＜ものごとが考えられない、思考停止の状態だ＞)。

˥アツァ　シˈトゥム˥ティ [˥ʔatsa ʃi̥ˈtumu˥ti] 【連】明日の朝。明朝。˥アツァ　シˈトゥム˥テー　ˈトゥンナキン˥ラ　ウˈキ˥リˈヨー [˥ʔatsa ʃi̥ˈtumu˥teː ˈtunnakin˥ra ʔuˈki˥riˈjoː](明朝＜明日の朝＞は暁から＜鶏鳴時刻から＞に起きなさい＜起きれ＞よ)。˥アツァ

は、「あした」の第 2 音節 [ʃi] の前舌狭母音 [i] によって第 3 音節の [t] が口蓋化され、破擦音化して [tsa] となったもの。シ˩トゥム˥ティ [ʃi̥˩tumu˥ti] は、「つとめて」の転訛したもの。˥アツァ　シ˩トゥム˥テー　˩トゥンナキンラ˥　ウキティ　˩パイ˥ター　˥パル　ス˩コール　シー˥ヨー [˥ʔatsa ʃi̥˩tumu˥te: ˩tunnakinra˥ ʔukiti ˩pai˥ta: ˥paru sṵ˩ko:ru ʃi:˥jo:](明日の朝は早朝 < 鶏鳴の時刻 > より起きて西表島 < 南端 > へ行く準備をしなさいよ)。

ア˩ツァ˥スン [ʔa˩tsa˥suŋ] 【他動】1お汁を温める。熱くする。カ˩ティ˥ムノー　ア˩ツァ˥シティ　ン˩ザ˥シバ [ka˩ti˥muno: ʔa˩tsa˥ʃi̥ti ʔn˩ʤa˥ʃiba](おかずは温めて出しなさいよ)。˥スー　ア˩ツァ˥スンティ　˩スンドゥ˥　ア˩ツァサラ˥ヌ [˥su: ʔa˩tsa˥sunti ˩sundu˥ ʔa˩tsasara˥nu](お汁を温めようとするが、温められない)。ア˩ツァ˥シ　˥ミサカー　ア˩ツァ˥ス　˥クトー　˥ナルン [ʔa˩tsa˥ʃi ˥misaka: ʔa˩tsa˥su ˥kṵto: ˥naruŋ](温めてよければ、温めることは出来る)。˩パー˥ク　ア˩ツァ˥シェー　˥ミサムヌ [˩pa:˥ku ʔa˩tsa˥ʃe: ˥misamunu](早く温めれば良いのに)。ア˩ツァ˥シバ [ʔa˩tsa˥ʃiba](温めよ)。2賑やかにする。˩ヤー˥ヤピールボール　ナ˩ラ˥シ　シ˩キラン˥ドーシ　˩サンシン˥　ピ˩キティ˥　ア˩ツァ˥シバ [˩ja:˥ja ˥pi:rubo:ru na˩sa˥ʃi ʃi˩kiran˥do:ʃi ˩saŋʃim˥ pi˩kiti˥ ʔa˩tsa˥ʃiba](家は冷え冷えとしておかないで、三味線を弾いて賑やかにしなさい < 温めなさい > よ)。

ア˩ツァ˥ヌ　˥ユー [ʔa˩tsa˥nu ˥ju:] 【連】明日の夜。明晩。ア˩ツァ˥ヌ　˩ユー˥ヤ　˩ウイヌ˥ウガンナーティ　˩ユードゥー˥シ　˩ソー˥ルン [ʔa˩tsa˥nu ˩ju:˥ja ˩ʔuinu˥ʔuganan:ti ˩ju:du:˥ʃi ˩so:˥ruŋ](明晩 < 明日の夜 > は友利御嶽 < 上の御嶽 > でユードゥーシの祈願をされる)。

ア˩ツァ˥マルン [ʔa˩tsa˥maruŋ] 【自動】集まる。むらがる。サ˩タムラ˥シナー　˩アールヌ˥　ヤ˩マシ˥カ　ア˩ツァ˥マリ　˩ベー [sḁ˩tamura˥ʃina: ˩ʔa:runu˥ ja˩maʃi̥˥ka ʔa˩tsa˥mari ˩be:](黒砂糖の塊に蟻がたくさん集まっている)。˩アールヌ˥　ア˩ツァ˥マルン [˩ʔa:runu˥ ʔa˩tsa˥maruŋ](蟻が集まる)。フ˩チ˥ル　˥マクカー　ア˩ツァマラ˥ヌ [ɸṵ˩tʃi˥ru ˥makuka: ʔa˩tsa-mara˥nu](薬品を撒いたら集まらない)。ア˩ツァ˥マル˥クトー　˩ナー˥ヌ [ʔa˩tsa˥maru ˥kṵto: ˩na:˥nu](集まることはない)。˥クナー　ア˩ツァ˥マレー　˥ミサムヌ [˥kuna: ʔa˩tsa˥mare: ˥misamunu](ここに集まれば良いのに)。プ˩スヌ˥　ア˩ツァ˥マルンティ　ス˩クタヌ˥　マ˩ダ˥　ア˩ツァマラ˥ヌ [pṵ˩sunu˥ ʔa˩tsa˥marunti sṵ˩kutanu˥ ma˩da˥ ʔa˩tsamara˥nu](人が集まると聞いたが、まだ集まらない)。ア˩ツァ˥マリ　˥ミサカー　ア˩ツァ˥マル　˥クトー　˥ナルン [ʔa˩tsa˥mari ˥misaka: ʔa˩tsa˥maru ˥kṵto: ˥naruŋ](集まって良ければ集まることは出来る)。ア˩ツァ˥マレー　˥ミサムヌ [ʔa˩tsa˥mare: ˥misamunu](集まれば良いのに)。ア˩ツァ˥マリバ [ʔa˩tsa˥mariba](集まれよ)。ア˩ツァ˥マリ [ʔa˩tsa˥mari](集まれ)。

ア˩ツァ˥ミカツァミ [ʔa˩tsa˥mikatsami] 【副】掻き集めて。寄せ集めて。ABCDBC 型の重言。˩ヤー˥ナ　˥アル　˩ジン˥バ　ア˩ツァ˥ミカツァミ　˩シェー˥ティ　ヤッ˩トゥ˥シ　タ˩ラーシ　クー˥タ [˩ja:˥na ˥ʔaru ˩ʤim˥ba ʔa˩tsa˥mikatsami ˩ʃe:˥ti jat˩tu˥ʃi ta˩ra:ʃi ku:˥ta](家にあるお金を掻き集めて、やっとのことで必要額に満たして < 足らして > きたよ)。

ア˩ツァミ˥ルン [ʔa˩tsami˥ruŋ] 【他動】集める。バ˩コーシン˥カ　ア˩ツァミ˥ルンティ　˩マーリアーク˥ヌ　˩マー˥　フ˩ター˥ロー　タ˩ラーンバン [ba˩ko:ʃiŋ˥ka ʔa˩tsami˥runti ˩ma:riʔa:ku˥nu ˩ma:˥ ɸṵ˩ta:˥ro: ta˩ra:mbaŋ](共同作業の人員を集めようと回っているが、あと二人は足りないよ)。ア˩ツァミラ˥ヌ [ʔa˩tsamira˥nu](集めない)。ア˩ツァミ˥ル　˥クトゥ [ʔa˩tsami˥ru ˥kṵtu](集めること)。ア˩ツァミ˥レー　˥ミサムヌ [ʔa˩tsami˥re: ˥misamunu](集めれば良いのに)。ア˩ツァミ˥リ [ʔa˩tsami˥ri](集めろ)。シ˩ナムヌ˥　ア˩ツァミ˥ルンティ　˩スンドゥ˥　ア˩ツァミララ˥ヌ [ʃi˩namunu˥ ʔa˩tsami˥runti ˩sundu˥ ʔa˩tsamirara˥nu](品物を集めようとするが、集められない)。ア˩ツァミ˥ル　プ˩ソー　パー˥ク　ア˩ツァミ˥レー　˥ミサムヌ [ʔa˩tsami˥ru pṵ˩so: pa:˥ku ʔa˩tsami˥re: ˥misamunu](集める人は、早く集めれば良いのに)。˩ワー˥　ア˩ツァミ˥リバ [˩wa:˥ ʔa˩tsami˥riba](君は集めなさいよ)。

˥アツァムイサン [˥ʔatsamuisaŋ] 【形】暑がりである。普通以上に暑さを感じがちである。「暑さ・思いさあり」の義で、その融合変化した形。˩ムイ˥サン [˩mui˥saŋ](～がり) は接尾語。ドゥ˩クヌ　˥アツァ　˩プーマキサーリ˥　アツァムイサ　˩スー˥　ッ˩ふァバ　ユードゥー˥シ　˩オンギ˥ドゥル　˩シー˥　ニ˩バソーッ˥タ [du˩ku˥nu ˥ʔatsa ˩pu:makisa:ri˥ ʔatsamuisa ˩su:˥ f˩faba ju:du˥ʃi ˩ʔoŋgi˥duru ˩ʃi:˥ ni˩baso:t˥ta](あまりの蒸し暑さと、ほめく < 熱く。熱気をおびる > ように暑がる子供を夜通し扇いで < 扇取りをして > 寝かされた)。ウ˩レー˥　アツァムイサ　˩スー　˥クトー　˥アツァムイサ　˩スンド

ゥ　⌝ニジーン　⌜スン⊦ダー [ʔu⌜re:⌝ ʔatsamuisa ⌜su:⌝ ku̥to: ⌝ʔatsamuisa ⌜sundu⌝ niʤi:n ⌜sun⊦da:](あれは暑がることは暑がりはするが、我慢もするよ)。ウ⌜レー　ナン⌝ゾー　⌝アツァムイサ　サ⌜ヌ [ʔu⌜re: nan⌝ʥo: ⌝ʔatsamuisa sa⌜nu](彼はあまり暑がらない)。

ア⌜ツァ⌝ムン [ʔa⌜tsa⌝muŋ]【他動】集める。「あつむ (下二段)」の四段化したもの。ア⌜ツァミ⌝ルン [ʔa⌜tsami⌝ruŋ] と同じ。⌜プール⌝ヌ　グ⌜サーク⌝マイ　ア⌜ツァ⌝ムン [⌜pu:ru⌝nu gu⌜sa:ku⌝mai ʔa⌜tsa⌝muŋ](豊年祭の五勺米を集める)。ア⌜ツァマ⌝ヌ [ʔa⌜tsama⌝nu](集めない)。⌝キュー　ア⌜ツァ⌝ミ　⌝ミサカー　ア⌜ツァ⌝ム　⌝クトー　⌝ナルン [⌝kju: ʔa⌜tsa⌝mi ⌝misaka: ʔa⌜tsa⌝mu ⌝ku̥to: ⌝naruŋ](今日集めて良ければ集めることは出来る)。ア⌜ツァ⌝メー　⌝ミサムヌ [ʔa⌜tsa⌝me: ⌝misamunu](集めれば良いのに)。ア⌜ツァ⌝ミバ [ʔa⌜tsa⌝miba](集めろよ)。カ⌜ツシンシンカ⌝　ア⌜ツァ⌝ムンティ　ウ⌜ムータン⌝ドゥ　マ⌜ナ⌝マー　ア⌜ツァマ⌝ヌ [kḁ⌜tsuʃiŋʃiŋka⌝ ʔa⌜tsa⌝munti ʔu⌜mu:tan⌝du ma⌜na⌝ma: ʔa⌜tsama⌝nu](カツオ漁船の船員を集めようと思ったが、今は集めない)。ア⌜ツァ⌝ミ　⌝ミサカー　ア⌜ツァ⌝ム　⌝クトー　⌝ナルン [ʔa⌜tsa⌝mi ⌝misaka: ʔa⌜tsa⌝mu ⌝ku̥to: ⌝naruŋ](集めてよければ集めることは出来る)。ア⌜ツァ⌝メー　⌝ミサムヌ [ʔa⌜tsa⌝me: ⌝misamunu](集めれば良いのに)。⌜パー⌝ク　ア⌜ツァ⌝ミバ [⌜pa:⌝ku ʔa⌜tsa⌝miba](早く集めろよ)。

⌝アツァユネン [⌝ʔatsajuneŋ]【名】明日の夕方。みょうせき (明夕)。「明日のゆうべ」の義。⌝アツァユネンラー　⌜ユードゥーシ⌝ヌ　⌝グシパナヌ　ス⌜コール　シーソー⌝ル [⌝ʔatsajunenra ⌜ju:du:ʃi⌝nu ⌝guʃipananu su̥⌜ko:ru ʃi:so:⌝ru](明日の夕方 < 名夕 > からユードゥーシの供物の神酒、花米の準備をされる < しなさる >)。⌝アツァユネン　マー⌜ズン　ユー⌝シゥカイ　⌜シン⌝　パラ⌜ナー [⌝ʔatsajunem ma:⌜ʥuŋ ⌜ju:⌝si̥kai ⌜ʃim⌝ para⌜na:](明晩は一緒に夜の追い込み漁 < 夜の網使い > に行こうね)。

⌝アツァン [⌝ʔatsaŋ]【形】暑い。⌝ティダナカー　⌝アツァンダ　⌝カサ　カ⌜バン⌝カー　⌝フカー　ン⌜ジララ⌝ヌ [⌝tidanaka: ⌝atsanda ⌝kḁsa ka⌜baŋ⌝ka: ⌝ɸu̥ka: ʔn⌜ʤirara⌝nu](ひなた < 日向 > は暑いからクバ笠を被らないと外へは出られない)。⌝ドゥク　アツァ　⌜ナー⌝ヌ [⌝duku ⌝ʔatsa ⌜na:⌝nu](あまり暑くない)。⌜シンダイ⌝　アツァ　⌝ナルン [⌜ʃindai⌝ ʔatsa ⌝naruŋ](次第に暑くなる)。⌝アツァ　⌝ピンマー　⌜ユー⌝クイバ [⌝ʔatsa ⌝pimma: ⌜ju:⌝kuiba](暑い時は休み < 憩い > なさいよ)。

ア⌜ツァ⌝ン [ʔa⌜tsa⌝ŋ]【形】1厚い。ク⌜ヌ⌝　カ⌜ベー⌝　ア⌜ツァ⌝ンダ　キ⌜サラ⌝ヌ [ku⌜nu⌝ ka⌜be:⌝ ʔa⌜tsa⌝nda ki̥⌜sara⌝nu](この紙は厚いから切ることが出来ない < 切られない >)。ア⌜チミヌ⌝　ア⌜ツァ⌝ヌ　サ⌜カラ⌝ヌ [ʔa⌜ʧiminu⌝ ʔa⌜tsa:⌝nu sḁ⌜kara⌝nu](厚みが暑くて裂かれない)。ア⌜ツァ⌝　ムノーラ　イ⌜ラ⌝ビバ [ʔa⌜tsa⌝muno:ra ʔi⌜ra⌝bi](厚いものから選べ)。ア⌜ツァ⌝カー　シゥ⌜カーリン [ʔa⌜tsa⌝ka: si̥⌜ka:riŋ](厚かったら使える)。2篤い。親しい。⌜カン⌝ネヌ　プ⌜ソー⌝　ウ⌜トゥザマリ⌝　イッ⌜ケナ⌝　ア⌜ツァー⌝　ア⌜ロー⌝ルン [⌜kan⌝nenu pu̥⌜so:⌝ ʔu⌜tuʥamari⌝ ʔik⌜kena⌝ ʔa⌜tsa:⌝ ʔa⌜ro:⌝ruŋ](あの家の人は親戚一同大変親しくしておられる < 親類意識が篤い >)。キ⌜ム⌝ヌ　ア⌜ツァー⌝　クトー　ア⌜ツァー⌝ンドゥ　⌜ジン⌝ヌル　⌜ナー⌝ヌ [ki⌜mu⌝nu ʔa⌜tsa:⌝ ku̥to: ʔa⌜tsa:⌝ndu ⌜ʤin⌝nuru ⌜na:⌝nu](情が篤いことは篤いのだが、お金がない)。

⌝アツァン　⌝ギサン [⌝ʔatsaŋ ⌝gisaŋ]【連】暑そうだ。カ⌜マン⌝　トンマー　イッ⌜ケン⌝　アツァン　⌝ギサン [ka⌜man⌝tomma: ʔik⌜keŋ⌝ ʔatsaŋgisaŋ](あそこは非常に暑そうだ)。

⌝アック [⌝ʔakku]【名】悪口。他人を悪し様にいうこと。ウ⌜リン⌝　アック　シ⌜ラリティ⌝　ドゥーヨーリ　⌜シーナー⌝ヌ [ʔu⌜riŋ⌝ ʔakku ʃi⌜rariti⌝ du:jo:ri ⌜ʃi:na:⌝nu](そいつに呪われて < 悪口されて > 病弱になってしまった < 胴弱りしていまった >)。

⌜アックー [⌜ʔakku:]【名】悪口、悪罵。他人を罵り、あしざまにいうこと。沖縄本島糸満方言からの借用語か。普通は、ヤ⌜ナ⌝グチ　⌜ゴー⌝グチ [ja⌜na⌝guʧi ⌜go:⌝guʧi](悪口、罵詈雑言) という。ウ⌜リンマ⌝ヨー　イッ⌜ケナ⌝　アックー　シ⌜ラリ　ミッ⌝タン [ʔu⌜rimma⌝jo: ʔik⌜kena⌝ ʔakku: ʃi⌜rari mit⌝taŋ](そいつにはひどく罵られた < 悪口された > ことがある)。

⌜アックームックー [⌜ʔakku:mukku:]【名】悪口。罵詈雑言。⌜アッコームッコー [⌜ʔakko:mukko:](悪口、罵詈雑言) ともいう。プ⌜スンナー⌝ニ　⌝アックームックー　サ⌜リティ⌝　カー⌜ネー　ブンナ⌝ヨー [pu⌜sunna:⌝ni ⌝ʔakku:mukku: sa⌜riti⌝ ka:⌜ne: bunna⌝jo:](他人に罵詈雑言をあびせられて < 悪口されて > ばかりいるなよ)。

⌝アックームックー [⌝ʔakku:mukku:]【名】悪口雑言。罵詈雑言。ABCDEBCD 型の重言。⌜ウンヌ　マーラー⌝　ナカー　⌜ワッ⌝サリ　ブ⌜レー⌝ンダ　イ⌜カス⌝ク　⌝アックームックー　シ⌜ラレー⌝ワ⌜ツォー [⌜

unnu maːraː˥ nakaː ˩was˥sari bu˩reː˥nda ʔi˩kasu̥˥ku ˥ʔakkuːmukkuː ʃi˩rareː˥wa˩tsoː](その頃は、仲が悪かったからどれほど罵詈雑言＜悪口雑言＞を言われたことか)。

˩アッ˥タ ˩ター˥ナ [˩ʔat˥ta ˩taː˥na] 【連】もとのままに。もとの通りに。もとあった通りに。ヨー˩ヨー キー˥ シ˩キ˥リ˩ダー˥ ク˩レー アッ˥タ ˩ター˥ナ シ˩キ˥リ。˩ウーカ˥シェー ナ˩ラ˥ヌ [joː˩joː kiː˥ ʃi̥˩ki˥ri ku˩reː ˩ʔat˥ta ˩taː˥na ʃi̥˩ki˥ri。˩ʔuːka˥ʃeː na˩ra˥nu](よくよく気をつけろよ。これはもと在ったとおりにしておきなさい。動かしてはならないよ)。

˩アッ˥タニ [˩ʔat˥tani] 【副】急に。不意に。にわかに。だしぬけに。突然に。˩アッ˥タニ ˩オ (ー) シケー˥ヤ˩ブ˥リ ニ˩シカジヌ˥ ウティキー ˩ナーン˥バン [˩ʔat˥tani ˩ʔo(ː)ʃi̥keː˥ ja˩bu˩ri ni˩ʃikaʤinu˥ ʔutikiː ˩naːm˥baŋ](急に天気が崩れて＜破れて＞北風が吹き降ろしてきて＜落ちてきて＞しまった)。˩アッ˥タニ ˩トゥンジ˥ キーティ プ˩ス˥ ウ˩バースナ [˩ʔat˥tani ˩tunʤi˥ kiːti pu̥˩su˥ ʔu˩baːsuna](急に飛び出してきて人を驚かせるな)。˥カイブ シ˩グトゥバ アッ˥タニ ˩スー˥カー ˥ドゥー ヤ˩マ˥スン [˥kaibu ʃi˩gutuba ʔat˥tani suː˥kaː ˥duː ja˩ma˥suŋ](こんな仕事を急にやると体を損ねる＜病ます＞)。

˩アッ˥タラ [˩ʔat˥tara] 【副】あたら。惜しくも。もったいないことに。バ˩カー˥ムンヌ ˩アッ˥タラ ヌ˩チ˥バ イ˩ク˥サナ シ˩ティト ナー キ˩ムイ˥ツァー [ba˩kaː˥munnu ˩ʔat˥tara nu˩ʧi˥ba ʔi˩ku˥sana ʃi̥˩tiɨ-naː ki˩mui˥tsaː](若者が、あたら命を戦争で落として＜捨てて＞しまってねえ。可哀そうに)。

アッタラ˩シェー˥マ [ʔattara˩ʃeː˥ma] 【名】可愛い子。いとし子。アッタラ˩シェーマー˥ ミサナリ ˩アークタン [ʔattara˩ʃeːmaː˥ misanari ˩ʔaːkutaŋ](可愛い子よ、元気だったか＜元気でいたか＞)。

˩アッ˥タルムヌ [˩ʔat˥tarumunu] 【名】大切なもの。大事なもの。「可惜 (あたら) もの」から転訛したもの。˩アッ˥タルムヌバ ッ˩ふァイヤー˥ サ˩ムティ˥ ヌンティ シ˩ティッツァーシ˥ シケーワ [˩ʔat˥tarumunuba f˩faija˥ sa˩muti˥ nunti ʃi̥˩tittsaːʃi˥ ʃi̥keːwa](折角の大事な＜勿体ない＞ものを食べはしないで、何ゆえに捨てちらかしてあるのか)。「あたらもの (可惜もの)」「〜木に伐り行きつ安多良＜アタラ＞船木を。万、391」の転訛。˩アッ˥タル˥ムヌバ ミシー˩ミシ˥ シ˩ティル˥ シ˩ター [˩ʔat˥taru ˥munuba miʃiː˩miʃi˥ ʃi̥˩tiru˥ ʃi̥˩taː](あたら大事なものを、みすみす紛失したのか＜捨ててしまったのか＞)。

˥アッパ [˥ʔappa] 【名】祖母。お祖母さん。親族名称、呼称。他家の祖母に対してもアッパ [˥ʔappa] という。アッ˩パー˥ ミサナリ ˩オーッタン [ʔap˩paː˥ misanari ˩oːttaŋ](お祖母さん、お元気でいらっしゃいましたか)。˩バン˥テヌ ˥アッパー ˩トーカキ˥ヌ ˥ヨイ ˩ソー˥レーン˩ダー [˩ban˥tenu ˥ʔappaː˩ toːkaki˥nu joi ˩soː˥reːn˩daː](私の家の祖母は米寿の祝いをされましたよ)。

˩アッパン˥ガナー [˩ʔappaŋ˥ganaː] 【名】わがままな女。したい放題に振舞う女。放埒な女。自暴自棄。˥アイブ ˩アッパンガナー˥バ トゥ˩ジ˥ティ ˩シー サーリ˥キ ˩ベー˥ヌ ウ˩ティ˥スクンカヤー [˥ʔaibu ˩ʔappaŋganaː˥ba tu˩ʤiti ʃiː saːri˥kiː ˩beː˥nu ʔu˩tisu̥˥kuŋkajaː](あんなわがまま女を妻に迎えて＜妻として連れてきて＞いるが落ち着くかなあ)。

˩アッピャー [˩ʔappjaː] 【感】あれっ。なんとまあ。意外なことに驚いて発することば。˩アッピャー˥ ＜˥アガイヤー＞ タンザヌ ˩シーワザ˥ヤ ク˩レー [˩ʔappjaː˥ ＜˥ʔagaijaː＞ tanʤanu ˩ʃiːwaʤa˥ja ku˩reː](何とまあ、どいつの仕業か、これは)。

˩アップアッ˥プ [˩ʔappuʔap˥pu] 【副】擬態語。溺れてもがき苦しむさま。水に溺れて両手両足をばたつかせて苦しむさま。ス˩ナカ˥ナー ˩ウッふィティ アップアッ˥プ ˩シー ベー˥タ [su˩naka˥na ˩ʔuffiti ʔappuʔap˥pu ˩ʃiː beː˥ta](海に溺れてアップアップしていた)。

˥アツン [˥ʔatsuŋ] 【自動】熱くなる。温くなる。ア˩チ˥ルン [ʔa˩ʧi˥ruŋ](熱くなる) ともいう。˥ピー ˩タシキ˥ シ˩キ˥ルカー ˩スー˥ヤ ˩ナンク˥ル ˥アツン＜ア˩チ˥ルン＞[˥piː ˩taʃi̥ki˥ ʃi̥˩ki˥rukaː ˩suː˥ja ˩naŋku˥ru ˥ʔatsuŋ ＜a˩ʧ˥ruŋ＞](火を焚き付けておけば、お汁は自然に熱くなる)。˩スー˥ヤ マ˩ダ˥ ア˩ツァ˥ヌ＜ア˩チラ˥マ＞[˩suː˥ja ma˩da˥ ʔa˩tsa˥nu ＜a˩ʧ˥rama＞](お汁はまだ温まらない)。マ˩ナ˥マーラ ア˩チパジミ˥ルン [ma˩na˥maːra ʔa˩ʧipaʤimi˥ruŋ](今から熱くなり始める)。˩パー˥ク ˥アチェー ˥ミサムヌ [˩paː˥ku ˥ʔatʃeː ˥misamunu](早く熱くなれば良いのに)。

ア˩テー˥ アン [ʔa˩teː˥ ʔaŋ] 【連】覚えている。意識はある。「当てはある」の転訛したもの。˥ユベー ˩ワッ˥テナ ヌ˩ム˥タ クトゥ˩バー˥ケー ア˩テー˥ アン [˥jubeː ˩wat˥tena nu˩mu˥ta ku̥tu˩baː˥keː ʔa˩teː˥ ʔaŋ](昨夜は貴方の家で飲んだことまでは記憶がある)。

ア˞テー　ナー˺ヌ [ʔa˞teː naː˺nu] 【連】正気がない。無意識である。気付かない。意識がない。ウ˞リヌ　トー˺リ　˞クター˺ル　ア˞テー　ナー˺ン　カ˞サムタ˺ダー [ʔu˞rinu toː˺ri ˞kuːtaː˺ru ʔa˞teː naː˺ŋ kạ˞samuta˺daː](彼が倒れてきたので無意識に掴んだのだよ)。ユ˞ビ˺ヌ　˺クトー　˞ピッ˺チン　ア˞テー　ナー˺ヌ [ju˞bi˺nu ˺kụtoː ˞pit˺ʧiŋ ʔa˞teː naː˺nu](昨夜のことは何も意識がない)。˺ユビ　˞ワー　オー˺レータンティ　ア˞ズヌ˺　バー　˞ピッ˺チン　ア˞テー　ナーント ツォー [˺jubi ˞wa: ʔoː˺reːtanti ʔa˞ʤunu˺ba: ˞pit˺ʧiŋ ʔa˞teː naːn˧tsoː](昨夜あなたが来られたというが、私は全く気付かなかったんですよ)。

ア˞テーナー˺ン [ʔa˞teːnaː˺ŋ] 【連・副】気付かず。無意識に。覚えず。ア˞テーナー˺ン　ウ˞ヤー˺リティ　プ˞ス˺　ウ˞バーシ˺　シケー [ʔa˞teːnaː˺ŋ ʔu˞jaː˺riti pụ˞su˺ ʔu˞baːʃi˺ ʃị̊keː](覚えず大声をだして < わめいて > 人をびっくりさせてある)。シ˞グトゥブリバ　シーベー˺ティ　ア˞テーナーン˺ケン　ンジパリ˞ナー˺ヌ [ʃi˞gutuburiba ʃiːbeː˺ti ʔa˞teːnaːŋ˺ken ˺ʔnʤipari ˞naː˺nu](仕事に夢中になって < 仕事惚れして > 気付かないうちに出て行ってしまった)。ヨー˞ンナー˺　ムティ　˞クータ˺ヌ　イ˞シ˺ナ　シ˞キッ˺クミティ　ア˞テーナー˺ン　ク˞バ˺シ　シ˞ティナー˺ヌ [joː ˞nnaː˺ muti ˞kuːta˺nu ʔi˞ʃi˺na ʃị̊˞kik˺kumiti ʔa˞teːnaː˺ŋ ku˞ba˺ʃi ʃị̊˞tinaː˺nu](ゆっくり持ってきたが石に蹴躓いてついうっかりこぼしてしまった)。

ア˞ティ [ʔa˞ti] 【名】1当て。頼りになるもの。心積もり。予定。ク˞ヌ˺　ッ˞ふァバ˺　ア˞ティ　シール˺　シ˞マー˺ラ　ンジケー˞ダー [ku˞nu˺ f˞faba˺ ʔa˞ti ʃiːru˺ ʃi˞maː˺ra ʔnʤike:˞daː](この子を当てにして島から出てきたのだよ)。2消息。˞パッ˺タ˞ターナ˺　ア˞ティン˺クティン　˞ナー˺ヌ [˞pat˺ta˞taːna˺ ʔa˞tiŋ˺ kụtin ˞naː˺nu](行ったきり音沙汰もない)。3補強のためにあてがうもの。˺ブリ　˞ベーン˺　トンナー　イ˞ツァ˺ヌ　ア˞ティバ˺　ア˞ティティ˺　フ˞バリ˺　シキバ [˺buri ˞beːn˺tonna ʔi˞tsa˺nu ʔa˞tiba˺ ʔa˞titi˺ ɸu˞bari˺ ʃị̊kiba](折れている所に板の当て < 添え木 > を当てて縛っておきなさいよ)。4宛て。˺バー　ア˞ティヌ˺　ティ˞ガ˺メー　˺ケーンカヤー [˺baː ʔa˞tinu˺ ti˞ga˺meː ˺keːŋkajaː](私宛の手紙は来たか < 届いているか > ねえ)。

ア˞ティ [ʔa˞ti] 【名】当て木。薪割りの際に用いる当て木。一種の枕木。タ˞ム˺ヌ　バ˞ル˺　ピンマー　ア˞ティ˺　シ˞キラン˺カー　˞ブーヌ˺ヌ　˺パー　カ˞カウン˺ダー [ta˞mu˺nu ba˞ru˺ pimmaː ʔa˞ti˺ ʃị̊˞kiraŋ ˺kaː ˞buːnu˺nu ˺paː kạ̊˞kaun˺daː](薪を割る時は当て木 < 枕木 > を置かないと斧の刃は、はこぼれ < 刃毀れ > するぞ)。

ア˞ティカールン [ʔa˞tikaːruŋ] 【自動】予想が変わる。見込みや期待がはずれる。当てが外れる。シ˞ダキヌ˺　パ˞ナシ˺トー　ア˞ティカーリ　イーシ˺ヌ　˞ダイヤー˺　ム˞タン˺ツォー [ʃi˞dakinu˺ pa˞naʃi ˺toː ʔa˞tikaːri ʔiːʃi˺nu ˞daijaː˺ mu˞tan˺tsoː](最初の話とは見当がはずれて < 見込み違いで >、角又の値段は上がら < 持た > ないそうだ)。ア˞キナイ˺ヤー　˞チャー˺　ア˞ティカールン˺。ア˞ティカーラン˺　ムノー　˞ナー˺ヌ [ʔa˞kinai˺jaː ˞ʧaː˺ ʔa˞tikaːruŋ˺。ʔa˞tikaːram˺ munoː ˞naː˺nu](商いは常に当てがはずれる。見込みがはずれない < 見込み違いのない > ものはない)。

ア˞ティガキ [ʔa˞tigaki] 【名】あてがき (宛書)。宛名書き。標準語からの借用語の転訛したもの。ティ˞ガミ˺ヌ　ア˞ティナーガキ˺　カキ　ッ˞ふィーリ [ti˞gami˺nu ʔa˞tinaːgaki˺ kạ̊ki f˞fiːri](手紙の宛名を書いてくれ)。

ア˞ティサキ [ʔa˞tisaki] 【名】あて先。標準語からの借用語の転訛したもの。ティ˞ガミ˺ヌ　ア˞ティサケー˺　カ˞カ˺リ　ブ˞ラーヌ [ti˞gami˺nu ʔa˞tisakeː˺ kạ̊˞ka˺ri bu˞raːnu](手紙の宛先は書かれていない)。

ア˞ティ˺ソー [ʔa˞ti˺soː] 【名】1意識。しょうき (正気)。正常な精神。ア˞ティソー˺ヌ　˞ナーン˺　ナルンケン　˺ビータリ　˞ベー [ʔa˞tisoː˺nu ˞naːn˺ naruŋkem ˺biːtari ˞beː](正気を失う < 正気が無くなる > まで酔いつぶれている)。2思慮分別。ア˞ティソー˺ヌ　˞ナーン˺　ヤ˞ラ˺ビ [ʔa˞ti˺soːnu ˞naːŋ˺ ja˞ra˺bi](思慮分別のない子供)。

ア˞ティチガイ [ʔa˞tiʧigai] 【名】見込み違い。当て外れ。「当て違い」の義。目論見が狂う。˞キュー˺ヌ　ヤ˞クスクバ　シー˺　マティ　˞ベーン˺ドゥ　˞クー˺ヌ　ア˞ティチガイ　シーナーン˺バン [˞kjuː ˺nu ja˞kusụ̊kuba ʃiː˺ mati ˞beːn˺du ˞kuː˺nu ʔa˞tiʧigai ʃiːnaːm˺baŋ](今日の約束をして待っているが来ない。見込み違いをしてしまった)。

ア˞ティックナー [ʔa˞tikkunaː] 【名】子供の遊戯。隠されたものを推量して言い当て競争をする遊び。「当てくらべ」の義。ア˞ティックナーバ　シー˺　ア˞サビベータン˺ドゥ　ア˞タラヌ˺ティ　˞シー˺　ナ˞キベー [ʔa˞tikkunaːba ʃiː˺ ʔa˞sabibeːtan˺du ʔa˞taranu˺ti ˞ʃiː˺ na˞kibeː](言い当てっこをして遊んでいたが、当らないといって泣いている)。

アˈティナーンˀムヌ [ʔaˈtinaːmˀmunu] 【名】思慮分別のない者 (幼児)。アˈティナシ [ʔaˈtinaʃi](思慮分別のない幼児) ともいう。アˈティナーンˀムヌヌ　ˈアーキˀバ　ˈキーˀ　シˈキˀリˈヨー [ʔaˈtinaːmˀmununu ˈʔaːkiˀba ˈkiːˀ ʃi̥ˈkiˀriˈjoː](分別のない者 < 幼児 > が歩き回っているから、気をつけなさいよ)。

アˈティナシ [ʔaˈtinaʃi] 【名】無分別なもの。幼稚なもの。善悪の判断のつかないもの。神口、祈願文のことば。「当て無し」の義。アˈティナシヌˀ　ヤˈラビˀドゥ　ヤˈリバ　カンヌˀマイシ　カˈルイマーˀシ　ピˈキマーシ　サーローˀリ　ウˈヤˀヌ　ティーダˈカシミˀ　タˈブˀローリ [ʔaˈtinaʃinuˀ jaˈrabiˀdu jaˈriba kannuˀmaiʃi kaˈruimaːˀʃi piˈkimaːʃi saːroːˀri ʔuˈjaˀnu ˀtiː daˈkaʃimiˀ taˈbuˀroːri](思慮分別のない子供ですから神様でお助け下さって < 嘉例回し > 引きつれなされて < 引き回して > 家へ連れて来られて親の手に抱かせて下さい < 賜れ >)。ヤˈラビアティナˀシ [jaˈrabiʔatinaˀʃi](無分別な子供 < 童当てなし >)。

アˈティˀ　ナルン [ʔaˈtiˀ naruŋ] 【連】当てになる。頼りになる。信頼できる。クˈヌˀ　プˈソーˀ　アˈティˀ　ナルン [kuˈnuˀ pu̥ˈsoːˀ ʔaˈtiˀ naruŋ](この人は当てになる < 信頼できる >)。

アˈティパジリ [ʔaˈtipaʤiri] 【名】当て外れ。ウˈヌシゥˀク　ウˈキˀナーラヌ　シˈトゥˀバ　ウˈヤーンチˀジ　ˈベータˀヌ　アˈティパジリ　シーナーˀヌ [ʔuˈnusu̥ˀku ʔuˈkiˀnaːranu ʃiˈtuˀba ʔuˈjaːntʃiˀʤi ˈbeːtaˀnu ʔaˈtipaʤiri ʃiːnaːˀnu](あれほど沖縄からのお土産 < つと > を期待 < 念願 > していたのに当て外れになってしまった)。

アˈティハマルン [ʔaˈtihamaraŋ] 【自動】あてはまる (当て嵌まる)。適合する。合う。合致する。うまくはまる。クˈビンˀヌ　フˈターˀ　ギャンˈティˀ　アˈティハマルン [kuˈbinˀnu ɸu̥ˈtaːˀ gjanˈtiˀ ʔaˈtihamaruŋ](瓶の蓋はきっちりと合う。合致する)。クˈヌˀ　フˈターˀ　アˈティハマラヌ [kuˈnuˀ ɸu̥ˈtaːˀ ʔaˈtihamaranu](この蓋は合わない)。ˈクンˀナー　アˈティハマルˀ　ムノー　ˈナーˀヌ [ˈkunˀnaː ʔaˈtihamaruˀ munoː ˈnaːˀnu](これに適合するものはない)。

アˈティハミルン [ʔaˈtihamiruŋ] 【他動】あてはめる (当て嵌める)。合致させる。合わせる。老年層は、アˈティパミルン [ʔaˈtipamiruŋ](当て嵌める) という。パˈクヌˀ　フˈターˀ　ギャンˈティˀ　アˈティハミティˀ　スˈクˀリ [pḁˈkunuˀ ɸu̥ˈtaːˀ gjanˈtiˀ ʔaˈtihamitiˀ su̥ˈkuˀri](箱の蓋はきっちり当て嵌めて作れ)。アˈティハミルˀ　クトー　アˈティハミルンドゥˀ　ムーˈルˀ　アˈティハミランˀタンティン　ミˈサˀル [ʔaˈtihamiruˀ ku̥to: ʔaˈtihamirunduˀ muːˈruˀ ʔaˈtihamiranˀtantim miˈsaˀru](当て嵌めることは当て嵌めるが、総て当て嵌めなくても良いよ)。アˈティハミレーˀ　ミサムヌ [ʔaˈtihamireːˀ misamunu](当て嵌めれば良いのに)。アˈティハミリ [ʔaˈtihamiriˀba](当て嵌めろよ)。

アˈティブチニ [ʔaˈtibuʧini] 【副】咄嗟 (とっさ) に。突然に、出し抜けに。急に。いきなり。ウˈリヌˀ　アˈティブチニˀ　プˈスンナーˀニ　ˈティー　ナールターˀル　ベーˈシティˀ　ウˈダラˀキティ　キˈムˀウティ　ˈシーベーˀダー [ʔuˈrinuˀ ʔaˈtibuʧiniˀ pu̥ˈsunnaːˀni ˈtiː naːrutaːˀru beːˈʃitiˀ ʔuˈdaraˀki̥ti kiˈmuˀ ʔuti ˈʃiːbeːˀdaː](出し抜けに人 < 私 > の前に手を突き出してきたので、びっくり仰天して鼓動が収まらないで < 心臓がどきどきして > いるよ)。

アˈティルン [ʔaˈtiruŋ] 【他動】当てる。的中させる。アˈトゥン [ʔaˈtuŋ](当てる。「当つ」< 下二 > の転訛) ともいう。ウˈレーˀ　ヌー　ヤˈルˀユー　アˈティルンティ　スンドゥˀ　アˈティララヌ [ʔuˈreːˀ nuː jaˈruˀju: ʔaˈtirunti sunduˀ ʔaˈtiraranu](それは何なのか、当てようとするが当てられない)。アˈティˀ　ミサカー　アˈティルˀ　クトー　ˀナルン [ʔaˈtiˀ misaka: ʔaˈtiruˀ ku̥to: ˀnaruŋ](当てて良ければ当てることは出来る)。ˈパーˀク　アˈティレーˀ　ミサムヌ [ˈpaːˀku ʔaˈtireːˀ misamunu](早く当てれば良いのに)。アˈティリˀバ [ʔaˈtiriˀba](当てなさいよ)。

アˈディンˀガー [ʔaˈdiŋˀgaː] 【名】(植) 和名、オキナワウラジロガシ (ヤエヤマガシ)。ˀカシンキー [ˈkaʃiŋkiː](椎の木) ともう。椎の木は西表島に産し、高木で 20m に達する。材質は硬く、建築用材、船の櫓や櫂などを作るのに用いる。長さ 3cm、径 2.5cm の卵状球形の堅果は食用、豚の飼料に適する (『図鑑琉球列島有用樹木誌』)。フˈノーラピトゥˀヌ　パリˈクーˀバ　アˈディンガーˀヌ　グˈルˀシ　ミˈキˀ　ヌˈマˀシ [ɸuˈnoːra pituˀnu pariˈkuːˀba ʔaˈdiŋgaːˀnu guˈruˀʃi miˈkiˀ nuˈmaˀʃi](船浦人が走ってきたら、樫の実の殻で神酒を飲ませ「鳩間中岡 < 鳩間節 >」第 13 連)。アˈディンガーˀヌ　ナˈルˀヌ　ˀアルˈアイˀヤー　カˈマイˀヤー　ˈパンˀタルン [ʔaˈdiŋgaːˀnu naˈruˀnu ˀʔaru ˈʔaiˀjaː kaˈmaiˀjaː ˈpanˀtaruŋ](椎の実がある間は、猪は肥える)。

アˈティンガーリン [ʔaˈtiŋgaːriŋ] 【自動】考えられ

る。判断できる。見当がつく。ˈクナーティ　ˈアイブー　クˈトゥˈヌ　ˈアッˈタンテー　アˈティンガーランセン [ˈkunaːti ˈʔaibuː kuˈtuˈnu ˈʔatˈtanteː ʔaˈtiŋgaːraŋʃeŋ](ここであんな事があったとは見当もつかなかった)。ˈタイガイˈヤー　アˈティンガーリン [ˈtaigaiˈjaː ʔaˈtiŋgaːriŋ](大概は見当がつく)。アˈティンガーリ　ブー [ʔaˈtiŋgaːri buː](大凡見当がついている)。ˈドゥーシ　アˈティンガーリルˈ　クトゥ　ˈナーˈト　アˈラˈヌ [ˈduːʃi ʔaˈtiŋgaːririˈ ku̥tu ˈnaːˈto ʔaˈraˈnu](自力で見当がつくことなどではない)。

アˈティンガイˈ　カˈティンˈガイ　シˈララヌ [ʔaˈtiŋ-gaiˈ kaˈtiŋˈgai ʃiˈraranu] 【連】考えられない。思慮判断が出来ない。見当がつかない。アˈティンガイカティンˈガイは ABCDEFBCDE 型の重言。プˈスˈケンナー　ˈヌーンクイン　ウˈクˈリティ　ˈヌーˈル　ˈヌーユー　アˈティンガイˈ　カティンˈガイ　シˈララヌ [pu̥ˈsuˈkenna: nuːŋkuiŋ ʔuˈkuˈriti ˈnuːˈruˈnuːju: ʔaˈtiŋgaiˈ kaˈtiŋgaiˈ ʃiˈraranu](一度に何もかも起こって、何がなにやら判断出来ない＜見当つけられない＞)。

アˈティンガウン [ʔaˈtiŋgauŋ] 【他動】あてがう (宛がう)。ぴったりと当てる。標準語からの借用語の転訛したものか。ˈミンナ　アˈティンガイティˈ＜アˈティティˈ＞　シˈキˈバ [ˈminna ʔaˈtiŋgaitiˈ ʃi̥ˈkiˈba ＜aˈtitiˈ＞](耳に当てて聞きなさいよ)。ˈミンナ　アˈティンガウンドゥˈ＜アトゥンドゥ＞　シゥˈカランˈサー [ˈminna ʔaˈtiŋgaunduˈ ＜atundu＞ si̥ˈkaranˈsaː](耳に当てる＜宛がう＞が聞こえないさ)。

アˈティングイン　ナーˈヌ [ʔaˈtiŋguin naːˈnu] 【連】音沙汰がない。音信不通である。タˈベー　パッˈタ　ˈターナˈ　アˈティングイン　ナーˈヌ [taˈbeː patˈta ˈtaːnaˈ ʔaˈtiŋguin naːˈnu](旅へ行ったきり＜まま＞音沙汰がない)。

アˈティンˈクティン　ˈナーˈヌ [ʔaˈtiŋˈkutin ˈnaːˈnu] 【連】音沙汰なし。何の消息のない。無関心である。何とも思わない。言いっ放しで責任を取らない。ウˈレーˈ　ンジ　ˈパッˈタ　ˈターナˈ　アˈティンˈクティン　ˈナーˈヌ [ʔuˈreːˈ ʔnʤi ˈpatˈta ˈtaːnaˈ ʔaˈtiŋˈkutin ˈnaːˈnu](彼は出て行ったまま音沙汰なしだ)。ˈドゥーシ　アˈジティˈ　マˈナˈマ　ˈナッタˈクトゥ　ˈバシキティˈ　アˈティンˈクティン　ˈナーˈヌ [ˈduːʃi ʔaˈʤitiˈ maˈnaˈma ˈnatˈtaku̥tu ˈbaʃi̥kitiˈ ʔaˈtiŋˈkutin ˈnaːˈnu](自分で言ったのに、今になって忘れて知らんぷりである＜言いっ放しで責任を取らない＞)。うんともすんともない。なんの音沙汰もない。平気である。無頓着である。感心がない。下に否定の語を伴って用いられる。シˈマーˈラ　ンジˈパッˈタ　ˈターˈナ　アˈティンˈクティン　ˈナーヌˈヌ　イˈカˈシタ　ˈムヌカヤー [ʃiˈmaːˈra ʔnʤiˈpatˈta ˈtaːˈna ʔaˈtiŋˈkutin ˈnaːnuˈnu ʔiˈkaˈʃi̥ta ˈmunukajaː](島から出て行ったきり音沙汰もないがどうしたことかねえ)。ウˈヌスˈク　ˈプサ　ˈシーブタヌˈ　ミˈドーンˈッふァ　ˈヤッタヌˈ　マˈナˈマー　アˈティンˈクティン　ˈナーˈヌ [ʔuˈnusu̥ˈku ˈpu̥sa ˈʃiːbutanuˈ miˈdoːŋˈ ffa ˈjattanuˈ maˈnaˈmaː ʔaˈtiŋˈkutin ˈnaːˈnu](あれほど欲しがっていた娘＜女の子＞だったのに、今では全く無関心だ＜無頓着である＞)。

アˈティンˈソーン　ˈナーˈヌ [ʔaˈtinˈsoːn ˈnaːˈnu] 【連】正気を失っている。記憶をすっかり失っている。物忘れしている。アˈティンˈソーン　ˈナーンˈスク　サˈキバˈ　ヌミ　ˈヌーヤ　ウˈレー [ʔaˈtinˈsoːn ˈnaːnˈsu̥ku sḁˈkibaˈ numi ˈnuːja ʔuˈreː](前後不覚になる＜記憶をすっかり失う＞ほど酒を飲んで、一体どうしたのだ＜何だね、これは＞)。

ˈアテンマテー [ˈʔatemmateː] 【名】屋号。小浜源助氏宅。ˈアテンマー [ˈʔatemmaː](源助氏の母親) は、ˈアティ・ˈアンマ [ˈʔamma](姉さん)→ [ʔateːmmaː] → [ˈʔatemmaː] と音韻変化したもの。ˈテー [teː](～宅) は接尾語 (<ti・jaː)。

ˈアトー [ˈʔatoː] 【連】後は。最後には。ˈアトゥ [ˈʔatu] に係助詞-ヤ [-ja](とりたて、強調) が下接して語末母音が融合変化を起こし、ˈアトー [ˈʔatoː](後は) となったもの。パˈトゥˈマムニン　ˈアトー　パˈナˈシ　ˈシーˈ　ッˈシェーˈ　プˈスンˈ　ブˈラーンˈ　ナˈリˈスヨー [pḁˈtuˈmamuniŋ ˈʔatoː paˈnaˈʃi ˈʃiːˈ ʃˈʃeːˈ puˈsumˈ buˈraːn nariˈsujoː](鳩間ことばも後々には話せる人もいなくなるだろうよ)。

ˈアドー [ˈʔadoː] 【副】 1あれほど遠くへ。あんなに遠くへ。副詞ˈアドゥ [ˈʔadu](あんなに遠く) に方向の格助詞-へ [-ɸe](方向) が付いて語末母音が融合変化したもの。マˈナˈマーラ　アドー　パˈララˈヌ [maˈnaˈmaːra ˈʔadoː paˈraraˈnu](今からではあんなに遠くへはいくことが出来ない＜行けない＞)。2あれほどの長期間。ˈアドー　ナルンケン　ˈバシキティˈ　ノーˈンˈ　サˈムティˈ　ナーˈイˈ　シˈティシˈケー [ˈʔadoː ˈnaruŋkem ˈbaʃi̥kitiˈ noːˈnˈ saˈmutiˈ naːˈiˈ ʃi̥ˈtiʃiˈkeː](あれほど長期間になるまで忘れて、何もしないで、ただほったらかして＜捨ておいて＞ある)。

˥アトーキー [˥ʔatoːkiː] 【連】終には。結局は。最後には。「後へきて」の義。˥ウヤーヤ　ッ˩ふィーランティ　コー˥リ　˩オーッタン˥ドゥ　˥アトーケー　フ˩ターロー˥　キサー˩ティ　ミートゥン˥ダ　ナ˩リ˥ブタツォー [˥ʔujaːja f˩fiːranti koː˥ri ˩ʔoːttan˥du ˥ʔatoːkeː ɸu̥˩taːroː˥ ki̥saː˩ti miːtun˥da na˩ri˥butatsoː](親は嫁にやらないと頑なに断っておられたが、終には二人は既に夫婦になっていたそうだ)。

˥アドーナリ [˥ʔadoːnari] 【副】そんなに長く。あれほどの長期間に。˥アドーナリ　˥ヤミティ　ニ˩ビル˥　ブ˩レーン˥ギサール [˥ʔadoːnari ˥jamiti ni˩biru˥ bu˩reːŋ˥gisaːru](あんなに長く病気で＜やみて＞寝ていたようだよ)。˥アドーナリ　ミ˩ララン˥ワー　˩ヌー˥シタカヤー [˥ʔadoːnari mi˩raran˥wa ˩nuː˥ ʃi̥takajaː](あれほどの長期間にわたって姿を現さないが＜見られないが＞どうしたことだろうか)。

ア˩ドー˥ヌ [ʔa˩doː˥nu] 【連体】あんなに遠いところ。ア˩ドー˥ヌ　˥トンラ　˩タンガ˥シ　ア˩ラ˥キ　˩クーター [ʔa˩doː˥nu ˥tonra ˩taŋga˥ʃi ʔa˩ra˥ki ˩kuːtaː](あんな遠い所から一人で歩いて来たのか)。

˥アトーラ [˥ʔatoːra] 【連】後から。˥アトゥ [ʔatu](後)・˥カラ [kara](～から)→ [ʔatuhara] → [ʔatuara] → [ʔatoːra] のように音韻変化したもの。˩ワー˥　アトーラ　クーバ˩ヨー [˩waː˥ ʔatoːra kuːba˩joː](君は後から来なさいね)。

˥アトゥ [˥ʔatu] (1)【名】1後。空間的な背後、後方。˥マイナリ　˥アトゥナリ　˩シー˥　パルン [˥mainari ˥ʔatunari ˩ʃiː˥ paruŋ](前になり後になりして行く)。プ˩スヌ˥　アトゥナ　ナ˩ラブナ [pu̥˩sunu˥ ʔatuna na˩rabuna](人の後ろに並ぶな＜人後に落ちるな＞)。時間的な後方。˩プール˥ヌ　˥アトー　˩ソーラン˥ヌ　˩オー˥ル˩ナー˥　メー [˩puːru˥nu ˥ʔatoː ˩soːran˥nu ˩ʔoː˥ru˩naː˥ meː](豊年祭の後にはお盆がいらしゃるねえ、もう)。2後継者。˩ウン˥ネヌ　˥アトゥ　˩シープソー　ター　ヤッタ˥　メー [˩ʔun˥nenu ˥ʔatu ˩ʃiːpu̥soː taː jatta˥ meː](その家の後継者＜後をする人＞は誰であったかねえ)。 **(2)**【接頭】後接要素を修飾し、それに「後」の意味を表す。˥アトゥピュール [˥ʔatupjuːru](干支の上で、後にくる吉日)。˥アトゥトゥジ [˥ʔatutuʤi](後妻)。˥アトゥマサリ [˥ʔatumasari](後の幸運)。˥アトゥフール　˩マーフー [˥ʔatuɸuːru ˩maːɸuː](後の幸運が真の幸運である)(諺)。

˥アトゥ [˥ʔatu] 【名】跡。痕跡。跡形。˩パン˥ヌ　˥ペー [˩pan˥nu ˥peː](人間の足跡) ともいう。カ˩マイ˥ヌ　˩パン˥ヌ　ア˩トゥ˥バ　˥ミレーティル　˥カマイヤマー　˩アウ [ka˩mai˥nu ˩pan˥nu ʔa˩tu˥ba ˥mireːtiru ˥kamaijamaː ˩ʔau](猪の足跡を見ながら猪の罠を仕掛ける＜猪を捕獲する仕掛けをあげる＞)。

˥アドゥ [˥ʔadu] 【名】踵 (かかと)。˩パン˥ヌ　˥アドゥ　˥フダナ　˩ピッ˥キティ＜ッ˩サ˥リティ＞　˥ヤミナ˩ラ˥ヌ [˩pan˥nu ˥ʔadu ˥ɸudana ˩pik˥kiti ＜s˩sa˥riti＞ ˥jami na˩ra˥nu](足の踵をフダに刺されて痛くてたまらない)。

˥アドゥ [˥ʔadu] 【連体】あんな (に) 遠方。あんな (に) 長時間。˥アドゥ [˥ʔadu] に格助詞˥-ラ [˥-ra](から。ra<hara<kara) が付くと、[adu・hara] → [adu・ara] → [adoːra] と音韻変化する。˥アドーラ　˩タンガ˥シ　˩クーター [˥ʔadoːra ˩taŋga˥ʃi ˩kuːtaː](あんな遠方から一人で来たのか)。ア˩ドゥ˥ヌ　˥アイ　ナー˩イ˥　マティ　˩ベーター [ʔa˩du˥nu ˥ʔai naː˩iː˥ mati ˩beːtaː](あんな長時間じっと待っていたのか)。

˥アトゥアトゥ [ʔatuʔatu] 【名】後々。行く末。将来。˥アトゥアトゥヌ　ク˩トゥ˥バ　˥カン˥ガイティ　ウ˩ヤ˥ヌ　˩ガン˥ゾール　ウ˩チ˥ナ　˩ウイヌ　ガッ˥コー　パリ＜ン˩ジリ˥＞[˥ʔatuʔatunu ku̥˩tu˥ba ˩kaŋ˥gaiti ʔu˩ja˥nu ˩gan˥ʤoːru ʔu˩ʧi˥na ˩ʔuinu gak˥koː˥ pari ＜n˩ʤi˥ri＞](後々＜将来＞の事を考えて、親が元気な＜頑丈な＞内に上級学校へ行きなさい)。

˥アトゥウイ [˥ʔatuʔui] 【名】後追い。子供が母親の後を追うこと。シ˩ビウイ [ʃi˩biui](尻追い、後追い) ともいう。パ˩タ˥ケー　˥パルンティ　˩ベー˥ヌンドゥ　ッ˩ふァヌ˥　アトゥウイ＜シ˩ビウイ＞　˩シー　ウーカラ˥ヌ [pḁ˩ta˥keː˥parunti ˩beː˥nundu f˩fanu˥ ʔatuui ＜ʃi˩biui＞ ˩ʃiː ʔuːkara˥nu](畑へ行こうとしているんだが、子供が後追いをして動けない)。

˥アトゥウシ [˥ʔatuʔuʃi] 【名】1後押し。荷車などを後から押すこと。˩ウシゥカラシ [˩ʔusi̥karaʃi](後押し) ともいう。˩ニーグルマ˥ヌ　˥アトゥウシ　˩スン [˩niːguruma˥nu ˥ʔatuʔuʃi ˩suŋ](荷車の後押しをする)。2応援。後援。ッ˩ふァヌ˥　アトゥウシ　˩スール˥　ウ˩ヤ˥ヌ　ス˩クブン [f˩fanu˥ ʔatuʔuʃi ˩suːru˥ ʔu˩ja˥nu su̥˩kubuŋ](子供の後押し＜応援＞をするのが親の役目＜職分＞である)。ムー˩ルヌ˥　アトゥウシ　˩シーふィーッタ˥　ウ˩カ˥ギシル　˥カチェー˩ダー [mu˩runu˥ ʔatuʔuʃi ˩ʃiːfiːtta˥ ʔu˩ka˥giʃiru ˥kaʧe˩daː](皆が後押ししてくれたお陰で勝ったのだよ＜勝ってあるのだよ＞)。

˥アトゥカタ [˥ʔatukạta] 【名】跡形。痕跡。˩タイフー˥ヌ　˥フキティ　˩ヤー˥ヤ　˥アトゥカタヌ　˩ナーン˥スコー　トゥ˩バサリ˥　パリ　˩ナー˥ヌ [˩taiɸuː˥nu ˥ɸu̥kiti ˩jaː˥ja ˥ʔatukatanu ˩naːn˥su̥koː tu˩basari˥ pari ˩naː˥nu](台風が吹いて家は跡形もないほど吹き飛ばされてしまった)。イ˩ク˥サナー　バ˩ク˥ダンシ　シ˩ラリティ˥　アトゥカタン　˩ナー˥ヌ [ʔi˩ku˥sanaː ba˩ku˥daŋʃi ʃi˩rariti˥ ʔatukatan ˩naː˥nu](戦争で、爆弾で破壊されて＜やられて＞跡形もない)。

˥アトゥカタジキ [˥ʔatukataʤiki] 【名】後片付け。キ˩チゴンヌ˥　アトゥカタジキ　˩シン　パッ˥タ [ki̥˩tʃigonnu˥ ʔatukataʤiki ˩ʃim pat˥ta](結願祭の後片付けをしに行った)。˥ムノー　˩フー˥カー　˥アトゥカタジケー　シ˩ティル˥　ア˩サビンマー˥　パル˩ダー [˥muno: ˩fuː˥kaː ˥ʔatukataʤike: ʃi˩tiru˥ ʔa˩sabimmaː˥ paru˩daː](ものを食べたら後片付けをしてから遊びには行くのだよ)。

˥アトゥサキ [˥ʔatusaki] 【名】後先。前後。前後の事情。˥アトゥサキ　ッ˩サン˥　ム˩ニ˥バ　イ˩ジ　アー˥ク [˥ʔatusạki s˩sam˥ mu˩ni˥ba ʔi˩ʤi ʔaː˥ku](後先を知らない＜前後の事情をわきまえない＞物言い＜発言＞をしている)。˥アトゥサケー　˩カンガイ˥ヤーティル　˥ムネー　イ˩ズ˥ダー [˥ʔatusạke: ˩kaŋgai ˥jaːtiru ˥mune: ʔi˩ʤu˥daː](前後のことを考えて＜ぞ＞ものは言うものだぞ)。

˥アトゥザン [˥ʔatuʤaŋ] 【名】後産 (あとざん)。胎児分娩後、胎盤が出ること。胎盤のことをイ˩ヤ [ʔi˩ja](胎盤) という。˥アトゥザンヌ　˥ウレーカー　˩ソーヤ　ナー˥ヌ [˥ʔatuʤannu ˥ʔureːkaː ˩soːja naː˥nu](後産が出た＜下りた＞のなら心配はない)。

˥アトゥシキ [˥ʔatuʃi̥ki] 【名】後の月。翌月。˥ソンガチヌ　˥アトゥシキナール　˩ピューロー˥　トゥリ　˥シケーバ　˩ウン˥ナー　˩ヨイ˥ヤー　˩シー˥　ミ˩サ˥ル [˥soŋgatʃinu ˥ʔatuʃi̥kinaːru ˩pjuːroː˥ turi ˥ʃi̥keːba ˩ʔun˥naː ˩joi˥jaː ˩ʃiː˥ mi˩saˈru](正月の翌月に日和を取ってあるから、それに＜その日に＞お祝いをしてよかろう)。

˥アトゥシギ [˥ʔatuʃigi] 【名】跡継ぎ。家督相続。˩クン˥ネヌ　˥アトゥシゲー　˩タール　スーワ [˩kun ˥nenu ˥ʔatuʃige: ˩taːru suːwa](この家の跡継ぎは誰がするのか)。˥アトゥシギヌ　ブ˩ラーン˥カー　˩ヤードー˥リ　˩シース [˥ʔatuʃiginu bu˩raːŋ˥ka: ˩jaːdoː˥ri ˩ʃiːsu](後継ぎがいないと家が断絶する＜家倒れする。絶家となる＞)。

˥アトゥ　シ˩グン [˥ʔatu ʃi˩guŋ] 【連】跡を継ぐ。相続する。ウ˩ヤ˥ヌ　˥アトゥ　シ˩グン [ʔu˩jaˈnu ˥ʔatu ʃi˩guŋ](親の跡を継ぐ)。

˥アトゥシマチ [˥ʔatuʃimatʃi] 【名】後始末。後片付け。後処理。ク˩ヌ˥　ク˩トゥ˥ヌ　˥アトゥシマチェー　˩ヌー˥シ　シ˩キ˥ル　˩カン˥ガイヤ [ku˩nu˥ ku̥˩tu˥nu ˥ʔatuʃimatʃe: ˩nuː˥ʃi ʃi̥˩ki˥ru ˩kaŋ˥gaija](このことの後始末はどうつけるつもり＜考え＞か)。シ˩グトゥヌ˥　アトゥシマチン　シ˩キラ˥ムティ　ア˩サビン˥　パリ˩ナー˥ヌ [ʃi˩gutunu˥ ʔatuʃimatʃiŋ ʃi̥˩kira˥muti ʔa˩sabim˥ pari˩naː˥nu](仕事の後始末もつけないで遊びに行ってしまった)。

˥アトゥシンカー [˥ʔatuʃiŋkaː] 【名】あとずさり (後退り)。カ˩ルイ˥ヌ　˥グシ　オッ˩ティ˥　カミティ　˥アトゥシンカー　˩シール˥　ピ˩キ˥　パル˩ダー [ka˩rui˥nu ˥guʃi ʔot˩ti˥ kamiti ˥ʔatuʃiŋkaː ˩ʃiːru˥ pi̥˩ki˥ paru˩daː](嘉例の神酒＜御酒＞を恭しく頂いて、後退りして＜ぞ＞退出＜引き去る＞するのだよ)。

˥アトゥスクリムヌ [˥ʔatusukurimunu] 【名】遅れて作付けする作物。「後作り物」の義。˥アトゥスクリムヌヌ　˩ウン˥ヌ　イッ˩ケナ　ミーリティ˥　イ˩カス˥ク　サ˩ニ˥ヤワ˩ツォー [˥ʔatusu̥kurimununu ˩ʔun ˥nu ʔik˩kena miːriti˥ ʔi˩kasu̥˥ku sa˩ni˥jawa˩tsoː](後作付けの芋がたいそう稔ってなんと嬉しいことか)。

˥アトゥトゥシ [˥ʔatutu̥ʃi] 【名】翌年。後の年。「後年」の義。イ˩クサユー˥ヌ　アトゥトゥシ˩バー˥キ　˩フイヤケー˥　ア˩リ˥ブタ　ッ˩ふァイムヌヌ　ナー˥ン　ブ˩レー˥ンダ　ウ˩リ˥シ　ヤ˩マシゥ˥カ　プ˩ソー　マーラシェーント ダー [ʔi˩kusajuː˥nu ˥ʔatutu̥ʃi ˩baː˥keː ˩ɸuijake: ˥ʔa˩ri˥buta f˩faimununu naː˥m bu˩reː˥nda ʔu˩ri˥ʃi ja˩masi̥˥ka pu̥˩soː maːraʃeːn˩daː](戦争の翌年までマラリヤ＜震え焼け＞はあった＜ありおった＞。食べ物がなかったので、マラリヤで多くの人が亡くなったよ)。

˥アトゥトゥジ [˥ʔatutuʤi] 【名】後妻。˥アトゥトゥジ　ヤ˩ルヌ˥　マ˩マッふァトゥヌ˥　ナカー　˩カイ˥ヤン˩ダー [˥ʔatutuʤi ja˩runu˥ ma˩maffatunu˥ nakaː ˩kai˥jan˩daː](後妻ではあるが継子との仲はきれい＜美しい＞ですよ)。サ˩キトゥジヌ　マーラシティ˥　ヤー˩タ˥　シティル　˥アトゥトゥジェー　˩サーロー˥レー˩ダー [sạ˩kituʤinu maːriti˥ jaː˩ta˥ ʃi̥tiru ˥ʔatutuʤe: ˩saːroː˥reː˩daː](先妻が亡くなられて、しばらく経って後妻をつれられたのだよ)。

˥アトゥドゥミ [˥ʔatudumi] 【名】後妻。「後求め」の義か。先妻の死後に探し求めた妻の意。ク˩ヌ˥　ッ˩ふ

ァー˥　アトゥドゥミトゥヌ　˥ナカナー　マ˩レー˥　ッ˩ふァ [ku˩nu˥ f˩fa:˥ ʔatudumitunu ˥nakana: ma˩re:˥ f˩fa](この子は、後妻とのなかに生まれた子だ)。

˥アトゥトゥリ [˥ʔatuturi] 【名】跡取り。後継者。相続人。サ˩クシ˥ッふァー　˩ヤー˥ヌ　˥アトゥトゥリティ　キ˩マリブー [sḁ˩kuʃi˥ffa: ˩ja:˥nu ˥ʔatuturiti ki˩maribu:](長男は家の相続人＜跡取り＞と決まっている)。

ア˩ドゥ˥ナー [ʔa˩du˥na:] 【副】あれほど長く。あれほど遠く。ア˩ドゥ˥ナー　˥ナルンケン　シ˩グトゥン˥　サ˩ムティ˥　ナー˩イ˥　ア˩サビベー [ʔa˩du˥na: ˥naruŋkeŋ ʃi˩gutun˥ sa˩muti˥ na:˩i˥ ʔa˩sabibe:](あれほど長期間になるまで仕事もしないでただ遊んでいるのか)。

˥アトゥナイ [˥ʔatunai] 【名】遅苗。後苗。遅植え用の苗。ク˩ヌ　ター˥ヤ　˥アトゥナイ　ウ˩ラ˥シティ　イ˩ブバル˥　マ˩シ [ku˩nu ta:˥ja ˥ʔatunai ʔu˩raʃi̥ti ʔi˩bubaru˥ ma˩ʃi](この水田は後苗をおろして＜播種して＞植えたほうがよい)。

ア˩ドゥ˥ナイ [ʔa˩du˥nai] 【副】あんなに長い間。ア˩ドゥ˥ヌ　˥アイ [ʔa˩du˥nu ˥ʔai](あんなに長い間。長期間) の縮約形。˩ワー˥　ア˩ドゥ˥ナイ　˥ウナール　シ˩トゥ˥ミ　ベー˩ター [˩wa:˥ ʔadu:nai ˥ʔuna:ru ʃi̥˩tu˥mi be:˩ta:](君はあんなに長い間そこに勤めていたのか)。

˥アトゥナリ　サ˩キ˥ナリ [˥ʔatunari sḁ˩ki˥nari] 【連・副】 1後になり、先になりして。ウ˩ヤッ˥ふァシ　アトゥナリ　サ˩キ˥ナリ　˩キッ˥ス　˩シー˥　ア˩ラ˥キ　˩オーッ˥タ [ʔu˩jaˢ˩faʃi ˥ʔatunari sḁ˩ki˥nari ˩kis˥su ˩ʃi:˥ ʔa˩ra˥ki ˩ʔo:t˥ta](親子して後になり先になりして競争して歩いて行かれた)。2遅かれ早かれ。結局。どのみち。˥アトゥナリ　サ˩キ˥ナリ　ノー˩シン˥　パ˩ラン˥カー　ナ˩ラン˥ムヌバ　ナー˩イ˥　シ˩ヌッ˥クリ　˩ベー [˥ʔatunari sḁ˩ki˥nari no:ʃim˥ pa˩raŋ˥ka: na˩ram˥munuba na:˩i˥ ʃi˩nuk˥kuri ˩be:](結局。＜遅かれ早かれ＞行かなければならないものを、ただぐずぐずと決めかねている＜迷い、思いあぐねている＞)。

ア˩トゥ˥ニー [ʔa˩tu˥ni:] 【名】後の方に荷の重さがかかりすぎること。「後荷」の義。ア˩トゥ˥ニー　˥ナリティ　˩グッ˥ふァンダ　ン˩ベーマ˥　マイ　˩ユーシ [ʔa˩tu˥ni: ˥nariti ˩gufˢfanda ʔm˩be:ma˥ mai ˩ju:ʃi](後荷になって重いから、少し前方に寄せなさい)。ア˩トゥ˥ニー　ス˩ク˥カー　˥フネー　パ˩ラサラ˥ヌ [ʔa˩tu˥ni: sṵ˩ku˥ka: ˥ɸune: pa˩rasara˥nu](艫の荷が重いと船は帆走できない＜走らされない＞)。

˥アトゥバタ [˥ʔatubata] 【名】 1後腹 (あとばら)。産後の腹痛 (しりはら)。˥アトゥバタヌ　ウ˩ク˥リティ　ウ˩キユーサン˥バン [˥ʔatubatanu ʔu˩ku˥riti ʔu˩kiju:sam˥baŋ](産後の腹痛がおこって起きることが出来ないわい＜起き得ない＞)。2後妻の子。ク˩ヌ　ッふァー˥　アトゥバタ　ヤ˩ルンダ˥　アトゥトゥレー　ナ˩ラ˥ヌ [ku˩nu ffa:˥ ʔatubata ja˩runda˥ ʔatuture: na˩ra˥nu](この子は後妻の子だから跡取りには出来ない)。

˥アトゥバライ [˥ʔatubarai] 【名】後払い。掛買いにすること。˩キュー˥ヤ　˩ジン˥マー　˩ナーン˥ベーティ　˩ダイヤー˥　アトゥバライ　˩シーフォー˥リ [˩kju:˥ja ˩ʤim˥ma: ˩na:m˥be:ti ˩daija:˥ ʔatubarai ˩ʃi:˥ f˩fo:˥ri](今日はお金がないから代金は後払いさせて下さい)。

˥アトゥパン [˥ʔatupaŋ] 【名】後ろ足。ウ˩シェー˥　アトゥパンシ　プ˩ス˥　キルン [ʔu˩ʃe:˥ ʔatupaŋʃi pṵ˩su˥ kiruŋ](牛は後ろ足で人を蹴る)。˩キー˥　シ˩キラン˥カー　ウ˩リンマー˥　アトゥパンシ　キ˩ラ˥リン˩ダー [˩ki:˥ ʃi̥˩kiraŋ˥ka: ʔu˩rimma:˥ ʔatupaŋʃi ki˩ra˥rin˩da:](気を付けないと彼には後足で蹴られる＜裏切られる＞ぞ)。˩ンー˥マー　˥アトゥパンシ　プ˩ス˥　キルン [˩ʔm:˥ma: ˥ʔatupaŋʃi pṵ˩su˥ kiruŋ](馬は後脚で人を蹴る)。

˥アトゥピュール [˥ʔatupju:ru] 【名】後日和。祭祀・行事を行う日和が干支の上で後期に当たる日和。˩マイピュー˥ル [˩maipju:˥ru](前日和。干支の前期に当たる日和) に支障がある場合に、祭祀・行事を後日和で執り行う。現在は学校の夏休みに合わせて後日和が多い。˥アトゥピュールナール　ク˩トゥシヌ　プー˥ロー　˩ソー˥ルツォー [˥ʔatupju:runa:ru kṵ˩tuʃinu pu:˥ro: ˩so:˥rutso:](後日和で＜ぞ＞今年の豊年祭はされるそうだ)。農作物の生育状況や、その他の事情によって前後の吉日が決められる。ク˩トゥシェー　ガッコー˥ヌ　ヤ˩スミ˥ヌ　ア˩タリベー˥ティ　˥アトゥピュールナ　˩プー˥ロー　˩ソー˥ルツォー [kṵ˩tuʃe: gakko:˥nu ja˩sumi˥nu ʔa˩taribe:˥ti ˥ʔatupju:runa ˩pu:˥ro: ˩so:˥rutso:](今年は学校の休みが当っているので後の吉日＜日和＞に豊年祭をされるそうです)。

˥アトゥフー [˥ʔatuɸu:] 【名】後の幸運。幸運は最期に回ってくる。˥アトゥフーヤ　˩マーフーティ˥　ア˩ザリブーユンダ˥　マ˩タ　エン˥ヌン　˥シキン

˥ウキミリバ [˥ʔatuɸu:ja ˩ma:ɸu:ti˥ ʔa˩ʤaribu:junda˥ ma˩ta jen˥nun ˥ʃi̥kiŋ ˥ʔukimiriba](後の幸運が真の幸運といわれているから、また来年も試験を受けてみなさいよ)。

˥アトゥフニ [˥ʔatuɸuni]【名】後船 (あとふね)。後から出港する船。˥アトゥフネー　サ˩キ˥ナリ [˥ʔatuɸune: sḁ˩ki˥nari](後から出港した船が先になって) は「後の雁が先になる (油断すれば後から来るものに追い越される)」の意で用いられる。˩ワー˥　マ˩ニアーン˥バ　アトゥフネーラ　クー˩ヨー [˩wa:˥ ma˩niʔa:m˥ba ˥ʔatuɸune:ra ku:˩jo:](君は間に合わないから後船で < 後船から > 来いよね)。

˥アトゥマーシ [˥ʔatuma:ʃi]【名】後回し。順番をかえて後の方に回すこと。˩ドゥー˥ヌ　˥クトー　˥アトゥマーシ　シ˩ティ˥　プ˩スヌ˥　クトゥ　カー˩ニ˥　シ˩ダキ　スー [˩du:˥nu ˥ku̥to: ˥ʔatuma:ʃi ʃi̥˩ti˥ pu̥˩sunu˥ ku̥tu ka:˩ni˥ ʃi˩daki su:](自分のことは後回しにして、他人のことだけ先にする)。ク˩レー˥　ア˩バティル　ムノー˥　ア˩ラン˥バ　˥アトゥマーシ　˩サート ナー [ku˩re:˥ ʔa˩batiru muno˥ ʔa˩ram˥ba ˥ʔatuma:ʃi ˩sa:ɨ-na:](これは急ぐもの < 急用品 > ではないから後回しにしようねえ)。˥アトゥマーシ　ス˩ナ [˥ʔatuma:ʃi su˩na](後回しにするな)。

˥アトゥマイ [˥ʔatumai]【名】晩稲。晩生 (おくて)。「後米」の義。˥クマー　ティ˩ダ˥ヌ　˥ユー　ア˩タルユンダ　˥アトゥマイ　ヤ˩ラバン˥　マー˩ズン˥　カ˩ラリン [˥kuma: ti˩da˥nu ˥ju: ʔa˩tarujunda˥ ʔatumai ja˩rabam˥ ma:˩ʤuŋ˥ ka˩rariŋ](ここは太陽がよく当たる所だから晩稲でも一緒に刈り取ることが出来る)。

˥アトゥマサリ [˥ʔatumasari]【名】後になるにつれて良い結果がもたらされること。「後勝り」の義。˥アトゥマサリティ　ア˩リ˥ブンダ　ア˩バティラン˥ティン　˥ミサン [˥ʔatumasariti ʔa˩ri˥bunda ʔa˩batiran˥tim ˥misaŋ](後の幸運というのもあるから急がなくてもいい)。

˥アトゥマリ [˥ʔatumari]【名】後に生まれること。遅く生まれること。ウ˩レー˥　アトゥマリ　ヤ˩ルンダ˥　バーラ　˩ミーシケー　ウシ˥トゥ [ʔu˩re:˥ ʔatumari ja˩runda˥ ba:ra ˩mi:ʃi̥ke: ʔuʃi̥˥tu](あれは遅く生まれたほうだから私より三月は弟である)。

˥アトゥムティ [ʔatumuti]【連】後になって。将来に。カ˩クシ˥タンティン　˥アトゥムテー　˩ナンククル　ワ˩カリ˥ス [kḁ˩kuʃi̥˥tantiŋ ˥ʔatumute: ˩naŋkuku˥ru wa˩kari˥su](隠しても後になれば自然に分かるものだ)。

˥アトゥムドゥル [˥ʔatumuduru]【名】後戻り。若年層は、˥アトゥムドゥリ [˥ʔatumuduri] ともいう。ク˩マーバー˥キ　˥ケーラ　˥アトゥムドゥロー　ナ˩ラ˥ヌ [ku˩ma:ba:˥ki ˥ke:ra ˥ʔatumuduro: na˩ra˥nu](ここまで来たら後戻りは出来ない)。

˥アトゥヤフ [˥ʔatujaɸu]【名】あとやく (後厄)。厄年の翌年。パ˩リ˥ヤフ [pa˩ri˥jaɸu](晴れ厄) ともいう。対義語は、˩マイ˥ヤフ [˩mai˥jaɸu](前厄)。ク˩トゥシェー˥　アトゥヤフ　ア˩タリブーバ˥　タ˩ベー˥　パ˩ラ˥バン　˥ユー　˩キー˥　シケーティ　ミス˩コーミスコー˥シ　˩アー˥キ˩ヨー [ku̥˩tuʃe:˥ ʔatujaɸu ʔa˩taribu:ba˥ ta˩be:˥ pa˩ra˥baɲ ˥ju: ˩ki:˥ ʃi̥ke:ti misu̥˩ko:misu̥ko:˥ʃi ˩ʔa:˥ki˩jo:](今年は後厄に当っているから、旅へ行くにしてもよく気をつけて、用心深く行動しなさいよ)。

ア˩トゥン [ʔa˩tuŋ]【他動】当てる。的中させる。ア˩ティルン [ʔa˩tiruŋ](当てる) と同じ。「あつ (当つ)」(下ニ段活用) の四段活用化したもの。˩ソームヌ˥　ア˩トゥン [˩so:munu˥ ʔa˩tuŋ](いいものを当てる)。イ˩キムヌ˥バ　イ˩シ　ナン˥ギ　ア˩トゥナ [ʔi˩kimunu˥ba ʔi˩ʃi naŋ˥gi ʔa˩tuna](動物 < 生き物 > を石を投げて当てるな)。

˥アトゥン　サ˩キン [˥ʔatun sḁ˩kiŋ]【連】後も先も。総体的に考えて。˥アトゥン　サ˩キン　カンガイ˥ヤーティル　˥ムネー　イ˩ズ-ト ダー [˥ʔatun sḁ˩kiŋ kaŋgai˥ja:tiru mune: ʔi˩ʤuɨ-da:](後も先も考えてものは言うのだよ)。

˥アナ [˥ʔana]【名】1穴。地面のくぼんだ所。山や物体の向こう側へ突き抜けた所。地下へほぼ垂直に出来た自然の穴はア˩ブ [ʔa˩bu] という。ミ˩ナトゥガサミヌ　ター˥ヌ　˥アザナ　˥アナ　˥プリティ　˩ター˥ヌ　ミ˩ジ˥　フ˩カシナー˥ヌ [mi˩natugasaminu ta:˥nu ˥ʔaʤana ˥ʔana ˥puriti mi˩dʒi˥ ɸu̥˩kaʃi na:˥nu](港蟹が田の畦に穴を掘って、田の水を落として涸れさせてしまった)。˥アナ　˥プルカー　フ˩ターチ˥　プリ [˥ʔana ˥puruka: ɸu̥˩ta:ʧi˥ puri](穴を掘るなら二つ掘れ < 諺 >、他人を落としいれようと思うなら、自分の落ちる穴まで掘れ)。ユ˩クアナ [ju˩kuana](横穴)。˥アナ　˥プルン [˥ʔana ˥puruŋ](穴を掘る)。˩ヤー˥ヌ　ク˩ビ˥ナ　˥アナ　˩ピッ˥キ　˥シケー [˩ja:˥nu ku˩bi˥na ˥ʔana ˩pik˥ki ˥ʃi̥ke:](家の壁に孔を開けて < ほがして > ある)。2地面にほぼ垂直に掘ったところ。ア˩ブ [ʔa˩bu](自然に出来た竪穴) と意味的に対立する。ア˩ナ˥プリヤー [ʔa˩na˥purija:](掘っ立て

小屋 < 穴堀屋 >)。˥アナ ˩トゥッ˥クン [˥ʔana ˩tuk˥ kuŋ](< 隠れた > 穴が陥没する。竪穴に落ちる)。

アˬナ˥プリヤー [ʔaˬna˥purija:] 【名】掘建て小屋。「穴堀屋」の義。地面に穴を掘り、柱を埋めて建てた粗末な家。イˬシジ [ʔiˬʃiʤi](礎石) を置かない家。アˬナ˥プリヤーナ マˬレー˥ラバン イˬジン˥ジ パˬタラキ マイフナー マリ パイ˥サ ヌˬキヤー˥ スˬク˥リˬヨー [ʔaˬna˥purija:na maˬre:˥rabaŋ ʔiˬʤin˥ ʤi pḁˬtaraki maiɸuna: mari pai˥sa nuˬkija:˥ su̥ˬku˥riˬjo:](掘建て小屋で生まれたにしても頑張って働いて、立派な人になって本建築の家 < 貫き木造りの家屋 > を作りなさいよ)。

アˬナ˥プレー [ʔaˬna˥pure:] 【名】 (動) 魚の名。和名、タレクチベラ。体長約 30 センチ。ベラ科の魚で、体表はぬるぬるしている。食用となるが、あまり美味ではない。アˬナ˥プレーヤ ˩ナン˥ゾーンˬマーナーン˥シェン [ʔaˬna˥pure:ja ˩nan˥ʤo: ʔmˬma:na:nʃe˥ŋ](アナプレー < タレクチベラ > は、あまり美味しくなかった)。

アˬナミ˥ルン [ʔaˬnami˥ruŋ] 【他動】捜し求める。尋ね探す。ムˬヌシリ˥ヌ ˥ヤーナーン ˩ギー˥ ナライ ッˬソー˥レー プˬスンナー˥ニン ˩トゥイ˥ シˬケー˥ティル ˩ヤーム˥トゥ アˬナ˥ミ ケーˬダー [muˬnuʃiri˥nu ˥ja:na:ŋ ˩gi:˥ narai sˬso:˥re: pu̥ˬsunna:˥nin ˩tuiʃi̥ke:˥tiru ˩ja:muˬtu ʔaˬna˥mi ke:ˬda:](易者の家にも行って習い、知っておられる人にも問い聞きして、元祖の家 < 家元 > を探し求めてきたのだよ)。

アˬナ˥ムン [ʔaˬna˥muŋ] 【他動】訪ね探す。アˬナミ˥ルン [ʔaˬnami˥ruŋ] と同じ。トゥˬミララン˥カー トゥˬナルン˥ プˬス˥ニン アˬナ˥ミ ˥ミリバ [tuˬmi-raraŋ˥ka: tuˬnarum˥ pu̥ˬsu˥niŋ ʔaˬna˥mi ˥miriba](探せなかったら隣の人にも尋ね探してみなさいよ)。

アˬナンドゥルン [ʔaˬnanduruŋ] 【他動】あなどる (侮る)。相手を軽く見てばかにする。見くびる。「Anadori,ru,otta. アナドリ, ル, ッタ (侮り, る, った)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ウˬムイナ˥スン [ʔuˬmuina˥suŋ](馬鹿にする。貶める) ともいう。プˬスバ˥ アˬナンドゥリ˥ バˬライ ベー [pu̥ˬsuba˥ ʔaˬnanduri˥ baˬrai be:](人を侮って笑っている)。アˬナンドゥラヌ [ʔaˬnanduranu](侮らない)。˩ウンザー˥ プˬス˥ アˬナンドゥルンダル˥ マイ ˩ユージユーサヌ [˩ʔunʤa:˥ pu̥ˬsu˥ ʔaˬnandurundaru˥ mai ˩ju:ʤiju:sanu](あいつ < 彼奴 > は人を侮るから進歩できない < 前に寄れない >)。ヨーˬヨー˥ スˬナ˥カー イッˬカナ˥シ アˬナンドゥレー˥ ナˬラン˥ダー [jo:ˬjo:˥ suˬna˥ka: ʔikˬkana˥ʃi ʔaˬnandure:˥ naˬran˥da:](よくよく気をつけろよ。海はけっして侮ってはならないぞ)。プˬスバ˥ アˬナンドゥリベー [pu̥ˬsuba˥ ʔaˬnanduri be:](他人を侮っている)。

アˬヌ [ʔaˬnu] 【連体】あの (彼の)。話し手、聞き手の双方から遠く離れたものを指す。歌謡語。話し言葉では、カˬヌ [kaˬnu](あの) という。アヌ ヤマティラニ ヨー マイラシバ (あの山寺に参らすと)「念仏歌」。

アˬヌユー [ʔaˬnuju:] 【名】来世。あの世。˥グソー [˥guso:](後生) のこと。˩イークトゥ スー˥カー アˬヌユー˥ナテー グˬクラ˥ク シˬラリン˥ツォー [˩ʔi:kutu su:˥ka: ʔaˬnuju:˥nate: guˬkura˥ku ʃiˬrarin˥tso:](良いことをするとあの世では極楽できるそうだ)。

˥アヌヨーヌ ˥ムヌ [˥ʔanujo:nu ˥munu] 【連】あのような者。年端のいかない者。意に満たないもの。˥アヌヨーヌ ムˬヌ˥バ ウˬヤ˥ヌ ˩カール˥ティ シュˬカイ˥ ヤˬラシ˥ キˬムイ˥ツァー [˥ʔanujo:nu muˬnu˥ba ʔuˬja˥nu ˩ka:ru˥ti si̥ˬkai˥ jaˬraʃi˥ kiˬmui˥tsa:](あのような年端のいかない者を親の代わりとして使って寄越して、可哀相 < 気の毒 > に)。

˥アバ [ʔaba] 【名】油。脂。石油。油脂類の総称。˩オー˥ヌ アバ [˩ʔo:˥nu ˥ʔaba](豚の脂)。シˬキ˥アバ [ʃi̥ˬki˥aba](つけあぶら。頭髪用の油)。˩ティン˥プラアバ [˩tim˥pura?aba](てんぷら油)。タˬニ˥ユー [taˬni˥ju:](種油。菜種油)。シˬキ˥ユー [ʃi̥ˬki˥ju:](石油)。˥マチアバ [˥matʃiaba](松根油)。サˬバ˥アバ [saˬba˥ ʔaba](鱶油。鱶の肝臓を炒って搾油したもの)。˩オー˥ヌアバ [˩ʔo:˥nuʔaba](豚の脂) など。˩トゥール˥ヌ ˥アバ ˩カイ˥クー [˩tu:ru˥nu ˥ʔaba ˩kai˥ku:](ランプ < 灯籠 > の油 < 石油 > を買って来い)。

˥アハー [˥ʔaha:] 【感】なるほど (成程)。なるほど、いかにも、と合点がいった時にいう。˥アハー クˬレー˥ カイ サˬバル˥ ナˬル˥バンˬナー [˥ʔaha: kuˬre:˥ kai saˬbaru˥ naˬru˥banˬna:](成程、これはこうしないといけないのだ < こうすればこそできるのだ > なあ)。

アˬバーアバー [ʔaˬba:ʔaba:] 【感】あわわ。幼児語。乳幼児をあやす際に、開いた口に手をあてて軽く叩きながら、アˬバーアバーと声を出すこと。

アˬバースン [ʔaˬba:suŋ] 【他動】溢れさせる。サˬカシキ˥ナ アˬバースン˥ケン サˬキ サウナ˥ アˬバーサンドー˥シ ˩サイ˥バ [sḁˬkaʃi̥ki˥na ʔaˬba:suŋ˥

ken sḁˈki sauna˥ ʔaˈbaːsandoː˥ʃi ˈsai˥ba](杯に溢れさせるほど酒を注ぐな。溢れさせないで注ぎなさいよ)。アˈバーシ　ナー˥ヌ [ʔaˈbaːʃi naː˥nu](溢れさせてしまった)。アˈバース˥　クトー　スˈナ [ʔaˈbaːsu˥ ku̥toː suˈna](溢れさせることはするな)。アˈバーシェー˥　ミサムヌ [ʔaˈbaːʃeː˥ misamunu](溢れさせればいいのに)。ヤーˈディン˥　アˈバーシ [jaːˈdiŋ˥ ʔaˈbaːʃi](必ず溢れさせよ)。

アˈバイ˥カバイ [ʔaˈbai˥kabai] 【副】溢れるさま。溢れ零れるさま。アˈバッカイ˥カバッカイ [ʔaˈbakkai˥kabakkai](溢れるさま) ともいう。ˈスーン˥シロー　マˈカ˥ルナ　アˈバイ˥カバイ　ˈスン˥ケン　イˈリルナ˥ヨ [ˈsuːŋ˥ʃiroː maˈka˥runa ʔaˈbai˥kabai ˈsuŋ˥keŋ ʔiˈriruna˥joː](お汁は汁碗に溢れこぼれるほど入れるなよ)。

アˈバ˥イシ [ʔaˈba˥iʃi] 【名】けいがん (珪岩)。「脂石」の義。乳白色で、表面が滑らかな石。豚の脂に似ていることからの命名という。ˈオー˥ヌ　アˈバ˥ヌ　˥カタチニ　ˈブー˥　アˈバイシ˥バ　ミリˈミッ˥タン [ˈʔoː˥nu ʔaˈba˥nu ˥kḁtatʃini ˈbuː˥ ʔaˈbaiʃi˥ba miriˈmit˥taŋ](豚の脂のような脂石 (珪岩) を見たことがある < 見てみた >)。

˥アバイズ [˥ʔabaidʑu] 【名】(動) 魚の名。和名、オニダルマオコゼ。全長約 20cm の硬骨魚。形は鬼瓦に似て、珊瑚礁に擬態する。顔面は醜悪で背びれの刺に猛毒がある。刺されると激痛を伴い、腫れ上がる。時には死ぬこともある。海岸の岩礁に棲息している。美味といわれているが、鳩間島の人はこれを食しない。˥アバイゾー　イˈシヌ˥　イˈル˥トゥ　ˈニーブンダ˥　ユーˈサン˥カー　ッˈサムティ　フンスク˥　バスン　アˈリ˥ブタ [˥ʔabaidʑoː ʔiˈʃinu˥ ʔiˈru ˥tu ˈniːbunda˥ juːˈsaŋ˥kaː sˈsamuti ɸuŋku˥ basuŋ ʔaˈri˥buta](オニオコゼは石の色と似ているので、注意しないと知らずに踏みつけることもあった < ありおった >)。鳩間島では食する人はいない。˥アバイズ　ッˈふー˥　プˈソー˥　ブˈラーヌ [˥ʔabaidʑu fˈfuː˥ pu̥ˈsoː˥ buˈraːnu](オニオコゼを食べる人はいない)。

アˈバイルン [ʔaˈbairuŋ] 【自動】溢れる。余ってこぼれる。いっぱいになって外に流失する。「Afure,ruru,eta. アフレ、ルル、レタ (溢れ、るる、れた)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。サˈバン˥ヌ　アˈバイルン˥ケン　ˈサウナ [saˈban˥nu ʔaˈbairuŋ˥ken ˈsauna](茶碗があふれるほど < まで > 茶を注ぐな)。サˈカシケー˥ラ　サˈキヌ˥　アˈバイルン˥ケン　ˈサウナト ツォー [saˈkaʃi̥keː˥ra sḁˈkinu˥ ʔaˈbairuŋ˥ken saunaˈtsoː](杯から酒が溢れるまで注ぐなってよ)。ギューˈサ　サーバン˥　アˈバイラヌ [gjuːˈsa saːbaŋ˥ ʔaˈbairanu](いくら注いでも溢れない)。アˈバイ　ナー˥ヌ [ʔaˈbai naː˥nu](溢れてしまった)。アˈバイル˥　クトー　ˈナー˥ヌ [ʔaˈbairu˥ ku̥toː ˈnaː˥nu](溢れることはない)。ˈパー˥ク　アˈバイレー˥　ミサムヌ [ˈpaː˥ku ʔaˈbaireː˥ misamunu](早く溢れればいいのに)。アˈバッカイルン [ʔaˈbakkairuŋ](満ち溢れる) ともいう。ユˈビ˥ヌ　˥アミシェー　ˈター˥ヌ　ミˈジェー˥　アˈブ˥シェーラ　アˈバイラヌ [juˈbi˥nu ˥ʔamiʃeː ˈtaː˥nu miˈʤeː˥ ʔaˈbu˥ʃeːra ʔaˈbairanu](昨夜の雨では田の水は田の畦を越えて溢れ出ることはない < 溢れない >)。カˈミ˥ヌ　アˈバイルン˥ケン　ミˈジ˥　カˈタ˥ミ [kaˈmi˥nu ʔaˈbairuŋ˥kem miˈʤi˥ kaˈta˥mi](甕が溢れるまで水を担いで甕に入れなさい < 水を担げ >)。

アˈバウン [ʔaˈbauŋ] 【自動】溢れる。余ってこぼれる。「溢、アブル」『類聚名義抄』、「〜すだく池水雖溢 < アフルトモ >〜。万、2833」の転訛したもの。サˈカシキヌ˥　アˈバウン˥ケン　サˈキ　サウナ [sḁˈkaʃi̥kinu˥ ʔaˈbauŋ˥ken sḁˈki sauna](盃が溢れるまで酒を注ぐな)。ギューˈサ　サーバン (ˈサウバン)˥　アˈバーヌ [gjuːˈsa saːbaŋ < ˈsaubaŋ > ˥ ʔaˈbaːnu](幾ら注いでも溢れない)。アˈバイ　ナー˥ヌ [ʔaˈbai naː˥nu](溢れてしまった)。アˈバウ˥　クトー　ˈナー˥ヌ [ʔaˈbau˥ ku̥toː ˈnaː˥nu](溢れることはない)。アˈバイヤー˥　ミサムヌ [ʔaˈbaijaː˥ misamunu](溢れたらいいのに)。˥サバンナ　アˈバウン˥ケン　ˈサウンドゥ˥　ムッˈトゥ˥　アˈバーヌ [˥sabanna: ʔaˈbauŋ˥ken ˈsaundu˥ mutˈtu˥ ʔaˈbaːnu](茶碗に溢れるほど注ぐが、ちっとも溢れない)。アˈバイ　ナー˥ヌ [ʔaˈbai naː˥nu](溢れてしまった)。アˈバウ˥　クトー　ˈナー˥ヌ [ʔaˈbau˥ ku̥toː ˈnaː˥nu](溢れることはない)。アˈバイヤー˥　ミサムヌ [ʔaˈbaijaː˥ misamunu](溢れればいいのに)。

アˈバ˥カシ [ʔaˈba˥kaʃi] 【名】あぶらかす (油粕)。豚の脂身を煎じて搾油した残滓。これを保存してお汁の出汁にしたり、油粕を米味噌と和えて油味噌にした。アˈバ˥カシェー　ˈミース˥トゥ　ˈアー˥シティ　ˈアンダミー˥ス　スˈク˥リバ [ʔaˈba˥kḁʃeː ˈmiːsu ˥tu ˈʔaː˥ʃi̥ti ˈʔandamiː˥su su̥ˈku˥riba](豚の脂粕は味噌と和えて油味噌を作りなさいよ)。アˈバ˥カシェー　ˈマイヌミー˥スナ　カˈケー˥シティ　イˈラ˥クカー　イッˈケナ˥　ンˈマー˥ン [ʔaˈba˥kaʃeː ˈmainumiː ˥suna kḁˈkeː˥ʃi̥ti ʔiˈra˥kukaː ʔikˈkena˥ ʔmˈmaː˥ŋ](脂

身の炒り滓を米味噌に和えて炒ると非常に美味しい)。アˈバˈカシ　ˈトゥリティ　ˈティンˈプラ　ヤˈキˈバ [ʔaˈbaˈkaʃi ˈturitiˈ timˈpura jaˈkiˈba](揚げ糟を除去してテンプラを揚げなさい)。

アˈバˈカビ [ʔaˈbaˈkabi] 【名】えのあぶら (荏油) やとうゆ (桐油) をひいた和紙。防水用に用いた。ˈサナー　アˈバˈカビシ　パˈラリブンダˈ　アミナー　ˈゾッふァスバンˈ　ムˈリラˈヌ [ˈsana: ʔaˈbaˈkabiʃi paˈraribundaˈ ʔamina: ˈʤoffasubamˈ muˈriraˈnu](雨傘は油紙で張られているから雨に濡らしても漏れない)。アˈバˈカビシ　ッˈスˈムカー　ˈゾーリラヌ [ʔaˈbaˈkabiʃi sˈsuˈmuka: ˈʤo:riranu](油紙で包んだら濡れない)。

アˈバˈカミ [ʔaˈbaˈkami] 【名】食油を保存する甕。「脂かめ」の義。豚の脂肉を空揚げして油を搾り出し、保存するために使用する甕。アˈバˈカメーラ　ˈオーˈヌ　ˈアバ　スˈクイティ　スーˈヌ　ダシ　ˈシーˈバ [ʔaˈbaˈkame:ra ˈʔo:ˈnu ˈʔaba sụˈkuiti su:ˈnu ˈdaʃi ˈʃi:ˈba](脂甕から豚の脂をすくい取ってお汁の出しにしなさいよ)。

アˈバˈキー [ʔaˈbaˈki:] 【名】薄い柔らかい毛。産毛 (うぶげ)。にこげ (和毛)。マˈリットーラヌˈ　アˈバˈキー　ˈスリシケー [maˈritto:ranuˈ ʔaˈbaˈki: ˈsuriʃi̥ke:](生まれたときから生えている毛を < 産毛を > 剃ってある)。

アˈバゴーˈダー [ʔaˈbago:ˈda:] 【名】油まみれ。油脂類が体や衣服類にべっとりと付着すること。カˈツシン [kḁˈtsuʃiŋ](カツオ漁船) が発動汽船になって、キˈカンˈバ [ki̥ˈkamˈba](機関室。「機関場」の義) で働く人は、いつもアˈバゴーˈダー [ʔaˈbago:ˈda:](油まみれ) していた。アˈバゴーˈダー　シˈティˈ　アˈラウバンˈ　ウˈティラˈヌ [ʔaˈbago:ˈda: ʃi̥ˈtiˈ ʔaˈraubaŋˈ ʔuˈtiraˈnu](油まみれになって、洗っても落ちない)。

ˈアバゴーダー [ˈʔabago:da:] 【名】油まみれ。カˈツシンヌˈ　キˈカンチョーˈヌ　ˈキンˈマー　ˈアバゴーダー　シˈティˈ　ヤˈニˈヤタン [kḁˈtsuʃinnuˈ ki̥ˈkantʃo:ˈnu ˈkimˈma: ˈʔabago:da: ʃi̥ˈtiˈ jaˈniˈjataŋ](カツオ漁船の機関長の着物は油まみれになって汚かった)。

アˈバˈサ [ʔaˈbaˈsa] 【名】 (動) 魚の名。ハリセンボン科。1和名、イシガキフグ (体長約 30 センチ)、和名、ネズミフグ (体長約 40 センチ)。体表面は鋭く長い刺で覆われている。普段は刺を収めて泳ぐが、体に触れると風船のように膨らみ、刺を立て外敵からの防御体勢に入る。身は「のぼせに効く」といわれ、重宝されている。アˈバˈサー　ムˈカˈシェーラ　サˈギフチˈルティ　アˈザリˈ　アˈバサˈヌ　ˈシル　ˈユー　ˈシジ　ヌˈマˈソッタンˈダー [ʔaˈbaˈsa: muˈkaˈʃe:ra saˈgiɸutʃiˈruti ʔaˈʤariˈ ʔaˈbasaˈnu ˈʃiru ˈju: ˈʃiʤi nuˈmaˈso:ttanˈda:](ハリセンボンは昔からのぼせに効く < さげ薬 > といわれて、アバサ汁をよく煎じて飲まされたよ)。2転じておしゃべり女。お転婆娘。お喋り。ˈウンザーˈ　アˈバˈサー　ˈナリティ　ウˈマー　ˈカマーナ　ムニカーˈニˈ　ユム [ˈʔunʤa:ˈ ʔaˈbaˈsa: ˈnariti ʔuˈma:ˈkama:na munika:ˈniˈ jumu](あいつはアバサー < おしゃべり > になって、あちらこちらで喋り捲る < 物言いだけ読みまくる。声を立てて唱える >)。

アˈバˈサシ [ʔaˈbaˈsaʃi] 【名】あぶらさし (油差し)。機械などに油を注す道具で、コーヒーポットのような形をしたもの。カツオ漁船の焼玉エンジンにオイルを注すのに用いた。アˈバˈサシナ　ˈジューˈユ　イˈリˈバ [ʔaˈbaˈsaʃina ˈʤu:ˈju ʔiˈriˈba](油差しに重油を入れなさい)。

アˈバサッˈクヤー [ʔaˈbasakˈkuja:] 【名】お喋り女め。あばずれ女。卑称。アˈバサッˈクヤー　ˈナリティ　ˈヨーˈゾー　ナˈラˈヌ [ʔaˈbasakˈkuja: ˈnariti ˈjo:ˈʤo: naˈraˈnu](あばずれ女 < お喋り女 > になって、どうにも始末に負えない < 養生できない。手当てができない >)。

アˈバズーˈヤン [ʔaˈbaʤu:ˈjaŋ] 【形】脂っこい。クˈレーˈ　ドゥク　アˈバズーヤˈヌ　ッˈふァーラヌ [kuˈre:ˈ duku ʔaˈbaʤu:jaˈnu fˈfa:ranu](これはあまりにも脂っこくて食べられない)。

アˈバˈスブ [ʔaˈbaˈsubu] 【名】油壺。豚の脂を保存する小型の壷で、壺の肩に四つの耳が付いていた。ˈミンスブ [ˈminsubu](耳壺) ともいう。豚脂 < ラード > を入れて保存し、調理の際に少量ずつ掬い取ってお汁に入れた。アˈバˈスボーラ　ˈガイシ　ˈアバ　スˈクイˈトゥリティ　ˈスーナ　イˈリˈバ [ʔaˈbaˈsubo:ra ˈgaiʃi ˈʔaba sụˈkuiˈturitiˈ su:na ʔiˈriˈba](油壺から匙で掬い取ってお汁に入れなさい)。

アˈバダリˈムヌ [ʔaˈbadariˈmunu] 【名】だらしない者。しまりのない者。節度のない者。裸で外出する者。ˈキンˈマー　キˈサムティˈ　ミˈチェーˈ　ンˈジˈルカー　アˈバダリˈムヌ　ナルンˈダー [ˈkimˈma: ki̥ˈsamutiˈ miˈʧe:ˈ ʔnˈʤiˈruka: ʔaˈbadariˈmunu narunˈda:](着物を着ないで道へ出るとだらしない者になるぞ)。

アˈバッカースン [ʔabakka:suŋ] 【他動】溢れさせ

る。˥サバンナ　アˈバッカースン˥ケン　ˈサーン˥　ブˈリ　˥バ [˥sabanna ʔaˈbakkaːsuŋ˥ken ˈsaːm˥ buˈri˥ ba](茶碗に溢れるほど注ぐな＜注がないでおれ＞よ)。ッˈサン˥ケン　アˈバッカーシ　ナー˥ヌ [sˈsaŋ˥keŋ ʔaˈbakkaːʃi naː˥nu](気づかない＜知らぬ＞うちに溢れさせてしまった)。

アˈバッカイルン [ʔaˈbakkairuŋ] 【自動】液体が容器から溢れる。液体が溢れかえる。液体が溢れ出る。˥サバンナ　アˈバッカイルン˥ケン　˥サー　ˈサウン [˥sabanna ʔaˈbakkairuŋ˥ken ˥saː ˈsauŋ](茶碗に溢れるほど茶を注ぐ)。ギューˈサ　サウバン˥　アˈバッカイラヌ [gjuːˈsa saubaŋ˥ ʔaˈbakkairanu](いくら注いでも溢れない)。˥サー　ˈサウター˥　アˈバッカイナー˥ヌ [˥saː ˈsautaː˥ ʔaˈbakkai naː˥nu](お茶を注いだら溢れてしまった)。アˈバッカイル˥　クトーˈナー˥ヌ [ʔaˈbakkairu˥ kʉtoː ˈnaː˥nu](溢れることは無い)。アˈバッカイヤー˥　ミサムヌ [ʔaˈbakkaijaː˥ misamunu](溢れればよいのに)。アˈバッカイリ [ʔaˈbakkairi](溢れろ)。

アˈバッカウン [ʔaˈbakkauŋ] 【自動】溢れる。「あふる(溢る)、下二」の転訛したもの。老年層は、アˈバウン [ʔaˈbauŋ](溢る) ともいう。アˈザン˥カー　サˈバン˥ヌ　アˈバッカウン˥ケン　˥サー　ˈサウンダ˥　アˈバッカーン˥ヨーニ　ˈサーシ˥バ [ʔaˈʤaŋ˥kaː saˈban˥nu ʔaˈbakkauŋ˥ken ˥saː ˈsaunda˥ ʔaˈbakkaːsaŋ˥joːni ˈsaːʃi˥ba](言わないと茶碗が溢れるほど茶を注ぐから、溢れさせないように注がせなさいよ)。

アˈバッ˥タラ [ʔaˈbat˥tara] 【名】脂身。脂肉。クˈヌオー˥ヤ　ˈパン˥タリティ　アˈバッタラン˥ドゥ　ˈゴー˥ラール [kuˈnu ʔoː˥ja ˈpan˥tariti ʔaˈbattaran˥du ˈgoː˥raːru](この豚は肥えて脂身が多い)。アˈバッ˥タラー　ビˈトゥラー˥ヌ　˥ドゥク　ッふァーラヌ [ʔaˈbat˥taraː biˈturaː˥nu ˥duku fˈfaːranu](脂身は脂っこくてあまり食べられない)。

アˈバッ˥ツァー [ʔaˈbat˥tsaː] 【名】下品で多弁な人。他人の噂話や悪口をあちらこちらで言いふらす女。アˈバ˥フチ [ʔaˈba˥ɸʉʧi](お喋り) に、接尾辞˥ヤー [jaː](～する人) が付いて、[ʔaˈba˥ɸʉʧi＋jaː]　→　[ʔaˈbaɸʉ˥ʧaː]　→　[ʔaˈbat˥tsaː]　と転訛したもの。ˈウンザー˥　アˈバッ˥ツァー　ナリ　˥マーカマーティ　ˈナー˥ン　ヤˈナムニ˥バ　カーˈニ˥　イˈジアー˥ク [ˈʔunʤaː˥ ʔaˈbat˥tsaːnari ˥maːkamaːti ˈnaː˥m puˈsunu˥ jaˈnamuni˥ba kaːˈni˥ ʔiˈʤi ʔaː˥ku](こいつめは質の悪いおしゃべりで所かまわず他人の悪口だけを言っている)。アˈバッ˥ツァー　ˈウンザ˥　フˈチ˥　ˈバリ˥　トゥˈラ˥シ [ʔaˈbat˥tsaː ˈʔunʤa˥ ɸʉˈʧi˥ baˈri˥ tuˈra˥ʃi](おしゃべり女め、この野郎、口を割ってやれ)。

アˈバッティムヌ [ʔaˈbattimunu] 【名】慌てもの。粗忽もの。クˈヌ˥　アˈバッティムノー˥　プˈスヌ˥　ムネー　シゥˈカムティ˥　キˈサ˥　パリˈナーン˥バン [kuˈnu˥ ʔaˈbattimunoː˥ pʉˈsunu˥ muneː sʲˈkamuti˥ kʲˈsa˥ pariˈnaːm˥baŋ](この粗忽者めが、人の言うこと＜言葉＞は聞かないで、もうすでに行ってしまったわい)。

アˈバ˥ティー [ʔaˈba˥tiː] 【名】料理上手な女の手。豚を飼育するのが上手な女。「脂手」の義。ウˈリヌティー˥ヤ　アˈバ˥ティー　ヤˈルンダ˥　ウˈリヌ˥スˈク˥ル　ウˈサイ˥ヤー　ˈサッ˥コー　ンˈマート ツォー [ʔuˈrinu tiː˥ja ʔaˈba˥tiː jaˈrunda˥ ʔuˈrinu˥ suˈku˥ru ʔuˈsai˥jaː ˈsak˥koː ʔmˈmaːꜜtsoː](これ＜この人＞の手は料理上手な手＜脂手＞であるから、これの作る肴＜お采＞は非常に美味しいんだよ)。ˈヌー˥シル　アˈバ˥ティー　ヤˈル˥ユー　˥アイニ　˥オー　シゥˈカ˥ナイ　ˈゾー˥ジˈツォー [ˈnuː˥ʃiru ʔaˈba˥tiː jaˈru˥juː ˥ʔaini˥ ˥ʔoː sʲˈka˥nai ˈʤoː˥ʤʲiˈtsoː](どんな料理上手の女なのか、こんなにも豚飼育が上手なんだよ)。

アˈバティカー˥ティ [ʔaˈbatikaː˥ti] 【副】慌てふためいて。急いで。うろたえて。プˈスヌ　クー˥タ　アˈバティカー˥ティ　パリˈナー˥ヌ [pʉˈsunu kuː˥ta ʔaˈbatikaː˥ti pariˈnaː˥nu](人が来たので慌てふためいて行ってしまった)。アˈバティカー˥ティ　ムニイˈズナ [ʔaˈbatikaː˥ti muni ʔiˈʤuna](急いでものを言うな)。ヤˈラバリター˥　アˈバティカー˥ティ　˥パルンケン　ˈカイ˥リティ　˥ドゥー　ヤˈマ˥シ　˥シケー [jaˈrabaritaː˥ ʔaˈbatikaː˥ti ˥paruŋkeŋ ˈkai˥riti˥du: jaˈma˥ʃi ˥ʃʉke:](呼ばれたので急いで行くと、転倒して体を傷めて＜病まして＞ある)。

アˈバティカバ˥ティ [ʔaˈbatikaba˥ti] 【副】あわてふためいて。ABCDBC 型の重言。老年層の言葉。アˈタアミヌ　フータ˥ル　アˈバティカバ˥ティ　˥シー　ヤッˈトゥ˥シ　˥プシシケータ　ˈキン˥バ　˥トゥリˈペーラシ˥タ [ʔaˈtaʔaminu ɸuːtar˥u ʔaˈbatikaba˥ti ˥ʃiː jatˈtu˥ʃi ˥pʉʃiʃʉke:ta ˈkim˥ba ˥turi ˈpeːraʃi˥ta](にわか雨が降ったので慌てふためいて干してあった着物を取り入れた)。

アˈバティカバ˥ティ　ˈスン [ʔaˈbatikaba˥ti ˈsuŋ] 【連】大慌てする。慌てふためいてする。「慌てふためき・する」の義。アˈバティカバ˥ティ　ˈサンドー˥

シ　ˈヨーンナ　シーˈバ [ʔaˈbatikabaˈti ˈsandoːˈʃi ˈjoːnna ʃiːˈba](大慌てしないでゆっくりしなさい)。アˈバティカバˈティ　ˈスンティ　アーˈキ　ˈヤリ　シˈティナーˈヌ [ʔaˈbatikabaˈti ˈsunti ʔaːˈki ˈjari ʃi̥ˈtinaːˈnu](慌てふためいてしようとして破ってしまった)。

アˈバティルン [ʔaˈbatiruŋ] 【自動】慌てる。うろたえて急ぐ。アˈバティランˈタンティン　ミサンˈダーˈ。ヨーˈンナー　サンˈミン　ˈシーバルˈ　マˈチガーˈヌ [ʔaˈbatiranˈtantim misanˈdaːˈ。joːˈnnaː samˈmiŋ ˈʃiːbaruˈ maˈʧigaːˈnu](急がなくてもいいよ。ゆっくり計算したほうが間違わない)。アˈバティルナ [ʔaˈbatiruna](急ぐな。慌てるな)。アˈバティラヌ [ʔaˈbatiranu](急がない)。イˈザリˈカー　アˈバティルン [ʔiˈʤariˈkaː ʔaˈbatiruŋ](叱られたら慌てる＜急ぐ＞)。アˈバティレーˈ　ミサムヌ [ʔaˈbatireːˈ misamunu](慌てれば＜急げば＞良いのに)。ˈマーˈビン　アˈバティリ [ˈmaːˈbiŋ ʔaˈbatiri](もっと急げ＜慌てろ＞)。アˈバティルˈ　ナカー　ˈチャー　ヨーンナー [ʔaˈbatiru ˈnakaː ˈʧaː joːnnaː](急ぐときは常に落ち着いてゆっくり＜急がばまわれ＞)。

アˈバトゥン [ʔaˈbatuŋ] 【自動】慌てる。急ぐ。うろたえる。「あわつ (慌てる、下二段)」の四段へ転訛したもの。ˈワーˈ　アˈバトゥˈカー　ˈバンˈヌン　アˈバトゥンˈダー [ˈwaːˈ ʔaˈbatuˈkaː ˈbanˈnuŋ ʔaˈbatunˈdaː](君が慌てると私も慌てるぞ)。アˈバトゥナˈ　ピˈニチェーˈ　アˈリˈブンダ　アˈバタンティンˈ　ミサン [ʔaˈbatunaˈ piˈniʧeːˈ ʔaˈriˈbunda ʔaˈbatamtimˈ misaŋ](慌てるな＜急ぐな＞。日時はまだあるから慌てなくても＜急がなくても＞よい)。アˈバティ　ナーˈヌ [ʔaˈbati naːˈnu](慌ててしまった)。アˈバトゥˈ　クトー　ˈナーˈヌ [ʔaˈbatuˈ kṵtoːˈnaːˈnu](慌てる＜急ぐ＞ことは無い)。アˈバテーˈ　ミサムヌ [ʔaˈbateːˈ misamunu](急げばいいのに)。アˈバティˈバ [ʔaˈbatiˈba](急げよ)。

アˈバナキニビ [ʔaˈbanakinibi] 【名】仰向けに寝ること。仰臥すること。大の字になって寝ること。ミˈドゥムˈヌ　ˈクナー　アˈバナキニビ　シーベーˈバン [miˈdumuˈnu ˈkuna: ʔaˈbanakinibi ʃiːbeːˈbaŋ](女が＜女のくせに＞ここで仰臥しているわい)。

アˈバナクン [ʔaˈbanakuŋ] 【自動】仰向けに寝やがる。仰臥しやがる。寝腐る。寝転がる。「寝る」を罵っていう語。シˈグトーˈ　サˈムティˈ　アˈバナキ　ベー [ʃiˈgutoːˈ saˈmutiˈ ʔaˈbanaki beː](仕事はしないで寝くさっている)。ˈアイニ　アˈバナカンドーˈシ　シˈグトゥン　シーˈバ [ˈʔaini ʔaˈbanakandoːˈʃi ʃiˈgutuŋ ʃiːˈba](あんなに寝腐らずに仕事もしろよ)。イˈザンˈカー　ナーˈイˈ　アˈバナクントˈダー [ʔiˈʤaŋˈkaː naːˈiˈ ʔaˈbanakunt̬daː](叱らないと、ずっと寝くさるぞ)。アˈバナクˈ　ムˈヌンマーˈ　イー　ッˈふァースナ [ʔaˈbanakuˈ muˈnummaːˈ ʔiː fˈfaːsuna](無為徒食して寝腐る者には飯を食わせるな)。アˈバナケーˈ　ミサムヌ [ʔaˈbanakeːˈ misamunu](寝やがればいいのに)。ˈワンザー　ˈウナーティ　アˈバナキˈバ [ˈwanʤaː ˈʔunaːti ʔaˈbanakiˈba](お前野郎はここで寝やがれ)。

アˈバˈナビ [ʔaˈbaˈnabi] 【名】揚げ物をする鍋。「揚げ物鍋」の義。油鍋。揚げ物、炒め物の用いる浅い鍋。フライパン。アˈバˈナビ　シˈケーˈラ　ˈミーˈヤ　パˈナスˈナˈヨー [ʔaˈbaˈnabi ʃi̥ˈkeːˈra ˈmiːˈja paˈnasuˈnaˈjoː](油鍋に油を入れて火にかけたら、それから目を離すなよ)。

アˈバˈヌ　ˈカシ [ʔaˈbaˈnu ˈkaʃi] 【連】豚の脂肉を油鍋で炒って油を抽出したあとの滓。炒り滓。塩を振りかけて食したり、お汁に入れて出汁にするのに用いた。ˈミーˈスナ　アˈバˈヌ　ˈカシ　カˈケーˈシティ　ˈアンダミーˈス　スˈクˈローッタ [ˈmiːˈsuna ʔaˈbaˈnukaʃi kḁˈkeːˈʃi̥ti ˈʔandamiːˈsu sṵˈkuˈroːtta](味噌に炒り滓をかき混ぜて油味噌を作られた)。

アˈバˈヌ　シˈジˈグル [ʔaˈbaˈnu ʃiˈʤiˈguru] 【連】豚の脂身を油鍋で炒って油を抽出した後の滓。炒り滓。「脂の煎じ殻」の義。アˈバˈヌ　シˈジˈグロー　シˈトゥナˈヨー [ʔaˈbaˈnu ʃiˈʤiˈguroː ʃi̥ˈtunaˈjoː](脂身の炒り滓は捨てるなよ)。

アˈハハー [ʔaˈhahaː] 【感】あはは。声高に笑う声。ミˈドゥムˈヌ　アˈハハーˈシ　タˈカˈバライ　ˈシー　ミーヌッサˈヌ　ナˈラˈヌ [miˈdumuˈnu ʔaˈhahaːˈ ʃi tḁˈkaˈbarai ˈʃiː miːnussaˈnu naˈraˈnu](女がアハハーと高笑いして、見苦しくて仕方がない)。

アˈババー [ʔaˈbabaːˈ] 【名】唖者。口のきけない人。クˈヌˈ　プˈソーˈ　マˈリットーラˈ　アˈババー　ヤˈローˈレーティ　ブˈネーヌˈ　ウヤ　ˈタンガˈル　ウˈリトゥˈ　パˈナˈシ　ˈソーˈル [kuˈnuˈ pṵˈsoːˈ maˈritto:raˈ ʔaˈbaba: jaˈroːˈreːti buˈneːnuˈ ʔuja ˈtaŋgaˈru ʔuˈritu paˈnaˈʃi ˈsoːˈru](この人は生まれつきの唖者であられるので、母親一人しかその人と話されない＜母親一人が話される＞)。

アˈバˈパク [ʔaˈbaˈpḁku] 【名】油を入れる箱。なたねあぶら (菜種油) を入れるブリキ缶。「油箱」の義。アˈバˈパコーラ　タˈニˈユー　スˈクイˈ　パˈカˈレー

ティル　ˈカーソーッ˥タ [ʔaˈba˥pa̯koːra taˈni˥juː sṵˈkui˥ pa̯ˈka˥reːtiru ˈkaːsoːt˥ta](菜種油 < なたねあぶら > を入れる缶から種油を掬い、量ってからお売りなさった)。アˈバ˥カン [ʔaˈba˥kaŋ](油缶) ともいう。

アˈバピカ˥リ [ʔaˈbapika˥ri] 【名】脂ぎって顔がテカテカ光っているさま。ˈヌー˥バ　ッˈふァイル　パンタル˥タユー　ウˈム˥テー　アˈバピカ˥リ　ˈシーベー [ˈnuː˥ba fˈfairu pantaru˥taju: ʔuˈmu˥teː ʔaˈbapika˥ri ˈʃiːbeː](何を食べて肥えたのか、顔 < 面 > はテカテカ光っているよ)。

˥アバ　ピˈキマールン [˥ʔaba pi̯ˈkimaːruŋ] 【連】脂ぎる。油が一面に拡散する。全体的に油がひろがる。油がお汁の表面一様に浮く。アˈバ˥ムヌ　ッˈふァイティル˥　フˈチヌ　マーラー˥　アバ　ピˈキマーリ　ベー [ʔaˈba˥munu fˈfaitiru˥ ɸṵˈtʃinumaːraː˥ ʔaba pi̯ˈkimaːri beː](油ものを食べて口の周囲は脂ぎっている < 油が一面についている >)。

アˈバ˥フチ [ʔaˈba˥ɸṵtʃi] 【名】おべっか。ごますり。へつらい。お喋り。「油口」の義。ˈヌー˥ヌ　シˈジ˥ル　ヤˈル˥ユー　ナーˈイ˥　アˈバ˥フチ　˥ナリ　プˈスバ˥　フミˈベー [ˈnuː˥nu ʃiˈʤi˥ru jaˈru˥juː naːˈi˥ ʔaˈba˥ɸṵtʃinari pṵˈsuba˥ ɸumiˈbeː](どういう積もりなのか、低劣でお喋りな胡麻すりになって、ただ人を褒めている)。

アˈバフ˥ツァー [ʔaˈbaɸṵ˥tsaː] 【名】よくおべっかを言う人。へつらいもの。ˈヌー˥ヌ　タˈクマ˥ヌ　˥アルユー　アˈバフ˥ツァー　˥ナリ　ˈベー˥サー [ˈnuː˥nu ta̯ˈkuma˥nu ˥ʔaruju: ʔaˈbaɸṵ˥tsaː ˥nariˈbeː˥saː](なんの企みがあるのか、へつらいものになっているよ)。

˥アバマチ [˥ʔabamatʃi] 【名】松の油分の多い根株や幹の部分。アˈカ˥シ [ʔaˈka˥ʃi](灯) に用いた。イˈクサ˥ユーナーヤ　アˈバ˥ヌ　ˈナーン˥ベーティ　˥アバマチバ　キˈジティ˥　アˈカ˥シ　スˈク˥リティ　ウˈリバ　モーシル˥　ガˈラソーッタ˥ル [ʔiˈkusa˥juːnaːja ʔaˈba˥nu ˈnaːm˥beːti ˥ʔabamatʃiba kiˈʤiti˥ ʔaˈka˥ʃi sṵˈku˥riti ʔuˈriba moːʃiru˥ gaˈrasoːtta˥ru](戦争中は油がないので、松の根株を削って灯 < あかし > を作ってそれを燃やして明るくされた)。

アˈバ˥ムシ [ʔaˈba˥muʃi] 【名】 (動) アブラムシ。泡粒のように小さく野菜の葉について樹液をすう害虫。ˈナーン˥パーナ　アˈバムシ˥ヌ　ˈイッ˥パイ　˥シキティ　ˈナー˥ヤ　サˈリナー˥ヌ [ˈnaːm˥paːna ʔaˈbamuʃi˥nu ˈʔip˥pai ˥ʃi̯kiti ˈnaː˥ja saˈrinaː˥nu](菜っ葉にアブラムシが沢山 < いっぱい > ついて菜っ葉は枯れてしまった。)。

アˈバ˥ムヌ [ʔaˈba˥munu] 【名】油気の多い食べ物。アˈバムヌ˥ヌ　ˈナーン˥カー　ˈイー˥ヤ　ンˈマーナーン˥バン [ʔaˈbamunu˥nu ˈnaːŋ˥kaː ˈʔiː˥ja ʔmˈmaːnaːm˥baŋ](油気のものがないとご飯は美味しくないわい)。

アˈバラ˥ブニ [ʔaˈbara˥buni] 【名】あばらぼね (肋骨)。若年層の言葉。「客亭、無壁之屋也、客人屋。阿波良 (あはら)」『新撰字鏡』、「骼、アバラホネ」『天正十八年本節用集』の転訛したもの。老年層は、ˈソーキ˥ブニ [ˈsoːki˥buni](主に豚や牛等の家畜の肋骨を指す。稀に人間の肋骨にもいう)、ヤˈカタ˥ブニ [jaˈkata˥buni](人間の肋骨) という。

アˈバリマリ [ʔaˈbarimari] 【名】生まれつきの美人。天性の美人。ブˈネーヌ˥　ウˈヤ˥ヌ　ˈシーバ˥　ピˈキル˥　アˈバリマリバ　シーブー [buˈneːnu˥ ʔuˈja˥nu ˈʃiːba˥ pi̯ˈkiru˥ ʔaˈbarimariba ʃiːbuː](母親の血筋を引いて天性の美人に生まれついてきている)。

アˈバリムヌ [ʔaˈbarimunu] 【名】暴れ者。乱暴者。サˈマネー˥　ウˈトゥナッ˥サンドゥ　˥ヌムカー　アˈバリムヌ˥　ナリティ　ˈヨー˥ゾー　シˈキララ˥ヌ [saˈmaneː˥ ʔuˈtunas˥sandu ˥numukaː ʔaˈbarimunu˥ nariti ˈjoː˥ʤoː ʃi̯ˈkirara˥nu](しらふ < 素面 > では大人しいが、飲むと乱暴物になって手がつけられない < 養生できない >)。

アˈバリルン [ʔaˈbariruŋ] 【自動】暴れる。標準語からの借用語。老年層は、大人が暴れる場合はˈヤー˥バリ　ˈスン [ˈjaː˥bari ˈsuŋ](家具をぶち壊す。暴れる)、子供の場合は、ˈアールン [ˈʔaːruŋ](暴れる)、ˈキン˥ダン　ˈスン [ˈkin˥dan ˈsuŋ](地団駄踏んで暴れる) と表現する。ˈウンザー˥　サˈキ˥　ヌムカー　アˈバリル˥　フˈシヌ˥　アルンダ　ˈキー˥　シˈキ˥リ [ˈʔunʤaː˥ sa̯ˈki˥ numukaː ʔaˈbariru˥ ɸṵˈʃinu˥ ʔarundaˈkiː˥ ʃi̯ˈki˥ri](此奴は酒を飲むと暴れる癖があるから気をつけよ)。

アˈバ˥レー　プˈス [ʔaˈba˥reː puˈsu] 【名】美しい人。美人。アˈバ˥レー　プˈスヌ˥　バˈタ˥ヌ　˥ナカースˈク˥ブティ　アˈザリブー [ʔaˈba˥reː pṵˈsunu˥ baˈta˥nu naˈkaː˥ sṵˈku˥buti ʔaˈʤaribuː](美人の腹の中はすくも <籾殻(モミガラ)。腹黒 > といわれている)。

アˈバ˥レー　ミˈドゥ˥ム [ʔaˈba˥reː miˈdu˥mu] 【連】美しい女。˥カナー　アˈバ˥レー　ミˈドゥム˥ヌ　˥タティ　ˈベー˥ン [˥kanaː ʔaˈba˥reː miˈdumu˥nu ˥tati ˈbeː˥ŋ](あそこに美しい女が立っている)。

ア˞バ˥レーワ˞レー [ʔa˞ba˥re:wa˞re:] 【感】何と美しいことよ。ウ˞ヌ˥　ミ˞ドーン˥ッふァヌ　ア˞バ˥レーワ˞レー [ʔu˞nu˥ mi˞do:ŋ˥ffanu ʔa˞ba˥re:wa˞re:](この女の子の何と美しいことよ)。

ア˞バ˥レーン [ʔa˞ba˥re:ŋ] 【形】美しい。きれいである。特に女性の美しさを表す。平安時代語の「あはれ」と同系統の言葉。日本諸方言の「あっぱい」(美しい) 島根県、徳島県、高知市、福岡県、(『日本方言大辞典』) と同系統の語。美人である。女性の美しさに対していう。「〜門ささず　あはれ吾妹子〜。万 2594」の転訛したものか。˞マイ˥ネヌ　ミ˞ドーン˥ッふァー　シザ˞ウシ˥トゥナリ　イッ˞ケナ˥　ア˞バ˥レーン [˞mai˥nenu mi˞do:ŋ˥ffa: ʃidʑa˞ ʔuʃi̥˥tunari ʔik˞kena˥ ʔa˞ba˥re:ŋ](前隣の家の娘 < 女の子 > さんは姉妹揃って非常に美しい)。カ˞ヌ　ッふァヌ˥　ア˞バ˥レー˞ワー [ka˞nu ffanu˥ ʔa˞ba˥re:˞wa:](あの子のなんと美しいことよ)。˞ナン˥ゾー　ア˞バレー　ナー˥ヌ [˞nan˥dʑo: ʔa˞bare: na:˥nu](あまり美しくない)。フ˞ドゥブ˥　アー˞シ˥　ア˞バ˥レー　˥ナルン [ɸu˞dubu˥ ʔa:˞ʃi˥ ʔa˞ba˥re: ˥naruŋ](成長するにつれて美しくなる)。ア˞バ˥レー　ッ˞ふァー˥ラ　˞イー˥リバ [ʔa˞ba˥re: f˞fa:˥ra ˞ʔi:˥riba](美しい娘から貰えよ)。ミ˞ドーン˥ッふァー　ア˞バ˥レーンティ　ス˞クタヌ　ナン˥ゾー　ア˞バ˥レー　˞ナー˥ヌ [mi ˞do:n˥ffa: ʔa˞ba˥re:nti sṵ˞kutanu nan˥dʑo: ʔa˞ba˥re: ˞na:˥nu](女の子は美しいと聞いたが、あまり美しくない)。˞シンダイ˥　ア˞バ˥レー　˥ナリケーン [˞ʃindai˥ ʔa˞ba˥re: ˥narike:ŋ](次第に美しくなってきた)。ウ˞リヌ˥　スコー　ア˞バ˥レー　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [ʔu˞rinu˥ sṵko: ʔa˞ba˥re: pṵ˞so:˥ bu˞ra:nu](あの人ほど美しい人はいない)。ア˞バ˥レーカー　˞イー˥ルン [ʔa˞ba˥re:ka: ˞ʔi:˥ruŋ](美しかったらもらう < 嫁にする >)。

˥アビャー [˥ʔabja:] 【感】あれあれ。あらまあ。驚いたり、意外な時に発する言葉。老年層の言葉。˥アビャー　˞ウンパン˥シン　˞ヌーリパザキ　ナーン˥バン [˥ʔabja: ˞ʔumpaŋ˥ʃin ˞nu:ripadʑaki na:m˥baŋ](あれまあ、運搬船に乗船し損なったよ)。

˥アヒャーオー [˥ʔaça:ʔo:] 【名】母豚。繁殖用母豚。˥アヒャー [˥ʔaça:](母豚) ともいう。˥アヒャーオーバ　シゥ˞カ˥ナイティ　サ˞カラシ　カースン [˥ʔaça:ʔo:ba si̥˞ka˥naiti sạ˞karaʃi ka:suŋ](繁殖用母豚を飼って、繁殖させて < 盛らせて > 売る)。

˥アヒャーヌギ [˥ʔaça:nugi] 【名】繁殖用の雌豚を仕立てるために多くの子豚の中から母豚に適するものを選び出すこと。˞トゥッカラヌ˥　ナ˞カー˥ラ　˥アヒャーヌギ　˞シー˥ケーンダ　フ˞ドゥン˥　カ˞タチン　˞カイ˥ヤンティ˞ゲ˥ラ [˞tukkaranu˥ na˞ka:˥ra ˥ʔaça:nugi ˞ʃi:˥ke:nda ɸu˞duŋ kạ˞tatʃiŋ ˞kai˥janti˞ge˥ ra](十匹の中から繁殖用の母豚に仕立てる子豚を選んできたのだから、大きさも姿形も立派で美しいさ、ほら)。

ア˞ピ˥ラ [ʔa˞pi˥ra] 【名】(動) 家鴨 (アヒル)。ア˞ピラ˥ヌ　˥カタチニ　˥マター　パ˞タッキ˥　ア˞ラ˥キ　˥ヌーヤ　ウ˞ヌ˥　カ˞タッチェー [ʔa˞pira˥nu ˥kạtatʃini ˥mata: pạ˞takki˥ ʔa˞ra˥ki ˥nu:ja ʔu˞nu˥ kạ˞tatʃe:](アヒルのように股を開いて歩いて、何だあの格好は)。パ˞トゥ˥マナー　ア˞ピ˥ラー　˞ナン˥ゾー　ブ˞ラーンシェン [pạ˞tu˥mana: ʔa˞pi˥ra: ˞nan˥dʑo: bu˞ ra:ŋʃeŋ](鳩間島には家鴨はあまりいなかった)。

ア˞フ [ʔa˞ɸu] 【名】あく (灰汁)。「灰汁、阿久 (あく)」『和名抄』の転訛したもの。[ku] → [fu] → [ɸu] の音韻変の化法則によって形成された語。木灰に水を入れて汲み取った上澄みの水。洗濯や髪洗い、染色等に用いた。˞キン˥マー　ア˞フ˥ナ　シ˞キティ˥　ア˞ラウ˥カー　˥ガバー　ウ˞タシヤッ˥サン˞ダー [˞kim˥ma: ʔa˞ɸu˥na ʃi̥˞kiti˥ ʔa˞rau˥ka: ˥gaba: ʔu˞taʃijas˥san˞da:](着物は灰汁につけて洗うと垢は落としやすいよ)。カ˞マチヌ　パイバ˥　ミ˞ジ˥ナ　トゥ˞カ˥シティ　ア˞フバ˥　トゥリティ　ウ˞リ˥シル　ガ˞マ˥ジ　ア˞ラウタ [ka˞matʃinu paiba˥ mi˞dʑi˥ na tṵ˞ka˥ʃi̥ti ʔu˞ri˥ʃiru ga˞ma˥dʑi ʔa˞rauta](竈の灰を水に溶かして灰汁を取って、それで髪を洗った)。

˥アブ [˥ʔabu] 【名】お母さん。母。「母」の名称。「あむ」(百姓の妻)『混効験集』。呼称は、ア˞ボー [ʔa˞ bo:](母、お母さん。[abu・ja]< は > の融合変化したもの) という。˞バン˥テヌ　アボー　パ˞タ˥キ　˞カイ˥シン　˞オーッ˥タ [˞ban˥tenu ˥ʔabo: pạ˞ta˥ki ˞kai˥ʃiŋ ˞ʔo:t˥ta](私の家のお母さんは畑を耕しに行かれた)。˥クマー　ア˞ブ˥トゥ　˞アーヤ˥トゥ　フ˞タール˥シ　ス˞ク˥ローレール　˞ジー˥マシ [˥kuma: ʔa˞bu˥tu ˞ʔa:ja˥tu ɸṵ˞ta:ru˥ʃi sṵ˞ku˥ro:re:ru ˞dʑi:˥maʃi](ここは父と母が二人で耕作された土地です)。明治、大正生まれの古老の言葉。昭和生まれの若年層は、˥アンマ [˥ʔamma](母。親族名称)、アン˞マー [ʔam ˞ma:](お母さん! 親族呼称) という人が多い。これは、弟妹たちが兄嫁を˥アンマ [ʔamma](姉さん) と呼んだのを、子や孫が母親の名称と誤解して伝承したことによるものであろう。˞バン˥テヌ　ア˞ブ˥トゥ　˞ワッ˥テヌ　˥アボー　˞キョー˥ダイ˞ダー [˞

ban˥tenu ʔa˩bu˥tu ˩wat˥tenu ˥ʔabo: ˩kjo:˥dai˩da:](私の家のお母さんと貴方の家のお母さんは姉妹だよ)。

ア˩ブ **[ʔa˩bu]** 【名】穴。自然の堅穴。縦穴洞穴。特に地下へ落ち込むように出来た天然の堅穴洞穴をいう。シ˩マナカミチ˥ヌ　˩アンタヌ˥　ナ˩カシ˥ケーヌ　パ˩タキ˥ヌ　˥スバナー　ア˩ブヌ˥　アンティ˩ダー [ʃi˩manakamitʃi˥nu ˩ʔantanu˥ na˩kaʃi̥˥ke:nu pḁ˩taki˥nu ˥subana: ʔa˩bunu˥ ʔanti˩da:](島中道の東の、仲底家の畑の側に天然の堅穴洞穴があるそうだよ)。堅穴の自然洞穴。パ˩チンガカーヤ˥　ア˩ブ˥　ナリ　˩ブー˥ダー [pḁ˩tʃiŋgaka:ja˥ ʔa˩bu˥ nari ˩bu:˥da:](パチンガカー＜井戸＞は竪穴の自然洞穴になっているよ)。ア˩ブ　トゥッ˥クン [ʔa˩bu tuk˥kuŋ](竪穴が陥没する)。

ア˩ブアブ　スン **[ʔa˩buʔabu suŋ]** 【連】あっぷあっぷする。溺れそうになってあっぷあっぷする。ウイ˩サンダ˥　フ˩ニ˥ヌ　˩フンナクター˥　ア˩ブアブ　シーベー˥タ [ʔui˩sanda˥ ɸu˩ni˥nu ˩ɸunnakuta:˥ ʔa˩buʔabu ʃi:be:˥ta](泳げないから、船が転覆したのであっぷあっぷしていた＜溺れそうになっていた＞)。

ア˩ファリルン **[ʔa˩ɸariruŋ]** 【自動】酒や酢などの気が抜ける。酒や酢などが水っぽくなる。サ˩キン˥　ナ˩ガタブイ　スー˥カー　ア˩ファリルン˧ダー [sḁ˩kin˥ na˩gatabui su:˥ka: ʔa˩ɸa˩rirun˧da:](酒も長期保存すると気が抜けるよ)。ギャン˩ティ˥　ザウ　スーカー　ア˩ファリラヌ [gjan˩ti˥ ʤau su:ka: ʔa˩ɸariranu](ぎゅっと強く栓をすると気が抜けない)。

ア˩ファルン **[ʔa˩ɸaruŋ]** 【自動】酒や酢などの気が抜ける。酒や酢が水っぽくなる。サ˩ケー˥　カミナー　イ˩リティ˥　タ˩ブイ˥シケーター　ア˩ファリナー˥ヌ [sḁ˩ke:˥ kamina: ʔi˩riti˥ ta˩bui˥ʃi̥ke:ta: ʔa˩ɸarina:˥nu](酒を甕に入れて貯えておいたらば、水っぽくなってしまった)。ナ˩ガタブイ　スー˥カー　ア˩ファルン＜ア˩ファリルン＞[na˩gatabui su:˥ka: ʔa˩ɸaruŋ ＜a˩ɸariruŋ＞](長期保存すると気が抜ける)。˩ピッ˥チン　ア˩ファラヌ˥　ア˩ファル˥　クトー　˩ナー˥ヌ [˩pit˥tʃiŋ ʔa˩ɸaranu˥ ʔa˩ɸaru˥ ku̥to: ˩na:˥nu](すこしも水っぽくならない。気が抜けることはない)。

ア˩フカミ **[ʔa˩ɸukami]** 【名】灰汁 (あく) を入れた甕。「灰汁・甕」の義。˩パイヤー˥　シ˩ティランドー˥シ　ア˩フカミ˥ナー　イ˩リティ　オージル˥　トゥリバ [˩paija:˥ ʃi̥˩tirando:˥ʃi ʔa˩ɸukami˥na: ʔi˩riti ʔo:ʤiru˥turiba](灰は捨てないで灰汁甕に入れて、その上澄み液＜上汁＞を取りなさいよ)。

ア˩ブ˥シ **[ʔa˩bu˥ʃi]** 【名】田の畦。田と田を仕切った境界の、土を盛り上げた部分。ア˩ブ˥シ　˥パラウンティ　˩ベーン˥ケン　パ˩ブン　ホー˥リティ　˥ヤミナ˩ラ˥ヌ　シ˩ヌンティ　アーク˥タ˩ドー˥スカーヤ [ʔa˩bu˥ʃi ˥paraunti ˩be:ŋ˥kem pa˩buŋ ho:˥riti ˥jami na˩ra˥nu ʃi˩nunti ʔa:ku˥ta ˩do:˥su̥ka:ja](田の畦を草刈しよう＜払おう＞としていると、ハブに咬まれて、痛くて我慢できず、やがて死ぬところだった＜死のうとしていた＞ってば)。

ア˩ブ˥ジ **[ʔa˩bu˥ʤi]** 【名】おじいさん。祖父の名称。[ʔabuʤi] + [ja](は)→ [ʔabuʤe:](お祖父さんは)。˥アブジェー　パ˩ナ˥シ　[˥ʔabuʤe: pa˩na˥ʃi](御祖父さんの話)。ア˩ブジ˥バ　シゥ˩カシ˥　クー　[ʔa˩buʤi˥ba si̥˩kaʃi˥ ku:](御祖父さんをお連れして＜ご案内して＞きなさい)。ア˩ブ˥ジン　˩オーシ　[ʔa˩bu˥ʤiŋ ˩ʔo:ʃi](御祖父さんに差し上げなさい)。語源として、「ア (吾)・ウプ (大)・ヂ (父)」の転訛との説がある (『日本語の系譜』)。˩バン˥テヌ　ア˩ブ˥ジェー　˩ヤーザイ˥ク　ヤ˩ロー˥レティ　ユ˩ネン˥ヌ　˩カージ˥　ク˩シクイヌ˥　サ˩キバ˥　ン˩キシギシギティル˥　パ˩ヤマーラ˥シ　˩ソーッ˥タツォー [˩ban˥tenu ˥ʔabuʤe: ˩ja:ʤai˥ku ja˩ro:˥re:ti ju˩nen˥nu ˩ka:ʤi˥ ku˩ʃikuinu˥ sa˩kiba˥ ŋ˩kiʃigitiru˥ pa˩jama:ra˥ʃi ˩so:t˥tatso:](私の家の祖父は建築家＜家大工の棟梁＞であられたので毎晩＜夜の数＞骨休めの酒を召しあがり過ぎて、それで早死にされたそうな)。

ア˩ブジェー˥マ **[ʔa˩buʤe:˥ma]** 【名】小さな御祖父さん。高齢の御祖父さん。貧相なおじいさん。男の老人を親しみを込めていう語。ム˩カ˥シ　˥アルントンナー　アブ˩ジェーマ˥トゥ　アー˩パーマ˥ヌ　˩オーッ˥タン˩トゥ˥ツォー [mu˩ka˥ʃi ˥ʔaruntonna: ʔabu˩ʤe:ma˥tu ʔa:˩pa:ma˥nu ˩ʔo:t˥tan˩tu˥tso:](昔ある所におじいさん＜御祖父さん＞とおばあさん＜お祖母さん＞がおられたそうな)。˩ウン˥ネナー　ア˩ブジェーマ˥ヌ　˩オーッ˥タン˩ダー [˩ʔun˥nena: ʔa˩buʤe:ma˥nu ˩ʔo:t˥tan˩da:](その家にはおじいさんがおられたよ)。

ア˩ブシガサ˥ミ **[ʔa˩buʃigasa˥mi]** 【名】(動) アシハラガニ。「アブシ・ガサミ」(畦蟹) の義。田の畦や沼沢などに棲息して穴を作り、田の水を流出させて稲の生育に害を及ぼす蟹。ア˩ブシガサミ˥ヌ　˩ター˥ヌ　˥アザナ　˥アナ　˥プリティ　ミ˩ジ　サーラシナー˥ヌ [ʔa˩buʃigasami˥nu ˩ta:˥nu ˥ʔaʤana ˥ʔana

ˈpuriti miˈʤi saːraʃinaːˈnu](アシハラガニが田圃の畦に穴を掘って水を流出させてしまった)。

アˈブシˈバライ [ʔaˈbuʃiˈbarai] 【名】田の畦の草を刈り払うこと。「畦・払い」の義。ˈトーˈサ　トゥˈリンテーˈナ　アˈブシˈバライ　ˈサンˈカー　ナˈラˈヌ [ˈtoːˈsa tuˈrinteːˈna ʔaˈbuʃiˈbarai ˈsaŋˈkaː naˈraˈnu](田草を取りながら田の畦の雑草を刈り取らないといけない)。沖縄本島のアブ (ー)ˈシバレˈー [ʔabu(ː)ˈʃibareˈː](畦祓い・田の畦をはらう行事 < 虫よけの祈願 >)(『沖縄今帰仁方言辞典』) という民俗行事はないが、類似の民俗行事としてはˈユーニガイ [ˈjuːnigai](「世願い」の義) がある。

アˈブシマッˈふァ [ʔaˈbuʃimafˈfa] 【名】「畦枕」の義。「畦枕」は稲がよく稔って稲穂が畦に垂れかかっているさま。「穂花咲き出ればちりひぢもつかぬ白ちやねやなびきあぶしまくら」(『琉歌全集』149) のように豊年を予祝したもので、歌謡語として用いられることが多い。クˈトゥシンˈ　アˈブシマッˈふァ　ˈスンˈケン　ˈマイヤー　ノーˈレーン [kuˈtuʃiŋˈ ʔaˈbuʃimafˈfa ˈsuŋˈkem ˈmaija: noːˈreːŋ](今年も稲穂が畦に垂れかかるほど稔った)。

ˈアブタテー [ˈʔabutateː] 【名】屋号。吉川喜屋氏宅。喜屋氏の奥さんが与那国出身だったことから、与那国方言のˈアブター [ˈʔabutaː](お母さん) を屋号としたもの。

アˈブˈツァ [ʔaˈbuˈtsa] 【連体】あんな。アˈブˈツァˈムニ　スˈクナ [ʔaˈbuˈtsa ˈmuni su̥ˈkuna](あんな言葉は聞くな)。

アˈブナーッˈサン [ʔaˈbunaːsˈsaŋ] 【形】危なっかしい。危ない。頼り無くて不安である。アˈヤッˈサーンとも言う。ウˈレーˈ　アˈブナーッˈサンダ　アˈブナーッサ　ナーンˈ　ムヌバ　イˈラˈビ [ʔuˈreːˈ ʔaˈbunaːsˈsanda ʔaˈbunaːssa naːmˈ munuba ʔiˈraˈbi](それは危なっかしいから、危なっかしくないものを選べ)。アˈブナーッサˈヌ　ˈミリ　ブˈララヌ [ʔaˈbunaːssaˈnu ˈmiri buˈraranu](危なっかしくて見ておれない)。アˈブナーッˈサー　ˈクトー　ストナˈヨー [ʔaˈbunaːsˈsaː ˈku̥to: sutˈnaˈjoː](危なっかしいことはするなよ)。

アˈブネーム [ʔaˈbuneːmu] (1) 【名】危険。大変。危ないこと。「アブネー・ムヌ」[ʔabuneː-munu](危ないもの) の縮まった形。カˈジヌ　マーˈビン　ˈスーˈルカー　アˈブネーム　シース <ˈデーˈジ　ナˈリˈス >[kaˈʤinu maːˈbin ˈsuːˈruka: ʔaˈbuneːmu ʃiːsu < ˈdeːʤˈi naˈriˈsu >](風がもっと強くなったら危険なことになる)。クˈヌ　アシˈボー　マˈナˈマ　ˈヨーˈゾー　サンˈカー　アˈブネームˈ　シース <ˈデーˈジ　ナˈリˈス >[kuˈnu ʔaʃiˈboː maˈnaˈma ˈjoːˈʤo: ˈsaŋˈkaː ʔaˈbuneːmu ʃiːsu <ˈdeːʤˈi naˈriˈsu >](この御出来は今治療 < 養生・手当 > しないと大変なことになる)。 **(2)**【感】ああ怖い。ああ大変。アˈブネームˈ <ˈデーˈジ >　アンˈデーˈカー　ˈバー　パˈラˈヌ [ʔaˈbuneːmuˈ <ˈdeːʤˈi> ʔanˈdeːˈkaː ˈbaː paˈraˈnu](ああ大変、それなら私は行かない)。

アˈブバタ [ʔaˈbubata] 【名】大食い。「穴腹」の義。「底なしの腹」の意味で、いくら食べても満足しないことから命名さらたもの。アˈブ [ʔaˈbu](洞穴。竪穴) は竪穴の自然洞穴で、雨水はそこへ流入して溢れることはない。ˈウンザーˈ　アˈブバタˈ　ヤˈルンダˈ　ギューˈサˈ　ッˈふァーサバンˈ　メーˈティˈ　アˈザヌ [ˈʔunʤaːˈ ʔaˈbubataˈ jaˈrundaˈ gjuːˈsaˈ fˈfaːsabamˈ meːˈtiˈ ʔaˈʤanu](あいつの腹は穴腹 < 底なしの腹 > だから、いくら食わせても「もう十分。もう結構」とは言わない)。アˈブバタ　マーシˈノ [ʔaˈbubata maːʃiˈno](穴腹野郎めが)、卑罵表現。

アˈブル [ʔaˈburu] 【名】(動) 魚の名。和名、ヨコシマフエフキ (体長約 70 センチ)。白身魚の最高級魚。ˈクーˈシビー [ˈkuːˈʃibiː](島の西側の干瀬) のˈピーヌˈクシ [ˈpiːnuˈku̥ʃi](干瀬の外海 < 腰 >) で、タˈティˈナー [tą̊ˈtiˈnaː](一本釣り) をして釣った。

ˈアブン [ˈʔabuŋ] 【他動】1炙る (あぶる)。火に当たって温める。ˈピーˈヤンダ　クˈマーˈ　キー　ピˈバˈチナ　ˈティー　ˈアビ　ˈピー　ヌˈクˈミ [ˈpiːˈjanda kuˈmaːˈ ki: piˈbaˈʧina ˈti: ˈʔabi ˈpi: nuˈkuˈmi](寒いからここへ来て火鉢に手を当てて < 炙って、火に当たって > 火で温まりなさい)。2焼網等で焼く。網焼きする。炙り焼きする。ローストする。ウˈティンˈガビ　ˈアビ　ˈオーシ [ʔuˈtiŋˈgabi ˈʔabi ˈʔoːʃi](紙銭を焼いてお供えしなさい < 差し上げなさい >)。

ˈアボー [ˈʔaboː] 【名】1母。母親 (親族名称)。老年層は、ˈアブ [ˈʔabu](母。母親 < 親族名称 >) という。若年層において、[ʔabu](母)+ [ja](は)→ [ʔaboː](母。< 名称。呼称 >) と変化したもの。ˈバンˈテヌ　ˈアボー　ˈワッˈテヌ　ˈアボー　ˈウシˈトゥˈダー [ˈbanˈtenu ˈʔaboː ˈwatˈtenu ˈʔaboː ˈʔuʃi̥ˈtuˈdaː](私の < 家の > 母は貴方の < 家の > お母さんの妹だよ)。2親族呼称。アˈボー　ワーˈ　マナー　ˈオールˈワ [ʔaˈboː waːˈ manaː ˈʔoːruˈwa](お母さん、貴方は何処に居られるのですか)。

アˈマーˈクマー [ʔaˈmaːˈkumaː] 【代】あちらこちら。

あっちこっち。「あ (彼)・ま (間)・こ (此)・ま (間)」の転訛したもの。˞ドン˥ゴー　カ˞タジキラ˥ムティ　ア˞マー˥クマーナ　˞ポーリ˥シケー [˞doŋ˥go: kạ˞taʤikira˥muti ʔa˞ma:˥kuma:na ˞po:ri˥ ʃi̥ke:](道具を片付けないであちらこちらに散らかしてある)。

ア˞マー˥ン **[ʔa˞ma:˥ŋ]**【形】1甘い＜糖度が高い＞。ア˞ジマー˥ン [ʔa˞ʤima:˥n](甘い。味甘し) ともいう。˥サター　ア˞マー˥ン [˥sata: ʔa˞ma:˥ŋ](砂糖は甘い)。˞ピッ˥チン　ア˞マーナー˥ヌ [˞pit˥ʧiŋ ʔa˞ma:na:˥nu](ちっとも甘くない)。˞シンダイ˥　ア˞マー˥ナルン [˞ʃindai˥ ʔa˞ma:˥ naruŋ](次第に甘くなる)。˥ドゥク　ア˞マー˥ヌ　ヌ˞マラ˥ヌ [˥duku ʔa˞ma:˥nu nu˞mara˥nu](あまりにも甘くて飲めない)。ア˞マー˥　ムヌル　˥プサ [ʔa˞ma:˥ munuru ˥pu̥sa](甘いものが欲しい)。ア˞マー˥　ムノー　ッ˞ふーナ [ʔa˞ma:˥ muno: f˞fu:na](甘いものは喰うな)。˥マー　ン˞メーマ˥　ア˞マー˥カー　˥ミサムヌ [˥ma: ʔm˞me:ma˥ ʔa˞ma:˥ka:˥misamunu](もう少し甘ければ良いのに)。2塩気が少ない。みずっぽい。水分が多くて味が薄い。ク˞ヌ　スー˥ヤ　ア˞マー˥ヌ　ヌ˞マラ˥ヌ。ン˞メーマ　マー˥ス　イ˞リリ [ku˞nu su:˥ja ʔa˞ma:˥nu nu˞mara˥nu。ʔm˞me:ma ma:˥su ʔi˞riri](この汁は水っぽくて飲めない。少し塩を入れなさい)。

ア˞マアジ **[ʔa˞maʔaʤi]**【名】1甘味。サ˞タ˥バ　イ˞リティ˥　ア˞マアジ˥　シ˞キ˥リ [sạ˞ta˥ba ʔi˞riti˥ ʔa˞maʔaʤi˥ ʃi̥˞ki˥ri](砂糖を入れて甘味をつけよ)。2うす味。塩加減の薄い味。ウ˞リヌ˥　フ˞チェー˥　ア˞マアジ˥　ヤ˞ルンダ˥　ン˞ベーマー　マー˥ス　イ˞リリ [ʔu˞rinu˥ ɸu̥˞ʧe:˥ ʔa˞maʔaʤi˥ ja˞runda˥ ʔm˞be:ma ma:˥su ʔi˞riri](彼の味覚＜口＞は薄味だから、少し塩を足せ＜入れろ＞)。

ア˞マイ **[ʔa˞mai]**【名】神遊び。神職者たちが神歌を歌って神遊びすること。/カムラーマヌ　アマイヤー　ヌーフサティル　アマイル/(カムラーマの神遊びは何が欲しくて神遊びするのか)。

ア˞マイシミルン **[ʔa˞maiʃimiruŋ]**【他動】甘えさせる。˥マーッふァー　ア˞マイシミルンダ˥　パーンケーンマ　˞アシキラン˥ツォー [˥ma:ffa ʔa˞maiʃimirunda˥ pa:ŋkemma: ˞ʔaʃi̥kiraran˥tso:](孫を甘えさせるから祖父母達には預けられないそうだ)。

ア˞マイパダ **[ʔa˞maipada]**【名】赤ちゃんがンゴーンゴー [ʔŋ˞go:˥ŋ˞go:] と微笑みながら甘える時期。「甘え時期」の儀。˥パダ [˥pada] は、「時期、頃、年頃」の意。ヤ˞ラビ˥ヌ　ア˞マイパダー　ヌシ˥トゥルン　バ˞ラースン [ja˞rabi˥nu ʔa˞maipada: nuʃi̥˥turum ba˞ra:suŋ](乳児の甘える時期＜無邪気な笑顔＞は、泥棒をも真人間にする＜笑わせる＞)。

ア˞マイビー **[ʔa˞maibi:]**【名】二つの火の玉が一つになったり分かれたりして、踊り楽しんでいるように見える火の玉。鬼火。「歓え火＜あまえび＞」の義。シ˞チ˥ヌ　˞ユー˥ロー　ア˞マイビーン˥　ミラリンティ˞ダー [ʃi̥˞ʧi˥nu ˞ju:˥ro: ʔa˞maibi:m˥ mi˞ra˥rinti ˞da:](節祭りの夜には歓え火＜鬼火＞が見られるそうだよ)。

ア˞マイヨー˥ルン **[ʔa˞maijo:˥ruŋ]**【自動】神仏が喜び楽しむ。「あまえ＜歓え＞・おはる＜御座す＞」の転訛したもの。サ˞カサ (司) やティ˞ジリ˥ビ (男性神職者) たちが祭祀の終了後に、神職者の家に持ちまわりで集まり、酒食を用意して神歌を歌い習ったという。昔から神職 (サカサ・ティジリビー) を継ぐ際にも、司や男性神職者の家に集まって神歌の練習をしたという。˞ユーニンガイ [˞ju:niŋgai](旧暦三月の世願いの祭祀) の後に、神職者の家を回って飲食しながら神歌の練習をする習慣は 1965 年頃まで続いていた。˞カン˥プスンケーヤ　ム˞カ˥シェー　キ˞チゴン　ユーニンガイヌ˥　アトー　˥ウマー　˥カマー　ユ˞ライヨー˥リ　イッ˞ケナ˥　ア˞マイヨーッ˥タン [˞kam˥pu̥suŋke:ja mu˞ka˥ʃe: ki̥˞ʧigoŋ ju:niŋgainu˥ ʔato: ˥ʔuma: ˥kama: ju˞raijo:˥ri ʔik˞kena˥ ʔa˞maijo:t˥taŋ](神職者＜神人＞たちは、昔は結願祭、世願いの祭祀の後は、あちらこちらに集まられて＜寄り合われて＞神遊びをなされ、非常に楽しまれたものだ)。

ア˞マイルン **[ʔa˞mairuŋ]**【自動】嬉しがる。喜ぶ。踊り楽しむ。神遊びをする。神が喜び楽しむ。「あまえる (歓える)」。歌謡語。「あまへて」『混効験集』。/カムラマーヌ　アマイヤ/(カムラーマの神遊びは)/ヌーフサティル　アマイル/(何が欲しくて楽しむのか)/カムラマーヌ　アマイヤ　アカカラジ　フサティル　アマイル/(カムラーマの神遊びは民百姓が欲しくて神遊びするのだ)/カムラマーヌ　アマイヤ　/(カムラーマの神遊びは)/ウヤキユーバ　タボラリ/(カムラーマの神遊びは豊年満作を賜ることです)『鳩間島古典民謡古謡集』。鳩間島の神職者たちは祈願の後に神々と共に踊り遊んだ。˞カン˥プスンケール　ア˞マイヨール [˞kam˥pu̥suŋke:ru ʔa˞maijo:˥ru](神職者たちが神遊びをされる)。

ア˞マイルン **[ʔa˞mairuŋ]**【自動】甘える。人の好意にべったり頼る。やりたい放題にする。˞タンガッ

ふァ˥トゥ　˞ウシトゥ˥ッふァー　ア˞マイルンダ˥　ア˞マイル˥　フ˞シ˥　シ˞キシミル˥ナ [˞taŋgaffa˥tu ˞ʔuʃi̥tu˥ffa: ʔa˞mairunda˥ ʔa˞mairu˥ ɸu̥˞ʃi˥ ʃi̥˥kiʃimiru˥na](一人っ子と末っ子は甘えるから、甘える癖をつけさせるな)。シ˞ザッ˥ふァー　ア˞マイラヌ [ʃi˞ʤaf˥fa: ʔa˞mairanu](年上の子は甘えない)。

ア˞マウン [ʔa˞mauŋ] 【自動】嬉しがる。喜ぶ。踊り楽しむ。神遊びをする。歌謡語。「歓える＜あまえる＞」の義。「あまへて」(おもろ)、「あまへて」(『混効験集』)。特に神仏が喜び、楽しむことにいう。ア˞マイルン [ʔa˞mairuŋ](歓える) の項参照。

ア˞マカザ [ʔa˞makaʤa] 【名】甘い匂い。甘く香ばしい匂い。˥サタヤーヌ　˞マーラー　シン˥ザ　ス˞ブ˥リティ　サタ　タ˞コー˥ル　ア˞マカザヌ　シー˥　フ˞チジルヌ˥　ン˞ジ˥スバン [˥sḁtaja:nu ˞ma:ra: ʃin˥ʤa su˞bu˥riti ˥sḁta tḁ˞ko:˥ru ʔa˞makaʤanu ʃi:˥ ɸu̥ ˞ʧiʤirunu˥ ʔn˞ʤi˥subaŋ](砂糖小屋の辺りは、砂糖きびを搾って黒糖を作る＜砂糖を炊く＞甘い匂いがして、よだれ＜口汁＞が出るよ)。

ア˞マガ˥サ [ʔa˞maga˥sa] 【名】かさ (暈)。日や月の回りをまるく取り巻いた輪。ひがさ (日暈)。˥シキナー　ア˞マガサ˥ヌ　カ˞カ˥リ　˞ブンダ˥　ア˞ミ˥ヌ　˥フー　˥パジ [˥ʃi̥kina: ʔa˞magasa˥nu kḁ˞ka˥ri ˞bunda˥ ʔa˞mi˥nu ˥ɸu: ˥paʤi](月にかさ＜暈＞が懸かっているので雨が降る筈だ)。

˥アマキー [˥ʔamaki:] 【名】植物の一種。えぎ (餌木) を作るのに用いる木。˥アマキーシル　イ˞ガジーヤ˥　ス˞ク˥ローッタ [˥ʔamaki:ʃiru ʔi˞gaʤi:ja˥ su̥˞ku˥ro:tta](アマキーで＜ぞ＞餌木は作られた)。

ア˞マ˥グ [ʔa˞ma˥gu] 【名】雨具。学校教育を通じて標準語から入った借用語。昭和三十年代まで、雨降りの日には南京袋を折り込んで被り、雨具代用に利用していた。ム˞カ˥シェー　カ˞シガーフクル˥バ　˥カベーティル　ア˞マグ˥ヌ　˞カール˥　シ˞タル [mu˞ka˥ʃe: ka˞ʃiga:ɸukuru˥ba ˥kabe:tiru ʔa˞magu˥nu ˞ka:ru˥ ʃi̥˞taru](昔は南京袋を被って雨具の代わりにしたよ)。

˥アマクマ [˥ʔamakuma] 【代】あちこち。˥アマクマヌ　ウ˞カ˥ヌ　パ˞ライ˥ミーン　シ˞マ˥シェーンカヤー [˥ʔamakumanu ʔu˞ka˥nu pa˞rai˥mi:ŋ ʃi˞ma˥ʃe:ŋkaja:](あちこちの借金の支払いも済ませたかね)。

ア˞マクマシー [ʔa˞makumaʃi:] 【名】生半可に仕事をすること。中途半端な仕事振り。なまなか仕事。「あちらこちら仕」の転訛したもの。フ˞ユニン˥マー　カ˞シーカシー˥　シ˞グトー˥　サ˞ムティ˥　ア˞マクマシー　シー˥シケー [ɸu˞junim˥ma: kḁ˞ʃi:kaʃi: ˥ʃi˞guto:˥ sa˞muti˥ ʔa˞makumaʃi: ʃi:˥ʃi̥ke:](怠け者は、きちんと＜しっかりと＞仕事をしないで生半可仕事をしてある)。

ア˞マ˥グム [ʔa˞ma˥gumu] 【名】雨雲。ヌ˞リグム [nu˞rigumu](積乱雲) ともいう。ニ˞シクベー˥ラ　ア˞マグム˥ヌ　カ˞バ˥シ　クン˞ドー [ni˞ʃikube:˥ra ʔa˞magumu˥nu ka˞ba˥ʃi kun˞do:](北の大空＜北壁＞から雨雲が覆い被せてくるぞ)。

ア˞マ˥グル [ʔa˞ma˥guru] 【名】にわか雨。しゅうう (驟雨)。ア˞マグル˥ヌ　˞ニーヌ˥パーラ　˞ユーシ˥クーン [ʔa˞maguru˥nu ˞ni:nu˥pa:ra ˞ju:ʃi˥ ku:ŋ](驟雨が北から寄せてくる)。

ア˞マザキ [ʔa˞maʤaki] 【名】酢。老年層は˞パイル [˞pairu](酢) という。古典民謡 (お盆の「獅子舞の道歌」) にも˞パイル [˞pairu](酢) といっている。ア˞マザケー　ピッ˥チン　キ˞シラン˥バン [ʔa˞maʤake: pit˥ʧiŋ ki̥˞ʃiram˥baŋ](酢はちっとも効かない＜切れない＞)。ア˞マザキヌ˥ッふァ [ʔa˞maʤakinu˥ffa](酢のたね。「酢の子」の義。酢の容器の底に白濁した粘液が沈殿しているもの。これを種にし、弱い酒や芋の煮汁などを足して酢を自家製造していた)。ア˞マザケー　ヤーカー˥ジナ　˥ドゥーシル　マ˞ラシオーッタ˥ル [ʔa˞maʤake: ja:ka:˥ʤina ˥du:ʃiru ma˞raʃio:tta˥ru](酢は各家庭で、自分で醸造して＜生まらせて＞おられたものだよ)。ナ˞マ˥シナー　ア˞マザキ˥　カ˞キバ˥ル　ン˞マートダー [na˞ma˥ʃina: ʔa˞maʤaki˥ kḁ˞kiba˥ru ʔm˞ma:ɦda:](刺身には酢をかけたほうが美味しいよ)。

ア˞マザラ˥シ [ʔa˞maʤara˥ʃi] 【名】雨ざらし。˞アッ˥タル　˞ヤーザイギ˥バ　ナー˞イ˥　ア˞マザラ˥シ　˞シー˥　ス˞ク˥ナ [˞ʔat˥taru ˞ja:ʤaigi˥ba na:˞i˥ ʔa˞maʤara˥ʃi ˞ʃi:˥ su̥ku˥na](折角の建築用材を雨ざらしにしておくな)。

ア˞マシェー [ʔa˞maʃe:] 【名】屋号。小浜真敏氏宅。東村のシ˞ナカキ˥ヤー [ʃi˞nakaki˥ja:](追い込み漁) の網元家であった。戦後はカツオ釣り漁船の初栄丸、眞福丸、晃徳丸によるカツオ節製造業を経営された。太平洋戦争中、鳩間島のような小さな島にも米軍戦闘機は爆撃を加えた。昭和 20 年 2 月 16 日の爆撃で、ア˞マシェー [ʔa˞maʃe:](小浜家) と寄合家は完全に破壊されたという『鳩間島追想』。˞マイ˥ヌ　イ˞ク˥サナー　パ˞トゥ˥マナーテー　ア˞マシェートゥ˥　ユ˞レーヌ˥　ヌ˞バ˥ルブザマテーナ　バ˞ク˥

ダン　ウ˞タサ˥レータン [˞mai˥nu ʔi˞ku˥sana: pḁ˞tu˥ manate: ʔa˞maʃe:tu˥ ju˞re:nu˥ nu˞ba˥rubudʑamate:na ba˞ku˥daŋ ʔu˞tasa˥re:taŋ](先の戦争で、鳩間島では小浜家と寄合徹氏宅 < 野原叔父さんの家 > に爆弾が落とされた)。ア˞マシェーヌ˥　イ˞ゴー˥ザザーテー [ʔa˞maʃe:nu˥ ʔi˞go:˥dʑadʑa:te:] ともいう。古老は˞パイ˥ネー [˞pai˥ne:](屋敷名) ともいう。ア˞マシェーヌ　ヤシ˥ケー　ム˞カ˥シェー　˞パイ˥ネーティル　ア˞ゾーッ˥タツォー [ʔa˞maʃe:nu jaʃi̥˥ke: mu˞ka˥ʃe: ˞pai˥ne:tiru ʔa˞dʑo:t˥tatso:](小浜真敏氏宅の屋敷は、昔はパイネーと < ぞ > 言われたそうだ)。

ア˞マシェーヌ˥　ア˞カ˥ヤンマーテー [ʔa˞maʃe:nu˥ ʔa˞ka˥jamma:te:] 【連】屋号。小浜清氏宅。ア˞カ˥ヤンマー [ʔa˞ka˥jamma:](アカヤ姉さん。小浜清氏の母親) に接尾語˥テー [˥te:](～の家) が下接したもの。

ア˞マシェーヌ˥　タローザーテー [ʔa˞maʃe:nu˥ taro:dʑa:te:] 【連】屋号。小浜太郎氏宅。˥タローザー [˥taro:dʑa:](太郎兄さん) は、名前の˥タロー [˥taro:](太郎) に、˞アー˥ザ [˞ʔa:˥dʑa](兄さん) が下接し、更に接尾語˥テー [˥te:](～の家) が付いて生成された合成語。

ア˞マシェーヌ˥　フ˞チマチル [ʔa˞maʃe:nu˥ ɸu̥˞ʧi-maʧiru] 【連】海底地名。ア˞マシェー [ʔa˞maʃe:](小浜家) の先祖がフ˞チマチル [ɸu̥˞ʧimaʧiru](漁法の一種。巻き取り漁法) をしたと伝える地点。˞トン˥グヮー [˞toŋ˥gwa:](˞クー˥シビー [˞ku:˥ʃibi:]< 干瀬の名 >) の南側にある。

ア˞マシェーヌ˥　ヤマザーテー [ʔa˞maʃe:nu˥ ja-madʑa:te:] 【連】屋号。小浜屋真氏宅。˥ヤマザー [˥jamadʑa:](屋真兄さん) は、名前の˥ヤマー [˥jama:](屋真) に、˞アー˥ザ [˞ʔa:˥dʑa](兄さん) が下接して生成された合成語。

ア˞マシ˥ムヌ [ʔa˞maʃi˥munu] 【名】不品行者。暴れ者。もてあまし者。˥アイブ　ヤ˞ナクトゥバ　シー˥　シ˞キン˥ヌ　ア˞マシ˥ムヌ　˥ナリ　˞アーク˥ナ [˥ʔaibu ja˞nakutuba ʃi:˥ ʃi̥˞kin˥nu ʔa˞maʃi˥munu ˥nari ˞ʔa:ku˥na](あんな悪事をして世間のもてあまし者になっているな)。

ア˞マ˥シュー [ʔa˞ma˥ʃu:] 【名】あめつゆ (雨露)。雨や露。サ˞キバ˥　ヌミティ　ア˞マ˥シューン　ウ˞タ˥リカー　˥ドゥーヨーリ　˞スン˥ダー [sḁ˞kiba˥ numiti ʔa˞ma˥ʃu:ŋ ʔu˞ta˥rika: ˥du:jo:ri ˞sun˥da:](酒を飲んで雨や夜露に打たれて道端に寝ると健康を害する < 胴弱りする > よ)。

ア˞マスー [ʔa˞masu:] 【名】薄塩 (うすじお)。魚や野菜などに塩を軽く振りかけ、薄い塩加減にすること。˥ドゥク　˞マー˥ス　ッ˞ふァーサンドー˥シ　ア˞マスー˥　ウティ　シゥ˞カイ˥バ [˥duku ˞ma:˥su f˞fa:sando:˥ʃi ʔa˞masu:˥ ʔuti si̥˞kai˥ba](あんまり塩を入れないで薄塩を振りかけて使いなさいよ)。ピ˞ロー˥　ア˞マスー˥　シゥ˞クバル˥ン˞マー [pi˞ro:˥ ʔa˞masu:˥ su̥˞kubaru˥ ʔm˞ma:](大蒜は薄塩で塩漬けした方が美味しい)。

ア˞マスン [ʔa˞masuŋ] 【他動】浴びせる。水などを頭からかける。ヤ˞ラ˥ベー　˞ピンピン˥　ミ˞ジ˥　ア˞マサン˥カー　ア˞シブ˥ヌ　ン˞ジ˥ルン [ja˞ra˥be: ˞pimpim˥ mi˞dʒi˥ ʔa˞masaŋ˥ka: ʔa˞ʃibu˥nu ʔn˞dʒi˥ruŋ](子供は毎日水を浴びせないと汗疹 < あせも > が出る)。ユ˞ナラン˥ケン　ミ˞ジ˥　ア˞マシ [ju˞naraŋ˥kem mi˞dʒi˥ ʔa˞maʃi](日が暮れないうちに水を浴びせなさい < 入浴させなさい >)。動詞ア˞ムン [ʔa˞muŋ](浴びる) の未然形に、使役の助動詞˞スン [˞suŋ](～せる。～させる) が付いて形成された使役動詞。ミ˞ジ˥　ア˞マスン [mi˞ʤi˥ ʔa˞masuŋ](入浴させる < 水を浴びせる >)。˞ピー˥ヤンダ　ア˞マサヌ [˞pi:˥janda ʔa˞masanu](寒いから浴びせない < 入浴させない >)。ミ˞ジ˥　ア˞マシ˥　プサカー　ア˞マス˥　クトー　˥ナルン [mi˞ʤi˥ ʔa˞maʃi˥ pu̥saka˥ ʔa˞masu˥ ku̥to: ˥naruŋ](入浴させたければ < 水を浴びせたければ > 入浴させる < 浴びせる > ことは出来る)。˞マー˥ビン　ア˞マシェー˥　ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ʔa˞maʃe:˥ misamunu](もっと浴びせれば良いのに)。˞パー˥ク　ア˞マシ [˞pa:˥ku ʔa˞maʃi](早く浴びせろ < 入浴させろ >)。

ア˞マ˥スン [ʔa˞ma˥suŋ] 【他動】1余す。余りあるところを残す。余力を残す。老年層の言葉。˞イー˥ヤ　ア˞マサン˥ヨーシ　˞ッふァイ [˞ʔi:˥ja ʔa˞masaŋ˥jo:ʃi f˞fai](ご飯は < 飯は > 残さ < 余さ > ないように食べよ)。˥ムヌ　ア˞マ˥スン [˥munu ʔa˞ma˥suŋ](ものを余す)。ン˞メーマー˥　ア˞マ˥シ　˥ミサン [ʔm˞me:ma:˥ ʔa˞ma˥ʃi ˥misaŋ](少しは余して < 残して > も良い)。ン˞マー˥ムヌ　ア˞マ˥ス　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [ʔm˞ma:˥munu ʔa˞ma˥su pu̥˞so:˥ bu˞ra:nu](美味しいものを余す < 残す > 人はいない)。ア˞マ˥シェー　˥ミサムヌ [ʔa˞ma˥ʃe: ˥misamunu](余せば良いのに)。˞ピー˥チェー　ア˞マ˥シバ [˞pi:˥ʧe: ʔa˞ma˥ʃiba](一つは余しなさい)。若年層は、ア˞マラ˥スン [ʔa˞mara˥suŋ](余す) ともいう。2持て余す。手に負えなくなって困る。ク˞レー　バン˥マー　˞アシゥカーラ

ヌ˥　バー　˥ティーナ　ア˞マシ˥ス [ku˞re: bam˥ma: ˞ʔasi̥ka:ranu˥ ba: ˥ti:na ʔa˞maʃi˥su](これは私には扱えない。私の手に余る)。

ア˞マ˥ダ [ʔa˞ma˥da] 【名】あぶりこ (炙り子)。炙り焼き用の金網。焼き魚や焼き肉用に鉄線で約 5 センチ四方の網目を作り、全体的に縦横約 50 センチ大の金網に作ったもの。生の竹や生のススキ、生木の小枝を竈の上に縦横に渡して金網代用にすることがあった。˥タク [˥taku](蛸) やイ˞ズ [ʔi˞ʤu](魚) をア˞マ˥ダに載せて焙乾し保存食にしたのが　ガ˞シ˥タク [ga˞ʃi˥taku](焙乾したタコ)、ガ˞シ˥イズ [ga˞ʃi˥iʤu](焙乾した魚) である。ガシイズやガシタクは、焙乾することによってうま味が出るといわれている。カ˞マチヌ　ウイ˥ナ　ア˞マ˥ダ　˥カキティ　ユ˞ディ˥タク　ウ˞サッ˥キ　シ˥キティ　˥ガスカー　ン˞マー˥ン [ka˞matʃinu ʔui˥na: ʔa˞ma˥da ˥kakiti ju˞di˥taku ʔu˞sak˥kiti ˥ʃikiti ˥gasuka: ʔm˞ma:˥ŋ](竈の上にアマダを掛けておいて茹でタコを載せて置いて焙乾すると美味しいよ)。

ア˞マ˥ダラ [ʔa˞ma˥dara] 【名】軒。ひさし。「雨だれ」の義から転じて「軒、庇」の意となる。農耕や漁労の作業着を掛けておいたり、網や釣具などを掛けておいたりしたところ。ハ˞ギバラー [ha˞gibara:](軒柱) とハ˞ギバラーの間に約六尺の棒を渡してあり、これに作業着類を掛けておいた。ア˞マ˥ダラナー　˥キンカー　˥サイ　˥シキティ　˞カーラカシタ [ʔa˞ma˥darana: ˥kiŋka: ˥sai ˥ʃi̥kiti ˞ka:rakaʃi̥ta](軒に衣類を掛けておいて乾かした)。ア˞マダラン˥　ッサーラナ　˥サイ　シ˞キ˥ルカー　˞イールティダ˥ナ　プ˞サ˥リン [ʔa˞madaran˥ ssa:rana ˥sai ʃi̥˞ki˥ruka: ˞ʔi:rutida˥na: pu̥˞sa˥riŋ](軒下に掛けて < 下げて > おくと、西日に干される)。

ア˞マダラ˥スン [ʔa˞madara˥suŋ] 【他動】滴らせる。水切りする。ク˞ヌ　キン˥マー　ア˞ラシティティ˥　ブ˞ナシトゥ˥カー　ス˞ブ˥レー　サ˞ムティ˥　ナー˞イ˥　ア˞マダラ˥シ　シゥ˞ク˥ナ [ku˞nu kim˥ma: ʔa˞raʃi̥titi˥ bu˞naʃi̥tu˥ka: su˞bu˥re: sa˞muti˥ na:˞i˥ ʔa˞madara˥ʃi su̥˞ku˥na](この着物は洗ってゆすいだら絞って水切りはしないで < どうするつもりか >、ただ < そのまま > 水を滴らせておくなよ)。

ア˞マダラ˥ミジ [ʔa˞madara˥miʤi] 【名】雨垂れ水。雨垂れ。ア˞マダラ˥ミジェー　シ˞トゥントー˥シ　˥ビーナ　˥ウキティ　タ˞ミシキ˥リ [ʔa˞madara˥miʤe: ʃi̥tunto:˥ʃi ˥bi:na ˥ʔukiti ta˞miʃi̥ki˥ri](雨垂れは捨てないで、樋に受けて溜めておけ)。

ア˞マダルカー˥ダル [ʔa˞madaruka:˥daru] 【副】1濡れそぼつ。濡れてびしょびしょになる。衣類が濡れて垂れ下がっているさま。˥アミナー　˞ゾッふァーリティ˥　ア˞マダルカー˥ダル　˞シェー˥ティ　˞アー˥ク [˥ʔamina: ˞ʤoffa:riti˥ ʔa˞madaruka:˥daru ˞ʃe:˥ti ˞ʔa:˥ku](雨に濡れてびしょびしょになっている)。2肥えて皮膚が垂れ下がるさま。˞パン˥タリティ　ウ˞ム˥ティン　ア˞マダルカー˥ダル　˞シーベー [˞pan˥tariti ʔu˞mu˥tiŋ ʔa˞madaruka:˥daru ˞ʃi:be:](肥って顔も垂れ下がっている)。

ア˞マ˥ダルン [ʔa˞ma˥daruŋ] 【自動】滴る。水が垂れ落ちる。シ˞ル˥ヌ　ア˞マ˥ダルン [ʃi˞ru˥nu ʔa˞ma˥daruŋ](汁が滴る)。ア˞マダラ˥ヌ [ʔa˞madara˥nu](滴らない)。シ˞ル˥ヌ　ア˞マ˥ダリ　˞ベー [ʃi˞ru˥nu ʔa˞ma˥dari ˞be:](汁が滴っている)。ッ˞ふァナシプス˥ヌ　˞シー˥ヤ　ア˞マ˥ダル　˥スコー　˞アウバル˥ヤ˞ラ˥ベー　˞ゾー˥ブンニ　フ˞ドゥバサリ˥ダー [f˞fanaʃipusu˥nu ˞ʃi:˥ja ʔa˞ma˥daru ˥su̥ko: ˞ʔaubaru˥ ja˞ra˥be: ˞ʤo:˥bunni ɸu˞dubasari˥da:](産婦の乳は滴るほど出たほうが子供は十分に成長させられるよ)。2垂れ下がる。˥カナー　ア˞マ˥ダリ　˞ベー˥　シナー　˞ウイ˥　ピ˞キ　アイシキ˥リ [˥kana: ʔa˞ma˥dari ˞be:˥ ʃina: ˞ʔui˥ pi˞ki ʔai̥ʃi̥ki˥ri](あそこに垂れ下がっている綱は上に引き揚げておきなさい)。

ア˞マ˥チ [ʔa˞ma˥ʧi] 【名】樹木の下枝。庭木や畑の畦の樹木の下枝のこと。畑や庭に垂れ下がって、日光が遮られると作物に悪影響を及ぼす。また、庭木の枝が屋根に架かることは家運に悪いとして嫌われ、適当に枝打ちされた。˞ヤー˥ヌ　˞アンタヌ　キー˥ヌ　ア˞マ˥チ　ウ˞タ˥シ [˞ja:˥nu ˞ʔantanu ˞ki:˥nu ʔa˞ma˥ʧi ʔu˞ta˥ʃi](家の東の木の下枝を枝打ちしなさい)。

ア˞マ˥チ　ウ˞タ˥シ [ʔa˞ma˥ʧi ʔu˞ta˥ʃi] 【連】下枝を枝打ちしなさい。˞キーヌユダ˥ヌ　ヤ˞マ˥カビ　サ˞カリティ　ヤー˥ヌ　˞ウイ˥　ア˞ミカビン˥ギサティル　ア˞マ˥チ　ウ˞タ˥スンティ　˞ベー [˞ki:nujuda˥nu ja˞ma˥kabi sḁ˞kariti ja:˥nu ˞ʔui˥ ʔa˞mikabiŋ˥gisatiru ʔa˞ma˥ʧi ʔu˞ta˥sunti ˞be:](木の枝が鬱蒼と生い茂って屋根の上に伸し掛かりそうなので、下枝打ちをしようとしている)。ア˞マ˥チバライ [ʔa˞ma˥ʧibarai](下枝払い) ともいう。

ア˞マッ˥タビーッタ [ʔa˞mat˥tabi:tta] 【副】贅沢に。ふんだんに。裕福に。豊かに。ユ˞チ˥クニ [ju˞ʧi˥kuni](裕福に) ともいう。ア˞マッ˥タビーッタ　˞ファイル˥　ス˞ダティラ˥レー　ッ˞ふァ˥　ヤ˞ルンダ

フンダイ　シーˈ　ナˈラˈヌ [ʔaˈmatˈtabiːtta ˈfairu ˈ suˈdatiraˈreː fˈfa ˈjaˈrunda ɸundai ʃiːˈ naˈraˈnu](贅沢に食べて育てられた子であるから我儘、好き放題な子になって困っている＜しようがない＞)。

アˈマティンˈキ [ʔaˈmatiŋˈki] 【名】雨天。「雨天気」の義。雨降りの天気。アˈマティンキˈヌ　シˈジキティˈ　シˈグトーˈ　ンˈジララˈヌ [ʔaˈmatiŋkiˈnu ʃiˈʤikitiˈ ʃiˈgutoːˈ ʔnˈʤiraraˈnu](雨天が続いて仕事に出られない)。

アˈマドゥ [ʔaˈmadu] 【名】　「雨戸」の義。ヌˈキヤー [nuˈkijaː](貫き木造りの家) の戸。板張りの外戸。巾三尺、長さ 6 尺に作るのが普通である。ˈヤドゥ [ˈjadu](戸。家戸) ともいう。窓枠の外側に、シˈキー [ʃi̥ˈkiː](敷居) とカˈムイ [kaˈmui](鴨居) を設置して、それにアˈマドゥ [ʔaˈmadu](雨戸) を立てて、ヤˈドゥパシˈル [jaˈdupaʃiˈru](引き戸) に作り、窓を開けたり締めたりした。シˈキートゥˈ　カˈムイˈ　シキティ　アˈマドゥˈ　シキタˈティˈルカー　ˈヤドー　アˈキフイˈ　ナルン [ʃi̥ˈkiːtuˈ kaˈmuiˈ ʃi̥kiti ʔaˈmadu ˈ ʃi̥ki tḁˈtiˈruka: ˈjado: ʔaˈkiɸuiˈ naruŋ](戸の敷居と鴨居をつけて雨戸を立てると、戸は開け閉めは出来る)。

アˈマドゥヌˈ　サン [ʔaˈmaduˈnu ˈsaŋ] 【連】雨戸の桟。雨戸の枠。三尺と六尺の枠の内側に三尺の桟を二段に渡したもの。アˈマドゥヌ　サンˈマー　シˈギキーˈシル　スˈクラˈリ　ˈブー [ʔaˈmadunu sam ˈma: ʃiˈgikiːˈʃiru su̥ˈkuraˈri ˈbuː](雨戸の桟は杉木で作られている)。

アˈマナシˈ　クˈマˈナシ [ʔaˈmanaʃiˈ kuˈmaˈnaʃi] 【連】あちらになし＜置い＞たり、こちらになし＜置い＞たりすること。アˈマナシˈ　クˈマˈナシ　ˈシーˈシケーンケン　ˈマナール　スˈクˈタユー　ˈバシキ　ナーンˈシェン [ʔaˈmanaʃiˈ kuˈmaˈnaʃi ˈʃiː ʃi̥keːŋkem ˈ manaːru su̥ˈkuˈtaju: ˈbaʃi̥ki naːŋˈʃeŋ](あちらに置いたり、こちらに置いたりしているうちに、何処に置いたのか忘れてしまった)。

アˈマナラーシ [ʔaˈmanaraːʃi] 【名】甘やかした育て方＜躾＞。主に祖父母が孫を育てる際の育て方にいう。「甘・習わせ」の義。ウˈヤˈヌ　バˈカˈジニ　シˈタールˈ　パーブジーン　スˈダティラˈリ　アˈマナラーシ　サリティル　フンダヤーˈ　ナリˈベー [ʔu ˈjaˈnu baˈkaˈʤini ʃiˈtaːruˈ paːbuʤiːn suˈdatiraˈri ʔaˈ manaraːʃi saritiru ɸundajaːˈ nariˈbeː](親が若死にしたので祖父母に育てられ、甘やかされて育てられたので我儘者＜(すき) 放題者＞になっている)。

アˈマナライ [ʔaˈmanarai] 【名】我儘な性格。甘やかされて育てられた性格。「甘・習い」の義。ヤˈラˈビˈシェーンˈケンラ　アˈマナライ　シーˈ　ケーンダ　マˈナˈマ　シˈキˈティン　ˈフンダイヤ　ノーラˈヌ [jaˈraˈbi ˈʃeːŋˈkenra ʔaˈmanarai ʃiːˈkeːnda maˈna ˈma ʃiˈkiˈtiŋ ˈɸundaija noːraˈnu](子供の頃から我儘に育ってきたから今になっても好き放題の我儘な性格は直らない)。

アˈマˈヌ [ʔaˈmaˈnu] 【副】余りにも～ので。あんまり～ので。過度に～ので、のように条件句を導き、原因、理由を述べる。アˈマˈヌ　ˈアツァティ　ˈピーリˈミジ　ˈカビティ　ˈクーˈタ [ʔaˈmaˈnu ˈʔatsati ˈpiːriˈmiʤi ˈkabiti ˈkuːˈta](あんまり暑いので冷や水をかぶってきた)。アˈマˈヌ　タˈカーˈティ　ˈカーランシェン [ʔaˈmaˈnu tḁˈkaːˈti ˈkaːraŋʃeŋ](あまりにも値段が高いので買えなかった)。ˈユベー　ˈヌンティ　ヤˈルˈユー　アˈマˈヌ　ˈアツァティ　プˈスˈミーンツァン　ニˈバランシェン [ˈjubeː ˈnunti jaˈruˈ juː ʔaˈmaˈnu ˈʔatsati puˈsuˈmiːntsan niˈbaraŋʃeŋ](昨夜はなぜか＜何故であろうか＞暑くて一睡もできなかった＜一目も眠れなかった＞)。

アˈマフチ [ʔaˈmaɸu̥ʧi] 【名】甘口。塩気の少ない味を好むこと。御汁の味付けで薄味を好むこと。ウˈレーˈ　アˈマフチˈ　ヤˈルンダˈ　ウˈリヌˈ　バˈカス　スーˈヤ　ヌˈマラˈヌ [ʔuˈreːˈ ʔaˈmaɸuʧiˈ jaˈrunda ˈ ʔuˈrinuˈ baˈkasu suːˈja nuˈmaraˈnu](彼は甘口だから、彼の煮る＜炊く＞御汁は飲めない)。味付けをする際に、塩気の少ない味を好む人。薄味。サˈクラフチ [sḁˈkuraɸuʧi](塩辛い味を好む人) の対義語。「甘口」の義。「甘味を好む人」の意に用いることもある。アˈマフチˈ　ヤˈルンダˈ　ウˈリヌˈ　バˈカス　スーˈヤ　アˈマーˈヌ　ヌˈマラˈヌ [ʔaˈmaɸu̥ʧiˈ jaˈrundaˈ ʔuˈrinuˈ baˈkasu suːˈja ʔaˈmaːˈnu nuˈmara ˈnu](薄味好みだから、彼が炊くお汁は薄味すぎて＜甘くて＞飲めない)。

アˈマミー [ʔaˈmamiː] 【名】甘味。ˈバンˈスロー　ˈウーˈムカー　イッˈケナˈ　アˈマミーンˈ　ンジ　カˈザンˈ　カˈバッˈサ　ˈナルン [ˈbanˈsuroː ˈʔuːˈ mukaː ʔikˈkenaˈ ʔaˈmamiːnˈ ʔnʤi kaˈʤaŋˈ kaˈbasˈsa ˈnaruŋ](ばんざくろ＜蕃石榴＞は熟すると非常に甘味も出てきて、匂いも香ばしくなる)。

アˈマミー　クマˈミー [ʔaˈmamiː kumaˈmiː] 【副】あちらを見たり、こちらを見たりするさま。せわしくあたりを見回すさま。きょろきょろするさま。ウˈヌˈ　ッˈふァーˈ　アˈマミー　クマˈミー　ˈシー

ピッˈチン　ウˈティシゥカンˈバン [ʔuˈnuˈ fˈfaːˈ ʔaˈmami: kumaˈmi: ˈʃi: pitˈʧiŋ ʔuˈtisi̥kamˈbaŋ](あの子はあっち見たりこっち見たりして＜きょろきょろして＞ちっとも落ち着かないよ)。

アˈマミース [ʔaˈmami:su] 【名】甘味噌。ˈマイヌミーˈス [ˈmainumiːˈsu](米味噌) ともいう。上質の米味噌で、黒糖で多少味付けされていた。ˈサーˈフキ [ˈsaːˈɸu̥ki](茶請け。茶の子) として来客に出された。マˈルケーティˈナー　アˈマミースンˈ　ッˈふァーソーッˈタン [maˈruke:tiˈna: ʔaˈmami:suŋˈ fˈfa:so:tˈtaŋ](たまさか＜偶＞には甘味噌も食べさせてくださった)。

アˈマミジ [ʔaˈmamiʤi] 【名】真水。雨水。「甘水」の転訛したものか。老年層は、ˈマーミジ [ˈma:miʤi](真水) という。ˈスーˈミジ [ˈsuːˈmiʤi](潮水) の対義語。アˈマミジヌˈ　ンˈジˈルン　ˈトンマー　ˈマナー　アˈルˈワ [ʔaˈmamiʤinuˈ ʔnˈʤiˈrun ˈtomma: ˈmana: ʔaˈruˈwa](真水の出る所は何処にあるか)。ˈスーˈミジ [ˈsuːˈmiʤi](塩水) の対義語。フˈカˈヌ　ˈシマシˈキˈルカー　パˈトゥˈマー　アˈマミジェー　ゴーˈラー　ウˈチˈヨー [ɸu̥ˈkaˈnu ˈʃima ʃi̥ˈkiˈruka: pḁˈtu ˈma: ʔaˈmamiʤe: goːˈra: ʔuˈʧiˈjo:](他の島に比べると鳩間島は、淡水＜真水＞は多い方＜内に入る＞だよ)。

アˈマˈミジ [ʔaˈmaˈmiʤi] 【名】雨水。ˈティンシー [ˈtiŋʃi:](天水。「Tensui. テンスイ (天水) 雨水」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの) ともいう。アˈマˈミジシ　ˈユー　フˈカˈシティ　ˈサー　イˈルˈカー　ンˈマーˈンドゥ　ˈカーヌ　ミジˈシェー　ンˈマー　ナーˈヌ [ʔaˈmaˈmiʤiʃi ˈju: ɸu̥ˈkaˈʃi̥ti ˈsa: ʔiˈruˈka: ʔmˈma:ˈndu ˈka:nuˈ miˈʤiˈʃe: ʔmˈma: naːˈnu](天水で湯を沸かしてお茶を入れると美味しいが、井戸水では美味しくない)。天水は湯茶用水として重宝された。屋根に降った雨水を樋で受け、タンクや水がめに貯えた。アˈマˈミジェー　シˈティランドーˈシ　ˈカミナー　タˈブイシキˈリ [ʔaˈmaˈmiʤe: ʃi̥ˈtirando: ˈʃi ˈkamina: taˈbui ʃi̥kiˈri](天水は捨てないで水甕に貯えておきなさい)。

アˈマミジカー [ʔaˈmamiʤika:] 【名】真水の出る井戸。「真水井戸」の義。パˈトゥマˈナー　ˈインヌカー　アンヌカー　ウイヌカー　パチンガカーヌ　ユートンヌˈ　アˈマミジカーヌ　アッˈタン [pḁˈtu ˈmana: ˈʔinnuka: ʔannuka: ʔuinukaːˈ pḁˈʧiŋgaka:nu ju:tonnuˈ ʔaˈmamiʤika:nu ʔatˈtaŋ](鳩間島には西の井戸、東の井戸、上の井戸、初の井戸の四箇所の真水の出る井戸があった)。鳩間島で利用されたほとんどの井戸はアˈマミジカー [ʔaˈmamiʤika:](淡水の出る井戸) であるが、タˈチˈバル [taˈʧiˈbaru](立原) のˈウブシケー [ˈʔubuʃi̥ke:](大城家) の畑の側にあったサˈクラˈカー [sḁˈkuraˈka:](塩辛い井戸) は塩分の多い水のでる小さな井戸であった。現在は埋められているという。ˈインヌカートゥ　アンヌカーヤˈ　アˈマミジˈ　ヤˈルヌ　マーˈヌ　ミˈジルˈ　アˈマーˈカヤー [ˈʔinnuka:tu ʔannuka:jaˈ ʔaˈmamiʤiˈ jaˈrunu maːˈnu miˈʤiruˈ ʔaˈmaːˈkaja:](西井戸と東井戸は淡水の出る井戸であるが、どこの水が甘いかなあ)。

アˈマミン [ʔaˈmamiŋ] 【名】健康な耳。乾いた、健康な耳。「甘耳」の義。ンˈガˈミン [ʔŋˈgaˈmiŋ](苦耳、耳垂れの出る耳、耳漏) の対語。ˈミンˈヌン　サリーˈザリーˈシティ　アˈマミンˈナリ　ˈカイˈヤン [ˈminˈnun sari:ˈʤari:ˈʃiti ʔaˈmaminˈ nari ˈkaiˈjaŋ](耳も乾燥して＜枯れ枯れとして＞乾いた健康耳になり、きれいだ)。

アˈマムヌ [ʔaˈmamunu] 【名】甘い物。甘味のあるもの。トゥˈシˈ　トゥルカー　ターˈンˈ　アˈマムヌルˈ　プサ　ˈスー [tu̥ˈʃiˈ turuka: taːˈŋˈ ʔaˈmamunuruˈ pu̥sa ˈsu:](年をとったら誰でもで甘い物を欲しがる)。

アˈマˈムヨー [ʔaˈmaˈmujo:] 【名】雨模様。あまもよい。雨の降りそうな空模様。シˈトゥムˈテーラ　アˈマˈムヨー　ˈシーˈ　ブˈタンドゥ　ウーアミˈ　ナリˈナーンˈバンヨー [ʃi̥ˈtumuˈte:ra ʔaˈmaˈmujo: ˈʃi:ˈ buˈtandu ʔu:ʔamiˈ nariˈna:mˈbaŋjo:](朝から雨模様だった＜していた＞が、大雨になってしまったわいな)。アˈマˈムヨー　ˈシーブバˈ　アˈマシタˈホーˈシーˈ　パˈラバˈドゥ　ヤˈル [ʔaˈmaˈmujo: ˈʃi:buba ˈ ʔaˈmaʃi̥taˈho: ˈʃi:ˈ paˈrabaˈdu jaˈru](雨模様しているので雨支度はして行った方がよい)。

アˈマˈムリ [ʔaˈmaˈmuri] 【名】雨漏り。ˈカーラˈヌ　ムˈチヌˈ　キシティル　アˈマˈムリ　ˈスーˈサー [ˈka:raˈnu muˈʧinuˈ ki̥ʃitiru ʔaˈmaˈmuri ˈsu:ˈsa:](瓦の漆喰が切れているので、雨漏りするよ)。クˈヌ　ヤーˈヌ　ˈシンタヌ　ピˈサーˈ　アˈマˈムリ　ˈシース [kuˈnu jaːˈnu ˈʃintanu piˈsaːˈ ʔaˈmaˈmuri ˈʃi:su](この家の後ろの屋根＜屋根の後方斜面。後ろの平＞は雨漏りするよ)。

アˈマユー [ʔaˈmaju:] 【名】豊年。アˈマ-[ʔaˈma] は、アˈマイオーˈルン [ʔaˈmaioːˈruŋ](神が喜び祝福される) の「喜び舞う」の意。ˈユー [ˈju:] は、「世、代、

年」の意。全体で「豊年」の意味。対語は、ンˈガˀユー [ŋˈgaˀjuː](苦世、凶年、凶作の年)。「あまよ」『おもろさうし』。アˈマユー　ニンˀガイ　ˈオーˀラ [ʔaˈmajuː niŋˀgai ˈʔoːˀra](豊年を祈願しましょう＜祈願なされましょう＞)。

アˈマヨーン [ʔaˈmajoːŋ] 【名】雨の降る夜の暗闇。雨夜の暗闇。アˈマヨーンˀ　ナリ　ˈミーˀヌ　ˀマイノーˈンˀ　ミˈララˀヌ [ʔaˈmajoːnˀ nari ˈmiːˀnu ˀmai noːˈmˀ miˈraraˀnu](雨の降る真っ暗闇になって、目の前は何にも見えない)。雨のために暗闇になること。「雨闇」の義。アˈマヨーンヌˀ　ッˈふァˀサー　ˈトゥーˀル　ˀシケーティ　アˈランˀカー　アˈラカラˀヌ [ʔaˈmajoːnnuˀ ˈfaˀsaː ˈtuːˀru ˀʃi̥keːti ʔaˈraŋˀkaː ʔaˈrakaraˀnu](雨夜の闇の暗さはランプ＜灯篭＞を点けてでなければ歩くことができない)。

アˈマラˀスン [ʔaˈmaraˀsuŋ] 【他動】余す。余るようにする。ムーˈルˀ　シゥˈカーンドーˀシ　ンˈメーマˀ　アˈマラˀシ [muːˈruˀ si̥ˈkaːndoːˀʃi ʔmˈmeːmaˀ ʔaˈmaraˀʃi](全部使わないで、少し余るようにしなさい＜残しなさい＞)。クˈヌ　ジンˀマー　アˈマラサンˀスコーニ　ムーˈルˀ　シゥˈカイシティリ [kuˈnu ʤimˀma: ʔaˈmarasanˀsu̥koːni muːˈru si̥ˈkaiʃitiri](このお金は余すことのないように全部使いきりなさい)。

アˈマˀリ [ʔaˈmaˀri] 【名】余り。残り。余分。イˈゾーˀ　ムーˈルˀニ　ˈミッカラナー　パイティˀ　アˈマˀレー　ˈカーシˀバ [ʔiˈʤoːˀ muːˈruˀni ˈmikkaranaː paitiˀ ʔaˈmaˀreː ˈkaːʃiˀba](魚は皆に三匹ずつ配って余り＜残余＞は売りなさいよ)。アˈマリˀヌ　ˈワッˀサ　ˀバラサテー　ˈナーˀヌ [ʔaˈmariˀnu ˈwasˀsa ˀbarasateː ˈnaːˀnu](余るのが悪いということはない＜諺＞)。アˈマˀレー　ˈワー　イーˀリバ [ʔaˈmaˀreː ˈwaː ʔiːˀriba](余りは君がもらいなさい)。

アˈマリˀカジ [ʔaˈmariˀkaʤi] 【名】「余り風」の義。不要な風。御しがたい風。悪霊。成仏できないで暗闇の中をさ迷い、人に危害を加えるといわれる悪霊。目には見えないが、総身に鳥肌がたつことによって、それに遭遇したことがわかるという。ヤˈナˀカジ　アˈマリˀカジ [jaˈnaˀkaʤi ʔaˈmariˀkaʤi](悪い風、余り風) と対句で用いることが多い。

アˈマリˀプス [ʔaˈmariˀpusu] 【名】居候。いかず小母。昔は、出戻りなどで実家にいると、家族にとって余計な人とされていた。ˈバンˀテナー　アˈマリプスヌンˀドゥ　ˈブーˀツォー　ˈイーˀリ　ッˈふォーˀル　プˈソー　オーランˀカヤー [ˈbanˀtenaː ʔaˈmaripusunun ˀdu ˈbuːˀtsoː ˈʔiːˀri fˈfoːˀru pu̥ˈsoː ˈʔoːraŋˀkajaː](我が家にはいかず小母がいるんです。貰って下さる人は居られないかねえ)。

アˈマリˀムニ [ʔaˈmariˀmuni] 【名】余計なお喋り。余計な言葉。ˈワーˀヨー、　ˀドゥク　アˈマリムニˀヌ　ˈゴーˀラーˈツォーˀ　フˈチェーˀ　チˈチシミリ [ˈwaːˀjoː ˀduku ʔaˈmarimuniˀnu ˈgoːˀraːˈtsoːˀ ɸu̥ˈʧeːˀ ʧi̥ˈʧiʃimiri](君はね、あんまりにも余計なお喋りが多すぎるのだよ。口は慎めよ)。

アˈマリˀムヌ [ʔaˈmariˀmunu] 【名】1余ったもの。余分の物。ˈマータキナーˀ　バキティ　アˈマリムヌˀヌ　ˀアルカー　ˈワー　イーˀリバ [ˈmaːtakinaːˀ bakiti ʔaˈmarimunuˀnu ˀʔarukaː ˈwaː ʔiːˀriba](同じ分量に分けて、余り物があれば君が貰いなさいよ)。2「余り者」の義。世間から爪弾きされた者。死者の霊が成仏できないで、さ迷って人に危害を及ぼすもの。対語は、スˈバヌˀムヌ [suˈbanuˀmunu](側のもの) ともいう。ˈソーランˀヌ　ˀピンマー　アˈマリムヌˀヌ　ˈアーキˀバ　ミˈジヌˀクー　ˈパンˀキ [ˈsoːranˀnu ˀpimmaː ʔaˈmarimunuˀnu ˈʔaːkiˀba miˈʤinuˀkuː ˈpaŋˀki](お盆の時には成仏できない霊＜余りもの＞が徘徊しているので、ミジヌクーを外に向かってはね飛ばしなさい＜お布施を施せ＞)。

アˈマˀルン [ʔaˈmaˀruŋ] 【自動】余る。分量などが必要とする数量を越えて残りが出る。ˈピーチˀナーク ˈバˀルカー　フˈターチˀ　アˈマˀルンティ　ウˈムータˀヌ　アˈマランˀバン [ˈpiːʧiˀnaː kuˈbaˀrukaː ɸu̥ˈtaːʧiˀ ʔaˈmaˀrunti ʔuˈmuːtaˀnu ʔaˈmaramˀbaŋ](一つずつ配ると二つ余ると思ったが、余らないよ)。ウˈビˀナー　アˈマˀリ　ˈナーˀヌ [ʔuˈbiˀnaː ʔaˈmaˀri ˈnaːˀnu](こんなにも余ってしまった)。アˈマˀル　ˀクトー　ˈナーˀヌ [ʔaˈmaˀru ˀku̥toː ˈnaːˀnu](余ることはない)。ˈマーˀビン　アˈマˀレー　ˀミサムヌ [ˈmaːˀbiŋ ʔaˈmaˀreː ˀmisamunu](もっと余れば良いのに)。ˈピーチˀナー　ˈパウˀカー　アˈマˀルン [ˈpiːʧiˀnaː ˈpauˀkaː ʔaˈmaˀruŋ](一つずつ配ると余る)。タˈラーンˀカヤーッティ　ウˈムータンˀドゥ　アˈマˀル　ˀスコー　アˈリˀブワーˈンˀノー [taˈraːŋˀkajaːtti ʔuˈmuːtanˀdu ʔaˈmaˀru ˀsu̥koː ʔaˈriˀbuwaːˈnˀnoː](足りないかと思ったが余るほど有りおるではないか)。ˈミーチナ　パウˀカー　アˈマラˀヌ [ˈmiːʧina pauˀkaː ʔaˈmaraˀnu](三つずつ配ると余らない)。アˈマˀリ　ˈナーˀヌ [ʔaˈmaˀri ˈnaːˀnu](余ってしまった)。アˈマˀル　ˀムノー　アˈツァˀミ [ʔaˈmaˀru ˀmunoː ʔaˈtsaˀmi](余る物は集めよ)。

アˈマルン [ʔaˈmaruŋ] 【自動】肉などが腐りかかる。食物などが腐敗にまでは至っていない状態。クˈレーˀ　アˈマリˀドゥ　ブˈリンˀギサバ　ˀバー　ッˈふァーヌ [kuˈreːˀ ʔaˈmariˀdu buˈriŋˀgisaba ˀbaː fˈfaːnu](これは腐りかけていそうだから私は食べない)。

アˈマンˀガサ [ʔaˈmaŋˀgasa] 【名】月にかかるかさ (暈 < カサ >)。あまがさ。月の周囲に見える光の輪。ˈキューˀヌ　ˀシケー　アˈマンガサˀヌ　カˈカˀリ　ˈベーˀヌ　アˈミˀヌ　ˀフーカヤー [ˈkjuːˀnu ˀʃikeː ʔaˈmaŋgasaˀnu kaˈkaˀri ˈbeːˀnu ʔaˈmiˀnu ˀɸuːkajaː](今日の月には暈がかかっているが、雨が降るのかなあ)。

アˈマンˀグイ [ʔaˈmaŋˀgui] 【名】雨乞い。旱魃が続くときアˈマンˀグイウタ [ʔaˈmaŋˀguiuta](雨乞い歌) を歌って降雨を神に祈願する祭祀。ムˈトゥˀウガン [muˈtuˀʔugaŋ](友利御嶽)、ニˈシˀドーウガン [niˈʃiˀdoːʔugaŋ](西堂御嶽)、ピˈナイˀウガン [piˈnaiʔugaŋ](鬚川 < ピナイ > 御嶽)、アˈラˀカーウガン [ʔaˈraˀkaːʔugaŋ](新川御嶽) の神々とˀマイパマ [ˀmaipama](前浜) の神々に対する祈願の神歌を歌って雨乞いをした。ナˈチヌ　ペーレーヌˀ　シˈジクˀカー　サˈカサンケーˀヤ　ムˈトゥˀウガンナ　スルイˈヨーˀリティ　アˈマングイˀヌ　ˈニンˀガイ　ˈソーッˀタ [naˈtʃinu peːreːnuˀ ʃiˈʤikuˀkaː saˈkasaŋkeːˀja muˈtuˀʔuganna: suruiˈjoːˀriti ʔaˈmanguiˀnu ˈniŋˀgai ˈsoːtˀta](夏の旱が続くと司 < 神女 > 方が友利御嶽にお揃いになって雨乞いの祈願をなされた)。雨乞い歌。旱魃が続いて農作物に被害が出ると、島のサˈカサ [sḁˈkasa](司。女性神職者) やティˈジリˀビー [tiˈʤiriˀbiː](手摺り部。男性神職者)、それにヤˈクˀサ [jaˈkuˀsa](村役人。祭祀係り) らが集まって協議し、サˈカサにˈピュール [ˈpjuːru](日和) を取ってもらって雨乞いの祭祀を実施した。友利御嶽で「雨乞い」の祈願をし、雨乞いの歌を歌って五箇所の御嶽を回り、井戸から汲んできた桶の水を道中柄杓で汲み、それを掛け合いながら歩いた。雨乞いの歌は神歌としてサカサやティジリビーだけに歌い継がれ、一般の人には知られていなかった。1960 年ごろまでは一般の人に教えることを禁じられていた。「雨乞い歌」は、ナˈガミˀク [naˈgamiˀku](長め句) とハˈヤミˀク [haˈjamiˀku](早め句) から構成されている。ˈペーレイヌˀ　シˈジキティˀ　スˈクリˀムノーム ーˈルˀ　サˈリナーˀヌ　ˈパイˀサ　アˈマンˀグイˀニンガイ　ˈソーランˀカー　ナˈラˀヌ [ˈpeːreinuˀ ʃiˈʤikitiˀ suˈkuriˀmunoː muːˈruˀ saˈrinaːˀnu ˈpaiˀsa ʔaˈmaŋˀgui ˀniŋgai ˈsoːraŋˀkaː naˈraˀnu](旱魃が続いて作物はみな枯れてしまった。早く雨乞いの祈願をなさらないといけません)。

アˈマンˀグイウタ [ʔaˈmaŋˀguiʔuta] 【名】雨乞いの神歌。○トゥムルウガン (ナガミ)/ウブシクヌ　マブルシュ　アミブシャヌ/ウブトゥムル　カミガナシ　アミブシャヌ/ウマンチュヌ　ニガイヤ　アミブシャヌ/アカカラジヌ　ニガイヤ　アミブシャヌ/タンディトートゥ　マブルシュ　アミブシャヌ/ガラクトートゥ　カミガナシ　アミブシャヌ/。○ハヤミク (雨乞い歌)/ウマンチュヌ　ニガイヤヨー　アカカラジヌ　ニガイヤヨー　ハーリ　アミタボリリューガナシ/タンディトートゥ　マブルシュヨー　ガラクトートゥ　カミガナシ　ハーリ　アミタボリリューガナシ/ユスヌカミガナシ　キムピティチ　ムスビョーリ　ハーリアミタボリ　リューガナシ/アジルカタ　ネーナー　オーリヨー　ムディルカタ　ネーナー　オーリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/パトゥマティル　シマヤヨー　バケナーネーヌ　シマヤヨ　ハーリアミタボリリューガナシ/ウティミジヌ　ママヤリヨー　カキミジヌ　ママヤリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ウラダダイドーヌ　ヤリヨーリ　カンヤヌシ　ヤリヨーリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ウフヤマトゥ　ハズミヨーリヨー　カンヤマトゥ　ハズミヨーリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ヤーパニ　ピキパラショーリヨー　トゥパニピキ　パラショーリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ウフウキナ　クダリョーリヨー　スイウキナー　クダリョーリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ヤーパニ　ピキパラショーリヨー　トゥーパニ　ピキパラショーリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ウフミヤククダリョリヨー　シマジリニ　クダリョーリヨー　ハーリアニタボリ　リューガナシ/カンヤシキフマルヌヨー　ヌシヤシキ　フマルヌヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ヤーパニピキ　パラショーリヨー　トゥ―パニピキ　パラショーリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/タラマムラ　オーラカラヨー　ミンナムラ　オーラカラヨー　ハーリアミタタボリ　リューガナシ/ヤイマシマ　クダリヨーリヨー　ウフイサナキ　クダリヨーリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/カンヤシキ　フマルヌヨー　ヌシヤシキフマルヌヨー

ハーリアミタボリ　リューガナシ/ヤーパニ　ピキパラショーリヨー　トゥーパニ　ピキパラショーリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/タキドゥンヌ　オーラカラヨー　ナカダキヌ　オーラカラヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/クルシマニ　クダリヨーリヨー　ヌバンバマ　フナシキヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/カンヤシキ　フマルヌヨー　ヌシヤシキフマルヌヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ヤーパニ　ピキパラショーリ　トゥーパニ　ピキパラショーリ　ハーリアミタボリ　リューガナシ/バガパトゥマ　クダリヨーリヨー　フナバマニ　フナシキヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/フナヤギサ　イチヌマリ　ギシャマシュヤ　ハチヌマリ　ハーリアミタボリ　リューガナシ/カミヤシキ　フミオーリヨー　ヌシヤシキ　フミオーリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ミジヌフキ　サシヒョーラヨー　カヤヌフキ　サシヒョーラヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ヌバルティジ　ヌキダキヨー　ミジヌムトゥ　ヤリオーリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/バガパトゥマ　ピキユシオーリヨー　クリトゥムリ　トゥリユシヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/イチブプリ　タボラリヨー　ニヌブプリ　タボラリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ウムルミジ　タボラリヨー　フダルミジ　タボラリヨー　ハーリアミタボリ　リュガナシ/。○< ニシドーウガン >/クニムトゥヌ　マブルシュ　アミブシャヌ/ウヤムトゥヌ　カミガナシ　アミブシャヌ/ウマンチュヌ　ニガイ　アミブシャヌ/アカカラジヌ　ニガイ　アミブシャヌ/タンディトートゥ　マブルシュ　アミブシャヌ/アラクトートゥ　カミガナシ　アミブシャヌ/。○< マイヌウガン、ピナイウガン >/ピナイバナ　マブルシュ　アミブシャヌ/カンバナヌ　カミガナシ　アミブシャヌ/ピナイサーラ　ミジムトゥヌ　アミブシャヌ/マイナショール　マブルシュ　アミブシャヌ/ウマンチュヌ　ニガイ　アミブシャヌ/タンディトートゥ　カミガナシ　アミブシャヌ/アラクトートゥ　マブルシュ　アミブシャヌ/。○< アラカワウガン >/ウフイラカ　カミガナシ　アミブシャヌ/カミイラカ　タケバル　アミブシャヌ/ミジムトゥヌ　マブルシュ　アミブシャヌ/ウブガーラヌ　シキフチ　アミブシャヌ/ウムルミジ　タラショーリ　アミブシャヌ/フダルミジバ　タボラリヨー　アミブシャヌ/。○< マイパマヌ　ウタ >/マイパマヌマブルシュ　アミブシャヌ/　シルパマヌカミガナシ　アミブシャヌ/インスクヌ　リューガナシ　アミブシャヌ/テンシンマディ　アガリヨーリ　アミブシャヌ/。○< パマザキパマウタ >/ユニサキヌ　マブルシュ　アミブシャヌ/シラパマヌカミガナシ　アミブシャヌ/ウフガーラ　シキフチ　アミブシャヌ/。○< ハヤミブシ >/インスクヌ　リューガナシヨー　テンシマディ　アガリヨーリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/アンノーマヌ　シマカラヨー　クルミオール　クルアミヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/シルクムバ　アミナシヨー　ヌリクムバ　ミジナシヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/バガパトゥマ　ピキユシオーリヨー/クリトゥムリ　トゥリユシオーリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ニカヌユヌ　ユナカニヨー/ユサヌユヌ　ユナカニヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ドールドールシ　タボラリヨー/ザールザールシ　タボラリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ムリムリヌ　タウナルケー　タウタウヌ　イキナルケー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/パマカヤバ　ウシウルシヨー　イソスリバ　ピキウルシヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/マイヌトゥーヌ　ヤノールケヨー　インヌトゥーヌ　ヤノールケヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ウマンチュヌ　イヌチヤヨー　ウンカザドゥ　イヌチヤル　ハーリアミタボリ　リューガナシ/マミカザヌ　イヌチヤヨー　ウティミジドゥ　イヌチヤル　ハーリアミタボリ　リューガナシ/ウティミジヌ　ネーナブリヨー　カキミジヌネーナヲリヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ/マミカザン　ナイドゥシユル　ウンカザン　ナイドゥシユヨー　ハーリアミタボリ　リューガナシ。

アˈマンベールン [ʔaˈmambeːruŋ] 【自動】甘くなる。甘ったるくなる。食物などが甘みをおびる。サˈタˌヌ　ˈゴーˌラーカー　　ムˈチェーˌ　アˈマベールン [saˈtaˌnu ˈgoːˌraːkaː muˈtʃeːˌ ʔaˈmambeːruŋ](砂糖が多いと餅は甘ったるくなる)。クˈヌ　ムチェーˌ　アˈマンベーリティˌ　ンˈマーナーˌヌ [kuˈnu mutʃeːˌ ʔaˈmambeːritiˌ ʔmˈmaːnaːˌnu](この餅は甘みをおびていて美味しくない)。食物全体が異常に甘ったるくなる。ˈアンムチˌバ　ッˈふァイシギルˌカー　フˈチンマーラーˌ　アˈマンベーリティˌ　ムˈヌパキッˌツァー　ナルンˈダー [ˈʔammutʃiˌba fˈfaiʃi-giruˌka: ɸu̥ˈtʃimmaːraːˌ ʔaˈmambeːritiˌ muˈnupakitˌ

tsa: narun˞da:](餡餅を食べ過ぎると口の周りは甘ったるくなって、嘔吐しそうに＜嘔吐したく＞なる)。ア˞マンベールン˥ティ　ス˞クタヌ˥　ア˞マンベーランワン˥ノー [ʔa˞mambe:run˥ti sɨ̞˞kutanu˥ ʔa˞mambe:raŋwan˥no:](甘ったるくなると聞いたが、甘ったるくならないではないか)。イ˞コーラ˥　ッ˞ふァーバン˥　ア˞マンベール˥　クトー　˞ナー˥ヌ [ʔi˞ko:ra˥ f˞fa:baŋ˥ ʔa˞mambe:ru˥ kɨ̞to: ˞na:˥nu](いくら食べても甘ったるくなることはない)。ア˞マンベーレー˥　ミサムヌ [ʔa˞mambe:re:˥ misamunu](甘ったるくなればいいのに)。

˥アミ **[˥ʔami]** 【名】雨。「吾には告げず　との曇り安米能布流＜アメノフル＞日を〜。万、4011」の転訛したもの。ア˞ミ˥ヌ　˥フーン [ʔa˞mi˥nu ˥ɸu:ŋ](雨が降る)。ア˞ミ˥　フーン [ʔa˞mi˥ ɸu:ŋ](雨＜が＞降る)ともいう。˥アメー　˞ホー˥ヌ [˥ʔame: ˞ho:˥nu](雨は降らない)。ア˞ミ˥バ　˞ホー˥シ　タ˞ボー˥リ [ʔa˞mi˥ba ˞ho:˥ʃi ta˞bo:˥ri](雨を降らしてください)。アミ˞カーニル˥　フー [ʔami˥ka:niru˥ ɸu:](雨だけ＜ばかり＞が降る)。˥アミナー　˞ゾッふァーリティ　ヤーン˥ナカー　˞ペーリマー˥キ　˞ベー [˥ʔamina: ˞ʤoffa:riti ja:n˥naka: ˞pe:rima:˥ki ˞be:](雨に降られて＜濡れて＞家の中に入りかねている)。

ア˞ミ **[ʔa˞mi]** 【名】あめ (飴)。飴玉。ア˞ミヌ˥　アン [ʔa˞minu˥ ʔaŋ](飴がある)。ヤ˞ラ˥ビンケーン　ア˞ミ　ピーチ˥ナー　ッ˞ふァーシ˥バ [ja˞ra˥biŋkeŋ ʔa˞mi pi:ʧi˥na: f˞fa:ʃi˥ba](子供たちに飴を一つずつ食べさせなさい)。

ア˞ミオシ˥キ **[ʔa˞mioʃi˥ki]** 【名】雨天。「雨・天気」の義。ク˞ヌ˥　シケー　ア˞ミオシキ˥ヌ　シ˞ジキティ˥　パ˞タ˥キ　˞カイサラ˥ヌ [ku˞nu˥ ʃɨ̞ke: ʔa˞mi?oʃɨ̞ki˥nu ʃi˞ʤikiti˥ pɨ̞˞ta˥ki ˞kaisara˥nu](今月は雨天が続いて畑を耕すことが出来ない)。ア˞ミフイオシ˥キ [ʔa˞miɸui?oʃɨ̞˥ki](雨降り天気) ともいう。ア˞ミオシキ˥ヌ　シ˞ジキン˥ギササー [ʔa˞mi?oʃiki˥nu ʃi˞ʤikiŋ˥gisasa:](雨天＜雨降り天気＞が続きそうだよ)。

ア˞ミ˥ガサ **[ʔa˞mi˥gasa]** 【名】あみがさ (編笠)。藺草で編んだ笠。芝居や舞踊の小道具として用いられるもの。ア˞ミガサ˥バ　˥カビ　˥シラー　カ˞ク˥シティ　˞パッ˥タ [ʔa˞migasa˥ba ˥kabi ˥ʃira: kɨ̞˞ku˥ʃɨ̞ti ˞pat˥ta](編笠を被り顔を隠して行った)。

ア˞ミ˥カジ **[ʔa˞mi˥kaʤi]** 【名】風雨。雨と風。雨につれて吹く風。「雨風 (あめかぜ)」の義。˥カイブ　ア˞ミカジ˥ヌ　ナ˞カー˥ラ　˞ヌー˥シ　˞シー˥　キ˞ラリ˥ター [˥kaibu ʔa˞mikaʤi˥nu na˞ka:˥ra ˞nu:˥ʃi ˞ʃi:˥ ki˞rari˥ta:](こんな風雨の中をどうやって来れたのか＜来られたか＞)。ア˞ミカジ˥ヌ　˞スーワ˥ヌ　ン˞カーラヌ [ʔa˞mikaʤi˥nu ˞su:wa˥nu ʔŋ˞ka:ranu](風雨が強くてどうにもならない。＜風に向かって出て行くことが出来ない＞)。ア˞ミカジ˥ヌ　˞スー˥ワティ　˥フネー　ン˞ザサラ˥ヌ [ʔa˞mikaʤi˥nu ˞su:˥wati˥ɸune: ʔn˞ʤasara˥nu](雨風が強くて船は出せない)。

ア˞ミカビ **[ʔa˞mikabi]** 【副】押し被さってくるさま。伸し掛かるさま。ウ˞スマ˥サール　シ˞グトゥヌ˥　ア˞ミカビ˥キー　˞デー˥ジ　˞シーナー˥ヌ [ʔu˞suma˥sa:ru ʃi˞gutunu˥ ʔa˞mikabi˥ki: ˞de:˥ʤi ˞ʃi:na:˥nu](おそろしく大変な仕事が伸し掛かってきて大変なことになってしまった)。

ア˞ミカブン **[ʔa˞mikabuŋ]** 【自動】水を頭から浴びるように他人が怒鳴り込む。ひどい剣幕で襲い掛かるように怒鳴り込む。ク˞ビッチン˥　ヌ　クトシン　プ˞スンナー˥ニ　ア˞ミカブン [ku˞bittʃin˥nu kɨ̞tuʃim pɨ̞˞sunna:˥ni ʔa˞mikabuŋ](これぽっちのことでも人に怒鳴り込む)。他人が伸し掛かってくる。他人が恐ろしい剣幕でなじってくる。強く問責してくる。ウ˞ヌ˥　プ˞ソー˥　ク˞ビッチン˥ヌ　˥クトゥシン　ア˞ミカビ˥クンダー　˞キー˥　シ˞キ˥リ [ʔu˞nu˥ pɨ̞˞so:˥ ku˞bittʃin˥nu ˥kɨ̞tuʃiŋ ʔa˞mikabi˥kunda: ˞ki:˥ ʃɨ̞˞ki˥ri](その人はこれぽっちのことでも激しくなじってくるから気をつけなさいよ)。ア˞ミカブ˥　クトー　ア˞ミカブンドゥ˥　パ˞ナ˥シ　シゥ˞カス˥カー　ア˞ミカバヌ [ʔa˞mikabu˥ kɨ̞to: ʔa˞mikabundu˥ pa˞na˥ʃi sɨ̞˞kasu˥ka: ʔa˞mikabanu](激しく伸し掛かることは伸し掛かってくるが、話して聞かせると伸し掛からない)。ア˞ミカベー˥　ミサムヌ [ʔa˞mikabe:˥ misamunu](厳しくなじれば良いのに)。ア˞ミカビ˥バ [ʔa˞mikabi˥ba](伸し掛かれ)。

ア˞ミグマ˥リ **[ʔa˞miguma˥ri]** 【名】雨籠もり。長雨のために仕事が出来ない状態。ア˞ミマー˥チ [ʔa˞mima:˥ʧi](雨が止むのを待つ。雨宿り) ともいう。ア˞ミ˥ヌ　˞ナーフイ　シティ˥　ア˞ミグマ˥リ　˞シーベー [ʔa˞mi˥nu ˞na:ɸui ʃiti˥ ʔa˞miguma˥ri ˞ʃi:be:](雨が長く降って＜長降りして＞雨籠もりをしている)。

ア˞ミ˥グル **[ʔa˞mi˥guru]** 【名】雨雲。ッふォーッ˞ふォーヌ˥　ア˞ミグル˥ヌ　マナ˞マンチン　ユーシ˥キー　ウ˞ブアミ˥ヌ　タ˞タッ˥キ　˥フイケーン [ffo:f˞fo:nu˥ ʔa˞miguru˥nu mana˞mantʃiŋ ju:ʃi˥ki: ʔu˞buami˥nu tɨ̞˞tak˥ki ˥ɸuike:ŋ](真っ黒の＜黒々の＞雲が急に寄

せてきて大雨が叩きつけて降ってきた)。

アˈミˉシジ [ʔaˈmiˉʃiji] 【名】雨粒。アˈミシジˉヌ　ˈマイˉヤン [ʔaˈmiʃidʒiˉnu ˈmaiˉjaŋ](雨粒が大きい)。ˈキューˉヌ　ˉアメー　ˉヌーティ　ˈスーˉ　アミヤˈルˉユー　アˈミˉシジーン　クˈビˉナー　ˉアリティ　タˈタキシティˉルン　ˉカタチニル　フーˈツォー [ˈkjuːˉnu ˉʔameː ˉnuːti ˈsuːˉ ʔami jaˈruˉjuː ʔaˈmiˉʃiʤiːŋ kuˈbiˉnaː ˉʔariti tạˈtakiʃitiˉruŋ ˉkạtatʃini ɸuːˈtsoː](今日の雨は何という雨だろうか。雨粒もこんなに大きくて＜あって＞、叩きつけるように＜叩き捨てるように＞降るんだよ)。

アˈミシジˉキ [ʔaˈmiʃiʤiˉki] 【名】雨続き。アˈミシジキˉヌ　ˉアトゥ　ヤˈルンダˉ　シˈトゥレーˉヌ　パˈタˉケー　ˈペーララˉヌ [ʔaˈmiʃiʤikiˉnu ˉʔatu jaˈrundaˉʃi̥ˈtureːˉnu paˈtaˉkeː ˈpeːraraˉnu](雨続きの後だから、畑地がぬかるんで＜ビチャビチャぬかるんで＞畑には入れない)。ˈトゥッカナーˉ　アˈミチジキˉヌ　ˈスーˉカー　シˈグトゥンˉ　シˈララヌ [ˈtukkanaːˉ ʔaˈmitʃiʤikiˉnu ˈsuːˉkaː ʃiˈgutuŋˉ ʃiˈraranu](十日も雨続きがすると、仕事もできない)。

アˈミシタˉフ [ʔaˈmiʃitaˉɸu] 【名】雨支度。雨に濡れないための支度。ˈキューˉヤ　ˉユネンガターラ　アˈミˉヌ　ˈフインˉギサバ　アˈミシタˉフ　ˈシーˉ　パリˈヨー [ˈkjuːˉja ˉjuneŋgataːra ʔaˈmiˉnu ˈɸuiŋˉgisaba ʔaˈmiʃitaˉɸu ˈʃiːˉ pariˈjoː](今日は夕方から雨が降りそうだから雨支度をして行きなさいよ)。

アˈミダプトゥˉキ [ʔaˈmidaputuˉki] 【名】阿弥陀仏。ˈソーˉラン [ˈsoːˉraŋ](お盆) に歌って親に孝養を尽くすˈニンブˉツァー [ˈnimbuˉtsaː](無蔵＜無常＞念仏歌) の中で歌われている仏。○ シˈザˉヌ　ˉクイ (兄の声＜歌＞)/ナムアミダブチ　ヨー　アミダプトゥキ (南無阿弥陀仏　ヨー　阿弥陀仏)/イマジヨーヌ　サンナル　シキダイス (今十三歳になる年月です)/アヌヤマティラニ　ヨー　マイラシバ (あの山寺に　ヨー　参ると)/アヌヤマティラニ　ヨー　マイラサヌ (あの山寺に　ヨー　参詣できない)/フンヌヨー　アワリヌミチヤリバ (誠に　ヨー　哀れな＜無常な＞道であるから)/ニシカインカユティ　キョーモンバユミ (西方へ向かって経文を読み)/ヒガシニンカユティ　キョームンバカキ (東に向かって経文を書き＜写経し＞)/ユムタル　キョームンヤ　ウヤヌタミ (読んだ経文は父親のため)/カキタル　キョームンヤ　ハハヌタミ (書いた＜写経した＞経文は母のため)/ウキトゥリタマワリ　ヨー　チチヌウヤ (受け取ってください　ヨー　父の親)/ウキサシタマワリ　ヨー　ハハヌウヤ (受け取ってください　ヨー　母の親)/ナムアミダブチヨー　ウクリンデームヌ (南無阿弥陀仏　ヨー　供養でありますから)。○ ウシトゥヌクイ (弟の声＜歌＞)/ワリンダカ　ユニンナル　イヤシングゥヌ (頭数＜兄弟＞四人いる中で　貧乏な子が)/ムチュタルタカラヤ　ネーナヤブリ (持てる宝＜お金＞は無くて)/ムチュタルタカラヤ　アリバクリ (持てる宝があればこそ)/スリトゥム　ヨー　ウヤニヨー　マイラサヌ (それでも親に参らさむ＜親の仏前に参上しよう＞)/ソーローユーヤ　イチガユーティ　タジナリバ (精霊会の夜はいつの日かと尋ねると)/ソーローユーヤ　シチガチヌ　ナカヌソロー (お盆の日は七月の中旬のお盆)/ナチカシ　ナチングゥチヌ　ナカヌソーロー (懐かしい夏の月の中＜中旬＞のお盆)/ナチカシ　ナチングゥチヌ　ナチヌヤマ (懐かしい夏の月の夏の山の)/キーヌナル　パチパチバ　トゥリカザリ (木の実の初生り物を取り供えて)/ナリキーヌ　シナジナバ　トゥリカザリ (実のなる木々＜生り木＞の種々を取り供えて)/ムスビティウヤニ　ヨー　マイラシバ (結んで親の仏前に参ると)/スリトゥムウヤヌ　タミドゥナル (それだけでも親のためになる)/ウキトゥリタマワリ　ヨー　チチヌウヤ (受け取ってください　ヨー　父の親)/ウキサシタマワリヨー　ハハヌウヤ (受け取ってください　ヨー　母の親)/ナムアミダブチ　ヨー　ウクリンデームヌ (南無阿弥陀仏　ヨー　孝養の饗饌でありますから)/ウーギヌスラ　ウリナスビ　キザンムヌ (甘蔗の茎、瓜、茄子を刻んだもの)/シースイヌ　ウハンギヌ　ミジスイティ (メドハギ＜蓍萩・マヤーブー＞で撥ねる水を添えて)/イキョーヌ　ハナガレヌ　ミジスイティ (易行の花殻の水を添えて)/ヌクタル　サーミジヤ　クバスユカ (残った茶水は零すより)/フカヤーヌ　ソーロソーローヌ　タミドゥナル (あの世＜霊界・墓＞の精霊のためになる)/ソーンソーン　ユムタルキョームンヤ　ウヤヌ　タミドゥナル (そもそも読んだ経文は親のためになる)/。

アˈミダマ [ʔaˈmidama] 【名】飴玉。砂糖を煮詰めて球形、菱形等に作った菓子。戦後は鳩間島にも小売店ができて、飴玉等の駄菓子類が売られるようになった。広口のガラス瓶に、赤、白、黄色などのカラフルな菓子が詰まっていて、それを買ってもらうのが子供にとって楽しみであった。イˈサナケーラヌˉ　シトー　ヤーˈディンˉ　アˈミダマバ

ル　カイヨーッˈタ [ʔiˈsanakeːranuˈ ʃi̥toː jaːˈdiŋˈ ʔaˈmidamabaru kaijoːtˈta](石垣からのお土産＜つと。苞＞は、必ず飴玉を買われた)。

アˈミチヂˈキ [ʔaˈmitʃidʒiˈki] 【名】雨続き。雨天が続くこと。アˈミシジˈキ [ʔaˈmiʃid Ziˈki] ともいう。ユˈドゥンˈヌ　ˈシチ　ナˈルˈター　アˈミチジˈキ　ˈシーˈ　シˈグトゥンˈ　ナˈラˈヌ [juˈdunˈnu ˈʃi̥tʃi naˈruˈtaː ʔaˈmitʃidʒiˈki ˈʃiːˈ ʃiˈgutunˈ naˈraˈnu](梅雨の季節になったので、雨続きして仕事も出来ない)。

ˈアミツァ [ˈʔamitsa] 【名】(動) ヤドカリ。ˈアマンツァ [ʔamantsa] ともいう。ˈアミツァヌ　フˈルバ　ムンˈダニ　シˈティˈ　イˈズ　ホースン [ʔamitsanu ɸuˈruba muˈndani ʃi̥ˈtiˈ ʔiˈʤu hoːˈsuŋ](ヤドカリの胴体を餌さにして魚を釣る)。ˈアミツァヌ　グˈル [ˈʔamitsanu guˈru](アドカリの殻、転じて男児の頭髪を刈りそこねたものにいう)。

ˈアミツァ [ʔamitsa] 【名】 1(動) 和名、ヤドカリ (宿借り)。巻貝の空殻にはいっていて成長するに伴い空殻を取り替える。陸上に棲息するものと、海中に棲息するものがいるが、魚の餌に利用されるものとしては陸上のヤドカリの方が最適である。餌の食いつきがよい。若年層では、ˈアミンツァ [ˈʔamintsa](ヤドカリ) ともいう。ˈアミツァ　プˈサイティˈ　ムˈチイズ　ホーˈシン　ˈパラ　ˈディー [ˈʔamitsa pu̥ˈsaitiˈ muˈʧiiʤu hoːˈʃim ˈpara ˈdiː](ヤドカリを拾ってムˈチイズ＜ノコギリダイ＞を釣りに行こうよ)。2あちこち歩き回って、落ち着きのない者。ウˈレーˈ　アミツァトゥ　ユˈヌˈムヌ　プˈスˈカタナ　トゥˈクットゥˈシ　ブˈリユーサヌ [ʔuˈreːˈ ʔamitsatu juˈnuˈmunu pu̥ˈsuˈkatanaː tu̥ˈkuttuˈʃi buˈrijuːsanu](彼はヤドカリと同じで、一箇所に落ち着いていることが出来ない)。

ˈアミツァヌ　グˈル [ˈʔamitsanu guˈru] 【連】ヤドカリの殻。転じて「虎刈り」の意。鋏で頭髪刈り、散髪した髪の高低が揃わない形状を揶揄して言う場合に用いる。ˈワーˈ　ガˈマˈジェー　ˈアミツァヌ　グˈル　ナリ　ˈベー [ˈwaːˈ gaˈmaˈʤeː ˈʔamitsanu guˈruˈ nari ˈbeː](君の髪の毛はヤドカリの殻＜ヤドカリの食い残し。虎刈り＞になっているよ)。

ˈアミツァ　ˈパーˈシ [ˈʔamitsa ˈpaːˈʃi] 【名】ヤドカリ這わせ遊び。ˈキーヌˈユダナ　アミツァ　ˈパーˈシ　ˈシーˈ　アˈサブタン [ˈkiːnuˈ judana ʔmitsa ˈpaːˈʃi ˈʃiːˈ ʔaˈsabutaŋ](木の枝にヤドカリを這わせてする遊びをして遊んだものだ)。

アˈミˈドゥシ [ʔaˈmiˈduʃi] 【名】雨の多い年。降雨の多い年。「雨年」の義。アˈミドゥˈシ　ンˈカイシミˈ　ユˈガフˈ　マˈラシミˈ　タˈボーˈリティル　ˈニガイ　ッˈサリルˈユー [ʔaˈmiduˈʃi ʔŋˈkaiʃimiˈ juˈgaɸuˈ maˈraʃimiˈ taˈboːˈritiru ˈnigai sˈsariruˈjuː](降雨の多い年を迎えさせ、豊年満作＜世果報＞の年を誕生させてくださいと祈願し申し上げます)。

アˈミニンˈガイ [ʔaˈminiŋˈgai] 【名】雨願い。降雨の祈願。農作物の順調な育成に必要な十日越しの夜雨の降雨を祈願する祭祀。この祭祀は、ˈニンガチニンˈガイ [ˈningatʃiniŋˈgai](二月願い) で行われた。ムˈカˈシェー　ˈニンガチニンˈガイナール　アˈミニンガイˈユン　ˈソーッˈタˈダー [muˈkaˈʃeː ˈniŋgatʃiniŋˈgainaːru ʔaˈminiŋgaiˈjun ˈsoːtˈtaˈdaː](昔は二月願いの祭祀において雨願いの祈願もなされたものだよ)。

アˈミˈヌ　カˈタˈカ [ʔaˈmiˈnu kaˈtaˈka] 【連】あまよけ。雨覆い。雨に濡れるのを防ぐための覆い。雨の防護壁。トゥˈマー [tuˈmaː](茅を編んで作った苫) などをかけて覆い、雨に濡れるのを防ぐもの。ノーˈンナˈカシー　アˈミˈヌ　カˈタˈカ　スˈクˈリバ [ˈnoːˈnnaˈkaʃi ʔaˈmiˈnu kḁˈtaˈka su̥ˈkuˈriba](何かで雨よけを作りなさいよ)。

アˈミパラˈシ [ʔaˈmiparaˈʃi] 【名】雨宿り。「雨晴らし」の義。ˈクナーティ　ˈイットゥˈキ　アˈミパラˈシ　シˈティˈ　パリバ [ˈkunaːti ˈʔittuˈki ʔaˈmiparaˈʃi ʃi̥ˈtiˈ pariba](ここでちょっと＜いっとき＞雨宿り＜雨晴らし＞して行きなさいよ)。

アˈミˈパリ [ʔaˈmiˈpari] 【名】雨上がり。雨晴れ。雨が止んで空が晴れること。アˈミˈパリ　ˈシェーツバˈ　マˈナマンˈチンナー　パˈルバˈル　マˈシ [ʔaˈmiˈpari ˈʃeːtsubaˈ maˈnamanˈʧinnaː paˈrubaˈru maˈʃi](雨上がりしたので今のうちに行くのがよい)。

アˈミˈフイ [ʔaˈmiˈɸui] 【名】雨降り。雨続き。ˈカイブ　アˈミˈフイナー　ˈマナール　パˈタˈキ　ˈカイˈス　プˈスヌ　ブーワ [ˈkaibu ʔaˈmiˈɸuinaː ˈmanaːru pḁˈtaˈki ˈkaiˈsu pu̥ˈsunu buːwa](こんな雨降りに、どこに畑を耕す人がいるものか)。アˈミフイˈヌ　シˈジキティˈ　ッˈサークンˈ　ナˈラˈヌ [ʔaˈmiɸuiˈnu ʃiˈʤikitiˈ sˈsaːkunˈ naˈraˈnu](雨降りが続いて仕事も出来ない)。アˈミフイˈヌ　シˈジクターˈ　シˈトゥレーˈヌ　パˈタˈケー　ˈペーララˈヌ [ʔaˈmiɸuiˈnu ʃiˈʤikutaː ʃi̥ˈtureːˈnu pḁˈtaˈkeː ˈpeːraraˈnu](雨降りが続いたので土が粘っこくなって畑に入れない)。シˈトゥˈレーン [ʃi̥ˈtuˈreːŋ] 参照。

アˈミフイˈカザ [ʔaˈmiɸuiˈkaʤa] 【名】 (植) ノアサ

ガオ。「雨降り蔓」の義。ピˈビザー　ナン˥ゾー　アˈミフイ˥カザー　ッˈふァーンセン [piˈbiʤa: nan˥ ʤo: ʔaˈmiɸui˥kaʤa: fˈfa:ŋʃeŋ](山羊はノアサガオをあまり食べなかった)。

アˈミフイシタ˥フ [ʔaˈmiɸuiʃi̥ta˥ɸu] 【名】あまじたく (雨支度)。外出の際に雨に濡れない用意をすること。雨具の用意をすること。「雨降り支度」の義。プˈスマー˥ラー　アˈミ˥ヌ　ˈフイン˥ギサバ　アˈミフイシタ˥フ　シˈティ˥　パリˈヨー [pu̥ˈsumaː˥raː ʔaˈmi˥nu ˈɸuiŋ˥gisaba ʔaˈmiɸuiʃi̥ta˥ɸu ʃi̥ˈti˥ pariˈjoː](正午からは雨が降りそうだから雨支度 < 雨具の用意 > をして行きなさいよ)。

アˈミボー˥サ [ʔaˈmiboː˥sa] 【名】雨宿り。ˈアッ˥タニ　アˈミ˥ヌ　ˈフータ˥ル　アˈミボー˥サ　スˈンティ˥　アˈマ˥ダラナー　カˈク˥リ　ˈベートダー [ˈʔat˥tani ʔaˈmi˥nu ˈɸuːta˥ru ʔaˈmiboː˥sa ˈsunti˥ ʔaˈma˥darana: kḁˈku˥ri ˈbeːɺdaː](急に雨が降ったので雨宿りをしようとして軒下に隠れているのだよ)。

アˈミマー˥チ [ʔaˈmimaː˥ʧi] 【名】雨宿り。雨が降り止むのを待つこと。マーンˈベーマ˥　アˈミマー˥チ　シˈティ˥　パリバ [maːmˈbeːma˥ ʔaˈmimaː˥ʧi ʃi̥ˈti˥ pariba](もう少し雨宿りをしてからいきなさい)。「雨待ち」の転訛か。アˈマ˥ダラナー　ナーˈイ˥　アˈミマー˥チ　シーベー [ʔaˈma˥darana: naːˈi˥ʔaˈmimaː˥ʧi ˈʃiːbeː](軒下でじっと雨宿りをしている)。

アˈミ˥ムヌ [ʔaˈmi˥munu] 【名】編み物。アˈミ˥ムヌ　ˈシーシェー˥　プˈスン˥　ブˈタン [ʔaˈmi˥munu ˈʃiːʃeː˥ pu̥ˈsum˥ buˈtaŋ](編み物をすることの出来る < し得る > 人もいた)。アˈミムヌ˥ヌ　フˈミ˥カター　イˈサンケーラル˥　ケーˈナー [ʔaˈmimunu˥nu ɸuˈmi˥kata: ʔiˈsaŋkeːra˥ru keːˈnaː](編み物の編み方は石垣島から伝えられてきたのだねえ)。

アˈミ˥ムヨー [ʔaˈmi˥mujoː] 【名】雨模様。あまもよい。雨が降りそうな空の様子。ˈオーシケー˥　アˈミ˥ムヨー　ˈシーブンダ˥　プˈシ˥ムノー　ナˈラ˥ヌ [ˈʔoːʃi̥keː˥ ʔaˈmi˥mujoː ˈʃiːbunda˥ pu̥ˈʃi˥muno: naˈra˥nu](天気は雨模様をしているから、干し物は出来ない)。

アˈミルン [ʔaˈmiruŋ] 【他動】浴びる。湯や水などをかぶる。体にかける。ˈビールバ˥　アˈミルン˥ケン　ヌミˈミッ˥タン [ˈbiːruba˥ ʔaˈmiruŋ˥ken numiˈmit˥taŋ](ビールを浴びるほど飲んでみた)。ˈワー˥　マˈナ˥マ　ˈユー˥フル　アˈミルナト ヨー [ˈwaː˥ maˈna˥ma ˈjuː˥huru ʔaˈmirunaɺjoː](君は今、風呂を浴びるなよ)。˥クナーティ　アˈミリ˥バ [˥kunaːti ʔaˈmiri˥ba](ここで風呂を浴びなさい < 入浴しなさい >)。アˈミラヌ [ʔaˈmiranu](浴びない)。ˈユー˥フル　アˈミル˥　プˈソー˥　ブˈラーヌ [ˈjuː˥ɸuru ʔaˈmiru˥ pu̥ˈsoː˥ buˈraːnu](風呂に入る < 風呂を浴びる > 人はいない)。ˈマー˥ビン　アˈミレー˥　ミサムヌ [ˈmaː˥biŋ ʔaˈmireː˥ misamunu](もっと浴びれば良いのに)。ヤーˈディン˥　アˈミリ [jaːˈdiŋ˥ ʔaˈmiri](必ず浴びよ)。ミˈジ˥　アˈミルンティ　スンドゥ˥　アˈミララヌ [miˈʤi˥ ʔaˈmirunti sundu˥ ʔaˈmiraranu](水を浴びようとするが、浴びられない)。アˈミル˥　クトー　ナˈラ˥ヌヌ　アˈミ˥　プサカー　アˈミ˥バ [ʔaˈmiru˥ kutoː naˈra˥nunu ʔaˈmi˥ pu̥saka: ʔaˈmi˥ba](浴びることは出来ないが、浴びたければ浴びなさいよ)。アˈミレー˥ < アˈメー >　ミサムヌ [ʔaˈmireː˥ < aˈmeː˥ > misamunu](浴びればいいのに)。ˈパー˥ク　アˈミリ [ˈpaː˥ku ʔaˈmiri](早く浴びよ)。

˥アミン　シˈタッカ˥リン [˥ʔamiŋ ʃi̥ˈtak˥kariŋ] 【連】大雨に濡れる。ずぶ濡れになる。びしょ濡れになる。「雨に打たれる」の義。˥アミンシˈタッカ˥リティ　ダッˈカティ　ゾーリナー˥ヌ [˥ʔamiŋ ʃi̥ˈtakka˥riti dakˈkati ʤoːrinaː˥nu](雨に打たれてびっしょ濡れになってしまった)。

アˈム˥サムイサン [ʔaˈmu˥samuisaŋ] 【形】よく頭痛がする。よく気分が悪くなる。ドゥˈク˥ヌ　アˈム˥サムイサンドゥ　ノーˈン˥　ナˈラ˥ヌ [duˈku˥nu ʔaˈmu˥samuisandu noːˈn˥ naˈra˥nu](あまりにも頻繁に頭痛がするので何にも出来ない)。˥ドゥク　アˈム˥サムイサー　サˈヌヌ˥　ウˈキグリサ˥ル < ウˈキングリサ˥ル >　˥アルティバーヤ [˥duku ʔaˈmu˥samuisa: saˈnunu˥ ʔuˈkigurisa˥ru < ʔuˈkiŋgurisa˥ru > ˥ʔarutibaːja](あまり頭痛はしないが、起き辛いんだよ)。˥アイニ　アˈム˥サムイサーˈスー˥　プˈソー˥　ブˈラーヌ [˥ʔaini ʔaˈmu˥samuisaːˈsuː˥ pu̥ˈsoː˥ buˈraːnu](あのようによく頭痛のおこる人は他にいない)。

アˈム˥サン [ʔaˈmu˥saŋ] 【形】1気分が悪い。頭が重く気分が優れない。ˈキュー˥ヤ　アˈムサ˥ヌ　シˈグトー˥　ナラヌ [ˈkjuː˥ja ʔaˈmusa˥nu ʃiˈgutoː˥ naˈra˥nu](今日は気分が悪く仕事は出来ない)。アˈム˥サー　ˈナー˥ヌ [ʔaˈmu˥saː ˈnaː˥nu](気分は悪くない)。アˈムサ˥ヌ　ウˈキララ˥ヌ [ʔaˈmusa˥nu ʔuˈkirara˥nu](頭が重く、頭痛がして起きられない)。アˈム˥サンカヤーティ　ウˈムータ˥ヌ　アˈムサナーン˥ツォー [ʔaˈmu˥saŋkajaːti ʔuˈmuːtan˥du ʔaˈmusanaːn˥tsoː](頭痛

がして気分が悪いかと思ったが、気分悪くないそうだ)。アˈムˉサ　ˉクトー　ˈナーˉヌ [ʔaˈmuˉsa ˉkṵto: ˈna:ˉnu](気分の悪いことはない)。アˈムˉサカー　ニˈビˉバ [ʔaˈmuˉsaka: niˈbiˉba](気分が悪かったら寝なさい)。²頭が痛い。心痛である。ヤˈミプスˉヌ　ˈソートゥ　ジンˉヌ　ˈソーバ　シーˉ　アˈムサˉヌ　ナˈラˉヌ [jaˈmipṵsuˉnu ˈso:tu ʤinˉnu ˈso:ba ʃi:ˉ ʔaˈmusaˉnu naˈraˉnu](病人の心配とお金の心配で頭が痛くて堪らない)。

アˈムˉヌ [ʔaˈmuˉnu] 【名】茅葺家の甍を覆い被せる竹簾。「編み物」の義。歌謡語。茅の甍が飛散しないようにアˈムˉヌ (竹簾) を被せ、黒い棕櫚縄をマーリザ (竹矛) に掛けて引き締め、固定させた。ダˈディˉクダキバ　アˈムヌˉバ　ˈシー　ヤーˉバ　スˈクˉリ　ˉアンティ　ˉスー [daˈdiˉkudakiba ʔaˈmunuˉba ˈʃi: ja:ˉba sṵˈkuˉri ˉʔanti ˉsu:](ダディク山産のダディク竹を簾にして甍を被せ、家を作ってあるという)(「鳩間島古謡の一つ・新室寿歌『アーパーレー』について」。『沖縄文化　26・27』)。

アˈムリˉバナ [ʔaˈmuriˉbana] 【名】醸造した泡盛酒が泡を盛り上げる時。フˈカイˉバナ [ɸṵˈkaiˉbana](発酵する時) の対語として用いられる。古典民謡「鳩間中岡」に歌いこまれている。

アˈムン [ʔaˈmuŋ] 【他動】アˈミルン [ʔaˈmiruŋ](浴びる) と同義。ˈピーリˉミジ　アˈミティˉ　ドゥー　ˈピーˉラシ [ˈpi:riˉmidʒi ʔaˈmitiˉ du: ˈpi:raˉʃi](冷水を浴びて体を冷やしなさい)。ˈワーˉ　アˈムˉカー　ˈバンˉヌン　アˈムン [ˈwa:ˉ ʔaˈmuˉka: ˈbanˉnuŋ ʔaˈmuŋ](君が浴びたら私も浴びる)。ミˈジˉ　アˈム　プスヌˉ　ブˈラーンバ　ワーˉラ　ˈパイˉサ　アˈミˉバ [miˈʤiˉ ʔaˈmu pṵsunuˉ buˈra:mba wa:ˉra ˈpaiˉsa ʔaˈmiˉba](水を浴びる人がいないから、君から早く浴びなさい)。ˈワンヌンˉ　アˈメーˉ　ミサムヌ [ˈwan-nuŋˉ ʔaˈme:ˉ misamunu](君も浴びたら＜浴びれば＞いいのに)。ミˈジˉ　アˈムンティ　スンドゥˉ　アˈマラヌ [miˈʤiˉ ʔaˈmunti sunduˉ ʔaˈmaranu](水を浴びようとするが、浴びられない)。ミˈジˉ　アˈミˉ　プサカー　ˉクナーティ　アˈムˉ　クトー　ˉナルン [miˈʤiˉ ʔaˈmiˉ pṵsaka: ˉkuna:ti ʔaˈmuˉ kṵto: ˉnaruŋ](水を浴びたければ、ここで浴びることは出来る)。アˈメーˉ　ミサムヌ [ʔaˈme:ˉ misamunu](浴びればいいのに)。アˈミˉバ [ʔaˈmiˉba](浴びよ)。

ˉアムン [ˉʔamuŋ] 【他動】編む。標準語からの借用語の転訛したもの。老年層は、ˉフムン [ˉɸumuŋ](編む) という。アˈミˉムヌ [ʔaˈmiˉmunu](編み物)。ˈキーˉトゥシ　ティˈブクˉル　ˉアムン [ˈki:ˉtuʃi tiˈbukuˉru ˉʔamuŋ](毛糸で手袋を編む)。ˉバー　アˈマˉヌ [ˉba: ʔaˈmaˉnu](私は編まない)。アˈミˉ　プサカー　クˈリˉシン　ˉアム　ˉクトー　ˉナルン [ʔaˈmiˉ pṵsaka: kuˈriˉʃiŋ ˉʔamu ˉkṵto: ˉnaruŋ](編みたければ、これででも編むことは出来る)。ˉドゥーシ　ˉアメー　ˉミサムヌ [ˉdu:ʃi ˉʔame: ˉmisamunu](自分で編めばいいのに)。ˈパーˉク　ˉアミバ [ˈpa:ˉku ˉʔamiba](早く編めよ)。

アˈメーˉマ [ʔaˈme:ˉma] 【名】小雨。ˈアーメーマー [ˈʔa:me:ma:](小雨) は幼児語。アˈメーˉマ　ヤˈルンダˉ　ユˈドゥマˉナー　アˈガリス [ʔaˈme:ˉma jaˈrunda juˈdumaˉna: ʔaˈgarisu](小雨だからすぐ止むよ)。ˈアーメーマーヤ　フイˉタボンナー [ˈʔa:me:ma:ja ɸuiˉtabonˈna:](小雨は降ってくださるな)(童謡)。アˈメーマˉヌ　ˉフーン [ʔaˈme:maˉnu ˉɸu:ŋ](小雨が降る)。

アˈモーˉリ [ʔaˈmo:ˉri] 【名】にわか雨。夕立。「あまぐれ」(『おもろさうし』) の　[amagure]　→　[amaure](g 音脱落)→　[amo:ri]([au]　→　[o:]、[e]　→　[i]　の母音融合変化) による音韻変化に基づくものと解釈される。ナˈチ　アモーリヌ　アッˉタニ　ˈキーˉル　ˈゾッふァシナーンˉバン [naˈʧi?amo:rinu ʔatˉtani ˈki:ˉru ˈʤoffaʃina:mˉbaŋ](夏のにわか雨が突然やってきて＜ぞ＞濡らしてしまったわい)。

アˈモーˉリ　ˈソーˉルン [ʔaˈmo:ˉri ˈso:ˉruŋ] 【連】神々が降臨される。天下りされる。ˈウイヌウガンˉヌ　ˈカンヌマイˉヤー　ˈパイディンˉヌ　スˈバˉヌ　クˈバムトーˉラル　アˈモーˉリ　ˈソーˉルツォー [ˈʔuinuʔuganˉnu ˈkannumaiˉja: ˈpaidinˉnu suˈbaˉnu kuˈbamuto:ˉraru ʔaˈmo:ˉri ˈso:ˉrutso:](友利御嶽の神様は拝殿の側のクバ＜蒲葵＞の幹を伝って降臨されるそうだ)。

アˈモーˉルン [ʔaˈmo:ˉruŋ] 【他動】湯を浴びなさる。湯浴みなさる。アˈムン [ʔaˈmuŋ](浴びる) の敬譲形(敬語)。[ʔaˈmi](浴び＜連用形＞)・[ʔo:ˉruŋ](おわす＜御座す＞)→　アˈモーˉルン [ʔaˈmo:ˉruŋ] と音韻変化したもの。アˈモーラˉヌ [ʔaˈmo:raˉnu](湯浴みなさらない)。ˈユーˉフル　アˈモーリˉ　プサカー　アˈモーˉル　ˉクトー　ˉナルン [ˈju:ˉɸuru ʔaˈmo:riˉ pṵsaka: ʔaˈmo:ˉru ˉkṵto: ˉnaruŋ](風呂をお浴びになりたければ、お浴びになることは出来る)。アˈモーˉレー　ˉミサムヌ [ʔaˈmo:ˉre: ˉmisamunu](お浴びになればいいですのに)。ˈパーˉク　アˈモーˉリ [ˈpa:

ˈku ʔaˈmoːˈri](早くお浴びなさいませ)。

ˈアヤ [ˈʔaja] 【名】綾。模様。紋様。「AYA. ア (非常に柔らかで手ざわりのよい、日本の布の一種. また絹織物などについている木の葉や花などの模様.〜)」『邦訳日葡辞書』の義。「肉咼、掌内文理也、手乃阿也 (てのあや)」『新撰字鏡』の「阿也」が転訛したもの。ウˈブˈアヤキン [ʔuˈbuˈajakiŋ](大柄模様の派手な着物)、バˈカˈアヤキン [baˈkaˈʔajakiŋ](小柄模様の地味な着物)。クˈヌ　キンˈヌ　アˈヤˈヌ　ˈカイˈヤワˈナー [kuˈnu kinˈnu ʔaˈjaˈnu ˈkaiˈjawaˈnaː](この着物の模様が美しいねえ)。

アˈヤーˈマキン [ʔaˈjaːˈmakiŋ] 【名】小柄模様の着物、老人用の着物。アˈヤーˈマキンマー　ˈワーˈナ　ウˈチラˈヌ [ʔaˈjaːmaˈkimmaː ˈwaːˈna ʔuˈtʃiraˈnu](小柄模様の着物は貴方には似合わない < 移らない >)。

アˈヤーˈン [ʔaˈjaːˈŋ] 【形】ふくれやすい。気分を害しやすい。不機嫌になりやすい。ウˈヌ　ッふァーˈ　アˈヤーンˈダ　ˈキーˈ　シキティ　ˈムネー　イˈジˈヨー　ウˈカットゥˈシェー　ˈムネー　イˈザランˈダー [ʔuˈnu ffaːˈ ʔaˈjaːˈnda ˈkiːˈ ʃikiti muneː ʔiˈʤiˈjoː ʔuˈkattuˈʃeː ˈmuneː ʔiˈʤaranˈda](この子はふくれやすい気性だから気をつけて話をしなさい < ものはいいなさい > よ。うかつにものはいえないよ)。ˈキサー　アˈヤーナーンˈセンドゥ　ˈシンダイˈ　アˈヤーˈ　ナリケーン [ˈkisaː ʔaˈjaːnaːŋˈʃendu ˈʃindaiˈ ʔaˈjaːˈ narikeːŋ](以前はふくれやすくなかったが、次第にふくれやすくなってきた)。

アˈヤカーリˈムヌ [ʔaˈjakaːriˈmunu] 【名】肖りもの。長寿や健康に肖る印として頂いた物。ウˈレーˈ　アッパー　ˈチョーミガフヌˈ　アˈヤカリˈムヌ　ヤˈリバˈ　シˈティララヌ [ʔuˈreːˈ ʔappaː ˈtʃoːmigaɸunuˈ ʔaˈjakariˈmunu jaˈribaˈ ʃi̥ˈtiraranu](それはお祖母さんの長寿の肖りに頂いた物 < 肖り物 > だから、捨てられない)。

アˈヤカーˈルン [ʔaˈjakaːˈruŋ] 【他動】肖る。ものに感じて、それに似て幸せになるように願う。ˈアイカーˈルン [ˈʔaikaːˈruŋ](肖る) ともいう。ˈチョーミガフˈ　アˈヤカーˈルンティ　ˈクーˈタ [ˈtʃoːmigaɸuˈ ʔaˈjakaːˈrunti ˈkuːˈta](長寿を肖りに来た)。アˈヤカーˈリ　ˈミサカー　アˈヤカーˈル　プˈソーˈ　ミˈチˈ　ブー [ʔaˈjakaːˈri ˈmisakaː ʔaˈjakaːˈru pu̥ˈsoːˈ miˈtʃiˈ buː](肖ってよければ肖る人は多い < 満ちている >)。アˈヤカーˈレー　ˈミサムヌ [ʔaˈjakaːˈreːˈ misamunu](肖れば良いのに)。ˈワンヌンˈ　アˈヤカーˈリバ [ˈwannuŋˈ ʔaˈjakaːˈriba](君も肖れよ)。ˈアッパー　ˈチョーミーˈ　アˈヤカーラˈシ　タˈボーˈレーティ　ウˈヤˈキパンジョーン　アˈラˈシミ　タˈボーˈリ [ˈʔappaː ˈtʃoːmiːˈ ʔaˈjakaːraˈʃi taˈboːˈreːti ʔuˈjaˈki panʤoː ʔaˈraˈʃimi taˈboːˈri](お祖母さんの長命に肖らせていただいて < 賜って > 富貴繁盛あらしめてください)。

ˈアヤキン [ˈʔajakiŋ] 【名】縞模様のある着物。ウˈヌˈ　アヤキンヌ　ˈカイˈヤワˈナー [ʔuˈnuˈ ʔajakinnu ˈkaiˈjawaˈnaː](この縞模様の着物が美しいねえ)。

アˈヤˈサピダラサーン [ʔaˈjaˈsapidarasaːŋ] 【形】ふくれやすい。機嫌ををそこねやすい。不機嫌になりやすい。「アヤサ」と「ピダラサ」の重言 (畳語) が形容詞化したもの。「ピダラ」は「左・ア」の融合した形で、< 頭の働きが少しおかしな人 > の義。正常な人の性格と異なる「ふくれやすい性格」の意。ˈウンˈネヌ　ウˈブˈアッパー　イッˈケナˈ　アˈヤˈサピダラサー　アˈローッˈタン [ˈʔunˈnenu ʔuˈbuˈʔappaː ʔikˈkenaˈ ʔaˈjaˈsapidarasaː ʔaˈroːtˈtaŋ](その家のひいばあさん < 曾祖母 > は大変ふくれやすい方であられた)。

アˈヤッˈサーン [ʔaˈjasˈsaːŋ] 【形】 1怪しい。危うい。危ない。危なっかしい。クˈヌˈ　ッˈふァー　キーヌ　パンˈタナー　ˈヌーリ　ベーˈティ　ウˈティランˈユー　アˈヤッサˈヌ　ˈミリ　ˈベーララˈヌ [kuˈnuˈ fˈfaː kiːnu panˈtanaː ˈnuːri beːˈti ʔuˈtiraŋˈju: ʔaˈjassaˈnu ˈmiri ˈbeːraraˈnu](この子は、木の先端に登っているので、落ちないのか、危なっかしくて見ておれない)。2疑わしい。クˈヌˈ　プˈソーˈ　アˈヤーッˈサンダー　ˈキーˈ　シˈキˈリˈダー [kuˈnuˈ puˈsoːˈ ʔaˈjaːsˈsandaː ˈkiːˈ ʃiˈkiˈriˈdaː](この人は怪しいから気をつけなさいよ)。

アˈヤˈトゥリ [ʔaˈjaˈturi] 【名】あやとり (綾取り)。輪にした糸を左右の手首や指にかけて取り合う女児の遊戯。ミˈドーンˈッふァー　ˈユー　アˈヤˈトゥリ　ˈシーˈ　アˈサブタン [miˈdoːŋˈffaː ˈju: ʔaˈjaˈturi ˈʃiːˈ ʔaˈsabutaŋ](女の子はよく綾取りをして遊んだ)。

アˈヤˈナキ [ʔaˈjaˈnaki] 【名】犬や猫などが不吉な鳴き方をすること。ヤˈナナキ [jaˈnanaki](悪いなき方、不正常な鳴き方) ともいう。犬や猫がアˈヤˈナキ [ʔaˈjaˈnaki] すると、その動物の向いて鳴く方角に不吉なことが起きるといわれて、忌み嫌われている。ˈインˈヌ　アˈヤˈナキ　ˈシーベーˈヌ　ˈヌーˈシタカヤー [ˈʔinˈnu ʔaˈjaˈnaki ˈʃiːbeːˈnu ˈnuːˈ ʃitakajaː](犬が不吉な鳴き方をしているが、どうし

たことだろうか)。

アˈヤ˥パニ [ʔaˈja˥pani] 【名】美しい羽。綾なす羽。「綾羽」の義。「アヤ」は、『おもろさうし』では「霊妙である、ふしぎでる、の意を原義にし、美しい、りっぱな、の意の美称となる・・」(『沖縄古語大辞典』) とあり、「あやざはね (綾差羽)」の項では「美しい差し羽」とある。八重山民謡の最高峰といわれる「バシゥヌトゥリゥ　ブシゥ (鷲の鳥節)」では、「アヤバニバ　マラシヨウリ　ビゥルパニバ　シゥダシヨウリ/　(綾羽バ生ラシヨウリ　ビゥルパニバ　産ダシヨウリ)」(『宮良当壮全集 12』) とある。鳩間島で歌われている「鷲の鳥節」では、アˈヤ˥パニ [ʔaˈja˥pani](綾羽、立派な羽) と歌われている。

アˈヤマー˥ルン [ʔaˈjamaː˥ruŋ] 【自動】すねる。機嫌悪くなる。ウˈビッ˥チン　イˈザリタンドゥ˥　キˈサーティ˥　アˈヤマー˥リˈベー [kuˈbit˥ʧiŋ ʔiˈʤaritandu˥ kiˈsaːti˥ ʔaˈjamaː˥ri ˈbeː](これぽっち叱られただけなのに、すでに機嫌を悪くしている)。

アˈヤマ˥サ [ʔaˈjama˥sa] 【名】(動) 魚の名。和名、ユトヒキ。頭部から尾びれにかけて黒い横ストライプが 4 本走る。「アヤ (模様) のある魚」の義。えら (鰓) のところに棘があり、刺されると痛い。礒釣りでも釣れる。アˈヤマ˥サー　˥マンタヌ　パˈマ˥ナーティン　ˈホーサリ˥タン [ʔaˈjama˥saː ˥mantanu paˈma˥naːtiŋ ˈhoːsari˥taŋ](コトヒキは島の前の浜でも釣れた)。

アˈヤミ˥ルン [ʔaˈjami˥ruŋ] 【他動】傷つける。損なう。殺す。˥アイティ　プˈスン˥ヤヌ　ッˈふァ˥　アˈヤミル˥ナ [˥ʔaiti puˈsuŋ˥janu fˈfa˥ ʔaˈjamiru˥na](喧嘩してよその家の子供を怪我させるな < 危めるな >)。

アˈヤ˥ムニ [ʔaˈja˥muni] 【名】不機嫌なものいい。感情を害して不機嫌な表情で発することば。ふてくされた物言い。˥アイニ　ナーˈイ˥　アˈヤ˥ムニ　ˈタン˥ガー　アˈザンブリ˥バ [˥ʔaini naːˈi˥ ʔaˈja˥muni ˈtaŋ˥gaː ʔaˈʤamburi˥ba](そんなに感情をがいした不機嫌なことば < ものいい > だけするなよ < しないでおれよ >)。

アˈヤ˥ムン [ʔaˈja˥muŋ] 【他動】傷つける。「あやめる (下二段)」の四段活用化したもの。ヤˈラ˥ビ　ヤˈラバン˥　アイティ　プˈス˥　アˈヤ˥メー　ナˈラ˥ヌ [jaˈra˥bi jaˈrabaŋ˥ ʔaiti puˈsu˥ ʔaˈja˥meː naˈra˥nu](子供でも喧嘩して他人を傷つけてはならない)。

˥アヤメー [˥ʔajameː] 【名】(人) 女性の名前。パˈトゥ˥マナー　˥アヤメーティ　ˈスー˥　プˈスヌ　オーッ˥タンミー [paˈtu˥manaː ˥ʔajameːti ˈsuː˥ puˈsunu ʔoːt˥tammiː](鳩間島にアヤメーという人がおられたねえ)。

アˈヤン˥マー [ʔaˈjam˥maː] 【名】ふくれやすい人。ひねくれやすい人。子供や女性に多いといわれている。ウˈヌ˥　プˈソー˥　アˈヤン˥マー　ヤˈルンダ˥　シˈグ˥　アˈヤンマーリ˥ス　˥ムネー　イˈザラヌ [ʔuˈnu˥ puˈsoː˥ ʔaˈjam˥maː jaˈrunda˥ ʃiˈgu˥ ʔaˈjammaːri˥su ˥mune: ʔiˈʤaranu](その人はふくれやすい人だからすぐに不機嫌になる。< すこしも > 叱ることが出来ない < ものがいわれない >)。

アˈヤンマー˥ルン [ʔaˈjammaː˥ruŋ] 【自動】すねる。不機嫌になる。捻くれる。ンˈメーマヤラバン˥　イˈズ˥カー　シˈグ˥　アˈヤンマーリ˥ス [ʔmˈmeːmajarabaŋ˥ ʔiˈʤu˥kaː ʃiˈgu˥ ʔaˈjammaːri˥su](少しでも叱ると、すぐひねくれて不機嫌になる)。

˥アヨー [˥ʔajoː] 【名】八重山の古い神歌。呪詞カンフチゥ、ニガイフチゥの予祝機能を受け継ぐ叙事的歌謡。鳩間島ではタˈナ˥ドゥル　˥アヨー [taˈna˥ duru ˥ʔajoː](種取りのアヨー) が終戦直後まで伝承されていたが現在では伝承者はいない。

アˈラ- [ʔaˈra-] 【接頭】粗雑である。きつい。「粗い」の意。アˈラシグトウ [ʔaˈraʃigutu](力仕事。きつい仕事)。アˈラトゥ [ʔaˈratu](粗い砥石)。˥アイブ　アˈラシグトー˥　ミˈドゥムン˥マー　シˈミララヌ [˥ʔaibu ʔaˈraʃiguto:˥ miˈdumum˥ma: ʃiˈmiraranu](あんな力仕事は女にはさせられない)。シˈダケー˥　アˈラトゥ˥ナ　˥トゥイティ　クˈマトゥ˥ナ　ˈトゥーバ˥ル　カˈタ˥ナー　キˈシ˥ルˈダー [ʃiˈdakeː˥ ʔaˈratu˥na ˥tuiti kuˈmatu˥na ˈtuːba˥ru kạˈta˥naː kị̥ˈʃi˥ruˈdaː](最初は粗い砥石で研いで、次に細かい砥石で研いだほうが包丁は切れるんだよ)。

アˈラ- [ʔaˈra-] 【接頭】新-。名詞を修飾して「新しい〜」の意を表す。アˈラヤー [ʔaˈrajaː](新築の家。新家屋。新しい家)。アˈラキン [ʔaˈrakiŋ](新しい着物)。˥ソンガチナー　アˈラキン　カイ　ッふォー˥ルンツォー [˥soŋgatʃinaː ʔaˈrakiŋ kai ffoː˥runtsoː](正月に新しい着物を買ってくださるそうだ)。

アˈラーシミルン [ʔaˈraːʃimiruŋ] 【他動】洗わさせる (使役)。洗濯させる (使役)。ˈバン˥テヌ　˥アチャー　˥ヤミティ　ニˈビオールン˥ドゥ　ウˈナー˥　ッス　˥シバルヌ　˥アトゥ　アˈラーシミルンティ　シーバン˥　ミˈドーン˥ッふァンケンバ　˥パンシ　キˈリ˥ソーッタヌ　˥バー　アˈライオース˥カー　ナーˈイ˥　アˈラーシモーッ˥タン [ˈban˥tenu ˥ʔatʃaː ˥jamiti ni

ˈbio:runˀdu ʔuˈna: ˀssuʃibarunu ˀʔatu ʔaˈra:ʃimirunti ʃi:bamˀ miˈdo:ŋˀffaŋkemba ˀpaŋʃi kiˈriˀso:ttanu ˀba: ʔaˈraio:suˀka: na:ˈiˀ ʔaˈra:ʃimo:tˀtaŋ](私の家のお父さんは病んで臥しておられるが、自分の＜己の＞便や尿の跡を洗わせようとしても、娘達 (女の子達) がしようとするのを足で蹴られたが、私が洗ってあげると、何もしないで洗わさせられた)。

アˈラースン [ʔaˈra:suŋ] 【他動】洗わせる。洗濯させる。消毒させる。アˈラウン [ʔaˈrauŋ](洗う) の未然形、アˈラー [ʔaˈra:] に、使役の助動詞ˀスン [ˀsuŋ](～せる。～させる) が付いて形成された動詞。ˈキンˀマー ˈワンˀ アˈラースンティˀ ヌˈカˀシ ˀシケー [ˈkimˀma: ˈwaŋˀ ʔaˈra:suntiˀ nuˈkaˀʃi ˀʃi̥ke:](着物は君に洗わせようと残して＜おいて＞ある)。

アˈラーˀスン [ʔaˈra:ˀsuŋ] 【他動】表す。現す。霊験を示す。アˈラーˀリン [ʔaˈra:ˀriŋ](現れる)。ˀウムークˈトゥˀヌ ˀアルカー ˀムニナ イˈジˀ アˈラーˀシバ [ˈʔumu: kuˈtuˀnu ˀʔaruka: ˀmunina: ʔiˈʤiˀ ʔaˈra:ˀʃiba](思うことがあるならば言葉で言って表しなさいよ)。ˈカンプトゥˀケー ˈフンˀトー シˈガˀタ アˈラーˀソールンティˈダー [ˈkamputuˀke: ˈɸunˀto: ʃiˈgaˀta ʔaˈra:ˀso:runtiˈda:](神仏は本当に姿を顕現＜現される＞されるそうだ)。

アˈラーˀリン [ʔaˈra:ˀriŋ] 【自動】現れる。ˀウブシキンガˈナˀシェー ッˈふクムˀヌ ˀミーラ アˈラーˀリ ˈオーˀレーン [ʔubuʃikiŋgaˈnaˀʃe: fˈfukumuˀnu ˀmi:ra ʔaˈra:ˀri ˈʔo:ˀre:ŋ](お月様は黒雲の中から現れてこられた)。

アˈラーリン [ʔaˈra:riŋ] 【自動】洗われる。洗うことができる。アˈラウン [ʔaˈrauŋ](洗う) の未然形アˈラー [ʔaˈra:] に可能の助動詞ˈ-リン [ˈ-riŋ](～れる) が付いて形成された派生動詞 (可能動詞)。クˈレー バンˀヌン アˈラーリン [kuˈre: banˀnuŋ ʔaˈra:riŋ](これは私にも洗われる)。ˈバンˀマー アˈラーラヌ [ˈbamˀma: ʔaˈra:ranu](私には洗えない)。

アˈラーˀン [ʔaˈra:ˀŋ] 【形】1荒い。風雨が激しく海が荒い。カˈジヌ スーリˀティ ˈナンˀヌ アˈラーˀンダ フネー ˈンザサラˀヌ [kaˈʤinu suːˀriti ˈnanˀnu ʔaˈra:ˀnda ˀɸune: ʔnˈʤasaraˀnu](風が強くなって波が荒いから舟は出されない)。アˈラーˀクトー アˈラーˀンドゥ ˈナンˀゾー アˈラー ナーˀヌ [ʔaˈra:ˀ kṵto: ʔaˈra:ˀndu ˈnanˀʤo: ʔaˈra: na:ˀnu](荒いことは荒いが、あまり荒くない)。ˈシンダイˀ アˈラーˀ ナルン [ˈʃindaiˀ ʔaˈra:ˀ naruŋ](次第に荒くなる)。2言動が乱暴である。ˈワーˀ ムネー アˈラーˀリバ マーンˈベーマˀ ヤーˈラヤーラˀシ ムネー イˈジ [ˈwa:ˀ mune: ʔaˈra:ˀriba ma:mˈbe:maˀ ja:ˈraja:raˀʃi ˀmune: ʔiˈʤi](君の言葉＜物言い＞は荒いから、もう少し柔らかく話しなさい)。3粗い (太い)。クˈヌ ブーˀヤ アˈラーˀヌ シゥˈカーラヌ マーˀビン バカーˈバカーˀシ ˈウーミ [kuˈnu bu:ˀja ʔaˈra:ˀnu sïˈka:ranu ma:ˀbim bakaːˈbakaːˀʃi ˈʔu:ˀmi](この麻糸は粗くて使えない。もっと細かく績みなさい)。

アˈライガマジ [ʔaˈraigamaʤi] 【名】洗い髪。女が髪を洗って解き下げたままの髪。サˈカサンケーˀヤ ˀウガン ˈオーˀル ˀピンマー アˈライガマジˀ シˈティ ユイオーランˀシェン [sḁˈkasaŋke:ˀja ˀʔugaŋ ˈʔo:ˀru ˀpimma: ʔaˈraigamaʤiˀ ʃi̥ˈti juiʔo:raŋˀʃeŋ](司の方々は御嶽＜お願＞へ行かれる時は洗い髪にして、髪を結われなかった)。

アˈライクサイ [ʔaˈraikusai] 【名】洗骨。洗骨の法事。いったん土葬して葬った遺骸を三年以後に掘り出して洗骨し、火葬して骨壺に収め、本墓に納骨すること。ˈシンˀクチ [ˈʃiŋˀkutʃi](洗骨) ともいうが、沖縄方言からの借用語であろう。「あらいこしらえ (洗い拵え)」の義。クˈサイ [kṵˈsai] は、「Coxiraye,uru,eta. コシラエ、ユル、エタ (拵・刷・調へる、ゆる、へた) 整える、または、用意する」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。鳩間島では、昭和 60 年ごろまでは火葬をしなかったので、人が死ぬとˈフインチバカ [ˈɸuintʃibaka](岩を掘り抜いた墓) での風葬や埋葬にするのが一般的であった。そして埋葬後三年以上経つと骨を洗い清めて甕に納める洗骨の法事を執り行った。ˀアッパター ˀアブジター ˈバーˀケー シˈマˀナーティ アˈライクサイヤー ソーˀレーン [ˈʔappata: ˀʔabuʤita: ˈbaːˀke: ʃiˈmaˀna:ti ʔaˈraikusaija: soːˀreːŋ](お祖母さんやお祖父さんたちまでは、島で洗骨を済まされてある)。ˀアッパー アˈライクサイヤーˀ イˈチ ソーッˀタカヤー [ˈʔappa: ʔaˈraikusaijaːˀ ʔiˈtʃi soːtˀtakaja:](お祖母さんの洗骨の法事は何時されたのかねえ)。

アˈライグリˀサン [ʔaˈraiguriˀsaŋ] 【連】洗いづらい。洗いにくい。動詞アˈラウン [ʔaˈrauŋ](洗う) の連用形アˈライ [ʔaˈrai] に、形容詞型助動詞グˈリˀサン [guˈriˀsaŋ](～づらい。～にくい) が付いて形成されたもの。クˈヌ キンˀマー アˈバゴーˀダー シˈティˀ アˈライグリˀサン [kuˈnu kimˀma: ʔaˈbago:ˀda: ʃi̥ˈti ʔaˈraiguriˀsaŋ](この着物は油だらけで洗いにくい)。

アˈライノン [ʔaˈraʔinoŋ] 【名】新しい砂。新鮮な砂。人の足跡のない海岸の砂浜から運び上げた砂。正月の時には庭や門前に砂を敷きつめて祝った。これは子供らの仕事であった。ˈソンガチナーヤ　アˈライノンバˈ　カˈタˈミ　アˈギティˈ　ミˈナˈカナー　シˈキティ　ポーキˈヌ　ˈミー　イˈルタト ダー [ˈsoŋgatʃinaːja ʔaˈraʔinombaˈ kạ̊ˈtaˈmi ʔaˈgitiˈ miˈnaˈkana ʃi̥ˈkiti poːkiˈnu ˈmiː ʔiˈrutaɻdaː](正月には新しい砂を担ぎ揚げて、庭に敷き詰めて箒の目＜箒で掃いて筋目＞を入れたよ)。

アˈライパナ [ʔaˈraipana] 【名】神祈願の際の供物のひとつ。せんまい＜洗米＞。かしよね。あらいよね。「洗い花米」の義。神に供えるために洗い清めた米で、イˈツァンˈパイキー [ʔiˈtsamˈpaikiː](榊) の葉を三枚茶碗の内縁に立て、せんまいを盛って供える。カˈミニンˈガイナー　アˈライパナ　イッˈチー　シˈキオーサンˈカー　ナˈラˈヌ [kaˈminiŋˈgainaː ʔaˈraipana ʔitˈtʃiː ʃi̥ˈkioːsaŋˈkaː naˈraˈnu](神事＜神願い＞には、「洗い米」を一対お供えしないといけない)。ˈドゥーパダニンガイナーン　ˈウンキニンˈガイナーン　アˈライパナーˈ　スˈコーˈルン [ˈduːpadaniŋgainaːŋ ˈʔuŋkiniŋˈgainaːŋ ʔaˈraipanaːˈ sụˈkoːˈruŋ](健康＜胴肌＞祈願にも、運気の祈願にもアライパナ＜洗米＞は供えられる)。

アˈライムヌ [ʔaˈraimunu] 【名】洗濯物。「洗い物」の義。アˈライムノーˈ　ティˈダˈヌ　アルケンナー　プシバ [ʔaˈraimunoːˈ tiˈdaˈnu ʔarukennaː ˈpuʃiba](洗濯物は太陽のあるうちに干せ)。ˈヤーニンズーˈヌ　ˈゴーˈラーンダ　アˈライムヌン　ゴーˈラーン [ˈjaːnidʑuːˈnu ˈgoːˈraːnda ʔaˈraimunuŋ goːˈraːŋ](家族が多いから洗濯物も多い)。

アˈラウン [ʔaˈrauŋ] 【他動】洗う。ˈキン　アˈラウン [ˈkiŋ ʔaˈrauŋ](着物を洗う。洗濯する)。ˈキューˈヤ　アˈラーヌ [ˈkjuːˈja ʔaˈraːnu](今日は洗わない)。ˈウンˈマー　スˈナˈカナー　アˈライˈクー [ˈʔumˈmaː suˈnaˈkanaː ʔaˈraiˈkuː](芋は海で洗ってきなさい)。アˈラウ　ムノーˈ　ヌーヤ [ʔaˈrau munoːˈ nuːja](洗うものは何か)。クナーテー　アラウナ [ˈkunaːteː ʔaˈrauna](ここでは洗うな)。ˈマーˈビン　アˈライヤーˈ　ミサムヌ [ˈmaːˈbiŋ ʔaˈraijaːˈ misamunu](もっと洗えば良いのに)。ˈパーˈク　アˈライ [ˈpaːˈku ʔaˈrai](早く洗え)。ˈキン　アˈラウンティ　スンドゥˈ　ウˈディˈヌ　ˈヤミティ　アˈラーラヌ [ˈkiŋ ʔaˈraunti sunduˈ ʔuˈdiˈnu ˈjamiti ʔaˈraːranu](着物を洗おうとするが、腕が痛く＜病み＞て洗われない)。ˈバー　アˈライˈ　ミサカー　アˈラウˈ　クトー　ˈナルン [ˈbaː ʔaˈraiˈ misakaː ʔaˈrauˈ kụtoː ˈnaruŋ](私が洗ってよければ洗うことは出来る)。ˈドゥーシ　アˈライヤーˈ　ミサムヌ [ˈduːʃi ʔaˈraijaːˈ misamunu](自分で洗えば良いのに)。ˈパーˈク　アˈライˈバ [ˈpaːˈku ʔaˈraiˈba](早く洗えよ)。

アˈラˈカー [ʔaˈraˈkaː] 【固】(地) 新川。中森の西のパˈカヤマ [paˈkajama](墓山) に連続した森の東端部にある地名。アˈラˈカーウガン [ʔaˈraˈkaːʔugaŋ](新川御願) という拝所がある。直径約 1 メートルのヤˈラブ [jaˈrabu](テリハボク) の大木が鬱蒼と生い茂っている。アˈラˈカーヤ　ナˈカンブレーˈヌ　ˈインタカタˈナール　アルˈダー [ʔaˈraˈkaːja naˈkambureːˈnu ˈʔintakatanaːˈru ʔaruˈdaː](新川は中岡の西側にあるのだよ)。

アˈラカー [ʔaˈrakaː] 【固】(地) 石垣市の四箇字中西端にある新川集落。アˈラカーˈナー　ウˈトゥザˈヌ　ˈオーˈルン [ʔaˈrakaːˈnaː ʔuˈtudʑaˈnu ʔoːˈruŋ](字新川には、親戚がおられる)。

アˈラˈカーウガン [ʔaˈraˈkaːʔugaŋ] 【固】鳩間島の水の神を祀る拝所 (御願、お嶽)。ミˈジムトゥ [miˈdʑimutu](水源) といわれている。ウˈブˈマイ [ʔuˈbuˈmai](大前) とパˈカヤマ [pạˈkajama](墓山＜林＞) の境にある。ヤˈラブ [jaˈrabu](テリハボク) の巨木やフˈクン [ɸụˈkuŋ](福木) の大木が鬱蒼と生い茂る中に瓦葺の拝殿がある。拝殿の奥には、ˈウボー [ˈʔuboː](威部。香炉のある聖域) がある。アˈザテーは ˈヨーˈカヤーから養子入って継いだ家である。ˈヨーˈカヤーの屋敷の東庭は大変セジ高い所で、ビˈチˈル [biˈtʃiˈru](神霊の高い霊石の庭) がある。昔は、ˈウイヌˈウガン (友利御嶽) で祈願があった後、サカサ (司。神女) やティˈジリˈビー (男性神職者) たちが、ˈカンヌˈミチ [ˈkannuˈmitʃi](神の道) を通ってˈヨーˈカヤーの東庭のビˈチˈルに集まり、ˈカンアサˈビ [ˈkaŋʔasaˈbi](神遊び) をして、アˈマイヨーッˈタ [ʔaˈmaijoːtˈta](歓え誇られた) と伝えられている。現在の東里家は西村のトゥˈニムトゥ [tuˈnimutu](根家。根元) で、豊年祭のカˈシˈラ＜旗頭。雌＞を保管する家である。東里家から分与されたと伝えられるカシラ＜旗頭＞を東村のカシラ＜旗頭。雄＞として、東村のトゥˈニムトゥ (根家。友利家) に保管されている。新川御願の最後のティˈジリˈビー [tˈidʑiriˈbiː](手摩り部。男性神職者) は東里清光氏であった。/ウフイラカ　カミガナシ　アミブシャヌ/カミイラカ　タケバル　アミブシャヌ/ミジムトゥヌ

マブルシュー　アミブシャヌ/ウブガーラヌ　シキフチ　アミブシャヌ/ウムルミジ　タラショーリ　アミブシャヌ/フダルミジバ　タボラリヨー　アミブシャヌ/(アˈマンˀグイ＜雨乞い歌＞) と歌われている。サˈカサ [saˈkasa](司。神女) は米盛クヤ氏 (1960 年代)、ティˈジリˀビ [tiˈʤiriˀbi](てずりべ。男の神人) は東里清光氏が勤めておられた (平成 10 年頃)。伝承によると、ムˈカˀシナー　ˈペーレーヌˀ　シˈジキティˀ　スˈクリˀムヌン　サˈリティˀ　トゥˈラランˀシェンドゥ　ˈヨーˀカヤートゥ　アˈザテーヌ　ターパタˀキナー　カーˈニˀ　アˈミˀヌ　フイˈキーˀル　パˈトゥˀマー　ガˈシˀ　ナˈランˀシェンツォー　ˀアイ　ヤˈレーˀキ　ˈウンˀネヌ　ウˈガンバˀ　ブˈラクヌˀ　プˈスンˀ　ウˈガˀモーリ　ˈウンˀネナー　ˈアッˀタ　カˈシˀラン　ˀバキティ　ˈアンヌムラヌˀ　トゥˈムレーˀ　ムˈタˀソーッタˀツォー [muˈkaˀʃina: ˈpe:re:nuˀ ʃiˈʤikitiˀ su̥ˈkuriˀmunun tuˈraraŋˀʃendu ˈjo:ˀkaja:tu ʔaˈʤatenu ta:pataˀkina ka:ˈniˀ ʔaˈmiˀnu ɸuiˈki:ˀru pḁˈtuˀma: gaˈʃiˀ naˈraŋˀʃentso: ˀʔai jaˈre:ˀki ˈʔunˀnenu ʔuˈgamˀba buˈrakunuˀ pu̥ˈsuŋˀ ʔuˈgaˀmo:ri ˈʔunˀnena ˈʔatˀta kḁˈʃiˀram ˀbakiti ˈʔannu-muranuˀ tuˈmure:mˀ muˈtaˀso:ttatso:](昔に旱魃が続いて作物も枯れて収穫出来なかったが、西原家と東里家の田畑にだけ雨が降ったので、鳩間島は餓死しなかったそうだ。それで、その家の御嶽を村の人も拝まれ、その家にあった旗頭も分けて東村の友利家に分与され＜持たされ＞たそうだ)(鳩間真吉氏談)。

アˈラキグリˀサン [ʔaˈrakiguriˀsaŋ] 【連】歩きにくい。歩きづらい。クˈヌˀ　ミチェー　アˈラキグリˀサン [kuˈnuˀ mitʃe: ʔaˈrakiguriˀsaŋ](この道は歩きにくい)。

アˈラキザˀル [ʔaˈrakiʤaˀru] 【名】死後にあたる季節の最初の先祖供養行事。旧暦 1 月 16 日のジˈルˀクニチ [ʤiˈruˀkunitʃi](十六日祭)、旧暦月の 7 月のˈソーˀラン [ˈso:ˀraŋ](お盆＜精霊祭り＞) など。ˈウンˀネヌ　ˀアッパー　ˈクンドゥˀヌ　ˈソーランˀドゥ　アˈラキザˀル　アˈタローˀルˈナー [ˈʔunˀnenu ˀʔappa: ˈkunduˀnu ˈso:ranˀdu ʔaˈrakiʤaˀru ʔaˈtaro:ˀruˈna:](その家のお祖母さんは今年のお盆が最初の先祖供養の行事に当っておられるねえ)。

アˈラˀキジ [ʔaˈraˀkiʤi] 【名】荒削り。材木などを山で荒削りして牛などに引かせて山出しをした。ヤˈマˀバコー　ˈスーˀカー　ˀウナー　アˈラˀキゼー　ˈシーティルˀ　パˈマーˀ　ンˈザˀシ　パˈトゥˀマー　トゥˈゴーッˀタ [jaˈmaˀbako: ˈsu:ˀka: ˀʔuna: ʔaˈraˀkiʤe: ˈʃi:tiruˀ paˈma:ˀ ʔnˈʤaˀʃi paˈtuˀma: tuˈgo:tˀta](山での共同作業をすると、そこで材木の荒削りをして＜ぞ＞浜へだし、鳩間島へ持ってこられた)。

アˈラˀキ　ˈシェーˀン [ʔaˈraˀki ˈʃe:ˀŋ] 【連】歩くことができる。「歩き・し得る」の義。「歩ききれる」の転訛したもの。「歩き・切れる」に対応する形。アˈラˀキ　ˈサヌ [ʔaˈraˀki ˈsanu](歩けない)。アˈラˀキ　ˈシェーˀカーˈツォー [ʔaˈraˀki ˈʃe:ˀka:ˈtso:](歩けたらなあ)。アˈラˀキ　ˈシェーˀ　プˈソーˀ　ブˈラーヌ [ʔaˈraˀki ˈʃe:ˀ pu̥ˈso:ˀ buˈra:nu](歩ける人はいない)。

アˈラキスーˀブ [ʔaˈrakisu:ˀbu] 【名】歩き勝負。歩き競争。ˈバンˀトゥ　アˈラキスーˀブ　ˈスーˀ　プˈソーˀ　ブˈラーンˀカヤー [ˈbanˀtu ʔaˈrakisu:ˀbu ˈsu:ˀ pu̥ˈso:ˀ buˈra:ŋˀkaja:](私と歩き勝負をする人はいないかねえ)。

アˈラキˀナライ [ʔaˈrakiˀnarai] 【名】伝い歩き。幼児が歩き出すこと。歩き習うこと。病後の歩行訓練をすること。ヤˈラˀベー　ˈトゥーシケーラˀ　アˈラキˀナライ　ˈシース [jaˈraˀbe: ˈtu:ʃi̥ke:raˀ ʔaˈrakiˀnari ˈʃi:su](子供は十ヶ月から歩き始める＜伝い歩きする＞)。

アˈラキニーˀバン [ʔaˈrakini:ˀbaŋ] 【連】足が遅い。「歩き遅い」の義。アˈシフコーˀン [ʔaˈʃiɸu̥ko:ˀŋ](足が遅い) ともいう。ˀヌーンティ　ˀアイニ　アˈラキニーˀバワ　マーンˈベーマˀ　パˈヤーˀ　アˈラˀキバ [ˀnu:nti ˀʔaini ʔaˈrakini:ˀbawa ma:mˈbe:maˀ paˈja:ˀ ʔaˈraˀkiba](どうしてそんなに足が遅いのか、もう少し早く歩きなさいよ)。

アˈラキパジˀミ [ʔaˈrakipaʤiˀmi] 【名】歩き始め。ヤˈラˀベー　アˈラキパジˀミ　ˈシェーˀチバ　ユˈドゥマˀナー　ˈタンガˀシン　アˈラˀクンヨー [jaˈraˀbe: ʔaˈrakipaʤiˀmi ˈʃe:ˀʧiba juˈdumaˀna: ˈtaŋgaˀʃiŋ ʔaˈraˀkuŋjo:](子供は伝い歩き＜歩き始め＞をしたから、間もなく一人でも歩くよ)。

アˈラキˀミチ [ʔaˈrakiˀmitʃi] 【名】通路。道路。「歩き道」の義。ˀマンタヌ　アˈラキˀミチェーラ　ウˈシン　サンガシ　パッˀタ [ˀmantanu ʔaˈrakiˀmitʃe:re ʔuˈʃin saŋgaʃipatˀta](前の道路から牛に引かせて＜引張らせて＞行った)。

アˈラキン [ʔaˈrakiŋ] 【名】新しい着物。「新衣」の義。ˀソンガチヌ　アˈラキンバ　サースンティ　オーˀル [ˀsoŋgatʃinu ʔaˈrakimba sa:sunti ʔo:ˀru](正月

の新しい着物を仕立てようとしておられる)。ˈソンガチナー　アˈラキン　カイˈ　ッˈふォーˈルンツォー [ˈsoŋgatʃina: ʔaˈrakiŋ kaiˈ fˈfoːˈruntsoː](正月には新しい着物を買ってくださるそうだ)。

アˈラクー [ʔaˈrakuː] 【名】粗い粉。「粗粉」の義。米を一晩水に浸けたものを搗き臼に入れて杵で搗いて粉にした。餅を作る際にˈソーˈキ [ˈsoːˈki](箕) に広げ　くっつかぬように塗 (まぶ) して使用した。ˈマイバˈ　ミˈジˈナー　シˈキティˈ　ウシナー　イˈリティˈ　アˈラクーˈ　バˈリˈバ [ˈmaibaˈ miˈʤiˈnaː ʃi̥ˈkitiˈ ʔuʃina: ʔiˈritiˈ ʔaˈrakuːˈ baˈriˈba](米を水に浸けて臼に入れて粗粉を搗き < 割り > なさい)。

アˈラグスˈク [ʔaˈragusu̥ˈku] 【名】 (固有)。新城島。老年層は、ˈパナリ [paˈnaˈri](新城島) という。アˈラグスˈク　プソー　ムˈカˈシェー　ˈザンˈバ　トゥˈリˈル　ˈゾーˈノー　ンˈザˈソオーッタツォー [ʔaˈragusu̥ˈkupu̥so: muˈkaˈʃe: ˈʤamˈba tuˈriˈru ˈʤoːˈno: ʔnˈʤaˈsoːttatsoː](新城島の人は、昔はジュゴン < 儒艮 > を獲って王府へ上納に出された < 貢納 > されたそうだ)。

アˈラグスクˈテー [ʔaˈragusu̥kuˈteː] 【名】屋号。新城ミダ氏宅。アˈラグスクˈテーヤ　ˈショーザンマルˈヌ　ˈシーゾーヤーˈヌ　ˈシンタナール　ˈアッˈタ [ʔaˈragusukuˈteːja ˈʃoːʤammaruˈnu ˈʃiːʤoːjaːˈnu ˈʃintanaːru ˈʔatˈta](新城家は正山丸のカツオ節製造工場の後ろに < ぞ > あった)。

アˈラクナシ [ʔaˈrakunaʃi] 【名】芋などを煮て簡単に捏ねること。ˈ荒ごなし」、「粗捏」の義。ˈマイトゥ　ウンˈトゥ　マˈザーˈシ　バˈカシティˈ　アˈラクナシ　シティˈ　ンˈザˈシバ [ˈmaitu ʔunˈtu maˈʤaːˈʃi baˈkaʃitiˈ ʔaˈrakunaʃi ʃitiˈ ʔnˈʤaˈʃiba](米と芋を混ぜて煮て、簡単に捏ねて出しなさいよ)。

アˈラˈクン [ʔaˈraˈkuŋ] 【自動】歩く。ヤˈラˈベー　ˈタンカーˈ　クーカー　アˈラˈクン [jaˈraˈbeː ˈtaŋkaːˈ kuːka: ʔaˈraˈkuŋ](子供は誕生日がきたら歩くよ)。ミˈチˈヌ　ˈマンナカーˈラ　アˈラカンˈドーシ　スˈバーˈナリ　アˈラˈキ [miˈʧiˈnu ˈmannakaːˈra ʔaˈrakanˈdoːʃi suˈbaːˈnari ʔaˈraˈki](道の真ん中を歩かないで側になって歩きなさい)。アˈマˈヌ　サˈニˈヤティブˈダッカレーˈティ　アˈラˈキ　ˈパッˈタ [ʔaˈmaˈnu saˈniˈjati buˈdakkareːˈti ʔaˈraˈki ˈpatˈta](あまりの嬉しさで飛び跳ねながら歩いて行った)。アˈラˈクˈクトー　ナˈリˈスンダ　ˈパーˈク　アˈラˈケー　ˈミサムヌ [ʔaˈraˈku ˈku̥to: naˈriˈsunda ˈpaːˈku ʔaˈraˈkeːˈmisamunu](歩くことは出来るのだから、早く歩けばいいのに)。

アˈラザラˈン [ʔaˈraʤaraˈŋ] 【連体】あるべくもない。でたらめな。とんでもない。アˈラザランˈ　クˈトゥˈバ　ˈヌーˈヤクイヤ　イˈジッツァーシ　ムンˈドー　ウˈクˈシ　ヌーヤ　ウˈレー [ʔaˈraʤaraˈŋ kuˈtuˈba ˈnuːˈjakuija ʔiˈʤittsaːʃi munˈdoː ʔuˈkuˈʃi nuːja ʔuˈreː](あるべくもない < ありもしない > ことを、あれこれと言いふらして喧嘩を起こして < 問答を起こして > 何たることだ、これは)。

アˈラシ [ʔaˈraʃi] 【名】新しく開墾した土地。掘り起こした大きな土塊が転がる開墾地。「畄、アラキハリ」『類聚名義抄』、「荒城田乃 < アラキタノ >〜。万、3848」の転訛したものか。「新仕明け地」の義。アˈラシ　カイˈスンティ　ˈベーˈヌンドゥ　ˈタンガˈシェー　ˈキーˈヌ　ˈニー　ˈコーサラヌ [ʔaˈraʃi kaiˈsunti ˈbeːˈnundu ˈtaŋgaˈʃe: ˈkiːˈnu ˈniː ˈkoːsaranu](開墾地を耕そうとしているが一人では木の根っこを抜き取ることは出来ない)。アˈラシーˈ　アˈクン [ʔaˈraʃiːˈ ʔaˈkuŋ](開墾して田畑を新た切り開く < 新田、新畑を開ける >)。

アˈラシアキ [ʔaˈraʃiʔaki] 【名】新しく開墾すること。「新仕開け地」の義か。パˈタキˈヌ　タˈラーンベーˈティ　アˈラシアキ　サンˈカー　ˈサンナンˈヌ　バˈキˈダマー　ˈナーˈヌ [paˈtakiˈnu taˈraːmbeːˈti ʔaˈraʃiʔaki saŋˈkaː ˈsannanˈnu baˈkiˈdamaː ˈnaːˈnu](畑が足りないので新しく開墾しないと三男の財産配分はない)。

アˈラシゅカイ [ʔaˈrasïkai] 【名】乱暴な使い方。「荒使い」の義。無鉄砲につかうこと。ˈジンˈマーアˈリˈバティ　ˈシーˈ　アイニ　アˈラシゅカイˈスˈナˈヨー [ˈʤimˈmaː ʔaˈriˈbati ˈʃiːˈ ʔaini ʔaˈrasï̥kaiˈ suˈnaˈjoː](お金はあるからといって、あんなに荒く使うなよ < 荒使いするなよ >)。シˈトゥムˈテーラ　ユネンˈバーˈキ　ˈユーコーˈシン　サˈムティˈ　プˈスバˈ　アˈラシゅカイˈ　スˈナˈ。ウˈラマˈリンˈダー [ʃi̥ˈtumuˈteːra junemˈbaːˈki ˈjuːkoːˈʃin saˈmutiˈ pu̥ˈsubaˈ ʔaˈrasï̥kaiˈ suˈnaˈ ʔuˈramaˈrinˈdaː](朝から晩まで休息 < 憩い > もさせないで人を乱暴に使う < 荒使いする > な。他人恨まれるぞ)。

アˈラシゅカˈシ [ʔaˈrasi̥kaˈʃi] 【名】鋤を牛に曳かせて最初に田畑を鋤くこと。ˈ粗鋤き」の義か。ˈターˈヤ　アˈラシゅカˈシ　シˈティルˈ　マˈトーナーヤ　キーˈパイシ　ˈカイˈソーッタル [ˈtaːja ʔaˈrasi̥kaˈʃi ˈʃiːtiruˈ maˈtoːnaːja kiːˈpaiʃi ˈkaiˈsoːttaru](田圃は鋤きで粗鋤きしてから、二度打ちは木鍬で耕された

ものだよ)。

アˈラシ　カイˀスン [ʔaˈraʃi kaiˀsuŋ]【連】開墾地を耕す。ナˈチヌˀ　ティダサーリ　アˈラシ　カイˀスンティ　ˈシーッˀパイ　ˈシーベー [naˈʧinuˀ tidasaːri ʔaˈraʃi kaiˀsunti ˈʃiːpˀpai ˈʃiːbeː](夏の炎天下で＜夏の太陽のもと＞開墾地を耕そうと精一杯頑張っている＜している＞)。

アˈラシグトゥ [ʔaˈraʃigutu]【名】荒仕事。きつい肉体労働。ヤˈマシグˀトー　アˈラシグトゥˀ　ヤˈルンダˀ　ユー　ˈキーˀ　シケーティ　ˈサンˀカー　ˀドゥー　ヤˈマˀスンˈダー [jaˈmaʃiguˀto: ʔaˈraʃigutuˀ jaˈrundaˀ juː ˈkiːˀ ʃi̥keːti ˈsaŋˀkaː ˀduː jaˈmaˀsunˈdaː](山仕事は荒仕事だから、よく気をつけてしないと体を損ねるよ)。バˈカーˀタケンマー　アˈラシグトゥンˀ　ナˈリˀシタンドゥ　ˀトゥシ　ˈトゥッˀター　ˀアイブ　シˈグトーˀ　ドゥーヨーリ　ˈシース [baˈkaːˀtakemmaː ʔaˈraʃigutunˀ naˈriˀʃi̥tandu ˀtu̥ʃi ˈtutˀtaː ˀʔaibu ʃiˈgutoːˀ duːjori ˈʃiːsu](若かった頃は荒仕事も出来たが年を取ったのであんな仕事は体を損ねる＜胴弱りする＞)。

アˈラシコーシ [ʔaˈraʃikoːʃi]【名】蒸し餅菓子。「あがらし＜蒸し＞菓子」の転訛したもの。糯米と粳米を半々に混ぜ、五分搗きにして洗い、暫く水に浸ける。水切りをして半乾きになったところを臼に入れ、搗いて米粉にする。これをˈクーˀバリ [ˈkuːˀbari](製粉。「粉割」の義) という。それに黒糖を削って混ぜ、よく揉んでアˈラシパク [ʔaˈraʃipaku](蒸し箱。蒸し器) に入れて、カステラのように蒸し上げて作った菓子。四角い食パンの大きさに切って食した。米寿の祝いや三十三年忌の法事の際にもつくられた。アˈラシコーシェー　トーカキˀヌ　ˀヨイラー　ˀサンジューˈサンニンキˀヌ　ˈソッˀコーン　ドーˈレーˀナー　ˈアーラソーッˀタン [ʔaˈraʃikoːʃeː toːkakiˀnu ˀjoira ˀsandʑuːˈsanniŋkiˀnu ˈsokˀkoːn doreːnaː ˈʔaːrasoːtˀtaŋ](蒸し餅菓子は米寿の祝いから三十三年忌の法事などの際に蒸し上げて作られた)。二十五年忌以後の法事には、この菓子を供えるものとされていた。ˈアーラシコーシ [ˈʔaːraʃikoːʃi] ともいう。

アˈラˀスーン [ʔaˈraˀsuːŋ]【自動】争う。相手を押しのけて勝とうとする。ˈキョーダイˀサザーン　ˀナリ　ˀザイサンヌクトゥシ　アˈラˀスーン [ˈkjoːdaiˀ saʤaːn ˀnari ˀʤaisannu ˀku̥tuʃi ʔaˈraˀsuːŋ](兄弟同士で財産のことで争う)。アˈラソーˀヌ [ʔaˈrasoːˀnu](争わない)。アˈラˀスイ　ˀミサカー　アˈラˀスー　ˀクトゥン　ˈスン [ʔaˈraˀsui ˀmisakaː ʔaˈraˀsuː ˀku̥tun ˈsuŋ](争って良ければ争うこともする)。アˈラスイˀヤー　ˀミサムヌ [ʔaˈrasuiˀjaː ˀmisamunu](争えば良いのに)。アˈラˀスイバ [ʔaˈraˀsuiba](争えよ)。

アˈラˀスイ [ʔaˈraˀsui]【名】争い。競争。喧嘩。ˈウンˀネナー　ザイサンヌ　ˈユンˀシ　アˈラスイˀヌ　ウˈクˀリティ　ナˈクラーˀン [ˈʔunˀnenaː ʤaisannu ˈjuŋˀʃi ʔaˈrasuiˀnu ʔuˈkuˀriti naˈkuraːˀŋ](その家には財産の件で争いごとがおきて怖い)。ˀザイサンヌ　ˀクトゥシ　ウˈトゥˀザザーン　ˀナリ　アˈラˀスイ　ウˈクサンˀヨーニ　ˈシーˀダー [ˀʤaisannu ˀku̥tuʃi ʔuˈtuˀʤaʤaːnnari ʔaˈraˀsui ʔuˈkusaŋˀjoːni ˈʃiːˀdaː](財産のことで親戚同士で争いを起こさないようにしなさいよ)。ˈイーˀネ　ˈアーˀネ　トゥˈナルザーンˀナリ　ˈベーˀティ　アˈラスイˀヌ　ˈナーンˀ　ピンマー　ˈナーˀヌ [ˈʔiːˀne ˈʔaːˀne tuˈnaruʤaːnˀnari ˈbeːˀti ʔaˈrasuiˀnu ˈnaːmˀ pimmaː ˈnaːˀnu](西の家、東の家と隣近所同士でありながら喧嘩のない日とては無い)。

アˈラスイ [ʔaˈrasui]【名】風が荒く激しく吹くこと。風が吹き荒れること。カˈジヌˀ　アˈラスイ　シーティルˀ　フネー　ˀウケー　ンˈザサランˀサー [kaˈʤinuˀ ʔaˈrasui ʃiːtiruˀ ɸuneː ˀʔukeː ʔnˈʤasaranˀsaː](風が吹き荒れて舟は沖へ出されないよ)。「荒そよぎ」の義。ウˈヌスクˀナー　カˈジヌˀ　アˈラスイ　スーˀカー　ˀガヤヤーヤ　ムˈタˀヌ [ʔuˈnusukuˀna: kaˈʤinuˀ ʔaˈrasui suːˀkaː ˀgajajaːja muˈtaˀnu](あれほどに風が強く吹くと茅葺の家は耐えられない)。

アˈラスイˀグトゥ [ʔaˈrasuiˀgutu]【名】争いごと。喧嘩。ˈプールˀヌ　ˈパーレーˀヌ　ˀアトゥナー　ˀヌンティ　ヤˈルˀユー　ˈチャー　インタアンタヌˀ　アˈラスイグトゥˀヌ　ウˈクルˀタン [ˈpuːruˀnu ˈpaːreːˀnu ˀʔatunaː ˀnunti jaˈruˀjuː ˈʧaː ʔintaʔantanuˀ ʔaˈrasuigutuˀnu ʔuˈkuruˀtaŋ](豊年祭の爬竜船漕ぎの後には、如何なるわけか、いつも西村、東村の争いごとが起こったものだよ)。

アˈラスクリ [ʔaˈrasu̥kuri]【名】1粗作り。粗削りのさま。粗削りで頑健なさま。クˈヌˀ　プˈスヌ　ドゥースクリヨーˀヤ　アˈラスクリサリティˀ　イˈカムスˀク　ˈガンˀゾーン　ギサワˈツォー [kuˈnu pusunu duːsukurijoːˀja ʔaˈrasukurisaritiˀ ʔiˈkamusuˀku ˈganˀʤoːŋ gisawaˈtsoː](この人の体格＜体作り様＞は粗削りされていて、なんと頑健そうなことよ)2粗雑な作り方。粗末な作り方。クˈヌ　バーˀケー　アˈラ

スクリ　サリティ　ダーッˈサー　ˈナーˈヌ。マーˈンベーマˈ　クˈメーキˈ　スˈクˈレー　ˈミサムヌ [kuˈnu baːˈkeː ʔaˈrasukuri sariti daːsˈsaː ˈnaːˈnu。maːˈmbeːmaˈ kuˈmeːkiˈ sɥˈkuˈreː ˈmisamunu](この竹笊は粗雑な作り方で良くない＜本来の笊らしくない＞。もう少し細やかに、入念に作ればよいものを)。

アˈラスン [ʔaˈrasuŋ] 【他動】荒らす。カˈマイˈヌ　カˈキˈ　ヤˈブˈリ　ˈペーˈリ　ˈキーˈル　ˈター　アˈラシˈ　シケーバン [kaˈmaiˈnu kạˈkiˈ jaˈbuˈri ˈpeːˈri ˈkiːˈru ˈtaː ʔaˈraʃiˈʃi̥keːbaŋ](猪が防護の垣を破って入ってきて田を荒らしてある)。

アˈラˈスン [ʔaˈraˈsuŋ] 【他動】有るようにする。作る。貯蓄する。儲ける。入手する。産む。ˈマイフナーユン　ワー　オーパˈヤー　ˈヤーˈキナイティン　アˈラサˈリ　トゥˈクットゥˈ　ナˈリˈス　メー [ˈmaiɸunaːjuŋ waː ʔoːpaˈjaː ˈjaːˈkinaitiŋ ʔaˈrasaˈri tụˈkuttu nariˈsu ˈmeː](本当に利口者＜働き者＞だよ君は。こんなに早く家を新築し、家庭をもつことが出来て。もう、ゆっくりできるよ)。ˈシーッˈパイ　パˈタラクˈカー　ˈナンククˈル　ˈジンˈカニン　アˈラサˈリン [ˈʃiːpˈpai paˈtarakuˈkaː ˈnaŋkukuˈru ˈʤiŋ ˈkaniŋ ʔaˈrasaˈriŋjoː](精一杯働くと自然にお金は儲かる＜あるようにされる＞よ)。ˈジンˈカニン　アˈラˈシティル　シˈマーˈヤ　パˈラˈリ [ˈʤiŋˈkaniŋ ʔaˈraˈʃi̥tiru ʃiˈmaːˈja paˈraˈri](お金を儲けてから島には帰ら＜行か＞れる)。ˈジンˈカニ　アˈラサˈリ　ˈシチン　ˈアンカヤー [ˈʤiŋˈkani ʔaˈrasaˈri ˈʃi̥tʃiŋ ˈʔaŋkajaː](お金を儲けて蓄えることのできる時節がある＜来る＞ものかねえ)。

アˈラソーリ [ʔaˈrasoːri] 【名】最初の畑の草取り。おおまかな畑の草取り。「粗・さくり＜渫＞」の転訛したものか。パˈタキˈヌ　ˈッサー　アˈラソーリ　シーˈシケーバ　ˈアトーラ　クˈマークマーˈシ　ˈソーリˈバ [paˈtakiˈnu ˈssaː ʔaˈrasoːˈri ˈʃiːˈ ʃi̥keːba ˈʔatoːra kuˈmaːkumaːˈʃi ˈsoːriˈba](畑の草はおおまかに除草してあるから、後から細かく＜入念に＞除草しなさい)。

アˈラダˈティ [ʔaˈradaˈti] 【名】新所帯。新世帯。独立。分家して新しく所帯をかまえること。ヤˈラˈビンケーン　アˈラダˈティ　シˈミルンティˈ　キˈナイヌ　ドングペンˈグ　シゥˈコールンティ　ベー [jaˈraˈbiŋkeŋ ʔaˈradaˈti ʃiˈmirountiˈ kiˈnainu doŋgupeŋˈgu sụˈkoːrunti beː](子供たちに独立させよう＜新所帯を持たせよう＞と所帯道具類＜家庭道具類＞を準備しようとしているところだ)。

アˈラダティˈルン [ʔaˈradatiˈruŋ] 【他動】荒立てる。もつれ(縺れ)させて問題化する。面倒にする。ウˈヌˈ　クトー　ˈドゥク　アˈラダティランˈドーシ　ˈユー　パˈナシアーˈシェーティ　ˈクトー　ウˈサミˈリ [ʔuˈnuˈ kụtoː ˈduku ʔaˈradatiranˈdoːʃi ˈjuː paˈnaʃiʔaːˈʃeːti ˈkụtoː ʔuˈsamiˈri](そのことはあまり荒立てないで、よく話し合って事を収拾しなさい＜収めなさい＞)。ˈバーヤ　アˈラダティラˈヌ [ˈbaːja ʔaˈradatiraˈnu](私は荒立てない)。アˈラダˈティ　ˈミサカー　アˈラダティˈル　ˈクトゥン　ˈナルン [ʔaˈradaˈti ˈmisakaː ʔaˈradatiˈru ˈkụtun ˈnaruŋ](荒立てて良ければ荒立てることも出来る)。アˈラダティˈレー　ˈミサムヌ [ʔaˈradatiˈreː ˈmisamunu](荒立てれば良いのに)。アˈラダティˈリ [ʔaˈradatiˈri](荒立てろ)。

アˈラダˈトゥン [ʔaˈradaˈtuŋ] 【他動】荒立てる。「あらだつ(下二段)」の四段活用化したもの。ˈアイブ　ˈクトゥ　ˈバーˈキ　ˈシェーˈティ　クˈトゥˈバ　アˈラダˈティティ　ˈヌーˈスワ　アˈラダトゥˈナ [ˈʔaibu kụtuˈbaːˈki ˈʃeːˈti kụˈtuˈba ʔaˈradaˈtiti ˈnuːˈsuwa ʔaˈradatuˈna](あんな事までしてことを荒立ててどうするのか。荒立てるなよ)。

アˈラˈタビ [ʔaˈraˈtabi] 【名】新しい旅。初旅。ˈウイˈタビ [ˈʔuiˈtabi](初旅)、パˈチタビ [pạˈʧitabi](初旅)ともいう。ˈマーッふァヌ　ヤˈマˈトーヌ　アˈラˈタビ　シˈミルˈ　スˈコール　シーベー [ˈmaːffanu jaˈmaˈtoːnu ʔaˈraˈtabi ʃiˈmiruˈ sụˈkoːru ʃiːbeː](孫の本土＜大和＞への初旅の準備をしている)。

アˈラタマˈル　ˈトゥシ [ʔaˈratamaˈru ˈtuʃi] 【連】新年。「改まる年」の義。ˈクー　トゥシ [ˈkuː tuʃi](来る年)、ンˈカイルˈ　トゥシ [ŋˈkairuˈ tuʃi](迎える年)ともいう。アˈラタマˈル　ˈトゥシェー　ユˈガフドゥシˈ　アˈラˈシミ　タˈボーˈリ [ʔaˈratamaˈru ˈtuʃeː juˈgaɸuduʃiˈ ʔaˈraˈʃimi taˈboːˈri](新年は豊年満作の年に＜あらしめ賜れ＞してください)。

アˈラタマˈルン [ʔaˈratamaˈruŋ] 【自動】改まる。新しくなる。マˈナˈマーラ　ˈアトー　キˈムククˈルーン　アˈラタマˈリ　ˈマイフナーˈ　マˈリキーˈス　ˈパジェー　アˈランˈカヤー [maˈnaˈmaːra ˈʔatoː kiˈmukukuˈruːŋ ʔaˈratamaˈri ˈmaiɸunaːˈ maˈrikiːˈsu ˈpaʤeː ʔaˈraŋˈkajaː](今から後は心も改まって利口者、働き者になってくれるでしょう＜くれるはずではないかなあ＞)。アˈラタマラˈヌ [ʔaˈratama-ranu](改まらない)。アˈラタマリ　ヤッˈサン [ʔaˈratamari jasˈsaŋ](改まりやすい)。アˈラタマˈル

˺クトー　˞ナー˺ヌ [ʔa˞ratama˺ru ˺kʉto: ˞na:˺nu](改まることはない)。ア˞ラタマ˺レー　˺ミサムヌ [ʔa˞ratama˺re: ˺misamunu](改まれば良いのに)。

ア˞ラタミ˺ルン [ʔa˞ratami˺ruŋ] 【他動】改める。改善する。直す。ク˞レー　ワー˺　ヤ˞ナフシ˺　ヤ˞ルンダ˺　ア˞ラタミ˺リ˞ヨー [ku˞re: wa:˺ ja˞naɸuʃi˺ ja˞runda˺ ʔa˞ratami˺ri˞jo:](これは君の悪い癖だから改めなさいよ)。˞ワーンドゥ˺　ア˞ラタミ˺ルカー　˞バン˺ヌン　ア˞ラタミ˺ルン [˞wa:ndu˺ ʔa˞ratami˺ruka: ˞ban˺nuŋ ʔa˞ratami˺ruŋ](君が改めるなら私も改める)。˺ドゥーシ　ア˞ラタミ˺ル　ク˞トゥ˺ヌ　˺ナルカー　ア˞ラタミ˺レー　˺ミサムヌ [˺du:ʃi ʔa˞ratami˺ru kʉ˞tu˺nu ˺naruka: ʔa˞ratami˺re: ˺misamunu](自分で改めることが出来たら、改めればいいのに)。˞パー˺ク　ア˞ラタミ˺リ [˞pa:˺ku ʔa˞ratami˺ri](早く改めろ)。

ア˞ラ˺タムン [ʔa˞ra˺tamuŋ] 【他動】改める。「改む」の義。「あらたむ (下二段)」の四段活用化したもの。ア˞ラ˺タミ　˺ミサカー　ア˞ラ˺タムン [ʔa˞ratami˺ misaka: ʔa˞ra˺tamuŋ](改めて良ければ改める)。ア˞ラタマン˺タンティン　˺ミサン [ʔa˞rataman˺tantim ˺misaŋ](改めなくても良い)。ム˞カ˺シェーラ　˞シー˺ケー　˞トゥー˺ル　˞シー˺バ。ア˞ラタム˺ナ [mu˞ka ˺ʃe:ra ˞ʃi:˺ke: ˞tu:˺ru ˞ʃi:˺ba。ʔa˞ratamu˺na](昔からしてきた通りにしなさい。改めるな)。ン˞メーマー˺　ア˞ラ˺タメー　˺ミサムヌ [ʔm˞me:ma:˺ ʔa˞ra˺tame: ˺misamunu](少しは改めれば良いのに)。˞パー˺ク　ア˞ラ˺タミバ [˞pa:˺ku ʔa˞ra˺tamiba](早く改めよ)。

ア˞ラッサーク [ʔa˞rassa:ku] 【名】厳しい仕事。荒業。体力の要る力仕事。ヤ˞マシグ˺トー　ア˞ラッサーク˺　ヤ˞ルンダ　キー˺　シ˞キ˺リ˞ヨー [ja˞maʃigu˺to: ʔa˞rassa:ku˺ ja˞runda ki:˺ ʃi˞ki˺ri˞jo:](山仕事は荒業だから気をつけなさいよ)。

ア˞ラッパー [ʔa˞rappa:] 【名】行動の荒っぽい人。˞アーラッパー [˞ʔa:rappa:](行動の荒っぽい人) ともいう。ビ˞コーンッふァー˺　フ˞ドゥビクー˺タ　ア˞ラッパー˺ナリティ　˞ヨー˺ゾー　ナ˞ラ˺ヌ [bi˞ko:nffa:˺ fu˞dubiku:˺ta: ʔa˞rappa:˺ nariti ˞jo:˺ʤo: na˞ra˺nu](男の子は成長してきたので荒っぽくなって手がつけられない < 養生できない >)。

ア˞ラッパームニ [ʔa˞rappa:muni] 【名】荒っぽい言葉。荒々しい言葉遣い。暴言ではないが、聞いていてなんとなく喧嘩しているように思えるような口調の言葉。ウ˞リヌ˺　ムネー　ア˞ラッパームニ˺　ナリティ　ナ˞クラー˺ヌ　シゥ˞カラヌ [ʔu˞rinu˺ mune: ʔa˞rappa:muni˺ nariti na˞kura:˺nu sʉ˞karanu](あれの言葉は荒っぽい言葉になっていて怖くて聞けない)。

ア˞ラ˺テイー [ʔa˞ra˺ti:] 【名】1新しい手法。新しい方法。ク˞ヌ　ヌーヌヌ˺　アヤー　ア˞ラ˺ティーシル　ウ˞レー˺ヌンドゥ　˞ゾー˺ブンニ　ウ˞ラリブーバン [ku˞nu nu:nunu˺ ʔaja: ʔa˞ra˺ti:ʃiru ʔu˞re:˺nundu ˞ʤo:˺bunni ʔu˞raribu:baŋ](この布の模様 < 柄 > は新しい手法で織ったのだが、立派に < 上分に > 織られているわい)。2初めての作品。˺バー　ス˞ク˺レール　˞サンシンヌ˺　ア˞ラティー˺ヤ　ノ˞ボール˺　ムティ˞ベー [˺ba: su˞ku˺re:ru ˞saŋʃinnu˺ ʔa˞rati:˺ ja no˞bo:ru˺ muti˞be:](私が製作した三味線の最初の作品は昇君 < 大城昇氏 > が持っているよ)。

ア˞ラトゥ [ʔa˞ratu] 【名】粗い砥石 (粗砥)。あらとぎに用いる質の粗い砥石。ヤ˞マンガラ˺シェー　ア˞ラトゥ˺ナ　˺トゥイバ [ja˞maŋgara˺ʃe: ʔa˞ratu˺na ˺tuiba](やまがたな < 山刀 > は粗砥で研ぎなさい)。

ア˞ラトゥー [ʔa˞ratu:] 【名】荒海。時化の荒海。波の高い荒海の海峡。˞タイフー˺ヌ　˺フクカー　˞マイ˺ヌ　˞トゥーン˺　ア˞ラトゥー˺　ナリティ　ナ˞クラー˺ン [˞taiɸu:˺nu ˺ɸʉkuka: ˞mai˺nu ˞tu:ŋ˺ ʔa˞ratu:˺ nariti na˞kura:˺ŋ](台風になると前の海峡も荒海になって怖い)。

ア˞ラ˺ドゥー [ʔa˞ra˺du:] 【名】初婚 (女性)。初めて結婚して新家庭を作ること。ミ˞ドーン˺ッふァーン　ア˞ラ˺ドゥー　ムティ　˞パッ˺ター　トゥ˞クットゥ　シェー˺チバン [mi˞do:n˺ffa:ŋ ʔa˞ra˺du: ˺muti ˞pat ˺ta: tʉ˞kuttu ʃe:˺ʧibaŋ](女の子も初婚で家庭を作って行ったので一安心したよ < ゆっくりして落ち着いたよ >)。

ア˞ラトゥイ [ʔa˞ratui] 【名】荒研ぎ。粗研ぎ。荒い砥石で刃物を研ぐこと。刃物を大まかに研ぐこと。カ˞タ˺ナー　シ˞ダケー˺　ア˞ラトゥ˺ナ　ア˞ラトゥイ　シー˺バ [kạ˞ta˺na: ʃi˞dake:˺ ʔa˞ratu˺na: ʔa˞ratui ʃi:˺ba](包丁は先に粗い砥石 < 粗砥 > で粗研ぎしなさい)。

ア˞ラトゥシ [ʔa˞ratuʃi] 【名】粗い砥石。粗めの砥石。ア˞ラトゥ [ʔa˞ratu](粗い砥石) ともいう。対語はク˞マトゥ [ku˞matu](細かいめの砥石)。大工道具を研ぐ際に用いる。先ずア˞ラトゥで刃を研ぎ、次にクマトゥで研ぎあげる。農耕用の刃物はア˞ラトゥで研ぎ、ク˞マトゥは使わない。ヤ˞マンガラ˺シェー　ア˞ラトゥシ˺ナ　˺トゥイ [ja˞maŋgara˺ʃe: ʔa˞ratuʃi˺ na ˺tui](山刀は粗い砥石で研ぎなさい)。

アˈラˀナー [ʔaˈraˀnaː] 【連】～でなくて。指定の助動詞ˈヤン [ˈjaŋ](である) の未然形に打ち消しの助動詞-ヌ [-nu](ない) の連用形ˀナー [ˀnaː](～ずに) が下接した形。「～でなくて、～でないのに、～でないにもかかわらず」の意味。ウˈヤッˀふァーンツァン　アˈラˀナー　アイˈバーˀキ　ˈサンˀタンティン　ミサン [ʔuˈjafˈfaːntsaŋ ʔaˈraˀnaː ʔaiˈbaːˀki ˈsanˀtantim ˀmisaŋ](親子でもないのにあんなにまでしなくてもよい)。

アˈラナン [ʔaˈranaŋ] 【名】荒波。若年層は、アˈラナミ [ʔaˈranami](荒波) ともいう。ˈオーシキヌˀ　ヤビティ　アˈラナンˀヌ　ˀブリˈクーˀター　ˀフネー　ˈフンナキ　ナーンˀシェン [ˈʔoːʃikinuˀ jabiti ʔaˈranan ˀnu buriˈkuːˀtaː ˀɸuneː ˈɸunnaki naːŋˀʃeŋ](天気が崩れて荒波が群れ寄せてきたので舟は沈没してしまった)。

アˈラナンˀカ [ʔaˈranaŋˀka] 【名】初七日忌。死後七日目に執り行われる法事。「新七日」の義。アˈラナンˀカー　シˈマˀシェーン [ʔaˈranaŋˀkaː ʃiˈmaˀʃeːŋ](初七日忌は済ませた)。

アˈラニシ [ʔaˈraniʃi] 【名】秋の終わり (十一月) ごろ吹き始める季節風の北風。「新北風」の義。ˀミーニシ [ˀmiːniʃi](初北風) ともいう。アˈラニシヌˀ　フクカー　タˈカヌˀ　バˈタルン [ʔaˈraniʃinuˀ ɸu̥kukaː tḁˈkanuˀ baˈtaruŋ](初北風が吹くと鷹が渡る)。

アˈラˀヌ [ʔaranu] 【連】～でない。指定の助動詞ˈヤン [ˈjaŋ](である) の未然形に打ち消しの助動詞ヌ [nu](ない) が下接した形。「否、アラズ・イナヤ」『類聚名義抄』の転訛したもの。ˀアイヤー　アˈラˀヌ　ˈワーˀ　アˈズˀ　ムネー　アˈタラヌ [ˀʔaijaː ʔaˈraˀnu ˈwaːˀ ʔaˈʤuˀmuneː ʔaˈtaranu](そうではない。君の言うことは間違っている < あたらない >)。ノーˈンˀ　アˈランˀクトゥ　ヤˈルンドゥˀ　ユˈクシムニˀバ　ˈシーˀ　ウˈバーシˀ　シケーバン　ˀヌヤー [noːˈŋˀ ʔaˈraŋˀku̥tu jaˈrundu ˀ juˈkuʃimuniˀba ˈʃiːˀ ʔuˈbaːʃiˀ ʃi̥keːban ˀnujaː](何でもないことだが、嘘をついて驚かせてあるんだよ。何かと思ったら)。

アˈラヌーヌ [ʔaˈranuːnu] 【名】粗布 (あらぬの。そふ)。太目の糸で織り目を粗く織った平織りの布。アˈラヌーヌバˀ　シˈギアーシティˀ　アˈカˀズミキーヌ　ˀカーシ　アˈガイルˀ　スˈミティˀ　フˈニˀヌ　ˈプーˀ　スˈクˀローッタ [ʔaˈranuːnubaˀ ʃiˈgiʔaːʃi̥tiˀ ʔaˈkaˀʤumikiːnu ˀkaːʃi ʔaˈgairubaˀ suˈmitiˀ ɸuˈniˀ nu ˈpuːˀ su̥ˈkuˀroːtta](粗布を継ぎ合わせ、ヒルギの皮で赤く染めて舟の帆を作られた)。

アˈラヌーˀル [ʔaˈranuːˀru] 【名】粗塗り。下塗り。壁や家具類の塗装で最初にざっと塗ること。カˈツシンヌ　ペンˀキーン　アˈラヌーˀル　ˈシーティル　オーヌーロー　ソーッˀタ [kḁˈtsuʃinnu peŋˀkiːŋ ʔaˈranuːˀru ˈʃiːtiru ʔoːnuːroː soːtˀta](カツオ漁船のペンキも粗塗り < 下塗り > をしてから上塗りをされた)。

アˈラバー [ʔaˈrabaː] 【名】風の吹き荒ぶ場所。吹き荒れる所。「荒場」の義。ˀクマー　カˈタカˀヌ　ˈナーˀンダ　ˈタイフーˀヌ　ˀピンマー　アˈラバーˀ　ナリティ　ンˈカーラヌ [ˀkumaː kḁˈtakaˀnu ˈnaːˀnda ˈtaiɸuːˀnu ˀpimmaː ʔaˈrabaːˀ nariti ʔŋˈkaːranu](ここはかざよけ < 風除け。防風林 > がないから、台風の時は風の吹き荒れる所となって、とても対処 < 立ち向かい > できない)。

アˈラパカ [ʔaˈrapaka] 【名】新しく作った墓。新しく死者を葬った墓はˈミーパカ [ˈmiːpaka] という。ˈバンˀター　ッˈシェーラˀ　パˈトゥˀマナテー　アˈラパカˀ　スˈクˀロール　プˈソー　オーランˀシェン [ˈbanˀtaː ʃˈʃeːraˀ paˈtuˀmanateː ʔaˈrapakaˀ suˈkuˀ roːru puˈsoː ʔoːraŋˀʃeŋ](私達が物心ついてからは、鳩間島で新しい墓を作られる人はおられなかった)。ˈウンˀネヌ　プˈソーˀ　ナˈカンブレˀヌ　ッˈサーンˀナ　アˈラパカˀ　スˈクˀローッタツォー [ˈʔunˀ nenu pu̥ˈsoːˀ naˈkambureˀnu sˈsaːnˀna ʔaˈrapakaˀ su̥ˈkuˀroːttatsoː](あの家の人は中岡 < ナカモリ > の下に新しい墓を作られたそうだ)。

アˈラパジˀミ [ʔaˈrapaʤiˀmi] 【名】最初。一等はじめ。「新初め」の義。パˈトゥマˀヌ　カˈツシンマーˀ　アˈラパジˀメー　ˈプーシンˀシ　ˀハッチョーリューバ　ˈクイˀヤーティル　カˈツォー　ホーˀソーッタツォー [pḁˈtumaˀnu kḁˈtsuʃimmaːˀ ʔaˈrapaʤiˀmeː ˈpuːʃiŋˀʃi ˀhattʃoːrjuːba ˈkuiˀjaːtiru kḁˈtsoː hoːˀ soːttatsoː](鳩間島の鰹船は、最初は帆船で八丁櫓を漕ぎながら鰹を釣られたそうだ)。

アˈラブシケー [ʔaˈrabuʃi̥keː] 【名】屋号。ˀウブシケー [ˀʔubuʃi̥keː](大城博氏宅) の東隣の大工修氏宅 (「東大城家」の儀) や大工新吉氏宅。ˈダイˀケー [ˈdaiˀkeː](大工定市氏宅) の前隣。アˈラブシケーヌˀ　アーˈパーˀマー　ユˈナˀデーヌ　ミˈドーンˀッふァ　ヤˈローˀリ　ˈマイトゥブˀレーヌ　ˈモーˀシェンマーヌ　ブˈネーヌˀ　ウヤ　ヤˈローッˀタ [ʔaˈrabuʃi̥keːnuˀ ʔaːˈpaːˀma: juˈnaˀdeːnu miˈdoːŋˀffa jaˈroːˀri ˈmaitubuˀreːnu ˈmoːˀʃemmaːnu buˈneːnuˀ ʔuja jaˈroːtˀta](大工新吉氏宅のお祖母さんは与那田家の

娘であられ、吉川家の森子氏の母親であられた)。アˈラブシケーヌˀ　ウˈキˀナザーテー [ʔaˈrabuʃi̥keːnuˀ ʔuˈkiˀnaʤaːteː](大工修氏宅 < 東大城家の宇慶那氏宅 >) ともいう。ˈアーラˀ・ˀウブシケー [ˈʔaːraˀ・ˀ ʔubuʃi̥keː](東・大城家) が音韻変化して生成された合成語。大工修氏らは戦前に鳩間島漁業組合の設立に貢献され、鳩間島漁業組合のコンクリート建て冷蔵庫をカˈザケー [kaˈʤakeː](加治工家) の前海岸に建設された。

アˈラˀフニ [ʔaˈraˀɸuni] 【名】新造船。若年層はˈシンゾーˀシン [ˈʃinʤoːˀʃiŋ](新造船) ともいう。カツオ漁船を石垣島の造船場で新造した。スˈラウラˀシ [suˈraʔuraˀʃi](進水式) には餅を撒いて祝う習慣があった。アˈラフニˀヌ　スˈラウラシˀヌ　ˀピンマー　コーˈシェーˀマーン　ムˈチン　ポーローッˀタン [ʔaˈraɸuniˀnu suˈrauraʃiˀnu ˀpimmaː koːˈʃeːˀmaːm muˈʧim poːroːtˀtaŋ](新造船の進水式の日には菓子も餅も撒かれた)。

アˈラフルˀマイ [ʔaˈraɸuruˀmai] 【名】元日の朝の料理。新しいご馳走。ˀソンガチ　ˈグヮンタンˀヌ　シˈトゥムˀテー　ˈザートゥクˀヌ　ˀマイナーティ　ˈヤーニンˀズ　ˀスルイ　ˈニントゥーˀ　シˈティˀ　アˈラフルˀマィ　ˈオーソーッˀタ [ˈsoŋgatʃinu ˈgwantanˀnu ʃi̥ˈtumuˀteː ˈʤaːtukuˀnu ˀmainaːti ˈjaːninˀʤu ˀsurui ˈnintuːˀ ʃi̥ˈtiˀ ʔaˈraɸuruˀmai ˈʔoːsoːtˀta](正月元旦の朝は床神の前で家族揃って年頭の挨拶をして新年のご馳走 < 振舞い > を召し上がられた)。

アˈラマース [ʔaˈramaːsu] 【名】粗塩 (あらしお)。精製してない結晶の粗い塩。塩焼きして取り出したばかりの粗塩。ヤˈラビˀヌ　ニˈチˀヌ　サˈマランˀ　ピンマー　ピˈルバ　シッˀキ　アˈラマーストゥˀ　カˈケーˀシティ　ˈブッツˀナー　ˀッシ　カˈバˀシ　ピˈルキˀナーン　ッˈシットーˀシ　シˈキˀルカー　サˈマルˀタン [jaˈrabiˀnu niˈʧiˀnu saˈmaramˀ pimmaː piˈruba ʃikˀki ʔaˈramaːsutuˀ kaˈkeːˀʃiti ˈbuttsuˀna: ˀʃʃi kaˈbaˀʃi piˈrukiˀnaːŋ ʃˈʃittoːˀʃi ʃiˈkiˀruka: saˈmaruˀtaŋ](子供の熱が下がらない < 冷めない > ときは大蒜を搗いて潰し、粗塩をかき混ぜて臍にすり込みおおい被せ、頭のひよめきにもすり込んでおくと熱は冷めたよ)。

アˈラマイ [ʔaˈramai] 【名】新米。新しく収穫した米。ˈミーマイ [ˈmiːmai](新米) ともいう。アˈラマイヌˀ　イー　バˈカシˀバ [ʔaˈramainuˀ ʔiː baˈkaʃiˀba](新米の御飯を炊きなさい)。

アˈラˀミチ [ʔaˈraˀmiʧi] 【名】新しい道。「新道 (あらみち)」の義。アˈラˀミチ　スˈクˀリ　ˈトゥーˀソーッター　ユˈカラスコーˀ　シˈカˀミチ　ナˈリˀブヨー [ʔaˈraˀmiʧi suˈkuˀri ˈtuːˀsoːtta: juˈkarasukoːˀ ʃiˈkaˀmiʧi naˈriˀbujoː](新しい道を作って通されたので相当に < よかるほど > 近道になっているよ)。

アˈラムス [ʔaˈramusu] 【名】新しい筵。ˈミームス [ˈmiːmusu](新品の筵) ともいう。アˈラムスˀ　シˈキティˀ　ビˈリ　オーラˀシバ [ʔaˈramusuˀ ʃi̥ˈkitiˀ biˈri ʔoːraˀʃiba](新しい筵を敷いてお座りいただき < お座り御座させ > なさいよ)。

アˈラムˀトゥ [ʔaˈramuˀtu] 【名】玄米または精白した米の中に混じっている籾。あらもと (粡)。「粒　阿良本」『新撰字鏡』の転訛したもの。ˈマイˀ　ッサイティ　アˈラムˀトゥ　プˈサイˀバ [ˈmaiˀ ssaiti ʔaˈramuˀtu pu̥ˈsaiˀba](米を精白して、中の籾を拾いなさいよ)。ˈマイˀ　ピˈキˀ　シケーバ　ユˈラシˀシ　ユˈラシティˀ　アˈラムˀトゥ　プˈサイ [ˈmaiˀ pi̥ˈkiˀ ʃi̥keːba juˈraʃiˀʃi juˈraʃi̥tiˀ ʔaˈramuˀtu pu̥ˈsai](籾摺り臼 < 碾き臼 > で籾摺りをして < 米を挽いて > あるから、篩で篩って < 揺らして > 混在する籾を拾って取り除きなさい)。ウˈシˀヌ　ˈパーˀヌ　ˈムイランベーˀティル　アˈラムˀトー　ˈゴーˀラー [ʔuˈʃiˀnu ˈpaːˀnu ˈmuirambeːˀtiru ʔaˈramuˀtoː ˈgoːˀraː](碾き臼の歯が磨り減っている < 萌え立たない > からアラモト < 粡 > が多いのだ)。

アˈラˀムニ [ʔaˈraˀmuni] 【名】荒っぽい言葉遣い。暴言。喧嘩口論。ˀアイヤー　アˈラˀムニ　イˈズムノーˀ　アˈラˀヌ　マーンˈベーマˀ　ヤーˈラヤーラˀシˀムネー　イˈジ [ˈʔaija: ʔaˈraˀmuni ʔiˈʤumunoːˀ ʔaˈraˀnu maːmˈbeːmaˀ jaːˈrajaːraˀʃi ˀmuneː ʔiʤi](あんなに 喧嘩口調で言う < 荒い言葉をいう > のではない。もう少し柔らかくものはいいなさい)。アˈラッパームニ [ʔaˈrappaːmuni](荒っぽい言葉) ともいう。

アˈラムヌ [ʔaˈramunu] 【名】新しいもの。新品。ˈミームヌ [ˈmiːmunu](新品) ともいう。クˈレーˀ　シゥˈカーラヌˀ　アˈラムヌトゥ <ˈミームヌトゥ >　カイリ [kuˈreːˀ si̥ˈkaːranuˀ ʔaˈramunutu <ˈmiːmunutu> kairi](これは使えない。新品 < 新しいもの > と取り換えなさい)。アˈラムヌバˀ　イˈラˀビ　ˀクー [ʔaˈramunubaˀ ʔiˈraˀbi ˀkuː](新品 < 新しいもの > を選んでこい)。ˈミームヌ [ˈmiːmunu](新品) ともいう。アˈラムノーˀ <ˈミームノˀー >　プサ　ˈナーˀヌ [ʔaˈramunoːˀ <ˈmiːmunoˀː> pu̥sa ˈnaːˀnu](新品は欲しくない)。

アˈラ˥ムヌ [ʔaˈra˥munu] 【名】大きなもの。粗大なもの。粗くて大まかなもの。アˈラ˥ムノー　ナン˥ゾー　プサˈナー˥ヌ　クˈマムヌ˥ル　˥プサ [ʔaˈra˥munoː nan˥ʥoː pu̥saˈnaː˥nu kuˈmamunu˥ru ˥pu̥sa](大きなもの＜粗大なもの＞はあんまり欲しくない。小さなもの＜細かいもの＞が＜ぞ＞欲しい)。

アˈラモーキ [ʔaˈramoːki] 【名】荒儲け。荒稼ぎ。大儲け。アˈラモーキ　スンティ　アー˥クンケン　ˈスンカブ˥リ　ˈシーナン˥ツォー [ʔaˈramoːki sunti ʔaː˥kuŋken ˈsuŋkabu˥ri ˈʃiːnan˥tsoː](荒儲けしようとしているうちに大損をして＜損を被って＞しまったそうだ)。アˈラモーキ　シェー˥ル　˥ジン　ヤˈレー˥ティル　アˈラシゥカイ　シェー˥ルˈナー [ʔaˈramoːki ʃeː˥ru ˥ʤiɲ jaˈreː˥tiru ʔaˈrasi̥kai ʃeː˥ruˈnaː](荒儲けした金だから湯水のように浪費＜荒使い＞したのだろうよ)。

アˈラヤー [ʔaˈrajaː] 【名】1新しい家。新築の家。ˈミーヤー [ˈmiːjaː](新築の家) ともいう。ˈウン˥ネヌ　プˈソー˥　アˈラヤーバ˥　スˈク˥ローレーンツォー [ˈʔun˥nenu pu̥ˈsoː˥ ʔaˈrajaːba˥ su̥ˈku˥roːreːntsoː](その家の人は新しい家を造られたそうだ)。アˈラヤー˥　スˈク˥リティ　˥ウヤ　サˈニヤ˥　シˈミ　オーラ˥シ [ʔaˈrajaː˥ su̥ˈku˥riti ˥ʔuja saˈnija˥ ʃiˈmi ʔoːra˥ʃi](新しい家を造って親を喜ばせて差し上げなさい)。2屋号。故吉川米三氏宅。イˈクサユー˥ヌ　アトゥ　パˈトゥ˥マナー　アˈラヤーナ˥ル　ミˈシン˥マー　ˈアッ˥タˈダー [ʔiˈkusajuː˥nu ʔatu pḁˈtu˥mana: ʔaˈrajaːna˥ru miˈʃim˥ma: ˈʔat˥taˈdaː](戦後、鳩間では吉川家だけにミシンがあったのだよ)。吉川米三氏宅。アˈラヤー˥ナー　ˈコンクリ˥ヌ　ウˈブミジタン˥クーン　スˈク˥ローレータン [ʔaˈrajaː˥na: ˈkoŋkuri˥nu ʔuˈbumiʤitaŋ˥kuːn su̥ˈku˥roːreːtaŋ](吉川家ではコンクリート造りの大きな水タンクも造られてあった)。

アˈラワリ˥ルン [ʔaˈrawari˥ruŋ] 【自動】現われる。クˈクル˥ヌ　ウˈムイ˥ヤー　シˈラカタ˥チナ　アˈラワリルン˥ドゥ　ウˈヌ˥　クトー　ˈピッ˥チン　アˈラワリラン˥バン [ku̥ˈkuru˥nu ʔuˈmui˥jaː ʃiˈrakata˥ʧina ʔaˈrawarirun˥du ʔuˈnu˥ ku̥toː ˈpit˥ʧiɲ ʔaˈrawariram˥baŋ](心の思いは顔貌に現われるが、このことはちっとも現れない)。

アˈラント ユー [ʔaˈraŋ˧juː] 【連】～ではありませんよ。アˈラ˥ヌ [ʔaˈra˥nu](～でない) の丁寧な表現。助動詞ˈヤン [ˈjaŋ](である) の未然形に打ち消しの助動詞ヌ [nu](～ない) の終止形が付き、丁寧の終助詞ˈユー [juː] が下接した形。

アˈラン˥カー [ʔaˈraŋ˥kaː] 【連】でなかったら。助動詞ˈヤン [ˈjaŋ](である) の未然形に打ち消しの助動詞ヌ [nu](～ない) の連体形が付き、更に接続助詞˥カー [˥kaː](もし～なら＜～たら＞) が付いて仮定条件を導く。ˈワー˥　アˈラン˥カー　ˈタール˥　クˈヌ˥　ヤー　シˈグワ [ˈwaː˥ ʔaˈraŋ˥kaː ˈtaːru˥ kuˈnu˥ jaː ʃiˈguwa](君でなければ誰がこの家を継ぐのか)。˥バー　クˈリバ　ドゥー˥ヌ　˥ムヌティ　アˈズタヌ　フントー˥　アˈラン˥カー　ˈヌー˥スワメー [˥baː kuˈriba duː˥nu ˥munuti ʔaˈʤutanu ɸuntoː˥ ʔaˈraŋ˥kaː ˈnuː˥suwameː](私は、これを自分のものだと言ったが、正しくなければ＜本当でなければ＞どうしようか)。

ˈア˥リ [ˈʔa˥ri] 【感】ほら。そら。それ。あら。˥アリヒャー　˥カマーラ　ˈズンサ˥ヌ　ˈオー˥ルンˈドー　パー˥ク　ナˈキヤミリ [˥ʔariça: ˥kamaːra ˈʤunsa˥nu ˈʔoː˥runˈdo: paː˥ku naˈkijamiri](そら、たいへんだぞ。あそこから巡査がいらっしゃるぞ。早く泣くのを止めなさい)。

˥アリー [˥ʔariː] 【名】あらい (洗膾)。お汁の実となる魚肉や豚肉、野菜類など。[ʔarai]　→　[ʔareː]　→　[ʔariː]　の音韻変化による。ˈスー˥ヌ　˥アレー　カˈツヌ˥　ハˈラゴー˥トゥ　シˈビラ˥　イˈリリ˥バ [ˈsuː˥nu ˥ʔareː kḁˈtsunu˥ haˈragoː˥tu ʃiˈbira˥ ʔiˈriri˥ba](お汁のあらい＜洗膾＞にはカツオの腹皮とわけぎ＜分葱＞を入れなさいよ)。

˥アリアリ [˥ʔariʔari] 【感】それそれ。ほらほら。˥ウリウリ [˥ʔuriuri](それそれ) ともいう。˥アリアリ　˥カマーラ　ˈビープス˥ヌ　クーンˈドー　パー˥ク　ˈピン˥ギパリ [˥ʔariʔari ˥kamaːra ˈbiːpu̥su˥nu kuːnˈdo: paː˥ku ˈpiŋ˥gipari](ほらほら、むこうから酔っ払いが来るぞ。早く逃げていきなさい)。

アˈリガタイ˥　クトゥ [ʔaˈrigatai˥ ku̥tu] 【連】有り難いこと。若年層の言葉で、標準語からの借用語。老年層は、フˈコーラサー˥ル　˥クトゥ [ɸu̥ˈkoːrasaː˥ru ˥ku̥tu](有り難いこと＜感謝したいこと、気持ち。身にしみて嬉しいこと＞) という。

アˈリ˥ズー [ʔaˈri˥ʤuː] 【名】在り所。在り処。家、建物、田畑などのあるところ。存在する所。˥アルントン [˥ʔaruntoŋ](在り処)、˥アントン [ʔantoŋ](在り処) ともいう。ˈウン˥ネヌ　アˈリ˥ゾー　サˈバキグリ˥サンˈダー [ˈʔun˥nenu ʔaˈri˥ʤoː saˈbakiguri˥sanˈdaː](その家の在り処は探し求めることが難しい＜捌きずらい＞よ)。ˈダイ˥チョーナー　ˈヌーリブヌンドゥ˥　クˈヌ˥　パˈタキ˥ヌ　アˈリズヌン˥ドゥ　ッˈサン˥ツ

ォー [ˈdaiˈʧoːnaː ˈnuːribununduˈ kuˈnuˈ pa̯ˈtakiˈnu ʔaˈriʤununˈdu sˈsanˈtsoː](台帳には登載されて＜載って＞いるが、この畑の在り処が＜ぞ＞わからない＜知らない＞のだよ)。

ˈアリ　タˈボーˈリ [ˈʔari ˈtaboːˈri] 【連】～であってください。～でいらっしゃって下さい。～でおわしませ。「あり賜われ」の転訛したもの。ˈピャーˈクパタチˈバーˈキ　ˈガンˈゾー　ˈアリ　タˈボーˈリ [ˈpjaːˈkupa̯tatʃi ˈbaːˈki ˈganˈʤoː ˈʔari taˈboːˈri](百二十歳まで健康でいらっしゃって＜頑丈であって＞下さい)。

ˈアリッサルン [ˈʔarissaruŋ] 【自動】常に有り余るほど沢山ある。満ち溢れている。十二分にある。卑語。「有り・腐れる」の義。ˈヌーンクイン　ˈアリッサルンケン　アˈリˈルブー　ˈナーンˈ　ムノー　ˈナーˈヌ [ˈnuːŋkuiŋ ˈʔarissaruŋkeŋ ʔaˈriˈrubuː ˈnaːm ˈmunoː ˈnaːˈnu](なにもかも有り余るほど満ち溢れて＜ぞ＞ある。ないものはない)。

アˈリドゥー [ʔaˈriduː] 【名】荒海。灘。沖の荒海。パˈトゥˈマプソー　フˈユヌˈ　シチェー　アˈリドゥーバ　クイヤーˈティ　ニˈシェー　パˈヤー　バˈタリドゥ　タースクˈル　ˈソーッˈタ [paˈtuˈmapusoː ɸuˈjunuˈʃi̥tʃe: ʔaˈriduːba kuijaːˈti niˈʃeː paˈjaː baˈtaridu taːsi̥kuˈru soːtˈta](鳩間人は冬の季節には荒海＜荒れた鳩間水道＞を越えて北へ南へ渡り水田耕作＜田圃作り＞をなされた)。

ˈアリヒャー [ˈʔariça:] 【感】そら大変。それ大変。それ見ろ。他人を驚かす際に言うことば。ˈヒャー [ça:](～野郎。～やつ) は人を罵り、悪しざまにいう意味の接尾語。ˈウリヒャー [ˈʔuriça:](そら大変、それ見ろ) と同じ。ˈアリヒャー　ˈカマーラ　プˈスファイ　サバヌˈ　クンˈドー　ˈピンギˈリ [ˈʔariça: ˈkamaːra pu̯ˈsuffai sabanuˈ kunˈdoː piŋgiˈri](それ＜大変だ＞。あそこから人食い鮫が来るぞ、逃げろ)。

アˈリフクˈリ [ʔaˈriɸu̯kuˈri] 【名】ものが有り余って、もののありがたさを知らないこと。ˈヌーンクイン　ˈスルイティ　アˈリフクˈリ　ˈシー　ブンダルˈ　ムˈヌアタラˈサティ　ˈスームノーˈ　ッˈサヌ [ˈnuːŋkuin ˈsuruiti ʔaˈriɸu̯kuˈri ˈʃiː bundaruˈ muˈnuʔataraˈsati ˈsuːmunoːˈ sˈsanu](何もかも揃って有り余っているので、ものを大切にすること＜ものを惜しむべきこと＞を知らない)。

アˈリˈプサン [ʔaˈriˈpusaŋ] 【連】ありたい。存在詞ˈアン [ʔaŋ](在る。有る) の連用形に形容詞型助動詞ˈプサン [pu̯saŋ](～たい。～欲しい) が下接した形。ˈジンˈマー　アˈリˈプサン [ˈʤimˈma: ʔaˈriˈpusaŋ](金は欲しい＜有りたい＞)。プˈスヌˈ　ムノー　アˈリˈプサ　スˈナˈヨー [pu̯ˈsunuˈ munoː ʔaˈriˈpu̯sa suˈnaˈjoː](他人のものを欲しがるな＜有りたくするな＞よ。他人のものを欲しがるでないぞ)。

アˈリヨーアリヨー [ʔaˈrijoːʔarijoː] 【感】あれよあれよ。ああっ! 助けてー! 驚きうろたえて人を呼ぶときに発することば。乳児が縁側から落ちそうになったとき等、危機一髪のところを母親が見つけて絶叫することば。ˈアリヨーアリヨーˈ　ウˈティˈルンˈドー [ˈʔarijoːʔarijoːˈ ʔuˈtiˈrunˈdoː](あれよあれよ! 落ちるぞ!)。

アˈリヨークリˈヨー [ʔaˈrijoːkuriˈjoː] 【名】あれこれと苦労すること。アˈリヨークリˈヨー　ˈシェーテイˈル　ヤッˈトゥˈシ　ウˈビˈヌ　ッˈふァバˈ　シゥˈカˈナイ　フˈドゥバシタル [ʔaˈrijoːkuriˈjoː ˈʃeːtiˈru jatˈtuˈʃi ʔuˈbiˈnu fˈfabaˈ si̥ˈkaˈnai ɸuˈdubaʃitaru](あれやこれやと苦労をして、やっとであれだけの子供を養い育てた＜成長させた＞のだ)。

アˈリルン [ʔaˈriruŋ] 【自動】荒れる。天候が悪化して海が荒れる。強風が吹いて大波が立つ。ˈオーシキヌˈ　ヤˈブˈルカー　ˈマイˈヌ　ˈトゥーヤˈ　アˈリルンティˈ　ウˈムータˈヌ　ˈナンˈゾー　アˈリランバン [ˈʔoːʃi̥kinuˈ jaˈbuˈrukaː ˈmaiˈnu ˈtuːjaˈ ʔaˈrirunti ˈ ʔuˈmuːtaˈnu ˈnanˈʤoː ʔaˈrirambaŋ](天候が崩れ＜破れ＞ると前の海峡＜渡＞は荒れると思ったが、あまり荒れないわい)。ユˈカラスコーˈ　アˈリブーバン [juˈkarasu̯koːˈ ʔaˈribuːbaŋ](相当荒れているわい)。アˈリルˈ　ピンヌン　ˈアン [ʔaˈriruˈ pinnuŋ ˈ ʔaŋ](荒れる時＜日＞もある)。

ˈアリン　ˈナーˈン [ˈʔarin ˈnaːˈŋ] 【連】あってもなくても。ˈアリン　ˈナーˈン　プˈスピライヤ　サンˈカー　ナˈラˈヌ [ˈʔarin ˈnaːˈm pu̯ˈsupiraija saŋˈkaː naˈraˈnu](金があろうとなかろうと人＜世間＞との交際はしなくてはならない)。

ˈアル [ˈʔaru] 【連体】或る。どれと具体的に示さず、漠然とその存在を示して叙述する時に使う語。ムˈカˈシ　ˈアル　ˈトンˈナー　アˈブジェーマˈトゥ　アーˈパーマˈヌ　ˈオーッˈタンツォー [muˈkaˈʃi ˈ ʔaru ˈtonˈnaː ʔaˈbuʤeːmaˈtu ʔaːˈpaːmaˈnu ˈʔoːttanˈ tsoː](昔、或る所におじいさんとおばあさんがいらっしゃったそうな)。

ˈアル　ˈウビ [ˈʔaru ˈʔubi] 【連】あるだけ。ˈクナーˈアル　ウˈビˈル　ˈアル　ˈマービンˈマー　ˈナーˈヌ

[˩kuna:˥ʔaru ʔu˩bi˥ru˥ʔaru˩ma:bim˥ma:˩na:˥nu](ここにあるだけしかない＜ここにあるだけがある＞。それ以上＜もっと＞はない)。

アル˩カカ˥ラー [ʔaru˩kaka˥ra:]【副】悉く。総て。あるものは総て。ありったけ。アルカ˩カ˥ジラー [ʔarukạ˩ka˥ʤira:](悉く。あるもの総て) ともいう。˩ジン˥ヌ　アル˩カカ˥ラー　ムー˩ル˥　ア˩ツァ˥ミ　˩クータン˥ドゥ　タ˩ラーサラヌ [˩ʤin˥nu ʔaru˩kaka˥ra: mu:˩ru˥ ʔa˩tsa˥mi ˩ku:tan˥du ta˩ra:saranu](お金の総てを集めてきたが足りない＜足らされない＞)。˩ドング˥ヌ　アル˩カカ˥ラー　ムー˩ル˥　ア˩ツァ˥ミ　˩クーバ˥ル　タ˩ラーサリル [˩doŋgu˥nu ʔaru˩kaka˥ra: mu:˩ru˥ ʔa˩tsa˥mi ˩ku:ba˥ru ta˩ra:sariru](道具のありったけを総て集めてこないと足りない＜～集めてくればぞ足らされる＞)。

˥アルクトゥ　˩ナーン˥クトゥ [˥ʔarukutu˩na:ŋ˥kutu]【連】本当のことと嘘。実際にあることと実在しないこと。本当のことから嘘まで総て。「あること・ないこと」の義。ア˩バッ˥ツァー　˩マーシ˥ノ　˥アルクトゥ　˩ナーン˥クトゥ　イ˩ジッツァーシ˥　シケーンティ [ʔa˩bat˥tsa:˩ma:ʃi˥no ˥ʔarukụtu˩na:ŋ˥kụtu ʔi˩ʤittsa:ʃi˥ ʃị˩ke:nti](お喋りやつめが、本当のことも嘘のこともまぜこぜにして言いふらして＜言い散らして＞あるよ)。

˥アルシゥカイ [˥ʔarusï˩kai]【名】金が有るからといって湯水のように使うこと。乱費すること。無駄遣い。˩ジン˥ヌ　˥アルカー　˥アルシゥカイ　˩シー˥　キ˩ナイヤー˥　マイ　˩ユーザラヌ [˩ʤin˥nu ˥ʔaruka:˥ ʔarusï˩kai˩ʃi:˥ ki˩naija:˥ mai˩ju:ʤaranu](金があればあったで乱費して、家庭生活は前へ進めない)。

˥アル˩トゥー˥ル [˥ʔaru˩tu:˥ru]【連】ありのまま。そのとおり。あるとおり。「在る・通り」の義。˥ウヌ　˥トゥール [˥ʔunu˥tu:ru](その通り、そのまま) ともいう。ス˩コー˥ルカー　˥アル　˩トゥー˥ル　˥アジ　ッ˩サリリ [sụ˩ko:˥ruka:˥ʔaru˩tu:˥ru ˥ʔaʤi s˩sariri](お尋ねになったら＜聞かれたら＞ありにまま申し上げなさい＜言ってしられれ＞)。

˥アル　˥ピン [˥ʔaru˥piŋ]【連】ある時。ある日。ム˩カ˥シ　˥アルピン　ウ˩ランタシン˥ヌ　˩ナー˥リ　˥ケータンツォー [mu˩ka˥ʃi ˥ʔarupiŋ ʔu˩rantaʃin˥nu˩na:˥ri ˥ke:tantso:](昔ある日、オランダ船が流れてきたそうだ)。

˥アルムヌ　˩ナーン˥ムヌ [˥ʔarumunu˩na:m˥munu]【連】ある物総て。ありったけ。「ある物・無い物」の義。˥アルムヌ　˩ナーン˥ムヌ　ムー˩ル˥　ン˩ザ˥シミ˩ラ˥シバ [˥ʔarumunu˩na:m˥munu mu:˩ru˥ ʔn˩ʤa˥ʃi mi˩ra˥ʃiba](ある物無い物総て出して見せなさいよ)。˩ヤー˥ナ　˥アルムノー　˥アルムヌ　˩ナーン˥ムヌ　ムー˩ル˥　ン˩ザ˥シクー [˩ja:˥na ˥ʔarumuno:˥ ʔarumunu˩na:m˥munu mu:˩ru˥ ʔn˩ʤa˥ʃiku:](家にあるものは総て出してきなさい)。˥アル　˩リー˥ヤ　˩トーサラ˥ヌ　˩ナー˥ン　˩リー˥ヤ　タ˩ティララ˥ヌ [˥ʔaru˩ri:˥ja˩to:sara˥nu˩na:˥n˩ri:˥ja tạ˩tirara˥nu](ある事例＜伝統的な先例＞は廃止できない＜倒されない＞。無い例＜先例の無い事例＞は立てられない)。

˥アレー　˥クトゥ [˥ʔare:˥kụtu]【連】あったこと。動詞˥アン [˥ʔaŋ](在る) の已然形に動詞˥アン [˥ʔaŋ](有る) の連体形が付いて、[ari] ＋ [aru] → [ariaru] → [are:ru] が形成され、ru 語尾が弱化して脱落した形。ウ˩レー　フン˥トー　ム˩カ˥シナ　˥アレー　˥クトゥ　ヤ˩ルンダ　キー˥　シ˩キ˥リ˩ヨー [ʔu˩re: ɸun˥to: mu˩ka˥ʃina ˥ʔare: ˥kụtu ja˩runda ki:˥ ʃị˩ki˥ri˩jo:](それは本当に昔にあったことだから、気をつけなさいよ)。

ア˩ロー˥ナ [ʔa˩ro:˥na]【名】初耕。最初の田打ち。荒打ち。「荒熟し (あら・こなし)」の義。[ara･kon-aʃi] → [arakunaʃi] → [arafunaʃi] → [arauna] → [aro:na] と音韻変化したもの。初耕は田の水を落とし、犂を牛に引かせて犂の先で土を切り、箆状の部分で土塊を反転させて耕す。これによって稲の刈り株を土中に埋めた。耕牛を持たない人は˩キー˥パイ [˩ki:˥pai](木製の鍬) を使って˩スリ˥バイ [su˩ri˥bai](刈り株) を反転させて土中に埋めるように耕した。カ˩ツシントゥ˥　イ˩ガウミン (イ˩ガメーン)˥　ウ˩ワーリズング˥ヤーン　ウ˩チナ˥スカー　˥イダフネーラ　˩パイ˥ター　バ˩タリ˥　ア˩ロー˥ナ　ソーッタ [kạ˩tsuʃintu˥ ʔi˩gaumiŋ＜ʔi˩game:ŋ＞˥ ʔu˩wa:ri ʤuŋgu˥ja:ŋ ʔu˩ʧina˥sụka: ˥ʔidaɸune:ra˩pai˥ta: ba˩tari˥ ʔa˩ro:˥na˩so:t˥ta](鰹漁業＜鰹船＞と烏賊釣り漁＜烏賊海＞も終わり、十五夜祭りも済ませるとサバニ＜板舟＞でパイター＜南方、鳩間島の南方。対岸の水田地帯。西表島の北岸＞へ渡り、田圃の荒打ち＜初耕＞をなされた)。マ˩トーナ [ma˩to:na](二度打ち。二度耕し。「またこなし」の義)、˩サン˥トゥ [˩san˥tu](三度打ち。三度耕し) の対義語。

ア˩ロー˥ルン [ʔa˩ro:˥ruŋ]【自動】おありになる。あられる。˥アン [˥ʔaŋ](ある) の敬語動詞。「有り・おわす＜在す＞」の転訛したもの。対象となる存在

者、動作主に対する高い敬意を表す。ˈワーˈ　ウヤー　ˈザイサンヌ　アˈローˈルンダ　アˈローランˈ　プˈスˈ　シˈキˈルカー　ˈソーヤ　ナーˈヌ [ˈwaːˈ ʔujaː ˈʤaisannu ʔaˈroːˈrunda ʔaˈroːramˈ pu̥ˈsuˈ ʃi̥ˈkiˈ rukaː ˈsoːja naːˈnu](君の親は財産がおありになるから、おありにならない人に比べると心配はない)。

アˈワˈイシ [ʔaˈwaˈiʃi] 【名】堆積砂岩。砂が堆積して固まって形成されたといわれる岩石。石垣島の資産家ではこれを削り整形して石垣を積むのに利用したり、壁用に利用されたが鳩間島では、そのような家はない。パˈトゥˈマナーテー　アˈワˈイシシ　ˈグスˈク　シˈモーˈレー　ˈヤーˈヤ　ˈナーˈヌ [paˈ tuˈmanaːteː ʔaˈwaˈiʃiʃi ˈgusuˈku ʃiˈmoːˈreː ˈjaːˈja ˈnaːˈnu](鳩間島ではアワイシ＜砂岩＞で石垣を積まれた家はない)。

アˈワザˈキ [ʔaˈwaʤaˈki] 【名】粟酒。粟で醸造した酒。歌謡語。古典民謡パˈトゥˈマナカムリ [pḁˈtuˈ manakamuri](鳩間中岡) で歌われている。

アˈワミサˈク [ʔaˈwamisaˈku] 【名】粟で醸造した神酒。歌謡語。古典民謡パˈトゥˈマナカムリ [pḁˈtuˈ manakamuri](鳩間中岡) で歌われている。ウˈミサˈク [ʔuˈmisaˈku](お神酒) の項参照。

アˈワˈリ [ʔaˈwaˈri] 【名】難儀苦労。苦しみ。悲哀。「哀れ」の転訛したもの。歌謡語。/フンヌヨー　アワリヌ　ミチヤリバ/(誠に哀れ＜悲哀・憐憫＞な道だから～)『念仏歌・＜兄の声＞』。会話では、ˈアウˈリ [ˈʔauˈri](難儀。苦労) というのが普通。ˈウスマイヤー　ウˈナターˈ　トゥˈジブトゥ　タンガシˈシ　ピˈラˈクサーリ　クˈバシターˈヌ　ター　カˈクンティˈ　アˈワリˈヌ　ˈゴーˈカジ　ˈソーˈレーン [ˈ ʔusumaija: ʔuˈnataːˈ tuˈʤibutu taŋgaˈʃi piˈraˈkusaːri kuˈbaʃi̥taːˈnu ˈtaː kḁˈkuntiˈ ʔaˈwariˈnu ˈgoːˈkaʤi ˈsoːˈreːŋ](ウスマイは自分たち夫婦だけで＜おのがじし＞極寒のなかをクˈバシˈター [kuˈbaʃi̥ˈtaː] の新田を開墾しようとして大変厳しい苦労をなされた)。

アˈワˈリクチサ [ʔaˈwaˈrikuʧisa] 【名】艱難辛苦。難儀苦労。イˈクサユーˈヌ　ˈアトー　ッˈふームン　ナーˈン　ˈウイˈナー　ˈプーキバーˈキ　ˈフシゥˈカリ　ウˈビˈヌ　ッˈふァˈ　シゥˈカˈナウンティ　イˈカムスˈク　アˈワˈリクチサ　ˈシェーˈワˈツォー [ʔiˈ kusajuːˈnu ˈʔatoː fˈfuːmun naːˈŋ ˈʔuiˈnaː ˈpuːkibaːˈki ˈɸusi̥ˈkari ʔuˈbiˈnu fˈfaˈ si̥ˈkaˈnaunti ʔiˈkamusu̥ˈku ʔa ˈwaˈrikuʧisa ˈʃeːˈwaˈtsoː](太平洋戦争の後は食料もない上にマラリア＜風気。風土病＞まで罹患＜取り付き＞し、あれだけの子供を養い育てようとどれほど難儀苦労をしたことか)。

アˈワリˈヌ　ˈゴーˈカジ [ʔaˈwariˈnu ˈgoːkaˈʤi] 【連】哀れ (難儀苦労) の数々。あらゆる難儀苦労。厳しい難儀苦労。アˈワリˈヌ　ˈゴーˈカジ　ˈシー　ミッˈタン [ʔaˈwariˈnu ˈgoːˈkaʤi ˈʃiː mitˈtaŋ](難儀苦労の限りをしてみた＜経験してみた＞)。

アˈワˈリヨーリ [ʔaˈwaˈrijoːri] 【名】難儀苦労。体を悪くするほどの苦労。カˈヌˈ　プˈソーˈ　バˈカーˈンケン　アˈワˈリヨーリ　ˈスンˈケン　パˈタラキティルˈ　パˈヤˈジニ　ˈシェーˈル　キˈムイˈツァー [kaˈnuˈ puˈsoːˈ baˈkaːˈŋkeŋ ʔaˈwaˈrijoːri ˈsuŋˈkem paˈtarak-itiruˈ paˈjaˈʤini ˈʃeːˈru kiˈmuiˈtsaː](あの人は若い時に体を痛めるほどの苦しい仕事をして＜ぞ＞早死にしてしまったのだ。気の毒に＜肝痛さよ＞)。

アˈヲーˈン [ʔaˈwoːˈŋ] 【形】青い。ˈティンマーˈ　アˈヲーˈン [ˈtimmaːˈ ʔaˈwoːˈŋ](空＜天＞は青い)。ˈナンˈゾー　アˈヲー　ナーˈヌ [ˈnanˈʤo: ʔaˈwo: naːˈnu](あまり青くない)。ˈシンダイˈ　アˈヲーˈ　ナルン [ˈʃindaiˈ ʔaˈwoːˈ naruŋ](次第に青くなる)。アˈヲーˈ　ムノー＜ˈアウムノーˈ＞　トゥˈルˈナ [ʔaˈwoːˈ muno: ＜ˈʔaumunoːˈ＞ tuˈruˈna](青いものは取るな)。ˈマーˈビン　アˈヲーˈカー　ˈミサ　ムヌˈナー [ˈmaːˈbiŋ ʔaˈwoːˈka: ˈmisa munuˈnaː](もっと青ければ良いのになあ)。

ˈアン [ˈʔaŋ] 【名】網。ムˈジˈアン [muˈʤiˈʔaŋ](極細目の網)、スˈクアン [suˈkuʔaŋ](底網)、ˈキタアン [ˈ kitaʔaŋ](桁網)、パˈリアン [paˈriʔaŋ](張り網) などがある。ˈアン　ウˈラˈスン [ˈʔaŋ ʔuˈraˈsuŋ](網を下ろす。追い込み漁をする)。ˈアン　スˈクン [ˈʔan su̥ˈkuŋ](網を編む。網の破れを繕う)。ˈアン　ˈプスン [ˈʔam ˈpusuŋ](網を干す)。ˈガヤヤーヌ　ティˈジˈナー　ˈアン　カˈバˈシティ　カˈジフキヌˈ　カˈキンˈグ　ˈシーˈヨー [ˈgajajaːnu tiˈʤiˈnaː ˈʔaŋ kaˈbaˈʃi̥ti kaˈʤiɸu̥kinuˈ kḁˈkiŋˈgu ˈʃiːˈjoː](茅葺き屋根の甍＜頂(イタダキ)＞に網を被せて台風＜風吹き＞の対策＜格護＞をしなさい)。

ˈアン [ʔan] 【名】餡 (あん)。アˈガマミヌˈ　アン [ʔa ˈgamaminuˈʔaŋ](小豆の餡)、クˈマミヌˈ　アン [kuˈ maminuˈʔaŋ](緑豆、＜ヤエナリ＞の餡)、ˈミーˈスアン [ˈmiːˈsuʔaŋ](味噌餡) などがある。アˈガマミバ　ネーシティˈ　ッˈふサタˈトゥ　マˈザーˈシティ　ˈアン　スˈクˈリ [ʔaˈgamamiba neːʃitiˈ fˈfusataˈtu maˈʤaːˈʃi̥ti ˈʔan su̥ˈkuˈri](小豆を煮て黒砂糖と混ぜて餡をを作りなさい)。

ˈアン [ʔaŋ] 【自動】1ある (有る、在る)。対義語は、ˈナーˈ

ヌ [ˈnaː˥nu](無い)。カˈレー　ジン˥マー　ヤˈマシゥ˥カ　˥アン [kaˈreː ʤim˥maː jaˈmasɨ̥˥ka ˥ʔaŋ](彼は、金はたくさんある＜有＞)。ˈジンフク˥ルナー　ˈジン˥マー　˥アン [ˈʤiŋɸu̥ku˥runaː ˈʤim˥maː ʔaŋ](財布＜金袋＞には金はある＜在＞)。ˈジン˥マー　˥ウナーン　˥カナーン　˥アン [ˈʤim˥maː ˥ʔunaːŋ ˥kanaːŋ ˥ʔaŋ](金は、ここにもあそこにもある)。˥アイブ　˥クトゥーン　˥アン [˥ʔaibu ˥kutuːŋ ʔaŋ](そんなこともある)。ティˈダ˥ヌ　˥アルンケンナー　ˈギーッティ˥　クーˈディー [tiˈda˥nu ˥ʔaruŋkennaː ˈgiːtti˥ kuːˈdiː](日があるうちに＜太陽が照っているうちに＞行ってこようよ)。ˈジン˥マー　˥アリティ　ˈナーン˥ティ　アˈジ　アー˥ク [ˈʤim˥maː ˥ʔariti ˈnaːn˥ti ʔaˈʤi ʔaː˥ku](お金はあるのに＜有って＞無いといっている)。ˈジン˥ヌ　˥アル　˥ピンマー　サˈニ˥ヤン [ˈʤin˥nu ˥ʔaru ˥pimmaː saˈni˥jaŋ](金のある時は嬉しい)。ˈマー˥ビン　˥アレー　˥ミサムヌ [ˈmaː˥biŋ ˥ʔareː ˥misamunu](もっと有れば良いのに)。˥アン [˥ʔaŋ](ある) は、動詞としてのはたらきのほか、次のように用いられる。2形容詞語幹に接尾辞「サ」をつけて、それと結合して活用形をつくるが、この例は少ない。ˈヌッ˥サン [ˈnus˥saŋ](温い)。ピˈルマ˥サン [piˈruma˥saŋ](珍しい)。鳩間方言形容詞の多くは、形容詞語幹に直接に「有り・ム」がついて形成されるものが多い。タˈカー˥ン [taˈkaː˥ŋ](高い)、ピˈコー˥ン [piˈkoː˥ŋ](低い)、ˈトゥー˥ワン [ˈtuː˥wan](遠い)、ウˈカ˥ヤン [ʔuˈka˥jaŋ](おかしい)、バˈカ˥ヤン [baˈka˥jan](恥ずかしい) など。【活用形と用例】。(i) 未然形。アˈラ˥ヌ [ʔaˈra˥nu](〜でない)。ウˈレー　バー˥モー　アˈラ˥ヌ [ʔuˈreː ˈbaː˥ moː ʔaˈra˥nu](それは私のではない)、クˈレー　ワー˥　アˈラン˥カー　ˈター˥ヤ [kuˈreː waː˥ ʔaˈraŋ˥kaː ˈtaː˥ja](これは君でなければ誰か)、ミˈク˥ミ　アˈラ˥スン [miˈku˥mi ʔaˈra˥suŋ](見込みあらせる、見込みあるようにする)。(ii) 連用形。ギューˈサン˥　アˈリン˥ギサン [gjuːˈsaŋ˥ ʔaˈriŋ˥gisaŋ](いくらでも有りそうだ)、ウˈヌアタ˥ロー　アˈリ˥ル　ˈスー [ʔuˈnuata˥roː ʔaˈri˥ru ˈsuː](それくらいは有りぞする)。(iii)　終止形。˥カマナー　˥ヌーンクイン　˥アン [˥kamanaː ˥nuːŋkuiŋ ˥ʔaŋ](あそこには何もかも有る)。シルウチヌ　メーヌウチ　ヤーバシゥクリ　アンティスー　ウリユ　ミューナーキャームイ (「ヤーヌフンシキ　アーパーレー」歌)、˥ウナー　アンティˈゲ˥ラ [ʔunaː ʔantiˈge˥ra](そこに有るさ)、˥ウナー　スˈムチ˥ヌ　˥アン [˥ʔunaː suˈmutʃi˥nu ʔaŋ](そこに書物がある)。(iv) 連体形 1。˥カナー　˥アルムノームーˈル˥　アˈツァ˥ミクー [˥kanaː ˥ʔarumunoː muːˈru˥ ʔaˈtsa˥mikuː](あそこにあるものは全部集めてこい)、ウˈビ˥ル　˥アル　ˈマービン˥マー　ˈナー˥ヌ [ʔuˈbi˥ru ˥ʔaru ˈmaːbim˥maː ˈnaː˥nu](これだけしかない＜これだけぞある＞、もっと多く＜他に＞はない)。(v)　連体形 2。ティˈダ˥ヌ　˥アルンケンナー　パˈタ˥キ　ˈカイ˥シ [tiˈda˥nu ˥ʔaruŋkennaː pḁˈta˥ki ˈkai˥ʃi](太陽があるうちに畑を耕せ)。(vi) 已然形。ˈマー˥ビン　˥アレー　˥ミサムヌ [ˈmaː˥biŋ ˥ʔareː ˥misamunu](もっと有れば良いのに)。

ˈアン [ˈʔaŋ] 【名】東。ˈアンタ [ˈʔanta](東の方)。ˈアンヌ　ホー　ホーラ˥　カˈジヌ˥　フキ　˥クン [ˈʔannu hoːra˥ kaˈʤinu˥ ɸu̥ki ˥kuŋ](東の方から風が吹いてくる)。

˥アン [˥ʔaŋ] 【名】網。˥アンシ　イˈズ˥　ガˈラ˥シ　クーˈディー [˥ʔaŋʃi ʔiˈʤu˥ gaˈra˥ʃi kuːˈdiː](網で魚を漁獲して＜繋らせて＞こようよ)。

˥アン [˥ʔaŋ] 【名】餡。茹でた小豆などに砂糖を混ぜ、さらに煮て練ったもの。餅の中に包みいれるもの。ムˈチ˥ナー　˥アン　イˈリティ　アン˥ムチ　スˈク˥リバ [muˈʧi˥na ˥ʔaŋ ʔiˈriti ʔammu˥ʧi su̥ˈku˥riba](餅に餡を入れて餡餅を作りなさいよ)。

ˈアン˥カー [ˈʔaŋ˥kaː] 【名】錨 (いかり)。英語からの借用語。日露戦争で海軍に入隊した兵隊から広がったといわれている。鳩間島出身の海軍兵士が一年間の兵役を務めて除隊後島に帰り、「鳩間方言は忘れた」といって話題になったという伝説がある。同じ頃に英語から借用された語に、ゴーヘー [ˈgoːheː](前進せよ)、ゴーシタン [ˈgoːʃitaŋ](後退せよ)、ブˈリッ˥ジ [buˈrid˥ʤi](船室)、和語からの借用語に、ˈヨー˥ソロー [ˈjoː˥soroː](宜候、直進せよ)、ウˈム˥カージ [ʔuˈmu˥kaːʤi](面舵、右舷方向)、トゥˈリ˥カージ [tuˈri˥kaːʤi](取り舵、左舷方向) などがある。今では八十歳台の古老も、これらを伝統的な鳩間方言と信じて疑わない。

ˈアン˥カージナ [ˈʔaŋ˥kaːʤina] 【名】碇に繋ぐ綱。英語からの借用語ˈアン˥カー (anchor) に、˥シナ [˥ʃina](綱) が下接して生成された合成語 (複合語)。複合の際に、後接語の頭子音が濁音化したもの。ˈアン˥カーは明治後期に帝国海軍を除隊した兵士が流行らせたという。今では老年層の人までがアンカーを伝統的方言と信じて疑わない。カˈラグ [kaˈragu](碇。「金具」の転訛したものか) が伝統的鳩間方言であるという。アンカージナには　(i)　普通

の碇綱 (アンカーロープ) の意味と、(ii)　イカ釣り漁の際に、潮の流れに舟が流されるのを防ぐために 40〜50 尋の藁縄に重石をつけて深海に投入するもの、の意味がある。

˞アンカー˜ジナ [˞ʔaŋ˜kaːʤina] 【名】アンカーロープ。錨綱。アンカーは外来語。明治時代に帝国海軍から伝播したという。

˞アンカジ [˞ʔaŋkadʒi] 【名】東風。涼風。˞アンカジヌ　スー˜カー　˞オーシケー　ノー˜ルン [˞ʔaŋkadʒinu suː˜kaː ˞ʔoːʃi̥keː noː˜ruŋ](東風が吹く＜そよぐと＞と天気がよくなる)。

˞アン˜ガマ [˞ʔaŋ˜gama] 【名】お盆のナ˞カヌ˜　ピー [na˞kanu˜ piː](中日) とウ˞クリ [ʔu˞kuri](お送り、精霊送り) の夜に祖霊を慰めもてなすために獅子舞をするが、獅子舞の前に仏間の庭先で歌い舞われる念仏踊り (「姉さん踊り」の義)。クバの葉扇を片手に持った翁と媼が右へ左へと手を振りつつ現れると、木の葉で仮面を作って被り、タオルで頬被りしてクバ笠を目深くかぶり、変装した青年男女が踊る仮面仮装の入子型の舞踊集団。男女とも裏声をつかいながら曲目をリクエストしたり、問答を交わしたりする。ナ˞カグス˜ク [na˞kagusu˜ku](ヒンプン) と軒先の中庭で˜ジーシンカ [˜ʤiːsiŋka](地謡組) が三味線を弾き太鼓や銅鑼を打ち鳴らしてム˞ヌン˜グイウタ [mu˞nuŋ˜guiuta](物乞い歌) を歌う。それに合わせて筵を出して敷き、煙草盆を出し、煙管、酒、ウサイ (お菜) を出す。獅子舞いを出すようにと歌いだす頃から仮面仮装のアンガマ一団が裏声でアンガマ踊りを要求する。地謡がそれに応えて、˞ニンブ˜ツァー [˞nimbu˜tsaː](念仏歌) を弾くとクバ扇を持った翁、おうなに続いてアンガマ踊りの一団が「ヒヤリクヨイサー、サーサー」と掛け声を出して躍り出す。これが済むと歌のテンポが急変し、様々な曲目が演奏され、アンガマーたちの飛び入りの踊りが始まる。これが済むと獅子舞の曲に変わって獅子舞が演舞される。獅子舞の途中にジーシンカ (地謡組) が「イーヨーイーヨー」という囃子をいれると、獅子舞が終了することになり、次の家へと移動する。道中でイ˞リクヌ˜ティー [ʔi˞rikunu˜tiː](入れ子の笛) の曲が二回吹奏され、「シーシェーマヌ　オールンドー」(獅子舞いがいらっしゃるぞ) の合奏曲とミ˞チウタ [mi˞ʧiuta](道歌) が歌われると次の家では受け入れの準備が始まる。こうしてお盆の中の日は夜通しアンガマが踊られた。

˞アン˜ガマ　˜カブン [˞ʔaŋ˜gama ˜kabuŋ] 【連】1アンガマの面を被る。アンガマ踊りをする。ム˞カ˜シェーバ˞カー˜ムンケーヤ　˞アン˜ガマ　˜カビ　˞シェー˜ティル　ウ˞ヤ˜プスンケー　トゥ˞ル˜ムチ　˞ソーッタ˜ル [mu˞ka˜ʃeː ba˞kaː˜muŋkeːja ˞ʔaŋ˜gama ˜kabi ˞ʃeːti˜ru ʔu˞ja˜pu̥suŋkeː tu˞ru˜muʧi ˞soːtta˜ru](昔は若者達はアンガマ面被りの踊りをして先祖を取り持ち歓待されたものだよ)。2転じて、子供が拗ねたり、男が酒を飲んで常軌を逸した行動をとることにもいう。˞キュー˜ヤータ　キ˞サーティ˜　ビータリ　˞アン˜ガマ　カ˞ビ˜ル　˞オール˜バン [˞kjuː˜jaːta ki̥˞saːti˜ biːtariti ˞ʔaŋ˜gama ka˞bi˜ru ˞oːru˜ban](今日はまたすでに酔いつぶれて常軌を逸したことをして＜アンガマを被って＞おられるわい)。

˞アン˜ガマクイ [˞ʔaŋ˜gamakui] 【名】裏声。不自然な甲高い声。˜ビーティル　˜アイブ　˞アン˜ガマクイ　ン˞ザ˜シティ　˞グンダン˜　タ˞キベー [˜biːtiru ˜ʔaibu ˞ʔaŋ˜gamakui ʔn˞ʤa˜ʃi̥ti ˞gundan˜ ta˞kibeː](酔っ払って、あんなアンガマ声を出してくだを巻いている)。

˞アン˜ガマムニ [˞ʔaŋ˜gamamuni] 【名】アンガマことば。アンガマで使うような裏声のことば。通常は使わない裏声で話す言葉。奇妙な言葉遣い。酔っ払いの使う正常でない言葉遣い。˜アイブ　˞アン˜ガマムニ　イ˞ズナ˧ツォー [˜ʔaibu ˞ʔaŋ˜gamamuni ʔi˞ʤuna˧tsoː](あんな奇妙なアンガマことばを使うなよ)。

˞アンガラスン [˞ʔaŋgarasuŋ] 【他動】1あげる。上方へあげる。持ち上げる。˞ヨイ˜サークイ　˞マー˜ビン　˞ウンター　アンガラシ [˞maː˜biŋ ˞ʔunta: ʔaŋ-garaʃi](ぶらんこを漕いでもっと上に揺り上げなさい)。2座礁させる。船を浅瀬に乗り上げる。˞ハー˜ガイナ　˜フネー　˞アンガラシティ　ウーカサラ˜ヌ [˞haː˜gaina ˜ɸuneː ˞ʔaŋgaraʃiti ʔuːkasara˜nu](暗礁に船を座礁させて＜乗り上げて＞動かされない)。3舞い上がらせる。有頂天にする。ヤ˞ラ˜ベー　フ˞ミ˜ルカー　マー˞ンバー˜キン　˞アンガルンダー˜　ドゥク　˞アンガラスナ [ja˞ra˜beː ɸu˞mi˜rukaː maː˞mbaː˜kiŋ ˞ʔaŋgarundaː˜ duku ˞ʔaŋgarasuna](子供は褒めると何処までもつけ上がるから、あまりつけあがらせるな)。

˞アンガリピャーン˜ガリ [˞ʔaŋgaripjaːŋ˜gari] 【名】跳ね上がること。飛んだり跳ねたりすること。イ˞カムス˜ク　サ˞ニ˜ヤタユー　˞アンガリピャーン˜ガリ　˞シーベー [ʔi˞kamusu˜ku sa˞ni˜jataju: ˞ʔaŋgaripjaːŋ

˜gari ˞ʃiːbeː](どんなに＜如何程＞嬉しかったのか、飛んだり跳ねたりしている)。

˞アンガルン [˞ʔaŋgaruŋ] 【自動】上がる。「～ひばり安我里～。万、4292」の転訛したもの。濁音の前の音節を表す万葉仮名に陽類韻尾を持つ「安」が用いられていることから、古代日本語のガ行音はガ行鼻濁音であったと推定される。ア˞ガルン [ʔa˞garuŋ](上がる) ともいう。˞イン˜ヌ　ッ˞ス˜ヌ　タ˞カアン˜ガリ [˞ʔin˜nu s˞su˜nu tạ˞kaʔaŋ˜gari](犬の糞の高上り＜身分の低い者や能力のない者が高い位置に座りたがること＞諺)。ミ˞ドゥ˜モー　フ˞ミ˜ルカー　マー˞ンバー˜キン　˞アンガルン [mi˞du˜moː ɸu˞mi˜rukaː maː˞mba:˜kiŋ ˞ʔaŋgaruŋ](女は褒めるとどこまでも舞い上がる)。˜フネー　˞グッふァ˜ヌ　˞アンガラヌ [˜ɸuneː ˞guffa˜nu ˞ʔaŋgaranu](船は重くて陸揚げ出来ない)。˜フネー　˞ハー˜ガイナ　˞アンガリ　ベー [˜ɸuneː ˞haː˜gaina ˞ʔaŋgaribeː](船は浅瀬に座礁して＜乗り上げて＞いる)。˞アンガル˜クトー　˞ナー˜ヌ [˞ʔaŋgaru˜ kụtoː ˞naː˜nu](座礁することはない)。

˞アンギルン [˞ʔaŋgiruŋ] 【他動】持ち上げる。陸揚げする。漁船やイダフニを陸揚げする。˜マー　ン˞ベーマ　ウイ　アンギリ [˜maː ʔm˞beːma ʔui ʔaŋ-giri](もう少し上の方に持ち上げなさい)。カ˞ツシンヌ˜　シ˞マウター˜　フ˞ニ˜バ　パ˞マ˜ナー　˞アンギルンティ　オー˜ル [kạ˞tsuʃinnu˜ ʃi˞mautaː˜ ɸu˞ni˜ ba pa˞ma˜naː ˞ʔaŋgirunti ʔoː˜ru](鰹漁の漁期が終わったので漁船を浜に陸揚げしようとしておられる)。

˞アングン [˞ʔaŋguŋ] 【他動】1上げる。挙げる。揚げる。「～うなゐはなりに髪擧都良武＜アゲツラム＞か。万、3823」の「上ぐ (下二段)」の四段活用化したもの。˞アンギルン [˞ʔangiruŋ](上げる) と同じ。˜ティー　アングン [˜tiː ˞ʔaŋguŋ](手を上げる)。˜バー　˞アンガヌ [˜baː ˞ʔaŋganu](わたしは上げない)。˜イダフニ　˞アンギ˜　ミサカー　˞アング˜　クトー　˜ナルン [˜ʔidaɸuni ˞ʔaŋgi˜ misakaː ˞ʔaŋgu˜ kụtoː ˜naruŋ](サバニ＜板舟＞を陸揚げしてよければ、陸揚げすることは出来る)。˞マー˜ビン　˞アンゲー˜　ミサムヌ [˞maː˜biŋ ˞ʔaŋgeː˜ misamunu](もっと揚げればいいのに)。マ˞ナ˜マー　˞アングナ [ma˞na˜maː ˞ʔaŋguna](今は上げるな)。˞パー˜ク　˞アンギ [˞paː˜ ku ˞ʔaŋgi](早く揚げろ)。˜フニ　˞アングン [˜ɸuni ˞ʔaŋguŋ](舟を陸揚げする)。˞アンガヌ [˞ʔaŋganu](揚げない)。ッ˞シェー˜　プ˞ソー˜　ティー　˞アンギ˜＜ア˞ギ˜＞　ミサン [ʃ˞ʃeː˜ pụ˞soː˜ tiː ˞ʔaŋgi˜ ＜a˞gi˜＞ misaŋ](分る人は手を挙げても良い)。˜ティー　˞アンガヌ [˜tiː ˞ʔaŋganu](手を上げない)。˞アング˜　クトー　ナ˞ラ˜ヌ [˞ʔaŋgu˜ kụtoː na˞ra˜nu](上げることはできない)。˞マー˜ビン　˞アンゲー˜　ミサムヌ [˞maː˜biŋ ˞ʔaŋgeː˜ misamunu](もっと上げれば良いのに)。˞パー˜ク　˞アンギ [˞paː˜ku ˞ʔaŋgi](早く上げろ)。2揚げる。掲げる。カ˞ツシンマー　ミールパタ　アンギティ˜　ケー˞ツォー [kạ˞tsuʃimmaː miːrupata ʔaŋgi˜ti˜ keː˞tsoː](カツオ漁船は三色の大漁旗を揚げて帰港してきたんだよ)。

˞アンサン [˞ʔansaŋ] 【名】安産。˞ソー　シートー˜　ア˞タラン　アンザンバ　シー˜　マ˞ギーマギー˜シ　ビ˞コーンッふァ˜　ナシェーンツォー [˞soː ʃiː-toː˜ ʔa˞taraŋ ʔanzamba ʃiː˜ ma˞giːmagiː˜ʃi bi˞koːŋffa˜ naʃeːntsoː](心配したのとは反対に＜当らず＞安産をして、大きな男の子を産んだそうだ)。

˞アンシキ˜イトゥ [˞ʔaŋʃị̊ki˜ʔitu] 【名】網を繕う糸。「網突き糸」の義か。一度網を海に入れると珊瑚や海石に引っかけて網目を破損することがある。漁が終わると網を干した後に破れを繕うが、その際に用いる糸のこと。˞アンシキ˜イトゥ　˞カイ˜キー　ッ˞ふィーリ [˞ʔaŋʃiki˜ʔitu ˞kai˜kiː f˞fiːri](網繕い糸を買ってきてくれ)。

˞アンシキ˜パル [˞ʔaŋʃiki˜paru] 【名】網を繕う針。「網突き針」の義か。幅約 3 センチ、長さ約 15 センチの竹の板の中央に突起を作りその両側を刳り抜いて糸が巻けるようにした網を編む器具。˞アンシキ˜パルシ　˜アン　ス˞クン [˞ʔaŋʃị̊ki˜paruʃi ˜ʔan sụ˞kuŋ](網繕い針で網を編む)。

˞アンシン [˞ʔaŋʃiŋ] 【名】安心。共通語からの借用語。伝統方言では、キ˞ムユラ˜スン [ki˞mujura˜suŋ](心を許す。安心する。) という。˜シラソージン　ウ˞チナ˜シ　˜シラプスヌ　˞シー˜ヌン　イッ˞ケナ　アイブバ　アンシン˜　ヤ˞ロー˜ルメー [˞ʃiraso:ʤiŋ ʔu˞ʧina˜ʃi ˜ʃirapụsunu ˞ʃiː˜nuŋ ʔik˞kena ʔaibuba ˞ʔaŋʃiŋ˜ ja˞roː˜ru meː](産室の精進祈願もうち済ませ、産婦の乳も大変よく出ている＜滴り出ている、滲み出ている＞ので安心であられますよ、もう)。

˞アン˜スク [˞ʔan˜suku] 【名】網袋。ア˞ダナ˜シ [ʔa˞dana˜ʃi](アダンの気根) の繊維で綯った縄で箱型の網袋に編み、手提げ用の紐を付けた野外用手提げ網袋。弁当やマッチ、煙草、その他の小物類を入れたり、潮干狩りの獲物を入れたりして運ぶのに用いる小型の運搬用網袋。アダナシ縄製野外用ハ

ンドバッグ。パ˞トゥ˞マプソー　ミ˞ドゥ˞ム　˞ビキドゥムティ　˞ナー˞ン　˞アンスク˞バ　˞ムテーティル　パ˞タ˞ケーン　イ˞ソーン　オーッ˞タヨー [pḁ ˞tu˞mapu̥so: mi˞du˞mu ˞bikidumuti ˞na:˞ŋ ˞ʔansu̥ku˞ ba ˞mute:tiru pḁ˞ta˞ke:ŋ ʔi˞so:ŋ ʔo:t˞tajo:](鳩間人は男女の区別はなくアンスクを持ちながら畑にも潮干狩り＜磯＞にも行かれたよ)。

˞アンスク˞ライ [˞ʔansu̥ku˞rai] 【名】網の破れを繕うこと。˞網繕い」の義。˞アンウラシ˞ヌ　˞アトー　˞アン˞マー　˞プシティ　ヤー˞ディン　アンスク˞ライ　˞シーソーッ˞タ [˞ʔaŋʔuraʃi˞nu ˞ʔato: ˞ʔam˞ma: ˞pu̥ʃiti ja:˞diŋ ʔansu̥ku˞rai ˞ʃi:so:t˞ta](網下し＜追い込み漁＞の後は、網は天日干しをして、必ず網繕い＜網の修理＞をされたものだ)。

˞アンタ [˞ʔanta] 【名】東の方。˞フネー　˞アンター˞イ˞サナケー　パッ˞タ [˞ɸune: ˞ʔa:ta:˞ ʔi˞sanake: pat ˞ta](船は東の方へ、石垣島へ行った)。東。˞ヤー˞ヌ　˞アンタ˞ナ　フ˞クンキーヌ˞　ムイ˞ベー˞ン [˞ja:˞nu ˞ʔanta˞na ɸu̥˞kuŋki:nu˞ mui˞be:˞ŋ](家の東に福木が生えている)。˞ワー　アンター˞ラ　ンジクー [˞wa: ʔanta:˞ra ʔndʒiku:](君は東の方から出てきなさい)。˞アンタヌ˞　ヤー [˞ʔantanu˞ ja:](東の家。東の方の家)。

˞アンタヌ　ズンズンヌ˞　フ˞チ [˞ʔantanu ʤunʤunnu˞ ɸu̥˞ʧi] 【連】海底地名。鳩間島の東北東の海岸にある、˞ズンズン [˞ʤunʤuŋ](干瀬の珊瑚礁が一段高く、引き潮に差し掛かると干瀬の海水が澪 (ミズヌカン) の方へと勢いよく流れ落る。また満ち潮になると、海水は外洋部から干瀬の礁池の方へ流れ込む所) と澪の部分へと続く所。

˞アンタハンタグゥー˞テー [˞ʔantahantagwa:˞te:] 【名】屋号。旧姓通事太郎氏 (現小泉太郎氏) 宅。鳩間村二班、フ˞ク˞マレー [ɸu̥˞ku˞mare:](友利家) の東にあった。長男の小泉勝氏は鳩間島出身の、最初の沖縄県行政書士会会長を勤め、那覇在鳩間郷友会会長として活躍した。˞ウン˞ネーヤ　マ˞ナ˞マー　˞コイ˞ズミティ　ア˞ゾール˞ヌ　˞キサー　˞ハンタグゥー˞テーティル　ア˞ゾーッタ˞ル [˞ʔun˞ne:ja ma ˞na˞ma: ˞koi˞ʤumiti ʔa˞ʤo:ru˞nu ˞ki̥sa: ˞hantagwa:˞ te:tiru ʔa˞ʤo:tta˞ru](その家は、今は小泉と言われるが、以前は˞ハンタグゥー˞テーといわれていたよ)。

˞アンダミー˞ス [˞ʔandami:˞su] 【名】油味噌 (あぶらみそ)。伝統的な保存食。豚三枚肉を約 1 センチ程度の角切りにして油で炒め、脂を抽出した油粕に味噌、砂糖を入れて混ぜ、焦げないように炒め合わせたもの。茶請け等に供される。石垣方言からの借用語。旧盆や旧正月用に豚を屠(ホフ)り、その三枚肉を利用して脂味噌を作った。˞アンダミー˞ソー　˞オー˞ヌ　ア˞バッ˞タラ　グ˞マーグマー˞シ　˞キシティ　ア˞バ˞ナビナ　ヤ˞キ˞　アバ　˞シジタリティ　ウ˞ヌ˞　ア˞バカシ˞バ　˞ミース˞トゥ　˞サタ　カ˞ケー˞シティ　ウ˞リバ˞　イ˞ラ˞キティル　ス˞ク˞ローッタ [˞ʔandami:˞so: ˞ʔo:˞nu ʔa˞bat˞tara gu˞ma:gu-ma:˞ʃi ˞ki̥ʃiti ʔa˞ba˞nabina ja˞ki˞ ʔaba ˞ʃiʤitariti ʔu˞nu˞ ʔa˞bakaʃi˞ba ˞mi:su˞tu ˞sata kḁ˞ke:˞ʃi̥ti ʔu˞riba˞ ʔi ˞ra˞kitiru su˞ku˞ro:tta](脂味噌は豚の脂肉を小さく切って油鍋で焼いて油を抽出し＜煎じて＞、その油粕を味噌と砂糖を混ぜ合わせ、それを炒って＜ぞ＞作られた)。

˞アンツォー [˞ʔantso:] 【名】ソーダ (曹達)。ふくらし粉用に用いる重曹のこと。テンプラを揚げる際に用いていた。˞ティン˞プラ　ヤ˞ク˞　ピンマ　˞アンツォー˞　イ˞リル˞カー　フ˞クリティ˞　ン˞マーントダー [˞tim˞pura ja˞ku˞pimma: ˞ʔantso:˞ ʔi˞riru˞ka: ɸu̥ ˞kuriti˞ ʔm˞ma:nɦda:](テンプラを揚げる際は、アンツォーを入れるとふっくらと膨れて美味しいよ)。フ˞クラシクー [ɸu̥˞kuraʃiku:](ふくらし粉) ともいう。

アン˞デー˞カー [ʔan˞de:˞ka:] 【接】それなら。それでは。˞アン˞ドゥ　ヤ˞ルッ˞カー [˞ʔan˞du ja˞ruk˞ka:](それであるならば) の縮約形。アン˞デー˞カー　˞ワー˞　ウムー　˞トゥー˞ル　˞シー˞バ [ʔan˞de:˞ka: ˞wa:˞ ʔumu: ˞tu:˞ru ˞ʃi:˞ba](それなら君が考える＜思う＞通りにしなしよ)、アン˞デー˞カー　ウ˞レーッテ˞　アイル　ア˞ザバル˞　ナ˞ル [ʔan˞de:˞ka: ʔu˞re:tte˞ ʔairu ʔa˞ʤabaru˞ na˞ru](そんなら、それはそのように言わないといけないのか＜いわばぞ　なるのか＞)。[ʔandu・jaruka:] → [ʔandujaka:] → [ande:ka:] と音韻変化したもの。前件の確定条件的表現を受けて後件の表現を述べる順態接続。アン˞デー˞カー　˞バー　˞カーヌ [ʔan˞de:˞ka: ˞ba: ˞ka:nu](それなら私は買わない)。アン˞デー˞カー　˞ワー　シー [ʔan˞de:˞ka: ˞wa: ʃi:](それなら君がやれ)。

˞アン˞トゥル [˞ʔan˞turu] 【名】地名。西表島西部にあった村落名。網取湾に面した所に開けた小さな農村。現在は廃村となっている。˞アン˞トゥルナー　˞ガッ˞コーン　˞アリ　カ˞ナ˞ケーヌ　˞ウトゥザン　˞オーッ˞タン [˞ʔan˞turuna: ˞gak˞ko:ŋ ˞ʔari ka

˞na˞keːnu ˞ʔutudʑaŋ ˞ʔoːt˞taŋ](網取村には学校もあり、兼久家の親戚もおられた)。

˞アン˞ドゥル [˞ʔan˞duru] 【名】ぼろぼろの状態。網の目のようにあちこちに穴が開いている状態。˞ワー　キン˞マー　˞アン˞ドゥル　ナ˞リ˞ブバー　メー　キ˞スナ˞　シ˞ティリ [˞waː kim˞maː ˞ʔan˞duru na˞ri˞bubaː meː kᵢ˞suna˞ ʃᵢ˞tiri](君の着物は網の目のように穴が開いてボロボロの状態になっているから、もう着るな。捨てなさい)。˞アン˞ドゥル　˞ナルンケン　キ˞シス [˞ʔan˞duru ˞naruŋkeŋ kᵢ˞ʃisu](網目のようにあちらこちら穴が開いた状態になるまで着る＜着ぞする＞)。

˞アン　˞トン [˞ʔan ˞toŋ] 【連】ある所。˞アルン　˞トン [˞ʔarun ˞toŋ](ある＜在る＞所) の縮まった形。マ˞チヤーヌ˞　アントン　˞バー˞キ　˞サーリ˞パリッ˞ふィーリ [ma˞tʃijaːnu˞ ʔantom ˞baː˞ki ˞saːri˞pari f˞fiːri](店のあるところまで連れて行ってくれ)。

アン˞ナー˞マ [ʔan˞naː˞ma] 【名】花嫁。「姉・ガマ」の転訛。「アニ」に指小辞「ガマ」の「ガ」が融合脱落して形成されたもの。˞マイ˞ネヌ　プ˞ソー˞　アン˞ナー˞マ　˞サーロー˞ルンツォ [˞mai˞nenu pᵤ˞soː˞ ʔan˞naː˞ma ˞saːroː˞runtsoː](前の家の人は花嫁を迎えられるそうだ)。指小辞˞ナー˞マ [˞naː˞ma](小) は指小辞˞マ [˞ma](小) の異形態で、上接語の語末がNで終わる時に法則的に現れる。従って上接語の˞アン [ʔaŋ] は「姉」の義で、義弟妹からの愛称であったことが帰納される。

アン˞ナー˞マ　˞クーン [ʔan˞naː˞ma ˞kuːŋ] 【連】花嫁を娶る。花嫁をもらう。「花嫁を乞う」の義。マ˞ダ˞　アン˞ナー˞マ　˞コー˞ヌ [ma˞da˞ ʔan˞naː˞ma ˞koː˞nu](まだ花嫁を貰ってない)。アン˞ナー˞マ　˞クイン　˞パルン [ʔan˞naː˞ma ˞kuim ˞paruŋ](花嫁を貰いに行く)。ユ˞ミ˞　クーン [ju˞mi˞ kuːŋ](嫁を貰う＜乞う＞)、トゥ˞ジ˞　トゥムン [tu˞dʒi˞ tumuŋ](妻を娶る＜妻を探す＞) ともいう。

アン˞ナー˞マ　˞サーリ˞ヨイ [ʔan˞naː˞ma ˞saːri˞joi] 【連】結婚祝い。˞ニービキヨイ [˞niːbikijoi](結婚祝い) ともいう。アン˞ナー˞マヨイ　˞スー˞ピンマイ˞チ˞　ヤ˞ルン˞サ [ʔan˞naː˞majoi ˞suː˞ pimmaː ʔi˞tʃi˞ ja˞run˞sa](花嫁をもらう日＜結婚式＞はいつの日のことか)。

アン˞ナー˞マ　˞サールン [ʔan˞naː˞ma ˞saːruŋ] 【連】花嫁を娶る。結婚する。「花嫁を連れる」の義。ユ˞ミ　サールン [ju˞mi saːruŋ](＜嫁を連れる＞結婚する)、トゥ˞ジ　サールン [tu˞dʒi saːruŋ](結婚する＜妻を連れる＞) ともいう。アン˞ナー˞マ　˞サールンティ˞　サ˞ニンケーリ　オー˞ル [ʔan˞naː˞ma ˞saːrunti˞ sa˞niŋkeːri ʔoː˞ru](花嫁を迎えるといって喜んでおられる)。

アン˞ナー˞マ　ナルン [ʔan˞naː˞ma naruŋ] 【連】花嫁になる。嫁ぐ。˞マーッふァヌ　アン˞ナー˞マ　ナルンケン˞バー˞キ　イ˞キラ˞リンカヤー [˞maːffanu ʔan˞naː˞ma naruŋkem˞baː˞ki ʔi˞kira˞riŋkajaː](孫娘が嫁ぐ＜花嫁になる＞まで生きられるかなあ)。

アン˞ナーマ˞ヌ　˞アウ [ʔan˞naːma˞nu ˞ʔau] 【連】花嫁の供。八、九歳頃の少女が二人花嫁のそばに付き添っていて走り使いの用に供した。アン˞ナーマ˞ヌ　˞アウ˞ワ　˞タール　スワ [ʔan˞naːma˞nu ˞ʔau˞ wa ˞taːru suwa](花嫁の供は誰がするのか)。

アン˞ナー˞マヨイ [ʔan˞naː˞majoi] 【名】結婚祝い。「花嫁祝い」の義。˞ニービキヨイ [˞niːbikijoi](結婚祝い) ともいう。˞エン˞マー　˞バン˞テナーン　アン˞ナー˞マヨイヌ　˞アルパジ [˞jem˞maː ˞ban˞tenaːŋ ʔan˞naː˞majoinu ʔarupadʒi](来年は私の家にも結婚祝いがあるはずだ)。

˞アン　˞ナー˞ン　ッ˞サヌ [˞ʔan ˞naː˞n s˞sanu] 【連】金銭や食料の貯えがどれほどあるか知らないで浪費する。「有る無しも知らぬ」の義。ウ˞レー˞　アン　˞ナー˞ン　ッ˞サン　ムヌ˞　ヤ˞ルンダ˞　ア˞テー˞　ナ˞ラ˞ヌ [ʔu˞reː˞ ʔan ˞naː˞n s˞sammunu˞ ja˞runda˞ ʔa˞teː˞ na˞ra˞nu](あれは家庭の貯蓄がどれほどあるか分からず浪費する人だから、当てにならない)。

˞アンナイ˞ヌ　˞カウ [˞ʔannai˞nu ˞kau] 【連】「案内の香」の義。祈願の始めに神様にお取次ぎを願うための線香。先ず3本、12本の線香を焚いて、神様へお取次ぎの˞カン˞フチ　ニ˞ガイ˞フチ [˞kaŋ˞ɸᵤ˞tʃini˞gai˞ɸᵤ˞tʃi](神口、願い口) を唱える際に焚く線香。˞カンヌ˞マイ　˞ニン˞ガイ　˞ソー˞ル　˞バソー　ヤー˞ディン　アンナイ˞ヌ　˞カウヤー˞　タ˞ティ˞ソーッタ [˞kannu˞mai ˞niŋ˞gai ˞soː˞ru ˞basoː ja:˞diŋ ʔannai˞nu ˞kauja:˞ tᵩ˞ti˞soːtta](神前に祈願をされる場合は、必ず案内の香を焚いて立てられた)。

˞アンヌカー [˞ʔannukaː] 【名】東村のムラ井戸。東村の東北方の村はずれに位置する、鍾乳洞のウ˞リ˞カー [ʔu˞ri˞kaː](降り井戸)。入り口は高さ約3メートル、幅約5メートルの自然鍾乳洞が斜め下方に地下約20メートル掘り下げられ、石畳で階段が作られている。底部に湧水が溜まる池がある。湧水をウ˞ム˞ル [ʔu˞mu˞ru](クバの葉で作った柄杓) やフ˞ダ˞ル [ɸu˞da˞ru](熟した瓢箪を二つに切り割

り、のなかご＜中子＞を刳りぬいて作った柄杓)で汲み、水桶に入れて地上へ運び上げ、家へ運んで飲料用水として利用した。水質は西村の村井戸の水よりも甘く、水量も多いといわれている。˩アンヌカーヤ˥　ウ˩リ˥カー　˥ナリ　˩ブンダ˥　ミ˩ジ˥　カ˩タ˥ムンティル　˩ナン˥ギアワリ　シ˩タ˥ツォー [˩ʔannukaːja˥ ʔu˩ri˥kaː nari ˩bunda˥ mi˩ʤi˥ kạ˩ta ˥muntiru ˩naŋ˥giawari ʃi̥˩ta˥tsoː](東ムラ井戸は下へ降りて汲み上げる井戸になっているので、水汲みするのに難儀苦労をしたそうだ)。

˩アンヌムラ [˩ʔannumura] 【名】東村。˩インヌムラ [˩ʔinnumura](西村) の対語。鳩間村は伝統的な祭政の単位として、西村と東村から成立している。一年間の祭祀を執行するために西、東のムラよりム˩ラヤクサ [mu˩rajakusa](ムラの役人) を選出し、それを統括する˩スー˥ダイ [˩suː˥dai](総代) がサ˩カサ [sa˩kasa](司、神女、巫女) の助言を得て祭祀を執行していた。豊年祭のカ˩シ˥ラ [kạ˩ʃi˥ra](旗頭)、シ˩ナ˥ピキ [ʃi˩na˥pi̥ki](綱引き) の綱、˩パー˥レー [˩paː˥reː](爬竜船競漕) の船、˩ソー˥ラン [˩soː˥raŋ](お盆、精霊祭り) の˩シー˥シ [˩ʃiː˥ʃi](獅子舞の獅子頭) も西村 (雌)、東村 (雄) のような双分法に基づいて対立している。˩アンヌムラプソー　キーパチ˥ムヌ　˩インヌムラプソー　ミンダリ˥ムヌティ　ム˩カ˥シェーラ　ア˩ザリブー [˩ʔannumurapusoː kiːpatʃi˥munu ˩ʔinnumurapusoː mindari˥munuti mu ˩kaˇʃeːra ʔa˩ʤaribuː](東村人は気質が荒く、西村人は耳垂れ者＜温和な気質＞と昔から言われている)。

˩アンバイ [˩ʔambai] 【名】 1塩梅。味加減。標準語からの借用語。˩キュー˥ヌ　カ˩ティ˥ムノー　˩イー　アンバイユン˥ナー [˩kjuː˥nu kạ˩ti˥munoː ˩ʔiː ʔambaijun˥naː](今日のおかずは良い味加減だねえ)。2具合。都合。˩イー　アンバイニ　ワンヌン˥　キ˩ラ˥リ　˥アッパーン　サ˩ニヤ　シー　オー˥ルンティ [˩ʔiː ʔambaini wannuŋ˥ ki˩ra˥ri ˥ʔappaːn sa˩nija ʃiː ʔoː ˥runti](丁度いい具合に君も来ることができて、お祖母さんは喜んでおられるさ、ほら見てごらんよ)。

˩アンパカスン [˩ʔampakasuŋ] 【他動】すっかり任せる。おっかぶせる。全責任を負わせる。ウ˩ビ˥ヌ　シ˩グトゥバ　アンパカサリティ˥　ウ˩リバ　シートゥズミルンティル˥　ア˩ワ˥リ　˩シーベー [ʔu˩bi˥nu ʃi˩gutuba ʔampakasariti˥ ʔu˩riba ʃiːtuʤumiruntiru˥ ʔa˩wa˥ri ˩ʃiːbeː](あれだけの仕事の全責任を負わされて、それを完結させようと＜し終えようと＞して＜ぞ＞難儀苦労をしている)。

˩アンパクン [˩ʔampakuŋ] 【他動】ひっかぶる。全責任を負う。プ˩スヌ˥　ウ˩カ˥バ　˩アンパキティ˥　キ˩ナイヤー˥　シ˩ルッ˥コー　˥ナリ　˩ベーン˥ティ [pu̥˩sunu˥ ʔu˩ka˥ba ˩ʔampakiti˥ ki˩naijaː˥ ʃi˩ruk˥koː ˥nari ˩beːn˥ti](他人の負債を引っ被って家庭はぶち壊しになっているさ、ほら見てごらん)。

˥アンバタ [˥ʔambata] 【名】餅の中に入れる餡。ク˩ヌ˥　ム˩チェー˥　アンバタカヤー [ku˩nu˥ mu˩ʧeː˥ ʔambatakajaː](この餅は餡いりの餅かね)、アー˩イ˥　バタムチェー　ア˩ラ˥ヌ [ʔaː˩i˥ batamuʧeː ʔa˩ra˥nu](いや、餡入りの餅ではない)。

˥アンパル [˥ʔamparu] 【固】地名。名蔵湾に流入する名蔵川海域の干潟地帯。古謡「アンパルヌミダガーマユンタ」に詠われた地名。˥アンパルティ　ア˩ズン˥トンマー　˥バー　˩ギーミッ˥タン [˥ʔamparuti ʔa˩ʤun˥tommaː ˥baː ˩giːmit˥taŋ](アンパルという所は私は行ってみたことがある)。

˥アンピター [˥ʔampitaː] 【名】(動) 貝の名。和名、クロカラマツ (『原色沖縄海中動物生態図鑑』)、潮間帯の岩礁に付着している。直径約 1cm の六角～八角状円錐形の貝。˥アンピター　˥トウリ　ッ˩ふー˥　プ˩ソー˥　ブ˩ラーンシェン [˥ʔampitaː ˥turi f˩fuː˥ pu̥˩soː˥ bu˩raːŋʃeŋ](アンピターは取って食べる人はいなかった)。

˩アンブ˥シ [˩ʔambu˥ʃi] 【名】漁法の一つ。糸満漁師から伝えられた漁法という。西表島のカ˩タバル [kạ˩tabaru](干潟。「潟原」の義) に竹や木串を河口や魚道の砂浜に差し込んでおき、満潮時にその竹や木串に網を吊るして張り巡らし、漁獲する漁法。˩アンブ˥シェー　イ˩ツォーン˥プソーラ　ナライ˩ヨーッ˥タティ˩ダー [˩ʔambu˥ʃeː ʔi˩tsoːm˥pu̥soːra narai ˩joːt˥tati˩daː](アンブシ漁は糸満漁師から＜ぞ＞習われたそうだよ)。

˩アンポーティン˥ポー [˩ʔampoːtim˥poː] 【名】何の心配もしないで呑気に行動する人。思慮分別のないことをする人。ABCDEFCD 型の重言。˩ウンザー　アンポーティン˥ポー　˥ナリティ　˩ヤー˥ヌ　˥クトー　イ˩カシタ˥ダラティン　ッ˩サヌ [˩ʔunʤaː ʔampoːtim˥poː ˥nariti ˩jaː˥nu ˥ku̥toː ʔi˩kaʃita˥daratin s˩sanu](こいつは思慮分別のない人間になってしまって家庭のことは、どうなっていることか、それさえも分からない)。

˥アンマ [˥ʔamma] 【名】1姉。名称、呼称とも同じ。この

語彙には、˥ウボンマー [˥ʔubomma:](一番上の姉)、˩ホン˥マ [˩hom˥ma](長姉)、˥ナカンマー [˥nakam-ma:](中の姉)、アン˩マー˥マ [ʔam˩ma:˥ma](一番下の姉) などのような部分体系がある。「'u-ra　'a-r(n)ai　'ari< 汝姉あるか >」「語音翻訳」『海東諸国紀』と関係があるとの説『図説琉球語辞典』がある。˥アンマール　˩バイ˥ヨー　カ˩サ˥ナイ　フ˩ドゥバソーッ˥タ [˥ʔamma:ru ˩bai˥jo: kḁ˩sa˥nai ɸu˩dubaso:t˥ta](姉さんが私を負ぶって成長させてくださった)。ア˩ンマー˥　パ˩タ˥ケー　˩オールー [ʔam˩ma:˥ pḁ˩ta˥ke: ˩ʔo:ru:](姉さん、畑へ行かれるのですか)。2お母さん。名称、呼称 (若年層の言葉)。本来は兄嫁に対して弟妹が˥アンマ [˥ʔamma](姉さん) と呼ぶのを聞いて、兄嫁の子供 (甥、姪) 達が自分の「母」を˥アンマ [˥ʔamma](母) と誤認するようになり、今では若年層において「母」のことを˥アンマ [˥ʔamma] と思って、そう呼ぶ人が相当数いる。3固有名詞に下接して用いられる。˥ナベンマ [˥nabemma](ナベ姉さん)、˥カマンマ [˥kamamma](カマ姉さん)、サ˩カ˥ヤンマー [sa˩ka˥jamma:](サカヤ姉さん)、˩モー˥サンマ [˩mo:˥samma](モウシ姉さん)、マ˩ナ˥サンマ [ma˩na˥samma](マナサ姉さん)。˩マー˥サンマ [˩ma:˥samma](マーサ姉さん)、˩マー˥チェンマ [˩ma:˥ʧemma](マーチ姉さん)、˥クヤンマー [˥kujamma:](クヤ姉さん)、ユ˩ブ˥サンマー [ju˩bu˥samma:](ユブサ姉さん) などといわれる。˩バン˥テヌ　˥アンマター　ム˩ー˥ル　ハチジュー˩ゴーヌ　ヨイ˥ヤー　˩シーティル　マーラシタ [˩ban˥tenu ˥ʔammata: mu:˩ru˥ hḁʧiʤu:˩go:nu joi˥ja: ˩ʃi:tiru ma:raʃi̥ta](私の姉さん達はみんな八十五の誕生祝をしてから < ぞ > 亡くなられた)。

˩アン˥マ [˩ʔam˥ma]【名】あんま (按摩)。もみりょうじ。˥アブジェー　˩アン˥マ　˥トゥリ　˩オース˥カー　イッ˩ケン˥　サ˩ニヤ　ソーッ˥タン [˥ʔabuʤe: ˩ʔam˥ma ˥turi ˩ʔo:su˥ka: ʔik˩ken˥ sa˩ni˥ja ˩so:t˥taŋ](お祖父さんは按摩をして差し上げると非常に喜ばれた < 嬉しくされた >)。

˩アンマー˥イカ [˩ʔamma:˥ʔika]【名】烏賊の中で特大級のスルメイカ。「母烏賊」の義。糸満方言からの借用語か。ナ˩カディ˥イガ [na˩kadi˥ʔiga](中級の烏賊。「中手イカ」の義)。イ˩ガー˥マ [ʔi˩ga:˥ma](小烏賊。小さな烏賊) などの語彙がある。イカ漁は明治以後、沖縄本島の糸満系漁民の進出によって始まったといわれている。鳩間島の女性と結婚して、島に根を下ろした糸満出身の漁師もいる。˩アンマ˥イカー　˩ダイ˥　ム˩トゥン˥ドゥ　イ˩ガー˥マー　˩カーサラヌ [˩ʔamma˥ʔika: ˩dai˥ mu˩tun˥du ʔi˩ga:˥ma: ˩ka:saranu](大きなスルメイカは値段がつくが、小さなスルメイカは売れない)。

アン˩マー˥マ [ʔam˩ma:˥ma]【名】三番目の姉。語尾の「-マ [-ma](ちゃん)」は美称、愛称の接尾指小辞。ミ˩ドゥムキョーダイ˥ヤ　˩ウンターラ˥　ア˩ズ˥カー　˥ウボーマー　˥ナカンマー　アン˩マー˥マティル　ア˩ゾーッ˥タ [mi˩dumukjo:dai˥ja: ˩ʔunta:ra˥ ʔa˩ʤu˥ka: ˥ʔubo:ma: ˥nakamma: ʔam˩ma:˥matiru ʔa˩ʤo:t˥ta](女兄弟は、上から言うとウボーマー < 長女 >、ナカンマー < 中の姉 >、アンマーマ < 三番目の姉ちゃん。小さな姉 > といわれた)。˩ダイ˥ケヌ　ユ˩ブ˥サアッパー　ッ˩ふァヌ˥　アロー˩ラン˥タ　˩ベー˥テイ　アン˩ママー˥ヨ　˩イー˥ローリティル　ウ˩ナー　ナーバ˥　シキ　ス˩コー˥レーティ˩ダー [˩ʔdai˥kenu ju˩bu˥saʔappa: f˩fanu˥ ʔaro:˩ran˥ta ˩be:˥ti ʔam˩m:ma˥jo ˩ʔi:˥ro:ritiru ʔu˩na: na:ba˥ ʃi̥ki su̥˩ko: ˥re:ti˩da:](大工家のユブサお祖母さんは子供がおありでなかったので、私の三番目の姉さん < 大工良 > を貰われて < ぞ > 自分の名前を付けておかれてあるそうだよ)。

˩アンマ˥カー [˩ʔamma˥ka:]【名】歌謡の名 (天川節)。また、天川節の舞踊。石垣の芝居小屋から伝播してきたといわれている。テンポの速い曲調で歌い踊られる。˩アンマ˥カーヤ　シ˩バヤーブドゥルヤッタ˥ツォー [˩ʔamma˥ka:ja ʃi˩baja:buduru jatta˥tso:](天川踊りは芝居踊りであったそうだ)。

˩アンマ˥ヌ [˩ʔamma˥nu]【副】あまりに。あまりの。あまりにも。法外に。ア˩マ˥ヌ [ʔa˩ma˥nu](あまりの) ともいう。強調すると、アン˩マ˥ヌ [ʔam˩ma˥nu] という。アン˩マ˥ヌ　ユ˩ミシゥカイヌ˥　ビ˩ナ˥サ　ク˩チ˥サティル　˩ウン˥ネーラ　˩ピン˥ギ　˥ケーツォー [ʔam˩ma˥nu ju˩misi̥kainu˥ bi˩na˥sa ku̥˩ʧi˥satiru ˩ʔun˥ne:ra ˩piŋ˥gi ˥ke:tso:](あまりにも嫁いびり < 嫁扱い > が汚くて、苦しくて、あの家から逃げてきたそうだ < 嫁いびりの厳しさに耐えかねて逃げ帰ったそうだ >)。

˩アン˥ムチ [˩ʔam˥muʧi]【名】餡餅 (あんもち)。˥バタムチ [˥batamuʧi](餡餅、「腸餅」の義か) ともいう。餅の中に餡を入れたもの。˥アン [ʔaŋ](餡) には、小豆を煮て潰し、黒砂糖を混ぜたものや、ユ˩ナ˥ク [ju˩na˥ku](はったいこ、麦焦がし)、˥グマ [˥guma](煎り胡麻に黒砂糖を混ぜたもの) などが使われた。ア˩ガマミヌ˥バタ　˥アンムチ [ʔa˩gamaminu˥bata ˥

ʔammutʃi](小豆餡の餡餅)、グ˞マ˞ヌバタ　アンムチ [guˑmaˑnubata ˞ʔammutʃi](胡麻餡の餡餅)、ユ˞ナ˞クバタ　˞アンムチ [juˑnaˑkubata ˞ʔammutʃi](はったいこ餡の餡餅) などがある。ユ˞ナ˞クバタ　˞アンムチェー　カ˞ザン˞　カ˞バッ˞サーリ　イッ˞ケナ˞　ン˞マー˞ン　ア˞リ˞ブタル [juˑnaˑkubata ˞ʔammutʃeː kaˑʤaŋ˞ kaˑbasˑsaːri ʔikˑkena˞ ʔmˑmaːˑŋ ʔaˑri ˞butaru](はったいこ餡入りの餡餅はかおりも香ばしく、そのうえたいそう美味しくもあった＜ありおった＞)。

˞アンム˞トゥ [˞ʔammuˑtu] 【名】網元。˞インヌムラヌ　アンム˞トー　˞クシケー　アンヌムラヌ　アンム˞トー　ア˞マシェー　ヤッタ˞ナー [˞ʔinnumuranu ʔammuˑtoː ˞kuʃi̥ke: ʔannumuranu ʔammuˑtoː ʔaˑmaʃeː jattaˑnaː](西村の網元は小底家、東村の網元は小濱家だったねえ)。

˞アン˞ムヌ [˞ʔamˑmunu] 【名】竹で編んだもの。竹でえつり (桟) のように編んだもの。「編み物」の義。茅葺屋根の甍を押さえるのに用いる。˞ヤー˞ダ˞ディ˞クダキバ　˞アン˞ムヌ　˞シー　˞ヤー˞バス˞クˑリ　˞アンティスー [˞jaːˑ daˑdiˑkudakiba ˞ʔam˞munu ˞ʃiː ˞jaːˑba su̥ˑkuˑri ˞ʔantisuː](ヤー＜囃子＞ダディク竹を編み物＜竹のえつり＞にして家を造ってあるという)(鳩間島古謡『ヤーヌフンシキアーパーレー』第 14 連参照)。

˞アンユーティ [˞ʔaŋjuːti] 【連】有るだろうかと。有るかと。マ˞チヤー˞ナ　ニ˞チサマシ˞ヌ　˞アンユーティ　˞カイン˞　パ˞ラシ˞タ [maˑʧijaːˑna niˑʧisamaʃi˞nu ˞ʔaŋjuːti ˞kaim˞ paˑraʃi̥˞ta](お店に熱冷まし＜解熱剤＞があるだろうかと買いに行かせた)。

˞アンユー　˞ナーン˞ユー [˞ʔaŋjuː ˞naːŋ˞juː] 【連】有るか、無いか。˞ウナー　˞バー　˞キン˞ヌ　˞アンユー　˞ナーン˞ユー　˞ミシ˞キ˞ミー [˞ʔunaː ˞baː ˞kin˞nu ˞ʔaŋjuː ˞naːŋ˞juː ˞miʃi̥˞kiˑmiː](そこに私の着物が有るか、無いか、捜してごらんよ)。

˞アンラク [˞ʔanraku] 【名】安楽。標準語からの借用語。ウ˞ビ˞ナーヌ　ッ˞ふァンケー˞バ　シゥ˞カ˞ナイ　フ˞ドゥバスンティ˞　ア˞ワ˞リナンギ　˞ソー˞レーユンダ　˞トゥシ　トゥ˞ロー˞ルカー　˞アンラク　ソーラリ˞ス [ʔuˑbiˑnaːnu fˑfaŋkeːˑba si̥˞ka ˞nai ɸuˑdubasuntiˑ ʔaˑwaˑrinaŋgi ˞soːˑreːjunda ˞tu̥ʃi tuˑroːˑruka: ˞ʔanraku soːrariˑsu](あれだけ多くの子供達を養育するのに難儀苦労をなされたのだから、年をとられたら安楽なされるよ)。

イ

-イ [-i] 【終助】動詞の未然形に下接し、自分の意志について相手の同意を求める。˥バー　パ˫ライ [˥baː paˬrai](私は行こうねえ)、カ˫カイ [kaˬkai](書こうねえ)、パ˫ガイ [paˬgai](剥ごうねえ)、トゥ˫バイ [tuˬbai](飛ぼうねえ)、˥バー　˥クナーティ　マ˫タイ [˥baː ˥kunaːti maˬtai](私はここで待とうねえ)。

˥イ [i] 【助数】日を表す助数詞。˥プスイ [˥pu̥sui](1日)。プ˫スイ˥ナー　ア˫サビ˥　ミ˫サ˥ル [pu̥ˬsui˥naː ʔaˬsabi˥ miˬsa˥ru](一日ずつぐらいは遊んでもよかろう)。

˥イー [ʔiː] 【名】絵。˫イーカタ [ˬʔiːkata](絵)、または単にカ˫タ [kaˬta](絵) ともいう。ク˫ヌ　イー˥ヤ　˫タール˥　カ˫コーッ˥タカヤー　˥アイ　˫カイ˥ヤワレー [kuˬnu ʔiː˥ja ˫taːru˥ kḁˬkoːt˥takaja: ˥ʔai ˫kai˥ jawareː](この絵は誰が描かれたのかなあ、なんと美しいことよ)、ク˫ヌ　イーカター　タール˥　カ˫ク˥タ [kuˬnu ʔiːkḁtaː taːru˥ kḁˬku˥taː](この絵は誰が描いたか)。

˥イー [˥ʔiː] 【名】食べ物。食事。「〜笥に盛る飯 < イヒ > を〜。万、142」、「伊比 < イヒ >」『日本書紀　推古二一年歌謡』、「飯　イヒ」『色葉字類抄』の転訛したもの。˫マイヌ˥イー [ˬmainu˥ʔiː](米飯)、˫コー˥イー [ˬkoː˥ʔiː](硬い米飯。「強飯」< コハイヒ >)『色葉字類抄』、˫ウンヌ˥イー [ˬʔunnu˥ʔiː](芋のご飯)、イ˫バ˥チ [ʔiˬba˥ʧi](飯初)、˫タイラー˥イー [ˬtiaraː˥ʔiː](稲の初穂祭に作るお握り。飯初) 等がある。プ˫スマヌ　イー˥ヤ　˫タール˥　バ˫カスワ [pu̥ˬsumanu ʔiː˥ja ˫taːru˥ baˬkasuwa](昼ご飯 < 昼間の飯 > は誰が炊くのか)。

˫イー [ʔiː] 【名】胃。胃袋。標準語からの借用語。牛や豚、猪の胃袋はウ˫ブン˥ガイ [ʔuˬbuŋ˥gai] という。˫イーヌ˥　ヤムカー　ン˫ガ˥ナー　˫シッ˥キティ　˥シル　˥タリティ　˥ヌミバ [ˬʔiːnu˥ jamukaː ŋˬga˥naː ˫ʃikˬkiti ˥ʃiru ˥tariti ˥numiba](胃が痛かったら < 病むなら > 苦菜を搗いて汁を絞って飲みなさい)。

˫イー [ˬʔiː] 【連体】よい。˫イー　ピュール [ˬʔiː pjuːru](よい日和。よい日)、˫イー　オシキ [ˬʔiː ʔoʃi̥ki](よい天気)。˫イー˥　ソンガチ [ˬʔiː˥ soŋ-gaʧi](よい正月)。ウ˫レー　イー　カンガイ˥　ユン [ʔuˬreː ʔiː kaŋgai˥ juŋ](それはいい考えだ)。˫キュー˥ヤ　˫イー　オシキ　ヤリバ˥　フネー　ン˫ザサ˥リン [ˬkjuː˥ja ˫ʔiː ʔoʃi̥ki jariba˥ ɸuneː ʔnˬʤasa˥riŋ](今日はいい天気だから船は出せる)、˫イー　クトゥトユー [ˬʔiː kutuꜜju:](よいことでございます)。

˫イ˥ー [ˬʔi˥ː] 【感】うん。承知。不快感を持つ目下の者に対して用いる。立腹して答える場合には、˫イ˥ーヒャー [ˬʔi˥ːça:](くそっ、うんだ)。˫ワー　フン˥トー　ウイ˫シェーン [ˬwa: ɸun˥to: ʔuiˬʃeːŋ](君は本当に泳げるか) の不快感を伴う問いに対して、˫イ˥ー　ウイ˫ゲ˥ラ [ˬʔi˥ː ʔuiˬge˥ra](当然だ < 当たり前だ >。泳げるさ)。

イー˫ー [ʔiːˬiː] 【感】ええっ。まあ。驚いた時や意外なときに発することば。イー˫ー˥　アイル　˫ヤッター˥　バー　ノー˫ン˥　ッ˫サムティ˥　ブリー　˫シーナーン˥バン　˫ナー [ʔiːˬiː˥ ʔairu ˫jattaː˥ baː noːˬn˥ sˬsamuti˥ buriː ˫ʃiːnaːm˥banˬnaː](ええっ　そうだったのか。私は何も知らないで無礼を働いてしまったなあ)。

˫イー˥ガイ [ˬʔiː˥gai] 【名】杓文字 (しゃもじ)。飯をよそう道具。ご飯を掬い取るために木や竹で作った匙状の用具。ミ˫シ˥ガイ [miˬʃi˥gai](飯・杓文字) ともいう。「飯匙 (いひがい)」(伊勢物語) の義。˫イー˥ガイシ　˥イー　ス˫クイティ　イーマカ˥ルナム˫リ˥　ッ˫ふィーリ [ˬʔiː˥gaiʃi ˥ʔiː su̥ˬkuiti ʔiːmaka˥runa muˬri˥ fˬfiːri](杓文字 < 飯匙 > で飯を掬って飯碗に盛りつけてくれ)。

˫イーカキ˥プス [ˬʔiːkaki˥pu̥su] 【名】絵を描くことの上手な人。画家 < 絵描き >。「絵描き人」の義。カ˫ヌ　プソー　ズンニ　イーカキプス˥ヌ　˥カタチニ　˫ネーシ˥　カクン˫ダー [kaˬnu pu̥soː ʤunni ʔiːkakipu̥su˥nu ˥kḁtatʃini ˫neːʃi˥ kḁkunˬdaː](あの人は本当に、画家 < 絵描き人 > のように似せて描く

よ)。

˞イーカコーニ [˞ʔiːkakoːni] 【副】いい具合に。ぴったりと。˞クーン˞カヤーティ ˞ソー シーベータン˞ドゥ ˞イーカコーニ ワー˞ キー ッ˞ふィーティ˞ サ˞ニヤ シーベート ダー [˞kuːŋ˞kajaːti ˞soː ʃiːbeːtan˞du ˞ʔiːkakoːni waː˞ kiː f˞fiːti˞ sa˞nija ˞ʃiːbeː˧daː](来ないかと心配していたが、いい具合に君が来てくれて喜んでいるよ＜嬉しさしているよ＞)。

˞イーカンガイ [˞ʔiːkaŋgai] 【名】いい考え。よい着想。˞キノーラ ˞シッ˞パイ ˞カン˞ガイ ˞ベーヌン˞ドゥ ムッ˞トゥ イーカンガイヌ˞ ンジ ˞クーント ツォー [˞kinoːra ˞ʃip˞pai ˞kaŋ˞gai ˞beːnun˞du mut˞tu ʔiːkaŋgainu˞ ʔndʒi ˞kuːn˧tsoː](昨日から一所懸命に＜精一杯＞考えているが、ちっともいい考えが出てこないのだよ)。

˞イーククチ [˞ʔiːkukutʃi] 【名】いい心地。心地よいさま。˞アボー ˞カタ ˞ムーミ オーシタ イーククチ˞ ヤ˞ローリン˞ギサルユー ニ˞ボー˞リ ˞ナー˞ヌ [˞ʔaboː ˞kạta ˞muːmi ʔoːʃi̥ta ʔiːkụkutʃi˞ ja˞roːriŋ˞ gisaruju: ni˞boː˞ri ˞naː˞nu](お母さんは、肩を揉んで差し上げたら、いい心地でいらっしゃるのか、眠ってしまわれた)。

˞イークトゥ [˞ʔiːkutu] 【名】よいこと。慶事。おめでた。˞ワッ˞テナーヤ ク˞トゥシン イークトゥヌ˞ ア˞ロー˞ルンティ シ˞キティル˞ メー ˞バン˞タン サ˞ニヤ シーベート ダー [˞watˀtenaːja kụ ˞tuʃiŋ ʔiːkutunu˞ ʔa˞roː˞runti ʃi̥˞kitiru˞ meː ˞ban˞tan sa˞nija ʃiːbeː˧daː](おたくには＜貴方の家には＞今年も慶事がおありと聞いて＜ぞ＞、もう私達も喜んで＜嬉しくして＞おりますよ)。

˞イークトゥ˞ ユー [˞ʔiːkutu˞ juː] 【成】おめでとうございます。˞ミードゥシ˞ ン˞カイオー˞リ ˞イークトゥト ユー [˞miːduʃi˞ ŋ˞kaioː˞ri ˞ʔiːkutu˧juː](新年おめでとうございます＜新年を迎えなされてよいことでございます＞)。

イーグ˞ユー [ʔiːgu˞juː] 【感】ええっ。なんとまあ。驚いた時や意外なときに発することば。イー˞イー [ʔiː ˞iː] より驚いたりする程度が大きいことを表す。

˞イークル [˞ʔiːkuru] 【名】良いころ。良い頃合。潮時＜干潮＞。ちょうど良い時期。˞イークル˞ ＜˞イーシトゥキ˞＞ ナ˞リ˞ ブーバ タ˞ク˞ トゥリン ˞パラ [˞ʔiːkuru˞ ＜˞ʔiːʃituki˞＞ na˞ri˞ buːba tạ˞ku˞ turim ˞para](良い潮時＜干潮＞になったから蛸を獲りに行こう)。

˞イー˞シ [˞ʔiː˞ʃi] 【名】(植) 海藻の名。ツノマタ (角叉)。「いぎす (海髪)。海産紅藻類の一種～。乾燥漂白して糊の材料、また刺身のつまとする。～」『広辞苑』の転訛したものか。西表島の˞インダ [˞ʔinda](伊武田)、˞クーラ [˞kuːra](久浦) の北にあるウ˞ブ˞ビー [ʔu˞bu˞biː]、˞ダイ˞クビー [˞dai˞kubiː]、˞イーリジマ [˞ʔiːridʒima] の干瀬に鳩間漁業組合員が大正年間に養殖したという海藻。毎年夏に採取して乾燥し、寒天の材料として輸出された。˞イー˞シトゥリヌ ˞ピンマー ˞シマズーヌ ˞イダフネー ムー˞ル イー˞シ ˞トゥルンティ ˞イー˞シビーナ ア˞ツァ˞マリ ミ˞グトゥ ヤッタ [˞ʔiː˞ʃiturinu ˞pimmaː ˞ʃimadʒuːnu ˞ʔidaɸuneː muː˞ru ʔiː˞ʃi ˞turunti ˞ʔiː˞ʃibiːna ʔa˞tsa˞mari mi˞gutu jatta](角叉採集の時は島中のサバニはみんな角叉を採取するためにイーシビー＜角叉干瀬＞に集まって見事だった)。

˞イーシキ [˞ʔiːʃi̥ki] 【名】言い付け。指示。命令。指導。˞イシキ [˞ʔiʃi̥ki](言い付け) ともいう。ウ˞ヤ˞ヌ ˞イーシキ˞ マ˞ム˞リ˞ヨー [ʔu˞ja˞nu ˞ʔiːʃi̥ki˞ ma˞mu˞ri˞ joː](親の言い付け＜指示・指導＞を守れよ)。

˞イーシキルン [˞ʔiːʃikiruŋ] 【他動】告げる。知らせる。告げ口する。ヤ˞ナクトゥ スー˞カー ウ˞ヤン˞ナーニ ˞イーシキルント ダー [ja˞nakutu suː˞kaː ʔu ˞jan˞naːni ˞ʔiːʃikirun˧daː](悪事をはたらくと親に知らせるぞ＜言いつけるぞ＞)。

˞イーシ˞ヌ ˞コー˞マ [˞ʔiːʃi˞nu ˞koː˞ma] 【連】角叉の寒天。˞イー˞シを日干し乾燥した後、再度水に浸けると脱色して白くなる。それをナベに入れて煮ると溶解し、ゼリー状になる。それを薄く切って醤油や黒砂糖で味付けして食した。˞イーシ˞ヌ ˞コー˞マー ˞ソー˞ユ ˞カキティ ッ˞ふー˞カー ン˞マー˞タン [˞ʔiːʃi˞nu ˞koː˞maː ˞soː˞ju ˞kạkiti f˞fuː˞kaː ʔm ˞maː˞taŋ](角叉の寒天は醤油をかけて食べると美味しかった)。

˞イー˞シビー [˞ʔiː˞ʃibiː] 【名】海底地名。角叉を養殖した干瀬の名。「角又干瀬」の義。西表島北岸の˞インダ [ʔinda](伊武田)、˞クーラ [˞kuːra](久浦) の北にある干瀬。約二万坪の広さがあるという˞イー˞シビーは中央部に˞フ˞ツァー˞マ [ɸụ˞tsaː˞ma](小津口) を有し、鳩間島からの˞イダフニ [˞ʔidahuni](サバニ、帆船) は、そこを通って˞クーラ [˞kuːra]、˞インダ [˞ʔinda]、トゥ˞マダ [tu˞mada]、˞ケー˞ダ [˞keː˞da]、˞ユシ˞キダ [˞juʃi̥˞kida]、サ˞キンダ [sạ˞kinda] の各耕作地のタ˞バ˞ル [ta˞ba˞ru](田袋。田原) に通った。この津口の西側の干瀬を˞イーリジマ [˞ʔiːridʒima] と

いう。東の干瀬には˞ダイ˜クビー [˞dai˜kubiː] とウ˞ブ˜ビー [ʔu˞bu˜biː] がある。そこの角叉は鳩間島の漁業組合の組合員が石垣島の川平と小浜島のクバサキから、大正年間に角叉の種を採取してきて移植したものだという (この移植事業に従事した一人、加治工伊佐氏の直話による記録)。˞イー˜シビーヌ ˞イーシ˜ヌ ˜タネー カ˞ビラ˜トゥ ク˞モーマラ˜ル ˜トゥギ イ˞ボーッ˜タ˞ダー [˞ʔiː˜ʃibiːnu ˞ʔiːʃi˜nu ˜taneː ka˞bira˜tu ku˞moːmara˜ru ˜tugi ʔi˞boːt ˜ta˞daː](イーシ干瀬の角叉の種苗は川平と小浜島から採取してきて < 取ってきて > 移植されたのだよ)。

˞イー˜シプシ **[˞ʔiː˜ʃipu̥ʃi]** 【名】ツノマタ干し。収穫した海藻のツノマタ (角叉) を炎天下の桟橋や広場に広げ干して乾燥させるが、正午過ぎに裏返して干すきつい作業。その際に小さな枝珊瑚を取り除く作業をした。˞イー˜シプシェー ˞ナンギ˜ヌ シ˞グトゥ ヤッタ [˞ʔiː˜ʃipu̥ʃeː ˞naŋgi˜nu ʃi˞gutu jatta](ツノマタ干しは難儀な仕事であった)。

˞イージブン **[˞ʔiːʤibuŋ]** 【連】いい時分。適当な頃合。˞イージブン˜ ナ˞リ˜ブバ ˜メー イ˞ソー˜ パル ス˞コール シー˜バ [˞ʔiːʤibun˜ na˞ri˜buba ˜meː ʔi˞soː˜ paru su̥ ˞koːru ʃiː˜ba](いい時分 < いい潮時 > になっているから潮干狩りに行く準備をしなさい)。

˞イージョーミー **[˞ʔiːʤoːmiː]** 【名】遊戯の名 < 魚の目 >。乳幼児をあやす遊び。˞イーズヌミー [˞ʔiːʤunumiː](魚の目) ともいう。右手を握って人差し指を出し、最初にそれを左の手のひらに当て、˞イージョーミー、イー˜ジョー˞ミー、ピー˜ジン˞トー、ピー˜ジン˞トー、ミン˜ミン˞ミー、ミン˜ミン˞ミー、ガーバラ、ガーバラ [˞ʔiːʤoːmiː ʔiː˜ʤo˞miː ˞piːʤinto: piː˜ʤin˞to: mim˜mim˞miː mim˜mim˞miː ˞gaːbaragaːbara](魚の目、魚の目、肘頭、肘頭、お耳、お耳、かぶりかぶり < 頭頭 >) と唱え、順次体の部位を触り、最期に頭を左右に揺すって終わる遊び。

˞イーズ **[˞ʔiːʤu]** 【名】図面。設計図。˞ヤー˜ヌ ˞イーズ˜ ピ˞クン [˞jaː˜nu ˞ʔiːʤu˜ pi̥˞kuŋ](家の設計図を描く < 引く >)、ヤ˞ク˜バーラ ˞イーズ˜ カ˞リ˜キー ウ˞ツァ˜シ [ja˞ku˜baːra ˞ʔiːʤu˜ ka˞ri˜kiː ʔu˞tsa ˜ʃi](役場から田畑の図面を借りてきて写しなさい)。

˞イー スーブ **[˞ʔiː suːbu]** 【連】勝敗を決することが難しい勝負。優劣つけがたい勝負。ちょうど良い勝負。力が拮抗した状態。˞クンドゥ˜ヌ パ˞リスー˜ボー ˞タール˜ パ˞ヤー˜ユー ワ˞カラ˜ヌ ˞イー スーブーユン [˞kundu˜nu pa˞risuː˜boː ˞taːru ˜ pa˞jaː˜juː wa˞kara˜nu ˞ʔiː suːbuːjuŋ](今度の走り競争は誰が早いか分からない。いい勝負だ < 力が拮抗している >)。˞ウッ˜ツァー フ˞ターロー˜ ノー˞ン˜ シ˞ミルバン イー スーブユン [˞ʔut˜tsaː ɸu̥˞taːroː˜ noː˞ŋ˜ ʃi˞mirubaŋ ʔiː suːbujuŋ](彼ら二人は何をさせても実力伯仲している < いい勝負だ >)。

˞イースク **[˞ʔiːsu̥ku]** 【名】 1ちょうどよい具合。適度。ほどよいこと。サ˞ケー˜ マ˞ナ˜マ ˜ブカラヌ˞ムバ˜ル ˞イースク [sḁ˞keː˜ ma˞na˜ma bukara nu ˞muba˜ru ˞ʔiːsu̥ku](酒は今の程度に飲んだほうが丁度よい具合だ < 適当だ >)。2相当。かなり。˞イースクヌ ジン˜バ シゥ˞カイティル˜ ヤッ˞トゥ˜シタ˞ナ˜ミケー [˞ʔiːsu̥kunu ʤim˜ba si̥˞kaitiru˜ jat˞tu˜ʃita˞na˜mikeː](それ相当の金を使って、やっとのことで頼んできてある)。˞クン˜ドー ˞イースコーモー˜ケーンティ˞ダー [˞kun˜doː ˞ʔiːsu̥koː moː˜keːnti ˞daː](今度は相当に < かなり > 儲けたそうだよ)。

˜イー ス˞ブ˜ルン **[˞ʔiː su˞bu˜ruŋ]** 【連】握り飯をつくる。お結びを結ぶ。「飯・絞る」の転訛したもの。˞イー˜バ ス˞ブ˜リティ ˞ビントー˜ ム˞タ˜シバ [˞ʔiː˜ba su˞bu˜riti ˞bintoː˜ mu˞ta˜ʃiba](お握りをつくって < 飯を絞って >、弁当に持たせなさい)。

˞イー˜ ソンガチ **[˞ʔiː˜ soŋgatʃi]** 【連】いい正月。年頭の挨拶に用いる言葉。˞イー˜ ソンガチ ン˞カイオー˜リ ˞イークトゥト (フ˞コーラサト) ユー [˞ʔiː˜ soŋgatʃi ŋ˜kaiʔoː˜ri ˞ʔiːku̥tu˜(ɸu̥˞koːrasa˜)˞juː](いい正月をお迎えになり、おめでとうございます < いいことで >、< 有り難いことで > ございます)。

˞イーッふァイダー˜ラ **[˞ʔiːffaidaː˜ra]** 【名】無為徒食の輩。無芸大食の者。「飯食い俵」の義。シ˞グトー˜ ノー˞ン サムティ˜ ナー˞イ イーッふァイダー˜ラ ˜ナリ ˞ベーン˜ティ [ʃi˞guto˜ noː˞n samuti ˜ naː˞i ʔiːffaidaː˜ra ˜nari ˞beːn˜ti](仕事は何もしないで無為徒食の輩 < 無駄食い > になっているよ)。

˞イートゥシ **[˞ʔiːtuʃi]** 【名】 1よい年。新年。˞イートゥシ˜ ン˞カイオー˜リ シ˞ディガ˜フーン タ˞ボーラ˜リ フ˞コーラサト ユー [˞ʔiːtuʃi˜ ʔŋ˞kaioː˜ri ʃi ˞diga˜ɸuːn ta˞boːra˜ri ɸu̥˞koːrasa˜ juː](新年をお迎えになって幸せなことも賜り、おめでとうございます < ありがとうございます >)。2年頃。適齢期。ミ˞ドーン˜ッふァーン ˞イートゥシ˜ ナ˞リ˜ブバ ˜メー ˞パイ˜サ ブ˞トゥ˜ ム˞タサバ˜ル ヤ˞ル˜ヨ

ー [miˈdoːnˀffaːŋ ˈʔiːtuʃiˀ naˈriˀbuba ˀmeː buˈtuˀ mu ˈtasabaˀru jaˈruˀjoː](女の子も適齢期＜いい年頃＞になっているから、もう、早く嫁がせる＜夫を持たせる＞ほうがいいよ)。

ˈイードゥシ **[ˈʔiːduʃi]** 【名】いい友達。「善友」の義。「悪友」の対義語。アˈサブˀカー ˈイードゥシバˀ トゥˈミˀル アˈサブˀ ヤˈナドゥシトーˀ トゥˈレースˀナ [ʔaˈsabuˀkaː ˈʔiːduʃibaˀ tuˈmiˀru ʔaˈsabuˀ jaˈnaduʃitoːˀ tuˈreːsuˀna](遊ぶならいい友達をもとめて遊ぶのであって、悪友と連れ立って遊ぶな＜睦ぶな＞)。

ˈイー ナカ **[ˈʔiː naka]** 【連】いい仲。いい間柄。ˈウッˀツァー フˈターロー イーナカˀ ナˈリˀブタンドゥ イˈチヌˀ マˈドゥˀル ヤˈビルˀタユー ˈパンˀクリ ˈナーンˀバン [ˈʔutˀtsaː ɸu̥ˈtaːroː ʔiːnakaˀ naˈriˀbutandu ʔiˈʧinuˀ maˈduˀru jaˈbiruˀtajuː ˈpaŋˀ kuri ˈnaːmˀbaŋ](あの二人はいい仲になっていたが、いつの間に仲たがいしたのか＜破れたのか＞婚約解消＜跳ね返って＞してしまった)。

ˈイーナジキ **[ˈʔiːnaʤiki]** 【名】いいなずけ (許婚)。双方の親の合意で幼少の頃から婚約を結んであること。ˈイーナジキヌˀ イˈクˀサナ ˈマーラソーッˀタツォー [ˈʔiːnaʤikinuˀ ʔiˈkuˀsana ˈmaːrasoːtˀ tatsoː](許婚が戦争で亡くなられたそうだ)。

ˈイーˀナビ **[ˈʔiːˀnabi]** 【名】ご飯を炊く鍋。ˈ飯鍋」の義。ˈスーˀナビ [ˈsuːˀnabi](汁鍋) の対義語。ˈイーˀナビナール ˈマイヌイーˀヤ バˈカスˀダー [ˈʔiːˀnabinaːru ˈmainuʔiːˀja baˈkasuˀdaː](飯鍋で＜ぞ＞米のご飯は炊くのだよ)。

ˈイーˀネー **[ˈʔiːˀneː]** 【名】西隣。西側の隣家。ˈイーˀネーン ˈアーˀネーン ムーˈルˀ ウˈトゥザˀル ˀナリ ˈブー [ˈʔiːˀneːŋ ˈʔaːˀneːm muːˈruˀ ʔuˈtuʤaˀru ˀnari ˈbuː](西隣も東隣も皆親戚に＜ぞ＞なっている)。ˈイーˀネヌ ˀアッパー シゥˈカシˀキー ˈニンˀガイ シˈミオーラˀシ [ˈʔiːˀnenu ˀʔappaː si̥ˈkaʃiˀ kiː ˈniŋˀgai ʃiˈmiʔoːraˀʃi](西隣のおばあさんをお連れ＜ご案内して＞してきて祈願して頂きなさい)。

ˈイーパイ **[ˈʔiːpai]** 【名】位牌。ウˈブイーˀパイ [ʔuˈbuʔiːˀpai](大きな位牌、伝統的な二段作りの位牌) やッˈスイーˀパイ [sˈsuʔiːˀpai](白位牌、没後四十九日忌までの位牌)、ˈイーパイヤーˀマ [ˈʔiːpaijaːˀma](小さな位牌) などがある。伝統的な大きな位牌は、先祖の個人の木牌を奇数枚横列に並べて安置する木製の木枠に填めた位牌をいう。黒塗りの木枠に朱塗りの木牌が嵌め込んであるが、巾約 2 センチ、長さ約 10 センチの木牌の正中には、通常「帰真霊位」と金粉のエナメルで書かれ、裏面には氏名と享年が墨書されている。個人用の位牌をˈイーパイヤーˀマ [ˈʔiːpaijaːˀma] という。トゥˈクニˀナ ˈイーパイヌˀ アˈリˀバ ˈカウヤーンツァンˀ シキタティティ ˀティー ウˈサーシˀバ [tu̥ˈkuniˀna ˈʔiːpainuˀ ʔaˈriˀba ˈkaujaːntsaŋˀ ʃi̥kitatitiˀ tiː ʔuˈsaːʃiˀba](仏壇に位牌があるから線香だけでも点け立てて合掌しなさい＜手を合わせなさい＞)。

ˈイーパイサバ **[ˈʔiːpaisaba]** 【名】 (動) 魚の名。和名、シュモクザメ (体長約 3 メートルに達するものがいる)。ˈイーパイサバーˀ パˈトゥˀマナテー ˈナンˀゾー ˀミリ ミˈランˀシェン [ˈʔiːpaisabaːˀ pḁˈtuˀmanateː ˈnanˀʤoː ˀmiri miˈraŋˀʃeŋ](シュモクザメは鳩間島ではあまり見たことはなかった＜見てみなかった＞)。

ˈイーパイˀ ムˈティˀプス **[ˈʔiːpaiˀ muˈtiˀpu̥su]** 【連】位牌継承者。「位牌持ち人」の義。先祖代々の位牌を持つ人の意で、家督を相続する人のこと。直系の長男が位牌を受け継ぐ。長男をさしおいて次男が家督を継ぐのは、サˈクシウシˀクミ [sḁˈkuʃiʔuʃi̥ˀ kumi](嫡子押し込め。廃嫡) といって嫌われている。ˈクンˀネヌ ˈイーパイˀ ムˈティˀプソー ˈターˀカヤー [ˈkunˀnenu ˈʔiːpaiˀ muˈtiˀpu̥soː ˈtaːˀkajaː](この家の位牌を持つ＜家督を継ぐ＞人は誰かね)。

ˈイーバス **[ˈʔiːbasu]** **(1)**【名】いい折。いい場合。良い機会。ˈワー イーバスˀ ケール イッˈケン ッふァイフーヤˀ アˈリˀブーバン [ˈwaː ʔiːbasuˀ keːru ʔikˈken ffaiɸuːjaˀ ʔaˈriˀbuːbaŋ](君はいい時に来たよ。非常に食べる幸運に恵まれているわい) **(2)** 【副】幸いに。ちょうど良い具合に。ˈイーバス ウンヌˀ ピンマー ˈボークーˀゴーナー カˈクˀリ ˈベーˀタˈベーˀティ ˀヌチェー ˈムイˀヤーˈダー [ˈʔiːbasu ʔunnuˀ pimmaː ˈboːkuːˀgoːnaː kḁˈkuˀri ˈbeːˀ taˈbeːˀti ˀnutʃeː ˈmuiˀjaːˈdaː](幸いにその時は防空壕に隠れていたので命は助かった＜命は生えた＞のだよ)。

ˈイーピュール **[ˈʔiːpjuːru]** 【名】いい日。吉日。ˈカイピューˀル [ˈkaipjuːˀru](吉日。きれいな日より) は対語。祭祀をはじめ、行事を執り行うのに差障りのない日より。ˈイーピュールバˀ クˈラˀシ ˀキーティル ˈウンキニンˀガイ シˈミルンティ ベー [ˈʔiː pjuːrubaˀ kuˈraˀʃi ˀkiːtiru ˈʔuŋkiniŋˀgai ʃiˈmirunti beː](いい日和を選んで＜繰って＞もらって来て＜

ぞ＞健康祈願＜運気の祈願＞をさせようとしているところだ)。

˹イー　ピョーシ [˹ʔiː pjoːʃi] 【連】いい拍子。いい機会。幸運。˹イー　ピョーシヌ　マーリ˺クーカー　トゥ˹ルマキーン˺　ア˹タリ　タイロー　スン˺ツォー [˹ʔiː pjoːʃinu maːri˺ kuːkaː tu˹rumakiːŋ˺ ʔa˹tari tairoː sun˺tsoː](幸運＜いい拍子＞がめぐってきたらカツオ鳥の群＜鳥巻＞にも当たることができて大漁するそうだよ)。

˹イープス [˹ʔiːpusu] 【名】いい人。善人。ヤ˹ナプス [ja˹napusu](悪い人、悪人) の対義語。˺シキンナー　˹イープスカーネー　オーラント ダー　˹キー˺　シケーティ　ア˹ラ˺キ [˺ʃi̥kinnaː ˹ʔiːpu̥sukaːneː ʔoːranˢ-daː˹ kiː˺ ʃi̥keːti ʔa˹ra˺ki](世間にはいい人だけおられないぞ。気をつけなさい＜気をつけておれ。あるけ＞)。

˹イーマカ˺ル [˹ʔiːmaka˺ru] 【名】ご飯茶碗。「イヒ・マガリ (飯・鋺)」の義か。「椀　麻加立」『琉球館訳語』、「⊠子　makari」『語音翻訳』、「飯碗　麦介衣」『中山伝信録』、「椀、杯也、万利＜まり＞」『新撰字鏡』の転訛したものか。ア˹ラマカル [ʔa˹ramakaru](陶器の大碗。「荒焼碗」の義か)。˺スンカンマカル [˺suŋkammakaru](筍干。ソバ用の陶器の碗。˹笋羹碗」の義)。˹イーマカ˺ルナ　˹マイヌ˺イー　ム˹リティ˺　ン˹カシ˺バ [˹ʔiːmaka˺runa ˹mainu˺ ʔiː mu˹riti˺ ʔŋ˹kaʃi˺ba](飯碗に米飯を盛って差し上げ＜召し上がらせ＞なさいよ)。

˹イーヤサッサ [˹ʔiːjasassa] 【感】囃子。重いものを担ぐ時の掛け声。ム˹カ˺シプソー　˹グッ˺ふァムヌ　カ˹タ˺モール　˺ピンマ　˹イーヤサッサ˺ティ　˹ヤングイバ˺　カケーティル　カ˹タ˺モーッタル [mu˹ka˺ʃipu̥soː ˹guf˺famunu kḁ˹ta˺moːru ˺pimmaː ˹ʔiːjasassa˺ti ˹jaŋguiba˺ kḁkeːtiru kḁ˹ta˺moːttaru](昔の人は重いものを担がれる時は、イーヤサッサと掛け声をかけて＜ぞ＞担がれたものだ)。

˹イーラー [˹ʔiːraː] 【名】西方。西の方。˹アーラー [˹ʔaːraː](東方。東の方) の対義語。˺フネー　˹マー˺ビン　˹イーラー˺　パ˹ラー˺イ [˺ɸuneː ˹maː˺biŋ ˹ʔiːraː˺ pa˹raː˺i](船はもっと西の方へ操船しなさい＜走らせなさい＞)。

˹イーラアーラ [˹ʔiːraʔaːra] 【名】西と東。東西。˹プール˺ヌ　シ˹ナ˺ピキン　˹パー˺レーン　˹イーラアーラ˺　バ˹カ˺レーティル　˹スー˺ブ　˹ソーッ˺タ [˹puːru˺nu ʃi˹na˺pi̥kim ˹paː˺reːŋ ˹ʔiːraʔaːra˺ ba˹ka˺reːtiru ˹suː˺bu ˹soːt˺ta](豊年祭の綱引きも爬竜船競漕も西と東に分かれて競争＜勝負＞された)。˹イーラアーラヌ　ゾーラキン˺　ムー˹ル　スー˺ブ　˹ヤッタ [˹ʔiːraʔaːranu ʤoːrakim˺ muː˹ru suː˺bu ˹jatta](西村東村の奉納舞踊˹ゾーラキ [˹ʤoːraki]＜入子型常楽踊りの舞踊＞や棒術もみんな部落対抗の競争＜勝負＞であった)。

˹イーラマーリ [˹ʔiːramaːri] 【名】1風向 (風向き) が急に西に回ること。鳩間島では天候が崩れる前兆といわれている。カ˹ジヌ　イーラマーリ　スー˺カー　˹オーシケー˺　ヤ˹ブリ˺ス (ヤ˹ビ˺ス)[ka˹ʤinu ʔiːramaːri suː˺kaː ˹ʔoːʃi̥keː˺ ja˹buri˺su(ja˹bi˺su)](風向きが急に西に回ると天候が崩れ＜破れ＞る)。2西側から回って。西回りに回って。カ˹ジヌ　スー˺ワンダ　シ˹マ˺ヌ　カ˹タ˺カーラ　˹イーラマーリ　シー˺　パリバ [ka˹ʤinu suː˺wanda ʃi˹ma˺nu kḁ˹ta˺kaːra ˹ʔiːramaːru ʃiː˺ pariba](風が強いので、風除けの島陰＜片陰＞を通って西回りして行きなさいよ)。

˹イーラ˺リン [˹ʔiːra˺riŋ] 【自動】1貫われる。貫うことができる。他動詞˹イー˺ルン [˹ʔiː˺ruŋ](貫う) の未然形に助動詞˺リン [˺riŋ](れる＜可能、受身＞) がついて派生した可能 (受身) 動詞。ウ˹ヌ˺　ア˹タル˺ヌ　˹ホーベー　バン˺ヌン　˹イーラ˺リン [ʔu˹nu˺ ʔa˹tarunu˺nu ˹hoːbeː ban˺nuŋ ˹ʔiːra˺riŋ](この程度の褒美は私にも貫える)。˹ミーチヌ˺　バスブ˹バー˺マン　˹イーラ˺リティル　フ˹ドゥバサレーˢ-ダ [˹miːʧinu˺ basu bu˹baː˺man ˹ʔiːra˺ritiru ɸu˹dubasareːˢ-daː](三歳の時に叔母さんに貫われて育てられた＜成長させられた＞のだよ)。˹バン˺マー　˹イーラ ラ˺ヌ [˹bam˺maː˹ʔiːrara˺nu](私には貫えない)。˹イーラ˺リ　˺ムノー　˹アン [˹ʔiːra˺ri ˺munoː ˹ʔaŋ](貫えるものはあるか)。2嫁に貫うことができる。ク˹ヌ˺　ッ˹ふァー　バン˺テヌ　ユ˹ミ　イーラ˺リンツォー [ku˹nu˺ f˹faː ban˺tenu ju˹mi ʔiːra˺rintsoː](この子は我が家の嫁に貫えるそうだ)。

˹イーリ [˹ʔiːri] 【名】西。「太陽の入る方向」の義。˹アーリ [˹ʔaːri](東、太陽の上がる方向の義) の対義語。˹イーリキー [˹ʔiːrikiː](西側) に対して˹アーリキ [˹ʔaːrikiː](東の方) があり、˹イーラー [˹ʔiːraː](西方) に対して˹アーラー [˹ʔaːraː](東方)、˹イー˺ル [˹ʔiː˺ru](西) 対して˹アー˺ル [˹ʔaː˺ru](東) がある。

˹イーリキ [˹ʔiːriki] 【名】西側。˹アーリキ [˹ʔaːriki](東側) の対義語。パ˹タキ˺ヌ　˹イーリキ˺ナー　シ˹トゥッ˺チムルシヌ　˹アッ˺タン [pḁ˹taki˺nu ˹ʔiːriki˺naː ʃi̥˹tut˺ʧimuruʃinu ˹ʔat˺taŋ](畑の西側に蘇鉄の叢林があった)。パ˹タキ˺ヌ　˹イーリキヌ˺　アザナー

ガ˞ジマル˺ヌ　ムイ˞ベー˺ン [pḁ˞taki˺nu ˞ʔiːrikinu˺ ʔadʑanaː ga˞ʤimaru˺nu mui˞beːŋ](畑の西側の畦にガジマルの木が生えている)。

˞イーリジブン [˞ʔiːriʤibuŋ] 【名】日没の頃。日暮れ時。太陽の入り時分。「入り時分」の義。ティ˞ダ˺ヌ　˞イーリジブンマー˺　パ˞タ˺ケーラ　˞カイ˺リ　˺クン　˺パジ [ti˞da˺nu ˞ʔiːriʤibummaː˺ pḁ˞ta˺keːra ˞kai˺ri ˺kum ˺paʤi](日没頃に畑から帰って来るはず)。

˞イーリジマ [˞ʔiːriʤima] 【名】海底地名。西表島の北岸の˞クーラ [˞kuːra](久浦)、˺インダ [˞ʔinda](伊武田) の北にある˞イー˺シビー [˞ʔiː˺ʃibiː](角又を養殖した干瀬) の一つで、フ˞ツァー˺マ [ɸu̥˞tsaː˺ma](小津口) の西に面した干瀬の名。˞イーリジマ˺ナーン　˞イー˺シェー　ア˞リ˺ブタンドゥ　ウ˞ブビー˺ヌ　˺スコー　˞ナーン˺シェン [˞ʔiːriʤima˺naːŋ ˞ʔiː˺ʃeː ʔa˞ri˺butandu ʔu˞bubiː˺nu ˺su̥koː ˞naːŋ˺ʃeŋ](イーリジマ干瀬にも角又はあったがウブビーの程はなかった)。

˞イーリ˺ッふァ [˞ʔiːri˺ffa] 【名】貰い子。生まれつき母親との相性が悪い子は病弱であるので、相性のいい人を探して仮にその人の子にしてもらう子のこと。特定の日に道で遭遇した人や、定期航海船の船長に仮の親を頼むことがある。仮の親には子供が成長した後も進物を欠かさない。ヤ˞シナイッふァ [ja˞ʃinaiffa](養い子) ともいう。˞ソーッふァー˺　ア˞ラ˺ヌ　˞イーリ˺ッふァ　ヤ˞ルヌヌンドゥ˺　イッ˞ケナ˺　ア˞ツァー˺　ピライ　˞ブン˺ダー [˞soːffaː˺ ʔa˞ra˺nu ˞ʔiːri˺ffa ja˞runundu˺ ʔik˞kena˺ ʔa˞tsaː˺ pirai ˞bun˺daː](本当の子ではない。貰い子であるが非常に親密に＜篤く＞交際しているよ)。ク˞ヌ˺　ッ˞ふァー˺　ア˞マ˺ヌ　˞ビョー˺ザーッタ　˞ベー˺ティ　˞ウンパンシン˺ヌ　˞シンドゥ˺バ　タ˞ナ˺ミ　˞イーリ˺ッふァ　˺ナシ　フ˞ニ˺ヌ　˺アカ　ア˞マシター˺　パ˞シットゥ˺　ナリ˞ベー [ku˞nu˺ f˞faː˺ ʔa˞ma˺nu ˞bjoː˺ʤaːtta ˞beː˺ti ˞ʔumpaŋʃin˺nu ˞ʃindu˺ba ta˞na˺mi ˞ʔiːri˺ffa ˺naʃi ɸu˞ni˺nu ˺ʔaka ʔa˞maʃi̥taː˺ pḁ˞ʃittu˺ nari ˞beː](この子はあまりにも病弱であったので運搬船の船頭に頼んで貰い子にして船の淦を浴びせておいたら元気になって＜すっきりして＞いる)。

˞イーリティダ [˞ʔiːritida] 【名】西日。太陽が西に傾いて入り日すること。˞イーリティダ˺　ナリティ˞ダ˺ヌ　イ˞キブイン　ヨー˺レーチバ　ダン˞ティ˺　パ˞タ˺ケー　˞ギーティ˺　クー [˞ʔiːritida˺ nari ti˞da˺nu ʔi˞kibuiŋ joː˺reːʧiba dan˞ti˺ pḁ˞ta˺keː ˞giːti˺ kuː](西日になって太陽の勢いも弱ってきたので、さっさと畑に行ってきなさい)。

˞イーリバナ [˞ʔiːribana] 【名】日没時。太陽の入り際。˞バナ [˞bana] は、パ˞ナ [pa˞na](先端。～の初め) の頭子音が複合語形成の際に有声化したもの。˞オーシキヌ　カイ˺ヤ　˺ピンマー　ティ˞ダ˺ヌ　˞イーリバナー　インタヌ　ティンマー˺　アガー˞アガー˺シ　ス˞マリティ　カイ˺ヤタン [˞ʔoːʃi̥kinu kai˺ja ˺pimmaː ti˞da˺nu ˞ʔiːribanaː ʔintanu timmaː˺ ʔaga˞ʔaga˺ʃi su˞mariti kai˺jataŋ](天気が良いときは西の空は真っ赤に染まって美しかった)。

˞イーリマイズニ [˞ʔiːrimaidʑuni] 【名】 (海底地名)。鳩間島の南に発達した三つの曽根 (˞マイ˺ズニ [˞mai˺dʑuni]＜前曽根＞) の中の西側の大きな曽根の名。西表島の˞ウイバル [˞ʔuibaru](上原) や、フ˞ノー˺ラ [ɸu˞noː˺ra](船浦) 方面より鳩間島へ真っ直ぐに向かう時、この曽根に当たる。この曽根には、˞トゥーラン˺フチ [˞tuːraŋ˺ɸu̥ʧi](通過できない津口) というところがあるので注意を要する。そこはまた、ム˞チイズ [mu˞ʧiʔidʑu](ノコギリダイ) の巣でもある。ム˞チイズを釣って、それを生餌にして˞アーラ˺ニーバル [˞ʔaːra˺niːbaru](マハタ) やユ˞ダヤ˺ニーバル [ju˞daja˺niːbaru](マダラハタ) 等を釣り上げた。

˞イーリムティ [˞ʔiːrimuti] 【名】西の方。西の方面。西の辺り。˞アールムティ [˞ʔaːrumuti](東の方、東の方面) の対義語。˞クーラヌ　イーリムティヌ˺　シ˞ヌ˺ヌ　˞マーリカドー˺　シザバナリ˞ゲ˺ラ [˞kuːranu ʔiːrimutinu˺ ʃi˞nu˺nu ˞maːrikadoː˺ ʃidʑabanari˞ge˺ra](久浦の西方の角の曲がり角はシザバナリ＜下離＞さ)。

˞イーリ˺ムヌ [˞ʔiːri˺munu] 【名】貰い物。到来者。頂き物。ク˞レー　イーリ˺ムヌ　ヤ˞ルヌ˺　ン˞マー˺ンダ　˺バキ　˺ムティパリバ [ku˞reː ʔiːri˺munu ja˞runu˺ ʔm˞maː˺nda ˺baki ˺mutipariba](これは到来物だが、美味しいから分けて持っていきなさいよ)。˺ウマーカマーラヌ　˞イーリムヌ˺ヌ　˺ヌーンクイン˺ミツンケン　ア˞リ˺ブバ　˞カーン˺タンティン　˺ミサン [˞ʔumaːkamaːranu ˞ʔiːrimunu˺nu ˺nuːŋkuim ˺mitsuŋkeŋ ʔa˞ri˺buba ˞kaːn˺tantim ˺misaŋ](あちらこちらからの貰い物がいっぱい＜満ちるほど＞あるから＜有り居るから＞買わなくてもよい)。

˞イー˺ル [˞ʔiː˺ru] 【名】錐 (きり)。直径約 1、5 センチ、長さ約 20 センチの柄に、直径約 2 ミリ、長さ約 10 センチの鉄線を打ち込み、先端部を三角錐に研いで尖らせたもの。両手でもんで板や家具などに

穴をあける工具。この穴にタ˞キフン [ta˞kiɸuŋ](竹製の釘) を打ち付けた。˜イダフネー　カ˞ニフン˜　シゥ˞カーランダ　イー˜ルシ　˜アナー　˞ピッ˜キティ　˞ウン˜ナー　タ˞キフンバ　ウイヨーッ˜タ [˜ʔidaɸune: ka˞niɸun˜ si̥˞ka:randa ʔi:˜ruʃi ˜ʔana: ˞pik˜kiti ˞ʔun˜na: tḁ˞kiɸumba ʔuijo:t˜ta](板舟 < サバニ > には鉄釘が使えないから手もみ錐で穴をあけてそれに竹釘を打ち込まれた < 植えられた >)。板を接ぎ合わせた部分に˞フン˜ドゥ [˞ɸun˜du](ちぎりじめ < 滕締め > に填め込むもの。両端が広く中がくびれているもの) を填め込んで竹釘の弱さを補い、船板が離れないように固定した。

˞イール [˞ʔi:ru] 【名】西。西村。豊年祭の三日目に行われるシ˞ナ˜ピキ [ʃi˞na˜pi̥ki](綱引き) の前段に西村と東村に別れた婦人特別舞踊隊による村自慢の歌を掛け合う儀式がある。その歌をイ˞ジックナー [ʔi˞ʤikkuna:](言い合い競争、自慢勝負、土地誉め) という。それが済むと東西の大綱が˜サンシキ [˜saŋʃiki](桟敷) の中央までシ˞ナヌ˜ミン [ʃi˞nanu˜miŋ](綱の耳) をよせる儀式が執り行われる。この儀式は婦人特別舞踊隊が歌う˞ガーリ˜ウタ [˞ga:ri˜ʔuta](応援の歌) に合わせて進行する。/イールプール (西村の豊年祭) イールプール (西村の豊年祭)/シナヌミンバ (綱の耳を) ユシクバ (寄せ来れば) シナンギス (綱つなぎ < 綱結び > をする)/サーサー　ユシクバ　シナンギス (さあさあ寄せ来れば綱つなぎ < 綱結び > をする)/。

˞イールカジ [˞ʔi:rukaʤi] 【名】西風。西から吹く風。˞イールカジヌ˜　フクカー　˞オーシケー˜　ヤ˞ブ˜ルン [˞ʔi:rukaʤinu˜ ɸu̥kuka: ˞ʔo:ʃi̥ke:˜ ja˞bu˜ruŋ](西風が吹くと天気は崩れる)。

˞イールティダ [˞ʔi:rutida] 【名】西日。入り日。入り日の当たる日向。˞イーリティダ [˞ʔi:ritida] ともいう。˞イールティダ˜　ナレーチバ　ティ˞ダ˜ヌ　イ˞キブイン　˞ヨーリ˜ス　˜パジ　ダン˞ティ　ギー˜　ウン　˞カイ˜シ　クー˞ディー [˞ʔi:ritida˜ nare:tʃiba ti˞da˜nu ʔi˞kibuiɲ jo:ri˜su ˜paʤi dan˞ti gi:˜ ʔuŋ ˞kai˜ʃi ku:˞di:](西日になっているから太陽の勢いも弱まるはず。さっと行って芋を掘って < 耕して > 来ようよ)。

˞イールピサ [˞ʔi:rupi̥sa] 【名】寄棟屋根の西側斜面。「イリ (西)・ヒラ (坂)」の義。˞アールピサ [˞ʔa:rupi̥sa](屋根の東側斜面) の対義語。˞マイ˜ピサ [˞mai˜pi̥sa](屋根の前側斜面)、˜シンタピサ [˜ʃintapi̥sa](屋根の後方斜面) がある。˞イーリピサヌ　カーラシキ˜ヌ　˞ヨー˜リ　˞ナーン˜バ　˞ノーサン˜カ　ナ˞ラ˜ヌ [˞ʔi:ripisanu ka:raʃi̥ki˜nu ˞jo:˜ri ˞na:m˜ba ˞no:saŋ˜ka na˞ra˜nu](屋根の西側斜面の瓦敷きの板が弱ってしまったので修理しないと < 直さないと > いけない)。

˞イールン [˞ʔi:ruŋ] 【自動】入る。太陽が没する。若年層は、イ˞ルン [ʔi˞ruŋ](入る) ともいう。ティ˞ダ˜ヌ　˞イーリジブンマー˜　キサー˞ティ　ダイ˜ケヌ　˞アー˜ヤプシェー　ン˞ジ˜ブタ [ti˞da˜nu ˞ʔi:riʤibumma:˜ ki̥sa:˞ti dai˜kenu ʔa:˜japu̥ʃe: ʔn˞ʤi˜buta](太陽が没する頃 < 日没時 > には、すでに金星 < 大工家のお父さん星 > は輝いていた < 出ていた >)。ティ˞ダ˜ヌ　˞イールン [ti˞da˜nu ˞ʔi:ruŋ](太陽が没する)。ティ˞ダ˜ヌ　˞イーラン˜ケン　˞ヤー˜　パリ [ti˞da˜nu ˞ʔi:raŋ˜keŋ ˞ja:˜ pari](日が暮れないうちに家に帰りなさい)。˜ティダー　˞イーリ　ナー˜ヌ [˜tida: ˞ʔi:ri na:˜nu](日は暮れて < 日は没して > しまった)。˞イール　ティダー˜　ウ˞ガマ˜ヌ [˞ʔi:rutida:˜ ʔu˞gama˜nu](没する太陽は拝まない)。ティ˞ダ˜ヌ　˞イーレーラー˜　ッ˞ふァガマリティ˜　ムヌン　ミ˞ララ˜ヌ [ti˞da˜nu ˞ʔi:re:ra:˜ f˞fagamariti˜ munum mi˞rara˜nu](日が暮れたら暗くなってものも見えない)。

˞イー˜ルン [˞ʔi:˜ruŋ] 【他動】貰う。嫁に貰う。娶る。ク˞レー˜　バー　˞イー˜ルン [ku˞re:˜ ba: ˞ʔi:˜ruŋ](これは私が貰う)、˜アイブ　˜ムノー　ター˞ン　イーラ˜ヌ [˜ʔaibu ˜muno: ta:˞ŋ ʔi:ra˜nu](こんなものは誰も貰わない)。ク˞ヌ˜　ッ˞ふァー　ウン˜ネヌ　ユ˞ミ˜ティ　˞シー　イー˜リ　˞オー˜レーツォー [ku˞nu˜ f˞fa: ʔun˜nenu ju˞mi˜ti ˞ʃi: ʔi:˜ri ˞ʔo:˜re:tso:](この子はその家の嫁として貰って来られたそうだ)。

˞イールンカイ [˞ʔi:ruŋkai] 【名】西向き。屋敷の門などが西向きになっていること。˞アールンカイ [˞ʔa:ruŋkai](東向き) の対義語。パ˞トゥ˜マナー　ム˞トゥ˜ヌ　˞ヤシ˜ケー　˞イールンカイ˜　ナリ　˞ベー˜ティ　˜アトーラ　ビ˞チン˜トン　ム˞チ˜ナローッタ　˜ヤーン˞アッ˜タン [pḁ˞tu˜mana: mu˞tu˜nu ˞jḁʃi̥˞ke: ˞ʔi:ruŋkai˜ nari ˞be:˜ti ˜ʔato:ra bi˞ʧin˜ton mu ˞ʧi˜narotta ˜ja:ŋ ˞ʔat˜taŋ](鳩間には、元の屋敷は西向きになっているので、後から別の所に移られた家もあった)。

˞イーレーキ [˞ʔi:re:ki] 【名】西側。パ˞タキ˜ヌ　˞イーレー˜キナ　˞バンスル˜ヌ　ムイ˞ベー˜ン [pḁ˞taki˜nu ˞ʔi:re:ki˜na ˞bansuru˜nu mui˞be:˜ŋ](畑の西側にバンジロウ < 蕃石榴 > の木が生えている)。˞アーレーキ [˞ʔa:re:ki](東側)。ニ˞シェーキ [ni˞ʃe:ki](北

側)。パ˞ヤー˜キ [pa˞ja:˜ki](南側)。

イー˞ロー˜マ [ʔi:˞ro:˜ma] 【名】小さな錐。˞イー˜ル [˞ʔi:˜ru](錐) に、指小辞-マ [-ma](小さいもの) が下接したもの。沖縄本島方言のグゥー [gwa:](小)、宮古方言の、-ガマ [-gama](小) に対応する語形。鳩間方言の指小辞は、宮古方言の、ガマ [gama](小) が、[gama] → [ŋgama] → [nna:ma](石垣方言)→ [ma](鳩間方言) のように音韻変化して形成されたものである。イー˞ロー˜マ ˞イー˜ネーラ カ˞リ˜クー [ʔi:˞ro:˜ma ˞ʔi:˜ne:ra ka˞ri˜ku:](小さな錐を西隣の家から借りてこい)。

˞イー˜ロールン [˞ʔi:˜ro:ruŋ] 【他動】お貰いになる。貰われる。˞イー˜ルン [˞ʔi:˜ruŋ](貰う) の尊敬語。ク˞レー イー˜ロールンカヤー [ku˞re: ʔi:˜ro:ruŋkaja:](これはお貰いになるかなあ)。アー˞イ イー˜ローランツォー [ʔa:˞i ʔi:˜ro:rantso:](いや < 否 >、お貰いにならぬそうだ)。˞イー˜ローリ ˜プサカー ˞イー˜ロール ˜ムヌ イ˞ラ˜ボーリバ [˞ʔi:˜ro:ri ˜pu̥saka: ˞ʔi:˜ro:ru ˜munu ʔi˞ra˜bo:riba](お貰いになりたければ、お貰いになる物をお選びください)。˞イー˜ローレー ˜ミサムヌ [˞ʔi:˜ro:re: ˜misamunu](お貰いになれば良いのに)。ク˞レー ワー イー˜ローリ [ku˞re: wa: ʔi:˜ro:ri](これは貴方がお貰いなされ)。

˞イーワキ [˞ʔi:waki] 【名】言い訳。弁解。謝罪すること。ヤ˞ラ˜ビザーン ˜アイティ ˞ウン˜ネヌ ッ˞ふァヌ˜ ドゥー ヤ˞マ˜シ ˜シケーティ ワキ˞シン ギーティ クー˜タ [ja˞ra˜bidʑa:ŋ ˜ʔaiti ˞ʔun ˜nenu f˞fanu˜ du: ja˞ma˜ʃi ˜ʃi̥ke:ti waki ˞ʃiŋ gi:ti ku:˜ta](子供同士で喧嘩して、その家の子供に怪我をさせてあるので謝罪しに行ってきた)。

˞イェ˜ー [˞je˜:] 【感】おい。同輩、目下の者に対して呼びかける声。若年層は、˞エ˜ー [˞ʔe˜:](おい) ともいう。˞イェ˜ー ˞ワー ター˜ヤ [˞je˜: ˞wa: ta:˜ja](おい、君は誰か)。˞イェ˜ー ク˞レー˜ ヌーヤ˞ツォー [˞je˜: ku˞re:˜ nu:ja˞tso:](おい! これは何かよ < 何かってば >)。

イェ˞ー [je˞:] 【感】ええ! 意外な時や感激した時に発する声。イェ˞ー˜ ヌーシター ˜アイブ ク˞トゥ˜ヌ ア˞ル˜ワ [je˞:˜ nu:ʃi̥ta: ˜ʔaibu ku̥˞tu˜nu ʔa˞ru˜wa](ええ?、なんだって、そんなことがあるものか)。イェ˞ー˜ ミ˞ジラ˜シ ˜クトゥヌン ア˞リ˜ブバン˞ナー [je˞:˜ mi˞ʤira˜ʃi ˜ku̥tunuŋ ʔa˞ri˜buban˞na:](ええ? 珍しいこともあるものだねえ < 珍しいことも有りをるわいねえ >)。

˜イエイ [˜ʔijei] 【名】伝言。ことづて (言伝)。「いいやる < 言遣る >。道守の問はむ答えを言將遣 < イヒヤラム > すべを知らにと〜。万、543」の転訛したものか。ウ˞キナー˜ヌ ヤ˞ラ˜ビントン ˜イエイ トゥ˞ドゥ˜キ ッ˞ふィーリ˜ヨー [ʔu˞kina:˜nu ja˞ra ˜bintoŋ ˜ʔijei tu˞du˜ki f˞fi:ri˜jo:](沖縄の子供への言伝を届けてくれよねえ)。ウ˞キ˜ナーナティ ˞バン˜テヌ ヤ˞ラ˜ビンケー ミ˞ラ˜リカー ˜イエイ ˞シー ッふィーリ˜ヨー [ʔu˞ki˜na:nati ˞ban˜tenu ja ˞ra˜biŋke: mi˞ra˜rika: ˜ʔijei ˞ʃi: ffi:ri˜jo:](沖縄で私の家の子供たちに会ったら < 子供たちが見られたら > 伝言をしてくれよなあ)。

イ˞ガ [ʔi˞ga] 【名】烏賊 (イカ)。ツツイカの総称。鳩間島で漁獲されるツツイカには、ア˞ガイカ [ʔa˞gaika](アカイカ) とシ˞ル˜イカ [ʃi˞ru˜ika](シロイカ、和名・アオリイカ) がある。コウイカにはク˞ル˜スメー [ku˞ru˜sume:](コウイカ、和名・コブシメ) があり、コブシメは島の珊瑚礁で産卵しているので、海岸から餌木を投げて釣ることができる。ム˞カ˜セー ˜シンニン イ˞ガ ホー˜スンティ イ˞ツォーンプス˜ヌ パ˞トゥ˜マー ˞オーッ˜タンツォー [mu ˞ka˜ʃe: ˜ʃinniŋ ʔi˞ga ho:˜sunti ʔi˞tso:mpu̥su˜nu pḁ˞tu˜ma: ˞ʔo:t˜tantso:](昔はもっぱら烏賊を釣るために糸満漁師の人が鳩間島へいらっしゃったそうだ)。

˜イカーラ [˜ʔika:ra] 【連体】いかなる。「如何あらむ」の「む」の脱落した形。˜カイブ ク˞トゥ˜ヌ ˜アンティ ア˞ズヌ˜ ク˞レー˜ イカーラ ˜クトゥヤ [˜kaibu ku̥˞tu˜nu ˜ʔanti ʔa˞ʤunu˜ ku˞re:˜ ʔika:ra ˜ku̥tuja](あんなことがあるというが、これは一体如何なることか)。

イ˞カーラ [ʔi˞ka:ra] 【副】幾ら〜でも。幾ら〜とも。一歩譲歩して、数量や程度の甚だしさを前提条件として認めつつも、それと反対のことを述べる意を表す。イ˞カーラ˜ < イ˞コーラ˜> ウ˞カ˜ヌ ˜アンティ ア˞ザバン˜ ッ˞ふァバ カース˜ クトー ˞ナーン˜パジ [ʔi˞ka:ra˜ < ʔi˞ko:ra˜ > ʔu˞ka˜nu ˜ʔanti ʔa˞ʤabaŋ˜ f˞faba ka:su˜ ku̥to: ˞na:m˜ paʤi](幾ら借金があるといっても、子供を売ることは無いはずだ)。

˜イカーラカコーニ [˜ʔika:rakako:ni] 【副】いかようにして。どのようにして。どんなふうに。ク˞ヌ˜ パ˞コー˜ イカーラカコーニ ス˞クル˜タム˞ヌ˜ユー ミ˞ジラサ˜ヌ ナ˞ラ˜ヌ [ku˞nu˜ pḁ˞po: ˜ʔika:rakako:ni su̥˞kuru˜ta mu˞nu˜ju: mi˞ʤirasa˜nu na˞ra˜nu](この箱はどのようにして作ったものなのか、珍しくて仕方がない)。

˥イカーラカコーヌ [˥ʔikaːrakakoːnu] 【連】いかなる程度の。どのような風体の。どんなふうの。˥イカーラカコーヌ　ムˬヌヌン˥ドゥ　ˬワー　イー˥ルンティ　˥ケーワ [˥ʔikaːrakq̥koːnu muˬnunun˥du ˬwaː ʔiː ˥runti ˥keːwa](いかなる程の者が君を嫁にもらいに来ているのか)。

˥イカーラコーˬラ˥シ [˥ʔikaːrakoːˬra˥ʃi] 【副】どんなふうにして。どのようにして。相手の技量を低くみた表現。˥イカーラコーˬラ˥シ　スˬクル˥タ　ムˬヌ˥ユー　ˬタンガ˥シ　ˬヤー˥バ　スˬクル˥タツォー [˥ʔikaːrakoːˬra˥ʃi sq̥ˬkuru˥ta muˬnu˥juː ˬtaŋga˥ʃi ˬjaː˥ ba sq̥ˬkuru˥tatsoː](どんなふうにして作ったものやら、一人で家を造ったそうだよ)。

˥イカーラ　˥シジ [˥ʔikaːra ˥ʃidʒi] 【連】如何なるわけ。どういうわけ。ウˬヤ˥ヌ　アˬズ˥　ムニン　シゥˬカムティ˥　ナーˬイ˥　ピン　ˬシーベー˥ヌ　˥イカーラ　˥シジヤ [ʔuˬja˥nu ʔaˬdzu˥ munin sɨ̞ˬkamuti˥ naːˬiˬ piŋ ˬʃiːbeː˥nu ˥ʔikaːraʃidʒija](親のいうこと＜ことば＞も聞かないで、ただ拗＜す＞ねて反抗しているが、如何なるわけがあるのか)。

˥イカール [˥ʔikaːru] 【連体】如何なる。どのような。˥イカーラ [˥ʔikaːra](いかなる) ともいう。下に疑問の終助詞ヤ [ja](か)、ワ [wa](か) を伴って詰問を表す。クˬレー˥　イカール (˥イカーラ)˥シジヤ [kuˬreː˥ ʔikaːru(˥ʔikaːra)˥ʃidʒija](これは如何なる＜どういう＞訳か)。˥イカーラ　クˬトゥ˥ヌ　ウˬクル˥ワ [˥ʔikaːra kq̥ˬtu˥nu ʔuˬkuru˥wa](如何なることが起きるのか)。

イˬカーン˥　ナˬラン˥ドゥ [ʔiˬkaːn˥ naˬran˥du] 【連】仕方なく。やむを得ず。万策尽きて。イカーˬン˥　ナˬラン˥ドゥ　プˬスン˥　シゥˬカーレー˥ティ　アー˥ク　ˬジン˥ヌサーギ　˥アルカー　˥ドゥーシ　ˬシーゲ˥ラ [ʔiˬkaːn˥ naˬran˥du pq̥ˬsun˥ sɨ̞ˬkaːreː˥ti ˬʔaː˥ku ˬdʒin˥nusaːgi ˥ʔarukaː ˥duːʃi ˬʃiːge˥ra](仕方がなくて他人に使われているのであって、金がさえあれば自分でするさ)。

イˬガイズ [ʔiˬgaidzu] 【名】餌木 (えぎ)。老年層のことば。若年層は、イˬガジー [ʔiˬgadʒiː](えぎ＜餌木＞) ともいう。烏賊を釣るのに用いる擬餌の木片。鳩間島では杉などの木片で魚の形を作り、腹部に鉛を嵌めこんで水中に浮くようにし、尾部に鉤状の針を 8 本ほど丸く束ねて付けたもの。その餌木の口に細い縄を結わえて、島の浜辺から約 30 メートル沖の方へ投入しては手繰り寄せながらクˬルˬスメー [kuˬru˥sumeː](甲いか。もんごいか) やシˬライ˥カ [ʃiˬrai˥ka](白烏賊) 等を釣った。˥マンタヌ　パˬマー˥ラ　イˬガイズ＜イガジー＞バ　ナン˥ゲー　ˬトーリトー˥リ　ˬシェー˥ティル　クˬル˥スメーン　シˬライ˥カーン　ˬホーシ˥タˬダー [˥mantanu paˬmaː ˥ra ʔiˬgaidzu＜igadʒiː＞ba naŋ˥geː ˬtoːrito˥ri ˬʃeː˥tiru kuˬru˥sumeːŋ ʃiˬrai˥kaːŋ ˬhoːʃɨ̞˥taˬdaː](前の浜から餌木を投げては手繰り手繰りしてコブシメも白烏賊も釣ったものだよ)。

イˬガガラス [ʔiˬgagarasu] 【名】烏賊の塩辛。烏賊の内臓を除去し、巾約 1 センチに切って樽に入れ、塩漬けにしたもの。塩の量を多めにまぶして密封し、2〜3 ヶ月寝かせておくと美味しい塩漬けが出来上がる。戦後の一時期まで輸出品として製造された。一部は自家消費された。冬期の時化が続く時などに食した。ご飯のおかずにすると食が進むといわれていた。イˬガメージブン˥　アˬミ˥ヌ　˥フー　˥ピンマー　イˬガー˥　プˬサラン˥ベーティ　イˬガガラス˥　スˬコーッ˥タ [ʔiˬgameːdʒibuŋ˥ ʔaˬmi˥nu ˥ɸuːpimmaː ʔiˬgaː˥ pq̥ˬsaram˥beːti ʔiˬgagarasu˥ sq̥ˬkoːt˥ta](烏賊漁の時期に雨が降る時は烏賊は干されないから、烏賊の塩漬けに漬けられた)。

イˬカ˥サル [ʔiˬka˥saru] 【連体】如何なる。どのような。イˬカ˥サル　クˬトゥ˥ヌ　アˬリ˥ル　˥カイ　ˬナッ˥ター [ʔiˬka˥saru kq̥ˬtu˥nu ʔaˬri˥ru ˥kai ˬnat˥taː](如何なることがあって、こうなったのか)。

イˬカ˥シ [ʔiˬka˥ʃi] 【副】いかが。どう。疑問の意味を表す。ウˬヌ　ギンシェー˥　ノーˬンティン　ナーヌ˥ヌ　イˬカ˥シカヤー [ʔuˬnu giŋ˥ʃeː noːˬntin naːnu ˥nu ʔiˬka˥ʃikajaː](その件では何とも言ってこないが＜何ともないが＞、如何だろうか)。

イˬガジー [ʔiˬgadʒiː] 【名】餌木。若年層のことば。明治生まれの老年層はイˬガイズ [ʔiˬgaidzu](餌木) という。ˬシンダ˥ヌ　サˬキバ˥　フˬタントン˥　トゥイティ　ˬマンナカー˥ラ　フˬタブリ˥　ナシティ　ˬシーヌ˥　カタチニ　　マˬギティ˥　タˬキフン˥ナ　フˬバリティ˥　ウˬリバ˥　イˬズヌ˥　カˬタヌ˥　シˬビ˥ナ　ˬウイティル˥　イˬガジェー˥　スˬク˥ル [ˬʃinda˥nu sq̥ˬkiba˥ ɸq̥ˬtanton˥ tuiti ˬmannakaː˥ra ɸq̥ˬtaburi˥ naʃɨ̞ti ˬʃiːnu˥ kq̥tatʃini maˬgiti˥ tq̥ˬkiɸun˥na ɸuˬbariti˥ ʔuˬriba˥ ʔiˬdzunu˥ kq̥ˬtanu˥ ʃiˬbi˥na ˬʔuitiru˥ ʔiˬgadʒeː˥ sq̥ˬku˥ru](針金の先を両方研いで真ん中から二つ折りにし、釣り針のように曲げて竹釘に縛りつけ、それを魚型の尻尾に差し込んで餌木は作るのだ)。イˬガジーバ　ナン˥ゲー　ˬトーリトー˥リ　ˬシェー˥ティル　シˬライ˥カン　クˬル˥スメーン　ˬホー

シタ˜ル [ʔi˞gaʤiːba naŋ˜geː ˞toːritoː˜ri ˞ʃeː˜tiru ʃi˞rai ˜kaŋ ku˞ru˜sumeːŋ ˞hoːʃi̥ta˜ru](餌木を投げては手繰り手繰りしながら槍烏賊やクブシメ＜モンゴイカ＞を釣った)。

イ˞カ˜シカーシ [ʔi˞ka˜ʃi̥kaːʃi] 【副】いかに。どんなに。いかように。イ˞カ˜シ [ʔi˞ka˜ʃi](いかように) の重言。˞ワー　マイフナー　ユン˜　イ˞カ˜シカーシ　˞シー˜　ウ˞ビ˜ヌ　˜ヤー　ス˞クル˜タ [˞waː maiɸunaː juŋ˜ ʔi˞ka˜ʃi̥kaːʃi ˞ʃiː˜ ʔu˞bi˜nu ˜jaː su̥˞kuru˜taː](君はしっかりものだ。どのようにしてあれだけの家を造ったのか)。

イ˞カ˜シタ [ʔi˞ka˜ʃita] 【連体】如何なる。如何な。どんな。「如何・した」の義。ウ˞ヤ˜ヌ　˞トゥシゥ˜コーレー　˞トゥー˜ル　˞サンティスワー˜　イ˞カシ˜タ　˜クトゥヤ [ʔu˞ja˜nu ˞tusi̥˜koːreː ˞tuː˜ru ˞santi suwaː˜ ʔi˞kaʃi̥˜ta ˜ku̥tuja](親が言い付けた通りにしないということは如何なることか)。˜ドゥー　˜パジミ　ウ˞ブムニ˜バ　ン˞ザ˜シティ　˞ウンダ˜　イ˞カシタ˜ティン　˞ナー˜ヌ [˜duː ˜paʤimi ʔu˞bumuni˜ ba ʔn˞ʤa˜ʃi̥ti ˞ʔunda˜ ʔi˞kaʃi̥ta˜tin ˞naː˜nu](自分から先に大言壮語して＜大きなことを言って＞おきながら、それっきり何ともない＜どうしたともない＞)。

イ˞カシタカー˜シタ　[ʔi˞kaʃi̥takaː˜ʃi̥ta] 【連体】如何した、こうした。イ˞カ˜シタ [ʔi˞ka˜ʃi̥ta](如何した) の重言。「一体全体どうしたこと、こうしたこと。全くの無関心であるさま」の意。シ˞グトゥン˜　サ˞ムティ˜　トゥ˞ジッふァヌ˜　クトゥン　イ˞カシタカーシタ˜ティン　˞ナー˜ヌ [ʃi˞gutun˜ sa˞muti˜ tu˞ʤiffanu˜ ku̥tuŋ ʔi˞kaʃi̥taka˜ʃi̥tatin ˞naː˜nu](仕事もしないで、妻子のこともどうなるかについて、全く無関心な様子＜どうした、こうしたということもない＞)。

イ˞カ˜スク [ʔi˞ka˜suku] (1)【名】どれほど。どんなに。如何ほど。ウ˞ナー˜　イ˞カスク˜ヌ　プ˞ス˜　ヤ˞リバル˜　アイブ　˜ムニ　イ˞ジ　オール˜ワ˞ツォー [ʔu˞naː˜ ʔi˞kasu̥ku˜nu pu̥˞su˜ ja˞ribaru˜ ʔaibu˜ muni ʔi˞ʤi ʔoːru˜wa˞tsoː](己は如何ほど＜どれほど＞人物だから、あのような物言いをしていらっしゃるのかってばよ)。 **(2)**【副】どんなに。どれほどに。ウ˞ヌ　イー˜ヤ　イ˞カス˜ク　ン˞マー˜タユー　イ˞チマカ˜ル　ッ˞ふァイナーン˜シェン [ʔu˞nu ʔiː˜ja ʔi˞kasu̥˜ku ʔm˞maː˜taju: ʔi˞ʧimaka˜ru f˞fainaːŋ˜ʃeŋ](そのご飯はどんなに美味しかったのか、五杯もお代わりして食べてしまった)。サ˞クシ˜ヌ　マ˞ルター˜　イ˞カ˜スク　サ˞ニ˜ヤ　ア˞ローッ˜タユー　ブ˞ダッカロー˜リ　˞ナーン˜セン [sḁ˞ku̥ʃi˜nu ma˞ruta:˜ ʔi˞ka˜su̥ku sa˞ni˜ja ʔa˞roːt˜taju: bu˞dakkaroː˜ri ˞naːŋ˜ʃeŋ](嫡子が生まれたので、どんなに嬉しくあられたのか、飛び上がってしまわれた)。イ˞カス˜ク [ʔi˞kasu̥˜ku] は強調アクセント。

イ˞カ˜スン [ʔi˞ka˜suŋ] 【他動】生かす。蘇生させる。キ˞ムイ˜ツァー　ウ˞ヌ　イン˜マー　フ˞チ˜ル　トゥ˞ヤー˜シ　ヌ˞マ˜シティ　イ˞カ˜シバ [ki˞mui˜ tsaː ʔu˞nu ʔim˜maː ɸu̥˞ʧi˜ru tu˞jaː˜ʃi nu˞ma˜ʃi̥ti ʔi˞ka˜ʃiba](可哀相に、その犬は薬を調合し＜取り合わせ＞、飲ませてなんとか生かしなさいよ)。

˜イカダキ [˜ʔikadaki] 【名・副】どれほど。どれだけ。文語的表現。˜ウナンザー　˜イカダキヌ　プ˞ス˜　ヤ˞リバドゥ˜　アイニ　プ˞スバ˜　イ˞ザリラー＜イ˞ザリワ＞[˜ʔunanʤaː ˜ʔikadakinu pu̥˞su˜ ja˞ribadu˜ ʔaini pu̥˞suba ʔi˞ʤarira: ＜i˞zariwa＞](おのれはいかほどの人間だから、あんなにも他人を叱れるものか)。˜イカダキ　イ˞ザラバン˜　フ˞チウタイヤ˜　サ˞ラヌ [˜ʔikadaki ʔi˞ʤarabaŋ˜ ɸu̥˞ʧiʔutaija˜ sa˞ranu](どれほど叱られても口答えはできない)。

イ˞カナ [ʔi˞kana] 【連体】いかなる。どんな。どのような。「如何な」の義。仮定表現の条件句を導き、下に逆接を表す助詞˞バン [˞baŋ](～でも) を伴って全面譲歩を表す。イ˞カナ　ワー˜　ヤ˞ラバン˜　ク˞ヌ˜　クトー　ユ˞ルサラ˜ヌ [ʔi˞kana waː˜ ja˞rabaŋ˜ ku˞nu˜ ku̥to: ju˞rusara˜nu](如何に君であろうとも、このことは許されない)。イ˞カナ　ワー　ヤラバン˜　ク˞ヌ　オシキ˜ナー　˜ウイ　バ˞タララヌ [ʔi˞kana waː˜ ja˞rabaŋ˜ ku˞nu ʔoʃi̥ki˜naː ˜ʔui ba˞tararanu](いかな君でもこの天気では泳いで渡れない)。イ˞カナ˜　ムヌ　ッ˞サンムヌ˜　ヤ˞ラバン˜　カイブ　˜ムネー　イ˞ジェー˜　ナ˞ラ˜ヌ [ʔi˞kana˜ munu s˞sammunu˜ ja˞rabaŋ˜ kaibu˜ mune: ʔi˞ʤeː˜ na˞ra˜nu](いかな非常識＜もの知らず＞であっても、こんな言葉を言ってはならない)。

イ˞ガナー [ʔi˞gana:] 【名】イカ釣り用の縄。20～30 メートルの深海にいるイカを釣るための釣り縄。直径約 2 ミリ、長さ約 20 センチの針金の両端を研ぎ、針金の中央部から折り曲げ、更にそれらを折り曲げて釣り針状の鉤を造る。それらを長さ約 20 センチの一本の針金に数個円く束ねて半田付けして固定し、それに縄を結わえてイカ釣り縄としたもの。針金部分に餌を結わえて沈め、餌に群がるイカを引っ掛けて釣り上げる縄。

イ˞カナ˺シ [ʔi˞kana˺ʃi] 【副】けっして (決して)〜ない、どうしても〜ない、絶対に〜ない、のように否定表現を誘導する陳述副詞の働きをする。感情的になって強調する時は、イッ˞カナ˺シ [ʔik˞kana˺ʃi] ともいう。˺バー　イ˞カナ˺シ　パ˞ラ˺ヌ [˺baː ʔi˞kana˺ʃi pa˞ra˺nu](私は決して行かない)。マ˞タマー˺　ミルンケンマー　˺バー　イッ˞カナ˺シ　シ˞ナヌ [ma˞tamaː˺ miruŋkemmaː ˺baː ʔik˞kana˺ʃi ʃi˞nanu](曾孫を見るまでは、私は決して死なない)。

イ˞ガヌ˺ティー [ʔi˞ganu˺tiː] 【名】烏賊の 2 本の長い触手。「烏賊の手」の義。烏賊には 6 本の短い手と 2 本の長い触手がある。手には吸盤があり、餌に吸い付いて捕食する。天日干しした烏賊から、この長い触手を抜き取って、火に焙って食すると美味であった。イ˞ガヌ　ナー˺ティー　˺ヌイティ　ヤ˞キ˺クー [ʔi˞ganu naː˺tiː ˺nuiti ja˞ki˺kuː](烏賊の長い触手を抜いて焙って < 焼いて > 来なさい)。

イ˞ガヌ˺　バ˞タガラ˺ス [ʔi˞ganu˺ ba˞tagara˺su] 【連】烏賊の内臓の塩辛。イ˞ガヌ˺　バ˞タガラ˺スン　˞カーサリタン˺ダー [ʔi˞ganu˺ ba˞tagara˺suŋ ˞kaːsaritan˺daː](烏賊の内臓の塩辛も売れたよ)。

イ˞ガバーキ [ʔi˞gabaːki] 【名】イカ (烏賊) を入れるのに用いる竹製の大きな籠。烏賊釣り漁が糸満や久高島、奥武島から導入された時に借用された語であろう。笊の一種。漁業に用いる笊で、常に海水がかかるから柔らかくなって型崩れせぬよう、竹の皮で硬くしっかりと編み上げてある。˞クー˺ジ [˞kuː˺ʤi](トウヅルモドキ) の皮で編んだ笊は水に濡れると柔らかくなり、扱いにくい。イ˞ガバーキヌ　ピッ˺チン　イ˞ガ　ホー˺ソーレーン [ʔi˞gabaːkinu pit˺ʧiŋ ʔi˞ga hoː˺soːreːŋ](竹籠の一杯イカを釣ってこられた)。

˺イカバカラ [˺ʔikabakara] 【副】いかほど。いかばかり。どれほど。˞ヨイヌ˺　ムノー　˺イカバカラナー　ッ˞スマバ˺ル　˺ナルカヤー [˞joinu˺ muno: ˺ʔikabakarana: s˞sumaba˺ru ˺narukajaː](御祝儀のお金 < お祝いのもの > は如何程包まなければならないのかね)。

˺イカフドゥ [˺ʔikaɸudu] 【副】いかほど。どれだけ。どれほど。˺イカフドゥヌ　˞ジンカニ˺バ　シゥ˞カイル˺　ク˞ヌ˺　ヤー　ス˞クル˺タティ　ッ˞シェーン [˺ʔikaɸudunu ˞ʤiŋkani˺ba sʲ˞kairu˺ ku˞nu˺ jaː sʉ˞kuru˺tati ʃ˞ʃeːŋ](どれほどの金銭を使って < ぞ > この家を作ったか、わかるか < 知っているか >)。

イ˞カムス˺ク [ʔi˞kamusʉ˺ku] 【副】いかほど (如何程) か〜。どれほど (多く)〜。下に続く疑問の句と呼応して用いられる。イ˞カン [ʔi˞kan](如何に)・˺スク [˺sʉku](程)→　イ˞カムス˺ク [ʔi˞kamusʉ˺ku](如何程か) と音韻変化したものであろう。˞ワー　クーン˺タ　˞ベー˺ティ　˺アボー　イ˞カムス˺ク　イ˞ナムヌ　ソーッ˺タワ˞ツォー [˞waː kuːn˺ta ˞beː˺ti ˺ʔaboː ʔi˞kamusʉ˺ku ʔi˞namunu soːt˺tawa˞tsoː](君が来なかったので、お母さんはどれほど残念に思われたことか < お前わかるか?>)。˞サンシンバ˺　ピ˞キ˺　ウ˞タ˺バ　イ˞ジェー˺ティ　イ˞カムス˺ク　ウ˞ムッ˺サタワ˞ツォー [˞sanʃimba˺ pʲ˞ki˺ ʔu˞ta˺ba ʔi˞ʤeː˺ti ʔi˞kamusʉ˺ku ʔu˞mus˺satawa˞tsoː](三味線を弾き、歌を歌いながらどんなに楽しかったことか)。˞ワー˺　イ˞カムスク˺ヌ　プ˞ス˺ヤー [˞waː˺ ʔi˞kamusʉku˺nu pʉ˞su˺ja](君は如何程の偉い人か)。

イ˞ガメー [ʔi˞gameː] 【名】烏賊釣り漁。鳩間島の烏賊釣り漁は、古くは明治中期頃に沖縄本島南部の糸満や久高島、奥武島より漁師が導入したものという。烏賊釣り漁の漁業語彙の中に糸満方言や久高方言などからの影響が多く認められる。烏賊釣り漁は鰹漁の終わる旧暦 8 月〜9 月にかけて行われる。二人一組で˞イダフニ [ʔidaɸuni](サバニ、杉板で接いで作った板船) に乗り込み、出漁する。出漁の際には鰹船に引かれて出漁する場合と帆をかけて出漁する場合があった。漁場は、島の西北〜東北に広がる、島より 10〜20 キロの沖合いであった。夜間操業であるので˞イ˞ガ˺ランプ [ʔi˞ga˺rampu](烏賊ランプ。集魚灯) を灯して漁をした。島のナ˞カン˺ムリ [na˞kam˺muri](中岡) には、灯台に火を点灯して漁船に島の位置を知らせた。イ˞ガメーヌ˺　フネー　ゴ˞ジブカラー˺ラ　˺ンジティ　テ˞ダ˺ヌ　イ˞リルトゥ　アー˺シ　イ˞ガ˺ランプー　˺シキティ　イ˞ガ　ホー˺ソーリ　˞タイロー˺　シ˞ティ　ナーツァ˺　シ˞トゥム˺ティ　˞パイ˺サ　˞カイ˺ローッタ [ʔi˞gameːnu˺ ɸuneː go˞ʤibukaraː˺ra ˺ʔnʤiti ti˞da˺nu ʔi˞ririutu ʔaː˺ʃi ʔi˞ga˺rampuː ˺ʃʲkiti ʔi˞ga hoː˺soːri ˞tairoː˺ ʃʲ˞ti naːtsa˺ ʃʲ˞tumu˺ti ˞pai˺sa ˞kai˺roːtta](烏賊漁の舟は午後五時頃から出漁して日没と同時に˞イ˞ガ˺ランプ [ʔi˞ga˺rampu]< 烏賊ランプ。集魚灯 > を灯して烏賊を釣り、大漁して翌日朝早く島に帰られた)。

イ˞ガメードング [ʔi˞gameːdoŋgu] 【名】イカ釣り漁具。イ˞ガメードンゴー˺　ス˞コーレー˺ン [ʔi˞gameːdoŋgoː˺ sʉ˞koːreː˺ŋ](イカ釣りの漁具は準備できた)。

イ˞ガヤマ [ʔi˞gajama] 【名】イカを天日乾燥する装置。烏賊干し棚綱。砂浜に高さ約 2 メートルの垂木を約 1、5 メートル間隔に数本打ち込み、それに約 25 センチ間隔に縄を数本張ってイカを掛け吊るして干す綱の棚を作ったもの。イ˞ガー˥　バ˞ザイティ˥　イ˞ガヤマ˥ナ　˥プシティ　プ˞スマ˥　ナルカー　イ˞ガ　カイ˥シ　˥プシバ [ʔi˞ga:˥ ba˞ʤaiti˥ ʔi˞gajama˥na ˥pu̥ʃiti pu̥˞suma˥ naruka: ʔi˞ga kai˥ʃi˥ pu̥ʃiba](イカは　捌いて烏賊干し棚綱に干して、正午にはそれを裏返して干しなさいよ)。パ˞マ˥ナーティ　イ˞ガー˥　バ˞ザイ˥　バター　˥トゥリティ　イ˞ガヤマ˥ナー　˥ガキティ　プ˞ス˥タ [pa˞ma˥na:ti ʔi˞ga:˥ ba˞ʤai˥ bata: ˥turiti ʔi˞gajama˥na: ˥gakiti pu̥˞su˥ta](浜で烏賊を割いて内臓を取って、烏賊干し場の縄に掛け吊るして干した)。

˥イカヨーニ [˥ʔikajo:ni] 【副】どのように。どんなふうに。「如何様に」の義。˞ワー˥　カベール　˥ウカー　˥イカヨーニ　シ˞マチェー˥　シ˞キル˥ワ [˞wa:˥ kabe:ru ˥ʔuka: ˥ʔikajo:ni ʃi˞matʃe:˥ ʃi̥˞kiru˥wa](君が被った借金はどのように始末をつけるか)。

イ˞カラーイカラー [ʔi˞kara:ʔikara:] 【副】気分が変である。胸が締め付けられそう。違和感を覚える体調で、おかしな状態である。ッ˞ふァイムヌナー˥ル　ア˞タルタ˥ユー　˥キムン　イ˞カラーイカラー˥　シテイ　ム˞ヌカン˥ガイン　シ˞ララヌ [f˞faimununa:˥ru ʔa˞taruta˥ju: ˥kimuŋ ʔi˞kara:ʔikara:˥ ʃi̥ti mu˞nukaŋ˥gaiŋ ʃi˞raranu](食べ物にが＜ぞ＞当ったのか気分が変になって、どうしたらいいのかも分からない＜ものごとを考えることもできない＞)。イ˞カラーイカラーヌ˥　プ˞ス [ʔi˞kara:ʔikara:nu˥ pu̥˞su](様子が普通でない人。立ち居ふるまいが正常でない人)。

イ˞カラーイカラー˥シ [ʔi˞kara:ʔikara:˥ʃi] 【副】怪しげに。頼りなく。いかがわしく。妙におかしく。ウ˞ヌ˥　プ˞ソー˥　イ˞カラーイカラー˥シル　˥ムニン　イ˞ゾー˥ル˞ダー [ʔu˞nu˥ pu̥˞so:˥ ʔi˞kara:ʔikara:˥ʃiru ˥muniŋ ʔi˞ʤo:˥ru˞da:](その人はいかにも頼りなさそうにしか話されない＜頼りなさそうに、怪しげにぞものも言われる＞)。

イ˞カラー˥サン [ʔi˞kara:˥saŋ] 【形】怪しい。疑わしい。いかがわしい。気分がおかしい。ウ˞リヌ˥　ム˞ニイジョー˥ヤ　イ˞カラー˥サン [ʔu˞rinu˥ mu˞niʔiʤijo:˥ja ʔi˞kara:˥saŋ](その人の話し振りは＜もの言いようは＞どうも疑わしい)。

イ˞カラー˥ン [ʔi˞kara:˥ŋ] 【形】気分が変である。心状や体調が正常でなく、妙におかしい。キ˞ム˥ヌ　イ˞カラー˥ヌ　ウ˞ティ˥シキ　ブ˞ララヌ [ki˞mu˥nu ʔi˞kara:˥nu ʔu˞ti˥ʃi̥ki bu˞raranu](気持ち＜気分＞がどことなく変で、心配で落ち着いておられない)。

イ˞ガ˥ランプ [ʔi˞ga˥rampu] 【名】イカ漁に用いるランプ (集魚灯)。直径約 10 センチの底が広く、長さ 40～50 センチのブリキ板製の油タンクに、直径約 5 センチの˞トゥー˥ジン [tu:ʤiŋ](灯心) をつけたもの。炎に雨水や海水がかからぬように笠＜カバー＞をつけ、タンク部に柄を付け、舟の舷側に取り付けた針金製の M 字型のランプ掛けにランプの首を掛けて固定する。イ˞ガ˥ランプ　˥シケーティル　イ˞ガー　ホー˥ソーッタ [ʔi˞ga˥rampu ˥ʃi̥ke:tiru ʔi˞ga: ho:˥so:tta](烏賊釣り用ランプを点けてイカを釣られた)。イ˞ガ˥ランプヌ　˞ピー˥ヤ　ナ˞カン˥ブレーラン　˥ユー　ミ˞ラリ˥タン [ʔi˞ga˥rampunu ˞pi:˥ja na˞kam˥bure:raŋ ˥ju: mi˞rari˥taŋ](イカ釣り漁のイカランプ＜集魚灯＞の火は鳩間中岡からもよく見えた)。

˥イキ [ʔiki] 【名】1 息。呼吸。ク˞ヌ　イン˥マー　˥イケー　˞シーブン [ku˞nu ʔim˥ma: ˥ʔike: ˞ʃi:buŋ](この犬は呼吸をしている＜息をしている＞)。˥ウズ˥カブカー　˥イキ　サ˞ラヌ [˥ʔuʤu ˥kabuka: ˥ʔiki sa˞ranu](布団を被ると息が出来ない)。˥イキ　˞スン [˥ʔiki ˞suŋ](息をする。呼吸する)。イ˞キ˥ヌ　ナ˞ガー˥ン [ʔi˞ki˥nu na˞ga:˥ŋ](息が長い)。イ˞キ˥ヌ　トゥ˞マル˥カー　シ˞ヌント ダー [ʔi˞ki˥nu tu˞maru˥ka: ʃi˞nun˧da:](息が止まったら死ぬよ)。2一休み。プ˞ス˥イキ　˞シーテーラ˥　パ˞タ˥ケーヤ　˥パリ [pu̥˞su˥iki ˞ʃi:te:ra˥ pḁ˞ta˥ke:ja ˥pari](一休みしてから畑へは行きなさい)。

˥イキ [˥ʔiki] 【名】池。水溜り。人工の池。自然の水溜りは、ク˞ム˥ル [ku˞mu˥ru] という。パ˞トゥ˥マナティ　イ˞キ˥ヌ　プ˞ラ˥レー　˞ヤー˥ヤ　シン˞トゥ　ミーキブルル　アッ˥タ [pḁ˞tu˥manati ʔi˞ki˥nu pu˞ra˥re: ˞ja:˥ja ʃin˞tu mi:kibururu ʔat˥ta](鳩間島で池の掘られた家はたった三軒しかなかった＜三軒が(ぞ) あった＞)。

イ˞キアサー˥ン [ʔi˞kiʔasa:˥ŋ] 【形】呼吸が困難である。息苦しい＜息が浅い＞。深く呼吸できないさま。ウ˞ブヤミ˥　シ˞タール˥　ヤ˞ル˥ユー　イ˞キアサー˥ヌ　カ˞シーカシ˥　ムニーン　イ˞ザラヌ [ʔu˞bujami˥ ʃi̥˞ta:ru˥ ja˞ru˥ju: ʔi˞kiʔasa:˥nu kḁ˞ʃi:kaʃi˥ muni:ŋ ʔi˞ʤaranu](大病したからだろうか深く呼吸をすることもできず＜息が浅く＞、はっきり＜しっかり＞

と言葉を話す＜言う＞ことが出来ない)。ア˞ラ˞クカー　イ˞キアサーン˞ドゥ　ニ˞ブ˞カー　˞ナン˞ゾー　イ˞キアサー　ナー˞ヌ [ʔa˞ra˞kuka: ʔi˞kiʔasa:n˞du ni˞bu˞ka: ˞nan˞ʤo: ʔi˞kiʔasa: na:˞nu](歩くと息苦しいが、寝るとあまり息苦しくない)。˞シンダイ˞　イ˞キアサー˞　ナリ　˞クン [˞ʃindai˞ ʔi˞kiʔasa:˞ nari ˞kuŋ](次第に息苦しくなってくる)。イ˞キアサー˞　ピンマー　ウ˞ブ˞イキ　シゥ˞カイ˞バ [ʔi˞kiʔasa:˞ pimma: ʔu˞bu˞ʔiki si̥˞kai˞ba](息苦しい時は深呼吸をしなさいよ)。

イ˞キ˞ウイ [ʔi˞ki˞ui] 【名】勢い。威勢。気勢。˞アンヌムラー˞　プ˞スヌ　ゴー˞ラーンダ　シ˞ナピキ˞ヌ　˞ピンマー　イ˞キウイ˞ヌ　˞スー˞ワタン [˞ʔannumu-ra:˞ pu̥˞sunu go:˞ra:nda ʃi˞napiki˞nu ˞pimma: ʔi˞kiui˞nu ˞su:˞wataŋ](東村は人が多いので、綱引きの時は勢いが強かった)。

イ˞キガイラ˞スン [ʔi˞kigaira˞suŋ] 【他動】生き返らせる。蘇生させる。ウ˞ヌ　イン˞マー　˞パンブン˞シニ　˞シーベーン˞ドゥ　イ˞キガイラ˞スンティ　˞トゥンザ˞ク　˞シーベー [ʔu˞nu ʔim˞ma: ˞pambuŋ˞ʃini ˞ʃi:be:n˞du ʔi˞kigaira˞sunti ˞tunʤa˞ku ˞ʃi:be:](その犬は仮死状態である＜半死している＞が生き返らせようと手当て＜看病・養生＞している)。

イ˞キカイリ [ʔi˞kikairi] 【名】行き帰り。˞ギームドゥル [˞gi:muduru](行き戻り)、˞ギーカイリ [˞gi:kairi](行き帰り) というのが普通。イ˞サンケーヌ˞　イ˞キカイ˞リナー　ピ˞マー˞　ス˞クリ　˞ヤーム˞トゥ　サ˞バ˞キ　˞クーバ [ʔi˞saŋke:nu˞ ʔi˞kikai˞rina: pi˞ma:˞ su̥˞ku˞ri ˞ja:mu˞tu sa˞ba˞ki ku:ba](石垣への行き帰りに時間を＜暇を＞つくって元祖の家＜家元＞を探し求めてきなさい)。

イ˞キカイ˞ルン [ʔi˞kikai˞ruŋ] 【自動】生き返る。蘇生する。ス˞ナカ˞ナ　˞ウッふィティ　パンブン˞シニ　˞シーベータン˞ドゥ　˞スー　パ˞カシ˞ター　イ˞キカイ˞レーン [su˞naka˞na ˞ʔuffiti pambuŋ˞ʃini ˞ʃi:be:tan˞du ˞su: pḁ˞kaʃi̥˞ta: ʔi˞kikai˞re:ŋ](海で溺れて半死の状態だった＜半分死にしていた＞が潮水を吐かせたら生き返ったよ)。ブ˞チ˞クン　シ˞ティ˞　イキ　トゥ˞マリ　ベータン˞ドゥ　イ˞キカイ˞レーン [bu˞ʧi˞kuŋ ʃi̥˞ti˞ ʔiki tu˞mari be:tan˞du ʔi˞kika˞ire:ŋ](気絶して息が止まっていたが、生き返った)。ピ˞ルケーラ˞　ミ˞ジ˞　フ˞キカキ˞ルカー　イ˞キカイ˞ルン [pi˞ruke:ra˞ mi˞ʤi˞ ɸu̥˞kikaki˞ruka: ʔi˞kikai˞ruŋ](ひよめき＜泉門＞から水を吹きかけると生き返る)。イ˞キカイラ˞ヌ [ʔi˞kikaira˞nu](生き返らない)。イ˞キカイ˞ル　クトゥ [ʔi˞kikai˞ru ˞kutu](生き返ること)。イ˞キカイ˞レー　˞ミサムヌ [ʔi˞kikai˞re: ˞misamunu](生き返れば良いのに)。イ˞キカイ˞リ [ʔi˞kikai˞ri](生き返れ)。

イ˞キキシ˞ルン [ʔi˞kiki̥ʃi˞ruŋ] 【自動】息切れる。激しく喘ぐ。˞パリクーカー　イ˞キキシ˞ルン [˞pariku:ka: ʔi˞kiki̥ʃi˞ruŋ](走ってきたら息切れる＜激しく喘ぐ＞)。カ˞キッツァー˞シ　パ˞ル˞バン　イ˞キキシラ˞ヌ [kḁ˞kittsa:˞ʃi pa˞ru˞baŋ ʔi˞kiki̥ʃira˞nu](駆けて行っても息切れな＜喘がない＞)。イ˞キキシ˞ルカー　˞ユー˞クイバ [ʔi˞kiki̥ʃi˞ruka: ˞ju:˞kuiba](息切れしたら休みなさい)。

˞イキ　キ˞シンギサ˞ル [˞ʔiki ki̥˞ʃiŋgisa˞ru] 【連】息絶えそうだ＜息切れそうだ＞。死にそうだ。ク˞ヌ　ブン˞シェー　˞イキ　キ˞シンギサ˞ル　˞ナームテー　サン˞パジ [ku˞nu buŋ˞ʃe: ˞ʔiki ki̥˞ʃiŋgisa˞ru ˞na:mute: sam˞paʤi](この様子では息絶え＜死に＞そうだ。長持ち＜長く活きること＞はしない＜だろう＞はずだ)。

イ˞キ˞キスン [ʔi˞ki˞ki̥suŋ] 【自動】1息切れる。呼吸が苦しく激しく喘ぐ。苦しそうに息をする。˞アドーラ　˞パリクーカー　イ˞キ˞キスン [˞ʔado:ra ˞pariku:ka: ʔi˞ki˞ki̥suŋ](あんなに遠い所から走ってくると息切れる＜呼吸が苦しくなって喘ぐ＞)。˞パッツァー˞シ　˞パッ˞タンティン　イ˞キキサ˞ヌ [˞pattsa:˞ʃi ˞pat˞tantiŋ ʔi˞kiki̥sa˞nu](駆けて行っても息切れない)。2息絶える。死ぬ。イ˞キザー˞サティ　ク˞チ˞サ　˞シー　ベータン˞ドゥ　˞アトーケー　イ˞キ˞キシ　˞ナーン˞シェンツォー [ʔi˞kiʤa:˞sati ku̥˞ʧi ˞sa ˞ʃi: be:tan˞du ˞ʔato:ke: ʔi˞ki˞ki̥ʃi ˞na:ŋ˞ʃentso:](息苦しいので、苦しんでいた＜苦しくしていた＞が、とうとう＜後になって＞息絶えて＜死んで＞しまったそうだ)。

イ˞キグリ˞サン [ʔi˞kiguri˞saŋ] 【形】息苦しい。呼吸することが苦しい。息が詰まるように苦しい。˞アイブ　シ˞バーン˞トンナー　イ˞キグリサ˞ヌ　ナ˞ガラコー　ベーラ˞ヌ [˞ʔaibu ʃi˞ba:n˞tonna: ʔi˞kigurisa˞nu na˞garako: be:rara˞nu](あんな狭いところには息苦しくて、長らくは居れない)。˞ピーマキ˞　ウ˞ク˞ルカー　イ˞キグリ˞サン [˞pi:maki˞nu ʔu˞ku˞ruka: ʔi˞kiguri˞saŋ](喘息の発作が起きると息苦しい)。イ˞キグリサー　ナー˞ヌ [ʔi˞kigurisa: na:˞nu](息苦しくない)。˞シンダイ˞　イ˞キグリ˞サ　˞ナルン [˞ʃindai˞ ʔi˞kiguri˞sa ˞naruŋ](次第に息苦しくなる)。イ˞キグリ˞サ　˞ピンマー　フ˞チ˞ル　˞ヌミバ [ʔi˞kiguri˞

sa ˺pimma: ɸu̥˹tʃi˺ru ˺numiba](息苦しい時は薬を飲みなさいよ)。

イ˹キザー˺サン [ʔi˹kiʥa:˺saŋ] 【形】息苦しい。「息・障え (～うつせみの人か禁良武＜サフラム＞～。万、619)・さ・あり」の転訛したものか。呼吸することが苦しい。息をすることが難しい。息づまるように苦しい。ウ˹ビ˺ヌ　プ˹スバ　ヤー˺ンナカナ　˹ペーラ˺シティ　˺ヤドゥ　フ˹ジックミティ˺　シケーンダー　イ˹キザーサ˺ヌ　˺ムノー　ウ˹モーラ˺ヌ [ʔu˹bi˺nu pu̥˹suba ja:n˺nakana ˹pe:ra˺ʃi̥ti ˺jadu ɸu˹ʤikkumiti˺ ʃi̥ke:nda: ʔi˹kiʥa:sa˺nu ˺muno: ʔu˹mo:ra˺nu](あれだけの数の人を家の中に入れて、戸を閉め切ってあるのだから、息苦しくて何も考えられないほどだ＜堪らない＞)。ウ˹ビッチン˺　トンナー　ユ˹タールナー˺　ク˹ミラ˺リカー　イ˹キザー˺サンドゥ　˹タン˺ガン　˹デー˺カー　イ˹キザーサー　ナー˺ヌ [ʔu˹bittʃin˺ tonna: ju˹ta:runa:˺ ku˹mira˺rika: ʔi˹kiʥa:˺sandu ˹taŋ˺gan ˹de:˺ka: ʔi˹kiʥa:sa: na:˺nu](これぽっちの所に四人も籠められると息苦しいが、一人なら息苦しくない)。˺ドゥク　イ˹キザー˺サティル　˺ンジ　˹パッ˺タ [˺duku ʔi˹kiʥa:˺satiru ʔnʤi ˹pat˺ta](あまりにも息苦しいので出て行った)。イ˹キザーサ˺ヌ　˺ウナー　ブ˹ラララヌ [ʔi˹kiʥa:sa˺nu ˺ʔuna: bu˹raranu](息苦しくて、そこにはおれない)。イ˹キザー˺サ　プ˹ソー˺　ンジ　˺ミサン [ʔi˹kiʥa:˺sa pu̥˹so:˺ ʔnʤi ˺misaŋ](息苦しい人は出てもいい)。˺ヤドゥ　フ˹ジックム˺カー　イ˹キザー˺サン [˺jadu ɸu˹ʤikkumu˺ka: ʔi˹kiʥa:˺saŋ](戸を閉め切ると息苦しい)。イ˹キザーサ˺ヌ　˺ウナー　ブ˹ラララヌ [ʔi˹kiʥa:sa˺nu ˺ʔuna: bu˹raranu](息苦しくて、そこには居れない)。イ˹キザーサ　ナー˺ヌ [ʔi˹kiʥa:sa na:˺nu](息苦しくない)。˹シンダイ˺　イ˹キザー˺サ　˺ナルン [˹ʃindai˺ ʔi˹kiʥa:˺sa ˺naruŋ](次第に息苦しくなる)。イ˹キザー˺サ　˺ピンマー　˺ヤドゥ　ア˹キ˺バ [ʔi˹kiʥa:˺sa ˺pimma: ˺jadu ʔa˹ki˺ba](息苦しい時は戸を開けなさい)。

イ˹キザイ [ʔi˹kiʥai] 【名】呼吸困難。「息・障え」の義か。胸が締め付けられるように苦しくなり、呼吸することが苦しくなること。喘息などで呼吸困難となり苦しむこと。発作的に呼吸が苦しくなること。˺イキ　˹スー˺カー　イ˹キ˺ザイ　シ˹ティ˺　イキサ˹ラヌ [˺ʔiki ˹su:˺ka: ʔi˹ki˺ʥai ʃi̥˹ti˺ ʔiki sa˹ranu](呼吸をすると胸が締め付けられて苦しくなり、息ができない＜呼吸できない＞)。

イ˹キサラー˺ン [ʔi˹kisara:˺ŋ] 【形】息が絶え絶えになるさま。息がとぎれとぎれになるさま。˺ヤミ　˹ヨーガリティ˺　イ˹キサラーン˺ギサリ　グ˹マーグマー˺シル　˺イキーン　˹シーオー˺ル [˺jami ˹jo:gar-iti˺ ʔi˹kisara:ŋ˺gisari gu˹ma:guma:˺ʃiru ˺ʔiki:ŋ ˹ʃi:ʔo:˺ru](病気をして＜病みて＞痩せこけて息も絶え絶えのようで、小さく息もしておられる)。

˺イキ　˹シーマーキ [˺ʔiki ˹ʃi:ma:ki] 【連】息をし兼ねて。˹～マーキ [˹-ma:ki] は「～できない」意を表す接尾語。˹ピーマキ˺　ウ˹クル˺ター　˺イキ　˹シーマーキ　ベー [˹pi:maki˺ ʔu˹kuru˺ta: ˺ʔiki ˹ʃi:ma:ki be:](喘息の発作が起きたので息をし兼ねている)。

イ˹キシチ [ʔi˹kiʃi̥tʃi] 【名】˹いきさつ」の転訛したもの。経緯。成り行き。事情。˹ヌー˺シル　イ˹キシチヌ˺＜ワ˹キ˺ヌ＞　アリティル　˺アイブ　ク˹トゥ˺バ　シ˹タ˺ユー　キ˹ムイツァー˺ヌ　ナ˹ラ˺ヌ [˹nu:˺ʃiru ＜wa˹ki˺nu＞ ʔi˹kiʃi̥tʃinu˺ ʔaritiru ˺ʔaibu ku̥˹tu˺ba ʃi̥˹ta˺ju: ki˹muitsa:˺nu na˹ra˺nu](如何なるいきさつ＜訳＞があって、あのようなことをしたのか、不憫で＜肝痛くて＞ならない)。イ˹キシチェー˺ッ˹サヌンドゥ˺　ユー　パ˹ナシアー˺シ　ミ˹ルバ˺ル　マ˹シェー˺　ア˹ラヌ [ʔi˹kiʃi̥tʃe:˺ s˹sanundu˺ ju: pa˹naʃiʔa:˺ʃi mi˹ruba˺ru ma˹ʃe:˺ ʔa˹ranu](事情＜経緯＞は知らないが、よく話し合ってみたほうがよい＜まし＞ではないか)。

˺イキシニ [˺ʔikiʃini] 【名】生き死に。生死。生きるか死ぬかの問題。プ˹スヌ˺　イキシニナ　カ˹カ˺ル　ク˹トゥ˺ル　ヤ˹ルムヌ˺　ナー˹イヤ˺　シ˹キララ˺ヌ [pu̥˹sunu˺ ʔikiʃinina kḁ˹ka˺ru ku̥˹tu˺ru ja˹rumunu˺ na:˹ija˺ ʃi̥˹kirara˺nu](人の生死にかかわることだから、放置しておけない)。

˺イキ　シ˹マ˺ルン [˺ʔiki ʃi˹ma˺ruŋ] 【連】息が詰まる。息詰まる。呼吸ができなくなる。ウ˹ブ˺フチシ　ム˹チバ˺　ッ˹ふァイティ˺　ヌドゥナ　カ˹カラ˺スカー　˺イキ　シ˹マ˺ルン˹ダー [ʔu˹bu˺ɸu̥tʃiʃi mu˹tʃiba˺ f˹faiti˺ nuduna kḁ˹kara˺su̥ka: ˺ʔiki ʃi˹ma˺run˹da:](大口で餅を食べて喉に引っかけると息が詰まるよ)。

˺イキ　シ˹ラリン [˺ʔiki ʃi˹rariŋ] 【連】一息つける。一休みできる。安心できる。ヤ˹ラ˺ビンケーン　ムー˹ル˺　フ˹ドゥビ˺　ドゥームティ　˹パッ˺ター　マ˹ナ˺マー　ヤッ˹トゥ˺シ　˺イキ　シ˹ラリン˺ダー [ja˹ra˺biŋke:m mu:˹ru˺ ɸu˹dubi˺ du:muti ˹pat˺ta: ma˹na˺ma: jat˹tu˺ʃi ʔiki ʃi˹rarin˺da:](子供たちもみんな成長して独立していったので、今はやっとで一息つくことが出来る＜一休みできる＞よ)。

˺イキ　˹スー˺　マドゥン　˹ナー˺ヌ [˺ʔiki ˹su:˺ madun

˩naː˥nu] 【成】多忙で息をする暇 (まどお < 間遠 >) もない。˩マイカリヌ パンタ˥サー ˥イキ ˩スー˥ マドゥン ˩ナー˥ヌ [˩maikarinu pantaˬsaː ˥ʔiki ˩suː˥ madun ˩naː˥nu](稲刈りの忙しさ < 繁多さ > は、息をする暇も無いくらいだ)。

˥イキ スˬクン [˥ʔiki su̥ˬkuŋ] 【連】息をするとちくちく痛む。息をすると胸の奥が突かれるように痛む。「息突く」の義か。˥ヌンティル ヤˬル˥ユー˥イキ シˬキティ˥ アˬラカラ˥ヌ [˥nuntiru jaˬruˬjuː ˥ʔiki ʃi̥ˬkiti˥ ʔaˬrakaraˬnu](なぜなのか、息をすると胸の奥が突かれるように痛んで歩かれない < 歩けない >)。

˥イキ ˩スン [˥ʔiki ˩suŋ] 【連】一呼吸する。息をする。一息いれる。プˬス˥ イキ ˩シーテーラ˥ パˬタ˥キ ˩カイ˥シバ [pu̥ˬsu˥ ʔiki ˩ʃiːteːra˥ pḁˬta˥ki ˩kai ˥ʃiba](一息いれてから < 一休みして > 畑を耕しなさい)。フカーフˬカー˥シ ˥イキ ˩シートミー [ɸu̥kaːɸu̥ˬkaː˥ʃi ˥ʔiki ˩ʃiːトmiː](深呼吸して < 深々と息を吸って > ごらんよ)。

イˬキ˥ダマ [ʔiˬki˥dama] 【名】生きている人の霊魂が肉体を離れ、他の人に災禍をもたらすもの。「〜物怪 (もののけ) 生霊 (いきずたま) などいふもの多く出で来て」『源氏物語 葵』、「窮鬼、イキズタマ」『類聚名義抄』の転訛したもの。ウˬヌ˥ プˬスヌ˥ イˬキダマ˥ヌ ミˬラ˥リンツォー [ʔuˬnu˥ pu̥ˬsunu˥ ʔiˬkidama˥nu miˬra˥rintsoː](その人の生霊が見られる < 見える > そうだよ)。普通は肉体から遊離してさ迷っている霊魂を元の肉体に取り戻す祈願を行って健康を維持した。それがマˬブ˥ルクミ [maˬbu˥rukumi](魂籠め) である。イˬキ˥ダマ ˥ミル プˬスン オー˥ルン [ʔiˬki˥dama ˥miru pu̥ˬsuŋ ʔoː˥ruŋ](生霊を見る人もおられる)。

イˬキッサー˥ン [ʔiˬkissaː˥ŋ] 【形】口臭がする。息が臭い。「息臭い」の義。ピˬル ッふー˥カー ウˬヌ ナーツァー˥ イッˬケン˥ イˬキッサーン˥ダー [piˬru ffuː˥ka: ʔuˬnu naːtsaː˥ ʔikˬkeŋ˥ ʔiˬkissaːn˥daː](大蒜を食べるとその翌日は非常に息が臭いよ)。ウˬレーサッ˥コー イˬキッサー˥ン [ʔuˬreː sak˥koː ʔiˬkissaː˥ŋ](彼は非常に息が臭い < 口臭が酷い >)。イˬキッサー˥ヌ ンˬカーラヌ [ʔiˬkissaː˥nu ʔŋˬkaːranu](息が臭くて面と向かえない)。イˬキッサー ナー˥ヌ [ʔiˬkissa: naː˥nu](息臭くない)。イˬキッサー˥ プˬストー˥ パˬナシ˥プサー ˩ナー˥ヌ [ʔiˬkissaː˥ pu̥ˬsutoː˥ paˬnaʃi˥ pu̥sa: ˩naː˥nu](息臭い < 口臭の酷い > 人とは話したくない)。

イˬキッサリ˥カザ [ʔiˬkissari˥kadʑa] 【名】口臭。息の臭いこと。「息腐れ匂い」の義。フˬチッサリ˥カザ [ɸu̥ˬtʃissari˥kadʑa](口臭) ともいう。ウˬヌ˥ プˬソー˥ イˬキッサリ˥カザ シˬティ˥ ンˬカーラヌ [ʔuˬnu˥ pu̥ˬsoː˥ ʔiˬkissari˥kadʑa ʃi̥ˬti˥ ŋˬkaːranu](その人は口臭がひどくて < 息腐れ匂いがして > 対面できない < 向き合うことができない >)。

˥イキハーハー [˥ʔikihaːhaː] 【名】息も絶え絶えに喘ぐさま。喘ぎ喘ぎするさま。˥アドーラ ˥ヌチカギリ ˥パリケーティル ˩イキハー˥ハー ˩シー ベー˥ル [˥ʔadoːra ˥nutʃikagiri ˥parikeːtiru ˩ʔikihaː˥haː ˩ʃiː beː˥ru](あんなに遠い所から命がけで走ってきたので < ぞ > 息も絶え絶えに喘いでいるのだ)。

˥イキ ˩ハーハー [˥ʔiki ˩haːhaː] 【連】息を弾ませるさま。激しい息遣いをするさま。喘ぐさま。˥トゥシ トゥˬル˥ター ウˬビッチン˥ヌ シˬグトゥ˥シン ˥イキ ˩ハーハー シース [˥tu̥ʃi tuˬru˥taː ʔuˬbittʃin˥nu ʃiˬgutu˥ʃiŋ ˥ʔiki ˩haːha: ʃiːsu](年を取ったので、これっぽちの仕事でも息を弾ませる < 激しい息遣いをする >)。

イˬキバカ˥リ [ʔiˬkibaka˥ri] 【名】生き別れ。シˬニバカリ [ʃiˬnibakari](死に別れ) の対義語。˩ウン˥ネヌ ウˬヤッ˥ふァー イˬキバカリ˥ル ˩ソー˥レール シˬニバカレー˥ アˬラ˥ヌ [˩ʔun˥nenu ʔuˬjafˬfaː ʔiˬkibakari˥ru ˩soː˥reːru ʃiˬnibakareː˥ ʔaˬra˥nu](その家の親子は生き別れをされたのであって、死に別れではない)。イˬクサ˥ユーナ ウˬヤッ˥ふァ イˬキバカ˥リ ˥ナリ ˩ナーン˥シェン [ʔiˬkusa˥juːna ʔuˬjafˬfa ʔiˬkibaka˥ri ˥nari ˩naːŋ˥ʃeŋ](戦争で親子生き別れになってしまった)。

˥イキ ˥パクン [˥ʔiki ˥pḁkuŋ] 【連】息を吐く。˥イキ ˥パクン [˥ʔiki ˥pḁkuŋ](息を吐く)。ウˬブ˥イキ ˥パクン [ʔuˬbu˥ʔiki ˥pḁkuŋ](深呼吸をする < 大息を吐く >)。

イˬキ˥パジ [ʔiˬki˥padʑi] 【名】赤恥。ひどい恥。「生き恥」の義。ウˬビ˥ヌ プˬスヌ˥ マイナー ウˬリンマー˥ ミˬシーミシー˥ イˬキ˥パジ カˬカサ˥リˬヨー [ʔuˬbi˥nu pu̥ˬsunu˥ mainaː ʔuˬrimmaː˥ miˬʃiːmiʃiː ˥ʔiˬki˥padʑi kḁˬkasa˥riˬjoː](あれだけの人の前であいつにはみすみす赤恥をかかされてねえ)。

イˬキパティ [ʔiˬkipḁti] 【名】最果て。中心地より最も遠い果ての地。「行き果て」の義。ムˬカ˥セー パˬティルマトゥ˥ ユˬノンマー˥ イˬキパティヌ˥ シマティ アˬザリブタ˥ティ アˬズヌ˥ マˬナ˥マー ヒˬコー˥キン トゥˬビブー˥ダー [muˬka

˺ʃeː pḁ˹tirumatu˺ ju˹nommaː˺ ʔi˹kipḁtinu˺ ʃimati ʔa˹ ʥaributa˺ti ʔa˹ʥunu˺ ma˹na˺maː çi̥˹koː˺kin tu˹bibuː˺ daː](昔は波照間と与那国は最果ての島と言われていたというが、今では飛行機も飛んでいるよ)。

イ˹キ˺バナ **[ʔi˹ki˺bana]** 【名】床の間の神前や仏壇に供える花。「生け花」の義。シ˹キダ˺チ　˺ズングニチェー　˹ザートゥク˺トゥ　トゥ˹クニヌ˺　イ˹キ˺バナー　˹カイリ˺ヨー [ʃi̥˹kida˺ʧi ˺ʥuŋguniʧeː ˹ʥaːtuku˺tu tu˹kuninu˺ ʔi˹ki˺banaː ˹kairi˺joː](朔日＜ツキタチ＞十五日には床の間と仏壇の生け花は取替えなさいよ)。

イ˹キブイ **[ʔi˹kibui]** 【名】元気。勢い。活力。気力。意気込み。生気が漲っていること。「～いかめしく勢ひ＜いきほい＞たるを羨みて」『源氏物語 玉鬘』の [ɸo] が [bu] に音韻変化したもの。生気が漲っていること。ニ˹チ˺ヌ　サ˹マル˺ター　マ˹ナマンチン˺　イ˹キブイヌ˺　ンジケーチバ　˹ソーヤ　ナー˺ヌ [ni˹ʧi˺nu sa˹maru˺taː ma˹namanʧiŋ˺ ʔi˹kibuinu˺ ʔnʤikeːʧiba ˹soːja naː˺nu](熱が下がった＜冷めた＞ので、急に元気が出てきたので心配はない)。イ˹キブイヌ˺　アル　プ˹ス [ʔi˹kibuinu˺ ʔaru pu̥˹su](勢い＜活力＞のある人＜元気な人＞)。ア˹ミ˺ヌ　˺フーカー　ス˹クリ˺ムノー　イ˹キブイ˺　ン˹ジ˺ルン [ʔa˹mi˺nu ˺ɸuːkaː su̥˹kuri˺munoː ʔi˹kibui˺ ʔn˹ʤi˺ruŋ](雨が降ったら作物は勢い＜生育の活力＞が出る)。ン˹マー˺ムヌ　ッ˹ふァーシター˺　イ˹キブイ˺　ンジケーン [ʔm˹maː˺munu f˹faːʃi̥taː˺ ʔi˹kibui˺ ʔnʤikeːŋ](美味しいもの＜滋養のあるもの＞を食べさせたら元気が出てきた)。

イ˹キブイ　スー˺ルン **[ʔi˹kibui suː˺ruŋ]** 【連】元気が出る。勢いが出る。活力が出る。ア˹ミ˺ヌ　˺フーカー　ム˹ヌスク˺ロー　イ˹キブイ　スー˺ルン [ʔa˹mi˺nu ˺ɸuːkaː mu˹nusuku˺roː ʔi˹kibui suː˺ruŋ](雨が降ったら作物は勢いが出る＜強くなる＞)。

イ˹キフキカー˺フキ **[ʔi˹kiɸu̥kikaː˺ɸu̥ki]** 【副】あえぎあえぎ。激しく息づかいをして。苦しみながら。「息吹き」の重言。˹ダッコッキ˺バ　カ˹タ˺ミ　キ˹ダバナミチェー˺ラ　イ˹キフキカー˺フキ　˹シェー˺ティル　ク˹バシター˺ヌ　˹マイカリ　シンオーッ˺タ [˹dakkokki˺ba kḁ˹ta˺mi ki˹dabanamiʧeː˺ra ʔi˹kiɸu̥kikaː˺ɸu̥ki ˹ʃeː˺tiru ku˹baʃi̥taː˺nu ˹maikari ʃiŋ ʔoːt˺ta](脱穀機を担ぎ、キダバナ＜崖＞道から喘ぎ苦しみながらクバシタ田地の稲刈りをしに行かれた)。

˺イキ　フ˹キカイ˺スン **[˺ʔiki ɸu̥˹kikai˺suŋ]** 【連】息を吹き返す。生き返る。ブ˹チ˺クン　シ˹ティ˺　イキ　トゥ˹マリ　ベータン˺ドゥ　˺イキ　フ˹キカイ˺セーンツォー [bu˹ʧi˺kuŋ ʃi̥˹ti˺ ʔiki tu˹mari beːtan˺du ˺ʔiki ɸu̥˹kikai˺ʃeːntsoː](気絶して息が止まっていたが、息を吹き返したそうだ)。

イ˹キフキ˺ムヌ **[ʔi˹kiɸu̥ki˺munu]** 【名】慌てふためく者。そそっかしい者。粗忽者。ノー˹ン˺　シ˹ミルバン˺　イ˹キフキムヌ˺ン　˺カタチニ　˹アーフケー˺ティ　˹アー˺キ　シ˹ルッ˺コー　ナ˹シ˺ス˹ツォー [noː˹ŋ˺ ʃi˹miruban˺ ʔi˹kiɸu̥kimunu˺ŋ ˺kḁtaʧini ˹ʔaːɸu̥keː˺ti ˹ʔaː˺ki ʃi˹ruk˺koː na˹ʃi˺su˹tsoː](何をさせても粗忽者のように慌ててばかりいるので台無しにしてしまうのだよ)。

イ˹キ˺フクン **[ʔi˹ki˺ɸu̥kuŋ]** 【自動】喘ぐ。息苦しくなる。激しく呼吸する。激しい息づかいをする。「息吹く」の義か。カ˹キッツァー˺シ　パリ˹クー˺ター　イ˹キ˺フキ　˹ナー˺ヌ [kḁ˹kittsaː˺ʃi ˺pari ˹kuː˺taː ʔi˹ki˺ɸu̥ki ˹naː˺nu](全力で駆けつけて＜駆け散らして＞きたので激しく喘いでしまった)。呼吸が激しくなる。激しく呼吸する。息切れする。「息吹く」の義。˹ウイ˺プソー　カ˹キッツァー˺スカー　イ˹キ˺フクンダ　イ˹キフカン˺ヨーニ　ア˹ラ˺キバ [˹ʔui˺pu̥soː kḁ˹kittsaː˺su̥kaː ʔi˹ki˺ɸu̥kunda ʔi˹kiɸu̥kaŋ˺joːni ʔa˹ra˺kiba](老人は駆けつけると喘ぐ＜息切れする＞から、喘がないように歩きなさいよ)。イ˹キ˺フキ　˹ナー˺ヌ [ʔi˹ki˺ɸu̥ki ˹naː˺nu](息切れしてしまった)。イ˹キ˺フク　˺クトー　˹ナー˺ヌ [ʔi˹ki˺ɸu̥ku ˺ku̥toː ˹naː˺nu](息切れすることはない)。

イ˹キ˺プス **[ʔi˹ki˺pu̥su]** 【名】生きている人。「生き人」の義。シ˹ニプス [ʃi˹nipu̥su](死人) の対義語。イ˹キプスン˺ナーニ　ム˹ニ˺　イズニ　シ˹ニプスンナー˺ニン　ム˹ニ˺バ　イ˹ジ˺　ナ˹キ˺　カ˹ザリオー˺ル [ʔi˹kipu̥sun˺naːni mu˹ni˺ ʔiʥuni ʃi˹nipu̥sunnaː˺nim mu˹ni˺ba ʔi˹ʤi˺ na˹ki˺ ka˹ʥariʔoː˺ru](生きている人にものを言うように死んだ人にも話して、泣きながら思いの丈を述べ立てておられる)。イ˹キプス˺ヌ　ク˹トゥ˺ル　シ˹ダキ　カンガイ˺ル　˺ヌンティ　グ˹ソーンプス˺ヌ　˺クトゥシ　˹ムン˺ドー　ウ˹クス˺ワ [ʔi˹kipu̥su˺nu ku̥˹tu˺ru ʃi˹daki kaŋgai˺ru ˺nunti gu˹soːmpu̥su˺nu ˺ku̥tuʃi ˹mun˺doː ʔu˹kusu˺wa](生きている人のことを先＜第一＞に考えるものだ。どうしてあの世＜後生＞の人のことで喧嘩する＜問答を起こす＞のか)。

イ˹キプトゥ˺キ **[ʔi˹kiputu˺ki]** 【名】生き仏。仏のように徳の高い人。善人。ウ˹ヌ˺　プ˹ソー˺ヨー　シ˹マ˺

ナーテー　イ˞キプトゥ˜キティ　ア˞ザリ　オー˜ル [ʔu˞nu˜ pu̥˞soː˜joː ʃi˞ma˜naːteː ʔi˞kipu̥tu˜kiti ʔa˞ʤari ʔoː˜ru](その人は島では仏のような徳の高い人＜生き仏＞だと言われておられる)。

イ˞キブル [ʔi˞kiburu] 【名】おくび。「息振り」の義か。げっぷ。イ˞キブルヌ˜　トゥ˞マラン˜　ピンマー　ク˞シナカ˜　ダン˞テイ˜　タ˞タッ˜クカー　˞ノー˜ルンティ˞ダー [ʔi˞kiburunu˜ tu˞maram˜ pimmaː ku̥˞ʃinaka˜ dan˞ti˜ tḁ˞tak˜kukaː ˞noː˜runti˞daː](げっぷが止まらないときは、背中をだーんと叩くと直るそうだよ)。げっぷ。おくび。˜ヌー　˞ふァイティル˜　アイ　˞ブー˜ユー　イ˞キブル　シー˜　ナ˞ラン˜サー [˜nuː ˞faitiru˜ ʔai ˞buː˜juː ʔi˞kiburu ʃiː˜ na˞ran˜saː](何を食べたからであろうか、げっぷをしてどうにもならない)。

イ˞キ˜マ [ʔi˞ki˜ma] 【名】生け間。いけす (生簀)。カツオ漁船の中央部に生け間を設け、船底に穴をあけて網を被せ、新鮮な海水を生け間に環流させながら生餌を生かしておく生簀。カ˞ツシンマー˜　イ˞キ˜マナー　ザ˞コー˜バ　イ˞リティ˜　ウケー　ン˞ゾーッ˜タ [kḁ˞tsuʃimmaː˜ ʔi˞ki˜manaː ʤa˞koː˜ba ʔi˞riti˜ ʔukeː ʔn˞ʤoːt˜ta](カツオ漁船は生け間に生餌＜雑魚＞を入れて漁場＜沖＞へ出られた)。

イ˞キム˜シ [ʔi˞kimu˜ʃi] 【名】1動物。畜生。「生き虫」の義。イ˞キム˜シサーギドゥ　ッ˞ふァヌ˜　ク˞トゥ˜バ　˜ウ˞ムイ˜ル　ナ˞ク　ニン˜ギンティ　マ˞リティ˜　ッ˞ふァ˜　ウ˞モー˜ン　˜ムヌ　˞ブン [ʔi˞kimu˜ʃisaːgidu f˞fanu˜ ku̥˞tu˜ba ʔu˞mui˜ru na˞ku niŋ˜ginti ma˞riti˜ f˞fa˜ ʔu˞moː˜m ˜munu ˞buŋ](動物ですら子供のことを思って泣くのだ。人間として生まれて子供のことを思わないものが居るか)。「虫」という文字を作った中国では、「虫」は動物の総称の意味を持つ。例えば「羽虫」は鳥類、「毛虫」は獣類、「甲虫」は亀や蟹類、「鱗虫」は魚類、「裸虫」は人類の如く、全ての動物が「虫だ」(『図説琉球語辞典』、『学研漢和大字典』参照)。イ˞キム˜シェー　ヌ˞チム　イ˜ムヌ　ヤ˞リバ˜　グ˞チ˜ホーニ　ク˞ラスナト ダー [ʔi˞kimu˜ʃeː nu˞ʧimui˜munu ja˞riba˜ gu˞ʧi˜hoːni ku˞rasunaɫ˜daː](動物は命のあるもの＜命萌えるもの＞だから、濫りに殴る＜殺す＞なよ)。2他人を罵って「畜生」、「野郎」の意味に用いられる。ウ˞ヌ˜　イ˞キム˜シェー　プ˞スヌ˜　ア˞ズ˜ムニン　シゥ˞カムティ˜　ドゥーカッティバ　カー˞ニ　シー　アー˜ク [ʔu˞nu˜ ʔi˞kimu˜ʃeː pu̥˞sunu˜ ʔa˞ʤu˜ munin si̥˞kamuti˜ duːkattiba ka˞ni ʃiː ʔaː˜ku](あの野郎は他人の言うことも聞かないで自分勝手ばかりをしている)。他人を罵る際に用いる語。卑語。イ˞キム˜シェー　˞ウンザー˜　ユ˞クシムニ˜バ　ア˞ジ˜　プ˞スバ　カシゥカー˜シ　˞ベー [ʔi˞kimu˜ʃeː ˞ʔunʤaː˜ ju ˞kuʃimuni˜ba ʔa˞ʤi˜ pu̥˞suba kasi̥˞kaː˜ʃi ˞beː](畜生野郎は、此奴は嘘をついて＜ヨコシモノイイシテ。讒言して＞、他人を騙している)。

イ˞キムドゥル [ʔi˞kimuduru] 【名】行き帰り。往来。「行き戻り」の転訛したもの。普通は˞ギームドゥル [˞giːmuduru](行き来。行き帰り。往来) という。˞パイ˜ターヌ　˞ギームドゥロー˜　＜イ˞キムドゥロー˜＞　イダフニシル　˞ソーッ˜タ [˞pai˜taːnu ˞giːmuduroː˜ ＜ʔi˞kimuduroː˜＞ ʔidaɸuniʃiru ˞soːt˜ta](西表島＜南端＞への往来＜行き戻り＞はサバニ＜板舟＞で＜ぞ＞された)。

イ˞キ˜ムヌ [ʔi˞ki˜munu] 【名】生き物。動植物。イ˞キ˜ムノー　ムー˞ル˜　ヌチ　˞ムイ˜ブンダ　ア˞タラサ　サン˜カー　ナ˞ラン˜ダー [ʔi˞ki˜munoː muː˞ru˜ nutʃi ˞mui˜bunda ʔa˞tarasa saŋ˜kaː na˞ran˜daː](生き物はみんな命を宿している＜生きている。命を生やしている＞から大切にしないといけないよ)。

イ˞キ˜ルン [ʔi˞ki˜ruŋ] 【自動】生きる。˞ピャー˜ク　˞バー˜キ　イ˞キ˜ルンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　イ˞キラ˜リンカヤー [˞pjaː˜ku ˞baː˜ki ʔi˞ki˜runti ʔu˞muːn˜du ʔi˞kira˜riŋkajaː](百歳まで生きようと思うが生きられるかねえ)。˜イキミサカー　イ˞キ˜ル　˜クトー　˜ナルン [˜ʔikimisakaː ʔi˞ki˜ru ˜ku̥toː ˜naruŋ](生きて良ければ、生きることは出来る)。˞トー˜カキ　カ˞ジマー˜ヤー　˞バー˜ケー　イ˞キ˜レー　˜ミサムヌ [˞toː˜kaki ka˞ʤimaː˜jaː ˞baː˜keː ʔi˞ki˜reː ˜misamunu](八十八歳＜米寿＞の生年祝い、九十九歳＜白寿＞の生年祝いまでは生きれば良いのに)。ヤー˞ディン˜　イ˞キ˜リ [jaː˞diŋ˜ ʔikiri](必ず生きろ)。˜バー　ヤー˞ディン　ピャー˜ク　˞バー˜キ　イ˞キ˜ルン [˜baː jaː˞dim pjaː˜ku ˞baː˜ki ʔi˞ki˜ruŋ](私は必ず百歳まで生きる)。˞タンガ˜シェー　イ˞キララ˜ヌ [˞taŋga˜ʃeː ʔi˞kirara˜nu](一人では生きられない)。˞ピンソー˜ヤ　˞シー˜　ブ˞タンティン˜　マッ˞トーバ˜　イ˞キ˜ルンティル　˞アウ˜リ　˜ナンギン　˞スー˜　ヤ˞ナクトゥ　スー˜カー　˞ティンマー˜　ミシゥ˞カーミシゥカー˜シル　˞オー˜ル˞ダー [˞pinsoː˜ja ˞ʃiː˜ bu˞tantim˜ mat˞toːba˜ ʔi˞ki˜runtiru ˞ʔau˜ri ˜naŋgiŋ ˞suː˜ ja˞nakutu suː˜kaː ˞timmaː˜ misi̥˞kaːmisïka:˜ʃiru ˞ʔoː˜ru˞daː](貧乏はしていても真直ぐに生きようと＜生きるとてぞ＞難儀苦労もするのだ。悪事を働

くと＜悪事をすると＞天の神様はお見通しだよ＜密(ミソカ)に見ておられるよ＞)。

イ˞キ˜ルン [ʔiˀkiˀruŋ] 【他動】草花を活ける。生け花をする。˞ザー˜トゥクナー　パ˞ナ˜ギ　イ˞キ˜ルン [˞ʤaːˀtu̥ kuˀna pa˞naˀgi ʔi˞kiˀruŋ](床の間に花を生ける)。イ˞チンマー˜　イ˞キ˜ラヌ [ʔi˞ʧimmaːˀ ʔi˞kiraˀnu](何時も＜毎日＞は活けない)。˜イキミサカー　イ˞キ˜ルクトー　˜ナルン [˜ʔikimisakaː ʔi˞ki˜ru ˜ku̥toː ˜naruŋ](活けて良ければ活けることは出来る)。˜パナ　イ˞キ˜レー　˜ミサムヌ [˜pana ʔi˞ki˜reː ˜misamunu](花を生けたら良いのに)。イ˞キ˜リ [ʔi˞kiˀri](活けよ)。

イ˞キ˜ロー [ʔi˞kiˀroː] 【名】1人の怨霊。魔物。「生霊」の義。˞ウンザー˜　イ˞キロー˜ヌ　˜カタチニル　˞ブー [˞ʔunʤaːˀ ʔi˞kiroːˀnu ˜kḁtatʃiniru ˞buː](あいつは生霊のようだ＜生霊のようにいる＞)。2卑語。相手や話題の人物の行為、性質、状態を罵る語。イ˞キ˜ロー　˞スン [ʔi˞kiˀroː ˞suŋ](人を呪う。他人に祟るよう神仏に祈る)。˜アイニ　プ˞スバ˜　イ˞キ˜ロー　˞スー˜カー　˞デー˜ジ˞ダー [˜ʔaini pu̥˞subaˀ ʔi˞kiˀroː ˞suːˀkaː ˞deːˀʤi˞daː](あんなに他人を呪うと大変だよ)。イ˞キ˜ロー　ス˞ナ˜ヨー [ʔi˞kiˀroː su˞naˀjoː](他人を呪うなよ)。

˜イキ　ンズン [˜ʔiki ˜ʔnʤuŋ] 【連】気が抜ける。酒、醤油、茶、黄粉 (きなこ) など密封して保存すべきものが本来の味や香りを失うこと。˞ザウ˜ヌ　˞ヨー˜リティ　ク˞ヌ˜　サ˞ケー˜　イキ　˜ンジ　ヌ˞マラ˜ヌ [˞ʤauˀnu ˞joːˀriti ku˞nuˀ sḁ˞keːˀ ʔiki ˜ʔnʤi nu˞maraˀnu](栓が緩んで＜弱くなって＞この酒は気が抜けて飲めない)。

˜イキンヌビン　シ˞ララヌ [˜ʔikinnubiŋ ʃi˞raranu] 【連】息をつくことが出来ないほど繁忙である。息をすることも欠伸をすることもできないほど忙しい。˞マイカリヌ　パンター˜　メー　˜イキンヌビン　シ˞ララランセン [˞maikarinu pantaːˀ meː ˜ʔikin-nubiŋ ʃi˞raranʃeŋ](稲刈りの繁忙＜繁多さ＞は、もう息をつくことができなかった＜息も欠伸もできなかった＞)。

イ˞ク˜サ [ʔi˞kuˀsa] 【名】1戦争。「いくさ」の義。プ˞スニン˜ギンティ　˞ベー˜ティ　イ˞クサ˜バ　˞シー˜　プ˞スバ˜　シ˞ナス˜　クトー　イッ˞カナ˜シ　ユ˞ラサラ˜ヌ [pu̥˞suniŋˀginti ˞beːˀti ʔi˞kusaˀba ˞ʃiːˀ pu̥˞subaˀ ʃi˞nasuˀ ku̥toː ʔik˞kanaˀʃi ju˞rasaraˀnu](人間としていながら戦争をし、人を殺すことは決して許されない)。2おおわらわ (大童)。騒動。˞ウン˜ネーナ　ム˞ラズーヌ˜　プ˞スヌ˜　ア˞ツァ˜マリティ　˜ヤー　ス˞ク˜ルンティ　イ˞ク˜サ　˞シー　オーッ˜タ [˞ʔunˀneːna mu˞raʤuːnuˀ pu̥˞sunuˀ ʔa˞tsaˀmariti ˞jaːˀ su̥˞kuˀrunti ʔi˞kuˀsa ˞ʃiː ʔoːtˀta](その家に村中の人が集まって家を造ろうと大騒動しておられた)。

イ˞クサ˜アトゥ [ʔi˞kusaˀʔatu] 【名】戦後。˞パイタ˜ナーティ　˞プーキ˜　カ˞カ˜リティ　イ˞クサ˜アトゥナー　˞マーラシェー˜　プ˞スヌ　ゴー˜ラー˞ダー [˞paitaˀnaːti ˞puːkiˀ kḁ˞kaˀriti ʔi˞kusaˀʔatunaː ˞maːraʃeː pu̥˞sunu goːˀra˞daː](西表島＜南端＞でマラリア＜風気＞に罹って、戦後に亡くなった人が多いよ)。

イ˞クサ˜ユー [ʔi˞kusaˀjuː] 【名】戦争の時代。戦争の世。イ˞クサ˜ユーナー　パ˞トゥ˜マプソー　ムー˞ル　パイ˜タナー　ヒ˞ナン　ソーッ˜タ [ʔi˞kusaˀjuːna pḁ˞tuˀmapu̥soː muː˞ru paiˀtana çi˞nan soːtˀta](戦争の時代には、鳩間人はみんな西表北岸＜南端、はいばた＞に避難された)。

イク˞ブン [ʔiku˞buŋ] 【副】ある程度。いくらか。「幾分」の義。標準語からの借用語。普通はイ˞メーマ [ʔi˞meːma]、ン˞メーマ [ʔm˞meːma](少々、少し) のようにいう。ウ˞ル˜ズン　ナ˞ル˜ター　チ˞カ˜グロー　ン˞ベーマー　ヌッ˜サ　˜ナリ　˞キー˜ブ [ʔu˞ru ˜ʤun na˞ruˀta: ʧi̥˞kaˀguroː m˞beːma: nusˀsa ˜nari ˞kiː ˜bu](春から初夏の季節になったので、近頃はいくらか温くなってきているよ)。

イグ˞ユー [ʔigu˞juː] 【感】おや。おや、まあ。なんとまあ。意外に思う時、驚いた時に発する老年層女性のことば。イグ˞ユー　ワーッテ　ヌー˜シ　˞シール˜　ウ˞ビ˜ヌ　サ˞ババ　ホー˜シ　˞クー˜タ [ʔigu ˞juː waːtte nuːˀʃi ˞ʃiːruˀ ʔu˞biˀnu sa˞baba hoːˀʃi ˞kuːˀta](なんとまあ、一体君はどうやってこんな巨大な鱶を釣ってきたのかねえ)。イグ˞ユー˜　アイブ　˜クトゥティン　ア˞リ˜ブバン˞ナー [ʔigu˞juːˀ ʔaibu ˜ku̥tutiŋ ʔa˞riˀbuban˞naː](おやまあ、あんなことが＜とても＞あるものだなあ)。

˜イクン [˜ʔikuŋ] 【自動】生きる。上二段活用系動詞「生く (いく)」の四段活用化したもの。˜クヌ　˞ブン˜シェー　˞ピャー˜ク　˞バー˜キ　˜イクンティ　ウ˞モー˜リ [˜kunu ˞buŋˀʃe: ˞pjaːˀku ˞baːˀki ˜ʔikunti ʔu˞moːˀri](このぶんでは百歳まで生きると思われる)。

˜イグン [˜ʔiguŋ] 【名】遺言。ウ˞ヤ˜ヌ　˜イグン　ヌ˞カ˜シ　ス˞コー˜レー　˞トゥー˜ル　˞スール˜　マ˞シ [ʔu˞jaˀnu ˜ʔigun nu˞kaˀʃi su̥˞koːˀre: ˞tuːˀru ˞suːruˀ ma

˩ʃi](親が遺言を残しておかれた通りにするのがよい)。ウ˩ヤ˥ヌ　˥イグン　˩バスクナ˥ダー [ʔu˩ja˥nu˥ ʔigum˩ basu̥kuna˥da:](親の遺言を忘れるなよ)。

イ˩ゴー˥ザザーテー [ʔi˩go:˥ʤaʤa:te:] 【名】屋号。小浜真敏氏宅。童名のイ˩ゴ˥ジ [ʔi˩go˥ʤi] に˩アー˥ザ [˩ʔa:˥ʤa](兄さん) が下接し、更に接尾語˥テー [˥te:](～の家) が下接続して生成された合成語。ア˩マシェー [ʔa˩maʃe:](小浜家) ともいう。この屋敷の古い屋号は、˩パイ˥ネー [˩pai˥ne:](「南風見屋」の義か) と伝えられている。小浜家は、戦後の一時期カツオ漁船を所有し、カツオ節製造工場を経営された。次男の小浜光次郎氏は鳩間島出身で最初に沖縄県立宮古養護学校長、沖縄県立泊高等学校長を努めた人である。トゥ˩ムレーヌ　アー˥ネール　イ˩ゴー˥ザザーテー [tu˩mure:nu ʔa:˥ne:ru ʔi˩go:˥ʤaʤa:te:](友利家の東隣が＜ぞ＞小浜家＜イゴーザザーテー＞である)。

イコー˩サン [ʔiko:˩saŋ] 【副】1いくらも (幾らも)。いくつも。いくらでも。肯定文の場合、修飾される動詞の意味内容の数量が無限に近い相当の数量であることを表す。ッ˩ふァース˥カー　イコー˩サン˥　ッ˩ふァイス [f˩fa:su˥ka: ʔiko:˩saŋ˥ f˩faisu](食べさせたら幾らでも食べる)。2下に打ち消しの表現を伴って、ほとんど～ない、いくらも～ない＜ゼロに近い＞、の意味を表す。˩ジン˥マー　シゥ˩カイキシティ˥　イコー˩サン　ナー˥ヌ [˩ʤim˥ma: si̥˩kaiki̥ʃiti˥ ʔiko:˩san na:˥nu](お金は使い切って、いくらも残ってない＜ほとんど無い＞)。イコー˩サン　カウラヌ [ʔiko:˩saŋ kauranu](ほとんど変わらない)。

イ˩ゴー˥ジ [ʔi˩go:˥ʤi] 【名】男の童名。ア˩ザテヌ˥　イ˩ゴー˥ジザー　ア˩ラ˥カーウガンヌ　ティ˩ジリ˥ビー　ヤ˩ローッ˥タ [ʔa˩ʤatenu˥ ʔi˩go:˥ʤiʤa: ʔa˩ra˥ka:ʔugannu ti˩ʤiri˥bi: ja˩ro:t˥ta](東里家のイゴージさんはアラカー御嶽のティジリビーであられた)。

イ˩コーラ [ʔi˩ko:ra] 【副】いくら。いかに。どんなに。どのように。仮定や推量表現に先立って用いられ、逆接の条件文を導き出す。強調すると、イコー˩ラ [ʔiko:˩ra] のようにアクセントが移動する。「～年月も伊久良母阿良奴＜イクラモアラヌ＞に～。万、3962」の転訛したものか。イ˩コーラ˥　イ˩ゾーラ˥バン　ナー˩イ˥　シ˩キ˥リ [ʔi˩ko:ra˥ ʔi˩ʤo:ra˥ban na:˩i˥ ʃi̥˩ki˥ri](どんなに叱られようとも放って＜放置して＞おきなさい)。イコー˩ラ˥　ノー˩ン　ヤラバン˥　アイヤー　シ˩キララ˥ヌ [ʔiko:˩ra˥ no:˩n jarabaŋ˥ ʔaija: ʃi̥˩kirara˥nu](いくら何であっても、そのまま放置してはおけない)。イ˩コーラ　カイ˥ヤタンティン　タ˩カー˥カー　˩カーラヌ [ʔi˩ko:ra kai˥jatantin tḁ˩ka:˥ka: ˩ka:ranu](幾ら美しくても値段が高ければ買えない)。

˥イサ [˥ʔisa] 【名】医者。医師。パ˩トゥ˥マナー　˥イサー　˩オーラン˥シェン [pḁ˩tu˥mana: ˥ʔisa: ˩ʔo:raŋ˥ʃeŋ](鳩間島には医者はいらっしゃらなかった)。˥イサ　シゥ˩カシ˥　クー [˥ʔisa si̥˩kaʃi˥ ku:](医者をお連れしてきなさい)。イ˩サ˥ヌヤー [ʔi˩sa˥nuja:](病院。＜医者の家＞)。˥イサガカリ [˥ʔisagakari](通院。医者がかり)。˥イサオーナール [˥ʔisaʔo:na:ru](医者の嫉妬、医者のうわなり)。ク˩ヌ　ヤン˥マー　˥イサ　カ˩カラン˥カー　˩ノーラ˥ヌ [ku˩nu jam˥ma: ˥ʔisa ka˩karaŋ˥ka: ˩no:ra˥nu](この病気は医者にかからないと治らない)。˩パー˥イサ [˩pa:˥isa](歯科医。歯医者)。ヤ˩ブイサ [ja˩buʔisa](漢方医。鍼灸によって病気を治療する医者。ヤブ医者)。

イ˩サイ [ʔi˩sai] 【名】詳細。詳しいこと。「委細」の義。標準語からの借用語。ク˩ヌ˥　クトー　イ˩サイヤー˥　ッ˩サユンダ˥　ヌークイテー　ア˩ザラヌ [ku˩nu˥ kuto: ʔi˩saija:˥ s˩sajunda˥ nu:kuite: ʔa˩ʤaranu](このことは、委細は知らないからどうこうしろ＜なんだかんだ＞とは言えない)。

イ˩ザイビー [ʔi˩ʤaibi:] 【名】漁り火。「漁火」の義。夜の˩スー˥チズー [˩su:˥ʧiʤu:](潮干時) を見計らって枯れたススキや笹竹を束ねて松明にし、それを持って蛸を獲ったり、貝を獲ったりする際に用いる。夜の潮干狩りに用いる松明。烏賊釣り船の灯す集魚灯の灯り。烏賊釣り船のイ˩ザイビ [ʔi˩ʤaibi:] は鳩間島の遥か北の闇の洋上に点々として見え、幻想的な夜景であった。夜のイ˩ソーシプス [ʔi˩so:ʃipusu](潮干狩りする人＜磯する人＞) のイ˩ザイビー (漁火) も漁りする人の足元をゆらゆらと揺らめかしながら移動していく光景も幻想的であった。˩スー˥チズー　ア˩タル˥カー　ピ˩ザキ˥ヌ　マーラ˩バー˥キ　イ˩ザイビーヤ˥　ミ˩ラリ˥ブタ [˩su:˥ʧiʤu: ʔa˩taru˥ka: pi˩ʤaki˥nu ma:ra˩ba:˥ki ʔi˩ʤaibi:ja˥ mi˩rari˥buta](干潮時＜潮干時＞に当たると島の北西の干瀬の先まで潮干狩りの漁火が見えていた)。

˥イサオーナール [˥ʔisaʔo:na:ru] 【成】医者の嫉妬 (諺)。医者は互いにライバル意識が強く、嫉妬するという意味。ム˩カ˥シェーラ　イ˩サ˥ヌ　˩オーナール˥ティ　ア˩ザリブー [mu˩ka˥ʃe:ra ʔi˩sa˥nu˩ ʔo:na:ru˥ti ʔa˩ʤaribu:](昔から諺で「医者の嫉妬＜

医者はよく嫉妬する、うわなりをする＞」といわれている)。

イ˩ザ˥テー [ʔi˩ʤa˥teː] 【名】屋号。西花賀栄氏宅。西原章吉氏宅の西隣の家。村外れの家。その西隣に˩ガンダルゴー˥ヤー [˩gandarugoː˥jaː](龕小屋) があった。イ˩ザ˥テー [ʔi˩ʤa˥teː] はイ˩リ [ʔi˩ri](西)・˥サトゥ [˥sa̠tu](里)・˥ヤー [˥jaː](家)→ [ʔiriʤatujaː] → [ʔi˩ʤa˥teː](西花家＜西里家＞) のように音韻変化して生成された合成語であろう。˩ウンタイラ˥ブレーヌ ˩イー˥ネール イ˩ザ˥テー ˩ヤッタ [˩ʔuntaʔira˥bureːnu ˩ʔiː˥neːru ʔi˩ʤa˥teː ˩jatta](西原家＜上西原家＞の西隣が西花賀栄氏宅＜西里家＞だった)。

イ˩サナキ [ʔi˩sanaki] 【固】石垣島。石垣の中心地である四カ字。老年層の言葉。若年層は、イ˩サンケー [ʔi˩saŋkeː] という。パ˩トゥ˥マーラ イ˩サナケー ヒックシ ソー˥レー プ˩ソー˥ タカー˩ニン オー˥ルン [pa̠˩tu˥maːra ʔi˩sanakeː çikkuʃi soː˥reː pu̠˩soː˥ ta̠kaː˩niŋ ʔoː˥ruŋ](鳩間島から石垣島へ引っ越された人はたくさんおられる)。イ˩サナキプス [ʔi˩sanakipusu](石垣人、石垣の人)。イ˩サナキ˥ナー マ˩チヤーティ スームヌン˥ アリ ミ˩ジラ˥サル シ˩ナムヌバ˥ シ˩ナカジゴー˥カジ ˩カーシオーッ˥タン [ʔi˩sanaki˥naː ma˩ʧijaːti suːmunuŋ˥ ʔari mi˩ʤira˥saru ʃi˩namunuba˥ ʃi˩nakaʤigoː˥kaʤi ˩kaːʃioːt˥taŋ](石垣には商店＜町屋＞というのもあって、珍しい品物を種々そろえ＜品数多く＞売っておられた)。

イ˩サナキドゥンチ [ʔi˩sanakidunʧi] 【名】石垣殿内。石垣島の名家の一つ。琉球国時代の石垣の頭職を務めた家。イ˩サナキドゥンチヌ アンタヌ˥ ミ˩ナ˥カー イッ˩ケン カイ˥ヤン [ʔi˩sanakidunʧinu ʔantanu˥ mi˩na˥kaː ʔik˩keŋ kai˥jaŋ](石垣殿内の東側の庭は非常に美しい)。

イ˩サナキプス [ʔi˩sanakipu̠su] 【名】石垣島の人。石垣島四箇村の人。老年層の言葉。若年層は、イ˩サンケープス [ʔi˩saŋkeːpu̠su](石垣島の人。石垣島四個村の人) という。イ˩サナキプス˥ナー ˩バン˥テヌ ウ˩トゥザ˥ヌ ˩オー˥ルン [ʔi˩sanakipu̠su˥naː ˩ban˥tenu ʔu˩tuʤa˥nu ˩ʔoː˥ruŋ](石垣島四箇村の人で、私の家の親戚がおられる)。

イ˩サナキムニ [ʔi˩sanakimuni] 【名】石垣島四個村の言葉。石垣方言。八重山群島の地域共通語。若年層は、イ˩サンケームニ [ʔi˩saŋkeːmuni](石垣四個村の言葉。石垣方言) という。˥バー イ˩サナキムニ˥ パ˩ナ˥シ ˩シェーント ダー [˥baː ʔi˩sanakimuni˥ pa˩na˥ʃi ˩ʃeːnt̪-daː](私は石垣言葉が話せるよ)。

イ˩サミルン [ʔi˩samiruŋ] 【他動】いさめる (諫める)。訓戒する。標準語からの借用語か。サ˩キ˥ ヌムカー ˩キョーダイ˥サ ˥アウンダ ˥ウヤー ウ˩リ˥ イ˩サミルンティ ソールン˥ドゥ イ˩サミララヌ [sa̠˩ki˥ numukaː ˩kjoːdai˥sa ˥ʔaunda ˥ʔujaː ʔu˩ri˥ ʔi˩samirunti soːrun˥du ʔi˩samiraranu](酒を飲むと兄弟同士で喧嘩するので、親はそれを諫めようとなさるが、諫められない)。イ˩サミル˥ クトゥン ナ˩ラ˥ヌ [ʔi˩samiru˥ ku̠tun na˩ra˥nu](諫めることも出来ない)。イ˩サミレー˥ ミサムヌ [ʔi˩samireː˥ misamunu](諫めれば良いのに)。イ˩サミ˥リバ [ʔi˩sami˥riba](諫めよ)。

˥イサヨーゾー [˥ʔisajoːʤoː] 【名】医療。医者の治療。通院、または入院して療養すること。医師による療養。「医者養生」の義。˩ヤンマイ˥ヤー シ˩キ˥パナナ ˥イサヨーゾー ˩シー˥ シカイ˩トゥ ノーサン˥カー ナ˩ラント ダー [˩jammai˥ja: ʃi̠˩ki˥panana: ˥ʔisajoːʤoː ˩ʃiː˥ ʃi̠kai˩tu noːsaŋ˥ka: na˩ran̪-daː](病気(やまい)は付き始め＜付き端＞に医者の治療＜医者養生＞を受けてしっかり治さないといけないよ)。

イ˩ザリ˥カザリ [ʔi˩ʤari˥kaʤari] 【名】さんざんに叱られること。イ˩ザリ [ʔi˩ʤari](叱られること) の重言。ABCDBC 型の重言。˩ピントゥルピン˥ イ˩ザリ˥カザリ ˩シェー˥ティ パ˩タラキ ベー˥ムヌ ˥ミルカー キ˩ムイ˥ツァーン ア˩リ˥ブ˩ツォー [˩pinturupiŋ˥ ʔi˩ʤari˥kaʤari ˩ʃeː˥ti pa̠˩taraki beː˥munu ˥miruka: ki˩mui˥tsaːŋ ʔa˩ri˥bu˩tsoː](毎日毎日さんざんに叱られて働いているのを見ると気の毒＜可哀相、「肝痛む」の義＞でもあるよ)。イ˩ザレー˥カザレー [ʔi˩ʤareː˥kaʤareː] ともいう。

イ˩ザリヌンガーリ [ʔi˩ʤarinuŋgaːri] 【名】叱られ免れ。叱られることから免れること。免罪。˥アボーン タ˩ナ˥ミティル ヤッ˩トゥ˥シ イ˩ザリヌンガーリ˥ シ˩タ˥ドースカーヤ [˥ʔaboːn ta˩na˥mitiru jat˩tu˥ʃi ʔi˩ʤarinuŋgaːri˥ ʃi̠˩ta˥doːsu̠kaːja](お母さんに頼んでやっとのことで叱られることから免れた＜叱られ免れした＞んだってばよ)。

イ˩ザリヌンガール [ʔi˩ʤarinuŋgaru] 【名】言い逃れ。弁解。「叱られ逃れ」の義。フ˩チカナイ˥ムノー イ˩ザリヌンガーロー ゾー˥ジ [ɸu̠˩ʧikanai˥muno: ʔi˩ʤarinuŋgaːro: ʤoː˥ʤi](口達者な者は言い逃れが上手だ)。

イ˩ザリムヌ [ʔi˩ʤarimunu] 【名】よく叱られる者。

叱られ役。プ˞スヨー˥　イ˞ザラン˥ナカーラル　ウ˞ナー˥　ッ˞ふァバ˥　イ˞ゾー˥ル　ッ˞ふァー˥　イ˞ズ˥カー　イ˞ザリムヌゲ˥ラ [pu̥˞sujo:˥ ʔi˞ʤaran˥ naka:raru ʔu˞na:˥ f˞faba˥ ʔi˞ʤo:˥ru f˞fa:˥ ʔi˞ʤu˥ka: ʔi˞ʤarimunuge˥ra](他人を叱れないことから己の子供を叱られる。子供にとっては、言わば叱られ役だよ)。ウ˞レー˥　ムー˞ロー˥ラヌ　イ˞ザリムヌ [ʔu˞re:˥ mu:˞ro:˥ranu ʔi˞ʤarimunu](その人は皆からの叱られ役＜よく叱られる者＞だ)。

イ˞ザリルン [ʔi˞ʤariruŋ] 【連】叱られる。動詞イ˞ズン [ʔi˞ʤuŋ](叱る) の未然形イ˞ザ [ʔi˞ʤa] に受身の助動詞˞リルン [˞riruŋ](れる) が付いて形成された派生語 (受身動詞)。マー　ン˞ベー˥スカー　˥メー　イ˞ザリルンꜜダー [ma: ʔm˞be:˥su̥ka: ˥me: ʔi˞ʤarirunꜜda:](もうじき＜もう少ししたら＞叱られるよ)。イ˞ザリル˥　ス˞コール　シーベー˥リ [ʔi˞ʤariru˥ su̥˞ko:ru ʃi:be:˥ri](叱られる覚悟＜準備＞をしておけ)。

イ˞ザリン [ʔi˞ʤariŋ] 【連】叱られる。叱れる。1受身動詞。イ˞ズン [ʔi˞ʤuŋ](叱る) の未然形イ˞ザ [ʔi˞ʤa] に、受身、可能の助動詞˞リン [˞riŋ](れる) が付いて形成された派生語 (受身動詞)。˥アイブ　˥クトゥ　˞スー˥カー　˥アボーン　イ˞ザリン˥ダー [˥ʔaibu ˥ku̥tu ˞su:˥ka: ˥ʔabo:ŋ ʔi˞ʤarin˥da:](そんなことをするとお母さんに叱られるよ)。2可能動詞。ウ˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　プ˞スンマー˥　イ˞ザラヌ˥　ウ˞ヤン˥マー　イ˞ザリン [ʔu˞nu˥ f˞fanu˥ pu̥˞summa:˥ ʔi˞ʤaranu˥ ʔu˞jam˥ma: ʔi˞ʤariŋ](その子は他人には叱れない。親には叱ることができる＜叱れる＞)。

イ˞サン˥ヤー [ʔi˞saŋ˥ja:] 【名】医院。診療所。「医者の家」の義。イ˞サン˥ヤーラ　フ˞チ˥ル　˞イー˥リ　˞クー˥タ [ʔi˞saŋ˥ja:ra ɸu̥˞ʧi˥ru ˞ʔi:˥ri ˞ku:˥ta](病院から薬をもらってきた)。病院。「医者の家」の義。パ˞トゥ˥マナー　イ˞サン˥ヤーヌ　˞ナーン˥ベーティ　˥ヤムカー　イ˞サンケー˥　パ˞ラン˥カー　ナ˞ラン˥シェン [pḁ˞tu˥mana: ʔi˞saŋ˥ja:nu ˞na:m˥be:ti ˥jamuka: ʔi˞saŋke:˥ pa˞raŋ˥ka: na˞raŋ˥ʃeŋ](鳩間島には医院＜医者の家＞が無いので、病気になると＜病むと＞石垣へ行かないといけなかった＜どうにもならなかった＞)。

イ˞シ [ʔi˞ʃi] 【名】石。岩石。石材。岩。˞ミートゥ˥イシ [˞mi:tu˥ʔiʃi](夫婦石。タチバルの浜に出る道の側にある夫婦石)。イ˞シマシェー　クイラリン˥　プ˞スマシェー　クイララヌ [ʔi˞ʃimaʃe: kuirarim˥ pu̥˞sumaʃe: kuiraranu](高い石垣で囲われた土地＜石垣の枡＞は越えることができるが、身分の低い貧乏人たち＜人垣で囲われたところ、一般民衆＞だからとて跨ぎ越えることはできない。貧乏人や身分の低い者を馬鹿にしてはいけない)。イ˞シヌ　ウイ˥ナー　タ˞タ˥リン　˞オーナールヌ　ウイ˥ナー　タ˞タ˥ラヌ [ʔi˞ʃinu ʔui˥na: tḁ˞ta˥riŋ ˞ʔo:na:runu ʔui˥na: tḁ˞tara˥nu](石の上には耐えて生きていけるが嫉妬の上には耐えて生きていけない)。

イ˞ジ [ʔi˞ʤi] 【名】1意地。勇気。イ˞ジヌ　ナーン˥ユンダ　˥ドゥー　˞タンガ˥シェー　ノー˞ン　シーユーサヌ [ʔi˞ʤinu na:ŋ˥junda ˥du: ˞taŋga˥ʃe: no:˞ŋ ʃi:ju:sanu](意地がないから一人では何も出来ない＜為しえない＞)。2意気地。元気。イ˞ジ˥　ンジ˞ギーバリバル˥　キュー˞ズー˥ナ　シ˞グトー˥　トゥ˞ズミラ˥リ˞ダー　シーッ˥パイ　˞シー˥ヨー [ʔi˞ʤi˥ ʔnʤi ˞gi:baribaru˥ kju:˞ʤu:˥na ʃi˞guto:˥ tu˞ʤumira˥ri˞da: ʃi:p˥pai ˞ʃi:˥jo:](元気を出して頑張ってこそ今日中に仕事は完了できるのだ。精一杯働け＜しなさい＞よ)。

イ˞ジアースン [ʔi˞ʤiʔa:suŋ] 【他動】言い合わせる。相談する。話し合う。パ˞ナシアー˥スンとも言う。˞ヤーニンズ˥トゥ　イ˞ジアーシ˥　パ˞ナシアー˥シ　˞シェー˥ティル　˥ムヌグトー　キ˞ミルꜜダー [˞ja:nindʒu˥tu ʔi˞ʤiʔa:ʃi˥ pa˞naʃiʔa:˥ʃi ˞ʃe:˥tiru ˥munuguto: ki˞miruꜜda:](家族＜家人数＞と相談＜言いあい話し合い＞しながら物事は決めるのだよ)。˞ヌー˥シ　サ˞バル˥　マ˞シ˥ユー　ウ˞ヤッ˥ふァザーンナリ　イ˞ジアースン˥ティ　ア˞ズタン [˞nu:˥ʃi sa˞baru˥ ma˞ʃi˥ju: ʔu˞jaf˞fadʒa:nnari ʔi˞ʤiʔa:ʃi sun˥ti ʔa˞dʒu-taɲ˥jo:](どうしたらよいか、親子だけで相談すると言っていたよ)。

イ˞ジアウン [ʔi˞ʤiʔauŋ] 【他動】言い合う。話し合う。口論する。石垣方言からの借用語か。ウ˞ヌ　ギン˥シェー　ギュー˞ムシン˥　イ˞ジアイヤン˥ヨー [ʔu˞nu giŋ˥ʃe: gju:˞muʃiŋ˥ ʔi˞ʤiʔaijaɲ˥jo:](その件では何度も話し合った＜言い合った＞よ)。ギュー˞ムシン˥　イ˞ジアウンドゥ˥　キ˞マラヌ [gju:˞muʃiŋ˥ ʔi˞ʤiʔaundu˥ ki˞maranu](何度も話し合う＜言い合う＞が決まらない)。

イ˞ジアティルン [ʔi˞ʤiʔatiruŋ] 【他動】言い当てる。ウ˞レー　フン˥トー　˥バー　バ˞タウチ˥ヌ　ウ˞ムイ˥バ　イ˞ジアティルン˥カヤー [ʔu˞re: ɸun˥to: ˥ba: ba˞taʔutʃi˥nu ʔu˞mui˥ba ʔi˞ʤiʔatiruŋ˥kaja:](彼は本当に私の胸中の思いを言い当てるかねえ)。

˞イシゥ˥カー　˞ゴー˥ラー [˞ʔisi̥˥ka: ˞go:˥ra:] 【連】多い

少ない。多少。˩イシゥ˥カー　˩ゴー˥ラーテー　˩ナー˥ヌ　ケー˩ラ˥　タ˩キ˥トゥ　˩アー˥シ　ン˩ザ˥ス　ク˩トゥ˥ル　˩カンユー [˩ʔisɨ̞˥ka: ˩go:˥ra:te: ˩na:˥nu ke:˩ra˥ tạ̞˩ki˥tu ˩ʔa:˥ʃi ʔn˩ʤa˥su kụ̞˩tu˥ru ˩kaɲju:](< 金額の > 多寡は問わない。皆が能力 < 身の丈 > に応じ < 合わせ > て出すことが肝要だ)。˩イシゥ˥カー　˩ゴー˥ラーテー　ア˩ザンドー˥シ　ッ˩ふォー˥ル　˥ムノー　˩イール˥ル　マ˩シ˥ダー [˩ʔisɨ̞˥ka: ˩go:˥ra:te: ʔa˩ʤando:˥ʃi f˩fo:˥ru ˥muno: ˩ʔi:ru˥ru ma˩ʃi˥da:](多寡がどうの、こうの < 少ない、多いとは > 言わないで、下さるものは貰うのが良いよ)。

˩イシゥ˥カーゴーラー [˩ʔisɨ̞˥ka:go:ra:] 【名】多寡。多少。多い少ない。「少なさ、多さ」の義。˩ジン˥マー　˩イシゥ˥カーゴーラーテー　˩ナー˥ヌ　ムー˩ル˥　マー˩タキナール˥　バキ　ッ˩ふェール [˩ʤim˥ma: ˩ʔisɨ̞˥ka:go:ra:te: ˩na:˥nu mu:˩ru˥ ma:˩takina:ru˥ baki f˩fe:˥ru](金は多い少ないということはない。みんな等分に分け与えたのだ)。

˩イシゥ˥カータンティン [˩ʔisɨ̞˥ka:tantiŋ] 【連】1少なくても。ッ˩ふァイムノー　イシゥ˥カータンティン　˩マータキナー˥　バ˩キ˥リ [f˩faimuno: ʔisɨ̞˥ka:tantim ˩ma:takina:˥ ba˩ki˥ri](食物は少なくても良いから、同じように分けよ)。2短くても。˩キン˥ヌ　˥タケー　˩イシゥ˥カータンティン　キ˩サリ˥サーギ　サ˩リ˥カー <˩スー˥カー>　˥ミサン [˩kin˥nu ˥tạ̞ke: ˩ʔisɨ̞˥ka:tantiŋ kị̞˩sari˥sa:gi sa˩ri˥ka: <˩su:˥ka:> ˥misaŋ](着物の着丈は短くても、着ることが出来さえすれば良い)。

˩イシゥ˥カー　˩ナー˥ヤ [˩ʔisɨ̞˥ka: ˩na:˥ja] 【連】長短は〜。「短い長いは」の転訛したもの。˩イシゥ˥カー　˩ナー˥ヤ　˩トーヌ　スー˥ワサーギ　˥アルカー　˥ミサン [˩ʔisɨ̞˥ka: ˩na:˥ja ˩to:nu su:˥wasa:gi ˥ʔaruka: ˥misaŋ](長い短いは問わない。強ければ < 強くさえあれば > 良い)。

˩イシゥ˥カーン [˩ʔisɨ̞˥ka:ŋ] 【形】1少ない。数量的に少ない。˩マータキナー˥　ク˩バルタン˥ドゥ　˩バー˥モー　˩イシゥカー˥ルサー [˩ma:takina:˥ ku˩barutan˥du ˩ba:˥mo: ˩ʔisɨ̞˥ka:˥rusa:](同等 < 同じ量に > に配ったのだが、私のは少ないよ)。ユ˩ヌ˥　ピ˩ニ˥チ　パ˩タラクタヌ˥　バー　˥ティマー　˩ワー˥ラ　˩イシゥカー˥ル [ju˩nu˥ pi˩ni˥ʧi pạ̞˩tarakutanu˥ ba: ˥tima: ˩wa:˥ra ˩ʔisɨ̞˥ka:˥ru](同じ日数働いたが私の賃金 < 手間賃 > は君より少ない)。˩イシゥカー　ナー˥ヌ [˩ʔisɨ̞ka: na:˥nu](少なくない)。˩シンダイ　イシゥ˥カー　˥ナルン [˩ʃindai ʔisɨ̞˥ka: ˥naruŋ](次第に少なくなる)。˩イシゥ˥カー　˥クトー　˩ナー˥ヌ [˩ʔisɨ̞˥ka: ˥kụ̞to: ˩na:˥nu](少ないことはない)。˩バー˥モー　˩ワー˥　モーラ　˩イシゥ˥カーンダ　˩イシゥカーナーン˥　ムヌ　ッ˩ふィーリ [˩ba:˥ mo: ˩wa:˥ mo:ra ˩ʔisɨ̞˥ka:nda ˩ʔisɨ̞ka:na:m˥ munu f˩fi:ri](私のものは君のものより少ないから、少なくないものを呉れ)。˩シンダイ　イシゥ˥カー　˥ナルン [˩ʃindai ʔisɨ̞˥ka: ˥naruŋ](次第に少なくなる)。量が少ない。˥バー　ミ˩ジェー　ワー˥　モーラ　˩イシゥカー˥ル [˥ba: mi˩ʤe: wa:˥ mo:ra ˩ʔisɨ̞ka:˥ru](私の水は君のものより少ない)。˩ヌー˥ル　˩イシゥ˥カー　˩ゴー˥ラーテー　ア˩ザンドー˥シ　˩マータキナー˥　バキバ [˩nu:˥ru ˩ʔisɨ̞˥ka: ˩go:˥ra:te: ʔa˩ʤando:˥ʃi ˩ma:takina:˥ bakiba](どれ < 何 > が多い、少ないと言わないで、同等に < 真丈ずつ > 分けなさい)。˩イシゥカーナー˥ヌ [˩ʔisɨ̞ka:na:˥nu](短くない。少なくない)。˩イシゥ˥カー　˥ナルン [˩ʔisɨ̞˥ka: ˥naruŋ](短くなる。少なくなる)。˩イシゥカー˥ヌ　バ˩キララ˥ヌ [˩ʔisɨ̞ka:˥nu ba˩kirara˥nu](短くて、少なくて、分けられない)。˩イシゥ˥カー　˥クトー　˩ナー˥ヌ [˩ʔisɨ̞˥ka: ˥kuto: ˩na:˥nu](短い、少ない、ことはない)。˩イシゥ˥カーカー　シ˩ティリ [˩ʔisɨ̞˥ka:ka: ʃị̞˩tiri](短 < 少 > ければ捨てろ)。˩イシゥ˥カー　クトー　˩ナー˥ヌ [˩ʔisɨ̞˥ka: ˥kụ̞to: ˩na:˥nu](少ないことは無い)。˩イシゥ˥カーカー　シ˩ティ˥バ [˩ʔisɨ̞˥ka:ka: ʃị̞˩ti˥ba](少なかったら捨てなさいよ)。2短い。空間的、時間的に少ない。ク˩ヌ　キン˥ヌ　˥タケー　˩イシゥカー˥リバ　ン˩ベーマ˥　ナー˩ナー˥シ　˥ヌイ　ッ˩ふィーリ˥バ [ku˩nu kin˥nu ˥tạ̞ke: ˩ʔisɨ̞ka:˥riba ʔm˩be:ma˥ na:˩na:˥ʃi ˥nui f˩fi:ri˥ba](この着物の丈 < 長さ > は短いから、少し長く縫ってくれよ)。ウ˩レー˥ラン　ク˩リル　˩イシゥ˥カー [ʔu˩re:˥raŋ ku˩riru ʔisɨ̞˥ka:](それよりもこれが短い < 短くぞある >)。若年層は˩イシ˥カーン [˩ʔiʃị̞˥ka:ŋ] ともう。˥シナー　˩ヌー˥ル　˩イシゥ˥カーワ [˥ʃina: ˩nu:˥ru ˩ʔisɨ̞˥ka:wa](綱はどれが短いか)。˩イシゥ˥カーン　ナ˩ガー˥ン　˩ナー˥ヌ　ソー˩ンドゥ　マータキ [˩ʔisɨ̞˥ka:n na˩ga:˥n ˩na:˥nu so:˩ndu ma:taki](短くも長くもない。丁度同じ長さだ)。タ˩ム˥ノー　˩イシゥカマー˥シ　˥キシバ [ta˩mu˥no: ˩ʔisɨ̞kama:˥ʃi ˥kị̞ʃiba](薪は短く切りなさい)、ク˩ヌ　ナー˥ヤ　˩イシゥ˥カーンダ　シゥ˩カーラヌ [ku˩nu na:˥ja ˩ʔisɨ̞˥ka:nda sɨ̞˩ka:ranu](この縄は短いので使えない)。ク˩ヌ　ナー˥ヤ　カ˩ヌ˥　ナーラン　˩イシゥカー˥ル [ku˩nu na:˥ja ka˩nu˥ na:raŋ ˩ʔisɨ̞ka:˥ru](この縄はあの縄よりも短い)。

˞イシゥカマー˺シ **[˞ʔisi̥kamaː˺ʃi]** 【連】五日も続けて。アー˞パーレー　イシゥカマー˺シ　イ˞ワ˺イ　˞スー [ʔaː˞pareː ʔisi̥kamaː˺ʃi ʔi˞wa˺i ˞suː](ああ、素晴らしい。五日続けて祝いをしよう)(アーパーレー歌)。

˞イシゥカマー˺ル **[˞ʔisi̥kamaː˺ru]** 【名】五日おき。「五日回り」の義。˞イシゥカマール˺ヌ　˺アミ　˞ホー˺シ　タ˞ボー˺リ [˞ʔisi̥kamaːru˺nu ˺ʔami ˞hoː˺ʃi ta˞boː˺ri](五日おきの雨を降らしてください)。イ˞シゥカマー˺ルシ　˞ターマー˺ル　˞シン˺　パ˞ラン˺カー　ナ˞ラ˺ヌ [˞ʔisi̥kamaː˺ruʃi ˞taːmaː˺ru ˞ʃim˺ pa˞raŋ˺kaː na˞ra˺nu](五日おきに田圃の見回りに行かなければならない)。

イ˞シェー˺マ **[ʔi˞ʃeː˺ma]** 【名】小石。イ˞シェー˺マ　プ˞サイティ　グスク˺ヌ　ナ˞カフク˺ルナ　イ˞リ˺バ [ʔi˞ʃeː˺ma pu̥˞saiti gusu̥ku˺nu na˞kaɸu̥ku˺runa ʔi˞ri˺ba](小石を拾って石垣の中袋＜二重積み石垣の中腹＞に入れなさい)。イ˞シ [ʔi˞ʃi](石) に、指小辞˞ヤー˺マ [˞jaː˺ma](小さいもの) の付いた形。[ʔi˞ʃi・jaː˺ma] → [ʔi˞ʃaː˺ma] → [ʔi˞ʃeː˺ma] と音韻変化したものであろう。˞イシェー˺マ　プ˞サイ˺バ [ʔi˞ʃeː˺ma pu̥˞sai˺ba](小石を拾いなさいよ)。

イ˞シェーラミチ **[ʔi˞ʃeːramitʃi]** 【名】石の多い道。イ˞シェーラミチ˺　ヤ˞リバ˺　キ˞リッケーラン˺ヨーニ　˞キー˺シキ　ア˞ラ˺キ˺ヨー [ʔi˞ʃeːramitʃi˺ ja˞riba˺ ki˞rikkeːraŋ˺joːni ˞kiː˺ʃi̥ki ʔa˞ra˺ki˞joː](石の多い道だから蹴躓かないように気をつけて歩きなさいよ)。

イ˞シ˺ガ **[ʔi˞ʃi˺ga]** 【名】女の名。イ˞シ˺ガンマー [ʔi˞ʃi˺gammaː](イシガ姉さん)。

イ˞ジカイスン **[ʔi˞ʤikaisuŋ]** 【他動】言い返す。口答えをする。ク˞ヌ˺　ッ˞ふァー˺　ウ˞ヤ˺ン　˞ナー˺ニン　˺ムニ　イ˞ジカイスン [ku˞nu˺ ˞fːfaː˺ ʔu˞ja˺n ˞naː˺nim ˺muni ʔi˞ʤikaisuŋ](この子は親にも口答えをする＜言葉を言い返す＞)。˺ムネー　イ˞ジカイサンティ˺　ウ˞ムータ˺ヌ　イ˞ジカイシ　ベー [˺muneː ʔi˞ʤikaisanti˺ ʔu˞muːta˺nu ʔi˞ʤikaiʃi beː](口答えしないと思ったが、口答えしている)。

イ˞シカタナ **[ʔi˞ʃikatana]** 【名】石包丁。石製の包丁。ム˞カ˺シェー　カ˞ニヌ　ナー˺ン　ブ˞レー˺ティ　イ˞シ˺シ　イ˞シカタナバ˺　ス˞ク˺ローッタ˞トゥ˺ツォー [mu˞ka˺ʃeː ka˞ninu naː˺m bu˞reː˺ti ʔi˞ʃi˺ʃi ʔi˞ʃikatanaba˺ su̥˞ku˺roːtta˞tu˺tsoː](昔は鉄がなかったので＜無くて居って＞石で石包丁を作られたそうだ)。

イ˞ジカンティー **[ʔi˞ʤikantiː]** 【名】言いにくく感ずること。言うことが困難であること。イ˞ズン [ʔi˞ʤuŋ](言う) の連用形に接尾語˞カンティ [˞kantiː](　～出来ない。～兼ねる) が付いた語。˞パー˺ヌ　˺ヤミティ˺　ムニ　イ˞ジカンティー　シーベー [˞paː˺nu ˺jamiti ˺muni ʔi˞ʤikantiː ʃiːbeː](歯が痛んでものを言いにくくして＜言いかねて＞いる)。

イ˞シガンパラ **[ʔi˞ʃigampara]** 【名】石だらけの土地。岩だらけの土地。岩肌が露出した所。˺ウマー　イ˞シガンパラ˺　ヤ˞ルンダ˺　ム˞ヌスク˺ローノー˞ン˺　ナ˞ラ˺ヌ [˺ʔumaː ʔi˞ʃigampara˺ ja˞runda˺ mu˞nusu̥ku˺roː noː˞n˺ na˞ra˺nu](そこは岩だらけの土地だから作物は何も出来ない)。˞インタ˺ミチェー　イ˞シガンパラミチ˺　ナリティ　ア˞ラキグリ˺サン [˞ʔinta˺mitʃeː ʔi˞ʃigamparamitʃi˺ nariti ʔa˞rakiguri˺saŋ](西の道は石だらけの道になっていて歩きづらい)。

イ˞シ˺キリ **[ʔi˞ʃi˺kiri]** 【名】石蹴り。標準語からの借用語。児童の遊戯。昭和期に学校教育の現場から普及したものといわれている。ヤ˞ラ˺ビ　˞シェーン˺ケン　˺ジーナ　˞シェン˺バ　ピ˞キティ˺　カ˞ミ˺ヌ　バ˞リバ˺　キレーティ　イ˞シ˺キリ　˞シー˺　ア˞サブタン [ja˞ra˺bi ʃeːŋ˺ken ˺ʤiːna ˞ʃem˺ba pi̥˞kiti˺ ka˞mi˺nu ba˞riba˺ kireːti ʔi˞ʃi˺kiri ˞ʃiː˺ ʔa˞sabutaŋ](子供の頃＜童していた頃＞に、地面に線を引いて甕の割れを蹴りながら石蹴りをして遊んだ)。

˞イシキルン **[˞ʔiʃi̥kiruŋ]** 【他動】言いつける。命ずる。カ˞リンナー˺ニ　˞イシキルンティ˺　ウムーカー　˞パイ˺サ　˞イシキレー˺　ミサムヌ [ka˞rinnaː˺ni ˞ʔiʃi̥kirunti˺ ʔumuːkaː ˞pai˺sa ˞ʔiʃi̥kireː˺ misamunu](あれ＜彼＞に言いつけようと思うなら、早く言い付ければいいのに)。ク˞ヌ　ユー˺ゾー　プ˞スンナー˺ネー　˞イシキララヌ　ワーニ˺ル　˞イシキル [ku˞nu juː˺ʤoː pu̥˞sunnaː˺neː ˞ʔiʃi̥kiraranu waːni˺ru ˞ʔiʃi̥kiru](この仕事＜用事＞は他人には言いつけられ＜命令でき＞ない。君にしか命じられない＜君にぞ言いつけられる＞)。ウ˞ヌ˺　プ˞ソー　イシキラン˺カー　シ˞グトー　サンバ˺　バーラ　˞イシキルント˺ドー [ʔu˞nu˺ pu̥˞soː ʔi̥ʃi̥kiraŋ˺kaː ʃi˞guto: samba˺ baːra ˞ʔiʃi̥kirunt˺doː](その人は指示しないと＜言いつけないと＞仕事をしないので、私から言いつけるぞ)。

イ˞シグー **[ʔi˞ʃiguː]** 【名】珊瑚石。珊瑚礁。岩原。「石瑚」の義か。˺サンバシヌ　˞イーリケー˺　ムー˞ル˺　イ˞シグー　ヤタンドゥ˺　ウ˞マ˺バ　バ˞リ˺　プリティル　ミ˞ナトゥ˺　ス˞ク˺リシケー [˺sambaʃinu ˞ʔiːrikeː˺ muː˞ru˺ ʔi˞ʃiguː jatandu˺ ʔu˞ma˺ba ba˞ri˺ pu-

riti mi˞natu˺ sʉ˞ku˺ri ʃi̥ke:](桟橋の西側は皆珊瑚礁だったが、そこを割り掘って港を作ってある)。²砂利。砕石したもの。˞ヤー˺ヌ　イ˞シジ˺　ビ˞スン˺トンナー　イ˞シグー˺　シ˞キティ˺　ヤッセーシ　˞シントーシティ˺　イ˞シジ˺　ビ˞ソーッ˺タ [˞ja:˺nu ʔi˞ʃiʤi˺ bi˞sun˺tonna: ʔi˞ʃigu:˺ ʃi˞kiti˺ jaʃʃe:ʃi ˞ʃinto:ʃiti˺ ʔi˞ʃiʤi˺ bi˞so:t˺ta](家の礎石を据える所に砂利を敷いて地搗き＜かけや＞で突き固めて礎石を据えられた)。

˞イシケーズニ **[˞ʔiʃi̥ke:ʤuni]** 【名】(海底地名)。鳩間島の˞マイ˺ズニ [˞mai˺ʤuni](前曽根) の中のフ˞ターチズニ [ɸʉ˞ta:ʧiʤuni](二つ曽根) の西側にある曽根。鳩間島からフ˞ノー˺ラ (船浦) へ向かう船は、タ˞カ˺ビー [tʉ̥˞ka˺bi:](高干瀬) の津口の側にある、フ˞ターチズニとマ˞ルスニ [ma˞rusuni](丸曽根) の東側にある˞イシケーズニの間を通り抜けて行く。

イ˞シザイク **[ʔi˞ʃiʤaiku]** 【名】石工。「石細工」の義。パ˞トゥ˺マナー　イ˞シザイコー　オーラン˺セン [pʉ̥˞tu˺mana: ʔi˞ʃiʤaiko: ʔo:raŋ˺ʃeŋ](鳩間島には石工はおられなかった)。

イ˞シジ **[ʔi˞ʃiʤi]** 【名】礎。礎石。建物の基礎となる石。柱を乗せる丸い礎石。鳩間島では、ス˞ブル˺イシ [su˞buru˺ʔiʃi](菊目石) が礎石に使われた。ス˞ブル˺イシシル　˞ヤー˺ヌ　イシ˞ジェー˺　ス˞ク˺ローッタ [su˞buru˺ʔiʃiʃiru ˞ja:˺nu ʔi˞ʃiʤe:˺ sʉ˞ku˺ro:tta](菊目石で＜ぞ＞で家の礎石は作られた)。イシジを据える際、その下の部分に砂利や砕石をつめて搗き固めた。そのための道具を、˺ヤッシェー [˺jaʃʃe:](地搗き。掛矢。直径約 30 センチ、長さ約 1 メートルの丸太に数本の取っ手を付け、数人一組で地面を打ちつけて地固めする道具) という。昔は歌を歌いながら、村人が集まって地搗きをしたという。ヌ˞キヤー˺　ス˞ク˺ロール　˺ピンマー　ス˞ブル˺イシ　˺トゥリキー　˺カン　シ˞ミティ˺　ウ˞リ˺シ　イ˞シジ˺　ビ˞ソーッ˺タツォー [nu˞kija:˺ sʉ˞ku˺ro:ru ˺pimma: su˞buru˺ʔiʃi ˺turiki: ˺kaŋ ʃi˞miti˺ ʔu˞ri˺ʃi ʔi˞ʃiʤi˺ bi˞so:t˺tatso:](貫き木家を作るときは海の菊目石を取って来て乾燥させて、それで礎石を据えられたそうだ)。

イ˞ジシゥカスン **[ʔi˞ʤisi̥kasuŋ]** 【他動】叱って教える。叱って教え諭す。ウ˞ヤ˺ヌ　ア˞ズ˺　ムニ　シゥ˞カンバ˺　イ˞ジシゥカシ˺　ッ˞ふォー˺リ [ʔu˞ja˺nu ʔa˞ʤu˺ muni si̥˞kamba˺ ʔi˞ʤisi̥kaʃi˺ f˞fo:˺ri](親の言うことを聞かないので、叱って教え諭してください)。˺バー　イ˞ジシゥカスン˺ヨー [˺ba: ʔi˞ʤisi̥kasuŋ˺jo:](私が叱って教え諭すよ)。イ˞ジシゥカシ˺　ミサカー　イ˞ジシゥカス˺　クトー　˺ナルン [ʔi˞ʤisi̥kaʃi˺ misaka: ʔi˞ʤisi̥kasu˺ kʉto: ˺naruŋ](叱って教えて良ければ、叱って教え諭すことは出来る)。イ˞ジシゥカシェー˺　ミサムヌ [ʔi˞ʤisi̥kaʃe:˺ misamunu](叱って教え諭せば良いのに)。イ˞ジシゥカシ˺バ [ʔi˞ʤisi̥kaʃi˺ba](叱って教え諭しなさいよ)。

イ˞シジ˺　ビ˞スン **[ʔi˞ʃiʤi˺ bi˞suŋ]** 【連】礎石を据える。礎石を据える場所を 20〜30 センチほど堀り、小石や砂利を入れて˞ヤッシェー [˞jaʃʃe:] で突き固めて礎石を設置する。イ˞シジ˺　ビ˞シラン˺カーヌ˞キヤーヌ˺　パ˞ラー˺ヤ　タ˞ティララ˺ヌ [ʔi˞ʃiʤi˺ bi˞ʃiraŋ˺ka: nu˞kija:nu˺ pa˞ra:˺ja tʉ̥˞tirara˺nu](礎石を据えないと貫き木家の柱は立てられない)、〜ビ˞サン˺カー [〜bi˞saŋ˺ka:](〜据えない) ともいう。

イ˞ジズー˺ワン **[ʔi˞ʤiʤu:waŋ]** 【形】意地強い。物怖じしない。意気地が強い。勇気がある。ヤ˞ラ˺ビヤ˞ルンドゥ˺　イ˞ジズー˺ワンダ　˞タンガ˺シ　マー˞ン˺　パルン [ja˞ra˺bi ja˞rundu˺ ʔi˞ʤiʤu:˺wanda ˞taŋga˺ʃi ma:˞m˺ paruŋ](子供だが意地強い＜物怖じしない。勇気がある＞から、一人でどこにも行く)。ミ˞ドゥ˺ム　ヤ˞ルヌ˺　イ˞ジズー˺ワン [mi˞du˺mu ja˞runu˺ ʔi˞ʤiʤu:˺waŋ](女であるが意地が強い)。イ˞ジズーワ　ナー˺ヌ [ʔi˞ʤiʤu:wa na:˺nu](意地強くない)。イ˞ジズー˺ワ　˺ナルン [ʔi˞ʤiʤu:˺wa ˺naruŋ](意地が強くなる)。

イ˞シスク **[ʔi˞ʃisʉ̥ku]** 【名】¹石山。岩山。イ˞サナキ˺ナー　イ˞シスクヤマヌ˺　アンツォー [ʔi˞sanaki˺na: ʔi˞ʃisʉ̥kujamanu˺ ʔantso:](石垣島にイシスク山があるそうだ)。タ˞チバル˺ヌ　パ˞タ˺ケー　イ˞シスク˺　ナリティ　ム˞ヌスク˺ル　ナ˞ラ˺ヌ [ta˞ʧibaru˺nu pʉ̥˞ta˺ke: ʔi˞ʃisʉ̥ku˺ nariti mu˞nusʉ̥ku˺ru na˞ra˺nu](立原の畑は石山になっていて作物を植えることが＜物つくりすること＞ができない)。²他人の渾名。岩のように頑健な人の渾名。˞イー˺ネヌ　イ˞シスコー˺　ス˞ブ˺ル　バ˞ルバン　ウー˺ク˺スコー　ア˞ラ˺ヌ [˞ʔi:˺nenu ʔi˞ʃisʉ̥ko:˺ su˞bu˺ru ba˞rubaŋ ʔu:˺ku˺sʉ̥ko: ʔa˞ra˺nu](西隣の家のイシスクさんは頭を打って＜割って＞もびくともしない＜動くどころではない＞ほど頑健だ)。

イ˞ジ˺　スクン **[ʔi˞ʤi˺sʉ̥kuŋ]** 【連】言っておく。˺バーラン　プ˞スクトゥ˺バ　˺ムニ　イ˞ジ˺スクン [˺ba:ram pʉ̥˞sukutu˺ba ˺muni ʔi˞ʤi˺sʉ̥kuŋ](私からも一言意見＜もの＞を言っておく)。

イ˞シスブル **[ʔi˞ʃisuburu]** 【名】¹石のように硬い頭。

ウ˞リヌ˥　ス˞ブ˥ロー　˞ズンニ˥　イ˞シスブル˥ダー [ʔu˞rinu˥ su˞bu˥ro: ˞ʤunni˥ ʔi˞ʃisuburu˥da:](彼の頭は本当に石のように硬い頭だよ)。2頑固者。ウ˞レー˥　イ˞シスブル˥　ヤ˞ルンダ˥　イッ˞カ˥　プ˞スヌ˥　ムニ　シゥ˞カヌ [ʔu˞re:˥ ʔi˞ʃiusuburu˥ ja˞runda˥ ʔik˞ka˥ pu̥˞sunu˥ muni si̥˞kanu](彼は頑固者だから、一向に他人の言うことを聞かない)。イ˞シスブル˥　ヤ˞ルンダ˥　イ˞カ˥スク　˥アジ　シゥ˞カサバン˥　イッ˞カ˥　シゥ˞カヌ [ʔi˞ʃisuburu˥ ja˞runda˥ ʔi˞ka˥ su̥ku ˥ʔaʤi si̥˞kasabaŋ˥ ʔik˞ka˥ si̥˞kanu](石頭だからいくら言って教えても＜聞かしても＞いっこうに＜いっかな＞聞かない)。

イ˞ジゾージ [ʔi˞ʤiʤo:ʤi] 【名】言い上手。話し上手。物言い上手。話術がうまい＜上手い＞。パ˞ナ˥シシ˞ミル˥カー　˥メー　パ˞ナ˥シゾージ　˥ムニ　イ˞ジゾージ [pa˞na˥ʃi ʃi˞miru˥ka: ˥me: pa˞na˥ʃiʤo:ʤi ˥muni ʔi˞ʤiʤo:ʤi](挨拶＜話＞させると、もう、話し上手で、話術が巧み＜物言い上手である＞)。

イ˞ジタラースン [ʔi˞ʤitara:suŋ] 【他動】言い足す。言い加える。言葉の不足を補う。ワ˞カラン˥トンマー　イ˞ジタラースンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　ムッ˞トゥ˥　ス˞ク˥　ミン　ム˞タン˥バン [wa˞karan ˥tomma: ʔi˞ʤitara:sunti˥ ʔu˞mu:n˥du mut˞tu˥ su̥˞ku˥ mim mu˞tam˥baŋ](分らないところは言い足そう＜解説しよう＞と思うが、ちっとも聞く耳を持たないよ)。

イ˞ジタラーヌ [ʔi˞ʤitara:nu] 【連】言い足りない。˞ワー˥　クトゥ　フ˞ミ˥ルンティ　˥アイニ　パ˞ナシタン˥ドゥ　˥ウビシェー　˥ムネー　イ˞ジタラーヌ　マー˥ビン　パ˞ナシプサ˥ル　˥アル [˞wa:˥ ku̥tu ɸu˞mi˥runti ˥ʔaini pa˞naʃi̥tan˥du ˥ʔubiʃe: ˥mune: ʔi˞ʤitara:nu ma:˥bim pa˞naʃipu̥sa˥ru ˥ʔaru](君のことを褒めようとして、あのように話したが、それだけでは表現不足だ＜ことばは言い足りない＞。もっと話したいものだ＜話したくぞある＞)。

イ˞シダン [ʔi˞ʃidaŋ] 【名】石段。石の階段。˞ウイヌウガン˥ヌ　イ˞シダンマー˥　ナンダンブカラ　˥アルカヤー [˞ʔuinuʔugan˥nu ʔi˞ʃidamma:˥ nan-dambukara ˥ʔarukaja:](友利御嶽＜上の御願＞の石段は何段ぐらいあるかなあ)。˞ウイヌウガン˥ヌ　˞ペーラ˥フチェー　イ˞シダン˥　ス˞クラ˥リ　˞ブート ダー [˞ʔuinuʔugan˥nu ˞pe:ra˥ɸu̥tʃe: ʔi˞ʃidan˥ su̥˞kura˥ri ˞bu:ɨda:](上の御嶽＜友利御嶽＞の入り口は石段が造られているよ)。

イ˞シタンキッ˥クナー [ʔi˞ʃitaŋkik˥kuna:] 【名】水切り遊び。「石投げ競＜くら＞」の義か。平たい石や瓦の破片をサイドハンドから海面に投げて漣＜さざなみ＞の波頭を切りつつ飛び跳ねる回数を競う子供の遊び。マ˞ナマ˥ヌ　ヤ˞ラ˥ビンケーヤ　イ˞シタンキッ˥クナーンドーレー　ッ˞サン˥ナー˞レー [ma˞nama˥nu ja˞ra˥biŋke:ja ʔi˞ʃitaŋkik˥kuna:ndo:re: s˞san˥na:˞re:](今の子供たちは、水切り遊びなどは知らないだろうなあ＜知らないな、それは＞)。

イ˞ジックナー [ʔi˞ʤikkuna:] 【名】言い合い。言い競争＜言い競べ＞。自慢競争。歌い競べ。自分や自分の家、自分の村の長所を主張しあって相手に自慢しあうこと。豊年祭には綱引きの前哨戦としてイ˞ジックナー [ʔi˞ʤikkuna:](自慢比べ。自慢競争踊り) が行われる。西村と東村に別れた各二人三列の婦人舞踊隊が第一列は剣を持ち、第二列は陣太鼓、第三列は˞ザイ [˞ʤai](指揮する小旗。采、采配。叩きの形状をした指揮用小旗、采。沖縄方言では˞ゼー [˞ʤe:]＜采、采配＞) をもって踊りながらイジックナーをする。自分の村の自慢を歌い上げる際は小刻みに前進しながら剣を振り、陣太鼓を打ち、ザイを前後に打ち振りながら攻めて行き、攻め切った所で一度相手と切り結び、相手が自慢を始める場合は、前と同じ所作をしながら押されるようにして退却する。(西村)/アーレサーアーレサー　シナヌミンバ　ユシクバ　シンカサーシンカサー/(東村よ東村、綱の耳を寄せて来い、突き合せよう、突き合せよう)、(東村)/イーレサーイーレサー　シナヌミンバ　ユシクバ　シンカサーシンカサー/(西村よ西村、綱の耳を寄せて来い、突き合せよう、突き合せよう)、(西村)/アーレントゥ　イーレントゥ　ガータスヌ　アーレンヤマキ　イーレンヤカチ　シックリササ/(東村と西村が自慢しあったが、東村は負け、西村が勝って、シックリササ)、(東村)/イーレントゥ　アーレントゥ　ガータスヌ　イーレンヤマキ　アーレンヤカチ　シックリサーサ/(西村と東村が自慢しあったが、西村は負け、東村が勝って、シックリササ) と歌う。

イ˞ジックミルン [ʔi˞ʤikkumiruŋ] 【他動】言い負かす。いいこめる (言い籠める)。論破して相手をやりこめる。ウ˞レー˥　サ˞キ˥　ヌムカー　プ˞ス˥　イ˞ジックミルンダ˥　ウ˞リットー˥　パ˞ナサラ˥ヌ [ʔu˞re:˥ sḁ˞ki˥ numuka: pu̥˞su˥ ʔi˞ʤikkumirunda˥ ʔu˞rito: ˥pa˞nasara˥nu](彼は酒を飲むと他人を言い籠めるから、彼とは話されない)。ウ˞リン˥　イ˞ジックミラリ　ベー [ʔu˞riŋ˥ ʔi˞ʤikkumirari be:](彼に言い籠

められている)。イ˞ジックミ˜　ミサカー　イ˞ジックミル˜　クトー　˜ワケー　˞ナー˜ヌ [ʔiˑʤikkumi˜ misaka: ʔiˑʤikkumiru˜ kʉto: ˜wake: ˞na:˜nu](言い籠めて良ければ、言い籠めることは訳も無い < 簡単だ >)。

イ˞ジッツァースン [ʔiˑʤittsa:suŋ] 【他動】1言い合う。しゃべりちらす。˜ムニ　イ˞ジッツァースン [˜muni ʔiˑʤittsa:sun](ものを言い合う < 言い散らす >)。イ˞ジッツァーシティ˜　ノー˞ン˜　キ˞ミラヌ [ʔiˑʤittsa:ʃi̥ti˜ no:˞ŋ˜ kiˑmiranu](言い合って何も決めない)。2悪しざまに言い散らす。叱り散らす。口論し合う。「叱り散らす」の転訛したもの。プ˞ス˜　イ˞ジッツァースン [pʉ̥˞su˜ ʔiˑʤittsa:suŋ](他人を叱り散らす)。イ˞ジッツァーサンドー˜シ　ヤー˞ラマ˜シ　パ˞ナ˜シバ [ʔiˑʤittsa:snado:˜ʃi ja:˞rama˜ʃi paˑna˜ʃiba](叱り付けないで < 叱り散らさないで > 優しく話しなさいよ)。

イ˞ジットー [ʔiˑʤitto:] 【名】上手な言い方。上手な言い回し。他人を傷つけない表現。˞ットー [˞tto:] は「望ましいあり方、仕方」を表す接尾語。語源は願望の助動詞「たし」の連用形「たく」に遡源できる。[taku] → [taɸu] → [tau] → [to:] のように音韻変化したものであろう。イ˞ジットー [ʔiˑʤitto:](望ましい言い方、言いたくなるような表現、上手な言い方)、˞ミッ˜トー [˞mit˜to:](見たくなるさま、望ましい外見、容貌)、シ˞キットー [ʃi̥˜kitto:](望ましい聞き方、上手な聞き方)のように解釈される。˜ムネー　イ˞ジットーヌ˜　アルカー　シ˞キットーン˜　アン [˜mune: ʔiˑʤitto:nu˜ ʔaruka: ʃiˑkitto:ŋ˜ ʔaŋ](言葉は言いようによっては < 言い方が良ければ > 受け取り方 < よい聞き方もある > もある)。イ˞ジットーヌ˜　アルヨーニドゥ　˜ムネー　イ˞ズ　ワー˜　ムネー　˜ヌーヤ [ʔiˑʤitto:nu˜ ʔarujo:nidu ˜mune: ʔiˑʤu waˑ˜ mune: ˜nu:ja](他人を傷つけない上手な言い回しがあるように < ぞ > ものは言うのであって、君の言葉遣い < 物言い > は一体なんだ)。

˞イシ˜トー [˞ʔiʃi̥˜to:] 【名】人名。男の名前。普通は˞イシ˜トゥ [˞ʔiʃi̥˜tu](石戸) という。トゥ˞ムシェーヌ　イシ˜トーザー　˞サンシンピキ　ゾー˜ジ　ヤ˞ロー˜ッタ [tuˑmuʃe:nu ʔiʃi̥˜to:ʤa: ˞saŋʃimpi̥ki ʤo:˜ʤi jaˑro:t˜ta](宮良家の石戸氏は三線演奏 < 三線弾き > が上手であられた)。

イ˞ジトゥー˜スン [ʔiˑʤitu:˜suŋ] 【他動】言い通す。言い続ける。主張し続ける。˞ドゥー˜ヌ　˞カン˜ガイ　イ˞ジトゥー˜スンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　イ˞ジトゥーサラ˜ヌ [˞du:˜nu ˞kaŋ˜gai ʔiˑʤitu:˜sunti˜ ʔu˞mu:n˜du ʔiˑʤitu:sara˜nu](自分の考えを言い続けると思うが言い続けられない)。イ˞ジトゥー˜シ　˜ミサカー　イ˞ジトゥー˜ス　˜クトー　˜ナルン [ʔiˑʤitu:˜ʃi˜misaka: ʔiˑʤitu:˜su ˜kʉto: ˜naruŋ](言い続けて良ければ、言い続けることはできる)。イ˞ジトゥーシェー˜　ミサムヌ [ʔiˑʤitu:ʃe:˜ misamunu](言い続ければ良いのに)。イ˞ジトゥー˜シ [ʔiˑʤitu:˜ʃi](言い続けよ)。

イ˞シトゥール [ʔiˑʃitu:ru] 【名】いしとうろう (石灯篭)。石造の灯篭。ビ˞チ˜ル [biˑʧi˜ru](ビンズル < 賓頭虞 >) などに設置した。パ˞トゥ˜マナー　イ˞シトゥールバ˜　ビ˞チ˜ルナ　ビ˞シ˜　スコーレー　˜ヤーン　˞アッ˜タン [pḁ˞tu˜mana: ʔiˑʃitu:ruba˜ biˑʧi˜runa biˑʃi˜ sʉ̥ko:re: ˜ja:ŋ ˞ʔat˜taŋ](鳩間島には石灯篭をビチル < 賓頭虞 > に設置して置かれた家もあった)。

イ˞シドゥール [ʔiˑʃidu:ru] 【名】石灯籠。石製の灯籠。石垣方言からの借用語。石垣島の名家の庭や寺にあった。鳩間島にはなかった。イ˞シドゥーロー˜　イ˞サナキヌ˜　ム˞トゥ˜ヤーンドレー　ティ˞ラン˜ドーレーナル　˞アッ˜タツォー [ʔiˑʃidu:ro:˜ ʔiˑsanakinu˜ muˑtu˜ja:ndore: tiˑran˜do:re:naru ˞ʔat˜tatso:](石灯籠は石垣島の本家筋など、お寺などにあったそうだ)。

イ˞ジトゥドゥミルン [ʔiˑʤitudumiruŋ]【他動】歌いとどめる。パ˞トゥ˜マナカムレー　˞ユーブシ˜シ　イ˞ジトゥドゥミルンドゥ　フントー˜ヤ　˞ジューサン˜バン　˞バー˜キ　ア˞ンダー [pḁ˞tu˜manakamure: ˞ju:buʃi˜ʃi ʔiˑʤitudumirundu ɸunto:˜ja ˞ʤu:sam˜bam ˞ba:˜ki ʔanˑda:](鳩間中岡 < 鳩間節 > は四節 < 四番 > で歌いとどめるが、本当は十三番 < 十三節 > まであるよ)。

イ˞シナグ [ʔiˑʃinagu] 【名】小石。小石で遊ぶ子供の遊戯。「石な子」の義。沖縄方言からの借用語。「いしらご」(オモロ語)、「Ixinago. イシナゴ (擲石) 子供の遊びの一つ。小石を宙に投げて、それを手の甲で受ける遊び.」(『日葡辞書』) とおなじ。イ˞シナグバ　シー˜　ア˞サバ˜ディー [ʔiˑʃinaguba ʃi:˜ ʔaˑsaba˜di:](イシナグーをして遊ぼうよ)。

イ˞ジナラーシ [ʔiˑʤinara:ʃi] 【名】いましめ (戒め)。叱って教えること。訓戒。ヤ˞ラビ˜ル　ヤ˞リバ˜ドー˞ディン˜　イ˞ジナラーシ˜　シュ˞カイ˜　ッ˞ふォー˜リ [jaˑrabi˜ru jaˑriba˜ do:ˑdiŋ˜ ʔiˑʤinara:ʃi˜ si̥˞

kaiffoːˀri](子供ですから、どうぞ叱って教えながら使ってください)。

イ˞ジナラースン [ʔiˀʤinaraːsuŋ] 【他動】叱って教える。厳しく叱って指導する。イ˞ジナラースンドゥˀ ムッ˞トゥˀ シゥ˞カヌ [ʔiˀʤinaraːsunduˀ mut˞tuˀ si̥ˀkanu](厳しく叱って指導するがちっとも聞き入れない)。ヤ˞ラˀベー ˞ミーˀヌ ナ˞ダˀカ ˀナルンケンマー イ˞ジナラーサリンドゥˀ ウ˞ヤˀヌ ˀタキ ˞クイルˀカー イ˞ジナラーサラˀヌ [ja˞raˀbeː ˞miːˀnu na˞daˀka ˀnaruŋkemmaː ʔiˀʤinaraːsarinduˀ ʔu˞jaˀnu ˀtḁki ˞kuiruˀkaː ʔiˀʤinaraːsaraˀnu](子供は親の目の高さまでは厳しく叱って教えられるが、親の背丈を越えたら厳しく叱って教えられない)。

イ˞ジナラウン [ʔiˀʤinarauŋ] 【他動】歌い習う。歌の練習をする。ˀウタ イ˞ジナラウン [ˀʔuta ʔiˀʤinarauŋ](歌を練習する)。ˀウター イ˞ジナラーンˀカー ˞ゾーˀジ ナ˞ラˀヌ [ˀʔutaː ʔiˀʤinaraːŋˀkaː ˞ʤoːˀʤi na˞raˀnu](歌は練習 < 歌い習い > しないと上手になれない)。ウ˞ヤーˀリ イ˞ジナライˀ ミサカー イ˞ジナラウˀ クトー ˀナルン [ʔu˞jaːˀri ʔi˞ʤinaraiˀ misakaː ʔiˀʤinarauˀ ku̥toː ˀnaruŋ](大声を出して歌の練習をしてよければ練習することは出来る)。

イ˞シˀニーバル [ʔi˞ʃiˀniːbaru] 【名】(動) 魚の名。和名、カンモンハタ (体長約 20 センチ。薄い緑色に丸い灰色の斑点が体全体に横縞状に並び、尾びれにまで拡がっている)。島の子供たちが礒釣りでよく釣り上げた。イ˞シˀニーバロー ˀイノーナーティ ˀユー ˞ホーシˀタン [ʔi˞ʃiˀniːbaroː ˀʔinoːnaːti ˀjuː ˞hoːʃiˀtaŋ](カンモンハタはイノー < 礁内湖 > でよく釣ったものだ)。

イ˞シヌˀシー [ʔi˞ʃinuˀʃiː] 【名】鍾乳石。「石の乳」の義。石垣方言からの借用語か。鳩間島のパ˞チンガカー [pa˞ʧiŋgakaː](降り井戸の名) やピ˞ナイサキヌガマ [pi˞naisakinugama](ピナイ崎のガマ < 鍾乳洞 >) の中にあった。ピ˞ナイサキヌガマヌˀ ウ˞クˀナー イ˞シヌシーˀヌ ムイ˞ベーˀタン [pi˞naisakinugamanuˀ ʔu˞kuˀnaː ʔi˞ʃinuʃiːˀnu mui˞beːˀtaŋ](ピナイ崎のガマ < 鍾乳洞 > の奥には鍾乳石が生えていた)。

イ˞シヌˀッふァ [ʔi˞ʃinuˀffa] 【名】(動) カラマツ貝科。和名、クロカラマツ。岩礁の表面や港の桟橋のコンクリートなどに付着している。直径約 2 センチの五角錐状の貝。これは、˞ハーˀモー [˞haːˀmoː](歯茎の病気。歯周病か。子供に多く、涎を出し続ける病) に効くといわれていた。ヤ˞ラビˀヌ ˞ハーˀモー カ˞カˀルカー イ˞シヌˀッふァ ˀシジ ヌ˞マˀソーッタ [ja˞rabiˀnu ˞haːˀmoː kḁˀka˞rukaː ʔi˞ʃinuˀffa ˀʃiʤi nu˞maˀsoːtta](子供がハーモーの病気に罹るとイシヌッふァを煎じて飲まされた)。

イ˞ジヌ ナーˀヌ [ʔi˞ʤinu naːˀnu] 【連】意気地が無い。意地が無い。勇気がない。ク˞ヌˀ ッ˞ふァーˀ キモー ˞カイˀヤンドゥ ˞ピッˀチン イ˞ジヌ ナーˀヌ [ku˞nuˀ f˞faːˀ kimoː ˞kaiˀjandu ˞pitˀʧiŋ ʔi˞ʤinu naːˀnu](この子は心は優しいが、ちっとも意気地がない)。

イ˞シヌˀ ミー [ʔi˞ʃinuˀ miː] 【連】珊瑚礁の中。石の中。イ˞シギラーˀ イ˞シヌˀ ミーナール ˞フッカーサˀリ ˞ブートˊ ダー [ʔi˞ʃigiraːˀ ʔi˞ʃinuˀ miːnaːru ˞ɸukkaːsaˀri ˞buːˊdaː](イシギラ < しゃこ貝の一種 > は珊瑚礁の石の中に挟まっているよ)。

イ˞シヌン [ʔi˞ʃinuŋ] 【名】石鑿 (いしのみ)。石工の用いる鑿。イ˞シヌンバˀ トゥイティ ア˞ワˀイシ キ˞ジティルˀ イ˞サナキヌˀ キ˞ザリグスコーˀ シ˞モーッˀタツォー [ʔi˞ʃinumbaˀ tuiti ʔa˞waˀ ʔiʃi ki˞ʤitiruˀ ʔi˞sanakinuˀ ki˞ʤarigusukoːˀ ʃi˞moːtˀ tatsoː](石鑿を研いで砂岩 < 粟石 > を削って < ぞ > 石垣島の粟石積みの石垣 < 削り石垣 > は建造された < 積まれた > そうだ)。

イ˞ジノースン [ʔi˞ʤinoːsuŋ] 【他動】言い直す。正しく言い直す。誤りを訂正する。˞ワッˀサル トンマー イ˞ジノーシˀ ア˞ジッサルバˀ シ˞キタボーˀローリ [˞wasˀsaru ˀtommaː ʔi˞ʤinoːʃiˀ ʔa˞ʤissarubaˀ ʃi̥ˀkitaboːˀroːri](悪いところは言いなおして申し上げますから、どうかお聞きください < 賜れ >)。

イ˞シパシ [ʔi˞ʃipaʃi] 【名】石橋。ˀクンナー イ˞シパシヌ アッˀタンツォー [ˀkunnaː ʔi˞ʃipaʃinu ʔatˀtantsoː](古見村に石橋があったそうだ)。

イ˞ジバッパイ [ʔi˞ʤibappai] 【名】言いまちがい。言い誤り。プ˞スヌˀ マイナー パ˞ナˀス ˀピンマー ヌ˞ブシスンダˀ ユー イ˞ジバッパイ スンˀダー [pu̥˞sunuˀ mainaː pa˞naˀsu ˀpimmaː nu˞buʃisundaˀ juː ʔi˞ʤibappai sunˀdaː](人前で話すときは、上がる < のぼせて動揺する > から、よく言い誤りをするものだよ)。

イ˞シバナ [ʔi˞ʃibana] 【名】岩原。海水に浸食されて海岸にそそり立つ珊瑚礁の岩壁。˞タイフーˀヌ ˀピンマー ˞スーˀヌ ˀパナー イ˞シバナˀ カ˞バシˀス [˞taiɸuːˀnu ˀpimmaː ˞suːˀnu ˀpanaː ʔi˞ʃibanaˀ ka˞baʃiˀsu](台風の時は波のしぶき < 飛沫 > は海

岸の岩壁を乗り越えて覆いかぶす)。˞スー˥ヌ　˥ミツカー　イ˞シバナヌ˥　ナ˞カフク˥ル　˞バー˥キ　˞スー˥ヤ　˞キー˥ス [˞suː˥nu ˥mitsukaː ʔi˞ʃibananu˥ na ˞kaɸu̥ku˥ru ˞baː˥ki ˞suː˥ja ˞kiː˥su](潮が満つと海岸の珊瑚礁の半ばまで海水は達する＜来る＞)。

イ˞シバナミチ [ʔi˞ʃibanamitʃi] 【名】岩が露出した道。岩だらけの道。石ころだらけの道。イ˞シバナミチェー˥　イッ˞ケン˥　ア˞ラキグリ˥サン [ʔi˞ʃibanamitʃeː˥ ʔik˞keŋ˥ ʔa˞rakiguri˥saŋ](岩だらけの道は非常に歩きにくい)。

イ˞シバンスル [ʔi˞ʃibansuru] 【名】石のように硬いグアバ＜ばんじろう＞の実。発育不良で硬い、未熟なグアバの実。歯で咬んでも噛み切れないばかりか、強い渋みが出て不味く、食べられない。˞ウーカジ˥ナー　˞ムーマリティル˥　ク˞ジル˥タユー　イ˞シバンスル˥　ナリティ　ッ˞ふァーラヌ [˞ʔuːkaʤi ˥naː ˞muːmaritiru˥ ku˞ʤiru˥taju: ʔi˞ʃibansuru˥ nariti ˞fa:ranu](台風にもまれて＜ぞ＞発育不良になった＜成長がくずれた＞のか、石のように硬いグアバの実になって食えない＜喰らわれない＞)。

イ˞シブクジー [ʔi˞ʃibukuʤiː] 【名】岩の多い土地。石の多い畑。ク˞ヌ˥　パ˞タ˥ケー　イ˞シブクジー˥　ナリティ　˞ミーマタカナパイ˥シル　˞カイサ˥リ　シ˞ティパタキ [ku˞nu˥ pḁ˞ta˥ke: ʔi˞ʃibukuʤiː˥ nariti ˞miːmatakanapai˥ʃiru ˞kaisa˥ri ʃi̥˞pataki](この畑は石の多い土地で三叉鍬でしか＜ぞ＞耕せない＜耕せる＞。最低の畑＜捨て畑＞)。

イ˞シブクヤマ [ʔi˞ʃibukujama] 【名】石の多い山。石ころ山。ウ˞ヌ˥　ヤマー　˥キー　プ˞スム˥トゥンツァン　˞モー˥ヌ　イ˞シブクヤマ [ʔu˞nu˥ jamaː ˥kiː pu̥˞sumu˥tuntsam ˞moː˥nu ʔi˞ʃibukujama](その山は木が一本も生えない石ころ山だ)。

イ˞ジプサー　ナーヌ˥ヌ [ʔi˞ʤipusaː naːnu˥nu] 【連】言いたくは無いが。イ˞ジプサー　ナーヌ˥ヌ　ア˞マ˥ヌ　˞ミーヌッ˥サティル　イ˞ジシゥカシタ˩ダー [ʔi˞ʤipu̥saː naːnu˥nu ʔa˞ma˥nu ˞miːnus˥satiru ʔi˞ʤisi̥kaʃi̥ta˩daː](言いたくはないが、余りにも見苦しいので言って注意した＜言い聞かせた＞のだよ)。

イ˞ジフザリン [ʔi˞ʤiɸuʤariŋ] 【自動】ひどく叱られる。「叱り (言い)・抉られる (くじられる)」の義。さんざんに叱られる。ビ˞キドゥムヌ˥　カ˞マチフチマール　シー　アー˥ケーティ　˥アボーン　イ˞ジフザリベー [bi˞kidumunu˥ ka˞matʃiɸu̥tʃimaːru ʃiː ʔaː˥keːti ˥ʔaboːŋ ʔi˞ʤiɸuʤari˞beː](男のくせに＜男が＞台所をうろついていて＜竈周りをしてあるいて＞お母さんにさんざん叱りとばされている)。

イ˞ジフズン [ʔi˞ʤiɸuʤuŋ] 【他動】ひどく叱る。叱りつける。「言い・抉る (くじる)」の義。˥ウヤン　イ˞ジフザリティ˥　ナ˞キ　ベー [˥ʔujaŋ ʔi˞ʤiɸuʤariti˥ na˞ki beː](親に叱りつけられて泣いている)。プ˞スヨー˥　イ˞ジフズンティ˥　カー˞ニ　スー˥　フ˞ミ˥ルンティ　˞スー˥　クトー　ッ˞サヌ [pu˞sujoː˥ ʔi˞ʤiɸuʤunti˥ kaː˞ni suː˥ ɸu˞mi˥runti ˞suː˥kuto: s˞sanu](人をひどく叱り付けようとばかりする。誉めるということを＜は＞知らない)。プ˞ス˥　イ˞ジフジ˥ナー　ナ˞ラ˥ヌ [pu̥˞su˥ ʔi˞ʤiɸuʤi˥naː na˞ra˥nu](他人を叱りつけるので堪らない)。˥アイニ　イ˞ジフズ˥　クトー　˞サンブリ˥バ [˥ʔaini ʔi˞ʤiɸuʤu˥ ku̥to: ˞samburi˥ba](あんなに叱りつけることはするなよ)。˞マー˥ビン　イ˞ジフジェー˥　ミサムヌ [˞maː˥biŋ ʔi˞ʤiɸuʤeː˥ misamunu](もっと叱りつければいいのに)。イ˞ジフジ˥バ [ʔi˞ʤiɸuʤi˥ba](叱りつけろ)。ウ˞レー　サッ˥コー　プ˞ス˥　イ˞ジフズン [ʔu˞reː sak˥koː pu̥˞su˥ ʔi˞ʤiɸuʤuŋ](彼はひどく他人を叱り飛ばす)。キ˞ムイ˥ツァースコー　イ˞ジフザレー˥ティ　パ˞タラキベー˥タ [ki˞mui˥tsaːsu̥koː ʔi˞ʤiɸuʤareː˥ti pḁ˞tarakibeː˥ta](可哀相なほど＜肝痛むほど＞叱り飛ばされて働いていた)。

イ˞シフチバイ [ʔi˞ʃiɸu̥tʃibai] 【名】表面が硬いいぼ。˞ワー˥　シラナー　イ˞シフチバイヌ˥　ンジ　˞ベー˥サー [˞waː˥ ʃirana: ʔi˞ʃiɸu̥tʃibainu˥ ʔnʤi ˞beː˥saː](君の顔＜面＞にイシフチバイ＜硬いいぼ＞が出ているよ)。

イ˞シプトゥキ [ʔi˞ʃiputuki] 【名】[1]石仏。石彫りの仏像。「いしぼとけ」の義。˞キープトゥ˥キ [˞kiːputu˥ki](木彫の仏像、木仏) の対義語。パ˞トゥ˥マナー　イ˞シプトゥケー　オー˥ラヌ [pḁ˞tu˥mana: ʔi˞ʃipu̥tukeː ʔoː˥ranu](鳩間島には石仏はおられない)。[2]喜怒哀楽の感情を表さない、無表情の人。˥ムヌ　˞トゥイシゥカバン˥　イ˞シプトゥキン˥　カタタチニ　ウ˞シダマリティ˥　ナー˞イル　ブー˥ツォー [˥munu ˞tuisi̥kabaŋ˥ ʔi˞ʃiputukiŋ˥ katatʃini ʔu˞ʃidamariti˥ naː ˞iru buː˥tsoː](ものを問い尋ねても＜聞いても＞石仏のように押し黙って、ただ＜ぞ＞じいっとしているそうだ)。

イ˞ジブン [ʔi˞ʤibuŋ] 【名】言い分。ウ˞リヌ˥　イ˞ジブンヌ˥　ア˞リ˥ブパジ　ヤ˞ルンダ˥　シ˞キ　フィーリ˥バ [ʔu˞rinu˥ ʔi˞ʤibunnu˥ ʔa˞ri˥bupaʤi ja˞runda˥ ʃi̥˞kifiːri˥ba](それの＜彼＞の言い分があるはずだ

から聞いてくれよ)。

イ˞ジマーキ [ʔiˤʤimaːki] 【名】言い兼ねること。言うことが躊躇される。言うことができない。ン˞ガニ　シティ˥　ムニ　イ˞ジマーキ　シー　アー˥クン [ʔŋˤgani ʃi̥ti˥ muni ʔiˤʤimaːki ʃiː ʔaː˥kuŋ](吃って < 吃りして > 言葉を言えないで < ものいいかねてして > いる)。

イ˞ジマースン [ʔiˤʤimaːsuŋ] 【他動】言い繕う。上手に言い包 < クルメル > める。体よく断る。婉曲に断る。ノー˞ン˥シ　˞ブー˥　プ˞スヌ　クー˥バン　イ˞ジマーシ　カイ˥スンティ˞ダー [noːˤŋ˥ʃi ˤbuː˥ pu̥ˤsunu kuː˥baŋ ʔiˤʤimaːʃi kai˥suntiˤdaː](どんな人 < どのようにしている人 > が来ても上手に言い含めて < 言い回して > 帰すそうだ < 帰すってよ >)。˞ワー˥シ　イ˞ジマーシ˥　ッ˞サリ˥　ッ˞ふォラン˥ノーレー [ˤwaː˥ʃi ʔiˤʤimaːʃi˥ sˤsari˥ fˤforan˥noːreː](貴方で上手に言い繕って申し上げてくださいませんか)。

イ˞ジマカスン [ʔiˤʤimakasuŋ] 【他動】言い負かす。説き伏せる。˞ワー˥　ウ˞リン˥　イ˞ジマカサリティ˥　ミ˞シーミシ˥　ム˞ドゥ˥リ　˞クー˥タティ　ア˞ズヌ　フン˥トー　ウ˞ヌ˥　ア˞タル˥ル　ア˞ル [ˤwaː˥ ʔuˤriŋ˥ ʔiˤʤimakasariti˥ miˤʃiːmiʃi˥ muˤduˤri ˤkuː˥tati ʔaˤʤunu ɸun˥toː ʔuˤnu˥ ʔaˤtaru˥ru ʔaˤru](君は彼に説き伏せられてみすみす戻ってきたというが、本当にその程度の人間でしかないのか < その程度が (ぞ) あるのか >)。

イ˞シマコー [ʔiˤʃimakoː] 【名】投石。石を投げること。石垣の石を投げて人を追い払うこと。イ˞シマコー　スン [ʔiˤʃimakoː suŋ](石を投げて人を追い払う)。˞ウン˥ネー　˥パルカー　イ˞シマコー˥　サ˞リン˥ダー [ˤʔun˥neː ˥paruka: ʔiˤʃimakoː˥ saˤrin˥daː](その家に行くと石を投げられて追われるよ)。

イ˞シマシ [ʔiˤʃimaʃi] 【名】石垣で囲った一定の広さの土地。石の多い畑地。「石枡」の義か。˥-マシ [˥-maʃi](田畑を数える数詞 < 枡 >。一枚、二枚の「枚」に相当する)。プ˞ス˥マシ [pu̥ˤsu˥maʃi](一枡、一枚)、ウ˞ブ˥マシ [ʔuˤbu˥maʃi](大きな田圃、大枡)、マ˞ルマシ [maˤrumaʃi](丸い田圃)、˞ナー˥マシ [ˤnaː˥maʃi](長方形の田圃)、˥サンカクマシ [˥saŋkaku-maʃi](三角の田圃、三角枡)。石垣方言では (垣) を˞カ˥キゥ [ˤka˥ki̥] といい、鳩間方言ではカ˞キ [kaˤki](垣) という。「垣」の音節「キ」は「(垣内) 可吉都『万、4077』、可伎都『万、4287』」のように甲類の万葉仮名で表記されている。カ行イ段甲類は石垣方言では [ki̥] に法則的に対応する。従って石垣方言の˞イシ˥マシ [ˤʔiʃi˥masi̥] は「石垣」ではないと認められる。イ˞シマシェー　コーラリン˥　プ˞スマシェー　コーララヌ [ʔiˤʃimaʃeː koːrarim˥ pu̥ˤsumaʃeː koːraranu](石で囲った畑は越えられるが人垣 < 身分の低い人々、民衆 > は越えられない)。

イ˞ジマチガイ [ʔiˤʤimatʃigai] 【名】言い間違い。言い誤り。˥ムネー　イ˞ジマチガイティン˥　ア˞リ˥ブユンダ　シ˞キングリ˥サ　˥トンマー　˥クナイ　タ˞ラーシ˥　ッ˞ふィーリ˥バ [˥muneː ʔiˤʤimatʃigaitiŋ˥ ʔaˤri˥bujunda ʃi̥ˤkiŋguri˥sa tommaː ˥kunai taˤraːʃi˥ fˤfiːri˥ba](言葉はいい誤りというのもあるから、聞き苦しいところは堪えて、足りないところを補ってくれよ)。

イ˞ジマチガウン [ʔiˤʤimatʃigauŋ] 【自動】言い間違う。言い誤る。トゥ˞シ˥　トゥルカー　ター˞ン˥　ムニン　イ˞ジマチガウン˥　イ˞ジマチガーン˥　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [tu̥ˤʃi˥ turukaː taːˤm˥ muni ʔiˤʤimatʃigauŋ˥ ʔiˤʤimatʃigaːm˥ pu̥ˤsoː buˤraːnu](年を取ると誰でも言葉を言い間違う < 言い誤る >。言い誤らない人はいない)。イ˞ジマチガイ　ナー˥ヌ [ʔiˤʤimatʃigai naː˥nu](言い間違えて < 言い誤って > しまった)。˞バン˥ヌン　イ˞ジマチガウ˥　クトー　˥アン [ˤban˥nun ʔiˤʤimatʃigau˥ ku̥toː ˥ʔaŋ](私も言い間違う < 言い誤る > ことはある)。

イ˞シマッふァ [ʔiˤʃimaffa] 【名】陶製の枕。「石枕」の義。˞キーマッ˥ふァ [ˤkiːmafˤfa](木枕、木製の枕) の対義語。陶製の枕は夏期には涼しいと言われ、一部の人々には重宝されていた。ナ˞チェー˥　イ˞シマッふァヌドゥ˥　ピ˞ラ˥ケーティ　˞シー　ウイ˥プスンケーヤ　ウ˞リバ˥　シゥ˞カイオーッ˥タ [naˤtʃeː˥ ʔiˤʃimaffanudu˥ piˤra˥keːti ˤʃiː ʔui˥pusuŋkeːja ʔuˤriba˥ si̥˥kaioːt˥ta](夏は陶製の枕が < ぞ > 涼しいといって老人 < 老い人 > がたは、それを使われた < 使いおられた >)。

イ˞シマミ [ʔiˤʃimami] 【名】煮えない硬い豆。「石豆」の義。ク˞レー˥　イ˞シマミ˥　ナリティ　ッ˞ふァーラヌ [kuˤreː˥ ʔiˤʃimami˥ nariti fˤfaːranu](これは石豆になって硬くて食えない)。

イ˞ジマラバスン [ʔiˤʤimarabasuŋ] 【他動】叱り付ける。叱り飛ばす。イ˞ズン [ʔiˤʤuŋ](叱る) の連用形に動詞マ˞ラバスン [maˤrabasuŋ](殴る。「馬展、マロバス」『類聚名義抄』の転訛したものか) が下接して形成された複合動詞。˥ウヤン　イ˞ジマラバサリティル˥　キ˞ムイ˥ツァー　˞ガンドー˥リ　˞ベー

[˺ʔujaŋ ʔi˞ʤimarabasaritiru˺ ki˞mui˺tsa: ˞gando:˺ri ˞be:](親に叱りつけられて、可哀相に意気消沈している＜しょげている＞)。イ˞チンマー˺　イ˞ジマラバスンドゥ　キュー˺ヤ　イ˞ジマラバサンドー˺シ　ナ˞ラー˺シ　˞ベー [ʔi˞ʧimma:˺ ʔi˞ʤimarabasundu kju:˺ja ʔi˞ʤimarabasando:˺ʃi na˞ra:˺ʃi ˞be:](いつもは叱り飛ばすが、今日は叱り飛ばさずに教えている)。

イ˞シミー˺　カ˞ニミー [ʔi˞ʃimi:˺ ka˞nimi:] 【連】石の実、かね (金) の実。石のように硬い実、鉄のように硬い実。石のように硬く完熟した稲や粟の実、鉄のように硬く完熟した稲や粟の実。˞カンヌ˺マイ　˺ニガイ　ッ˞サルバ˺　イ˞ビ˺　シケール　イ˞ニ˺アー　イ˞シミー˺　カ˞ニミー˺　イ˞リ　ノーラ˺シ　タ˞ボー˺リ [˞kannu˺mai ˺nigai s˞saruba˺ ʔi˞bi˺ ʃi̥ke:ru ʔi˞ni˺ʔa: ʔi˞ʃimi:˺ ka˞nimi:˺ ʔi˞ri no:ra˺ʃi ta˞bo:˺ri](神の御前に祈願申し上げますので、植えつけてある稲粟の実を石のように硬く、鉄のように硬く完熟させ、稔らせてくださいませ)。

イ˞シミチ [ʔi˞ʃimiʧi] 【名】石道。石だらけの道。イ˞シミチェー˺　ナ˞クラー˺バ　˞キー˺　シキ　˞ヨーンナー˺　ア˞ラ˺キバ˞ヨー [ʔi˞ʃimiʧe:˺ na˞kura:˺ba ˞ki:˺ ʃi̥ki ˞jo:nna:˺ ʔa˞ra˺ki˞jo:](石だらけの道は怖いから気をつけてゆっくり歩きなさいよ)。

イ˞ジミチ [ʔi˞ʤimiʧi] 【名】言い方。言いよう。表現法。言葉づかい。言い回し。発音法や文法的知識。マ˞ダ˺　パ˞トゥ˺マムニヌ　イ˞ジミチェー˺　ッ˞サヌ [ma˞da˺ pḁ˞tu˺mamuninu ʔi˞ʤimiʧe:˺ s˞sanu](まだまだ鳩間方言の表現法を知らない)。

イ˞シヤー [ʔi˞ʃija:] 【名】石で造った家。「石家」の義。石垣島では倉庫や牛舎、馬小屋など石で造られていた。鳩間島では鰹節工場の˞バイカン˺ヤー [˞baikaŋ˺ja:](焙乾屋) の壁が一部分石積みになっていた。イ˞サナキヌ˺　ゴ˞ガン˺バタナー　イ˞シヤーヌ　ソーコーヌ＜ク˞ラ˺ヌ＞　アッ˺タン [ʔi˞sanakinu˺ go˞gam˺batana: ʔi˞ʃija:nu so:ko:nu ＜ku˞ra˺nu＞ ʔat˺taŋ](石垣の護岸端には石造りの＜石家の＞倉庫があった)。

イ˞ジャー [ʔi˞ʤa:] 【名】大胆な者。勇気のある者。豪胆な者。意地のある者。[ʔi˞ʤi](意地)・[˞ja:](者)→イジャー [ʔiʤa:] と音韻変化したもの。ウ˞レー˺　イ˞ジャー˺　ヤ˞ルンダ˺　ノー˞ン˺　ナ˞クラー˺ムノー　˞ナー˺ヌ [ʔu˞re:˺ ʔi˞ʤa:˺ ja˞runda˺ no:˞n˺ na˞kura:˺ muno: ˞na:˺nu](彼は豪胆な者だから何も怖いものはない)。

イ˞シユッキ [ʔi˞ʃijukki] 【名】石斧＜いしおの＞。石を割る斧。家屋建築の際、礎石を削るのに用いた石斧。石工が用いる石切り用の斧。˞ユッキ [˞jukki](斧＜よき＞「斧、与岐」倭名類聚鈔) は建築工具の一つ。イ˞シユッキ˺　カ˞リ˺キー　イ˞シジ˺　キ˞ジ˺バ [ʔi˞ʃijukki˺ ka˞ri˺ki: ʔi˞ʃiʤi˺ ki˞ʤi˺ba](石斧を借りてきて礎石を削りなさいよ)。

イ˞ジヨー [ʔi˞ʤijo:] 【名】言いよう。言い方。話しよう。˺ムネー　イ˞ジヨーヌ˺　ア˞リ˺ブンダ　˺ユー　˞カンガイ˺ヤーティ　イ˞ジ˺ヨー [˺mune: ʔi˞ʤijo:nu˺ ʔa˞ri˺bunnda ˺ju: ˞kaŋgai˺ja:ti ʔi˞ʤi˺jo:](言葉＜もの言い＞には言い方があるから、よく考えながら言いなさいよ)。イ˞ジヨーヌ˺　アルカー　シ˞キヨーヌ˺　アン [ʔi˞ʤijo:nu˺ ʔaruka: ʃi̥˞kijo:nu˺ ʔaŋ](言い方によって＜言い方があれば＞聞きかたも変わる＜聞きようもある＞。丁寧にものは言うものだ)。

イ˞ジ　ヨー˺ン [ʔi˞ʤi jo:˺ŋ] 【連】意地が弱い。意気地がない。臆病である。ウ˞レー˺　イ˞ジ　ヨー˺ンダ　˞タンガ˺シェー　パ˞リユーサ˺ヌ [ʔu˞re:˺ ʔi˞ʤi˺jo:nda ˞taŋga˺ʃe: pa˞riju:sa˺nu](彼は意気地がない＜臆病だ＞から、一人では行ききれない＜行きえない＞)。

イ˞ジングリ˺サン [ʔi˞ʤiŋguri˺saŋ] 【連】 1歌いにくい。歌いづらい。若年層は、イ˞ジグリ˺サン [ʔi˞ʤiguri˺saŋ](歌いにくい) ともいう。動詞イ˞ズン [ʔi˞ʤuŋ](歌う) の連用形、イ˞ジ [ʔi˞ʤi](歌い) に、形容詞˞ングリ˺サン [˞ŋguri˺saŋ](づらい＜辛い＞) が付いた形。ク˞ヌ˺　ウター　イ˞ジングリ˺サン [ku˞nu˺ʔuta: ʔi˞ʤiŋguri˺saŋ](この歌は歌いにくい)。2叱りにくい。叱りづらい。˺シザ　ヤ˞ルンダ˺　イ˞ジングリ˺サン [˺ʃiʤa ja˞runda˺ ʔi˞ʤiŋguri˺saŋ](年上だから叱りづらい)。3言いにくい。喋りづらい。ヤ˞マトゥ˺ムネー　イ˞ジングリ˺サン [ja˞matu˺mune: ʔi˞ʤiŋguri˺saŋ](日本語＜大和言葉＞は言いにくい)。

イ˞ジ˺　ン˞ザ˺スン [ʔi˞ʤi˺ ʔn˞ʤa˺suŋ] 【連】元気を出す。精を出す。意地をだす。˞マー˺　ン˞ベーマ˺スカー　˞ユーコーリ˺スバ　イ˞ジ˺　ン˞ザ˺シ [˞ma:˺ ʔm˞be:ma˺ su̥ka: ˞ju:kori˺suba ʔi˞ʤi˺ ʔn˞ʤa˺ʃi](もう少ししたら休めるから、元気＜精＞を出せ)。カ˞シー˺ヌ　˞ブー˺カ　イ˞ジ˺　ン˞ザスン˺ドゥ　ブ˞ラーン˺カー　イ˞ジ˺　ン˞ザサ˺ヌ [ka˞ʃi:˺nu ˞bu:˺ka: ʔi˞ʤi˺ ʔn˞ʤasun˺du bu˞ra:ŋ˺ka: ʔi˞ʤi˺ ʔn˞ʤasa˺nu](加勢＜手伝い＞がいると勇気を出すが、いないと勇気を出さない)。

イ˞ジンザスン [ʔiˑʤiʔnʤasuŋ] 【他動】言い出す。言い始める。˺ムニ　イ˞ジンザスン [˺muni ʔiˑʤiʔnʤasuŋ](話し出す。話＜もの＞を話し始める)。˞ターンナー˺カーラ　˺ムニ　イ˞ジンザサン˺カー　˺クトー　キ˞ミララヌ [˞taːnnaː˺kaːra ˺muni ʔiˑʤiʔnʤasaŋ˺kaː ˺kʉ̥toː kiˑmiraranu](誰かからものを言い始めないと物事は決められない)。

イ˞ジ˺　ン˞ジ˺ルン [ʔiˑʤi˺ ʔn˞ʤi˺ruŋ] 【連】元気が出る。˞アウ˺ヌサーギ　˞ブー˺カー　˞ナンクク˺ル　イ˞ジ˺　ン˞ジ˺ルン [˞ʔau˺nu ˺saːgi ˞buː˺kaː ˞naŋkuku˺ru ʔiˑʤi˺ ʔn˞ʤi˺ruŋ](仲間＜道連れ＞がさえいたら自然と元気＜意地＞が出る)。ウ˞リ˺　ミルカー　イ˞ジ˺　ン˞ジ˺ルンカヤーティ　ウ˞ムータン˺ドゥ　イ˞ジ˺　ン˞ジラン˺バン [ʔu˞ri˺ miruka: ʔiˑʤi˺ ʔn˞ʤi˺ ruŋkajaːti ʔu˞muːtan˺du ʔiˑʤi˺ ʔn˞ʤiram˺baŋ](それを見たら勇気が出るかと思ったが、勇気が出ないよ)。

イ˞ジ˺　ンズン [ʔiˑʤi˺ ʔnʤuŋ] 【連】元気がでる。意地がでる。勇気がでる。頑張る。イ˞ジ˺　ンズカー　ナ˞リ˺スムヌ　ナー˞イ˺　フユー　˞シーベー [ʔiˑʤi˺ ʔnʤuka: na˞ri˺sumunu naː˞i˺ ɸujuː ˞ʃiːbeː](勇気を出して頑張れば出きるのに、ただ怠けている)。ッ˞ふァヌ˺　クトゥ　˺ウムーカ　˞ナンクク˺ル　イ˞ジ˺　ンズン [f˞fanu˺ kʉ̥tu ˺ʔumuːka ˞naŋkuku˺ru ʔiˑʤi˺ ʔnʤuŋ](子供のことを思うと自然に勇気が出る＜意地が出る＞)。

イ˞ス [ʔi˞su] 【名】椅子。若年層の言葉。老年層はビ˞リダイ [bi˞ridai](座り台。椅子) というのが普通。新しく標準語から借用された語。学校教育が始まった明治 29 年以降に定着したものであろう。イ˞ス˺ナー　˞ヌーリティ˺　パ˞ナン˺ギ　˞シー　ベーン˺ケンマー　˞トー˺リティ　˺ドゥー　ヤ˞マ˺シ　˺シケー [ʔi˞su˺naː ˞nuːriti˺ pa˞naŋ˺gi ˞ʃiː beːŋ˺kemmaː ˞toː˺riti ˺duː ja˞ma˺ʃi ˺ʃi̥keː](椅子に乗って悪戯しているうちに倒れて怪我して＜胴病まして＞ある)。

イ˞ズ [ʔi˞ʤu] 【名】うお (魚)。さかな。「魚、ウヲ、俗云、イヲ」『類聚名義抄』の転訛したもの。˞バン˺ヌン　˞マーズン˺　イ˞ズ　ホー˺シン　˺パルン [˞ban˺num ˞maːʤuŋ˺ ʔi˞ʤu hoː˺ʃim ˺paruŋ](私も一緒に魚釣りに行く)。˞アイイズ [˞ʔaiʔiʤu](あむあいご)、ア˞ガイズ [ʔa˞gaʔiʤu](うけぐちいっとうだいの仲間)、˺アバイズ [˺ʔabaʔiʤu](おにだるまおこぜ)、ッ˞ス˺イズ [s˞su˺ʔiʤu](しろだい)、˺シンイズ [˺ʃiŋʔiʤu](へだい)、ナ˞ガ˺イズ [na˞ga˺ʔiʤu](つむぶり)、ピ˞サイズ [pi˞saʔiʤu](てんじくかれい)、トゥ˞ビイズ [tu˞biʔiʤu](つまりとびうお) などは-イズ [-iʤu](うお＜魚＞) を形態素に持つ魚名である。˺アミツァ　プ˞サイティ˺　ム˞チイズ　ホー˺シン　˺パラ [˺ʔamitsa pʉ̥˞saiti˺ mu˞ʧiʔiʤu hoː˺ʃim ˺para](ヤドカリを拾ってノコギリダイを釣りに行こう)。

イ˞ズ˺　ウ˞ラ˺スン [ʔi˞ʤu˺ ʔu˞ra˺suŋ] 【連】魚を網で漁獲する。満潮時に干瀬に上って海藻を食べている魚が潮が引くにつれて深海へと下がっていく。その途中に網を張っておいて漁獲することをいう。イ˞ズ˺　ウ˞ラ˺シン　パラ˞ディー [ʔi˞ʤu˺ ʔu˞ra˺ʃim para˞diː](魚を網で漁獲し＜おろし＞に行こうよ)。

イ˞ズ˺カー [ʔi˞ʤu˺kaː] 【連】言うなれば。言ってみれば。いわば。イ˞ズ˺カー　˺カイブ　˺クトー　˞シェー˺　ナ˞ラン˺ティヌ　˺クトゥ [ʔi˞ʤu˺kaː ˺kaibu ˺kʉ̥toː ˞ʃeː˺ na˞ran˺tinu kʉ̥tu](いわばこんなことは、やってはならいとのことだ)。

イ˞ズカーシプス [ʔi˞ʤukaːʃipusu] 【名】魚売り。「魚買わせ人」の義。イ˞サナキヌ˺　マチナー　˺シンニン　イ˞ズカーシプスヌ　オーッ˺タン [ʔi˞sanakinu ˺maʧinaː˺ʃinniŋ ʔi˞ʤukaːʃipʉ̥sunu ʔoːt˺taŋ](石垣の町には魚売り＜もっぱら魚売る人。専任の魚売り＞がおられた)。

イ˞ズカキ [ʔi˞ʤukaki] 【名】魚垣。単にカ˞キ [ka˞ki](垣) ともいう。西表島の北岸、˺インダ [˺ʔinda](伊武田) の海岸に積まれていた魚垣は深い所では高さ約 80 センチに積まれていた (1958 年まで確認されている)。干潮時には魚垣の一部分の石垣を崩して˺イダフニ [˺ʔidaɸuni](板船＜サバニ＞) の出し入れをしなければならなかった。船の通行が済むと崩した魚垣を元に戻しておくことが慣わしであった。˞スー˺ヤ　˺ピシェーチバ　カ˞キヌ　ミーマール　シークイ [˞suː˺ja ˺pi̥ʃeːʧiba ka˞kinu miːmaː˺ru ˞ʃiːkui](潮が引いたから魚垣の見回りをしてくるね＜見回りをして来ようね＞)。

イ˞スガ˺サン [ʔi˞suga˺saŋ] 【形】忙しい。イ˞スガッ˺サン [ʔi˞sugas˺saŋ](忙しい) ともいう。若年層の言葉。老年層は˞パンタ˺サン [˞panta˺saŋ](忙しい＜繁多さあり＞) というのが普通。˞キュー˺ヤシ˞トゥム˺テーラ　˺ユネン　˞バー˺キ　イ˞スガサ˺ヌ　˺イキーン　˺ヌビーン　サ˞ランシェン (シ˞ラランシェン)[˞kjuː˺ja ʃi̥˞tumu˺teːra ˺junem ˞baː˺ki ʔi˞sugasa˺nu ˺ʔikiːn ˺nubiːn sa˞raŋʃeŋ(ʃi˞raraŋʃeŋ)](今日は朝から夕方まで忙しくて、一息つくことも＜息も欠伸も＞できなかった)。マ˞ナ˺マー　イ˞

スガサ　ナー˥ヌヌ　˩シンダイ˥　イ˩スガ˥サ　˥ナリクーン [ma˩na˥ma: ʔi˩sugasa na:˥nunu ˩ʃindai˥ ʔi˩suga˥sa ˥nariku:ŋ](今は忙しくないが、次第に忙しくなってくる)。イ˩スガ˥サ　(イ˩スガ˥サル)˥クトー　˩ナー˥ヌ [ʔi˩suga˥sa(ʔi˩suga˥saru)˥kʉto: ˩na:˥nu](忙しいことはない)。˥アイニ　イ˩スガ˥サレーラー　ノー˩ン˥　ナ˩ラ˥ヌ [˥ʔaini ʔi˩suga˥sare:ra: no:˩n˥ na˩ra˥nu](あんなに忙しかったら何もできない)。イ˩スガ˥サカー　˩クー˥ナ [ʔi˩suga˥saka: ˩ku:˥na](忙しかったら来るな)。

イ˩スガ˥スン [ʔi˩suga˥suŋ] 【他動】急がす。急がせる。使役動詞。˩キュー˥ヌ　ウ˩チ˥ナー　トゥ˩ズミラン˥カー　ナ˩ラン˥ダ　イ˩スガ˥スンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩ヨー˥　イ˩スガサラン˥バン [˩kju:˥nu ʔu˩tʃi˥na: tu˩ʤumiraŋ˥ka: na˩ran˥da ʔi˩suga˥sunti ʔu˩mu:n˥du˩jo:˥ ʔi˩sugasaram˥baŋ](今日の内に完了しないといけないので、急がそうと思うのだがねえ、急がされないわい)。イ˩スガ˥シ　˥ミサカー　イ˩スガ˥ス　˥クトー　˥ナルン [ʔi˩suga˥ʃi ˥misaka: ʔi˩suga˥su ˥kʉto: ˥naruŋ](急がせてよければ、急がすことは出来る)。イ˩スガ˥シェー　˥ミサムヌ [ʔi˩suga˥ʃe: ˥misamunu](急がせばいいのに)。ヤー˩ディン˥　イ˩スガ˥シ [ja:˩diŋ˥ ʔi˩suga˥ʃi](きっと＜必ず＞急がせ)。

˩イス˥ク [˩ʔisʉ˥ku] 【名】五個。老年層の言葉。若年層はイ˩チッ˥ク [ʔi˩tʃik˥ku](五個) という。トゥ˩ルンコー˥マー　˩イス˥クブカラ　˩カイ˥　クーバ [tu˩ruŋko:˥ma ˩ʔisʉ˥kubukara ˩kai˥ ku:ba](鶏卵を五個ばかり買ってきなさいよ)。

イ˩ズクバン [ʔi˩ʤukubaŋ] 【名】魚肉の神饌。神に供える魚肉の神饌で、厚めの魚肉を焙乾にしたものを厚さ約 5 ミリ、幅約 1 センチ、長さ約 8 センチに切ったもの。イ˩ズクバンヌ˥　イ˩ゾー　マーガ˥ツ　ヤ˩ラバン˥　シ˩ヌマー˥ル　ヤ˩ラバン˥　ノー˩ンヤラバン˥　ミサン [ʔi˩ʤukubannu˥ ʔi˩ʤo: ma:ga˥tsu ja˩rabaŋ ʃi˩numa:˥ru ja˩raban˥ no:˩ɲjarabam˥ misaŋ](魚肉クバンはソウダカツオでもテングハギでも何でもよい)。

イ˩スクビン [ʔi˩sukubiŋ] 【名】祭祀用の酒を入れるひょうたん型の瓶。˥クビン [˥kubiŋ] は「小瓶子」の義か。イ˩スクビン˥ナー　˥グシェー　イ˩リ˥　カ˩ザリ [ʔi˩sukubin˥na: ˥guʃe: ʔi˩ri˥ ka˩ʤari](イ˩スクビンに御酒を入れて供えなさい＜美しく並べ供えなさい＞)。

˩イスクン [˩ʔisʉkuŋ] 【他動】1言い付ける。申し付ける。下知する。˩イシキルン [˩ʔiʃikiruŋ](言いつける) ともいう。シ˩グトゥ　イスクン [ʃi˩gutu ʔisʉkuŋ](仕事を言い付ける)。プ˩スン　イシゥカランドー˥シ　˥ドゥーシ　˩カンガイ˥ヤーティ　˩シー˥バ [pʉ˩suŋ ʔisʉ˥karando:˥ʃi ˥du:ʃi ˩kaŋgai˥ja:ti ˩ʃi:˥ba](他人に言いつけられないで、自分で考えながらしなさいよ)。˥バーラ　˩イシキ˥　ミサカー　˩イスク˥　クトー　˥ナルン [˥ba:ra ˩ʔiʃʉ˥ki˥ misaka: ˩ʔisʉku˥ kʉto: ˥naruŋ](私から言いつけてよければ、言いつけることは出来る)。˩マー˥ビン　˩イシケー˥　ミサムヌ [˩ma:˥bin ˩ʔiʃʉ˥ke:˥ misamunu](もっと言いつければ良いのに)。˩イシキ˥バ [˩ʔiʃʉ˥ki˥ba](言いつけろ)。2告げ口する。ア˩ズ˥ムニ　シゥ˩カン˥カー　ウ˩ヤン˥ナーニ　˩イスクント ダー [ʔa˩ʤu˥muni sʉ˥kaŋ˥ka: ʔu˩jan˥na:ni ˩ʔisʉkunt-da:](言うことを聞かないと親に言いつけるぞ)。

イ˩ス˥グン [ʔi˩su˥guŋ] 【自動】急ぐ。「～立ちの已蘓岐尓＜イソギニ＞～。万、4337」、「Isogui,u,oida. イソギ、グ、イダ (急ぎ、ぐ、いだ)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。マ˩ナ˥マ　パルン˩デー˥カー　マ˩ニヤイ˥スバ　イ˩ス˥ギ　˥パリ [ma˩na˥ma parun˩de:˥ka: ma˩nijai˥suba ʔi˩su˥gi ˥pari](今行くなら間に合うから急いで行け)。イッ˩カ˥　イ˩スガ˥ヌンドゥ　˩ワー˥　タ˩ナ˥ムカー　イ˩ス˥グンパジ [ʔik˩ka˥ ʔi˩suga˥nundu ˩wa:˥ ta˩na˥muka: ʔi˩su˥gumpaʤi](決して急がないのだが、君が頼んだら急ぐだろう＜急ぐはず＞)。イ˩ス˥ギ　˥ミサカー　イ˩ス˥グ　˥クトー　˥ナルン [ʔi˩su˥gi ˥misaka: ʔi˩su˥gu ˥kʉto: ˥naruŋ](急いでよければ急ぐことはできる)。˩マー˥ビン　イ˩ス˥ゲー　˥ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ʔi˩su˥ge: ˥misamunu](もっと急げばいいのに)。˩パー˥ク　イ˩ス˥ギ [˩pa:˥ku ʔi˩su˥gi](早く急げ)。

イ˩ズシンピラク [ʔi˩ʤuʃimpiraku] 【名】厳寒。酷寒。小魚が凍死するほどの寒さ。「魚死に冷え」の義か。浅い海面を遊泳する小魚類が寒さで死んだり仮死状態になって浮くほどの厳しい寒さをいう。ク˩トゥシヌ˥ピ˩ラ˥コー　˩ズンニ˥　イ˩ズシンピラク　ヤッタ ダー [kʉ˩tuʃinu˥ pi˩ra˥ko: ˩ʤunni˥ ʔi˩ʤuʃimpiraku jatta-da:](今年の寒さは本当に小魚が凍死するほどの酷寒の寒さであったよ)。

イ˩ズトゥリシン˥カ [ʔi˩ʤuturiʃiŋ˥ka] 【名】魚獲り人員。魚獲り人数。イ˩ズトゥリシンカ˥ヌ　タ˩ラーンダ˥　イ˩ソー˥　パ˩ララ˥ヌ [ʔi˩ʤuturiʃiŋka˥nu ta˩ra:nda˥ ʔi˩so:˥ pa˩rara˥nu](魚獲り人数　＜漁師。乗組員＞が足りないので出漁できない＜漁場に出ら

れない >)。

イˈズトゥリˈプス [ʔiˈʤuturiˈpu̥su] 【名】漁師。「魚獲り人」の義。パˈトゥˈマプソー　イˈズトゥリˈプスン　ヤˈリˈ　ムˈヌスクリˈプスン　ヤˈリブタ [pḁˈtu ˈmapu̥so: ʔiˈʤuturiˈpu̥suɲ jaˈriˈ muˈnusu̥kuriˈpu̥suɲ jaˈributa](鳩間人は漁師 < 魚獲り > でもあり、百姓 < 物作り人 > でもあった。半農半漁を生業としていた)。

イˈズトゥリˈフニ [ʔiˈʤutuˈriɸuni] 【名】漁船。「魚獲り船」の義。イˈズトゥリˈフネー　イˈソーˈラ　マˈダ　カイˈリ　ˈクーˈヌ [ʔiˈʤuturiˈɸune: ʔiˈsoːˈra maˈda kaiˈri ˈkuːˈnu](漁船は漁場からまだ帰って来ない)。

イˈズナー [ʔiˈʤuna:] 【名】釣り糸。「魚縄」の義。イˈズホーシˈナー [ʔiˈʤuhoːʃiˈnaː](釣り糸。< 魚釣り縄 >) ともいう。他に、サˈバナー [saˈbanaː](鱶釣り縄) 等がある。イˈサナケーˈラ　イˈズナー　カイクーˈタ [ʔiˈsanakeːˈra ʔiˈʤuna: kaikuːˈta](石垣から釣り糸 < 魚釣り縄 > を買ってきた)。ムˈカˈシェー　ˈブーˈバ　ピˈニˈレーティ　イˈズナーˈ　ナイˈヨーッˈタ [muˈkaˈʃe: ˈbuːˈba piˈniˈreːti ʔiˈʤunaːˈ naiˈjoːt ˈta](昔は麻糸を縒って釣り糸を綯われた)。

イˈズナマシ [ʔiˈʤunamaʃi] 【名】魚の刺身。カˈツナマシ [kḁˈtsunamaʃi](カツオの刺身)。ˈタクナマシ [ˈtḁkunamaʃi](茹蛸の刺身)。ムˈカˈシェー　ˈミーˈス　ˈタリティ　ˈクースーンˈ　イˈリティルˈ　ナˈマˈシェー　ンˈコーッˈタ [muˈkaˈʃe: ˈmiːˈsu ˈtariti ˈku:su:ŋˈ ʔiˈritiruˈ naˈmaˈʃe: ʔŋˈkoːtˈta](昔は味噌を溶いて、唐辛子も入れて < ぞ > 刺身は召し上がられた)。ˈミーˈス　ˈタリキー　イˈズナマシˈ　スˈクˈリ [ˈmiːˈsu ˈtariki: ʔiˈʤunamaʃiˈ suˈkuˈri](味噌を溶かしてきて魚の刺身 < 膾 > を造れ)。

イˈズヌˈスー [ʔiˈʤunuˈsu:] 【名】魚のお汁。イˈズンˈスー [ʔiˈʤunˈsu:](魚のお汁) ともいう。イˈズヌˈスー　バˈカシェーˈバ　ッˈふァイティˈ　パリバ [ʔiˈʤunuˈsu: baˈkaʃeːˈba fˈfaitiˈ pariba](魚のお汁を炊いてあるから食べて行きなさいよ)。

イˈズヌˈ　バタ [ʔiˈʤunuˈ bata] 【連】魚のはらわた (腸)。イˈズヌˈ　バタ　ˈトゥリティ　ピˈサˈ　ウˈコーˈシ (ンˈコーˈシ)[ʔiˈʤunuˈ bata ˈturiti pi̥ˈsaˈ ʔuˈkoːˈʃi](魚の腸を取って < 除去して > 三枚卸にしなさい)。

イˈズヌˈ　パˈニ [ʔiˈʤunuˈ paˈni] 【連】魚の鰭 (ひれ)。イˈズヌˈ　パˈネーˈ　キシティ　バˈカシˈバ [ʔiˈʤunuˈ paˈneːˈ ki̥ʃiti baˈkaʃiˈba](魚の鰭(ヒレ)は切って煮なさい)。

イˈズヌˈ　プニ [ʔiˈʤunuˈ puni] 【連】魚の骨。イˈズンˈプニ [ʔiˈʤumˈpuni](魚骨) ともいう。ナˈカˈブニ [naˈkaˈbuni](脊椎。中骨)、ˈズーブニ [ˈʤu:buni](尾骨) などがある。イˈズヌˈ　プニ　ˈヌドゥナ　カˈカラˈスン [ʔiˈʤuˈnu ˈpuni ˈnuduna kḁˈkaraˈsuŋ](魚の骨を喉に掛からせる)。

イˈズヌ　ミー [ʔiˈʤunu mi:] 【連】魚の身。魚肉。イˈズヌ　ミーヤˈ　ウˈコーˈシティ　カˈマブクシッˈキバ [ʔiˈʤunu mi:jaˈ ʔuˈkoːˈʃi̥ti kaˈmabuku ʃikˈkiba](魚を三枚に卸して搗いて蒲鉾を造りなさい < 魚肉の片(ヒラ)を中骨よりはぎ興して蒲鉾に搗きなさい >)。

イˈズヌˈミー [ʔiˈʤunuˈmi:] 【名】魚の目。足裏の表皮の角質深部が豆の大きさで円く黄白色に厚くなり真皮内に入りこんだもの。歩くと押されて痛みを覚える。民間療法では針を火で焼き、硬くなった円形部を穿(ホジク)り出していたという。ˈパンˈヌ　ˈアドゥナー　イˈズヌミーˈヌ　ˈンジティ　ˈヤミ　アˈラカラˈヌ [ˈpanˈnu ˈʔaduna: ʔiˈʤunumiːˈnu ˈʔnʤiti ˈjami ʔaˈrakaraˈnu](足の踵に魚の目が出て、痛くて歩けない)。

イˈズヌミンˈタマ [ʔiˈʤunu minˈtama] 【連】魚の目玉。魚の眼球。イˈズヌ　ミンˈタマー　ˈユー　ッˈふァーソーッˈタン [ʔiˈʤunu minˈtama: ˈju: fˈfaːsoːt ˈtaŋ](魚の目玉を良く食べさせて下さった)。

イˈズヌ　ムンˈダニ [ʔiˈʤunu munˈdani] 【連】魚の餌。魚つり用の餌。ˈアミツァ　プˈサイティˈ　イˈズヌ　ムンˈダニ　ˈシーˈバ [ˈʔamitsa pu̥ˈsaitiˈ ʔiˈʤunu munˈdani ˈʃiːˈba](ヤドカリを拾って魚釣りの餌にしなさいよ)。

イˈズヌˈヤー [ʔiˈʤunuˈja:] 【名】魚の巣。「魚の家」の義。ムˈチイズヌˈヤー　ˈミシˈキ　ˈシケーバ　ムˈチイズ　ホーˈシン　パラˈディー [muˈʧiʔiʤunuˈjaːˈ miʃi̥ˈki ˈʃi̥keːba muˈʧiʔiʤu hoːˈʃim paraˈdiː](ノコギリダイの巣 < 家 > を見つけてあるから、ノコギリダイを釣りに行こうよ)。

イˈズネーシガマ [ʔiˈʤuneːʃigama] 【名】カツオを煮る大釜。直径約 1 メートル、深さ約 1、5 メートルの円筒状の大釜。ˈシーゾーˈヤー [ˈʃiʤoːˈja:](鰹節製造工場) の一角に、幅約 1 メートル、深さ約 1、5 メートル、長さ約 4 メートルの穴を掘り、その壁を利用して大釜を設置するのための竈を造った。穴の周りに積み上げられた薪を、竈焚き掛かりが梯子で穴の中に下り、必要に応じて竈に投入してカ

ツオを煮込んだ。ニ˞コミ [ni˞komi](煮込み) の項目参照。

イ˞スバタ [ʔi˞subata] 【名】磯辺。海辺。「磯端」の義。イ˞ソーンパタ [ʔi˞so:mpata](磯の端、海岸端) ともいう。イ˞スバタ˥ヤー [ʔi˞subata˥ja:](海岸端の家)。˞バン˥テーヌ ˞ヤー˥ヤ イ˞スバタ˥ナ ˞アッ˥タ ˞ベー˥ティ ニ˞ビベー˥タンティン ス˞ブルン˥ パ˞タ˥ナー ピ˞ザフチ˥ヌ ナ˞ミヌ˥ ウ˞トゥン˥ シゥ˞カリタン˥ダー [˞ban˥te:nu ˞ja:˥ja ʔi˞subata˥na ˞ʔat˥ta ˞be:˥ti ni˞bibe:˥tantin su˞buru˥nu pḁ˞ta˥na: pi˞ʤaɸu̥ʧi˥nu na˞minu˥ ʔu˞tun˥ si̥˞karitan˥da:](私の家は海岸端にあったので寝ていても枕元に < 頭の端に > 渚に打ち寄せる波の音が聞こえたよ)。

イ˞ズビー [ʔi˞ʤubi:] 【名】魚による中毒。特定の魚は時期によっては食すると食あたり < 食中毒 > することがある。鳩間島では、˞ブー˥ナー [˞bu:˥na:](河豚 < ふぐ >) は食べられない魚とされていたので、河豚を食べて食中毒になった事例はないといわれている。ユ˞ドゥン˥ヌ ˞ユール˥ ジ˞ブンマー˥ ア˞カジナー ヨーガリブンダ˥ イ˞ズビー スン˥ティ˞ダー [ju˞dun˥nu ˞ju:ru˥ ʤ˞ibumma:˥ ʔa˞kaʤina: jo:garibunda˥ ʔi˞ʤubi: sun˥ti˞da:](赤潮が寄る時期はスジハタの仲間は痩せているから食中毒するそうだよ)。

イ˞ズブク [ʔi˞ʤubuku] 【名】 (動) 魚の名。和名。ネッタイミノカサゴ (体長 20 センチくらい)『原色沖縄海中動物生態図鑑』。体色は、褐色に白い縦縞がはしる。背びれの 12 本の刺には毒がある。珊瑚礁の岩陰に棲息している。美しいが、漁獲する人はいない。イ˞ズブコー カイ˥ヤンドゥ ッ˞ふー˥ プ˞ソー˥ ブ˞ラーヌ [ʔi˞ʤubuko: kai˥jandu f˞fu:˥ pu̥˞so:˥ bu˞ra:nu](イズブクは美しいが食べる人はいない)。

イ˞ズベーシ˥キー [ʔi˞ʤube:ʃi˥ki:] 【名】 (植) 木の名。「魚酔わせ木」の義。リュウキュウニガキ。樹液は苦い。葉や樹皮を搗き砕き、汁を出して魚の巣に入れ、魚が仮死状態で浮き上がったところを漁獲する。イ˞ズベーシキー˥バ ˞シッ˥キティ イ˞ズヌ˥ヤナナー イ˞ル˥カー イ˞ゾー˥ ビーティ ウ˞ケーリ キー˥シタ [ʔi˞ʤube:ʃiki:˥ba ˞ʃik˥kiti ʔi˞ʤunu˥ janana: ʔi˞ru˥ka: ʔi˞ʤo:˥ bi:ti ʔu˞ke:ri ki:˥ʃi̥ta](魚酔わせ木を搗き砕いて魚の巣穴に入れると、魚は仮死状態 < 酔って > で浮いてきたよ)。

イ˞ズベーシ˥ッサ [ʔi˞ʤube:ʃi˥ssa] 【名】 (植) キツネノマゴ。毒草。「魚酔わせ草」の義。搗き砕いて汁を出し、それを魚の巣などに入れて魚を麻痺させ、漁獲するのに用いる。イ˞ズベーシ˥ッサ ˞シッキン˥ザリティ ク˞ム˥ルナ イ˞リティ˥ イ˞ズベー˥サ [ʔi˞ʤube:ʃi˥ssa ˞ʃikkin˥ʤariti ku˞mu˥runa ʔi˞riti˥ ʔi˞ʤube:˥sa](毒草のキツネノマゴを搗き砕いて潮溜まり < 深み > に入れて魚を麻痺させて漁獲しよう)。

イ˞ズ ベー˥スン [ʔi˞ʤu be:˥suŋ] 【連】毒草 (キツネノマゴ) を使って魚を麻痺させて漁獲する。「魚酔わせる」の義。干潮時にキツネノマゴを搗き砕いて潮溜まりに入れたり、深い所の魚の巣に入れたりして魚を麻痺させ、動きの鈍くなった魚や海面に浮き出た魚を漁獲する。ア˞ブ˥ジェー ˥シンタヌ ク˞ム˥ルナーティ イ˞ズベー˥スンティ ˞オー˥ル [ʔa˞bu˥ʤe: ˥ʃintanu ku˞mu˥runa:ti ʔi˞ʤu be:˥sunti ˞ʔo:˥ru](おじいさんは島の後方の潮溜まり < 籠り。深み > に毒草を使って魚を麻痺させ、漁獲しようといておられる)。

イ˞ズホー˥シ [ʔi˞ʤuho:˥ʃi] 【名】魚釣り。「魚・喰わせ」の義。釣り針に餌をかけて喰わせ、釣り上げること。動詞連語イ˞ズ ホー˥スン [ʔi˞ʤu ho:˥suŋ](魚を釣る) の連用形からの転成名詞。イ˞ズホーシ˥プス [ʔi˞ʤuho:ʃi˥pu̥su](釣り人 < 魚釣り人 >)。イ˞ズホーシゾー˥ジ [ʔi˞ʤuho:ʃiʤo:˥ʤi](魚釣り上手)。˞バン˥テヌ ˥アチャー ˞バー˥ヨー ˞サーレー˥ティ ˞インタヌ ピーヌ˥クシナ パ˞トゥマ˥トゥ ˞ヌスクマー˥ペーバ ˞アー˥シティ イ˞ズヌ˥ヤー ア˞ティティ˥ イ˞ズホー˥シ ˞ソーッタ˥ヌ ウ˞ブ˥ニーバローラ フ˞チナイン˥ドレーン ˞ホーサリ˥タン [˞ban˥tenu ˥ʔatʃa: ˞ba:˥jo: ˞sa:re:˥ti ˞ʔintanu pi:nu˥ku̥ʃina pḁ˞tuma˥tu ˞˞nusu̥kuma:˥pe:ba ˞ʔa:˥ʃi̥ti ʔi˞ʤunu˥ja: ʔa˞titi˥ ʔi˞ʤuho:˥ʃi ˞so:tta˥nu ʔu˞bu˥ni:baro:ra ɸu̥˞ʧinain˥do:re:ŋ ˞ho:sari˥taŋ](私の家の父親は私を連れて鳩間島の西の干瀬の外海 < 干瀬の越 > で鳩間の北海岸と裏石垣の野底マーペー山を結ぶ線を合わせて魚巣を探り当てて魚釣りをされたが、大型のハタやイソフエフキ等が釣れた)。

イ˞ズホーシ˥ナー [ʔi˞ʤuho:ʃi˥na:] 【名】魚釣り糸。「魚釣り縄」の義。ム˞カ˥シェー ˞ブー˥バ ˥サキティル イ˞ズホーシ˥ナー ˥ナイ ˞ヨーッ˥タ [mu˞ka˥ʃe: ˞bu:˥ba ˥sḁkitiru ʔi˞ʤuho:ʃi˥na: ˥nai ˞jo:t˥ta](昔は苧の繊維を裂いて魚釣り糸を綯(ナ)われた)。

イ˞ズホーシ˥プス [ʔi˞ʤuho:ʃi˥pu̥su] 【名】釣り人。「魚釣り人」の義。鰹漁船では、釣り手はその技能によ

ってイ˞チバン˥ジョー [ʔi˞ʧiban˥ʤo:](一番棹)、˞ニーバン˥ジョー [˞ni:ban˥ʤo:](二番棹)、˞サンバン˥ジョー [˞samban˥ʤo:](三番棹) のようにランク付けされていた。˥ザコー [˥ʤako:](餌 < 雑魚 >) を撒く人の餌付けのタイミングが大漁、不漁を決めるから、その責任は重く、その重責を担う人を˞ホンマ˥キ [˞homma˥ki](本撒き) といった。イ˞ズホーシ˥プソー　カ˞ツ　ホー˥ソール　˥ピンマー　˞ダイ˥バン　ヤ˞ル˥カー　ピ˞ダリ˥ティーシ　ダ˞キティ　シーヤ　パンツァソーッ˥タ　ク˞バン˥　ヤ˞ル˥カー　˥サウシ　フ˞ニ˥ンナカー　˞ナン˥ギ　イ˞リンテーナ˥　サウシ　˞ハンドー˥　シキティ　ス˞ブル˥ヌ　˞ウイ˥ナーティ　˞ナンククル　˞シーヤ　パンツァソーッ˥タ [ʔi˞ʤuho:ʃi˥puso: ka˞tsu ho:˥so:ru ˥pimma: ˞daiˀbaŋ ja˞ru˥ka: pi˞dari˥ti:ʃi da˞kiti ʃi:ja pantsaso:t˥ta ku˞baŋ˥ ja˞ru˥ka: ˥sauʃi ɸu˞ni˥nnaka: ˞naŋ˥gi ʔi˞rinte:na˥ sauʃi ˞hando:˥ ʃikiti su˞buru˥nu ˞ʔui˥na:ti ˞naŋkuku˥ru ˞ʃi:ja pantsaso:t˥ta](魚釣り人は鰹を釣られる時は大判だったら左手で抱いて釣り針を外された。小判だったら棹で船の中へ投げ入れながら棹で反動をつけて頭上で自然 < おのずと > に釣り針を外された)。

イ˞ズマチ [ʔi˞ʤumatʃi] 【名】魚市。石垣市にあった魚を専門に売る市場。鳩間島にはなかった。イ˞サナキプソー˥　イ˞ズマチナー˥ル　˞ピンピンヌ˥　カ˞ティムヌ˥ヌ　イ˞ゾー　カイオーッ˥タ [ʔi˞sanakipu̥so:˥ ʔi˞ʤumatʃina:˥ru ˞pimpinnu˥ kḁ˞timunu˥nu ʔi˞ʤo: kaiʔo:t˥ta](石垣の人は魚町で毎日の副食物の魚を買われた)。

イ˞ズムシ [ʔi˞ʤumuʃi] 【名】魚につく寄生虫。特にカツオのハ˞ラ˥ゴー [ha˞ra˥go:](腹皮) の内部表皮に白く筋のように這っていることがあった。しかしカツオの刺身ではその部分は除去されたし、鰹節製造の過程のニ˞コミ [ni˞komi](煮込み) で 2〜3 時間の熱湯処理がなされた。カ˞ツヌ˥　ハ˞ラ˥ゴーナ　イ˞ズムシヌ˥　パイ　˞ブームン˥　ブ˞タン [kḁ˞tsunu˥ ha˞ra˥go:na ʔi˞ʤumuʃinu˥ pai ˞bu:mum˥ bu˞taŋ](カツオ腹皮にはイズムシ < 寄生虫 > が這っているのもおった)。

イ˞ズン [ʔi˞ʤuŋ] 【他動】 1言う。話す。ア˞ズン [ʔa˞ʤuŋ] ともいう。˥ムニ　イ˞ズンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　イ˞ザラヌ [˥muni ʔi˞ʤunti˥ ʔu˞mu:n˥du ʔi˞ʤaranu](ものを言おう思うが、言われ < 言え > ない)。˥ムネー　イ˞ズナ [˥mune: ʔi˞ʤuna](話すな < ものを言うな >)。˥ムネー　イ˞ザンドー˥シ　˥ユー　シ˞キ [˥mune: ʔi˞ʤando:˥ʃi ˥ju: ʃi̥˞ki](ものは言わないでよく聞け)。˥ムニ　イ˞ジ˥　ミサカー　イ˞ズ˥　クトー　ナルン [˥muni ʔi˞ʤi˥misaka: ʔi˞ʤu˥kṵto: ˥naruŋ](話して < ものを言って > 良ければ、話すことはできる)。˞マー˥ビン　˥ムニ　イ˞ジェー˥　ミサムヌ [˞ma:˥bim ˥muni ʔi˞ʤe:˥ misamunu](もっと話せ < ものを言え > ばいいのに)。˥ムニ　イ˞ジ˥バ [˥muni ʔi˞ʤi˥ba](話せ < ものを言え > よ)。2歌う。プ˞スクイ˥ヤー　˥ウター　イ˞ジ˥　シゥ˞カシフィーリ [pṵ˞sukui˥ja: ˥ʔuta ʔi˞ʤi˥ si̥˞kaʃi fi:ri](一声 < 一曲 > は歌を歌って聞かせてくれ)。˞ワー˥　ウタ　イ˞ズ˥カー　˞バン˥ヌン　イ˞ズン [˞wa:˥ ʔuta ʔi˞ʤu˥ka: ˞ban˥nuŋ ʔi˞ʤuŋ](君が歌を歌うなら僕も歌う)。3叱る。˥アイニ　イ˞ズ˥カー　イ˞ザリプソー˥ター˞ン　クン˥ゾー　ン˞ジ˥ス [˥ʔaini ʔi˞ʤu˥ka: ʔi˞ʤaripṵso:˥ ta:˞ŋ kun˥ʤo: ʔn˞ʤi˥su](あんなに叱ったら、叱られる人は誰でも怒る < 根性がでる > よ)。

イ˞ズン˥プニ [ʔi˞ʤum˥puni] 【名】魚の骨。魚骨。イ˞ズヌ˥プニ [ʔi˞ʤunu˥ puni](魚の骨) ともいう。イ˞ズン˥プニ　˥ヌドゥナー　カ˞カラ˥スカー　˥サバンナ　ミ˞ジ˥　イ˞リティ˥　パシシ　ア˞ジ˥マー　˥カキティ　ヌ˞マ˥ソーッタ [ʔi˞ʤum˥puni ˥nuduna: kḁ˞kara˥sṵka: ˥sabanna: mi˞ʤi˥ ʔi˞riti˥ pḁʃiʃi ʔa˞ʤi˥ma: ˥kḁkiti nu˞ma˥so:tta](魚の骨が喉にささる < 魚骨を喉に架からす > と、茶碗に水を入れて、箸を十字にかけて < 呪文を唱え >、箸の間から水を飲まされた)。

イ˞ソー [ʔi˞so:] 【名】潮干狩り。「磯」の義。イ˞ソー　スン [ʔi˞so: suŋ](潮干狩りをする)。イ˞ソープス [ʔi˞so:pṵsu](潮干狩りをする人。「磯人」の義)。イ˞ソー˥　パルン [ʔi˞so:˥ paruŋ](潮干狩りに行く < 磯へ行く >)。イ˞ソー˥ラ　˥ケーン [ʔi˞so:˥ra ˥ke:ŋ](漁から帰ってきた)。島は珊瑚礁の干瀬で囲まれているから、潮時を見計らって誰でも潮干狩りに行くことができた。干潮時の潮干狩りは、主として婦女子と男の子たちがおこなった。大人の男たちは素潜り漁をするのが常であった。˞スー˥ヌ　˥ピスカー　イ˞ソー　シン˥　パル　ス˞コール　シーギーッティ˥　ジ˞ブンバー˥ケー　パ˞タ˥キ　˞カイ˥サ [˞su:˥nu ˥pi̥suka: ʔi˞so: ʃim˥ paru sṵ˞ko:ru ʃi: gi:tti˥ ʤi˞bumba:˥ke: pḁ˞ta˥ki ˞kai˥sa](潮が引いたら潮干狩りをしに行く準備をして行って、干潮時分までは畑を耕そう)。

イ˞ソーキン [ʔi˞so:kiŋ] 【名】出漁の際に着る着物。漁の着物。「いさり (漁り)・衣」の転訛したものか。

野良着と同じように、作業着の一種で、古着を使用した。終戦後の糸満漁師は米軍払い下げの野戦用毛布で仕立てた着物を持参した。鳩間島の漁師もそれを真似ていた。˞アッ˜タル　˞ミーキンバ˜　イ˞ソーキン　サンブリ˜バ [˞ʔat˜taru ˞miːkimba˜ ʔi˞soːkin samburi˜ba](あたら < 勿体無い > 新しい着物を漁の着物にするなよ)。

イ˞ソーシ [ʔi˞soːʃi] 【名】石臼。餅や豆腐を造る際に水にふやかした糯米や大豆を挽くのに用いる石製の円筒状の臼。上段と下段に分離しており、かみ合わされる両面に浅い溝が中心より放射状に作られてある。下段の中心部に約 1 センチの鉄製の心棒があり、上段底部の穴に嵌って横ずれを防ぐ。上段は頭頂部が極浅い皿状に掘られ、中央部の横に直径約 3 センチのホールが貫通していて米や大豆類を落とす機能を持つ。上段側面に L 字型の取っ手が据えつけてあり、それを掴んで廻し、穀類を磨り潰す。豆腐や餅を作る際は、大豆や糯米と一緒に水をながし、下の桶に溜めて作る。イソーシは桶の上に渡したア˞ジ˜マー [ʔa˞ʤi˜maː](十字に交叉させた腕木) に載せて使用する。イ˞ソーシ˜シム˞チマイ˜　ピ˞キティ˜　ム˞チ˜　ス˞ク˜ラ [ʔi˞soːʃi˜ʃi mu˞ʧimai˜ pi̥˞kiti˜ mu˞ʧi˜ su˞ku˜ra](石臼で糯米を挽いて糯を作ろう)。

イ˞ソーシタフ [ʔi˞soːʃi̥taɸu] 【名】漁の衣服。漁に行く際に着用する着物。「礒支度」の義。イ˞ソーシタフバ　シー　アーク˜ヌ　˞スー˜ヌ　˜ピスカー　イ˞ソー˜　パル　˞カン˜ガイ˞ナー [ʔi˞soːʃi̥taɸuba ʃiː ʔaːku ˜nu ˞suː˜nu ˜pi̥suka: ʔi˞soː˜ paru ˞kaŋ˜gai˞naː](潮干狩りに行く身支度 < 漁の衣服 > をしているが、さては潮が引いたら潮干狩りに行くつもり < 考え > だな)。

イ˞ソーシプス [ʔi˞soːʃipu̥su] 【連】漁をする人。潮干狩りをする人。イ˞ソーシプソー˜　マ˞ダ　クー˜ヌ [ʔi˞soːʃipu̥soː˜ ma˞da kuː˜nu](潮干狩りに行った人 < 漁師 > はまだ帰らない)。

イ˞ソーシンカ [ʔi˞soːʃiŋka] 【名】漁に出る仲間。カツオ漁船の乗組員。追い込み漁の仲間。イ˞ソーシンカ˜　ア˞ツァ˜ミティ　˜アン　ウ˞ラ˜シン　˜パラ [ʔi ˞soːʃiŋka˜ ʔa˞tsa˜miti ˜ʔaŋ ʔu˞ra˜ʃim ˜para](追い込み漁の仲間を集めて網を仕掛け < 降ろし > に行こう)。

イ˞ソー　スン [ʔi˞soː suŋ] 【連】いさり (漁り) をする。潮干狩りをする。パ˞トゥ˜マプソー　ミ˞ドゥ˜ムン　˜ビキドゥムン　ムー˞ル˜　イ˞ソー　スン [pḁ ˞tu˜mapu̥soː mi˞du˜mum ˜bikidumum muː˞ru˜ ʔi˞soː suŋ](鳩間の人は女も男も皆潮干狩りをする)。

イ˞ソードング [ʔi˞soːdoŋgu] 【名】漁具。魚介類を漁獲するのに用いる漁具の総称。イ˞ズホーシドン˜グ [ʔi˞ʤuhoːʃidoŋ˜gu](魚釣り道具)、イ˞ズガラシドン˜グ [ʔi˞ʤugaraʃidoŋ˜gu](魚網類)、イ˞ソーシドン˜グ [ʔi˞soːʃidoŋ˜gu](漁 < ィサリ > し道具) などがある。

˜イソーパーレー [˜ʔisoːpaːreː] 【名】疫病神祓えの昼間の唱えごと。シ˞マッサ˜ル [ʃi˞massa˜ru](島くさらし祭り) の際、西村と東村のヤ˞ク˜サ [ja˞ku˜sa](村役人) が村ごとにドゥ˞ラーンガニ [du˞raːŋgani](銅鑼) を打ち鳴らして子供たちを先導し、子供たちは各自甕の破片を打ち鳴らして最初に村井戸を回って井戸祓えをし、その後に村中の家を回って疫病神を追い払い、海岸へ追い出して蒲葵の葉柄で作った小舟に鶏肉を載せ、それで疫病神を賺し宥めて海の彼方へ追い払い、村の入り口の道に大蒜と塩を吊るした注連縄を張り巡らして疫病神の再侵入を防ぐ年中行事 (神事)。シ˞マッサル˜ヌ　˜ピン　˞ピーロー˜　イソーパーレーバ　˞シー　ユー˜ロー　˞ユートーパー˜レー　˞シール˜　パ˞ナシキヌ˜　カン　˞ウイ˜　パ˞ラ˜ソール　˞ニン˜ガイ　˞ソーッ˜タ [ʃi˞massaru˜nu ˜pim ˞piːroː˜ ʔisoːpareːba ˞ʃiː juː˜roː ˞juːtoːpaː˜reː ˞ʃiːru˜ pa˞naʃi̥kinu˜ kaŋ ˞ʔui˜ pa˞ra˜soːru ˞niŋ˜gai ˞soːt˜ta](島くさらし祭りの時、昼はイソーパーレーをし、夜はユートーパレーをして風邪の神様を追い払われる祈願をされた)。

イ˞ソーフジリ [ʔi˞soːɸuʤiri] 【名】潮干狩り。珊瑚礁の穴の中を銛で突きまわして蛸や魚を漁獲すること。「礒抉 < ィソコジリ >」の転訛したもの。イ˞ソーフジル　シー˜　タ˞ク˜　トゥリクー˞ディー [ʔi ˞soːɸuʤiru ʃiː˜ tḁ˞ku˜ turikuː˞diː](潮干狩りをして蛸を獲って来ようよ)。

イ˞ソープス [ʔi˞soːpusu] 【名】漁師。漁に行った人。潮干狩りの人。イ˞ソープソー˜　マ˞ダ　クー˜ヌ [ʔi ˞soːpusoː˜ ma˞da kuː˜nu](漁に行った人はまだ帰ってこない)。イ˞ソープソー˜　イ˞ソー˜ラ　マ˞ダ　オーラ˜ヌ [ʔi˞soːpusoː˜ ʔi˞soː˜ra ma˞da ʔoːra˜nu](漁師は漁からまだ < 帰って > いらっしゃらない。< まだ帰って来られない >)。

イ˞ソーフニ [ʔi˞soːɸuni] 【名】出漁船。カツオ釣り漁船。イカ釣り舟。「磯船」の転訛したもの。イ˞ソーフネー˜　イ˞ズ　マン˜シン　˞シー˜ケーン [ʔi ˞soːɸuneː˜ ʔi˞ʤu maŋ˜ʃiŋ ˞ʃiː˜keːŋ](漁船 < 出漁した

船 > は大漁 < 満船 > して帰ってきた)。イ˞ソーフネー　タイロー　シー　カイ˥リ　˥ケーン [ʔi˞soːɸuneː tairoː ʃiː kai˥ri ˥keːŋ](漁船は大漁して帰ってきた)。

イ˞ゾー˥マ [ʔi˞ʤoː˥ma] 【名】小魚。小さな魚。イ˞ズ [ʔi˞ʤu](魚) に指小辞˞ヤー˥マ [˞jaː˥ma] が付いて、[ʔiʤu] + [jaːma] → [ʔiʤuaːma] → [ʔiʤoːma] → [ʔiʤoːma] と音韻変化したもの。イ˞ゾー˥マーンツァン　シ˞キ˥キー　˞スー˥ヌ˥ダシ　シ˞ムーン˥ノーレ [ʔi˞ʤoː˥maːntsaŋ ʃi̥˞ki˥kiː ˞suː˥nu ˥daʃi ʃi˞mun˥noːreː](小魚だけでも獲って来て < 突いてきて > お汁の出しにさせてくれないか)。

˥イゾイキー [˥ʔiʤoikiː] 【名】(植) 木の名。モッコク。樹皮は黒褐色。幹は真直ぐに成長し 50 年で木材を取ることが出来るという。建築用材に最適。材は耐白蟻性があり、琉球王国時代には伐採禁止木になっていて百姓町人は本材を以って家を造ることが禁じられていたという。˞バン˥テヌ　˞ヤー˥ヤ　˞キャーンギトゥ˥　イゾイキーバ　ム˞トゥ˥バ　˞シール˥　ス˞クラ˥リ　˞ブー [˞ban˥tenu ˞jaː˥ja ˞kjaːŋgikiːtu˥ ʔiʤoikiːba mu˞tu˥ba ˞ʃiːru˥ su̥˞kura˥ri ˞buː](私の家はイヌマキとモッコク材を基本にして造られている)。˥イゾイキーシ　トゥ˞クバラー˥　ス˞ク˥ローッタ [˥ʔiʤoikiːʃi tu̥˞kubaraː˥ su̥˞ku˥roːtta](イゾイキーで床柱を作られた)。

イ˞タ˥ザイ [ʔi˞ta˥ʤai] 【名】板材。板に製材する材木。多くの場合、材質の硬いフ˞クンキー [ɸu̥˞kuŋkiː](福木) を˞トゥーシ [˞tuːʃi](縁側) の板に製材して用いた。˞トゥーシヌ˥　イ˞タザイ˥ヤー　フ˞クンキーバ　ゴー˥ラー　シゥ˞カイヨーッ˥タ [˞tuːʃinu˥ ʔi˞taʤai˥ja ɸu̥˞kuŋkiːba goː˥raː su̥˞kaijoːt˥ta](縁側の板材は、福木を多く使われた)。

イ˞タジラ [ʔi˞taʤira] 【名】いたずら (悪戯)。わるふざけ。沖縄方言からの借用語か。普通は、˞ガン˥バリ [˞gam˥bari](悪戯。悪ふざけ) という。ク˞ヌ˥ッ˞ふァー　サッ˥コー　イ˞タジラ　スンダ　ガッ˥コーナーティン　˞シン˥シーン　˥ユー　イ˞ザリン [ku˞nu˥ ˞fa: sak˥koː ʔi˞taʤira sunda gak˥koːnaːtiŋ ˞ʃiŋ˥ʃiːŋ ˥juː ʔi˞ʤariŋ](この子は非常に悪戯をするから、学校でも先生によく叱られる)。

˥イダフニ [˥ʔidaɸuni] 【名】サバニ。「板船」の義。明治中期以降沖縄本島の糸満や久高島、奥武島より導入されたという。鉄釘を一本も使わず、タ˞キフン [tḁ˞kiɸuŋ](竹釘) と˞フン˥ドゥ [˞ɸun˥du](板を接ぎ合わせた所に、カ˞シン˥ガイ [ka˞ʃiŋ˥gai](かすがい < 鎹 >) のように、ちきりじめ < 滕締め > としてうめこむ < 填め込む > もの) だけで杉板を接いで造った漁業用の小舟。**(1)** 船体に関する語彙。**(1)**˞マイ˥ジラ [˞mai˥ʤira](前面、舳先の前面。鋭三角形をなす所)、**(2)** パ˞ナイザキ [pa˞naiʤaki](舳先の上面、帆柱を倒して掛けておく所。帆柱を安定させるため凹状に木を刳り抜いたものを打ちつけてある)、**(3)** パ˞ナ [pa˞na](舳先の内側の˞アン˥カージナ [˞ʔaŋ˥kaːʤina]< アンカーロープ > を結んでおく所。< 鼻 > の義か)、**(4)**˞マイユッカー˥マ [˞maijukkaː˥ma](「小前床」の義。板を張って両舷側に渡した小さい床板。これに座って船を漕ぐ)、**(5)**˞ウシカキ [ʔu˞ʃikaki](帆柱を立てるために中央に長方形の穴をあけた一種の梁。厚さ約一寸五分、幅約五寸、長さ約四尺 < これは舟の大きさにより異なる > で板舟の両舷側に固定されている。両舷側の上部に幅約一寸、厚さ約七分、長さ約七寸の棒で押さえ縛って固定してある)、**(6)** パ˞ラータティ˥ミー [pa˞raːtati˥miː](帆柱を立てる際、根元を固定するための穴。ウ˞シカキの真下よりやや前方にずらしてある。従って帆柱はやや後方に傾いて立つ)、**(7)**˞シー˥キサ [˞ʃiː˥ki̥sa](帆柱を固定するのに用いる一種の楔。鍔(ッバ)の付いた台形の楔二個、鍔のない台形の楔一個、風力に合わせて帆柱の角度を調節する)、**(8)**˥マンタヌ　˞ヨーカ˥ミー [˥mantanu ˞joːka˥miː](前の湯淦排水用穴 < 湯淦孔 >、パ˞ラータティ˥ミー　の直前にある)、**(9)**˞マイユッ˥カ [˞maijuk˥ka](前床板)。ウ˞シカキの直後にある。これに座って帆を揚げ下ろしする人を˞ピーヌール [˞piːnuːru](「舳乗り」の義。という　)、**(10)** ナ˞カユッ˥カ [na˞kajuk˥ka](中床板)、**(11)** トゥ˞ムユッ˥カ [tu˞mujuk˥ka](艫の床板、船頭の座る床板)、**(12)**˞ハイ˥グゥー [˞hai˥gwaː](艫の小梁、直径 2 寸ほどの棒を艫の両舷側に渡し、固定したもの。その下に銅線で両舷側を締め、˞ハイ˥グゥーとしっかり巻き締めてある。これとウ˞シカキ˥でイダフニの船腹部を固めている)、**(13)** トゥ˞ム˥ヌ　ユッ˞カー˥マ [tu˞mu˥nu juk˞kaː˥ma](艫の小さな床板)、**(14)** トゥ˞ム˥ジラ [tu˞mu˥ʤira](艫面、艫の正三角形部分。内側には綱を通す穴がある)、**(15)**˞ウシキ˥ヤー [˞ʔuʃi̥˥jaː](両舷側の上部を幅約一寸、厚さ約五分の固い板で押さえたもの。舟を漕ぐ際に櫂で両舷が擦り減らないように保護するもの)、**(16)** サ˞ギ˥ヤー [sa˞gi˥jaː](さげるもの。竹のフロート。直径約 10 センチ、長さ

約 2 メートルの竹。ローリングを防ぐための一種のフロートの機能を果たす。外洋へ出漁する際は、これを船腹に吊り下げた)、**(17)** ˥タ˥ナ [ta˥na](棚板、˥イダフニに積荷をする際波頭が舷側より打ち込むのを防ぐため、両舷側に装着する板。幅約七寸、厚さ五分、長さ約六尺の板を二枚ずつ組み合わせて使用した。主に船腹部と舳先に装着した)、**(18)** ˥カー˥ラ [˥kaː˥ra](舟の前方船底につける一種の竜骨。これは˥プーザンプー [˥puːʤampuː] を張って操船する際、波を切って風上に舟を走らせる機能を果たす)、**(19)**˥ヤク [˥jaku](櫂。トゥ˥ム˥ヤク [tu˥mu˥jaku]<「艫櫂」の義。船頭が舵をとるのに用いる >、ヤ˥コー˥マ [ja˥koː˥ma]< 小さな櫂 > などがある)、**(20)**˥ユー˥トゥル [˥juː˥turu](舟の淦を汲み取る道具。ア˥カ˥トゥル [ʔa˥ka˥turu] ともいう。˥マチ [˥matʃi]< 松 > の幹を刳って作る)。**(2)** 帆に関する語彙。**(1)**˥プー [˥puː](帆)、**(2)** フ˥クル˥プー [ɸu̥˥kuru˥puː](和船式の帆。柱が帆の中心になるように作られている)、**(3)**˥プーザンプー [˥puːʤampuː](沖縄のサバニ独特の帆。竹の竿 < 直径約 3 センチ、長さ約 2・4 メートル > を帆の桟に用いて作られた帆)、**(4)** ミ˥ナー [mi˥naː](帆を吊り上げる縄)、**(5)**˥ティン˥ナー [˥tin˥naː](帆を操作する縄。帆の桟の右端から 5〜6 本の小さな縄が船頭の手元に集められているもの <˥手縄」の義 >)、これらが˥イダフニの構成要素である。糸満漁民や久高漁民、　奥武漁民の中には鳩間島でイカ漁を操業するために˥イダフニを二艘並べて帆柱でがっちりと結わえ、双胴船仕立てにし、糸満から鳩間島まで帆走してきたという。漁を終えたら˥イダフニを鳩間の人に売り、漁獲物を石垣経由那覇行きの定期船に積み込んで帰ったという。

イ˥タ˥ムン [ʔi˥ta˥muŋ] 【自動】生ものが傷む。腐敗しはじめる。標準語からの借用語。˥キッ˥ス　˥シー˥　カ˥ツ　ネーサン˥カー　カ˥ツォー˥　イ˥タミ˥ス˥ダー　パイ˥サ　˥ネーシ [˥kis˥su ˥ʃiː˥ kḁ˥tsu neːsaŋ˥ka: kḁ˥tsoː˥ ʔi˥tami˥su˥da: pai˥sa ˥neːʃi](一所懸命に < 競争して > カツオを煮ないとカツオは傷むぞ。早く煮なさい)。

イ˥タラン˥　ムニ [ʔi˥taram˥ muni] 【連】意を尽くせぬ言葉 < もの言い >。不十分な表現。イ˥タラン˥　ム˥ニ˥バ　イ˥ジ　ミーワクバ˥　カキ˥ブー˥　クトー　˥クナイ　ッ˥ふォー˥リ [ʔi˥taram˥ mu˥ni˥ba ʔi˥ʤi mi:wakuba˥ kaki˥buː˥ kuto: ˥kunai f˥foː˥ri](不十分なもの言いをして迷惑をかけていることはお許し < 堪えて > ください)。

イ˥タラン˥　ムヌ [ʔi˥taram˥ munu] 【連】行き届かないもの。未熟者。イ˥タラン˥　ムヌ　ヤ˥レースヌ˥　イ˥ジナラーシェー˥ティ　˥ヤー˥キナイ　タ˥タ˥シミ　タ˥ボー˥ローリ [ʔi˥taram˥ munu ja˥reːsunu˥ ʔi˥ʤinaraːʃeː˥ti ˥jaː˥kinai tḁ˥ta˥ʃimi ta˥boː˥roːri](未熟な者ですが叱咤激励して頂いて家庭を作らせて < 家庭を成り立たせて > ください)。

イ˥ダリー [ʔi˥dariː] 【感】まあ汚い。ああいやだ。ああつまらない。強調すると、ダー˥リー [daː˥riː](まあ汚い)、イーダ˥ラー [ʔiːda˥raː](まあ汚い) ともいう。イーダ˥リー　ワー　キン˥ヌ　シ˥ベー˥ムー˥ル˥　ドゥ˥ルゴー˥ダー　˥シーベー [ʔiːda˥riː waː kin˥nu ʃi˥beː˥ muː˥ru˥ du˥rugoː˥daː ˥ʃiːbeː](まあ汚い。君の着物の尻はみんな泥まみれだ < 泥まみれになっている > よ)。

イダ˥リー [ʔida˥riː] 【感】ああ嫌だ。まあ汚い。イダ˥ラー [ʔida˥raː](まあ汚い) ともいう。イーダ˥リー [ʔiːda˥riː](なんとまあ汚いことよ) は心底より軽蔑した表現。イダ˥リー˥　ヤ˥ニヤ˥ヌ　カ˥サマラヌ [ʔida˥riː˥ ja˥nija˥nu kḁ˥samaranu](ああ嫌だ。汚くて掴むことが出来ない)。イーダ˥リー˥　ドゥ˥クドゥク　ワー˥　アイブ　ク˥トゥ˥バ　˥シーシター [ʔiːda˥riː˥ du˥kuduku waː˥ ʔaibu ku̥˥tu˥ba ˥ʃiːʃi̥taː](ああ汚い。あろうことか < 何ということか >、君は本当にあんなことをしてしまったのか)。

イダリイダ˥リー [ʔidariʔida˥riː] 【感】ああ汚い。何と汚いことよ。イダリイダ˥リー˥　キ˥ムフク˥レーッ˥スゴー˥ダー　˥スン˥ケン　ビータレーティ　˥ヌーッツァ　˥ムンヤ [ʔidariʔida˥riː˥ ki˥mufuku˥reː s˥sugoː˥daː ˥suŋ˥kem ˥biːtareːti ˥nuːttsa ˥muɲja](ああ汚い。なんとまあ汚いことか。糞まみれになるまで酔いつぶれて何たることか)。

イ˥タン˥ダ [ʔi˥tan˥da] 【名】無報酬。無益。無料。無賃。効果のないこと。役に立たないこと。「〜時の盛りを伊多豆良尓 < イタヅラニ >〜。万、3969。(徒 < いたずら >)」の音韻変化した形。イ˥タンダシグ˥トゥ　カー˥ニ˥　シ˥ミラリベー [ʔi˥tandaʃigu˥tu kaː˥ni˥ ʃi˥miraribeː](無報酬の仕事だけさせられている)。イ˥タンダ˥ムノー　˥ダイダカー˥ン [ʔi˥tanda˥munoː ˥daidakː˥ŋ](只で得るものは後になって高価な代価を払うことになる < 只の物は値段が高い >)。イ˥タン˥ダ　ヤ˥ル˥カ　ム˥タ˥リスコー　˥ムティクー [ʔi˥tan˥da ja˥ru˥kaː muː˥ta˥risu̥koː ˥mutikuː](金がかからない < 只、無賃 > なら持てるだけ持って来

いよ)。イ˹タンダムヌ˺ヌ　˺スコー　˹ダイヌ˺　タ˹カー˺　ムノー　˹ナー˺ヌ [ʔi˹tandamunu˺nu ˺sṳko: ˹dainu˺ tḁ˹ka:˺ muno: ˹na:˺nu](無料の物ほど値段の高いものはない＜無料の物ほど高くつく＞)。

イ˹タンダ˺シゥカイ [ʔi˹tanda˺sï̥kai] 【名】無報酬で使うこと。ただ使い。無料で使われること。「いたずら使い」の義。プ˹スン˺　ナー˹イ˺　イ˹タンダ˺シゥカイ　シ˹ラリ　ベー [pṳ˹sun˺ na:˹i˺ ʔi˹tanda˺sï̥kai ʃi˹rari be:](他人にただ使い＜無料奉仕＞されている)。プ˹スバ˺　ナー˹イ˺　ギ˹シ˺ヌ　カタチニ　イ˹タンダ˺シゥカイ　˹スーモー˺　ア˹ラ˺ヌ　˹シーダイバー˺キ　タ˹タ˺ルンティ˹ダー [pṳ˹suba˺ na:˹i˺ gi˹ʃi˺nu ˺kḁtatʃini ʔi˹tanda˺sï̥kai ˹su:mo:˺ ʔa˹ra˺nu ˹ʃi:daiba:˺ki tḁ˹ta˺runti˹da:](他人をただ下衆＜下司＞のように只使いするものではない。末代までたたるそうだよ)。

イ˹タンダ˺ジン [ʔi˹tanda˺ʤiŋ] 【名】無駄銭。無益なことに使う金。˺ヤコー　タ˹タン˺　ムヌバ　タ˹ナ˺ミティ　イ˹タンダ˺ジン　シゥ˹カイ˺　プ˹リムヌ [˺jako: tḁ˹tam˺ munuba ta˹na˺miti ʔi˹tanda˺ʤin sï̥˹kai˺ pu˹rimunu](役に立たない者を頼んで、無駄銭を使って馬鹿だよ)。

イ˹タンダッサー˺ク [ʔi˹tandassa:˺ku] 【名】ただ働き。無駄働き。無報酬の仕事。「いたずら働き」の義。˹ピントゥルピン˺　イ˹タンダッサーク˺バ　˹シー　アー˺ク [˹pinturupiŋ˺ ʔi˹tandassa:ku˺ba ˹ʃi: ʔa:˺ku](毎日ただ働きをしている)。

イ˹タンダ˺ッふァイ [ʔi˹tanda˺ffai]【名】無駄食い。ただ食い。居候。˺スブットゥ　˺ナリティ　パ˹タラケー˺　サ˹ムティ˺　ナー˹イ˺　イ˹タンダ˺ッふァイ　˹シーベー [˺subuttu ˺nariti pḁ˹tarake:˺ sa˹muti˺ na:˹i ʔi˹tanda˺ffai ˹ʃi:be:](怠け者になって働きはしないで、ただ無駄食いをしている)。

イ˹タンダパタラ˺キ [ʔi˹tandapḁtara˺ki]【名】ただ働き。無駄働き。無報酬の仕事。˺ドゥク　イ˹タンダパタラ˺ケー　ス˹ナ˺ヨー [˺duku ʔi˹tandapḁtara˺ke: su˹na˺jo:](あまりただ働きをするなよ)。

イ˹タンダパタ˺ラキ [ʔi˹tandapata˺raki]【名】無駄働き。手間賃を貰わない働き。只働き。プ˹スン˺ヤーヌ　イ˹タンダパタ˺ラキ　カー˹ニ˺　シ˹ティ˺　ノー˹ン˺　ヤコー　タ˹タ˺ヌ [pṳ˹suɲ˺janu ʔi˹tandapata˺raki ka:˹ni˺ ʃi̥˹ti˺ no:˹ɲ˺ jako: tḁ˹ta˺nu](他家のための＜他人の家の＞只働きだけして何の役にも立たない)。

イ˹タンダ˺ムヌ [ʔi˹tanda˺munu] 【名】無料のもの。代金の要らないもの。ただの物品。イ˹タンダ˺ムノー　˹ダイ˺　タ˹カー˺ン [ʔi˹tanda˺muno: ˹dai˺ tḁ˹ka:˺ŋ](無料の物は却って値段が高くつく)。

˺イチ [˺ʔitʃi]【名】一。˺イチダイ [˺ʔitʃidai](一台、一代)、イ˹チ˺リ [ʔi˹tʃi˺ri](一里)、イ˹チニン [ʔi˹tʃiniŋ](一年)、イ˹チニ˺チ [ʔi˹tʃini˺tʃi](一日)。「一」に下接する形態素の頭子音が無声子音 [p、t、k、s] の場合、[-tʃi] が融合変化を起こして促音となり、続く無声子音の形をとる。有声子音 [b, d, g, z] の場合は融合変化はおこらない。˹イッ˺ス [˹ʔis˺su](一升)、˹イッ˺タン [˹ʔit˺taŋ](一反)、˹イッキン [˹ʔikkiŋ](一斤)、˹イッパン [˹ʔippaŋ](一班)、˹イップン [˹ʔippuŋ](一分)。ア˹ブ˺ジェー　イ˹チダイ˺シ　ウ˹ヤ˺キ　ナ˹ローッ˺タツォー [ʔa˹bu˺ʤe: ʔi˹tʃidai˺ʃi ʔu˹ja˺ki na˹ro:t˺tatso:](お祖父さんは一代で金持ちになられたそうだ)。

イ˹チ [ʔi˹tʃi] 【名】いつつ。五。イ˹チナン˺カ [ʔi˹tʃinaŋ˺ka](五七日忌)、イ˹チ˺シキ [ʔi˹tʃi˺ʃi̥ki](五ヶ月)、˹イシゥ˺カ [˹ʔisï̥˺ka](五日) の [sï̥] は 2 音節目の狭母音 [u] が無声子音の破擦音 [ts] の弱化に伴なう摩擦音化した [s] と三音節目の母音 [a] に挟まれて無声化し、アクセントも語頭に移動して中舌母音化したものである。「アーパーレー　イシカマーシ　イワイス (35 連)/アーパーレー　ナンカマーシ　イワイス (36 連)/アーパーレー　トゥズミーヌ　カイサヤ/(37 連)『アーパーレアー節 (はやみく)』(五日連続で祝おう、七日連続で祝おう　完成した家のみごとさよ) の意」。パ˹ルミ˺プソー　イ˹チ˺シキ　˹ペーリ˺ブーティバン [pa˹rumi˺pṳso: ʔi˹tʃi˺ʃi̥ki ˹pe:ri˺bu:tibaŋ](妊婦は五ヶ月に入っているんだってよ)。

イ˹チ [ʔi˹tʃi] 【代】いつ。何時。不定の時を表す語。時点、時代を問うのに用いる。「〜行く吾を何時伎麻佐武等＜イツ・キマサムト＞〜。万、3897」の転訛したもの。イ˹チ˺　ウ˹キ˺ナーラ　˹クー˺タ [ʔi˹tʃi˺ ʔu˹ki˺na:ra ˹ku:˺ta](いつ＜何時＞沖縄から来たのか)。イ˹サナケー˺　イ˹チ˺　パ˹ル˺ワ [ʔi˹sanake:˺ ʔi˹tʃi˺ pa˹ru˺wa](石垣へはいつ行くか)。イ˹ガメー˺　イ˹チェー˺ラ　イ˹チバー˺キ　˹ソーッ˺タカヤー [ʔi˹game:˺ ʔi˹tʃe:˺ra ʔi˹tʃiba:˺ki ˹so:t˺takaja:](イカ釣り漁＜イカ海＞はいつからいつまでなさったのかねえ)。

イ˹チイチ [ʔi˹tʃiʔitʃi] 【代】いついつ。「いつ (何時)」の重言。強調表現。イ˹チイチル˺　ウ˹ヤ˺ヌ　˹ミー˺ウティ　˹ソー˺レー　ピ˹ニチ˺ティ　˺ウブイ　シ˹キ˺リ˹ヨー [ʔi˹tʃiʔitʃiru˺ ʔu˹ja˺nu ˹mi:˺ʔuti ˹so:˺re: pi˹

nitʃiˀti ˀʔubui ʃi̥˞kiˀri˞joː](いついつが＜ぞ＞親の命日＜落命された日＞だと覚えておきなさいよ)。

イ˞チˀイチ [ʔi˞tʃiˀʔitʃi] 【副】いちいち。一つ一つ。一つ一つ総て。標準語からの借用語か。老年層は、˞ピーチピーˀチ [˞piːtʃipiːˀtʃi](一つ一つ) という。イ˞チˀイチ　シ˞ラビナウˀシ　˞サンˀミン　サ˞バルˀ　ナル [ʔi˞tʃiˀʔitʃi ʃi˞rabinauˀʃi ˞samˀmin sa˞baruˀ naru](一つ一つ＜総て＞調べ直して計算しないといけない＜計算すればぞなる＞)。

イ˞チェーラ [ʔi˞tʃeːra] 【連】何時から。何日から。[ʔitsu] + [kara] → [ʔitʃihara] → [ʔtʃiara] → [ʔitʃeːra](何日から、何時から) と音韻変化したもの。˞ガッコーˀヤ　イ˞チェーラˀ　パ˞ジマルワ [˞gakkoːˀja ʔi˞tʃeːraˀ pa˞ʤimaruwa](学校は何時＜何日＞から始まるか)。

ˀイチェーラ　ジュー˞バーˀキ [ˀʔitʃeːra ʤuː˞baːˀki] 【連】一から十まで総て。ˀイチェーラ　ジュー˞バーˀキ　ギ˞チˀ　サ˞バルˀ　ナ˞ル [ˀʔitʃeːra ʤuː˞baːˀki gi˞tʃiˀ sa˞baruˀ na˞ru](何から何まで＜一から十まで＞指図＜下知＞しないといけないのか＜下知すればこそできるのか＞)。

ˀイチェーラ　ˀジュー˞バーˀキ [ˀʔitʃeːra ˀʤuː˞baːˀki] 【連】一から十まで。何から何まで。総て。˞ティーバˀキ　˞シェーˀティ　˞サンˀカー　ナ˞ランˀムヌ　ˀイチェーラ　ジュー˞バーˀキ　ˀドゥーシ　サ˞バルˀ　ナ˞ル [˞tiːbaˀki ˞ʃeːˀti ˞saŋˀkaː na˞ramˀmunu ˀʔitʃeːra ˀʤuː˞baːˀki ˀduːʃi sa˞baruˀ na˞ru](手分けしてしないといけないのに、一から十まで総て自分でしなければならないのか＜反問＞)。

イ˞チカ [ʔi˞tʃika] 【副】何時か。いつの日か。いづれかの時に。未来の特定できない時を表す。イ˞チカˀ　マー˞ズンˀシ　ウ˞キˀナー　˞ギーˀミラ˞ナー [ʔi˞tʃikaˀ maː˞ʤuŋˀʃi ʔu˞kiˀnaː ˞giːˀmira˞naː](いつか一緒に沖縄へ行ってみようねえ)。

イ˞チグル [ʔi˞tʃiguru] 【名】いつごろ (何時頃)。過去のことや未来の件について、おおよその日時を表す。ウ˞レーˀ　イ˞チグルヌˀ　パ˞ナˀシヤー [ʔu˞reːˀ ʔi˞tʃigurunuˀ pa˞naˀʃijaː](それは何時頃の話しか)。イ˞チグルˀ　パ˞ラリˀワ [ʔi˞tʃiguruˀ pa˞rariˀwa](何時ごろ行けるか)。

イ˞チˀシキ [ʔi˞tʃiˀʃi̥ki] 【名】(数) 五ヶ月。パ˞ルミˀプソー　イ˞チˀシキ　ˀナルカー　ハ˞ラˀウビ　シ˞モーッˀタン [pa˞rumiˀpu̥so: ʔi˞tʃiˀʃi̥ki ˀnaruka: ha˞raˀʔubi ʃi˞moːtˀtaŋ](妊婦は五ヶ月になると腹帯＜岩田帯＞を締められた)。

ˀイチダイ [ˀʔitʃidai] 【名】一代。普通はウ˞ヤˀヌダイ [ʔu˞jaˀnu ˀdai](親の代)、˞ドゥーˀヌ　ˀダイ [˞duːˀnu ˀdai](自分の代) のように用いる。ˀアブジェー　ˀドゥー　ˀイチダイシ　ウ˞ビˀヌ　ˀザイサン　ア˞ラˀソーッタツォー [ˀʔabuʤeː ˀduː ˀʔitʃidaiʃi ʔu˞biˀnu ˀʤaisaŋ ʔa˞raˀsoːttatsoː](お祖父さんは自分の一代であれだけの財産を作られた＜生「アル」の他動詞形＞されたそうだ)。

イ˞チˀチ [ʔi˞tʃiˀtʃi] 【名】(数) 五つ。五歳。多くは歌謡語として用いられる。日常的には、イ˞チッˀチ [ʔi˞tʃitˀtʃi](五つ) という。「五穀、以都々之太奈豆毛乃＜いつつのたなつもの＞〜。」『和名抄』の「以都々」から転訛したもの。ム˞チェーˀ　イ˞チチˀナー　ˀバキティ　ムー˞ルˀニ　˞パイリ [mu˞tʃeːˀ ʔi˞tʃitʃiˀnaː ˀbakiti muː˞ruˀni ˞pairi](餅は五個ずつ＜五つずつ＞分けてみんなに配りなさい)。

イ˞チチンˀグ [ʔi˞tʃitʃinˀgu] 【名】五品の料理。「五つ組」の義。祝儀の御膳。˞イーˀトゥ　ˀスー　イ˞ズナマシ　ティンˀプラ　˞コーˀシ　ˀウビ　プ˞スˀジンナー　ス˞ルイˀルカー　イ˞チチンˀグ　ˀナルシジ [˞ʔiːˀtu ˀsuː ʔi˞ʤunamaʃi timˀpura ˞koːˀʃi ˀʔubi pu̥˞su ˀʤinnaː su˞ruiˀrukaː ʔi˞tʃitʃinˀgu ˀnaruʃiʤi](飯＜いい＞とお汁＜汁＞、魚の刺身＜魚膾＞、てんぷら、菓子、それだけを一膳に揃えたら五つ組のご馳走になる訳だ)。

イ˞チッˀカラ [ʔi˞tʃikˀkara] 【名】五匹。ˀカラ [ˀkara](匹、頭) は、陸の動物、海の動物を数える助数詞。ウ˞シェーˀ　プ˞スッˀカラ　˞オーˀヤ　フ˞タッカラˀ　ピ˞ビザンˀ　フ˞タッカラˀ　ムー˞ルˀシ　イ˞チッˀカラ　シゥ˞カˀナイ　˞ブントダー [ʔu˞ʃeːˀ pu̥˞sukˀkara ˞ʔoːˀja ɸu̥˞takkaraˀ pi˞biʤaŋˀ ɸu̥˞takkaraˀ muː˞ruˀʃi ʔi˞tʃikˀkara si̥˞kaˀnai ˞bunˊdaː](牛は一頭、豚は二匹、山羊も二匹、全部で五匹飼育しているよ)。

イ˞チッˀチ [ʔi˞tʃitˀtʃi] 【名】(数) 五つ。五歳。ッ˞ふァヌˀ　トゥシェー　ク˞トゥシˀ　イ˞チッˀチ　ˀナルン [f˞fanuˀ tuʃeː ku̥˞tuʃiˀ ʔi˞tʃitˀtʃi ˀnaruŋ](子供の年齢＜とし＞は今年五歳になる)。シ˞ントゥˀ　イ˞チッチˀル　ヌ˞カˀレー [ʃin˞tuˀ ʔi˞tʃittʃiˀru nu˞kaˀreː](たった五つしか残ってない＜五つぞ残っている＞)。

イ˞チッˀチン [ʔi˞tʃitˀtʃin] 【名】(数) 五つ。五個。イ˞チッˀク [ʔi˞tʃikˀku](五個) ともいう。フ˞ナˀブ　イ˞チッˀチン　ˀブリキー˞ミー [ɸu˞naˀbu ʔi˞tʃitˀtʃim ˀburikiː˞miː](蜜柑＜九年母＞を五個挽いで＜折って＞きてごらん)。

イ˞チデージ [ʔi˞tʃideːʤi] 【名】一大事。大変なこと。

「一大事」の転訛したもの。鳩間方言音韻法則では連母音 [ai] は [eː] にならない。従って石垣方言のイ˞チゥデ˺ージゥ [ʔi˞tsïde˺ːʤï](一大事) から転訛したものであることが分かる。˞マイカリ˺　ジ˞ブン˺ナー　˞タイフー˺ヌ　˺フクカー　イ˞チデージゲ˺ラ [˞maikri˺ ʤi˞bun˺naː ˞taiɸuː˺nu ˺ɸu̥kukaː ʔi˞ʧideːʤige˺ra](稲刈りの時期 < 時分 > に台風が吹くと一大事になるさ)。

イ˞チ˺ティ [ʔi˞ʧi˺ti] 【名】五年。「五つ年」の義。˺ティー　[˺tiː](年) は助数詞。シ˞マー˺ラ　˺ンジティ　イ˞チ˺ティ　˺ナルンケン　シ˞マー˺　パ˞リユーサ˺ナ　˞ベート ツォー [ʃi˞maː˺ra ˺ʔnʤiti ʔi˞ʧi˺ti ˺naruŋkeŋ ʃi˞maː˺ pa˞rijuːsa˺na ˞beːトtsoː](島から出て 5 年になるまで島へ帰り得ないでいるんですよ < 自嘲気味 >)。

イ˞チ˺ドゥ [ʔi˞ʧi˺du] 【名】一度。一回。標準語からの借用語。老年層は、プ˞ス˺ムシ　フ˞タムシ [pu̥˞sumu˺ʃi ɸu̥˞tamuʃi](一度 < 回 >、二度 < 回 >) という。ウ˞キ˺ナーヤ　˞ニンニ˺　イ˞チ˺ドゥ　˺ニドゥブカラー　パルン˞ダー [ʔu˞ki˺naːja ˞ninni˺ ʔi˞ʧi˺du ˺nidubukaraː parun˞daː](沖縄へは年に一度か二度ほど行くよ)。

イ˞チナン˺カ [ʔi˞ʧinaŋ˺ka] 【名】五七日忌。死後五週目に執り行われる法事。一、三、五の法事は偶数の七日忌よりも重要視され、七週目の七七日忌は˺シンズク [˺ʃinʤuku](四十九日) といわれて大きく執り行われる。˞ウーパ˺ヤー　イ˞チナン˺カ　ナ˞リシタ˺　メー　プ˞スヌ˺　シ˞ネー˺　ア˞チサー˺ヌ　˞ピー˺ルンネーティ　ア˞ザリブーヌ　フントー˺ユン˞ナー [˞ʔuːpa˺jaː ʔi˞ʧinaŋ˺ka na˞riʃi̥ta˺ meː pu̥˞sunu˺ ʃi˞neː ʔa˞ʧisaː˺nu ˞piː˺runneːti ʔa˞ʤaribuːnu ɸuntoː˺ jun˞naː](そんなに早く五七日忌になったのか、もう。人の死は熱い茶が冷めるように忘れやすいというが < 熱い茶が冷めるようだといわれているが > 本当だねえ)。

イ˞チニ˺チ [ʔi˞ʧini˺ʧi] 【名】一日。新しく標準語から借用語されたもの。普通は˺プスイ [˺pu̥sui](一日)、˞フシゥカ [˞ɸusi̥ka](二日) のように数える。˺キュー　イ˞チニ˺チンツァン　˺マティ　˞ふィーラン˺カヤー [˺kjuː ʔi˞ʧini˺ʧintsam ˺mati ˞fiːraraŋ˺kaja:](今日一日だけでも待ってもらえないか < くれないか > ねえ)。

イ˞チニン [ʔi˞ʧiniŋ] 【名】一年。新しく標準語から借用されたもの。普通は、プ˞ス˺トゥシ [pu̥˞su˺tu̥ʃi](一年)、フ˞タトゥシ [ɸu̥˞tatuʃi](二年) のように数える。ヤ˞ラ˺ベー　イ˞チニン˺シ　ク˞ビ˺ナー　フ˞ドゥビスバントナー [ja˞ra˺beː ʔi˞ʧiniŋ˺ʃi ku˞bi˺naː ɸu˞dubisuban˺naː](子供は一年でこんなにも < これほどに > 成長するものだねえ)。

イ˞チ˺ヌ　˞ジン [ʔi˞ʧi˺nu ˞ʤiŋ] 【連】一の膳。大きな神事の際に第一番に供える供物。祝儀の席で客に出す第一番目の料理。イ˞チ˺ヌ　˞ジン˺　ピ˞キティ　ニー˺ヌ　˞ジン˺　シ˞キリ˺バ [ʔi˞ʧi˺nu ˞ʤim˺pi̥ ˞kiti niː˺nu ˞ʤiŋ˺ ʃi̥˞kiri˺ba](一の膳を下げて二の膳を供えなさい)。

イ˞チヌ˺　マドゥ [ʔi˞ʧinu˺ madu] 【連】何時の間に。マ˞ナマバー˺キ　ウナー　˞ベータヌン˺ドゥ　イ˞チヌ˺　マ˞ドゥ˺ル　˞パッ˺タユー　ブ˞ラーン˺　ナリ˞ナー˺ヌ [ma˞namaba:˺ki ˺ʔunaː ˞beːtanun˺du ʔi˞ʧinu˺ ma˞du˺ru ˞pat˺tajuː bu˞raːn˺nari ˞naː˺nu](今までそこに居たが、何時の間に行ったのか、いなくなってしまった)。

イ˞チバー˺キン [ʔi˞ʧibaː˺kiŋ] 【連】いつまでも。イ˞チンバー˺キン [ʔi˞ʧimbaː˺kiŋ](何時までも) ともいう。イ˞チバー˺キン　ウ˞ヤ˺ヨー　ア˞ティバ　シー　アー˺ケー　ナ˞ラント ダー [ʔi˞ʧibaː˺kiŋ ʔu˞ja˺joː ʔa˞tiba ʃiː ʔaː˺keː na˞ranトdaː](いつまでも親を当てにしていてはいけないよ < ならないよ >)。˺ウヤー　イ˞チンバー˺キン　ブ˞ラーント ダー [˺ʔujaː ʔi˞ʧimbaː˺kim bu˞raːnトdaː](親はいつまでも < 生きては > いないよ)。

イ˞チ˺バン [ʔi˞ʧi˺baŋ] 【名】一番。ノー˞ン˺　シ˞ミルバン˺　プ˞ス˺　イ˞チ˺バン　˺ナリ　˞マイフナー　ユン [noː˞ŋ˺ ʃi˞mirubam˺ pu̥˞su˺ ʔi˞ʧi˺ban ˺nari ˞maiɸunaː juŋ](何をさせても他人より勝って一番になり、お利口さん < 賢い子 > だねえ)。

イ˞チバンウラ˺ザ [ʔi˞ʧibanʔura˺ʤa] 【名】一番座の裏の小部屋。長男が成長するとそこへ移った。ユ˞コー [ju˞koː](裏座) ともいう。サ˞クシッふァ˺ヌ　フ˞ドゥブ˺カー　イ˞チバンウラ˺ザナーティル　˺ウキニビ　シ˞タル [sḁ˞ku̥ʃiffa˺nu ɸu˞dubu˺kaː ʔi˞ʧibaŋʔura˺ʤanaːtiru ˺ʔukinibi ʃi̥˞taru](長男が成長したら一番裏座で寝起きをしたものだ)。

イ˞チバン˺ザー [ʔi˞ʧiban˺ʤaː] 【名】一番座。床の間の座敷。˞ザー˺トゥク [˞ʤaː˺tu̥ku](床の間) には、先祖伝来の大香炉の外に、˞コン˺ジン [˞kon˺ʤiŋ](「根神」の義か。当家で生まれた子女が信仰する神。娘のために小さな香炉を設け、娘が嫁する際に持参する) を信仰する香炉が設置してある。「一番座敷」の義。神事が執行される部屋。客間。鳩間島の一般

的なヌ˞キヤー [nu˞kija:](貫き木造り家屋) の間取りは「田の字型」形式である。家屋は南向きに建てられ、南面は表座敷で北面は裏座となる。表座敷は東から一番座 (床の間)、二番座 (仏間)、三番座 (居間兼台所) となっている。˞バン˜テヌ　イ˞チバン˜ザー　˞カンダカーン˜ツォー [˞ban˜tenu ʔi˞ʧiban˜ʤa: ˞kandaka:n˜tso:](私の家の一番座は神霊あらたか < 灼 > だそうだ)。サ˞カサトゥ˜　ティ˞ジリビー˜ヌ　˞カン˜プスンケー　ウ˞リ˜ラ　˞シン˜シンケーヤ　イ˞チバン˜ザー　シゥ˞カシオーラシ˜タ [sḁ˞kasatu ti˞ʤiribi:˜nu ˞kam˜pu̥sunʒke: ʔu˞ri˜ra ˞ʃin˜ʃinʒke:ja ʔi˞ʧiban˜ʤa: si̥˞kaʃiʔo:raʃi̥˜ta](司 < 神女 > と手擦り部 < 男性神職者 > の神人(カンプス)方、それから先生方は一番座へご案内された)。

イ˞チバンシー˜ムヌ [ʔi˞ʧibanʒʃi:˜munu] 【名】最初に出される吸い物料理。「一番吸い物」の義。大きな神事、大きな祝儀などに出された吸い物料理。昆布、かまぼこ、魚や肉の角切りの具、もやし等を入れた吸い物。˞ヨイシー˜ヤーナーテー　イ˞チバンシー˜ムヌ　タ˞ボーラ˜リカー　ナ˞ガシビ　サンドー˜シ　˞カイ˜リ　˜クー [˞joiʃi:˜ja:na:te: ʔi˞ʧibanʒʃi:˜munu ta˞bo:ra˜rika: na˞gaʃibi sando:˜ʃi ˞kai˜ri ku:](お祝いの家では一番吸い物を頂いたら長居しないで < 長尻しないで > 帰って来なさい)。

イ˞チバン˜ジョー [ʔi˞ʧiban˜ʤo:] 【名】一番釣手。「一番竿」の転訛したもの。カツオ漁船の一番釣手。釣の名手が選ばれて一番よく釣れるシ˞キダイ [ʃi̥˞kidai](突き台) の一番目でカツオを釣る。カツオの食いつき具合を見て、˞ホンマ˜キ [˞homma˜ki](餌の雑魚を撒く主任 < 本撒き >) に餌の入れ方を指示したりする。カ˞ツ　ホー˜シェー　イ˞チバンジョー˜ヌ　˜ウデイナール　カ˞カ˜ル [kḁ˞tsu ho:˜ʃe: ʔi˞ʧibanʤo:˜nu ˜ʔudina:ru kḁ˞ka˜ru](カツオ釣は一番竿の腕にかかっている)。

イ˞チバン˜ドゥシ [ʔi˞ʧiban˜duʃi] 【名】無二の親友。˞一番友達」の義。˜バー　イ˞チバン˜ドゥシ　˞ヤッタヌ˜　バ˞カ˜ジニ　˞シーナー˜ヌ [˜ba: ʔi˞ʧiban˜duʃi ˞jattanu˜ ba˞ka˜ʤini ˞ʃi:na:˜nu](私の無二の親友 < 一番友達 > だったが若死にしてしまった)。

イ˞チバン˜ドゥル [ʔi˞ʧiban˜duru] 【名】一番鶏鳴。「一番鶏」の義。午前三時ごろ暁刻を告げる鶏鳴。イ˞チバン˜ドゥル [ʔi˞ʧiban˜duru] が始まり、˞ニーバン˜ドゥル [˞ni:ban˜duru](二番鶏鳴)、˞サンバン˜ドゥル [˞samban˜duru](三番鶏鳴)、チ˞リナキ [ʧi˞rinaki](連れ鳴き) と続いて夜明けとなった。イ˞チバンドゥル˜ヌ　ナ˞ク˜カー　マ˞ジムノー˜　ブ˞ラーン˜ナルンティ　ム˞カ˜シプソー　ア˞ゾーッ˜タ [ʔi˞ʧibanduru ˜nu na˞ku˜ka: ma˞ʤimuno:˜ bu˞ra:n˜narunti mu˞ka˜ʃipu̥so: ʔa˞ʤo:t˜ta](一番鶏が鳴くと魑魅魍魎 < チミモゥリョゥ。まじもの > はいなくなると昔の人は言われた)。一番鶏が鳴くと怖いものは無くなった。

イ˞チバン˜ミー [ʔi˞ʧibam˜mi:] 【名】一番目。˜サンバシェーラ　˞ヌーリ˜　クーカー　˞ニーリンカタヌ˜　イ˞チバンミー˜ル　˞バン˜テヌ　˜ヤー　ヤ˞ルンダ˜　サ˞バキヤッ˜サン [˞sambaʃe:ra ˞nu:ri˜ ku:ka: ˞ni:riŋkatanu˜ ʔi˞ʧibammi:˜ru ˞ban˜tenu ˜ja: ja˞runda˜ sa˞bakijas˜saŋ](桟橋から登ってくると右側の一番目が私の家だから、探しやすい)。

イ˞チバン˜ムク [ʔi˞ʧibam˜muku] 【名】長女の婿。「一番婿」の義。イ˞チバン˜ムコー　イッ˞ケナ˜　パ˞タラキムヌ˜　ヤ˞レー˜ティ　˞ヤーヤシ˜キーン　ア˞ラ˜シ　˜シケーン [ʔi˞ʧibam˜ muko: ʔik˞kena˜ pḁ˞tarakimunu˜ ja˞re:˜ti ˞ja:jaʃi̥˜ki:ŋ ʔa˞ra˜ʃi ˜ʃi̥ke:ŋ](長女の婿は大変な働き者であるので家屋敷も所有して < 有らして > ある)。

イ˞チバン˜ヤク [ʔi˞ʧibaɲ˜jaku] 【名】一番漕ぎ手。「一番櫂」の転訛したもの。˞パーレー˜フニ [˞pa:re:˜ɸuni](爬竜船) の第一漕ぎ手。熟練した、力のある若者が選ばれた。˞インタヌ˜　イ˞チバン˜ヤコー　ク˞トゥシェー　ター˜ヤー [˞ʔintanu˜ ʔi˞ʧibaɲ˜jako: ku̥˞tuʃe: ta:˜ja](西村の爬竜船の一番漕ぎ手は今年は誰が勤めるか < 誰か >)。

イ˞チ˜フ [ʔi˞ʧi˜ɸu] 【名】いとこ (従兄弟)。親族名称。「従父、父方乃伊止古 < いとこ >」『新撰字鏡』の転訛したもの。イ˞チフキョー˜ダイ [ʔi˞ʧiɸukjo:˜dai](従兄弟) ともいう。˞キョーダイ˜ヌ　ッ˞ふァザーンマ˜　イ˞チ˜フ　˜ナル　˜シジミー [˞kjo:dai˜nu f˞faʤa:mma˜ ʔi˞ʧi˜ɸu ˜naru ˜ʃiʤimi:](兄弟の子供同士は従兄弟になるわけ < 筋。道理 > だろう?)。従兄弟姉妹。イ˞チフキョー˜ダイ [ʔi˞ʧiɸukjo:˜dai](従兄弟兄弟姉妹)。イ˞チフブザ˜サ [ʔi˞ʧiɸubuʤa˜sa](従兄弟叔父)。イ˞チフブバー˜マ [ʔi˞ʧiɸububa:˜ma](従兄弟叔母)。イ˞チフ˜ブイ [ʔi˞ʧiɸu˜bui](従兄弟甥)。イ˞チ˜フザーン　˜ナリ　ム˞エー　シーベー˜ツォー [ʔi˞ʧi˜ɸu ˜ʤa:n ˜nari mu˞je: ʃi:be:˜tso:](従兄弟同士で頼母子講をしているそうだ)。

イ˞チブカラー [ʔi˞ʧibukara:] 【名】いつごろ (何時頃)。未来における、その出来事のおおよその日時を表す。ク˞ヌ˜　シ˞グトー˜　イ˞チブカラ˜　ナ˞ル˜ワ

[ku˹nu˺ ʃi˹guto:˺ ʔi˹ʧibukara˺ na˹ru˺wa](この仕事は何時頃出来上がる＜完成する＞か)。ク˹ヌ˺　ツ˹ゲー˺　イ˹チブカラ˺　キ˹ラリ˺ワ [ku˹nu˺ tsu˹ge:˺ ʔi˹ʧibukara˺ ki˹rari˺wa](この次は何時頃来れるか)。

イ˹チフキョー˺ダイ [ʔi˹ʧiɸukjo:˺dai] 【名】従兄弟。「従兄弟兄弟」の義。˹ウン˺ネーヤ　イ˹チフキョー˺ダインケーヌ　˺カナイ　˹ブンダ˺　ノー˹ン˺　シ˹グトゥン˺　ナルン [˹ʔun˺ne:ja ʔi˹ʧiɸukjo:˺daiŋke:nu ˺kanai ˹bunda˺ no:˹ŋ˺ ʃi˹gutun˺ naruŋ](あの家は従兄弟兄弟達も揃って＜叶って＞いるから、どんな仕事でも出来る)。˹ウッ˺ツァー　ムー˹ル˺　イ˹チフキョー˺ダイ [˹ʔut˺tsa: mu:˹ru˺ ʔi˹ʧiɸukjo:˺dai](彼らはみんな従兄弟兄弟姉妹だ)。

イ˹チフ˺ブイ [ʔi˹ʧiɸu˺bui] 【名】いとこ甥、いとこ姪。従兄弟兄弟姉妹の子供。ウ˹トゥザ˺ヌ　˹ゴー˺ラーティ　イ˹チフ˺ブイラー　˹ナー˺　ユー　ウ˹ボーララ˺ヌ [ʔu˹tuʥa˺nu ˹go:˺ra:ti ʔi˹ʧiɸu˺buira: ˹na:˺ ju: ʔu˹bo:rara˺nu](親戚が多いので従兄弟甥、従兄弟姪からは名前はよくは覚えられない)。

イ˹チフブザ˺サ [ʔi˹ʧiɸubuʥa˺sa]【名】いとこ伯叔父。父母の従兄弟にあたる男性。イ˹チフブザ˺サンケーヌン　˺カナイ　˹オー˺レーティ　˹ヤースク˺レー　˹ソーヤ　ナーン˺シェン [ʔi˹ʧiɸubuʥa˺saŋke:nuŋ ˺kanai˹ʔo:˺re:ti ˹ja:su̥ku˺re: ˹so:ja na:ŋ˺ʃeŋ](いとこ伯叔父がたも実力者が揃っておられるので家建築には何の心配もなかった)。

イ˹チフブバー˺マ [ʔi˹ʧiɸububa:˺ma] 【名】いとこ伯叔母。父母の従姉妹にあたる女性。イ˹チフブバー˺マンケーヤ　˺ヨイソッコーヌ　ス˹コール　ソー˺ル　˺ピンマー　ムー˹ル˺　ア˹ツァ˺マリ　˹オーッ˺タン [ʔi˹ʧiɸububa:˺maŋke:ja ˺joisokko:nu su̥˹ko:ru so:˺ru ˺pimma: mu:˹ru˺ ʔa˹tsa˺mari ˹ʔo:t˺taŋ](いとこ伯叔母がたは祝い事や法事＜焼香＞の準備をされるときはみんな集まってこられた)。

イ˹チフン˺ケーン [ʔi˹ʧiɸuŋ˺ke:ŋ] 【連】いとこ (従兄弟) たち。イ˹チフン˺ケーン　ムー˹ル˺　ア˹ツァ˺ミティ　パ˹ナシアー˺シバ [ʔi˹ʧiɸuŋ˺ke:m mu:˹ru˺ ʔa˹tsa˺miti pa˹naʃiʔa:˺ʃiba](従兄弟たちをも全　員集めて話し合いなさいよ)。

イ˹チムン [ʔi˹ʧimuŋ]【名】同じ˺シジ [˺ʃiʤi](血筋、血統) を引く一族。マ˹ガ˺ラピキ [ma˹ga˺rapiki](真柄＜真故＞「マガラ」の儀か) の範囲に属する家系。˹ウン˺ネーヤ　˹バン˺テートゥ　イ˹チムンㇳダー [˹ʔun˺ne:ja ˹ban˺te:tu ʔi˹ʧimun˫da:](あの家は私の家と一門だよ)。石垣島のような名乗頭 (人名の上に付く文字) の制度はない。

イ˹チ　ヤル˺ユー [ʔi˹ʧi jaru˺ju:] 【連】いつなのか。いつのことやら。未来のことについて、不確かなある時をいう。˺マーッふァヌ　フ˹ドゥビ˺　ドゥームティ　˺パルモー　イ˹チ　ヤル˺ユー [˺ma:ffanu fu˹dubi˺ du:muti ˺parumo: ʔi˹ʧi˺ ja˹ru˺ju:](孫が成長していって嫁入りする＜所帯を持つ＞のは何時のことやら＜何時だろうか＞)。

イ˹チヨー [ʔi˹ʧijo:] 【副】一応。ひとまず。不完全ながらも最低の基準を満たしている際に言う語。˺バー　シ˹キ˺ニンシ　イ˹チヨー˺　ナ˹ラー˺スン [˺ba: ʃi̥˹ki˺niŋʃi ʔi˹ʧijo:˺ na˹ra:˺suŋ](私の責任で一応教える)。イ˹カナ　ピンソー˺ムヌ　ヤ˹ラバン˺　イ˹チヨー　ガッコー˺ヤ　ン˹ジ˺ブンダ　˹ジーヤ˺　カクン [ʔi˹kana pinso:˺munu ja˹rabaŋ gakko:˺ja ʔn˹ʤi ˺bunda ˹ʤi:ja˺ kḁkuŋ](如何な貧乏者でも、一応学校は出ているから文字は書く)。

˺イチョー [˺ʔiʧo:] 【名】胃腸。標準語からの借用語。イ˹チョー˺ヌ　˹ヨー˺ティ　ン˹ガナー˺ヌ　シ˹ル˺バヌミ˹ブーㇳダー [ʔi˹ʧo:˺nu ˹jo:˺ti ŋ˹gana:˺nu ʃi˹ru˺ba numi˹bu:˫da:](胃腸が弱いのでニガナ＜苦菜＞の汁を飲んでいるよ)。

イ˹チョー˺ニチ [ʔi˹ʧo:˺niʧi] 【名】腸チフス。「胃腸熱」の義。イ˹チョー˺ニチ　カ˹カ˺リ　プ˹ス˺シキブカラ　ニ˹チ˺ヌ　˺ンジティ　˹ベー˺カーン　˹シーシタ [ʔi˹ʧo:˺niʧi kḁ˹ka˺ri pu̥˹su˺ʃi̥kibukara ni˹ʧi˺nu ˺ʔnʤiti ˹be:˺ka:ŋ ˹ʃi:ʃi̥ta](腸チフスに罹って一月ほど熱が出て下痢もしていた)。

イ˹チョー˺ヌ　フ˹チ˺ル [ʔi˹ʧo:˺nu ɸu̥˹ʧi˺ru] 【連】胃腸の薬。バ˹タ˺ヌ　フ˹チ˺ル [ba˹ta˺nu ɸu̥˹ʧi˺ru](腹の薬) ともいう。カ˹マイ˺ヌ　˹タンノー˺ヤ　イ˹チョー˺ヌ　フ˹チ˺ルティ　ア˹ザリ　ブーㇳダー [ka˹mai˺nu ˹tanno:˺ja ʔi˹ʧo:˺nu ɸu̥˹ʧi˺ruti ʔa˹ʣari bu:˫da:](猪の胆嚢は胃腸の薬といわれているよ)。

イ˹チ˺リ [ʔi˹ʧi˺ri] 【名】一里。約 4 キロメートル (36 町)。パ˹トゥマ˺ヌ　シ˹マ˺ヌ　˹マーロー˺　イ˹チ˺リナー　ン˹メーマ˺　タ˹ラーン˺ツォー [pḁ˹tuma ˺nu ʃi˹ma˺nu ˹ma:ro:˺ ʔi˹ʧi˺rina: ʔm˹me:ma˺ ta˹ra:n˺tso:](鳩間の島の周りは一里に少し足りないそうだ)。

イ˹チン [ʔi˹ʧiŋ] 【副】いつ (何時) も。常に。時間的、場面的条件が揃う時には、いつも。イ˹チン˺　ユ˹ヌ˺ムニ　カー˹ニ˺　ア˹ゾー˺ル [ʔi˹ʧiŋ˺ ju˹nu˺muni ka:˹ni˺ ʔa˹ʣo:˺ru](いつも同じ話だけいわれる＜おっしゃる＞)。˺バー　タ˹マーニ˺　クー　˺ピンマー　˹ワ

ー˥　イ˞チン　ヤー˥ナ　ブ˞ラーンワン˥ノー [˥baːta˞maːni˥ kuː ˥pimmaː ˞waː˥ ʔi˞ʧiŋ jaː˥na bu˞raːŋwan ˥noː](私が偶に来る時は、君は何時も家にいないではないか)。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　イ˞チン˥　シラ　フ˞クリティ˥　ムヌ　˞トゥーバン　ピントーン　サヌ [ku˞nu˥ f˞faː˥ ʔi˞ʧiŋ˥ ʃira ɸu̥˞kuriti˥ munu ˞tuːbam pintoːn sanu](この子はいつも脹れっ面していて、ものを尋ねても返事しない)。強調するとイッ˞チン [ʔit˞ʧiŋ](いつも) のように発音される。˥アッパー　˞ピャー˥ク　ナ˞リ˥ソールンドゥ　イ˞チン˥　ア˞ザケーアザケー˥シル　˞オー˥ル˞ダー [˥ʔappaː ˞pjaː ˥ku na˞ri˥soːrundu ʔi˞ʧiŋ˥ ʔa˞ʤake:ʔaʤake:˥ʃiru ˞ʔoː ˥ru˞daː](お祖母さんは百歳になられるが、いつもこぎれいに < 清潔に > して < ぞ > おられるよ)。イッ˞チン˥　ユ˞ヌムニ˥ル　イ˞ゾー˥ル < ア˞ゾー˥ル >[ʔit˞ʧiŋ˥ ju˞numuni˥ru ʔi˞ʤoː˥ru　< a˞ʤoː˥ru >](いっつも同じことを言われるんだ)。

イ˞チンガサ [ʔi˞ʧiŋgasa] 【副】何時だったか。何時か。過去、未来のことについて、不確かなある時をいう語。1何時だったか。イ˞チンガサ˥　アイブ　パ˞ナ˥シ　ス˞クタ˥　ウ˞ブイ˥ヌ　˥アン [ʔi˞ʧiŋgasa ˥ ʔaibu pa˞na˥ʃi su̥˞kuta˥ ʔu˞bui˥nu ʔaŋ](何時だったか < 何時のことだったか、よくわからないが > あんな話を聞いた覚えがある)。2いつか。何時の日にか。イ˞チンガサ˥　ウ˞キ˥ナーナテイ　イ˞カイオーラ˥リンパジ [ʔi˞ʧiŋgasa˥ ʔu˞ki˥naːnati ʔi˞kaiʔoːra ˥rimpaʤi](何時の日にか沖縄でお会いできる < お会いできなさる > はずです)。

イ˞チンガ˥チ [ʔi˞ʧiŋga˥ʧi] 【名】一月。正月月 (しょうがつつき)。˥ソンガチシキ [˥soŋgatʃiʃi̥ki](正月月) というのが普通。イ˞チンガ˥チナー　˥ソンガチ　パ˞チニンガイ　ソー˥リ　˞ヤーニンズー˥ヌ　˥ドゥーパダニンガイユン　˞ソーリ˥シタ [ʔi˞ʧiŋga˥ ʧina: ˥soŋgatʃi pḁ˞ʧiniŋgai soː˥ri ˞jaːninʤuː˥nu ˥duː-padaniŋgaijun ˞soːri˥ʃi̥ta](一月には正月初祈願をされ、家族の健康祈願をもなされた)。

イ˞チン˥ゴー [ʔi˞ʧiŋ˥goː] 【名】一合。イ˞チンゴーナカ˥ムル [ʔi˞ʧiŋgoːnaka˥muru](一合枡)。イ˞チンゴー˥クビン [ʔi˞ʧiŋgoː˥kubiŋ](一合瓶)。サ˞キ˥　イ˞チン˥ゴー　˞カイ˥クー [sḁ˞ki˥ ʔi˞ʧiŋ˥go: ˞kai˥kuː](酒を一合買ってきなさい)。

イ˞チンゴーナカ˥ムル [ʔi˞ʧiŋgoːnaka˥muru] 【名】一合枡。イ˞チンゴーナカ˥ムルシ　パ˞カ˥レーテイ　サ˞キバ　カーシオーッ˥タ [ʔi˞ʧiŋgoːnaka˥muruʃi pḁ˞ka˥reːti sḁ˞kiba kaːʃioːt˥ta](一合枡で計りつつ酒を売っておられた)。

イ˞チンナー˥カ [ʔi˞ʧinnaː˥ka] 【副】いつか。何時の日か。未来および過去における不確定の時、ある日。˞ワンヌン˥　ウ˞ブ˥プス　˥ナルカー　イ˞チンナー˥カー　ウ˞ヤ˥ヌ　キ˞ムウチン　サッシラリ˥クトゥン　ア˞リ˥ス　˥パジェー　ア˞ラン˥カヤー [˞wannuŋ˥ ʔu˞bu˥pu̥su ˥naruka: ʔi˞ʧinnaː˥ka ʔu˞ja˥nu ki˞mu˥ʔutʃin saʃʃirari˥ku̥tuŋ ʔa˞ri˥su ˥paʤe: ʔa˞raŋ˥ kaja:](君も大人になったら、いつかは親の気持ち < 肝内、心の内 > も察知できることもあるのではなかろうか < 察せられることもあるはずではないかねえ >)。

˥イツ [˥ʔitsu] 【名】絹。「絹糸」、˞絹布」の義。「〜着けし紐　伊刀尓 (イトニ) なるとも〜。万、4405」の「糸」から転訛したもの。普通の糸は˥イトゥ [˥ʔitu] というが、その [tu] が直前の前舌狭母音 [i] によって口蓋化され、˥イチュ [˥ʔitʃu] となり、˥イツ [˥ʔitsu] と直音化して < 絹糸 > の意味を派生させたもの。˥イツキン [˥ʔitsukiŋ](絹の着物、最高の着物)。˥イツピピル [˥ʔitsupipiru](屋根の甍を引き締める最強の縄。絹縄)。

˥イツァ [˥ʔitsa] 【名】板。「イタ」の [t] が先行する狭母音 [i] によって口蓋化されて [ts] となり、˥イツァ [ʔitsa] と音韻変化したもの。イ˞ツァフン˥ツァ [ʔi˞tsaɸun˥tsa](板張り縁、板張り床)、˥イダフニ [˥ʔidaɸuni](イタブネ。沖縄本島のサバニのこと。鉄釘を一本も使わず、杉板を接いで作った舟、沖縄本島の糸満より導入されたという。糸満の漁師たちはイダフニを二艘帆柱で結わえて固定し、双胴船に仕立て、糸満から鳩間まで帆走して来たという)。杉材の取れない鳩間島ではフ˞クン [ɸu̥˞kuŋ](福木) や˥カシンキー [˥kḁʃiŋki:](オキナワウラジロガシ) などの大木を挽き鋸で縦割りにして板を作った。イ˞ツァフン˥ツァナ　˥ムス　シ˞キティル˥　ナ˞チェー˥　ニ˞ブタル [ʔi˞tsaɸun˥tsana ˥musu ʃi̥˞kitiru˥ na˞ʧeː ˥ni˞butaru](板床に蓆を敷いて < ぞ > 夏は寝たものだ)。床板にはシ˞チブ˥イツァ [ʃi̥˞ʧibu˥itsa](七分板) を用いた。シ˞ギイツァ [ʃi˞gi?itsa](杉板。壁板に用いた)。˞サンブ˥イツァ [˞sambu˥ʔitsa](三分板)、ゴ˞ブイツァ [go˞bu?itsa](五分板。床張りに用いる板)、シ˞チブ˥イツァ [ʃi̥˞ʧibu˥ʔitsa](七分板) 等は石垣島より購入し、フ˞クンキーイツァ [ɸu̥˞kuŋki:?itsa](< 福木製の板 > 主に縁側を張るのに用いた板) は鳩間島で、二人一組にして縦挽き鋸を挽きながら製材した。

イツァー˩イツァー˥シ [ʔitsaː˩ʔitsaː˥ʃi] 【副】痛そうに。非常に痛そうに。「〜心ぞ伊多伎＜イタキ＞〜。万、4307」の転訛したもの。ABCABCD 型の重言。ア˩シ˥ボー　ア˩アガミティ˥　イツァー˩イツァー˥シ　˩ウー˥ミ　˩ベー [ʔa˩ʃi˥boː ʔa˩gamiti˥ ʔitsaː˩ʔitsaː˥ʃi ˩ʔuː˥mi ˩beː](御出来は赤らんで非常に痛そうに膿んでいる)。

イ˩ツァー˥ン [ʔi˩tsaː˥ŋ] 【形】1熱い。ク˩ヌ˥　サ˩バン˥マー　イ˩ツァー˥ヌ　カ˩サマラヌ [ku˩nu˥ sa˩bam˥maː ʔi˩tsaː˥nu ka˩samaranu](この茶碗は熱くて持てない＜掴めない＞)。2痛い。˩パン˥ヌ　キ˩ジヌ　ウー˥ミティ　イ˩ツァー˥ヌ　˩サウララ˥ヌ [˩pan˥nu ki˩ʤinu ʔuː˥miti ʔi˩tsaː˥nu ˩sauraranu](足の傷が化膿して＜膿んで＞、痛くて＜熱くて＞触ることができない)。

˩イツァー˥ン **[ʔi˩tsaː˥ŋ]** 【形】熱い。痛い (熱した金属や熱湯に触るときに感じる痛い感覚)。ア˩チ˥ナベー　イ˩ツァー˥ンダー　カ˩ラティー˥シェー　カ˩サマラヌ [ʔa˩ʧi˥nabeː ʔi˩tsaː˥nda ka˩ratiː˥ʃeː kḁ˩samaranu](熱した鍋は熱い＜痛い＞から素手では掴めない)。˩ナン˥ゾー　イ˩ツァーナー˥ヌ [˩nan˥ʤoː ʔi˩tsaːnaː˥nu](あまり熱く＜痛く＞ない)。イ˩ツァー˥ムノー　カ˩サムナ [ʔi˩tsaː˥ munoː kḁ˩samuna](熱い＜痛い＞ものは掴むな)。˩シンダイ˥　イ˩ツァー˥ナリケーン [˩ʃindai˥ ʔi˩tsaː˥ narikeːŋ](次第に熱く＜痛く＞なってきた)。˥ドゥク　イ˩ツァー˥カー　カ˩サムナ [˥duku ʔi˩tsaː˥kaː kḁ˩samuna](あまり熱ければ＜痛ければ＞掴むな)。

イ˩ツァ˥カウ [ʔi˩tsa˥kau] 【名】板香。伝統的な沖縄の線香。板のように平たい線香で、一枚に六本の線香が押し固められているもの。ウ˩キナー˥カウ [ʔu˩kinaː˥kau](沖縄香) ともいう。束になったものは˩タイ˥コー [˩tai˥koː](「焚き香」の義か) という。巾約 1、4 センチ、長さ約 14 センチの板状に 6 本の線が入った線香。板香一枚をプ˩ス˥カー [pu̥˩su˥kaː] といい、6 本の線香と計算される。鳩間島では神事、仏事で使われ、神迎えには 3 本 (二分の一枚)、願いつけには 12 本 (二枚＜フタカー＞)、御礼の祈願には 24 本 (四枚＜ユーカー＞) を香立てした。˩カンヌ˥マイヤ　イ˩ツァカウ˥バ　˥シキ　タ˩トーッタ˥ヌ　ウ˩ヤプスン˥マイヤ　イ˩ツァ˥カウン　タ˩キカウン˥　シ˩キ˥ソーッタ [˩kannu˥maija ʔi˩tsakau˥ba ˥ʃi̥ki tḁ˩toːtta˥nu ʔu˩japusum˥maija ʔi˩tsa˥kaun tḁ˩kikauŋ˥ ʃi̥˩ki˥soːtta](神様の前には板香を焚かれたが、先祖の前には板香も竹香も焚かれた)。

イ˩ツァ˥クビ [ʔi˩tsa˥kubi] 【名】板壁。˩サンブ˥イツァ [˩sambu˥ʔitsa](三分板。杉板の最も薄い板) で家の壁を張ったもの。杉板が導入される以前は、西表島の山から、フ˩クイキー [ɸu̥˩kuikiː](ウラジロエノキ) を伐り出して、それを˥バキティ [˥bakiti](木挽きして。木材を縦割りに挽くこと) 壁板を作ったという。˩カー˥ラヤーヌ　ク˩ベー˥　ムー˩ル˥　イ˩ツァ˥クビ　ヤ˩ルヌ˥　ガヤヤーヌ　ク˩ベー˥　ガヤーシル　ク˩ベー˥　フ˩カリブタ [˩kaː˥rajaːnu ku˩beː˥ muː˩ru˥ ʔi˩tsa˥kubi ja˩runu˥ gajajaːnu ku˩beː˥ gajaːʃiru ɸu̥˩kaributa](瓦葺き家の壁はみんな板壁であるが、茅葺き家の壁は茅で＜ぞ＞葺かれていた)。ガ˩ヤー˥クビ [ga˩jaː˥kubi](茅葺きの壁) の対義語。ウ˩ブヤー˥ヤ　イ˩ツァ˥クビ　ヤ˩ルヌ　トー˥ラー　˥ガヤーシ　ク˩ベー˥　フ˩カリブタ [ʔu˩bujaː˥ja ʔi˩tsa˥kubi ja˩runu toː˥ra: ˥gajaːʃi ku˩beː˥ ɸu̥˩kaributa](母屋は板壁であるが、離れ＜炊事小屋＞は茅で壁は葺かれていた)。

˥イツァドーフ **[˥ʔitsadoːɸu]** 【名】「板豆腐」の儀。厚さ約 2 センチの板状に切った豆腐。油揚げにして祝儀、不祝儀の料理に用いた。˥イツァドーフバ　˥アバナー　ア˩ギティ˥　ア˩ギドーフ˥　ス˩ク˥リ [˥ʔitsadoːɸuba ˥ʔabanaː ʔa˩giti˥ ʔa˩gidoːɸu˥ su̥˩ku˥ri](板豆腐を油に揚げて揚げ豆腐を作りなさい)。

イ˩ツァ˥ヌ　˥キシ [ʔi˩tsa˥nu ˥ki̥ʃi] 【連】板の切れッ端。板切れ。「板の切れ」の義。イ˩ツァ˥ヌ　˥キシ　˩ミシ˥キ　˥キー　˩ヤー˥ヌ　ク˩ビヌ　ガーフラキ　シーベー˥トン　ッ˩サイッふィーリ [ʔi˩tsa˥nu ˥ki̥ʃi ˩miʃi̥˥ki ˥kiː ˩jaː˥nu ku˩binu gaːɸuraki ʃiːbeːn˥ton s˩saiffiːri](板切れを探してきて家の壁のがら空きしているところを塞いでくれ)。

˥イツァバキ **[˥ʔitsabaki]** 【名】板挽 (いたびき)。「板分け」の義。製材所のない島では、家造りの際、板を作るための特別作業を依頼した。庭先に X 型に組んだ両方の支柱に台木を渡して足場を組み、それに墨縄の打たれた加工材を掛け、一人は加工材の上に乗り、一人は地上に立って一つの鋸を挽き、板を製材した。非常に体力の要る作業で特別に依頼される作業であった。ム˩カシ˥ヌ　˩ヤースク˥レー　˥イツァバキン　カ˩ニテー˥ラ　プ˩スバ˥　ヤトゥイ　タ˩ナミ˥ル　シ˩ミタ˥ダー [mu˩kaʃi˥nu ˩jaːsu̥ku˥reː ˥ʔitsabakiŋ ka˩niteː˥ra pu̥˩suba˥ jatui ta˩nami˥ru ʃi˩mita˥daː](昔の家造りは板引きの作業も予てより人を雇い頼んで板挽き作業をさせたものだよ)。

イ˩ツァ˥ビ [ʔi˩tsa˥bi] 【名】(植) 和名、ケイヌビワ。ク

ワ科植物。野生の植物で、イチジクに似た小さな果実をつける。東村のフ˞クン˥ドー [ɸu̥˞kun˥do:](福堂) あたりの藪の中や、ユ˞ナ˥デー [ju˞na˥de:](与那田家) の畑の藪の中に自生していた。旧暦 7 月 13 日～15 日の˞ソー˥ラン [˞so:˥raŋ](お盆 < 精霊会 >) にム˞ルムル [mu˞rumuru] に入れて供えたものである。イ˞ツァビ˥ヌ　˥ナルン　ム˞ルムル˥ナー　イ˞ルタン [ʔi˞tsabi˥nu ˥narum mu˞rumuru˥na: ʔi˞rutaŋ](イツァビの実もムルムルの中に入れた)。

イ˞ツァ˥ビラ [ʔi˞tsa˥bira] 【名】位牌。伝統的沖縄位牌に嵌め込む幅約 1、7 センチ。長さ約 10 センチの板。「板平」の義か。「板碑」の変化したものか。前面に氏名、裏面に没年月日、享年を記してある。ウ˞ヌ˥スク　˞ガン˥ゾー　˥アローッタ　プ˞スヌ˥　イ˞ツァ˥ビラ　ナ˞ロー˥リ　イ˞ナムヌ˥ダラーッツァ [ʔu˞nu˥su̥ku ˞gan˥ʤo: ˥ʔaro:tta pu̥˞sunu˥ ʔi˞tsa˥bira na˞ro:˥ri ʔi˞namunu˥dara:ttsa](あんなに元気で < 頑丈で > あられた人がイ˞ツァ˥ビラ < 位牌 > になられて全く残念なことです)。

イ˞ツァビラーマ [ʔi˞tsabira:ma] 【名】板の切れ端。イ˞ツァビラー˥マ　ア˞ツァ˥ミ　˥キー　˞モーシ [ʔi˞tsabira:˥ma ʔa˞tsa˥mi ˥ki: ˞mo:ʃi](板の切れ端を集めてきて燃やしなさい)。

˥イツァフクビ [˥ʔitsaɸu̥kubi] 【名】虹。若年層の言葉。「絹の帯」の義。古老は、˥イツフクビ [˥ʔitsuɸu̥kubi](虹)『八重山語彙』という。ナ˞チェー˥　ア˞ミフイ˥ヌ　˥アトゥナー　˥ユー　˥イツァフクビヌ　ミ˞ラリ˥タン [na˞ʧe:˥ ʔa˞miɸui˥nu ˥ʔatuna: ˥ju: ˥ʔitsaɸu̥kubinu mi˞rari˥taŋ](夏は雨降りの後にはよく虹が見られたものだ)。

イ˞ツァ˥フン [ʔi˞tsa˥ɸuŋ] 【名】板釘。板 (三分板) に打ち付ける釘。壁板に打ち付ける釘は、短い釘 (一寸釘や 7 分釘) が用いられた。イ˞ツァ˥クビナー　ウ˞トー˥ル　イシゥ˞カーマヌ　フンバル˥　イ˞ツァ˥フンティ　ア˞ゾーッ˥タ [ʔi˞tsa˥kubina: ʔu˞to:˥ru ʔisi̥˞ka:manu ɸumbaru˥ ʔi˞tsa˥ɸunti ʔa˞ʤo:t˥ta](板壁に打たれる短い釘を < ぞ > 板釘といわれた)。

イ˞ツァフン˥ツァ [ʔi˞tsaɸun˥tsa] 【名】板張りの床。「板編み板」の義か。板張りの縁。タ˞キフンツァ [tḁ˞kiɸuntsa](竹編みの床) の対義語。ナ˞チェー˥　アツァユンダ　イ˞ツァフン˥ツァナ　ク˞ルビ˥　ニ˞ビバル˥　ピ˞ラケーピラケー˥シ　ニ˞バリタ [na˞ʧe:˥ ʔatsajunda ʔi˞tsaɸun˥tsana ku˞rubi˥ ni˞bibaru˥ pi˞rake:pirake:˥ʃi ni˞barita](夏は暑いから板張りの床にごろ寝したほうが涼しく寝ることができた)。大正期頃までは、茅葺の家の床は竹でえつり状に編んで張り、その上にニ˞ブ˥ク [ni˞bu˥ku](いなばきむしろ < 稲掃筵 > を敷き、その上にさらに筵を敷いていた)。˞カー˥ラヤー　˥ナレーラル　イ˞ツァフン˥ツァー　ス˞ク˥ローレール [˞ka:ra˥ja: ˥nare:raru ʔi˞tsaɸun˥tsa: su̥˞ku˥ro:re:ru](瓦葺の家になってから < ぞ >、板床は造られたのだ)。

˥イツァヤドゥ [˥ʔitsajadu] 【名】板戸。˥イツァヤドー　シ˞ギイツァ˥シル　ス˞クラ˥リ　˞ブー [˥ʔitsajado: ʃi˞giʔitsa˥ʃiru su̥˞kura˥ri ˞bu:](板戸は杉板で作られている)。

イ˞ツァン˥パイキー [ʔi˞tsam˥paiki:] 【名】 (植) マサキ (正木。柾)。ニシキギ科の常緑低木。神事にその葉を用いる木。榊。フティマ『琉球列島植物方言集』(天野鉄夫著) とある。葉をパ˞ナン˥グミ [pa˞naŋ˥gumi](花米、神仏に供える白米) を盛る茶碗の周りに立てて飾る。庭木として各家に植栽されていた。イ˞ツァン˥パイキーヌ　ユ˞ダ˥　ブリキー　˞ザートゥク˥ヌ　˥パナ　イ˞キ˥リ [ʔi˞tsam˥paiki:nu ju˞da˥ buriki: ˞ʤa:tuku˥nu ˥pana ʔi˞ki˥ri](榊の枝を折ってきて床の間の花を活けなさい)。

イ˞ツォーン˥プス [ʔi˞tso:m˥pu̥su] 【名】糸満の人。「糸満人」の義。イ˞ツォーン˥プソー　イ˞ガメー　スンティ　ニン˥ニン　ウ˞キ˥ナーラ　パ˞トゥ˥マー　˞オーリ˥シタ [ʔi˞tso:m˥pu̥so: ʔi˞game: sunti nin˥niŋ ʔu˞ki˥na:ra pḁ˞tu˥ma: ˞ʔo:ri˥ʃi̥ta](糸満の人はイカ漁をするために毎年 < 年々 > 鳩間へ来られた)。

イッ˞カ [ʔik˞ka] 【副】少しも～。全然～。全く～。「一向に」の転訛したもの。下に打ち消しの助動詞を伴って陳述副詞の働きをする。ウ˞レー˥　イッ˞カ˥　プ˞スヌ˥　ムニ　シゥ˞カヌ [ʔu˞re:˥ ʔik˞ka˥ pu̥˞sunu˥ muni si̥˞kanu](彼は一向に < 全く > 他人の意見を < 言葉 > を聞かない)。フ˞チヌ˥　ヤムンケン　ア˞ジ˥　シゥ˞カスヌンドゥ˥　バー　ア˞ズ˥　ムネー　イッ˞カ˥　シゥ˞カヌ [ɸu̥˞ʧinu˥ jamuŋkeŋ ʔa˞ʤi˥ si̥˞kasunundu˥ ba: ʔa˞ʤu˥ mune: ʔik˞ka˥ si̥˞kanu](口すっぱく < 口が痛むほど > 言って聞かせるんだが、私の言うことは一向に聞き入れない < 聞かない >)。

イッ˞カナ˥シ [ʔik˞kana˥ʃi] 【副】どうしても。一向に。いかにしても。どんなにしても。決して。「如何に・しても」の義。後に打ち消し否定の表現を要求する一種の陳述副詞である。˥バー　イッ˞カナ˥シ　パ˞ラ˥ヌ [˥ba: ʔik˞kana˥ʃi pa˞ra˥nu](私は決して行かない)。˥バー　イッ˞カナ˥シ　サ˞ヌ [˥ba: ʔik˞kana˥ʃi

saˡnu](私は決してしない)。˥バー　イッ˩カナ˥シ　パˡラ˥ヌ [˥baː ʔikˡkanaˡʃi paˡraˡnu](私は決して行かない)。

イッ˩カナ˥シン [ʔikˡkanaˡʃiŋ] 【副】一向に。決して。絶対に。少しも。全然。どんなにしても。下に打ち消しの語を要求し、それにかかって打消しの意を強調する陳述副詞。クˡヌ˥　ッˡふァヌ˥　ピン　˩シェーラ˥　ノー˩ンティ˥　アˡザバン˥　イッ˩カナ˥シン　シゥˡカヌ [kuˡnuˡ fˡfanuˡ piŋ ˩ʃeːraˡ noːˡntiˡ ʔa ˩ʤabaŋˡ ʔikˡkanaˡʃin sʲˡkanu](この子が反抗し＜拗ね＞たら誰が何と言ってもけっして聞かない)。

˥イツキン [˥ʔitsukiŋ] 【名】絹の着物。絹織物。最高の着物。˥イツキンバ　キˡシティ˥　フˡドゥバサレー˥ル　ッˡふァ [˥ʔitsukimba kʲˡʃitiˡ ɸuˡdubasareː˥ru fˡfa](絹の着物を着て成長＜養育＞させられた子供)。

˩イッキン [˩ʔikkiŋ] 【名】一斤。竿秤で重さを量る際の一目盛りの重さ (六百グラム)。˩マー˥ソー　˩イッキン˥シ　˩ギュー˥サ　˩スー˥カヤー [˩maːˡsoː ˩ʔikkiŋ˥ʃi ˩gjuː˥sa ˩suː˥kajaː](塩＜真塩＞は一斤でいくらするかなあ)。˥クビシ　˥サタ　˩イッキン　ブカランツァン　カーラン˥カヤー [˥kubiʃi ˥sata ˩ʔikkimbukarantsaŋ kaːraŋ˥kajaː](これで砂糖一斤ぐらいだけでも買えないかねえ)。

˥イツククル [˥ʔitsukuˡkuru] 【名】絹のように美しい心。立派な精神。優しい心。˥イツククル　˥マンククルバ　ムˡティ˥ル　シˡキン˥マー　バˡタル˥ダー [˥ʔitsukuˡkuru ˥maŋkuˡkuruba muˡti˥ru ʃiˡkim˥maː baˡtaru˥daː](絹のような、繭のような美しい、優しい心で世間を渡るものだよ)。˥イツククル　マンククルは強意の繰り返し表現。

˥イツクトゥバ [˥ʔitsukuˡtuba] 【名】絹のような美しいことば。昔から伝えられてきた含蓄のある言葉。ムˡカ˥シェーラヌ　˥イツクトゥバー　ムˡドゥカサラン˥ダー [muˡka˥ʃeːranu ˥ʔitsukuˡtuba: muˡdukasara˥nu](昔から伝えられた含蓄のある美しい言葉には背くことが出来ない)。˥イツクトゥバ　クˡガニクトゥバ [˥ʔitsukuˡtuba kuˡganikuˡtuba](絹のような美しい言葉、黄金のような価値のある言葉) のように用いられる。

˩イッ˥クゥン [˩ʔikˡkwaŋ] 【名】一缶。石油の入ったドラム缶一本。種油の入ったブリキ缶一個。タˡニ˥ユー　˩イッ˥クゥン　˩カイ˥クー [taˡni˥juː ˩ʔikˡkwaŋ ˩kai˥kuː](種油一缶買って来い)。

イッˡケナ [ʔikˡkena] 【副】非常に。甚だ。形容詞や動詞にかかって状態や動作の程度をあらわす。˩ワー　テー˥ナイ　˩シーフィーッタ˥　クˡトゥバ˥ル　˥アッパー　イッˡケナ˥　サˡニヤ　ソーッ˥タ [˩waː teː˥nai ˩ʃiːfiːtta˥ kuˡtuba˥ru ˥ʔappaː ʔikˡkena˥ saˡnija soːt˥ta](君が手伝いしてくれたことをお祖母さんは非常に喜ばれた＜嬉しくなさった＞)。

˩イッケン [˩ʔikkeŋ] 【名】一間。木造建築の柱と柱の間。六尺。1,818 メートル。標準語からの借用語。パˡトゥマ˥ヌ　ウˡブヤー˥ヤ　˩ヨンケンハン˥ナ　サンゲンˡハンヌ　ヤー˥ル　˩ゴー˥ラータ [paˡtuma ˥nu ʔuˡbujaː˥ja ˩joŋkeŋhan˥na saŋgeŋˡhannu jaː˥ru ˩goː˥raːta](鳩間島の母屋は四間半に三間半の家が多かった)。

イッˡケン [ʔikˡkeŋ] 【副】¹非常に。大変。形容詞や動詞を修飾する。老年層は、イッˡケナ [ʔikˡkena](非常に) という。イッˡケン　マイ˥ヤン [ʔikˡkem mai ˥jaŋ](非常に大きい)。イッˡケン˥　タˡカー˥ン [ʔikˡken˥ taˡkaː˥ŋ](非常に高い)。ウˡヌ˥　プˡソー˥　イッˡケン˥　ミサン [ʔuˡnuˡ puˡsoː˥ ʔikˡkem˥ misaŋ](その人は非常に性格が良い＜良い人だ＞)。イッˡケン˥　パˡタラクン [ʔikˡkem˥ paˡtarakuŋ](よく働く)。²状態性体言 (形容動詞の語幹) を修飾する。クˡレー˥　イッˡケン　ジョー˥トゥ [kuˡreː ʔikˡken ʤoː˥tu](これは非常に上等だ＜非常に良い＞)。

イッˡサイ [ʔisˡsai] 【副】一切。全然。全く。石垣方言からの借用語か。下に打ち消しの語や肯定判断の語を要求して陳述副詞の機能をもつ。˥アイブ　マˡチガイ˥グトー　イッˡサイ＜ˡピッ˥チン＞　ナーン˥シェン [˥ʔaibu maˡʧigai˥guto: ʔisˡsai ＜pitˡʧi˥n＞ naːŋ˥ʃeŋ](そんな間違いごとは全く＜一つも＞なかった)。˩ワンマー　ジン˥ヌ　˩ソーヤ˥　イッˡサイ˥＜ノー˩ン˥＞　シˡムンバ　ソー˥　スˡナ [˩wamma: ʤin˥nu ˩soːja˥ ʔisˡsai˥ ＜noːˡŋ˥＞ ʃiˡmumba soː˥ suˡna](君にはお金の心配は一切＜何も＞させないから、心配するな)。

イッˡサイカッサイ [ʔisˡsaikassai] 【名・副】一切。総て。何もかも。一切合切(イッサイガッサイ)。イッˡサイカッサイヌ˥　シˡグトー˥　ドゥーシ　サˡバル˥　ナル [ʔisˡsaikas-sainu˥ ʃiˡguto:˥ duːʃi saˡbaru˥ naru](一切の仕事は自分でしないといけない)。˥ドゥー　˩タンガ˥シ　イッˡサイカッサイ　サン˥カー　ナˡラ˥ヌ [˥duː ˩taŋga ˥ʃi ʔisˡsaikassai saŋ˥kaː naˡra˥nu](自分一人で総てをしないとならない)。

˩イッ˥サク [˩ʔis˥saku] 【名】一尺。クˡヌ˥　パˡラー˥ヤ　˩マー　イッサ˥クブカラ　ナˡガミ˥リ [kuˡnuˡ pa

˞raː˺ja ˞maː ʔissa˺kubukara na˞gami˺ri](この柱はもう一尺ぐらい長めにしなさい)。

˞イッ˺サク [˞ʔis˺saku] 【名】一勺。一合の十分の一。実生活上では一勺を計量できる枡は無く、五勺は一合枡を利用し、それを斜めに傾けて対角線に計量していた。豊年祭に各家庭から十五歳以上の人数分拠出されるグ˞サーク˺マイ [gu˞saːku˺mai](五勺花米) は一合枡を使って計量していた。˞イッサ˺クティ ˞スー˺ ナ˞カ˺ムロー ˞ナーン˺ユンダ イ˞チンゴーナカ˺ムル カ˞トンカ˺シティ グ˞サークマイ˺ヤー パ˞カ˺ローッタ [˞ʔissa˺kuti ˞suː˺ na˞ka˺ muroː ˞naːn˺junda ʔi˞ʧiŋgoːnaka˺muru ka˞toŋka˺ʃi gu˞saːkumai˺jaː pa˞ka˺roːtta](一勺という枡は無いから一合枡を斜めに傾かせて五勺米は計量された < 計られた >)。

˞イッ˺シン [˞ʔiʃ˞ʃiŋ] 【名・副】一心。気持ち。専心。心で。気持ちで。標準語からの借用語。ッ˞ふァバウイヌ ガッ˺コー ン˞ザ˺スンティ ˞スー イッ˺シンシル ˞アウ˺リ ˺ナンギーン シ˞タ˺ダー [f˞faba ʔuinu gak˺koː ʔn˞ʤa˺sunti ˞suː ʔiʃ˞ʃiŋʃiru ˞ʔau˺ri ˺naŋgiːŋ ʃi˞ta˺daː](子供を上の学校に出そうという気持ち < 一心 > で難儀苦労 < 哀れ難儀 > もしたのだよ)。

˺イッシングリン [˺ʔiʃʃiŋguriŋ] 【名】一銭五厘。ム˞カシ˺ヌ ˞ピータイ˺ヤー ˺イッシングリンシ ˞サンガリ パッ˺タツォー [mu˞kaʃi˺nu ˞piːtai˺jaː ˺ʔiʃʃiŋguriŋʃi ˞saŋgari pat˺tatsoː](昔の兵隊は一千五厘 < はがき > で引張られ < 徴兵され > て行ったそうだ)。

˺イッシンミー [˺ʔiʃʃimmiː] 【名】一銭硬貨。「一銭目」の義。˺イッシンミーヌ ˞ナーン˺ティ ナ˞ク˺ バスン ˞アッ˺タン˞ダー [˺ʔiʃʃimmiːnu ˞naːn˺ti na˞ku˺ basuŋ ˞ʔat˺tan˞daː](一銭硬貨がないといって泣くこともあったよ)。

˞イッ˺ス [˞ʔis˺su] 【名】一升。容量の単位。˞イッス˺サー [˞ʔissu˺saː](一升枡)。˞イッス˺ガイ [˞ʔissu˺gai](一升買い)。˞イッス˺タキ [˞ʔissu˺ta̤ki](一升炊き釜)。˞イッス˺クビン [˞ʔissu˺kubiŋ](一升瓶)。フ˞ター˺ル˺シム˞チマイ イッ˺ス ˺ッサイティ ム˞チ˺ ス˞ク˺ラ˞ディー [ɸu̥˞taːru˺ʃi mu˞ʧimai ʔis˺su ˺ssaiti mu˞ʧi˺ su̥˞ku˺ra˞diː](二人で糯米を一升搗き精げて餅を作ろうよ)。

˞イッ˺スー [˞ʔis˺suː] 【名】一艘。一隻。˺フネー ˞イッ˺スーンツァン ミ˞ララ˺ヌ [˺ɸuneː ˞ʔis˺suːntsam mi˞rara˺nu](舟は一艘すらも < さえも > 見えない < 見られない >)。

˞イッス˺ガイ [˞ʔissu˺gai] 【名】一升買い。˞ヤーニンズー˺ヌ ˞ゴー˺ラユンダ ˞イッス˺ガイ ˞サン˺カータ˞ラーサラヌ [˞jaːninʤuː˺nu ˞goː˺rajunda ˞ʔissu˺gai ˞saŋ˺kaː ta˞raːsaranu](家族の人数が多いので一升買いしないと足りない < 足らされない >)。

˞イッス˺クビン [˞ʔissu˺kubiŋ] 【名】一升瓶。ぞんざいな表現では˞イッス˺ビン [˞ʔissu˺biŋ](一升瓶) ともいう。˞パイ˺ター [˞pai˺taː](南端。西表島北部の鳩間島の水田地帯) へ行く時や、イ˞ガメー [ʔi˞gameː](烏賊釣り漁) に出る際には、˞イッス˺クビン [˞ʔissu˺kubiŋ](一升瓶) に飲料水を詰めて、二本ほど持参した。西表島では、ナ˞マ˺ミジ ˺ヌムカー ˞プーキ˺ カ˞カ˺ルン [na˞ma˺miʤi ˺numukaː ˞puːki˺ ka̤˞ka˺ruŋ](生水を飲むと風気 < マラリア > に罹る) といわれていたからである。バ˞カーン˺ケンマー ˞イッス˺クビン ダ˞キティル˺ サ˞キバ˺ ヌ˞モーッ˺タツォー [ba˞kaːŋ˺kemmaː ˞ʔissu˺kubin da˞kitiru˺ sa̤˞kiba˺ nu˞moːt˺tatsoː](若かった頃は一升瓶を抱いてが < ぞ > 酒を飲まれたそうだ)。

˞イッス˺サー [˞ʔissu˺saː] 【名】一升枡。˞イッス˺サーシ ˞マイ˺ パ˞カ˺リ ˞カーシ˺バ [˞ʔissu˺saːʃi ˞mai˺ pa̤˞ka˺ri ˞kaːʃi˺ba](一升枡で米を計って売りなさい)。

˞イッス˺タキ [˞ʔissu˺ta̤ki] 【名】一升炊きの釜。米一升を炊くことの出来る釜。˞イッスタキ˺ヌ ˞ピッ˺チン バ˞カシタンティン˺ プ˞ス˺キブンドゥ ˺アル [˞ʔissuta̤ki˺nu ˞pit˺ʧim ba˞kaʃi̥tantim˺ pu̥˞su ˺kibundu ˺ʔaru](一升炊き釜のいっぱい炊いても一食 < ひとけ > 分しかない < 一食分ぞある >)。

˞イッ˺スン [˞ʔis˺suŋ] 【名】一寸。標準語からの借用語。老年層は普通、プ˞ス˺ブシ [pu̥˞su˺buʃi](一節 < ひとふし >) という。中指の一節の長さを基準にして、プ˞ス˺ブシ [pu̥˞su˺buʃi](一寸)、フ˞タブシ [ɸu̥˞tabuʃi](二寸)、˞ミーブシ [˞miːbuʃi](三寸) のように測った。/クルマー ミブシヌ フサビシドゥ シンリヌ ミチン ハイミグル ピトゥヤ ミブシヌ シタシドゥ グフドゥヤ フイシティ デンサー/(車は三寸の楔で千里の道も走りまわる。人は三寸の舌先で五体を食い殺すものだ、デンサー) 「デンサー節」と歌われている。若年層は、˞ワー˺ラシン˞トゥ イッスン˺ドゥ ピ˞サー [˞waː˺ra ʃin ˞tu ʔissun˺du pi̥˞saː](君よりたった一寸しか低くない < たった一寸ぞ低い >) のようにいう。

˞イッソー˺パリ [˞ʔissoː˺pari] 【名】一目散に走ること。

ˈアッˀタニ　アˈミˀヌ　ˈフーˀター　ˈイッソーˀパリ　ˈシー　ヤー　パッˀタ [ˈʔatˀtani ʔaˈmiˀnu ˈɸuːˀtaː ˈʔissoːˀpari ˈʃiː jaː patˀta](急に雨が降ったので、一目散に走って家に帰った＜行った＞)。

ˈイッソーˀラ [ˈʔissoːˀra] 【副】片っ端から。総て。手当たり次第に。すっかり。ˈタンガˀシ　ウˈビˀヌ　パˈタキˀヌ　ガˈヤーˀバ　ˈイッソーˀラ　ˀスリ　シˈテーンˀツォー [ˈtaŋgaˀʃi ʔuˈbiˀnu pḁˈtakiˀnu gaˈjaːˀba ˈʔissoːˀra ˀsuri ʃi̥ˈteːnˀtsoː](一人であれだけの畑の茅を片っ端から刈り払って＜刈りすてて＞しまったそうだ)。ˀウリクー　イˈゾー　イッソーˀラ　ˀアンシ　ガˈラˀシ　スˈクイˀ　トゥリ [ˈʔurikuː ʔiˈʤoː ʔissoːˀra ˀʔaŋʃi gaˈraˀʃi su̥ˈkuiˀ turi](＜干瀬から＞下りてくる魚は総て網で引っ掛けて掬い取れ)。

ˈイッˀタン [ˈʔitˀtaŋ] 【名】1一反。布帛(フハク)の大きさを表す単位。普通、並幅で 2 丈 8 尺。ˀバサヌーヌ　ˈイッˀタン　ウˈリティˀ　バサキン　プˈスッˀクビ　ˈサーソーッˀタ [ˀbasanuːu ˈʔitˀtaŋ ʔuˈritiˀ basakim pu̥ˈsukˀkubi ˈsaːsoːtˀta](芭蕉布を一反織って、芭蕉布の着物を一着新調された)。2一反。土地の面積を表す単位。300 坪。ˀター　ˈイッˀタンラ　ˈマイヤˀ　ナンビュー　トゥˈラリˀワ [ˀtaː ˈʔitˀtanra ˈmaijaːˀ nambjuː tuˈrariˀwa](田圃一反から米は何表収穫できる＜取れる＞か)。

ˈイッˀタン [ˈʔitˀtaŋ] 【副】いったん (一旦)。ひとたび。標準語からの借用語。普通は、プˈスムˀシ [pu̥ˈsumuˀʃi](一度) のように用いる。ˈイッˀタン　フˈチェーˀラ　ンˈザˀシェーラ　マˈタトーˀ　フˈクマラˀヌ [ˈʔitˀtaŋ ɸu̥ˈʧeːˀra ʔnˈʤaˀʃeːra maˈtatoːˀ ɸu̥ˈkumaraˀnu](一旦口から出したら二度と口の中に戻せない＜くくめない＞)。

ˈイッチー [ˈʔittʃiː] 【名】(数)。一対。二個で一組となるものを数える語。ˈカンˀビン　ˈイッチー [ˈkamˀbiŋ ˈʔittʃiː](燗壜一対)。ˀクビン　ˈイッチー [ˀkubiŋ ˈʔittʃiː](瓶一対)。サˈカシキ　イッチー [sḁˈkaʃi̥ki ʔittʃiː](杯一対)。ˈニンガイˀヌ　ˀグシパナー　ˈカンˀビン　ˈイッチーˀナ　サˈカシキ　イッチートゥˀ　イˈチンゴーˀパナ　ウˈビˀル　スˈコール [ˈniŋgaiˀnu ˀguʃipanaː ˈkamˀbiŋ ˈʔittʃiːˀna sḁˈkaʃiki ʔittʃiːtuˀ ʔiˈʧiŋgoːˀpana ʔuˈbiˀru su̥ˈkoːru](祈願用供物の神酒や花米は、燗壜一対の神酒に杯一対と一合花米、これだけを＜ぞ＞準備なさる)。

ˈイッˀチョー [ˈʔitˀʧoː] 【名】(動) 魚の名。和名、ホホジロザメ (体長約 9 メートルに達するものもいるという)。人食い鮫として恐れられている。ˈイッチョーˀヤ　プˈスッふァイサバˀティ　アˈザリ　ブタ [ˈʔittʃoːˀja pu̥ˈsuffaisabaˀti ʔaˈʤari buta](ホホジロザメは人食い鮫と言われていた)。

ˈイッチョーˀラ [ˈʔittʃoːˀra] 【名】一張羅。標準語からの借用語。一枚しかない大事な着物。ˈキューˀヤ　ˀマーッふァヌ　ˀニービキヨイ　ヤˈリバ　イッチョーˀラ　ンˈザˀシ　キˈシˀ　パˈラリˀル [ˈkjuːˀja ˀmaːffanu ˀniːbikijoi jaˈriba ʔittʃoːˀra ʔnˈʤaˀʃi ki̥ˈʃiˀ paˈrariˀru](今日は孫の結婚祝いだから、一枚しかない一張羅を出して着て行こう＜行かれる＞と思う)。

イッˈチン [ʔitˈʧiŋ] 【副】いつも。常に。如何なる時も。イˈチン [ʔiˈʧiŋ](いつも。常に) の強調表現。ˀバー　ˀクーピンマー　ˈワーˀ　イッˈチン　ヤーˀナ　ブˈラーンワーˈヌー [ˀbaː ˀkuː ˀpimmaː ˈwaːˀ ʔitˈʧiŋ jaːˀna buˈraːŋwaːˈnuː](私が来る時は、君はいつも家にいないではないか)。

イッˈチン [ʔitˈʧiŋ] 【副】一番。最も。イッˈチンˀパˈジメー　タールˀ　パˈルˀワ [ʔitˈʧimˀ paˈʤimeː taːruˀ paˈruˀwa](一番最初に誰が行くか)。ワˈターˀ　シˈリˀナー　ˈターンドゥˀ　イッˈチンˀ　タˈカーˀワ [waˈtaːˀ ʃiˈriˀnaː ˈtaːnduˀ ʔitˈʧin tḁˈkaːˀwa](君達の仲間＜同輩、連れ＞の内で誰が＜ぞ＞一番高いか)。ˈタールˀ　イッˈチン　カイˀヤワ (アˈバˀレーワ)[ˈtaːruˀ ʔitˈʧiŋ kaiˀjawa(ʔaˈbaˀreːwa＜美しい。あはれ＞)](誰が一番美しいか。＜老年層の言葉＞か)。

ˈイットーッˀふァー [ˈʔittoːfˀfaː] 【名】お利口さん。良い子。可愛い子。素晴らしい子。ウˈヌˀ　ッˈふァーˀ　イッˈケナ　イットーッˀふァˈダー [ʔuˈnuˀ fˈfaːˀ ʔikˈkena ʔittoːfˀfaˈdaː](その子は非常に良い子だよ)。

ˈイッˀトゥ [ˈʔitˀtu] 【名】一斗。容量の単位。10 升。ムˈチマイ　イッˀトゥ　ッˈサーバˀル　ˈプールˀムチェー　タˈラーサリル [muˈʧimai ʔitˀtu sˈsaːbaˀru ˈpuːruˀmutʃeː taˈraːsariru](糯米を一斗ほど精米しないと豊年祭の餅は足りない＜精げばぞ豊年祭の餅は足らされる＞)。サˈキ　イッˀトゥ　ˀタルン [sḁˈki ʔitˀtu ˀtaruŋ](酒を一斗醸造する)。

ˈイットゥー [ˈʔittuː] 【名】一統。一族。ˈウンˀネヌ　ˈイットゥーˀナー　スˈグリムヌンドゥ　ゴーˀラーティˈダー [ˈʔunˀnenu ˈʔittuːˀnaː suˈgurimunundu goːˀraːtiˈdaː](その家の一族には優れ者が多いそうだ＜多いとのことだ＞)。

ˈイットゥˀカミ [ˈʔittuˀkami] 【名】一斗入りの甕。味

噌や醤油などの貯蔵用の甕 (容器)。各家庭に数個用意されていた。˞イットゥ˜カミナ　˞ミー˜ス　イ˞リティ˜　タ˞ブイ˜　シケー [˞ʔittu˜kamina ˞miː˜su ʔi˞riti˜ ta˞bui˜ ʃi̥keː](一斗入りの甕に味噌を入れて蓄えてある)。

˞イッ˜トゥキ [˞ʔit˜tuki] 【名】一時。しばらく。暫時。˞イットゥ˜キ　˜マティ　˞ベー˜リ　ダン˞ティ　ギー˜　タ˞ク˜　トゥリキー　バ˞カシ˜　ッ˞ふァーサト ナー [˞ʔittu˜ki ˜mati ˞beː˜ri dan˞ti giː˜ tą̊˞ku˜ turikiː ba˞kaʃi˜ f˞faːsaɺ-naː](しばらく待っていなさい。さっと行って蛸を獲って来て煮て < 炊いて > あげようねえ)。

˞イットゥキ˜ヌ　˞パンシ [˞ʔittuki˜nu ˞paŋʃi] 【連】一時しのぎ。「一時のはずし」の義。˜ウビシェー　˜ウカー　パ˞ラーラ˜ヌ　˞イットゥキ˜ヌ　˞パンシル˜ナル [˜ʔubiʃeː ˜ʔukaː pa˞raːra˜nu ˞ʔittuki˜nu ˞panʃiru˜ naru](それだけでは借金は払えない。一時しのぎにしかならない < 一時しのぎぞなる >)。

イ˞ツ˜ヌ　˜ウイ [ʔi˞tsu˜nu ˜ʔui] 【連】絹布の上のように凪いだ海上。波風の立たない穏やかな海上の比喩表現。一路平安を祈願する際の祈願文。イ˞ツ˜ヌ　˞ウイラ˜　カ˞リユ˜シ　マ˞ラシ　オー˜リ [ʔi˞tsu˜nu ˞ʔuira˜ ka˞riju˜ʃi ma˞raʃi ʔoː˜ri](絹布の上のような穏やかな海上から航海安全の幸運 < 果報 > を生み出して航海して < 御出で > 下さい)。

イ˞ツ˜ヌ　˜キシ [ʔi˞tsu˜nu ˜kiʃi] 【連】「絹布の切れ」の義。平民の女性が士族の男性との間に生んだ子供をいう。離島僻地では役人が赴任してくると村吟味のすえ、賄い女性を出したという。その女性と役人の間に出来た子供をイ˞ツ˜ヌ　˜キシ [ʔi˞tsu˜nu ˜ki̥ʃi] といい、誇りとされていた。その子の命名に際しては、男の子は父親の名乗り頭の一字を貰った。プ˞ソー　バン˜ヨー　˞グン˜ボーティ　ア˞ゾーッタ˜ヌ　ブ˞ネーヌ˜　アボー　˞バー˜ネー　イ˞ツ˜ヌ　˜キシティル　ア˞ゾーッ˜タ [pu̥˞soː baŋ˜joː ˞gum˜boːti ʔa˞ʤoːtta˜nu bu˞neːnu˜ ʔaboː ˞baː˜neː ʔi˞tsu˜nuki̥ʃitiru ʔa˞ʤoːt˜ta](他人は私を˞グン˜ボーと言われたが、母親であるお母さんは私にはイ˞ツ˜ヌキシとが < ぞ > 言われた)。

˞イッ˜パー [˞ʔip˜paː] 【名】子供の遊具。˞ティッ˜パー [˞tip˜paː] ともいう。直径約 1、5 センチ、長さ約 10 センチの棒切れの頭部を斜めに切ったもの、または五分板の角を利用した対辺の短い三角板 (˞イッ˜パー、ティッパー) を地面に据え、約 30 センチの太鼓の撥状の棒でティッパーの頭部をチョコント打って跳ね上げ、それを撥状の棒で打って更に遠くへ飛ばして飛距離を競う遊び。飛来して来る˞イッ˜パーを守っている子供が受け取るとアウト。打者交替となる。クリーンヒットを打った場合は打者は陣地 (ベース) から˞イッパーの落下地点までの距離を、撥状の打棒を物差しにして、尺取虫のように測定し、得点とする遊び。ヤ˞ラ˜ビ　˞シェーン˜ケンマー　˜ユー　˞イッ˜パー　˞シー˜　ア˞サブタン [ja˞ra˜bi ˞ʃeːŋ˜kemmaː ˜juː ˞ʔip˜paː ˞ʃiː˜ ʔa˞sabutaŋ](子供のころは < 子供していた時は >、よく˞イッ˜パーをして遊んだよ)。

˞イッ˜パイ [˞ʔip˜pai] 【副】沢山。一杯。多量にあるさま。標準語からの借用語か。古老は、˜ミツンケン [˜mitsuŋkeŋ](満ちるほど) という。˜ヌーンクイン˞イッ˜パイ < タカー˞ニン˜ >　˜アン [˜nuːŋkuiŋ ˞ʔip˜pai < takaː˞niŋ˜ > ˜ʔaŋ](何もかも沢山ある)。˞イー˜ヤ　˞イッ˜パイ　ッ˞ふァイ˜バ [˞ʔiː˜ja ˞ʔip˜pai f˞fai˜ ba](ご飯は沢山 < 一杯 > 食べなさいよ)。

˜イツバタ [˜ʔitsubata] 【名】 1絹のような美しい心。「絹腹」の義。ブ˞バー˜マー　イッ˞ケナ˜　キ˞ムカイ˜ヤー　ア˞ロー˜レーティ　˜イツバタティ　ア˞ザリオーッ˜タ [bu˞baː˜maː ʔik˞kena˜ ki˞mukai˜jaː ʔa˞roː˜reːti ˜ʔitsubatati ʔa˞ʤariʔoːt˜ta](叔母は非常に優しい心の持ち主でいらっしゃった < 心が美しくあられた > ので、絹のような美しい心と皆からいわれておられた)。2優れた子を産む立派な母親の腹。安産をする母体。˜イツバタ　ヤ˞ルンダ˜　ギュ˞タール˜　ナ˞サ˜バン　ヤ˞シーヤシー˜シドゥ　ッ˞ふァー˜　ナス [˜ʔitsubata ja˞runda˜ gju˞taːru˜ na˞sa˜baŋ ja˞ʃiːjaʃiː˜ʃidu f˞faː˜ nasu](安産する母体 < 絹腹 > だから何人子供を生もうとも簡単に < やすやすと > 子供を生む)。

˜イツピピル [˜ʔitsupipiru] 【名】絹縄。アーパーレー歌謡に歌われている、絹で綯った縄。茅葺屋根の甍を引き締める最強の縄とされている。˜ピピル [˜pipiru] は「ひひる」(蛾の呼称。蚕蛾˞蛾、比比流 (ひひる)『和名抄』) の転訛したもの。/˞ヤー　˜イツピピルバ　シ˞ミ˜ナー　˞シー　ヤー˜バ　ス˞ク˜リ　˜アンティ　˞スー/(ああ、絹縄を締め縄にして甍を引き締めて家を造ってあるという)『あーぱれー節、第 13 連　ハヤミク』。

˞イッ˜ピュー [˞ʔip˜pjuː] 【名】一俵。˞マイダーラ　イッ˜ピュー　カ˞タ˜ミ　˜パリバ [˞maidaːra ʔip˜pjuː ką̊˞ta˜mi ˜pariba](米俵一俵担いで行きなさい)。

˞イッピンリョー˜リ [˞ʔippinrjoː˜ri] 【名】一品料理。

一品だけの料理。標準語からの借用語。戦後、婦人会が生活改善のために、各自一品だけの料理を持ち寄って親睦会や祝賀会をもようした。˞イッピンリョー˜リシ　˞ケイロー˜カイ　˞シー　オーサ˜ナー [˞ʔippinrjoː˜riʃi ˞keiroː˜kai ˞ʃiː ʔoːsa˜naː](一品料理で敬老会をして差し上げましょうね)。

˜イツフクダー [˜ʔitsuɸu̥kudaː] 【名】襤褸(ボロ)でも絹になる。「絹の襤褸」の義。襤褸のような古着でも綺麗に繕えば絹のような立派な着物になるの意。˜イツフクダーティ　ア˞ザリブー˜　ッ˞ふ˜キン　ヤ˞リバ˜ティ　˞シー˜　シ˞ティルナ˜ヨー [˜ʔitsuɸu̥kudaːti ʔa˞ʤaribuː˜ f˞fu˜kiɲ ja˞riba˜ti ˞ʃiː˜ ʃi̥˞tiruna˜joː](「絹の襤褸」と言われている古着だからといって決して＜して＞捨てるなよ)。

˜イツフクビ [˜ʔitsuɸu̥kubi] 【名】にじ (虹)。「絹の帯」の転訛したもの。イトゥフクビ [ʔituɸu̥kubi](虹)、˞ノーギ [noːgi](虹)『八重山語彙』ともいう。ム˞カ˜シプソー　˜イツフクビバ　˜イトゥフクビティル　ア˞ゾー˜レーバン˞ナー [mu˞ka˜ʃipu̥soː ˜ʔitsuɸu̥kubiba ˜ituɸu̥kubitiru ʔa˞ʤoː˜reːban˞naː](昔の人はイツフクビ＜虹＞をイトゥフクビ＜虹＞と言われたんですねえ)。

˞イップン˜ギー [˞ʔippuŋ˜giː] 【名】一本の材木を取ることの出来る真直ぐな木。ナ˞カ˜バラー [na˞ka˜baraː](中柱、大黒柱) を取ることの出来る真直ぐな大木。「一本木」の義。ク˞ヌ　イップン˜ギーシェー＜プ˞スム˜トーラー＞　ナ˞カ˜バラー　トゥ˞ラ˜リン [ku˞nu ʔippuŋ˜giːʃe ＜pu˞sumu˜toːraː＞ na˞ka˜baraː tu˞ra˜riŋ](この一本木の真直ぐな大木では大黒柱＜中柱＞が取れる)。

˞イップン˜マチ [˞ʔippum˜matʃi] 【名】一本松。˜インダヌ　˞シーヌウチヌ˜　ガ˞マン˜　トンナー　˞イップンマチ˜ヌ　˜ムイ　˞ベー˜ン [˜ʔindanu ˞ʃiːnuʔutʃinu ˜ ga˞man˜ tonnaː ˞ʔippummatʃi˜nu ˜mui ˞beː˜ŋ](伊武田の垣の内の洞窟の所に一本松が生えている)。

˞イッ˜ポー [˞ʔip˜poː] 【名】一方。片方。反対側。カ˞タ˜トン、カ˞タン˜トンとも言う。˞ター˜ヤ　˞イッ˜ポーラ　イ˞ビパラバ˜ル　˞タンカー˜　トゥ˞ラ˜リ [˞taː˜ja ˞ʔip˜poːra ʔi˞biparaba˜ru ˞taŋkaː˜ tu˞ra˜ri](稲＜田＞は一方から植えて行ってこそ＜植えて行けばぞ＞真直ぐに植えることが出来る＜直線をとることができる＞)。˞イッポー˜ヤ　˜ミサンティ　ア˞ズヌ　イッポー˜ヤ　ナ˞ラン˜ティル　ア˞ズ˜ツォー [˞ʔippoː˜ja ＜ka˞tan˜tommaː＞ ˜misanti ʔa˞ʤunu ʔippoː˜ja ＜ka˞tan˜tommaː＞ na˞ran˜tiru ʔa˞ʤu˜tsoː](一方はよろしいと言うが、また一方はだめだ＜ならぬ＞とが＜ぞ＞いうんだそうだ)。˞イッポー˜ヌ　˜ムニ　カー˞ニ˜　ス˞ク˜カー　カ˞タ˜ピキ　ナ˞リ˜ス [˞ʔippoː˜nu ˜muni kaː˞ni˜ su̥˞ku˜kaː kḁ˞ta˜piki na˞ri˜su](一方の意見＜言葉＞だけ聞くとひいき＜贔屓＞になってしまう)。

˞イッポー˜ギー [˞ʔippoː˜giː] 【名】頑固者。一徹者。一途に思い込む気質の人。「一本気」の転訛したもの。ク˞ヌ　プ˞ソー　イッポー˜ギ　ヤ˞ルンダター˜　ノーン˞ティ˜　ア˞ザバン˜　プ˞スヌ˜　ムネー　シゥ˞カヌ [ku˞nu˜ pu̥˞soː ʔippoː˜gi ja˞runda taː˜ noːn˞ti˜ ʔa˞ʤaban˜ pu̥˞sunu˜ muneː si̥˞kanu](この人は一途に思い込む頑固者だから誰が何と忠告＜言おうとも＞しても他人の言うこと＜言葉＞を聞き入れない)。

˜イトゥ [˜ʔitu] 【名】糸。縫い糸。˜ムミンイトゥ [˜mumin?itu](木綿糸)。パ˞ル˜ヌ　˜ミーナ　˜イトゥヌ˞キ˜　ッ˞ふィーリ [pa˞ru˜nu ˜miːna ˜ʔitu nu˞ki˜ f˞fiːri](針の目に糸を通して＜貫いて＞くれ)。

イ˞トゥ˜カキ [ʔi˞tu˜kaki] 【名】綾取り。「糸掛け」の義。糸を左右の手首や指に掛けて操作し、箒の形や梯子の形など、その他いろいろな形を作って互いに掛けた糸をやり取りする子供の遊び。イ˞トゥ˜カケー　˞ゴー˜ラー　ミ˞ドーン˜ッふァンドゥ　˞シー˜　ア˞サブタ˜ナー [ʔi˞tu˜kḁkeː ˞goː˜raː mi˞doːn˜ ffandu ˞ʃiː˜ ʔa˞sabuta˜naː](綾取りは多くは女の子がして遊んだねえ)。

イ˞トゥ˜シジ [ʔi˞tu˜ʃiʤi] 【名】糸筋。イ˞トゥシジ˜ヌ　ム˞ツァー˜リ　キ˞シラン˜ヨーニ　˞ヌー˜ル　ッ˞ふァーシ˜バ [ʔi˞tuʃiʤi˜nu mu˞tsaː˜ri ki̥˞ʃiraŋ˜joːni ˞nuː˜ru f˞faːʃi˜ba](糸筋が縺れて切れないように糊を付け＜喰わせ＞なさい)。

イ˞トゥ˜ヌ　シ˞ビ˜　トゥ˞ズミルン [ʔi˞tu˜nu ʃi˞bi˜ tu ˞ʤumiruŋ] 【成】「糸の尻を始末する」の義。糸の止めをむすぶ。縫い糸のはしに糸が抜けないように糸止めの小さな結び目をつくる。イ˞トゥ˜ヌ　シ˞ベー˜　トゥ˞ズ˜ミ　シケーンナー˞レー [ʔi˞tu˜nu ʃi˞beː˜ tu˞ʤu˜mi ˜ʃi̥keːnnaː˞reː](糸の尻は糸止めの結び目を作ってある＜糸止めの始末をしてある＞だろうな)。

イ˞トゥ˜バサー [ʔi˞tu˜basaː] 【名】 (植) イトバショウ (糸芭蕉)。石垣方言からの借用語。普通はタ˞カ˜バサ [tḁ˞ka˜basa](高芭蕉) という。単に˜バサ [˜basa](芭蕉) ともいう。芭蕉布を織るための繊維を採る芭蕉。果実をつけない。専用の˜バサパタキ [

˥basapḁtaki](芭蕉畑) もあった。イ˩トゥ˥バサーティ　˩スー˥　ムネー　イ˩サナキムニ˧ナー [ʔiˬtu˥basaːti ˩suː˥ muneː ʔiˬsanakimuni˧naː](糸芭蕉という言葉は石垣言葉だね、そうでしょう?)。

イ˩トゥ˥マ [ʔiˬtu˥ma] 【名】1休暇。ニ˩チ˥ヌ　˥ンジティル　˩ガッ˥コーラ　イ˩トゥ˥マ　˩イー˥リ　˩カイ˥リ˩クー˥タ [niˬtʃi˥nu ˥ʔndʒitiru ˩gak˥koːra ʔiˬtu˥ma ˩ʔiː˥ri ˩kai˥ri ˩kuː˥ta](熱が出たので　学校から休みをもらって帰ってきた)。2辞職。ヤ˩ク˥バナ　シ˩トゥ˥ミ　˩ベータヌン˥ドゥ　イ˩トゥ˥マ　˥トゥリケーティバン [ja˩ku˥bana ʃi̥ˬtu˥mi ˩beːtanun˥du ʔiˬtu˥ma ˥turikeːtibaŋ](役場に勤めていたが辞職してきたそうだよ)。3離別。歌謡語で˩イトゥマグイ　トゥムティ [˩ʔitumagui tumuti](お別れ < 暇乞い > と思って) のように歌われている。

イ˩トゥマ˥グイ [ʔiˬtumagui] 【名】暇乞い。離別。休暇願い。(歌謡語)˩シンシン˥ナーニ　イ˩トゥマ˥グイ　˩シーティル　カイ˥リ　クー˩ダー [˩ʃiŋʃin˥naːni ʔiˬtuma˥gui ˩ʃiːtiru kai˥ri ˥kuː˩daː](先生に休暇をもらって < 暇乞いして > から帰ってくるんだよ)。

イ˩トゥ˥マ　シ˩ミルン [ʔiˬtu˥ma ʃiˬmiruŋ] 【連】休ませる。暇をあたえる。˥アツァー　˩ソッコー˥ヌ　アリ˩ベー˥ティ　イ˩トゥ˥マ　シ˩ミ˥　ッ˩ふォー˥リ [˥ʔatsaː ˩sokkoː˥nu ʔariˬbeː˥ti ʔiˬtu˥ma ʃiˬmi˥ ˩fˬfoː˥ri](明日は法事 < 焼香 > がありますので休ませてください)。

イ˩ナカ [ʔiˬnaka] 【名】田舎。ウ˩ヌ　プソー　バン˥ヨー　イ˩ナカムヌ˥ティ　ウ˩サイン˥　ウ˩ムイナ˥シン　˩ソーラン˥シェン [ʔuˬnu pu̥soː baɲ˥joː ʔi˩nakamunu˥ti ʔuˬsaiŋ˥ ʔuˬmuina˥ʃin ˩soːraŋ˥ʃeŋ](その人は私を田舎者といって馬鹿にもしないし、ひどい扱いをすることもなさらなかった)。

イ˩ナカー [ʔiˬnakaː] 【名】田舎者。˩バン˥ター　メー　イ˩ナカー˥　ヤ˩ルンダ˥　シ˩キン˥ヌ　˥クトーノー˩ン˥　ッ˩サヌ [˩ban˥taː meː ʔiˬnakaː˥ ja˩runda˥ ʃi̥ˬkin˥nu ˥ku̥toː noː˩n˥ sˬsanu](私達は < 聞き手を含まない > もう、田舎者だから世間のことは何も知らない)。

イ˩ナカプス [ʔiˬnakapu̥su] 【名】田舎者。田舎人。イ˩ナカプス˥ティ　˥ドゥク　ウ˩サウナ˥ヨー [ʔiˬnakapu̥su˥ti ˥duku ʔuˬsauna˥joː](田舎者といって、あまり馬鹿にするなよ)。

イ˩ナカムニ [ʔiˬnakamuni] 【名】田舎言葉。「田舎物言い」の義。˥ムニ [˥muni](言葉) は、「賢しみと物言従者 < モノイフヨリハ >〜。万、341」の転訛したものか。パ˩トゥ˥マムネー　イ˩ナカムニ˥　ヤ˩ルヌ　メークムニ˥　シ˩キル˥カー　イ˩ナカナマレー　イシゥカー˥ル　˥アル [pḁˬtu˥mamuneː ʔiˬnakamuni˥ ja˩runu meːkumuni˥ ʃi̥ˬkiru˥ka: ʔiˬnakanamareː ʔisi̥ˬka: ˥ru ˥ʔaru](鳩間方言 < 言葉 > は田舎言葉であるが、宮古方言 < 言葉 > と比較すると田舎なまりは少ない)。

イ˩ナカムヌ [ʔiˬnakamunu] 【名】田舎者。田舎育ち。イ˩ナカムヌ˥　ヤ˩ルンダ˥　トゥ˩カイ˥ナー　ミ˩ジラ˥サ　˥ムヌ　カー˩ニル˥　アル [ʔiˬnakamunu˥ ja˩runda˥ tu̥ˬkai˥naː miˬdʒira˥sa ˥munu kaːˬniru˥ ʔaru](田舎者だから、都会には珍しいものだけがある)。

イ˩ナ˥シキ [ʔiˬna˥ʃi̥ˬki] 【名】杵。たて杵。「稲搗き」の義。「蠡斯虫、以禰豆木古万呂 (いねつきこまろ)」『和名抄』の「以禰豆木」が転訛したものか。直径約 10 センチ、長さ約 1 メートルの木の幹を、中央部を削って握りやすくした杵。祝儀や法事があると、女たちは庭の木陰で臼を 2 台並べて、二人一組で稲搗きをした。精米する量が多い時は、˩アイダ˥チ [˩ʔaida˥tʃi](木槌状の大きな杵。横杵。大工用の大木槌よりも円錐形に近く、柄を付ける位置も円錐形の頭部に近い) で搗くことが多かった。˩マイヤー˥　シ˩キ˥ウシナ　イ˩リティ˥　イ˩ナ˥シキシル　ッ˩サウ˥タ [ˬmaijaː˥ ʃi̥ˬki˥ʔuʃina ʔiˬriti˥ ʔiˬna˥ʃi̥ˬkiʃiru ˥sˬsau˥ta](米は搗き臼に入れて杵で搗いた < 精げた >)。

イ˩ナシキ˥ドゥル [ʔiˬnaʃi̥ˬki˥duru] 【名】複数の人が一つの臼で交互に米を搗くこと。「稲搗き < 杵 > 取り」の義。多くの米や餅が必用な祝儀や不祝儀の前には親戚の女性達が二人一組、三人一組で米搗きをした。二人一組の場合はトントンと響き、三人一組の場合は、トントントンと三拍子に響いた。臼の下にはニ˩ブ˥ク [niˬbu˥ku](稲掃きむしろ。稲藁で編んだカーペット状の敷物) を敷いて飛散する米粒を拾った。イ˩ナシキ˥ドゥル　˩シー　マイ˥　ッサウン [ʔiˬnaʃi̥ˬki˥duru ˩ʃiː mai˥ ssauŋ](複数の人が対面して米を搗く)。

イ˩ナ˥ピ [ʔiˬna˥pi] 【名】粉米 (こごめ)。砕け米。米を搗く際にできる砕けたこめ。イ˩ナ˥ペー　プ˩サイティ˥　トゥ˩ルン˥　ッ˩ふァーシ˥バ [ʔiˬna˥peː pu̥ˬsaiti˥ tuˬrun˥ ˩fˬfaːʃi](粉米は拾って鶏の餌にしなさい < 鶏に喰わせなさい >)。

イ˩ナ˥ピニ [ʔiˬna˥pini] 【名】芒。のげ。稲の実の外殻にある針のような毛。「稲髭 (いなひげ)」の義。˩ザ

イレーマイ˥ヤ　イ˞ナピニ˥ヌ　ナ˞ガー˥ティ　˞マイカリ　シティ˥　カ˞タ˥ミクー　ピンマー　ッ˞サ˥リティ　˞パシゥコー˥タン [˞ʤaire:mai˥ja ʔi˞napini˥nu na˞ga:˥ti ˞maikari ʃiti˥ ka˞ta˥miku: pimma: s˞sa˥riti ˞pasi̥ko:˥taŋ](在来種の米 < 黒米 > は芒が長いので稲刈りして担いで来る時は芒に刺されて肌が痒かった < はしかしかった。「苛」、ハシカシ『類聚名義抄』> た)。˞ザイ˥レー [˞ʤai˥re:](在来種の黒米) を精米する際は、先ず稲こきをし、芒のついた籾を臼に入れて搗き、芒を落として碾き臼にかけ、籾殻を取り除いた。その後に搗き臼に入れ杵で搗いて精白 < 精米 > した。

イ˞ナムヌ [ʔi˞namunu] 【名】残念。悔しいこと。ウ˞ブ˥タク　トゥ˞リピンガ˥シティ　イ˞ナムヌ　シーオーッ˥タ [ʔu˞bu˥tḁku tu˞ripiŋga˥ʃi̥ti ʔi˞namunu ʃi: ʔot˥ta](大蛸を取り逃がして残念がって < 残念して > おられた)。

イ˞ナムヌカナ˥ムヌ [ʔi˞namunukana˥munu] 【名】非常に残念なこと。「残念もの・愛 < かな > もの」の義か。残念を強調した表現。ABCDEFCD 型の重言。「愛し」には、< 大切なものを慈しむ、非常に惜しむ > の意味をもつ。˞マー˥バ　イ˞ク˥サナシ˞ナシティル˥　イ˞ナムヌ　カナ˥ムヌ　˞シーオー˥ル [˞ma:˥ba ʔi˞ku˥sana ʃi˞naʃi̥tiru˥ ʔi˞namunu kana˥munu ʃi:o:˥ru](孫を戦争で死なせて非常に残念がっておられる)。

イ˞ナムヌ˥　キ˞ムイ˥ツァー [ʔi˞namunu˥ ki˞mui˥tsa:] 【連】残念で、気の毒だ。可哀相だ。不憫で同情に耐えない。ヌーティヌーティー˞ー˥　ウ˞ビ˥ナ　ッ˞ふァバ˥　ナシ　フ˞ドゥバシ˥　シケームンバ　ブ˞トゥン˥　シ˞ティラリ˥　シ˞タ˥ー˞ー˥　イ˞ナムヌ˥　キ˞ムイ˥ツァー [nu:tinu:ti:˞:˥ ʔu˞bi˥na: f˞faba˥naʃi ɸu˞dubaʃi˥ ʃi̥ke:mumba bu˞tuŋ˥ ʃi̥˞tirari˥ ʃi̥˞ta˥:˞:˥ ʔi˞namunu˥ ki˞mui˥tsa:](なんて何だって? あれだけ子供を産み育ててあるものを。夫に捨てられたとなあ?< 承服できない >。残念で、不憫なことよ)。

イ˞ナヨー [ʔi˞najo:] 【名】 (植) サツマイモの品種名。「非常に美味しいので他人に言うなよ」ということからその名称が付けられたという。イ˞ナヨー˥ティ　ア˞ズ　ウン˥マー　イッ˞ケナ˥　ン˞マー˥タン [ʔi˞najo:˥ti ʔa˞ʤu ʔum˥ma: ʔik˞kena˥ ʔm˞ma:˥taŋ](イナヨーという品種のサツマイモは非常においしかった)。

˥イナヨー [˥ʔinajo:] 【名】 (植) サツマイモの品種名。あまりにも美味しかったので「他人に言うなよ」と言ったことからの命名という。沖縄方言から転訛したもの。プ˞ス˥クロー <˞イットゥ˥ケー >　ウ˞ヌス˥ク　˥イナヨーティ　˞スー　ウン˥バ　ス˞ク˥リ　ブ˞タンドゥ˥　イ˞チヌ˥　マ˞ドゥ˥ル　˞ナーンナッ˥タユー　マ˞ナ˥マー　˞ナー˥ヌ [pu̥˞su˥kuro: < ˞ʔittu˥ke: > ʔu˞nusu̥˥ku ˥ʔinajo:ti ˞su: ʔum˥ba su̥˞ku˥ri bu˞tandu˥ ʔi˞ʧinu˥ ma˞du˥ru ˞na:nnat˥taju: ma˞na˥ma: ˞na:˥nu](一時期はあれほどイナヨーという芋を作っていたがいつの間に無くなったのか、今は無い)。

˥イニ [ʔini] 【名】稲。普通は˞マイ [˞mai](米) という。˥イニ [ʔini](稲) は歌謡の中に歌われているイ˞ニガ˥タニ　˥アヨー [ʔi˞niga˥tani ˥ʔajo:](稲の種のアヨー)、イ˞ニシリ˥ブシ [ʔi˞niʃiri˥buʃi](稲擂り節) などは固有名詞として定着しているが、日常生活語としては、イ˞ナ˥シキ [ʔi˞na˥ʃi̥ki](杵。「稲搗き」の義)、イ˞ニ˥ッサイ [ʔi˞ni˥ssai](稲搗き。「稲精げ」の義) などがある。˞マイカリ [˞maikari](稲刈り)、˞マイイビ [˞mai?ibi](田植え)、˞マイ˥ッサイ [˞mai˥ssai](米搗き < 米精げ >) など、˞マイ [˞mai](米) を多く用いる。

イ˞ニ˥カリ [ʔi˞ni˥kari] 【名】稲刈り。普通は˞マイカリ [˞maikari](稲刈り) という。˞ワッ˥テヌ　イ˞ニ˥カレー　イ˞チ˥ヤ [˞wat˥tenu ʔi˞ni˥kare: ʔi˞ʧi˥ja](お宅の < 貴方の家の > 稲刈りは何時ですか)。

イ˞ニ˥ッサイ [ʔi˞ni˥ssai] 【名】稲搗き。搗き臼に米を入れて、杵で搗いて精げること。˞マイ˥ッサイ [˞mai˥ssai](米搗き) ともいう。昭和 30 年代ごろまでは、各家庭において搗き臼を用いて精米していた。ム˞カ˥シェー　˞ヤーカー˥ジ　˞ドゥー˥ヌ　ッ˞ふァイ˥フチェー　˥ドゥーシル　イ˞ニ˥ッサイ　˞ソーッ˥タ [mu˞ka˥ʃe: ˞ja:ka:˥ʤi ˞du:˥nu f˞fai˥ɸu̥ʧe: ˥du:ʃiru ʔi˞ni˥ssai ˞so:t˥ta](昔は家ごとに自分の食い分 < 食扶持 > は自分で精米 < 稲搗き > されたものだ)。

イ˞ニ˥ピキ [ʔi˞ni˥pi̥ki] 【名】米摺り。籾摺り。「稲挽き」の義。籾を摺臼にかけて籾殻を除去し玄米にすること。ピ˞キウシ [pi̥˞ki?uʃi](籾摺り臼。˞碾き臼」の義) の上臼を回転させ、台臼との間で籾を摺り合わせて籾殻を除去した。昭和 40 年頃までは島で籾摺りをしていたが、その後は石垣島の精米所に送るようになった。イ˞ニ˥ピキ　˞テー˥ナイ　˞シー˥ヨー [ʔi˞ni˥pi̥ki ˞te:˥nai ˞ʃi:˥jo:](籾摺りの手伝いをしなさいよ)。

イ˞ニマジ˥ミ [ʔi˞nimaʤi˥mi] 【名】いなむら (稲叢)。刈り取った稲を日干にして稲藁のまま積み上げた

もの。イ˞ニマジ˜ン [ʔi˞nimaʤi˜ŋ] ともいう。「稲真積 (いねまづみ)」の義。˞マイヤ˜　カ˞ル˜カー　˜ティダナ　˜プシティ　˞ター˜ヌ　˜アザナー　イ˞ニマジ˜ミ　シ˞ティル　ダッコッ˜キシ　˞アーソーッ˜タ [˞maija˜ ka˞ru˜ka: ˜tidana ˜pu̥ʃiti ˞ta:˜nu ˜ʔaʤana: ʔi˞nimaʤi˜mi ʃi̥˞tiru dakkok˜kiʃi ˞ʔa:so:t˜ta](稲は刈りたら日に干して田の畦に稲真積みして < ぞ > 脱穀機で脱穀された)。マ˞ジ˜ムン [ma˞ʤi˜muŋ](積み重ねる。真積む)。

˞イニンビー [˞ʔinimbi:] 【名】「遺念火」の義。成仏できないで、さ迷っている霊が火の玉となって飛びあるくといわれている。˜シチ [˜ʃi̥tʃi](節祭り) の時、夜になると中岡 < なかもり > の西の墓地一帯からイニンビー (遺念火) が飛ばないか、確認しに行ったものである。イニンビーが飛ぶか否かによって、法事などの不足による成仏できない先祖の有無を判断した。˞タッ˜テヌ　パ˞カー˜ラ　˜イニンビーヌ　ア˞ガルター [˞tat˜tenu pḁ˞ka:˜ra ˜ʔinimbi:nu ʔa˞garuta:](何処の家の墓から遺念火が飛んだ < 上がった > のか) などと情報を交換しあった。

イ˞ヌ˜チ [ʔi˞nu˜ʧi] 【名】命。石垣方言からの借用語か。普通は˜ヌチ [˜nuʧi](命) という。イ˞ヌ˜チ <˜ヌチ>　ア˞タラサ　シー˜ヨー [ʔi˞nu˜ʧi <˜nuʧi> ʔa˞tarasa ʃi:˜jo:](命を大切 < 可愛がる。慈しむ。惜しむようにする > にしなさい)。

˜イノー [˜ʔino:] 【名】珊瑚礁の内海。礁内湖。干瀬の内側の浅い海。˜イノー [˜ʔino:] は島人にとって海の畑、または牧場である。必要なタンパク源の魚介類を必要なときに採取して食することができた。˜スーミツァールナーヤ　˜イダフネーラ　˜イノー　シ˞キマーシ　シェー˜ティ　˜タクン　イ˞ズン˜　ギラン　˜トゥリ　˞キー˜シタ [˜su:mitsa:runa:-ja: ˜ʔidaɸune:ra ˜ʔino: ʃi̥˞kima:ʃi ʃe:˜ti ˜ta̧kuŋ ʔi˞ʤuŋ ˜giran ˜turi ˞ki:˜ʃi̥ta](満潮時 < 潮満ち上がり > にはサバニ < 板舟 > から珊瑚礁の内海を突っつきまわして蛸も魚もシャコ貝も獲ってきたよ)。

˜イノーカジ [˜ʔino:kaʤi] 【名】竜巻。「エイの尾」の義か。竜巻をエイの尾が空中から垂れ下がっている形にみたてた命名という説『石垣方言辞典』。えい (鱏) は˜カマンタ [˜kamanta] というから、˜イノー (礁内湖)・カジ (風)[˜ʔi˞no:-kaʤi](礁内湖で海水を巻き上げて走る風。竜巻) の義とも解される。島の前の海上や後ろの海上で、よく竜巻の発生することが見られ、それを恐れてサバニが吸い込まれないよう用心していた。˜イノーカジヌ　˜フケーラ　ノー˞ンシェー˜ル　˜ムヌーン　トゥ˞バシ˜　パ˞リ˜スティ˞ダー [˜ʔino:kaʤinu ˜ɸuke:ra no:˞ŋʃe:˜ru ˜munu:n tu˞baʃi˜ pa˞ri˜suti˞da:](竜巻が吹くとどんなものでも飛ばしていくそうだよ)。

イ˞ノン [ʔi˞noŋ] 【名】砂。パ˞トゥマ˜ヌ　˜マンタヌ　パ˞マヌ˜　イ˞ノンマー˜　イッ˞ケン　カイ˜ヤタン [pa̧˞tuma˜nu ˜mantanu pa˞manu˜ ʔi˞nomma:˜ ʔik˞keŋ kai˜jataŋ](鳩間島の前の浜の砂は非常に美しか < 綺麗だ > った)。ヤ˞ラヌ˜　パ˞マ˜ヌ　イ˞ノン˜ナー　プ˞シ˜ヌ　カ˞タヌ˜　マ˞ザー˜リ　˞ブン˜ダー [ja˞ranu˜ pa˞ma˜nu ʔi˞non˜na: pu̥˞ʃi˜nu ka̧˞tanu˜ ma˞ʤa:˜ri ˞bun˜da:](屋良の浜の砂には星型が混ざっているよ)。

イ˞ノンジー [ʔi˞nonʤi:] 【名】砂地。砂の多い土地。イ˞ノンジーパタキ˜ナー　ピ˞ルトゥ　ダイ˜クネー　イッ˞ケナ　ミールン˜ツォー [ʔi˞nonʤi:pataki˜na: pi˞rutu dai˜kune: ʔik˞kena mi:run˜tso:](砂地の畑には大蒜と大根がよく稔るそうだ)。

イ˞ノンハクビ [ʔi˞noŋhakubi] 【名】砂運び。ヤ˞ラ˜ビ　˞シェーン˜ケンマー　˜ソンガチヌ　˜クーカー　パ˞マー˜ラ　イ˞ノンバ˜　カ˞タ˜ミ　˜キー　ミ˞ナ˜カナー　ス˞クタン˜ダー [ja˞ra˜bi ˞ʃe:ŋ˜kemma: ˜soŋgatʃinu ku:ka: pa˞ma:˜ra ʔi˞nomba˜ ka˞ta˜mi ˜ki: mi˞na˜kana: su̥˞kutan˜da:](子供のころは正月が来ると浜から砂を担いできて庭に敷いたものだよ)。

イ˞バイ [ʔi˞bai] 【名】(植) 和名、おひしば。チカラグサ (力草)。繁殖力の強い雑草。根は強く抜き難い。イ˞バイムトゥ [ʔi˞baimutu] ともいう。イ˞バイムトー˜　ピ˞キヌイ　グリ˜サン [ʔi˞baimuto:˜ pi̥˞kinui guri˜saŋ](チカラグサは引き抜きづらい)。

イ˞バイムトゥ [ʔi˞baimutu] 【名】(植) 草の名。おひしばの株。チカラグサ (力草) の株。繁殖力の強い雑草。強力な根を張り、容易に引き抜けない。強力な繁殖力と根の強さに肖って稲が順調に生育することを祈願する祭に神の依代として用いられる。/ユシキダキニヨー　イバイムトゥムトゥイクヨー　サカイクヨー　ケラマイヨー/(ススキのように栄えてこいよ。力草のように繁茂してこいよ、素晴らしい稲よ)˞種取アヨー。ナカヌピーヌ　アヨー」。

イ˞バ˜チ [ʔi˞ba˜ʧi] 【名】「飯初」の義。タ˞ナ˜ドゥル [ta˞na˜duru](種取祭) の時に作る円錐形のにぎり飯。自家の神仏に供え、親類にも三個ずつ配った。タ˞ナドゥル˜ヌ　˜ピンマー　イ˞バ˜チ　ス˞コーリティカンヌマイ˜トゥ　ウ˞ヤプス˜ヌマイ　シ˞キオーシティ˜　ウ˞トゥザマリン˜ヤーン　˞パイヨーシタン

[ta˩naduru˥nu ˥pimma: ʔi˩ba˥ʧi su˩ko:riti kannumai ˥tu ʔu˩japusu˥numai ʃi̥˩kiʔo:ʃi̥ti˥ ʔu˩tuʤamari:ɲ˥ja:m ˩paijo:ʃi̥taŋ](種取祭の時には飯初をこしらえて＜準備して＞神様の前と先祖の前に供えて差し上げ、親戚の家にも配って差し上げられた)。

イ˩バラー [ʔi˩bara:] 【名】威張り屋。高慢な者。よく威張る者。ウ˩ヌ　ッふァー˥　イ˩バラー˥　ナリティ　プ˩スヨー˥　プ˩ス˥ティン　ウ˩モー˥ヌ [ʔu˩nu ffa: ˥ ʔi˩bara:˥ nariti pu̥˩sujo:˥ pu̥˩su˥tiŋ ʔu˩mo:˥nu](あの子は威張り屋になって人を歯牙にもかけない＜人を人とも思わない＞。人を無視する)。

イ˩バルン [ʔi˩baruŋ] 【自動】威張る。自慢する。ウ˩ブウヤキ˥　シ˩ティ˥　イ˩バリティ˥　プ˩スヌ˥　ムニ　˩ナー˥ト　シゥ˩カヌ [ʔu˩buʔujaki˥ ʃi̥˩ti˥ ʔi˩bariti ˥ pu̥˩sunu˥ muni ˩na:˥to si̥˩kanu](大金持ちになって他人の言うことなど聞かない)。ウ˩ヤ˥キプソー　イ˩バルンドゥ˥　ウ˩レー˥　イ˩バラヌ [ʔu˩ja˥kipu̥-so: ʔi˩barundu˥ ʔu˩re:˥ ʔi˩baranu](金持ちは威張るが、彼は威張らない)。ウ˩リヌ˥　イ˩バル˥カー　˩バン˥ヌン　イ˩バリゲ˥ラ [ʔu˩rinu˥ ʔi˩baru˥ka: ˩ban ˥nuŋ ʔi˩barige˥ra](彼が威張るなら私も威張るさ)。イ˩バレー˥　ミサムヌ [ʔi˩bare:˥ misamunu](威張れば良いのに)。˩ワンヌン　マー˥ビン　イ˩バリ˥バ [˩wannum ma:˥biŋ˥ ʔi˩bari˥ba](君ももっと威張れよ)。

イ˩ビ [ʔi˩bi] 【名】(動) エビ (海老)。伊勢海老。イ˩ベー˥　タ˩ク˥ヌティーシ　ウ˩バーセー˥ティ　˥ヤナーラ　ン˩ザシ˥タ˩ダー [ʔi˩be:˥ tḁ˩ku˥nu ˥ti:ʃi ʔu˩ba:ʃe: ˥ti janaːra ʔn˩ʤaʃi̥˥ta˩da:](海老は蛸の手で威しながら＜驚かせて＞巣の岩穴から追い出したものだ)。

イ˩ビー [ʔi˩bi:] 【感】おやまあ。あきれるとき。なんとまあ。意外だと思う時、驚いたり、疑問のある時に発する古老ことば。イ˩ビー˥　シ˩ントゥ˥　ウ˩ビー˥ル　ア˩ルー [ʔi˩bi:˥ ʃin˩tu˥ ʔu˩bi˥ru ʔa˩ru:](あれっ、まあ、たったこれだけしかない＜これだけぞ　ある＞の?)。イ˩ビー˥　ヌーヤ　ウ˩レー [ʔi˩bi: ˥ nu:ja ʔu˩re:](おや、まあ、何だね、それは)。イ˩ビー˥　ヌーッツァ　˩ムン˥ドゥ　˥カイブ　シ˩グトゥバ　シー˥　シケーワ [ʔi˩bi:˥ nu:ttsa ˩mun˥du ˥kaibu ʃi˩gutuba ʃi:˥ ʃi̥ke:wa](なんとまあ、一体どこのどいつがこんな無様な仕事をしておいてあるのか)。

イ˩ヒーアハー [ʔi˩çi:ʔaha:] 【感】口を大きく開けて笑うさま。楽しく笑いながら生活するさま。˥ヌチジュー　イ˩ヒーアハー　シェー˥ティ　ク˩ラシ˥　プサワ˩ナー [˥nutʃiʤu: ʔi˩çi:ʔaha: ʃe:˥ti ku˩raʃi˥ pu̥sawa˩na:](一生＜命の限り＞楽しく笑いながら暮らしたいものだねえ)。

イ˩ヒアハー [ʔi˩çiʔaha:] 【感】笑うさま。いひひあはは。˩ウン˥ネヌ　プ˩ソー　ニンズー˥　イ˩ヒアハー　シェー˥ティル　ク˩ラシ　ブー [˩ʔun˥nenu pu̥˩so: ninʤu:˥ ʔi˩çiʔaha: ʃe:˥tiru ku˩raʃi bu:](あの家の人は、年中イヒヒアハハと笑いながら暮らしている)。

イ˩ビ˥ツ [ʔi˩bi˥tsu] 【名】おひつ (御櫃)。めしびつ。おはち。「飯・櫃＜～櫃に鏁さし～。万、3816＞」の転訛したものか。鳩間島で、日常的にお櫃を使う家はほとんどなかった。宿屋に指定された家で、役場の人や旅人が宿泊する際に使用していた。パ˩トゥ˥マプソー　イ˩ビ˥ツォー　シゥ˩カイ　ヨーラン˥シェン [pḁ˩tu˥mapu̥so: ʔi˩bi˥tso: si̥˩kaijo:raŋ˥seŋ](鳩間の人はお櫃は使われなかった)。

イ˩ヒヒ [ʔi˩çiçi] 【名】いひひ (笑う様子)。擬音語。イ˩ヒヒ˥　ア˩ハハ˥ティ　˩シェー˥ティ　˩ヤーニン˥ズ　ウ˩ムッ˥サンギサシ　ム˩ヌパナ˥シ　˩シーオー˥ル [ʔi˩çiçi˥ ʔa˩haha˥ti ˩ʃe:˥ti ˩ja:nin˥ʤu ʔu˩mus˥ saŋgisaʃi mu˩nupana˥ʃi ˩ʃi:ʔo:˥ru](イヒヒ、アハハと笑いながら＜しながら＞家族が楽しそうに＜面白そうに＞語り合って＜もの話して＞おられる)。

イ˩ビ˥ブリ [ʔi˩bi˥buri] 【名】指折り数えること。「指を折り」の義。ウ˩キ˥ナーラヌ　プ˩ソー˥　イ˩チル˥　クーカヤーティ　イ˩ビ˥ブリ　˩シー˥　マティ　˩ベー [ʔu˩ki˥na:ranu pu̥˩so:˥ ʔi˩ʧiru˥ ku:kaja:ti ʔi˩bi˥ bri ˩ʃi:˥ mati ˩be:](沖縄からの人は何時＜ぞ＞来るかと指折りして待っている)。

イ˩ビ˥ラ [ʔi˩bi˥ra] 【名】木製の大型杓文字。「飯箆」の義。形状は櫂に似ており、長さ約 60 センチ、幅約 4 センチの飯箆。柄の部分を両手で握り、鍋で煮た芋を捏ねて˩ウンヌ˥イー [˩ʔunnu˥ʔi:](芋ご飯。ウムニー)、˩ウンヌダー˥キ [˩ʔunnuda:˥ki](芋ご飯) にするのに用いる炊飯用具。鍋や釜の側面に打ち付けるようにして捏ねる。˩ウンヌ˥イー [˩ʔunnu˥i:](芋の飯) を炊くとき、煮た芋を潰して捏ね混ぜ、ダンゴ状に握って、˥ユナキヌ　˩パー [˥junakinu ˩pa:](ゆうな。はまぼう＜黄槿＞の葉) で包み、˩アン˥スク [˩ʔan˥su̥ku](網籠) に入れて畑へ持参した。イ˩ビ˥ラシ　˩ウンヌ˥イー　ク˩ナシティ　ウンヌ˥イー　ス˩ブ˥リバ [ʔi˩bi˥raʃi ˩ʔunnu˥i: ku˩naʃiti ʔunnu˥i: su˩bu ˥riba](飯箆で煮た芋を捏ね混ぜて芋団子を握りなさい)。

イ˞ピ˜ル [ʔi˞pi˜ru] 【名】(動) 川海老。エビ (蝦)。小川や堰の水中に棲息している。戦争中、西表島の避難小屋で生活した頃、よく獲って食した。トゥ˞マダヌ　ター˜ヌ　˜シキナーティ　イ˞ピ˜ルン　˞カーングーン˜　ユー　トゥリ˞ミッ˜タン [tu˞madanu taː˜nu ˜ʃi̥kinaːti ʔi˞pi˜ruŋ ˞kaːŋguːn˜ juː turi˞mit˜taŋ](西表島伊武田地区のトゥ˞マダ [tu˞mada]< 泊田 > の田圃の堰で小エビや川魚も獲ってみたことがある)。

イ˞ビルン [ʔi˞biruŋ] 【他動】植える。イ˞ブン [ʔi˞buŋ](植う。他動、下二段系に対応) のラ行四段活用化したもの。˜ウン　イ˞ビルンティ˜　ア˞ミマー˜チ　˞シー　ベーン˜ケン　˞イーカコーニ˜　フイケーン [˜ʔuŋ ʔi˞birunti˜ ʔa˞mimaː˜ʧi ˞ʃiːbeːŋ˜keŋ ˞ʔiːkakoːni˜ ɸuikeːŋ](芋蔓を植えようと雨が降るのを待って < 雨待ちして > いると丁度いい具合に < 頃合良く > 雨が降ってきた)。シ˞トゥケー˜ヌ　イ˞ビララヌ [ʃi̥˞tukeː˜nu ʔi˞biraranu](畑に水分が多く、べとべとするので植えられない)。イ˞ビル˜　クトー　ナ˞リ˜シバ　イ˞ビレー˜　ミサムヌ [ʔi˞biru˜ ku̥toː na˞ri˜ʃiba ʔi˞bireː˜ misamunu](植えることは出来るから、植えれば良いのに)。˜キューズーナ　イ˞ビリ [˜kjuːʤuːna ʔi˞biri](今日中に植えろ)。

イ˞ビルン [ʔi˞biruŋ] 【他動】くべる (焼べる)。「くべる (他動) 下一段活用」に対応。薪をくべる。イ˞ブン [ʔi˞buŋ](「くべ」< 下二段 > 燃料を次々に火に入れる) ともいう。ウ˞ビ˜ナー　イ˞ビル˜カー < イ˞ブ˜カー >　˞モーヌ [ʔu˞biˀna: ʔi˞biru˜kaː <i˞bu˜kaː> moːnu](あんなに沢山くべたら燃えないよ)。ウ˞ビ˜ナー　イ˞ビランドー˜シ　ン˞メーマ˜ナー　イ˞ビリ [ʔu˞bi˜na: ʔi˞birandoː˜ʃi ʔm˞meːma˜na: ʔi˞biri](こんなに沢山くべないで、少しずつくべなさい)。タ˞ム˜ヌ　イ˞ビルンティ　スンドゥ˜　イ˞ビララヌ [ta˞mu˜nu ʔi˞birunti <i˞bunti> sundu˜ ʔi˞biraranu <i˞baranu>](薪をくべようとするが、くべられない)。ン˞メーマ˜ナー　イ˞ビレー˜　ミサムヌ [ʔm˞meːma˜na: ʔi˞bireː˜ misamunu](少しずつくべればいいのに)。

イ˞ブク˜ル [ʔi˞buku˜ru] 【名】胃袋。標準語からの借用語の転訛したもの。牛や豚の胃袋を古老は、ウ˞ブン˜ガイ [ʔu˞buŋ˜gai](牛、豚の胃袋) といった。˜フナイ　シ˞ティ˜　イ˞ブク˜ルナー　ノー˞ン˜　ヌ˞カラン˜スコー　ア˞ギ　ビーバ˜キ　˞シーベー [˜ɸunai ʃi̥˞ti˜ ʔi˞bukuˀruna: noː˞n˜ nu˞karan˜su̥koː ʔa˞gi biːba˜ki ˞ʃiːbeː](船酔いをして、胃袋に何も残らないほど嘔吐して < 揚げて。吐いて > いる)。

イ˞フナ [ʔi˞ɸuna] 【連体】変な。妙な。おかしな。正常でないことにいう。「異風な」の転訛したものか。イ˞フナ˜　ク˞トゥバ　シー˜　プ˞スバ˜　ウ˞バーシ˜　シケー [ʔi˞ɸuna˜ ku̥˞tu˜ba ˞ʃiː˜ pu̥˞suba˜ ʔu˞baːʃi˜ ʃi̥keː](変なことをして人を驚かせておいてある)。

イフ˞ナーイフナー [ʔiɸu˞naːʔiɸunaː] 【連体】異風な。非常に変な。一風変わった。正常でない。非常におかしな。ABCDABCD 型の重言。イフ˞ナーイフナーヌ˜　プ˞スヌ˜　タティ　˞ベー˜ン [ʔiɸu˞naːʔiɸunaːnu˜ pu̥˞sunu˜ tati ˞beː˜ŋ](非常に変な人が立っている)。

イ˞フナー˜ン [ʔi˞ɸunaː˜ŋ] 【形】変である。変わっている。様子がおかしい。異常である。ウ˞ヌ˜　ッ˞ふァヌ　シーヨームイ˜ヨー　˜ミルカー　ン˞メーマ˜　イ˞フナー˜ン [ʔu˞nu˜ f˞fanu ʃiːjoːmui˜joː ˜miruka: ʔm˞meːma: ʔi˞ɸunaː˜ŋ](この子の様子 < 挙措、立ち振る舞い > を見ると少し変だよ < 妙だよ。正常でないよ >)。˞シンダイ˜　イ˞フナー˜　ナリ　˞ナー˜ヌ [˞ʃindai˜ ʔi˞ɸunaː˜ nari ˞naː˜nu](次第に変になってしまった)。イ˞フナー˜　プ˞ス [ʔi˞ɸunaː˜ pu̥˞su](変な < 変である > 人)。

イ˞フ　ナプス [ʔi˞ɸuna pu̥su] 【連】変な人。妙な人。変人。イ˞フナ　プスヌ　ワーバ˜　ア˞ナ˜ミ　˜キー　˞ベー˜ダー [ʔi˞ɸuna pu̥sunu waːba˜ ʔa˞na˜mi ˜kiː ˞beː˜daː](変な人が君を訪ねて < 探し求めて > きているよ)。

イ˞フナ　ムニ [ʔi˞ɸuna muni] 【連】妙な言葉。異常な言葉。訳のわからない言葉。イ˞ファナ　ムニ [ʔi˞ɸana muni](変な言葉) ともいう。イ˞フナムニバ˜　イ˞ジ˜　プ˞スバ˜　ウ˞バースナ˧ヨー [ʔi˞ɸunamuniba˜ ʔi˞ʤi˜ pu̥˞suba˜ ʔu˞baːsuna˧joː](妙なこと < もの言い > をして、人を驚かすなよ)。イ˞フナクトゥ˜　ス˞ナ˧ヨー [ʔi˞ɸunakutu˜ su˞na˧joː](変なことをするなよ)。

イ˞ブン [ʔi˞buŋ] 【他動】植える。「植う (他動) 下二段活用に対応」が四段活用化したもの。イ˞ビルン [ʔi˞biruŋ](植える) と同じ。「人の宇々流 < ウウル > 田は宇恵麻佐受 < ウヱまさず >〜。万、3746」の転訛したもの。˞マイ˜　イ˞ブンティ　ベーン˜ドゥ　ク˞シヌ˜　ヤミティ　˞タンガ˜シェー　イ˞バラヌ [˞mai˜ ʔi˞bunti beːn˜du ku̥˞ʃinu˜ jamiti ˞taŋga˜ʃeː ʔi˞baranu](稲を植えようとしているが、腰が痛くて一人では植えられない)。イ˞ビ˜　ミサカー　˞タンガ˜シン　イ˞ブ˜　クトー　˜ナルン [ʔi˞bi˜misakaː ˞taŋga˜ʃiŋ ʔi˞bu˜ ku̥toː ˜naruŋ](植えて良ければ一人

でも植えることは出来る)。˥ドゥーシ　イ˞ベー˥　ミサムヌ [˥duːʃi ʔi˞beː˥ misamunu](自分で植えたらいいのに)。˞パー˥ク　イ˞ビ˥バ [˞paː˥ku ʔi˞bi˥ba](早く植えなさいよ)。

イ˞ブン [ʔi˞buŋ]【他動】くべる (焼べる)。薪をくべる。「くぶ (他動) 下二段活用に対応」の四段活用化したもの。˞マー˥ビン　タ˞ム˥ヌ　イ˞ビ˥バ。アン˞デー˥カー　˞バン˥ヌン　イブン [˞maː˥bin ta˞mu˥nu ʔi˞bi˥ba。ʔan˞deː˥ka ˞ban˥nuŋ ʔi˞buŋ](もっと薪をくべなさい。それなら私も薪をくべる)。タ˞ム˥ヌ　イ˞ビ˥　ミサカー　イ˞ブ˥　クトー　˥ナルン [ta˞mu˥nu ʔi˞bi˥ misakaː ʔi˞bu˥ kṵtoː ˥naruŋ](薪をくべて良ければ、くべることは出来る)。マ˞ナ˥マー　タ˞ム˥ノー　イ˞バヌ [ma˞na˥maː ta˞mu˥noː ʔi˞banu](今は、薪をくべない)。

イ˞マ˥シミ [ʔi˞ma˥ʃimi]【名】戒め。教訓。諭し。ウ˞ヤ˥ヌ　イ˞マ˥シメー　˥ユー　マ˞ム˥リ˞ヨー [ʔu˞ja˥nu ʔi˞ma˥ʃimeː ˥juː ma˞mu˥ri˞joː](親の教訓はよく守りなさいよ)。˞デンサー˥ブシ [˞densaː˥buʃi](デンサー節) に、シ˞キン˥ヌ　イマ˞シ˥ミ　デン˞サー [ʃi̥˞kin˥nu ʔima˞ʃi˥mi den˞saː](世間の教訓である。誠に) と歌われている。

イ˞マシミ˥ウタ [ʔi˞maʃimi˥ʔuta]【名】教訓歌。諭し歌。戒めの歌。˞デンサー˥ブシェー　イ˞マシミ˥ウタティ　ア˞ザリ˥　ム˞カ˥シェーラ　ウ˞リ˥シ　キ˞ナイヌ˥　ム˞ティ˥カタ　ウ˞ヤッふァ˥ヌ　˥ミチ　˞キョーダイサ˥ヌ　ミ˞チ˥バ　ナ˞ラー˥ソーッタ [˞densaː˥buʃeː ʔi˞maʃimi˥ʔutati ʔa˞ʤari˥ mu˞ka˥ʃeːra ʔu˞ri˥ʃi ki˞nainu˥ mu˞ti˥kạta ʔu˞jaffa˥nu ˥mitʃi ˞kjoːdaisa˥nu mi˞ʧi˥ba na˞raː˥soːtta](デンサ節は教訓歌といわれ、昔からそれで家庭のありかた < 家庭経営 >、親子の道、兄弟の道を教えられた)。

イ˞マシミ˥ルン [ʔi˞maʃimi˥ruŋ]【他動】戒める (下一段活用動詞) に対応。諭す。謹慎させる。注意を与える。歌謡語。「〜必ずその志、ご覧ぜられと戒め侍り」『源氏物語　竹河』の転訛したもの。イ˞マ˥シムン [ʔi˞ma˥ʃimuŋ](戒む。下二段活用動詞に対応) と同じ意味。/デンサ節チィクリ　ワラビンケニ　イザシ　世間ヌ　イマシミナルスドゥ　バンヤニガユル/(デンサ節)『八重山民謡誌』。日常会話では、ヤ˞ラ˥ビンケーバ　イ˞マシミ˥ルン [ja˞ra˥biŋkeːba ʔi˞maʃimi˥ruŋ](子供たちを戒める < 説教する >) という。イ˞マシミラ˥ヌ [ʔi˞maʃimira˥nu](戒めない < 説教しない >)。イ˞マシミ˥ル　˥クトゥ [ʔi˞maʃimi˥ru ˥kṵtu](戒めること)。イ˞マシミ˥レー　˥ミサムヌ [ʔi˞maʃimi˥reː ˥misamunu](戒めればいいのに)。イ˞マシミ˥リ [ʔi˞maʃimi˥ri](戒めろ)。

イ˞マ˥シムン [ʔi˞ma˥ʃimuŋ]【他動】戒める。説教する。諭す。「いましむ (戒む) 下二段活用」に対応する。˥アブジェー　˞デンサーブシ˥バ　イ˞ジェー˥ティル　ッ˞ふァ˥　マー　イ˞マ˥シモーッタ˞ダー [˥ʔabuʤeː ˞densaːbuʃi˥ba ʔi˞ʤeː˥tiru f˞fa˥ maː ʔi˞ma˥ʃimoːtta˞daː](お祖父さんはデンサー節を歌いながら子供や孫を戒めら < 教え諭さ > れたのだよ)。

イ˞マ˥ムヌ [ʔi˞ma˥munu]【名】鮮魚。新鮮な魚介類。新鮮な食べ物。魚介または蔬菜、果物などの、旬の食品。時季のもの。「いまもの (今物)」の義。イ˞マ˥ムヌ　ヤ˞ルンダ　サッ˥コー　ン˞マート ツォー [ʔi˞ma˥munu ja˞runda sak˥koː ʔm˞maːトtsoː](新鮮な食べ物 < 魚介類 > だから非常に美味しいんだよ)。

イ˞マ˥ユー [ʔi˞ma˥juː]【名】現代。現今。今日。「今の世」の義。多くは、当家の当主の世代のことを表す。˞ウイダイ [˞ʔuidai](ずっと上の世代。大昔)、˞ウームカシ [˞ʔuːmukaʃi](大昔)、ナ˞カ˥ユー [na˞ka˥juː](中ごろの世代。中興の世) に対する現代の意味で用いられる。ウ˞レー˥　ム˞カシ˥ヌ　˥クトー　ア˞ラ˥ヌ　イ˞マユー˥ヌ　パ˞ナ˥シ˞ダー [ʔu˞reː˥ mu˞kaʃi˥nu ˥kṵtoː ʔa˞ra˥nu ʔi˞maju˥nu pa˞na˥ʃi˞daː](それは昔のことではない。現今の < 今の時代の > 話だ)。

˥イミ [˥ʔimi]【名】忌み。喪。石垣方言からの借用語であろう。˞ムー [˞muː](喪) ともいう。˥イミ　カ˞カリ˥　プソー　プ˞スン˥ヤー　˞パン˥ナ [˥ʔimi kạ˞kari˥ pṵsoː pṵ˞suŋ˥jaː ˞pan˥na](喪中の < 忌みがかった > 人は他人の家には行くな)。

˥イミ [˥ʔimi]【名】夢。「〜心し行けば伊米尓 < イメニ > 見えけり。万、3981」の転訛したもの。ア˞サ˥イミ [ʔa˞sa˥ʔimi](朝夢。明け方にみる夢)。サ˞カイミ [sa˞kaʔimi](逆夢)。˞マーイミ [˞maːʔimi](真夢。夢に見たことが実際に起きる真実の夢)。˥アボー　イ˞ミ˥バ　˥ミリティル　シンジン˞トゥ˥　ウ˞ヤ˥ヌ　ク˞トゥ˥バ　˥ウムイ　ナ˞キベー [˥ʔaboː ʔi˞mi˥ba ˥miritiru ʃinʤin˞tu˥ ʔu˞ja˥nu ku˞tu˥ba ˥ʔumui na˞kibeː](お母さんの夢を見てしみじみと親のことを思いだして泣いている)。˥カイブ　サ˞ニ˥ヤル　˥クトゥティン　アリ˞ナー　˥イメー　ア˞ラン˥カヤー [˥kaibu sa˞ni˥jaru ˥kututiŋ ʔari˞naː ʔime: ʔa˞raŋ˥kajaː](こんなに嬉しいことってもあるものだねえ。夢ではないだろうか)。˥イメー　ノー˞ンテ

ィン˥　ミ˩リ˥スンダ　˩ソースナ˧ヨー [˥ʔime: no: ˩ntim˥ mi˩ri˥sunda ˩so:suna˧jo:](夢は如何様にも＜なんとでも＞見るものだから心配するなよ)。シ˩トゥム˥ティ　˥ミル　˥イメー　˩マーイミ˥ティ　ア˩ザリブー [ʃi̥˩tumu˥ti ˥miru ˥ʔime: ˩ma:ʔimi˥ti ʔa˩ʤaribu:](朝みる夢は正夢と言われている)。

˥イミ [˥ʔimi] 【名】使い出があること。少量の食物が炊飯によって量が増え、多く食べられること。˩ザイレーマイ˥ヤ　˥イミ　˩サンバ　ホーライ˥マイ　バ˩カシ˥バ [˩ʤaire:mai˥ja ˥ʔimi ˩samba ho:rai˥mai ba˩kaʃi˥ba](赤米＜在来米＞は使い出がないから蓬莱米を炊きなさい)。˩マイトゥ　ウン˥トゥ　マ˩ザーシ˥ティ　バ˩カス˥カー　˥イミ　˩スン [˩maitu ʔun˥tu ma˩ʤa:ʃi̥ti ba˩kasu˥ka: ˥ʔimi ˩suŋ](米と芋を混ぜて炊くと使い出がある＜より多くの人に食べられる分量が出る＞)。

イ˩ミ [ʔi˩mi] 【名】意味。訳。ウ˩ランタプス˥ヌ　ア˩ズ˥　ムネー　˥ヌーティル　ア˩ジブー˥ユー　ムシ˩トゥ˥　イ˩ミ˥クジ　ア˩ティンガーラヌ [ʔu˩rantapu̥su ˥nu ʔa˩ʤu˥ mune: ˥nu:tiru ʔa˩ʤibu:˥ju: muʃi̥˩tu˥ ʔi˩mi˥kuʤi ʔa˩tiŋga:ranu](オランダ人＜アメリカ人。欧米人＞の話す＜言う＞言葉は、なんと言っているのかちっとも意味が分からない＜意味・故事が見当つかない＞)。

イ˩ミアキ [ʔi˩miaki] 【名】忌明け。服喪明け。近親者の死の際は七七日 (四十九日) の間外出を慎むが、その喪が明けること。˥シンズコー　ウ˩チナ˥ソーレチバ　イ˩ミアキ˥　ナ˩リ˥ブ　˥メー [˥ʃinʤuko: ʔu˩ʧina˥so:re:ʧiba ʔi˩mi˥ʔaki na˩ri˥bu ˥me:](四十九日忌はお済ませになったから忌み明けになっているよ、もう)。

イ˩ミアム˥サン [ʔi˩miʔamu˥saŋ] 【形】よく悪い夢を見る。夢見がちである。「伊米＜イメ＞万、3981・疚＜ヤマ＞し」の転訛したものか。頭が痛くなるほど多く夢を見るさま。翌朝頭の重い感じがするほどよく夢を見るさま。夢を見すぎて、あれやこれやと思い悩むさま。ク˩ヌ˥グロー　˥イミン　ム˩タバ˥リティ　イ˩ミアムサ˥ヌ　ナ˩ラン˥バン　˩ニンガイブス˥クカヤー [ku˩nu˥guro: ˥ʔimim mu˩taba ˥riti ʔi˩miʔamusa˥nu na˩ram˥ban ˩niŋgaibusu˥kuka-ja:](このごろは夢に振り回されて＜弄(モテアソ)ばれて＞こまるよ＜どうにもならない＞。神仏への祈願不足だろうか)。˩グヮンスグトゥ˥ヌ　ミ˩チ˥　フ˩マンドゥ　ブー˥ユー　イ˩ミアムサ˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [˩gwan-sugutu˥nu mi˩ʧi˥ ɸu˩mandu bu:˥ju: ʔi˩miʔamusa˥nu na˩ra˥nu](先祖供養の道が正しくないのか、夢を見すぎて困る)。

イ˩ミ˥ウチ [ʔi˩mi˥ʔuʧi] 【名】服喪中。「忌み内」の義。近親者の死に際し、49 日間外出を控える期間。七七日 (四十九日忌)。ッ˩ふ˥ムー [f˩fu˥mu:](服喪、黒喪)。˩ムー˥　カ˩カリ˥ムヌ [˩mu:˥ ka˩kari˥munu](服喪中の者、喪にかかっている者) ともいう。イ˩ミウチェー˥　アイニ　ア˩サビマール　スームノー˥　ア˩ラ˥ヌ [ʔi˩miuʧe:˥ ʔaini ʔa˩sabima:ru su:muno:˥ ʔa˩ra˥nu](服喪中はあんなに遊びまわるものではない)。

イ˩ミガイ˥シ [ʔi˩migai˥ʃi] 【名】夢違え (ゆめちがえ)。悪い夢を見た時に災いを防ぐため呪いをすること。「夢返し」の義。ヤ˩ナイミバ˥　ミリティ　イ˩ミガイ˥シ　シ˩ミルンティ˥　ム˩ヌシリン˥　ヤー　˩パッ˥タ [ja˩naimiba˥ miriti ʔi˩migai˥ʃi ʃi˩mirunti˥ mu˩nuʃiriɲ˥ja: ˩pat˥ta](悪い夢を見て、夢違えをさせようと易者＜物知り＞の家に行った)。

イ˩ミカサマ˥サン [ʔi˩mikasama˥saŋ] 【形】煩わしいほど夢をみるさま。「夢・可志麻乃＜かしまし。囂し＞万、4370」の転訛したものか。鳩間島では、亡き人の存命中の頃の夢を続けて見ると、死者が何か頼みごとをしていることの兆候であるといわれている。グ˩ソーンプス˥ヌ　イ˩ミ˥　ミリ　イ˩ミカサマサ˥ヌ　˩ヌー˥ヌ　ム˩ヌシラ˥シカヤー [gu ˩so:mpusu˥nu ʔi˩mi˥ miri ʔi˩mikasamasa˥nu ˩nu:˥nu mu˩nuʃira˥ʃikaja:](死者＜後生の人＞の夢を見て、煩わしいくて堪らない。何の知らせごとかなあ)。

イ˩ミガマーラ˥サン [ʔi˩migama:ra˥saŋ] 【形】よく悲しい夢を見る。悲しい夢を見がちである。夢に弄＜モテァソ＞ばれる。˩ヌー˥ドゥ　ヤ˩ル˥ユー　ク˩ヌ˥グロー　イ˩ミガマーラサ˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [˩nu:˥du ja ˩ru˥ju: ku˩nu˥guro: ʔi˩migama:sa˥nu na˩ra˥nu](どういうわけか＜何だろうか＞、最近＜この頃＞はよく夢をみて困る＜どうにもならない＞)。

イ˩ミガマラ˥サーン [ʔi˩migamara˥sa:ŋ] 【形】夢見がちである。悪い夢をよく見る。「夢侘しい」、「夢悲しい」の義。夢を見て、過去の悲しみを想起し、家族に不幸が起きる前兆ではないかと恐れ悲しむ。ア˩マ˥ヌ　イ˩ミガマラ˥サーティ　ウ˩ヤプス˥ヌマイ　˥ティー　ウ˩サーシ˥　シケー˩ダー [ʔa˩ma˥nu ʔi˩migamara˥sa:ti ʔu˩japu̥su˥nu ˥mai ˥ti: ʔu˩sa:ʃi˥ ʃi̥ke:˩da:](あまりにも夢見がちなので仏壇に手を合わせてお祈りをしてあるんですよ)。

イ˩ミガマラ˥サン [ʔi˩migamara˥saŋ] 【形】夢見が悪

い。むやみに不吉な夢をみるさま。チ˞カ˥グロー　イ˞ミガマラサ˥ヌ　ナ˞ラ˥ヌヌ　˞ヌー˥ヌ　シ˞ラシグトゥ˥ヌ　˥アルカヤー [tʃi̥˞ka˥guro: ʔi˞migamarasa˥nu na˞ra˥nunu ˞nu:˥nu ʃi˞raʃigutunu˥ ʔarukaja:](最近は夢見ガ悪い < むやみに不吉な夢をみる > が何か先祖からの知らせごとがあるのかなあ)。

イ˞ミ˥クジ [ʔi˞mi˥kuʤi] 【名】意味。意味内容。「意味・故事」の義。ウ˞リヌ˥　ア˞ズ˥ムネー　ムッ˞トゥ˥　イ˞ミ˥クジ　ア˞ティンガーラヌ [ʔu˞rinu˥ ʔa˞ʤu˥mune: mut˞tu˥ ʔi˞mi˥kuʤi ʔa˞tiŋga:ranu](彼の言うことは、ちっとも意味 < 意味・故事 > が分からない < 見当つけられない >)。イ˞ミクジ˥ヌ　ワ˞カラン˥　ム˞ヌ˥バ　˥カキ　˥シケー [ʔi˞mikuʤi˥nu wa˞karam˥ mu˞nu˥ba ˥kq̥ki ˥ʃi̥ke:](意味内容の分らないものを書いてある)。

イ˞ミ˥サラ [ʔi˞mi˥sara] 【副】夢にも。いささかも。夢更 (ゆめさら)。下に来る打消しの語と呼応して「夢にも～ない」の意味を表す。「夢にも」を強調した表現。ウ˞ヌ˥　˥クトー　イ˞ミ˥サラーンツァン　ウ˞モーン˥シェン [ʔu˞nu˥ kʊ̥to: ʔi˞mi˥sara:ntsaŋ ʔu˞mo:ŋ˥ʃeŋ](そのことは夢にも < 夢更 > 思わなかった)。˥アイ　˞ブンティ˥　イ˞ミ˥サラーンツァン　ウ˞モーリタン˥ツォー [˥ʔai ˞bunti˥ ʔi˞mi˥sara:ntsaŋ ʔu˞mo:ritan˥tso:](あのような状態だ < あのようにいる > とは夢だにも思えたかよ)。

イ˞ミ˥サン [ʔi˞mi˥saŋ] 【形】幼い。幼少である。石垣方言からの借用語。普通はシ˞ナー˥ン [ʃi˞na:˥ŋ](幼い) という。歌謡語として用いられる。イ˞ミ˥サンケーンラヌ　ア˞サビ　ドゥシ [ʔi˞mi˥saŋke:ranu ʔa˞sabiduʃi](幼少の頃からの遊び友達)。

イ˞ミシタ˥フ [ʔi˞miʃi̥ta˥fu] 【名】喪服。「忌み支度」の義。イ˞ミシタ˥ホー　˥チニヒージーラ　ス˞コーリ˥　シゥ˞カン˥カー　ナ˞ラン˥ダー [ʔi˞miʃi̥ta˥ho: ˥tʃiniçi:ʤi:ra sʊ̥˞ko:ri˥ si̥˞kaŋ˥ka: na˞ran˥da:](喪服は常平生から準備しておかないといけないよ)。

イ˞ミシラ˥シ [ʔi˞miʃira˥ʃi] 【名】夢で仏事、神事を告げ知らせられること。「夢知らせ」の義。˞ジーヌギヌ˥　サ˞リブラーン˥ティ　˞スー˥　イ˞ミシラシ˥ヌ　˞アッ˥タ˞トゥ˥ツォー [˞ʤi:nuginu˥ sa˞ribura:n˥ti ˞su:˥ ʔi˞miʃiraʃi˥nu ˞ʔat˥ta˞tu˥tso:](死去した所の地祇に対して霊を放してもらう祈願がなされていないという夢知らせがあったそうだ)。

˥イミ　˞スン [˥ʔimi ˞suŋ] 【連】使い出がある。長く使える。長持ちする。少量で相当長く使えること意。少量でも炊飯すると量が増えて多くの人に食べさせられる等の意に用いられる。ク˞ヌ　マイヤー　ミー˥ザー　アレー˞スヌ˥　イッ˞ケナ˥　イミ　˞スン [ku˞nu maija: mi:˥ʤa: ʔare:˞sunu˥ ʔik˞kena˥ ʔimi ˞suŋ](この米は不味くはあるが < 不味くありはするが > たいへん使い出がある < 長持ちする >)。

イ˞ミ˥ディル [ʔi˞mi˥diru] 【名】握り飯や芋を捏ねて作ったお握りなどを入れる蓋の付いた小型の笊。トウズルモドキで編んだ。台所に吊るして置いたり、畑に持参したりした。˞ウンヌイー˥ヤ　イ˞ミ˥ディルナ　イ˞リティ　キー˥ヌユダナ　˥サイ　シ˞キ˥ルカー　˞シーラ˥ヌ [˞ʔunnui:˥ja ʔi˞mi˥diruna ʔi˞riti ki:nu˥judana ˥sai ʃi̥˞ki˥ruka: ˞ʃi:ra˥nu](芋のお握りはイミディルに入れて木の枝に吊るしておくと饐えない)。

イ˞ミナカ˥ラ [ʔi˞mina˥kara] 【名】半分以下。三分の一程度。少量。イ˞ミナカラー˥　ヌ˞カ˥シ　˥シキバ [ʔi˞minakara:˥ nu˞ka˥ʃi ˥ʃi̥kiba](多少は残しておきなさいよ)。イ˞ミ [ʔi˞mi] は、イ˞メーマ [ʔi˞me:ma](少し) の語幹部。

イ˞ミ˥ヌ　プ˞リムヌ [ʔi˞mi˥nu pu˞rimunu] 【連】夢は異な物 (阿呆) だ。「夢はほれもの < 耄れ者 >」の義。イ˞ミ˥ヌ　プ˞リムヌティル˥　アル　˥イメー　ノー˞ンティン˥　ミ˞リ˥スンダ　˞ソー˥　ス˞ナ [ʔi˞mi˥nu pu˞rimunutiru˥ ʔaru ˥ʔime: no:˞ntim˥ mi˞ri˥sunda ˞so:˥ su˞na](夢はほれもの < 耄れ者 > といわれている。夢は如何様にでも見るものだから心配するな)。

イ˞ミラ˥リン [ʔi˞mira˥riŋ] 【自動】ねだられる。催促される。イ˞ミ˥ルン [ʔi˞mi˥ruŋ](ねだる。催促する) の未然形に助動詞˥リン [˥riŋ](～れる。～られる。< 受身・可能 >) の付いた受身・可能の派生動詞。ヤ˞ラ˥ビン　イ˞ミラ˥リティル　˞コー˥シ　˞カイン　パッタ˥ル [ja˞ra˥biŋ ʔi˞mira˥ritiru ˞ko:˥ʃi ˞kaim patta˥ru](子供にねだられて < ぞ > 菓子を買いに行ったのだ)。

イ˞ミ˥ルン [ʔi˞mi˥runŋ] 【他動】催促する。督促する。請求する。ねだる。ヤ˞ラ˥ベー　˞コー˥シ　イ˞ミ˥ルンティ　ス˞クタヌ˥　イ˞ミラン˥シェン [ja˞ra˥be: ˞ko:˥ʃi ʔi˞mi˥runti sʊ̥˞kutanu˥ ʔi˞miraŋ˥ʃeŋ](子供は菓子をねだると思ったが、ねだらなかった)。イ˞ミ˥リ　˥ミサカー　イ˞ミ˥ル　˥クトー　˥ナルン [ʔi˞mi˥ri˥misaka: ʔi˞mi˥ru ˥kʊ̥to: ˥naruŋ](催促して良ければ催促することはできる)。˥ウカ　イ˞ミラ˥リ　˞ベー˥ヌンドゥ　˥ジン　タ˞ラーサラント˥ツォー [˥ʔuka: ʔi˞mira˥ri ˞be:˥nundu ˥ʤin ta˞ra:saran˧tso:](借金の返

済を催促されているんだが返済金が足りないんだよ＜足らされない＞)。ヤ˞ラ˥ベー　˞コー˥シ　˞カイ˥ティ　イ˞ミ˥リナー　ナ˞ラ˥ヌ [ja˞ra˥be: ˞koː˥ʃi ˞kai˥ti ʔi˞mi˥rina: na˞ra˥nu](子供は菓子を買ってくれとの催促＜おねだり＞に困り果てている＜堪らない＞)。トゥ˞リマイ˥ヤー　イ˞ミラン˥カー　トゥララヌ [tu˞rimai˥ja: ʔi˞miraŋ˥ka: tu˞rara˥nu](貸した金＜取るべき金＞は催促しないと取れない)。

イ˞ミン˥　クジン　ッ˞サヌ [ʔi˞miŋ˥ kuʤin s˞sanu] 【成】意味内容が全くわからない。訳がわからない。「意味も故事も知らない」の義。「意味も来歴も分からない」の意。˥ヌンティル　˥アイニ　ア˞ジオー˥ルユー　イ˞ミン˥クジン　ッ˞サヌ [˥nuntiru ˥ʔaini ʔa˞ʤioː˥ruju: ʔi˞miŋ˥kuʤin s˞sanu](何故にあんなに言っておられるのか、意味が全く分からない＜知らない＞)。イ˞ミン˥クジン　ワ˞カラ˥ヌ [ʔi˞miŋ˥kuʤiŋ wa˞kara˥nu] ともいう。

˥イミンツァン [˥ʔimintsaŋ] 【副】夢にも。「夢にだに＜すら＞」の義。˥アイブ　ク˞トゥ˥ヌ　ウ˞ク˥ルンテー　˥イミンツァン＜イ˞ミ˥サラーンツァン＞　ウ˞モーラン˥シェン [˥ʔaibu kṵ˞tu˥nu ʔu˞ku˥runteː ˥ʔimintsaŋ ＜i˞mi˥sara:ntsaŋ＞ ʔu˞moːraŋ˥ʃeŋ](あんなことが起こるなんて夢にも思われなかった)。

˥イミン　ム˞タバ˥リン [˥ʔimim mu˞taba˥riŋ] 【連】「夢に弄ばれる」の義。夢を見ている自分が夢に翻弄される。˥イミン　ム˞タバ˥リティ　ティ˞ダ˥ヌ　˞アールン˥ケン　ア˞サ˥ニビ　˞シーナー˥ヌ [˥ʔimim mu˞taba˥riti ti˞da˥nu ˞ʔa:ruŋ˥keŋ ʔa˞sa˥nibi ˞ʃiːna:˥nu](夢に弄ばれて、太陽が昇るまで朝寝坊をしてしまった)。

イ˞メーヌカー˥ジ [ʔi˞meːnukaː˥ʤi] 【感】「いまゐのかぜ (順風満帆。真っ直ぐに向かった舵)『沖縄語辞典』」の義。˥インダヌ　マ˞キ [˥ʔindanu ma˞ki](伊武田の牛牧) で、旧暦 9 月の丑の日に˞牛の祝い」を行った。その際、牛の耳を切ってヤーバン [jaːbaŋ](家判) をつけた。牛の健康と繁盛を祈願んした後、対座した牛主二人がミ˞キバタ˥シ [mi˞kibata˥ʃi](ヤラブの木で造った酒器。神酒の容器) を儀式の歌に合わせて右上、左上へと交互に持ち上げながら祝詞を奏上し、次の組へとミキバタシ (神酒の容器) を渡したが、その時に発した祝詞。→　キバタシ。

イ˞メーマ [ʔi˞meːma] 【副】少し。少量。わずか。ン˞メーマ [ʔm˞meːma](少し) ともいう。イ˞メーマー˥　バー　˥クトゥーン　˞カン˥ガイ　ッ˞ふィーリトヨー [ʔi˞meːma:˥ ba: ˥kṵtuːŋ ˞kaŋ˥gai f˞fiːriɩ-joː](少しは私のことも考えてくれよ)。

˥イメーンカーン [˥ʔimeːŋkaːŋ] 【副】出来るだけ。可能な限り。少しでも僅＜ヵズカ＞でも。˥ンメーンカーン [˥ʔmmeːŋkaːŋ](出来るだけ) ともいう。˥イメーンカーン　˞モーキ˥ルンティ　ユ˞ク˥シキティ　˞ギーバリベー [˥ʔimeːŋkaːm ˞moːki˥runti ju˞ku ˥ʃi̥kiti ˞giːbaribeː](少しでも僅かでも多く儲けようと欲張って頑張っている＜気張っている＞)。

イ˞モチ˥ビョー [ʔi˞motʃi˥bjoː] 【名】いもちびょう (稲熱病)。標準語からの借用語。終戦後に流行したことがある。稲の葉が暗色病斑を表して枯れる病気。また根の部分から枯れていく場合もあり、実は結ばない。˞ホーライ˥マイ [˞hoːrai˥mai](蓬莱米) 品種の栽培が普及するようになった戦後に多く発生した。鳩間の人は、これを˞ムイ˥フクン [˞muiɸṵkuŋ](異常に成長しすぎて結実しない病気) と称していたが、農業試験場からの指導のもとに薬剤散布をして病気の蔓延を止めた。イ˞モチビョー˥ヤ　˞ホーライ˥マイナール　˞ゴー˥ラータ [ʔi˞motʃibjoː˥ja ˞hoːrai˥mainaːru ˞goː˥raːta](いもち病は蓬莱米の品種に多かった)。

イ˞ヤ [ʔi˞ja] 【名】矢。「射矢」の義か。ビ˞コーンッふァヌ˥　マ˞ル˥カー　˞ユン˥トゥ　イ˞ヤバ˥　ス˞ク˥リティ　ヌ˞キ˥ナー　˥ッシ　シゥ˞コーッ˥タ [bi˞koːnffanu˥ ma˞ru˥kaː ˞jun˥tu ʔi˞jaba˥ sṵ˞ku˥riti nu˞ki˥naː ˥ʃʃi s̥i̥˞koːt˥ta](男児が生まれると弓と矢を作って軒に刺しておかれた)。

イ˞ヤー [ʔi˞jaː] 【名】胎盤。胞衣 (えな)。イ˞ヤー˥　ウ˞ズミ˥　シケーントン　˞トゥンクイル˥カー　パ˞ル˥ムンティ　ア˞ザリブー˥ダー [ʔi˞jaː˥ ʔu˞ʤumi˥ ʃi̥keːn-ton ˞tuŋkuiru˥kaː pa˞ru˥munti ʔa˞ʤaribuː˥daː](胎盤を埋めてある所を跨ぐと＜跳び越えると＞妊娠するといわれているよ)。

イ˞ユイユ [ʔi˞juʔiju] 【副】いよいよ。とうとう。差し迫った状態を表す。「ますます」の意味には使われない。標準語からの借用語。普通は˞トー˥　メー [˞toː˥ meː](さあ、もう) のように言う。イ˞ユイユ˥　メー　ク˞ヌ˥　シキシー　˞ガッ˥コーン　ウ˞ワーリスバン˥ナー [ʔi˞juːʔiju˥ meː ku˞nu˥ ʃi̥kiʃi ˞gak˥koːŋ ʔu˞waːrisuban˥naː](いよいよ今月で学校も卒業だねえ＜学校も終わるねえ＞)。

˥イヨー [˥ʔijoː] 【名】ゆおう (硫黄)。˥イオー [˥ʔioː](硫黄) ともいう。首里方言からの借用語か。パ˞ブ [pa˞bu](はぶ。毒蛇) は˥イヨー [˥ʔijoː](ゆおう＜硫黄＞) の臭いを嫌って寄り付かないと言われている。

イ˞ラ [ʔi˞ra] 【名】(動) 毒クラゲ。無毒のミズクラゲ (水水母) にもいう。人を刺す水母は透明で長い触手を持つ。夏季に発生して水泳中の子供に被害がでる。「刺 (いら)、草木のとげ。はり < 和名抄 >」の義から派生、転訛したものか。ナ˞チェー˺ イ˞ラヌ ユーリ˺クンダ ˞キー˺シキ ˺オンダー ˞サン˺カー ッ˞サ˺リン˞ダー [na˞tʃe:˺ ʔi˞ranu ju:ri˺kunda ˞ki:˺ʃi̥ki ˺ʔonda: ˞saŋ˺ka: s˞sa˺rin˞da:](夏はクラゲが流れ寄ってくるから気をつけて海水浴しないと刺されるよ)。イ˞ラン˺ ッ˞サ˺リカー フ˞ナブ˺ヌ ˺シル マ˞モーッ˺タ [ʔi˞ran˺ s˞sa˺rika: ɸu˞nabu˺nu ˺ʃiru ma˞mo:t˺ta](水母に刺されたら九年母 < シークヮーサー > の汁を塗られた)。

˺イラ [˺ʔira] 【助数】枚。ひら。紙、蓆、畳、皿、木の葉、等を数える、語に付属する接続後。助数詞。イラは [çira] → [jira] → [ira] のように音韻変化したもの。プ˞スイ˺ラ [pu̥˞sui˺ra](一枚)、フ˞タイラ [ɸu̥˞taira](二枚)、˞ミーラ [˞mi:ra](三枚) のように数える。˞クー˺ザラ プ˞スイ˺ラ ˺ムティ ˺クーバ [˞ku:˺ʤara pu̥˞sui˺ra ˺muti ˺ku:ba](小皿を一枚持ってきなさい)。

˞イラ [˞ʔira] 【感】ああ。歌謡語。日常では使用されない。鳩間島では、イ˞ラー サニ˺シャー ˞キュー˺ヌ ヒ [ʔi˞ra:sani˺ʃa: ˞kiju:˺nu çi:](ああ何と嬉しいことよ今日の日は) と歌われている。

˺イライ [˺ʔirai] 【名】答え。返答。応答。返事。「応 (いら) え」の義。˞ギュームシ˺ ヤ˞ラブバン˺ ノー˞ンティン˺ イ˞ライ˺ヤ ˞ナー˺ヌヌ ˞ヌー˺シタカヤー [˞gju:muʃi˺ ja˞rabubaŋ˺ no:˞ntiŋ˺ ʔi˞rai˺ja ˞na:˺nunu ˞nu:˺ʃi̥takaja:](何度呼んでも何の返答も無いが、どうしたのかなあ)。「いらへ」(混効)。

˺イライピントー [˺ʔiraipinto:] 【名】返事。返答。応答。受け答え。プ˞スヌ˺ パ˞ナ˺シ ˞オー˺ルカー ˺イライピントーヤ カシー˞カシー˺シ ˞シェー˺ティ アー˺ク˞ダー [pu̥˞sunu˺ pa˞na˺ʃi ˞ʔo:˺ruka ˺ʔiraipinto:ja kḁʃi:˞kaʃi:˺ʃiru ˞ʃe:˺ti ˞ʔa:˺ku˞da:](人が話しかけて来られたら、受け答えはしっかりとしなさい < してあるくんだ > よ)。

イ˞ライ˺ルン [ʔi˞rai˺ruŋ] 【自動】答える。応答する。応 (いら) う。老年層の言葉。˞ウイヌ˺ プ˞スヌ トゥイヨー˺ルカー ˞ゾー˺ブンニ イ˞ライ˺ルン < ˞ピントースン > ティ ˞カン˺ガイ ˞ベー [˞ʔuinu˺ pu̥˞sunu tuijo:˺ruka: ˞ʤo:˺bunni ʔi˞rai˺run < ˞pinto:-sun > ti ˞kaŋ˺gai ˞be:](目上の方 < 人 > がお尋ねになったら上手にお答え < 返答 > しようと考えている)。ノー˞ン ヤラバン˺ ミサバ ˞パー˺ク イ˞ライ˺リ [no:˞ɲ jarabam˺ misaba ˞pa:˺ku ʔi˞rai˺ri](何でもいいから早く答えなさい < 早く応答しなさい >)。

イ˞ラ˺カ [ʔi˞ra˺ka] 【名】甍。屋根の背。「〜海神の殿の盖丹 < イラカニ >〜。万、3791」、「屋脊曰⊠甍、伊良賀 (いらか)」『和名抄』の転訛したもの。家のうわむね (上棟)。˞ヤー˺ヌ ティ˞ジ [˞ja:˺nu ti˞ʤi](家の頂き) ともいう。瓦葺の場合は、頂上に土を載せ、その上に雄瓦を載せてム˞チ [mu˞tʃi](漆喰) を塗り、形を整えて仕上げる。東の面と西の面も漆喰で化粧塗りをしをして仕上げる。茅葺の場合は、茅を半球形に積んで竹簾で覆い、棕櫚縄の締め縄で引き締めて造る。˞カー˺ラヤーヌ イ˞ラ˺カナ ˺パトゥザヌ トゥ˞マリ ベー [˞ka:˺raja:nu ʔi˞ra˺kana ˺pḁtuʤanu tu˞mari be:](瓦葺家の甍に鳩がとまっている)。

イ˞ラカザケー [ʔi˞rakaʤake:] 【名】屋号。西加治工次郎氏宅。イ˞ラカザケーヌ˺ マンタナール ˞プール˺ヌ ˺サンシケー ス˞クーローッ˺タ [ʔi˞rakaʤake:nu˺ mantana:ru ˞pu:ru˺nu ˺saŋʃi̥ke: su̥˞ku˺ro:tta](西加治工家の前に < ぞ > 豊年祭の桟敷は作られた)。

イ˞ラ˺カマイ [ʔi˞ra˺kamai] 【名】(地)。「甍前」の義か。ウ˞ブ˺マイミチ [ʔu˞bu˺maimitʃi](大前農道) の南にこんもりと生い茂る雑木林の一帯。破壊された古墓の跡があり、昔は人骨が残っていた。おそらく無縁墓地であろう。ム˞カ˺シェー イ˞ラ˺カマイナー サ˞リプニ˺ヌ ˞アッ˺タンティ˞ダー [mu˞ka˺ʃe: ʔi˞ra˺kamaina: sa˞ripuni˺nu ˞ʔat˺tanti˞da:](昔はイラカマイに古い人骨があったそうだよ)。

イ˞ラ˺キ [ʔi˞ra˺ki] 【名】 1魚類の鱗 (うろこ)。イ˞ゾー˺ イ˞ラ˺キ ˺パギテーラ バ˞ザイ˺バ˞ヨー [ʔi˞ʤo:˺ ʔi˞ra˺ki ˺pagite:ra ba˞ʤai˺ba˞jo:](魚は鱗を剥いでから捌きなさいね)。ヒ˞ローサー˺ヌ イ˞ラ˺キシ パ˞ニビキ˺ ス˞ク˺ローッタ [çi˞ro:sa:˺nu ʔi˞ra˺kiʃiru pa˞nibiki˺ su̥˞ku˺ro:tta](メガネモチノウオの鱗で羽引き漁の擬餌針を作られた)。2ふけ (雲脂)。ス˞ブ˺ル ア˞ラーンユンダ˺ イ˞ラ˺キ ˺カビ˞ベー [su˞bu˺ru ʔa˞ra:ɲjunda˺ ʔi˞ra˺ki ˺kabi ˞be:](頭を洗わないから雲脂(フケ)が覆(オオ)って < 雲脂を被って > いる)。

イ˞ラキ˺グム [ʔi˞raki˺gumu] 【名】鱗雲 (うろこぐも)。˞ティン˺ナー イ˞ラキグム˺ヌ ンジ ˞ベー˺ヌ ˞オーシケー˺ ヤ˞ビ˺スカヤー [˞tin˺na: ʔi˞rakigumu ˺nu ˺ʔnʤi ˞be:˺nu ˞ʔo:ʃi̥ke:˺ ja˞bi˺su̥kaja:](空 < 天 >

に鱗雲が出ているが、天気は崩れるかなあ＜天気はやぶれるのかな＞)。

イ˞ラキ˥ナビ [ʔi˞raki˥nabi] 【名】炒り鍋。野菜や肉類を炒るのに用いる浅い鉄製の鍋。˞チャン˥プルー [˞ʧam˥puru:] 料理を調理するのに用いる鉄製の鍋。イ˞ラキ˥ナビナ　ン˞メーマ˥　アバ　ピ˞キティ　ソー˥ミン　イ˞ラ˥キバ [ʔi˞raki˥nabina ʔm˞me:ma˥ ʔaba pi̥˞kiti so:˥miŋ ʔi˞ra˥kiba](炒り鍋に少し油を塗って素麺を炒めなさい＜炒りなさい＞)。

イ˞ラキ˥ムヌ [ʔi˞raki˥munu] 【名】「炒り物」、「煎り物」の義。味噌と油で炒めた煎りもの料理。パパイヤ、南瓜、冬瓜等を約 1,5 センチの角切りにし、それに味噌を加え、豚肉または蒲鉾、豆腐などを入れて炒ったもの。美味で豪華な感じを添える料理。祝儀や法事、お盆などの祭祀には必ず作られた。ご馳走の料理に必須の一品。˞マンズイ˥トゥ　カ˞ブッチバ˥　カ˞クギリ˥　シ˞ティ　ミー˥ス　マ˞ザー˥シティ　カ˞マブクン　トー˥フン　イ˞リティ˥　ア˞バ˥ナビナ　イ˞ラ˥キティル　イ˞ラキ˥ムノー　ス˞ク˥ローッタ [˞mandzui˥tu ka˞buttʃiba˥ kḁ˞kugiri˥ ʃi̥˞ti mi:˥su ma˞dza:˥ʃi̥ti ka˞mabukun to:˥ɸuŋ ʔi˞riti˥ ʔa˞ba˥nabina ʔi˞ra˥kitiru ʔi˞raki˥muno: su̥˞ku˥ro:tta](パパイヤとカボチャを角切りにして味噌を混ぜて蒲鉾も豆腐も入れて油鍋で炒ってから＜ぞ＞煎りもの料理は作られた)。

イ˞ラ˥クン [ʔi˞ra˥kuŋ]【他動】煎る。炒 (いた) める。˥ムン　イ˞ラ˥キティ　イ˞ソーシ˥ナ　ピ˞キティ˥　ユ˞ナ˥ク　ス˞ク˥ラナー [˥muŋ ʔi˞ra˥kiti ʔi˞so:ʃi˥na pi̥˞kiti˥ ju˞na˥ku su̥˞ku˥ra˞na:](麦を煎って石臼で挽いて麦焦がしを作ろうね)。イ˞ラカ˥ヌ [ʔi˞raka˥nu](煎らない)。ク˞リン˥　イ˞ラ˥クンティ　ウ˞ムーン˥ドゥ　イ˞ラ˥ク　プ˞スヌ˥　ブ˞ラーヌ [ku˞riŋ˥ ʔi˞ra˥kunti ʔu˞mu:n˥du ʔi˞ra˥ku pu̥˞sunu˥ bu˞ra:nu](これも煎ろうと思うが、煎る人がいない)。˞マー˥ビン　イ˞ラ˥ケー　˥ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ʔi˞ra˥ke: ˥mis-amunu](もっと煎ればいいのに)。˞パー˥ク　イ˞ラ˥キ [˞pa:˥ku ʔi˞ra˥ki](早く煎れ)。

イ˞ラザラン˥クトゥ [ʔi˞radzaraŋ˥ku̥tu] 【連】余計なこと。タ˞ナ˥ミン　˞サンムヌバ˥　イ˞ラザラ˥ン˥クトゥ　˞シー　マー˥ビン　シ˞ルッ˥コー　ナシ˞ナー˥ヌ [ta˞na˥min ˞sammunuba˥ ʔi˞radzaraŋ˥ku̥tu ˞ʃi: ma:˥biŋ ʃi˞ruk˥ko: naʃi˞na:˥nu](頼みもしないものを、余計なことをして、かえってぶち壊しにして＜台無しにして＞しまった)。

イ˞ラスン [ʔi˞rasuŋ] 【連】入れさせる。動詞イ˞ルン [ʔi˞ruŋ](入れる) の未然形イ˞ラ [ʔi˞ra] に、使役の助動詞˥スン [˥suŋ](～せる。～させる) が付いて形成された派生動詞。˞センキョー˥ヌ　˥ピンマー˞ヤーニン˥ズ　ムー˞ル　ワーン˥　トン　フ˞ダー˥　イ˞ラスン [˞ʃeŋkjo˥nu ˥pimma: ˞ja:nin˥dzu mu:˞ru wa:n˥ toŋ ɸu˞da:˥ ʔi˞rasuŋ](選挙の時は、家族全員君の所に札を入れさせる)。˞ウン˥マー　˥ティルナ　イ˞ラシティ˥　ア˞ラーシ˥バ [˞ʔum˥ma: ˥tiruna ʔi˞raʃi̥ti˥ ʔa˞ra:ʃi˥ba](芋は笊に入れさせて洗わさせなさいよ)。

イ˞ラバ˥スン [ʔi˞raba˥suŋ] 【連】選ばせる。イ˞ラ˥ブン [ʔi˞ra˥buŋ](選ぶ) の未然形に、使役の助動詞˥スン [˥suŋ](～す。～せる。～させる) が付いて形成された使役の派生動詞。˞ドゥー˥ヌ　˥プサ　˥ムヌシン˞トゥ　ピー˥チ　イ˞ラバ˥スン [˞du:˥nu ˥pu̥sa ˥munu ʃin˞tu pi:˥ʧi ʔi˞raba˥suŋ](自分の欲しいものをたった一つだけ選ばせる)。イ˞ラバサ˥ヌ [ʔi˞rabasa˥nu](選ばせない)。

イ˞ラバ˥リン [ʔi˞raba˥riŋ] 【自動】選ばれる。イ˞ラ˥ブン [ʔi˞ra˥buŋ](選ぶ) の未然形イ˞ラ˥バ [ʔi˞ra˥ba] に、受身・可能の助動詞˥リン [˥riŋ](～れる) が付いて形成された受身・可能の派生動詞。パ˞トゥ˥マーラン　ギ˞イン˥マー　˞タン˥ガー　イ˞ラバ˥リンツォー [pḁ˞tu˥ma:raŋ gi˞ʔim˥ma: ˞taŋ˥ga: ʔi˞raba˥rintso:](鳩間島からも議員は一人選ばれるそうだ)。イ˞ラバラ˥ヌ [ʔi˞rabara˥nu](選ばれない。選べない)。

イ˞ラビッ˥クル [ʔi˞rabik˥kuru] 【名】残り滓。選び滓。選び残りの屑。˞ソームノー˥　ムー˞ル　カーシティ˥　イ˞ラビッ˥クル　カー˞ニ˥　ヌ˞カ˥リ˞ベー [˞so:muno:˥ mu:˞ru ka:ʃi̥ti˥ ʔi˞rabik˥kuru ka:˞ni˥ nu˞ka˥ri˞be:](いいものは全部売って、選び残り滓だけ残っている)。

イ˞ラビ˥　ヌ˞カ˥スン [ʔi˞rabi˥ nu˞ka˥suŋ] 【連】選り抜く。「選び残す」の義。多くの中から選んで抜き出し、他を放置する。イ˞ラビ˥　ヌ˞カ˥シ　˥シケー　˥ムノー　ウ˞ムイツァー˥ヌ　シ˞ティラランバワー　イー˥リバ [ʔi˞rabi˥ nu˞ka˥ʃi ˥ʃi̥ke: ˥muno: ʔu˞muitsa:˥nu ʃi̥˞tiraramba wa: ʔi:˥riba](選り抜いて残してある物は、惜しくて＜勿体無くて＞捨てられないから、君が貰いなさいよ)。

イ˞ラビヌカ˥ル [ʔi˞rabinuka˥ru] 【名】選び残り。イ˞ラビヌカ˥ルナー　˞フー˥ヌ　˥アンティ　ム˞カ˥シェーラ　ア˞ザリブー [ʔi˞rabinuka˥runa: ˞ɸu:˥nu ˥ʔanti mu˞ka˥ʃe:ra ʔa˞dzaribu:](選び残りには果報があると昔から言われている)。

イ˞ラビ　ノー˥スン [ʔi˞rabi noː˥suŋ] 【連】選び直す。˞マー˥　プ˞スム˥シ　イ˞ラビ　ノー˥スン [˞maː˥ pu̥˞sumu˥ʃi ʔi˞rabi noː˥suŋ](もう一度 < 再度 > 選び直す)。

イ˞ラ˥ブ [ʔi˞ra˥bu] 【名】(動) エラブウナギ。エラブウミヘビの別名。糸満漁民が漁獲した。燻製にして保存したり、沖縄本島へ輸出したりしていた。強壮剤として愛用されていた。独特の調理法によって調理されたイラブには鶏肉に似た食味があり、豚足の味と調和して美味である。イ˞ラ˥ボー　˥ガシティ　ア˞シティビチ˥トゥ　ク˞ブ˥トゥ　˞ダイ˥クニ　イ˞リティ　ネース˥カー　イッ˞ケン˥　ン˞マー˥ン [ʔi˞ra˥boː ˥gaʃiti ʔa˞ʃitibitʃi˥tu ku˞bu˥tu ˞dai˥kuni ʔi˞riti neːsu˥kaː ʔik˞kem˥ ʔm˞maː˥ŋ](イラブは焙乾にして、豚足と昆布と大根を入れて煮ると非常に美味しい)。

イ˞ラブ˥チ [ʔi˞rabu˥tʃi] 【名】 (動) 魚の名。和名、スジブダイ。ブダイ科の魚の総称。体長 25〜30 センチの成魚がよく漁獲された。白身は刺身にしても煮てもさっぱりした淡白な味で美味である。蒲鉾の原料として重宝された。イ˞ラブ˥チェー　ン˞マー˥ンドゥ　˞カース˥カ　˞ダイヤー　ヤッ˥サン [ʔi˞rabu˥tʃeː ʔm˞maː˥ndu ˞kaːsu˥kaː ˞daijaː jas˥saŋ](イラブチは美味しいんだが、売ると値段は安い)。

イ˞ラ˥ブレー [ʔi˞ra˥bureː] 【名】屋号。西原章吉氏宅。˞ウンタイラ˥ブレー [˞ʔuntaʔira˥bureː](上西原家) ともいう。イ˞ラ˥ブレー [ʔi˞ra˥bureː] は、イ˞リ [ʔi˞ri](西 < 入り >)・˥パル [˥paru](原 < 墾り >)・˥ヤー [jaː](家) における後部形態素の頭子音に [p] → [b] の音韻変化が起きて生成された合成語。西原章吉氏は昭和 12 年日支戦争時に都城 23 聯隊に入営所属し、太平洋戦争時下では西表島の護郷隊の指揮官 (伍長) として活躍された。鳩間島の漁師を漁撈班に組織して必要な蛋白源を護郷隊に納入させ、島の神行事には必要な神酒を調達されたという (大城昇氏談)。長男の西原章栄氏は竹富町役場に勤めた。

イ˞ラ˥ブレー [ʔi˞ra˥bureː] 【名】屋号。西原弘氏宅。ッ˞サンタ˥　イ˞ラ˥ブレー [s˞santa˥ ʔi˞ra˥bureː](下西原家) ともいう。西原弘氏には、鳩間島の村役人を務めた際に大工ヨボシ氏 (友利御嶽の司) より鳩間島の古典民謡を筆録して残した手沢本『鳩間島歌謡控』がある。次男の西原久雄氏は、鳩間島出身で初めて沖縄銀行の八重山支店長、浦添支店長に就任した。˞カンザトゥ˥ヤーヌ　˞イー˥ネール　ッ˞サンタ˥　イ˞ラ˥ブレー　˞ヤッタ [˞kandʑatu˥jaːnu ˞ʔiː˥neːru s˞santa˥ ʔi˞ra˥bureː ˞jatta](慶田城家の西隣が西原家 < 下西原家 > だった)。

イ˞ラ˥ブレーヌ　マン˞ナー˥マザーテー [ʔi˞ra˥bureːnu man˞naː˥madʑaːteː] 【連】屋号。西原盛一氏宅。˞マン˥ナ [˞man˥na](童名 < 満名 >)・˥-マ [˥-ma](指小辞。「小さいもの、愛らしいもの」を表す接尾辞。〜ちゃん)・˥ザー [˥dʑaː](〜兄さん。〜氏)・˥-テー [˥-teː](接尾辞。<〜家 >) が下接して生成された合成語。˞インタイラ˥ブレーヌ　˞イー˥ネール　イ˞ラ˥ブレーヌ　マン˞ナー˥マザーテー　<˞ヤッタ˥>　ミー [˞ʔintaʔira˥bureːnu ˞ʔiː˥neːru ʔi˞ra˥bureːnu man˞naː˥madʑaːteː <˞jatta˥> miː](西原弘氏宅の西隣が西原盛一氏宅 < だった > ですね < でしょう?>)。

イ˞ラ˥ブン [ʔi˞ra˥buŋ] 【他動】選ぶ。選択する。˞ワー˥　マ˞セー˥ル　˥ムヌ　イ˞ラ˥ビ　˥ムティパリバ [˞waː˥ ma˞ʃeː˥ru munu ʔi˞ra˥bi ˥mutipariba](君がいいと思うもの < ましなもの > を持って行きなさい)。˞ドゥー˥ヌ　˥ムノー　˥ドゥーシ　イ˞ラ˥ブン [˞duː˥nu ˥munoː ˥duːʃi ʔi˞ra˥buŋ](自分のものは自分で選ぶ)。˥バー　イ˞ラバ˥ヌ [˥baː ʔi˞raba˥nu](私は選ばない)。イ˞ラ˥ブ　プ˞ソー　パー˥ク　イ˞ラ˥ベー　˥ミサムヌ [ʔi˞ra˥bu pu̥˞soː paː˥ku ʔi˞ra˥beː ˥misamunu](選ぶ人は早く選べば良いのに)。イ˞ラ˥ビバ [ʔi˞ra˥biba](選べよ)。

イ˞ラムティ [ʔi˞ramuti] 【名】 (地名) 西表島の租納集落、干立集落の総称。イ˞ラムティプス [ʔi˞ramutipu̥su](西表の人。租納人、干立人)。鳩間島の人は「西表島」とは言わず、˞パイ˥ター [˞pai˥taː](南端 < はいばた >)、˥パンタヌシマ [˥pantanuʃima](南端の島) というのが普通である。˞ウイバル [˞ʔuibaru](上原集落)、フ˞ノー˥ラ [ɸu˞noː˥ra](船浦集落)、˥クン [˥kuŋ](古見村)、˞オー˥ハラ [˞ʔoː˥hara](大原集落) の各集落は、イ˞ラムティ [ʔi˞ramuti](西表村 < 租納集落、干立集落 >) の範疇には入らない。それぞれ独立した集落である。西部地区のフ˞ナウ˥キ [ɸu˞nau˥ki](船浮)、˞アン˥トゥル [˞ʔan˥turu](網取) の集落もイ˞ラムティ [ʔi˞ramuti] の範疇に属しない。イ˞ラムテーラ˥　サニマイ　˞カイ˥クー [ʔi˞ramuteːra˥ sanimai ˞kai˥kuː](西表 < 租納、干立 > から種籾を買って来なさい < 来い >)。イ˞ラムティ˥ナー　イ˞クサユー˥ヌ　アトゥ˞バー˥キ　˥タンコーン　アリティ　シ˞キ˥タン　プリ　ブ˞タン˥ダー [ʔi˞ramuti˥naː ʔi˞kusajuː˥nu ʔatu˞baː˥ki ˥taŋkoːŋ ˥ʔariti ʃi̥˞ki˥tam ˥puri bu˞tan˥daː](西表には戦争の後まで炭

鉱があって石炭を採掘＜掘って＞していたよ)。

イ˞ラン [ʔi˞raŋ] 【連体】いらぬ。不必要な。不要な。余計な。イ˞ラン˺ クトー ˞サンモー˺ マ˞シ [ʔi˞raŋ˺kuto: ˞sammo:˺ ma˞ʃi](余計な＜不要な＞ことはしない方が良い＜ましだ＞)。イ˞ラン˺ ムニ イ˞ズナ [ʔi˞ram˺ muni ʔi˞ʤuna](余計なことを言うな)。

イ˞ラン˺クトゥ [ʔi˞raŋ˺kutu] 【連】要らぬこと。無用なこと。余計なこと。˞ミーヌマイ˺ヌ ˞パイヤンツァン ウイユーサン ムヌ˺ イ˞ラン˺クトゥ プ˞スヌ ソー ス˞ナ [˞mi:numai˺nu ˞paijantsaŋ ʔuiju:sam munu˺ ʔi˞raŋ˺ku̥tu pu̥˞sunu so: su˞na](自分の目の前の蠅さえも追い払えない者が、余計なこと、他人の心配はするな)。ウ˞レー˺ イ˞ラン˺クトゥ [ʔu˞re:˺ ʔi˞raŋ˺kutu](それは余計＜無用＞なことだ)。

イ˞ラン˺ ムニ [ʔi˞ram˺ muni] 【連】余計な言葉。不必要な言葉。ア˞ザン˺カー ˺ミサヌ ˺ムヌバ イ˞ラン˺ ムニ イ˞ジ˺ ヤ˞ラ˺ビ タ˞ゴーマ˺シ ˺シケー [ʔa˞ʤaŋ˺ka: ˺misanu ˺munuba ʔi˞ram˺ mu˞ni ˺ba ʔi˞ʤi˺ ja˞ra˺bi ta˞go:ma˺ʃi ˺ʃi̥ke:](言わなければ良いものを、余計＜無用＞な言葉を言って、子供を捻くれさせ＜ねじけさせ＞ている)。

イ˞リウトゥ˺スン [ʔi˞riutu˺suŋ] 【他動】射落とす。老年層の言葉。˞ティップ˺シ ˺パトゥザ イ˞リウタ˺スン [˞tippu˺ʃi ˺patuʤa ʔi˞riuta˺suŋ](鉄砲で山鳩を射落とす)。

イ˞リカーリ˺ タ˞チカー˺リ [ʔi˞rika:ri˺ tḁ˞ʧika:˺ri] 【連】次から次へと人が入れ替わって現われるさま。イ˞リカーリ˺ タ˞チカー˺リ ˞ヨイシープス˺ヌ ˞オー˺ルン [ʔi˞rika:ri˺ tḁ˞ʧika:˺ri ˞joiʃi:pu̥su˺nu ˞ʔo:˺ruŋ](入れ替わり立ち代り、次々と祝い客がいらっしゃる)。

イ˞リカールン [ʔi˞rika:ruŋ] 【自動】入れ替わる。˺ブザマトゥ イ˞リカーリ˺ ブ˞バー˺マーン ˞オー˺リ ˺ヨイ ˞シー ッふォーッ˺タ [˺buʤamatu ʔi˞rika:ri˺ bu˞ba:˺ma:ŋ ˞ʔo:˺ri ˺joi ˞ʃi:ffot˺ta](叔父と入れ替わって叔母も来られてお祝いをしてくださった)。

イ˞リカイルン [ʔi˞rikairuŋ] 【他動】入れ替える。取り替える。ウ˞ズ˺ヌ ˺バタ イ˞リカイルンティ˺ ウ˞ムーン˺ドゥ バ˞タ˺ヌ ˞ナーン˺ベーティ イ˞リカイララヌ [ʔu˞ʤu˺nu ˺bata ʔi˞rikairunti˺ ʔu˞mu:n˺du ba˞ta˺nu ˞na:m˺be:ti ʔi˞rikairaranu](布団の綿を入れ替えようと思うが、綿が無いので入れ替えられない)。イ˞リカイ˺ ミサカー イ˞リカイル˺ クトー ナルン˞ダー [ʔi˞rikai˺ misaka: ʔi˞rikairu˺ ku̥to: narun˞da:](入れ替えて良ければ、入れ替えることは出来るよ)。イ˞リカイヤー˺ ミサムヌ [ʔi˞rikaija:˺ misamunu](入れ替えれば良いのに)。イ˞リカイリ˺バ [ʔi˞rikairi˺ba](入れ替えなさいよ)。˞イッスクビン˺ヌ ミ˞ジェー˺ イ˞リカイティ˺ ヌ˞ミ˺ミジ パ˞タ˺ケー ˺ムティパラ [˞ʔissukubin˺nu mi˞ʤe:˺ ʔi˞rikaiti˺ nu˞mi˺miʤi pḁ˞ta˺ke: ˺mutipara](一升瓶の水は入れ替えて、飲み水を畑に持って行こう)。

イ˞リカウン [ʔi˞rikauŋ] 【他動】入れ替える。「入れ・替ふ＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。フ˞クル˺ヌ ナ˞カミ˺ー イ˞リカイティ ム˞タ˺シバ [ɸu̥˞kuru˺nu na˞ka˺mi: ʔi˞rikaiti˺ mu˞ta˺ʃiba](袋の中身を入れ替えて持たせてやりなさい＜持たせなさい＞)。

イ˞リ˺ガン [ʔi˞ri˺gaŋ] 【名】そえがみ (添え髪) すること。「入れ髪」の義。サ˞カサ [sḁ˞kasa](司) が神前で祈願する際の正装に用いた。また、キ˞チゴン [ki̥˞ʧigoŋ](結願祭) の奉納舞踊として踊られる、パ˞トゥ˺マナカムリ [pḁ˞tu˺manakamuri](鳩間中岡) はイ˞ローラ [ʔi˞ro:ra](かもじ) を髪に入れて髪を大きく結って踊った。サ˞カサヌ˺ アッパター イ˞ローラ˺シ イ˞リ˺ガン ˞シーティル ニン˺ガイ ˞ソーッ˺タ [sḁ˞kasanu˺ ʔappata: ʔi˞ro:ra˺ʃi ʔi˞ri˺gaŋ ˞ʃi:tiru niŋ˺gai ˞so:t˺ta](司の婆さん達は、かもじで添え髪をして祈願をなさった)。

イ˞リ˺グ [ʔi˞ri˺gu] 【名】いかけ (鋳掛)。鍋や桶、˺イダフニ [˺ʔidaɸuni](板船、サバニ) の水漏れをふさぐこと。˺イダフニヌ イ˞リ˺グ ˞シェーン˺トンラ ムリキー˞ベー [˺ʔidaɸuninu ʔi˞ri˺gu ˞ʃe:n˺tonra muriki:˞be:](イダフニ＜板船＞の水漏れ防止をしたところから漏れてきている)。

イ˞リクヌ˺ティー [ʔi˞rikunu˺ti:] 【名】入子の笛。獅子舞の一団やアンガマ踊り隊が獅子元の家から家々へと移動する際に、それを知らせるために吹き鳴らす笛の曲名。「入れ子の笛＜笛の曲＞」の転訛したもの。˺ティー [˺ti:] は、鳩間方言の˺ピー [˺pi:](笛) に対応する伊江島方言であろう。イ˞リクヌ˺ティー [ʔi˞rikunu˺ti:] は、豊年祭の˞ゾーラキ [˞ʤo:raki](入子型の舞踊) の西村、東村の演目交代の際にも吹奏される。イ˞リクヌティー˺ヌ ˞ナーレー˺チバ ˞シーシェーマ˺ヌ ˞オー˺ルン˞ダー [ʔi˞rikunuti:˺nu ˞na:re:˺ʧiba ˞ʃi:ʃe:ma˺nu ˞ʔo:˺run˞do:](入れ子の笛の音が鳴ったから獅子舞、アンガマ踊り隊がいらっ

しゃるぞ)。

イ˞リクマッふァ [ʔiˑrikumaffa] 【名】入れ子枕。一本の木材を切り離さずに、組み立て、畳み込みが出来るるように仕組んだ枕。イ˞リクマッふァー˥ ブリ　タ˞ク˥ムカー　ピ˞シーピシ˥　˥ナリティ　シゥ˞カイヤッ˥サン [ʔiˑrikumaffaː˥ buri taˑkuˑmukaaː pi̥ˑʃiːpiʃiː˥ nariti si̥ˑkaijasˑsaŋ](入れ子枕は折ってたたむと薄くなって使いやすい)。

イ˞リクン　スン [ʔiˑrikun suŋ] 【連】入り乱れる。入り混じる。「入りこみ・する」の義か。˞プール˥ヌ ˞ガー˥レー　ミ˞ドゥム　ビキ˥ドゥム　イ˞リクン シェー˥ティル　˞ガー˥ロッタ˞ダー [ˑpuːruˑnu ˑgaː ˥reː miˑdumu bikiˑdumu ʔiˑrikuŋ ʃeː˥tiru ˑgaː˥roːttaˑ daː](豊年祭のガーリ＜応援合戦。景気付け＞は男女入り混じって踊って応援合戦されたよ)。

イ˞リジブン [ʔiˑridʑibuŋ] 【名】日没時。日の入り時分。日暮れ時。夕暮れ。ティ˞ダ˥ヌ　イ˞リジブン˥　ナリ˞ブーバ　˥メー　˞ヤー˥　パラ [tiˑdaˑnu ʔiˑ ridʑibun˥ nariˑbuːba ˥meː ˑjaː˥ para](日暮れ時になっているから、もう家に帰ろう)。

イ˞リダカ [ʔiˑridaka] 【名】収量。収穫量。「入り高」の義。トゥ˞リ˥ダカ [tuˑriˑdaka](収穫高、収穫量) ともいう。ン˞ジ˥ダカ [ʔnˑdʑiˑdaka](出費) の対義語。イ˞リダカー　シンダイ˥　ピ˞ナリ˥パリ　˞ナー˥ヌ [ʔiˑ ridakaː ʃindai˥ piˑnari˥pari ˑnaː˥nu](収量は次第に減っていってしまった)。

イ˞リチガイ [ʔiˑritʃigai] 【名】入れ違い。マナ˞マッタール　ワットゥ˥　イ˞リチガイ　シー˥　ンジ ˞パッ˥タ˞ダー [manaˑmattaːru wattu˥ ʔiˑritʃigai ʃiː˥ ʔndʑi ˑpat˥taˑdaː](今さっき＜ぞ＞君と入れ違いに出ていったんだよ)。

イ˞リッカール˥　ン˞ジッカー˥ル [ʔiˑrikkaːru˥ ʔnˑ dʑikkaː˥ru] 【連】出たり入ったりすること。入れ替わり立ち替わり。「入れ替わり出で替わり」の義。イ˞リッカール˥　ン˞ジッカー˥ル　˞シー˥　ウ˞スマ˥シスコー　プ˞スヌ　オーッ˥タン [ʔiˑrikaːru˥ ʔnˑ dʑikaː˥ru ˑʃiː˥ ʔuˑsuma˥ʃisu̥ko: pu̥ˑsunu ʔot˥taŋ](入れ替わり立ち替わりして驚くほど＜おぞましいほど＞多くの人がおられた)。

イ˞リックムン [ʔiˑrikkumuŋ] 【自動】入り浸る。「入り込む」の義。サ˞キムイ˥　シ˞ター　ウン˥ネナー　イ ˞リックミティ˥　メー　˞ヤ˥ー　˞クー˥ヌ [sḁˑkimui˥ ʃi̥ˑtaː ʔun˥nenaː ʔiˑrikkumiti˥ meː ˑjaː˥: ˑkuː˥nu](婚約の式を済ませたので、その家に入り浸って、もう実家には帰らない＜来ない＞)。戦後の一時期まで、婚約をすると男は夜になると女の家に入り浸る風習があった。サ˞キムイ˥　シ˞ター˥　ミ˞ドゥムン˥　ヤーナ　イ˞リックミティ　ヤー˥ヌ　˥アンティ　ッ˞サヌ [sḁˑkimui˥ ʃi̥ˑtaː˥ miˑdumuŋ˥ jaːna ʔiˑrikkumiti jaː˥nu ˥ʔanti sˑsanu](結納＜婚約の酒盛り＞を済ませたら女の家に入りこんで、自分の家のあることを知らない)。イ˞リックマヌ [ʔiˑrikkumanu](入り込まない)。˞ウン˥ネナー　イ˞リックムンティ˥　ウ˞ムータン˥ドゥ　イ˞リックマンシェン [ˑʔun˥nenaː ʔi ˑrikkumunti˥ ʔuˑmuːtan˥du ʔiˑrikkumanʃeŋ](あの家に住み込もうと思ったが、住み込まなかった)。

イ˞リナクン [ʔiˑrinakuŋ] 【他動】入れ込む。袋や笊などに押し込む。ユ˞ク˥バ　˥シキ　カ˞シガーフク ˥ルナ　˞ウン˥バ　イ˞リナキティ˥　カ˞タ˥ムンティ　シ˞ター˥　ク˞シェー˥　ビ˞ザーリナー˥ヌ [juˑku ˥baʃi̥ki kḁˑʃigaːɸu̥ku˥runa ˑʔum˥ba ʔiˑrinakiti˥ kḁˑta˥ munti ʃi̥ˑtaː˥ ku̥ˑʃeː˥ biˑdʑaːrinaː˥nu](欲張って南京袋＜朝鮮袋とも＞に芋を詰め込んで担ごうとしたら腰が潰＜ッブ＞れてしまった)。

イ˞リバー [ʔiˑribaː] 【名】入れ歯。イ˞リパー [ʔiˑri-paː](入れ歯) ともいう。˞パー˥バ　˥ヌイティ　イ˞リバー˥　イ˞リルンティ˥　イ˞サン˥ヤー　˞パッ˥タ [ˑ paː˥ba ˥nuiti ʔiˑribaː˥ ʔiˑrirunti˥ ʔiˑsaŋ˥jaː ˑpat˥ta](歯を抜いて入れ歯を入れに＜入れようと＞歯医者の所＜医者の家＞へ行った)。

イ˞リ˥パー [ʔiˑri˥paː] 【名】出費。˞要り費 (必要経費)」の義。「要り方」の義。˞ウン˥ネーヤ　˞ヤーニンズー˥ヌ　˞ゴー˥ランダー　イ˞リパー˥ヤ　˞スー˥ヤンパジ˞ダー [ˑʔun˥neːja ˑjaːnindʑuː˥nu ˑgoː˥randaː ʔiˑ ripaː˥ja ˑsuː˥jampadʑiˑdaː](その家は家族が多いので必要経費が大きい＜強い＞はずだよ)。

イ˞リパー [ʔiˑripaː] 【名】入れ歯。イ˞リパー˥　イ˞リラン˥カー　˥ムノー　カ˞マラ˥ヌ [ʔiˑripaː˥ ʔiˑriraŋ˥ kaː ˥munoː kaˑmara˥nu](入れ歯を入れないと食物＜もの＞は噛めない)。

イ˞リフキルン [ʔiˑriɸu̥kiruŋ] 【自動】入り浸る。「入り耽る」の義。イ˞リフクン [ʔiˑriɸu̥kuŋ](入り浸る) と同じ。

イ˞リフクン [ʔiˑriɸu̥kuŋ] 【自動】入り浸る。「入り耽る」の義。ミ˞ドゥムン˥ヤーナ　イ˞リフキティ˥　シ˞グトー˥　イ˞カシタ˥ティ　˞ナー˥ヌ [miˑdumuŋ˥ ja:na ʔiˑriɸu̥kiti˥ ʃiˑguto:˥ ʔiˑkaʃi̥ta˥ti ˑnaː˥nu](女の家に入り浸って＜耽って＞仕事は忘れている＜如何するともない＞)。

イ˞リフニ [ʔiˑriɸuni] 【名】入船。入港。対義語ン˞

ジ⌝フニ [ʔn⌜ʤi⌝ɸuni](出船)。イ⌜サナケー⌝ラヌ　イ⌜リ⌝フネー　イ⌜チブカラ⌝　クーカヤー [ʔi⌜sanakeː⌝ranu ʔi⌜ri⌝ɸuneː ʔi⌜ʧibukara⌝ kuːkajaː](石垣島からの入船はいつ < 何時 > 頃来るかなあ)。

イ⌜リ⌝フニ [ʔi⌜ri⌝ɸuni] 【名】入り船。イ⌜サナケー⌝ラヌ　イ⌜リフニ⌝ヌ　⌝アルカー　ウ⌜レー⌝ラ　⌜ニーム⌝チェー　⌝クーパジ [ʔi⌜sanakeː⌝ranu ʔi⌜riɸuni⌝nu ⌝ʔarukaː ʔu⌜reː⌝ra ⌜niːmu⌝ʧeː ⌝kuːpaʤi](石垣からの入船があったら、それから荷物は送られてくるはずだ)。⌜キュー⌝ヤー　イ⌜リフニ⌝ヌ　⌝ヨイ　⌜ソー⌝ルンツォー [⌜kjuː⌝ ja ʔi⌜riɸuni⌝nu ⌝joi ⌜soː⌝runtsoː](今日は入船の祝いをなさるそうだ)。イ⌜サンケーラヌ⌝　イ⌜リ⌝フネー　⌝ニー　ウ⌜ラ⌝スカー　ン⌜ジ⌝フニ　⌝ナリ　イ⌜ラムテー　パッ⌝タ [ʔi⌜sanakeːranu⌝ ʔi⌜ri⌝ɸuneː ⌝niː ʔu⌜ra⌝sukaː ʔn⌜ʤi⌝ɸuni ⌝nari ʔi⌜ramuteː pat⌝ta](石垣島からの入港船は荷を下ろしたら出船になって西表へ行った < 出港した >)。

イ⌜リフニ⌝ヨイ [ʔi⌜riɸuni⌝joi] 【名】入り船の祝い。ム⌜カ⌝シェー　ウ⌜キナー⌝タビ　⌜ソー⌝ル　⌝ピンマー　ン⌜ジフニ⌝ヨイ　ウ⌜キナー⌝タベーラ　⌜カイ⌝リ　⌜オー⌝ル　⌝ピンマー　イ⌜リフニ⌝ヨイ　⌜ソーッ⌝タン [mu⌜ka⌝ʃeː ʔu⌜kinaː⌝tabi ⌜soː⌝ru ⌝pimmaː ʔn⌜ʤiɸuni⌝joi ʔu⌜kinaː⌝tabeːra ⌜kai⌝ri ⌜ʔoː⌝ru ⌝pimmaː ʔi⌜riɸuni⌝joi ⌜soːt⌝taŋ](昔は沖縄旅をされる時は出船の祝いを、沖縄旅から帰ってこられる時は入り船の祝いをなさったものだ)。

イ⌜リ⌝ミー [ʔi⌜ri⌝miː] 【名】入費。費用。経費。「要り目」の義。キ⌜ザルキザルヌ⌝　イ⌜リミーヌン⌝ドゥ　シ⌜ベーラ⌝　ンジェー⌜キー⌝キ　⌜シー　ジン⌝マー　タ⌜ラーサラヌ [ki⌜ʥarukiʥarunu⌝ ʔi⌜rimiːnun⌝du ʃi⌜beːra⌝ ʔnʤeː⌜kiː⌝ki ⌜ʃiː ʤim⌝maː ta⌜raːsaranu⌝](祭り行事の経費が後から後から出てきてお金は追いつかない < 足らされない >)。⌜ヨイ⌝ヌ　イ⌜リ⌝メー　⌜ギュー⌝サ　⌝ナルユー　⌜サン⌝ミン　⌜シーㇳミー [⌜joi⌝nu ʔi⌜ri⌝meː ⌜gjuː⌝sa ⌝narujuː ⌜sam⌝miŋ ⌜ʃiː⊢miː](お祝いの費用はいくらになるか、計算してごらん)。

イ⌜リムク [ʔi⌜rimuku] 【名】入り婿。婿養子。家を継ぐ男児がいない場合、娘に婿を取って暫定的に家を存続させ、娘と婿の間に生まれた次男を実家の跡継ぎにするのが慣例であった。⌜ウン⌝ネーヤ　ビ⌜コーンッふァヌ⌝　ブ⌜ラーンベー⌝ティ　イ⌜リムク⌝　トゥ⌜ローッ⌝タツォー [⌜ʔun⌝neːja bi⌜koːŋffanu⌝ bu⌜raːmbeː⌝ti ʔi⌜rimuku⌝ tu⌜roːt⌝tatsoː](この家には男の子がいないので入り婿を取られたそうだ)。ビ⌜ケーヤ⌝　イ⌜リムク⌝　ヤ⌜レー⌝ティ　ジ⌜ナンドゥ⌝　ブ⌜ネーカタヌ　グヮン⌝ソー　⌝ムトゥツォー [bi⌜keːja⌝ ʔi⌜rimuku⌝ ja⌜reː⌝ti ʤi⌜nandu⌝ bu⌜neːkatanu gwan⌝soː ⌝mututsoː](父親は入り婿であるので、次男が母方の元祖を継ぐ < 持つ > そうだ)。

イ⌜リムサ [ʔi⌜rimusa] 【名】西の方から寄せ来る波頭。西の方から被さるように群れ寄る大波。カ⌜ジェー　マーリ⌝　イ⌜リムサヌ　スー⌝ワンダ　⌝フネー　ン⌜ザサラ⌝ヌ [ka⌜ʤeː maːri⌝ ʔi⌜rimusanu suː⌝wanda ⌝ɸuneː ʔn⌜ʥasara⌝nu](風が北風になっ < 回っ > て、西の方から群れ寄せる波頭が強いので、今日は出漁できない < 船は出されない >)。

イ⌜リムヌ [ʔi⌜rimunu] 【名】入れ物。容器。イ⌜リムノー　ナー⌝ムティ　ウ⌜ビ⌝ヌ　⌜マイヤー⌝　ヌーナフ⌜ナイル⌝ワ [ʔi⌜rimunoː naː⌝muti ʔu⌜bi⌝nu ⌜maijaː⌝ nuːna ɸu⌜nairu⌝wa](入れ物はなくて、あれだけの米を何に入れるのか)。

イ⌜リユー [ʔi⌜rijuː] 【名】入用。必要。イ⌜リユーヌ⌝　シ⌜ナムノー　カーン⌝カー　ナ⌜ラ⌝ヌ [ʔi⌜rijuːnu⌝ ʃi⌜namunoː kaːŋ⌝kaː na⌜ra⌝nu](必要な品物は買わないといけない)。⌝トゥシ　トゥ⌜ル⌝ター　イ⌜リユーン　ナーン⌝ナリ　イ⌜ナムヌ⌝サ⌜ナー [⌝tuʃi tu⌜ru⌝taː ʔi⌜rijuːn naːn⌝nari ʔi⌜namunu⌝sa⌜naː](年を取ったので入用のないものになって残念だねえ)。

イ⌜リルン [ʔi⌜riruŋ] 【他動】入れる。⌜ウン⌝マー　⌝ティルナー　イ⌜リ⌝シキ [⌜ʔum⌝maː ⌝tirunaː ʔi⌜ri⌝ʃiki](イモは笊に入れておきなさい)。⌜ウン⌝バ　⌝ティルナー　イ⌜リルンティ　スンドゥ⌝　イ⌜リララヌ [⌜ʔum⌝ba ⌝tirunaː ʔi⌜rirunti sundu⌝ ʔi⌜riraranu](芋を笊に入れようとするが、入れられない)。イ⌜リ⌝　ミサカー　イ⌜リル⌝　クトー　⌝ナルン [ʔi⌜ri⌝ misakaː ʔi⌜riru⌝ ku̥toː ⌝naruŋ](入れて良ければ入れることは出来る)。⌜クン⌝ナー　イ⌜リレー⌝　ミサムヌ [⌜kun⌝naː ʔi⌜rireː⌝ misamunu](これに入れたら良いのに)。⌜パー⌝ク　イ⌜リリ [⌜paː⌝ku ʔi⌜riri](早く入れろ)。⌜クン⌝ナー　イ⌜リルナ [⌜kun⌝naː ʔi⌜riruna](これには入れるな)。ク⌜リン⌝　イ⌜リルン [ku⌜riŋ⌝ ʔi⌜riruŋ](これも入れる)。イ⌜リル⌝ <⌜イル⌝>　ピンマー　⌜バン⌝ヌン　ミ⌜シ⌝リ [ʔi⌜riru⌝ <⌜ʔiru⌝> pimmaː ⌜ban⌝num mi⌜ʃi⌝ri](入れるときは私にも見せなさい)。ミ⌜ジェー⌝　カ⌜タ⌝ミキー　⌝カミナ　イ⌜リリ [mi⌜ʤeː⌝ kḁ⌜ta⌝mi kiː ⌝kamina ʔi⌜riri](水は担いできて水甕に入れなさい)。ウ⌜サイ⌝ヤー　ジ⌜ブ⌝クナ　イ⌜リティ⌝　マ⌜チ⌝バ [ʔu⌜sai⌝jaː ʤi⌜bu⌝kuna ʔi⌜riti⌝ ma⌜ʧi⌝ba](御菜は重箱に入れてお供えしなさい)。カ⌜グ

˺ナー　イ˞リラヌ [ka˞gu˺na: ʔi˞riranu](籠には入れない)。パ˞ク˺ナー　イ˞リル˺　クトー　˺ナルン [pḁ˞ku˺na: ʔi˞riru˺ ku̥to: ˺naruŋ](箱に入れることは出来る)。イ˞リ˺　ミサカー　イ˞リレー˺　ミサムヌ [ʔi˞ri˺ misaka: ʔi˞rire:˺ misamunu](入れて良ければ、入れれば良いのに)。

イ˞リンガ˺サ [ʔi˞riŋga˺sa] 【名】麻疹 (はしか)。ク˞トゥシヌ˺　フ˞ヨー˺　イ˞リンガサ˺ヌ　パ˞ヤー˺リ　˞ブー˺ツォー [ku̥˞tuʃinu˺ ɸu˞joː˺ ʔi˞riŋgasa˺nu pa˞jaː˺ri ˞bun˺tso](今年の冬は麻疹が流行しているそうだ)。

˺イル [˺ʔiru] 【名】色。色彩。ッ˞ス˺イル [s˞su˺iru](白色)。ッ˞ふ˺イル [f˞fu˺iru](黒色)。ア˞ガイル [ʔa˞gairu](赤色)。˞キール [˞kiːru](黄色)。˞ワー˺ムノー　˺ヌー　˺イルヤ [˞waː˺ munoː ˺nuː ʔiruja](君のは何色か)。ウ˞ダラ˺キティ　˺イロー　˺ッサイティ　˞ピン˺ギ　˞パッ˺タヤー [ʔu˞dara˺ki̥ti ˺ʔiroː ˺ssaiti ˞piŋ˺gi ˞pat˺tajaː](驚いて顔面蒼白になって < 顔色は白んで > 逃げていったよ)。˺イル　˞カイ˺ヤン [˺ʔiru ˞kai˺jaŋ](色が美しい)。

˺イル [˺iru] 【助数】ひろ (尋)。長さの単位。大人の両手を広げた長さ。˺ヒル [˺çiru](尋)、˺ピル [˺piru](尋)の異形態を持つ。プ˞ス˺イル [pu̥˞su˺iru](一尋)、フ˞タイル [ɸu̥˞tairu](二尋)、˞ミール [˞miːru](三尋)、˺サンピル [˺sampiru](三尋) ともいう。˞ユーイル [˞juːiru](四尋)、イ˞チ˺イル [ʔi˞ʧi˺iru](五尋)、˞ムーイル [˞muːiru](六尋)、ナ˞ナ˺ヒル [na˞na˺çiru](七尋)、˞ヤーヒル [˞jaːçiru](八尋)、ク˞ヌ˺ヒル [ku˞nu˺çiru](九尋)、˞トゥーヒル [˞tuːçiru](十尋)。˺ジッピル [˺ʤip-piru](十尋)、˺ニジッピル [˺niʤippiru](二十尋)、˺サンジッピル [˺sanʤippiru](三十尋)、˞ヒャッ˺ピル [˞çap˺piru](百尋)。ク˞ヌ　ナー˺ヤ　˞ギューヒル˺　ア˞ル˺ワ [ku˞nu naː˺ja ˞gjuːçiru˺ ʔa˞ru˺wa](この縄は何尋あるか)。

イ˞ル˺イル [ʔi˞ru˺iru] 【名】いろいろ。種々様々。イ˞ルイル˺ヌ　シ˞ナムヌバ˺　タ˞ナ˺ナ　カ˞ザリティ　カーシオーッ˺タ [ʔi˞ruiru˺nu ʃi˞namunuba˺ ta˞na˺na ka˞ʤariti kaːʃiʔoːt˺ta](いろいろな品物を棚に飾って < 並べ揃えて > 売っておられた)。イ˞ルイル˺ヌ　パ˞ナ˺シーン　シ˞キル　ブー [ʔi˞ruiru˺nu pa˞na˺ʃiːŋ ʃi̥˞kiru buː](いろいろの話 < 噂 > も聞いている < 聞いてぞおる >)。

イ˞ル˺ウティ [ʔi˞ru˺ʔuti] 【名】色落ち。色がさめること。色が褪せること。˞キン˺マー　˺ドゥク　ア˞ラウ˺カー　イ˞ル˺ウティ　˞シース [˞kim˺maː ˺duku ʔa˞rau˺kaː ʔi˞ru˺ʔuti ˞ʃiːsu](着物はあまり洗うと色落ちしてしまう <色褪(イロアセ)してしまう >)。

イ˞ル˺カジ [ʔi˞ru˺kaʤi] 【名】いろいろ。品数。品目。多くの種類。「色数」の義。マ˞チヤー˺ナ　˞キン˺ヌ　イ˞ル˺カジ　シ˞ナカジバ˺ < イ˞ルジナ　カージ˺ナ >　ス˞ロー˺シティ　˞カーシオー˺ル [ma˞ʧijaː˺na ˞kin˺nu ʔi˞ru˺kaʤi ʃi˞nakaʤiba˺ < i˞ruʤina kaːʤi˺na > su˺roː˺ʃi̥ti ˞kaːʃiʔoː˺ru](店には着物のいろいろ、品数を取り揃えて売っておられる)。

˺イルキン [˺ʔirukiŋ] 【名】色柄模様の着物。派手な着物。「色衣 (いろきぬ)」の転訛したもの。ッ˞ス˺キン [s˞su˺kiŋ](白い着物。芭蕉衣や麻衣) 等の無地に対する柄物の着物の意。バ˞カー˺タケンマー　˺イルキンバ　キ˞シェー˺ティ　サ˞ニ˺ヤティ　˞アークタンドゥ˺　マ˞ナ˺マー　キ˞スンティ˺　ウ˞モーラ˺ヌ [ba˞kaː˺takemmaː ˺ʔirukimba ki̥˞ʃeː˺ti sa˞ni˺jati ˞ʔaːkutan˺du ma˞na˺maː ki˞sunti˺ ʔu˞moːra˺nu](若かった頃は色柄物を着て嬉しがっていたが今は着ようとは思はない)。

˺イルクルー [˺ʔirukuruː] 【名】色黒。色黒の人。ク˞ヌ˺　ッ˞ふァー˺　イルクルー　ヤ˞ルヌ　カー˺ゲー　アン˞ダー [ku˞nu˺ f˞faː˺ ʔirukuruː ja˞runu kaː˺geː ʔan˞daː](この子は色黒だが容姿 < 姿形 > は美しい < 形はある > よ)。

イ˞ルシキソッ˺コー [ʔi˞ruʃi̥kisok˺koː] 【名】二十五年忌、三十三年忌の法事。二十五年忌の法事からは法事料理や飾り付けに紅色の使用が許されることから命名されたという。「色付け焼香」の義。イ˞ルシキソッ˺コー　ヤ˞ルンダ˺　カ˞マブクン˺　ア˞ラシコーシン˺　ム˞チン˺　ア˞ガイル˺　シキミサンツォー [ʔi˞ruʃikisok˺koː ja˞runnda˺ ka˞mabukuŋ˺ ʔa˞raʃikoːʃim˺ mu˞ʧiŋ˺ ʔa˞gairu˺ ʃi̥kimisantsoː](「色付け焼香 (法事)」だから蒲鉾も蒸し菓子も餅も紅 < 赤色 > を付けてよいそうだ)。

イ˞ルシキ˺ムチ [ʔi˞ruʃiki˺muʧi] 【名】色のついた餅。「色付き餅」の義。ア˞ガムチ [ʔa˞gamuʧi](赤い餅。赤こうじで色つけした餅)。˞キールムチ [˞kiːrumuʧi](黄色い餅。鬱金 < ウコン > で色づけした餅)。˞アウムチ [˞ʔaumuʧi](青い餅。蓬の汁で色づけした餅) 等がある。˞アウムチェー˺　フ˞チン˺パーヌ　˺シルシル　˺イロー　シ˞キ˺ル [˞ʔaumuʧeː˺ ɸu̥˞ʧim˺paːnu ˺ʃiruʃiru ˺ʔiroː ʃi̥˞ki˺ru](青餅は蓬の葉っぱの汁で色はつける)。

˺イル　シ˞キ˺ルン [˺ʔiru ʃi̥˞ki˺ruŋ] 【連】色づく。色がつく。熟する。˞マー˺　シ˞グニ˺チシェー　˞マイ

ヤー˥　イル　シ˩キ˥ルン [˩maː˥ ʃi˩guni˥ʧiʃeː ˩maijaː˥ ʔiru ʃi̥˩ki˥ruŋ](後四五日では稲は完熟する＜色がつく＞)。

イ˩ル˥ジナ [ʔi˩ru˥ʤina] 【連体】いろいろな。多種類の。多品目の。不必要な。余計な。イ˩ル˥ジナ　˥クトゥ　˩シーミッ˥タン [ʔi˩ru˥ʤina ˥ku̥tuŋ ˩ʃiːmit˥taŋ](色々なこともしてみた)。イ˩ル˥ジナ　ム˩ヌ˥バ　˩カイ˥キー　˥シケーンドゥ　シゥ˩カイミツェー˥　ノー˩ン　ナー˥ヌ [ʔi˩ru˥ʤina mu˩nu˥ba ˩kai˥kiː ˥ʃi̥keːndu si̥˩kaimitʃeː˥ noː˩n naː˥nu](いろいろなものを買ってきてあるが使い道が全くない＜役立たない＞)。

イ˩ルジナカー˥ジナ [ʔi˩ruʤinakaː˥ʤina]【副】いろいろと。あれやこれやと。種々さまざま。ABCDEFCD型の重言。「色品・ける (異る。「異、コトナリ、ハナハダシ・ケニ」『類聚名義抄』)」の転訛したものか。石垣方言では、イルジナカルジゥナ (石垣方言) という『石垣方言辞典』。シ˩グトゥン˥　イ˩ルジナカー˥ジナ　˩シーミッタン˥ドゥ　˩ダーッ˥サー　˩ナーン˥シェン [ʃi˩gutuŋ˥ ʔi˩ruʤinakaː˥ʤina ˩ʃiːmittan˥du ˩daːs˥saː ˩naːŋ˥ʃeŋ](仕事もいろいろとやってみたが思わしくなかった＜うまくいかなかった＞)。

イ˩ル˥ジナ　˥ムニ [ʔi˩ru˥ʤina ˥muni] 【連】余計な言葉＜もの言い＞。余計なお喋り＜不平不満＞。不必要な言葉。ウ˩ヌ˥　ミ˩ドゥ˥モー　ウマーカ˩マー˥ナ　イ˩ル˥ジナ　˥ムニバ　イ˩ジ　ムン˥ドー　ウ˩ク˥シ　˥シケー [ʔu˩nu˥ mi˩du˥moː ʔumaːka˩maː˥na ʔi˩ru˥ʤina ˥muniba ʔi˩ʤi mun˥doː ʔu˩ku˥ʃi ˥ʃi̥keː](この女は此処彼処で余計なお喋り＜不必要なもの言い＞をして喧嘩口論を起こしている)。

˥イルジルー [˥ʔiruʤiruː] 【名】色白。色白の美人。˩ウン˥ネヌ　ミ˩ドーン˥ッふァー　ムー˩ル˥　イルジルー　ヤ˩リティ˥　イッ˩ケン˥　ア˩バ˥レーン [˩ʔun ˥nenu mi˩doːŋ˥ffaː muː˩ru˥ ʔiruʤiruː ja˩riti˥ ʔik˩keŋ˥ ʔa˩ba˥reːŋ](あの家の娘さん＜女の子＞は皆色白で非常に美しい＜美人である＞)。

˥イル　ス˩ムン [˥ʔiru su˩muŋ] 【連】色を染める。染色する。舟の帆はア˩カ˥ズミ [ʔa˩ka˥ʤumi](ひるぎ＜蛭木＞。マングローブ) の皮を煎じて赤色に染めた。˥イダフニヌ　˩プーヤ˥　ア˩カ˥ズミキーヌ　˩カー˥バ　˥シジティ　ア˩ガイル˥　ス˩モーッ˥タ [˥ʔidaɸuninu ˩puːja˥ ʔa˩ka˥ʤumikiːnu ˩kaː˥ba ˥ʃiʤiti ʔa˩gaʔiru˥ su˩moːt˥ta](サバニ＜イダフニ＞の帆はヒルギの皮を煎じて赤色を染められた)。

イ˩ル˥ダイ [ʔi˩ru˥dai]【名】色褪せること。「色絶え」の義。カ˩ツシンヌ˥　ア˩ガパタン　ミール　グイルヌ˥　パ˩タン　サーシティ˥　グ˩ニン　ナッ˥ター　イ˩ル˥ダイ＜イ˩ル˥ウティ＞　˩シーナーン˥バン [kḁ˩tsuʃinnu˥ ʔa˩gapatam miːru guirunu˥ pḁ˩tan saːʃiti˥ gu˩nin nat˥taː ʔi˩ru˥dai ＜i˩ru˥uti＞ ˩ʃiːnaːm˥baŋ](カツオ漁船の大漁旗の赤旗、三色旗、五色旗も新調して五年になったので色褪せしてしまったわい)。

イ˩ルッ˥サイ [ʔi˩rus˥sai] 【名】顔面蒼白。顔色が真っ青になること。「色白み」の転訛したもの。ヤ˩ラ˥ベー　イ˩ルッ˥サイ　˩スン˥ケン　ウ˩バイ　ベー [ja˩ra˥beː ʔi˩rus˥sai ˩suŋ˥keŋ ʔu˩bai beː](子供は顔面蒼白になるほど恐れて＜怖がって。驚いて＞いる)。

˥イル　ッ˩サイ˥ルン [˥ʔiru s˩sai˥ruŋ] 【連】顔面蒼白となる。真っ青になる。血の気を失い顔色が青くなる。青ざめる。「色・白げる＜下一段＞」の義。˥イル　˥ッサウン [˥ʔiru ˥ssauŋ](顔面蒼白となる＜下二段＞の四段化したもの) と同じ。˥イル　ッ˩サイ˥ルンケン　ヤ˩ラビ˥バ　ウ˩バーシ˥シケー [˥ʔiru s˩sai˥ruŋkeŋ ja˩rabi˥ba ʔu˩baːʃi˥ʃi̥keː](真っ青になるまで＜顔面蒼白になるまで＞子供を驚かせてある＜びっくりさせてある＞)。˥イル　ッ˩サイ˥ルンケン　ウ˩ダラ˥キ　˩ベー [˥ʔiru s˩sai˥ruŋkeŋ ʔu˩dara˥ki˩beː](顔面蒼白になるほど驚いている)。

˥イル　˥ッサウン [˥ʔiru ˥ssauŋ] 【連】顔面蒼白となる。「色・白む」の義。˥ウヤン　イ˩ザリティル˥　イル　˥ッサイ　˩ベー [˥ʔujaŋ ʔi˩ʤaritiru˥ ʔiru ˥ssai ˩beː](親に叱られて＜ぞ＞顔面蒼白になっている)。ウ˩ダラ˥クカー　˥イル　˥ッサウン [ʔu˩dara˥kukaː ˥ʔiru ˥ssauŋ](驚いたら顔面蒼白になる)。イ˩ザリタンティン˥　イロー　ッ˩サー˥ヌ [ʔi˩ʤaritantiŋ˥ ʔiroː s˩saː˥nu](叱られても顔面蒼白にならない)。˥イル　˥ッサウ　˥ピンマー　ブ˩チ˥クン　˩スンダ　キー˥　シ˩キ˥リ [˥ʔiru ˥ssau ˥pimmaː bu˩ʧi˥kun ˩sunda kiː˥ ʃi̥˩ki˥ri](顔面蒼白になる時は気絶するから、気をつけなさい)。

˥イル　ッ˩ソー˥ン [˥ʔiru s˩soː˥ŋ] 【連】色が白い。色白である。ク˩ヌ˥　ミ˩ドーン˥ッふァー　˩サッ˥コー　˥イル　ッ˩ソー˥ン [ku˩nu˥ mi˩doːŋ˥ffaː ˩sak˥koː ˥ʔiru s˩soː˥ŋ](この女の子は非常に色が白い)。色が白い。色白である。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　イル　ッ˩ソー˥ン [ku˩nu˥ f˩faː˥ ʔiru s˩soː˥ŋ](この子は色が白い。この子は色白である)。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　イル　ッ˩ソー˥ワ˩ナー [ku˩nu˥ f˩faː˥ ʔiru s˩soː˥wa˩naː](この子は色が白いねえ)。

˥イル　トゥ˩ブン [˥ʔiru tu˩buŋ] 【連】顔色を失う。顔

色が真っ青になる。「色・飛ぶ」の義。ドゥ˩シザーン˥ナリ　˥アイ　˩ベーン˥ケン　˩ズンサ˥ヌ　˩オーッ˥ター　˥イロー　トゥ˩ビティ　フッツォーリベー [du˩ʃidʑa:n˥nari ˥ʔai ˩be:ŋ˥ken ˩ʤunsa˥nu ˩ʔo:t˥ta: ˥ʔiro: tu˩biti ɸuttso:ribe:](友達どうしで喧嘩していると警官が来られたので、真っ青になって＜顔色を失って＞ぶるぶるがたがた震えている)。˥イロー　˥ヌグン [˥ʔiro: ˥nuguŋ](真っ青になる＜色が抜ける。顔色が抜ける＞) ともいう。

イ˩ル˥ドゥリ [ʔi˩ru˥duri] 【名】彩り。彩色。チ˩カグル˥ヌ　サ˩シン˥マー　ムー˩ル˥　イ˩ル˥ドゥリ　サ˩リティ˥　イ˩カムス˥ク　˩カイ˥ヤワ˩ツォー [ʧi̥˩kaguru˥nu sa˩ʃim˥ma: mu:˩ru˥ ʔi˩ru˥duri sa˩riti˥ ʔi˩kamusu̥˥ku ˩kai˥jawa˩tso:](近頃の写真はみんな彩色されていて＜カラー写真で＞何と美しいことか＜どんなに美しいかってば＞)。

イ˩ルドゥリカー˥ドゥリ [ʔi˩rudurika:˥duri] 【副】色とりどりに。彩色豊かに。ABCDEFCD 型の重言。「いろどり (彩)」の強調表現。ム˩カ˥シェー　˥ソンガチ　˥ナルカー　ミ˩ドーン˥ッふァンマー　イ˩ルドゥリカー˥ドゥリ　ア˩ラキンバ　カイ˥　キ˩サソーッタン [mu˩ka˥ʃe: ˥soŋgatʃi ˥naruka: mi˩do:ŋ ˥ffamma: ʔi˩rudurika:˥duri ʔa˩rakimba kai˥ ki̥˩saso:t ˥taŋ](昔は正月になると、女の子には色とりどりに新しい着物を買って着せられた)。

イ˩ル˥ヌ　カ˩ター˥ン [ʔi˩ru˥nu kḁ˩ta:˥ŋ] 【連】色が濃い。ス˩ナカ˥ヌ　˥イロー　フ˩カーン˥　トンマー　˩アウイルヌ˥　カ˩ター˥ン [su˩naka˥nu ˥ʔiro: ɸu̥˩ka:n˥ tomma: ˩ʔauirunu˥ kḁ˩ta:˥ŋ](海の色は、深いところは青色が濃い)。

イ˩ル˥ヌギ [ʔi˩ru˥nugi] 【名】脱色。「色抜き」の義。˩イー˥シェー　ミ˩ジ˥ナ　シ˩キティ˥　イ˩ル˥ヌギ　シ˩ティ　イーシ˥ヌ　˩コー˥マ　タ˩キ˥バ [˩ʔi:˥ʃe: mi˩ʤi˥na ʃi̥˩kiti˥ ʔi˩ru˥nugi ʃi̥˩ti ʔi:ʃi˥nu ˩ko:˥ma tḁ˩ki ˥ba](角叉は水に浸け、脱色してトコロテンを炊き＜糊状に煮詰め＞なさい)。

˥イル　ヌ˩ギ˥ルン [˥ʔiru nu˩gi˥ruŋ] 【連】顔面蒼白になる。血の気が引く。「色抜ける」の転訛したもの。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　ウ˩ダラ˥クカー　˥イルヌ˩ギ˥ルン＜˥ッサウン＞[ku˩nu˥ f˩fa:˥ ʔu˩dara˥kuka: ˥ʔiru nu˩gi˥ruŋ ＜˥ssauŋ＞](この子は驚くと顔面蒼白になる)。

イ˩ルヌ˥ムヌ [ʔi˩runu˥munu] 【名】色物。食紅で朱色に染めた蒲鉾や赤い餅。祝儀の供物。˩ヨイ˥グトゥナー　イ˩ルヌ˥ムノー　ヤー˩ディン˥　ス˩コーリシタ [˩joi˥gutuna: ʔi˩runu˥muno: ja:˩din˥ su̥˩ko:ri ʃi̥ta](祝儀には食紅で色を付けた供物を必ず用意した)。

˥イル　フ˩カイ˥ルン [˥ʔiru ɸu̥˩kai˥ruŋ] 【連】顔色が赤くなる。顔が火照って赤くなる。発熱したり、上気したり、興奮したりして顔が赤くなる。ヤ˩ラ˥ベー　˥イロー　˥フカイティ　ニ˩ビベー˥バ　ニ˩チ˥ヌ　˥アルパジ [ja˩ra˥be: ˥ʔiro: ˥ɸu̥kaiti ni˩bibe:˥ba ni˩ʧi˥nu ˥ʔarupaʤi](子供は顔が火照って寝ているから熱がある＜発熱している＞はずだ)。

˥イル　フ˩キルン [˥ʔiru ɸu̥˩kiruŋ] 【連】顔面蒼白となる。「色・ふける (自動、下一段)」の転訛したもの。顔から血の気が失せて真っ青になる。ヤ˩ラ˥ベー　ウ˩バウ˥カー　˥イル　フ˩キルン [ja˩ra˥be: ʔu˩bau˥ka: ˥ʔiru ɸu̥˩kiruŋ](子供は驚くと顔面蒼白となる＜顔の色が抜ける＞)。ウ˩バウタンティン˥　イロー　フ˩キラ˥ヌ [ʔu˩bautantiŋ˥ ʔiro: ɸu̥˩kira˥nu](驚いても顔色は失せな)。˥イル　フ˩キ˥ル　˥クトー　˩ナー˥ヌ [˥ʔiru ɸu̥˩ki˥ru ˥ku̥to: ˩na:˥nu](顔面蒼白になることはない)。

˥イル　˥フクン [˥ʔiru ˥ɸu̥kuŋ] 【連】顔面蒼白となる。「色・ふく (自動、四段)＜色がにげる＞」の転訛したもの。˥イル　フ˩キ˥ルン [˥ʔiru ɸu˩ki˥ruŋ] と同じ。ウ˩レー˥　イ˩ズ˥カー　˥イル　フクン˩ダー [ʔu˩re:˥ ʔi˩ʤu˥ka: ˥ʔiru ɸu̥kun˩da:](彼＜あれ＞は叱ると顔面蒼白になるよ)。˥イロー　˥フキティ　トゥ˩ルバイ　ベー [˥ʔiro: ˥ɸu̥kiti tu˩rubai be:](顔面蒼白になってぽかんとしている)。˩ウンザン˥　ウ˩バーサリ˥　イロー　˥フキティル　˩フッツォーリ　ベー [˩ʔunʤaŋ˥ ʔu˩ba:sari˥ ʔiro: ˥ɸu̥kitiru ˩ɸuttso:ri be:](あいつに驚かされて、顔面蒼白になって震えている)。

イ˩ル˥ブリ [ʔi˩ru˥buri] 【名】色気違い。色ごとに夢中になること。バ˩カーン˥ケンナ　イ˩ル˥ブリ　˩スー˥カー　˩ナウサラン˥ツォー [ba˩ka:ŋ˥kenna ʔi˩ru˥buri ˩su:˥ka: ˩nausaran˥tso:](若い時に色気違いになると直せないそうだ)。

イ˩ルブリ˥ムヌ [ʔi˩ruburi˥munu] 【名】色気違いの人。色事に現を抜かす者。「色・惚れ者」の義。˥イルブラー [˥ʔirubura:](色気違い) ともいう。ウ˩ヌ˥　プ˩ソー˥　イ˩ルブリ˥ムヌ　˥ナリティ　˩ヨー˥ゾー　シ˩キララ˥ヌ [ʔu˩nu˥ pu̥˩so:˥ ʔi˩ruburi˥munu ˥nariti ˩jo:˥ʤo: ʃi̥˩kirara˥nu](その人は色気違いになって手がつけられない＜養生できない＞)。

イ˩ルム˥チ [ʔi˩rumu˥ʧi] 【名】血色。顔色。「色持ち」

の義か。˺アッパー　˺ドゥーパダヌ　イ˹ルム˺チン　˹カイ˺ヤー　ア˹ロー˺リ　˹ソーヤ　ナーン˺バン [˺ʔappa: ˺du:padanu ʔi˹rumu˺ʧiŋ ˹kai˺ja: ʔa˹ro:˺ri ˹so:ja na:m˺baŋ](お祖母さんは肌の色も＜顔の色も＞きれいであられるし、心配はないわい)。

イ˹ル˺ヤン [ʔi˹ru˺jaŋ] 【名】恋患い。「色病み」の義。˺フカナー　ミ˹ドゥム˺ヌ　ブ˹ラーンモー˺　ア˹ラ˺ナー　イ˹ルヤン˺バ　˹シー　ガンドー˺レーティ　˹アー˺ク [˺ɸu̥kana: mi˹dumu˺nu bu˹ra:mmo:˺ ʔa˹ra˺na: ʔi˹rujam˺ba ˹ʃi: gando:˺re:ti ˹ʔa:˺ku](ほかに女がいないわけでもないのに、恋患いをしてしょげているなんて)。

イ˹ル˺ユク [ʔi˹ru˺juku] 【名】色欲。肉欲。イ˹ルユ˺クサーギ　チ˹チシミシェー˺カー　ウ˹ブマチガイヤー　サン˺パジ [ʔi˹ruju˺kusa:gi ʧi̥˹ʧiʃimiʃe:˺ka: ʔu˹bumaʧigaija: sam˺paʤi](色欲さえ慎むことが出来たら大きな誤りはしないはずだ)。

イ˹ルン [ʔi˹ruŋ] 【他動】射る。鉄砲や弓矢で射る。鉄砲で撃つ。˺カマイ　イ˹ルンテイ　ティップ˺　カ˹タ˺ミティ　ヤ˹マー　オーッ˺タ [˺kamai ʔi˹runti tippu˺ kḁ˹ta˺miti ja˹ma: ʔo:t˺ta](猪を撃とう＜射よう＞と鉄砲を担いで山へ行かれた)。˺クナー　˹ベー˺ルカー　イ˹ラリンｔダー [˺kuna: ˹be:˺ruka: ʔi˹rarinʇda:](ここにいると鉄砲で射ら＜撃たれ＞れるよ)。˹ティップ˺シ　˺カマイ　イ˹リ˺　ミサカー　イ˹ル˺　クトー　˺ナルン [˹tippu˺ʃi ˺kamai ʔi˹ri˺ misaka: ʔi˹ru˺ ku̥to: ˺naruŋ](鉄砲で猪を射て良ければ射ることは出来る)。「～立ち向ひ射流＜イル＞的形は～。万、61」の転訛したもの。˺ユンシ　イ˹ルン [˺juŋʃi ʔi˹ruŋ](弓で射る)。˹ティップー˺シ　イ˹ラリン [˹tippu:˺ʃi ʔi˹rariŋ](鉄砲で撃たれ＜射られ＞る)。イ˹レー˺　ミサムヌ [ʔi˹re:˺ misamunu](撃てば＜射れば＞良いのに)。˹ティップー˺シ　˺カマイ　イ˹リ˺バ [˹tippu:˺ʃi ˺kamai ʔi˹ri˺ba](鉄砲で猪を撃て＜射れ＞よ)。

イ˹ルン [ʔi˹ruŋ] 【他動】入れる。「入る (下二段活用)」の四段活用化したもの。˹クン˺ナー　イ˹ラヌ [˹kun˺na: ʔi˹ranu](これには入れない)。˹クンナー˺ル　イ˹リ˺プサ [˹kunna:˺ru ʔi˹ri˺pu̥sa](これに入れたい)。˹バン˺ヌン　イ˹ルン [˹ban˺nuŋ ʔi˹ruŋ](私も入れる)。イ˹ル　プソー˺　ブ˹ラーヌ [ʔi˹ru pu̥so:˺ bu˹ra:nu](入れる人はいない)。イ˹レー˺　ミサムヌ [ʔi˹re:˺ misamunu](入れたらいいのに)。˹パー˺ク　イ˹リ˺バ [˹pa:˺ku ʔi˹ri˺ba](早く入れなさい)。「ココロヲイルル、また、セイヲイルル」『邦訳日葡辞書』の四段化し、転訛したもの。˹ワー˺　ク˹リバ˺　パ˹ク˺ナー　イ˹ル˺カー　˹バン˺ヌン　イ˹ルン˺ダー [˹wa:˺ ku˹riba˺ pḁ˹ku˺na: ʔi˹ru˺ka: ˹ban˺nuŋ ʔi˹run˺da:](君がこれを箱に入れたら私もいれるよ)。˺バー　イ˹ラヌ [˺ba: ʔi˹ranu](私は入れない)。パ˹ク˺ナー　イ˹リ˺　ミサカー　イ˹ル˺　クトー　˺ナルン [pḁ˹ku˺na: ʔi˹ri˺ misaka: ʔi˹ru˺ ku̥to: ˺naruŋ](箱に入れて良ければ入れることは出来る)。˹マー˺ビン　イ˹レー˺　ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ʔi˹re:˺ misamunu](もっと入れれば良いのに)。ヤー˹ディン　クン˺ナー　イ˹リ˺ヨー [ja:˹diŋ kun˺na: ʔi˹ri˺jo:](必ずこれに入れなさいよ)。

イ˹ルン [ʔi˹ruŋ] 【自動】要る。入用である。必要である。日常会話では、カ˹カ˺ルン [kḁ˹ka˺ruŋ](掛かる)ともいう。˹ワー˺　カイブ　˺ムノー　イ˹ルン [˹wa:˺ kaibu ˺muno: ʔi˹ruŋ](君は、こんなものは要るか)。イ˹ラン˺　クトー　ス˹ナ [ʔi˹raŋ˺ku̥to: su˹na](要らないことはするな＜余計なことをするな＞)。˺バー　˺アイブ　˺ムノー　イ˹ラヌ [˺ba: ˺ʔaibu ˺muno: ʔi˹ranu](私はそのようなものは要らない)。イ˹ル˺ム˹ノー˺　ヌーヌーヤ [ʔi˹ru˺ mu˹no:˺ nu:nu:ja](要る物は何々か)。

イ˹ルン [ʔi˹ruŋ] 【自動】入る。没する。ティ˹ダ˺ヌ　イ˹ルン˺ケン　パ˹タ˺キナー　シ˹グトゥ　シーベー [ti˹da˺nu ʔi˹ruŋ˺kem pḁ˹ta˺kina: ʃi˹gutu ʃi: be:](太陽が没する＜入る＞まで畑で仕事をしている)。˺ティダー　マ˹ダ˺　イ˹ラヌ [˺tida: ma˹da˺ ʔi˹ranu](太陽は未だ没しない)。˺ティダー　キサー˹ティ˺　イ˹リ　ナー˺ヌ [˺tida: ki̥sa:˹ti˺ ʔi˹ri na:˺nu](太陽は既に没してしまった)。ティ˹ダ˺ヌ　イ˹ル˺　ピンマー　˹ティンマー˺　ア˹ガーガ˺シ　ヤ˹キス [ti˹da˺nu ʔi˹ru˺ pimma: ˹timma:˺ ʔa˹ga:ga˺ʃi ja˹kisu](太陽が没する時は、天は真っ赤に焼ける)。ティ˹ダ˺ヌ　イ˹レー˺ラー　˹ヨーン˺　ナリティ　ア˹ラカラ˺ヌ [ti˹da˺nu ʔi˹re:˺ra: ˹jo:n˺ nariti ʔa˹rakara˺nu](太陽が没したら暗闇になって歩かれない)。

イ˹ルンガー˺リ [ʔi˹ruŋga:˺ri] 【名】変色。色変わり。ク˹ヌ　キン˺マー　イ˹ルンガー˺リ　˹シーナーン˺バ　キ˹サラヌ [ku˹nu kim˺ma: ʔi˹ruŋga:˺ri ˹ʃi:na:m˺ba ki̥˹saranu](この着物は柄が変色してしまったので着られない)。

イ˹ルンカスン [ʔi˹ruŋkasuŋ] 【他動】太陽光線に暫く当てて乾物や衣類などを干す。少し日干しする。˹マイヤー˺　ティダナ　イ˹ルンカシティ　ペーラ˺シバ [˹maija:˺ tidana ʔi˹ruŋkaʃi̥ti pe:ra˺ʃiba](籾は太

陽に少し干して取り入れなさいよ)。イ˞ルンカシ˞　プサン [ʔi˞ruŋkaʃi˞ pu̥saŋ](日干ししたい)。イ˞ルンカスンティ˞　ン˞ザシタン˞ドゥ　ア˞ミ˞ヌ　˞フイ　イ˞ルンカサラヌ [ʔi˞ruŋkasunti˞ ʔn˞ʤaʃi̥tan˞du ʔa˞mi˞nu ˞ɸui ʔi˞ruŋkasaranu](少し日干ししようと出したが、雨が降って日干しできない)。˞キュー˞ヤ　イ˞ルンカス˞　クトー　ナ˞ラン˞バ　˞アツァー　˞イルンカシ˞ヨー [˞kjuː˞ja ʔi˞ruŋkasu˞ ku̥toː na˞ram ˞ba ˞ʔatsaː ʔi˞runkaʃi˞joː](日は日干しすることが出来ないから、明日日干ししなさいよ)。˞マー˞ビン　イ˞ルンカシェー˞　ミサムヌ [˞maː˞biŋ ʔi˞ruŋkaʃeː˞ misamunu](もっと日干しすればいいのに)。天日乾燥する。太陽光に干す。

イ˞ルン˞ナ [ʔi˞run˞na] 【連体】色々な。いろんな。イ˞ルン˞ナ　パ˞ナ˞シ　シ˞キティル　ソー　シーベー [ʔi˞run˞na pa˞na˞ʃi ʃi̥˞kitiru soː ʃiːbeː](いろんな話を聞いて心配している)。

˞イロー　˞アウフキルン [˞ʔiroː ˞ʔauɸu̥kiruŋ] 【連】血の気を失って顔面蒼白となる。˞イロー　フ˞キ˞ルン [˞ʔiroː ɸu̥˞ki˞ruŋ](色が抜ける) ともいう。ウ˞ブヤンバ　シー˞　イロー　˞アウフキティ　トーリンギサ˞ル [ʔu˞bujamba ʃiː˞ ʔiroː ˞ʔauɸu̥kiti toːriŋgisa˞ru](大病をして顔色も血の気を失って今にも倒れそうだ)。

˞イロー　ミ˞ジ˞　ナルン [˞ʔiroː mi˞ʤi˞ naruŋ] 【成】顔色が水のように真っ青になる。ウ˞バイティル˞　イロー　ミ˞ジ˞　ナリ˞ベー [ʔu˞baitiru˞ ʔiroː mi˞ʤi˞ nari˞beː](驚いて顔色は真っ青になっている)。

イ˞ローラ [ʔi˞roːra] 【名】かもじ。そえがみ。婦人の髪に添え加える髪。サ˞カサ [sḁ˞kasa](司) が正装して御嶽へ入る際には、イローラを添えて髪を結っていた。また、豊年祭や結願祭に奉納舞踊を上演する際にも踊り手はイローラを添えて結い髪をし、演舞した。パ˞トゥ˞マナカムリ　ブ˞ドゥル　ソー˞ル　˞ピンマー　イ˞ローラ˞　イ˞リティ˞　ガ˞マ˞ジ　˞ユイヨーッ˞タ [pḁ˞tu˞manakamuri bu˞duru soː˞ru ˞pimmaː ʔi˞roːra˞ ʔi˞riti˞ ga˞ma˞ʤi ˞juijoːt˞ta](˞鳩間中岡 < 森 >」の古典舞踊を踊られる時は、かもじ < 添えが髪 > を入れて < ぞ > 髪を結われた)。パ˞トゥ˞マナカムリ　ブ˞ドゥル　ソー˞ル　˞ピンマー　イ˞ローラ˞　イ˞リソーッ˞タ [pḁ˞tu˞manakamuri bu˞duru soː˞ru ˞pimmaː ʔi˞roːra˞ ʔi˞risoːt˞ta](「鳩間中岡」の踊りを踊られる時はイローラを入れられた < 入れなさった >)。

イ˞ワリ [ʔi˞wari] 【名】謂れ。由来。来歴。理由。˞プー˞ルナ　˞パー˞レー　クイ˞オー˞ル　イ˞ワレー˞　シ˞キミッ˞タン [˞puːru˞na ˞paː˞reː kui˞oː˞ru ʔi˞wareː ˞ʃi̥˞kimit˞taŋ](豊年祭に爬竜船を漕ぐ謂れ < 由来 > を聞いた < 聞いてみた > ことがある)。

˞イン [ʔiŋ] 【名】海。竜宮。歌謡語 (文語)。日常語としては用いない。神歌のア˞マン˞グイ [ʔa˞maŋ˞gui](雨乞い歌) に、˞インスク [˞ʔinsu̥ku](海底) のように歌われている。/インスクヌ　リューガナシヨー　ティンシマディ　アガリョーリヨー　ハーリー　アミタボリ　リューガナシ/(海底の竜神様、天 < 天際 > まで昇ってください。ハーリ、雨を賜りください、竜神さま。) 雨乞い歌 < ハヤミク >。日常語としては、ス˞ナ˞カ [su˞na˞ka](海。< 潮中 > の義) を用いる。

˞イン [˞ʔiŋ] 【名】 1(動)。犬。ク˞レー　タッ˞テヌ　˞インヤ [ku˞reː tat˞tenu ˞ʔiŋja](これはどこの家の犬か)。˞イン˞ヌ　ッ˞スˀヌ　タ˞カアン˞ガリ [˞ʔin˞nu s˞su˞nu tḁ˞kaʔaŋ˞gari](犬の糞の高上り < 身分不相応なことをしたがる者 > 諺)。2干支 (えと) の戌 (いぬ)。˞イン˞ディマリ [˞ʔin˞dimari](戌年生まれ)。˞イン˞ディプス [˞ʔin˞dipusu](戌年生まれの人)。˞イン˞ディ　˞プソー　˞イン˞ヌ　˞バタ [˞ʔin˞di ˞puso: ˞ʔin ˞nu ˞bata](戌年生まれの人は短気者である < 戌の腹だ >。犬は絶えず吼えているから、短気者といわれている)。

˞イン [˞ʔiŋ] 【名】印。印判。˞クン˞ナ　˞イン˞　シ˞キティ˞　ムティクーツォー [˞kun˞naː ˞ʔin˞ ʃi̥˞kiti˞ mutikuːtsoː](これに印を押して持って来いって)。˞インマー˞　プ˞スン˞　カ˞ラセー˞　ナ˞ラン˞ダー [˞ʔimmaː˞ pu̥˞suŋ˞ ka˞raʃeː˞ na˞ran˞daː](印は他人に貸してはならないよ)。

˞イン [˞ʔiŋ] 【名】縁。ゆかり。人間関係。人と人とのつづきあい。˞イン˞ヌ　ア˞リ˞ドゥ　ワ˞ター˞　フ˞ターロー˞　ム˞スバレー˞ユンダ　シ˞カイトゥ˞　キ˞ナイ　パン˞ジョー　ア˞ラ˞シ˞ヨー [˞ʔin˞nu ʔa˞ri˞du ˞wataː˞ ɸu̥˞taːroː˞ mu˞subareː˞junda ʃi̥˞kaitu˞ ki ˞nai pan˞ʤoː ʔa˞ra˞ʃi˞joː](縁があって君達二人は結ばれたのだから、しっかりと家内繁盛に勤めなさい < 家内繁盛あらしめよ >)。˞カッ˞ツァー　˞イン˞マー　˞ナーン˞　ブ˞レー˞ル [˞kat˞tsaː ˞ʔim˞maː ˞naːm˞ bu˞reː˞ru](彼らは縁がなかったのだろうよ)。

˞イン [˞ʔiŋ] 【名】縁側。座敷の外側の細長い板敷。家の外側の板敷きの部分。「この皇子〜えんにはひ上 < のぼ > り給ひぬ」『竹取物語』の転訛したもの。˞トゥーシ [˞tuːʃi](縁側の板敷き) ともいう。˞マン

タヌ　˥イン [˥mantanu ˥ʔiŋ](前の縁側)。˩アンタヌ˥　イン [˩ʔantanu˥ ʔiŋ](東の縁側) などがある。一番座、二番座、三番座の周りを縁側にして、板張りにした所。巾 3 尺、長さ 9 尺に造るのが多い。ナ˩チェー˥　アツァユンダ　˥インナール　˥ムス　シ˩キティ˥　ニ˩ブタル [na˩ʧe:˥ ʔatsajunda ˥ʔinna:ru ˥musu ʃi̥˩kiti˥ ni˩butaru](夏は暑いので縁側に筵を敷いて＜ぞ＞寝たものだよ)。

˥イン [˥jiŋ] 【名】円。貨幣の単位。近代以降に借用された語彙。ム˩カ˥シェー　˥イチインティ　˩スー　ジン˥マー　ウ˩ブジン　ヤッタヌ˥　マ˩ナ˥マー　˥イチインシェー　ア˩ミダマンツァン　カーラヌ [mu˩ka˥ʃe: ˥ʔitʃijinti ˩su: ʤim˥ma: ʔu˩buʤiŋ jattanu ˥ma˩na˥ma: ˥ʔitʃijiŋʃe: ʔa˩midamantsaŋ ka:ranu](昔は一円といえば大金だったが、今では一円では飴玉さえ＜すら＞も買えない)。

˥インアーサ [˥ʔiŋʔa:sa] 【名】食用とならない緑藻類の海藻の一種。˩アー˥サー　ンマー˥ヌンドゥ　˥インアーサー　ッ˩ふァーラヌ [˩ʔa:˥sa: ʔm˩ma:˥nundu ˥ʔiŋʔa:sa: f˩fa:ranu](あおさ＜あおのり＞は美味しいが、インアーサは食べられない)。

˥インイシ [˥ʔiŋʔiʃi] 【名】キクメイシ (菊目石)。半球体の珊瑚。海石。普通は、ス˩ブル˥イシ [su˩buru ˥ʔiʃi](頭石。人頭大の海石) という。˥インイシシル　˩ヤー˥ヌ　イ˩シジ　ソーッ˥タ [˥ʔiŋʔiʃiʃiru ˩ja:˥nu ʔi˩ʃiʤi so:t˥ta](菊目石で＜ぞ＞家の礎石にされた)。

˩インカジ [˩ʔiŋkaʤi] 【名】西風。˩インカジヌ˥　フクカー　˩オシキヌ　ノー˥ル　˩マイシラ˥シ [˩ʔiŋkaʤinu˥ ɸu̥kuka: ˩ʔoʃi̥kinu no:˥ru ˩maiʃira˥ʃi](西風が吹くと好天になる前触れ＜前知らせ＞だ)。

˩イン˥　キスン [˩ʔiŋ˥ ki̥suŋ] 【連】縁を切る。ヤ˩ナクトゥ　スー˥カー　ウ˩ヤッふァ˥ヌ　˥イン　˥キスンティ　ア˩ゾーッ˥タ [ja˩nakutu su:˥ka: ʔu˩jaffa˥nu ˥ʔiŋ ˥ki̥sunti ʔa˩ʤo:t˥ta](悪事を働くと親子の縁を切るといわれた)。

˩インキリ˥ムニ [˩ʔiŋkiri˥muni] 【名】絶縁したくなる不快な言葉。呆れるような言葉。愛想の尽きる物言い。「縁切れもの言い」の義。˥アイブ　˩インキリムニ˥バ　イ˩ザリティル˥　ウ˩ヌス˥ク　˩クン˥ゾー　ンジ˩オー˥ルティ　˥ムカーヤ [˥ʔaibu ˩ʔiŋkirimuni˥ba ʔi˩ʤaritiru˥ ʔu˩nusu˥ku ˩kun˥ʤo: ˥ʔnʤi˩ʔo:˥ruti ˥muka:ja](あんなに口汚く罵られて＜縁切れ言葉を言われて＞、それで＜ぞ＞あれほどに立腹しておられるというものだよ)。

˩インキリ˥ムヌ [˩ʔiŋkiri˥munu] 【名】憎まれっ子。無愛想な性格。人に好かれない性格。「縁切れ者」の意。˥アイブ　˩インキリ˥ムヌティン　ブ˩リスバント ナー [˥ʔaibu ˩ʔiŋkiri˥munutim bu˩risubant-na:](あんな憎まれっ子ってもいるものだなあ)。

˩インキリ˥ルン [˩ʔiŋkiri˥ruŋ] 【自動】あきれ果てる。絶縁したくなるほどにあきれ果てる。愛想が尽きる。「縁切れる」の義。˥アイブー　ヤ˩ナ˥ムニ　ス˩ク˥カー　ター˩ン　インキリ˥ルン [˥ʔaibu: ja˩na˥muni su̥˩ku˥ka: ta:˩ŋ ʔiŋkiri˥ruŋ](あんな悪口を聞くと誰でもあきれ果てて絶縁したくなる)。ウ˩ヌ˥　ムニ　ス˩クター˥　メー　˩インキリ　˩ナー˥ヌ [ʔu˩nu˥muni su̥˩kuta:˥ me: ˩ʔiŋ˥kiri ˩na:˥nu](その言葉を聞いてあきれ果て＜愛想が尽き＞てしまった)。

˩インクニガイ [˩ʔiŋkunigai] 【名】サ˩カサ [sa˩kasa](司。神女。巫女) やティ˩ジリ˥ビー [ti˩ʤiri˥bi:](「手磨りべ」の義か。男のかんなぎ) などの˩カン˥プス [˩kam˥pusu](神人。神職者) が神職を引退する儀式。高齢になって神職を全うすることが出来ないときに、村を通して神々にお許しの祈願をして後に引退する。1989(平成元年) 年 1 月 23 日に行われた加治工伊佐の神職の˩インクニガイ [˩ʔiŋkunigai](隠居祈願) は友利御嶽、新川御嶽、西堂御嶽、ピナイ (鬚川) 御嶽、前泊御嶽、船原御嶽、˩インヌカー [˩ʔinnuka:](西村井戸)、˩マイ˥ヌ　パマ [˩mai˥nu pama](前の浜) などの拝所に祈願がなされた。˩インクニガイヤー　カンプス˥ヌ　˩ティー˥ヌ　ユ˩リー˥ヌ　ニ˩ガイバ˥ル　˩ソー˥ルムー˩トゥ˥ツォー [˩ʔiŋkunigaija: kampu̥su˥nu ˩ti:˥nu ju˩ri:ba˥ru ˩so:˥ru mu:˩tu˥tso:](隠居願いは神人の神職引退の許し＜神職者の手の許し＞を祈願されるものだそうだ)。

˩イン˥グミ [˩ʔiŋ˥gumi] 【名】縁組。˩ウッ˥ツァー　フ˩ターロー˥　キサー˩ティ　イン˥グミ　˩ソー˥レーン˩トゥ˥ツォー [˩ʔut˥tsa: ɸu̥˩ta:ro:˥ ki̥sa:˩ti ʔiŋ˥gumi ˩so:˥re:n˩tu˥tso:](あれら＜彼ら＞二人は既に縁組をされたそうだよ)。

˥インクラサー [˥ʔiŋkurasa:] 【名】犬殺し。犬を捕殺する人。保健所や役場から委嘱されて野犬や鑑札のない犬を捕殺する人。˩イン˥マー　フ˩ダ˥　パ˩カサン˥カー　˥インクラサーン　シゥ˩カマ˥リク˩ラサリント ダー [˩ʔim˥ma: ɸu˩da˥ pḁ˩kasaŋ˥ka: ˥ʔiŋkurasa:n si̥˩kama˥ri ku˩rasarint-da:](犬は札を穿かせないと犬殺しに捕えられて殺されるぞ)。

˩イン˥ザ [˩ʔin˥ʤa] 【名】円座。藁縄や稲藁を円形に

編んだ敷物。稲藁 8〜10 本を束ねて捻じるように渦巻き状に、半径約 15 センチに編んだ敷物。夏の暑い日などには縁側や庭の木陰に置いて、その上に座って雑談したり、煙草を吸ったり、お茶を飲んだりして四方山話をしていた。カ˞ラフンツァˬナ　ビ˞ローランˬドーシ　イ˞ンˬザ　シ˞ビˬナ　ア˞ティˬ　シゥ˞コーˬリバ [ka˞raɸuntsaˬna bi˞ro:ranˬdo:ʃi ˞ˀinˬʤa ʃi˞biˬna ˀa˞tiˬ sɨ̞˞koːriba](何も敷いてない板の間の縁側 < 床板 > にお座りにならないで、円座に腰を掛けてください < 円座をお尻にお当てお敷きなさいまし >)。

˞インタ [˞ˀinta] 【名】西の方。西側。「イリ (西)・ノ (の)・タ (所)」の転訛したものか。˞インタプス [˞ˀintapu̥su](西村の人)。˞インタカタ [˞ˀintakata](西側)。˞インタヌˬピー [˞ˀintanuˬ pi:](島の西側の干瀬) などがある。˞ワー　インターˬラ　˞カイˬシクー [˞wa: ˀintaːˬra ˞kaiˬʃiku:](君は西の方から耕してきなさい)。˞インタヌ　パレーˬフネー　˞タールˬ　トゥ˞ムˬヤクヤー [˞ˀintanu pareːˬ ɸuneː ˞taːruˬ tu˞muˬ jakuja:](西村の爬竜船の船頭 < 艫の櫂を使う人 > は誰か)。

ˬインダ [ˬˀinda] 【名】地名。名寄帳などには「伊武田」と表記されている。伊武田崎一帯。そこには人頭税時代に鳩間島の村人の田小屋が集団的に建てられていたという。石垣で屋敷を築き、小屋を建て、そこに宿泊して各自の田地へ赴き耕作したという。そこをˬインダムラ [ˬˀindamura](伊武田村) という。海岸には˞ナーパマ [˞naːpama](長浜)、ˬフクパマ [ˬɸu̥kupama](福浜)、ˬインダパマ [ˬˀindapama](伊武田浜) がある。˞ナーパマ [˞naːpama] の上には˞ナーパマヌ　ガマ [˞naːpamanu gama](長浜の洞窟) がある。太平洋戦争中は鳩間島の住民がこの洞窟に避難した。ˬインダヌ　ヤ˞マンˬミーナー　˞グスˬクン　シ˞マリティˬ　インダムラヌ　ˬアトゥ　ヌ˞カˬリ　ブ˞タンˬダー [ˬˀindanu ja˞mamˬmiːna: ˞gusu̥ˬkuŋ ʃi˞mariti ˀindamuranu ˬˀatu nu˞kaˬri bu˞tanˬdaː](伊武田の雑木林の中に石垣が積まれて、伊武田村の遺跡 < 跡 > が残っていたよ)。

˞インタカー [˞ˀintakaː] 【名】西の井戸。西の村井戸。普通は、˞インヌカー [˞ˀinnukaː](西の村井戸) という。

˞インタヌ　トゥー [˞ˀintanu tuː] 【連】西の沖。鳩間島の西方の海洋。˞タイパンˬズニ [˞taipanˬʤuni](台湾曽根) やナ˞カヌˬスニ [na˞kanuˬsuni](中の曽根) 等がある˞インタヌトゥー [˞ˀintanu tuː] には黒潮の大河が流れており、カツオ漁船は多くの場合˞インタヌ　トゥー [˞ˀintanu tuː] へ出漁した。˞インタヌ　トゥーナーˬル　カ˞ツォー　ホーˬソーッタ [˞ˀintanu tuːnaːˬru kḁ˞tsoː hoːˬsoːtta](西の沖で < ぞ > カツオは釣られた)。

˞インタヌˬ　ピー [˞ˀintanuˬ piː] 【連】島の西側の干瀬。˞クーˬシビーヤ　˞インタヌˬ　ピーナール　ˬアルミー [˞kuːˬʃibiːja ˞ˀintanuˬ piːnaːru ˬˀarumiː](クーシビーは島の西側の干瀬に < ぞ > あるでしょう?)。

˞インタヌˬ　ピ˞ザˬフチ [˞ˀintanuˬ pi˞ʤaˬɸu̥ʧi] 【連】西村の海岸の渚。˞インタヌˬ　ピ˞ザˬフチナーティル　カ˞ツヌˬ　ス˞ブˬロー　キ˞ソーッˬタ [˞ˀintanuˬ pi˞ʤaˬɸu̥ʧinaːtiru kḁ˞tsunuˬ su˞buˬroː kɨ̞˞soːtˬta](西の渚で < ぞ > カツオの頭は切られた)。

˞インタパナシケー [˞ˀintapanaʃɨ̞keː] 【名】屋号。花城伊佐氏宅。花城家の分家。「西花城家」の義。˞カンザトゥˬヤーヌ　˞シーˬネール　˞インタパナシケー　ヤッタ [˞kanʤatuˬjaːnu ˞ʃiːˬneːru ˞ˀintapanaʃɨ̞keː jatta](慶田城家の後 < 北 > 隣が花城伊佐氏宅であった)。˞インタパナシケーヌˬ　ヒ˞ロスケザーˬ　キ˞チゴンヌˬ　ジーシンカ　ヤ˞ローッˬタ [˞ˀinta-panaʃɨ̞keːnuˬ çi˞rosukeʤaːˬ kɨ̞˞ʧigonnuˬ ʤiːʃiŋka ja˞roːtˬta](花城家 < 西花城家 > の廣助兄さんは結願祭の村踊りの地謡仲間 < 臣下 > であられた)。

˞インタプサッˬキャー [˞ˀintapu̥sakˬkjaː] 【名】屋号。富里善保氏宅。プ˞サˬキャー [pu̥˞saˬkjaː] ともいう。明治中期頃に上原村から鳩間島に移住されたが、昭和 45 年頃に上原村へ再移住された。

˞インタプス [˞ˀintapu̥su] 【名】西村の人。「西の人」の義。˞インタプス　アンタプス　キッˬス　˞シェーˬティ　˞プールゾーラˬケー　ス˞クモーッˬタ [˞ˀintapu̥su ˀantapu̥su kisˬsu ˞ʃeːˬti ˞puːruʤoːraˬkeː su̥ ˞kumoːtˬta](西村の人、東村の人は競争して豊年祭のゾーラキ < 入れ子型踊り。常楽踊り > を仕組まれた)。

˞インタˬヤドゥ [˞ˀintaˬjadu] 【名】家の西側の戸。「西屋戸」の義。普通は勝手口の戸をいう。˞マーシヤドゥ [˞maːʃijadu](回し戸) になっていたり、ピ˞キヤドゥ [pɨ̞˞kijadu](引き戸) になっていたりする。˞インタˬヤドゥ　ア˞キティˬ　キ˞ボーシˬ　ン˞ザˬシ [˞ˀintaˬjadu ˀa˞kitiˬ ki˞boːʃiˬ ˀn˞ʤaˬʃi](西戸 < 西屋戸 > を開けて煙を出しなさい)。

˞インタンカイ [˞ˀintaˀŋkai] 【名】西向き。パ˞トゥˬマナー　˞インタンカイ　シーブー　ヤーˬヤ　プ˞ス

キブ˥ルン˞ナー˥ヌ [pḁ˞tu˥mana: ˞ʔintaŋkai ʃi:bu: ja: ˥ja pu̥˞sukibu˥run ˞na:˥nu](鳩間島には西向きになっている家は一軒もない)。

˞インタンマーラヌ　プス **[˞ʔintammaranu˥ pu̥˞su]** 【連】西方面の人。西部落の人。西表島の字干立、字租納あたりの人。˞インタンマーラヌ˥　プ˞ソー　ナン˥ゾー　˞アンタンマーラー˥　パ˞ラン˥セン [˞ʔintamma:ranu˥ pu̥˞so: nan˥ʤo: ˞ʔantamma:ra:˥ pa˞raŋ˥ʃeŋ](西方面の人は、あまり東方面には行かなかった)。

˞イン˥ツォンマー **[˞ʔin˥tsomma:]** 【名】(固) 人名。士族女子の名前。˞アー˥ネナ　˞イン˥ツォンマヌ　˞オーッタン˥ドゥ　ウ˞キ˥ナー　˞オーッ˥タッツォー [˞ʔa:˥nena ˞ʔin˥tsommanu ˞ʔottan˥du ʔu˞ki˥na: ˞ʔo:t˥tattso:](東隣の家にインツォンマー < インツ姉さん > がおられたが沖縄へ行かれたそうだ)。

˞イン˥ディプス **[˞ʔin˥dipu̥su]** 【名】戌 (いぬ) 年生まれの人。「戌年人」の儀。˞イン˥ディプソー　˞イン˥ヌ　˥バタティ　ア˞ザリ　ブー [˞ʔin˥dipu̥so: ˞ʔin˥nu ˥batati ʔa˞ʤari bu:](戌年生まれの人は犬の腹 < 犬のように気短で吠え立てる性格 > といわれている)。

˞イン˥ディマリ **[˞ʔin˥dimari]** 【名】戌 (いぬ) 年生まれ。˞バン˥テナー　˞イン˥ディマリヌ　フ˞ターンナー　ブン˥ダー [˞ban˥tena: ˞ʔin˥dimarinu ɸu̥˞ta:nna: bun˥da:](私の家に戌年生まれが二人もいるよ)。

˞インドーマミ **[˞ʔindo:mami]** 【名】(植) エンドウ (豌豆)。ウ˞ブマイ˥ヌ　パ˞タ˥キナー　˞インドーマミン˥　ス˞ク˥リ　˞オーッ˥タン [ʔu˞bumai˥nu pḁ˞ta˥kina: ˞ʔindo:mamin˥ su̥˞ku˥ri ˞ʔo:t˥taŋ](大前の畑にはエンドウも栽培して < 作って > おられた)。

˞インドゥー˥ワン **[˞ʔindu:˥waŋ]** 【形】1疎遠である。「縁遠い」の義。標準語からの借用語。普通は、˞ミードゥー˥サン [˞mi:du:˥saŋ] という。ウ˞キ˥ナー　˞パッ˥ター　˞インドゥー˥ワ　˥ナリ　˞ナーヌ˥ヌ　˥ミサナリ　˞アークタン [ʔu˞ki˥na: ˞pat˥ta: ˞ʔindu:˥wa ˥nari ˞na:nu˥nu ˥misanari ˞ʔa:kutaŋ](沖縄へ行ったので疎遠になってしまったが、元気でいたか)。2縁付く機会に恵まれない。結婚の縁に恵まれない (縁遠い)。˥ヌンティル　˞インドゥー˥ワ　˞ナッ˥タユー　˞サン˥ジュー　˞シ˥ギルンケン　マ˞ダ˥　ブ˞トゥ˥　ム˞タ˥ヌ [˥nuntiru ˞ʔindu:˥wa ˞nat˥taju: ˞san˥ʤu: ʃi˞gi˥ruŋkeŋ ma˞da˥ bu˞tu˥ mu˞ta˥nu](どうして縁付く機会に恵まれないのか、三十過ぎるまで夫を持たない < 結婚しない >)。

˞イントゥク **[˞ʔintuku]** 【名】陰徳。˞マイフナー˥　コッコー˞マー　ワー˥　イッ˞ケナ　イントゥク˥　タ˞ボーラ˥リン˞ダー [˞maiɸuna:˥ kokko:˞ma: wa:˥ ʔik˞kena ʔintuku˥ ta˞bo:ra˥rin˞da:](おりこうな子供よ、親孝行な子供よ、貴方はたくさんの陰徳を頂くことができるよ)。祖父母が孫の頭をなでながら慈しみ誉めたてて言うことば。

˥インドゥシ **[˥ʔinduʃi]** 【名】戌年。˥バー　˞ウシ˥トーラ　イ˞チッ˥チ　˥シザ　ヤ˞ルンダ˥　インドゥシヌ　マ˞リ [˥ba: ˞ʔuʃi̥˥to:ra ʔi˞ʧittʃi˥nu ˥ʃiʤa ja˞runda˥ ʔinduʃinu ma˞ri](私は弟より五つの年上だから、戌年の生まれだ)。

˞イントゥ˥マパマ **[˞ʔintu˥mapama]** 【名】(地) 浜の名。慶田城家、西原家の前の浜。パ˞トゥ˥マ　チ˞ドゥリ˥ブシ [pḁ˞tu˥ma ʧi˞duri˥buʃi](鳩間千鳥節) で浜の名前を反時計周りに歌って、最終連に歌われている浜。/イントゥマパマヨー　チドゥリ　ヨードゥリ　トゥブトゥリー　ハーリー　ユンガフ　チーヌーヨー　チドゥリー (イントゥマ浜に千鳥が群れ飛んでいる。群れ飛ぶ千鳥は、< 囃子 > ああ、見事だ、世果報をもたらす千鳥だ)/『鳩間島誌』。

˞イン˥トゥ　˥マヤ **[˞ʔin˥tu ˥maja]** 【連】1犬と猫。˞イン˥トゥ　マヤ　シゥ˞カ˥ナイバ [˞ʔin˥tu maja si̥˞ka˥naiba](犬と猫を飼い < 養い > なさい)。2犬猿の仲 (諺)。˞ウッ˥ツァー　フ˞ターロー　イン˥トゥ　˥マヤ　˞ダー [˞ʔut˥tsa: ɸu˞ta:ro: ʔin˥tu maja ˞da:](彼ら < あれら > 二人は犬猿の仲だ < 犬と猫のように仲が悪い >)。˞ウッ˥ツァー　フ˞ターロー　イン˥トゥ　˥マヤ　ヤ˞ルンダ˥　パ˞ナ˥スカー　シ˞グアイ˥ス [˞ʔut˥tsa: ɸu̥˞ta:ro: ʔin˥tu ˥maja ja˞runda˥ pa˞na˥su̥ka: ʃi˞gu ʔai˥su](彼ら二人は犬猿の仲だから、話すとすぐ喧嘩する)。

˞イン˥ドゥミ **[˞ʔin˥dumi]** 【名】海止め。海に入ることを忌み慎む日。˞キュー˥ヤ　˞イン˥ドゥミ　ヤ˞リバ　ヤー˥ナーティ　˞ベー˥リ [˞kju:˥ja ˞ʔin˥dumi ja˞riba ja:˥na:ti ˞be:˥ri](今日は海留めの日だから家にいなさい < 居れ >)。

イン˞ナー˥マ **[ʔin˞na:˥ma]** 【名】子犬。小さな犬。˞-ナー˥マ [˞-na:˥ma] は指小辞 (diminutive) で、「小さいもの、可愛いもの」を表す指小辞˥-マ [˥-ma](小) の異形態 (allomorph)。上接語の末尾子音が撥音/N/で終わる音声環境において現れる。ク˞ヌ˥　イン˞ナーマ˥ヌ　ア˞タラ˥サワ˞ナー [ku˞nu˥ ʔin˞na:ma˥nu ʔa˞tara˥sawa˞na:](この子犬の何と可愛いことよ、ねえ)。イン˞ナーマ˥ヌ　˞ミッカラ˥　マ˞レー˥ン [ʔin

ˈnaːmaˉnu ˈmikkaraˉ maˈreːˉŋ](子犬が三匹産まれた)。

ˉインナバ [ˉʔinnaba] 【名】(植) 海藻の一種。ˈカーチーˉバイ [ˈkaːtʃiːˉbai](夏至の頃に強く吹く南風) の時にインナバが渚にカˈルマカˉリンケン [kaˈrumakaˉriŋkeŋ](からまかれる < 絡巻かれる > ほど。巻き取られるほど) に吹き寄せられる。これを取って畑の土地を掘り、土を被せておくと、土地がˉフクフク ˈスンˉケン [ˉɸu̥kuɸu̥ku ˈsuŋˉkeŋ](ふかふかするほど) 朽ちて肥えるので、畑の肥料に用いた。シˈブル [ʃiˈburu](冬瓜) やカˈブッチ [kaˈbuttʃi](南瓜) を植える際には、この肥料を使った。

ˈインˉニー [ˈʔinˉniː] 【名】戌 (いぬ) の日。タˈナドゥルˉヌ ˉピン ˈインˉニーナ ˈマイダニˉ ウˈラˉソールカー ˈインˉヌ ˈキーニˉ ニー ウˈラˉソーリティル ˈニンˉガイ ˈオーッˉタ [taˈnaduruˉnu ˉpim ˈʔinˉniːna ˈmaidaniˉ ʔuˈraˉsoːrukaː ˈʔinˉnu ˈkiːniˉ niː ʔuˈraˉsoːritiru ˈniŋˉgai ˈʔoːtˉta](種取りの日、戌の日に稲の種を播種されると犬の毛のように根を下ろしてくださいと祈願された)。

ˈインニク [ˈʔinniku] 【名】印肉。印を押すのに用いる朱色の印肉。標準語からの借用語。ˈインニクヌ ナーンˉカー ˈパンマーˉ シゥˈカラヌ < ウˈソーラヌ >[ˈʔinnikunu naːŋˉkaː ˈpammaːˉ si̥ˈkaranu <u ˈsoːranu>](印肉がないと判子は突けない)。

ˈインヌカー [ˈʔinnukaː] 【名】西の村井戸。掘抜き井戸。別名カˈガンˉカー [kaˈgaŋˉkaː](鏡井戸。手鏡井戸) という。掘削された俯瞰図が手鏡に似ているからという。乾隆 13 年 (1748) の脇筆者黒島仁屋 (仲本家の先祖) 目差役の時に申請して掘らせた井戸。「〜且又用水不自由有之船路壱里余差越汲来候付村近に井掘させ、〜。」「憲章姓家譜 C」『近世八重山の民衆生活史』とある。鳩間桟橋からナˈカンˉブレ [naˈkamˉbure](中岡) 方向へ約 150 メートル進んだ所、友利御嶽の入り口の前にある掘り抜き井戸。昭和 54 年 7 月、西表島から海底送水施設が完成するまでは、村人が毎年一回ˈカーヌ ソーˉジ [ˈkaːnu soːˉʤi](井戸の掃除。井戸浚え) をした。夏の旱魃が続くと、娘たちは夜を徹して井戸水の湧くのを待って順番に水汲みをした。この村井戸の湧水が島の人々の生命の泉の一つであった。ナˈカンˉテー [naˈkanˉteː](仲本家) の人がˈカーヌニンˉガイ [ˈkaːnu niŋˉgai](井戸の祈願) を担当し、井戸の神に感謝した。大工家の北西側に位置するので、大工家はˈカーンパタˉグゥー [ˈkaːmpataˉgwaː](井戸の側の家) といわれている。ˈインヌカーヤˉ ナˈカンˉテヌ プˈスル カーヌ ニンˉガイ ˈソーッˉタ [ˈʔinnukaːjaˉ naˈkanˉtenu pu̥ˈsuru kaːnu niŋˉgai ˈsoːtˉta](西の村井戸は仲本家の人が井戸の祈願をされた)。

ˈインˉヌ カˈタ [ˈʔinˉnu kḁˈta] 【連】犬の絵。歌謡語。ˈヤーˉ クˈヌ ヤーˉヌ ウˈチˉナカー ˈインˉヌ ˉカタ ˉアンティ ˉスー [ˈjaːˉ kuˈnu jaːˉnu ʔuˈtʃiˉnakaː ˈʔinˉnu kḁˈtaˉ ʔantiˉ suː](ああ、この家の中には犬の絵があるという)(アーパーレー歌)。

ˈインˉヌ ˈキー [ˈʔinˉnu ˈkiː] 【連】犬の毛。タˈナˉドゥルナ ˈマイダニˉ ウˈラˉソールカー ˈインˉヌ ˈキーニˉ ニー ウˈラˉソリティル ˈニンˉガイ ˈオーッˉタ [taˈnaˉduruna ˈmaidaniˉ ʔuˈraˉsoːrukaː ˈʔinˉnu ˈkiːniˉ niː ʔuˈraˉsoːritiru ˈniŋˉgai ˈʔoːtˉta](種取祭に稲の種を播種されると、犬の毛のように根を下ろしてくださいと祈願された)。

ˈインˉヌ スˈクナール [ˈʔinˉnu su̥ˈkunaːru] 【連】海鳴り。「海の底鳴り」の義。ˈインˉヌ スˈクナール スーˉカー ˈタイフーˉヌ ˉフクンティ アˈザリブー [ˈʔinˉnu su̥ˈkunaːru suːˉkaː ˈtaiɸuːˉnu ˉɸu̥kunti ʔaˈʤari buː](海鳴り < 海が底鳴り > すると台風が吹くといわれている)。

ˈインˉヌ ˉッス [ˈʔinˉnu ˉssu] 【連】犬の糞。

ˈインˉヌ ッˈスˉヌ タˈカアンˉガリ [ˈʔinˉnu sˈsuˉnu tḁˈkaʔaŋˉgari] 【連】(犬の糞の高上がり。柄でもない者が高くとまって威張ること。身分不相応なことをして威張ること < 諺 >)。

ˈインˉヌ ッˈふァ [ˈʔinˉnu fˈfa] 【連】犬の子 < 子犬 >。ˈインˉヌ ッˈふァーˉ イッˈケンˉ アˈタラˉサン [ˈʔinˉnu fˈfaːˉ ʔikˈkeŋˉ ʔaˈtaraˉsaŋ](犬の子 < 子犬 > は非常に可愛い < 可惜しい >)。

ˈインˉヌ ˉパー [ˈʔinˉnu ˉpaː] 【連】西から北へ 15 度〜30 度の方角。「戌の方」の義。カˈジェー インˉヌ ˉパーラル ˉフキウティ ˈクーˉタ [kaˈʤeː ʔinˉnu ˉpaːraru ˉɸu̥kiʔuti ˈkuːˉta](風は戌の方から叩きつけるように吹きこんで < 吹き落ちて > きた)。

ˈインˉ ヌバタ [ˈʔinˉnu bata] 【連】短気な人。怒りっぽい人。「犬の腸 (ハラワタ)」の義。犬は腸 (はらわた) が短いので絶えず吠え立てるという。人間が立腹しやすいのは犬と同様、腸が短いからだという比喩表現。ˈウンザー インˉヌ バタ ヤˈルンダルˉ アイニ ˈクンˉゾー ウˈクˉルˈツォー [ˈʔunʤaː ʔinˉnu ˉbata jaˈrundaruˉ ʔaini ˈkunˉʤoː ʔuˈkuˉruˈtsoː](あの野郎は犬の腸だから < 犬の腸のように腸が短いか

ら＞あんなに怒るのだ)。

˞インヌムラ [˞ʔinnumura] 【名】西村。鳩間島では、第五班、第六班、第七班で構成される地域集落。(ピナイ＜鬚川＞御嶽) の東側の縦道より西側の集落を西村といい、それより東側の集落を東村という。˞インヌムラー　シー˜シン　カ˞シ˜ラン　˞パーレー˜フニン　シ˞ナピキ˜ヌ　˜シナン　ミ˞ドゥ˜ムティ　ア˞ザリ　ブー [˞ʔinnumuraː ʃiː˜ʃiŋ kąʲ˞ʃi˜ram ˞paːreː˜ɸuniŋ ʃi˞napiki˜nu ˜ʃinam mi˞du˜muti ʔa˞ʤaribuː](西村は、お盆の獅子頭も豊年祭の旗頭も爬竜船も綱引きの綱も女性といわれている)。

˞イン˜ヌヤー [˞ʔin˜nujaː] 【名】ものもらい (麦粒腫)。˞イン˜ヌヤーヌ　˜ミーナ　˜ンジティル　˜ヤミナ˞ラ˜ヌ [˞ʔin˜nujaːnu ˜miːna ˜ʔnʤitiru ˜jami na˞ra˜nu](ものもらいが目にできて痛くて堪らない＜痛くて仕様が無い＞)。

˞イン˜ヌヤーヌ　˜ニー [˞ʔin˜nujaːnu ˜niː] 【連】「ものもらいの根」の義。ものもらいの出来た目と反対側の肩の後ろ下にある小さな粒を針で掘って細い筋を切ると治るといわれていた。˞イン˜ヌヤーヌ　˜ニー　プルカー　˞イン˜ヌヤー　˞ノー˜ルンツォー [˞ʔin˜nujaːnu ˜niː ˜puruka: ˞ʔin˜nuja: ˞noː˜runtsoː](ものもらいの根を掘るとものもらいは治るそうだ)。

˞イン˜ヌ　˞ヤー˜マ [˞ʔin˜nu ˞jaː˜ma] 【連】犬小屋。「犬の小屋」の義。˞イン˜ヌ　˞ヤー˜マ　ス˞ク˜リティ　˞イン　シゥ˞カ˜ナイバ [˞ʔin˜nu ˞jaː˜ma sụ˞ku˜riti ˜ʔin sị˞ka˜naiba](犬小屋を作って犬を飼いなさいよ)。

˞インパテー˜ン [˞ʔimpateː˜ŋ] 【形】悪戯っぽい。幼児がふざけて暴れまわるさま。ク˞ヌ˜　ッ˞ふァー　サッ˜コー　˞インパテー˜ンドゥ　˞インパテー　ナー˜ンティル　ア˞ズバン [ku˞nu˜ ˞ffa: sak˜koː ˞ʔimpateː˜ndu ˞ʔimpate: naː˜ntiru ʔa˞ʤubaŋ](この子は非常に悪戯っぽいが、悪戯っぽくないというよ)。˜アイニ　˞インパテー˜ル　ッ˞ふァー˜　ブ˞ラーヌ [˜ʔaini ˞ʔimpateː˜ru ˞ffaː˜ bu˞raːnu](こんなに悪戯っぽい子供は他にいない)。˞シンダイ　インパテー˜　ナリ　˞ヨー˜ゾー　シ˞キララ˜ヌ [˞ʃindai ʔimpateː˜ nari ˞joː˜ʤoː ʃị˞kirara˜nu](次第に悪戯っぽくなってきて、手がつけられ＜養生でき＞ない)。

˞インパ˜テーン [˞ʔimpa˜teːŋ] 【形】腕白である。いたずらっぽい。横着である。ウ˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　ドゥク　˞インパテー˜ティ　ブ˞ダッカリ　ベーン˜ケン　ク˞ルビティ˜　ドゥー　ヤ˞マ˜シ　˜シケーンティ [ʔu˞nu ffaː˜ duku ˞ʔimpateː˜ti bu˞dakkari beːŋ ˜ken ku˞rubiti˜ duː ja˞ma˜ʃi ˜ʃị̊keːnti](この子はあまりにもいたずらっぽいので、飛び跳ねているうちに転んで怪我をして＜胴を病まして＞あるよ)。˞サッ˜コー　˞インパ˜テーンドゥ　˞インパテーナー˜ヌティ　ア˞ゾー˜ル˞ツォー [˞sak˜koː ˞ʔimpa˜teːndu ˞ʔimpateːna:n˜ti ʔa˞ʤoː˜ru˞tsoː](非常に腕白であるが、腕白でないと言われるんですよ)。˞インパ˜テー　ッ˞ふァ [˞ʔimpa˜teː ˞ffa](腕白な子供。悪戯っぽい子供)。

˞インパティ˜ムニ [˞ʔimpati˜muni] 【名】呆れ返るような下品な言葉。「縁果て言葉 (縁切れもの言い)」の義。˜アイブ　˞インパティムニ˜＜˞インキリムニ˜＞バ　イ˞ジ˜　プ˞スン˜　バ˞ラーリ˜　ヌーヤ　ウ˞レー [˜ʔaibu ˞ʔimpatimuni˜＜˞ʔimpatimuni˜＞ba ʔi˞ʤi˜ pụ˞sum˜ ba˞raːri˜ nuːja ʔu˞reː](あんな呆れ返る下品な言葉をつかって他人に笑われて、何だね、これは)。

˜インパブ [˜ʔimpabu] 【名】 (動) 海蛇の一種。「ウミハブ」の音韻変化した語。エラブウミヘビに似ているが、それより小さい。体長約 70〜80 センチ。時々海中を泳ぐのが見られる。漁師の嫌われもので、漁獲することもない。˜インパブヌ　ス˞バー˜　クーカー　˞ウイ˜　パ˞ラ˜シ [˜impabunu su˞baː˜ kuːka: ˞ʔui˜ pa˞ra˜ʃi](インイラブ＜海蛇＞が側へ寄って来たら追っ払いなさい)。

˞イン˜ビー [˞ʔim˜biː] 【名】戌亥の方角。北西の方角。˞タイフー˜ヤ　˞イン˜ビー　˜ナルカー　˞ヨーリ˜シタ [˞taiɸuː˜ja ˞ʔim˜biː ˜naruka: ˞joːri˜ʃị̊ta](台風は風向きが北西の方になると勢力が弱くなった)。

˞イン˜ビキ [˞ʔim˜biki] 【名】「縁ヒキ」の義か。姻戚関係や地縁的関係を示す語。何かの縁で、たとえば祝儀などを遣り取りする関係。マ˞ガ˜ラピキ [ma˞ga˜ rapị̊ki](血縁) の対義語で、嫁の遣り取りをする際に、嫁の里方との関係をさす場合をいう。˞インビ˜キティ　˞スーモー˜　イ˞ズ˜カー　ブ˞ネーカタトゥヌ˜　ピ˞キドゥ˜　ナリ　˞ブー˜　ミー [˞ʔimbi˜kiti ˞suːmoː˜ ʔi˞ʤu˜kaː bu˞neːkatatunu˜ pị̊˞kidu˜ nari ˞buː˜miː](インビキと言うのは、いわば母方との血縁関係をになっているんでしょうね)。

˜インピツ [˜ʔimpị̊tsu] 【名】鉛筆。標準語からの新しい借用語。イ˞ル˜インピツ [ʔi˞ru˜impị̊tsu](色鉛筆)。ア˞ガ˜インピツ [ʔa˞ga˜impitsu](赤鉛筆)。˞シー˜グシ˜インピツ　˜トゥイバ [˞ʃiː˜guʃi ˜ʔimpị̊tsu ˜tuiba](小刀＜剪具＞で鉛筆を削れよ＜研げよ＞)。

˜インプゾー [˜ʔimpuʤoː] 【名】漁業用の煙草入れ。「海宝蔵」の義。直径約 8 センチ、高さ約 13 センチ

の円筒状、蓋付きの煙草入れ。木工用の轆轤で材木を刳り抜いて作ったもの。中蓋が付いていて、万一船が難船浸水しても中身が濡れないようになっている。精巧な挽きもの細工の煙草入れ。イ˩ガメー　オー˥ル　˥ピンマー　˥インプゾーナ　シ˩キダキ˥バ　イ˩リティル˥　ム˩トーッ˥タ˩ダー [ʔi˩gameː ʔoː ˥ru ˥pimmaː ˥ʔimpudʑoːna ʃi˩kidaki˥ba ʔi˩ritiru˥ mu˩toːt˥ta˩daː](イカ釣り漁 < イカ海 > に出られる < 行かれる > 時には煙草入れにマッチ < 点け竹 > をいれて持参さ < 持って行か > れた)。

˩インプリ˥キー **[˩ʔimpuri˥kiː]** 【名】(植) 木の名。タイワンアサマツゲ。「印彫り木」の義。鳩間島には生えていない。˩インプリキー˥ヌ　˩ジー˥ヤ　コー˩コー˥シ　˩ブート ダー [˩ʔimpurukiː˥nu ˩ʤiː˥ja koː ˩koː˥ʃi ˩buːꜜda](印彫り木の髄は硬い < 固固としている > よ)。

˩インプリ˥プス **[˩ʔimpuri˥pusu]** 【名】印判を彫る人。篆刻家。˩インプリ˥プス　タ˩ナ˥ミティ　˩イン˥プ˩ラ˥シバ [˩ʔimpuri˥pu̥su ta˩na˥miti ˩ʔim˥ pu˩ra˥ʃiba](篆刻家に頼んで印を彫らせなさいよ)。

˥インマヤ **[˥ʔimmaja]** 【名】(動) 犬猫。犬や猫。畜生。プ˩スヌ　ブン˥ギ　˩バシケーラ˥　インマヤトゥ　ユ˩ヌ˥ムヌ [pu̥˩sunu buŋ˥gi ˩baʃi̥keːra˥ ʔimmajatu ju ˩nu˥munu](人の恩義を忘れたら犬猫と同様畜生の類になる。他人から受けた恩は忘れるなの意)。

˩イン˥ヤー **[˩ʔiɲ˥jaː]** 【名】西隣の家。石垣方言の借用語。日常生活においては、普通は˩イー˥ネー [˩ʔiː ˥neː](西隣の家) という。

ウ

ウ [ʔu] 【語素】中称の指示語を作る。近称の意にも用いられる。ウ˩リ [ʔu˩ri](それ)。ウ˩ヌ [ʔu˩nu](その)。˥ウマ [˥ʔuma](そこ)。˩ウン [˩ʔuŋ](その時)。

ウ [ʔu] 【接頭】お (御)。体言に上接して尊敬の意を表す。沖縄本島方言に比して限られた語に付いて用いられる。˥ウシュンガ˩ナ˥シェーマイ [ʔuʃuŋga˩na˥ʃeːmai](国王様 < 御主加那志前 >)。˥ウスマイ [˥ʔusumai](おじいさん)。˥ウサンダイ [˥ʔusandai](供物のお下がり)。ウ˩カ˥ギ [ʔu˩ka˥gi](お陰)。ウ˩ミ˥キ [ʔu˩mi˥ki](お神酒)。ウ˩ス˥バ [ʔu˩su˥ba](お側)。ウ˩ク˥ジ [ʔu˩ku˥ʤi](お籤(クジ))。˥ウトゥルムチ [˥ʔuturu-mutʃi](お接待 < お取りち >)。˥ウサイ [˥ʔusai](お菜)。歌謡語としては、ウ˩ユル˥シ [ʔu˩juru˥ʃi](お許し)。ウ˩ハ˥チ [ʔu˩ha˥ʧi](お初)。ウ˩カキブ˥シェミソリ [ʔu˩kakibu˥ʃemisori](お掛けくださいませ < ご降臨ましませ >) 等が認められるが、これらは本来沖縄本島方言からの借用語から転訛した語である。

˥ウー [˥ʔuː] 【名】う (卯)。十二支の第四番目。˥ウディプス [˥ʔudipusu](卯年生まれの人)。˥ウディマリ [˥ʔudimari](卯年生まれ。優しい性格の人といわれている)。˥ウディプソー ˩チャー˥ メー ˩ウーサリ ハー˥サリ ˩シェー˥ティ ˩アー˥クンダ ˩ムンドー˥ヤ ˩ナー˥ヌ [˥ʔudipu̥soː ˩ʧaː˥ meː ˩ʔuːsari haː˥sari ˩ʃeː˥ti ˩ʔaː˥kunda ˩mundoː˥ja ˩naː˥nu](卯年生まれの人は、常に「はいはい」と言って頭を低くしているから、喧嘩 < 問答 > は起こさない。˥ウーディマリ プ˩ソー˥ イッ˩ケナ˥ ドゥー カ˩ラーン˥ツォー [˥ʔuːdimari pu̥˩soː˥ ʔik˩kena˥ duː ka˩raːn˥tsoː](卯年生まれの人は非常に体が軽いそうだ < よく体を動かして働く >)。

˥ウー [˥ʔuː] 【名】長さの単位。親指と人差し指を伸ばした長さ。五節 (中指の第一関節と第二関節の長さの五倍)。約五寸。若い人は˩ゴッスン [˩gossuŋ](五寸) という人が多い。プ˩ス˥ウー [pu̥˩su˥ʔuː](五寸)、フ˩タウー [ɸu̥˩tauː](一尺)、˩ミーウー [˩miːuː](一尺五寸)、˩ユーウー [˩juːuː](二尺)、イ˩チ˥ウー [ʔi˩ʧi˥ʔuː](二尺五寸)、˩ムーウー [˩muːuː](三尺)、ナ˩ナ˥ウー [na˩na˥ʔuː](三尺五寸)、˩ヤーウー [˩jaːuː](四尺)、ク˩クヌ˥ウー [ku̥˩kunu˥ʔuː](四尺五寸)。その次は、プ˩ス˥イル [pu˩su˥iru](一尋) という。

˩ウ˥ー [˩ʔu˥ː] 【感】長上に対する応諾の「はい」の意。島の外から来る村長や校長、教師、医師、警官に対して最高の敬意を表す。島の長老、目上の人、両親に対しては、˩オ˥ー [˩ʔo˥ː](はい) と答える。話者と同等以下に対しては、˩ン˥ー [ʔŋː](うん) という。˩ウ˥ー ウ˩トゥ˥ム ッ˩サルン˧ ユー [˩ʔu˥ː ʔu˩tu˥mu s˩saruɲ˧ juː](かしこまりました。お供申し上げます)。˩オ˥ー ˥バー シゥ˩カシ オースン˧ ユー [˩ʔo˥ː ˥baː si̥˩kaʃioːsuɲ˧ juː](はい。私がご案内致します < お連れ致します >)。˩ン˥ー ˥バー ˩サーリ˥パルン [˩ʔm˥ː ˥baː ˩saːri˥paruŋ](うん。僕が連れて行く)。˩ウ˥ー ˩ヌー˥ドゥ ヤ˩ロー˥ル ネー˩ラ [˩ʔu˥ː ˩nuː˥du ja˩roː˥ru neː˩ra](はい。なんでございましょうか)(村長、校長に対して)。˩オー˥ ˩ヌー˥ ヤ˩ロール˥カヤー [˩ʔoː˥ ˩nuː˥ ja˩roː˥rukaja](はい。なんでございますか)(島の長老に対して)。˩ヌ˥イ ˩ヌーヤー ˩ツォー [˩nu˥i ˩nuːjaː ˩tsoː](なんだ。何かねえ)(目下に対して)。

˩ウー [˩ʔuː] 【接頭】おお。「おほ (大)」の義。「大きな」の意味を表す。ウ˩ブ [ʔu˩bu](大) の転訛したもの。˩ウーカジ [˩ʔuːkaʤi](台風。大風)。˩ウームカシ [˩ʔuːmukaʃi](大昔)。˩ウーアミ [˩ʔuːami](大雨)。˩ウー˥スー [˩ʔuː˥suː](大潮)。

˩ウーアミ [˩ʔuːʔami] 【名】大雨。ミ˩ジラ˥シ ˩ウーアミヌ˥ フイティル シ˩キ˥ヌ ˥カンラ ˩トーニ˥ヌブカラヌ ウ˩ナイ˥ヌ ˩ナー˥リ ˥ケータンツォー [mi˩ʤi˥raʃi ˩ʔuːaminu˥ ɸuitiru ʃi˩ki˥nu ˥kanra ˩toːni˥nu ˥bukaranu ʔu˩nai˥nu ˩naː˥ri keːtantsoː](滅多に無い大雨 < 珍しい大雨 > が降って、堰の上の方からトーニ程の大鰻が流されてきたそうだ)。

˩ウー˥カー [˩ʔuː˥kaː] 【名】(地) 石垣市字大川。˩ウー˥カ

ーナーン　ウ˹トゥザ˺ヌ　˹オー˺ルン [˹ʔuː˺kaːnaːŋ ʔu˹tuʤa˺nu ˹ʔoː˺ruŋ](石垣市字大川にも親戚がおられる)。

˹ウーガー˺ラ [˹ʔuːgaː˺ra] 【名】雄瓦。敷き詰めた˹ミーガー˺ラ [˹miːgaː˺ra](雌瓦) 二枚の接続部に粘土を盛り、その上に覆い被せて連結する瓦。内径約 11 センチ、長さ約 25 センチの半円筒状の瓦。片方の先端部に接ぎ手を作ってある。˹ウーガーラ˺ヌ　シ˹ギフチ˺ナー　ム˹チ　ヌーリ˺バ [˹ʔuːgaːra˺nu ʃi˹giɸutʃi˺naː mu˹tʃi nuːri˺ba](雄瓦の接ぎ目に漆喰を塗りなさい)。˹ミーガーラ˺トゥ　˹ミーガーラ˺ヌ　˹アイナ˺カナー　ミ˹ツァ˺バ　˺シキティ　˹ウン˺ナ　˹ウーガー˺ラ　˹ヌーシティル　カー˺ラヤーヤ　フ˹コーッタ˺ル [˹miːgaːra˺tu ˹miːgaːra˺nu ˹ʔaina˺kanaː mi˹tsa˺ba ˺ʃi̥kiti ˹ʔun˺na ˹ʔuːgaː˺ra ˹nuːʃitiru kaː˺rajaːja ɸu̥˹ko:tta˺ru](雌瓦と雌瓦の間に粘土を置いて、それに雄瓦を載せて＜ぞ＞瓦屋根は葺いたものだ)。

˹ウーカジ [˹ʔuːkaʤi] 【名】大風。台風。暴風。ク˹トゥシヌ˺　カ˹ジフケー˺　ミ˹ジラ˺シ　˹ウーカジ˺　ヤ˹レー˺ティル　˺アイニ　ム˹ヌスク˺ルン　シ˹ルッ˺コー　ナシシケー˹ツォー [ku̥˹tuʃinu˺ ka˹ʤiɸukeː˺ mi˹ʤira˺ʃi ˹ʔuːkaʤi˺ ja˹reː˺tiru ˺ʔaini mu˹nusuku˺ruŋ ʃi˹ruk˺koː ˺naʃiʃi̥ke:˹tsoː](今年の台風＜風吹き＞は経験したことの無い＜珍しい＞大風＜台風＞だったので、あんなに農作物も台無しに＜めちゃくちゃに＞してあるのだよ)。

˹ウーカ˺スン [˹ʔuːka˺suŋ] 【他動】動かす。動くようにする。ものの位置や人の配置を変える。「〜吾がやどの簾動之＜すだれウゴカシ＞〜。万、488」の転訛したもの。˺ティー　˹ウーカ˺スン [˺tiː ˹ʔuːka˺suŋ](手を動かす)。˺クマーラー　˹ウーカサラ˺ヌ [˺kumaːraː ˹ʔuːkasara˺nu](ここからは動かされない)。˹ウーカ˺シ　˺ミサカー　˹ウーカ˺ス　˺クトー　˺ナルン [˹ʔuːka˺ʃi ˺misakaː ˹ʔuːka˺su ˺ku̥toː ˺naruŋ](動かしてよければ動かすことは出来る)。˹パン˺ヌン　˹ウーカ˺シェー　˺ミサムヌ [˹pan˺nuŋ ˹ʔuːka˺ʃeː ˺misamunu](足も動かせばいいのに)。ビ˹ソーミ˺　マンター　˹ウーカ˺シ [bi˹soːmi˺ mantaː ˹ʔuːka˺ʃi](水瓶を前方へ動かせ)。˺クマーラ　˹ウーカサ˺ヌ [˺kumaːra ˹ʔuːkasa˺nu](此処から動かさない)。ン˹メーマ　ウーカシ˺プサン [ʔm˹meːma ʔuːkaʃi˺ pu̥saŋ](少し動かしたい)。ク˹リ　ウーカ˺スカー　カ˹リン　ウーカ˺シ [ku˹ri ʔuːka˺su̥kaː ka˹riŋ ʔuːka˺ʃi](これを動かすなら、あれも動かせ)。ク˹リ　ウーカ˺ス　˺クトー　ナ˹ラ˺ヌ [ku˹ri ʔuːka˺su̥ ˺ku̥toː na˹ra˺nu](これを動かすことは出来ない)。ク˹リン　ウーカ˺スン [ku˹riŋ ʔuːka˺suŋ](これも動かす)。

˹ウーカタ [˹ʔuːkata] (1) 【名】大方。大部分。あらまし。大概。老年層の言葉。˹ウーカタヌ　カンガイ˺ヤー　シ˹ケー˺ン [˹ʔuːkatanu kaŋgai˺jaː ʃi̥˹keː˺ŋ](大方の考えは聞いた)。シ˹マ˺ヌ　˹ウーカタヌ˺　プ˹ソータースク˺リ　カ˹ツシン　ヌーリ　セー˺ティル　キ˹ナイヤー˺　ム˹トーッ˺タ [ʃi˹ma˺nu ˹ʔuːkatanu˺ pu̥˹soː taːsuku˺ri ka˹tsuʃin nuːri ʃeː˺tiru ki˹naijaː˺ mu˹toːt˺ta](島の大方の人は稲作＜田作り＞と鰹漁船乗りをしながら家庭を維持さ＜持た＞れた)。 **(2)** 【副】ほとんど。きっと。多分。カ˹ジヌ˺　フクカー　˹ウーカター˺　フネー　ン˹ジラン˺パジ [ka˹ʤinu˺ ɸu̥kukaː ˹ʔuːkataː˺ ɸuneː ʔn˹ʤiram˺paʤi](風＜台風＞が吹くと多分船は出港しないだろう＜出ないはずだ＞)。だいたい。˹ターシグ˺トー　˹ウーカタ˺　シ˹マ˺セーチバ　ヌ˹カ˺ロー　˹タンガ˺シン　˺ナルンヨー [˹taːʃigu˺toː ˹ʔuːkata˺ ʃi˹ma˺ʃeːtʃiba nu˹ka˺roː ˹taŋga˺ʃin ˺naruŋjoː](田仕事はだいたい済ませたから残りは一人でも出来る)。

˹ウー˺キ [˹ʔuː˺ki] 【名】桶。「桶、乎計＜をけ＞、汲水於井之器也」『和名抄』の転訛したもの。桶の総称。他に、˹クーピキウー˺キ [˹kuːpikiuː˺ki](餅を作る際に糯米を挽く桶＜粉挽き桶＞)、ミ˹ジウー˺キ [mi˹ʤiuː˺ki](水を運ぶ桶。水桶、水担桶)、タ˹マウー˺キ [ta˹maʔuː˺ki](玉桶。桶の底にガラスを嵌めた、水中眼鏡用の桶) 等がある。桶の帯＜輪＞には、竹製の帯＜輪＞と針金製の帯＜輪＞があった。˹ウー˺キ　˺ティダナ　˺プシ　˺シケーター　サ˹リティ˺　ミ˹ジ˺ムリ　˹シー˺　シゥ˹カーラヌ [˹ʔuː˺ki ˺tidana ˺puʃikeːtaː sa˹riti˺ mi˹ʤi˺muri ˹ʃiː˺ si̥˹kaːranu](桶を太陽に干しておいたら乾燥して水漏れして使われない)。˹ウー˺キナ　˺ウン　˺ッシティ　˺シトゥ　˺トゥリバ [˹ʔuː˺kina ˺ʔuŋ ˺ʃʃiti ˺ʃi̥tu ˺turiba](桶に芋を摩り下ろして澱粉を取りなさい)。

˹ウー˺キカーキ [˹ʔuː˺kikaːki] 【名】動き回ること。立ち回ること。働くこと。ABCDBC 型の重言。˺ヤミティ　ニ˹ビ　ベータン˺ドゥ　ナ˹マンダノーリ˺　シ˹ター　ウー˺キカーキ　˹シー　アー˺クンケン　˹フッカイシ　ナー˺ヌ [˺jamiti ni˹bi beːtan˺du na˹bandanoːri˺ ʃi̥˹taː ʔuː˺kikaːki ˹ʃiː ʔaː˺kuŋkeŋ ˹ɸukkaiʃi naː˺nu](病気して寝ていたのだが、不完全な回復＜半治り＞をしたので立ち働いているうちに、病気がぶり返し＜再発＞してしまった)。ヤ˹ミ

ˉプソー　ˈウーˉキカーキ　スˈナト ヨー [jaˈmiˉpu̥soː ˈʔuːˉkikaːki suˈnaɾ-joː](病人は動き回るなよ)。

ˈウーキグリˉサン [ˈʔuːkiguriˉsaŋ] 【形】動きづらい。動きにくい。動作動詞ˈウーˉクン [ˈʔuːˉkuŋ](動く) の連用形に形容詞グリサン [guˈriˉsaŋ](苦しい) が付いて形成された派生形容詞。クˈヌ　キンˉマー　シˈバーˉンダ　ˈサッˉコー　ˈウーキグリˉサン <ˈウーキングリˉサン >[kuˈnu kimˉmaː ʃiˈbaːˉnda ˈsakˉkoː ˈʔuːkiguriˉsaŋ <ˈʔuːkiŋguriˉsaŋ >](この着物は狭いから非常に動きにくい)。

ˈウーグˉチ [ˈʔuːguˉʧi] 【名】(海底地名) 大津口 (「大口」の義)。石垣、鳩間、白浜の定期船が出入りする干瀬の津口。島の西南西、ˈクーˉシビーの南側に位置する。ˈウーグˉチの北側にクˈチˉグヮー [ku̥ˈʧiˉgwaː](小津口) がある。また、ˈウーグˉチの南側には、ˈミーグチˉグヮー [ˈmiːgutʃiˉgwaː](新小津口) がある。指小辞ˈ～グヮー [～gwaː](小)」の付く海底地名は糸満方言からの借用語であろう。従って、指小辞「～グヮー」の付く地名は、無名の糸満漁師たちによる命名に基づくものと考えられる。

ˈウーグトゥ [ˈʔuːgutu] 【名】大事件。大きな事柄。一大事。イˈクサユーˉヌ　ˉピン　グˈラマンˉヌ　トゥˈビˉキーティ　バˈクˉダン　ウˈタˉシ　ˈパスクラシˉター　ムˈラズーヌ　ウーグトゥˉナリ　ˈグンˉラーン　アˈバタサリティ　パイˉター　ヒˈナン　ソーッˉタˈダー [ʔiˈkusajuːˉnu ˉpiŋ guˈramanˉnu tuˈbiˉkiːti baˈkudamˉba ʔuˈtaˉʃi ˈpasukuraʃiˉtaː muˈraʤuːnu ʔuːgutuˉ nari ˈgunˉraːŋ ʔaˈbatasariti paiˉtaː çiˈnan soːtˉtaˈdaː](戦争の時、米軍のグラマン機が飛んできて爆弾を投下して爆発させたので村中の大事件となり、軍当局からも急がされて南方端 < 西表北岸 > へ避難されたんだよ)。ミˈジラˉシ　ˈウーグトゥバ　シールˉ　シキン　ˈサウガシˉシケーバン　ˉアガヤー [miˈʤiraˉʃi ˈʔuːgutuba ʃiːruˉ ʃi̥kin ˈsaugaʃiˉʃi̥keːbaŋ](珍しい大事件を起こして < して > 世間を騒がせているよ。ああ残念!)。

ˈウーˉクン [ˈʔuːˉkuŋ] 【自動】1動く。位置や状態を変える。「Vgoqi,qu,ita. ウゴキ、ク、イタ (動き、く、いた) 揺れ動く、あるいは、動く」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˈティーヤ　ˈウークンˉドゥ　ˈパンˉマー　ˈウーカˉヌ [ˈtiːˉja ˈʔuːkunˉdu ˈpamˉmaː ˈʔuːkaˉnu](手は動くが、足は動かない)。ˈウーˉキ　ˉミサカー　ˈウーˉク　ˉクトー　ˉナルン [ˈʔuːˉki ˉmisakaː ˈʔuːˉku ˉku̥toː ˉnaruŋ](動いてよければ動くことは出来る)。ンˈベーマー　ウーˉケー　ˉミサムヌ [ʔmˈbeːmaː ʔuːˉkeː ˉmisamunu](少しは動けばいいのに)。ˈパーˉク　ˈウーˉキバ [ˈpaːˉku ˈʔuːˉkiba](早く動けよ)。2働く。ˈムーˉクン [ˈmuːˉkuŋ](働く) という人 < 花城イカ氏 > もいる。ウˈレーˉ　イッˈケン　ウーˉクン [ʔuˈreːˉ ʔikˈkeŋ ʔuːˉkuŋ](彼は非常によく働く < 動く >)。ˉスブットー　ˈピッˉチン　ˈウーカˉヌ [ˉsubuttoː ˈpitˉʧiŋ ˈʔuːkaˉnu](怠け者はちっとも働かない)。スˈブルˉヌ　ˈウーˉクカー　ˈズーン　ウーˉクン [suˈburuˉnu ˈʔuːˉkukaː ˈʤuːŋ ʔuːˉkuŋ](頭が動けば尻尾も動く < 責任者が率先して動くと、部下も大いに働く >)。ˈドゥーヤ　ˈウーカンˉドーシ　プˈスバ　ウーカˉシ [ˈduːja ˈʔuːkanˉdoːʃi pu̥ˈsu ʔuːkaˉʃi](自分は動かないで他人を動かせ)。ˈウーˉク　ˉピンマー　ˉドゥーシ　ˈウーˉキ [ˈʔuːˉku ˉpimmaːˉduːʃi ˈʔuːˉki](動くときは自分で動け)。ˈウーキˉ　プサカー　ˈウーˉケーミサムヌ [ˈʔuːkiˉpu̥sakaː ˈʔuːˉkeːmisamunu](動きたければ動けばよいのに)。

ウーˈケーˉマ [ʔuːˈkeːˉma] 【名】小さな桶。ˈウーˉキ [ˈʔuːˉki](桶) に指小辞のˈヤーˉマ [ˈjaːˉma](小さな物) が付いて、[ˈʔuːˉki + jaːma] → [ʔuːˈkjaːˉma] → [ʔuːˈkeːˉma] のように音韻変化して形成された語。ˈホンマˉケー　ウーˈケーˉマナ　ˉザコー　スˈクイˉ　トゥリティ　マˈコーッˉタ [ˈhommaˉkeː ʔuːˈkeːˉmana ˉʤakoː su̥ˈkuiˉ turiti maˈkoːtˉta](本撒 < 生餌撒き > は小さな桶に雑魚 < 生餌 > を掬い取って撒かれた)。

ˈウーˉサ [ˈʔuːˉsa] 【名】多いこと。「多さ」の義。文語調。日常会話ではˈゴーˉラー [ˈgoːˉraː](多いこと) ということが多い。ˈジンカニˉヌ　ˈウーˉサ　ˉイキラサー <ˈイシゥˉカー　ˈゴーˉラー >　ˈトゥイブラーヌˉ　フˈタールヌˉ　シˈムチバルˉ　シˈキベーˉル [ˈʤiŋkaniˉnu ˈʔuːˉsa ˉʔikirasaː <ˈisïˉkaː ˈgoːˉraː > ˈtuiburaːnuˉ ɸu̥ˈtaːrunuˉ ʃiˈmutʃibaruˉ ʃi̥ˈkibeːˉru](銭金の多寡 < 多さ、少なさ > を問うてはいない。二人の気持ちをこそ尋ねて < 聞いて > いるのだ)。

ˈウーˉザラ [ˈʔuːˉʤara] 【名】大皿。直径約 20 センチほどの皿。ˈチューˉザラ [ˈʧuːˉʤara](中皿)、ˈクーˉザラ [ˈkuːˉʤara](小皿) の対義語。祝儀や法事の際に、大皿には餅や煮魚類、紅白のかまぼこ、紅白の茹蛸。魚芯てんぷら、芋芯てんぷら、揚げ豆腐、昆布巻、大根や里芋の煮付け類を盛り付けた。祝儀の際は赤餅、法事の際は白餅を盛り付けた。ˈヨイˉヌ　ˉピンマー　ˈウーˉザラナー　ˉウサイ　ムˈリティˉ　ンˈザˉソーッタ [ˈjoiˉnu ˉpimmaː ˈʔuːˉʤaranaːˉ

ʔusai muˈritiˆ ʔnˈʤaˆsoːtta](お祝いの時は大皿にご馳走を＜お菜＞を盛って出された)。

˞ウー˜サリ [˞ʔuːˆsari] 【感】はい、かしこまりました。˞ウー˜サリ　アˈゾー˜ル　˞トゥー˜ル　˞シー˜　ッˈサリルン˜ユー [˞ʔuːˆsari ʔaˈʤoːˆru ˞tuːˆru ˞ʃiːˆ sˈsariruɲˆjuː](かしこまりました。仰せの通りに致します＜して差し上げます＞)。

˞ウーサリアー˜サリ [˞ʔuːsariʔaːˆsari] 【名】平身低頭すること。˞ウーサリアー˜サリ　˞シェー˜ティ　ウˈガ˜ミ　ニガイˈオーッ˜タ [˞ʔuːsariʔaːˆsari ˞ʃeːˆti ʔuˈgaˆmi nigaiˈoːtˆta](平身低頭して拝みつつ祈願しておられた)。

˞ウーサリハー˜サリ [˞ʔuːsarihaːˆsari] 【副】へいへい。ぺこぺこ。権力者に頭を下げて恭順の意を表すさま。首里方言の˞ʔuusariʔaasari(へいへい。ぺこぺこ)『沖縄語辞典』からの転訛。ヤˈクニン˜ヌ　˜マイナー　˞ウーサリハー˜サリ　˞シェー˜ティ　˞アー˜ク [jaˈkuninˆnuˆmainaː ˞ʔuːsarihaːˆsari ˞ʃeːˆti ˞ʔaːˆku](役人の前ではぺこぺこしている)。

˞ウージカ˜キ [˞ʔuːʤikaˆki] 【名】大仕掛け。大きな装置。大規模。ウˈタ˜ラタンコーナー　シˈキ˜タン˜プルンティ　˞ウージカキ˜ヌ　˞ドン˜グ　スˈコーラリ　ブタン [ʔuˈtaˆrataŋkoːna: ʃi̥ˈkiˆtam ˆpurunti ˞ʔuːʤikakiˆnu ˞doŋˆgu su̥ˈkoːrari butaŋ](宇多良炭坑には、石炭を掘るのに大仕掛けの道具が作られ準備されていた)。

˞ウーシグトゥ [˞ʔuːʃiguˆtu] 【名】大仕事。大事業。˞ウーシグトー　˞シン˜カシル　シˈラリ　タンガ˜シェー　ナˈラ˜ヌ [˞ʔuːʃiguto: ˞ʃiŋˆkaʃiru ʃiˈrari taŋgaˆʃeː naˈraˆnu](大事業は多くの仲間＜組合員。臣下＞とで＜がいてこそ＞出来るのだ。一人では出来ない)。

˞ウーシッ˜クナー [˞ʔuːʃikˆkunaː] 【名】罪のなすりつけあい。互いに罪や責任を他人に負わせ、なすり付けあうこと。ターˈン˜　シˈキニン˜マー　トゥˈラ˜ムティ　˜プスル　˞ウーシウー˜シ　˞シー　ウーシッ˜クナー　˞シーベー [taːˈŋ˜ ʃi̥ˈkinimˆma tuˈraˆmuti ˆpu̥suru ˞ʔuːʃiʔuːˆʃi ˞ʃiː ʔuːʃikˆkuna: ˞ʃiːbeː](誰も責任を取らないで、各自他人に責任を負わせて、責任のなすりつけ＜責任転嫁＞をしあっている)。

˞ウー˜シマ [˞ʔuːˆʃima] 【名】奄美大島。奄美群島の総称。˞ウー˜シマムネー　ウˈキナームニ˜トゥ　˞ニーブト ダー　ヤˈマトゥムニ˜トー　˞カウリス [˞ʔuːˆʃimamune: ʔuˈkinaːmuniˆtu ˞niːbuɨda: jaˈmatumuniˆto: ˞kaurisu](＜奄美＞大島言葉＜方言＞は沖縄言葉＜方言＞と似ているよ。大和言葉＜本土方言＞とは違っている＜変わる＞)。

˞ウー˜ジル [˞ʔuːˆʤiru] 【名】おづる (雄弦)。三味線の一番太い弦。˞ミー˜ジル [˞miːˆʤiru](女弦) は細い弦。ナˈカ˜ジル [naˈkaˆʤiru](中弦) は中太の弦。˞ウー˜ジロー　マー˞ンベーマ˜　シミティ　ウˈトゥ˜　アˈギリ˜バ [˞ʔuːˆʤiro: maːˈmbeːmaˆ ʃimiti ʔuˈtuˆ ʔaˈgiriˆba](雄弦はもう少し締めて音を揚げなさいよ)。

˞ウーシ˜ルン [˞ʔuːʃiˆruŋ] 【他動】罪や責任を他人に負わせる。責任を転嫁する。シˈキニン˜バ　プˈスン　ウーシ˜ルンティ　スˈナ˜ヨー [ʃi̥ˈkinimˆba pu̥ˈsuŋ ʔuːʃiˆrunti suˈnaˆjoː](責任を他人に負わせよとするなよ)。

˞ウーシンカ [˞ʔuːʃiŋka] 【名】多人数。大家族。多数の船員。多数の組合員。多数の網元の仲間。首里方言の iNka(臣下) からの借用語。˞ウーシンカ˜　ヤˈルンダ˜　ムー˞ルン˜　バˈキ˜ルカー　ンˈメーマナー˜ル　˞アー˜ル [˞ʔuːʃiŋkaˆ jaˈrundaˆ muːˈruˆm ba ˞kiˆrukaː ʔmˈmeːmanaːˆru ˞ʔaːˆru](多人数だから皆に分けると少しずつしか配分できない＜少しずつが配分できる＞)。

˞ウー˜スー [˞ʔuːˆsuː] 【名】大潮。満月と新月の頃に生じる干満の差の大きい潮汐。˞ウースー˜ヌ　˜ピンマー　˜スーピサールサーリ　タˈカ˜ベー　アˈラ˜キパˈラリ˜タン [˞ʔuːsuːˆnu pimmaː ˆsuːpisaːrusaːri taˈkaˆbeː ʔaˈraˆki paˈrariˆtaŋ](大潮の時は干潮時に島の東南部の高干瀬まで歩いて行くことができた＜行かれた＞)。˞ウー˜スー　ウˈク˜ルン [˞ʔuːˆsuː ʔuˈkuˆruŋ](大潮がおこる)。

˞ウー˜スン [˞ʔuːˆsuŋ] 【他動】罪を転嫁する。他人に負わせる。「負わす」の義。若年層は˞オー˜スン [˞ʔoːˆsuŋ](負わせる) ともいう。˜ドゥーシ　ヤˈブ˜リティ　プˈスン˜　シˈキ˜ニン　˞ウー˜シェーティ　˞アー˜ク [˞duːʃi jaˈbuˆriti puˈsuŋ˜ ʃi̥ˈkiˆniŋ ˞ʔuːˆʃeːti ˞ʔaːˆku](自分で破っておいて他人に責任を転嫁して＜負わせて＞いる＜あるく＞)。˞ウーサ˜ヌ [˞ʔuːsaˆnu](負わさない。責任転嫁しない)。プˈスン˜　シˈキ˜ニン　˞ウー˜ス　プˈスヌル　ゴー˜ラー [pu̥ˈsuŋ˜ ʃi̥ˈkiˆniŋ ˞ʔuːˆsu pu̥ˈsunuru goːˆraː](他人に責任を負わせる人が多い)。ウˈリン　ウー˜シェー　˜ミサムヌ [ʔuˈriŋ ʔuːˆʃeː ˆmisamunu](彼に責任を負わせれば＜転嫁すれば＞いいのに)。˞ウー˜シバ [˞ʔuːˆʃiba](負わせ＜責任転嫁せ＞よ)。

˞ウーズン [˞ʔuːʤuŋ] 【名】大損。大欠損。大きな損害。

ウˈブモーキ　スンティˀ　プˈスン　カシゥカーサˀリ　ˈウーズンˀ　スˈナˀダー [ʔuˈbumoːki suntiˀ puˈsuŋ kasi̥ˈkaːsaˀri ˈʔuːʤunˀ suˈnaˀdaː](大儲けしようとして他人に騙されて大損するなよ)。

ˈウーˀソー [ˈʔuːˀsoː] 【名】間抜け。とんま。そそっかしい者。遅鈍な人。ぬけさく (抜作)。ウˈレー　ウーˀソー　ˀナリティ　シゥˈカイムヌˀ　ナˈラˀヌ [ʔuˈreː ʔuːˀsoː ˀnariti si̥ˈkaimunuˀ naˈraˀnu](あれ < 彼 > は間抜けで使いものにならない)。

ˈウーソードー [ˈʔuːsoːdoː] 【名】大騒動。イˈガメーフニˀヌ　ˈソーナンˀ　シˈティˀ　ムˈラズー　ウーソーˀドー　ˈソーッˀタ　ˀピンヌン　ˈアッˀタン [ʔiˈgameːɸuniˀnu ˈsoːnaŋˀ ʃi̥ˈtiˀ muˈraʤuː ʔuːsoːdoː soːtˀta ˀpinnuŋ ˈʔatˀtaŋ](イカ釣り漁が遭難をして村中大騒動された時もあった)。

ˈウーダイˀク [ˈʔuːdaiˀku] 【名】大太鼓。ウˈブタイˀク [ʔuˈbutaiˀku](大太鼓) ともいう。横打ちの大型太鼓。キˈチゴンヌˀ　ジーシンカー　ˈウーダイˀクン　クˈダイˀクン　ウˈティˀソーッタ [ki̥ˈʧigonnuˀ ʤiːʃiŋkaː ˈʔuːdaiˀkuŋ kuˈdaiˀkuŋ ʔuˈtiˀsoːtta](結願祭の地方は大太鼓も小太鼓も打たれた)。

ˈウーダˀチ [ˈʔuːdaˀʧi] 【名】棒立ち。仁王立ち。プˈスヌ　トゥーリˀフチナー　ˀティー　パˈタッカリティ　ウーダˀチ　ˈシーベー [pu̥ˈsunu tuːriˀɸu̥ʧinaːˀtiː pḁˈtakkariti ʔuːdaˀʧi ˈʃiːbeː](人の通り道に手を広げ、仁王立ちして < 通行を妨害して > いる)。

ˈウーティガラ [ˈʔuːtigara] 【名】大手柄。ムˈカˀシパˈトゥˀマナー　ˈウーティガラˀ　タティティ　スˈクˀドゥン　ナˈローˀレー　プˈスン　オーˀルンツォー [muˈkaˀʃi pḁˈtuˀmanaː ˈʔuːtigaraˀ tḁtiti su̥ˈkuˀdun naˈroːˀreː pu̥ˈsuŋ ʔoːˀruntsoː](昔、鳩間島に大手柄を立ててチクドゥン < 筑登之 > になられた人もおられるそうだ)。

ˈウーˀトートゥ [ˈʔuːˀtoːtu] 【感】あな尊 (あなとうと)。神仏に祈願する際、冒頭に唱える慣用句。ˈウーˀトートゥ　ˈアーˀトートゥ [ˈʔuːˀtoːtu ˈʔaːˀtoːtu](あな尊、ああ尊) と唱えて祈願する。ˈウーˀトートゥ　カンガˈナˀシェーマイ　ˈヤーニンズˀヌ　ˀドゥーパダ　ˈキンコーˀ　ニガイ　ッˈサリルˀユー [ˈʔuːˀtoːtu kaŋgaˈnaˀʃeːmai ˈjaːninʤuˀnu ˀduːpada ˈkiŋkoːˀ nigai sˈsariruˀjuː](あな尊、神加那志御前様、家族の五体の健康を祈願申し上げます) のようにいう。

ˈウーˀドゥー [ˈʔuːˀduː] 【名】大胴。大きい鼓。ˈクˀドゥー [ˈkuˀduː](小胴、小鼓) の対義語。石垣市字登野城に伝わる大和芸能の「鼓」。ˀトゥヌスクヌˀアジャー　ˈウーˀドゥー　ウˈトーッˀタンツォー [ˀtunusu̥kunu ˀʔaʤaː ˈʔuːˀduː ʔuˈtoːtˀtantsoː](登野城の兄さん < 佐村用明氏 > は大胴を打たれたそうだよ)。

ˈウーˀドゥク [ˈʔuːˀduku] 【名】大引き。ユˈカムˀチ [juˈkamuˀʧi](床の根太、床支え) を支える横材。ユˈカムチˀバ　ッˈサンターラˀ　ムタイ　シゥˈカイブームール　ウーˀドゥクティ　アˈズˀミー [juˈkamuʧiˀba sˈsantaːraˀ mutai si̥ˈkaibuː muːru ʔuːˀdukuti ʔaˈʤuˀmiː](根太 < 床持ち > を下から持ち上げ支えているものが大引きと言うんだろう?)。

ˈウーˀトゥリ [ˈʔuːˀturi] 【名】大凪。無風状態になること。ˈピューˀカ [ˈpjuːˀka](べた凪) ともいう。カˈジヌˀ　トゥˈリティ　ウーˀトゥリ　ˈスーˀカー　ˈプー　ピキˀ　パˈラサラˀヌ [kaˈʤinuˀ tuˈriti ʔuːˀturi ˈsuːˀka ˈpuː pi̥kiˀ paˈrasaraˀnu](風が止んで大凪になると、帆を揚げて走らされない < 帆走できない >)。カˈゼー　ウーˀトゥリ　ˈシー　ナーンˀバ　ˀヤクˀクイ [kaˈʤeː ʔuːˀturi ˈʃiːnaːmˀba ˀjaku ˀkui](風がぴたりと止んで大凪になってしまったから櫂で舟を漕ぎなさい)。カˈジヌ　ウーˀトゥリ　シˈターキーヌˀパーン　ˈウーカˀヌ [kaˈʤinu ʔuːˀturi ʃi̥ˈtaːkiːnuˀpaːŋ ˈʔuːkaˀnu](風が大凪になったので、木の葉の動かない)。ウˈヌˀスク　フˈクˀタ　カˈジヌ　ウーˀトゥリ　ˈシーナーヌˀヌ　フˈキカイシˀヌ　ˈキーˀスンダ　ˈヤーˀヌ　カˈキンˀグ　ˈシーˀヨー [ʔuˈnuˀsu̥ku ɸu̥ˈkuˀta kaˈʤinu ʔuːˀturi ˈʃiːnaːnuˀnu ɸu̥ˈkikaiʃiˀnu ˈkiːˀsunda ˈjaːˀnu kaˈkiŋˀgu ˈʃiːˀjoː](あんなに吹き荒れた < 吹いた > 台風が大凪になって < ぴたりと凪いで > しまったが、台風の吹き返しがくるから家の格護 < 保護対策 > をしっかりしなさいよ)。

ˈウートゥルˀバイ [ˈʔuːturuˀbai] 【名】ぼんやりすること。ぽかんとしているさま。間が抜けたさま。呆然自失のさま。驚いて目を白黒させるさま。ˈアッˀタニ　ウˈバーシターˀ　ウˈレーˀ　ウˈダラˀキティ　ˈウートゥルˀバイ　ˈシーベー [ˈʔatˀtani ʔuˈbaːʃitaːˀ ʔuˈreːˀ ʔuˈdaraˀkiti ˈʔuːturuˀbai ˈʃiː beː](急に < 突然に > 驚かしたので、彼は驚いて呆然自失になっている < ぼんやりしている。ぽかんとしている >)。

ˈウーナミ [ˈʔuːnami] 【名】大波。ˈウーˀナン [ˈʔuːˀnaŋ] 供いう。ˈオーラーˀラ　ˈウーナミˀヌ　ˀブリクーカー　ˀフネー　ˈオーラー　マーシㅏダー [ˈʔoːraːˀra ˈʔuːnamiˀnu ˀburikuːkaː ˀɸuneː ˈʔoːraː maːʃiㅏdaː](風上から大波が群れ寄せてきたら、舟は舳先を風上

の方へ回せよ)。

˞ウーニンズ [˞ʔuːnindʑu] 【名】多人数。多数の人々。˞ウーニンズーヌ˺ プ˞スバ˺ ヤ˞トゥイ˺ル カ˞ツシンマー ソーッ˺タ [˞ʔuːndʑuːnu˺ pu̥˞suba˺ ja˞tui˺ru ka̠˞tsuʃimmaː soːt˺ta](多人数の人を雇って＜ぞ＞カツオ漁業＜カツオ船＞は操業された)。

˞ウー˺バニ [˞ʔuː˺bani] 【名】(動物)。鱶の一種。パ˞ニ [pa˞ni](尾びれ) が最もよい。ピ˞トゥブリ˺ヌ ナ˞カ˺ナー ˞ウーバニ˺ヌ ブ˞リン˺ ブ˞リブタ [pi̥˞tuburi˺nu na˞ka˺naː ˞ʔuː˺banim bu˞ributa](イルカ＜海豚＞の群れの中には˞ウー˺バニの群れもいた)。この群れに当たるとサ˞バ [sa˞ba](鱶) がよく釣れ、大漁した。

˞ウー˺バニ [˞ʔuː˺bani] 【名】(動) 鮫魚の名。和名、ヨゴレ (体長 4 メートルに達するものがいるという)。

˞ウーバン˺ジン [˞ʔuːban˺dʑiŋ] 【名】真っ最中。真っ盛り。ミ˞ドーン˺ッふァヌ ˞ジュー˺シチハチェー ˞ウーバン˺ジン ˞ゲ˺ラ [mi˞doːŋ˺ffanu ˞dʑuː˺ʃi̥tʃi-hatʃeː ˞ʔuːban˺dʑiŋ ˞ge˺ra](女の子の十七、八は、乙女＜盛り＞の真っ最中というものさ)。

˞ウー˺ピカイ [˞ʔuː˺pikai] 【名】神仏へ祈願する際の前口上。祭文。祝詞。神降ろしの祈願。˞ウーピカイ˺ヤ バー ッ˞サルバ˺ ワ˞タン˺ マー˞ズン ティー˺ ッサイ ˞オー˺リ [˞ʔuːpikai˺ja ˺baː s˞saruba˺ wa˞tan˺ maː˞dʑun tiː˺ssai ˞ʔoː˺ri](神への祝詞は私が申し上げるから貴方方も一緒に祈ってください＜手を合わせなされ＞)。

˞ウーピカイ˺ヌ ˞カウ [˞ʔuːpikai˺nu ˞kau] 【連】祈願の際に神降ろしのために焚く線香。板香を半分に割ったものを三本焚く。˞ウーピカイ˺ヌ ˞カウ ミームトゥ˺ シキ ˺タティ ˞オーシ [˞ʔuːpikai˺nu ˞kau miːmutu˺ ʃi̥ki ˺tati ˞ʔoːʃi](神降ろしの祈願の線香三本に火をつけて立てて差し上げなさい)。

˞ウー˺ブシ [˞ʔuː˺buʃi] 【名】鰹節の名。雄節。カツオの背肉で製造した鰹節。カ˞ツブシ˺ナー ˞ウーブシ˺ル イッ˞チン ダイヤー˺ タ˞カー [ka̠˞tsubuʃi˺naː ˞ʔuːbuʃi˺ru ʔit˞tʃin daijaː˺ ta̠˞kaː](鰹節では雄節が一番値段は高い)。

˞ウーマ˺ク [˞ʔuːma˺ku] 【名】生意気な者。沖縄方言からの借用語。普通はヤ˞マン˺グ [ja˞maŋ˺gu](腕白小僧。悪戯小僧。狡猾者) という。ビ˞コーンッふァー ウーマ˺ク＜ヤ˞マン˺グ＞ ˺ナリティ プ˞スヌ˺ ムニ シゥ˞カヌ [bi˞koːŋffaː ʔuːma˺ku ＜ja˞maŋ˺gu＞ ˺nariti pu̥˞sunu˺ muni si̥˞kanu](男の子は生意気な腕白者になって、他人の言うことを聞かない)。

˞ウーマ˺スン [˞ʔuːma˺suŋ] 【他動】1熟させる。「熟(うま) せる」の義。バ˞サン˺ナロー ˞ウーマサン˺カー ッ˞ふァーラヌ [ba˞san˺naroː ˞ʔuːmasaŋ˺kaː f˞faːranu](バナナは熟れさせないと食べられない)。˞ウーマ˺スンティル パ˞ク˺ナ イ˞リ˺シケー [˞ʔuːma˺suntiru pa̠˞ku˺na ʔi˞ri˺ʃi̥keː](熟れさせようと箱に入れてある)。˞ウーマシ˺ プサンドゥ ˺ドゥク ˞ウーマ˺スカー ˞カーサラヌ [˞ʔuːmaʃi˺ pu̥sandu˺duku ˞ʔuːma˺sukaː ˞kaːsaranu](熟ませたいが、あまり熟ませると売れない)。˞マー˺ビン ˞ウーマ˺シェー ˺ミサムヌ [˞maː˺biŋ ˞ʔuːma˺ʃeː misamunu](もっと熟れさせればよいのに)。˞パー˺ク ˞ウーマ˺シ [˞paː˺ku ˞ʔuːma˺ʃi](早く熟ませなさい)。2化膿させる。ク˞ヌ˺ ア˞シ˺ボー ˞マー˺ビン ˞ウーマ˺シティ バ˞リバル ノーシ ヤッ˺サル ˺ムンヌー [ku˞nu˺ ʔa˞ʃi˺boː ˞maː˺biŋ ˞ʔuːma˺ʃi̥ti ba˞ribaru noːʃijas˺saru ˺munnuː](この御出来＜腫れ物＞はもっと化膿させてから切開した＜割った＞ほうが治しやすいものを、＜早く切開しすぎたものだ＞)。

˞ウーマタ [˞ʔuːmata] 【名】大股。股を大きく広げること。ウ˞ブマタ [ʔu˞bumata](大股) ともいう。˞ウーマタ˺シ ア˞ラ˺クカー タ˞デー˺マンチン シ˞キ˺ス [˞ʔuːmata˺ʃi ʔa˞ra˺kukaː ta˞deː˺mantʃiŋ ʃi̥˞ki˺su](大股で歩いたらすぐに＜唯今のうちに＞着くよ)。

˞ウーミジ [˞ʔuːmidʑi] 【名】大水。洪水。˞ウーアミヌ˺ フーカー ˞カーララー ウーミジヌ˺ ウ˞ク˺ルン [˞ʔuːaminu˺ ɸuːka: ˞kaːraraː ʔuːmidʑinu˺ ʔu˞ku˺ruŋ](大雨が降ると川は洪水が起きる)。

˞ウー˺ミタルン [˞ʔuː˺mitaruŋ] 【自動】完熟する。熟しきる。「熟み垂る (「うみたる梅を」『金葉和歌集』)」の転訛か。パ˞タキ˺ヌ ˺アザナー ˞バンスル˺ヌ ˞ウー˺ミタリティ カ˞バッサ˺ヌ フ˞チジル˺ ン˞ジ˺ス [pa̠˞taki˺nu ˺ʔadʑanaː ˞bansuru˺nu ˞ʔuː˺mitariti ka˞bassa˺nu ɸu̥˞tʃidʑiru ʔn˞dʑi˺su](畑の畦のバンスル＜グワバ＞の木に蕃ざくろ＜グワバの実＞が完熟して香ばしく芳香を放っており、本当によだれ＜涎。口汁＞がでるよ)。˞ウーミ˺タルンケン ブ˞ル˺ナ [˞ʔuːmi˺taruŋkem bu˞ru˺na](完熟するまで捥(モ)ぐな)。˞ウーミタラン˺ケン ˺ブリバ [˞ʔuːmitaraŋ˺kem ˺buriba](完熟しないうちに捥げよ)。˞ウーミ˺タル ˺クトー ˞ナー˺ヌ [˞ʔuːmi˺taru ˺ku̥toː ˞naː˺nu](完熟することはない)。˺ドゥク ˞

ウーミ˺タレーラー　ッ˹ふァーラヌ [˺duku ˹ʔuːmi˺ tareːraː ˹f˺faːranu](あまり熟れすぎると食えない)。

˹ウームカシ [˹ʔuːmukaʃi]　【名】大昔。パ˹トゥマ˺ヌ　˹ウームカシヌ˺　パ˹ナ˺シ　ッ˹ソー˺レー　プ˹ソー˺　ター˹ン　オーラ˺ヌ [pa˹tuma˺nu ˹ʔuːmukaʃinu˺ pa˹na˺ʃi s˹soː˺reː pu̥˹soː˺ taː˹ŋ ʔoːra˺nu](鳩間島の大昔のこと＜話＞を知っておられる方は誰も居られない)。˹ウームカシ˺ナ　ク˹ル˺シマーラ　パ˹トゥ˺マー　プ˹スヌ˺　バ˹キラ˺リ　˹オー˺レーティル　ム˹ラー˺　タ˹トーッ˺タツォー [˹ʔuːmukaʃi˺na ku ˹ru˺ʃimaːra pḁ˹tu˺maː pu̥˹sunu˺ ba˹kira˺ri ˹ʔoː˺reːtiru mu˹raː˺ tḁ˹toːt˺tatsoː](大昔に黒島から鳩間島へ人が分けられて来られて＜ぞ＞村が創建されたそうだ)。

˹ウー˺ムヌ [˹ʔuː˺munu]　【名】雄。「雄物」の義。動物、植物名に上接して用いられるが、植物の「雄株」に対して用いることが多いようである。˹ウー˺バサ [˹ʔuː˺basa](雄芭蕉)、ビ˹キウシ [bi˹kiʔuʃi](雄牛)、ビ˹キオー [bi˹kioː](雄豚) のように、動物の雄に対しては、ビ˹キ [bi˹ki](雄) を用いる。ク˹ヌ˺　バサー　˹ウー˺ムヌ　ヤ˹レー˺ティ　˺ナロー　ナ˹ラ˺ヌ [ku˹nu˺ basaː ˹ʔuː˺munu ja˹reː˺ti naroː na˹ra˺nu](この芭蕉は雄だから実は生らない)。

˹ウー˺ムン [˹ʔuː˺muŋ]　【自動】 ¹熟する。バ˹サン˺ナロー　˹キューバー˺キナ　˹ウー˺ムンカヤーティ　ウ˹ムータン˺ドゥ　マ˹ダ　ウーマン˺バン [ba˹san˺naroː ˹kjuːbaː˺kina ˹ʔuː˺muŋkajaːti ʔu˹muːtan˺du ma ˹da ʔuːmam˺baŋ](バナナは今日までには熟れるかと思ったが、まだ熟れないよ)。キ˹サーティ　ウー˺ミ　˹ナー˺ヌ [ki̥˹saːti ʔuː˺mi ˹naː˺nu](すでに熟れてしまった)。˹パイ˺サ　˹ウー˺ム　˺ムノーラ　ッ˹ふァイ˺バ [˹pai˺sa ˹ʔuː˺mu ˺munoːra ˹f˺fai˺ba](早く熟れるものから食べなさいよ)。˹パー˺ク　˹ウー˺メー　˺ミサムヌ [˹paː˺ku ˹ʔuː˺meː ˺misamunu](早く熟れればいいのに)。˹パー˺ク　˹ウー˺ミ [˹paː˺ku ˹ʔuː˺mi](早く熟れよ)。²化膿する。「～膿 (う) み爛 (みだ) れき」『金光明最勝王経』の義。ア˹シブ˺ヌ　˹ウー˺ミティ　˺ヤミ　ナ˹ラ˺ヌ [ʔa˹ʃibu˺nu ˹ʔuː˺miti ˺jami na˹ra˺nu](おできが化膿して痛く＜病み＞て堪らない)。ナ˹マンダウーミ [na˹mandaʔuːmi](半熟。果物が半分熟れること)。ク˹ヌ˺　ア˹シ˺ボー　˹ウー˺ミ　˹ベー [ku˹nu˺ ʔa˹ʃi˺boː ˹ʔuː˺mi ˹beː](このできものは化膿している)。マ˹ダ　ウーマ˺ヌ [ma ˹da ʔuːma˺nu](まだ熟しない)。˹ウー˺ム　˺ピンマー　カ˹ジヌ˺　フクン [˹ʔuː˺mu ˺pimmaː ka˹ʤinu˺ ɸu̥kuŋ](熟する時は風が吹く)。バ˹サン˺ナロー　˹ウー˺メーカー　˺ブリクーバ [ba˹san˺naroː ˹ʔuː˺meːka: ˺buriku:ba](バナナは熟しているなら挽いで来なさいよ)。˹パー˺ク　˹ウー˺ミ [˹paː˺ku ˹ʔuː˺mi](早く熟れよ)。

˹ウー˺ムン [˹ʔuː˺muŋ]　【他動】紡ぐ。麻、苧、芭蕉の繊維を細く裂き、縒り合わせて長く繋ぐ。「～麻笥にふすさに宇麻受登毛＜ウマズトモ＞～。万、3484」の転訛か。˺ブー　˹ウー˺ムンティ　˹ベーン˺ドゥ　˹ミー˺ヤ　˹ムイティ　ウーマラ˺ヌ [˺buː ˹ʔuː˺munti ˹beːn˺du ˹miː˺ja ˹muiti ʔuːmara˺nu](麻を紡ごうとしているが目が老眼になって紡がれない)。˹ウーミ˺　プサカー　˺ドゥーシ　˹ウー˺ミバ [˹ʔuːmi˺ pu̥saka: ˺duːʃi ˹ʔuː˺miba](紡ぎたければ自分で紡げよ)。˺ブー　˹ウー˺ム　˺ピンマー　˺アッパー　˺スクイナー　˹ウー˺メー　˺ミサムヌ [˺buː ˹ʔuː˺mu˺pimmaː ˺ʔappaː ˺su̥kuinaː ˹ʔuː˺meː ˺misamunu](麻を紡ぐ時はお祖母さんの麻笥に紡げばいいのに＜紡いで入れれば良いのに＞)。

˹ウー˺ムン [˹ʔuː˺muŋ]　【他動】うむ (績む)。麻糸を紡ぐ。˺アッパー　˹ヤー˺ナーティ　˹ブー˺バ　˺サキ　˹ウー˺ミティ　˺スクイナール　イ˹ローッ˺タ [˺ʔappaː ˹jaː˺naːti ˹buː˺ba ˺saki ˹ʔuː˺miti ˺sukuinaːru ʔi ˹roːt˺ta](お祖母さんは家で麻を細かく裂き紡いで＜績みて＞、スクイ＜ソケ、麻笥＞に入れられた)。˺ブー　˹ウーマ˺ヌ [˺buː ˹ʔuːma˺nu](麻糸を績まない)。˹ワー　ウー˺ムカー　˹バン˺ヌン　˹ウー˺ムン [˹waː ʔuː˺mukaː ˹ban˺nuŋ ˹ʔuː˺muŋ](君が績んだら私も績む)。˺ブー　˹ウー˺ム　˺ピン [˺buː ˹ʔuː˺mu ˺piŋ](麻糸を績むとき)。˹ウー˺メー　˺ミサムヌ [˹ʔuː˺meː ˺misamunu](績めばよいのに)。˹ウー˺ミ [˹ʔuː˺mi](績め。紡げ)。

˹ウーモーキ [˹ʔuːmoːki]　【名】大儲け。ム˹カ˺シェー　カ˹ツシンラ　ウーモーキ　ソーッ˺タンツォー [mu˹ka˺ʃeː kḁ˹tsuʃinra ʔuːmoːki soːt˺tantsoː](昔はカツオ漁船から大儲けされたそうだ)。

˹ウー˺ル [˹ʔuː˺ru]　【名】 (植) ウリ (瓜)。きゅうり (胡瓜)。果実は細長く、緑色。普通は畑で露地栽培されたが、家庭菜園ではタ˹ナ [ta˹na](棚) を掛けて栽培していた。˹ウー˺ロー　˹ウー˺ルダナナ　˹パー˺シ　˺シケーンダ　ウ˹ムッ˺サスコー　ナ˹リ˺ブー [˹ʔuː˺roː ˹ʔuː˺rudanana ˹paː˺ʃi ˺ʃi̥keːnda ʔu˹mus˺sasukoː na ˹ri˺buː](瓜は瓜棚に這わせてあるので、面白いほど沢山生っている)。

˹ウール [˹ʔuːru]　【名】珊瑚石。海石。枝珊瑚。テー

ブル珊瑚。ˈウールイシ [ˈʔuːruʔiʃi](珊瑚石、海石)ともいう。ˈウールパイ [ˈʔuːrupai](石灰、珊瑚石を焼いて作ったいしばい)。タˈチバルˀヌ　ˈインタヌˀ　ピーナー　タˈカウールˀヌ　ムイˈブンダˀ　タˈクˀ　トゥリン　ˀパルカー　ˀフチェー　フˈタックミˀ　ムティパリ [taˈtʃibaruˀnu ˈʔintanuˀ piːnaː taˈkaʔuːruˀnu muiˈbundaˀ taˈkuˀ turim ˀparukaː ˀɸutʃeː ɸu̥ˈtakkumiˀ mutipari](立原の西の干瀬には高い枝珊瑚が生えているから蛸を獲りに行くなら草鞋を二足持って行きなさい)。

ˈ**ウールイシ [ˈʔuːruʔiʃi]** 【名】珊瑚。珊瑚石。ˈウールイシバˀ　ヤˈキティル　ウールパイヤˀ　スˈクˀル [ˈʔuːruiʃibaˀ jaˈkitiru ʔuːrupaijaˀ su̥ˈkuˀru](枝珊瑚やテーブル珊瑚の珊瑚石を焼いて < ぞ > 石灰は作る)。カˈソーライシ [kḁˈsoːraiʃi](テーブル珊瑚)。

ˈ**ウールパイ [ˈʔuːrupai]** 【名】石灰。いしばい。「珊瑚灰」の義。鳩間島では枝珊瑚やテーブル珊瑚の枯れたものを集めて浜辺で焼き、その灰を砂と混ぜ、藁を細かく裁断して混ぜ、水で捏ね合わせ、搗いて漆喰に仕上げていた。これを、ムˈチ　アーˀスン [muˈtʃi ʔaːˀsuŋ](漆喰を捏ねる) という。イˈクサユーˀヌ　ˀアトー　ˈカーラˀヌ　ムˈチˀ　スˈクˀルンティ　ˀドゥーシ　ˈウールˀ　ヤˈキティ　ウールパイˀ　スˈクˀローッタ [ʔiˈkusajuːˀnu ˀʔatoː ˈkaːraˀnu muˈtʃiˀ su̥ˈkuˀrunti ˀduːʃi ˈʔuːruˀ jaˈkiti ʔuːrupaiˀ su̥ˈkuˀroːtta](終戦後 < 戦世の後 > は瓦の漆喰 < モチ > を作ろうとして、自分で珊瑚石を焼いて石灰を作られた)。

ˈ**ウールパイヤキガマ [ˈʔuːrupaijakigama]** 【名】石灰窯。石灰を焼く窯。パˈマˀナ　ˈウールパイヤキガマˀ　スˈクˀリティル　ˈウールバˀ　ヤˈキティ　ウールパイˀ　スˈクˀローッタ [paˈmaˀna ˈʔuːrupai-jakigamaˀ su̥ˈkuˀritiru ˈʔuːrubaˀ jaˈkiti ʔuːrupaiˀ su̥ˈkuˀroːtta](浜辺で石灰窯を作って < ぞ > 珊瑚を焼いて石灰を作られた)。

ˈ**ウールムチ [ˈʔuːrumutʃi]** 【名】しっくい (漆喰)。単に、ムˈチ [muˈtʃi](漆喰) ともいう。石灰に砂と藁の刻んだものを混ぜ、水で捏ね合わせて搗いて仕上げたもの。ˈカーラˀヌ　シˈギミーヤ　ウールムチˀシ　ˈヌーリティˀ　カˈタモーッˀタ [ˈkaːraˀnu ʃi ˈgimiːja ʔuːrumutʃiˀʃi ˈnuːritiˀ kḁˈtamoːtˀta](瓦の継ぎ目は漆喰で塗って固められた)。

ˈ**ウーン [ˈʔuːŋ]** 【他動】1追う。後を追う。追い払う。「～あとひみ求め追去者 < オヒユカバ >～。万、545」の転訛したもの。ウˈヤˀヌ　シˈビ　ウーン [ʔuˈjaˀnu ʃiˈbi ʔuːŋ](親の後 < 尻 > を追う)。ウˈヤˀヌシˈビ　オーヌ [ʔuˈjaˀnu ʃiˈbi ʔoːnu](親の後 < 尻 > を追わない)。トゥˈロー　ウイˀ　プサンドゥ　ˈウーˀ　クˈトゥˀヌ　ナˈラˀヌ [tuˈroː ʔuiˀ pu̥sandu ˈʔuːˀ ku̥ˈtuˀnu naˈraˀnu](鳥は追い払いたいが、追い払うことができない)。トゥˈル　ウイ [tuˈru ʔui](鶏を追え)。マˈナˀマー　ˈウーナ [maˈnaˀmaː ˈʔuːna](今は追うな)。ˈパーˀク　ˈウイヤーˀ　ミサムヌ [ˈpaːˀku ˈʔuijaːˀ misamunu](早く追えばいいのに)。ˈバンˀマー　ˈオーラヌ [ˈbamˀmaː ˈʔoːranu](私には追えない)。ウˈシ　ウーン [ʔuˈʃi ʔuːŋ](牛を追う)。ˀバー　ˈオーヌ [ˀbaː ˈʔoːnu](私は追わない)。ˈウイˀ　パリ [ˈʔuiˀ pari](追って行け)。ˈウーˀ　プˈソーˀ　ブˈラーヌ [ˈʔuːˀ pu̥ˈsoːˀ buˈraːnu](追う人はいない)。ˈウイヤーˀ　ミサムヌ [ˈʔuijaːˀ misamunu](追えばいいのに)。ˈウイ [ˈʔui](追え)。ウˈヤˀヌ　シˈビ　ウーン [ʔuˈjaˀnu ʃiˈbi ʔuːŋ](幼児が親の後を追う)。ˈオーヌ [ˈʔoːnu](追わない)。ビˈキドゥムヌˀ　シˈビバ　ウイパッˀタ [biˈkidumunuˀ ʃiˈbiba ʔuipatˀta](男の後を追って行った)。クˈリティˀ　ウムーカーマーˈンバーˀキン　ˈウーˀクトゥ [kuˈritiˀ ʔumuːkaːmaːˈmbaːˀkiŋ ˈʔuːˀku̥tu](これと思ったら何処までも追うことだ)。ˀマー　ンˈベーマー　ウイヤーˀ　ミサムヌ [ˀmaː ʔmˈbeːma ʔuijaːˀ misamunu](もう少し追えばよいのに)。ˈパーˀク　ˈウイ [ˈpaːˀku ˈʔui](早く追え)。クˈヌˀ　ッˈふァーˀ　ブˈネーヌシビ　ウイˀナー　ナˈラˀヌ [kuˈnuˀ fˈfaːˀ buˈneːnu ʃibi ʔuiˀnaː naˈraˀnu](この子は母親の後を追って < 後おいをして > 困る < 仕様がない >)。ˈオーヌ [ˈʔoːnu](追わない)。トゥˈル　ウイ　ッふィーリ [tuˈru ʔui ffiːri](鶏を追い払ってくれ)。ˈワーンドゥウーˀカー　ˈバンˀヌン　ˈウーン [ˈwaːndu ʔuːˀkaː ˈbanˀnuŋ ˈʔuːŋ](君が追うなら私も追う)。ˈウーˀ　プˈソーˀ　ターˈンˀ　ブˈラーヌ [ˈʔuːˀ pu̥ˈsoːˀ taːˈmˀ buˈraːnu](追う人は誰もいない)。ˈマーˀビン　ˈウイヤーˀ　ミサムヌ [ˈmaːˀbiŋ ˈʔuijaːˀ misamunu](もっと追えばよいのに)。ˈパーˀク　ˈウイ [ˈpaːˀku ˈʔui](早く追え)。2追い払う。追放する。パˈナシキヌ　カンˀマー　ˀイソーパーレー　シˈティˀ　シˈマーˀラ　ˈウイ　パラˀシ [paˈnaʃi̥kinu kamˀmaː ˀʔisoːpaːreː ʃiˈtiˀ ʃiˈmaːˀra ˈʔui paraˀʃi](風邪の神様はイソーパーレーをして島から追い払え)。ˈオーリ　パッˀタ [ˈʔoːri patˀta](追われて < 追放されて > いった)。ˈオーリムヌ　シˈラレーˀティ　ˈアーˀク [ˈʔoːrimunuˀ ʃiˈrareːˀti ˈʔaːˀku](追われもの < お尋ね者、容疑者

> にされている < あるく >) して。

˥ウーン [˥ʔuːŋ] 【自動】傷が治る。キ˩ジェー　ウイ˥ヤン [kiˬʤeː ʔui˥jaŋ](傷は治った)。マ˩ダ　オー˥ヌ [maˬda ʔoː˥nu](まだ治らない)。ク˩ヌ˥　キ˩ジェー˥　ウークトー　˩ナー˥ヌ [kuˬnu˥ kiˬʤeː˥ ʔuːkutoː˩ naː˥nu](この傷は治る事はない)。

˥ウーン [˥ʔuːŋ] 【自動】泳ぐ。˩スー˥ヌ　ピ˩キズーワ˥ヌ　˥クマナー　˩オーラ˥ヌ [˩suː˥nu pi̥˩kiʤuːwa˥nu ˥kumanaː ˩ʔoːra˥nu](潮の流れが強くて、此処では泳げ < 泳がれ > ない)。˩ワー˥　ウーカー　˩バン˥ヌン　˥ウーン [˩waː˥ ʔuːkaː ˩ban˥nuŋ ˥ʔuːŋ](君が泳いだら僕も泳ぐ)。˩ウイ˥プサカー　˩タンガ˥シ　˥ウイバ [˩ʔui˥pu̥sakaː ˩taŋga˥ʃi ˥ʔuiba](泳ぎたければ自分一人で泳げよ)。˥クナー　˥ウー　˥クトー　ナ˩ラン˥カー　˥カナー　˩ウイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˥kunaː ˥ʔuː ˥ku̥toː naˬraŋ˥ka ˥kanaː ˩ʔui˥jaː ˥misamunu](ここで泳ぐことは出来なければ、あそこで泳げばいいのに)。˩パー˥ク　˥ウイバ [˩paː˥ku ˥ʔuiba](早く泳げよ)。スˬナカ˥ナーヤ　˩ウイヤッ˥サン [suˬnaka ˥naːja ˩ʔuijas˥saŋ](海では泳ぎやすい)。˩キュー˥ヤ　˩オー˥ヌ [˩kjuː˥ja ˩ʔoː˥nu](今日は泳がない)。˩ワー˥　ウーカー　˩バン˥ヌン　˥ウーン [˩waː˥ ʔuːkaː ˩ban˥nuŋ ˥ʔuːŋ](君が泳いだら私も泳ぐ)。˥ウー　˥ピンマー　˩タンガ˥シェー　˩ウー˥ナ [˥ʔuː ˥pimmaː ˩taŋga˥ʃeː ˩ʔuː˥na](泳ぐときは一人では泳ぐな)。˩マー˥ビン　˩ウイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˩maː˥biŋ ˩ʔui˥jaː ˥misamunu](もっと泳げばよいのに)。˩パー˥ク　˥ウイ [˩paː˥ku ˥ʔui](早く泳げ)。タ˩ティ˥ウイ　˩シーシェー˥ン [taˬti˥ʔui ˩ʃiːʃeː˥ŋ](立ち泳ぎ出来る)。˩ナー˥ティーウイ [˩naː˥tiːʔui](長手泳ぎ。抜き手。クロール)。˩アウ˥タウイ [˩ʔau˥taʔui](蛙泳ぎ。平泳ぎ) 等の泳法がある。

˩ウーン [˩ʔuːŋ] 【他動】釘を打つ。˩フン　ウーンティ　スンドゥ　バン˥マー　˩オーラヌ [˩ɸuŋ ʔuːnti sundu bam˥maː ˩ʔoːranu](釘を打とうとするが、私には釘を打てない)。˩フン　ウイ˥　ミサカー　˩ウー˥　クトー　˥ナルン [˩ɸuŋ ʔui˥ misakaː ʔuː˥ ku̥-toː ˥naruŋ](釘を打ってよければ、打つことはできる)。˩フン　ウイヤー˥　ミサムヌ [˩ɸuŋ ʔuijaː˥ mis-amunu](釘を打てば良いのに)。˥クナー　˩フン　ウイ˥バ [˥kunaː ˩ɸuŋ ʔui˥ba](ここに釘を打ちなさい)。

˥ウーン [˥ʔuːŋ] 【自動】1老いる。˩老ゆ。上二」「〜消易き吾が身雖老 < オイヌトモ >〜。万、2689」の転訛したもの。˩ウイ˥ルンとも言う。トゥ˩シ˥　トゥルカー　ター˩ン˥　ウーンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩ワー　オーン˥バン˩ナー [tu̥˩ʃi˥ turukaː taː˩ŋ˥ ʔuːnti ʔu˩muːn˥du ˩waː ʔoːm˥ban˩naː](年を取ったら誰でも老いると思うが、君は老いないねえ)。2果実が熟する。バ˩サン˥ナロー　˩ウイ˥ヤン [ba˩san˥naro ˩ʔui˥jaŋ](バナナは熟れた)。キ˩サーティ˥　バ˩サン˥ナロー　˥ウイ　˩ナー˥ヌ [ki̥˩saːti˥ ba˩san˥naroː ˥ʔui ˩naː˥nu](既にバナナは熟れてしまった)。3傷が治る。キ˩ジヌ˥　ウー　˥ピンマー　˩ビー˥ヨー　˥ナルン [ki˩ʤinu˥ ʔuː ˥pimmaː ˩biː˥joː ˥naruŋ](傷が癒える < 治る > 時は痒くなる)。˩パー˥ク　˩ウイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˩paː˥ku ˩ʔui˥jaː ˥misamunu](早く傷が治ればいいのに)。

˥ウーン [˥ʔuːŋ] 【自動】疵が治る。生ふ「於布流 (オフル) 万、1507」の転訛したもの。キ˩ジェー˥　マ˩ダ　オー˥ヌ [ki˩ʤeː˥ ma˩da ʔoː˥nu](疵はまだ癒えない)。˩ウイ˥ヤン [˩ʔui ˩ｶｷﾞ jaŋ](癒えた。疵が治った)。˥ウーン　パジ [˥ʔuːmpaʤi](癒えるはず)。˥ウー　ピン [˥ʔuː piŋ](< 疵が > 治る時)　→　˩ウイ˥ルン [˩ʔui˥ruŋ]　。

˥ウイ [˥ʔui] 【名】老い。老いること。完熟。熟すること。動詞˩ウイ˥ルン [˩ʔui˥ruŋ](老いる) の連用形から転成した名詞。˩ウイ˥プス [˩ʔui˥pusu](老人、< 老い人 >)。˩ウイ˥ムヌ [˩ʔui˥munu](完熟した果物。ナ˩マ˥ムヌ [naˬma˥munu]< 生もの。未熟もの > の対義語)。˩ウイ˥キー [˩ʔui˥kiː](老木)。

˩ウイ [˩ʔui] 【名】上。1空間的高い位置。˩キー˥ヌ　˩ウイ˥ナ　˥パトゥザヌ　トゥ˩マリベー˥ン [˩kiː˥nu ˩ʔui˥naː ˥patuʤanu tuˬmaribeː˥ŋ](木の上に鳩が止まっている)。マ˩カ˥ロー　タ˩ナヌ　ウイ˥ナー　˥シキバ [maˬka˥roː taˬnanu ʔui˥naː ˥ʃikiba](お碗は棚の上に置きなさい)。2社会的地位 (身分など) が上である。ク˩ヌ˥　プ˩ソー　バン˥ター　˩ウイヌ˥　プ˩スヤ˩ロー˥ル [kuˬnu˥ pu̥˩soː ban˥taː ˩ʔuinu˥ pu̥˩su˥ ja˩roː˥ru](この人は私達の上の < 上司の > 人でいらっしゃいます)。3時間的に古い < 高い > 位置にある。˥バーラ　˥ジューダイ　˩ウイヌ˥　プ˩ソー˥　サ˩バカラ˥ヌ [˥baːra ˥ʤuːdai ˩ʔuinu˥ pu̥˩soː˥ saˬbakara ˥nu](私より十代上の人は探し当てることが出来ない)。˥トゥシェー　˥バーラ　カー˩マ　ウイ˥　ヤ˩ルンドウ˥　ス˩ブ˥ロー　カ˩チ˥ル　˩オー˥ル [˥tu̥ʃeː ˥baːra kaˬma ʔui˥ jaˬrundu˥ suˬbu˥roː kḁ˩tʃi˥ru ˩ʔoː˥ru](年は私よりずっと上だが頭脳は勝れておられる)。4能力や体力が上位である。ノー˩ン˥　シ˩ミラバン˥　プ˩ソー˥ラ　マ˩クンシェン˥　バーラン

シ˹ザ˺ル　˹ウイヤッタ [noː˹ŋ˺ ʃi˹mirabam˺ pu̥˹soː˺ra ma˹kuŋʃem˺ baːraŋ ʃi˹ʤa˺ru ˹ʔui jatta](何をさせても他人から負けなかった。私よりも兄の方が上であった)。

˹ウイ˺カ [˹ʔui˺ka] 【名】役職に賜る報酬。俸給。公務『石垣方言辞典』。˹ウイ˺カダー [˹ʔui˺kadaː](人頭税時代に王府より与えられた役職用の田地)。˹ウイ˺カジー [˹ʔui˺kaʤiː](人頭税時代に王府より与えられた役職用の畑地)。˹ウイ˺カプス [˹ʔui˺kapusu](公務員。月給取り)。˹マイフナー　マリ　ウイ˺カタ˹ボーラリ˺リ　˹ヨー [˹maiɸunana: mari ʔui˺ka ta ˹boːrari˺ri˹joː](成功して俸給を頂けるようになりなさいよ)。

˹ウイガー˺サ [˹ʔuigaː˺sa] 【名】 1年をとったもの。「老い・かし葉」の義か。˹ウイガーサ˺　ナルンケン　クイ˹オー˺ル　プ˹スン　オーラ˺ヌ　˹ソー　シー˺　ナ˹ラン˺バン [˹ʔuigaːsa˺ naruŋkeŋ ˺kui ˹ʔoː˺ru pu̥ ˹suŋ ʔoːra˺nu ˹soː ʃiː˺ na˹ram˺baŋ](年をとるまで嫁に欲しいと乞われる人もおられない。心配でたまらないよ)。2古い葉。˹ウイガー˺サラ　カ˹カイ˺クーバ [˹ʔuigaː˺sara kḁ˹kai˺kuːba](上の古くなった葉から捥(モ)いで＜欠いて＞来なさいよ)。

˹ウイカイスン [˹ʔuikaisuŋ] 【他動】追い返す。ウ˹ヌ˺　ム˹ノー　ヤー　ペーラス˺ナ　˹ウイカイシ˺　パ˹ラー˺イ [ʔu˹nu˺ muˡnoː jaː peːrasu˺na ˹ʔuikaiʃi˺ pa˹raː˺i](そいつは家の中に入れるな。追い返してやれ＜追い返して行かせ＞)。˺バー　イッ˹カ　ウイカイサヌ [˺baː ʔik˹ka ʔuikaisanu](私は決して追い返さない)。˹ウイカイスンティ˺　ウムーカー　˹ウイカイス˺　クトー　˺ナルン [˹ʔuikaisunti˺ ʔumuːkaː ˹ʔuikaisu˺ ku̥toː ˺naruŋ](追い返そうと思えば＜思うならば＞追い返すことは出来る)。˹ウイカイシェー˺　ミサムヌ [˹ʔuikaiʃeː˺ misamunu](追い返せばいいのに)。ヤー˹ディン　ウイカイシ [jaː˹diŋ ʔuikaiʃi](必ず追い返せ)。

˹ウイカクチ [˹ʔuikakuʧi] 【名】上顎 (うわあご)。˹オーカクチ [˹ʔoːkakuʧi](上顎) というのが普通。シゥ˹カンクル˺ビ　シ˹ティル　ウイカクチバ˺　バ˹リ˺シケー˹ツォー [si̥˹kaŋkuru˺bi ʃi̥˹tiru ʔuikakuʧiba˺ ba˹ri˺ʃi̥ke:˹tsoː](ぶっ転びして＜ぞ＞上顎を強打して傷をつけてあるんだよ＜怪我をして、割ってあるんだよ＞)。

˹ウイカジ [˹ʔuikaʤi] 【名】追い風。マ˹シ˺ビ [ma˹ʃi˺bi](真艫(マトモ)より吹く風) ともいう。˹ウイカジ˺　ナリ˹ジンプー˺　マ˹リブンダ˺　フネー　ン˹ザサ˺リン [˹ʔuikaʤi˺ nari ˹ʤimpuː˺ ma˹ribunda˺ ɸuneː ʔn˹ʤasa˺riŋ](追い風になって順風になっている＜順風が生まれている＞ので船は出港できる＜出される＞)。

˹ウイカタ [˹ʔuikata] 【名】上役。上司。ク˹ヌ˺　プ˹ソー˺　ヤ˹クバ˺ヌ　˹ウイカタ˺　ヤ˹ロー˺ル [ku˹nu˺ pu̥˹soː˺ ja˹kuba˺nu ˹ʔuikata˺ ja˹roː˺ru](この方は役場の上役であられる)。

˹ウイ˺カダー [˹ʔui˺kadaː] 【名】役田。役職の報酬として頂いた田。˹ウン˺ネーナー　ム˹カ˺シ　ミ˹ザシ˺ヌ　˹オー˺レーティル　ク˹ヌ　ター˺ヤ　˹ウイ˺カダーティ　ア˹ザリブー˺ツォー [˹ʔun˺neːnaː muˡka˺ʃi miˡʤaʃi˺nu ˹ʔoː˺reːtiru ku˹nu taː˺ja ˹ʔui˺kadaːti ʔa ˹ʤaribuː˺tsoː](その家には昔、目差職の役人がおられたので、この田はウイカダーといわれているそうだ)。

˹ウイカナケー [˹ʔuikanakeː] 【名】屋号。浦崎家。浦崎英行氏宅。「上兼久家」の義。浦崎英行氏は鳩間島の名士で、伝統舞踊の名手でもあった。戦前に福吉丸の船主としてカツオ節製造工場を経営していたが戦争で工場が爆撃され、戦後事業から撤退された。次男の浦崎英七氏は竹富町役場に勤務し、町の発展に尽した。イ˹クサユー˺ヌ　˺マイナー　˹ウイカナケーヌ˺　プ˹スン˺　カ˹ツシン˺　ムティ˹オーッ˺タン [ʔi˹kusajuː˺nu ˺mainaː ˹ʔuikanakeːnu˺ pu̥˹suŋ˺ kḁ˹tsuʃim˺ muti ˹ʔoːt˺taŋ](太平洋戦争前には浦崎家の人もカツオ漁船を持っておられた)。

˹ウイカナケーヌ　エイキツァザーテー [˹ʔuikanakeːnu ʔeikitsaʤaːteː] 【連】屋号。兼久英吉氏 (浦崎) 宅。鳩間村一斑の˺ジロッピテー [˹ʤiroppiteː](大城次郎氏宅) の後隣にあった。戦前は浦崎英光氏と共にカツオ漁業 (福吉丸) を経営していたが、米軍の空襲によってカツオ節製造工場が爆破された。戦後は台湾貿易に従事したが成功しなかった。長男の浦崎雪雄氏は、小浜光次郎氏と共に鳩間島出身で初めて琉球大学を卒業し、教職に就いて島の教育に尽力した。

˹ウイ˺カプス [˹ʔui˺kapusu] 【名】役人。俸禄を貰う人。公務員。「天事、オホヤケコト」『類聚名義抄』の「オホヤケ」が˹ウイ˺カ [˹ʔui˺ka](公)」に転訛したもの。˹マイフナー　マリ˺　ウ˹ブ˺プス　˺タカプス　˺ナリティー　˹ウイ˺カプス　ナリ˹ヨー [˹maiɸunaː mari˺ ʔu˹bu˺pusu ˺tḁkapusu ˺nariti: ˹ʔui˺kapu̥su nari ˹joː](勤勉で立派な大人になって俸禄を頂く役人になりなさいよ)。

˹ウイガラ˺サー [˹ʔuigara˺saː] 【名】ろうかい (老獪) な

人。「老い烏」の義。経験豊富な悪智恵の働く人。ウ˞レー　ウイガラ˜サー　ヤ˞ルンダ˜　ウ˞リトー˜　カ˞ナー˜ヌ [ʔu˞reː ʔuigara˜saː ja˞runda˜ ʔu˞ritoː˜ ka˞naː˜nu](彼は老獪な人だから、彼と喧嘩しても勝てない＜叶わない＞)。

˞**ウイ˜キー [˞ʔui˜kiː]** 【名】老木。「老い木」の義。˞ウイキー˜ヌ　˜ナル [˞ʔuikiː˜nu ˜naru](老木の実＜果実＞)。˞ウイ˜キー　˜ナリティ　˜ナロー　ナ˞ラン˜バン [˞ʔui˜kiː ˜nariti ˜naroː na˞ram˜baŋ](老木になって果実は生らないワイ)。

˞**ウイクスン [˞ʔuikṵsuŋ]** 【他動】追い越す。追い抜く。˞ウイコースンとも言う。˞パッツァー˜シ　˜パリ　˞ギー　ウイクスンティ　スンドゥ　˞ウイクサランバン [˞pattsaː˜ʃi ˜pari ˞giː ʔuikṵsunti sundu ˞ʔuikṵsarambaŋ](走って行って追い越そうとするが、追い越されないワイ)。˞ウイクシ˜　ミサカー　˞ウイクス˜　クトー　ク˞トゥヤッ˜サン [˞ʔuikuʃi˜ misakaː ˞ʔuikṵsu˜ kṵtoː kṵ˞tujas˜saŋ](追い越して良ければ、追い越すことは簡単である＜容易い＞)。˞パー˜ク　˞ウイクシェー˜　ミサムヌ [˞paː˜ku ˞ʔuikṵʃeː˜ misamunu](早く追い越せば良いのに)。˞ウイクシ˜バ [˞ʔuikṵʃi˜ba](追い越せよ)。

˞**ウイクムン [˞ʔuikumuŋ]** 【他動】追込む。˞スー˜ヌ　ピ˞キ˜パルン　˜トンナー　˞アン˜バ　パ˞リティ˜　イ˞ゾー　ウイクミティ˜　アンナ　ガ˞ラシ˜タ [˞suː˜nu pi̥˞ki˜parun ˜tonnaː ˞ʔam˜ba pa˞riti˜ ʔi˞ʤoː ʔuikumiti˜ ʔanna ga˞raʃi˜ta](潮が引いていく所に網を張って、魚を追込んで網に引っかけて獲った＜網にかからせた＞)。˜クマーラ　イ˞ズ　ウイクムンティ　スンドゥ　ウイクマラヌ [˜kumaːra ʔi˞ʤu ʔuikumunti sundu ʔuikumaranu](ここから魚を追い込もうとするが、追い込まれない)。˞ウイクム˜　クトー　˜ナルン [˞ʔuikumu˜ kṵtoː ˜naruŋ](追い込むことは出来る)。˞ウイクメー˜　ミサムヌ [˞ʔuikumeː˜ misamunu](追い込めば良いのに)。˞パー˜ク　˞ウイクミ˜バ [˞paː˜ku ˞ʔuikumi˜ba](早く追い込めよ)。

˞**ウイコースン [˞ʔuikoːsuŋ]** 【他動】追い越す。追い抜く。ビ˞コーンッふァー˜　ウ˞ヤ˜ヌ　˜タキ　˞ウイコースンティ˜　ウ˞ムータ˜ヌ　マ˞ダ　ウイコーサヌ [bi˞koːŋffaː˜ ʔu˞ja˜nu ˜tą̣ki ˞ʔuikoːsunti˜ ʔu˞muːta ˜nu ma˞da ʔuikoːsanu](男の子は親の背丈を追い越すと思ったが、まだ追い越さない)。˞ウイコーシ˜　ミサカー　˞ウイコース˜　クトー　ナルン [˞ʔuikoːʃi˜ misakaː ˞ʔuikoːsu˜ kṵtoː ˜naruŋ](追い越して良ければ追い越すことは出来る)。˞ウイコーシェー˜　ミサムヌ [˞ʔuikoːʃeː˜ misamunu](追い越せば良いのに)。˞ウイコーシ˜バ [˞ʔuikoːʃi˜ba](追い越せよ)。

˞**ウイサー˜ルン [˞ʔuisaː˜ruŋ]** 【自動】老いぼれる。「老いさらばう」の転訛したもの。˜トゥシ　トゥ˞ル˜ター　˞ウイサー˜リティ　ドゥ˞クドゥク˜　クヌザマ　˜ナルンテー　˞タール˜　ウ˞ムー˜タ˞ツォー [˜tuʃi tu˞ru˜taː ˞ʔuisaː˜riti du˞kuduku˜ kunuʤama ˜narunteː ˞taːru˜ ʔu˞muː˜ta˞tsoː](年をとったから老いさらばえてしまって、まさかこのざまになるとは、一体誰が思ったかよ)。

˞**ウイザテー [˞ʔuiʤateː]** 【名】屋号。上里木屋氏宅。終戦後に絶家となった。昔は繁盛した家で、庭に池なども作られていた。ユ˞ナ˜デーヌ　˞アー˜ネール　˞ウイザテー˞ト ダー [ju˞na˜deːnu ˞ʔaː˜neːru ˞ʔuiʤateː˞ta:](与那田家の東隣が上里家だ)。

˞**ウイ˜ザン [˞ʔui˜ʤaŋ]** 【名】初産。˞ウイ˜ザン　˞ヤッタヌ˜　イッ˞ケナ˜　カ˞ロー˜タン [˞ʔui˜ʤaŋ ˞jattanu˜ ʔik˞kena˜ ka˞roː˜taŋ](初産であったが非常に軽か＜安産だ＞った)。

˞**ウイ˜シ [˞ʔui˜ʃi]** 【名】仰せ。言いつけ。命令。ク˞ヌ˜　クトー　˞カンヌマイ˜ヌ　˞ウイシ˜グトゥ　ヤ˞ローッ˜タツォー [ku˞nu˜ kṵtoː ˞kannumai˜nu ˞ʔuiʃi˜gutu ja˞rot˜tatsoː](このことは神様の仰せごとだったそうだ)。「およせ」(『混効験集』)。

˞**ウイ˜シキ [˞ʔui˜ʃi̥ki]** 【名】老い月。陰暦十四日夜以後の月。バ˞カ˜シキ [ba˞ka˜ʃi̥ki](若月) の対義語。˜シケー　˞ウイ˜シキ　ナ˞リ˜ブバ　˜メー　˞スー˜ヤ　˞ナン˜ゾー　ピ˞サ˜ヌ [˜ʃi̥ke: ˞ʔui˜ʃi̥ki na˞ri˜buba ˜meː ˞suː˜ja ˞nan˜ʤoː pi̥˞sa˜nu](月は老い月になっているから潮はあまり引かない＜干らない＞よ)。

˞**ウイシキルン [˞ʔuiʃikiruŋ]** 【自動】追いつく。追いつくことができる。「追いつける」の転訛。マ˞ナ˜マ　˜パルカー　プ˞スマウチ˜ナー　˞ウイシキルン˜ヨー [ma˞na˜ma ˜paruka: pṵ˞sumaʔutʃi˜naː ˞ʔuiʃi̥kiruŋ ˜joː](今行ったら正午までに＜正午の内に＞は追い付けるよ)。

˞ウイシギ˜ルン [˞ʔuiʃigi˜ruŋ] 【自動】熟れすぎる。野菜や果物が熟れすぎてすが立つ。年をとって若さが失われる。ク˞ヌ　ダイ˜クネー　˞ウイシギ˜リティ　ッ˞ふァーラヌ [ku˞nu dai˜kune: ˞ʔuiʃigi˜riti f˞fa:ranu](この大根は熟れ過ぎて < すが立って > 食べられない)。

˜ウイ　シ˞ギ˜ルン [˜ʔui ʃi˞gi˜ruŋ] 【連】熟し過ぎる。˞ダイクニ˜バ　˜ウイ　シ˞ギ˜ルンケン　パ˞タ˜キナー　シ˞ティ˜シケー [˞daikuni˜ba ˜ʔui ʃi˞gi˜ruŋkem pḁ˞ta˜kina: ʃi̥˞ti˜ʃi̥ke:](大根が熟し過ぎて、す < 鬆 > が入るまで畑に放置してある)。

˞ウイシティルン [˞ʔuiʃi̥tiruŋ] 【他動】追い抜く。追い越す。「追い捨てる」の義。フ˞ノー˜ラーラ　ウ˞ラッ˜チェー　˜パルンケンナー　ウ˞リバ　ウイシティルンティ　シー˜　ブ˞ガ˜リ　˞ナーン˜シェン [ɸu˞no:˜ra:ra ʔu˞rat˜ʃe: ˜paruŋkenna: ʔu˞riba ʔuiʃitirunti ʃi:˜bu˞ga˜ri ˞na:ŋ˜ʃeŋ](船浦から浦内へ行くまでに < 行く時に > 彼を追い抜こうとして疲れ果ててしまった)。

˞ウイシトゥン [˞ʔuiʃi̥tuŋ] 【他動】追い抜く。追い越す。「スツ (捨つ) 下二段」系動詞の四段化したもの。˞ウイシティルン [˞ʔuiʃi̥tiruŋ] と同じ。ミ˞チナカ˜ナー　˞ウイシティティ　パッ˜タ [mi˞tʃinaka˜na: ˞ʔuiʃi̥titi pat˜ta](途中で追い抜いて行った)。

˞ウイシミカーシ˜ミ [˞ʔuiʃimika:˜ʃimi] 【副】「追い詰め、囲い詰め」の義。ABCDEFCD 型の重言。追込み漁で魚を袋網の中へ追い込んだり、両手を広げて放し飼いの鶏を鶏舎へ追い込むように、遠回しに追いかけ、追い詰めていく様子を表現したもの。遊び惚けているマ˞ブロー˜マ [ma˞buro:˜ma](魂。遊離魂) を屋敷内に追い回し連れて来て魂籠めをする際にいう。遊離魂が水を飲みに来たところを、˞ブー˜ジナ [˞bu:˜ʤina](麻の緒綱) で縛って逃がさぬようにし、ブージナをマブローマの主 (肉体) の首に掛け、佩かせた。

˞ウイスー˜ブ [˞ʔuisu:˜bu] 【名】泳ぎ勝負。水泳競争。競泳。˞ウイスー˜ブ　˞サー˜ディー [˞ʔuisu:˜bu ˞sa:˜di:](泳ぎ競争をしようよ)。˜オンダー　˞シンテーナ˜　ユー　˞ウイスー˜ブ　シ˞タン˜ダー [˜ʔonda: ˞ʃinte:na˜ ju: ˞ʔuisu:˜bu ʃi̥˞tan˜da:](海水浴をしながら、よく水泳競争をしたものだよ)。

˞ウイスー˜ルン [˞ʔuisu:˜ruŋ] 【自動】成長する。かなり成長する。「生い強まる。強 < ッヨ > り『源氏物語 (紅葉賀)』」の転訛したものか。乳幼児の成長するさまを表現することば。プ˞ス˜シキ　ミ˞ラン˜ケンナー　シゥカイ˞トゥ　ウイスーリ˜　ブーバン [pu̥˞su˜ʃi̥ki mi˞raŋ˜kenna: ʃi̥kai˞tu ʔuisu:ri˜ bu:baŋ](一月見ぬうちにすっかり成長しているよ)。ヤ˞ラ˜ベー　˞イットゥ˜キ　ミ˞ラン˜ケンナー　キッ˞サ　ウイスーリ˜キシ　˞ベー˜バン [ja˞ra˜be: ˞ʔittu˜ki mi˞raŋ˜kenna: ki̥ʃ˞sa ʔuisu:ri˜ki̥ʃi ˞be:˜baŋ](子供は暫く見ないうちにすっかり大きく成長しているわい)。

˞ウイスガルン [˞ʔuisugaruŋ] 【連】追いすがる。子供が親の後追いをして、着物の裾にすがりついて泣き喚く。ッ˞ふァヌ　フンダイ˜　シ˞ティ˜　シ˞ビウイ　シー　ウイスガルンダ˜　シ˞グトゥン˜　ナ˞ラ˜ヌ [f˞fanu ɸundai˜ ʃi̥˞ti˜ ʃi˞biʔui ʃi: ʔuisugarunda˜ ʃi˞gutun˜ na˞ra˜nu](子供が我儘をして、親の後追いをして着物の裾に縋りついて泣くので野良仕事も出来ない)。

˞ウイスクン [˞ʔuisu̥kuŋ] 【自動】追い付く。「つく (下二段)」に「追い」が上接して合成された複合動詞で四段化したもの。ウ˞ヌ˜　プ˞ソー　パン˜ヌ　パ˞ヤー˜ンダ　˞ウイスクン˜ティ　サ˞バン˜　イッ˞カ　ウイシゥカラヌ [ʔu˞nu˜ pu̥˞so: pan˜nu pa˞ja:˜nda ˞ʔuisu̥kun˜ti s˞abaŋ˜ ʔik˞ka ʔuisi̥karanu](この人は足が速いので追いつこうとしてもなかなか追いつけない < 追いつかれない >)。˞ウイシキグリ˜サン [˞ʔuiʃi̥kiguri??˜saŋ](追いつきにくい)。˞ウイシキ˜ティ　ア˞ゾー˜ルカー　˞ウイスク˜　クトー　˜ナルン [˞ʔuiʃi̥ki˜ti ʔa˞ʤo:˜ruka: ˞ʔuisu̥ku˜ ku̥to: ˜naruŋ](追いつけと云われるなら、追いつくことは出来る)。˞パー˜ク　˞ウイシケー˜　ミサムヌ [˞pa:˜ku ˞ʔuiʃi̥ke:˜ misamunu](早く追いつけば良いのに)。

˞ウイゾー˜ジ [˞ʔuiʤo:˜ʤi] 【名】泳ぎ上手。ワ˞ター˜　ウ˞チ˜ナー　˞タール˜　イッ˞チン　ウイゾー˜ジヤー [wa˞ta:˜ ʔu˞ʧi˜na: ˞ta:ru˜ ʔit˞ʧiŋ ʔuiʤo:˜ʤija:](君たちの中で誰が一番泳ぎ上手か)。

˞ウイダイ [˞ʔuidai] 【名】上代。上の代。鼻祖の代。˞ウン˜ネナー　˞ウイダイヌ˜　ウ˞ブグゥンス˜ヌ　˞オー˜リ　˞ベー˜ティ　˞ソーラン˜マー　イッ˞ケン　スー˜ワン [˞ʔun˜nena: ˞ʔuidainu˜ ʔu˞bugwansu˜nu ˞ʔo:˜ri ˞be:˜ti ˞so:ram˜ma: ʔik˞kena su:˜waŋ](あの家には先祖代々からの大きな元祖 < 位牌 > がおられるので、七月のお盆行事は非常に厳しい < 強い >)。

˞ウイタティルン [˞ʔuitatiruŋ] 【他動】追い立てる。追い払う。追いやる。標準語からの借用語の転訛したもの。˞パー˜ク　˞ヤー˜　パリティ　プ˞ス　ウイタティルン [˞pa:˜ku ˞ja:˜ pariti pu̥˞su ʔuitatiruŋ](早く家に帰れと人を追い立てる)。˜キサー　˞ウイタティ

ラン˥シェンドゥ　マ⸢ナ˥マー　⸢ウイタティル˥　クトゥン　˥アン [˥ki̥sa: ⸢ʔuitatiraŋ˥ʃendu ma⸢na˥ma: ⸢ʔuitatiru˥ ku̥tuŋ ˥ʔaŋ](以前は追い立てることも無かったが、今は追い立てることもある)。⸢ウイタティ˥　ミサカー　⸢ウイタティル˥　クトー　˥ナルン [⸢ʔuitati˥ misaka: ⸢ʔuitatiru˥ ku̥to: ˥naruŋ](追い立てて良ければ、追い立てることは出来る)。⸢ウイタティレー˥　ミサムヌ [⸢ʔuitatire:˥ misamunu](追い立てれば良いのに)。⸢ウイタティリ [⸢ʔuitatiri](追い立てろ)。

⸢ウイ˥タビ **[⸢ʔui˥tabi]** 【名】初旅。パ⸢チタビ [pḁ⸢ʧitabi](初旅) ともいう。サ⸢クシ˥ヌ　⸢ウイ˥タビティ　⸢シー˥　ウ⸢ヌ˥スク　タ⸢ビヌ˥　シ⸢タ˥フティバ　⸢ヌー˥ヤ　˥クイヤー　シゥ⸢コールンティ　オー˥ル [sḁ⸢kuʃi˥nu ⸢ʔui˥tabiti ⸢ʃi:˥ ʔu⸢nu˥su̥ku ta⸢binu˥ ʃi⸢ta˥ɸutiba ⸢nu:˥ja: ˥kuija: sï⸢ko:runti ʔo:˥ru](長男 < 嫡出子 > の初旅といって、あんなに旅の支度やら何だかんだと準備をしようとしておられる)「うゐ旅」(『混効験集』)。⸢ウイタビ˥ヌ　カ⸢リユ˥シ　⸢ニン˥ガイ　⸢オー˥ラ [⸢ʔuitabi˥nu ka⸢riju˥ʃi ⸢niŋ˥gai ⸢ʔo:˥ra](初旅の航海安全を祈願致しましょう)。

⸢ウイ˥ダル **[⸢ʔui˥daru]** 【名】神行事。祭祀行事。村行事。公務。国王に対する奉公。鳩間島では神行事が公務と考えられていた。「おやだいり (親内裏)」『琉歌全集』、『組踊り』からの音韻変化したもの。パ⸢トゥ˥マー　⸢ウイダル˥ヌ　⸢ゴー˥ラーティ　キ⸢ソー˥レー　˥ムヌン　アン⸢ダー [pḁ⸢tu˥ma: ⸢ʔuidaru˥nu ⸢go:˥ra:ti ki̥⸢so:˥re: ˥munuŋ ʔan⸢da:](鳩間島は神行事が多いので切られ < 省略され > たものもあるよ)。

⸢ウイ˥ダル **[⸢ʔui˥daru]** 【名】公事。公務。仕事。「おやだいり (親内裏)」『沖縄古語大辞典』の転訛したもの。⸢ウイ˥ダル　˥マイフナー　ナリ⸢ヨー [⸢ʔui˥daru ˥maiɸuna: nari⸢jo:](公務に精励する有能な人になりなさいよ)。ヤ⸢ラ˥ベー　ア⸢サブムル　ウイ˥ダルティ　ア⸢ザリブー˥　ア⸢サビバティ˥　イ⸢ズナ [ja⸢ra˥be: ʔa⸢sabumuru ʔui˥daruti ʔa⸢ʥaribu:˥ ʔa⸢sabibati˥ ʔi⸢ʥuna](子供は遊ぶのが仕事 < 公務 > と言われている。遊ぶから < 遊べばとて > といって叱るなよ)。

⸢ウイ˥ダルプス **[⸢ʔui˥darupu̥su]** 【名】公務員。勤め人。⸢バン˥テナー　⸢ウイ˥ダルプスヌ　フ⸢タール　ブン [⸢ban˥tena: ⸢ʔui˥darupu̥sunu ɸu̥⸢ta:ru buŋ](我が家には公務員 < 勤め人 > が二人いる)。公務員。⸢ウイヌ　ガッ˥コー　˥ンジ　⸢ウイ˥ダルプスン　˥ナリ　⸢マイフナー˥ドー [⸢ʔuinu gak˥ko: ˥ʔnʤi ⸢ʔui˥darupusun ˥nari ⸢maiɸuna:˥do:](上級学校を出て役人 < 公務員 > にもなって立派だよ)。

⸢ウイ˥ダルマイフナー **[⸢ʔui˥darumaiɸuna:]** 【名】勤め上手。村行事 (神事) や公務によく勤める人。ウ⸢レー˥　イッ⸢ケナ　ウイ˥ダルマイフナー　⸢ダー [ʔu⸢re:˥ ʔik⸢kena ʔui˥daru ˥maiɸuna: ⸢da:](彼は非常によく神行事に尽している勤め上手 < 勤勉家 > だよ)。

⸢ウイックナー **[⸢ʔuikkuna:]** 【名】追いかけっこ。ム⸢カ˥シェー　ア⸢サビドンゴー　ナー˥ン　ブ⸢レー˥ンダ　ヤ⸢ラ˥ベー　ナー⸢イ　ウイックナーバ　シー˥　ア⸢サブタ [mu⸢ka˥ʃe: ʔa⸢sabidoŋgo: na:˥m bu⸢re:˥nda ja⸢ra˥be: na:⸢i ʔuikkuna:ba ʃi:˥ ʔa⸢sabuta](昔は遊び道具 < 遊具 > は無かったから子供はただ追いかけっこをして遊んだ)。⸢ガッ˥コーナーティン　˥ユー　⸢ウイックナー　シー˥　ア⸢サブタン [⸢gak˥ko:na:tiŋ ˥ju: ⸢ʔuikkuna: ʃi:˥ ʔa⸢sabutaŋ](学校でもよく追いかけっこをして遊んだ)。

⸢ウイッサーラ **[⸢ʔuissa:ra]** 【名】上下。マ⸢ナマ˥ヌ　⸢ユーヌ˥　プ⸢ス˥ナー　⸢ウイッサーラ˥テー　⸢ナー˥ヌ　ムー⸢ル˥　ユ⸢ヌ˥ムー [ma⸢nama˥nu ⸢ju:nu˥ pu̥⸢su˥na: ⸢ʔuissa:ra˥te: ⸢na:˥nu mu:⸢ru˥ ju⸢nu˥mu:](今の世の人に上下というのはない。みんな同じだ)。

⸢ウイッサー˥ルン **[⸢ʔuissa:˥ruŋ]** 【自動】老いぼれる。老いさらばえる。老け込む。⸢ウイッサー˥リティ　ム⸢カシ˥ヌ　シ⸢ラカタ˥チェー　⸢ナー˥ヌ [⸢ʔuissa:˥riti mu⸢kaʃi˥nu ʃi⸢rakata˥ʧe: ⸢na:˥nu](老いさらばえて昔の容姿 < 顔形、面影 > はない)。

⸢ウイッツァースン **[⸢ʔuittsa:suŋ]** 【他動】追い散らす。˥イソーパーレー　⸢シー˥　ヤ⸢ナ˥　パ⸢ナシケー　ウイッツァーシ˥　パ⸢ラ˥シ [˥ʔiso:pa:re: ⸢ʃi:˥ ja⸢na˥ pa⸢naʃi̥ke: ʔuittsa:ʃi˥ pa⸢ra˥ʃi](イソーパーレーで村浚えをして悪い風邪の神は追っ払え < 追い散らしてやれ >)。

⸢ウイットースン **[⸢ʔuitto:suŋ]** 【他動】追っ払う。追い倒す。どこまでも追いやる。ヤ⸢ナ˥ムノー　⸢マー˥ス　⸢パン˥キ　⸢ウイットーシ˥　パ⸢ラー˥イ [ja⸢na˥muno: ⸢ma:˥su ⸢paŋ˥ki ⸢ʔuitto:ʃi˥ pa⸢ra:˥i](悪霊は塩を撒いて追っ払ってしまえ)。

⸢ウイナウイナ **[⸢ʔuinauina]** 【副】次から次へと。重ねて。重ね重ね。ア⸢ラヤーユン˥　ス⸢ク˥ローリ　⸢ウイナウイナ˥　ニービキヨイン　⸢ソー˥ルンティ　シ⸢キティル　アー˥ク⸢ダー [ʔa⸢raja:jun˥ su̥⸢ku˥ro:ri ⸢ʔuinauina˥ ni:bikijoin ⸢so:˥runti ʃi̥⸢kitiru ʔa:˥ku

˞da:](新家屋も建築され、重ねて結婚祝いもなさると聞いて、祝いに来ていいるのです)。˞ウイナウイナ　イークトゥバ˥　カー˞ニ˥　ア˞ラ˥シミ　タ˞ボー˥リ [˞ʔuinaʔuina ʔi:kʷtuba˥ ka:˞ni˥ ʔa˞ra˥ʃimi ta˞bo:˥ri](重ね重ね良いことだけもたらして＜有らしめて＞ください)。

˞ウイナクン [˞ʔuinakuŋ]【他動】1釘や杭などを打ち込む。˥クナー　˞フンバ　ウイナクンティ　スンドゥ　ウイナカラヌ [˥kuna: ˞ɸumba ʔuinakunti sundu ʔuinakaranu](此処に釘を打ち込もうとするが、打ち込まれない)。˞ウイナキ˥　ミサカー　˥バー　˞ウイナク˥　クトー　ナルン˞ダー [˞ʔuinaki˥ misaka:˥ ba: ˞ʔuinaku˥ kʷto: narun˞da:](打ち込んでよければ、私は打ち込むことは出来るよ)。ク˞ヌ˥　イツァー　˞パンチラン˥ヨーニ　カ˞ニフン　ウイナキ˥　シ˞キ˥リ [ku˞nu˥ ʔitsa: ˞pantʃiraŋ˥jo:ni ka˞niɸuŋ ʔuinaki˥ʃi˞ki˥ri](この板は外れないように鉄釘を打ち込んでおきなさい)。˞ウイナケー˥　ミサムヌ [˞ʔuinake:˥ misamunu](打ち込めば良いのに)。˞ウイナキ˥バ [˞ʔuinaki˥ba](打ち込めよ)。2突き刺す。˥ウナーティ　ク˞ルベーラ　ユシキ˥ヌ　ス˞リ˥バイナー　シ˞ビ　ウイナカリントダー [˥ʔuna:ti ku˞rube:ra juʃi˞ki˥nu su˞ri˥baina: ʃi˞bi ʔuinakarin˧da:](ここで転んだらススキの刈り株に尻を突き刺されるぞ)。

˞ウイナケー [˞ʔuinake:]【固】浦崎家の屋号。浦崎英行氏宅。「上兼久家」の音韻変化したもの。˞ウイナケーヌ　ジー˥ガー　カ˞ツシンヌ˥　ウ˞ヤ˥カタン　˞シー　オー˥リティ　パ˞トゥ˥マ　˥イチヌ　ブ˞ドゥルゾージ˥　ヤ˞ローッ˥タ [˞ʔuinake:nu ʤi:˥ga: ka˞tsuʃinnu˥ ʔu˞ja˥kataŋ ˞ʃi: ʔo:˥riti pa˞tu˥ma ˥ʔitʃinu bu˞duruʤo:ʤi˥ ja˞ro:t˥ta](浦崎家のお祖父さんはカツオ漁船の親方もしておられて、鳩間一番の踊り上手＜名手＞でもあられた)。

˞ウイ˥ナル [˞ʔui˥naru]【名】1植物が老いてから結ぶ果実。ク˞ヌ˥　カ˞ブッチェー　ウイ˥ナル　ヤ˞ルンダ　ナン˥ゾー　ン˞マーナー˥ヌ [ku˞nu˥ ka˞buttʃe: ʔui˥naru ja˞runda nan˥ʤo: ʔm˞ma:na:˥nu](この南瓜は最期に出来た実だから、あまり美味しくない)。2年取ってから生んだ子供。˞ウイナル˥ヌ　ッ˞ふァー　マイフナー˥　マ˞ルン˥ツォー [˞ʔuinaru˥nu f˞fa: maifuna:˥ ma˞run˥tso:](年取ってから生んだ子供は立派な人に成長するそうだ)。

˞ウイヌ˥ウガン [˞ʔuinu˥ʔugaŋ]【名】友利御嶽。「上のお願」の義。『沖縄文化財調査報告書第70集』(沖縄教育委員会) に、次のように記述されている。「トゥムリウガン。異称、ウイヌウガン、『琉球国由来記』記載の名称　友利御嶽、所在地　字鳩間福堂。祭神　神名　ヲトモリ　御イベ名　大ザナルガネ。由来　由来不ニ相知一 (『琉球国由来記』)。鳩間島では最も古い御嶽である。鳩間を建てたという英雄義左真主が創建した御嶽であるといわれている。各御嶽の中で最高位にランクされ、他のすべての御嶽の＜神＞の存在する場所であると考えられている。トゥムリウガンには、他の御嶽の香炉が置かれており、祭祀や儀礼もここでのみ行われるものが多い。トゥムリウガンで祈願することは、他のすべての御嶽での祈願に相当する行為であると考えられている」。ム˞トゥ˥ウガン [mu˞tu˥ʔugaŋ](元御嶽) ともいう。歌謡では、トゥ˞ムル [tu˞muru](友利＜お願＞) と歌われている。鳩間島の御願の中心となる所で、ナ˞カン˥ブレ [na˞kam˥bure](中岡＜中森＞) の東側の鎮守の森の中にある。フ˞クン [ɸu˞kuŋ](福木) やガ˞ジ˥マル [ga˞ʤi˥maru](榕樹)、マーニ [˞ma:˥ni](クロツグ＜黒桄榔子＞)、ク˞バ [ku˞ba](びろう、蒲葵)、その他雑木が密生して、昼でも薄暗い。神域は石垣を二重三重に積みめぐらしてある。中心部に˥ウボー [˥ʔubo:](威部) があり、そこへ通ずる道の入り口に˞パイ˥ディン [˞pai˥diŋ](拝殿。小屋根付きの門) がある。そこには、˞コー˥ロー [˞ko:˥ro:](香炉) が据えてあり、男性はそこから内へ入れないといわれている。どうしても入域しなければならない場合は、神に祈願をして入るが、その際の条件は、マ˞ラタリ˥ムヌ [ma˞ratari˥munu](魔羅垂れ者)、ア˞ティナシ˥ムヌ [ʔa˞tinaʃi˥munu](無分別者) としてであった。従って男性は褌を外して、ぶらぶらさせながら入らなければならなかったという。拝殿の北側には˥メー [˥me:](庭空間) があり、その左右に二・三段の低い観覧席が設置されている。拝殿の前面左側にはティジリビーの席、右側にはサカサ・バキサカサの席が設置されている。庭空間の北側には、瓦葺のウ˞ブ˥ヤー [ʔu˞bu˥ja:](母屋) があり、拝殿と対面するように南面窓際に神棚が設置され、小窓が設えられて香炉が置かれ、˥ウボー [˥ʔubo:] へのお通しが出来るようになっている。古い仏像も安置されている。豊年祭や結願祭の˞ユードウー˥シ [˞ju:du:˥ʃi](夜通しの祈願) や˞ユーングマ˥ル [˞ju:ŋguma˥ru](夜籠もり祈願) はそこで実施される。結願祭には、このウ˞ブ˥ヤーから南面に張り出しのバンコ・ステージが設置され、幕で仕切られた舞台で伝統的˞キョン˥ギン [˞kjoŋ˥giŋ](狂言・劇)

や舞踊が奉納上演される。その際、ウブヤーは楽屋の機能を果たす。村の人々は老若男女、弁当持参して観覧席から奉納芸能を観劇したものである。

˹ウイヌカー [˹ʔuinukaː] 【名】(地) 村井戸の一つ。ナ˹カン˺ムレー [na˹kam˺mureː](中岡) の北、約 150 メートルの所にある井戸。本来はウ˹リ˺カー [ʔu˹ri˺kaː](下り井戸) であったが、昭和に入ってコンクリートで掘り抜き井戸に作り変えた。湧水には塩分が少なく、最も美味しい水との定評がある。村から遠い所にあるため、他の二つの村井戸ほど利用されなかったが、夏場の渇水期には活用された。カツオ漁船用の水は、多くの場合この井戸の水を活用した。畑帰りに、この井戸の水を一服すると「命が長くなる」といわれたほどである。井戸の祈願はカ˹ザケー [ka˹ʤakeː](加治工家) の人が受け持った。

˹ウイヌカリン [˹ʔuinukariŋ] 【自動】追い抜かれる。追い抜くことが出来る。動詞˹ウイヌクン [˹ʔuinukuŋ](追い抜く) の未然形に受身・可能の助動詞˹リン [˹riŋ](～れる) が付いて形成された派生動詞。˹ウイ˺プス　ヤ˹ルンダ˺　カ˹キッツァー˺スカー　ヤ˹ラ˺ビン　ウ˹イヌカリン˺ダー [˹ʔui˺pu̥su ja˹runda˺ kḁ˹kittsaː˺suka: ja˹ra˺biŋ ˹ʔuinukarin˺daː](年寄りだから、走ると子供に追い抜かれるよ)。

˹ウイヌクン [˹ʔuinukuŋ] 【他動】追い抜く。追い越す。˹マイ˺ヌ　プ˹ス　ウイヌクンティ　スンドゥ　ウイヌカラヌ [˹mai˺nu pu̥˹su ʔuinukunti sundu ʔuinukaranu](前の人を追い抜こうとするが、追い抜かれない)。˹パッツァー˺シティ　˹ウイヌキ˺　ミサカー　˹ウイヌク˺　クトー　˺ナルン [˹pattsaː ˺ʃi̥ti ˹ʔuinuki˺ misakaː ˹ʔuinuku˺ ku̥toː ˺naruŋ](駆け足 < 走って > で追い抜いてよければ追い抜くことは出来る)。˹ウイヌケー˺　ミサムヌ [˹ʔuinukeː˺ misamunu](追い抜けばいいのに)。˹パー˺ク　˹ウイヌキ [˹paː˺ku ˹ʔuinuki](早く追い抜け)。

˹ウイヌ　プス [˹ʔuinu pu̥su] 【連】上の人。上級の人々。上役。役場の人。身分の高い人。˹ウイヌ　プスヌ˺　イ˹サナケー˺ラ　˹オーッ˺ター　カ˹ツナマシバ˺　キシティル　˺ウトゥルムチ　˹ソーッ˺タツォー [˹ʔuinu pu̥sunu˺ ʔi˹sanakeː˺ra ˹ʔoːt˺taː kḁ ˹tsunamaʃiba˺ ki̥ʃitiru ˺ʔuturumuʧi ˹soːt˺tatsoː](役場の上役の人が石垣から来られたので鰹の刺身を切って出して接待 < お取り持ち > されたそうだ)。

˹ウイヌ˺　プ˹ス [˹ʔuinu˺ pu̥˹su] 【連】上司。上役。「上の人」の義。˹ウイヌ　プスヌ˺　ア˹ゾー˺ル　ムネー　シ˹キバル˺　ナル [˹ʔuinu pu̥sunu˺ ʔa˹ʤoː˺ru ˺mune: ʃi̥˹kibaru˺ naru](上司のおっしゃることは聞かないといけない < 聞けばぞなる >)。

˹ウイヌ　フン [˹ʔuinu ɸuŋ] 【連】石垣島の四箇村。石垣島より北の国 (沖縄)。都会。「上の国」の義。˹ウイヌ　フン˺ラ　ヤ˹クニン˺ヌ　˹オー˺レーティ　シゥ˹カスンティ　アー˺ク [˹ʔuinu ɸun˺ra ja˹kunin˺nu ˹ʔoː˺reːti si̥˹kasunti ʔaː˺ku](石垣島の都会から役人が来られているのでご案内をしようとしているのです)。

˹ウイヌ˺　ミチ [˹ʔuinu˺ miʧi] 【連】上の道。ナ˹カ˺ミチ [na˹ka˺miʧi](中道。旧鳩間郵便局前通り) より上の道。ス˹ムヌヌ˺　ミチ [su˹munu˺ miʧi](下の道。旧鳩間国民学校正門通り。沿岸道路) の対をなす道路。ム˹カシ˺ヌ　˹ユービンキク˺ヌ　˺マンタヌ　˺ミチェーラ　˹ウンタヌ˺　ミ˹チ˺バ　˹ウイヌ˺　ミチティ　ア˹ゾーッ˺タ [mu˹kaʃi˺nu ˹juːbiŋkiku˺nu mantanu ˺miʧeːra ˹ʔuntanu˺ mi˹ʧi˺ba ˹ʔuinu˺ miʧiti ʔa˹ʤoːt˺ta](昔の郵便局の前の道より上の道を˹ウイヌ˺ミチといわれた)。

˹ウイヌムラ [˹ʔuinumura] 【名】上の村。旧鳩間郵便局の前の道 < 村の中道 > より上にある家々。中道より下の海岸沿いにある家々をス˹ム [su˹mu](下。下村) といっていた。˹ウイヌムラヌ˺　プ˹ソー　パイ˺ターヌ　˹ギームドゥルヌ˺　ニー　ア˹ギ˺　ウ˹ラ˺シ　˹スンティ　ナン˺ギ　˹ソーッ˺タン [˹ʔuinu-muranu˺ pu̥˹soː paiˀtaːnu ˹giːmudurunu˺ niː ʔa˹giˀ ʔu ˹ra˺ʃi ˹sunti naŋ˺gi ˹soːt˺taŋ](上の村の人は南端 < 西表北岸の鳩間島の水田地帯 > 通いの荷の上げ下ろしで難儀苦労をされた)。一斑、二班、三班の中道より上にある家々のこと。海岸端の家々は、˹スモー [su˹moː](下、下の家) という。

˹ウイパー [˹ʔuipaː] 【名】上歯。普通は˹オーパー [˹ʔoːpaː](上歯) と言う。˹シン˺ザ　カ˹カイ　ッふーンティ　ベーン˺ケンマー　˹ウイパー˺　ブリ　シ˹ティナー˺ヌ [˹ʃin˺ʤa ka˹kai ffuːnti beːŋ˺kemmaː ˹ʔuipaː˺ buri ʃi˹tinaː˺nu](砂糖きびの皮を剥いで食べようとしていると上歯を折ってしまった)。

˹ウイ˺パナ [˹ʔui˺pana] 【名】老年の恋。年老いてから激しい恋をすること。「老い花」の義。ク˹ヌ˺トゥシ　ナ˹ロー˺リティ　˹ウイ˺パナ　サ˹カ˺ソール　プ˹スン　オーリ˺スバン　ピルマサーワレー [ku˹nu ˺ tuʃi na˹roː˺ritiŋ ˹ʔui˺pana sa˹ka˺soːru pu˹suŋ ʔoːri˺ subam pi˹ruma˺sawareː](この年になられて老い花を咲かされる人もおられるものですわい。珍しいですねえ。)。

˞**ウイパラ˞スン [˞ʔuiparaˀsuŋ]** 【他動】追っ払う。˞ピンギマヤ˞ヌ　クン˞ドー　パー˞ク　˞ウイパラ˞シ [˞piŋgimajaˀnu kun˞doː paː˞ku ˞ʔuiparaˀʃi](野良猫＜逃げ猫＞が来るぞ。早く追っ払いなさい)。˞ウイパラ˞スンティ　˞スンドゥ　ウイパラサラン˞バン [˞ʔuiparaˀsunti ˞sundu ʔuiparasaram˞baŋ](追っ払おうとするが、追っ払えないわい)。˞ウイパラ˞シ　˞ミサカー　˞ウイパラ˞ス　˞クトー　˞ナルン [˞ʔuiparaˀʃi ˞misakaː ˞ʔuiparaˀsu ˞kṵtoː ˞naruŋ](追っ払って良ければ追っ払うことはできる)。˞ウイパラ˞シェー　˞ミサムヌ [˞ʔuiparaˀʃeː ˞misamunu](追っ払えばいいのに)。ヤ˞ナムヌ˞ヌ　˞ペー˞リクーカ　˞マー˞ス　˞パン˞キティ　˞ウイパラ˞シ [ja˞namunu˞nu ˞peː˞rikuːka ˞maː˞su ˞paŋ˞kiti ˞ʔuiparaˀʃi](魔物が闖入(チンニュウ)してきたら塩を撒いて＜弾いて＞追い払え)。˞ウイパラ˞スン [˞ʔuiparaˀsuŋ](追い払う)。˞ウイパラ˞シティ [˞ʔuiparaˀʃiti](追い払って)。˞ウイパラサ˞ヌ [˞ʔuiparasaˀnu](追い払わない)。˞ウイパラ˞ス˞クトゥ [˞ʔuiparaˀsu ˞kṵtu](追い払うこと)。˞ウイパラ˞シェー　˞ミサムヌ [˞ʔuiparaˀʃeː ˞misamunu](追い払えばよいのに)。˞ウイパラ˞シ [˞ʔuiparaˀʃi](追い払え)。

˞**ウイバラリン [˞ʔuibarariŋ]** 【自動】及ばれる。手が届く。成就可能である。動詞˞ウイブン [˞ʔuibuŋ](及ぶ) の未然形に助動詞ラリン [rariŋ](られる) が付いて形成された派生動詞。ク˞ヌ˞　ア˞タ˞ルン　˞デー˞カー　˞バン˞タン　˞ウイバラリン˞　パジ˞ダー˞ヌ　カ˞リンマー˞　ノー˞ン˞シタンティン　˞ウイバララヌ [ku˞nu˞ ʔa˞taˀrun ˞deː˞kaː ˞banˀtaŋ ˞ʔuibararim˞ pa꞉ʒi˞daː˞nu ka˞rimmaː˞ noː˞ŋ˞ʃitantiŋ ˞ʔuibararanu](この程度ならば私達にも及ばれる＜手が届く＞はずだが、あれには絶対に＜何をしても＞及ばれない＜入手不可能である。手が届かない＞)。

˞**ウイバリン [˞ʔuibariŋ]** 【自動】及ばれる。手が届く。成就可能である。動詞˞ウイブン [˞ʔuibuŋ](及ぶ) の未然形に助動詞リン [riŋ](れる) が付いて形成された派生動詞。ク˞ヌ˞　ア˞タ˞ロー　˞バン˞タン　˞ウイバリン [ku˞nu˞ ʔa˞taˀroː ˞banˀtam ˞ʔuibariŋ](この程度は私たちにも手がとどく＜及べる＞)。˞バン˞ター　˞ナー˞トー　˞ウイバラヌ [˞banˀtaː ˞naːˀtoː ˞ʔuibaranu](私などには手が届かない＜及ばれない＞)。˞ウイバリル˞　クトー　˞ナーヌ˞ヌ　˞バン˞タン　˞ウイバリ˞カ˞ナー [˞ʔuibariru˞ kutoː ˞naːnu˞nu ˞banˀtaŋ ˞ʔuibari˞ka˞naː](手の届く＜及ぶ＞ことは無いが、私らにも手が届いたら＜及べたら＞良いのになあ)。

˞**ウイバル [˞ʔuibaru]** 【名】(地) 西表島北部海岸の水田地帯の地名。上原村。現在の船浦集落と中野集落の中間に位置する集落。明治初期にマラリアで廃村化し、住民の一部が鳩間島に移住した。戦後、マラリアの撲滅にともない、鳩間島からの移住者と宮古島、その他からの移住者が増加して現在の賑わいをみるに至った。˞カンザトゥ˞ヤー [˞kanʒatu˞jaː](慶田城家)、プ˞サッ˞キャー [pṵ˞sak˞kjaː](冨里家)、トゥ˞ムレー [tu˞mureː](友利家、田代家)、ウ˞チ˞ネー [ʔu˞ʧi˞neː](仲伊部家)、ア˞ラヤー [ʔa˞rajaː](吉川家)、˞マイトブ˞レー [˞maitubu˞reː](吉川家) などの水田や畑がある。

˞**ウイ˞パルン [˞ʔui˞paruŋ]** 【他動】他動詞。追っかけて行く。後追いする。ウ˞ヤ˞ヌ　シ˞ビバ　ウイ˞パルンティ　˞ヨー˞ゾー　ナ˞ラ˞ヌ [ʔu˞ja˞nu ʃi˞biba ʔui˞parunti ˞joː˞ʒoː na˞ra˞nu](親の尻を追っかけようとして、どうにも手がつけられない＜養生できない＞)。

˞**ウイ˞ビ [˞ʔui˞bi]** 【名】指。「指、ユビ、俗云オヨビ」『類聚名義抄』の俗称から転訛したウ˞ヤ˞ビ [ʔu˞ja˞bi](指) の再転訛したもの。˞ウイビ˞ヌ　˞タケー　˞マータキ　ナー˞ヌ [˞ʔuibi˞nu ˞tạke: ˞maːtaki naː˞nu](指の長さは同じではない＜諺＞。兄弟でも才能は同じではない。それぞれ特性がある)。老年層はウ˞ヤ˞ビ [ʔu˞ja˞bi](指) という。ウ˞ブウヤ˞ビ [ʔu˞buʔuja˞bi](親指)。プ˞スッシ˞ウビ [pṵ˞suʃʃi˞ʔubi](人差し指)。ナ˞カ˞イビ [na˞kaˀʔibi](中指)。˞ナーナシ˞ウビ [˞naːnaʃi˞ʔubi](名無し指＜薬指＞)。ウイ˞ベー˞マ [ʔui˞beː˞ma](小指)。˞ウイ˞ベー　˞ドゥー˞ヌ　˞マイニル　˞ブル [˞ʔui˞beː ˞duː˞nu ˞mainiru ˞buru](指は自分の手前にぞ折れる。身内の事を真先に考えるのが人情であり、道理である＜諺＞)。

˞**ウイビ˞ヌ　˞マタ [˞ʔuibi˞nu ˞mata]** 【連】指と指の間。「指の股」の義。若年層の言葉。老年層は、ウ˞ヤ˞ビ [ʔu˞ja˞bi](ゆび。「指、ユビ、俗云　オヨビ」『類聚名義抄』の転訛か) というのが普通。ウ˞ヤビ˞ヌ　˞マタ [ʔu˞jabi˞nu ˞mata](指と指の間) という。ピ˞ラク˞ヌ　˞スー˞ワティ　˞ウイビ˞ヌ　˞マターサキティ　˞シー˞　パリ˞ベー [pi˞raku˞nu ˞suː˞wati ˞ʔuibi˞nu ˞mataː ˞sạkiti ˞ʃiː˞ pari˞beː](寒さが厳しい＜強い＞ので、指の股が裂けて血が流れている)。

˞**ウイ˞プス [˞ʔui˞pṵsu]** 【名】老い人。老人。年寄り。「〜老人＜オイヒト＞の　をつとふ水ぞ〜。万、1034」

の転訛したもの。ˈウイˈプソー　ヤˈラビˈトゥ　ユˈヌˈムヌ [ˈʔuiˈpu̥so: jaˈrabiˈtu juˈnuˈmunu](年寄りは子供と同じだ)。ˈウイˈプス　ˈナルカー　ヤˈラビˈル　ˈナル [ˈʔuiˈpu̥su ˈnaruka: jaˈrabiˈru ˈnaru](年を取ると子供に帰る＜老人になると子供になる＞)。

ˈウイプススクˈライ [ˈʔuipusu̥kuˈrai] 【名】老人の格好をすること。老人ぶること。「老い人・繕い」の転訛。意図的に老人の真似をすること。フˈユニンˈマー　ˈウイプススクライˈバ　ˈシーˈ　シˈグトゥン　サムティˈ　ナーˈイˈ　ビˈリベー [ɸuˈjunim ˈma: ˈʔuipu̥susukuraiˈba ˈʃiːˈ ʃiˈgutun samutiˈ naːˈiˈ biˈribeː](怠け者は老人の格好をして＜老人ぶって＞仕事もせずにただ座っている)。

ˈウイˈプソー　キˈナイヌˈ　タˈカˈラ [ˈʔuiˈpu̥so: kiˈnainuˈ tḁˈkaˈra] 【連】老人は家庭の宝だから、尊重すべきである (諺)。

ˈウイブン [ˈʔuibuŋ] 【自動】及ぶ。望みが適 (かな) う。手が届く。匹敵する。ˈワーナーˈト　マˈナˈマー　ˈカイブ　ˈクトー　ˈウイブˈスコー　アˈラˈヌ [ˈwaːnaːˈto maˈnaˈma: ˈkaibu ˈku̥to: ˈʔuibuˈsuko: ʔaˈraˈnu](君なんぞ、今はこんなことが適う＜及ぶ＞ものではない)。ˈワンマー　ウイバラヌ [ˈwamma: ʔuibaranu](君には及ばれない)。クˈレー　バンˈヌン　ˈウイブンˈカヤー [kuˈreː banˈnuŋ ˈʔuibuŋˈkaja:](これには私も及ぶ＜叶う。手が届く＞かなあ)。

ウイˈベーˈマ [ʔuiˈbeːˈma] 【名】小指。「指小」の義。ウˈベーˈマ [ʔuˈbeːˈma](小指) ともいう。ウイˈベーˈマ　ˈヤドゥナー　ˈフッカーサˈリティ　ˈヤミ　ナˈラˈヌ [ʔuiˈbeːˈba ˈjaduna: ˈɸukkaːsaˈriti ˈjami naˈraˈnu](小指が戸に挟まれて痛くてたまらない＜病みてどうにも我慢できない＞)。

ˈウイマーシˈ　カˈルイマーˈシ [ˈʔuimaːʃiˈ kaˈruimaːˈʃi] 【連】追い回し、負いまわし。放し飼いにしている鶏を、夕方に鶏小屋へ追い込む際にもちいる。また体から遊離した魂を、供物を供えて呼び寄せの祈願をし、追い立てるように、負い囲うようにして呼び寄せ、魂籠めをすることにもいう。両手を広げて、逃がさぬように追い立てること。追い込み漁で、海の魚を袋網の中へ追い込むことにもいう。ˈウイマーシˈ　カˈルイマーˈシ　ˈサーリオーˈリ　マˈブˈル　クˈミˈシミ　タˈボーˈリ [ˈʔuimaːʃiˈ kaˈruimaːˈʃi ˈsaːriʔoːˈri maˈbuˈru kuˈmiˈʃimi taˈboːˈri](追い回し、負い囲いまわしして連れてこられて、魂籠めをさせてください)。

ˈウイマースン [ˈʔuimaːsuŋ] 【他動】1追い回す。ˈユネン　ˈナルカー　トゥˈロー　ウイマーシˈ　トゥˈルンˈヤー　ˈペーラˈシ [ˈjunen ˈnaruka: tuˈro: ʔuimaːʃiˈ tuˈruŋˈja: ˈpeːraˈʃi](夕方になったら鶏は追い回して鶏舎に入れなさい)。2追い立てる。せかす。ˈドゥーシ　ˈカンガイˈヤーティ　シˈグトゥ　シーユーサンダルˈ　プˈスン　ウイマーサレーˈティ　ˈアーˈクンティ [ˈduːʃi ˈkaŋgaiˈjaːti ʃiˈgutu ʃiːjuːsandaruˈ pu̥ˈsuŋ ʔuimaːsareːˈti ˈʔaːˈkunti](自分で考えながら仕事をし得ないから、他人に追い立てられ＜指図され、せかされ＞ている＜あるく＞さ)。

ˈウイマサリ [ˈʔuimasari] 【名】年をとるにつれて向上すること。成長し、進級するにつれて優秀になること。クˈヌ　ッふァー　ウイマサリ　シーˈ　イッˈケナ　マイフナーユン [kuˈnu ffa: ʔuimasari ʃiːˈ ʔikˈkena maiɸunaːjuŋ](この子は成長し、進級するにつれて優秀になり、素晴らしい子だ＜利発な子だ＞)。

ˈウイˈマリ [ˈʔuiˈmari] 【名】遅生まれ。熟して生まれること。十一月、十二月まで生まれの子。パˈヤˈマリ [paˈjaˈmari](早生まれ。一月、二、三月生まれの子) の対義語。ˈウイˈマリ　ˈセーˈ　ッˈふァーˈ　ズク　ˈシーブンダ　ソーヤ　ナーˈヌ [ˈʔuiˈmari ˈʃeːˈ fˈfaːˈ ʤuku ˈʃiːbunda soːja naːˈnu](遅生まれした子は成熟しているから心配はない)。

ˈウイヤク [ˈʔuijaku] 【名】上役。上司。ˈウイヤクヌˈ　アˈゾーˈル　ˈクトー　ユー　シˈキˈダー [ˈʔuijakunuˈ ʔaˈʤoːˈru ˈkuto: ˈjuː ʃi̥ˈkiˈdaː](上役の言われることはよく聞けよ)。

ˈウイˈルン [ˈʔuiˈruŋ] 【自動】老いる。古くなる。熟する。ˈウーン [ˈʔuːŋ](老ゆ。上二段活用系) ともいう。クˈヌˈ　ナˈベーˈラー　ˈウイˈキシティ　ッˈふァーラヌ [kuˈnuˈ naˈbeːˈra: ʔuiˈki̥ʃiti fˈfaːranu](このへちま＜糸瓜＞は古くなって＜老いきって。完熟して＞食べられない)。ˈワー　ピッˈチン　ウイランˈバンˈナー [ˈwa: pitˈʧiŋ ˈʔuiramˈbanˈnaː](君はちっとも老けない＜年を取らない＞ね)。

ˈウイˈルン [ˈʔuiˈruŋ] 【自動】傷が治る。ˈウーン [ˈʔuːŋ](生ふ) ともいう。「〜百枝さし　於布流＜オフル＞橘〜。万、1507」の転訛したもの。キˈジェー　ウイˈヤーチバ　ˈメー　アˈラカˈリン [kiˈʤeː ʔuiˈja:ʧiba ˈme: ʔaˈrakaˈriŋ](傷は治った＜生いた＞から、もう歩けるよ)。ˈウイパヤーˈン [ˈʔuipajaːˈŋ](治り早い＜生いやすい＞)。キˈジェー　ウイˈルンテー　ウˈモーラヌˈヌ　ˈウイルˈ　クトゥン　ˈアンカ

ヤー [kiˈʤe: ʔui˩runte: ʔuˈmo:ranu˩nu ˈʔui˩rukuᵝtuŋ ˩ʔaŋkaja:](傷は治るとは思えないが、治ることもあるかなあ)。˩パー˩ク　˩ウイ˩レー (˩ウイ˩ヤー)　˩ミサムヌ [ˈpa:˩ku ˩ʔui˩re:(˩ʔui˩ja:) misamunu](速く完治すれば＜生いれば＞良いのに)。˩パー˩ク　˩ウイ˩リ [ˈpa:˩kuˈʔui˩ri](早く完治しろ＜生いろ＞)。

˩ウインザスン **[˩ʔuinʤasuŋ]**【他動】追い出す。追い払う。ムˈカ˩シェー　ユˈミヌ˩　ッˈふァ˩　ナˈサン˩カー　˩ウインザサリ˩シタツォー [muˈka˩ʃe: juˈminu˩ fˈfa˩ naˈsaŋ˩ka: ˩ʔuinʤasari˩ʃᵝitatso:](昔は嫁が子を産まないと追い出されたそうだ)。ヤˈナ˩ムヌ　˩ウインザスンティ　ニン˩ガイ　˩シー　オール˩ヌ　˩マー˩ス　˩パンカン˩カー　˩ウインザサラン˩ツォー [jaˈna˩munu ˩ʔuinʤasunti niŋ˩gai ˩ʃi: ʔo:ru˩nu ˩ma:˩su ˩paŋkaŋ˩ka: ˩ʔuinʤasaran˩tso:](悪霊を家から追い払おうと祈願しておられるが、塩を撒かない追い払われないそうだ)。˩ウインザシ˩　ミサカー　˩ウインザス˩　クトー　˩ナルン [˩ʔuinʤaʃi˩ misaka: ˩ʔuinʤasu˩ kᵝto: ˩naruŋ](追い出して良ければ追い出すことは出来る)。˩ウインザシェー˩　ミサムヌ [˩ʔuinʤaʃe:˩ misamunu](追い出せば良いのに)。ムー˩ル　ウインザシ˩バ [mu:ˈru ʔuinʤaʃi˩ba](全部追い出せよ)。˩ウイザスン [˩ʔuiʤasuŋ](追い出す) ともいう。

˩ウカ **[˩ʔuka]**　【名】負債。借金。˩ウカー　˩カベーティル　˩ヤーヤシ˩キーン　ムˈトゥ˩ミ　ッˈふァン˩ケーン　スˈダ˩ティ　ケーˈダー [˩ʔuka: ˩kabe:tiru ˩ja:jaʃi˩ki:m muˈtu˩mi fˈfaŋ˩ke:n suˈda˩ti ke:ˈda:](借金をして＜負債を被って＞家や屋敷も求め、子供たちも育ててきたのだよ)。

ウˈカーウカー˩シ **[ʔuˈka:ʔuka:˩ʃi]**【副】1おかしく。滑稽で。ウˈリヌ˩　カˈタチ˩　ミˈリバ˩ル　˩メー　˩フン˩トー　ウˈカーウカー˩シティ　バˈライル˩　シˈラリ˩ツォー [ʔuˈrinu˩ kᵝˈtatʃi˩ miˈriba˩ru ˩me: ˩ɸun˩to: ʔuˈka:ʔuka:˩ʃᵝiti baˈrairu˩ ʃiˈrari˩tso:](彼の＜あれの＞格好を見ると、もう本等におかしくて笑わずにはおれない＜笑われぞされる。自然に笑いが出る＞)。2危なっかしい。ウˈカーウカー˩シ　シˈグトゥ　シェー˩ティ　˩アーク˩ヌ　˩ヌー˩シカヤー [ʔuˈka:ʔuka:˩ʃi ʃiˈgutu ʃe:˩ti ˩ʔa:ku˩nu ˩nu:˩ʃᵝkaja:](危なげに仕事をしているが、どうだろう)。

ウˈカー˩サン **[ʔuˈka:˩saŋ]**【形】1可笑しい。滑稽だ。ウˈヌ˩　パˈナ˩シェー　イッˈケン˩　ウˈカー˩サン [ʔuˈnu˩ paˈna˩ʃe: ʔikˈkeŋ˩ ʔuˈka:˩saŋ](その話は非常におかしい＜滑稽だ＞)。˩ナン˩ゾー　ウˈカーサ　ナー˩ヌ [ˈnan˩ʤo: ʔuˈka:sa na:˩nu](あまり可笑しくない)。˩アイブ　ウˈカー˩サ　パˈナ˩シェー　シˈキ˩ミˈラン˩シェン [˩ʔaibu ʔuˈka:˩sa paˈna˩ʃe: ʃᵝˈki˩ miˈraŋ˩ʃeŋ](あんな可笑しな話は聞いたことが無い＜聞いてみなかった＞)。2怪しい。おかしい。疑わしい。危なっかしい。ウˈレー˩　ウˈカー˩サンティ　ウˈモー˩リ [ʔuˈre:˩ ʔuˈka:˩santi ʔuˈmo:˩ri](それは怪しい＜疑わしい＞と思われる)。ノーˈン˩　ウˈカーサ　ナー˩ヌ [no:ˈŋ˩ ʔuˈka:sa na:˩nu](何も怪しくない)。ウˈリヌ　シー˩ヨー　˩ミルカー　ウˈカーサ˩ヌ　˩ダーッ˩サンテー　ウˈモーラ˩ヌ [ʔuˈrinu ʃi:˩jo:˩miruka: ʔuˈka:sa˩nu ˩da:s˩sante: ʔuˈmo:ra˩nu](彼の＜あれの＞仕方を見ていると、どうも怪しくて＜危なっかしくて＞、大丈夫だ＜良い＞とは思われない)。ウˈカー˩サ　パˈナ˩シェー　スˈクナ˩ヨー [ʔuˈka:˩sa paˈna˩ʃe: sᵝˈkuna˩jo:](怪しい＜疑わしい＞話は聞くなよ)。

ウˈカカビ˩ムヌ **[ʔuˈkakabi˩munu]**　【名】借金だらけの人。借金被り。˩スブットゥ　ヤˈルンダ˩　パˈタラケー　サムティ˩　ナーˈイ˩　ウˈカカビ˩ムヌ　˩ナリ　˩アー˩ク [˩subuttu jaˈrunda˩ pᵝˈtarake: samuti˩ na:ˈi˩ ʔuˈkakabi˩munu ˩nari ˩ʔa:˩ku](怠け者だから働きはしないで、ただ借金だらけの人＜借金被り＞になっている＜なってあるく＞)。

˩ウカ　˩カブン **[˩ʔuka ˩kabuŋ]**　【連】借金する。「借金被る」の義。ッˈふァ˩　ウˈキナー˩ヌ　˩ガッ˩コー　ン˩ザ˩スカー　˩ウカ　カブンˈダー [fˈfa˩ ʔuˈkina:˩nu ˩gak˩ko: ʔnˈʤa˩sᵝka: ˩ʔuka kabunˈda:](子供を沖縄の学校に進学させる＜出す＞と借金を被るよ)。

ウˈカ˩ギ **[ʔuˈka˩gi]**　【名】おかげ (御陰)。力添え。恩恵。˩ワー　タシ˩キ　˩フィーッタ˩　ウˈカ˩ギシル　˩ヤーニン˩ズ　˩ドゥーガンズーシ　マˈナ˩マ　˩ナリケーˈダー [˩wa: taʃᵝ˩ki ˩fi:tta˩ ʔuˈka˩giʃiru ˩ja:nin˩ʤu ˩du:gaʤu:ʃi maˈna˩ma narikeˈda:](君が助けてくれたお陰で家族みんなが健康で今までやってこれたのだよ)。

ウˈカサリン **[ʔuˈkasariŋ]**　【自動】1高熱に冒される。意識不明になる。マˈラリア˩ヌ　˩ニチナ　ウˈカサリティル˩　ミˈチェー˩ラ　˩ヨーッタベー˩ティ　˩アー˩ク [maˈraria˩nu ˩nitʃina ʔuˈkasaritiru˩ miˈtʃe:˩ra ˩jo:ttabe:˩ti ˩ʔa:˩ku](マラリアの高熱に冒されて道からふらついて歩いている＜歩いてあるく＞)。2女性に心を奪われる。女性の色香に迷わされる。ウˈレー˩　ミˈドゥ˩ムナ　ウˈカサリティ˩　アˈサビ

˜ ム˞チリティ˜ シ˞グトゥヌ˜ アンティン ッ˞サヌ [ʔu˞re:˜ mi˞du˜muna ʔu˞kasariti˜ ʔa˞sabi˜ mu˞ʧiriti˜ ʃi˞gutunu˜ ʔantin s˞sanu](彼は女性に心を奪われて、遊び惚けて＜睦れて＞仕事があるということも知らない＜忘れている＞)。

ウ˞カシー [ʔu˞kaʃi:] 【連体】おかしいこと。いぶかしいこと。ウ˞カー˜サン [ʔu˞ka:saŋ](おかしい) ともいう。˜アイ ˞ブー˜カー ウ˞レー˜ ウ˞カシー˜ ク˞トゥ˜ユン [˜ʔai ˞bu:˜ka: ʔu˞re:˜ ʔu˞kaʃi:˜ kụ˞tu˜juŋ](そんなだったら＜そのようだったら＞、それはおかしなことだよ)。

ウ˞カッキ˜ルン [ʔu˞kakki˜ruŋ] 【他動】立て掛ける。壁などに立て掛ける。持たせかける。よせかける。他のものに寄せて立て掛ける。パ˞シ˜グ ˞キーヌ˜ユダナ ウ˞カッキ˜ルンティ ˞スンドゥ˜ ウ˞カッキララ˜ヌ [pạ˞ʃi˜gu ˞ki:nu˜judana: ʔu˞kakki˜runti ˞sundu˜ ʔu˞kakkirara˜nu](梯子を木の枝に立て掛けよとするが、立て掛けられない)。

ウ˞カッ˜クン [ʔu˞kak˜kuŋ] 【他動】立て掛く。壁などに立て掛ける。他のものに寄せて立て掛ける。˜イダフニヌ パ˞ラー˜ヤ ピ˞サシ˜ナ ウ˞カッ˜キ˜ミサンカヤー [˜ʔidaɸuninu pa˞ra:˜ja pị˞saʃi˜na ʔu˞kak˜ki ˜misaŋkaja:](サバニ＜板舟＞の帆柱は軒＜庇＞に立て掛けて良いかねえ)。

ウ˞カットー˜ン [ʔu˞katto:˜ŋ] 【形】軽率である。迂闊である。うっかりしている。無神経で気配りがない。˞サッ˜コー ウ˞カットー˜ンダ ア˞サビブリシティ˜ プ˞スヌ˜ タ˞ナミ˜グトー ス˞ラーク バシキティ ミーワク˜ カケーティ ˞アー˜クンティ [˞sak˜ko: ʔu˞katto:˜junda ʔa˞sabiburi ʃị˜ti˜ pụ˞sunu˜ ta˞nami˜guto: su˞ra:ku baʃị̈kiti mi:waku˜ kạke:ti ˞ʔa:˜kunti](あまりにも軽率な人間＜迂闊者＞であるから遊び惚けて＜遊び惚れして＞、人の頼まれごとをすっかり忘れて迷惑をかけているよ)。

ウ˞カットゥ [ʔu˞kattu] 【副】1ぼんやりと。深く考えないさま。気が利かないさま。不注意に。ぼんやりと。「Vcato<うかと＞シテワ イカデカ バンジ カナウベキ」『ロドリゲス日本大文典』の転訛したもの。ウ˞カットゥ˜シ カー˞ニ ブーユンダ˜ プ˞スヌ˜ ムニーン ナ˞マンダシキバ シェー˜ティ マ˞チ˜ガイ ˜シケーンティ [ʔu˞kattu˜ʃi ka:˞ni bu:junda˜ pụ˞sunu˜ muni:n na˞mandaʃị̈kiba ʃe:˜ti ma˞ʧi˜gai ˜ʃị̈ke:nti](ぼんやりしてばかりいるから、人の言うことも上の空で＜生半可聞きをして＞聞いて、間違えてあるさ)。2軽率に。疎かに。迂闊に。うっかり。ヨー˞ヨー˜ ナ˞サ˜ヌナカー ヤ˞レースヌ˜ ウ˞ヤ˜ヌ ˞ブン˜ゲー ウ˞カットゥ˜シ ˞バシケー˜ ナ˞ラン˜ダー [jo:˞jo:˜ na˞sa˜nunaka: ja˞re:sunu˜ ʔu˞ja˜nu ˞buŋ˜ge: ʔu˞kattu˜ʃi ˞baʃị̈ke:˜ na˞ran˜da:](よくよく心がけなさいよ。生さぬ仲ではあるが、迂闊に親のご恩＜恩義＞は忘れてはならないぞ)。

ウ˞カ˜ヌ ˜ミー [ʔu˞ka˜nu ˜mi:] 【連】借金のかた (形)。負債の抵当。負債の担保。˜ミー [˜mi:] は「穴」の義で、欠損、損失部分を埋め合わせすべき穴の意。ウ˞カ˜ヌ ˜ミーティ ˞シー パ˞タラカサリ ベー [ʔu˞ka˜nu ˜mi:ti ˞ʃi:˜ pạ˞tarakasari be:](負債の代償＜借金の形(カタ)＞として働かされている)。

˜ウカバライ [˜ʔukabarai] 【名】借金払い。借金を返済すること。負債の返済。イ˞チバー˜キシ ˜ウカパライ ˜ナルカヤー [ʔi˞ʧiba:˜kiʃi ˜ʔukaparai ˜narukaja:](いつまでで借金返済＜借金払い＞はできるのかなあ)。

ウ˞ガマリ˜ルン [ʔu˞gamari˜ruŋ] 【自動】1拝まれる。ウ˞ガ˜ムン [ʔu˞ga˜muŋ](拝む) の未然形に受身・可能の助動詞˞リ˜ルン [˞ri˜ruŋ](れる) が付いて形成された受身・可能の派生動詞。ウ˞ヤ˜プソー ッ˞ふァ˜マーンケーン ウ˞ガマ˜リ ˞オー˜ルンカヤー [ʔu˞ja˜pụso: f˞fa˜ma:ŋke:ŋ ʔu˞gama˜ri ˞ʔo:˜ruŋkaja:](ご先祖様は子や孫に拝まれておられだろうか)。2拝謁できる。˞カンヌマイ˜ヤー イ˞チン˜ ウ˞ガマ˜リン [˞kannumai˜ja: ʔi˞ʧiŋ˜ ʔu˞gama˜riŋ](神様はいつでも拝むことができる＜拝まれる＞)。

ウ˞ガ˜ムン [ʔu˞ga˜muŋ] 【他動】拝む。˜アドーラ ˜ケームヌ シ˞ザ˜ヌ ˜シラーンツァン ウ˞ガ˜ミティル シ˞マー˜ヤ パ˞ラ˜リ [˜ʔado:ra ˜ke:munu ʃi˞ʤa˜nu ˜ʃira:ntsaŋ ʔu˞ga˜mitiru ʃi˞ma:˜ja pa˞ra˜ri](あんなに遠くから来たのだから兄さんの顔でも拝んでから＜ぞ＞島へは帰ろう＜帰られる＞)。˜バー ウ˞ガマ˜ヌ [˜ba: ʔu˞gama˜nu](私は拝まない)。˞ワー˜ ウ˞ガ˜ムカー ˞バン˜ヌン ˞カンヌ˜マイ ウ˞ガ˜ムン [˞wa:˜ ʔu˞ga˜muka: ˞ban˜nuŋ ˞kannu˜mai ʔu˞ga˜muŋ](君が拝むなら私も神様を拝む)。ウ˞ガ˜ム プ˞ソー パー˜ク ウ˞ガ˜ミ [ʔu˞ga˜mu pụso: pa:˜ku ʔu˞ga˜mi](拝む人は早く拝め)。˞ワー˜ ウ˞ガ˜メー ミサムヌ [˞wa:˜ ʔu˞ga˜me: ˜misamunu](君は拝めばよいのに)。

ウ˞カ˜ヤン [ʔu˞ka˜jaŋ] 【形】可笑しい。滑稽である。「可吹、又、可咲。見二醜貌一咲 (わらふ) 貌。阿奈乎加志 (あなをかし)」『新撰字鏡』の転訛したも

の。ウ˞リヌ　シー˜ヨー　ミ˞リバ˜ル　˜メー　ウ˞カヤ˜ヌ　バ˞ライル˜　シ˞ラリトツォー [ʔu˞rinu ʃiː˜joː mi˞riba˜ru ˜meː ʔu˞kaja˜nu ba˞rairu˜ ʃi˞rariɦtsoː](彼の仕様を見ると可笑しくて、もう笑うしかないよ＜笑いぞされるんですよ＞)。˞クンドゥ˜ヌ　シ˞バヤー˜　イッ˞ケン˜　ウ˞カ˜ヤンティ　ス˞クタヌ　ナン˜ゾー　ウ˞カヤー　ナーン˜シェン [˞kundu˜nu ʃi˞bajaː˜ ʔik˞keŋ˜ ʔu˞ka˜janti sʉ˞kutanu nan˜ʤoː ʔu˞kajaː naːŋ˜ʃeŋ](今度の芝居は非常に可笑しいと聞いたが、あまり可笑しく＜滑稽で＞なかった)。ウ˞カ˜ヤ　プ˞スヌ˜　パ˞ナ˜シ　ス˞ク˜カー　ター˞ン˜　ウ˞カ˜ヤ　ナ˞リ˜ス [ʔu˞ka˜ja pʉ˞sunu˜ pa˞na˜ʃi sʉ˞ku˜kaː taː˞ŋ˜ ʔu˞ka˜ja na˞ri˜su](おかしな＜滑稽な＞人の話を聞くと誰でも可笑しくなる)。˜アイニ　ウ˞カ˜ヤカー　ター˞ン˜　バ˞ライス˜ヨー [˜ʔaini ʔu˞ka˜jakaː taː˞m˜ ba˞raisu˜joː](あんなに可笑しかったら誰でも笑うよ)。「人に謀られて言ふもいとをこ (烏滸) なり」『源氏物語　東屋』の転訛したものか。シ˞ナタカタチ˜　ミ˞リバ˜ル　メー　ウ˞カヤ˜ヌ　バ˞ライル˜　シ˞ラリタル [ʃi˞natakạtatʃi˜ mi˞riba˜ru ˜meː ʔu˞kaja˜nu ba˞rairu˜ ʃi˞raritaru](姿形を見ると＜見ればぞ＞、もう滑稽で、おかしくて笑わずにはおれない＜笑いぞされる＞)。ウ˞カ˜ヤタンティン　バ˞ラウナ [ʔu˞ka˜jatantim ba˞rauna](可笑しくても笑うな)。˞キー˜シキ　˜ミルカー　ウ˞カヤナー˜ヌ [˞kiː˜ʃi̥ki ˜miruka: ʔu˞kajanaː˜nu](気をつけて見たらおかしくないよ)。˜アイブ　ウ˞カ˜ヤ　˜ムノー　ミリミ˞ラ˜ヌ [˜ʔaibu ʔu˞ka˜ja muno: mirimi˞ra˜nu](あんなに滑稽で可笑しいものは見たことがない)。

ウ˞カ˜ルン [ʔu˞ka˜ruŋ] 【自動】合格する。受かる。明治 29 年に学校が設置されて後、標準語の「受かる」から転訛したもの。˞ウイヌ　ガッコー˜ヌ　˜シキン　ウ˞カ˜ルンティ　ウ˞モーン˜シェンドゥ　ウ˞カ˜レーンツォー [˞ʔuinu gakkoː˜nu ˜ʃikiŋ ʔu˞ka˜runti ʔu˞moːŋ˜ʃendu ʔu˞ka˜reːntsoː](上級学校の試験に合格するとは思わなかったが、受かったそうだ)。ク˞トゥシェー˜　ウ˞カラン˜シェン [kʉ˞tuʃeː˜ ʔu˞karaŋ˜ʃeŋ](今年は受からなかった)。˜シケン　ウ˞カリ˜　ミサカー　シ˞グ˜　ウ˞カ˜ル　˜クトー　˜ナルン [˜ʃi̥keŋ ʔu˞ka˜ri ˜misakaː ʃi˞gu˜ ʔu˞ka˜ru ˜kʉ̥toː ˜naruŋ](試験に合格して良ければ、すぐ合格することは出来る)。

˜ウガン [˜ʔugaŋ] 【名】御嶽。御願所。聖域。「拝み」の義。「Vogamijo. ヲガミジョ (拝み所)、Faiden」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ヲガミ [wogami] → ウガミ [ʔugami] → ウガン [ʔugaŋ] の音韻変化による。鳩間島では「ウタキ」とは言わない。必ず˜ウガン [˜ʔugaŋ] という。ム˞トゥ˜ウガン [mu˞tu˜ʔugaŋ](「本お願」の義。友利御嶽。単に˜ムトゥともいう。歌謡では、トゥ˞ムル [tu˞muru] と歌われている)、ピ˞ナイ˜ウガン [pi˞nai˜ʔugaŋ](鬚川御嶽)、ア˞ラ˜カーウガン [ʔa˞ra˜kaːʔugaŋ](新川御嶽。ミ˞ジムトゥ [mi˞ʤimutu] ともいう)、˞マイドゥム˜ルウガン [˞maidumu˜ruʔugaŋ](前泊御嶽。タ˞ビヌ˜ウガン [ta˞binu˜ʔugaŋ]＜旅のお願＞ともいう)、ニ˞シ˜ドーウガン [ni˞ʃi˜doːʔugaŋ](西堂御嶽)、フ˞ナ˜バルウガンン [ɸu˞na˜baruʔugaŋ](船原お嶽) などがある。『琉球国由来記』には、「友利御嶽」と「ヒナイ御嶽」のフ˞タヤマ [ɸʉ˞tajama](二御嶽＜二山。二岳＞) が記載されている。ウ˞ガン˜マー　プ˞ス˜ヤマ　フ˞タヤマ˜ティル　˜カズイ˞ヨーッ˜タ (ユ˞モーッ˜タ (数えられた))[ʔu˞gam˜maː pʉ˞su˜jama ɸʉ˞taja ˜matiru kaʤui˞joːt˜ta](御嶽は一山、二山と＜ぞ＞数えられた)。

ウ˞ガン˜グトゥ [ʔu˞gaŋ˜gutu] 【名】神仏への祈願ごと。ウ˞ガンブス˜ク [ʔu˞gambusu˜ku](祈願不足) は信心が足りず、ウ˞ガン˜グトゥを怠ることから起きるといわれている。˞カンヌマイ˜ヌ　ウ˞ガン˜グトゥン　˞シッ˜パイ　˞シー˜ケーン [˞kannumai˜nu ʔu˞gaŋ˜gutuŋ ˞ʃip˜pai ˞ʃiː˜keːŋ](神様への祈願ごとも一所懸命＜精一杯＞やってきている)。

ウ˞ガン˜ザキ [ʔu˞gan˜ʤaki] 【名】(地) 崎枝の西の方にある岬。御神崎。この岬の沖は波が荒く航海の難所の一つと言われている。ウ˞ガンザキ˜ヌ　˞インタヌ　トゥーヤ˜　イッ˞ケナ　スー˜ワン　ティバン˞ナー [ʔu˞ganʤaki˜nu ˞ʔintanu tuːja˜ ʔik˞kena suː ˜wan tiban˞naː](御神崎の西の沖＜渡＞は波が非常に荒い＜強い、難所である＞そうだねえ)。

ウ˞ガン˜ズ [ʔu˞gan˜ʤu] 【名】御願所。拝所。御嶽。˜ウガンヤシキ [˜ʔugaŋjaʃi̥ki](御願屋敷) ともいう。ウ˞ガン˜ズーラ　˜キー　˜キシェー　ナ˞ランɦダー [ʔu˞gan˜ʤuːra ˜kiː ˜ki̥ʃeː na˞ranɦda](御願所から木を切ってはならないよ)。

ウ˞ガンツマ˜スン [ʔu˞gantsuma˜suŋ] 【他動】懲りさせる。降参させる。˜ドク　ッ˞ふァイダマー˜ティ　ウ˞ガンツマ˜スンティ　˞クース˜　イ˞ルタンドゥ˜　ウ˞ガンツマサラン˜シェン [˜duku f˞faidamaː ˜ti ʔu˞gantsuma˜sunti ˞kuːsu˜ ʔi˞rutandu˜ ʔu˞gantsu-masaraŋ˜ʃeŋ](余にも食いしん坊なので、懲りさせようと唐辛子を入れたが、懲りさせられなかった)。

ウ˞ガンツミ˥ルン [ʔu˞gantsumi˥ruŋ] 【自動】参る。懲りる。降参する。ひどい目に会って二度とすまいと思う。ウ˞ガン˥ツムン [ʔu˞gan˥tsumuŋ](懲りる)のラ行四段化したもの。˞クンドゥ˥ヌ　˥クトゥシ　ウ˞ガンツミ˥ルンカヤーティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　˞ピッ˥チン　ウ˞ガンツミラン˥バン [˞kundu˥nu ˥kʉtuʃi ʔu˞gantsumi˥ruŋkaja:ti ʔu˞mu:tan˥du ˞pit˥tʃiŋ ʔu˞gantsumiram˥baŋ](今度のことで懲りるだろうかと思ったが、ちっとも＜一つも＞懲りないわい)。

ウ˞ガン˥ツムン [ʔu˞gan˥tsumuŋ] 【自動】参る。懲りる。降参する。へこたれて、二度とするまいと思う。ク˞トゥシヌ˥　ピ˞ラ˥クナー　˞フン˥トー　ウ˞ガン˥ツミ　˞ミッ˥タン [kʉ˞tuʃinu˥ pi˞ra˥kuna: ˞ɸun ˥to: ʔu˞gan˥tsumi ˞mit˥taŋ](今年の寒さには本当に参りましたよ)。˞タンガ˥シ　ウ˞ビ˥ヌ　˥ター　˞カイサ˥シティ　ウ˞ガンツマ˥スカー　ン˞メーマー˥　ウ˞ガン˥ツムンユー　シ˞ミ˥ミラ [˞taŋga˥ʃi ʔu˞bi˥nu ˥ta: ˞kaisa˥ʃi̥ti ʔu˞gantsuma˥suka: ʔm˞me:ma:˥ ʔu˞gan˥tsumuŋju: ʃi˞mi˥mira](一人であれだけの田圃を耕させてへこたれさせると、少しは懲りるだろうか、させてみよう)。ウ˞リヌ˥　ウ˞ガン˥ツム　˥クトー　˥アンカヤー [ʔu˞rinu˥ ʔu˞gan˥tsumu ˥kʉto: ˥ʔaŋkaja:](彼が懲りることってあるのかね)。ン˞ベーマー˥　ウ˞ガン˥ツメー　˥ミサムヌ [ʔm˞be:ma:˥ ʔu˞gan˥tsume: ˥misamunu](少しは懲りたらいいのに)。ウ˞ガンツマ˥シ [ʔu˞gantsuma˥ʃi](懲りさせなさい。降参させなさい)。身に沁みて堪える。ある事例を体験して深く反省する。

ウ˞ガンブス˥ク [ʔu˞gambusʉ˥ku] 【名】祈願不足。信心不足。神仏への祈願が足りないこと。祈願不足で神仏の加護が得られないこと。家族に病人や怪我人が出ると、ウ˞ガンブス˥クと言って、神仏への祈願行事を行った。˞ウン˥ネヌ　ウ˞シ˥ヌ　ス˞コー　トゥッキ˥スティ　ア˞ザリ˥　スコー　˞マイ˥　ッサイ　˞ニン˥ガイ　˞オーシ˥　シケーバ　ウ˞ガンブス˥コー　˞ナー˥ヌ [˞ʔun˥nenu ʔu˞ʃi˥nu sʉ˞ko: tukki˥suti ʔa˞ɖari˥ sʉko: ˞mai˥ ssai ˞niŋ˥gai ˞ʔo:ʃi˥ ʃi̥ke:ba ʔu˞gambusʉ˥ko: ˞na:˥nu](「その家の搗き臼の底は陥没する」と言われるくらい米＜稲＞を搗いて祈願をして差し上げてあるから祈願不足はない)。

˥ウガンヤマ [˥ʔuganjama] 【名】鎮守の杜。御願＜御嶽＞の林。御願は鬱蒼たる森に囲まれている。椰子やクバ (蒲葵) の神木が生えており、福木やヤラブ (てりはぼく) の大木が繁茂し、˞マー˥ニ [˞ma:˥ni](クロツグ＜桄榔子＞) が聖域を囲んで密生している。昔から御願の樹木を切ることはタブーとされてきた。それを犯すと神罰が下るといわれている。˥ウガンヤマーラ　キー˞ナー˥トー　˥キスカー　˞カントゥン˥ガー　ア˞ティラリン˧ダー [˥ʔuganjama:ra ki:˞na:˥to: ˥ki̥suka: ˞kantuŋ˥ga: ʔa˞tirarin˧da:](鎮守の杜から木などを伐ると神罰を与えられる＜当てられる＞ぞ)。

ウ˞キ [ʔu˞ki] 【名】水を運ぶ際に水桶の水面にススキの茎や芭蕉の葉を浮けて水の揺れを防ぐもの。「浮け」の義。˞タン˥グナー　ウ˞キ˥　イ˞ラン˥カー　ミ˞ジェー˥　ク˞バリ˥ス˞ダー [˞taŋ˥guna: ʔu˞ki˥ ʔi˞raŋ˥ka: mi˞ʤe:˥ ku˞bari˥su˞da:](水桶＜担桶＞に浮きを入れないと水は零れるよ)。

ウ˞キ [ʔu˞ki] 【名】浮き。浮標。澪標 (みおつくし)。˞ブイ [˞bui](buoy＜浮標＞) は英語からの借用語。日露戦役で帝国海軍を除隊した通事家の人が流行らせたという伝承 (加治工伊佐) がある。現在はブイ、ゴーヘー、ゴーシタン、アンカー、ブリジ等もみんな本来の鳩間方言と思われている。˞ハーガイ˥ヌ　˥トンナー　ウ˞キヌ˥　タ˞ティラ˥リ　˞ベー [˞ha:gai ˥nu ˥tonna: ʔu˞kinu˥ tʉ̥tira˥ri ˞be:](浅瀬の所には浮標が立てられている)。

ウ˞キ˥ウーン [ʔu˞ki˥ʔu:ŋ] 【他動】請け負う。請負仕事は石垣島のコンクリート建設業者が実施した。昭和初期頃に標準語から借用され、それから転訛した語であろう。˞サンバシコー˥ジェー　˞タール˥　ウ˞キ˥ウイ　˞ソーッ˥タカヤー [˞sambaʃiko:˥ʤe: ˞ta:ru˥ ʔu˞ki˥ʔui ˞so:t˥takaja:](桟橋工事は誰が請負いなさったかねえ)。

ウ˞キザー˥ラ [ʔu˞kiʤa:˥ra] 【名】 (動) 鮫魚の名。和名、アオザメ。(体長 7 メートルに達するものがいるという)。大型鱶で、背の色は青色。性質は凶暴といわれている。鳩間島のイカ釣り漁では、体長約 3〜4 メートルのウキザーラがしばしば釣り上げられた。昔は、ウキザーラの魚肉を長さ約 20 センチ、幅約 3 センチ、厚さ約 1 センチに切り、塩を塗(マブ)して天日乾燥したサ˞バソー˥ギリ [sa˞baso:˥giri] にして沖縄へ輸出されていた。

ウ˞キシグ˥トゥ [ʔu˞kiʃigu˥tu] 【名】請負仕事。˞ヤースク˥レー　ウ˞キシグ˥トゥ　シ˞ミラバドゥ　パイ˥サ　トゥ˞ズミラ˥リ˞ダー [˞ja:sʉku˥re: ʔu˞kiʃigu˥tu ʃi˞mirabadu pai˥sa tu˞ʤumira˥ri˞da:](家屋建築＜家造り＞は請負仕事でさせた方が早く完成させられ

るよ)。

ウ˞キズー [ʔu˞kidʑu:] 【名】船の停泊所。「浮け所」の義。カ˞ツシンヌ˜　ウ˞キゾー˜　キ˞マリブタ [kạ˞tsuʃinnu˜ ʔu˞kidʑo:˜ ki˞maributa](鰹船の停泊地 < 浮け所 > は決まっていた)。桟橋の東側に正山丸、晃徳丸の二隻、桟橋の西側に大洋丸 1 隻のウ˞キズー [ʔu˞kidʑu:](浮け所) があった。

ウ˞キッサ [ʔu˞kissa] 【名】(植) ホテイアオイ (布袋葵)。池や田圃、用水路などの水面に生える藻草。˜ターナ　ウ˞キッサヌ˜　ヤ˞マ˜カビ　ムイ˞ベー [˜ta:na ʔu˞kissanu˜ ja˞ma˜kabi mui˞be:](田圃にホテイアオイが繁茂している < 山のように生えている >)。

ウ˞キトゥミ˜ルン [ʔu˞kitumi˜ruŋ] 【他動】受け止める。銘ずる。覚える。˞シンシー˜ヌ　ナ˞ラー˜ソール　˜クトゥ　ウ˞キトゥミ˜ルンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　ム˞チキサ˜ヌ　ウ˞キトゥミララ˜ヌ [˞ʃiŋʃi:˜nu na˞ra:˜so:ru ˜kụtu ʔu˞kitumi˜runti ʔu˞mu:n˜du mu˞ʧikisa˜nu ʔu˞kitumirara˜nu](先生が教えて下さることを受け止め < 覚え > ようとするが、難しくて覚えられない)。ウ˞キトゥミヤッ˜サン [ʔu˞kitumijas˜saŋ](受け止めやすい)。ウ˞キトゥミ˜ル　˜クトゥ [ʔu˞kitumi˜ru ˜kụtu](受け止め < 理解す > ること)。シゥカイ˞トゥ˜　ウ˞キトゥミ˜リ [sị̥kai˞tu˜ ʔu˞kitumi˜ri](しっかり理解せよ)。

ウ˞キ˜トゥルン [ʔu˞ki˜turuŋ] 【他動】受け取る。˞ワー˜　ウ˞キ˜トゥルカー　˞バン˜ヌン　ウ˞キ˜トゥルン [˞wa:˜ ʔu˞ki˜turuka: ˞ban˜nuŋ ʔu˞ki˜turuŋ](君が受け取るなら私も受け取る)。ヤー˞ディン˜　ウ˞キ˜トゥリ [ja:˞diŋ˜ ʔu˞ki˜turi](必ず受け取れ)。˞ワー˜　ウ˞キトゥラン˜カー　ウ˞キ˜トゥル　プ˞ソー˜　ブ˞ラーヌ [˞wa:˜ ʔu˞kituraŋ˜ka: ʔu˞ki˜turu pụ˞so:˜ bu˞ra:nu](君が受け取らなければ受け取る人はいない)。ウ˞キ˜トゥレー　˜ミサムヌ [ʔu˞ki˜ture: ˜mis-amunu](受け取ればいいのに)。ウ˞キ˜トゥリバ [ʔu˞ki˜turiba](受け取れよ)。

ウ˞キ˜ナー [ʔu˞ki˜na:] 【名】(地) 沖縄。沖縄本島。首里、那覇は県都として昔からよく知られており、糸満、奥武島、久高島からは漁師たちが毎年サバニを二隻組み、双胴船に仕立てて鳩間島に烏賊釣り漁にやって来たことから鳩間島の人との関係が深い。鰹漁船は明治末期ごろ沖縄本島北部の本部より帆船が導入されたという。ウ˞キナー˜プス [ʔu˞kina:˜pụsu](沖縄の人)。イ˞ツォーン˜プスン　ク˞ダカ˜プスン　イ˞ガメースンティ˜　ウ˞キ˜ナーラ　パ˞トゥ˜マー　˞オーッ˜タンツォー [ʔi˞tso:m˜pụsuŋ ku˞daka˜pụsuŋ ʔi˞game: sunti ʔu˞ki˜na:ra pạ˞tu˜ma:˞ʔo:t˜tantso:](糸満の人も久高島の人も烏賊釣り漁をしようとして鳩間島に来られたそうだ)。ウ˞キナー˜ムニ [ʔu˞kina:˜muni](沖縄ことば。沖縄本島方言)。シ˞ラ˜ガーウスマイヤ　イ˞ツォーン˜プス　ヤ˞ローッ˜タ˞ナー [ʃi˞ra˜ga:ʔusumaija ʔi˞tso:m˜pụsu ja˞ro:t˜ta˞na:](シラガー爺さん < 金城次郎氏 > は糸満出身の糸満人であられたですねえ)。

ウ˞キナー˜カウ [ʔu˞kina:˜kau] 【名】沖縄線香。沖縄線香には、イ˞ツァ˜カウ [ʔi˞tsa˜kau](板香) とタ˞キカウ [tạ˞kikau](竹香) がある。˞カンヌマイ˜ヌ　˞ニンガイ˜ヤー　イ˞ツァ˜カウシル　˞ソー˜ル [˞kannumai˜nu ˞niŋgai˜ja: ʔi˞tsa˜kauʃiru ˞so:˜ru](神様の前の祈願は < 願いは > 板香で < ぞ > 祈願なさる)。

ウ˞キナーキョン˜ギン [ʔu˞kina:kjoŋ˜giŋ] 【名】沖縄芝居。シ˞バヤー [ʃi˞baja:](芝居) ともい。劇団が沖縄本島より石垣島へ巡業に来た。そこで上演される演目が島の˞キョン˜ギン [˞kjoŋ˜giŋ](演劇。< 狂言 >) に影響をあたえた。˞クンドゥ˜ヌ　ウ˞キナーキョンギン˜マー　イッ˞ケン˜　ウ˞ムッ˜サンティ˞ダー [˞kundu˜nu ʔu˞kina: kjoŋgim˜ma: ʔik˞keŋ˜ ʔu˞mus˜santi˞da:](今度の沖縄芝居は非常に面白いそうだよ)。

ウ˞キナーシタ˜フ [ʔu˞kina:ʃị̥ta˜ɸu] 【名】琉装。「沖縄支度」の転訛したもの。ウ˞キナーシタ˜フ　˞シール˜　ブ˞ドゥロー　ソー˜ル　ヤ˞マトゥシタ˜フシェー　ブ˞ドゥロー˜　ナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞kina:ʃị̥ta˜ɸu˞ʃi:ru bu˞duro: so:˜ru ja˞matuʃị̥ta˜ɸuʃe: bu˞duro:˜ na˞ra˜nu](琉装をして < ぞ > 踊り < 琉舞 > はされる。和装 < 大和衣裳 > では琉舞は出来ない)。

ウ˞キナー˜タビ [ʔu˞kina:˜tabi] 【名】沖縄本島への旅。ム˞カ˜シェー　ウ˞キナー˜タビ　˞ソー˜ル　プ˞ソー　ナン˜ゾー　˞オーラン˜シェン [mu˞ka˜ʃe: ʔu˞kina:˜tabi ˞so:˜ru pụ˞so: nan˜ʑo: ʔoraŋ˜ʃeŋ](昔は沖縄旅をされる人はあまりおられなかった)。

ウ˞キナー˜プス [ʔu˞kina:˜pụsu] 【名】沖縄本島の人。ウ˞キナー˜プソー　˜ムニ　ス˞ク˜カー　シ˞グ˜　ワ˞カ˜ルン [ʔu˞kina:˜pụso: ˜muni sụ˞ku˜ka: ʃi˞gu˜ wa˞ka˜ruŋ](沖縄の人は、言葉を聞いたらすぐ分かる)。

ウ˞キナー˜ムニ [ʔu˞kina:˜muni] 【名】沖縄本島の言葉。沖縄本島の言葉の総称。˜スイクトゥバ [˜suikụ-tuba](首里言葉)、˜ナハクトゥバ [˜nahakụtuba](那覇言葉)、イ˞ツマン˜ムニ [ʔi˞tsumam˜muni](糸満言葉)、ク˞ダカ˜ムニ [ku˞daka˜muni](久高言葉) などという。˞ワー˜　ウ˞キナー˜ムニ　イ˞ジッシェーン

[˞waː˞ ʔuki˞naː˞muni ʔi˞ʤiʃʃeːŋ](君は沖縄言葉を話す＜言う＞ことが出来ますか)。ウ˞キナー˞ムネー　ム˞チカサ˞ヌ　パ˞ナ˞シ　˞シーサヌ [ʔu˞kinaː˞ muneː mu˞ʧikasa˞nu pa˞na˞ʃi ˞ʃiːsanu](沖縄言葉は難しくて話すことが出来ない)。

ウ˞キナー˞ムヌ [ʔu˞kinaː˞munu] 【名】沖縄産のもの。ウ˞キナー˞ムノー　ヤ˞マトゥムヌ˞トゥ　フ˞ラビル˞カー　ン˞ベーマ˞　ウ˞トゥリ˞ス [ʔu˞kinaː˞ muno: ja˞matumunu˞tu ɸu˞rabiru˞ka: ʔm˞beːma˞ ʔu ˞turi˞su](沖縄産のものは本土産のものに比べると少し質が劣る)。

ウ˞キナー˞ユー [ʔu˞kinaː˞juː] 【名】沖縄世。琉球王国時代。ウ˞キナー˞ユーナーティ　˞ヤイマプソージントー˞ゼイシ＜ニントーゼイシ＞　イッ˞ケナ˞　ク˞ロー　ソー˞レーン [ʔu˞kinaː˞juːnaːti ˞jaimapu̥-so: ʤinto:˞ʤeiʃi ＜ninto:zeiʃi＞ ʔik˞kena˞ ku˞ro: soː˞ reːŋ](沖縄世＜琉球王国時代＞に八重山の人は人頭税で非常に苦労された)。

ウ˞ギナイ [ʔu˞ginai] 【名】栄養、滋養の「補い」の義。補充。動詞ウ˞ギナウン [ʔu˞ginauŋ](補う) の連用形からの転成名詞。ヤ˞ミ˞プソー　シカイ˞トゥ　ジーシキ˞ムヌ　ウ˞ギナイ˞　トゥ˞ラバ˞ル　˞パイ˞サ　˞ノー˞ル˞ダー [ja˞mi˞pu̥so: ʃi̥kai˞tu ʤiːʃiki˞munu ʔu ˞ginai˞ tu˞raba˞ru ˞pai˞sa ˞noː˞ru˞daː](病人はしっかり滋養分を補い摂取してはじめて＜取らばぞ＞早く治すことが出来るのだ＜治される＞よ)。

ウ˞ギナウン [ʔu˞ginauŋ] 【他動】補う。埋め合わせる。タ˞ラーン　モー˞　ドゥーシ　ウ˞ギナウンティ　スンドゥ˞　クビシェー　ウ˞ギナーラヌ [ta˞raːm moː˞ duːʃi ʔu˞ginaunti sundu˞ kubiʃeː ʔu˞gi-naːranu](足りない分は自分で補おうとするが、これだけでは補えない)。˞ドゥーシ　ウ˞ギナイ˞　ミサカー　ウ˞ギナウ˞　クトー　˞ナルン [˞duːʃi ʔu˞ ginai˞ misakaː ʔu˞ginau˞ ku̥to: ˞naruŋ](自分で補ってよければ補うことは出来る)。ウ˞ギナイヤー˞　ミサムヌ [ʔu˞ginaija:˞ misamunu](補えばいいのに)。˞イー˞トゥ　スー˞カーニ˞シェー　タ˞ラーンバ˞　イ˞ズナマシン˞　ッ˞ふァイヤー˞ティ　フ˞スクブン˞　ウ˞ギナイ˞バ＜タ˞ラーシ˞バ＞[˞ʔiː˞tu suː˞kaːni˞ʃeː ta˞raːmba˞ ʔi˞ʤunamaʃiŋ˞ f˞faija:˞ti ɸu̥˞sukubuŋ˞ ʔu˞ ginai˞ba ＜ta˞raːʃi˞ba＞](ご飯とお汁だけでは足りないから、魚の刺身も食べて不足分を補いなさい)。イ˞ズン˞　タクン　ッ˞ふァイティ　ジーシキ˞ムヌ　ウ˞ギナウンティ　スンドゥ˞　ウ˞ギナーラヌ [ʔi ˞ʤun˞ takuŋ f˞faiti ʤiːʃi̥ki˞munu ʔu˞ginaunti sundu˞ ʔu˞ginaːranu](魚も蛸も食べて滋養の付くものを補おうとするが、補えない)。タ˞ラーン　ムノー˞　ドゥーシ　ウ˞ギナイ˞　ミサカー　ウ˞ギナウ˞　クトー　˞ナルン [ta˞raːm munoː˞ duːʃi ʔu˞ginai˞ misakaː ʔu˞ginau˞ ku̥to: ˞naruŋ](足りないものは自分で補って良ければ補うことは出来る)。ウ˞ギナイヤー˞　ミサムヌ [ʔu˞ginaija:˞ misamunu](補えば良いのに)。ウ˞ギナイ˞バ [ʔu˞ginai˞ba](補えよ)。

ウ˞キ˞ニビ [ʔu˞ki˞nibi] 【名】そらね。狸寝入り。眠っているようで、本当は眠っていない眠り。ウ˞キ˞ニビ　˞シーベー˞ティ　˞ウッ˞ツァー　˞ムネー　ムー˞ル˞　シ˞キブー [ʔu˞ki˞nibi ˞ʃiːbeː˞ti ˞ʔut˞tsaː ˞muneː muː˞ruˀ ʃi̥˞kibuː](空寝をしていて、彼らの話は全部聞いているよ)。

˞ウキニビ [˞ʔukinibi] 【名】寝起き。おきふし。˞ピャー˞ク　シ˞ギ˞ローッター　˞ウキニビーンツァン　˞ドゥーシェー　˞シーユーソーラ˞ヌ [˞pjaː˞ku ʃi˞gi˞ ro:tta: ˞ʔukinibiːntsan ˞duːʃe: ˞ʃiːjuːsoːra˞nu](百歳を越えられた＜過ぎられた＞ので寝起きすら自分ではなさることが出来ない)。

ウ˞キ˞ニビ [ʔu˞ki˞nibi] 【名】うたたね。かりね (仮寝)。「起き寝」の義。

ウ˞キ˞パナ [ʔu˞ki˞pana] 【名】起きぬけ。起きしな。起きだしたばかり。シ˞トゥム˞ティ　ウ˞キ˞パナーラ　˞ユネン˞バー˞キ　˞サー˞　イ˞ザリトゥーシ [ʃi̥˞tumu ˞ti ʔu˞ki˞panaːra junem˞baː˞ki ˞saː˞ ʔi˞ʤaritu:ʃi](朝の起きぬけから夜まで、ずっと叱られ通しだ)。

ウ˞キ˞パナ [ʔu˞ki˞pana] 【名】余所からきた祈願用供物の線香と初米 (はなごめ)。対語の、余所へ持参する供物の線香と初米は˞コー˞パナ [˞koː˞pana](香と初米) という。ウ˞トゥザマリ˞ラヌ　ウ˞キ˞パナン　シ˞キオーシ˞バ [ʔu˞tuʤamari˞ranu ˞ʔukipanaŋ ʃi̥ ˞kiʔoːʃi˞ba](親戚から贈られた線香と初米も神前＜仏前＞にお供えして差し上げなさいよ)。

ウ˞キパン˞スン [ʔu˞kipan˞suŋ] 【他動】受け外す。受け損ねる。˞バー　˞ナング˞タ　˞ボーロー˞　ウ˞キパン˞スンカヤーティ　ウ˞ムータ˞ヌ　ウ˞キパンサン˞シェン　˞ゾー˞ブンニ　ウ˞キ˞シタ [˞baː ˞naŋgu˞ta ˞ boːroː˞ ʔu˞kipan˞suŋkajaːti ʔu˞muːta˞nu ʔu˞kipansaŋ ˞ʃeŋ ˞ʤoː˞bunni ʔu˞ki˞ʃi̥ta](私が投げたボールは受け損ねるかと思ったが受け損ねなかった。上手に捕球した)。イッ˞カ˞　ウ˞キパン˞ス　˞クトー　˞ナー˞ヌ [ʔik˞ka˞ ʔu˞kipan˞su ˞ku̥to: ˞naː˞nu](決して受け損ねることはない)。

˞ウキピントー [˞ʔukipintoː] 【名】応答。受け答え。

「受け答え」の義。プ˩スヌ˥　ムヌ　˩トゥイヨー˥ルカー　カ˩シーカシール˥　ウキピントーヤ　˩スーティ˥ムカーヤ　˥ヌーヤレー [pu̥˩sunu˥ munu ˩tuijo:˥ruka: kḁ˩ʃi:kaʃi:ru˥ ʔukipinto:ja ˩su:ti˥muka:ja ˥nu:jare:](他人がものを尋ねられ＜問われ＞たら、しっかりと受け答えはするというものだよ＜〜すると思えば＞、何事かね、それは)。

˥ウキムキ [˥ʔukimuki] 【名】幸不幸。「有卦無卦 (うけむけ)」の義。プ˩スヌ˥　ウキムケー　˩ヌー˥シナルユー　ワ˩カラ˥ヌ　˥アイニ　˩ピンソー˥ヌグ˩ク˥　タ˩タ˥キ　˩ベータ˥ヌ　マ˩ナ˥マー　ユ˩チ˥クニ　ナリ˩ベー [pu̥˩sunu˥ ʔukimuke: ˩nu:˥ʃi ˥naru-ju: wa˩kara˥nu ˥ʔaini ˩pinso:˥nu gu˩ku˥ tḁ˩ta˥ki ˩be:ta ˥nu ma˩na˥ma: ju˩ʧi˥kuni nari˩be:](人の幸不幸はどうなるのか分からない。あんなに貧乏のどん底に喘いでいたのに＜叩いていたが＞、今は裕福になっている)。「有卦無卦」(陰陽道の「幸運と不運」の年回り。有卦に入れば七年吉事が続き、無卦に入れば五年凶事が続くということ) の思想が入って土着化したもの。

ウ˩キ˥ムチ [ʔu˩ki˥muʧi] 【名】受け持ち。担当。ク˩ヌ˥　シ˩グトー　タール˥　ウ˩キ˥ムチヤ [ku˩nu˥ ʃi ˩guto: ta:ru˥ ʔu˩ki˥muʧija:](この仕事は誰が受け持ちか)。

ウ˩キ˥ムトゥン [ʔu˩ki˥mutuŋ] 【他動】受け持つ。ク˩レー˥　バー　ウ˩キ˥ムトゥン [ku˩re:˥ ba: ʔu˩ki˥mu-tuŋ](これは私が受け持つ)。˥バー　ウ˩キムタ˥ヌ [˥ba: ʔu˩kimuta˥nu](私は受け持たない)。ウ˩キ˥ムトゥカー　シ˩キ˥ニン　ムティ [ʔu˩ki˥mutuka: ʃi̥˩ki˥nim ˥muti](受け持つなら責任を持て)。ウ˩キムティ˥プサン [ʔu˩kimuti˥pu̥saŋ](受け持ちたい)。ウ˩キ˥ムトゥ　プ˩ソー˥　ブ˩ラーンバ　ワー˥　ウ˩キ˥ムティ [ʔu ˩ki˥mutu pu̥˩so:˥ bu˩ra:mba wa:˥ ʔu˩ki˥muti](受け持つ人がいないから君が受け持て)。

ウ˩キ˥ムヌ [ʔu˩ki˥munu] 【名】料理の上に乗せるもの。上置き (うわおき)。「置物」の義。カ˩マブク˥　キシティ　ス˩バ˥ヌ　ウ˩キ˥ムヌ　˩シー˥バ [ka˩mabuku˥ ki̥ʃiti su˩ba˥nu ʔu˩ki˥munu ˩ʃi:˥ba](蒲鉾を切ってそばの上置きにしなさいよ)。

ウ˩キャ˥ク [ʔu˩kja˥ku] 【名】お客。新しく標準語から借用された語か。普通はあまり使用しなかった。˥アツァー　イ˩サナケーラ˥　ウ˩キャク˥ヌ　˩オー˥ルンツォー [˥ʔatsa: ʔi˩sanake:ra˥ ʔu˩kjaku˥nu ˩ʔo:˥runtso:](明日は石垣からお客がいらっしゃるそうだ)。

˥ウキョー [˥ʔukjo:] 【名】お経。ティ˩ラヌ　ボー˥ジ　タ˩ナ˥ミティ　˥ウキョー　ア˩ギシミ　オーラ˥シ [ti˩ranu bo:˥ʤi ta˩na˥miti ˥ʔukjo: ʔa˩giʃimi ʔo:ra˥ʃi](寺の坊主を頼んでお経を読み上げさせて頂きなさい)。

ウ˩キル [ʔu˩kiru] 【名】おき (熾・燠)。おきび。薪が燃え尽きて炭火のようになったもの。「火唐煨、オキ」『類聚名義抄』の転訛したものか。鳩間島の人は、西表島の田圃の周りから˩マーキ [˩ma:ki](薪。木材の燃料) を伐り出して島に運び、豊かに燃料として使用することができた。その˩マーキ [˩ma:ki](薪) を燃やしてできる熾(オキ)のこと。ウ˩キルバ˥　タ˩バク˥ブンナ　トゥリ˩クーン˥ノーレー [ʔu˩kiruba˥ ta˩baku ˥bunna turi˩ku:n˥nore:](熾きを煙草盆に取って持ってきてくれないか)。˩マーキーヌ˥　ウ˩キロー˥　ムティキー　ピ˩バ˥チナ　イ˩リリ [˩ma:ki:nu˥ ʔu˩kiro: ˥ mutiki: pi˩ba˥ʧina ʔi˩riri](薪の熾(オキ)は持ってきて火鉢に入れろ)。

ウ˩キ˥ルン [ʔu˩ki˥ruŋ] 【他動】請ける。請け負う。仕事を請ける。˩ワー˥　ク˩ヌ˥　シ˩グトー　フン˥トー　ウ˩キルン [˩wa:˥ ku˩nu˥ ʃi˩guto: ɸun˥to: ʔu˩kiruŋ](君はこの仕事を本当に請け負う＜請ける＞か)。アー˩イ˥　ウ˩キラ˥ヌ [ʔa:˩ji˥ ʔu˩kira˥nu](否、請けない)。˩バン˥ヌン　シ˩グトゥ˥　ウ˩キ˥ル　˥クトー　˥ナルン [˩ban˥nuŋ ʃi˩gutu˥ ʔu˩ki˥ru ˥ku̥to: ˥naruŋ](私も仕事を請け負うことは出来る)。ヤー˩ディン˥　ウ˩キ˥リ [ja:˩diŋ˥ ʔu˩ki˥ri](必ず請け負いなさい)。ク˩ヌ˥　シ˩グトー˥　ウ˩キ˥レー　˥ミサムヌ [ku˩nu˥ ʃi˩guto: ˥ ʔu˩ki˥re: ˥misamunu](この仕事は請け負えばよいのに)。

ウ˩キ˥ルン [ʔu˩ki˥ruŋ] 【自動】起きる。˥アツァー　˩パイ˥サ　ウ˩キ˥リ˩ヨー [˥ʔatsa: ˩pai˥sa ʔu˩ki˥ri˩jo:](明日は早く起きなさいよ)。˩ワー˥　ウ˩キ˥ルカー　˩バン˥ヌン　ウ˩キ˥ルン [˩wa:˥ ʔu˩ki˥ruka: ˩ban˥nuŋ ʔu ˩ki˥ruŋ](君が起きるなら私も起きる)。ウ˩キ˥ル　プ˩スヌ˥　ブ˩ラーン˥カー　˥バーンツァン　ウ˩キラン˥カー　ナ˩ラ˥ヌ [ʔu˩ki˥ru pu̥˩sunu˥ bu˩ra:ŋ˥ka: ˥ba:ntsaŋ ʔu˩kiraŋ˥ka: na˩ra˥nu](起きる人がいなければ私でも＜すら＞起きないといけない)。˩トゥンナキン˥ナー　ウ˩キ˥プサバ　ウ˩コー˥シ˩ヨー [˩tunnakin˥na: ʔu˩ki˥pu̥saba ʔu˩ko:˥ʃi˩jo:](鶏鳴の時刻＜午前三、四時ごろ＞に起きたいから、起こしなさいよ)。

ウ˩キルン [ʔu˩kiruŋ] 【他動】浮ける。浮かべる。老年層の言葉。若年層は、ウ˩ケーラスン [ʔu˩ke:ra-

suŋ](浮ける) という。˺フニ　ウ˹キルン [˺ɸuni ʔu˹kiruŋ](船を浮ける。浮かべる)。˹ワー˺　ウ˹キル˺カー　˹バン˺ヌン　˹ウキルン [˹wa:˺ ʔu˹kiru˺ka: ˹ban˺nuŋ ʔu˹kiruŋ](君が浮けたら私も浮けるよ)。˺フニ　ウ˹キル˺　ピンマー　˺ヨイ　ソー˺ラ˹ナー [˺ɸuni ʔu˹kiru˺ pimma: ˺joi ˹so:˺ra˹na:](船を浮ける時はお祝いをしましょうねえ)。ミ˹チスー˺ヌ　ウ˹チ˺ナー　˺フネー　ウ˹キ˺プサンダー　˹パー˺ク　ウ˹キリ [mi˹tʃisu:˺nu ʔu˹tʃi˺na: ˺ɸune: ʔu˹ki˺pu̥sanda: ˹pa:˺ku ʔu˹kiri](満潮のうちに船は浮けたいから早く浮けなさい)。

ウ˹キ˺ルン [ʔu˹ki˺ruŋ] 【他動】受ける。˺シキン　ウ˹キルン [˺ʃi̥kiŋ ʔu˹kiruŋ](試験を受けるか?)。ター˹ン˺　ウ˹キラン˺カー　˺バー　ウ˹キ˺ルン [ta:˹ŋ˺ ʔu˹kiraŋ˺ka: ˺ba: ʔu˹ki˺ruŋ](誰も受けなければ私は受ける)。ウ˹キ˺ル　プ˹スヌ˺　ブ˹ラーン˺カー　˹ワー˺　ウ˹キ˺リ [ʔu˹ki˺ru pu̥˹sunu˺ bu˹ra:ŋ˺ka: ˹wa:˺ ʔu˹ki˺ri](受ける人がいなかったら君が受けなさい)。˹バン˺ヌン　ウ˹キ˺プサユンダ　˹ワー˺　シ˹ダキ˺　ウ˹キ˺レー　˺ミサムヌ [˹ban˺nuŋ ʔu˹ki˺pusajunda ˹wa:˺ ʃi˹daki˺ ʔu˹ki˺re: misamunu](私も受けたいから、君は先に受ければよいのに)。

˺ウキン [˺ʔukiŋ]【名】(植) うこん (鬱金)。ショウガ科の多年草。根茎は肥大して黄色を呈し、漢方薬として用いられる。黄色の染料としても重用された。鳩間島では、切り傷やその他の傷口から細菌が侵入して発熱がある場合、ウキンを漬けた酒に焼き塩を混ぜ、それを傷口の周りから全身にすり込むようにすりつけた。ウ˹キン˺トゥ　サ˹キトゥ　マース˺バ　マ˹ザー˺シティ　ッ˹シッツァー˺シ　˺ドゥー　ピ˹コーッ˺タ [ʔu˹kin˺tu sḁ˹kitu ma:su˺ba ma˹ʥa:˺ʃi̥ti ʃ˹ʃittsa:˺ʃi ˺du: pi̥˹ko:t˺ta](うこん < 鬱金 > と酒と塩を混ぜて体に擦りつけ、すり下ろされた)。˺ウキンバ　フ˹チ˺ルティ　シ˹キティ˺　シジティ　ヌミ˹ベー˺タクトー　ウ˹ム˺テーラ　ドゥーパダ˹バー˺キン　˹キンキン˺　ナリ˹ナー˺ヌ [˺ʔukimba ɸu̥˹tʃi˺ruti ʃi̥˹kiti˺ ʃiʤiti numi˹be:˺taku̥to: ʔu˹mu˺te:ra du:pada˹ba:˺kiŋ ˹kiŋkin˺ nari˹na:˺nu](ウコンが < を > 薬だと聞いて煎じて飲んでいたところ、顔から体全体黄色くなってしまった)。

ウ˹キンジ˺ルン [ʔu˹kinʤi˺ruŋ] 【自動】浮き出る。浮き立って見える。目立って見える。ウ˹ビ˺ヌ　ブ˹ドゥルシンカヌ˺　ナ˹カ˺ナー　ク˹ヌ˺　ッ˹ふァヌドゥ˺　ウ˹キ˺ンジティ　˹カイ˺ヤタサー [ʔu˹bi˺nu bu˹duruʃiŋkanu˺ na˹ka˺na: ku˹nu˺ f˹fanudu˺ ʔu˹ki˺nʤiti ˹kai˺jatasa:](あれだけの踊り人衆 < 仲間、臣下 > の中でこの子 < 娘 > が目立って < 浮き立って > 綺麗だった < 美しかった > よ)。˺ドゥク　ウ˹キンジル˺カー　˹ニッ˺ター　サ˹リンﾄ ダー [˺duku ʔu˹kinʤiru˺ka: ˹nit˺ta: sa˹rin˫da:](あまり目立つと < 浮き出ると > 嫉妬される < 妬まれる > よ)。

ウ˹キンズン [ʔu˹kinʣuŋ] 【自動】目立つ。「浮きいづ」の義。ウ˹キンジ˺ルン [ʔu˹kinʤi˺ruŋ](浮き出る、目立つ) と同じ。ウ˹キンザヌ [ʔu˹kinʣanu](目立たない)。ウ˹キンジティ [ʔu˹kinʤiti](目立って)。ウ˹キンズ˺　プ˹ソー˺　ター˹ン˺　ブ˹ラーヌ [ʔu˹kinʣu˺ pu̥˹so:˺ ta:˹m˺ bu˹ra:nu](目立つ < 浮き出る > 人は誰もいない)。

˺ウキンビリン　ナ˹ラ˺ヌ [˺ʔukimbirin na˹ra˺nu]【連】**1**身動きできない。「起きも座りもできない」の義。˹ザー˺ヌ　˹ピッ˺チン　˹ヨイシプス˺ヌ　˹オー˺リティ　˺ウキンビリン <˺タティンビリン >　ナ˹ラ˺ヌ [˹ʣa:˺nu ˹pit˺tʃiɲ ˹joiʃipusu˺nu ˹ʔo:˺riti ˺ʔukimbirin < ˺tatimbiriŋ> na˹ra˺nu](座敷のいっぱい祝い客 < 祝いし人 > が来られて身動きできない < 起きることも座ることも出来ない >)。**2**忙しくて手がはなせない。休息できない。˹パンタサ˺ヌ　˺ウキンビリン　ナ˹ラ˺ヌ [˹pantasa˺nu ˺ʔukimbirin na˹ra˺nu](忙しくて手がはなせない < 休めない >)。

ウ˹ク [ʔu˹ku] 【名】奥。内部へ深く入った所。˹ヤー˺ヌ　ウ˹コー˺ラ　˹ドン˺グ　ン˹ザ˺シ　˺クー [˹ja:˺nu ʔu˹ko:˺ra ˹doŋ˺gu ʔn˹ʣa˺ʃi ˺ku:](家の奥から道具を出してきなさい)。ピ˹ナサキヌ˺　ガ˹マヌ˺　ウ˹ク˺ナー　グ˹スク˺ヌ　シ˹マリブタン [pi˹nasakinu˺ ga˹manu˺ ʔu˹ku˺na: ˹gusu̥ku˺nu ʃi˹maributaŋ](ピナイ崎のガマ < 洞窟 > の奥には石垣が積まれていた)。

ウ˹クー [ʔu˹ku:] 【名】 (動) 魚の名。和名、クマササハナムロ (体長約 24 センチ)。グルクンの一種。糸満方言からの借用語か。ウ˹クー˺ティ　˹スー˺　イ˹ゾー　ナン˺ゾー　ッ˹ふァイ˺　ミ˹ラン˺シェン [ʔu˹ku:˺ti ˹su:˺ ʔi˹ʣo: nan˺ʣo: f˹fai˺ mi˹raŋ˺ʃeŋ](ウクーという魚はあまり食べたことは無かった < 食べてみなかった >)。

˺ウクサン [˺ʔukusaŋ] 【名】奥様。石垣方言からの借用語。明治期に本土寄留商人の夫人を呼んだことば。˺アボー　バ˹カー˺ローッタンケン　˺ウクサンムスビ　シ˹ティ˺　サシン　ウ˹ツ˺シ　ス˹コー˺レーン [˺ʔabo: ba˹ka:˺ro:ttaŋkeŋ ˺ʔukusammusubi ʃi̥˹ti˺ saʃiŋ ʔu˹tsu˺ʃi su̥˹ko:˺re:ŋ](お母さんは若かった時、

帯を奥様結びにして写真を撮っておかれてある)。

ウ˥ク˥ジ **[ʔu˥ku˥ʥi]** 【名】神意を占う籤。玄米を盆の上に並べて占う。神饌のパ˥ナン˥グミ [pa˥naŋ˥gumi](花米) を掴み取り、盆の上に二粒を一対に籤(クジ)を並べる。対が偶数個並ぶと (ム˥ルウクジ [mu˥ruʔukuʤi]< 諸御籤。吉 >) という。米粒が対を形成しない時は何度も占いを実施して対を作る。対が基数個の場合は˥パンウクジ [˥panʔukuʤi](半御籤。要用心) といわれている。˥クジ　ウ˥ク˥スン [˥kuʥi ʔu˥ku˥suŋ](籤(クジ)を起こす < 籤で占う >)、˥クジ　バ˥ルン [˥kuʥi ba˥ruŋ](籤を割る < 籤で占う >) のようにいう。˥カンヌ˥マイナーティ　ウ˥ク˥ジ　バ˥ローッ˥タ [˥kannu˥maina:ti ʔu˥ku˥ʤi ba˥ro:t˥ta](神前で米の籤を割って神意を占われた)。

ウ˥クタリルン **[ʔu˥kutariruŋ]** 【自動】怠る。怠ける。油断する。ウ˥クタルン [ʔu˥kutaruŋ](怠る) を多用する。ウ˥クタリラヌ < ウクタラヌ >[ʔu˥kutariranu ＜ʔukutaranu＞](怠らない)。ウ˥クタリナー˥ヌ [ʔu˥kutarina:˥nu](怠ってしまった)。

ウ˥クタルン **[ʔu˥kutatuŋ]** 【自動】怠る。怠ける。油断する。ム˥ニユマー˥ヤ　シ˥グトゥ˥　ウ˥クタルンティ˥　ア˥ザリ　ブーヌ˥　ウ˥レー˥　ウ˥クタランシェン [mi˥nijuma:˥ja ʃi˥gutu˥ ʔu˥kutarunti˥ ʔa˥ʥari bu:nu˥ ʔu˥re:˥ ʔu˥kutaraŋʃeŋ](お喋りな奴は仕事を怠るといわれているが、彼は怠らなかった)。パ˥タキ˥ヌ　ッ˥サソー˥リ　ウ˥クタリ　ベーン˥ケンマー　ッ˥サ˥ヌ　˥ムイカバ˥シ　˥ナー˥ヌ [pḁ˥taki˥nu s˥saso:˥ri ʔu˥kutari be:ŋ˥kemma: s˥sa˥nu ˥muikaba˥ʃi ˥na:˥nu](畑の草取りを怠っているうちに草が生い茂ってしまった)。シ˥グトゥ˥　ウ˥クタル˥　クトー　˥ナー˥ヌ [ʃi˥gutu˥ ʔu˥kutaru˥ kṳto: ˥na:˥nu](仕事を怠ることはない)。ウ˥クタレー˥　ミサムヌ [ʔu˥kutare:˥ misamunu](怠れば良いのに)。ウ˥クタリ˥バ [ʔu˥kutari˥ba](怠れよ)。

ウ˥クナイ **[ʔu˥kunai]** 【名】行い。ふるまい。行状。共通語からの借用語。˥ピンピンヌ˥　ウ˥クナイヌ　ワッ˥サカー　ム˥クイ˥　カブン˥ダー [˥pimpimnu˥ ʔu˥kunainu was˥saka: mu˥kui˥ kaban˥da:](日々の行いが悪ければその報いを被るぞ)。

ウ˥クヌ˥ティー **[ʔu˥kunu˥ti:]** 【連】奥の手。秘訣。ク˥ヌ　プソー˥　イッ˥カナ˥シ　プ˥スンマー˥　ウ˥クヌ˥　ティー　ミ˥シラ˥ヌ [ku˥nu pṳso:˥ ʔik˥kana˥ʃi pṳ˥summa:˥ ʔu˥kunu˥ti: mi˥ʃira˥nu](この人は決して他人には奥の手を見せない)。

ウ˥クバー **[ʔu˥kuba:]** 【名】奥歯。˥ウシパー [˥ʔuʃi-pa:](臼歯) ともいう。ウ˥クバーヤ˥　フ˥トゥッ˥チティ　˥ムヌ　˥カンザララ˥ヌ [ʔu˥kuba:ja˥ ɸṳ˥tut˥ʧiti ˥munu ˥kanʥarara˥nu](奥歯は虫歯になって < 朽ちて > 物が噛め < 噛まれ > ない)。ウ˥クバーヌ˥　フ˥トゥッチ˥パー　˥ナリティル　˥ヤミ　ナ˥ラン˥ツォー [ʔu˥kuba:nu˥ ɸṳ˥tutʧi˥pa: ˥naritiru ˥jami na˥ran˥tso:](奥歯が虫歯になって < ぞ > 痛くて堪らないそうだ)。ウ˥クバーヤ˥　マ˥ダ　モー˥ヌ [ʔu˥kuba:ja˥ ma˥da mo:˥nu](奥歯はまだ生えていない)。

ウ˥ク˥ビョー **[ʔu˥ku˥bjo:]** 【名】臆病者。共通語からの借用語。˥アイブ　ウ˥ク˥ビョーテイン　˥ブンㅏツォー [˥ʔaibu ʔu˥ku˥bjo:tim ˥bunㅏtso:](あんな臆病者とてもいるものだ。あきれた)。

ウ˥クビョー˥ムヌ **[ʔu˥kubjo:˥munu]** 【名】臆病者。ウ˥レー　サッコー˥ヌ　ウ˥クビョー˥ムヌ [ʔu˥re: sakko:˥nu ʔu˥kubjo:˥munu](彼は非常に臆病者である)。

ウ˥クフカー˥ン **[ʔu˥kuɸṳka:˥ŋ]** 【形】1奥深い。意味深長である。含蓄がある。˥デンサー˥ブシナ　イ˥ザリ　ブー˥　ウ˥タ˥ヌ　イ˥メー˥　ウ˥クフカー˥ン [˥densa:˥buʃina ʔi˥ʥari bu:˥ ʔu˥ta˥nu ʔi˥me:˥ ʔu˥kuɸṳka:˥ŋ](デンサー節に歌われている歌の意味は奥深い)。ウ˥ヌ˥　プ˥スヌ˥　ア˥ゾー˥ル　˥ムネー　ウ˥クフカー˥ヌ　シカイ˥トー˥　ワ˥カラ˥ヌ [ʔu˥nu˥ pṳ˥sunu˥ ʔa˥ʥo:˥ru ˥mune: ʔu˥kuɸṳka:˥nu ʃi̥kai˥to:˥ wa˥kara˥nu](あの人の言われる話は < 言葉は > 奥が深くて十分には分からない)。2洞窟などの奥が深い。ピ˥ナイサキヌ˥　ガ˥マー˥　ウ˥クフカー˥ヌヌ　˥インダガマー　ウ˥クフカー　ナー˥ヌ [pi˥naisakinu˥ ga˥ma:˥ ʔu˥kuɸṳka:˥nunu ˥ʔindagama: ʔu˥kuɸṳka: na:˥nu](ピナイ崎の洞窟は奥深いがインダガマ洞窟は奥深くない)。

ウ˥クヤマ **[ʔu˥kujama]** 【名】奥山。山奥。深山。˥パンタヌ　ウ˥クヤマー˥ラ　˥キー˥バ　˥キシ　ウ˥ラ˥ソーッタ [˥pantanu ʔu˥kujama:˥ra ˥ki:˥ba ˥ki̥ʃi ʔu˥ra˥so:tta](南端 < 西表島 > の奥山から材木 < 家屋建築用材 > を伐って運び下ろされた)。

ウ˥クラスン **[ʔu˥kurasuŋ]** 【他動】遅らせる。˥ウイヌ˥　ム˥ラー˥ラ　ア˥ラ˥キクンケン　˥イットゥ˥キ　˥フネー　ウ˥クラシ˥　ッ˥ふォー˥リ [˥ʔuinu˥ mu˥ra:˥ra ʔa˥ra˥kikuŋkeŋ ˥ʔittu˥ki ˥ɸune: ʔu˥kuraʃi˥ f˥fo:˥ri](上の村から歩いて来るまで < ここへ来るまで >、ちょっと < 一時 > 船の出発を遅らせて < 待たせて > ください)。アー˥イ˥　ウ˥クラサヌ [ʔa:˥i˥ ʔu˥kurasanu](いや、遅らせない)。ウ˥クラスンティ˥

ウムーカー　ウ˞クラス˺　クトー　˺ナルン [ʔu˞kurasunti˺ ʔumu:ka: ʔu˞kurasu˺ kṵto: ˺naruŋ](遅らせようと思えば遅らせることは出来る)。ウ˞クラシェー˺　ミサムヌ [ʔu˞kuraʃe:˺ misamunu](遅らせば良いのに)。ウ˞クラシ [ʔu˞kuraʃi](遅らせよ)。

ウ˞クリ [ʔu˞kuri] 【名】 1送ること。˞ガッ˺コー　˞バーキ˺ヌ　ウ˞クレー˺　ナルン [˞gak˺ko: ˞ba:ki˺nu ʔu˞kure:˺ naruŋ](学校までの送りは出来る)。送り膳。ウ˞クリジン [ʔu˞kuriʤiŋ](送り膳) の略。˺ヨイ　˞シン　オーララン˺セン　˺トンマー　ウ˞クリ˺　ム˞タ˺シ˞ヨー [˺joi ˞ʃiŋ ʔo:raraŋ˺ʃen tomma: ʔu˞kuri˺ mu˞ta˺ʃi˞jo:](お祝いにおいでになれなかった家＜所＞へは送り膳を持参させ＜持たせ＞なさいよ)。2祖霊送り。お盆の三日間、祖霊たちを各家庭に迎えて供養し、孝養を尽くして三日目の夜中に祖霊を霊界へ送ること。仏壇に供えた供物のお初とム˞ルムル [mu˞rumuru](木の実や甘蔗の供物) の一部を籠に入れ、香炉の線香を三本抜き取って明かりを消し、戸外に出て屋敷の西側道端にム˞ルムル [mu˞rumuru](砂糖黍や果物、木の実) など、供物のお初を砂糖黍の˞アイ˞ク [˞ʔai˺ku](担い棒) で担いで帰れるように置いて祖霊送りをした。夜中を過ぎて、一番鶏が鳴くと、祖霊たちは霊界へ戻れなくなるので、午前零時までには送りを済ませた。˞ソー˺ラン　˺ウヤプスンケーヤ　ウ˞クリ　オーラ˺シェン [˞so:˺raŋ ˺ʔujapusuŋke:ja ʔu˞kurio:ra˺ʃeŋ](お盆の祖霊たちは霊界へ送りしました)。精霊送り。˞ソーラン˺ヌ　ウ˞クリヌ˺　ピンマー　ッ˞ふァ˺マー　˺スルイティ　ウ˞ティン˺ガビーン　アビ˞オーシティ˺　ウ˞クリ　オーラシタ [˞so:ran˺nu ʔu˞kurinu˺ pimma: f˞fa˺ma: ˺suruiti ʔu˞tiŋ˺gabi:ŋ ˺ʔabi˞ʔo:ʃi̥ti˺ ʔu˞kuriʔo:raʃi̥ta](お盆のお送りの日には子孫うち揃って紙銭＜打ち紙＞を焼いて＜あぶって＞差し上げて精霊をお送りしてさしあげた)。

ウ˞クリコーシ [ʔu˞kuriko:ʃi] 【名】　「送り菓子」。法事やお盆の最終日の精霊送りの焼香の際に供える菓子類のこと。焼香の途中に供えた菓子類、その他の料理のお初を一部分取って冥土へのお土産とした。

ウ˞クリシームヌ [ʔu˞kuriʃi:munu] 【名】「送り吸い物」。法事やお盆の精霊送りの日に仏前に供える「精霊送りの吸い物料理」のこと。ウ˞クリシームノー˺　シ˞キティ˺　ウ˞ティン˺ガビーン　アビ˞オーシ˺バ [ʔu˞kuriʃi:muno:˺ ʃi̥˞kiti˺ ʔu˞tiŋ˺gabi:ŋ ʔabi˞ʔo:ʃi˺ba](送り吸い物を供えて紙銭も焼いて＜あぶって＞さしあげなさい)。

ウ˞クリジン [ʔu˞kuriʤiŋ] 【名】送り膳。招待客が都合が悪くて出席出来ないとき、その人に出すべきご馳走の膳を本人の家に届けるもの。ウ˞クリ [ʔu˞kuri](送り) ともいう。˞ヨイ˺シン　˞オーララ˺ン　プ˞スン˺ヤー　ウ˞クリジン˺　ム˞タ˺シバ˞ヨー [˞joi˺ʃiŋ ˞ʔo:rara˺m pṵ˞suŋ˺ja: ʔu˞kuriʤim˺ mu˞ta˺ʃiba˞jo:](お祝いに来られない人の家には送り膳を届けなさい＜持たせなさい＞ね)。

ウ˞クリソッコー [ʔu˞kurisokko:] 【名】˞送りの焼香」の義。法事の一通りの行事を済ませて、祖霊 (死者の霊) をお送りする時の焼香。ウ˞クリソッコーヤナン˺ジナ　˞ソール˺ワ [ʔu˞kurisokko:ja nan˺ʤina ˞so:ru˺wa](送り焼香は何時になさいますか)。

ウ˞クリピン [ʔu˞kuripiŋ] 【名】精霊送りの日。旧盆の第三日。「送り日」の義。ウ˞ヤ˺プスンケーン˞カイ˺　シゥ˞カ˺ナイ　˞オーラ˺スンティ　˞ベーン˺ケンマー　ウ˞クリピン˺　ナリ˞ナー˺ヌ [ʔu˞ja˺pusuŋke: ʔŋ˞kai˺ si̥˞ka˺nai ˞ʔo:ra˺sunti ˞be:ŋ˺kemma: ʔu˞kuripin˺ nari˞na:˺nu](ご先祖の霊をお迎えして孝養して＜養って＞差し上げようとしているうちに送り日になってしまった)。ウ˞クリ [ʔu˞kuri](送り) ともいう。

ウ˞クリプス [ʔu˞kuripusu] 【名】葬送人。葬列に参加する人。˞ウン˺ネヌ　˞ソー˺シケー　ヤ˞マシゥ˺カ　ウ˞クリプソー　オーリ˺ブタ [˞ʔun˺nenu ˞so:˺ʃi̥ke: ja˞masi̥˺ka ʔu˞kuripuso: ʔo:ri˺ʃi̥ta](あの家の葬式には沢山の葬送人が参列された＜いらっしゃっていた＞)。

ウ˞クリマイ [ʔu˞kurimai] 【名】「送り前」の義。「前」は「それ相当のもの。分」の義で「送る義務。金額や責任の多寡」を表わす。支払う義務を負ったお金。トゥ˞リ˺マイ [tu˞ri˺mai](取る権利を有するもの。お金)。ム˞エーヌ˺　ウ˞クリマイ˺　パラウンティ　˞シーッ˺パイ　˞シーベー [mu˞je:nu˺ ʔu˞kurimai˺ paraunti ˞ʃi:p˺pai ˞ʃi:be:](頼母子＜無尽＞の負債の掛金を払うのに苦労をしている＜精一杯だ。こんかぎりだ＞)。

ウ˞クリムエー [ʔu˞kurimuje:] 【名】前金を受け取って後、支払いの義務を負った頼母子講。ム˞エーヌ˺　ジン　ウ˞キ˺トゥルカー　˺アトー　ウ˞クリムエール˺　ヌ˞カ˺ル [mu˞je:nu˺ ʤiŋ ʔu˞ki˺turuka: ˺ʔato: ʔu˞kurimuje:ru˺ nu˞ka˺ru](頼母子講のお金を受け取ると、後は支払い義務のある頼母子講が残る)。

ウ˞クリムヌ [ʔu˞kurimunu] 【名】贈り物。進物。ム˞カ˺

シェー ˞ソー˞ラン ˞ソンガチ ˞ナルカー ウ˞トゥザマリン˞ヤー ˞シーブー˞ティ ˞スー˞ ウ˞クリムヌ ソーッ˞タン [mu˞kaˀʃe: ˞soː˞ran ˞soŋgatʃi ˞naruka: ˞ʃiːbuː˞ti ˞suː˞ ʔu˞kurimunu soːt˞taŋ](昔は正月やお盆になると親戚へお歳暮という贈り物をされた)。

ウ˞クリルン [ʔu˞kuriruŋ] 【自動】遅れる。ア˞サ˞ニビ ˞スー˞カー ˞ガッ˞コー ウ˞クリルント ダー ユ˞ヌ˞シリンケーラ ウ˞クリラン˞ヨーニ ˞パー˞ク ウ˞キ˞リ [ʔa˞sa˞nibi ˞suː˞ka: ˞gak˞ko: ʔu˞kurirunt̪da: ju˞nu˞ʃiriŋkeːra ʔu˞kuriraŋ˞joːni ˞paː˞ku ʔu˞ki˞ri](朝寝をすると学校に遅れるよ。同級生から遅れないように早く起きなさい)。ウ˞クリナー˞ヌ [ʔu˞kurinaː˞nu](遅れてしまった)。ウ˞クリル˞ ピンマー トゥ˞ドゥキ˞リ [ʔu˞kuriru˞ pimma: tu˞duki˞ri](遅れる時は届けなさい)。ウ˞クレー˞ ナ˞ラ˞ヌ [ʔu˞kureː˞ na˞ra˞nu](遅れてはならない)。

ウ˞クリンカイ [ʔu˞kuriŋkai] 【名】送り迎え。˞マーッふァヌ ˞ガッ˞コー ウ˞クリンカイ スンティ˞ シ˞トゥム˞テー イ˞クサ˞ヌ ˞カタチニル ˞ブー [˞maːffanu ˞gak˞ko: ʔu˞kuriʔŋkai sunti˞ ʃi̥˞tumu˞teː ʔi˞kusa˞nu ˞kạtatʃiniru ˞buː](孫の学校の送り迎えをするのに朝は戦争のようだ＜戦のようにぞ居る＞)。

ウ˞クルン [ʔu˞kuruŋ] 【自動】遅れる。とり残される。下二段系動詞「～朝立ち行かば後有＜オクレタル＞～。万、3291」の転訛したもの。ア˞サ˞ニビ ˞スー˞カー ˞ガッ˞コー ウ˞クルント ダー ウ˞クラン˞ヨーニ ˞パイ˞サ ウ˞キ˞リ [ʔa˞sa˞nibi ˞suː˞ka: ˞gak˞ko: ʔu˞kurunt̪da: ʔu˞kuraŋ˞joːni ˞paiˀsa ʔu˞ki˞ri](朝寝坊をすると学校に遅れるぞ。遅れないように早く起きろ)。ウ˞クリ˞ ミサン [ʔu˞kuri˞ misaŋ](遅れてもいい)。ウ˞クル˞ プ˞ソー˞ ブ˞ラーヌ [ʔu˞kuru˞ pu̥˞soː˞ bu˞raːnu](遅れる人はいない)。ウ˞クレー˞ ミサムヌ [ʔu˞kureː˞ misamunu](遅れたらいいのに)。ウ˞クリ˞バ [ʔu˞kuri˞ba](遅れなさいよ)。

ウ˞ク˞ルン [ʔu˞ku˞ruŋ] 【自動】起こる。惹起する。興る。ク˞トゥ˞ヌ ウ˞ク˞レーラー ˞ヨー˞ゾー ナ˞ラン˞バ ウ˞クラン˞ケンナー ˞ウチソーダン ˞シー˞バ [ku̥˞tu˞nu ʔu˞ku˞reːra: ˞joː˞ʤo: na˞ram˞ba ʔu˞kuraŋ˞kenna: ˞ʔutʃisoːdaŋ ˞ʃiː˞ba](ことが起こったらば対応できない＜養生できない＞から、起こらないうちにお互いに相談しなさいよ)。ウ˞クリパジミ˞ルン [ʔu˞kuripaʤimi˞ruŋ](起こり始める)。ウ˞ク˞ル ˞クトー ˞ナー˞ヌ [ʔu˞ku˞ru ˞ku̥to: naːnu](起こることはない)。ウ˞ク˞ルカー ウ˞ク˞リ [ʔu˞ku˞ruka: ʔu˞ku˞ri](起こるなら起これ)。

ウ˞ク˞ルン [ʔu˞ku˞ruŋ] 【自動】怒る。立腹する。˞サク ウ˞ク˞ルン [˞sạku ʔu˞ku˞ruŋ](怒る。立腹する＜癪起こる＞)。イッ˞カ˞ サク ウ˞クラ˞ヌ [ʔik˞ka˞sạku ʔu˞kura˞nu](決して怒らない)。˞サク ウ˞ク˞リティ ナ˞キ ベー [˞sạku ʔu˞ku˞riti na˞ki beː](怒って泣いている)。˞サク ウ˞ク˞ル ˞クトー ˞ナー˞ヌ [˞sạku ʔu˞ku˞ru ˞ku̥to: ˞naː˞nu](怒ることはない)。˞マー˞ビン ウ˞ク˞レー ˞ミサムヌ [˞maː˞biŋ ʔu˞ku˞reː ˞misamunu](もっと怒ればいいのに)。ウ˞ク˞リバ [ʔu˞ku˞riba](怒れよ)。˞クン˞ゾー ウ˞ク˞ルン [˞kun˞ʤo: ʔu˞ku˞ruŋ](立腹する＜根性起こる＞)。

ウ˞クルン [ʔu˞kuruŋ] 【他動】 1送る。シ˞ナムヌ˞ ウ˞クルン [ʃi˞namunu˞ ʔu˞kuruŋ](品物を送る)。カ˞ツブシ˞ ウ˞クリ˞ プサンドゥ ˞キュー˞ヤ ウ˞クララヌ [kḁ˞tsubuʃi˞ ʔu˞kuri˞ pu̥sandu ˞kjuː˞ja ʔu˞kuraranu](鰹節を送りたいが今日は送られない)。ウ˞クル˞ ピンマー ˞ユー˞ビンラ ウ˞クリ˞バ [ʔu˞kuru˞ pimma: ˞juː˞binra ʔu˞kuri˞ba](送る時は郵便で送れよ)。˞パイ˞サ ウ˞クレー˞ ミサムヌ [˞pai˞sa ʔu˞kureː˞ misamunu](早く送ればよいのに)。ク˞リ˞ ウ˞クル˞カー カ˞リン˞ ウ˞クリ˞ヨー [ku˞ri˞ ʔu˞kuru˞ka: ka˞riŋ˞ ʔu˞kuri˞joː](これを送るなら、あれも送れよ)。2見送る。死者や祖霊などを霊界へ送る。ウ˞キナー˞プス ウ˞クルンティル アー˞ク˞ダー [ʔu˞kinaː˞pu̥su ʔu˞kuruntiru ʔaː˞ku˞daː](沖縄へ行く人を見送ろうとしているんだよ)。ウ˞ヤ˞プソー ユ˞ナカバー˞キ シゥ˞カ˞ナイティ ウ˞クリオーシタ [ʔu˞ja˞pu̥so: ju˞nakabaː˞ki si̥˞ka˞naiti ʔu˞kuri ʔoːʃita](先祖＜親人＞様を夜中まで孝養をつくして＜養って＞霊界へお送りして差し上げた)。

ウ˞グルン [ʔu˞guruŋ] 【他動】1威張る。驕り高ぶる。˞クンザー˞ ウ˞グリティ˞ プ˞スヨー˞ プ˞スティン˞ ウ˞モー˞ヌ [˞kunʤaː˞ ʔu˞guriti˞ pu̥˞sujoː˞ pu̥˞sutiŋ˞ ʔu˞moː˞nu](こいつは驕り高ぶって人を人とも思わない)。2奢る。他人にご馳走を振舞う。マ˞ルケーティ˞ナ ウ˞グル˞バソー ウ˞ムイ˞キシ ウ˞グリ˞バ [ma˞rukeːti˞na ʔu˞guru˞baso: ʔu˞mui˞ki̥ʃi ʔu˞guri˞ba](偶に振舞う＜奢る＞ときは思い切って振舞いなさいよ＜思い切って奢れよ＞)。

˞ウクン [˞ʔukuŋ] 【自動】起きる。「おく (起く) 上二段活用」の四段活用化したもの。ウ˞キ˞ルンとも言う。ウ˞カ˞ヌ [ʔu˞ka˞nu](起きない)。ウ˞キ˞プサン [ʔu˞ki˞pusaŋ](起きたい)。˞ワー˞ ウクカー˞バン˞ヌ

ン　˥ウクン [ˈwaː˩ ʔukukaː ˈban˥nuŋ ˥ʔukuŋ](君が起きるなら私も起きる)。ˈキュー˥ヤ　ˈバー˥ル　ˈパイ˥サ　˥ウケーバ　˥アツァー　ˈワー˩　ウキ [ˈkjuː˩ ja ˈbaː˥ru ˈpai˥sa ˥ʔukeːba ˥ʔatsaː ˈwaː˩ ʔuki](今日は私が早く起きたので明日は君が起きなさい＜起け＞)。

˥ウクン [˥ʔukuŋ]【他動】受ける。「うく (受く) 下二段活用」の四段活用化したもの。ウˈキ˥ルンとも言う。シˈキン˥マー　ウˈキ˥プサンドゥ　クˈトゥシェー˩　ウˈカ˥ヌ [ʃiˈkim˥maː ʔuˈki˥pu̥sandu ku̥ˈtuʃeː˩ ʔuˈka˥nu](試験は受けたいが、今年は受けない)。ˈワー˩　ウクカー　ˈバン˥ヌン　˥ウクン [ˈwaː˩ ʔukukaː ˈban˥nuŋ ˥ʔukuŋ](君が受けたら私も受ける)。ˈクン˥ドー　ˈバー˥ル　˥ウケーバ　ˈエン˥マー　ˈワー˩　ウキバ [ˈkun˥doː ˈbaː˥ru ˥ʔukeːba ˈjem˥maː ˈwaː˩ ʔukiba](今度は私が受けたから来年は君が受けなさい＜受け＞よ)。

ウˈクン [ʔuˈkuŋ] (1)【他動】船を浮ける。船を浮かべる。ウˈキルン [ʔuˈkiruŋ](浮ける) と同じ。ˈフンシン˥マー　˥クナー　ウˈクナ˥ヨー [ˈɸuŋʃim˥maː ˥kunaː ʔuˈkuna˥joː](本船はここには浮けるなよ)。˥フネー　ウˈキティ　イー˥シ　˥トゥリ [ˈɸune: ʔuˈkiti ʔiː˥ʃi ˥turi](舟を浮けてツノマタヲ採取しなさい)。ウˈキズー˥ナ　˥フネー　ウˈキ˥バ [ʔuˈkidʑuː˥na ˥ɸune: ʔuˈki˥ba](停泊所＜浮け所＞に船は浮けなさいよ)。**(2)**【自動】ウˈケールン [ʔuˈkeːruŋ](浮かぶ) と同じ意味。ˈスー˥ヌ　˥ミツカー　˥フネー　ウˈクン˥ヨー＜ウˈケールン˥ヨー＞[ˈsuː˥nu ˥mitsukaː ˥ɸune: ʔuˈkuŋ˥joː ＜ʔuˈkeːruŋ˥joː＞](潮が満ちたら船は浮く＜浮かぶ＞よ)。マˈダ˩　ウˈカヌ＜ウˈケール˥＞[maˈda˩ ʔuˈkanu ＜ʔuˈkeːru˥＞](まだ浮かばない)。˥カイブ　˥トンナー　フˈニ˥ヌ　ウˈク˩　クトー　ˈナー˥ヌ [˥kaibu ˥tonnaː ɸuˈni˥nu ʔuˈku˩ ku̥toː ˈnaː˥nu](こんな所に船が浮くことはない)。

ウˈクン [ʔuˈkuŋ]【自動】浮く。うわつく (浮つく)。精神的に落ち着かなくなる。気が動顛する。˥イロー˥ッサイ　ˈミー˥ヤ　ウˈキティ　ヌー˥バ　ˈカン˥ガイ　ˈベー˥ユー　ワˈカラ˥ヌ [˥ʔiroː ˥ssai ˈmiː˥ja ʔuˈkiti nuː˥ba ˈkaŋ˥gai ˈbeː˥juː waˈkara˥nu](顔色は蒼白になり＜色は白み＞、目は視点が定まらず＜目が浮いて＞　何を考えているのか分からない)。˥キモー　ウˈクン [˥kimoː ʔuˈkuŋ](気が動顛する＜肝が浮く、心が浮く＞)。˥キモー　ウˈキティ　ソーシー˩　ナˈラ˥ヌ [˥kimoː ʔuˈkiti soː ʃiː˩ naˈra˥nu](気が動転して＜肝が浮いて、心が浮いて＞心配でならない)。ˈスー˥ヌ　˥ミツカー　˥フネー　ˈナンクˈル　ウˈクン [ˈsuː˥nu ˥mitsukaː ˥ɸune: ˈnaŋkuˈru ʔuˈkuŋ](潮が満ちたら船は自然に浮く)。フˈニ˥ヌ　ウˈケー˥ラー　シˈグ˩　ンジ　パˈリ˥ス [ɸuˈni˥nu ʔuˈkeː˥raː ʃiˈgu˩ ʔnʤi paˈri˥su](船が浮いたら、すぐ出港する＜出ていく＞よ)。

˥ウケーピケーシ [˥ʔukeːpikeːʃi]【副】重言。一進一退。良くなったり悪くなったり。ˈヤン˥マー　ナー˥イ˩　ウケーピケーシル　ˈブー [ˈjam˥maː naːˈi˩ ʔukeːpi̥keːʃiru ˈbuː](病気はただ一進一退の状態だ＜一進一退でいる＞)。

ウˈケーラスン [ʔuˈkeːrasuŋ]【他動】浮かす。浮かべる。スˈナカ˥ナー　˥フニ　ウˈケーラスンティ　ベー˥ヌンドゥ　ウˈケーラサランバン [suˈnaka˥naː ˥ɸuni ʔuˈkeːrasunti beː˥nundu ʔuˈkeːrasarambaŋ](海に船を浮かべようとしているが、浮かべられない)。ウˈケーラシ˩　ミサカー　ウˈケーラス˩　クトー　˥ナルン [ʔuˈkeːraʃi˩ misakaː ʔuˈkeːrasu˩ ku̥toː ˥naruŋ](浮かべてよければ浮かべることは出来る)。ˈパー˥ク　ウˈケーラシェー˩　ミサムヌ [ˈpaː˥ku ʔuˈkeːraʃeː˩ misamunu](早く浮かべれば良いのに)。˥クナー　ウˈケーラシ [˥kunaː ʔuˈkeːraʃi](此処に浮かべよ)。˥フニ　ウˈケーラスン [˥ɸuni ʔuˈkeːrasuŋ](船を浮かべる)。ウˈケーラサヌ [ʔuˈkeːrasanu](浮かべない)。ウˈケーラシ˩　プサンドゥ　ウˈケーラス˩　フネー　ˈナー˥ヌ [ʔuˈkeːraʃi˩ pu̥sandu ʔuˈkeːrasu˩ ɸune: ˈnaː˥nu](浮かべたいが浮かべる船がない)。

ウˈケールン [ʔuˈkeːruŋ]【自動】浮く。浮かぶ。˥クマナー　フˈネー　ウˈケールン [˥kumanaː ˥ɸune: ʔuˈkeːruŋ](ここには、船は浮く＜浮かぶ＞)。ˈスー˥ヌ　˥ミツカー　ウˈケールン˩　パジˈダー˥ヌ　マˈダ˩　ウˈケーランバン [ˈsuː˥nu ˥mitsukaː ʔuˈkeːrum˩ paʤiˈdaː˥nu maˈda˩ ʔuˈkeːrambaŋ](潮が満ちたら浮かぶはずだが、まだ浮かばないわい)。ウˈケーリナー˥ヌ [ʔuˈkeːrinaː˥nu](浮いてしまった)。˥クナーティン　˥フネー　ウˈケールン [˥kunaːtiŋ ˥ɸune: ʔuˈkeːruŋ](ここでも船は浮かぶ＜浮く＞)。˥クナーテー　ウˈケーラヌ [˥kunaːte: ˥ɸune: ʔuˈkeːranu](ここでは船は浮かばない)。ウˈケーリ˥クン [ʔuˈkeːri˥kuŋ](浮いてくる)。ウˈケール˥クトー　ウˈケールンドゥ　ˈウーカサラ˥ヌ [ʔuˈkeːru˥ku̥toː ʔuˈkeːrundu ʔuːkasara˥nu](浮くことは浮くが動かせない)。ˈマー˥ビン　ウˈケーレー˩　ミサムヌ [ˈmaː˥biŋ ʔuˈkereː˩ misamunu](もっと浮かべばよいのに)。ˈマー˥ビン　ウˈケーリ [ˈmaː˥biŋ ʔuˈkeːri](もっと浮かべよ)。

ウ˞コー˜スン [ʔu˞koː˜suŋ] 【他動】1起こす。˜アツァー　˞パイ˜サ　ウ˞コー˜シ˞ヨー [˜ʔatsaː ˞pai˜sa ʔu˞koː˜ʃi˞joː](明日は早く起こしなさいね)。˜バー　ウ˞コーサ˜ヌ [˜baː ʔu˞koːsa˜nu](私は起こさない)。ウ˞コーシ˜　プサー　ア˞ルン˜ドゥ　ウ˞コー˜ス　プ˞スヌ˜　ブ˞ラーヌ [ʔu˞koːʃi˜pu̥saː ʔa˞run˜du ʔu˞koː˜su pu̥˞sunu˜ bu˞raːnu](起こしたくはあるが、起こす人がいない)。˞ワー˜　ウ˞コー˜スカー　˞バン˜ヌン　ウ˞コー˜スン [˞waː˜ ʔu˞koː˜su̥kaː ˞ban˜nuŋ ʔu˞koː˜suŋ](君が起こすなら私も起こす)。ウ˞コー˜シェー　˜ミサムヌ˞ナー [ʔu˞koː˜ʃeː ˜misamunu˞naː](起こせばよいのになあ＜起こしてくれればよいのになあ＞)。˜アツァー　シ˞トゥム˜ティ　˞パイ˜サ　ウ˞コー˜スン [˜ʔtsaː ʃi̥˞tumu˜ti ˞pai˜sa ʔu˞koː˜suŋ](明日は朝早く起こす)。˞ワー˜　ウ˞コーシ˜タンティン　˜バー　ウ˞コーサ˜ヌ [˞waː˜ ʔu˞koːʃi̥˜tantim ˜baː ʔu˞koːsa˜nu](君が起こしても私は起こさない)。ウ˞コー˜スカー　˞パイ˜サ　ウ˞コー˜シ [ʔu˞koː˜sukaː ˞pai˜sa ʔu˞koː˜ʃi](起こすなら早く起こしなさい)。目覚めさせる。「～朝狩にししふみお越之＜オコシ＞～。万、926」の転訛したものか。˜アツァ　シ˞トゥム˜ティ　ゴ˞ジ˜ナ　ウ˞コー˜シ [˜ʔatsa ʃi̥˞tumu˜ti go˞ʤi˜na ʔu˞koː˜ʃi](明朝五時に起こせ)。ウ˞コーシ˜　プサンドウ　ウ˞コー˜ス　プ˞ソー˜　ブ˞ラーヌ [ʔu˞koːʃi˜ pu̥sandu ʔu˞koː˜su pu̥˞soː˜ bu˞raːnu](起こしたいが起こす人はいない)。ニ˞ビターリプス˜　ウ˞コースン˜ドゥ　ウ˞コーサラ˜ヌ [ni˞bitaːripusu˜ ʔu˞koːsun˜du ʔu˞koːsara˜nu](熟睡した人を起こすが、起こされない)。ウ˞コー˜シ　˜ミサカー　ウ˞コー˜ス　˜クトー　˜ナルン [ʔu˞koː˜ʃi ˜misakaː ʔu˞koː˜su ˜ku̥toː ˜naruŋ](起こしてよければ起こすことはできる)。ウ˞コー˜シェー　˜ミサムヌ [ʔu˞koː˜ʃeː ˜misamunu](起こせばいいのに)。ヤー˞ディン˜　ウ˞コー˜シ [jaː˞diŋ˜ ʔu˞koː˜ʃi](きっと＜必ず＞起こせ)。2剥がす。引き剥がす。シ˞ビシゥカリ　ベー˜ムヌ　ウ˞コー˜シバ [ʃi˞bisi̥kari beː˜munu ʔu˞koː˜ʃiba](くっ付いているものを剥がしなさいよ)。イ˞ズヌ˜　ピ˞サ˜　ウ˞コー˜シ [ʔi˞ʤunu˜ pi̥˞sa˜ ʔu˞koː˜ʃi](魚の平＜身＞を起こせ＜魚を三枚おろしにせよ。上身、中身、下身の三つに分けよ。骨から剥せ＞)。引っ剥がす。剥がす。剥(ム)く。ア˞シブ˜ヌ　カ˞サフタ˜　˞ウコー˜シティ　フ˞チ˜ル　˞ヌーリ [ʔa˞ʃibu˜nu kḁ˞saɸuta˜ ʔu˞koː˜ʃi̥ti ɸu̥˞ʧi˜ru ˞nuːri](お出来の瘡蓋を剥がして薬を塗布しなさい)。

ウ˞コーッタン [ʔu˞koːttaŋ] 【連】お早うございます。「起きられましたか」の義。ウ˞コーッタン˜!　ア˞チ˜サー　ン˞コー˜リバ [ʔukoːttaŋ! ʔa˞ʧi˜saː ʔŋ˞koː˜riba](お早うございます＜起きられましたか＞。熱いお茶をお上がりなさいませ＜熱茶をめしあがれ＞)。

ウ˞コーリ˜ルン [ʔu˞koːri˜ruŋ] 【自動】剥がれる。剥がれ落ちる。むくれる＜剥れる＞。ン˞コー˜ルン [ʔŋ˞koː˜ruŋ](はがれる)、ウ˞コー˜ルン [ʔu˞koː˜ruŋ](剥がれる) ともいう。カ˞サフター˜　ミ˞ジ˜ナ　˞ゾーラス˜カー　フ˞クリティ˜　ウ˞コーリルン˜ドゥ　ク˞レー˜　ウ˞コーリラン˜バン [kḁ˞saɸu̥ta˜ mi˞ʤi˜na ˞ʤoːrasu̥˜kaː ɸu̥˞kuriti˜ ʔu˞koːrirun˜du ku˞reː˜ ʔu˞koːriram˜baŋ](瘡蓋は水に濡らすと膨れて剥がれるが、これは剥がれないワイ)。˞ペン˜ケー　ウ˞コー˜リ　˞ベー [˞peŋ˜keː ʔu˞koː˜ri ˞beː](ペンキは剥がれている)。˞ティー˜ヌ　˞カー˜ヤ　ウ˞コーリ˜ル　˜クトー　˞ナーン˜シェヌ　˞クン˜ドー　ウ˞コー˜リ　˞ナー˜ヌ [˞tiː˜nu ˞kaː˜ja ʔu˞koːri˜ru ˜ku̥toː ˞naːŋ˜ʃenu ˞kun˜doː ʔu˞koː˜ri ˞naː˜nu](手の皮＜皮膚＞は剥がれることは無かったが、今度は剥がれてしまった)。

ウ˞コー˜ルン [ʔu˞koː˜ruŋ] 【自動】お起きになる。起きられる。ウ˞キ˜ルン [ʔu˞ki˜ruŋ](起きる) の尊敬語。?ukuN(起く) の連用形に˞オー˜ルン [˞ʔoː˜ruŋ](「居る」の尊敬語「おはし。一給ふべき人～せじ」『源氏物語、紅葉賀』の転訛) がついて形成された語。˜アブジェー　ロ˞ク˜ジナ　ウ˞コー˜ルンティ　ア˞ゾーッタ˜ヌ　マ˞ダ˜　ウ˞コーラ˜ヌ [˜ʔabuʤe: ʔro˞ku˜ʤina ʔu˞koː˜runti ʔa˞ʤoːta˜nu ma˞da˜ ʔu˞koːra˜nu](お祖父さんは六時に起きられると言われたが、まだ起きられない)。ウ˞コー˜ル　˜クトゥ [ʔu˞koː˜ru ˜ku̥tu](起きられること)。ウ˞コー˜レー　˜ミサムヌ [ʔu˞koː˜reː ˜misamunu](起きられたら良いのに)。ウ˞コー˜リ　˜ミサン [ʔu˞koː˜ri ˜misaŋ](起きられても良い)。˞パー˜ク　ウ˞コー˜リバ [˞paː˜ku ʔu˞koː˜riba](早くお起きなされよ)。

ウ˞サーシ˜カ˞サー˜シ [ʔu˞saːʃi˜kḁ˞saː˜ʃi] 【名】二つ以上のものを一つにする。重ね合わせること。「ウサーシ」の重言。˞ソーニヨイトゥ˜　ニービキヨイトゥ　ウ˞サーシカサー˜シ　ユ˞ヌ˜ピンナ　˞シー　オーシタル [˞soːnijoitu˜niːbikijoitu ʔu˞saːʃikḁsaː˜ʃi ju˞nu˜pinna ˞ʃiː ʔoːʃita](誕生祝いと結婚祝いと二つ重ねて同じ日にして差し上げた)。

ウ˞サースン [ʔu˞saːsuŋ] 【他動】1手を合わせる。合掌する。一つにする。合計する。「押し合わせる」の転訛したもの。˜ティー　ウ˞サーシ [˜tiː ʔu˞saːʃi](手を合

わせなさい＜合掌せよ＞)。˥ティー　ウ˞サーシ˥　プサンドゥ　ウ˞サーサラヌ [˥tiː ʔu˞saːʃi˥ pu̥sandu ʔu˞saːsaranu](合掌したい＜手を合わせたい＞が、合掌でき＜合わされ＞ない)。˞ワー˥　ティー　ウ˞サース˥カー　˞バン˥ヌン　ウ˞サースン [˞waː˥ tiː ʔu˞saːsu˥ka: ˞ban˥nuŋ ʔu˞saːsuŋ](君が手を合わせるなら私も手を合わせる)。˥ティー　ウ˞サース　プソー˥　ブ˞ラーヌ [˥tiː ʔu˞saːsu pu̥so:˥ bu˞raːnu](手を合わせる人はいない)。ウ˞リトゥ˥　ク˞リトゥ˥　ウ˞サース˥カー　˞ダイヤ　ギュー˥サ　ナ˞ル˥ワ [ʔu˞ritu˥ ku˞ritu ʔu˞saːsu˥ka: ˞daija gjuː˥sa na˞ru˥wa](それとこれと合計する＜合わせる＞と値段はいくらになるか)。²重ね合わせる。襟を合わせる。˞キン˥ヌ　フ˞ベー˥　ウ˞サーシェー˥ティ　˞アー˥キ [˞kin˥nu ɸu˞beː˥ ʔu˞saːʃeː˥ti ˞ʔaː˥ki](着物の襟はきちんと合わせて着てあるけ)。

ウ˞サーリ [ʔu˞saːri] 【副】大勢の者がそろって。こぞって (挙って)。大勢で連れ立って。大挙して。プ˞ス˥ケンナー　ムー˞ル˥シ　ウ˞サーリ　キー˥バ　˞ヌー˥シ　サ˞バク˥ワレー [pu̥˞su˥kenna: muː˞ru˥ʃi ʔu˞saːri kiː˥ba ˞nuː˥ʃi sa˞baku˥ware:](一度に大勢の者が大挙してやって来るので、どうやって処理する＜どうやって捌く＞のか)。

ウ˞サーリ˥カサーリ [ʔu˞saːri˥kasaːri] 【副】大勢が重なり合って来る様子。連れ立って。「おし合わさり、重ね合わさり」の転訛。ABCDEBCD 型の重言。ウ˞ビ˥ナーヌ　プ˞スヌ˥　ウ˞サーリ˥カサーリ　˞シー　クー˥ヌ　˥ヌー　カヤー [ʔu˞bi˥naːnu pu̥˞sunu˥ ʔu˞saːri˥kḁsaːri ˞ʃi: kuː˥nu ˥nuːkajaː](あれだけ大勢の人が一緒に連れ立って来るが何だろうか)。

ウ˞サーリ˥　パルン [ʔu˞saːri˥ paruŋ] 【連】大挙して行く。大勢で連れ立って行く。ム˞ラズーヌ˥　プ˞スヌ˥　ウ˞サーリ˥　パルンティ　ス˞コーリ　ベー [mu˞radʑuːnu˥ pu̥˞sunu˥ ʔu˞saːri˥ parunti su̥˞koːri beː](村中の人が大挙して行くと準備している)。

ウ˞サーリン [ʔu˞saːriŋ] 【自動】¹圧される。圧迫される。威圧される。カ˞マイ˥ヤ　˥カマイヤマナ　ウ˞サーリティ˥　シ˞ニベー [ka˞mai˥jaː ˥kamaijamana ʔu˞saːriti˥ ʃi˞nibeː](猪は猪捕獲用の装置に圧されて死んでいる)。²馬鹿にされる。˥ウヌヨーナ　˥ムヌーン　ウ˞サーリティ˥　バタッサリ　˞ベーン˥ティ [˥ʔunujoːna ˥munuːŋ ʔu˞saːriti˥ batassari ˞beːn˥ti](あのような者＜幼いもの＞に馬鹿にされて腹を立てているさ＜腹腐れているさ＞見ろよ)。³差し押さえられる。˥ウカ　パ˞ライユーサン˥ベーティ　˞ヤーヤシ˥キ　ウ˞サーリナー˥ヌ [˥ʔuka pa˞raijuːsam˥ beːti ˞jaːjaʃi̥˥ki ʔu˞saːrinaː˥nu](借金を払えなくて家屋敷を差し押さえられてしまった)。

˥ウサイ [˥ʔusai] 【名】さかな (肴)。「お菜」の義。ご馳走。肴料理。ご馳走一般についてもいうが、中心的意味は祝儀のご馳走、肴料理、ヨイヌ˥ムヌ [˞joinu˥ munu](祝いの料理) をさす。法事の料理は、シ˞キムヌ [ʃi̥˞kimunu](供え物) という。˞ヨイ˥ヌ　ウ˞サイ˥ヤー　シゥ˞コーレーン˥カヤー [˞joi˥nu ʔu˞sai˥jaː si̥˞koːreːŋ˥kajaː](お祝いのご馳走＜料理＞は準備できたかねえ)。サ˞キヌ˥　ウサイ　ン˞ザ˥シバ [sḁ˞kinu˥ ʔusai ʔn˞dʑa˥ʃiba](酒の肴を出しなさいよ)。

ウ˞サイ˥カサイ [ʔu˞sai˥kasai] 【名】散散に馬鹿にすること。したたかにに馬鹿にする。甚だしくけな (貶) すさま。˞ピンソー˥ムヌティ　˞シー˥　ウ˞サイ˥カサイ　シ˞ラレー˥ティ　マ˞ナ˥マ　˥ナリケー˞ダー [˞pinsoː˥munuti ˞ʃiː˥ ʔu˞sai˥kḁsai ʃi˞rareː˥ti ma˞na˥ma narikeː˞daː](貧乏者と散散に馬鹿にされて今になってきてのだよ)。

ウ˞サイヤマ [ʔu˞saijama] 【名】猪を押さえて捕獲する装置 (罠)。˥カマイ　ウ˞サイヤマ　アイ˥　シケーバ　˞ミーマー˥ル　˞シン˥　パラ [˥kamai ʔu˞saijama ʔai˥ ʃi̥keːba ˞miːmaː˥ru ˞ʃim˥ para](猪をおそって＜圧そって＞圧死させ、捕獲する装置を仕掛け＜上げ＞てあるから、見回りに行こう)。

ウ˞サイルン [ʔu˞sairuŋ] 【他動】他人を馬鹿にする。見下す。威圧する。「押える」の義。プ˞ス˥　ウ˞サイルンティ　アー˥キ　ウ˞サイラリ　ベー˥タ [pu̥˞su˥ ʔu˞sairunti ʔaː˥ki ʔu˞sairari beː˥ta](他人を馬鹿にし＜押え＞ようとして、逆に馬鹿にされていた)。パ˞トゥ˥マプソー　ウ˞サイララヌ [pḁ˞tu˥mapu̥so: ʔu˞sairaranu](鳩間人は馬鹿に出来ない)。プ˞ス˥　ウ˞サイル˥　クトー　ナ˞ラ˥ヌ [pu̥˞su˥ ʔu˞sairu˥ ku̥to: na˞ra˥nu](他人を馬鹿にすることはできない)。˞マー˥ビン　ウ˞サイリ [˞maː˥biŋ ʔu˞sairi](もっと馬鹿にしろ)。

ウ˞サイルン [ʔu˞sairuŋ] 【他動】押さえる。˥クマー　˥ティーシ　ウ˞サイリ [˥kuma: ˥tiːʃi ʔu˞sairi](ここは手で押さえなさい)。²覆う。被せる。ク˞ヌ˥　ア˞ボー˥　ナ˞クラー˥ンダ　˥イツァシ　ウ˞サイラバル˥　ナル [ku˞nu˥ ʔa˞boː˥ na˞kuraː˥nda: ˥ʔitsaʃi ʔu˞sairabaru˥ naru](この自然の竪穴は怖いから板で覆い被せるほうがよい＜覆い被せたらばぞよくなる＞)。³軽蔑する。プ˞スヨー˥　ウサイルナ [pu˞sujoː˥ ʔu˞sairuna](他人を馬鹿にするな)。

ウ˞サウン [ʔu˞sauŋ] 【他動】 1圧す。押す。押える。˺ティーシ　˺バタ　ウ˞サイ˺バ [˺tiːʃi ˺bata ʔu˞sai˺ba](手で腹を押さえなさいよ)。押さえる。手などを当てがって抑える。おおう。「おさう＜押ふ、抑ふ＞。ッ˞サー˺バ　パ˞ナー˺　ウ˞サイヤー˺ティ　ア˞ラ˺キ [s˞saː˺ba pa˞naː˺ ʔu˞saijaː˺ti ʔa˞ra˺ki](臭いから鼻を押さえながら行きなさい＜歩きなさい＞)。パ˞ナー˺　ウ˞サーヌ [pa˞naː˺ ʔu˞saːnu](鼻は押さえない)。ウ˞サイ˺プサカー　ウ˞サイ˺バ [ʔu˞sai˺pu̥saka: ʔu˞sai˺ba](押さえたかったら押さえなさい)。ウ˞サウ˺プ˞ソー˺　ブ˞ラーヌ [ʔu˞sau˺ pu̥˞soː˺ bu˞raːnu](押さえる人はいない)。2馬鹿にする。見下す。威圧する。˺アイニ　プ˞スバ˺　ウ˞サウムノー˺　ア˞ラ˺ヌ [˺ʔaini pu̥˞suba˺ ʔu˞saumunoː˺ ʔa˞ra˺nu](あんなに他人を馬鹿にするものではない＜押さえるものではない＞)。˺バー　プ˞ソー˺　ウ˞サーヌ [˺baː pu̥˞soː˺ ʔu˞saːnu](私は他人を馬鹿にしない＜押さえない＞)。˞バイ˺ヨー　ウ˞サイヤッ˺サンティ　ウ˞ムイ˺ル　ウ˞サウンダー˺　ウ˞サウ˺カー　ウ˞サイ˺バ [˞bai˺joː ʔu˞saijas˺santi ʔu˞mni˺ru ʔu˞saundaː˺ ʔu˞sau˺kaː ʔu˞sai˺ba](私を馬鹿にしやすい＜押さえやすい＞と思って馬鹿にする＜押さえる＞だろうが、馬鹿にするなら＜押さえるなら＞馬鹿にしろ＜おさえろ＞よ)。˞マー˺ビン　ウ˞サイヤー˺　ミサムヌ [˞maː˺biŋ ʔu˞saijaː˺ misamunu](もっと馬鹿にすれば＜押さえれば＞よいのに)。他人を軽蔑する。馬鹿にする。ウ˞レー　サッ˺コー　プ˞ス˺　ウ˞サウントダー [ʔu˞reː sak˺koː pu̥˞su˺ ʔu˞saunt̚da:](彼は非常に他人を馬鹿にするよ)。3差し押さえる。˞ゾーノー˺ヌ　˺ミーシ　˺ザイサン　ウ˞サーリ　ナー˺ヌ [˞ʤoːno:˺nu ˺miːʃi ˺ʤaisaŋ ʔu˞saːri naː˺nu](税金のかた＜形＞に財産を差し押さえられてしまった)。

ウ˞サガルン [ʔu˞sagaruŋ] 【他動】召し上がる。首里方言の?usjagajuN(召し上がる) の転訛したもの。尊大表現の一つで、話し手のみでなく、第三者の食べる行動も含めて、やや自嘲的に用いられる。普通はン˞コー˺ルン [ʔŋ˞koː˺ruŋ](召し上がる。敬語) という。ン˞マー˺　ムヌバ　˞タンガ˺シ　ウ˞サガルンティオー˺ル [ʔm˞maː˺ munuba ˞taŋga˺ʃi ʔu˞sagarunti ʔoː˺ru](美味しい物を一人で召し上がろうとしておられる)。˞バン˺ヌン　ウ˞サガリ˺　ミサカー　ウ˞サガル˺　クトー　ナ˞リ˺スミー [˞ban˺nuŋ ʔu˞sagari˺ misakaː ʔu˞sagaru˺ ku̥toː na˞ri˺sumiː](私がも召し上がってよければ召し上がることは出来るというものだよね)。˞ワンヌン˺　ウ˞サガレー˺　ミサムヌ [˞wannuŋ˺ ʔu˞sagareː˺ misamunu](君も召し上がればいいのに)。˞パー˺ク　ウ˞サガリ˺バ [˞paː˺ku ʔu˞sagari˺ba](早く召し上がれよ)。

ウ˞サガロー˺ルン [ʔu˞sagaroː˺ruŋ] 【他動】召し上がる。ッ˞ふン [f˞fuŋ](食べる＜食らう＞) の敬語。沖縄首里方言の?usjagajuN(召し上がる) の転訛したもの。皮肉っぽい表現として用いる。普通はン˞コー˺ルン [ʔŋ˞koː˺ruŋ](召し上がる) という。˞ウイヌプソー˺　カイブ　˺ムヌ　ウ˞サガロー˺ルンカヤー [˞ʔuinupusoː˺ kaibu ˺munu ʔu˞sagaroː˺ruŋkajaː](上の人＜高級官僚＞はこんなものを召し上がるのかなあ)。アー˞イ˺　ウ˞サガローラン˺　パジ [ʔaː˞ji˺ ʔu˞sagaroːram˺ paʤi](いや、召し上がられないはずだ)。

ウ˞サ˺ギ [ʔu˞sa˺gi] 【名】 (動) 兎。戦後の一時期、情操教育のために小学校で兎を飼育していた。˞ガッ˺コーナ　ウ˞サ˺ギ　シュ˞カ˺ナイ　ブ˞タン˺ダー [˞gak˺koːna ʔu˞sa˺gi si̥˞ka˺nai bu˞tan˺daː](学校で兎を飼育していたよ)。ク˞モーマヌ˺　ニ˞シンタヌ˺　カ˞ヤ˺マナー　ヤ˞マシ˺カ　ウ˞サギ˺ヌ　˞ブン˺ティ˞ダー [ku˞moːmanu˺ ni˞ʃintanu˺ ka˞ja˺manaː ja˞maʃi̥˺ka ʔu˞sagi˺nu ˞bun˺ti˞daː](小浜島の北の嘉屋間島には兎が沢山いるそうだ＜居るってよ＞)。

ウ˞サギムヌ [ʔu˞sagimunu] 【名】贈り物。賄賂。ム˞カシ˺ヌ　ヤ˞クニン˺ヌ　シ˞マー　マーリオー˺ル　˺ピンマー　ウ˞サギムヌ˺　ス˞コールンティル　シーッ˺パイ　˞ソーッ˺タツォー [mu˞kaʃi˺nu ja˞kunin˺nu ʃi˞maː maːriʔoː˺ru ˺pimmaː ʔu˞sagimunu˺ su̥˞koːruntiru ʃiːp˺pai ˞soːt˺tatsoː](昔の役人が島に回って来られるときは贈り物を準備するのに苦労された＜精一杯された＞そうだ)。

ウ˞サギルン [ʔu˞sagiruŋ] 【他動】差し上げる。上へあげる。ッ˞ふィールン [f˞fiːruŋ](与える。呉れる) の謙譲語。沖縄首里方言の?usjagijuN から転訛したもの。普通は、ウ˞サギオースン [ʔu˞sagiʔoːsuŋ](差し上げ申し上げます) という。ミ˞キバ˺　マ˞ラシ˺　サ˞カサン˺ケーン　ウ˞サギルンティ˺　ウ˞ムーン˺ドゥ　ウ˞サギララヌ [mi˞kiba˺ ma˞raʃi˺ sḁ˞kasaŋ˺keːŋ ʔu˞sagirunti˺ ʔu˞muːn˺du ʔu˞sagiraranu](神酒を醸造して＜産ませて＞、司の方々に差し上げようと思うが、差し上げられない)。ウ˞サギオーシ˺　ミサカー　ウ˞サギオース˺　クトー　˺ナルン [ʔu˞sagiʔoːʃi˺ misakaː ʔu˞sagiʔoːsu˺ ku̥toː ˺naruŋ](差し上げてよければ差し上げることはできる)。ウ˞サギオーシェー˺　ミサムヌ [ʔu˞sagiʔoːʃeː˺ misamunu](差し上げれ

ばいいのに)。ウ˞サギオーシ˩バ [ʔu˞sagiʔoːʃi˩ba](差し上げなさいよ)。「押し上げる」の義。プ˞スン˩ヤーヌ　プ˞スヌ˩　ッサディー　ウ˞サギル˩カー　˩ドゥーン　ウ˞サギルンティ˩　ウ˞ムイ˩ヤー　ブ˞レースヌ˩　ヌー　ウ˞サギリバ˩　ミサユー　˞ソー　シー˩　ナ˞ラ˩ヌ [pu̥˞suŋ˩jaːnu pu̥˞sunu˩ s˞sadiː˩ ʔu˞sagiru˩ kaː ˩duːŋ ʔu˞sagirunti˩ ʔu˞muiʲjaː bu˞reːsunu˩ nuː ʔu˞sagiriba˩ misajuː ˞soː ʃiː˩ na˞ra˩nu](余所の家の人が袖の下を差し上げるなら自分も差し上げよう＜差し上げる＞と思ってはいるが、何を差し上げれば良いのやら心配でならない)。

ウ˞サ˩シ [ʔu˞sa˩ʃi] 【名】上からの命令。指示。「御指し」の義。歌謡語。沖縄方言か。日常生活では使用しない。ウ˞キナー˩カラヌ　ウ˞サ˩シ [ʔu˞kinaː ˩karanu ʔu˞sa˩ʃi](沖縄から＜琉球王府から＞の御命令)。「うさし」(命せらる也)(『混効験集』)。

ウ˞サッ˩カルン [ʔu˞sak˩karuŋ] 【自動】もたれかかる(凭(モタレ)れ掛かる)。もたれる。よりかかる。プ˞ス˩ナー　ウ˞サッ˩カルン [pu̥˞su˩naː ʔu˞sak˩karuŋ](他人によりかかる)。˩バー　プ˞ス˩ナー　ウ˞サッカラ˩ヌ [˩baː pu̥˞su˩naː ʔu˞sakkara˩nu](私は他人によりかからない)。ウ˞サッ˩カリ　˩ミサカー　ウ˞サッ˩カル　˩クトゥン　ア˞リ˩ス [ʔu˞sak˩kari ˩misakaː ʔu˞sak˩karu ˩kṵtuŋ ʔa˞ri˩su](よりかかってよければ、よりかかることもあるさ)。カ˞リ˩ナー　ウ˞サッ˩カレー　˩ミサムヌ [ka˞ri˩naː ʔu˞sak˩kareː ˩misamunu](彼によりかかればいいのに)。˞マー˩ビン　ウ˞サッ˩カリバ [˞maː˩biŋ ʔu˞sak˩kariba](もっとよりかかれよ)。˩パラーナ　ウ˞サッ˩カリティ　ヤッ˞トゥ˩シ　タティ˞ベー [˩paraːna ʔu˞sak˩kariti jat˞tu˩ʃi tati˞beː](柱にもたれかかってやっとのことで立っている)。ウ˞サッカル˩ナ [ʔu˞sakkaru˩na](もたれかかるな)。ウ˞サッ˩カル　˩クトー　ナ˞ラ˩ヌ [ʔu˞sak˩karu ˩kṵtoː na˞ra˩nu](もたれかかることは出来ない＜もたれかかることをしてはならない＞)。˞マー˩ビン　ウ˞サッ˩カレー　˩ミサムヌ [˞maːbi˩ŋ ʔu˞sak˩kareː ˩misamunu](もっともたれかかればよいのに)。˞パー˩ク　ウ˞サッ˩カリ [˞paː˩ku ʔu˞sak˩kari](早くもたれかかりなさい)。

ウ˞サッキ˩ルン [ʔu˞sakki˩ruŋ] 【他動】**(1)** 乗っける。置き掛ける。何かの上に置く。˞サウ˩バ　˞グスク˩ヌ　˞ウイ˩ナー　ウ˞サッキ˩ルンティ　˞スンドゥ˩　ウ˞サッキララ˩ヌ [˞sau˩ba ˞gusṵku˩nu ˞ʔui˩ naː ʔu ˞sakki˩runti ˞sundu˩ ʔu˞sakkirara˩nu](竿を石垣の上に乗っけよう＜置いておこう＞とするが、乗っけられない)。˞ウン˩ナー　ウ˞サッ˩キ　˩ミサカー　ウ˞サッキ˩ル　˩クトー　˩ナルン [˞ʔun˩naː ʔu˞sak˩ki ˩misakaː ʔu˞sakki˩ru ˩kṵtoː ˩naruŋ](それに乗っけて＜置いて＞よければ乗っけることはできる)。ウ˞サッキ˩レー　˩ミサムヌ [ʔu˞sakki˩reː ˩misamunu](乗っければ＜置いておけば＞いいのに)。˞ウン˩ナー　ウ˞サッキ˩リ [˞ʔun˩naː ʔu˞sakki˩ri](それに乗っけろ＜置いておけ＞)。**(2)** 立てかける。もたれるようにする。˞グス˩クナー　˩パラー　ウ˞サッ˩キシケーン [˞gusu˩kunaː ˩paraː ʔu˞sak˩ki ˩ʃi̥keːŋ](石垣に柱を立てかけてある)。ウ˞サッキララ˩ヌ [ʔu˞sakkirara˩nu](立てかけられない)。˩サウ　ウ˞サッキ˩ルカー　˩パラーン　ウ˞サッキ˩ルン [˩sau ʔu˞sakki˩rukaː ˩paraːŋ ʔu˞sakki˩ruŋ](竿を立てかけるなら柱も立てかける)。ウ˞サッキ˩レー　˩ミサムヌ [ʔu˞sakki˩reː ˩misamunu](立てかければよいのに)。˞パー˩ク　ウ˞サッキ˩リ [˞paː˩ku ʔu˞sakki˩ri](早く立てかけろ)。

ウ˞サッ˩クン [ʔu˞sak˩kuŋ] 【他動】**(1)** 乗っける。置き掛ける。物の上に置く。プ˞スヌ˩　カタナ　˩ティー　ウ˞サッ˩クン [pu̥˞sunu˩ kạtanaː ˩tiː ʔu˞sak˩kuŋ](他人の肩に手を置く)。˩ウナー　˩ティー　ウ˞サッ˩キ　˩ミサカー　ウ˞サッ˩ク　˩クトー　ナ˞ルン˩ドゥ　ミ˞ドゥム˩ヌ　˩カタナーヤ　ウ˞サッカ˩ヌ [˩ʔu-naː ˩tiː ʔu˞sak˩ki ˩misakaː ʔu˞sak˩ku ˩kṵtoː na˞run˩du mi˞dumu˩nu ˩kạtanaːja ʔu˞sakka˩nu](そこに手を乗っけて＜置いて＞良ければ乗っけることはできるが、女性の肩には手を置かない)。ウ˞サッ˩ケー　˩ミサムヌ [ʔu˞sak˩keː ˩misamunu](手を置けばいいのに)。ウ˞サッ˩キバ [ʔu˞sak˩kiba](＜手を＞乗っけて置けよ)。**(2)** 立てかける。他の物に寄せかけて置く。ウ˞サッキ˩ルン [ʔu˞sakki˩ruŋ] と同じ。ウ˞サッカ˩ヌ [ʔu˞sakka˩nu](立てかけない)。ウ˞サッキ˩プサ　˩ナルカー　˩ドゥーシ　ウ˞サッ˩クン [ʔu˞sakki˩pṵsa ˩naruka: ˩duːʃi ʔu˞sak˩kuŋ](立てかけたくなったら自分で立てかける)。˞マー˩ビン　ウ˞サッ˩ケー　˩ミサムヌ [˞maː˩biŋ ʔu˞sak˩keː misamunu](もっと立てかければよいのに)。ウ˞サッ˩キ [ʔu˞sak˩ki](立てかけろ)。

˩ウザドゥル [˩ʔudʑaduru] 【名】(動物) うずら (鶉)。˞ウッ˩ザ [˞ʔud˩dʑa](うずら) ともいう。˩ウザドゥルヌ　˞コー˩マ　˩ナシシケー [˩ʔudʑadurunu ˞koː˩ma ˩naʃiʃi̥keː](鶉が卵を産んである)。畑の畦の茅原の中に巣食って産卵する。小指大の卵は美味である。パ˞タキ˩ヌ　ア˞ザ˩ヌ　˩シーナ　˩ウザドゥルヌ　˞ミック　コー˩マ　˩ナシシケー [pạ˞taki˩nu ʔa˞dʑa˩

nu ˥ʃiːna ˥ʔudʑadurunu ˩mikku koː˥ma ˥naʃiʃi̥keː](畑の畦の巣に鶉が三個卵を産んである)。

ウ˩サマ˥ルン [ʔu˩sama˥ruŋ] 【自動】1治まる。˩ウン˥ネヌ　キ˩ナイヤ˥　ユー　ウ˩サマリ˥ブート˧サー [˩ʔun˥nenu ki˩naijaː˥ juː ʔu˩samari˥buː˧saː](その家の家庭は非常に安定していて平和である＜よく治まっているよ＞)。2収まる。解決する。ク˩ヌ˥　ニ˩ム˥チェー　プ˩スキブ˥ルナー　ウ˩サマ˥ルンカヤー [ku˩nu˥ ni˩mu˥ʧeː pu̥˩sukibu˥runaː ʔu˩sama˥ruŋkajaː](この荷物は一軒家に収まるかなあ)。ウ˩サマラ˥ヌ [ʔu˩samara˥nu](収まらない)。˩ナンククˉル　ウ˩サマ˥ルン [˩naŋkuku˥ru ʔu˩sama˥ruŋ](自然に収まる＜解決する＞)。ク˩ヌ　ブン˥シェー　ウ˩サマラ˥ヌ [ku˩nu buŋ˥ʃeː ʔu˩samara˥nu](この分＜様子＞では収まらない＜収拾できない＞)。ク˩ヌ　ムンドー˥ヤ　ウ˩サマ˥ル　˥クトー　˩ナー˥ヌ [ku˩nu mundoː˥ja ʔu˩sama˥ru ˥kutoː ˩naː˥nu](このいさかい＜諍い＞は解決される＜収拾される＞ことはない)。˩パイ˥サ　ウ˩サマ˥レー　ミサムヌ [˩pai˥sa ʔu˩sama˥reː ˥misamunu](早く収まれば＜収拾されたら＞よいのに)。˥カイブ　˩ムンドー˥ヤ˩パー˥ク　ウ˩サマ˥リ [˥kaibu ˩mundoː˥ja ˩paː˥ku ʔu˩sama˥ri](こんな諍(イサカ)い＜問答＞は早く収まれ＜収拾されよ＞)。

ウ˩サミ˥ルン [ʔu˩sami˥ruŋ] 【他動】1納める。収める。˩ゾー˥ノー　ウ˩サミ˥ルン [˩ʤoː˥no: ʔu˩sami˥ruŋ](税金を納める)。マ˩ナ˥マー　ウ˩サミラ˥ヌ [ma˩na˥maː ʔu˩samira˥nu](今は納めない)。˩ワー˥　ウ˩サミ˥ルカー　˩バン˥ヌン　ウ˩サミ˥ルン [˩waː˥ ʔu˩sami˥rukaː ban˥nuŋ ʔu˩sami˥ruŋ](君が納めるなら私も納める)。ウ˩サミ˥プサンドゥ　˩ジン˥ヌ　タ˩ラーヌ [ʔu˩sami˥ pu̥sandu ˩ʤin˥nu ta˩raːnu](納めたいが、お金が足りない)。˥ドゥーシ　ウ˩サミ˥レー　˥ミサムヌ [˩duːʃi ʔu˩sami˥reː ˥misamunu](自分で納めればいいのに)。˩パイ˥サ　ウ˩サミ˥リ [˩pai˥sa ʔu˩sami˥ri](早めに納めなさい)。2治める。統治する。˥シマ　ウ˩サミ˥ルンティ　˩スンドゥ˥　ユ˩スシマヌ˥　プ˩スンマー˥　ウ˩サミララ˥ヌ [˥ʃima ʔu˩sami˥runti ˩sundu˥ ju˩suʃimanu˥ pu̥˩summaː˥ ʔu˩samirara˥nu](島を治めようとするが、他の島＜村＞の人には治められない)。

ウ˩サ˥ムン [ʔu˩sa˥muŋ] 【他動】1納める。収める。「おさむ (治、収、納) 下二段活用」の四段活用化したもの。˩ゾー˥ノー　ウ˩サ˥ムン [˩ʤoː˥no: ʔu˩sa˥muŋ](税金を納める)。˩ワー˥　ウ˩サ˥ムカー　˩バン˥ヌン　ウ˩サ˥ムン [˩waː˥ ʔu˩sa˥muka: ˩ban˥nuŋ ʔu˩sa˥muŋ](君が納めるなら私も納める)。ウ˩サミ˥　プサンドゥ　ウ˩サ˥ム　˥ムンドゥ　˩ナー˥ヌ [ʔu˩sami˥ pu̥sandu ʔu˩sa˥mu ˥mundu ˩naː˥nu](納めたいが納めるものがない)。˩パー˥ク　ウ˩サ˥ミ [˩paː˥ku ʔu˩sa˥mi](早く納めなさい)。ウ˩サ˥メー　˥ミサムヌ [ʔu˩sa˥meː ˥misamunu](納めればよいのに)。イッ˩カ˥　ウ˩サマ˥ヌ [ʔik˩ka˥ ʔu˩sama˥nu](一向に＜決して＞納めない)。2治める。統治する。ウ˩キ˥ナー　ウ˩サ˥ムンティル　˩チューザンオー˥ヤ　イ˩ク˥サ　ウ˩ク˥シ　ホ˩クザン˥　フ˩ルバソーッ˥タツォー [ʔu˩ki˥na: ʔu˩sa˥muntiru ˩ʧuːʤaŋʔoː˥ja ʔi˩ku˥sa ʔu˩ku˥ʃi ho˩kuʤaŋ˥ ɸu˩rubasoːt˥tatsoː](沖縄をを治めようと中山王は戦を起こして北山を滅ぼされたそうだ)。

ウ˩サンギソッコー [ʔu˩saŋgisokkoː] 【名】三十三年忌の法事。最終の法事。「押し上げ焼香」の義か。鳩間島では三十三年忌の法要が終了すると死者は神になるといわれている。神格化されるための法事という。この法事が終わると、死者は法事の要求をしなくなるという。ウ˩サンギソッコー　ヤリバ˥　ウ˩トゥザマリ˥　ケー˩ラー˥ニ　シゥ˩カサバドゥ　ヤル [ʔu˩saŋgisokko: jariba˥ ʔu˩tuʤamari˥ ke:˩raː˥ni si̥˩kasabadu jaru](三十三年忌の法事だから親戚の皆に知らせ＜聞かさ＞なければならない)。ウ˩サンギソッコーン　シー　オーシ˥　シケーバ　ノー˩ンヌ˥　フ˩スクン　ナーン˥タ　シ˩キン˥ヌ　˥キムーン　ユ˩ル˥シ　˥カン　ナ˩ロー˥リ　ッ˩ふァ˥マーンケン　カ˩ルイ˥　スコーリ [ʔu˩saŋgisokkoːŋ ʃiː ʔoːʃi˥ ʃi̥keːba noː˩nnu˥ ɸu̥˩sukun naːn˥ta ʃi̥˩kin˥nu ˥kimuːɲ ju˩ru˥ʃi ˥kan na˩roː˥ri f˩fa˥maːŋkeŋ ka˩rui˥su̥koːri](三十三年忌の法事もしてさしあげましたので、何の不足もありませんから、安心して＜心を許して＞神様になられて、子孫をご守護＜嘉例付け＞下さい)。

ウ˩サンギルン [ʔu˩saŋgiruŋ] 【他動】三十三年忌の法事をして完了し、以後は神として祀る。終わり焼香を完了する。˩ソッコー˥ヤ　ウ˩サンギルンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　ク˩トゥシェー˥　ウ˩サンギラランツォー [˩sokkoː˥ja ʔu˩saŋgirunti˥ ʔu˩muːn˥du ku̥˩tuʃeː˥ ʔu˩saŋgiraran˥tsoː](法事は三十三年忌を完了しようと思うが、今年は終り焼香を完了出来ないそうだ)。マ˩ダ˥　ウ˩サンギル˥　クトー　ナ˩ラ˥ヌ [ma˩da˥ ʔu˩saŋgiru˥ ku̥to: na˩ra˥nu](まだ終わり焼香の法事を完了することはできない)。ウ˩サンギ˥　ミサカー　˩ウサンギリ˥バ [ʔu˩saŋgi˥ misaka: ʔu˩saŋgiri˥ba](終わり焼香で法事を完了してよければ、

終わり焼香を完了しなさいよ)。

ウ˞サンクン [ʔu˞saŋkuŋ] 【他動】差し込む。押し込む。シ˞チ˥ヌ ˥ピンマー ˞ユシ˥キシ ˥サン ˞ユイティ ゴーナキーヌ˥ ユ˞ダトゥ˥ カ˞サビティ ヤー˥ヌ ˞ユーシヌ˥ナ ウ˞サンクタン [ʃi̥˞tʃi˥nu ˥pimma: ˞juʃi̥˥kiʃi ˥saŋ ˞juiti go:naki:˥nu ju˞datu˥ kḁ ˞sabiti ja:˥nu ˞ju:ʃinuna ʔu˞saŋkutaŋ](節祭の日にはススキでサンを結って、桑の小枝と重ねて家の四隅の軒に差し込んだ)。˥バー ウ˞サンカヌ [˥ba: ʔu ˞saŋkanu](私は差し込まない)。˞バン˥ヌン ウ˞サンクン [˞ban˥nuŋ ʔu˞saŋkuŋ](私も差し込む)。ウ˞サンキ˥プサン [ʔu˞saŋki˥pu̥saŋ](差し込みたい)。˥クナー ˞グイ˥ ウ˞サンク˥クトー ナ˞ラ˥ヌ [˞kuna: ˞gui˥ ʔu˞saŋku˥ku̥to: na˞ra˥nu](ここに杭を差し込んではならない)。ウ˞サンケー˥ ミサムヌ [ʔu˞saŋke: ˥ misamunu](差し込めばよいのに)。ウ˞サンキ [ʔu˞ saŋki](差し込め)。

ウ˞サングン [ʔu˞saŋguŋ] 【他動】三十三年忌をして神に祀る。ウ˞ヤ˥プス ウ˞サングンティ˥ ウ˞ムーン˥ドゥ ウ˞サンギ˥ ミサンカヤー [ʔu˞ja˥pu̥su ʔu ˞saŋgunti˥ ʔu˞mu:n˥du ʔu˞saŋgi˥ misaŋkaja:](先祖の三十三年忌をして、神として祀りたいが、祀っていいかねえ)。マ˞ナ˥マー ウ˞サンガンドー˥シ ˥アトーラ ウ˞サンゲー˥ ミサムヌ [ma˞na˥ma: ʔu ˞saŋgando:˥ʃi ˥ʔato:ra ʔu˞saŋge:˥ misamunu](今は三十三年忌をしないで、後で三十三年忌をして祀れば良いのに)。ク˞トシェー˥ ウ˞サング˥ クトー ナ ˞ラン˥バ ˥エン ウ˞サンギ˥バ [ku̥˞tuʃe:˥ ʔu˞saŋgu ˥ ku̥to: na˞ram˥ba ˥jeŋ ʔu˞saŋgi˥ba](今年は三十三年忌をして神として祀ることは出来ないから、来年三十三年忌をして祀りなさい)。

˥ウサンダイ [˥ʔusandai] 【名】お下がり。神仏に供えた供物の取り下げられたもの。˥ウサンダイヌ ム˞チ˥ カ˞マブコー˥ ケー˞ラー˥ニ ˥バキ ン˞カシミリ [˥ʔusandainu mu˞tʃi˥ ka˞mabuko:˥ ke:˞ra:˥ni ˥ baki ʔŋ˞kaʃimiri](取り下げた供物 < ご馳走 > の餅や蒲鉾は皆に分けて召し上がって頂きなさい < 召し上がらせれ >)。「おさむだい」(『混効験集』)。供物を下げることを、ピ˞クン [pi̥˞kuŋ](引く) といい、供えることを、ス˞クン [su̥˞kuŋ](付く) という。シ˞キ˥カウ [ʃi̥˞ki˥kau](供えの線香)、ピ˞キカウ [pi̥˞ kikau](引き < 下げ > 線香) によって供物を供えたり、下ろしたりした。

˥ウシ [˥ʔuʃi] 【名】臼。臼の総称。˞マイッサイ˥ウシ [˞maissai˥ʔuʃi](米搗き臼。搗き臼)。ピ˞キウシ [pi̥ ˞ki?uʃi](碾き臼)、シ˞キ˥ウシ [ʃi̥˞ki˥ʔuʃi](搗き臼) がある。ニ˞ブ˥クナー ピ˞キウシ˥ ビ˞シティ˥ フ˞タール˥シ イ˞ニ˥ピキ ˞ソーッ˥タ [ni˞bu˥kuna: pi̥ ˞ki?uʃi˥ bi˞ʃiti˥ ɸu̥˞ta:ru˥ʃi ʔi˞ni˥pi̥ki ˞so:t˥ta](藁で編んだ敷物 < 稲掃き筵 > の上に碾き臼 < 籾摺り臼 > を据えて、二人で籾摺りをされた)。シ˞キ˥ウシナー ˞マイヤ˥ イ˞リティ˥ イ˞ナシ˥キシ ˥ッサイバ [ʃi̥˞ki˥ʔuʃina: ˞maija˥ ʔi˞riti˥ ʔi˞naʃi̥˥kiʃi ˥ssaiba](搗き臼に玄米を入れて杵で搗きなさいよ)。

ウ˞シ [ʔu˞ʃi] 【名】1(動) 牛。ウ˞シヌ˥ シヌ [ʔu˞ʃinu˥ ʃinu](牛の角)。ウ˞シン˥ ク˞ルバ˥サー ˞サンガシ [ʔu˞ʃiŋ˥ ku˞ruba˥sa: ˞saŋgaʃi](牛にクルバサーを引かせなさい)。ビ˞キウシ [bi˞kiʔusi](雄牛)、˞ミー˥ウシ [˞mi:˥ʔuʃi](牝牛)、ウ˞シヌ˥ヤー [ʔu˞ʃinu˥ja:](牛小屋)、ウ˞シマキ [ʔu˞ʃimaki](牛の牧場。伊武田牧場、赤離牧場が大正期まであった)、ウ˞シヌ˥ウガン [ʔu ˞ʃinu˥ʔugaŋ](牛の御嶽 < お願 >。伊武田牧場にあった)。2十二支の第二番目。ウシ (丑)。時刻は午前二時前後。ウ˞シヌパー [ʔu˞ʃinupa:](丑の方角。方角は北北東)。ウ˞シディプス [ʔu˞ʃidipusu](丑年生まれの人)。ウ˞シディマリ [ʔu˞ʃidimari](丑年生まれ)。ウ˞シディプソー˥ チニヒジェーラ ウ˞シダマリティ˥ ムニーン ˥ビーン ˞ナー˥ヌ [ʔu˞ʃidipu̥so:˥ tʃiniçiʤe:ra ʔu˞ʃidamariti˥ muni:m ˥bi:n ˞na:˥nu](丑年生まれの人は常日頃から押し黙っていて、うんともすんとも < 物言いも返事も > ない)。

˥ウジ [˥ʔuʤi] 【名】 うじ (蛆)。蛆虫。イ˞ズヌ˥ ッサリティ ウ˞ジ˥ヌ ˞バイティ˥ ヤ˞ニヤ˥ヌ ナ ˞ラ˥ヌ [ʔi˞ʤunu˥ ssariti ʔu˞ʤi˥nu ˞ baiti˥ ja˞nija˥nu na˞ra˥nu](魚が腐れて蛆が湧いて汚くてたまらない < ならない >)。ウ˞ジ˥ヌ ˥シドゥン [ʔu˞ʤi˥nu ˥ ʃiduŋ](蛆が湧く < 発生する >)。

˥ウジ [˥ʔuʤi] 【名】 (動) 和名、ウツボ。浅い岩礁にすみ、凶暴な性格をもつ。カ˞ミヌ˥クーウジ [ka ˞minu˥ku:ʔuʤi](亀の甲羅模様のウツボ) は最も大きく凶暴である。˥ウジェー ˞ナン˥ゾー ン˞マーン˥テー ウ˞モーラ˥ヌ [˥ʔuʤe: ˞nan˥ʤo: ʔm˞ma:n˥ te: ʔu˞mo:ra˥nu](ウツボはあんまり美味しいとは思えない)。カ˞ミヌ˥クーウジェー ˥ユクン フ˞ターチ˥シ シゥ˞カン˥カー トゥ˞ララ˥ヌ ユ˞クン˥ユン マ˞ギティ ピン˥ギ パ˞リ˥ス [ka˞minu˥ ku:ʔuʤe: ˥jukuŋ ɸu̥˞ta:tʃi˥ʃi si̥˞kaŋ˥ka: tu˞rara˥nu ju˞ kuŋ˥jum ma˞giti piŋ˥gi pa˞ri˥su](亀の甲模様のウツボは銛二本で突かないと獲れない。銛をも曲げて逃げていくよ)。

ウ˞シーウシ [ʔu˞ʃiːʔuʃi] 【副】無理やりに。強引に。「押し押し」の義。˺プサン ˞ナー˺ムンバ ウ˞シーウシ ウシキラリ カーサリティ ザー˺パイ ˞シーナー˺ヌ [˺pu̥san ˞naː˺mumba ʔu˞ʃiːʔuʃi ʔuʃi̥kirari kaːsariti ʥaː˺pai ˞ʃiːnaː˺nu](欲しくもないものを無理やりに押し付けられて買わされて、困ったことになってしまった)。ウシ˞キーウシキー [ʔuʃi̥˞kiːʔuʃi̥kiː](無理やりに、押しつけ押しつけ) ともいう。

ウ˞シアー˺シ [ʔu˞ʃiʔaː˺ʃi] 【名】闘牛。「牛合わせ」の義。「闘、タタカフ、アフ」『類聚名義抄』の転訛。パ˞トゥ˺マナー ウ˞シアー˺シェー ˞ナー˺ヌ [pa˞tu˺mana: ʔu˞ʃiʔaː˺ʃe: ˞naː˺nu](鳩間島には闘牛はない)。

ウ˞シアギルン [ʔu˞ʃiʔagiruŋ] 【他動】押し上げる。˞ニー˺バ ˞サンバ˺シェー ウ˞シアギルンティ スンドゥ グッふァ˺ヌ ウ˞シアギララヌ [˞niː˺ba ˞samba˺ʃe: ʔu˞ʃiʔagirunti sundu guffa˺˺nu ʔu˞ʃiʔagi-raranu](荷物を桟橋に押し上げようとするが、重くて押し上げられない)。ウ˞シアギル˺ クトー ナ˞ラ˺ヌ [ʔu˞ʃiʔagiru˺ ku̥to: na˞ra˺nu](押し上げることは出来ない)。

ウ˞シアグン [ʔu˞ʃiʔaguŋ] 【他動】押し上げる。位置を高くする。「押し・上げ (下二段)」の転訛したもの。˞グッ˺ふァンダ ˞タンガ˺シ ウ˞シアグンティ サンドー˺シ フ˞ター˺シ ウ˞シアギ˺バ [˞guf˺fanda ˞taŋga˺ʃi ʔu˞ʃiagunti sando:˺ʃi ɸu̥˞taːru˺ʃi ʔu˞ʃiagi˺ba](重いから一人で押し上げようとしないで、二人で押し上げなさいよ)。ウ˞シアギ˺ ミサカー ˞タンガ˺シン ウ˞シアグ˺クトー ˺ナルン [ʔu˞ʃiagi˺ misaka: ˞taŋga˺ʃiŋ ʔu˞ʃiagu˺ ku̥to: ˺naruŋ](押し上げて良ければ、一人でも押し上げることは出来る)。ウ˞シアゲー˺ ミサムヌ [ʔu˞ʃiage:˺ misamunu](押し上げれば良いのに)。ウ˞シアギリ [ʔu˞ʃiagiri](押し上げろ)。

ウ˞シイツァ [ʔu˞ʃiʔitsa] 【名】押し板。洗濯した衣類を畳んで、それを上から押さえる台木。厚さ約 6 センチ、幅 30 センチ、長さ約 90 センチの台湾檜や楠の板で作った。アイロンがなかった頃に用いられ、洗濯ものに残る香りを楽しんだ。ア˞ライヤー˺ル ˞キン˺マー タ˞ク˺ミティ ウ˞シイツァ˺シ ˞ウシキ˺ シキバ [ʔa˞raijaː˺ru ˞kim˺maː tḁ˞ku˺miti ʔu˞ʃiʔitsa˺ʃi ˞ʔuʃiki˺ʃikiba](洗った着物は畳んで押し板で押して置きなさいよ)。

ウ˞シカキ [ʔu˞ʃikaki] 【名】˺イダフニ [˺ʔidaɸuni](板船、サバニ) の帆柱を立てる梁。梁の中央に帆柱を通す四角の穴がある。梁の厚さは約一寸五分、幅約五寸、長さ約四尺 (これは舟の大きさにより異なる) で、舟の両舷側の上部において˞ウシキ˺ヤー [˞ʔuʃi̥ki˺jaː](「押さえ棒」の義。幅約一寸、厚さ約七分、長さ約七寸の棒) で抑えるように縛って固定してある。ウ˞シカキ [ʔu˞ʃikaki] の真下にはパ˞ラータティ˺ミー [pa˞raːtati˺miː](帆柱立て穴) があり、帆柱の根っこの尖った部分が挿入されて固定される。ウ˞シカキの穴と帆柱は˞シー˺キサ [˞ʃiː˺kisa](楔) という二種類の楔を差して角度を調節し、風力に合わせる。ウ˞シカキ˺ナ ˺パラー ˺タティティ ˞プー˺ ピ˞キ˺バ [ʔu˞ʃikaki˺na ˺paraː ˺tḁtiti ˞puː˺ pi̥˞ki˺ba](ウシカキニに帆柱を立てて帆を張りなさい < 帆を引きなさい >)。

ウ˞シカキルン [ʔu˞ʃikakiruŋ] 【自動】押しかける。押し寄せる。˞プー˺ルナー ˞キョーユーカイ˺ヌ ウ˞シカキルンティ˺ ス˞クタンドゥ オーシキヌ˺ ヤ˞ブ˺ター ウ˞シカキランシェン [˞puːru˺na: ˞kjoːjuːkai˺nu ʔu˞ʃikakirunti˺ su̥˞kutandu ʔoːʃik-inu˺ ja˞bu˺ta: ʔu˞ʃikakiraŋʃeŋ](豊年祭には郷友会が押しかけると聞いたが、天候が崩れたので押しかけなかった)。ウ˞シカキル˺ クトー ˞ナーン˺パジ [ʔu˞ʃikakiru˺ ku̥to: ˞naːm˺paʤi](押しかけることは無いはずだ)。

ウ˞シカクン [ʔu˞ʃikakuŋ] 【自動】押しかける。押し寄せる。相手の意思に関わらず、勝手に相手の所へ行く。ノー˞ンティン ナー˺ムティ ˞アッ˺タニ ウ˞シカキ˺ クン [noː˞ntin naː˺muti ˞ʔat˺tani ʔu˞ʃikaki˺ kuŋ](なんとも言わないで急に押しかけて来る)。「Voxicaqe,ru,eta. ヲシカケ, クル, ケタ (押しかけ, くる, けた)〜」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˺ソンガチ パ˞チウクシヌ˺ ピンマー カ˞ツシンシンカー˺ ク˞トゥシン˺ ウ˞ヤカタ˺ヌヤー ウ˞シカクン˺カヤー [˺soŋgatʃi pḁ˞tʃiukuʃinu˺ pimmaː kḁ˞tsuʃiŋʃiŋkaː˺ ku̥˞tuʃiŋ˺ ʔu˞jakataŋ˺ja: ʔu˞ʃikakuŋ˺kajaː](正月仕事始めの日 < 初起し > にはカツオ漁船の乗組員は今年も親方の家におしかけるかねえ)。プ˞スン˺ ヤー ウ˞シカカンモー˺ マ˞シ [pu̥˞suŋ˺ja: ʔu˞ʃikakammoː˺ ma˞ʃi](他人の家には押しかけないのがいい)。˞ワー˺ ウ˞シカク˺カー ˞バン˺ヌン ウ˞シカクン [˞waː˺ ʔu˞ʃikaku˺ka: ˞ban˺nuŋ ʔu˞ʃikakuŋ](君が押しかけたら私も押しかける)。シ˞トゥム˺ティ ˞パイ˺サ ウ˞シカケー˺ ミサムヌ [ʃi̥˞tumu˺ti ˞pai˺sa ʔu˞ʃikakeː˺ misamunu](朝

早く押しかければよいのに)。ムー˞ル˜シ　ウ˞シカキリ [muː˞ru˜ʃi ʔu˞ʃikakiri](皆で押しかけなさい)。ムー˞ル˜シ　ウ˞シカク˜　クトー　ナ˞ラ˜ヌ [muː˞ru˜ʃi ʔu˞ʃikaku˜ kʉ̥toː na˞ra˜nu](皆で押しかけることは出来ない＜押しかけてはならない＞)。

˞ウシカラスン **[˞ʔuʃi̥karasuŋ]** 【他動】押し遣る。押して寄越す。ウ˞スッ˜ふァイッスン　ク˞マ˜ー　˞ウシカラシ [ʔu˞suf˜faissuŋ ku˞ma˜: ˞ʔuʃi̥karaʃi](風呂敷包みをここへ押して寄越しなさい)。˞ウシカラサラヌ [˞ʔuʃi̥karasaranu](押し遣らない)。˞ワー　ウシカラス˜カー　˞バン˜ヌン　˞ウシカラスン [˞waː ʔuʃi̥karasu˜ka: ˞ban˜nuŋ ˞ʔuʃi̥karasuŋ](君が押し遣ったら私も押し遣る)。˞ウシカラス˜　クトゥン　ナ˞ラ˜ヌ [˞ʔuʃi̥karasu˜kʉ̥tun na˞ra˜nu](押し遣ることも出来ない)。˞マー˜ビン　˞ウシカラセー˜　ミサムヌ [˞maː˜biŋ ˞ʔuʃi̥karaʃeː˜ misamunu](もっと押し遣ればいいのに)。

˜ウシキー **[˜ʔuʃikiː]**【名】(植) あこう (赤秀)。ア˞コーキー [ʔa˞koːkiː](あこう＜赤秀＞) と同じ。˜マンタヌ　ウ˞リダチ˜ヌ　˜ウシキーヤ　カ˞ザケーヌ˜　ウスマイル　カ˞ジヌ˜　カ˞タ˜カティ　˞シー˜　イ˞ボーッ˜タ [˜mantanu ʔu˞ridatʃi˜nu ˜ʔuʃikiːja ka˞ʥakaeːnu˜ ʔusumairu ka˞ʥinu˜ kʉ̥˞ta˜kati ˞ʃiː˜ ʔi˞boːt˜ta](前の降り立ち＜浜への出口＞のアコウ＜赤秀＞の木は加治工伊佐＜ウスマイ＞が防風林として植えられた)。

˞ウシキパラシ˜キ **[˞ʔuʃi̥kipara˜ʃi̥ki]** 【副】押し付けるように。無理矢理に。「押し付け張り付け」の義。˞ウシシキパラシ˜キ　˞シェー˜ティ　フ˞チ˜ル　ヌ˞マシ˜ター　ヤッ˞トゥ˜シ　˜ニチェー　サ˞マ˜レーンティ [˞ʔuʃi̥kipara˜ʃi̥ki ˞ʃeː˜ti ɸʉ˞tʃi˜ru nu˞maʃi̥ ˜ta: jat˞tu˜ʃi ˜nitʃeː sa˞ma˜reːnti](無理矢理に押し付けて薬を飲ませたら、やっとのことで熱は下がった＜冷まった＞よ)。

˞ウシキ˜ヤー **[˞ʔuʃi̥ki˜jaː]** 【名】押し板。˜イダフニ [˜ʔidaɸuni](板舟。サバニ) の両舷上部の船板を保護する板。巾約 3 センチ、厚さ約 1、5 センチの硬い板で両舷側上部を押さえたもの。舟を漕ぐ際に櫂で舟の両舷側上部が摩滅しないように保護する板。˞ウシキヤー˜ヤ　˜ヤクシ　フ˞ニン˜パタ　˜ッシ　ピ˞ナラサン˜　ヨーニ　˞スー　ムヌ [˞ʔuʃi̥kijaː˜ja ˜jakuʃi ɸu˞nim˜pḁta ˜ʃʃi pi˞narasaŋ˜ joːni ˞suː munu](ウシキヤーは、櫂で船べりを磨り減らさないように保護するするもの)。

˞ウシキラリン **[˞ʔuʃi̥kirariŋ]** 【連】押さえつけられる。˞ウシキルン [˞ʔuʃi̥kiruŋ](押える) の未然形に受身・可能の助動詞˞リン [˞riŋ](れる) が付いて形成された派生動詞 (受身・可能動詞)。ウ˞リン　ウシキラリン [ʔu˞riŋ ʔuʃi̥kirariŋ](あれ＜彼＞に押さえつけられる)。˞ワンマー　ウシキララヌ [˞wammaː ʔuʃi̥kiraranu](君には押さえつけられない)。

˞ウシキルン **[˞ʔuʃi̥kiruŋ]** 【他動】1押える。押し付ける。ク˞シヌ˜　ヤムントンマー　ピ˞ジ˜シ　˞ウシキル˜カー　˞ノー˜ルン [kʉ̥˞ʃinu˜ jamuntomma: pi˞ʥi˜ʃi ˞ʔuʃi̥kiru˜ka: ˞noː˜ruŋ](腰の痛む所を肘で押えたら治る)。2強いる。命じる。˞ウシキルンティ˜　ウムーカー　˞ウシキラレースヌ˜　シ˞キニン˜マー　ム˞タラ˜ヌ [˞ʔuʃi̥kirunti˜ ʔumuːka: ˞ʔuʃi̥kirareːsunu˜ ʃi̥˞kinim˜ma: mu˞tara˜nu](押し付けよう＜押し付ける＞と思えば押し付けられるが、責任が取れない＜持たれない＞)。シ˞グトー　ウシキル˜カー　˞スー˜パジ　ヤ˞ルンダー　ウシキ　ッふィール˜　プ˞スヌ　ブー˜カーティル　ウ˞モー˜リ˞ツォー [ʃi˞guto: ʔuʃi̥kiru˜ka: suː˜paʥi ja˞runda ʔuʃi̥ki ffiːru˜ pʉ̥˞sunu buː˜kaːtiru ʔu˞moː˜ri˞tsoː](仕事は押し付け＜命じ＞たらするはずだから、押し付けてくれる人がいたらなあと＜ぞ＞思われるんですよ)。˞ウシキリ [˞ʔuʃi̥kiri](押し付けろ＜命じよ＞)。

ウ˞シクバン **[ʔu˞ʃikubaŋ]** 【名】祭祀の供物の一つ。本来は牛肉を茹でて燻製にし、細長く切ったものを言った。牛肉が入手出来なくなってからは魚肉を燻製にして用いるようになったという。牛肉の神饌。牛肉を煮て、焙乾したものを厚さ約 5 ミリ、幅約 1 センチ、長さ約 8 センチに切ったもの。イ˞ズクバン [ʔi˞ʥu˜kubaŋ] は魚肉を用いて作った神饌。パ˞トゥマ˜ヌ　˞カンキザ˜ロー　ウ˞シクバンマー˜　シゥ˞カイ　ヨーラン˜セン　イ˞ズクバンドゥ˜　シゥ˞カイヨーッ˜タ [pḁ˞tuma˜nu ˞kaŋkiʥa˜roː ʔu˞ʃikubammaː˜ si̥˞kaijoːraŋ˜ʃeŋ ʔi˞ʥukubandu˜ si̥˞kaijoːt˜ta](鳩間島の神行事には牛肉の神饌は使われなかった。魚肉の神饌を使われた)。クバンを 7 本か 9 本に結わえたもの (ムリクバン [mu˞rikubaŋ]) に更に 3 本のクバンを載せたもの一対。それを皿に入れ、塩と大蒜 3 片を添えたものが神前への供物。ウ˞シクバンヌ　ナーン˜ベーティル　イ˞ズクバン˜　シゥ˞カイヨー˜ルツォー [˜ʔuʃikubannu ˞naːm ˜beːtiru ʔi˞ʥukuban˜ si̥˞kaijoː˜rutsoː](ウシクバン＜牛肉のクバン＞が無いのでイズクバン＜魚肉のクバン＞を使われるそうだ)。

ウ˞シクミルン **[ʔu˞ʃikmiruŋ]** 【他動】押し込める。閉

じ込める。容器などの中に詰め込む。「押し込め＜下二段＞」『源氏物語　浮舟』のラ行四段活用化したもの。˥キンカーバ　˞カイ˥ナー　ウ˞シクミルンティ　スンドゥ˥　ウ˞シクミララヌ [˥kiŋka:ba ˞kai˥na: ʔu˞ʃi̥kumirunti sundu˥ ʔu˞ʃi̥kumiraranu](衣類を長櫃に詰め込めようとするが、詰め籠められない)。ユ˞コー˥ナ　ウ˞シクミ˥　ミサカー　ウ˞シクミル˥　クトー　˥ナルン [ju˞ko:˥na ʔu˞ʃi̥kumi˥ misaka: ʔu˞ʃi̥kumiru˥ ku̥to: ˥naruŋ](裏座に閉じ込めて良ければ閉じ込めることは出来る)。ウ˞シクミレー˥　ミサムヌ [ʔu˞ʃi̥kumire:˥ misamunu](押し込めればいいのに)。˥ウナー　ウ˞シクミリ˥バ [˥ʔuna: ʔu˞ʃi̥kumiri˥ba](そこに押し込めなさいよ)。

˞ウシクムン [˞ʔuʃi̥kumuŋ] 【他動】1押し込める。容器などに、無理に入れる。詰め込む。監禁する。˥キンカー　˞タン˥シナ　˞ウシクムンティ　スンドゥ　ウシクマラヌ [˥kiŋka: ˞taŋ˥ʃina ˞ʔuʃi̥kumunti sundu ʔuʃi̥kumaranu](衣類を箪笥に押し込めようとするが、押し込められない)。˥クナー　ウ˞シクミ˥　ミサタンティン　ウ˞シクマヌ [˥kuna: ʔu˞ʃi̥kumi˥ misatantiŋ ˞ʔuʃi̥kumanu](ここには詰め込んでよくても詰め込まない)。˞ウシクミ˥バ [˞ʔuʃi̥kumi˥ba](詰め込めよ)。˞ウシクム˥クトー　ナ˞ラン˥バ　˞ウシクムナ [˞ʔuʃi̥kumu˥ ku̥to: na˞ram˥ba ˞ʔuʃi̥kumuna](押し込むことはできないから、押し込むな)。˞ウシクメー˥　ミサムヌ [˞ʔuʃi̥kume:˥ misamunu](押し込めば良いのに)。2家督を継ぐ嫡子を廃して非嫡出子を家督相続人とすること。サ˞クシ˥バ　˞ウシクミティ˥　ジ˞ナンバ˥　アトゥトゥリ　シ˞ミ˥シケー [sḁ˞kuʃi˥ba ˞ʔuʃi̥kumiti˥ ʤi˞namba˥ ʔatuturi ʃi˞mi˥ʃi̥ke:](嫡子を押し込めて次男を跡継ぎにしてある)。サ˞クシウシ˥クメー　タ˞タ˥ルンティ　˞ダー [sḁ˞kuʃiʔuʃi̥˥kume: tḁ˞ta˥runti ˞da:](嫡子押し込めは子孫に祟るそうだよ)。

ウ˞シクラサー [ʔu˞ʃikurasa:] 【名】大の怠け者。怠け者野郎。ウ˞シクラシムヌ [ʔu˞ʃikuraʃimunu](怠け者) の卑称。「牛殺し奴」の義。ウ˞シクラサー　ウンザー˥　スブットゥ　˥ナリティ　ムッ˞トゥ˥　パ˞タラカヌ [ʔu˞ʃikurasa: ʔunʤa˥ subuttu ˥nariti mut˞tu˥ pḁ˞tarakanu](牛殺し奴めが、野郎は大怠け者になってしまって、ちっとも働かない)。

ウ˞シクラシムヌ [ʔu˞ʃikuraʃimunu] 【名】怠け者。ウ˞シクラサー [ʔu˞ʃikurasa:](怠け者) ともいう。「牛殺し者」の義。˞ウンザー˥　ウ˞シクラシムヌ˥　ナリティ　˞ピッ˥チン　パ˞タラカヌ [˞ʔunʤa:˥ ʔu˞ʃikuraʃimunu˥ nariti ˞pit˥ʧim pḁ˞tarakanu](こいつは怠け者になってちっとも働かない)。

ウ˞シクルバスン [ʔu˞ʃikurubasuŋ] 【他動】押し転ばす。ク˞ルバスン [ku˞rubasuŋ](転ばす) に強意の接頭語ウ˞シ-[ʔu˞ʃi](押し) が付いて形成された語。

ウ˞シザキ [ʔu˞ʃiʤaki] 【名】「牛酒」の義。牛のように黙して語らず、ひたすら大量の酒を飲むさま。ン˞マザ˥キ [ʔm˞maʤa˥ki](「旨酒」の転訛した＜馬酒＞) の対義語。ウ˞レー˥　ウ˞シザキ˥　ヤ˞ルンダ˥　ギュー˞サ˥　ヌ˞マサ˥バン　タ˞ラーヌ˥　ナー˞イ˥　ビ˞リベー˥ティ　˞ビービー˥シ　ヌ˞ミキシ˥ス [ʔu˞re:˥ ʔu˞ʃiʤaki˥ ja˞runda˥ gju:˞sa˥ nu˞masa˥ban ta˞ra:nu˥ na:˞i˥ bi˞ribe:˥ti ˞bi:bi:˥ʃi nu˞mikiʃi˥su](これ＜この人＞は牛酒だから、いくら飲ませても足りない。ただ座っていてビービー音をたてて飲み尽くしてしまう)。

ウ˞シシマ˥リティ [ʔu˞ʃiʃima˥riti] 【副】押し詰まって。˥ウカ　˞カイ˥ス　ピ˞ニチヌ˥　ウ˞シシマ˥リティ　˞ヌー˥スユーティ　˞ソー　シー˥　ナ˞ラ˥ヌ [˥ʔuka ˞kai˥su pi˞nitʃinu˥ ʔu˞ʃiʃima˥riti ˞nu:˥suju:ti ˞so: ʃi:˥ na ˞ra˥nu](借金を返済する日が押し迫って、どうしようかと心配で堪らない)。

˥ウシジル [˥ʔuʃiʤiru] 【名】塩味だけで、具の少ないお汁。粗末なお汁。「潮汁(ウシオジル)」の転訛したもの。˞アーサ˥ヌ　˥ウシジルーンツァン　˥ヌミティ　˥パレー　˥ミサムヌ [˞ʔa:sa˥nu ˥ʔuʃiʤiru:ntsan ˥numiti ˥pare: ˥misamunu](ヒトエグサ＜あおさ＞の、具の少ないお汁だけでも飲んで行けばよいのに)。˥ウシジル　˞タン˥ガー　ヌ˞マラ˥ヌ [˥ʔuʃiʤiru ˞taŋ˥ga: nu˞mara˥nu](具のないお汁だけでは飲めない)。

˥ウシスビ [˥ʔuʃisubi] 【名】(動) 魚の名。和名、クロマグロ (体長約 3 メートル)。ム˞カ˥シ　イ˞ガメー˥ナーティ　˥ウシスビ　˞ホー˥ソール　プ˞スン　オーッ˥タンツォー [mu˞ka˥ʃi ʔi˞game:˥na:ti ˥ʔuʃisubi ˞ho:˥so:ru pu̥˞suŋ ʔo:t˥tantso:](昔、イカ釣り漁で巨大クロマグロを釣り上げられる人もおられたそうだ)。イカ釣り漁で釣り上げられるウシスビは大きいもので 2、5 メートルに達するものもあった。˥ウシスビバ　˞ホー˥シティ　ウ˞リ　アンギラランベー˥ティ　˞サンギオーッ˥タツォー [˥ʔuʃisubiba ˞ho:˥ʃi̥ti ʔu˞ri ʔaŋgirarambe:˥ti ˞saŋgiʔo:t˥tatso:](クロマグロを釣って、それを引き上げることができないので、引っ張ってこられたそうだ)。

ウ˞シダクン [ʔu˞ʃidakuŋ] 【他動】強引に抱き着く。抱き着く。引っ立てる。「押し抱く」の義。シ˞グ

トー　サン˥ティ　ピン˞シー　ベー˥　ムンバ　ウ˞シダキ　サーリパッ˥タ [ʃi˞guto: san˥ti piŋ˞ʃi: be:˥ mumba ʔu˞ʃidaki sa:ripat˥ta](仕事はしないと反抗している者を強引に引っ立てて連れて行った)。˥アイブ　˥ムノー　ウ˞シダキ˥ティ　ア˞ズバン˥　ウ˞シダカラヌ [˥ʔaibu ˥muno: ʔu˞ʃidaki˥ti ʔa˞ʤubaŋ˥ ʔu˞ʃidakaranu](あんな奴＜者＞は抱き着いて引っ立てろと言われても引っ立てられない)。˞ワー˥　ウ˞シダク˥カー　˞バン˥ヌン　ウ˞シダクン [˞wa:˥ ʔu˞ʃidaku˥ka: ˞ban˥nuŋ ʔu˞ʃidakuŋ](君が抱き着いて引っ立てるなら私も引っ立てる)。ヤ˞ラビ˥バ　ウ˞シダケー˥ティ　˞サンギ˥　パルム　˥ミルカー　キ˞ムイツァー˥ルバン [ja˞rabi˥ba ʔu˞ʃidake:˥ti ˞saŋgi˥ parumu: ˥miruka: ki˞muitsa:˥rubaŋ](子供を抱き着いて、引きずって連れて行くのを見ると可哀相だわい)。

ウ˞シダマ [ʔu˞ʃidama] 【名】てんかん (癲癇)。「牛魂」の義。目玉を反転させて体全体を硬直させ、失神状態になること。転じて、憑き物に憑かれたように、無言で一点を凝視する状態にもいう。子供が親に対して無言の抵抗を示すことにもいう。牛を屠殺する際、天を仰ぎ見ると、癲癇に罹るといわれて、子供が屠殺の現場に来ることを禁じていた。ウ˞シダマ˥　カ˞カリプス˥ヌ　˥ミー　˥ミルカー　ウ˞チ˥ルンティ　シ˞バ˥　ミー　ミ˞ル˥ナ˞ヨー [ʔu˞ʃidama˥ kạ˞karipụsu˥nu ˥mi: ˥miruka: ʔu˞ʧi˥runti ʃi˞ba˥ mi: mi˞ru˥na˞jo:](癲癇患者＜罹り人＞の目を見ると伝染＜移る＞というから目を見るなよ)。ウ˞シダマ˥　カ˞カリムヌ˥ヌ　˥カタチニ　ン˞ダマリ　ベー [ʔu˞ʃidama˥ kạ˞karimunu˥nu ˥kạtatʃini ʔn˞damari be:](癲癇に罹った者のように押し黙って睨(ニラ)んでいる)。

ウ˞シダマルン [ʔu˞ʃidamaruŋ] 【自動】押し黙る。じっとだまる。全く沈黙する。「Voxidamari,ru,atta. ヲシダマリ, ル, ッタ (押し黙る, る, つた) 持っている物とか, 知っている事とかを隠して知らぬ振りをして黙っている」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ウ˞リヌ˥　ピン　˞スー˥カー　ウ˞シダマリティ˥　ムニ　イ˞ザヌ [ʔu˞rinu˥ pin ˞su:˥ka: ʔu˞ʃidamariti˥ muni ʔi˞ʤanu](彼が反抗すると押し黙ってものを言わない)。

ウ˞シッカイスン [ʔu˞ʃikkaisuŋ] 【他動】押し返す。ジン˞ナー˥ト　˥ムティクーカー　ウ˞シッカイシ [ʤin ˞na:˥to ˥mutiku:ka: ʔu˞ʃikkaiʃi](お金などを持って来たら押し返せ)。˞ワー˥　ウ˞シッカイス˥カー　˞バン˥ヌン　ウ˞シッカイスン [˞wa:˥ ʔu˞ʃikkaisu˥ka: ˞ban˥nuŋ ʔu˞ʃikkaisuŋ](君が押し返すなら私も押し返す)。˥ムティケーラ　ウ˞シッカイサラヌ [˥mutike:ra ʔu˞ʃikkaisaranu](持って来たら押し返されない)。˥アイブ　˥ムノー　ウ˞シッカイシェー˥　ミサンドゥ　ター˞ン˥　ウ˞シッカイス˥　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [˥ʔaibu ˥muno: ʔu˞ʃikkaiʃe:˥ misandu ta:˞ŋ˥ ʔu˞ʃikkaisu˥ pụ˞so:˥ bu˞ra:nu](あんなものは押し返せばよいのだが、誰も押し返す人はいない)。ウ˞シッカイシ˥　プサン [ʔu˞ʃikkaiʃi˥ pụsaŋ](押し返したい)。

ウ˞シックナー [ʔu˞ʃikkuna:] 【名】押し合いへしあいすること。おしくらまんじゅう (押し競饅頭)。˞ックナー [˞kkuna:] は「Curabe,uru,eta. クラベ, ブル, ベタ (比べ, ぶる, べた) 物と物とを比較する,」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ヤ˞ラ˥ビンケーヤ　ウ˞シックナー　シー˥　ア˞サビ　ベー [ja˞ra˥biŋke:ja ʔu˞ʃikkuna: ʃi:˥ ʔa˞sabi be:](子供たちは押し合いへしあい＜押し競饅頭＞して遊んでいる)。

ウ˞シックミルン [ʔu˞ʃikkumiruŋ] 【他動】押し込める。ユ˞コー˥ナ　ウ˞シックミル˥カー　ウ˞バイス˥パジ　ヤ˞ルンダー˥　ン˞ベマ˥　ウ˞シックミティ˥　ウ˞ドーシ˥バ [ju˞ko:˥na ʔu˞ʃikkumiru˥ka: ʔu˞baisu˥paʤi ja˞runda˥ ʔm˞be:ma˥ ʔu˞ʃikkumiti˥ ʔu˞do:ʃi˥ba](裏座に押し込めたら驚くはずだから、ちょっと押し込めて脅しなさいよ)。イコー˞ラ˥　ノーン˞ヤラバン˥　シ˞ナッ˥ふァー　ウ˞シックミララヌ [ʔiko:˞ra˥ no:˞ɲjarabaŋ˥ ʃi˞naf˥fa: ʔu˞ʃikkumiraranu](いくらなんでも幼い子供は押し込められない)。ウ˞シックミ˥ミサン [ʔu˞ʃikkumi˥misaŋ](押し込めてよい)。˥バー　ウ˞シックミルン [˥ba: ʔu˞ʃikumiruŋ](私は押し込める)。˞パイ˥サ　ウ˞シックミリ [˞pai˥sa ʔu˞ʃikkumiri](早く押し込めなさい)。

ウ˞シックムン [ʔu˞ʃikkumuŋ] 【他動】押し込める。「おしこむ (下二段活用)」の四段活用化したもの。ユ˞ミバ　ヤー˥ナカー˞ニ˥　ウ˞シックミ˥シケー [ju˞miba ja:˥naka:˞ni˥ ʔu˞ʃikkumi˥ʃị̊ke:](嫁を家にだけ押し込めておいてある)。パ˞クヌ˥　ナ˞カ˥ナー　˞ウシックミティ˥　ア˞ゾーッ˥タンティン　ク˞レー˥　ウ˞シックマラヌ [pạ˞kunu˥ na˞ka˥na: ʔu˞ʃikkumiti˥ ʔa˞ʤo:t˥tantiŋ ku˞re:˥ ʔu˞ʃikkumaranu](箱の中に押し込めろといわれても、これは押し込められない)。ク˞リ˥　ウ˞シックム˥カー　カ˞リン˥　ウ˞シックムン [ku˞ri˥ ʔu˞ʃikkumu˥ka: ka˞riŋ˥ ʔu˞ʃikkumuŋ](これを押し込めると、あれも押し込める)。ク˞リン˥　ウ

˞シックメー˜　ミサムヌ [ku˞riŋ˜ʔu˞ʃikkumeː˜ misamunu](これも押し込めばよいのに)。シゥ˞カーン˜　ムノー　ムー˞ル　クン˜ナ　ウ˞シックミ˜　シキ [sʲ̥˞ka:m˜ muno: mu:˞ru kun˜na ʔu˞ʃikkumi˜ ʃʲ̥ki](使わないものは全部これに押し込んでおきなさい)。˞ピー˜チナー　ウ˞シックムナ [˞piː˜ʧina: ʔu˞ʃikkumuna](一つに押し込めるな)。˞ピー˜チナ　ウ˞シックミ˜　プサンドゥ　ウ˞シックマラヌ [˞piː˜ʧina ʔu˞ʃikkumi˜ pu̥sandu ʔu˞ʃikkumaranu](一つに押し込めたいが、押し込められない)。˞マー˜ビン　ウ˞シックメー˜　ミサムヌ [˞maː˜biŋ ʔu˞ʃikkumeː˜ misamunu](もっと押し込めれば＜さしこめば＞よいのに)。ウ˞シックミ [ʔu˞ʃikkumi](押し込めろ)。

ウ˞シックルバスン [ʔu˞ʃikkurubasuŋ] 【他動】押し転ばす。押し転がす。ヤ˞マー˜ラ　ウ˞ブ˜イシ　ウ˞シックルバシ˜　クー [ja˞maː˜ra ʔu˞bu˜ʔiʃi ʔu˞ʃikkurubaʃi˜ kuː](山から大きな石を押し転ばして来い)。プ˞スン˜　ウ˞シックルバサリナト ヨー [pu̥˞suŋ˜ ʔu˞ʃikkurubasarinaɻ-joː](他人に押し転ばされるなよ)。ウ˞シックルバサリル˜　プ˞スン˜　ブ˞リブタ [ʔu˞ʃikkurubasariru˜ pu̥˞sum˜ bu˞ributa](押し転ばされる人もいた)。ウ˞シックルバシ [ʔu˞ʃikkurubaʃi](押し転ばせ)。

ウ˞シッケーラスン [ʔu˞ʃikkeːrasuŋ] 【他動】押しもどす。押しやる。突き飛ばす。「押し・返らす」の転訛したものか。˞マイッサー˜リ　˞シー˜クー　˜ムノー　ウ˞シッケーラシ˜　パ˞ラ˜シ [˞maissaː˜ri ˞ʃiː˜kuː˜muno: ʔu˞ikkeːraʃi˜ pa˞ra˜ʃi](行く手を阻む＜前塞がりしてくる＞者は押し戻せ)。タ˞ー　ヤラバン˜　ウ˞シッケーラスン [ta˞: jarabaŋ˜ ʔu˞ʃikkeːrasuŋ](誰であろうが押し戻す＜返す＞)。ウ˞シッケーラサラヌ [ʔu˞ʃikkeːrasaranu](押し戻されない)。ウ˞シッケーラシ˜　ミサカー　ウ˞シッケーラス˜　クトー　˜ナルン [ʔu˞ʃikkeːraʃi˜ misaka: ʔu˞ʃikkeːrasu˜ ku̥to: ˜naruŋ](押し戻し＜返し＞て良ければ押し戻すことは出来る)。ウ˞シッケーラシェー˜　ミサムヌ [ʔu˞ʃikkeːraʃeː˜ misamunu](押し戻せ＜返せ＞ば良いのに)。

ウ˞シットースン [ʔu˞itto:suŋ] 【他動】押し倒す。前の方へ押し倒す。ピ˞キットースン [pi˞kitto:suŋ](引き倒す) の対義語。ウ˞ビ˜ヌ　プ˞スバ˜　ウ˞シットーシェー˜ティ　˜マイ　˞ユージ　パッ˜タ [ʔu˞bi˜nu pu̥˞suba˜ʔu˞ʃitto:ʃeː˜ti ˜mai ˞juːʤi pat˜ta](あれだけの人を押し倒しながら前へ進んで＜寄って＞いった)。ウ˞シットーサラヌ [ʔu˞ʃitto:saranu](押し倒されない)。ウ˞シットーシ˜ティ　ア˞ゾー˜ルカー　ウ˞シットースン [ʔu˞ʃitto:ʃi˜ti ʔa˞ʤoː˜ruka: ʔu˞ʃitto:suŋ](押し倒せといわれるなら、押し倒す)。ウ˞シットーシ˜　ッ˞シェー˜タンティン　ウ˞シットース˜クトーナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞ʃitto:ʃi˜ ʃ˞ʃeː˜tantiŋ ʔu˞ʃitto:su˜ku̥to: na˞ra˜nu](押し倒すことが出来て＜倒し得て＞も押し倒すことは出来ない＜ならぬ＞)。

ウ˞シッふァイカタナ [ʔu˞ʃiffaikatana] 【名】切れない包丁。鈍刀。なまくら＜鈍ら＞な刀。なまくら庖丁。「牛喰い刀」の義。ウ˞シッふァイカタナー˜　ナ˞マ˜リティ　˞ピッ˜チン　キ˞シラ˜ヌ [ʔu˞ʃiffaikatanaː˜ na˞ma˜riti ˞pit˜ʧiŋ kʲ̥˞ʃira˜nu](切れない包丁は、鈍って全く＜ひとつも＞切れないよ)。˜アイブ　ウ˞シッふァイカタナ˜シェー　イ˞ゾー˜　バ˞ザーラヌ [˜ʔaibu ʔu˞ʃiffaikatana˜ʃe: ʔi˞ʤoː˜ ba˞ʤaːranu](あんな鈍ら包丁では魚は捌かれない)。

ウ˞シッふァイムヌ [ʔu˞ʃiffaimunu] 【名】役に立たない者。怠け者。無能力者。ウ˞シッふァイムノー˜　ノー˞ン˜　シ˞ミラバン　シーユーサヌ˜　ヌーシム　˞スーワレー [ʔu˞ʃiffaimunoː˜ noː˞ŋ˜ ʃi˞mirabaŋ ʃiːjuːsa˜nu ˜nuːʃimu ˞suːwaːreː](怠け者は何をさせても出来ない＜し得ない＞。いったい何に役立つことが出来るんだろう＜何をする者にしようか＞)。

ウ˞シ˜ディ [ʔu˞ʃi˜di] 【名】お生まれ。高貴な人の誕生。「おすで＜お・孵化＞」の義。動詞˜シドゥン [˜ʃiduŋ](孵化する) の連用形に尊敬の接頭語˜ウ-[˜ʔu-](お。御) が付いた形。

ウ˞シディプス [ʔu˞ʃidipusu] 【名】丑年生まれの人。˞ワッ˜テナー　ウ˞シディプソー˜　ギュ˞タールオール˜ワ [˞wat˜tena: ʔu˞ʃidipu̥soː˜ gju˞taːru ʔoːru˜wa](貴方の家には丑年生まれの人が何人おられますか)。ウ˞シディプソー˜　ムネー　イ˞ザヌヌ˜　イッ˞ケン˜　パ˞タラクン˜ツォー [ʔu˞ʃidipusoː˜ muneː ʔi˞ʤanunu˜ ʔik˞kem˜ pḁ˞tarakun˜tsoː](丑年生まれの人はものは言わないが非常によく働くそうだ)。

ウ˞シディマリ [ʔu˞ʃidimari] 【名】丑年生まれ。ウ˞シディマリ　プソー˜　ウ˞シヌ˜　カタチニ　ヨー˞ンナール　ウー˜クツォー [ʔu˞ʃidimari pu̥soː˜ ʔu˞ʃinu˜ kḁtatʃini joː˞nnaːru ʔuː˜ku tsoː](丑年生まれの人は牛のようにゆっくり動くそうだ)。

ウシ˞トー˜マ [ʔuʃi˞toː˜ma] 【名】末っ子。男女ともにいう。˞ワッ˜テヌ　ウシ˞トー˜マー　˞ガッ˜コーンジェー˞ン [˞wat˜tenu ʔuʃʲ̥˞toː˜maː ˞gak˜koː ʔnʤeː˞ŋ](お宅の末っ子は学校へ入学しましたか)。

˞ウシ˜トゥ [˞ʔuʃʲ̥˜tu] 【名】弟。年下の弟妹。親族名称。

ク˞レー˜　バー　˞ウシ˜トゥ [ku˞re:˜ ba: ˞ʔuʃi̥˜tu](これは私の弟です)。˞ウシ˜トゥンケーヤ　ムー˞ル˜　ミ˞サン [˞ʔuʃi̥˜tuŋke:ja mu:˞ru˜ mi˞saŋ](弟 < 妹 > たちは皆元気か)。˞ワー　ウシトゥブナ˜ロー　ミ˞サン [˞wa: ʔuʃi̥tubuna˜ro: mi˞saŋ](君の妹は元気か)。カ˞レー˜　バーラ　˞ミーチェー　ウシ˜トゥ [ka˞re:˜ ba:ra ˞mi:tʃe: ʔuʃi̥˜tu](あの人は私より三つ < 三歳 > 年下である)。

˞ウシトゥ˜ッふァ [˞ʔuʃi̥tu˜ffa] 【名】弟妹。年下に生まれた子。長男、長女以外の子供。˞ウシトゥ˜ッふァー　ム˞カ˜シェー　シ˞ザッふァ˜トー　˜クテイナ˞シ˜ドゥ　˞イー˜ユン　ッ˞ふァーソーッ˜タ˞トゥ˜ツォー [˞ʔuʃi̥tu˜ffa: mu˞ka˜ʃe: ʃi˞ʤaffa˜to: ˜kʉ̥ti na˞ʃi˜du ˞ʔi:˜jun f˞fa:so:t˜ta ˞tu˜tso:](年下の子供は、昔は長兄とは区別して < ぞ > 飯をも食べさせられたそうだ)。

˞ウシトゥビキ˜ル [˞ʔuʃi̥tubiki˜ru] 【名】弟。「年下の男兄弟」の義。˜シザビキル [˜ʃiʤabikiru](年上の男兄弟) の対義語。ウ˞ヌ˜　ミ˞ドゥ˜ムナー　˞ウシトゥビキル˜ヌ　フ˞タール˜　ブ˞リブタ [ʔu˞nu˜ mi˞du˜muna: ˞ʔuʃi̥tubikiru˜nu ɸʉ̥˞ta:ru˜ bu˞ributa](その女には弟 < 年下の男兄弟 > が二人いた)。

˞ウシトゥブナ˜ル [˞ʔuʃi̥tubuna˜ru] 【名】妹。男兄弟から見た年下の女兄弟。「弟・姉妹 (ヲナリ)」の義。˞クン˜ネナー　˞ウシトゥブナ˜ロー　˞タン˜ガ　シ˞ザブナ˜ロー　フ˞タール　オー˜ルン [˞kun˜nena: ˞ʔuʃi̥tubuna˜ro: ˞taŋ˜ga ʃi˞ʤabuna˜ro: ɸʉ̥˞ta:ru ʔo:˜ruŋ](この家には、妹は一人、姉は二人おられる)。

˞ウシトゥマ˜キ [˞ʔuʃituma˜ki] 【名】おとみづわり (弟見悪阻)。おとみまけ『和訓栞』の転訛。出産後一年未満で母親が下の子を懐妊した場合、十分な授乳ができず乳児が痩せ衰えること。「弟負け」の義。ウ˞ヌ˜　ッ˞ふァー　ウシトゥマ˜キ　シ˞ティル˜　アイニ　˞ヨーガリ　ベート ダー [ʔu˞nu˜ f˞fa: ʔuʃi̥tuma˜ki ʃi̥˞tiru˜ ʔaini ˞jo:gari be:ɦ-da:](この子は弟負けして、あんなに痩せているのだよ)。˜シザー　˞ウシトゥマ˜キ　シ˞ティ　ヨーガリ　ベー˜ティ　˜アッパー　ウ˞ヌ˜　ッ˞ふァバ˜　カ˞サ˜ナイティ　˞シー˜クーンティ　˞マーリ　オーッ˜タ [˜ʃiʤa: ˞ʔuʃi̥tuma˜ki ʃi̥˞ti jo:gari be:˜ti ˜ʔappa: ʔu˞nu˜ f˞faba˜ ka˞sa˜naiti ˞ʃi:˜ ku:nti ˞ma:ri ʔo:t˜ta](上の子は弟負けして痩せているので、おばあさんはその子を負ぶって乳を貰おうと < 貰い乳をしに > 回って来られた)。

˞ウシトゥ˜マリ [˞ʔuʃi̥tu˜mari] 【名】弟妹。兄弟姉妹の中で年下の者。長男、長女以外の者。「弟人生まれ」の義。˞ウシトゥマリ˜ヌ　ジ˞ナンサンナン˜マー　バ˞キ˜ダマー　˞ナーン˜シェン [˞ʔuʃi̥tumari˜nu ʤi˞nansannam˜ma: ba˞ki˜dama: ˞na:ŋ˜ʃeŋ](年下の次男三男は、財産分与 < 分けて貰う財産。相続する分け前 > は無かった)。シザマリ [˜ʃiʤamari](長男、長女。年上に生まれた者)。˜シザマリラン　˞ウシトゥマ˜リナール　ス˞グリムノー˜　マ˞リル˜ティバン˞ナー [˜ʃiʤamariraŋ ˞ʔuʃi̥tu˜marina:ru su˞gurimuno:˜ ma˞riru˜tiban˞na:](年上に生まれた者よりも、年下に生まれた者に優れものが生まれるんだってねえ)。

˞ウシトゥ˜ミー [˞ʔuʃitu˜mi:] 【名】「弟 (妹) 見」の義。子供が誕生して一年未満に母親が妊娠すること。そのために子供に十分の授乳ができなくなり、子供が痩せ細り、発育不良となる。その子が˞ウシトゥマ˜キ [˞ʔuʃi̥tuma˜ki](弟負け) するのである。˞オーパ˜ヤー　˞ウシトゥ˜ミー　˞シール˜　アイニ　ッ˞ふァ　ヨーガラシ˜　シケーバン˞ナー [˞ʔo:pa˜ja: ˞ʔuʃi̥tu˜mi: ˞ʃi:ru˜ ʔaini f˞fa jo:garaʃi˜ ʃi̥ke:ban˞na:](そんなに早く次の子を妊娠しているので、子供をあんなに痩せさせて < おいて > あるんだねえ)。

˞ウシトゥミドーン˜ッふァ [˞ʔuʃi̥tumido:ŋ˜ffa] 【名】次女以下の娘。「弟女の子」の義。ク˞レー　バン˜テヌ　˞ウシトゥミドーン˜ッふァ　˞ユー　ミーッ˜シッ˞ふォー˜ラナー˞ラ [ku˞re: ban˜tenu ˞ʔuʃi̥tumido:ŋ˜ffa ˞ju: mi:ʃ˜ʃi f˞fo:˜rana:˞ra](これは私の家の下の娘 < 年下の女の子 > です。どうぞお見知りおきくださいませ)。

˞ウシ˜トゥ　ミルン [˞ʔuʃi˜tu miruŋ] 【連】「弟妹を見る」の義。母親が次の子を懐妊すること。マ˞ダ　タンカーンツァン　サンムヌ˜　キサー˞ティ　ウシ˜トゥ　ミ˞リ˜ブーバン [ma˞da taŋka:ntsan sammunu˜ ki̥sa:˞ti ˞ʔuʃi̥˜tu mi˞ri˜bu:baŋ](まだ子供の一歳の誕生日もしないのに、もう既に次の子を懐妊している < 弟を見ている > わい)。

˜ウシトゥラ [˞ʔuʃitura] 【名】うしとら (丑寅)。東北の方角。カ˞ジェー˜　ウシトゥラーラ　フ˞キカバ˜シ　˜キーティル　˞カー˜ラン　トゥ˞バシ˜パレー˞ツォー [ka˞ʤe:˜ ʔuʃitura:ra ɸʉ̥˞kikaba˜ʃi ˜ki:tiru ˞ka:˜ran tu˞baʃi˜ pare:˞tso:](風は東北 < 丑寅 > の方角より吹き下ろして < 吹きかぶせて > きて屋根瓦も飛ばしていったんだよ)。

˞ウシ˜トゥンケー [˞ʔuʃi̥˜tuŋke:] 【名】弟たち。弟妹たち。˜-ケー [˜-ke:](〜たち) は主に人間の複数を表

し、尊敬、丁寧の意味を含む接尾語。先祖を表す語にも下接する。˞ウシトゥンケー˜ヤ　ムー˞ル　ヤーバカ˜リ　˞シェー˜ン [˞ʔuʃi̥tuŋke:˜ja mu:˞ru ja:baka˜ri ˞ʃe:˜ŋ](弟妹方は皆分家＜家別れ＞した)。

ウ˞シナウン [ʔu˞ʃinauŋ] 【他動】失う。なくする。「〜吾が下衣宇思奈波受＜ウシナハズ＞〜。万、3751」の転訛したもの。鳩間方言では、連母音 [ai] は融合しないのが原則である。˞ナーン˜ナスンとも言う。ア˞キ˜ナイナ　ウ˞ル˜キティ　˞ヤーヤシ˜キ　ウ˞シナイ　ナー˜ヌ [ʔa˞ki˜naina ʔu˞ru˜kiti ˞ja:jaʃi̥˜ki ʔu˞ʃinai na:˜nu](商売に失敗して負債をかぶり、家屋敷を失ってしまった)。ウ˞シナウンテー˜　ウ˞モーン˜セン [ʔu˞ʃinaunte:˜ ʔu˞mo:ŋ˜ʃeŋ](失うとは思わなかった)。マ˞ダ˜　ウ˞シナーヌ [ma˞da˜ ʔu˞ʃina:nu](まだ失わない)。ウ˞シナウ˜　クトー　˞ナー˜ヌ [ʔu˞ʃinau˜ ku̥to: ˞na:˜nu](失うことはない)。ウ˞シナイヤー˜　ミサムヌ [ʔu˞ʃinaija:˜ misamunu](失えば良いのに)。ウ˞シナイ˜バ [ʔu˞ʃinai˜ba](失えよ)。ウ˞ビ˜ヌ　˜ザイサン　マーン˞ベー˜スカー　ウ˞シナウンティ　アーク˜タ˞ダー [ʔu˞bi˜nu ˜ʤaisam ma:m˞be:˜su̥ka: ʔu˞ʃinaunti ʔa:ku˜ta˞da](あれだけの財産をすんでのところで失うところだったよ)。ウ˞シナーヌ [ʔu˞ʃina:nu ＜˞na:nnasa˜nu＞](失わない)。ウ˞シナイナー˜ヌ [ʔu˞ʃinaina:˜nu](失ってしまった)。ウ˞シナウムノー　ナー˜ヌ [ʔu˞ʃinaumuno: na:˜nu](失うものはない)。ウ˞シナイヤー˜　ミサムヌ [ʔu˞ʃinaija:˜ misamunu](失えばよいのに)。

ウ˞シナクン [ʔu˞ʃinakuŋ] 【他動】押し込む。さし込む。詰め込む。フ˞チンナカー　ペー˜ル　˜スコー　ウ˞シナキティ˜　ッ˞ふァイ　ベー [ɸu̥˞ʧinnaka: pe:˜ru ˜su̥ko: ʔu˞ʃinakiti˜ f˞fai be:](口の中に入るだけたくさん押し込んで食べている)。フ˞チンナカー˜　ウ˞シナキ˜　ミサカー　ウ˞シナクンドゥ　ミッ˜トー　˞ナー˜ンダ　ウ˞シナカヌ [ɸu̥˞ʧinnaka:˜ ʔu˞ʃinaki˜ misaka: ʔu˞ʃinakundu mit˜to: ˞na:˜nda ʔu˞ʃinakanu](口の中へ押し込んで良ければ押し込むが、みっともないので押し込まない)。˜ティルナー　˞ペーラン˜スコー　ウ˞シナキティ˜　カ˞タ˜ミ˞パッ˜タヤー [˜tiruna: ˞pe:ran˜su̥ko: ʔu˞ʃinakiti˜ kḁ˞ta˜mi ˞pat˜taja:](笊に入らないほど押し込んで担いでいったよ)。˞マー˜ビン　ウ˞シナキ˜　プサンドゥ　ウ˞シナカラヌ [˞ma:˜biŋ ʔu˞ʃinaki˜ pu̥sandu ʔu˞ʃinakaranu](もっと押し込みたいが押し込められない)。˞ワー˜　ウ˞シナク˜カー　˞バン˜ヌン　ウ˞シナクン [˞wa:˜ ʔu˞ʃinaku˜ka: ˞ban˜nuŋ ʔu˞ʃinakuŋ](君が押し込むなら私も押し込む)。˞マー˜ビン　ウ˞シナキ [˞ma:˜biŋ ʔu˞ʃinaki](もっと押し込め)。マーン˞ベーマ˜　ウ˞シナケー˜　ミサムヌ [ma:ʔm˞be:ma˜ ʔu˞ʃinake:˜ misamunu](もう少し押し込めばよいのに)。ウ˞サンクン [ʔu˞saŋkuŋ](押し込む) ともいう。˞ウン˜マー　ガ˞ヤー˜ヌ　˜ミーナ　ウ˞シナキティ˜　カ˞ザ˜ミシケー [˞ʔum˜ma: ga˞ja:˜nu ˜mi:na ʔu˞ʃinakiti˜ ka˞ʤa˜miʃi̥ke:](芋は茅の中に押し込んで隠してある)。˜クナー　ウ˞シナカラヌ [˜kuna: ʔu˞ʃinakaranu](ここには押し込められない)。˜ヌーンクイーン　ウ˞シナクン [˜nu:ŋkuiŋ ʔu˞ʃinakuŋ](何もかも押し込める)。ウ˞シナク˜　クトゥ [ʔu˞ʃinaku˜ ku̥tu](押し込めること)。˞マー˜ビン　ウ˞シナケー˜　ミサムヌ [˞ma:˜biŋ ˞ʔuʃinake:˜ misamunu](もっと押し込めばよいのに)。˞パー˜ク　˞ウシナキ [˞pa:˜ku ˞ʔuʃinaki](早くおしこめなさい)。

ウ˞シヌ˜ウガン [ʔu˞ʃinu˜ʔugaŋ] 【名】牛の御願。鳩間島の牛を放牧したインダ牧場にウ˞シヌ˜ウガンがあった。トゥ˞マダー [tu˞mada:] から˞クーラ [˞ku:ra] へ通ずる道の中ほどから南へ約 100m 入った松林の中の山石の側にあった。昭和の初期頃まで、そこでウ˞シヌ˜ヨイ [ʔu˞ʃinu˜joi](牛の祝い。牛の健康と繁昌祈願) が行われたという。その日に子牛の耳に˞ヤー˜バン [˞ja:˜baŋ](各家の印) を付けたという(加治工伊佐氏直話)。牧牛の繁昌と健康祈願をする御嶽。鳩間のウ˞シヌ˜ウガン [ʔu˞ʃinu˜ʔugaŋ](牛の御嶽) は˜インダ [˜ʔinda](伊武田) の˞シーヌウチ [˞ʃi:nuʔutʃi](猪垣の内の原野) の松林の中にあった。ム˞カ˜シェー　ウ˞シヌ˜ウガンナーティ　ウ˞シヌ˜ヨイ　˞シーティ˜　ウ˞シヌ　ッふァ˜ヌ　˞ミン˜バ　キシティ　˞ヤー˜バン　ス˞コーッ˜タツォー [mu˞ka˜ʃe: ʔu˞ʃinu˜ʔuganna:ti ʔu˞ʃinu˜joi ˞ʃi:ti˜ ʔu˞ʃinu ffa˜nu ˞mim˜ba ˜ki̥ʃiti ˞ja:˜ban su̥˞ko:t˜tatso:](昔は牛の御嶽で牛の祝いをして、子牛の耳を切って家の印し＜家判＞を付けられたそうだ)。

ウ˞シヌ˜　カ˞タ [ʔu˞ʃinu˜ kḁ˞ta] 【連】牛の絵。歌謡語。˞ヤー˜　ク˞ヌ　ヤー˜ヌ　ウ˞チ˜ナカー　ウ˞シヌ˜　カ˞タ˜　アンティ　˜スー [˞ja:˜ ku˞nu ja:˜nu ʔu˞ʧi˜naka: ʔu˞ʃinu˜ kḁ˞ta˜ ʔanti ˜su:](ああ、この家の中に牛の絵があるという)(アーパーレー歌)。

ウ˞シヌキルン [ʔu˞ʃinukiruŋ] 【他動】押し退ける。排斥する。プ˞スバ˜　ウ˞シヌキルンティ　アーキ˜ル　ウ˞レー˜　プ˞スン˜　ウ˞シヌキラレー˜ダー [pu̥˞suba˜ ʔu˞ʃinukirunti ʔa:ki˜ru ʔu˞re:˜ pu̥˞suŋ˜ ʔu˞ʃinukirare:˜da:](他人を押し退け＜排斥し＞ようと

して < ぞ > 彼は他人に押し退けられたのだよ)。プ˞ス˜　ウ˞シヌキル˜　クトー　ス˞ナ˜ヨー [pu̥˞su˜ ʔu˞ʃinukiru˜ ku̥to: su˞na˜jo:](他人を押し退けることはするなよ)。ウ˞シヌキレー˜　ミサムヌ [ʔu˞ʃinukire:˜ misamunu](押し退ければいいのに)。ウ˞シヌキリ [ʔu˞ʃinukiri](押し退けろ)。

ウ˞シヌクン [ʔu˞ʃinukuŋ] 【他動】押し退ける。排斥する。「おしのく (下二段)」が四段活用化して転訛したもの。ウ˞シヌキルンとも言う。プ˞ス˜　ウ˞シヌクンティ　スー˜　クトー　˞カンガウ˜ナ [pu̥˞su˜ ʔu˞ʃinukunti su:˜ ku̥to: ˜kaŋgau˜na](他人を押し退けようとすることは考えるな)。ウ˞シヌカヌ [ʔu˞ʃinukanu](押し退けない)。ウ˞シヌキ　ナー˜ヌ [ʔu˞ʃinuki na:˜nu](押し退けてしまった)。ウ˞シヌク˜クトゥ [ʔu˞ʃinuku˜ ku̥tu](押し退けること)。ウ˞シヌケー˜　ミサムヌ [ʔu˞ʃinuke:˜ misamunu](押し退ければいいのに)。ウ˞シヌキ [ʔu˞ʃinuki](押し退けろ)。

ウ˞シヌクン [ʔu˞ʃinukuŋ] 【他動】突き刺す。貫き通す。「押し貫く」の義。˞ヤー˜ヌ　ナ˞カー˜ラ　˞ヤーフキプス˜ン　˜トン　˞アイ˜ジ　˞シェー˜ティ　˜パル　ウ˞シヌク [˞ja:˜nu na˞ka:˜ra ˞ja:ɸu̥kipusu˜n ˜toŋ ˞ʔai˜ʤi ˞ʃe:˜ti ˜paru ʔu˞ʃinuku](家の中から屋根葺きの所へ合図しながら針 < 竹矛の針 > を突き刺す < 貫き通す >)。

ウ˞シヌ˜コイ [ʔu˞sinu˜koi] 【名】堆肥。牛の糞便を集めて堆肥に入れ、発酵させて肥料につくったもの。地味の痩せた畑に、シ˞キゴイ [ʃi̥˞kigoi](堆肥。「敷き肥」の義。畑に畝を掘って堆肥を入れ、畝の土を被せ、その上に作物の苗を植えつけるのに用いた)として利用した。

ウ˞シヌ˜　コイ [ʔu˞ʃinu˜ koi] 【連】きゅうひ (厩肥)。˞牛の肥やし」の義。牛小屋の糞尿と茅やススキの混じった肥料。畑の土に鋤きこんで南瓜や冬瓜の苗を植えた。ウ˞シヌ˜　コイ　イ˞リティ˜　カ˞ブッチヌ˜　ナイ　˜ヤトゥイバ [ʔu˞ʃinu˜ koi ʔi˞riti˜ ka˞buttʃinu˜ nai ˜jatuiba](厩肥を入れて南瓜の苗を移植しなさい)。

ウ˞シヌ˜　シー [ʔu˞ʃinu˜ ʃi:] 【連】牛乳。「牛の乳」の義。˞シー˜ヌ　˞アーンベー˜ティ　ウ˞シヌ　シー˜バ　ヌ˞マ˜シェーティル　シゥ˞カ˜ナイ　フ˞ドゥバシェート ダー [˞ʃi:˜nu ˞ʔa:mbe:˜ti ʔu˞ʃinu ʃi:˜ba nu˞ma˜ʃe:tiru ʃi̥˞ka˜nai ɸu˞dubaʃe:ɾda:](乳が出ないので牛乳 < 牛の乳 > を飲ませて養い育てたのだよ)。

ウ˞シ˜ヌ　˜シケー [ʔu˞ʃi˜nu ˜ʃi̥ke:] 【連】臼のゆりわ(揺輪)。米を搗き臼に入れて搗く際に米粒が臼の外へ弾き出されないよう、臼の縁にはめる藁製の揺輪。直径約 3 センチの藁束の輪に仕上げたもの。ウ˞シ˜ヌ　˜シケー　シ˞キティ˜　ッサウカー　˞マイヌ˜　シジェー　トゥ˞ビンジラ˜ヌ [ʔu˞ʃi˜nu ˜ʃi̥ke: ʃi̥˞kiti˜ ssauka: ˞mainu˜ ʃiʤe: tu˞biʔnʤira˜nu](臼の揺輪を付けて搗く < 精げる > と米粒は外へ飛び出ない < 弾けない > よ)。最初は軽く搗いて、ア˞ザラスン [ʔa˞ʤarasuŋ](米糠が出る状態にする) の状態にして俊強く搗く。ウ˞シ˜ヌ　˜シケー　˜シキティ　˞マイ˜　ッサイバ [ʔu˞ʃi˜nu ˜ʃi̥ke: ˜ʃi̥kiti ˞mai˜ ssaiba](臼の揺輪を嵌め < 付け > て米を搗きなさい)。

ウ˞シヌ˜ッサ [ʔu˞sinu˜ssa] 【名】かいば。まぐさ (秣)。牛の飼料。「牛の草」の義。鳩間島では牛を原野の牧草地に繋いで野草を食わせて飼育した。ウ˞シヌ˜ッサ　カ˞ラン˜タンティン　˞ガー˜ヌーナ　バ˞ツァ˜ミ　シ˞キ˜ルカー　˜ミサン [ʔu˞ʃinu˜ssa ka˞ran ˜tantiŋ ˞ga:˜nu:na ba˞tsa˜mi ʃi̥˞ki˜ruka: ˜misaŋ](秣(マグサ) < 牛の草 > を刈らなくても茅の生えた野原に繋いでおいたらいいよ)。

ウ˞シヌ˜　ッス [ʔu˞ʃinu˜ ssu] 【連】牛の糞。ウ˞シヌ˜　ッス　ア˞ツァ˜ミティ　パ˞タキ˜ヌ　˜コイ　˞シー˜バ [ʔu˞ʃinu˜ ssu ʔa˞tsa˜miti pḁ˞taki˜nu ˜koi ˞ʃi:˜ba](牛の糞を集めて畑の肥やしにしなさいよ)。

ウ˞シヌ˜　ッ˞ふァ [ʔu˞ʃinu˜ f˞fa] 【連】牛の子。ウ˞シヌ˜　ッ˞ふァ　カイ˜　クーバ [ʔu˞ʃinu˜ f˞fa kai˜ ku:ba](牛の子 < 子牛 > を買って来なさいよ)。

ウ˞シヌ　パー [ʔu˞ʃinu pa:] 【連】丑の方向。北北東。北から東へ 15〜30 度の方角。˜アツァー　ウ˞シヌ　パー˜ラ　カ˞ジヌ˜　フクンツォー [˜ʔatsa: ʔu˞ʃinu pa:˜ra ka˞ʤinu˜ ɸu̥kuntso:](明日は北北東 < 丑の方角 > から風が吹くそうだ)。

ウ˞シ˜ヌ　˜パー　˜タトゥン [ʔu˞ʃi˜nu ˜pa: ˜tḁtuŋ]【連】磨り臼の歯を立てる。臼の歯が磨り減ると鑿で溝を彫り、歯を立てる。ウ˞シ˜ヌパー　タ˞ティラン˜カー　˜ウシェー　˞ムイラヌ [ʔu˞ʃi˜nupa: tḁ˞tiraŋ˜ ka: ˜ʔuʃe: ˞muiranu](磨り臼の歯を立てないと磨り臼は籾殻をよく落とすことができない)。

ウ˞シヌパン　ゾー˜レ　˞ゾー˜レ [ʔu˞ʃinupan ʤo:˜re ˞ʤo:˜re] 【連】童歌の名。乳幼児の足を揃えて曲げたり伸ばしたりしながら、早く立てるように、歩けるようにと願いを籠めて歌い、あやした。ウ˞シヌパン　ゾー˜レ　˞ゾー˜レ　ン˞マヌパン　ゾー˜レ　˞ゾー˜レ　˞モーシン˜ガーニ　˞シールン˜ガーニ　˞

ゴッふェー [ʔu˞ʃinupan ʤoː˥re ˞ʤoː˥re m˞manupan ʤoː˥re ˞ʤoː˥re ˞moːʃiŋ˥gaːni ˞ʃiːruŋ˥gaːni ˞goffeː](牛の足のように、馬の足のように、モウシちゃん、白金のようになーれ < ゴッツンと母親の額を乳幼児の額につける >)。

ウ˞シヌ˥　ピラ [ʔu˞sinu˥ pira] 【連】すき (犂)。「牛の箆 (へら)」の義。ウ˞シヌ˥ヤマ [ʔu˞ʃinu˥ jama](牛の犂) ともいう。˥ヤマ [jama](仕掛け。装置) は L 字型木枠の中央に轅(ナガエ)を付け、軛(クビキ)に掛けて引かせるようにした鋤。下の木枠の先端部に鉄の歯 < 箆 > を装着したもの。木枠にハンドルを付け、牛に引かせて田畑の土を鋤き返した。ウ˞シヌ˥　ピ˞ラ˥バ　ウ˞シン˥　ピ˞カシティ˥　パ˞タ˥キ　シゥ˞カシ˥バ [ʔu˞ʃinu˥ pi˞ra˥ba ʔu˞ʃim˥ pi̥˞kaʃi̥ti˥ pḁ˞ta˥ki si̥˞kaʃi˥ba](犂 < 牛の箆 > を牛に引かせて畑を鋤かせなさいよ)。

ウ˞シヌマキ [ʔu˞ʃinumaki] 【名】牛の牧場。パ˞トゥ˥マプスヌ　ウ˞シヌマケー˥　インダヌ　マ˞キトゥ˥　サ˞キンダヌ˥　マ˞キヌ˥　フ˞タントン　アッ˥タンツォー [pa˞tu˥mapusunu ʔu˞ʃinumakeː˥ ʔindanu ma˞kitu˥ sḁ˞kindanu˥ ma˞kinu˥ ɸu̥˞tantoŋ ʔat˥tantsoː](鳩間の人の牧場は、伊武田の牧場と崎田の牧場の二箇所があったそうだ)。

ウ˞シヌ˥　ミー [ʔu˞ʃinu˥ miː] 【連】牛の目。大きな目。ウ˞レー　ミン˥タマー　ダ˞レー˥　ウ˞リヌ　ミー˥ヤ　ウ˞シヌ　ミー˥ヌ　˥ブカラ　ア˞リ˥ブー [ʔu˞reː min˥tamaː da˞reː˥ ʔu˞rinu miː˥ja ʔu˞ʃinu miː˥nu ˥bukara ʔa˞ri˥buː](あれ < 彼 > は目の大きな人 < 目の玉 > だよ。あれの目は牛の目ぐらいもある < 有り居る >)。

ウ˞シヌ˥　ミン [ʔu˞ʃinu˥ miŋ] 【連】牛の耳。˥インダヌ　マ˞キ˥ナーティ　ウ˞シヌ˥　ミン　˥キシティ　˞ヤー˥バン　ス˞コーッ˥タツォー [˥ʔindanu ma˞ki˥ naːti ʔu˞ʃinu˥ miŋ ˥ki̥ʃiti ˞jaː˥ban su̥˞koːt˥tatsoː](伊武田の牧場で牛の耳を切ってヤーバン < 家の印 > を付けられたそうだ)。

ウ˞シ˥ヌ　˥ミン [ʔu˞ʃi˥nu miŋ] 【連】臼の耳。上段の石臼にある、取っ手 (柄) を入れる穴。逆 L 字型の取っ手を入れて石臼をまわすのに用いる。籾擂り用の木の臼は、上段の左右両側に引き紐を結ぶための掘りぬきの穴 < 耳 > があり、それに縄 < 紐 > を結わえ、左右の縄を交差させて交互に引き、上段の臼を右左に回して籾摺りをする。ウ˞シ˥ヌ　˥ミンナー　˥シナ　フ˞バリティ˥　ウ˞リバ˥　ピ˞キシケー˥ティル　イ˞ニ˥ピケー　シ˞タ˥ダー [ʔu˞ʃi˥nu ˥minnaː ˥ʃina ɸu˞bariti˥ ʔu˞riba˥ pi̥˞kiʃi̥keː˥tiru ʔi˞ni˥ pi̥keː ʃi̥˞ta˥daː](臼の耳に綱を結わえて、それを交互に引きながら籾摺りはしたよ)。

ウ˞シヌ˥ヤー [ʔu˞ʃinu˥jaː] 【連】牛小屋。ウ˞シン˥ヤー [ʔu˞ʃiŋ˥jaː](牛小屋 < 牛の家 >) ともいう。鳩間島では自宅の屋敷内に牛小屋のある家はなかった。畑の側の空き地に掘ったて小屋を作る人はいたが、普通は原野の木陰に牛を繋いで飼育していた。ウ˞シヌ　ヤー˥ヤ　パ˞タキ˥ヌ　˥スバナール　ス˞クラ˥リ　ブ˞タト　ナー [ʔu˞ʃinu jaː˥ja pḁ˞taki˥nu ˥subanaːru su̥˞kura˥ri bu˞taɫ-naː](牛小屋は畑の側に作られていたねえ)。ウ˞シヌ˥ヤーナー　˥アガダンヌ　シ˞ディ˥ルンダ　ウ˞マー˥　パ˞ラン˥シェン [ʔu˞ʃinu˥jaːnaː ˥ʔagadannu ʃi˞di˥runda ʔu˞maː˥ pa˞raŋ˥ʃeŋ](牛小屋にはダニが発生するので、そこへは行かなかった)。

ウ˞シヌ˥ヤマ [ʔu˞ʃinu˥ jama] 【連】すき (犂)。「牛のヤマ」の義。˥ヤマ [˥jama](仕掛け。装置) の義で、「牛に引かせて土地を鋤く装置 < 犂 >」の意。ウ˞シヌ˥ピラ [ʔu˞ʃinu˥ pira](鋤) ともいう。˞アー˥ネーラ　ウ˞シヌ˥　ヤマ　カ˞リ˥クー [˞ʔaː˥neːra ʔu˞ʃinu˥ jama ka˞ri˥kuː](東隣の家から犂を借りてきなさい)。

ウ˞シヌ˥　ヨイ [ʔu˞ʃinu˥ joi] 【連】˥インダヌ　マ˞キ [˥ʔindanu ma˞ki](伊武田地区の牧場 < フ˞クヌマキ >) で行われた牛の健康祈願と繁昌祈願の祝い。毎年の旧暦九月のウ˞シニー [ʔu˞ʃiniː](丑の日) に実施され、その日に牛の˞ヤー˥バン [˞jaː˥baŋ](各家の印を耳に切り込んで示したもの) をつけた。

ウ˞シヌ　ヨイ˥ヌ　˥ウタ [ʔu˞ʃinu joi˥nu ˥ʔuta] 【連】牛の祝いの歌。伊武田牧場 (フ˞クヌマキ [ɸu̥˞ku˥numaki]< 福の牧 >) で牛の健康祈願、繁昌祈願をする時はウ˞シヌ˥ウガン [ʔu˞ʃinu˥ʔugaŋ](牛の御願) で牛の飼い主が集まり、二人ずつ˞ペンシキビリ [˞peŋʃikibiri](正座。跪き) して、酒を入れたミ˞キバタ˥シ [mi˞kibata˥ʃi](酒器) を持って歌に調子を合わせ、右上へ、左上へと交互に持ち上げて歌った。歌い終わって、次の二人へ酒器を渡す際は、次のように唱えて渡した。< 渡す側 >: マムレー　マムレー　ッサリ　キューヌ　ピー　クガニピーナ　タボーラリタル　ウーミサクドゥ　マームレーユサリ　シギシューヤ　タッテヌ　ウナンナーマドゥ　シギシューユー　サリー　イメーヌ　カージ (マムレー、マムレー　申し上げます。今日の佳き日、黄金の佳き日に賜りましたお神酒がお守りと

申します。お次様はどこそこの家の誰々様がお次様でございます。以上、申し上げました)。＜受け取る側＞: ウータリ (はい、かしこまりました) といってミキバタシ (酒器) を受け取る。歌は次の通り。1、キューヌ　ピーヌ　ウユワイムトゥ　スイナウレ (今日の佳き日の祝いの元、さあよく稔れ＜囃子＞)2、フクヌ　マキ　ウユワイムトゥ　スイナウレ (福の牧の祝いの元、さあ稔れ)3、ムヤシバードゥ　パンゾ　スムトゥ　スイナウレ (発情したらば繁昌の元、さあ稔れ)4、パンゾーシヌ　ウミサク　ムムドゥ　スイナウレ (繁昌させるお神酒、百杯、さあ稔れ)。

˥ウシノーマイ [˥ʔuʃinoːmai] 【名】(植) 稲の在来品種名。芒が長い。粳米で実の色が赤みを帯びている。一時期広まったが作られなくなったという。˥ウシノーマイヤ　イ˞ラムテーラ˥　サニマイバ　˞カイキー˥ル　ス˞ク˥ローッタ [˥ʔuʃinoːmaija ʔi˞ramuteːra˥ sanimaiba ˞kaikiː˥ru sɥ˞ku˥roːtta](ウシノー米は西表＜租納と干立＞から種籾を買ってきて＜ぞ＞作られた)。

˥ウシパー [˥ʔuʃipaː] 【名】きゅうし (臼歯)。「臼歯」の義。奥歯。˥ウシパーヌドウ　˥ヤミティ　˥ムヌ　カ˞マラ˥ヌ [˥ʔuʃipaːnudu ˥jamiti ˥munu ka˞mara˥nu](奥歯が痛んで食べ物＜もの＞を噛むことが出来ない)。˥ウシパーヌ　フ˞トゥッ˥チ　˞ベー [˥ʔuʃipaːnu ɸɥ˞tut˥ʧi ˞beː](臼歯が虫歯になって＜朽ちて＞いる)。

˥ウシパイ [˥ʔuʃipai] 【名】(動) 牛につく蝿。あぶ (虻)。「牛蝿」の義。「人畜を刺して血を吸い、諸種の病原体を媒介する大型の蝿」という。全体的に黒色で、銀蝿よりやや大きく、銀蝿より敏捷である。˥ヌンティル　ヤ˞ル˥ユー　˥ウシパイヌ　ヤ˞マシ˥カ　˥シディ　˞ベー˥サー [˥nuntiru ja˞ru˥juː ˥ʔuʃipainu ja˞maʃi˥ka ˥ʃidi ˞beː˥saː](どういう訳か牛蝿が沢山発生＜孵化＞しているよ)。

ウ˞シバクヨー [ʔu˞ʃibakujoː] 【名】うしばくろう (牛博労)。牛を売り買いして荒稼ぎをすること。またその人。ウ˞ヌ˥　プ˞ソー˥　ウ˞キ˥ナーラ　˞ヤイマーバー˥キ　ウ˞シバクヨーバ　シール˥　アイニ　˞モーク˥タツォー [ʔu˞nu˥ pɥ˞soː˥ ʔu˞ki˥naːra ˞jaimaːba˥ki ʔu˞ʃibakujoːba ʃiːru˥ ʔaini ˞moːku˥tatsoː](その人は沖縄から八重山まで牛博労をして＜ぞ＞あんなに儲けたそうだよ)。

ウ˞シパタッキルン [ʔu˞ʃipatakkiruŋ] 【他動】押し開く。大きく広げる。押しはだける。ウ˞シ [ʔu˞ʃi](押し)は強意の接頭語。パ˞タッキルン [pḁ˞takkiruŋ](開く。広げる) は「開、ハダクル」『運歩色葉集』の転訛したもの。ウ˞シパタックン [ʔu˞ʃipatakkuŋ](押し開く) ともいう。チ˞カグル˥ヌ　ミ˞ドーン˥ッふァー　˥マタ　ウ˞シパタッキティ˥＜パ˞タッキティ˥＞　ビ˞ルンダ˥　ウ˞シパタッキラン˥＜パ˞タッカン＞　ヨーニ　ナ˞ラー˥シバ [ʧi˞kaguru˥nu mi˞doːŋ˥ffaː˥mata ʔu˞ʃipatakkiti˥ ＜pa˞takkiti˥＞ bi˞runda˥ ʔu˞ʃipatakkiraŋ˥ ＜pa˞takkaŋ＞ joːni na˞raː˥ʃiba](近頃の女の子は股を押し開いて座るから、押し開かないように教えなさいよ)。

ウ˞シピッツァ˥スン [ʔu˞ʃipittsa˥suŋ] 【他動】押しつぶす。˞ヌン˥ユン　ッ˞サン˥ユン　ウ˞ヤビ˥ヌ　˥シミシー　ウ˞シピッツァ˥スン [˞nuŋ˥jujun s˞saŋ˥juŋ ʔu˞jabi˥nu ˥ʃimiː ʔu˞ʃipittsa˥suŋ](蚤も虱も親指の爪で押し押しつぶす)。

ウ˞シマー˥サー [ʔu˞ʃimaː˥saː] 【名】伝統的な女性の着物の着方。帯を締めないで着物の前身ごろの端を片方に引き寄せて、下ばかまの紐に押し込んで着る着方。沖縄の˥ウシンチー [˥ʔuʃintʃiː] に同じ。˥アッパター　˞ヨイシ˥ヤー　˞オー˥ル　˥ピンマー　ウ˞シマー˥サー　˞シール　オーッタ [˥ʔappataː ˞joiʃi˥jaː ˞ʔoː˥ru ˥pimmaː ʔu˞ʃimaː˥saː ˞ʃiːru ʔoːt˥ta](お婆さんたちは祝儀の家に行かれる時はウシマーサーをして行かれた)。

ウ˞シマースン [ʔu˞ʃimaːsuŋ] 【他動】取り仕切る。切り回す。追い回す。急き立てる。「押し回す」の義。サ˞クシヌ˥ル　˥アイニ　˞ウシトゥ˥ッふァンケー　ギ˞チ　シー˥　ウ˞シマーシェーティ˥ル　キ˞ナイヤー˥　タティ　˞ベー˥ル [sḁ˞kuʃinu˥ ʔaini ˞ʔuʃi̥tu˥ffaŋkeː gi˞ʧi ʃiː˥ ʔu˞ʃimaːʃeːti˥ru ki˞naijaː˥ tḁti ˞beː˥ru](長男があのように弟妹達に指図して取り仕切り、切り回しながら家庭生活を打ち立てている＜家庭を立てている＞)。ウ˞シマーサヌ [ʔu˞ʃimaːsanu](取り仕切らない)。シ˞ザ˥ヌ　ウ˞シマース˥カー　˞ウシ˥トゥン　ウ˞シマースン [ʃi˞ʤa˥nu ʔu˞ʃimaːsɥ˥kaː ˞ʔuʃi̥˥tuŋ ʔu˞ʃimaːsuŋ](兄が取り仕切るなら弟も取り仕切る)。ウ˞シマース˥　プ˞スヌ　ブー˥カー　˞ダンダン˥シ　ウ˞シマーシ [ʔu˞ʃimaːsu˥ pɥ˞sunu buː˥kaː ˞dandaŋ˥ʃi ʔu˞ʃimaːʃi](取り仕切る人がいたらさっさと取り仕切れ)。

ウ˞シマキ [ʔu˞ʃimaki] 【名】牧場。「牛牧」の義。伊武田地区のフ˞ク˥ヌマキ [ɸɥ˞ku˥numaki](福浜の牧) と、そこから分かれた、サ˞キンダヌマキ [sḁ˞kindanumaki](崎田の牧)、トゥ˞ムルマキ [tu˞murumaki](友

利山の牧。上原にあった牧場) があったという。サ˞キンダヌマケー˺　フ˞クˀヌマケーラ　バ˞カˀリティ　ス˞クˀローッタツォー [sḁ˞kindanumakeːˀ ɸu̥˞kuˀ numakeːra ba˞kaˀriti su̥˞kuˀroːttatsoː](崎田の牧は福浜の牧から分かれて作られたそうだ)。

ウ˞シマギルン [ʔu˞ʃimagiruŋ] 【他動】押し曲げる。強く曲げる。ウ˞シ [ʔu˞ʃi](押し) は強意の接頭語。ク˞ヌ　キーヌˀユ˞ダバˀ　ウ˞シマギルンティ　スンドゥˀ　マ˞ギララヌ [ku˞nu kiːnuˀ ju˞dabaˀ ʔu˞ʃima-girunti sunduˀ ma˞giraranu](この木の枝を押し曲げようとするが、曲げられない)。ウ˞シマギルˀ　クトゥ　ナ˞ランˀカー　ウ˞シマギランドーˀシ　ヌ˞バˀシバ [ʔu˞ʃimagiruˀ ku̥tu na˞raŋˀka: ʔu˞ʃimagirandoːˀʃi nu˞baˀʃiba](押し曲げることが出来なければ、押し曲げないで伸ばしなさいよ)。

ウ˞シマグン [ʔu˞ʃimaguŋ] 【他動】押し曲げる。「押し・曲ぐ (下二段)」の四段動詞へ転訛したもの。タ˞キヌˀカー　ウ˞シマギティˀ　カ˞グˀ　フミバ [tḁ˞kinuˀka: ʔu˞ʃimagitiˀ ka˞guˀ ɸumiba](竹の皮を押し曲げて篭を編みなさいよ)。ク˞マˀヌ　ˀトンラ　ウ˞シマギˀ　ミサカー　ウ˞シマグンドゥˀ　ブ˞シˀヌ　˞ゴーˀラーンダ　ウ˞シマグˀ　クトー　ナ˞ラˀヌ [ku˞maˀnu ˀtonra ʔu˞ʃimagiˀ misaka: ʔu˞ʃimagunduˀ bu˞ʃiˀnu ˞goːˀraːnda ʔu˞ʃimaguˀ ku̥to: na˞raˀnu](ここの所から押し曲げてよければ押し曲げるが、竹の節が多いので押し曲げることは出来ない)。ˀクマーラ　ウ˞シマゲーˀ　ミサムヌ [ˀkumaːra ʔu˞ʃimageːˀ misamunu](ここから押し曲げれば良いのに)。ウ˞シマギˀバ [ʔu˞ʃimagiˀba](押し曲げよ)。

ウ˞シムドゥスン [ʔu˞ʃimudusuŋ] 【他動】押しもどす。ヤ˞ナˀムノー　ウ˞シムドゥシˀ　パ˞ラˀシ [ja˞naˀmuno: ʔu˞ʃimuduʃiˀ pa˞raˀʃi](悪霊は追っ払いなさい < 押しもどして行かせなさい >)。ウ˞シムドゥサランˀ　クトー　˞ナーンˀユンダ　ウ˞シムドゥˀス　˞シーカタ　カンガイˀリ [ʔu˞ʃimudusaraŋˀku̥to: ˞naːŋˀjunda ʔu˞ʃimuduˀsu ˞ʃiːkata kaŋgaiˀri](押しもどされないことは無いから、押しもどす仕方を考えなさい)。ウ˞シムドゥシェーˀ　ミサムヌ [ʔu˞ʃimuduʃeːˀ misamunu](押しもどせばよいのに)。ウ˞シムドゥシ [ʔu˞ʃimuduʃi](押しもどせ)。

ウ˞シˀモーモー [ʔu˞ʃiˀmoːmoː] 【名】牛の幼児語。˞モーˀモー [˞moːˀmoː](牛。幼児語) ともいう。

ウ˞シユーシルン [ʔu˞ʃijuːʃiruŋ] 【自動・他動】押し寄せる。˞ナイˀヌ　ウ˞クリˀルカー　˞ナンˀヌ　ウ˞シユーシルンˀツォー [˞naiˀnu ʔu˞kuriˀruka: ˞nanˀnu ʔu˞ʃijuːʃirunˀtsoː](地震が起こると津波が押し寄せるそうだ)。パ˞トゥˀマー　˞ナンˀマー　ウ˞シユーシラヌˀティ　ア˞ザリブー [pḁ˞tuˀma: ˞namˀma: ʔu˞ʃijuːʃiranuˀti ʔa˞ʤaribuː](鳩間島へは津波は押し寄せないといわれている)。ウ˞シユーシˀ　クン [ʔu˞ʃijuːʃiˀ kuŋ](押し寄せてくる < 押し寄せ来る >)。˞ナンˀヌ　ウ˞シユーシルˀカー　˞デーˀジ˞ゲˀラ [˞nanˀnu ʔu˞ʃijuːʃiruˀka: ˞deːˀʤi˞geˀra](津波が押し寄せたら大変だよ)。˞ニームˀチェー　ˀクマンター　ウ˞シユーシリ [˞niːmuˀʧeː ˀkumanta: ʔu˞ʃijuːʃiri](荷物はこちら側へ押し寄せなさい)。

ウ˞シユースン [ʔu˞ʃijuːsuŋ] 【自動・他動】押し寄せる。「押し寄す < 下二段活用 >」の四段活用化したもの。ウ˞シユーシルン [ʔu˞ʃijuːʃiruŋ](押し寄せる) と同じ。ウ˞シユーサヌ [ʔu˞ʃijuːsanu](押し寄せない)。ウ˞シユーシˀクン [ʔu˞ʃijuːʃiˀkuŋ](押し寄せてくる)。ウ˞シユースˀ　クトー　˞ナーˀヌ [ʔu˞ʃijuːsuˀ ku̥to: ˞naːˀnu](押し寄せることはない)。ウ˞シユーシェーˀ　ミサムヌ [ʔu˞ʃijuːʃeːˀ misamunu](押し寄せればよいのに)。ウ˞シユーシˀバ [ʔu˞ʃijuːʃiˀba](押し寄せなさいよ)。ク˞リンˀ　ク˞マーˀ　ウ˞シユースン [ku˞riŋˀ ku˞maːˀ ʔu˞ʃijuːsuŋ](これもこちらへ押し寄せる)。˞トーホクヌ　ウージシンヌˀ　アトゥナー　˞ウーナンˀヌ　ウ˞シユーシˀキー　ムー˞ル　サンギˀパリ　˞ナーンˀシェン [˞toːhokunu ʔuːʤiʃinnuˀ ʔatuna: ˞ʔuːnanˀnu ʔu˞ʃijuːʃiˀki: muː˞ru saŋgiˀpari ˞naːŋˀʃeŋ](東北の大地震の後に、大津波が押し寄せてきて、総てを押し流して < 引きずり去って行って > しまった)。

ウシュン˞ガナˀシェーマイ [ʔuʃuŋ˞ganaˀʃeːmai] 【名】琉球国王様。ˀウシュ [ʔuʃu](御 < 接頭辞 >・主 < 国王 >)・˞ガナˀシ [˞ganaˀʃi](愛称の接尾語。「加那志」)・ˀマイ [ˀmai](敬称の接尾語 < 前 >) の語構造を有する複合語。ウシュン˞ガナˀシェーマイヤー　ウ˞キˀナーナール　˞オーˀル [ʔuʃuŋ˞ganaˀʃeːmaija: ʔu˞kiˀnaːnaːru ˞ʔoːˀru](御主加那志前 < 国王様 > は沖縄にいらっしゃる < おわす。御座す >)。

ウ˞ジラˀニー [ʔu˞ʤiraˀniː] 【名】琉球黒檀 (黒木) の芯に黄みがかった白の綾が混じっているもの。三味線の棹 (ウディ) に最高の素材となる。ウ˞ジラˀニーシ　˞サンシンヌˀ　ウディ　ス˞クˀルカー　イッ˞ケン　ナールンˀツォー [ʔu˞ʤiraˀniːʃi ˞saŋʃinnuˀ ʔudi su̥˞kuˀruka: ʔik˞ken naːrunˀtsoː](琉球黒檀のウジラニーで三味線の棹を造ると非常に鳴るそうだ)。

ウ˞ジ˜ル [ʔuˈʤiˈru] 【名】柴。小枝。小さな雑木。枯れ木の小枝を切って燃料としたもの。鳩間島には山がないので、原野のススキの叢の中に桑や蕃石榴 (グワバ) 等の潅木が自生しているのを刈り取って枯らせ、燃料として利用したもの。枯れススキと混ぜて燃やすと火持ちがいい。ウ˞ジ˜ル ˜スリキー タ˞ム˜ヌ ˞シー˜バ [ʔuˈʤiˈru ˜suriki: taˈmu˜nu ˞ʃiː˜ba](枯れた柴や小枝を刈ってきて薪にしなさいよ)。

ウ˞ジ˜ルタムヌ [ʔuˈʤiˈrutamunu] 【名】柴の薪、枯れ小枝の薪。ヤ˞キバイ [jaˈkibai](焼け跡の小枝) ともいう。

ウ˞シンザスン [ʔuˈʃiʔnʤasuŋ] 【他動】押し出す。押して外へ出す。フ˞ク˜ル ˞シンピリティ˜ ナ˞カヌ˜ムヌ ウ˞シンザスンティ スンドゥ˜ ウ˞シンザサラン˜サー [ɸu̥ˈkuˈru ˞ʃimpiritiˈ naˈkanuˈ munu ʔuˈʃiʔnʤasuntiˈ sunduˈ ʔuˈʃiʔnʤasaranˈsaː](袋を手で潰して中のものを押し出そうとするが、押し出されないさ)。

˜ウシンチー [˜ʔuʃintʃiː] 【名】婦人の着物の着け方。着物の前の端を下袴の紐に差し込んで着る着方。琉舞に置けるコスチュームの型。˞クスクン [˞kusu̥kuŋ](差し込む) ともいう。ウ˞キナーブドゥ˜ル ˞ソー˜ル ˜プソー ˜ウシンチール ˞ソーッ˜タ [ʔuˈkinaːbudu ˜ru ˞soː˞ru ˜pu̥soː ˜ʔuʃintʃiːru ˞soːtˈta](沖縄舞踊をされる時はウシンチーをされた)。

ウ˞シン˜マ [ʔuˈʃiʔmˈma] 【名】牛馬。プ˞スバ˜ ウ˞シンマ˜ヌ ˜カタチニ ヤ˞ナシゥカイ シーベー [pu̥ˈsubaˈ ʔuˈʃiʔmmaˈnu ˜kạtatʃini jaˈnaʔasi̥kai ʃiːbeː](人を牛馬のようにひどい扱い方をしている)。

˜ウズ [˜ʔuʤu] 【名】布団。夜具。カ˞ビ˜ムヌ [kaˈbi ˜munu](被り物) ともいう。˞ピー˜ヤンダ ˜ウズ ン˞ザ˜シ ˜カビバ [˞piː˜janda ˜ʔuʤu ʔn˞ʤaˈʃi ˜kabiba](寒いから布団を出して掛けなさい < 被りなさい > よ)。˜ウゾー カ˞バ˜ヌ [˜ʔuʤoː ka˞baˈnu](布団は被らない)。˜ウズン ˞ナー˜ヌ [˜ʔuʤun ˞naː˜nu](布団もない)。˞ピー˜ヤカー ˜ウズ ン˞ザ˜シ ˜カビバ [˞piː˜jaka: ˜ʔuʤu ʔn˞ʤaˈʃi ˜kabiba](寒かったら布団を出して被りなさいよ)。

ウ˞スーン [ʔuˈsuːŋ] 【他動】1おそう (襲う)。のしかかる。悪霊が押し被さるようにとりつく。「襲、オソフ・ツグ」『類聚名義抄』の転訛したもの。˜クマナー マ˞ジムヌヌ˜ プ˞ス˜ ウ˞スーンティ˜ ス˞クタヌ˜ ウ˞ソーンバント ナー [˜kumana: ma˞ʤimununu˜ pu̥ˈsu˜ ʔuˈsuːntiˈ su̥ˈkutanu˜ ʔuˈsoːmbanˈ-naː](ここにはお化け <蠱物(マジモノ)> が人を襲うと聞いたが襲わないねえ)。ウ˞スイ ナー˜ヌ [ʔuˈsui naː˜nu](襲ってしまった)。ウ˞スー˜ クトー ˞ナー˜ヌ [ʔuˈsuː˜ ku̥to: ˞naː˜nu](襲うことはない)。ウ˞スイヤー˜ ミサムヌ [ʔuˈsuijaː˜ misamunu](襲えばいいのに)。ウ˞スイ˜バ [ʔuˈsuiˈba](襲えよ)。2着物の上から重ねて着る。カ˞サブン [kḁˈsabuŋ](重ねる) と同じ。˞ピー˜ヤバ ˞マー˜ プ˞スッ˜クビ ウ˞スイ˜(カ˞サビ˜) キ˞シ˜バ [˞piː˜jaba ˞maː˜ pu̥ˈsukˈkubi ʔuˈsuiˈ(kaˈsabiˈ) ki̥ˈʃiˈba](寒いので、もう一枚 < 一着 > 重ねて着なさいよ)。

˞ウスクン [˞ʔusu̥kuŋ] 【他動】押す。押し付ける。押える。「おしつく (下二段活用)」の四段活用化したもの。˞ワー ウスク˜カー ˞バン˜ヌン ˞ウスクン [˞wa: ʔusu̥kuˈka: ˞banˈnuŋ ˞ʔusu̥kuŋ](君が押し付けたら私も押し付ける)。˜アイニ ˞ウシキ˜プサカー ˞ウシキ˜バ [˜ʔaini ˞ʔuʃi̥kiˈpu̥saka: ˞ʔuʃi̥kiˈba](あんなに押し付けたければ押し付けなさいよ)。˞ウスク プスヌ˜ ブ˞ラーンダ ワーンツァン ウシケー˜ ミサムヌ [˞ʔusu̥ku pu̥sunuˈ bu˞raːnda waːntsaŋ ʔuʃi̥keː˜ misamunu](押し付ける人がいないから君だけで < さえ > も押し付ければよいのに)。ク˞マ˜ヌ トン ˞ウーカン˜ヨーニ ギッ˞ティ ウシキ [kuˈmaˈnu ˜toŋ ˞ʔuːkaŋˈjoːni gitˈti ʔuʃi̥ki](ここの所を動かないようにぎゅっと押し付けなさい)。ク˞リ ウシキ フィーリ [kuˈri ʔuʃi̥ki ffiːri](これを押さえてくれ)。˞ウスクンティ˜ ウムイ˞ベー˜ヌンドゥ ˞タンガ˜シェー ˞ウスカラヌ [˞ʔusu̥kuntiˈ ʔumuiˈbeː˜nundu ˞taŋgaˈʃe: ˞ʔusu̥karanu](押さえよう < 押さえる > と思っているが、一人では押さえられない)。˞ウスク˜ プ˞ソー パー˜ク ˞ウシキ [˞ʔusu̥kuˈ pu̥ˈso: paː˜ku ˞ʔuʃi̥ki](押さえる人は早く押さえろ)。˞マー˜ビン イ˞ジン˜ジ ˞ウシケー˜ ミサムヌ [˞maː˜biŋ ʔiˈʤinˈʤi ˞ʔuʃi̥keː˜ misamunu](もっとしっかり < 力を出して > 押さえればよいのに)。

ウ˞スックミルン [ʔuˈsukkumiruŋ] 【他動】一つに纏(マトメ)める。一つに押し込める。ウ˞スックミルンティ˜ ウムーカー ウ˞スックマリン [ʔuˈsukkumirunti˜ ʔumuːka: ʔuˈsukkumariŋ](一つに押し込めよう < 纏めよう > と思えば押し込められる)。˞ピー˜チナー ウ˞スックミル˜ クトー ム˞チ˜キサンティ ウ˞ムー˜ヌ ナルカー ウ˞スックメー˜ ミサムヌ [˞piː˜tʃina: ʔuˈsukkumiˈru ˜ku̥to: muˈtʃiˈkisanti ʔuˈmuː˜nu ˜naruka: ʔuˈsukkumeː˜ misamunu](一つに纏(マト)める < 押し込める > ことは難しいと思うが、出来た

ら纏めれば＜押し込めれば＞いいのに)。ウ˞スックミリ [ʔuˠsukkumiri](纏め＜押し込め＞ろ)。

ウ˞スックムン [ʔuˠsukkumuŋ] 【他動】一つに纏(マト)める。一つに押し込める。?uˠi(接頭語。押し。＜強意＞)+suˠkuˢmuN(竦(スク)める。小さく纏める) → [ʔuˠsukkumuŋ](押し込める。おし纏める) のように融合変化したものか。˞ピーˢチナ ウ˞スックミティ サンˢミン ˞シーˢバ (一つに纏めて計算しなさいよ)。˞ピーˢチナー ウ˞スックマヌ [ˠpiːˢtʃinaː ʔuˠsukkumanu](一つには纏めない)。ウ˞スックムˢクトゥ [ʔuˠsukkumuˢkṵtu](纏むこと。押し込めること)。ウ˞スックミ [ʔuˠsukkumi](纏めろ。押し込めろ)。ウ˞スックメーˢ ミサムヌ [ʔuˠsukkumeːˢ misamunu](纏めればよいのに)。ウ˞スックミˢ プサン [ʔuˠsukkumiˢ pṵsaŋ](纏めたい。押し込めたい)。

ウ˞スッˢふァイ [ʔuˠsufˢfai] 【名】ふろしき (風呂敷)。物を包むのに用いる方形の布。ウ˞スッˢふァイナ ッ˞スˢミティ ˢムティパリバ [ʔuˠsufˢfaina sˠsuˢmiti ˢmutipariba](風呂敷に包んで持って行きなさいよ)。ウ˞スッˢふァイナー ˢキンカー ッ˞スˢミティ ˢムティパリ [ʔuˠsufˢfaina ˢkiŋkaː sˠsuˢmiti ˢmutipari](風呂敷に衣類＜衣・皮＞を包んで持って行きなさい)。?ucukwii(風呂敷)『沖縄語辞典』の転訛。「この?u は＜御＞で、cukwii は＜ちきり＞(巾)の転訛したもの」(『宮良当壮全集 15 巻』) という。

ウ˞スッˢふァイ ˢカブン [ʔuˠsufˢfai ˢkabuŋ] 【連】風呂敷を被る。日除け、雨避け用にかぶった。婦女は畑作業の行き帰りに芋類を運ぶにも頭上運搬を常としたから頭髪の汚れを防ぐために、常に風呂敷や手拭を被った。ウ˞スッˢふァイ ˢカビティル ˢティルン ˞バーˢキン ス˞ブˢルナ カ˞ミˢル˞ダー [ʔuˠsufˢfai ˢkabitiru ˢtirum ˞baːˢkin suˠbuˢruna ka ˠmiˢruˠdaː](風呂敷を被ってからトウヅルモドキ製笊も竹笊も頭に載せて運ぶのだよ)。

ウ˞スッˢふァイッスン [ʔuˠsufˢfaissuŋ] 【名】風呂敷包み。ク˞ヌˢ ウ˞スッˢふァイッスンナー ˞ヌーˢヌ ˞ペーˢリ ˞ベーˢワ [kuˠnuˢ ʔuˠsufˢfaissunnaː ˠnuːˢnu ˠpeːˢri ˠbeːˢwa](この風呂敷包みには何が入っているか)。ウ˞スッˢふァイッスン ˞ピーヤーˢティ ˞マーˢ パル ˞カンˢガイヤー [ʔuˠsufˢfaissum ˠpiːjaːˢti ˠmaːˢ paru ˠkaŋˢgaijaː](風呂敷包みを手に持って何処へ行くつもりか＜考えか＞)。

ウ˞ズˢヌ ˢアヤ [ʔuˠʤuˢnu ˢʔaja] 【連】布団の模様。市松模様。布団や風呂敷の型染め模様に用いられた。四角形を組み合わせたデザイン。ク˞ヌˢ ウ˞ズˢヌ ア˞ヤˢヌ ˞カイˢヤワ˞ナー [kuˠnuˢ ʔuˠʤuˢnu ʔaˠjaˢnu ˠkaiˢjawaˠnaː](この布団の模様が美しいねえ)。

ウ˞ズˢヌ ˢカー [ʔuˠʤuˢnu ˢkaː] 【連】布団の外皮。布団綿を包んでいる布。外皮。ウ˞ズˢヌ ˢカー ˢパギティ ア˞ライˢバ [ʔuˠʤuˢnu ˢkaː ˢpagiti ʔaˠraiˢba](布団の外皮を剥いで洗いなさいよ)。

ウ˞ズˢヌ ˢバタ [ʔuˠʤuˢnu ˢbata] 【連】布団に入れる綿、綿屑。ウ˞ズˢヌ バ˞タˢヌ ˢンジキー ˞ベーˢバ ウ˞ズˢヌˢカー ス˞クˢライ [ʔuˠʤuˢnu baˠtaˢnu ˢʔnʤikiː ˠbeːˢba ʔuˠʤuˢnu kaː sṵˠkuˢrai](布団の綿が出てきているので布団皮を繕いなさい)。

ウ˞スバスン [ʔuˠsubasuŋ] 【他動】1お椀や容器類を伏せる。マ˞カˢロー ア˞ライティˢ マ˞カˢルダナナ ウ˞スバスンティ スンドゥˢ シ˞バーˢヌ ウ˞スバサラヌ [maˠkaˢroː ʔaˠraitiˢ maˠkaˢrudanana ʔuˠsubasunti sunduˢ ʃiˠbaːˢnu ʔuˠsubasaranu](お椀を洗ってお椀棚に伏せようとするが狭くて伏せられない)。ˢクナー ウ˞スバシˢ ミサカー ウ˞スバスˢ クトー ˢナルン [ˢkunaː ʔuˠsubaʃiˢ misakaː ʔuˠsubasuˢ kṵtoː ˢnaruŋ](ここに伏せてよければ伏せることは出来る)。ˢクナー ウ˞スバシェーˢ ミサムヌ [ˢkunaː ʔuˠsubaʃeːˢ misamunu](ここに伏せればいいのに)。˞パーˢク ウ˞スバシˢバ [ˠpaːˢku ʔuˠsubaʃiˢba](早く伏せろよ)。2頭を下げさせる。俯かせる。ス˞ブˢル ウ˞スバシティˢ グリー シ˞ミリ [suˠbuˢru ʔuˠsubaʃi̥tiˢ guriː ʃiˠmiri](頭を下げてお礼をさせなさい)。

ウ˞スˢバニン [ʔuˠsuˢbaniŋ] 【名】「お側人」の義。正式のサ˞カサ [sḁˠkasa](司) ではなく、司やバ˞キサカˢサ [baˠkisakaˢsa](脇司。司の補佐役) の側に付添ってˢウガン [ˢʔugaŋ](御願。御嶽) の信仰を許された、セジ (霊力) の高い人。豊年祭や結願祭などの祭祀の際に、サカサ (司) やバ˞キサカˢサ及びティ˞ジリˢビー (男性神職者) を補佐する。˞プールナーˢヤ ˞メーメーヌˢ ピ˞キヌˢ ウガンナー ウ˞スˢバニンヌン ˞オーˢルン [ˠpuːrunaːˢja ˠmeːmeːnuˢ pi̥ˠkinuˢ ʔuganna: ʔuˠsuˢbaninnuŋ ˠʔoːˢruŋ](豊年祭には各自のヒキの御願には、ウスバニン＜お側人＞も居られる)。

ウ˞スˢバ ˢユシ [ʔuˠsuˢba ˢjuʃi] 【連】「お側に寄せて」の義。祈願＜神願い＞をする際に、˞神様のお側近くに寄せて祈願させてください」と祈るのが一定の形式となっている。〜˞ミートゥクルヌ カンヌ

˺マイ　ドー˹ディン˺　シ˹キウキ˺　トゥ˹リ˺ウキ　タ˹ブ˺ローレーティ　ウ˹ス˺バ　˺ユシ　ウ˹ガマ˺リ　タ˹ブ˺ローリ [～˹mi:tukurunu kannu˺mai do:˹din˺ ʃi̥˹ki?uki˺ tu˹ri˺?uki ta˹bu˺ro:re:ti ?u˹su˺ba ˺juʃi ?u˹gama˺ri ta˹bu˺ro:ri](～三ヶ所の神様、どうぞお聞き届け、取り受け賜って、神様のお側近くに寄せられて、私どもに拝まれてください＜賜りませ＞)。

ウ˹スブン [?u˹subuŋ] 【自動】1ふす (伏す)。うつぶす。うつむく (俯く)。頭を下げる。˺ヌンティ　ナー˹イ˺　ウ˹スビ　ベー˺ワ [˺nunti na:˹i˺ ?u˹subi be:˺wa](どうして、ただじっと俯いて＜頭を垂れて＞いるのか)。˹ワー˺　ウ˹スブ˺カー　˹バン˺ヌン　ウ˹スブン [˹wa:˺ ?u˹subu˺ka: ˹ban˺nuŋ ?u˹subuŋ](君が俯く＜頭を垂れる＞なら私も俯く＜頭を垂れる＞)。˺バー　ウ˹スバヌ˺[˺ba: ?u˹subanu](私は俯か＜頭を垂れ＞ない)。˹マー˺ビン　ウ˹スベー˺　ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ?u˹sube:˺ misamunu](もっと俯けば＜頭を垂れたら＞よいのに)。˹マー˺ビン　フ˹カーフカー˺シ　ウ˹スビ˺バ [˹ma:˺biŋ ɸu̥˹ka:ɸu̥ka:˺ʃi ?u˹subi˺ba](もっと深々と俯け＜頭を垂れよ＞)。2しゃがむ。俯きしゃがむ。˹キーヌユダ˺ヌ　ッ˹サーラ˺ラ　ウ˹スビティ˺　フ˹キ˺パリバ [˹ki:nujuda˺nu s˹sa:ra˺ra ?u˹subiti˺ ɸu̥˹ki˺ pariba](木の枝の下から俯きしゃがんで潜り抜けていきなさいよ)。

˺ウスマイ [˺?usumai] 【名】お祖父さん。祖父、老翁の敬称。首里方言では、「平民の祖父」の義。石垣方言では士族の「祖父」の義。語源的には「御主前」の転訛したもの。˹イー˺ネナー　シ˹ラ˺ガーウスマイヌ　˹オーッ˺タン [˹?i:˺nena: ʃi˹ra˺ga:?usumainu ˹?o:t˺taŋ](西隣の家に白髪のお祖父さん＜金城二郎祖父さん＞がおられた)。本来は「御主前」の義で、石垣方言からの借用語。鳩間島では、それが渾名 (ニックネーム) に転用されて用いられた。カ˹ザケーヌ˺　ウスマイ [ka˹ʥake:nu˺ ?usumai](加治工家のウスマイ＜伊佐＞)。

ウ˹スマ˺サン [?u˹suma˺saŋ]【形】ものすごい。程度が甚だしい。ひどく恐ろしい。怖い。すさまじい。おぞましい。˹ウッ˺ツァー　フ˹ターロー˺　ウ˹スマ˺シスコー　˹アイ˺ヤン˹ダー [˹?ut˺tsa: ɸu̥˹ta:ro:˺ ?u˹suma˺ʃisu̥ko: ˹?ai˺jan˹da:](あれら＜彼ら＞二人は恐ろしいほど喧嘩したよ)。ウ˹キナー˺ヌ　˹クーシュー˺ヤ˺　ウ˹スマ˺サタンティ　ス˹クタヌ˺　イ˹クサ˺ヌ　˺アトゥナ　˹ギー˺ミルカー　˹フン˺トー　ウ˹スマサ˺ヌ　ミ˹ララン˺シェン [?u˹kina:˺nu ˹ku:ʃu:ja˺ ?u˹suma˺satanti su̥˹kutanu˺ ?i˹kusa˺nu ˺?atuna ˹gi:˺miruka: ˹ɸun˺to: ?u˹sumasa˺nu mi˹raraŋ˺ʃeŋ](沖縄の空襲はものすごく恐ろしく、おぞましかったと聞いたが、戦の後に尋ねて＜行って＞みると、本当に恐ろしくて直視でき＜見られ＞なかった)。˹ワー˺　ア˹ズ˺スコー　ウ˹スマ˺サー　˹ナー˺ヌ [˹wa:˺ ?a˹ʥu˺su̥ko: ?u˹suma˺sa: ˹na:˺nu](君がいうほどにはひどはない)。˺アイニ　ウ˹スマ˺サカー　ウ˹マー˺ヤ　パ˹ララ˺ヌ [˺?aini ?u˹suma˺saka: ?u˹ma:˺ja pa˹rara˺nu](あんなに恐ろしくひどければ、そこへは行けない)。アン˹デー˺カー　ウ˹スマ˺シ　ク˹トゥ˺ユン [?an˹de:˺ka: ?u˹suma˺ʃi ku̥˹tu˺juŋ](そんなら大変なことだわい)。「をそましや (をそろしき也、をそるしき事也)」(『混効験集』)。

ウ˹スマ˺シ [?u˹suma˺ʃi] 【連体】物凄い。大変な。˺アイ　ヤ˹ル˺カー　ウ˹レー˺メ　ウ˹スマ˺シ　˺クトゥナ˹リ˺　ブー [˺?ai ja˹ru˺ka: ?u˹re:˺ me: ?u˹suma˺ʃi ˺ku̥tu na˹ri˺ bu:](そんなら＜そうであるなら＞それはもう、大変なことになっている)。

ウ˹スマ˺シ　˺スコー [?u˹suma˺ʃi ˺su̥ko:] 【連】物凄いほど。非常なほど。恐ろしいほどに。「おぞまし」(『源氏物語』帚木) の転訛か。˹ダイヤー˺　ウ˹スマ˺シ　˺スコー　パ˹ニアガ˺リティ　˹カーラヌ [˹daija:˺ ?u˹suma˺ʃi ˺su̥ko: pa˹ni?aga˺riti ˹ka:ranu](値段が物凄いほどに跳ね上がって買えない＜買われない＞)。ウ˹スマ˺シスコー　プ˹スヌ˺　ア˹ツァ˺マリ˹ベー˺タ [?u˹suma˺ʃi ˺su̥ko: pu̥˹sunu˺ ?a˹tsa˺mari ˹be:˺ta](物凄く＜物凄いほど＞人が集まっていた)。ウ˹リヌ　イーッふァイ˺ヤー　ウ˹スマ˺シ　˺スコーッ˹ふァイス [?u˹rinu ?i:fai˺ja: ?u˹suma˺ʃi ˺su̥ko: ˹faisu](彼の飯食いは恐ろしい程にたくさん食う)。

ウ˹スマ˺シ　˺ムヌ [?u˹suma˺ʃi ˺munu] 【連】大変なこと。凄いこと。恐ろしいこと。˹タンガ˺シ　ウ˹ビ˺ヌ　シ˹グトゥ　スンティ˺　ウ˹スマ˺シ　ムヌ˹ツォー˺メー [˹taŋga˺ʃi ?u˹bi˺nu ʃi˹gutu sunti˺ ?u˹suma˺ʃi munu˹tso:˺me:](一人であれだけの仕事をするとて、大変なことだよもう)。

ウ˹ズマリン [?u˹ʥumariŋ]【自動】1埋まれる。埋められる。埋没される。ウ˹ズムン [?u˹ʥumuŋ](埋める) の未然形に受身、可能の助動詞˹リン [˹riŋ](れる) が付いて形成された派生動詞 (受身・可能動詞)。ナ˹カダ˺ヌ　˹ター˺ヤ　ア˹メリカ˺ヌ　ブ˹ルトーザー˺ヌ˺ミチ　˹コーシ˺　シケーター　˹ウーアミ˺ナードゥ˹ルヌ　サンガリ˺キー　ウ˹ズマリナーン˺シェン [na˹kada˺nu ˹ta:˺ja ?a˹merika˺nu bu˹ruto:ʥa:˺nu ˺mitʃi ˹ko:ʃi˺ ʃike:ta: ˹?u:?ami˺na: du˹runu saŋgari˺ki:

ʔu˞ʤumarinaːŋ˩ʃeŋ](船浦の仲田地区の田圃は、アメリカのブルトーザーが野原を削って道を作っておいたので、大雨に土砂が流されてきて田圃は埋まってしまった)。ウ˞ズマラヌ [ʔu˞ʤumaranu](埋まらない)。˞カン˩ヌ　マ˞シ˩ヌ　ウ˞ズマリ˩カー　ス˞ムヌ˩　マシン　ウ˞ズマリン [˞kan˩nu ma˞ʃi˩nu ʔu˞ʤumari˩kaː su˞munu˩ maʃiŋ ʔu˞ʤumariŋ](上の田圃が埋まったら下の田圃も埋まる)。ウ˞ズマル˩　ターン　˞ゴー˩ラー　ナ˞リ˩ス [ʔu˞ʤumaru˩ taːŋ ˞goː˩raː na˞ri˩su](埋まる田圃も多くなる)。˩アイブ　˞ター˩ヤ　ウ˞ズマリリ [˩ʔaibu ˞taː˩ja ʔu˞ʤumariri](あんな田圃は埋まれろ)。²可能動詞。埋めることが出来る。ク˞マン˩トンマー　˞バン˩ヌン　ウ˞ズマリン [ku˞man˩ tomma: ˞ban˩nuŋ ʔu˞ʤumariŋ](ここの所は私にも埋められる)。

ウ˞ズマルン **[ʔu˞ʤumaruŋ]** 【自動】埋まる。埋まれる。埋もれる。シ˞キ˩ヌ　ヤ˞ブリ˩ルカー　˞ター˩ヤ　ウ˞ズマルン [ʃi̥˞ki˩nu ja˞buri˩ruka: ˞taː˩ja ʔu˞ʤumaruŋ](堰が壊れると田は埋まれる)。ア˞メリカ˩ヌ　ブ˞ルトーザー˩ヌ　˩シキ　˞クーシター˩ル　ナ˞カダ˩ヌ　˞ター˩ヤ　ウ˞ズマレー˩ティ˞ダー [ʔa˞merika˩nu bu˞ruto:ʤaː˩nu ˩ʃi̥ki ˞kuːʃi̥taː˩ru na˞kada˩nu ˞taː˩ja ʔu˞ʤumareː˩ti˞daː](アメリカのブルトーザーが堰(セキ)を壊したので船浦の仲田の田圃は土砂に埋まれたそうだよ)。シ˞キ˩ヌ　˞クーラン˩シェーカー　˞ター˩ヤ　ウ˞ズマランブレー˩ル [ʃi̥˞ki˩nu ˞kuːraŋ˩ʃeːkaː ˞taː˩ja ʔu˞ʤumaram˩ bu˞reː˩ru](堰が壊れなかったならば、田圃は埋もれなかっただろうよ)。

ウ˞スミ˩ルン **[ʔu˞sumi˩ruŋ]** 【他動】薄める。サ˞ケー˩　ミ˞ジ˩シ　˞バイティ˩　ウ˞スミ˩ルンティ　ウ˞ムーン˩ドゥ　ウ˞スミラン˩ツォー [sḁ˞keː˩ mi˞ʤi˩ʃi ˞baiti˩ ʔu˞sumi˩runti ʔu˞muːn˩du ʔu˞sumiran˩tsoː](酒は水で割って薄めようと思うが、薄めないそうだ)。ウ˞スミ　˩ミサカー　ウ˞スミ˩ル　˩クトー　˩ナルン [ʔu˞su˩mi ˩misaka: ʔu˞sumi˩ru ˩ku̥to: ˩naruŋ](薄めて良ければ薄めることは出来る)。ウ˞スミ˩レー　˩ミサムヌ [ʔu˞sumi˩reː ˩misamunu](薄めれば良いのに)。˞マービ˩ン　ウ˞スミ˩リ [˞maː˩biŋ ʔu˞sumi˩ri](もっと薄めろ)。

ウ˞ズミルン **[ʔu˞ʤumiruŋ]** 【他動】埋める。˞ザイ˩ギー　ウ˞ズミルン [˞ʤai˩giː ʔu˞ʤumiruŋ](材木を埋める)。˞ザイギ˩バ　パ˞マ˩ナー　ウ˞ズミティスー˩カン　シ˞ミルンティ　ベー　[˞ʤaigi˩ba pa˞ma˩naː ʔu˞ʤumiti suː˩kaŋ ʃi˞mirunti beː](材木を浜に埋めて除虫のための潮乾をしようとしている)。˩クナー　ウ˞ズミラヌ [˩kunaː ʔu˞ʤumiranu](ここには埋めない)。フ˞クンキー˩　ウ˞ズミル˩カー　ドゥ˞ス˩ヌキーン　ウ˞ズミルン [ɸu̥˞kuŋkiː˩ ʔu˞ʤumiru˩kaː du˞su˩nukiːŋ ʔu˞ʤumiruŋ](福木を埋めるならドゥスヌ＜和名、オガタマノキ＞もうめる)。ウ˞ズミレー˩　ミサムヌ [ʔu˞ʤumireː˩ misamunu](埋めればよいのに)、ウ˞ズミリ [ʔu˞ʤumiri](埋めろ)。

ウ˞ス˩ムン **[ʔu˞su˩muŋ]** 【他動】薄める。ク˞ヌ˩　ア˞マザケー (˞パイロー)˩　ドゥク　˞シー˩ヤンダ　ミ˞ジ˩シ　˞バイティ˩　ウ˞ス˩ムンティ　˞スンドゥ˩　ウ˞スマン˩タンティン　˩ミサンツォー [ku˞nu˩ ʔa˞maʤake:(˞pairoː)˩ duku ˞ʃiː˩janda mi˞ʤi˩ʃi ˞baiti˩ ʔu˞su˩munti ˞sundu˩ ʔu˞suman˩tantim ˩misantsoː](この酢はひどく酸っぱいから水で割って薄めようとするが、薄めなくても良いそうだ)。˞マー˩ビン　ウ˞ス˩ミ　˩ミサカー　ウ˞ス˩ム　˩クトー　˩ナルン [˞maː˩biŋ ʔu˞su˩mi ˩misaka: ʔu˞su˩mu ˩ku̥to: ˩naruŋ](もっと薄めて良ければ薄めることはできる)。ウ˞ス˩メー　˩ミサムヌ [ʔu˞su˩me: ˩misamunu](薄めれば良いのに)。ウ˞ス˩ミバ [ʔu˞su˩miba](薄めよ)。

ウ˞ズムン **[ʔu˞ʤumuŋ]** 【他動】埋める。「うずむ(埋む) 下二段活用」の四段活用化したもの。˩クナー　ウ˞ズムン [˩kunaː ʔu˞ʤumuŋ](ここに埋める)。ク˞レー˩　ウ˞ズマヌ [ku˞reː˩ ʔu˞ʤumanu](これは埋めない)。˩クナール　ウ˞ズミ˩プサ [˩kunaːru ʔu˞ʤumi˩pu̥sa](ここにが＜ぞ＞埋めたい)。˩クナー　ウ˞ズム˩　クトー　ナ˞ラ˩ヌ [˩kunaː ʔu˞ʤumu˩ku̥to: na˞ra˩nu](ここに埋めることはできない＜ならぬ＞)。ウ˞ズメー˩　ミサムヌ [ʔu˞ʤumeː˩misamunu](埋めればよいのに)。˞パー˩ク　ウ˞ズミ [˞paː˩ku ʔu˞ʤumi](早く埋めろ)。

ウ˞スリラリ˩ルン **[ʔu˞surirari˩ruŋ]** 【自動】恐れられる。ウ˞スリ˩ルン [ʔu˞suri˩ruŋ](恐れる) の未然形に受身・可能の助動詞˞リ˩ルン [˞ri˩ruŋ](れる) が付いて形成された受身・可能の派生動詞。˞ワー　ヌー˩バ　˞シーティル˩　アイニ　プ˞スン˩　ウ˞スリラ˩リ　˞アーク˩ワ [˞waː nuː˩ba ˞ʃiːtiru˩ ʔaini pu̥˞suŋ˩ ʔu˞surira˩ri ˞ʔaːku˩wa](君は何をして、あのように他人に畏れられいるのか)。

ウ˞スリラ˩リン **[ʔu˞surira˩riŋ]** 【自動】恐れられる。ウ˞スリ˩ルン [ʔu˞suri˩ruŋ](恐れる) の未然形に受身・可能の助動詞˩リン [˩riŋ](れる) が付いて形成された受身・可能の派生動詞。プ˞ス˩　イ˞ズ˩カー　ナ˞クラー˩ンティ　プ˞スン˩　ウ˞スリラ˩リン˞ダー [pu̥˞su˩ ʔi˞ʤu˩kaː na˞kuraː˩nti pu̥˞suŋ˩ ʔu˞surira˩rin˞

da:](他人を叱ると、怖いといって他人に恐れられるよ)。

ウ˞スリ˥ルン [ʔu˞suri˥ruŋ] 【他動】畏れる。恐れる。畏れ敬う。˞カンプトゥ˥ケー　ウ˞スリラン˥カー　ナ˞ラント ダー [˞kampu̥tu˥ke: ʔu˞suriraŋ˥ka: na˞ranト da:](神仏は畏れ＜恐れ＞ないといけないよ)。˞ワーンドゥ　カンヌ˥マイ　ウ˞スリ˥ルカー　˞バン˥ヌン　ウ˞スリ˥ルン [˞wa:ndu˥ ˞kannu˥mai ʔu˞suri˥ruka: ˞ban˥nuŋ ʔu˞suri˥ruŋ](君が神様を畏れ＜恐れ＞敬うるなら私も畏れ＜恐れ＞敬う)。ウ˞スリ　˞ベー [ʔu˞su˥ri˞be:](畏れ＜恐れ＞敬っている)。ウ˞スリ˥ル　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [ʔu˞suri˥ru pu̥˞so:˥ bu˞ra:nu](畏れ＜恐れ＞る人はいない)。˞マー˥ビン　ウ˞スリ˥レー　˥ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ʔu˞suri˥re: ˥misamunu](もっと畏れ＜恐れ＞たらよいのに)。˞カンプトゥ˥ケー　ウ˞スリ˥リ [˞kampu̥tu˥ke: ʔu˞suri˥ri](神仏は畏れ＜恐れ＞ろ＜畏れ敬え＞)。

ウ˞スン [ʔu˞suŋ] 【自動】失せる。消える。「うす (失す) 下二段活用」の四段活用化したもの。ウ˞ヌシゥ˥ク　カ˞バッ˥サタ　カ˞ザン˥　ウ˞シナーン˥バン [ʔu˞nusi̥˥ku ka˞bas˥sata ka˞ʤaŋ˥ ʔu˞ʃina:m˥baŋ](あんなに香ばしかった匂いもう消えうせてしまったわい)。フ˞タ˥　ア˞キシキ˥ルカー　カ˞ザー˥　ウ˞スントダー [ɸu̥˞ta:˥ ʔa˞kiʃi̥˥ki˥ruka: ka˞ʤa:˥ ʔu˞sunト da:](蓋を開けておくと匂いがとぶ＜失せる＞よ)。

ウスン˞ガナ˥シェーマイ [ʔusuŋ˞gana˥ʃe:mai] 【名】琉球国王。国王様。「御主加奈志前」と表記される。ウシュン˞ガナ˥シェーマイ [ʔuʃuŋ˞gana˥ʃe:mai] ともいう。「加奈志」は尊敬の接尾語。「〜妻子見れば可奈之久＜カナシク＞めぐし〜。万、4106」の転訛で、「いとしい、かわいい」の意味から尊敬の意味に転訛したもの。「前」は尊敬の接尾語。カ˞ナ˥ケーヌ　ウ˞ヤ˥プスナー　ウスン˞ガナ˥シェーマイラ　˞ホービ˥　タ˞ボーラ˥レール　プ˞スヌ　オー˥ルン˞ダー [ka˞na˥ke:nu ʔu˞ja˥pu̥suna: ʔusuŋ˞gana˥ʃe:maira ˞ho:bi˥ ta˞bo:ra˥re:ru pu̥˞sunu ʔo:˥run˞da:](兼久家の先祖に国王様から褒美を賜った人がおられるよ)。

ウ˞ズンキ˥ルン [ʔu˞ʤuŋki˥ruŋ] 【自動】目が覚める。「Vozomi,u,ôda(ヲゾム) 眠りからさめる」『邦訳日葡辞書』、「目さむるといふ事を薩摩及肥前にてをぞむと云」(『物類称呼』) の「をぞむ」の転訛したもの。シ˞トゥム˥ティ　˞パイ˥サーラ　ウ˞ズン˥キ　˞ブーヌンドゥ˥　ア˞ムサ˥ヌ　ウ˞キララ˥ヌ [ʃi̥˞tumu˥ti ˞pai˥sa:ra ʔu˞ʤuŋ˥ki ˞bu:nundu˥ ʔa˞musa˥nu ʔu˞kirara˥nu](朝早くから目が覚めているが、気分が悪くて起きられない)。ニ˞ベー˥ラー　ウ˞ズンキラ˥ヌ [ni˞be:˥ra: ʔu˞ʤuŋkira˥nu](寝たら目覚めない)。ユ˞ナカ˥ナー　ヤー˞ディン˥　プ˞スム˥シェー　ウ˞ズンキ˥ルン [ju˞naka˥na: ja:˞dim˥ pu̥˞sumu˥ʃe: ʔu˞ʤuŋki˥ruŋ](夜中には必ず一度は目覚める)。ウ˞ズンキ˥ル　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [ʔu˞ʤuŋki˥ru pu̥˞so:˥ bu˞ra:nu](目覚める人はいない)。ウ˞ズンキ˥リ [ʔu˞ʤuŋki˥ri](目覚めよ)。ウ˞ズンキ˥レー　˥ミサムヌ [ʔu˞ʤuŋki˥re: ˥misamunu](目覚めればよいのに)。ウ˞ズンキ˥ルカー　˞サーリ˥　クー [ʔu˞ʤuŋki˥ruka: ˞sa:ri˥ ku:](目覚めたら連れて来い)。

ウ˞ズン˥クン [ʔu˞ʤuŋ˥kuŋ] 【自動】目が覚める。目覚める。「Vozomi,u,ôda. ヲゾミ、ム、ゥダ (おぞみ、む、うだ) 眠りからさめる.〜」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ムッ˞トゥ˥　ウ˞ズンカン˥バン＜ウ˞ズンキラン˥バン＞[mut˞tu˥ ʔu˞ʤuŋkam˥baŋ ＜ʔu˞zuŋkiram˥baŋ＞](一向に目覚めないわい)。キ˞サ˥ウ˞ズン˥キ　˞ベー [ki̥˞sa˥ ʔu˞ʤuŋ˥ki ˞be:](すでに目覚めている)。˞ワー˥　ウ˞ズン˥クカー　˞バン˥ヌン　ウ˞ズン˥クン [˞wa:˥ ʔu˞ʤuŋ˥kuka: ˞ban˥nuŋ ʔu˞ʤuŋ˥kuŋ](君が目覚めたら私も目覚める)。ユ˞ナカ˥ナー　ウ˞ズン˥ケー　˥ミサムヌ [ju˞naka˥na: ʔu˞ʤuŋ˥ke: ˥misamunu](夜中に目覚めればよいのに)。˞パー˥ク　ウ˞ズン˥キ [˞pa:˥ku ʔu˞ʤuŋ˥ki](早く目覚めろ)。ユ˞ナカー˥ラ　ウ˞ズン˥キティ　ウ˞ヤ˥ヌ　ク˞トゥ˥バ　˥ウムイ　ニ˞バランシェン [ju˞naka:˥ra ʔu˞ʤuŋ˥kiti ʔu˞ja˥nu ku̥˞tu˥ba ˥ʔumui ni˞baraŋʃeŋ](夜中から目が覚めて、親のことを思って眠れなかった)。ニ˞ベーラ˥　メー　ウ˞ズンカ˥ヌ [ni˞be:ra˥ me: ʔu˞ʤuŋka˥nu](いちど寝たらもう目覚めない)。ウ˞ズンキ　パヤー˥ン [ʔu˞ʤuŋki paja:˥ŋ](目覚めやすい＜早い＞)。ウ˞ズン˥ク　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [ʔu˞ʤuŋ˥ku pu̥˞so:˥ bu˞ra:nu](目覚める人はいない)。

ウ˞ズン˥クン [ʔu˞ʤuŋ˥kuŋ] 【自動】うずく (疼く)。ずきずきと痛む。フ˞ユ˥　ナルカー　キ˞ジヌ˥　パ˞ラシキティ˥　ウ˞ズン˥キ　˥ヤミ　ナ˞ラ˥ヌ [ɸu˞ju˥naruka: ki˞ʤinu˥ pa˞raʃi̥˥kiti˥ ʔu˞ʤuŋ˥ki ˥jami na˞ra˥nu](冬になると傷口が乾燥して突っ張り、疼いて痛んで＜病みて＞耐えられない＜仕方がない＞)。

ウ˞スンフカスン [ʔu˞suŋɸukasuŋ] 【他動】お椀を伏せる。下向きに置く。うつむか (俯か) せる。マ˞カ˥ルドンゴー　ア˞ザケーアザケー˥シ　ア˞ライティ˥　ウ˞スンフカシ˥シキ [ma˞ka˥rudoŋgo: ʔa˞ʤake:ʔaʤake:˥ʃi ʔa˞raiti˥ ʔu˞suŋɸu̥kaʃi˥ʃi̥ki](御碗類

は清潔に洗って伏せて置きなさい)。ウ˞スンフカサヌ [ʔu˞suŋɸu̥kasanu](伏せない)。˞イーマカ˜ル ウ˞スンフカス˜カー ˞スーマカ˜ルン ウ˞スンフカスン [˞ʔiːmaka˜ru ʔu˞suŋɸu̥kasu˜kaː ˞suːmaka˜ruŋ ʔu˞suŋɸu̥kasuŋ](飯碗を伏せるなら汁碗も伏せる)。˞パー˜ク ウ˞スンフカシ [˞paː˜ku ʔu˞suŋɸu̥kaʃi˜](早く伏せなさい)。ウ˞スンフクン [ʔu˞suŋɸu̥kuŋ](うつむく < 俯く >) の未然形に使役の助動詞˜スン [˜suŋ](せる) が付いて形成された使役の派生動詞˞俯かせる」の転訛したもの。マ˞カ˜ル ア˞ライティ˜ ウ˞スンフカスンティ˜ ウ˞ムーン˜ドゥ ウ˞スンフカス˜ マ˞カ˜ルダナヌ ˞ナー˜ヌ [ma˞ka˜ru ʔa˞raiti˜ ʔu˞suŋɸu̥kasunti˜ ʔu˞muːn˜du ʔu˞suŋɸu̥kasu˜ ma˞ka˜rudananu ˞naː˜nu](お椀を洗って伏せようと思うが、伏せるお椀棚がない)。ウ˞スンフカシ˜ プサカー ウ˞スンフカシェー˜ ミサムヌ [ʔu˞suŋɸu̥kaʃi˜ pu̥saka: ʔu˞suŋɸu̥kaʃeː˜ misamunu](伏せたければ、伏せれば良いのに)。

ウ˞スンフクン [ʔu˞suŋɸu̥kuŋ] 【自動】うつむく (俯く)。頭を垂れる。顔を下に向ける。ナー˞イ˜ ウ˞スンフキ ベーン˜ナ [naː˞i˜ ʔu˞suŋɸu̥ki beːn˜na](ずうっと俯いているな)。ヌ˞ビシジ˜ヌ ˜ヤミティ ウ˞スンフカラヌ [nu˞biʃiʤi˜nu ˜jamiti ʔu˞suŋɸu̥karanu](首筋が痛くて俯かれない)。˞ワー˜ ウ˞スンフク˜カー ˞バン˜ヌン ウ˞スンフクン [˞waː˜ ʔu˞suŋɸu̥ku˜kaː ˞ban˜nuŋ ʔu˞suŋɸu̥kuŋ](君が俯くなら私も俯く)。ン˞ベーマー˜ ウ˞スンフケー˜ ミサムヌ [ʔm˞beːmaː˜ ʔu˞suŋɸu̥keː˜ misamunu](俯けばよいのに)。ア˞バティ˜ ウ˞スンフキ˜バ [ʔa˞bati˜ ʔu˞suŋɸu̥ki˜ba](急いで俯けよ)。バ˞カ˜ヤカー プ˞ソー˜ ウ˞スンフクンドゥ˜ ウ˞レー˜ ウ˞スンフカヌ [ba˞ka˜jakaː pu̥˞soː˜ ʔu˞suŋɸu̥kundu˜ ʔu˞reː˜ ʔu˞suŋɸu̥kanu](恥ずかしかったら、人は俯くが、彼は俯かない)。ウ˞スンフキ ヤッ˜サン [ʔu˞suŋɸu̥ki jas˜saŋ](俯きやすい)。ウ˞スンフク˜ クトゥ [ʔu˞suŋɸu̥ku˜ ku̥tu](俯くこと)。˞マー˜ビン ウ˞スンフケー˜ ミサムヌ [˞maː˜biŋ ʔu˞suŋɸu̥keː˜ misamunu](もっと俯けばいいのに)。ン˞メーマー˜ ウ˞スンフキ˜バ [ʔm˞meːmaː˜ ʔu˞suŋɸu̥ki˜ba](少しは俯けよ)。

˜ウゾーバタ [˜ʔuʤoːbata] 【名】小腸。バ˞ター˜マ [ba˞taː˜ma](小腸) ともいう。˞オー˜ヌ ˜ウゾーバタシ ナ˞カミ˜ヌ ˞シームヌ˜ バ˞カシ [˞ʔoː˜nu ˜ʔuʤoːbataʃi na˞kami˜nu ˞ʃiːmunu˜ ba˞kaʃi](豚の小腸で中身の吸い物を炊きなさい < 沸かせ >)。

ウ˞ソーリルン [ʔu˞soːriruŋ] 【自動】 1襲われる。魔物に襲われる。ク˞ヌ キー˜ヌ ˞トー˜リクーカ ウ˞ソーリルントダー [ku˞nu kiː˜nu ˞toː˜rikuːka: ʔu˞soːrirunt˜daː](この木が倒れてきたら押しつぶされる < 襲われる > ぞ)。サ˞バン˜ ウ˞ソーリティル マーラソーッ˜タツォー [sa˞baŋ˜ ʔu˞soːritiru maːra-soːt˜tatsoː](鮫に襲われて亡くなられたそうだ)。ウ˞ソーリラン˜カヤー [ʔu˞soːriraraŋ˜kaja](襲われないかなあ)。ウ˞ソーリル˜ クトゥン˜アン [ʔu˞soːriru˜ ku̥tuŋ ˜ʔaŋ](襲われることもある)。ウ˞ソーレー˜ラー ˞デー˜ジ [ʔu˞soːreː˜raː ˞deː˜ʤi](襲われたら大変だ)。ウ˞ソーリリ [ʔu˞soːriri](襲われろ)。マ˞ジムン˜ ウ˞ソーリティ˜ ウ˞ヤー˜リ ˞ベー [ma˞ʤimuŋ˜ ʔu˞soːriti˜ ʔu˞jaː˜ri ˞beː](魔物に襲われてうなされている)。2押しつぶされる。˜ウナー ˞ベー˜ティ ヤ˞マイシ˜ヌ ˞クーリ˜ クーカー ウ˞ソーリルン˜ダー [˜ʔuna: ˞beː˜ti ja˞maʔiʃi˜nu ˞kuː˜ri ˜kuːka: ʔu˞soːrirun˜daː](そこに居て、山石が崩れてきたら襲われて押しつぶされるぞ)。

ウ˞ソーリン [ʔu˞soːriŋ] 【自動】襲われる。頭から覆いかぶされる。ウ˞ソーリルン [ʔu˞soːriruŋ](襲われる) ともいう。マ˞ジムヌン˜ ウ˞ソーリティ˜ ユ˞ナカサナ˜カ タ˞キ˜リ ˞ベー˜タ [ma˞ʤimunuŋ˜ ʔu˞soːriti˜ ju˞nakasana˜ka tḁ˞ki˜ri ˞beː˜ta](魔物に襲われて真夜中に魘(ウナ)されて <哮(タケ)って > いた)。˜サン ˜ムトゥカー ウ˞ソーラヌ [˜sam ˜mutuka: ʔu˞soːranu](サンを持つと魔物に襲われない)。ウ˞ソーリルン [ʔu˞soːriruŋ](襲われる) と同じ。˞ウンター˜ラ ˜ウズ カ˞バサ˜リ ウ˞ソーリティ˜ タ˞マ˜シヌギ ˞ベー˜タ [˞ʔuntaː˜ra ˜ʔuʤu ka˞basa˜ri ʔu˞soːriti˜ ta˞ma˜ʃinugi ˞beː˜ta](上から布団を被され、押さえつけられてびっくり < 魂抜け > していた)。ウ˞ソーラヌ [ʔu˞soːranu](襲われない)。˜ウナー ˞ベー˜ルカー マ˞ジムン˜ ウ˞ソーリントダー [˜ʔuna: ˞beː˜ruka: ma˞ʤimuŋ˜ ʔu˞soːrint˜daː](ここにいると魔物 <蠱物(マジモノ) > に襲われるぞ)。ウ˞ソーリル˜ プ˞ソー˜ キ˞マリブー [ʔu˞soːriru˜ pu̥˞soː˜ ki˞maribuː](襲われる人は決まっている)。ウ˞ソーリリ [ʔu˞soːriri](襲われろ)。

ウ˞ソー˜ン [ʔu˞soː˜ŋ] 【形】薄気味悪い。恐ろしい。「おずし」『源氏物語 < 浮舟 >』の転訛か。ウ˞マン˜ トンマー イッ˞ケナ˜ ウ˞ソー˜ン [ʔu˞man˜ tomma: ʔik˞kena˜ ʔu˞soː˜ŋ](そこの所は陰気で非常に薄気味悪い)。ウ˞マ˜ヌ ˜ミチェー ウ˞ソー˜ヌ ア˞ラカラ˜ヌ [ʔu˞ma˜nu ˜mitʃe: ʔu˞soː˜nu ʔa˞rakara˜nu](そこの道は陰気で薄気味悪くて歩いて行けな

い)。˞アイニ　ウ˞ソー˞カー　パ˞ル˞ナ [˞ʔaini ʔu˞so:˞ka: pa˞ru˞na](そんなに薄気味悪ければ行くなよ)。プ˞ス˞ヌ　ア˞ズ˞スコー　˞ナン˞ゾー　ウ˞ソーナー˞ヌ [pu̥˞sunu˞ ʔa˞ʤu˞su̥ko: ˞nan˞ʤo: ʔu˞so:na:˞nu](他人が言うほど、それほどには薄気味悪くない)。˞ユネン　˞ナルカー　˞シンダイ˞　ウ˞ソー˞ナルン [˞junen ˞nnaruka: ˞ʃindai˞ ʔu˞so:˞naruŋ](夕方になったら次第に薄気味悪くなる)。

˞ウタ [˞ʔuta] 【名】歌。民謡。歌謡。˞ウタ　イ˞ズン [˞ʔuta ʔi˞ʤuŋ](歌を歌う)。˞ウター　イ˞ズプスル˞　ヌシ [˞ʔuta: ʔi˞ʤupu̥suru˞ nuʃi](歌は歌う人が主である。歌う人の勝手である。歌い手の気持ちを込めて如何様にでも歌えばよいという意味)。ウ˞レー　サッ˞コー　˞ウタゾージ [ʔu˞re: sak˞ko: ˞ʔu-taʤo:ʤi](彼は非常に歌が上手 < 名歌手。歌上手 > である)。

ウ˞タイ [ʔu˞tai] 【名】命令。指図。仰せ。˞ウイヌ˞　プ˞スヌ˞　ウ˞タイ˞　ヤ˞ロー˞ルンダ　シゥ˞カン˞カー　ナ˞ラ˞ヌ [˞ʔuinu˞ pu̥˞sunu˞ ʔu˞tai˞ ja˞ro:˞runda si̥˞kaŋ˞ka: na˞ra˞nu](上司 < 上の人 > の命令であられる < ございます > から、聞かなければならない)。

˞ウタ　イ˞ジックナー [˞ʔuta ʔi˞ʤikkuna:] 【連】歌合戦。「歌・歌い競べ」の義。ム˞カ˞シェー　バ˞カー˞ムンケーヤ　シ˞キン˞ユーナー　ア˞ツァ˞マリティ　˞ウタ　イ˞ジックナー　ソーッ˞タツォー [mu˞ka ˞ʃe: ba˞ka:˞muŋke:ja ʃi̥˞kiŋ˞ju:na: ʔa˞tsa˞mariti ˞ʔuta ʔi˞ʤikkuna: so:t˞tatso:](昔は、若者たちは月夜に集まって歌合戦をされたそうだ)。

˞ウタ　イ˞ズン [˞ʔuta ʔi˞ʤuŋ] 【連】歌を歌う。˞ウタ　イ˞ジ˞プサン [˞ʔuta ʔi˞ʤi˞pu̥saŋ](歌を歌いたい)。ウ˞ブ˞クイシ　˞ウタ　イ˞ズン [ʔu˞bu˞kuiʃi ˞ʔuta ʔi˞ʤuŋ](大声で歌を歌う)。

ウ˞タイヨー˞ルン [ʔu˞taijo:˞ruŋ] 【他動】おっしゃる。仰せられる。命令される。指図される。˞ウイラ˞　ウ˞タイヨー˞ル　˞トゥー˞ル　˞サン˞カー　ナ˞ラ˞ヌ [˞ʔuira˞ ʔu˞taijo:˞ru ˞tu:˞ru ˞saŋ˞ka: na˞ra˞nu](お上から仰せられる通りにしなければならない)。˞アイブ　˞クトー　イッ˞カナ˞シ　ウ˞タイヨーラ˞ヌ [˞ʔaibu ˞kuto: ʔik˞kana˞ʃi ʔu˞taijo:ra˞nu](あんなことは決して仰せられない)。˞ゾー˞ノー　ン˞ザ˞シティ　˞ウイラ˞　ウ˞タイヨー˞ルンティン　ウ˞モー˞リン [˞ʤo:˞no: ʔn˞ʤa˞ʃiti ˞ʔuira˞ ʔu˞taijo:˞runtiŋ ʔu˞mo:˞riŋ](税金を出せとお上から命令される < 命ぜられる > とも思える)。ウ˞タイヨー˞レーラー　ン˞ザサン˞カー　ナ˞ラン˞パジ [ʔu˞taijo:˞re:ra: ʔn˞ʤasaŋ˞ka: na˞ram˞paʤi](仰せられたらば < 命令されたらば > 出さないとけないだろう < はずだ >)。ウ˞タイヨー˞リ [ʔu˞taijo:˞ri](仰せられよ)。神仏がお告げされる。˞ウイヌ˞　プ˞ソー˞　アイ　ウ˞タイヨールン˞ティ　ア˞ズヌ˞　ウヌ　˞トゥーロー　˞シーダケー　ナー˞ヌ [˞ʔuinu˞ pu̥˞so:˞ ʔai ʔu˞taijo:˞runti ʔa˞ʤunu˞ ʔunu ˞tu:ro: ˞ʃi:dake: na:˞nu](御上はそのようにおっしゃる < 命令される > というが、その通りにはやれそうにない)。˞アイヤー　ウ˞タイヨーラ˞ヌ [˞ʔaija: ʔu˞taijo:ra˞nu](そのようには命令されない)。ウ˞タイヨー˞リティ [ʔu˞taijo:˞riti](おっしゃって。命令されて)。ウ˞タイヨー˞ル　˞クトー [ʔu˞taijo:˞ru kuto:](命令されることは)。ウ˞タイヨー˞レー　˞ミサムヌ [ʔu˞taijo:˞re: ˞misamunu](命令なされば良いのに)。ウ˞タイヨー˞リ [ʔu˞taijo:˞ri](ご命令なされませ)。

ウ˞タガーリルン [ʔu˞taga:riruŋ] 【自動】疑われる。ウ˞タガウン [ʔu˞tagauŋ](疑う) の未然形に受身の助動詞˞リルン [˞riruŋ](れる) が付いて形成された派生動詞 (受身動詞)。˞ウナー　˞ベー˞ルカー　˞ワール˞　トゥレーティ　ウ˞タガーリルント ダー [˞ʔuna: ˞be:˞ruka: ˞wa:ru˞ ture:ti ʔu˞taga:rirunt-da:](そこに居ると君が取ったと疑われるぞ)。

ウ˞タガーリン [ʔu˞taga:riŋ] 【自動】疑われる。ウ˞タガウン [ʔu˞tagauŋ](疑う) の未然形に受身の助動詞 [˞リン](れる) が付いて形成された派生動詞 (受身動詞)。˞ワットゥ˞　マー˞ズン　ベー˞ルカー　バー˞バー˞キン　ウ˞タカガーリンダ˞　バー　パ˞ライ [˞wattu˞ ma:˞ʤum be:˞ruka: ba:˞ba:˞kiŋ ʔu˞taga:rinda˞ ba: pa˞rai](君と一緒にいると私まで疑われるから、私は行こうね)。

ウ˞タガイ [ʔu˞tagai] 【名】疑い。疑念。ノー˞ン　サンムヌ˞　ウ˞タガイ˞　カ˞キラリ˞ル　ワ˞キ˞ヌ　ア˞ル˞ワ [no:˞n sammunu˞ ʔu˞tagai˞ kḁ˞kirari˞ru wa˞ki˞nu ʔa˞ru˞wa](何もしないのに疑いを掛けられる訳があるものか)。ウ˞タガイヌ˞　カ˞キラ˞リ　˞ブー˞シジン˞デー˞カ　キ˞ム˞ヌ　˞フグンケン　シ˞ラ˞ビ　˞ミリ [ʔu˞tagainu˞ kḁ˞kira˞ri ˞bu:˞ ʃiʤin˞de:˞ka: ki˞mu˞nu ˞ɸuguŋkeŋ ʃi˞ra˞bimiri](疑いが掛けられているのなら、心行く < 満足する > まで調べてみろ)。「〜妹が心は疑毛奈思 (ウタガイヒモナシ)。万、530」の義。˞ワー˞ナー　ア˞ガピッチンツァン˞　ウ˞タガイヤー　ナー˞ヌ [˞wa:˞na: ʔa˞gapittʃintsaŋ˞ ʔu˞tagaija: na:˞nu](君には一点の < たったの一つすら > 疑いも無い)。

ウ⸢タガイルン [ʔu⸢tagairuŋ] 【他動】疑う。不審におもう。プ⸢スバ⸣ ウ⸢タガイルンティ アー⸣キ ⸢カイ⸣テー ウ⸢タガイラリ＜ウ⸢タガーリ＞ ナー⸣ヌ [pu̥⸢suba⸣ ʔu⸢tagairunti ʔa:⸣ki ⸢kai⸣te: ʔu⸢tagairari＜ʔu⸢taga:ri＞ na:⸣nu](他人を疑おうとして、却って＜逆に＞疑われてしまった)。カ⸢リバ⸣ ウ⸢タガイル⸣ クトー ナ⸢ラ⸣ヌ [ka⸢riba⸣ ʔu⸢tagairu⸣ ku̥to: na⸢ra⸣nu](彼を＜あの人を＞疑うことは出来ない＜罷りならぬ＞)。

ウ⸢タガウン [ʔu⸢tagauŋ] 【他動】疑う。⸣アイニ プ⸢スバ⸣ ウ⸢タガウナ [⸣ʔaini pu⸢suba⸣ ʔu⸢tagauna](あんあに他人を疑うな)。⸣バー ウ⸢タガーヌ [⸣ba: ʔu⸢taga:nu](私は疑わない)。ム⸢シンドゥ ワー⸣ ウ⸢タガウ⸣カー ⸢バン⸣ヌン ウ⸢タガウン [mu⸢ʃindu wa:⸣ ʔu⸢tagau⸣ka: ⸢ban⸣nuŋ ʔu⸢tagauŋ](もしも君が疑うなら私も疑う)。プ⸢スム⸣シ ウ⸢タガイヤー⸣ラ ⸣メー タ⸢ナマラ⸣ヌ [pu̥⸢sumu⸣ʃi ʔu⸢tagaija:⸣ra ⸣me: ta⸢namara⸣nu](一度疑ったら、もう頼めない)。ウ⸢タガイ⸣バ [ʔu⸢tagai⸣ba](疑えよ)。ウ⸢ヌ⸣ プ⸢ソー⸣ ウ⸢タガーバル⸣ ナル [ʔu⸢nu⸣ pu̥⸢so:⸣ ʔu⸢taga:baru⸣ naru](その人は疑わないといけない＜疑わばぞなる＞)。

⸣ウタガキ [⸣ʔutagaki] 【名】歌に掛けて道徳や人生観などを教えること。ウ⸢ヤッ⸣ふァ トゥ⸢ジブトゥ キョーダイサ⸣ヌ ⸣ミチェー デンサー⸣ブシナー ⸣ウタガキ シ⸢ラリ ブン [ʔu⸢jaf⸣fa tu⸢ʤibutu kjo:daisa⸣nu ⸣mitʃe: densa:⸣buʃina: ⸣ʔutagaki ʃi⸢rari buŋ](親子、夫婦、兄弟の踏み行うべき道はデンサー節に歌掛けされている)。

⸣ウタサンシン [⸣ʔutasaŋʃiŋ] 【名】歌三味線。歌や三味線で演奏すること。⸣ウタサンシンバ ピ⸢ケー⸣ティル ⸢ソーニヨイ ソーッ⸣タ [⸣ʔutasaŋʃimba pi̥⸢ke:⸣tiru ⸢so:nijoi so:t⸣ta](歌三味線を演奏して＜弾いて＞生年祝いをなさった)。⸣ウタサンシン ピ⸢ケー⸣ティ ⸢ヤー⸣キナイ パ⸢ニッケーラ⸣シ [⸣ʔutasaŋʃimba pi⸢ke:⸣ti ⸢ja:⸣kinai pa⸢nikke:ra⸣ʃi](歌や三味線を弾きながら家庭を賑わせなさい)。

ウ⸢タシ⸣ムヌ [ʔu⸢taʃi⸣munu] 【名】落し物。遺失物。ウ⸢タシムヌ⸣ヌ ミ⸢シゥカ⸣レーンティバ ⸢ワー⸣ムヌ ヤ⸢ル⸣ユー ⸢ギー⸣ ミリクーバ [ʔu⸢taʃimunu⸣nu ⸢misi̥ka⸣re:ntiba ⸢wa:⸣munu ja⸢ru⸣ju: ⸢gi:⸣ miriku:ba](落し物＜遺失物＞が見つかったというから、君の物かどうか、行って見てきなさいよ)。ク⸢ヌ⸣ ウ⸢タシ⸣ ムノー ⸣ヌシェー サ⸢バカ⸣レーンカヤー [ku⸢nu⸣ ʔu⸢taʃi⸣muno: ⸣nuʃe: sa⸢baka⸣re:ŋkaja:](この落し物は、落とし主は探し出せたかなあ)。

ウ⸢タ⸣スン [ʔu⸢ta⸣suŋ]【他動】1落とす。⸣ガバー ウ⸢タ⸣スン [⸣gaba: ʔu⸢ta⸣suŋ](垢を落とす)。⸢ユー⸣フルア⸢ミティ⸣ ガバー ウ⸢タ⸣シ ⸢ベー⸣ヌンドゥムッ⸢トゥ⸣ ウ⸢タサラ⸣ヌ [⸢ju:⸣ɸuru ʔa⸢miti⸣ gaba: ʔu⸢ta⸣sunti ⸢be:⸣nundu mut⸢tu⸣ ʔu⸢tasara⸣nu](風呂を浴びて垢を落とそうとしているが、ちっとも落されない)。⸣ガバー ウ⸢タ⸣ス ⸣プソー ムー⸢ル⸣ ウ⸢タ⸣シ [⸣gaba: ʔu⸢ta⸣su ⸣pu̥so: mu:⸢ru⸣ ʔu⸢ta⸣ʃi](垢を落とすときは、すっかり落とせ＜全部おとせ＞)。⸣ッシティ⸣ ⸣ガバー ウ⸢タ⸣シェー ⸣ミサムヌ [⸢ʃʃiti⸣ gaba: ʔu⸢ta⸣ʃe: ⸣misamunu](擦りこすって垢を落とせばよいのに)。上から下へ物を落とす。⸢キー⸣ヤ⸢サン⸣ガラーラ ウ⸢タ⸣シバ [⸢ki:⸣ja ⸢saŋ⸣gara:ra ʔu⸢ta⸣ʃiba](材木は崖から落としなさいよ)。付いているものを取り除く。⸢ユー⸣フル ⸢ペー⸣リティ ガバー ウ⸢タシ⸣プサン [⸢ju:⸣ɸuru ⸢pe:⸣riti ⸣gaba: ʔu⸢taʃi⸣pu̥saŋ](風呂に入って垢をを落したい)。ウ⸢タサ⸣ヌ [ʔu⸢tasa⸣nu](落さない)。⸣ガバー ウ⸢タ⸣スン [⸣gaba: ʔu⸢ta⸣suŋ](垢を落す)。ウ⸢タ⸣ス クトゥ [ʔu⸢ta⸣su ⸣ku̥tu](落すこと)。⸣ガバー ウ⸢タ⸣シェー ⸣ミサムヌ [⸣gaba: ʔu⸢ta⸣ʃe: ⸣misamunu](垢を落せばよいのに)。2失う。紛失する。⸣ジン ⸢フンスクル⸣ナ ナー⸢イ⸣ イ⸢リ⸣ スクカー ウ⸢タ⸣スン⸢ダー＜シ⸢ティルン⸣ダー＞[⸢ʤiŋ ⸢ɸunsu̥kuru⸣na na:⸢i⸣ ʔi⸢ri⸣su̥kuka: ʔu⸢ta⸣sun⸢da: ＜ʃi⸢tirun⸣da:＞](お金を懐に不用意に入れておくと無くす＜落とす、捨てる＞よ)。

ウ⸢タ⸣スン [ʔu⸢ta⸣suŋ] 【他動】打たせる。打たす。⸣ウタン [⸣ʔutaŋ](打つ) の未然形に使役の助動詞⸣スン [⸣suŋ](せる。す) が付いて形成された派生動詞 (使役動詞)。⸣タイ⸣ク ウ⸢タ⸣スン [⸣tai⸣ku ʔu⸢ta⸣suŋ](太鼓を打たせる)。カ⸢ニフン⸣ ウ⸢タ⸣スン [ka⸢niɸuŋ⸣ ʔu⸢ta⸣suŋ](鉄釘を打たせる)。イ⸢ツァクビ⸣ヌ ⸢フン⸣ ヤ⸢ラビン⸣マー ウ⸢タス⸣ナ [ʔi⸢tsakubi⸣nu ⸢ɸuŋ⸣ ja⸢rabim⸣ma: ʔu⸢tasu⸣na](板壁の釘を子供には打たせるな)。ウ⸢タサ⸣ヌ [ʔu⸢tasa⸣nu](打たさない)。ウ⸢タシ⸣ プサン [ʔu⸢taʃi⸣ pu̥saŋ](打たせたい)。ウ⸢タ⸣シバ [ʔu⸢ta⸣ʃiba](打たせよ)。

⸣ウタタノール [⸣ʔutatano:ru] 【名】歌唱力。歌を上手に歌う素質。歌う要領、歌唱法。⸣ウタタノールヌ ⸢ナーン⸣ユンダ ウ⸢リヌ⸣ ウター ⸢ピッ⸣チン ウ⸢ムッ⸣サー ⸢ナー⸣ヌ [⸣ʔutatano:runu ⸢na:ɲ⸣junda ʔu⸢rinu⸣ ʔuta: ⸢pit⸣tʃiŋ ʔu⸢mus⸣sa: ⸢na:⸣nu](上手に歌

う素質＜要領＞がないから彼の歌は全く＜一つも＞面白くない)。

ウ˩ダ˥ティ [ʔu˩da˥ti] 【名】うだち (桧)。うつばり (梁) の上に立てて棟木を支える短い柱。四寸角の角材で、長さ 30〜40 センチ程度の長さの小さな柱。「梁上柱謂二之悦一　(うだち) 宇太知」(『和名抄<10>』) の転訛したもの。˩ヤー　ナンツァガニバ　ウダティバシー　ヤーバ　シゥクリアンテスー」(ああ、銀の建材をウダチにして、家を造ってあるという)(˩アーパーレー節」)。ム˩ニギタバ˥　シゥ˩カイ　ブー˥　シゥ˩カバラーバ˥ル　ウ˩ダ˥ティティ　ア˩ズ˥ダー [mu˩nigitaba˥ si̥˩kai buː˥ si̥˩kabaraːba˥ru ʔu˩da˥titi ʔa˩ʣu˥daː](棟桁を支えている束柱のことをウダチというのだよ)。ウ˩ダ˥ティティ　ア˩ズ˥カー　˥メー　シゥ˩カバラー˥ヌ　˩ピー˥チ　˩ゲ˥ラ　˩ナー [ʔu˩da˥titi ʔa˩ʣu˥kaː ˥meː si̥˩kabaraː˥nu ˩piː˥ʧi ˩ge˥ra ˩naː](ウダチといえば束柱の一つ＜一種＞さねえ)。

ウ˩ダティラリ˥ルン [ʔu˩datirari˥ruŋ] 【自動】おだてられる (煽てられる)。他動詞ウ˩ダティ˥ルン [ʔu˩dati˥ruŋ](煽てる) の未然形に、受身・可能の助動詞˩リ˥ルン [˩ri˥ruŋ](れる) が付いて形成された派生動詞 (受身動詞。可能動詞)。˩パーサ˥リン、˩パーサリ˥ルンとも言う。パ˩ナイキ˥ガリ　˩ベー˥ルカ　プ˩スン˥　ウ˩ダティラリ˥ルン [pa˩naiki˥gari ˩beː˥rukaː pu̥˩suŋ˥ ʔu˩datirari˥ruŋ](自惚れ＜自慢して＞威張っていると、他人に煽てられる＜はやされる＞)。˩バン˥ヌン　プ˩ス˥　ウ˩ダティラリ˥ルンカヤー [˩ban˥num pu̥˩su˥ ʔu˩datirari˥ruŋkajaː](私にも他人を煽(オダテ)てられるかねえ＜煽てることが出来るかねえ＞)。

ウ˩ダティラ˥リン [ʔu˩datira˥riŋ] 【自動】おだてられる (煽てられる)。ウ˩ダティ˥ルン [ʔu˩dati˥ruŋ](煽てる) の未然形に受身・可能の助動詞˥リン [˥riŋ](れる) が付いて形成された派生動詞 (受身動詞。可能動詞)。˩ウッツァ˥トゥ　マー˩ズン　ベー˥ルカー　˩ウッ˥ツァン　ウ˩ダティラ˥リン＜˩パーサ˥リン＞˩ダー [˩ʔuttsa˥tu ˩maːʣum beː˥rukaː ˩ʔut˥tsaŋ ʔu˩datira˥rin＜˩paːsa˥riŋ＞˩daː](彼らと一緒に居ると、彼らに煽てられる＜はやされる＞よ)。˩バン˥ヌン　プ˩ス˥　ウ˩ダティラ˥リンカヤー [˩ban˥num pu̥˩su˥ ʔu˩datira˥riŋkajaː](私にも他人が煽てられる＜他人を煽てることが出来る＞かねえ)。

ウ˩ダティ˥ルン [ʔu˩dati˥ruŋ] 【他動】おだてる (煽てる)。誉め立てて煽動する。標準語からの借用語。老年層は˩パー˥スン [˩paː˥suŋ](囃す) という。バ˩カー˥ムヌ　ウ˩ダティ˥ルンティ＜˩パー˥スンティン＞　˩スンドゥ˥　ウ˩ダティララン˥＜˩パーサラン˥＞バン [ba˩kaː˥munu ʔu˩dati˥run＜˩paː˥suntin＞ti ˩sundu˥ ʔu˩datiraram˥＜˩paːsaram˥＞baŋ](若者を煽てようとするが、煽てられないワイ)。

˥ウタフクル [˥ʔutaɸu̥kuru] 【名】歌が上手なこと。歌の名人。「歌袋」の義。「名歌を自在に歌いこなし、名歌が無限に出てくる人」の義。本土の、和歌の詠草(エイソウ)を入れておく袋の「歌袋」に擬した命名であろう。ウ˩ヤッ˥ふァザーン　˥ナリ　˥ウタフクル　ヤ˩ロー˥ルンダ　イ˩カムス˥ク　ウ˩ムッ˥サワ˩ツォー [ʔu˩jaf˥faʣaːn ˥nari ˥ʔutaɸu̥kuru ja˩roː˥runda ʔi˩kamusu̥˥ku ʔu˩mus˥sawa˩tsoː](親子ともども歌の名人＜歌袋＞でいらっしゃるから、どんなにか面白くて楽しいことか)。

ウ˩タム˥チ [ʔu˩tamu˥ʧi] 【名】三味線の伴奏。前奏。ウ˩タムチ˥ヌ　ン˩メーマ˥　ナ˩ガー˥ティ　ブ˩ドゥルヌ˥　ティー　˩アーシングリ˥サン [ʔu˩tamuʧi˥nu ʔm˩meːma˥ na˩gaː˥ti bu˩durunu˥ tiː ˩ʔaːʃiŋguri˥saŋ](三味線の伴奏＜前奏＞が少し長いので踊りの振り付け＜手＞が合わせずらい＜合わせ苦しい。合わせにくい＞)。

ウ˩ダヤ˥カ [ʔu˩daja˥ka] 【形動】穏やか。標準語からの借用語。˩カイジョー　ウダヤ˥カ　イ˩チロー　ヘイ˥ヤン　カ˩リユシ　カリ˥ユシ [˩kaiʣoː ʔudaja˥ka ʔi˩ʧiroː heiˀ˥jaŋ kari˩juʃi kari˥juʃi](海上穏やか一路平安＜民謡の一節＞、カリユシ　カリユシ＜航海安全祈願だ＞)。

ウ˩ダラカ˥スン [ʔu˩daraka˥suŋ] 【他動】驚かす。びっくりさせる。プ˩ス˥　ウ˩ダラカ˥スンティ　˩ベー˥ティ　プ˩スン˥　ウ˩ダラカサ˥リ　˩ベー [pu̥˩su˥ ʔu˩daraka˥sunti ˩beː˥ti pu̥˩suŋ˥ ʔu˩darakasa˥ri ˩beː](他人を驚かそうとしていて、却って他人に驚かされている)。ウ˩ダラカ˥シ　˥ミサカー　ウ˩ダラカ˥ス　˥クトー　˥ナルン [ʔu˩daraka˥ʃi ˥misakaː ʔu˩daraka˥su ˥ku̥toː ˥naruŋ](驚かして良ければ驚かすことは出来る)。ウ˩ダラカ˥シェー　˥ミサムヌ [ʔu˩daraka˥ʃeː ˥misamunu](驚かせば良いのに)。ウ˩ダラカ˥シバ [ʔu˩daraka˥ʃiba](驚かせよ)。ウ˩ヤー˥ルカー　プ˩ス˥　ウ˩ダラカ˥スンダー　ウ˩ダラカサン˥ヨーニパ˩ナ˥シバ [ʔu˩jaː˥ruka: pu̥˩su˥ ʔu˩daraka˥sundaː ʔu˩darakasaŋ˥joːni pa˩na˥ʃiba](大声を出すと他人を驚かすから、驚かさないように話しなさいよ)。ウ˩ダラカシ˥　プサカー　ウ˩ダラカ˥ス　˥クトー

˜ナルン [ʔu˞darakaʃi˜ pu̥saka: ʔu˞darakaˀsu ˜ku̥to: ˜naruŋ](驚かしたければ驚かすことは出来るよ)。˞マー˜ビン　ウ˞ダラカ˜シェー　˜ミサムヌ [˞maːˀbiŋ ʔu˞darakaˀʃe: ˜misamunu](もっと驚かせばいいのに)。ウ˞ダラカ˜シ [ʔu˞darakaˀʃi](驚かせ)。

ウ˞ダラ˜キ **[ʔu˞daraˀki]** 【名】驚き。動詞ウ˞ダラ˜クン [ʔu˞daraˀkuŋ](驚く) の連用形からの転成名詞。ア˞タウダラキ [ʔa˞taudaraki](急に驚くこと)。ウ˞ブウダラキ [ʔu˞buʔudaraki](びっくり仰天すること。大驚き)。ウ˞ダラキ˜ヌ　˜ドゥク　˞スー˜ワカー　ブ˞チ˜クン　˞スン˜ダー [ʔu˞darakiˀnu ˜duku ˞suːˀwakaː bu˞ʧiˀkun ˞sunˀdaː](驚きすぎると < 驚きが余にも強いと > 気絶するよ)。

ウ˞ダラ˜クン **[ʔu˞daraˀkuŋ]** 【自動】驚く。びっくりする。˞カンナール˜ヌ　˞ナール˜カー　ウ˞ダラ˜クン˜クトー　ウ˞ダラクン˜ドゥ　˞ナン˜ゾー　ウ˞ダラカ˜ヌ [˞kannaːruˀnu ˞naːruˀkaː ʔu˞daraˀku ˜ku̥to: ʔu˞darakunˀdu ˞nanˀʤo: ʔu˞darakaˀnu](雷が鳴ると驚くことは驚くが、あまり驚かない)。ベーシ˞ティ˜　ウ˞ダラ˜キ　˞ベー [beːʃi̥˞tiˀ ʔu˞daraˀki ˞beː](酷く < ぎくっと > 驚いている)。ウ˞ダラ˜ケー　˜ミサムヌ [ʔu˞daraˀkeː ˜misamunu](驚けば良いのに)。ウ˞ダラ˜キバ [ʔu˞daraˀkiba](驚けよ)。ウ˞ブ˜クイ　ン˞ザシ˜ター　ヤ˞ラ˜ベー　ウ˞ダラ˜キティ　ナ˞キナー˜ヌ [ʔu˞buˀkui ʔn˞ʤaʃi̥ˀtaː ja˞raˀbeː ʔu˞daraˀkiti na˞kinaːˀnu](大声を出したから子供は驚いて泣いてしまった)。ウ˞ビ˜ヌ　˜クトゥシェー　ウ˞ダラカ˜ヌ [ʔu˞biˀnu ˜ku̥tuʃeː ʔu˞darakaˀnu](これだけのことでは驚かない)。˜アイニ　˞スー˜カー　ター˞ン˜　ウ˞ダラ˜クン [˜ʔaini ˞suːˀkaː taː˞ŋ˜ ʔu˞daraˀkuŋ](あんなにすると誰でも驚く)。ウ˞ダラク˜　クトゥ [ʔu˞daraˀku ˜ku̥tu](驚くこと)。ウ˞ダラ˜ケー　˜ミサムヌ [ʔu˞daraˀkeː ˜misamunu](驚けばよいのに)。ウ˞ダラ˜キ [ʔu˞daraˀki](驚け)。

ウ˞チ **[ʔu˞ʧi]** 【名】1内側。奥。区域内。奥座敷。˞ヤー˜ヌ　ウ˞チェー　ペー˜リ [˞jaːˀnu ʔu˞ʧe: peːˀri](家の中へ入りなさい)。ウ˞チンター　ペー˜リ [ʔu˞ʧintaː peːˀri](奥の方へ入りなさい)。2内。以内。時間的、空間的範囲内。ウ˞ヌ˜　ウチナー　˞カイ˜リ　˞キー˜スヨー [ʔu˞nuˀ ʔuʧinaː ˞kaiˀri ˞kiːˀsujoː](そのうちに帰って来るよ)。ウ˞ビ˜ヌ　ウ˞チ˜ナー　ッ˞シェー˜　プ˞ソー˜　ター˞ン˜　ブ˞ラーヌ [ʔu˞biˀnu ʔu˞ʧiˀnaː ʃ˞ʃeːˀ pu̥˞soːˀ taː˞mˀ bu˞raːnu](これだけの内で知っている人は誰もいない)。

ウ˞チ **[ʔu˞ʧi]** 【接頭】動詞の上に付いて意味を強める。ウ˞チッ˜クライ [ʔu˞ʧikˀkurai](うち喰らい)。ウ˞チマラバ˜シ [ʔu˞ʧimarabaˀʃi](ぶん殴る)。ウ˞チマカ˜シ [ʔu˞ʧimakaˀʃi](うち負かす)。シ˞グトゥブリバ　シー˜　ヤ˞クスクン˜　ウ˞チバシ˜キ　˞シーナー˜ヌ [ʃi˞gutuburiba ʃiː˜ ja˞kusu̥kuŋ˜ ʔu˞ʧibaʃi̥˜ki ˞ʃiːnaːˀnu](仕事に夢中になって < 仕事惚れして > 約束も打ち忘れしてしまった)。

ウ˞チーウチー˜シ **[ʔu˞ʧiːʔuʧiːˀʃi]** 【副】親しそうに。内輪らしく。親密そうに。「内内に」の義。ウ˞トゥ˜ザン　ア˞ラン˜ムヌ　ウ˞チーウチー˜シ　パ˞ナ˜シ˞ベー [ʔu˞tuˀʤaŋ ʔa˞ramˀmunu ʔu˞ʧiːʔuʧiːˀʃi pa˞naˀʃi ˞beː](親戚でもないのに親蜜そうに話している)。

ウ˞チアー˜スン **[ʔu˞ʧiʔaːˀsuŋ]** 【他動】打ち合わせる。相談する。˞ヨイ˜ヌ　˜クトゥン　ムー˞ル˜シ　ウ˞チアー˜スンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　イ˞スガ˜サンダ　ウ˞チアーサラ˜ヌ [˞joiˀnu ˜ku̥tum muː˞ruˀʃi ʔu˞ʧiʔaːˀsunti ʔu˞muːnˀdu ʔi˞sugaˀsanda ʔu˞ʧiʔaːsaraˀnu](お祝いのことなども皆で相談しよう < 打ち合わせよう > と思うが、忙しいので相談できない < 打ち合わされない >)。ウ˞チアー˜シ　˜ミサカー　˞バン˜ターシ　ウ˞チアー˜ス　˜クトー　˜ナルン [ʔu˞ʧiʔaːˀʃi ˜misakaː ˞banˀtaːʃi ʔu˞ʧiʔaːˀsu ˜ku̥to: ˜naruŋ](相談してよければ、私らで < 聞き手は含まない > は相談する < 打ち合わせる > ことは出来る)。ウ˞チアー˜シェー　˜ミサムヌ [ʔu˞ʧiʔaːˀʃeː ˜misamunu](相談すれば < 打ち合わせれば > いいのに)。ヤー˞ディン˜　ウ˞チアー˜シ [jaː˞diŋ˜ ʔu˞ʧiʔaːˀʃi](必ず相談せ < 打ち合わせ > よ)。

ウ˞チアー˜ルン **[ʔu˞ʧiʔaːˀruŋ]** 【自動】打ち合う。心が適合する。心がぴったり合う。調和する。打ち解けて仲良くなる。意気投合する。サ˞キヌ˜　アルカー　パ˞ナ˜シン　ウ˞チアールン˜ドゥ　˞ナーン˜カー　ウ˞チアーラ˜ヌ [sḁ˞kinu˜ ʔaruka: pa˞naˀʃiŋ ʔu˞ʧiʔaːrunˀdu ˞naːŋˀka: ʔu˞ʧiʔaːraˀnu](酒があったら話もうまく噛み合い、意気投合するが、< 酒が > 無いと意気投合しない)。キ˞サーティ˜　フ˞ターロー˜　ウ˞チアー˜リ　˞ベー [ki̥˞saːtiˀ ɸu̥˞taːroːˀ ʔu˞ʧiʔaːˀri ˞beː](既に二人は仲良くなって < 意気投合して > いる)。˞オーパ˜ヤー　ウ˞チアー˜ル　˜クトー˞ナー˜ヌ [˞ʔoːpaˀja: ʔu˞ʧiʔaːˀru ˜ku̥to: ˞naːˀnu](そんなに早く仲良くなることはない)。ウ˞チアー˜レー　˜ミサムヌ [ʔu˞ʧiʔaːˀreː ˜misamunu](仲良くなればいいのに)。ドゥ˞シトゥン˜　ウ˞チアー˜リバ [du˞ʃituŋ˜ ʔu˞ʧiʔaːˀriba](友人とも打ち解けて仲良くなれよ)。

ウ˩チアキ˥ルン [ʔu˩ʧiʔaki˥ruŋ] 【他動】打ち明ける。うちあかす。バ˩タ˥ウチ　ウ˩チアキ˥ルンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　マ˩ナ˥マー　ウ˩チアキララ˥ヌ [ba˩taˀʔutʃi ʔu˩ʧiʔaki˥runti ʔu˩muːn˥du ma˩na˥maː ʔu˩ʧiʔakirara˥nu](胸の内 < 腹の内 > を打ち明けようと思うが、今は打ち明けられない)。ウ˩チ˥アキ˥ミサカー　ウ˩チアキ˥ル　˥クトー　˥ナルン [ʔu˩ʧi˥ʔaki ˥misaka: ʔu˩ʧiʔaki˥ru ˥kṵto: ˥naruŋ](打ち明けて良ければ打ち明けることは出来る)。ウ˩チアキ˥レー　˥ミサムヌ [ʔu˩ʧiʔaki˥reː ˥misamunu](打ち明ければ良いのに)。ウ˩チアキ˥リバ [ʔu˩ʧiʔaki˥riba](打ち明けろ)。

ウ˩チアギ˥ルン [ʔu˩ʧiʔagi˥ruŋ] 【他動】打ち上げる。˩ウースー˥ヌ　ウ˩ク˥ルカー　˥フネー　ク˩マーバー˥キ　ウ˩チアギ˥ルン [˩ʔuːsuː˥nu ʔu˩ku˥rukaː ˥ɸuneː ku˩maːbaː˥ki ʔu˩ʧiʔagi˥ruŋ](大潮が起きると、船はここまで打ち上げる)。

ウ˩チ˥アクン [ʔu˩ʧi˥ʔakuŋ] 【他動】打ち明ける。うちあかす。ウ˩ヌ˥　クトゥ　ウ˩チ˥アクンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩ドゥー˥ヌ　フ˩チェー˥ラー　パ˩ナサラ˥ヌ [ʔu˩nu˥ kṵtu ʔu˩ʧi˥ʔakunti ʔu˩muːn˥du ˩duː˥nu ɸṵ˩ʧeː˥raː pa˩nasara˥nu](そのことを打ち明けようと思うが、自分の口からは話されない)。

ウ˩チアタリ [ʔu˩ʧiʔatari] 【名】他人に対して言うことが、わが身に強く思い当たること。他人への批判がわが身に当り、深く反省されること。プ˩スヌ˥ク˩トゥバ˥ル　イ˩ゾーッタヌン˥ドゥ　˥シザー　ウ˩チアタレー˥　シ˩ティ˥　ス˩ク˥マリ　˩オー˥ル [pṵ˩sunu˥ kṵ˩tuba˥ru ʔi˩ʤoːttanun˥du ˥ʃiʤaː ʔu˩ʧiatareː˥ ʃḭ˩ti˥ sṵ˩ku˥mari ˩ʔoː˥ru](他人のことを叱られたのだが、兄さんは身に思い当たって、すくまっ < 竦まって > ておられる)。

ウ˩チ˥アミ [ʔu˩ʧi˥ami] 【名】雨が室内に降り注ぐこと。室内に吹き込む雨。˩パー˥ク　˥ヤドゥ　˩ホーン˥カー　ウ˩チ˥アミ　˩スン˥ダー [˩paː˥ku ˥jadu ˩hoːŋ˥kaː ʔu˩ʧi˥ami ˩sun˥daː](早く戸締りしないと < 戸を閉めないと > 雨が吹き込むぞ)。カ˩ジヌ　スー˥ワンダ　ウ˩チ˥アミ　˩シースバ　パー˥ク　˥ヤドゥ　˩フイ˥バ [ka˩ʤinu suː˥wanda ʔu˩ʧi˥ʔami ˩ʃiːsuba paː˥ku ˥jadu ˩ɸui˥ba](風が強いので雨が室内に吹き込むから、早く戸を閉めなさいよ)。

ウ˩チウチ [ʔu˩ʧiuttʃi] 【名】身内のもの。内輪。内密。家族と近親の間だけのこと。「内内」の義。˩ソッコー˥ヤ　ウ˩チウチヌ˥　プ˩ス˥シル　˩スー˥ティ　˥ウムイ　˩ベー [˩sokkoː˥ja ʔu˩ʧiʔutʃinu˥ pṵ˩su˥ʃiru ˩suː˥ti ˥ʔumui ˩beː](法事は近親の者だけでしようと思っている)。

ウ˩チウトゥ˥スン [ʔu˩ʧiʔutu˥suŋ] 【他動】撃ち落す。若年層の言葉。標準語からの借用語の転訛。˥パトゥザン　ア˩ガマミパタキ˥　ア˩ラサリティ˥　ウ˩リ˥　ウ˩チウトゥ˥スンティ　ス˩コーリ　ベー [˥pa̰tuʤaŋ ʔa˩gamamipa̰taki˥ ʔa˩rasariti˥ ʔu˩ri˥ ʔu˩ʧiʔutu˥sunti sṵ˩koːri beː](山鳩に小豆畑を荒されて、それを撃ち落そうと準備している)。老年層は、イ˩リウトゥ˥スン [ʔi˩riʔutu˥suŋ](射落とす) という。˩ティップ˥シ　˥パトゥザ　イ˩リウトゥ˥スン [˩tippu˥ʃi ˥pa̰tuʤa ʔi˩riʔutu˥suŋ](鉄砲で山鳩を射落とす) という。

ウ˩チカイ˥スン [ʔu˩ʧikai˥suŋ] 【他動】打ち返す。˩バウ˥バ　ウ˩チ˥クミ　˥クーカー　ス˩ブル˥ヌ　˩ウイ˥ナ　˥バウシ　˥ウキティ　ウ˩チカイ˥スン [˩bau˥ba ʔu˩ʧi˥kumi ˥kuːka: su˩buru˥nu ˩ʔui˥na ˥bauʃi ˥ʔukiti ʔu˩ʧikai˥suŋ](棒を打ち込んできたら、頭の上に棒で受けて打ち返す)。

˥ウチカタライ [˥ʔutʃikatarai] 【名】相談。懇談。協議。「うち・語らい」の義。˥ウチ [˥ʔutʃi] は強意の接頭語。ウ˩ヌ˥クトー　˩ヤーニン˥ズ　˥ウチカタライバ　˩シェー˥ティ　パ˩ナ˥シェー　キ˩ミリ˥ヨー [ʔu˩nu˥ kṵto: ˩jaːnin˥ʤu ˥ʔutʃikataraiba ˩ʃeː˥ti pa˩na˥ʃeː ki˩miri˥joː](そのことは家族で協議して話を纏め < 決め > なさいねえ)。石垣方言からの借用語。日常生活では、パ˩ナシアー˥シ [pa˩naʃiʔaː˥ʃi](話し合い)、ム˩ヌパナ˥シ　˩スン [mu˩nupana˥ʃi ˩suŋ](もの話 < 物語 > する) という。˩ヤーニン˥ゾー　ウ˩ヤッふァ˥ヌ　˥ウチカタライル　˩カンヌー˥ダー [˩jaːnin˥ʤoː ʔu˩jaffa˥nu ˥ʔutʃikatarairu ˩kannuː˥daː](家族は親子のうち語らいが肝要だよ)。

ウ˩チ˥シー [ʔu˩ʧi˥ʃiː] 【名】打ち身。内出血。カ˩キッツァー˥シ　˥クンケンマー　イ˩シ˥ナー　キ˩リッケー˥リ　ク˩ルビティ˥　ス˩ブシ˥ナー　ッ˩ふス˥クン　˩スン˥ケン　ウ˩チ˥シー　イ˩リ˥シケー [ka˩kittsaː˥ʃi ˥kuŋkemma: ʔi˩ʃi˥naː ki˩rikkeː˥ri ku˩rubiti˥ su˩buʃi ˥naː f˩fusṵ˥kun ˩suŋ˥keŋ ʔu˩ʧi˥ʃiː ʔi˩ri˥ʃike:](走って来るときに石に蹴躓いて転んで膝に黒ずむほどうち身をして < 入れて > ある)。

˥ウチソーダン [˥ʔutʃisoːdaŋ] 【名】内々の相談。内々の話し合い。懇談。ク˩ヌ˥　プ˩スト˥ー　ウチソーダン　ナ˩ラン˥ユンダ　ビ˩チ˥ヌ　プ˩ス˥　タ˩ナ˥ミ [ku˩nu˥ pṵ˩sutoː˥ ʔutʃisoːdan na˩raŋ˥junda bi˩ʧi˥nu pṵ˩su˥ ta˩na˥mi](この人とは内々の相談は出来ないから別の人を頼みなさい)。

ウ˞チダラ˜スン [ʔu˞ʧidara˜suŋ] 【他動】1打ちのめす。ぶん殴る。ひっぱたく。ウ˞チ [ʔu˞ʧi] は強意の接頭語。ヤ˞ナクトゥ　シェー˜カー　ウ˞チダラサ˜リクトー　トゥ˞ミララヌ [ja˞nakʷtu ʃe:˜ka: ʔu˞ʧidarasa˜ri ˜kʷto: tu˞miraranu](悪いことをしたのであれば、ぶん殴られる＜ぶったたかれる＞ことは止められない)。ウ˞チダラ˜スンティ　カマイ˞ヨー˜ル [ʔu˞ʧidara˜sunti kamai˞jo:˜ru](ぶん殴る＜ぶったたく＞といって身構えていらっしゃる)。プ˞スム˜シェー　ウ˞チダラシ˜プサン [pʷ˞sumu˜ʃe: ʔu˞ʧidaraʃi˜pʷsaŋ](一度はぶん殴りたい)。ノー˞ン˜シ　ブ˞ラバン˜　プ˞スヨー˜　ウ˞チダラ˜ス　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [no:˞ŋ˜ʃi ˞burabam˜ pʷ˞sujo:˜ ʔu˞ʧidara˜su ˜kʷto: na˞ra˜nu](どんなにしていても他人をぶん殴ってはいけない)。ウ˞チダラ˜シ [ʔu˞ʧidara˜ʃi](ぶん殴れ)。2がっかりさせる。落胆させえる。ウ˞ヌ˜　パ˞ナ˜シェー　シ˞キティル˜　ウ˞チダラサ˜リ　˞オー˜ル [ʔu˞nu˜ pa˞na˜ʃe: ʃi˞kitiru˜ ʔu˞ʧidarasa˜ri ˞ʔo:˜ru](その話を聞いて＜ぞ＞落胆させられ＜がっかりさせられ＞ておられる)。

ウ˞チダリ˜ルン [ʔu˞ʧidari˜ruŋ] 【自動】うち萎(シオ)れる。しょげかえる。ナ˞リラ˜ヌ　ア˞キ˜ナイ　˞スンティ　アー˜キ　ウ˞ビ˜ナー　˞ウーズン　スー˜カー　˞ワー　ヤラバン˜　ウ˞チダリ˜ルンヨー [na˞rira˜nu ʔa˞ki˜nai ˞sunti ʔa:˜ki ʔu˞bi˜na: ˞ʔu:ʤun su:˜ka: ˞wa: jarabaŋ˜ ʔu˞ʧidari˜ruŋjo:](慣れない商売をしようして、あれだけの大損をすれば君でもがっかりしってうち萎れるよ)。ウ˞チ˜ダリティ　˜イーン　ッ˞ふァーラヌ [ʔu˞ʧi˜dariti ˜ʔi:n f˞fa:ranu](うち萎れて飯も食べられない)。

ウ˞チ˜ダルン [ʔu˞ʧi˜darŋ] 【自動】ぐったりする。疲れ切る。疲れ果てる。ヤ˞マシグ˜トゥ　˞スー˜カー　ウ˞チ˜ダルン [ja˞maʃigu˜tu ˞su:˜ka: ʔu˞ʧi˜daruŋ](山仕事をするとぐったり疲れ切る)。ウ˞チ˜ダリティ　˞ユー˜クイ　˞ベー [ʔu˞ʧi˜dariti ˞ju:˜kui ˞be:](ぐったり疲れて休んでいる)。

ウ˞チッ˜クラウン [ʔu˞ʧik˜kurauŋ] 【他動】うち喰らう。ウ˞チ [ʔu˞ʧi] は強意の接頭語。サ˞ケー˜　ウ˞チッ˜クライティ　˞サン˜ソー　˞マーリベー [sa˞ke:˜ ʔu˞ʧik˜kuraiti ˞san˜so: ˞ma:ribe:](酒をうち喰らって酔いつぶれ意識不明の状態になっている)。サ˞キンツァン˜　ウ˞チックラーン˜カー　ナ˞ラン˜　ブ˞レー˜ル [sa˞kintsaŋ˜ ʔu˞ʧikkura:ŋ˜ka: na˞ram˜ bu˞re:˜ru](酒でも打ち食らわなければならなかったのであろうよ)。˞タンガ˜ヌ　サ˞キ˜　ウ˞チッ˜クラウカー　ムー˞ルン˜　ウ˞チッ˜クラウン [˞taŋga˜nu sa˞ki˜ ʔu˞ʧik˜kurauka: mu:˞ruŋ˜ ʔu˞ʧik˜kurauŋ](一人が酒をうち喰らうと、皆もうち喰らう)。ウ˞チックライ˜ヤー　ミサムヌ [ʔu˞ʧikkurai˜ja: ˜misamunu](うち喰らえばよいのに)。サ˞キ˜　ウ˞チッ˜クライバ [sa˞ki˜ ʔu˞ʧik˜kuraiba](酒をうち喰らえよ)。

ウ˞チ˜ナカー [ʔu˞ʧi˜naka:] 【連】内には。中には。歌謡語。ウ˞チ [ʔu˞ʧi](内) に、格助詞˜ナカー [˜naka:](～には。場所格) が下接した形。ク˞ヌ　ヤー˜ヌ　ウ˞チ˜ナカー [ku˞nu ja:˜nu ʔu˞ʧi˜naka:](この家の内には)。

ウ˞チナ˜スン [ʔu˞ʧina˜suŋ] 【他動】成し遂げる。済ませる。うち成す。ウ˞ブソッ˜コーン　ウ˞チナ˜シティ　トゥクッ˞トゥ˜　ナレーチバン [ʔu˞busok˜ko:ŋ ʔu˞ʧina˜ʃiti tʷkut˞tu˜ nare:ʧibaŋ](大法事＜二十五年忌以後の法事＞も無事に済ませて一安心したわい)。マ˞ダ˜　シ˞グトゥ˜　ウ˞チナサン˜バ　シ˞グトゥ˜　ウ˞チナ˜スンケンマー　パ˞ララ˜ヌ [ma˞da˜ ʃi˞gutu˜ ʔu˞ʧinasam˜ba ʃi˞gutu˜ ʔu˞ʧina˜suŋkemma: pa˞rara˜nu](まだ仕事を済ませてないから済ませるまでは行けない)。キュー˞ズー˜ナ　ウ˞チナシ˜プサンドゥ　ウ˞チナ˜ス　˜クトー　ナ˞ラン˜パジ [kju:˞ʤu:˜na ʔu˞ʧinaʃi˜ pʷsandu ʔu˞ʧina˜su ˜kʷto: na˞ram ˜paʤi](今日中に済ませたいが、済ませることは出来ないだろう＜はず＞)。˞パイ˜サ　ウ˞チナ˜シ [˞pai˜sa ʔu˞ʧina˜ʃi](早く済ませなさい)。˞ソッ˜コーン　ウ˞チナサ˜ムティ　ア˞サベー˜ティ　˞アーク˜ナ [˞sok˜ko:ŋ ʔu˞ʧinasa˜muti ʔa˞sabe:˜ti ˞ʔa:ku˜na](法事も成し遂げないで、遊びまわってあるくな)。˜キュー　˜ヌーンクインン　ウ˞チナ˜スンティ　˜ウムイ˞ベー [˜kju: ˜nu:ŋkuiŋ ʔu˞ʧina˜sunti ˜ʔumui ˞be:](今日、何もかも成し遂げようと思っている)。˞パー˜ク　ウ˞チナ˜シ [˞pa:˜ku ʔu˞ʧina˜ʃi](早く成し遂げなさい)。ウ˞チナ˜シェー　˜ミサムヌ [ʔu˞ʧina˜ʃe: ˜misamunu](成し遂げればよいのに)。ク˞トゥシズー˜ナ　ウ˞チナ˜ス　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [kʷ˞tuʃiʤu:˜na ʔu˞ʧina˜su ˜kʷto: na˞ra˜nu](今年中に成し遂げることは出来ない)。

ウ˞チ ニ チ [ʔu˞ʧiniʧi] 【名】内熱。熱がある(者)[feverish]* 体が熱っぽい感じ。『医学沖縄語辞典』。ウ˞チニチヌ˜　アルンダ　˜フカー　ン˞ザ˜シ　˜ドゥー　˞ピングラ˜スナ [ʔu˞ʧiniʧinu˜ ʔarunda ˜ɸʷka: ʔn˞ʤa˜ʃi ˜du: ˞piŋgurasu˜na](内熱があるから、外に出して体を冷やすな)。

ウ˞チ˜ネ ー ヌ　˜マ ト ー ザ テ ー [ʔu˞ʧi˜nenu ˜ma-

to:ʤate:] 【連】屋号。仲伊部正吉氏宅。東村のカツオ漁船、正山丸の船主としてカツオ節工場を経営されたが、過疎化に伴い、昭和 40 年頃に石垣島に引っ越してカツオ漁業を経営された。

ウ˞チ˜ネ ヌ　˜マ ツ ァ ー ザ ー テ ー [ʔu˞ʧi˜nenu ˜matsa:ʤa:te:] 【連】屋号。仲伊部正一氏宅。˞ガッコー˜ヌ　ニ˞シンタヌ　イーリキーナー˜ル　ウ˞チ˜ネヌ　˜マツァーザーテーヤ　˞アッ˜タ [˞gakko:˜nu ni˞ʃintanu ʔi:riki:na:˜ru ʔu˞ʧi˜nenu ˜matsa:ʤa:te:ja ˞ʔat˜ta](< 大泊の > 学校の北の西側に仲伊部正一氏宅はあった)。

ウ˞チバシキ˜ルン [ʔu˞ʧibaʃi̥ki˜ruŋ] 【自動】うち忘れる。度忘れする。˞ワートゥヌ˜　ヤ˞クスコー˜　マー˞ンベーマ˜　スカー　ウ˞チバシキ˜ルンティ　˞アーク˜タ˞ダー [˞wa:tunu˜ ja˞kusu̥ko:˜ ma:˞mbe:ma˜ su̥ka: ʔu˞ʧibaʃiki˜runti ˞ʔa:ku˜ta˞da:](君との約束は、もう少しで忘れてしまう < 忘れようとしていた > ところだったよ)。

ウ˞チ˜フカ [ʔu˞ʧi˜ɸu̥ka] 【名】内外。身内と世間。ウ˞チ˜フカティン　バ˞カラ˜ナー < ッ˞サナー >　ム˞ニ˜バ　イ˞ジ˜　ク˞トゥ˜バ　ウ˞ク˜シ　˜シケー [ʔu˞ʧi˜ɸu̥katim ba˞kara˜na: <s˞sana:> mu˞ni˜ba ʔi˞ʤi˜ ku̥˞tu˜ba ʔu˞ku˜ʃi ˜ʃi̥ke:](身内と外 < 世間 > の区別も分からずにものを言って事件を起こしてある)。˞ヤー˜ヌ　ウ˞チ˜フカ　˜カキソージ　˞シー˜　シキ [˞ja:˜nu ʔu˞ʧi˜ɸu̥ka ˜kḁkiso:ʤi ˞ʃi:˜ʃi̥ki](家の内外掃除をしておけ)。

ウ˞チマー [ʔu˞ʧima:] 【名】内孫。跡取りの息子の子供。フ˞カ˜マー [ɸu̥˞ka˜ma:](外孫) の対義語。˞ウン˜ネーヤ　ウ˞チマーン˜　フ˞カ˜マーン　マ˞リサカリティ˜　ウ˞ラーミ˜サン [˞ʔun˜ne:ja ʔu˞ʧima:ŋ˜ ɸu̥˞ka ˜ma:m ma˞risakariti˜ ʔu˞ra:mi˜saŋ](その家は内孫も外孫も繁盛して羨ましい)。

ウ˞チ˜マー [ʔu˞ʧi˜ma:]【名】˞プーザンプー [˞pu:ʤam-pu:](帆桟のある帆) の各桟に、帆柱から離されないように縄を両端に張り渡してある縄。帆柱はその縄と桟の間に通す。˞プー　アイル˜カー　ウ˞チ˜マーシ　˜パラーナ　カ˞カ˜ルンダ　˞プーヤ˜　トゥ˞バサラヌ　[˞pu: ʔairu˜ka: ʔu˞ʧi˜ma:ʃi ˜para:na kḁ˞ka˜runda ˞pu:ja˜ tu˞basaranu](帆を揚げたらウチマーで帆柱にかかるから、帆は飛ばされない)。

ウ˞チマーリ˜カジ [ʔu˞ʧima:ri˜kaʤi] 【名】物に当たって跳ね返ってくる台風の風。家や壁、屋敷林などに当たって跳ね回ってくる強風。ウ˞チマーリ˜カジェー　˞スー˜ワンダ　˜ヤドゥン　トゥ˞バシ˜　パ˞リ˜ス [ʔu˞ʧima:ri˜kaʤe: ˞su:˜wanda ˜jadun tu˞baʃi˜ pa˞ri˜su](物に当たって跳ね返ってくる台風の風は強いから、戸も吹き飛ばしていくよ)。

ウ˞チマカ˜スン [ʔu˞ʧimaka˜suŋ] 【他動】打ち負かす。撃破する。イ˞クサ˜ユーナー　ア˞メリ˜カ　ウ˞チマカ˜スンティ　フ˞チガール　シー　ブタヌ˜　ウ˞チマカサ˜リ　˞ナーン˜ワー˞ヌー [ʔi˞kusa˜ju:na ʔa˞meri˜ka ʔu˞ʧimaka˜sunti ɸu̥˞ʧiga:ru ʃi: butanu˜ ʔu˞ʧimakasa˜ri ˞na:ŋ˜wa:˞nu:](戦争中にアメリカを打ち負かすと大法螺を吹いていたが、打ち負かされてしまったではないか)。˞クンドゥ˜ヌ　パ˞ルスー˜ブナー　カ˞リバ˜　ウ˞チマカ˜シティ　イ˞チ˜バン　ナリミラ˞ディー [˞kundu˜nu pa˞rusu:˜buna: ka˞riba˜ ʔu˞ʧimaka˜ʃi̥ti ʔi˞ʧi˜ban ˜narimira˞di:](今度の走り競争では彼を打ち負かして一番になってみようよ)。ヤ˞シーヤシー˜シェー　ウ˞チマカサラ˜ヌ [ja˞ʃi:jaʃi:˜ʃe: ʔu˞ʧimakasara˜nu](簡単には打ち負かされない)。

ウ˞チマラバ˜スン [ʔu˞ʧimaraba˜suŋ] 【他動】ぶん殴る。強く打ち据える。˜アイブ　˜ムノー　プ˞スケン˜ナー　ウ˞チマラバ˜シ　˞シシキ˜　トゥ˞ラ˜シバ [˞ʔaibu ˜muno: pu̥˞suken˜na: ʔu˞ʧimaraba˜ʃi ˞ʃi̥ʃi̥ki˜ tu˞ra˜ʃiba](あんな奴は、一度ぐらいはぶん殴って躾けてやりなさいよ)。

ウ˞チ˜ミジ [ʔu˞ʧi˜miʤi] 【名】打ち水。˜ドゥクナリ　˜アツァタ　˞ベー˜テイ　ウ˞チ˜ミジ　˞シー˜　シケーター　ピ˞ラ˜ケー　ナ˞リ˜ブーバン [˜dukunari ˜ʔatsata ˞be:˜ti ʔu˞ʧi˜miʤi ˞ʃi:˜ʃi̥ke:ta: pi˞ra˜ke: na˞ri˜ bu:baŋ](あまりにも暑かったので打ち水をしておいたら涼しくなってきているわい)。

ウ˞チ˜ユ [ʔu˞ʧiju] 【名】世の中。世間。当世。首里方言からの借用語。「Vqiyo. ウキヨ (浮世・憂世)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ウ˞ムイ˜ヌ　˞トゥー˜ル　ナ˞ラ˜ン　ム˞ヌ˜ル　ウ˞チユ˜ヌ　˜ナライ [ʔu˞mui˜nu ˞tu:˜ru na˞ra˜m mu˞nu˜ru ʔu˞ʧiju˜nu ˜narai](思い通りにならないのが浮世 < 世の中 > の常だ)。

ウ˞チ˜ルン [ʔu˞ʧi˜ruŋ] 【自動】1移る。パ˞トゥ˜マーラ　イ˞サナケー˜　ウ˞チ˜ルンテイ　˜ウムイ　˞ベー [pḁ˞tu˜ma:ra ʔi˞sanake:˜ ʔu˞ʧi˜runti ˜ʔumui ˞be:](鳩間島から石垣島へ移ろうと思っている)。2写る。映る。˞カン˜ガンナー　ウ˞チ˜ル　シ˞ラカタ˜チ　˜ミルカー　˞カイヤ˜ルバン [˞kaŋ˜ganna: ʔu˞ʧi˜ru ʃi˞rakata˜ʧi ˜miruka: ˞kaija˜rubaŋ](鏡に映る容貌 < 顔かたち > を見ると、なるほど綺麗だわい)。3似合う。

衣類などがよく似合う。映える。ク˩ヌ　キン˥マー　˩ワー˥ナ　ウ˩チラ˥ヌ [ku˩nu kim˥ma: ˩wa:˥na ʔu˩tʃira˥nu](この着物は君には似合わない＜映らない＞)。イッ˩ケン˥　ウ˩チ˥ルン [ʔik˩keŋ˥ ʔu˩tʃi˥ruŋ](非常に良く似合う)。

ウ˩チ˥ルン [ʔu˩tʃi˥ruŋ] 【自動】感染する。プ˩スヌ˥ミー　˥パルカー　パ˩ナシキ˥　ウ˩チ˥ルン˩ダー [pu˩sunu˥ mi: ˥paruka: pa˩naʃi̥ki˥ ʔu˩tʃi˥run˩da:](人ごみの中＜人の中＞に行くと風邪がうつる＜感染する＞ぞ)。ウ˩チラ˥ヌ [ʔu˩tʃira˥nu](感染しない)。ウ˩チ˥ルカー [ʔu˩tʃi˥ruka:](感染したら)。ウ˩チ˥ル　˥クトー [ʔu˩tʃi˥ru ˥kʷto:](感染することは)。ウ˩チ˥レー˥ミサムヌ [ʔu˩tʃi˥re: ˥misamunu](感染すればよいのに)。ウ˩チ˥リ [ʔu˩tʃi˥ri](感染せよ)。

ウ˩チンター [ʔu˩tʃinta:] 【名】内側。奥座敷。「内の方」の転訛したもの。˩ター [˩ta:](方向。場所。所) は「方(カタ)」の転訛したもの。˥フカンター [˥ɸʷkanta:](外側) の対義語。˥マンター [˥manta:](前方)、˥シンター [˥ʃinta:](後方)、˩インター [˩ʔinta:](西方)、˩アンター [˩ʔanta:](東方)、˩ウンター [˩ʔunta:](上方)、ッ˩サンター [s˩santa:](下方) という。ウ˩チンタナー˥ル˥ヌーンクイン　ウ˩サ˥ミ　˥シケー [ʔu˩tʃintana:˥ru ˥nu:ŋkuiŋ ʔu˩sa˥mi ˥ʃi̥ke:](奥座敷に＜ぞ＞何もかも納めてある)。ウ˩チンター　ペー˥リバ [ʔu˩tʃinta: pe:˥riba](奥座敷へ上がり＜入り＞なさい)。

ウ˩ツァ˥スン [ʔu˩tsa˥suŋ] 【他動】1写す。撮影する。˥サシン　ウ˩ツァ˥スン [˥saʃiŋ ʔu˩tsa˥suŋ](写真を撮影する＜写す＞)。ウ˩ツァサ˥ヌ [ʔu˩tsasa˥nu](写さない)。ウ˩ツァシ˥　プサン [ʔu˩tsaʃi˥pʷsaŋ](写したい)。ウ˩ツァ˥ス　プ˩ソー˥　ブ˩ラーンユンダ　ワーンツァン˥　ウ˩ツァ˥シェー　˥ミサムヌ [ʔu˩tsa˥su pʷ˩so: ˥bu˩ra:ɲjunda wa:ntsaŋ˥ ʔu˩tsa˥ʃe: ˥misamunu](写す人がいないから、君だけでも写せばよいのに)。˩ダンダン˥シ　ウ˩ツァ˥シ [˩dandaŋ˥ʃi ʔu˩tsa˥ʃi](さっさと写しなさい)。2感染させる。パ˩ナシケー˥　プ˩スン˥　ウ˩ツァサン˥ヨーニ　˩シート ダー [pa˩naʃi̥ke: ˥ pʷ˩suŋ˥ ʔu˩tsasaŋ˥jo:ni ˩ʃi:ɨ˩da:](風邪は他人に感染させ＜移させ＞ないようにしなさいよ)。

ウ˩ツァ˥スン [ʔu˩tsa˥suŋ] 【他動】1移す。移動させる。若年層はウ˩ツ˥スン [ʔu˩tsu˥suŋ](移す) ともいう。˥バー　˩クシ˥ケー　˥ナハー　ウ˩ツァ˥スンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　マ˩ナ˥マー　ウ˩ツァサ˥ヌ [˥ba: ˩kuʃi̥˥ke: ˥naha: ʔu˩tsa˥sunti ʔu˩mu:n˥du ma˩na˥ma: ʔu˩tsasa˥nu](私の戸籍は那覇へ移そうと思うが、今は移さない)。ウ˩ツァ˥シ　˥ミサカー　ウ˩ツァ˥ス　˥クトー　˥ナルン [ʔu˩tsa˥ʃi ˥misaka: ʔu˩tsa˥su ˥kʷto: ˥naruŋ](移して良ければ移すことは出来る)。シ˩グ˥　ウ˩ツァ˥シェー　˥ミサムヌ [ʃi˩gu˥ ʔu˩tsa˥ʃe: ˥misamunu](すぐ移せば良いのに)。˩パー˥ク　ウ˩ツァ˥シ [˩pa:˥ku ʔu˩tsa˥ʃi](早く移せ)。2撮影する。˥シャシン　ウ˩ツァ˥スン [ʃaʃiŋ ʔutsasuŋ](写真を写す。撮影する)。

ウ˩ツァ˥ナウン [ʔu˩tsa˥nauŋ] 【他動】中止する。ほったらかす。放置する。手を休める。首里方言のcaNnagijuN(うっちゃる。投げ捨てる) に強意の接頭語のウチ [ʔutʃi](打ち) が付いて合成された語?utiannagijuN から転訛したもの。シ˩グトゥヌ　ティー˥ヤ　ウ˩ツァ˥ナイティ　パ˩ナ˥シ　シ˩キ˥バ [ʃi˩gutunu ti:˥ja ʔu˩tsa˥naiti pa˩na˥ʃi ʃi̥˩ki˥ba](仕事の手を休めて話を聞きなさいよ)。ウ˩ツァナーン˥ドーシ　シ˩キ˥バ [ʔu˩tsana:n˥do:ʃi ʃi̥˩ki˥ba](手を休めないで聞けよ)。シ˩グトー˥　ウ˩ツァ˥ナウンテー　ス˩ナ˥ヨー [ʃi˩guto:˥ ʔu˩tsa˥naunte: su˩na˥jo:](仕事の手を休めようなどとはするなよ)。ウ˩ツァ˥ナウ　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [ʔu˩tsa˥nau ˥kʷto: na˩ra˥nu](手を休めることはならぬ。手を休めるな)。ウ˩ツァナイ˥ヤー˥ミサムヌ [ʔu˩tsanai˥ja: ˥misamunu](手を休めればいいのに)。˩イットゥ˥キ　˩ティー˥ヤ　ウ˩ツァ˥ナイバ [˩ʔittu˥ki ˩ti:˥ja ʔu˩tsa˥naiba](一時手を休めなさいよ)。シ˩グトゥ˥　ウ˩ツァ˥ナウンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　マ˩ニアーサラン˥ユンダ＜マ˩ニアーサラン˥ダ＞　ウ˩ツァナー˥ラ˥ヌ [ʃi˩gutu˥ ʔu˩tsa˥naunti ʔu˩mu:n˥du ma˩ni?a:saraŋ˥junda ＜ma˩nia:saran˥da＞ ʔu˩tsana:ra˥nu](仕事を途中で止めようと思うが、＜このままでは＞間に合わされないので、途中で止められない)。ウ˩ツァ˥ナイ　˥ミサカー　ウ˩ツァ˥ナウ　˥クトー　˥ナルン [ʔu˩tsa˥nai ˥misaka: ʔu˩tsa˥nau ˥kʷto: ˥naruŋ](途中で止めてよければ止めることはできる)。ブ˩ガ˥リ　˩ブー˥カー　シグトゥ　ウ˩ツァナイ˥ヤー　˥ミサムヌ [bu˩ga˥ri ˩bu:˥ka: ʃi˩gutu˥ ʔu˩tsanai˥ja: ˥misamunu](疲れているなら、仕事を止めればいいのに)。ウ˩ツァナイ˥リ [ʔu˩tsanai˥ri](仕事の手を休めろ)。ウ˩ツァ˥ナイバ [ʔu˩tsa˥naiba](途中で手を止めよ。放置せよ)。˩テー˥ヤ　ウ˩ツァ˥ナイバ [˩ti:˥ja ʔu˩tsa˥naiba](手を休めなさいよ)。

ウ˩ツァナ˥ク [ʔu˩tsana˥ku] 【名】白玉。白玉粉を水で捏ね、小さく丸めて蒸し上げたウズラの卵大の餅。大きな神事や豊年祭のなどの神行事の際に供える供物の餅。「Chanoco. チャノコ (茶の子)　茶 (Cha) を飲む前に食べる、食欲をそそる塩漬けの物」『邦

訳日葡辞書』の転訛したものか。˞プー˜ルンドーレーヌ　ウ˞ブニンガイ˜ヌ　˜ピンマー　ウ˞ツァナ˜クン　ス˞コーリソーッ˜タ [˞pu:˜rundore:nu ʔu˞buniŋ-gai˜nu ˜pimma: ʔu˞tsana˜kun su˞kuri˜so:tta](豊年祭などの大きな祈願のときにはウツァナクも作られた)。「ちゃのこ (茶の子)」の義か。国語の「茶の子」は「茶菓子、ちゃうけ、彼岸会や仏事の供物または配物＜くばりもの＞」の意『広辞苑』という。

ウ˞ツァナ˜クン [ʔu˞tsana˜kuŋ] 【他動】放り出す。投げ出す。うち捨てる。途中で止める。シ˞グトー˜　ウ˞ツァナ˜キティ＜ウ˞ツァ˜ナイティ＞　˞バン˜スル　˜ブリ　ッ˞ふァイベー [ʃi˞guto:˜ ʔu˞tsana˜kiti ＜ʔu˞tsa˜naiti＞ ˞ban˜suru ˜buri f˞faibe:](仕事を放り出してバンジロウ＜蕃石榴＞を捩(モ)いで＜折って＞食べている)。ウ˞ツァナカ˜ヌ [ʔu˞tsanaka˜nu](放り出さない)。ウ˞ツァナ˜クン＜ウ˞ツァ˜ナウン＞[ʔu˞tsana˜kuŋ ＜ʔu˞tsa˜nauŋ＞](放り出す)。ウ˞ツァナ˜ク　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞tsana˜ku ˜kuto: na˞ra˜nu](放り出すことは出来ない)。ウ˞ツァナ˜ケー　˜ミサムヌ [ʔu˞tsana˜ke: ˜misamunu](放り出せばよいのに)。˞パー˜ク　ウ˞ツァナ˜キ [˞pa:˜ku ʔu˞tsana˜ki](早く放り出せ)。

ウ˞ツァバナカ˜スン [ʔu˞tsabanaka˜suŋ] 【他動】仰向けにする。仰向けに寝かせる。ウ˞ツァバナカ˜スンティ　˞スンドゥ˜　ウ˞ツァバナカサラ˜ヌ [ʔu˞tsabanaka˜sunti ˞sundu˜ ʔu˞tsabanakasara˜nu](仰向けにしようとするが、仰向けにされない)。ウ˞ツァバナカ˜シ　˜ミサカー　ウ˞ツァバナカ˜ス　˜クトー　˜ナルン [ʔu˞tsabanaka˜ʃi ˜misaka: ʔu˞tsabanaka˜su ˜kṵto: ˜naruŋ](仰向けにして良ければ仰向けにすることはできる)。ウ˞ツァバナカ˜シェー　˜ミサムヌ [ʔu˞tsabanaka˜ʃe: misamunu](仰向けにすれば良いのに)。ウ˞ツァバナカ˜シバ [ʔu˞sabanakaʃi˜ba](仰向けにしなさいよ)。

ウ˞ツァバナ˜クン [ʔu˞tsabana˜kuŋ] 【自動】仰向きになりやがる。仰向きになって寝やがる。両手両足を広げて寝る様の卑語表現。ウチ (接頭語)+ ア˞バナクン (仰向けになる)→　ウツァバナクンと音韻変化したもの。ミ˞ドゥム˜ヌ　プ˞スヌ˜　マイナー　ウ˞ツァバナ˜キ　ニ˞ブムノー˜　ア˞ラ˜ヌ [mi˞dumu˜nu pṵ˞sunu˜ maina: ʔu˞tsabana˜ki ni˞bumuno: ˜ ʔa˞ra˜nu](女が人前で仰向けになって寝るものではない)。ウ˞ツァバナ˜クンティ　ウ˞ムー˜タンティン　˜クナーテー　ウ˞ツァバナカラ˜ヌ [ʔu˞tsabana˜kunti ʔu˞mu:˜tantiŋ ˜kuna:te: ʔu˞tsabanakara˜nu](仰向きになろう＜仰向きになる＞と思っても、ここでは仰向けになれない＜仰向かれない＞)。シ˞グトー˜　サ˞ムティ˜　ウ˞ツァバナ˜キ　˞ベー [ʃi˞guto:˜ sa˞muti˜ ʔu˞tsabana˜ki ˞be:](仕事はしないで仰向けになって寝ていやがる)。サ˞キ˜　ヌムユンダル　マー˞ン˜ナーティン　ウ˞ツァバナ˜クンダ　ウ˞ツァバナカン˜ヨーニ　サ˞キ˜　ヌ˞マス˜ナ [sạ˞ki˜ numujundaru ma:˞n˜na:tiŋ ʔu˞tsabana˜kunda ʔu˞tsabanakaŋ˜jo:ni sạ˞ki˜ nu˞masu˜na](酒を飲むから何処でも仰向けに寝やがるから、仰向けに寝かさないよう、酒を飲ますな)。ウ˞ツァバナ˜ク　プ˞ソー˜　ブ˞ラーヌ [ʔu˞tsabana˜ku pṵ˞so:˜ bu˞ra:nu](仰向けに寝やがる人はいない)。ウ˞ツァバナ˜ケー　˜ミサムヌ [ʔu˞tsabana˜ke: ˜misamunu](仰向けに寝やがればいいのに)。ウ˞ツァバナ˜キバ [ʔu˞tsabana˜kiba](仰向けに寝やがれ)。

˜ウツァン [˜ʔutsaŋ] 【名】とあみ (投網)。「Vchiami. ウチアミ (打網) 雉鳩などを捕るのに用いる網」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。浅海の魚を捕るのに用いる円錐形の網。下部に鉛の沈子が付けてある。投網の沈子の部分を両手で持ち、網全体を肩に掛け、体を屈めて魚群に接近し、魚の群れを目掛けて網を投げ打つと網は直径約 3 メートルの円形に拡がり、魚群を被せるように捕獲することが出来る。ブ˞ラヌ　ユーリ˜　クー　˜ピンマー　˜ウツァンシン　カ˞バ˜シ　トゥ˞ローッ˜タン [bu˞ranu ju:ri˜ku: ˜pimma: ˜ʔutsaŋʃiŋ ka˞ba˜ʃi tu˞ro:t˜taŋ](ボラ＜鰡＞が寄ってくるときは投網でも投げ被せて魚を捕獲された)。

˞ウッカイ˜スン [˞ʔukkai˜suŋ] 【他動】ひっくり返す。裏返して乾燥する。˞イー˜シ　˞ウッカイ˜スンティ　˞ベー˜ンドゥ　アッ˞ツァ˜ヌ　˜メー　˞ウッカイサラ˜ヌ [˞ʔi:˜ʃi ˞ʔukkai˜sunti ˞be:˜ndu ʔat˞tsa˜nu ˞ʔukkaisara˜nu](ツノマタを裏返し乾燥しようとしているが、太陽の熱が熱くて、もう裏返されない)。˞ユー˜クイティ　˞ウッカイ˜シ　˜ミサカー　˞ウッカイ˜ス　˜クトー　˜ナルン [˞ju:˜kuiti ˞ʔukkai˜ʃi ˜misaka: ˞ʔukkai˜su ˜kṵto: ˜naruŋ](休んで＜憩うて＞から裏返して良ければ裏返すことはできる)。˞ウッカイ˜シェー　˜ミサムヌ [˞ʔukkai˜ʃe: ˜misamunu](裏返せば良いのに)。˞ウッカイ˜シバ [˞ʔukkai˜ʃiba](裏返しなさいよ)。

˞ウッ˜カイムッカイ [˞ʔuk˜kaimukkai] 【副】ああしようか、こうしようかと迷うさま。逡巡するさま。ぐずぐずして決めかねるさま。ク˞ヌ　オーシキ˜ナ

˞フニ　ン˞ザサ˞リンユー　˞ヌー˞シユーティ　˞ウッ˞カイムッカイ　˞シー　オー˞ル [ku˞nu ʔo:ʃi̥˞ki-na: ˞ɸuni ʔn˞ʤasa˞riŋju: ˞nu:˞ʃiju:ti ˞ʔuk˞kaimukkai ˞ʃi: ʔo:˞ru](この天気で船が出せるだろうか、どうだろうかと、なかなか決めかねて＜逡巡して＞おられる)。˞キュー˞ヤ　イ˞ソー˞　パ˞ラ˞リンユー　˞ヌー˞シユーティ　˞ウッ˞カイムッカイ　˞シーベー [˞kju:˞ja ʔi˞so:˞ pa˞ra˞riŋju: ˞nu:˞ʃiju:ti ˞ʔuk˞kaimukkai ˞ʃi:be:](今日は出漁出来るかどうか、判断しかねている)。

˞ウッカイラ˞スン [˞ʔukkaira˞suŋ] 【他動】ひっくり返す。裏返す。˞ウッケーラ˞スン [˞ʔukke:ra˞suŋ](ひっくり返す) ともいう。˞ユシ˞キシダルナー　˞プシシケー　イ˞ガー　ウッカイラ˞シ　˞プシバ [˞juʃi˞kiʃidaruna ˞pu̥ʃiʃi̥ke: ʔi˞ga: ʔukkaira˞ʃi ˞pu̥ʃiba](ススキの簾に干してある烏賊は、裏返して干しなさい)。˞ウッカイラサラ˞ヌ [˞ʔukkairasara˞nu](ひっくり返されない)。˞ウッカイラシ˞　プサン [˞ʔukkairaʃi˞pu̥saŋ](ひっくり返したい)。˞ウッカイラ˞ス　˞クトー　ナ˞ラ˞ヌ [˞ʔukkaira˞su ˞ku̥to: na˞ra˞nu](ひっくり返すことは出来ない)。˞ウッカイラ˞シェー　˞ミサムヌ [˞ʔukkaira˞ʃe: ˞misamunu](ひっくり返せばよいのに)。˞ウッカイラ˞シ [˞ʔukkaira˞ʃi](ひっくり返しなさい)。

˞ウッカイ˞ルン [˞ʔukkai˞ruŋ] 【自動】覆る。反転する。ひっくり返る。反故にする。反対する。嫌がる。若年層は˞ウッケー˞ルン [˞ʔukke:˞ruŋ](反転する。嫌がる) ともいう。ウ˞レー˞　ヤ˞クスク˞　シ˞タンティン˞　ナ˞カバー˞ラ　˞ウッカイ˞ルンティ　˞スンダ　ウッカイラン˞　ヨーニ　クマー˞クマー˞シ　キ˞ミリ [ʔu˞re:˞ ja˞kusu̥ku˞ ʃi̥˞tantin˞ na˞kaba:˞ra ˞ʔukkai˞runti ˞sunda ʔukkairaŋ˞ jo:ni kuma:˞ku-ma:˞ʃi ki˞miri](彼は約束しても途中で反転する＜覆(クツガエ)る＞というから、彼がひっくりがえらないように細々と取決めなさい)。キサー˞ティ　ウッカイ˞リ　˞ナー˞ヌ [ki̥sa:˞ti ʔukkai˞ri ˞na:˞nu](既に反転＜ひっくりがえって＞してしまっている)。ク˞マーバー˞キ　˞ケーラ　˞ウッカイ˞ル　˞クトー　˞ナーン˞パジ [ku˞ma:ba:˞ki ˞ke:ra ˞ʔukkai˞ru ˞ku̥to: ˞na:m ˞paʤi](ここまで来れば反転する＜覆す＞ことは無いだろう＜はずだ＞)。

˞ウッケー˞スン [˞ʔukke:˞suŋ] 【他動】ひっくり返す。裏返す。引き返す。˞ウッケーラ˞スン [˞ʔukke:ra˞suŋ](ひっくり返す) と同じ。˞ウッケーサン˞タンティン　˞ミサン [˞ʔukke:san˞tantim ˞misaŋ](ひっくり返さなくてもよい)。˞ウッケー˞シ　˞ミサン [˞ʔukke:˞ʃi ˞misaŋ](ひっくり返してもよい)。˞ドゥーシ　˞ウッケー˞スンティ　˞ウムーカー　˞ウッケー˞シバ [˞du:ʃi ˞ʔukke:˞sunti ˞ʔumu:ka: ˞ʔukke:˞ʃiba](自分でひっくり返してもよいと思うならひっくり返しなさい)。ク˞レー　ウッケー˞ス　˞クトー　ナ˞ラ˞ヌ [ku˞re: ʔukke:˞su ˞ku̥to: na˞ra˞nu](これは、ひっくり返すことは出来ない)。˞パー˞ク　˞ウッケー˞シェー　˞ミサムヌ [˞pa:˞ku˞ʔukke:˞ʃe: ˞misamunu](早くひっくり返せばよいのに)。

˞ウッケーラ˞スン [˞ʔukke:ra˞suŋ] 【他動】ひっくり返す。裏返す。˞ウッカイラ˞スン [˞ʔukkaira˞suŋ](ひっくり返す) と同じ。˞カイ˞スン [˞kai˞suŋ](返す) ともいう。イ˞ガー˞　プ˞スマティダヌ˞　ウ˞チ˞ナー　˞ウッケーラ˞シティ　˞プシバ [ʔi˞ga:˞ pu̥˞sumatidanu˞ ʔu˞ʧi˞na: ˞ʔukke:ra˞ʃi̥ti ˞pu̥ʃiba](烏賊は昼間の太陽＜昼間太陽＞があるうちに裏返して干しなさい)。

˞ウッケー˞ルン [˞ʔukke:˞ruŋ] 【自動】ひっくり返る。覆る。˞ウッカイ˞ルン [˞ʔukkai˞ruŋ](覆る) と同じ。ナ˞カバー˞ラン　˞ウッケー˞ルンダ　˞ウッケーラン˞ヨーニ　キ˞ミリ [na˞kaba:˞raŋ ˞ʔukke:˞runda ˞ʔukke:raŋ˞jo:ni ki˞miri](中途からでも覆るから、覆らないように決めなさい)。˞ウッケー˞リ　˞ナー˞ヌ [˞ʔukke:˞ri ˞na:˞nu](覆ってしまった)。˞ウッケー˞ル　˞クトゥン　˞アン [˞ʔukke:˞ru ˞ku̥tuŋ ˞ʔaŋ](覆ることもある)。˞ウッケー˞レー　˞ミサムヌ [˞ʔukke:˞re: ˞misamunu](覆れば良いのに)。˞ウッケー˞リバ [˞ʔukke:˞riba](覆れよ)。

˞ウッ˞ザ [˞ʔud˞ʤa] 【名】(動) うずら (鶉)。ウズラの転訛。˞ウザドゥル [˞ʔuʤaduru](鶉。鶉鳥) ともいう。尾が短く、茅原に棲む。小指大の卵は美味である。

ウ˞ツ˞スン [ʔu˞tsu˞suŋ] 【他動】1写す。老年層は、ウ˞ツァ˞スン [ʔu˞tsa˞suŋ](写す) という。˞シャシン　ウ˞ツ˞スンティ　ウ˞ムーン˞ドゥ　˞クナーテー　ウ˞ツサ˞ヌ [˞ʃaʃiŋ ʔu˞tsu˞sunti ʔu˞mu:n˞du ˞kuna:te: ʔu˞tsusa˞nu](写真を写そうと思うが、ここでは写さない)。˞シャシン　ウ˞ツシ˞　プサカー　ウ˞ツ˞ス　˞クトー　ナルン˞ダー [˞ʃaʃiŋ ʔu˞tsuʃi˞ pu̥saka: ʔu˞tsu˞su ˞ku̥to: narun˞da:](写真を写したければ写すことは出来るよ)。ウ˞ツ˞シェー　˞ミサムヌ [ʔu˞tsu˞ʃe: ˞misamunu](写せば良いのに)。ヤー˞ディン˞　ウ˞ツ˞シ [ja:˞diŋ˞ ʔu˞tsu˞ʃi](必ず写せ)。

ウ˞ツ˞スン [ʔu˞tsu˞suŋ] 【他動】移す。˞ニーム˞チ　ウ˞ツ˞スンティ　ウ˞ムーン˞ドゥ　˞タンガ˞シェー　ウ

˩ツサラ˥ヌ [˩niːmu˥ʧi ʔu˩tsu˥nti ʔu˩muːn˥du ˩taŋga˥ʃeː ʔu˩tsusara˥nu](荷物を移そうと思うが、一人では移されない)。

˩ウッ˥ソン [˩ʔus˥soŋ] 【名】盆の窪。後頭部。「後ろ窪み」の義。˩ウッソン˥マー　˩カンユーナ˥　トン　ヤ˩リバ˥　タ˩タック˥ナ <˩シック˥ナ >˩ダー [˩ʔussom˥maː ˩kaŋjuːna˥ ton ja˩ribaˬ taˬ˩takku˥na < ˩ʃikku˥na > ˩daː](後頭部 < 盆の窪 > は肝要な所だから打つな < 叩くな > よ)。˩ウッ˥ソンナー　ン˩ジ˥ル　ア˩シ˥ボー　ム˩カ˥シェーラ　ヤ˩ナムヌティ˥　ア˩ザリ　ブーバ　キー˥　シ˩キ˥リ˩ヨー [˩ʔus˥sonnaː ʔn˩ʤi˥ru ʔa˩ʃi˥boː mu˩ka˥ʃeːra ja˩namunuti˥ ʔa˩ʤari buːba kiː˥ ʃiˬ˩ki˥ri˩joː](盆の窪に出来る出来物は昔から悪性の出来ものだといわれているから気を付けなさいよ)。

˩ウッ˥ソン　サ˩リーン [˩ʔus˥son sa˩riːŋ] 【句】後頭部が貧相になる < 枯れる >。生気がなく影が薄くなる。痩せて元気がなくなる。盆の窪が枯れると、その人は長生きしないといわれている。

˩ウッタイラリ˥ルン [˩ʔuttairari˥ruŋ] 【自動】訴えられる。1˩ウッタイ˥ルン [˩ʔuttai˥ruŋ](訴える) の未然形に受身の助動詞˩リ˥ルン [˩ri˥ruŋ](れる) が付いて形成された派生動詞 (受身動詞)。プ˩スン　ウッタイラリ˥ルン [pu̥˩suŋ ʔuttairari˥ruŋ](他人に訴えられる)。2˩ウッタイ˥ルン [˩ʔuttai˥ruŋ](訴える) の未然形に、可能の助動詞˩リ˥ルン [˩ri˥ruŋ](れる) が付いて形成された派生動詞 (可能動詞)。˩バン˥ヌン　プ˩ス　ウッタイラリ˥ルン [˩ban˥num pu̥˩su ʔuttairari˥ruŋ](私にも他人を訴えられる < 訴えることが出来る >)。

˩ウッタイラ˥リン [˩ʔuttaira˥riŋ] 【自動】訴えられる。˩ウッタイ˥ルン [˩ʔuttai˥ruŋ](訴える) の未然形に受身・可能の助動詞˥リン [˥riŋ](れる) が付いて形成された派生動詞 (受身動詞・可能動詞)。˥ジン　カ˩リティ　カイサン˥カー　˩ウッタイラ˥リン˩ダー [˩ʤiŋ ka˩riti kaisaŋ˥kaː ˩ʔuttaira˥rin˩daː](金を借りて返さないと訴えられるぞ < 受身 >)。˩ワンヌン　ウッタイラ˥リン˩ダー [˩wannuŋ ˩ʔuttaira˥rin˩daː](君にも訴えられるぞ < 可能 >)。

˩ウッタイ˥ルン [˩ʔuttai˥ruŋ] 【他動】訴える。マ˩ラリヤ˥ヌ　パ˩ヤー˥リ　ム˩ラドーリ　シーン˥ギサタール　ヤ˩ク˥バー　˩ウッタイ˥ルンティ　イ˩サナケー˥　ンジ˩クー˥タ [ma˩rarija˥nu pa˩ja:˥ri mu˩radoːri ʃiːŋ˥gisataːru ja˩ku˥baː ˩ʔuttai˥runti ʔi˩sanakeː˥ ʔn˩ʤi˥kuː˥ta](マラリアが流行って村倒れしそうになったので役場へ訴えよう < 申し出よう > と石垣島へ出てきた)。˩ウッタイラ˥ヌ [˩ʔuttaira˥nu](訴えない)。˩ウッタイ˥プサン [˩ʔuttai˥pu̥saŋ](訴えたい)。˩ウッタイ˥ル　クトゥ [˩ʔuttai˥ru ˥ku̥tu](訴えること)。˩ウッタイ˥レー　˥ミサムヌ [˩ʔuttai˥reː ˥misamunu](訴えればよいのに)。˩ウッタイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˩ʔuttai˥jaː ˥misamunu](訴えればよいのに)。˩ウッタイ˥リ [˩ʔuttai˥ri](訴えなさい。訴えれ)。

˩ウッ˥タウン [˩ʔut˥tauŋ] 【他動】訴える。「訴う (訴ふ) 下二段活用」の四段活用化したもの。˩ウッタイ˥ルン [˩ʔuttai˥ruŋ](訴える) と同じ。˩ウッター˥ヌ < ˩ウッタイラ˥ヌ >[˩ʔutta:˥nu < ˩ʔuttaira˥nu >](訴えない)。˩ウッタイ˥プサン [˩ʔuttai˥pu̥saŋ](訴えたい)。˩ウッ˥タウン [˩ʔut˥tauŋ](訴える)。˩ウッ˥タウ　˥クトゥ [˩ʔut˥tau ˥ku̥tu](訴えること)。˩ウッタイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˩ʔuttai˥jaː ˥misamunu](訴えればよいのに)。˩ウッ˥タイバ　[˩ʔut˥taiba](訴えなさいよ)。

˩ウッ˥ツァー [˩ʔut˥tsaː] 【代】1それら。指示代名詞。中称の複数形。ウリ・ター [ʔuri-taː](それ・たち) の融合変化したもの。˩ウッ˥ツァー　シゥ˩カイユーゾー　ナーン˥バ　ムー˩ル˥　プ˩スン　ッふィーリ [˩ʔut˥tsaː si̥˩kaijuːʤoː naːm˥ba muː˩ru˥ pu̥˩sun ffiːri](それらは使い道がない < 用途がない > から全部他人にやりなさい)。2それたち。その人達。˩ウッ˥ツァーサーレー　˩マーズンマー˥　シ˩グトー˥ナ˩ラ˥ヌ [˩ʔut˥tsaːsaːreː ˩maːʤummaː˥ ʃi˩gutoː˥ na˩ra˥nu](その人たちとは一緒に仕事は出来ない)。˩ウッ˥ツァー　シ˩グトゥ [˩ʔut˥tsaː ʃi˩gutu](その人たちの仕事)。˩ウッツァー˥ノー　˩シーユーサヌ [˩ʔuttsaː˥noː ˩ʃiːjuːsanu](その人たちがは、することが出来ない < し得ない >)。˩ウッ˥ツァーラ [˩ʔut˥tsaːra](その人たちから)。˩ウッツァー˥バ [˩ʔuttsaː˥ba](その人たちを)。˩ウッツァー˥トゥ [˩ʔuttsaː˥tu](その人たちと)。˩ウッ˥ツァー　˩ベー˥シマプソー　ア˩ラン˥ユンダ　˩ベー˥シマムネー　シ˩キユーサヌ [˩ʔut˥tsaː ˩beː˥ʃimapu̥soː ʔa˩raŋ˥junda ˩beː˥ʃimamuneː ʃi̥˩kijuːsanu](その人達は我々 < 聞き手を含む我々 > の島の人でないから我々の島言葉 < 島物言い。方言 > は理解できない < 聞き得ない >)。

˩ウッツァー˥スン [˩ʔuttsaː˥suŋ] 【自動・他動】ぶつける。瓶や甕などの陶磁器、ガラス器具などの容器類がぶつけ合う。ぶつかり合う。「打ち合わす」の義か。˩ウンパン˥シンラ　˥ムティクンケン　サ˩キクビンマー　ウッツァー˥シティ　バ˩リナー˥ヌ [˩ʔumpaŋ˥ʃinra ˥mutikuŋken sḁ˩kikubimmaː ʔuttsaː

˜ʃi̥ti ba˞rinaː˜nu](運搬船から運んで＜持って＞来るうちに酒瓶がぶつかって＜酒瓶をぶつけて＞割れてしまった)。˞ウッツァーサ˜ヌ [˞ʔuttsaːsa˜nu](ぶつけない。ぶつからない)。フ˞ニ˜ヌ　グ˞ロー˜カー　ク˞ビン˜マー　˞ウッツァー˜スン [ɸu˞ni˜nu gu˞roː˜ka: ku˞bim˜ma: ˞ʔuttsaː˜suŋ](船の横揺れ＜ローリング＞がひどいと瓶はぶつかる)。˞ウッツァー˜ス　˜クトー　˞ナー˜ヌ [˞ʔuttsaː˜su ˜ku̥to: ˞naː˜nu](ぶつかる＜ぶつける＞ことはない)。˞ウッツァー˜シェー　˜ミサムヌ [˞ʔuttsaː˜ʃe: ˜misamunu](ぶつければ＜ぶつかれば＞いいのに)。˞ウッツァー˜シ [˞ʔuttsaː˜ʃi](ぶつけろ＜ぶつかれ＞)。

˞ウッツォーリ˜カジ [˞ʔuttsoːri˜kaʤi] 【名】物に当って跳ね返ってくる風。マ˞キカジ [ma˞kikaʤi](旋風)となって吹くことがある。˞マイ˜ネヌ　タ˞カグスク˜ヌ　˞ウッツォーリカジヌ˜ル　˜アイニ　˞スー˜ワバン [˞mai˜nenu ta˞kagusuku˜nu ˞ʔuttsoːrikaʤinu ˜ru ˜ʔaini ˞suː˜wabaŋ](前隣の高い石垣に当って跳ね返ってくる風があのように強いのだよ)。

ウッ˞ティ˜　カ˞ミ˜ルン [˞ʔutti˜ ka˞mi˜ruŋ] 【連】うやうやしく (恭しく) 頂く。両手に置いて頭の位置まで押し上げ、恭しく頂く。オッ˞ティ˜　カ˞ミ˜ルン [ʔot˞ti˜ ka˞mi˜ruŋ](恭しくいただく) ともいう。カンヌマイ˜ヌ　˜グシェー　ウッ˞ティ˜　カ˞ミ˜リ [˞kannumai˜nu ˜guʃe: ʔut˞ti˜ ka˞mi˜ri](神前に供えた神酒を恭しく頂きなさい)。

˞ウットー˜スン [˞ʔuttoː˜suŋ] 【他動】打ち倒す。ぶったおす。台風が作物や草木を薙ぎ倒す。切り倒す。バ˞サム˜トゥ　˞ウットー˜スン [ba˞samu˜tu ˞ʔuttoː˜suŋ](芭蕉の幹を打ち倒す＜ぶっ倒す＞)。カ˞ジフキ˜ナー　バ˞サム˜トー　ムー˞ル　ウットーサ˜リ　˞ナー˜ヌ [ka˞ʤiɸuki˜naː ba˞samu˜to: mu:˞ru ʔuttoːsa˜ri ˞naː˜nu](台風＜風吹き＞で芭蕉の幹はみんな打ち倒されてしまった)。˞ウットーシ˜　プサン [˞ʔuttoː˜ʃi˜pu̥saŋ](うちたおしたい)。˞ウットー˜ス　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [˞ʔuttoː˜su ˜ku̥to: na˞ra˜nu](打ち倒すことは出来ない)。˞ウットー˜シェー　˜ミサムヌ [˞ʔuttoː˜ʃe: ˜misamunu](打ち倒せばよいのに)。˞ウットー˜シ [˞ʔuttoː˜ʃi](打ち倒せ)。

˞ウットーリ˜ルン [˞ʔuttoːri˜ruŋ] 【自動】ぶっ倒れる。˞ウットー˜ルン [˞ʔuttoː˜ruŋ](大木がぶっ倒れる) と同じ。ム˞トゥ˜ヌ　˜ッサリ　˞ブンダ　タイフー˜ヌ　˜フクカー　˞ウットーリ˜ルン　˜パジ [mu˞tu˜nu ˜ssari ˞bunda taiɸuː˜nu ˜ɸu̥kuka: ˞ʔuttoːri˜rum ˜paʤi](幹が腐れているから台風が吹くとぶっ倒れるはずだ)。

˞ウットー˜ルン [˞ʔuttoː˜ruŋ] 【自動】ぶっ倒れる。大木が強風でぶっ倒れる。ウ˞ビ˜ヌ　フ˞クンキー˜ヤ˞ルヌ˜　カ˞ジフキ˜ナー　˞ウットー˜リ　˞ナー˜ヌ [ʔu˞bi˜nu ɸu˞kuŋkiː˜ ja˞runu˜ ka˞ʤiɸuki˜naː ˞ʔuttoː˜ri ˞naː˜nu](あれだけの福木の大木だが台風でぶっ倒れてしまった)。˞ウットーラ˜ヌ [˞ʔuttoːra˜nu](ぶっ倒れない)。˞ウーカジヌ˜　フ˞ク˜ター　ク˞ヌ˜キーン　マーン˞ベーマ˜スカー　˞ウットー˜ルンティ　˞アーク˜タ [˞ʔuːkaʤinu˜ ɸu˞ku˜taː ku˞nu˜ kiːm maːm˞beːma˜su̥ka: ˞ʔuttoː˜runti ˞aːku˜ta](台風が吹いたので、この木ももう少しのところでぶっ倒れるところだった＜ぶっ倒れようとしていた＞)。˞ウットー˜ル　˜クトー　˞ナー˜ヌ [˞ʔuttoː˜ru ˜kuto: ˞naː˜nu](ぶっ倒れることはない)。˞ウットー˜レー　˜ミサムヌ [˞ʔuttoː˜reː ˜misamunu](ぶっ倒れたらよいのに)。˞ウットーリ˜リ [˞ʔuttoːri˜ri](ぶっ倒れろ)。

˞ウッふァスン [˞ʔuffasuŋ] 【他動】溺れさす。フ˞カーン˜　トンナ　˞オー˜スカー　ッ˞ふァー　ウッふァスン˞ダー [ɸu̥˞kaːn˜ tonna: ˞ʔoː˜su̥ka: f˞fa: ʔuffa-sun˞daː](深い所で泳がせると子供を溺れさせるよ)。˞ウッふァサヌ [˞ʔuffasanu](溺れさせない)。˞ウッふァシ　ナー˜ヌ [˞ʔuffaʃi naː˜nu](溺れさせてしまった)。イッ˞カ　ウッふァス˜　クトー　サ˞ヌ [ʔik˞ka ʔuffasu˜ ku̥to: sa˞nu](決して溺れさせることはしない)。˞ウッふァシェー˜　ミサムヌ [˞ʔuffaʃeː˜ misamunu](溺れさせれば良いのに)。˞ウッふァシ˜バ [˞ʔuffaʃi˜ba](溺れさせろ)。

˞ウッふィルン [˞ʔuffiruŋ] 【自動】溺れる。「耽、オホルル」『類聚名義抄』、「Vobore,ru,eta. ヲボレ, ルル, レタ (溺れ, るる, れた)〜。」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞ウッふンとも言う。ヤ˞ラ˜ビ　˞タンガ˜シ　˜オンダー　シ˞ミル˜カー　˞ウッふィルンダ　ウッふィラン˜　ヨーニ　˞キー˜　シ˞キ˜リ [ja˞ra ˜bi ˞taŋga˜ʃi ˜ʔonda: ʃi˞miru˜ka ˞ʔuffirunda ʔuffiraŋ˜ joːni ˞kiː˜ ʃi̥˞ki˜ri](子供一人で泳がせると溺れるから、溺れないように気を付けなさい)。˜クナー　˞ウッふィル˜　プ˞ソー˜　ブ˞ラーヌ [˜kuna: ˞ʔuffiru˜ pu̥˞soː˜ bu˞raːnu](ここで溺れる人はいない)。マーン˞ベー˜スカー　˞ウッふィルンティ　アーク˜タ　˞ドー˜スカーヤ [maːm˞beː˜su̥ka: ˞ʔuffirunti ʔaːku˜ta ˞doː˜sukaːja](すんでのところ＜もう少しのところ＞で溺れるとこらだったってば)。˞ウッふィラヌ [˞ʔuffiranu](溺れない)。˜カイブン　˜トンナー　˞ウ

ッふィル˥　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [kai˞bun˥ tonna: ˞ʔuffiru˥ pu̥˞so:˥ bu˞ra:nu](こんな所で溺れる人はいない)。プ˞スヌ˥　ムニ　シゥ˞カンムノー　ウッふィレー˥　ミサムヌ [pu̥˞sunu˥ muni si̥˞kammuno: ʔuffire:˥ misamunu](人の忠告＜言うこと＞を聞かないものは溺れればいいのに)。˞ウッふィリ [˞ʔuffiri](溺れろ)。ス˞ブシヌ˥　ナ˞ダカ˥ヌ　˥トンナーン　プ˞ソー　˞ウッふィルン˥ティ　ア˞ザリ　ブー˥ダー [su˞buʃinu˥ na˞daka˥nu ˥tonna:m pu̥˞so: ʔuffirun˥ ti ʔa˞ʤari bu:˥da:](膝丈の深さしかない海＜所＞でも人は溺れるといわれているんだぞ)。

˞ウッふン **[˞ʔuffuŋ]** 【自動】溺れる。「耽、オホルル」『類聚名義抄』、「駅船海に沈み大徳おぼほれ＜溺れ＞流れて〜」『日本霊異記』の四段活用に転訛したもの。ウイ˞サムティ˥　ア˞シ˥ヌ　シゥ˞カン˥　トンナー　˥ウーカー　˞ウッふンダ　ウッふァン˥ヨーニ　ピ˞ザ˥フチナーティ　˥ウイバ [ʔui˞samuti˥ ʔa˞ʃi˥nu si̥˞kan˥ tonna: ˥ʔu:ka ˞ʔuffunda ʔuffaŋ˥jo:ni pi˞ʤa˥ɸu̥tʃina:ti ˥ʔuiba](泳げないのに背丈が海底に着かない深い所で泳ぐと溺れるから、溺れないように渚で泳げよ)。˞ウッふィヤッ˥サン　˥トンナー　˥ウームヌ　˞ウッふ˥　クトー　ア˞タラ˥マイ　˞ゲ˥ラ [˞ʔuffijas˥san ˥tonna: ˥ʔu:munu ˞ʔuffu˥ ku̥to: ʔa˞tara˥mai ˞ge˥ra](溺れやすい所で泳ぐんだもの、溺れることは当たり前さ)。˞ウッふェー˥　ミサムヌ [˞ʔuffe:˥ misamunu](溺れたら良いのに)。˞ウッふィ˥バ [˞ʔuffi˥ba](溺れろ)。ア˞シ˥ヌ　タ˞タン˥トンナー　˥ウーカー　˞ウッふンダ　ウッふァン˥ヨーニ　ピ˞ザ˥フチナーティ　˥ウイバ [ʔa˞ʃi˥nu tḁ˞tan˥ tonna:˥ʔu:ka: ˞ʔuffunda ʔuffaŋ˥jo:ni pi˞ʤa˥ɸu̥tʃina:ti ˥ʔuiba](背の届かないところで泳ぐと溺れるから、溺れないように渚で泳ぎなさい)。˞ウッふィナー˥ヌ [˞ʔuffina:˥nu](溺れてしまった)。˞ウッふ˥　プ˞スン　ブン [˞ʔuffu˥ pu̥˞sum buŋ](溺れる人もいる)。˞ウッフェー˥　ミサムヌ [ʔuɸɸe:˥ misamunu](溺れたらいいのに)。˞ウッふィ˥バ [˞ʔufi˥ba](溺れろよ)。

ウ˞ツ˥ルン **[ʔu˞tsu˥ruŋ]** 【自動】写る。老年層は、ウ˞チ˥ルン [ʔu˞tʃi˥ruŋ](写る) という。˞ウーキ˥ヌ　ミ˞ジ˥ナー　˞カイ˥ヌ　ウ˞ツ˥ルン [˞ʔu:ki˥nu mi˞ʤi˥na: ˞kai˥nu ʔu˞tsu˥ruŋ](桶の水に影が写る)。カ˞ジヌ˥　フクカー　ウ˞ツラ˥ヌ [ka˞ʤinu˥ ɸu̥kuka: ʔu˞tsura˥nu](風が吹いたら写らない)。ウ˞ツ˥リ　˞ベー [ʔu˞tsu˥ri ˞be:](写っている)。˞カイ˥ヌ　ウ˞ツ˥ル　˥ピンマー　カ˞ジェー˥　フ˞カ˥ヌ [˞kai˥nu ʔu˞tsu˥ru ˥pimma: ka˞ʤe:˥ ɸu̥˞ka˥nu](陰が写る時は風は吹かない)。˞カイーカイ˥シ　ウ˞ツ˥レー　˥ミサムヌ [˞kai:kai˥ʃi ʔu˞tsu˥re: ˥misamunu](綺麗に写れば良いのに)。ウ˞ツ˥レーン [ʔu˞tsu˥re:ŋ](写った)。

˥ウディ **[˥ʔudi]** 【名】 1うで (腕)。˞ニーリヌ˥　ウ˞ディ˥トゥ　ピ˞ダリ˥ヌ　˥ウディ [˞ni:rinu˥ ʔu˞di˥tu pi˞dari˥nu ˥ʔudi](右の腕と左の腕)。ウ˞ディ˥カキ　˞シー˥　ミラ˞ディー [ʔu˞di˥kaki ˞ʃi:˥mira˞di:](腕相撲をしてみようよ)。2葉柄。ク˞バヌ˥　ウディ　˥キシキー　フ˞ネー˥マ　ス˞ク˥ラ　˞ナー [ku˞banu˥ ʔudi ˥ki̥ʃiki: ɸu˞ne:˥ma su̥˞ku˥ra˞na:](クバの葉柄を切ってきておもちゃの小船を造ろうね)。˞マーニ˥ヌ　˥ウディ [˞ma:ni˥nu ˥ʔudi](クロツグの葉柄)。

ウ˞ティ˥ウティ **[ʔu˞ti˥uti]** 【接尾】動詞の連用形を重ねて畳語化し、動作の繰り返されるさまを表す。「〜落ち落ち」の義。ブ˞ダッカレー˥　ウ˞ティ˥ウティ　˞シェー˥ティ　サ˞ニンケー˥リ　˞パッ˥タヤー [bu˞dakkare:˥ ʔu˞ti˥uti ˞ʃe:˥ti sa˞niŋke:˥ri ˞pat˥taja:](飛んだり跳ねたり＜跳んでは落ち落ち＞しながら嬉しそうにして＜喜び勇んで＞行ったよ)。˞ナン˥ゲー　˞トーリトー˥リ [˞naŋ˥ge: ˞to:rito:˥ri](投げては手繰り手繰り〜) と同じ表現法。

ウ˞ディ˥カキ **[ʔu˞di˥kaki]** 【名】腕相撲。「腕掛け」の義。˞タール　スー˥ワユー　ウ˞ディ˥カキ　˞シー˥ミラ [˞ta:ru su:˥waju: ʔu˞di˥kaki ˞ʃi:˥mira](誰が強いか腕相撲をしてみよう)。ウ˞ディ˥カキ　˞スン [ʔu˞di˥kaki ˞suŋ](腕相撲をする)。

˥ウディ　カ˞キ˥ルン **[˥ʔudi kḁ˞ki˥ruŋ]** 【連】腕相撲をする。バ˞カー˥ムンケーヤ　˥スルイティ　˥ウディ　カ˞キ˥ルンティ　ス˞コーリ　ベー [ba˞ka:˥muŋke:ja ˥suriti ˥ʔudi kḁ˞ki˥runti su̥˞ko:ri be:](若者たちは揃って腕相撲をしようと準備している)。

˥ウディ　˥カクン **[˥ʔudi ˥kḁkuŋ]** 【連】腕相撲をする。˞バン˥トゥ　˥ウディ　˥カクンティ　˥ウムー　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [˞ban˥tu ˥ʔudi ˥kḁkunti ˥ʔumu: pu̥˞so:˥ bu˞ra:nu:](私と腕相撲をしようと思う人はいないか)。

˥ウティ　˥クーン **[ʔuti ˥ku:ŋ]** 【連】 1落ちてくる。˞ウイラ˥　ム˞ヌ˥ヌ　˥ウティクーンダ　˞キー˥　シ˞キ˥リ [˞ʔuira˥ mu˞nu˥nu ˥ʔutiku:nda ˞ki:˥ ʃi̥˞ki˥ri](上から物が落ちてくるから気をつけろ)。2強風が吹き降ろす。ニ˞シェーラ˥　ア˞ミカジ˥ヌ　˥ウティクーン [ni˞ʃe:ra˥ ʔa˞mikaʤi˥nu ˥ʔutiku:ŋ](北から風雨が叩きつけるように吹き降ろしてくる)。

˥ウティクバシ **[˥ʔutikubaʃi]** 【名】 1落ちこぼし。担

桶に入れた水を天秤棒で担いで運ぶ際、桶より水がこぼれ落ちること。˩タング˥ヌ　ミ˩ジ˥　ウティクバシ　˩サン˥スコー　ウ˩キ˥　イ˩リティ˥　カ˩タ˥ミ [˩taŋgu˥nu mi˩ʤi˥ ʔutikubaʃi ˩san˥su̥ko: ʔu˩ki˥ ʔi˩riti˥ ka˩ta˥mi](担桶の水を落ちこぼしせぬよう、ススキの浮きを入れて担げ)。2見落し。

˥ウティクバリ **[ʔutikubari]** 【名】遺漏。不足。失敗。事故。「落ち零れ」の義。˩ソッ˥コーラ　˩ニンガイ˥グトゥ˩バー˥キ　˥ウティクバリヌ　˩ナーン˥ヨーニ　˩シー˥　シケーバ　˩ソーヤ　ナー˥ヌ [˩sok˥ ko:ra ˩niŋgai˥gutu ˩ba:˥ki ˥ʔutikubarinu ˩na:ɲ˥jo:ni ˩ʃi:˥ʃi̥ke:ba ˩so:ja na:˥nu](法事＜焼香＞から神願いごとまで不足＜落ち零(コボ)し＞がないようにしてあるから心配はないよ)。

˥ウティクブシ **[˥ʔutikubuʃi]** 【名】脱漏。遺漏。抜け落ちること。漏れること。ウ˩マー˥ン　˥クマーン　˩ティークバ˥レー　˩シー˥　ウティクブシヌ　˩ナーン˥ヨーニ　ス˩コーリ˥バ [ʔu˩ma:ŋ˥ kuma:n ˩ti:kuba ˥re: ˩ʃi:˥ ʔutikubuʃinu ˩na:ŋ˥jo:ni su̥˩ko:ri˥ba](あちらこちらに手配りをして、遺漏＜手ぬかり＞の無いように準備しなさいよ)。

˥ウディ　˥クムン **[˥ʔudi ˥kumuŋ]**【連】腕を組む。腕組みする。ウ˩レー˥　ノー˩ンナー˥カ　ム˩ヌカンガイグトゥ˥ヌ　˥アル　˥ピンマー　ヤー˩ディン˥　ウディ　˥クムン [ʔu˩re:˥ no:˩nna:˥ka: mu˩nukaŋgaigutu ˥nu ˥ʔaru ˥pimma: ja:˩dim˥ ʔudi ˥kumuŋ](あれ＜彼＞は、何か考え事＜心配事＞がある時は必ず腕を組む)。

˥ウティサカリ **[˥ʔutisakari]**【名】盛衰。「落ち盛り」の義。˩タッ˥テーナーン　キ˩ナイヌ˥　ウティサカレー　ア˩リ˥ル　ブタ [˩tat˥te:na:ŋ ki˩nainu˥ ʔutisakare: ʔa˩ri˥ru ˥buta](何処の家にも家庭の盛衰というのはあった＜有りぞ居りたり＞)。

ウ˩ディシゥカ˥ラ **[ʔu˩disïka˥ra]** 【名】腕力。腕の力。ウ˩ディシゥカラ˥ヌ　˩スー˥ワンダ　˥カイブ　˥ムヌン　ヤシー˩ヤシーシル˥　カ˩タ˥ム [ʔu˩disï̥kara ˥nu ˩su:˥wanda ˥kaibu ˥munuɲ jaʃi:˩jaʃi:ʃiru˥ kḁ˩ta˥mu](腕力が強いから、こんな物もやすやすと担ぐ)。

ウ˩ティ˥シキ **[ʔu˩ti˥ʃi̥ki]** 【名】落着き。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　ムッ˩トゥ˥　ウ˩ティシキ˥ヌ　˩ナー˥ヌ [ku˩nu˥ f˩fa:˥ mut˩tu˥ ʔu˩tiʃi̥ki˥nu ˩na:˥nu](この子はちっとも落着きがない)。

ウ˩ティシキ˥ルン **[ʔu˩tiʃi̥ki˥ruŋ]** 【自動】落ち着く。「Vochitçuqi,qu,ita. ヲチツキ, ク, イタ (落ち着き, く, いた) 定着する。すでに家などを持って定住している」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ヤ˩ラ˥ベー　ウ˩ブ˥プス　˥ナルカー　ウ˩ティシキ˥ルンダ　ウ˩ティシキラン˥ティ　˩ソー˥　ス˩ナ [ja˩ra˥be: ʔu˩bu ˥pu̥su ˥naruka: ʔu˩tiʃi̥ki˥runda ʔu˩tiʃi̥kiran˥ti ˩so:˥ su˩na](子供は大人になったら落ち着くから、落ち着かないといって、心配するな)。ウ˩ティシキ˥　パ˩ヤー˥ン [ʔu˩tiʃi̥ki˥ pa˩ja:˥ŋ](落着き早い)。ウ˩リヌ˥　ウ˩ティシキ˥ル　˥クトゥン　˥アンカヤー [ʔu˩rinu˥ ʔu˩tiʃi̥ki˥ru ˥ku̥tuŋ ˥ʔaŋkaja:](あれ＜彼＞が落ち着くこともあるかねえ)。˩マー˥ビン　ウ˩ティシ˥キレー　˥ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ʔu˩tiʃi̥ki˥re: ˥misamunu](もっと落ち着けば良いのに)。˩ワー　パー˥ク　ウ˩ティシキ˥リ [˩wa: pa:˥ku ʔu˩tiʃi̥ki˥ri](君は早く落ち着きなさいよ)。

ウ˩ディスー˥リ **[ʔu˩disu:˥ri]** 【名】腕まくり。[ʔudisuŋguri] → [ʔudisuguri] → [ʔudisu:ri] のように音韻変化したもの。バ˩カー˥ムノー　ウ˩ディスー˥レー　˩シェー˥ティ　パ˩タラカン˥カー　˩ドゥー˥ヤ　ナ˩マリ˥ス˩ダー [ba˩ka:˥muno: ʔu˩disu:˥ri ˩ʃe:˥ti pa˩tarakaŋ˥ka: ˩du:˥ja na˩mari˥su˩da:](若者は腕まくりをしながら働かないと体が鈍ってしまうよ)。

ウ˩ティ˥スクン **[ʔu˩ti˥su̥kuŋ]** 【自動】落ち着く。琉歌・組踊り語の「おてつく」『沖縄古語大辞典』の転訛したもの。ウ˩ヌ˥　パ˩ナ˥シ　ス˩ク˥カー　ウ˩ティ˥スクンパジ [ʔu˩nu˥ pa˩na˥ʃi su̥˩ku˥ka: ʔu˩ti ˥su̥kumpaʤi](その話を聞いたら落ち着くはずだ)。トゥ˩ジ˥　トゥムカー　ウ˩ティ˥スクンカヤーティ　ウ˩ムータ˥ヌ　ウ˩ティシゥカン˥バン [tu˩ʤi˥ tumuka: ʔu˩ti˥su̥kuŋkaja:ti ʔu˩mu:ta˥nu ʔu˩tisï̥kam˥baŋ](妻を娶ったら落ち着くかなあと思ったが、落ち着かないよ)。ウ˩ティ˥シキ　˥ミリバ [ʔu˩ti˥ʃi̥ki ˥miriba](落ち着いて見ろよ)。ウ˩ティシゥカ˥ヌ [ʔu˩tisï̥ka˥nu](落ち着かない)。ウ˩ティ˥シキ　˥ミサン [ʔu˩ti˥ʃi̥ki ˥misaŋ](落ち着いてよい)。ウ˩ティ˥シキティ [ʔu˩ti˥ʃi̥kiti](落ち着いて)。ウ˩ティ˥スク　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [ʔu˩ti˥su̥ku ˥ku̥to: na˩ra˥nu](落ち着くことは出来ない)。マーン˩ベーマ˥　ウ˩ティシ˥ケー　˥ミサムヌ [ma:m˩be:ma˥ ʔu˩tiʃi̥˥ke: ˥misamunu](もう少し落ち着けばよのに)。˩パー˥ク　ウ˩ティシ˥キ [˩pa:˥ku ʔu˩tiʃi̥˥ki](早く落ち着け)。

ウ˩ディスン˥グリ **[ʔu˩disuŋ˥guri]** 【名】腕まくり。着物の袖口を肩口まで捲り上げること。威勢よく仕事をしたり、何かをしようとするときの姿勢。「腕・

選り＜藁のはかまを取るをすぐると言ふ＞『志不可起き』七」の転訛したものか。ウ˞ディスー˜リ [ʔu˞disu:˜ri](腕選り) ともいう。˜アボー　ウ˞ディスン˜グリ　シ˞ティ˜　パ˞タ˜キ　˞カイ˜シ　˞オー˜ル [˜ʔabo: ʔu˞disuŋ˜guri ʃi̥˞ti˜ pḁ˞ta˜ki ˞kai˜ʃi ˞ʔo:˜ru](お母さんは腕まくりをして畑を耕しておられる)。

ウ˞ディ˜ダイ [ʔu˞di˜dai] 【名】腕力。腕の力。ウ˞ディ˜タヤ [ʔu˞di˜taja](腕の力) の転訛したもの。ウ˞ディダイ˜ヌ　˞ナーン˜ユンダ　ッ˞ふァー˜　ダ˞キユーサヌ [ʔu˞didai˜nu ˞na:ɲ˜junda f˞fa:˜ da˞kiju:sanu](腕の力がないので子供を抱くことが出来ない)。ウ˞ディダイ˜ヌ　˞スー˜ワンダ　ノー˞ン　シェー˜ル　˞ダイバン˜ユン　˞ホー˜シ　ア˞ギルン [ʔu˞didai˜nu ˞su:˜wanda no:˞ŋʃe:˜ru ˞daibaɲ˜juŋ ˞ho:˜ʃi ʔa˞gisu](腕力が強いからいかなる＜どんな＞大判のカツオでも釣り上げることが出来る)。

ウ˞ティ˜ダカ [ʔu˞ti˜daka] 【名】落札高。落札の値段。「落ち高」の義。ク˞トゥシヌ　イーシ˜ヌ　ウ˞ティ˜ダカー　ギュー˜サブカラティ　ウ˞モーリ˜ワ [ku˞tuʃinu ʔi:ʃi˜nu ʔu˞ti˜daka: ˞gju:˜sabukarati ʔu˞mo:ri˜wa](今年のツノマタ＜角叉＞の落札高はいくらぐらいと考えられるか＜思われるか＞)。

˜ウディ　ダ˞クン [˜ʔudi da˞kuŋ] 【連】腕をこまねく(拱(コマネ)く)。拱手傍観する。「腕抱く」の義。ウ˞ディ˜バ　ヤ˞マ˜シティル　ナー˞イ˜　ウディ　ダ˞キ˜　シ˞グトゥ　シーユーサヌ [ʔu˞di˜ba ja˞ma˜ʃi̥tiru na:˞i˜ ʔudi da˞ki˜ ʃi˞gutu ʃi:ju:sanu](腕を痛めて、ただ腕をこまねいて＜拱いて＞仕事をすることが出来ない)。

ウ˞ティ˜ダニ [ʔu˞ti˜dani] 【名】1自然に落ちた種子。また、それから生えた稲や麦、豆などの植物。「落ち種」の義。ク˞ヌ˜　マメー　ウ˞ティ˜ダニ　ヤ˞ルンドゥ˜　カイニ　サ˞カリ　ベート ダー [ku˞nu˜ mame: ʔu˞ti˜dani ja˞rundu˜ kaini sḁ˞karibe:ɨ-da:](この豆は落ちた種から生えたものだが、こんなに生い茂って＜萌え盛って＞いるよ)。2落としだね＜落胤＞。ム˞カ˜シェー　ヤ˞クニン˜ヌ　ウ˞ティダニ˜ヌ　シマジ˞マー˜ナ　˞オーッ˜タン [mu˞ka˜ʃe: ja˞kunin˜nu ʔu˞tidani˜nu ʃimaʤi˞ma:˜na ˞ʔo:t˜taŋ](昔は役人の落としだね＜落胤＞が島々におられた)。

ウ˞ティナン˜　ッ˞サ˜ナン [ʔu˞tinan˜ s˞sa˜naŋ] 【連】男女による交互歌唱するさま。男女掛け合って歌うさま。ム˞カ˜シェー　バ˞カー˜ムヌンケーヤ˜ユネン　˜ナルカー　ア˞ツァ˜マリティ　ミ˞ドゥ˜ム　˜ビキドゥム　ウ˞ティナン˜　ッ˞サ˜ナンシー　ウ˞タ˜バ　イ˞ゾーッ˜タ [mu˞ka˜ʃe: ba˞ka:˜muŋke:ja˜junennaruka: ʔa˞tsa˜mariti mi˞du˜mu ˜bikidumu ʔu˞tinan˜ s˞sa˜naŋʃi: ʔu˞ta˜ba ʔi˞ʤo:t˜ta](昔は、若者達は夜になると集まって、男女交互に掛け合って歌を歌われた)。

˜ウティヌカル [˜ʔutinukaru] 【名】残り。残余。落ちこぼし。˞ソッコー˜ヌ　˜ウティヌカロー　˞ナーン˜パジ [˞sokko:˜nu ˜ʔutinukaro: ˞na:m˜paʤi](法事の落ちこぼし＜し残し＞は無いはずだ)。

ウ˞ティ˜プー [ʔu˞ti˜pu:] 【名】落穂。ム˞カ˜シェー　ニ˞ングゾー˜ノー　ウ˞サ˜ミティ　˜アトー　ウ˞ティ˜プー　プ˞サイヤー˜ティル　ッ˞ふァー˜　シゥ˞カ˜ナイ　˞オーッ˜タツォー [mu˞ka˜ʃe: ˞niŋguʤo:˜no: ʔu˞sa˜miti ˜ʔato: ʔu˞ti˜pu: pu̥˞saija:˜tiru f˞fa:˜ si̥˞ka˜nai ˞ʔo:t˜tatso:](昔は年貢上納を納めて後に、落穂を拾いながら子供を養育されたそうだ)。

˜ウディプス [˜ʔudipu̥su] 【名】卯年生まれの人。˜バー　ウディマリ˞ダー　ワンヌン˜　ウディプスミー [˜ba: ʔudimari˞da: wannuŋ˜ ʔudipu̥sumi:](私は卯年生まれだよ。君も卯年生まれの人でしょう?)。˜ウディプソー　˞チャー　ウーサリ　アー˜サリ　˞シー　ブンダ˜　プ˞ストー　アー˜ヌ [˜ʔudipu̥so: ˞ʧa: ʔu:sari ʔa:˜sari ˞ʃi: bunda˜ pu̥˞suto: ʔa:˜nu](卯年生まれの人は、常に平身低頭＜ぺこぺこ＞しているから他人とは喧嘩しない)。

˜ウディマリ [˜ʔudimari] 【名】卯年生まれ。˞ワー˜　ウディマリミー [˞wa:˜ ʔudimarimi:](君は卯年生まれだろう?)。アー˞イ˜　ウディマレー　ア˞ラ˜ヌ　タ˞チディマリ [ʔa:˞i˜ ʔudimare: ʔa˞ra˜nu tḁ˞ʧidimari](否、卯年生まれではない。辰年生まれだ)。

ウ˞ティ˜ムヌ [ʔu˞ti˜munu] 【名】落ちたもの。木の実などが熟れて落下した物。˞バンスル˜ヌ　ナ˞ル˜ヌ　ウ˞ティ˜ムノー　カ˞バッ˜サンドゥ　ッ˞ふァーランバ˜　プ˞サウナ [˞bansuru˜nu na˞ru˜nu ʔu˞ti˜muno: ka˞bas˜sandu f˞fa:ramba˜ pu̥˞sauna](バンジロウ＜蕃石榴・グアバ＞の実の落ちたものは香ばしいが食えないから拾うな)。

ウ˞ディ˜ヤライ [ʔu˞di˜jarai] 【名】男女が相手と腕組みすること。腕を交互に交差させること。ヤ˞ライ [ja˞rai] はヤ˞ラウン [ja˞rauŋ](交叉する。X 型に組み合わせる) の連用形で名詞化したもの。ウ˞ディ˜ヤライ　˞シー˜　ニ˞ブン [ʔu˞di˜jarai ˞ʃi:˜ ni˞buŋ](腕を交差させて寝る)。

ウ˞ティ˜ラウティラ [ʔu˞ti˜raʔutira] 【副】落ちそう

になるさま。今にも落ちそうになる。落ち零れそうになる。˩ティローラ　ウ˞ティ˩ラウティラ　˞スン˩ケン　˞ウン˩バ　ッ˞シナ˩キティ　カ˞タ˩ミ　˞アー˩ク [˩tiroːra ʔu˞ti˩raʔutira ˞suŋ˩keŋ ˞ʔum˩ba ʃ˞ʃina ˩kiti kḁ˞ta˩mi ˞ʔaː˩ku](笊から今にも落ち零れそうになるほど芋を詰め < 差し > 込んで担いでいる)。

ウ˞ティ˩ルン [ʔu˞ti˩ruŋ] 【自動】落ちる。落下する。「落ちる < 上一段 >」の転訛したもの。ヨー˞ヨー　キーヌパン˩ター　˞ヌーリ˩　ウ˞ティ˩ルン˞ダー [joː ˞joː kiːnupan˩taː ˞nuːri˩ ʔu˞ti˩run˞daː](よくよく気をつけろよ。木のてっぺんに < 木の先端 > に登って、落ちるぞ)。アー˞イ˩　ウ˞ティラ˩ヌ [ʔaː˞i˩ ʔu˞tira˩nu](いや、落ちないよ)。ウ˞ティパジミ˩ルン [ʔu ˞tipa˞ʤimi˩ruŋ](落ち始める)。˩ウマーラ　ウ˞ティ˩ル　プ˞ソー˩　ブ˞ラーヌ [˩ʔumaːra ʔu˞ti˩ru pu̥˞soː˩ bu˞raːnu](そこから落ちる人はいない)。ウ˞ティ˩レー　˩ミサムヌ [ʔu˞ti˩reː ˩misamunu](落ちればよいのに)。ウ˞ティ˩リ [ʔu˞ti˩ri](落ちれ、落ちろ)。

ウ˞ティルン [ʔu˞tiruŋ] 【他動】鍋、釜、湯沸し (薬缶) などを竈の火の上から下ろす。火のある竈から鍋、釜、薬缶類を移動させる。移す。˞イー˩ヤ　˞ニーヤー˩チバ　˩ナベー　ウ˞ティリ [˞ʔiː˩ja ˞niːjaː˩ʧiba ˩nabeː ʔu˞tiri](ご飯は煮えた < 炊けた > から鍋は竈から下ろしなさい)。˩ナビウティフチヌ　˞ナーン˩カー　イ˞ツァー˩ヌ　ウ˞ティララヌ [˩nabiʔutiɸu̥ʧinu ˞naːŋ˩kaː ʔi˞tsaː˩nu ʔu˞tiraranu](鍋取り < 靴 > がないと熱くて竈から下ろせない)。˩ナベー　ウ˞ティティ˩　ヤコン　シ˞キリ˩バ [˩nabeː ʔu˞titi˩ jakoŋ ʃi̥ ˞kiri˩ba](鍋は竈から移し下ろして薬缶を掛けなさい)。マ˞ナ˩マ　ウ˞ティルンティ˩　ウムイ˞ベー [ma ˞na˩ma ʔu˞tirunti˩ ʔumui˞beː](今すぐ竈から鍋を移そう < 下ろそう > と思っている)。ウ˞ティル˩　ピンマー　˩ナビウティフチシ　カ˞サミ˩バ [ʔu˞tiru ˩pimmaː ˩nabiʔutiɸu̥ʧiʃi ka˞sami˩ba](鍋を下ろすときは鍋取り < 靴 > で掴みなさい)。˞パー˩ク　ウ˞ティレー˩　ミサムヌ [˞paː˩ku ʔu˞tireː˩ misamunu](早く鍋を竈から下ろせばよいのに)。

ウ˞ティン˩ガビ [ʔu˞tiŋ˩gabi] 【名】かみぜに (紙銭)。銭型を金属製や木製のカ˞ビシキンガニ [ka˞biʃikiŋ-gani](紙搗き器具) で馬糞紙に銭形を打ちつけたもの。後生の通貨といわれている。縦横約 17,5 センチの馬糞紙を二つ折りにし、一段に 5 個の銭型を 10 段打ちつけたもの。法事で祖霊を送る際に、仏前に供えた紙銭を焼いて後生へ送る。後生で祖霊たちが金銭に困らないようにとの気持ちが込められているという。ム˞カ˩シェーラ　ウ˞ティン˩ガビ　ウ˞ティ˩プソー　サ˞ク˩シヌ　シ˞グトゥ˩ティ　キ˞マリブタ [mu˞ka˩ʃeːra ʔu˞tiŋ˩gabi ʔu˞ti˩pu̥soː sḁ˞ku ˩ʃiti ki˞maributa](昔から紙銭を打つ人は長男 < 嫡出子 > と決まっていた)。˞ピン˩ガン [˞piŋ˩gaŋ](彼岸、春分と秋分) のときに焼き上げる紙銭だけは、代々の祖先とは別にして、贈られた死者個人のワ˞タ˩クサー [wa˞ta˩kusaː](へそくり) だから、決して忘れるなといわれていた。親戚の法事には、紙銭三枚と線香 < 板香 > 三枚、花米三合を供物として送り届けた。紙銭の原料は古畳の藁が利用されるという。子孫は紙銭を祈願の後、バ˞サ˩ヌ　˩ウディ [ba˞sa˩nu ˩ʔudi](芭蕉の葉柄) で作った、カ˞ビヤキドング [ka˞bijakidoŋgu](紙銭を焼く道具) を˞ビン˩ダライ [˞bin˩darai](金属製の洗面器) に置いて、˞ユシ˩キパシ [˞juʃi̥˩kipaʃi](生ススキの箸) で挟みながら焼きあげることを忘れなかった。これを、老年層は、ウ˞ティン˩ガビ　˩アビ　˞オースン [ʔu˞tiŋ˩gabi ˩ʔabi ˞ʔoːsuŋ](紙銭を焼い < 炙っ > て差し上げる) という。

ウ˞ティン˩ギサン [ʔu˞tiŋ˩gisaŋ] 【連】落ちそうである。˞キーヌ˩　ウイナ　˞ヌーリ　ベー˩　ヤ˞ラ˩ベー　ウ˞ティン˩ギサンダ　˞パー˩ク　ウ˞ラ˩シ [˞kiːnu˩ ʔuina ˞nuːri beː˩ ja˞ra˩beː ʔu˞tiŋ˩gisanda ˞paː˩ku ʔu˞ra˩ʃi](木の上に登っている子供は落ちそうだから、早く降ろせ)。

˩ウトー [˩ʔutoː] 【名】(人) 人名。女性の名前。˞ヨー˩カヤーナール　˩ウトンマー　˞オーッ˩タ [˞joː˩ kajaːnaːru ˩ʔutommaː ˞ʔoːt˩ta](西原家に < ぞ > ウト姉さんはおられた)。

ウ˞ドースン [ʔu˞doːsuŋ] 【他動】1脅(オド)す。恐れさせる。驚かす。怖がらせる。ウ˞リン˩　ウ˞ドーサリティ˩　ベーシ˞ティ˩　ウ˞ダラ˩キ　シ˞ルダリシーナー˩ヌ [ʔu˞riŋ ʔu˞doːsariti˩ beːʃi̥˞ti˩ ʔu˞dara˩ki ʃi˞rudari ʃiːnaː˩nu](そいつに脅されて、びっくりして体中の力が抜けて筋がだれてしまった)。ウ˞ドーサヌ [ʔu ˞doːsanu](脅さない)。ウ˞ドーシ˩　プサン [ʔu˞doːʃi ˩pu̥saŋ](脅したい)。˞バン˩ヌン　ウ˞ドースン [˞ban ˩nuŋ ʔu˞doːsuŋ](私も脅す)。ウ˞ドース˩　クトーナ˞ラ˩ヌ [ʔu˞doːsu˩ku̥to: na˞ra˩nu](脅してはならない < 脅すことはならぬ >)。ウ˞ドーシェー˩　ミサムヌ [ʔu˞doːʃeː˩ misamunu](脅せばよいのに)。˞パー˩ク　ウ˞ドーシ [˞paː˩ku ʔu˞doːʃi](早く脅せ)。2どやす。˩アイニ　ウ˞ドーサンドー˩シ　ナ˞ラー˩シバ [˩ʔaini ʔu˞doːsandoː˩ʃi na˞raː˩ʃiba](あんなにどやさ

ないで教えなさいよ)。

ウ˹トゥ [ʔu˹tu] 【名】1音。ウ˹トゥヌ˺　グ˹マー˺ヌ　シゥ˹カラヌ [ʔu˹tunu˺ gu˹maː˺nu sɿ̥˹karanu](音が小さくて聞こえない)。ウ˹トー　マイ˺ヤン [ʔu˹toː mai˺jaŋ](音は大きい)。2評判。うわさ (噂)。有名になること。好評、悪評にも用いる。ウ˹トゥンジ　マイ˺フナー [ʔu˹tundʑi mai˺ɸunaː](評判の高い働き者、優れ者)。3音信。ウ˹トゥン　ブインナーヌ˺ヌ＜ビーンナーヌ˺ヌ＞　˹ヌー˺シル　˹シェー˺テイ　˹アー˺ク　˺カヤー [ʔu˹tum buinnaːnu˺nu ＜biːnnaːnu˺nu＞ ˹nuː˺ʃiru ˹ʃeː˺ti ˹ʔaː˺kukajaː](何の音沙汰もないが＜音も声もないが＞どうしているんだろうか＜何をして生活しているだろうか＞)。

ウ˹トゥー˺シ [ʔu˹tuː˺ʃi]【名】遥拝。遠くにいます神仏に方角を定めて供物を供え、祈願すること。友利御嶽から、ピナイ御嶽、アラカー御嶽、ニシドー御嶽へ向かって供物を供えて遥拝すること。法事にもいう。ク˹トゥシヌ　ソーラン˺マー　˹キーユーサン˺パジ　ヤ˹ルンダー　タンカー˺　トゥリ　マ˹チティ　ニン˺ガイ　˹シー˺バ˹ヨー [kṳ˹tuʃinu soːram˺maː ˹kiːjuːsam˺padʑi ja˹runda: taŋkaː˺ turi ma˹tʃiti niŋ˺gai ˹ʃiː˺ba˹jo](今年のお盆には来ることが出来ないはずだから、真直ぐに方向を定めて供物を供えて遥拝＜祈願を＞しなさいね)。

ウ˹トゥ˺ガイ [ʔu˹tu˺gai] 【名】おとがい (頤)。下顎の先。ヤ˹ラ˺ベー　ク˹ルビティル˺　ウ˹トゥ˺ガイ　バ˹リ˺シケーバン [ja˹ra˺beː ku˹rubitiru˺ ʔu˹tu˺gai ba˹ri˺ʃi̥keːbaŋ](子供は転んで頤(オトガイ)を打って痛めてあるわい)。

ウ˹ドゥカ˺スン [ʔu˹duka˺suŋ] 【他動】欠損させる。˺アイブ　˺クトゥ　˹スー˺カー　プ˹ス˺　ウ˹ドゥカ˺スン˹ダー [˺ʔaibu ˺kṳtu ˹suː˺kaː pṳ˹su˺ ʔu˹duka˺sun˹daː](あんあことをすると他人を欠損させるよ)。アー˹イ˺　ウ˹ドゥカサ˺ヌ [ʔaː˹ji˺ ʔu˹dukasa˺nu](いや、欠損させない)。ウ˹レー˺　ウ˹ドゥカ˺シ　˺ミサン [ʔu˹reː˺ ʔu˹duka˺ʃi ˺misaŋ](あいつ＜それ＞は欠損させてもいいよ)。ウ˹ドゥ˺カシェー　ナ˹ラ˺ヌ [ʔu˹duka˺ʃeː na˹ra˺nu](欠損させてはならない)。ウ˹ドゥカ˺シバ [ʔu˹duka˺ʃiba](欠損させなさいよ)。ウ˹ルカ˺スン [ʔu˹ruka˺suŋ] ともいう。

ウ˹ドゥキ˺ルン [ʔu˹duki˺ruŋ] 【自動】欠損する。˺ドゥク　ユ˹ク˺　スクカー　ウ˹ドゥキ˺ルン˹ダー [˺duku ju˹ku˺ sṳkukaː ʔu˹duki˺run˹daː](あんまり欲張ると＜欲つくと＞欠損するぞ)。ウ˹ドゥキラ˺ヌ [ʔu˹dukira˺nu](欠損しない)。ウ˹ドゥ˺キ　˹ナー˺ヌ [ʔu˹du˺ki ˹naː˺nu](欠損してしまった)。ウ˹ドゥキ˺ル　˺クトー　˹ナー˺ヌ [ʔu˹duki˺ru ˺kṳtoː ˹naː˺nu](欠損することはない)。ウ˹ドゥキ˺レー　ミサムヌ [ʔu˹duki˺reː ˺misamunu](欠損すればよいのに)。ウ˹ドゥキ˺リ [ʔu˹duki˺ri](欠損せよ)。

ウ˹トゥク˺マリ [ʔu˹tuku˺mari] 【名】男子。男として生まれているもの。「男生まれ」の義。ブ˹ナジマリ [bu˹nadʑimari](女生まれ) の対義語。ニ˹ガイ˺フチ [ni˹gai˺ɸutʃi](祝詞。祈願の時に唱える言葉) などに用いられる言葉。日常会話では使用しない。

ウ˹ドゥ˺クン [ʔu˹du˺kuŋ]【自動】欠損する。ウ˹ドゥキ˺ルン [ʔu˹duki˺ruŋ] と同じ。ユ˹ク˺　スクカー　ウ˹ドゥ˺クン [ju˹ku˺ sṳkukaː ʔu˹du˺kuŋ](欲張ると欠損する)。ウ˹ドゥカ˺ヌ [ʔu˹duka˺nu](欠損しない)。ウ˹ドゥ˺キティ　˹ピン˺ギ　˺パレーン [ʔu˹du˺kiti ˹piŋ˺ gi pareːŋ](欠損して逃げて行った)。ウ˹ドゥ˺ク　˺クトゥン　˺アン [ʔu˹du˺ku ˺kutuŋ ʔaŋ](欠損することもある)。ウ˹ドゥ˺ケーカー [ʔu˹du˺keːkaː](欠損したのなら)。ウ˹ドゥ˺キ [ʔu˹du˺ki](欠損しろ)。ウ˹ヌ˺　ア˹キ˺ナイナ　ウ˹ドゥ˺キティル　マ˹チヤーヤ　トー˺レーツォー [ʔu˹nu˺ ʔa˹ki˺naina ʔu˹du˺kitiru ma˹tʃijaːja toː˺reːtsoː](その商売にしくじり、欠損をして店はつぶれた＜倒れた＞そうだ)。

ウ˹トゥ˺ザ [ʔu˹tu˺dza] 【名】親戚。親類。「弟兄」の転訛したものか。共通の先祖からでた「兄弟の間柄」の意であろう。ウ˹トゥ˺ザティ　˹シー˺　アイニ　プ˹スヌ　ニーラリン˺ツォカー　ビッ˹ツティ　ニーブ [ʔu˹tu˺dzati ˹ʃiː˺ ʔaini pṳ˹sunu niːrariŋ˺tsokaː bit˹tsuti niːbu](親戚だからといって人があんなにも似られるものだろうか。そっくり似ているよ)。ウ˹トゥザ˺ドゥ　ヤ˹ルヌ˺　ッ˹サン˺　ブ˹レー˺バン˹ナー [ʔu˹tudza˺ du ja˹runu˺ s˹sam˺ bu˹reː˺ban˹naː](親戚だのに知らずにいたのだなあ)。˹ワッ˺テートゥ　˹バン˺テーヤ　ウ˹トゥ˺ザ˹ダー [˹wat˺teːtu ˹ban˺teːja ʔu˹tu˺dza˹daː](君の家と私の家は親戚だよ)。親戚関係にある家には法事の際に˹コー˺パナ [˹koː˺pana](線香と花米三合) を贈る習慣があった。

ウ˹トゥザズルイ [ʔu˹tudzadzurui] 【名】親族会議。親戚の集まり。

ウ˹トゥ˺サタ [ʔu˹tu˺sata] 【名】音沙汰。消息。ウ˹キ˺ナー　˹パッ˺タ　˹ター˺ナ　ウヌッ˹キリ˺　ウ˹トゥ˺サタン　˹ナーヌ˺ヌ　˹ヌー˺シ　ナリ˹ブー˺ユー　˹ソー　シー˺　ナ˹ラン˺バン [ʔu˹ki˺naː ˹pat˺ta ˹taː˺na ʔunuk˹kiri˺ ʔu˹tu˺satan ˹naː˺nunu ˹nuː˺ʃi nari˹buː˺juː ˹soː ʃiː˺ na˹ram˺baŋ](沖縄へ行ったまま、それっき

り音沙汰もないが、どうなっているのか心配でならないわい)。

ウ˞トゥザマリ [ʔu˞tudʑamari] 【名】親戚。親類。「おとせざ (弟兄者)・生まれ」の転訛したものか。「親戚の血をを引く面立ち＜生まれ＞」の意。˞ベー˜ヨー　ウ˞トゥザマリ˜　ヤ˞ルンダ˜　ッサン˞コーラ˜シ　˞アーカン˜ドーシ　˞バン˜テン　˜マーラン　˞マーリ˜　クーバ [˞beːˈjo: ʔu˞tudʑamari˜ ja˞runda˜ ssaŋ˞koːra˜ʃi ˞ʔaːkan˜doːʃi ˞ban˜teːm ˜maːram ˞maːri˜ kuːba](我々はねえ、親戚だから知らん振りしていないで、私の家のあたりにも回って来なさいよ)。

ウ˞トゥ˜ザムイサン [ʔu˞tu˜dʑamuisaŋ]【形】親戚思いである。親戚を大切にする。˜-ムイサン [˜-muisan](～がる。～親しく思う。～親しくしたがる) は接尾語。˜シザムイサン [˜ʃidʑamuisaŋ](兄を兄として敬愛したがる)。˞キョー˜ダイムイサン [˞kjoː˜daimuisaŋ](兄弟を深く愛し、よく面倒をみたがる) のように親族語彙や感覚や感情を表す形容詞に付いて、それらを愛し、慈しむ心情を表す。ウ˞レー˜　イッ˞ケナ˜　ウ˞トゥ˜ザムイサンティ　ス˞クタヌ　ナン˜ゾー　ウ˞トゥザムイサー　ナー˜ヌ [ʔu˞reː˜ ʔik˞kena˜ ʔu˞tu˜dʑamuisanti sɥ˞kutanu nan˜dʑo: ʔu˞tudʑamuisa: naː˜nu](彼は非常に親戚思いであると聞いたが、あまり親戚思いではない)。ウ˞トゥ˜ザムイサ　˜ナリケーン [ʔu˞tu˜dʑamuisa ˜narikeːŋ](親戚思いになってきた)。˜アイニ　ウ˞トゥ˜ザムイサー　プ˞ソー˜　ブ˞ラーヌ [˜ʔaini ʔu˞tu˜dʑamuisa: pɥ˞soː˜ bu˞raːnu](あのような親戚思いの人はいない)。

ウ˞トゥ˜ザンケーン [ʔu˞tu˜dʑaŋkeːŋ] 【名】親類縁者たち。親戚の者たち。˜-ケーン [˜-keːŋ](～たち) は複数を表す接尾語で、丁寧や尊敬の意味をもつ。ウ˞トゥ˜ザンケーン　ムー˞ル˜ニ　ア˞ジ˜　ッ˞サリティ˜　シゥ˞カシ˜クー [ʔu˞tu˜dʑaŋkeːm muː˞ru˜ni ʔa˞dʑi˜ s˞sariti˜ sɥ˞kaʃi˜kuː](親戚縁者の皆に申し上げて、ご案内して＜お連れして＞来なさい)。

ウ˞トゥ˜シ [ʔu˞tu˜ʃi] 【名】みぞおち (鳩尾)。みずおち。ウ˞トゥシ˜ヨー　ス˞クモー˜　ア˞ラ˜ヌ [ʔu˞tuʃi˜ jo: sɥ˞kumoː˜ ʔa˞ra˜nu](みぞおちを突くものではない)。

ウ˞トゥシ˜アナ [ʔu˞tuʃi˜ʔana] 【名】落とし穴。ウ˞トゥシ˜アナ　˜プリティ　˜カマイ　ウ˞タ˜シティ　シゥ˞カ˜ムン [ʔu˞tuʃi˜ʔana ˜puriti ˜kamai ʔu˞ta˜ʃɨti sɨ˞ka˜muŋ](落とし穴を掘って猪を落として捕獲する＜捕まえる＞)。

ウ˞トゥシ˜ダニ [ʔu˞tuʃi˜dani] 【名】落胤。「落とし種」の義。˞グンボー˜ッふァ [˞gumboːf˞fa](混血児。士族と平民の合いの子) ともいう。˞バン˜ター　イ˞サナキヌ˜　ヤ˞クニン˜ヌ　ウ˞トゥシダニ˜ヌ　マーッふァ˞ダー [˞ban˜taː ʔi˞sanakinu˜ ja˞kunin˜nu ʔu˞tuʃidani˜nu maːffa˞daː](私たちは石垣の役人の落胤の子孫だよ)。

ウ˞トゥシ˜ヌ　˜ヤン [ʔu˞tuʃi˜nu ˜jaŋ] 【連】胃の病(ヤマイ)。「みぞおちの病」の義。ウ˞トゥシ˜ヌ　˞ヤン˜ヌ　ウ˞ク˜リティ　˞ンニフチ˜　カ˞ミ˜ル　ヤム˞ツォー [ʔu˞tuʃi˜nu ˞jan˜nu ʔu˞ku˜riti n˞niɸɥtʃi˜ ka˞mi˜ru jamu˞tsoː](胃の病がおこって鳩尾＜みぞおち＞を刺すように＜噛むように＞痛むのですよ)。

ウ˞トゥ˜ジリ [ʔu˞tu˜dʑiri] 【名】音信。便り。石垣方言からの借用語か。ウ˞キ˜ナーラヌ　ウ˞トゥ˜ジリン　˞ナーヌ˜ヌ　˜ミサーレーティ　˞アー˜クンカヤー [ʔu˞ki˜naːranu ʔu˞tu˜dʑirin ˞naːnu˜nu ˜misaːreːti ˞ʔaː˜kuŋkajaː](沖縄からの音信も無いが、元気で過ごしているかねえ)。

ウ˞トゥダカー˜ン [ʔu˞tudakaː˜ŋ] 【形】名高い。有名である。「音が高い」の義。ウ˞ヌ˜　ミ˞ドゥ˜モー　ア˞バ˜レーンティ　˞シー˜　イッ˞ケナ˜　ウ˞トゥダカー˜ン [ʔu˞nu˜ mi˞du˜moː ʔa˞ba˜reːnti ˞ʃiː˜ ʔik˞kena˜ ʔu˞tudakaː˜ŋ](その女は美しいといって非常に名高い＜有名である＞)。ウ˞トゥダカー˜カー　ス˞バー˜　パ˞ララ˜ヌ [ʔu˞tudakaː˜ka: su˞baː˜ pa˞rara˜nu](有名であるなら側へは行けない)。ウ˞ヌ˜　プ˞ソー˜　イッ˞ケナ˜　ア˞バ˜レーンティ　˞ヤイマズー˜ナ　ウ˞トゥダカーン˜＜ウ˞トゥンジ˜ブー＞ティ˞ダー [ʔu˞nu˜ pɥ˞soː˜ ʔik˞kena˜ ʔa˞ba˜reːnti ˞jaimadʑuː˜na ʔu˞tudakaːn˜＜ʔu˞tundʑi˜buː＞ti˞daː](その人は非常に美しいといって八重山中に有名だ＜名高い＞そうだよ)。

ウ˞トゥナッ˜サン [ʔu˞tunas˜saŋ] 【形】おとなしい。ウ˞トゥナ˜サン [ʔu˞tuna˜saŋ](おとなしい) ともいう。ク˞ヌ˜　ッ˞ふゥー˜　イッ˞ケナ˜　ウ˞トゥナッ˜サン [ku˞nu˜ f˞faː˜ ʔik˞kena˜ ʔu˞tunas˜saŋ](この子は非常におとなしい)。ウ˞トゥナッサー　ナー˜ヌ [ʔu˞tunassa: naː˜nu](おとなしくない)。トゥ˞シ˜トゥ˞アー˜シ　˞シンダイ˜　ウ˞トゥナッ˜サ　˜ナリクーン [tɥ˞ʃi˜tu ˞ʔaː˜ʃi ˞ʃindai˜ ʔu˞tunas˜sa ˜nariku:ŋ](年を取るに連れて次第におとなしくなってくる)。ウ˞トゥナッ˜サールプ˞ス [ʔu˞tunas˜saːru pɥ˞su](大人しい人)。ウ˞トゥナッ˜サ　˜クトー　˞ナー˜ヌ [ʔu˞tunas˜sa ˜kɥtoː ˞naː˜nu](おとなしいことは無い)。˞マー˜ビン　ウ˞トゥナッ˜サカー　˜ミサムヌ [˞maː

˺biŋ ʔu˹tunas˺saka: ˺misamunu](もっとおとなしければいいのに)。

ウ˹トゥ˺ム [ʔu˹tu˺mu] 【名】お供。˹シンシー˺ヌ　ウ˹トゥ˺ム　˹シール˺　ウ˹キ˺ナー　˹パッ˺タ [˹ʃiŋʃi:˺nu ʔu˹tu˺mu ˹ʃi:ru˺ ʔu˹ki˺na: ˹pat˺ta](先生のお供をして＜ぞ＞沖縄へ行った)。

ウ˹トゥ˺メー [ʔu˹tu˺me:] 【固】(人) 平民子女の名前。˹ワッ˺テヌ　ウ˹トゥメー˺トゥ　˹バン˺テヌ　˹モーシェートー˺　ユ˹ヌ˺トゥシ　ヤ˹レー˺バン˹ナー [˹wat˺tenu ʔu˹tume:˺tu ˹ban˺tenu ˹mo:ʃe:to:˺ ju˹nu˺tuʃi ja˹re:˺ban˹na:](お宅の＜貴方の家の＞ウトゥメーさんと私の家のモーシェーとは同じ年だったんだねえ)。ウ˹トゥ˺メー　˹マー　パッ˺ター [ʔu˹tu˺me: ˹ma: pat˺ta:](ウトゥメーは何処へいったのですか)。

ウ˹トゥルイ˺ルン [ʔu˹trui˺ruŋ] 【自動】衰える。˹ウイ˺プス　˹ナッ˺ター　˹ミー˺ユン　˹ヨー˺リ　シゥ˹カラン˺　ウ˹トゥルイパジ˺ミ　˹ナーン˺バン [˹ʔui ˺pusu ˹nat˺ta: ˹mi:˺juɲ ˹jo:˺ri sɨ̥˹karaŋ˺ ʔu˹turuipaʥi˺ mi ˹na:m˺baŋ](老人になったので目も弱り、力も衰えはじめてしまったわい＜衰えはじめてないわい＞)。

ウ˹トゥル˺サン [ʔu˹turu˺saŋ] 【形】恐ろしい。怖い。沖縄首里方言からの借用語。ウ˹リヌ　クン˺ゾー　ウ˹ク˺ルカー　ナ˹クラー˺ンアリ　ウ˹トゥル˺サン　˺アン [ʔu˹rinu kun˺ʣo: ʔu˹ku˺ruka: na˹kura:˺ŋ ˺ʔari ʔu˹turu˺saŋ ˺ʔaŋ](彼＜あれ＞が怒ると怖くもあり、恐ろしくもある)。

˺ウトゥルムチ [˺ʔuturumuʧi] 【名】接待。「お取り持ち」の義。˹キュー˺ヤ　˹ウイヌ　プスヌ　オー˺ルンダ　˺ユー　ウ˹トゥル˺ムチ　˹シー　オーラ˺シ˹ヨー [˹kju:˺ja ˹ʔuinu pu̥sunu ʔo:˺runda ˺ju: ʔu˹turu˺muʧi ˹ʃi: ʔo:ra˺ʃi˹jo:](今日は上役の方がいらっしゃるから、よくお持て成しして差し上げなさいよ)。

ウ˹トゥ˺ルン [ʔu˹tu˺ruŋ] 【自動】劣る。˹キョーダイ˺サナー　˺シザー　˹ウシ˺トーラ　ス˹ブ˺ロー　ウ˹トゥリ˺ス [˹kjo:dai˺sana: ˺ʃiʣa: ˹ʔuʃi̥˺to:ra su˹bu˺ro: ʔu˹turi˺su](兄弟同士では兄は弟よりも能力は＜頭は＞劣る)。˺トゥシェー　˹トゥッ˺タンティン　ス˹ブ˺ロー　˹ワー˺ラー　ウ˹トゥラン˺バン [˺tu̥ʃe: ˹tut˺tantin su˹bu˺ro: ˹wa:˺ra: ʔu˹turam˺baŋ](年はとっても頭は君よりは劣らないわい)。ウ˹トゥ˺ル　バソー [ʔu˹tu˺ru baso:](劣るときは)。ウ˹トゥ˺レー　ミサムヌ [ʔu˹tu˺re: misamunu](劣ればよいのに)。ウ˹トゥリ˺リ [ʔu˹turi˺ri](劣れろ)。

˺ウトゥン [˺ʔutuŋ] 【他動】打つ。叩く。˹タイ˺ク　˺ウトゥン [˹tai˺ku ˺ʔutuŋ](太鼓を打つ)。ウ˹タ˺ヌ [ʔu˹ta˺nu](打たない)。ウ˹ティ˺　プサン [ʔu˹ti˺ pu̥saŋ](打ちたい)。ス˹クマ˺ヌ　˺クンケンマー　˹タイ˺ク　˺ウトゥ　˺クトー　ナ˹ラ˺ヌ [su̥˹kuma˺nu ˺kuŋkemma: ˹tai˺ku ˺ʔutu ˺ku̥to: na˹ra˺nu](スクマが来るまでは太鼓は打つことは出来ない)。˺ウテー　ミサムヌ [˺ʔute: ˺misamunu](打てばよいのに)。˹パー˺ク　˺ウティバ [˹pa:˺ku ˺ʔutiba](早く打ちなさいよ)。˹タイ˺ク　˺ウティ　˺ミサカー　˺ウトゥクトー　ナ˹ル˺ヌ　シ˹マッサ˺ルナーヤ　˹タイ˺コー　ウ˹タ˺ヌ＜ドゥ˹ランドゥ˺　ウトゥ＞[˹tai˺ku ˺ʔuti ˺misaka: ˺ʔutu ˺ku̥to: na˹ru˺nu ʃi˹massa˺runa:ja ˹tai˺ko: ʔu˹ta˺nu ＜du˹randu˺ utu＞](太鼓を打って良ければ打つことは出来るが、シマクサラシの祭りでは太鼓は打たない)。ドゥ˹ラーン˺　ウトゥ　プ˹ソー　ター˺ヤ [du˹ra:ŋ˺ ʔutu pu̥˹so: ta:˺ja](銅鑼を打つ人は誰か)。ドゥ˹ラーン˺　ウテー　˺ミサムヌ [du˹ra:ŋ˺ ʔute: ˺misamunu](銅鑼を打てば良いのに)。ドゥ˹ラーン˺　ウティバ [du˹ra:ŋ˺ ʔutiba](銅鑼を打てよ)。

˺ウトゥン [˺ʔutuŋ] 【自動】落ちる。落下する。˹落ち＜上二段＞」、「～我が手觸れなな土に於知母可毛＜オチモカモ＞。万、4418」の転訛したもの。ウ˹ティ˺ルンとも言う。˹キーヌパン˺ターラ　˺ウトゥン [˹ki:nupan˺ta:ra ˺ʔutuŋ](梢＜木の先端から＞から落ちる)。イッ˹カ˺　ウ˹タン˺ティ　ア˹ザバン˺　カ˹ジヌ˺　フクカー　˺ウトゥ　˺クトー　ワ˹カリ˺　ブー [ʔik˹ka˺ ʔu˹tan˺ti ʔa˹ʣabaŋ˺ ka˹ʤinu˺ ɸu̥kuka: ˺ʔutu ˺ku̥to: wa˹kari˺ bu:](決して落ちないといっても、風が吹いたら落ちることは分っている)。キサー˹ティ˺　ウティ　˹ナー˺ヌ [ki̥sa:˹ti˺ ʔuti ˹na:˺nu](既に落ちてしまった)。˺ウマーラ　˺ウテー　˺ミサムヌ [˺ʔuma:ra ˺ʔute: ˺misamunu](そこから落ちればいいのに)。˺ワンザーヤ　˺ウティバ [˺wanʣa:ja ˺ʔutiba](お前は落ちろ)。˹キーヌ˺　ウイラ　˺ウトゥン [˹ki:nu˺ ʔuira ˺ʔutuŋ](木の上から落ちる)。˺バー　ウ˹タン˺シェン [˺ba: ʔu˹taŋ˺ʃeŋ](私は落ちなかった)。˺ウティ　˹ナー˺ヌ [˺ʔuti ˹na:˺nu](落ちてしまった)。˺ウトゥ　˺クトゥン　˺アン [˺ʔutu ˺ku̥tuŋ ˺ʔaŋ](落ちることもある)。˺ウマーラ　˺ウテー　˺ミサムヌ [˺ʔuma:ra ˺ʔute: ˺misamunu](そこから落ちれば良いのに)。˺ウマーラ˺　ウティバ [˺ʔuma:ra ˺ʔutiba](そこから落ちろ)。˺ウマーラー　ウ˹タ˺ヌティ　ウ˹ムータ˺ヌ　ウティ˹ナー˺ヌ [˺ʔuma:ra: ʔu˹ta˺nuti ʔu˹mu:tan˺du ʔuti˹na:˺nu](そこからは落ちな

いと思ったが落ちてしまった)。˥ウマーラ　˥ウトゥ　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [˥ʔumaːra ˥ʔutu pu̥˞soː˥ bu˞raːnu](そこから落ちる人はいない)。˥ウテー　˥ミサムヌ [˥ʔuteː ˥misamunu](落ちれば良いのに)。˥ウティバ [˥ʔutiba](落ちろ)。

ウ˞トゥン [ʔu˞tun] 【他動】鍋、釜、湯沸し (薬缶) などを竈の火の上から移す。下ろす。ウ˞ティルン [ʔu˞tiruŋ](鍋を竈から下ろす) と同じ。˥ナビ　ウ˞トゥン [˥nabi ʔu˞tuŋ](鍋を竈から下ろす)。ウ˞タヌ [ʔu˞tanu](下ろさない)。˞イー˥ナベー　ウ˞ティティ˥スー　バ˞カシ [˞ʔiː˥nabeː ʔu˞titi˥ suː ba˞kaʃi](羽釜 < 飯鍋 > を竈から下ろしてお汁を炊け)。˥ナビ　ウ˞トゥ˥　ピンマー　˥ナビ　ウ˞ティフチ˥シ　カ˞サミ˥バ [˥nabi ʔu˞tu˥ pimmaː ˥nabi ʔu˞tiɸutʃi˥ʃi ka˞sami˥ba](鍋を下ろす時は鍋とり草鞋 < 靴 > で掴みなさい)。˞パー˥ク　ウ˞テー˥　ミサムヌ [˞paː˥ku ʔu˞teː˥ misamunu](早く鍋を下ろせばよいのに)。˥ドゥーシ　˥ナビ　ウ˞ティ˥バ [˥duːʃi ˥nabi ʔu˞ti˥ba](自分で鍋を竈から下ろせ)。竈から鍋を移す。鍋を竈から下ろす。ウ˞ティルン [ʔu˞tiruŋ](竈から鍋を移す) ともいう。˥ナビ　ウ˞トゥンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　マ˞ナ˥マー　ウ˞タラヌ [˥nabi ʔu˞tunti˥ ʔu˞muːn˥du ma˞na˥maː ʔu˞taranu](鍋を竈から移そう < 下ろそう > と思うが、今は移されない < 下ろされない >)。˥ナビ　ウ˞ティ˥ミサカー　ウ˞トゥ˥　クトー˥ナルン [˥nabi ʔu˞ti˥misakaː ʔu˞tu˥ ku̥toː ˥naruŋ](鍋を竈から移して < 下ろして > よければ移す < 下ろす > ことは出来る)。˞パー˥ク　ウ˞テー˥　ミサムヌ [˞paː˥ku ʔu˞teː˥ misamunu](早く鍋を竈から移せばいいのに)。ア˞バティ˥　ナビ　ウ˞ティ [ʔa˞bati˥ nabi ʔu˞ti](急いで鍋を竈から下ろせ)。

˥ウドゥン [˥ʔuduŋ] 【名】うどん (饂飩)。石垣方言からの借用語か。鳩間島には、饂飩はなかった。年に一度か二度ほど、石垣島に行く時に、そば屋で食することができた。˥スバ [˥suba](そば < 蕎麦 >) と共に日常的に食することの出来ない、美味しい食べ物であった。ウ˞ドゥン˥マー　パ˞トゥ˥マナー　˞ナーン˥シェン [ʔu˞dum˥maː pḁ˞tu˥mana˞naːŋ˥ʃeŋ](饂飩は、鳩間島にはなかった)。

ウ˞トゥングイ [ʔu˞tuŋgui] 【名】音沙汰。音信。「おとごえ (音声)」の転訛。ウ˞キ˥ナーラ　ノー˞ン˥　ウ˞トゥングイン　ナー˥ヌヌ　˞ヌー˥シ　˞ブー˥カヤー [ʔu˞ki˥naːra noː˞ŋ˥ ʔu˞tuŋguin na˞nunu ˞nuː˥ʃi ˞buː˥kajaː](沖縄から何も音沙汰がないが、どうしているのだろうか)。

ウ˞トゥン˥　グイン [ʔu˞tuŋ˥ guiŋ] 【連】音信も。音沙汰も。「音も声も」の義。˞パッ˥タ　˞ター˥ナ　ウヌッ˞キリ˥　ウ˞トゥン˥　グイン　ナー˥ヌ [˞pat˥ta ˞taː˥na ʔunu˞kkiri˥ ʔu˞tuŋ˥ guin naː˥nu](行ったまま、それっきり音沙汰もない)。

ウ˞トゥンジ˥プス [ʔu˞tuʔnʤi˥pu̥su] 【名】有名人。評判の高い人。音に聞こえた人。ウ˞ヌ˥　プ˞ソー˥　ウ˞トゥンジ˥プス　ヤ˞ルンダ˥　ムー˞ル˥　ッ˞シ　ブー [ʔu˞nu˥ pu̥˞soː˥ ʔu˞tuʔnʤi˥pu̥su ja˞runda˥ muː˞ru˥ʃ˞ʃibuː](あの人は有名人だから、皆知っている)。

ウ˞トゥンジ˥ムヌ [ʔu˞tunʤi˥munu] 【名】評判者。有名な人。ウ˞ヌ　プソー˥　チニヒージェー　˥ムネー　イ˞ザヌヌ˥　ウタ　イ˞ザス˥カー　˞デージ˥ナ　ウ˞トゥンジ˥ムヌ [ʔu˞nu pu̥soː˥ tʃiniçiːʤeː˥mune: ʔi˞ʤanunu˥ ʔuta ʔi˞ʤasu˥kaː ˞deːʤi˥na ʔu˞tunʤi˥munu](その人は常日頃ものは言わないが、歌を歌わせたら大変な有名人だ < 音に聞く歌の名人だ >)。

ウ˞トゥ　ンジ˥ルン [ʔu˞tu ʔnʤi˥ruŋ] 【連】評判が響き渡る。(好評、悪評の) 評判が世間に広く知れ渡る。有名になる。ウ˞ヌ　ッふァヌ˥　シ˞グトー˥　ウ˞トゥ˥　ン˞ジ˥ブンダー　ッ˞サンプソー˥　ブ˞ラーヌ [ʔu˞nu ffanu˥ ʃi˞guto:˥ ʔu˞tu˥ ʔn˞ʤi˥bundaː s˞sampu̥soː˥ bu˞raːnu](その子の仕事は評判がよく広く知れ渡っているから、知らない人はいない)。ミ˞ジラ˥シ　˥クトゥバ　˞シーティル˥　ウ˞トゥ˥ンジ˞ベーン˥ティ [mi˞ʤira˥ʃi ˥ku̥tuba ˞ʃiːtiru˥ ʔu˞tu˥ ʔnʤi˞beːn˥ti](珍しい < 変な、珍妙な > ことをやって、評判になっているさ < 悪評が立っているよ >)。

ウ˞トゥ˥　ンズン [ʔu˞tu˥ ʔnʤuŋ] 【連】評判になる。評判が響き渡る。ウ˞トゥ　ンジ˥ルン [ʔu˞tu ʔnʤi˥ruŋ] と同じ。˥カイブ　˥クトゥ　˞スー˥カー　ウ˞トゥ˥　ンズン˞ダー [˥kaibu ˥ku̥tu ˞suː˥kaː ʔu˞tu˥ ʔnʤun˞daː](こんなことをすると評判になるぞ)。ウ˞ヌ˥　パ˞ナシ˥ヌ　ウ˞トゥ˥　ンジティ　ムー˞ル˥　ッ˞シ　ブー [ʔu˞nu˥ pa˞naʃi˥nu ʔu˞tu˥ ʔnʤiti muː˞ru˥ʃ˞ʃibuː](その話が評判になって、みんな知っている)。

ウ˞ナー [ʔu˞naː] 【代】己 (おのれ)。自分自身 (話題の人物自身)。「〜於能禮 < オノレ > 神さび〜。万、3883」の転訛したもの。ウ˞ナーヤ　シーサムティ˥　プ˞スバ˥カー˞ニル˥　イ˞ズ [ʔu˞naːja ʃiːsamuti˥ pu̥˞suba˥ka˞niru˥ ʔi˞ʤu](己自身は出来ないくせに、他人をだけ叱る)。ウ˞ナー˥　ドゥーシェー　ノー˞ン　シーユーサヌ [ʔu˞naː˥ duːʃeː noː˞ŋ ʃiːjuːsanu](己

自身では何事もすることができない＜成し得ない＞)。ウ˞ナール　スー˥ティ　ア˞ジ　ベー [ʔu˞naːru suː˥ti ʔa˞ʤi beː](自分が＜ぞ＞するといっている)。

˥**ウナー [˥ʔunaː]** 【連】そこで。そこに。指示代名詞の語幹ウ [ʔu](そ) に格助詞˥ナ [˥na](に) と係助詞ヤ [ja](は) がついて、[ʔu＋na] ＋ [ja] → [ʔunaː](そこには) と音韻変化したもの。˥ウナー ˞ベー˥リ [˥ʔunaː ˞beː˥ri](そこに居ろ)。˥ウナー　ナ˞キベー˥　ッ˞ふァー　ター˥ヤ [˥ʔunaː na˞kibeː˥ f˞faː taː˥ja](そこに泣いている子は誰か)。˥ウナー　ブ˞ラーヌ [˥ʔunaː bu˞raːnu](そこには居ない)。˥ウナー　ター˞ン˥　ブ˞ラーヌ [˥ʔunaː taː˞m˥ bu˞raːnu](そこには誰もいない)。˥ウナーティ　シ˞グトゥ　シー˥バ [˥ʔunaːti ʃi˞gutu ʃiː˥ba](そこで仕事をしなさいよ)。˥ウナーン　ブ˞ラーヌ [˥ʔunaːm bu˞raːnu](そこにもいない)。

ウ˞**ナー [ʔu˞naː]** 【名・代】1自分自身。己。自分自身。己自身。その人自身。ウ˞ナー˥　メー　イッ˞ケナ　ゾージ˥ヌ　シジ˞ダー [ʔu˞naː˥ meː ʔik˞kena ʤoːʤi˥ nu ʃiʤi˞daː](自分は非常に上手のつもりだよ)。ウ˞ナー˥　ドゥーシ　˞シーティ˥　ッ˞サヌ˥ティ　ア˞ジ　アー˥ク [ʔu˞naː˥ duːʃi ˞ʃiːti˥ s˞sanuti˥ ʔa˞ʤi ʔaː˥ ku](自分自身＜己＞でしておいて、知らないと言っているよ)。ノー˞ン˥　ウ˞ナー　カッティティル˥　ウムイ　˞ブー˥ユー　パ˞ナシアー˥シン　サ˞ヌ [noː˞n˥ ʔu˞naː kattitiru˥ ʔumui ˞buː˥juː pa˞naʃiʔaː˥ʃin sa˞nu](何もかも自分勝手と思っているのか、話し合いもしない)。2相手を指す＜二人称的用法＞。「於能礼＜ォノレ＞故のらえて居れば～。万、3098」。ウ˞ナーンツァン˥　ナ˞リ˥ス　˥ムヌバ　˥バー　ナ˞ラン˥ティ　ク˞トゥ˥ヌ　アン˞トゥー [ʔu˞naːntsan˥ na˞riˇsu ˥munuba ˥baː na˞ran˥ti kṵ˞tu˥nu ʔan˞tuː](己＜お前＞ですら出来るものを、私には出来ないってことがあるものか)。

ウ˞**ナーター [ʔu˞naːtaː]** 【代】己達 (第三者)(複数)。自分達 (話題の人物達)。ウ˞ナー [ʔu˞naː](己) の複数形。ウ˞ナーター　ドゥー˥ヌ　˥クトゥンツァン　˞シーユーサムティ˥　プ˞スヌ　ソーバ　シェー˥ティ　˞アー˥ク [ʔu˞naːtaː duː˥nu ˥kṵtuntsaŋ ˞ʃiːjuːsamuti˥ pṵ˞sunu soːba ʃeː˥ti ˞ʔaː˥ku](己達自身のことさえもすることが出来ないのに他人の心配をしている)。ウ˞ナーター˥　ッ˞シェー˥ル　˥クトゥーン　ア˞ラ˥ナー　イ˞ラヌ˥　ム˞ニ˥バ　˥ユメーティ　˞アー˥ク [ʔu˞naːtaː˥ ˞ʃeː˥ru ˥kṵtuːn ʔa˞raˇna: ʔi˞ranu˥ mu˞niˇba ˥jumeːti ˞ʔaː˥ku](己＜自分たち＞たちに関係のないことな＜知ったことでもない＞のに、余計なこと＜要らぬこと＞を言いふらしている)。ウ˞ナーター˥　クトー　˞ヌー˥シ　˞ナッ˥タカヤー　ナー˞レー [ʔu˞naːtaː˥ kṵtoː ˞nuː˥ʃi ˞nat˥takajaː naː˞reː](自分たち＜己たち＞のことはどうなったのかねえ)。

˥**ウナイ [˥ʔunai]** 【名】(動) ウナギ (鰻)。河川や堰、水田 (湧水のある水田、バ˞ケーラマシ [ba˞keːramaʃi]) などに棲息する川鰻や田鰻。˞バン˥テヌ　˞クーラヌ˥　バ˞ケーラマシ˥ナー　ウ˞ナイ˥ヌ　ブ˞タントダー　˞トーサ˥トゥリ　˞マイカリヌ˥　ピン　ギュー˞ムシン　フンクタント ダ [˞ban˥tenu ˞kuːranu˥ ba˞keːramaʃiˇna: ʔu˞naiˇnu bu˞tanˊda: ˞toːsa˥turi ˞maikarinu˥ piŋ gjuː˞muʃiŋ ɸuŋkutanˊdaː](私の家の久浦のバケーラマシ＜湧き水田＞の田には鰻がいたよ。田草取りや稲刈りの時には何度も踏みつけたことがあるよ)。˞ウーアミヌ˥　ピン　シ˞キム˥トーラ　˞トーニ˥ヌ　˥ブカラヌ　ウ˞ブウナイ˥ヌ　˞ナーラサ˥リ　˥ケータン [˞ʔuːaminu˥ piŋ ʃi̥˞kimu ˥toːra ˞toːniˇnu ˥bukaranu ʔu˞buʔunai˥nu ˞naːrasa˥ri ˥keːtaŋ](大雨の時、堰の上からトーニ＜田舟＞くらいの大鰻が流されてきたことがある)。

˥**ウナンザ [˥ʔunanʤa]** 【代】そいつ野郎。己野郎。二人称の自称の卑称。˥ウナンザー　˞カッティティ˥　ウムイ　˞ベー˥　パジ˞ダー˥ヌ　イッ˞カ˥　アイヤー　シ˞ムヌ [˥ʔunanʤa: ˞kattiti˥ ʔumui ˞beː˥ paʤi˞daː ˥nu ʔik˞ka˥ ʔaija: ʃi˞munu](そいつ自身の勝手と思っているだろうが、決してそうはさせない)。˥ウナンザー　ス˞ク˥ヌ　ム˞ヌ˥ヌ　˞ヌー˥ヌ　ナ˞ル˥ワ [˥ʔunanʤa: sṵ˞ku˥nu mu˞nu˥nu ˞nuː˥nu na˞ru˥wa](そいつごとき者に何が出来るというものか＜何ができるか＞)。

˥**ウナンザー [˥ʔunanʤaː]** 【代】己野郎 (卑称)。第三者を罵る時に用いる。˥ウナンザー　˥イカーラ　ス˞ク˥ヌ　プ˞ス˥　ヤ˞リバル˥　アイニ　プ˞スバ˥　イ˞ズワト ツォー [˥ʔunanʤa: ˥ʔikaːra sṵ˞ku˥nu pṵ˞su˥ ja ˞ribaru˥ ʔaini pṵ˞suba˥ ʔi˞ʤuwaˊtsoː](己野郎はいかほどの人だからとて、どうしてこんなにも他人を叱ることができものかよ)。˥ウナンザー　イ˞カムス˥ク　ッ˞シェーバ˥ル　プ˞スヨー˥　アイニ　ウ˞ムイナ˥シ　˞アー˥ク˞ツォー [˥ʔunanʤa: ʔi˞kamusṵ˥ku ʃ˞ʃeːba˥ru pṵ˞sujoː˥ ʔaini ʔu˞muina˥ʃi ˞ʔaː˥ku˞tsoː](己奴は如何ほどものを知っているからとて、他人さまをあんなにけなして＜貶(ケナ)して＞あるくんだよ)。

二人称的用法。そやつ (其奴)。人を見下げ、罵って言う。その野郎。己野郎。˥ウナンザー　ノーˈン　シーユーサムティ˥　プˈスバ˥　バˈライヤー˥ク [˥ʔunandʑaː noːˈŋ ʃiːjuːsamuti˥ pu̥ˈsuba˥ baˈraijaː ˥ku](己野郎 < 自分自身 > は何も出来ないくせに、人を笑っている < 笑ってあるく >)。

˥ウニ [˥ʔuni] 【名】畝。畑に作物を植え付けるために土を筋状に盛り上げた所。パˈタキ˥ナ　˥ウニ　バˈリ˥　シˈキゴイ˥　イˈリティ˥　シˈブル˥　イˈビ˥バ [pḁˈta˥kina ˥ʔuni baˈri˥ ʃi̥ˈkigoi˥ ʔiˈriti˥ ʃiˈburu˥ ʔiˈbi ˥ba](畑に畝を立て < 割って > 堆肥を入れて冬瓜を植えなさいよ)。˥ウニ　アˈギティ˥　シˈキゴイ˥　イˈリリ [˥ʔuni ʔaˈgiti˥ ʃi̥ˈkigoi˥ ʔiˈriri](畝を上げて堆肥を入れなさい)。

ウˈヌ [ʔuˈnu] 【連体】その。代名詞ウˈリ [ʔuˈri](それ) の連体詞。-ヌ [-nu](〜の) は格助詞。1話し手から「それ」と指示される位置にある物・事にかかわる意味。ウˈヌ˥　プˈソー　ター˥ヤ [ʔuˈnu˥ pu̥ˈsoː taː˥ja](その人は誰か)。ˈキン˥マー　ウˈヌ˥　キーナ　˥サイティ　˥プシバ [ˈkim˥maː ʔuˈnu˥ kiːna ˥saiti ˥pu̥ʃiba](着物はその木に掛けて干しなさい)。2話題の人や事物に関することを表す。ウˈヌ　プスヌ˥　パˈナ˥シェー　スˈクタン [ʔuˈnu pu̥sunu˥ pḁˈna˥ʃeː su̥ˈkutaŋ](その人の話 < 噂話 > は聞いたことがある)。ウˈヌ˥　クˈトゥ˥ヌ　ˈユン˥シ　ˈアイッツァー˥シ　ˈベー˥ツォー [ʔuˈnu˥ ku̥ˈtu˥nu ˈjuŋ˥ʃi ˈʔaittsaː˥ʃi ˈbeː˥tsoː](そのことが原因で < 故に > 喧嘩しているそうだ)。ウˈヌ˥　ピン [ʔuˈnu˥ piŋ](その時)。ウˈヌ˥　クトー　ˈバシキララヌ [ʔuˈnu˥ ku̥toː ˈbaʃikiraranu](そのことは忘れられない)。

ウˈヌアタ˥ル [ʔuˈnuata˥ru] 【連】その程度。それくらい。ˈワー˥　ウˈヌアタル˥ヌ　˥クトゥンツァン　ッˈサヌ [ˈwaː˥ ʔuˈnuataru˥nu ˥ku̥tuntsan sˈsanu](君はそれくらいのことすら知らないのか)。ˈジンブン˥マー　ウˈヌアタル˥ル　アˈル˥バンˈナー [ˈʤimbum ˥maː ʔuˈnuataru˥ru ʔaˈru˥banˈnaː](智恵 < 存分 > はその程度しかないのだ < その程度があるのだ > なあ)。

ウˈヌ　アタ˥ル [ʔuˈnu ʔata˥ru] 【連】それくらい。その程度 (量的程度。感情、感覚的程度)。ウˈヌ　アタ˥ルンツァン　ˈシーユーサン˥カー　ヤコー　タˈタ˥ヌ [ʔuˈnu ʔata˥runtsaŋ ˈʃiːjuːsaŋ˥kaː ˥jakoː taˈta˥nu](それくらい < その程度 > すらも出来なかったら役に立たない)。ウˈヌ　アタル˥ヌ　ˈニン˥ギン [ʔuˈnu ʔataru˥nu ˈniŋ˥giŋ](その程度 < レベル > の人間)。ウˈヌ　アタ˥ロー　ˈバン˥ヌン　˥ナルン [ʔuˈnu ʔata˥roː ˈban˥nun ˥naruŋ](その程度は私にもできる)。

ウˈヌウイ [ʔuˈnuʔui] 【接】その上。さらに。それに加えて。ウˈブ˥プス　˥ナルンケン　シゥˈカ˥ナイ　ウˈヌウイ˥　ヤーン　スˈク˥リ　ッˈふェー˥ティル　タˈタ˥シ　パˈラシ˥タˈダー [ʔuˈbu˥pu̥su ˥naruŋken si̥ˈka ˥nai ʔuˈnuʔui˥ jaːn su̥ˈku˥ri fˈfeː˥tiru tḁˈta˥ʃi paˈraʃi̥˥ taˈdaː](大人になるまで養育し、そのうえ家も建てて < 造って > やって独立させて行かせたのだよ)。ˈウン˥ナ [ˈʔun˥na](それに)、ウˈレー˥ラ [ʔuˈreː˥ra](それから) 参照。

ウˈヌ˥ウチ [ʔuˈnu˥ʔutʃi] 【副】1そのうち。間もなく。やがて。ウˈヌ˥ウチ　ˈソームヌバ　カイ˥キー　ˈオースバ˥　マティˈオー˥リバˈヨー [ʔuˈnu˥ʔutʃi ˈsoːmunuba kai˥ki: ˈʔoːsuba˥ matiˈʔoː˥ribaˈjoː](そのうちに < やがて > 上等なものを買ってきて差し上げますから待っていらして下さいね)。2その中で。ウˈヌ˥ウチナ　˥プサル　ムˈヌ˥ヌ　˥アルカー　ˈイー˥リ　ミサンˈダー [ʔuˈnu˥ ʔutʃina ˥pu̥saru muˈnu ˥nu ˥ʔarukaː ˈʔiː˥ri misanˈdaː](その中で欲しい物があれば貰っていいよ)。

ウˈヌ˥スク [ʔuˈnu˥su̥ku] 【副】1それほど。そのように。たいそう。非常に。ウˈヌス˥ク　ウˈムッ˥サ　パˈナ˥ソールンドゥ　ムサッˈトゥ˥　ワˈカラン˥バン [ʔuˈnusu˥ku ʔuˈmus˥sa paˈna˥soːrundu musatˈtu˥ waˈkaram˥baŋ](そのように楽しくお話になるのだが、ちっとも分からない)。2それぐらい。それほど。その程度。ウˈヌ˥スクンツァン　ワˈカラヌ [ʔuˈnu˥ su̥kuntsaŋ waˈkaranu](それぐらい < その程度 > すら分からないのか)。

ウˈヌ˥　スコー [ʔuˈnu˥ su̥koː] 【連】それくらいは。その程度は。それほどには。ウˈヌ˥　スコー　ターˈン˥　ナˈリ˥ス [ʔuˈnu˥ su̥koː taːˈn˥ naˈri˥su](それくらいは誰でも出来る)。ウˈヌ˥　スコー　シˈグトゥ　シースバン [ʔuˈnu˥ su̥koː ʃiˈgutu ʃiːsubaŋ](あれほどに < あれほどすごく > 仕事をするわい)。

ウˈヌ˥　タキ [ʔuˈnu˥ taki] 【連】その勢いの程度。人格や風格、能力の程度。「その丈」の義。普通はレベルの低さを表す。ˈワー˥　ウˈヌ˥　タˈキ˥ル　アˈル [ˈwaː˥ ʔuˈnu˥ taˈki˥ru ʔaˈru](君は人間的にその程度しか < ぞ > ないのか < あるのか >)。

ウˈヌ˥タキ [ʔuˈnu˥tḁki] 【連】その程度 (限度)。それぐらい。そのレベル (品格)。「その丈」の義。ヤˈラビ˥トゥン　ˈアイ˥ヤーティ　˥ヌーヤ　ウˈレー　ワー

˺ ウ˞ヌタキ˺ル ア˞ル [ja˞rabi˺tuŋ ˞ʔai˺ja:ti ˺nu:ja ʔu˞re: wa:˺ ʔu˞nutaki˺ru ʔa˞ru](子供とも喧嘩したりして何事かね、それは。君はその程度しか無い＜その程度がある＞のか)。

˺ウヌトゥール [˺ʔunutu:ru] 【連】その通り。指図通り。˺ウヌトゥール ス˞ク˺リバ [˺ʔunutu:ru sṵ˞ku˺riba](その通りに作れよ)。

ウ˞ヌ˺バス [ʔu˞nu˺basu] 【連】その時。その場合。サ˞クシ˺ヌ マ˞ルタ˺ ピン ウ˞ヌバス˺ヌ サ˞ニ˺ヤー ˺メー ˞バシキララヌ [sạ˞kuʃi˺nu ma˞ruta˺ piŋ ʔu˞nubasu˺nu sa˞ni˺ja: ˺me: ˞baʃi̥kiraranu](長男が生まれた時、その時の喜び、嬉しさは忘れられない)。

ウ˞ヌパンシ [ʔu˞nupaŋʃi] 【名】その場凌(シノ)ぎ。言い逃れ。「その場外し」の義。ウ˞レー˺ ウ˞ヌパンシヌ˺ シ˞グトゥ フントー˺ヌ シ˞グトー˺ ア˞ラ˺ヌ [ʔu˞re:˺ ʔu˞nupaŋʃinu˺ ʃi˞gutu ɸunto:˺nu ʃi˞guto:˺ ʔa˞ra˺nu](それはその場凌ぎの仕事であって、本当仕事＜本職＞ではない)。ウ˞ヌパンシヌ˺ ム˞ニ˺バカー˞ニ˺ イ˞ジアーク˺ヌ ˞ヌンガーラリ˺ル パ˞ナ˺シェー ア˞ラ˺ヌ [ʔu˞nupaŋʃinu˺ mu˞ni˺baka:˞ni˺ ʔi˞ʤiʔa:ku˺nu ˞nuŋga:rari˺ru pa˞na˺ʃe: ʔa˞ra˺nu](言い逃れ＜その場凌ぎ＞の言葉だけ言っているが、許される＜逃れる＞話ではない)。

ウ˞ヌ˺ピン [ʔu˞nu˺piŋ] 【名】そのとき (日)。当日。ある事が行われた時、また、行われる時 (日)。イ˞クサユー˺ヌ ウ˞ワールタ˺ ウ˞ヌ˺ ピンマー ˞ワー ギューチ ヤッタ˺メー [ʔi˞kusaju:˺nu ʔu˞wa:ru˺ta ʔu˞nu˺ pimma: ˞wa: gju:ʧi jatta˺me:](戦争が終わったその時は、君は何歳だったかねえ、もう)。

ウ˞ヌ˺フカ [ʔu˞nu˺ɸṵka] 【連】そのほか。˞プールナー˺ヤ ウ˞キ˺ナー イ˞サナキ˺ ウ˞ヌ˺ フ˞カ˺ヌ ˺シマジマーラン タカー˞ニン˺ プ˞スヌ˺ ア˞ツァ˺マローッタン [˞pu:runa:˺ja ʔu˞ki˺na: ʔi˞sanaki˺ ʔu˞nu˺ ɸṵ˞ka˺nu ˺ʃimaʤima:ran tạka:˞nim˺ pṵ˞sunu˺ ʔa˞tsa˺maro:ttaŋ](豊年祭には、沖縄、石垣、其の他の島々からも沢山の人が集まられた)。

ウ˞ヌプス [ʔu˞nupusu] 【連】その人。当人。前に話題にした、話し手、聞き手に共通な人。話題の人物。ウ˞ヌ˺ プ˞ソー ギューチブカラヌ˺ プ˞スヤッタ˺カヤー [ʔu˞nu˺ pṵ˞so: gju:ʧibukaranu˺ pṵ˞su jatta˺kaja:](その人は何歳ぐらいの人だったかね)。

ウ˞ヌプスン˺ケー [ʔu˞nupusuŋ˺ke:] 【連】この方々。˞ウッ˺ツァー [˞ʔut˺tsa:](彼ら。それら。その人たち)の敬語。

˺ウヌブン [˺ʔunubuŋ] 【副・名】非常に。かなり。それ相当程度に。「其の分」の義。˺ウヌブン ˞ビンキョー サン˺カー シ˞キン˺マー ˞トゥーラ˺ヌ [˺ʔunubum ˞biŋkjo: saŋ˺ka: ʃi̥˞kim˺ma: ˞tu:ra˺nu](それ相当に、かなり勉強しないと試験には通らない＜合格しない＞)。

ウ˞ヌ˺ブン [ʔu˞nu˺buŋ] 【連】其の分。シ˞ナムノージョー˺トー ヤ˞ルンダ˺ ウ˞ヌ˺ブン ˞ダイヤー˺ タ˞カーントダー [ʃi˞namuno: ʤo:˺to: ja˞runda˺ ʔu˞nu˺bun ˞daija:˺ tạ˞ka:nt̪da:](品物は上等だから、其の分値段は高いよ)。

ウ˞ヌマーマ [ʔu˞numa:ma] 【名】1そのまま。あるがまま。˞ヤー˺ヤ ˞タイ˺フーナ ˞クーサ˺リティ ウ˞ヌマーマ˺ シ˞ティ˺シケー [˞ja:˺ja ˞tai˺ɸu:na ˞ku:sa˺riti ʔu˞numa:ma˺ ʃi̥˞ti˺ʃi̥ke:](家は台風で壊されて、そのままほったらかしにしてある)。2(副詞的に) すぐに。その場で＜そのまま＞。˞ウンパンシン˺ヌ ˞クー˺タ ウ˞ヌマーマ ヌーリ˺パリ ˞ナー˺ヌ [˞ʔumpaŋʃin˺nu ˞ku:˺ta: ʔu˞numa:ma nu:ri˺pari ˞na:˺nu](運搬船が来たので、その場で＜そのまま＞船に乗って行ってしまった)。

ウ˞ヌマーラ [ʔu˞numa:ra] 【名】当時。そのころ (其の頃)。話題となった遠くない過去の一時期。˞ウンヌマーラ [˞ʔunnuma:ra:](その頃) ともいう。ウ˞ヌマーラー タール˺ カ˞ツシンヌ シン˺ドゥ ˞シー オーッ˺ター [ʔu˞numa:ra: ta:ru˺ kạ˞tsuʃinnu ʃin˺du ˞ʃi: ʔo:t˺ta:](其の頃は、誰がカツオ漁船の船頭をしておられましたか)。

ウ˞ヌマリ [ʔu˞numari] 【名】 1本性。本質。人となり。「その生まれ」の義。生まれながらの性質。ウ˞リヌ˺ ア˞サ˺ニベー ウ˞ヌマリ˺ ヤ˞ルンダ ノーサラ˺ヌ [ʔu˞rinu˺ ʔa˞sa˺nibe: ʔu˞numari˺ ja˞runda no:sara˺nu](そいつ＜その人＞の朝寝坊は生まれながらの性質だから治されない)。2運命。天命。˞ウン˺ネヌ ˺アッパー バ˞カマーラ˺シ ˞ソーッ˺タティ ス˞ヌ˺ ウ˞ヌマリル˺ ヤ˞ロー˺レール [˞ʔun˺nenu ˺ʔappa: ba˞kama:ra˺ʃi ˞so:t˺tati su˞nu˺ ʔu˞numariru˺ ja˞ro:˺re:ru](その家のお祖母さんは若死にされたそうだが天命＜その生まれ＞であられたのでしょう)。

ウ˞ヌ˺ ムティ [ʔu˞nu˺ muti] 【連】その旨。その段。その趣意。ことの次第。ウ˞ヌ˺ムティ ˺アジ ッ˞サリティ˺ アトー ˞ヌー˺シ ˞サバル˺ ミサユー シ˞キ˺ クー [ʔu˞nu˺muti ˺ʔaʤi s˞sariti˺ ʔato: ˞nu:˺ʃi ˞sabaru˺ misaju: ʃi̥˞ki˺ku:](ことの次第を申し上げ

て、今後どうすればよいか聞いて来い)。

˥ウヌヨーナ **[˥ʔunujoːna]** 【連体】そのような。あのような。˥ウヌヨーヌ [˥ʔunujoːnu](そのような) ともいう。˥ウヌヨーナ　ヤ˩ラビ˥バ　ユ˩ナカー˥ラ　シゥ˩カイ˥　パ˩ラ˥スンテー　ウ˩モーン˥シェン [˥ʔunujoːna ja˩rabi˥ba ju˩nakaː˥ra si˩kai˥ pa˩ra˥suntеː ʔu˩moːŋ˥ʃeŋ](そのような子供を夜中から使いにやるとは思わなかった)。

˥ウヌヨーニ **[˥ʔunujoːni]** 【副】そのように。そんなに。˥ウヌヨーニ　グ˩チ˥ホーニ　˩アシゥカウ˥カー　ノー˩ンシェー˥ル　˩ドン˥グン　ヤ˩ブリ˥ス [˥ʔunujoːni gu˩tʃi˥hoːni ˩ʔasïkau˥kaː noː˩ŋʃeː˥ru ˩doŋ˥ guɲ ja˩buri˥su](そのように無鉄砲に扱うと、どんな道具も壊れてしまうよ)。

˥ウヌヨーヌ **[˥ʔunujoːnu]** 【連体】そのような。あのような。˥ウヌヨーヌ　ク˩トゥ˥バ　˩シー˥　ム˩ラズー　ミーワクバ˥　カキ　イ˩ナムヌ [˥ʔunujoːnu kṵ˩tu ˥ba ˩ʃiː˥ mu˩radʑuː miːwakuba˥ kạki ʔi˩namunu](そのような事をし出かして村中に迷惑をかけ、残念だ)。˥ウヌヨーヌ　ヤ˩ラビ˥バ　パ˩タラカシ　ベー [˥ʔunujoːnu ja˩rabi˥ba pạ˩tarakaʃi beː](そのような幼い子供を働かせている)。

ウ˩バースン **[ʔu˩baːsuŋ]** 【他動】驚かす。びっくりさせる。プ˩ス˥　ウ˩バースン [pṵ˩su˥ ʔu˩baːsuŋ](人を驚かす)。ウ˩バーサヌ [ʔu˩baːsanu](驚かさない)。ウ˩バーシ˥　ミルン [ʔu˩baːʃi˥ miruŋ](驚かしてみる)。ウ˩バース˥　クトー　ス˩ナ [ʔu˩baːsu˥ kṵtoː su ˩na](驚かすことはするな)。ウ˩バーシェー˥　ミサムヌ [ʔu˩baːʃeː˥ misamunu](驚かしたらいいのに)。˩パー˥ク　ウ˩バーシ [˩paː˥ku ʔu˩baːʃi](早く驚かしなさい)。ウ˩バースナ [ʔu˩baːsuna](驚かすな)。

ウ˩バイ˥カバイ **[ʔu˩bai˥kabai]** 【副】恐る恐る。びくびく。ウ˩バイ˥カバイ [ʔu˩bai˥kabai](恐れる) の重言 (ABCDBC 型)。ウ˩ヤ˥ヌ　ブ˩ラーンッふァ˥ティ　˩シー˥　ウ˩バイ˥カバイ　˩シェー˥ティ　˩アーカン˥ダー [ʔu˩ja˥nu bu˩raːn ffa˥ti ˩ʃiː˥ ʔu˩bai˥kabai ˩ʃeː˥ti ˩ʔaːkan˥daː](親のいない子供だからといって、びくびくしているではないよ)。

ウ˩バウン **[ʔu˩bauŋ]** 【自動】怯える。こわ (怖) がる。「おびゆ < 下二段活用 >」の四段活用化したもの。˥イン　˩ホー˥リティ　ウ˩バイ　フッツォーリ　ベー [˥ʔiŋ ˩hoː˥riti ʔu˩bai ɸuttsoːri beː](犬に噛まれて怯え、ガタガタ震えている)。ウ˩ドーシタンティン˥　ウ˩バーヌ [ʔu˩doːʃi̥tantiŋ˥ ʔu˩baːnu](脅しても怖がらない)。ウ˩バース˥カー　ウ˩バウン˥ヨー [ʔu˩baːsṵ˥ka: ʔu˩bauɲ˥joː](脅したら怖がるよ)。ウ˩リ˥　ウ˩バウ　プソー˥　ブ˩ラーヌ [ʔu˩ri˥ ʔu˩bau pṵsoː˥ bu˩raːnu](それ < その人 > を怖がる人はいない)。ウ˩バイヤー˥　ミサムヌ [ʔu˩baijaː˥ misamunu](怖がればよいのに)。ン˩ベーマー˥　ウ˩バイ˥バ [ʔm˩beːmaː˥ ʔu˩bai˥ba](少しは怖がれよ)。プ˩ス˥　ウ˩バウン [pṵ˩su˥ ʔu˩bauŋ](他人を怖がる)。プ˩ス˥　ウ˩バーヌ [pṵ˩su˥ ʔu˩baːnu](人を怖がらない。恐れない)。

ウ˩ハ˥ラクイチ **[ʔu˩ha˥rakuitʃi]** 【名】(地) 峠の名称。「大原越地節」の中に「大原越地道 < ウハラクイチミチィ > ナガ/　ユサバザヌ道 < ミチィ > ナガ」(『八重山民謡誌』) と表記されている。西表島の旧崎山村と鹿川村の間にある峠。崎山村、鹿川村ともに廃村となっている。

˥ウビ **[˥ʔubi]** **(1)**【連体】 **1**それだけ。それほど。これだけ。これほど。分量を表す。˩ジン˥マー　ウ˩ビ˥ル　˥アル [˩dʑim˥maː ʔu˩bi˥ru ˥ʔaru](お金はこれだけしかない < これだけがある >)。**2**ウ˩ビ˥ヌ　プ˩スバ　ヌー˥シ　˩サーリ　クー˥ター [ʔu˩bi˥nu pṵ˩suba nuː˥ʃi ˩saːri kuː˥taː](それほど多人数の人をどうやって連れてきたのか)。˩ジン˥マー　ウ˩ビ˥ル　˥アル [˩dʑim˥maː ʔu˩bi˥ru ˥ʔaru](お金はそれだけしかない < それだけがある >)。˥ウビシ　˩カーリン˥カヤー [˥ʔubiʃi ˩kaːriŋ˥kajaː](それだけ < それぽっちの金 > で買えるのかねえ)。˩ダイヤー˥　ウベー　˩サン˥パジ [˩daijaː˥ ʔubeː ˩sam˥padʑi](値段はそんなにはしないはずだ)。˥メー　イ˩ズナ˥　ウビシ　シ˩マイリ [˥meː ʔi˩dʑuna˥ ʔubiʃi ʃi˩mairi](もう、叱るな。それだけで仕舞いなさい)。˩ドゥー˥ヌ　バ˩キ˥ダマー　ウ˩ビ˥ル　˥アル [˩duː˥nu ba˩ki˥dama: ʔu˩bi˥ru ˥ʔaru](自分の財産の分け前はこれだけしかない < これだけがある >)。˥ウビ　ア˩ズ˥カー　ミサン [˥ʔubi ʔa˩dʑu˥kaː ˥misaŋ](それだけ言えばいい)。ウ˩ビ˥ル　˥アル [ʔu˩bi˥ru ˥ʔaru](それだけしかない < それだけぞある >)。˥ウベー　˩カーシ˥　ミサン [˥ʔubeː ˩kaːʃi˥ misaŋ](それぐらいは売ってもよい)。それくらい < 程度 >。˥ティマー　˥ウビシ　˥ミサン [˥timaː ˥ʔubiʃi ˥misaŋ](手間賃はそれだけでよい)。˥ウビブカラ [˥ʔubibukara](それくらい。程度)。˥ウビブカラシ　˥ミサン [˥ʔubibukaraʃi ˥misaŋ](それくらいでよい)。ウ˩ビ˥ナー [ʔu˩bi˥naː](そんなに高く < 程度 >)、˩ダイヤー˥　ウ˩ビ˥ナー　˩シースー [˩daijaː˥ ʔu˩bi˥naː ˩ʃiːsuː](値段はそんなにも高値をするのか)。ウ˩ビ˥ヌ [ʔu˩bi˥nu](そんなに多くの。連

体詞)、ウ˩ビ˥ヌ　シ˩グトゥバ　タンガ˥シ　ナ˩ルン [ʔu˩biˬnu ʃi˩gutuba taŋgaˬʃi na˩ruŋ](それだけ＜それほど＞の大仕事を一人で出来るのか)。それだけ＜程度、範囲の限定＞。ウビ˩バーキ˥ル　ナル　˩マービン˥マー　ナ˩ラ˥ヌ [ʔubi˩baːkiˬru ˬnaru ˩maːbimˬmaː na˩raˬnu](それだけしか出来ない。それ以上はできない)。˥ウビンツァン　ナ˩ラヌ [ˬʔubintsan na˩ranu](それぐらいすら＜さえ＞も出来ないのか)。ウ˩ビ˥ナー　˥アジ　シゥ˩カシタンティン˥　シゥ˩カヌ [ʔu˩biˬnaː ʔa˩ʤiˬ sɨ̥ˬkaʃitantinˬ sɨ̥ˬkanu](あれだけ言って教えても＜聞かせても＞聞かないのか)。ウ˩ビ˥ヌ　˩ニー˥ヤ　˩ヌー˥シ　カ˩タム˥ター [ʔu˩biˬnu ˩niːˬja ˩nuːˬʃi kạ˩tamuˬtaː](あれだけの荷物はどうやって担いだのか)。˥ウビシ　ユ˩ラ˥シバ [ˬʔubiʃi ju˩raˬʃiba](それだけで許せよ)。˥ウビブカラ [ˬʔubibukara](それぐらい)。 **(2)**【副】～するほどに。その程度に応じて～。～につれて。パ˩タラク˥カー　パ˩タラク˥　ウビ　˩モー˥ケー　ン˩ジ˥ス [pạ˩tarakuˬkaː pạ˩tarakuˬ ʔubi ˩moːˬkeː ʔn˩ʤiˬsu](働けば働くほどに儲けが出る)。

˥ウビ [ˬʔubi] 【名】たが (箍)。竹を細く割ってたがね＜綰ね＞た、桶や樽を堅く締めるのに用いる輪。˩タン˥グ　˥ティダナ　˥プシ　サ˩ラシター˥　ウベー　˩ヨー˥リティ　ミ˩ジ˥ムリ　˩シースバン [ˬtaŋˬgu ˬtidana ˬpuʃi sa˩raʃitaːˬ ʔubeː ˩joːˬriti mi˩ʤiˬmuri ˩ʃiːsubaŋ](たご＜担桶＞を日曝しにしておいたら箍が緩んで水漏れがするわい)。

ウ˩ビ˥イン [ʔu˩biˬʔiŋ] 【名】ぼいん (拇印)。「指印」の義。˩インヌ　ナーン˥カー　ク˩マン˥トンナー　ウ˩ビ˥イン　シ˩キ　ッふィーリ˥バ [ˬʔinnu naːŋˬkaː ku˩manˬtonnaː ʔu˩biˬʔiŋ ʃɨ̥ˬki ffiriˬba](印鑑が無ければ、ここの所に拇印を押して＜ついて＞くれよ)。

ウビ˩カーニ [ʔubi˩kaːni] 【副】ただそれだけ。たったそれだけ。ただこれだけ。分量の限定。˩ジン˥マー　ウビ˩カーニル˥　アル [˩ʤimˬmaː ʔubi˩kaːniruˬ ʔaru](お金はたったそれだけしかない＜たったそれだけがある＞)。ウビ˩カーニル˥　トゥ˩ル˥タ [ʔubi ˩kaːniruˬ tu˩ruˬta](ただそれだけしか取らなかった＜たったそれだけぞ取った＞)。

ウ˩ビ˥カキ [ʔu˩biˬkaki] 【名】指掛け相撲。指相撲。ワ˩ター˥　フ˩ターロー　タール　スー˥ワユー　ウ˩ビ˥カキ　˩シート ミー [wa˩taːˬ ɸụ˩taːroː taːru suːˬwajuː ʔu˩biˬkaki ˩ʃiːトmiː](君達二人は誰が強いか、指相撲をしてごらんよ)。

ウ˩ビ˥サキ [ʔu˩biˬsaki] 【名】指先。指の先端。˩アイズン˥　ウ˩ビ˥サキ　˩ピッカ˥リティ (ッ˩サ˥リティ)　˥ヤミ　ナ˩ラ˥ヌ [˩ʔaiʔiʤuŋˬ ʔu˩biˬsaki ˩pikkaˬriti(s˩saˬriti) ˬjami na˩raˬnu](アイゴの背びれの毒針に指先を刺されて痛くて堪らない)。

˥ウビダキ [ˬʔubidaki] 【副】それだけ。あれほど。それほどまで。その程度。˥ウビダキ　タ˩ナム˥タンティン　シ˩キッふィーラヌー [ˬʔubidaki ta˩namuˬ tantiŋ ʃɨ̥ˬkiffiːranuː](あれほど頼んでも聞き入れてくれないか)。˥ウビダキヌ　˩ニン˥ギンティ　˥ウムーカ　ウ˩ムイキシヤッ˥サン [ˬʔubidakinu ˩niŋˬ ginti ˬʔumuːkaː ʔu˩muikiʃijasˬsaŋ](その程度＜それだけ＞の人間だと思えば諦め＜思い切り＞やすい)。˥ウビダキ　˥アルカー　フ˩ヨー　コーサリン [ˬʔubidaki ˬʔarukaː ɸu˩joː koːsariŋ](それだけあれば冬は越される)。˥ウビダキシン　˥ミサン [ˬʔubidakiʃim ˬmisaŋ](それぐらいでもよい)。

ウ˩ビ˥ッシ [ʔu˩biˬʃʃi] 【名】後ろ指。後ろ指を指すこと。ヤ˩ナクトゥ　スー˥カー　プ˩スン˥　ウ˩ビ˥ッシ　シ˩ラリン˥ダー [ja˩nakutu suːˬkaː pụ˩suŋˬ ʔu˩biˬʃʃi ʃi˩rarinˬdaː](悪事を働く＜する＞と他人に後ろ指を指されるよ)。

ウ˩ビッ˥チン [ʔu˩bitˬʧiŋ] 【副】それぽっち。たったそれだけ。その程度。数量や程度が極めて少量である。ウ˩ビッ˥チン　カー˩ニ˥ティン　˩イー˥ヌ　ッ˩ふァーサリラー＜ワー＞[ʔu˩bitˬʧiŋ kaː˩niˬtiŋ ˩ʔiːˬnu fˬfaːsariraː＜waː＞](たったこれぽっちだけとても飯が食べさせられようか)。ウ˩ビッ˥チンブカラバキ　ッ˩ふィーララヌー [ʔu˩bitˬʧimbukara ˬbaki fˬfiːraranuː](それぽっちばかり分けて貰えないだろうか)。˩マイヤー˥　ウ˩ビッチン˥ドゥ　ヌ˩カ˥レー [˩maijaːˬ ʔu˩bittʃinˬdu nu˩kaˬreː](お米はこれ＜それ＞っぽちしか残っていない＜これっぽちが残っている＞)。ウ˩ビッチン˥ヌ　˥ジンシェー　ノー˩ン　カーラヌ [ʔu˩bittʃinˬnu ˬʤiŋʃeː noː˩ŋ kaːranu](それ＜これ＞っぽちのお金では何も買えない)。ウ˩ビッチン˥ヌ　˥クトゥシ　˩アウ˥ナ [ʔu˩bittʃinˬnu ˬkụtuʃi ˩ʔauˬna](それ＜これ＞ぽっちの事で喧嘩するな)。ウ˩ビッチン˥ヌ　˥クトゥシ　˩アウ˥タツォー [ʔu˩bittʃinˬnu ˬkụtuʃi ˩ʔauˬtatsoː](それぽっちのことで喧嘩したそうだ)。ウ˩ビッチン˥マーンツァン˥バキ　ッ˩ふィーラヌ [ʔu˩bittʃimˬmaːntsam ˬbaki fˬfiːranu](それぽっちすらも分けてくれない)。ウ˩ビッチン˥ナー　˥バキ　ッ˩ふォーッ˥タ [ʔu˩bittʃinˬnaː ˬbaki fˬfoːtˬta](これぽっちずつ＜ほんの少しずつ＞分けてくださった)。ウ˩ビッチン˥ヌ　˥ジンシ

˞ヌー˥ヌ　˞カーリワ [ʔu˞bittʃin˥nu ˥ʤiŋʃi ˞nu:˥nu ˞ka:riwa](それぽっちのお金で何が買えるか)。ウ˞ビッチン˥ドゥ　˞イー˥ヤ　ッ˞ふー [ʔu˞bittʃin˥du ˞ʔi:˥ja ˞fu:](それぽっちしかご飯は食べないのか＜それぽっちぞ飯は食うのか＞)。シン˞トゥ˥　ウ˞ビッ˥チン　カー˞ニドゥ (ル)˥　ヌ˞カ˥レー [ʃin˞tu˥ ʔu˞bi˥ttʃiŋ ka:˞nidu(ru)˥ nu˞ka˥re:](たったそれだけしか残ってない＜たったそれだけぞ残っている＞)。

ウ˞ビッ˥チンツァン [ʔu˞bit˥ʧintsaŋ]【連】これっぽちすらも。これっぽちさえも。副助詞˥ツァン [tsaŋ](すら。さえ) は下に打ち消しの助動詞を導き、それと呼応して打消し強調の意味を表す。˞ジン˥マー　ク˞ビッ˥チンツァン　˞ナーヌー [˞ʤim˥ma: ku˞bit˥ʧintsan ˞na:nu:](お金はこれぽっちすらも無いのか)。

ウ˞ビ˥ナー [ʔu˞bi˥na:]【副】1これほど沢山。こんなに多く。分量の多いことや値段の高いことを表す。ウ˞ビ˥ナー　ム˞ヌ˥バ　イ˞タン˥ダシェー　˥ムティ　パ˞ララ˥ヌ [ʔu˞bi˥na: mu˞nu˥ba ʔi˞tan˥daʃe: ˥muti pa˞rara˥nu](こんなに多く、ただ＜徒・無料＞では持って行かれない)。ヤ˞ラビ˥ヌ　ウ˞ビ˥ナー　サ˞キ˥　ヌムカー　˞デー˥ジ˞ゲ˥ラ [ja˞rabi˥nu ʔu˞bi˥na: sḁ˞ki˥ numuka: ˞de:˥ʤi˞ge˥ra](子供がそんなにたくさん酒を飲むと大変だよ)。ウ˞ビ˥ナー　ッ˞ふィーラン˥タンティン　˥ミサン [ʔu˞bi˥na: ˞fi:ran˥tantim ˥misaŋ](そんなにたくさん呉れなくてもよい)。2各自がそれほどずつ多く。ウ˞ビ˥ナー　˥トゥルカー　タ˞ラーサラヌ [ʔu˞bi˥na: ˥turuka: ta˞ra:saranu](各自がそれほど多く取ると足りなく＜皆に配分出来なく＞なる)。それぐらいずつ。ウ˞ビ˥ナーン　˞デー˥カー　バ˞キラ˥リン [ʔu˞bi˥na:n ˞de:˥ka: ba˞kira˥riŋ](それくらいずつ＜その程度の分量ずつ＞なら分けられる)。シン˞トゥ˥　ウビティン　バ˞キラリン [ʃin˞tu˥ ʔubitim ba˞kirariŋ](たったそれだけ＜たったこれぽっち＞とても分けられるものか＜否、分けられまい＞)。3これほどに多く。程度が大きいことを表す。˞ヌー˥シ　ウ˞ビ˥ナー　イ˞ズ　ホーサリ˥ター [˞nu:˥ʃi ʔu˞bi˥na: ʔi˞ʤu ho:sari˥ta:](どうやってそんなに沢山魚を釣ることができたのかねえ)。

˥ウビブカラ [˥ʔubibukara]【副】それぐらい。その程度。量や数の程度を表す。˥ウビブカラ　タ˞ラーンバ˥　カ˞ラシッふォー˥リ [˥ʔubibukara ta˞ra:mba˥ ka˞raʃiffo:˥ri](それぐらい足りないので貸してください)。痛みの感覚や苦しみの感情の程度を低く表す場合は、ウ˞ヌアタ˥ル [ʔu˞nuʔata˥ru](それぐらい。その程度) を用いる。˥ウビブカラル　ソーン˞ドゥ˥　マ˞シ [˥ʔubibukararu so:n˞du˥ ma˞ʃi](それぐらいが丁度よい)。˥ウビブカラヌ　˞コー˥マ [˥ʔubibukaranu ˞ko:˥ma](これくらいの大きさの卵)。˥ウビブカラナー　ムー˞ロー˥ニ　˥バキ　ッ˞ふァーシ˥バ [˥ʔubibukarana: mu:˞ro:˥ni ˥baki ˞fa:ʃi˥ba](これぐらいずつ皆に分けて食べさせなさいよ)。

˥ウビ　˞ヨー˥ルン [˥ʔubi ˞jo:˥ruŋ]【連】たが (箍) が緩む。ミ˞ジタングヌ˥　ウビ　˞ヨー˥リティ　˞ザーラザーラ˥シ　ミ˞ジェー˥　ム˞リ˥ス [mi˞ʤitaŋgunu˥ ʔu˞bi˥nu ˞jo:˥riti ˞ʤa:raʤa:ra˥ʃi mi˞ʤe:˥ mu˞ri˥su](水担桶の箍が緩んでザーザーと水は漏れるよ)。

ウ˞ビン˥ガニ [ʔu˞biŋ˥gani]【名】指輪。「指がね」の義。若年層では、ウ˞ブン˥ガニ [ʔu˞buŋ˥gani](指輪) ということもある。ク˞ヌ˥　ウ˞ビン˥ガネー　˥アボー　ウ˞ビン˥ガニ　ヤ˞リバ　ワー˥　ティーナ　ヌ˞キ˥　ミリ˞ミー [ku˞nu˥ ʔu˞biŋ˥gane: ˥ʔabo: ʔu˞biŋ˥gani ja˞riba wa:˥ ti:na nu˞ki˥ miri˞mi:](この指輪はお母さんの指輪だから君の手に嵌めて＜貫いて＞ごらん)。

ウ˞ブ- [ʔu˞bu-]【接頭】おお (大)。「おほ＜大＞」の転訛したもの。˞ウー [˞ʔu:](大) ともいう。ウ˞ブ˥ヨイ [ʔu˞bu˥joi](大きな祝儀)。ウ˞ブシグ˥トゥ [ʔu˞buʃigu˥tu](大仕事)。ウ˞ブ˥プス [ʔu˞bu˥pu̥su](大人)。ウ˞ブ˥マシ [ʔu˞bu˥maʃi](大きな田圃)。ウ˞ブ˥ヤー [ʔu˞bu˥ja:](母屋)。

˥ウブーン [˥ʔubu:ŋ]【他動】覚える。「おぼゆ＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。˞ワー˥　ウブーカー　˞バン˥ヌン　˥ウブーン [˞wa:˥ ʔubu:ka: ˞ban˥nuŋ ˥ʔubu:ŋ](君が覚えたら私も覚える)。˥バー　ウ˞ボー˥ヌ [˥ba: ʔu˞bo:˥nu](私は覚えない)。ウ˞ビ˥ナー　ウ˞ボーラ˥ヌ [ʔu˞bi˥na: ʔu˞bo:ra˥nu](そんなに多くは覚えられない)。ウ˞ブイ˥プサカー　˥ドゥーシ　˥ウブイバ [ʔu˞bui˥pusaka: ˥du:ʃi ˥ʔubuiba](覚えたければ自分で覚えなさい)。˞マー˥ビン　ウ˞ブイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ʔu˞bui˥ja: ˥misamunu](もっと覚えればよいのに)。˥クベー　ヤー˞ディン˥　ウブークトゥ [˥kube: ja:˞diŋ˥ ʔubu:kutu](これだけは必ず覚えること)。

ウ˞ブ˥アッパ [ʔu˞bu˥ʔappa]【名】大祖母。最年長の祖母。˥アッパ [˥ʔappa](祖母) は両親の母の名称、呼称である。˥ウボーッパ [˥ʔubo:ppa](大祖母) ともいう。˥ナカーッパ [˥naka:ppa](中祖母)。アッ˞パー˥マ [ʔap˞pa:˥ma](小祖母。一番年下の祖母)。ク˞レー˥　ウ˞ブ˥アッパー　キ˞ソー˥レー　˥キン [ku˞re:˥ ʔu

˞bu˜ʔappa: kʲ̥˞so:˜re: ˜kiŋ](これは大祖母が着られた着物だ)。

ウ˞ブアマ˜シェー [ʔu˞buʔama˜ʃe:] 【名】屋号。小浜正夫氏宅。小浜家の本家。古い名家の一つ。ア˞マシェー [ʔa˞maʃe:] の語源は明確ではないが、「あもしられ」系統の語を受け継ぐものと想定すると、˞百姓の主婦に対する敬称」の義を内包する家柄ではないかと考えられる。おお・あむしられ → [ʔubuʔamuʃirari] → [ʔubu・ʔamuʃʃi:] → [ʔu˞buʔama˜ʃe:] のように変化したものか。ウ˞ブアマ˜シェーナー ミ˞ザ˜シザーティ ˞スー˜ プ˞スヌ オーッ˜タンツォー [ʔu˞buʔama˜ʃe:na: mi˞ʤa˜ʃiʤa:ti ˞su:˜ pu̥˞sunu ʔo:t˜tantso:](本小濱家 < 大小濱家 > には˞目差兄さん」という人がおられたそうだ)。

ウ˞ブ˜アミ [ʔu˞bu˜ʔami] 【名】大雨。˞ウーアミ [˞ʔu:ami](大雨) ともいう。ウ˞ブアミ˜ヌ ˜フイ ˞ター˜ヤ ˞コッふァシ˜ パリ˞ナー˜ヌ [ʔu˞buʔami˜nu ˜ɸui ˞ta:˜ja ˞koffaʃi˜ pari˞na:˜nu](大雨が降って田圃は押し流してしまった)。

ウ˞ブ˜アヤ [ʔu˞bu˜ʔaja] 【名】大きな模様。「大綾」の義。大柄。色や柄の派手な模様。ウ˞ブアヤ˜ヌ ウ˞チ˜ル プ˞ストゥ˜ ウ˞チラン˜ プ˞スヌ ブン˜ダー [ʔu˞buʔaja˜nu ʔu˞tʃi˜ru pu̥˞sutu˜ ʔu˞tʃiram˜ pu̥˞sunu bun˜da:](大柄の似合う < 移る > 人と、似合わない < 移らない > 人がいるよ)。

ウ˞ブ˜アヤキン [ʔu˞bu˜ʔajakiŋ] 【名】大柄の着物。˜カイブ ウ˞ブ˜アヤキンマー バ˞カー˜ムヌル キ˞ス ウイプスン˜マー キ˞ササラヌ [˜kaibu ʔub˞u˜ʔaja:kimma: ba˞ka:˜munuru ki˞su ʔuipusum˜ma: ki˞sasaranu](こんな大柄模様の着物は若者が着るのであって、年寄りには着せられない)。

ウ˞ブ˜アンマー [ʔu˞bu˜ʔamma] 【名】最年長の姉、長姉の名称。「大姉」の義。˜ウボマー [˜ʔuboma:](長姉) の名称、呼称。˞ホン˜マ [˞hom˜ma](長姉の名称、呼称) ともいう。˞ホン˜マ [˞hom˜ma] は石垣方言からの借用語であろう。ワ˞ター˜ ブ˞ネーヤ˜ バーラ ア˞ズ˜カー ウ˞ブ˜アンマー ˜ナルシジ [wa˞ta:˜ bu˞ne:ja˜ ba:ra ʔa˞ʤu˜ka: ʔu˞bu˜ʔamma: ˜naruʃiʤi](君達の母親は私からいうとウ˞ブ˜アンマー < ウボマー > になるわけだ)。

˜ウブイ [˜ʔubui] 【名】覚え。記憶。動詞˜ウブーン [˜ʔubu:ŋ](覚える) の連用形からの転成名詞。ス˞クタ˜ ウ˞ブイ˜ヤ ˞ピッ˜チン ˞ナー˜ヌ [su̥˞kuta˜ ʔu˞bui˜ja ˞pit˜tʃin ˞na:˜nu](聞いた覚えは少しも < 全く > ない)。

ウ˞ブ˜イキ [ʔu˞bu˜iki] 【名】1大きな呼吸。深呼吸。「大息」の義。ウ˞ブ˜イキ ˞シートミー [ʔu˞bu˜ʔiki ˞ʃi:ɻmi:](大きな呼吸 < 深呼吸 > をしてごらん)。2ため息。˞ワー˜ ヌースンティ ˜アイニ ウ˞ブ˜イキ カー˞ニ シーベー˜ワ [˞wa:˜ nu:sunti ˜ʔaini ʔu˞bu˜iki ka:˞ni ʃi:be:˜wa](君は何故あんなにため息ばかりついているのか)。バ˞カー˜ムンヌ ノー˞ン サムティ アーアー˜シ ウ˞ブ˜イキ シキ˞ベーン˜ナ [ba˞ka:˜munnu no:˞n samuti ʔa:ʔa:˜ʃi ʔu˞bu˜ʔiki ʃi̥ki˞be:n˜na](若い者が何もしないで悲観して、アーアーとため息をついているでない < ため息ついているな >)。ウ˞カ˜ヌ ˞ソーバ シール˜ ウ˞ブ˜イキ ˜シキ ˞オー˜ル [ʔu˞ka˜nu ˞so:ba ʃi:ru˜ ʔu˞bu˜ʔiki ˜ʃi̥ki ˞ʔo:˜ru](借金の心配をして、ため息 < 大息 > をついておられる)。

ウ˞ブ˜イキ ˞マーイキ [ʔu˞bu˜ʔiki ˞ma:ʔiki]【連】ちょうたんそく (長嘆息)。心配して長いため息をつくこと。ブ˞ネーヤ˜ ウ˞ブ˜イキ ˞マーイキ˜ シ˞キ˜ル ッ˞ふァヌ˜ タ˞ビヌ ソーバ˜ ス˞クンティ˜ マティ ˞オー˜ル [bu˞ne:ja˜ ʔu˞bu˜ʔiki ˞ma:ʔiki˜ ʃi̥˞ki˜ru f˞fanu˜ ta˞binu so:ba˜ su̥˞kunti˜ mati ˞ʔo:˜ru](母親は長嘆息をつきながら、子供の消息 < 旅の事情 > を聞こうと待っておられる)。

ウ˞ブイグリ˜サン [ʔu˞buiguri˜saŋ] 【形】覚えにくい。˜ウブーン [˜ʔubu:ŋ](覚える) の連用形に形容詞型助動詞グ˞リ˜サン [gu˞ri˜saŋ](〜にくい。〜づらい < 辛い >) が付いて合成された派生形容詞。カ˞リヌ ナーヤ˜ ウ˞ブイグリ˜サンドゥ ˞ワー ナーヤ˜ ウ˞ブイグリ˜サー ˞ナー˜ヌ [ka˞rinu na:ja˜ ʔu˞buiguri˜sandu ˞wa: na:ja˜ ʔu˞buiguri˜sa: ˞na:˜nu](彼の名は覚えにくいが、君の名は覚えにくくはない)。トゥ˞シ˜ トゥルカー ˜ムヌ ウ˞ブイグリ˜サ ˜ナルン [tu̥˞ʃi˜ turuka: ˜munu ʔu˞buiguri˜sa ˜naruŋ](年を取ると、ものが覚えにくくなる)。ウ˞ブイグリ˜サ ˜クトー ˞ナー˜ヌ [ʔu˞buiguri˜sa ˜ku̥to: ˞na:˜nu](覚えにくいことはない)。

ウ˞ブ イ サ˜ナ キ [ʔu˞buʔisa˜naki] 【固】(地) 大石垣。石垣島。歌謡語。「˞ウフイシャナギゥ [˞ʔuɸuʔiʃanagï](大石垣。石垣集落の美称)」(古謡『まやーゆんた』) の転訛したもの。

ウ˞ブイマー˜キ [ʔu˞buima:˜ki]【連】覚えかねて。なかなか記憶することが出来ないで。ア˞マン˜グイウタ ウ˞ブイマー˜キ ˞オー˜タ [ʔa˞maŋ˜gui˜ʔuta ʔu˞buima:˜ki ˞ʔo:t˜ta](雨乞い歌を覚えかねて < 覚えら

れないで＞おられた)。

ウ゚ブイユー˥スン [ʔuˀbuijuːˀsuŋ] 【他動】覚えることが出来る。「覚え得る」の義。˥ウブーン [ˀʔubuːŋ](覚える) の連用形に゚ユー˥スン [ˀjuːˀsuŋ](～得る) が付いて合成された複合動詞 (派生動詞)。˥キュウズーナ　ウ゚ブイユー˥スンカヤー [ˀkjuːʤuːna ʔuˀbuijuːˀsuŋkajaː](今日中に覚えることができるかな)。アー゚イ˥　ウ゚ブイユーサ˥ヌ [ʔaː゚iˀ ʔuˀbuijuːsaˀnu](否、覚えることが出来ない)。

ウ゚ブイ˥ルン [ʔuˀbuiˀruŋ] 【他動】覚える。記憶する。ク゚ヌ˥　クトー　˥ユー　˥ウブイ　シ゚キ˥リ゚ダー [kuˀnuˀ kʉto: juː ˀʔubui ʃiˀkiˀri゚daː](このことは、よく覚えておけよ)。アー゚イ˥　バー　ウ゚ブイラ˥ヌ [ʔaː゚iˀ baː ʔuˀbuiraˀnu](否だ、私は覚えない)。ヤ゚ラ˥ベー　プミ˥ルカー　˥ユー　ウ゚ブイ˥ルン [jaˀra ˀbeː ɸuˀmiˀruka: ˀju: ʔuˀbuiˀruŋ](子供は誉めるとよく覚えるよ)。˥クベー　ヤー゚ディン˥　ウ゚ブイ˥ル　˥クトゥ [ˀkube: jaː゚diŋˀ ʔuˀbuiˀru ˀkʉtu](これだけは必ず覚えること)、ウ゚ブイ˥レー　˥ミサムヌ [ʔuˀbui ˀreː ˀmisamunu](覚えればよいのに)。˥キューズーナ　ヤー゚ディン˥　クベー　ウ゚ブイ˥リ [ˀkjuːʤuːna jaː゚diŋˀ kube: ʔuˀbuiˀri](今日中に必ずこれだけは覚えなさい)。

ウ゚ブ˥ウシ [ʔuˀbuˀʔuʃi] 【名】大臼。大きな臼。ウ゚シェー˥マ [ʔuˀʃeːˀma](小さな臼。蒲鉾を作る際に用いる小臼) の対義語。米を搗いて精米するのに用いる木の臼。˥ウシ [ˀʔuʃi](臼) の項参照。゚マイヤー˥　ウ゚ブ˥ウシナ　イ゚リティ˥　イ゚ナ˥シキシ　˥ッサイバ [ˀmaijaːˀ ʔuˀbuˀʔuʃina ʔiˀriti˥ ʔiˀnaˀʃʉkiʃi ˀssaiba](米は大臼＜木の臼＞に入れて杵で精米＜精げ＞しなさいよ＜杵で搗きなさいよ＞)。

ウ゚ブ˥ウスマイ [ʔuˀbuˀʔusumai] 【名】曾祖父。ひいじじ。ひいじいさん。「大御主前」の義。石垣方言からの借用語。ウ゚ブアブ˥ジ [ʔuˀbuʔabuˀʤi](曾祖父) のこと。゚ウン˥ネナー　ウ゚ブ˥ウスマイヌ　゚オー˥ルン [ˀʔunˀnena: ʔuˀbuˀʔusumainu ˀʔoːˀruŋ](その家には曾祖父＜ひいじいさん＞がいらっしゃる)。

ウ゚ブ˥ウタ [ʔuˀbuˀʔuta] 【名】沖縄の古典音楽。荘重で本格的な歌謡。節歌。古典民謡の楽譜工工四に採譜されている本格的な歌。軽快な民謡に対して荘重なメロディーの古典音楽に対していう。「大歌」の義。ウ゚ブ˥ウタ [ʔuˀbuˀʔuta] には、ウ゚ブブドゥ˥ル [ʔuˀbubuduˀru](古典舞踊) を伴うのが普通である。ウ゚ブ˥ウタナー　ウ゚ブブドゥ˥ロー　シ゚キ˥ムヌティ　˥ムカーヤ [ʔuˀbuˀʔutana: ʔuˀbubuduˀro: ʃiˀkiˀmunuti ˀmukaːja](古典音楽＜節歌＞には古典舞踊が付随して＜付いて＞いるものだよ)。

ウ゚ブウドゥ˥キ [ʔuˀbuʔuduˀki] 【名】大欠損。大損。大損害。ン゚メーマ˥　ユ゚ク˥　スクンティ　゚アー˥キ　ウ゚ブウドゥキ　シーナー˥ヌ [ʔmˀmeːmaˀ juˀkuˀ sʉkunti ˀʔaːˀki ʔuˀbuʔuduki ʃiːnaːˀnu](少し欲をだそうとして＜欲をつこうとして＞大欠損をしてしまった)。

ウ゚ブウヤーリ [ʔuˀbuʔujaːri] 【名】大声で叫ぶこと。怒鳴ること。˥アイニ　ウ゚ブウヤーリ　サン˥タンティン　シュ゚カリブー˥　ウ゚ブウヤーリ　サンブリ˥バ [ˀʔaini ʔuˀbuʔujaːri sanˀtantin sʉˀkaribuːˀ ʔuˀbuʔujaːri samburiˀba](あんなに怒鳴らなくても聞こえている。怒鳴るな＜怒鳴ることはしないでおれ＞よ)。

ウ゚ブウヤ˥ビ [ʔuˀbuʔujaˀbi] 【名】親指。ウ゚ブウヤ˥ビシ　゚ウシキ˥バ [ʔuˀbuʔujaˀbiʃi ˀʔuʃikiˀba](親指で押さえなさいよ)。ウ゚ブウヤ˥ビシ　ク゚シナカ　ウシキ˥バ [ʔuˀbuʔujaˀbiʃi kʉˀʃinaka ʔuʃʉkiˀba](親指で背中を押しなさい＜親指で指圧しなさい＞)。

ウ゚ブ˥カカン [ʔuˀbuˀkakaŋ] 【名】下裳(シタモ)。大きなひだ (襞) をとった女性の下着用の腰巻。古典舞踊のパ゚トゥ˥マナカムリ [paˀtuˀmanakamuri](鳩間中岡) や゚クンノー˥ラ [ˀkunnoːˀra](古見の浦)、ユ゚チダキ [juˀʧidaki](四つ竹) などの古典舞踊の衣装として着用される。

ウ゚ブカジ [ʔuˀbukaʤi] 【名】台風。暴風。「大風」の義。゚ウーカジ [ˀʔuːkaʤi](台風) ともいう。ウ゚ブカジヌ˥　フキティル　゚ヤー˥ヤ　プキトゥバサ˥レータティ　˥ムカーヤ [ʔuˀbukaʤinuˀ ɸʉkitiruˀ jaːˀja ɸʉˀkitubasaˀreːtati ˀmukaːja](台風＜大風＞が吹いて家は吹き飛ばされたのだよ)。

ウ゚ブガマ˥ジ [ʔuˀbugamaˀʤi] 【名】礼装用の婦人の大髷(マゲ)。パ゚トゥ˥マナカムリン　˥ドーレーヌ　ウ゚ブブドゥ˥ル　゚ソー˥ル　˥ピンマー　ウ゚ブガマ˥ジ　゚ユイティル　ソーッ˥タ [paʉˀtumaˀnakamurin ˀdoːreːnu ʔuˀbubuduˀru ˀsoːˀru ˀpimma: ʔuˀbugamaˀʤi ˀjuitiru soːtˀta](鳩間中岡などのような儀式用の舞踊を踊る時には入れ髪をし、大きな髷(マゲ)を結ってなされた＜踊られた＞)。

ウ゚ブカマ˥チ [ʔuˀbukamaˀʧi] 【名】大きな竈。ウ゚ブカマ˥チナール　゚シンマイ˥ナビ　ビ゚シティ˥　ウン　゚ネーソーッ˥タ [ʔuˀbukamaˀʧinaːru ˀʃimmaiˀnabi biˀʃitiˀ ʔun ˀneːsoːtˀta](大きな竈に大鍋＜四枚鍋＞を据えて芋を煮られた)。

ウ˞ブ˜ギ **[ʔuˈbuˀgi]** 【名】おかげ。˞ブン˜ギ [ˈbuŋˀgi](恩義) に接頭語˞ウ [ʔu](御) が上接して転訛したもの。ミ˞ブ˜ギ [miˈbuˀgi](お陰。御恩義) ともいう。「キミヌ　ミブキン　タレアマリ/カミン　フトゥキン　ウハチアギ/スヌヌ　アマリヤ　イタダケリ」(君主 < 国王 > の御恩義が民に垂れ溢れ < 余り >、神にも仏にも収穫のお初を供え、その残りは頂いた)」(『鳩間口説』第八連) とうたわれている。

ウ˞ブ˜キー **[ʔuˈbuˀkiː]** 【名】大木。ウ˞ブキー˜ムトゥ [ʔuˈbukiːˀmutu] ともいう。ム˞トゥ˜ヌ　˞ショーガッコー˜ヌ　˞ウンドー˜バナー　˜ウシキーヌ　ウ˞ブキー˜ヌ　˞アッタ˜ヌ　˞タイ˜フーナー　ブ˞ラ˜リ　˞ナーン˜シェン [muˈtuˀnu ˈʃoːgakkoːˀnu ˈʔundoː˜bana: ˀʔuʃikiːnu ʔuˈbukiːˀnu ˈʔattaˀnu ˈtaiˀɸuːna: bu ˈraˀri ˈnaːŋˀʃeŋ](元の小学校の運動場にアコウ < 赤秀 > の大木があったが、台風で折られてしまった)。

ウ˞ブキザ˜ル **[ʔuˈbukiʤaˀru]** 【名】大行事。˜ソンガチ [ˀsoŋgatʃi](正月)、˞ソー˜ラン [ˈsoːˀraŋ](お盆)、ジ˞ル˜クンチ [ʤiˈruˀkuntʃi](十六日祭)、˞プー˜ル [ˈpuː˜ru](豊年祭)、キ˞チゴン [kiˈtʃigoŋ](結願祭) などの祭祀行事をいう。その他は普通のキ˞ザル [kiˈʤaru](年中行事) である。˜ソンガチ　˞ソーラン˜マー　ウ˞ブキザル˜ヌ　ウ˞チ˜ナ　˞ペー˜ル˞ナー [ˀsoŋgatʃi ˈsoːramˀma: ʔuˈbukiʤaruˀnu ʔuˈtʃiˀna ˈpeːˀruˈnaː](正月、お盆は大行事の中に入るねえ)。

ウ˞ブ˜キナイ **[ʔuˈbuˀkinai]** 【名】大所帯。˞ウン˜ネーヤ　ウ˞ブ˜キナイ　ヤ˞ルンダ　スー˜タイ　˞サン˜カー　キ˞ナイヤー˜　ム˞タラン˜　パジ˞ダー [ˈʔun ˀneːja ʔuˈbuˀkinai jaˈrunda suːˀtai ˈsaŋˀka: kiˈnaijaː˜muˈtaram˜ paʤiˈdaː](その家は大所帯だから倹約しないと家計は立ち行かない < 成り立たない > はずだよ)。

ウ˞ブ˜キム **[ʔuˈbuˀkimu]** 【名】大胆。「大胆 (おおきも)」の義。ウ˞バイ˜カバイ　˞サンドー˜シ　˞チャー˜　ウ˞ブキム˜バ　˜ムテーティ　プ˞スヌ˜　マイン　ン˞ジ˜リ [ʔuˈbaiˀkabai ˈsandoːˀʃi ˈtʃaːˀ ʔuˈbukimu ˀba ˀmuteːti pu̥ˈsunuˀ main ʔnˈʤiˀri](びくびくしないで、常に大胆な気持ちを持ちながら人前にも出なさい)。

ウ˞ブ˜クイ **[ʔuˈbuˀkui]** 【名】大声。ウ˞ブ˜クイシ　プ˞ス˜　ヤ˞ラブナ [ʔuˈbuˀkuiʃi pu̥ˈsuˀ jaˈrabuna](大声で人を呼ぶな)。ウ˞ブ˜クイシ　˜ウタ　イ˞ズン [ʔuˈbuˀkuiʃi ˀʔuta ʔiˈʤuŋ](大声で歌を歌う)。マ˞ルケーティ˜ナー　ウ˞ブ˜クイ　ン˞ザ˜スン [maˈrukeːtiˀnaː ʔuˈbuˀkui ʔnˈʤaˀsuŋ](たまあに大声を出す)。˜アブジェー　ユクイ˞ヨーリ˜バ　ウ˞ブ˜クイ　ン˞ザサン˜ドーシ　ヤー˞ラマ˜シ　˜ムニ　イ˞ジ˜バ [ˀʔabuʤeː jukuiˈjoːriˀba ʔuˈbuˀkui ʔnˈʤasanˀdoːʃi jaːˈramaˀʃi ˀmuni ʔiˈʤiˀba](おじいさんがお休みになっておられるから、大声を出さないで柔らかく < おとなしく、静かに > 話しなさい < ものを言いなさい > よ)。

ウ˞ブ˜グシ **[ʔuˈbuˀguʃi]** 【名】祈願用、祝儀用の神酒。「大御酒」の義。カ˞ザリクビン [kaˈʤarikubiŋ](飾り瓶子、とくり) に入れた神酒。瓶の蓋は紅白の紙を三角に折り、紅に白色が重ねて出るように作られている。˞ザー˜トゥクナー　ウ˞ブ˜グシ　カ˞ザリ˜シケーバ　˞ヤーニン˜ズ　˞ニントゥー　シティ　パイ˜サ　˜グシ　カ˞ミ˜リ [ˈʤaːˀtukuna: ʔuˈbuˀguʃi kaˈʤariˀʃi̥keːba ˈjaːninˀʤu ˈnintuː ʃiti paiˀsa ˀguʃi ka ˈmiˀri](床の間に祈願用の神酒を飾っておいてあるから、家族一同年頭の祝詞を述べて早く神酒を頂戴しなさい < おし頂きなさい >)。

ウ˞ブグゥン˜ス **[ʔuˈbugwanˀsu]** 【名】先祖伝来の大位牌。「大元祖」の義。ウ˞ブイー˜パイ [ʔuˈbuʔiːˀpai](大位牌) ともいう。巾約 2 センチ、長さ約 10 センチの木牌を、二段の木製の枠に嵌め込んだ位牌のこと。ウ˞ブグゥン˜ス　カ˞タミ˜プス [ʔuˈbugwanˀsu ka̯ˈtamiˀpu̥su](大位牌を継ぐ < 担ぐ > 人)。˞ウン˜ネナー　ウ˞ブグゥンス˜ヌ　˞オー˜ルン [ˈʔunˀnenaː ʔuˈbugwansuˀnu ˈʔoːˀruŋ](あの家には大元祖 < 位牌 > がいらっしゃる)。

ウ˞ブ˜ザー **[ʔuˈbuˀʤaː]** 【名】大きな座敷。大広間。「大座」の義。ウ˞ブ˜ザー　ピ˞ス˜サー [ʔuˈbuˀʤaː pi̥ˈsuˀʤaː](大座敷、広座敷) のように用いられる。˜エントゥシ　ン˞カイル˜トゥシン　ク˞ヌ˜　ウ˞ブ˜ザー　ピ˞ス˜ザーナーティ　˜ヨイ　シ˞ラリ˜　タ˞ボーリ [ˀjentuʃi ʔŋˈkairuˀtu̥ʃiŋ kuˈnuˀ ʔuˈbuˀʤaː pi̥ˈsuˀʤaːna ˀjoi ʃiˈrariˀ taboːˈri](来年、迎える年もこの大座敷、広座敷においてお祝いをされてください)。

˜ウブザー **[ˀʔubuʤaː]** 【名】親族名称。長兄を表す、ウ˞ボー˜ザ [ʔuˈboːˀʤa](長兄 < 大兄 >) の訛った形。˞トゥー˜ジェヌ　˜ウブザー [ˈtuːˀʤenu ˀʔubuʤaː](通事家の長兄)。

ウ˞ブ˜ジ **[ʔuˈbuˀʤi]** 【名】親族名称。祖父母の長兄をいう。呼称は、ウブ˞ジェー [ʔubuˈʤeː] という。˞ワッ˜テヌ　ウ˞ブ˜ジェー　ミサー˞ロールン [ˈwatˀtenu ʔuˈbuˀʤeː misaːˈroːruŋ](お宅のウブジおじいさん < 祖父母の長兄 > はお元気ですか < 達者でお

られますか >)。˞ナカブジ [˞nakabuʤi](祖父母の次兄。単にウ˞ブ˞ジ [ʔu˞bu˞ʤi] ともいう)、˞バカブジ [˞bakabuʤi](祖父母の三兄) のように部分体系をなす。

ウ˞ブ˞ジー [ʔu˞bu˞ʤiː] 【名】西表島。「大地」の義。パ˞トゥ˞マクドゥキ [pa˞tu˞makuduki](鳩間口説) の囃子に/イヤイヤ　シマヌアリサマ　ウフチ　バナリヌ　アヌタカヌタヌ　タカサピクサヤ　トゥナミ　ナランサ　シジク　ワシマニ　スダチンチャリバ　シントゥ　タヌマシムヌサミ　ナマヌ　パヤシニ　クドゥキ　ユミユミ/(いやいや、島の姿ありさまは大地 < 西表島 >、離島のあちらこちらの高さ低さは平坦にはできないものだ。続くわが島に育ってみると、誠に楽しいものだ。今の囃子に口説きを歌おう)(『鳩間口説』第三連)。

ウ˞ブ˞シキ [ʔu˞bu˞ʃiki] 【名】満月。「大月」の義。ウ˞ブシキンガナ˞シ [ʔu˞buʃikiŋgana˞ʃi](大月様) ともいう。ウ˞ブシキ˞ヌ　˞マーウイバー˞キ　˞アーリオー˞ルカー　˞スー˞ヤ　ピ˞シ˞スンダ　イ˞ソー˞　パラ˞ナー [ʔu˞buʃi̥ki˞nu ˞maːʔuiba:˞ki ˞ʔaːriʔo:˞ruka: ˞suː˞ja pi̥˞ʃi˞sunda ʔi˞so:˞ para˞naː](満月が中天 < 真上 > まで上がってこられると、潮が引くから潮干狩りに行こうねえ)。

ウ˞ブ˞シキン [ʔu˞bu˞ʃi̥kiŋ] 【名】広い世間。「大世間」の義。ク˞ヌ˞　ウ˞ブ˞シキンナー　イ˞ルン˞ナ　ディ˞キブツ˞ヌ　˞オー˞ルン˞ダー˞　シ˞キン˞バ　ウ˞サイヤー˞　ナ˞ラントダー [ku˞nu˞ ʔu˞bu˞ʃi̥kinna: ʔi˞run˞na di˞kibutsu˞nu ˞ʔo:˞run˞da:˞ ʃi̥˞kim˞ba ʔu˞saija:˞ na ˞ranˢda:](この広い世間には、いろいろの才人がおられるものだぞ。世間を軽く見てはならんぞ)。

ウ˞ブシキンガナ˞シ [ʔu˞buʃi̥kiŋgana˞ʃi] 【名】満月様。「大月加那志 (大月様)」の義。皓々と照り輝く満月には神が宿ると信じられていた。満月の神格化表現。旧暦の十五夜には供物のフ˞チャ˞ギ [ɸu̥˞tʃa˞gi](吹上餅、俵型の餅に煮た小豆をまぶしたもの) とフ˞カン˞ガイ [ɸu̥˞kaŋ˞gai](どろどろに煮た餅) を供え、健康祈願をした。これをシ˞キマチ˞ル [ʃi̥˞kimatʃi˞ru](月祀り) という。子守唄にも/アールカーラ　アーリオール　ウブシキンガナシ　ウキナーン　ヤイマーン　ティラショーリ　ホーオーイーチョーオーガー (東方から上がって来られる大月加那志 < お月様 >、沖縄も八重山も照らしてください。ホーイチョーガ < 囃子 >)/と歌われている。

˞ウブシケー [˞ʔubuʃi̥keː] 【固】大城家本家 (当主、大城博氏) の屋号。大城博氏の童名はア˞ガイ˞サー [ʔa˞gai˞saː]。父親の大城安正が早世したので母親のサカイに育てられ、叔父の加治工伊佐の協力を得て成長した。戦後富里キクと結婚し長男肇 (琉球大学教授。副学長、学長)、次男學 (琉球大学教授)、覚 (中学校長) を育てた。また、大城博氏夫妻は、長年鳩間島で里親として沖縄本島から来た子供を育てて鳩間小中学校の維持発展に協力した。˞ウブシケヌ　˞アンタヌ˞　ミ˞ナ˞カナー　ビ˞チル˞ヌ　˞アン [˞ʔubuʃi̥kenu ˞ʔantanu˞ mi˞na˞kana: bi˞tʃiru˞nu ˞ʔaŋ](大城家の東の庭にビチル < 賓頭蘆 > がある)。˞ウブシケヌ　˞アボー　カ˞ザケヌ˞　サ˞クシミドーン˞ッふァ　ヤ˞ローッ˞タ [˞ʔubuʃi̥kenu ˞ʔabo: ka˞ʤakenu˞ sḁ˞kuʃimido:ŋ˞ffa ja˞ro:t˞ta](大城家のお母さん < 大城サカイ氏 > は加治工家の長女であられた)。

˞ウブシケーヌ　˞ヤシ˞キ [˞ʔubuʃi̥keːnu ˞jaʃi̥˞ki] 【連】屋敷名。「大城家の後ろの空き屋敷」の義。˞ウマー　ア˞ラブシケーヌ　インタヌ　ヤシ˞キ　˞ナリ　˞ブー [˞ʔuma: ʔa˞rabuʃi̥keːnu ʔintanu jaʃi̥˞ki ˞nari ˞buː](そこは大工家 < 東大城家 > の西隣の屋敷になっている)。

ウブシ˞ケー˞マ [ʔubuʃi̥˞keː˞ma] 【名】おはじき。サザエ貝の蓋。直径約 2,5 センチで半球形の石。地面に碁盤目を描き、対面して碁盤目の上を交互におはじきを弾き、領地を増やすゲーム。ジャンケンでプレーを開始し、最初のプレーヤーのおはじきが碁盤の線上にかかったら相手と交替する。ヤ˞ラ˞ビ　˞シェーン˞ケンマー　ミ˞ナ˞カナー　˞シェン　ピ˞キティ˞　ユー　ウブシ˞ケー˞マ　˞シー˞　ア˞サブタン [ja˞ra˞bi ˞ʃeːŋ˞kemma: mi˞na˞kana: ˞ʃem pi̥˞kiti ˞ju: ʔubuʃi˞keː˞ma ˞ʃiː˞ ʔa˞sabutaŋ](子供の頃には庭で地面に線を引いてオハジキをして遊んだ)。ウブシ˞ケー˞マ　˞シー˞　ア˞サバ˞ディー [ʔubuʃi̥˞keː˞ma ˞ʃiː˞ ʔa˞saba˞diː](おはじきをして遊ぼうよ)。

ウ˞ブ˞シマ [ʔu˞bu˞ʃima] 【名】大きな島。石垣島。ウ˞ブシマ˞ヌ　プ˞ス˞ティ　˞シー˞　シ˞マーマ˞ヌ　プ˞スヨー˞　ウ˞サイブタンドゥ　ウンドー˞カイナー　マ˞クター˞　パロー　ヌ˞マラ˞ヌティ　ア˞ゾーッ˞タツォー [ʔu˞buʃima˞nu pu˞su˞ti ˞ʃiː˞ ʃi˞maːma ˞nu pu̥˞sujo:˞ ʔu˞saibutandu ʔundo:˞kaina: ma˞kuta:˞ paro: nu˞mara˞nuti ʔa˞ʤo:t˞tatso:](大きな石垣島の人だから、小さな鳩間島の人を馬鹿にしていたが、運動会で負けたので、針は飲めない < 飲まれない > といわれたそうだ)。ク˞ヌ˞　プ˞ソー˞　ウ˞ブ˞シマラール　˞オー˞レール [ku˞nu˞ pu̥˞so:˞ ʔu˞bu˞

ʃimaraːru ˞ʔoː˜reːru](この人は石垣島＜大島＞から来られたのだ)。

ウ˞ブ˜シラ [ʔu˞bu˜ʃira] 【名】大きな顔。「大面 (おおつら)」の義。パ˞ジン˜　ッ˞サ˜リティ　˜シラー　フ˞クリティ˜　ウ˞ブ˜シラ　ナリ˞ベー [pa˞ʤin˜ s˞sa˜riti ˜ʃiraː ɸu̥˞kuriti˜ ʔu˞bu˜ʃira nari˞beː](蜂に刺されて顔は腫れ＜膨れ＞大きな顔になっている)。

ウ˞ブシラ [ʔu˞buʃira] 【名】大きな稲叢。刈り取った稲を脱穀しないで、藁の付いたまま庭に積んで保存してあるもの。庭の前に一間四方、高さ約 50 センチの礎を据え、それに床を張り、筵を敷いて稲束を半球形に積み上げ、頂上をトゥ˞マー [tu˞maː](茅の苫) で葺いた稲叢。˞ザイレーマイ˜ヤー　ミ˞ナ˜カナー　ウ˞ブ˜シラ　ス˞ク˜リティ　タ˞ブイヨーッ˜タ [˞ʤaireːmai˜jaː mi˞na˜kanaː ʔu˞bu˜ʃira su̥˞ku˜riti ta˞buijoːt˜ta](在来種の米＜赤米＞は庭に大きな稲叢を作って保存された)。

ウ˞ブ˜ジン [ʔu˞bu˜ʤiŋ] 【名】大金。ムティミ˞ラ˜ン　ウ˞ブジン˜バ　ム˞タサ˜リティ　˞ヌー˜シ　シゥ˞カウバル˜　ミサユー　ザ˞マン˜ドゥリ　˞ベー [mutimi˞ra˜ŋ ʔu˞buʤimba˜ mu˞tasa˜riti ˞nuː˜ʃi si̥˞kaubaru˜ misajuː ʤa˞man˜duri ˞beː](持ったことのない大金を持たされて、どうやって使ったほうがよいか、頭が混乱し＜うろたえ＞てしまっている)。大銭。金額の大きな紙幣。ク˞ヌ˜　ウ˞ブ˜ジン　˜クリティ　˞クー˜ジン　˜ナシ　ッ˞ふィーリ [ku˞nu˜ ʔu˞bu˜ʤiŋ ˜kuriti ˞kuː˜ʤin ˜naʃi f˞fiːri](この高額の紙幣を両替＜くずして＞して小銭に換えて＜なして＞くれ)。

ウ˞ブジン [ʔu˞buʤiŋ] 【名】大きなお膳。「大膳」の義。ウ˞ブジン˜ナー　˜グシン　˞コー˜パナン　イ˞リティ˜　シ˞キリ˜バ [ʔu˞buʤin˜naː ˜guʃiŋ ˞koː˜panaŋ ʔi˞riti˜ ʃi̥˞kiri˜ba](大きなお膳に御酒も線香や花米も入れて供えなさいよ)。

ウ˞ブシンカ [ʔu˞buʃiŋka] 【名】大人数。大勢の人。大家族。多数の乗組員。「多臣下」の義。ウ˞ブシンカヌ˜　マ˞カナイ˜ヤー　˞タン˜ガシェー　ナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞buʃiŋkanu˜ ma˞kanai˜jaː ˞taŋga˜ʃeː na˞ra˜nu](大人数の賄いは一人ではできない)。

ウ˞ブ˜ス [ʔu˞bu˜su] 【名】海水。潮水。塩水。「潮、～海水朝夕来云、宇之保 (うしほ)」『和名抄』の転訛したもの。ウ˞ブ˜ス　フ˞ミ˜キー　ウ˞ブ˜ナビナー　タ˞キティル　マー˜ソー　タ˞コーッタ˜ル [ʔu˞bu˜su ɸu˞mi˜kiː ʔu˞bu˜nabinaː tḁ˞kitiru maː˜soː tḁ˞koːtta˜ru](海水を汲んできて、大きな鍋で炊いて＜ぞ＞塩は製造された＜炊かれた＞ものだ)。イ˞クサユー˜ヌ　˜アトー　˞マー˜スーン　˞ナーン˜ベーティ　ウ˞ブス˜バ　フ˞ミ˜キーテイル　˞マー˜ス　タ˞クタ˜ダー [ʔi˞kusajuː˜nu ˜ʔatoː ˞maː˜suːn ˞naːm˜beːti ʔu˞busu˜ba ɸu˞mi˜kiːtiru ˞maː˜su tḁ˞kuta˜daː](太平洋戦争の後は塩も無いので海水を汲んで来て塩を炊いたのだよ)。

ウ˞ブスー˜チズー [ʔu˞busuː˜ʧiʤuː] 【名】大潮。干満の差の大きな干潮。旧暦三月三日の大干潮の起こる時期。「大潮引潮」の義か。ウ˞ブスー˜チズーヌン˞ジ˜ルカー　マー˞ズン˜　タ˞ク˜　トゥリン　˜パラ˞ナー [ʔu˞busuː˜ʧiʤuːnu ʔn˞ʤi˜ruka: maː˞ʤun˜ tḁ˞ku˜ turim para˞naː](大潮干が出たら一緒に蛸を捕りに行こうなあ)。

ウ˞ブ˜スディ [ʔu˞bu˜sudi] 【名】広袖。「大袖」の義。ウ˞ブ˜スディキン [ʔu˞bu˜sudikiŋ](広袖の着物)。ク˞ヌ　キン˜マー　ウ˞ブ˜スディ　˜ヌイ　ッ˞ふィーリ˜ヨー [ku˞nu kim˜ma: ʔu˞bu˜sudi ˜nui f˞fiːri˜joː](この着物は広袖に縫ってくれよ)。キ˞チゴンヌ˜　ウブ˞ブドゥ˜ロー　ウ˞ブ˜スディキン　キ˞シティル˜　ブ˞ドウル　ソーッ˜タ [ki̥˞ʧigonnu˜ ʔu˞bubudu˜ro: ʔu˞bu˜sudikiŋ ki̥˞ʃitiru˜ bu˞duru soːt˜ta](結願祭の古典舞踊＜大踊り＞は大きな広い袖の着物をきて＜ぞ＞踊られた)。

ウ˞ブ˜スブットゥ [ʔu˞bu˜subuttu] 【名】大怠け者。大の無精者。ウ˞ブ˜スブットー　˜キューン　サ˞キ˜　ヌミティ　ニ˞ビベー [ʔu˞bu˜subutto: ˜kjuːn sḁ˞ki˜ numiti ni˞bibeː](大怠け者めは、今日も酒を飲んで寝ている)。

ウ˞ブスン [ʔu˞busuŋ] 【名】大損。大欠損。˞ウーズン [˞ʔuːʤuŋ](大損) ともいうが、普通はウ˞ブスン [ʔu˞busuŋ] という。˞アッ˜タニ　˞ウーモーキ　スンティ　アーキ˜ル　ウ˞ブスン＜˞ウーズン＞バシー　ベー˜ル [˞ʔat˜tani ˞ʔuːmoːki sunti ʔaːki˜ru ʔu˞busum＜˞uːʤum＞ba ʃiːbeː˜ru](急に大儲けしようとしていて＜ぞ＞、大損をしているのだ)。

ウ˞ブソッ˜コー [ʔu˞busok˜koː] 【名】二十五年忌以上の法事。大法事。「大焼香」の義。˜アッパー　ニジューゴ˞ネンキヌ˜　ウ˞ブソッコー˜ヤ　イ˞チ　ソー˜ルカヤー [˜ʔappaː niʤuːgo˞neŋkinu˜ ʔu˞busokko˜ja ʔi˞ʧi soː˜rukajaː](お祖母さんの二十五年忌の大法事＜大焼香＞は何時なさかねえ)。

ウ˞フ˜ダキ [ʔu˞ɸu˜daki] 【固】(地) 大岳。小浜島の中心にある山。/小浜ティル　島 (シゥマ) ヤ　果報 (カフ) ヌ　島ヤリバ　大岳 (ウフダギ) バ　クサ

ディ　白浜 (シルパマ) 前 (マイ) ナシ/大岳 (ウフダギ) ニ登 (ヌブ) ティ　ウシ下 (クダ) シ見リバ　稲粟 (ィニァヮ) ヌ稔 (ナォ) リゥ　弥勒世果報 (ミルクユガフ)/「小浜節」(『八重山民謡誌』)。

ウ˞ブ˜タク [ʔu˞bu˜taku] 【名】 (動) オオダコ (大蛸)。幼児語では、大きな男根、おちんちん。˞スー˜チズーサーリ　イ˞ソー　シー˜　ウ˞ブ˜タク　トゥリ˞クー˜タ [˞su:˜ʧiʤu:sa:ri ʔi˞so:ʃi:˜ ʔu˞bu˜tą̥ku turi˞ku:˜ta](大潮 < 大潮の潮干 > で潮干狩りに行って大きな蛸を捕ってきた)。˞ウリウリ˜　ウ˞ブタク˜ヌ　˜ンジケーン [˞ʔuriʔuri˜ ʔu˞butaku˜nu ˜nʤike:ŋ](ほらほら、大蛸 < おちんちん > が出てきたよ) 幼児語。

ウ˞ブ˜タニ [ʔu˞bu˜tani] 【名】大きな男根。ウ˞ブ˜マラ [ʔu˞bu˜mara](大きな摩羅、魔羅) ともいう。˜マラ [˜mara] は大人の男根に対して用いる。マ˞ラタリ˜ムヌ [ma˞ratari˜munu](陰部をはだけたままの男性。幼稚で無分別な者)。˜ガザン　˞ホー˜リカー　ウ˞ブ˜タニ　ナルンティ˞ダー [˜gaʤaŋ ˞ho:˜rika: ʔu˞bu˜tani narunti˞da:](蚊に噛まれると大きな男根 < フィラリア > になるそうだよ)。

ウ˞フタ˜ヌ　マ˞ツ˜テー [ʔu˞ɸu̥ta˜nu ma˞tsu˜te:] 【連】屋号。大田守清氏宅。˞ウン˜ネーヤ　˞マン˜ケーザーテヌ　˞アンタナー˜ル　˞アッ˜タ [˞ʔun˜ne:ja ˞maŋ˜ke:ʤa:te:nu ˞ʔantana:˜ru ˞ʔat˜ta](その家は仲本満慶氏宅の東にあった)。

ウ˞フタン˜ヤー [ʔu˞ɸutaŋ˜ja:] 【名】屋号。大田守太郎氏宅。鳩間村の˞アンウムラ [˞ʔannumura](東村) 二班の一等奥の、˞アンヌカー [˞ʔannuka:](東の村井戸 < 下り井戸 >) の近く (南側) にあった家。

ウ˞ブチョー˜チン [ʔu˞butʃo:˜ʧiŋ] 【名】大きな提灯。カ˞ザリチョーチン [ka˞ʤaritʃo:ʧiŋ](飾り提灯) ともいう。お盆の時に仏壇の前に吊るして飾り、それに蝋燭を灯して祖霊を迎える。˞ソーラン˜ヌ　˜ピンマー　ウ˞ブチョー˜チン　トゥ˞クニ˜ナー　˜サイティル　ウ˞ヤ˜プス　シゥ˞カ˜ナイ˞オーッ˜タ [˞so:ran ˜nu ˜pimma: ʔu˞butʃo:˜ʧin tu˞kuni˜na: ˜saitiru ʔu˞ja˜pu̥su si̥˞ka˜nai˞ʔo:t˜ta](お盆 < 精霊会 > の時には大きな提灯を仏壇に吊るし < 下げ > て祖霊を接待された < 養われた >)。

ウ˞フッ [ʔu˞ɸuʔ] 【感】 呪(マジナ)いのことば。子供が転んで怪我をしたとき、患部に親がフッと息を吹きかけて発する言葉。ウ˞フッ˜　ウ˞フッ˜　ヤ˞ナ˜ムノー　カ˞マー˜　パリッ˞ふォーリ　˜クマーラル　ウ˞ブ˜プス　ナル˞ドー [ʔu˞ɸuʔ˜ʔu˞ɸuʔ˜ ja˞na˜muno: ka˞ma:˜ parif˞fori˜ kuma:raru ʔu˞bu˜pu̥su naru˞do:](ウ˞フッ˜　ウ˞フッ˜　悪霊はあっちへ行ってください。ここからが大人になるんだぞ)。幼児が転んだり、怪我をした時などに母親が唱えた。ウ˞フッ˜ウ˞フッ˜　ク˞マン˜トンラ　ウ˞ブ˜プス　˜タカプス　ナ˞ラ˜シ　タ˞ボーリ [ʔu˞ɸuʔ˜ ʔu˞ɸuʔ˜ ku˞man˜tonra ʔu˞bu˜pu̥su ˜tą̥kapusu na˞ra˜ʃi ta˞bo:ri](ウフッ　ウフッ　ここの所から大きな人、高い人 < 大人 > になしてください)。

ウ˞ブッ˜カル [ʔu˞buk˜karu] 【名】陽光。「大きな明かり」の義。「ウブ (大)・アカル (明かり)」の転訛したもの。新生児を初めて産屋から出して太陽光を拝ませる際に言う。˞トゥッカジラ˜　ウ˞チナ˜スカー　ウ˞ブッ˜カル　ウ˞ガマ˜ソーッタン [˞tukkaʤira˜ ʔu˞ʧina˜suka: ʔu˞buk˜karu ʔu˞gama˜so:ttaŋ](産後十日目の産屋を出る儀式を済ませたら太陽拝みをされた)。

ウ˞ブッ˜カル　ウ˞ガマ˜シ [ʔu˞buk˜karu ʔu˞gama˜ʃi] 【連】太陽の初拝み。産婦と新生児が誕生後十日目に無事に産屋から出して太陽光を拝ませる儀式。その際、祖母が˞ピング [˞piŋgu](鍋墨。˞竈黒」の義か) を新生児の眉間か額につけ、稲藁のサンを新生児の胸元に置いた。これを、˞パン˜　シ˞キ˜ルン [˞paŋ˜ ʃi̥˞ki˜ruŋ](判をつける) という。それによって、新生児が悪霊に取り付かれることはなく、無事に当家の子供として守護されると信じられている。また、男児の場合弓と矢のミニチュアを作り、女児の場合は˜ナビシケー [˜nabiʃi̥ke:](鍋敷き) とイ˞ビ˜ラ [ʔi˞bi˜ra](大杓文字) のミニチュアをかざし (翳し) ながらナ˞カグス˜ク [na˞kagusu˜ku](ひんぷん。目隠しの石垣) を回ってミニチュアを玄関の軒に差しておいた。˞キュー˜ル　ウ˞ブッ˜カル　ウ˞ガマシ˜タ [˞kju:˜ru ʔu˞buk˜karu ʔu˞gamaʃi̥˜ta](今日がお天道様 < 太陽 > の光を拝ませた)。

ウ˞ブ˜ッス [ʔu˞bu˜ssu] (1)【名】「大糞」の義。大きな糞。パ˞タキ˜ヌ　˜アザナー　˞ター˜ル　マ˞ル˜タユー　ウ˞ブッス˜バ　˜マリシケー [pą̥˞taki˜nu ˜ʔaʤana ˞ta:ru˜ ma˞ru˜taju: ʔu˞bussu˜ba ˜mariʃi̥ke:](畑の畦に、誰が糞をたれたか大きな糞を放って < まって > ある)。 **(2)**【感】否だ。あかんべえ。ウ˞ブ˜ッスヒャー　˞ワー˜　ムニ˞ナー˜ト　シゥ˞カヌ [ʔu˞bus˜suça: ˞wa:˜ muni˞na:˜to si̥˞kanu](くそくらえ。お前の言うことなんか聞かない)。

ウ˞ブッふァイ˜ダマ [ʔu˞buffai˜dama] 【名】大の食いしん坊。大変な卑しいん坊。ウ˞レー˜メー　˞サ

ッコー˥ヌ　ウ˞ブッふァイ˩ダマ　ウ˞ヤ˥ベー　˞フッ˥ツァメーティ　˥アッパー　シ˞ベー　ウイル　ヨイシ˥ヤーン　マー˞ン˥　パル [ʔu˞reː˩meː ˞sakkoː˥nu ʔu˞buffai˩dama ʔu˞ja˩beː ˞fut˥tsameːti ˥ʔappaː ʃi˞beː ʔuiru joiʃi˩jaːm maː˞m˥ paru](その子はもう大変な食いしん坊だ。親指を口にくわえて、お祖母さんの後にくっついて後追いをしてお祝いのある家にも何処にもついて行く)。

ウ˞ブ˥ティダ [ʔu˞bu˥tida] 【名】太陽。「大天道」の義。ア˞ガティダ [ʔa˞gatida](真っ赤な太陽。灼熱の太陽) の対語。ウ˞ブ˥ティダ　ウ˞ガマ˥スン [ʔu˞bu˥tida ʔu˞gama˥suŋ](お天道様を拝ませる)。

ウ˞ブ˥ティン [ʔu˞bu˥tiŋ] 【名】天。大空。「大天」の義。ウ˞ブティン˥ヌ　ッ˞サーン˥ナーテー　ヤ˞ナクトー˥　ナ˞ラ˥ヌ　˞カン˥マー　ミシゥ˞カーマ˥シ　ミリ˞オー˥ル [ʔu˞butin˥nu s˞saːn˥naː ja˞nakutoː˥ na˞ra˥nu ˞kam˥maː misï˞kaːma˥ʃi miri˞ʔoː˥ru](天の下では悪事は出来ない。神はじっと注意して見ておられるのだ)。

ウ˞ブ˥トゥー [ʔu˞bu˥tuː] 【名】大海。大海原。海峡。「～明石大門 < アカシオホト > に～。万、254」の「大門 < オホト >」から転訛したもの。˥シンタヌ　ウ˞ブ˥トゥーラ　˞ゾーキヌ˥　ウ˞ランザ˥キ　˞マーリパッ˥タヤー [˥ʃintanu ʔu˞bu˥tuːra ˞ʤoːkinu˥ ʔu˞ranʤa˥ki ˞maːripat˥tajaː](島の後ろの大海から台湾航路の蒸気船が宇那利崎を迂回して航行していき行ったよ < 白浜港で石炭を積みこんで行った >)。ウ˞ブ˥トゥー　ン˞ジ˥ル　˥フネー　˞カイ˥ルン　ウ˞ブ˥ヌー　ン˞ジ˥ル　˥フネー　˞カイラ˥ヌ [ʔu˞bu˥tuː ʔn˞ʤi˥ru ˥ɸuneː ˞kai˥ruŋ ʔu˞bu˥nuː ʔn˞ʤi˥ru ˥ɸuneː ˞kaira˥nu](大海に向かって出航する船は帰ってくるが、野辺へ送られて出る船 < 棺 > は帰らない < 諺 >)。

ウ˞ブ˥ドゥー [ʔu˞bu˥duː] 【名】大きな体。胴体。「大胴」の義。ウ˞ブ˥ドゥ　タ˞カ˥ドゥー　ナ˞ラ˥シ　タボー˞リ [ʔu˞bu˥duː ta˞ka˥duː na˞ra˥ʃi taboː˞ri](大きな体、高い体になしてください)。

ウ˞ブドゥマ˥ル [ʔu˞buduma˥ru] 【名】(地)「大泊」と表記されている。旧鳩間小学校跡地 (現公民館) から現鳩間小中学校に至る海岸一帯の地名。ウ˞ブドゥマ˥ルナー　カ˞ツシンヌ　シーゾー˥ヤーン　˞アッ˥タン [ʔu˞buduma˥runaː kạ˞tsuʃinnu ʃiːʤoː˥jaːŋ ˞ʔat˥taŋ](大泊にはカツオ漁船のカツオ節製造工場もあった)。

ウ˞ブトゥム˥ル [ʔu˞butumuru] 【名】˞友利御嶽」。歌謡語。日常は、˞ウイヌ˥ウガン [˞ʔuinu˥ʔugaŋ](上の御願 < 御嶽 >)、ム˞トゥ˥ウガン [mu˞tu˥ʔugaŋ](本御願 < 御嶽 >) という。ウ˞ブトゥム˥ル [ʔu˞butumu˥ru](大友利 < 御嶽 >) が転訛したもの。国語のイ段音に対応する石垣方言は中舌母音 [ɨ̞] であるが、鳩間方言の母音は、その中舌母音 [ɨ̞] が音韻変化 (弱化) して [u] となる。/ヘイヤー　ウブトゥムル　ホー　マブルシュー (ヘイヤー < 囃子 > 大友利御嶽の、ホー < 囃子 > 守護神様)/ヘイヤー　ウブシクヌ　ホー　ウヤンガミ (ヘイヤー　大底のホー　親神様)/ヘイヤー　ウユミサ　ホー　アラバン　ヘイヤー　ナユミサ　ホー　アラバン (ヘイヤー畏れ多くあっても、ヘイヤー勿体無いことであっても)/ヘイヤー　ウスバユティ　ホー　ウガマ　ヘイヤー　チカクユティ　ホー　ウガマ/(ヘイヤーお側に寄って拝もう、ヘイヤーお近くに侍って拝みましょう)「豊年祭の歌」。

ウ˞ブナカラ [ʔu˞bunakara] 【名】大半。七割程度。シ˞グトー˥　ウ˞ブナカラー˥　ウ˞チナシ˥　ブーバン　˞ナー [ʃi˞guto˥ʔubu˞nakaraː˥ ʔu˞ʧinaʃi˥ buːban˞naː](仕事は、大半は出来あがっているねえ)。˞ジン˥マー　ウ˞ブナカラー˥　ヌ˞カリ˥ブーバ　˞ソーヤ　ナー˥ヌ [˞ʤim˥maː ʔu˞bunakaraː˥ nu˞kari˥buːba ˞soːja naː˥nu](お金は大半が残っているから心配はない)。

ウ˞ブナクラー˥ン [ʔu˞bunakuraː˥ŋ] 【形】そら恐ろしい。大変怖い。ウ˞ヌ˥　プ˞ソー˥　ウ˞ブナクラー˥ヌ　ス˞バ˥ー　˞ユーララランシェン [ʔu˞nu˥ pụ˞soː˥ ʔu˞bunakuraː˥nu su˞baː˥ ˞juːraraŋʃeŋ](その人は空恐ろしくて側に近寄ることができなかった < 近寄れなかった >)。

ウ˞ブ˥ナビ [ʔu˞bu˥nabi] 【名】大鍋。三升炊き以上の大きな鍋。ナ˞ベー˥マ [na˞beː˥ma](小鍋) の対義語。普通の家では˥ビーナビ [˥biːnabi](注ぎ口のある鍋)、˞ティー˥ナビ [˞tiː˥nabi](柄の付いた鍋。シ˞ルナビ [ʃi˞runabi]< 弦鍋 > ともいう) を使用していた。˥ヨイ [˥joi](祝儀、祝い) や˞ソッ˥コー [˞sok˥koː](法事、焼香) など、大量の炊飯をする場合に˞シンメー˥ナビ [˞ʃimme:˥nabi](四枚鍋) のウ˞ブ˥ナビ [ʔu˞bu˥nabi](大鍋) を用いた。イモを大量に煮るときもウ˞ブ˥ナビを用いた。ウ˞ブ˥ナビナー　˥ウン　イ˞リティ　ネーシ˥バ [ʔu˞bu˥nabinaː ˥ʔuŋ ʔi˞riti neːʃi˥ba](大鍋にイモを入れて煮なさい)。

ウ˞ブナン [ʔu˞bunaŋ] 【名】大波。津波。ム˞カ˥シ　˞ヤイマ˥ナー　ウ˞ブナン˥ヌ　˞ユーシ˥ケータンドゥ

パ˞トゥ˥マー　˞カン˥ヌ　˥シマ　ヤ˞レー˥ティ　˞カン˥ヌ　˥ティーシ　˥ムタイ˞オーッ˥ター　˞ナン˥マー　˥パンター　フ˞キパッ˥タ˞トゥ˥ツォー [mu˞ka˥ʃi ˞jaima˥na: ʔu˞bunan˥nu ˞ju:ʃi˥ke:tandu pa˞tu˥ma: ˞kan˥nu ˥ʃima ja˞re:˥ti ˞kan˥nu ˥ti:ʃi mutai˞ʔo:t˥ta: ˞nam˥ma: ˥panta: ɸu˞kipat˥ta˞tu˥tso:](昔八重山に大津波が押し寄せて来たけれど、鳩間島は神霊の高い島＜神高い島＞であるから、神が手で島を持ち上げなされたので、津波は島の南の方へ鳩間島を擦り抜けて行ったそうな)。ウ˞ブ˥ナミ [ʔu˞bu˥nami](大波) ともいう。

ウ˞ブニチ [ʔu˞bunitʃi] 【名】高熱。高い熱。「大熱 (だいねつ)」の義。˞プーキ˥　カ˞カ˥リティ　ウ˞ブニチェー˥　ンジ　ガ˞マジ˥ヌ　˞キーヤ˥　パギ˞ナー˥ヌ [˞pu:ki˥ kạ˞ka˥riti ʔu˞bunitʃe:˥ ʔndʒi ga˞madʒi˥nu ˞ki:ja˥ pagi˞na:˥nu](風気＜マラリア＞に罹って高熱を出して髪の毛は剥げ落ちてしまった)。ウ˞ブニチヌ˥　ンジ　タ˞キ˥リ˞ベー [ʔu˞bunitʃinu˥ ʔndʒi ta˞ki˥ri˞be:](高い熱が出て唸っている)。

ウ˞ブニンズ [ʔu˞bunindzu] 【名】大人数。多人数。˞ウーニンズー [˞ʔu:nindzu:](大人数) ともいう。ウ˞ブニンズー˥　シゥ˞カ˥ナウンティ　˞シーッ˥パイ　˞シーヨー˥ル [ʔu˞bunindzu:˥ si̥˞ka˥naunti ˞ʃip˥pai ˞ʃi:jo:˥ru](大家族＜大人数＞を養うのに精一杯して＜働いて＞おられる)。

ウ˞ブニンズー [ʔu˞bunindzu:] 【名】大人数。多人数。˞ウーニンズー [˞ʔu:nindzu:](大人数) ともいう。˞ウン˥ネヌ　˞ヤーニン˥ゾー　ウ˞ブニンズー˥　ヤ˞ルンダ　スータイ˥ヤー　˞スー˥ワンパジ˞ダー [˞ʔun˥nenu ˞ja:nin˥dzo: ʔu˞bunindzu:˥ ja˞runda su:tai˥ja: ˞su:˥wam ˥padʒi˞da:](あの家の家族は大人数だから家計＜世帯＞は厳しいはずだよ)。

ウ˞ブニンズヤー [ʔu˞bunindzuja:] 【名】大家族。大人数の家。˞ウン˥ネーヤ　ウ˞ブニンズヤー˥　ヤ˞ルンダ˥　プ˞スキ˥ヌ　˥イーン　˞イッ˥スシェー　タ˞ラーヌ [˞ʔun˥ne:ja ʔu˞bunindzuja:˥ ja˞runda˥ pụ˞suki˥nu ˥ʔi:ŋ ˞ʔis˥suʃe: ta˞ra:nu](その家は大家族であるから一食のご飯も＜ご飯を炊くのも＞米一升では足りない)。

ウ˞ブ˥ヌー [ʔu˞bu˥nu:] 【名】大野。大きな野原。˥インダヌ　ウ˞ブ˥ヌーナ　ウ˞シマキン˥　アリティ　ウ˞シヌ˥ウガンナーティ　ウ˞シヌ˥ヨイン　˞ソーッ˥タンティ˞ダー [˞ʔindanu ʔu˞bu˥nu:na ʔu˞ʃimakiŋ˥ ʔariti ʔuʃ˞inu˥ʔuganna:ti ʔu˞ʃinu˥join ˞so:t˥tati˞da:](伊武田の大きな原野に牛の牧場があって、牛のお嶽で牛の祝いもされたそうだよ)。

ウ˞ブヌシ˥トゥル [ʔu˞bunuʃi˥turu] 【名】大盗人。ウ˞ブヌシ˥トゥロー　˞ピンガ˥シティ　グ˞マヌシトゥル˥バ　カ˞サムンティ　スー˥　クトー　˥イカール　˥シジヤー [ʔu˞bunuʃi̥˥turo: ˞piŋga˥ʃi̥ti gu˞manuʃi̥turu˥ba ka˞samunti su:˥ kụto: ˥ʔika:ru ˥ʃidʒija:](大泥棒は捕り逃がして小さな泥棒を捕らえるとは如何なるつもりか＜如何なる訳か＞)。

ウ˞ブヌミ [ʔu˞bunumi] 【名】たくさん飲むこと。暴飲。「大飲み」の義。サ˞キバ˥　ウ˞ブヌミ　シティル˥　サ˞キシギリ　シーベー [sạ˞kiba˥ ʔu˞bunumi ʃi̥tiru˥ sa˞kiʃigiri ʃi:be:](酒を暴飲して急性アルコール中毒＜酒を飲み過ぎて仮死状態になること＞になっている)。

ウ˞ブバー˥キ [ʔu˞buba:˥ki] 【名】大きな竹製の笊(ザル)。ウ˞ブバー˥キナ　˥ウン　イ˞リティ˥　ス˞ブ˥ルナ　˥カミティ˞パッ˥タヤー [ʔu˞buba:˥kina ˥ʔuŋ ʔi˞riti˥ su˞bu˥runa ˥kamiti ˞pat˥taja:](大きな竹製の笊にイモを入れて頭に載せて運んで行ったよ)。

ウ˞ブバ˥カヤー [ʔu˞buba˥kaja:] 【名】屋号。「大若家」と表記されていたという。加治工太郎氏宅。鳩間村第四班の中心部に位置する。語源は、オオハカ (大捗)。˞秋の田の吾が刈りばか＜婆可＞の〜。万、2133」の「ハカ (捗)」、「稲を植えた一定の広さ」の義が転訛したもの。昔、「大若家」の者が公用で首里に上った際、偶々ある家の˥ゾーンタヤー [˞dzo:ntaja:](屋根付きの門) で雨宿りをしていたところ、その家の主人に姓名を問われて八重山鳩間島のウ˞ブバ˥カヤーの者と答えたところ、一門であることが判明し、歓待されて帰ったという (加治工ムヲシャ。大城サカイ。宮良ヲナリ。1958 年調査) 伝承がある。

ウ˞ブ˥パク [ʔu˞bu˥pạku] 【名】大きな箱。「大箱」の義。パ˞コー˥マ [pạ˞ko:˥ma](小箱) の対義語。パ˞コー˥　ギュー˞チン˥　ア˞リ˥ブタヌ　ウ˞ブ˥パコー　ム˞ミパク˥　フ˞ターチル　アッ˥タ [pạ˞ko:˥ gju:˞tʃiŋ˥ ʔa˞ri˥butanu ʔu˞bu˥pạko: mu˞mipaku˥ ɸụ˞ta:tʃiru ʔat˥ta](箱は幾つもあったが、大きな箱＜大箱＞は籾箱二つが＜ぞ＞あった＜二つしかなかった＞)。

ウ˞ブ˥バサ [ʔu˞bu˥basa] 【名】糸芭蕉。ウ˞ブ˥バサ˞トー˥シ　˥カー　˥パギティ　ウ˞リバ　ネーシ˥ピ˞キスー˥リティル　˥バサイトー　トゥ˞ローッ˥タ [ʔu˞bu˥basa ˞to:˥ʃi ˥ka: ˥pagiti ʔu˞riba ne:ʃi˥ pi̥˞kisu: ˥ritiru ˥basaʔito: tu˞ro:t˥ta](糸芭蕉を切り倒して皮を剥いで、それを煮て割り竹で繊維を扱き取って

芭蕉糸は取られた)。

ウ˞ブ˜バタ [ʔu˞bu˜bata] 【名】1大きな腹。大食漢。ウ˞ブ˜バタ　ヤ˞ルンダ˜　ギュー˞サ˜　ッ˞ふァーシタンティン˜　メーティ　˞サントツォー [ʔu˞bu˜bata ja ˞runda˜ gjuː˞sa˜ f˞faːʃitantim˜ meːti ˞sanˢtsoː](大食漢だから、いくら食わせても、もう十分と言わない)。2妊娠すること。˞ウン˜ネヌ　ユ˞メー˜　キサー˞ティ˜　ウ˞ブ˜バタ　˞シーベー˜バン [˞ʔun˜nenu ju˞meː˜ kʲsaː˞ti˜ ʔu˞bu˜bata ˞ʃiːbeː˜baŋ](その家の嫁は既に妊娠しているわい)。3大腸。˞オー˜ヌ　ウ˞ブ˜バタン　バ˞ター˜マン　˜ユディ　イッ˞ケナ˜　ア˞ラシティティ˜　ナ˞カミ˜ヌ　˞シームヌ˜　ス˞ク˜ローッタ [˞ʔoː˜nu ʔu˞bu˜batam ba˞taː˜maŋ ˜juditi ʔik˞kena˜ ʔa˞raʃʲtiti˜ na˞kami˜nu ˞ʃiːmunu˜ sʲu˞ku˜roːtta](豚の大腸も小腸も茹でて、十分に洗って中身の吸い物を作られた)。

ウ˞ブ˜パタ [ʔu˞bu˜pʲata] 【名】大きな旗。「大旗」の義。カ˞ツシンマー　タイロー　スー˜カー　˞グイルヌ˜　ウ˞ブ˜パタ　ア˞ギティ　カイ˜リ　˞クータ [kʲa ˞tsuʃimmaː tairoː suː˜kaː ˞guirunu˜ ʔu˞bu˜pʲata ʔa˞giti kai˜ri ˞kuː˜ta](カツオ漁船は大漁すると五色の大旗を揚げて帰ってきた)。

ウ˞ブ˜パナ [ʔu˞bu˜pana] 【名】神前に供える白米。ウ˞ブパナン˜グミ [ʔu˞bupanaŋ˜gumi](大初米) の義。四段重ねの上段の重箱の内側に紅白の甲立(コウダテ)< 饗立 > を立てて白米を盛り上げた神前の供物。正月や米寿等の大きな祝儀に床の間に供える。ウ˞ブ˜パナン　ス˞コーリ　ザー˜トゥクナー　カ˞ザリ˜　シ˞キティ˜　ドゥーパダ　˞キンコー˜　ニ˞ガイ　シキ˜リバ [ʔu˞bu˜panaŋ sʲu˞koːri ʤaː˜tʲukuna ka˞ʤari˜ ʃʲ˞kiti˜ duːpada ˞kiŋkoː˜ ni˞gaiʃʲki˜riba](神前に供える大花米も準備し、床の間に飾り供え、身体の健康を祈願し < 願い上げ > しなさいよ)。

ウ˞ブ˜バライ [ʔu˞bu˜barai] 【名】大笑。爆笑。ミ˞ドゥ˜モー　プ˞スヌ˜　マイナー　˜ドゥク　ウ˞ブバライ　スームノー˜　ア˞ラ˜ヌ [mi˞du˜moː pʲu˞sunu˜ mainaː ˜duku ʔu˞bubarai suːmunoː˜ ʔa˞ra˜nu](女は人前では、あまり大笑いするものではない)。

ウ˞ブ˜パン [ʔu˞bu˜paŋ] 【名】象皮病で太くなった足 < 脛 >。大きな足 < 脛 >。「大脛」の義。ム˞カ˜シェー　ミ˞ドゥム˜ヌ　˜クサ　カ˞カ˜ルカ　ウ˞ブ˜パン　ナ˞リ˜シタ [mu˞ka˜ʃeː mi˞dumu˜nu ˜kʲusa kʲa˞ka ˜rukaː ʔu˞bu˜pan na˞riʃʲita](昔は女がフィラリアに罹ると大きな脚になった)。

ウ˞ブ˜ビー [ʔu˞bu˜biː] 【名】(海底地名)。西表島北岸の˞クーラ [˞kuːra](久浦)、˜インダ [˜ʔinda](伊武田) の北にある˞イー˜シビー [˞ʔiː˜ʃibiː](角又を養殖した干瀬) の一つで、フ˞ツァー˜マ [ɸu˞tsaː˜ma](小津口) に面した東側の干瀬の名。ここに養殖された角又は、小浜島のク˞バザキ [ku˞baʤaki](久場崎) とカ˞ビ˜ラ [ka˞bi˜ra](川平) から移植されたものという。ウ˞ブ˜ビーナール　˞イー˜シェー　˞ゴー˜ラータ [ʔu ˞bu˜biːnaːru ˞ʔiː˜ʃeː ˞goː˜raːta](ウブビー < 大干瀬 > に < ぞ > 角又は多かった)。

ウ˞ブ˜ピー [ʔu˞bu˜piː] 【名】大きな屁。大きな音のおなら。ウ˞ブ˜ピー　˜プスカー　マ˞ジムノー˜　ウ˞ティ˜ルンツォー [ʔu˞bu˜piː ˜pʲusukaː ma˞ʤimunoː˜ ʔu˞ti˜runtsoː](大きな屁を放ると、身に取り付いたまじもの < 蠱物 > が落ちるそうだ)。

ウ˞ブ˜ピサ [ʔu˞bu˜pʲisa] 【名】大きな脚。フィラリアに罹患した女性の脚。象皮病。ウ˞ブ˜パン [ʔu˞bu˜paŋ](大脚) と同じ。ウ˞ブ˜ピサ　˜ナリティ　˜ヤミ　ア˞ラカラ˜ヌ [ʔu˞bu˜pʲisa ˜nariti ˜jami ʔa˞rakara˜nu](大きな脚 < 象皮病 > になって、痛くて歩けない)。

ウ˞ブピバ˜チ [ʔu˞bupiba˜ʧi] 【名】大きな火鉢。「大火鉢」の義。縦約 50 センチ、横約 70 センチの木箱に、中央部に約 30 センチ四方の灰入れの小箱を作って据え、両脇に引き出しをつけて小物が収納できるようにした火鉢。老人のいる限られた裕福な家で用いられた。陶器製の大きな火鉢もあった。ウ˞ブピバチ˜ヌ　˞ピー˜バ　ダ˞キ˜　ヌ˞クミ˜ナライティ　ムッ˞トゥ　ウーカ˜ヌ　˜スブットゥ　˜ナリ　˞ベー [ʔu˞bupibaʧi˜nu ˞piː˜ba da˞ki˜ nu˞kumi˜ naraiti mut˞tu ʔuːka˜nu ˜subuttu ˜nari ˞beː](大火鉢の火を抱いて暖を取り < 温み > 慣れて、ちっとも動かない。怠け者になっている)。

ウ˞ブ˜ふァイ [ʔu˞bu˜fai] 【名】食べ過ぎ。「大食い(おおくらい)」の義。プ˞ス˜ケンナー　˜アイニ　ウ˞ブ˜ッふァイ　˞サン˜タンティン　˜ミサン　ター˞ン˜　トゥリ　ッ˞ふー˜　プ˞ソー˜　ブ˞ラーヌ [pʲu˞su˜kenna: ˜ʔaini ʔu˞bu˜ffai ˞san˜tantim ˜misaŋ taː˞n˜turi f˞fuː˜ pʲu˞soː˜ bu˞raːnu](一度にそんなに大食いしなくてもよい。ほかに誰も取って食う人はいないよ)。

ウ˞ブフイ [ʔu˞buɸui] 【名】大降り。本降り。激しい降雨。ア˞ミ˜ヌ　ウ˞ブフイ　サン˜ケン　˞ヤー˜　パラ˞ディー [ʔa˞mi˜nu ʔu˞buɸui saŋ˜keɲ ˞jaː˜ para˞diː](雨が大降りにならないうちに家に帰ろう < 行こう >)。˞アミマー˜チ　˞シーベーン˜ケンマー

ウ˞ブフイ　シー˥　ダッ˞カティ　ゾッふェー˥ティ　˞ヤー　パッ˥タヤー　キ˞ムイ˥ツァー [˞ʔamiːmaː ˥ʧi ˞ʃiːbeːŋ˥kemmaː ʔu˞buɸui ʃiː˥ dak˞kati ʤoffeː˥ti ˞jaː pat˥tajaː ki˞mui˥tsaː](雨宿りをしていたら本降りになってしまって、びっしょりとずぶ濡れになって家へ帰っていったよ。気の毒に)。

ウ˞ブフク˥ビ [ʔu˞buɸu̥ku˥bi] 【名】ティ˞ジリ˥ビ [ti ˞ʤiri˥bi](男性の神人。男性神職者) の用いる帯。「大帯」の義。˞プー˥ル　˥キチゴンナーヤ　ティ˞ジリ˥ビンケーヤ　カ˞ンプス˥ヌ　ウ˞ブフク˥ビ　˞シェー˥ティル　˥ウガン　˞オーッ˥タ˞ダー [˞puː ˥ru ˥ki̥ʧigonnaːja ti˞ʤiri˥biŋkeːja ˞kampu̥su˥nu ʔu˞buɸu̥ku˥bi ˞ʃeː˥tiru ˥ʔugaŋ ˞ʔoːt˥ta˞daː](豊年祭や結願祭には男性神職者達は大帯を締めて御嶽へ行かれたよ)。

ウ˞ブブサー˥ラ [ʔu˞bubusaː˥ra]【名】巨漢。大男。˥ドゥーン　カ˞ダ˥カブカラヌ　ウ˞ブブサーラ˥ヌ　˞ベー˥ヌンドゥ　˞ンーナフドゥ˥　カー˞ニル˥　アル　ノー˞ン　シーユーサヌ [˥duːŋ ka˞da˥ka ˥bukaranu ʔu ˞bubusaːra˥nu ˞beː˥nundu ˞nːnaɸudu˥ kaː˞niru˥ ʔaru noː˞ŋ ʃiːjuːsanu](背丈 < 身長 > がこれくらいもある大男がいるが、いたずらに体が大きいだけ < 役に立たない体格があるだけ > で、なんにも出来ない)。

ウ˞ブ˥ブシ [ʔu˞bu˥buʃi] 【名】古典民謡の歌曲。本格的な歌曲で歌の名に「節 (曲名)」がつく。「大節」の義。˥アブジェー　ユ˞ネン˥ヌ　カー˞ジ˥　ウ˞ブブシ˥バ　ピ˞コールン˥ドゥ　イッ˞ケナ˥　ウ˞ムッ˥サン˞ダー [˥ʔabuʤeː ju˥nen˥nu kaː˞ʤi˥ ʔu˞bubuʃi˥ba pi̥˞koːrun˥du ʔik˞kena˥ ʔu˞mus˥san˞daː](お祖父さんは毎晩 < 夕方ごとに > に古典民謡の大節を弾かれるが、大変おもしろいよ)。

ウ˞ブ˥プス [ʔu˞bu˥pu̥su] 【名】大人。成人。「大人 (おおひと)」の義。˥ウナー　ウ˞ブプス˥トゥ　ヤ˞ラビ˥トゥ　フ˞タール　ブン [˥ʔunaː ʔu˞bupu̥su˥tu ja ˞rabi˥tu ɸu̥˞taːru buŋ](そこに大人と子供と二人いる)。˞ウー˥トートゥ　˞パー˥ク　ウ˞ブ˥プス　˥タカプス　ナ˞ラ˥シ　タ˞ボーリ˥ー [˞ʔuː˥toːtu ˞paː˥ku ʔu ˞bu˥pu̥su ˥tḁkapu̥su na˞ra˥ʃi ta˞boːri˥ː](ああ尊いことよ < 神様 >、早く大人に、高い人 < 成人 > になしてください)。

ウ˞ブ˥プス　˞マープス [ʔu˞bu˥pu̥su ˞maːpu̥su] 【連】真の大人。心身共に成熟した大人。「大人真人」の義。ABCDEFCD 型の重言。大人を強調していう表現。ウ˞ブ˥プス　˞マープス˥ティ　˞ベー˥ティ　˥ヌーシタ　˥アイブ　ク˞トゥ˥ヌ　ナ˞ル˥ワ [ʔu˞bu˥pu̥su ˞maːpu̥su˥ti ˞beː˥ti ˥nuːʃitaː ˥ʔaibu ku˞tu˥nu na˞ru˥wa](いい年した大人 < 真の大人 > たるものが、どうしてあんなことができるものか)。

ウ˞ブプス˥ムニ [ʔu˞bupusu˥muni] 【名】大人の言葉遣い。大人の言葉。ヤ˞ラビ˥ヌ　ウ˞ブプスムニ˥バ　イ˞ジェー˥ティ　˞アー˥ク˞ツォー [ja˞rabi˥nu ʔu˞ bupu̥sumuni˥ba ʔi˞ʤeː˥ti ˞ʔaː˥ku˞tsoː](子供のくせに大人の言葉遣い < 大人言 > をしているんだよ)。

ウ˞ブ˥フチ [ʔu˞bu˥ɸu̥ʧi] 【名】1大きい口。˥スブットーヤ　ウ˞ブ˥フチ　パ˞タッカリティ˥　プ˞スヌ˥ムティ　˞クー˥バ　ッ˞ふンティル˥　マティ　˞ベー˥バン [˥subuttoːja ʔu˞bu˥ɸu̥ʧi pḁ˞takkariti˥ pu̥˞sunu˥muti ˞kuː˥ba f˞funtiru˥ mati ˞beː˥baŋ](怠け者は大口を開いて、他人が持ってきたら食おうと < ぞ > 待っているわい)。ウ˞ブ˥フチ　パ˞タッキティ˥　バ˞ライベー [ʔu˞bu˥ɸu̥ʧi pḁ˞takkiti˥ ba˞raibeː](大口を開いて笑っている)。2大言壮語。法螺吹き。˥ヤコー　タ˞タ˥ムティ　ウ˞ブフチ˥バ　タ˞タ˥ケーティ　˞アーク˥ヌ　˞ヌー˥シカヤ˞ナー [˥jakoː tḁ˞ta˥muti ʔu˞ buɸu̥ʧi˥ba tḁ˞ta˥keːti ˞ʔaːku˥nu ˞nuː˥ʃikaja˞naː](たいしたことはないのに、法螺をふいて < 大言壮語して > いるがどうだろうか)。

ウ˞ブブッ˥ツ [ʔu˞but˥tsu] 【名】でべそ。「大臍」の義。˞ティンブッツ [˞timbuttsu](でべそ) を多用する。ム˞カ˥シェー　˞ティンブッツヌ　ゴー˥ラータンドゥ　マ˞ナ˥マー　˞ナン˥ゾー　ミ˞ララン˥バン [mu˞ka˥ʃeː ˞timbuttsunu goː˥raːtandu ma˞na˥maː ˞nan˥ʤoː mi˞raram˥baŋ](昔はでべそが多かったが今はそれほど見られないわい)。

ウ˞ブブドゥ˥ル [ʔu˞bubudu˥ru]【名】古典舞踊。本格的な踊り。「大踊り」の義。パ˞トゥ˥マナカムリ　˞クンノー˥ラ　バ˞シヌトゥルン˥ドーレーヤ　ウ˞ブブドゥ˥ルティ　ア˞ザリブート˥ナー [pḁ˞tu˥manakamuri ˞kunnoː˥ra ba˥ʃinu˥turundoːreːja ʔu˞bubudu˥ruti ʔa˞ ʤaribuːɨ˥naː](鳩間中岡 < 鳩間節 >、古見の浦節、鷲の鳥節などは古典舞踊 < 本格的な踊り、大踊り > といわれているねえ)。

ウ˞ブ˥フニ [ʔu˞bu˥ɸuni]【名】本船。大船。イ˞サナケー˥ラ　ウ˞ブフニ˥ヌ　˞ペー˥リクーカー　シ˞ナムノー˥　アン [ʔi˞sanakeː˥ra ʔu˞buɸuni˥nu ˞peː˥rikuːkaː ʃi˞namuoː˥ ʔaŋ](石垣島から本船が入港したら < 入ってきたら > 品物はある)。

ウ˞ブ˥ブラー [ʔu˞bu˥buraː] 【名】図体ばかりが大きくて仕事をしない怠け者。仕事もしないでぶらつ

く間抜け者。ウ˞レー˜　ウ˞ブ˜ブラー　˜ナリティ　˜ヤコー　タ˞タ˜ヌ [ʔu˞re:˜ ʔu˞bu˜bura: ˜nariti ˜jako: tạ˞ta˜nu](彼は図体の大きな怠け者になって何の役にも立たない)。

ウ˞ブブン˜ギ [ʔu˞bubuŋ˜gi] 【名】大恩義。大恩。ウ˞ヌ˜　プ˞スヌ˜　ウ˞ブブンギ˜バ　カ˞ビ˜ル　マ˞ナ˜マ　˜ナレーンダー　˞ブン˜ギ　˞バシケー˜　ナ˞ラン˜ダー [ʔu˞nu˜ pụ˞sunu˜ ʔu˞bubuŋgi˜ba ka˞bi˜ru ma˞na˜ma ˜nare:nda: ˞buŋ˜gi ˞baʃi̥ke:˜ na˞ran˜da:](その人の大恩義を受けて＜被って＞現在がある＜今になれた＞のだから、決して恩義を忘れてはならないぞ)。

ウ˞ブ˜マイ [ʔu˞bu˜mai] 【名】(地)「大前」と表記されている。ナ˞カン˜ブレー [na˞kam˜bure:](中岡) とパ˞カヤマ [pạ˞kajama](墓山) の南側の畑地一帯。ウ˞ブマイ˜ヌ　パ˞タ˜キナー　˜ヤサイ　ス˞ク˜リティ　サ˞カラシ˜シケー [ʔu˞bumai˜nu pạ˞ta˜kina: ˜jasai sụ˞ku˜riti sạ˞karaʃi˜ʃi̥ke:](大前の畑に野菜を作って繁らせてある)。

ウ˞ブ˜マシ [ʔu˞bu˜maʃi] 【名】大きな田圃。「おおます(大桝)」の義。マ˞シェー˜マ [ma˞ʃe:˜ma](小さな田圃) の対義語。˜マシ [˜maʃi](桝) は田圃を数える際の単位 (助数詞)。マ˞ルマシ [ma˞rumaʃi](丸い田圃)、˜サンカクマシ [˜sankakumaʃi](三角の田圃)、˞ナーマシ [˞na:ma˜ʃi](長い田圃) などがある。˞ウイバルヌ˜　ウ˞ブ˜マシェーラ　˞ホーライマイ˜ヤー　˜ニジッピュー　ン˞ジ˜ルンツォー [˞ʔuibarunu˜ ʔu˞bu˜maʃe:ra ˞ho:raimai˜ja: ˜niʤippju: ʔn˞ʤi˜runtso:](上原の大きな田圃から蓬莱米は 20 俵収穫できる <20 俵出る＞そうだ)。

ウ˞ブ˜マタ [ʔu˞bu˜mata] 【名】大股。大きな歩幅。˞ウーマタ [˞ʔu:mata](大股) ともいう。˞クン˜ゾー　ウ˞ク˜リティ　ウ˞ブ˜マタシ　ア˞ラ˜キ　˞パッ˜タヤー [˞kun˜ʤo: ʔu˞ku˜riti ʔu˞bu˜mataʃi ʔa˞ra˜ki ˞pat˜taja:](怒って、大股で歩いていったよ)。

ウ˞ブマタ [ʔu˞bumata] 【名】大股。歩幅の広いこと。˞ウーマタ [˞ʔu:mata](大股) ともいう。˞オーリムヌヌ˜　カタチニ　˜アイニ　ウ˞ブマタ˜シ　ア˞ラカン˜ブリバ [˞ʔo:rimununu˜ kạtatʃini ˜ʔaini ʔu˞bumata˜ʃi ʔa˞rakam˜buriba](追われ者のように、あんなに大股で歩くなよ＜歩かずにおれよ＞)。

ウ˞ブ˜ミーアン [ʔu˞bu˜mi:ʔaŋ] 【名】大目の網。目の大きな網。ヤ˞シ˜ミーアン [ja˞ʃi˜mi:ʔaŋ](八十目網) ともいう。ウ˞ブ˜ミーアンシル　˞ボー˜ダーン　シ˞ヌマー˜ルン　ガ˞ラ˜シ　˞クータ˜ル [ʔu˞bu˜mi:ʔaŋʃiru ˞bo:˜da:ŋ ʃi˞numa:˜ruŋ ga˞ra˜ʃi ˞ku:ta˜ru](大目の網できつねぶだいや、てんぐはぎも漁獲して＜かからせて＞捕ってきたものだ)。

ウ˞ブ˜ミジ [ʔu˞bu˜miʤi] 【名】(地) 大見謝川。西表北岸の南ヨシキラとケーダの中間を流れる川。西側訳 50 メートルの所ににケーダ川の川口が、東側約 30 メートルの所に˞ユシ˜キダミナトゥ [˞juʃi̥˜ kidaminatu](ヨシキラ港) がある。昔は夏に旱魃が続くと、ウブミジ (大見謝川) から水を汲んで鳩間島に運んだ。「水量の多い川」の義。この川は大雨の時には越えられないほどの激流となる。古見岳に降る雨が急勾配の山間の谷間を流れ落ちるからであろう。人々は干潮を待って砂浜から歩いて渡った。ミ˞ジヌ˜　シゥ˞カラー˜　ウ˞ブ˜ミジェーラン　˞ケーダガーラヌン˜ドゥ　˞スー˜ワティ　ア˞ザリブー˜ダー [mi˞ʤnu˜ sị̥˞kara:˜ ʔu˞bu˜miʤe:raŋ ˞ke:daga:ranun˜du ˞su:˜wati ʔa˞ʤari bu:˜da:](水の量＜水の力＞は大見謝川よりもケーダ川が多い＜強い＞といわれているよ)。

ウ˞ブ˜ミチ [ʔu˞bu˜mitʃi] 【名】大きな道。大道。村中の道。ヤ˞ラ˜ビ　˞シェーン˜ケンマー　ム˞ラナカヌ˜　ウ˞ブ˜ミチナール　ア˞サブタ˜ティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　マ˞ナ˜マ　˞ギー˜　ミルカー　ク˞ビッチン˜ヌ　ミ˞チェー˜マ˞ツォー [ja˞ra˜bi ˞ʃe:ŋ˜kemma: mu˞ranakanu˜ ʔu˞bu˜mitʃina:ru ʔa˞sabuta˜ti ʔu˞mu:n˜du ma˞na˜ma ˞gi:˜ miruka: ku˞bittʃin˜nu mi˞tʃe:˜ma˞tso:](子供の頃は村中の大きな道で遊んだと思ったが、今行ってみると、これぽっちの小道なんだよ)。˜ユネン　˜ナルカー　ウ˞ブ˜ミチェーラ　ア˞ラ˜キ [˜junen ˜naruka: ʔu˞bu˜mitʃe:ra ʔa˞ra˜ki](夜になったら大きな道から歩きなさい)。

ウ˞ブムカ˜シ [ʔu˞bumuka˜ʃi] 【名】大昔。˞ウームカシ [˞ʔu:mukaʃi](大昔) ともいう。ウ˞ブムカ˜シナール　ク˞ルシマ˜トゥ　˜クンラ　プ˞スヌ˜　パ˞トゥ˜マー　˞オー˜リル　ム˞ラー˜　タ˞トーッ˜タツォー [ʔu˞bumuka˜ʃina:ru ku˞ruʃima˜tu ˜kunra pụ˞sunu pạ˞tu˜ma: ʔo:˜riru mu˞ra˜ tạ˞to:t˜tatso:](大昔に黒島と古見から人が鳩間島に来られて村を建てられたそうだ)。

ウ˞ブ˜ムニ [ʔu˞bu˜muni] 【名】大口(オオクチ)。大言。法螺吹き。ノー˞ン˜　ナ˞ラン˜ムンヌ　ウ˞ブムニ˜バ　カー˞ニ˜　イ˞ジアー˜ク [no:˞n˜ na˞ram˜munnu ʔu˞bumuni˜ba ka:˞ni˜ ʔi˞ʤiʔa:˜ku](何も出来ないくせに大言壮語ばかりしている)。

ウ˞ブ˜ムラ [ʔu˞bu˜mura] 【名】大きな村。ウ˞ブムラ˜ヌ

プ˞ソー˜ イ˞バリティ ゴーラー˜ヤ グ˞マムラ˜ヌ プ˞スバ˜ ウ˞サイス [ʔu˞bumura˜nu pu̥˞so:˜ ʔi˞bariti go:ra:˜ja gu˞mamura˜nu pu̥˞suba˜ ʔu˞saisu](大きな村の人は威張って、多くは小さな村の人を馬鹿にする＜軽蔑する。おさえる＞)。

ウ˞ブモーキ [ʔu˞bumo:ki] 【名】大儲け。カ˞ツシン˜ラ ウ˞ブモーキ˜ シ˞ティル カー˜ラヤーン ス˞ク˜レーティ ˜ムカーヤ [kḁ˞tsuʃinra˜ ʔu˞bumo:ki˜ ʃi̥˞tiru ka:˜raja:n su̥˞ku˜re:ti ˜muka:ja](カツオ漁業で大儲けをして、瓦葺の家もつくったというわけだ)。

ウ˞ブ˜ヤー [ʔu˞bu˜ja:] 【名】母屋。「大きな家」の義。˞トー˜ラ [˞to:˜ra](台所小屋) の対義語で、主家(オモヤ)のこと。田の字型の間取り構造が主で、南面に表座敷を、北面に裏座敷をつくる。表座敷には一番座、二番座、三番座を配置する。一番座は客間、二番座は仏間、三番座は居間として用いられるのが普通であった。一番裏座は男の子の部屋、二番裏座は物置として、または穀物、味噌類の保管場所として利用されたり、産屋として利用されたりした。明治末期から瓦葺の家が造られるようになった。母屋の三番座の西側にはナ˞カ˜ザ [na˞ka˜ʤa](土間) を設け、西壁側に粘土でカ˞マチ [ka˞matʃi](竈) を設置し、竈の上にタ˞ム˜ヌダナ [ta˞mu˜nudana](薪棚) を設置して生木の燃料、薪を積み上げ、乾燥した下の薪から順に抜き取って燃やすのが一般であった。ウ˞ブヤー˜ヌ イ˞チバン˜ザーナー ˞ザートゥク˜ヌ ˜アリ ˞ニーバン˜ザーナー トゥ˞クニヌ˜ アン [ʔu˞buja:˜nu ʔi˞tʃiban˜ʤa:na: ˞ʤa:tuku˜nu ˜ʔari ˞ni:ban˜ʤa:na: tu̥˞kuninu˜ ʔaŋ](母屋の一番座には床の間があり、二番座には仏壇がある)。仏間は父母の寝室に供されるのが普通であった。母屋の南側には˞トゥーシ [˞tu:ʃi](縁側。˜マンタヌ ˜イン [˜mantanu˜ʔiŋ]＜前の縁＞ともいう) を造り、東側にも˜イン [˜ʔiŋ](縁側) を設置した。

ウ˞ブヤーニン˜ズ [ʔu˞buja:nin˜ʤu] 【名】大家族。ウ˞ブヤーニンズ˜ヌ フ˞チ˜ シゥ˞カ˜ナウンティル ˞シッ˜パイ ˞シーオー˜ル [ʔu˞buja:ninʤu˜nu ɸu̥˞tʃi˜ si̥˞ka˜nauntiru ˞ʃip˜pai ˞ʃi:ʔo:˜ru](大家族を養うのに＜大家族の口を養うのにゾ＞一所懸命＜精一杯＞苦労しておられるのだ)。

ウ˞ブ˜ヤツ [ʔu˞bu˜jatsu] 【名】1治療用の大きなお灸。ウ˞ブ˜ヤツ ヤ˞クン [ʔu˞bu˜jatsu ja˞kuŋ](大きなお灸をすえる＜焼く＞)。2厳しく懲らしめること。大きな罰を与えること。ヤ˞ナクトゥ スー˜カ ウ˞ブ˜ヤツ ヤ˞カリントゥダー [ja˞nakutu su:˜ka: ʔu˞bu˜jatsu ja˞karinトda:](悪事をはたらくと大きなお灸をすえられる＜焼かれる、重い罰を受ける＞ぞ)。

ウ˞ブ˜ヤッコン [ʔu˞bu˜jakkoŋ] 【名】1大きな薬缶。ウ˞ブ˜ヤッコンナー シ˞ジフチ˜ル イ˞リティ˜ シジ ヌ˞マ˜シバ [ʔu˞bu˜jakkonna: ʃi˞ʤiɸu̥ʧi˞ru ʔi˞riti˜ ʃiʤi nu˞ma˜ʃiba](大きな薬缶に煎じ薬を入れて煎じて飲ませなさい)。2大きな睾丸。ム˞カ˜シェー ˜クサプスティ ˞シー˜ ウ˞ブ˜ヤッコン カ˞タミプス˜ヌ ˞オーッ˜タン [mu˞ka˜ʃe: ˜ku̥supusuti ˞ʃi:˜ ʔu˞bu˜jakkoŋ kḁ˞tamipusu˜nu ˞ʔo:t˜taŋ](昔はフィラリア患者で大きな睾丸の人＜睾丸を担いだ人＞がおられた)。

ウ˞ブ˜ヤフ [ʔu˞bu˜jaɸu] 【名】大厄。大きな災い。ウ˞ブ˜ヤク [ʔu˞bu˜jaku](大厄) ともいう。ヤ˞フバライ˜ヌ ˞ニン˜ガイ ˞シェー˜チバ ウ˞ブ˜ヤホー ウ˞ティ˜シェール ˜メー [ja˞ɸubarai˜nu ˞niŋ˜gai ˞ʃe:˜ ʧiba ʔu˞bu˜jaho: ʔu˞ti˜ʃe:ru ˜me:](厄払いの祈願をしたので、大厄は祓われた＜落ちてある＞よ。もう)。

ウ˞フヤマ˜トゥ [ʔu˞ɸujama˜tu] 【名】大大和。日本国。歌謡語。/ウフヤマトゥ ハズミヨーリヨウ カンヤマトゥ ハズミヨウリヨウ ハーリ アミタボリ リューガナシ/(大大和の国から始めて下さい、神大和の国から始めてください。ああ、雨を下さい＜賜れ＞竜神様)「雨乞い歌。ハヤミク」 。

ウ˞ブヤマ˜トゥ [ʔu˞bujama˜tu] 【名】日本本土。「大大和」の義。ヤ˞ラ˜ビンケーヤ ムー˞ル˜ ウ˞ブヤマ˜トゥナール パ˞タラキブー [ja˞ra˜biŋke:ja mu:˞ru˜ ʔu˞bujama˜tuna:ru pḁ˞tarakibu:](子供達はみんな本土で＜ぞ＞働いている)。

ウ˞ブヤマン˜グ [ʔu˞bujamaŋ˜gu] 【名】大変な腕白者。悪戯で言うことを聞き入れない悪童。ウ˞ヌ ッふァー˜ ウ˞ブヤマン˜グ ˜ナリティ ムッ˞トゥ˜ プ˞スヌ˜ ムニ シゥ˞カヌ [ʔu˞nu ffa:˜ ʔu˞bujamaŋ˜gu ˜nariti mut˞tu˜ pu̥˞sunu˜ muni si̥˞kanu](その子は大変な腕白者になって、他人の言うことをちっとも聞き入れない)。

ウ˞ブヤン [ʔu˞bujaŋ] 【名】大病。「大病み (おおやみ)」の義。ウ˞ブヤンバ シーベータン˜ドゥ ヤッ˞トゥ˜シ ˞ノー˜リ ˜ウキ ア˞ラカ˜リン˞ダー˜ メー [ʔu˞bujamba ʃi:be:tan˜du jat˞tu˜ʃi ˞no:˜ri ˜ʔuki ʔa˞raka˜rin˞da:˜ me:](大病＜大病み＞をしていたが、やっと治って起きて歩くことができる＜歩かれる＞のだよ、もう)。

ウ˩ブユク˥ジン [ʔu˩bujuku˥ʤiŋ]【名】大欲張り。強欲な人。ウ˩ヌ˥　ウ˩ブユクジン˥マー　ウ˩ビッチン˥ヌ　ムヌ˩バー˥キン　˩ジン˥バ　トゥ˩リ˥ル　˩カース˥ティバン [ʔu˩nu˥ ʔu˩bujukuʤim˥ma: ʔu˩bittʃin˥nu ˥munu˩ba:˥kin ˩ʤim˥ba tu˩ri˥ru ˩ka:su˥tibaŋ](その大欲張りは、それぽっちの物までも金を取ってしか売らない < 金を取ってぞ売る > そうだよ)。

ウ˩ブンー˥ミー [ʔu˩buʔm:˥mi]【名】曾祖母。石垣方言からの借用語。「大祖母」の義。˥トゥヌスクトゥ　ア˩ラカー˥ナ　ウ˩トゥザ˥ヌ　オ˩ール˥ヌ　ウ˩ブンー˥メー　˩バンター˥ヨー　ア˩タラ˥サ　˩シーッふォーッ˥タン˩ダー [˥tunusu̥kutu ʔa˩raka:˥na ʔu˩tuʤa˥nu ˩ʔo:ru˥nu ʔu˩buʔm:˥me: ˩banta˥jo: ʔa˩tara˥sa ˩ʃi:ffo:t˥tan˩da:](登野城と新川に親戚が居られるが、そこの曾祖母が私らを可愛がって < 可惜(アタラ)しくして > くださったよ)。

ウ˩ブン˥ガイ [ʔu˩buŋ˥gai]【名】胃袋。特に牛や豚、猪などの胃袋をいう。˩オー˥ヌ　ウ˩ブン˥ガイン　˩カイ˥キー　˩シームヌ˥　ス˩ク˥リバ [˥ʔo:˥nu ʔu˩buŋ˥gaiŋ ˩kai˥ki: ˩ʃi:munu˥ su̥˩ku˥riba](豚の臓物の胃袋を買ってきて中身の吸い物を作りなさいよ)。

˥ウベー [ʔube:]【連】それだけは。指示代名詞˥ウビ [˥ʔubi](それくらい。その程度。分量を表す) に取立ての係助詞˥ヤ [˥ja](は) が付いて、?ubi+ja(は)→ [ʔube:](それだけは) と音韻変化したもの。対義語は、˥クベー [˥kube:](これだけは)。˥ウベー　˩ワー˥　ス˩クブン [˥ʔube: ˩wa:˥ su̥˩kubuŋ](それだけ < その程度 > は君の職分 < 果たすべき義務 > だ)。˥クベー　サ˩クシ˥ヌ　バ˩キ˥ダマ　˥ウベー　˩ワー˥　バ˩キ˥ダマ [˥kube: sḁ˩kuʃi˥nu ba˩ki˥dama ˥ʔube: ˩wa:˥ ba˩ki˥dama](これだけは長男に対する財産の分け前、それだけは君への財産の分け前だ)。

˥ウボー [˥ʔubo:]【名】いべ。「威部」の義。˥ウガン [˥ʔugaŋ](御嶽。御願。< 拝み > の転訛か) の内部にある最も神聖な場所。御神体が安置されているという。サ˩カサ [sa˩kasa](司、神女) 以外の人はそこへ入ることが厳禁されている。ウボーには香炉があり、神の依代とされる巨木や岩がある。周りに神木のクバ (蒲葵、びろう) や˩マー˥ニ [˩ma:˥ni](くろつぐ) が密生している。台風などで倒木があるときなど、特に必要があって男性 (ティジリビ) などがそこへ行く時は、褌の前を垂らして、無分別者であることを装う必要があるという。ビ˩キドゥモー˥　ウボー　˩ペーラ˥ラヌ [bi˩kidumo:˥ ʔbo: ˩pe:rara˥nu](男はウボーの中には入れない)。

ウ˩ボー˥ザ [ʔu˩bo:˥ʤa]【名】長兄。ウ˩ブアー˥ザ [ʔu˩buʔa:˥ʤa](おおあに < 大兄 >) の融合転訛した形。˥ナカザ [˥nakaʤa](中兄)、アー˩ザ˥マ [ʔa:˩ʤa˥ma](末の兄) の上の兄。親族名称、呼称にいう。ウ˩ボー˥ザー　˩マー˥ル　˩オーッ˥ター [ʔu˩bo:˥ʤa: ˩ma:˥ru ˩ʔo:t˥ta:](長兄は何処へ行かれたのか)。明治生まれの古老は、˥ウブザ [˥ʔubuʤa](長兄。大兄) ともいう。ウ˩ボー˥ザー　˩パイ˥ター　˩オーッ˥タ [ʔu˩bo:˥ʤa: ˩pai˥ta: ˩ʔo:t˥ta](長兄は南端 < 西表島 > へ行かれた)。ウ˩ボーザー　ジー˥　ナ˩ラー˥ソーリ [ʔu˩bo:ʤa: ʤi:˥ na˩ra:˥so:ri](大兄さん! 字を教えてください)。

ウ˩ボー˥ダ [ʔu˩bo:˥da]【名】(地) 西表島北岸の上原の西に位置する地名。現在の中野集落一帯。この一帯からは、戦前から戦後の一時期にかけてシ˩キ˥タン [ʃi̥˩ki˥taŋ](石炭) が採掘された。そこから採掘された石炭を、台湾航路の定期船˩ゾーキ [˩ʤo:ki](蒸気船) は白浜港で補給した。ウ˩ボー˥ダには、トゥ˩ムレー [tu˩mure:](友利家、田代家)、˩トゥー˥ジェー [˩tu:˥ʤe:](通事家)、イ˩ラ˥ブレー [ʔi˩ra˥bure:](西原家)、˥ナラシケー [˥narasi̥ke:](成底家)、˩ウフタン˥ヤー [˩ʔuFu̥taŋ˥ja:](大田家) 等の水田があった。現在の中野集落は戦後宮古島からの移民が中心となって形成された集落である。

˥ウボーッパ [˥ʔubo:ppa]【名】祖父母の長姉の親族名称、親族呼称いう。[ʔu˩bu˥・ʔappa] → [˥ʔubo:ppa] のように融合変化したもの。˩バン˥テヌ　˥ウボーッパー　˩トーカキ˥ヌ　˥ヨイ　シマソーレーン [˩ban˥tenu ˥ʔubo:ppa: ˩to:kaki˥nu ˥joi ʃi˩ma˥so:re:ŋ](私の家の祖父母の長姉 < ウボーッパ。大祖母 > は斗掻きの祝い < 米寿の祝い > はすまされた)。ウボーッ˩パー˥　ミサー˩ロールン [ʔubo:p˩pa:˥ misa:˩ro:ruŋ](大祖母さん、お元気でいらっしゃいますか)。

˥ウボーッパー [˥ʔubo:ppa:]【名】祖父母の長姉、˥ウボパー [˥ʔubopa:](大祖母 < 親族名称・呼称 >) ともいう。親族名称、親族呼称共に、ウ˩ブ˥・アッパ [ʔu˩bu˥・ʔappa](大・祖母) が融合同化して形成されたもの。ウボーッ˩パー˥　ミサー˩ロールン [ʔubo:p˩pa:˥ misa:˩ro:ruŋ](大祖母さん、お元気でいらっしゃいますか)。

˥ウボーマ [˥ʔubo:ma]【名】長姉。親族名称、呼称。「大姉」の転訛したもの。明治生まれの古老の言葉。˥ウボンマー [˥ʔubomma:](長姉) とも言う。若年層は˩ホン˥マ [˩hom˥ma](長姉) という。˥ウボー

マー ˩ギューチ˥ ナ˩ロール˥ワ [˥ʔuboːmaː ˩gjuːtʃi˥ na˩roːru˥wa](長姉はお幾つになられますか)。ウボー˩マー マー˥ティ ˩オール˥ワ [ʔuboː˩maː maː˥ti ˩ʔoːru˥wa](お姉さん、何処へ行かれます＜おわす＞か)。

˥ウボマー [˥ʔubomaː]【名】最年長の伯母。「大伯母」の義。名称、呼称。ウ˩ブ˥アンマー [ʔu˩bu˥ʔammaː](最年長の姉) の転訛したもの。˥ウボマー ˩キュー˥ヤ ˩ヤー˥ナ ˩オー˥ルンカヤー [˥ʔubomaː ˩kjuː˥ja ˩jaː˥na ˩ʔoː˥ruŋkajaː](ウボマーは今日は家におられるでしょうか)。ウボ˩マー マー˥ティ ˩オール˥ワ [ʔubo˩maː maː˥ti ˩ʔoːru˥wa](ウボマー姉さん、何処へいらっしゃるのですか)。ウボ˩マー˥ アツァー ˥バー マ˩ブ˥ル ˥クミッ˩ふォー˥リ [ʔubo˩maː ˥ʔatsaː ˥baː ma˩bu˥ru ˥kumi f˩foː˥ri](大伯母さん、明日私の霊魂込め＜マブイグミ＞をしてください)。

˥ウボヤー [˥ʔuboja:] 【名】最年長の伯父。大伯父。ウ˩ブアー˥ヤ [ʔu˩buʔaː˥ja](大きい父) の融合転訛したもの。親族名称、呼称にもいう。˩ヨー˥カヤヌ ˥ウボヤー イ˩クサユー˥ヌ ˥アトゥナール ˩マーラソーッ˥タ [˩joː˥kajaːnu ˥ʔuboja: ʔi˩kusaju:˥nu ˥ʔatunaːru ˩maːrasoːt˥ta](西原家の大伯父は戦後に亡くなられた)。

˥ウボン [˥ʔuboŋ] 【名】(植) 黍。唐黍。トウモロコシ。「大・黍」の転訛したものか。若年層は˥キン [˥kiŋ](黍。「きみ＜黍＞。梨棗 寸三二＜キミニ＞粟つぎ〜。万、3834」の転訛か) という。パ˩トゥ˥マナー ˥ウボンマー ス˩ク˥ローッタンカヤー [pa̠˩tu˥mana: ˥ʔubomma: su̠˩ku˥roːttaŋkajaː](鳩間島では黍は作られたかねえ)。

˥ウボンザラ [˥ʔubondʑara] 【名】飯碗。木製の椀をいう。陶器の碗は、マ˩カ˥ル [ma˩ka˥ru](お碗) という。木製の椀は法事やお盆のときに、祭祀用に使用していた。「御飯・皿」の転訛したもの。日常生活ではマ˩カ˥ルを使用していた。˩ソッ˥コーナール ˥ウボンザラー シゥ˩カイ ヨーッ˥タ [˩sok˥koːnaːru ˥ʔubondʑaraː si̠˩kai joːt˥ta](法事の際にウボンザラは使われた)。

˥ウボンダマ [˥ʔubondama] 【名】(動物) くも (蜘蛛)。ハエトリグモ。老年層のことば。˥ウボンダマヌ ˩シー˥ヌ ガ˩マ˥ジナ ˩フシゥ˥カリ ˩ベー [˥ʔubondamanu ˩ʃiː˥nu ga˩ma˥ʤina ˩ɸusi̠˥kari ˩beː](蜘蛛の巣が頭髪にくっ付いている)。

˥ウマ [˥ʔuma]【代】そこ。[1]中称の指示代名詞。話者から少し離れた所を示す。ウ˩マ˥ヌ ˥トンナ ˩ベー˥リ [ʔu˩ma˥nu ˥tonnaː ˩beː˥ri](そこの所に居なさい)。ウ˩マ˥ル ˩ワッ˥サ [ʔu˩ma˥ru was˥sa](そこが＜ぞ＞悪い)。˥ウマー ˩ワッサナー˥ヌ [˥ʔumaː ˩wassanaː ˥nu](そこは悪くない)。ウ˩マ˥ヌ ˥ヤーナ カ˩ザ˥ミ [ʔu˩ma˥nu ˥jaːna ka˩ʤa˥mi](そこの家に隠しなさい)。ウ˩マ˥バ ˩ミシ˥キ [ʔu˩ma˥ba ˩miʃi̠˥ki](そこを探せ)。˥ウマナ ニ˩ビ˥バ [˥ʔumana ni˩bi˥ba](そこに眠れ)。ウ˩マ˥ル マ˩シ [ʔu˩ma˥ru ma˩ʃi](そこがいい)。˥ウマン ˥ミリ ッ˩ふィーリ [˥ʔumam ˥miri f˩fiːri](そこも見てくれ)。ウ˩マ˥トゥ カ˩マ˥トー ˩マー˥ル マ˩シ˥ヤ [ʔu˩ma˥tu ka˩ma˥toː ˩maː˥ru ma˩ʃi˥ja](そことあそことでは何処が良いか)。˥ウマーラ カ˩マーバー˥キ ア˩ラ˥キ [˥ʔumaːra ka˩maːba˥ki ʔa˩ra˥ki](そこからあそこまで歩きなさい)。[2]話題の場所や事柄を指示する。˩ワー˥ パ˩ナシヌ˥ ウ˩マン˥トンル ワ˩カラン˥サー [˩waː˥ pa˩naʃi˥nu ʔu˩man˥ tonru wa˩karan˥saː](君の話の、その部分＜そこのところ＞が分らないよ)。

˥ウマー [˥ʔumaː]【連】そこは。中称の˥ウマ [˥ʔuma](そこ) に係助詞-ヤ [-ja](は) が付いて、[ʔuma＋ja] → [ʔumaː] と音韻変化したもの。˥ウマーナ˩クラー˥ヌ ˩ペーララ˥ヌ [˥ʔumaː na˩kuraː˥nu ˩peːrara˥nu](そこは怖くて入られない)。˥ウマン [˥ʔumaŋ](そこも)。ウ˩マ˥ル マ˩シ [ʔu˩ma˥ru ma˩ʃi](そこがいい)。ウ˩マー パッ˥タ [ʔu˩maː pat˥ta](そこへ行った)。˥ウマナー プ˩ソー˥ タ˩タラ˥ヌ [˥ʔumanaː pu̠˩soː˥ ta̠˩tara˥nu](そこには人は生活できない＜立たれない＞)。ウ˩マ˥ヌ プ˩ソー [ʔu˩ma˥nu pu̠˩soː](そこの人は)。˥ウマン ˥ミリ [˥ʔumam ˥miri](そこも見ろ)。

ウ˩マー˥カマー [ʔu˩maː˥kamaː] 【代】あちらこちら。方々。いろいろな場所を表す。「其処彼処＜そこかしこ＞」の義。シゥ˩カイヤー˥ル ˩ドン˥ゴー ウ˩マー˥カマーナ シ˩キラン˥ドーシ シ˩ズ˥ミ シ˩キ˥リ [si̠˥kaija:˥ru ˩doŋ˥go: ʔu˩maː˥kamaːna ʃi̠˩kiran˥ doːʃi ʃi˩ʤu˥mi ʃi̠˩ki˥ri](使った道具はあちらこちらに置かないで片付けておきなさい)。

ウ˩マアラキカマアラ˥キ [ʔu˩maʔarakikamaʔara˥ki] 【連・副】あちらこちらぶらつくさま。ぶらぶらと歩き回ること。あちらこちら歩き回ること。ABCDEF-BCDE 型の重言。ウ˩マアラキカマアラ˥キ ˩シェー˥ティ ア˩サビマール シーベー [ʔu˩maʔarakika-maʔara˥ki ˩ʃeː˥ti ʔa˩sabimaːru ʃiːbeː](あちらこちらぶらついて遊びまわっている)。

ウ˞マシーカマ˥シー [ʔu˞maʃiːkama˥ʃiː] 【連】中途半端に仕事をするさま。腰を入れずに仕事をするさま。本気で仕事をしないさま。そこを手がけ、途中から別の所を手がけるような仕事振り。表面をなでるような仕事ぶり。「そこし、あそこし」の転訛したもの。ウ˞レー˥ シ˞グトゥバ˥ ウ˞マシーカマ˥シー ˞スンダ ダーッ˥サー ˞ナー˥ヌ [ʔu˞reː˥ ʃi˞gutuba˥ ʔu˞maʃiːkama˥ʃiː ˞sunda daːs˥saː ˞naː˥nu](彼は仕事をあっちこっち中途半端にするから、信頼できない＜良くない＞)。

ウ˞マシュカッティ˥ カ˞マシュカッ˥ティ [ʔu˞masi̥katti˥ ka˞masi̥kat˥ti] 【句】こっちぶつかり、あっちぶつかりして。「そこつかえ＜間え＞、あそこつかえ＜間え＞」の義。あちらこちらに突き当たって支障をきたす。ウ˞マシュカッティ˥ カ˞マシュカッ˥ティ シ˞ティ ピッ˥チン ˥マイ ˞ユーザラヌ [ʔu˞masi̥katti˥ ka˞masi̥kat˥ti ʃi̥˞ti pit˥tʃim ˥mai ˞juːʤaranu](あちらこちらに突き当たって支障をきたし、ちっとも前に進め＜寄られ＞ない)。

ウ˞マナシカマ˥ナシ [ʔu˞manaʃikama˥naʃi] 【連】あっちこっちに移すさま。そこに置いたり、あそこに置いたり、工夫して位置を変える。フ˞ニ˥ヌ ナ˞カ˥ナ ˞ニー˥バ ウ˞マナシカマ˥ナシ ˞シェー˥ティ シ˞ムンドゥ˥ ムー˞ロー ペーラン˥バン [ɸu˞ni˥nu na˞ka˥na ˞niː˥ba ʔu˞manaʃikama˥naʃi ˞ʃeː˥ti ʃi˞mundu˥ muː˞roː peːram˥baŋ](船の中で荷をあっちになしたり、こっちになしたりして工夫して積むのだが、全部は積めない)。

ウ˞マナディカマナ˥ディ [ʔu˞manadikama˥nadi]【連・副】そこを撫でたり、あそこを撫でたりするさま。肌をさすりさすり、大事にするさま。ウ˞レー タンガ˥ッふァ ヤ˞ルンダ˥ ウ˞マナディカマ˥ナディ サ˞レー˥ティ ス˞ダティラ˥レー˞ダー [ʔu˞reː taŋga˥ffa ja˞runda˥ ʔu˞manadikama˥nadi sa˞reː˥ti su˞datira˥reː˞daː](彼＜あれ＞は一人っ子だから、あっちなでこっちなでして肌を撫でさするようにして大事に育てられたのだよ)。

ウ˞マナリカマ˥ナリ [ʔu˞manarikama˥nari] 【連・副】落ち着かず頻繁に座席を変えるさま。あちらこちら座席を移すさま。あっち移り、こっち移りするさま。「そこになったり、あそこになったり」の義。ウ˞レー˥ ナー˞イ ドゥー˥ヌ シ˞キ˥ニナ ブ˞リサヌ˥ ウ˞マナリカマ˥ナリ ˞シー˥ ザ˞マバ シー ブー [ʔu˞reː˥ naː˞i duː˥nu ʃi̥˞ki˥nina bu˞risanu˥ ʔu˞manarikama˥nari ˞ʃiː˥ ʤa˞maba ʃiːbuː](あれ＜彼＞はじっと自分の席に居ることが出来ない。あちらこちら歩き回って他人の邪魔をしている)。

ウ˞マ˥ヌ ˥マーラー [ʔu˞ma˥nu ˥maːraː] 【連】そこらあたり。その近辺。その辺。ウ˞マ˥ヌ ˥マーラー イ˞シヌ ゴー˥ラーンダ パ˞タ˥キ ス˞クララ˥ヌ [ʔu˞ma˥nu ˥maːraː ʔi˞ʃinu goː˥raːnda pḁ˞ta˥ki su̥˞kurara˥nu](そこの辺りは石が多いので畑は作られない)。

ウ˞マパリカマ˥パリ [ʔu˞maparikama˥pari] 【連・副】あっち行ったり、こっち行ったり。あっちこっちうろつくさま。落ち着かず頻繁に歩き回るさま。右往左往するさま。ウ˞マパリカマ˥パリ ˞サンドー˥シ ウ˞ティ˥シキ ˞ベー˥リバ [ʔu˞maparikama˥pari ˞sandoː˥ʃi ʔu˞ti˥ʃi̥ki ˞beː˥riba](あっちこっちうろつかないで落ち着いていなさいよ)。ウ˞マパリカマ˥パリ ˞シェー˥ティ タ˞ナミ˥ル ヤッ˞トゥ˥シ ˞ニン˥ガイ シ˞ミ オーラシ˥タ [ʔu˞maparikama˥pari ˞ʃeː˥ti ta˞nami˥ru jat˞tu˥ʃi ˞niŋ˥gai ʃi˞mi ʔoːraʃi̥˥ta](あっち行ったりこっち行ったりして頼んで、やっとのことで祈願をさせて差し上げたのだよ)。

ウ˞マミー˥ カ˞マ˥ミー [ʔu˞mamiː˥ ka˞ma˥miː] 【連】そこをみたり、あそこを見たり。きょろきょろするさま。もの珍しく、せわしく辺りを見回すさま。パ˞ジミティ˥ ウ˞キ˥ナー ˞クー˥ター ウ˞マミー˥ カ˞マ˥ミー ˞シー˥ ムッ˞トゥ˥ ウ˞ティシュカ˥ヌ [pa˞ʤimiti˥ ʔu˞ki˥na: ˞kuː˥ta: ʔu˞mamiː˥ ka˞ma˥miː ˞ʃiː˥ mut˞tu˥ ʔu˞tisi̥ka˥nu](初めて沖縄に来たのできょろきょろして落ち着かない)。

ウ˞マミーカマ˥ミー [ʔu˞mami:kama˥miː] 【連・副】きょろきょろするさま。あちらを見たり、こちらを見たりするさま。ABCDEBCD 型の重言。「そこ見、あそこ見」の転訛したもの。ウ˞マミーカマ˥ミー シ˞ティ˥ ムッ˞トゥ˥ ウ˞ティシュカ˥ヌ [ʔu˞mami:kama˥miː ʃi̥˞ti˥ mut˞tu˥ ʔu˞tisi̥ka˥nu](あっちを見たりこっちを見たり、きょろきょろして、ちっとも落ち着かない)。

ウ˞マミリカマ˥ミリ [ʔu˞mamirikama˥miri] 【連・副】きょろきょろ。落ち着かず、せわしくあたりを見回すこと。情緒不安定な様。ク˞ヌ˥ ッ˞ふァー˥ ウ˞マミリカマ˥ミリ ˞シー˥ ムッ˞トゥ˥ ウ˞ティシュカン˥バン [ku˞nu˥ f˞faː˥ ʔu˞mamirikama˥miri ˞ʃiː˥ mut˞tu˥ ʔu˞tisi̥kam˥baŋ](この子はあっち見たりこっち見たりきょろきょろして、ちっとも落ち着かないわい)。

˥ウマンカマン [˥ʔumaŋkamaŋ] 【連】そこも、あそこ

も。どこも (何処も)・かしこも (彼処も)。ABCDBC 型の重言。˩プール˥ヌ　˥ピンマー　˩タッ˥テー　˩カッ˥テーティ　˩ナー˥ン　˥ウマンカマン　ムー˩ル　プール˥ムチ　ス˩ク˥ルンティル　˩オー˥ル [˩puːru ˥nu ˥pimmaː ˩tat˥teː ˩kat˥teːti ˩naː˥ŋ ˥ʔumaŋkamam muː˩ru puːru˥mutʃi sɥ˩ku˥runtiru ˩ʔoː˥ru](豊年祭の時は何処そこの家となく、何処もかしこ < 何処の家 > も皆豊年祭の餅を作ろうとしておられる)。

˥ウマンタ [˥ʔumanta] 【代】そちら。その辺り。そこら辺 (中称)。˥クマンタ [˥kumanta](こちら。この辺。ここら辺) 近称、˥カマンタ [˥kamanta](あちら。あの辺。あちら辺) 遠称、などの代名詞の一種。カイ˩ブ˥ツァー　シゥ˩カーンバ˥　ウマンター　˥ナシ　シ˩キ˥リバ [kai˩bu˥tsaː sɨ˩kaːmba˥ ʔumantaː ˥naʃi ʃi˩ki˥riba](こんな物は使わないから、そこら辺に片付けて < そこら辺になして > おきなさいよ)。

ウ˩マンチュ [ʔu˩mantʃu] 【名】衆人。人民。大衆。歌謡語。沖縄本島首里方言の「?umaNcu(御真人・御万人。人民)」からの借用語。「/ウブシクヌ　マブルシュー　アミブシャヌ/ウブトゥムル　カミガナシ　アミブシャヌ/ウマンチュヌ　ニガイヤ　アミブシャヌ/アカカラジヌ　ニガイヤ　アミブシャヌ/(大グスクの守り神さま、雨が欲しいのです、大友利御嶽の神様、雨が欲しいのです。大衆 < 人民 > の願いは、雨が欲しいのです、百姓の願いは、雨が欲しいのです)」(『雨乞い歌』< トゥムルウガン・ナガミク >) と歌われている。

˥ウミ [˥ʔumi] 【名】海。日常会話では用いない。歌謡語として用いられる。八重山地方に流布しているン˩ゾーニンブツァー [n˩ʤoːnimbutsaː](無蔵念仏節) に/ウヤヌ　ウグヌヤ　フカキムヌ　チチグヌ　ウグヌヤ　ヤマタカサ　ハハグヌ　ウグヌヤ　ウミフカサ/(親のご恩は深きもの、父御のご恩は山の如く高く、母御のご恩は海のように深い)(『沖縄文化』通巻 36・37 号、「八重山地方に流布する念仏歌について」)。

˥ウミイシ [˥ʔumiʔiʃi] 【名】 1珊瑚石。菊目石 < 海花石 > にもいう。ス˩ブル˥イシ [su˩buru˥ʔiʃi](半球形の珊瑚石、キクメイシ < 菊目石 >) と同じ。˥ウミイシヌ　ア˩リ˥バ　˥フネー　˩ハーガラサン˥ヨーニ　˩マーシェーマーシェー　シェーティ˥　クーバ [˥ʔumiʔiʃinu ʔa˩ri˥ba ˥ɸuneː ˩haːgarasaŋ˥joːni ˩maːʃeːmaːʃeː ʃeː˥ti ˥kuːba](海中に菊目石があるから船を乗り上げないように回し回しして < 海石を避けて。迂回させて > 来なさいよ)。2海の石。タ˩カ˥ビー [ta̠˩ka˥biː](高干瀬。島の南南東の干瀬) には海底噴火時に打ち上げられたという海石があったという。鳩間島の˩グス˥ク [˩gusɥ̠˥ku](石垣) は、島人がこれらの海石を運んで積み上げたものという。

ウ˩ミ˥カジ [ʔu˩mi˥kaʤi] 【名】潮風。「海風」の義。海を渡ってそよいでくる涼しい風。˩バン˥テーヤ　パ˩マバ˥タヤー　ヤ˩ルンダ˥　ウ˩ミカジ˥ヌ　˩スイティ˥　イッ˩ケン˥　ピ˩ラ˥ケータン [˩ban˥teːja pa˩maba˥taja: ja˩runda˥ ʔu˩mikaʤi˥nu ˩suiti˥ ʔik˩kem˥ pi˩ra˥keːtaŋ](私の家は海岸端の家だから、海風がそよいで非常に涼しかった)。

ウ˩ミ˥キ [ʔu˩mi˥ki] 【名】お神酒。「神酒」に尊敬の接頭辞ウ [ʔu](御) が付いたもの。ウ˩ミ˥キン　マ˩ラソー˥リ [ʔu˩mi˥kim ma˩rasoː˥ri](お神酒も醸造 < 産まれさせ > なされませ)。

ウ˩ミザラ˥シ [ʔu˩miʤara˥ʃi] 【名】海晒し。織り上げた芭蕉布や麻布を海岸の海中で洗って晒すこと。ム˩カ˥シェー　˥バサキンヌン　˥ブーキンヌン　ス˩ナカ˥ナーティ　ア˩ライティ˥　サ˩ラソーッ˥タツォー [mu˩ka˥ʃeː ˥basakinnum ˥buːkinnun su˩naka˥naːti ʔa˩raiti˥ sa˩rasoːt˥tatso](昔は芭蕉布も麻布も海の中で洗って海晒しにされたそうだ)。˩スーザラ˥シ [˩suːʤara˥ʃi](潮晒し) ともいう。

ウミ˩ナーク [ʔumi˩naːku] 【副】ほっとするさま。一安心するさま。精神的に安らぐさま。「思い無く」転訛か。ッ˩ふァンケー˥ヌ　˩ヨイ˥ユン　ウ˩チナ˥ソーリ　˥メー　ウミ˩ナーク　ソー˥レーチバン [f˩faŋkeː˥nu ˩joi˥juŋ ʔu˩tʃina˥soːri ˥meː ʔumi˩naːku soː˥reːtʃibaŋ](子供達のお祝いも無事に済まされてほっとされましたねえ)。ウ˩ヤ˥ヌ　ウ˩サンギソッコーン˥　ウ˩チナ˥ソーリ　ウミ˩ナーク　ソー˥レーンミー [ʔu˩ja˥nu ʔu˩saŋgisokkoːŋ˥ ʔu˩tʃina˥soːri ʔumi˩naːku soː˥reːmmiː](親の三十三年忌焼香 < 法事 > もうち済まされて安心なされたことでしょうね)。

ウミ˩ナーク　スン [ʔumi˩naːku suŋ] 【連】ほっとする。ことが成就してほっとする。安心する。「思いなくする」の転訛か。カ˩ジヌ˥　フクティ　ウ˩ヌス˥ク　˩ソーバ　シー　ベータ˥ヌ　˩マイカリン˥　ウ˩チナ˥シ　ウミ˩ナーク　シェー˥チバン [ka˩ʤinu˥ ɸɥ̠kuti ʔu˩nusɥ̠˥ku ˩soː ʃiː beːta˥nu ˩maikariŋ˥ ʔu˩tʃina˥ʃi ʔumi˩naːku ʃeː˥tʃibaŋ](台風が吹くといって、あれほど心配していた稲刈りも無事に済ませてほっとしたわい)。

ウ˩ムー˥タ　˩トゥー˥ル [ʔu˩muː˥ta ˩tuː˥ru] 【連】思った通り。予想通り。˥バー　ウ˩ムー˥タ　˩トゥー˥ル

˩オーシケー　ノー˥リ　˥ケーン [˥baː ʔu˩muː˥ta ˩tuː˥ru ˩ʔoːʃi̥keː noː˥ri ˥keːŋ](私が思った通り、天気は良くなって＜直って＞きた)。

˥ウムームティ [˥ʔumuːmuti] 【副】思うほど＜愛すれば愛するほど＞～。思うにつれて～。思えば思うほど～。˩ワー˥　ッ˩ふァヌ˥　クトゥ　˥ウムーカー　˥ウムームティ　ッ˩ふァン˥　ウ˩ヤ˥ヌクトゥ　˥ウムーン [˩waː˥ ˩ffanu˥ kṵtu ˥ʔumuːka ˥ʔumuːmuti ˩ffaŋ˥ ʔu˩ja˥nu ˥kṵtu ˥ʔumuːŋ](君が子供のことを思えば思うほど子供も親のことを思う)。

˥ウムーン [˥ʔumuːŋ] 【他動】1思う。物事について、ある判断を表す。「～長くとぞ於毛布＜オモフ＞。万、4499」の転訛か。˩ワー˥　ヌーティ　ウ˩ムー˥ワ [˩waː˥ nuːti ʔu˩muː˥wa](君は何と＜どう＞思うか＜疑問＞)。˥バー　˥アイヤー　ウ˩モー˥ヌ [˥baː˥ ʔaija: ʔu˩moː˥nu](私は、そうは思わない＜否定の断定＞)。カ˩リン˥　アイ　˥ウムーンカヤー [ka˩riŋ˥ ʔai ˥ʔumuːŋkaja:](彼＜あれ＞もそう思うかな＜疑問、推測＞)。˩バン˥ヌン　˥アイ　ウ˩ムー˥タン [˩ban˥nuŋ ˥ʔai ʔu˩muː˥taŋ](私もそう思った＜過去＞)。タ˩ビ˥ナ　˩ベー˥ティ　トゥ˩ジッふァヌ˥　ク˩トゥ˥バ　˥ウムイ　ニ˩バランシェン [ta˩bi˥na ˩beː˥ti tu˩ʤiffanu˥ ku˩tu˥ba ˥ʔumui ni˩baraŋʃen](旅にいて妻子のことを思い、眠れなかった)。˥アイヤー　ウ˩モー˥ヌ [˥ʔaija: ʔu˩moː˥nu](そうは思わない)。˥アイ　ウ˩ムイ˥プサン [˥ʔai ʔu˩mui˥pusaŋ](そう思いたい)。˩ワーンドゥ˥　アイ　˥ウムーカー　˩バン˥ヌン　˥アイ　˥ウムーン [˩waːndu˥ ʔai ˥ʔumuːka: ˩ban˥nuŋ ˥ʔai ˥ʔumuːŋ](君がそう思うなら、私もそう思う)。˥アイニ　˥ウムー　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [˥ʔaini ˥ʔumu: pu˩soː˥ bu˩raːnu](そう思う人はいない)。˥バーン　˥カタチニ　ウ˩ムイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˥baːŋ˥ katatʃini ʔu˩mui˥jaː ˥misamunu](私のように思えばよいのに)。˥カイ　˥ウムイバ [˥kai ˥ʔumuiba](こう思いなさいよ)。2愛する。心配する。˥バー　カ˩ヌ˥ミ˩ドーン˥ッふァバル　˥ウムイ　˩ブー [˥baː ka˩nu˥ mi˩doːŋ˥ ffabaru ˥ʔumui ˩buː](私はあの女の子を思って＜愛して＞いる)。トゥ˩ジッふァヌ˥　クトゥン　ウ˩ムイ˥ヤー　˥ミサムヌ [tu˩ʤiffanu˥ kṵtuŋ ʔu˩mui˥jaː ˥misamunu](妻子のことも思えば＜心配したら＞良いのに)。˩ドゥー˥ヌ　˥クトゥン　˥ウムイバ [˩duː˥nu ˥kṵtuŋ ˥ʔumuiba](自分のことも考えろ＜心配しろ＞)。˩ワーヨー˥　ウムイ˩ふィール˥プ˩スティン　ブン˥カヤー [˩waː joː˥ ʔumui˩fiːru˥ pṵ˩sutim buŋ˥kaja:](君を愛してくれる人がいるかねえ)。

˥ウムイ [˥ʔumui] 【名】1思い。考え。愛情。いとしく＜愛しく＞思うこと。動詞˥ウムーン [˥ʔumuːŋ](思う)の連用形からの転成名詞。˩ワー˥　ウ˩ムイ˥ヤー　˥バー　ウ˩ムイ˥トー　ア˩タラヌ [˩waː˥ ʔu˩mui˥jaː ˥baː ʔu˩mui˥toː ʔa˩taranu](君の考え＜思い＞は私の思い＜考え＞とは相容れない＜当らない＞)。プ˩スヌ˥　ッ˩ふァ˥　ウ˩ムイ˥ヤー　˩ンーナウムイ˥ティ　ア˩ザリブー [pṵ˩sunu˥ ffa˥ ʔu˩mui˥jaː ˩ʔnːnaumui˥ti ʔa˩ʤaribuː](他人の子を可愛がって育てる思い＜愛情＞は空しい愛情だ＜報われない愛情だ＞と言われている)。2心配すること。˩ソーバ　シーベータン˥ドゥ　ウ˩ムイ˥ヌ　˥フカ　ヤ˩シーヤシー˥シ　シ˩マサレー˥ツバン [˩soːba ʃiː beːtan˥du ʔu˩mui˥nu ɸṵka ja˩ʃiːjaʃiː˥ʃi ʃi˩masa˥reːtsubaŋ](心配していたが、案外簡単＜易々と＞済まされたわい)。

ウ˩ムイアタ˥ルン [ʔu˩muiʔata˥ruŋ] 【自動】思い当たる。納得する。経験的になるほどと気付く。ム˩カ˥シムニ　ス˩クカー　ウ˩ムイアタ˥ル　ク˩トゥ˥ヌ　˥アン [mu˩ka˥ʃimuni sṵ˩ku˥ka: ʔu˩muiʔata˥ru kṵ˩tu˥nu ˥ʔaŋ](昔の諺を聞くと、なるほどと思い当たることがある)。

ウ˩ムイカー˥ムイ [ʔu˩muikaː˥mui] 【連・副】こう思い、ああ思いすること。思いあぐねるさま。思い悩んで、逡巡すること。˩キュー˥ヤ　イ˩サナケーラ˥フ˩ニ˥ヌ　˩ペー˥ルンダラティ　ウ˩ムイカー˥ムイ　˩シール　パイ˥ター　パ˩リマー˥キ　˩ベート ツォー [˩kjuː˥ja ʔi˩sanakeːra˥ ɸu˩ni˥nu ˩peː˥rundarati ʔu˩muikaː˥mui ˩ʃiːru pai˥taː paˈrimaː˥ki ˩beːꜜtsoː](今日は石垣島より船が入港するだろうか、如何だろうかと思いあぐねて西表島＜南風端 (はいばた)＞へ行きかねているんだよ)。

ウ˩ムイカイ˥スン [ʔu˩muikai˥suŋ] 【他動】思い返す。過去のことを改めて考える。イ˩クサユー˥ヌ　ク˩トゥ˥バ　ウ˩ムイカイ˥シ　˥ミルカー　マ˩タトゥ˥　イ˩ク˥サ　˩シェー˥　ナ˩ラン˥ティ　ウ˩モー˥リ [ʔi˩kusaju:˥nu kṵ˩tu˥ba ʔu˩muikai˥ʃi ˥miruka: ma˩tatu˥ ʔi˩ku˥sa ˩ʃeː˥ na˩ran˥ti ʔu˩moː˥ri](戦争時のことを思い返してみると、二度と戦争をしてはならないと思われる)。˩サイ˥サイ　イ˩クサユー˥ヌ　˥クトゥ　ウ˩ムイカイ˥スン˩ダー [˩sai˥sai ʔi˩kusaju:˥nu ˥kṵtu ʔu˩muikai˥sun˩da:](度々戦争時のことを思い返すよ)。

ウ˩ムイガカ˥リ [ʔu˩muigaka˥ri] 【名】心に留めること。気掛かりなこと。何か変だと思うこと。キ˩ム˥ウ

チナー　ウ˞ムイガカリ˥ヌ　˥アルカー　˞サンモー˥　マ˞シ [ki˞mu˥ʔutʃina: ʔu˞muigakari˥nu ˥ʔaruka: ˞sammo:˥ ma˞ʃi](心に引っ掛かるもの＜気がかりなもの＞があれば、しないほうがよい)。

ウ˞ムイ˥キシ [ʔu˞mui˥kʲʃi] (1)【名】思い切り。思い切ること。断念すること。あきらめ。ビ˞キドゥモー˥　ウ˞ムイキシ˥ル　˞カンヌー˥　マ˞タ　モーキラ˥リ　˥クトゥン　ア˞リ˥ス [bi˞kidumo:˥ ʔu˞muikʲʃi˥ru ˥kannu:˥ ma˞ta mo:kira˥ri ˥kʷtuŋ ʔa˞ri˥su](男は思い切りが肝要だ。また儲けられることもあるものだ)。 **(2)**【副】程度・分量の甚だしいさま。非常に。思う存分。思い切って。力いっぱい。動詞ウ˞ムイ˥キスン [ʔu˞mui˥kʲsuŋ](思い切る。) の連用形から転成したもの。˞ワー　シー˥プサン　˥ヨーニ　ウ˞ムイ˥キシ　˞シー˥ミリバ [˞wa: ʃi:˥pusaɲ ˥jo:ni ʔu˞mui˥kiʃi ˞ʃi:˥miriba](君がしたいように思い切りやってみなさいよ)。キ˞ム˥フグンケン　ウ˞ムイ˥キシ　ッ˞ふァイ˥バ [ki˞mu˥ɸuguŋkeŋ ʔu˞mui˥kʲʃi f˞fai˥ba](満足するまで思う存分に食べなさいよ)。ウ˞ムイ˥キシ　˞ナン˥ギバ [ʔu˞mui˥kʲʃi ˞naŋ˥giba](思う存分に＜力いっぱい＞投げなさいよ)。

ウ˞ムイ˥キスン [ʔu˞mui˥kʲsuŋ]　【他動】 1思い切る。決心する。ム˞チ˥キサタンティン　ウ˞ムイ˥キシ　˥シキン　˥ウキミリバ [mu˞tʃi˥kʲsatantiŋ ʔu˞mui˥kʲʃi ʃʲkiŋ ˥ʔuki ˥miriba](難しくても思い切って＜決心して＞試験を受けてみなさいよ)。2諦める。断念する。˞ウーズンバ　シーベー˥ヌンドゥ　ヌ˞チ˥ドゥ　タ˞カ˥ラティ　˞シー˥　ウ˞ムイ˥キシ　˞ベー [˞ʔu:ʤumba ʃi:be:˥nundu nu˞tʃi˥du tʰ˞ka˥rati ˞ʃi:˥ ʔu˞mui˥kʲʃi ˞be:](大損をしているが、命が宝だといって、諦めている＜思い切っている＞)。アス˞ヌ˥　ウ˞ムイキサラ˥ヌ [ʔa˞sunu˥ ʔu˞muikisara˥nu](だが諦められない)。˞ワー˥　ウ˞ムイ˥キスカー　˞バン˥ヌン　ウ˞ムイ˥キスン [˞wa:˥ ʔu˞mui˥kʲsuka: ˞ban˥nuŋ ʔu˞mui˥kʲsuŋ](君が決心したら＜思い切るなら＞私も決心する)。˞パー˥ク　ウ˞ムイ˥キシェー　˥ミサムヌ [˞pa:˥ku ʔu˞mui˥kʲʃe: ˥misamunu](早く諦めれば＜決心すれば＞よいのに)。˥アイブムノー　ウ˞ムイ˥キシ [˥ʔaibumuno: ʔu˞mui˥kʲʃi](あんなものは諦めろ)。

ウ˞ムイクガリ˥ルン [ʔu˞muikugari˥ruŋ]　【自動】思い焦がれる。いちずに恋い慕う。ウ˞ヌ˥　ッ˞ふァヌ˥　ク˞トゥ˥バ　ウ˞ムイクガ˥リティル　˥アイニ　˞ヨーガリ　アー˥ク　ダ˞レー [ʔu˞nu˥ f˞fanu˥ kʷ˞tu˥ ba ʔu˞muikuga˥ritiru ˥ʔaini ˞jo:gari ʔa:˥ku da˞re:](その子のことを一途に恋い慕って、あんなに痩せ細っているのだよ)。プ˞スケン˥マー　˥アイニ　ウ˞ムイクガラリ˥　ミ˞リ˥プサワ˞ナー [pʷ˞sukem˥ma: ˥ʔaini ʔu˞muikugarari˥ mi˞ri˥pʷsuwa˞na:](一度ぐらいは、あのように思い焦がられてみたいものだねえ)。ウ˞ムイクガリ˥ル　プ˞スンドゥ˥　ブ˞ラーントツォー [ʔu˞muikugari˥ru pʷ˞sundu˥ bu˞ra:nˈtso:](思い焦がれる人がいないのだよ)。ター˞ンヤラバン˥　ウ˞ムイクガリ˥リバ [ta:˞ɲjarabaŋ˥ ʔu˞muikugari˥riba](誰でもいいから一途に恋い慕いなさいよ)。˥アイニ　ウ˞モー˥リカー　˞ワー˥　ア˞ラン˥タンティン　ウ˞ムイクガリ˥ルンヨー [˥ʔaini ʔu˞mo:˥rika: ˞wa:˥ ʔa˞ran˥tantiŋ ʔu˞muikugari˥ruɲjo:](あんなに思われたら、君でなくても思い焦がれるよ＜一途に恋い慕うよ＞)。

ウ˞ムイクガ˥ルン [ʔu˞muikuga˥ruŋ]【自動】思い焦がる。恋い慕って思い悩む。一途に恋しく思う。バ˞カーン˥ケンマー　ミ˞ドーン˥ッふァー　ウ˞ムイクガ˥ルンダ　˞キー˥　シ˞キ˥リ˞ヨー [ba˞ka:ŋ˥kemma: mi˞do:ŋ˥ffa: ʔu˞muikuga˥runda ˞ki:˥ ʃʲ˥ki˥ri˞jo:](若い頃は女の子は一途に恋い慕う＜思い焦がれる＞から、気を付けなさいよ)。トゥ˞シ˥　トゥルカー　ウ˞ムイクガ˥ル　˥クトゥン　˞ナー˥ヌ [tʷ˞ʃi˥ turuka: ʔu˞muikuga˥ru ˥kʷtun ˞na:˥nu](年を取ると思い焦がれることも無い)。

ウ˞ムイ˥クムン [ʔu˞mui˥kumuŋ]　【自動・他動】固く決心する。固く信じる。深く愛する。「思い込む」の義。˞カンヌマイ˥ヌ　˞タシ˥キ　˞フォー˥ルンティ　ウ˞ムイ˥クミ　˞ベー˥タ [˞kannumai˥nu ˞taʃʲ˥ki ˞fo:˥runti ʔu˞mui˥kumi ˞be:ta](神様が助けてくださると固く信じていた)。ウ˞ヌ˥　ミ˞ドゥム˥ヌ　ク˞トゥ˥バ　ウ˞ムイ˥クミティル　フ˞カ˥ヌ　ミ˞ドゥム˥ヨー　˞ミー˥ムタインツァン　サ˞ヌ [ʔu˞nu˥ mi˞dumu ˥nu kʷ˞tu˥ba ʔu˞mui˥kumiti ɸʷ˞ka˥nu mi˞dumu˥jo: ˞mi:˥mutaintsan sa˞nu](その女のことを深く愛してしまって、他の女のことは歯牙にもかけない。見向きもしない)。

ウ˞ムイザ˥スン [ʔu˞muiʤa˥suŋ]【他動】思い出す (ぞんざいな表現)。丁寧な言い方は、ウ˞ムインザ˥スン [ʔu˞muinʤa˥suŋ](思い出す) という。˥トゥシトゥ˞ル˥ター　ム˞ヌバシキ˥ヌ　˞スーワ˥ヌ　ウ˞ムイザ˥スンティ　˞スーヌ˥　ムッ˞トゥ˥　ウ˞ムイザサラ˥ヌ [˥tʷʃi tu˞ru˥ta: mu˞nubaʃʲ˥ki˥nu ˞su:wa˥nu ʔu˞muiʤa˥sunti ˞su:nu˥ mut˞tu˥ ʔu˞muiʤasara˥nu](年をとったので、物忘れがひどくて思い出そうと

するが、ちっとも思い出されない)。ウ˞ムイザ˥シ　ミ˞リ˥バ [ʔu˞muidʑa˥ʃi mi˞ri˥ba](思い出してみると)。ウ˞ムイザ˥ス　クトゥン　ナ˞ラ˥ヌ [ʔu˞muidʑa˥su ˥kʉ̥tun na˞ra˥nu](思い出すことも出来ない＜ならない＞)。˞パー˥ク　ウ˞ムイザ˥シェー　ミサムヌ [˞paː˥ku ʔu˞muidʑa˥ʃeː ˥misamunu](早く思い出せばよいのに)。ノー˞ン　ヤラバン˥　ウ˞ムイザ˥シ [noː˞ɲ jarabaŋ˥ ʔu˞mui˥dʑaʃi](何でもいいから思い出せ)。

ウ˞ムイ˥シギ [ʔu˞mui˥ʃigi] 【名】思い過ごし。考えすぎ。ウ˞レー　ワー˥　ウ˞ムイ˥シギ　ヤ˞リバ˥　アイヤー　ア˞ザン˥　ブ˞リ˥バ [ʔu˞reː waː˥ ʔu˞mui˥ʃigi ja˞riba˥ ʔaija: ʔa˞dʑam˥ bu˞ri˥ba](それは君の思い過ごし＜考え過ぎ＞だから、あんなには言わないでよ)。

ウ˞ムイ˥スクン [ʔu˞mui˥sʉ̥kuŋ]【自動】思いつく。気付く。˞ワー˥　ア˞ズタ˥クトー　˞ピッ˥チン　ウ˞ムイシゥカ˥ムティ　ナー˞イ˥　ウ˞リバ˥　イ˞ジブレー˥バン　ヌヤー [˞waː˥ ʔa˞dʑuta˥kʉ̥to: ˞pit˥tʃiŋ ʔu˞muisʲ̥ka ˥muti naː˞i˥ ʔu˞riba˥ ʔi˞dʑibureː˥ban ˥nujaː](君が言ったことにちっとも気付かずに、ただこの子を叱っていたんだわい。何ということだ、これは)。˞ワーンドゥ˥　ウ˞ムイ˥スクカー　˞バン˥ヌン　ウ˞ムイ˥スクンヨー [˞waːndu˥ ʔu˞mui˥sʉ̥kuka: ˞ban˥nun ʔu˞mui˥sʉ̥kuŋjoː](君が気付いたら＜思いついたら＞僕も気付くよ＜思いつくよ＞)。ウ˞ムイシキヤッ˥サン [ʔu˞muiʃʲ̥kijas˥saŋ](気付き早い＜思いつきやすい＞)。ウ˞ムイ˥シケーミサムヌ [ʔu˞mui˥ʃʲ̥keː ˥misamunu](気付けばよいものを)。˞パイ˥サ　ウ˞ムイシキ˥リ [˞pai˥sa ʔu˞muiʃʲ̥ki˥ri](早く気付けよ)。

ウ˞ムイ˥タトゥン [ʔu˞mui˥tatuŋ] 【他動】思い立つ。ある事をしようと決意する。プ˞スヌ˥　ッ˞サン　モーキザ˥ク　ウ˞ムイ˥タトゥ　˥クトー　ウ˞ムイタトゥン˥ドゥ　シ˞ビバー˥キ　˞トゥーシユサン˥バン [pʉ˞sunu˥ s˞sam moːkidʑa˥ku ʔu˞mui˥tʉ̥tu ˥kʉ̥to: ʔu˞muitatun˥du ʃi˞biba:˥ki ˞tuːʃijusam˥baŋ](他人の知らない商売を思い立つことは思い立つが、最後まで実行する＜通す＞ことができない)。

ウ˞ムイ˥ダルン [ʔu˞mui˥daruŋ] 【動】思い疲れる。ナー˞イ˥　ウ˞ヌクトゥ˥バ　カー˞ニ˥　˥ウムイ˞ベータン˥ドゥ　ウ˞ムイ˥ダリティ　ニ˞ビナーン˥バン [naː˞i˥ ʔu˞nukutu˥ba ka:˞ni˥ ʔumui˞beːtan˥du ʔu˞mui ˥dariti ni˞binaːm˥baŋ](じっとそのことをだけ思っていたが、思いつかれて寝てしまってワイ)。

ウ˞ムイ˥ツァーン [ʔu˞mui˥tsaːŋ] 【形】惜しい。もったいない (勿体無い)。「思い・痛さ・あり」の転訛したもの。「おめちやさ　おもひいたさ」『混効験集』とある。ク˞ヌ　キン˥マー　キ˞サリスムヌ˥　ウ˞ムイツァー˥ヌ　シ˞ティララヌ [ku˞nu kim ˥maː ki˞sarisumunu˥ ʔu˞muitsaː˥nu ʃi˞tiraranu](この着物はまだ着られるのに、もったいなくて＜惜しくて＞捨てられない)。カ˞ブ˥ツァ　˥ムノー　ウ˞ムイ˥ツァー　˞ナー˥ヌ [ka˞bu˥tsa ˥muno: ʔu˞mui˥tsaː ˞naː˥nu](こんなものは惜しくはない)。ウ˞ムイ˥ツァー　˥ナリ　シ˞ティラランバン [ʔu˞mui˥tsaːnari ʃi̥˞tirarambaŋ](惜しくなって捨てられないわい)。˥ドゥク　ウ˞ムイツァー˥ヌ　シ˞ティダケー　ナー˥ヌ [˥duku ʔu˞muitsaː˥nu ʃi̥˞tidake: naː˥nu](あまりにも惜しくて捨てられそうにない)。ウ˞ムイ˥ツァーカー　シ˞ティルナ [ʔu˞mui˥tsaːka: ʃi̥˞tiruna](惜しかったら捨てるな)。ク˞ヌ　キン˥マー　ウ˞ムイツァー˥ヌ　シ˞ティララヌ [ku˞nu kim˥maː ʔu˞muitsaː˥nu ʃi̥˞tiraranu](この着物は惜しくて捨てられない)。ノー˞ン˥　ウ˞ムイ˥ツァー　˞ナー˥ヌ [ʔu˞mui˥tsaː ˞naː˥nu](何も惜しくはない)。˥アイニ　˥ウムーカー　ウ˞ムイ˥ツァー　ナ˞リ˥スバン [˥ʔaini ˥ʔumuːkaː ʔu˞mui˥tsaː na˞ri˥subaŋ](そのように思ったら惜しくなってくるワイ)。˞ピッ˥チン　ウ˞ムイ˥ツァー　˞ナー˥ヌ [˞pit˥tʃiŋ ʔu˞mui˥tsaː ˞naː˥nu](ちっとも惜しくない)。ウ˞ムイ˥ツァー　˥クトー　ウ˞ムイ˥ツァーンドゥ　˞カーサン˥カー　ナ˞ラ˥ヌ [ʔu˞mui˥tsaː ˥kʉ̥to: ʔu˞mui˥tsaːndu ˞kaːsaŋ˥kaː na˞ra˥nu](惜しいことは惜しいんだが売らなければならない)。ウ˞ムイ˥ツァーカー　˞カーサン˥　ブ˞リ˥バ [ʔu˞mui˥tsaːkaː ˞kaːsam˥ bu˞ri˥ba](惜しければ売るな＜売らないでおきなさい＞よ)。

ウ˞ムイ˥ツァムン [ʔu˞mui˥tsamuŋ]【他動】ねたむ (妬む)。心に秘めて恨む。「思い・掴む」の義。[ʔumui]・[tsukamu] の [ts] が [tʃi] となり、次の [k] が前接の狭母音 [i] により、口蓋化して [tʃa] と転訛したものが再転訛して [tsa] となったもの。ウ˞ヌ˥　プ˞スン˥　イ˞ザリタ˥　ク˞トゥ˥バ　ウ˞ムイ˥ツァミティ　マ˞ナマー˥キン　˞バシキラン˥ダ˞レー [ʔu˞nu˥ pʉ˞suŋ˥ ʔi˞dʑarita˥ kʉ˞tu˥ba ʔu˞mui˥tsamiti ma˞namaː˥kim ˞baʃʲ̥kiran˥da˞reː](その人に叱られたことを根に持って＜心に深く秘めて恨んで＞、未だに＜今までも＞忘れないのだよ)。ヤ˞ラ˥ビ　˞シェーン˥ケン　イ˞ザリタ˥　ク˞トゥ˥バ　マ˞ナマバー˥キン　ウ˞ムイ˥ツァミ　˞ベー [ja˞ra˥bi ˞ʃeːŋ˥keŋ ʔi˞dʑarita˥ kʉ˞tu˥ba ma˞namaba:˥kiŋ ʔu˞mui˥tsami ˞beː](子供の

頃に叱られたことを今まで根に持って＜妬んで＞いる)。ウ˞レー˥　イ˞ザリ˥カー　ウ˞ムイ˥ツァムンダ　ウ˞ムイツァマラン˥　ヨーニ　パ˞ナ˥シバ [ʔu˞reː˥ ʔi˞ʤari˥kaː ʔu˞mui˥tsamunda ʔu˞muitsamaraɲ˥ joːni pa˞na˥ʃiba](彼は叱られると根に持つから、妬まれないように話しなさいよ)。カ˞レー˥　ウ˞ムイ˥ツァム　プ˞ソー˥　ア˞ラ˥ヌ [ka˞reː˥ ʔu˞mui˥tsamu pu̥˞soː˥ ʔa˞ra˥nu](あの人は、根に持つ＜妬(ネタ)む＞人ではない)。ウ˞ムイ˥ツァメー　˥ミサムヌ [ʔu˞mui˥tsameː˥ misamunu](妬めば良いのに)。ウ˞ムイ˥ツァミバ [ʔu˞mui˥tsamiba](妬めよ)。

ウ˞ムイツミ˥ルン [ʔu˞muitsumi˥ruŋ] 【他動】思い詰める。一途に思いこむ。深く思い悩む。ウ˞レー˥　ドゥク　イ˞ズ˥カー　ウ˞ムイツミ˥ルン˞ダー [ʔu˞reː˥ duku ʔi˞ʤu˥kaː ʔu˞muitsumi˥run˞daː](彼＜それ＞は、あまり叱ると思いつめるよ)。˞ニンギン˥マー　ター˞ン　アイマ˥チェー　ア˞リ˥ブ　˥アイニ　ウ˞ムイツミラン˥モー　マ˞シ [˞niŋgim˥maː taː˞ŋ ʔaima˥ʧeː ʔa˞ri˥bu ˥ʔaini ʔu˞muitsumiram˥moː ma˞ʃi](人間は誰にも誤りはある。あんなに思い悩まない＜思い詰めない＞方がいい)。˥アイニ　ウ˞ムイツミ˥ルカー　˞デー˥ジ　˞シース [˥ʔaini ʔu˞muitsumi˥ruka˞deː˥ʤi ˞ʃiːsu](あんなに思い悩む＜思い詰める＞と大変なことになる)。ウ˞ムイツミ˥ル　˥クトー　ス˞ナト ヨー [ʔu˞muitsumi˥ru ˥ku̥toː su˞naɨ-joː](思い詰めることはするなよ)。ウ˞ムイツミ˥レー　˥ミサムヌ [ʔu˞muitsumi˥reː ˥misamunu](思い悩めば＜思い詰めれば＞良いのに)。ウ˞ムイツミ˥リ [ʔu˞muitsumi˥ri](思い詰めろ＜お恋悩め、思いこめ＞)。

ウ˞ムイ˥ツムン [ʔu˞mui˥tsumuŋ] 【他動】思い詰める。一途に思いこむ。思い悩む。「おもいつむ (思い詰む) 下二段活用」の四段活用化し、転訛したもの。ウ˞ムイツマ˥ヌ [ʔu˞muitsuma˥nu](思い詰めない)。ウ˞ムイ˥ツミティ [ʔu˞mui˥tumiti](思い詰めて)。ヤ˞ラ˥ベー　˥ドゥク　イ˞ズ˥カー　ウ˞ムイ˥ツムン˞ダー [ja˞ra˥beː ˥duku ʔi˞ʤu˥kaː ʔu˞mui˥tsumun˞daː](子供は、むやみに叱ると思い詰めるよ＜思い悩むよ＞)。ウ˞ムイ˥ツム　˥クトゥン　˥アン [ʔu˞mui˥tsumu ˥ku̥tuɲ ˥ʔaŋ](思い詰めることもある)。ウ˞ムイ˥ツメー　˥ミサムヌ [ʔu˞mui˥tsumeː misamunu](思い詰めればいいのに)。ウ˞ムイ˥ツミバ [ʔu˞mui˥tsumiba](一途に思い込め＜思いつめろ＞)。

ウ˞ムイ˥トゥ　ア˞タラヌ [ʔu˞mui˥tu ʔa˞taranu] 【連】予想と違って。こちらの思いと対応しない。ウ˞リヌ˥　ク˞トゥ˥バ　ウ˞ムイ˥ル　˞ナン˥ギクローン　シ˞タヌ　ドゥー˥ヌ　ウ˞ムイ˥トー　ア˞タラヌ˥　フ˞コーラサヌ˥　プ˞ス˥クインツァン　˞ナー˥ヌ [ʔu˞rinu˥ ku̥˞tu˥ba ʔu˞mui˥ru ˞naŋ˥gikuroːŋ ʃi̥˞tanu duː˥nu ʔu˞mui˥toː ʔa˞taranu˥ ɸu̥˞koːrasanu˥ pu̥˞su˥kuintsan ˞naː˥nu](彼のことを思って難儀苦労もしたが、自分の思いとは違って＜思いとは当たらず。思いとは裏腹に＞有難うの一声すらない)。予想外である。「思いと当たらない」の義。ク˞トゥシェー　タイリョー　シー　モーカ˥リンティ　ウ˞ヤーンチ˥ジ　˞ベータン˥ド　ウ˞ムイ˥トゥ　ア˞タラヌ˥　フ˞リョー˥　シ˞ジキティ˥　ウカ　カビ˞ナー˥ヌ [ku̥˞tuʃeː tairjoː ʃiː moːka˥rinti ʔu˞jaːntʃi˥ʤi ˞beːtan˥du ʔu˞mui˥tu ʔa˞taranu˥ ɸu˞rjoː˥ ʃi˞ʤikiti˥ ʔuka kabi ˞naː˥nu](今年は大漁して儲かると期待＜念願＞していたが、予想外に＜思いと当たらず＞不漁が続いて欠損し＜借金をかぶって＞てしまった)。

ウ˞ムイトゥドゥマ˥ルン [ʔu˞muituduma˥ruŋ] 【他動】考えてある行為をやめる。思いとまる。断念する。˥カイブー　˞オーシキ˥　ヤ˞ルムヌ˥　イ˞ガメー˥　ウ˞ムイトゥドゥマ˥ルンカヤーティ　ウ˞ムータ˥ヌ　ウ˞ムイトゥドゥマラン˥シェン [˥kaibuː ˞ʔoːʃi̥ki˥ ja˞rumunu˥ ʔi˞gameː˥ ʔu˞muituduma˥ruŋkajaːti ʔu˞muːta˥nu ʔu˞muitudumaraɲ˥ʃeŋ](こんな天気だから、イカ釣り漁は思いとどまるか＜断念するか＞と思ったが、思いとどまらなかった)。

ウ˞ムイトゥドゥミ˥ルン [ʔu˞muitudumi˥ruŋ] 【他動】思いとどめる。断念する。諦める。˞ワー˥　キ˞ムチェー˥　ワ˞カルン˥ドゥ　˥ウビシ　ウ˞ムイトゥドゥミ˥リ [˞waː˥ ki˞mutʃeː˥ wa˞karun˥du ˥ʔubiʃi ʔu˞mui-tudumi˥ri](君の気持ちは分るが、これで思いとどめなさい＜断念しなさい＞)。˞オ˥ー　ウ˞ムイトゥドゥミ˥ル　˥クトー　ウ˞ムイトゥドゥミルン˥ドゥ　˥クベー　ア˞ザン˥カー　ウ˞ムイトゥドゥミララ˥ヌ [˞ʔoː˥: ʔu˞muitudumi˥ru ˥ku̥toː ʔu˞muitudumirun˥du ˥kubeː ʔa˞ʤaŋ˥kaː ʔu˞muitudumirara˥nu](はい、思いとどめることは思いとどめるが、これだけは言わないと思いとどめられ＜諦められ＞ない)。

ウ˞ムイ˥ナウムイナ [ʔu˞mui˥naʔumuina] 【副】思い思いに。ヤ˞ラ˥ビンケーヤ　˥ウナー　ア˞ツァ˥マリ　˞ベー˥ティ　ウ˞ムイ˥ナウムイナ　ッ˞サソー˥リ　˞シーベー˥タ [ja˞ra˥biŋkeːja ˥ʔunaː ʔa˞tsa˥mari ˞beː˥ti ʔu˞mui˥naʔumuina s˞sasoː˥ri ˞ʃiːbeː˥ta](子供達はそこに集まっていて、思い思いに草むしり＜草取り＞をしていた)。

ウ˞ムイナガ˥スン [ʔu˞muinaga˥suŋ] 【他動】思い流

す。思いを水に流す。無かったことにする。忘れ去る。ウ˞ヌ˜　クトー　ウ˞ムイナガ˜シ　ッ˞ふィリ [ʔu˞nu˜ kʉ̥to: ʔu˞muinaga˜ʃi f˞fi:ri](その事は忘れ＜思い流し＞てくれ)。ウ˞ムイナガ˜スンテー　ウ˞ムーン˜ドゥ　˜アイニ　ク˞トゥヤッ˜サ　ウ˞ムイナガ˜ス　˜クトゥン　ナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞muinaga˜sunti ʔu˞mu:n˜du ˜ʔaini kʉ̥˞tujas˜sa ʔu˞muinaga˜su ˜kʉ̥tun na ˞ra˜nu](忘れよう＜思い流そう＞と思うが、そう容易く忘れる＜思い流す＞ことも出来ない)。

ウ˞ムイナ˜スン [ʔu˞muina˜suŋ] 【他動】侮る。嘲る。馬鹿にする。ひどく扱う。˞ウンザンマー　ピンソー˜ムヌティ　˞シー˜　イッ˞ケナ˜　ウ˞ムイナサ˜レータン [˞ʔundʑamma: pinso:˜munuti ˞ʃi:˜ ʔik˞kena ˜ ʔu˞muinasa˜re:taŋ](そやつには、貧乏者といってひどく馬鹿にされたことがある)。ウ˞ムイナサ˜ヌ [ʔu˞muinasa˜nu](馬鹿にしない)。ウ˞ムイナ˜シ　˞ベー [ʔu˞muina˜ʃi ˞be:](馬鹿にしている)。ヤ˞ラ˜ビサコーヌ　ム˞ヌ˜ヌ　プ˞ス˜　ウ˞ムイナ˜スン [ja˞rabi ˜sako:nu mu˞nu˜nu pu˞su˜ ʔu˞muina˜suŋ](子供ごときが＜子供程度のくせに＞人を馬鹿にするよ)。ウ˞ムイナ˜ス　˜クトー [ʔu˞muina˜su ˜kuto:](馬鹿にすることは)。ウ˞ムイナ˜セー　˜ミサムヌ [ʔu˞muina˜ʃe: ˜misamunu](馬鹿にすればいいのに)。ミ˞ドゥ˜ムティ　˜ウムイ　ナー˞イ　バイ˜ヨー　ウ˞ムイナ˜シバ˞ヨー [mi˞du˜muti ˜ʔumui na:˞ji bai˜jo: ʔu˞muina˜ʃiba˞jo:](女だと思って、ずっと私を馬鹿にしてなさいよ＜承知しないよ＞)。

ウ˞ムイヌカ˜スン [ʔu˞muinuka˜suŋ] 【他動】思い残す。未練を残す。心残りに思う。後悔する。バ˞カーン˜ケンナー　˞シー˜プサ　˜クトゥ　˞サン˜カー　ウ˞ムイヌカ˜スン˞ダー [ba˞ka:ŋ˜kenna: ˞ʃi:˜pʉ̥sa ˜kʉ̥tu ˞saŋ˜ka: ʔu˞muinuka˜sun˞da:](若い時にしたいことをしないと後悔する＜思い残す＞よ)。ウ˞ムイヌカサン˜　ヨーニ　˞シー˜ケーバ　ノー˞ン˜　ウ˞ムイヌカ˜ス　˜クトー　˞ナー˜ヌ [ʔu˞muinukasaŋ˜ jo:ni ˞ʃi:˜ke:ba no:˞ŋ˜ ʔu˞muinuka˜su ˜kʉ̥to: ˞na:˜nu](後悔し＜思い残さ＞ないようにしてきたから、何も思い残すことは無い)。

ウ˞ムイ˜ヌ　˞トゥー˜ル [ʔu˞nui˜nu ˞tu:˜ru] 【連】思いの通り。思い通り。思うまま。ク˞レー　ワー˜　ウ˞ムイ˜ヌ　˞トゥー˜ル　˞シー˜ミサン [ku˞re: wa:˜ ʔu˞mui˜nu ˞tu:˜ru ˞ʃi:˜ misaŋ](これは君の思い通りにしてよい)。

ウ˞ムイ˜ヌフカ [ʔu˞mui˜nuɸuka] 【副】思いの外。案外。予想外。ウ˞ブヤンバ　シーベータン˜ドゥ　ウ˞ムイ˜ヌフカ　˞パイ˜サ　˞ノー˜リ　キサー˞ティ˜　シ˞グトゥ　シーベー [ʔu˞bujamba ʃi:be:tan˜du ʔu˞mui˜nuɸʉ̥ka ˞pai˜sa ˞no:˜ri kʉ̥sa:˞ti˜ ʃi˞gutu ʃi:be:](大病を患って＜して＞いたが、思いの外早く治って、もうすでに仕事をしている)。

ウ˞ムイノー˜スン [ʔu˞muino:˜suŋ] 【他動】思い直す。考え直す。思いを改める。ク˞トゥ˜バリ　˞ソーッ˜タティ　ス˞クタヌ˜　ウ˞ムイノー˜シ　ッ˞ふォーララン˜カヤー [kʉ̥˞tu˜bari ˞so:t˜tati sʉ̥˞kutanu˜ ʔu˞muino:˜ʃi f˞fo:raraŋ˜kaja:](断りはなされたと聞きましたが考え直してもらえませんかね)。˞ワーンドゥ˜　ウ˞ムイノー˜スカー　˞バン˜ヌン　ウ˞ムイノー˜スン [˞wa:ndu˜ ʔu˞muino:˜sʉ̥ka: ˞ban˜nuŋ ʔu˞muino˜suŋ](君が考え直したら僕も考え直すよ)。ウ˞ムイノー˜スクトー　ナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞muino:˜sukʉ̥to: na˞ra˜nu](考え直すことは出来ない)。ウ˞ムイノー˜シェー　˜ミサムヌ [ʔu˞muino:˜ʃe: ˜misamunu](考え直したらよいのに)。˞ワー˜ラ　˞パイ˜サ　ウ˞ムイノー˜シ [˞wa:˜ra ˞pai˜sa ʔu˞muino:˜ʃi](君から早く考え直しなさい)。

ウ˞ムイ˜ブリ [ʔu˞mui˜buri] 【名】恋狂い。「思い狂れること」の義。˞クイ˜ブリ [˞kui˜buri](恋狂い) というのが普通。ム˞カ˜シェーラ　バ˞カー˜ムヌヌ　ウ˞ムイ˜ブリ　˞シェー˜　プ˞ソー˜　ギュ˞タールン　ブントゥ ダー [mu˞ka˜ʃe:ra ba˞ka:˜munu nu ʔu˞mui˜buri ˞ʃe:˜ pʉ̥˞so:˜ gju˞ta:rum bun-da:](昔から若者で恋狂いをした人が何人もいるよ)。

˜ウムイ　˞ブン [˜ʔumui ˞buŋ] 【連】1思っている。動詞˜ウムーン [˜ʔumu:ŋ](思う) の連用形に存在詞˞ブン [˞buŋ](居る) が下接して形成された派生動詞。「常に『思う』という属性、慣習を持って存在している」意を表す。˜ウムイ　˞ベー˜ン [˜ʔumui ˞be:˜ŋ](現在そう思っている＜継続進行＞)。˜アイウムイブ˞リティ˜　ウムイブ˞ラーヌ˜ティ　ア˞ジアー˜ク [˜ʔai ʔumuibu˞riti˜ ʔumuibu˞ra:nu˜ti ʔa˞ʤiʔa:˜ku](現在そう思っていいて、思っていないと言っている)。˜ウムイ　ブ˞レー˜ミサムヌ [˜ʔumui bu˞re:˜ misamunu](思っておれば良いのに)。2愛している。˞ワー˜　マ˞ナ˜マ　シ˞キ˜ティン　ウ˞ヌ˜　ミ˞ドゥム˜ヌ　ク˞トゥバ˜ル　˜ウムイ　˞ブー [˞wa:˜ ma˞na˜ma ʃi˞ki˜tiŋ ʔu˞nu˜ mi˞dumu˜nu kʉ̥˞tuba˜ru ˜ʔumui ˞bu:](君はいまだに＜今もって＞その女のことを＜ぞ＞愛しているのか)。

ウ˞ムイ˜ムヌ [ʔu˞mui˜munu] 【名】心配の種。後悔の念。ウ˞ヌ　プソー˜　バー　˜ヌチジューヌ　ウ˞ムイ

˜ムノー　ビ˞コーンッふァバ˜　ナ˞シユーサン˜タ　˜クトゥティ　ア˞ゾーッ˜タ˞ダー [ʔu˞nu pu̥so:˜ ba: ˜nutʃidʒu:nu ʔu˞mui˜muno: bi˞ko:ŋffaba˜ na˞ʃiju:san˜ta ˜ku̥tuti ʔa˞dʑo:t˜ta˞da:](その人は、˞私の生涯の後悔の念は男の子を産めなかったことだ」と言われたよ)。

ウ˞ムイ˜ヤミ [ʔu˞mui˜jami] 【名】思い悩むこと。悶々とすること。後悔すること。「〜使いも来ねば憶病＜オモヒヤム＞〜。万、3811」の転訛したものか。˞タンガッふァ˜バ　ユ˞ミ˜　ッ˞ふィーティ˜　イ˞リムク˜　トゥ˞ラバ˜ル　マ˞シ　ヤッタ˜ユーティ　ナー˞イ˜　ウ˞ムイ˜ヤミ　˞シーベー [˞taŋgaffa˜ba ju ˞mi˜ f˞fi:ti˜ ʔi˞rimuku˜ tu˞raba˜ru ma˞ʃijatta˜ju:ti na: ˞i˜ ʔu˞mui˜jami ˞ʃi:be:](一人っ子を嫁に呉れてやって、入り婿を取った方が良かったかとなあと思い悩んで＜後悔して＞いるよ)。

ウ˞ムインザシ˜ッふァ [ʔu˞mui?ndʑaʃi˜ffa] 【名】出産期が過ぎて思い出したように生まれた子供。ク˞ヌ˜　トゥシ　˜ナリティ　ウ˞ムインザシッふァ˜ヌ　マ˞レー˜ティ　ッ˞ふァ˜　シゥ˞カ˜ナウンティル　˞アウ˜レー　˞スート ツォー [ku˞nu˜ tu̥ʃi ˜nariti ʔu˞muindʑaʃif˜fanu ma˞re:˜ti f˞fa˜ si̥˞ka˜nauntiru ˞ʔau ˜re: ˞su:to˧tso:](この年になって思い出したように子供が出来て、子供を養育するとて難儀苦労をするのだよ)。

ウ˞ムインザシマー˜キ [ʔu˞mui?ndʑaʃima:˜ki] 【連】思い出せずに。思い出すことが出来ないで。思い出し兼ねて。〜˞マー˜キ [〜˞ma:˜ki](〜兼ねて) は接尾語。カ˞キマー˜キ [kḁ˞kima:˜ki](書き兼ねて)、トゥ˞リマー˜キ [tu˞rima:˜ki](取り兼ねて) のように、動詞の連用形に付いて、〜兼ねて＜〜出来ないで＞の意味を表す。˞ターヤッタ˜カヤーティ　ウ˞ムインザシマー˜キ　˞ベーン˜ケンマー　キッ˞サ˜　˞トゥー˜リパリ　˞ナーン˜シェン [˞ta:jatta˜kaja:ti ʔu˞mui?ndʑaʃima: ˜ki ˞be:ŋ˜kemma: kis˞sa tu:˜ripari ˞na:˜ʃeŋ](誰だったかと思い出しかねているうちに、とっくに通り過ぎてしまってた)。

ウ˞ムインザ˜スン [ʔu˞mui?ndʑa˜suŋ] 【他動】思い出す。丁寧な表現。タ˞ナマリ˜タ　˜クトゥ　ウ˞ムインザ˜スンティ　˞スンドゥ˜　ウ˞ムインザサラ˜ヌ [ta˞namari˜ta ˜ku̥tu ʔu˞mui?ndʑa˜sunti ˞sundu˜ ʔu ˞mui?ndʑasara˜nu](頼まれたことを思い出そうとするが、思い出されない)。ウ˞ムインザ˜シ　ッ˞ふィーリ [ʔu˞mui?ndʑa˜ʃi f˞fi:ri](思い出してくれ)。˜キューズーナ　ウ˞ムインザ˜ス　˜クトゥ [˜kju:dʑu:na ʔu˞mui?ndʑa˜su ˜ku̥tu](今日中に思い出すこと)。˞パー˜ク　ウ˞ムインザ˜シェー　˜ミサムヌ [˞pa:˜ku ʔu ˞mui?ndʑa˜ʃe: ˜misamunu](早く思い出せば良いのに)。ウ˞ヌ˜　クトゥ　ウ˞ムインザ˜シバ [ʔu˞nu˜ ku̥tu ʔu˞mui?ndʑa˜ʃiba](そのことを思い出せよ)。ム˞カシ˜ヌ　˜クトゥ　ウ˞ムインザ˜スンティ　˞スンドゥ˜　ウ˞ムインザサラ˜ヌ [mu˞kaʃi˜nu ˜ku̥tu ʔu˞mui?ndʑa˜ sunti ˞sundu˜ ʔu˞mui?ndʑasara˜nu](昔のことを思い出そうとするが、思い出されない)。ウ˞ムインザ˜シ　˜ミサカー　ウ˞ムインザ˜ス　˜クトー　˜ナルン [ʔu˞mui?ndʑa˜ʃi ˜misaka: ʔu˞mui?ndʑa˜su ˜ku̥to: ˜ naruŋ](思い出して良ければ、思い出すことはできる)。˞パー˜ク　ウ˞ムインザ˜シェー　˜ミサムヌ [˞pa: ˜ku ʔu˞mui?ndʑa˜ʃe: ˜misamunu](早く思い出せば良いのに)。ウ˞ムインザ˜シバ [ʔu˞mui?ndʑa˜ʃiba](思い出せよ)。

ウ˞ム˜カー [ʔu˞mu˜ka:] 【名】おもかじ (面舵)。航海用語。標準語からの借用語。舳先を右へ曲げるときの舵のとりかた。対語はト˞リ˜カー [to˞ri˜ka:](取り舵、舳先を左へ向ける)。カ˞ツドゥルバ　ウイヤー˜ティ　˜フニ　パ˞ラ˜ス　˜バソー　ウ˞ム˜カー　トゥ˞リ˜カーティ　ウ˞ヤー˜レーティ　パ˞ラ˜ソーッタ [kḁ˞tsuduruba ʔuija:˜ti ˜ɸuni pa˞ra˜so:ru ˜baso: ʔu˞mu˜ka: tu˞ri˜ka:ti ʔu˞ja:˜re:ti pa˞ra˜so:tta](カツオドリを追いながら船を操船される＜走らされる＞時は、ウムカー＜右舷の方＞、トゥリカー＜左舷の方＞と大声をあげながら操船さ＜走らさ＞れた)。その他に、˞ヨー˜ソロー [˞jo:˜soro:](微速前進。真っ直ぐに進め)。˞ゴーヘー [˞go:he:](全速前進)。˞ゴーシタン [˞go:ʃitaŋ](全速後退) など、英語由来の方言化した借用語がある。サバニでは、˞オーラー [˞ʔo:ra:](風上へ)、ッ˞ソーマー [s˞so:ma:](風下へ) という。

ウ˞ム˜カギ [ʔu˞mu˜kagi] 【名】面影。顔つき。心に浮かぶ顔や姿。˞キュー˜ヤ　˜ヌースンティル　ヤ˞ル˜ユー　シカーシ˞カー˜シ　ウ˞ヤ˜ヌ　ウ˞ムカギ˜ヌ　˜タティテイ　ナ˞ラン˜バン [˞kju:˜ja ˜nu:suntiru ja˞ru˜ju: ʃi̥ka:ʃi̥˞ka:˜ʃi ʔu˞ja˜nu ʔu˞mukagi˜nu ˜tatiti na˞ram˜baŋ](今日はどういう訳だろうか、はっきりと＜確(シカ)と＞親の面影がたって懐かしく、寂しくて堪(タマ)らない)。

ウ˞ム˜カジ [ʔu˞mu˜kadʑi] 【名】面影。顔つき。心に思い浮かぶ顔や姿。首里方言から転訛したもの。若年層の使用語彙。ウ˞ムカジ˜ヌ　˜タトゥン [ʔu˞ mukadʑi˜nu ˜tḁtuŋ](面影が立つ)。

ウ˞ムˉクトゥ [ʔu˞muˉkutu] 【名】思慮分別。賢明さ。存分。ヤ˞ラˉベー　ウ˞ムˉクトー　˞ナーンˉバ　˞カンˉスル˞ナーˉト　˞ティーˉヌ　トゥ˞ドゥˉク　ˉトンナー　シ˞キルˉナヨー [ja˞raˉbeː ʔu˞muˉkṵtoː ˞naːm ˉba ˞kanˉsuru˞naːˉto ˞tiːˉnu tu˞duˉku ˉtonnaː ʃi˞kiruˉ najoː](子供は思慮分別がないから剃刀などは手の届くところに置くなよ)。ウ˞ムクトゥˉヌ　˞ナーンˉ　ヤ˞ラビˉトゥ　ユ˞ヌˉム　ˉアイブ　ˉクトゥシ　˞アウターˉ　プスバカヤ [ʔu˞mukutuˉnu ˞naːˉɲ ja˞ra ˉbitu ju˞nuˉmu ˉʔaibukṵtuʃi ˞ʔautaːˉ pṵsubakaja](思慮分別のない子供と同様、あんなことで喧嘩したのか。外聞も＜人聞きも＞恥ずかしい)。

ウ˞ムˉクトゥ　˞ナーンˉムヌ [ʔu˞muˉkutu ˞naːmˉ munu] 【連】思慮分別のない幼い子供。ウ˞ムˉクトゥ　˞ナーンˉ　ム˞ヌˉヌ　˞シェーˉル　ˉワザ　ヤ˞リバ　ヌンガーラˉシ　ッ˞ふォーˉリ [ʔu˞muˉkṵtu ˞naːmˉ mu˞nuˉnu ˞ʃeːˉru ˉwadʑa ja˞riba nuŋgaːraˉʃi f˞foːˉri](思慮分別のない子供のなせる仕業ですので、お許し＜見逃して＞下さい)。

ウ˞ムシ [ʔu˞muʃi] 【名】おもし (重石)。物を押さえるのに用いるもの。ム˞チマイヌˉ　クー　ピ˞キティˉ　ミ˞リキンブクˉルナ　イ˞ルˉカー　イ˞ソーシバˉ　ウ˞ムシˉ　シ˞ティルˉ　クー　ピ˞サˉソーッタ [mu˞ʧimainuˉ kuː pi̥˞kitiˉ mi˞rikimbukuˉruna ʔi˞ruˉ kaːˉ ʔi˞soːʃibaˉ ʔu˞muʃiˉ ʃi̥˞tiruˉ kuː pi̥˞saˉsoːtta](水に浸けてふやかした糯米を水を加えながら挽いてメリケン袋に入れると、石臼を重石にして水分を切られ＜干させ。脱水させ＞られた)。

ウ˞ムˉジ [ʔu˞muˉʤi] 【名】 (動) イイダコ (飯蛸)。西表島の北岸辺りでよく捕れる。茹でたり煮たりして食する。茹でたイイダコ (飯蛸) の腹にある米粒大の卵がさくさく感を与えて美味である。体長約 25 センチ。タケノコガイの殻に縄を結わえて浜辺から海中に投げ入れ、手繰り寄せると、貝にしがみついてくる。˞パイタˉナー　ˉタクン　ウ˞ムˉジン　イッ˞ケナˉ　トゥ˞ラリˉタン [˞paitaˉnaː ˉtakuŋ ʔu ˞muˉʤiŋ ʔik˞kenaˉ tu˞rariˉtaŋ](西表島北部＜南端＞には蛸もイイダコも沢山捕れたよ)。

ウム˞ジェーˉマ [ʔumu˞ʤeːˉma] 【名】 (動) 小さなイイダコ (飯蛸)。ウ˞ムˉジ [ʔu˞muˉʤi](イイダコ) に指小辞のˉ-マ [ˉ-ma](小さいもの。ガマ [gama]＜小＞の転訛したもの) が付いた形。ミ˞ナーマˉヌ　グ˞ルバˉ　ナーシ　フ˞バリティˉ　ピ˞ザˉフチェーラ　˞ナンˉゲー　˞トーリトーˉリ　˞シェーˉティル　ウム˞ジェーˉマ　˞ホーˉソーッタル [mi˞naːmaˉnu gu˞ ruba˞ naːʃi ɸu˞bariti˞ pi˞ʤaˉɸuʧeːra ˞naŋˉgeː ˞toːritoː ˉri ˞ʃeːˉtiru ʔumu˞ʤeːˉma ˞hoːˉsoːttaru](小さな貝＜タケノコガイ＞の殻を縄で縛って、波打ち際から投げては手繰り手繰りしてイイダコを釣られたものだ)。

ウ˞ムˉシル [ʔu˞muˉʃiru] 【連体】1面白い。楽しい。2興味ある。歌謡語。ウ˞ムˉシルムヌ [ʔu˞muˉʃirumunu](楽しいこと)。民謡「鳩間口説」の第六連の囃子に/イヤイーヤー　ユタカナルユヌ　シルシサミエー　アミヤトゥカグシ　カジヤシジカニ　シクリムジクイ　マンサクソーリバ　イヒンカタトゥキ　ユダンヤナランサ　キットゥキバリヨニセタ　ウムシルムヌサミ　ナマヌパヤシニ　クドゥキユミユミ/(イヤイーヤー、豊かなる御世の兆候というものだ。雨は十日おきに降り、風は穏やかにそよぎ、農作物は豊年満作しており、一時も片時も油断は出来ない。しっかり気張れよ若者らよ。さすれば楽しい豊な人生となる。今の囃子に鳩間口説きを歌おうよ)『鳩間誌』、『鳩間島古典民謡古謡集』。ˉユー　ミリ˞ダーˉ　アイ˞ベーˉティル　˞ヤームンドーˉヤ　ウ˞クˉル˞ダーˉ　ウ˞ムˉシル　ˉムヌ˞ダˉメー [ˉjuː miri˞daːˉ ʔai˞beːˉtiru ˞jaːmundoːˉja ʔu˞kuˉru˞daːˉ ʔu˞muˉʃiru ˉmunu˞daˉ meː](よく見ろよ。そうやって家族喧嘩＜家問答＞は起こるのだぞ。興味ある、考えさせられる見物だぞ。肝に銘じておきなさい)。

ウ˞ムˉシルムヌ [ʔu˞muˉʃirumunu] 【名】面白いこと。愉快な事。楽しいこと。歌謡語。「○、心楽也　於毛志呂之」『新撰字鏡』の転訛したもの。話し言葉では、ウ˞ムッˉサン [ʔu˞musˉsaŋ](形)(面白い。楽しい) という。/イヤイヤー　ユタカナルユヌ　シルシサミエー　アミヤトゥカグシ　カジヤシジカニ　シクリムジクイ　マンサクソーリバ　イヒンカタトゥキ　ユダンヤナランサキットゥ　キバリヨニセタ　ウムシルムヌサミ　ナマヌパヤシニ　クドゥキユミユミ/(ああ＜イヤイヤー＞豊かなる御世の兆候というものだ。雨は十日越しに降り、風はそよそよと静かに吹き、稲は稔って＜満作して＞いるから、一時も片時も油断はできないものだ。きっと頑張れ＜気張れ＞若者たちよ。愉快な＜嬉しい＞ことだ。今の囃子に口説きを歌えよ)「鳩間口説」第 6 連、『鳩間島古典民謡古謡集』、『竹富町史第六巻鳩間島』。

ウ˞ムˉター [ʔu˞muˉtaː] 【固】 (人名) 平民子女の名前。普通は、ˉムター [ˉmutaː] という。˞ウンˉネナー　ˉ

ムターンマーヌ ˞オーッˀタン ˀティバン ˞ナー [˞ʔunˀnena: ˀmutaːmmaːnu ˞ʔoːtˀtan tiban˞naː](その家にはムター姉さんがおられたそうだねえ)。

ウ˞ムッˀサ ˞スン [ʔu˞musˀsa ˞suŋ] 【連】面白がる。「面白く・する」の義。ヤ˞ラˀベー ダ˞キˀ ムタイティ ˞ウイ アングˀカー イッ˞ケンˀ ウ˞ムッˀサ ˞スンˀダー [ja˞raˀba: da˞kiˀ mutaiti ˞ʔui ʔaŋguˀka: ʔik˞keŋˀ ʔu˞musˀsa ˞sunˀdaː](子供は抱いて持ち上げて、上に揚げると非常に喜ぶ＜面白がる＞よ)。

ウ˞ムッˀサン [ʔu˞musˀsaŋ] 【形】面白い。見事である。ウ˞ヌˀ ッ˞ふァヌˀ ブ˞ドゥローˀ アッパー ˞ティーˀバ ウキ˞ブーユンダˀ ム˞カˀシブドゥルヌ ˀティー ヤ˞レーˀテイ イッ˞ケナˀ ウ˞ムッˀサン [ku˞nuˀ f˞fanuˀ bu˞duroːˀ ʔappaː ˞tiːˀba ˀʔuki ˞buːjundaˀ mu˞kaˀʃibudurunu ˀtiː ja˞reːˀti ʔik˞kenaˀ ʔu˞musˀsaŋ](この子の踊りはお祖母さんの技法＜手＞を受け継いでいて、正統派の昔踊りであるから非常に見事で面白い)。ウ˞ムッˀサナーˀヌ [ʔu˞mussanaːˀnu](面白くない)。ウ˞ムッˀサナリクン [ʔu˞musˀsanarikuŋ](面白くなってくる)。ウ˞ムッˀサル ブ˞ドゥル [ʔu˞musˀsaru bu˞duru](面白い踊り)。ブ˞ドゥルヌˀ ウ˞ムッˀサカー ˀミリン ˀパルン [bu˞durunuˀ ʔu˞musˀsakaː ˀmirim ˀparuŋ](踊りが面白ければ見に行く)。ウ˞ムッˀサクトー ウ˞ムッˀサンドゥ ダ˞シˀヌ タ˞ラーヌ [ʔu˞musˀsakutoː ʔu˞musˀsandu da˞ʃiˀnu ta˞raːnu](面白いことは面白いが、味わい＜出し＞が足りない)。

ウ˞ムˀティ [ʔu˞muˀti] 【名】1表。ˀウラ ウ˞ムティˀヌ ˀアル プ˞ス [ˀʔura ʔu˞mutiˀnu ˀʔaru pu̥˞su](裏と面のある人)。ˀジョーブクルヌ ウ˞ムˀティナー ア˞ティナーˀ カキ [ˀʤoːbukurunu ʔu˞muˀtinaː ʔa˞tinaːˀ kaki](状袋＜封筒＞の面に宛名を書きなさい)。2顔。おもて(面)。上品な感情を表す語。ˀシラ [ˀʃira](顔。つら＜面＞)の対義語。(つら、頬「頬、豆良＜つら＞、一云保保＜ほほ＞～」『和名抄』)参照。˞パイˀサ ˀウキティ ウ˞ムˀティ ˀシミ クーバ [˞paiˀsa ˀʔukiti ʔu˞muˀti ˀʃimi ˀkuː ば](早く起きて、顔＜面＞を洗って＜清ませて＞来なさいよ)。ウ˞ムˀティ ˀシムン [ʔu˞muˀti ˀʃimuŋ](洗顔する、面を清ませる)。ˀシラ シムン [ˀʃira ˀʃimun] とは言わない。

ウ˞ムˀティ ˀシムン [ʔu˞muˀti ˀʃimuŋ] 【連】洗面する。顔を洗う。「おもて＜面＞・清み」の転訛したものか。シ˞トゥムˀティ ˞パイˀサ ˀウキティ ウ˞ムˀティ ˀシムカー パ˞シットゥ スン [ʃi̥˞tumuˀti ˞paiˀsa ˀʔukiti ʔu˞muˀti ˀʃimukaː pḁ˞ʃittu suŋ](朝早く起きて顔を洗う＜清む・清ませる＞と、気持ちがさっぱりするよ)。

ウ˞ムˀトゥ [ʔu˞muˀtu] 【固】(地) おもと岳 (於茂登岳)。おもと山。石垣島にある沖縄県最高の山。「大本 (おおもと)」の義という。ウ˞ムˀトゥダケー ウ˞キˀナーナーティ イッ˞チンˀ タ˞カーˀ ヤマ˞トゥˀツォー [ʔu˞muˀtudakeː ʔu˞kiˀnaːnaːti ʔit˞ʧinˀ tḁ˞kaːˀ jama˞tuˀtsoː](おもと岳は沖縄で一番高い山だそうだ)。

ウ˞ムˀトゥダキ [ʔu˞muˀtudaki] 【固】(地) 山の名。オモトヤマ (於茂登山)。石垣島にある沖縄県最高の山。ウ˞ムˀトゥダケー ウ˞キˀナーナー イッ˞チンˀ タ˞カーˀヤマティ ア˞ザリブ [ʔu˞muˀtudakeː ʔu˞kiˀnaːnaː ʔit˞ʧinˀ ta˞kaːˀjamati ʔa˞ʤaribuː](オモトヤマ＜於茂登山＞は沖縄で一番高い山といわれている)。

ウ˞ムˀナー [ʔu˞muˀnaː] 【名】(動) 魚の名。和名、キツネフエフキ (体長約 80 センチ)。白身魚の最高級魚。˞クーˀシビー [ˀkuːˀʃibiː](島の西側の干瀬) の˞ピーヌˀクシ [˞piːnuˀku̥ʃi](干瀬の外海) で、タ˞ティˀナー [tḁ˞tiˀnaː](一本釣り) をして釣った。

ウ˞ムˀナイ イ˞ルン [ʔu˞muˀnai ʔi˞ruŋ] 【連】皺を伸ばして入れる。皺を伸ばして畳んで入れる。˞シンブンˀマー ˞リッˀパニ ウ˞ムˀナイ イ˞リˀシケー [˞ʃimbumˀmaː ˞ripˀpani ʔu˞muˀnai ʔi˞riˀʃi̥ke:](新聞は立派に皺を伸ばして畳んで入れてある)。

ウ˞ムニー [ʔu˞muniː] 【名】重荷。重い荷物。標準語からの借用語の転訛したもの。ンブニー [ʔm˞buniː](重荷) とも言う。カイブー ヤ˞ラˀビン ン˞ブニーバˀ カ˞タマˀシ キ˞ムイˀツァー [ˀkaibuː ja˞raˀbim ʔm˞buniːbaˀ kḁ˞tamaˀʃi ki˞muiˀtsaː](あんな子供に重荷を担がせて、可哀相に)。

ウ˞ムリ [ʔu˞muri] 【名】おもり (錘)。ちんし (沈子)。釣針や魚網を沈めるために付ける鉛。˞ティングスˀルナ ウ˞ムリˀ シ˞キランˀカー ˞ムンˀダネー イ˞ズンˀトン ˞バーˀキ トゥ˞ドゥカˀヌ [˞tiŋgusuˀruna ʔu˞muriˀ ʃi̥˞kiraŋˀka: ˞munˀdane: ʔi˞ʤunˀtom ˞baːˀki tu˞duˀkanu](てぐす＜てぐす糸。天蚕糸＞に錘をつけないと餌は魚の所まで届かない)。

ウ˞ムˀル [ʔu˞muˀru] 【名】クバ (ビンロウジュ) の葉やクワズイモの葉で作った水汲み用の柄杓。釣瓶より小型で柄がついている。東村にある˞アンヌカー [˞ʔannukaː](東の井戸) はウ˞リˀカー [ʔu˞riˀ

ka:](下り井戸。鍾乳洞の底へ下りて水汲みをする井戸) であるので、ウ˞ムˀルを水汲み用の柄杓として使用した。ム˞カˀシェー ˞アンヌカーˀラ ミ˞ジˀ カ˞タˀム ˀピンマー ウ˞ムˀルシル ミ˞ジˀ フ˞モーッˀタ [mu˞kaˀʃe: ˞ʔannuka:ˀra mi˞ʤiˀ ka˞taˀmu ˀpimma: ʔu˞muˀruʃiru mi˞ʤiˀ ɸu˞mo:tˀta](昔は、東の井戸から水を運ぶ＜担ぐ＞時はウムルで＜ぞ＞水を汲まれた)。

ウ˞ムンズン [ʔu˞munʤuŋ] 【他動】重く見る。大切に扱う。カ˞レー ワーˀ ム˞ニˀバ ウ˞ムンズンティ スンドゥ バンˀマー ウ˞ムンザラヌ [ka˞re: wa:ˀ mu˞niˀba ʔu˞munʤunti sundu bamˀma: ʔu˞munʤaranu](彼は君の言葉を重んじるというが、私は重んじられない)。ˀアイブ ˀムニ ヤ˞ルヌˀ ウ˞ムンジˀ ミサカー ウ˞ムンズˀ＜ウ˞ムンジルˀ＞ クトー ˀナルン [ˀʔaibu ˀmuni ja˞runuˀ ʔu˞munʤiˀ misaka: ʔu˞munʤuˀ＜ʔu˞munʤiruˀ＞ kụto: ˀnaruŋ](あんな言葉だが、重んじてよければ、重んじることはできる)。ン˞ベーマーˀ ウ˞ムンジェーˀ ミサムヌ [ʔm˞be:ma:ˀ ʔu˞munʤe:ˀ misamunu](少しは重んずればいいのに)。ウ˞ヤˀヌ ˀムネー ˞マーˀビン ウ˞ムンジˀバ [ʔu˞jaˀnu ˀmune: ˞ma:ˀbiŋ ʔu˞munʤiˀba](親の言う言葉はもっと重んじなさいよ)。

ウ˞モーˀザハラーザ [ʔu˞moːˀʤahara:ʤa] 【副】思いもかけず。思いもよらず。意外にも。予期しないうちに。˞タンガˀシ ˞ベーンˀケンドゥ ˞ウンザーˀ ウ˞モーˀザハラーザ ンジ˞キーˀル プ˞スバˀ ウ˞バーシˀシケー [˞taŋgaˀʃi ˞be:ŋˀkendu ˞ʔunʤa:ˀ ʔu˞moːˀʤahara:ʤara ʔnʤi˞kiːˀru pụ˞subaˀ ʔu˞ba:ʃiˀʃi̥ke:](一人でいるところへ彼奴は思いもかけず出て来て、人を驚かしているんだよ)。ドゥ˞シェーˀラ ウ˞モーˀザハラーザヌ ク˞トゥˀバ ア˞ザリティルˀ アッパー イ˞ナムヌバ シー オーッˀタツォー [du˞ʃe:ˀra ʔu˞moːˀʤahara:ʤanu kụ˞tuˀba ʔa˞ʤaritiruˀ ʔappa: ʔi˞namunuba ʃi: ʔo:tˀtatso:](友人から思いがけないことを言われて、お祖母さんは悔しがって＜残念がって＞おられたそうだ)。

ウ˞モーˀリン [ʔu˞moːˀriŋ] 【自動】思われる。ˀウムーン [ˀʔumu:ŋ](思う) の未然形に、受身・可能の助動詞ˀリン [ˀriŋ](れる) が下接して形成された受身・可能の派生動詞。ク˞ヌ ブンˀシェー ˞タイフーˀヤ パ˞ンチˀ パルンティン ウ˞モーˀリン [ku˞nu buŋˀʃe: ˞taiɸu:ˀja ˞pantʃiˀ paruntiŋ ʔu˞moːˀriŋ](この分では、台風はそれて＜外れて＞行くとも思われる)。プ˞スン マイフナーˀティ ウ˞モーリˀン [pụ˞sum maiɸunaːˀti ʔu˞moːˀriŋ](他人に、働き者だと思われる)。

ウ˞モーンˀムヌ ウ˞モーˀシ [ʔu˞moːmˀmunu ʔu˞moːˀʃi] 【慣】寝た子を起こす。忘れかけていた事を思い出させて悩ませる。「思い悩まずともよいことを思い起こさせる」の義。˞バシキカーリ ベーˀタムヌ ブ˞ネーヌˀ パ˞ナシˀバ ˞シーˀ ウ˞モーンˀムヌ ウ˞モーˀシ ヤ˞ラˀビ ナ˞カシ ナーˀヌ [˞baʃi̥kika:ri be:ˀtamunu bu˞ne:nuˀ pa˞naʃiˀba ˞ʃi:ˀ ʔu˞moːmˀ munu ʔu˞moːˀʃi ja˞raˀbi na˞kaʃi naːˀnu](すっかり忘れかけていたのを、母親の話をして、忘れていたことを思い出させて、子供を泣かしてしまったよ)。

ˀウヤ [ˀʔuja] 【名】親。ウ˞ヤˀヌ ッ˞ふァˀ ˀウムースコー ˀウヤ ˀウムー ッ˞ふァーˀ ブ˞ラーンˀツォー [ʔu˞jaˀnu f˞faˀ ʔumu:sụko: ˀʔuja ˀʔumu: f˞fa:ˀ bu˞ra:nˀtso:](親が子を思うほどに思う子はいないそうだ)。ウ˞ヤˀヌ ˞クイˀヤー ˞カンˀヌ ˀクイ [ʔu˞jaˀnu ˞kuiˀja: ˞kanˀnu ˀkui](親の言うこと＜声＞は神のお告げ＜声＞と同じだ)(諺)。ビ˞ケーヌˀウヤ＜ビ˞ケー＞[bi˞ke:nuˀʔuja ＜bi˞ke:＞](父親)。ブ˞ネーヌˀウヤ [bu˞ne:nuˀʔuja ＜bu˞ne:＞](母親)。ˀウヤ ブ˞ラーンッふァ [ˀʔuja bu˞ra:ŋffa](親のいない子)。マ˞マウヤ [ma˞maʔuja](継親)。ˀウヤパープジ [ˀʔujapa:puʤi](先祖)。

ウ˞ヤーギルン [ʔu˞ja:giruŋ] 【他動】督促する。追い立てる。「追い上げる」の義。石垣方言からの借用語。ア˞ギマースンとも言う。ˀウカ ˞カイサンˀナーティ ウ˞ヤーギラリˀ イ˞ミラˀリティ ナ˞ランˀバン [ˀʔuka ˞kaisanˀna:ti ʔu˞ja:girariˀ ʔi˞miraˀriti na˞ramˀbaŋ](借金を返せ＜返さないか＞と追い立てられ、督促されて困っている)。ウ˞ヌ プソーˀ ン˞メーマヌˀ ウカ ヤ˞ラバンˀ ウ˞ヤーギˀ トゥ˞リˀス˞ダー [ʔu˞nu pụ̥soːˀ ʔm˞me:manuˀ ʔuka ja˞rabaŋˀ ʔu˞ja:giˀ tu˞riˀsu˞da:](その人は少しの借金も追い立てて取るよ)。˞ピングˀタンティン ウ˞ヤーギルンˀツォー [˞piŋguˀtantiŋ ʔu˞ja:girunˀtso:](逃げても追い立てるそうだ)。ウ˞リヌˀ ウ˞ヤーギレーˀラ ˞ヌンガーララˀヌ [ʔu˞rinuˀ ʔu˞ja:gireːˀra ˞nuŋga:rara˞nu](その人が追い立てたら逃れられない)。マー˞ンバーˀキン ウ˞ヤーギ イ˞ミˀリ [ma:˞mbaːˀkiŋ ʔu˞ja:giˀ ʔi˞miˀri](何処までも追い立て請求せよ)。

ウ˞ヤースン [ʔu˞ja:suŋ] 【他動】追い上げて不足分

の仕事を埋め合わせる。後追いして補充する。不足分を補填する。「追い合わせる」の義か。ウ˞リヌ˥　ジン　シゥ˞カイヤー˥　ギュー˞サ　モーク˥タンティン　ウ˞ヤーサラヌ [ʔu˞rinu˥ ʤin sʲ̥˞kaijo:ja˥ gju:˞sa mo:ku˥tantiŋ ʔu˞ja:saranu](その人の金遣いは、いくら儲けても後から順に補填できない＜埋め合わされな＞)。ウ˞ヤーシ˥　ッ˞ふィーリ [ʔu˞ja:ʃi˥ ɸ˞fi:ri](後から順に補填してくれ)。ギュー˞サ˥　シゥ˞カーバン˥　ウ˞ヤースン [gju:˞sa˥ sʲ̥˞ka:baŋ˥ ʔu˞ja:suŋ](いくら使っても次々に補填する)。˥クビ　˞バーキ˥ル　ウ˞ヤース˥クトー　˥ナル [˥kubi ˞ba:ki˥ru ʔu˞ja:su˥kuto: ˥naru](これだけしか後から補填できない＜これだけが後から補填できる＞)。ウ˞ヤーシェー˥　ミサムヌ [ʔu˞ja:ʃe:˥ misamunu](後から補填すればよいのに)。˞パー˥ク　ウ˞ヤーシ [˞pa:˥ku ʔu˞ja:ʃi](早く補填せよ)。

ウ˞ヤービ [ʔu˞ja:bi] 【名】うわべ。表面。ウ˞ヤービ˥カー˞ニ˥　ス˞ク˥ライティ　ナ˞カミー˥ヌ　˞ナーン˥カー　˞ユー˥ゾー　˞ナー˥ヌ [ʔu˞ja:bi˥ ka:˞ni˥ sʲ̥˞ku˥raiti na˞kami˥nu ˞na:ŋ˥ka: ˞ju:˥ʤo: ˞na:˥nu](うわべだけ繕って中身がなければ、なんの役にもたたない＜なんの養生にもならない＞)。ウ˞ヤービカーニル　カイ˥ヤル　ナ˞カミー˥ヤ　˞ダーッ˥サー　˞ナー˥ヌ [ʔu˞ja:bika:niru kai˥jaru na˞kami:˥ja ˞da:s˥sa: ˞na:˥nu](上辺＜表面＞だけが美しいのであって、中身は良くない)。

˥ウヤーラー [˥ʔuja:ra:] 【名】大声で叫ぶ人。絶叫する人。ウ˞レー˥　ウヤーラー　ヤ˞ルンダ˥　ミ˞スコーミスコー˥シ　パ˞ナ˥シ　˞シーサヌ [ʔu˞re:˥ ʔuja:ra: ja˞runda˥ misʲ̥˞ko:misʲ̥ko:˥ʃi pa˞na˥ʃi ˞ʃi:sanu](彼は大声で叫ぶ人だから小声で＜注意深く丁寧に＞話すことが出来ない)。

ウ˞ヤー˥リカヤーリ [ʔu˞ja:˥rikaja:ri] 【名】騒々しいこと。大声をだして騒ぐこと。ABCDEBCD 型の重言。˥カナー　ウ˞ヤー˥リカヤーリ　˞シーベー˥ヌ　ヌーカヤー [˥kana: ʔu˞ja:˥rikaja:ri ˞ʃi:be:˥nu ˥nu:kaja:](あそこに大声を出して騒いでいるが何だろうか)。

ウ˞ヤー˥ルン [ʔu˞ja:˥ruŋ] 【自動】叫ぶ。大声を出す。˥カナー　ウ˞ヤー˥リ　˞ベー˥モー　˞ター˥ヤ [˥kana: ʔu˞ja:˥ri ˞be:˥mo: ˞ta:˥ja](あそこに大声で叫んでいるのは誰か)。˞ワー˥　ウ˞ヤー˥ルカー　˞バン˥ヌン　ウ˞ヤー˥ルン [˞wa:˥ ʔu˞ja:˥ruka: ˞ban˥nuŋ ʔu˞ja:˥ruŋ](君が叫んだら私も叫ぶ)。ウ˞ヤー˥ル　プ˞ソー˥　ター˞ン˥　ブ˞ラーヌ [ʔu˞ja:˥ru pu˞so:˥ ta:˞m˥ bu˞ra:nu](大声で叫ぶ人は誰もいない)。˞マー˥ビン　ウ˞ヤー˥レー　˥ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ʔu˞ja:˥re: ˥misamunu](もっと叫べばよいのに)。˞ワンヌン　マー˥ビン　ウ˞ヤー˥リ [˞wannum ma:˥biŋ ʔu˞ja:˥ri](君ももっと大声で叫べ)。

ウ˞ヤーンチ˥ズン [ʔu˞ja:ntʃi˥ʤuŋ] 【他動】念願する。祈る。祈念する。期待する。「拝み手摺る」の転訛したものという (『石垣方言辞典』) 説があるが、「拝み手擦りおる」が音韻法則に適合するようだ。「先人の余沢にあずかることが出来るよう祈願＜念願＞する」の意が強い。˞カンヌ˥マイ　˞ティー˥ッサイ　ウ˞ヤーンチザ˥バ　ヤー˞ディン˥　シ˞キン˥マー　ア˞タリ˥　クー˞ヨー [˞kannu˥mai ˞ti:˥ssai ʔu˞ja:ntʃi˥ʤa˥ba ja:˞diŋ˥ ʃi˞kim˥ma: ʔa˞tari˥ ku:˞jo:](神様に手を合わせて祈願するから、必ず試験に合格して＜当って＞きなさいねえ)。˞バン˥ヌン　ウ˞ヤーンチ˥ズン [˞ban˥nuŋ ʔu˞ja:ntʃi˥ʤuŋ](私も祈願＜念願＞する)。ター˞ン˥　ウ˞ヤーンチジ˥　プ˞サ˥ル [ta:˞ŋ˥ ʔu˞ja:ntʃi˥ʤi˥ pʲ̥˞sa˥ru](誰もが余沢にあずかれるよう祈願したがるものだ)。ウ˞ヤーンチ˥ズ　˥クトゥ [ʔu˞ja:ntʃi˥ʤu ˥kʲ̥tu](念願すること)。ウ˞ヤーンチ˥ジェー　˥ミサムヌ [ʔu˞ja:ntʃi˥ʤe: ˥misamunu](念願すればよいのに)。˞ワンヌン˥　ウ˞ヤーンチジ˥リ [˞wannuŋ˥ ʔu˞ja:ntʃi˥ʤi˥ri](君も余沢にあずかれるよう念願しなさい)。

ウ˞ヤーン˥ツン [ʔu˞ja:n˥tsuŋ] 【他動】念願する。祈る。祈念する。期待する。「拝み手擦る」の転訛したものか。下二段系動詞「擦れる」が「拝み・手」に複合して四段活用化したものか。˥バー　ウ˞ヤーンツァ˥バ　イ˞ジ˥ンジ　˥シキン　ウ˞キ˥リ˞ヨー [˥ba: ʔu˞ja:ntsa˥ba ʔi˞ʤin˥ʤi ˥ʃi̥kiŋ ʔu˞ki˥ri˞jo:](私が神様に祈願するから勇気を出して試験を受けなさいね)。˞バン˥ヌン　ウ˞ヤーン˥ツン [˞ban˥nuŋ ʔu˞ja:n˥tsuŋ](私も念願する)。ウ˞ヤーン˥チ　˥ミサン [ʔu˞ja:n˥tʃi misaŋ](祈願＜念願＞してよい)。ウ˞ヤーン˥ツ　˥クトゥ [ʔu˞ja:n˥tsu ˥kʲ̥tu](祈願＜念願＞すること)。ウ˞ヤーン˥チェー　˥ミサムヌ [ʔu˞ja:n˥tʃe: misamunu](念願すればよいのに)。ウ˞ヤーン˥チ [ʔu˞ja:n˥tʃi](祈願しなさい)。

ウ˞ヤ˥ウシ [ʔu˞ja˥uʃi] 【名】親牛。˥インダヌ　マ˞ケー˥ラ　ウ˞ヤ˥ウシ　˞トゥッカラ˥　バキティ　サ˞キンダヌ˥　マ˞ケー˥　ウ˞ツ˥ソーッタツォー [˥ʔindanu ma˞ke:˥ra ʔu˞ja˥ʔuʃi ˞tukkara˥ bakiti sʲ̥˞kindanu˥ ma˞ke:˥ ʔu˞tsu˥so:ttatso:](伊武田の牧から親牛を十頭＜十匹＞分けて崎田の牧へ移されたそうだ)。

˥ウヤウムイ [˥ʔujaumui] 【名】親思い。孝心の篤い子。カ˩リヌ˥　スコーヌ　˥ウヤウムイヌ　ッ˩ふァー˥　ブ˩ラーヌ [ka˩rinu˥ su̥ko:nu ˥ʔujaumuinu f˩fa:˥ bu˩ra:nu](彼ほどの親思い＜孝心の篤い子＞は他にいない)。

˥ウヤカール [˥ʔujaka:ru] 【名】親代わり。˩バー˥ル　ク˩ヌ　ッふァヌ˥　ウヤカール　˥ナリ　シゥ˩カ˥ナイ　˥ケール [˩ba:˥ru ku˩nu ffanu˥ ʔujaka:ru ˥nari si̥˩ ka˥nai ˥ke:ru](私がこの子の親代わりになって養育して＜養って＞きたのだ)。

ウ˩ヤ˥カタ [ʔu˩ja˥kḁta] 【名】親方。親分。カツオ漁業の経営者。自分の仕えている主人。カ˩ツシンヌ˥　ウ˩ヤ˥カタ [kḁ˩tsuʃinnu˥ ʔu˩ja˥kḁta](カツオ船の親方)。パ˩トゥマ˥ヌ　カ˩ツシンヌ˥　ウ˩ヤ˥カタ　˩ソー˥レー　˩ヤー˥ヤ　˩カンザトゥ˥ヤー　˩ダイ˥ケー　ア˩マシェー　˩ウイカナケー　ウ˩チ˥ネー　˩ヤッタ˥ナー [pḁ˩tuma˥nu kḁ˩tsuʃinnu˥ ʔu˩ja˥kata ˩so:˥re: ˩ja:˥ja ˩kandzatu˥ja:、˩dai˥ke:、ʔa˩maʃe:、˩ʔuikanake:、ʔu˩tʃi˥ne: ˩jatta˥na:](鳩間のカツオ船の親方をされた家は慶田城家、大工家、小浜家、浦崎家、仲伊部家であったねえ)。

˥ウヤガミ [˥ʔujagami] 【名】親神様。島の生みの親なる守り神様。歌謡語。/ヘイヤー　ウブトゥムル　ホー　マブルシュー　ヘイヤー　ウブシクヌ　ホー　ウヤガミ/(ヘイヤー＜囃子＞　大友利嶽　ホー＜囃子＞の守り神様　ヘイヤー　大グシク＜城＞の　ホー　親神様)(豊年祭の歌、「大友利嶽」の第一連)。

ウ˩ヤ˥キ [ʔu˩ja˥ki] 【名】富貴。裕福の家。資産家。「天事、オホヤケコト」『類聚名義抄』の転訛したものか。ウ˩ヤ˥キヤーナ　ス˩ダティラ˥レー　ッ˩ふァ˥　ヤ˩ルンダ˥　ムヌ　ア˩タラ˥サ　˩スンティ˥　ッ˩サヌ [ʔu˩ja˥kija:na su˩datira˥re: f˩fa˥ ja˩runda˥ munu ʔa˩tara˥sa ˩sunti˥ s˩sanu](裕福な家に生まれた子なので物を大切にするという事を知らない)。ウ˩ヤ˥キヤー [ʔu˩ja˥kija:](裕福な家)。ウ˩ヤ˥キ　˥プス [ʔu˩ja˥ki ˥pu̥su](お金持ち。資産家)。

ウ˩ヤ˥キアカハチ [ʔu˩ja˥kiʔakahatʃi] 【固】(人) 十六世紀の初頭に首里王府に対して謀反を起こした八重山の豪族。波照間島から身を起こし、石垣島へ渡って大浜を根拠に勢力を伸ばしたといわれている。ウ˩ヤ˥キアカハチェー　ウ˩キナー˥トゥ　イ˩クサ˥バ　ウ˩ク˥シティル　フ˩ルブサレー˥ツォー [ʔu˩ja˥kiʔakahatʃe: ʔu˩kina:˥tu ʔi˩kusa˥ba ʔu˩ku˥ʃi̥tiru ɸu˩rubusare:˥tso:](ウヤキアカハチは沖縄と戦を起こして滅ぼされたそうだ)。

ウ˩ヤ˥キ　˩スン [ʔu˩ja˥ki ˩suŋ] 【連】金持ちになる。裕福になる。カ˩ツシンラ　モーキンザ˥シ　ウ˩ヌ　プス˥　イチダイシ　ウ˩ヤ˥キ　˩シェー˥ダー [ka˩tsuʃinra mo:kindzaʃi ʔu˩nu pusu˥ ʔitʃidaiʃi ʔu˩ja˥ki ˩ʃe:˥da:](カツオ船から儲け出して、その人一代で金持ちになったのだよ)。

ウ˩ヤ˥キパンジョウ [ʔu˩ja˥kipandʒo:] 【名】富貴繁盛。裕福で子孫繁盛すること。明治生まれの古老は、ウ˩ヤ˥キパンゾー [ʔu˩ja˥kipandzo:] という。˥ドゥーパダ　˩キンコー˥シ　ウ˩ヤ˥キパンジョー　ア˩ラ˥シミ　タ˩ボー˥リティル　ニガイ˩オーシル˥ダー [˥du:pada ˩kiŋko:˥ʃi ʔu˩ja˥kipandʒo: ʔa˩ra˥ʃimi ta˩bo:˥ritiru ˥nigai ˩ʔo:ʃiru˥da:](体が健康で富貴繁盛をあらしめ賜りますようにと祈願申し上げるのだよ)。歌謡語に/イヤイーヤー　ウスメーデー　カルマキ　ウラリティ　ウヤクチョーデー　トゥジックゥ　ヤシナティ　ムラトゥン　ワブクニ　ワルビ　トゥシユリ　カンカ　　クドゥクヌ　モチキナ　モノマディ　ンゾーサ　ソーリバ　ティンヌ　ミグミヌ　ウヤキパンジョー　アラシミセユサ　ナマヌ　パヤシニ　クドゥキ　ユミユミ/(いやいやー御主＜国王＞様の公務を務めることが出来て、親子兄弟や妻子を養育して、村中が和睦に暮らし、子供も年寄りも男らも老いて妻のない男や鰥夫、寡婦まで慈しみ愛すれば天のみ恵みは富貴繁盛あらしめ賜るのだ。今の囃子に口説きを歌おう)(「鳩間口説」第一連『鳩間島誌』、『竹富町史　第六巻　鳩間島』)。

ウ˩ヤ˥キフクジン [ʔu˩ja˥kiɸu̥kudʒiŋ] 【名】大金持ちで子孫繁盛した人。˥フクジン [˥ɸu̥kudʒiŋ] は (福人＜富裕な人)」『天草本伊曾保物語』の義。パ˩トゥ˥マナテー　ウ˩ヤ˥キフクジンティ　ア˩ズ˥カー　˥メー　ク˩ヌ　プスバー˥キ˩ナー [pḁ˩tu˥manate: ʔu˩ja˥kiɸu̥kudʒinti ʔa˩dzu˥ka: ˥me: ku˩nu pu̥suba:˥ki˩na:](鳩間島では大金持ちの福人といえば、もうこの人までだなあ)。

ウ˩ヤ˥キプス [ʔu˩ja˥kipu̥su] 【名】金持ち。金満家。富貴人。ウ˩キ˥ナーナテー　ミ˩ジラ˥シ　ウ˩ヤ˥キプスヌ　˩オー˥ルンツォー [ʔu˩ki˥na:nate: mi˩dʒira˥ʃi ʔu˩ja˥kipu̥sunu ˩ʔo:˥runtso:](沖縄では世にも珍しい大金持ちがおられるそうだ)。

ウ˩ヤ˥キミン [ʔu˩ja˥kimiŋ] 【名】福耳. 福相の耳。金持ちになる相の耳。耳たぶの大きな耳。˩ワッ˥テヌ　プ˩ソー˥　ムー˩ル˥　ウ˩ヤ˥キミン　˩シーブー˥サ

˞ナー [˞watˀtenu pu̥˞soː˜ muː˞ruˀ ʔu˞jaˀkimiŋ ˞ʃiːbuː˜ sa˞naː](君の家の人はみんな福相の耳をしているねえ)。

ウ˞ヤ˜キヤー [ʔu˞jaˀkijaː] 【名】金持ちの家。資産家。ウ˞ヤ˜キヤーヌ　プ˞ソー　ジンカニ˜ヌ　˞ソーヤナー˜ンダ　ウ˞ラーミ˜サワ˞ナー [ʔu˞jaˀkijaːnu pu̥˞soː ʤiŋkaniˀnu ˞soːja naː˜nda ʔu˞raːmiˀsawa˞naː](金持ちの家の人は銭金の心配はないから羨ましいねえ)。

˜ウヤキョーダイ [˜ʔujakjoːdai] 【名】親兄弟。サ˞ク˜シェー　˜ウヤキョーダイヌ　˜クトゥン　イッ˞ケナ˜　ウムイ　ッ˞ふィールン [sḁ˞kuˀʃeː ˜ʔujakjoːdainu ˀku̥tuŋ ʔik˞kena˜ ʔumui f˞fiːruŋ](長男＜嫡出子＞は親兄弟のことも良く心配して＜配慮して＞くれる)。

ウ˞ヤ˜グニ [ʔu˞jaˀguni] 【名】本国。鳩間島からは蔵元のある石垣島をいい、宮古・八重山からは琉球国王の居られる沖縄本島をさしていう。「親国」の義。ウ˞ヤ˜グネーラ　˞オー˜レール　プ˞スンケー˜ヤ　˞マー˜ル　˞オーッ˜タカヤー [ʔu˞jaˀguneːra ˞ʔoː ˜reːru pu̥˞suŋkeː˜ja ˞maː˜ru ˞ʔoːtˀtakajaː](沖縄本島から来られた方々＜人達＞は何処へ行かれたのだろうか)。ウ˞ヤ˜グニナール　ウスン˞ガナ˜シェー　˜マイヤ　˞オー˜ル [ʔu˞jaˀgunina:ru ʔusuŋ˞ganaˀʃeː ˜maija ˞ʔoː˜ru](沖縄本島に＜ぞ＞国王様＜御主加那志前＞はいらっしゃる)。

˜ウヤグゥンス [˜ʔujagwansu] 【名】ご先祖。「親元祖」の意。˞クン˜ネヌ　ム˞トゥ˜パカナー　˜ウヤグゥンソーラヌ　˜クチカミヌ　ビ˞シラリティ˜　ア˞リ˜ブ˞ダー [˞kunˀnenu mu˞tuˀpḁkana: ˜ʔujagwanso:ranu ˜ku̥ʧikaminu bi˞ʃirariti˜ ʔa˞riˀbu˞daː](この家の大きな墓＜本墓＞には、先祖代々＜ご先祖さまから＞の骨壷が据え置かれてあるよ)。

˜ウヤコーコー [˜ʔujakoːkoː] 【名】親孝行。ク˞ヌ˜　ッ˞ふァル　キョーダイ˜サナー˜　イッ˞チン˜　ウヤコーコー　˞シー　ブー [ku˞nu˜ f˞faru kjoːdaiˀsanaː ʔit˞ʧiŋ˜ ʔujakoːkoː ˞ʃiː buː](この子が兄弟の中で一番親孝行をしている)。

ウ˞ヤ˜ザ [ʔu˞jaˀʤa] 【名】(動) ネズミ (鼠)。「おやんちよ」『琉球戯曲辞典』。鼠を表す琉球方言は、ユムヌ系 (宮古諸方言)、ッエンチュ、ウヤンチュ系 (沖縄本島、八重山諸方言)、ウヤザ系 (八重山諸方言)、ネズミ系 (奄美諸方言) のように分布している (『図説琉球語辞典』)。ウ˞ヤザ˜ヌ　˜シディティ　パ˞タキ˜ヌ　˜ウンラ　˞ダイ˜クニ˞バー˜キ　ユ˞カーラスコー˜　シ˞ラリナー˜ヌ [ʔu˞jaʤaˀnu ˜ʃiditi pḁ˞takiˀnu ˜ʔunra ˞daiˀkuni˞baːˀki ju˞kaːrasu̥koː˜ ʃi˞rarinaː˜nu](ネズミが異常繁殖して畑の芋や大根まで相当大量に荒らされて＜やられて＞しまった)。

ウ˞ヤザ˜ヌ　˞ニン˜ガイ [ʔu˞jaʤaˀnu ˞niŋˀgai] 【連】鼠駆除の祈願。鼠害が発生すると、友利御嶽において鼠駆除の祈願が執り行われた。その際、ムラヤクサ (村役人) たちが鼠を捕獲して、板やクバの葉柄で作った小舟に乗せ、鶏肉や神酒、花米なども載せて、御嶽での祈願の終了とともに、島の西の崎から外海へ流した。村役人は、小舟を流す際に、ク˞ヌ˜　シマー　ッ˞ふァイムヌン　ナー˜ヌ　˜シマン　グ˞マー˜ティ　˜クナーヤ　タ˞タラン˜バ　˞インヌホー˜ナ　˞マー˜ビン　ユ˞チク˜ヌ　ク˞ニヌ˜　アリ˞ベー˜ティ　˜ウマナ　˞オー˜リ　タ˞トー˜リ [ku˞nu˜ ʃimaː f˞faimunun naː˜nu ˜ʃimaŋ gu˞maː˜ti ˜kunaːja tḁ˞taramˀba ˞ʔinnu hoː˜na ˞maː˜biŋ ju˞ʧikuˀnu ku˞ninu˜ ʔari˞beː˜ti ˜ʔumana ˞ʔoː˜ri tḁ˞toː˜ri](この島は、食べ物がありません。島も小さいので、ここでは暮らしていけません＜立たれない＞ので、西の方に、もっと豊かな国がありますので、そこへ行かれて暮らして行きなされ) と唱えた。

ウ˞ヤザ˜ヌパナ [ʔu˞jaʤaˀnupana] 【名】(植) 草の名。オシロイバナ。オシロイバナ科の多年草。夏から秋に数花ずつ集まり咲く。色は白や紅。鳩間島では好まれない花とされ、屋敷内に自生すると引き抜いて捨てた。ウ˞ヤザ˜ヌパ˞ナ˜ヌ　˞ヤー˜ヌ　カ˞ク˜ナー　˞ムイ˜ルカー　ピ˞キシティソーッ˜タ [ʔu˞jaʤaˀnu pa˞naˀnu ˞jaː˜nu kḁ˞kuˀnaː ˞muiˀruka: pi̥˞kiʃitiso:tˀta](オシロイバナが屋敷内に生えると引き抜いて捨てられた)。

ウ˞ヤ˜ザヤマ [ʔu˞jaˀʤajama] 【名】ネズミ捕り器。板ばね (発条) 仕掛けのネズミ捕り器が多かった。ウ˞ヤ˜ザヤマ　ア˞ギティ˜　ウ˞ヤ˜ザ　˜トゥリバ [ʔu˞jaˀʤajama ʔa˞gitiˀ ʔu˞jaˀʤa ˜turiba](ネズミ捕り器を仕掛けてネズミを捕れよ)。

ウ˞ヤ˜ジマ [ʔu˞jaˀʤima] 【名】主要な島。統治者のいる島。離島からは石垣島を指していい、宮古、八重山からは沖縄本島を指していう。「親島」の義。ウ˞キナー˜ヌ　ウ˞ヤ˜ジマーラル　˞ウイヌ　プ˞スヌ　オー˜レー˞トゥ˜ツォー [ʔu˞kinaː˜nu ʔu˞jaˀʤimaːraru ˞ʔuinu˜ pu̥sunu ʔoː˜reː˞tuˀtsoː](沖縄の親島から上の人＜上級役人＞が来られたそうだ)。

ウ˞ヤッ˜ふァ [ʔu˞jaf˜fa] 【名】親子。˞ワーター˜　ウ˞ヤッ˜ふァ　˜ミサナリ　˞アークン [˞waːtaː˜ ʔu˞jaf˜fa

˥misanari ˩ʔaːkuŋ](君たち親子は元気で過ごしているか)。˩ウン˥ネヌ　ウ˩ヤ˥ッふァー　˥ナカー　˩カイ˥ヤン [˩ʔun˥nenu ʔuˡjafʲfaː ˥nakaː ˩kai˥jaŋ](その家の親子は仲が親密である。< 親子の仲が綺麗だ >)。ウ˩ヤッ˥ふァ　˩カイ˥ヤー　ッ˩ふァー˥ラティル　˩デンサー˥ブシナー　アル˩ダー [ʔuˡjafʲfa ˩kai˥jaː fʲfaː˥ratiru ˩densaː˥buʃinaː ʔa˩rudaː](親子の間柄の良さ < 美しさ > は子供の理解の良さから、とデンサー節には歌われてあるよ)。

ウ˩ヤッふァ˥ヌ　サ˩カシキ [ʔu˩jaffa˥nu sḁ˩kaʃi̥ki] 【連】親子の盃。親子の固めの盃。結婚式の時の盃事。新郎は嫁方の両親と、新婦は婿方の両親と親子の固めの盃を交わす。˥ニービキヌ　˥ヨイナー　ウ˩ヤッふァ˥ヌ　サ˩カシキ　ソー˥ルン [˥niːbikinu ˥joinaː ʔu˩jaffa˥nu sḁ˩kaʃi̥ki soː˥ruŋ](結婚式のお祝いに親子の盃を交わされる)。

˥ウヤティン　ッ˩ふァ˥ティン [˥ʔujatiŋ fʲfa˥tiŋ] 【連】親とも子とも。下に打ち消しの陳述を伴って副詞句を作る。˥ヌンティル　ウ˩ヤッ˥ふァー　˩アウ˥タユー　マ˩ナ˥マーラー　˥ウヤティン　ッ˩ふァ˥ティン　ウ˩モー˥ヌティ　ア˩ジ　ベートツォカー　ピ˩ルマ˥サ [˥nuntiru ʔu˩jafʲfaː ˩ʔau˥tajuː ma˩na˥maːraː ˥ʔujatin fʲfa˥tiŋ ʔu˩moː˥nuti ʔa˩ʤi beːˊtsokaː pi˩ruma˥sa](何故に親子は喧嘩したのか、今からは親とも子とも思わないと言っているんだよ。珍しい < 不思議だ >)。

ウ˩ヤ˥ドゥル [ʔu˩ja˥duru] 【名】親鳥。ッ˩ふァサーリ˥　ウ˩ヤ˥ドゥロー　プ˩スン˥トン　ン˩カイ˥　クンダ　ナ˩クラーントダー [fʲfasaːri˥ ʔu˩ja˥duroː pu̥˩sun˥toŋ ŋ˩kai˥ kunda na˩kuraːnˊdaː](雛を連れた < 子連れの > 親鳥は人の所に向かって来るから怖いよ)。

˥ウヤトゥン　ッ˩ふァ˥トゥン [˥ʔujatuŋ fʲfa˥tuŋ] 【連】親子の間でも。「親とも子とも」の転訛したもの。˥ウヤトゥン　ッ˩ふァ˥トゥン　˩ジンカニ˥ヌ　˥クトゥ　˥ナルカー　˩ムン˥ドー　ウ˩クルン˩ダー [˥ʔujatuŋ fʲfa˥tun ˩ʤiŋkani˥nu ˥ku̥tu ˥naruka: ˩mun˥do: ʔu˩ku˥run˩daː](親子の間でも < 親とも子とも > お金のことになると問答 < 争いごと > が起きるよ)。

ウ˩ヤ˥ヌ　˩クイ˥ヤ　˩カン˥ヌ　˥クイ [ʔu˩ja˥nu ˩kui˥ja ˩kan˥nu ˥kui] 【文】親の声は神の声。˩親の言うことは神のお告げと同じだ」の義。親の意向には逆らえないの意 (諺)。

ウ˩ヤ˥ヌ　プ˩リムヌ [ʔu˩ja˥nu pu˩rimunu] 【連】親ばか。子煩悩。「親の狂れ者」の義。ウ˩ヤ˥ヌ　プ˩リムヌティ˥　ア˩ズ˥カー　ウ˩リバー˥キ　ヤ˩ラビ˥ヌ　˥クトゥシ　˥アイニ　˩オーナール　シーベー [ʔu˩ja˥nu pu˩rimunuti˥ ʔa˩ʤu˥kaː ʔu˩ribaː˥ki ja˩rabi˥nu ˥ku̥tuʃi ˥ʔaini ˩ʔoːnaːru ʃiːbeː](親ばかと言えば彼までだ。子供のことであんなに嫉妬している)。

ウ˩ヤ˥ヌ　プ˩リムヌ˥　ッ˩ふァチクショー [ʔu˩ja˥nu pu˩rimunu˥ fʲfatʃikuʃoː] 【成】親は大の子煩悩で、子供は恩知らずの畜生同然である。親は自分の子供のこととなると善悪の区別を忘れるほどに思うのに、子供は親の気持ちを理解せず畜生同然であるの意。ム˩カ˥シェーラ　ウ˩ヤ˥ヌ　プ˩リムヌ˥　ッ˩ふァチクショー˥ティ　ア˩ザリブー [mu˩ka˥ʃeːra ʔu˩ja˥nu pu˩rimunu˥ fʲfatʃikuʃoː˥ti ʔa˩ʤaribuː](昔から親は子煩悩で子供は恩知らずの畜生同然であるといわれている)。

ウ˩ヤ˥ヌマイ [ʔu˩ja˥numai] 【名】み親。親御様。親の敬語。マイ [mai](前) は尊敬の接尾語で、「〜様」の意。˩カンヌ˥マイ [˩kannu˥mai](神様)。ウシュン˩ガナ˥シェーマイ [ʔuʃuŋ˩gana˥ʃeːmai](国王様) の様に用いられる。ウ˩ヤ˥ヌマイヌ　ア˩ゾー˥ルクトー　マー˩ンバー˥キン　シゥ˩カン˥カー　ナ˩ラ˥ヌ [ʔu˩ja˥numainu ʔa˩ʤoː˥rukuto: ma:˩mbaː˥kin si̥˩kaŋ˥kaː na˩ra˥nu](親御様の言われることは、どこまでも聞き届けなければならない)。

ウ˩ヤ˥ヌヤー [ʔu˩ja˥nujaː] 【名】実家。里。ウ˩ヤン˥ヤー [ʔu˩jaŋ˥jaː](実家 < 親の家 >) ともいう。˥クマー　˥バー　ウ˩ヤ˥ヌヤー　˥バー　˥クナーティル　マ˩リ˥　ス˩ダティラリ˥タ [˥kumaː ˥baː ʔu˩ja˥nujaː ˥baː ˥kunaːtiru ma˩ri˥ su˩datirari˥ta](ここは私の実家 < 親の家 > です。私はここで < ぞ > 生まれ、育てられました)。

˥ウヤパーブジ [˥ʔujapaːbuʤi] 【名】先祖。「親大祖父」の義。曽祖父より上の代の先祖。祖先神となって常に子孫を守護していると信じられている。˥ウヤパーブジヌ　ア˩ラ˥ソーレール　˩ヤーヤシ˥キ　˩ジー˥マシ　˩カーシェー˥　ナ˩ラ˥ヌ [˥ʔujapaːbuʤinu ʔa˩ra˥soːreːru ˩jaːjaʃi̥˥ki ˩ʤiː˥maʃeː ˩kaːʃeː˥ na˩ra˥nu](先祖の作られた家屋敷、田畑 < 土地 > は売ってはならない)。˩ベー˥ヌ　˥ウヤパーブジナー　˩カンザ˥ヤーン　˩ソー˥リ　˩ヤーザイ˥クン　˩ソー˥レール　プ˩スン　オーッ˥タンツォー　˥アイ　ヤ˩レーティ˥ル　カ˩ザケー˥ティ　ア˩ズ˥ツォー [˩beː˥nu ˥ʔujapaːbuʤinaː ˩kanʤa˥jaːn ˩soː˥ri ˩jaːʤai˥kun ˩soː˥reːru pu̥˩suŋ ʔoːt˥tantsoː ˥ʔai ja˩reːti˥ru ka˩ʤakeː˥ti

ʔaˈʤu˥tsoː](我が家の先祖の中には鍛冶屋もなさり、家大工の棟梁をされた人もおられたそうだ。それでカザケーというそうだ)。

ウˈヤ˥ビ [ʔuˈja˥bi] 【名】指。手足の指。老年層の言葉。ウˈヤ˥ビシ ˈウッソン˥ヌ スˈブ˥ シˈキふィーラン˥ノーレー スˈブ˥ル ˥ヤミ ニˈジララン˥バン [ʔuˈja˥biʃi ˈʔusson˥nu suˈbu˥ ʃi̥ˈkifiːran˥noːreː suˈbu˥ru ˥jami niˈʤiraram˥baŋ](指で盆の窪のツボを突き押してくれないか。頭が痛くて < 病みて > 我慢できない < 念ずることが出来ない > わい)。ウˈブウヤ˥ビ [ʔuˈbuʔuja˥bi](親指 < 大指 >)。「ウヤビ [ujabi](指)『八重山語彙』」。ˈウイ˥ビ [ˈʔui˥bi](指)ともいう。ˈウイ˥ビ [ˈʔui˥bi]、ウˈヤ˥ビ [ʔuˈja˥bi](指)は、「指、ユビ、俗云オヨビ」『類聚名義抄』の転訛したもの。ˈティー˥ヌ ウˈヤ˥ビシ カˈサミティ パンツァシ˥バ [ˈtiː˥nu ʔuˈja˥biʃi kạˈsamiti pantsaʃi˥ba](手の指で掴んで外しなさいよ)。ˈパン˥ヌ ウˈヤ˥ビ [ˈpan˥nu ʔuˈja˥bi](足の指)。ウˈブウヤ˥ビ [ʔuˈbuʔuja˥bi](親指)『八重山語彙』」。ウヤˈベー˥マ [ʔujaˈbeː˥ma](小指)。「ウヤベーマ [ujab'eːma](小指)『八重山語彙』」。プˈスッシ˥ウビ [pu̥ˈsuʃʃi˥ʔubi](人差し指)、ˈプス-サシ [pusu-sas'i](人差し指)『八重山語彙』」。ナˈカウヤ˥ビ [naˈkauja˥bi](中指)。「ナカ・ウヤビ [naka-ujab'i](中指)」『八重山語彙』。「ナー・ナーヌ・ウヤビ [naː-naːnu-ujab'i](薬指)『八重山語彙』とある。

ウˈヤピュー˥ル [ʔuˈjapjuː˥ru] 【名】祭祀、祈願行事の本日程。「おやひより (親日和)」の義。キˈチゴンヌ˥ ウˈヤピュー˥ロー ˈクンガチ˥ヌ ミˈジニー˥ナール ˥トゥリシケーツォー [kiˈʧigonnu˥ ʔuˈjapjuː˥ro: ˈkuŋgatʃi˥nu miˈʤiniː˥naːru ˥turiʃi̥ke:tsoː](結願祭の親日和は九月の壬の日に取ってあるそうだ)。神事の日和は農業、漁業、その他の島の事情により、ウˈヤピュー˥ル [ʔuˈjapjuː˥ru] の外にˈマイピュー˥ル [ˈmaipjuː˥ru](ウヤピュールの前月の同じ干支の日。前日和) と˥アトゥピュール [˥ʔatupjuːru](ウヤピュールの翌月の同じ干支の日。後日和) などがある。

˥ウヤフコー [˥ʔujaɸu̥koː] 【名】親不幸。ヤˈナクトゥバ シー˥ カˈサマリティ˥ カイブ ˥ウヤフコーテー ˈナー˥ヌ [jaˈnakutuba ʃiː˥ kạˈsamariti˥ kaibu ˥ʔujaɸu̥koːteː ˈnaː˥nu](悪いことをして逮捕され < 掴まれて > て、こんな親不幸とては < 他に > 無い)。˥ウヤフコームヌ [˥ʔujaɸu̥koːmunu](親不孝者)。ˈウンザー˥ トゥシェー ウˈビ˥ナー ˥ナリティ ˥ウヤン ˈソーバ˥ シˈメー˥ティ ˈアー˥ク ˥ウヤフコームヌ [ˈʔunʤaː˥ tu̥ʃeː ʔuˈbi˥naː ˥nariti ˥ʔujan ˈsoːba˥ ʃiˈmeː˥ti ˈʔaː˥ku ˥ʔujaɸu̥koːmunu](こいつはいい年して < 年はこんなになって > 親に心配をかけて < 心配させて > いる親不孝者だ)。

ウˈヤ˥プス [ʔuˈja˥pusu] 【名】先祖。「親人」の義か。ウˈヤ˥プス クˈヨー˥ムンティル ムˈチマイ˥ ガˈシ˥タク ガˈシ˥イズン スˈコーリル˥ イˈサナケー オーッ˥タ [ʔuˈja˥pu̥su kuˈjoː˥muntiru muˈʧimai˥ gaˈʃi˥taku gaˈʃi˥ʔiʤun su̥ˈkoːriru˥ ʔiˈsanakeː ʔoːtˈta](先祖を拝むために < 拝もうとしてぞ > 糯米、燻製蛸、燻製魚も準備して石垣へ行かれた)。

ウˈヤプス˥ヌマイ [ʔuˈjapu̥su˥numai] 【名】ご先祖様。ご仏前。ウˈヤプス˥ヌマイナー ˈカウワー˥ シキタティティ ˈティー˥ヤ ウˈサーシティ˥ パリバˈヨー [ʔuˈjapu̥su˥numaina ˈkauwa˥ ʃi̥kitatiti ˈtiː˥ja ʔuˈsaːʃi̥ti˥ paribaˈjoː](ご先祖様の前 < ご仏前 > に線香を点け立てて手を合わせ < 合掌し > て帰り < 行き > なさいね)。

˥ウヤ ブˈラーンッふァ [˥ʔuja buˈraːnffa] 【連】孤児。みなしご。「親のいない子」の義。˥ウヤ ブˈラーンッふァ˥ティ アˈザラン˥ヨーニ シカイˈトゥ ベンキョー シー˥ダー [˥ʔuja buˈraːnffati˥ ʔaˈʤaraŋ˥joːni ʃi̥kaiˈtu beŋkjoː ʃiː˥daː](親のない子と言われないようにしっかりと勉強しなさいよ)。

ウˈヤ˥ブン [ʔuˈja˥buŋ] 【名】親分。親方。網元。船主。カˈツシンヌ˥ ウˈヤブン˥マー ˈタール シーオール˥ワ [kạˈtsuʃinnu˥ ʔuˈjabum˥maː ˈtaːru ʃiːʔoːru ˥wa](カツオ船の船主 < 親方 > は誰がしておられるか)。ワˈター ドゥー˥ヌ ウˈヤ˥ブンラ ˈジン˥マー カˈリ˥バ [waˈtaː duː˥nu ʔuˈja˥bunra ˈʤim˥maː kaˈri˥ba](君達は自分の親分からお金は借りなさいよ)。

ウˈヤマー˥ル [ʔuˈjamaː˥ru] 【名】琉球国時代の役人。地方巡検使。「親回り」の義。˥ウヤ [˥ʔuja](親。役人) にˈマー˥ル [ˈmaː˥ru](回り、巡視、巡見) が結合して形成された複合語 (合成語)。/ウヤマーリヌ オールカージ サンピキアイヌ ユシルカージ パイバタン バタショーリ インダパマ バタショーリ～/(ウヤマール < 地方巡検使 > がいらっしゃる度に、検地係 < 算引き合い > がお寄りになる度に、南端 < 西表島 > にお渡しして、伊武田浜へお渡しして～)「バガパトゥマジラマ、第 4、5 連」『鳩間島古典民謡古謡集』。イˈサナケー˥ラ ウˈヤマール˥ヌ ˈオー˥ルカー トゥˈリム˥チ ˈシー パイ˥ター バˈタシオーラ˥シ ˈターカー˥ジ

˞マーリティル˜　クン　シゥ˞カソーッ˜タツォー [ʔi˞sanakeː˜ra ʔu˞jamaːru˜nu ˞ʔoː˜rukaː tu˞rimu˜ʧi ˞ʃiː paiˀtaː ba˞taʃiʔoːra˜ʃi ˞taːkaː˜ʤi ˞maːritiru˜ kuŋ sɨ̥ ˞kasoːt˜tatsoː](石垣から巡検の役人いらっしゃると接待をして、南端＜西表島＞へお渡しし、田圃ごとに巡見をして古見村までご案内して差し上げたそうだ)。

ウ˞ヤマイクトゥバ [ʔu˞jamaikutuba] 【名】尊敬語。「敬い言葉」の義。ク˞ヌグル˜ヌ　バ˞カー˜ムヌンケーヤ　ウ˞ヤマイクトゥバ˜　パ˞ナ˜シ　˞サヌ [ku˞nuguru˜nu ba˞kaː˜muŋkeːja ʔu˞jamaikutuba˜ pa˞na˜ʃi ˞sanu](この頃の若者たちは敬語＜敬い言葉＞を話すことが出来ない)。

ウ˞ヤマイルン [ʔu˞jamairuŋ] 【他動】敬う。ウ˞ヤマウンとも言う。˞ウイプス˜ヨー　ウ˞ヤマイリバル˜　トゥコー　˞イーラ˜リ˞ダー [˞ʔuipu̥su˜jo: ʔu˞jamairibaru˜ tu̥ko: ˞ʔiːra˜ri˞daː](年寄りは敬ってこそ陰徳は貰えるものだよ)。ウ˞ヤマイラヌ [ʔu˞jamairanu](敬わない)。ウ˞ヤマイル˜クトゥ [ʔu˞jamairu˜kutu](敬うこと)。ウ˞ヤマイレー˜　ミサムヌ [ʔu˞jamaireː˜ misamunu](敬えばよいのに)。ウ˞ヤマイリ [ʔu˞jamairi](敬いなさい)。ウ˞ヤマイヤー˜ミサムヌ [ʔu˞jamaijaː˜ misamunu](敬えばよいのに)。

ウ˞ヤマウン [ʔu˞jamauŋ] 【他動】敬う。ウ˞ヤマイルンとも言う。プ˞ス˜　ウ˞ヤマイヌ˜　バ˞ラ˜サテー　˞ナー˜ヌ [pu̥˞su˜ ʔu˞jamainu˜ ba˞ra˜sateː ˞naː˜nu](他人を敬うことが悪いということは決してない)。ウ˞ヤマーヌ [ʔu˞jamaːnu](敬わない)。ウ˞ヤマイ˜ミルン [ʔu˞jamai˜miruŋ](敬ってみる)。˞ワー　ドゥー˜ヌ　˜ウヤ　ウ˞ヤマウ˜カー　˞バン˜ヌン　ウ˞ヤマウン [˞waː duː˜nu ˜ʔuja ʔu˞jamau˜kaː ˞ban˜nuŋ ʔu˞jamauŋ](君が自分の親を敬うなら私も敬う)。˜バー　ウ˞ヤマウ˜　プ˞ソー˜　ク˞ヌ˜　プ˞ス　タン˜ガ [˜baː ʔu˞jamau˜ pu̥˞soː˜ ku˞nu˜ pu̥˞su taŋ˜ga](私が敬う人はこの人一人だけだ)。˞マー˜ビン　プ˞ス˜　ウ˞ヤマイヤー˜　ミサムヌ [˞maː˜bim pu̥˞su˜ ʔu˞jamaijaː˜ misamunu](もっと他人を敬えばよいのに)。ウ˞ヤマイ˜バ [ʔu˞jamai˜ba](敬えよ)。

ウ˞ヤマサ˜リ [ʔu˞jamasa˜ri] 【名】親勝り。子が親より優れていること。ウ˞ヤマサ˜リ　˜タキマサリ　˞マイフナー˜　マ˞リ˜ヨー [ʔu˞jamasa˜ri ˜tɑ̥̃kimasari ˞maiɸunaː˜ ma˞ri˜joː](親勝り身長体格品格の優れた立派な人になりなさいねえ)。ウ˞ヤマサリ˜ヌ　タ˞キヌ˜　ッふァ [ʔu˞jamasari˜nu tɑ̥̃˞kinu˜ ffa](親勝りの立派な体格、優れた人格の子供)。

ウ˞ヤミ˜サ [ʔu˞jami˜sa] 【名】畏れ多いこと。神にお詫びし、お許しを乞うこと。「おやむめさ＜恐れ多い＞」(『混効験集』)の転訛したもの。ム˞ヌア˜テー　˞ナー˜ン　ヤ˞ラビ˜ヌ　ウ˞ガン˜ヌ　˞マーニ˜バ　˜キシ　˜シケーバ　˞カンヌ˜マイ　ウ˞ヤミ˜サ　ッ˞サリ　ニン˜ガイ　˞シーオーシリ [mu˞nua˜teː ˞naː˜ɲ ja˞rabi˜nu ʔu˞gan˜nu ˞maːni˜ba ˜kɨ̥ʃi ˜ʃɨ̥keːba ˞kannu˜mai ʔu˞jami˜sa s˞sari niŋ˜gai ˞ʃiːʔoːʃiri](分別のない子供が御嶽のマーニ＜くろつぐ＞を切ってあるので、神様にお詫びを申し上げ、お許しの祈願を申し上げなさい)。

ウ˞ヤム˜トゥ [ʔu˞jamu˜tu] 【名】親元。親の住むところ。実家。˞コーコー˜ヤ　ウ˞ヤム˜トーラ　カ˞ヨーラン　ベー˜ティル　ムー˞ル˜　イ˞サンケー　コーシ　オー˜レー˞ダー [˞koːkoː˜ja ʔu˞jamu˜toːra ka˞joːram beː˜tiru muː˞ru˜ ʔi˞sanakeː koːʃi ʔoː˜reː˞da](高校へは親元から通われないので皆石垣島へ引っ越して行かれたのだよ)。

ウ˞ヤ˜ムラ [ʔu˞ja˜mura] 【名】親村。現在の村へ分村して来る前の村。元の村。パ˞トゥマ˜ヌ　ウ˞ヤ˜ムラー　ク˞ルシマ˜トゥ　˜クンムラティ　ア˞ザリブー [pɑ̥˞tuma˜nu ʔu˞ja˜muraː ku˞ruʃima˜tu ˜kummurati ʔa˞ʤaribuː](鳩間村の親村は黒島と古見村といわれている)。

˜ウヤユズリ [˜ʔujajuʤuri] 【名】親譲り。˜ウヤユズリヌ　˞ジーマ˜シェー　イッ˞カナ˜シ　˞カーシッふァイヤー˜　ナ˞ラ˜ヌ [˜ʔujajuʤurinu ˞ʤiːma˜ʃeː ʔik˞kana˜ʃi ˞kaːʃiffaija˜ na˞ra˜nu](親譲りの土地田畑は決して売り払って＜売って食って＞はならない)。

˜ウヤンガサ [˜ʔujaŋgasa] 【名】悪性の出来物。背中や肩の後ろにできるよう(靡)。石垣方言からの借用語か。˜ウヤンガサティ　ア˞ズ˜　ア˞シ˜ボー　˜ミリ　ミ˞ラン˜シェン [˜ʔujaŋgasati ʔa˞ʤu˜ ʔa˞ʃi˜boː ˜miri mi˞raŋ˜ʃeŋ](ウヤンガサという出来物は見たことは無かった＜見てみなかった＞)。

˜ウヤンケー [˜ʔujaŋkeː] 【名】親たち。「ウヤヌ・キヤ(複数を表す接尾語)」の融合縮約した形。˜ウヤンケーヌ　ア˞ツァ˜マリ　パ˞ナシアー˜シ　˞シーオー˜ル　˜ムヌバ　シ˞キミッ˜タン [˜ʔujaŋkeːnu ʔa˞tsa˜mari pa˞naʃiʔaː˜ʃi ˞ʃiːʔoː˜rumunuba ʃɨ̥˞kimit˜taŋ](親たちが集まって話し合っておられるのを聞いたことがあった)。

ウ˞ヤン˜ヤー [ʔu˞jaŋ˜jaː] 【名】親の家。実家。里。ミ˞ドーン˜ッふァー　ウ˞ヤン˜ヤーラ　˞ヤー˜　パル

˜ピンマー　シ˞キ˜ウシン　カ˞タミ˜ル　˜パル [mi ˞doːŋ˜ffaː ʔu˞jaŋ˜jaːra ˞jaː˜ paru ˜pimmaː ʃi̥˞ki˜ʔuʃiŋ kḁ˞tami˜ru ˜paru](女の子は実家から家へ帰るときは搗き臼をも担いで帰る。嫁いだ娘は実家から何でも持ち帰る)。

ウ˞ユブン [ʔu˞jubuŋ] 【自動】1及ぶ。あるところに達する。追いつく。ウ˞ヌ˜　プ˞スヌ　シー˜ヨー　˜ミルカー　˞ワーナー˜トー　ウ˞ユブ˜　スコー　ア˞ラ˜ヌ [ʔu˞nu˜ pu̥˞sunu˜ ˞ʃiː˜joː ˜miruka: ˞waːnaː˜ toː ʔu˞jubu˜ su̥koː ʔa˞ra˜nu](この人の仕事振り＜仕様＞を見ると君などが及ぶところではない)2匹敵する。叶う。ウ˞ヤ˜キヤーヌ　ユ˞メー　バン˜タ˞ナー˜トー　˞ウイバラヌ [ʔu˞ja˜kijaːnu ju˞meː˜ ˞ban˜ta ˞naː˜to ˞ʔuibaranu](金持ちの家の嫁には、私達などとても叶えられない)。ウ˞ユブ˜　クトー [ʔu˞jubu˜ ku̥toː](望まれることは。叶う＜及ぶ＞ことは)。

˜ウヨーンガサ [˜ʔujoːŋgasa] 【名】うなじ (項) の中央のくぼんだ所、「盆の窪」に出来る悪質のおでき (腫れ物)。盆の窪に出来物ができると助からないという。

˜ウヨーンダー [˜ʔujoːndaː] 【名】先祖代々受け継いでいる田地。「親の田」の転訛したものという。˞バン˜テナーン　˜ウヨーンダーヌ　アン˞ダー [˞ban ˜tenaːŋ ˜ʔujoːndaːnu ʔan˞daː](私の家にも先祖代々受け継いでいるウヨーンダーがあるよ)。マンカ節第五連に/ビフナファーヌ　バギダマ　サリミジィヌ　ウヨンダー　サバチャマヌ　ニバンヌヤ　マルマヌ　クシヌ　ムチィヌヤ/(男の子の分け前は　サリ水の祖田を与える　その上サバチャ岩礁のニバン魚の棲む所を与える。なおマルマ小島の後のムツ魚の棲む所も与えよう)(『八重山民謡誌』)とある。

˜ウラ [˜ʔura] 【名】浦。港。海が湾曲して入りこんだところ。フ˞ノー˜ラ [ɸu˞noː˜ra](船浦)。/クンヌ　ウラヌ　ナグナリ　ミユシクヌ　ウチナリ/(古見の浦＜港＞の海岸＜波打ち際＞に沿って、御世底の内海に沿って～)「バガ　パトゥマ　ジラマ」の第三連。このジラマには、『石垣市史叢書 8』所収の「参遣状」(康熙 41 年、1702 年) に記録された鳩間島の悲惨な状況が詠み込まれている。(『鳩間島古典民謡古謡集』)。

˜ウラ [˜ʔura] 【名】蔵元。琉球国時代の八重山全体の行政庁。語源については、(i)　地名 (ウラカイジ) 起源説『新八重山歴史』、(ii)　浦＜港＞起源説『八重山方言の素性』、(iii)「蔵元」起源説『八重山語彙』、(iv)「うふわ」(大蔵＜ウフクラ＞) 起源説『宮古島旧記並史歌集解』、『石垣方言辞典』がある。(iii)、(iv)　は八重山方言の音韻法則 ([kura]　→　[ffa]) に反する。(i)　はカイジ省略の理由がなく、推定の域に留まる。(ii)　は可能性が高いと考えられる。民謡パ˞トゥ˜マナカムリ [pḁ˞tu˜ manakamuri](鳩間中岡) の第七連/クウラヌ　パマカラ　カユウピトゥヤ　ウラヌ　マイヌ　ピトゥグクル/(久浦の浜を往来する＜通う＞人はウラ＜蔵元＞の前の人の賑わいのようだ) と歌われている。離島各地からの貢納船の発着と、それに伴う人々の往来は港湾を中心にしてなされたものと考えるのが普通であろう。

˜ウラ [˜ʔura]【名】裏。表と反対側の隠れているところ。˜ウラー　˞マームティ˜　ナリ　˜ヌーヤ　ク˞レー˜　カイブ　ク˞トゥ˜ヌ　アン˞トゥ [˜ʔuraː ˞maːmuti˜ nari ˜nuːja ku˞reː˜ kaibu ku˞tu˜nu ʔan˞tuː](裏が表になって＜あべこべになって＞一体何だこれは。こんな事があるものか)。

˜ウラ [˜ʔura] 【代】あなた (貴方)。君。歌謡語としてのみ用いられる。日常会話では用いない。/ウラトゥ　バントゥヌ　カヨーダ　イバミテェーマ　ナマニナリ　フサバ　ムイカバシ/(貴方と私とが人目を忍んで通った狭い小道は、通わない今ではもう草が生い茂っている)『八重山民謡誌』。16 世紀初のハングル資料である「語音翻訳」には「’u-ra 汝」(『海東諸国紀』申叔舟、1501 年)、15 世紀の漢語資料では「烏喇哇　汝」(『琉球館訳語』15 世紀半ば)、18 世紀の漢語資料に「汝　牙」(『中山伝信録』徐保光 1721 年) とある。15 世紀末の首里方言では、＜貴方＞を表す語はウラ系の語であった。八重山方言のウラ [ʔura](君) と宮古方言のッヴァ [vva](君) は 15 世紀の’ura(汝) に繋がる。

˜ウラー　ウ˞ム˜ティ　˜ナスン [˜ʔuraː ʔu˞mu˜ti ˜nasuŋ] 【連】1裏返す。「裏を表になす」の義。2衣類は、˞カイ˜シマー [˞kai˜ʃimaː](裏返し) というのが　普通。˞キン˜バ　˞カイ˜シマーナシ　キ˞シ　ベー [˞kim˜ba ˞kai˜ʃimaːnaʃi ki̥˞ʃi beː](着物を裏返しにして着ている)。

ウラーウ˞ラー˜シ [ʔuraːu˞raː˜ʃi] 【副】細かく。極細に。産毛のように細く柔らかく。ム˞チクーヤ˜　サ˞クマイ˜バ　ミ˞ジ˜ナ　シ˞キティ˜　ウシナー　˞シッ˜キ　バ˞リティ˜　シノーシ　フ˞カシティ˜　マ˞タ　シッ˜キティ　ウラーウ˞ラー˜シ　バ˞リティ˜　ナ˞ソーッ˜タ [mu˞tʃiku:ja˜ sḁ˞kumaiba˜ mi˞ʤi˜na ʃi̥˞

kiti˥ ʔuʃina: ˞ʃik˥ki ba˞riti˥ ʃino:ʃi ɸu̥˞kaʃiti˥ ma˞ta ʃik˥kiti ʔura:˞ura:˥ʃi ba˞riti˥ ku: na˞so:t˥ta](餅粉は粳米を水に漬けて、臼で搗いて細かく割り、篩(フルイ)で篩って、また搗いて非常に細かく搗き割って粉にされた)。

˥ウラー　˞マームテイ [˥ʔura: ˞ma:muti] 【連】裏返し。正反対。あべこべ。逆。「裏は真表」の義。˞ワー˥　ムネー　マ˞ナマーキ˥トー　ア˞タラヌ˥　ウラー　˞マームティ˥　ナリ˞ブーヌ˥　イカーラ　˥シジヤ [˞wa:˥ mune: ma˞nama:ki˥to: ʔa˞taranu˥ ʔura: ˞ma:muti˥ nari˞bu:nu˥ ʔika:ra ˥ʃiʤija:](君の話＜言葉＞は今までの話とは合わない。あべこべ＜逆＞になっているが、如何なる訳＜筋＞か)。

ウ˞ラーミ˥サ　˞スン [ʔu˞ra:mi˥sa ˞suŋ] 【連】羨ましがる。羨ましくする。˥アイニ　プ˞スン˥ヤーヌ　キ˞ナイバ˥　ウ˞ラーミ˥サ　˞サン˥タンティン　˥ミサン　˞ドゥー˥ヌ　キ˞ナイバ˥　タ˞ティノー˥シ [˞ʔaini pu̥˞suŋ˥ja:nu ki˞naiba˥ ʔu˞ra:mi˥sa ˞san˥tantim misaŋ ˞du:˥nu ki˞naiba˥ tḁ˞tino:˥ʃi](あんなに他人の家庭＜けない。家内＞を羨ましくしなくてもよい。自分の家庭＜家内＞を立て直しなさい)。

ウ˞ラーミ˥サン [ʔu˞ra:mi˥saŋ] 【形】羨ましい。˞ワー˥　ウ˞ヤ˥キ　˥パンゾー　˞シー　オー˥リ　ウ˞ラーミ˥サワ˞ナー [˞wa:˥ ʔu˞ja˥ki ˥pandʑo: ˞ʃi: ʔo:˥ri ʔu˞ra:mi˥sawa˞na:](貴方は富貴繁盛、子孫繁盛しておられて羨ましい限りですねえ)。ウ˞ラーミサナー˥ヌ [ʔu˞ra:misana:˥nu](羨ましくない)。ウ˞ラーミ˥サス˞ナ˥ヨー [ʔu˞ra:mi˥sa su˞na˥jo:](羨ましく思うな＜羨ましくするな＞よ)。イッ˞ケナ˥　ウ˞ラーミ˥サン [ʔik˞kena˥ ʔu˞ra:mi˥saŋ](非常に羨ましい)。ウ˞ラーミ˥サカー　˞ワンヌン˥　パ˞タラキ˥バ [ʔu˞ra:mi˥saka: ˞wannum˥ pḁ˞taraki˥ba](羨ましかったら君も働きなさいよ)。˞ワー˥　パ˞ナ˥シ　シュ˞ク˥カー　ウ˞ラーミ˥サ　ナリ˞キー˥スバン [˞wa:˥ pa˞na˥ʃi si̥˞ku˥ka: ʔu˞ra:mi˥sa nari˞ki:˥subaŋ](君の話を聞くと羨ましくなってくるわい)。

ウ˞ラーンタ˥ムニ [ʔu˞ra:nta˥muni] 【名】英語。西洋語。「オランダことば＜物言い＞」の義。首里方言からの転訛。ウ˞ヌ˥　プ˞ソー˥　ウ˞ラーンタ˥ムニ　イッ˞ケナ　ゾー˥ジ　ヤ˞ロー˥ルン [ʔu˞nu˥ pu̥˞so:˥ ʔu˞ra:nta˥muni ʔik˞kena ʤo:˥ʤi ja˞ro:˥ruŋ](その人は英語＜オランダ語。西洋語＞が非常に上手であられる)。

˥ウラウムティ [˥ʔuraʔumuti] 【名】裏と表。ドゥ˞シピライヤー˥　ウラウムティ　˞ナーン˥ヨーニル　ピラウ˞ダー [du˞ʃi piraija:˥ ʔuraʔumuti ˞na:ɲ˥jo:niru pirau˞da:](友達付き合いは裏と表がないように＜ぞ＞交際するのだよ)。

ウ˞ラガイ˥スン [ʔu˞ragai˥suŋ] 【他動】裏返す。ひっくり返す。覆す。イ˞ガヤマヌ˥　イ˞ガー˥　プ˞スマ˥アトーラ　ウ˞ラガイ˥シ　˥プシバ˞ヨー [ʔi˞gajamanu˥ ʔi˞ga:˥ pu̥˞suma˥ʔato:ra ʔu˞ragai˥ʃi ˥puʃiba˞jo:](烏賊を乾すために縄を数段に張った干し場の烏賊は午後から裏返して干しなさいよ)。マ˞ダ˥　ウ˞ラガイサ˥ヌ [ma˞da˥ ʔu˞ragaisa˥nu](まだ裏返さない)。ウ˞ラガイシ˥プサン [ʔu˞ragaiʃi˥pu̥saŋ](裏返したい)。プ˞スマ˥アトーラ　ウ˞ラガイ˥ス　˥クトゥ [pu̥˞suma˥ʔato:ra ʔu˞ragai˥su ˥ku̥tu](午後から＜烏賊を＞裏返すこと)。ウ˞ラガイ˥シェー　˥ミサムヌ [ʔu˞ragai˥ʃe: ˥misamunu](裏返せばよいのに)。˞ワーンドゥ˥　イ˞ガ˥　ウ˞ラガイ˥スカー　˞バン˥ヌン　ウ˞ラガイ˥スン [˞wa:ndu˥ ʔi˞ga˥ ʔu˞ragai˥su̥ka: ˞ban˥nuŋ ʔu˞ragai˥suŋ](君が＜ぞ＞烏賊を裏返すなら私も裏返す)。˞パー˥ク　ウ˞ラガイ˥シ [˞pa:˥ku ʔu˞ragai˥ʃi](早く裏返せ)。

ウ˞ラ˥グイ [ʔu˞ra˥gui] 【名】裏声。普通の発声法では出せないような甲高く脳に響く声。˞ソーラン˥ヌ　˞アンガマ˥ター　ウ˞ラ˥グイ＜アグ˞ダー˥マクイ＞シル　˥ムネー　イ˞ズ [˞so:ran˥nu ˞ʔaŋgama˥ta: ʔu˞ra˥gui＜agu˞da:˥magui＞ʃiru ˥mune: ʔi˞ʤu](お盆のアンガマたちは裏声＜甘えん坊の声＞で話をする)。

ウ˞ラ˥ザ [ʔu˞ra˥ʤa] 【名】裏座。家の北面にある部屋。ユ˞コー [ju˞ko:](裏座) ともいう。イ˞チバンウラ˥ザ [ʔi˞ʧibaŋʔura˥ʤa](一番裏座)、˞ニーバンウラ˥ザ [˞ni:baŋʔura˥ʤa](二番裏座) があるのが普通である。トゥ˞シ˥グル　˥ナルカー　ビ˞コーンッふァー˥　ウ˞ラ˥ザナール　ニ˞ビ˥ウキ　シ˞タ˥ツォー [tu̥˞ʃi˥guru ˥naruka: bi˞ko:ŋffa:˥ ʔu˞ra˥ʤana:ru ni˞bi˥ʔuki ʃi̥˞ta˥tso:](年頃になると男の子は裏座で寝起きをしたそうだ)。

ウ˞ラ˥スン [ʔu˞ra˥suŋ] 【他動】細かく刻む。葉タバコや野菜類を細かく刻む。刃物で細く切る。「Voroxi,su,iota　～大根, 山葵などを下ろす」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。サ˞クナ˥　ク˞マークマー˥シ　ウ˞ラ˥スン [sḁ˞kuna˥ ku˞ma:kuma:˥ʃi ʔu˞ra˥suŋ](長命草＜サクナ。和名、ボタンボウフウ＞を細かく刻む)。˞ダイ˥クニ　ウ˞ラ˥スン [˞dai˥kuni ʔu˞ra˥suŋ](大根を擂り下ろす)。ウ˞ラサ˥ヌ [ʔu˞rasa˥nu](すりおろさない)。ウ˞ラシ˥プサン [ʔu˞raʃi˥pusaŋ](すりおろしたい)。ウ

˞ラ˞ス　˞ピン [ʔu˞ra˞su ˞piŋ](すりおろすとき)。ウ˞ラ˞シェー　˞ミサムヌ [ʔu˞raʃe: ˞misamunu](すりおろしたらいいのに)。ウ˞ラ˞シ [ʔu˞raʃi](すりおろせ)。˞パータバクバ˞　ウ˞ラ˞シティ　キ˞ザミタバクバ˞　ス˞ク˞リティル　˞プゾーナ　タ˞ブイヨーッ˞タ [˞paːtabakuba˞ ʔu˞raʃi̥ti ki˞ʤamitabakuba˞ su̥˞ku ˞ritiru ˞puʤoːna ta˞buijoːt˞ta](葉タバコをおろして＜刻んで＞刻み煙草を作って、宝蔵＜煙草入れ＞に入れて蓄えられた)。

ウ˞ラスン [ʔu˞rasuŋ] 【他動】織らせる。ウ˞ルン [ʔu˞ruŋ](織る) の未然形に使役の助動詞˞スン [˞suŋ](～せる。～させる) が下接して形成された派生動詞(使役動詞)。˞バサキン　ウ˞ラスンティ　スンドゥ˞＜ウ˞レー＞　˞ドゥク　シ˞ナー˞ティ　ウ˞ラサラヌ [˞basakiŋ ʔu˞rasunti sndu˞ ＜ʔu˞reː＞ duku ʃi˞naː ˞ti ʔu˞rasaranu](芭蕉着を織らせようとするが、それは＜その子は＞あまりにも幼いので織らされない)。ウ˞ラサリ˞カー　ウ˞ラス˞クトー　˞ナルン [ʔu˞rasari˞kaː ʔu˞rasu˞ku̥toː ˞naruŋ](織らされるなら織らせることは出来る)。˞バン　ウ˞ラシェー˞　ミサムヌ [˞baŋ ʔu˞raʃe:˞ misamunu](私に織らせば良いのに)。カ˞リン˞　ウ˞ラシ [ka˞riŋ˞ ʔu˞raʃi](彼に織らせよ)。

ウ˞ラ˞スン [ʔu˞ra˞suŋ] 【他動】 1降ろす。下ろす。乗客を下ろす。˞ティン˞ゾーラ　˞イツァ　ウ˞ラ˞シ [˞tin˞ʤoːra ˞ʔitsa ʔu˞ra˞ʃi](天井から板を下ろしなさい)。ウ˞ラ˞シ　˞ミリ [ʔu˞ra˞ʃi ˞miri](降ろしてみろ)。ウ˞ラシ˞プサン [ʔu˞raʃi˞pusaŋ](降ろしたい)。˞ニー　ウ˞ラ˞ス　プ˞スン˞　ブ˞ラーヌ [˞niː ʔu˞ra˞su pu̥˞sum˞ bu˞raːnu](荷を降ろす人もいない)。˞パー˞ク　ウ˞ラ˞シェー　˞ミサムヌ [˞paː˞ku ʔu˞ra˞ʃe: ˞misamunu](早く降ろせはよいのに)。ク˞レー　ワータンガ˞シ　ウ˞ラ˞シ [ku˞reː waː taŋga˞ʃi ʔu˞ra˞ʃi](これは君一人で降ろしなさい)。ウ˞ラサ˞ヌ [ʔu˞rasa˞nu](下ろさない)。ウ˞ラ˞シミサン [ʔu˞ra˞ʃimisaŋ](下ろしてよい)。˞ワー˞　ウ˞ラ˞スカー　˞バン˞ヌン　ウ˞ラ˞スン [˞waː˞ ʔu˞ra˞su̥ka: ˞ban˞nuŋ ʔu˞ra˞suŋ](君が下ろしたら私も下ろす)。ウ˞ラ˞ス　˞クトゥ [ʔu˞ra˞su ˞ku̥tu](下ろすこと)。2堕胎する。パ˞ルミプス˞ヌ　パ˞タ˞キ　˞カイ˞スンティ　˞アー˞キ　ッ˞ふァ˞　ウ˞ラ˞シシティ˞ナー˞ヌ [pa˞rumipusu˞nu pḁ˞ta ˞ki ˞kai˞sunti ˞ʔaː˞ki f˞fa˞ ʔu˞ra˞ʃi̥ti ˞naː˞nu](妊婦が畑を耕していて胎児＜子供＞を堕胎して＜下ろして＞しまった)。3揺り卸す。˞ウン˞バ　˞ッシ　ウ˞ラ˞シティ　˞ウンヌ˞クジ　ス˞ク˞リ [˞ʔum˞ba˞ʃʃi ʔu˞ra˞ʃiti ˞ʔunnu˞kuʤi su̥˞ku˞ri](芋を揺り下ろして葛粉を作れ)。4種子を蒔く。タ˞ナドゥル˞ヌ　シ˞トゥム˞ティナール　˞タネー＜˞サネー＞　ウ˞ラ˞ソーッタ [ta˞naduru˞nu ʃi̥˞tumu˞tinaːru ˞taneː ＜˞saneː＞ ʔu˞ra˞soːtta](種取り祭の朝に稲の種子を蒔かれた)。

ウ˞ラ˞ハラ [ʔu˞ra˞hara] 【名】裏腹。正反対。あべこべ。ウ˞リヌ˞　ア˞ズムニ˞トゥ　˞スー˞　クトー　ウ˞ラ˞ハラ　˞ナリティ　ムッ˞トゥ　シンヨー˞　ナ˞ラ˞ヌ [ʔu˞rinu˞ ʔa˞ʤu˞ mu˞ni˞tu ˞suː˞ ku̥toː ʔu˞ra˞hara ˞nariti mut˞tu ʃiŋjoː˞ na˞ra˞nu](彼の言うこととする事は裏腹になって、ちっとも信用できない)。

ウ˞ラ˞ミ [ʔu˞ra˞mi] 【名】恨み。プ˞スンナー˞ニ　˞ヌー˞ヌ　ウ˞ラミ˞ヌ　ア˞ル˞ワ [pu̥˞sunnaː˞ni ˞nuː˞nu ʔu˞ramiˀnu ʔa˞ru˞wa](他人に何の恨みがあるのか)。

ウ˞ラミ˞ルン [ʔu˞rami˞ruŋ] 【他動】恨む。プ˞スバ˞　ウ˞ラミ˞ルンティ　˞アー˞キ　˞ドゥー　ウ˞ラミラ˞レーティ　˞アー˞クンティ　˞プスバカヤ [pu̥˞suba ˞ʔu˞rami˞runti ˞ʔaː˞ki ˞duː ʔu˞ramira˞reːti ˞ʔaː˞kunti ˞pu̥subakaja](他人を恨みに思おうとして、逆に自分が他人に恨まれているよ＜あるくよ＞。人聞きがわるい＜人目にも恥ずかしい＞)。ウ˞ラミ˞ルカー　カ˞シーカシー˞　ウ˞ラミ˞レー　˞ミサムヌ　˞ヌーヤ　ウ˞レー [ʔu˞rami˞ruka: kḁ˞ʃiːkaʃiː˞ ʔu˞rami˞reː ˞misamunu ˞nuːja ʔu˞reː](他人を恨むなら徹底的に恨めばよいものを。何だ、これは)。˞マー˞ビン　ウ˞ラミ˞リ [˞maː˞biŋ ʔu˞rami˞ri](もっと恨めよ)。イ˞クサユー˞ル　ウ˞ラミラ˞リ˞ツォー [ʔi˞kusajuː˞ru ʔu˞ramira˞ri˞tsoː](戦争が恨まれるんだよ)。

ウ˞ラ˞ムニ [ʔu˞ra˞muni] 【名】皮肉。あてこすり。˞ヌー˞ヤーカ　˞ヌーティ　˞マン˞カー　ア˞ジェー　サムティ˞　ナー˞イ˞　ウ˞ラムニ˞バ　イ˞ジェー˞ティ　˞アー˞ク [˞nuː˞jaːka ˞nuːti ʔa˞ʤeː samuti˞ naː˞i˞ ʔu˞ramuni˞ba ʔi˞ʤeː˞ti ˞ʔaː˞ku](何だから、なにだと直接には言わないで、ただ皮肉＜あてこすり＞ばかり言っている)。

ウ˞ラ˞ムン [ʔu˞ra˞muŋ] 【他動】恨む。「逢はずとも吾は不怨＜ウラミジ＞～。万、2629」の転訛したもの。イ˞ズ˞カー　ウ˞ラ˞ムンカヤー [ʔi˞ʤu˞ka: ʔu˞ra˞muŋkajaː](叱ったら怨むかなあ)。ウ˞ラマ˞ヌ [ʔu˞rama˞nu](恨まない)。ウ˞ラミン˞ギサン [ʔu˞ramiŋ˞gisaŋ](恨みそうだ)。ウ˞ラミ˞プサン [ʔu˞rami˞pusaŋ](恨みたい)。ウ˞ラミ˞グトゥ [ʔu˞rami˞gutu](恨みごと)。ウ˞ラ˞ム　˞クトー　ナ˞ラ˞ヌ [ʔu˞ra˞mu ˞ku̥to: na˞ra˞nu](恨むことはならなぬ)。ウ˞ラ

˜メー　ナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞ra˜meː na˞ra˜nu](恨んではならない)。ウ˞ヤ˜ヨー　ウ˞ラ˜ムカー　ウ˞ラ˜ミミサン　プ˞スヨー˜　イッ˞カナ˜シ　ウ˞ラム˜ナ [ʔu˞ja˜joː ʔu˞ra˜mukaː ʔu˞ra˜mimisam pu̥˞sujoː˜ ʔik˞kana˜ʃi ʔu˞ramu˜na](親を恨むなら恨んでよい。他人を決して恨むな)。ウ˞ラ˜ミバ [ʔu˞ra˜miba](恨めよ)。

ウ˞ラ˜モールン [ʔu˞ra˜moːruŋ] 【他動】恨まれる。お恨みになる。ウ˞ラ˜ムン [ʔu˞ra˜muŋ](恨む) の連用形に補助動詞˞オー˜ルン [˞ʔoː˜ruŋ](居られる) が下接して形成された派生動詞 (敬語動詞)。イ˞クサ˜ユーナ　ッ˞ふァ˜　シ˞ナソー˜レー　プ˞ソー˜　ヌチジュー　イ˞クサ˜バ　ウ˞ラ˜モールン [ʔi˞kusa˜juːna f˞fa˜ ʃi˞naso:˜reː pu̥˞soː˜ nutʃiʤu: ʔi˞kusa˜ba ʔu˞ra˜moːruŋ](戦争で子供を死なされた人は生涯戦争を恨まれる)。プ˞スヨー˜　ウ˞ラ˜モーラヌ　イ˞クサ˜ル　ウ˞ラ˜モール [pu̥˞sujoː˜ ʔu˞ra˜moːranu ʔi˞kusa˜ru ʔu˞ra˜moːru](人はお恨みにならない。戦争を < ぞ > お恨みになる)。˞マー˜ビン　ウ˞ラ˜モーレー˜ミサムヌ [˞maː˜biŋ ʔu˞ra˜moːreː ˜misamunu](もっとお恨みになれば良いのに)。ウ˞ムイ˜キシ　ウ˞ラ˜モーリ [ʔu˞mui˜kʲʃi ʔu˞ra˜moːri](うんとお恨みなされ)。

ウ˞ランガイ˜シ [ʔu˞raŋgai˜ʃi] 【名】うらがえし (裏返し)。タ˞タメー˜　ティダナ　イ˞ルンカシ˜　プシティ　マ˞タ˜　ウ˞ランガイ˜シ　プ˞サバ˜ル　˞カーラク [ta˞tameː˜ tidana ʔi˞ruŋkaʃi˜ puʃiti ma˞ta˜ ʔu˞raŋgai˜ʃi pu˞saba˜ru ˞kaːraku](畳みは太陽に少し干して、また裏返して干してこそ < 干さばぞ > 乾くものだ)。ウ˞ラガイ˜シ [ʔu˞ragai˜ʃi](裏返し) ともいう。

ウ˞ランザ˜キ [ʔu˞ranʤa˜ki] 【名】(地) 宇奈利崎。現行の地図では「ニシ崎」とあるが、鳩間島では昔からウ˞ランザ˜キ (宇奈利崎) と称している。ここの干瀬は、カ˞ジマール [ka˞ʤimaːru](「風回り」の義。北風になって時化ること) になると、干瀬に砕け散る波の花が一段と高くなるので、鳩間島の人は天候の荒れを予知し、台風や時化の程度を推定した。

ウ˞ラン˜タ [ʔu˞ran˜ta] 【名】1欧米。西洋。「オランダ」の義。ウ˞ランタ˜プス [ʔu˞ranta˜pusu](欧米人。オランダ人)。2あだ名。体格の大きな人に対してつけたニックネーム。トゥ˞ムレーヌ˜　ウ˞ラーンタ˜プス [tu˞mureːnu˜ ʔu˞raːnta˜ pu̥su](友利家のウラーンタ人)。イ˞クサユー˜ヌ　˜アトーラル　ウ˞ラーンタ˜プソー　ミリ˞ミッ˜タ [ʔi˞kusajuː˜nu ˜ʔatoːraru ʔu˞raːnta˜pu̥soː miri˞mit˜ta](戦後になってから初めてアメリカ人 < 西洋人。オランダ人 > を見た)。

ウ˞ランタ˜ヤー [ʔu˞ranta˜jaː] 【固】友利家の屋号の別称。˞ウン˜ネナー　ム˞カ˜シ　ブ˞サー˜ラプスヌ　˞オー˜レーティル　˜アイニ　˞ナー˜　シ˞キラ˜レータツォー [˞ʔun˜nenaː mu˞ka˜ʃi bu˞saː˜rapu̥sunu ˞ʔoː˜reːtiru ˜ʔaini ˞naː˜ ʃi̥˞kira˜reːtatsoː](その家に昔体格の大きな人がおられたので < ぞ >、そのように名付けられたそうだ)。

ウ˞リ [ʔu˞ri] 【代】1それ (中称、単数)。話者と聞き手の領域に属さず、話者や聞き手から遠くの領域に属しないものを指す。ウ˞リ˜　トゥリ　ヤ˞ラシ [ʔu˞ri˜ turi ja˞raʃi](それを取って寄越しなさい)。ウ˞レー˜　ヌーヤ [ʔu˞reː˜ nuːja](それは何か)。2話者と聞き手が共通に認識している話題のもの。そのこと。ウ˞リバ˜　ウ˞ムイ˜ル　ウ˞ムイキシユーサ˜ナー　ナー˞イ˜　シ˞ヌッ˜クリ　˞ベー [ʔu˞riba˜ ʔu˞mui˜ru ʔu˞muikʲʃijuːsa˜naː naː˞i˜ ʃi˞nuk˜kuri ˞beː](そのことを思って決断 < 思い切り > できずに、ただ思いあぐねて、ぐずぐずして決断しかねている < いたずらに時を過ごしている >)。3そのひと (話題の人物)。ウ˞リヌ　スー˜　シ˞グトー　マーパカラサー　ナー˜ヌ [ʔu˞rinu suː˜ ʃi˞guto: maːpakarasaː naː˜nu](その人のすることは全く信用できない < しっかりしていない >)。

˞ウ˜リ [˞ʔu˜ri] 【感】それ。そら。ほら。˞ウ˜リウリ˜カマーラ　˞ズンサ˜ヌ　˞オー˜ルン˞ドー　パー˜ク　ナ˞キヤミリ [˞ʔu˜riʔuri ˜kamaːra ˞ʤunsa˜nu ˞ʔoː˜run˞doː paː˜ku na˞kijamiri](ほらほら、あそこから巡査がいらっしゃるぞ。早く泣くのを止めなさい < 泣き止めよ >)。˞ウ˜リヒャー　˞デー˜ジ　˞ゲ˜ラメー [˞ʔu˜riça: ˞deː˜ʤi ˞ge˜rameː](それ見ろ、大変さ、もう < 知らないよ >)。˞ウ˜リ　˞ナー˜　バー　ア˞ズタ　トゥー˜ル　ミ˞ツォー [˞ʔu˜ri ˞naː˜ ba: ʔa˞ʤuta tuː˜ru mi˞tsoː](ほら、ねえ、僕の言ったとおりだろう。< 分かったか >)。

ウ˞リー˜グトゥ [ʔu˞riː˜gutu] 【名】憂いごと。悲しいこと。不幸。「憂いごと」の義。石垣方言からの借用語。˞ウン˜ネナー　ウ˞リーグゥトゥ˜ヌ　˜アレーティル　˞ヤー˜ラ　˜フカー　ン˞ゾーラン˜ツォー [˞ʔun˜nena: ʔu˞riːgutu˜nu ˜ʔareːtiru ˞ja˜ra ˜ɸu̥ka: ʔn˞ʤoː˞ran˜tsoː](その家には不幸があったので、それで家から外には出られないそうだ)。

˜ウリーシュンギ [˜ʔuriːʃuŋgi] 【名】「憂い祝儀」の義。結婚式。不慮の凶事に遭遇しても、予定された結

婚式は延期せずに執り行うことにいう。石垣方言からの借用語。˺ウリーシュンギティル　アˬザリブー˺　トゥレールˬピュールナー˺ル　ˬヨイ˺ヤー　ˬシービキ˺ティムカーヤ [˺ʔuriːʃuŋgitiru ʔaˬʤaribuː˺ tureːru ˬpjuːru˺naːru ˬjoi˺jaː ˬʃiːbiki˺timukaːja](憂い祝儀＜憂いごとと祝い事＞といわれているのだから、取ってある＜予て選んだ。日選りした＞干支の日にお祝いはすべきというものだよ)。

ウˬリ˺カー [ʔuˬri˺kaː] 【名】鍾乳洞の井戸。ˬ下り井戸」の義。ˬアンヌカーヤ˺　ウˬリ˺カー　ヤˬルンダ˺　スˬコーバー˺キ　˺ウリティル　ミˬジェー˺　フˬミブタ˺ダー [ˬʔannukaːja˺ ʔuˬri˺kaː jaˬrunda˺ sɥˬkoːba˺ki ˺ʔuritiru miˬʤeː˺ ɸuˬmi buta˺daː](東村井戸は鍾乳洞の下り井戸だから、底まで降りていって水を汲んでいたよ)。ˬウイヌカーン˺　ムˬカ˺シェー　ウˬリ˺カー　ˬヤッタヌ　ショーワヌ　ユー˺　ナレーラル　ˬコン˺クリシ　スˬクリノー˺ソーッタツォー [ˬʔuinukaːm˺ muˬka˺ʃeː ʔuˬri˺kaː ˬjattanu ʃoːwanu juː˺ nareːraru ˬkoŋ˺kuriʃi sɥˬkurinoː˺soːttatsoː](上の井戸も昔は下り井戸だったが、昭和の世になってコンクリートで造り直されたそうだ)。ˬアンヌカーヤ˺　マˬナ˺マン　ウˬリ˺カー　ナリˬブンダ　カーヌ˺　スˬクバー˺キ　ウˬラン˺カー　ミˬジェー˺　フˬマラヌ [ˬʔannukaːja˺ maˬna˺maŋ ʔuˬri˺kaː nariˬbunda kaːnu˺ suˬkubaː˺ki ʔuˬraŋ˺kaː miˬʤeː˺ ɸuˬmaranu](東の村井戸は今も降り井戸になっているから、井戸の底まで降りないと水は汲めない)。

ウˬリ˺カジ [ʔuˬri˺kaʤi] 【名】南風。穏やかに吹く南の風。「降り風」の義。台風は多くの場合石垣島の東海上を北西の進むので、東北方からの強風が吹き荒れるが、台風が通過するにつれて北西、西南、東南の方に変わり、穏やかになる。北風が南風になること。ウˬリ˺カジ　˺ナルカー　ˬオシケーノー˺ルン [ʔuˬri˺kaʤi ˺naruka: ˬʔoʃi̥ke: noːˬruŋ](風が南風＜下り風＞になると天気はよくなる)。カˬジヌ˺　ウルン (ウˬリ˺ルン)[kaˬʤinu˺ ʔuruŋ(ʔuˬri˺ruŋ)](風が南風になる＜下りる＞) ともいう。反対に、南風から北風に変わることを、カˬジ　マールン [kaˬʤi maːruŋ](風が回る。北風になる。天気が崩れる)、カˬジェー　ヌールン [kaˬʤeː nuːruŋ](風が北に上る。北風になる) ともいい、熱帯低気圧が接近して荒天になることを示す。

ウˬリ˺カリ [ʔuˬri˺kari] 【名】あれこれ。「それあれ」の義。ウˬリ˺カリ　ˬカン˺ガイ　˺ミルカー　ˬワー˺　アˬズタ˺　クˬトゥ˺ル　マˬシ˺　ヤˬリン˺ギサバン [ʔuˬri˺kari ˬkaŋ˺gai miruka: ˬwaː˺ ʔaˬʤuta˺ kuˬtu˺ru maˬʃi˺ jaˬriŋ˺gisabaŋ](あれこれ考えて見ると君の言ったことが比較的に良い＜増し＞らしいワイ)。ウˬリ˺カリ　ウˬモーン˺ドーシ　ˬパイ˺サ　キˬミレー˺　ミサムヌ [ʔuˬri˺kari ʔuˬmoːn˺doːʃi ˬpai˺sa kiˬmireː˺ misamunu](あれこれ迷わずに＜思わないで＞早く決めればよいのに)。

ウˬリ　カン˺ガイ　クˬリ　カン˺ガイ [ʔuˬri kaŋ˺gai kuˬri kaŋ˺gai] 【連】それを思い、これを思って。あれこれ思い煩って。ウˬリ　カン˺ガイ　クˬリ　カン˺ガイ　ˬシー　ソーバ　シー˺　ユˬビ˺ンサートゥ　プˬス˺ミーン　ニˬバランシェン [ʔuˬri kaŋ˺gai kuˬri kaŋ˺gai ˬʃiː soːba ʃiː˺ juˬbi˺nsaːtu pɥˬsu˺miːn ni ˬbaraŋʃeŋ](あれを思い、これを思い煩って、昨夜は一晩中一睡も出来なかった)。

ウˬリ˺クリ [ʔuˬri˺kuri] 【名】それこれ。それやこれや。ウˬリ˺クリ　ˬスンティ　ベーン˺ケンマ　ウˬクリナーン˺バン [ʔuˬri˺kuri ˬsunti beːŋ˺kemmaː ʔuˬkurinaːm˺baŋ](あれやこれやのことを片付けよう＜しよう＞としている内に、遅れてしまったわい)。

ウˬリシー˺　カˬリシー [ʔuˬriʃiː˺ kaˬriʃiː] 【連】あれこれすること。いろいろと試みること。「それをし、あれをし」の転訛したもの。ウˬリシー˺　カˬリシー　シー˺　ミˬルン˺ドゥ　ムッ˺トゥ˺　マイ　ˬユーザラヌ [ʔuˬriʃiː˺ kaˬriʃiː ʃiː˺ miˬrun˺du mutˬtu˺ mai ˬjuːʤaranu](あれこれ試してみるが＜それをし、あれをしするが＞、ちっとも前に進まれない)。

ウˬリダ˺チ [ʔuˬrida˺ʧi] 【名】海や浜辺に降りる所。船着場へ下りる所。「下り立ち」の義。˺マンタヌ　ウˬリダ˺チナー　アˬダンブラ˺ヌ　ムイˬブタン [˺mantanu ʔuˬrida˺ʧina: ʔaˬdambura˺nu muiˬbutaŋ](前の浜の船着場へ下りる所にアダンが生えていた)。˺マンタヌ　ウˬリダチ˺ヌ　パˬマ˺ナール　˺イダフニン　アˬギ˺　イˬガヤマン˺　スˬク˺ローッタル [˺mantanu ʔuˬridaʧi˺nu paˬma˺naːru ˺ʔidaɸuniŋ ʔaˬgi˺ ʔiˬgajaman˺ sɥˬku˺roːttaru](前の浜に下りる所の船着き場の浜にサバニも陸揚げし、烏賊の干し場も作られたものだ)。

ウˬリティバ　クイテイバ [ʔuˬritiba kuitiba] 【連】あれとか、これとか。それやこれや。「それとかこれとか」の義。ウˬリティバ　クイティバ˺　ウˬリヌ˺　アˬズ˺ムネー　ムシˬトゥ˺　アˬティンガーラヌ [ʔuˬritiba kuitiba˺ ʔuˬrinu˺ ʔaˬʤu˺muneː muʃi̥ˬtu˺ ʔaˬtiŋgaːranu](それだとかこれだとか言って、その人の言うことはちっとも見当がつけられない＜理解

できない＞)。

ウ゚リトゥン [ʔu゚rituŋ] 【連】それ＜彼＞とも。˥ドゥー　゚タンガ˥シ　キ゚ミランドー˥シ　ウ゚リトゥン˥　パ゚ナシアー˥シェー˥ティ　キ゚ミリ˥バ゚ヨー [ˈduː ˈtaŋga˥ʃi kiˈmirandoː˥ʃi ʔuˈritum˥ paˈnaʃiʔaː˥ʃeː˥ti kiˈmiri˥baˈjoː](自分一人で決めないで、それ＜彼＞とも話し合いながら決めなさいよ)。

˥ウリヌーリ [˥ʔurinuːri] 【名】1乗り降り＜下り上り＞。トゥ゚シ˥トゥリ　゚ウイ˥プス　゚ナッ˥ター (ナ゚ル˥ター)　ク゚シン˥　マ゚ガリティ˥　プニ˥ヌ　˥ウリヌーリン　゚シーマーキル　アー˥ク [tu̥ˈʃi˥ turi ˈʔui ˥pu̥su ˈnat˥taː(naˈru˥taː)kuˈʃim˥ maˈgariti˥ ɸuˈni˥nu ˥ʔurinuːriŋ ˈʃiːmaːkiru ʔaː˥ku](年をとって老人になったので腰も曲がって、船の乗り降りも儘にならなくなった＜乗り降りもしかねている＞)。2上り坂や下り坂＜下り上り＞。ヤ゚マミ˥チェー　˥ウリヌーリヌ　゚スー˥ワンダ　゚ウイ˥プソー　ア゚ラキユー˥ソーラヌ [jaˈmami˥ʧeː ˥ʔurinuːrinu ˈsuː˥wanda ˈʔui ˥pu̥so: ʔaˈrakijuː˥soːranu](山道は上り下りの坂道が厳しいから、年寄りはお歩きになれない＜歩きなされない＞)。

˥ウリヒャー [˥ʔuriça:] 【感】ほらほら。そらそら。「それ!」と指示して注意を喚起する言葉。˥ウリヒャー　ア゚ミ˥ヌ　フイクン゚ドー　パー˥ク　ナ゚カーペー˥リ [˥ʔuriça: ʔaˈmi˥nu ˥ɸuikunˈdo: paː˥ku naˈkaː peː˥ri](それ! 雨が降るぞ。早く家の中に入れ)。

˥ウリヒャー　˥ウリヒャー [˥ʔuriça: ˥ʔuriça:] 【連】さあ大変だぞ、大変だぞ。˥ウリヒャー [ʔuriça:] の畳語で強意表現。˥ウリヒャー˥ウリヒャー　ン゚ギウシ˥ヌ　パリクン゚ドー　パー˥ク　゚ピンギ˥リ [˥ʔuriçaː˥ʔuriça: ŋˈgiuʃi˥nu parikunˈdo: paː˥ku ˈpiŋgi˥ri](さあ大変だぞ、大変だぞ、鼻綱を切って逃げた牛が走って来るぞ。早く逃げろ)。

ウ゚リ˥ミチ [ʔu゚ri˥mitʃi] 【名】下り道。下り坂の道。゚ヌーリミチェーラン˥　ウ゚リミチ˥ル　ア゚ラキグリ˥サ゚ダー [ˈnuːrimitʃeːraŋ˥ ʔuˈrimitʃi˥ru ʔaˈrakiguri˥sa ˈdaː](登り道＜坂道＞よりも下り道＜下り坂の道＞が歩きにくいよ)。

ウ゚リヨークリ˥ヨー [ʔu゚rijoːkuri˥joː] 【名】苦労。辛苦。やれそれよ、やれこれよと生活苦に追われること。「それよこれよ」の義。ウ゚リヨークリ˥ヨー　゚シェー˥ティ　ヤッ゚トゥ˥シル　ッ゚ふァ˥　シゥ゚カ˥ナイ　タティ゚クー˥タ [ʔuˈrijoːkuri˥joː ˈʃeː˥ti jatˈtu ˥ʃiru ɸˈfa˥ si̥ˈka˥nai tḁtiˈkuː˥ta](それだ、これだと生活苦に追われて辛うじて＜やっとのことで＞子供を育て生計をたててきた)。ウ゚リヨークリ˥ヨー　゚シェー˥テインノーン　ッ゚ふァ　キョー˥イク　シ゚ミラバーティ˥　ウムイ　゚ベー [ʔuˈrijoːkuri˥joː ˈʃeː˥tinnoːŋ ɸˈfa kjoː˥iku ʃiˈmirabaːti˥ ʔumui ˈbeː](やれ、それだ、やれ、これだと生活苦に追われていてでも子供は教育させようと思っている)。

ウ゚リ˥ルン [ʔu゚ri˥ruŋ] 【自動】1下りる。ヤ゚マー˥ラウリ゚クーバ˥ル　ア゚シ˥ヌ　ス゚コールン˥　ナル [jaˈmaː˥ra ʔuriˈkuːba˥ru ʔaˈʃi˥nu su̥ˈkoːrun˥ naru](山から下りてきたらば＜こそ＞昼食の準備もできるのだ)。ウ゚リラ˥ヌ [ʔuˈrira˥nu](下りない)。ウ゚リパジミ˥ルン [ʔuˈripajimi˥ruŋ](下り始める)。゚ワーンドゥ˥　ウ゚リ˥ルカー　゚バン˥ヌン　ウ゚リ˥ルン [ˈwaːndu ˥ʔuˈri˥ruka: ˈban˥nuŋ ʔuˈri˥ruŋ](君が下りるなら私も降りる)。゚パー˥ク　ウ゚リ˥ルクトゥ [ˈpaː˥ku ʔuˈri˥ru ˥ku̥tu](早く下りること)。゚マー˥ビン　ウ゚リ˥レー　˥ミサムヌ [ˈmaː˥biŋ ʔuˈri˥reː ˥misamunu](もっと下りたらよいのに)。゚パイ˥サ　ウ゚リ˥リ [ˈpai˥sa ʔuˈri˥ri](早く下りれ＜ろ＞)。2風が北から南に変わる。穏やかな天気になる。カ゚ジヌ˥　ウ゚リ˥ルカー　゚オーシケー　ノー˥ルン [kaˈʤinu˥ ʔuˈri˥ruka: ˈʔoːʃi̥keː noː˥ruŋ](風が北から南に変わったら＜風が下りたら＞、天気は良くなる＜直る＞)。

ウ゚リン˥　クリン [ʔu゚riŋ˥ kuriŋ] 【連】それもこれも。ウ゚リン˥　クリン　ムー゚ル　ワー˥　ウ゚カ˥ギシル　゚ガッ˥コーン　ン゚ジラ˥レール [ʔuˈriŋ˥ kurim muːˈru waː˥ ʔuˈka˥giʃiru ˈgak˥koːn ʔnˈʤira˥reːru](それもこれも総て君のお陰で＜ぞ＞学校も出られ＜就学でき＞たのだ)。

ウ゚リンツァン [ʔu゚rintsaŋ] 【副】それすらも～ない。それさえも～ない。ウ゚リ・ンツァン [ʔuri-ŋtsaŋ](それ・さえも＜だにも＞) からなる合成語。副助詞゚ンツァン [ˈŋtsaŋ](すらも) は、1文末に打ち消しの助動詞を要求し、上接語を容易なことなのにという気持ちでとりたて、打ち消し表現と呼応して否定の意味を強調する陳述副詞。゚ワー˥　ウ゚リンツァン　シーサヌ [ˈwaː˥ ʔuˈritsaŋ ʃiːsanu](君はそれさえ＜すら＞もできないのか)。2、1が条件句を作り、どうにもならないという帰結句を強調する。゚ワー˥　ウ゚リンツァン　シーサン˥カー　゚ヌー˥スワメー [ˈwaː˥ ʔuˈrintsaŋ ʃiːsaŋ˥kaː ˈnuː˥ suwameː](君は、それすら＜さえも＞出来なければ　一体どうするんだね、もう)。

ウ゚ルシ˥マキ [ʔu゚ruʃi˥maki] 【名】漆かぶれ。「漆負け」の義。石垣方言からの借用語。ウ゚ルシ˥マキ

シ˞ティ˜ シラー ア˞ガミ ビーヨー˜ヌ ナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞ruʃi˜maki ʃi̥˞ti˜ ʃira: ʔa˞gami bi:jo:˜nu na˞ra˜nu](漆かぶれして、顔は赤らんで痒くてたまらない)。パ˞ジマキ [pa˞ʤimaki](漆かぶれ) ともいう。

ウ˞ル˜ズン [ʔu˞ru˜ʤuŋ]【名】春。旧暦二、三月ごろ。バ˞カ˜ナチ [ba˞ka˜natʃi](若夏) の直前の時期。ウ˞ルズン˜ヌ ˜シチ ˞ペー˜ローレーチバ ˞メー˜ ピ˞ラ˜コー ˞クー˜ヌ [ʔu˞ruʤun˜nu ˜ʃi̥tʃi ˞pe:˜ro:re:tʃiba ˜me: pi˞ra˜ko: ˞ku:˜nu](ウルズン < 初夏 > の直前の節気に入ったので、もう極寒の寒波は来ないよ)。

ウ˞ル˜ナウン [ʔu˞ru˜nauŋ]【他動】潤わし捏ねる。湿らして捏ねる。メリケン粉などに水を加えて練る。大正元年生まれの古老が使用していた。ほぼ死語に近い。ミ˞リキン˜グ ウ˞ル˜ナイティ ˜スバー ˜ウティバ [mi˞rikiŋ˜gu ʔu˞ru˜naiti ˜suba: ˜ʔutiba](メリケン粉に水を加えて捏ねてソバを打ちなさいよ)。

ウ˞ルプトゥ˜キ [ʔu˞ruputu˜ki]【名】たむし (田虫)。白癬菌の寄生による皮膚疾患。輪状に蔓延し、痒みが甚だしい。若年層は、グ˞ツァ˜バ [gu˞tsa˜ba](ゼニタムシ < 銭癬 >) ともいう。イ˞クサユー˜ヌ ˜アトゥナー ウ˞ルプトゥキ˜ヌ パ˞ヤール˜タン [ʔi˞kusaju:˜nu ˜ʔatuna: ʔu˞ruputuki˜nu pa˞ja:ru˜taŋ](戦後にゼニタムシ < 銭癬 > が流行ったことがある)。ム˞カ˜シェー ウ˞ルプトゥ˜キ ン˞ジプス˜ヌ ˞ゴー˜ラータヌ マ˞ナ˜マー ミ˞ララン˜バン [mu˞ka˜ʃe: ʔu˞ruputu˜ki ʔn˞ʤi pu̥su˜nu ˞go:˜ra:tanu ma˞na˜ma: mi˞raram˜baŋ](昔は田虫の出た人が多かったが、今は見られないよ)。

˜ウルン [˜ʔuruŋ]【自動】下りる。「下る < おる、上二段活用 >」の四段活用化したもの。ウ˞リ˜ルンとも言う。ウ˞ラ˜ヌ [ʔu˞ra˜nu](下りない)。ウ˞リ˜プサン [ʔu˞ri˜pusaŋ](下りたい)。˞ワー˜ ウルカー ˞バン˜ヌン ˜ウルン [˞wa:˜ ʔuruka: ˞ban˜nuŋ ˜ʔuruŋ](君が下りたら私も下りる)。マ˞ナ˜マ ˜ウル プ˞ソー˜ ブ˞ラーヌ [ma˞na˜ma ʔuru pu̥˞so:˜ bu˞ra:nu](今下りる人はいない)。˞パー˜ク ˜ウレー ˜ミサムヌ [˞pa:˜ku ˜ʔure: misamunu](早く下りたらよいのに)。˞ワーヤ˜ クマーラ ˜ウリ [˞wa:ja˜ kuma:ra ˜ʔuri](君はここから下りろ)。

ウ˞ルン [ʔu˞ruŋ]【他動】織る。布を織る。˞ピントゥルピン ヌーヌ˜ ウ˞ルンティ パンタ˜サ ˞シーオー˜ル [˞pinturupin nu:nu˜ ʔu˞runt panta˜sa ʃi:ʔo:˜ru](毎日布を織るとて忙しく < 繁多さ > しておられる)。˞プール˜キン ウ˞リ キササ˜ナー [˞pu:ru˜kiŋ ʔu˞ri ki̥sasa˜na:](豊年祭用の新しい着物を織って着せようねえ)。˞ワー˜ ウ˞ル˜カー ˞バン˜ヌン ウ˞ルン [˞wa:˜ ʔu˞ru˜ka: ˞ban˜nuŋ ʔu˞ruŋ](君が織ったら私も織る)。ウ˞ル プソー˜ ブ˞ラーヌ [ʔu˞ru pu̥so:˜ bu˞ra:nu](織る人はいない)。カ˞シーカシー˜ ウ˞レー˜ ミサムヌ [kḁ˞ʃi:kaʃi:˜ ʔu˞re:˜misamunu](しっかり < きちんと > と織ればよいのに)。˞パー˜ク ウ˞リ [˞pa:˜ku ʔu˞ri](早く織れ)。ウ˞リプス [ʔu˞ripusu](織り人。織る人)。˞ワンヌン˜ ウ˞レー˜ ミサムヌ [˞wannuŋ˜ ʔu˞re:˜ misamunu](君も織ればよいのに)。ウ˞リプス˜ タ˞ナ˜ミ [ʔu˞ripusu˜ ta˞na˜mi](織りてを頼め)。

ウ˞レー [ʔure:]【連】それは。その人は。指示代名詞、ウ˞リ [ʔu˞ri](それ) に係助詞-ヤ [-ja](は < とりたて強調 >) が下接融合して形成されたもの。CVCV 構造の上接語の末尾母音が [i] の場合、係助詞-ja(は) と融合同化して [-e:] となり、同じく [-u] の場は [-o:] となる。ウ˞レー ター˜ムヌヤ [ʔu˞re: ta:˜ munuja](これは誰のものか)。ウ˞レー˜ ヌースンティ ˜ウナー ˞ベー˜ワ [˞ʔure:˜ nu:sunti ˜ʔuna: ˞be:˜wa](その人は何故にそこにいるのか)。

ウ˞レー˜ラ [ʔu˞re:˜ra]【連】1それから。その後。[ʔuri・kara] → [ʔurihara] → [ʔure:ra] と音韻変化したもの。˞ウンマー˜ ヤ˞ラ˜ビ ヤ˞レー˜ンダ ˜ウブイ ブ˞ラーヌヌ˜ ウ˞レー˜ラ ア˞トゥ˜ヌ ˜クトー ˜ウブイ ˞ブン [˞ʔumma:˜ ja˞ra˜bi ja˞re:˜nda ˜ʔubui bu˞ra:nunu˜ ʔu˞re:˜ra ʔa˞tu˜nu ˜ku̥-to: ˜ʔubui ˞buŋ](其の頃は子供だったから覚えていないが、それから後のことは覚えている)。2彼から。ウ˞レー˜ラ ˜ジン カ˞ルナ [ʔu˞re:˜ra ˜ʤiŋ ka˞runa](あれ < 彼 > からお金を借りるな)。

ウ˞レー˜ラン [ʔu˞re:˜raŋ]【連】それよりも。「それからも」の転訛したもの。ウ˞レー˜ラン ク˞リル˜マ˞シ [ʔu˞re:˜raŋ ku˞riru˜ ma˞ʃi](それよりもこれが良い)。

ウロー˞ウロー˜シ [ʔuro:˞ʔuro:˜ʃi]【副】ざらざらするように。粉などの粒が少し粗いさま。ウ˞ロー˜ン [ʔu˞ro:˜ŋ](粗い < 形容詞 >) の語幹を重ねた副詞。ム˞チコー˜ ン˞ベーマ˜ ウロー˞ウロー˜シ バ˞リ˜バ [mu˞ʧiko:˜ ʔm˞be:ma˜ ʔuro:˞ʔuro:˜ʃi ba˞ri˜ba](餅粉は少し粒がざらざらするように割りなさい < 搗いて粗い粉にしなさい >)。

˜ウロイ [˜ʔuroi]【名】おしめり (御湿り)。「潤い」の義。˜ウルイ [˜ʔurui] ともいう。雨が程よく降って作物の植え付けに適する状態になること。「Vruoi,ô,ôta.

ウルヲイ, ゥ、ゥタ (湿・潤ひ、ふ、うた)〜、または湿り気をもっている」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ウ˩ロイ˥ヌ　˥アルンケンナー　˩ウン˥マー　イ˩ビシキラン˥カー　ナ˩ラ˥ヌ [ʔu˩roi˥nu ˥ʔaruŋkenna: ˩ʔum˥ma: ʔi˩biʃikiraŋ˥ka: na˩ra˥nu](御湿りのある内に芋を植え付けておかないといけない)。ユ˩ビ˥ヌ　˥アミシー　ウ˩ロイ˥ヌ　˥ンジケーチバ　ス˩クリ˥ムヌン　イ˩キブイ˥　ン˩ジ˥ス [ju˩bi˥nu ˥ʔamiʃi: ʔu˩roi˥nu ˥ʔndʒike:tʃiba su˩kuri˥munuŋ ʔi˩kibui˥ ʔn˩dʒi˥su](昨夜の雨でお湿りが出てきたので　作物も生気＜勢い＞が出るよ)。ウ˩ルズン˥ヌ　˥シチェー　˩ペー˥リ　˥アミーン　タ˩ボーラリ˥ター　パ˩タ˥ケーヤ　イッ˩ケン˥　ウロイ　˩シー　ブン [ʔu˩rudzun˥nu ʃi̥tʃe: ˩pe:˥ri ˥ʔami:n ta˩bo:rari˥ta: pḁ˩ta˥ke:ja ʔik˩keŋ˥ ʔuroi ˩ʃi:buŋ](初夏の季節に入り降雨も賜ったので、畑には十分に潤いがある＜潤っている＞)。

ウ˩ワーラスン [ʔu˩wa:rasuŋ] 【他動】終えさせる。使役動詞。「終わらせる」の転訛したもの。ユネン˩バー˥キナ　ウ˩ワーラスンティ˥　シ˩タンドゥ˥　ウ˩ワーラサラヌ [junem˩ba:˥kina ʔu˩wa:rasunti˥ ʃi̥˩tandu˥ ʔu˩wa:rasaranu](夕方までに終えさせようとしたが、終えさせられない)。ウ˩ワーラシ˥　ミサカー　シ˩グ˥　ウ˩ワーラス˥　クトー　˥ナルン [ʔu˩wa:raʃi˥ misaka: ʃi˩gu˥ ʔu˩wa:rasu˥ ku̥to: ˥naruŋ](終えさせて良ければ、すぐに終えさせることは出来る)。ウ˩ワーラシェー˥　ミサムヌ [ʔu˩wa:raʃe:˥ misamunu](終えさせれば良いのに)。˩パー˥ク　ウ˩ワーラシ˥バ [˩pa:˥ku ʔu˩wa:raʃi˥ba](速く終えさせよ)。

ウ˩ワーリ [ʔu˩wa:ri] 【名】終わり。仕舞い。終了。動詞ウ˩ワールン [ʔu˩wa:ruŋ](終わる) の連用形から転成した名詞。˩キュー˥ヌ　シ˩グトー˥　ウビシ　ウ˩ワーリ˥カヤー [˩kju:˥nu ʃi˩guto:˥ ʔubiʃi ʔu˩wa:ri˥kaja:](今日の仕事はこれで終わりかなあ)。ウ˩ワーリヌ˥　ミサカー　ムー˩ル˥　ミサン [ʔu˩wa:rinu˥ misaka: mu:˩ru˥ misaŋ](終わりが良ければ総て良し)。

ウ˩ワーリンガタ [ʔu˩wa:riŋgata] 【名】終わり方。終わり近く。終わり頃。終了間近。˩プール˥ヌ　˩ゾーラケー˥　ウ˩ワーリンガタ˥　ナ˩リ˥ブンダ　˩パーレー˥ヌ　ス˩コール　シー˥バ [˩pu:ru˥nu ˩dzo:rake:˥ ʔu˩wa:riŋgata˥ na˩ri˥bunda ˩pa:re:˥nu su̥˩ko:ru ʃi:˥ba](豊年祭の常楽踊＜西村・東村対抗の芸能のゾーラキ＞は終わり方になっているから、爬竜船競漕の準備をしなさいよ)。

ウ˩ワールン [ʔu˩wa:ruŋ] (1)【自動】終わる。パ˩ナ˥シェー　マ˩ダ˥　ウ˩ワーラヌ [pa˩na˥ʃe: ma˩da˥ ʔu˩wa:ranu](話はまだ終わらない)。ウ˩ワーリヤッ˥サン [ʔu˩wa:rijas˥saŋ](終わりやすい)。ウ˩ワーラバル˥　パ˩ラ˥リ [ʔu˩wa:rabaru˥ pa˩ra˥ri](終わったらばこそ行かれる。終わってはじめて行ける)。˩ワー˥　クビシ　ウ˩ワール˥カー　˩バン˥ヌン　ウ˩ワールン [˩wa:˥ kubiʃi ʔu˩wa:ru˥ka: ˩ban˥nuŋ ʔu˩wa:ruŋ](君がこれだけで終わるなら私も終わる)。ウ˩ワール˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [ʔu˩wa:ru˥ ku̥to: na˩ra˥nu](終わることは出来ない)。˥クビシ　ウ˩ワーレー˥　ミサムヌ [˥kubiʃi ʔu˩wa:re:˥ misamunu](これだけで終われればよいのに)。˩パー˥ク　ウ˩ワーリ [˩pa:˥ku ʔu˩wa:ri](早く終われ)。ウ˩ワーリ˥　ミサン [ʔu˩wa:ri˥ misaŋ](終わってよい)。 **(2)**【他動】仕舞う。終える。終了する。シ˩グトゥ˥　ウ˩ワールン [ʃi˩gutu˥ ʔu˩wa:ruŋ](仕事を終える)。ウ˩ワーラスン [ʔu˩wa:rasuŋ](終わらせる。終える)。

˥ウン [ʔuŋ] 【名】(植) 甘藷。サツマイモ。「うも」の義。芋類。「蕷・芋、伊母 (いも)」『新撰字鏡』の転訛。˩ウンヌダー˥キ [˩ʔunnuda:˥ki](芋を柔らかく煮て捏ねたもの)。˩ウンヌ˥カザ [˩ʔunnu˥kadza](芋かずら)。芋の種類には、次のようなものがあった。ア˩ガフキ [ʔa˩gaɸu̥ki](赤茎、蔓(カズラ)の若葉が赤いことから「赤茎」という。在来種)。˥カナーウン [˥kana:ʔuŋ](表皮は赤色、中身は白色、煮ると粉をふく)。˩タイ˥ワン [˩tai˥waŋ](表皮、中身ともに白色。煮ると柔らかく水っぽい)。˥トゥマイクルー [˥tumaikuru:](表皮は赤色、中身は紫色、煮ると柔らかく、甘みがあり、美味しい)。ナ˩ガ˥ハマ [na˩ga˥hama](表皮、中身ともに白色。味は落ちる)。ミ˩チ˥チャー [mitʃitʃa:](三ヶ月で収穫できるのでその名があるという)。ヒャ˩ク˥ゴー [ça˩ku˥go:](「100 号」、改良品種で多収穫。澱粉が多く煮ると粉を吹いて美味である。島で最も普及した)。ク˩ラ˥ガー [ku˩ra˥ga:](煮ると美味である) など。ヒャ˩ク˥ゴーウンバ　˩シンマイナビ˥ヌ　˩ピッ˥チン　˩ネーシティ˥　プスイ　˩ミーキ˥　ッ˩ふータヌ˥　ア˩キランシェン [ça˩ku˥go:ʔumba ˩ʃimmainabi˥nu ˩pit˥tʃin ˩ne:ʃiti˥ pu̥sui ˩mi:ki˥ f˩fu:tanu˥ ʔa˥kiranʃeŋ](百号イモを四枚鍋のいっぱい煮て一日三食、それを食べたが飽きなかった)。˩クーフキ˥ウン [˩ku:ɸu̥ki˥ʔuŋ](粉ふき芋)、˩キールウン [˩ki:ruʔuŋ](黄色い芋) なども美味であった。昭和三十年の後半ごろバイラスという芋の病気が蔓延して島の畑の芋蔓を総て焼き捨てた

ことがあった。ヒャ˩クゴー˥ヤ　˩ネース˥カー　˩クー˥フキティ　イッ˩ケナ˥　ン˩マー˥タン [çaˈkugoː˥ ja ˩neːsu˥kaː ˩kuː˥ɸu̥kiti ʔikˈkena˥ ʔmˈmaː˥taŋ](百号種の芋は煮ると澱粉質が多く＜粉が噴出して＞非常に美味しかった)。

˥ウン [˥ʔuŋ] 【名】1鬼。仁王仏。イ˩サナキヌ˥　ティ˩ラヌ˥　ウン　ウ˩ガマシター˥ル　˥ドゥーゾー　˥ナレーティ　˩ダー [ʔiˈsanakinu˥ tiˈranu˥ ʔuŋ ʔu ˩gamaʃita:˥ru ˥duːʤoː ˥nareːti ˩daː](石垣島の寺の仁王仏像を拝ませたので健康＜胴強く＞になったそうだよ)。ッ˩ふァヌ˥　クトゥティ　˥ナルカー　˥ウヤー　˥ウンニン　˥ナルン [fˈfanu˥ ku̥tuti ˥naruka:˥ ʔuja:˥ʔunnin ˥naruŋ](子供のこととなると、親は鬼にもなる)。2容貌や性格が鬼のように恐ろしい人。ウ˩リヌ　クン˥ゾー　ウ˩クルカー　˩ウン˥ヌ　˥シラ　˥ナリ　ナ˩クラー˥ヌ　ミ˩ララ˥ヌ [ʔuˈrinu kun ˥ʤoː ʔuˈku˥ruka: ˩ʔunˈnu ˥ʃira ˥nari naˈkuraː˥nu miˈ rara˥nu](その人が怒ると鬼の形相になって怖くて見られない)。

˩ウン [˩ʔuŋ] 【名】運。運命。運勢。プ˩スヌ　ウン˥ティ　˩スームノー˥　ワ˩カラン˥　ムヌサ˩ナー˥　サ˩クシ˥　ッふァ　˩ピー˥タイ　トゥ˩ラ˥リティ　ナ˩キオーッタ˥ヌ　ウ˩レー˥　ヌチェー　˥ムイ　˩カイ˥リキー [pu̥ˈsunu ʔun˥ti ˩suːumunoː˥ waˈkaram ˥munusaˈnaː˥ saˈkuʃi˥ffa ˩piː˥tai tuˈra˥riti naˈkioːtta˥ nu ʔuˈreː˥ nutʃeː ˥mui ˩kai˥riki:](人の運というのは分からないものだなあ。嫡子を兵隊に取られて泣いておられたのに、その人は＜それは＞生きて帰ってきて)。

˩ウン [˩ʔuŋ] 【名】その時。当時。˩ウンマー　ワー　ヤー˥ナ　ブ˩ラーンセヌ˥　マナール　˩ベー˥タ [˩ʔumma: wa: ja:˥na buˈraːŋʃenu˥ manaːru ˩beː˥ta](その時は、君は家にいなかったのだが、何処にいたのかねえ)。˩ウンヌ˥　クトー　˩バシキルナ [˩ʔunnu˥ ku̥to: ˩baʃikiruna](その時のことは忘れるな)。˩ウンラ˥　マ˩ナマー˥キ　ナー˩イ　ヤー˥ナ　˩ベー [˩ʔunra˥ maˈnamaː˥ki naːˈi ja:˥na ˩beː](その時から今までずーっと家にいる)。˩ウンマー˥ケー　ヤ˩ラビ˥ル　ヤ˩レー˥ンダ　ノー˩ン˥　ウブイ　ブ˩ラーヌ [˩ʔummaː˥ke: jaˈrabi˥ru jaˈreː˥nda noːˈŋ˥ ʔubui buˈraːnu](その時までは子供であったから何も覚えてはいない)。˩ウンマー　ヌー˥シ　˩ブーター [˩ʔumma: nuː˥ʃi ˩buːtaː](その頃は何をしていたか。＜如何だったか＞)。˩ウンマー˥　イ˩ク˥サー　マ˩ダ˥　パ˩ジマリ˥　ブ˩ラーンシェン [˩ʔummaː˥ ʔiˈku˥ saː maˈda˥ paˈʤimari˥ buˈraːŋʃeŋ](その頃はまだ戦争は始まっていなかった)。

˥ウン　˩カイ˥スン [˥ʔuŋ ˩kai˥suŋ] 【連】芋を掘る。˩芋を耕す」の義。稔った畑の芋を鍬で土を掘り起こして収穫する。˥ウン　˩カイ˥スンティ　˩ベー˥バ　˩ワー　ウンヌ˥ガザ　カ˩リトー˥リティ　ピ˩ビザン˥　ッ˩ふァーシ˥バ [˥ʔuŋ ˩kai˥sunti ˩beː˥ba ˩waː ʔunnu˥ kaʤa kaˈritoː˥riti piˈbiʤaŋ˥ fˈfaːʃi˥ba](芋を掘ろう＜耕そう＞としているので、君は芋蔓を刈り取って山羊に喰わせなさいよ)。

˥ウン˥カブン [˥ʔuŋ ˥kabuŋ] 【連】鬼のような恐ろしい形相になる。「鬼被る」の義。鬼面になる。ウ˩ヌ　プスヌ　クン˥ゾー　˥ンズカー　˥ウン　˥カビティ　ン˩カーリ˥スコー　ア˩ラ˥ヌ [ʔuˈnu˥ pu̥ˈsunu kun˥ʤoː ˥ʔnʤukaː ˥ʔuŋ ˥kabiti ʔŋˈkaːri˥su̥koː ʔaˈra˥ nu](その人が怒ると鬼のような恐ろしい形相になって、とても応対できる＜向き会われる＞どころでない)。

˩ウンキ [˩ʔuŋki] 【名】運気。運勢のこと。人間の五運六気。運気が弱いと病気になると信じられている。毎年石垣の˥サンギンソー [˥saŋginsoː](易者) を訪ねて家族の運勢を占ってもらっていた。プ˩ソー˥　マ˩リドゥシ˥　マ˩リシケー　ウンキ　ヨーン　˥ツォー [pu̥ˈso:˥maˈriduʃi˥ maˈriʃi̥ke: ʔuŋkijoːn˥tsoː](人はその生まれ年、生まれ月には運気が弱いそうだ)。˩ウンキニン˥ガイ　˩シー　オーシェー˥チバ　パシッ˥トゥ˥　ナ˩リ˥スヨー [˩ʔuŋkiniŋ˥gai ˩ʃiː ʔoːʃeː˥ ʧiba pḁʃitˈtu˥ naˈri˥sujoː](運気祈願をしてさしあげたから元気＜気分爽快＞になるよ)。ム˩ヌシリ˥ンヤーナ　˩ギーティ　ヤーニンズー˥ヌ　˩ウンキ˥　ク˩ラ˥シクー [muˈnuʃiri˥ɲ ˥jaːna ˩giːti jaːninʤu:˥nu ˩ʔuŋki˥ kuˈra˥ʃi̥ku](三世相、易者＜物知り＞の家に行って家族の運気を占って＜繰って＞もらって来なさい)。

˩ウンキ˥　ク˩ラ˥スン [˩ʔuŋki˥ kuˈra˥suŋ] 【連】占わせる。「運気を繰らす」の義。˥サンギンソー [˥saŋginsoː](易者。三世相) やユ˩タ [juˈta](口寄せをする巫女。かんなぎ＜巫・覡＞) に運気祈願の日時、方法を占ってもらう。˥サンギンソーヌ　˥ヤーナ　˩ギーティ　ヤーニンズー˥ヌ　˩ウンキ˥　ク˩ラ˥シ　˥クーバ [˥saŋginsoːnu ˥jaːna ˩giːti jaːninʤu:˥nu ˩ʔuŋki˥ kuˈra˥ʃi ˥kuːba](易者の家に行って家族の運気を占ってもらってきなさい)。

˩ウンキクリ˥プス [˩ʔuŋkikuri˥pu̥su] 【名】運気を占う人。三世相。易者。ユ˩タ [juˈta](与太。巫女)。イ

˩サナキ˥ナー　˥サンギンソーン　˩オーリ˥バ　˩キータティ˥プスン　˩オー˥ルンツォー [ʔi˩sanaki˥naː˥ saŋginsoːŋ ˩ʔoːri˥ba ˩kiːtati˥pu̥suŋ ˩ʔoː˥runtsoː](石垣島には三世相も居られれば、易者もおられるそうだ)。

˩ウンキ˥　クルン [˩ʔuŋki˥ kuruŋ] 【連】運気を占う。「運気を繰る」の義か。˥ヌーンティル　˥アイニ　˩ビョー˥ザーユー　˥サンギンソーヌ　˥ヤーナーン　˩ギー　ウンキ˥　ク˩ラ˥シ　ミリ˩ミー [˥nuːntiru˥ ʔaini ˩bjoː˥dʑaːjuː ˥saŋginsoːnu jaːnaːŋ ˩giː ʔuŋki˥ ku ˩ra˥ʃi miri˩miː](どうしてこうも病気がちなのか、三世相の家にでも行って運気を占って＜繰らせて＞見てごらんよ)。

˩ウンキニン˥ガイ [˩ʔuŋkiniŋ˥gai] 【名】各家庭で健康、安全、幸福を祈願する祭祀。「運気願い」の義。年周りが悪くて、運気が厳しい時、運気を呼び込んで良い方向へ導くための祈願。その人のマ˩リビー [ma˩ribiː](生まれた日の干支) に合わせて佳日を選定して祈願させた。˥ドゥーパダニンガイ [˥duːpadaniŋgai](健康祈願、˩胴肌願い」の義) ともいう。旧暦一月＜正月＞と八月に祈願された。˥ソンガチヌ　パ˩チニンガイトゥ˥　パ˩チンガチ˥ヌ　˥ドゥーパダニンガイナー　˩ヤーニンズー˥ヌ　˩ウンキニン˥ガイ　˩シー　オーシタ [˥soŋgatʃinu pa˩tʃiniŋ-gaitu˥ pḁ˩tʃiŋgatʃi˥nu ˥duːpadanigainaː ˩jaːnindʑuː˥nu ˩ʔuŋkiniŋ˥gai ˩ʃiː ʔoːʃitaː](正月の初祈願と八月の健康祈願で家族の運気祈願をしてさしあげたよ)。

ウン˩キリ [ʔuŋ˩kiri] 【副】それっきり。丁寧にいうときは、ウヌッ˩キリ [ʔunuk˩kiri](それっきり) という。ウ˩キ˥ナー　˩パッ˥タルパリ　ウン˩キリ˥＜ウヌッ˩キリ˥＞　ミ˩ラ˥ヌ [ʔu˩ki˥naː ˩pat˥tarupari ʔuŋ˩kiri˥ ＜ʔunuk˩kiri＞ mi˩rara˥nu](沖縄へ行ったきり、それっきり来ない＜見られない＞)。˥バン　イ˩ザリティ˥　ウン˩キリ　バン˥テー　˩クー˥ヌ [˥baŋ ʔi˩dʑariti˥ ʔuŋ˩kiri ban˥teː ˩kuː˥nu](私に叱られて、それっきり私の家には来ない)。ウ˩ヤ˥ヌ　˩マーラソーッ˥ター　ウヌッ˩キリ　クー˥ヌ [ʔu˩ja˥nu ˩maːraso:t˥taː ʔunuk˩kiri kuː˥nu](親が亡くなられたので、それっきり帰ってこない)。

˩ウン˥ク [˩ʔuŋ˥ku] 【名】うみ (膿)。シッタ˩リー˥　ウ˩レー˥　ヌーヤ。˩ウン˥ク˩ゲ˥ラ [ʃi̥tta˩riː˥ ʔu˩reː˥ nuːja. ˩ʔuŋ˥ku˩ge˥ra](まあ、汚い。それは何か。膿さ)。ア˩シ˥ブ　バ˩リ　アーシター˥　ク˩ビ˥ナー　˩ウンク˥ヌ　˥ンジキー　˩ゴーリベー [ʔa˩ʃi˥bu ba˩ri ʔaːʃitaː˥ ku˩bi˥naː ˩ʔuŋku˥nu ˥ndʑikiː ˩goːribeː](御出来を切開して膿を出したら、こんなにも膿が出てきて筋肉がごっそり削げこけて窪んでいる)。

˩ウンザ [˩ʔundʑa] 【代】そいつ。そやつ＜其奴＞。対称の指示代名詞ウ˩リ [ʔu˩ri](それ) に、ヌザ [nudʑa](人の卑語) が下接して形成された表現。人を卑しめた待遇表現。卑語。˩ウンザー˥　ヤ˩ナフシヌ˥　アンダー　プ˩スム˥シェー　˩シシキ˥　トゥ˩ラサン˥カー　ナ˩ラントツォー [˩ʔundʑaː˥ ja˩naɸuʃinu˥ ʔandaː pu̥˩sumu˥ʃeː ˩ʃiʃi̥ki˥ tu˩rasaŋ˥kaː na˩ranˡtsoː](そいつは悪い癖があるので、一度は懲らしめて＜躾けて＞やらないといけないのだよ)。この野郎。対称の人称代名詞。卑称。˩ウンザヌ˥　ア˩ズ˥　ムネー　˩ミーヤ　ナー˥ヌ [˩ʔundʑanu˥ ʔa˩dʑu˥ muneː ˩miːja naː˥nu](そいつが言うことは嘘である＜中身・真実味はない＞)。ノー˩シン　ウンザヌル　シェー˥ル　プ˩スノー　サヌ [noː˩ʃiŋ ʔundʑanuru ʃeː˥ru pu̥˩suno: sanu](どうせ其奴がしたのであろう、他の人はしない)。

˩ウンザカンザ [˩ʔundʑakandʑa] 【代】そいつめ、あいつめ。そいつら、あいつら。˩ウンザ [˩ʔundʑa](そいつ)、˩カンザ [˩kandʑa](あいつ等) の ABCDBC 型構造の重言。˩ウンザカンザ　ターティ　ナー˥ン　ア˩ツァ˥マリキー　˥バー　˩タンガ˥バ　イ˩ズ [˩ʔundʑakandʑa taːtinaː˥ŋ ʔa˩tsa˥mariki: ˥ba: ˩taŋga˥ba ʔi˩dʑu](あいつもこいつも、誰彼なしに集まってきては私一人を叱るのだ)。

˩ウンザンメー [˩ʔundʑamme:] 【代】そいつら。そやつら (其奴等)。人称代名詞三人称、中称、卑称、複数を表す。˩ウンザンメーヤ˥　マ˩ナ˥マー　˩ヌー˥シ　˩ベー˥ワ [˩ʔundʑamme:ja˥ ma˩na˥ma: ˩nuː˥ʃi ˩be: ˥wa](其奴等は今何をしているか)。

˩ウンシー [˩ʔuŋʃiː] 【名】運命。「運勢」の義か。ウビ˩バーキ˥ヌ　˩ウンシードゥ˥　ヤ˩ロー˥レーバ　イ˩ナムヌティン˥　ウ˩モーン˥ドーシ　ヌ˩カル˥ヌ　˥コーヨー　˩シー˥バ˩ヨー [ʔubi˩baːki˥nu ˩ʔuŋʃiːdu˥ ja˩roː˥reːba ʔi˩namunu˥tiŋ ʔu˩moːn˥doːʃi nu˩karu˥nu ˥koːjo: ˩ʃiː˥ba˩joː](それまでの運命であられたので、残念だとばかり思わないで残りの孝養を尽くしなさいねえ)。

˩ウンター [˩ʔuntaː] 【名】上。上方。頂上。「上の方」の転訛したもの。˩ウインター [˩ʔuintaː](上方) ともいう。˩ヤー˥ヌ　˩ウンタ˥ナ　˥パトゥザヌ　トゥ˩マリ　ベー [˩jaː˥nu ˩ʔunta˥na ˥pḁtudʑanu tu˩mari beː](家の上に鳩がとまっている)。˩マー˥ビン　˩ウンター　ヌーリ [˩maː˥biŋ ˩ʔuntaː nuːri](もっと上に上れ)。

˞ウン˜タマ [˞ʔun˜tama] 【名】狡賢い者。狡猾な者。悪知恵者。˞ウンザー　ウン˜タマ　ヤ˞ルンダ　キーシキ˜リ˞ダー　カシカーサリ˜ナ˞ダー [˞ʔundʑa: ʔun˜tama ja˞runda ki:ʃi̥ki˜ri˞da: kaʃi̥ka:sari˜na˞da:](そいつは狡賢い奴だから、気をつけろよ。騙されるなよ)。ウ˞レー˜　ヤ˞ナウンタマ˜　ム˞ティ˜ムヌ [ʔu˞re:˜ ja˞naʔuntama˜ mu˞ti˜munu](それ＜彼＞は人を騙す悪智恵の持ち主だ＜狡賢い奴だ＞)。

˞ウンタマギー˜ル [˞ʔuntamagi:˜ru] 【固】義賊。沖縄方言からの借用語。沖縄本島に居たといわれる義賊の名前。石垣島で芝居に上演されて鳩間島にも伝えられたという。イ˞サナキ˜ナー　シ˞バヤーヌ˜キー　˞ウンタマギー˜ルティ　˞スー˜　シ˞バヤバシー　ベータン˜ドゥ　イ˞カムス˜ク　ウ˞ムッ˜サタワ˞ツォー [ʔi˞sanaki˜na: ʃi˞baja:nu˜ ki: ˞ʔuntamagi:˜ruti ˞su:˜ ʃi˞baiba ʃi: be:tan˜du ʔi˞kamusu̥˜ku ʔu˞mus˜satawa˞tso:](石垣島に芝居劇団が来てウンタマギールという芝居を上演していたが、どんなに面白かったことかよ＜すごく面白かったよ＞)。

˞ウン˜チュー [˞ʔun˜ʧu:] 【名】下男。首里方言の˞ウンチュミー [˞wunʧumi:](下男) からの借用語。ム˞カ˜シ　˞ウン˜ネナー　˞ウンチュ˜ヌ　˞タン˜ガ　˞オーッ˜タン [mu˞ka˜ʃi ˞ʔun˜nena: ˞ʔunʧu˜nu ˞taŋ˜ga ˞ʔo:t˜taŋ](昔、その家に下男が一人おられた)。

˞ウンチン [˞ʔunʧiŋ] 【名】運賃。船賃。パ˞トゥ˜マーラ　イ˞サナケーバーキ˜ヌ　˞ウンチンマー　ギュー˜サヤー [pḁ˞tu˜ma:ra ʔi˞sanake:ba:ki˜nu ˞ʔunʧimma: gju:˜saja:](鳩間から石垣島までの運賃はいくらか)。˞ウンチン˜　パライ [˞ʔunʧim˜ parai](運賃を払え)。

˜ウンツァイ [˜ʔuntsai] 【名】(植) 野菜の一種。ようさい (甕菜)。ヒルガオ科植物。一年草。湿地に栽培され、茎も葉も料理に用いられる。真夏にも繁茂するので夏野菜として重宝される。西表島の水田地帯の湿地帯を利用して栽培された。葉はサツマイモの葉に似ており、長卵形で濃緑色。茎は中空で細長く、蔓性で地面を這う。煮ると柔らかくなり、カツオの頭のだし汁の生臭みをよく消し、その味をたっぷりと含む。˜ウンツァイトゥ　ハ˞ラゴー˜トゥシ　˞チャン˜プルー　˞シー˜バ [˜ʔuntsaitu ha˞rago:˜tuʃi ˞ʧam˜puru: ˞ʃi:˜ba](ようさいとカツオの腹皮で炒めもの料理＜チャンプルー＞にしなさい)。

˞ウン˜ディル [˞ʔun˜diru] 【名】芋笊。芋を入れる笊。˞クー˜ジ [˞ku:˜ʤi](トウヅルモドキ) の皮で編んで造った笊。両端に吊り紐が付いており、˞アイ˜ク [˞ʔai˜ku](天秤棒) にかけて担ぐ農具。鳩間島では˜ティル (笊) に入れた芋を笊ごと浜辺の海に入れ、片足を笊の中に突っ込んで扱き洗う。ティ˞ル˜ヌ　˞ブー [ti˞ru˜nu ˞bu:](笊の紐) を片手で引っ張ったり、緩めたりしながら笊の中の芋を回転させて洗う。˞ウン˜ディルナー　˜ウン　˜フナイバ [˞ʔun˜diruna:˜ ʔuŋ ˜ɸunaiba](芋笊に芋を詰め込みなさいよ)。

˞ウンドーレー [˞ʔundo:re:] 【副】あんな時刻から (遅い時刻に)。「そんな時から」の義。過去の出来事に対して用いる。˞ウンドーレー˜ラ　˞アー˜ク　˜ムヌ　マ˞ニアーサラン˜　ブ˞レー˜ヨー [˞ʔundo:re:˜ra ˞ʔa:˜kumunu ma˞nia:saram˜ bu˞re:˜jo:](あのように遅い時刻から行くのだから間に合わされなかったのだろうよ)。サ˞キバ˜　ヌミティル　˞ウンドーレー˜ラ　プ˞スン˜ヤー　シゥ˞カッティカー˜ティ　˞セー˜ティ　˞アー˜ク [sḁ˞kiba˜ numitiru ˞ʔundo:re:˜ra pu̥˞suŋ˜ja: si̥˞kattika:˜ti ˞ʃe:˜ti ˞ʔa:˜ku](酒を飲んで、あんなに遅い時刻から余所の家にふらつき回って、あっちこっちの家に迷惑をかけてあるくのだ)。

˞ウン˜ナ [˞ʔun˜na] 【接】それに。そのうえ。かつ。それに加えて。カ˞ジヌ˜　フキ　˞ウン˜ナ　˞ウーアミバー˜キ　˜フイティル　˞キーユーサン˜シェン [ka˞ʤinu˜ ɸu̥ki ˞ʔun˜na ˞ʔu:amiba:˜ki ɸuitiru ˞ki:ju:saŋ˜ʃeŋ](風が強く吹いて、そのうえ大雨までが降ったので来れなかった＜来ることができなかった＞)。

˞ウン˜ナ [˞ʔun˜na] 【連体】そんな。そのような。指示代名詞ウ˞リ [ʔu˞ri](それ) の連体用法。˞ウン˜ナ　˜クトー　ス˞ナ [˞ʔun˜na ˜ku̥to: su˞na](そんなことはするな)。˞ウン˜ナ　˜クンナヌ　ク˞トゥ˜バ　カ˞タジキ˜ルンティ　˞アー˜クンケンマー　ウ˞クリナーン˜バン [˞ʔun˜na ˜kunnanu ku̥˞tu˜ba kḁ˞taʤiki˜runtiti ˞ʔa:˜kuŋkemma: ʔu˞kurina:m˜baŋ](そんなことあんなこと＜あれやこれ＞を片付けようとしているうちに遅れてしまったよ)。˞ウン˜ナ　˜クトゥ　˞スー˜　プ˞ソー˜　ア˞ラ˜ヌ [˞ʔun˜na ˜ku̥tu ˞su:˜ pu̥˞so:˜ ʔa˞ra˜nu](そんな事をする人ではない)。

˞ウン˜ナカンナ [˞ʔun˜nakanna] 【連体】そんなあんな。あんなこんな。ABCDBC 型の重言。˞ウン˜ナクンナ [˞ʔun˜nakunna](そんなこんな) ともいう。˞ウン˜ナカンナヌ　ク˞トゥ˜バ　フ˞ジッ˜クリ　ン˞ザ˜シティ　˞ヌー˜ス　˞カン˜ガイヤ [˞ʔun˜nakanna ku̥˞tu˜ba ɸu˞ʤik˜kuri ʔn˞ʤa˜ʃi̥ti ˞nu:˜su ˞kaŋ˜gaija](そんなこんなの事をほじくり＜穿り＞出して一体どうするつもり＜考え＞か)。ア˞バ˜サー　ヤ˞ルンダ

˞ マ˞タ ウン˞ナカンナ イ˞ラザラ˞ン ム˞ニ˞バ イ˞ジェー˞ティ ˞アーキ˞バン˞ナー [ʔa˞ba˞saː ja˞runda˞ ma˞ta ʔun˞nakanna ʔi˞radʑara˞m mu˞ni˞ba ʔi˞ʤe:˞ti ˞ʔaːki˞ban˞naː](嫌なお喋り女だから、また、そんなこんな無用なことを喋って＜言って＞あるき回っているんだねえ)。

˞ウン˞ナクンナ [˞ʔun˞nakunna] 【連】そんなこんな。あれこれ。あれやこれや。ABCDBC 型の重言。˞ウン˞ナカンナ [˞ʔun˞nakanna](あんなこんな、そんなこんな) と同じ。˞ウン˞ナクンナヌ ˞クトゥン パ˞ナ˞シ シ˞キラン˞カー ナ˞ラン˞バン˞ナー [˞ʔun˞nakunnanu ˞kutum pa˞na˞ʃi ʃi̥˞kiraŋ˞kaː na˞ram˞ban˞naː](そんなこんなことも話しておかないといけないんだねえ)。

˞ウン˞ナ ˞ムヌ [˞ʔun˞na ˞munu] 【連】そんなもの。˞ウン˞ナ ˞ムヌバ ア˞ツァ˞ミティ ˞ヌー˞ス ˞カン˞ガイヤ [˞ʔun˞na ˞munuba ʔa˞tsa˞miti ˞nuː˞su ˞kaŋ˞gaijaː](そんなものを集めてどうする心算(ツモリ)＜心組み＞か)。

˞ウンナリ ˞ザーン˞ナリ [˞ʔunnari ˞ʤaːn˞nari] 【成】鬼にもなり、蛇にもなって。ッ˞ふァヌ˞ クトゥティ ˞ナルカー ˞ウヤー ˞ウンナリ ˞ザーン˞ナリ マー˞ンバー˞キン パ˞リ˞ス [f˞fanu˞ kʊ̥tuti ˞naruka: ˞ʔuja: ˞ʔunnari ˞ʤaːn˞nari ma:˞mbaː˞kim pa˞riˀsu](子供のこととなると親は鬼にもなり蛇にもなって、何処までも行く)。2恐ろしい形相で。非情になって。マ˞ルケーティナー˞ヤ ˞ウンナリ ˞ザーン˞ナリ イ˞ジシゥカサバル˞ ッ˞ふァヌ˞ タ˞メー˞ ナル˞ダー [ma˞ruke:tinaː˞ja ˞ʔunnari ˞ʤaːn˞nari ʔi˞ʤi sʲi̥kasabaru˞ f˞fanu˞ ta˞me:˞ naru˞daː](偶(タマ)には非情になって厳しく叱って教えるほうが＜聞かせばぞ＞子供のためになるのだ)。

˞ウンヌ˞イー [˞ʔunnu˞iː] 【名】サツマイモを煮て、イ˞ビ˞ラ [ʔi˞bi˞ra](大型のしゃもじ、「飯箆」の義) で捏ねたもの。握ったり、そのまま碗に装って食した。ム˞カ˞セー ˞ウンヌイー˞バ ッ˞ふァイル˞ フ˞ドゥベー˞ティ ˞ムカーヤ [mu˞kaˀʃe: ˞ʔunnui:˞ba f˞fairu˞ ɸu˞dube:˞ti ˞mukaːja](昔は芋のご飯を食べて成長したものだよ)。サツマイモを煮て、捏ねたもの。直径約 10 センチほどのソフトボールの大きさに握って弁当にした。˞ウンヌ˞イー ム˞リティ˞ サ˞ギティー˞グナー イ˞リティ˞ サイ ˞シ˞キリ [˞ʔunnu˞ʔi: mu˞riti˞ sa˞giti:˞guna: ʔi˞riti˞ sai ʃi̥˞ki˞ri](芋の飯を握って吊るし籠＜下げ籠＞に入れて吊るしておきなさい)。ム˞カ˞シェー ˞シンピーズー ˞ウンヌイー˞バ ッ˞ふァイヤー˞ティル ス˞ダティラリ˞タ [mu˞kaˀʃe: ˞ʃimpiːʤu ˞ʔunnuʔiː˞ba f˞faijaː˞tiru su˞datirari˞ta](昔は、毎日芋のご飯を食べながら育てられた)。

˞ウンヌ˞カイ [˞ʔunnu˞kai] 【名】芋粥。芋を粥状に炊いたもの。イ˞クサユー˞ヌ ˞アトゥナー ˞ウンヌ˞カイティ ˞スームン˞ ッ˞ふァイ ミッ˞タン [ʔi˞kusajuː˞nu ˞ʔatuna: ˞ʔunnu˞kaiti ˞suːmuŋ˞ f˞fai mit˞taŋ](終戦直後＜戦世の後＞に芋粥というのを食べたことがある＜食べてみた＞)。

˞ウンヌ˞カザ [˞ʔunnu˞kaʤa] 【名】いもかずら (芋蔓)。˞ウンヌ˞カザー ピ˞ビザン˞ ッ˞ふァーシ˞バ [˞ʔunnu˞kaʤa: pi˞biʤan˞ f˞faːʃi˞ba](芋蔓は山羊に喰わせせなさいよ)。

˞ウンヌ˞カシ [˞ʔunnu˞kaʃi] 【名】いもかす (芋粕)。サツマイモを擂り、絞って澱粉を取り、残り粕を寿司の大きさに手で握り丸めて天日乾燥したもの。非常用の食品として保存した。搗いて粉にし、小麦粉代に用いたり、米や麦、粟と混ぜ煮にして食することもあった。˞ウンヌ˞カシ ˞シッ˞キティ ˞マイ˞ナ マ˞ザー˞シティ ˞ネース˞カー ン˞マーント ダー [˞ʔunnu˞kaʃi ˞ʃik˞kiti ˞mai˞na ma˞ʤaː˞ʃi̥ti ˞neːsu˞kaː ʔm˞maːnˈdaː](芋粕を搗いて米に混ぜて煮ると美味しいよ)。˞ウン˞バ ˞ッシ ス˞ブ˞リティ ˞ウー˞キナ イ˞リティ ウンヌ˞クジェー ˞トゥリ ˞カシェー ˞ニー˞リティ ˞ティダナ ˞プシティル タ˞ブータル [˞ʔum˞ba ˞ʃʃi su˞bu˞riti ˞ʔuː˞kina ʔi˞riti ʔunnu˞kuʤe: ˞turi ˞kʊ̥ʃe: ˞niː˞riti ˞tidana ˞pʊ̥ʃitiru ta˞buːtaru](サツマイモは擂って搾って搾り汁を桶に入れて澱粉＜芋葛＞を取り、絞り糟は握って天日乾燥して保存した＜蓄えた＞)。

˞ウンヌ˞クジ [˞ʔunnu˞kuʤi] 【名】芋 (甘藷) の澱粉。「芋の葛粉」の義。単に˞クジ [˞kuʤi](澱粉) といえば、甘藷や˞キー˞ウン [˞kiːʔuŋ](キャッサバ) の芋の澱粉を指す。この澱粉でつくるテンプラを、˞ウンヌ˞クジティンプラ [˞ʔunnu˞kuʤitimpura](芋葛粉テンプラ) といい、誠に美味である。これで˞ブッ˞トゥル [˞but˞turu](澱粉を揚げてつくった、粘り気のあるジェリー状の食物) を作り、病人に与えて栄養食とした。子供のお八つとしても喜ばれた。サツマイモの澱粉。˞ウンヌ˞クジシ ˞ブッ˞トゥル タ˞キ˞ ッ˞ふァーシ˞バ [˞ʔunnu˞kuʤiʃi ˞but˞turu tʊ̥˞ki˞ f˞faːʃi˞ba](サツマイモの澱粉でブットゥルを炊いて食べさせなさい)。

˞ウンヌ˞クジティンプラ [˞ʔunnu˞kuʤitimpura] 【名】

芋の澱粉 < 芋葛粉 > で揚げたテンプラ。ˈウンヌˈクジティンプラー　イッˈケンˈ　ンˈマーˈタン [ˈʔunnuˈkudʒitimpuraː ʔikˈkemˈ mˈmaːˈtaŋ](芋葛粉のテンプラは非常に美味しかった)。

ˈウンヌˈクジブットゥル [ˈʔunnuˈkudʒibutturu] 【名】芋の澱粉を熱湯で溶かしてゼリー状にしたものを軽く油揚げにした食品。子供のお八つにしたり、老人が黒砂糖を塗(マブ)して食するお茶請けに重宝された。ˈウンヌˈクジブットゥル　タˈキˈ　ッˈふァーソーッˈタン [ˈʔunnuˈkudʒibutturu tạˈkiˈ fˈfaːsoːtˈtaŋ](芋葛ブットゥルを炊いて食べさせてくださった)。

ˈウンヌジブン [ˈʔunnudʒibuŋ] 【連】その時期。その時分。ˈウンヌジブンマー　ガッˈコーン　ˈゾーサンキューˈカティ　ˈシーˈ　ヤˈスミˈシタ [ˈʔunnudʒibummaː gakˈkoːn ˈdzoːsaŋkjuːˈkati ˈʃiːˈ jaˈsumiˈʃi̥ta](その時期は学校も増産休暇と < して > いって休んだ < 休校した >)。

ˈウンˈヌ　ˈシラ [ˈʔunˈnu ˈʃira] 【連】鬼の面 (ツラ)。鬼の顔。鬼のような恐ろしい形相。ウˈリヌ　クンˈゾー　ウˈクˈレーラー　マッˈタキ　ウンˈヌ　ˈシラ [ʔuˈrinu kunˈdzoː ʔuˈkuˈreːraː matˈtaki ʔunˈnu ˈʃira](あれ < 彼 > が怒ったらまるで < 全く > 鬼の顔だ)。

ˈウンˈヌシル [ˈʔunˈnuʃiru] 【名】1芋の煮汁。「甘藷の汁」の義。掘りたての芋を大鍋で煮る際、煮え上がった煮汁を切ったもの。戦前は芋の煮汁を原料にして酢を造った。それをˈウンヌˈシルパイル [ˈʔunnuˈʃirupairu](芋汁酢) という。ムˈカˈシェー　ˈウンヌˈシルシン　ˈパイルˈ　スˈクˈローッタン [muˈkaˈʃeː ˈʔunnuˈʃiruʃim ˈpairuˈ sụˈkuˈroːttaŋ](昔は芋の煮汁でも食酢を造られた)。2芋の実からでる乳液状の汁。芋ほりの際、汁液が衣類や手について汚れ、なかなか落ちないので若者達はそれを嫌がった。

ˈウンヌˈシル [ˈʔunnuˈʃiru] 【名】芋の汁。芋や芋蔓から出る汁液。芋を掘ったり、芋蔓を切ったりする際に出る汁液。手や衣類について黒いシミになる。ˈウンヌシルˈヌ　ˈティーナ　ˈフシゥˈカリ　スˈマリティˈ　ウˈティランˈバン [ˈʔunnuʃiruˈnu ˈtiːna ˈɸusiˈkari suˈmaritiˈ ʔuˈtiramˈbaŋ](芋の汁液が手にくっつき染まって落ちないわい)。

ˈウンˈヌ　ˈシル [ˈʔunˈnu ˈʃiru] 【連】1芋の汁。芋を掘ったときに出る芋の汁。手や衣服に付着すると落としにくい。ˈウンˈヌ　ˈシルヌ　ˈキンナ　スˈマリティˈ　ウˈティラˈヌ [ˈʔunˈnu ˈʃirunu ˈkinna suˈmaritiˈ ʔuˈtiraˈnu](芋の汁が着物に染まって落ちない)。2芋を煮た煮汁。豚の飼料を煮るのに利用した。ˈウンˈヌシルナ　イˈズンˈプニ　イˈリティ　オーˈヌイー　バˈカシˈバ [ˈʔunˈnu ˈʃiruna ʔiˈdzumˈpuni ʔiˈriti ʔoːˈnu ˈʔiː baˈkaʃiˈba](芋の煮汁に魚の骨を入れて豚の餌 < 飯 > を炊きなさい)。

ˈウンヌ　スーˈワン [ˈʔunnu suːˈwaŋ] 【文】1運勢が強い。幸運である。強運である。ˈワーˈ　イッˈケナ　ウンヌ　スーˈワンダ　シˈナヌˈティ　ˈアンマー　アˈゾーッˈタ [ˈwaːˈ ʔikˈkena ʔunnu suːˈwanda ʃiˈnanuˈti ˈʔammaː ˈʔadzoːtˈta](君は非常に運が強い < 強運だ > から死なないとお母さんがいわれた)。2運のめぐり合わせが厳しい。プˈスヌˈ　マˈリビーヤ　ウンヌ　スーˈワンダ　ˈユー　ˈキー　ˈシˈキˈリティ　ナˈラーˈソーッタ [pụˈsunuˈ maˈribiːja ʔunnu suːˈwanda ˈjuː ˈkiːˈ ʃi̥ˈkiˈriti naˈraːˈsoːtta](人の生まれ日 < 誕生日 > は運のめぐり合わせが厳しいから、よく気をつけなさいと教えられた)。

ˈウンヌダーˈキ [ˈʔunnudaːˈki] 【名】芋を炊いて、イˈビˈラ [ʔiˈbiˈra](大型の杓文字。「飯箆」の義) で捏ねて作った食品。芋を潰し、捏ねて作ったご飯。お握りにしたり、そのままお碗に入れて食した。稀に米を入れて炊くこともあった。煮た芋を捏ねた状態がˈダーˈキ [ˈdaːˈki] である。ˈウンヌダーˈキ　タˈキˈ　ムˈリティˈヨー　ˈアンˈスクナー　ˈフナイティ　ˈパイˈター　ˈパッˈタ [ˈʔunnudaːˈki tạˈkiˈ muˈritiˈjoː ˈʔanˈsụkunaː ˈɸunaiti ˈpaiˈtaː ˈpatˈta](ウンヌダーキを炊いて、お握りにして < 盛って > ねえ、アンスクに押し込んで南端 < 西表島 > へ行った)。ムˈカˈシェー　ˈウンヌダーˈキ　カーˈニˈ　ッˈふァイヤーˈティル　スˈダティラリˈタˈダー [muˈkaˈʃeː ˈʔunnudaːˈki kaːˈniˈ fˈfaijaːˈtiru suˈdatirariˈtaˈdaː](昔は芋のご飯だけを食べて育てられたものだよ)。

ˈウンˈヌ　ˈニージル [ˈʔunˈnu ˈniːdʒiru] 【連】サツマイモの煮汁。ムˈカˈシェー　ˈウンˈヌ　ˈニージルˈシル　ˈパイローˈ　スˈクˈローッタ [muˈkaˈʃeː ˈʔunˈnu ˈniːdʒiruˈʃiru ˈpairoːˈ sụˈkuˈroːtta](昔はサツマイモの煮汁で酢を造られた)。

ˈウンヌˈパー [ˈʔunnuˈpaː] 【名】芋の葉。サツマイモ (甘藷) の葉。野菜の少ない鳩間島では、お汁の具にすることが多かった。カツオの頭のだし汁の濃厚な味を抑えて調和した味を作り出した。また、水中眼鏡のガラスが曇るとサツマイモの葉を擦りつけて磨くと透明になった。イˈズヌˈ　スーナ　ˈウンヌˈパー　イˈリティˈ　バˈカシˈバ [ʔiˈdzunuˈ suːna

˞ʔunnu˞paː ʔi˞riti˞ ba˞kaʃi˞ba](魚のお汁に芋の葉を入れて炊きなさいよ)。

˞ウンヌ˞パーズーシ [˞ʔunnu˞paːʤuːʃi] 【名】芋の葉雑炊。芋の葉と米と魚を入れて炊いた雑炊。離島では降雨の少ない夏季には青野菜が収穫できないので芋の葉を青野菜の代わりに利用した。ナ˞チェー　パーヤサイヌ　ナーン˞ユンダ　˞ウンヌ˞パー　カ˞カイ˞キーティ　˞ズー˞シ　バ˞カシ˞　ン˞コーッ˞タ [na˞ʧeː paːjasainu naːŋ˞junda ˞ʔunnu˞paː kạ˞kai˞kiːti ˞ʤuː˞ʃi ba˞kaʃi˞ ʔŋ˞koːt˞ta](夏は葉野菜がないから芋蔓の葉を摘んで < 捥いで > きて、雑炊に炊いて召し上がられた)。˞ウンヌ˞パーズーシェー　イ˞ズダシヌ˞　シ˞キティ˞　ン˞マー˞タン˞ダー [˞ʔunnu˞paːʤuːʃeː ʔi˞ʤudaʃinu˞ ʃị˞kiti˞ ʔm˞maː˞tan˞daː](芋の葉雑炊は魚の出汁が効いて美味しかったよ)。

˞ウンヌ˞バス [˞ʔunnu˞basu] 【連】その時。ある事件のあった (または、ある事件の起きる) 時。その場合。˞ウンヌバス˞ヌ　サ˞ニ˞ヤー　˞メー　˞ティン　ヌール˞　ブカラ　˞ヤッタ˞ダー [˞ʔunnubasu˞nu sa˞ni˞jaː ˞meː ˞tin nuːru˞bukara ˞jatta˞daː](あの時 < 場面 > の嬉しさは、天に昇る程だったよ)。

˞ウンヌ˞　ピン [˞ʔunnu˞ piŋ] 【連】その時 (話題の中の事件の時)。当時 < 話題の時 >。˞ウンヌ˞　ピン　˞シー˞シキ　ブ˞レー˞バ　˞ミサタムヌ　キ˞ム˞ヤミ　ナ˞ラン˞サー [˞ʔunnu˞ piŋ ˞ʃiː˞ʃị̥ki bu˞reː˞ba ˞misatamunu ki˞mu˞jami na˞ran˞saː](その時やっておけばよかったのに、後悔して仕方がない)。

˞ウンヌ˞ピン [˞ʔunnu˞piŋ] 【連】その時。ある事が行われた、また、ある事が行われる日 (その時)。その当日。˞プー˞ルナー　˞インタ　アンタヌ　ゾーラキン　ソーッ˞タン　マ˞タ　ウンヌ˞ピンナー　˞パー˞レーン　クイ˞ヨーッ˞タン [˞puː˞runaː ˞ʔinta ʔantanu ʤoːrakin soːt˞taŋ ma˞ta ʔunnu˞pinnaː ˞paː˞reːŋ kui˞joːt˞taŋ](豊年祭には西村、東村の常楽踊り < 入れ子型芸能 > もなされた。その日には爬竜船競漕も漕がれた)。

˞ウンヌマーラー [˞ʔunnu maːraː] 【連】その頃 (話題の時季、時刻を含む) あの頃。あの時分 (会話時に近い時刻)。˞ウンヌマーラー˞　パ˞トゥ˞マナー　カ˞ツシンマー˞　サンズ　ブ˞リブタ˞ナー [˞ʔunnumaːraː˞ pạ˞tu˞manaː kạ˞tsuʃimmaː˞ sanʤu bu˞ributa˞naː](あの頃は鳩間島にはカツオ漁船が三艘操業していた < 居りおった > ねえ)。˞ウンヌマーラヌ˞　クトゥ [˞ʔunnumaːranu˞ kụ̥tu](あの頃のこと)。

˞ウンヌミー˞ス [˞ʔunnumiː˞su] 【名】芋の味噌。芋味噌。お汁の調味料に用いる味噌。甘藷をウ˞ルシン˞ガニ [ʔu˞ruʃiŋ˞gani](卸がね。芋すり器) で卸して蒸し、糠は˞シンマイ˞ナビ [˞ʃimmai˞nabi](大鍋。四枚鍋) で炊いて、冷ました蒸し芋と混ぜてねかし、麹をたてる。出来た麹に卵の花 < おから > の蒸したものを混ぜ、塩を加えてよく搗いてから甕に詰めて仕込む。一ヶ月ほど醗酵させて仕上げる。マ˞ナ˞マー　˞ウンヌミー˞ス　ス˞クˇル　プ˞ソー˞　ブ˞ラーヌ [ma˞na˞maː ˞ʔunnumiː˞su sụ̥ku˞ru pụ̥˞soː˞ bu˞raːnu](今は芋味噌を作る人はいない)。

˞ウンヌ˞ムチ [˞ʔunnu˞muʧi] 【名】芋の餅。サツマイモを磨り下ろし、それを芭蕉の葉に包んで蒸し上げて作った餅。もち米がないとき、または間食用につくった。˞ウンヌ˞ムチェー　ム˞チマイヌ　ナーン˞　ピン　˞ウン˞バ　˞ッシティ　バ˞サン˞パーナ　ッ˞ス˞ミ　ン˞ブ˞シティル　ス˞クˇローッタ [˞ʔunnu˞muʧeː mu˞ʧimainu naːm˞piŋ ˞ʔum˞ba ˞ʃʃiti ba˞sam˞paːna s˞su˞mi ʔm˞bu˞ʃị̥tiru sụ̥˞ku˞roːtta](芋餅はもち米がないときに芋を磨り下ろして芭蕉の葉に包み、蒸し上げて作られた)。ウン　˞ッシティ　˞ウンヌ˞ムチ　˞ネーサ˞ナー [˞ʔuŋ ˞ʃʃiti ˞ʔunnu˞muʧi ˞neːsa˞naː](芋を摩り下ろして芋餅を作ろう < 煮よう > ね)。

˞ウン˞ネ [˞ʔun˞ne] 【名】1その家。話題の家。˞ウン˞ネナー　タ˞ビヌプス˞ヌ　˞ユー　トゥ˞マローッ˞タン [˞ʔun˞nenaː ta˞binu pụ̥su˞nu ˞juː tu˞maroːt˞taŋ](その家には旅の人がよく宿泊された)。2< その家 >。心理的に話者に近い。「この家」と重なる。˞カン˞ネ [˞kan˞ne](あの家 < 話者より遠いあの家 >) の対義語。˞ウン˞ネヌ　˞フニ [˞ʔun˞nenu ˞ɸuni](その家の船 < サバニ >)。˞ウン˞ネーラ　カ˞リ˞クー [˞ʔun˞neːra ka˞ri˞kuː](その家から借りて来い)。˞ウン˞ネール　マ˞シ [˞ʔun˞neːru ma˞ʃi](その家がいい)。˞ウン˞ネーバ　タ˞ユ˞リ　ッ˞ふァ　ガッ˞コー　ン˞ザシ˞タ [˞ʔun˞neːba ta˞ju˞ri f˞fa gak˞koː ʔn˞ʤaʃị̥˞ta](その家を頼って子供を進学させた < 学校出した >)。˞クン˞ネ [˞kun˞ne](此の家)。˞カン˞ネ [˞kan˞ne](あの家)。

˞ウンバカシ˞ジブン [˞ʔumbakaʃi˞ʤibuŋ] 【名】サツマイモを煮る < 炊く > 時刻 (時分)。午後 5〜6 時頃に畑から掘ってきたサツマイモを笊に入れて海へ行き、笊に片足を突っ込んで芋粗いをして泥を落とし、˞シンマイ˞ナビ [˞ʃimmai˞nabi](大鍋 < 四枚鍋 >) に入れて炊いた。˞ウンバカシ˞ジブン　ナ˞リ˞ブバ　˞パー˞ク　˞ウン　ア˞ライ˞クー [˞ʔumbakaʃi˞

ʤibun na˩ri˥buba ˩paː˥ku ˥ʔuŋ ʔa˩rai˥kuː](芋を炊く時刻になっているから、早く芋を洗ってきなさい)。

˩ウンパン˥シン [˩ʔumpaŋ˥ʃiŋ] 【名】運搬船。昭和に入って石垣から鳩間経由西表祖内行きの定期航路に運搬船が就航した。鳩間島からは石垣向けに米や鰹節、ツノマタ、豚、薪などの貨物が運賃を支払って定期的に運ばれた。˩ウンパンシン˥マー　イ˩チ˥　クーカヤー [˩ʔumpaŋʃim˥maː ʔi˩ʧi˥ kuːkajaː](運搬船はいつ入港する＜来る＞かね)。

˥ウンプトゥキ [˥ʔumputuki] 【名】石垣市桃林寺正門の両側に安置された阿吽(アウン)の仁王像。「鬼仏」の義。鬼のような激しい形相の仏像で、拝観者の邪気を祓うと信仰されている。鳩間島では虚弱体質で病気がちな子供は一度桃林寺の仁王像を拝ませると病気が治るといわれていた。˥ドゥーパダヌ　˩ヨー˥　ッ˩ふァー˥　ウンプトゥキ　ウ˩ガマ˥スカー　˩ノー˥ルンツォー [˥duːpadanu ˩joː˥ f˩faː˥ ʔumpu̥tuki ʔu˩gama˥su̥kaː ˩noː˥runtsoː](体が弱い子供は桃林寺の仁王仏を拝ませると治るそうだ)。

˩ウンマガー˥タ [˩ʔummagaː˥ta] 【名】かたぐるま(肩車)。ム˩カ˥シェー　˩ウンドーカイ˥ヌ　˥ピン　˩ウンマガー˥タ　˩シェー˥ティ　ハ˩チマ˥キ　トゥ˩リスー˥ブ　シ˩タン˥ダー [mu˩ka˥ʃeː ˩ʔundoːkai˥nu ˥piŋ ˩ʔummagaː˥ta ˩ʃeː˥ti ha˩ʧima˥ki tu˩risuː˥bu ʃi̥˩tan ˥daː](昔は運動会の日に肩車をしながら鉢巻をとる競争をしたものだよ)。

˥ウンミサク [˥ʔu˩misaku] 【名】醸酒。芋の神酒。ミ˩サク [mi˩saku](神酒。御酒) に、原料の醸が付いたもの。古典民謡パ˩トゥ˥マナカムリ [pḁ˩tu˥manakamuri](鳩間中岡) の中に歌われている。/ウンミサクン　シゥクリヨリヨー　アワミサクン　シゥクリヨリヨー/ウンミサクヌ　フカイバナヨー　アワザキヌ　アムリバナヨー/(芋神酒もお造りなさいませ　粟神酒もお造りなさいませ/芋神酒が最も醗酵する時、粟酒が泡を盛り上げる時)(「鳩間中岡」第十、十一連参照。『鳩間誌』)。

エ

˞エ˞ー [˞je˞～ʔe˞ː] 【感】おい。君! 同輩または目下の者へ呼びかける言葉。˞エ˞ー [˞ʔe˞ː](おい。君!) ともいう。˞エ˞ー ˞ワー˞ ウナー ˞ヌー˞ スワ [˞je˞ː ˞waː˞ ʔunaː ˞nuː˞ suwaː](おい、お前、そこで何をするのか)。˞エ˞ー ˞バー ア˞ズ˞ムニ シ˞キ˞バ˞ツォー [˞je˞ː ˞baː ʔa˞ʤu˞muni ʃi˞ki˞ba˞tsoː](おい、僕の言うことを聞けよ < 聞けよってば >)。

˞エ˞ー˞エ˞ー [˞ʔe˞ː˞ʔe˞ː～˞je˞ː˞je˞ː] 【感】おいおい。˞ィエ˞ー˞ィエ˞ー [˞je˞ː˞je˞ː](おいおい) ともいう。目下の者へ呼びかける言葉。˞ィエ˞ー [˞je˞ː](おい) の ABAB 型の重言。˞エ˞ー˞エ˞ー カ˞マー˞ パリ ˞カナー ˞ギー˞ ア˞サビ [˞je˞ː˞je˞ː ka˞maː˞ pari ˞kanaː ˞giː˞ ʔa˞sabi](おいおい、あっちへ行け! あっちへ行って遊べ)。

˞エージ [˞ʔeːʤi] 【名】 (動) 鮫魚の名。和名、オナガザメ (体長約 4 メートルに達するものがいる)。鳩間島ではあまり見られない。

エ˞ーッ [ʔe˞ːʔ～je˞ːʔ] 【感】驚きや感嘆した時に発する言葉。ええっ。エ˞ーッ [je˞ːʔ] ともいう。エ˞ーヌー˞ シタ˞ー ナン˞ヌ ウ˞クリ˞ストゥ˞ー [ʔe˞ːʔ nuː˞ʃi̥ta˞ː nan˞nu ʔu˞kuri˞su̥tu˞ː](ええっ?、 どうしたって? 津波がおこるって?)。

˞エン [˞ʔeŋ] 【名】来年。˞ィエン [jeŋ] ともいう。˞エン˞マー ユ˞クン˞ マ˞シヌ˞ トゥシ ユ˞ガフドゥシ˞ ン˞カイラリ˞ タ˞ボー˞リ [˞ʔem˞maː ju˞kum˞ma˞ʃinu˞tu̥ʃi ju˞gaɸuduʃi˞ ʔŋ˞kairari˞ ta˞boː˞ri](来年はより一層の増しな年、豊年がむかえられてくださいませ < 迎えられて賜れ >)「ヘイヤー ヤンヌ ユーヤ ホー ナヒンダラ ヘイヤー ンカイル ユーヤ ホー ユクンダラ」(豊年祭の歌。< ピナイウガン、鬚川お嶽 > の歌、第三連)『鳩間島古典民謡古謡集』。「やあに」『混効験集』の転訛か。

˞エントゥシ [˞jentuʃi] 【名】翌年。過去及び未来の一定の時を基準にして、その翌年 (来年) の意。˞エンドゥシ [˞jenduʃi](翌年) ともいう。イ˞クサユー˞ヌ エントゥシナール ˞サンナン˞マー マ˞リブレー˞バン [ʔi˞kusajuː˞nu ˞jentuʃinaːru ˞sannam˞maː ˞ma˞ribureː˞baŋ](戦争の翌年に三男は生まれたのであった)。˞エン˞マー ˞アボー ハチジュー˞ゴーヌ ソーニヨイ ウンヌ˞ エンドゥシェーヤ ˞アー˞ヤー ˞トーカキ˞ヌ ˞ヨイ ア˞タリブー [˞jem˞maː ˞ʔaboː hạ̥tʃiʤuːgoːnu soːnijoi ʔunnu˞ jenduʃeːja ˞ʔaː˞jaː ˞toːkaki˞nu ˞joi ʔa˞tari buː](来年はお母さんの八十五の誕生祝い、その翌年はお父さんの斗掻 < 米寿 > のお祝いに当っている)。

˞エントツ [˞jentotsu] 【名】煙突。標準語からの借用語。鰹節製造工場が鳩間島に建設されつようになって、煙突が造られるようになった。戦前、東村の鰹節製造工場には、コンクリート造りの近代的な高い煙突があったが、戦災にあい破壊された。˞アンタヌ˞ カ˞ツシンヌ シーゾー˞ヤーナー ˞エントツン˞ ア˞リ˞ブタンドゥ バ˞ク˞ダンシ ˞クーサ˞リ ˞ナーン˞シェン [˞ʔantanu˞ kạ̊˞tsuʃinnu ʃiːʤo˞jaːnaː ˞jentotsuŋ˞ ʔa˞ri˞butandu ba˞ku˞daŋʃi ˞kuːsa˞ri ˞naːŋ˞ʃeŋ](東村の鰹漁船の鰹節製造工場には煙突もあったが爆弾で破壊されてしまった)。

オ

˥**オー [˥ʔoː]** 【名】(動) 豚。ウワ [ʔuwa] → オー [ʔoː] のように音韻変化して形成された語。『語音翻訳』(1501 年) に「猪'u'oa」、『琉球館訳語』(15 世紀半ば) に「猪 烏哇」、『沖縄対話』(1880 年) に「豚 ウワー」とある。「烏哇」は [ʔuwa] の漢字音表記であるから、15 世紀ごろの首里方言は [ʔuwa] に近い音韻であったと考えられる。波照間方言や西表租納方言、座間味方言、喜界島方言に [ʔuwa] が分布している (『図説琉球語辞典』参照) のは上記の音韻変化を証明するものと考えられる。˥オー シゥ˩カ˥ナウン [˥ʔoː sɨ̥˩ka˥nauŋ](豚を飼育する)。˩オー˥ヤ ˩ピン˥ギパリ ˩ナー˥ヌ [˩ʔoː˥ja ˩piŋ˥gipari ˩naː˥nu](豚は逃げてしまった)。˩オー˥ヌ ˥ンギパル ˥クトー ˩ナー˥ヌ [˩ʔoː˥nu ˥ʔŋgiparukʊ̥toː ˩naː˥nu](豚が逃げていくことはない)。˩オー˥ヌ ˥バタ [˩ʔoː˥nu ˥bata](豚の内臓)。˥オーラン ビ˩ナー˥ル [˥ʔoːram bi˩naː˥ru](豚よりも不潔である)。˩オー˥トゥ ユ˩ヌ˥ムヌ [˩ʔoː˥tu ju˩nu˥munu](豚と同様だ)。オーカー˩ニ カイ˥クー [ʔoːka˩ni kai˥kuː](豚だけ買ってこい)。˥オーンツァン シゥ˩カナイユーサ˥ヌ [˥ʔoːntsan sɨ̥˩kanaijuːsa˥nu](豚さえも飼育できない)。˩オー˥バ シゥ˩カナイ˥ヤーティル ッ˩ふァ˥ ス˩ダティタ˥ル [˩ʔoː˥ba sɨ̥˩kanai˥jaːtiru f˩fa˥ su˩datita˥ru](豚を飼育しながらが < ぞ > それを売って子供を育てたのだ)。

˩**オ˥ー [˩ʔoː˥]** 【感】応答する語 (謙譲語)。敬語の一つで、目上の人に対して承諾した旨の返事をへりくだ (謙) って用いる語。「はい (承知致しました)」、「畏まりました (拝承知しました)」の意。˩ウ˥ー [˩ʔu˥ː](はい < 拝承知しました >) より謙譲度は小さい。ク˩ヌ ター˥ヤ ˩ワー タンガ˥シ ˩カイ˥シ˩ヨー [ku˩nu taː˥ja ˩waː taŋga˥ʃi ˩kai˥ʃi˩joː](この田圃は君一人で耕しなさいね) の問いに対して、˩オ˥ー [˩ʔo˥ː](はい < 承知致しました >) のように応答する。「おほう」(承ていらへる言葉なり)『混効験集』。

˩**オー [˩ʔoː]** 【感】応答する語 (返事)。「はい?」。目上の人に呼ばれたときの返事。コー˩ネー [koː˩neː](坊や)、ピ˩シェー [pi̥˩ʃeː](娘よ) と呼ばれると、˩オー [˩ʔoː](はい?) と答えるように用いる。「をほう」(いらへる言葉なり)『混効験集』参照。

˩**オーカー [˩ʔoːkaː]** 【名】表皮。うわかわ (上皮)。˩オーカーヤ˥ キ˩ジ˥ シ˩キ˥ブンドゥ ˩オーカー˥ パグカー ナ˩カー˥ ノー˩ン サヌ [˩ʔoːkaːja˥ ki˩ʤi˥ ʃi̥˩ki˥bundu ˩ʔoːkaː˥ paguka: na˩kaː˥ noː˩n sanu](表皮は傷がついているが、表皮を剥ぐと中身は何の傷もない < なんでもない >)。˩オーカーヌ˥ ッサリティ [˩ʔoːkaːnu˥ ssariti](表皮が腐れて)。˩オーカーバ˥ シジ [˩ʔoːkaːba˥ ʃiʤi](表皮を煎じて)。˩オーカー˥シ ス˩ク˥リ [˩ʔoːkaː˥ʃi sʊ̥˩ku˥ri](表皮で作れ)。˩オーカー˥ナル フ˩チ˥ロー ˥アル [˩ʔoːkaː˥naru fʊ̥˩ʧi˥roː ʔaru](表皮にこそ薬 < 栄養分 > はある)。

˩**オーカクチ [˩ʔoːkakuʧi]** 【名】うわあご (上顎)。マー˩ン˥ ヤ˩マ˥シェー ˩ナーヌ˥ヌ ˩ブシ˥トゥイラー ˩オーカクチヌ˥ ヤ˩ム˥ヌ ˥ヌーカヤー [maː˩ɲ˥ja˩ma˥ʃeː ˩naːnu˥nu ˩buʃi˥tuira ˩ʔoːkakuʧinu˥ ja˩mu˥nu ˥nuːkajaː](どこも痛めてはないが一昨日から上顎が痛むのだが何だろうか)。

˥**オーカマー [˥ʔoːkamaː]** 【名】ばか者。怠け者。他人を軽く罵る言葉。˥オーカマー ˩ウンザ˥ プ˩スヌ˥ ア˩ズ˥ムニ ˩ピッ˥チン シゥ˩カヌ [˥ʔoːkamaː ˩ʔunʤa˥ pʊ̥˩sunu˥ ʔa˩ʤu˥muni ˩pit˥ʧin sɨ̥˩kanu](ばか者めが、あいつは人の言うことをちっとも聞き入れない)。不潔で愚鈍な奴。馬鹿な奴。卑語。「豚カマ奴」の義か。˥オーカマー ˩ウンザ˥ アイブ ム˩ニ˥バ イ˩ジェー˥テイ ˩アー˥ク [˥ʔoːkamaː ˩ʔunʤa˥ ʔaibu mu˩ni˥ba ʔi˩ʤeː˥ti ˩ʔaː˥ku](不潔で馬鹿な奴めが、あんな言葉を言いふらしてあるくよ)。˥オーカマー ヤ˩ルンダ˥ ノー˩ン˥シ ˩ブー˥ ムヌン ッ˩ふァイス [˥ʔoːkamaː ja˩runda˥ noː˩ŋ˥ʃi ˩buː˥ munun f˩faisu](不潔で愚鈍な奴だから、どのようなものでも < いかようにしてあるものでも > 食べるよ)。

˞オーク [˞ʔoːku] 【名】米粉。餅を作るときに、一晩水に浸けた粳米(ウルチマイ)を臼で搗いて作った粉。これを箕に広げて、蒸籠(セイロ)で蒸煮(ムシニ)した餅を取り、適当に成型して餅に仕上げた。˞オークバ　ソー˥キナ　ピ˞ルギ˥　シキティ　ム˞チヌ　ニール˥カー　˞シェーロー˥ラ　˞ソー˥キナ　ウ˞ティティル˥　ム˞チェー˥　ス˞ク˥ローッタル [˞ʔoːkuba soː˥kina pi˞rugi˥ ʃi̥kiti mu˞ʧinu niːru˥kaː ˞ʃeːroː˥ra ˞soː˥kina ʔu˞titiru˥ mu˞ʧeː˥ sṵ˞ku˥roːttaru](米粉を箕に広げておいて、餅が煮えたら蒸籠から箕に移して＜ぞ＞餅は作られたものだ)。

˞オークー [˞ʔoːkuː] 【名】まぶす為の米粉。うきこ (浮粉)。とりこ (取り粉)。餅が手や物に粘りつかないようにまぶす (塗) 米の粉。一晩水に漬けた粳米を臼に入れて杵で細かく搗き、˥シノー [˥ʃinoː](篩い) にかけて粗い粉を更に搗いて細かくした粉。餅を蒸篭(セイロウ)から取り出す際に、˞ソー˥キ [˞soː˥ki](箕。竹笊) に広くまぶし (塗) ておき、その上で各種の餅型に整形する。ム˞チヌ　オークー˥　シキバ [mu˞ʧinu ʔoːkuː˥ ʃi̥kiba](餅の取り粉を搗きなさい)。˞オーコー˥　タ˞ラーヌ [˞ʔoːkoː˥ ta˞raːnu](取り粉は足りない)。˞オークバ˥　トゥリ [˞ʔoːkuba˥ turi](取り粉を取れ)。˞オークヌ˥　タ˞ラーヌ [˞ʔoːkunu˥ ta˞raːnu](取り粉が足りない)。˞オーク˥シ　オ˞シ˥ロイ　˥シキバ [˞ʔoːku˥ʃi ʔo˞ʃi˥roi ˥ʃi̥kiba](まぶし粉を白粉にして顔に塗りつけなさい)。

˥オークラサー [˥ʔoːkurasaː] 【名】豚屠殺業者。˥オーサー [˥ʔoːsaː](豚屠殺業者) ともいう。石垣島には専門の業者がいたが、鳩間島では成人男性の多くが屠殺の経験があった。自家用の肉を得るため、飼育している豚を屠(ホフ)る必要があったからである。イ˞サナキナー˥ル　˥オークラサー　˞オーッタ˥ル　パ˞トゥ˥マプソー　˥ドゥーシル　˞オー˥ヤ　ク˞ラソーッ˥タ [ʔi˞sanakinaː˥ru ˥ʔoːkurasaːja ˞ʔoːtta˥ru pḁ˞tu˥ mapṵso: ˥duːʃiru ˞ʔoː˥ja ku˞rasoːt˥ta](石垣島にが＜ぞ＞豚屠殺業者はおられたのであって、鳩間人は自分で豚を屠殺された＜殺された＞)。

˥オーサー [˥ʔoːsaː] 【名】豚屠殺業者。「豚扱い者」の義か。イ˞サナキヌ˥　オーサーヤ　˞パンタリプスヌ˥ル　˞ゴー˥ラータ [ʔi˞sanakinu˥ ʔoːsaːja ˞pantaripṵsunu˥ru ˞goː˥raːta](石垣島の豚屠殺業者は太った人が多かった)。パ˞トゥ˥マナー　˥オーサーヤ　ブ˞ラーンシェン˥　ムー˞ル˥　ドゥーシル　˞オー˥ヤ　ク˞ラシタ [pḁ˞tu˥mana: ˥ʔoːsaːja bu˞raːŋʃeŋ˥ muː˞ru˥ duːʃiru ˞ʔoː˥ja ku˞raʃi̥ta](鳩間島には豚屠殺業者はいなかった。皆自分で豚を屠殺解体＜殺＞した)。

˞オー˥サーラ [˞ʔoː˥saːra] 【名】お手玉。お手玉遊び。石垣方言からの借用語か。ム˞カ˥シプソー　ウブシ˞ケー˥マシル　˞オー˥サーラ　˞シー˥　ア˞サボーッ˥タツォー [mu˞ka˥ʃipṵso: ʔubuʃi̥˞ke:˥maʃiru ˞ʔoː˥saːra ˞ʃiː˥ ʔa˞sboːt˥tatsoː](昔の人はおはじきでをして遊ばれたそうだ)。

˞オーサカー˥サ [˞ʔoːsakaː˥sa] 【名】うわさ (噂)。人口にのぼること。何かと世間の口に上ること。シ˞キン˥ヌ　プ˞スン　オーサカー˥サ　シ˞ラリ˥　バ˞カ˥ヤー　ナー˞ヌー [ʃi̥˞kin˥nu pṵ˞suŋ ʔoːsakaː˥sa ʃi˞rari˥ ba˞ka˥jaː naː˞nuː](世間の人の噂になって、恥ずかしくないのか)。

˞オー˥ザンマ [˞ʔoː˥ʤamma] 【名】 (人) 女性の童名。「オーザ・アンマ」が融合変化して形成されたものであろう。ム˞カ˥シプスヌ　ミ˞ドゥム˥ヌ　˞ナー˥ナ　˞オー˥ザティ　˞スー　ナーン　アッ˥タン [mu˞ka˥ʃipṵsunu mi˞dumu˥nu ˞naː˥na ˞ʔoː˥ʤati ˞suː naːŋ ʔat˥taŋ](昔の人の、女性の名前にオーザという名前もあった)。

˞オー˥シェー [˞ʔoː˥ʃeː] 【名】琉球国時代の村役場。鳩間島の国民学校跡地。現在の公民館の敷地。「明治二十九年六月十六日、初メテ当村ニ於テモ学校ヲ設立スルコトトナリ、当村事務所ノ西隣ノ僅カ九十二坪ノ地ニ、幅ガ二間、長サ三間半、総坪数七坪ノ掘立小屋ヲ作リ、就学児童二十三人ヲ収営シテ大川尋常小学鳩間分校ト称シ、雇教員大濱安能氏当分校勤務ヲ命ゼラル。此レ当村ニ於テ教育ノ嚆矢ナリ」とある「当村事務所」をさす『波濤を越えて』。˞コーミンカン˥ヌ　˥アントンル　パ˞トゥマ˥ヌ　˞オー˥シェ　˞ヤッタ˥ツォー [˞koːmiŋkan˥nu ˥ʔantonru pḁ˞tuma˥nu ˞ʔoː˥ʃeː ˞jatta˥tsoː](公民館のある所が鳩間島のオーシェ＜村役場＞であったそうだ)。「お上からの仰せ (おおせ) が差し出される所なのでオーシェーという」(『八重山歴史』) という説がある。

˞オーシキ [˞ʔoːʃiki] 【名】天気。天候。若年層は、˞オシキ [˞ʔoʃi̥ki](天気) ともいう。˞オーシキヌ˥　ヤビティ　イ˞ソー˥　ン˞ジララ˥ヌ [˞ʔoːʃi̥kinu˥ jabiti ʔi˞soː˥ ʔn˞ʤirara˥nu](天気が崩れて＜敗れて＞漁に出られない)。˞オーシケー　ノー˥ルン [˞ʔoːʃi̥ke: noː˥ruŋ](天気は回復する＜直る＞)。˞オーシキバ˥　ミレーティル　イ˞ガメー˥　ン˞ジラ˥リ [˞ʔoːʃi̥kiba˥ mireːtiru ʔi˞gameː˥ ʔn˞ʤira˥ri](天気を見て＜ぞ＞烏賊釣り漁には出漁できる＜出られる＞)。˥カイブ

˩オーシキ˥ナー　˥フネー　ン˩ザサラ˥ヌ [˥kaibu ˩ʔoːʃi̥ki˥naː ˥ɸuneː ʔn˩ʤasara˥nu](こんな天気には船は出されない)。˩オーシキ　カイ˥ヤン [˩ʔoːʃi̥ki kai˥jaŋ](天気がよい)。ヤ˩ナオーシキ [ja˩naʔoːʃi̥ki](悪天候)。

˩オーシバ [˩ʔoːʃiba]【名】上唇。ッ˩サシバ [s˩saʃiba](下唇) の対義語。˩オーシバ˥ナー　ア˩シブ˥ヌ　˥ンジティ　˥ヤミ　ナ˩ラ˥ヌ [˩ʔoːʃiba˥naː ʔa˩ʃibu˥nu ˥ʔnʤiti˥jami na˩ra˥nu](上唇におできが出来て痛くてたまらない)。˩オーシバヌ˥　ア˩シ˥ボー　ム˩タブ˥ナティ　ア˩ザリブー [˩ʔoːʃibanu˥ ʔa˩ʃi˥boː mu˩tabu˥nati ʔa˩ʤaribuː](上唇の御出来はいじるな < 弄ぶな > と言われている)。˩オーシバー [˩ʔoːʃibaː](上唇は)。˩オーシバヌ˥　フ˩クルン [˩ʔoːʃibanu˥ ɸu̥˩kuruŋ](上唇が腫れる)。˩オーシバトゥ˥　ッ˩サシバ [˩ʔoːʃibatu˥ s˩saʃiba](上唇と下唇)。˩オーシバ˥ナー　ピ˩ニ　モー˥シ　˩ベー [˩ʔoːʃiba˥naː pi˩ni moː˥ʃi ˩beː](上唇に鬚を生やしている)。

˩オーシムヌ [˩ʔoːʃimunu]　【名】 1贈り物。˩ソー˥ランシキヌ　˥クーカー　イ˩サナキヌ˥　ウ˩トゥザマリヌ　ヤー˥ヌ　˩オーシムヌ˥　ス˩コーラン˥カー　ナ˩ラ˥ヌ [˩soː˥raŋʃi̥kinu ˥kuːka: ʔi˩sanakinu˥ ʔu˩tuʤamarinujaː˥nu ˩ʔoːʃimunu˥ su̥˩koːraŋ˥kaː na˩ra˥nu](お盆の月が来たら石垣の親戚の家への贈りものを準備しないといけない)2到来物。ク˩レー˥　プ˩スン˥ヤーラヌ　˩オーシムヌ [ku˩reː˥ pu̥ ˩suŋ˥jaːranu ˩ʔoːʃimunu](これは余所の家からの到来物だ)。

˩オージル [˩ʔoːʤiru]　【名】重湯。うわじる (上汁)。˩カイヌ　オージルバ˥　ス˩クイ˥　ヌ˩マ˥シェーティル　ス˩ダティ˥タ [˩kainu ʔoːʤiruba˥ su̥˩kui˥ nu˩ma˥ʃeːtiru su˩dati˥ta](お粥の重湯 < 上汁 > を掬って飲ませながら育てた)。˩オージロー˥　シ˩ティリ [˩ʔoːʤiroː˥ ʃi̥˩tiri](上汁は捨てなさい)。˩オージルヌ˥　アルカー　ヌ˩マ˥シバ [˩ʔoːʤirunu˥ ʔaruka: nu˩ma˥ʃiba](重湯 < 上汁 > があったら飲ませなさいよ)。˩カイヌ　オージル˥ナー　˥サタ　マ˩ザー˥シティ　ヌ˩マ˥シバ [˩kainu ʔoːʤiru˥naː ˥sḁta ma˩ʤaː˥ʃi̥ti nu˩ma˥ʃiba](お粥の重湯に砂糖を混ぜて飲ませなさいよ)。˩オージルヌ˥　ア˩ジ [˩ʔoːʤirunu˥ ʔa˩ʤi](重湯の味)。˩オージルトゥ˥　ヌミバ [˩ʔoːʤirutu˥ numiba](重湯と飲みなさいよ)。

˩オーシルン [˩ʔoːʃiruŋ]　【他動】上位の人に差し上げる。奉る。献上する。謙譲語。˩オースン [˩ʔoːsuŋ](差し上げる) と同じ意味だが、やや婉曲で、丁寧な意味が加わる。˩シンシン˥マー <˩シンシン˥ナーネー >　˥バーラ　˩オーシルン [˩ʃiŋʃim˥maː <˩ʃiŋʃin˥naːneː> ˥baːra ˩ʔoːʃiruŋ](先生には私から差し上げます)。

˩オース˥ク [˩ʔoːsu̥˥ku]　【名】いたずら (悪戯)。妨害。邪魔。障害。悪さすること。ウ˩リンマー˥　ス˩ズーコ　オース˥ク　シ˩ラリミッ˥タン [ʔu˩rimmaː˥ su˩ʤuːko ʔoːsu̥˥ku ʃi˩rari mit˥taŋ](彼にはしたたか妨害されたことがある < 非常に邪魔されてみた >)。˩オース˥ク　˩スン [˩ʔoːsu̥˥ku ˩suŋ](いたずらする。邪魔する)。

˩オー˥スン [˩ʔoː˥suŋ]　【他動】実を熟させる。老いさせる。バ˩サン˥ナロー　˩マー˥ビン　˩オー˥シ [ba˩san˥naroː ˩maː˥biŋ ˩ʔoː˥ʃi](バナナはもっと塾させなさい)。˩オーサン˥カー　ス˩ボー˥ヌ　ッ˩ふァーラヌ [˩ʔoːsaŋ˥kaː su˩boː˥nu f˩faːranu](熟させないと渋くて食べられない)。˩オー˥シミサカー　˩マー˥ビン　˩オー˥ス　˥クトー　˥ナルン [˩ʔoː˥ʃimisakaː ˩maː˥biŋ ˩ʔoː˥su ˥ku̥toː ˥naruŋ](熟させて良ければもっと熟させることはできる)。˩オー˥シェー　˥ミサムヌ [˩ʔoː˥ʃeː misamunu](熟させれば良いのに)。バ˩サン˥ナロー　˩オー˥スンティ　˥シケー [ba˩san˥naroː ˩ʔoː˥sunti ˥ʃi̥keː](バナナは成熟させようとして置いてある)。

˩オー˥スン [˩ʔoː˥suŋ]　【他動】傷を完治させる。治す。成長させる。「おふ (生ふ) 自動詞上二」の他動詞化したもの。キ˩ジェー　オー˥シティル　˥オンダー　˩スー˥ダー [ki˩ʤeː ʔoː˥ʃitiru ˥ʔondaː ˩suː˥daː](傷は治して < 完治させて。生えさせて > から泳ぐのだよ)。˩オーサン˥カー　˥オンダー　サ˩ラヌ < シ˩ララヌ >[˩ʔoːsaŋ˥kaː ˥ʔondaː sa˩ranu <ʃi˩raranu>](傷を完治させないと水泳できない)。˩マー˥ビン　˩オーシ˥プサン [˩maː˥biŋ ˩ʔoːʃi˥pusaŋ](もっと完治させたい)。キ˩ジェー　オー˥スンティ　フ˩チ˥ル　˩ヌーリベー [ki˩ʤe ʔoːsunti: ɸu̥˩ʧi˥ru ˩nuːri beː](傷は完治させよう < 治そう > と薬を塗っている)。˩オー˥スクトゥ [˩ʔoː˥suku̥tu](完治させること)。˩オー˥シェー　˥ミサムヌ [˩ʔoː˥ʃe: ˥misamunu](完治させればよいのに)。˩マー˥ビン　˩オー˥シバ [˩maː˥biŋ ˩ʔoː˥ʃiba](もっと傷を完治させ < 治し > なさいよ)。

˩オースン [˩ʔoːsuŋ] (1)【他動】上位の人に差し上げる。奉る。献上する。˩与える、贈る」の謙譲語。発話者の動作の及ぶ相手を敬う。˥バーラ　˩ワーン　オーサバ˥　ウ˩キ˥トゥリ　ッ˩ふォー˥リ [˥baːra ˩waːŋ ʔoːsaba˥ ʔu˩ki˥turi f˩foː˥ri](私から貴方へ差し

上げますから、お受け取りください)。クˈリバ　ワン　オースンティ˜　ウˈムータンˈドゥ　˞オーサランシェン [kuˈriba waŋ ʔoːsuntiˈ ʔuˈmuːtanˈdu ˞ʔoːsaranʃeŋ](これを貴方に差し上げようと思ったが、差し上げられなかった)。˜バーラ　˞オーシ˜　ミサカー　˞オース˜　クトー　ナルンˈダー [ˈbaːra ˞ʔoːʃiˈ misakaː ˞ʔoːsuˈ ku̥toː narunˈdaː](私から差し上げてよければ、差し上げることは出来るよ)。˞パー˜ク　˞オーシ [ˈpaːˈku ˞ʔoːʃi](早く差し上げなさい)。クˈレー　ワール˜　アブジェーン　˞オーソーッ˜タミー [kuˈreː waːruˈ ʔabuʤeːŋ ˞ʔoːsoːtˈtamiː](これは貴方がおじいさんに差し上げられたのでしょうね)。**(2)**【補動】動詞の連用形に付いて、その動作の及ぶ相手を敬う謙譲語。クˈレー˜　ヤーˈディン˜　バーラ　˜アッパン　カキˈオースン [kuˈreːˈ jaːˈdim ˜ baːra ˜ʔappaŋ kḁkiˈʔoːsuŋ](これは必ず私からお祖母さんに書いて差し上げます)。

˞オー˜スン [˞ʔoːˈsuŋ] 【他動】負わせる。転嫁する。なすり (擦り) 付ける。他動詞「負ふ」の未然形に助動詞˜スン [ˈsuŋ](～せる) が下接して形成された使役動詞。プˈスン　オーサ˜ンˈドー˜シ　˜ドゥーシ　シˈマチェー˜　シˈキ˜リ [pu̥ˈsuŋ ʔoːsaˈnˈdoːˈʃi ˈduːʃi ʃiˈ matʃeːˈ ʃi̥ˈkiˈri](他人に責任転嫁し＜負わせ＞ないで、自分で処理し＜始末をつけ＞なさい)。˞オー˜シ　˞ナー˜ヌ [˞ʔoːˈʃi ˞naːˈnu](負わせてしまった)。プˈスン　オー˜スン [puˈsuŋ ʔoːˈsuŋ](他人に責任転嫁す＜負わせ＞る)。˞オー˜ス　˜クトー　ナˈラ˜ヌ [˞ʔoːˈsu ˜ku̥toː naˈraˈnu](責任転嫁す＜負わせ＞ることはできない)。ウˈリン　オー˜シェー　˜ミサムヌ [ʔuˈriŋ ʔoːˈʃeː ˜misamunu](その人に負わせればよいのに)。プˈスン　オー˜シ [pu̥ˈsuŋ ʔoːˈʃi](他人に負わせなさい。他人に責任転嫁しなさい)。

˞オースン [˞ʔoːsuŋ] 【他動】追わせる。後追いさせる。後をつけさせる。˞ウーン [˞ʔuːŋ](追う) の未然形に使役の助動詞˞スン [˞suŋ](～す。～さす。～せる。～させる) が下接して形成された他動詞。˞マー˜　パルユー　ウˈリヌ˜　シˈビ　オースン [˞maːˈ paruju: ʔuˈrinuˈ ʃiˈbi ʔoːsuŋ](何処へ行くのか、彼の尻を追わせる＜追跡させる＞)。˞オーサヌ [˞ʔoːsanu](追わさせない)。シˈビ　オース˜　クトー　ナˈラ˜ヌ [ʃiˈ bi ʔoːsuˈ ku̥toː naˈraˈnu](後を追わ＜追跡さ＞せることは、してはならない)。

˞オーソー˜ルン [˞ʔoːsoːˈruŋ] 【他動】召し上がる。「食べる」の尊敬語ンˈコー˜ルン [ŋˈkoːˈruŋ](召し上がる) より一段上の敬語。校長先生や学校の先生、町長などの外来者 (役人) 等、最高に敬意を払って応対すべき人に対して用いられる。島の人に対してこの語を用いる場合は最高の敬意を払う時に用いる。˜グシ　˞オーソー˜リ [ˈguʃi ˞ʔoːsoːˈri](神酒をお召し上りなさいませ)。アブˈジェー˜　グシ　˞オーソー˜リティ　˞バン˜タン　˜グシ　カˈミ˜シミ　タˈボー˜リ [ʔabuˈʤeːˈ guʃi ˞ʔoːsoːˈriti ˞banˈtaŋ ˜guʃi kaˈmiˈʃimi taˈboːˈri](お祖父さん、お神酒をお召し上がりになって、私たちにも神酒を頂かせて＜頂戴させて＞ください)。

˞オーダン [˞ʔoːdaŋ] 【名】上の段。「上段 (うわだん)」の義。ナˈカ˜ダン [naˈkaˈdaŋ](中段)、ッˈサダン [sˈsadaŋ](下段) の対語。ジˈブク˜ヌ　˞オーダン˜ナー　アˈガムチ˜　ムˈリ˜バ [ʤiˈbukuˈnu ˞ʔoːdanˈnaː ʔaˈgamutʃiˈ muˈriˈba](重箱の上段に赤餅を盛りなさい)。˞オーダンマー˜　ヌー　イˈルバル˜　マˈシ˜カヤー [˞ʔoːdammaːˈ nuː ʔiˈrubaruˈ maˈʃiˈkajaː](上段は何を入れたらよいでしょうか)。

オー˞ナー˜マ [ʔoːˈnaːˈma] 【名】子豚。オー˞ナー˜マー　˞ギュッカラ˜　マˈレー˜ワ [ʔoːˈnaːˈmaː ˞gjukkaraˈ maˈreːˈwa](子豚は何匹生まれたか)。

オー˞ナ˜マー [ʔoːˈnaˈmaː] 【名】子豚。-マー [-maː] は指小辞。オー˞ナマ˜ヌ　˞トゥッカラ˜　マˈレーン˜ツォー [ʔoːˈnamaˈnu ˞tukkaraˈ maˈreːnˈtsoː](子豚が十匹生まれたそうだ)。

˞オーナル [˞ʔoːnaru] 【名】嫉妬。「妬、ウハナリネタミ」『色葉字類抄』の義。「後妻、宇波奈利 (うはなり)」『和名抄』が、[uɸanari] → [uwanari] → [ʔoːnaru] と転訛したもの。ウˈヌ˜　プˈソー　サッ˜コー　ッˈふァオーナル　ソー˜ルˈツォー [ʔuˈnuˈ pu̥ˈsoː sakˈkoː fˈfaʔoːnaru soːˈruˈtsoː](その人は余所の子供に対してすごく嫉妬されるんですよ)。イˈシヌ　ウイ˜ナー　タˈタ˜リン　˞オーナルヌ　ウイ˜ナー　プˈソー˜　タˈタラ˜ヌ [ʔiˈʃinu ʔuiˈnaː tḁˈtaˈriŋ ˞ʔoːnarunu ʔuiˈnaː pu̥ˈsoːˈ tḁˈtaraˈnu](石の上には生活できる。嫉妬の上には、人は生活でき＜生きられ＞ない)。

˞オーナルカー˜ナル [˞ʔoːnarukaːˈnaru] 【名】ひどく嫉妬すること。妬み嫉みすること。ABCDEFCD 型の重言。˞ターニ˜ル　˜アイニ　˞オーナルカー˜ナル　˞シー　オー˜ルユー　ナˈクラー˜ヌ　ンˈカーラヌ [˞taːniˈru ˜ʔaini ˞ʔoːnarukaːˈnaru ˞ʃiː ʔoːˈruju: naˈkuraːˈnu ʔŋˈkaːranu](誰に対してあんなに酷(ヒド)く嫉妬をしておられるのか、怖くて近寄れない＜向き合えない＞)。˞オーナルカーナル˜ヌ　˞スー˜ワン [

˞ʔoːnarukaːnaru˞nu ˞suː˞waŋ](嫉妬が強い＜ひどい＞)。

˞オーナル　スン [˞ʔoːnaru suŋ] 【連】嫉妬する。トゥ˞ジヌ˞　ドゥク　˞オーナル　シール　アイカーフン˞カー　˞スー˞ツォー [tu˞ʤinu˞ duku ˞ʔoːnaru ʃiːru ʔaikaːɸuŋ˞kaː ˞suː˞tsoː](妻があまりにも嫉妬をするので夫婦喧嘩をするのだそうだ)。

˞オーナン˞ジャー [˞ʔoːnanʤaː] 【名】(動) 魚の名。和名、ヨシキリザメ (体長約 6 メートル)。獰猛な鱶 (鮫) といわれている。イカ釣り漁で釣り上げられることがあったが、熟練した糸満漁師でも釣り縄で手が擦り切れたりして、仕留めるのに非常に苦労したという。肉は、サバソーギリ [sa˞baso:giri](鱶肉の日干し乾燥した肉) にして沖縄へ輸出した。イ˞ガウメー˞ラ　˞オーナン˞ジャー　˞ホー˞ソーッタ　˞クトゥン　˞アッタ˞ン [ʔi˞gaʔumeː˞ra ˞ʔoːnan˞ʤaː ˞hoː˞soːtta ˞kʊ̥toŋ ˞ʔat˞taŋ](イカ釣り漁からオーナンジャー＜ヨシキリザメ＞を釣りあげられたこともあった)。

˞オーニー [˞ʔoːniː] 【名】うわに (上荷)。船のデッキに積む荷。ッ˞サニー [s˞saniː](下荷。船底に積む荷) の対義語。˞ドゥク　˞オーニー　シ˞ム˞カー　˞フネー　˞オーングロー˞　ナ˞リ˞ス [˞duku ˞ʔoːniː˞ ʃi˞muˀkaː ˞ɸuneː ˞ʔoːŋguroː˞ na˞ri˞su](あんまり上荷を積むと船は安定性を欠いて横揺れするようになる)。˞オーネー˞　ウ˞ラ˞シティ　ッ˞サニー˞　シ˞キ˞バ [˞ʔoːneː˞ ʔu˞ra˞ʃi̥ti s˞saniː˞ ʃi̥˞ki˞ba](上荷を下ろして下荷を積み＜敷き＞なさい)。˞オーニーバ˞　シ˞ミシギティル˞　フネー　˞フンナケー˞ティ˞ダー [˞ʔoːniːba˞ ʃi˞miʃigitiru˞ ɸuneː ˞ɸunnakeː˞ti˞daː](上荷を積み過ぎたので船は沈没したそうだよ)。

˞オーヌール [˞ʔoːnuːru] 【名】上塗り。ジ˞ブク˞ヌ　オーヌール　ッ˞ふァースン [ʤi˞bukuˀnu ˞ʔoːnuːru˞ f˞faːsuŋ](重箱に漆の上塗りをする＜喰わせる＞)。˞ヤー˞ヌ　ク˞ベー　ペン˞キシ　˞オーヌール˞　ッ˞ふァーサン˞カー　フ˞トゥッ˞チ　パ˞リ˞ス [˞jaː˞nu ku˞beː peŋ˞kiʃi ˞ʔoːnuːru˞ f˞faːsaŋ˞kaː ɸʊ̥˞tut˞ʧi pa˞ri˞su](家の壁はペンキで上塗りをしないと＜上塗り喰わせないと＞朽ちてしまうよ)。˞オーヌールヌル　ヨー˞ル [˞ʔoːnuːrunu joː˞ru](上塗りが＜ぞ＞弱い)。˞オーヌーロー˞　ギャン˞ティ　シー [˞ʔoːnuːroː˞ ʤan˞ti ʃiː](上塗りはしっかりしなさい)。˞オーヌールバ　シー˞　シキ [˞ʔoːnuːruba ʃiː˞ ʃi̥ki](上塗りをしておきなさい)。ム˞チ˞シ　˞オーヌール　シー˞　シケー [mu˞ʧi˞ʃi ˞ʔoːnuːru ʃiː˞ ʃi̥keː](漆喰で上塗りしてある)。

˞オー˞ヌアバ [˞ʔoː˞nuʔaba] 【名】豚の油脂。ア˞バッ˞タラ [ʔa˞bat˞tara](脂肉。白い皮下脂肪。赤肉の付いていない部分) を鍋に入れて煎ると油が溶融してくる。これを壷に入れて保存したが、常温では白く凝固した豚脂 (ラード) となる。˞オー˞ヌアバ　ス˞クイティ　ティン˞プラ　ヤ˞コーッ˞タ [˞ʔoː˞nuʔaba sʊ̥˞kuiti tim˞pura ja˞koːt˞ta](豚の脂を掬い取って溶かしてテンプラを揚げられ＜焼かれ＞た)。ア˞バ˞カシ [ʔa˞ba˞kaʃi](豚の脂身を煎った残滓) は、˞マイヌミー˞ス [˞mainumiː˞su](米味噌) と和えて炒めると美味である。これを˞アンダミー˞ス [˞ʔandamiː˞su](脂味噌) といい、大人はお茶請け (茶の子) として食した。

˞オー˞ヌイー [˞ʔoː˞nu ʔiː] 【名】豚の餌。飼葉飼料。「豚の飯」の義。魚の頭や骨などを残飯類と混ぜて煮て豚の餌にした。˞ウンヌ˞パー [˞ʔunnu˞paː](芋蔓の葉) や˞ウンツァイ [˞ʔuntsai](えん菜) 等も混ぜて与えた。屑芋などは、ア˞ライジル [ʔa˞raiʤiru](米のとぎ汁や魚の洗い汁) と一緒に煮て与えた。イ˞ズヌ˞　ア˞ライジル˞ナー　˞ウンヌ˞パー　イ˞リ˞バ˞カシティ　ネーシウンバ˞　タリティル　˞オー˞ヌイー　˞ファーソーッ˞タ [ʔi˞ʤunu˞ ʔa˞raiʤiru˞naː ˞ʔunnu˞paː ʔi˞ri˞ ba˞kaʃiti neːʃiʔumba˞ taritiru ˞ʔoː˞nuʔiː ˞faːsoːt˞ta](魚の洗い汁に芋の葉を入れて炊き、それに煮た芋を潰し溶かして豚の餌にして与えた)。˞ウン˞バ　˞ダシナ　˞ネーシ˞　タリティ　˞オー˞ヌイー　ッ˞ふァーシ˞バ [˞ʔum˞ba ˞daʃina ˞neːʃi˞ tariti ˞ʔoː˞nuʔiː f˞faːʃi˞ba](芋を出汁で煮て潰し、溶かして豚に飯＜餌＞をやれ＜食わせよ＞よ)。

˞オー˞ヌ　˞シー [˞ʔoː˞nu ˞ʃiː] 【連】豚の出産のため、豚舎に茅やススキの葉を敷き詰めて作った褥(シトネ)。「豚の巣」の義。˞ガヤー　˞スリキー　˞オンケーナ　シ˞キティ　オー˞ヌ　˞シー　ス˞ク˞リバ [˞gaja: ˞surikiː ˞ʔoŋkeːna ʃi̥˞kiti ʔoː˞nu ˞ʃiː sʊ̥˞ku˞riba](茅を刈ってきて豚舎に敷き詰めて豚の褥(シトネ)＜巣＞を作りなさい)。

˞オー˞ヌ　˞シー [˞ʔoː˞nu ˞ʃiː] 【連】豚の血。鱶釣り縄を豚の血で染めて蒸すと、表面が漆を塗ったようにつるつるとなり、縄の強度が増すとともに縺(モツ)れなくなって、夜のイカ釣りランプの薄暗い中でも扱いやすくなるという。サ˞バナーヤ　オー˞ヌ　˞シー˞シ　ス˞ミティ˞　ン˞ブ˞シティ　シゥ˞カイヨーッ˞タ [sa˞banaːja ʔoː˞nu ˞ʃiː˞ʃi su˞miti˞ ʔm˞buˀʃi̥ti si̥˞kaijoːt˞ta](鱶を釣る縄は豚の血で染めて、蒸し揚げ

て使用された)。

˞オー˞ヌ　˞シー˞シ [˞ʔoː˞nu ˞ʃiː˞ʃi] 【連】豚の肉。˞シー˞シ [˞ʃiː˞ʃi](肉) は「肉、之之 (シシ)、肌膚之肉也」『和名抄』の転訛したもの。若年層は、˞オー˞ヌ　˞ニク [˞ʔoː˞nu ˞niku](豚肉) という。˞オー˞ヌ　˞シー˞シ　˞マース˞シキ　シ˞ティ˞　タ˞ブータン [˞ʔoː˞nu ˞ʃiː˞ʃi ˞maːsu˞ʃi̥ki ʃi̥˞ti˞ ta˞buːtaŋ](豚肉を塩漬けにして保存した)。

˞オー˞ヌ　˞スー [˞ʔoː˞nu ˞suː] 【連】料理名。豚肉のお汁。˞ソンガチトゥ　˞ソー˞ランナール　˞オー˞ヌ　˞スー˞ヤ　ッ˞ふァイミッ˞タ [˞soŋgatʃitu ˞soː˞ranna:ru ˞ʔoː˞nu ˞suː˞ja f˞faimit˞ta](正月とお盆にしか豚のお汁は食べなかった < 正月とお盆にぞ豚のお汁は食わせられた >)。

˞オー˞ヌッス [˞ʔoː˞nussu] 【感】相手を軽蔑して、絶対に嫌だと拒絶することば。糞くらえ。あかんべえ。ク˞レー　ワー　シート ヨー [ku˞reː waː ʃiːトjoː](これは君がしなさいね) との依頼に対して、˞オー˞ヌ　ッスヒャー　˞タール˞　アイブ　˞ムヌ　˞スン˞トゥー [˞ʔoː˞nu ˞ssuça: ˞taːru˞ ʔaibu ˞munu ˞sun˞tuː](糞くらえ! あかんべー、誰があんなものをするものか。絶対にしないぞ)。

˞オー˞ヌッふァ [˞ʔoː˞nuffa] 【名】子豚。「豚の子」の義。˞オー˞ヌッふァ　˞カイ˞　キー　シゥ˞カ˞ナイ　フ˞ドゥバシ˞バ [˞ʔoː˞nuffa ˞kai˞ kiː si̥˞ka˞nai ɸu˞dubaʃi˞ba](子豚を買って来て飼育して肥育 < 成長 > させなさいよ)。

˞オー˞ヌバタヌ　˞シームヌ [˞ʔoː˞nubatanu ˞ʃiːmunu] 【連】豚臓物の吸い物。豚の内臓を大根、昆布、こんにゃく等と共に味噌で煮込んた吸い物。˞オー˞ヌバタヌ　˞シームノー˞　イッ˞ケナ˞　ン˞マー˞タン [˞ʔoːnu˞batanu ˞ʃiːmunoː˞ ʔik˞kem˞ ʔm˞maː˞taŋ](豚の臓物の吸い物は非常に美味しかった)。

˞オー˞ヌ　˞パン˞ヌ　˞スー [˞ʔoː˞nu ˞pan˞nu ˞suː] 【連】料理名。豚足のお汁。若年層は首里方言からの借用語のア˞シティ˞ビチ [ʔa˞ʃitibi˞tʃi](豚足) を使用する。˞キサー　˞オー˞ヌ　˞パン˞ヌ　˞スーン　マ˞ルケーティナー˞ル　ッ˞ふァイミッ˞タ˞ダー [˞ki̥sa: ˞ʔoː˞nu ˞pan˞nu ˞suːm ma˞rukeːtinaː˞ru f˞faimit˞ta˞daː](以前 < 昔 > は豚足のお汁も偶にしか食べなかった < 稀にぞ食べてみたのだ > よ)。

˞オー˞ヌ　マ˞キ [˞ʔoː˞nu ˞maki] 【連】豚小屋。豚舎。石垣を積んで円字形に作った豚小屋。「豚の牧」の義。ピ˞サウー˞ル [pi̥˞saʔuː˞ru](テーブルサンゴ) でカ˞タピサ˞ヤー [kḁ˞tapisa˞jaː](片平屋根) を葺いたり、茅葺屋根を葺いたり、本格的な瓦葺にして養豚する家もあった。各家庭 2〜3 頭の豚を肥育し、その売り上げで家計を賄うのが主婦の手腕とされた。˞オー˞ヌ　マ˞キ˞ナー　˞アヒャーオー　シゥ˞カ˞ナイ　˞ベー [˞ʔoː˞nu ma˞ki˞naː ˞ʔaça:ʔo: si̥˞ka˞nai ˞beː](豚小屋で母豚 < 繁殖用母豚 > を飼っている)。

˞オー˞ヌヤー [˞ʔoː˞nujaː] 【名】1豚小屋。「豚の家」の義。豚舎。˞オー˞ヌ　マ˞キ [˞ʔoː˞nu ma˞ki](豚舎。˞豚の牧」の義か)、˞オー˞ヌ　˞シー [˞ʔoː˞nu ˞ʃiː](豚舎。「豚の巣」の義か) ともいう。石積みの豚舎は、屋敷の北西の角を利用して造るのが普通であった。石垣を円字形に積み、二室 (二牧) にして 2 頭飼育したりした。豚舎の床面は石を敷き詰め、汚水が流れ出るように勾配をつけた。汚物は流出して便壷に溜まるように造られた。豚舎には茅を敷き詰めて豚に踏ませ、堆肥の原料にした。豚舎には異形のヤ˞ダン˞ブレ [ja˞damˀbure](ソデガイの仲間) の殻を吊るして、ヌ˞キ˞ムヌ [nu˞ki˞munu](魔除け) とした。˞オー˞ヌヤーナ　シ˞キ˞シケータ　˞ガヤーシ　シ˞キゴイ˞　ス˞ク˞リ [˞ʔoː˞nujaːna ʃi̥˞ki˞ʃi̥keːta ˞gajaːʃi ʃi̥˞kigoi˞ su̥˞ku˞ri](豚小屋に敷き詰めてあった茅で畑に鋤き込む堆肥を作りなさい)。2不潔な汚い家。˞オー˞ヌヤーヌ　˞カタチニ　ユ˞グリティ˞　キ˞ムフクレー˞ヌ　ビ˞ララヌ [˞ʔoː˞nujaːnu ˞kḁtatʃini ju˞guriti˞ ki˞muɸu̥kureː˞nu bi˞raranu](不潔な豚小屋のように汚れていて、汚くて座っていることが出来ない)。

˞オー˞ヌ　ヤ˞カタ˞ブニ [˞ʔoː˞nu ja˞kata˞buni] 【連】豚の肋骨。普通は、首里方言からの借用語である˞ソーキ˞ブニ [˞soːki˞buni](豚の肋骨) を多用する。˞オー˞ヌ　ヤ˞カタブニ˞<˞ソーキブニ˞> ヌ　˞スー˞ヤ　ン˞マーン˞ダー [˞ʔoː˞nu ja˞katabuni˞ < ˞soːkibuni˞ > nu ˞suː˞ja ʔm˞maːn˞daː](豚の肋骨のお汁は美味しいよ)。

˞オーパー [˞ʔoːpaː] 【名】上歯。˞オーパーヌ˞　フ˞トゥッ˞チティ　˞ヤミ　ナ˞ラ˞ヌ [˞ʔoːpaːnu˞ ɸu̥˞tut˞tʃiti˞ jami na˞ra˞nu](上歯が虫歯になって < 朽ちて > 痛くて < 病みて > たまらない)。˞オーパーバ˞　カ˞カイティル˞　シ˞ラカタ˞チ　ヤ˞ブ˞レーティ　˞アー˞クンティ　[˞ʔoːpaːba˞ kḁ˞kaitiru˞ ʃi˞rakata˞tʃi ja˞bu˞reːti ˞ʔaː˞kunti](上歯を抜いて < 挽いで > 面相 < 顔貌 > を損ねているさ)。

˞オーパー [˞ʔoːpaː] 【名】上葉。ッ˞サ˞バー [s˞sa˞baː](下葉) の対義語。˞ナーンパー˞ヌ　˞オーパーヤ˞　グ˞ダ

ランケー˥リ　サ˩カリベー˥ンドゥ　ッ˩サバーヤ˥　サ˩リナー˥ヌ [˩naːmpaː˥nu ˩ʔoːpaːja˥ gu˩daraŋkeː˥ri sa˩karibeː˥ndu s˩sabaːja˥ sa˩rinaː˥nu](菜っ葉の上葉は青々と生い茂っているが下葉は枯れてしまった)。˩オーパー˥　カ˩カイ˥クー [˩ʔoːpaː˥ kạ˩kai˥kuː](上葉を挽いで来なさい)。˩オーパール˥　ン˩マー [˩ʔoː-paːru˥ ʔm˩maː](上葉が美味しい)。˩オーパー˥シ　ッ˩ス˥ミ [˩ʔoːpaː˥ʃi s˩su˥mi](上葉で包みなさい)。

˩オーバタ [˩ʔoːbata] 【名】上腹部。臍から上の腹部。ッ˩サバタ [s˩sabata](下腹) の対義語。˩オーバタヌドゥ˥　カ˩ミラ˥リ　ヤム˩ツォー [˩ʔoːbatanu˥ ka˩miraː˥ri jamu˩tsoː](上腹部が差し込まれるように傷むのですよ)。˩オーバタヌ˥　フ˩クリティル˥　ビ˩リングリ˥サバン [˩ʔoːbatanu˥ ɸụ˩kuritiru˥ bi˩riŋguri˥ sabaŋ](上ッ腹部が膨れているので座りにくいようだよ)。

˩オーパ˥ヤー [˩ʔoːpa˥jaː] 【副】そんなに早く。そんなに急いで。˩オーパ˥ヤー　˥ウキテイ　˩ヌー˥ス　˩カン˥ガイヤ [˩ʔoːpa˥jaː ˥ʔukiti ˩nuː˥su ˩kaŋ˥gaija](そんなに早く起きてどうするつもりか < 何をする考えか >)。˩キュー˥ヤ　シ˩グトゥン　オーパ˥ヤー　トゥ˩ズミラ˥リ　フ˩コーラサ [˩kjuː˥ja ʃi˩gutuŋ ʔoːpa˥jaː tu˩ʤumiraː˥ri ɸụ˩koːrasa](今日は仕事もそんなに早く終了させる < 閉ぢむ『源氏物語、賢木(サカキ)』> ことが出来て有難う)。˩オーパ˥ヤー　˥ウキティ˩マー˥　パル　˩カン˥ガイヤ [˩ʔoːpa˥jaː ˥ʔukiti ˩maː˥ paru ˩kaŋ˥gaija](そんなに早く起きて何処へ行くつもり < 考え > か)。˩オーパ˥ヤーラ　˩クー˥ナ [˩ʔoːpa˥jaːra ˩kuː˥na](そんなに早くから来るなよ)。

˩オーピニ [˩ʔoːpini] 【名】うわひげ (上髭)。ッ˩サピニ [s˩sapini](下鬚) の対義語。ウ˩ヌ˥　プ˩ソー　オーピニバ　モー˥シティ　˥サシンナ　ウ˩ツァサ˥リ　˩オー˥ル [ʔu˩nu˥ pụ˩soː ʔoːpiniba moː˥ʃi̥ti ˥saʃinnaː ʔu˩tsasa˥ri ˩ʔoː˥ru](その人は上髭を生やして写真に写されておられる)。˩オーピニヌ˥　ナ˩ガー˥ティ　˥イー　ッ˩ふァイグリ˥サン [˩ʔoːpininu˥ na˩gaː˥ti ˥ʔiː f˩faiguri˥saŋ](上髭が長いので、ご飯が食べにくい)。˩オーピネー˥　ス˩リバ˥ル　マ˩シ [˩ʔoːpineː˥ su˩riba˥ru ma˩ʃi](上髭は剃ったほうがよい < ましだ >)。

˩オーブ [˩ʔoːbu] 【名】腫れ物の一種。筋肉に出来る悪性の出来物。˥ウディナー　˩オーブヌ˥　ンジティ　ウ˩リ˥　バ˩ラスンティ˥　イ˩サン˥ヤー　˩パッ˥タ [˩ʔudinaː ˩ʔoːbunu˥ ʔnʤiti ʔu˩ri˥ ba˩rasunti˥ ʔi˩saŋ˥jaː ˩pat˥ta](腕にオーブ < 悪性の腫物 > ができて、それを切開させ < 割らせ > に病院 < 医者の家 > に行った)。˩オーボー˥　ヤムン˩ダー [˩ʔoːboː˥ jamun˩daː](オーブ < 筋肉腫 > は痛むよ)。˩オーブバ˥　バ˩ラシティ　ノー˥シェー　プ˩スン　ブン˥ツォー [˩ʔoːbuba˥ ba˩raʃi̥ti noː˥ʃeː pụ˩sum bun˥tsoː](オーブ < 筋肉腫 > を切開させて治した人もいるそうだ)。

˩オーマ˥チ [˩ʔoːma˥ʧi] 【名】(動) 魚の名。和名、アオチビキ。体長約 1 メートル。高級魚。˩オーマ˥チェー　˩インタヌ　ピーヌ˥クシェーラ　タ˩ティ˥ナーシ　˩ホー˥ソーッタ [˩ʔoːma˥ʧeː ˩ʔintanu piːnu ˥kụʃeːra tạ˩ti˥naːʃi ˩hoː˥soːtta](オーマチは、島の西の干瀬の外海 <越(コシ)> から一本釣りで釣られた)。

˩オーユダ [˩ʔoːjuda] 【名】うわえだ (上枝)。樹木の上の枝。ッ˩サユダ [s˩sajuda](下枝) の対義語。˩オーユダー˥　キ˩サン˥ドーシ　ッ˩サユダー˥ラ　キシ [˩ʔoːjudaː˥ ki̥˩san˥doːʃi s˩sajudaː˥ra ki̥ʃi](上枝は切らないで下枝から切れ)。˩オーユダヌ˥　パン˩ター˥マ [˩ʔoːjudanu˥ pan˩taː˥ma](上枝の先端)。˩オーユダバ˥　キシ [˩ʔoːjudaba˥ ki̥ʃi](上枝を切れ)。˩オーユダ˥ナトゥ˥マリ [˩ʔoːjuda˥na tu˩mari](上枝にとまれ)。˩オーユダ˥シ　カ˩ク˥シ [˩ʔoːjuda˥ʃi kạ˩ku˥ʃi](上枝で隠せ)。

˩オーラー [˩ʔoːraː] 【名】かみて (上手)。風上。「上はら」の義。*[uwa]　→　[oː] の音韻変化による転訛。ッ˩ソーマー [s˩soːmaː](風下。下手。「裾まわり」) の対義語。˥イダフネー　˩オーラー˥ニル　マ˩ギ˥　パ˩ラ˥ス　ッ˩ソーマー˥ネー　マ˩グナ [˥ʔidaɸuneː ˩ʔoːraː˥niru ma˩gi˥ pa˩ra˥su s˩soːmaː˥neː ma˩guna](板船 < サバニ > は風上に向かって曲げる < 方向転回する > ように操船するのであって、風下に曲げるな)。˩オーラー˥ラ　カ˩ジヌ˥　フ˩キッツァー˥シ　クン˩ドー [˩ʔoːraː˥ra ka˩ʤinu˥ ɸụ˩kittsaː˥ʃi kun˩doː](風上の方から風が吹き荒れ < 吹き散らして > てくるぞ)。˩オーラー˥　ン˩カーシ [˩ʔoːraː˥ ʔŋ˩kaːʃi](風上の方へ向けよ)。

˩オーラーマーレー [˩ʔoːraːmaːreː] 【名】帆船を風上の方向へ向けながら方向転換すること。上手回転。˩プーザンプー [˩puːʤampuː](帆桟のある帆) は片帆に風を受けて徐々に舳先を風上に向けながら方向転換することができた。フ˩クル˥プーシェー　˩オーラーマーレー˥　ナ˩ラン˥シェン [ɸụ˩kuru˥puːʃeː ˩ʔoraːmaːreː˥ na˩raŋ˥ʃeŋ](袋帆 < 中間に帆桁のない和船の帆 > では帆船を風上の方へ方向転換することはできなかった)。

˩オーラリン [˩ʔoːrariŋ] 【自動】追われる。˥ウナー　˩ベー˥ルカー　プ˩スン　オーラリン˥ダー [˩ʔunaː ˩

beː˺ruka: pu̥˹suŋ ʔoːrarin˺daː](そこに居たら人に追われるよ)。ウ˹リヌ˺　シ˹ベー　オーララヌ [ʔu˹rinu˺ ʃi˹beː ʔoːraranu](彼の後は追われない＜追えない＞)。˹オーラリ˺プサン [˹ʔoːrari˺pusan](追われたい)。˹オーラリル˺　クトー　˹ナー˺ヌ [˹ʔoːrariru˺ku̥toː˹naː˺nu](追われることはない)。˹オーラレー˺　ミサムヌ [˹ʔoːrareː˺ misamunu](追われたらいいのに)。

˹オー˺リ　タ˹ボー˺リ [˹ʔoː˺ri ta˹boː˺ri] 【連】いらっしゃってください。おいでください。˺アツァー　サ˹クシ˺ヌ　˹タンカーヨイ˺　ヤ˹リバ　オー˺リ　タ˹ボー˺リ　˹チョーミーガフー˺　ア˹ヤカーラ˺シ　タ˹ボー˺ラナー˹ラ [˺ʔatsaː sḁ˹kuʃi˺nu ˹taŋkaːjoi ja ˹riba ʔoː˺ri ta˹boː˺ri ˹ʧoːmiːgaɸuː˺ ʔa˹jakaːra˺ʃi ta˹boː˺ra naː˹ra](明日は長男の誕生祝いですので、＜拙宅へ＞いらっしゃって下さって＜息子に＞長寿を果報を肖(アヤカ)らせて下さいませ)。

˹オーリルン [˹ʔoːriruŋ] 【自動】追われる。追放される。˹ウーン [˹ʔuːŋ](追う) の受身動詞。˹ウーン [˹ʔuːŋ] の未然形 [ʔuwa-] が融合変化して [ʔoː-] となり、それに受身の助動詞-リン [-riŋ](れる) が下接し、再活用して形成された派生動詞。˹オーリンとも言う。ヤ˹ナクトゥ　スー˺カー　シ˹マー˺ラ　˹オーリルン˺ダー [ja˹nakuᵗu suː˺kaː ʃi˹maː˺ra ˹ʔoːrirun˺da](悪い事をすると島から追われるぞ)。ナー˹イ　ベー˺ルカー　˹オーララヌ [naː˹i beː˺ruka: ˹ʔoːraranu](じっとしていると追放されることは＜追われ＞ない)。˺アイ　˹ベー˺ティン　˹オーリル˺カー　˺メー　˹ヨー˺ゾー　ナ˹ラ˺ヌ [ʔai˹beː˺tiŋ ˹ʔoːriru˺kaː ˹joː˺ʤoː na˹ra˺nu](あんなに＜おとなしく＞していても追われるようならどうにも手当てが出来ない＜養生つけられない＞)。

˹オーリン [˹ʔoːriŋ] 【自動】1追われる。他動詞˹ウーン [˹ʔuːŋ](追う) の派生動詞 (受身・可能動詞)。˺アイブ　˺クトゥ　˹スー˺カー　シ˹マー˺ラ　˹オーリン˺ダ [˺ʔaibu ˺kuᵗu ˹suː˺kaː ʃi˹maː˺ra ˹ʔoːrin˺daː](そんなことをすると島から追われるぞ)。˹オーリヤッ˺サン [˹ʔoːrijas˺saŋ](追われやすい)。ナー˹イ　オーリベー˺リ [naː˹i ʔoːribeː˺ri](ただ＜じっと＞追われておれ)。ウ˹マー˺　パルカー　˹オーリル˺　パジ˹ダー [ʔu˹maː˺ paruka: ˹ʔoːriru˺ paʤi˹daː](そこへ行ったら追われるはずだよ)。2˹ウーン [˹ʔuːŋ](追う) の可能動詞 (追うことが出来る)。ウ˹リヌ˺　シ˹ベー　オーララヌ [ʔu˹rinu˺ ʃi˹beː ʔoːraranu](その人の後に追いつけない＜後は追われない＞)。カ˹マーバー˺キン　˹デー˺カー　˹バン˺ヌン　˹オーリン˺ギサン [ka˹maːbaː˺kin ˹deː˺kaː ˹ban˺nuŋ ˹ʔoːriŋ˺gisaŋ](あそこまでなら私にも追跡出来そうだ＜追われそうだ＞)。˹バン˺ヌン　˹オーラリン˺ギサン [˹ban˺nuŋ ˹ʔoːrariŋ˺gisaŋ](私にも追われ＜追え＞そうだ)。˹マー˺ビン　˹オーレー˺　ミサムヌ [˹maː˺biŋ ˹ʔoːreː˺ misamunu](もっと追われればよいのに)。˹オーリ˺　プ˹ソー　ウイ˺バ [˹ʔoːri˺ pu˹soː ʔui˺ba](追われる＜追うことが出来る＞人は追えよ)。

˹オー˺ルン [˹ʔoː˺ruŋ] (1)【自動】いらっしゃる。おられる。おはす (在はす) かの転訛。(「居る」、「行く」、「来る」の尊敬語)。˺アッパー　˹ヤー˺ナ　˹オー˺ルンカヤー [˺ʔappaː ˹jaː˺na ˹ʔoː˺ruŋkajaː](お祖母さんは家に居られますかねえ)。˺アブジェー　˹マー˺ティ　˹オール˺ワ [˺ʔabuʤeː ˹maː˺ti ˹ʔoːru˺wa](お祖父さんは何処へ行かれますか＜何処へといらっしゃるのですか＞)。 (2)【補動】動詞の連用形に下接して尊敬の意を表す。尊敬の補助動詞。「おはる。よわる」『おもろさうし』の義。˹タール˺　カキ˹オール˺ワ [˹taːru˺ kḁki˹oːru˺wa](誰が書いておられるか)。˺アボール　˹シーオー˺ル [˺ʔaboːru ˹ʃiːʔoː˺ru](お母さんがしておられる＞)。˹シーオーラ˺ヌ [˹ʃiːʔoːra˺nu](していらっしゃらない)、˹キュー˺ヤ　カキ˹オーリ˺プサンツォー [˹kjuː˺ja kḁki˹ʔoːri˺pusantsoː](今日は書いていらっしゃりたいそうです)。˺アツァン　˹シーオー˺ルンツォー [˺ʔatsaŋ ˹ʃiːʔoː˺runtsoː](明日もしていらっしゃるそうです)。ウ˹キ˺ナーナ　ミリ˹オー˺ル　˺ピンマー [ʔu˹ki˺naː miri˹ʔoː˺ru ˺pimmaː](沖縄で見ていらっしゃるときは)。˹ワンヌン　シーオー˺レー　˺ミサムヌ [˹wannuŋ ʃiːʔoː˺reː ˺misamunu](貴方もやっていらっしゃればよいのに)。˹パー˺クパリ˹オー˺リ [˹paː˺ku pari˹ʔoː˺ri](早く走っていらっしゃい)。

˹オーンギ [˹ʔoːŋgi] 【名】神衣装の上着。司の衣装の一つ。サ˹カサー　オーンギバ˺　キ˹シティ˺　ウガン　˹オーッ˺タ [sḁ˹kasa: ʔoːŋgiba˺ ki̥˹ʃiti˺ ʔugaŋ ˹ʔoːt˺ta](司は神衣装の上着を着て御嶽＜お願＞へ行かれた)。

˹オーングロー˺ン [˹ʔoːŋguroː˺ŋ] 【形】船の底荷がない時、重心が高くなり、安定性が失われて横揺れするさま。ひどくローリングするさま。ク˹ヌ˺　フネー　˹オーングロー˺ヌ　ム˹タラ˺ヌ [ku˹nu˺ ɸuneː ˹ʔoːŋguroː˺nu mu˹tara˺nu](この船は重心が高く、横揺れ＜ローリング＞が激しいので操船できない＜持てない＞)。˹ナン˺ゾー　˹オーングローナー˺ヌ [˹nan˺ʤoː ˹ʔoːŋguroːnaː˺nu](それほど横揺れしない)。

˹サッ˺コー　˹オーングロー˺ン [˹sakˀko: ˹ʔo:ŋguro:˺ŋ](非常に横揺れする)。˹オーングロー˺カー　˺フネー　ム˹トゥ˺ナ [˹ʔo:ŋguro:˺ka: ˺ɸune: mu˹tu˺na](安定性がなく横揺れが激しいなら船を操縦するな < 持つな >)。

オ˹シイタ [ʔo˹ʃiʔita] 【名】押し板。厚さ約 10 センチ、幅約 40 センチ、長さ約 80 センチの厚い板。衣類のシワ (皺) を伸ばし、形を整えるのに用いた板。台湾産のクスノキ (樟) やヒノキ (檜) で作られていた。アイロンや霧吹きの無かった頃、洗濯して干した衣類を夕方に取り入れて指先で少し水分を振り掛け、シワを伸ばしながら丁寧に畳んで莫蓙の下に置き、押し板で押して翌日に着用した。˹ワイシャツン˺　ズ˹ボン˺ユン　オ˹シイタ˺シ　ヌ˹バ˺シ　ブ˹リ˺ミー　イ˹リティル˺　キ˹サソーッ˺タ [˹waiʃatsun˺ ʤu˹boŋˀjuŋ ʔo˹ʃiʔita˺ʃi nu˹ba˺ʃi bu˹riˀmi ʔi˹ritiru˺ kḭ ˹saso:tˀta](ワイシャツもズボンモ押し板でシワを伸ばして折り目を入れて着けさせられた)。

オ˹シ˺イレ [ʔo˹ʃiˀʔire] 【名】押入れ。標準語からの借用語か。老年層は、ユ˹コー˺マ [ju˹ko:˺ma](押入れ) といっていた。オ˹シ˺イレナ　˺ウズ　タ˹ク˺ミ　イ˹リリ [ʔo˹ʃiˀʔirena ˺ʔuʤu ta˹ku˺mi ʔi˹riri](押入れに布団を畳んで入れなさい)。

˹オシキ [˹ʔoʃḭki] 【名】天気。天候。老年層は˹オーシキ [˹ʔo:ʃḭki](天気。天候) という。˹オシキヌ　ノー˺ルン [˹ʔoʃikinu no:˺ruŋ](天気が良くなる < 回復する >)。

オッ˹ティ˺　カ˹ミ˺ルン [ʔot˹tiˀ ka˹miˀruŋ] 【連】うやうや (恭) しく頂く。恭しく頂戴する。˹カンヌマイ˺ヌ　˺グシェー　オッ˹ティ˺　カミティ　˹マーシ˺バ [˹kannumai˺nu ˺guʃe: ʔot˹tiˀ kamiti ˹ma:ʃiˀba](神前に供えた神酒は恭しく頂戴して、ほかの人へ回しなさいよ)。

˹オンガキ [˹ʔoŋgaki] 【名】薬味。うわおき (上置き)。あしらい。刺身の妻。料理で汁物や刺身のあしらいとして野菜の刻んだものを添える。鳩間方言では、˹上にかける物˺ の義でお汁や刺身のあしらいとして添える野菜類のこと。お盆の「道歌」に/シーシェーマーヌ　オールンドー　アンガマターヌ　オールンドー　パダラヤ　ナマシ　ナマシヤ　パイル　パイルヤ　フナブ　オンガキーヤ　シーソヌパー　ソーランヤーヌ　アッパター　ミーザンマーザン　オーショーリ/(獅子舞が来られるぞ、アンガマ達が来られるぞ、トウゴロイワシは刺身にして、刺身には酢を、酢は九年母の実を、刺身の妻には紫蘇の葉を、精霊会 < お盆を迎える > 家のおばあさん方、不味くても美味しくても、お召し上がりください) と歌われている。

˹オン˺ギ [˹ʔoŋˀgi] 【名】扇。˹アフギ (扇)˺、˹〜裘 < かはころも > 扇不放 < アフギハナタヌ >〜。万、1682˺ の転訛したもの。*[ʔapuŋgi]　→　*[ʔaɸuŋgi]　→　[ʔawuŋgi]　→　*[ʔauŋgi]　→　[ʔo:ŋgi]　→　[˹ʔoŋˀgi]　のような音韻変化の過程を経たものであろう。扇には、ク˹バオンギ [ku˹baoŋgi](クバの葉製の扇)、ヤ˹マトゥオン˺ギ [ja˹matuoŋˀgi](本土製の扇や団扇。) がある。人が死ぬと、蒲葵の生の葉で死者のために扇を作った。団扇 < うちわ > は戦後石垣島から購入された。家庭ではクバ扇が主体で、葉が裂けても何年も使い古されていた。母親の手で煽られて送られる柔らかな風の肌触りと、時々クバ扇の先で背中をさすってくれる感触が子供に安心感を与えて眠りへ誘ってくれたものである。其の他、˹シェン˺スル [˹ʃeŋˀsuru](扇子)、ミ˹ルクヌ　オン˺ギ [mi˹rukunu ʔoŋˀgi](弥勒神の持つ軍配扇) 等がある。˹オン˺ギシ　˹アウ˺リ [˹ʔoŋˀgiʃi ˹ʔau˺ri](扇で煽(アオ)ぎなさい)。˹オンギ˺バ　ス˹ク˺ルンティ　˹ベー [˹ʔoŋgiˀba sṵ˹ku˺runti ˹be:](扇を作ろうとしている)。˹オンギ˺ヌ　タ˹ラーヌ [˹ʔoŋgiˀnu ta˹ra:nu](扇が足りない)。˹オン˺ゲー　˺マナー　ア˹ル˺ワ [˹ʔoŋˀge: ˺mana: ʔa˹ru˺wa](扇は何処にあるか)。

˹オンギ˺ドゥル [˹ʔoŋgiˀduru] 【名】扇であおぐこと。˹扇取り˺ の義か。ア˹マ˺ヌ　˺アツァティ　プ˹スユー˺ヌ　˺サートゥ　˹オンギドゥル˺バ　˹シール˺　ッ˹ふァ˺　ニ˹バシタ˺ダー [ʔa˹ma˺nu ˺ʔatsati pṵ˹suju:˺nu ˺sa:tu ˹ʔoŋgiduru˺ba ˹ʃi:ru˺ f˹fa˺ ni˹baʃita˺da:](あまりにも暑いので、一晩中扇で煽いで子供を寝かせたのだよ)。˺アボー　˹ミー˺ヤ　ッ˹サイ　オールン˺ドゥ　ナー˹イ　オンギ˺ドゥル　˹シー　オー˺ル [˹ʔabo: ˹mi:˺ja s˹sai ʔo:run˺du na:˹i ʔoŋgi˺duru ˹ʃi:ʔo:˺ru](お母さんは目をつぶって居られるのだが、ずうっと扇で扇いでおられる)。

˹オンギ˺ヌ　カ˹ジ [˹ʔoŋgi˺nu ka˹ʤi] 【連】˹扇の風˺ の義。昔から˹扇で煽いで起こす風は薬˺ といわれている。子供に対しても適度の涼風を送ることが出来るし、病人に対しても病状に応じて涼風を送り、看病することができるからである。何よりも見守られているという安心感がスキンシップと癒し感を与えたからである。˹オンギ˺ヌ　カ˹ジェー˺　フ˹チ˺ル　ヤ˹リバ˺　アツァ　˺ピンマー　˹オン

˺ギ　ッ˹ふィーリ˺バ [˹ʔoŋgi˺nu ka˹ʤe:˺ ɸu̥˹ʧi˺ru ja˹riba˺ ʔatsa ˺pimma: ˹ʔoŋ˺gi f˹fi:ri˺ba](扇の風は薬だから、暑い時は煽いであげなさいよ)。

˹オンギブドゥ˺ル **[˹ʔoŋgibudu˺ru]**【名】古典舞踊。「扇踊り」の転訛したもの。˹ティーブドゥ˺ル [˹ti:budu˺ru](手踊。座りながら手だけ動かしてする踊り。三線につれられて、手に何も持たないでコネリながらする踊り。モーヤー等) の対義語。グ˹ジン˺フーン　パ˹トゥ˺マナカムリン　˹オンギブドゥ˺ル˹ダー [gu˹ʤiŋ˺ɸu:m pḁ˹tu˺manakamuriŋ ˹ʔoŋgibudu˺ru˹da:](御前風節も鳩間中岡節も古典舞踊 < 扇踊り > だよ)。

˹オン˺グン **[˹ʔoŋ˺guŋ]**【他動】扇ぐ。団扇(ウチワ)などを動かして風を送る。「Auogui,u,uoida, アヲギ, グ,ida(煽ぎ, ぐ, いだ) 扇であおぐ」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。˹アウ˺ルン [˹ʔau˺ruŋ](煽(アオ)る。団扇を動かして送風する) ともいう。˺アボー　˹ユードゥー˺シ　˹オンギ˺バ　˹オン˺ギティル　ッ˹ふァ˺　ニ˹バソーッ˺タ [˹ʔabo: ˹ju:du:˺ʃi ˹ʔoŋgi˺ba ˹ʔoŋ˺gitiru f˹fa˺ ni˹baso:t˺ta](お母さんは夜通し扇(アオ)を扇いで子供を寝かせられた)。˺バー　˹オンガ˺ヌ [˺ba: ˹ʔoŋga˺nu](私は扇(アオ)がない)。マ˹ナ˺マー　˹オン˺ギミサン [ma˹na˺ma: ˹ʔoŋ˺gimisaŋ](今は扇いでいい < 良い >)。˹ワー　オン˺グカー　˹バン˺ヌン　˹オン˺グン [˹wa: ʔoŋ˺guka: ˹ban˺nuŋ ˹ʔoŋ˺guŋ](君が扇いだら私も扇ぐ)。˹オン˺グ　プ˹ソー˺　ブ˹ラーヌ [˹ʔoŋ˺gu pu˹so:˺ bu˹ra:nu](扇ぐ人はいない)。マーン˹ベーマ　オン˺ゲー　˺ミサムヌ [ma:m˹be:ma ʔoŋ˺ge: ˺misamunu](もう少し扇げばよかったのに)。˹マー˺ビン　˹オン˺ギ [˹ma:˺biŋ ˹ʔoŋ˺gi](もっと扇げ)。

˺オンケー **[˺ʔoŋke:]**【名】豚便所。かつては豚小屋と便所は一つになっており、人糞を豚に与えていた。戦後、民生府と保健所の指導により、便所が独立して作られるようになった。豚舎から出る糞尿や豚を洗う水が便壷に流入し、人糞と混合して醗酵したのを水肥として水肥桶に汲み取って野菜畑にかけた。その野菜を食した子供や大人に回虫やぎょう虫が発生し、栄養不良の子供が続出した。そこで、この回虫、ぎょう虫を駆除するために、ナ˹ツァー˺ラ [na˹tsa:˺ra](海人草) を煎じてのませた。便所は、˺フルヤー [˺ɸuruja:] ともいい、フ˹ル˺ヌカン [ɸu˹ru˺nu](便所の神) は霊験あらたかであると信じられている。フ˹ル˺ヌカン [ɸu˹ru˺nukaŋ](便所の神様) は、日頃は頭を地面につけて、尻を立てて寝ているという口碑がある。夜中に外出先で悪霊に襲われたり、ひどく驚いて魂を落としたりする際、帰宅して先ず豚舎に行き、豚を起こすと憑き物 (悪霊) が落ち、マ˹ブ˺ル [ma˹bu˺ru](魂。守り) が体内に帰るといわれている。˺オンケーヤ　ム˹カ˺シェー　˹オー˺ヌヤートゥ　˹ピー˺チ　˹ヤッタ [˺ʔoŋke:ja mu˹ka˺ʃe: ˹ʔo:˺nuja:tu ˹pi:˺ʧi ˹jatta](便所は昔は豚舎と一つになっていた)。ム˹カ˺シェー　˺オンケーナ　˺ッソー　˺マリティ　ウ˹リバ˺　オーン　ッ˹ふァーシ　オーッタ˺ヌ　˹センゴ˺　トゥ˹ミラリ　ナーン˺シェン [mu˹ka˺ʃe: ˺ʔoŋke:na ˺sso: ˺mariti ʔu˹riba˺ ʔo:ŋ f˹fa:ʃi ʔo:tta˺nu ˹ʃeŋgo˺ tu˹mirari na:ŋ˺ʃeŋ](昔は豚便所で糞を放 < ま > って、それを豚に食わしておられたが、戦後になって禁止され < 止められ > てなくなった)。

˺オンケーヌ　˺コイ **[˺ʔoŋke:nu ˺koi]**【連】便所のこやし (肥)。便所と豚舎が結合しており、豚舎から出る豚の糞尿や豚を洗った汚水を便壷に流入させて混合醗酵させ、水肥として畑の肥料に利用した。回虫や蟯虫の発生源といわれたので、ナ˹ツァー˺ラ [na˹tsa:˺ra](海人草) を煎じて飲ませ、蟯虫駆除をした。マ˹ナ˺マー　˺オンケーヌ　˺コイ　パ˹タ˺ケー　カ˹タ˺ム　プ˹ソー˺　ブ˹ラーヌ [ma˹na˺ma: ˺ʔoŋke:nu ˺koi pḁ˹ta˺ke: kḁ˹ta˺mu pu̥˹so:˺ bu˹ra:nu](今は便所の肥やしを畑へ入れる < 担ぐ > 人はいない)。

˺オンダー **[˺ʔonda:]**【名】海水浴。子供が海で水遊びをすること。ドゥ˹ルゴー˺ダー　˹シーベー˺バ　˺オンダー　˹シー˺　ウ˹タ˺シ　クー [du˹rugo:˺da: ˹ʃi:be:˺ba ˺ʔonda: ˹ʃi:˺ ʔu˹ta˺ʃi ˺ku:](泥まみれになっているから海水浴をして落として来なさい)。

˺オンダー　˹スン **[˺ʔonda: ˹suŋ]**【連】海水浴をする。海で水遊びをする。ナ˹チェー˺　アツァンダ　˹ピーズン˺　オンダー　˹シーブタ [na˹ʧe:˺ ʔatsanda ˹pi:ʤuŋ˺ ʔonda: ˹ʃi:buta](夏は暑いので毎日海水浴をしていた)。˺オンダー　サ˹ヌ [˺ʔonda: sa˹nu](海水浴はしない)。

˹オン˺デー **[˹ʔon˺de:]**【名】　(動) 魚の名。和名、ハナアイゴ。˹アイイズ [˹ʔaiʔiʤu](アミアイゴ) の成魚。体長 20〜25 センチ。釣ることも出来るし、˺ティル [˺tiru](籠網) で漁獲することも出来る。魚肉は締まっていて、刺身にしても煮ても美味である。˺ティルナ　˺ウン　イ˹リティ˺　ス˹ナカ˺ナ　イ˹リシキ˺ルカー　˹オンデー˺ヤ　ティ˹ル˺ヌ　ナ˹カー　ペー˺ルン˹ダー [˺tiruna ˺ʔuŋ ʔi˹riti˺ su˹naka˺na ʔi˹riʃi̥ki˺ruka: ˹ʔonde:˺ja ti˹ru˺nu na˹ka: pe:ru˺tan ˹da:](籠網に煮芋を入れて海中に沈めて < 入れて >

おくと、オンデー < ハナアイゴ > は籠の中に入ったよ)。

˥**オンプール [˥ʔompuːru]** 【名】豊年祭の第一日目。「お嶽 < お願 > 豊年祭」の義か。˩ユードゥー˥シ [˩juːduː˥ʃi](夜通し) ともいう。友利お嶽においてサ˩カサ [sḁ˩kasa](司。巫女)、ティ˩ジリ˥ビ [ti˩ʤiri˥bi](男性神職者。神人)、バ˩キサカ˥サ [ba˩kisaka˥sa](司の助手。脇司) をはじめ、˩スー˥ダイ [˩suː˥dai](総代。部落会長。公民館長)、ヤ˩ク˥サ [ja˩ku˥sa](東村、西村の支会長)、˩ジンバイ [˩ʤimbai](東村、西村の配膳係各二名)、˩ポー˥ツァー [˩poː˥tsaː](包丁人、料理責任者) 村役人、村の古老や有識者が揃い、宵の祈願、夜中の祈願、朝の祈願など、夜を徹して豊年を祈願し、二日目のム˩ラプール [mu˩rapuːru](村豊年祭) には˥バウ [˥bau](棒踊り)、˩ゾーラキ [˩ʤoːraki](踊り競演)、˩パー˥レー [˩paː˥reː](爬竜船競漕) による竜宮より豊年を迎える祈願儀式、三日目のシ˩ナ˥ピキ [ʃi˩na˥pi̥ki](綱引き) による豊作祈願へと移る。二日目、三日目は˥トーピン [˥toːpiŋ](祭りの当日) ともいわれる。˥オンプーロー　˩ウイヌ˥ウガンナーティル　˩ニン˥ガイ　˩オーッタ [˥ʔompuːroː ˩ʔuinu˥ʔuganna:tiru ˩niŋ˥gai ˩ʔoːt˥ta](お嶽の豊年祭は友利お嶽 < 上のお嶽 > において祈願された)。

カ

˩カ [˩ka] 【助数】日を表す造語成分。日数を表す。一日を、˥プスイ [˥pu̥sui](一日、「ひとひ」の義) といい、二日以上は、˩フシゥカ [˩ɸusi̥ka](二日)、˩ミーカ [˩mi:ka](三日)、˩ユッカ [˩jukka](四日)、˩イシゥカ [˩ʔisi̥˥ka](五日)、˩ムイカ [˩muika](六日)、˩ナンカ [˩naŋ˥ka](七日)、˩ヤウカ [˩jauka](八日)、ク˩クヌ˥カ [ku̥˩kunu˥ka](九日)、˩トゥッカ [˩tukka](十日) という。˩ギューカ [˩gju:ka](幾日「いくか」の義)。˩ワー˥ ッ˩ふァー˥ マ˩リティ ギューカ˥ ナ˩ル˥ワ [˩wa:˥ f˩fa:˥ ma˩riti gju:ka˥ na˩ru˥wa](君の子供は生まれて幾日になるか)。˥キューシ ˩トゥッカ˥ ナルン˩ダー [˥kju:ʃi ˩tukka˥ narun˩da:](今日で十日になるよ)。

˥-カ [˥-ka] 【終助】～か。1活用語の終止形に付いて疑問に用い、疑念、迷いを表す。ブ˩ガ˥リ ˩ナー˥ンダ ˥メー ニ˩ブン˥カ [bu˩ga˥ri ˩na:˥nda ˥me: ni˩buŋ˥ka](疲れてしまったから、もう寝よう＜寝る＞か)。アン˩デー˥カ ˩ワットゥ マーズン˥ パ˩ルン˥カ [ʔan˩de:˥ka ˩wattu ma:ʤum˥ pa˩ruŋ˥ka](それならば君と一緒に行こう＜行く＞か)。2名詞に付いて推量疑念、不確かさを表す。˥カナー シラー˩シラー˥シ ミ˩ラ˥リムノー プ˩ス˥カ [˥kana: ʃira:˩ʃira:˥ʃi mi˩ra˥ri ˥muno: pu̥˩su˥ka](あそこにうっすらと見えるものは人だろうか＜人か＞)。3格助詞˥-ナーティ [˥-na:ti](～で) に付く。˩ジー˥ カ˩ク˥タンティ ˩スー モー ガッ˥コーナー˩ティ˥カー [˩ʤi:˥ kḁ˩ku˥tanti ˩su: mo: gak˥ko: na:˩ti˥ka](字を書いたというのは学校でか)。4副助詞カー˩ニ [ka:˩ni](～だけ) に付く。˥トゥレー ナ˩ラン˥ティ ˩スー ムノー˥ ク˩リ˥ カー˩ニ˥カー [˥ture: na˩ran˥ti ˩su: muno:˥ ku˩ri˥ ka:˩ni˥ka](取ってはいけないというのは、これだけだろうか＜これだけか＞)。

ガ [ga] 【格助】所属を表す＜の＞。体言および体言に準ずる形について下の体言にかかる連体格助詞。一人称の代名詞に付く例に限られる。人名、親族呼称、数詞に付く例は見られない。歌謡語にのみ用いられ、日常語としては用いられない。/バガ パトゥマ クダリヨーリヨー/(我が鳩間島に降りられてください)(「雨乞い歌 早め句」23 連)、/バガ パトゥマ ピキユシ オリヨー/(「雨乞い歌 早め句」28 連)、/バガ パトゥマニ ヨーホー アガリョーリ/(我が鳩間島に上がって下さい)(「ユーアギジラマ」2 連)、バガ ケーラドゥ ティユマス ヨー ユスケーラドゥ ナトゥラスヨー/(我が全員を豊かにし、とよま＜響動ま＞せ、他の島人全員を豊かにし、とよま＜響動ま＞せる)(「ユーアギジラマ」9 連)。日常会話では親族名詞や代名詞の「はだか格」で次のように所属、所有を表す。˩ベー˥ シマ [˩be:˥ ʃima](我が島＜我々の島＞)。˥バー ˥ヤー [˥ba: ˥ja:](私の家)。˩ワー˥ フニ [˩wa:˥ ɸuni](君の船)。˩ター˥ ムヌヤー [˩ta:˥ munuja:](誰のものか)。˩アー˥ヤー ˥ター [˩ʔa:˥ja: ˥ta:](お父さんの田)、˥マツォー ˥ムヌ [˥matso: ˥munu](松君のもの)。

˥カー [˥ka:] 【名】皮。皮革。「皮、賀波 (かは)、被⊠体也」『和名抄』の転訛したもの。ウ˩シヌ˥カーシ ˩タイ˥ク パ˩ルン [ʔu˩ʃinu˥ka:ʃi ˩tai˥ku pa˩ruŋ](牛の皮で太鼓を張る)。フ˩ナブ˥ヌ ˥カー [ɸu˩nabu˥nu ˥ka:](蜜柑の皮)。バ˩サン˥ナルヌ ˥カー [ba˩san ˥narunu ˥ka:](バナナの皮)。ア˩カ˥ズミキーヌ ˥カー ˥パギ ˥シジティ ˩プー˥ ス˩モーッ˥タ [ʔa˩ka˥ʤumiki:nu ˥ka: ˥pagi ˥ʃiʤiti ˩pu:˥ su˩mo:t˥ta](ひるぎ＜マングローブ＞の樹皮を剥ぎ、煎じて船の帆を染められた)。˩カー˥ヌ ˥シル [˩ka:˥nu ˥ʃiru](皮の汁)。˩カー˥バ ˥パギ [˩ka:˥ba ˥pagi](皮を剥げ)。˥カーシ ス˩ク˥リ [˥ka:ʃi su̥˩ku˥ri](皮で作れ)。˥カーラ ˥パギ [˥ka:ra ˥pagi](皮から剥げ)。

˩カー [˩ka:] 【名】井戸。掘抜き井戸とウ˩リ˥カー [ʔu˩ri˥ka:](鍾乳洞の降り井戸) がある。˩インヌカー [˩ʔinuka:](西村井戸) は掘抜き井戸で、乾隆 13 年 (1784) に黒島仁屋 (仲本家の先祖) が掘削させたもの。シンタ˩カー [ʃinta˩ka:](村の後ろの井戸) ともい

う。˞アンヌカー [˞ʔannukaː](東村井戸) はウ˞リ˜カー (降り井戸) である。˞ウイヌカー [˞ʔuinukaː](˞上の井戸」の義。ナ˞カン˜ブレ [na˞kam˜bure]< 中岡 > の北、約 200 メートルの所にある井戸) は、もと鍾乳洞の降り井戸であったものを、昭和 13 年にコンクリート造りの掘抜き井戸に改築したものである。改築に貢献した富村校長の名を付して「富村井戸」ともいう。パ˞チンガカー [pḁ˞tʃiŋgakaː](「初の井戸」の義か) は˞ウイヌカー [˞ʔuinukaː] の南西約 100 メートルの所、加治工家のニ˞シ˜ドー [ni˞ʃi˜doː](西堂) の畑の側にある。サ˞クラ˜カー [sḁ˞kura˜kaː](「塩辛い井戸」の義か) は、タ˞チ˜バル [tḁ˞tʃi˜baru](立原) の˜ウブシケー [˜ʔubuʃi̥keː](大城家) の畑のそばにある井戸。現在はほとんど埋まっている。ム˞カ˜シェー ˞カーヌ ソー˜ジン ˞ソーッ˜タン˞ダー [mu˞kaʃeː ˞kaːnu soː˜ʤin ˞soːt˜tan˞daː](昔は井戸の掃除もなさったよ)。

˜-カー [˜-kaː] 【接助】～なら。～たら。活用語の連体形に付いて仮定条件を表し、已然形に付いて確定条件を表す。1動詞の連体形に付く。˜ヤドゥ ア˞ク˜カー イッ˞ケン˜ ピ˞ラ˜ケーン [˜jadu ʔa˞ku˜kaː ʔik˞kem˜ pi˞ra˜keːŋ](戸を開けると非常に涼しい)。ア˞ミ˜ヌ ˜フーカー イ˞ソー˜ パ˞ララ˜ヌ [ʔa˞mi˜nu ˜ɸuːkaː ʔi˞soː˜ pa˞rara˜nu](雨が降ったら潮干狩りに行けない)。˞ワー˜ パルカー パ˞ナ˜シェー シゥ˞カンツァーリ˜ス [˞waː˜ parukaː pa˞na˜ʃeː si̥˞kantsaːri˜su](君が行くと話はこじれ < 拗れ > てしまう)。2動詞の已然形について確定条件を表す。˞ワー˜ カケーカ ミ˞サ˜ルメー [˞waː˜ kakeːka mi˞sa˜rumeː](君は書いたのなら、もう良いさ)。3形容詞の連体形に付く。˞ピー˜ヤカー ˜ドゥーシ ˜ウズ ˜カビバ [˞piː˜jakaː ˜duːʃi ˜ʔuʤu ˜kabiba](寒かったら < 寒ければ > 自分で布団を被れよ)。タ˞カー˜カー ˞ヌーララヌ [tḁ˞kaː˜kaː ˞nuːraranu](高かったら < 高ければ > 登れない)。4打ち消しの助動詞の連体形に付く。マ˞ニアーン˜カー ˞アイ˜ジ ˞シー˜バ˞ヨー [ma˞niaːŋ˜kaː ˞ʔai˜ʤi ˞ʃiː˜ba˞joː](間に合わなかったら連絡 < 合図 > しなさいね)。5過去の助動詞の連体形に付く。˞ピー˜ヤタカー ˜ドゥーシン ˜ウゾー ˞サンギ˜ カ˞ビ˜レール [˞piː˜jataka: ˜duːʃiŋ ˜ʔuʤoː ˞saŋgi˜ ka˞bi˜reːru](寒かったのなら自分で布団を引張って被っただろうよ)。˞ワンヌン パッ˜タカー ˜ミサタムヌ [˞wannum pat˜taka: ˜misatamunu](君も行っていたら良かったのに)。6可能の助動詞˜リン [˜riŋ](～れる) の連体形につく。˞バン˜ヌン パ˞ラ˜リカー ˜ミサムヌ [˞ban˜num pa˞ra˜rikaː ˜misamunu](私も行けたら良いのになあ)。˞ワンヌン˜ キ˞ラ˜リカー˞ナー [˞wannuŋ˜ ki˞ra˜rika˞naː](君も来れたらなあ < 来られたら良いのになあ >)。ム˞ニ˜ヌ イ˞ザリ˜カー ミサムヌ˞ナー [mu˞ni˜nu ʔi˞ʤari˜kaː misamunu˞naː](ものが言えたら良いのになあ)。

˜カー [˜kaː] 【助数】沖縄線香のイ˞ツァ˜カウ [ʔi˞tsa˜kau](板香) の枚数を表す。板香一枚には 6 本の筋がある。プ˞ス˜カー [pu̥˞su˜kaː](一枚)、フ˞タカー [ɸu̥˞takaː](二枚)、˞ミーカー [˞miːkaː](三枚)、˞ユーカー [˞juːkaː](四枚) と数える。イ˞ツァ˜カウ ˞ミーカー˜ シキ ˜タティバ [ʔi˞tsa˜kau ˞miːkaː˜ ʃi̥ki ˜tḁtiba](板香 < 沖縄香 > 三枚に火をつけて立てなさいよ)。

˜ガー [˜gaː] 【名】1我。意地。˜ガー パ˞ルン [˜gaː pa˞ruŋ](我を張る < 意地を張る >)。˞ガー˜ヌ ˞スー˜ワンダー ウ˞リヌ˜ ガー パ˞レー˜ラ プ˞スヌ˜ ノー˞ンティ˜ ア˞ザバン˜ イッ˞カナ˜シ シゥ˞カヌ [˞gaː˜nu ˞suː˜wandaː ʔu˞rinu˜ gaː pa˞reː˜ra pu̥˞sunu˜ noː˞nti˜ ʔa˞ʤabaŋ˜ ʔik˞kana˜ʃi si̥˞kanu](自我が強いので、その人が我を張ると他人が何と言おうとも、いっかな < 決して > 聞かない)。2忍耐力。持久力。ウ˞レー˜ ガー ˞スー˜ワン [ʔu˞reː˜ gaː ˞suː˜waŋ](あれは忍耐力がある < 我が強い >)。˞ガー˜ヌ ˞ナーン˜ユンダ ノー˞ン˜ シ˞ミラバン˜ シ˞ビバー˜キ ˞トゥーシユーサ˜ヌ [˞gaː˜nu ˞naːŋ˜junda noː˞ŋ˜ ʃi˞mirabaŋ˜ ʃi˞biba˜ki ˞tuːʃiju̥saːnu](忍耐力がないから何をさせても最後 < 尻 > までやり抜く < 通す > ことができない < 通し得ない >)。

˞ガー˜ガ [˞gaː˜ga] 【名】おこげ (御焦げ)。鍋底に焦げ付いているこげ飯。ナ˞マ˜シキ [na˞ma˜ʃi̥ki](お焦げ) の強く焦げ付いたもの。子供たちの好物であった。ム˞カ˜シェー ˞パンガマヌ˜ ス˞クヌ ガー˜ガーン シ˞ル˜シケー ˞シール˜ ン˞コーッ˜タ [mu˞ka˜ʃeː ˞paŋgamanu˜ su̥˞kunu gaː˜gaːŋ ʃi˞ru˜ʃi̥keː ˞ʃiːru˜ ʔŋ˞koːt˜ta](昔は羽釜の底のお焦げも茶漬けにして < 汁漬け > にして召し上がられた)。˞イー˜バ ˞ピーシゥカ˜シティ ˞ガー˜ガ ˜ナシシケー [˞ʔiː˜ba ˞piːsi̥ka˜ʃi̥ti ˞gaː˜ga ˜naʃiʃi̥keː](ご飯を焦げ付かして、ガーガ < ひどいお焦げ > にしてある)。

˞ガー˜ガ [˞gaː˜ga] 【名】1穴だらけ。隙間(スキマ)だらけ。穴が大きく開いているさま。˞タン˜ゴー ˞ミーガー˜ガ ナリティ ミ˞ジ˜ カ˞タマラ˜ヌ [˞taŋ˜goː ˞miːgaː˜ga ˜nariti mi˞ʤi˜ kḁ˞tamara˜nu](たごおけ < 担桶 > は隙間だらけになって水を運べない < 担われない

>)。˹ヤー˺ヌ　イ˹ツァ˺クベー　˹ガー˺ガ　˺ナリティ　カ˹ジヌ˺　フ˹キナ˺キ　˺キー　˹ピーヤ˺ヌ　ナ˹ラ˺ヌ [˹ja:˺nu ʔi˹tsa˺kube: ˹ga:˺ga ˺nariti ka˹ɕinu˺ ɸu̥˹kina˺ki ˺ki: ˹pi:ja˺nu na˹ra˺nu](家の板壁は隙間だらけになって風が吹き込んできて寒くてたまらない)。2透けて見えるさま。˹ワー　キン˺マー　ヤ˹ブ˺リティ　パダ˹バー˺キ　˹ミーガーガー˺シ　ミ˹ラリ˺ブー [˹wa: kim˺ma: ja˹bu˺riti pada˹ba:˺ki ˹mi:ga:ga:˺ʃi mi˹rari˺bu:](君の着物は破けていて、肌まですっかり透けて見えているよ)。

˹カー˺ガー [˹ka:˺ga:] 【名】(動) 魚の名。和名、ゴマウマズラ。体長約 30 センチ。ク˹ヌ˺　イ˹ゾー　ナン˺ゾー　˺ミリ　ミ˹ラン˺シェン [ku˹nu˺ ʔi˹ɕo: nan ˺ɕo: ˺miri mi˹raŋ˺ʃeŋ](この魚はあまり見たことがなかった)。

˺カーカベームン [˺ka:kabe:muŋ] 【名】大麦 (「皮被り麦」の義)。味噌の原料に用いた麦。テンプラ用にも利用された。フ˹チ˺ルムン [ɸu̥˹ʧi˺rumuŋ](薬麦)ともいう。明治生まれの老年層の使用語彙。若年層にはほとんど死語となっている。ム˹カ˺シェー　˺カーカベームンバ　ス˹ク˺リティル　˹ミー˺ス　ス˹コーッ˺タ [mu˹ka˺ʃe: ˺ka:kabe:mumba su̥˹ku˺ritiru ˹mi:˺su su̥˹ko:t˺ta](昔は大麦 < 皮被り麦 > を作って < ぞ > 味噌を製造さ < 漬か > れた)。

˹カー˺キ [˹ka:˺ki] 【名】ゆびきり (指切り)。げんまん (拳万)。約束を厳守する印に相手の小指とからみあわせること。˺アツァン　マー˹ズン˺　ア˹サバ˺ナー　˹カー˺キー˹ダー [˺ʔatsam ma:˹ɕuŋ˺ ʔa˹saba˺na: ˹ka:˺ki:˹da:](明日も一緒に遊ぼうなあ、指切りだよ)。

˹カー˺キ [˹ka:˺ki] 【名】甚だしく喉が渇くこと。かつえる (飢える) こと。˹カー˺クン [˹ka:˺kuŋ](喉が渇く)の連用中止形。ヌ˹ドゥカー˺キ　˹スン [nu˹duka:˺ki ˹suŋ](甚だしく喉が渇く)。ドゥ˹ク˺ヌ　˺アッツァティ　ミ˹ジカ˺ーキ　˹シーナー˺ヌ [du˹ku˺nu ˺ʔatsati mi˹ɕika:˺ki ˹ʃi: na:˺nu](余りにも暑いので、水分欠乏 < 水餓え、水乾き、激しく水分を欲しがるさま > になってしまった)。

˹カーギ [˹ka:gi] 【名】美しい容貌。美しい容姿。美しい。「渡る日の加氣尓 < カゲニ >〜。万、4469」の「影」から意味派生したものか。ウ˹ヌ˺　ミ˹ドゥ˺モー　˹カーギ　カイ˺ヤン [ʔu˹nu˺ mi˹du˺mo: ˹ka:gi kai˺jaŋ](その女は容貌が美しい)。˹カーゲーナー˺ンドゥ　˺キモー　˹カイ˺ヤン [˹ka:ge: na:˺ndu ˺kimo: ˹kai˺jaŋ](容貌は美しくないが、心 < 肝 > は美しい)。

˹ガー˺キ [˹ga:˺ki] 【接尾】人数を表す語に下接して、それに匹敵する意を表す。˹〜人分、〜人に匹敵する」の意味を表す。˺ガキ [˺gaki](掛け) ともいう (老年)。「がけ (掛け)」の義。ウ˹レー˺　グ˹タイ˺ヌ　˺カナイ　˹ブンダ　タンガ˺シ　˹ジューニン˺ガキ　˹シース [ʔu˹re:˺ gu˹tai˺nu ˺kanai ˹bunda taŋga˺ʃi ˹ɕu:niŋga˺ki ˹ʃi:su](その人は体力が優れて < 叶って > いるから、一人で十人掛けの働きをする < しぞする >)。

˹カーキ˺ムヌ [˹ka:ki˺munu] 【名】甚だしく喉が渇いた者。˹カーキムヌ˺ヌ　カタチニ　ミ˹ジバ˺　ヌミ　˹ベー [˹ka:kimunu˺nu ˺kḁtatʃini mi˹ɕiba˺ numi ˹be:](甚だしく喉が渇いた者のように水を飲んでいる)。

˹ガー˺グ [˹ga:˺gu] 【名】(幼) おんぶ (負んぶ)。背負うこと。ボー˹レ˺　ボー˹レ˺　ダン˹ティ˺　キー˹ミー˺　アッパー　˹ガー˺グ　˹ソーリ˺バ [bo:˹re˺ bo:˹re˺ dan˹ti˺ ki:˹mi:˺ ʔappa: ˹ga:˺gu ˹so:ri˺ba](お利口ちゃん、お利口ちゃん、早く来てごらん。おいで。お婆ちゃんが負んぶしてくださるから)。

˹ガー˺グ　˹スン [˹ga:˺gu ˹suŋ] 【連】おんぶ < 負んぶ > する。˹ガー˺グ　˹シー˺　プサン [˹ga:˺gu ˹ʃi:˺ pu̥saŋ](負んぶしたい)。

˹カー˺クン [˹ka:˺kuŋ] 【自動】1喉がかわく (渇く)。ア˹マ˺ヌ　˺アツァティ　˺ヌドゥ　˹カー˺キ　˹シーナー˺ヌ [ʔa˹ma˺nu ˺ʔatsati ˺nudu ˹ka:˺ki ˹ʃi:na:˺nu](あまりにも暑いので喉が渇いてしまった)。˺ヌドー　˹カーカ˺ヌ [˺nudo: ˹ka:ka˺nu](喉は渇かない)。˹カーキ˺　パ˹ヤー˺ン [˹ka:ki˺ pa˹ja:˺ŋ](渇きやすい < 渇き早い >)。˺アツァカー　˺ヌドゥ　˹カー˺クン [˺ʔatsaka: ˺nudu ˹ka:˺kuŋ](暑かったら喉が渇く)。ヌ˹ドゥ˺ヌ　˹カー˺ケーカ　ミ˹ジ˺　ヌミバ [nu˹du˺nu ˹ka:˺ke:ka: mi˹ɕi˺ numiba](喉が渇いたのなら水を飲みなさいよ)。˹カー˺キ [˹ka:˺ki](渇け)。ミ˹ジカーキ　スン [mi˹ɕika:ki suŋ](喉が渇く < 喉渇きする >。喉がカラカラに渇くこと。水を強く欲すること)。2かつえる (飢える)。˹ウンマー　カー˺キ　ブ˹レー˺ンダ　ノー˹ン　ホイナキ˺シタ [˹ʔumma: ka:˺ki bu˹re:˺nda no:˹ŋ hoinaki˺ʃi̥ta](その頃は飢えていたから、何でも口に掻き込んだ)。˹カーキムヌ˺ヌ　˺カタチニ　ム˹ヌ˺バ　ッ˹ふァイ　ベー [˹ka:kimunu ˺nu ˺kḁtatʃini mu˹nu˺ba f˹faibe:](飢えた者のように飯を食っている)。

˹ガーサガーサ [˹ga:saga:sa] 【副】擬音語。がさがさ。乾いたものが触れ合って出す摩擦音。タ˹キポー

キ˥シ　ミ˩ナカ˥バ　˩ガーサガーサ˥シ　˩ポー˥キ　˩ベー [tą̣˩kipo:ki˥ʃi mi˩naka˥ba ˩ga:saga:sa˥ʃi ˩po:˥ki ˩be:](竹箒で庭をがさがさと掃いている)。

˥カーサバ **[˥ka:saba]** 【名】皮草履。皮革製の草履。牛馬の皮で作った草履。竹の皮で作った草履。イ˩サナキナー˥ル　˥カーサバティ　˩スー˥　ム˩ノー　アッ˥タル　˩バン˥ター　˥アイブ　˥ムノー　フ˩ミ˥　ミ˩ラン˥シェン [ʔi˩sanakina:˥ru ˥ka:sabati ˩su:˥ mu˩no: ʔatta˥ru ˩ban˥ta: ˥ʔaibu ˥muno: ɸu˩mi˥ mi˩raŋ˥ʃeŋ](石垣島に＜ぞ＞皮草履はあったのであって、私らはそんなのは履いてみなかった)。

˩カーザライ **[˩ka:ʤarai]** 【名】井戸ざらえ (浚)。シ˩マッサル˥ヌ　˥ピンナー　ム˩ラズーヌ˥　バ˩カー˥ムンケーヌ　˥スルイティ　˩カーザライ　ソーッ˥タン [ʃi˩massaru˥nu ˥pinna: mu˩raʤu:nu˥ ba˩ka:˥muŋke:nu ˥suruiti ˩ka:ʤarai so:t˥taŋ](島くさらしの祭りの日に村中の若者たちが揃って井戸浚えをされた)。

˩ガーサラゴー˥サラ **[˩ga:sarago:˥sara]** 【副】重いものを音を立てて引きずって行くさま。˩ヌーバ˥ル　˩ガーサラゴー˥サラ　˩サンゲー˥ティ　˩アー˥クカヤー [˩nu:ba˥ru ˩ga:sara go:˥sara ˩saŋge:˥ti ˩ʔa:˥kukaja:](何をガーサラガーサラ音を立てて引張ってあるくのかなあ)。

˩カーサリン **[˩ka:sariŋ]** 【自動】1受身動詞。売られる。他動詞˩カースン [˩ka:suŋ](売る) の未然形カーサ [˩ka:sa-] に受身、可能の助動詞˩-リン [˩-riŋ](～れる) が下接して形成された受身動詞。˥ウカ　˥カビティル　シ˩ナッ˥ふァ　˩シェーン˥ケンナ　イ˩ツォーン˥プスン　˩カーサリタ˥ツォー [˥ʔuka ˥kabitiru ʃi˩naf˥fa ˩ʃe:ŋ˥kenna ʔi˩tso:m˥pu̥suŋ ˩ka:saritta˥tso:](負債を被って幼少のときに糸満漁師に売られたそうだ)。˥ウナー　˩ベー˥ルカー　プ˩スン　カーサリン˥ツォー [˥ʔuna: be:˥ruka: pu̥˩suŋ ka:sarin˥tso:](そこにいたら人に売られるそうだよ)。˩カーサランシェン [˩ka:saraŋʃeŋ](売られなかった)。プ˩スン　カーサリ˩　クトー　˩ナー˥ヌ [pu̥˩suŋ ka:sari˥ ku̥to: ˩na:˥nu](他人に売られることはない)。˩カーサレー˥　ミサムヌ [˩ka:sare:˥ misamunu](売られたらいいのに)。˥ワンザー　˥ウナー　˩ベー˥ティ　˩カーサリ˥バ [˥wanʤa: ˥ʔuna: ˩be:˥ti ˩ka:sari˥ba](お前野郎はそこにいて売られろよ)。2可能動詞。売れる。売られる。売ることが出来る。˥クベー　キュー˩ズー˥ナ　˩カーサリン [˥kube: kju:˩ʤu:˥na ˩ka:sariŋ](これだけは今日中に売れる)。˩バン˥マー　˩カーサラヌ [˩bam˥ma: ˩ka:saranu](私には売れない)。˩バン˥ヌン　˩カーサリン˥ギサン [˩ban˥nuŋ ˩ka:sariŋ˥gisaŋ](私にも売れそうだ)。˩カーサリブン [˩ka:saribuŋ](売れている)。˩マー˥ビン　˩カーサレー˥　ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ˩ka:sare:˥ misamunu](もっと売れればよいのに)。˩オーシキヌ　ノー˥ルカー　˩ナンクク˥ル　˩カーサリン [˩ʔo:ʃi̥kinu no:˥ruka: ˩naŋkuku˥ru ˩ka:sariŋ](天気が良くなれば、自然＜自ずから＞と売れる)。

カー˩ジ **[ka:˩ʤi]** 【接尾】～ごと (毎)。～そのたびに。～ごとに。名詞や動詞の連体形に付く。パルカー˩ジ　ヤー˥ナ　ブ˩ラーヌ [paruka:˩ʤi ja:˥na bu˩ra:nu](行くたびに家に居ない)。˩ヤーカー˥ジ　˩マーリ　ヤー˥ザライ　˩スン [˩ja:ka:˥ʤi ˩ma:ri ja:˥ʤarai ˩suŋ](家ごとに＜各家＞回ってお祓い＜家浚え、家祓え＞をする)。プ˩スカージ˥ニ　˩トゥーン [pu̥˩suka:ʤi ˥ni ˩tu:ŋ](人ごとに問い尋ねる)。˩ゲーサウカージ˥　グリー　˩スン [˩ge:sauka:ʤi˥ guri: ˩suŋ](行き逢うたびにお辞儀をする)。名詞、動詞の連体形に下接して、「その度に」、「～ごとに」、「いつも」の意を表す。「畳薦隔編数通者＜畳こも隔て編む数＞」『万葉集　2777』の「数」の義。˩ヤーカー˥ジ　˩イー˥シ　˥トゥリン　˩オーッ˥タ [˩ja:ka:˥ʤi ˩ʔi:˥ʃi ˥turiŋ ˩ʔo:t˥ta](家ごとに＜全戸＞ツノマタ＜角又＞を採取しに行かれた)。プ˩スカージ˥ニ　˩トゥイタジ˥ナイ　˥ミリバ [pu̥˩suka:ʤi˥ni ˩tuitaʤi˥nai ˥miriba](人ごとに＜いろんな人に＞問い尋ねてみてごらんよ)。˩ウン˥ネー　パル˩カージ˥　ウ˩レー　ヤー˥ナ　ブ˩ラーヌ [˩ʔun˥ne: paru˩ka:ʤi˥ ʔu˩re: ja:˥na: bu˩ra:nu](その人の家へ行くたびに、彼は家にいない)。˥バー　˩ジー˥　カク˩カージ˥　マ˩チガイ˥ス [˥ba: ˩ʤi:˥ ką̣ku˩ka:ʤi˥ ma˩ʧigai˥su](私は字を書くたびに間違える)。

˩カーシ・キスン **[˩ka:ʃi-kisuŋ]** 【他動】売り切る。売り尽くす。完売する。シ˩ナムノー˥　キューズーナ　˩カーシキスン [ʃi˩namuno:˥ kju:ʤu:na ˩ka:ʃiki̥-suŋ](品物は今日中に売り切る)。マ˩ダ　カーシキサヌ [ma˩da ka:ʃiki̥sanu](まだ売り切らない)。˩カーシキシ˥　プサカー　˩カーシキス˥　クトー　˥ナルン [˩ka:ʃiki̥ʃi˥ pu̥saka: ˩ka:ʃiki̥su˥ ku̥to: ˥naruŋ](売り切り＜尽くし＞たければ、売り切る＜尽くす＞ことはできる)。˩カーシキシェー˥　ミサムヌ [˩ka:ʃiki̥ʃe:˥ misamunu](売り切れば良いのに)。ヤー˩ディン　カーシキシ [ja:˩diŋ ka:ʃiki̥ʃi](必ず売り切れ＜売り尽くせ＞)。

˩カーシキ **[˩ka:ʃi̥ki]** 【名】井戸としての地相。井戸に

相応しい地勢。パ˩カシキ [pa̠˩kaʃi̠ki](墓を造るに適した地勢、地相)。˩カーシケー˥ ユー ˩カンガイ˥ ヤーティル ˥ウナー ム˩トゥ˥モーレー パジ˩ダー [˩ka:ʃi̠ke:˥ ju: ˩kaŋgai˥ja:tiru ˥?una: mu˩tu˥mo:re: pa̠ʒi˩da:](井戸の地勢 < 地相 > はよく考えられて、そこに < 現地に井戸を > 求められたはずだよ)。

˩カーシヌカル [˩ka:ʃinukaru] 【名】売れ残り。˩カーシヌカルンツァン˥ ア˩リ˥バ ˥ミサムヌ [˩ka:ʃinukaruntsaŋ˥ ?a˩ri˥ba ˥misamunu](売れ残りでもあればよいのに)。˩カーシヌカルヌ˥ アルカー˩カイ˥クー [˩ka:ʃinukarunu˥ ?aruka: ˩kai˥ku:](売れ残りがあれば買って来い)。˩カーシヌカロー ナー˥ヌ [˩ka:ʃinukaro: na:˥nu](売れ残りはない)。

˩カーシプス [˩ka:ʃipu̠su] 【名】売り手。売る人。「買わせ・人」の義。˥ユネンガター イ˩ズ カーシプスヌ マー˥リ ˥クーン [˥juneŋgata: ?i˩dʑu ka:ʃipu̠sunu ma:ri˥ ku:ŋ](夕方には魚売り < 魚を売る人 > が回ってくる)。

˩カーシムヌ [˩ka:ʃimunu] 【名】売り物。商品。「買わせ物」の義。ウ˩レー ドゥー˥ヌ ッ˩ふァイユードゥ˥ ヤ˩ル カーシムノー˥ ア˩ラン˥ダ˩レー [?u˩re: du:˥nu f˩faiju:du˥ ja˩ru ka:ʃimuno:˥ ?a˩ran˥da˩re:](それは自家用 < 自分の食い分 > であって、商品 < 売り物 > ではないですよ。それは)。˩カーシムヌバ˥ トゥリ ッ˩ふー˥カー マ˩チヤーヤ トーリ˥ス [˩ka:ʃimunuba˥ turi f˩fu:˥ka: ma˩tʃija:ja to:ri˥su](商品 < 売り物 > を取って食べるとお店は潰れ < 倒れ > てしまうよ)。

˥ガーズー [˥ga:dʑu:] 【名】我の強い人。意地っ張り。ウ˩レー˥ ガーズー ヤ˩ルンダ˥ ヤ˩シーヤシー˥ プ˩スヌ˥ ムニ シゥ˩カヌ [?u˩re:˥ ga:dʑu: ja˩runda˥ ja˩ʃi:jaʃi:˥ pu̠˩sunu˥ muni si̠˩kanu](彼は我の強い人だから、簡単には他人の言うことを聞かない)。

˥ガースーブ [˥ga:su:bu] 【名】忍耐比べ。忍耐競争。ク˩ヌ˥ シ˩グトー˥ ム˩チ˥カサユンダ ˩タールシーシェー˥ユー ˥ガースーブ ˩シー˥ミラ [ku˩nu˥ ʃi˩guto:˥ mu˩tʃi˥kasa junda: ˩ta:ru ʃi:ʃe:˥ju: ˥ga:su:bu ˩ʃi:˥mira](この仕事は難しいから誰がなし得るか忍耐競争をしてみよう)。˥ガースーボー カ˩リンマー˥ マ˩キス [˥ga:su:bo: ka˩rimma:˥ ma˩kisu](忍耐競争は彼には負ける)。˥ガースーブン ノー˩ンスン [˥ga:su:bun no:˩n suŋ](忍耐競争も何でもするよ)。˥ガースーブ ˩シェー˥ ミサムヌ [˥ga:su:bu ˩ʃe:˥ misamunu](忍耐競争をすればよいのに)。˥マラソンマー ˥ガースーブ ダ˩レ˥ー [˥marasomma: ˥ga:su:bu da˩re˥:](マラソンは根気比べだよ、それは)。

˥ガーズームヌ [˥ga:dʑu:munu] 【名】忍耐力の強い者。強情な者。˥ガーズームヌ ヤ˩ルンダ˥ ター˩ンヌ˥ ムニン シゥ˩カヌ [˥ga:dʑu:munu ja˩runda˥ ta:˩nnu˥ munin si̠˩kanu](強情な者だから誰のいうことも聞かない)。

˩ガーズー˥ワン [˩ga:dʑu:˥waŋ] 【形】強情である。根気強い。我が強い。「我強し」の義。ク˩ヌ˥ ッ˩ふァー˥ イッ˩ケン ガーズー˥ワン [ku˩nu˥ f˩fa:˥ ?ik˩keŋ ga:dʑu:˥waŋ](この子は非常に根気が強い < 強情である >)。˩ナン˥ゾー ˩ガーズー˥ワ ˩ナー˥ヌ [˩nan˥dʑo: ˩ga:dʑu:˥wa ˩na:˥nu](あまり根気強くない < 強情でない >)。˩シンダイ ガーズー˥ワ ˥ナルン [˩ʃindai ga:dʑu:˥wa ˥naruŋ](次第に根気強く < 強情に > なる)。˥アイニ ˩ガーズー˥ワ プ˩ソー˥ ブ˩ラーヌ [˥?aini ˩ga:dʑu:˥wa pu̠˩so:˥ bu˩ra:nu](あんなに根気強い < 強情な > 人はいない)。マー˩ンベーマ ガーズー˥ワカー ˥ミサムヌ [ma:˩?mbe:ma ga:dʑu:˥waka: ˥misamunu](もう少し根気強けれ < 強情であれ > ば良いのに)。若年層は˩ガーズー˥ヤン [˩ga:dʑu:˥jaŋ](我慢強い) ともいう。ク˩ヌ˥ ッ˩ふァー˥ イッ˩ケナ ガーズー˥ワン [ku˩nu˥ f˩fa:˥ ?ik˩kena ga:dʑu:˥waŋ](この子は非常に忍耐力が強い)。˩ピッ˥チン ガーズーワナー˥ヌ [˩pit˥tʃiŋ ˩ga:dʑu:wana:˥nu](ちっとも < 一つも > 忍耐力がない)。ウ˩リヌ˥ スコー ˩ガーズー˥ワ プ˩ソー˥ ブ˩ラーヌ [?u˩rinu˥ su̠ko: ˩ga:dʑu:˥wa pu̠˩so:˥ bu˩ra:nu](彼ほど忍耐力のある < 意地っ張りな > 人はいない)。˩ニン˥ニン ˩ガーズー˥ワ ˥ナルン [˩nin˥niŋ ˩ga:dʑu:˥wa ˥naruŋ](年々忍耐強くなる)。˥ガーズープス [˥ga:dʑu:pu̠su](強情な人)。˩ガーズー˥ワ プ˩ス [˩ga:dʑu:˥wa pu̠˩su](我慢強い人。忍耐力のある人)。マー˩ンベーマ ガーズー˥ワカ ˩ナー [ma:˩mbe:ma ga:dʑu:˥waka ˩na:](もうすこし我慢強ければなあ)。

˩カースン [˩ka:suŋ] 【他動】売る。「買わす」の義。「相手に買うように仕向ける」義である。ク˩レー ギュー˥サシ ˩カースワ [ku˩re: gju:˥saʃi ˩ka:suwa](これはいくらで売るか)。˩カーサヌ [˩ka:sanu](売らない)。˩カーシ˥ プサンドゥ ムッ˩トゥ カーサランバン [˩ka:ʃi˥pu̠sandu mut˩tu ˩ka:saranu](売りたいが、ちっとも売れない)。ク˩リ カース˥ ピンマー˥バン ˩カーシ [ku˩ri ka:su˥ pimma: baŋ ˩ka:ʃi](これを売るときは私に売れ)。˩パイ˥サ ˩カーシェー˥

ミサムヌ [ˈpaiˀsa ˈkaːʃeːˀ misamunu](早く売ればよいのに)。ˈカーシプス [ˈkaːʃipusu](売る人、売り手)。

ˈカーソーˀルン [ˈkaːsoːˀruŋ] 【他動】お売りになる。ˈカースン [ˈkaːsuŋ](売る) の尊敬語。マˈナˀマー ˈカーソーラˀヌ [maˈnaˀmaː ˈkaːsoːraˀnu](今はお売りにならない)。ウˈヌ ヤーˀヤ ˈカーソーリンˀギサン [ʔuˈnu jaːˀja ˈkaːsoːriŋˀgisaŋ](この家はお売りになりそうだ)。ˈカーソーˀル ˀピンマー ˀバン ˈカーソーˀリ [ˈkaːsoːˀru ˀpimmaː ˀbaŋ ˈkaːsoːˀri](お売りになるときは私にお売りください)。ˈパイˀサ ˈカーソーˀレー ˀミサムヌ [ˈpaiˀsa ˈkaːsoːˀreː ˀmisamunu](早くお売りになればよいのに)。

ˈカーダ [ˈkaːda] 【名】 (地) 西表島北部の地名。現在の中野集落と上原集落の中間にあたりに開けた水田地帯。ˈマイトゥブˀレー [ˈmaitubuˀreː](吉川家)、ˈトゥーˀジェー [ˈtuːˀdʑeː](通事家)、ˈキンバタテー [ˈkimbatateː](通事家)、トゥˈムレー [tuˈmureː](友利家。田代家) などの水田があった。ˈカーダー ウイバルトゥˀ ウˈボーダーˀヌ ˈアイナˀカナール ˀアル [ˈkaːda: ʔuibarutuˀ ʔuˈboːdaːˀnu ˈʔainaˀkanaːru ˀʔaru](カーダーは上原集落とウボーダー < 中野集落 > の間にある)。

ˀガー タˈティˀルン [ˀgaː tạˈtiˀruŋ] 【連】我慢する。「我を立てる」の義。ˀガー タˈティˀルンティ ˈアーˀキ ˀドゥー ヤˈマˀシ ˈナーˀヌ [ˀgaː tạˈtiˀrunti ˈʔaːˀki ˀduː jaˈmaˀʃi ˈnaːˀnu](我慢しようとして体をこわしてしまった)。

ˀガー ˀタトゥン [ˀgaː ˀtạtuŋ] 【連】我慢する。こら (堪) える。ˀガー ˀタティ シˈグトゥ スンダルˀ カˈヤˀ ウˈクˀルˈツォー [ˀgaː ˀtạti ʃiˈgutu sundaruˀ kaˈjaˀ ʔuˈkuˀruˈtsoː](我慢して仕事をするから肩の病がおこるのだよ)。ˀドゥク ˀガー タˈトゥˀナ [ˀduku ˀgaː tạˈtuˀna](あんまり我慢するな)。ˀガー タˈタンˀタンティン ˀミサン [ˀgaː tạˈtanˀtantim ˀmisaŋ](我慢しなくてもよい)。プˈスヌˀ ミルカー ˀガー ˀタトゥン [pụˈsunuˀ mirukaː ˀgaː ˀtạtuŋ](人が見ると我慢する)。

ˈカーˀチー [ˈkaːˀtʃiː] 【名】夏至。二十四節気の一つ。太陽暦の 6 月 22 日頃。昼が最も長く、夜が最も短い。ˈカーチーˀヌ ˀシチ ˈペーˀルカー ˈマイカリヌ バンジンˀ ナルン [ˈkaːtʃiːˀnu ˀʃi̥tʃi ˈpeːˀrukaː ˈmaikarinu bandʑinˀ naruŋ](夏至の季節に入ったら稲刈りの最盛期になる)。ˈカーˀチェー イˈチェーラ ペールˀワ [ˈkaːˀtʃeː ʔiˈtʃeːra peːruˀwa](夏至の時期 < 節季 > には何時(イツ)から入るか)。

ˈカーチーˀバイ [ˈkaːtʃiːˀbai] 【名】風の名。夏至の頃に吹く南風。南風のやや強い風が吹き続き、天候不順になることがある。一般的には、この風が吹くと暑気が緩み、凌ぎやすくなるので、人々は稲刈りの途中にこの風が吹くのを待ち望む傾向があった。ˀイダフニに籾俵を満載して鳩間島へ運ぶ際には、この風に帆をはらませてˈマイˀヌˈトゥー [ˈmaiˀnu ˈtuː](鳩間海峡。前の渡 < 門 >) を往来した。ˈカーˀチーナ ˈカーチーバイˀヌ ˀフクン [ˈkaːˀtʃiːna ˈkaːtʃiːbaiˀnu ˀɸụkuŋ](夏至には夏至の南風 < カーチーバイ > が吹く)。

ˈカーチーヤブˀリ [ˈkaːtʃiːjabuˀri] 【名】夏至の季節に荒れる天気。ˈカーチーヤブˀリティ ˈシー フンˀトー ˈオーシケーˀ ヤˈブˀリ キーˈナーンˀバン [ˈkaːtʃiːjabuˀriti ˈʃiː ɸunˀtoː ˈʔoːʃi̥keːˀ jaˈbuˀri kiːˈnaːmˀbaŋ](夏至の荒天といって、本当に天気が崩れて < 破れて > きてしまったよ)。

ˈカーッˀパリ [ˈkaːpˀpari] 【名】かゆ (お粥) やご飯の吹きこぼれなどが薄く乾いて皮状に張ったもの。「皮張り」の義か。ˈカイヌ カーッˀパレー ˀトゥリ シˈティリˀバ [ˈkainu kaːpˀpareː ˀturi ʃi̥ˈtiriˀba](お粥の吹きこぼれの薄皮は取って捨てなさいよ)。

ˈガーッふァーンジブン [ˈgaːffaːndʑibuŋ] 【名】たそがれ (黄昏) 時。「明・暗時分」の転訛したもの。ムˈカˀシェー バˈカーˀムノー ˈガーッふァーンジブンˀ ナルンケン パˈタキシグˀトゥ ˈシーブタˀダー [muˈkaˀʃeː baˈkaːˀmuno: ˈgaːffaːndʑibunˀ naruŋkem pạˈtakiʃiguˀtu ˈʃiː butaˀdaː](昔は、若者は黄昏(タソガレドキ)時まで畑仕事をしていたものだよ)。

ˈガートゥッふァーˀトゥ [ˈgaːtuffaːˀtu] 【名】かわたれ時。暁。夜明けがた。「明かさと暗さと」の義。早朝の薄明かりが出た頃。ˈガートゥッふァーˀトーラ ˀウキ イˈソー パッˀタヤー [ˈgaːtuffaːˀtoːra ˀʔuki ʔiˈso: patˀtajaː](かわたれ時より起きて漁に行ったよ)。

ˈガーˀドゥレー [ˈgaːˀdureː] 【名】 (動) 鳥の名前。カモメ (鴎)。ウミネコ (海猫)。鳴き声が猫に似る。カツオ漁船の後ろに群れてくる。カˈツシンマーガーˀドゥレーヌ < カˈツドゥルヌˀ > トゥˈルマキバ ウイヤーˀティル カˈツォー ホーˀソーッタル [kạˈtsuʃimmaː gaːˀdureːnu < kaˈtsudurunuˀ > tuˈrumakiba ʔuijaːˀtiru kạˈtsoː hoːˀsoːttaru](カツオ漁船はウミネコの鳥巻 < 鳥の群れ > を追いながらカツオを釣られたものだ)。

カー˞ナー [kaː˞naː] 【終助】動詞の連体形、已然形、形容詞の語幹に付いて、仮定条件や確定条件の願望を表す。～すればよいがなあ (仮定条件の願望、詠嘆)。～たらよいのになあ (確定条件の願望、詠嘆。反実仮想)。ウ˞ヤ˥ヌ　イキ˞オーッ˥タカー˞ナー˥　カイブ　˞アウ˥レー　˞サン˥ミサタムヌ [ʔu˞ja˥nu ʔiki˞ʔoːt ˥taka˞naː ˥kaibu ˞ʔau˥reː ˞sam˥misatamunu](親が生きて居られたらなあ、こんな難儀苦労はしなくて良かったのに。残念だ)。˞ワー˥　ピ˞マー˥　ヤ˞ル˥カー　˥バー　˞テー˥ナイ　˞シー　フィール˥カー　ミサムヌ˞ナー [˞waː˥ pi˞maː˥ ja˞ru˥kaː ˥baː ˞teː˥nai ˞ʃiː ffiːru˥kaː misamunu˞naː](君は暇だったら、私の手伝いをしてくれると良いのになあ < 願望 >)。

˥ガー　˞ナーン˥ムヌ [˥gaː ˞naːm˥munu] 【連】耐久力、持久力のない者。グ˞タイ˥ヤー　カ˞ナイ˥ブンドゥ　˥ガー　˞ナーン˥ムヌ　ヤ˞ルンダ˥　ク˞ヌ˥　シ˞グトー˥　シ˞ミララヌ [gu˞tai˥jaː ka˞nai˥bundu ˥gaː ˞naːm ˥munu ja˞runda˥ ku˞nu˥ ʃi˞guto:˥ ʃi˞miraranu](体格はあるのだが持久力、耐久力がない者なので、この仕事はさせられない)。

カー˞ニ [kaː˞ni] 【副助】～だけ。～のみ。名詞や動詞の連用形に付いて上接語の意味内容の範囲を強調、限定する。国語の˞～しか～ない」の意味を「～だけ (ぞ)～する」のように強調限定、肯定的に表現する。ク˞トゥシェー˥　アミカー˞ニル˥　フー [kṵ˞ tuʃeː˥ ʔamikaː˞niru˥ ɸuː](今年は雨だけが < ぞ > 降る)。シン˞トゥ˥　ミ˞ツァール˥　カー˞ニル˥　ケー [ʃin˞tu˥ mi˞tsaːru˥ kaː˞niru˥ keː](たった三人だけしかこない < たった三人だけが来た >)。ッ˞ふァイ˥　カー˞ニル　スー˥　パ˞タラクンテー˥　サ˞ヌ [f ˞fai˥ kaː˞niru suː˥ pḁ˞tarakunteː˥ sa˞nu](食べることしかしない < 食いだけがする >、働こうとはしない)。**(1)** さらに係助詞˞-ル [˞-ru](～ぞ) が付く (強調)。シン˞トゥ˥　ヒャ˞ク˥エン　カー˞ニル˥　ムティ˞ベー [ʃin˞tu˥ ça˞ku˥jeŋ kaː˞niru˥ muti˞beː](たった百円だけしか持っていない < 百円だけぞ持っている >)。**(2)** さらに取り立ての係助詞˞-ヤ [˞-ja](～は) が付く (強調)。ニ˞ビ˥　カー˞ネー　シン˥　ブ˞ララヌ [ni˞bi˥ kaː˞neː ʃim˥ bu˞raranu](寝てばかりはしても居られない)。**(3)** さらに係助詞˞-ン [˞-ŋ](～も) が付く (強調)。ア˞サビ˥　カー˞ニン　シー˥　ブ˞ララヌ [ʔa˞sabi˥ kaː˞niŋ ʃiː˥ bu˞raranu](遊んでばかりも居られない)。**(4)** さらに格助詞˥-ティ [˥-ti] に係助詞˥-ン [ŋ](～も) が付く (強調)。˞ワー˥　カー˞ニ˥ティン　˥ティマー　バ˞タサラヌ [˞waː˥ kaː˞ni˥ tin ˥timaː ba˞tasaranu](君だけにとても手間賃は渡されない)。**(5)** さらに格助詞˞-ヌ [˞-nu](の) が付く (強調)。˞ワー˥　カー˞ニヌ˥　シ˞キニン˥ユン < マー >　ア˞ラ˥ヌ [˞waː˥ kaː˞ninu˥ ʃi̥˞kiniŋ˥juŋ < maː > ʔa ˞ra˥nu](君だけの責任でもない)。**(6)** さらに副助詞˞-ツァン [˞-tsaŋ](さえ、すら、だに) が付く (強調)。˞ワー˥　カー˞ニンツァン˥　イ˞キラ˥リカー　イ˞キ˥リ [˞waː˥ kaːni˞ntsaŋ˥ ʔi˞kira˥rikaː ʔi˞ki˥ri](君だけでも < 君だけさえも > 生きられるならば生きよ)。**(7)** さらに格助詞˥-シ [˥-ʃi](～で) に、係助詞˥-ル [˥-ru](～ぞ)、˥-ヤ [˥-ja](～は)、˥-ン [˥-ŋ](～も)、が付く (手段の強調)。カ˞ナパイ˥　カー˞ニ˥シル　˞カイ˥シタ [ka˞napai˥ kaː˞ni˥ʃiru ˞kai˥ʃi̥ta](鍬だけで < ぞ > 耕した)。˥ウビ　カー˞ニ˥シェー　タ˞ラーサラヌ [˥ʔubi kaː˞ni˥ʃeː ta˞raːsaranu](それだけでは足りない < 足らされない >)。ウ˞リ˥　カー˞ニ˥シン　シ˞ララヌ [ʔu˞ri˥ kaː˞ni˥ʃiŋ ʃi˞raranu](それだけでもすることが出来ない)。**(8)** さらに格助詞˥-シ [˥-ʃi](～で < 手段格 >) を介して副助詞˥-ンツァン [˥-ntsaŋ](～すら、～さえ、～だに) が付く (限定強調)。˥キンプ˞スッ˥クビ　カー˞ニ˥シンツァン　˥ジューマンエン　˞シースムヌ˥　ムー˞ル　カウンティ　スー˥カー　˞デー˥ジ˞ゲ˥ラ [˥kim pṵ˞suk˥kubi kaː˞ni˥ʃintsan ˥ʤuːmaŋjeŋ ˞ʃiːsumunu˥ muː˞ru kaunti suː˥kaː ˞deː˥ ʤi˞ge˥ra](着物一着だけですら < だけでさえも > 十万円するんだもの、全部買おうとすると大変 < 大事 > だよさ)。**(9)** さらに格助詞˥-ティ [˥-ti](～と < 引用 >) に取立ての係助詞˥-ヤ [˥-ja](～は) が付く (強調)。ドゥ˞クドゥク　ピー˥チ　カー˞ニ˥テー　˞カーリ˥トゥワー [du˞kuduku piː˥ʧi kaː˞ni˥teː ˞kaːri˥ tuwaː](まさか一つだけとは買えるものか < 買えまい >)。**(10)** さらに格助詞˥-ニ [˥-ni](～に) がつく (対象限定)。˞ワー˥　カー˞ニ˥ニ　シ˞キ˥ニン　˞オーサラヌ [˞waː˥ kaː˞ni˥ni ʃi̥˞ki˥niŋ ˞ʔoːsaranu](君だけに責任を負わされない)。

˞ガー˥ヌー [˞gaː˥nuː] 【名】茅の密生した原野。老年層の使用語彙。˞ガー˥ヌーラ　˞マーガヤ˥　スリ˥キー　ナ˞ビ˥ヌフタ　˥フミバ [˞gaː˥nuːra ˞maːgaja˥ suri ˥kiː naˈbi˥nu ɸṵ˞ta˥ ɸumiba](茅の密生した原野から長い茅 < 真茅 > を刈ってきて鍋蓋を編みなさいよ)。

˞カーヌ˥　シゥカ [˞kaːnu˥ si̥ka] 【連】いづつ (井筒)。井戸の地上の石囲み部分。「井戸の塚」の義か。˞インヌカー [˞ʔinnukaː](西村井戸) の井筒は石を円形に組み、約 1 メートルの高さに積み上げてある。

井筒の周りに立って釣瓶で水汲みをした。˹カーヌ˺　シゥカナー　˹ヌーレー˺　ナ˹ラン˺ダー [˹kaːnu˺ si̥kanaː ˹nuːreː˺ na˹ran˺daː](井戸の井筒に登ってはいけないよ)。˹カーヌ˺　シゥカナー　シ˹ルヌ˺　ナー　˺カキ　シ˹キ˺リ [˹kaːnu˺ si̥kanaː ʃi˹runu˺ naː ˺kḁki ʃi̥˹ki˺ri](井筒に釣瓶の縄を掛けておけ)。

˹カーヌ　スクヌ　アウ˺タ [˹kaːnu su̥kunu ʔau˺ta] 【成】井の中のかわず < 蛙 >(諺)。「井戸の中の蛙」の義。˹カーヌ　スクヌ　アウ˺タ　ヤ˹ルンダ˺　シ˹キン˺ヌ　˺クトー　ノー˹ン˺　ッ˹サヌ [˹kaːnu su̥kunu ʔau˺ta ja˹runda˺ ʃi̥˹kin˺nu ˺ku̥toː noː˹n˺ s˹sanu](井戸の中の蛙だから世間のことは何も分からない)。

˹カーヌ　ニン˺ガイ [˹kaːnu niŋ˺gai] 【連】井戸の祈願。壬の日を選んで、年に 2 回祈願された。「井戸の願い」の義。第一回は、˺ソンガチ　パ˹チミジニー [˺soŋgatʃi pḁ˹tʃimidʒiniː](旧暦正月の初壬・癸) の日に行われた。供物は、˺グシパナ [˺guʃipana](燗瓶に入れた神酒一対と重箱に入れた˹サンゴー˺パナ < 三合花米 >)、˹マー˺ス [˹maː˺su](塩一皿)、˺スナイ [˺sunai](和え物)、˺クバン [˺kubaŋ](魚肉の燻製品、1 センチ四方で長さ約 10 センチに切った物数本) が供えられる。˺スナイ [˺sunai](和え物) は、サ˹クナンパー [sḁ˹kunampaː](長命草の葉)、シ˹ナヌ˺ミン [ʃi˹nanu˺miŋ](ミズナの一種)、チ˹ク˺サ [tʃi̥˹ku˺sa](野草の一種。三ヶ月の旱魃でも枯れないという野草)、˹トゥン˺ナ [˹tun˺na](アキノノゲシ)、それに˹イーシ˺ヌ　˹コー˺マ [˹ʔiːʃi˺nu ˹koː˺ma](角又の寒天 < ジェリー状に作ったもの >) を混ぜ、酒と味噌で和えたもので、その上にタククバン (蛸の燻製)、イズクバン (魚肉の燻製) を添えたものである。˹インヌカー [˹ʔinnukaː](西の村井戸) は、ナ˹カン˺テー [na˹kan˺teː](仲本家) の人が安全祈願をし、˹ウイヌカー [˹ʔuinukaː](上の村井戸。島中にある井戸) は、カ˹ザケー [ka˹dʑakeː](加治工家) の人が安全を祈願した。また、˹アンヌカー [˹ʔannukaː](東の村井戸) は、ク˹メー [ku˹meː](小浜家) の人が井戸の安全祈願をした。˹インヌカーヤ˺　ナ˹カン˺テヌ　プ˹スヌ　ニン˺ガイ　˹ヨー˺リ　˹ウイヌカーヤ˺　カ˹ザケヌ˺　プ˹スヌ　ニン˺ガイ　˹ヨー˺リ　˹アンヌカーヤ˺　ク˹メーヌ˺　プ˹スヌル　ニン˺ガイ　˹ヨーッ˺タ [˹ʔinnukaːja˺ na˹kan˺tenu pu̥˹sunu niŋ˺gai ˹joː˺ri ˹ʔuinukaːja˺ ka˹dʑakenu˺ pu̥˹sunu niŋ˺gai ˹joː˺ri ˹ʔannukaːja˺ ku˹meːnu˺ pu̥˹sunuru niŋ˺gai ˹joːt˺ta](西の村井戸は仲本家の人が祈願され、上の井戸は加治工家の人が祈願され、東の村井戸は小浜家の人が祈願された)。

˹カーヌパタ [˹kaːnupata] 【連】井戸端。井戸の側。井戸のほとり。˹カーヌパタ˺ナ　˹タン˺グ　˹ナーラビ˺　シケー [˹kaːnupata˺naː ˹taŋ˺gu ˹naːrabi˺ ʃi̥keː](井戸端にたご < 担桶 > を並べて置いてある)。

˹カーヌ˺　パ˹タ [˹kaːnu˺ pḁ˹ta] 【連】井戸端。「井戸の側」の義。˹インヌカーヌ　カーヌ˺　パ˹タ˺ナー　ウ˹ブタンク˺ヌ　ス˹クラ˺リ　˹ベー˺ン [˹ʔinnukaːnu kaːnu˺ pḁ˹ta˺naː ʔu˹butaŋku˺nu su̥˹kura˺ri ˹beː˺ŋ](西村井戸の井戸端に大きな水タンクが作られている)。

˺ガーパジン [˺gaːpadʑiŋ] 【名】昆虫。蜂の一種。茅の中に巣食う蜂。「茅蜂」の義。ア˹ガパジン [ʔa˹gapadʑiŋ](赤蜂) ともいう。˺ガヤー　˺スルンティ　˹アー˺クンンケン　˺ガーパジン　ッ˹サ˺リティ　˺シラー　ア˹ガミ　ベー [˺gajaː(˺gaː< 老年層の語 >)˺surunti ˹ʔaː˺kuŋkeŋ ˺gaːpadʑin s˹sa˺riti ˺ʃiraː ʔa˹gami beː](茅を刈りようとしているときに、茅蜂に刺されて顔が赤らんでいる)。

˹ガーパタッカリ [˹gaːpatakkari] 【名】またぐら (股座。股間) が丸見えするように広げること。見苦しい格好でおし広げること。「がば・はだかる < 開る >(『宇治拾遺物語』)」の転訛したものか。˹ガーパタカリ [˹gaːpatakari] ともいう。ミ˹ドゥム˺ヌ　プ˹スヌ˺　マンタナ　˹ガーパタッカリ　シー˺　ビ˹ルナ [mi˹dumu˺nu pu̥˹sunu˺ mantanaː ˹gaːpatakkari ʃiː˺ bi˹runa](女が人の前で股を広げて座るな)。フ˹チェー　ガーパタッカリ　シティ　ミーヌッサ˺ヌ　ミ˹ララ˺ヌ [ɸu̥˹tʃeː gaːpatakkari ʃi̥ti miːnussa˺nu mi˹rara˺nu](口を大きく開けて、見苦しくて見ておれない < 見られない >)。

˹カー˺バリ [˹kaː˺bari] 【名】大豆をお汁にいれるために、水に浸けないで、石臼で挽いて皮を剥き細かく割ること。「皮割り」の義。˹トー˺フマミヌ　˹カー˺バリ　˹スンティ　ベー [˹toː˺ɸumaminu ˹kaːba˺ri ˹sunti beː](大豆を挽いて細かく割り、皮剥きをしようとしている)。マ˹ミ˺ヌ　˹カー˺バリ [ma˹mi˺nu ˹kaː˺bari](豆の皮むき < 皮割り >)。

˹ガーパリ˺ムヌ [˹gaːpari˺munu] 【名】意地っ張り。「我を張る者」の義。˺アイブ　˹ガーパリ˺ムヌテー　ミリミ˹ラン˺シェン [˺ʔaibu ˹gaːpari˺munuteː mirimi˹raŋ˺ʃeŋ](あんな意地っ張り < 我張り者 > とは、これまで見たことがなかった)。

˺カー　パ˹ルン [˺kaː pa˹ruŋ] 【連】傷などが、かさぶた < 瘡蓋 > で覆われる。˹皮を張る」の義。シ˹リ

˥パギ　˥シケーン˥トンマ　サ˩キ˥シ　ア˩ライティ˥　ッ˩ス˥ミ　˥スクカー　˥カー　パ˩ルン [ʃi˩ri˥pagi˥ ʃi̥ke:n ˥tomma: sḁ˩ki˥ʃi ʔa˩raiti˥ s˩su˥mi ˥su̥ku:ka ˥ka: pa˩ruŋ](擦り剥いてあるところは、酒で洗って包んでおくと瘡蓋で覆われる < 皮を張る >)。

˥ガー　˥パルン [˥ga: ˥paruŋ] 【連】我を張る。自分の考えを無理に通そうとする。˥ガー　˥パリティ　イッ˩カ˥　プ˩スヌ˥　ムニ　シゥ˩カヌ [˥ga: ˥pariti ʔik ˩ka˥ pu̥˩sunu˥ muni si̥˩kanu](我を張って、一向に他人の言うことを聞かない)。

˥ガー　パ˩ルン [˥ga: pa˩ruŋ] 【連】我を張る。意地をはる。信念を通す。強情を通す。˩ウレー˥　ガー　パ˩リ˥　ムッ˩トゥ˥　プ˩スヌ˥　ムニ　シゥ˩カヌ [ʔu˩re:˥ ga: pa˩ri˥ mut˩tu˥ pu̥˩sunu˥muni si̥˩kanu](その人は我を張ってちっとも他人の言うことを聞き入れない)。

˩カーフク˥ビ [˩ka:ɸu̥˥kubi] 【名】革帯。˩タイ˥パンラー　˩カーフク˥ビ　˩カイ˥キー　˩フォーッ˥タ [˩tai˥ panra ˩ka:ɸu̥ku˥bi ˩kai˥ki: ˩fo:t˥ta](台湾から革帯を買ってきてくださった)。˩カーフクビ˥ヌ　˥ミー [˩ka:ɸukubi˥nu ˥mi:](革帯の穴)。˩カーフクビ˥ヌ　˥キシティ　˩ザー˥パイ　˩シーナー˥ヌ [˩ka:ɸu̥kubi˥nu ˥ki̥ʃiti ˩ʤa:˥pai ˩ʃi:na:˥nu](革帯が切れて厄介なこと < 大変なこと、始末に負えない困ったこと > になってしまった >)。

˩カーフクラ˥ベー [˩ka:ɸukura˥be:] 【名】(動) 魚の名。和名、モンガラカワハギ。古老は、˩トーフクラ˥ベ [˩to:ɸu̥kura˥be] ともいう。長菱形の体形をしてる。白の斑点があり、口回りが橙色で尾びれに数本の横縞模様がある。体長約 20 センチ。全体的に厚い皮状の鱗で覆われている。珊瑚礁の中に棲息していており、強い歯で甲殻類をも食いかじる。第一背びれに硬い刺がある。煮ると美味しい。˩カーフクラ˥ベー　˥スー　バ˩カス˥カー　ン˩マーン˥ダー [˩ka:ɸukura˥be: ˥su: ba˩kasu˥ka: ʔm˩ma:n˥da:](モンガラカワハギは、お汁に炊くと美味しいよ)。

˥カープゾー [˥ka:puʤo:] 【名】皮製の煙草入れ (宝蔵)。鳩間島では、多くの人は布製の煙草入れを持っていた。˥カープゾーナ　キ˩ザミタバクトゥ˥　シ˩キダキ˥トゥ　キ˩シ˥ル　イ˩リリ [˥ka:puʤo:na ki˩ʤamitabakutu˥ ʃi̥˩kidaki˥tu ki̥˩ʃi˥ru ʔi˩riri](布製の煙草入れに刻み煙草とマッチと煙管を入れなさい < 入れろ >)。

˩カーブ˥チ [˩ka:bu˥ʧi] 【名】(植) 九年母の一種。˩シークヮー˥サー [˩ʃi:kwa:˥sa:](ヒラミレモン) より実が大きく、酸味が薄くて甘味があり、美味しい。˩カーブ˥チェー　パ˩トゥ˥マナー　˥ムイ　ブ˩ラーンシェン [˩ka:bu˥ʧe: pḁ˩tu˥mana: ˥mui bu˩ra:ŋʃeŋ](カーブチは、鳩間島には自生して < 生えて > いなかった)。

˩カー˥ブヤー [˩ka:˥buja:] 【名】凧の形態の一つ。十字に組んだ竹ひごに紙を菱形に貼って作った簡単な凧。幼児の遊具として作った。竹ひごの上と中心部に紐を結んで勾配を作って揚げた。頭部 (かぶり) を左右に振るのでカーブヤーと命名したのであろう。幼児にはデイゴの枯葉に糸をつけてカーブヤーを作って揚げた。˩カー˥ブヤー　ス˩ク˥ルモー　˩ゾー˥サー　˩ナー˥ヌ [˩ka:˥buja: su̥˩ku˥rumo: ˩ʤo: ˥sa: ˩na:˥nu](カーブヤー凧を作るのは簡単だ < 造作もないこと >)。˩カー˥ブヤー　ス˩ク˥リティ　トゥ˩バサ˥ナー [˩ka:˥buja: su̥˩ku˥riti tu˩basa˥na:](カーブヤーを作って飛ばそう < 凧揚げしよう > ねえ)。

˩ガーフラッキ [˩ga:ɸurakki] 【名】穴が大きく開いていること。穴が大きく開いて内部が丸見えであること。˩ミー˥ヤ　˩ガーフラッキ˥　シ˩ティ˥　˩ヌー˥バ　ミリ˩ベー˥ユー [˩mi:˥ja ˩ga:ɸurakki˥ ʃi̥˩ti nu: ˥ba miri˩be:˥ju:](目は大きく押し開いて何を見ているのやら)。˥ヤドー　˩ガーフラッキ˥　シ˩ティ˥　ナ˩カー˥　ムー˩ル˥　ミ˩ラリ˥ブー [˥jado: ˩ga:ɸurakki˥ ʃi̥˩ti˥ na˩ka:˥ mu:˩ru˥ mi˩rari˥bu:](戸が開け放たれて、戸口が大きく開いて内部は丸見えだ < 総て見えている >)。フ˩チェー　ガーフラッキ˥　シ˩ティ˥　ニ˩ビ　ベー [ɸu̥˩ʧe: ga:ɸurakki˥ ʃi̥˩ti˥ ni˩bi be:](口は大きく開いて寝ている)。

˥ガー　ブ˩リ˥ルン [˥ga: bu˩ri˥ruŋ] 【連】根負けする。我が折れる。カ˩リヌ˥　ガー　ブ˩リ˥ルンケン　パ˩ナシ˥タン [ka˩rinu˥ ga: bu˩ri˥ruŋkem pa˩naʃi̥˥taŋ](彼が根負けするほど話した)。

˥ガーブルウスマイ [˥ga:buruʔusumai] 【名】酒に酔って他人の背中に負んぶされる癖のあるお祖父さんのこと。ニックネーム。カ˩ザケー˥ナ　˥ガーブルウスマイヌ　˩オーッ˥タンツォー [ka˩ʤake:˥na ˥ga:buruʔusumainu ˩ʔo:t˥tantso:](加治工家にガーブルお祖父さんがおられたそうだ)。

˩ガーブルガーブル [˩ga:buruga:buru] 【名】乳児が頭を左右に振ること。「裏頭、加我不利須 (かがふりす)」『新撰字鏡』の転訛したもの。乳児をあやして、次のように唱える。˩イージュヌミー　イージュヌミー　ピー˥ジン˩トー　ピー˥ジン˩トー　ミン˥

ミン˞ミー　ミン˞ミン˞ミー　ガーブル　ガーブル [˞ʔiːʤunumiː ʔiːʤunumiː piː˞ʤin˞toː piː˞ʤin˞toː mim ˞mim˞miː mim˞mim˞miː ˞gaːburugaːburu](< 乳児の掌に人差し指を当てて > 魚の目魚の目、< 乳児の肘を叩いて > 肘の頭ひじの頭、< 乳児の耳を掴んで > お耳お耳、< 乳児の頭を両手で挟んで左右に頭を振って > がーぶるがーぶる < 頭頭 >) と唱えてあやした。

˞ガーブルン **[˞gaːburuŋ]** 【自動】根負けする。「我が折れる」の義。へこたれる。降参する。˞クンドゥ˞ヌ　パ˞ナシキ˞ナー　˞スーアタ˞リ　シ˞ティ˞　アブジェー　˞ガーブリ　˞オー˞ル [˞kundu˞nu pa˞naʃi̥ki ˞naː ˞suːʔata˞ri ˞ʃi̥ti˞ ʔabujeː ˞gaːburi ˞ʔoː˞ru](今度の風邪で重症になって < 強くあたって >、おじいさんはすっかり弱って < 根負けして > おられる)。ク˞ビッチン˞ヌ　˞クトゥシェー　˞ガーブラ˞ヌ [ku ˞bittʃin˞nu ˞ku̥tuʃeː ˞gaːbura˞nu](これしきのことでは、へこたれない < 降参しない >)。ガーブリ˞ナー˞ヌ [gaːburi˞naː˞nu](根負けしてしまった。へこたれてしまった。降参した)。˞マー　ン˞ベーマ˞スカー　˞ガーブルン [˞maː ʔm˞beːma˞su̥kaː ˞gaːburuŋ](もう少しで < もう少ししたら > 根負けする)。

カー˞マ **[kaː˞ma]** 【副】はるか (遥か)〜。ずっと〜。1時間的、空間的に遠いさま。˞タイパン˞マー　ユ˞ノン˞ラ　カー˞マ　インタナー˞ル　˞アル [˞taipam˞maː ju˞non˞ra kaː˞ma ʔintanaː˞ru ˞ʔaru](台湾は与那国よりも遥か西の方に < ぞ > ある)。2時間的空間的差の程度が甚だしいさま。ア˞ラ˞キ　˞パローラ　ク˞ル˞マーラ　パ˞ル˞ル　カー˞マ˞　パ˞ヤ˞ー　シ˞キ˞ル [ʔa˞ra˞ki ˞paroːra ku˞ru˞maːra pa˞ru˞ru kaː˞ma ˞ pa˞jaː˞ ʃi̥˞ki˞ru](歩いて行くよりも車で行く方が遥かに早く着く)。

カー˞マ **[kaː˞ma] (1)**【副】はるかに。かなた (彼方)。時間的・空間的・心理的な隔たりの大きさを表す。ウ˞レー˞ラン　ク˞リル˞　カー˞マ˞　ウ˞ムッ˞サ [ʔu˞ reː˞raŋ ku˞riru˞ kaː˞ma˞ ʔu˞mus˞sa](それよりもこれが遥かに面白い)。˞ダイヤー˞　ウ˞レー˞ラン　ク˞リル˞　カー˞マ˞　タ˞カー [˞daijaː˞ ʔu˞reː˞raŋ ku˞riru ˞ kaː˞ma˞ tḁ˞kaː](値段はそれよりもこれが遥かに高い < 高額である >)。 **(2)**【連体】遥か彼方。時間的・空間的にかけ離れた所。カー˞マ˞　ム˞カシ˞ヌ　パ˞ナ˞シ [kaː˞ma˞ mu˞kaʃi˞nu pa˞na˞ʃi](はるか昔の話)。カー˞マ　アンタヌ˞　トン [kaː˞ma ʔantanu˞ toŋ](遠く離れた東の所。はるか東方の所)。バーラ　カー˞マ˞　シンタ˞ナー˞ル　˞パレーティ　˞アーク˞バン [baːraŋ kaː˞ma˞ ʃinta˞naː˞ru ˞pareːti ˞ʔaːku˞ baŋ](わたしよりはるか < ずっと > 後方を走っているわい)。 **(3)**【名】遠称。カー˞マー˞ラ　˞ユーシ˞　クン [kaː˞maː˞ra ˞juːʃi˞ kuŋ](はるか遠方の所から寄せてくる)。マー˞ラ˞　カー˞マー　ウイ˞　パ˞ラ˞シ [maː˞ra˞ kaː˞maː ʔui˞ pa˞ra˞ʃi](ずうっと遠い所 < ずっと向こう > へ追い払ってやれ)。˞タイフー˞ヤ　カー˞マ˞　パンタなール　˞アル [˞taiɸuːja kaː˞ma ˞ pantanaːru ˞ʔaru](台風は遥か南の方に < ぞ > ある)。

˞カーマール **[˞kaːmaːru]** 【名】ゴムまり (毬)。「皮毬」の義。˞グムマール [˞gumumaːru](ゴム毬) ともいう。ミ˞ドーン˞ッふァー　ムー˞ル　˞カーマール <˞グムマール > シル　ア˞サブタ [mi˞doːm˞ffaː muː ˞ru ˞ kaːmaːru <˞gumumaːru > ʃiru ʔa˞sabuta](女の子は皆ゴム毬で遊んだ)。

˞カーマイ **[˞kaːmai]** 【名】玄米。「皮米」の義。精米してない米。˞カーマイバ　˞ウシナ　イ˞リティ˞　ッサイティル　˞マイヌイー˞ヤ　バ˞カス [˞kaːmaiba ˞ʔuʃina ʔi˞riti˞ ssaitiru ˞mainuʔiː˞ja ba˞kasu](玄米を臼に入れて搗いて精米して < 精げてぞ > ご飯は炊くのだ)。ヤ˞ラビ˞ヌ　˞カーマイ　˞カン˞ザリ　ッ˞ふー˞カー　˞ウシトゥマ˞キ　˞シーブー˞ティ˞ダー [ja˞rabi˞nu ˞kaːmai ˞kan˞ʤari f˞fuː˞kaː ˞ʔuʃituma˞ki ˞ ʃiːbuː˞ti˞daː](幼児が玄米をかじる < 齧る > と弟見負け < 母親の懐妊による栄養不良で衰弱すること > しているそうだよ)。

カー˞マ　トゥーサ **[kaː˞ma tuːsa]** 【連】ずっと遠いところ。はるか彼方。ヤ˞マ˞トー　カー˞マ　トゥーサナー˞ル　˞アル [ja˞ma˞toː kaː˞ma tuːsanaː˞ru ˞ ʔaru](大和 < 日本本土 > は、はるか彼方に < ぞ > ある)。

カー˞マ˞　ム˞カ˞シ **[kaː˞ma˞ mu˞ka˞ʃi]** 【連】大昔。ずっと以前。はるか昔。ウ˞レー˞　カー˞マ˞　ム˞カシ˞ヌ　パ˞ナシ˞ル　˞ヤッタル [ʔu˞reː˞ kaː˞ma˞ mu˞kaʃi ˞nu pa˞naʃi˞ru ˞jattaru](それは遥か < ずっと > 昔の話 < ぞ > であったのだ)。

˞カーミー **[˞kaːmiː]** 【名】ひとえまぶた (単瞼)。ブ˞リ˞ミー [bu˞ri˞miː](二重瞼) の対語。˞ベー˞　シマプソー　˞カーミー　ナリ˞ブー˞　プ˞ソー　ナン˞ゾー　ブ˞ラーンバン˞ナー [˞beː˞ ʃimapu̥soː ˞kaːmiː nari˞buː˞ pu̥˞soː nan˞ʤoː bu˞raːmban˞naː](わが < 聞き手を含む > 島の人は、単瞼になっている人はあまりいないねえ)。˞カーミーヤ　ヤ˞マトゥ˞プスナール　˞ゴー˞ラー [˞kaːmiːja ja˞matu˞pu̥sunaːru ˞goː˞

ra:](単瞼は本土の人 < 大和人 > に多い)。

˥カーミ˥ルン [˥ka:mi˥ruŋ] 【他動】短くする。縮める。明治生まれの老年層の言葉。カ˥ナパイヌ　ユイバ　カーミ˥ルンティ　˥スンドゥ　カーミララ˥ヌ [ka˥napainu juiba ka:mi˥runti ˥sundu ka:mirara˥nu](鍬の柄を縮めようとするが、縮められない)。˥カー˥ミ　˥ミサカー　˥カーミ˥ル　˥クトー　˥ナルン [˥ka:˥mi ˥misaka: ˥ka:mi˥ru ˥ku̥to: ˥naruŋ](縮めて良ければ縮めることはできる)。˥カーミ˥レー　˥ミサムヌ [˥ka:mi˥re: ˥misamunu](縮めれば良いのに)。˥マー˥ビン　˥カーミ˥リ [˥ma:˥biŋ ˥ka:mi˥ri](もっと縮めろ)。

˥カームチ [˥ka:mutʃi] 【名】植物の葉で包んだ餅。「皮餅」の義。カ˥サン˥パームチ [ka˥sam˥pamutʃi](「柏の葉餅」植物の葉で包んだ餅) と同じ。バ˥サン˥パームチ [ba˥sam˥pa:mutʃi](芭蕉の葉餅)、サ˥ミンパームチ [sa˥mimpa:mutʃi](ゲットウ < 月桃 > の葉餅) などがある。˥プール˥ムチ [˥pu:ru˥mutʃi](豊年祭の餅) は芭蕉の葉餅と月桃の葉餅が多く作られた。˥プール˥ヌ　カ˥サン˥パームチ　ス˥ク˥ルンティル　˥オー˥ル [˥pu:ru˥nu kḁ˥sam˥pa:mutʃi su̥˥ku˥runtiru ˥ʔo:˥ru](豊年祭の柏餅を作ろうとしておられる)。

˥カー˥メザー [˥ka:˥meʥa:] 【名】 (固) 人名。カーメ兄。「亀兄」の転訛したもの。ム˥ルスメ˥ナー　˥カー˥メザーティ　˥スー˥　プ˥スヌ　オーッ˥タン [mu˥rusume˥na: ˥ka:˥meʥa:ti ˥su:˥ pu̥˥sunu ʔo:t˥taŋ](盛島家にカーメ兄という人がおられた)。

˥カーラ [˥ka:ra] 【名】川。小川。「川原」の転訛したもの。˥ケーダガー˥ラー　ウ˥ブ˥ミジェーラン　ミ˥ジヌ˥　シゥ˥カラー　スー˥ワンティ　ア˥ザリ　ブー [˥ke:daga:˥ra: ʔu˥bu˥miʤe:ram mi˥ʤinu˥ si̥˥kara: su:˥wanti ʔa˥ʥaribu:](ケーダ川は大見謝川よりも水の力が強い < 水量が多い > といわれている)。ウ˥ブ˥ミジェーラン　˥ケーダガーラ˥ヌ　ミ˥ジヌル˥　シゥ˥カラー　スー˥ワティバン˥ナー [ʔu˥bu˥miʤe:raŋ ˥ke:daga:ra˥nu mi˥ʤinuru˥ si̥˥kara: su:˥watiban˥na:](大見謝川よりもケーダ川の水が水の勢い < 水の力。水の量 > は強いんだってねえ)。˥ウーアミヌ˥　フーカー　˥カーラヌ˥　ミ˥ジヌ˥　ウ˥ク˥ルン [˥ʔu:aminu˥ ɸu:ka: ˥ka:ranu˥ mi˥ʤinu˥ ʔu˥ku˥ruŋ](大雨が降ると川の水が氾濫する)。˥カーラヌ˥　パ˥タ˥ナ　˥ター˥ヌ　˥アン [˥ka:ranu˥ pḁ˥ta˥na: ˥ta:˥nu ˥ʔaŋ](川の側に田圃がある)。

˥カー˥ラ [˥ka:˥ra] 【名】舟の竜骨。船首から船尾にかけて貫通する船底の骨格材。キール (keel)。˥プーザンプー [˥pu:ʥampu:] を張って操船する際に、波を切って風上の方へ舟を走行させる機能があるという。˥フニナー　˥カーラ˥ヌ　˥アルユンダ　˥プーザンプーバ˥　ピ˥ケー˥ティ　˥オーラー˥　ン˥カーサリン˥ツォー [˥ɸunina: ˥ka:ra˥nu ˥ʔarujunda ˥pu:ʥampu:ba˥ pi̥˥ke:˥ti ˥ʔo:ra:˥ ʔŋ˥ka:sarin˥tso:](舟には竜骨があるので、プーザン帆 (帆桟式帆) を張って風上の方へ舟を向けることが出来るそうだ)。˥イダフニヌ　˥カー˥ラー　シ˥ギキー˥シル　ス˥クラ˥リ　ブ˥タ˥ダー [˥ʔidaɸuninu ˥ka:˥ra: ʃi˥giki:˥ʃiru su̥˥kura˥ri bu˥ta˥da:](板船 < サバニ > の竜骨は杉材で造られていたのだよ)。

˥カー˥ラ [˥ka:˥ra] 【名】瓦。˥ウーガー˥ラ [˥ʔu:ga:˥ra](雄瓦) と˥ミーガー˥ラ [˥mi:ga:˥ra](雌瓦) がある。粘土を一定の形に成型し、焼成した屋根葺き用材。屋根のユ˥チル [ju˥tʃiru](えつり) に粘土を捏ねて載せ、軒から甍の方へ雌瓦を二枚ずつ重ねて並べていき、雌瓦と雌瓦の継ぎ目に粘土を載せ、その上に雄瓦を被せ連結しながら葺き上げて行く。最終的には、瓦の継ぎ目に漆喰を塗って固定させ、屋根の瓦葺を完成させる。˥カー˥ラ　˥カイ˥キー　˥カー˥ラヤー　ス˥ク˥リ [˥ka:˥ra ˥kai˥ki: ˥ka:˥raja: su̥˥ku˥ri](瓦を買ってきて瓦葺の家を造れ)。˥ミツァ　ク˥ナシティ˥　ユ˥チル˥ナ　˥ヌーシティ　ウン˥ナ　˥ミーガー˥ラ　˥ニンマイ˥ナー　カ˥サビ˥　ナ˥ラビティ˥　ウ˥ヌ˥　シ˥ギフチ˥ナー　˥ミツァ　ム˥リティ　ウーガー˥ラ　カ˥バ˥シェーティル　˥カー˥ラヤーヤ　フ˥コーッ˥タ [˥mitsa ku˥naʃi̥ti˥ ju˥tʃiru˥na ˥nu:ʃi̥ti ʔun˥na ˥mi:ga:˥ra ˥nimmai˥na: kḁ˥sabi˥ na˥rabiti˥ ʔu˥nu˥ ʃi˥giɸu̥tʃi˥na: ˥mitsa mu˥riti ʔu:ga:˥ra ka˥ba˥ʃe:tiru ˥ka:˥raja:ja ɸu̥˥ko:t˥ta](粘土を捏ねてエツリに載せ、それに雌瓦を二枚ずつ重ねて並べ、その継ぎ目に粘土を盛って雄瓦を被せながら瓦屋根は葺かれた)。

˥ガー˥ラ [˥ga:˥ra] 【名】 (動) 魚名。和名、シマアジ。˥マンタヌ　パ˥マ˥ナーティ　カ˥ザケーヌ˥　ウスマイヤー　˥ユー　˥ガー˥ラ　˥ホー˥ソーッタン [˥mantanu pa˥ma˥na:ti ka˥ʥake:nu˥ ʔusumaija: ˥ju: ˥ga:˥ra ˥ho:˥so:ttaŋ](前の浜で加治工家のウスマイ < 伊佐 > さんは、よくシマアジを釣られた)。˥ガーラ˥ヌ　ナ˥マ˥シェー　ン˥マー˥ン [˥ga:ra˥nu na˥ma˥ʃe: ʔm˥ma:˥ŋ](シマアジの刺身は美味しい)。

˥カーライシ [˥ka:raiʃi] 【名】川の石。「河原石」の義。˥ウーミジヌ˥　ウ˥クリ˥ルカー　˥カーライシン　コッふァシ˥　パ˥リ˥ス [˥ʔu:miʤinu˥ ʔu˥kuri˥ruka: ˥ka:raʔiʃiŋ koffaʃi˥ pa˥ri˥su](洪水 < 大水 > がおこる

と河原の大石も根こそぎ押し流していく)。

˞カーラカーラ˜シ [˞kaːrakaːra˜ʃi] 【副】明々と。明るいさま。「アカラアカラ」の融合変化したもの。カ˞ツコーバー (˞シーゾーヤー˜ヤ) ユー˜ロー　˞デンキ˜バ　シキ　˞カーラカーラ˜シ　ガ˞ラシティル˜　カ˞ツ　ネーソーッ˜タ [ka˞tsukoːbaː(˞ʃiːʤoːjaː˜ja)juː˜roː ˞deŋki˜ba ʃi̥kiti ˞kaːrakaːra˜ʃi ga˞raʃi̥tiru˜ kḁ˞tsu neːsot˜ta](鰹節工場は夜は電気をつけてこ、こうこうと照らして鰹を煮上げられた)。

˞カーラカスン [˞kaːrakasuŋ]【他動】乾かす。˜ティダナ　˜プシ　˞カーラカシ [˜tidana ˜pu̥ʃi ˞kaːrakaʃi](太陽に干して乾かせ)。˞カーラカスンティ　ベー [˞kaːrakasunti beː](乾かそうとしている)。ア˞ミ˜ヌ　˜フー　˜ピンマー　˞カーラカサラヌ [ʔa˞mi˜nu ˜ɸuː ˜pimmaː ˞kaːrakasaranu](雨の降る日は乾かされない)。˞パー˜ク　˞カーラカシ˜プサン [˞paː˜ku ˞kaːrakaʃi˜pu̥saŋ](早く乾かしたい)。˞ワー　カーラカス˜カー　˞バン˜ヌン　˞カーラカスン [˞waː kaːrakasu̥˜kaː ˞ban˜nuŋ ˞kaːrakasuŋ](君が乾かしたら私も乾かす)。˞マー˜ビン　˞カーラカシェー˜　ミサムヌ [˞maː˜biŋ ˞kaːrakaʃeː˜ misamunu](もっと乾かせば良いのに)。˞カーラカスムノー　パー˜ク　˞カーラカシ [˞kaːrakasumunoː paː˜ku ˞kaːrakaʃi](乾かすものは早く乾かしなさい)。

˞カーラクン [˞kaːrakuŋ] 【自動】乾く。˞キン˜マー　マ˞ダ　カーラカヌ [˞kim˜maː ma˞da kaːrakanu](着物はまだ乾かない)。˜クナーテー　˞カーラキパヤー˜ン [˞kunaːteː ˞kaːrakipaja˜ŋ](ここでは乾き早い)。マ˞ナ˜マ　˞カーラカス˜カー　ティ˞ダ˜ヌ　˜アルンケンナー　˞カーラクン [ma˞na˜ma ˞kaːrakasu̥˜kaː ti ˞da˜nu ˜ʔaruŋkenna: ˞kaːrakuŋ](今干す < 乾かす > と日のあるうちに乾く)。˞カーラク˜クトー　˞カーラクヌ˜　ウ˞ヌマー˜マーヤ　キ˞サラヌ [˞kaːraku˜ ku̥toː ˞kaːrakunu˜ ʔu˞numaː˜maːja ki̥˞saranu](乾くことは乾くが、そのままでは着られない)。˞パー˜ク　˞カーラケー˜　ミサムヌ [˞paː˜ku ˞kaːrakeː˜ misamunu](早く乾けばよいのに)。˞パイ˜サ　˞カーラキ [˞pai˜sa ˞kaːraki](早く乾け)。˞カーラキキシェー˜ン [˞kaːrakiki̥ʃeː˜ŋ](乾ききった)。˞カーラキキスン [˞kaːrakiki̥suŋ](乾ききる。完全に乾く)。

˞カーラ˜シキ [˞kaːra˜ʃi̥ki] 【名】瓦敷き。瓦で屋根を葺く際に、軒の先端部に幅約六寸の鋭三角形の板をうちつけたもの。瓦が滑り落ちるを防ぐ、瓦止めの機能を持たせた板。通常はフ˞クンキー [ɸu̥˞kuŋkiː](福木) の角材を対角線に製材したものを使っていた。タ˞ルキ˜ヌ　˞ウイ˜ナー　˞カーラ˜シキ　˜ウキティ　˞ウン˜ナ　˞フン˜　ウティバ [ta˞ruki˜nu ˞ʔuiˀna: ˞kaːra˜ʃi̥ki ˜ʔukiti ˞ʔun˜na ˞ɸun˜ ʔutiba](垂木の上に瓦敷きを置いて < 瓦敷きを受けるようにして >、それに釘を打ちなさい)。

˞カー˜ラダキ [˞kaː˜radaki] 【固】(地) カラ岳。石垣島の東北海岸、白保集落の北にある山。˞カー˜ラダキヌ　˜スバナール　ヒ˞コージョー˜ヤ　ス˞ク˜ロールティ˞ダー [˞kaː˜radakinu ˜subanaːru çi˞koːʤoː˜ja su ˞ku˜roːruti˞daː](カラ岳の側に飛行場は作るそうだよ)。

˞ガー˜ラダマ [˞gaː˜radama] 【名】まがたま (勾玉)。˞ガー˜ラダマティ　˞スー˜　ム˞ノー˜　ミリ　ミ˞ラン˜シェン [˞gaː˜radamti ˞suː˜ mu˞noː˜ miri mi˞raŋ˜ ʃeŋ](勾玉というものは見たことはなかった)。

˞カーラヌ˜　パ˞タ [˞kaːranu˜ pḁ˞ta] 【連】川の側。かわべり (川縁)。川岸。˞カーラヌ˜　パ˞ター˜　ア˞カ˜ズミキーヌ　ヤ˞マ˜カビ　ムイ˞ベー [˞kaːranu˜ pḁ˞taː˜ ʔa˞ka˜ʤumikiːnu ja˞ma˜kabi mui˞beː](かわべり < 川縁 > にはマングローブ < ひるぎ > が密生している)。

˞カー˜ラヤー [˞kaː˜rajaː] 【名】瓦葺の家。「瓦家」の義。˜ガヤヤー [˜gajajaː](茅葺の家) の対義語。八重山の民間に瓦葺きが許可されたのは明治二十二年という。鳩間島では、昭和二年十月に鳩間小学校の瓦葺き校舎が完成した「学校日誌」『波濤を越えて』とある。ム˞カ˜シェー　˜ナールミナバ　˞コーシ˜　カ˞ラ˜ス　˜シキ　˜ギラカラスバ　シ˞キ　カーシェー˜ティル　˞カー˜ラ　˞カイ　カー˜ラヤー　ス˞ク˜ローッタツォー [mu˞kaʃeː ˜naːruminaba ˞koːʃi˜ ka ˞ra˜su ˜ʃi̥ki ˜girakarasuba ʃi̥˞ki kaːʃeː˜tiru ˞kaː˜ra ˞kai kaː˜rajaː su̥˞ku˜roːttatsoː](昔はナールミナ < フタモチヘビガイの仲間か?> の身を取って塩辛にしたり、シャコガイの塩辛を作って売りさばきながら瓦を買って瓦葺家を造られたそうだ)。˞カー˜ラヤー　ス˞ク˜ルン [˞kaː˜rajaː su̥˞ku˜ruŋ](瓦葺の家を造る)。

˞カー˜ラヤーヌ　トゥ˞ラー˜マ [˞kaː˜rajaːnu tu˞raː˜ma] 【連】すずめ (雀)。「瓦葺家の小鳥」の義。˞カー˜ラヤーヌ　トゥ˞ラー˜マー　˜ウヤコーコームヌ　ヤ˞レー˜ティ　ウ˞ヤ˜ヌ　˞マーラソーッ˜タンケン　˞ワー　カー˜ラヤーヌ　ッ˞サーン˜ナー　˞ベー˜ティ　˞マイヌ˜　ウ˞ティヌカ˜ル　プ˞サイ˜　ッ˞ふァイ˜ティ　ア˞ゾー˜レーティル　ユ˞チ˜クニ　ッ˞ふァイ　ブー˜ツォー [˞kaː˜rajaːnu tu˞raː˜maː ˜

ʔujakoːkoːmunu ja˹reː˺ti ʔu˹ja˺nu ˹maːrasoːt˺taŋkeŋ ˹waː kaː˺rajaːnu s˹saːn˺naː ˹beː˺ti ˹mainu˺ ʔu˹tinuka ˺ru pu̥˹sai˺ f˹fai˺ti ʔa˹ʥoː˺reːtiru ju˹ʧi˺kuni f˹fai buː˺ tsoː]（スズメは親孝行者であったので、親が亡くなられた時、お前は瓦葺の家の軒下で米の落ちこぼれたものを拾って食べなさいといわれたので、裕福に食べて暮らしているそうだ）。˹カー˺ラヤヌ　トゥ˹ラー˺マー　˺キサー　ウ˹ヌス˺ク　ブ˹リブタンドゥ˺　マ˹ナ˺マー　ミ˹ララン˺　ナリ˹ナー˺ヌ [˹kaː˺rajaːnu tu˹raː˺ma ˺kisaː ʔu˹nusu̥˺ku bu˹ributandu ˺ ma˹na˺maː mi˹raran˺ nari˹naː˺nu]（スズメは以前は、あんなにたくさんいたが、今は見られなくなってしまった）。

˹カー˺ラヤヌアンマ **[˹kaː˺rajanuʔamma]** 【名】（動）テントウムシ。「瓦屋の姉さん」の義。赤地に黒の斑点、黒地に赤の斑点のついたものが多かった。˹ナーヌ˺パーナ　˹カー˺ラヤーヌアンマヌ　˹フシゥ˺カリ　ベー [˹naːnu˺paːna ˹kaː˺rajaːnuʔammanu ˹ɸusi̥˺ kari ˹beː]（菜っ葉にテントウムシが集まって＜くっついて＞いる）。

˹ガー˺リ **[˹gaː˺ri]** 【名】手を振って応援するすること。手を振って見送ること。動詞ガールンの転成名詞。タ˹ベー˺　パル　プ˹スバ　ガー˺レーティ　パ˹ラシ˺タ [ta˹beː˺ paru pu̥˹suba gaː˺reːti pa˹raʃi̥˺ta]（旅へ発つ人に手を振りながら一路平安を祈って＜元気付けて＞見送って行かせた）。

˹ガーリ˺ウタ **[˹gaːri˺ʔuta]** 【名】豊年祭の歌の一種。シ˹ナ˺ピキ [ʃi˹na˺pi̥ki]（綱引き）の直前に、西村、東村の婦人達によるガーリ隊が綱引きを加勢するために、各村の村自慢のものを歌う一種の呪歌。˹プール˺ウタ [˹puːru˺ʔuta]（豊年祭の歌）の項参照。

˹カーリカタ **[˹kaːrikata]** 【名】変わり方。˺アイブ　˹カーリカタティン˺　ア˹リ˺ブーバン˹ナー˺　プ˹スン　カシゥカーサ˺リティ [˺ʔaibu ˹kaːrikatatiŋ˺ ʔa ˹ri˺buːban˹naː˺ pu̥˹suŋ kasi̥˺kaːsa˺riti]（あんな変わり方とてもあるものだねえ、他人に騙されて。）。

˹カール **[˹kaːru]** 【名】1代わり。交替。˹ワー　カーロー　ターール　スーワ [˹waː kaːroː taːru suːwa]（君の代わりは誰がするのか）。˺バー　˹カール　ワー˺　パ˹ラン˺ノーレー [˺baː ˹kaːru waː˺ pa˹ran˺noːreː]（私の代わりに君が行かないか＜行ってくれないか＞）。ク˹リヌ　カーロー˺　ギュー˹サン˺　アン [ku˹rinu kaːroː˺ gjuː˹saŋ˺ ʔaŋ]（これの代わりはくらでもある）。˹カールヌ˺　ブ˹ラーヌ [˹kaːrunu˺ bu˹raːnu]（代わり＜の人＞がいない）。2代理。ウ˹ヤ˺ヌ　˹カール˺　シ˹トゥミ˺リ [ʔu˹ja˺nu ˹kaːru˺ ʃi̥˹tumi˺ri]（親の代理を勤めよ）。3償い。代償。ウ˹ヌ　カール˺　ク˹レー˺　バン　ッ˹ふィーリ [ʔu˹nu kaːru˺ ku˹reː˺ ban f˹fiːri]（その代わり＜代償として＞、これは私にくれよ）。

˹カールカー˺ル **[˹kaːrukaː˺ru]** 【副】代わる代わる。˹カールカー˺ルシ　ウ˹ヤ˺ヌ　˹テー˺ナイ　˹シー˺バ [˹kaːrukaː˺ruʃi ʔu˹ja˺nu ˹teː˺nai ˹ʃiː˺ba]（交替で親の手伝いをしなさいよ）。入れ替わり立ち代り。プ˹スヌ　カールカー˺ル　˺ンジペーリ　˹シー˺　ブ˹リン˺ギサヌ　˹ヌー˺ヌ　˹アッタ˺カヤー [pu̥˹sunu kaːrukaː˺ru ˺nʤipeːri ˹ʃiː˺ bu˹riŋ˺gisanu ˹nuː˺nu ˹ʔat ˺takajaː]（人が代わる代わる出入りしているようだが、何があったのか＜どうしたんだろうか＞なあ）。

˹カールン **[˹kaːruŋ]** 【自動】変わる。変化する。老年層は、˹カウルン [˹kauruŋ]（変わる。）ともいう。ア˹ラウタンティン˺　イロー　˹ピッ˺チン　˹カーラヌ [ʔa˹rautantiŋ˺ ʔiroː ˹pit˺ʧiŋ ˹kaːranu(˹kauranu)]（洗っても色はちっとも変わらない）。ア˹ラウ˺カー　˺イロー　˹カールン [ʔa˹rau˺kaː ˺ʔiroː ˹kaːruŋ(kauruŋ)]（洗ったら色が変わる）。˹カーリナー˺ヌ [˹kaːrinaː˺nu]（変わってしまった）。˹カール˺　クトゥン　˺アン [˹kaːru˺ ku̥tuŋ ˺ʔaŋ]（変わることもある）。˹カーレー˺　ミサムヌ [˹kaːreː˺ misamunu]（変わればいいのに）。˹パー˺ク　˹カーリ [˹paː˺ku ˹kaːri]（早く変われ）。イ˹ル˺ヌ　˹カールン [ʔi˹ru˺nu ˹kaːruŋ]（色が変わる）。˺イロー　˹カーラヌ [˺ʔiroː ˹kaːranu]（色は変わらない）。˺イロー　˹カーリ　ナー˺ヌ [˺ʔiroː ˹kaːri naː˺nu]（色は変わってしまった）。イ˹ル˺ヌ　˹カール˺　クトー　˹ナー˺ヌ [ʔi˹ru˺nu ˹kaːru˺ ku̥toː ˹naː˺nu]（色が変わることは無い）。˺イロー　˹カーレー˺　ミサムヌ [˺ʔiroː ˹kaːreː˺ misamunu]（色は変われば良いのに）。

˹カールン **[˹kaːruŋ]** 【自動】代わる。交代する。老年層では、˹カウルン [˹kauruŋ]（代わる）ともいう。プ˹ストー　カーララヌ　ワートゥル　カーリ˺プサ [pu̥˹suto: kaːraranu waːturu kaːri˺pu̥sa]（他の人とは代われない。君とが＜ぞ＞代わりたい）。˹ワーンドゥ　カール˺カー　˹バン˺ヌン　˹カールン [˹waːndu kaːru˺kaː ˹ban˺nuŋ ˹kaːruŋ]（君が代わるなら私も代わる）。プ˹ストゥ　カール˺クトー　ナ˹ラ˺ヌ　ヤー˹ディン˺　ドゥーシ　˺クー [pu̥˹sutu kaːru˺ ku̥toː na˹ra˺nu jaː˹din˺ duːʃi ˺kuː]（他人と代わること＜代理＞は出来ない。必ず自分自身で来い）。˺ドゥー

シ ˥クンテー ˞サンドー˥シ ˥ナルカー プ˞ストゥ カーレー˥ ミサムヌ [˥duːʃi ˥kunteː ˞sandoː˥ʃi ˥naruka: pu̥˞sutu kaːreː˥ misamunu](自分で来ようと < 来ると > しないで、出来るなら他の人と代われればよいのに)。˞ワーヤ パー˥ク プ˞ストゥ カーリ [˞waːja paː˥ku pu̥˞sutu kaːri](君は早く他の人と代われ)。

˞ガー˥ルン [˞gaː˥ruŋ] 【自動】1気勢をあげて自慢する。自他を鼓舞する。威勢よく掛け声を掛け合い、手を振りながら乱舞する。豊年祭に東村、西村に分かれて˞ゾーラキ [˞ʤoːraki](舞踊の競演) や˞パー˥レー [˞paː˥reː](爬竜船競漕) を行う際、気勢をあげて各村を自慢し、応援することこと。˞プール˥ヌ ˥ピンマー ˞インヌムラ アンヌムラ˥ バ˞カ˥リティ ウ˞ヌス˥ク ˞ガー˥ローッタヌ ˞ナー [˞puːru˥nu ˥pimmaː ˞ʔinnumura ʔannumura˥ ba˞ka˥riti ʔu˞nusu ˥ku ˞gaː˥roːttanu ˞naː](豊年祭の時には西村、東村に分かれて、あんなに気勢をあげて自慢しながら乱舞されたのになあ)。2手を振って見送る。フ˞ニヌ ミ˞ララン˥ ナルンケン ˞ガー˥リ ˞オーッ˥タ [ɸu ˞ni˥nu mi˞raran˥ naruŋkeŋ ˞gaː˥ri ˞ʔoːt˥ta](船が見えなくなるまで手を振って見送っておられた)。˞ガーラ˥ヌ [˞gaːra˥nu](手を振らない)。˞ワー ガー˥ルカー ˞バン˥ヌン ˞ガー˥ルン [˞waː gaː˥ruka: ˞ban˥nuŋ ˞gaː˥ruŋ](君が手を振るなら私も手を振る)。˞ガー˥ル ピンマー ˥サジシ ˞ガー˥レー ˥ミサムヌ [˞gaː˥ru pimmaː ˥saʤiʃi ˞gaː˥reː ˥misamunu](手を振るときは手に手拭を持って振ればよいのに)。˞パー˥ク ˞ガー˥リ [˞paː˥ku ˞gaː˥ri](早く手を振れ)。

˞カー˥レー [˞kaː˥reː] 【固】人名。「生れ変り」の義。父の死後に生まれた子に命名する習慣があったという。˞カー˥レザー [˞kaː˥reʤaː](カーレ兄さん)。パ˞トゥ˥マナー ˞カー˥レーティ ˞スー˥ プ˞スヌ オーッ˥タン˞ナー [pḁ˞tu˥mana: ˞kaː˥reːti ˞suː˥ pu̥˞sunu ʔoːt˥tan˞naː](鳩間島にカーレーという人が居られたねえ)。

˞カー˥レザー [˞kaː˥reʤaː] 【名】(人) 男性の名前。カーレー兄さん。カーレー氏。˞カー˥レザー ˞キョーダイ˥ヤー ギュ˞タール オーッ˥タカヤー [˞kaː˥reʤaː ˞kjoːdai˥jaː gju˞taːru ʔoːt˥taːkajaː](カーレー兄さんの兄弟は何人おられましたかねえ)。

˞カー˥レドンドン [˞kaː˥redondoŋ] 【名】岩の名。˞ナードー [˞naːdoː](長堂) の海岸にある岩で直径約 80 センチ。高さ約 60 センチの岩。潮流によって砂浜に埋没することがあった。昭和 35 年ごろまで、子供達が潮干狩りのために、この岩の側を通過して屋良辺りへ行く際には必ず小石で岩の頭を叩きながら、˞カー˥レドンドン ˞バン˥タ ˞サンシェン˥ドー ヤ˞ギホン˥マ シ˞タ˥ドー [˞kaː˥redondom ˞ban˥ta ˞saŋʃen˥doː ja˞gihom˥ma ʃi˞ta˥doː](カーレドンドン私たちはしなかったよ。痩せた長姉がしたのだよ) と唱えて行く慣わしがあった。それを唱えて行くと安全に帰宅できると親たちから教えられていた。

˞ガーンカーン [˞gaːŋkaːŋ] 【副】がんがん。硬い物を叩いたり、切ったりする音の形容。実際の音をまねて言葉とした語。擬音語 (onomatopoeia)。˞ガーンカーン˥シ カ˞ニフン˥ ウティ ˞ベー˥モー ˞ター˥ヤ [˞gaːŋkaːŋ˥ʃi ka˞niɸuŋ˥ ʔuti ˞beː˥moː ˞taː˥ja](がんがんと鉄釘を打っているのは誰か)。

˞ガーンガーン [˞gaːŋgaːŋ] 【副】がーんがーん。じゃーんじゃーん。銅鑼の音を形容する擬音語 (オノマトペア)。˞プール˥ヌ バウ ˞ゾーラキヌ˥ ス˞クミ スンティ ガーンガーン˥シ ドゥ˞ラーンバ˥ ウティ ˞ナーラシ ベー [˞puːru˥nu ˥bau ˞ʤoːrakinu˥ su̥˞kumi sunti gaːŋgaːŋ˥ʃi du˞raːmba˥ ʔuti ˞naːraʃi beː](豊年祭の棒踊り、競演舞踊の仕組み < 予行演習。リハーサル > をしようとしてガーンガーン銅鑼を打ち鳴らしている)。

˞カーング [˞kaːŋgu] 【名】(動) 淡水魚の名。フナ (鮒)。西表島の川に棲息している。鳩間島の水田のある西表島北部一帯に、水田に水を引く˥シキ [˥ʃi̥ki](堰。いせき < 井堰 >) などに棲息していた。シ˞キム˥トーラ ˞カーング˥ シゥ˞カ˥ミ ˞クー˥タ [ʃi̥˞kimu˥ toːra ˞kaːŋgu˥ si̥˞ka˥mi ˞kuː˥ta](堰の上流からカーングを捕獲して <捕(ツカ)まえて > きた)。トゥ˞マダヌ˥ シ˞キ˥ムトゥナー ˞カーングヌ ベー˥タ ˞ベー˥ティ ウ˞リ˥ シゥ˞カ˥ミ ˥キー ˥シジ ヌ˞マシ˥ター ˥ニチェー サ˞マル˥タンティ˞ダー [tu˞madanu˥ ʃi̥˞kimutunaː ˞kaːŋgunu beː˥ta ˞beː˥ti ʔu˞riba˥ si̥˞ka˥mi ˥kiː ˥ʃiʤi nu˞maʃi̥˥taː ˥nitʃeː sa˞maru˥tanti˞daː](トゥマダ地区の井堰にはカーング < 鮒 > がいたので、それを捕獲してきて煎じてのませたらば熱は下がったそうだよ)。

˞ガーンパターン [˞gaːmpataːŋ] 【副】がたんごとん。がたんがたん。物音が高く、騒々しいさまを形容する擬音語 (オノマトペア)。イ˞ツァフンツァ˥ヌ ˞ウイ˥ナー ヤ˞ラビン˥メーヌ ˞ガーンパターン˥シ <˞ドーンパターン˥シ > シ˞マ˥ トゥリ ア˞サ ビベー [ʔi˞tsaɸuntsa˥nu ˞ʔui˥naː ja˞rabim˥meːnu

˩ga:mpata:ŋ˥ʃi <˩do:mpata:ŋ˥ʃi> ʃi˩ma˥turi ʔa˩sabi be:](床板の上で子供達がガタンバタンと騒々しく相撲をとって遊んでいる)。˩ドーンパターン [˩do:mpata:ŋ](どたんぱたん) ともいう。

˩カーンパタ˥ヤー [˩ka:mpata˥ja:] 【固】˩ダイ˥ケー [˩dai˥ke:](大工家) の別称。「井戸端の家」の義。˩カーンパタ˥グヮー [˩ka:mpata˥gwa:] ともいう。戦後西村のカツオ漁業を経営した大工定市氏の家。西村井戸の東南隣にあるのでそう呼ばれる。西村の˩シー˥シ [˩ʃi:˥ʃi](獅子頭) を保管管理している家である。˩カーンパタ˥ヤー <˩ダイ˥ケー > ナール ˩インヌムラヌ シー˥シェー カ˩キン˥グ ˩シーオー˥ル [˩ka:mpata˥ja: <˩dai˥ke: > na:ru ˩ʔinnumuranu ʃi: ˥ʃe: ka˩kiŋ˥gu ˩ʃi:ʔo:˥ru](井戸端の家 < 大工家 > に西村の獅子頭は保管管理されている)。

˩カイ [˩kai] 【名】お粥。「饘、厚粥也、加由 (かゆ)」『新撰字鏡』の転訛したもの。鍋に米を入れ、水を加え、その中に手を立てて水位が掌の中ごろに達するまで水を加えて炊いたご飯。老人や食欲のない病人のために炊いた。ア˩チ˥ビーカイ [ʔa˩ʧi˥bi:kai](硬めのお粥) と˥ゾールゾールカイ [˥ʤo:ruʤo:rukai](水分の多いお粥) がある。˩ザイレー˥マイ [˩ʤaire:˥mai](在来種の赤穂米) のお粥は、脂肪分があって病人食に喜ばれた。さらっとした味で、お粥の上澄み部分にうっすらと脂肪分が浮き出る。それが薄いバターのような味を出して、淡白なお粥に一味の奥深みを感じさせる。美味であった。フ˩チミーザ˥ヌ ˥ムヌン ッ˩ふァーランバ カイ˥ タ˩キミラン˥ノーレー [ɸu̥˩ʧimi:ʤa˥nu ˥munun f˩fa:ramba kai˥ tḁ ˩kimiran˥no:re:](何を食っても不味く < 口不味く > て食物が食べられないから、お粥を炊いてくれないか)。

˥カイ [˥kai] 【副】こう (斯う)。˥アイ ˩シー˥ カイ ˥シール ヤッ˩トゥ˥シ ス˩ダ˥ティ ˥ケール [˥ʔai ˩ʃi:˥ kai ˥ʃi:ru jat˩tu˥ʃi su˩da˥ti ˥ke:ru](ああし、こうしして < ぞ > やっとのことで育ててきたのだ)。˥アイカイ ˩スン˥ケン パリ˩ナー˥ヌ [˥ʔaikai ˩suŋ ˥kem pari˩na:˥nu](そうこうするうちに行ってしまった)。˥カイニ ˩シー˥バ [˥kaini ˩ʃi:˥ba](こう < このように > しなさいよ)。˥カイニ ˩シー˥バ [˥kaini ˩ʃi:˥ba](このように < こう > しなさいよ)。˥カイ ˩スー˥カー マ˩キス [˥kai ˩su:˥ka: ma˩kisu](斯うしたら負けるよ)。˥カイニ ˥カクカー カ˩キヤッ˥サン [˥kaini ˥kḁkuka: kḁ˩kijas˥saŋ](こう書いたら書きやすい)。˥アイ [˥ʔai](ああ。あのように) の対義語。˥アイカイ [˥ʔaikai](ああこう。そうこう) のように畳語化して用いられることもある。˥カイニンカー ム˩ヌ˥ヌ ミ˩ジラ˥サ ˥ピルマサ ス˩クラリン˥ツォーカー [˥kainim mu˩nu˥nu mi˩ʤira˥sa ˥pirumasa su˩kurarin˥tso:ka:](このようにも、物が珍しくも素晴らしく作られるものかね)。˥カイ ˩スーバル ウイヌ˥ プ˩ス˥ネー ˥ブリー ナ˩ラ˥ヌ [˥kai ˩su:baru ʔuinu˥ pu̥˩su˥ne: ˥buri: na˩ra˥nu](こうしたほうが目上の人に対して失礼 < 無礼 > にならない)。˥アイカイ ˩スン [˥ʔaikai ˩suŋ](そうこうする)。˥アイカイ ˩スン˥ケン ウ˩ワリナーン˥シェン [˥ʔaikai ˩suŋ˥keŋ ʔu˩warina:ŋ˥ʃeŋ](そうこうしているうちに終わってしまっていた)。˥カイニ ˩スー˥カー ˩シーヤッ˥サン [˥kaini ˩su:˥ka: ˩ʃi:jas˥saŋ](このようにしたらし易い)。˥カイニル ˩ター˥ヤ ˩カイ˥ス [˥kainiru ˩ta:˥ja ˩kai˥su](このように < ぞ > 田は耕すのだ)。

˥カイ [˥kai] 【名】陰。影。˩マープスマー˥ アツァユンダ ˩キーヌ˥ カイナーティ ア˩サビ˥バ [˩ma:pu̥-suma:˥ ʔatsajunda ˩ki:nu˥ kaina:ti ʔa˩sabi˥ba](真昼間は暑いから木の陰で遊びなさい)。プ˩スヌ˥ カイ ˩フンクナ [pu̥˩sunu˥ kai ˩ɸuŋkuna](人の影を踏むな)。˥カイナカー [˥kainaka:](陰。陰の中) ともいう。˥クマー ˩キー˥ヌ ˥カイ ˥ナリティ イッ˩ケナ˥ ピ˩ラ˥ケーン [˥kuma: ˩ki:˥nu ˥kai ˥nariti ʔik ˩kena˥ pi˩ra˥ke:ŋ](此処は木の陰になっていて非常に涼しい)。ティ˩ダ˥ヌ カ˩トン˥クカー ˥クマー ˥カイ ˥ナルン [ti˩da˥nu kḁ˩toŋ˥kuka: ˥kuma: ˥kai ˥naruŋ](太陽が西に傾くと、ここは陰になる)。

˩カイ [˩kai] 【名】甲斐。価値。効果。˥アイ ˩ブー˥カー ス˩ダティ˥ル ˩カイヤー ナー˥ヌ [˥ʔai ˩bu:˥ ka: su˩dati˥ru ˩kaija: na:˥nu](こんな状態でいるなら < こんなに居るなら >、育てる価値 < 甲斐 > がない)。˩ナン˥ギ ˥アウリバ ˩シー˥ ス˩ダ˥テール ˩カイヤー˥ ア˩リ˥ブバン [˩naŋ˥gi ˥ʔauriba ˩ʃi:˥ su˩da˥te:ru ˩kaija:˥ ʔa˩ri˥bubaŋ](難儀苦労 < 難儀哀れ > をしてして育てた甲斐がありおるわい)。ガ˩ク˥ムン シ˩メー˥ル ˩カイヤー˥ アン [ga˩ku˥muŋ ʃi ˩me:˥ru ˩kaija:˥ ʔaŋ](学問を受けさせただけの甲斐 < 価値・値打ち > はある)。

˩カイ [˩kai] 【名】長持ち。「け (笥)」食物を盛るうつわ (器)、物を入れるうつわ (器) の義。「家有者笥爾盛飯乎 (イヘニアレバケニモルイヒヲ)『万葉集』142」。「笥」は乙類の仮名 [ke 乙] であるから *kai に遡ることが出来る。鳩間島方言の˩カイ [˩kai](笥)

は、万葉語「け (笥)」の古形に繋がる可能性がある。「笥　介＜ケ＞、盛ル食器也」『和名抄』とあるが、鳩間方言の˩カイ˥キ [˩kai˥ki](皿) とも関係ある語か。鳩間島では木製の衣装箱を˩カイ [˩kai](長持) という。箪笥が家庭に普及する (大正期) 以前は、この˩カイ [˩kai] が嫁入り道具の一つとして重宝されたという。ク˩ヌ　カイヤー˥　アボー　˥ニービキ　˩シー　オーッ˥タ　˥バス　˥ムティ　˩オー˥レール　˥ムヌツォー [ku˩nu kaija:˥ ʔabo: ˥ni:biki ˩ʃi: ʔo:t˥tabasu ˥muti ˩ʔo:˥re:ru ˥munutso:](この長持ちは、お母さんが嫁入り＜結婚＞された時に持参された＜持ってこられた＞ものだそうだ)。

˩カイ [˩kai] 【接頭】特定の動詞を修飾して意味を強める機能を持つ。「かき (掻き)」の義。˩カイ˥トゥルン [˩kai˥turuŋ](盗む。奪い取る。略奪する。＜掻き取る＞)。プ˩スヌ˥　ム˩ヌ˥バ　˩カイ˥トゥレーナ˩ラン˥ダー [pu̥˩sunu˥ mu˩nu˥ba ˩kai˥ture: na˩ran˥da:](他人の物を盗んではいけないよ)。イ˩カーラ˥　ノー˩ン　ヤラバン˥　アイニ　ム˩ニ˥バ　˩カイカサ˥ミ　プ˩スバ˥　イ˩ズ˥　ク˩トゥ˥ヌ　˩アン [ʔi˩ka:ra˥ no:˩ɲ jarabaŋ˥ ʔaini mu˩ni˥ba ˩kaikasa˥mi pu̥˩suba˥ ʔi˩ʤu˥ku̥˩tu˥nu ˩ʔaŋ](いくらなんでも、あんなにむちゃくちゃに言葉尻を掴んで他人を叱ることがあるか)。˩カイスン˥グリ [˩kaisuŋ˥guri](ぶん殴り)。

˩カイ [˩kai] 【接頭】˩カイ˥ヤン [˩kai˥jaŋ](美しい) の語幹。そのままで特定の名詞を修飾して、その意味内容を飾り立て、「美しい」、「立派な」、「安全な」等の意味を添える。˩カイ˥タビ [˩kai˥tabi](安全な航海＜旅＞)。˩カイピュー˥ル [˩kaipju:˥ru](吉日。いい日和)。˩カイ˥トゥキ [˩kai˥tuki](好機。チャンス)。˩カイ˥ダキ [˩kai˥daki](美しい山々)。˩カイ˥マリ [˩kai˥mari](立派な生まれつき。優れた血統の生まれつき)。/パトゥマナカムリ　パリヌブリ　クバヌシタニ　パリヌブリ　ハイヤヨー　ティバ　カイダキ　ティトゥルトゥ　テンヨー　マサティ　ミグトゥ/(鳩間中岡　走って登り、クバ＜蒲葵＞林の下に　走って登り、南の方はとて　見れば　美しい古見の山々が手に取る如くまことに優れて美しく見事である)「パ˩トゥ˥マナカムリ (鳩間中岡)」『鳩間誌』。

˥ガイ [˥gai] 【名】[1]ご飯やお汁をすくう杓子。飯をよそう道具。˩イー˥ガイ [˩ʔi:˥gai](杓子。杓文字)。「木刀、イヒカヒ」『色葉字類抄』、「Iygai. イイガイ (飯匙・飯掻) 飯を椀に盛るのに用いるある小さな杓子」『邦訳日葡辞書』。の転訛したもの。˩スー˥ガイ [˩su:˥gai](汁杓子)。戦後の一時期まで、西表島で通耕する際、キ˩ザ˥ク [ki˩ʤa˥ku](ヒルギシジミ貝やシレナシジミ貝) の殻に柄をつけて杓子に使っていた。[2]食べ物を掬って取る用具。匙。ガイ˩ヤー˥マ [gai˩ja:˥ma](小匙)。˥ガイシ　ユ˩ナ˥ク　ス˩クイ˥　ッ˩ふァイ˥バ [˥gaiʃi ju˩na˥ku su̥˩kui˥ f˩fai˥ba](匙で麦焦がしを掬って食べなさいよ)。さじ。スプーン。˩ガイ˥ヤー　˩ナーン˥カー　ガ˩ジマル˥ヌ　˩パー˥シ　ユ˩ナ˥ク　ス˩クイ˥　ッ˩ふァイ˥バ [˩gai˥ja: ˩na:ŋ˥ka: ga˩ʤimaru˥nu ˩pa:˥ʃi ju˩na˥ku su̥˩kui˥ f˩fai˥ba](匙＜スプーン＞が無ければガジマルの葉で麦焦がしを掬って食べなさいよ)。

˩ガイ [˩gai] 【名】害。毒。キ˩ジムティ˥プソー　ク˩ヌ˥　イ˩ズ˥　ッ˩ふー˥カー　˩ガイ　スン˥ティ˩ダー＜ン˩バウン˥ディダー＞[ki˩ʤimuti˥pu̥so: ku˩nu˥ ʔi˩ʤu˥ f˩fu:˥ka: ˩gai sun˥ti˩da: ＜m˩baun˥dida:＞](傷を持っている人＜傷持ち人、怪我人＞は、この魚を食べると傷が害＜化膿＞するってよ)。ウ˩ヤザ˥トゥ　ム˩シヌ　ガイヌ　スー˥ワティ　パ˩マウリソー˥ジ　˩ソーッ˥タツォー [ʔu˩jaʤa˥tu mu˩ʃinu gainu su:˥wati pa˩maʔuriso:˥ʤi ˩so:t˥tatso:](鼠と害虫＜虫＞の被害が大きい＜強い＞ので パマウリソージ＜稲の下葉に害虫が付かぬよう、村中の人が˥サンシキ [˥saŋʃi̥ki] に集まって、サ˩カサ [sḁ˩kasa]＜司。巫女＞やティ˩ジリ˥ビ [ti˩ʤiri˥bi]＜男性神職者＞が友利御嶽で祈願をしている間、寝て過ごす、浜下り精進の祈願＞をされたそうだ)。

˩ガイ [˩gai] 【名】[1]反抗。抵抗。フ˩チガイ [ɸu˩ʧigai](口答え。＜口で反抗すること。「口害」の義＞) と˩ティーン˥カイ [˩ti:ŋ˥kai](手向かい。はむかい。腕力で反抗すること) などがある。カ˩ヌ˥　ヤ˩ラ˥ベー　ウ˩ヤン˥ナーニン　˩ガイ　シース˥ツォー [ka˩nu˥ ja˩ra˥be: ʔu˩jan˥na:niŋ ˩gai ʃi:su˥tso:](あの子＜童＞は親にも反抗するそうだ)。[2]邪魔。阻害。災い。˥アミン　˩ガイ　シラリティル˥　ンジペーリン　ナ˩ラン˥バン [˥ʔamiŋ ˩gai ʃiraritiru˥ ʔnʤipe:rin na˩ram˥baŋ](雨に災いされて外出＜出入り＞が出来ないわい)。

カイー˩カイ [kai:˩kai] 【副】(副) 見事に。すっかり。完全に。綺麗に。続く用言を修飾し、その意味内容を (迷惑の受身) を強調表現する。˩ウンザンマー˥　カイー˩カイ　カシゥカーサ˥リティル　ウ˩ル˥ケーティ　˩アー˥ク　ダ˩レー [˩ʔunʤamma:˥ kai:˩kai kasi̥ka:sa˥ritiru ʔu˩ru˥ke:ti ˩ʔa:˥ku da˩re:](あの野郎

にはすっかり＜きれいに＞騙されて欠損をしている＜あるく＞んだよ)。

カイー˩カイ˥シ [kaiː˩kai˥ʃi] 【副】美しく。きれい (綺麗) に。˩カイ˥ヤン [˩kai˥jaŋ](美しい) の語幹を畳語化して副詞を形成したもの。˩ヤー˥ヤ　イッ˩チン˥　カイー˩カイ˥シ　˥カキソージ　シ˩ティ˥　ドゥーパダン　ア˩ザケーアザケー˥シ　˩シェー˥ティ　˩アー˥キ˩ダー [˩jaː˥ja ʔit˩ʧiŋ˥ kaiː˩kai˥ʃi ˥kq̣kisoːʤi ʃi˩ti˥ duːpadaŋ ʔa˩ʤa˩keːʔaʤakeː˥ʃi ˩ʃeː˥ti ˩ʔaː˥ki˩daː](家はいつも綺麗に掃き掃除をして、体も清潔にしていなさい＜〜にしてあるきなさい＞よ)。トゥ˩ジブトー˥　ナカー　カイー˩カイ˥シ　ブ˩リバル˥　キ˩ナイヤー˥　ムティ　˥タティ　パ˩ラ˥リ˩ダー [tu˩ʤibutoː˥ naka: kaiː˩kai˥ʃi bu˩ribaru˥ ki˩naijaː˥ muti˥tq̣ti pa˩ra˥ri˩daː](夫婦は仲良く＜仲をきれいに＞していたほうが＜して居ればこそ＞家庭は維持できる＜持って行かれる＞のだよ)。

カイー˩カイヌ [kaiː˩kainu] 【連体】綺麗な。「綺麗綺麗の」の義。形容詞の語幹の重複部に格助詞ヌ (の) がついて体言を修飾する。カイー˩カイヌ˥＜˩カイ˥ヤー＞　キン　キ˩シ　ベー [kaiː˩kainu˥ ＜˩kai˥jaː＞ kiŋ kị˩ʃi beː](綺麗な着物を着ている)。

˩カイオシ˥キ [˩kaiʔoʃị˥ki] 【名】好天。よい天気。「綺麗な天気」。˩カイオシキ˥ヌ　˩ナーシジキ　スー˥カー　ヤー˩ディン　オシケー˥　ヤ˩ビ˥ス [˩kaiʔoʃị˥ki˥nu ˩naːʃiʤiki suː˥ka: jaː˩diŋ ʔoʃị˥keː˥ ja˩bi˥su](好天が長続きすると、必ず天気は崩れ＜破れ＞る)。

˩カイカサ˥ムン [˩kaikasa˥muŋ] 【他動】ひっ捕まえる。とっつかまえる。強く掴む。「カイ＜接頭語＞・カサムン＜掴む＞」よりなる。˩ピンガサン˥ヨーニ　˩ティーヌフビ˥バ　˩カイカサ˥ミ　˩サンギ　サー˥ク [˩piŋgasaŋ˥joːni ˩tiːnuɸubi˥ba ˩kaikasa˥mi ˩saŋgi saː˥ku](逃がさないよう、手首をひっ捕まえて引張ってこい)。

˩カイ˥キ [˩kai˥ki] 【名】皿。陶磁器の皿類。「笥(ケ)」(物を盛り、また入れる器) の転訛したもの。「家にあれば笥尓盛飯乎＜ケニモルイヒヲ＞〜。万、142」。「食、クヒモノ・ケ」『類聚名義抄』。˥スルイ [˥surui](陶磁器の小皿) ともいう。カイ˩ケー˥マ [kai˩keː˥ma](小皿) は取り皿用に用いられることが多い。ウ˩サイ˥ヤー　˩ナーメーメーヌ　カイ˥キナ　イ˩リオーシリ [ʔu˩sai˥jaː ˩naːmeːmeːnu kai˥kina: ʔi˩ri ʔoːʃiri](ご馳走＜お菜＞は銘々の皿に入れて差し上げなさい)。˩カイキ˥ヌ　˥アル　カ˩カ˥ラー　ムー˩ル˥　ン˩ザ˥シ [˩kaiki˥nu ˥ʔaru kq̣ka˥raː muː˩ru˥ ʔn˩ʤa˥ʃi](皿のある限り総て出せ)。「ケ乙 (笥)＜食物を盛る器。食器＞」の古形か。奈良時代のe乙類母音はaiに遡るといわれている。「キ」は石垣方言では「キゥ」となるので、甲類の仮名に対応すると考えられるから、「つき＜盃＞(飲食物を盛る器)『類聚名義抄』」の「キ」に対応すると考えられる。ウ˩サイ˥ヤー　˩カイ˥キナ　イ˩リティ　パイ　オーシ [ʔu˩sai˥jaː ˩kai˥kina ʔi˩riti pai ʔoːʃi](ご馳走＜お菜＞は小皿に入れて、配って差し上げなさい)。

˩カイ˥キシキン [˩kai˥kị̣ʃikiŋ] 【名】晴れ着。よそ行きの着物。普通はア˩ラキン [ʔa˩rakiŋ](新しい着物) といいう。「美しく着る衣」の義。対義語は、フ˩タ˥キシキン [ɸu̥˩ta˥kị̣ʃikiŋ](普段着)。˥ソンガチ˩ナー˥ル　˩カイ˥キシキンマー (ア˩ラキンマー)　˩サーソーッタ˥ル [soŋgatʃi˩naː˥ru ˩kai˥kị̣ʃikimmaː(ʔa˩rakimmaː) ˩saːsoːtta˥ru](正月にしか＜〜にぞ＞晴れ着は作られ＜新調され＞なかった＜作られたものだ＞)。

˩カイキシキン [˩kaikị̣ʃikiŋ] 【名】着替え。「替えて着る着物」の義。˥バー　˩カイキシキンマー˥＜ア˩ラキンマー˥＞　マナー　ア˩ル˥ワ [˥baː ˩kaikị̣ʃikimmaː˥ ＜ʔa˩rakimmaː˥＞ manaː ʔa˩ru˥wa](私の着替えは何処にあるか)。

˩カイキスン [˩kaikị̣suŋ] 【他動】着替える。「替え着る」の義。˩キン˥ヌ　˩ゾーリ　ベー˥ティ　˥キン　˩カイキスンティ　ベー [˩kin˥nu ˩ʤoːri beː˥ti ˥kiŋ ˩kaikị̣sunti beː](着物が濡れているので、着物を着替えようとしている)。˩カイキサヌ [˩kaikị̣sanu](着替えない)。˩カイキシ˥　ミサン [˩kaikị̣ʃi˥ misaŋ](着替えてよい)。˩カイキス　キン˥マー　˥マナール　ア˩ル˥ワ [˩kaikị̣su kim˥maː ˥manaːru ʔa˩ru˥wa](着替え＜着替える着物＞は何処にあるか)。˩パー˥ク　˩カイキシェー˥　ミサムヌ [˩paː˥ku ˩kaikị̣ʃeː˥ misamunu](早く着替えれば良いのに)。˥キン　˩カイキシ˥バ [˩kiŋ ˩kaikị̣ʃi˥ba](着物を着替えなさいよ)。˥キン　˩カイキスン [˥kiŋ ˩kaikị̣suŋ](着物を着替える)。マ˩ナ˥マー　˩カイキサンドー˥シ　˥アトーラ　˩カイキシ˥バ [ma˩na˥maː ˩kaikị̣sandoː˥ʃi ˥ʔatoːra ˩kaikị̣ʃi˥ba](今は着替えないで、後で着替えなさいよ)。マ˩ナ˥マ　˩カイキシ˥　ミサカー　˩カイキス˥　クトー　˥ナルン [ma˩na˥ma ˩kaikị̣ʃi˥ misakaː ˩kaikị̣su˥ kutoː ˥naruŋ](今着替えてよければ着替えることは出来る)。˩カイキシ　ベー [˩kaikị̣ʃi beː](着替えている)。

˩カイ˥キスン [˩kai˥kị̣suŋ] 【他動】かっきる (掻っ切る)。「掻き切る」の転訛したもの。サ˩バー˥　サ˩

バナーン　カイ˺キスン˹ダー [saˈbaː˺ saˈbanaːŋ kai ˺kᵢsunˈdaː](鱶は鱶釣り縄をも掻っ切るよ)。˹ナイ˺ロンナー　ヤ˹ルンダ˺　ヤ˹シーヤシー　カイキサ˺ヌ [ˈnai˺ronnaː jaˈrunda˺ jaˈʃiːjaʃiː kaikᵢsa˺nu](ナイロン製の鱶釣り縄だから、やすやす＜易々＞とは掻っ切れない)。

˹カイ˺ク **[ˈkai˺ku]** 【名】(動) カイコ (蚕)。古老は、˺マンムシ [˺mammuʃi](蚕。「繭虫」の義か) ともいう『八重山語彙』。イ˹クサユー˺ヌ　アトゥ˹バー˺キ　˹ヤーカー˺ジ　˹カイ˺コー　シゥ˹カ˺ナイ　˹オーッ˺タン [ʔiˈkusajuː˺nu ʔatuˈbaː˺ki ˈjaːkaː˺ʤi ˈkai˺koː sᵢ˺ka˺nai ˈʔoːt˺taŋ](戦後＜戦世の後＞まで家ごとにカイコ＜蚕＞を飼っておられた)。

˹カイクムン **[ˈkaikumuŋ]** 【他動】買い込む。多量に買い入れる。˹トーカキ˺ヌ　˹ヨイ˺ヌ　ス˹コール　スンダ˺　タ˹ニユー˺トゥ　ミ˹リキング˺トゥ　サ˹キバ　カイクミ˺　クー [ˈtoːkaki˺nu ˈjoi˺nu sᵤ˺koːru sunda˺ taˈniju˺ːtu miˈrikiŋgu˺tu sᵩ˺kiba kaikumi˺ kuː](米寿のお祝いの準備をするから種油とメリケン粉と酒を買い込んで来い)。˹タンガ˺シ　˹カイクムン [ˈtaŋga˺ʃi ˈkaikumuŋ](一人で買い込む)。マ˹ナ˺マー　˹カイクマンドー˺シ　˺アトーラ　˹カイクミ˺バ [maˈna˺maː ˈkaikumando˺ːʃi ˺ʔatoːra ˈkaikumi˺ba](今は買い込まないで、後から買い込めよ)。˹カイクメー˺　ミサムヌ [ˈkaikume˺ː misamunu](買い込めば良いのに)。

˹カイクル˺ブン **[ˈkaikuru˺buŋ]** 【自動】勢いよく転倒する。ぶっ転ぶ。ひっくり返る。「カイ＜掻き＞接頭語・クルブン＜転ぶ＞」の義。ス˹バ˺ミー　˹シェー˺ティ　ア˹ラ˺キ　˹アー˺クンケンマー　イ˹シ˺ナー　シ˹キッ˺クミ　˹カイクル˺ビ　˹シーナー˺ヌ [suˈba˺miː ˈʃeː˺ti ʔaˈra˺ki ˈʔaː˺kuŋkemmaː ʔiˈʃi˺naː ʃᵢ˺kik˺kumi ˈkaikuru˺bi ˈʃiːnaː˺nu](余所見をして歩いていると、石に突っ込んで、ひっくり返って＜転倒して＞しまった)。シゥ˹カンクル˺ブン [sᵢ˺kaŋkuru ˺buŋ](ひっくり返る) ともいう。

˹カイクン **[ˈkaikuŋ]** 【名】1地名。西表島上原の開墾地。戦後沖縄や宮古島から移民が入植して開墾した所。中野集落。鳩間島の人は、そこを˹カイクン (開墾地) と称した。ウ˹ボーダ˺ヌ　˺マーラー　˹メークプスヌ　カイクン　ソー˺レーミー [ʔuˈboːda˺nu ˺maːraː ˈmeːkupᵤsunu kaikun soː˺reːmiː](ウボーダーの辺りは宮古の人が開墾されたんでしょう)。イ˹ゾー　カイクン˺ナーティ　˹カーシタ [ʔiˈʤoː kaikun ˺naːti ˈkaːʃᵢta](魚は開墾地＜中野集落＞で売った)。2開墾。˹ウイバル˺ナール　˹カイクン˺　アコーッタ [ˈʔuibaru˺naːru ˈkaikuŋ˺ ʔaˈkoːt˺ta](上原で開墾地は開拓された)。

˹カイ˺シ **[ˈkai˺ʃi]** 【名】1返礼。お返し。˹トーカキ˺ヌ　˹ヨイシヌムヌ˺ヌ　˹カイ˺シェー　ス˹コーレーン [ˈtoːkaki˺nu ˈjoiʃinu munu˺nu ˈkai˺ʃeː sᵤ˺koːreːŋ](米寿のお祝いのお返しは準備出来たかねえ)。2吹き返し。˹タイフー˺ヌ　ス˹ギル˺ター　˹カイ˺シェー　˹サン˺ヌパーラ　フ˹キカバ˺シ　˺キー　ナ˹クラー˺タン [ˈtaiɸuː˺nu suˈgiru˺taː ˈkai˺ʃeː ˈsan˺nupaːra ɸᵤ˺kikaba˺ʃi ˺kiː naˈkuraː˺taŋ](台風が通過したら、吹き返しが南西＜申＞の方角から吹き襲ってきて怖かったよ)。

˹カイ˺シ **[ˈkai˺ʃi]** 【名】釣銭 (お釣)。˹カイ˺シェー　˹クー˺ジンシ　ッ˹ふォー˺リバ [ˈkai˺ʃeː ˈkuː˺ʤiŋʃi fˈfoː˺riba](お釣は小銭で下さいよ)。

˹カイシ˺ウン **[ˈkaiʃi˺ʔuŋ]** 【名】鍬で掘り起こした芋。「耕し芋」の義。普通の芋は、鍬で耕すようにして掘り出した。プ˹リ˺ウン [puˈri˺ʔuŋ](堀り芋) は、カ˹ノーシ [kaˈnoːʃi](金串) で実の大きな芋だけを選んで掘り出したもの。小さな芋は残して大きくなった頃に掘りだした。˹カイシウン˺マー　カ˹ナパイ˺シ　˹カイ˺シ　˺トゥルンダ　グ˹マー˺ン　˹マイ˺ヤン　マ˹ザーリ˺ス [ˈkaiʃiʔum˺maː kaˈnapai˺ʃi ˈkai˺ʃi ˺turunda guˈmaː˺m ˈmai˺jam maˈʤaːri˺su](耕して掘る芋は鍬で耕して取るのだから、小さいのも大きいのも混ざってしまう)。

˹カイ˺シェーマーシェー **[ˈka˺iʃeːmaːʃeː]** 【副】繰り返して裏返すさま。何度も裏返して。「返し回し」の義。シ˹ナムヌバ　カイ˺シェーマーシェー　˹シー˺　シ˹ラ˺ビ　フ˹シ˺　トゥルンティ　˹ベー [ʃiˈnamunuba ˈkai˺ʃeːmaːʃeː ˈʃiː˺ ʃiˈra˺bi ɸᵤ˺ʃi˺ turunti ˈbeː](品物を何度も裏返して調べ、欠点＜癖＞を見つけ出そう＜取ろう＞としている)。ミ˹ジラ˺サティ　˹カイ˺シェーマーシェー　˹シー˺　ミリ　˹ベー [miˈʤira ˺sati ˈkai˺ʃeːmaːʃeː ˈʃiː˺ miri ˈbeː](珍しいので、ひっくり返し返しして見ている)。

˹カイシカイ˺シ **[ˈkaiʃikai˺ʃi]** 【副】繰り返し返し。再三再四。˺メー　ア˹ズナ˺ティ　ア˹ズンドゥ　カイシカイ˺シ　ユ˹ヌムニバ˺ル　ユム˹ツォー [˺meː ʔaˈʤuna˺ti ʔaˈʤundu kaiʃikai˺ʃi juˈnumuniba˺ru jumu ˈtsoː](もう言うなというけれど、繰り返し返し同じことを喋りやがるんだよ)。

˹カイシ˺カジ **[ˈkaiʃi˺kaʤi]** 【名】台風の吹き返し。「返し風」の義。˹カイ˺シ [ˈkai˺ʃi](吹き返し) ともいう。˹

カイシ˥カジェー　˩マービン˥ドゥ　˩スー˥ワティ　ア˩ザリ　ブー [˩kaiʃi˥kaʤe: ˩ma:bin˥du ˩su:˥wati ʔa ˩ʤari bu:](吹き返しは、更に強いといわれている)。

˩カイシキ˥ジン [˩kaiʃi̥ki˥ʤiŋ] 【名】会席膳。祝儀の席に会席料理を乗せて出す膳。1 尺 2 寸四方の脚のない膳。祝儀の際は朱塗りの膳、不祝儀の際は黒塗りの膳を用いた。˩ヨイ˥ヌ　ウ˩サイ˥ヤー　˩シームヌトゥ　カイシキ˥ジンナー　˩ヌーシティ˥ン˩ザ˥ソーッタ [˩joi˥nu ʔu˩sai˥ja: ˩ʃi:munutu kaiʃi̥ki˥ʤinna: ˩nu:ʃi̥ti˥ ʔn˩za˥so:tta](お祝いの御馳走 (御菜) は吸い物と会席膳に乗せて出された)。

˩カイシナ˥タ [˩kaiʃina˥ta] 【名】姿形。「影・姿」の義。チ˩カ˥グロー　˩カイシナ˥ターンツァン　ミ˩ララ˥ヌ [ʧi̥˥ka˥guro: ˩kaiʃina˥ta:ntsam mi˩rara˥nu](最近は姿形 < 影・姿 > すら見えない)。

˩カイシ˥フチ [˩kaiʃi˥ɸu̥ʧi] 【名】鍬で耕している真ん前。耕しいる所の真正面。「耕し口」の義。カ˩ナパイヌ　カイシ˥フチナ　タ˩トゥ˥ナ [ka˩napainu kaiʃi˥ɸu̥ʧina tḁ˩tu˥na](鍬で耕している真正面 < 耕し口 > に立つな)。

˩カイ˥シマー [˩kai˥ʃima:] 【名】着物の裏返し。あべこべ。若年層は、˩カイ˥サマー [˩kai˥sama:](裏返し) ともいう。「かへさま (反様) に縫ひたるもねたし『枕草子』」の転訛か。˩キン˥バ　˩カイ˥シマー　ナシ　キ˩スモー˥　ア˩ラ˥ヌ [˩kim˥ba ˩kai˥ʃima: ˥naʃi ki̥˩sumo:˥ ʔa˩ra˥nu](着物を裏返しにして着るものではない)。˥ウラー　ウ˩ム˥ティ　˥ナシ [˥ʔura: ʔu˩mu˥ti ˥naʃi](裏を表になして)。ッ˩サー　ウイ˥　ナシ [s˩sa: ʔui˥ nasi](下は上になして) ともいう。

˩カイ˥シムドゥシ [˩kai˥ʃimuduʃi] 【名】釣銭。おつり。「返し戻し」の義。˩カイ˥シムドゥシヌ　タ˩ラーンバ˥　ン˩メーマ˥マティ˩ヨー [˩kai˥ʃimuduʃinu ta˩ra:mba˥ ʔm˩me:ma˥ mati˩jo:](釣銭が足りないので、少し待ってね)。

˥カイジョー [˥kaiʤo:] 【名】海上。海路。˥カイショー [˥kaiʃo:](海上) ともいう。歌謡語。/カイショー　ウダヤカ　イチローヘイアン　カリユシカリユシ/(海上穏やかで一路平安 < 航海安全 >、嘉例吉嘉例吉 < 目出度い目出度い >)。

˩カイ˥シラ [˩kai˥ʃira] 【名】さんじょく (産褥) が無事に経過すること。お産が軽くすむこと。産後の肥立ちが良好であること。「美しい < きれいな > 産褥」の義。˩チャー　カイ˥シラ　ア˩ラ˥シミ　タ˩ボー˥リ [˩ʧa: kai˥ʃira ʔa˩ra˥ʃimi ta˩bo:˥ri](いつも良好な産褥 < 無事に産褥を経過し、産後の肥立ちを良好 > にあらしめて下さい)。˩カイ˥シラ　˥プス　ヤ˩ルンダ　ソーヤ　ナー˥ヌ [˩kai˥ʃira ˥pu̥su ja˩runda so:ja na:˥nu](お産の軽い人 < 産褥が良好な人 > だから心配はない)。

˩カイ˥ジン [˩kai˥ʤiŋ] 【名】四十九日忌。「かいげん (開眼)」の転化したもの。死者は死後四十九日 < 七七忌 > の法事で成仏するといわれ、その日を限って白い位牌を廃し、本位牌に移した。四十九日以内に正月が来る時は、位牌に掛けた白い紙や白い花は側に寄せて、先祖代々の位牌には白い紙で斜めに襷 (タスキ) をかけておいて正月を迎え、その後に法事を迎えるという。パ˩トゥ˥マ　プソー　˥シンズク　˩シー　オーサン˥カー　˩カイ˥ジン　˩ソーラン˥セン [pḁ˩tu˥ma ˥pu̥so: ˥ʃinʤuku ˩ʃi: ʔo:saŋ˥ka: ˩kai˥ʤin ˩so:raŋ˥ʃeŋ](鳩間の人は四十九日の法事をして差し上げないと˩カイ˥ジン < 開眼 > をされなかった)。

˩カイ˥スン [˩kai˥suŋ] 【他動】耕す。田や畑を耕す。「墾、カヘス」『類聚名義抄』、「耕、田皮、タカヘス」『類聚名義抄』の転訛したもの。パ˩タ˥キ　˩カイシ˥　プサン [pḁ˩ta˥ki ˩kaiʃi˥ pu̥saŋ](畑を耕したい)。˥ター　˩カイ˥スンティ　˩ベー˥ンドゥ　˩キー˥パイシェー　˩カイサラ˥ヌ [˥ta: ˩kai˥sunti ˩be:˥ndu ˩ki:˥paiʃe: ˩kaisara˥nu](田を耕そうとしているが、木鍬では耕されない)。˥ター　˩カイ˥シ　˥ミサカー　˩カイ˥ス　˥クトー　˥ナルン [˥ta: ˩kai˥ʃi ˥misaka: ˩kai ˥su ˥ku̥to: ˥naruŋ](田圃を耕してよければ、耕すことはできる)。˩パー˥ク　˩カイ˥シェー　˥ミサムヌ [˩pa:˥ku ˩kai˥ʃe: ˥misamunu](早く耕せばいいのに)。˩マー˥ビン　˩カイ˥シ [˩ma:˥biŋ ˩kai˥ʃi](もっと耕せ)。˩カイシグリ˥サン [˩kaiʃiguri˥saŋ](耕しにくい)。

˩カイ˥スン [˩kai˥suŋ] 【他動】 1返す。返済する。「〜敷きたへの蘇泥可弊之都追 < ソデカヘシツツ >〜。万、3978」の義。カ˩ルタ　ジン˥マー　˩パイ˥サ　˩カイ˥シ˩ヨー [ka˩ruta ʤim˥ma: ˩pai˥sa ˩kai˥ʃi˩jo:](借りた金は早く返しなさいよ)。カ˩ルタ　ジン˥マー　˩カイ˥スンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　マ˩ナ˥マー　˩カイサラ˥ヌ [ka˩ruta ʤim˥ma: ˩kai˥sunti ʔu˩mu:n˥du ma˩na˥ma: ˩kaisara˥nu](借りた金は返そうと思うが、今は返せない)。˩カイ˥シ　˥ミサカー　˩カイ˥ス　˥クトー　˥ナルン [˩kai˥ʃi ˥misaka: ˩kai˥su ˥ku̥to: ˥naruŋ](返して良ければ返すことはできる)。ムー˩ル　カイ˥シェー　˥ミサムヌ [mu:˩ru kai˥ʃe: ˥mis-amunu](全部返せばいいのに)。˩パー˥ク　˩カイ˥シ [˩pa:˥ku ˩kai˥ʃi](早く返せ)。2裏返す。˩キン˥マー　˩カ

イ˜シティ　˜プシバ [˞kim˜ma: ˞kai˜ʃi̥ti ˜pu̥ʃiba](着物は裏返して干しなさいよ)。3戻す。帰す。˞キュー˜ヤ　˞カイサラ˜ヌ [˞kju:˜ja ˞kaisara˜nu](今日は帰されない＜帰せない＞)。ク˞レー˜　ムトゥ　˞アッ˜タン　˜トンナー　˞カイ˜シ　シ˞キラン˜カー　イ˞ザリン˜ダー [ku˞re:˜ mutu ˞ʔat˜tan ˜tonna: ˞kai˜ʃi ʃi̥˞kiraŋ˜ka: ʔi˞ʤarin˜da:](これは、元あった所に戻して置かないと叱られるぞ)。3耕す。掘り返す。「墾、カヘス『類聚名義抄』」の転訛か。パ˞タ˜キ　˞カイ˜スン [pḁ˞ta˜ki ˞kai˜suŋ](畑を耕す)。パ˞タ˜キ　˞カイ˜ス　プ˞スヌ˜　ブ˞ラーヌ [pḁ˞ta˜ki ˞kai˜su pu̥˞sunu˜ bu˞ra:nu](畑を耕す人もいない)。˞マー˜ビン　˞カイ˜シェー　˜ミサムヌ [˞ma:˜biŋ ˞kai˜ʃe: misamunu](もっと耕せばよいのに)。4他の動詞の連用形に下接して、その動作を「繰り返す」意味を表す。ウ˞ヤ˜ヌ　ク˞トゥ˜バ　ナー˞イ˜　ウ˞ムイカイ˜シ　˞ベー [ʔu˞ja˜nu ku̥˞tu˜ba na:˞i˜ ʔu˞muikai˜ʃi ˞be:](親のことを、ただ思い返している)。5他から受けた動作に対し、相手に対し反問の動作をくり返す。˞ミン˜ヌ　シゥ˞カランドゥ　ブー˜ユー　ヤー˞ディン　トゥイカイシ˜ドゥ　˞スー [˞min˜nu si̥˞karandu bu:˜ju: ja:˞din tuikaiʃi˜du ˞su:](耳が聞こえないので＜ぞ＞あろうか、必ず問い返しを＜ぞ＞する)。

˞ガイ　スン [˞gai suŋ] 【連】1反抗する。手向かう。逆らう。ウ˞ヤ˜ヌ　˜ムニン　シゥ˞カヌ˜　イ˞ズ˜カー　˞カイ˜テー　˞ガイル　スー [ʔu˞ja˜nu ˜munin si̥˞kanu˜ ʔi˞ʤu˜ka: ˞kai˜te: ˞gairu su:](親のいうことも聞き入れない＜聞かない＞。叱ると、返って＜逆に＞反抗をする)。ウ˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　ウ˞ヤン˜ナーニ　˞ガイ　スン˜ティ˞ダー [ʔu˞nu˜ f˞fa:˜ ʔu˞jan˜ na:ni ˞gai sun˜ti˞da:](この＜その＞子は親に反抗するそうだよ)。2傷や出来物、腫れ物を悪化させる。体に悪く作用する。ク˞レー˜　シ˞バラムヌ˜　ヤ˞ルンダ˜　ッ˞ふー˜カー　ア˞シ˜ブナー　˞ガイル　スー [ku˞re:˜ ʃi˞baramunu˜ ja˞runda˜ f˞fu:˜ka: ʔa˞ʃi ˜buna ˞gairu su:](これは傷や腫れものを悪化させやすい食物＜もの＞だから、食べると御出来を悪化させる)。

˞カイスン˜グリ [˞kaisuŋ˜guri] 【名】ぶん殴り。ヤ˞ラビ˜ヌ　ヤ˞ナクトゥ　スー˜カー　ビ˞ケーヤ　カイスン˜グリ　ナ˞ラーシ˜　ソーッタ [ja˞rabi ˜nu ja˞nakutu su:˜ka: bi˞ke:ja kaisuŋ˜guri na˞ra:ʃi˜ so:tta](子供が悪いことをすると、父親はぶん殴って教えなされた)。

˞カイゾージ [˞kaiʤo:ʤi] 【名】買い物上手。˞買い上手」の義。ウ˞レー˜　マ˞チヤー˜ラ　マ˞トゥミガイ　シー　ヤッ˜サ　˞カウンダ　カイゾージ [ʔu˞re:˜ ma˞ʧija:˜ra ma˞tumigai ʃi: jas˜sa ˞kaunda kaiʤo:ʤi](彼＜それ＞はお店から纏め買いして安く買うから買い上手だ)。

˞カイダージー [˞kaida:ʤi:] 【名】カイダー字。文字を知らない農民が用いた一種の象形文字。米の数量、納税記録の控えとして板に書いて用いられたという。例えば、□は一合、△は一勺、○は一表(三斗入り)。与那国島の˞カイダージーは夙に有名である。˞カイダージーヤ˜　パ˞トゥ˜マナテー　グ˞サークマイ˜ヌ　˜フカー　˞ナン˜ゾー　ヌ˞カ˜リ　ブ˞ラーヌ [˞kaida:ʤi:ja˜ pḁ˞tu˜manate: gu˞sa:kumai˜nu ɸu̥ka: ˞nan˜ʤo: nu˞ka˜ri bu˞ra:nu](カイダー字は、鳩間島では五勺米の記録の他はあんまり残ってない)。

˞カイ˜ダキ [˞kai˜daki] 【名】美しい山。美しい岳。/パトゥマナカムリ　パリヌブリ　クバヌ　シタニ　パリヌブリ　パイヤヨーティバ　カイダキ　ティトユル　テンヨー　マサティ　ミグトゥ/(鳩間中岡へ駆け上り、クバ＜蒲葵＞の下へ駆け上り、南の方の眺望はというと、美しい山＜岳＞が手に取るようで、誠に優れて見事である)「鳩間中岡」。

˞カイ˜タビ [˞kai˜tabi] 【名】安全な旅。安全航海。「美しい旅」義。˞カイ˜タビ　シ˞ミ˜　ッ˞ふォー˜リティル　˜ニガイ　ッ˞サリルㅏダー [˞kai˜tabi ʃi˞mi˜ f˞fo: ˜ritiru ˜nigai s˞sariruㅏda:](安全航海をさせて下さいとお祈り申し上げるのだよ)。

˞カイダン [˞kaidaŋ] 【名】階段。長い段。標準語からの借用語。ナ˞カン˜ブレーミチ [na˞kam˜bure:miʧi](中岡＜中森＞への道)や、˞ウイヌ˜ウガン [˞ʔuinu˜ʔu-gaŋ](友利御嶽)への道は、コー˞シェー˜マイシ [ko: ˞ʃe:˜maʔiʃi](砂岩)を削って長い階段を造ってある。˞ウイヌウガン˜ヌ　˞ペーリ˜フチェー　˞カイダン˜　ス˞クラ˜リ　˞ブートㅏダー [˞ʔuinuʔugan˜nu ˞pe:ri˜ ɸu̥ʧʃe: ˞kaidan˜ su̥˞kura˜ri ˞bu:ㅏda:](友利御嶽の入り口は階段が造られているよ)。

˞カイッ˜トゥルン [˞kait˜turuŋ] 【他動】盗む。奪う。˜トゥルン [˜turuŋ](盗む)の強調表現。「カイ(接頭語)・トゥルン(取る)」の義。˞ヌシ˜トゥルンとも言う。プ˞スヌ˜　ムヌ　˞カイッ˜トゥレー　ナ˞ラ˜ヌ [pu̥˞sunu˜ munu ˞kait˜ture: na˞ra˜nu](他人の物を盗んではならない)。˜バー　イッ˞カナ˜シ　˞カイットゥラ˜ヌ [˜ba: ʔik˞kana˜ʃi ˞kaittura˜nu](私は決して盗まない)。˞カイットゥリ˜プサン [˞kaitturi˜ pu̥saŋ](盗みたい)。˞カイッ˜トゥリティ　ア˞ズ˜カー　˞カイッ˜

トゥルン [˹kait˺turiti ʔa˹ʤu˺ka: ˹kait˺turuŋ](盗めと言うなら盗むよ)。˹カイッ˺トゥレー　˺ミサムヌ [˹kait˺ture: ˺misamunu](盗めばよいのに)。˹ヌシ˺トゥルン [˹nuʃi̥˺turuŋ](盗む) ともいう。

˹カイ˺テー [˹kai˺te:] 【副】かえって (却って)。逆に。あべこばに。予想や期待とは逆である。˹ワー˺　ア˹ズ˺カー　˹カイ˺テー　パ˹ナ˺シェー　マ˹トゥマラヌ [˹wa:˺ ʔa˹ʤu˺ka: ˹kai˺te: pa˹na˺ʃe: ma˹tumaranu](君がいうと却って話はまとまらない)。˹カイ˺テー　ク˹リル˺　マ˹シ [˹kai˺te: ku˹riru˺ ma˹ʃi](逆に < 却って > これがいい)。˹ワー˺　パローラー　˹カイ˺テー　パ˹ラン˺モー　マ˹シ [˹wa:˺ paro:ra: ˹kai˺te: pa˹ram˺mo: ma˹ʃi](君が行くよりも、却って行かないほうがましだ)。ク˹レー˺ラン　˹カイ˺テー　カ˹リル˺　マ˹シ [ku˹re:˺raŋ ˹kai˺te: ka˹re:˺ ma˹ʃi](これよりも却ってあれがいい < ましだ >)。

˹カイ˺トゥキ [˹kai˺tu̥ki] 【名】祈願を行うのに絶好の時。「佳き時」の義。˹カイピュー˺ル [˹kaipju:˺ru](佳き日。佳日) と共に、祭祀を執り行うのに絶好の日和の義。形容詞˹カイ˺ヤン [˹kai˺jaŋ](美しい) の語幹に名詞˺トゥキ [˺tu̥ki](時) が付いて合成された名詞。˺トゥキ [˺tu̥ki](時) は、トゥ˹キユ˺タ [tu̥˹kiju˺ta](祭祀の時を定めるユタ < 与太 >)、トゥ˹キ˺トリ [tu̥˹ki˺turi](時を刻むこと。時刻を知らせること) のように用いる。

˹カイトゥナ˺ル [˹kaituna˺ru] 【名】隣近所。隣家。近隣。「近い・隣」の義。˹カイトゥナ˺ル　ナリ˹ベー˺ティ　ピ˹ライ˺ユン　サ˹ヌ [˹kaituna˺ru nari˹be:˺ti pi˹rai˺jun sa˹nu](隣近所同士になっていて、交際 < 付き合い > もしないのか)。

˹カイ˺トゥルン [˹kai˺turuŋ] 【他動】盗む。奪う。強奪する。「掻き・取る」の転化したもの。˹ヌシ˺トゥロー　プ˹スヌ˺　ムヌ　˹カイ˺トゥルン [˹nuʃi̥˺turo: pu̥˹sunu˺ munu ˹kai˺turuŋ](泥棒は他人の物を盗む)。˹カイトゥリ˺　プサカー　˹カイ˺トゥル　˺クトゥン　ナ˹リ˺シバ　˹カイ˺トゥリバ [˹kaituri˺ pu̥saka: ˹kai˺turu ˺kutun na˹ri˺ʃiba ˹kai˺turiba](盗みたければ盗むことも出来るから、盗みなさい)。イッ˹カ　カイトゥラ˺ヌ [ʔik˹ka kaitura˺nu](決して盗まない)。˹ギー˺ヤ　˺プサカー　˹カイ˺トゥリバ [˹gi:˺ja ˺pu̥saka: ˹kai˺turiba](芸は、欲しければ盗みなさいよ)。

˹カイ˺ナ [˹kai˺na] 【名】かいな (腕・肱)。二の腕。肩から肘までの間。「肘、ヒヂ・カヒナ」『類聚名義抄』、「木綿 < ゆふ > たすき可比奈尓 < カヒナニ > かけて〜。万、420」の転訛したもの。˺ドゥク˹カイ˺ナ　フ˹リマーサンドー˺シ　パ˹タ˺キ　˹カイ˺シバ [˺duku ˹kai˺na ɸu˹rima:sando:˺ʃi pḁ˹ta˺ki ˹kai˺ʃiba](あまり腕を振り回さないで畑を耕しなさいよ)。

˺カイナカ [˺kainaka] 【名】日陰。木陰。˺ティダナカー [˺tidanaka:](灼熱の陽光の中。白昼。ひるなか) の対義語。「渡る日の加氣 < カゲ > に〜。万、4469」の転訛したもの。「日陰の中」の義。˺ティダナ　プ˹サラン˺ドーシ　˺カイナカー　˹ペー˺リバ [˺tidana pu̥˹saran˺do:ʃi ˺kainaka: ˹pe:˺riba](日に干されないで日陰に入りなさい)。˺ティダナカー　˺アツァンダ　˺カイナカー　˹ペー˺リバ [˺tidanaka: ˺ʔatsanda ˺kainaka: ˹pe:˺riba](ひなた < 日向 > は暑いから日陰に入りなさいよ)。

˹カイナ˺ダリ [˹kaina˺dari] 【名】腕がだるくなること。腕が疲労によってくたびれること。˹カイナ˺ダリ　シ˹ティル˺　カ˹ナパイユンツァン˺　ム˹ティユーサン˺バン [˹kaina˺dariru ʃi̥˹tiru˺ ka˹napaijuntsam˺mu˹tiju:sam˺baŋ](腕がくたびれたので < ぞ > 鍬さえも持ちきれないのだ < 持ち得ないのだ > わい)。

˺カイニ [˺kaini] 【副】このように。˺カイニ　˹シー˺バ [˺kaini ˹ʃi:˺ba](このようにしなさいよ)。˺カイニル　˺ウー [˺kaniru ˺ʔu:](このように < ぞ > 泳ぐのだ)。˺ヤコー　カイニ　カ˹サミティル˺　クー [˺jako: ˺kaini ka˹samitiru˺ ku:](櫂はこのように掴んで漕ぐのだ)。˹ター˺ヤ　˹キー˺パイシ　˺カイニ　˹カイ˺シバ [˹ta:˺ja ˹ki:˺paiʃi ˺kaini ˹kai˺ʃiba](田圃は木鍬でこのように耕しなさい)。こういうふうに。このように。この通りに。˺カイニ　˺カクカー　カ˹キヤッ˺サン [˺kaini ˺kḁkuka: kḁ˹ki:jas˺saŋ](このように書いたら書きやすい)。˺カイニ　˹シー˺バ [˺kaini ˹ʃi:˺ba](このようにしなさいよ)。

˹カイ˺ヌキ　˹マーヌキ [˹kai˺nuki ˹ma:nuki] 【連】全く疎遠になること。絶縁状態になること。「カイ (綺麗に。全く。完全に) 接頭語・ヌキ [nu˹ki](退く。立ち去る) 連用形」の義。˹パッ˺タルパリ　ウヌッ˹キリ　カイ˺ヌキ　˹マーヌキ　シー˺　ミ˹ララ˺ヌ [˹pat˺tarupari ʔunuk˹kiri kai˺nuki ˹ma:nuki ʃi:˺ mi˹rara˺nu](去って行ったきり、それっきり全く疎遠になって、姿も形も見られない)。ヌ˹キッタルヌキ [nu˹kittarunuki](退いたまま。立ち去ったまま) ともいう。

˹カイヌ˺　シル [˹kainu˺ ʃiru] 【連】おもゆ (重湯)。乳

児用、病人用に炊いた、お粥の糊状の汁。「粥の汁」の義。「饘、厚粥也、加由＜かゆ＞『新撰字鏡』・の・醨、和名之流＜しる＞『和名抄』」の転訛したもの。ˈシーˀヌ　ˈアイラン　ベーˀティ　ˈカイヌˀ　シル　ヌˈマˀシェーティ　シゥˈカˀナイ　ˈヨーッˀタ [ˈʃiːˀnu ˈʔairam beːˀti ˈkainuˀ ʃiru nuˈmaˀʃeːti siˈkaˀnai ˈjoːtˀta](お乳が出ない＜安由流 f アユル/f、「実は～」万、4111 の打消し形の転訛か＞ので重湯を飲ませながら育てられた)。

ˈカイピューˀル [ˈkaipjuːˀru] 【名】佳日。佳き日和。吉日。祭祀行事を行うのに最適の日和。干支上の最高の日和。トゥˈキユˀタ [tuˈkijuˀta](三世相。易者。売卜者) によって佳日と占い選定された日。ˈキューˀヌ　ˈカイピューˀルナ　ニˈガイシキリˀバ　ウˈブˀプス　ˀタカプス　ナˈラˀシ　タˈボーˀリ [ˈkjuːˀnu ˈkaipjuːˀruna niˈgaiʃiˀkiriˀba ʔuˈbuˀpusu ˀtakapusu naˈraˀʃi taˈboːˀri](今日の佳き日に願い上げますので、大きな人＜大人＞、高い人＜高人＞なしてください)。

ˀカイブ [ˀkaibu] 【連体】このような。こんな。単数を表す。ˀカイブ　ˀクトー　スˈナˀヨー [ˀkaibu ˀkuto: suˈnaˀjoː](こんなことはするなよ)。ˀカイブ　パˈナシˀヌ　アˈルˀヌ　ˈフンˀトーカヤー [ˀkaibu paˈnaʃiˀnu ʔaˈruˀnu ˈɸunˀtoːkajaː](このような＜こんな＞話があるが本当かなねえ)。ˀカイブ　パˈナˀシェー　イッˈカˀ　シゥˈカヌ [ˀkaibu paˈnaˀʃe: ʔikˈkaˀ siˈkanu](こんな話は決して聞かない)。「かにをる」から転訛したもの。予期に反する良いこと、悪いことに対して用いる。「かにある」『混効験集』の義。ˀカイブ　ˀムヌバ　ˈソームヌティˀ　ウムイ　ˈカイˀキー　ˈザーˀパイ　ˈシーナーˀヌ [ˀkaibu ˀmunuba ˈsoːmunutiˀ ʔumui ˈkaiˀki: ˈʤaːˀpai ˈʃiːnaːˀnu](こんなものを本物＜立派なもの＞だと思って買ってきて、まったく台無し＜滅茶苦茶＞になってしまった)。ˀカイブ　サˈニˀヤー　ˈナーˀヌ [ˀkaibu saˈniˀjaː ˈnaːˀnu](こんな嬉しいことは外にない)。ˀカイブ　クˈトゥˀバ　ˈシー　ミーワクバˀ　カキ　イˈナムヌˀダラ [ˀkaibu kuˈtuˀba ˈʃiː miːwakubaˀ kaki ʔiˈnamunuˀdara](こんな事をして迷惑をかけて残念だよ)。ˀカイブ　ˀクトゥティン　ユˈヌナカˀナー　ˀアンカヤー [ˀkaibu ˀkututiŋ juˈnunakaˀnaːˀʔaŋkajaː](このような事とても世の中にあるものかね)。ˀカイブ　ˀクトー　スˈナˀヨー [ˀkaibu ˀkuto: suˈnaˀjoː](こんな事はするなよ)。

カイˈブˀツァ [kaiˈbuˀtsa] 【連体】こんな。このような。これら。複数を表す丁寧な表現。カˈブˀツァ [kaˈbuˀtsa](こんな。このような) ともいう (ぞんざいな表現)。カイˈブˀツァ　ˀムノー　シゥˈカーランバ　カウナ [kaiˈbuˀtsa ˀmuno: siˈkaːramba kauna](このような＜こんな＞物等は使えないから買うな)。

ˈカイマーˀス [ˈkaimaːˀsu] 【名】清浄な塩。神饌の塩。小皿に盛って神前に供える。シˈルマーˀス　ˈカイマースˀ　カˈザリティ　ニンˀガイ　ˈソーッˀタ [ʃiˈrumaːˀsu ˈkaimaːsuˀ kaˈʤariti niŋˀgai ˈsoːtˀta](清浄な真っ白い塩、美しい塩を飾って祈願をされた)。

ˈカイˀマリ [ˈkaiˀmari] 【名】佳き生まれ。優れた血統の出自。名家・名門の出。ˈカイマリˀヌ　ッˈふァバˀ　ユˈミˀ　タˈボーラˀリ　イッˈケナˀ　サˈニˀヤ　ˈシー　ベー [ˈkaimariˀnu fˈfabaˀ juˈmiˀ taˈboːraˀri ʔikˈkenaˀ saˈniˀja ˈʃiː beː](名門の出の娘を嫁に頂いて大変喜んで＜嬉しくして＞います)。

ˈカイˀミジ [ˈkaiˀmiʤi] 【名】綺麗な水。澄んだ水。清浄な水。清らかで汚れのない水。クˈヌˀ　ミˈジェー　カイˀミジ　ヤˈルンダˀ　ヌˈマˀリン　カˈヌˀ　ミˈジェーˀ　ヤˈナミジˀ　ヤˈルンダˀ　ヌˈマラˀヌ [kuˈnuˀ miˈʤeː kaiˀmiʤi jaˈrundaˀ nuˈmaˀriŋ kaˈnuˀ miˈʤeːˀ jaˈnamiʤiˀ jaˈrundaˀ nuˈmaraˀnu](この水は安全な＜綺麗な＞水だから飲める。あの水は汚い＜水質の悪い＞水だから飲めない)。

ˈカイミチ [ˈkaimitʃi] 【名】買い方。買う方法。クˈレー　ヌーˀシル　ˈカウˀユー　ˈカイミチンˀ　ッˈサヌ [kuˈreː nuːˀʃiru ˈkauˀjuː ˈkaimitʃinˀ sˈsanu](これはどのようにして買うのか、買い方も分らない＜知らない＞)。

ˈカイˀミチ [ˈkaiˀmitʃi] 【名】綺麗な道。立派な道。ヤˈラˀベー　ˈカイˀミチェーラ　アˈラカˀシ　ヤˈナミチェーラˀ　アˈラカˀスカー　クˈルビティˀ　ドゥー　ヤˈマˀスンˈダー [jaˈraˀbeː ˈkaiˀmitʃeːra ʔaˈrakaˀʃi jaˈnamitʃeːraˀ ʔaˈrakaˀsukaː kuˈrubitiˀ duː jaˈmaˀsun ˈdaː](子供は綺麗な道を＜から＞歩かせなさいよ。悪路を＜から＞歩かせると、転んで体を怪我させるぞ)。

ˈカイˀムニ [ˈkaiˀmuni] 【名】きれいな言葉。縁起のいい言葉。感じのいい言葉。老年層のことば。文語的表現。ˈカイˀヤムニ [ˈkaiˀjamuni](きれいなことば。俗語的。若年層の日常表現) ともいう。ˈウイˀプソー　イッˈチン　カイムニˀル　イˈゾーˀルˈダーˀ＜アˈゾーˀルˈダーˀ＞　ヤˈナˀムネー　イˈゾーランˀダー＜アˈゾーラントˈダー＞[ˈʔuiˀpusoː ʔitˈʧiŋ kaimuniˀru ʔiˈʤoːˀruˈdaːˀ ＜ʔaˈʤoːˀruˈdaːˀ＞ jaˈnaˀmuneː ʔiˈ

ʤoːranˈdaː ＜ʔaˈʤoːranˈdaː＞](年寄り＜老い人＞は常にきれいな言葉を使われる＜言われる＞ことですよ。悪い言葉は使われ＜言われ＞ないですよ)。

ˈカイムヌ [ˈkaimunu] 【名】買い物。ˈキューˈヤ　マˈチヤー　カイムヌ　シン　オーˈルンカヤー [ˈkjuːˈja maˈʧija: kaimunu ʃiŋ ʔoːˈruŋkaja:](今日はお店へ買い物に＜買い物をしに＞いらっしゃるかねえ)。ˈカイムノー　サヌ [ˈkaimuno: sanu](買い物はしない)。ˈカイムヌヌ　ソーˈダン [ˈkaimununu soːˈdaŋ](買い物の相談)。ˈカイムヌバ　スンティル　アーˈク [ˈkaimunuba suntiru ʔaːˈku](買い物をしようとしている)。ˈカイムヌンツァン　シーユーサヌ [ˈkaimununtsaŋ ʃiːjuːsanu](買い物もすら出来ない)。

ˈカイムヌカグ [ˈkaimunukagu] 【名】買い物籠。手提げ籠の一種。竹製で、柄の付いた小型の手提げ籠。石垣方言からの借用語。戦後から用いられるようになった。マˈナˈマー　ビˈニールˈヌ　フˈクˈルナール　イˈリ　カースンダ　カイムヌカグナーˈトー　シゥˈカーヌ [maˈnaˈmaː biˈniːruˈnu ɸu̥ˈkuˈrunaːru ʔiˈri kaːsunda kaimunukagunaːˈto: si̥ˈkaːnu](今はビニールの袋に入れて売るのだから買い物籠など使わない)。

ˈカイヤー [ˈkaijaː] 【副】こうは(斯うは)。このようには。こんな風には。ˈカイヤー　ˈサンドーˈシ　ˈアイニ　ˈシーˈバ [ˈkaijaːˈsandoːˈʃi ˈʔaini ˈʃiːˈba](こうは＜斯うは＞しないで、あのようにしなさいよ)。

ガイˈヤーˈマ [gaiˈjaːˈma] 【名】小さなさじ。小匙。ˈガイ [ˈgai] は、「Cai. カイ (匙)～その米をかきまぜたり、かき回したりするのに用いる道具」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˈヤーˈマ [ˈjaːˈma](小) は指小辞 (diminutive)ˈマ [ˈma](小) の異形態。上接語の末尾が CVV 構造の、-ai,-ui,-ii で終わる音声環境において、ˈ-ヤーˈマ [ˈ-jaːˈma](小) が現れる。ガイˈヤーˈマシ　ユˈナˈク　スˈクイˈ　ッˈふァイˈバ [gaiˈjaːˈmaʃi juˈnaˈku su̥ˈkuiˈ fˈfaiˈba](小匙で麦焦がしを掬って食べなさいよ)。

ˈカイˈヤキン [ˈkaiˈjakiŋ] 【名】美しい着物。パˈダˈヌ　シˈズリˈルンケン　ˈカイˈヤキンバ　キˈシルˈフˈドゥビˈ　ケーツォー [paˈdaˈnu ʃiˈʤuriˈruŋkeŋ ˈkaiˈjakimba ki̥ˈʃiruˈ ɸuˈdubiˈ keːtsoː](肌がずれるほど美しい着物を着て成長してきたそうだ)。

ˈカイˈヤワレー [ˈkaiˈjawareː] 【感】美しいことよ。ウˈヌˈ　ミˈドーンˈッふァヌ　キˈシベー　キンˈヌ　ˈアイ　ˈカイˈヤワレー [ʔuˈnuˈ miˈdoːŋˈffanu ki̥ˈʃibeː kinˈnu ˈʔai ˈkaiˈjawareː](その女の子の着ている着物があのように何と美しいことよ)。

ˈカイˈヤン [ˈkaiˈjaŋ] 【形】1美しい。綺麗である。「影・さ・あり」の転化したもの。パˈナˈヌ　ˈカイˈヤワˈナー [paˈnaˈnu ˈkaiˈjawaˈnaː](花が美しいねえ)。ˈナンˈゾー　ˈカイヤーナーˈヌ [ˈnanˈʤoː ˈkaijaːnaːˈnu](それほど美しくない)。ˈシンダイ　カイˈヤ　ˈナルン [ˈʃindai kaiˈja naruŋ](次第に美しくなる)。ˈカイˈヤ　ˈパナー　ˈマナー　アˈルˈワ [ˈkaiˈja ˈpanaː ˈmanaː ʔaˈruˈwa](美しい花は何処にあるか)。ˈアイニ　ˈカイˈヤカー　ˈバンˈヌン　ˈカイˈプサン [ˈʔaini ˈkaiˈjakaː ˈbanˈnuŋ ˈkaiˈpusaŋ](そんなに美しいのなら私も買いたい)。女性の美しさは、アˈバˈレーン [ʔaˈbaˈreːŋ](美しい) と表現する。クˈヌ　キンˈマー　イッˈケン　カイˈヤン [kuˈnu kimˈmaː ʔikˈkeŋ kaiˈjaŋ](この着物は非常に美しい)。ˈナンˈゾー　ˈカイヤナーˈヌ [ˈnanˈʤoː ˈkaijanaːˈnu](あまり美しくない)。ˈドゥク　ˈカイヤˈヌ　シˈティラランシェン [ˈduku ˈkaijaˈnu ʃi̥ˈtiraraŋʃeŋ](あまりにも美しいので捨てられなかった)。ˈシンダイ　カイˈヤ　ˈナリ　ˈケーン [ˈʃindai kaiˈja ˈnari ˈkeːŋ](次第に美しくなってき)。ˈカイˈヤ　ˈキンˈマー　ˈヌーヤ [ˈkaiˈja ˈkimˈmaː ˈnuːja](美しい着物は何か)。ˈカイˈヤカー　ˈバンˈヌン　キˈスン [ˈkaiˈjakaː ˈbanˈnuŋ ki̥ˈsuŋ](美しかったら私も着るよ)。2仲がいい。ˈキョーダイˈサ　ˈナカー　ˈカイˈヤン [ˈkjoːdaiˈsa ˈnakaː ˈkaiˈjaŋ](兄弟同士の仲は美しい＜仲良しだ＞)。3良好な状態である。ˈオシケー　カイˈヤン [ˈʔoʃi̥keː kaiˈjaŋ](天気は良好である＜天気はきれいである＞)。ˈキム　ˈカイˈヤン [ˈkimu ˈkaiˈjaŋ](心が優しい。親切である＜肝が美しい＞)。

ˈカイラˈシ　ˈマラバシ [ˈkairaˈʃi ˈmarabaʃi] 【連】転倒させたり、つまず (躓) かせたりするさま。「かえら＜反ら＞せ・まろば＜転ば＞せる」の転訛したもの。副詞的用法。ˈウヌヨーヌ　ヤˈラビˈバカー　カˈサナイˈヤー　サˈムティ　カイラˈシ　ˈマラバシ　ˈシェーˈティ　ˈサンゲーˈティ　ˈアーˈクˈツォー [ˈʔunujoːnu jaˈrabiˈbakaː kaˈsanaiˈjaː saˈmuti kairaˈʃi ˈmarabaʃi ˈʃeːˈti ˈsaŋgeːˈti ˈʔaːˈkuˈtsoː](あのような年端も行かぬ子をですよ、負ぶいはしないで、躓かせたり転倒させたりして引きずって＜引っ張って＞連れてあるくんですよ)。

ˈカイˈリ [ˈkaiˈri] 【名】帰り。帰る時。シˈグトゥヌ　カイˈリナ　ˈマーリˈ　クーˈヨー [ʃiˈgutunu kaiˈrinaːˈ

ma:ri⸣ ku:⸢jo:](仕事の帰りに、寄り道して＜回って＞来なさいねえ)。ッ⸢ふァヌ　カイリ⸣バ　ウ⸢ヌス⸣ク　ウ⸢ヤーンチ⸣ジ　⸢オーッタン⸣ドゥ　ミ⸢ローラ⸣ナー　⸢オー⸣リ　⸢ナー⸣ヌ [f⸢fanu kairi⸣ba ʔu⸢nusu̥⸣ku ʔu⸢ja:ntʃi⸣ʤi ⸢ʔo:ttan⸣du mi⸢ro:ra⸣na: ⸢ʔo:⸣ri ⸢na:⸣nu](子供の帰りをあれほど待ち望んでおられたのに、ご覧になれずに＜見られないで＞逝かれてしまった)。

⸢カイリ⸣ミチ **[⸢kairi⸣mitʃi]**【名】帰り道。帰路。帰途。家に帰る道。ム⸢ドゥリ⸣ミチ [mu⸢duri⸣mitʃi](戻り道。ある場所へ引き返す道中) ともいう。パ⸢タ⸣ケーラヌ　⸢カイリ⸣ミチナ　⸢バンスル⸣ヌ　⸣ナル　⸢ミシ⸣キティ　⸣ブリ　⸢クー⸣タ [pḁ⸢ta⸣ke:ranu ⸢kairi⸣mitʃina ⸢bansuru⸣nu ⸣naru ⸢miʃi̥⸣kiti ⸣buri ⸢ku:⸣ta](畑からの帰り道に蕃石榴(バンザクロ)の実を見付けて捥(モ)いできた)。

⸢カイ⸣ル **[⸢kai⸣ru]**【名】つりせん (釣銭)。⸣センエン　⸢オーシバ　カイ⸣ロー　⸢クー⸣ジンシ　ッ⸢ふォー⸣リ [⸣ʃeɲjeŋ ⸢ʔo:ʃiba kai⸣ro: ⸢ku:⸣ʤiŋʃi f⸢fo:⸣ri](千円差し上げますから、お釣＜釣銭＞は小銭で下さい)。⸢クー⸣ジン　⸣クリ　ッ⸢ふォー⸣リ [⸢ku:⸣ʤin kuri f⸢fo:⸣ri](小銭に両替してください)。

⸣カイル **[⸣kairu]**【連体】こんな。このような。琉歌語の「かにある」の転訛したもの。価値の低い内容と認定される名詞を修飾する。⸣カイル　パ⸢ナシ⸣バ　⸢フン⸣トーティ　ス⸢ク⸣　プ⸢スヌ　ブン [⸣kairu pa⸢naʃi⸣ba ⸢ɸun⸣to:ti su̥⸢ku⸣ pu̥⸢sunu buŋ](こんな話を本当＜誠＞と聞く人がいるか)。

⸢カイ⸣ルン **[⸢kai⸣ruŋ]**【自動】転ぶ。転倒する。ひっくり返る。ア⸢ガミツァー⸣　ア⸢ミ⸣ヌ　⸣フーカー　ヌ⸢ベーリッ⸣ツァーバ　⸢カイラ⸣ヌヨー　⸢キー⸣　シ⸢キ⸣リ [ʔa⸢gamitsa:⸣ ʔa⸢mi⸣nu ⸣ɸu:ka: nu⸢be:rit⸣tsa:ba ⸢kaira⸣nujo: ⸢ki:⸣ ʃi̥⸢ki⸣ri](赤土＜赤粘土＞は雨が降るとすべっこいから、転ばぬよう気をつけなさい)。⸢カイ⸣リティ　⸣ドゥー　ヤ⸢マ⸣シ　⸣シケー [⸢kai⸣riti ⸣du: ja⸢ma⸣ʃi ⸣ʃi̥ke:](転倒して体を痛めて＜病まして＞ある)。⸢ウシゥカラサリ⸣カー　⸢カイ⸣ルン [⸢ʔusï̥karasari⸣ka: ⸢kai⸣run⸢da:](押されたら転ぶよ)。⸣クナーテー　⸢カイ⸣ル　プ⸢スヌ　ゴー⸣ラーン [⸣kuna:te: ⸢kai⸣ru pu̥⸢sunu go:⸣ra:ŋ](ここでは転ぶ人が多い)。⸢カイ⸣レーラー　⸢デー⸣ジ⸢ゲ⸣ラ [⸢kai⸣re:ra: ⸢de:⸣ʤi⸢ge⸣ra](転んだら大変だよ)。⸢パー⸣ク　⸢カイ⸣リバ　[⸢pa:⸣ku ⸢kai⸣riba](早く転べ)。⸢カイ⸣リバヒャー [⸢kai⸣ribaçja:](転べよ野郎、転びくされ)。

⸢カイ⸣ルン **[⸢kai⸣ruŋ]**【自動】帰る。⸢ガッ⸣コーラ　⸢パイ⸣サ　⸢カイ⸣リ　⸣クーカー　ピ⸢ビザヌ⸣　ッサ　カ⸢リトダー [⸢gak⸣ko:ra ⸢pai⸣sa ⸢kai⸣ri ⸣ku:ka: pi⸢bidʑanu⸣ ssa ka⸢ri⊦da:](学校から早く帰ってきたら山羊の草を刈りなさいよ)。マ⸢ダ　カイラ⸣ヌ [ma⸢da kaira⸣nu](まだ帰らない)。⸢カイリ⸣　プサカー　⸢カイ⸣リバ [⸢kairi⸣pu̥saka: ⸢kai⸣riba](帰りたければ帰れ)。⸢ワー　カイ⸣ル　⸣ピンマー　⸢バン⸣ヌン　⸢カイ⸣ルン [⸢wa: kai⸣ru ⸣pimma: ⸢ban⸣nuŋ ⸢kai⸣ruŋ](君が帰るときは私も帰る)。⸢キュー⸣ヤ　⸢パイ⸣サ　⸢カイ⸣リ [⸢kju:⸣ja ⸢pai⸣sa ⸢kai⸣ri](今日は早く帰れ)。

⸢カイルン **[⸢kairuŋ]**【他動】換える。替える。交換する。ク⸢ヌ　カー⸣ラー　⸢ミー⸣バリ　⸢シーベー⸣バ　⸢ミーガーラ⸣トゥ　⸢カイリ [ku⸢nu ka:⸣ra: ⸢mi:⸣bari ⸢ʃi:be:⸣ba ⸢mi:ga:ra⸣tu ⸢kairi](この瓦はひび割れしている＜罅(ヒビ)が入っている＞ので雌瓦と取替え＜交換し＞なさい)。ウ⸢ムイツァー⸣ヌ　マ⸢ナ⸣マー　⸢カイララヌ [ʔu⸢muitsa:⸣nu ma⸢na⸣ma: ⸢kairaranu](もったいない＜惜しい＞ので、今は替えられない)。ク⸢リ　カイル⸣カー　カ⸢リン　カイルン [ku⸢ri kairu⸣ka: ka⸢riŋ kairuŋ](これを替えるなら、あれも替える)。ク⸢レー　カイ⸣　ミサカー　⸢パー⸣ク　⸢カイリ [ku⸢re: ⸢kai⸣misaka: ⸢pa:⸣ku ⸢kairi](これは替えてもよければ、早く替えろ)。⸢パー⸣ク　⸢カイレー⸣ <⸢カイヤー⸣> ミサムヌ　⸢ニーバ⸣ヌ　ナ⸢ラ⸣ヌ [⸢pa:⸣ku ⸢kaire:⸣ <⸢kaija:⸣> misamunu ⸢ni:ba⸣nu na⸢ra⸣nu](早く替えればよいのに。遅くて困る)。

⸢カイ⸣レーマラベー **[⸢kai⸣re:marabe:]**【副】転んだり躓いたりして泥んこになったさま。「つまずい＜躓い＞たり転んだり」の転訛したもの。「頭髪蓬乱して両の手をもちて胸を推して地にまろび転＜かへ＞ること」『金光明最勝王経平安初期点』の転訛したものか。ア⸢ミ⸣フイナー　⸢カイ⸣レーマラベー　⸢シェー⸣ティ　パリ⸢パッ⸣タ [ʔa⸢mi⸣ɸuina: ⸢kai⸣re:marabe: ⸢ʃe:⸣ti pari⸢pat⸣ta](雨の中を＜雨降りに＞躓いたり転んだりしながら走って行った)。

⸢カウ **[⸢kau]**【名】香。線香。神前、仏前に祈願するときに焚く。イ⸢ツァ⸣カウ [ʔi⸢tsa⸣kau](板香。幅約 1,2 センチ、長さ約 15 センチ、厚さ約 1,5 ミリの黒色の板状の線香)、⸢ピーマチカウ [⸢pi:matʃikau](「日待ち香」の義か。長時間焚く必要のあるときに用いる香)、タ⸢キカウ [ta⸢kikau](竹香。竹ひごを線香にしたもの) などがあり、沖縄在来の線香といわれている。ヤ⸢マトゥ⸣カウ [ja⸢matu⸣kau](大和香) はあまり使わなかった。普通は線香 3 本を焚いて祈願するが、重要な祈願ではイ⸢ツァ⸣カウ (板香) を 3 枚、

または 5 枚重ねて焚くことがある。⌈カウワー⌉ シキ ⌉タティティ カ⌈ラティヤーンツァン⌉ ウ⌈サーシティル⌉ パ⌈ラリ⌉ル [⌈kauwa:⌉ ʃi̥ki ⌉tḁtiti ka⌈rati:ja:ntsaŋ⌉ ʔu⌈sa:ʃitiru⌉ pa⌈rari⌉ru](線香を点け立てて、＜供物がないので＞せめて空の手でも合わせて＜ぞ＞帰ることにしよう＜行かれる＞)。⌈カウワーンツァン⌉ シキ ⌉タティティル パ⌈ラ⌉リル [⌈kauwa:ntsaŋ⌉ ʃi̥ki ⌉tḁtitiru pa⌈rari⌉ru](線香だけでも焚いて立てて行こう＜立ててぞ行かれる＞)。

⌈**カウリ [⌈kauri]** 【副】特に。特別に。普通と違って。強調表現。「他人と変わって」の義から意味派生したもの。⌈ウンヌ⌉ ピンマー ⌈カウリ⌉ ナ⌈キ ベータン⌉ドゥ バ⌈タ⌉ヌ ⌉ヤミ ブ⌈レー⌉ル⌈ナー [⌈ʔunnu⌉ pimma: ⌈kauri⌉ na⌈ki be:tan⌉du ba⌈ta⌉nu ⌉jami bu⌈re:⌉ru⌈na:](あの時は特にひどく泣いていたが、お腹が痛かったんだろうねえ)。ウ⌈レー カウリ⌉ サ⌈キ⌉ ヌム⌈ツォー [ʔu⌈re: kauri⌉ sḁ⌈ki⌉ numu⌈tso:](あれ＜彼＞は異常に＜他人と変わって非常に＞酒を飲むんだよ)。ク⌈ヌ⌉ ッ⌈ふァー カウリ⌉ ム⌈ニ⌉ユムン [ku⌈nu⌉ f⌈fa: kauri⌉ mu⌈ni⌉jumuŋ](この子は他人と変わって非常によく喋る＜非常におしゃべりで、よく他人の悪口をいう＞)。

⌈**カウリドゥ スー [⌈kauridu su:]** 【連】異常に～する。やたらと～する。「普通と変わって＜ぞ＞～する」の義。動詞の連体形を修飾して⌈異常に～する」の意味を表す。ウ⌈レー カウリドゥ⌉ タ⌈バ⌉ク ⌉フク [ʔu⌈re: kauridu⌉ ta⌈ba⌉ku ⌉ɸu̥ku](彼は異常に煙草を吸う＜ヘビースモーカーである＞)。

⌈**カウリドゥル ブー [⌈kauriduru bu:]** 【連】異常である。変である。「変わって＜ぞ＞いる」の義。ウ⌈レー⌉ チ⌈カ⌉グロー ⌈カウリドゥ ブー [ʔu⌈re:⌉ ʧi̥⌈ka⌉guro: ⌈kauridu bu:](彼は近頃は変で＜ぞ＞ある。様子が変である＜異常である＞)。

⌈**カウリ⌉パルン [⌈kauri⌉paruŋ]** 【連】変わっていく。変化していく。⌈カウルン [⌈kauruŋ](変わる) の連用形に⌉パルン [⌉paruŋ](行く) が下接した形。ユ⌈ヌナカー⌉ タ⌈ダーイ カウリパルン⌉ドゥ プ⌈スヌ カンガイ⌉ヤー ⌈ナン⌉ゾー ⌈カウリパラ⌉ヌ [ju⌈nunaka:⌉ ta⌈da:i kauriparun⌉du pu̥⌈sunu kaŋgai⌉ja: ⌈nan⌉ʥo: ⌈kauripara⌉nu](世の中は次第に変わっていくが、人の考えはあまり変わっていかない)。

⌈**カウリムヌ [⌈kaurimunu]** 【名】変わり者。変人。奇人。頑固者。性質や言動が凡人と違った人。ウ⌈レー カウリムヌ⌉ ヤ⌈ルンダ⌉ プ⌈スヌ⌉ ムニ シゥ⌈カヌ [ʔu⌈re: kaurimunu⌉ ja⌈runda⌉ pu̥⌈sunu⌉ muni si̥⌈kanu](彼は変人だから他人の言うことを聞かない＜忠告を聞き入れない＞)。ウ⌈レー カウリムヌ⌉ ヤ⌈ルンダ⌉ プ⌈スヌ⌉ ア⌈ズ⌉ムニ イッ⌈カ⌉ シゥ⌈カヌ [ʔu⌈re: kaurimunu⌉ ja⌈runda⌉ pu̥⌈sunu⌉ ʔa⌈ʥu⌉muni ʔik⌈ka⌉ si̥⌈kanu](その人は変人だから、他人の言うことは全く＜一向に＞聞かない)。⌉アイブ ⌈カウリムノー⌉ ミリ ミ⌈ラ⌉ヌ [⌉ʔaibu ⌈kaurimuno:⌉ miri mi⌈ra⌉nu](あんな変人は見たことがない＜見て見ない＞)。

⌈**カウルン [⌈kauruŋ]** 【自動】変わる。変化する。老年層のことば。若年層は⌈カールン [⌈ka:ruŋ](変わる) ともいう。カ⌈ヌ⌉ プ⌈ソー⌉ ムッ⌈トゥ カウランバン⌉ナー [ka⌈nu⌉ pu̥⌈so:⌉ mut⌈tu kauramban⌉na:](あの人は一向に変わらないねえ)。⌈カウリ⌉パ⌈ヤー⌉ン [⌈kauri⌉ pa⌈ja:⌉ŋ](変わりやすい＜変わり早い＞)。カ⌈リヌ カウル⌉カー ⌈バン⌉ヌン ⌈カウルン [ka⌈rinu kauru⌉ka: ⌈ban⌉nuŋ ⌈kauruŋ](あれが変わったら＜変わるなら＞私も変わる)。⌉ドゥク ⌈カウレー⌉ ナ⌈ラ⌉ヌ [⌉duku ⌈kaure:⌉ na⌈ra⌉nu](あんまり変わってはいけない)。⌈パー⌉ク ⌈カウリ⌉バ [⌈pa:⌉ku ⌈kauri⌉ba](早く変わりなさいよ＜早く変われ＞)。ミ⌈ジ⌉ナ トゥ⌈カ⌉スカー ⌉イロー ⌈カウルンティ⌉ ス⌈クタヌ ピッ⌉チン ⌈カウラヌ [mi⌈ʥi⌉na tu̥⌈ka⌉suka: ⌉ʔiro: ⌈kaurunti⌉ su̥⌈kutanu pit⌉ʧiŋ ⌈kauranu](水に溶かすと色は変わると聞いたが、ちっとも＜一つも＞変わらない)。⌈カウリ ナー⌉ヌ [⌈kauri na:⌉nu](変わってしまった)。⌈カウル⌉クトー ⌈ナー⌉ヌ [⌈kauru⌉ ku̥to: ⌈na:⌉nu](変わることはない)。⌈カウレー⌉ ミサムヌ [⌈kaure:⌉ misamunu](変わればいいのに)。⌈カウリ [⌈kauri](変われ)。

⌈**カウルン [⌈kaurun]** 【自動】代わる。交替する。フ⌈カ⌉ヌ プ⌈ストゥ カウルンティ⌉ シ⌈タンティン カウル⌉ プ⌈スヌ⌉ ブ⌈ラーヌ [ɸu̥⌈ka⌉nu pu̥⌈sutu kaurunti⌉ ʃi̥⌈tantiŋ kauru⌉ pu̥⌈sunu⌉ bu⌈ra:nu](他の人に代わろうとしても、代わる人がいない)。

⌈**カウ⌉ワムイサン [⌈kau⌉wamuisaŋ]** 【形】くすぐったがる。くすぐったがり屋である。ウ⌈ヌ⌉ ッ⌈ふァー⌉ イッ⌈ケナ カウ⌉ワムイサ ⌈スン [ʔu⌈nu⌉ f⌈fa:⌉ ʔik⌈kena kau⌉wamuisa ⌈suŋ](その子は非常にくすぐったがる＜くすぐったくする＞)。⌈ナン⌉ゾー ⌈カウ⌉ワムイサー サ⌈ヌ [⌈nan⌉ʥo: ⌈kau⌉wamuisa: sa⌈nu](あんまり＜それほど＞くすぐったがらない)。ヤ⌈ラビ⌉ヌ ⌈カウ⌉ワムイサ ⌈スー⌉カー グ⌈ズラサ⌉ン ブ⌈リ⌉バ [ja⌈rabi⌉nu ⌈kau⌉wamuisa ⌈su:⌉ka: gu⌈ʥurasa⌉m bu⌈ri⌉ba](子供がくすぐったがる

ようなら、くすぐらすなよ)。

˞カウ˜ワン [˞kau˜waŋ] 【形】くすぐったい。こそばゆい。バ˞キンッサー˜ラ　グ˞ズ˜ルカー　˞カウ˜ワン [ba˞kinssa:˜ra gu˞ʤu˜ruka: ˞kau˜waŋ](腋の下をくすぐると、くすぐったい)。グ˞ズル˜タンティン　˞カウワナー˜ヌ [gu˞ʤuru˜tantiŋ ˞kauwana:˜nu](くすぐっても、くすぐったくない)。˞シンダイ　カウ˜ワナルン [˞ʃindai kau˜wanaruŋ](だんだんくすぐったくなる)。˞カウ˜ワ　˜クトー　˞カウ˜ワンドゥ　ニ˞ジラ˜リン [˞kau˜wa ˜kʉto: ˞kau˜wandu ni˞ʤira ˜riŋ](くすぐったいことはくすぐったいが、我慢できる)。イコー˞ラ　カウ˜ワーラバン <˞カウ˜ワタンティン>　˜アイニ　ム˞ディッカーラン˜　ブ˞リ˜バ [ʔiko:˞ra kau˜wa:rabaŋ <˞kau˜watantiŋ> ˜ʔaini mu˞dikka:ram˜ bu˞ri˜ba](いくらくすぐったくても、あんなに体をねじ曲げるな < 捻じれるな > よ)。

˞カウン [˞kauŋ] 【他動】換える。替える。交換する。˞カイルン [˞kairuŋ](替える) ともいう。「かふ < 替・換・代 > 下二段活用」、「敷白之袖易子少 < しきたへの　袖かへし子を >『万葉集、2410』」の˞転訛か。カイルン [˞kairuŋ](替える。交換する) ともいう。ク˞レー　カーン˜タンティン <˞カイラン˜タンティン>　˜ミサン [ku˞re: ka:n˜tantim <˞kairan˜tantim> ˜misaŋ](これは換えなくてもよい)。˞ワームヌ˜トゥ　˞カイ˜ミサカー　˜ドゥーシ　˞カウント ダー [˞wa: munu˜tu ˞kai˜misaka: ˜du:ʃi ˞kaunト da:](君の物と替えてもよいのなら自分で替えるよ)。ク˞リバ　カウ˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [ku˞riba kau˜kʉto: na˞ra˜nu](これを替えてはならない < 替えることは出来ない >)。フ˞ルミラン˜ケン　˞カイヤー˜　ミサムヌ [ɸu˞rumiraŋ˜keŋ ˞kaija:˜ misamunu](古くならない内に替えればよいのに)。˞パー˜ク　˞カイ˜バ [˞pa:˜ku ˞kai˜ba](早く替えろよ)。

˞カウン [˞kauŋ] 【他動】買う。マ˞チヤー˜ラ　シ˞ナムヌ　カウン [ma˞ʧija:˜ra ʃi˞namunu kauŋ](店から品物を買う)。˞コー˜シ　˞カイ˜プサンドゥ　˞ジン˜ヌ　˞ナー˜ンダ　˞カーラヌ [˞ko:˜ʃi ˞kai˜ pʉsandu ˞ʤin ˜nu ˞na:˜nda ˞ka:ranu](菓子を買いたいが、お金がないので買えない)。˞ワー　カイ˜　ッ˞ふィーリ [˞wa: kai˜ f˞fi:ri](君が買ってくれ)。˞カウ˜　プ˞スヌ　ゴー˜ラーティ　ン˞メーマナー˜ル　˞カーリタ [˞kau˜ pʉ˞sunu go:˜ra:ti ʔm˞me:mana:˜ru ˞ka:rita](買う人が多いので少しずつしか買えなかった < 少しずつぞ買われた >)。˞マー˜ビン　˞カイヤー˜　ミサムヌ [˞ma:˜biŋ ˞kaija:˜ misamunu](もっと買えばよいのに)。˞ヤッ˜サンケンナー　˞カイ˜バ [˞jas˜saŋkenna: ˞kai˜ba](安い内に買えよ)。

カ˞カー˜ルン [kʉ˞ka:˜ruŋ] 【自動】係わる。関係する。ヤ˞ナドゥシトゥ˜　カ˞カー˜ルカー < トゥ˞レー˜スカー >　ヤ˞ナミチェー　サンガリンダ˜　カ˞カーラン˜モー < トゥ˞レーサン˜モー >　マ˞シト ダー [ja˞naduʃitu˜ kʉ˞ka:˜ruka: <tu˞re:˜sika:> ja˞namitʃe: saŋgarinda˜ kʉ˞ka:ram˜mo: <tu˞re:sam˜mo:> ma˞ʃiト da:](悪友と係わると悪い道へ引っ張られるから、係わらないのが良いよ)。プ˞ソー˜ウ˞ヌ˜クトゥナ　カ˞カー˜ルンティ　サ˞バン　ワー˜　カ˞カー˜ル　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [pʉ˞so:˜ ʔu˞nu˜ kʉtuna kʉ˞ka:˜runti sa˞baŋ wa:˜ kʉ˞ka:˜ru ˜kʉto: na˞ra˜nu](他の人は、そのことに係わるとしても、君は係わってはならない < 関わるな >)。カ˞カーリ˜　プサカー　カ˞カー˜リバ [kʉ˞ka:ri˜ pʉsaka: kʉ˞ka: ˜riba](係わりたければ係われよ)。

カ˞カイルン [kʉ˞kairuŋ] 【自動】欠ける。カ˞カウンとも言う。˞シンザ˜ヌ　˜カー　フ˞チ˜シ　˜パグカー　˜パー　カ˞カイルント ダー [˞ʃinʤa˜nu ˜ka: ɸʉ˞ʧi˜ ʃi ˜paguka: ˜pa: kʉ˞kairunト da:](砂糖きびの皮を口で剥こうとすると、歯が欠けるぞ)。カ˞カイラヌ [kʉ˞kairanu](欠けない)。˜パー　カ˞カイルン˜ケン　˞シン˜ザ　カミ˞ミッ˜タン [˜pa: kʉ˞kairuŋ˜keŋ ˞ʃin˜ʤa kami˞mit˜taŋ](歯が欠けるほど砂糖きびを食べた < 噛んだ > ことがある)。˜パー　カ˞カイル˜　クトゥン　˞アッ˜タン [˜pa: kʉ˞kairu˜ kʉtuŋ ˞ʔat˜taŋ](歯が欠けることもあった)。カ˞カイリ [kʉ˞kairi](欠けろ)。

カ˞カイ˜ルン [kʉ˞kai˜ruŋ] 【他動】抱える。両腕で囲い持つ。抱えて持ち上げる。˞マイダーラ˜　カ˞カイ˜ルンティ　˞スンドゥ　バン˜マー　カ˞カイララ˜ヌ [˞maida:ra˜ kʉ˞kai˜runti ˞sundu bam˜ma: kʉ˞kairara ˜nu](米俵を抱え上げようとするが、私には抱え上げられない)。カ˞カ˜イミサカー　˞タンガ˜シン　カ˞カイ˜ル　˜クトー　˜ナルン [kʉ˞ka˜i misaka: ˞taŋga ˜ʃiŋ kʉ˞kai˜ru ˜kʉto: ˜naruŋ](抱え上げてよければ一人ででも抱え上げることは出来る)。

カ˞カウン [kʉ˞kauŋ] (1)【他動】欠く。こわす (他動)。歯を抜き取る。捥(モ)ぐ。「欠く (下二段)」、「照月毛　盈欠之家里 < 照る月も満ち欠けしけり >『万葉集　4160』」の転訛か。˞ナーン˜パー　カ˞カイ˜キー　˞スー　バカ˜シ [˞na:m˜pa: kʉ˞kai˜ki: ˞su: baka˜ ʃi](菜っ葉を捥ぎとって < 千切って > きてお汁を炊け < 沸かせ >)。˜パーシ　˞シンザ˜ヌ　˜カー　パ˞

グ˺タンティン　˹パー˺ヤ　カ˹カーヌ＜カ˹カイラヌ＞[˺paːʃi ˹ʃindʑa˺nu ˺kaː pa˹gu˺tantim ˹paː˺ja kḁ˹kaːnu＜ka˹kairanu＞](歯で砂糖きびの皮を剥いでも、歯は欠けない)、˺パー　カ˹カウン [˺paː kḁ˹kauŋ](歯を欠く)。˺パー　カ˹カウナ [˺paː kḁ˹kauna](歯を欠くな)。ッ˹サンタヌ˺　パー　カ˹カウ˺　ピンマー　˺イトゥシ　フ˹バリティ˺　パラーナ　˺カキティ　ピ˹キヌイ　ソーッ˺タ [s˹santanu˺ paː kḁ˹kau˺ pimma ˺ʔituʃi ɸu˹bariti˺ paraːna ˺kḁkiti pi̥˹kinui soːt˺ta](下の歯を捥ぎ＜欠き＞取る時は、糸で括って柱に掛けて引き抜きなさった)。フ˹トゥッチパー˺ヤ　カ˹カイヤー˺　ミサムヌ [ɸu̥˹tuttʃipaː˺ja kḁ˹kaijaː˺ misamunu](虫歯＜朽ち歯＞は抜き取れば＜欠けば＞よいのに)。˹パー˺ク　カ˹カイ [˹paː˺ku kḁ˹kai](早く抜き取れ＜欠け＞)。 **(2)**【自動】欠ける。抜ける。˺パー　カ˹カイナー˺ヌ [˺paː kḁ˹kai naː˺nu](歯が欠けてしまった)。˹パー˺バ　カ˹カウ˺カー　ク˹サテー˺ニ　˹ヤー˺ヌ　˹ウイ　ナン˺ギ　シ˹ティルタ˺ツォー [˹paː˺ba kḁ˹kau˺kaː ku̥˹sateː˺ni ˹jaː˺nu ˹ʔui naŋ˺gi ʃi̥˹tiruta˺tsoː](歯を欠くと、後ろ手にして屋根の上に投げ捨てたそうだ)。

カ˹カ˺シ [kḁ˹ka˺ʃi]【名】かかし (案山子)。鳥脅し。標準語からの借用語。田や畑の中に人形を立てて、土鳩やカラスが稲穂や豆粟を食い荒らすのを防いだ。普通は、ヌ˹キ˺ムヌ [nu˹ki˺munu](猪脅し。猪害除け。鳥の食害除け) という。カ˹カ˺シ　ス˹ク˺リ　˺タティ　˺シケーヌ　ガ˹ラ˺サー　˹ピッ˺チン　ウ˹バーヌ [kḁ˹ka˺ʃi su̥˹ku˺ri ˺tḁti ˺ʃi̥keːnu ga˹ra˺saː ˹pit˺tʃiŋ ʔu˹baːnu](鳥の食害除けに案山子＜鳥脅し＞を作って立ててあるが、カラスはちっとも怖がらない)。

カ˹カ˺ラー [kḁ˹ka˺raː]【副助】～だけ全部。～かぎり総て。活用語の連体形に下接して、及ぶ限の範囲、限度、限界を表す。˺アル　カ˹カ˺ラー　ムー˹ル˺　ムティクー [˺ʔaru kḁ˹ka˺raː muː˹ru˺ mutikuː](あるったけ全部持ってこい)。パ˹ナ˺シェー　ス˹ク˺　カ˹カ˺ラー　ムー˹ル˺　ユ˹ヌ˺　パ˹ナ˺シ　カー˹ニル˺　ス˹ク [pa˹na˺ʃeː si̥˹ku˺ kḁ˹ka˺raː muː˹ru˺ ju˹nu˺ pa˹na˺ʃi kaː˹niru˺ su̥˹ku](話は聞くかぎり総て同じ話だけを聞く聞く)。ス˹ク˺　カ˹カ˺ラー　ムー˹ル˺　ヤ˹ナ˺ムニ　˹タンガ˺ル　シゥ˹カリ [su̥˹ku˺ kḁ˹ka˺raː muː˹ru˺ ja˹na˺muni ˹taŋga˺ru si̥˹kari](聞くもの総て悪評＜悪口＞だけが聞こえる＜聞かれる＞)。˹ブー˺　カ˹カ˺ラー [˹buː˺ kḁ˹ka˺raː](居るかぎり総て～。居るのは総て～)。˹スー˺　カ˹カ˺ラー [˹suː˺ kḁ˹ka˺raː](する限り総て～。するのは総て～。)。

カ˹カラ˺スン [kḁ˹kara˺suŋ]【他動】喉に棘が刺さるようにする。かかるようにする。かからせる。イ˹ズン˺プニ　˺ヌドゥナー　カ˹カラ˺シティ　˹イー˺ヤ　˺ヌドー　ウ˹ラサラ˺ヌ [ʔi˹dʑum˺puni nudunaː kḁ˹kara˺ʃi̥ti ˹ʔiː˺ja ˺nudoː ʔu˹rasara˺nu](魚の骨を喉に引っ掛けてしまって食べ物が喉を下ろされない)。ウ˹ブ˺フチシ　˺スー　˺ヌムカー　˺プニ　カ˹カラ˺スン˹ダー [ʔu˹bu˺ɸu̥tʃiʃi ˺suː ˺numukaː ˺puni kḁ˹kara˺sun˹daː](大口でお汁を飲むと骨を喉にかからすぞ)。˺プニ　カ˹カラ˺ス　˺ピンマー　˺サバンナー　ミ˹ジェー˺　イ˹リティ˺　パ˹シ˺バ　ヤ˹ラザイティ˺　ヌ˹マ˺スカー　ウ˹ティ˺ルンティ　ア˹ゾーッ˺タ [˺puni kḁ˹kara˺su̥kaː ˺sabannaː mi˹dʒeː˺ ʔi˹riti˺ pḁ˹ʃi˺ba ja˹radʑaiti˺ nu˹ma˺su̥kaː ʔu˹ti˺runti ʔa˹dʑoːt˺ta](魚の骨が喉に刺さった＜かからせた＞時は箸を十字に重ねて飲ませると刺が落ちるといわれた)。カ˹カラ˺シ [kḁ˹kara˺ʃi](かからせよ)。

カ˹カ˺リサーリ [kḁ˹ka˺risaːri]【名】係累。「係り障り」の転訛したものか。カ˹カ˺ルンサールン [kḁ˹ka˺runsaːruŋ](係累) ともいう。カ˹カ˺リサーリヌ　˹ナーン˺　プ˹ソー˺　ノー˹ン˺　ドゥーカッティシ　˺ナルン [kḁ˹ka˺risaːrinu ˹naːm˺ pu̥˹soː˺ noː˹n˺ duːkattiʃi ˺naruŋ](係累のない人は何でも自分勝手にすることができる)。

カ˹カリ˺ムヌ [kḁ˹kari˺munu]【名】憑き物。祟りをなすもの。˹グヮンスグトゥ˺ヌ　ミ˹チ˺　フ˹マン˺カー　カ˹カリムヌ˺ヌ　ン˹ジ˺ルンツォー [˹gwansugutu˺nu mi˹tʃi˺ ɸu˹maŋ˺kaː kḁ˹karimunu˺nu ʔn˹dʒi˺runtsoː](先祖供養の道が正しくない＜道を踏まない。正しくない＞と祟りことが出るそうだ)。

カ˹カリ˺ムヌ [ka˹kari˺munu]【名】祟りごと。「繋りもの」の義。神の祈願不足や先祖の供養が足りないときに、シ˹ラシ [ʃi˹raʃi](知らせ。前兆) として、子孫に災いが起こること。˹ベー˺ヌ　˺ヤーナー　カ˹カリ˺ムヌ　˹ナー˺トー　ノー˹ン　ナー˺ヌ [˹beː˺nu ˺jaːnaː kḁ˹kari˺munu ˹naː˺toː noː˹n naː˺nu](我が家には先祖の祟りごとなどは何一つもない)。

カ˹カ˺リンドーリ [kḁ˹ka˺rindoːriː]【連】子供が気に入った人に纏いつくこと。ヤ˹ラ˺ベー　ン˹マー˺ムヌ　ッ˹ふぁース˺　プ˹スナー˺ル　カ˹カ˺リンドーリ　˹スー [ja˹ra˺beː ʔm˹maː˺munu f˹faːsu˺ pu̥˹sunaː˺ru kḁ˹ka˺rindoːri ˹suː](子供は美味しいものを呉れる＜食べさせる＞人にまとい＜纏い＞つくものだ)。ウ˹レー　ワー˺ナール　カ˹カ˺リンドーリ　˹

シー˜ ブ˞レー˜ンダ ブ˞ラーン˜ ナルカー ナ˞クン˜ダー [ʔu˞reː waː˜naːru kạ˞ka˜rindoːri ˞ʃiː˜ bu˞reː ˜nda bu˞raːn˜ naruka: na˞kun˜daː](あれはお前に纏いついていたから、お前がいなくなったら、泣くぞ)。

カ˞カ˜ル [ka˞ka˜ru] 【名】たたり (祟り)。祟りごと。神仏や怨霊などが人に災いをもたらすこと。ウ˞ガン˜ヌ ˜キー ˜キスカー カ˞カル˜ヌ ン˞ジ˜ルンティ˞ダー [ʔu˞gan˜nu ˜kiː ˜kị̈suka: kạ˞karu˜nu ʔn˞ʤi ˜runti˞daː](御嶽の木を切ると祟りが出るそうだよ)。˞ニン˜ガイ ˞ソッコー˜ヤ カイー˞カイ˜シ シ˞ミ オーシェー˜チバ ノー˞ンヌ˜ カ˞カ˜ルン ˜サールン ˞ナーン˜パジ [˞niŋ˜gai ˞sokkoː˜ja kaiː˞kai˜ ʃi ʃi˞mi ʔoːʃeː˜ʧiba noː˞nnu˜ kạ˞ka˜run ˜saːrun ˞naːm ˜paʤi](神願い事や法事などは完全に＜きれいに＞して差し上げてあるから何の祟りも差障りもないはずだ)。˞ヤーニンズ˜ヌ ˞ビョー˜ザーカー ノー˞ンナー˜カ カ˞カルン˜ドゥ ˜アルティ ア˞ザリブタ [˞jaːnindzu˜nu ˞bjoː˜ʤaːkaː noː˞nnaː˜ka ka˞karun˜du ˜ʔaruti ʔa˞ʤaributa](家族＜家人数＞が病気がち＜病弱＞であったら、何かの神仏の祟りがあるといわれていた)。

カ˞カ˜ルサール [ka˞ka˜rusaːru] 【名】1係累。かかり障り。「係り・連れ合い」の義。カ˞カ˜ルンサールン [kạ˞ka˜runsaːruŋ](係累・係り・連れ合い) ともいう。カ˞カ˜ルサールヌ ˞ナーン˜ プ˞ソー ドゥー˜ヌ ˞カッティ˜シ サ˞バン˜ ミサン [kạ˞ka˜rusaːrunu ˞naːm˜ pụ˞soː duː˜nu ˞katti˜ʃi sa˞bam˜ misaŋ](係累のない人は自分の勝手にしてもいい)。2他への影響。当たり障り。かかり障り。カ˞カ˜ルサールヌ ˞ナーン˜ヨーニ ˜ムネー イ˞ジ [kạ˞ka˜rusaːrunu ˞naːŋ˜ joːni ˜mune: ʔi˞ʤi](当たり障りのないように話しなさい＜ものは言え＞)。

カ˞カ˜ルピカル [kạ˞ka˜rupị̈karu] 【名】あっち引っかかり、こっち引っかかりすること。差障りのおおいこと。支障の多いこと。親類縁者。˞ウン˜ネーヤ ˞グゥンス˜グトーラ ˞ヌー˜ヤクイヤ カ˞カ˜ルピカルヌ ˞スーワ˜ヌ タ˞ティグリ˜サン˞ダー [˞ʔun˜neːja ˞gwansu˜gutoːra ˞nuː˜jakuija: kạ˞ka˜rupị̈karunu ˞suːwa˜nu tạ˞tiguri˜san˞daː](その家は先祖の継承問題＜元祖ごと＞やら、何やかやと差障りが多くて生活しずらい＜独自の生計を立てるのが難しい＞よ)。

カ˞カ˜ルン [kạ˞ka˜ruŋ] 【自動】1罹る。罹患する。˞プーキ˜ カ˞カ˜ルン [˞puːki˜ kạ˞ka˜ruŋ](マラリア＜風気＞に罹る)。˜キナイ ˜ヌムカー ˞プーキ˜ カ˞カラン˜シェン [˜kinai ˜numukaː ˞puːki˜ kạ˞karaŋ˜ ʃeŋ](キニーネを飲むとマライアに罹らなかった)。˞プーキ˜ カ˞カ˜リティ ニ˞ビ ベー [˞puːki˜ kạ˞ka˜riti ni˞bi beː](マラリアに罹って寝ている)。マ˞ナ˜マー ˞プーキ˜ カ˞カ˜ル プ˞ソー˜ ブ˞ラーヌ [ma˞na˜maː ˞puːki˜ kạ˞ka˜ru pụ˞soː˜ bu˞raːnu](今はマラリアに罹る人はいない)。2掛かる。引っ掛かる。ピ˞キダマー キーヌ˜ ユダナ カ˞カ˜リティ トゥ˞ララ˜ヌ [pị̈˞kidamaː kiːnu˜ judana kạ˞ka˜riti tu˞rara ˜nu](凧は木の枝に引っ掛かって取れない)。3頼る。頼む。治療してもらう。˜イサン カ˞カ˜レー ˜ミサムヌ [˜ʔisaŋ kạ˞ka˜reː ˜misamunu](医者にかかれば良いのに)。˞パー˜ク ˜イサン カ˞カ˜リ [˞paː˜ku ˜ʔisaŋ kạ˞ka˜ri](早く医者にかかれ＜治療してもらえ＞)。

カ˞カ˜ルン [kạ˞ka˜ruŋ] 【自動】1ひっかかる。˜ヌドゥナー ン˞ギヌ˜ カ˞カ˜リティ ˜ヤミ ナ˞ラ˜ヌ [˜nuduna: ʔŋ˞ginu˜ kạ˞ka˜riti ˜jami na˞ra˜nu](喉にとげ＜刺＞が引っかかって痛くてたまらない)。˞タンガ˜シェー ˜ウキニビーン ˞シーユーサヌ˜ プ˞スン˜ カ˞カ˜リ ˜ムタリ サ˞レー˜ティル ˞アー˜ク [˞taŋga˜ʃeː ˜ʔukinibiːŋ ˞ʃiːjuːsanu˜ pụ˞suŋ˜ kạ˞ka˜ri mutari sa˞reː˜tiru ˞ʔaː˜ku](一人では寝起きもままならない＜できない＞。他人に支えられ＜よりかかり、もたれかかり＞しながらやっている)。2世話になる。他人に頼る。イ˞クサ˜ユーナー カ˞カラ˜リ プ˞スン˜ ブ˞ラーヌ˜ ッ˞ふァ˜ シゥ˞カ˜ナウンティ ˞アウ˜リ ˞シーベー˜タ [ʔi˞kusa˜juːna kạ˞kara˜ri pụ˞sum˜ bu˞raːnu˜ f˞fa˜ sị̈˞ka˜naunti ˞ʔau˜ri ˞ʃiːbeː˜ ta](戦争中に頼りにできる人もなく、子供を育てるのに苦労をしていた)。3碇泊する。繋船する。カ˞ジヌ マールター˜ フネー ˜クン カ˞カ˜リ タ˞キ˜ドゥン カ˞カ˜レーティル ヤッ˞トゥ˜シ イ˞サナケー パッ˜タ [ka˞ʤinu maːruta:˜ ɸuneː ˜kuŋ kạ˞ka˜ri tạ˞ki˜duŋ kạ˞ka˜reːtiru jat˞tu˜ʃi ʔi˞sanakeː pat˜ ta](風が向かい風になったので＜回ったので＞、船は古見に船繋がり＜碇泊し＞、竹富島に船繋がり＜碇泊＞しながら、やっとのことで石垣島へたどって行った)。4治療を受ける。医者にかかる。ウ˞レー˜ イサン カ˞カリ˜ル ˞ヤンマイ˜ヤー ˞ノー˜シェー˞ダー [ʔu˞reː˜ ʔisaŋ kạ˞kari˜ru ˞jammai˜jaː ˞noː˜ʃeː˞daː](その人は医者にかかって病気を治したのだよ)。5鍵がかかる。カ˞ギ˜ヌ カ˞カ˜リティ ア˞カラヌ [ka˞gi˜nu kạ˞ka˜riti ʔa˞karanu](鍵がかかっ

て開かない)。6罠や網などにひっかかる。˥クマー カ˩マイ˥ヌ ˥ミチ ア˩ラン˥ユンダ ˥ヤマ ア˩グタンティン˥ カ˩カラ˥ヌ [˥kuma: ka˩mai˥nu ˥mitʃi ʔa˩raɲ˥junda ˥jama ʔa˩gutantiŋ˥ ka˩kara˥nu](ここは猪の獣道でないから罠を仕掛けても引っかからない)。7ふりかかる。雨や水などを被る。˩ワーン˥トンマー ア˩ミ˥ヌ カ˩カリ˥シバ ˥クマンター ˩ユージ˥クー [˩wa:n˥tomma: ʔa˩mi˥nu kạ˩kari˥ʃiba ˥kumanta: ˩ju:ʤi˥ku:](君の所は雨がかかるから、こちらへ寄って来いよ)。8病気や災害が身に及ぶ。ふりかかる。ウ˩ブヤン˥ カ˩カ˥リティ シ˩ニンゴー˥ タ˩タ˥ケーティ ˩アークタン˥ドゥ ˩ノー˥レーンツォー [ʔu˩bujaŋ˥ kạ˩ka˥riti ʃi˩niŋgo:˥ tạ˩ta˥ke:ti ˩ʔa:kutan˥du ˩no:˥re:ntso:](大病を患って < 罹って > 今にも死にそうだったが治ったそうだよ)。9架かる。橋などが架設される。パ˩シ˥ カ˩キ˥ルン [pạ˩ʃi˥ kạ˩ki˥ruŋ](橋を架ける)。10機械が動くようになる。カ˩ツシンヌ˥ キカイ カ˩キ˥ルンティ ス˩ヌ˥ カ˩カラン˥バン [ka˩tsuʃinnu˥ kị̥kai kạ˩ki˥runti su˩nu˥ kạ˩karam˥baŋ](鰹船の機械をかけようとするが、かからないわい)。11費やす。ク˩ヌ˥ シ˩グトー ナンニ˥チブカラ カ˩カ˥ルカヤー [ku˩nu˥ ʃi˩guto: nanni˥tʃibukara kạ˩ka˥rukaja:](この仕事は何日ほど < ぐらい > かかるだろうか)。12着手する。物事をやり始める。˥キュウズーナ シ˩グトー˥ カ˩カラン˥カー マ˩ニアー˥ヌ [˥kju:ʤu:na ʃi˩guto:˥ kạ˩karaŋ˥ka: ma˩niʔa:˥nu](今日中に仕事へ取り掛からないと間に合わない < 期日に間に合わない >)。13目方がはかりに出る。重量を測定される。ク˩ヌ オー˥ヤ ニ˩ヒャッ˥キン カ˩カ˥ルン˩ナー [ku˩nu ʔo:˥ja ni˩çak˥kiŋ kạ˩ka˥run˩na:](この豚は二百斤かかるなあ)。

ガ˩カ˥ルン [ga˩ka˥ruŋ]【自動】かかる。引っかかる。物にてぶらさがる。たれさがる。˩キー˥ヌ ユ˩ダ˥ナー ピ˩キダマヌ˥ ガ˩カ˥リ ˩ベー [˩ki:˥nu ju˩da˥na: pị̥˩kidamanu˥ ga˩ka˥ri ˩be:](木の枝に凧がかかっている)。˩キン˥ヌ フ˩ビヌ˥ グ˩マー˥カー ˩キン˥マー ˥ヌビナ ガ˩カ˥ルン˩ダー [˩kin˥nu ɸu˩binu˥ gu˩ma:˥ka: ˩kim˥ma: ˥nubina ga˩ka˥run˩da:](着物の襟が小さいと着物は首に引っかかるよ)。アー˩イ˥ ガ˩カラ˥ヌ [ʔa:˩i˥ ga˩kara˥nu](いや、引っかからないよ)。

カ˩カ˥ルンサール [kạ˩ka˥runsa:ru]【名】自分が世話すべき両親・妻子・兄弟。係累。つなぎしばる人間関係のこと。心身を拘束する煩わしい、さしさわり(差障り) となること。当たり障り。祟りや障害となること。カ˩カ˥ルンサールン ˩ナーン˥ プ˩ソー˥ マー˩ン˥ パ˩ラ˥リン [kạ˩ka˥runsa:run ˩na:m˥ pụ˩so:˥ ma:˩m˥ pa˩ra˥riŋ](係累のない人は何処にでも行ける)。

カ˩カ˥ルンサールーン [kạ˩ka˥runsa:ru:ŋ]【名】係累。自分が世話すべき両親や妻子、兄弟など。カ˩カ˥ルンサールン ˩ナーン˥ プ˩ソー˥ ドゥーカッティシ ノー˩ン シー˥ミサ˩ゲ˥ラ [kạ˩ka˥run ˥sa:run ˩na:m˥ pụ˩so:˥ du:kattiʃi no:˩ŋ ʃi:˥misa˩ge˥ra](係累のいない人は自分勝手に何でもしていいさ)。

カ˩カ˥レー ˩トーリトー˥リ [kạ˩ka˥re: ˩to:rito:˥ri]【副】慣用句。引っ掛かっては < 躓いては > 倒れ倒れしながら。カ˩カ˥レー ˩トーリトー˥リ ˩シェー˥ティ カ˩タ˥ミ ˩パッ˥タヤー [kạ˩ka˥re: ˩to:rito:˥ri ˩ʃe:˥ti kạ˩ta˥mi ˩pat˥taja:](引っ掛かっては < 躓いては > 倒れ倒れしながら担いでいったよ)。

カ˩カ˥レートーレー [ka˩ka˥re:to:re:]【副】もたれ < 凭れ > かかっては倒れ倒れして。よたよたするほど精力を出し切るさま。倒れこむほど疲れ果てるさま。疲労困憊するさま。カ˩カ˥レートーレー ˩シェー˥ティン ッ˩ふァバ マイフナー˥ マ˩ラスンティ˥ アイニ ˩アウ˥リ ˩シーベート ダー [kạ˩ka˥re:to:re: ˩ʃe:˥tin f˩faba maifuna:˥ ma˩rasunti˥ ʔaini ˩ʔau˥ri ˩ʃi:be:˧da:](もたれかかっては < 人様に頼っては > 倒れ倒れして、疲れ果てながらも、子供を育て成功させようと、あんなに難儀苦労をしているのだよ)。

カ˩カン [ka˩kaŋ]【名】女性の着物で、丈の長いひだスカートに似た裳。木綿の白布で作られている。丈は踝までの長さが一般である。士族女性の礼装用の衣装の一つ (「懸け裳」という説あり)。沖縄古語「かかも」の転訛したものという『沖縄古語大辞典』。パ˩トゥ˥マナカムリ [pạ˩tu˥manakamuri](鳩間中岡 < 鳩間節 > の舞踊) のようなウ˩ブブドゥ˥ル [ʔu˩bubudu˥ru](古典舞踊。「大踊り」の義) の衣装等に用いられる。パ˩トゥ˥マナカムレー カ˩カントゥ˥ ス˩ディナ˥ヌ ˩ウイ˥ナー タ˩ナシバ˥ カキティル ブ˩ドゥル ソーッ˥タ [pạ˩tu˥manakamure: kạ˩kantu˥ su˩dina˥nu ˩ʔui˥na: ta˩naʃiba˥ kạkitiru bu˩duru so:t˥ta](古典舞踊の鳩間中岡節舞踊は、カカンとスディナの上から手無(タナシ)(伝統的に加治工家と寄合家に伝わる) を着て踊られている)。

カ˩キ [kạ˩ki]【名】1垣。生垣。竹やススキで作った垣根。石を積んで作った垣を˩グス˥ク [˩gusụ˥ku](石

垣) という。ˈヤシキˈヌ　クˈシˈナ　カˈキˈシ　カˈクイティˈ　ヤサイ　イˈビˈ　シケー [ˈjaʃi̥kiˈnu ku̥ˈʃiˈna kḁˈkiˈʃi kḁˈkuitiˈ jasai ʔiˈbiˈ ʃi̥keː](屋敷の後に垣で囲って野菜を植えてある)。垣根。カˈマイˈヌ　カˈキˈ　スˈクˈルン [kaˈmaiˈnu kḁˈkiˈ su̥ˈkuˈruŋ](猪の垣を作る)。カˈキヌˈ　ミーナ　パˈナˈヌ　ムイˈベー [kḁˈkinuˈ miːna paˈnaˈnu muiˈbeː](垣根の間 < 生垣の中 > に花が生えている)。2猪垣。カˈマイˈヌ　カˈケー　ターˈヌ　ˈマールˈナ　ˈキーˈバ　ˈウイˈ　フミティ　スˈクˈローッタヌ　ˈシーヌウチヌˈ　カˈケー　グスˈク　シˈマリ　ブタ [kaˈmaiˈnu kḁˈkeː taːˈnu ˈmaːruˈna ˈkiːˈba ˈʔuiˈ ɸumiti su̥ˈkuˈroːttanu ˈʃiːnuʔutʃinuˈ kḁˈkeː gusu̥ˈku ʃiˈmari buta](猪垣は田圃の回りに木を突き立て、編んで作られたが、インダ < 伊武田 > シーヌウチの猪垣は石垣が積まれていた)。ˈターˈヌ　カˈキˈ　フムン [ˈtaːˈnu kḁˈkiˈ ɸumuŋ](田圃の猪垣を編む)。3魚垣。伊武田の海岸に積まれた魚垣は、深い所で約 80 センチの高さに積まれていた。1958 年ごろまでは、鳩間島からトゥˈマダー [tuˈmadaː] やˈケーˈダ [ˈkeːˈda] へ通耕に行く場合、干潮時に遭遇すると魚垣の一部分の石垣を崩してˈイダフニ [ˈʔidaɸuni](板舟 < サバニ >) を通過させ、しかる後に魚垣を積み直して修復しておいたものである。ˈインダパマトゥ　ˈナーパマˈ　フクパマナヌ　スˈナˈカナー　カˈキヌˈ　シˈマリ　ブタンˈダー [ˈʔindapamatu ˈnaːpamaˈ ɸu̥kupamanu suˈnakaˈnaː kḁˈkinuˈ ʃiˈmari butanˈdaː](インダ浜と長浜、福浜の海中に魚垣が積まれていたよ)。

カˈキ [kḁˈki] (1)【名】かけら (欠片)。サˈバンˈヌ　カˈキヌ　ポッツァーリ　ベーˈバ　プˈサイˈ　アˈツァˈミ [saˈbanˈnu kḁˈkinu pottsaːri beːˈba pu̥ˈsaiˈ ʔaˈtsaˈmi](茶碗のかけら < 欠片 > が散らばっているから、拾い集めなさい)。カˈミˈヌ　カˈキˈ　バˈリバ　シッˈケーティル　ˈイソーパーレー　シˈタトダー [kaˈmiˈnu kḁˈkiˈ baˈriba ʃikˈkeːtiru ˈʔisoːpaːreː ʃi̥ˈta꜔da](甕の欠片(カケラ)、割れたかけら < 欠片 > を打ち鳴らしつつイソーパーレーをしたのだよ)。 **(2)**【助数】物の欠けた部分 (欠片) を数える単位。数量を表す語の下につく。フˈナˈブ　ˈンクカー　プˈスˈカケー　ˈバンˈヌン　ッˈふァーシ [ɸuˈnaˈbu ˈʔŋkukaː puˈsuˈkḁkeː ˈbanˈnuŋ fˈfaːʃi](蜜柑 < 九年母 > を剥いたら一欠けら < 一袋 > 私にも頂戴よ < 食べさせよ >)。

ˈカギ [ˈkagi]【名】かぎ (鍵)。若年層のことば。標準語からの借用語。老年層はˈサシ [ˈsḁʃi](錠) といい、サˈシˈヌッふァ [sḁˈʃiˈnuffa](鍵) という。ˈカギ　カˈキˈルン [ˈkagi kḁˈkiˈruŋ](鍵をかける)。

カˈキˈアイ [kaˈkiˈai]【名】1掛け合い。交渉。標準語からの借用語。ˈダンパン [ˈdampaŋ](談判) ともいう。ウˈヌ　ダイˈシェー　ˈカーサランバˈ　ウˈヤカタˈトゥ　ˈマーˈビン　カˈキˈアイ　ˈシーˈ　クー [ʔuˈnu daiˈʃeː ˈkaːsarambaˈ ʔuˈjakataˈtu ˈmaːˈbiŋ kḁˈkiˈai ˈʃiːˈkuː](この値段では売れないから親方と更に交渉 < 掛け合い > してこい)2交渉。談判。ˈスイサンクヮイシャˈトゥ　カˈキˈアイ　シˈティ　イーシˈヌ　ˈダイˈ　キˈミˈクー [ˈsuisaŋkwaiʃaˈtu kḁˈkiˈai ʃi̥ˈti ʔiːʃiˈnu ˈdaiˈ kiˈmiˈkuː](水産会社と交渉してツノマタの値段を決めてこい)。

カˈキˈアウン [kaˈkiˈauŋ] (1)【自動】交渉する。談判する。抗議する。「掛け合う」の転訛。ˈダイヌ　ギンˈシ　ウˈヤカタˈトゥ　カˈキˈアウン [ˈdainu giŋˈʃi ʔuˈjakataˈtu kḁˈkiˈauŋ](値段の件で親方と掛け合う < 交渉する >)。ˈワートーˈ　カˈキアーˈヌ [ˈwaːtoːˈ kḁˈkiʔaːˈnu](君とは掛け合わない < 交渉しない >)。ウˈヤカタˈトゥ　カˈキˈアイティ　ˈイーシˈヌ　ˈダイヤーˈ　キˈミラトディー [ʔuˈjakataˈtu kḁˈkiˈaiti ˈʔiːʃiˈnu ˈdaijaːˈ kiˈmira꜔diː](親方と掛け合って < 交渉して >、角叉の値段は決めようよ)。ワˈターンˈ　カˈキˈアウカー　ˈバンˈヌン　カˈキˈアウン [waˈtaːŋˈ kḁˈkiˈaukaː ˈbanˈnuŋ kḁˈkiˈauŋ](君達も掛け合うなら私も掛け合う)。ˈクヌ　ˈギンˈシェー　カˈキˈアウ　ˈクトー　ˈナーンˈパジ [ˈkunu ˈgiŋˈʃeː kḁˈkiˈau ˈku̥toː ˈnaːmˈpaʤi](この件では < この事では > 掛け合うことはないはずだ)。ˈマーˈビン　カˈキアイˈヤー　ˈミサムヌ [ˈmaːˈbiŋ kḁˈkiaiˈjaː ˈmisamunu](もっと掛け合えばよいのに)。ˈパーˈク　カˈキˈアイバ [ˈpaːˈku kḁˈkiˈaiba](早く掛け合えよ < 交渉せよ >)。 **(2)**【他動】掛け合う。ˈナーブンブン　クイˈバ　カˈキアイˈヤーティル　シˈグトー　ソーッˈタ [ˈnaːbumbum kuiˈba kḁˈkiaiˈjaːtiru ʃiˈgutoː soːtˈta](めいめいに < 互いに > 声を掛け合って < ぞ > 仕事をなさった)。

カˈキアツァミˈルン [kḁˈkiatsamiˈruŋ]【他動】かき集める。カˈキ [kḁˈki](掻き) は強意の接頭語、ˈアツァミˈルン [ʔaˈtsamiˈruŋ](集める) に上接して複合動詞カˈキアツァミˈルンを合成したもの。カˈキアツァˈムン [kḁˈkiatsaˈmuŋ](かき集める) と同じ。カˈキアツァミラˈヌ [kḁˈkiatsamiraˈnu](かき集めない)。カˈキアツァミˈプサン [kḁˈkiatsamiˈpu̥saŋ](かき集めたい)。カˈキアツァミˈル　ˈクトゥ [kḁˈkiatsamiˈru

˺ku̥tu](かき集めること)。カ˹キアツァミ˺レー　˺ミサムヌ [kḁ˹kiatsami˺re: ˺misamunu](かき集めればよいのに)。カ˹キアツァミ˺リ [kḁ˹kiatsami˺ri](かき集めろ)。

カ˹キアツァ˺ムン [kḁ˹kiatsa˺muŋ] 【他動】かき集める。˹キーヌパー˺ヤ　カ˹キアツァ˺ミティ　パ˹タキ˺ヌ　˺コイ　カ˹タ˺ミパリ [˹ki:nupa:˺ja ʔa˹tsa˺miti pḁ˹taki˺nu ˺koi kḁ˹ta˺mipari](木の葉は、かき集めて畑の肥やしに担いでいけ)。カ˹キアツァム˺ナ [kḁ˹kiatsamu˺na](かき集めるな)。カ˹キアツァミ˺プサン [kḁ˹kiatsami˺pu̥saŋ](かき集めたい)。カ˹キアツァ˺ム　クトゥ [kḁ˹kiatsa˺mu ˺ku̥tu](かき集めること)。カ˹キアツァ˺メー　ミサムヌ [kḁ˹kiatsa˺me: ˺misamunu](かき集めればよいのに)。˹パー˺ク　カ˹キアツァ˺ミバ [˹pa:˺ku kḁ˹kiatsa˺miba](早くかき集めよ)。

カ˹キイリ˺ルン [kḁ˹kiʔiri˺ruŋ] 【他動】書き入れる。書き込む。˹クシ˺キナー　サ˹クシ˺ヌ　˹ナー˺　カ˹キイリ˺ルンティ　タ˹ナ˺ミ　˺シケー [˹kuʃi̥˺kina: sḁ˹kuʃi˺nu ˹na:˺ kḁ˹kiʔiri˺runti ta˹na˺mi ˺ʃi̥ke:](戸籍簿に嫡子の名前を書き入れようと頼んでおいてある)。カ˹キイリラ˺ヌ [kḁ˹kiʔirira˺nu](書き入れない)。カ˹キイリ˺プサン [kḁ˹kiʔiri˺pu̥saŋ](書き入れたい)。カ˹キイリ˺ル　˺クトー　ナ˹ラ˺ヌ [kḁ˹kiʔiri˺ru ˺ku̥to: na˹ra˺nu](書き入れることな出来ない)。カ˹キイリ˺レー　˺ミサムヌ [kḁ˹kiʔiri˺re: ˺misamunu](書き入れればよいものを)。ク˹レー　パイ˺サ　カ˹キイリ˺リ [ku˹re: pai˺sa kḁ˹kiʔiri˺ri](これは早く書き入れなさい)。

カ˹キイリ˺ルン [kḁ˹kiʔiri˺ruŋ] 【他動】掻き入れる。˹ウン˺バ　˹バー˺キナ　カ˹キイリ˺ルンティ　˹ベー˺ヌンドゥ　ムッ˹トゥ˺　カ˹キイリララ˺ヌ [˹ʔum˺ba ˹ba:˺kina kḁ˹kiʔiri˺runti ˹be:˺nundu mut˹tu˺ kḁ˹kiʔirirara˺nu](芋を笊に掻き入れようとしているが、ちっとも掻き入れられない)。カ˹キ˺イリ　˺ミサカー　カ˹キイリ˺ル　˺クトー　˺ナルン [kḁ˹ki˺ʔiri ˺misaka: kḁ˹kiʔiri˺ru ˺ku̥to: ˺naruŋ](掻き入れて良ければ掻き入れることは出来る)。カ˹キイリ˺レー　˺ミサムヌ [kḁ˹kiʔiri˺re: ˺misamunu](書き入れれば良いのに)。˹パー˺ク　カ˹キイリ˺リ [˹pa:˺ku kḁ˹kiʔiri˺ri](早く掻き入れろ)。

カ˹キ˺イルン [kḁ˹ki˺iruŋ] 【他動】書き入れる。カ˹キイリ˺ルンとも言う。˺ドゥーシ　カ˹キ˺イルンティ　˹ベー˺ヌ　カ˹キ˺イリ　˺ミサンカヤー [˺du:ʃi kḁ˹ki˺ʔirunti ˹be:˺nu kḁ˹ki˺ʔiri ˺misaŋkaja:](自分で書き入れようとしているが、書き入れて良いかねえ)。˺ドゥーシェー　カ˹キイラン˺ドーシ　カ˹キ˺イルプ˹ス˺　タ˹ナ˺ミバ [˺du:ʃe: kḁ˹kiʔiran˺do:ʃi kḁ˹ki˺ʔiru pu̥˹su˺ ta˹na˺miba](自分では書き入れないで書き入れる人を頼めよ)。˹パー˺ク　カ˹キ˺イレー　˺ミサムヌ [˹pa:˺ku kḁ˹ki˺ʔire: ˺misamunu](早く書き入れれば良いのに)。˺ドゥーシ　カ˹キ˺イリバ [˺du:ʃi kḁ˹ki˺ʔiriba](自分で書き入れよ)。

カ˹キウタ˺スン [kḁ˹kiʔuta˺suŋ]【他動】書き落とす。書き漏らす。˹クシ˺キナー　ウ˹リヌ　ナーヤ　ヌーリ˺＜カ˹キイリラ˺リ＞　ブ˹ラーヌ˺　カ˹キウタサリ˺ブー [˹kuʃi̥˺kina: ʔu˹rinu na:ja nu:ri˺ ＜ka˹kiirira˺ri＞ bu˹ra:nu˺ kḁ˹kiʔutasari˺ bu:](戸籍にはその人の名前は載っていない。書き落とされている)。カ˹キウタ˺シ　˹ナー˺ヌ [kḁ˹kiʔuta˺ʃi ˹na:˺nu](書き落としてしまった)。カ˹キウタ˺ス　˺クトー　˹ナーン˺パジ [kḁ˹kiʔuta˺su ˺ku̥to: ˹na:m˺paʤi](書き落とすことは無いはずだ)。カ˹キウタ˺シェーラ　˹デー˺ジ˹ゲ˺ラ [kḁ˹kiʔuta˺ʃe:ra ˹de:˺ʤi˹ge˺ra](書き落としたら大変さ)。ク˹レー˺　ヤー˹ディン˺　カ˹キウタ˺シ [ku˹re:˺ ja:˹diŋ˺ kḁ˹kiʔuta˺ʃi](これは必ず書き落とせ)。

カ˹キウツァ˺スン [kḁ˹kiutsa˺suŋ]【他動】書き写す。書写する。見本を見てその通りに書く。˹ホン˺　カ˹キウツァ˺スン [˹hoŋ˺ kḁ˹kiutsa˺suŋ](本を書き写す)。ム˹チキサ˺ヌ　˹バン˺マー　カ˹キウツァサラ˺ヌ [mu˹ʧikisa˺nu ˹bam˺ma: kḁ˹kiutsasara˺nu](難しくて私には書き写されない)。カ˹キウツァシ˺プサカカー　˹パー˺ク　カ˹キウツァ˺シェー　˺ミサムヌ [kḁ˹kiutsaʃi˺pu̥saka: ˹pa:˺ku kḁ˹kiutsa˺ʃe: ˺misamunu](書き写したければ早く書き写せばよいのに)。カ˹キウツァ˺ス　プ˹ソー　パー˺ク　カ˹キウツァ˺シ [kḁ˹kiutsa˺su pu̥˹so: pa:˺ku kḁ˹kiutsa˺ʃi](書き写す人は早く書き写せ)。

カ˹ギカタ˺チ [ka˹gikata˺ʧi] 【名】姿。姿格好。「影形」の義。ク˹ヌ˺グロー　ウ˹レー˺　カ˹ギカタ˺チンツァン　ミ˹ラランﾄツォー [ku˹nu˺guro: ʔu˹re:˺ ka˹gikata˺ʧintsam mi˹raran꜔tso:](このごろ、あれ＜彼奴＞は影も形すらも見られないんだよ)。

カ˹キグ˺トゥ [kḁ˹kigu˺tu]【名】賭け事。博打。カ˹キグ˺トゥ　˹スー˺　プ˹ソー　マーパカラ˺サー　˹ナー˺ヌティ　ナ˹ラー˺ソーッタ [kḁ˹kigu˺tu ˹su:˺ pu̥˹so: ma:pakara˺sa: ˹na:˺nuti na˹ra:˺so:tta](賭け事をする人はまともでない＜信頼できない。不誠実である＞と教えられた)。

カ˹キ˺クムン [kḁ˹ki˺kumuŋ] 【他動】書き入れる。記

入する。「書き込む」の義。˞クインナ　˞ヨイ˞ヌ　ピ˞ニチ˞　カ˞キ˞クムンティ　˞スンドゥ˞　グ˞マー˞ヌ　カ˞キクマラ˞ヌ [˞kuinna ˞joi˞nu pi˞nitʃi˞ kạ˞ki˞kumunti ˞sundu˞ gu˞ma:˞nu kạ˞kikumara˞nu](暦にお祝いの日を記入しようと＜書き込もうと＞するが、小さくて記入できない)。˞クン˞ナ　カ˞キ˞クミ˞ミサカー　カ˞キ˞クム　˞クトー　˞ナルン [˞kun˞na kạ˞ki˞kumi ˞misaka: kạ˞ki˞kumu ˞kụto: ˞naruŋ](これに書き込んでよければ書き込むことは出来る)。˞マー˞ビン　カ˞キ˞クメー　˞ミサムヌ [˞ma:˞biŋ kạ˞ki˞kume: ˞misamunu](もっと書き込めば良いのに)。˞パー˞ク　カ˞キ˞クミバ [˞pa:˞ku kạ˞ki˞kumiba](早く書き込めよ)。

カ˞キ˞ザー [kạ˞ki˞ʤa:] 【名】柄の短い熊手。ツノマタ (角又) を採取する魚具。さで掻き。落ち葉や堆肥をかき寄せる柄の長い熊手。農具の一つ。˞イー˞シ　˞トゥル　˞バソー　カ˞キ˞ザーシル　˞ガキトゥ˞ル˞タ [˞ʔi:˞ʃi ˞turu ˞baso: kạ˞ki˞ʤa:ʃiru ˞gaki tu ˞ru˞ta](ツノマタ＜角又＞を採集する時は熊手で引っ掛けて取った)。カ˞キザー˞ヌ　˞シメー　˞シンダ˞バ　マ˞ギティ˞　シゥ˞カウタ [kạ˞kiʤa:˞nu ˞ʃime: ˞ʃinda˞ba ma˞giti˞ sị˞kauta](熊手の爪は鉄線＜八番線ワイヤー＞を曲げて使った)。

ガ˞キ˞ザー [ga˞ki˞ʤa:] 【名】自在鉤。竈の上や火鉢の上などに天井から吊るして薬缶や鍋などを掛ける鉤。˞ガッ˞ク [˞gak˞ku](鉤) ともいう。ガ˞キ˞ザーナ　˞ブラヤコン　˞ガキティ　˞ユー　フ˞カ˞スン [ga ˞ki˞ʤa:na ˞burajakoŋ ˞gakiti ˞ju: ɸụ˞ka˞suŋ](自在鉤に法螺貝で作った薬缶を掛けてお湯を沸かす)。

カ˞キザ˞スン [kạ˞kiʤa˞suŋ] 【他動】1掻き出す。容器の中の物を総て掻き出す。カ˞キンザ˞スンとも言う。˞脱糞する。放尿する」など、下品な意味の付加する場合がある。カ˞ミ˞ヌ　ナ˞カヌ˞ムノー　˞イッソー˞ラ　カ˞キザ˞スン [ka˞mi˞nu na˞kanu˞ muno: ˞ʔisso:˞ra kạ˞kiʤa˞suŋ](甕の中の物は残らず掻き出す)。カ˞キザサ˞ヌ [kạ˞kiʤasa˞nu](掻き出さない)。カ˞キザ˞シティ　˞ムティクー [kạ˞kiʤa˞ʃị̥ti ˞mutiku:](掻き出して持って来い)。˞キューズーナ　カ˞キザ˞ス˞クトゥ [˞kju:ʤu:na kạ˞kiʤa˞su ˞kụtu](今日中に掻き出すこと)。カ˞キザ˞シェー　˞ミサムヌ [kạ˞kiʤa ˞ʃe: ˞misamunu](掻き出せばよいのに)。ムー˞ル˞カ˞キザ˞シ [mu:˞ru˞ kạ˞kiʤa˞ʃi](全部掻き出せ)。2その動作を軽蔑し、憎む意味を表す。˞ユベー　シ˞バル˞バ　カ˞キザ˞シティル　ニ˞ビシキネー˞　ムー˞ル　ゾッふァシ˞　シケーバン [˞jube: ʃi˞baru˞ba kạ˞kiʤa˞ʃị̥tiru ni˞biʃị̥kine:˞ mu:˞ru ʤoffaʃi˞ ʃị̥ke:baŋ](昨夜は寝小便をしくさって＜小便を掻き出して＞、寝床は全部濡らしておいてあるわい)。

カ˞キ˞ザン [kạ˞ki˞ʤaŋ] 【名】掛け算。標準語からの借用語。学校教育と共に明治二十九年頃から導入されてものであろう。˞ガッ˞コーナーティ　カ˞キ˞ザン　タ˞シ˞ザン　ピ˞キ˞ザン　ワ˞リ˞ザン　ナ˞ラウ˞タン [˞gak˞ko:na:ti kạ˞ki˞ʤan tạʃi˞ʤam pị̥˞ki˞ʤan wa˞ri˞ʤan na˞rau˞taŋ](学校で掛け算、足し算、引き算、割り算を習った)。

カ˞キ˞シゥクン [kạ˞ki˞sụkuŋ] 【自動】駆けつける。走る。「駆けつく＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。カ˞キッツァー˞スン [kạ˞kittsa:˞suŋ](駆けつける。走る。「駆け散らす」の義) ともいう。˞アイニ　カ˞キシゥカン˞ドーシ　˞ヨーンナ˞　パリ [˞ʔaini kạ˞kisị̥kan˞do:ʃi ˞jo:nna˞ pari](あんなに駆けつけないでゆっくり行け)。カ˞キ˞シキ　˞パリ [kạ˞ki˞ʃị̥ki ˞pari](走って行け)。ア˞バタス˞カー　カ˞キ˞スクン [ʔa˞batasu˞ka: kạ˞ki˞sụkuŋ](急かせたら駆けつける＜走る＞)。カ˞キ˞スク　プ˞ソー˞　カ˞キ˞シキ [kạ˞ki˞sụku pụ˞so:˞ kạ˞ki˞ʃị̥ki](駆けつける人は駆けつけろ)。カ˞キ˞シケー　˞ミサムヌ [kạ˞ki˞ʃị̥ke: ˞misamunu](駆けつければよいのに)。

カ˞キシキ˞ルン [kạ˞kiʃị̥ki˞ruŋ] 【自動】駆けつける。走る。カ˞キッツァー˞スン [kạ˞kittsa:˞suŋ](駆けつける) ともいう。カ˞キシキラン˞ドーシ　ア˞ラ˞キクー [ka˞kiʃị̥kiran˞do:ʃi ʔa˞ra˞ki ˞ku:](駆けつけないで歩いて来い)。カ˞キ˞シキ　˞パリ [kạ˞ki˞ʃị̥ki ˞pari](駆けつけて行け)。˞バン˞ヌン　カ˞キシキ˞ルン [˞ban ˞nuŋ kạ˞kiʃị̥ki˞ruŋ](私も駆けつける)。カ˞キシキ˞ル　˞バソー　カ˞キシキ˞リバ [kạ˞kiʃị̥ki˞ru ˞baso: kạ˞kiʃị̥ki˞riba](駆けつける時は駆けつけろよ)。˞パー˞ク　カ˞キシキ˞レー　˞ミサムヌ [˞pa:˞ku kạ˞kiʃị̥ki˞re: ˞misamunu](早く駆けつければよいのに)。

カ˞キ˞ジク [kạ˞ki˞ʤiku] 【名】掛け軸。若年層の言葉。老年層は、カ˞キ˞ムヌ [kạ˞ki˞munu](掛け物) という。˞ヨイ˞ヌ　カ˞キ˞ジコー　˞ショーチクバイ˞トゥ　ツ˞ルカミトゥ　スー˞カ　ヌー˞ル　マ˞シ˞カヤー [˞joi˞nu kạ˞ki˞ʤiko: ˞ʃo:tʃikubai˞tu tsu˞rukamitu su:˞ka nu:˞ru ma˞ʃi˞kaja:](お祝いの掛け軸は、松竹梅と鶴亀とではどれが良いかね)。

カ˞キシティ˞ルン [kạ˞kiʃị̥ti˞ruŋ] 【他動】書きなぐる。「書き捨てる」の義。カキシ˞トゥン [kạkiʃị̥˞tuŋ](書きなぐる。書き捨つ) ともいう。ウ˞ビ˞ヌ　ム˞ヌ˞バ　カ˞キシティルン˞カティ　ウ˞ムーン˞ドゥター

カ˞キシティララ˞ン　˞ベー˞ティル　ク˞メーキ˞　カキ˞ベー˞ダー [ʔu˞biˀnu mu˞nu˞ba kạ˞kiʃi̥tiruŋ˞ kati ʔu˞mu:n˞duta: kạ˞kiʃitirara˞m ˞be:˞tiru ku˞me:ki˞ kạki˞be:˞da:](これだけ大量のものを、書きなぐろうかと思うのだが、書きなぐることが出来ない＜書きなぐれない＞ので＜ぞ＞、丁寧に＜細かく、入念に＞書いているのだよ)。˞アイニ　ウ˞ムイ˞ツァーカー　カ˞キシティ˞ル　˞クトー　ス˞ナ [˞ʔaini ʔu˞muiˀtsa:ka: kạ˞kiʃi̥ti˞ru ˞kụto: su˞na](そんなに惜しければ、書きなぐることはするな)。

カ˞ギ˞ジン [ka˞giˀʤiŋ] 【名】陰膳。旅行中の人の安全を祈って、留守宅で供える食膳。出征兵士や遭難にあった家族のためにも供えた。˞ピントゥルピン˞　カ˞ギジン˞バ　シ˞ケー˞ティル　タ˞ビヌウイ˞ヌ　プ˞スヌ˞　ドゥーパダニンガイヤー　˞ソーッタ˞ル [˞pinturupiŋ˞ ka˞giʤimˀba ʃi̥˞ke:˞tiru ta˞binu ʔui˞nu pụ˞sunu˞ du:padaniŋgaija: ˞so:tta˞ru](毎日＜日という日＞陰膳を供えて＜ぞ＞旅の途上にある人の健康祈願はなされたものだ)。

カ˞キスイ˞ルン [kạ˞kisuiˀruŋ] 【他動】書き添える。カ˞キ˞タスン [kạ˞kiˀtasuŋ](書き足す) ともいう。ティ˞ガ˞ミナ　˞タイフー˞ヌ　˞クトゥン　カ˞キスイ˞ルンティ　ウ˞ムータ˞ヌ　˞ソー　スン˞ユーティ　˞ウムイティ　カ˞キスイラン˞シェン [ti˞gaˀmina ˞taiɸu:˞nu ˞kụtuŋ kạ˞kisuiˀrunti ʔu˞mu:ta˞nu ˞so: suŋ˞ ju:ti ˞ʔumuiti kạ˞kisuiraŋ˞ʃeŋ](手紙に台風のことも書き添えようと思ったが、心配するかと思って書き添えなかった)。カ˞キ˞スイ　˞ミサカー　˞ピーチ˞フ˞ター˞チェー　カ˞キスイ˞ル　˞クトー　˞ナルン [kạ˞kiˀsui ˞misaka: ˞pi:ʧi˞ ɸụ˞ta:˞ʧe: kạ˞kisuiˀru ˞kụto: ˞naruŋ](書き添えて良ければ、一つ二つは書き添えることは出来る)。ティ˞ガミ˞ヌ　シ˞ビ˞ナー　ウ˞ヤ˞ヌ　˞クトゥン　カ˞キスイ˞ルンツォー [ti˞gami˞nu ʃi˞biˀna: ʔu˞jaˀnu ˞kụtuŋ kạ˞kisuiˀruntso:](手紙の最後に親のことも書き添えるそうだ)。カ˞キスイラ˞ヌ [kạ˞kisuira˞nu](書き添えない)。ク˞リ　ピー˞チェー　カ˞キスイ˞　プサンドゥ˞ナー [ku˞ri pi:˞ʧe: kạ˞kisui˞ pụsandu˞na:](これ一つは書き添えたいのだがなあ)。ヤー˞ディン˞　カ˞キスイ˞ル　˞クトゥ [ja:˞diŋ˞ kạ˞kisuiˀru ˞kụtu](書き添えること)。ク˞ヌ˞　クトー　カ˞キスイ˞レー＜カ˞キスイ˞ヤー＞　˞ミサムヌ [ku˞nu˞ kụto: kạ˞kisui˞re: ＜ka˞kisui˞ja:＞ ˞misamunu](この件＜こと＞は、書き添えればよいのに)。ク˞レー˞　ヤー˞ディン˞　カ˞キスイ˞リ [ku˞re:˞ ja:˞diŋ˞ kạ˞kisui˞ri](これは必ず書き添えよ)。

˞カキソージ [˞kạkiso:ʤi] 【名】掃除。「掻き掃除」の義。庭の塵を掻き集めて取ったり、掃いたりして綺麗に清掃すること。˞ヤー˞ヌ　ウ˞チ˞フカ　˞カキソージン　サ˞リティ˞　イッ˞ケナ˞　ア˞ザ˞ケーン [˞ja:˞nu ʔu˞ʧiˀɸụka ˞kạkiso:ʤin sa˞ritiˀ ʔik˞kena˞ ʔa˞ʤa˞ke:ŋ](家の内外清掃がなされていて非常に清潔である)。˞ヤー˞ヌ　˞カクヌ　˞カキソージェー　ヤ˞ラビ˞ヌ　ス˞クブン　バシキルナ˧ヨー [˞ja:˞nu ˞kạkunu ˞kạkiso:ʤe: ja˞rabiˀnu sụ˞kubum baʃikirunaˬjo:](屋敷の掃除は子供の担当する仕事＜職分＞だ。忘れるなよ)。˞カキソージェー　シ˞マ˞シティル　ア˞サブティ˞　ムカーヤ [˞kạkiso:ʤe: ʃi˞maˀʃi̥tiru ʔa˞sabutiˀ muka:ja](掃除を済ませてから遊ぶとものだよ)。

カ˞キッ˞クナー [kạ˞kikˀkuna:] 【名】かけくら。かけっこ。走り競争。「駆け比べ」の義。ム˞カ˞シェー˞ゾーナーティル　ヤ˞ラ˞ビンケーヤ　˞ピー˞ヤ　˞ピンヌン　カ˞キッ˞クナー　˞シェー˞ティル　ア˞サブタル [mu˞kaˀʃe: ˞ʤo:na:tiru ja˞raˀbiŋke:ja ˞pi:˞ja ˞pinnuŋ kạ˞kikkuˀna: ˞ʃe:˞tiru ʔa˞sabutaru](昔は門の外の道で＜ぞ＞子供達は、寒い日もかけっこをしながら＜ぞ＞遊んだものだ)。

カ˞キッ˞クムン [kạ˞kikˀkumuŋ] 【自動】駆け込む。走って入る。˞パッツァー˞シ　カ˞キッ˞クムンティ　シ˞タンドゥ˞　カ˞キックマラン˞シェン [˞pattsa:˞ʃi kạ˞kikˀkumunti ʃi̥˞tanduˀ kạ˞kikkumaraŋ˞ʃeŋ](走って駆け込もうとしたが、駆け込めなかった)。カ˞キッ˞クミ　˞ミサカー　カ˞キッ˞クム　˞クトー　˞ナルン [kạ˞kikˀkumi ˞misaka: kạ˞kikˀkumu ˞kụto: ˞naruŋ](駆け込んで良ければ駆け込むことは出来る)。カ˞キッ˞クメー　˞ミサムヌ [kạ˞kikˀkume: ˞misamunu](駆け込めば良いのに)。

カ˞キッケーラ˞スン [kạ˞kikke:raˀsuŋ] 【他動】ひっくり返す。転倒させる。足を引っ掛けて転ばす。˞アイブ　˞ムヌバ　ミ˞チナカ˞ナー　シ˞キ˞ルカー　プ˞ス˞　カ˞キッケーラ˞スン˞ダー [˞ʔaibu ˞munuba mi˞ʧinaka˞na: ʃi̥˞kiˀruka: pụ˞suˀ kạ˞kikke:raˀsun˞da:](あんな物を道の中に放置して＜置いて＞おくと、歩行者＜人＞を転倒させるぞ＜ひっくりかえすぞ＞)。カ˞キッケーラサ˞ヌ [kạ˞kikke:rasa˞nu](転倒させない)。カ˞キッケーラシ˞　プサン [kạ˞kikke:raʃi˞ pusaŋ](転倒させたい)。カ˞キッケーラ˞ス　˞クトゥ [kạ˞kikke:ra˞su ˞kụtu](転倒させること)。カ˞キッケーラ˞シェー　ナ˞ラ˞ヌ [kạ˞kikke:ra˞ʃe: na˞raˀnu](転倒させてはならない)。カ˞キッケーラ˞シ [kạ

˹kikke:ra˺ʃi](転倒させろ)。

カ˹キッツァー˺シ　˺パルン [kḁ˹kittsa:˺ʃi ˺paruŋ]【連】走って行く。ア˹ミ˺ヌ　˹フイ˺バ　カ˹キッツァー˺シ　˹ヤー˺　パリ [ʔa˹mi˺nu ˹ɸui˺ba kḁ˹kittsa:˺ʃi ˹ja:˺ pari](雨が降るから走って＜駆け散らして＞家に行け)。

カ˹キッツァー˺スン [kḁ˹kittsa:˺suŋ]【自動】駆ける。全力疾走する。早く走る。「駆けちらす」の転訛。カ˹キッツァー˺シ　˺クー [kḁ˹kittsa:˺ʃi ˺ku:](走って来い)。カ˹キッツァーサン˺ドーシ　˹ヨーンナ˺　ア˹ラ˺キ　˺クー [kḁ˹kittsa:san˺do:ʃi ˹jo:nna˺ ʔa˹ra˺ki ˺ku:](走らないでゆっくり歩いて来い)。˹バン˺ヌン　カ˹キッツァー˺スン [˹ban˺nuŋ kḁ˹kittsa:˺suŋ](私も走る＜全力疾走する＞)。カ˹キッツァー˺ス　˺プソー　イ˹ジ˺ンジ　カ˹キッツァー˺シ [kḁ˹kittsa:˺su ˺pu̥so: ʔi˹ʤi˺nʤi kḁ˹kittsa:˺ʃi](走る時は一所懸命に走れ)。カ˹キッツァー˺シェー　˺ミサムヌ [kḁ˹kittsa:˺ʃe: ˺misamunu](走れば＜全力疾走すれば＞よいのに)。

カ˹キッツァー˺スン [kḁ˹kittsa:˺suŋ]【他動】殴り書きする。書き散らす。乱暴に書きなぐる。カ˹ビ˺ナー　˹ジー˺　カ˹キッツァー˺スン [ka˹bi˺na: ˹ʤi:˺ kḁ˹kittsa:˺suŋ](紙に文字を書き散らす)。カ˹キッツァーサ˺ヌ [kḁ˹kittsa:sa˺nu](書き散らさない)。カ˹キッツァー˺シ　˺ミサカー　カ˹キッツァー˺ス　˺クトー　˺ナルン [kḁ˹kittsa:˺ʃi ˺misaka: ka˹kittsa:˺su ˺ku̥to: ˺naruŋ](書き散らして良ければ書き散らすことはできる)。カ˹キッツァー˺シェー　˺ミサムヌ [kḁ˹kittsa:˺ʃe: ˺misamunu](書き散らせば良いのに)。カ˹キッツァー˺シバ [kḁ˹kittsa˺:ʃiba](書き散らせよ)。˺アイニ　カ˹キッツァーサン˺ドーシ　カ˹シーカシー˺　カキバ [˺ʔaini kḁ˹kittsa:san˺do:ʃi kḁ˹ʃi:kaʃi:˺ kḁkiba](あんなに書き散らさないで、しっかり書きなさいよ)。カ˹キッツァー˺シェー　˺ミサムヌ [kḁ˹kittsa:˺ʃe: ˺misamunu](書き散らせば良いのに)。カ˹キッツァー˺シバ [kḁ˹kittsa:˺ʃiba](書き散らせ)。

カ˹キッツァー˺スン [kḁ˹kittsa:˺suŋ]【自動】走る。走り出す。駆ける。˹駆け散らす」の音韻変化したもの。疾駆する。ヤ˹ラ˺ベー　ミ˹チェー˺ラン　カ˹キッツァー˺スンダ　カ˹キッツァーサン˺ヨーニ　カ˹サミ　ベー˺リ [ja˹ra˺be: mi˹ʧe:˺raŋ kḁ˹kittsa:˺sunda kḁ˹kittsa:saɲ˺jo:ni kḁ˹sami be:˺ri](子供は道から＜路上を＞駆け出すから、駆け出さないように掴んでおきなさい)。˹アッ˺タニ　カ˹キッツァー˺ス　˺クトー　˹ナー˺ヌ [˹ʔat˺tani kḁ˹kittsa:˺su ˺ku̥to: ˹na:˺nu](急に駆け出すことはない)。カ˹キッツァー˺シ　˺ミサン　˺トンマー　カ˹キッツァー˺シェー　˺ミサムヌ [kḁ˹kittsa:˺ʃi ˺misantomma: kḁ˹kittsa:˺ʃe: ˺misamunu](駆け出してよいところは駆け出せば良いのに)。カ˹キッツァー˺シバ [kḁ˹kittsa:˺ʃiba](駆け出しなさい)。カ˹キッツァーサ˺ヌ [kḁ˹kittsa:sa˺nu](走らない)。カ˹キッツァー˺シ　˺パリ [kḁ˹kittsa:˺ʃi ˺pari](走って行け)。˹バン˺ヌン　カ˹キッツァー˺スン [˹ban˺nuŋ kḁ˹kittsa:˺suŋ](私も走る)。カ˹キッツァー˺ス　プ˹ソー˺　カ˹キッツァー˺シ [kḁ˹kittsa:˺su pu̥˹so:˺ kḁ˹kittsa:˺ʃi](走る人は走れ)。カ˹キッツァー˺シェー　˺ミサムヌ [kḁ˹kittsa:˺ʃe: ˺misamunu](走ればよいのに)。

カ˹キトゥミ˺ルン [kḁ˹kitumi˺ruŋ]【他動】書き留める。記録する。カ˹キ˺トゥムンとも言う。˹シンシ˺ヌ　ア˹ゾー˺ル　˺ムネー　˹バスクン˺ケン＜˹バシゥカン˺ケン＜若年層»カ˹キトゥミ˺リ [˹ʃiŋʃi˺nu ʔa˹ʥo:˺ru ˺mune: ˹basu̥kuŋ˺keŋ(˹basi̥kaŋ˺keŋ)kḁ˹kitumi˺ri](先生のおっしゃる言葉は忘れないうちに書き留めろ)。カ˹キトゥミラ˺ヌ [kḁ˹kitumira˺nu](書き留めない)。カ˹キ˺トゥミティ　ウ˹ブイ˺リ [kḁ˹ki˺tumiti ʔu˹bui˺ri](書き留めて覚えろ)。カ˹キトゥミ˺ル　˺クトゥン　ナ˹ラ˺ヌ [kḁ˹kitumi˺ru ˺ku̥tun na˹ra˺nu](書き留めることも出来ない)。˹ピー˺チ　ヤ˹ラバン˺　カ˹キトゥミ˺レー　˺ミサムヌ [˹pi:˺ʧi ja˹rabaŋ˺ kḁ˹kitumi˺re: ˺misamunu](一つでも書き留めればよいのに)。ク˹ヌ˺　クトー　ヤー˹ディン˺　カ˹キトゥミ˺リ [ku˹nu˺ ku̥to: ja:˹diŋ˺ kḁ˹kitumi˺ri](このことは必ず書き留めろ)。

カ˹キ˺トゥムン [kḁ˹ki˺tumuŋ]【他動】書き留める。記録する。カ˹キトゥミ˺ルンとも言う。˹チョーメン˺ナ　カ˹キ˺トゥムンティ　ウ˹ムーン˺ドゥ˺　カ˹キトゥマン˺タンティン　˺ミサンツォー [˹ʧo:men˺na: kḁ˹ki˺tumunti ʔu˹mu:n˺du kḁ˹kituman˺tantim ˺misantso:](帳面に書きとめようと思うが、書き留めなくても良いそうだ)。カ˹キ˺トゥミ　˺ミサカー　カ˹キ˺トゥム　˺クトー　˺ナルン [kḁ˹ki˺tumi ˺misaka: kḁ˹ki˺tumu ˺ku̥to: ˺naruŋ](書き留めてよければ書き留めることは出来る)。カ˹キ˺トゥメー　˺ミサムヌ [kḁ˹ki˺tume: ˺misamunu](書き留めれば良いのに)。˹マー˺ビン　カ˹キ˺トゥミバ [˹ma:˺biŋ kḁ˹ki˺tumiba](もっと書留ろ)。

カ˹キ˺ナー [kḁ˹ki˺na:]【名】˹掛け縄」の義。締め縄。茅葺の家の甍を作る際、甍に積み上げた茅にシ˹ダ˺ル [ʃi˹da˺ru](簾) を被せ、その上から˹フー˺カラジ

ナ [˩ɸu:˥karaʤina](棕櫚の繊維で綯った綱) を˩ヨー˥チ [˩jo:˥ʧi](簪。棟の両側から差し込んだティ˩ブ˥ク [ti˩bu˥ku]< 手矛 > で、甍を固定するための、カ˩キ˥ナー < 掛け縄 > を架けるもの (˩マーリ˥ザ [˩ma:ri˥ʤa] という)) に掛け渡し、強く引き締めて固定する綱。風雨に晒されても朽ちにくい棕櫚の繊維で綯うのが普通である。カ˩キナー˥ヤ　˩フー˥カラシル　ナイ˩ヨーッ˥タ [kạ˩kina:˥ja ˩ɸu:˥karaʃiru nai˩jo:t˥ta](掛け縄は棕櫚の繊維で綯われた)。/ヤー　イツピピルバ　シミナー　シー　ヤーバ　スクリ　アンティスー/(ああ、絹縄 < ひひる。蚕の糸で綯った縄 > を締め縄にして家を造ってあるという)「あーぱーれー」『鳩間島古典民謡古謡集』。

カ˩キナ˥クン [kạ˩kina˥kuŋ] 【他動】食べ物を掻きこむ。ご飯を急いで口に入れる。カ˩チリムヌ˥ヌ　˥カタチニ　˩イー˥バ　カ˩キナ˥キ　˩ベー [kạ˩ʧirimunu˥nu ˥kạtatʃini ˩ʔi:˥ba kạ˩kina˥ki be:](餓えた者 < 餓(カツエ)者 > のように飯を掻きこんでいる)。˥イー　カ˩キナ˥クン [˥ʔi: kạ˩kina˥kuŋ](飯を掻きこむ)。˩オーリムヌヌ˥　カタチニ　ム˩ヌ˥バ　カ˩キナ˥キ　ッ˩ふァイ　アー˥ク [˩ʔo:rimununu˥ kạtatʃini mu˩nu˥ba kạ˩kina˥ki f˩fai ʔa:˥ku](追われ者 < 逃亡者 > のように飯を掻きこんで食っている)。カ˩キナカン˥ドーシ　˩ヨーンナ˥　ッ˩ふァイ˥バ [kạ˩kinakan˥do:ʃi ˩jo:nna:˥ f˩fai˥ba](掻き込まないでゆっくり食べなよ)。マ˩ニアーン˥バ　カ˩キナ˥キ　ッ˩ふァイ [ma˩nia:m˥ba kạ˩kina˥ki f˩fai](間に合わないから、掻き込んで食えよ)。˩ワー˥　カ˩キナ˥クカー　˩バン˥ヌン　カ˩キナ˥クン [˩wa:˥ kạ˩kina˥kuka: ˩ban˥nuŋ kạ˩kina˥kuŋ](君が掻き込んで食うなら、私も掻きこむ)。˩パー˥ク　カ˩キナ˥ケー　˥ミサムヌ [˩pa:˥ku kạ˩kina˥ke: ˥misamunu](早く掻き込めばよいのに)。ノー˩ン　ヤラバン˥　ミサン　カ˩キナ˥キバ [no:˩ɲ jarabam˥ misaŋ kạ˩kina˥kiba](何でもいい。掻き込めよ)。˩イー˥ヤ　カ˩キナ˥キティ　˥パリ　˩ナー˥ヌ [˩ʔi:˥ja kạ˩kina˥kiti ˥pari ˩na:˥nu](飯を掻き込んで行ってしまった)。カ˩キナカン˥ドーシ　ヨー˩ンナー˥　ッ˩ふァイ˥バ [kạ˩kinakan˥do:ʃi jo:˩nna:˥ f˩fai˥ba](飯は掻き込まないで、ゆっくり食えよ)。カ˩キナ˥クンティ　˩サンドー˥シ　ウ˩ティ˥シキ　ッ˩ふァイ˥バ [kạ˩kina˥kunti ˩sando:˥ʃi ʔu˩ti˥ʃi̥ki f˩fai˥ba](掻き込もうとしないで、落ち着いて食えよ)。カ˩キナ˥ク　˥プソー　カ˩キナ˥ケー　˥ミサムヌ [kạ˩kina˥ku ˥pu̥so: kạ˩kina˥ke: ˥misamunu](掻き込むときは掻き込めばいいのに)。˩パー˥ク　カ˩キナ˥キ [˩pa:˥ku kạ˩kina˥ki](早く掻き込め)。

カ˩キヌ˥　ミー [kạ˩kinu˥ mi:] 【連】垣根の中。˩クーソー˥　カ˩キヌ˥　ミーナー　イ˩ビ˥　シケー [˩ku:so:˥ kạ˩kinu˥ mi:na ʔi˩bi˥ ʃi̥ke:](唐辛子は垣根の中に植えてある)。

カ˩ギ˥ブシ [ka˩gi˥buʃi] 【名】陰干し。日陰で干すこと。˥ティダナカナ　˥プスカー　イ˩ル˥ヌ　ウ˩ティ˥シバ　カ˩ギブ˥シ　˩シー˥バ [˥tidanakana ˥pu̥suka: ʔi˩ru˥nu ʔu˩ti˥ʃiba ka˩gibu˥ʃi ˩ʃi:˥ba](直射日光に干すと色が落ち <褪(サ)め > るから陰干ししなさいよ)。ク˩ヌキン˥マー　˥ティダナカナー　プ˩サン˥ドーシ　カ˩ギ˥ブシ　˩シー˥ヨー [ku˩nu kim˥ma: ˥tidanakana: pu̥˩san˥do:ʃi ka˩gi˥buʃi ˩ʃi:˥jo:](この着物は日干しにしないで陰干しにしなさいよ)。

カ˩キマー˥スン [kạ˩kima:˥suŋ] 【他動】掻き回す。ぐるぐる回す。ア˩チスー˥ヤ　カ˩キマー˥シティ　˩ピーラ˥シバ [ʔa˩ʧisu:˥ja kạ˩kima:˥ʃi̥ti ˩pi:ra˥ʃiba](熱いお汁はかき回して冷ましなさい)。˥アイニ　カ˩キマーサン˥タンティン　˥ミサン [˥ʔaini kạ˩kima:san˥tantim ˥misaŋ](あんなにかき回さなくてもいい)。カ˩キマーシ˥　プサン [kạ˩kima:ʃi˥ pu̥saŋ](かき回したい)。ク˩リン˥　カ˩キマー˥スン [ku˩riŋ˥ kạ˩kima:˥suŋ](これもかき回す)。カ˩キマー˥ス　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [kạ˩kima:˥su ˥ku̥to: na˩ra˥nu](かき回すことは出来ない < ならぬ >)。カ˩キマー˥シェー　˥ミサムヌ [kạ˩kima:˥ʃe: ˥misamunu](かき回せばよいのに)。ク˩リ˥シ　カ˩キマー˥シ [ku˩ri˥ʃi kạ˩kima:˥ʃi](これでかき回しなさい < かき回せ >)。

カ˩キ˥マイ [kạ˩ki˥mai] 【名】たのもし (頼母子) を落札しないで、掛け金を払うこと < 掛け金 >。「掛け前」の義。対義語はウ˩クリマイ [ʔu˩kurimai](落札後の利子を加えた掛け金)。ム˩エーヤ˥　マ˩ダ˥　トゥ˩ラン˥バ　カ˩キマイ˥ヤー　ン˩メーマ　ヤッ˥サン˩ダー [mu˩je:ja˥ ma˩da˥ tu˩ram˥ba kạ˩kimai˥ja: ʔm˩me:ma jas˥san˩da:](頼母子はまだ落札していない < 取っていない > ので掛金は少し安いよ)。

カ˩キマカル [kạ˩kimakaru] 【名】 1欠け碗。欠けた茶碗。「欠け・かなまり < 金椀 >『枕草子　42』」の義。カ˩キマカル˥ナー　˥イー　イ˩リ˥　ッ˩ふァース˥カー　ッ˩ふァイフーヌ˥　ウ˩ティ˥ルンツォー [kạ˩kimakaru˥na: ˥ʔi: ʔi˩ri˥ f˩fa:su˥ka: f˩faiɸu:nu˥ ʔu˩ti˥runtso:](欠け茶碗に飯を入れて食べさせると食の幸運 < 食い果報 > が落ちるそうだ)。2三男。欠けた茶碗しか財産分与されないことからの命名。ム˩カ˥シェーラ　˩サン˥ナン　カ˩キマカラー˥ティル

ア˞ザリ　ブー [muˀkaˀʃeːra ˞sanˀnaŋ kạ˞kimakaraːˀ tiru ʔa˞ʤari buː](昔から三男には欠けた茶碗一つしか財産は分与されないと言われている)。

カ˞キマザーˀスン [kạ˞kimaʤaːˀsuŋ]【他動】かき混ぜる。攪拌する。˞ヌーˀヤークイヤー　イ˞リティˀ　カ˞キマザーˀシティ　ˀヌーヤ　ウ˞レー [˞nuːˀjaːkuijaː ʔi˞ritiˀ kạ˞kimaʤaːˀʃi̥tiˀ nuːja ʔu˞reː](あれこれ入れてかき混ぜて、いったい何だよ。それは)。カ˞キマザーサˀヌ [kạ˞kimaʤaːsaˀnu](かき混ぜない)。カ˞キマザースˀナ [kạ˞kimaʤaːsuˀna](かき混ぜるな)。カ˞キマザーˀシェー　ナ˞ラˀヌ [kạ˞kimaʤaːˀʃeː na˞raˀnu](かき混ぜてはならない)。カ˞キマザーˀシバ [kạ˞kimaʤaːˀʃiba](かき混ぜよ)。ピ˞ルザキˀナ　ナ˞マコーˀマ　カ˞キマザーˀスンティ　˞スンドゥˀ　カ˞キマザーサラˀヌ [pi˞ruʤakiˀna na˞makoːˀma kạ˞kimaʤaːˀsunti ˞sunduˀ kạ˞kimaʤaːsaraˀnu](にんにく＜大蒜＞酒に生卵を掻き混ぜようとするが、掻き混ぜられない)。カ˞キマザーシˀ　プサカー　カ˞キマザーˀス　クトー　ナルン˞ダー [kạ˞kimaʤaːʃiˀ pu̥saka: kạ˞kimaʤaːˀsu ˀku̥to: narun˞daː](掻き混ぜたければ、掻き混ぜることはできるよ)。˞マーˀビン　カ˞キマザーˀシェー　ˀミサムヌ [˞maːˀbiŋ kạ˞kimaʤaːˀʃeː ˀmisamunu](もっと掻き混ぜればいいのに)。

カ˞キˀムエー [kạ˞kiˀmujeː]【名】落札してない頼母子。掛金をまだ受け取ってない頼母子。ˀバーム˞エーヤˀ　カ˞キˀムエー　ヤ˞ルンダˀ　ウ˞リˀシ˞ジンˀマー　シゥ˞コーラリンˀダー [ˀbaː mu˞jeːjaˀ kạ˞kiˀmujeː ja˞rundaˀ ʔu˞riˀʃi ˞ʤimˀmaː su̥˞koːrarinˀ daː](私の頼母子は、まだ落札してない頼母子だから、それでお金は工面できる＜準備することができる＞よ)。

カ˞キˀムヌ [kạ˞kiˀmunu]【名】[1]書き物。書類。ˀアブジェー　カ˞キˀムヌ　˞スンティ　オーˀル [ˀʔabuʤeː kạ˞kiˀmunu ˞sunti ʔoːˀru](お祖父さんは書き物をしようとしておられる)。ヤ˞クˀバーラヌ　カ˞キˀムノー　ˀマナー　ˀシケーワ [ja˞kuˀbaːranu kạ˞kiˀmunoː ˀmanaaː ˀʃi̥keːwa](役場からの書類は何処においてあるか)。[2]絵画。掛け軸。トゥ˞ラヌˀ　カ˞キˀムノー　˞ヤーˀヌ　カ˞ルイシキˀムヌツォー [tu˞runuˀ kạ˞kiˀmunoː ˞jaːˀnu ka˞ruiʃi̥kiˀ munutsoː](虎の掛け軸は家に果報を齎(モタラ)す＜嘉例をつける＞ものだそうだ)。

カ˞キムヌ [kạ˞kimunu]【名】陶器の茶碗やお碗などの縁が欠けているもの。一部が欠けた陶磁器の食器類。一揃いのものの一部が欠けたもの。パ˞タカキムヌ [pḁ˞takakimunu](縁の欠けたもの) ともいう。カ˞キムヌˀナー　ˀムヌ　イ˞リティˀ　ッ˞ふーˀカー　ッ˞ふァイフーˀ　パ˞ギˀルンティ˞ダー [kạ˞kimunuˀnaː ˀmunu ʔi˞ritiˀ f˞fuːˀkaː f˞faiɸuːˀ pa˞giˀrunti˞daː](縁の欠けた碗にご飯を入れて食べると、食べる幸運＜食い果報＞が落ちる＜剥げる＞そうだよ)。フ˞チカキムヌ [ɸu̥˞ʧikakimunu](口辺部分が欠けた陶器の器物) などがある。カ˞キムヌˀナー　ム˞ヌˀバ　イ˞リティˀ　プ˞スンナーˀニ　ン˞ザˀスカー　ブ˞リーˀドゥ　ˀナルツォー [kạ˞kimunuˀnaː mu˞nuˀba ʔi˞ritiˀ pu̥˞sunnaːˀni ʔn˞ʤaˀsu̥kaː bu˞riːˀduˀnarutsoː](欠けた器に飲食物を入れて出すと失礼＜無礼＞になるそうだ)。

カ˞キˀムヌ [kạ˞kiˀmunu]【名】掛け物。掛け軸。カ˞キˀジク [kạ˞kiˀʤiku](掛け軸) ともいう。˞ザートゥクˀヌ　カ˞キˀムノー　˞タールˀ　カ˞コーッˀタカヤー [˞ʤaːtukuˀnu kạ˞kiˀmunoː ˞taːruˀ kạ˞koːtˀtakajaː](床の間の掛け軸は誰が書かれたのかなあ)。

カ˞キˀヤー [kạ˞kiˀjaː]【名】イカを引っ掛けて獲る漁具。直径約 2 ミリの鉄線の両端を研いで、その中央から二つに折り曲げ、それぞれを更に釣り針状に折り曲げて鉤を造る。それらを直径 1、2 センチ、長さ約 1 メートルの竹竿の先端に針金で数個巻きつけ、強く縛り付けたもの。これで海面に群れてくるイカを引っ掛けて漁獲した。カ˞キˀヤーサーリ　イ˞ガˀ　ガキ　トゥ˞ローッˀタ [kạ˞kiˀjaːsaːri ʔi˞gaˀ gaki tu˞roːtˀta](カキヤーでイカを引っ掛けて漁獲され＜獲られ＞た)。

カ˞キユーˀスン [kạ˞kijuːˀsuŋ]【自動】書くことが出来る。書ける。「書き・得る」が複合して形成された可能動詞。ム˞チˀキサ　˞ジーˀ　ヤ˞ルヌˀ　カ˞キユーˀスンカヤー [mu˞ʧiˀkisa ˞ʤiːˀ ja˞runuˀ kạ˞kijuːˀsuŋkajaː](難しい字だが書けるかな)。ヤ˞ラˀベー　ク˞ヌ　ジーヤˀ　カ˞キユーサˀヌ [ja˞raˀbeː ku˞nu ʤiːjaˀ kạ˞kijuːsaˀnu](子供は、この字は書けない)。

ガ˞ギラー [ga˞giraː]【名】発育不全の者。発育不良のもの。痩せ細って成長が止まった動植物。卑語。ク˞レーˀ　ガ˞ギラーˀ　ナリティ　˞カーサラヌ [ku˞reːˀ ga˞giraːˀ nariti ˞kaːsaranu](これは成長が止まって＜発育不良の物になって＞売れない)。˞ワーˀヌーンティ　ˀアイニ　ˀガギラー　ˀナリ　˞ベーˀワ [˞waːˀ nuːnti ˀʔaini ˀgagiraː ˀnari ˞beːˀwa](君はどうしてあんな惨めなやせっぽになっているのか)。

ガ˞ギリムヌ [ga˞girimunu]【名】発育不全のもの。

痩せ衰えたもの。野菜などの成長が止まったもの。˞ナーンパー˥ヌ　ガ˞ギリムノー˥　ッ˞ふァーランバ˥　シ˞ティリ˥ヨー [˞naːmpaː˥nu ga˞girimunoː˥ f˞faːramba˥ ʃi̥˞tiri˥joː](菜っ葉の成長が止まった、ちじれたのは食べられないから捨てなさいよ)。

カ˞キ˥ルン [kḁ˞ki˥ruŋ] 【他動】1かける (掛ける)。引っ掛ける。˞キン˥マー　ク˞ビヌ　フン˥ナー　カ˞キ˥ルンティ　˥シケー [˞kim˥maː kuˀ˞binu ɸun˥naː ˥kḁ˞ki˥runti ˥ʃi̥keː](着物は壁の釘に掛けようとしてある＜掛けようとおいてある＞)。˞クン˥ナー　ヤ˞ニヤ˥ヌ　カ˞キララ˥ヌ [˞kun˥naː ja˞nija˥nu kḁ˞kirara˥nu](これには､汚くて掛けられない)。カ˞キ˥プサカー　カ˞キ˥ルンミー˞ゲ˥ラ [kḁ˞ki˥pu̥saka: kḁ˞ki˥rummiː˞ge˥ra](掛けたいのなら掛けるだろうさ)。カ˞キ˥ル˥クトー　ナ˞ラ˥ヌ [kḁ˞ki˥ru ˥ku̥to: na˞ra˥nu](掛けることは出来ない)。˞マー˥ビン　カ˞キ˥レー　˥ミサムヌ [˞maː˥biŋ kḁ˞ki˥reː misamunu](掛ければよいのに)。˞パー˥ク　カ˞キ˥リ [˞paː˥ku kḁ˞ki˥ri](早く掛けろ)。˞キン˥マー　˥クナー　カ˞キル˥ナ [˞kim˥maː˥ kunaː kḁ˞kiru˥na](着物はここに掛けるな)。2重さを量る。秤で量る。ピ˞キ˥シ　カ˞キラン˥タンティン　ワ˞カ˥ルン [pi̥˞ki˥ʃi kḁ˞kiran˥tantiŋ wa˞ka˥ruŋ](秤で量らなくても分かる)。3水を注ぎかける。˞ナーヌ˥パーナー　ミ˞ジ˥　カ˞キ˥ルンテイ　˞ベー [˞naːnu˥paːnaː mi˞ʤi˥ kḁ˞ki˥runti ˞beː](野菜＜菜っ葉＞に水を掛けようとしている)。˞バン˥ヌン　カ˞キ˥ルン [˞ban˥nuŋ kḁ˞ki˥ruŋ](私も掛ける)。4相手に厄介な事を仕掛けて困らせる。プ˞スン　ミーワク˥　カ˞キ˥ル　˥クトー　ス˞ナ˥ヨー [pu̥˞sum miːwaku˥ kḁ˞ki˥ru ˥ku̥to: su˞na˥joː](他人に迷惑を掛けることはするなよ)。ミ˞ジェー　マー˥ビン　カ˞キ˥レー　˥ミサムヌ [mi˞ʤe: maː˥biŋ kḁ˞ki˥reː ˥misamunu](水はもっと掛ければ＜撒けば＞よいのに)。˞マー˥ビン　ミ˞ジ˥　カ˞キ˥リ [˞maː˥bim mi˞ʤi˥ kḁ˞ki˥ri](もっと水を掛けよ)。ピ˞キ˥シ　カ˞キ˥リ [pi̥˞ki˥ʃi kḁ˞ki˥ri](秤で量れ)。5掛け声をかける。˞ヤングイ˥　カ˞キ˥ルン [˞jaŋgui˥ kḁ˞ki˥ruŋ](掛け声＜や声＞をかける)。

カ˞キルン [kḁ˞kiruŋ] 【自動】欠ける。一部分が壊れる。一部が損じてなくなる。カ˞クン [kḁ˞kuŋ](欠く) ともいう。イ˞クサ˥ユーナーン　˞キョーダイ˥サ　˞タン˥ガーンツァン　カ˞キランドー˥シ　˥ヌチ　˥ムイケーン [ʔi˞kusa˥juːnaːŋ ˞kjoːdai˥sa ˞taŋ˥gaːntsaŋ kḁ˞kirandoː˥ʃi ˥nutʃi ˥muikeːŋ](戦争の時代＜世＞にも兄弟たち一人すらも欠けないで生きてきた)。˞タン˥ガー　カ˞キナー˥ヌ [˞taŋ˥gaː kḁ˞kinaː˥nu](一人は欠けてしまった)。˞ピー˥タイ　トゥ˞ラ˥リカー　タン˞ガタンガー˥　カ˞キルン˥ツォー [˞piː˥tai tu˞ra˥rikaː taŋ˞gataŋgaː˥ kḁ˞kirun˥tsoː](兵隊に取られたら誰か一人は欠けるそうだ)。プ˞ス˥ローンツァン　カ˞キル˥クトー　ナ˞ラ˥ヌ [pu̥˞su˥roːntsaŋ kḁ˞kiru˥ ku̥to: na˞ra˥nu](一人すらも＜でも＞欠けることは出来ない)。カ˞キレー˥＜カ˞ケー˥＞　ミサムヌ [kḁ˞kireː˥ ＜ka˞keː˥＞ misamunu](欠ければよいのに)。カ˞キリ [kḁ˞kiri](欠けろ)。

カ˞キ˥ルン [kḁ˞ki˥ruŋ] 【他動】かける (賭ける)。賭け事をする。ム˞ヌ˥バ　カ˞キ˥ルンティ　˞アー˥キ　マ˞キティ　スンカブ˥ル　˞シー　ベー [mu˞nu˥ba kḁ˞ki˥runti ˞ʔaː˥ki ma˞kiti suŋkabu˥ru ˞ʃiː beː](物を賭けようとしていて、負けて大損している)。カ˞キ˥ル˥クトー　サ˞ヌ [kḁ˞ki˥ru ˥ku̥to: sa˞nu](賭けることはしない)。

カ˞ギルン [ka˞giruŋ] 【自動】欠席する。「欠ける」の義。˞ガッ˥コーヤ　カ˞ギランドー˥シ　ン˞ジ˥リ˞ダー [˞gak˥koːja ka˞girandoː˥ʃi ʔn˞ʤi˥ri˞daː](学校は欠席しないで出なさいよ)。プ˞スイ˥ヤーンツァン　カ˞ギラヌ [pu̥˞sui˥jaːntsaŋ ka˞giranu](一日たりとも欠席しない＜欠けない＞)。ニ˞チ˥ヌ　˥アルカー　カ˞ギ˥ミサン [ni˞ʧi˥nu ˥ʔaruka: ka˞gi˥misaŋ](熱があるなら欠席してもよい)。カ˞ギル˥　クトー　ナ˞ラ˥ヌ [ka˞giru˥ku̥。to: na˞ra˥nu](欠席することは出来ない)。ス˞ブル˥ヌ　˥ヤムカー　カ˞ギレー˥　ミサムヌ [su˞buru˥nu ˥jamuka: ka˞gireː˥ misamunu](頭が痛いのなら欠席すればよいのに)。アン˞デー˥カー　˞キュー˥ヤ　カ˞ギリ [ʔan˞deː˥ka: ˞kjuː˥ja ka˞giri](そんなら、今日は欠席しろ＜欠けよ＞)。カ˞グン [ka˞guŋ](欠席する。欠ける) ともいう。パ˞ナシキ˥　カ˞カ˥リティ　˞ガッ˥コー　カ˞ギルン˥ツォー [pa˞naʃi̥˥ki˥ kḁ˞ka˥riti ˞gak˥koː ka˞girun˥tsoː](風邪をひいて学校欠席するそうだ)。カ˞ギラン˥カー　˥ミサンドゥ　カ˞ギル˥　プ˞ソー˥　トゥ˞ドゥ˥キ　ン˞ザ˥シ [ka˞giraŋ˥kaː ˥misandu ka˞giru˥ pu̥˞soː˥ tu˞du˥ki ʔn˞ʤa˥ʃi](欠席しなければ良いが、欠席する人は届けを出しなさい)。カ˞ギ˥　プサカー　カ˞ギ˥バ [ka˞gi˥pu̥saka: ka˞gi˥ba](欠席したければ欠席しなさいよ)。

ガ˞ギルン [ga˞giruŋ] 【自動】痩せ衰える。動物や植物などが発育不良となり、痩せ衰えて縮まる。˥コイ　イ˞ル˥カー　ガ˞ギラヌ [˥koi ʔi˞ru˥ka: ga˞giranu](肥料を入れたら痩せ衰えない)。パ˞ギ˥ジーナー　イ˞ブ˥カー　ガ˞ギルン [pa˞gi˥ʤiːna ʔi˞bu˥ka:

ga˞giruŋ](痩せた土地 < 痩せ地 > に植えたら痩せ衰える)。ガ˞ギル　ムノー˺　ム˞シシキ˺ムヌ [ga˞giru munoː˺ mu˞ʃiʲkiˀmunu](痩せ衰えるものは虫食いもの < 虫の付いたもの >)。ガ˞ギレー˺ラ　フ˞ドゥバヌ [ga˞gireː˺ra ɸu˞dubanu](痩せ衰え < 萎縮し > たら成長しない)。˺ヤミティル　˺アイニ　ガ˞ギリ　ベー [˺jamitiru ˺ʔaini ga˞giri beː](病気してあんなに痩せ衰えているんだよ)。アイ˞バー˺ケー　ガ˞ギラヌ [ʔai˞baː˺ke: ga˞giranu](そんなにまでは痩せ衰えない)。˺アイニ　ガ˞ギル˺カー　イ˞キブイヤー˺　ン˞ジラ˺ヌ [˺ʔaini ga˞giru˺kaː ʔi˞kibuijaː˺ ʔn˞ʤira˺nu](あんなに痩せ衰えると生気が戻らない < 活力、元気、勢いが出ない >)。ガ˞ギレー˺ラー [ga˞gireː˺raː](痩せ衰えては)。˞ペーレイヌ˺　シ˞ジクター　ナーンパー˺ヤ　ガ˞ギリナー˺ヌ [˞peːreinu˺ʃi˞ʤikutaː naːmpaː˺ja ga˞girinaː˺nu](旱魃が続いたので菜っ葉は縮れてしまった)。ピ˞ラク˺マキ　シ˞ティ　アウナーヤ˺　ガ˞ギリナー˺ヌ [pi˞rakuˀmaki ʃiʲ˞ti ʔaunaːja˺ ga˞girinaː˺nu](寒冷負けして青菜は発育不全になってしまった)。˞コイ˺ヌ　˞ナーン˺カー　ヤ˞サイ˺ヤー　ガ˞ギルン˺ダー [˞koi˺nu ˞naːŋ˺kaː ja˞sai˺jaː ga˞girun˺daː](肥料がないと野菜は発育不全になるなる < 成長が止まる > よ)。ガ˞ギル˺カー　フ˞ドゥバヌ [ga˞giru˺kaː ɸu˞dubanu](発育不全になったら成長しない)。ガ˞ギレー˺ラー　˞カーサラヌ [ga˞gireː˺raː ˞kaːsaranu](発育不全になったら売れない)。ガ˞ギリ [ga˞giri](発育不全になれ)。

˺カギン **[˺kagiŋ]** 【名】 1加減。程度(ホドアイ)をほどよくすること。具合をよくすること。シ˞グトゥ˺ナーン　˞ノーン˺ナーン　˺カギンティ　˞スー　ムノー˺　アン [ʃi˞gutu˺naːn ˞noːn˺naːŋ ˺kaginti ˞suː munoː˺ ʔaŋ](仕事にも、何事にも加減というものはある)。サ˞ケー˺　カギン　˞シェー˺ティ　ヌミ˞ダー [sa˞keː˺ kagiŋ ˞ʃeː˺ti numi˞daː](酒は加減をしながら飲めよ)。ノー˞ン　サバン˺　カ˞ギン˺ヌ　˞ナーン˺カー　シ˞グトー˺　ス˞クジリス [noː˞n sabaŋ˺ ka˞gin˺nu ˞naːŋ˺kaː ʃi˞gutoː˺ su˞kuʤirisu](何をするにしても程度や加減を知らなければ < 程合いがなければ > 仕事は失敗する < しくじる >)。2機嫌。ウ˞ヌ˺　ッ˞ふァー˺　カギン　トゥ˞リグリ˺サン [ʔu˞nu˺ f˞faː˺ kagin tu˞riguri˺saŋ](この子は機嫌とりにくい)。

カ˞キン˺グ **[ka˞kiŋ˺gu]** 【名】保護。「格護」の義。「Cacugo. カクゴ (覚悟・格護)、擁護.Fitouo cacugo suru.(人を格護する)」『邦訳日葡辞書』からの転訛。˞ヤー˺ヌ　カ˞キン˺グ [˞jaː˺nu ka˞kiŋ˺gu](家の格護。暴風対策)。イ˞キムシ˺ヌ　カ˞キン˺グ [ʔi˞kimuʃi˺nu ka˞kiŋ˺gu](家畜の保護)。˞タイフー˺ヌ　フ˞キ˺バ　˞ヤー˺ヌ　カ˞キン˺グ　˞サン˺カー　ナ˞ラ˺ヌ [˞taiɸuː˺nu ɸu˞ki˺ba ˞jaː˺nu ka˞kiŋ˺gu ˞saŋ˺kaː na˞ra˺nu](台風が吹くから < ので > 家の格護をしないといけない)。

カ˞キンザ˺スン **[ka˞kiʔnʤa˺suŋ]** 【他動】掻き出す。カ˞キザ˺スン [ka˞kiʤa˺suŋ](掻き出す) ともいう。パ˞クヌ˺　ナ˞カヌ˺　ムノー　ムー˞ル˺　カ˞キンザ˺シ [pa˞kunu˺ na˞kanu˺ muno: mu:˞ru˺ ka˞kiʔnʤa˺ʃi](箱の中のものは全部掻き出せ)。カ˞キンザ˺ス　プ˞スヌ　ブー˺カー　ク˞リン˺　カ˞キンザ˺スン [ka˞kiʔnʤa˺su pu˞sunu buː˺kaː ku˞riŋ˺ ka˞kiʔnʤa˺suŋ](掻き出す人がいたら、これも掻きだす)。カ˞キンザ˺シェー　˺ミサムヌ [ka˞kinʤa˺ʃe: ˺misamunu](掻き出せばよいのに)。˞パー˺ク　˞マー˺ビン　カ˞キンザ˺シ [˞paː˺ku ˞maː˺biŋ ka˞kiʔnʤa˺ʃi](早く、もっと掻き出せ)。ユ˞クンツァメー˺ヌ　フ˞ク˺ジ　カ˞キンザ˺スンティ　˞スンドゥ˺　カ˞キンザサラ˺ヌ [ju˞kuntsameː˺nu ɸu˞ku˺ʤi ka˞kiʔnʤa˺sunti ˞sundu˺ ka˞kiʔnʤasara˺nu](床下のゴミを書き出そうとするが、掻き出されない)。カ˞キンザシ˺　プサカー　カ˞キンザ˺ス　˺クトー　ナルン˞ダー [ka˞kiʔnʤaʃi˺ pu˞saka: ka˞kiʔnʤa˺su ˺ku˞to: narun˞daː](掻き出したければ掻き出すことは出来るよ)。

カ˞ク **[ka˞ku]** 【名】船乗り。舟子。水夫。「水手、加古(かこ)『和名抄』」の転訛したもの。フ˞ナ˺カク [ɸu˞na˺ka˞ku](船舟子。船員) ともいう。フ˞ナカク˺ヌ　ス˞ルイバ˺ル　˺ザコー　トゥ˞リン˺マー　パ˞ラ˺リ [ɸu˞nakaˀku˺nu su˞ruiba˺ru ˺ʤako: tu˞rim˺ma: pa˞ra˺ri](舟子が揃ってはじめて < 揃えばぞ > 餌捕りには行かれる)。フ˞ニ˺ヌ　カ˞クン　アシ˺キティ　ム˞タシ˺タ [ɸu˞ni˺nu ka˞kuŋ ʔaʃiʲ˞ki˺ti mu˞taʃiʲ˞ta](船員(舟子) に預けて送った < 持たせた >)。

カ˞ク **[ka˞ku]** 【名】四角。カ˞クザイ [ka˞kuʤai](角材)。カ˞クギリ [ka˞kugiri](四角に切ること)。˞ダイ˺クネー　カ˞クギリ　シティ˺　ン˞ブ˺シバ [˞dai˺kune: ka˞kugiri ʃiʲ˞ti˺ ʔm˞bu˺ʃiba](大根は角切りにして蒸煮しなさいよ)。

カ˞ク **[ka˞ku]** 【名】屋敷。囲った所。「囲い」の義。˞ヤー˺ヌ　カ˞ク [˞jaː˺nu ka˞ku](屋敷。「家の囲い」の義)。˞ヤー˺ヌ　カ˞ク˺ナー　フ˞クンキー˺　イ˞ビティ˺　カ˞ジヌ˺　カ˞タ˺カ　ス˞ク˺リバ [˞jaː˺nu ka˞ku˺naː ɸu˞kuŋkiː˺ ʔi˞biti˺ ka˞ʤinu˺ ka˞ta˺ka su˞ku˺riba](屋敷内に福木を植えて防風林 < 台風の防ぎ > を作りなさ

いよ)。ク˞ヌ˜　ア˞キヤシケー　タッ˜テヌ　カ˞ク˜ヤ [ku˞nu˜ ʔa˞kijaʃi̥ke: tat˜tenu kḁ˞ku˜ja](この空き屋敷はどこの家の屋敷か)。

カ˞ク [kḁ˞ku] 【名】不治の病。胃癌。サ˞キカク [sḁ˞kikaku](胃癌。アルコール中毒)。ウ˞リヌ　ヤンマイ˜ヤー　カ˞ク˜　ナ˞リ˜ブーヨー [ʔu˞rinu jammai˜ja: kḁ˞ku˜ na˞ri˜bu:jo:](その人の病は癌になっているよ)。˜アイニ　サ˞キ˜　ヌムカー　カ˞ク˜　ナ˞リ˜ス [˜ʔaini sḁ˞ki˜ numuka: ka˞ku˜ na˞ri˜su](あのように酒を飲むと＜アルコール中毒＞になるよ)。

カ˞グ [ka˞gu] 【名】1かご (籠)。竹で作った物入れ。「籠、カゴ」『文明本節用集』の転訛したもの。竹の皮を編んで作った籠。芋や穀類を入れるのに用いた。カ˞グ˜ナ　ア˞ガマミ˜　イ˞リ˜　シケー [ka˞gu˜na ʔa˞gamami˜ ʔi˞ri˜ ʃi̥ke:](籠にあずき＜小豆＞を入れてある)。ガ˞シ˜タコー　カ˞グ˜ナ　イ˞リティ˜　サイ　˜シケー [ga˞ʃi˜tako: ka˞gu˜na ʔi˞riti˜ sai˜ ʃi̥ke:](炙って乾燥＜焙乾＞した蛸は籠に入れて下げて＜吊るし＞ある)。2鳥籠。カ˞グ˜ナ　˜パトゥザ　イ˞リティ˜　シゥ˞カ˜ナイ　˞ベー [ka˞gu˜na˜ pḁtudza ʔi˞riti˜ si̥˞ka˜nai ˞be:](鳥籠に鳩を入れて飼っている)。3海に沈めてカツオの生餌を入れておく竹製の大きな籠。生け簀。縦約 1 メートル、横約 2 メートル、深さ約 1,5 メートルの餌籠。ザ˞コートゥヤー˜ヤ　カ˞グナー˜ル　˜ザコー　˜イキ　˜シケータ [dza˞ko:tuja:˜ja ka˞guna:˜ru ˜dzako: ˜ʔiki˜ ʃi̥ke:ta](エサ取りは、餌籠にカツオの生餌を生けておいた)。

ガ˞クーガクー [ga˞kugaku:] 【名】(動) 魚の名。和名、キヂヌの仲間 (糸満方言で、チンシラー) の大型魚。体長約 35 センチ。それより小型の魚は、˜シンイズ [˜ʃiŋʔidzu] という。

カ˞クーン [kḁ˞ku:ŋ] 【他動】囲う。囲い込む。イ˞ゾー˜　アンシ　カ˞クーンティ　スンドゥ˜　カ˞コーランバン [ʔi˞dzo:˜ ʔaŋʃi kḁ˞ku:nti sundu˜ kḁ˞ko:ram-baŋ](魚は網で囲うとするが、囲われない)。˜アンシ　カ˞クイ˜　ミサカー　カ˞クー˜　クトー　˜ナルン [˜ʔaŋʃi kḁ˞kui˜ misaka: kḁ˞ku:˜ ku̥to: ˜naruŋ](網で囲って良ければ囲うことは出来る)。カ˞クイヤー˜　ミサムヌ [kḁ˞kuija:˜ misamunu](囲えば良いのに)。˞パー˜ク　カ˞クイ˜バ [˞pa:˜ku kḁ˞kui˜ba](早く囲えよ)。

カ˞クイ [kḁ˞kui] 【名】囲い。囲ったもの。˞ヤー˜ヌ　˞マーロー　グス˜ク　シ˞ミティ˜　カ˞クイ　シー˜シケー [˞ja:˜nu ˞ma:ro: gusu̥˜ku ʃi˞miti˜ kḁ˞kui ʃi:˜ ʃi̥ke:](家の回りは石垣を積んで囲いをしてある)。

カ˞クイルン [kḁ˞kuiruŋ] 【他動】囲う。囲い込む。˞ドゥー˜ヌ　˞ブン˜マー　カ˞クイルンティ˜　ウ˞ムーン˜ドゥ　カ˞クイララヌ [˞du:˜nu ˞bum˜ma: kḁ˞kuirunti˜ ʔu˞mu:n˜du kḁ˞kuiraranu](自分の分は囲おうと思うが、囲われない)。カ˞クイ˜　シ˞キ˜ルン [kḁ˞kui˜ ʃi̥˞ki˜ruŋ](囲っておく)。カ˞クイル˜　クトー　ナ˞ラ˜ヌ [kḁ˞kuiru˜ ku̥to: na˞ra˜nu](囲うことは出来ない)。カ˞クイヤー˜　ミサムヌ [kḁ˞kuija:˜ misamunu](囲えばいいのに)。カ˞クイリ [kḁ˞kuiri](囲えよ)。

カ˞クウチ [kḁ˞kuʔutʃi] 【名】屋敷内。歌謡語では、シ˞ルウチ [ʃi˞ruʔutʃi](屋敷内) ともいう。カ˞クウチ˜ナー　ヤ˞ラボー˜　イ˞ビルムノー˜　ア˞ラ˜ヌティ　ム˞カ˜シプソー　ア˞ゾーッ˜タ [kḁ˞kuʔutʃi˜na: ja˞rabo:˜ ʔi˞birumuno:˜ ʔa˞ra˜nuti mu˞ka˜ʃipu̥so: ʔa˞dzo:t˜ta](屋敷内にテリハボクを植えるものではないと昔の人はいわれた)。

ガ˞クガク˜シ [ga˞kugaku˜ʃi] 【副】がくがくと。酷い寒さで顎がガクガク音を立てるほど震えるさま。˜ドゥク　˞ピー˜ヤティ　ガ˞クガク˜シ　˞フッツォーリ　ベー [du˞ku˜nu ˞pi:˜jati ga˞kugaku˜ʃi ˞ɸuttso:ri be:](余にも寒いのでがくがくと震えている)。

カ˞クガニ [kḁ˞kugani] 【名】鉄の角材。「角鉄」の義。四角い鋼材のこと。古謡の言葉。比喩表現の一つで、鋼材のように強固な建築用材の意。カ˞クカニバ˜　パ˞ラー˜バ　˞シー　ヤー˜バ　ス˞ク˜リ　˜アンティ　˜スー、ウ˞リユー　ミュー˜ナーキャームイ [kḁ˞kuganiba˜ pa˞ra:˜ba ˜ʃi: ˞ja:˜ba su̥˞ku˜ri ˜ʔanti˜su:](四角い鋼材を柱にして家を造ってあるという。それを見なければならない)「アーパーレー歌」『鳩間島古典民謡古謡集』。5 寸角の木材で家屋建築することは、限られた裕福な人にしか出来ない、最高の喜びであった。普通は 3 寸 5 分四角の角材を使用していたという。

カ˞クギリ [kḁ˞kugiri] 【名】角切り。四角に切ること。˞ダイ˜クネー　カ˞クギリ˜　シ˞ティ˜　ン˞ブ˜シバ [˞dai˜kune: kḁ˞kugiri˜ ʃi̥˞ti˜ ʔm˞bu˜ʃiba](大根は角切りにして蒸し煮しなさいよ)。

カ˞ク˜グ [kḁku˜gu] 【名】覚悟。決心すること。諦めること。ヤ˞ナクトゥ　シェー˜チバ　˜ニカー　˞アー˜ヤン　˞シシキラリントダー　カ˞ク˜グ　˞シー　ベー˜リ [ja˞nakutu ʃe:˜tʃiba ˜nika: ˞ʔa:˜jaŋ ˞ʃiʃi̥kirarin˧da: kḁ˞ku˜gu ˞ʃi: be:˜ri](悪い事をしてしまったから、今晩はお父さんに懲らしめ＜厳しく躾け＞られるぞ。覚悟していろよ)。

カ˞クザイ **[kḁ˞kudʑai]** 【名】角材。四角に削り出した材木。建築用角材。ク˞ヌ˜　フ˞クンキーヤ　マンナカーラ˜　バクカー　˞ゴッスンカクヌ˜　カ˞クザイ˜　ニフン＜フ˞タムトゥ˜＞　トゥ˞ラ˜リン [ku˞nu˜ ɸu̥˞kuŋki:ja mannaka:ra˜ bakuka: ˞gossuŋkakunu˜ kḁ˞kudʑai˜ niɸun ＜ɸu˞tamutu˜＞ tu˞ra˜riŋ](この福木は真中から縦に切り割ったら、五寸角の建材を二本取ることが出来る＜取り出せる＞)。

カ˞クシ˜グトゥ **[kḁ˞kuʃi˜gutu]** 【名】隠し事。秘事。嘘。トゥ˞ジブトゥヌ˜　ナカナー　カ˞クシ˜グトー　ノー˞ン　ナー˜ヌ [tu˞ʤibutu˜nu ˜nakana: kḁ˞kuʃi˜guto: no:˞n na:˜nu](夫婦の間に隠し事は何もない)。

カ˞クシ˜ッふァ **[kḁ˞kusi˜ffa]** 【名】私生児。「隠し子」の義。˞ウン˜ネヌ　˜アブジェー　カ˞クシッふァ˜ヌ　ユ˞ノンラ˜　ウ˞ヤ˜プス　ク˞ヨー˜ムンティ　˞オーッ˜タツォー [˞ʔun˜nenu ˜ʔabuʤe: kḁ˞kuʃiffa˜nu ju˞non˜ra ʔu˞ja˜pu̥su ku˞jo:˜munti ˞ʔo:t˜tatso:](その家のおじいさんの隠し子が与那国から先祖を拝もう＜拝む＞と来られたそうだ)。

カ˞クシ˜　フ˞カ˜スン **[kḁ˞kuʃi˜ ɸu̥˞ka˜suŋ]** 【連】隠し過ぎて放置する。隠し過ぎて隠し場所が分からなくなる。「隠し放下す」の転訛。老年層は、カ˞ザミフカ˜スン [ka˞ʤamiɸu̥ka˜suŋ](隠し過ぎて隠し場所がわからなくなる) ということが多い。カ˞クシ˜　フ˞カ˜シティ　˜マナール　ス˞ク˜タユー　ッ˞サヌ [kḁ˞kuʃi˜ɸu̥˞ka˜ʃi̥ti ˜mana:ru su̥˞ku˜taju: s˞sanu](隠しすぎて、どこに隠したのか分からない＜知らない＞)。

カ˞クシマー˜シ **[kḁ˞kuʃima:˜ʃi]** 【名】ひたすら隠すこと。直隠(ヒタカク)しにすること。隠し通すこと。「隠し・回し」の義。˜アイニ　カ˞クシマー˜シ　˞サン˜タンティン　˜ミサン　˞ナンクク˜ル　ワ˞カ˜ルン [˜ʔaini kḁ˞kuʃima:˜ʃi ˞san˜tantim ˜misan ˞naŋkuku˜ru wa˞ka˜ruŋ](あんなに直隠しにしなくてもいい。自然に知られるものだ＜分かってくるものだ＞)。

カ˞クシ˜ムヌ **[kḁ˞kuʃi˜munu]** 【名】隠し物。秘宝。隠匿物。隠し持っているもの。˞ウン˜ネーナ　ミ˞ジラ˜シ　カ˞クシムヌ˜ヌ＜タ˞カラムヌ˜ヌ＞　˜アンツォー [˞ʔun˜ne:na mi˞ʤira˜ʃi kḁ˞kuʃimunu˜nu ＜ta˞karamunu˜nu＞ ˜ʔantso:](その家には珍しい隠し物＜秘宝＞があるそうだ)。

カ˞ク˜シユクシ **[kḁ˞ku˜ʃijukuʃi]** 【名】嘘。嘘偽り。「隠し・よこし＜讒し＞」。「讒　与己須＜よこす＞『新撰字鏡』」の義。カ˞ク˜シユクシ　˞サンドー˜シ　マッ˞トーバ˜　アジ　ッ˞サリリ [kḁ˞ku˜ʃijukuʃi ˞sando:˜ʃi mat˞to:ba˜ ʔaʤi s˞sariri](嘘偽りを言わないで＜しないで＞正直に＜真直ぐに＞申し上げなさい)。˞ティンヌ˜　ッ˞サーラ˜ナー　カ˞ク˜シユクシェー　ナ˞ラ˜ヌ　˞カン˜マー　ミシゥ˞カーマシ˜ル　˞オー˜ル [˞tinnu˜ s˞sa:ra˜na: kḁ˞ku˜ʃijukuʃe: na˞ra˜nu ˞kam˜ma: misi̥˞ka:maʃi˜ru ˞ʔo:˜ru](天の下では嘘偽りは出来ないものだ。神様はちゃんとお見通しでいらっしゃる。＜天網恢恢疎にして漏らさず＞だよ)。

カ˞クジン **[kḁ˞kuʤiŋ]** 【名】四角いお膳。「角膳」の義。単に˞ジン [˞ʤiŋ](お膳) ともいう。一辺が約 35 センチの正方形の板に深さ約 2 センチの縁を付けた物。˞カイシキ˜ジン [˞kaiʃiki˜ʤiŋ](会席膳。祝儀や法事の際に来客に出すご馳走のお膳)、タ˞カ˜ジン [tḁ˞ka˜ʤiŋ](高膳。高さ約 20 センチの脚を付けたお膳。家長や祖父などの日常の食事を出すのに用いたり、祝儀の主賓や神前にご馳走を供えるのに用いた) 等がある。

カ˞ク˜スン **[kḁ˞ku˜suŋ]** 【他動】隠す。秘する。人目に触れないように物陰に入れる。ク˞シ˜ナー　˞ヌー˜バ　カ˞ク˜シ　˞ベー˜ワ [ku̥˞ʃi˜na: ˞nu:˜ba kḁ˞ku˜ʃi ˞be:˜wa](後ろに＜背に＞何を隠しているのか)。ノー˞ン˜　カ˞クサ˜ヌ [no:˞ŋ kḁ˞kusa˜nu](何も隠さない)。˞ワー˜　カ˞ク˜スカー　˞バン˜ヌン　カ˞ク˜スン [˞wa:˜ kḁ˞ku˜suka: ˞ban˜nuŋ kḁ˞ku˜suŋ](君が隠したら私も隠す)。カ˞ク˜ス　˜ムノー　ノー˞ン　ナー˜ヌ [kḁ˞ku˜su ˜muno: no:˞n na:˜nu](隠すものは何もない)。ン˞メーマー˜　カ˞ク˜シェー　˜ミサムヌ [ʔm˞me:ma:˜ kḁ˞ku˜ʃe: ˜misamunu](少しは隠せばよいのに)。˞パー˜ク　カ˞ク˜シ [˞pa:˜ku kḁ˞ku˜ʃi](早く隠せ)。

カ˞ク˜チ **[kḁ˞ku˜ʧi]** 【名】あご (顎)。˞オーカクチ [˞ʔo:kakuʧi](上顎)。ッ˞サカクチ [s˞sakakuʧi](下顎) がある。カ˞クチ˜ヌ　˞パンチルン˜ケン　ウ˞リンマー˜　バ˞ラーサ　リミッ˜タン [kḁ˞kuʧi˜nu ˞pantʃiruŋ˜keŋ ʔu˞rimma:˜ ba˞ra:sari mit˜taŋ](顎が外れるほど彼＜あれ＞には笑わされた＜笑わされてみた＞よ)。

カ˞ク˜チ　˞アースン **[kḁ˞ku˜ʧi ˞ʔa:suŋ]** 【連】顎を外す。顎を殴り砕く。多弁な者の顎を殴って懲らしめる (罰する)。悪口をいう者の顎を殴って話せなくする。˞ウンザー˜　フ˞チヌ　ワッサ˜ヌ　カ˞ク˜チ　˞アーシ˜　トゥ˞ラ˜シ [˞ʔunʤa:˜ ɸu̥˞ʧinu wassa˜nu kḁ˞ku˜ʧi ˞ʔa:ʃi˜ tu˞ra˜ʃi](あいつは口が悪い。顎を殴

って、顎を外してものが言えないように懲らしめ＜罰して＞てやれ)。

カ˞クˬチ　˞コーˬルンケン [kạ˞kuˬʧi ˞koː˞ruŋkeŋ]【連】のべつ幕無しに喋り捲くる。「顎・こわる＜強る＞まで」(顎がこわばるほど) の義。カ˞クチˬヌ　˞コーˬルンケン　ˬムニ　ユミ˞ミッˬタン [kạ˞kutʃiˬnu ˞koːˬruŋkem ˬmuni jumi˞mitˬtaŋ](顎が硬くなるまで、のべつ幕無しに喋ってみた)。

カ˞クˬチ　˞コッˬパルン [kạ˞kuˬʧi ˞kopˬparuŋ]【連】顎が強張る。顎が硬直する。ハ˞チョーフーˬ　カ˞カˬルカー　カ˞クˬチ　˞コッˬパルンティ˞ダー [ha˞ʧoːɸuːˬ kạ˞kaˬruka: kạ˞kuˬʧi ˞kopˬparunti˞daː](破傷風にかかったら顎が硬直するそうだよ)。

カ˞クチˬヌ　ヤ˞ゴームンˬケン [kạ˞kutʃiˬnu ja˞goː-muŋˬkeŋ]【連】顎が歪むほど。ム˞カˬシェー　˞ピーˬタイナテー　カ˞クチˬヌ　ヤ˞ゴームンˬケン　ˬシラ　ウ˞タリˬタンティ˞ダー [mu˞kaˬʃe: ˞piːˬtainaːte: kạ˞kutʃiˬnu ja˞goːmuŋˬkeŋ ˬʃira ʔu˞tariˬtanti˞daː](昔は、兵隊では顎が歪むほどびんたを食わされたそうだよ)。

カ˞クˬチ　バ˞ルン [kạ˞kuˬʧi ba˞ruŋ]【連】びんたを張る。顎を殴打する。「顎を割る」の義。ˬドゥクナリ　˞ブーˬカー　カ˞クˬチ　バ˞リトゥラˬスン˞ダー [ˬdakunari ˞buːˬka: kạ˞kuˬʧi ba˞ritura˞sun˞daː](図に乗って、つけあがってひどい悪さをしているとぶん殴る＜顎を割ってやる＞ぞ)。

カ˞クˬチ　˞フイッカーˬスン [kạ˞kuˬʧi ˞ɸuikkaː˞suŋ]【連】顎が強張ってガクガクする。凍りつくような寒さで顎がガクガクする。˞フイッカーˬスンは、「喰い・合い・する」の義。クˬヌˬ　ピ˞ラˬクナー　ク˞バˬリティル　カ˞クˬチ　˞フイッカーˬシ　˞ベーˬツォー [ku˞nuˬ pi˞raˬkuna: ku˞baˬritiru kạ˞kuˬʧi ˞fuikkaːˬʃi ˞beːˬtsoː](この寒波で凍えて顎ががくがくして＜震えて＞いるそうだ)。

カ˞クッˬツァー [kạ˞kutˬtsaː]【名】顎(アゴ)が尖っている人の卑称。鰓(エラ)が張った人の卑称。シ˞ラカタˬチェー　カ˞クッˬツァー　ˬナリティ　イッ˞ケナˬ　ナ˞クラーˬン [ʃi˞rakataˬʧe: kạ˞kutˬtsa: ˬnariti ʔik˞kenaˬ na˞kuraːˬŋ](顔貌は、顎がとがっていて非常に怖い)。

カ˞クトゥール [kạ˞kutuːru]【名】四角いランプ。金属の枠にガラス板を嵌めて持ち運び出来るように作られたランプ。「角灯籠」の義。˞ユーˬロー　カ˞クトゥールバˬ　シキ　ˬムテーティル　プ˞スンˬヤーン　シゥ˞カーリ　パッˬタ˞ダー [ˬjuːˬro: kạ˞kutuːruba ˬʃi̥ki ˬmuteːtiru pu̥˞suŋˬjaːm si̥˞kaːri patˬta˞daː](夜は角ランプに火を灯して＜火を点けて＞余所の家にお使いに＜使われて＞行ったものだよ)。

カ˞クバラー [kạ˞kubaraː]【名】角材。四角い柱。ヌ˞キヤーヌˬ　パラー　ナ˞カˬバラーン　ˬムヤーバラーン　ムー˞ルˬ　カ˞クバラーシˬル　ス˞クラˬリ˞ブー [nu˞kijaːnuˬ paraː naˬkaˬbaraːm ˬmujaːbaraːm muː˞ruˬ kạ˞kubaraːʃiˬru su̥˞kuraˬri ˞buː](貫き屋の柱は中柱も母屋柱もすべて角材＜角柱＞で作られている)。

カ˞クビチ [kạ˞kubiʧi]【名】特別。格別。標準語「格別」の転訛したもの。ウ˞レーˬ　カ˞クビチヌˬ　プ˞スˬ　ヤ˞ルンダˬ　ウ˞リンナーˬネー　ˬムネー　イ˞ザラヌ [ʔu˞reːˬ kạ˞kubiʧinuˬ pu̥˞suˬ ja˞rundaˬ ʔu˞rinnaːˬneː ˬmuneː ʔi˞ʤaranu](その人は、特別の人だから、その人には文句はつけられない＜ものは言えない＞)。

カ˞クフクビ [kạ˞kuɸukubi]【名】角帯。ティ˞ジリˬビー [ti˞ʤiriˬbiː](男性神職者) が神前に出る際に着用する正装の帯。ティ˞ジリビーˬヤ　ˬウガン　˞オーˬル　ˬピンマー　カ˞クフクベー　シーティル　オーッˬタ [ti˞ʤiribiːˬja ˬʔugaŋ ˞ʔoːˬru ˬpimmaː kạ˞kuɸu̥kuˬbeː ʃiːtiru ʔoːtˬta](男性神職者は御嶽＜お願＞へ行かれる時は角帯を締めて行かれた)。

ガ˞クブリ [ga˞kuburi]【名】学問をして、気が狂った者。「学惚れ」の義。ˬドゥク　˞ビンキョーヌ　スーˬワティル　ガ˞クブリ　ソーˬリ　˞ナーンˬセンツォー [ˬduku ˞biŋkjoːnu suːˬwatiru ga˞kuburi soː˞ri ˞naːŋˬʃentsoː](あまりにも勉強が過ぎて気が狂って＜学惚れして＞しまわれたそうだ)。

カ˞クマースン [kạ˞kumaːsuŋ]【他動】囲いこむ。囲われる。抱き抱え込む。「囲いまわす」の義。ウ˞ビˬヌ　プ˞スンˬ　カ˞クマーサリティ　ウーカランˬシェン [ʔu˞biˬnu pu̥˞suŋˬ kạ˞kumaːsariti ʔuːkaraŋˬʃeŋ](あれだけの人に囲いこまれて身動き出来なかった)。ˬアンシ　カ˞クマーシティ　ピンガスˬナ [ˬʔaŋʃi kạ˞kumaːʃiti piŋgasuˬna](網で囲い込んで逃がすな)。カ˞クマースンティˬ　ウムーカ　カ˞クマーシェーˬ　ミサムヌ [kạ˞kumaːsuntiˬ ʔumuːka: kạ˞kumaːʃeːˬ misamunu](囲いこもう＜囲いこむ＞と思うなら囲いこめばよいのに)。カ˞クマースˬ　プ˞ソーˬ　カ˞クマーシ [kạ˞kumaːsuˬ pu̥˞soːˬ kạ˞kumaːʃi](囲いこむ人は囲いこめ)。

カ˞クムン [kạ˞kumuŋ]【他動】囲む。˞ヤーˬヌ　˞マール　グスˬクシ　カ˞クマーサリ　ベー [˞jaːˬnu ˞maːru gusuˬkuʃi kạ˞kumaːsari beː](家の回りは石垣

で囲まれている)。カ˞クミヤッ˜サン [kạ˞kumijas˜saŋ](囲みやすい)。ムー˞ル˜シ　˜ヤー　カ˞クムン [mu:˞ru˜ʃi ˜ja: kạ˞kumuŋ](皆で家を囲む)。カ˞クム˜　クトー　ナ˞ラ˜ヌ [kạ˞kumu˜ kụto: na˞ra˜nu](囲むことは出来ない)。カ˞クメー˜　ミサムヌ [kạ˞kume:˜ misamunu](囲めばよいのに)。ク˞リ˜シ　カ˞クミ˜バ [ku˞ri˜ʃi kạ˞kumi˜ba](これで囲めよ)。

ガ˞ク˜ムン [ga˞ku˜muŋ] 【名】学問。勉強すること。学芸を修めること。ッ˞ふァ˜マーンケンマー　ヤー˞ディン˜　ガ˞ク˜ムン　シ˞ミリ˜ヨー [f˞fa˜ma:ŋkemma: ja:˞diŋ˜ ga˞ku˜muŋ ʃi˞miri˜jo:](子孫には必ず学問をさせなさいよ)。

カ˞クラー˜キ [kạ˞kura:˜ki] 【名】胸焼け。˞ピントゥルピン　ウンヌイー˜トゥ　イ˞ガカラス˜　カー˞ニ˜　カティ　ッ˞ふーユンダ˜　カ˞クラー˜キ　˞シー˜　ナ˞ラ˜ヌ [˞pinturupiŋ ʔunnuʔi:˜tu ʔi˞gakarasu˜ ka:˞ni˜ kạti f˞fu:junda˜ kạ˞kura:˜ki ˞ʃi:˜ na˞ra˜nu](毎日芋のおにぎりと烏賊の塩辛だけを添えて食べるので胸焼けして堪らない)。

˜カクラン [˜kạkuraŋ] 【名】激しい下痢、嘔吐を伴う病気。「霍乱」の義。˞ベー˜カー [˞be:˜ka:](下痢、嘔吐) ともいう。イ˞クサユー˜ヌ　˜アトゥナー　˜カクランティ　˞スー　ヤンマイ˜ヌ　パ˞ヤー˜リティ　シ˞ヌ　プスン˜　ブ˞タン [ʔi˞kusaju:˜nu ˜ʔatuna:˜ kạkuranti ˞su: jammai˜nu pa˞ja:˜riti ʃi˞nu pụsum˜ bu˞taŋ](終戦後 < 戦世の後 > に霍乱という病気が流行って死ぬ人もいた)。

カ˞クリ˜トゥジ [kạ˞kuri˜tuʤi] 【名】内縁の妻。「隠れ刀自」の義。「己麻勢波々刀自分 (〜いませ母刀自〜)『万葉集　4342』」の義か。˜アイブ　プ˞ス˜ナーン　カ˞クリトゥジ˜ヌ　˞オー˜ルンティ˞ダー˜　ミ˞ジラ˜サ [˜ʔaibu pụ˞su˜na:ŋ kạ˞kurituʤi˜nu ˞ʔo:˜runti˞da:˜ mi˞ʤira˜sa](あんな人にも内縁の妻がおられるそうだよ。不思議なこと < 珍しいこと > だ)。

カ˞クリ˜ブトゥ [kạ˞kuri˜butu] 【名】間男。密夫。「隠れ夫」の義。ミ˞ドゥムダ˜ティヤー　ヤ˞ルヌ˜　マ˞ルケーティ˜ナー　˞ウン˜ネナー　ビ˞キドゥムヌ　オール˜ヌ　カ˞クリ˜ブトゥ　ヤ˞リン˜ギサールバン [mi˞dumuda˜tija: ja˞runu˜ ma˞ruke:ti˜na: ˞ʔun˜nena: bi˞kidumunu ʔo:ru˜nu kạ˞kuri˜butu ja˞riŋ˜gisa:rubaŋ](女所帯の家であるが、偶にその家に男の人が居られるが、どうも間男であるらしいなあ)。

カ˞クリ˜ルン [kạ˞kuri˜ruŋ] 【自動】隠れる。ウ˞レー˜　プ˞スヌ˜　クーカー　カ˞クリ˜ルンティ　ス˞クタヌ˜　カ˞クリラン˜バン [ʔu˞re:˜ pụ˞sunu˜ ku:ka: kạ˞kuri˜runti sụ˞kutanu˜ kạ˞kuriram˜baŋ](あれ < 彼 > は他人が来ると隠れると聞いたが、隠れないよ)。カ˞クリ˜ル　˜クトー　˞ナー˜ヌ [kạ˞kuri˜ru ˜kụto: ˞na:˜nu](隠れることはない)。カ˞クリ˜レー　˜ミサムヌ [kạ˞kuri˜re: ˜misamunu](隠れたら良いのに)。˞パー˜ク　カ˞クリ˜リ [˞pa:˜ku kạ˞kuri˜ri](早く隠れろ)。

カ˞ク˜ルン [kạ˞ku˜ruŋ] 【自動】隠れる。「かくる < 下二段活用 >」の四段活用化したもの。「都久波夜麻　可久礼奴保刀に < 筑波山隠れぬほどに >『万葉集　3389』」の転訛。˜シケー　ク˞ム˜ヌ　˜ナカー　カ˞ク˜リ　˞ナー˜ヌ [˜ʃi̥ke: ku˞mu˜nu ˜naka: kạ˞ku˜ri ˞na:˜nu](月は雲間 < 雲の中 > へ隠れてしまった)。マ˞ダ˜　カ˞クラ˜ヌ [ma˞da˜ kạ˞kura˜nu](まだ隠れない)。カ˞ク˜ル　プ˞ソー˜　カ˞ク˜ルン [kạ˞ku˜ru pụ˞so:˜ kạ˞kua˜ruŋ](隠れる人は隠れる)。˞パー˜ク　カ˞ク˜レー　˜ミサムヌ [˞pa:˜ku kạ˞ku˜re: ˜misamunu](早く隠れればよいのに)。˞ワー˜　シ˞ダキ˜　カ˞ク˜リ [˞wa:˜ ʃi˞daki˜ kạ˞ku˜ri](君は先に隠れろ)。

˜カクン [˜kạkuŋ] 【他動】 1掛ける。「かく < 下二段活用 >。真杭には真玉を掛け『古事記　(下)』」、「許之伎爾波久毛能須可伎て (甑には蜘蛛の巣かきて)『万葉集　892』」の四段活用化したものか。カ˞キ˜ルン [kạ˞ki˜ruŋ](掛ける) と同じ。˞キン˜マー　˞クン˜ナー　˜カキミサンカヤー [˞kim˜ma: ˞kun˜na: ˜kạkimisaŋkaja:](着物は、これに掛けてよいのかねえ)。˜ウナー　カ˞キ˜プサンドゥ　タ˞カー˜ヌ　カ˞カラ˜ヌ < カ˞キキラ˜ヌ >[˜ʔuna: kạ˞ki˜pụsandu tạ˞ka:˜nu kạ˞kara˜nu <ka˞kikira˜nu>](そこに掛けたいが、高くて掛けられない)。˞ワー˜　カクカー　˞バン˜ヌン　˜カクン [˞wa:˜ kạkuka: ˞ban˜nuŋ ˜kạkuŋ](君が掛けたら私も掛ける)。˜クナー　˞キン˜バ　˜カク　プ˞ソー˜　ブ˞ラーンダ　ワーンツァン˜　カケー　˜ミサムヌ [˜kuna: ˞kim˜ba ˜kạku pụ˞so:˜ bu˞ra:nda wa:ntsaŋ˜ kạke: ˜misamunu](ここに着物を掛ける人はいないから、君だけでも < すらも > 掛ければよいのに)。ター˞ンヤラバン　パー˜ク　˜カキバ [ta:˞ɲ jarabam pa:˜ku ˜kạkiba](誰でもいい、早く掛けよ)。˞キン˜マー　˜クナー　カ˞ク˜ナ [˞kim˜ma: ˜kuna: kạ˞ku˜na](着物はここに掛けるな)。カ˞カ˜ヌ [kạ˞ka˜nu](掛けない)。˜カキ　˜シキ [˜kạki ˜ʃi̥ki](掛けておけ)。˞バン˜ヌン　˜カクン [˞ban˜nuŋ ˜kạkuŋ](私も掛ける)。˜クナー　˜カク　˜クトゥ [˜kuna: ˜kạku ˜kụtu](ここに掛けること)。˜カケー　˜ミサムヌ [˜

kạke: ˥misamunu](掛ければよいのに)。˩クン˥ナー　˥カキ [˩kun˥na: ˥kạki](これに掛けよ)。2秤で量る。ピ˩キ˥シ　˥カキティ　˩カーシ˥バ [pi̥˩ki˥ʃi ˥kạkiti ˩ka:ʃi˥ba](秤で量って売りなさいよ)。3水を掛ける＜注ぐ＞。˥ヤサイナ　ミ˩ジ˥　カクン [˥jasaina mi˩ʤi ˥kạkuŋ](野菜に水をかける＜注ぐ＞)。4迷惑を掛ける。プ˩スン　ミーワク˥　カクンダ　˩ワー　パン˥ナ [pu̥˩sum mi:waku˥ kạkunda ˩wa: pan˥na](他人に迷惑をかけるから、君は行くな)。

˥カクン [˥kạkuŋ] 【他動】1書く。˩クン˥ナー　˥ドゥーシ　˩ドゥー˥ヌ　˩ナー˥　カクン [˩kun˥na: ˥du:ʃi ˩du:˥nu ˩na:˥ kạkuŋ](これに自分で自分の名前を書く)。アー˩イ˥　ドゥーシェー　カ˩カ˥ヌ [ʔa:˩i˥ du:ʃe: kạ˩ka˥nu](いや、自分では書かない)。˥バー　˩ナー˥　カキ　ッ˩ふィーリ [˥ba: ˩na:˥ kạki f˩fi:ri](私の名前を書いてくれ)。˥カク　˥ムノー　˩ナー˥ヌ [˥kạku ˥muno: ˩na:˥nu](書くものはない)。˩ワンヌン˥　カケー　˥ミサムヌ [˩wannuŋ˥ kạke: ˥misamunu](君も書けばよいのに)。˩ダンダン˥シ　˥カキ [˩dan-daŋ˥ʃi ˥kạki](さっさと書け)。カ˩キスイ˥ルン [kạ˩kisui˥ruŋ](書き添える)。カ˩キウタ˥スン [kạ˩kiʔuta ˥suŋ](書き落とす)。2描く。˩イーカタ˥　カ˩キゾー˥ジ [˩ʔi:kata˥ kạ˩kiʤo:˥ʤi](絵＜絵形＞を描くのが上手だ＜描き上手だ＞)。

˥カクン [˥kạkuŋ] 【他動】掛ける。架ける。作る。築く。パ˩シ˥　カクン [pạ˩ʃi˥ kạkuŋ](橋を架ける)。カ˩マチヌ　ウイ˥ナー　タ˩ナ˥　カキティ　タ˩ムヌ　シ˩ミ˥　シキ [ka˩matʃinu ʔui˥na: ta˩na˥ kạkiti ta˩mu˥nu ʃi˩mi˥ʃi̥ki](竈の上に棚を作って＜架けて＞、薪を積んで置け)。˥クナー　パ˩シェー˥　カ˩カラ˥ヌ [˥kuna: pạ˩ʃe:˥ kạ˩kara˥nu](ここには橋は架けられない)。˥クナー　タ˩ナ˥　カクンツオー [˥kuna: ta˩na˥ kạkuntso:](ここに棚を作る＜掛ける＞そうだ)。˥クナーティ　パ˩シ˥　カク　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˥kuna:ti pạ˩ʃi˥ kạku ˥kụto: na˩ra˥nu](ここに橋を架けることは出来ない)。パ˩シ˥　カケー　˥ミサムヌ [pạ˩ʃi˥ kạke: misamunu](橋を架ければよいのに)。パ˩シ˥　カキバ [pạ˩ʃi˥ kạkiba](橋を架けろよ)。

˥カクン [˥kakuŋ] 【他動】掻く。手や貝など、その他の道具で砂を掻き寄せる。パ˩モー˥ル　˥カクン [pa˩mo:˥ru ˥kạkuŋ](渚の砂を＜手で＞掻いて蛤を拾う＜ハマグリを掻く＞)。パ˩モー˥ル　カ˩カ˥ヌ [pa˩mo:˥ru kạ˩ka˥nu](蛤を掻かない)。˥カキン　˥パル [˥kạkim ˥paru](掻きに行く)。˥カク　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [˥kạku pu̥˩so:˥ bu˩ra:nu](掻く人はいない)。˥カケー　˥ミサムヌ [˥kạke: ˥misamunu](掻けばよいのに)。パ˩モー˥ル　˥カキバ [pa˩mo:˥ru ˥kạkiba](砂を掻いて蛤を拾え＜蛤を掻け＞よ)。

カ˩グン [ka˩guŋ] 【自動】欠席する。欠ける。休む。「欠く＜自動・下二段活用＞」の四段活用化したもの。˩キュー˥ヤ　˩ガッ˥コー　カ˩ガンドー˥シ　パリ˩ダー [˥kju:˥ja ˩gak˥ko: ka˩gando:˥ʃi pari˩da:](今日は、学校は欠席しないで＜欠げないで＞行きなさいよ＜行けよ＞)。カ˩グンドー˥シ [ka˩gundo:˥ʃi](欠席しないで＜欠けないで＞) 老年層。カ˩ジヌ˥　フクカー　カ˩ギ˥ミサン [ka˩ʤinu˥ ɸu̥kuka: ka˩gi ˥misaŋ](台風が吹いたら欠席してもよい)。˩ワー˥　カ˩グ˥カー　˩バン˥ヌン　カ˩グン [˩wa:˥ ka˩gu˥ka: ˩ban˥nuŋ ka˩guŋ](君が欠席したら私も欠席する)。カ˩グ˥　ピンマー　トゥ˩ドゥキ˥リ [ka˩gu˥ pimma: tu˩duki˥ri](欠席するときは届けなさい)。˩マー˥ビン　カ˩ゲー˥　ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ka˩ge:˥ misamunu](もっと欠席すればよいのに)。˩キュー˥ヤ　カ˩ギ˥バ [˩kju:˥ja ka˩gi˥ba](今日は欠席しろよ)。

˥ガクン [˥gakuŋ] 【他動】引っ掛ける。掛ける。引っ掛けて取る。˩カー˥ナ　シ˩ル˥　ウ˩タ˥シティ　ウ˩リ˥　ガクンティ　˩ベー [˩ka:˥na ʃi˩ru˥ ʔu˩ta˥ʃi̥ti ʔu˩ri˥ gakunti ˩be:](井戸に釣瓶を落としてしまって、それを引っ掛けて取ろうとしている)。ガ˩カラ˥ヌ [ga˩kara˥nu](引っ掛けられない)。˥ウティ　˩ベー˥　シ˩ロー˥　ガキ　˥トゥリバ [˥ʔuti ˩be:˥ ʃi˩ro:˥ gaki ˥turiba](落ちている鶴瓶は引っ掛けて取りなさいよ)。˥ガク　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˥gaku ˥kụto: na˩ra˥nu](引っ掛けることは出来ない)。˥ガケー　˥ミサムヌ [˥gake: misamunu](引っ掛ければよいのに)。˩ナー˥リ　パ˩ラン˥ケン　˥ガキバ [˩na:˥ri pa˩raŋ˥keŋ ˥gakiba](流れ去らぬ内に引っ掛けよ)。ガ˩キ˥ザーシ　˥ガキティ　˩トー˥リバ [ga˩ki˥ʤa:ʃi ˥gakiti ˩to:˥ riba](熊手で引っ掛けて手繰り寄せなさい)。ガ˩キ˥ザーシ　˥ガクンティ　˩スーンドゥ˥　ガ˩カラン˥バン [ga˩ki˥ʤa:ʃi ˥gakunti ˩su:ndu˥ ga˩karam˥baŋ](熊手で引っ掛けよう＜引っ掛ける＞とするが、引っ掛けられない)。˥ガク　˥クトー　ガケー˩スーヌ˥　トゥ˩ラリ˥ル　サ˩ラヌ [˥gaku ˥kụto: gake:˩sunu˥ tu˩rari˥ru sa˩ranu](引っ掛けることは引っ掛けるが取られない＜取られぞされぬ＞。取ることが出来ない)。˩パー˥ク　˥ガキバ [˩pa:˥ku ˥gakiba](早く引っ掛けろよ)。

カ˩ケー˥シムケーシ [kạ˩ke:˥ʃimuke:ʃi] 【副】1かき回して混ぜあわせるさま。ごちゃ混ぜにするさま。い

ろいろなことが混雑したさま。2同じようなことを何度も繰り返し言うさま。ABCDEFCD 型の重言。カ˞ケー˜シ [kạ˞ke:˜ʃi]＜混ぜる＞の意味を強めた表現。カ˞ケー˜シムケーシ　˞ヌーバ˜ル　イ˞リ˜シケーワ [kạ˞ke:˜ʃi ˜muke:ʃi ˞nu:ba˜ru ʔi˞ri˜ʃike:wa](ごちゃごちゃと混ぜ合わせて何を入れてあるのか)。˞ビー˜プソー　ユ˞ヌムニ˜バ　カ˞ケー˜シムケーシ　ア˞ズユンダ˜　ナ˞ラント ツォー [˞bi:˜pụso: ju˞nununi˜ba ka˞ke:˜ʃimuke:ʃi ʔa˞ʤujunda˜ na˞ranト tso:](酔っ払いは同じようなことを繰り返し言うから困るのだ＜堪(タマ)らない＞)。

カ˞ケー˜スン [kạ˞ke:˜suŋ] 【他動】かき混ぜる。「掻き・合わす」の義。ユ˞ナ˜クナー　ッ˞ふ˜サタ　キ˞ジ　イリティ˜　カ˞ケーシバ˜ル　ン˞マート ダー [ju˞na˜kuna: f˞fu˜sata ki˞ʤi ʔiriti˜ kạ˞ke:ʃiba˜ru ʔm˞ma:ト da:](はったい粉＜麦焦がし＞には黒糖を削って入れてかき混ぜたほうが＜混ぜればぞ＞美味しいのだよ)。カ˞ケーサ˜ヌ [kạ˞ke:sa˜nu](かき混ぜない)。˞バン˜ヌン　カ˞ケー˜スン [˞ban˜nuŋ kạ˞ke:˜suŋ](私も掻き混ぜる)。カ˞ケーシ˜プサカー　カ˞ケー˜シバ [kạ˞ke:ʃi˜pụsaka: kạ˞ke:˜ʃiba](掻き混ぜたければ掻き混ぜろよ)。˞マー˜ビン　カ˞ケー˜シェー　˜ミサムヌ [˞ma:˜biŋ kạ˞ke:˜ʃe: ˜misamunu](もっと掻き混ぜればよいのに)。ピ˞ルザキ˜ナー　ナ˞マコー˜マ　イ˞リティ˜　カ˞ケー˜シティ　˜ヌムカー　パシッ˞トゥ　スン [pi˞ruʤaki˜na: na˞mako:˜ma ʔi˞riti˜ kạ˞ke:˜ʃịti ˜numuka: pạʃit˞tu suŋ](にんにく＜大蒜＞酒に生卵を入れて掻き混ぜて飲むと気分がすっきりするよ)。ク˞レー˜　カ˞ケーサラ˜ヌ [ku˞re:˜ kạ˞ke:sara˜nu](これは混ぜあわせられない)。カ˞ケーシ　ヤッ˜サン [kạ˞ke:ʃi jas˜saŋ](混ぜあわせやすい)。ク˞リン˜　カ˞ケー˜スン [ku˞riŋ˜ kạ˞ke:˜suŋ](これも掻き混ぜあわせる)。ピ˞ルザキトゥ˜　カ˞ケー˜ス　˜ムノー　˞ヌー˜ル　マ˞シ˜ヤ [pi˞ruʤakitu˜ kạ˞ke:˜su˜muno: ˞nu:˜ru ma˞ʃi˜ja](大蒜酒と混ぜあわせるのは何がいいか)。˞マー˜ビン　˞コー˜マ　イ˞リティ˜　カ˞ケー˜シェー　˜ミサムヌ [˞ma:˜biŋ ˞ko:˜ma ʔi˞riti˜ kạ˞ke:˜ʃe: ˜misamunu](もっと卵を入れて掻き混ぜあわせればよいのに)。˞パー˜ク　カ˞ケー˜シ [˞pa:˜ku kạ˞ke:˜ʃi](早く掻き混ぜあわせろ)。

カ˞ケー˜マ [ka˞ke:˜ma] 【名】小さなかけら (欠片)。小片。砕片(カケラ)。細片。バ˞リカミヌ˜　カ˞ケー˜マ　ア˞ツァ˜ミティ　˞ヌー˜スワ [ba˞rikaminu˜ ka˞ke:˜ma ʔa˞tsa˜miti ˞nu:˜suwa](割れ甕の欠片を集めてどうするのか)。˞カーラ˜ヌ　カ˞ケー˜マ [˞ka:ra˜nu kạ˞ke:˜ma](瓦の欠片(カケラ))。

˜カコー [˜kạko:] 【名】ぼろ (襤褸)。古着の襤褸(ボロ)。「かかふ (襤褸)」、「～和々気佐我礼流　可々布能尾～＜わわけ下がれるカカフのみ＞『万葉集　892』」の転訛か。ヤ˞リ˜カコー [ja˞ri˜kako:](襤褸(ボロ)切れ) ともいう。ム˞カ˜シェー　˜カコーシル　シ˞ビシ˜ケーン　ス˞ク˜ローッタ [mu˞ka˜ʃe: ˜kạko:ʃiru ʃi˞biʃị˜ke:n sụ˞ku˜ro:tta](昔は古着や襤褸でおむつ＜むつき＞を作られた)。ヤ˞リカコー˜バ　キ˞シェー˜ティル　˞ターパタ˜ケーヤ　˞ソーッ˜タ [ja˞rikako:˜ba kị˞ʃe:˜tiru ˞ta:pata˜ke:ja ˞so:t˜ta](破れた襤褸の着物を着て田畑の仕事をなさった＜田畑をなさった＞)。

˞カコー [˞kako:] 【名】1適当な具合。ころあいである。適当なこと。いい具合に。いい格好。ソーン˞ドゥイーカコーニ　ワー˜　キー　ッ˞ふィーレー˜バン [so:n˞du ʔi:kako:ni wa:˜ ki: f˞fi:re:˜baŋ](丁度良い具合に君が来てくれたよ)。˜イカール　˜カコーニ　˞スーバ˜　マ˞シ˜ヤ [˜ʔika:ru ˜kạko:ni ˞su:ba˜ ma˞ʃi˜ja](どんな具合にしたほうがいいか)。2理由。体裁。˜イカール　˜カコーシ＜˞ユン˜シ＞　˜カイブ　ク˞トゥ˜バ　˞シーアーク˜ワ [˜ʔika:ru ˜kạko:ʃi ＜˞juŋ˜ʃi＞ ˜kaibu kụ˞tu˜ba ˞ʃi:a:ku˜wa](如何なる理由でこんなことをしているのか)。

˜カサ [˜kạsa] 【名】1笠。「小菅乃笠を＜コスゲノカサヲ～＞」『万葉集　2771』の義。「櫟梂、伊知比乃加佐 (いちひのかさ)」『和名抄』の「カサ」が転訛したもの。ク˞バガサ [ku˞bagasa](クバの葉で作った笠)。˞ムン˜グルクバガサ [˞mun˜gurukubagasa](麦藁で作った笠＜麦殻クバ笠＞)。ミ˞ヌ˜カサ [mi˞nu˜kạsa](蓑笠) などがある。˜カサ　˜カビティ　˜ター　˞カイ˜スン [˜kasa ˜kabiti ˜ta: ˞kai˜suŋ](笠を被って田を耕す)。2ランプにつける笠状の反射板。ガラス状の厚さ 3 ミリ程度の円形板。中央部に直径約 6 センチ程の穴があり、フ˞ヤ [ɸu˞ja](火屋) が突き抜けて立てられるようになっている。˞トゥール˜ヌ　˜ヤマ [˞tu:ru˜nu ˜jama](針金で出来たランプの枠) にセットして部屋に吊るし、部屋を明るくした。それ以前はトゥ˞ブ˜シ [tu˞bu˜ʃi] を灯した。˜ダンプヌ　(˞トゥール˜ヌ)　˜カサ　ウ˞タ˜シ　バ˞リシティナー˜ヌ [˜dampunu(˞tu:ru˜nu) ˜kạsa ʔu˞ta˜ʃi ba˞riʃị̈tina:˜nu](ランプ＜˞燈炉、トウロ、俗」『色葉字類抄』の転訛したものか＞の笠を落として割ってしまった)。

˜カサ [˜kạsa] 【名】琉球国時代の頭職 (かしらしょく)。八重山出自の役人の最高位。石垣間切、宮良間切、

大浜間切の三間切の長として八重山を統治した役職。「カサ」は、kasira の-ira のように母音間の [r] が狭母音 [i、u] に先立たれると、融合変化を起こして [-ssa] となる音韻法則があるから、当該語は [kasira] → [kassa] → [kasa] と音韻変化したものである。イ˩サナキヌ　メーラドゥンチ˥ナール　カ˩サ˥ヌマイヤー　˩オーッ˥タツォー [ʔi˩sanakinu meːraduntʃi˥naːru kḁ˩sa˥numaijaː ˩ʔoːt˥tatsoː](石垣の宮良殿内に＜ぞ＞頭職様はおられたそうだ)。

˥カサ [˥kḁsa] 【名】かさ (瘡)。梅毒。「瘡、加佐＜かさ＞『和名抄』」の転訛。フ˩シル˥ヌ　カ˩ナイ˥ヤーティ　マ˩ナ˥マー　˥カサ　カ˩カリ˥プスティン　ブ˩ラーヌ [ɸu̥˩ʃiru˥nu ka˩nai˥jaːti ma˩na˥maː ˥kḁsa kḁ˩kari˥pu̥sutim bu˩raːnu](薬が品質向上している＜非常に良くなっている＞ので、現在では梅毒に罹っている人もいない)。

˥カザ [˥kadza] 【名】 (植) カズラ (蔓)。蔓草の総称。「葛、加豆良＜かづら＞『新撰字鏡』」の義。˩ウンヌ˥カザ [˩ʔunnu˥kadza](芋蔓(イモカズラ)、芋の葛)。*[kadura] → [kadzura] → [kaddza] → [kadza](芋蔓) と音韻変化したもの。˩ウンヌ˥カザ　カ˩リティ˥　ピ˩ビザヌ˥　ッサ　ッ˩ふァーシ˥バ [˩ʔunnu˥kadza ka˩riti˥ pi˩bidzanu˥ ssa f˩faːʃi˥ba](芋蔓を刈って山羊の餌＜草＞にして喰わせろよ)。˩ウンヌカザ˥ヌ　フ˩キ˥バ　ロ˩ク˥スンブカラナー　˥キシティ　カ˩ナパイ˥シ　˩ジー˥バ　ウ˩コー˥シティ　ニ˩バセー˥ティ　イ˩ビル˥カー　イッ˩ケナ　ミールン˥ツォー [˩ʔunnukadza˥nu ɸu̥˩ki˥ba ro˩ku˥sumbukarana: ˥ki̥ʃiti ka˩napai˥ʃi ˩dʒiː˥ba ʔu˩koːʃi̥˥ti ni˩baʃeː˥ti ʔi˩biru ˥kaː ʔik˩kena miːrun˥tsoː](芋蔓の茎を六寸ぐらいずつに切って、鍬で土を掘り起こして寝かせるように植えるとよく稔るそうだ)。マ˩ミ˥カザ [ma˩mi˥ kadza](豆の蔓)。

カ˩ザ [ka˩dza] 【名】1香ばしくない匂い。ただようにおい。「かざ＜香＞。油揚・焼鳥のかざ＜香＞をだにも嗅がず『御伽草子』」の転訛したもの。多くの場合「臭気」は、ヤ˩ナカザ [ja˩nakadza](悪臭。悪い匂い) といい、カ˩バ [ka˩ba](芳しい香＜かおり＞) と区別する。˥ッサリカザ [˥ssarikadza](腐った匂い。臭気)。˩ヌー˥ヌ　カ˩ザ˥　ヤ˩ル˥ユー　˥アイニ　カ˩ザヌ˥　ッ˩サー˥ワレー [˩nuː˥nu ka˩dza˥ ja˩ru˥juː ˥ʔaini ka˩dzanu˥ s˩saː˥ware:](何の匂いだろうか、あんなに匂いが臭いことよ＜臭いことよ、それは＞)。ウ˩ヌ˥　プ˩スヌ　ピー˥ヌ　カ˩ザヌ˥　ッ˩サート ヨー [ʔu˩nu˥ pu̥˩sunu piː˥nu ka˩dzanu˥ s˩saːɨ-joː](その人のおなら＜屁＞の匂いの臭いことよ)。カ˩ザ˥　カ˩ブン [ka˩dza˥ ka˩bun](匂いを嗅ぐ)。2匂い一般。カ˩ザー　ナー˥ヌ [ka˩dzaː naː˥nu](匂いはない)。˩ヌー˥ヌ　カ˩ザ˥ヤー [˩nuː˥nu ka˩dza˥jaː](何の匂いか)。ノー˩ン˥　カ˩ザー˥　サ˩ヌ [noː˩ŋ˥ ka˩dzaː˥ sa˩nu](何も匂いはしない)。

カサー˩カサ [kḁsaː˩kasa] 【副】あくまで。どこまでも。一向に。それとわかっていながら、とうとう＜到頭＞。打消しの陳述と呼応して、決して～しない＜陳述副詞＞の職能を表す。ウ˩ヤ˥ヌ　ア˩ズ˥ムニン　カサー˩カサ˥　シゥ˩カヌ˥　アトー　˩ウン˥ネヌ　ユ˩メー˥　ナ˩ラン˥ティ　˩シー˥　ミシー˩ミシ　パン˥クリ　˩ナーン˥バンヨー [ʔu˩ja˥nu ʔa˩dzu˥ muniŋ kḁsaː˩kasa˥ si̥˩kanu˥ ʔato: ˩ʔun˥nenu ju˩meː˥ na˩ran˥ti ˩ʃiː˥ miʃiː˩miʃi paŋ˥kuri ˩naːm˥baɲjoː](親の言うことも一向に聞かない。あとは＜挙句は＞、その家の嫁にはならないといって、みすみす＜むざむざ＞断って＜跳ね返ってない＞しまったわいよ)。

カ˩ザ ー˥　フ˩ク ロ ー フ ク ロ ー˥シ [ka˩dza˥ ɸu̥˩kuroːɸu̥kuroː˥ʃi] 【連】香りが馥郁としてただようさま。˩ティンプラ˥ヌ　カ˩ザヌ˥　フク˩ローフクロー˥シ　カ˩バッ˥サタン [˩timpura˥nu ka˩dzanu˥ ɸu̥˩kuroːɸu̥kuroː˥ʃi ka˩bas˥sataŋ](テンプラの香りが馥郁(フクイク)とただよって香ばしかった)。

カ˩サイキー [kḁ˩saikiː] 【名】 (植) 木の名。ウラジロアカメガシワ。イ˩クサ˥ユーナー　カ˩サイキーヌ　パーバ˥　タ˩バク˥ヌ　˩カール　シー˥　タ˩バク　˥フキティ　˥バタ　ヤ˩ボー˥レー　プ˩スヌ　オーッ˥タン [ʔi˩kusa˥juːnaː kḁ˩sainupaːba˥ ta˩baku˥nu ˩kaːru ʃiː˥ ta˩ba˥ku ˥ɸu̥kiti ˥bata ja˩boː˥reː pu̥˩sunu ʔoːt˥taŋ](戦争中、ウラジロアカメガシワの葉を葉煙草の代わりにして、煙草を吸って＜吹いて＞おなかを壊された＜破られた＞人がおられた)。

˥カサ　カ˩カリ˥ムヌ [˥kḁsa kḁ˩kari˥munu] 【連】梅毒に罹った人。パ˩トゥ˥マナー　˥カサ　カ˩カリ˥ムノー　ブ˩ラーンシェン˥ツォー [pḁ˩tu˥manaː ˥kḁsa kḁ˩kari˥munoː bu˩raːŋʃen˥tsoː](鳩間島には梅毒に罹った人はいなかったそうだ)。

ガ˩サガ˥サー [ga˩saga˥saː] 【名】 (動) カツオの撒餌となる、体長 1～1、5 センチの小魚。熱帯魚の稚魚か。カツオの撒餌の中で最低の餌といわれていた。カツオの食いつきが悪いので、他の餌が取れない時に仕方なく漁獲して出漁した。˥ザコーナー

ガ˞サガサー˜ル　イッ˞チン　ワッ˜サタ [˜ʤakoːnaː ga˞sagasaː˜ru ʔit˞ʧiŋ was˜sata](撒餌ではガサガサーが一番悪かった)。ガ˞サガ˜サー　˜ムテイティ　イ˞ソー　パッタン˜ドゥ　カ˞ツォー　ナン˜ゾー　ッ˞ふァーンシェン [ga˞saga˜saː ˜mutiti ʔi˞soː pattan˜du kạ˞tsoː nan˜ʤoː f˞faːŋʃeŋ](ガサガサー雑魚を餌に持ってカツオ漁に出たが、カツオはあまり食い付かなった)。

カ˞ザク [ka˞ʤaku] 【名】鍛冶屋。「鍛冶工」の義。˞カンザ˜ヤー [˞kanʤa˜jaː](鍛冶屋) ともいう。カ˞ザケーヤ˜　ム˞カ˜シェー　カ˞ザク　ヤッタ˜ティバン˞ナー　ナードーヌ˜　パ˞タ˜キナー　˞カンザヤー˜ヌ　ア˞トゥ˜ヌ　˞アッタ˜ンツォー [ka˞ʤakeːja˜ mu˞ka˜ʃeː ka˞ʤaku jatta˜tiban˞naː naːdoːnu˜ pạ˞ta˜kinaː ˞kanʤajaː˜nu ʔa˞tu˜nu ˞ʔat˜tantsoː](加治工屋の先祖は鍛冶工であったそうだねえ。長堂の畑には鍛冶屋の跡があったそうだよ)。

カ˞ザケー [ka˞ʤakeː] 【名】屋号。加治工伊佐氏宅。鳩間村五班三十四番地にある。加治工伊佐は寄合赤伊志より鬚川御嶽のティジリビ (男性神職者) を受け継ぎ、在職約 60 年で引退した。加治工家の位牌には˞野原親雲上」とある。伝承によると戦争中、船浦に避難していた寄合徹氏が「加治工家・寄合家一族 (野原親雲上一族)」の古墓が船浦の崖下に存在したことを確認されたという。竹富町の除籍原本の「仲底ヨボシ」の欄に「安政五年三月二十日同間切同村　亡加治工屋眞二女入籍」とあるから安政五年 (1859) 以前に何らかの理由で「野原」姓から「加治工」姓に戸籍名が変化したことになる。「加治工」姓は鍛冶屋を家業としたことによるとも伝えられている。˞ナードー [˞naːdoː](長堂) の加治工家の畑には鍛冶屋跡の鉄屑が戦後の開墾時に発掘された。加治工津久利 (明治 15 年生) は鳩間島で最初に大工の棟梁になった人物である。建築家であったため、ブ˞ガリノー˜シ [bu˞garinoː˜ʃi](疲れ治し。疲労回復) の酒を飲みすぎ、バ˞タ˜ヤン [ba˞ta˜jaŋ](腹の病。「胃癌」か) で早世したという。彼が建築した家には、˜ウブシケー [˜ʔubuʃi̥keː](大城家)、˞ダイ˜ケー [˞dai˜keː](大工家)、パ˞ナシケー [pa˞naʃi̥keː](花城家)、˜ユージェー [˜juːʤeː](松竹家) などがある。津久利の孫、伊佐の長男加治工眞市は鳩間島出身で初めて山口大学助教授、沖縄県立芸術大学教授に就任した。次男の長秀は鳩間島出身で初めて沖縄県漁連の理事を務めた。カ˞ザケーヌ˜　ス˞ク˜レザー　˞ヤーザイ˜ク　ヤ˞ローッ˜タツォー [ka˞ʤakeːnu˜ sụ˞ku˜reʤaː ˞jaːʤai˜ku ja˞roːt˜tatsoː](加治工家の津久利お父 < 兄 > さんは大工の棟梁であられたそうだ)。

カ˞ザケーヌ˜　ク˞ニオザーテー [ka˞ʤakeːnu˜ ku˞niʤaːteː] 【連】屋号。加治工国雄氏宅。カ˞ザケーヌ˜　ク˞ニオザーテーヤ˜　ミ˞ルクンヤー˜ヌ　˞マイ˜ネー　˜ナリ　˞ブー [ka˞ʤakeːnu˜ ku˞niʤaːteːja˜ mi˞rukuŋjaː˜nu ˞mai˜neː ˜nari ˞buː](加治工國雄氏宅はミルクンヤーの前隣になっている)。

カ˞ザケーヌ˜　マツォザーテー [ka˞ʤakeːnu˜ matsoʤaːteː] 【連】屋号。加治工実氏宅。˜マツ [˜matsu](童名。「松」の義) に˞アー˜ザ [˞ʔaː˜ʤa](「兄さん」が接尾語化したもの) が下接して˜マツォーザー [˜matsoːʤaː](松兄さん。松氏) が生成された合成語。

カ˞ザ　スン [ka˞ʤa suŋ] 【連】1匂いがする。匂う。匂いが漂う。˞ヌーン˜ドゥ　カ˞ザ　スー˜ユー　カ˞ビ˜　ミリ˞ミー˜　ッ˞サー˜ワレー [˞nuːn˜du ka˞ʤa suː˜juː ka˞bi˜ miri˞miː˜ s˞saː˜wareː](何が匂っているのか、嗅(カ)いでごらん。臭いよ)。2匂いを嗅ぐ。˜ッサリル　˞ブー˜ユー　カ˞ザ　シー˜ミラ˞ナー [˜ssariru ˞buː˜juː ka˞ʤa ʃiː˜mira˞naː](腐れているのか、匂いを嗅いで見ようねえ)。˞バン˜ヌン　カ˞ザ　スン [˞ban˜nuŋ ka˞ʤa suŋ](私も匂いを嗅ぐ)。

カ˞ザダカー˜ン [ka˞ʤadakaː˜ŋ] 【形】匂いが強い。「かざ < 香 >・高さ・有り」の義。芳香、臭気の両方にわたって用いられる。ウ˞キン˜マー　イッ˞ケナ˜　カ˞ザダカー˜ン [ʔu˞kim˜maː ʔik˞kena˜ ka˞ʤadakaː˜ŋ](ウコンは非常に匂い < 芳香 > が強い)。イ˞ズ˜　バ˞ザイティ˜　アトー　イ˞ズヌ˜　カ˞ザダカーント ダー [ʔi˞ʤu˜ ba˞ʤaiti˜ ʔatoː ʔi˞ʤunu˜ ka˞ʤadakaːnt-daː](魚を捌(サバ)いた後は魚の匂いが体に染みついて匂いがきつい < 高い > よ)。˞シンダイ˜　カ˞ザダカー˜　ナリケーン [˞ʃindai˜ ka˞ʤadakaː˜narikeːŋ](次第に匂いが強くなってきた)。˜ドゥク　カ˞ザダカー˜ヌ　ヌ˞マラ˜ヌ [˜duku ka˞ʤadakaː˜nu nu˞mara˜nu](あまりにも匂いが強くて飲めない)。カ˞ザダカー˜　ムノー　˜トゥリ　シ˞ティリ [ka˞ʤadakaː˜ muno: ˜turi ʃi̥˞tiri](匂いの強いのは取って捨てなさい)。˜アイニ　カ˞ザダカー˜カー　ヤ˞ラビン˜マー　ッ˞ふァーサラヌ [˜ʔaini ka˞ʤadakaː˜kaː ja˞rabim˜maː f˞faːranu](あんなに匂いが強ければ子供には食べさせられない)。˜オンケーヌ　カ˞ザヌ˜　カ˞ザダカー˜ヌ　ミ˞チェーバー˜キ　カ˞ザ　シース [˜ʔoŋkeːnu ka˞ʤanu˜ ka˞ʤadakaː˜nu mi˞ʧeːbaː˜ki ka

˹ʥa ʃiːsu](豚舎の臭気が強くて＜高くて＞、道路まで臭い匂いがする)。

カ˹サ˺ナイ [ka˹sa˺nai] 【名】おんぶ(負んぶ)。背負うこと。動詞カ˹サ˺ナウン [kḁ˹sa˺nauŋ](背負う)の連用形から転成した名詞。ッ˹ふァ˺　カ˹サナイ˺ヤー　ミ˹ドーン˺ッふァヌ　シ˹グトゥ　ヤッタル [f˹fa˺ kḁ˹sanai˺jaː mi˹doːn˺ffanu ʃi˹gutu jattaru](子守＜子供を負んぶすること＞は女の子の仕事であったよ)。

カ˹サナイルン [kḁ˹sanairuŋ] 【他動】重ねる。「畳み薦　重編＜カサネアム＞数　夢にし見てむ。万、2295」から転訛したものか。カ˹サニルン [kḁ˹saniruŋ]、カ˹サビルン [kḁ˹sabiruŋ](重ねる)ともいう。ス˹ルイ˺ヤー　フ˹タイラナー˺　カ˹サナイルン [su˹rui˺jaː ɸu̥˹tairanaː˺ kḁ˹sanairuŋ](皿は二枚ずつ重ねる)。ク˹ヌ　カイ˺ケー　カ˹サナイララヌ [ku˹nu kai˺keː kḁ˹sanairaranu](この小皿は重ねられない)。ギュー˹サン˺　カ˹サナイル˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [gjuː˹saŋ˺ kḁ˹sanairu˺ ku̥toː na˹ra˺nu](いくらも＜何枚も＞重ねることは出来ない)。˹マー˺ビン　カ˹サナイヤー˺　ミサムヌ [˹maː˺biŋ kḁ˹sanaijaː˺ misamunu](もっと重ねればよいのに)。˹マー˺　プ˹スイ˺ラ　カ˹サナイリ [˹maː˺ pu̥˹sui˺ra kḁ˹sanairi](もう一枚重ねよ)。

カ˹サナイ˺ルン [kḁ˹sanai˺ruŋ] 【他動】負んぶする。子供を背負う。負ぶう。カ˹サ˺ナウン [kḁ˹sa˺nauŋ](負ぶう)ともいう。ッ˹ふァ˺　カ˹サナイ˺ルンティ　˹スンドゥ　グッふァ˺ヌ　カ˹サナイララ˺ヌ [f˹fa˺ kḁ˹sanai˺runti ˹sundu guffa˺nu kḁ˹sanairara˺nu](子供を負んぶしようとするが、重くて負んぶできない)。カ˹サ˺ナイ　˺ミサカー　カ˹サナイ˺ル　˺クトー　˺ナルン [kḁ˹sa˺nai ˺misakaː kḁ˹sanai˺ru ˺ku̥toː ˺naruŋ](負んぶして良ければ負んぶすることはできる)。カ˹サナイ˺レー　˺ミサムヌ [kḁ˹sanai˺reː ˺misamunu](負んぶすれば良いのに)。ヤー˹ディン˺　カ˹サナイ˺リ [jaː˹diŋ˺ kḁ˹sanai˺ri](必ず負んぶしなさい)。

カ˹サ˺ナウン [ka˹sa˺nauŋ] 【他動】背負う。おんぶする。ク˹ヌ˺　ッ˹ふァー　グッふァ˺ヌ　カ˹サナーラ˺ヌ [ku˹nu˺ f˹faː guffa˺nu ka˹sanaːra˺nu](この子は重くて背負えない。負んぶできない)。カ˹サナイ˺　プサン [kḁ˹sanai˺ pu̥saŋ](背負いたい。負んぶしたい)。カ˹サ˺ナウ　プ˹ソー　パー˺ク　カ˹サ˺ナイ [kḁ˹sa˺nau pu̥˹soː paː˺ku kḁ˹sa˺nai](背負う人は早く背負え)。˹マー˺ビン　カ˹サナイ˺ヤー　˺ミサムヌ [˹maː˺biŋ kḁ˹sanai˺jaː ˺misamunu](もっと背負えばよいのに)。ナ˹ナッ˺チェーラー　˹ウシトゥ˺ッふァ　カ˹サ˺ナウン [na˹nat˺ʧeːraː ˹ʔuʃi̥tu˺ffa kḁ˹sa˺nauŋ](七歳からは弟妹を負んぶする)。˺バー　ッ˹ふァ˺　カ˹サナー˺ヌ [˺baː f˹fa˺ kḁ˹sanaː˺nu](私は子供を負んぶしない)。カ˹サ˺ナイ　˺ミサカー　カ˹サ˺ナウ　˺クトー　˺ナルン [kḁ˹sa˺nai ˺misakaː kḁ˹sa˺nau ˺ku̥toː ˺naruŋ](負んぶして良ければ負んぶすることは出来る)。˹キュー˺ヤ　˹ワー˺　ッ˹ふァ˺　カ˹サ˺ナイ [˹kjuː˺ja ˹waː˺ f˹fa˺ kḁ˹sa˺nai](今日は、君は子供を負んぶしろ)。

カ˹サナウン [kḁ˹sanauŋ] 【他動】重ねる。カ˹サブン [kḁ˹sabuŋ](重ねる)とも言う。ク˹レー˺　カ˹サナーラヌ [ku˹reː˺ kḁ˹sanaːranu](これは重ねられない)。フ˹タイラナー˺　カ˹サナイティ˺　ムティパリ [ɸu̥˹tairanaː˺ kḁ˹sanaiti˺ mutipari](二枚ずつ重ねて持って行け)。ス˹ルイ˺ヤー　カ˹サナウンティ˺　ウムーカー　˹パー˺ク　カ˹サナイヤー˺　ミサムヌ [su˹rui˺jaː kḁ˹sanaunti˺ ʔumuːkaː ˹paː˺ku kḁ˹sanaijaː˺ misamunu](皿は、重ねよう＜重ねる＞と思ったら重ねたらよいのに)。˹パー˺ク　カ˹サナイ˺バ [˹paː˺ku kḁ˹sanai˺ba](早く重ねろよ)。

カ˹サナルン [ka˹sanaruŋ] 【自動】重なる。サ˹ニ˺ヤル　ク˹トゥ˺ヌ　カ˹サナリティ˺　ヨイ　˹スンティ　ベー [sa˹ni˺jaru ku̥˹tu˺nu kḁ˹sanariti˺ joi ˹sunti beː](嬉しいことが重なってお祝いをしようとしているところだ)。カ˹サナラヌ [kḁ˹sanaranu](重ならない)。カ˹サナリヤッ˺サン [kḁ˹sanarijas˺saŋ](重なりやすい)。˹ヨイ˺ヌ　カ˹サナルン [˹joi˺nu kḁ˹sanaruŋ](お祝いが重なる)。シ˹グトゥヌ˺　カ˹サナル˺クトー　˹ナーン˺　パジ [ʃi˹gutunu˺ kḁ˹sanaru ˺ku̥toː ˹naːm˺paʤi](仕事が重なることはないはずだ)。シ˹グトゥヌ˺　カ˹サナレー˺ラー　˹デー˺ジ˹ゲ˺ラ [ʃi˹gutunu˺ kḁ˹sanareː˺ra ˹deː˺ʤi˹ge˺ra](仕事が重なったら大変さ)。˹ソークトー　チャー˺　カ˹サナリ [˹soːku̥toː ʧaː˺ kḁ˹sanari](慶事＜良いこと＞は、常に重なれ)。

カ˹サニガサニ [kḁ˹sanigasani] 【副】重ね重ね。日常会話では、カ˹サビカサビ [kḁ˹sabikasabi](重ね重ね)ということが多い。カ˹サニガサ˺ニ　イークトゥヌ˺　ア˹ロー˺ルンティ　シ˹キティ˺　サ˹ニ˺ヤ　˹シーベー˫ダー [kḁ˹sanigasa˺ni ʔiːkutunu˺ ʔa˹roː˺runti ʃi̥˹kiti˺ sa˹ni˺ja ˹ʃiːbeː˫daː](重ね重ね慶事＜良いこと＞があられると聞いて喜んでおりますよ)。

カ˹サニルン [kḁ˹saniruŋ] 【他動】重ねる。石垣方言からの借用語か。カ˹サナイルン [ka˹sanairuŋ](重ね

る) ともいう。カ˞サニラヌ [kḁ˞saniranu](重ねない)。カ˞サニッふィーリ [kḁ˞saniffi:ri](重ねてくれ)。カ˞サニル˥　クトー　ナラヌ [kḁ˞saniru˥ ku̥to: na˞ra˥ nu](重ねることは出来ない)。カ˞サニレー˥　ミサムヌ [kḁ˞sanire:˥ misamunu](重ねればよいのに)。˞パー˥ク　カ˞サニリ [˞pa:˥ku kḁ˞saniri](早く重ねろ)。

˥カサヌール [˥kḁsanu:ru] 【名】たん (痰)。気管から吐き出される黄色い粘液性の痰。パ˞ナシキ˥　カ˞カ˞リティ　ッ˞サー˥ク　˞スー˥　ピンマー　˥ヌドーラ　˥カサヌールヌ　ン˞ジ˥ルン [pa˞naʃi̥ki˥ kḁ˞ka˥riti s˞sa:˥ku ˞su:˥ pimma: ˥nudo:ra ˥kḁsanu:runu ʔn˞ʤi˥ruŋ](風邪を引いて咳をする時は喉から黄色い痰が出る)。「かさ＜瘡＞・のり＜糊＞」の転訛したものか。パ˞ナシキ　フシゥ˥カリティ　ナー˞イ˥　ッ˞サー˥ク　˞シー˥　カサヌールバル　パク˞ツォー [pa˞naʃi̥ki ɸusi̥˥kariti na:˞i˥ s˞sa:˥ku ˞ʃi:˥ kḁsanu:rubaru pḁku˞tso:](風邪をひいてずうっと咳をして痰を吐んだよ)。

カ˞サバルン [kḁ˞sabaruŋ] 【自動】重なる。二重になる。物や事の上に同じものが乗る。体積が増える。「かさばる (嵩張る)」の義。ク˞ヌ　ウイ˥ナ　˞ワー˥　ニー˞バー˥キ　˞ヌース˥カー　カ˞サバリティ˥　ム˞ティングリ˥サ　˥ナルン [ku˞nu ʔui˥na ˞wa:˥ ni:˞ba:˥ki ˞nu:su˥ka kḁ˞sabariti˥ mu˞tiŋguri˥sa ˥naruŋ](この上に君の荷物まで乗せると嵩張って持ちにくくなる)。プ˞ス˥ケンナー　˞ユーズ˥ヌ　カ˞サバリティル˥　ン˞ジマイ˥ヌ　˞スー˥ワ˞ツォー [pu̥˞su˥kenna: ˞ju:ʤu˥nu kḁ˞sabaritiru˥ ʔn˞ʤimai˥nu ˞su:˥wa˞tso:](一度に行事が重なって出費が強いん＜大変＞だよ)。カ˞サバラン˥カー　˥ミサン [kḁ˞sabaraŋ˥ka: ˥misaŋ](重ならなかったらいいよ)。˞ウンマー　ユーズ˥ヌ　カ˞サバルンダ˥　パ˞リユーサ˥ヌ [˞ʔumma: ju:ʤu˥nu kḁ˞sabarunda˥ pa˞riju:sa˥nu](その時は行事が重なるので行けない)。カ˞サバル˥　クトー　˞ナー˥ヌ [kḁ˞sabaru˥ ku̥to: ˞na:˥nu](重なることはないよ)。˞ユーズ˥ヌ　カ˞サバレー˥ラー　パ˞ララ˥ヌ [˞ju:ʤu˥nu kḁ˞sabare:˥ra: pa˞rara˥nu](行事が重なったら行けない)。カ˞サバリ [kḁ˞sabari](重なれ)。

カ˞サビ [kḁ˞sabi] 【助数】重ねたもの。二重、三重のように重ねたものを数える単位。˞プール˥ムチェー　フ˞タカサビ　ミーカサビナー˥　フ˞バリティ　ネーシ˥バ [˞pu:ru˥mutʃe: ɸu̥˞takasabi mi:kasabina:˥ ɸu˞bariti ne:ʃi˥ba](豊年祭の餅は二枚＜二重ね＞、三枚＜三重ね＞ずつにして、縛って蒸し煮しなさいよ)。

カ˞サビヌ˥パナ [kḁ˞sabinu˥pana] 【名】˞重ねの花米」の義。重ね花米。正月や˞トー˥カキ [˞to:˥kaki](米寿の祝い。「斗掻き」) の際に、八寸重箱の五段目に、紅白の紙を重ねて鋸歯状に切ったものを重箱の内側に立てて飾り、そこに盛り米をしたもの。盛り米の上に˥クブ [˥kubu](昆布) と炭を載せる。幸福が山盛りに、溢れるほどありますようにとの願いをこめて米を盛るのだという。紅白の飾り紙も、昔は黄色、赤色、白色の順になっていたという。

カ˞サビルン [kḁ˞sabiruŋ] 【他動】重ねる。˞キン˥バ　˞ミックビナー˥　カ˞サビルン [˞kim˥ba ˞mikkubina:˥ ka˞sabiruŋ](着物を三着＜三枚＞ずつ重ねる)。ク˞レー˥　カ˞サビラヌ [ku˞re:˥ ka˞sabiranu](これは重ねない)。カ˞サビ˥プサン [kḁ˞sabi˥pu̥saŋ](重ねたい)。カ˞サビル　ムノー　ナー˥ヌ [kḁ˞sabiru muno: na:˥nu](重ねるものはない)。˞マー˥ビン　カ˞サビレー˥　ミサムヌ [˞ma:˥biŋ kḁ˞sabire:˥ misamunu](もっと重ねればよいのに)。˞パー˥ク　カ˞サビリ [˞pa:˥ku kḁ˞sabiri](早く重ねろ)。

˥ガザフケー [˥gaʤaɸu̥ke:] 【名】(動) 野鳥の名。セッカ (雪加)。ヒバリ (雲雀) に似ている。若年層は˥チンチン [˥ʧintʃiŋ](雲雀。˥チンチンと鳴くことから命名) ともいう。茅の中を潜りあるくものの義。若年層は、˥チンチン [ʧintʃiŋ](ひばり。鳴き声から命名) という。茅原やススキ野の中に棲息し、茅やススキの枯れ葉で壷状の巣をつくる。石垣方言では、˞ザガフケー [˞ʤagaɸu̥ke:](セッカ) というが、[g] と [ʤ] のメタテーゼ (metathesis)、音位転換。鳩間方言の˥ガザ [˥gaʤa] は˥ガヤー [˥gaja:](茅) に遡及される。˥フケー [˥ɸu̥ke:] は、フ˞キルン [ɸu̥˞kiruŋ](くぐる＜潜る＞。「潜、ククル」『類聚名義抄』の転訛) の連用形に接尾語ヤー [ja:](～者。～人) が下接して形成されたもので、茅の中を潜り抜けるものの義。シ˞ディ˥ミジ [ʃi˞di˥miʤi](若水。孵で水) の「昔話し」参照。˥ガザフケーヤ　ガ˞ヤーン˥ミー　フ˞ケー˥ティ　˥パリパルン [˥gaʤaɸu̥ke:ja ga˞ja:m˥mi: ɸu̥˞ke:˥ti ˥pariparuŋ](雲雀は茅の中を潜りぬけて走り去っていく)。

カ˞サフタ [kḁ˞saɸu̥ta] 【名】かさぶた (瘡蓋)。腫れ物や傷などが治るに従って、その上に生ずる皮。「Casafuta. カサフタ (痂) 疥癬とか瘡 (かさ) とかのかさぶた。」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。カ˞サフタヌ˥　ン˞ジ˥ルカー　キ˞ジェー　ノー˥ルンティ　ア˞ザリブー [kḁ˞saɸu̥tanu˥ ʔn˞ʤi˥ruka: ki˞ʤe: no:

˺runti ʔa˞ʤari buː](瘡蓋ができると傷は治ると言われている)。ア˞シ˺ブン　キ˞ジン˺　カ˞サフタヌ˺　ン˞ジ˺ルカー　˞ノー˺ル　タ˞ミ˺シ [ʔa˞ʃi˺buŋ ki˞ʤiŋ˺ ka̟˞saɸu̟tanu˺ ʔn˞ʤi˺ruka: ˞noː˺ru ta˞mi˺ʃi](出来物も切り傷もかさぶた＜瘡蓋＞が出ると治るというわけだ)。

カ˞サフタ˺　カブン [ka̟˞saɸu̟˺ta ˺kabuŋ]【連】かさぶた (瘡蓋) ができる。「かさぶた (瘡蓋) を被る」の転訛したもの。キ˞ジェー˺　カ˞サフタ˺　カビ　˞ベー˺バ　˺メー　˞ノーリ˺ス [ki˞ʤe: ka̟˞saɸu̟ta˺ kabi ˞beː˺ba ˺me: ˞noːri˺su](傷口は瘡蓋が出来ているから、もう治るよ)。

カ˞サブン [ka̟˞sabuŋ]【他動】重ねる。˞キュー˺ヤ　˞ピー˺ヤバ　˞キン˺マー　カ˞サビ˺　キ˞シ˺ヨー [˞kjuː˺ja ˞piː˺jaba ˞kim˺ma: ka̟˞sabi˺ ki̟˞ʃi˺joː](今日は寒いから着物は重ねてきなさいよ＜着れよ＞)。カ˞サバンドー˺シ　キ˞シ [ka̟˞sabandoː˺ʃi ki̟˞ʃi](重ねないで着なさい＜着れ＞)。˞キン˺バ　カ˞サブンティ˺　ウムーカー　カ˞サビ˺バ [˞kim˺ba ka̟˞sabunti˺ ʔumuːkaː ka̟˞sabi˺ba](着物を重ねよう＜重ねる＞と思うなら重ねろよ)。˞マー˺ビン　カ˞サベー˺　ミサムヌ [˞maː˺biŋ ka̟˞sabeː˺ misamunu](もっと重れねばよいのに)。

カ˞サマ˺サ　˞スン [ka̟˞sama˺sa ˞suŋ]【連】うるさく (煩く) 思う。わずらわしく (煩わしく) 思う。煩がる。˺ドゥク　ウ˞ヤー˺ルカー　カ˞サマ˺サ　シ˞ラリンダー [˺duku ʔu˞jaː˺ruka: ka̟˞sama˺sa ʃi˞rarin˺daː](あんまり大声をあげると煩がられるよ)。

カ˞サマ˺サン [ka̟˞sama˺saŋ]【形】かしましい (姦しい)。やかましい (喧しい)。騒々しい。うるさい (煩い)。「耳かましき心地『源氏物語・若菜・上』」の転訛か。カ˞サマサ˺ヌ　ヤ˞ラ˺ベー　˺カナー　ア˞サビ [ka̟˞samasa˺nu ja˞ra˺beː ˺kana: ʔa˞sabi](うるさいから子供はあちらで遊べ)。˞ナン˺ゾー　カ˞サマサー　ナー˺ヌ [˞nan˺ʤo: ka̟˞samasa: naː˺nu](それほどうるさくない)。プ˞スヌ˺　ア˞ツァ˺マルカー　カ˞サマ˺サ　ナリ˞キー˺ス [pu̟˞sunu˺ ʔa˞tsa˺maruka: ka̟˞sama˺sa nari˞kiː˺su](人が集まると、煩くなってくる)。カ˞サマ˺サー　˺クトー　カ˞サマ˺サンドゥ　ミ˞リ˺プサン　ア˞リ˺ス [ka̟˞sama˺saː ku̟to: ka̟˞sama˺sandu mi˞ri˺pu̟saŋ ʔa˞ri˺su](煩(ウルサ)いことは煩いが見たくもある)。カ˞サマ˺サカー　˞ウイパラ˺シバ [ka̟˞sama˺saka: ˞ʔuipara˺ʃiba](煩ければ追い払いなさいよ)。

ガ˞サ˺ミ [ga˞sa˺mi]【名】(動物) 蟹。海中に棲息する蟹。ノコギリガザミ。若年層はガ˞サ˺メー [ga˞sa˺meː] ともいう。ガ˞サ˺メー　˞ネーシティ˺　ア˞ガム　モー˺　ッ˞ふァーリンドゥ˺　ア˞ガマンモー˺　ッ˞ふァーラン˺ツォー [ga˞sa˺meː ˞neːʃi̟˺ti˺ ʔa˞gamu moː˺ ˞fa:rindu˺ ʔa˞gamammoː˺ ˞fa:ran˺tsoː](蟹は煮て赤くなるのは食えるが、赤くならないのは食えないそうだ)。˞カーラヌ˺　ガ˞サ˺ミ　˺トゥリ　˺キー　バ˞カシ [˞kaːranu˺ ga˞sa˺mi ˺turikiː ba˞kaʃi](川のガザミを獲ってきて炊きなさい)。鳩間島の人は、あまりガサミを食べなかった。

カ˞ザミ˺グトゥ [ka˞ʤami˺gutu]【名】秘めごと。秘密。秘事。「隠し事」の義。˞ヤーニンズ˺ヌ　˺ナカナー　カ˞ザミ˺グトー　˞ナーン˺ムル　マ˞シ [˞jaːninʤu˺nu ˺nakana: ka˞ʤami˺guto: ˞na:m˺muru ma˞ʃi](家族の中では、隠し事はないほうがいい)。

カ˞ザミフカ˺スン [ka˞ʤamiɸu̟ka˺suŋ]【他動】隠し過ぎてその所在が分からなくなる。「隠しほかす＜放下す＞」の義。大事に仕舞い込んで何処に片付けたか忘れる。˞サイクドン˺グ　カ˞ザミフカ˺シティ　˺マナール　ス˞クタユー　˞ミシキマー˺キ　˞アー˺ク˞ツォー [˞saikudoŋ˺gu ka˞ʤamiɸu̟ka˺ʃi̟˺ti˺ mana:ru su̟˞ku˺taju: ˞miʃi̟kimaː˺ki ˞ʔaː˺ku̟˞tsoː](大工道具を仕舞い込んでしまって、何処に片付けたのか分からなくなって、探しかねているんだよ)。˺ドゥク　カ˞ザ˺ムカー　カ˞ザミフカ˺スン˞ダー [˺duku ka˞ʤa˺muka: ka˞ʤamiɸu̟ka˺sun˞daː](あまり隠す＜隠しほかす＞と何処に隠したのか分からなくなるよ)。カ˞ザミフカサ˺ヌ [ka˞ʤamiɸu̟kasa˺nu](＜隠しすぎて＞隠し場所を忘れる＜隠しほかす＞ことをしない)。カ˞ザミフカ˺ス　クトー　˞ナー˺ヌ [ka˞ʤamiɸu̟ka˺su ˺ku̟to: ˞na:˺nu](隠し過ぎて隠し場所を忘れる＜隠しほかす＞ことはない)。

カ˞サミルン [ka̟˞samiruŋ]【他動】捕まえる。掴む。捕縛する。カ˞サムンとも言う。˞ヌシ˺トゥル　カ˞サミルンティ　アー˺キ　˺ドゥー　ヤ˞マ˺シ　˺シケー [˞nuʃi̟˺turu ka̟˞samirunti ʔaː˺ki ˺duː ja˞ma˺ʃi ˺ʃi̟keː](盗人を捕まえようとして＜捕まえるとしていて＞体を痛めて＜病ましておいて＞ある)。ク˞リ˺　カ˞サミルンティ　スンドゥ　フッツォーリティ˺　カ˞サミララヌ [ku˞ri˺ ka̟˞samirunti sundu ɸuttsoːriti˺ ka̟˞samiraranu](これを掴もうとするが、震えて掴まれない)。カ˞サミル˺　プ˞ソー　パー˺ク　カ˞サミレー˺　ミサムヌ [ka̟˞samiru˺ pu̟˞so: paː˺ku ka̟˞samireː˺ misamunu](掴む人は、早く掴めば良いのに)。˺クマ　カ˞サミリ [˺kuma ka̟˞samiri](ここを掴

め)。ナ˞クラー˥ヌ　カ˞サミララヌ [na˞kura:˥nu kạ˞samiraranu](怖くて捕まえられない)。カ˞サミ　ヤッ˥サン [kạ˞sami jas˥saŋ](捕まえやすい)。カ˞サミル˥　クトー　ナ˞ラ˥ヌ [kạ˞samiru˥ kụto: na˞ra˥nu](捕まえることは出来ない)。˞パー˥ク　カ˞サミリ˥バ [˞pa:˥ku kạ˞samiri˥ba](早く捕まえれよ)。

カ˞ザミ˥ルン **[ka˞ʤami˥ruŋ]** 【他動】隠す。隠匿する。仕舞う。カ˞ザミ˥ルンティ　˥ウムーカー　カ˞ザミ˥ル　˥クトー　ナ˞ル˥ヌ　˥クナーテー　カ˞ザミララ˥ヌ [ka˞ʤami˥runti ˥ʔumu:ka: ka˞ʤami˥ru ˥kụto: na˞ru˥nu ˥kuna:te: ka˞ʤamirara˥nu](隠そうと思えば隠すことは出来るが、ここでは隠されない)。カ˞ザ˥ミ˥ミサカー　˞パー˥ク　カ˞ザミ˥レー　˥ミサムヌ [ka˞ʤa˥mi ˥misaka: ˞pa:˥ku ka˞ʤami˥re: ˥misamunu](隠してよければ早く隠せばいいのに)。˥ムヌ　カ˞ザミ˥ルンティ　˞スンドゥ˥　カ˞ザミララ˥ヌ [˥munu ka˞ʤami˥runti ˞sundu˥ ka˞ʤamirara˥nu](物を隠そうとするが、隠されない)。カ˞ザミラン˥ドーシ　ムー˞ル˥　ン˞ザ˥シ [ka˞ʤamiran˥do:ʃi mu:˞ru˥ ʔn˞ʤa˥ʃi](隠さないで全部出せ)。カ˞ザ˥ミ　˥ミサカー　カ˞ザミ˥ル　˥クトー　˥ナルン [ka˞ʤa˥mi ˥misaka: ka˞ʤami ˥ru ˥kụto: ˥naruŋ](隠して良ければ隠すことは出来る)。˥クナー　カ˞ザミ˥リ [˥kuna: ka˞ʤami˥ri](ここに隠せよ)。

カ˞サムン **[kạ˞samuŋ]** 【他動】 1掴む。手で強く握る。ク˞リ˥　カ˞サムンティ　スンドゥ˥　カ˞サマラヌ [ku˞ri˥ kạ˞samunti sundu˥ kạ˞samaranu](これを掴もうとするが掴まれない)。˥クマ　カ˞サミ˥ミサカー　カ˞サム˥　クトー　˥ナルン [˥kuma kạ˞sami˥ misaka: kạ˞samu˥ kụto: ˥naruŋ](ここを掴んで良ければ掴むことはできる)。ギッ˞ティ˥　カ˞サメー˥　ミサムヌ [git˞ti˥ kạ˞same:˥ misamunu](ぎゅっと掴めば良いのに)。カ˞サミ˥バ [kạ˞sami˥ba](掴めよ)。触れる。ク˞レー˥　イ˞ツァー˥ヌ　カ˞サマラヌ [ku˞re:˥ ʔi˞tsa:˥nu kạ˞samaranu](これは熱くて掴まれない)。˞ワー˥　カ˞サムンティ˥　ウムーカー　カ˞サミ˥　ミサン [˞wa:˥ kạ˞samunti˥ ʔumu:ka: kạ˞sami˥misaŋ](君が掴みたいと思うのなら掴んでもいい)。ク˞リ˥　カ˞サム˥　プ˞ソー　パー˥ク　カ˞サミ [ku˞ri˥ kạ˞samu˥ pụ˞so: pa:˥ku kạ˞sami](これを掴む人は早くつかめ)。ギッ˞ティ˥　カ˞サメー˥　ミサムヌ [git˞ti˥ kạ˞same:˥ misamunu](ギュット掴めばよいのに)。2捕まえる。捕縛する。˞ヌシ˥トゥル　カ˞サムン [˞nuʃi̥˥turu kạ˞samuŋ](泥棒を捕まえる)。˞ヌシ˥トゥル　カ˞サムン [˞nuʃi̥˥turu kạ˞samuŋ](泥棒を捕まえる＜捕縛する＞)。3手に入れる。ウ˞レー˥　ミ˞ドゥ˥ム　カ˞サミ　ベー [ʔu˞re:˥ mi˞du˥mu kạ˞sami be:](彼は女を掴んで＜恋人を手に入れて＞いる)。

カ˞サムン **[kạ˞samuŋ]** 【自動】かさむ (嵩む)。物の数量が増える。標準語からの借用語か。˞ユーズピーズ˥ヌ　˞ゴー˥ラーカー　シゥ˞カイバー˥ヌ　カ˞サムンダ˥　ン˞ザシ˥マイ　ア˞ギラン˥カー　ナ˞ラ˥ヌ [˞ju:ʤupi:ʤu˥nu ˞go:˥ra:ka: si̥˞kaiba:˥nu kạ˞samnda˥ ʔn˞ʤaʃi˥mai ʔa˞giraŋ˥ka: na˞ra˥nu](部落の神行事が多かったら入費＜使い分＞も嵩(カサ)むので、各家庭の分担金＜出だし前＞を値上げしないとできない＜ならない＞)。ン˞ザシマイ˥ヤー　˥アイヤー　カ˞サマヌ [ʔn˞ʤaʃimai˥ja:˥ʔaija: ka˞samanu](出費＜出し分、出費＞はそんなには嵩まない)。カ˞サミヤッ˥サン [ka˞sami jas˥saŋ](嵩みやすい)。カ˞サム˥クトー　˞ヌンガーラ˥ヌ [kạ˞samu˥kụto: ˞nuŋga:ra˥nu](＜出費が＞嵩むことは逃れられない)。˞マー˥ビン　カ˞サメー˥ラ　˞デー˥ジ [˞ma:˥biŋ kạ˞same:˥ra ˞de:˥ʤi](もっと費用が嵩むと大変だ)。

カ˞サムン **[kạ˞samuŋ]** 【他動】捕まえる。つかむ (掴む)。

カ˞ザ˥ムン **[ka˞ʤa˥muŋ]** 【他動】 1隠す。˥ジン　カ˞ザ˥ムンティ　ウ˞ムーン˥ドゥ　カ˞ザ˥ムトンヌ　˞ナー˥ヌ [˥ʤiŋ ka˞ʤa˥munti ʔu˞mu:n˥du ka˞ʤa˥mu ˥tonnu ˞na:˥nu](お金を隠そうと思うが、隠す所がない)。カ˞ザ˥ミ　˥ミサン [ka˞ʤa˥mi ˥misaŋ](隠してもよい)。ウ˞ヌ˥　クトー　˞ドゥー˥ヌ　バ˞タ˥ウチナー　カ˞ザ˥ミ　シ˞キ˥リ [ʔu˞nu˥ kụto: ˞du:˥nu ba˞ta˥utʃina: ka˞ʤa˥mi ʃi˞ki˥ri](そのことは自分の腹の中に隠しておけ)。˞パー˥ク　カ˞ザ˥メー　˥ミサムヌ [˞pa:˥ku ka˞ʤa˥me: ˥misamunu](早く隠せばいいのに)。˥クナー　カ˞ザ˥ミ [˥kuna: ka˞ʤa˥mi](ここに隠せ)。˞ジン˥マー　カ˞ザ˥ミ　シ˞キ˥リ [˞ʤim˥ma: ka˞ʤa˥mi ʃi̥˞ki˥ri](お金は隠しておけ)。˥クナーテー　˞ジン˥マー　カ˞ザマラ˥ヌ [˥kuna:te: ˞ʤim˥ma: ka˞ʤamara˥nu](ここではお金は隠されない)。ウ˞ヌ˥　クトー　˞ドゥー˥ヌ　バ˞タ˥ウチナー　カ˞ザ˥ムンティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　カ˞ザマン˥ドーシ　パ˞ナ˥スン [ʔu˞nu˥ kụto: ˞du:˥nu ba˞ta˥ʔutʃina: ka˞ʤa˥munti ʔu˞mu:tan˥du ka˞ʤamn˥doʃi pa˞na˥suŋ](その事は自分の胸中＜腹の内＞に隠そうと思ったが、隠さないで話す)。バ˞タ˥ウチナー　カ˞ザ˥ミ　˥ミサカー　カ˞ザ˥ム　˥クトー　˥ナルン [ba˞ta˥ʔutʃina: ka˞ʤa˥mi ˥misaka: ka˞ʤa˥mu ˥kụto: ˥naruŋ](胸中に

隠して良ければ、隠すことは出来る)。˞マー˜ビン　カ˞ザ˜ミバ [˞maː˜biŋ ka˞ʤa˜miba](もっと隠しなさいよ)。2埋葬する。墓室に棺を納める。イ˞クサ˜ユーナ　˞マーラシタ˜　プ˞ソー˜　マナール　カ˞ザ˜ミ　ス˞コー˜レーワ [ʔi˞kusa˜juːna ˞maːraʃi̥ta˜ pu̥˞soː˜ manaːru ka˞ʤa˜mi su̥˞koː˜reːwa](戦争中に亡くなった人は何処に埋葬しておいてあられますか)。

ガ˞サ˜メー [ga˞sa˜meː] 【名】(動) ノコギリガザミ。西表島の川のマングローブ (ヒルギ) 林の中に棲息するガザミ類の中の最も大きな蟹。食すると美味しい。珊瑚礁の下に生息するガ˞サ˜メー [ga˞sa˜meː](ガザミ蟹) より美味しい。˞マーレーガーラトゥ˜　ニ˞シダミナトゥヌ˜　ガ˞サ˜メー　イッ˞ケナ˜　ン˞マー˜タンツォー [˞maːreːgːaratu˜ ni˞ʃidaminatunu˜ ga˞sa˜meː ʔik˞kena˜ ʔm˞maː˜tantsoː](マーレー川とニシダ湊のガザミは非常に美味しかったそうだ)。

ガ˞サラガサラ [ga˞saragasara] 【副】擬音語。がさがさ。乾いたものが触れ合う音を表す語。ウ˞ヤザ˜ヌ　ガ˞サラガサラ˜シ　ッ˞ふァイグルバ˜　ア˞サ˜リ　ブ˞リン˜ギサバン [ʔu˞jaʤa˜nu ga˞saragasara˜ʃi f˞faiguruba˜ ʔa˞sa˜ri bu˞riŋ˜gisabaŋ](ネズミがガサガサと残飯 < 食い残り。食べ滓 > を漁っているようだわい)。

カ˞ザリ [ka˞ʤari] 【名】飾り。装飾品。˜ソンガチェー　˞ザートゥク˜ヌ　カ˞ザリン˜　シ˞ダーシ˜　シ˞キ˜リバ [˜soŋgatʃeː ˞ʤaːtu̥ku˜nu ka˞ʤariŋ˜ ʃi˞daːʃi˜ ʃi̥˞ki˜riba](正月には床の間の飾りも綺麗に整えて < 仕出して > おきなさいよ)。

カ˞ザリカビ [ka˞ʤarikabi] 【名】飾り紙。ア˞ガカビ [ʔa˞gakabi](赤紙) ともいう。正月や祝いの際に、赤、黄、白の紙を少しずつずらして重ね、その上に鏡餅や重箱を載せて飾る装飾用の紙。カ˞ザリカビヌ　ウイ˜ナ　ム˞チ˜　シ˞キルン [ka˞ʤarikabinu ʔui˜na mu˞ʧi˜ ʃi̥˞kiruŋ](飾り紙の上に餅を置いて供える)。

カ˞ザリクビン [ka˞ʤarikubiŋ] 【名】神事の際に神酒を入れて供えるのに使う錫製の大きな酒器 < 瓶子 >。「飾り瓶子」の義。かんびん (燗瓶) の形をした、高さ約 20 センチの徳利形の瓶。白磁製の瓶もある。赤絵のカザリクビンは正月や祝儀の際に紅白の飾り蓋 < 栓 > を挿し、重箱にパ˞ナン˜グミ [pa˞naŋ˜gumi](花米) を盛って床の間の神前に供えた。白磁のカザリクビンにも紅白の紙を折って波形に重ねた˜ザウ [˜ʤau](飾り蓋の栓) を挿した。˜ソンガチナーヤ　カ˞ザリクビン˜ナー　˜グシェー　イ˞リティ˜　ア˞ガカビトゥ˜　ッ˞ス˜カビシ　˞ザウ˜バ　ス˞ク˜リ　ッ˞ソーッ˜タ˞ダー [˜soŋgatʃinaːja ka˞ʤarikubin˜naː ˜guʃeː ʔi˞riti˜ ʔa˞gakabitu˜ s˞su˜kabiʃi ˞ʤau˜ba su̥˞ku˜ri s˞soːt˜ta˞daː](正月には飾り瓶子に酒 < 神酒 > を入れて赤紙と白紙で装飾用の栓 < 飾り蓋 > を作って挿されたものだよ)。

カ˞ザリコーシ [ka˞ʤariko:ʃi] 【名】お盆や法事などで仏壇に供えて飾る菓子。落雁の一種。米粉に砂糖を入れて菊花や鯛の型等に押し込んで作った菓子。˞ソー˜ランナー　カ˞ザリコーシン˜　マ˞ツォー˜タン [˞soː˜ranna: ka˞ʤariko:ʃim˜ ma˞tsoːt˜taŋ](お盆には落雁 < 飾り菓子 > も供えられた)。

カ˞ザリザウ [ka˞ʤariʤau] 【名】慶事、神事、仏事で神仏に供える神酒をいれた飾り瓶子に挿す紙製の蓋 (栓)。飾り蓋 (栓)。慶事には紅白の飾り蓋 (栓)。神事、仏事には白紙の飾り蓋 (栓) を用いた。カ˞ザリクビン˜ナー　カ˞ザリザウ˜　ッシティ　マ˞チ˜バ [ka˞ʤarikubin˜naː ka˞ʤariʤau˜ ʃʃiti ma˞ʧi˜ba](飾り瓶子に飾り蓋を挿して供え < 祀り > なさいよ)。

カ˞ザリフチ [ka˞ʤarifuʧi] 【名】のりと (祝詞)。「飾り口」の義。唱え。祈願用の一定の文句。呪文。フ˞チカザル [ɸu̥˞ʧikaʤaru](唱えごと。祝詞) と同じ。˞ニンガイグトゥ˜ヌ　カ˞ザリフチェー˜　ウ˞キ˜トゥリ　シ˞キ˜リ [˞niŋgaigutu˜nu ka˞ʤariɸu̥ʧeː˜ ʔu˞ki˜turi ʃi̥˞ki˜ri](祈願行事の祝詞 < 飾り口、唱え > は伝授して < 受取って > おきなさい)。

カ˞ザリムチ [ka˞ʤarimuʧi] 【名】鏡餅。正月の飾り餅。˜サンボー [˜sambo:](三方) に黄、赤、白の色紙を少しずつずらして敷き、その上に三段重ねの鏡餅を乗せ、餅の上にだいだい (橙) を乗せて供える供物。シゥ˞カラシキ˜ムチ [si̥˞karaʃi̥ki˜muʧi](力餅) ともいう。

カ˞ザリムヌ [ka˞ʤarimunu] 【名】供物。飾り物。神仏への供物で長時間供え、飾っておくもの。˜ソンガチヌ　カ˞ザリムヌヌ˜　ム˞チェー˜　サギティ　ム˞チミー˜ス　˜シキバ [˜soŋgatʃinu ka˞ʤarimununu˜ mu˞ʧeː˜ sagiti mu˞ʧimiː˜su ˜ʃi̥kiba](正月の飾り物の餅を下げて餅味噌を作りなさいよ)。˞ソーラン˜ヌ　カ˞ザリムノー˜　ム˞ルムルトゥ　シンザ˜ル　˜ムトゥ [˞soːran˜nu ka˞ʤarimunoː˜ mu˞rumurutu ˞ʃinʤa˜ru ˜mutu](お盆の供え物 < 飾り物 > はムルムルと砂糖きびが中心 < 基 > である)。

ガ˞ザ˜リン [ga˞ʤa˜riŋ] 【連】掻かれる。引掻かれる。˜ガズン [˜gaʤuŋ](掻く。引掻く) の未然形に受身、可能の助動詞˜リン [˜riŋ](れる) が付いて形成された派生動詞 (受身動詞、可能動詞)。ア˞ダン˜パー　˜キス

ンティ　˞ベー˥ティ　ア˞ダンパー˥ヌ　ン˞ギ˥ナ　ガ˞ザ˥リティ　˥ヤミ　ナ˞ラ˥ヌ [ʔa˞dam˥paː ˥kʲsunti ˞beː˥ti ʔa˞dampaː˥nu ʔŋ˞gi˥na ga˞ʤa˥riti ˥jami na˞ra˥nu](アダン葉を切ろうとしていて、アダン葉のとげ＜刺＞に引掻かれて、痛くて堪らない)。˥マヤン　ガ˞ザ˥リン [˥majaŋ ga˞ʤa˥riŋ](猫に引っ掻くかれる)。

カ˞ザルン **[ka˞ʤaruŋ]**【他動】飾る。神仏の供物として供える。˞ソーラン˥ヌ　カ˞ザリムノー˥　シ˞キ˥　カ˞ザレー˥ン [˞soːran˥nu ka˞ʤarimunoː˥ ʃʲ˞ki˥ ka˞ʤareː˥ŋ](お盆の飾り物＜供え物＞は、もう仏壇に供えてかざったよ)。˞シン˥ザー　˥バー　カ˞ザルン [˞ʃin ˥ʤa: ˥ba: ka˞ʤaruŋ](砂糖きびは私が供える)。マ˞ナ˥マー　カ˞ザラヌ [ma˞na˥ma: ka˞ʤaranu](今は飾らない。供えない)。カ˞ザリ˥　シキ [ka˞ʤari˥ʃʲki](飾っておけ。供えておけ)。カ˞ザル˥　クトー　˥ドゥーシン　˥ナルン [ka˞ʤaru˥ kʲto: ˥duːʃin ˥naruŋ](供えることは自分でも出来る)。カ˞ザレー˥　ミサムヌ [ka˞ʤareː˥ misamunu](供えればよいのに)。˞パー˥ク　カ˞ザリ [˞paː˥ku ka˞ʤari](早く供えろ)。

カ˞ザルン **[ka˞ʤaruŋ]**【他動】呪文を唱える。祈願の文句を口誦する。「呪文唱えること」を、フ˞チカザル [ɸutʃikaʤaru](となえごと) という。カ˞ラティーバ˥　ウ˞サーシティ˥　カ˞ザリ˥シケータ [ka˞rati:ba˥ ʔu˞saːʃʲti˥ ka˞ʤari˥ʃʲkeːta](何も供えないで、ただ手を合わせて呪文を唱えておいた)。ウ˞ヤプス˥ヌマイン　カ˞ザルンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　カ˞ザランドー˥シ　ティー˞カーニ˥　ウ˞サーシ　ベー [ʔu˞japʲsu ˥numaiŋ ka˞ʤarunti˥ ʔu˞muːn˥du ka˞ʤarandoː˥ʃi tiː˞ kaːni˥ ʔu˞saːʃi beː](先祖の霊前に祈願の呪文を唱えよう思うが、唱えないで合掌だけしている)。

˥ガザン **[˥gaʤaŋ]**【名】(動) 蚊。˥ガザン　ッ˞ふァーリティ˥　˞ビーヨー˥ヌ　ナ˞ラ˥ヌ [˥gaʤan ˞ffaːriti biːjoː˥nu na˞ra˥nu](蚊に噛まれて痒くてたまらない)。ミ˞ジクム˥ルナー　ミ˞ジヌッふァ˥ヌ　˥シディ　˞ベー˥ンドゥ　ウ˞リル˥　ガザン　˥ナルティバン˞ナー [mi˞ʤikumu˥runaː mi˞ʤinuffa˥nu ˥ʃidi ˞beː˥ndu ʔu˞riru˥ gaʤan narutiban˞naː](水溜りにボウフラが湧いているが、それが蚊になるんだってねえ)。カ˞ツァ˥　ピ˞カン˥カー　˥ガザン　ッ˞ふァーリン˥ダー [kʲ˞tsa˥ pʲ˞kaŋ˥kaː ˥gaʤaŋ ˞ffaːrin˥daː](蚊帳を吊らないと蚊に食われるぞ)。

カ˞ザンガマイ **[ka˞ʤaŋgamai]**【名】暴風対策。暴風を防ぐための備え。「風構え」の義。家の倒壊を防ぐために日ごろから家屋の四隅の柱に角材で支柱を立てたり、茅葺の屋根にはシ˞ダ˥ル [ʃi˞da˥ru](竹簾) や棕櫚縄の網をかけたりした。暴風の日には雨戸が吹き飛ばされないよう外側と内側から竹竿で挟んで縛りつけた。˞ユーカドゥヌ˥　パラーナー　シゥ˞カンギバ˥　シゥ˞カイティ˥　カ˞ザンガマイ　ソーッ˥タ [˞juːkadunu˥ paraːna: sʲ˞kaŋgiba˥ sʲ˞kaiti˥ ka˞ʤaŋgamai soːt˥ta](家の四隅の柱に支柱＜つかえばしら＞を構えて暴風対策＜風構え＞をされた)。

ガ˞ザン˥ヌ　ナ˞クン˥カタチニ **[ga˞ʤan˥nu na˞kuŋ˥ kʲatatʃini]**【連】蚊の泣くように。声が小さくて聞き取りにくいさま。˞ワー˥　ムネー　ガ˞ザン˥ヌ　ナ˞クン˥カタチニ　˞ピッ˥チン　シゥ˞カラヌ [˞waː˥ muneː ga˞ʤan˥nu na˞kuŋ˥ kʲatatʃini ˞pit˥tʃin sʲ˞karanu](君の話し言葉＜もの言い＞は蚊が泣くように小さくて一つも聞き取れない)。

カ˞サン˥パー **[kʲ˞sam˥paː]**【名】木の葉のおおきなもの。「カサ」は、「柏、加之波 (かしは)」『和名抄』の転訛したもので、「木の葉」の意。ム˞チェー˥　カ˞サン˥パーナ　ッ˞ス˥ミティ　˞ネーソーッ˥タ [mu˞tʃeː˥ kʲ˞sam˥paːna s˞su˥miti ˞neːsoːt˥ta](餅は芭蕉＜柏＞の葉に包んで煮られた)。食物を盛ったり包んだりするのに用いる植物の葉。カ˞サン˥パームチ [kʲ˞sam˥paːmutʃi](木の葉で包んで蒸し上げた餅)。バ˞サン˥パームチ [ba˞sam˥paːmutʃi](芭蕉の葉で包んで蒸し上げた餅)、サ˞ミンパームチ [sa˞mimpaːmutʃi](ゲットウ＜月桃＞の葉で包んで蒸し上げた餅) などがある。˞プールナー˥ヤ　バ˞サン˥パームチバ　ス˞ク˥ルンティ　バ˞サン˥パー　˥キシン　˞ウイバロー　パッ˥タン [˞puːrunaː˥ja ba˞sam˥paːmutʃi sʲ˞ku˥runti ba˞sam˥paː kʲʃiŋ ˞ʔuibaroː pat˥taŋ](豊年祭の時には芭蕉の葉餅を作るとて芭蕉の葉を切りに西表島の上原へ行った)。

カ˞サン˥パーイズ **[kʲ˞sam˥paːʔiʤu]**【名】(動) 魚の名。和名 (ハナグロチョウチョウウオ。ヤリカタギ、シチセンチョウチョウウオ、カガミチョウチョウウオ、ミカドチョウチョウウオ) などの総称。「木の葉魚」の義。体長は 13〜15 センチのものが多い。これらの魚は、海中では美しいが、食用としては漁獲されなかった。カ˞サン˥パーイゾー　ア˞ヤ˥ヌ　˥アンダ　˞カイ˥ヤンドゥ　ウ˞リ˥　トゥリッ˞ふー˥　プ˞ソー˥　ブ˞ラーンシェン [kʲ˞sam˥paː ˥ʔiʤo: ʔa˞ja˥nu ˥ʔanda ˞kai˥jandu ʔu˞ri˥ turi ˞ffuː˥ pʲ˞soː˥ bu˞raːŋʃeŋ](木の葉魚＜ハナグロチョウチョウウオの仲間＞は縞模様があるから美しいが、それ

を漁獲して食う人はいなかった)。

カ˞サンˬパーウキ [kạ˞samˬpa:ʔuki] 【名】たご < 担桶 > に水を入れて運ぶ際、水がこぼれないよう、芭蕉の葉、クワズイモの葉、ススキや桑の葉などを担桶の水に浮けるもの。ウ˞キは「浮け」の義。˞カーˬラ　ミ˞ジˬ　カ˞タˬミクー　ˬピンマー　˞タンˬグナー　カ˞サンˬパーウキ　イ˞リティˬ　カ˞タムˬタ [˞ka:ra mi˞ʤiˬ kạ˞taˬmiku: ˬpimma: ˞taŋˬguna: kạ˞samˬpa:ʔuki ʔi˞ritiˬ kạ˞tamuˬta](井戸から水を担いで運んでくるときは、水を零(コボ)さぬように、植物の葉をたご < 担桶 > の水に浮けて運んだ)。

カ˞サンˬパーフタ [kạ˞samˬpa:ɸụta] 【名】植物の葉を用いた容器の蓋。甕や壷の応急用の蓋として用いた。˞ミーˬスカミヌ　フ˞ターˬ　カ˞サンˬパーフタ　˞シーˬシケーバ　˞キーフタˬトゥ　˞カイリ [˞miːˬ sụkaminu ɸụ˞taːˬ kạ˞samˬpa:ɸụta ˞ʃiːˬʃị̈ke:ba ˞ki:ɸụta ˬtu ˞kairi](味噌甕の蓋は植物の葉で応急用にしてあるから木蓋と取替えなさい)。カ˞サンˬパーフター　˞イットゥキˬヌ　˞パンシˬティル　˞シーˬ　シケール [kạ˞samˬpa:ɸụta: ˞ʔittukiˬnu ˞paŋʃiˬtiru ˞ʃiːˬ ʃị̈ke:ru](植物の葉の蓋は一時凌ぎの代用品として使用してあるのだ)。

カ˞サンˬパームチ [kạ˞samˬpa:mutʃi] 【名】植物の葉で包んで蒸し上げた餅。˞ウンヌˬムチ [˞ʔunnuˬ mutʃi](芋の餅。サツマイモを摩り下ろして汁を搾り、絞り粕を握って植物の葉で包み蒸しあげて作った餅) はˬユナキー [ˬjunaki:](オオハマボウ。ゆうな) の葉で包んだ。˞プールˬムチェー　ムー˞ルˬ　バ˞サンˬパームチ　˞ヤッタ [˞pu:ruˬmutʃe: mu:˞ruˬ ba ˞samˬpa:mutʃi ˞jatta](豊年祭の餅はみんな植物 (芭蕉) の葉で包んだ餅 < 柏餅 > であった)。カ˞サンˬパームチ　ッ˞ふァイˬ　プサワ˞ナー [kạ˞samˬpa:mutʃi f˞faiˬ pụsawa˞na:](柏餅を食べたいなあ)。

ˬカシ [ˬkaʃi] 【名】かせ。経糸。かせ (綛) 糸。紡いだ糸を工の字型の枠に巻き取った経糸。「〜績麻繫云　鹿脊之山 < うみを < 麻 >　か < 繫 > くとふ　かせの山〜。万、1056」の転訛か。ˬカシェー　ス˞コーレーˬチバ　ヌ˞キˬサーギ　ス˞コールˬカー　パ˞トゥˬムノー　タ˞ティラˬリン [ˬkạʃe: sụ˞ko:reːˬtʃiba nu˞ki ˬsa:gi sụ˞ko:ruˬka: pạ˞tuˬmuno: tạ˞tiraˬriŋ](経糸は用意出来たから横糸さえ用意できたら織機は立てられる < 機織できる >)。

ˬカシ [ˬkạʃi] 【名】味噌を作る際の麹の主原料となるもの。機織の主材料 (経糸) の意から比喩的に表現したもの。補助材料の大豆や麦をヌ˞キ [nu˞ki](横糸) という。˞マイバˬ　カシ　˞シーˬ　マ˞ミˬトゥ　˞ムンˬバ　ヌ˞キˬ　シ˞ティル　ミーˬス　ス˞クˬローッタ [˞maibaˬ kaʃi ˞ʃiːˬ ma˞miˬtu ˞mumˬba nu˞kiˬ ʃị̈˞tiru miːˬsu sụ˞kuˬro:tta](米を主原料 < 経糸、カシ > とし、大豆と麦を補助材料 < 横糸、ヌキ > として味噌を作られた)。

ˬカシ [ˬkạʃi] 【名】1かす (粕)。酒の粕。残り滓。屑。劣等なもの。˞ウンヌˬカシ [˞ʔunnuˬkạʃi](芋の澱粉を絞った残り滓)。˞ウンヌˬカシ　カ˞タˬティーシ　ス˞ブˬリティ　ˬティダナー　ˬプシティ　タ˞ブイˬ　シ˞キˬリ [˞ʔunnuˬkạʃi kạ˞taˬti:ʃi su˞buˬriti ˬtidana: ˬpụʃiti ta˞buiˬ ʃị̈˞kiˬri](芋の滓を片手で絞って太陽に干して保存しなさい < 保存食にしなさい >)。ウ˞レー　ニンギンˬヌ　ˬカシ [ʔu˞reːˬ ˞niŋginˬnu ˬkạʃi](そいつは人間の滓だ < 最低の人間だ >)。2す (鬆)。大根などの心に細い孔が生じるもの。糟。˞ダイˬクニナ　カ˞シˬヌ　˞ペーˬリティ　ッ˞ふァーラヌ [˞daiˬ kunina kạ˞ʃiˬnu ˞peːˬriti f˞fa:ranu](大根にす < 鬆 > が入って食べられない)。

カ˞ジ [ka˞ʤi] 【名】風。風の総称。「於伎蘇之可是爾 < おきその風に >『万葉集　799』」の転訛。˞パイˬカジ [˞paiˬkaʤi](南風)。ニ˞シカジ [ni˞ʃikaʤi](北風)。ピ˞ラキˬカジ [pi˞rakiˬkaʤi](涼風)。カ˞ジヌスーン [ka˞ʤinu su:ŋ](風が吹く < そよぐ >)。カ˞ジヌ　スーˬルン [ka˞ʤinu suːˬruŋ](風が強くなる)。カ˞ジェー　ヌーリナーˬヌ [ka˞ʤe: nu:rinaːˬnu](風は上って < 北風になって > しまった。「時化るぞ」の意)。カ˞ゼーˬ　ウレーン [ka˞ʤeːˬ ʔureːŋ](風は下りた < 南風になった。いい天気になるよ > の意)。カ˞ジフキ [ka˞ʤiɸụki](風吹き < 台風。時化。荒天 > になること)。

ˬカジ [ˬkaʤi] 【名】数。ˬカジ　˞アーˬスン [ˬkaʤi ˞ʔa:ˬsuŋ](数を合わせる)。カ˞ジˬヌ　タ˞ラーヌ [ka˞dʤiˬ nu ta˞ra:nu](数が足りない)。ˬカジェー　タ˞ライヤン [ˬkaʤe: ta˞raijaŋ](数は足りた)。プ˞スヌˬ　ス˞ブルˬカジシル　シ˞グトーˬ　シ˞ラリˬダー [pụ˞sunuˬ su˞buruˬkaʤiʃiru ʃi˞guto:ˬ ʃi˞rariˬda:](人の頭数で < 人数でこそ > 仕事は成し遂げられるものだよ)。

カ˞ジ [ka˞ʤi] 【名】かじ (舵、梶、楫)。船尾に付けて船の方向を定める、b の字型の船具。カ˞ジヌˬ　ス˞ブˬルナー　˞テーˬナイ　ヌ˞キティルˬ　フ˞ニˬヌ　カ˞ジェーˬ　トゥ˞ルˬタ [ka˞ʤinuˬ su˞buˬruna: ˞teːˬnai nu˞kitiruˬ ɸu˞niˬnu ka˞ʤeːˬ tu˞ruˬta](舵 < 梶 > の頭部に梶棒を貫き挿して操舵 < 舵取りを > したものだ)。

カ˞ジ [ka˞ʤi] 【名】首筋。うなじ。えり首。「項、頸後也、宇奈自＜ウナジ＞『新撰字鏡』」の義。ヌ˞ビ˜カジ [nu˞bi˜kaʤi](首筋)。カ˞ジェー　コー˜リテイ　˜ヤミ　ナ˞ラ˜ヌ [ka˞ʤe: ko:˜riti ˜jami na˞ra˜nu](首筋が凝って痛くて仕方がない＜堪らない＞)。

˜カジ [˜kaʤi] 【名】す (鬆)。大根や人参のしん (心) に細い孔が生じること。すが立つこと。筋が入ること。ク˞ヌ　ダイ˜クネー　カ˞ジ　コー˜リティ　ッ˞ふァーラヌ [ku˞nu dai˜kune: ka˞ʤi ko:˜riti f˞fa:ranu](この大根は、すが立って硬くなって食べられない)。

ガ˞シ [ga˞ʃi] 【名】飢饉。凶年。˞餓死」の義。ガ˞シドゥシ [ga˞ʃiduʃi](凶年)。˞ピーカジ˜ヌ　˞ギュームシン˜　フキティル　ム˞ヌスク˜ルン　ナ˞ラン˜タ　˞ベー˜ティ　ウ˞スマ˜サ　ガ˞シバ　シー˜　ム˞ラドーリ　シェー˜　トンヌン　˞アッ˜タンツォー [˞pi:kaʤi ˜nu ˞gju:muʃiŋ˜ ɸu̥kitiru mu˞nusu̥ku˜run na˞ran˜ta ˞be:˜ti ʔu˞suma˜sa ga˞ʃiba ʃi:˜ mu˞rado:ri ʃe:˜ tonnuŋ ˞ʔat˜tantso:](雨の降らない台風＜火台風＞が何度も吹いて、農作物の植え付け栽培も出来なかったので、恐ろしい飢饉がして廃村になった＜村倒れした＞所もあったそうだ)。

˜カシー [˜kḁʃi:] 【名】加勢。応援。助力。助勢。˞ティー˜ヌ　˜カシー [˞ti:˜nu ˜kḁʃi:](手の加勢。労力や金銭による応援。主として労働の応援)。キ˞ム˜ヌ　˜カシー [ki˞mu˜nu ˜kḁʃi:](心の加勢。精神的な応援。相手に同情して、共に悩み、共に喜んでやること)。˞バン˜ター　˞ピンソー˜ムノー　キ˞ム˜ヌ　˜カシー　˞タンガ˜ル　˜ナル [˞ban˜ta: ˞pinso:˜muno: ki ˞mu˜nu ˜kḁʃi: ˞taŋga˜ru ˜naru](私ら貧乏者は心の加勢＜精神的な応援＞しか出来ません＜心の加勢だけが出来る＞)。

カ˞シーカシ [kḁ˞ʃi:kaʃi] 【副】しっかりと。十分に。きちんと。ちゃんと。強調表現。シ˞グトー˜　カ˞シーカシ　シーバル˜　ティマン　トゥ˞ラ˜リ˞ダー [ʃi˞guto:˜ kḁ˞ʃi:kaʃi ʃi:baru˜ timan tu˞ra˜ri˞da:](仕事はきちんとやってはじめて＜きちんとすればぞ＞労賃＜手間賃＞も貰える＜取られる＞のだぞ)。カ˞シーカシ˜　ムネー　イ˞ジ [kḁ˞ʃi:kaʃi˜ mune: ʔi˞ʤi](しっかりと＜きちんと＞言葉を話しなさい)。カ˞シーカシ˜　ウ˞ヤ˜ヌ　˞テー˜ナイ　˞シー˜バ [kḁ˞ʃi:kaʃi˜ ʔu˞ja˜nu ˞te:˜nai ˞ʃi:˜ba](しっかりと＜ちゃんと＞親の手伝いをしなさい)。

˜カシー　˞シープス [˜kḁʃi: ˞ʃi:pu̥su] 【連】加勢する人。手伝い人。˜カシー　˞シープソー˜　ギュ˞ター　ル　ブーワ [˜kḁʃi: ˞ʃi:pu̥so:˜ gju˞ta:ru bu:wa](加勢する人＜手伝い人＞は何人いるか)。

カ˞ジアタル [ka˞ʤiʔataru] 【名】風当たり。˜クマー　カ˞ジバナ˜　ヤ˞ルンダ　ボーフーヌ˜　バソー　カ˞ジアタルヌ　スー˜ワン [˜kuma: ka˞ʤibana˜ ja˞runda bo:hu:nu˜ baso: ka˞ʤiatarunu su:˜waŋ](ここは海岸の風当たりの強い所＜吹曝し＞だから、暴風の時は風当たりが強い)。ウ˞レー˜　フ˞チヌ　スー˜ワンダル　シ˞キン˜ヌ　カ˞ジアタルヌ　スー˜ワ˞ツォー˜　フ˞チェー˜　チ˞チシミリ˜ヨー [ʔu˞re: ˜ ɸu̥˞ʧinu su:˜wandaru ʃi̥˞kin˜nu ka˞ʤiʔatarunu su:˜ wa˞tso:˜ ɸu̥˞ʧe:˜ ʧi̥˞ʧiʃimiri˜jo:](彼は他人に厳しいことを言う＜口が強い＞から、世間の風当たりが強いのだよ。口は慎めよ)。シ˞キン˜ヌ　カ˞ジアタルヌ　スー˜ワティ　˜クナーヤ　タ˞タラン˜ツォー [ʃi̥˞kin˜nu ka˞ʤiʔatarunu su:˜wati ˜kuna:ja tḁ˞taran˜ tso:](世間の風当たりが強いから、ここでは生活でき＜立っていけ＞ないそうだ)。

カ˞ジイキ [ka˞ʤiʔiki] 【名】風の勢い。「風息」の義。カ˞ジイキヌ　シンダイ　スー˜リ　キー˞ナー˜ヌ　˞パイ˜サ　˞ヤー˜ヌ　カ˞キン˜グ　˞シー˜ヨー [ka˞ʤinu ʃindai su:˜ri ki:˞na:˜nu ˞pai˜sa ˞ja:˜nu kḁ˞kiŋ˜gu ˞ʃi:˜jo:](風の勢いが次第に強くなってきてしまった。早く家の保護＜格護＞対策をしなさいよ＜せよ＞)。

ガ˞シ˜イズ [ga˞ʃi˜ʔiʤu] 【名】保存用に炙り燻製にした魚。竈にア˞マ˜ダ [ʔa˞ma˜da](焼きもの用の金網)を置き、その上に生魚を置いて熾火で炙って燻製にしたもの。ガ˞シ˜イゾー　イ˞サナケーヌ˜　シトゥ　˞シー˜バ˞ヨー [ga˞ʃi˜ʔiʤo: ʔi˞sanake:nu˜ ʃi̥tu ˞ʃi: ˜ba˞jo:](炙って燻製にした魚は石垣島へのお土産にしなさいねえ)。ガ˞シイズ˜ヌ　˜ダシ　˜トゥリバ [ga˞ʃiʔiʤu˜nu ˜daʃi ˜turiba](炙って燻製にした魚の出汁をとりなさい)。魚が大量に漁獲された時は、内臓を除去してア˞マ˜ダ [ʔa˞ma˜da](魚肉を焙り、燻製にする鉄製の網。金網のあぶり網) に載せ、ウ˞キル [ʔu˞kiru](熾火) で焙乾する。˞ピー˜カー [˞pi:˜ ka:](ジャバアイゴの仲間)、˞オン˜デー [˞ʔon˜de:](ジャバアイゴ)、イ˞ラブ˜チ [ʔi˞rabu˜ʧi](ブダイの仲間)、グ˞ル˜クン [gu˞ru˜kuŋ](ササムロ)、シ˞ヌマー˜ル [ʃi˞numa:˜ru](テングハギ) 等は、よく焙乾して保存した。ガ˞シ˜イゾー　ナ˞ガタブイ˜　シ˞ラリン [ga˞ʃi˜ʔiʤo: na˞gatabui˜ ʃi˞rariŋ](焙乾した魚は長期に保存することができる)。˜アンシ　イ˞ズ　イッ˜パイ　ガ˞ラ˜シケーティ　˜ガシ　シケー˞ダー [˜ʔaŋʃi ʔi˞ʤu ʔip˜pai ga˞ra˜ʃike:ti ˜gaʃi ʃi̥ke:˞da:](網で

魚を沢山漁獲してきた＜きてある＞ので焙乾してあるよ)。

カ˞ジェー　ウイ˞ナルン [ka˞ʤe: ʔui˞ naruŋ] 【連】風が回って北風＜上＞になる。天気が崩れて時化る。カ˞ジェー　マーリ　ウイ˞ナリティ　˞アッ˞タニ　ニ˞シクベーラ˞　ドゥ˞ミンカ˞シ　˞ウティケーチバン [ka˞ʤe: ma:ri ʔui˞nariti ˞ʔat˞tani ni˞ʃikube:ra˞ du ˞miŋka˞ʃi ˞ʔutike:tʃibaŋ](風は回り、北風に＜上に＞なって、急に空の北壁から雷鳴を轟かし、どよめかして強風雨が吹いて＜落ちて＞きてしまったわい)。

カ˞ジェー˞　ウ˞リ˞ルン [ka˞ʤe:˞ ʔu˞ri˞ruŋ] 【連】風が回って南風になる。天気が穏やかになる。カ˞ジヌ　マーリティ　ウイ˞ナルカー　˞アトー　カ˞ジェー˞　ウ˞リ˞ルン [ka˞ʤinu ma:riti ʔui˞naruka: ˞ʔato: ka˞ʤe:˞ ʔu˞ri˞ruŋ](風が回って北風になると、あとは、風は南風になる)。カ˞ジヌ˞　ウ˞リ˞ルカー　˞オーシケー　ノー˞ルン [ka˞ʤinu˞ ʔu˞ri˞ruka: ˞ʔo:ʃike: no:˞ruŋ](風が下りたら＜南風になったら＞天気は良くなる)。

カ˞ジェーラ [ka˞ʤe:ra] 【名】背中の肩口。肩の上部。肩甲骨の辺り。˞ピーズ˞　ニー　カ˞タムタ˞ル　˞アイ　˞ブー˞ユー　カ˞ジェーラヌ˞　ヤムト サー [˞pi:ʤu˞ ni: ka̠˞tamuta˞ru ʔai ˞bu:˞ju: ka˞ʤe:ra˞nu ˞jamuト sa:](毎日、一日中荷を担いだからあんなになっているのだろうか、肩口の辺りが痛いよ)。

カ˞ジオーラ [ka˞ʤiʔo:ra] 【名】風上。「風上はら」の義。カ˞ジオーラ˞ナ　˞マイ˞　トゥ˞バス˞カー　ッ˞ソーマヌ˞　プ˞ソー˞　ス˞ク˞ブ　˞カブンダ　˞ドゥー　˞パス˞コー　˞ナルン [ka˞ʤiʔo:ra˞na ˞mai˞ tu ˞basu̠˞ka: s˞so:manu˞ pu̠˞so:˞ su̠˞ku˞bu ˞kabunda ˞du: ˞pasu̠˞ko: ˞naruŋ](風上で籾を飛ばすと風下の人はゴミ＜藻屑＞を被るから体がむず痒くなる)。ス˞ク˞ブ [su̠˞ku˞bu](籾殻、ごみ) は˞スクモ」『日葡辞書』の転訛。したもの。

カ˞シ˞ガー [ka˞ʃi˞ga:] 【名】南京袋の略称。カ˞シ˞ガーナ　ッ˞ス˞ミバ [ka̠˞ʃi˞ga:na s˞su˞miba](南京袋に入れて包みなさいよ)。

˞カシカーサ˞リン [˞kaʃi̥ka:sa˞riŋ] 【他動】すかさ (嫌さ) れる。騙される。ウ˞リヌ˞　パ˞ナ˞シ　ス˞ク˞カー　˞カシカーサ˞リン˞ダー [ʔu˞rinu˞ pa˞na˞ʃi su̠˞ku ˞ka: ˞kaʃi̥ka:sa˞rin˞da:](あれの話を聞くと騙さ＜嫌さ＞れるよ)。˞バー　イッ˞カ　カシカーサラ˞ヌ [˞ba: ʔik˞ka kaʃi̥ka:sara˞nu](私は決して騙さ＜嫌さ＞れない)。˞カシカーサリ　ヤッ˞サン [˞kaʃi̥ka:sarijas ˞saŋ](騙さ＜嫌さ＞れやすい)。˞カシカーサリ˞ル　プ˞スン　ブン [˞kaʃi̥ka:sari˞ru pu̠˞sunu buŋ](騙さ＜嫌さ＞れる人がいる)。

˞カシカーシ˞ムニ [˞kaʃi̥ka:ʃi˞muni] 【名】うそ (嘘)。騙し言葉。他人を欺くことば。うそ他人を騙すことば。そらごと。ウ˞ヌ˞　プ˞ソー˞　ヤ˞ラ˞ビ　˞カシカー˞スニル　ウ˞ブ˞プスニン　˞カシカーシムニ˞バ＜ユ˞クシムニ˞バ＞　イ˞ズ˞ツォー [ʔu˞nu˞ pu̠˞so:˞ ja ˞ra˞bi ˞kaʃi̥ka:˞suniru ʔu˞bu˞pu̠suniŋ ˞kaʃi̥ka:ʃimuni˞ ba ＜ju˞kuʃimuni˞ba＞ ʔi˞ʤu˞tso:](その人は、子供を騙すように大人にも嘘をつく＜騙し言葉を言う＞そうだ)。

˞カシカー˞スン [˞kaʃi̥ka:˞suŋ] 【他動】すかす (嫌す)。だます (騙す)。慰めなだめる。若年層の言葉。プ˞ス　カシカー˞スンティ　˞ベー˞ティ　˞カシカーサ˞リティ　バ˞ラーリ　ベー [pu̠˞su kaʃi̥ka:˞sunti ˞be:˞ti ˞kaʃi̥ka:sa˞riti ba˞ra:ri be:](他人を騙そうとしていて、逆に騙されて笑われているよ)。˞カシカーシ˞　プサカー　マー˞ンバー˞キン　˞カシカー˞シェー　˞ミサムヌ [˞kaʃi̥ka:ʃi˞ pu̠saka: ma:˞mba:˞kiŋ ˞kaʃi̥ka:˞ʃe: ˞misamunu](騙したければどこまでも騙せばよいのに)。˞カシカー˞ス　プ˞ソー　パー˞ク　˞カシカー˞シ [˞kaʃi̥ka:˞su pu̠˞so: pa:˞ku ˞kaʃi̥ka:˞ʃi](騙す人は早く騙せ)。ヤ˞ラ˞ビ　˞カシカー˞スニル　パ˞ナ˞ス [ja˞ra˞bi ˞kaʃi̥ka:˞suniru pa˞na˞su](子供を騙(スカ)す＜宥め騙す＞ように話すんですよ)。ヤ˞ラ˞ビ　˞カシカー˞スンティ　˞スンドゥ　カシカーサラ˞ヌ [ja˞ra˞bi ˞kaʃi̥ka:˞sunti ˞sundu kaʃi̥ka:sara˞nu](子供を騙そうとするが、騙されない)。ク˞レー　カシカーサ˞リン [ku˞re: kaʃi̥ka:sa˞riŋ](これは騙される＜騙(ダマ)される＞)。ウ˞ヌ˞　プ˞ソー　カシカーシ　ヤッ˞サンダ　˞カシカー˞ス˞クトー　˞ワケー　˞ナー˞ヌ [ʔu˞nu˞ pu̠˞so: kaʃi̥ka:ʃi jas˞sanda ˞kaʃi̥ka:˞su ˞ku̠to: ˞wake: ˞na:˞nu](彼＜その人＞は騙しやすいから、騙すことは簡単だ＜訳は無い＞)。˞カシカー˞ス　プ˞スル　ワッ˞サ [˞kaʃi̥ka:˞su pu̠˞suru was˞sa](騙す人が悪い)。˞カシカー˞シェー　˞ミサムヌ [˞kaʃi̥ka:˞ʃe: ˞misamunu](騙せば良いのに)。˞パー˞ク　˞カシカー˞シ [˞pa:˞ku ˞kaʃi̥ka:˞ʃi](早く騙せ)。˞ウンザンマー˞　ミ˞シーミシ　カシカーサ˞リ　˞ウカ　˞カベーティ　˞アー˞クンティ [˞ʔunʤamma:˞ mi˞ʃi:miʃi kaʃi̥ka:sa˞ri ˞ʔukakabe:ti ˞ʔa:˞kunti](あの野郎には見す見す打ち騙され＜騙され＞て、負債を被っているさ＜あるくさ＞)。プ˞ス　カシカース˞ナ [pu̠˞su kaʃi̥ka:su˞na](他人を騙す＜騙す＞な)。

˞バー　イッ˞カナ˞シ　˞カシカーサ˞ヌ [˞baː ʔik˞kana˞ʃi ˞kaʃi̥kaːsa˞nu](私は決して騙さ＜賺さ＞ない)。˞カシカー˞スンティ　˞ウムーカー　˞カシカー˞シバ [˞kaʃi̥kaː˞sunti ˞ʔumuːka ˞kaʃi̥kaː˞ʃiba](騙そうと＜賺すと＞思うなら騙＜賺せ＞せ)。˞カシカー˞シェー　˞ミサムヌ [˞kaʃi̥kaː˞ʃeː ˞misamunu](騙せば＜賺せば＞良いのに)。

カ˞シガーフク˞ル [ka˞ʃigaːɸu̥ku˞ru] 【名】南京袋。麻糸を粗く織って大豆や米を入れるのに用いた袋。ル˞クトゥダー˞ラ [ru˞kutudaː˞ra](六斗俵、六斗入りの袋)、˞ユントゥダーラ [˞juntudaːra](四斗俵、四斗入りの袋) があった。朝鮮袋ともいった。昭和に入って˞ホーライ˞マイ [˞hoːrai˞mai](蓬莱米。台湾で開発された改良種の米) が作付けされるようになると、稲刈りした後、西表の田圃で脱穀して籾をカシガーフクル (南京袋) に詰め、˞イダフニ [˞ʔidaɸuni](板船。サバニ) で鳩間島に運び乾燥して保存した。˞マイヤー˞　ル˞クトゥダー˞ラナ　˞シミティル　パ˞トゥ˞マー　ハ˞クボーッ˞タ＜カ˞ヤーシタ＞[˞maijaː˞ ru˞kutudaː˞rana ˞ʃimitiru pḁ˞tu ˞maː hḁ˞kuboːt˞ta ＜ka˞jaːʃita＞](米は六斗俵に詰めて鳩間島に運ばれた)。ヤ˞ラ˞ビ　˞シェーン˞ケンマー　カ˞シガーフクル˞バ　˞カベーティル　ア˞ミフイ˞ヌ　˞ピンマー　˞ガッ˞コーン　˞パッタ˞ル [ja˞ra ˞bi ˞ʃeːŋ˞kemmaː kḁ˞ʃigaːɸu̥kuru˞ba ˞kabeːtiru ˞gak˞koːm ˞patta˞ru](子供の頃は南京袋を被って雨降りの日には学校へも行ったものだ)。

カ˞シ˞カキ [kḁ˞ʃi˞kḁki] 【名】1かせかけ。かせを掛けること。経糸をかける工字型の道具を改良した物がカ˞シカキ˞ヤマ [kḁ˞ʃikaki˞jama] である。養蚕が普及した頃に導入されたものという。2舞踊の名。沖縄本島や石垣島ではカ˞シ˞カキというが、鳩間島ではカ˞ナ˞カキ [ka˞na˞kḁki](琉球古典舞踊女踊「かせかけ」) という。ウ˞キナー˞ヌ　カ˞シ˞カケー　パ˞トゥ˞マナテー　カ˞ナ˞カキティル　ア˞ズ˞ダー [ʔu˞kinaː˞nu kḁ˞ʃi˞kakeː pḁ˞tu˞manateː ka˞na˞kḁkitiru ʔa˞ʤu˞daː](沖縄本島の古典女踊り「かせかけ」は鳩間島ではカ˞ナ˞カキ [ka˞na˞kḁki] というのだよ)。

カ˞シカキ˞ヤマ [kḁ˞ʃikḁki˞jama] 【名】経糸を巻いておく機織の道具。経糸をかける工字型の道具を改良したもの。カシ˞カキ˞ヤマー　˞アトーラル　˞ペー˞リケー　˞ムヌ [kḁ˞ʃikḁki˞jamaː ˞ʔatoːraru ˞peː˞rikeː ˞munu](カシカキヤマ＜経糸を巻き取る織機の道具＞は後に入ってき＜導入され＞たものだ)。

˞カシ　カ˞キ˞ルン [˞kḁʃi kḁ˞ki˞ruŋ] 【連】かせいと(経糸) を掛ける。かせ (綛) に掛ける。一反分の経糸を張り渡して織機に掛ける。ア˞ボー˞トゥ　˞アンマトゥ　フ˞タール˞シ　˞バサキンヌ　˞カシ　カ˞キ˞ルンティ　˞オー˞ル [ʔa˞boː˞tu ˞ʔammatu ɸu̥˞taːru˞ʃi ˞basakinnu ˞kḁʃi kḁ˞ki˞runti ˞ʔoː˞ru](お母さんと姉さんと二人で芭蕉着の経糸を掛けようとしておられる)。

カ˞ジ˞カジ [ka˞ʤi˞kaʤi] 【名】数々。色々。種々。様々。イ˞クサ˞ユーナー　ア˞ワリ˞ヌ　カ˞ジ˞カジ　˞シェー˞ティル　マ˞ナ˞マ　˞ナリケー˞ダー [ʔi ˞kusa˞juːnaː ʔa˞wari˞nu ka˞ʤi˞kaʤi ˞ʃeː˞tiru ma˞na˞ma narikeː˞daː](戦争時代＜戦世＞には難儀苦労の数々をして現在になってきているのだよ)。カ˞ジカジ˞ヌ　ウ˞サイ˞バ　ン˞マーンマー˞シ　ス˞コーリ˞　マ˞チ˞バ [ka˞ʤikaʤi˞nu ʔu˞sai˞ba ʔm˞maːʔmmaː˞ʃi su̥˞koːri˞ ma˞ʧi˞ba](色々のご馳走＜お采＞を美味しく作って、お供えし＜祀り＞なさい)。

˞カシカシマー˞スン [˞kaʃi̥kaʃimaː˞suŋ] 【他動】うまくすかす (賺(スカ)す)。うまくだます (騙す)。機嫌をとってすかし賺(スカ)し騙(ダマ)す。したたかにすかす (賺す)。機嫌をとる。ヤ˞ラ˞ビ　カ˞シカシマー˞スンティ　˞スンド˞　イッ˞カ　カシカシマーサラ˞ヌ [ja˞ra˞bi ˞kaʃi̥kaʃimaː˞sunti ˞sundu˞ ʔik˞ka kaʃi̥kaʃimaːsara˞nu](子供を賺して機嫌をとろうとするが、一向に賺されない)。˞カシカシマー˞シ　˞ミサタンティン　˞アイニ　˞カシカシマー˞ス　˞クトー　ス˞ナ [˞kaʃi̥kaʃimaː˞ʃi ˞misatantiŋ ˞ʔaini ˞kaʃi̥kaʃimaː˞su ˞ku̥toː ˞su˞na](賺し騙して良くても、あんなに賺し騙すことはするな)。˞カシカシマー˞シェー　˞ミサムヌ [˞kaʃi̥kaʃimaː˞ʃeː ˞misamunu](賺し騙せば良いのに)。˞カシカシマー˞シバ [˞kaʃi̥kaʃimaː˞ʃiba](賺し騙しなさいよ)。ヤ˞ラ˞ベー　˞カシカシマー˞シェーティル　シゥ˞カーリ [ja˞ra˞beː ˞kaʃi̥kaʃimaː˞ʃeːtiru si̥˞kaːri](子供は宥め賺しながら＜ぞ＞使われる)。˞カシカシマー˞スンティ　˞スンドゥ　カシカシマーサラ˞ヌ [˞kaʃi̥kaʃimaː˞sunti ˞sundu kaʃi̥kaʃimaːsara˞nu](宥め賺そうとするが、宥め賺されない)。˞カシカシマー˞スクトー　ナ˞ラ˞ヌ [˞kaʃi̥kaʃimaː˞su ˞ku̥toː na˞ra˞nu](宥め賺すことは出来ない)。˞カシカシマー˞シェー　˞ミサムヌ [˞kaʃi̥kaʃimaː˞ʃeː ˞misamunu](宥め賺せばよいのに)。˞カシカシマー˞シ [˞kaʃi̥kaʃimaː˞ʃi](宥め賺せ)。

˞カシ˞キ [˞kaʃi̥˞ki] 【名】こわめし (強飯)。糯米や粳米を蒸篭や˞クシ˞キ [˞kuʃi̥˞ki](甑) で蒸しあげて作った強飯。多少、塩で味付けされて美味である。お

盆の送りの日の夕食として、仏壇に供えた。「こわい＜強飯＞」のこと。「飯炊毛和須礼提＜飯かしく事も忘れて＞」『万葉集　892』、「可志久＜かしく＞、又宇牟須＜うむす＞『新撰字鏡』」の「可志久」の転訛。˞クシ˞キナー　ム˞チマイ˞　イ˞リティ　カシ˞キ　フ˞カ˞シ [˞kuʃi̥˞kina: mu˞tʃimai˞ ʔi˞riti kaʃi˞ki ɸu̥˞ka˞ʃi](甑に糯米を入れて、カシキ＜こわめし＞に蒸し煮しなさい＜蒸しなさい。ふかせ＞)。˞ユーボン˞マー　˞カシ˞キ　ス˞コーリ˞　マ˞チ˞バ [˞ju:bom˞ma: ˞kaʃi̥˞ki su̥˞ko:ri˞ ma˞tʃi˞ba](夕飯にはカシキを炊いて供えなさいよ)。ウ˞ブソッ˞コーナー　˞カシ˞キ　バ˞カソーッ˞タン˞ダー [ʔu˞busok˞ ko:na: ˞kaʃi̥˞ki ba˞kaso:t˞tan˞da:](大法事＜二十五年忌、三十三年忌、＞には強飯を炊かれたよ)。

˞カシキフル˞マイ **[˞kaʃi̥kiɸuru˞mai]** 【名】慶事、法事に出すこわめし。「強飯饗応」の義。˞ソーニヨイ [˞so:nijoi](還暦、喜寿、米寿などの生年祝い) や二十五年忌、ウ˞サンギソッコー [ʔu˞saŋgisokko:](三十三年忌) などの大きな行事に出す料理。˞カシ˞キ [˞kaʃi̥˞ki](こわめし)、豚肉または蒲鉾と野菜の汁、大根や昆布の煮つけ、魚の煮物、蛸や魚のテンンプラの˞ユーチング [˞ju:tʃiŋgu](四ツ組) の膳部。˞カシキフルマイ˞ヤー　˞ソンガチトゥ　˞ソーニヨイ˞　ウ˞ブソッ˞コーン　˞ドーレナール　ン˞ザ˞ソーッタ [˞kaʃi̥kiɸurumai˞ja: ˞soŋgatʃitu ˞so:nijoi˞ ʔu˞busok˞ko:n ˞do:rena:ru ʔn˞ʥa˞so:tta](カシキフルマイ＜強飯饗応＞は正月と生年祝い、大法事＜大焼香＞等の時に＜が＞出された)。

˞カジ　˞ゴー˞ラーン **[˞kaʥi ˞go:˞ra:ŋ]** 【連】数が多い。プ˞スヌ˞　カジ　˞ゴー˞ラーン [pu̥˞sunu˞ kaʥi ˞go:˞ra:ŋ](人数＜人の数＞が多い)。˞カジェー　˞ゴー˞ラー　˞ナー˞ヌ [˞kaʥe: ˞go:˞ra: ˞na:˞nu](数は多くない)。˞カジェー　˞ゴー˞ラー　˞ナルン [˞kaʥe: ˞go:˞ra: ˞naruŋ](数は多くなる)。カジ　˞ゴー˞ラー　˞クトー　˞ナーン˞パジ [˞kaʥi ˞go:˞ra: ˞ku̥to: ˞na:m˞paʥi](数が多いことはないはずだ)。˞カジ　˞ゴー˞ラーカー　シ˞ティリ˞バ [˞kaʥi ˞go:˞ra:ka: ʃi̥˞tiri˞ba](数が多ければ捨てろよ)。

カ˞ジコー˞ン **[ka˞ʥiko:˞ŋ]** 【形】1すがたって硬い。˞ダイ˞クネー　˞ウイ˞シギティ　カ˞ジコー˞ヌ　カ˞マラ˞ヌ [˞dai˞kune: ˞ʔui˞ʃigiti ka˞ʥiko:˞nu ka˞mara˞nu](大根は時期が過ぎて＜老いすぎて＞すが立って硬くて噛めない＜噛まれない＞)。˞ナン˞ゾー　カ˞ジコーナー˞ヌ [˞nan˞ʥo: ka˞ʥiko:na:˞nu](それほど硬くない)。シ˞ンダイ˞　カ˞ジコー˞ナルン [˞ʃindai˞ ka˞ʥiko:˞naruŋ](すが立って次第に硬くなる)。ク˞リン˞　カ˞ジコー˞ン [ku˞riŋ˞ ka˞ʥiko:˞ŋ](これもすが立って硬い)。カ˞ジコー˞　ムノー　シ˞ティリ [ka˞ʥiko:˞ muno: ʃi̥˞tiri](すが立って硬いものは捨てろ)。カ˞ジコー˞カー　シ˞ティ˞ミサン [ka˞ʥiko:˞ ka: ʃi̥˞ti˞misaŋ](すが立って硬ければ捨ててもいい)。2肉などの繊維が硬い。ウ˞シヌ　シー˞シェー　カ˞ジコー˞ヌ　カ˞マラ˞ヌ [ʔu˞ʃinu ʃi:˞ʃe: ka˞ʥiko:˞nu ka˞mara˞nu](牛肉＜牛の肉＞は筋が硬くて噛まれ＜噛み切れ＞ない)。

カ˞ジゴイ **[ka˞ʥigoi]** 【名】堆肥。˞シンタヌ　カ˞ジゴイバ˞　カ˞タ˞ミ　パ˞タ˞キナー　イ˞リティ˞　カ˞ブッチヌ˞　ナイ　˞ヤトゥイ　イ˞ビ˞バ [˞ʃintanu ka˞ʥigoiba˞ kḁ˞ta˞mi pḁ˞ta˞kina: ʔi˞riti˞ ka˞buttʃinu˞nai ˞jatui ʔi˞bi˞ba](家の後ろの豚小屋の堆肥を運んで畑に入れて、カボチャ (南瓜) の苗を移植しなさいよ)。

カ˞シ˞ザイ **[ka˞ʃi˞ʥai]** 【名】酒の糟 (酒粕)。酒のもろみ (諸味) を蒸留して泡盛を醸造した後の糟。カ˞シザイ˞ヤー　˞オー˞ヌイーナ　˞タリティ　˞ウン˞トゥ　マ˞ザー˞シティ　˞オーン　ッ˞ふァーソーッ˞タ [kḁ˞ʃiʥai˞ja: ˞ʔo:nu˞ʔi:na ˞tariti ˞ʔun˞tu ma˞ʥa:˞ʃiti˞ʔo:n f˞fa:so:t˞ta](酒の糟は豚の餌に芋と混ぜこねて豚に食べさせなされた)。

カ˞ジ　スーン **[ka˞ʥi su:ŋ]** 【文】風がおだやかに吹く。風がそよそよと吹くこと＜そよぐ＞。カ˞ジ˞フクン [ka˞ʥi˞ ɸu̥kuŋ](台風が吹く＜台風が襲来する＞) と意味が対立する。˞キュー˞ヤ　カ˞ジン　スイティ˞　イッ˞ケン˞　ピ˞ラ˞ケーン [˞kju:˞ja ka˞ʥin suiti˞ ʔik˞kem˞ pi˞ra˞ke:ŋ](今日は風もそよいで非常に涼しい)。

˞カシダイクニ **[˞kaʃidaikuni]** 【名】すの入った大根。˞ダイクニ˞ヌ　˞ウイシギ˞ルカー　˞カシダイクニ　˞ナリティ　ッ˞ふァーラント ダー [˞daikuni˞nu ˞ʔuiʃigi˞ruka: ˞kḁʃidaikuni ˞nariti f˞fa:ranト da:](大根が時期過ぎになる＜老い過ぎる＞と、す入り大根になって食べられないよ)。

ガ˞シ˞タク **[ga˞ʃi˞taku]** 【名】保存用に炙って燻製にした蛸。「乾かし蛸」の義か。熱湯で茹でて水を切り、ア˞マ˞ダ [ʔa˞ma˞da](燻製用金網) に載せて熾火で炙り燻製にした蛸。硬いので鉋や包丁で削って食べた。長期保存がきくので、石垣島や沖縄へ送る際にもこの手法で燻製にして贈った。子供の歯が生えかける頃、燻製にした蛸の手を約 10 センチ程度の長さに切り、皮や吸盤を削り去った

後の中身をしゃぶらせる習慣があった。燻製蛸は噛むにつれて味が出るので、離乳期の子供に母乳以外の食品の味を覚えさせるのに好都合であった。燻製蛸そのものが噛むにつれて弾力性が出るので乳児の顎の力をつけさせるのに良いといわれていた。歯が生え始めた乳児は、しばしば母親の乳頭を噛むので、その頃から燻製蛸を与えていたが、最近ではこの習慣も忘れられている。ヤ˞ラビ˜ヌ　˞パームイ˜ジブン　˜ナルカー　ガ˞シ˜タク　シ˞ビラソーッ˜タ [ja˞rabi˜nu ˞pa:mui˜ʤibun ˜naruka: ga˞ʃi˜taku ʃi˞biraso:t˜ta](子供が歯の生えはじめる頃になると燻製蛸をしゃぶらされた)。ガ˞シ˜タコー　カムカー　カム˞シンダイ˜　ン˞マー˜ナルン [ga˞ʃi˜tako: ˜kamuka: kamu˞ʃindai˜ ʔm˞ma:˜naruŋ](炙って燻製にした蛸は、噛めば噛むほど美味しくなる)。ガ˞シ˜タコー　タ˞ブイラリント ダー [ga˞ʃi˜tako: ta˞buirarinト da:](焙乾した蛸は長期保存できるよ)。ガ˞シ˜タクンノーン　ッ˞ス˜ミ　イ˞サナケーヌ˜　シトゥ　˜ムティパリバ [ga˞ʃi˜tąkunno:n s˞su˜mi ʔi˞sanake:nu˜ ʃi̥tu ˜mutipariba](薫製蛸でも包んで石垣への土産に持って行けよ)。

˜カシタクン [˜kąʃi˜tąkuŋ] 【名】かせいと (綛糸) の束。麻糸などを枠に一定回数巻き、枠をはずして束ねたもの。˜カシタクンマー　˜プシティ　˞カーラカシ˜バ [˜kąʃitąkumma: ˜pu̥ʃiti ˞ka:rakaʃi˜ba](かせいと＜綛糸＞の束は干して乾かしなさいよ)。

˞カシ˜ティラ [˞kaʃi̥˜tira] 【名】カステラ (Castilla)。ポルトガル人が長崎に伝えたという。小麦粉に卵と砂糖、水飴などを混ぜて焼いた菓子。首里方言からの借用語か。ク˞ヌ　カシ˜ティラー　ウ˞キ˜ナーラヌ　˜シトゥティ　˞カイ　オー˜レール　˞コー˜シツォー [ku˞nu kaʃi̥˜tira: ʔu˞ki˜na:ranu ˜ʃi̥tuti ˞kai ʔo:˜re:ru ˞ko:˜ʃitso:](このカステラは沖縄からのお土産として買って来られたお菓子だそうだ)。イ˞サナケー˜ラ　˞カシ˜ティラ　˞カイ　オー˜リ　ッ˞ふァーソーッタン˜ドゥ　イッ˞ケナ˜　ン˞マー˜タン　ア˞ラシコーシ　ニーブタ [ʔi˞sanake:˜ra ˞kaʃi̥˜tira ˞kai ʔo:˜ri f˞fa:so:ttan˜du ʔik˞kena˜ ʔm˞ma:˜taŋ ʔa˞raʃiko:ʃi ni:buta](石垣からカステラを買ってきて食べさせてくださったが、非常に美味しかった。伝統的な蒸し菓子＜アラシコーシ＞に似ていた)。

˞カシ˜ティラカマブク [˞kaʃi̥˜tirakamabuku] 【名】カステラ蒲鉾。魚肉を十分に擂り潰し、澱粉と鶏卵、調味料を加えて重箱型の型枠に入れてカステラ状に蒸しあげた蒲鉾。˞カシ˜ティラカマブコー　パ˞トゥ˜マナーテー　ス˞クラン˜シェン [˞kaʃi̥˜tirakamabuko: pą˞tu˜mana:te: su̥˞kuraŋ˜ʃeŋ](カステラ蒲鉾は、鳩間島では作らなかった)。

ガ˞シドゥシ [ga˞ʃiduʃi] 【名】凶年。「餓死年」の義。˞ピーカジ˜ヌ　˜フク　˜トゥシェー　ム˞カ˜シェー　ガ˞シドゥシ˜ティ　ア˞ザリブタ [˞pi:kaʤi˜nu ˜ɸu̥ku ˜tu̥ʃe: mu˞ka˜ʃe: ga˞ʃiduʃi˜ti ʔa˞ʤaributa](雨の降らない台風＜火風、火台風＞が吹く年は、昔は凶年と言われていた)。

カ˞ジトゥリ [ka˞ʤituri] 【名】無風状態になること。凪になること。風が凪ぐこと。「かぜとれ (風凪れ)」の義。カ˞ジトゥリ˜　ナリティ　＜カ˞ジヌ˜　トゥ˞リティ˜＞　˜フネー　˞プーピキ˜　パ˞ラサラ˜ヌ [ka˞ʤituri˜ nariti ＜ka˞ʤinu˜ tu˞riti˜＞ ˜ɸune: ˞pu:piki˜ pa˞rasara˜nu](凪ぎになって舟は帆を揚げて操船＜走行＞できない。走らされない)。

カ˞ジドゥル [ka˞ʤiduru] 【名】1機嫌取り。˞ウイプス˜ヌ　カ˞ジドゥル　スンティ˜　ン˞マー˜ムヌ　シゥ˞コーリベト ダー [˞ʔuipu̥su˜nu ka˞ʤiduru sunti˜ ʔm˞ma:˜munu su̥˞ko:ribeːト da:](年寄りの機嫌を取ろうと、美味しいものを作っているよ)。ヤ˞ラビ˜ヌ　カ˞ジドゥル　スン [ja˞rabi˜nu ka˞ʤiduru suŋ](子供の機嫌取りをする)。2舵取り。船の操縦。ヤ˞ラビ˜ドゥ　ヤ˞ルンドゥ˜　フ˞ニ˜ヌ　カ˞ジドゥルン　ゾー˜ブンニ　˞シーシタ [ja˞rabi˜du ja˞rundu˜ ɸu˞ni ˜nu ka˞ʤidurun ʤo:˜bunni ˞ʃi:ʃi̥ta](子供＜童＞であるがサバニの舵取り＜操縦、操船＞も十分に出来た＜した＞)。3拍子をとる。ある動作をする際に、調子をとるように頭や身体の一部を動かすこと。カ˞ジドゥル　サン˜カー　ア˞ラキングリサ˜ル [ka˞ʤiduru saŋ˜ka: ʔa˞rakiŋgurisa˜ru](手で拍子を取らないと歩きづらい)。

カ˞ジ˜　トゥルン [ka˞ʤi˜ turuŋ] 【連】1操船する。舵を取って走らせる。˜フネー　˞オーラー˜ニ　カ˞ジ˜トゥリ [˜ɸune: ˞ʔo:ra:˜ni ka˞ʤi˜ turi](船は風上の方へ舵を取れ)。采配をふるう。˞ウン˜ネーヤ　トゥ˞ジヌ　マーラシティ˜　キ˞ナイヌ˜　カ˞ジ˜トゥル　プ˞スヌ˜　ブ˞ラーン　ナッ˜ター　ブ˞トー　ホー˜ローキシティ　˞サン˜ソー　˞マーリナー˜ヌ [˞ʔun˜ne:ja tu˞ʤinu ma:raʃi̥ti˜ ki˞nainu˜ ka˞ʤi˜ turu pu̥˞sunu˜ bu˞ra:n nat˜ta: bu˞to: ho:˜ro:ki̥ʃiti ˞san˜so: ˞ma:rina:˜nu](その家は妻が亡くなって家庭を操縦する人がいなくなったので、夫は思慮分別を失い、うろたえておろおろしている)。2機嫌を取る。ク˞ヌ

˥ッ˩ふァー˥　ムッ˩トゥ˥　カ˩ジトゥララ˥ヌ [ku˩nu˥ f˩fa:˥ mut˩tu˥ ka˩ʤituraraˇnu](この子は一向に機嫌とれない)。

˥ガジトゥルン [˥gaʤituruŋ] 【他動】こそぎ取る。かき集めてとる。掻き取る。ナ˩マシキ˥ヌ　˩ガー˥ガ　˥ガジトゥルン [na˩maʃi̥ki˥nu ˩ga:˥ga ˥gaʤituruŋ](焦げ飯の黒焦げをこそぎ取る＜掻き取る＞)。ナ˩ビ˥ヌ　ス˩コーラ˥　ガジトゥリティ　シ˩ティリ [na˩bi˥nu sṷ˩ko:ra˥ gaʤituriti ʃi˩tiri](鍋の底からこそぎ取って＜掻き取って＞捨てなさい)。ナ˩マ˥シキ　ガジトゥルン [na˩ma˥ʃi̥ki ˥gaʤituruŋ](おこげ＜御焦げ＞をこそげ取る)。

カ˩シ˥ナー [ka˩ʃi˥na:] 【名】鱶釣り縄。藁縄を家葺き縄の大きさに綯い、それを 3 本縒り合せて (掛け合せて) 約 200 尋の長さに綯った縄。これを˩ミーソーガキ [˩mi:so:gaki](三本掛け合わせた縄) という。これに数本の枝縄をつけて釣り針に餌を掛け、浮きを付けて海底に沈めるムトゥナー [mu˩tu˥na:](本縄) にした。バ˩ラフ˥タジナバ　˩ミーソーガキ˥　シ˩ティ˥　カ˩シ˥ナー　˩サーソーッ˥タ [ba˩raɸu˥taʤinaba ˩mi:so:gaki˥ ʃi̥˩ti˥ kḁ˩ʃi˥na: ˩sa:so:t˥ta](藁縄を三本縒り合わせて鱶釣り縄を作られた)。

カ˩ジニンガイ [ka˩ʤiniŋgai] 【名】順風満帆の祈願。一路平安の祈願。「風願い」の義。˥グシ [˥guʃi](神酒)、˥パナ [˥pana](神前に供える清めた花米) を床の間の神前に供え、香を焚いて祈願し、夜は女性達が集まって祈願し、夜通し歌いつつ旅の安全を祈願したという。タ˩ビ˥ニガイ [ta˩bi˥nigai](旅の安全祈願) ともいう。ブ˩バマン˥ガン　ブ˩ナルンガンヌ˥　ア˩ツァ˥マリ　˩オー˥リ　カ˩ジニンガイバ　ソー˥リ　カ˩ルイ˥シキ　ッ˩ふォーッ˥タ [bu˩bamaŋ˥gam bu˩naruŋgan˥nu ʔa˩tsa˥mari ˩ʔo:˥ri ka˩ʤiniŋgaiba so:˥ri ka˩rui˥ʃi̥ki ˩fo:t˥ta](伯叔母神、姉妹神＜をなり神＞が集まって来られて、旅の平安祈願＜風の祈願＞をなさって航海安全を祈って下さった)。

カ˩ジヌ˥　イキ [ka˩ʤinu˥ ʔiki] 【連】風の息。風の勢い。風速。マ˩ナ˥マー　カ˩ジヌ˥　イ˩キ˥ヌ　˩スーワ˥ヌ　˥フカンター　ン˩ジララ˥ヌ [ma˩na˥ma: ka˩ʤinu˥ ʔi˩ki˥nu ˩su:wa˥nu ˥ɸṷkanta: ʔn˩ʤirara˥nu](今は風の勢い＜風の息＞が強くて屋外には出られない)。

カ˩ジヌ　ウイ　ヌールン [ka˩ʤinu ʔui nu:ruŋ] 【文】風が東から上＜北＞に上る (好天から荒天になる。時化になる)。

カ˩ジヌ˥　ウ˩リ˥ルン [ka˩ʤinu˥ ʔu˩ri˥ruŋ] 【文】(風が北から南へ降りる＜荒天から好天になる＞)。

カ˩ジヌ˥　ス˩ブ˥ル [ka˩ʤinu˥ su˩bu˥ru] 【連】舵の頭。舵棒を差し込む所。カ˩ジヌ˥　ス˩ブ˥ルナ　˩テー˥ナイ　ヌ˩キティ˥　ピ˩ダ˥レー　˩ニーレー　ウーカ˥シェーティル　˥フネー　マ˩ギ˥　パ˩ラシ˥タ [ka˩ʤinu˥ su˩bu˥runa ˩te:˥nai nu˩kiti˥ pi˩da˥re: ˩ni:re: ʔu:ka˥ʃe:tiru ˥ɸune: ma˩gi˥ pa˩raʃi̥˥ta](舵の頭部に梶棒を貫き差して左へ右へと動かして舟を旋回させ＜曲げ＞て操船し＜走行させ＞た)。

カ˩ジヌ˥　ティー [ka˩ʤinu˥ ti:] 【連】雲の流れたさま。雲が風に吹き流されるように見えるさま。「風の手」の義。空に風の手が見えると時化る前兆と言われていた。カ˩ジヌ　ティー˥ヌ　ミ˩ラリ˥ブーバ　˩オーシケー˥　ヤ˩ビ˥ス [ka˩ʤinu ti:˥nu mi˩rari ˥bu:ba ˩ʔo:ʃi̥ke:˥ ja˩bi˥su](風の手が見えているから天気は崩れる)。

カ˩ジヌ˥　ニー [ka˩ʤinu˥ ni:] 【連】風が吹いてくる方向。「風の根」の義。カ˩ジヌ　ニー˥ヤ　˩ニーヌ˥パーラ　˩サン˥ヌパー　˥ウレーチバ　カ˩ジェー˥　トゥ˩リス [ka˩ʤinu ni:˥ja ˩ni:nu˥pa:ra ˩san˥nupa: ˥ʔure:ʧiba ka˩ʤe:˥ tu˩risu](風の吹いてくる方向＜風の根＞が北＜子の方＞から西南＜申の方＞へ下りたから、風は凪ぐだろうよ)。カ˩ジヌ　ニー˥ヤ　˥キシティ　ガ˩リブーバ˥　カ˩ジェー˥　ウ˩リ˥ルンパジ [ka˩ʤinu ni:˥ja ˥ki̥ʃiti ga˩ribu:ba˥ ka˩ʤe:˥ ʔu˩ri˥rumpaʤi](風の根は切れて、北の空は明るくなっているから、風は南に下りるはず＜好天になるはず＞だ)。

カ˩ジヌ˥　ミー [ka˩ʤinu˥ mi:] 【連】風の吹き抜ける孔。風穴。カ˩ジヌ˥ミーラ　˥フキクー　カ˩ジヌ　サッ˥コー　˩ピー˥ヤ˩ツォー [ka˩ʤinu˥mi:ra ˥ɸṷkiku: ka˩ʤinu sak˥ko: ˩pi:˥ja˩tso:](風穴から吹いてくる風が非常に寒いんだよ)。

カ˩ジヌ˥　ミチ [ka˩ʤinu˥ miʧi] 【連】風通しの良い所。「風の道」の義。˥クマー　カ˩ジヌ˥ミチ　ヤ˩ルンダ˥　カ˩ジェー　スイティ˥　イッ˩ケナ˥　ピ˩ラ˥ケーン [˥kuma: ka˩ʤinu˥ miʧi ja˩runda˥ ka˩ʤe: suiti˥ ʔik˩kena˥ pi˩ra˥ke:ŋ](ここは風通しの良い所＜風の道＞だから、風が吹いて＜そよいで＞大変涼しい)。˩タイフー˥ヌ　˥ピンマー　カ˩ジヌ˥　ミチェー　カ˩ジズーワ˥ヌ　ン˩カーラヌ [˩taiɸu:˥nu ˥pimma: ka˩ʤinu˥ miʧe: ka˩ʤidzu:wa˥nu ŋ˩ka:ranu](台風の時は、風通しのいい所は風が強くて、風に向かって歩かれない＜向かえない＞)。

カ˩ジバーバー [ka˩ʤiba:ba:] 【名】強風。嵐。暴風。

風がびゅうびゅう吹くこと。˞バーバー [˞baːbaː] は擬音語。カ˞ジバーバー˜　シ˞ティ˜　フネー　ン˞ザサラ˜ヌ [ka˞ʤibaːbaː˜ ʃi̥˞ti˜ ɸuneː ʔn˞ʤasara˜nu](強風がビュービュー吹き荒れて船は出＜出港＞されない)。カ˞ジバーバー˜　ナリティ　˞タイフー˜ヌ　フ˞キン˜ギサバン [ka˞ʤibaːbaː˜ nariti ˞taiɸuː˜nu ɸu̥ ˞kiŋ˜gisabaŋ](強風がビュービュー吹いて台風が来＜吹き＞そうだ)。

カ˞ジバナ **[ka˞ʤibana]** 【名】吹き曝し。風の通り道。「風端」の義か。海岸などの、風が強く吹くところ。防風林が無く、台風などが直接に吹きつける所。˜クマー　カ˞ジバナ˜　ヤ˞ルンダ˜　ナ˞チェー˜　ピ˞ラ˜ケーンドゥ　˞タイフー˜ヌ　˜ピンマー　ナ˞クラーン˜ダー [˜kuma: ka˞ʤibana˜ ja˞runda˜ na˞ʧeː˜ pi˞ra˜keːndu ˞taiɸuː˜nu ˜pimma: na˞kuraːn˜daː](ここは吹き曝し＜風端。風の通り道＞だから夏は涼しいが、台風の時は怖いよ)。

カ˞ジバナヤー **[ka˞ʤibanajaː]** 【名】風の当たる家。吹き曝しに立つ家。カ˞ジバナヤーヤ　タイフー˜ヌ　˜ピンマー　ナ˞クラーン˜ダー [ka˞ʤibanajaːja taiɸuː˜nu ˜pimma: na˞kuraːn˜daː](吹き曝しに立つ家は、台風の時は怖いよ)。

カ˞ジフキ **[ka˞ʤiɸu̥ki]** 【名】強風。時化の風。小さな暴風や台風になる前の熱帯低気圧による時化の強風。冬季の強い北風にもいう。「風吹き」の義。˞ニンガチ˜　カ˞ジマール˜ヌ　カ˞ジフキサーリ˜　フ˞ニ˜バ　ン˞ザ˜シェーティ　˞アーキ˜ル　˞フンナケート ダー [˞niŋgatʃi˜ ka˞ʤimaːru˜nu ka˞ʤiɸu̥kisaːri˜ ɸu˞ni˜ba ʔn˞ʤa˜ʃeːti ˞ʔaːki˜ru ˞ɸunnakeːトdaː](旧暦二月の天気の崩れやすい時＜二月風回り＞の強風の中を、舟を出して行って転覆したんだよ)。

ガ˞ジフクラ˜スン **[ga˞ʤiɸu̥kura˜suŋ]** 【他動】掻き腫らす。過度に皮膚を掻いて赤く腫れあがらせる。掻きまくる。ア˞ガーガ˜シ　˜ナルンケン　ガ˞ジフクラ˜スン [ʔa˞gaːga˜ʃi ˜naruŋkeŋ ga˞ʤiɸu̥kura˜suŋ](真っ赤になるまで掻き腫らす)。ガ˞ジフクラサ˜ヌ [ga˞ʤiɸu̥kurasa˜nu](掻き腫らさない)。ガ˞ジフクラ˜シ　˜シケー [ga˞ʤiɸu̥kura˜ʃi ˜ʃi̥keː](掻き腫らしてある)。ガ˞ジフクラ˜ス　˜クトー　ナ˞ラン˜ツォー [ga˞ʤiɸu̥kura˜su ˜ku̥toː na˞ran˜tsoː](掻き腫らすことはいけないそうだ)。ガ˞ジフクラ˜シェー　˜ミサムヌ [ka˞kiɸu̥kura˜ʃe: misamunu](掻き腫らしたらよいのに)。˞マー˜ビン　ガ˞ジフクラ˜シバ [˞maː˜biŋ ga˞ʤiɸu̥kura˜ʃiba](もっと掻き腫らせよ)。

ガ˞ジフクラ˜スン **[ga˞ʤiɸukura˜suŋ]** 【他動】引掻く。掻き腫らす。痒いところを思いっきり掻く。爪を立てて掻く。皮膚が腫れるほど引掻く。ヤ˞ラ˜ベー　˞ドゥー˜ヌ　˞ビー˜ヨーカー　˜パダ　ガ˞ジフクラ˜スン [ja˞ra˜beː ˞duː˜nu ˞biː˜joːkaː ˜pada ga˞ʤiɸukura˜suŋ](子供は体が痒いと肌を引掻く)。˜パダ　ガ˞ジフクラサン˜ドーシ　フ˞チ˜ル　˞ヌーリ˜バ [˜pada ga˞ʤiɸukurasan˜doːʃi ɸu̥˞ʧi˜ru ˞nuːri˜ba](肌を引掻かないで薬を塗りなさい)。˞ドゥー˜バ　ガ˞ジフクラシ˜　シケー [˞duː˜ba ga˞ʤiɸu̥kura˜ʃi ˜ʃi̥keː](体を引掻いてある)。ガ˞ジフクラ˜ス　˜トンラー　˞シーヌ˜　ン˞ジ˜ルン [ga˞ʤiɸu̥kura˜su ˜tonraː ˞ʃiːnu˜ ʔn˞ʤi˜ruŋ](引掻くところからは血が出る)。ガ˞ジフクラ˜シェー　˜ミサムヌ [ga˞ʤiɸu̥kura˜ʃe: misamunu](引掻けば良いのに)。ガ˞ジフクラ˜シ [ga˞ʤiɸu̥kura˜ʃi](引掻け)。ヤ˞ラ˜ベー　˜ドゥー　ガ˞ジフクラ˜スンダ　˞ティー˜ヌ　˜シメー　˜シミ　シ˞キ˜リ [ja˞ra˜beː ˜duː ga˞ʤiɸu̥kura˜sunda ˞tiː˜nu ˜ʃimeː ˜ʃimi ʃi̥˞ki˜ri](子供は体＜肌＞をむやみに掻き腫(ハ)らすから、手の爪を詰めておきなさい)。˞ビー˜ワタンティン　ガ˞ジフクラ˜ス　˜ムノー　ア˞ラ˜ヌ [˞biː˜watantiŋ ga˞ʤiɸu̥kura˜su ˜munoː ʔa˞ra˜nu](痒(カユ)くても無闇に掻くものではない)。

カ˞ジ˜　フクン **[ka˞ʤi˜ ɸu̥kuŋ]** 【連】台風が吹く。強風が吹く。風が強く吹く。一般的な「風がふく」の意には、カ˞ジ　スーン [ka˞ʤi suːŋ](風＜が＞そよぐ) という。˜フクン [˜ɸu̥kuŋ] には「風が強く吹く」の意味が内包されている。ク˞ム˜ヌ　˞アーリブーギン˜シェー　カ˞ジヌ˜　フク˞サー [ku˞mu˜nu ˞ʔaːribuːgiŋ˜ʃeː ka˞ʤinu˜ ɸu̥ku˞saː](雲が荒れているからには＜のを見ると＞、どうやら台風が吹くらしい)。˜アツァー　カ˞ジ˜　フクン [˜ʔatsaː ka˞ʤi˜ ɸu̥kuŋ](明日は風＜台風＞が吹く)。

カ˞ジブタラー˜マ **[ka˞ʤibutaraː˜ma]** 【名】(動) ツバメ (燕)。「風舞鳥」の義。『八重山語彙』という。単に、マッタ˞ラー˜マ [matta˞raː˜ma](燕)『八重山語彙』ともいう。カ˞ジヌ˜　フクカー　ウ˞ヌス˜ク　カ˞ジブタラーマ˜ヌ　トゥ˞ビブタンドゥ˜　ミ˞ラン˜　ナリ˞ナー˜ヌ　˞ヌー˜シタカヤー [ka˞ʤinu˜ ɸu̥kuka: ʔu˞nusu̥˜ku ka˞ʤibutaraːma˜nu tu˞bibutandu˜ mi˞raran˜ nari˞naː˜nu ˞nuː˜ʃi̥takajaː](風が＜台風が＞吹くと、あれほど飛びかっていた燕が見られなくなってしまった。一体どうしたのかなあ)。

カ˞ジボー˜ン **[ka˞ʤiboː˜ŋ]** 【形】風が強い。強風ではないが、多少の警戒を要する程度に風が吹くさま。室内の灯火が吹き消されやすい程度に風が

吹くさま。˞キュー˞ヤ　カ˞ジボー˞ンダ　˞ヤドー　ア˞キルナ˞ティ　ア˞ゾール˞ヌ　ナ˞ン˞ゾー　カ˞ジボーナー˞ヌ [˞kjuː˞ja ka˞ʤibo:˞nda ˞jado: ʔa˞kiruna ˞ti ʔa˞ʤo:ru˞nu ˞nan˞ʤo: ka˞ʤibo:na:˞nu](今日は風が強いから戸を開けるなといわれるが、それほど風は強くない)。カ˞ジボー˞ヌ　˞トゥー˞ロー　シ˞キララ˞ヌ [ka˞ʤibo:˞nu ˞tu:˞ro: ʃi̥˞kirara˞nu](風が強くてランプが点けられない)。カ˞ジボー˞　ピンマー　˞フネー　ン˞ザス˞ナ [ka˞ʤibo:˞ pimma: ˞ɸune: ʔn˞ʤasu˞na](風が強いときは舟は出すな)。˞シンダイ˞　カ˞ジボー˞　ナリケーン [˞ʃindai˞ ka˞ʤibo:˞ narike:ŋ](次第に風が強くなってきた)。カ˞ジボー˞カー　˞ヤドー　ア˞キルナ [ka˞ʤibo:˞ka: ˞jado: ʔa˞kiruna](風が強ければ戸を開けるな)。

カ˞ジマー˞ヤー [ka˞ʤima:˞ja:]【名】1玩具の風車。アダンの葉を十字に編んで作った玩具の風車。パ˞トゥ˞マナーテー　ア˞ダンブラ˞ヌ　˞パーヌ˞　ン˞ギバ˞　キ˞ジ˞トゥリティ　ウ˞リバ˞　フミティ　カ˞ジマー˞ヤー　ス˞クル˞タ [pḁ˞tu˞mana:te: ʔa˞dambura ˞nu ˞pa:nu˞ ʔŋ˞giba˞ ki˞ʤi˞turiti ʔu˞riba˞ ɸumiti ka˞ʤima:˞ja: su̥˞kuru˞ta](鳩間島ではアダンの葉の刺を削り取って、それを編んで＜組んで＞風車を作った)。ア˞ダンブラ˞ヌ　˞パー˞シ　カ˞ジマー˞ヤー　ス˞クリ　ッ˞ふィーリ [ʔa˞dambura˞nu ˞pa:˞ʃi ka˞ʤima:˞ja: su̥˞ku˞ri f˞fi:ri](アダンの葉で風車を作ってくれ)。2九十七歳の生年祝い。˞キサー　パ˞トゥ˞マナー　カ˞ジマーヤー˞ヌ　˞ヨイ　˞ソー˞レー　プ˞ソー　オーラン˞シェン˞ナー [˞kisa: pḁ˞tu˞mana: ka˞ʤima:ja:˞nu ˞joi ˞so:˞re: pu̥˞so: ʔo:raŋ˞ʃen˞na:](以前は、鳩間島にはカジマーヤー＜白寿＞の祝いをなさった人はおられなかったねえ)。

カ˞ジマーヤー˞ヌ　˞ヨイ [ka˞ʤima:ja:˞nu ˞joi]【連】九十七歳の生年祝い。童心に返ってカ˞ジマー˞ヤー [ka˞ʤima:˞ja:](風車) を持って祝う生年祝い。鳩間島でカジマーヤーの生年祝いをした人は昭和の終わりまでいなかったという。パ˞トゥ˞マナテー　カ˞ジマアーヤー˞ヌ　˞ヨイ˞バ　˞ソー˞レー　プ˞ソー　オーラン˞シェンツォー [pḁ˞tu˞manate: ka˞ʤima:ja:˞nu ˞joi˞ba ˞so:˞re: pu̥˞so: ʔo:raŋʃen˞tso:](鳩間島では九十七歳の生年祝いをされた人は昔は居られなかったそうだ)。

カ˞ジマール [ka˞ʤima:ru]【名】1風回り。南風が急に北風に変わって時化ること。˞ニンガチカジマー˞ル [˞niŋgatʃikaʤima:˞ru](旧暦二月の天候の崩れやすいこと)。カ˞ジマール　シェー˞チバ　˞オーシケー˞　ヤ˞ブリ˞ス [ka˞ʤima:ru ʃe:˞tʃiba ˞ʔo:ʃi̥ke:˞ ja ˞buri˞su](風が急変して北風になった＜風回りした＞ので天気は崩れる＜破れる＞)。2子供の感情が急変して妬(ネタ)み嫉(ソネ)み、愚図ること。カ˞ジマール　シーナーン˞バ　˞メー　プ˞スヌ˞　ムネー　シゥ˞カヌ [ka˞ʤima:ru ʃi:na:m˞ba ˞me: pu̥˞sunu˞ mune: si̥˞kanu](風が急変して北風になった＜急に感情を害した＞ので、他人の言うことは聞きいれないよ)。

カ˞ジ　マールン [ka˞ʤi ma:ruŋ]【連】1「風が回る」の義。風は反時計回り東・北・西・南へと回って荒天から好天へと移る。東から北へ、風が回ると天気が急に悪化して時化る。カ˞ジヌ　マール˞カー　˞オシケー˞　ヤ˞ビ˞ス [ka˞ʤinu ma:ru˞ka: ˞ʔoʃi̥ke:˞ ja˞bi ˞su](風が回る＜風が北に回る＞と天気は崩れ＜破れ＞る)。2比喩的に「感情が急に悪くなる」意に用いられる。感情を害して不機嫌になる。キ˞サ˞　カ˞ジェー　マーリナーン˞バ　マ˞ナ˞マー　ウ˞リンナー˞ニ　ムネー　イ˞ズナ [ki̥˞sa˞ ka˞ʤe: ma:rina:m˞ba ma˞na˞ma: ʔu˞rinna:˞ne: ˞mune: ʔi˞ʤuna](とっくに感情を害して不機嫌になっているから、それ＜彼＞には話すな＜ものを言うな＞)。

カ˞ジマールン [ka˞ʤima:ruŋ]【自動】1風向きが変わる。天候が悪化する。風向きが北風に変わって時化る。「風回る」の義。カ˞ジェー　ウイ　ヌールン [ka˞ʤe: ʔui nu:ruŋ](風は北＜上＞に登る) ともいう。ユ˞ネン˞マー　カ˞ジマールンダ˞　カ˞ジマーラン˞ケン　˞ヤー˞　パラ [ju˞nem˞ma: ka˞ʤima:runda ˞ ka˞ʤima:raŋ˞keŋ ˞ja:˞ para](夕方には風向きが北風に変わって天候が悪化するから、時化ないうちに家＜鳩間島＞に帰ろう)。キサー˞ティ˞　カ˞ジマーリ　シー　ナー˞ヌ [ki̥sa:˞ti˞ ka˞ʤima:ri ʃi: na: ˞nu](既に風向きが変わって時化てしまった)。カ˞ジマール˞　ピンマー　˞フネー　ン˞ザサラ˞ヌ [ka˞ʤima:ru˞ pimma: ˞ɸune: ʔn˞ʤasara˞nu](風向きが変わって時化るときは、舟は出されない)。2機嫌が悪くなる。ヤ˞ラビ˞ヌ　カ˞ジマーレー˞ラー　プ˞スヌ˞　ムニ　シゥ˞カヌ [ja˞rabi˞nu ka˞ʤima:re:˞ra: pu̥˞sunu˞ muni si̥˞kanu](子供が機嫌を損ねたら他人の言うことを聞かない)。

カ˞ジマキ [ka˞ʤimaki]【名】「風負け」の義。原因不明で顔面の皮膚や胸、首、腕の皮膚がかぶれること。悪い風に当たるときに起きる現象といわれている。こんな時には、煙草の煙を吹きかけて呪文を唱えると皮膚の炎症が治るといわれていた。ヤ˞ナ˞カジナール　ア˞タルタ˞ユー　ウ˞ム˞テー　ア˞ガ

ミティ　ビーフク˥ル　˞シー˥　カ˞ジマキ　シーベー˥サー [ja˞na˥kaʤina:ru ʔa˞taruta˥ju: ʔu˞mu˥te: ʔa˞gamiti bi:ɸu̥ku˥ru ˞ʃi:˥ ka˞ʤimaki ʃi:be:˥sa:](悪い風に当ったのか、顔は赤らんで痒く、腫れあがっていて、風負けしているよ)。ヤ˞ナ˥カジナール　ア˞タルタ˥ユー　ヌ˞ビ˥ヌ　˥マーラヌ　パ˞ダ˥ヌ　ア˞ガンターリティ　ビュー˥ワ˞ツォー [ja˞na˥kaʤina:ru ʔa˞taruta˥ju: nu˞bi˥nu ˥ma:ranu pa˞da˥nu ʔa˞ganta:riti bju:˥wa˞tso:](悪い風に当ったのか、首の周りの肌が赤らんで痛痒いんだよ)。

カ˞ジ　マラスン [ka˞ʤi marasuŋ] 【連】順風を発生させる。「風を生ませる」の義。西表島ヘイダフニ (板舟) で通耕する際、海上で無風状態になると口笛を吹いて風を呼んだ。そうして風を発生させることをいう。カ˞ジヌ˥　トゥ˞ル˥カー　˞ソー˥フキ　˞シェー˥ティ　カ˞ジェー˥　マ˞ラシ　プー˥　ピ˞キティ˥　フニ　パ˞ラ˥ソーッタ [ka˞ʤinu˥ tu˞ru˥ka: ˞so:˥ɸu̥ki ˞ʃe:˥ti ka˞ʤe:˥ ma˞raʃi pu:˥ pi̥˞kiti˥ ɸuni pa˞ra˥so:tta](風が凪ぐと口笛を吹き鳴らして風を産ませ、帆を揚げて舟を走らされた)。

ガ˞ジ˥マル [ga˞ʤi˥maru] 【名】(植) ガジマル (榕樹)。ッ˞ふガジマル˥ヌ　ッ˞サーン˥ナ　ニ˞ブ˥カー　˞キー˥ヌ　˥シーン　ウ˞ソーリン˥ダー [f˞fugaʤimaru ˥nu s˞sa:n˥na ni˞bu˥ka: ˞ki:˥nu ˥ʃi:ŋ ʔu˞so:rin˥da:](ガジマルの古木 < 古榕樹 > の下で寝ると木の精に襲われるよ)。ガ˞ジマル˥ヌ　ピ˞ニ˥シル　カ˞シラ˥ヌ　ピ˞ニ　ソーッ˥タ [ga˞ʤimaru˥nu pi˞ni˥ʃiru kḁ˞ʃira˥nu pi˞ni so:t˥ta](ガジマルの気根で旗頭の鬚にされた)。ガ˞ジマル˥ヌ　˞パイバ　˥アイ　ス˞モー˥ル　˥ピンマー　シゥ˞カイオーッ˥タ [ga˞ʤimaru˥nu ˞paiba˥ ʔai su˞mo:˥ru ˥pimma: si̥˞kaiʔo:t˥ta](ガジマルの灰を藍染めの際には使われた)。ガ˞ジマル˥ヌ　シ˞ル˥バ　ア˞シブ˥ヌ　˞マール˥ナ　˞ヌーリ˥　シ˞キ˥ルカー　ウ˞リ˥シ　シ˞ミラ˥リティ　ピン˞トー˥マ　˞トゥンジティ　ナンク˥ル　˞ウイル˥タン˞ダー <˞ウー˥タン˞ダー >[ga˞ʤimaru˥nu ʃi˞ru˥ba ʔa˞ʃibu˥nu ˞ma:ru˥na: ˞nu:ri˥ ʃi̥˞ki˥ruka: ʔu˞ri˥ʃi ʃi˞mira˥riti pin˞to:˥ma ˞tunʤiti naŋku˥ru ˞ʔuiru˥tan˞da: <˞ʔu:˥tan˞da:>](ガジマルの白い樹液をでき物の回りに塗っておくと、それに締め付けられて縮み、腫れがとれ、小さな口先が突き出て自然に治ったよ)。

カ˞ジムキ [ka˞ʤimuki] 【名】風向き。˞タイフー˥ヌ　カ˞ジムキヌ　カール˥カー　˞カイシ˥ヌ　フクン˞ダー [˞taiɸu:˥nu ka˞ʤimukinu ka:ru˥ka: ˞kaiʃi˥nu ɸu̥kun˞da:](台風の風向きが変わると返しの風が吹くぞ)。

ガ˞シ˥ムヌ [ga˞ʃi˥munu] 【名】炙って燻製にしたもの。「乾かし物」の義。竈にア˞マ˥ダ [ʔa˞ma˥da](燻製用の金網、生の木の枝や竹などを数本竈に架け渡し、その上に生魚類を置いて火で炙って燻製にする器具) を架けて魚や蛸類を熾火で炙り燻製にした食品。˥タクン　イ˞ズン˥　ガ˞シ˥ムヌ　˥ナシ　シ˞キ˥ルカー　タ˞ブイラリント ダー [˥takuŋ ʔi˞ʤuŋ˥ ga˞ʃi˥munu ˥naʃi ʃi̥˞ki˥ruka: ta˞buirarinト-da:](蛸も魚も燻製にして置くと長期に保存 < 蓄えることが > できるよ)。ガ˞シ˥ムノー　˞コー˥ヌ　˞ウイプスン˥マー　ッ˞ふァーラヌ [ga˞ʃi˥muno: ˞ko:˥nu ˞ʔuipusum˥ma: f˞fa:ranu](燻製物は硬くて年寄りには食べられない)。

カ˞シャ˥ラク [ka˞ʃa˥raku] 【自動】通う。歌謡語。˞鳩間中岡節 < パトゥマナカムリ > の中で用いられている語。「なゆしゃる　舟ぬど通ふだ、いかしゃる舟ぬどかしやらくが」『宮良當壮全集 18』、『八重山民謡誌』とある。「カヨーダ [kajo:da](通うた)」の対語。ナユ [na˞ju](如何なる) の項参照。

ガ˞ジユーナー [ga˞ʤiju:na:] 【連】引掻き合い。爪を立てて引掻き合いをする。歌謡語。˞ヤー˥　マ˞ヤ˥ヌ　˥カタ　ミ˞リ˥バ　ガ˞ジユーナー˥ドゥ　˞シーユール [˞ja:˥ ma˞ja˥nu ˥kḁta mi˞ri˥ba ga˞ʤiju:na:˥du ˞ʃi:ju:ru](ああ、猫の絵を見ると爪を立てて引掻き合いをしている)(アーパーレー歌)。

˥カジ　˥ユムン [˥kaʤi ˥jumuŋ] 【連】数を数える。カ˞ナパイドング　ギューチ˥　アルユーティ　ウ˞ヌ˥　カジ　˥ユムンティ　˞ベー [ka˞napaidoŋgu gju:ʧi˥ ʔaruju:ti ʔu˞nu˥ kaʤi ˥jumunti ˞be:](鍬などの農具 < 鍬道具 > が幾つあるのかと、その数を数えようとしている)。

カ˞シ˥ラ [ka˞ʃi˥ra] 【名】旗頭。のぼり (幟) の竿頭を飾る旗頭。「Fatagaxira、ハタガシラ (旗頭)『邦訳日葡辞書』」の転訛したもの。西村のカシラは女性を象徴するといわれ、鍬形 (花弁の象徴か) の中にめしべ (雌蕊) を象徴するような棒があり、その下に逆向きの剣 (がく < 萼 > の象徴か) が土台を形成する構造となっている。東村のカシラは男性を象徴し、形は西村のそれに似るが鍬形の中の棒が単調 (おしべ < 雄蕊 > の象徴か) である。西村のカシラには土台の下に左右一対の龍頭の枕があるのに対し、東村のカシラにはそれがない。西村のカシラの龍頭にはビンロウ樹の皮 < 繊維 > で鬚を作り頸のところにまきつけてある。旗竿は直径約 10 セン

チ、長さ約 2 メートルの竹竿で、豊年祈願の幟旗をかけてある。˞インヌムラヌ˞　カ˞シ˞ラー　ミ˞ドゥ˞ム　˞アンヌムラヌ˞　カ˞シ˞ラー　ビ˞キドゥムティ˞　ア˞ザリブー [˞ʔinnumuranu˞ kạ˞ʃi˞raː mi˞du˞mu ˞ʔannumuranu˞ kạ˞ʃi˞raː bi˞kidumu˞ti ʔa˞ʤaribuː](西村のカシラは女性、東村のカシラは男性といわれている)。

カ˞シ˞ラ　マ˞ラスン [kạ˞ʃi˞ra ma˞rasuŋ] 【連】旗頭を飾り立てる。「旗頭を新しく誕生させる」の義。ア˞ザテーヌ˞　イ˞チバンザー˞ヌ　˞トゥーシ˞ナーティ　カ˞シラ˞ヌ　˞イル　˞ヌーリ＜マ˞ミ＞ティカ˞シ˞ラ　マ˞ラソーッ˞タ [ʔa˞ʤateːnu˞ ʔi˞ʧibanʤaː˞nu ˞tuːʃi˞naːti kạ˞ʃira˞nu ˞ʔiru ˞nuːriti˞＜ma˞miti˞＞kạ˞ʃi˞ra ma˞rasoːt˞ta](東里家の一番座の縁側で旗頭の色を塗って新しい旗頭を誕生させられた)。

カ˞シラ˞ムチ [ka˞ʃira˞muʧi] 【名】旗頭持ち。豊年祭の旗頭を持つ人。強力の若者が選ばれて三、四人で交互に旗頭を持った。˞ヒーヤユイ˞サ　˞ヒーヤユイ˞サ [˞çiːjajui˞sa ˞çiːjajui˞sa] と掛け声を掛けながら上下に旗頭を振り上げて気勢を上げた。竿頭からは前後に縄が張られ、旗頭が倒れないように調整した。カ˞シラ˞ムチェー　シゥ˞カラヌ˞　アル　バ˞カー˞ムンドゥ　˞ナル˞ダー [ka˞ʃira˞muʧeː sɨ̥˞karanu˞ ʔaru ba˞kaː˞mundu naru˞daː](旗頭持ちは力のある若者がなるのだ)。

˞カシン [˞kasiŋ] 【名】(植) 木の名。和名、オキナワウラジロガシ。˞カシンキー [˞kaʃiŋkiː](樫) ともいう。古典民謡「鳩間中岡」では、ア˞ディン˞ガー [ʔa˞diŋ˞gaː] と歌われている。高木で高さ 20 メートルに達する。心材は赤褐色で材質は硬い。建築用材 (柱) に利用されたり、船の櫓や梶、櫂などの材料に利用された。˞パイタ˞ヌ　˞ヤマーラ　˞カシンキーバ　˞キシ　ン˞ザ˞ソーリ　ウ˞リ˞シル　トゥ˞ム˞ヤク　ス˞ク˞ローッタ [˞paita˞nu ˞jamaːra ˞kạ̊ʃiŋkiːba ˞kʲʃi ʔn˞ʤ˞asoːri ʔu˞ri˞ʃiru tu˞mu˞jaku sụ˞ku˞roːtta](西表島北岸＜南方端＞の山中から樫の木を伐り出されて、それで＜ぞ＞サバニのトゥムヤク＜舵取りの櫂。艫櫂＞を作られた)。

カ˞シン˞ガイ [ka˞ʃiŋ˞gai] 【名】かすがい (鎹)。「録、加須加比＜かすかひ＞」『新撰字鏡』の転訛したもの。建築用の材木や˞イダフニ [˞ʔidaɸuni](サバニ) の底板の合わせ目を繋ぎとめ、挽き鋸で挽いて接合部をきっちりと合わせるために打ち込む、両端の曲がった大釘。タ˞キフン [tạ˞kiɸuŋ](竹釘) や˞フン˞ドゥ [˞ɸun˞du](ちきりじめ＜滕締＞。木または石を接ぐために填め込むもの。両端が広く、中がくびれたもの) を打ち込む際に用いる。˞フー˞タイナ　カ˞シン˞ガイ　˞ウティ [˞ɸuː˞taina kạ˞ʃiŋ˞gai˞ʔuti](梁にかすがいを打ち込め)。

˞カシンキー [˞kạ̊ʃiŋkiː] 【名】(植) 木の名。オキナワウラジロガシ (ヤエヤマガシ)。高木で高さ 20 メートル以上に達する。成長が早く、50 年にして径 30 センチに達し、建築用材 (柱)、船舶材 (艪・櫂) に利用される『図鑑琉球列島有用樹木誌』。˞カシンキーシル　˞ヤー˞ヌ　˞パラーン　ス˞ク˞リ　˞ヤクン　カ˞ナパイヌ　ユイユン˞　ス˞ク˞ローッタ˞ダー [˞kạ̊ʃiŋkiːʃiru ˞jaː˞nu ˞paraːn sụ˞ku˞ri ˞jakuŋ ka˞napainu juijun˞ sụ˞ku˞roːtta˞daː](カシンキーで家の柱も作り、櫂も鍬の柄も作られたのだよ)。

カ˞ズイ˞ルン [ka˞ʤui˞ruŋ] 【他動・自動】数える。新しく標準語から借用された言葉。普通は˞ユムン [˞jumuŋ](数を数える) という。˞カジェー　˞ギューチ˞　アルユー　カ˞ズイラン˞カー　˞ダイヤー　サン˞ミン　サ˞ラヌ [˞kaʤeː ˞gjuːʧi˞ ʔaruju: ka˞ʤuiraŋ˞kaː ˞daija: sam˞min na˞ra˞nu](数はいくつあるのか数えないと値段は計算できない)。˞ワー˞　カ˞ズイ˞ルカー　˞バン˞ヌン　カ˞ズイ˞ルン [˞waː˞ ka˞ʤui˞ruka: ˞ban˞nuŋ ka˞ʤui˞ruŋ](君が数えたら私も数える)。ウ˞レー˞　カ˞ズイヤッ˞サン [ʔu˞reː˞ ka˞ʤuijas˞saŋ](それは数えやすい)。˞マー˞ビン　カ˞ズイ˞ヤー　˞ミサムヌ [˞maː˞biŋ ka˞ʤu˞ija: ˞misamunu](もっと数えればよいのに)。˞パー˞ク　カ˞ズイ˞リ [˞paː˞ku ka˞ʤui˞ri](早く数えなさい＜数えれ＞)。

˞ガスン [˞gasuŋ] 【他動】焙乾する。火で炙って乾燥する。燻製にする。蛸は茹でた後、生魚は鱗と内臓を除去して洗った後、アマダ [ʔa˞ma˞da](焙乾用金網) に載せて竈に架け、おき＜熾＞で焙って乾燥し、長期保存用の食品に加工した。イ˞ズ˞　ガスン [ʔi˞ʤu˞ gasuŋ](魚を焙って燻製にする)。ク˞ヌ˞　イ˞ゾー˞　ガ˞サン˞モー　マ˞シ [ku˞nu˞ ʔi˞ʤoː˞ ga˞sam˞moː ma˞ʃi](この魚は焙って燻製にしないほうがいい)。ク˞レー˞　ガ˞シ˞プサン [ku˞reː˞ ga˞ʃi˞pụ̊saŋ](これは焙って燻製にしたい)。ク˞ヌ˞　イ˞ズン˞　ガスクトゥ [ku˞nu˞ ʔi˞ʤu˞ gasukutu](この魚も焙って燻製にすること)。˞マー˞ビン　˞ガシェー　˞ミサムヌ [˞maː˞biŋ ˞gaʃeː ˞misamunu](もっと焙って燻製にすればよいのに)。イ˞ゾー　ヨーラン˞ケン　˞パー˞ク　˞ガシ [ʔi˞ʤoː joːraŋ˞kem ˞paː˞ku ˞gaʃi](魚は傷まない＜弱らない＞うちに早く焙って燻製にしなさい)。イ˞ズン˞　タクン　˞ガシティ　タ˞ブイ˞

シキバ [ʔiˬʤun˥ tạ̥kuŋ ˥gaʃi̥ti taˬbui˥ ʃi̥kiba](魚の蛸も焙乾して保存しておけよ)。アーˬイ˥　バーガˬサ˥ヌ [ʔaːˬi˥ baː gaˬsa˥nu](いやだ。私は焙乾しない)。イˬズ˥　ガスカー　˥タクン　˥ガスン [ʔiˬʤu˥ gasu̥kaː ˥tạ̥kuŋ ˥gasuŋ](魚を焙乾するなら蛸も焙乾する)。˥ガス　プˬソー˥　ブˬラーヌ [˥gasu pu̥ˬsoː˥ buˬraːnu](焙乾する人はいない)。イˬゾー˥　ガシェー　˥ミサムヌ [ʔiˬʤoː˥ gaʃeː ˥misamunu](魚は焙乾すればよいのに)。ˬパー˥ク　˥ガシ [ˬpaː˥ku ˥gaʃi](早く焙乾せよ)。

˥ガズン [˥gaʤuŋ] 【他動】1爪で掻く。爪または爪状のもので皮膚や物体の面をこする。˥シミシ　˥パダ　˥ガズン [˥ʃimiʃi ˥pada ˥gaʤuŋ](爪で肌を掻く)。ˬビー˥ヨー　ˬベー˥ティ　クˬシナカ˥　ガジ　ッˬふィーリ [ˬbiː˥joː ˬbeː˥ti ku̥ˬʃinaka˥ gaʤi fˬfiːri](痒いので背中を掻いてくれ)。˥シミシ　˥ガズカー　ˬワッ˥サバ　ガˬザ˥ヌ [˥ʃimiʃi ˥gaʤukaː ˬwas˥saba gaˬʤa˥nu](爪で掻いたら悪いので掻かない)。ガˬジ˥　プサカー　˥ドゥーシ　˥ガジバ [gaˬʤi˥ pu̥saka: ˥duːʃi ˥gaʤiba](掻きたければ自分で掻けよ)。˥ガズ　˥クトー　ナˬラ˥ヌ [˥gaʤu ˥ku̥to: naˬra˥nu](掻くことはならぬ＜掻いてはいけない＞)。ˬマー˥ビン　˥カジェー　˥ミサムヌ [ˬmaː˥biŋ ˥gaʤe: ˥misamunu](もっと掻けばよいのに)。˥ドゥー　˥ガズン [˥duː ˥gaʤuŋ](体を掻く)。ガˬザン˥カー　ˬノーリパヤー˥ン [gaˬʤaŋ ˥kaː ˬnoːri pajaː˥ŋ](掻かなければ治り易い)。ガˬジ˥　プサン [gaˬʤi˥ pusaŋ](掻きたい)。˥ガズ　˥ピンマー　ヤˬラビ [˥gaʤu ˥pimmaː jaˬrabi](掻くときは呼べ)。ˬパー˥ク　˥ガジェー　˥ミサムヌ [ˬpaː˥ku ˥gaʤe: ˥misamunu](早く掻けばよいのに)。ˬマー˥ビン　˥ガジ [ˬmaː˥biŋ ˥gaʤi](もっと掻け)。ガˬジフクラ˥スン [gaˬʤi ɸu̥kura˥suŋ](掻き腫らす)。クˬシナカ˥　ガズン [ku̥ˬʃinaka˥ gaʤuŋ](背中を掻く)。クˬシナカ˥　ガジ　ッˬふィーリ [ku̥ˬʃinaka˥ gaʤi fˬfiːri](背中を掻いてくれ)。アーˬイ˥　バー　ガˬザ˥ヌ [ʔaːˬi˥ baː gaˬʤa˥nu](いやだ。私は掻かない)。ˬワー˥　ガズカー　ˬバン˥ヌン　˥カズン [ˬwaː˥ gaʤukaː ˬban˥nuŋ ˥gaʤuŋ](君が掻いたら私も掻く)。˥ガズ　プˬソー˥　ブˬラーヌ [˥gaʤu pu̥ˬsoː˥ buˬraːnu](掻く人はいない)。ˬマー˥ビン　˥ガジェー　˥ミサムヌ [ˬmaː˥biŋ ˥gaʤe: ˥misamunu](もっと掻けばよいのに)。ˬパー˥ク　˥ガジ [ˬpaː˥ku ˥gaʤi](早く掻け)。2熊手などで掻き寄せる。道具で物の表面を削る。ˬマンズイ˥ヌ　˥タニ　˥ガジ　˥トゥリ [ˬmanʤuiˬnu ˥tani ˥gaʤi ˥turi](パパイアの種子を掻き取れ＜削り取れ＞)。

˥カソー [˥kḁsoː] 【名】火葬。ダˬビ [daˬbi](荼毘) ともいう。標準語からの借用語か。鳩間島では火葬は無かった。伝統的な葬儀では棺を埋葬にするか、または掘り抜き墓 (亀甲墓) に棺を納めて墓の入り口を密封する、一種の風葬にするかの二つの葬送法が採用された。死後三年以降に執り行われるアˬライクサイ [ʔaˬraikusaino](改葬) の際に火葬を執り行って骨甕に入れ、掘り抜き墓 (亀甲墓) の中に納めた。

カˬゾー˥サン [kaˬʤoː˥saŋ] 【形】風がやや強い。扇風機の強風程度の風が吹くさま。沖縄方言からの借用語か。海上の小船が警戒する程度の風が吹くさま。ˬキュー˥ヤ　カˬゾー˥サンダ　˥イダフネーラ　˥パンター　バˬタランモー˥　マˬシ˥ヨー [˥kjuː˥ja kaˬʤoː˥sanda ˥ʔidaɸuneːra ˥pantaː baˬtarammoː˥ maˬʃi ˥joː](今日は風がやや強いから板舟＜サバニ＞で南端＜西表島北岸の船浦、上原、久浦、伊武田、トゥマダ、ケーダ、ユシキダ、サキンダ＞へ渡らないほうがいいよ)。カˬゾーサー　ナー˥ヌ [kaˬʤoːsa naː˥nu](風は強くない)。ˬシンダイ˥　カˬゾーサ˥ナルン [ˬʃindai˥ kaˬʤoːsa˥ naruŋ](次第に風が強くなる)。カˬゾー˥サ　˥ピンマー　イˬソー　パン˥ナ [kaˬʤoː˥sa ˥pimmaː ʔiˬsoː pan˥na](風の強い日は漁に出るな)。カˬゾー˥サカー　ˬパン˥ナ [kaˬʤoː˥saka: ˬpan ˥na](風が強ければ行くな)。

カˬソーライシ [kaˬsoːraiʃi] 【名】笠石。テーブルサンゴ。カˬソーラ [kaˬsoːra](笠石) ともいう。笠の形をした、直径約 1〜1、5 メートル、厚さ 2〜3 センチの広い珊瑚石。フジマレー墓の屋根や側壁に利用したり、焼いて石灰を作るのに用いたりした。フˬジマレーヌ˥　パˬカー˥　カˬソーライシ˥シ　スˬクラ˥リ　カˬバサ˥リ　ブˬタ˥ダー [ɸuˬʤimareː˥nu pḁˬkaː ˥ kaˬsoːraʔiʃi˥ʃi su̥ˬkura˥ri kaˬbasa˥ri buˬta˥daː](フジマレーの墓はテーブルサンゴで作られ、屋根は被されていたよ)。ムˬカ˥シパカー　ˬグス˥ク　シˬミティ˥　カˬソーライシ˥シ　カˬバサ˥リ　ブˬタ˥ダー [muˬkaˬʃipḁka: ˬgusu̥˥ku ʃiˬmiti˥ kḁˬsoːraʔiʃi˥ʃi kaˬbasa˥ri buˬta˥daː](昔墓＜古墓＞は石垣を積んで、テーブル珊瑚で覆い被されていたのだよ)。

カˬタ [kḁˬta] 【名】1型。形。ˬフン˥ドゥ　スˬクˬル　˥ピンマー　カˬタ˥　トゥリティ　スˬク˥リバ [ˬɸun˥du su̥ˬku˥ru ˥pimmaː kḁˬta˥ turiti su̥ˬku˥riba](サバニのちきり締め＜フンドゥ＞を作るときは形を写し取って作れよ)。パˬトゥ˥マナカムリヌ　ブˬドゥルヌ

˺　カ˹ター　バスクナ˺ヨー [pḁ˹tu˺manakamurinu bu˹durunu˺ kḁ˹ta: basṳkuna˺jo:](鳩間中岡節の踊りの型は忘れるなよ)。˹フンドゥ˺ヌ　カ˹ター˺　カ˹ザケーヌ　ヤー˺バン˹ダー [˹ɸundu:˺nu kḁ˹ta:˺ ka˹ʥake:nu ja:˺ban˹da:](ちきりじめ＜滕締め＞の型は加治工家の家判＜家紋＞だよ)。2絵。˹イーカタ [˹ʔi:kata](絵)、カ˹タ [kḁ˹ta](絵) ともいう。プ˹スヌ˺　カ˹タ˺　カクン [pṳ˹sunu˺ kḁ˹ta˺ kḁkuŋ](人の絵を描く)。デザイン。˹ヌーヌ˺ナ　トゥ˹ルヌ˺　カ˹タ˺　ウ˹ルン [˹nu:nu˺na tu˹runu˺ kḁ˹ta˺ ʔu˹ruŋ](布に鳥の形＜模様＞を織る)。

カ˹タ [kḁ˹ta] 【名】 1方。方向。˹マー˺ヌ　カ˹ター˺＜˺トン＞　パ˹ラバ˺ル　イ˹ゾー　ホーサ˺リカヤー [˹ma:˺nu kḁ˹ta:˺ ＜˺tom＞ pa˹raba˺ru ʔi˹ʥo: ho:sa ˺rikaja:˺](どこの方角へいったほうが魚は釣れるのかなあ)。˺アブジェー　˹マー˺ヌ　カ˹タ˺ナール　ビ˹リオール˺ワ [˺ʔabuʤe: ˹ma:˺nu kḁ˹ta˺na:ru bi˹riʔo:ru˺wa](お祖父さんは何処の方に座っておられるのですか)。2所。場所。˹マー˺ヌ　カ˹タナー˺ル＜˺トンナール＞　カ˹ザム˺タ [˹ma:˺nu kḁ˹tana:˺ru ＜˺tonna:ru＞ ka˹ʥamu˺ta](何処の所に隠したのか)。3味方。自分の側。助勢。˹タンガ˺ヌ　カ˹タ˺　カー˹ニ˺ニ　シュクカー　カ˹タ˺ピキ　˹スン⊦ダー [˹taŋga ˺nu kḁ˹ta˺ ka:˹ni˺ni sḭkuka: kḁ˹ta˺pḭki ˹sun⊦da:](一人の方、片一方にだけ味方すると＜付くと＞、片一方にひいき＜かた贔屓＞する事になるぞ)。ひいき (贔屓)。ウ˹レー　ドゥー˺ヌ　ッ˹ふァヌ˺　カ˹タ˺　カー˹ニル˺　スク [ʔu˹re: du:˺nu f˹fanu˺ kḁ˹ta˺ ka:˹niru˺ sṳku](彼＜それ＞は自分の子の味方だけにつく＜贔屓する＞)。4仕方。方法。動詞の連用形に下接する。シ˹グトゥヌ　シーカタ˺　ナ˹ラー˺スン [ʃi˹gutunu ʃi:kata˺ na˹ra:˺suŋ](仕事の仕方を教える)。

˺カタ [˺kḁta] 【名】肩。カ˹タ˺ヌ　˹コー˺リティ　˺ティー　ア˹ギララン˺カー　˹ブー˺ブー　トゥ˹ラ˺シ˹ミー [kḁ˹ta˺nu ˹ko:˺riti ˺ti: ʔa˹giraraŋ˺ka: ˹bu:˺bu: tu˹ra˺ʃi˹mi:](肩が凝って手をあげることが出来なければ瀉血(シャケツ)をして＜血を採らせて＞ごらんよ)。˹ンーマガー˺タ　˹スン [˹ʔm:maga:˺ta ˹suŋ](肩車をする)。

カ˹タ- [kḁ˹ta-] 【接頭】1名詞の前に付いて後接名詞を連体修飾し、「片一方の」。「対のものの一方の」の意を表す。カ˹タ˺ウヤ [kḁ˹ta˺ʔuja](片親)。カ˹タ˺グー [kḁ˹ta˺gu:](一対の片方)。カ˹タスブ˺ル [kḁ˹tasubu˺ru](片頭、偏頭痛)。カ˹タ˺ドゥー [kḁ˹ta˺du:](片胴、半身＜不随＞)。カ˹タ˺ティー [kḁ˹ta˺ti:](片手)。カ˹タ˺パー [kḁ˹ta˺pa:](片刃)。カ˹タ˺バリ [kḁ˹ta˺bari](片割れ)。カ˹タ˺パン [kḁ˹ta˺paŋ](片足)。カ˹タ˺ピサ [kḁ˹ta ˺pisa](魚の片身、屋根の片平＜斜面＞)。カ˹タ˺プー [kḁ˹ta˺pu:](片帆)。カ˹タ˺ミー [kḁ˹ta˺mi:](片目)。2半分。中途半端。カ˹タ˺シキ [kḁ˹ta˺ʃḭki](半分聞き)。プ˹スヌ˺　ム˹ニ˺バ　カ˹タ˺シキ　シ˹ティル　クン˺ゾー　ウ˹ク˺レーティ　˹アー˺ク [pu˹sunu˺ mu˹ni˺ba kḁ˹ta˺ʃḭki ʃḭ˹tiru kun˺ʥo: ʔu˹ku˺re:ti ˹ʔa:˺ku](人の話を中途半端に聞いて立腹している)。

˺カタ [˺kḁta] 【名】(動) イナゴ (蝗、稲子)。バッタ科の昆虫の総称。稲の害虫で稲の葉を食い荒らす。カ˹タ˺ヌ　˺シディ　˹バイティル　マイヌ　パーヤ˺　ムー˹ル˺　ッ˹ふァーリ　ナーン˺ツォー [kḁ˹ta˺nu ˺ʃidi ˹baitiru mainu pa:ja˺ mu:˹ru˺ f˹fa:rina:n˺ʦo:](イナゴが異常に発生＜孵化し、湧き出して＞して稲の葉は全部喰われてしまったそうだ)。

˺-ガタ [˺-gata] 【接尾】人に付けて敬意を含む複数を表す。方。方々。ウ˹ヤ˺ガタ [ʔu˹ja˺gata](長老様方。年寄りの方々)。トゥ˹シ˺ヌ　˺ウヤガターラ　˺グシ　カ˹モー˺リ [tṳ˹ʃi˺nu ˺ʔujagata:ra ˺guʃi ka˹mo:˺ri](長老様方から神前の神酒を頂戴されてください)。˺シザガタ [˺ʃiʥagata](年寄り。年輩者の方々)。ク˹リヤ　クヌムラ˺　トゥ˹シヌ　シザガタ˺　ワン˹ドゥ˺　ダヤビル [ku˹rija kunumura˺ tṳ˹ʃinu ʃiʥagata ˺ wan˹du˺ dajabiru](これなるは、この村の年寄り格の私でございます)「ザーピラキ」『鳩間島古典民謡古謡集』。これは首里方言であろう。

˺-ガタ [˺-gata] 【接尾】ころ (頃)。時分。時期。時刻を表す特定の名詞や動詞の連用形に格助詞ン [ŋ](の) を介して接続する。˺ユネンガタ [˺juneŋgata](夕方。夕刻時分)。ア˹カシキン˺ガタ [ʔa˹kaʃḭkiŋ˺gata](暁の頃。暁の時刻)。ナ˹シン˺ガタ [na˹ʃiŋ˺gata](産みそうな時刻。頃合い)。マ˹リンガタ [ma˹riŋgata](生まれる時刻。生まれそうな頃合)。シ˹ニンガタ [ʃi˹niŋgata](死にそうな時刻。状態)。˹サーリンガタ [˹sa:riŋgata](結婚しそうな時分。連合い＜配偶者＞を求める年頃)。ユ˹メー˺　ナ˹シン˺ガタ　ナ˹リ˺ブバン [ju˹me:˺ na˹ʃiŋ˺gata na˹ri˺bubaŋ](嫁は子供を産みそうな頃合になっているわい)。サ˹ク˺シェー　トゥ˹ジ　サーリンガタ˺　ナ˹リ˺ブ [sḁ˹ku˺ʃe: tu˹ʤi sa:riŋgata˺ na˹ri˺bu](長男は妻帯する年頃になっている)。˺ユネンガターラ　˹ヨイ˺ヤー　パ˹ジマリ　ブー [˺juneŋgata:ra ˹joi˺ja: pa˹ʤimari bu:](夕方頃からお祝いは始まっている)。

カ˹ターカター˺シ [kḁ˹ta:kata:˺ʃi] 【副】濃く。濃いさ

ま。渋く。渋いさま。˞サー˞ヤ　カ˞ターカター˞シ　イ˞リ˞　ッ˞ふィーリ [˞saː˞ja kạ˞taːkat˞ʃi ʔi˞riffiːri](お茶は濃く注いで＜入れて＞くれ)。カ˞ターカター˞シ　˞サウ˞カー　˞ミーコー˞ルン˞ダー [kạ˞taːkata˞ʃi ˞sau˞kaː ˞miːko˞run˞daː](＜茶を＞濃ゆく注ぐと目が冴えて眠れなくなるぞ)。

カ˞ター˞ン [kạ˞taː˞ŋ] 【形】1色が濃い。液体の濃度が濃い。濃い。お茶が濃い。茶が渋い。˞ワー　サウ　サー˞ヤ　˞チャー˞　カ˞ーントダー　[˞waː sau saː˞ja ˞ʧaː˞ kạ˞taːnˡdaː](君が注ぐお茶はいつも濃いよ)。˞ユー˞ロー　カ˞タサー˞　ヌ˞ムˡナ [˞juː˞roː kạ˞taːsaː˞ nu˞mu˞na](夜は、濃い茶は飲むな)。˞サー˞ヌ　カ˞ター˞カー　ヌ˞マラ˞ヌ [˞saː˞nu kạ˞taː˞kaː nu ˞mara˞nu](茶が濃いと飲めない)。ク˞ヌ˞　ア˞ガイロー˞　カ˞ター˞ン [ku˞nu˞ ʔa˞gairoː˞ kạ˞taː˞ŋ](この赤色は濃い)。ク˞ヌ　サー˞ヤ　˞ナン˞ゾー　カ˞ター　ナー˞ヌ [ku˞nu saː˞ja ˞nan˞ʤoː kạ˞taː naː˞nu](この茶はあまり濃くない)。カ˞ター˞ヌ　ヌ˞マラ˞ヌ [kạ˞taː˞nu nu˞mara˞nu](濃くて飲めない)。ク˞ヌ　サー˞ヤ　カ˞ターン˞ツォー [ku˞nu saː˞ja kạ˞taːn˞ʦoː](この茶は濃いそうだ)。カ˞ター˞　ムノー　ヌ˞ムˡナ [kạ˞taː˞ munoː nu˞mu˞na](濃いものは飲むな)。˞マー　ン˞メーマ˞　カ˞ター˞カー　˞ミサムヌ [˞maː ʔm ˞meːma˞ kạ˞taː˞kaː ˞misamunu](もう少し濃ければよいのに)。2細かい。密である。˞ナーンパー˞ヤ　˞ドゥク　カ˞ター˞　マクカー　サ˞カラヌ [˞naːmpaː˞ja ˞duku kạ˞taː˞ makukaː sạ˞karanu](菜っ葉＜菜っ葉の種＞はあんまり密に蒔くと茂らない)。

カ˞タ˞アミ [kạ˞ta˞ʔami] 【名】1片降り。そばえ。夏の雨が片方だけに降ること。かたしぐれ (片時雨)。カ˞タ˞フイ [kạ˞ta˞ɸui](片降り) ともいいう。˞キン˞バ　ア˞ライ˞　プシ　˞シケーンケンマー　カ˞タアミ˞ヌ　˞フイティ　カ˞タン˞トンマー　˞ゾッふァシナー˞ヌ [˞kim˞ba˞ ʔa˞rai˞ pụʃi ˞ʃịkeːŋkemmaː kạ˞taʔami˞ nu ˞ɸuiti kạ˞tan˞tommaː ˞ʤoffaʃinaː˞nu](着物を洗って干しておいたところ、片降りし＜片雨が降っ＞て、片方は濡らしてしまった)。ナ˞チヌ˞　カ˞タ˞アメー　ウ˞シヌ˞　カ˞タ˞シヌ　˞ゾーラスン [na˞ʧinu˞ kạ˞ta˞ʔame: ʔu˞ʃinu˞ kạ˞ta˞ʃinu ˞ʤoːrasuŋ](夏の片降り＜そばえ＞は牛の片角をぬらす)。2えこひいき (依枯贔屓)。片一方のひいき (贔屓) をする (比喩的用法)。˞アイニ　カ˞タ˞アミ　˞ホーサン˞　ブ˞リ˞バ [˞ʔaini kạ˞ta˞ʔami ˞hoːsam˞ bu˞ri˞ba](あんなに片雨を降らさないでよ＜片方に贔屓をするなよ＞)。

カ˞タイッ˞ポー [kạ˞taʔip˞poː] 【名】片一方。片方。カ˞タ　イッポー˞ヤ　˞ワー　タンガ˞シ　˞イー˞リバ [kạ˞taʔippoː˞ja ˞waː taŋga˞ʃi ˞ʔiː˞riba](片一方は君一人で貰えよ)。

カ˞タ˞ウディ [kạ˞ta˞ʔudi] 【名】片腕。カ˞タ˞ウディシェー　ッ˞ふァバ˞　ダ˞キ˞　カ˞タ˞ウディシェー　˞オンギ˞ドゥル　˞シェー˞ティル　シゥ˞カ˞ナイ　フ˞ドゥバソーッ˞タ [kạ˞ta˞ʔudiʃeː f˞faba˞ da˞ki˞ kạ˞ta˞ʔudiʃeː ˞ʔoŋgi˞duru ˞ʃeː˞tiru sị˞ka˞nai ɸu˞dubasoːt˞ta](片腕では子供を抱き、片腕では扇いで寝せつけて養い育てられた)。

カ˞タ˞ウムイ [kạ˞ta˞ʔumui] 【名】片思い。トゥ˞シ˞グル　˞ナッ˞ター　ミ˞ドーン˞ッふァヌ　ク˞トゥ˞バ　ナー˞イ˞カ˞タ˞ウムイ　˞シー˞　ダリティ　シ˞グトゥンツァン　シーユーサヌ [tụ˞ʃi˞guru ˞nat˞taː mi˞doːn˞ffanu kụ˞tu˞ba naː˞i˞ kạ˞ta˞ʔumui ˞ʃiː˞ dariti ʃi˞gutuntsaŋ ʃiːjuːsanu](年頃になったので、女の子のことをずっと片思いして、生気を失って＜だれて＞仕事さえも出来ない＜仕事さえもし得ない＞)。

カ˞タ˞ウヤ [kạ˞ta˞ʔuja] 【名】ビ˞ケーヌ˞ウヤー　˞パイ˞サ　˞マーラシター˞　カ˞タ˞ウヤ　˞タンガ˞シ　シゥ˞カ˞ナイ　フ˞ドゥバソー˞レー˞ダー [bi˞keːnu˞ ʔujaː ˞paiˡsa ˞maːraʃịtaː˞ kạ˞ta˞ʔuja ˞taŋga˞ʃi sị˞ka˞nai ɸu˞dubasoː˞reː˞daː](男の親は早くに亡くなったので、片親だけで養い成長させられたのだよ)。

カ˞タ˞カ [kạ˞ta˞ka] 【名】1かげ (陰)。物陰。日光、雨、風を避ける物陰。ティ˞ダ˞ヌ　カ˞タ˞カ [ti˞da˞nu kạ˞ta˞ka](太陽の陰。日蔭。日光の当たらない所)。ア˞ミ˞ヌ　カ˞タ˞カ　˞スンティ˞　シ˞ラ˞ナー　トゥ˞マー˞　カキシケー [ʔa˞mi˞nu kạ˞ta˞ka ˞sunti˞ ʃi˞ra˞naː tu˞maː˞ kạkiʃịkeː](雨を防ぐために、いなむら＜稲叢＞に苫をかけてある)。フ˞クンキーヤ˞　カ˞ジヌ˞　カ˞タ˞カティル　イ˞ボーッ˞タ [ɸụ˞kuŋkiːja˞ ka˞ʤinu˞ kạ˞ta˞katiru ʔi˞boːt˞ta](福木は防風林＜台風除け＞として植えられた)。ティ˞ダ˞ヌ　カ˞タ˞カ [ti˞da˞nu kạ˞ta˞ka](日除け)。ア˞ミ˞ヌ　カ˞タ˞カ [ʔa ˞mi˞nu kạ˞ta˞ka](雨よけ)。カ˞ジヌ˞　カ˞タ˞カ [ka˞ʤinu˞ kạ˞ta˞ka](風除け)。2庇うこと。擁護。庇護。˞アイブ　ヤ˞ビ˞ムヌ　ヤ˞ルンドゥ˞　ウヤー　ッ˞ふァヌ˞　カ˞タ˞カ　˞スンティ　シール˞　キ˞ムイ˞ツァー　プ˞スカージ˞ラ　イ˞ザリオー˞ル [˞ʔaibu ja˞ bi˞munu ja˞rundu˞ ʔuja: f˞fanu˞ kạ˞ta˞ka ˞sunti ʃiːru˞ ki˞muiˡtsaː pụ˞sukaːʤi˞ra ʔi˞ʤariʔoː˞ru](あんな不良児であるが、親は子供の擁護をしようとして、可哀相に多くの人から叱られておられる)。ッ˞ふァヌ

˥ カ˩タ˥カー ウ˩ヤ˥ヌ ス˩クブン [fˈfanu˥ kạ˩ta˥ ka: ʔu˩ja˥nu sụ˩kubuŋ](子供の庇護は親の義務＜職分＞だ)。

カ˩ダ˥カ [ka˩da˥ka] 【名】これほどの高さ。˩ヤー˥ヌ ˥シンタナー カ˩ダ˥カブカラヌ フ˩ナブ˥ヌ ˥ムイ ブ˩タン [˩ja:˥nu ˥ʃintana: ka˩da˥kabukaranu ɸu˩nabu˥nu ˥mui bu˩taŋ](家の後ろにこれほどの高さの蜜柑＜九年母＞の木が生えていた)。˩オーパ˥ヤー カ˩ダ˥カ フ˩ドゥベー˥ツバン˩ナー [˩ʔo:pa ˥ja: ka˩da˥ka ɸu˩dube:˥tsuban˩na:](もうすでに、これほどの高さに成長してしまったんだねえ)。カ˩ダカ˥ヌ ˥ムノー ˩カーラヌ [ka˩daka˥nu ˥muno: ˩ka:ranu](こんなに値段の高いもの＜高価なもの＞は買えない＜買われない＞)。

カ˩タカシ [kạ˩takaʃi] 【名】(動) 魚の名。和名ヒメジ。ミナミヒメジ (イジヤンカタカシ。体長約 25 センチ)。インドヒメジ (アーマンカタカシ)。オウゴンヒメジ (ジンバー。体長約 25 センチ)。マルクチヒメジ (ジンバー。体長約 25 センチ)。コバンヒメジ (ジンバー。体長約 35 センチ)。ホウライヒメジ (ジンバー。体長約 30 センチ)。和名、モンツキアカヒメジ (体長約 30 センチ)『原色沖縄の魚』などがいる。カ˩タカセー˥ ナ˩マ˥シ ˩スー˥カー ン˩マーナー˥ヌヌ ガ˩シ˥イズ ˥ナスカー ン˩マー˥ナルン [kạ˩takaʃe:˥ na˩ma˥ʃi ˩su:˥ka: ʔm˩ma:na:˥nunu ga˩ʃi˥ʔidʑu ˥nasuka: ʔm˩ma:˥ŋ](ヒメジ＜カタカシ＞は刺身にすると美味しくないが、炙って燻製魚にすると＜焙乾すると＞美味しくなる)。鳩間島では、陸上のトカゲ (蜥蜴) が海にはいって、カタカシ魚になったという口碑がある。

カ˩タカシ˥ラ [kạ˩takaʃi˥ra] 【名】琉球国時代の成人男子の髪型の一つ。「欹髻。もとどり」、元は頭の右辺に結び、後には中央に結ぶようになった。貴族は 15 歳で、一般は 10 歳内外で結った『沖縄語辞典』。パ˩トゥ˥マナー ˩ガッ˥コー ス˩クローッタ ˥バス ˩シー˥トゥンケーヌ カ˩タカシ˥ラ キ˩サ˥スンティ ˩スー ソードーヌ アッ˥タンツォー [pạ˩tu˥mana: ˩gak˥ko: sụ˩ku˥ro:tta ˥basu ˩ʃi:˥tuŋke:nu kạ˩takaʃi˥ra kị˩sa˥sunti ˩su: so:do:nu ʔat˥tantso:](鳩間島で学校を作られた＜創立された＞とき、生徒達の琉球結髪を断髪＜切らせ＞させようとする騒動があったそうだよ)。

カ˩タ˥カ ˩スン [kạ˩ta˥ka ˩suŋ] 【連】1庇う。物陰を作る。˩ユシ˥キシダルバ ˥タティティ ティ˩ダ˥ヌ カ˩タ˥カ ˩スンティ ベー [˩juʃị˥kiʃidaruba ˥tạtiti ti˩da˥nu kạ˩ta˥ka ˩sunti be:](すすき簾を立てて太陽光線を遮る物陰にしようとしている)。2擁護する。庇う。贔屓する。ナ˩ラー˥スンティ ッ˩ふァ˥ イ˩ズ˥カー ˥ウヤー ッ˩ふァヌ˥ カ˩タカ˥ル ˩ソー˥ル [na˩ra:˥sunti fˈfa˥ ʔi˩dʑu˥ka: ˥ʔuja: fˈfanu˥ kạ˩taka ˥ru ˩so:˥ru](躾けよう＜教えよう＞として子供を叱ると、親は子供の擁護をされる)。˩ドゥー˥ヌ ッ˩ふァヌ˥ カ˩タ˥カ カー˩ニル ソー˥ル [˩du:˥nu f ˩fanu˥ kạ˩ta˥ka ka:˩niru so:˥ru](自分の子の擁護(ヨウゴ)＜贔屓(ヒイキ)＞ばかりなさる)。

カ˩タ˥カタ [kạ˩ta˥kata] 【名】片方の肩。˩ニーリヌ˥ カ˩タ˥カタナ カー˩ニ アイ˥コー ア˩タルンダ ニーリカター˥ ヤ˩ミ˥ス [˩ni:rinu˥ kạ˩ta˥katana ka: ˩ni ʔai˥ko: ʔa˩tarunda ni:rikata:˥ ja˩mi˥su](右の片方の肩にだけ天秤棒＜担い棒＞が当たるので、右肩は痛むよ)。

ガ˩タガタ [ga˩tagata] 【副】1擬態語。がたがた。恐怖や寒さで震えるさま。˩ウンザン˥ ウ˩バーサリティ˥ ベーシ˩ティ˥ ウ˩ダラ˥キティ ガ˩タガタ˥シ ˩フッツォーリ ベー˥タ [˩ʔundʑaŋ˥ ʔu˩ba:sariti˥ be:ʃị˩ti˥ ʔu˩dara˥kiti ga˩tagata˥ʃi ˩ɸuttso:ri be:˥ta](あいつに驚かされて、非常に驚い＜びっくり仰天し＞てガタガタ震えていたよ)。2擬音語。がたがた。カ˩ジヌ スール˥タ ˥ヤドー ガ˩タガタ˥シ ˩ナーリティ˥ カ˩サマサ˥ヌ ニ˩バラヌ [ka˩dʒinu su:ru˥ta: ˥jado: ga˩tagata˥ʃi ˩na:riti˥ kạ˩samasa˥nu ni ˩baranu](風が強くなったので戸がガタガタと音をたてて＜鳴って＞うるさくて＜姦しくて＞眠れない)。

カ˩タ˥カドゥ [kạ˩ta˥kadu] 【名】一角。片隅。一部分。「片角」の義。˩ヤー˥ヌ カ˩クヌ˥ カ˩タ˥カドゥナー ブ˩サー˥ラ フ˩クンキーヌ˥ ムイ˩ベー˥タン [˩ja:˥nu kạ˩kunu˥ kạ˩ta˥kaduna: bu˩sa:˥ra ɸụ˩kuŋki:nu ˥mui˩be:˥taŋ](屋敷の一角に大きな福木が生えていた)。˩ナーブク˥ヌ カ˩タ˥カドゥナー ス˩ルッ˥ティ イ˩リシキ˥リバ [˩na:buku˥nu kạ˩ta˥kaduna: su˩rut˥ti ʔi˩riʃị˥ki˥riba](縄箱の片隅にそっと入れておけよ)。

カ˩ダカ˥ナー [ka˩daka˥na:] 【連】こんなに高く。カ˩ダカ˥ナー ˩スー モー カーラヌ [ka˩daka˥na: ˩su:mo: ka:ranu](こんなに高い値段のする物＜高価なもの＞は買えない＜買われない＞)。ア˩ダカ˥ナーヌ ˥ヤマーラル ˩キャーンギキーヤ˥ キシ ン˩ザ˥ソールツォー [ʔa˩daka˥na:nu ˥jama:raru ˩kja:ŋgiki:ja˥ kị˩ʃi ʔn˩dʑa˥so:rutso:](あんなに高い山か

ら槇の木は伐り出されるそうだ)。

カ˞タ˜キ [kạ˞ta˜ki] 【名】1かたき (敵)。仇敵。˜ヌンティル　ヤ˞ル˜ユー　ウ˞リバ˜　カ˞タ˜キティ　˞シー˜　アイニ　˞ニッふァムヌ　スートツォー [˜nuntiru ja˞ru˜ju: ʔu˞riba˜ kạ˞ta˜kiti ˞ʃi:˜ ʔaini ˞niffamunu su:ɦtso:](どういう訳か、その人を敵といって、あんなに忌み嫌い＜憎らしいものに＞するんだよ)。2禁止事項。ヤ˞ミ˜プソー　サ˞キル˜　カ˞タ˜キ [ja˞mi˜pụso: sạ˞kiru˜ kạ˞ta˜ki](病人には酒が厳禁＜飲酒が禁止事項。敵＞だ)。

カ˞タキ˜ウチ [kạ˞taki˜ʔutʃi] 【名】敵討。あだうち (仇討ち) をすること。沖縄芝居などからの借用語。シ˞バヤーヌ˜　カ˞タキウチ˜ヌ　パ˞ナ˜シ　ウ˞ムッ˜サタン [ʃi˞baja:nu˜ kạ˞takiʔutʃi˜nu pa˞na˜ʃi ʔu˞mus˜ sataŋ](芝居の敵討の話＜物語＞が面白かった)。

カ˞タ˜キシ [kạ˞ta˜kị̥ʃi] 【名】着物の偏った着方。調和の取れない着方。「片着」の義。˞ワー　キン˜マー　カ˞タ˜キシ　˜ナリティ　˞ホー˜ロー　˜キシ　˞ミッ˜トー　˞ナー˜ヌ [˞wa: kim˜ma: kạ˞ta˜kị̥ʃi ˜nariti ˞ho:˜ro: kị̥ʃi ˞mit˜to: ˞na:˜nu](君の着物は調和のない偏った着方で、常識はずれで＜思慮分別に欠けて＞見るに耐えない)。

カ˞タ˜キシ [kạ˞ta˜kị̥ʃi] 【名】一片。一切れ。切断した一片。切れ端。「片切れ」の義。破砕したものは、カ˞タ˜バリ [ka˞ta˜bari](片割れ) という。半切れ。畑などのプ˞スフン˜キル [pụ˞suɸuŋ˜kiru](一区画) の半分。ウ˞ブマイ˜ヌ　パ˞タキ˜ヌ　カ˞タ˜キシナー　シ˞ビラ˜　イ˞ビ˜　シケー [ʔu˞bumai˜nu pạ˞taki˜nu kạ˞ta˜kị̥ʃina: ʃi˞bira˜ ʔi˞bi˜ ʃị̥ke:](大前の畑の半切れにネギ＜葱＞を植えてある)。ス˞ビ˜ヌ　カ˞タ˜キシェー　ナ˞マ˜シ　˜キシバ [su˞bi˜nu kạ˞ta˜kiʃe: na˞ma˜ʃi ˜kị̥ʃiba](鮪の身の一切れは刺身に切れよ)。イ˞ツァ˜ヌ　カ˞タ˜キシ [ʔi˞tsa˜nu kạ˞ta˜kị̥ʃi](板の切れ端)。

カ˞タ˜キム [kạ˞ta˜kimu] 【名】一方の心。心の片方。心の片隅。心のどこか。全身からそう思うのではなく、心の片隅に別の思いがあること。「片肝」の義。˜シキンナー　ウ˞カ˜レーンティ　シ˞キティ˜　カ˞タ˜キモー　サ˞ニ˜ヤン　ア˞リ˜ブンドゥ　カ˞タ˜キモー　˞ジン˜ヌ　˞ソール˜　シ˞ラリトツォー [˜ʃị̥kinna: ʔu˞ka˜re:nti ʃị̥˞kiti˜ kạ˞ta˜kimo: sa˞ni˜jaŋ ʔa˞ri˜bundu kạ˞ta˜kimo: ˞ɕin˜nu ˞so:ru˜ ʃi˞rariɦtso:](試験に合格した＜受かった＞と聞いて嬉しい一方＜一方の心では嬉しくはあるが＞、片方の心ではお金の心配がされるんですよ)。

カ˞タ˜グー [kạ˞ta˜gu:] 【名】片方。一対のものの片方。揃いのものの片割れ。「片具」の義か。ア˞チツァ˜ヌ＜ア˞シツァ˜ヌ＞　カ˞タ˜グー [ʔa˞tʃitsa˜nu＜ʔa˞ʃitsa˜nu＞ kạ˞ta˜gu:](一足の下駄の片方)。

カ˞タグーパン˜チ [kạ˞tagu:pan˜tʃi] 【名】片方はずれ。一足の履物の片方が揃わないもの。カ˞タグーパンツァー˜リ [kạ˞tagu:pantsa:˜ri](片具はずれ)。ア˞チ˜ツァー　カ˞タグーパン˜チ　ナリ˞ナー˜ヌ [ʔa˞tʃi˜tsa: kạ˞tagu:pan˜tʃi nari˞na:˜nu](下駄は不揃い＜片具はずれ＞になってしまった)。

カ˞タグーマン˜ツァー [kạ˞tagu:man˜tsa:] 【名】不揃いの物。一対の揃いの一組が不揃いになっているもの。男物の下駄や女物の下駄などが混ぜこぜになって不揃いであること。若年層は、カ˞タグーマン˜チャー [katagu:mantʃa:] という。˞ワー˜　ア˞シ˜ツァー　カ˞タグーマン˜ツァー　˜ナリ　˞ベー [˞wa:˜ ʔa˞ʃi˜tsa: kạ˞tagu:man˜tsa: ˜nari ˞be:](君の下駄は不揃い＜片具交じり＞になっている)。

カ˞タクトゥ˜ムニ [kạ˞takutu˜muni] 【名】片言。不完全な、たどたどしい言葉遣い。ク˞バ˜ムニ [ku˞ba˜muni](片言) ともいう。ウ˞キナー˜ムニ　パ˞ナ˜シ　˞ベーン˜ドゥ　カ˞タクトゥ˜ムニ　ヤ˞ルンダ˜　バ˞カヤ˜ヌ　ナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞kina:˜muni pa˞na˜ʃi ˞be:n˜du kạ˞takutu˜ muni ja˞runda˜ ba˞kaja˜nu na˞ra˜nu](沖縄言葉を話しているが、片言＜たどたどしい言葉遣い＞だから、恥ずかしくて堪らない)。

カ˞タクリ [kạ˞takuri] 【名】片栗粉。カ˞タクリクー [kạ˞takuriku:](片栗粉) ともいう。老人達は、片栗粉をお湯に溶かして黒糖を削って入れて飲んでいた。カ˞タクリ˜　ユーナ　˜タリティ　ヌ˞マ˜シバ [kạ˞takuri˜ ju:na ˜tariti nu˞ma˜ʃiba](片栗粉をお湯に溶かして飲ませなさいよ)。

カ˞タサー [kạ˞tasa:] 【名】濃い茶。ッ˞ス˜サー [s˞su˜sa:](薄い茶。出涸らしの茶。「白茶」の義) の対義語。˜ユネンラ　カ˞タサーバ˜　ヌムカー　˞ミー˜ヤ　˞コー˜リティ　ニ˞バラン˜　ナルン˞ダー [˜junenra kạ˞tasa:ba˜ numuka: ˞mi:˜ja ˞ko:˜riti ni˞baran˜ narun ˞da:](夕方から濃い茶を飲むと目が冴えて眠れなくなるぞ)。

カ˞タ˜シキ [kạ˞ta˜ʃị̥ki] 【名】肩当て。ノー˞ンナー˜カシ　カ˞タ˜シキ　˞サン˜カー　カ˞タ˜ヌ　˜カー　˜パギティ　˜ニー　カ˞タマラ˜ヌ [no:˞nna:˜kaʃi kạ˞ta˜ʃị̥ki ˞saŋ˜ka: kạ˞ta˜nu ˜ka: ˜pagiti ˜ni: kạ˞tamara˜nu](何かで肩当しないと肩の皮が剥げて荷物を担ぐことが出来ない＜担がれない＞)。

カ˩タ˥シキ **[kạ˩ta˥ʃi̥ki]** 【名】型付け。型を付けて模様を描くこと。カ˩タ˥シキキンティ　˩スーモー˥　キ˩シミラン˥シェン [kạ˩ta˥ʃi̥kikinti ˩su:mo:˥ ki̥˩ʃimiraŋ ˥ʃeŋ](型で模様を描いた着物＜型付け着物＞というものは着たことがなかった＜着てみなかった＞)。

カ˩タ˥　シ˩キ˥ルン **[kạ˩ta˥ ʃi̥˩ki˥ruŋ]** 【連】味方する。くみ (与) する。加勢する。贔屓する。カ˩タ˥　スクン [kạ˩ta˥ su̥kuŋ](贔屓する) ともいう。ドゥ˩シヌ˥　カ˩タ˥　シ˩キ˥ルンティ　˩アー˥キ　˥ウヤン　ス˩ズーコ˥　イ˩ザレー˥ン [du˩ʃinu˥ kạ˩ta˥ ʃi̥˩ki˥runti ˩ʔa:˥ki ˥ʔujan su˩ʤu:ko˥ ʔi˩ʤare:n˥da:](友人の味方をしようとして、親にしたたか＜強か＞に叱られたのだよ)。

カ˩タジキ˥ルン **[kạ˩taʤiki˥ruŋ]** 【他動】片付ける。標準語の転訛したもの。普通はシ˩ズミ˥ルン [ʃi˩ʤumi ˥ruŋ](片付ける) という。˩ドーングペン˥グ　パ˩ニポーラン˥ドーシ　カ˩タジキ˥リ [˩do:ŋgupeŋ˥gu pa˩nipo:ran˥do:ʃi kạ˩taʤiki˥ri](道具類を散らかさないで片付けろ)。アー˩イ˥　カ˩タジキラ˥ヌ [ʔa:˩i˥ kạ˩taʤikira˥nu](いやだ。片付けない)。カ˩タジキ　ヤッ˥サン [kạ˩taʤiki jas˥saŋ](片付けやすい)。˩バン˥ヌン　カ˩タジキ˥ルン [˩ban˥nuŋ kạ˩taʤiki˥ruŋ](私も片付ける)。カ˩タジキ˥ル　˥ムノー　˩ナー˥ヌ [kạ˩taʤiki˥ru ˥muno: ˩na:˥nu](片付けるものはない)。˩マー˥ビン　カ˩タジキ˥レー　˥ミサムヌ [˩ma:˥biŋ kạ˩taʤiki˥re: ˥misamunu](もっと片付ければよいのに)。˩パー˥ク　カ˩タジキ˥リ [˩pa:˥ku kạ˩taʤiki˥ri](早く片付けろ＜片付けれ＞)。

カ˩タジ˥クン **[kạ˩taʤi˥kuŋ]** 【他動】片付ける。「かたづく＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。老年層は、カ˩タ˥スン [kạ˩ta˥su̥kuŋ](片付く) という。マ˩ダ˥　シ˩グトゥ˥　カ˩タジカ˥ヌ [ma˩da˥ ʃi˩gutu˥ kạ˩taʤika˥nu](まだ仕事を片付けない)。カ˩タジ˥キ　˥ミサン [ka˩taʤi˥ki ˥misaŋ](片付けてよい)。˥ドゥー　˩タンガ˥シ　カ˩タジ˥クン [˥du: ˩taŋga˥ʃi kạ˩taʤi ˥kuŋ](自分一人で片付ける)。カ˩タジ˥ク　˥ムノー　˥ヌーヤ [kạ˩taʤi˥ku ˥muno: ˥nu:ja](片付けるものは何か)。˩マー˥ビン　カ˩タジ˥ケー　˥ミサムヌ [˩ma:˥biŋ kạ˩taʤi˥ke: ˥misamunu](もっと片付ければよいのに)。˩パー˥ク　カ˩タジ˥キバ [˩pa:˥ku kạ˩taʤi ˥kiba](早くかたづけろよ)。

カ˩タ˥シラ **[kạ˩ta˥ʃira]** 【名】片頬。反面。片方の顔。「かたつら (片面)」の義。˩マーシラ [˩ma:ʃira](真正面) の片面。˩トーシン˥バイ　カ˩カ˥リティ　カ˩タ˥シラー　フ˩クリベー˥[˩to:ʃim˥bai kạ˩ka˥riti kạ˩ta˥ʃira: ɸu̥˩kuribe:](おたふくかぜ＜流行性耳下腺炎＞にかかって片頬が腫れ＜膨れ＞ている)。

カ˩タスク˥ギ **[kạ˩tasuku˥gi]** 【名】肩を組み合わせること。カ˩タスクン˥ギ [kạ˩tasu̥kuŋ˥gi](肩を組みあわせる) ともいう。バ˩カー˥ムンケーヤ　サ˩キバ˥　ヌミティ　カ˩タスク˥ゲー　˩シェー˥ティル　˩アーク˥タ [ba˩ka:˥muŋke:ja sạ˩kiba˥ numiti kạ˩tasu̥ku ˥ge: ˩ʃe:˥tiru ˩ʔa:ku˥ta](若者達は酒を飲んで肩を組んでいたよ)。

カ˩タ˥　スクン **[ka˩ta˥ su̥kuŋ]** 【連】味方する。与する。加勢する。贔屓する。イダ˩リー　ドゥー˥ヌ　ッ˩ふァヌ˥　カ˩タ˥　スクンティ　˩シー˥　ユ˩ミバ˥　イ˩ジベー˥バン [ʔida˩ri: du:˥nu f˩fanu˥ kạ˩ta ˥ su̥kunti ˩ʃi:˥ ju˩miba˥ ʔi˩ʤi be:˥baŋ](ああいやだ＜まあ汚い＞、自分の子供に味方しようとして＜味方するとて＞嫁を叱っているわい)。ッ˩ふァヌ˥　カ˩タ　スン [f˩fanu˥ kạ˩ta suŋ](子供の味方する) ともいう。

カ˩タスディ˥ヌキ **[kạ˩tasudi˥nuki]** 【名】片肌を脱ぐこと。「片袖脱ぎ」。˥アツァサーリ (アツァティ)　カ˩タスディ˥ヌキ　˩シェー˥ティ　パ˩タ˥キ　˩カイ˥シ　˩ベー [˥ʔatsasa:ri(˥ʔatsati) kạ˩tasudi˥nuki ˩ʃe:˥ti pạ˩ta˥ki ˩kai˥ʃi ˩be:](暑くて＜暑いので＞片肌を脱いで＜片袖脱ぎして＞畑を耕している)。

カ˩タ˥スバ **[kạ˩ta˥suba]** 【名】片側。側。ス˩バ˥カタ [su˩ba˥kạta](側) の音位転倒したもの。ミ˩チ˥ヌ　カ˩タ˥スバナー　ウ˩ブガジマル˥ヌ　ムイ˩ベーン˥トンドゥ　˩バン˥テヌ　˥ヤー [mi˩ʧi˥nu kạ˩ta˥sub-ana: ʔu˩bugaʤimaru˥nu mui˩be:n˥tondu ˩ban˥tenu ˥ja:](道の側に大きなガジマル＜よう樹＞の生えている所が私の家です)。

˥カタ　ス˩ブイルン **[˥kạta su˩buiruŋ]** 【連】肩をすぼめる。寒いとき、風邪を引いたり、体調不良の時に無意識にする動作。˥カタ　ス˩ブイヤー˥ティ　˩アーク˥ヌ　パ˩ナシキスル　フシゥカル˥タカヤー [˥kạta su˩buija:˥ti ˩ʔa:ku˥nu pa˩naʃikisuru ɸusi̥˩karu˥ takaja:](肩をすぼめている＜あるく＞が風邪でも＜ぞ＞引いたのかなあ＜風邪がくっ付いたのかなあ＞)。

カ˩タスブ˥シ **[kạ˩tasubu˥ʃi]** 【名】かたひざ (片膝)。膝の片方。カ˩タスブシ˥バ　˥タティティ　ビ˩リ　ベー˥ンドゥ　マ˩ナ˥マ　˩トゥンタティン˥　ギサン˩ダー [kạ˩tasubuʃi˥ba ˥tạtiti bi˩ri be:˥ndu ma˩na˥ma ˩tuntatiŋ˥ gisan˩da:](片膝を立てて座っているが、今

にも立ち上がり＜飛び立ち＞そうだよ)。

カ˞タスブ˜ル [kạ˞tasubu˜ru] 【名】頭の片側。「片頭」の義。カ˞タスブ˜ロー　ガ˞マ˜ジ　˜スリティ　カ˞タスブ˜ロー　ヌ˞カ˜シ　˜シケーバン [kạ˞tasubu˜ro: ga˞ma˜ʤi ˜suriti kạ˞tasu˜buro: nu˞ka˜ʃi ˜ʃi̥ke:baŋ](頭の片側は散髪＜髪を剃って＞して、片側は残してあるわい)。カ˞タスブル˜ヌ　˜ヤミティ　ム˞ヌカン˜ガイ　ナ˞ラ˜ヌ [kạ˞tasuburu˜nu ˜jamiti mu˞nukaŋ˜gai na˞ra˜nu](偏頭痛がし＜頭の片方が痛く＞て何も考えられ＜もの考えが出来＞ない)。

カ˞タスブル˜ヤン [kạ˞tasuburu˜jaŋ] 【名】偏頭痛。ウ˞レー˜　ム˞カ˜シェーラ　カ˞タスブルヤン˜ヌ　˜アルンダル　シ˞グトゥン　シーユーサント ダー [ʔu˞re:˜ mu˞ka˜ʃe:ra kạ˞tasuburujan˜nu ˜ʔarundaru ʃi˞gutuŋ ʃi:ju:san˧da:](彼は昔から偏頭痛があるので仕事も出来ない＜し得ない＞のだよ)。ウ˞レー˜　カ˞タスブル˜ヤン　ム˞ティ˜プス　ヤ˞ルンダ˜　ウ˞ブシグトー˜　ナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞re:˜ kạ˞tasuburu˜jam mu˞ti˜pu̥su ja˞runda˜ ʔu˞buʃiguto:˜ na˞ra˜nu](彼は偏頭痛の病気持ち＜片頭病み持ち人＞だから大きな仕事は出来ない)。

カ˞タソー˜ピキ [kạ˞taso:˜piki] 【名】1対の物の一方が長いこと。「ワー　キン˜マー　カ˞タソー˜ピキ　˞シーブー　ノーサバ˜ル　˜ナル [˞wa: kim˜ma: kạ˞taso:˜pi̥ki ˞ʃi:bu: no:saba˜ru naru](君の着物は裾の一方が長くなっている。不格好である。直さないといけない＜直さばぞなる＞)。2かたびいき (片贔屓)。「Catabijqi＜カタビイキ＞片贔屓。例、Catabijqiuo suru。(片贔屓をする)『邦訳日葡辞書』」。ウ˞レー　ドゥー˜ヌ　ウ˞トゥ˜ザ　˞タン˜ガ　カ˞タソー˜ピキ　˞シー˜　シ˞グトゥン˜　トゥミ˞ふィール [ʔu˞re: du:˜nu ʔu˞tu˜ʤa ˞taŋ˜ga kạ˞taso:˜pi̥ki ˞ʃi:˜ ʃi˞gutun˜ tumi ˞fi:ru](その人は自分の親戚だけ一方的に贔屓して仕事も世話してくれる＜探してくれる＞)。

カ˞タソーピキ [kạ˞taso:pi̥ki] 【名】ひいき (贔屓)。えこひいき。気に入った者に特別に目をかけ、後援すること。「ドゥー˜ヌ　ッ˞ふァカーニ˜　カ˞タソーピキ　˞サンドー˜シ　˞マータキナー˜　バキ　ッ˞ふァーシ˜バ [˞du:˜nu f˞faka:ni˜ kạ˞taso:˜pi̥ki ˞sando:˜ʃi ˞ma:takina:˜ baki f˞fa:ʃi˜ba](自分の子供にだけえこひいき＜依怙贔屓＞しないで、同じように＜同量ずつ＞分けて食べさせなさいよ)。

ガ˞タダー [ga˞tada:] 【名】浅田。西表北岸の海岸近くの浅い田圃。ユ˞ビター [ju˞bita:](深田) の対義語。「潟田」の転訛したものか。西表北岸一帯の水田には、雌牛四五頭の角を棒に括り付けて水田に入れ、水田の泥を踏ませて田の水漏れを防いでいた。「潟田」は海岸の砂州の上に形成された水田で、「鹹也、浜也、加太 (かた)」『新撰字鏡』の転訛したものか。ム˞カ˜シェー　ガ˞タダー˜ナー　˞ミー˜ウシ　˞ユッカラナー˜　シ˞ヌ˜バ　˜バウナー　フ˞バリティ　˜ターナー　イ˞リ˜　ピ˞キマーシェー˜ティル　˜ター　フ˞マソーッ˜タ [mu˞ka˜ʃe: ga˞tada:˜na: ˞mi:˜ ʔuʃi ˞jukkarana:˜ ʃi˞nu˜ba ˜bauna: ɸu˞bariti˜ ta:na: ʔi˞ri˜ pi̥˞kima:ʃe:˜tiru ˜ta: ɸu˞maso:t˜ta](昔は、浅い田圃には雌牛を四匹ずつ角を棒に結わえて田圃の中にいれ、引き回しながら田圃の土を踏ませられた)。西表北岸の海岸端の水田は浅い田圃が多い。ク˞ヌ　ター˜ヤ　ガ˞タダー˜　ヤ˞ルンダ˜　ア˞ミ˜ヌ　˞ホーン˜カー　˞ター˜ヤ　バ˞リス [ku˞nu ta:˜ja ga˞tada:˜ ja˞runda˜ ʔa˞mi˜nu ˞ho:ŋ˜ka: ˞ta:˜ja ba˞risu](この田圃は浅い潟田だから雨が降らないと田圃は地割れするよ)。

カ˞タチ [kạ˞tatʃi] 【名】1姿形。格好。なりふり。ウ˞リヌ˜　カ˞タチ˜　ミルカー　キ˞ムフクレー˜ヌ　ミ˞ララ˜ヌ [ʔu˞rinu˜ kạ˞tatʃi˜ miruka: ki˞muɸu̥kure:˜nu mi˞rara˜nu](その人の姿格好をみると汚くて見ておれない＜見られない＞)。ウ˞ヌ˜　プ˞ソー˜　カ˞タチン　カイ˜ヤーリ　ブ˞ドゥルン　ゾー˜ジ [ʔu˞nu˜ pu̥˞so:˜ kạ˞tatʃiŋ kai˜ja:ri bu˞durun ʤo:˜ʤi](その人は容姿も美しいし、踊りも上手である)。ウ˞レー˜　カ˞タチヌドゥ˜　プ˞スヤル˜　ノー˞ン˜　ヤコー　タ˞タ˜ヌ [ʔu˞re:˜ kạ˞tatʃinudu˜ pu̥˞sujaru˜ no:˞ɲ˜ jako: tạ˞ta˜nu](そいつは形が人間であるだけで、なんの役にも立たない)。2態度。そぶり。様子。気配。カ˞ジェー　マーリティ˜　キ˞サーティ˜　カ˞タチェー˜　ミ˞ラ˜レーティ　˞アー˜ク [ka˞ʤe: ma:riti˜ ki̥˞sa:ti˜ kạ˞tatʃe:˜ mi˞ra˜re:ti ˞ʔa:˜ku](風が回って＜気分を害して＞既にその不満の態度が現れて＜見られて＞いるよ)。

カ˞タチ˜　アン [kạ˞tatʃi˜ ʔaŋ] 【連】容姿が美しい。「形がある」の義。カ˞タチェー　ナー˜ヌ [kạ˞tatʃe: na:˜nu](不美人である。「形がない」の義)。ウ˞ヌス˜ク　カ˞タチェー˜　ア˞リ˜ブンドゥ　ス˞ブルヌ˜　カ˞ナーント ツォー [ʔu˞nusu̥˜ku kạ˞tatʃe:˜ ʔa˞ri˜bundu su˞buru˜nu ka˞na:n˧tso:](あれほど容姿は美しいのだが頭脳が伴わない＜叶わない＞んだよ、勿体ない)。

カ˞タチェー　ナー˜ヌ [kạ˞tatʃe: na:˜nu] 【連】容姿が端麗でない。容貌が美しくない。「形がない」の

義。˞ナン˥ゾー　カ˞タチェー　ナー˥ヌヌ　˥キモー　イッ˞ケナ　カイ˥ヤン　˥アリ　ウ˞トゥ˥ザムイサン　˥アン [˞nan˥ʤo: kḁ˞tatʃe: na:˥nunu ˥kimo: ʔik ˞kena kai˥jaŋ ˥ʔari ʔu˞tu˥ʤamuisaŋ ˥ʔaŋ](あんまり美しくはないが、心は非常に美しくも＜綺麗でも＞あり、親戚思いでもある)。

カ˞タチカーニ [kḁ˞tatʃika:ni] 【連】形ばかり。形式だけ。チ˞カ˥グロー　シチジュー˞サン˥ヌ　˞ヨイ˥ヌン　カ˞タチカーニヌ　ヨイ˥バ　˞ソー˥ル　プ˞スル　ゴー˥ラ [tʃi̥˞ka˥guro: ʃi̥tʃiju:˞san˥nu ˞joi˥nuŋ kḁ˞tatʃika:ninu joi˥ba ˞so:˥ru pu̥˞suru go:˥ra](近頃は七十三の生年祝いも形ばかりの祝いをなさる人が多い)。

カ˞タチタン˥ガ [kḁ˞tatʃitaŋ˥ga] 【連】1形だけ。容貌だけ。カ˞タチタン˥ガー　プ˞ス˥　マ˞キランドゥ˥　ブ˞ドゥル˥　シ˞ミバル˥　メー　˞サッ˥コー　˞ティーフコート ツォー [kḁ˞tatʃitaŋ˥ga: pu̥˞su˥ ma˞kirandu˥ bu˞duru˥ ʃi˞mibaru˥ me: ˞sak˥ko: ˞ti:ɸu̥ko:ɦtso:](容貌だけは他人に負けないが、踊りをさせると、もう非常に不器用なんだよ)。2ほんの少し。形ばかり。形式用。カ˞タチタンガ˥ル　˞シーユースー　マービン˥マー　˞シーユーサヌ [kḁ˞tatʃitaŋga˥ru ˞ʃi:ju:su ma:bim˥ma: ˞ʃi:ju:sanu](ほんの少ししかできない＜ほんの形ばかりがなし得る＞、それ以上のことは出来ない＜なし得ない＞)。

カ˞タチ　トー˥ルン [kḁ˞tatʃi to:˥ruŋ] 【連】容貌がみすぼらしくなる。痩せ衰えてやつれる。「形が倒れる」の義。˞ナーワチライバ　シール˥　アイニ　カ˞タチ　トー˥レーティ　˞アーク˥バン [˞na:watʃiraiba ʃi:ru˥ ʔaini kḁ˞tatʃi to:˥re:ti ˞ʔa:ku˥baŋ](長患いをして＜ぞ＞、あんなに容貌がやつれ、みすぼらしく痩せ衰えている＜あるく＞わい)。

˥カタチニ [˥kḁtatʃini] 【副】～のように。ある物の姿、かっこうの如く。「形に」の義。ウ˞リヌ˥　カタチニ　ア˞ラ˥キ　サ˞ヌ [ʔu˞rinu˥ kḁtatʃini ʔa˞ra˥ki sa˞nu](彼のように歩けない)。

カ˞タッ˥ポー [kḁ˞tap˥po:] 【名】片方。片一方。ウ˞マー˥カマーラ　˞カイサン˥ドーシ　カ˞タッ˥ポーラ　ク˞メーキ　カイ˥シバ [ʔu˞ma:˥kama:ra ˞kaisan ˥do:ʃi kḁ˞tap˥po:ra ku˞me:ki kai˥ʃiba](あっちこっちから耕さないで、一方から丁寧に＜入念に＞耕せよ)。

カ˞タ˥ティー [kḁ˞ta˥ti:] 【名】1片手。ク˞レー　グッふァ˥ヌ　カ˞タ˥ティーシェー　ム˞タラ˥ヌ [ku˞re: guf˥ fanu kḁ˞ta˥ti:ʃe: mu˞tara˥nu](これは重くて片手では持てない)。2片方。片手。みずたご (水担桶) などの一対のものの片方。フ˞タティー [ɸu̥˞tati:](二手。両手) でプ˞スカタ˥ミ [pu̥˞sukata˥mi](一担い。「一担げ＜ヒトカタゲ＞」の義) となる。カ˞ザリクビンヌ˥　カ˞タティー˥ヤ　˞ヌー˥　シター [ka˞ʤarikubinnu˥ kḁ˞tati:˥ja ˞nu:ʃi̥˥ta:](一対の飾り瓶の片方はどうしたのか。クビンは「Quafin クヮヒン (花瓶)『邦訳日葡辞書』」の転訛したものか)。

カ˞タ˥ティダ [kḁ˞ta˥tida] 【名】片一方に太陽光があたること。片陰。片面にだけ日が当たること。ク˞マン˥　トンマー　カ˞タ˥ティダ　˥ナリティ　プシ˞ム˥ノー　˞カーラキグリ˥サン˞ナー [ku˞man ˥tomma: ka˞ta˥tida ˥nariti pu̥˞ʃi˥muno: ˞ka:rakiguri˥ san˞na:](ここの所は片陰になっていて干し物は乾きにくいだろうなあ)。

カ˞タ˥ティマ [kḁ˞ta˥tima] 【名】1本業の余暇にする仕事。非正規雇用。ク˞ヌ˥　シ˞グトー˥　カ˞タ˥ティマシ　˥ナル　シ˞グトー˥　ア˞ラ˥ヌ [ku˞nu˥ ʃi˞guto:˥ kḁ˞ta˥timaʃi ˥naru ʃi˞guto:˥ ʔa˞ra˥nu](この仕事は本業の合い間に出来る仕事ではない)。2手間賃の半額。片手間賃。カ˞タ˥ティマシンノーン　パ˞タラカシ˥　ッ˞ふォーッラン˥カヤー [kḁ˞ta˥timaʃin ˥no:m pḁ˞tarakaʃi˥ f˞fo:raraŋ˥kaja:](片手間賃＜半額。手間賃の半額＞ででも働かせて貰えないかなあ)。

カ˞タ˥ドゥー [kḁ˞ta˥du:] 【名】半身。体の半分。カ˞タドゥー˥ヤ　˞ペンスクミティ　ウーカサ˥ラヌ [kḁ˞tadu:˥ja ˞pensukumiti ʔu:kasara˥nu](半身は痺れて＜麻痺して＞動かされない)。カ˞タドゥー˥ヌ　˞ウーカン˥ベーティ　˞キンバル˥　イ˞リシミタ [kḁ˞tadu:˥nu ˞ʔu:kam˥be:ti ˞kimbaru˥ ʔi˞riʃimita](半身が麻痺して動かないので金の鍼＜鍼術(シンジュツ)に用いる針＞を打って＜入れさせた＞貰った)。

カ˞タ˥トゥキ [kḁ˞ta˥tuki] 【名】かたとき (片時。一時の半分)。わずかの間。短時間。一刻 (も)。カ˞タ˥トゥキン　˞パイ˥サ　シ˞グトゥ˥　トゥ˞ズ˥ミティ　˞ヤー˥　パ˞ラン˥カー　ナ˞ラ˥ヌ [kḁ˞ta˥tu̥kim ˞pai˥sa ʃi˞gutu˥ tu˞ʤu˥miti ˞ja:˥ pa˞raŋ˥ka: na˞ra˥nu](片時も早く仕事を完了させて家に帰らないと＜行かないと＞いけない)。イ˞チヌ˥　マ˞ドゥ˥ル　˞パッ˥タユー　ッ˞サン˥ケン　カ˞タトゥキ˥ヌ　˥アイナ　˞ギーッティ˥　ケーツバン [ʔi˞tʃinu˥ ma˞du˥ru ˞pat˥taju: s ˞saŋ˥keŋ kḁ˞tatuki˥nu ˥ʔaina: ˞gi:tti˥ ke:tubaŋ](何時の間に行ったのか知らぬ間に、短時間のうちに行って帰ってきているわいよ)。

カ˞タ˥トゥキン [kḁ˞ta˥tu̥kiŋ] 【副】一時も。片時も。

一刻も。わずかの時間も。カ˞タ˞トゥキン　˞パイ˞サ　˞カイ˞リ　クー˞ヨー [kạ˞ta˞tụkim ˞pai˞sa ˞kai˞ ri ku:˞jo:](一刻も早く帰って来なさいよ)。

カ˞タ˞トン [kạ˞ta˞toŋ]【名】片方。一方。片側。「片所」の義。カ˞タ˞トンナ　カー˞ニ　ベーラン˞ドーシ　ウ˞マーン˞　カマーン　˞ギー˞　ミリバ [kạ˞ta˞tonna ka:˞ni be:ran˞do:ʃi ʔu˞ma:ŋ˞ kama:ŋ ˞gi:˞ miriba](片方＜片一方＞にだけいないで、あちこちに＜そこにもあそこにも＞行ってみなさいよ)。

カ˞タ˞ナ [kạ˞ta˞na]【名】包丁。菜切り包丁。「刀」と同義で、料理に用いる片刃の刃物。刀剣の意味はない。「大刀、太知 (たち)。小刀、賀太奈 (かたな)『和名抄』」の転訛したもの。鰹節製造工場では、イ˞ズバザイカタナ [ʔi˞dʑubadʑaikatana](魚を捌く包丁)、ヨ˞ツワリカタナ [jo˞tsuwarikatana](三枚下ろしにした鰹の上身と下身を四つ割りにする包丁。幅約 10 センチ、刀身約 15 センチの半円形の包丁)、サ˞バカタナ [sa˞bakatana](˞鱶刀」の義。柄にぎざぎざの切込みをつけて滑り止めを施した鋭利な包丁。烏賊釣り漁に持参した)、ヤ˞マンガラ˞シ [ja˞maŋgara˞ʃi](山刀)などがあった。イ˞ズバザイカタナ˞シ　カ˞ツヌ˞　ス˞ブ˞ル　˞キシ [ʔi˞dʑubadʑaikatana˞ʃi kạ˞tsunu˞ su˞bu˞ru ˞kị̥ʃi](魚を捌く包丁＜刀＞で鰹の頭を切れ)。˞トゥシナー　カ˞タ˞ナ　˞トゥイバ [˞tụʃina: kạ˞ta˞na ˞tuiba](砥石で包丁を研ぎなさいよ)。

カ˞タ˞ナシ [kạ˞ta˞naʃi]【名】偏った産み方。男または女の一方だけに偏って産むこと。「片生し＜片産み＞」の義。ミ˞ドーン˞ッふァ　カー˞ニ˞　ル˞ク˞ニン　カ˞タ˞ナシ　シ˞ティ˞　ウ˞ヌ˞　シ˞ビ˞ナー　ヤッ˞トゥ˞シ　サ˞ク˞シ　ナ˞スタ˞ル　ウ˞ヌス˞ク　サ˞ニヤ　ソーッ˞タティ　˞ムカーヤ [mi˞do:ŋ˞ffa ka:˞ni˞ ru˞ku˞niŋ kạ˞ta˞naʃi ʃị̥ti˞ ʔu˞nu˞ ʃi˞bi˞na: jat˞ tu˞ʃi sạ˞ku˞ʃi na˞suta˞ru ʔu˞nusụ˞ku sa˞nija so:t˞tati ˞ muka:ja](女の子だけ六人偏って産んで＜片生しして＞、その後にやっとのことで長男を産んだものだから、あんなに喜ばれた＜嬉しくされた＞ものだよ)。

カ˞タナ˞ヌ　˞パー [kạ˞tana˞nu ˞pa:]【連】包丁の刃。カ˞タナ˞ヌ　˞パー　ナ˞マ˞リティ　˞ピッ˞チン　キ˞シラ˞ヌ [kạ˞tana˞nu ˞pa: na˞ma˞riti ˞pit˞tʃiŋ kị̥˞ʃira˞nu](包丁＜刀＞の刃が鈍ってちっとも切れない)。

カ˞タ˞ニー [kạ˞ta˞ni:]【名】1片荷。一方の荷。˞ダン˞ベーナ　カ˞タニー˞ヤ　˞マイバ˞　シ˞ミ˞　カ˞タニー˞ヤ　ミ˞リキング˞トゥ　˞トー˞フマミ　˞マー˞ス　˞サタンドーレーバ　シ˞ミティ　サンギ　パッ˞タ [˞dam˞be:na kạ˞tani:˞ja ˞maiba˞ ʃi˞mi˞ kạ˞tani:˞ja mi˞rikiŋgu˞tu ˞to:˞ɸumami ˞ma:˞su ˞sạtando:re:ba ʃi˞ miti saŋgipat˞ta](団平船に一方の荷は米を積み、もう一方の荷はメリケン粉と大豆、塩、砂糖などを積んで引張って行った)。2一方に荷を積みすぎること。片方の荷が重いこと。˞ニー˞ヤ　˞マータキ˞　シ˞マムティ˞　カ˞タ˞ニー　シ˞ム˞カー　˞フネー　ム˞ティングリ˞サン˞ダー [˞ni:˞ja ˞ma:taki˞ ʃi˞mamuti˞ kạ˞ta˞ni: ʃi˞mu˞ka: ˞ɸune: mu˞tiŋguri˞san˞da:](荷は均等に積まないで片方に偏って積むと船は操船しにくい＜持ちにくい＞よ)。˞マイ˞ニー [˞mai˞ni:](前荷、前に積みすぎる荷)、トゥ˞ム˞ニー [tu˞mu˞ni:](艫荷、艫に積みすぎる荷)。

カ˞タ˞ニー [kạ˞ta˞ni:]【名】片煮え。一方だけ煮えて全体が煮えないこと。˞ワー　イー˞ヤ　カ˞タ˞ニー　シ˞ティ˞　ッ˞ふァーラヌ [˞wa: ʔi:˞ja kạ˞ta˞ni: ʃị̥˞ti ˞ ffa:ranu](君が炊いたご飯＜君の飯は＞は片煮えして食べられない)。˞ピー˞バ　カ˞タモー˞シ　˞スー˞カー　˞イー˞ヌン　カ˞タ˞ニー　˞スン˞ダー [˞pi:˞ ba ka˞tamo:˞ʃi ˞su:˞ka: ˞ʔi:˞nuŋ kạ˞ta˞ni: ˞sun˞da:](火を片方にだけ燃やすと＜片燃やしすると＞、ご飯も片煮えするぞ)。

カ˞タ˞ヌ　˞ブリ [ka˞ta˞nu ˞buri]【連】肩揚げ。着物のゆき (裄) を肩のところで縫い上げておくもの。「肩の折」の義。ヤ˞ラビ˞ヌ　˞キン˞マー　カ˞タ˞ヌ　˞ブリ　シ˞ティ˞　ッ˞スン˞　ブリティ　ア˞ギシキリバ˞ル　フ˞ドゥブ˞　アー˞シ˞　ウ˞ラ˞シ　キ˞ササリ˞ツォー [ja˞rabi˞nu ˞kim˞ma: kạ˞ta˞nu ˞buri ʃị̥˞ti˞ s ˞sum˞ buriti ʔa˞giʃị̥kiribaru˞ ɸu˞dubu˞ ʔa:˞ʃi˞ ʔu˞ra˞ʃi kị̥˞sasari˞tso:](子供の着物＜衣＞は肩揚げをして、裾も折り揚げておく方が成長するにつれて＜合わせて＞、肩揚げや裾をおろして着せられるそうだ)。

カ˞タ˞パー [kạ˞ta˞pa:]【名】片刃。片側にだけ刃をつけたもの。ク˞ヌ˞　カ˞タ˞ナー　カ˞タ˞パー　ヤ˞ルンダ˞　キスピンマー　ウ˞チェーニ˞ル　ン˞カイバ˞　テイー　キ˞サン˞ヨー　˞キー˞　シ˞キ˞リ [ku˞nu˞ kạ˞ta˞na: kạ˞ta˞pa: ja˞runda˞ munu ˞kị̥su ˞pimma: ʔu ˞tʃe:˞niru ʔŋ˞kaiba˞ ti: kị̥˞saŋ˞jo: ˞ki:˞ ʃị̥˞ki˞ri](この包丁は片刃になっているので、切る時は内側に向かってくるから手を切らぬよう気を付けろ)。

カ˞タパーシー˞グ [kạ˞tapa:ʃi:˞gu]【名】片刃の小刀。「片刃・み・すへご」『混効験集 (乾・器財)』とある。「すへご」は「鉏＜サヒ＞・グ」の転訛したものか。「鉏を作りテ此の岡に祭るに・・・即ち佐比＜さひ＞

岡と号＜なづ＞く」『播磨風土記』。鰹節を押し削るのに用いる小刀。引き削り用の小刀はピ˩ギシー˥グ [pi˩giʃiː˥gu](へぎ＜剥ぎ＞・小刀)、押して削る小刀を、シ˩キシーグ [ʃi̥˩kiʃiːgu](突き小刀) という。カ˩タパーシー˥ゴー　ウ˩ヤベー˥マシ　シゥ˩カイ˥　カ˩サミティ˥　ウ˩ヤ˥ビシ　˩ウシキティル˥　カ˩ツブシ˥　ピ˩ゴーッ˥タ [kạ˩tapaːʃiː˥goː ʔu˩jabeː˥maʃi si̥˩kai˥ kạ˩samiti˥ ʔu˩ja˥biʃi ˩ʔuʃi̥kitiru˥ kạ˩tsubuʃi˥ pi˩goːt˥ta](片刃の小刀は小指で支え掴んで親指で押して鰹節を削られ＜剥がれ＞た)。

カ˩タパーヌキ˥ル [kạ˩tapaːnuki˥ru] 【名】片刃鋸。鋸の片面にだけ刃が付いているもの。山仕事や薪割り作業で、木を切るのに用いる鋸。˩リョーバーヌキル [˩rjoːbaːnukiru](細工道具の両刃鋸) の対義語。˥チニヒージェー　カ˩タパーヌキル˥バ　シゥ˩カイティ˥　タ˩ム˥ヌン　キ˩ソーッ˥タ [˥ʧiniçiːʤe: kạ˩tapaːnukiru˥ba si̥˩kaitiru˥ ta˩mu˥nuŋ ki̥˩soːt˥ta](常日頃＜常平生＞は片刃鋸を使って薪を切られた)。

カ˩タパー˥ムヌ [kạ˩tapaː˥munu] 【名】1偏屈な者。かたくな (頑な) な人。「かたは (片端)。容姿性質の不完全なこと」『源氏物語　末摘花』の転訛したものか。カ˩タパー˥ムノー　プ˩スヌ˥　ムニ　シゥ˩カヌ [kạ˩tapaː˥munoː pụ˩sunu˥ muni si̥˩kanu](偏屈な者は人のいうことを聞かない)。2˩イッポー˥ギ [˩ʔippoː˥gi](一徹者。頑固者。偏屈な者) ともいう。ウ˩レー　イッポー˥ギ　ヤ˩ルンダ˥　ウ˩ナー˥　ア˩ラン˥ティ　˩スー˥カー　プ˩スヌ˥　ア˩ズ˥ムネー　シゥ˩カヌ [ʔu˩reː ʔippoː˥gi ja˩runda˥ ʔu˩naː˥ ʔa˩ran˥ti ˩suː˥kaː pụ˩sunu˥ ʔa˩ʤu˥muneː si̥˩kanu](その人は頑なな人だから、己が違うと言うと、他人の言うことは聞かない)。

カ˩タ˥バキ [kạ˩ta˥baki] 【名】偏った分け方。片方に贔屓して多く分割すること。˥ムノー　˩マータキナール˥　バ˩キ˥ル　˥アイニ　カ˩タ˥バキ　˩スー˥カー　ウ˩ムッサーナー˥ヌ [˥munoː ˩maːtakinaːru˥ ba˩ki˥ru ˥ʔaini kạ˩ta˥baki ˩suː˥kaː ʔu˩mussanaː˥nu](物は均等に分けるのであって、あんなに偏った分けかたをすると面白くないよ)。

カ˩タ˥バタ [kạ˩ta˥bata] 【名】心の片方。片心。そう思う一方で、正反対のことを思うこと (悪事の企みを連想する際に用いる)。「片腹」の義。類義語の、カ˩タ˥キム [kạ˩ta˥kimu](片肝。心の片方。一方の心) は「心配事、吉事を連想する」際に用いる。プ˩スバ˥　フ˩ミマラバ˥シ　˩ベー˥ヌンドゥ　ウ˩リヌ˥　カ˩タバ˥ター　˥ヌーティル　˥ウムイ　˩ブー˥ユー　ワ˩カラ˥ヌ [pụ˩suba˥ ɸu˩mimaraba˥ʃi ˩beː˥nundu ʔu˩rinu˥ kạ˩taba˥taː ˥nuːtiru ˥ʔumui ˩buː˥juː wa˩kara ˥nu](人を褒めちぎっているが、彼の片腹＜心の片方＞では何と思っているか分らないものだ)。

カ˩タ˥パニ [kạ˩ta˥pani] 【名】片方の翼。片羽。˩ガー˥ドゥレーヌ　カ˩ジフキ˥ナー　カ˩タ˥パニ　ブ˩ラ˥リティ　トゥ˩ビマーキ　ベー [˩gaː˥dureːnu ka˩ʤiɸụki˥naː kạ˩ta˥pani bu˩ra˩riti tu˩bimaːki beː](カモメが台風に片羽を折られて飛びかねている)。

カ˩タ˥パバ [kạ˩ta˥paba] 【名】肩幅。カ˩タパバ˥ヌ　˩マイ˥ヤーユンダ　˩キン˥マー　ユ˩キーユキー˥シ　˥ヌイ˩ヨー [kạ˩tapaba˥nu ˩mai˥janda ˩kim˥maː ju˩kiːjukː˥ʃi nui˩joː](肩幅が大きいから着物はゆったりと余裕を持って縫いなさいよ＜縫えよ＞)。

カ˩タ˥バリ [kạ˩ta˥bari] 【名】1片割れ。半分。割れた物の片方。イ˩バチ˥ヌ　カ˩タ˥バレー　カ˩ヌ˥　ッ˩ふァン　ナーリ˥　ッ˩ふァーシ˥バ [ʔi˩baʧi˥nu kạ˩ta˥bareː ka˩nu˥ f˩fan naːri˥ f˩faːʃi˥ba](飯初のお握りの半分は、あの子に手を差し伸べてやって食べさせなさいよ)。2対になっているものの片方。双生児の片方。˩ターチュー˥ヌ　カ˩タ˥バレー　ヤ˩マ˥トー　˩パッ˥タ [˩taːʧu˥nu kạ˩ta˥bareː ja˩ma˥toː ˩pat˥ta](双子の一人＜片方＞は本土＜大和＞行った)。

カ˩タバル [kạ˩tabaru] 【名】干潟。「潟原」の義。「潟」は、浦、入り江、湾、海岸など遠浅の海で、満潮時には海水に没し、干潮時には現れる砂浜。遠浅の浜。「～之保非能可多爾＜潮干の潟に＞。万、3595」。˩～浜也、加太＜かた＞」『新撰字鏡』の義。トゥ˩マダヌ˥　カ˩タバル˥ナー　˩ユーリムヌヌ　ユーリ˥ケータン [tu˩madanu˥ kạ˩tabaru˥naː ˩juːrimununu juːri˥keːtaŋ](トゥマダの干潟に漂流物＜寄りもの＞が流れ寄ってきていた)。

カ˩タバルゴーナー [kạ˩tabarugoːnaː] 【名】 (動) 和名、コメツキガニ (米搗蟹)。西表北岸の湾の干潟に群棲するスナガニ科の小さな蟹。甲羅の長さは約1センチで両方のはさみを上げ下げしながら砂や泥を食べ、巣の周りに砂団子を並べる習性がある。カ˩タバルゴーナーヤ˥　プ˩スヌ˥　クーカー　バ˩ザラバザラ˥シ　ア˩ナ˥ヌ　ナ˩カー　ペー˥リ　˥パル [kạ˩tabarugoːnaːja˥ pụ˩sunu˥ kuːkaː baʤarabaʤara˥ʃi ʔa˩na˥nu na˩kaː peː˥riparu](コメツキガニは人が来るとバザラバザラと我勝ちに穴に入っていく)。

カ˩タ˥パン [kạ˩ta˥paŋ] 【名】1片足。カ˩タ˥パンシ　˥タティ　˩シェー˥ン [kạ˩ta˥paŋʃi ˥tạti ˩ʃeː˥ŋ](片足で立つことができる)。ウ˩リヌ˥　カ˩タパン˥ヌ　˥スコ

ーンツァン　パ˞タラキサヌ [ʔur˞inu˜ kạ˞tapan˜nu ˜sụko:ntsam pạ˞tarakisanu](彼の片足ぐらいさえも働くことができない)。2履物や箸など、一対 (一組) のものの片方。カ˞タ˜グー [ka˞ta˜gu:](片方) ともいう。˜バー　ア˞チ˜ツァー < ア˞シ˜ツァー >　カ˞タパン˜マー　˞ター˜ル˜　フ˞ミパッ˜タカヤー [˜ba: ʔa ˞ʧi˜tsa: <ʔa˞ʃi˜tsa:> kạ˞tapam˜ma: ˞ta:ru˜ ɸu˞mipat˜ takaja:](私の下駄の片方 < 一足の片方 > は誰が履いて行ったのかなあ)。

カ˞タパンツァー˜リ [kạ˞tapantsa:˜ri] 【名】一揃い < 一対、一足 > の物の片方が別の物と混じること。ふぞろい (不揃い) になること。ちぐはぐになること。「片足あざり (狂リ)」の義か。「Catachigu. カタチグ (片ちぐ) 対で数える物の片方あって、たとえば、履物や瓶子などの片方がもう一方と違っている場合に言う.」『邦訳日葡辞書』。˜パシェー　カ˞タパンツァー˜リ　˞シーブ [˜pạʃe: kạ˞tapantsa:˜ri ˞ʃi:bu:](箸は不揃いである < 片ちぐである >)。ア˞シ˜ツァン　カ˞タパンツァー˜リ　˞シーナー˜ヌ [ʔa˞ʃi˜ tsaŋ kạ˞tapantsa:˜ri ˞ʃi:na:˜nu](下駄 < 足駄 > も不揃いになってしまった)。

カ˞タ˜ピキ [kạ˞ta˜pị̊ki] 【名】えこひいき (依こ怙贔屓)。かたびいき (片贔屓)。「片引き」の義。ウ˞ヌ˜プ˞ソー˜　イッ˞ケナ˜　カ˞タ˜ピキ　˞ソー˜ルン [ʔu˞nu˜ pụ˞so:˜ ʔik˞kena˜ kạ˞ta˜pị̊ki ˞so:˜ruŋ](その人は非常に片びいき < 依怙ひいき > をなさる)。

カ˞タピキ˜ムヌ [kạ˞tapị̊ki˜munu] 【名】身体障害者。かたわもの (片端者)。カ˞タピキ˜ムヌティ　イ˞ザリティル˜　ウ˞ヌス˜ク　˞ニッ˜ター　˞ソーッ˜タティムカーヤ [kạ˞tapị̊ki˜munuti ʔi˞ʤaritiru˜ ʔu˞nusụ˜ku ˞nit˜ta: ˞so:t˜tatimuka:ja](かたわものと叱られて、それであんなにも妬(ネタ)まれたのだよ < 妬まれたというものだよ、当然だが >)。

カ˞タ˜ピサ [kạ˞ta˜pị̊sa] 【名】履物の片方。片足。˜ピサ [˜pị̊sa](足) は、˜パンピサ [˜pampị̊sa](人の足。特に踝より下) のこと。ア˞チツァ˜ヌ < ア˞シツァ˜ヌ >　カ˞タ˜ピサー < カ˞タパン˜ヤー >　˞ヌー˜シター　˜トゥミクー [ʔa˞ʧitsa˜nu <ʔa˞ʃitsa˜nu> kạ˞ta˜ pị̊sa: <ka˞tapaŋ˜ja:> ˞nu:ʃị̊˜ta: ˜tumiku:](下駄の片方はどうしたのか。探してこい)。

カ˞タ˜ピサ [kạ˞ta˜pị̊sa] 【名】両面あるものの片面 (片足)。「片ひら (平)」の義。「Catafira. カタヒラ (片平)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。Cira→Cisa(C=*p) の音韻変化の法則がある。魚を三枚おろしにした上身と下身の各部分。イ˞ゾー˜　ピ˞サ˜　ウ˞コー˜シティ < ン˞コー˜シティ >　カ˞タ˜ピサー　ナ˞マ˜シ˜キシバ [ʔi˞ʤo:˜ pị̊˞sa˜ ʔu˞ko:˜ʃị̊ti <ŋ˞ko:˜ʃiti> kạ˞ta˜pị̊sa: na˞ma˜ʃi ˜kị̊ʃiba](魚は三枚におろして < ひらをはぎ起こして >、片方の身は刺身にしなさい < なます (膾) に切りなさい >)。

カ˞タピサ˜イズ [kạ˞tapisa˜ʔiʤu] 【名】(動) 魚名。カレイ。ヒラメの総称。海底の砂地に棲息している。「片ひら魚」の義。カ˞タピサ˜イゾー　˞ミーヤ　ゴー˜ラー　˞ナーン˜ドゥ　ヤ˞カバン　ネーサバン˜ン˞マー˜ン [kạ˞tapisa˜ʔiʤo: ˞mi:ja go:˜ra: ˞na:n˜du ja ˞kaban ne:sabam˜ ʔm˞ma:˜ŋ](片ひら魚 < カレイ、ヒラメ > は身は多くないが、焼いても煮ても美味しい)。

カ˞タピサ˜ヤー [kạ˞tapisa˜ja:] 【名】片側屋根の家。片流れ造り。「片ひら < 坂。屋根 > 家」の義。「〜此をば余母都比羅佐可 < よもつひらさか > といふ『日本書紀　神代』」の「ひら」と同じ。「Catafira.(片平) 家の屋根の流れの片側.」『邦訳日葡辞書』の義。˞オー˜ヌヤーン　ピ˞ビザヌ˜ヤーン　イ˞キムシ˜ヌ　˞ヤー˜ヤ　ムー˞ル˜　カ˞タピサ˜ヤー　˞ヤッタ [˜ʔo:˜nuja:m pi˞biʤanu˜ja:ŋ ʔi˞kimuʃi˜nu ˞ja:˜ja mu: ˞ru˜ kạ˞tapisa˜ja: ˞jatta](豚小屋も山羊小屋も、動物の小屋はみんな片流れ造りだった)。

カ˞タ˜プー [kạ˞ta˜pu:] 【名】片帆。一つだけの帆。横風を受けて帆をはらませて操船する際に用いる帆。これによって˜イダフニ [˜ʔidaɸuni](板舟、サバニ) は˜マ˞ギ˜フニ [ma˞gi˜ɸuni]< ジグザグ航法 > をして風上の方へ航行することができる。˞マープー [˞ma:pu:](真帆。マ˞シ˜ビカジ [ma˞ʃi˜bikaʤi]< 真艫から吹く風 > をうけて張る帆) の対義語。˜イダフネー　カ˞タ˜プー　ピ˞キバル˜　ム˞ティヤッ˜サタ　マ˞シ˜ビカジナー　˞マープー˜　ピ˞キティ　フンナケー˜　バスン　˞アッ˜タン [˜ʔidaɸune: kạ˞ta˜pu: pị̊˞kibaru˜ mu˞tijas˜sata ma˞ʃi˜bikaʤina: ˞ma:pu:˜ pị̊ ˞kiti ɸunnake:˜ basuŋ ˞ʔat˜taŋ](板舟は片帆を揚げた < 引いた > 方が操船しやすかった。真後ろから吹く風 < 真艫吹く風 > に真帆を張って < 引いて > 転覆させたこともあった)。

カ˞タ˜ふァイ [kạ˞ta˜fai] 【名】偏食。「片喰い」のぎ。ヤ˞サイ˜ヤー　ッ˞ふァームティ˜　イ˞ズヌミー　オー˜ヌ˞ミータン˜ガ　カ˞タ˜ふァイ　˞スー˜　フ˞シヌンドゥ˜　アル [ja˞sai˜ja: f˞fa:muti˜ ʔi˞ʤunumi:˜ ˞ʔo:˜ nu ˞mi:taŋ˜ga: kạ˞ta˜ffai ˞su:˜ fụ˞ʃinundu˜ ʔaru](野菜は食べないで魚の身 < 魚肉 >、豚の身 < 豚肉 > だけ偏食 < 片喰い > する癖がある)。

カ˩タ˥フイ **[kạ˩ta˥ɸui]** 【名】片降り。雨が片方にだけ降ること。ナ˩チヌ˥　アメー　カ˩タ˥フイ　˩スン˧ダー [na˩ʧinu˥ ʔameː kạ˩ta˥ɸui ˩sun˧daː](夏の雨は片一方にだけ降ることも＜片降り＞するよ)。ア˩ミ˥ヌ　カ˩タ˥フイ　シ˩ティ　バン˥テヌ　キン˩カーニ　ゾーラシ˥　シケー [ʔa˩mi˥nu kạ˩ta˥ɸui ʃi̥˩ti ban˥tenu kiŋ˩kaːni ʤoːraʃi˥ ʃi̥keː](雨が片降りして、私の家の着物だけを濡らしてある)。

カ˩タ˥プサ **[kạ˩ta˥pu̥sa]** 【名】側。片側。˥バー　カ˩タ˥プサナ　˩ベー˥リ [˥baː kạ˩ta˥pu̥sana ˩beː˥ri](私の側に居れ)。ウ˩ヤ˥ヌ　カ˩タ˥プサナ　˩ベー˥ティル　ウ˩ヤ˥ヌ　˥クトゥン　シ˩ラレー˥ダー [ʔu˩ja˥nu kạ˩ta˥pu̥sana ˩beː˥tiru ʔu˩ja˥nu ˥ku̥tuŋ ʃi˩rareː˥daː](親の側にいたので、親の世話もできた＜親のこともされた＞のだよ)。

カ˩タプサー˥ラ **[kạ˩tapu̥saː˥ra]** 【副】片っ端から。一方から。次々に。手当たり次第にすべて。˩イッソー˥ラ [˩ʔissoː˥ra](片っ端から) ともいう。ン˩ザ˥シ˥クー　˥ムノー　カ˩タプサー˥ラ　ム˩ー˥ル˥　ヌ˩ミ˥キシ　˩ナー˥ヌ [ʔn˩ʤa˥ʃi ˥kuː ˥munoː kạ˩tapu̥saː˥ra muː˩ru˥ nu˩mi˥ki̥ʃi ˩naː˥nu](出してくるものは片っ端から全部飲んでしまった)。

カ˩タ˥フチ **[kạ˩ta˥ɸu̥ʧi]** 【名】片口。入り口の片方。注ぎ口の片方。カ˩タ˥フチェー　ッ˩サイティ　マー˥　カ˩タ˥フチェーラ　˩ペーラ˥シバ [kạ˩ta˥ɸu̥ʧeː s˩saiti maː˥ kạ˩ta˥ɸu̥ʧeːra ˩peːra˥ʃiba](片方の入り口は塞いで、もう一方の片口から入れなさいよ)。

カ˩タフチェー˥ラ **[kạ˩taɸuʧeː˥ra]** 【副】片っ端から。一方から。総て。ウ˩ヤ˥ヌ　˩トゥシキ˥ル　˥ムニ　シゥ˩カンモー˥　カタ˩フチェー˥ラ　˩ウイパラ˥シ [ʔu˩ja˥nu ˩tuʃi̥ki˥ru ˥muni si̥˩kammoː˥ kạ˩taɸu̥ʧeː˥ra ˩ʔuiparaʃ˥i](親の言いつけ＜訓戒＞を聞かぬものは片っ端から追い払っえ＜追っ払って行かせ＞)。カ˩タピサー˥ラ [kạ˩tapi̥saː˥ra] ともいう。

カ˩タフチピケー˥シ **[kạ˩taɸu̥ʧipi̥keː˥ʃi]** 【名】微笑。口の片側を少し引いて微笑むこと。含み笑い。片口笑い。「片口引きあい」の義。ウ˩ヌ˥　パ˩ナシ˥バ　シ˩キティ˥　カ˩タフチピケー˥シ　˩シー　オー˥ッ˩タ [ʔu˩nu˥ pa˩naʃi˥ba ʃi̥˩kiti˥ kạ˩taɸu̥ʧipi̥keː˥ʃi ˩ʃiː ʔoːt˥ta](その話を聞いて微笑んで＜そっと片口を引いて笑顔になって＞おられた)。カ˩タフチ˥バライ [kạ˩taɸu̥ʧi˥barai](微笑み。含み笑い) ともいう。

カ˩タ˥ブニ **[kạ˩ta˥buni]** 【名】鎖骨。「肩骨」の義。˥シマー　˥トゥリ　パ˩ナン˥ギ　˩シーベーン˥ケン　˩トー˥リティ　カ˩タ˥ブニ　ブリ˩シティ　˩ナー˥ヌ [˥ʃimaː ˥turi pa˩naŋ˥gi ˩ʃiːbeːŋ˥ken ˩toː˥riti kạ˩ta˥buni buri˩ʃi̥ti ˩naː˥nu](相撲をとって悪ふざけしているうちに、倒れて鎖骨＜肩骨＞を折ってしまった)。

カ˩タ˥ブリ **[kạ˩ta˥buri]** 【名】肩上げ。「肩折」の義。子供の着物の肩を縫い上げておくこと。ヤ˩ラ˥ベー　マナ˩マンチン˥　フ˩ドゥビスバ　キン˥マー　カ˩タ˥ブリ　˩シー˥　キ˩サシ˥バ [ja˩ra˥be: mana˩manʧiŋ˥ ɸu˩dubisuba kim˥maː kạ˩ta˥buri ˩ʃiː˥ ki̥˩saʃi˥ba](子供のすぐにも成長するから着物は肩上げして着せなさいよ)。

カ˩タ˥フル **[kạ˩ta˥ɸuru]** 【名】片方の睾丸。フ˩ル [ɸu˩ru](陰嚢) は「陰嚢、俗云、布久利＜ふぐり＞」『和名抄』の転訛したもの。フィラリア症による陰嚢水腫。片方の睾丸が腫れている男性。˥ガザン　˩ホー˥リカー　˥クサ　ウ˩ク˥リティ　カ˩タ˥フル　ナルンティ˩ダー [˥gaʤaŋ ˩hoː˥rikaː ˥ku̥sa ʔu˩ku˥riti kạ˩ta˥ɸuru ˥narunti˩daː](蚊に噛まれるとフィラリア症になって睾丸の片方が腫れるそうだよ)。

カ˩タ˥ホー **[kạ˩ta˥hoː]** 【名】下駄の片方。片一方。老年層は、カ˩タパン˥マー [ka˩tapam˥maː](片足は) という。ク˩ヌ˥　ア˩シ˥ツァー　カ˩タホー˥ヤ　˩カーリ　ブー [ku˩nu˥ ʔa˩ʃi˥tsaː kạ˩tahoː˥ja ˩kaːri buː](この下駄は、片方は他人のものと入れ替わっている)。

カ˩タマー˥リ　˥パルン **[kạ˩tamaː˥ri ˥paruŋ]** 【連】行きやがる。行きくさる。ほっつきまわる。相手の「行く」動作を軽蔑し、憎むことば。˥ワンザー　˥ヒャー　カ˩タマー˥リ　˥パリバ [˥wanʤaː ˥ça: kạ˩tamaː˥ri ˥pariba](お前野郎は行きやがれ)。カ˩タマー˥リ　パ˩ラ˥ムティ　˩ヌー˥シ　˩ベー˥ワ [ka˩tamaː˥ri pa˩ra˥muti ˩nuː˥ʃi ˩beː˥wa](行きやがらないで何をしてるんだ)。˥マナール　カ˩タマー˥リ　˩アー˥クカヤー [˥manaːru kạ˩tamaː˥ri ˩ʔaː˥kukajaː](何処をほっつきまわっているのかねえ)。

カ˩タマー˥ルン **[kạ˩tamaː˥ruŋ]** 【自動】　行きやがる。うろつく。うろつき回る。ほっつきやがる。ほっつき回る。卑語。キ˩ビッ˥サ　˩トゥシキラン˥カー　˥キューン　カ˩マー˥　カ˩タマー˥ルンティル　ウ˩モー˥リ [ki˩bis˥sa ˩tuʃi̥kiraŋ˥kaː ˥kjuːŋ ka˩maː˥ kạ˩tamaː˥runtiru ʔu˩moː˥ri](厳しく言いつけないと今日もあそこへほっつき回ると思われる)。˩クンザー　マー˥ル　カ˩タマー˥リ　˩パッ˥ター [˩kunʤaː maː˥ru kạ˩tamaː˥ri ˩pat˥taː](こいつは何処へほっつき歩いていった＜行きやがった＞のか)。ウ˩マー˥カマーティ　カ˩タマーラン˥ドーシ　ウ˩ティ˥シキ

パ˹タラキト ツォー [ʔu˹ma:˺kama:ti kḁ˹tama:ran˺ do:ʃi ʔu˹ti˺ʃi̥ki pḁ˹tarakiト tso:](あちらこちらほっつき歩かないで落ち着いて働けってば)。カ˹タマー˺ル ˺クトー ˹ナーン˺パジ [kḁ˹tama:˺ru ˺ku̥to: ˹na:m˺ padʑi](うろつき回ることは無いはずだ)。˺ワンザーヤ ˺アイニ パ˹リ˺プサカー ˹パー˺ク カ˹タマー˺リ パリバ [˺wandza:ja ˺ʔaini pa˹ri˺pu̥saka: ˹pa:˺ku kḁ˹tama:˺ri ˺pariba](お前野郎は、そんなに行きたければ、早く行きやがれ)。

カ˹タマ˺スン [kḁ˹tama˺suŋ] 【他動】担がせる。動詞カ˹タ˺ムン [kḁ˹ta˺muŋ](担ぐ) の未然形に使役の助動詞˺スン [˺suŋ](～せる。～させる) が付いて形成された派生動詞 (使役動詞)。˺バー ˺ニー ウ˹リン˺ カ˹タマ˺スンティ ˹スンドゥ˺ カ˹タマサラン˺バン [˺ba: ˺ni: ʔu˹riŋ˺ kḁ˹tama˺sunti ˹sundu˺ kḁ˹tamasaram˺baŋ](私の荷物を彼に担がせようとするが、担がされないわい)。カ˹タマ˺シ ˺ミサカー カ˹タマ˺ス ˺クトー ˺ナルン [kḁ˹tama˺ʃi ˺misaka: kḁ˹tama˺su ˺ku̥to: ˺naruŋ](担がせて良ければ担がせることは出来る)。カ˹リン˺ カ˹タマ˺シェー ˺ミサムヌ [ka˹riŋ˺ kḁ˹tama˺ʃe: ˺misamunu](彼に担がせればいいのに)。ヤー˹ディン˺ カ˹タマ˺シバ [ja:˹diŋ˺ kḁ˹tama˺ʃiba](必ず担がせなさいよ)。

カ˹タマラスン [kḁ˹tamarasuŋ] 【他動】固める。固くする＜固まらせる＞。˹ウン˺ヌ ˺シトゥ ˺ティダナー ˺プシティ カ˹タマラシ [˹ʔun˺nu ˺ʃi̥tu ˺tidana: ˺pu̥ʃiti kḁ˹tamaraʃi](芋の澱粉を日に干して固めよ＜固まらせよ＞)。カ˹タマラサヌ [kḁ˹tamarasanu](固めない)。カ˹タマラシ˺ プサン [kḁ˹tamaraʃi˺ pu̥saŋ](固めたい)。˹ウー˺キナ イ˹リティ˺ カ˹タマラスン [˹ʔu:˺kina ʔi˹riti˺ kḁ˹tamarasuŋ](桶に入れて固める)。カ˹タマラス˺ プソー ˹ヌー˺シ ˹スーワ [kḁ˹tamarasu˺ pu̥so: ˹nu:˺ʃi ˹su:wa](固める時はどうするのか)。カ˹タマラシェー˺ ミサムヌ [kḁ˹tamaraʃe:˺ misamunu](固めればよいのに)。˹パー˺ク カ˹タマラシ [˹pa:˺ku kḁ˹tamaraʃi](早く固めよ)。ク˹レー˺ カ˹タマラサヌ [ku˹re:˺ kḁ˹tamarasanu](これは固めない)。˺キューズーナ カ˹タマラス˺ クトー ナ˹ラ˺ヌ [˺kju:dzu:na kḁ˹tamarasu˺ ku̥to: na˹ra˺nu](今日中に固めることは出来ない)。˹カタマラシェー˺ ミサムヌ [kḁ˹tamaraʃe:˺ misamunu](固めればよいのに)。

カ˹タマリ [kḁ˹tamari] 【名】かたまり (塊)。ウ˹ビ˺ヌ プ˹スヌ˺ ア˹ツァ˺マリティ プ˹ス カタ˺マリ ˺ナリ ˹ベー [ʔu˹bi˺nu pu̥˹sunu˺ ʔa˹tsa˺mariti pu̥˹sukata˺mari ˺nari ˹be:](あれだけの人が集まって、ひとかたまり＜一塊＞になっている)。

カ˹タマルン [kḁ˹tamaruŋ] 【自動】固まる。凝固する。˹ヌー˺ロー ˹ピー˺ルカー カ˹タマルン [˹nu:˺ro: ˹pi:˺ruka: kḁ˹tamaruŋ](糊は冷める＜冷える＞と固まる)。ク˹レー ピール˺タンテイン カ˹タマラヌ [ku˹re: pi:ru˺tantiŋ kḁ˹tamaranu](これは冷めても固まらない)。カ˹タマリ ヤッ˺サン [kḁ˹tamari jas˺saŋ](固まりやすい)。カ˹タマル ムノー˺ シ˹ティリ [kḁ˹tamaru muno:˺ ʃi̥˹tiri](固まるものは捨てれ)。˹ヌー˺ロー カ˹タマレー˺ラー ウ˹ティラ˺ヌ [˹nu:˺ro: kḁ˹tamare:˺ra: ʔu˹tira˺nu](糊は固まってからは落ちない)。カ˹タマリ [kḁ˹tamari](固まれ)。

カ˹タ˺ミ [kḁ˹ta˺mi] 【名】形見。思い出の遺品。「安波牟日能　可多美爾世与等～＜逢はむ日の　形見にせよと～＞『万葉集　3753』」の義。ウ˹レー˺ ウ˹ヤ˺ヌ カ˹タ˺ミティ ˹シー˺ ヌ˹カ˺シ ˺シケー [ʔu˹re:˺ ʔu˹ja˺nu kḁ˹ta˺miti ˹ʃi:˺ nu˹ka˺ʃi ˺ʃi̥ke:](それは、親の形見として残して置いてある)。

カ˹タ˺ミ [kḁ˹ta˺mi] 【名】(数)。か (荷)。天秤棒の両端に水担桶などを吊るして担う分量の単位。「担ぎ」の義。その一方の分量はカ˹タ˺ティー [kḁ˹ta˺ti:](片手、片一方) という。ミ˹ジ˺ プ˹スカタ˺ミ カ˹タ˺ミ ˺クー [mi˹dʑi˺ pu̥˹sukata˺mi kḁ˹ta˺mi ˺ku:](水をいっか＜一荷。水桶二杯＞運んで＜担いで＞来い)。ミ˹ジカミ˺ プ˹スッ˺クナー ミ˹ジ ミーカタミ ペーッ˺タン [mi˹dʑikami˺ pu̥˹suk˺kuna: mi˹dʑi mi:katami pe:t˺taŋ](水甕一個に水桶の三荷＜三担い＞分の水が入った)。

カ˹タ˺ミー [kḁ˹ta˺mi:] 【名】片目。カ˹タミー˺ヤ フ˹ラッキー˺ カ˹タ˺メー ッ˹サイティ˺ ミリ˹ベー [kḁ˹tami:˺ja ɸu˹rakki:˺ kḁ˹ta˺me: s˹saiti˺ miri˹be:](片目は開け、片目は閉じて見ている)。

カ˹タミ˺チ [kḁ˹ta˺mitʃi] 【名】片道。˹ギームドゥル [˹gi:muduru]＜往復。行き来＞の対義語。ヤ˹ラビ˺ヌ カ˹タミ˺チ イ˹チ˺リ ˹スン˺トン ア˹ラ˺キ パ˹リ˺シタ [ja˹rabi˺nu kḁ˹tami˺tʃi ʔi˹tʃi˺ri ˹sun˺toŋ ʔa˹ra˺ki pa˹ri˺ʃita](子供だのに片道一里の道を歩いて行ったものだよ)。

カ˹タミ˺ティマ [kḁ˹tami˺tima] 【名】担ぎ賃。担ぎ手間。ウ˹ビ˺ヌ ˹ニー˺ヌ カ˹タミ˺ティマー ˹ワー ギュー˺サ ˹イール˺ター [ʔu˹bi˺nu ˹ni:˺nu kḁ˹tami˺tima: ˹wa: gju:˺sa ˹ʔi:ru˺ta:](あれだけ沢山の荷物の運び賃＜担ぎ賃＞は、君は幾ら貰ったのか)。

カ˹タミヌ˺ サ˹カシキ [kḁ˹taminu˺ sḁ˹kaʃi̥ki] 【連】

固い約束の杯を交わすこと。「固めの杯」の義。「〜天地能　加多米之久爾曾　夜麻登之麻祢波＜天地の固めし国ぞ　大和島根は＞『万葉集　4487』」の義。トゥ˞ジブトゥ˜　カ˞タミヌ˜　サ˞カシキ˜　カ˞ミ˜リバ [tu˞ʤibutu˜ kạ˞taminu˜ sạ˞kaʃi̥ki˜ ka˞mi˜riba](夫婦の固い契り＜固め＞の杯を高く持ち上げて頂きなさい)。

カ˞タミ˜ルン [kạ˞tami˜ruŋ] 【他動】担ぐ。ヤ˞ラ˜ビ　ヤ˞ルヌ˜　ミ˞ジ˜　プ˞スカタ˜ミ　カ˞ローカロー˜シ　カ˞タミ˜ルン˞ツォ˜カー [ja˞ra˜bi ja˞runu˜ mi˞ʤi˜ pụ˞sukata˜mi ka˞ro:karo:˜ʃi kạ˞tami˜run˞tso˜ka:](子供だが、水を天秤棒で水担桶一荷、軽々と担ぐんですよ、＜珍しい＞)。カ˞タミラ˜ヌ [kạ˞tamira˜nu](担がない)。カ˞タミ˜ル　˜クトゥ [kạ˞tami˜ru˜kụtu](担ぐこと)。カ˞タミ˜レー　˜ミサムヌ [kạ˞tami˜re: ˜misamunu](担げば良いのに)。カ˞タミ˜リ [kạ˞tami˜ri](担げ)。

カ˞タミルン [kạ˞tamiruŋ] 【他動】1固める。˜ミツァ　ク˞ナシティ˜　カ˞タミルン [˜mitsa ku˞naʃi̥ti˜ kạ˞tamiruŋ](粘土を捏ねて固める)。˞ヌー˜ロー　˞マー˜ビン　カ˞タミリ [˞nu:˜ro: ˞ma:˜biŋ kạ˞tamiri](糊はもっと固めろ)。カ˞タミラヌ [kạ˞tamiranu](固めない)。カ˞タミヤッ˜サン [kạ˞tamijas˜saŋ](固めやすい)。カ˞タミル˜　ピンマー　˞ピーラ˜シ [kạ˞tamiru˜ pimma: ˞pi:ra˜ʃi](固めるときは冷やせ)。カ˞タミル　ムノー˜　ヌーヤ [kạ˞tamiru muno:˜ nu:ja](固めるものは何か)。2固く約束する。固く契る。˞パイ˜サ　パ˞ナ˜シェー　カ˞タミティル˜　サ˞キムレー　スート ダー [˞pai˜sa pa˞na˜ʃe: kạ˞tamitiru˜ sạ˞kimure: su:ɨ-da:](早く話を決めて＜話を固めてぞ＞結納＜酒盛り＞はするものだよ)。ク˞ヌ˜シキナー　パ˞ナ˜シェー　カ˞タミルン [ku˞nu˜ ʃi̥kina: pa˞na˜ʃe: kạ˞tamiruŋ](今月の内に話は決める＜堅く約束する＞)。パ˞ナ˜シェー　カ˞タミララヌ [pa˞na˜ʃe: kạ˞tamiraranu](話は決められない＜固められない＞)。カ˞タミヤッ˜サン [kạ˞tamijas˜saŋ](決めやすい＜固めやすい＞)。カ˞タミル˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [kạ˞tamiru˜ kụto: na˞ra˜nu](決める＜固める＞ことは出来ない)。ウ˞ヌパナ˜シェー　カ˞タミレー˜　ミサムヌ [ʔu˞nupana˜ʃe: kạ。˞tamire:˜ misamunu](その話は決めれば＜固めれば＞よいのに)。˞パイ˜サ　パ˞ナ˜シ　カ˞タミリ [˞pai˜sa pa˞na˜ʃi ka˞tamiri](早く話を決めろ＜固めろ＞)。

カ˞タ˜ミン [kạ˞ta˜miŋ] 【名】片耳。シ˞キン˜ヌ　ウ˞トゥ˜サター　カ˞タ˜ミンナー　シ˞キブンドゥ˜　ナー˞イ˜　ニジ˞ベー [ʃi̥˞kin˜nu ʔu˞tu˜sata: kạ˞ta˜minna: ʃi̥˞kibundu˜ na:˞i˜ niʤi˞be:](世間の噂＜風評＞は小耳に＜片耳に＞はさんで＜聞いて＞いるが、じっと我慢している)。ヤ˞ナ˜ムネー　カ˞タ˜ミンラ　ス˞ク˜カー　カ˞タ˜ミンラー　˞ピンガ˜シティ　ス˞クナ [ja˞na˜mune: kạ˞ta˜minra sụ˞ku˜ka: ka˞ta˜minra ˞piŋga˜ʃi̥ti sụ˞kuna](悪口＜悪い言葉＞は片耳から聞いたら片耳から逃がして聞くな)。

カ˞タ˜ムトゥン [kạ˞ta˜mutuŋ] 【連】贔屓する。味方をして援助する。「肩を持つ」の義。イ˞ジ˜　ナ˞ラースン˜ドゥ　˜ウヤー　ッ˞ふァヌ˜　カ˞タ˜ムトゥンダ　ナ˞ラーサラ˜ヌ [ʔi˞ʤi˜ na˞ra:sun˜du ˜ʔuja: f˞fanu˜ kạ˞ta˜mutunda na˞ra:sara˜nu](叱って教えようとするが、親は子供の味方をする＜肩を持つ＞ので教えられない)。普通は、カ˞タ˜　スクン [kạ˞ta˜ sụkuŋ](贔屓する。肩を持つ) ともいう。

カ˞タムラシ [kạ˞tamuraʃi] 【名】つちくれ (硬い土塊)。ミ˞ツァムラ˜シ [mi˞tsamura˜ʃi](土塊) ともいう。ア˞ラシ˜　ア˞キ˜　シケーティ　ウ˞ロイ˜ヌ　シ˞ター˜　カ˞タムラシ˜　バ˞リ　カイ˜スンティ　˞アー˜ク [ʔa˞raʃi˜ ʔa˞ki˜ ʃi̥ke:ti ʔu˞roi˜nu ʃi̥˞ta:˜ kạ˞tamuraʃi˜ ba˞ri kai˜sunti ˞ʔa:˜ku](既に開墾＜新仕開け＞をしてあったから、折りよく御湿り＜潤い＞がしたので硬い土塊を鍬の頭で割ってたがやそうとしているところだよ)。

カ˞タムラ˜シ [kạ˞tamura˜ʃi] 【名】肩の盛り上がった筋肉。カ˞タムラ˜シン　ム˞リアガリティ˜　イッ˞ケン˜　シゥ˞カラー˜　アン [kạ˞tamura˜ʃim mu˞riʔagariti˜ ʔik˞ken˜ sï˞kara:˜ ʔaŋ](肩の筋肉も盛り上がって非常に力がある)。

カ˞タムン [kạ˞tamuŋ] 【他動】固める。強化する。「かたむ＜下二段活用＞、天地能　加多米之久爾曽『万葉集　4487』」の四段活用化したもの。˞コン˜クリシ　カ˞タムン [˞koŋ˜kuriʃi kạ˞tamuŋ](コンクリートで固める)。カ˞タマヌ [kạ˞tamanu](固めない)。˞ヤー˜ヌ　˞ユーシノー　コン˜クリシ　カ˞タミ˜　プサン [˞ja:˜nu ˞ju:ʃino: koŋ˜kuriʃi kạ˞tami˜ pụsaŋ](家の四隅＜四つ角＞をコンクリートで固めたい)。シゥ˞カンギ˜　イ˞リティ˜　カ˞タムン [sï˞kaŋgi˜ ʔi˞riti˜ kạ˞tamuŋ](支え柱＜支柱＞を入れて固める)。カ˞タム˜クトゥ [kạ˞tamu˜ kụtu](固めること)。カ˞タメー˜　ミサムヌ [kạ˞tame:˜ misamunu](固めればよいのに)。カ˞タミ˜バ [kạ˞tami˜ba](固めろ)。固くする。固まらせる。「〜天地の加多米之＜カタメシ＞国ぞ〜。万、4487」の義。「かたむ (固む) 下二段」の転訛し

たもの。˺ミツァカマチナ　˺ピー　˹モーシティ˺　カ˹タムンティ　ベー [˺mitsakamatʃina ˺pi: ˹mo:ʃi̥ti˺ kḁ˹tamunti be:](粘土の竈に火を燃やして固めようとしている)。**2**しっかりと＜口を固くして＞約束を守る。フ˹チェー˺　カ˹タミティ˺　プ˹スンナー˺ニ　パ˹ナス˺ナ [ɸu̥˹tʃe:˺ kḁ˹tamiti˺ pu̥˹sunna:˺ni pa˹nasu˺na](しっかり約束を守って＜口を固めて＞他人に話すな)。固く約束する。固く契る。パ˹ナ˺シェー　˹マー˺ビン　カ˹タムンティ　スンドゥ˺　カ˹タミラララヌ [pa˹na˺ʃe: ˹ma:˺biŋ kḁ˹tamunti sundu˺ kḁ˹tamiraranu](話をもっと固めようとするが、固められない)。パ˹ナ˺シ　カ˹タミ˺　ミサカー　カ˹タム˺　クトー　˺ナルン [pa˹na˺ʃi kḁ˹tami˺ misaka: kḁ˹tamu˺ ku̥to: ˺naruŋ](話を固めてよければ、固めることは出来る)。˹マー˺ビン　カ˹タメー˺　ミサムヌ [˹ma:˺biŋ kḁ˹tame:˺ misamunu](もっと固めればいいのに)。˹パー˺ク　カ˹タミ˺バ [˹pa:˺ku kḁ˹tami˺ ba](早く固めよ)。

カ˹タ˺ムン [kḁ˹ta˺muŋ] 【他動】担ぐ。˺ニー　カ˹タ˺ムン [˺ni: kḁ˹ta˺muŋ](荷を担ぐ)。ク˹ヌ　キー˺ヤ　˺バー　カ˹タ˺ムン [ku˹nu ki:˺ja ˺ba: kḁ˹ta˺muŋ](この木＜＜材木＞は私が担ぐ)。˹バン˺マー　カ˹タマラ˺ヌ [˹bam˺ma: kḁ˹tamara˺nu](私には担がれない)。˹タンガ˺シェー　カ˹タミ　ユーサ˺ヌ [˹taŋga˺ʃe: kḁ˹tami ju:sa˺nu](一人では担ぎ得ない、担ぐことが出来ない)。カ˹タ˺ムクトー　カ˹タムン˺ドゥ　˹アウ˺ヌ　ブ˹ラバル˺　ナル [kḁ˹ta˺mu ˺ku̥to: kḁ˹tamun˺du ˹ʔau˺nu bu˹rabaru˺ naru](担ぐことは担ぐが、連れの者がいてこそ可能だ＜出来る＞)。˹ワー˺　カ˹タ˺メー　˺ミサムヌ [˹wa:˺ kḁ˹ta˺me: ˺misamunu](君が担げばよいのに)。バ˹カー˺ンダ　˹ワー˺　カ˹タ˺ミ [ba˹ka:˺nda ˹wa:˺ kḁ˹ta˺mi](若いから君が担げよ)。˺ウカ　カ˹タ˺ミティ　˺イキーン˺ヌビーン　ナ˹ラ˺ヌ [˺ʔuka kḁ˹ta˺miti ˺ʔik:n˺nubi:n na˹ra˺nu](負債を負わされて＜担いで＞、身動き出来ない＜息も欠伸も出来ない＞)。

カ˹タ˺ヤン [kḁ˹ta˺jaŋ] 【名】肩の痛み。「肩病み」の義。カ˹ヤ [ka˹ja](肩の病気) ともいう。˺ドゥク　˹グッ˺ふァ　˺ムヌバ　カ˹タミトゥー˺シ　˹ベー˺タ　˹ベー˺ティル　カ˹タ˺ヤンバ　ウ˹ク˺シェール [˺duku ˹guf˺fa ˺munuba kḁ˹tamitu:˺ʃi ˹be:˺ta ˹be:˺tiru kḁ˹ta˺jamba ʔu˹ku˺ʃe:ru](あまりにも重い物を担ぎ通していたので肩の病を＜肩病み＞を起したのであろう)。

カ˹タン˺トン [kḁ˹tan˺toŋ] 【名】片方。一方。片側。「片所」の義。カ˹タ˺トン [kḁ˹ta˺toŋ](片方) ともいう。フ˹ニ˺ヌ　カ˹タン˺トンナー　˺ニー　シ˹ム˺カー　グ˹ロー˺　ナルン [ɸu˹ni˺nu kḁ˹tan˺tonna: ˺ni: ʃi˹mu˺ka: gu˹ro:˺ naruŋ](舟の片側に荷を積むと＜舟は＞ローリングし易く＜横揺れし易く＞なる)。˹ヤー˺ヌ　ピ˹サヌ˺　カ˹タン˺トンマー　ム˹チヌ˺　キシティ　˺アメー　ム˹リ˺スバン [˹ja:˺nu pi˹sanu˺ kḁ˹tan˺tomma: mu˹tʃinu˺ ki̥ʃiti ˺ʔame: mu˹ri˺subaŋ](屋根の一方は漆喰が切れて雨漏れがする＜雨が漏れる＞わい)。

˺カチ [˺kḁtʃi] 【名】勝ち。˹タール˺　カチヤ [˹ta:ru˺ kḁtʃija](誰が勝ちか)。˺カチ　マケー　イ˹チン˺　ア˹リ˺ブ [˺kḁtʃimake: ʔi˹tʃiŋ˺ ʔa˹ri˺bu](勝ち負けは常にあるものだ)。

ガ˺チ [˹ga˺tʃi] 【助数】月。若年層の月を数える助数詞。老年層は˹-グヮ˺チ [˹gwa˺tʃi](月) という。イ˹チンガ˺チ [ʔi˹tʃiŋga˺tʃi](一月)、˹ニンガ˺チ [˹niŋga˺tʃi](二月)、˹サンガ˺チ [˹saŋga˺tʃi](三月)、˹シンガ˺チ [˹ʃiŋga˺tʃi](四月)、˹グンガ˺チ [˹guŋga˺tʃi](五月)、ル˹クンガ˺チ [ru˹kuŋga˺tʃi](六月)、シ˹チンガ˺チ [ʃi̥˹tʃiŋga˺tʃi](七月)、パ˹チンガ˺チ [pa˹̥tʃiŋga˺tʃi](八月)、˹クンガ˺チ [˹kuŋga˺tʃi](九月)、˹ズンガ˺チ [˹ʥuŋga˺tʃi](十月)、˹ジュー˺イチンガチ [˹ʤu:˺ʔitiŋgatʃi](十一月)、˹ジュー˺ニンガチ [˹ʤu:˺niŋgatʃi](十二月) と数える。

˺ガチー [˺gatʃi:] 【名】食いしん坊。いやしん坊。ガ˹チ˺マヤー [ga˹tʃi˺maja:](食いしん坊) ともいう。ウ˹ヌ˺　ッ˹ふァー˺　ガチー　ヤ˹ルンダ˺　ン˹マー˺ムノー　ミ˹シララ˺ヌ [ʔu˹nu˺ f˹fa:˺ gatʃi: ja˹runda˺ ʔm˹ma:˺ muno: mi˹ʃirara˺nu](あの＜その＞子は食いしん坊だから、美味しいものは見せられない)。

カ˹チイク˺サ [kḁ˹tʃiʔiku˺sa] 【名】勝ち戦。マ˹キイクサ [ma˹kiʔikusa](負け戦) の対義語。カ˹チイクサ˺バ　˹ニンガイ˺ル　˹ピー˺タイン　˹オーッタン˺ドゥ　マ˹キイクサ˺　ナリティ　˹カイ˺リ　˹オー˺レーツォー [kḁ˹tʃiʔikusa˺ba ˹niŋgai˺ru ˹pi:˺taiŋ ˹ʔo:ttan˺du ma˹kiʔikusa˺ nariti ˹kai˺ri ˹ʔo:˺re:tso:](勝ち戦を祈願して兵隊にも行かれたが、負け戦になって帰って来られたそうだ)。

ガ˹チガチ [ga˹tʃigatʃi] 【副】擬音語。がちがち。歯などの硬いものが小刻みにぶつかり合って発する音。寒さに震えて上下の歯がぶつかり合って出す音。ドゥ˹ク˺ヌ　˹ピー˺ヤティ　˹フッツォーリティ˺　ガ˹チガチ˺シ　˺パー　˹ナーラシ　ベー [du˹ku˺nu ˹pi:˺jati ˹ɸuttso:riti˺ ga˹tʃigatʃi˺ʃi ˺pa: ˹na:raʃi be:](あまり

の寒さで震えてガチガチと歯を噛み鳴らしている)。

˺カチマキ **[˺katʃimaki]** 【名】勝ち負け。˺メー　キ˹サーティ˺　カチマケー　キ˹マリ　ブー [˺meː ki̥˹saːti˺ kḁtʃimakeː ki˹mari buː](もう既に勝ち負けは決まっている)。

ガ˹チ˺マヤー [ga˹tʃi˺majaː] 【名】食いしん坊。卑しん坊。食い意地のはった人。「がきねこ (餓鬼猫)」の転訛したものか。飢えた猫はよく魚や蛸を盗んでいったものである。転じて、盗み食いをするような「食いしん坊」をガ˹チ˺マヤーと呼ぶ。ッ˹ふァイダマー [f˹faidamaː](食いしん坊) より卑罵の程度が軽い。ビ˹キドゥムヌ˺　ガ˹チ˺マヤー　˺ナリティ　カ˹マチフチヌ　マーラ˺　ア˹サ˺レーティ　˹アー˺ク [bi˹kidumunu˺ ga˹tʃi˺majaː ˺nariti ka˹matʃiɸu̥tʃinu maːra˺ ʔa˹sa˺reːti ˹ʔaː˺ku](男のくせに餓鬼猫のようになって、台所＜竈口(カマドククチ)。ソゥコゥ＞の周りを漁りまわっているよ)。

カ˹チ˺ミー [kḁ˹tʃi˺miː] 【名】勝ち目。勝機。勝つ見込み。˺クヌ　˹ブン˺シェー　カ˹チ˺メー　˹ナー˺ヌ [˺kunu ˹buŋ˺ʃeː kḁ˹tʃi˺meː ˹naː˺nu](この様子＜此の分＞では勝ち目はない)。

カ˹チリカザ [ka˹tʃirikadʑa] 【名】腐った匂い。腐臭。ウ˹レー˺　ナ˹マイズ˺ヌ　カ˹チリカザヌ　シーブバ˺　シ˹ティリ˺　アイブ　˺ムノー　ッ˹ふァーラヌ [ʔu˹reː˺ na˹maʔidʑu˺nu kḁ˹tʃirikadʑanu ʃiːbuba˺ ʃi̥˹tiri˺ ʔaibu ˺munoː f˹faːranu](それは生魚の腐った匂いがしているから捨てなさい。あんなものは食べられない)。˹シーゾーヤー˺ヌ　イ˹ズネーシジルヌ˺　ッサリティ　カ˹チリカザバ　シー˺　ン˹カーラヌ [˹ʃiːdʑoːjaː˺nu ʔi˹dʑuneːʃidʑirunu˺ ssariti kḁ˹tʃirikadʑaba ʃiː˺ ʔŋ˹kaːranu](製造屋＜鰹節製造工場＞の魚を煮た煮汁が腐れて、カチリ臭がして側に近寄れない＜向かわれない＞)。ク˹レー˺　カ˹チリカザヌ　シーブバ˺　ッ˹ふァーラヌ [ku˹reː˺ kḁ˹tʃirikadʑanu ʃiːbuba˺ f˹faːranu](これは饐えて腐った匂いがしているので食べられない)。

カ˹チリ˺ムヌ [kḁ˹tʃiri˺munu] 【名】飢えた者。「かつえ(餓え者)」の転訛。カ˹チリムヌ˺ヌ　˺カタチニ　ム˹ヌ˺バ　ッ˹ふァイ˺　ヌーヤ　ウ˹レー [kḁ˹tʃirimunu˺nu ˺kḁtatʃini mu˹nu˺ba f˹fai˺ nuːja ʔu˹reː](飢えた者のように飯を食って、何だこれは)。ス˹ズーコ˺　カ˹チ˺レーティ　˹アー˺キ　ブ˹レー˺バン˹ナー [su˹dʑuːko˺ kḁ˹tʃi˺reːti ˹ʔaː˺ki bu˹reː˺ban˹naː](ひどく餓えていた＜飢えてあるいていた＞のだねえ)。カ˹チリ˺ムノー　ノー˹ン˺　ッ˹ふァイス [kḁ˹tʃiri˺munoː noː˹n˺ f˹faisu](飢えた者は何でも食べる)。カ˹チリムヌ˺ン　˺カタチニ　ム˹ヌ˺バ　ッ˹ふァイ˺　キ˹ムイ˺ツァー [kḁ˹tʃirimunu˺ŋ ˺kḁtatʃini mu˹nu˺ba f˹fai˺ ki˹mui˺tsaː](飢えた者のように食べ物を食べて、可哀相に)。

カ˹チ˺ルン [ka˹tʃi˺ruŋ] 【自動】飢える。かつえる。「飢極、カツヱコウジタリ」『文明本節用集』の転訛したもの。イ˹クサユー˺ヌ　˺アトー　ッ˹ふァイムヌーン　ナー˺ヌ　ムー˹ル˺　カ˹チ˺リ　シ˹ヌ˺　プ˹スン˺　ブ˹タン˺ダー [ʔi˹kusajuː˺nu ˺ʔatoː f˹faimunun naː˺nu muː˹ru˺ kḁ˹tʃi˺ri ʃi˹nu˺ pu̥˹sum˺ bu˹tan˺daː](戦争の後＜太平洋戦争後＞は食べる物もない。皆飢えかつえて、死ぬ人もいたよ)。˺ウン　イ˹バン˺カー　カ˹チ˺ルン˹ダー [˺ʔuŋ ʔi˹baŋ˺kaː kḁ˹tʃi˺run˹daː](芋を植えないと飢えるぞ)。˺フユー　˹サンドー˺シ　˺ウンサーギ　イ˹ビシキ˺ルカー　カ˹チ˺ル　˺クトー　˹ナー˺ヌ [˺ɸujuː ˹sandoː˺ʃi ˺ʔunsaːgi ʔi˹biʃi̥ki˺rukaː kḁ˹tʃi˺ru ˺ku̥toː ˹naː˺nu](怠けないで、芋さえ植え付けておくと飢えかつえることはない)。カ˹チ˺レーラ　ノー˹ン˺　ッ˹ふァイス [kḁ˹tʃi˺reːra noː˹ŋ˺ f˹faisu](飢えたら　何でも食べる)。シ˹グトゥン　サン˺カー　ナー˹イ　ベー˺ティ　カ˹チ˺リバ [ʃi˹gutun saŋ˺kaː naː˹i beː˺ti kḁ˹tʃi˺riba](仕事もしないのなら、ただ何もしないで飢えなさいよ)。˹ウンマー˺　ッ˹ふァイムヌティン　ナー˺ムティ　カ˹チリ˺ル　ブ˹タ˺ダー [˹ʔummaː˺ f˹faimunutin naː˺muti kḁ˹tʃiri˺ru bu˹ta˺daː](その頃は食うものもなくて、飢えていたのだよ)。パ˹タラク˺カー　カ˹チラ˺ヌ [pḁ˹taraku˺kaː kḁ˹tʃira˺nu](働いたら飢えない)。˺フネー　˹ナーラサ˺リティ　カ˹チ˺リ　˹ナーン˺シェン [˺ɸuneː ˹naːrasa˺riti kḁ˹tʃi˺ri ˹naːŋ˺ʃeŋ](船は流されて、飢えてしまっていた)。カ˹チ˺レー　˺ミサムヌ [ka.˹tʃi˺reː ˺misamunu](飢えればよいのに)。「カツエコウジタル」『文明本節用集』の転訛したものか。˹タイ˺フーナー　ス˹クリ˺ムヌン　ムー˹ル˺　サ˹リティ　ミーラヌ˺　ッ˹ふァイムヌン　ナーン˺ナリ　カ˹チ˺リ　˹ベー [˹tai˺ɸuːnaː su̥˹kuri˺munum muː˹ru˺ sa˹riti miːranu˺ f˹faimunun naːn˺nari kḁ˹tʃi˺ri ˹beː](台風で作物も全部枯れて稔らない。食べ物も無くなり飢えている)。カ˹チラ˺ヌ [kḁ˹tʃira˺nu](飢えない)。ッ˹ふァイムヌヌ　ナーン˺カー　カ˹チ˺ルン [f˹faimununu naːŋ˺kaː kḁ˹tʃi˺ruŋ](食べ物が無いと飢える)。ム˹ヌスク˺ルサーギ　˹スー˺カー　カ˹チ˺ル　˺クトー　˹ナー˺ヌ [mu˹nusu̥ku˺rusaːgi ˹suː˺

ka: kḁ˹ʧi˺ru ˺ku̥to: ˹na:˺nu](農作物さえ作付けすれば飢えることはない)。カ˹チ˺レー　˺ミサムヌ [kḁ˹ʧi˺re: ˺misamunu](飢えればよいのに)。カ˹チ˺リ [kḁ˹ʧi˺ri](飢えろ)。

カ˹ツ [kḁ˹tsu] 【名】 (動) 魚名。和名、カツオ (鰹)。体長約 80 センチ。大きさによって、ク˹バン [ku˹baŋ](小判、全長約 50 センチ)、˹ダイ˺バン [˹dai˺baŋ](大判、体長約 80 センチ)、トゥ˹ビダイ [tu˹bidai](超大判、体長約 1 メートル)、ビ˹リ˺グヮー [bi˹ri˺gwa:](体長約 30 センチ) のカツオが漁獲された。五、六月頃の北へのぼるカツオは小判が多く、七、八月頃には大判も多く釣れた。九月頃の北から南へ下る秋鰹にはトゥビダイが釣れた。カ˹ツォー　シーゾー˺ヤーナーティ　バ˹ザイティ˺　ヨ˹ツワリ˺ナシティ　˹シェーロー˺ナ　˹ネーシ　バイ˺カン　シ˹ティ˺　カ˹ツブシ˺　ス˹ク˺リ　バ˹タ˺トゥ　パ˹ルン˺マー　カ˹ラ˺ス　˺シキティ　˹カーソーッ˺タ [kḁ˹tso: ʃi:ʥo:˺ja:na:ti ba˹ʥaiti˺ jo˹tsuwari˺ naʃi̥ti ˹ʃe:ro:˺na ˹ne:ʃi bai˺kaŋ ʃi̥˹ti˺ kḁ˹tsubuʃi su̥˹ku˺ri ba˹ta˺tu pa˹rum˺ma: ka˹ra˺su ˺ʃi̥kiti ˹ka:so:t˺ta](カツオは製造屋で捌(サバ)いて四つ割りにし、蒸籠(セイロウ)で煮たのち焙乾(バイカン)して鰹節を造り、腸とはらみ < 数の子 > は塩漬けにして売られた)。カ˹ツイズ [ka˹tsuʔiʥu] ともいう。

カ˹ツァ [kḁ˹tsa] 【名】蚊帳。麻糸で編んだ細目の網状のとばり。夏期には蚊が発生するので、寝室に蚊帳を吊るし、その中に寝た。8 畳用、6 畳用、4 畳半用の蚊帳があった。蚊帳の四隅、または 6 箇所にカ˹ツァヌ˺ミン [kḁ˹tsanu˺miŋ](蚊帳の耳。吊革) を付け、部屋の四隅に取り付けた吊り金に掛けて吊るした。ナ˹チェー˺ガ˹ザン˺ヌ　˹スー˺ワンダ　カ˹ツァー˺　ピ˹キティル˺　ニ˹ブタ˺ダー [na˹ʧe:˺ ga˹ʥan˺nu ˹su:˺wanda kḁ˹tsa:˺ pi̥˹kitiru˺ ni˹buta˺da:](夏は蚊が多い < 強い > ので、蚊張を吊って < 引いて > 寝たんだよ)。ガ˹ザン˺ヌ　˹ゴー˺ラーンダ　ヤー˹ディン˺　カ˹ツァー˺　ピ˹キティ˺　ニ˹ビ˺バ˹ヨー [ga˹ʥan˺nu ˹go:˺ra:nda ja:˹diŋ˺ kḁ˹tsa˺ pi̥˹kiti˺ ni˹bi˺ba˹jo:](蚊が多いから、必ず蚊帳を吊るして < 引いて > 寝なさいね)。

カ˹ツァー˺スン [kḁ˹tsa:˺suŋ] 【他動】掻き混ぜる。˺ヤサイ　カ˹ツァー˺シテ　ミ˹リキン˺グ　˺シキティ　˹ティン˺プラ　ヤ˹キ˺バ [˺jasai kḁ˹tsa:˺ʃi̥ti mi˹rikiŋ˺gu ˺ʃi̥kiti ˹tim˺pura ja˹ki˺ba](野菜を掻き混ぜてメリケン粉をつけてテンプラを揚げ < 焼き > なさい)。カ˹ツァー˺スンティ　˹スンドゥ˺　カ˹ツァーサラ˺ヌ [kḁ˹tsa:˺sunti ˹sundu˺ kḁ˹tsa:sara˺nu](掻き混ぜようとするが、掻き混ぜられない)。˹カツァー˺ス　˺ムヌ [kḁ˹tsa:˺su ˺munu](掻き混ぜるもの)。˹カツァー˺シェー　˺ミサムヌ [kḁ˹tsa:˺ʃe: ˺misamunu](掻き混ぜれば良いのに)。カ˹ツァー˺シバ [kḁ˹tsa:˺ʃiba](掻き混ぜなさいよ)。

カ˹ツァヌ˺ミン [kḁ˹tsanu˺miŋ] 【名】˹蚊帳の耳」の義。蚊帳吊り。蚊帳の吊り手の先に取り付けた金属製の輪。これを部屋の四隅、又は 6 箇所に取り付けた吊り金 < フック > に引っ掛けて蚊帳を吊った。ニ˹ビスクッチナー˺ティ　カ˹ツァ˺　カ˹ルマ˺キティ　カ˹ツァヌ˺ミン　ピ˹キキシナー˺ヌ [ni˹bisu̥kutʧina:˺ti kḁ˹tsa˺ ka˹ruma˺kiti kḁ˹tsanu˺mim pi̥˹kiki̥ʃina:˺nu](寝癖が悪いので、蚊帳をぐるぐる巻いて蚊帳の吊り手を引きちぎってしまった)。

˹ガッカ˺シ [˹gakka˺ʃi] 【副】がくがく。ぶるぶる。厳しい寒さで体ががくがく震えるさま。驚愕したり、恐ろしさに怯えて体が震えるさま。˺ドゥク　ピ˹ラク˺ヌ　˹スーワ˺ティ　ク˹バ˺リティ　˹ガッカ˺シ　˹フッツォーリベー [˺duku pi˹raku˺nu ˹su:˺wati ku˹ba˺riti ˹gakka˺ʃi ˹ɸuttso:ri be:](酷く寒さが厳しくて、凍えてガクガク震えている)。

˹カッ˺キ [˹kak˺ki] 【名】かっけ (脚気)。ビタミン B1 の欠乏症。˹カッ˺キ　カ˹カリプスン˺マー　˹ゲン˺マイ　バ˹カシ˺　ッ˹ふァーソーッ˺タ [˹kak˺ki kḁ˹karipusum˺ma: ˹gem˺mai ba˹kaʃi˺ f˹fa:so:t˺ta](脚気患者 < 脚気に罹った人 > には玄米を炊いて食べさせなさった)。

˹ガッ˺ク [˹gak˺ku] 【名】かぎ (鉤)。先の曲がった金属製の具。物を吊り下げるための金具 < 鉤 >。ナ˹カザ˺ヌ　˹ガッ˺クナー　サ˹ギティー˺グ　˺サイシ˹キ˺リ [na˹kaʥa˺nu ˹gak˺kuna: sa˹giti:˺gu ˺sai ʃi̥˹ki˺ri](土間の吊り下げ用の鉤に吊り手籠を吊るし < 下げて > 置きなさい)。

˹ガッ˺ケ [˹gak˺ke] 【名】鎌。稲刈りや草刈りに用いる、三日月形の鉄製の刃に木製の柄をつけた農具。戦後になって、稲刈り鎌として鋸目のついた鎌が現れた。軽く、長時間使用しても鎌の刃が鈍ることはなかった。˹マイカリガッケ [˹maikarigakke](稲刈り鎌)。ッ˹サカリガッ˺ケー [s˹sakarigak˺ke:](草刈鎌)。˹ガッ˺ケー　˺トゥイティ　˹マイ˺　カ˹リン˺パラ [˹gak˺ke: ˺tuiti ˹mai˺ ka˹rim˺ para](鎌を研いで稲刈りに行こうよ)。˹ガッ˺ケーシル　ガ˹ヤー˺ヤスル˹ダー [˹gak˺ke:ʃiru ga˹ja:˺ja suru˹da:](鎌で茅を刈る < 剃る > のだよ)。

˖カッコー [˖kakkoː] 【名】格好。様子。身なり。すがた。˖ウン˥ネヌ　ッ˖ふァンケーヤ˥　シ˖ラカタ˥チン　˖カイ˥ヤ　タ˖キ˥フドゥン　タ˖カー˥ンダ　イッ˖ケナ　カッコー　カイ˥ヤン [˖ʔun˥nenu ˖faŋkeː˥ja ʃi˖rakata˥tʃiŋ ˖kai˥ja tạ˖ki˥ɸudun tạ˖kaː˥nda ʔik˖kena kakkoː kai˥jaŋ](その家の子供たちは容貌も美しいし、身長も高いので非常に格好がいい)。

˖ガッ˥コー [˖gak˥koː] 【名】学校。鳩間小学校沿革史によると「明治二十九年六月十六日、初メテ當村ニ於イテモ学校ヲ設立スルコトトナリ、當村事務所ノ西隣ノ僅カ九十二坪ノ地ニ、幅ガ二間、長サ三間半、総坪数七坪ノ掘立小屋ヲ作リ、就学児童二十三人ヲ収営シテ大川尋常小学鳩間分校と称シ、雇教員大濱安能氏當分校勤務ヲ明ゼラル。此レ當村ニ於いて教育ノ嚆矢ナリ」『創立百周年記念誌　波涛を越えて』とある。昭和 24 年新学制 (6・3・3 制) により中学校が併置され、新校舎は大泊 582 番地に新築された。村人総出による校舎新築であった。昭和 30 年には小学校も字大泊の現校地に移転し、現在に至っている。˖ガッコー˥ヌ　˖シー˥トー　ムー˖ル˥シ　ギュ˖タール　ブーワ [˖gakkoː˥nu ˖ʃiː˥toː muː˖ru˥ʃi gju˖taːru buːwa](学校の生徒は全体で何人いるか)。˖ガッコー˥ヌ　˖シンシー˥ヌ　˖オー˥ルン [˖gakkoː˥nu ˖ʃiŋʃiː˥nu ˖ʔoː˥ruŋ](学校の先生が来られる)。˖ガッ˥コー　ン˖ジ˥ルン [˖gak˥koː ʔn˖ʤi˥ruŋ](入学する < 学校に出る >)。˖ガッ˥コー　シ˖チギョー　スー˥カー　カ˖ツシン　ヌールン [˖gak˥koː ʃị˖tʃigjoː suː˥kaː kạ˖tsuʃin nuːruŋ](学校卒業したらカツオ漁船に乗る)。

˖ガッ˥コーシートゥ [˖gak˥koːʃiːtu] 【名】学校生徒。生徒。˖ガッ˥コーヤラビ [˖gak˥koːjarabi](学校童。学校生徒) ともいう。˖ガッ˥コーシートゥヌ　ア˖ツァ˥マリ　˖ベー [˖gak˥koːʃiːtunu ʔa˖tsa˥mari ˖beː](生徒 < 学校生徒 > が集まっている)。

˖ガッ˥コーッふァ [˖gak˥koːffa] 【名】児童。生徒。「学校子等」の義。ム˖カ˥シェー　˖ガッ˥コーッふァンケーヌ　ス˖ム˥チ　˥ユム　˥クイン　シゥ˖カリタンドゥ˥　マ˖ナ˥マー　シ˖キミラ˥ヌ [mu˖ka˥ʃeː ˖gak˥koːffaŋkeːnu su˖mu˥tʃi ˥jumu ˥kuin sị˖karitandu˥ ma˖na˥maː ʃị˖kimiram˥baŋ](昔は学校生徒 < 学校子供 > の本を読む声も聞こえたが、今は聞いたことがないよ)。˖ガッ˥コーヤラビ [˖gak˥koːjarabi](学校童) ともいう。

˖ガッ˥コードング [˖gak˥koːdoŋgu] 【名】学校道具。学用品。カバンや教科書、ノート、鉛筆、消しゴム、小刀など。˖ガッ˥コードング　˖カイン˥　パラ˖ディー [˖gak˥koːdoŋgu ˖kaim˥ para˖diː](学用品 < 学校道具 > を買いに行こうよ)。

˖ガッコー˥ナー [˖gakkoː˥naː] 【名】学校で呼ばれる名前。戸籍上の名前。˖タイショージダイバー˥ケー　˖ガッコーナー˥トゥ　˖ヤーナー˥ヌ　˖アッ˥タン [˖taiʃoːʤidaibaː˥keː ˖gakkoːnaː˥tu ˖jaːnaː˥nu ˖ʔat˥taŋ](大正時代までは学校名 < 戸籍上の名 > と家名 < 伝統的に祖父母から貰う名。家で呼ばれる名 > があった)。

˖ガッコー˥ヌ　˖ナー [˖gakkoː˥nu ˖naː] 【連】戸籍上の正式の名前。「学校の名」の義。˖ヤー˥ナー [˖jaː˥naː](家の名前。童名。家での呼び名。伝統的な命名法に基づく名前。長男は父方の祖父の名前を貰い、長女は父方の祖母の名前を貰って命名されたもの。次男は母方の祖父の名、次女は母方の祖母の名を貰って付ける) の対義語。˖ガッコー˥ヌ　˖ナーヤー　シンイチ˥ティ　ア˖ズヌ　ヤー˥ヌ　˖ナーヤ˥　ス˖ク˥レーティル　アル˖ダー [˖gakkoː˥nu ˖naːja ˖ʃiŋʔitʃi˥ti ʔa˖ʤunu jaː˥nu ˖naːja˥ sụ˖ku˥reːtiru ʔaru˖daː](学校の名前は真市というが、家での呼び名 < 童名 > は「津久里」とあるよ)。

˖ガッ˥コーヤスミ [˖gak˥koːjasumi] 【名】学校休み。夏休みや冬休みなどの休業。˖ガッ˥コーヤスミ　˖ペー˥ルカー　イ˖サンケー　サーロー˥ルンツォー [˖gak˥koːjasumi ˖peːru˥kaː ʔi˖saŋkeː saːroː˥runtsoː](学校休みに入ったら石垣島へ連れて行かれるそうだ)。

˖ガッサガッサ [˖gassagassa] 【副】すばやく。急いで。すばやく働いたり、行動するさま。˖ガッサガッサ˥シ　シ˖グトゥ　シー [˖gassagassa˥ʃi ʃi˖gutu ʃiː](さっさと仕事をしろ)。

˖ガッサラガサラ [˖gassaragasara] 【副】がじがじ。歯で齧(カジ)ったり、ものを噛んだりするさま。˖ヌーバ˥ル　ッ˖ふァイベー˥ユー　˖ガッサラガサラ˥シ　ウ˖トゥバ˥　タティ　ン˖マーン˥ギサシ　ッ˖ふァイベート ツォー。フ˖チジルンドゥ˥　ン˖ジ˥ルサー [˖nuːba˥ru ˖faibeː˥juː ˖gassaragasara˥ʃi ʔu˖tuba˥ tạti ʔm˖maːŋ˥gisaʃi ˖faibeːトtsoː。ɸụ˖tʃiʤirundu˥ ʔn˖ʤiru˥baŋ](何を食べているのか、ガジガジ音を立てて美味しそうに食べているよ。よだれ < 涎。「口汁」> が出てくるよ)。

カ˖ツシン [kạ˖tsuʃiŋ] 【名】カツオ漁船。鳩間島のカ˖ツシン [kạ˖tsuʃiŋ] は明治の末頃に沖縄本島の本部町より導入されたという。当初は˖プーシン [˖

pu:ʃiŋ](帆船) で六挺櫓、八挺櫓で漕ぐ船であったという。散水機もなく、˞スー˜パニ [˞su:˜pani](潮撥ね。竹を割った物で潮をかき撥ねる道具) で散水してカツオを釣ったといわれている。発動機船 (焼玉エンジン一気筒を装備した漁船) が導入されたのは昭和に入ってからである (故加治工伊佐氏直話) という。パ˞トゥマ˜ヌ　カ˞ツシンマー˜　ム˞トゥ˜ボーラ　˞プーシンバ　サーロー˜レーツォー [pḁ˞tuma˜nu kḁ˞tsuʃimma:˜ mu˞tu˜bo:ra ˞pu:ʃimba sa:ro:˜re:tso:](鳩間の鰹船は沖縄の本部から導入され < 連れてこられ > たそうだ)。

カ˞ツシンシンカ [kḁ˞tsuʃiŋʃiŋka] 【名】カツオ漁船の船員。「カツオ船臣下」の義か。フ˞ナ˜カク [ɸu˞na˜kaku](船員) ともいう。漁業組合組織にして、カ˞ブシンカ [ka˞buʃiŋka](株組員。株仲間。「株臣下」の義か) ともいうこともある。カ˞ツシンシンカ˜　ア˞ツァ˜ミティ　ザ˞コー˜　トゥリン　˜パラ [kḁ˞tsuʃiŋʃiŋka˜ ʔa˞tsa˜miti ʤa˞ko:˜ turim ˜para](漁船員を集めてカツオの餌 < 雑魚 > を取りに行こう)。

カ˞ツダシ [kḁ˞tsudaʃi] 【名】カツオの出汁。カ˞ツヌ˜　ス˞ブ˜ル　イ˞リティ˜　スー　バ˞カス˜カー　イッ˞ケナ˜　カ˞ツダシヌ˜　シ˞キティ˜　ン˞マー˜タン [kḁ˞tsunu˜ su˞bu˜ru ʔi˞riti˜ su: ba˞kasu˜ka: ʔik˞kena˜ kḁ˞tsudaʃinu˜ ʃi̥˞kiti˜ ʔm˞ma:˜taŋ](カツオの頭を入れてお汁を炊くと非常にカツオの出汁が効いて美味しかった)。カ˞ツダシ˜シ　バ˞カシバル　シームノー˜　ン˞マー˜ダー [kḁ˞tsuda˜ʃi ba˞kaʃibaru ʃi:muno:˜ ʔm˞ma:˜da:](カツオの出汁で炊いたほうが吸い物は美味しいのだよ)。

ガッ˞ダルガダル [gad˞darugadaru] 【名】がたがた震えるさま。驚愕のあまり、腰を抜かしてがたがた震えるさま。イ˞クサ˜ユーナ　グ˞ラマン˜ヌ　バ˞ク˜ダン　ウ˞タシター˜ル　ベーシ˞ティ˜　ウ˞ダラ˜キティ　ダッ˞カ˜ティ　ダ˞ラシ˜キ　ビ˞リティ˜　ガッ˞ダガッダ˜シ　˞フッツォーリ　オーッ˜タ [ʔi˞kusa˜ju:na gu˞raman˜nu ba˞ku˜daŋ ʔu˞taʃi̥ta:˜ru be:ʃi̥˞ti˜ ʔu˞dara˜kiti dak˞ka˜ti bi˞riti˜ gad˞darugadaru˜ʃi ˞ɸuttso:ri ʔo:t˜ta](戦争中に、グラマン機が爆弾を落としたので、ひどく驚いて腰を抜かし、べったりと座り込んだまま、がたがた震えておられた)。

˞カッ˜ツァー [˞kat˜tsa:] 【代】彼ら。あれら。あの人たち。三人称代名詞カ˞リ [ka˞ri](あれ。彼) の複数形。人、物に対して用いる。˞カッ˜ツァー　ブ˞ドゥル　シープス [˞kat˜tsa: bu˞duru ʃi:pusu](あの人たち < かれら > は踊りをする人 < 踊りの分担者 >)。˞クッ˜ツァー　シゥ˞カーリヌ　カッ˜ツァー　シゥ˞カーラヌ [˞kut˜tsa: si̥˞ka:rinu kat˜tsa: si̥˞ka:ranu](これらは使えるが、あれらは使えない)。˞ウッ˜ツァーニン　˞カッ˜ツァーニン　˞マータキナー　アーラ˜シ　˞ふィーリ˜バ [˞ʔut˜tsa:niŋ ˞kat˜ttsa:nim ˞ma:takina: ʔa:ra˜ʃi ˞fi:ri˜ba](これたちにも彼たちにも同じよう < 均等 > に配ってやれ < 呉れなさい > よ)。

ガッ˞ツリ [gat˞tsuri] 【副】きっちり。かっきりと。ちょうど。˞ゾン˜ギシ　ガッ˞ツリ˜　ア˞ティティ˜　キシバ [˞ʤoŋ˜giʃi gat˞tsuri˜ ʔa˞titi˜ ki̥ʃiba](定規できっちり当てて切れよ)。ガッ˞ツリ˜　ア˞タリ　ブー [gat˞tsuri˜ ʔa˞tari bu:](きっちり当たっている)。

˞カッティ [˞katti] 【名】身勝手。わがまま (我儘)。思うまま。自分だけ都合のよいこと。˜ドゥー　˞カッティ˜シ　˞シェー˜　ナ˞ラ˜ヌ　ヤー˞ディン˜　ユ˞ル˜シェー　ウ˞キ˜リ [˜du: ˞katti˜ʃi ˞ʃe:˜ na˞ra˜nu ja:˞diŋ˜ ju˞ru˜ʃe: ʔu˞ki˜ri](自分勝手にしてはならない。必ず許可を受けれ < 受けろ >)。

˞ガッ˜ティン [˞gat˜tiŋ] 【名】合点。承知。˞ワー˜　ウ˞リ˜シ　˞ガッ˜ティン　ナ˞ルン [˞wa:˜ ʔu˞ri˜ʃi ˞gat˜tin na˞ruŋ](君はそれで承知 < 合点 > できるかね)。アー˞イ　ガッ˜ティン　ナ˞ラン˜タ　シ˞キン˜ヌ　˞マープスム˜シ　パ˞ナシアー˜シ　ッ˞ふォー˜リ [ʔa:˞i gat˜tin na˞ran˜ta ʃi̥˞kin˜nu ˞ma:pu̥sumu˜ʃi pa˞naʃiʔa:˜ʃi f˞fo:˜ri](いや、承知出来ませんので、もう一度話し合って下さい)。

˞ガッ˜ティン　˞スン [˞gat˜tin ˞suŋ] 【連】承知する。承諾する。納得する。˞ワー˜　ア˞ズタ˜　カ˞ツブシヌ　ダイヤー　バン˜ヌン　˞ガッ˜ティン　˞スンドゥ　イーシ˜ヌ　ダイヤー˜　マ˞ダ　ガッ˜ティン　ナ˞ラ˜ヌ [˞wa:˜ ʔa˞ʤuta˜ kḁ˞tsubuʃinu daija: ban˜nuŋ ˞gat˜tin ˞sundu ʔi:ʃi˜nu ˞daija:˜ ma˞da gat˜tin na˞ra˜nu](君が言った鰹節の値段は私も納得するが、ツノマタの値段は、まだ納得 < 合点 > できない)。

カ˞ツドゥル [kḁ˞tsuduru] 【名】(動) カツオドリ。カツオドリ科の海鳥で腹は白く他は暗褐色。うみねこ (海猫) にもいう。カツオの魚群に群れて小魚を捕食するので、その群れを探して、それを目印に、カツオを追いながら魚群に船を付けて餌を撒き、カツオを釣る。カ˞ツドゥルバ　ミシ˜キ　ウ˞リバ　ウイヤー˜ティル　カ˞ツォー　ホー˜シタ [kḁ˞tsuduruba miʃi̥˜ki ʔu˞riba ʔuija:˜tiru kḁ˞tso: ho:˜ʃi̥ta](カツオ鳥を探して、それを追いながらカツオは釣ったものだ)。

カ˞ツナマシ [kḁ˞tsunamaʃi] 【名】カツオの刺身。カ

˞ツナマシェー　ミー˞ス　˞タリティ　˞クース　ピッツァ˞シ　イ˞リティ˞　ッ˞ふァイバル˞　ン˞マー˞タ [kạ˞tsunamaʃe: mi:˞su ˞tariti ˞ku:su pittsa˞ʃi ʔi˞riti ˞ f˞faibaru˞ ʔm˞ma:˞ta](カツオの刺身は味噌を水に溶いて唐辛子を漬し入れて食べたほうが美味しかった)。カ˞ツナマシ˞　キシティ　˞ミース˞トゥ　フ˞ナブ˞ヌ　˞シー　˞カキティ　ッ˞ふー˞カー　ン˞マー˞ン [kạ˞tsunamaʃi˞ kị̥ʃiti ˞mi:su˞tu ɸu˞nabu˞nu ˞ʃi: ˞kạ̥kiti f˞fu:˞ka: ʔm˞ma:˞ŋ](カツオの刺身を切って味噌と蜜柑 < 九年母 > の汁 < 酢 > をかけて食べたら美味しい)。

カ˞ツヌ　キンパルン [kạ˞tsunu kimparuŋ] 【連】カツオの黄色い卵巣。「カツオの黄はらみ」の義か。塩漬けにして、バ˞タガラ˞ス [ba˞tagara˞su](からすみ < 鱲子 >) を製造した。カ˞ツヌ　キンパルン　スー˞シキティル　˞カーソーッ˞タ [kạ˞tsunu kimparun su:˞ʃị̥kitiru ˞ka:so:t˞ta](カツオの卵巣も塩漬けにして販売された)。

カ˞ツヌ　シェー˞ガー [kạ˞tsunu ʃe:˞ga:] 【連】カツオの背びれ。背びれと背皮。「カツオの背皮」の義か。単に˞シェー˞ガー [˞ʃe:˞ga:](背皮。背びれ) ともいう。カ˞ツヌ　シェー˞ガー　˞パギ [kạ˞tsunu ʃe:˞ga: ˞pagi](カツオの背びれを剥ぎ取れ)。

カ˞ツヌ　ズーブニ [ka˞tsunu ʤu:buni] 【連】カツオの尾びれ < 尾骨 >。カ˞ツヌ　ズーブニ˞　パ˞マ˞ナー　ウ˞ズミティ˞　シ˞ダ˞スカー　˞ヨー˞ジ　ス˞クラ˞リン [ka˞tsunu ʤu:buni˞ pa˞ma˞na: ʔu˞ʤumiti˞ ʃi˞da˞suka: ˞jo:˞ʤi su˞kura˞riŋ](カツオの尾びれを浜に埋めて肉を落して骨をシ˞ダ˞スン [ʃi˞da˞suŋ](浄化 < 孵化 > させる) と爪楊枝が出来る)。

カ˞ツヌ˞　ス˞ブ˞ル [kạ˞tsunu˞ su˞bu˞ru] 【連】カツオの頭。カ˞ツヌ˞　ス˞ブ˞ル　˞キスン [kạ˞tsunu˞ su˞bu ˞ru ˞kị̥suŋ](カツオの頭を切る)。

カ˞ツヌ˞　ス˞ブ˞ルキシ [kạ˞tsunu˞ su˞bu˞rukị̥ʃi] 【連】カツオの頭切り。漁船が帰港すると、本船から釣ったカツオを˞ティンマ˞グゥー (小伝馬舟) で浜辺へ運ぶ。渚では、カ˞ツヌ˞　ス˞ブ˞ルキシ　マ˞ニ˞ツァ [kạ˞tsunu˞ su˞bu˞rukị̥ʃi ma˞ni˞tsa](大きなカツオの頭切り俎板) を据え、数人の製造人がカツオの頭切り作業をした。その際、カツオの頭は捨てるものだから、カツオを渚から大俎板台へ載せる手伝いをした子供が貰うことになっていた。そこでは、ハ˞ラ˞ゴー [ha˞ra˞go:](腹皮。腹鰭のある腹部の皮) と˞キンパルン [˞kimparuŋ](カツオの卵巣)、ッ˞ス˞パルン [s˞su˞paruŋ](しらこ < 白子 >。「白ハラミ」の義か) を取って、カ˞ツヌ˞　バ˞タガラ˞ス [kạ˞tsunu˞ ba˞tagara˞su](卵巣や白子の塩漬け。からすみ < 鱲子 >) を製造した。

カ˞ツヌ˞　ッ˞ス˞パルン [kạ˞tsunu˞ s˞su˞paruŋ] 【連】カツオの白い精巣。しらこ (白子)。˞カツオの白はらみ」の義か。塩漬けにした。カ˞ツヌ˞　ッ˞スパルン˞マー　ア˞ジェー　ナー˞ヌ [kạ˞tsunu˞ s˞suparum ˞ma: ʔa˞ʤe: na:˞nu](カツオの白い精巣 < しらこ > は味がない)。

カ˞ツヌ˞　ナ˞カ˞ブニ [kạ˞tsunu˞ na˞ka˞buni] 【連】カツオの中骨 (脊髄骨。˞ズーブニ [˞ʤu:buni]< 尾骨。尾びれ > を除いたもの)。カ˞ツヌ˞　ナ˞カ˞ブニ　˞シジティ　˞ダシ　˞トゥリバ [kạ˞tsunu˞ na˞ka˞buni ˞ʃiʤiti ˞daʃi ˞turiba](カツオの中骨 < 脊髄骨 > を煎じて出汁を取れよ)。˞シーゾー˞ヤーラ　カ˞ツヌ˞　ナ˞カ˞ブニ　˞イー˞リ　˞クー [˞ʃi:ʤo:˞ja:ra kạ˞tsunu˞ na˞ka˞buni ˞ʔi:˞ri ˞ku:](鰹節製造工場 < 製造屋 > からカツオの中骨を貰ってこい)。

カ˞ツヌ˞　ナ˞カ˞ワリ [kạ˞tsunu˞ na˞ka˞wari] 【連】カツオの三枚卸。「カツオの中割」の義。ク˞バンマー˞　カ˞ツヌ˞　ナ˞カ˞ワリ　シ˞ティル˞　カ˞ミ˞ブシ　ス˞ク˞ローッタ [ku˞bamma:˞ kạ˞tsunu˞ na˞ka˞wari ʃị̥ ˞tiru˞ ka˞mi˞buʃi sụ˞ku˞ro:tta](カツオの小判は三枚卸にして < ぞ > 亀節 < 小さな鰹の三枚卸にした片身を一節にした鰹節 > を造られた)。

カ˞ツヌ　ニージル [kạ˞tsunu ni:ʤiru] 【連】カツオの煮汁。˞シーゾー˞ヤーラ　カ˞ツヌ　ニージル　イー˞リ　˞キー　˞オー˞ヌ　˞イーヌ　˞ダシ　˞シー˞バ [˞ʃi:ʤo:˞ja:ra kạ˞tsunu ni:ʤiru ʔi:˞ri ˞ki: ˞ʔo:˞nu ˞ ʔi:nu ˞daʃi ˞ʃi:˞ba](鰹節製造工場からカツオの煮汁を貰ってきて豚の餌の出汁にしなさいよ)。

カ˞ツヌ˞　バタ [kạ˞tsunu˞ bata] 【連】カツオのはらわた (腸)。内臓。カ˞ツヌ˞　バタン　バ˞ザイティ˞　バ˞タガラ˞ス　ス˞コーッ˞タ [kạ˞tsunu˞ batam ba˞ʤaiti˞ ba˞tagara˞su sụ˞ko:t˞ta](カツオの内臓 < 腸 > も、捌いて腸の塩漬けに漬けられた)。

カ˞ツヌ˞　バ˞タガラ˞ス [kạ˞tsunu˞ ba˞tagara˞su]【連】カツオの腸の塩漬け。ム˞カ˞シェー　カ˞ツヌ˞　バ˞タガラ˞ソー　˞ウンヌイー˞ヌ　カ˞ティ˞ムヌ　˞ヤッタ [mu˞ka˞ʃe: kạ˞tsunu˞ ba˞tagara˞so: ˞ʔunnuʔi:˞nu kạ˞ti˞munu ˞jatta](昔はカツオの腸の塩漬けは芋ご飯のおかず < 御数。ご飯の采。副食物 > であった)。

カ˞ツヌ˞　ハ˞ラ˞ゴー [kạ˞tsunu˞ ha˞ra˞go:] 【連】カツオの腹皮。カツオの胸鰭から後ろの腹部の皮。内

臓を包む腹部の皮。脂がのって美味しい。塩漬けにもして販売した。

カ˞ツヌ˜　パルン [kạ˞tunu˜ paruŋ] 【連】カツオの卵巣と精巣。「カツオのハラミ」の転訛したものか。˞キンパルン [˞kimparuŋ](黄色い卵巣) とッ˞ス˜パルン [s˞su˜paruŋ](白い精巣) がある。カ˞ツヌ˜　パ˞ルン˜ヌン　カ˞ラ˜ス　ス˞コーッ˜タン [kạ˞tsunu˜ pa˞run˜nuŋ ka˞ra˜su sụ˞ko:t˜taŋ](カツオの卵巣、精巣をも塩漬け、からすみ＜鱵子＞に漬けられた)。

カ˞ツヌ　ピーマ [ka˞tsunu pi:ma] 【連】カツオのえら (鰓)。カ˞ツヌ　ピーマ˜　トゥリティ　ア˞ダンブラ˜ヌ　˜ニーナ　フ˞バリティ˜　マコヤ　˜トゥリクー˞ディー [kạ˞tsunu pi:ma˜ turiti ʔa˞dambura˜nu˜ ni:na ɸu˞bariti˜ makoja turiku:˞di:](カツオの鰓を取ってアダンの根に括っておいてヤシガニを捕獲して来ようよ)。

カ˞ツヌ˜　ヒ˞ジ˜ガラ [kạ˞tsunu˜ çi˞ʤi˜gara] 【連】鰹節の削りくず＜殻＞。単にヒ˞ジ˜ガラ [çi˞ʤi˜gara] ともいう。ヒ˞ジ˜ガラ [çi˞ʤi˜gara](削り殻) は冬期の家庭用の出汁のもととして保存された。フ˞ヨー˜　ヒ˞ジガラ˜バ　˜シジティ　˜ダシ　トゥ˞ローッ˜タ [ɸu˞jo:˜ çi˞ʤigara˜ba ˜ʃiʤiti ˜daʃi tu˞ro:t˜ta](冬には鰹節の削り殻を煎じてだし汁を取られた)。

カ˞ツヌ　ミン˜バニ [ka˞tsunu mim˜bani] 【連】カツオのえらぶた (鰓蓋)。カ˞ツヌ　ミン˜バネー　˜キシティ　˜スー　バ˞カシ [kạ˞tsunu mim˜bane: ˜kị̣ʃiti˜ su: ba˞kaʃi](カツオの鰓蓋を切ってお汁に炊け)。

˞カッ˜パ [˞kap˜pa] 【名】合羽。雨合羽。ポルトガル語由来の外来語が借用されたもの。ア˞ミ˜ヌ　˞フイ˜バ　˞カッ˜パ　˜カビティ　˜パリバ [ʔa˞mi˜nu ˞ɸui˜ba ˞kap˜pa ˜kabiti ˜pariba](雨が降るからカッパを被って行きなさいよ)。

˞ガッ˜パイ [˞gap˜pai] 【名】おでこ。出っ張った額。ウ˞レー　ガッ˜パイ　ヤ˞ルンダ˜　ス˞ブ˜ロー　カ˞チ˜ブー　パジ˞ダー [ʔu˞re: gap˜pai ja˞runda˜ su˞bu˜ro: kạ˞tʃi˜bu: paʤi˞da:](彼はおでこだからきっと秀才だろう＜頭は勝っているはずだ＞よ)。

˞ガッ˜パイスブル [˞gap˜paisuburu] 【名】おでこ (額) の大きな頭。額が高く出ている頭。ウ˞レー　ガッ˜パイスブル　ヤ˞ルンダ˜　イッ˞ケン˜　ディ˞キ˜ルン　パジ˞ダー [ʔu˞re: gap˜paisuburu ja˞runda˜ ʔik˞keŋ˜ di˞ki˜rum paʤi˞da:](あれ＜彼＞は大きなおでこ頭の人だから、きっと非常によく出来る人＜秀才＞だはずよ)。

カ˞ツ˜ピギ [kạ˞tsu˜pigi] 【名】鰹節削り。「鰹節へぎ＜剥ぎ＞」の義。この作業は主として婦人達が担当した。専用の˞シー˜グ [˞ʃi:˜gu](小刀。「さいぐ (鉏具)」の転訛したものか) を用いた。˞シーゾー˜ヤーナテー　ミ˞ドゥムンケーヌ˜ル　˞シー˜グシ　カ˞ツブシ˜　ピ˞ゴーッ˜タ [˞ʃi:ʤo:˜ja:na:te: mi˞dumuŋke:nu˜ru ˞ʃi:˜guʃi kạ˞tsubuʃi˜ pi˞go:t˜ta](鰹節製造工場では女達が小刀で鰹節を削られた＜へがれた。剥がれた＞)。

カ˞ツピギシー˜グ [kạ˞tsupigiʃi:˜gu] 【名】鰹節削り小刀。「鰹節へぎ＜剥ぎ＞・シーグ (さいぐ＜鉏具＞)」の転訛したもの。カ˞ツピギシー˜グナー　シ˞キシーグ˜　、シ˞キカタナ˜、　ピ˞キシーグ˜、ハ˞ラ˜クリティ　˞スー　シーグ˜ン　ア˞リ˜ブタ [kạ˞tsupigiʃi:˜guna: ʃị̣˞kiʃi:gu˜、ʃị̣˞kikatana˜、pị̣˞kiʃi:gu˜、ha˞ra˜kuriti ˞su: ʃi:gu˜ŋ ʔa˞ri˜buta](カツオ削り小刀には、突き小刀、突き小刀、引き削り小刀、腹刳り小刀、という小刀もありをった)。

˞ガッふァガッふァ [˞gaffagaffa] 【副】豚のように大きな口を開けて、口から食物を零しながら勢いよく食べるさま。擬音語。擬態語。がばがば。むしゃむしゃ。˞オーリムヌンヌ˜　カタチヌ　˞イー˜バ　˞ガッふァガッふァ˜シ　ッ˞ふァイ˜　ヌーヤ　ウ˞レー [˞ʔo:rimunnu˜ kạtatʃini ˞ʔi:˜ba ˞gaffagaffa˜ʃi f˞fai˜nu:ja ʔu˞re:](追われ者のように、ご飯を口元から落としながら、がばがば、むしゃむしゃと無作法に食べて、なんだねえこれは)。

ガッ˞ふァ˜ティ [gaf˞fa˜ti] 【副】がっぽりと。ぴったりと。ぱくっと。思いがけない大量の幸運がくるさま。ク˞ビ˜ナーヌ　˞ジン˜カニ　ガッ˞ふァティ˜　タ˞ボーラ˜リ　フ˞コーラサ˜ユー [ʔu˞bi˜na:nu ˞ʤiŋ˜kani gaf˞fati˜ ta˞bo:ra˜ri ɸụ˞ko:rasa˜ju:](これほど沢山のお金をがっぽりと頂戴できて有難うございます)。ガッ˞ふァティ˜＜ガッ˞ツティ˜＞　ハ˞マリ˜ブバン [gaf˞fati˜ ＜gat˞tsuti˜＞ ha˞mari˜bubaŋ](ぴったりとはまって＜嵌って＞いるわい)。

ガッ˞ふァティ [gaf˞fati] 【副】ばったり。突然に対面するさま。ウ˞リ˜　ヤ˞ラビンティ˜　パルンケン　ミ˞チ˜ナーティ　ガッ˞ふァティ　ゲーサイティ　サーリ　クー˜タ [ʔu˞ri˜ ja˞rabinti˜ paruŋkem mi˞tʃi˜na:ti gaf˞fati ge:saiti sa:ri ku:˜ta](その人を呼びに行く途中、道中でばったり出会って連れてきたよ)。

カ˞ツブシ [ka˞tsubuʃi] 【名】鰹節。鰹節には˞ウー˜ブシ [˞ʔu:˜buʃi](雄節。四つ割りにした背肉の部分) と˞ミー˜ブシ [˞mi:˜buʃi](雌節。四つ割りにした腹肉の部分)、カ˞ミ˜ブシ [ka˞mi˜buʃi](亀節。ク˞バン [ku˞

baŋ]< 小判。小さなカツオ > の身を三枚おろしにして、片身を一節にしたもの) がある。˞ウー˜ブシ (雄節) が最高品質の鰹節で、˞ミー˜ブシ (雌節) は二級品質、カ˞ミ˜ブシ (亀節) は三級品質の鰹節である。カツオを三枚におろし、四つ割りにして煮籠に並べ、それを十数枚重ねて煮釜に入れて煮る。十分に煮た後煮籠を引き上げて冷し、バ˞ラ˜ヌキ [ba˞ra˜nuki](骨の抜き取り) をして焙乾小屋に移して焙乾し、カツオ節にした。カ˞ツブシェー　ウーブシ˜ル　˞ダイヤー˜　タ˞カー [kḁ˞tsubuʃe: ʔu:buʃi˜ru ˞daija:˜ tḁ˞ka:](鰹節はウーブシが値段は高い)。

カ˞ツブシ　シーゾー˜ヤー [kḁ˞tsubuʃi ʃi:ʤo:˜ja:]【連】鰹節の製造屋。鰹節製造工場。単に˞シーゾー˜ヤー [˞ʃi:ʤo:˜ja:](製造屋) ともいう。パ˞トゥ˜マナー　カ˞ツブシ　シーゾーヤー˜ヌ　˞ユーントン　アッ˜タン [pḁ˞tu˜mana: kḁ˞tubuʃi ʃi:ʤo:ja˜nu ˞ju:ntoŋ ʔat˜taŋ](鳩間島には鰹節製造工場が四箇所あった)。

カ˞ツムシ [kḁ˞tsumuʃi]【名】(動) カツオブシムシ。鰹節に寄生する甲虫。カ˞ツブシ˜　ピギティ　タ˞ブイラン˜カー　カ˞ツムシヌ˜　シゥクン˞ダー [kḁ˞tsubuʃi˜ pigiti ta˞buiraŋ˜ka: ka˞tsumuʃinu˜ su̥kun˞da:](鰹節は削って < 剥いで > 保存しないとカツオ虫が付くぞ)。体長 1 メートル級の˞ダイ˜バン [˞dai˜baŋ](大型のカツオ) の内腹部の表皮に白く長い虫が付くことが稀に見られたが、これにもカ˞ツムシ [kḁ˞tsumuʃi] といった。

˜カツン [˜katsuŋ]【自動】勝つ。ク˞ヌ　スー˜ボー　˜カツンカヤー [ku˞nu su:˜bo: ˜kḁtsuŋkaja:](この勝負は勝つだろうか)。カ˞チ˜プサー　ア˞ル˜ヌ　カ˞ツァ˜バン　マ˞カバン˜　ミサバ　ヤー˞ディン　シー˜ミリバ [kḁ˞ʧi˜pu̥sa: ʔa˞ru˜nu kḁ˞tsa˜bam ma˞kabam˜ misaba ja:˞diŋ ʃi:˜miriba](勝ちたくはあるが、勝っても < 勝たばも > 負けても < 負かばも > いいから、必ずやってみろよ)。˜パル　プ˞ソー˜　ヤー˞ディン˜　カチバ [˜paru pu̥˞so:˜ ja:˞diŋ˜ kḁʧiba](行く人は必ず勝てよ)。˞マー˜ビン　˜カチェー　˜ミサムヌ [˞ma:˜biŋ ˜kḁʧe: ˜misamunu](もっと勝てばよいのに)。

˜ガツン [˜gatsuŋ]【名】(動) 魚の名。アジの仲間。和名、メアジ (体長約 30 センチ)。体形は長紡錘形で、背は暗青色。腹部は銀白色を呈する。ガ˞ツン˜マー　カ˞タチェー˜　シ˞ブ˜ター　˞ニーブ [ga˞tsum˜ma: kḁ˞tatʃe:˜ ʃi˞bu˜ta: ˞ni:bu](メアジは体形はシブター < そうだがつお > に似ている)。和名、ヅナガメアジ (体長約 25 センチ)、和名、ホソヒラアジ (体長 25 センチ) にもいう。ガ˞ツン˜マー　ハ˞ニビキ˜シン　˞ホーサリ˜タン [ga˞tsum˜ma: ha˞nibiki˜ʃiŋ ˞ho:sari˜taŋ](ガツンは引き縄釣り < ハニビキ > でも釣れた)。

カ˞ティ [kḁ˞ti]【名】技術や要領を会得していること。経験豊かで、その道に精通していること (老年層の言葉)。若年層で˞カッティ [˞katti](勝手。経験豊かな人) という人もいる。イ˞ソーカティ [ʔi˞so:kati](漁業経験豊かで漁労が上手であること)。˞サイク˜カティ [˞saiku˜kḁti](大工の経験者で建築技術者であること)。˞サンバ˜カティ [˞samba˜kḁti](産婆の経験が豊かで、新生児を取り上げる技術があること)。パ˞トゥ˜マ　˜プソー　ムー˞ル˜　イ˞ソーカティヌ˜　アンダ　パル˞カージ˜　タクン　イ˞ズン˜　ユー˜トゥリクン [pḁ˞tu˜ma ˜pu̥so: mu:˞ru˜ ʔi˞so:kati˜nu ˜ʔanda paru˞ka:ʤi˜ tḁkuŋ ʔi˞ʤuŋ˜ ju: ˜turikuŋ](鳩間の人は漁業経験が豊かだから漁に行くたびに蛸も魚もよく獲ってくる)。˞インヌムラ˜ナー　˞サンバ˜カテー　˞メークヤーヌ˜　ブ˞バートゥ˜　ウブシケーヌ　ア˞ボー˜トゥ　フ˞タールル　オーッ˜タ [˞ʔinnumura˜na: ˞samba˜kḁte: ˞me:kuja:nu˜ bu˞ba:tu˜ ʔubuʃi̥ke:nu ʔa˞bo:˜tu ɸu̥˞ta:ruru ʔo:t˜ta](西村では産婆勝手 < 産婆経験者 > は宮良家のブバー < 大伯母 > と大城家のアボー < お母さん > の二人がおられた。東村では仲本サカイ氏と˞トゥー˜ジェヌ　アッパー < 通事家のお婆さん。通事通事隆氏の母 > が˞サンバ˜カティであった)。

カ˞ティ˜ウシ [kḁ˞ti˜ʔuʃi]【名】搗き臼。在来種の赤穂米の長いのぎ (芒。禾) を落とすための搗き臼。玄米を精げる臼よりも高さが低く、深めに彫られた臼で、松材で作られていた。˞ザイレー˜マイ　˜サウカー　カ˞ティ˜ウシナ　イ˞リ˜　ッサイティ　˞マイヌプー˜ヌ　ン˞ギ˜　ブリ　ウ˞タ˜シバ [˞ʤaire:˜mai˜sauka: kḁ˞ti˜ʔuʃina ʔi˞ri˜ ssaiti ˞mainupu:˜nu ʔŋ˞gi˜buri ʔu˞ta˜ʃiba](在来種の赤穂米を稲扱き管で扱きおろしたら搗き臼に入れて搗い < 精げ > て稲穂の芒を折り落としなさい)。

カ˞ティヌ˜　アン [kḁ˞tinu˜ ʔaŋ]【連】経験豊かで仕事に精通していて、上手である。ウ˞レー　サイクヌ　カ˞ティヌ˜　アン [ʔu˞re: saiku˜nu kḁ˞tinu˜ ʔaŋ](あれは大工の経験があって上手である)。

カ˞ティ˜マイ [kḁ˞ti˜mai]【名】ノギ (禾、芒) を取り去った籾。在来種の稲を脱穀して芒を落とすために臼にいれ、杵で搗いて籾にした。これを更に挽き臼にかけて玄米にし、搗き臼で搗いて精米し

た。芒を除去するために臼で搗くことを、˞カトゥン [˞kạtuŋ](かてる < 糅て > の義か) という。˞ウシノーマイ [˞ʔuʃinoːmai](在来種の米) やダ˞ネー˞ママイ [da˞neː˞mamai](在来種の米) には長いのげ (芒) があるので、搗臼で搗いて芒を除去する必要があり、そのことを˞カトゥン [˞kạtuŋ](搗く < カツ >) というが、カティマイは、「搗いて芒を落とした籾」の義。˞ザイレーマイ˞ヤー　カ˞ティ˞マイ　˞ナシティ　˞ウンダル˞　ピ˞キウシ˞シ　ピ˞キティ˞　ア˞ラム˞トー　˞トゥッ˞タ˞ダー [˞ʤaireːmai˞jaː kạ˞ti˞mai ˞naʃi̥ti ˞ʔundaru˞ pi̥˞kiʔuʃi˞ʃi pi̥˞kiti˞ ʔa˞ramu˞toː ˞tut ˞ta˞daː](在来種の赤米は臼で搗いて芒を除去し、それから挽き臼で挽いて玄米にし、アラムトゥ < 籾殻 > は取り去ったものだよ)。

カ˞ティ˞ムヌ [ka˞ti˞munu] 【名】副食物。おかず (御数)。和え物。「かてもの < 糅てもの >」の義。「糅、まぜる。醤酢 < ひしほす > に蒜 < ひる > つきかてて〜。万、3829」。「雑、マジフ・カサヌ・カツ」『類聚名義抄』」の転訛したもの。「むきやてもの　御和 < カテ > 物の事也『混効験集』」の義。カ˞ティ˞ムノー　˞ヌー˞ル　バ˞カスワ [kạ˞ti˞munoː ˞nuː˞ru ba˞kasuwa](おかず < 御数 > には何を炊くか)。˞スー˞ヌ　˞ピスカー　イ˞ソー˞ナ　˞ギー˞　カ˞ティ˞ムヌ　˞トゥリクー　˞ディー [˞suː˞nu ˞pi̥suka: ʔi˞soː˞na ˞giː˞ kạ˞ti˞munu ˞turi ˞kuː ˞diː](潮がひいたら漁 < 潮干狩り > に行って御数 < 糅物 > になるものを獲って来ようよ、さあ)。

カ˞ティ˞ルン [kạ˞ti˞ruŋ] 【他動】御飯に副食物を和える。混ぜる。「かてる (糅てる)、推古紀」の義。˞ウン˞マー　バ˞タガラス˞トゥ　カ˞ティ˞ルカー　ン˞マー˞タン [˞ʔum˞maː ba˞tagarasu˞tu kạ˞ti˞ruka: ʔm ˞maː˞taŋ](イモはカツオの塩辛と混ぜて < かえて > 食べると美味しかった)。˞ウン˞トゥ　カ˞ティ˞ルンティ　ウ˞ムーン˞ドゥ　カ˞クラー˞キ　˞スンダ˞　カ˞ティラン˞ドーシ　ッ˞ふァイ˞バ [˞ʔun˞tu kạ˞ti˞runti ʔu˞muːn˞du kạ˞kuraː˞ki ˞sunda˞ kạ˞tiran˞doːʃi f ˞fai˞ba](イモをかて < 糅 > ようと思うが、胸焼けを起こすから、かて < 糅 > ないで食べなさい)。

カ˞ティ˞ルン [kạ˞ti˞ruŋ] 【他動】臼に在来種の稲を入れて搗き、のぎ (芒) を除去する。カ˞ティ˞ウシナ　˞ザイレー˞マイ　イ˞リティ˞　カ˞ティ˞ルンティ　˞スンドゥ˞　ブ˞ガ˞リティ　カ˞ティラ˞ヌ [kạ˞ti ˞ʔuʃina ˞ʤaireː˞mai ʔi˞riti˞ kạ˞ti˞runti ˞sundu˞ bu˞ga˞riti kạ˞tirara˞nu](臼に在来米を入れて搗いて芒を落とそうとするが、疲れて芒を落とされない)。カ˞ティ˞ル　˞クトー　˞ナルン [kạ˞ti˞ru ˞kụtoː ˞naruŋ](搗いて芒を落とすことはできる)。カ˞ティ˞レー　˞ミサムヌ [kạ˞ti˞reː ˞misamunu](搗いて芒を落とせば良いのに)。˞マイ˞　カ˞ティ˞リ [˞mai˞ kạ˞ti˞ri](米を搗いて芒を落とせ)。

˞カドー [˞kadoː] 【連】˞カドゥ [˞kadu](こんなに遠く < 空間 >) に係助詞-ヤ [-ja](は。とりたて強意) が融合した形。˞カドーラン　˞シンニン　˞ヨイ　˞シー˞　ッ˞ふィールンティ˞　ケーバン˞ナー [˞kadoːraŋ ˞ʃinniŋ ˞joi ˞ʃiː˞ f˞fiːrunti˞ keːban˞naː](こんなに遠い所からもわざわざ < 専念、もっぱら > お祝いをしてくれようとして来たのだねえ)。こんなに長く (時間)。˞ヌンティル　カ˞ドゥ˞ナー　ミ˞ララン˞シェンワ [˞nuntiru ka˞duˀna: mi˞raraŋ˞ʃeŋwa](どうしてこんなにも長い間姿をみせなかったのか < 見えなかったのか >)。˞カドー　パ˞ラサラ˞ヌ [˞kado: pa ˞rasara˞nu](こんなに遠くへはやれない < 行かされない >)。

カ˞トーシ [kạ˞toːʃi] 【名】梳き櫛。歯の細かい櫛。˞ッサン [˞ssaŋ](虱) や˞ケー˞サ [˞keː˞sa](虱の卵) を梳き落とすのに用いる櫛。左右両方に細かい櫛の歯がある。カ˞トーシ˞シ　ガ˞マ˞ジ　˞キジティル　˞ッサン　キ˞ジウタシ˞タ [kạ˞toːʃi˞ʃi ga˞ma˞ʤi ˞kiʤitiru ˞ssaŋ ki˞ʤiʔutaʃi̥˞ta](梳き櫛 < 歯の細かい櫛 > で髪を梳いて < ぞ > 虱を梳き落とした)。

˞カドゥ [˞kadu] 【名】義理。廉(カド)。きちんとしたけじめ。折り目正しい態度。ウ˞レー˞　カドゥ　ブ˞リ˞ムヌ [ʔu˞reː˞ kadu bu˞ri˞munu](あいつは恥知らずだ。義理を欠く者。廉折れ者の義)。

˞カドゥ [˞kadu] 【名】角。すみ (隅)。˞シヌ [˞ʃinu](つの) ともいう。シ˞チ˞ヌ　˞ピンマー　˞ヤー˞ヌ　˞ユーカドゥ˞ナー　˞サン˞バ　˞ッシ　シゥ˞コーッ˞タ [ʃi̥˞ʧi˞nu ˞pimmaː ˞jaː˞nu ˞juːka˞duna: ˞sam˞ba ˞ʃʃi sụ ˞koːt˞ta](節祭りの日には家の四つ角にお祓いのサンを挿しておかれた)。ジ˞ブク˞ヌ　˞カドゥン　˞ゾー˞ブンニ　ッ˞スリ˞バ [ʤi˞buku˞nu ˞kadun ˞ʤoː ˞bunni s˞suri˞ba](重箱の角も十分に < 存分に > 拭きなさい)。˞ヤー˞ヌ　˞カドー　シゥ˞カンキー˞シ　シゥ˞カイ˞　シキバ [˞jaː˞nu ˞kadoː si̥˞kaŋkiː˞ʃi si̥˞kai ˞ʃi̥kiba](家の角は支柱 < つかえ柱 > で支え < つかえて > ておきなさいよ)。

˞カドゥ [˞kadu] 【名】歌謡語で、「村」の意。「琉球国時代の集落の単位で、十戸ほどを一組にしたもの。「フン [˞ɸuŋ](組) ともいった。「アサドーヤブ˞シゥ [˞ʔasadoːjabu˞sï](安里屋節) に˞フンカドゥ [˞

ɸuŋkadu] が集落の意で歌われている」『石垣方言辞典』。「仲筋ニ走リオリ/フンカドゥニ飛ビヤオリ」安里屋節、第六連『八重山民謡誌』。

カ˩トゥ˥ク [kạ˩tu˥ku] 【名】家督。相続すべき家の跡目。標準語からの借用語。普通は、˥アトゥシギ [˥ʔatuʃigi](跡継ぎ) という。˩クン˥ネヌ　カ˩トゥ˥ク　シ˩ギプソー　ター˥ヤ [˩kun˥nenu kạ˩tu˥ku ʃi˩ gipụso: ta:˥ja](此の家の家督を継ぐ人は誰か)。

カ˩ドゥブリ˥ムヌ [ka˩duburi˥munu] 【名】義理を欠いた者。不義理な人。「廉 < かど > 折れ者」の義。ク˩ヌ˥　トゥシ　˥ナリティン　シ˩キン˥ピライ　˩サン˥カー　カ˩ドゥブリ˥ムヌティ　ア˩ザリン˥ダー [ku˩nu˥ tụʃi ˥naritiŋ ʃị˩kim˥pirai ˩saŋ˥ka: ka˩duburi˥munuti ʔa˩ʤarin˥da:](この年になっても世間交際をしないと義理を欠いた者といわれるよ)。

˥カトゥン [˥kạtuŋ] 【他動】かつ (搗つ)。臼で搗く。「かてる (糅てる) 下二段」の四段活用化したものか。稲ののぎ (芒) を搗き臼で搗いて取り除く。「搗、ツク・カツ『類聚名義抄』」の転訛したもの。˩ザイレーマイ˥ヤー　˥ウシナー　˥カティティル　ピ˩キウシ˥シ　ピ˩クタル [˩ʤaire:mai˥ja: ˥ʔuʃina: ˥kạtitiru ˩ʔunda˥ pị˩ki?uʃi˥ʃi pị˩kutaru](在来米 < 赤米 > は搗き臼で搗いて、それから挽き臼で挽いたものだ)。˥バー　˩タンガ˥シ　˥カトゥン [˥ba: ˩taŋga˥ʃi ˥kạtuŋ](私一人でかつ < 搗つ >)。˩ザイレーマイ˥ヤー　˥サイシケーバ　˩パー˥ク　カ˩ティ˥リ [˩ʤaire:mai˥ja: ˥saiʃịke:ba ˩pa:˥ku kạ˩ti˥ri](在来米 < 赤米 > は脱穀して <扱(シゴ)いて > あるから、ゴ早く搗けよ < かてよ。搗てよ >)。

˥カトゥン [˥kạtuŋ] 【他動】ご飯に副食物のおかず (御数) を混ぜて食べる。混ぜる。「～醤酢 (ひしほす) に蒜都伎合而 < ひるつきカテテ >～。万、3829」、「雑、マジフ、カサヌ、カツ」『類聚名義抄』の転訛したもの。˩スー˥ヤ　˩ナーン˥カー　カ˩ツヌ˥　バ˩タガラス˥トゥ　˩ウンヌイー˥トゥ　˥カティティ　ッ˩ふァイ˥バ [˩su:˥ja ˩na:ŋ˥ka: kạ˩tsunu˥ ba˩tagarasu˥tu ˩ʔunnu?i:˥tu ˥kạtiti f˩fai˥ba](お汁が無ければカツオの腸の塩辛と芋のご飯とを付け合せて食べなさい)。バ˩タガラス˥トゥ　˥カトゥンティ　˩スンドゥ˥　カ˩クラー˥キ　˩スンダー　ウンヌイー˥トー　カティッ˩ふァーラヌ [ba˩tagarasu˥tu ˥kạtunti ˩sundu˥ kạ˩kura:˥ki ˩sunda: ʔunnu?i:˥to:˥ kạtif˩fa:ranu](腸の塩辛と付け合せて食べようとするが、胸焼けするので、芋のご飯とは付け合せで喰えない)。˥カトゥ　˥ムヌ [˥kạtu ˥munu](付け合せるもの)。˥カテー　˥ミサムヌ [˥kate: ˥misamunu](付け合せればいいのに)。˥カティバ [˥kạtiba](付け合せろよ)。

カ˩トンカ˥スン [kạ˩toŋka˥suŋ] 【他動】傾ける。傾かせる。˩タン˥グ　カ˩トンカ˥シティ　ミ˩ジ˥　フ˩ミ˥バ [˩taŋ˥gu kạ˩toŋka˥ʃị̈ti mi˩ʤi˥ ɸu˩mi˥ba](水担桶を傾けて水を汲めよ)。アー˩イ˥　カ˩トンカサ˥ヌ [ʔa:˩i˥ kạ˩toŋkasa˥nu](嫌だ。傾けない)。カ˩トンカ˥スンティ　˥ウムーカー　カ˩トンカ˥シバ [kạ˩toŋka˥sunti˥ ʔumu:ka: kạ˩toŋka˥ʃiba](傾かそうと思うなら傾かせろ)。カ˩トンカ˥シェー　˥ミサムヌ [kạ˩toŋka˥ʃe: ˥misamunu](傾かせれば良いのに)。ス˩ブ˥ル　カ˩トンカ˥スン [su˩bu˥ru kạ˩toŋka˥suŋ](頭 < 首 > を傾ける)。˥フニ　カ˩トンカシ˥　プサンドゥ　カ˩トンカサラ˥ヌ [˥ɸuni kạ˩toŋkaʃi˥ pụsandu kạ˩toŋkasara˥nu](舟を傾けたいが、傾けられない)。ス˩ブ˥ル　カ˩トンカ˥ス　˥ピンマー　˩キー˥　シ˩キ˥リ [su˩bu˥ru kạ˩toŋka˥su ˥pimma: ˩ki:˥ ʃị˩ki˥ri](頭 < 首 > を傾ける時は気をつけなさい)。˩パー˥ク　カ˩トンカ˥シ [˩pa:˥ku kạ˩toŋka˥ʃi](早く傾かせよ < 傾けよ >)。

カ˩トンキアラ˥キ [kạ˩toŋkiara˥ki] 【名】傾き歩き。首をかしげ <傾(カシ)げ > て歩くさま。首を傾げて歩く癖のある歩き方。˩ワー˥　ヌンティル　˥アイニ　カ˩トンキアラ˥キ　˩シー　アーク˥ワ [˩wa:˥ nuntiru˥ ʔaini kạ˩toŋkiʔara˥ki ˩ʃi: ʔa:ku˥wa](君はどうして首傾(カシゲ)歩きをしているのか)。

カ˩トン˥クン [ka˩toŋ˥kuŋ] 【自動】1傾く。傾斜する。˩ナイ˥ヌ　シ˩ター　ヤー˥ヤ　カ˩トン˥キ　˩ナー˥ヌ [˩nai˥nu ʃị˩ta: ja:˥ja kạ˩toŋ˥ki ˩na:˥nu](地震がしたので家は傾いてしまった)。˩ウシカラシタンティン˥　カ˩トンカ˥ヌ [˩ʔuʃị̈karaʃị̈tantiŋ˥ kạ˩toŋka˥nu](押しても傾かない)。˩ナイ˥ヌ　˩スー˥カー　˩ヤー˥ヤ　カ˩トン˥クン [˩nai˥nu ˩su:˥ka: ˩ja:˥ja kạ˩toŋ˥kuŋ](地震がしたら家は傾く)。カ˩トン˥ク　˥ムノー　˩ナー˥ヌ [kạ˩toŋ˥ku ˥muno: ˩na:˥nu](傾くものはない)。ン˩メーマ˥　カ˩トン˥ケー　˥ミサムヌ [ʔm˩me:ma˥ kạ˩toŋ˥ke: ˥misamunu](少しは傾けばよいのに)。ン˩メーマ˥　カ˩トン˥キバ [ʔm˩me:ma˥ kạ˩toŋ˥kiba](少し傾けよ)。˩オーニー˥　シ˩ム˥カー　˥フネー　カ˩トンクン˥ドゥ　ウ˩ブ˥フネー　カ˩トンカ˥ヌ [˩ʔo:ni:˥ ʃi˩mu˥ka: ˥ɸune: kạ˩toŋkun˥du ʔu˩bu˥ɸune: kạ˩toŋka˥nu](上荷を積むと舟は傾くが、大きな船は傾かない)。カ˩トン˥キ　˩ベー [kạ˩toŋ˥ki ˩be:](傾いている)。カ˩トン˥ク　˥クトー　˩ナー˥ヌ [kạ˩toŋ˥ku kụto: ˩na:˥nu](傾くことはない)。2横になる。˥アブジェー　˩トゥーシ˥ナ　カ˩トン˥キ　˩オー˥ル [˥ʔabuʤe: ˩tu:ʃi

˞na kḁ˞toŋ˞ki ˞ʔoː˞ru](お祖父さんは縁側で横になっておられる)。

カ˞ナ [ka˞na] 【名】かんな (鉋)。大工道具の一つ。˞ヤーザイ˞ク [˞jaːʤai˞ku](家造り大工)、フ˞ナザイ˞ク [ɸu˞naʤai˞ku](船大工)、サ˞シ˞ムヌザイク [sḁ˞ʃi˞munuʤaiku](指物細工) 等が用いる工具。木材や板の表面を削って平滑にする鉋や溝を作ったり、桶の側面や丸底を削ったりするのに用いるマ˞ルカナ [ma˞rukana](丸鉋) などがあった。カ˞ナッ˞クル [ka˞nak˞kuru](鉋屑(カンナクズ)) は焚きつけに用いた。「眞鉋持 < まかな持ち >『万葉集　1385』、˞鏟、平⊠木鉄也、加奈 < かな >」『新撰字鏡』」の転訛したもの。一般の鉋はヒ˞ラカナ [çi˞rakana](平鉋、台鉋) という。˞サイク˞ヌ　カ˞ナ˞　ス˞コー˞ルカー　カ˞ナックル˞ヌ　ナー˞ナー˞シ　キ˞モーッ˞サ　˞ンジクーン [˞saikuˀnu ka˞naˀ su̥˞koː˞ruka: ka˞nakkuru˞nu naː˞naː˞ʃi ki˞moːs˞sa ˞nʤiku:ŋ](大工が鉋をかけられると鉋屑が長々と気持ちよく出てくる)。

˞カナ [˞kana] 【名】織物用の糸を束ねたもの。˞カシ [˞kaʃi](経糸) を数える単位。˞カナー　ス˞コーラバル˞　パ˞トゥ˞ムノー　タ˞ティラ˞リ [˞kana: su̥˞koːrabaru˞ pḁ˞tu˞muno: tḁ˞tira˞ri](経糸を作って始めて織物は準備できる < 立てられる >)。

カ˞ナ [ka˞na] 【名】仮名。平仮名。片仮名。標準語からの借用語。明治 29 年の鳩間尋常小学校の開設に伴って導入された語であろう。ク˞ヌ　ジーヤ˞　ユ˞ミユーサン˞バ　カ˞ナ˞　シキ　ッ˞ふィーリ [ku˞nu ʤi:ja˞ ju˞miju:sam˞ba ka˞na˞ ʃi̥ki f˞fi:ri](この字は読めないから仮名をつけて < ルビをふって > くれ)。

˞カナー [˞kanaː] 【固】人名。男子の名。「愛し」の語幹「かな」から転じたもの。「〜妻子見波　可奈之久米具之〜<〜めこ見れば　かなしくめぐし〜>『万葉集　4106』」の転訛したもの。˞カナーザー [˞kanaːʤaː](カナー兄さん)。˞カナンマー [˞kanam-maː](カナー姉さん)。˞カナー　˞マー　パッ˞ター [˞kana: ˞ma: pat˞taː](カナーは何処へ行ったか)。

˞カナー [˞kanaː] 【副】あそこで。あそこに。指示代名詞˞カマ [˞kama](あそこ) に格助詞˞ナー [naː](で) が下接し、[kama](あそこ)+　[naː](で)→　[kanaː](あそこに) のように融合して形成された語。˞クナー [˞kunaː](ここに)、˞ウナー [˞ʔunaː](そこに)、˞カナー [˞kanaː](あそこに) も同様の音韻変化によって形成されたものである。˞カナー　ア˞サビ˞バ [˞kana: ʔa˞sabi˞ba](あそこで遊べよ)。˞ワー˞　カナーティ　シ˞グトゥ　シー˞バ [˞waː˞ kanaːti ʃi˞gutu ʃiː˞ba](君はあそこで仕事をせよ)。˞ウナー　ア˞サブナ [˞ʔunaː ʔa˞sabuna](そこで遊ぶな)。

カ˞ナー˞スン [ka˞naː˞suŋ] 【他動】叶える。ウ˞ムイ˞ヌサーギ　˞アルカー　ヌ˞ズミグトー˞　カ˞ナーサ˞リン < カ˞ナイラ˞リン >[ʔu˞mui˞nusaːgi ˞ʔaruka: nu˞ʤumiguto:˞ ka˞naːsa˞riŋ <ka˞naira˞riŋ >](意思や情熱 < 思い > さえあれば希望は叶えられる)。カ˞ナーシ˞プサン [ka˞naːʃi˞ pu̥saŋ](叶えさせたい)。ウ˞ムイ˞バ　カ˞ナー˞スンティ　˞ウムーカー　ヤー˞ディン˞　カ˞ナー˞シ [ʔu˞mui˞ba ka˞naː˞sunti ˞ʔumuːkaː jaː˞diŋ˞ ka˞naː˞ʃi](希望 < 思い > を叶えようと思うなら、必ず叶えよ < 叶わせ >)。ウ˞ムイ˞バ　カ˞ナー˞ス　˞クトー　ム˞チ˞キサン [ʔu˞mui˞ba ka˞naː˞su ˞ku̥-to: mu˞ʧi˞ki̥saŋ](希望 < 思い > を叶えさせることは至難である < 難しい >)。ウ˞ムイ˞ヤ　カ˞ナーシェー　˞ミサムヌ [ʔu˞mui˞ja: ka˞naː˞ʃe: ˞misamunu](思いは叶えればよいのに)。

˞カナーヒーテー [˞kanaːçiːteː] 【名】屋号。兼久清氏宅。人名の˞カナー [˞kanaː](加那) に、接尾語˞ヒー [˞çiː](兄さん) が下接して　→　˞カナーヒー [˞kanaːçiː](カナー兄さん) のように生成された合成語。˞ヒー [˞çiː] は糸満方言の、˞アフィー [˞ʔaɸiː](兄さん) が転訛したもの。˞カナーヒーテーヤ　イ˞ラカザケーヌ˞　シンタナーン　˞アッ˞タン [˞kanaːçiːteːja ʔi˞rakaʤakeːnu˞ ʃintanaːŋ ˞ʔat˞taŋ](兼久清氏宅は西加治工家の後ろにもあった)。

˞カナーヨー [˞kanaːjoː] 【名】琉球舞踊の雑踊り一つ、「加那よー天川」のこと。沖縄本島の舞踊が鳩間島にも伝えられている。何時、誰によって伝えられたか明確ではないが、キ˞チゴン [ki̥˞ʧigoŋ](結願祭) の奉納舞踊として踊られていた。おそらく比屋根安粥 (粥 < シュク >。弼 < ヒッ > とも) の頃から沖縄の芸能が鳩間島にも伝えられたであろうが、今日上演されているのは明治 27 年以後の芝居踊りが伝えられたものと考えられる。鳩間島には、他の古典舞踊の古形が伝承されていることから考えると、古形のカナヨー踊りが比屋根安粥によって伝えられていたかもしれない。彼は 1821 年首里当蔵に生まれ、天保九年 (1838)「戌の御冠船踊方」に加わったという。安政六年 (1859) 年、39 歳の時に綾門前で放歌高吟したかどで八重山に流罪となった『八重山鳩間島民俗誌』という。その流罪先が鳩間島であった (『八重山舞踊勤王流関係論考・資料集』、『沖縄の祭祀と民俗芸能の研究』参照)。パ˞ト

ゥマ˥ヌ ˩キョン˥ギンナー ウ˩キナー˥ムニ カー˩ニ˥シ ス˩クラ˥リ ˩ブー ムヌ˥ アン [pḁ˩tuma˥nu ˩kjoŋ˥ginna: ʔu˩kina:˥muni ka:˩ni˥ʃi su̥˩kura˥ri ˩bu: munu˥ ʔaŋ](鳩間島の狂言には、沖縄方言だけで作られているものがある)。

カ˩ナアミ [ka˩naʔami] 【名】金網。標準語からの借用語。老年層はカ˩ニアン [ka˩niaŋ](金網) という。カ˩ナアミ˥シ カ˩コーリ ベーン˥ トンマー ア˩ミリカグン˥ヌ ˥キチ [ka˩naʔami˥ʃi kḁ˩ko:ri be:n˥ tomma: ʔa˩mirikagun˥nu ki̥ʧi](金網で囲われている所はアメリカ軍の基地だ)。

˥カナイ [˥kanai] 【名】地租。小作料。税金。「かなひ」(貢租)『おもろさうし』。˥カナイ ˩オーサン˥カー ナ˩ラン˥ティ ˩シール˥ ティ˩ダ˥ヌ ウ˩ティ˥ルンケン パ˩タラコーッ˥タツォー [˥kanai ˩ʔo:saŋ˥ ka: na˩ran˥ti ˩ʃi:ru˥ ti˩da˥nu ʔu˩ti˥ruŋkem pḁ˩tarako:t˥tatso:](地租を払わないといけないといって太陽が沈むまで働かれたそうだ)。

カ˩ナイ˥ウシ [ka˩nai˥ʔuʃi] 【名】体力のあってよく働く牛。˩ウン˥ネーナー カ˩ナイウシ˥ヌ ˩ブンダ ターシグ˥トー イッ˩ケナ˥ ラク ˩ヤッタ [˩ʔun˥ne:na: ka˩naiʔuʃi˥nu ˩bunda ta:ʃigu˥to: ʔik˩kena˥ raku ˩jatta](あの家には体力のある、よく働く牛がいるので、田圃仕事は非常に楽だった)。

˥カナイジー [˥kanaiʤi] 【名】自力で開墾した貢租田。「かなひ・ぢ」(貢租地) の義か。近世八重山では、人頭税納入の義務を負う年齢になると˩ウイ˥カダー [˩ʔui˥kada:](公用田) から、本田約一反歩と苗代田約一畝歩を配分して与え、その収穫を人頭税として納入させた。その不足を自力開田した田地からの租税収穫で補ったという『石垣方言辞典』。アッパター ˩バー˥ケー ˥カナイジーヤ ア˩リ˥オーッタ [ʔappata:˩ba:˥ke: ˥kanaiʤi:ja ʔa˩ri˥o:tta](お祖母さんたちまでは˥カナイジー [˥kanaiʤi:]< 新田貢租の田地 > はございました < 有っておられた >)。人頭税時代に割り当てられた上納田。˩イー˥ネヌ ˥アッパー ˥カナイジーヤ マ˩ナ˥マン アン˩ダー [˩ʔi:˥nenu ˥ʔappa: ˥kanaiʤi:ja ma˩na˥maŋ ʔan˩da:](西隣のお祖母さんの上納田は今もあるよ)。

˥カナイ シ˩キ˥プス [˥kanai ʃi̥˩ki˥pu̥su] 【連】納税の義務を負う人。「貢租・付き・人」の義。˩ジュー˥ゴー ˥ナルカー ビ˩キドゥモー˥ カナイ シ˩キ˥プス ナ˩ロー˥タツォー [˩ʤu:˥go: ˥naruka: bi˩kidumo:˥ kanai ʃi̥˩ki˥pu̥su na˩ro:t˥tatso:](十五歳になったら男は納税の義務を負う人になられたそうだ)。

˥カナイヌーヌ [˥kanainu:nu] 【名】貢納布。苧麻布を晒して白布に仕上げたもの。芭蕉布。ム˩カ˥シェー ˥カナイヌーノー ス˩ナカナー˥ル サ˩ラソー˥タツォー [mu˩ka˥ʃe: ˥kanainu:no: su˩nakana:˥ru sa˩raso:t˥tatso:](昔は貢納布は海で晒されたそうだ)。

カ˩ナイ˥プス [ka˩nai˥pu̥su] 【名】万能な人。何でも上手に出来る賢い人。知力、体力、気力、技量の備わった有能な人。「叶い人」の義。˩ウン˥ネーナー カ˩ナイプス˥ヌ ˩オー˥レーティ ˩ターシグ˥トゥン イ˩ソーシグトゥン˥ プ˩スヌ˥ バイ ˩モーキ ンザ˥ソーリ ウ˩ヤ˥キパンジョー ˩シーオー˥ル [˩ʔun˥ne:na: ka˩naipu̥su˥nu ˩ʔo:˥re:ti ˩ta:ʃigu˥tuŋ ʔi˩so:ʃigutum˥ pu̥˩sunu˥ bai ˩mo:ki ʔnʤa˥so:ri ʔu˩ja˥ kipanʤo: ˩ʃi:ʔo:˥ru](その家には優れて有能な人が居られるので、田仕事にも漁業 < 磯辺の漁労 > にも他の人の倍も儲け出されて富貴繁盛しておられる)。

˥カナイムヌ [˥kanaimunu] 【名】有能な若者。体力、知力のある人。やり手。「叶い者」の義。フ˩チカナイ˥ムヌ [ɸu̥˩ʧikanai˥munu](口達者な人。雄弁家)。カ˩ナイムヌ˥ヌ ˩ブー ヤー˥ヤ シ˩グトゥン˥ イッ˩ケナ˥ ハ˩バ˥クン [ka˩naimunu˥nu ˩bu: ja:˥ja ʃi˩gutuŋ˥ ʔik˩kena˥ ha˩ba˥kuŋ](体力があって、腕利きの若者がいる家は仕事も非常に捗(ハカド)る)。

カ˩ナイ˥ルン [ka˩nai˥ruŋ] 【自動】交尾する。つるむ。犬、猫、牛、馬、豚などが交尾することにいう。普通は、˥ズブン [˥ʤubuŋ](つるむ。交尾する) という。イ˩キムシ˥ヌ カ˩ナイジブン˥マー ˩ミー˥ムノー ミ˩シララ˥ヌ ˩アーリス [ʔi˩kimuʃi˥nu ka˩naiʤibum˥ma: ˩mi:˥muno: mi˩ʃirara˥nu ˩ʔa:risu](動物 < 生き虫 > の発情期には雌は見せられない。気性が荒くなって暴れる)。˩イン˥マー ˩マーン˥ナティーン カ˩ナイ˥ルン [˩ʔim˥ma: ˩ma:n˥nati:ŋ ka˩nai˥ruŋ](犬は何処でも交尾する)。マ˩ヤ˥ヌ ˥フヤー ˩スー˥カー カ˩ナイ˥ル ジ˩キ [ma˩ja˥nu ˥ɸuja: ˩su: ˥ka: ka˩nai˥ru ʤi˩ki](猫が鳴き騒ぐと発情して交尾する時期だ)。

カ˩ナイ˥ルン [ka˩nai˥ruŋ] 【他動】叶える。適える。願いを成就させる。˩ワー˥ ヌ˩ズミ˥ カ˩ナイ˥ルンティ イ˩ジ˥ンジ パ˩タラキ ベー˥ンドゥ カ˩ナイラン˥カー ˩ヌー˥スワ [˩wa:˥ nu˩ʤumi˥ ka˩nai˥runti ʔi˩ʤi˥ʔnʤi pḁ˩taraki be:˥ndu ka˩nairaraŋ˥ka: ˩nu:˥suwa](君の願いを叶えようと意地を出して働いているが、叶えられなければどうしようか)。ヌ

˞ズミ˜　カ˞ナイ˜ル　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [nu˞ʤumi˜ ka˞nai˜ru ˜kʉto: na˞ra˜nu](望みを叶えることは出来ない)。

˜カナウン [˜kanauŋ] 【自動】1叶う。匹敵する。相手に勝つ。優れている。˞ワー　アウ˜タンティン　ウ˞リンマー˜　カ˞ナー˜ヌ [˞wa: ʔau˜tantiŋ ʔu˞rimma:˜ ka˞na:˜nu](君は喧嘩しても彼＜その人＞には勝てない＜叶わない＞)。カ˞リトゥ　キッ˜ス　˞スー˜カー　˜カナウンカヤー [ka˞ritu kis˜su ˞su:˜ka: ˜kanauŋ ˜kaja:](彼と競争したら勝てる＜叶う＞かなあ)。カ˞ナイン˜ギサン [ka˞naiŋ˜gisaŋ](勝ちそうだ＜叶いそうだ＞)。カ˞リトゥ˜　カナウ　プ˞ソー˜　ブ˞ラーヌ [ka˞ritu˜ kanau pʉ˞so:˜ bu˞ra:nu](彼に勝つ＜叶う＞人はいない)。˞ワーンツァン˜　カ˞ナイ˜ヤー　˜ミサムヌ [˞wa:ntsaŋ˜ ka˞nai˜ja: ˜misamaunu](君だけでも叶えば＜勝てば＞よいのに)。2立派に条件が揃っている。適合する。しっかりしている。「〜月待者　潮毛可奈比沼　今者許芸乞菜＜〜月待てば潮もかなひぬ　今は漕ぎ出でな＞『万葉集　8』」の義。˞スー˜ヤ　カ˞ナイ˜ブンダ　˜フネー　ン˞ザサ˜リン [˞su:˜ja ka˞nai˜bunda ˜ɸune: ʔn˞ʤasari˜su](潮は十分に満ちているから船は出港できる＜出される＞)。

カ˞ナ˜カキ [ka˞na˜kaki] 【名】琉球古典女踊˞カセカケ」の鳩間島独特の名称。ウ˞キナーブドゥル˜ヌ　カ˞シカキ˜バ　パ˞トゥ˜マナテー　カ˞ナ˜カキティ　ア˞ズ˜ツォー [ʔu˞kina:buduru˜nu kʉ˞ʃikaki˜ba pʉ˞tu˜manate: ka˞na˜kʉkiti ʔa˞ʤu˜tso:](沖縄古典舞踊のカセカケを鳩間ではカナカキというそうだ)『沖縄の祭祀と民俗芸能の研究』大城學著。

カ˞ナ˜ケー [ka˞na˜ka:] 【名】屋号。兼久英吉氏宅。鳩間村四班の村中にある。トゥ˞ムレー [tu˞mure:](友利三益氏宅) の前隣、ウ˞ブバ˜カヤー [ʔu˞buba˜ka-ja:](大若屋。加治工太郎氏宅) の西隣にある家。昭和 40 年ごろに石垣島へ引っ越された。「本年、八重山島鳩間村の兼久仁也の功労を褒嘉して爵位を賞賜す (尚灝王即位元年。大清嘉慶九年甲子)」『球陽　読み下し編』とある。

カ˞ナ˜ケヌ　˞サン˜ドーザーテー [ka˞na˜kenu ˞san˜do:ʤa:te:] 【連】屋号。兼久三戸氏宅。兼久家からの分家。鳩間島の東村一斑にあった家。昭和 40 年とに石垣島へ引っ越された。

カ˞ナ˜サ [ka˞na˜sa] 【名】 (人) 女性の名前。「愛し＜かなし＞。可奈之久米久之〜『万葉集　4106』」の転訛したもの。カ˞ナ˜サンマ [ka˞na˜samma:](カナサ姉さん)。˞ワッ˜テヌ　カ˞ナ˜サンマー　˜ミサナリ　˞オールン [˞wat˜tenu ka˞na˜samma: ˜misanari ˞ʔo:ruŋ](お宅のカナサ姉さんはお元気でいらっしゃいますか)。

カ˞ナサイジ [ka˞nasaʔiʤi] 【名】愛情のある叱り方。「愛しさ・叱り」の義。˞ワーヨー　ニッ˜ふァーテー　ア˞ラ˜ヌ。カ˞ナサイジル　ソーリ˜バ　˞ニッ˜ターン　˞サンドー˜シ　シ˞キ˜バ˞ヨー [˞wa:jo: nif˜fa:te: ʔa˞ra˜nu。ka˞nasaʔiʤiru so:ri˜ba ˞nit˜ta:n ˞sando:˜ʃi ʃʉ˞ki˜ba˞jo:](君が憎いからではない。可愛いから叱り＜可愛さ叱りを＞なさるのだから、妬ましく思わないで＜恨まないで＞聞きなさいねえ)。

カ˞ナ˜サ　˞スン [ka˞na˜sa ˞suŋ] 【連】可愛がる。愛する。あたらしく＜可惜しく＞思う。ク˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　アブジ　˜アッパーン　イッ˞ケナ˜　ア˞タラ˜サ　˜カナサ　シ˞ラリ˜　ス˞ダティラ˜レーン˞ダー [ku˞nu˜ f˜fa:˜ ʔabuʤi ʔappa:ŋ ʔik˞kena˜ ʔa˞tara ˜sa ˜kanasa ʃi˞rari˜ su˞datira˜re:n˞da:](この子はお祖父さんお祖母さんに非常に慈しまれ可愛がられて育てられたんだよ)。プ˞スヌ˜　ッ˞ふァ˜　ヤ˞ルンドゥ˜　イッ˞ケナ˜　カ˞ナ˜サ　˞スント ダー [pʉ˞sunu˜ f˞fa˜ ja˞rundu˜ ʔik˞kena˜ ka˞na˜sa ˞sunt-da:](他人の子供であるが非常に可愛がるよ)。

カ˞ナサビ [ka˞nasabi] 【名】かなさび (金錆)。ヌ˞キ˜ル　カ˞ナン˜ドーレー　カ˞ナサビ　ホーサン˜スコーニ　˜アバ　ッ˞スリ˜　シキバ [nu˞ki˜ru ka˞nan˜do:re: ka˞nasabi ho:san˜sʉko:ni ˜ʔaba s˞suri˜ ʃʉk-iba](鋸や鉋など金錆がつかぬ＜金錆喰わぬ＞よう、油を塗りつけて＜油で拭いて＞おきなさい)。

カ˞ナサマリ [ka˞nasamari] 【名】生来の可愛い性格。生まれつき人に可愛がられる性格。「愛しさ・生まれ」の義。˞ニッふァマリ [˞niffamari](生来の憎まれやすい性格) の対義語。カ˞ナサマリ　シーブ˜　ミ˞ドーン˜ッふァ　ヤ˞ルンダ˜　ムー˞ロー˜ラ　ア˞タラ˜サ　シ˞ラリ　ベーン˜ティ [ka˞nasamari ʃi:bu˜ mi˞do:n˜ffa ja˞runda˜ mu:˞ro:˜ra ʔa˞tara˜sa ʃi˞rari be:n˜ti](生まれつき他人に可愛がられる性格をしている女の子だから、皆から可愛がられ大切にされているさ、ほらごらんよ)。

カ˞ナ˜サン [ka˞na˜saŋ] 【形】可愛い。愛らしい。いとしい。「〜可奈之久米具之 (カナシクメグシ)〜。万、4106」の「可奈之」の転訛したもの。カ˞ナ˜サル　˜ナカー　ム˞チ˜ウティヨー [ka˞na˜saru ˜naka: mu˞ʧi ˜ʔutijo:](可愛いと思えばこそ鞭打って教えなさいよ)。タ˞キ˜ヌ　タ˞ラーン　ッふァ　ユイル˜　ウヤ

ー　カ˩ナ˥サー　˩ソー˥ル [tạ˩ki˥nu ta˩ra:n ffajuiru˥ ʔuja: ka˩na˥sa ˩so:˥ru](出来の悪い子 < 丈の足りない子 > ゆえに却って親には可愛く思われる < 可愛くされる >)。ッ˩ふァヌ˥　シ˩ナ˥ー　˩ベー˥ティル　カ˩ナ˥サン　˥アタラサン　˩ソー˥ル˩ダー [f˩fanu˥ ʃi˩na˥: ˩be:˥tiru ka˩na˥saŋ ˥ʔatarasaŋ ˩so:˥ru˩da:](子供が幼いからこそ可愛いとも、いとしいとも思われる < なされる > のだ)。

-ガ˩ナ˥シ [-ga˩na˥ʃi] 【接尾】～さま (様)。神仏や尊敬する人に対して、敬愛の意を表す接尾辞。ウ˩ブトゥム˥ル　˥カミガ˩ナ˥シ　˥アミ　ブ˩シャ˥ヌ [ʔu˩butumu˥ru kamiga˩na˥ʃi ˥ʔami bu˩ʃa˥nu](大友利御嶽の御神様、雨が欲しくて < 雨を降らしてください >)/パ˩トゥ˥マティル　シ˩マ˥ヤヨー　バ˩ケナー　ネヌ˥　シ˩マ˥ヤリヨー　˩ハーリ˥　ア˩ミ˥タボリ　˩リュー˥ガナシ [pạ˩tu˥matiru ʃi˩ma˥jajo: ba˩kena: nenu˥ ʃi˩ma˥jarijo: ˩ha:ri˥ ʔa˩mi˥tabori ˩rju:˥ganaʃi](鳩間という島は湧き泉のない島だから、ハーリ雨を降らしてください竜神様)/「降雨願歌、ア˩マン˥グイ [ʔa˩maŋ˥gui]< 雨乞歌 >」『鳩間島古典民謡古謡集』。ピ˩ナカンガナシ [pi˩nakaŋganaʃi](火の神様)。ウシュンガ˩ナ˥シェーマイ [ʔuʃuŋga˩na˥ʃe:mai](国王様。「国王ガナシ前」の義)。ウ˩ヤガナ˥シ [ʔu˩jagana˥ʃi](親ガナシ < 親様 >)。

カ˩ナシェー˥マ [ka˩naʃe:˥ma] 【名】可愛い子。いとしい子。幼児に深い愛情を込めて呼びかける言葉。カナシェー˩マー˥　アドーラ　˩タンガ˥シ　キーッ˩シー　ボー˥レー˩ドー [kanaʃe:˩ma:˥ ʔado:ra ˩taŋga˥ʃi ki:ʃ˩ʃi: bo:˥re:˩do:](可愛い子 < いとし子 > よ、あんなに遠くから一人で来ることが出来て、お利口さんだよ)。

カ˩ナシキ [ka˩naʃi̥ki] 【名】鉋かけ。「鉋突き」の義。「鏟、平⊠木鉄也、加奈 < カナ >『新撰字鏡』の転訛したもの。˩真かな持ち弓削の河原の～」『万葉集　1385』の義。カ˩ナシキ　ピー˥チ　˥ミル　˥ブンシ　˩サイク˥ヌ　˩ティー˥ヤ　ワ˩カ˥ルンティ˩ダー [ka˩naʃi̥ki pi:˥ʧi ˥miru ˥buŋʃi ˩saiku˥nu ˩ti:˥ja wa˩ka˥runti˩da:](鉋掛け一つ見るだけで大工の技量 < 腕 > が分かるそうだよ)。

カ˩ナシキグル [ka˩naʃikiguru] 【名】鉋屑(カンナクズ)。カ˩ナッ˥クル [ka˩nak˥kuru](鉋屑) ともいう。カ˩ナシキグル˥　ア˩ツァ˥ミキー　˥ピー　˩タシキ˥バ [ka˩naʃikig-uru˥ ʔa˩tsa˥miki: ˥pi: ˩taʃiki˥ba](鉋屑を集めてきて火を熾(オコ)して焚きつけよ)。

カ˩ナシキ　スン [ka˩naʃi̥ki suŋ] 【連】鉋かけをする。˥ムヤーバラーヌ　カ˩ナシキ　スン [˥muja:bara:nu ka˩naʃi̥ki suŋ](母屋柱の鉋掛けをする)。

カ˩ナジル [ka˩naʤiru] 【名】「金汁」の義。水田に滲出する炭鉱排水のような金錆色の水。この水が出ると稲の発育が遅れるといって心配した。カ˩ナジルヌ˥　ウリティル　˩マイヤー　ムイラン˥バン [ka˩naʤirunu˥ ʔuritiru ˩maija: muiram˥baŋ](金汁が滲出して稲は発育が遅れている < 発育しない > よ)。

カ˩ナダライ [ka˩nadarai] 【名】金属製の盥。「金盥」の義。標準語からの借用語。戦後ジュラルミンや亜鉛などで製造されたものが出回った。木製の盥は重く、乾燥すると水漏れすることもあったが、金属製の盥は軽くて普及するのが早かった。˩キン˥マー　カ˩ナダライ˥ナー　イ˩リティ˥　サ˩フン˥シ　ア˩ラシティ˥バ [˩kim˥ma: ka˩nadarai˥na: ʔi˩riti˥ sạ˩ɸuŋuŋ˥ʃi ʔa˩raʃi̥ti˥ba](着物は金盥に入れて石鹸で洗いなさいよ)。

カ˩ナッ˥クル [ka˩nak˥kuru] 【名】かんなくず (鉋屑)。「鉋突き殻」の転訛したもの。木材や板に鉋をかける時に出る紙のような薄い削り屑。これを集めて焚き付けにした。˩ヤースクリ˥ヤーラ　カ˩ナッ˥クル　˩イー˥リキー　˩ピータシ˥キ　˩シー˥バ [˩ja:sụkuri˥ja:ra ka˩nak˥kuru ˩ʔi:˥riki: ˩pi:taʃi̥˥ki ˩ʃi:˥ba](新築の家 < 家造り家 > から鉋屑を貰ってきて焚き付けにしなさいよ)。

カ˩ナッ˥クル [ka˩nak˥kuru] 【名】こも (薦) や蓆を編む編み機の錘。カナックルには薦や蓆を編む縄を巻き取ってあり、編み進めながら縄を繰り出すようになっている。˥ヤマナー　バ˩ラフ˥タ　˥シキティ　カ˩ナッ˥クル　˥ムタイ　˥カマンター　˥クマンターニ　˩ウーカ˥シェーティル　˥ムソー　フ˩モーッ˥タ [˥jamana: ba˩raɸu˥ta ˥ʃi̥kiti ka˩nak˥kuru ˥mutai˥ kamanta: ˥kumanta:ni ˩ʔu:ka˥ʃe:tiru ˥muso: ɸu˩mo:t˥ta](織機に稲藁を置いてカナックルを持ち上げて反対側へこちら側へと移動させながら蓆は編まれた)。

カ˩ナドゥク [ka˩naduku] 【名】かなとこ (金床)。かなしき (金敷)。鍛冶屋道具の一つ。板金作業をする際の鋼鉄製の台。カ˩ナドゥクヌ　ナーン˥カー　˩カンザヤー˥ヌ　シ˩グトー˥　ナ˩ラ˥ヌ [ka˩nadukunu na:ŋ˥ka: ˩kanʤaja:˥nu ʃi˩guto:˥ na˩ra˥nu](金床が無いと鍛冶屋の仕事は出来ない)。

カ˩ナノコ [ka˩nanoko] 【名】金属を切る鋸。借用語。「金鋸」の義。沖縄の慶良間や本部、久米島から

発動汽船がカツオ漁船として導入されて後に、この金鋸は導入されたという。カ˞ナノコ˥シェー　カ˞ニフンヌン˥　キ˞サ˥リンダ　ミ˞ジラ˥サン˞ツォー [ka˞nanoko˥ʃe: ka˞niɸunnuŋ˥ ki̥˞sa˥rinda mi˞ʤira˥san˞tso:](金鋸では釘も切れるからめずらしいんだよ)。

カ˞ナパイ [ka˞napai] 【名】鍬。鉄製の平鍬。「くはい　鍬之事、(坤・器材)『混効験集』、」の義。朝鮮語の xomi(鋤) と同源という『岩波　古語辞典』。˞キー˥パイ [˞ki:˥pai](木製の鍬。水田専用の鍬。戦後の 1962 年まで西表島の鳩間の水田耕作に使用していた) の対義語。カ˞ナパイは畑を耕すのに用いる鍬。平鍬は畑に雨が降ると粘土質の土が鍬の耳の辺りに粘着し、鍬が重くなるので、鍬を振り上げるのに力を要し、疲れやすかった。˞ミーマタカナパイ [˞mi:matakanapai](三叉金鍬) は、単に˞ミーマタともいう。フ˞タマタカナパイ [ɸu̥˞tamatakanapai](二叉金鍬) は、単にフ˞タマタともいう。これら三叉鍬や二叉鍬は石ころの多い畑で使用された鍬である。鍬の構造は、カ˞ナパイヌ˥　ミン [ka˞napainu˥ miŋ](鍬の耳。柄を取り付けるところ)、カ˞ナパイヌ˥　パー [ka˞napainu˥ pa:](鍬の刃)、カ˞ナパイヌ˥　ス˞ブ˥ル [ka˞napainu˥ su˞bu˥ru](鍬の頭部)、カ˞ナパイヌ　ユイ [ka˞napainu jui](鍬の柄) の部分から成り立っている。

カ˞ナパイヌ˥　ス˞ブ˥ル [ka˞napainu˥ su˞bu˥ru] 【連】鍬の頭。カ˞ナパイヌ˥　ス˞ブ˥ルシ　ム˞ラシ˥　バ˞リ˥バ [ka˞napainu˥ su˞bu˥ruʃi mu˞raʃi˥ ba˞ri˥ba](鍬の頭で土塊を割れよ < 土塊を細かく割れ >)。

カ˞ナパイヌ˥　パー [ka˞napainu˥ pa:] 【連】鍬の刃先。カ˞ナパイヌ˥　パー　˥トゥイバ [ka˞napainu˥ pa: ˥tuiba](鍬の刃先を研ぎなさい)。

カ˞ナパイヌ˥　ミン [ka˞napainu˥ miŋ] 【連】鍬の耳。鍬の柄を装着する所。カ˞ナパイヌ˥　ミンナー　˞ユイ˥　ヌ˞キティ˥　ッ˞サビ　ホー˥シバ [ka˞napainu˥ minna: ˞jui˥ nu˞kiti˥ s˞sabi ho:˥ʃiba](鍬の耳に柄を貫き通して楔を入れ < 楔を食わせて固定し > ろ)。

カ˞ナパイヌ　ユイ [ka˞napainu jui] 【連】鍬の柄。カ˞ナパイヌ　ユイ　スイラン˥ノーレー [˞kanapainu jui suiran˥no:re:](鍬の柄を据えつけてくれないか < 据えないか >)。

カ˞ナバル [ka˞nabaru] 【名】唇や足の踵のあかぎれ (皸)。寒い冬に唇や足の踵の皮膚にできるきれつ (皸裂)。老年層は、カ˞ラバル [ka˞rabaru](あかぎれ < 皸 >) という。˞パン˥ヌ　˥アトゥ　カ˞ナバル˥　シ˞ティ˥　ヤ˞ミ˥ス [˞pan˥nu ˥ʔatu ka˞nabaru˥ ʃi̥˞ti˥ ja˞mi˥su](足の踵があかぎれ < 皸 > して痛む < 病む >)。

カ˞ナバル [ka˞nabaru] 【名】夕顔 (瓢箪) の成熟果実の果肉を取りり去って乾燥して作った容器。水筒などに用いた。ひさご。カ˞ナバル˥ナー　ミ˞ジェー˥　イ˞リティ˥　パ˞タ˥ケー　˥ムティ　˞パッ˥タ [ka˞nabaru˥na: mi˞ʤe:˥ ʔi˞riti˥ pḁ˞ta˥ke: ˥muti ˞pat˥ta](瓢箪の容器に水を入れて畑に持っていった)。

カ˞ナミ [ka˞nami] 【名】かなめ (要)。最重要なもの。˞キョーダイ˥ヤ　サ˞クシ˥ル　カ˞ナ˥ミ˩ダー [˞kjoudai˥ja: sḁ˞ku̥ʃi˥ru ka˞nami˩da:](兄弟は長男が要だよ)。

カ˞ナミ [ka˞nami] 【名】義理。「要」の義か。カ˞ナミヌ　ナー˥ン　˞ニンギン˥マー　˞マーパカラサー　ナー˥ヌ [ka˞minu na:˥n ˞niŋgim˥ma: ˞ma:pakarasa: na:˥nu](義理のない人間は無能な人間で信頼できない。愚か者である)。

カ˞ナミー [ka˞nami:] 【名】˥イダフニ [˥ʔidaɸuni](板舟。サバニ) の帆柱の先端にある、ミ˞ナー [mi˞na:](水縄) を通す金具の穴。真鍮製の輪のついたキャップを帆柱の先端部に填めたもの。「金目」の義か。ミ˞ナーヤ˥　カ˞ナミーラ　トゥー˥シティ　˞プー˥　ピ˞キ˥バ [mi˞na:ja˥ ka˞nami:ra tu:˥ʃi̥ti ˞pu:˥ pi̥˞ki˥ba](水縄(ミナワ)は帆柱の金具の穴に通して帆を張り < 引き上げ > なさいよ)。

カ˞ナムヌ [ka˞namunu] 【名】金物。金属製の器具。家具に取り付ける金具。カ˞ナムノー˥　ノー˞ン　イ˞サンケーラ˥ル　˞カイクー˥タ [ka˞namuno:˥ no:˞ŋ˥ ʔi˞saŋke:ra˥ru ˞kaiku:˥ta](金物は何でも石垣から買ってきた)。

カ˞ナムヌドーング [ka˞namunudo:ŋgu] 【名】金物。金属製の器具。「金物道具」の義。カ˞ナムヌドーンゴー˥　ス˞ローサバ˥ル　シ˞グトー˥　パ˞ジミラリ [ka˞namunudo:ŋgo:˥ su˞ro:saba˥ru ʃi˞guto:˥ pa˞ʤimirari](金物道具 < 金属製の器具類 > を揃えないと < 揃えてこそ > 仕事は始められない < 仕事は始められる >)。

カ˞ナムヌヤー [ka˞namunuja:] 【名】金物屋。金物店。˥ナビカマーン　イ˞サンケーヌ˥　カ˞ナムヌヤー˥ナ　˞ギール　カイクー˥タ [˥nabikama:ŋ ʔi˞saŋke:nu˥ ka˞namunuja:˥na ˞gi:ru kaiku:˥ta](鍋・釜も石垣の金物屋に行って買ってきた)。

カ˞ニ [ka˞ni] 【名】鉄。金、銀、銅など。金属の総称。

「金＜かね＞」の義。「鉄、クロガネ」『類聚名義抄』の転訛したもの。/カ˩クガニバ˥　パ˩ラー˥バ　˩シー　ヤー˥バ　ス˩クˬリ　˥アンティスー　ウ˩リユー　ミュー˥ナーキャームイ [ka˩kuganiba˥ pa˩ra:˥ba ˩ʃi: ja:˥ba sʉ˩kuˬri ˥ʔantisu: ʔu˩riju: mju:˥na:kja:mui](四角の鉄鋼材を柱にして家を造ってあるという。それを見なければ)「新室寿ぎ歌アーパーレー＜ナガミク＞」『鳩間島古典民謡古謡集』。

カ˩ニ [ka˩ni] 【名】1鐘。ウ˩タン˥　カ˩ネー　ナーラヌ [ʔu˩taŋ˥ ka˩ne: ˩na:ranu](打たない鐘はならない＜言わぬ言葉が出るわけがない＞諺)。ティ˩ラヌ˥　カ˩ニ [ti˩ranu˥](寺の鐘)。2銅鑼。ドゥ˩ラーンガニ [du˩ra:ŋgani](銅鑼)。3時鐘。˩ガッコー˥ヌ　カ˩ニ　ナーラスン [˩gakko:˥nu ka˩ni na:rasuŋ](学校の鐘を鳴らす)。カ˩ニヌ　ナールン [ka˩ninu na:ruŋ](鐘が鳴る)。カ˩ニヌ　ナール˥カー　˩ガッ˥コー　パ˩ジマルン [ka˩ninu na:ru˥ka: ˩gak˥ko: pa˩ʤimaruŋ](鐘が鳴ったら学校が始まる)。

カ˩ニ [ka˩ni] 【名】義理。正常な直感。基準となる感覚。「勘」の転訛したもの。˥トゥシ　トゥ˩ロー　ッ˥ター　カ˩ニ　パンツォー˥リ　˩ナー˥ヌ [˥tʉ̥ʃi tu ˩ro:t˥ta: ka˩ni pantso:˥ri ˩na:˥nu](年をとられたので耄碌されて＜基準となる感覚、勘が外れて＞しまわれた)。カ˩ニパンチムヌ [ka˩nipantʃimunu](耄碌した者)。カ˩ニパンチムニ [ka˩nipantʃimuni](筋の通らない言葉。基準となる感覚、勘の外れた、耄碌した物言い)。

˥-ガニ [˥-gani] 【接尾】接尾敬称辞。童名について敬意を表す。「かね　童名の下に付ける詞。たとへは太郎かね松かね之類也」『混効験集 (坤・言語)』。/松金＜マチィンガニ＞ヌ　イーハーイ (囃)　マイフナ　ヤタディヤ　ヤーラムチィ　ムチヤイ/(松金という　優れ者の　家建ては)　マ˩チン˥ガニ　˥ユンタ [ma˩tʃiŋ˥gani junta](松金ユンタ)『八重山古謡 (上)』。石垣方言からの借用語。

˥カニー [˥kani:] 【名】十干の庚＜かのえ＞、辛＜かのと＞の日。˩ピーロー˥　サ˩キピールヌ˥　カニーナール　トゥ˩ラ˥レーティバン˩ナー [˩pi:ro:˥ sa̤ ˩kipi:runu˥ kani: ˥na:ru tu˩ra˥re:tiban˩na:](日和は先の庚＜かのえ＞の日に取られたってねえ)。˩ニンガイ˥グトー　˥カニーナーン　ナ˩リ˥スパジェー　ア˩ラン˥カヤー [˩niŋgai˥guto: ˥kani:na:n na˩ri˥su ˥paʤe: ʔa˩raŋ˥kaja:](祭祀＜祈願ごと＞は庚・辛の日にも出来るのではないかねえ)。

カ˩ニアン [ka˩niʔaŋ] 【名】金網。ウ˩ヤザ˥ヌ　˩ペーリ˥　˥クー　˥トンマー　カ˩ニアン˥　パ˩リシキ˥リ [ʔu˩jaʤa˥nu ˩pe:˥ri ˥ku: ˥tomma: ka˩niʔaŋ˥ pa˩riʃi̥ki˥ri](ネズミが入ってくる所は金網を張っておきなさい)。

カ˩ニ˥ガニ [ka˩ni˥gani] 【副】かねがね (予予)。かねて。以前から。カ˩ニテー˥ラ [ka˩nite:˥ra](予てから) ともいう。ウ˩ヌ˥　パ˩ナ˥シェー　カ˩ニ˥ガニ　シ˩キブタンドゥ　フン˥トーテー　ウ˩モーラン˥シェン [ʔu˩nu˥ pa˩na˥ʃe: ka˩ni˥gani ʃi̥˩kibutandu ɸun˥to:te: ʔu˩mo:raŋ˥ʃeŋ](その話はかねがね聞いていたけれど、本当とは思え＜思われ＞なかった)。

カ˩ニ˥ク [ka˩ni˥ku] 【名】砂地。土地台帳では、通常は「兼久」と表記される。˥クマー　カ˩ニ˥ク　ヤ˩ルンダ　ウン˥マー　˩ミーラヌ [˥kuma: ka˩ni˥ku ja˩runda ʔum˥ma: ˩mi:ranu](ここは砂地だから芋は実らない)。

カ˩ニク˥ジー [ka˩niku˥ʤi:] 【名】砂地。カ˩ニク˥ジー　ヤ˩レー˥ティ　ウ˩ロイ˥ヌ　˩サン˥カー　ス˩クリ˥ムノー　ディ˩キラン˥シェン [ka˩niku˥ʤi: ja˩re:˥ti ʔu˩roi˥nu ˩saŋ˥ka: sʉ̥˩kuri˥muno: di˩kiraŋ˥ʃeŋ](砂地だから、雨が降って湿り気＜潤い＞がないと作物は稔らなかった)。

カ˩ニジン [ka˩niʤiŋ] 【名】硬貨。金属で鋳造された貨幣。小銭。カ˩ビジン [ka˩biʤiŋ](紙幣) の対義語。ヤ˩ラビ˥ヌ　˥ティマー　カ˩ニジン˥シ　˥ミサンヨー　カ˩ビジンマー　ゴーラー˥ルヨー [ja˩rabi˥nu ˥tima: ka˩niʤiŋ˥ʃi ˥misaŋjo: ka˩biʤimma: go:ra:˥rujo:](子供の手間賃は硬貨でいいよ。紙幣＜紙銭＞では金額が多いよ)。カ˩ビジン˥　ムティ　˩ギー˥　カ˩ニジン˥＜˩クー˥ジン＞　ク˩ラ˥シ　˥クー [ka˩biʤim˥ muti ˩gi:˥ ka˩niʤiŋ˥ ＜˩ku:˥ʤin＞ ku˩ra˥ʃi ˥ku:](紙幣を持っていって、硬貨＜小銭＞に両替させてきなさい)。

カ˩ニ˥ソー [ka˩ni˥so:] 【名】勘が働くこと。直感が正常であること。正しい判断力があること。˩ソーカニ [˩so:kani](正常な勘＜判断力＞) ともいう。˥トゥシ　˥トゥルカー　ター˩ン˥　カ˩ニ˥ソー　˩パンチス [˥tʉ̥ʃi ˥turuka: ta:˩ŋ˥ ka˩ni˥so: ˩pantʃisu](年を取ったら誰でも勘がはずれる＜耄碌する＞)。カ˩ニ˥ソー　˩パンチムヌ˥　ヤ˩ルンダ˥　ユー　˩キー˥　シ˩キ˥リ [ka˩ni˥so: ˩pantʃimunu˥ ja˩runda˥ ju: ˩ki:˥ ʃi̥˩ki˥ri](正常な判断の出来ない者だから十分にともいう気をつけなさい)。

カ˩ニティ [ka˩niti] 【副】かねて。あらかじめ。前もって。「可加良牟等　可祢テ思理世婆～＜かからむと

かねて知りせば〜>『万葉集　3959』」の義。˞ヤン˞マイ　カ˞カ˞ル　˞マイ˞ヌ　カ˞ニティヌ　ヨーゾー˞ル　イッ˞チン　カンユー˞ティ <˞カンヌー˞ティ>　ア˞ザリ　ブー [˞jam˞mai kạ˞ka˞ru ˞mai˞nu ka ˞nitinu joːʤo:˞ru ʔit˞ʧiŋ kaŋjuː˞ti <˞kannuː˞ti> ʔa˞ʤaribuː](病気 < 病 > に罹る前の、予ての養生こそが一番肝要であるといわれている)。

カ˞ニナール [ka˞ninaːru]【名】甲高い音。金属音のように高く響く音。西瓜などをたたいた時、完熟したものが出す甲高い音。ス˞クナール [sụ˞kunaːru](底鳴り) の対義語。ク˞レー˞　カ˞ニナール　シーブーバ　ウーミ˞　ブーヨー [ku˞reː˞ ka˞ninaːru ʃiːbuːba ʔuːmi˞ buːjoː](これは甲高い鳴り方をしているから熟しているよ)。

カ˞ニナビ [ka˞ninabi]【名】鉄製の鍋。金属製の鍋。カ˞ニナビヌ　ピッ˞キティル　˞クー　シ˞ミルンティ˞　シケー [ka˞nibabinu pik˞kitiru ˞ku: ʃi˞mirunti˞ ʃị̊keː](鉄鍋が孔があいた < ほげた > ので孔を塞がせようとしている)。

カ˞ニパンチムニ [ka˞nipanʧimuni]【名】辻褄の合わない言葉。でたらめな言葉。筋の通らない言葉。「勘外れ物言い」の義か。耄碌した者のいう辻褄の合わない言葉。˞アブジェー　トゥ˞シ˞　トゥ˞ローッ˞ター　カ˞ニパンチムニ˞　イ˞ゾー˞リ　˞ナー˞ヌ [˞ʔabuʤe: tụ˞ʃi˞ tu˞roːt˞ta: ka˞nipanʧimuni˞ ʔi˞ʤoː˞ri ˞naː˞nu](おじいさんは年をとられた < 年老いた > ので辻褄の合わない言葉を話されるようになってしまった)。

カ˞ニパンツン [ka˞nipantsuŋ]【自動】耄碌する。辻褄の合わないことを言う。「勘が外れる」の義。カ˞ニパンチルン [ka˞nipanʧiruŋ](耄碌する) ともいう。トゥ˞シ˞　トゥルカー　ター˞ン˞　カ˞ニパンツン [tụ˞ʃi˞ turukaː taː˞ŋ˞ ka˞nipantsuŋ](年をとると誰も耄碌する)。バ˞カーン˞ケンラ　イ˞ズバ˞　ッ˞ふァイル˞　ケーユンダ　カ˞ニパンツァヌ [ba˞kaːŋ˞kenra ʔi˞ʤuba˞ f˞fairu˞ keːjunda ka˞nipantsanu](若いときから魚を食べて来たのだから耄碌しない)。ビ˞キドゥムル˞　カ˞ニパンチヤッ˞サティバン [bi˞kidumuru˞ ka˞nipanʧijas˞satibaŋ](男の方が耄碌しやすいってよ)。カ˞ニパンツ˞　クトー　˞ナー˞ヌ [ka˞nipantsu˞ kụtoː ˞naː˞nu](耄碌することはない)。カ˞ニパンチェー˞ラ　˞デー˞ジ˞ゲ˞ラ [ka˞nipanʧeː˞ra ˞deː˞ʤi˞ge˞ra](耄碌したら大変さ)。カ˞ニパンチ˞バ [ka˞nipanʧi˞ba](耄碌しろ)。

カ˞ニブー [ka˞nibuː]【名】(動)、昆虫。コガネムシ。夏の夜、ランプの光に突っ込んできて人を悩ませる害虫である。ナ˞チェー˞　アツァンダ　˞ユー˞ル˞ヤドゥ　ア˞クカー　カ˞ニブーヌ˞　トゥ˞ビ˞キー　˞ヨー˞ゾー　ナ˞ラン˞シェン [na˞ʧeː˞ ʔatsanda ˞juː˞ru ˞jadu ʔa˞ku˞kaː ka˞nibuːnu˞ tu˞bi˞kiː ˞joː˞ʤoː na˞raŋ˞ʃeŋ](夏は暑いので、夜戸を開けるとコガネムシが飛んできて堪らなかった)。

カ˞ニブーヤー [ka˞nibuːjaː]【名】鋼材で造った家。歌謡語。ウ˞クダ˞カ　˞エンヤー˞　カ˞ニブーヤー˞ヌ　˞サイ˞ヤ˞リ [ʔu˞kuda˞ka ˞ʔeŋjaː˞ ka˞nibuːjaː˞nu ˞sai˞ja˞ri](これだけの数のものが鋼材で造った家の守護神である)(アーパーレー歌)。

カ˞ニフン [ka˞niɸuŋ]【名】釘。「金釘」の義。「〜久留尓久枳作之 <〜くるにクギサシ >〜。万、4390」の「久枳」の転訛したもの。「釘、クギ」『類聚名義抄』と同じ。*[kungi] → [ɸungi] → [ɸuŋ] の音韻変化による。タ˞キフン [tạ˞kiɸuŋ](竹釘)、˞キー˞フン [˞kiː˞ɸuŋ](木釘)、ピ˞サフン [pị̊˞saɸuŋ](平釘、˞ティンマ [˞timma]< 伝馬船 > や大型木造船に用いる釘) の対義語。˞イッスン˞クギ [˞ʔissuŋ˞kugi](一寸釘)、˞サンズン˞クギ [˞sanʤuŋ˞kugi](三寸釘)、˞ゴッスンクギ [˞gossuŋkugi](五寸釘) などもあるが、標準語からの借用語であろう。カ˞ニフン˞　ウティティ　トゥ˞ミシキ˞リ [ka˞niɸuŋ˞ ʔutiti tu˞miʃị̊ki˞ri](釘を打って留めておきなさい)。˞イダフニナー　タ˞キフンル˞　シゥ˞カイオー˞ル　カ˞ニフンマー˞　シゥ˞カイオーラ˞ヌ [˞ʔidaɸunina: tạ˞kiɸunru˞ sï̊ ˞kaiʔoː˞ru ka˞niɸumma:˞ sị̊˞kaiʔoːra˞nu](板舟には竹釘が < ぞ > 使われる。鉄釘は使われない)。

カ˞ニマースン [ka˞nimaːsuŋ]【他動】成し遂げる。切り盛りしてやりぬく。ウ˞ビ˞ヌ　キ˞ナイヌ　スータイ˞バ　˞タンガ˞シ　カ˞ニマースンティ˞　ア˞ワ˞リ　˞シーベー [ʔu˞bi˞nu ki˞nainu suːtai˞ba ˞taŋga˞ʃi ka ˞nimaːsunti˞ ʔa˞wa˞ri ˞ʃiːbeː](あれだけの家族の生計を一人で切り盛りして成し遂げようと苦労をしている)。˞タンガ˞シェー　カ˞ニマーサラヌ [˞taŋga˞ʃeː ka˞nimaːsaranu](一人では切り盛り出来ない)。˞ワー　タンガ˞シ　カ˞ニマーシ˞　ミリバ [˞waː taŋga˞ʃi ka˞nimaːʃi˞ miriba](君一人で切り盛りして成し遂げてみなよ)。˞タンガ˞シ　カ˞ニマース˞　クトゥン　ナ˞ラヌ [˞taŋga˞ʃi ka˞nimaːsu˞ kụtun na˞ranu](一人で成し遂げることも出来ないのか)。カ˞ニマーシェー˞　ミサムヌ [ka˞nimaːʃeː˞ misamunu](切り盛りしてやり遂げればよいのに)。˞タンガ˞シ　カ˞ニマーシ [˞taŋga˞ʃi ka˞nimaːʃi](一人で切り盛りして

成し遂げよ)。

˞カニムイ **[˞kanimui]** 【固】人名。女の名前。カ˞ニムイ ˥ティ ˞スー˥ ブ˞バーマ˥ヌ ˞オーッタン˥ドゥ イ˞クサ˥ユーナー マ˞ラリ˥ヤ カ˞カ˥リティ ˞マーラソー˥リ ˞ナーン˥シェン [ka˞nimui˥ti ˞suː˥ bu˞baːma˥nu ˞ʔoːttan˥du ʔi˞kusa˥juːna ma˞rari˥ja ka̠˞ka˥riti ˞maːraso˥ːri ˞naːŋ˥ʃeŋ](カニムイという叔母がおられたが、戦争中、マラリアに罹患して亡くなられてしまった)。

カ˞ニヤッコン **[ka˞nijakkoŋ]** 【名】鉄瓶。鉄製の湯沸し < 薬缶 >。鋳物の湯沸し < 薬缶 >。「金薬缶」の義。˥ブラヤッコンン [˥burajakkoŋ](法螺貝を利用した湯沸し。西表の田圃小屋で稲刈りや田草取り、田打ちなどの農作業に従事する際に利用した)の対義語。単に˥ヤコン [˥jakoŋ](湯沸し。薬缶) ともいう。カ˞ニヤッコン˥ナー シ˞ジフチ˥ル イ˞リティ˥ シジバ [ka˞nijakkon˥naː ʃi˞ʤiɸu̠˞tʃi˥ru ʔi˞riti˥ʃiʤiba](鉄瓶に煎じ薬を入れて煎じなさいよ)。

カ˞ニルン **[ka˞niruŋ]** 【他動】兼ねる。一つで二つ以上の用をする。˞タンガ˥シ フ˞ターチヌ˥ シ˞グトー˥ カ˞ニララヌ [˞taŋga˥ʃi ɸu̠˞taːtʃinu˥ ʃi˞gutoː˥ ka˞niraranu](一人で二つの仕事は兼ねられない)。ウ˞レー˥ バー シ˞グトゥ˥ カ˞ニルンティ˥ ア˞ズンドゥ ヌー˥シカヤー カ˞ニル˥ クトー ˥ナルンカヤー [ʔu˞reː˥ baː ʃi˞gutu˥ ka˞nirunti˥ ʔa˞ʤundu nuː˥ʃi̠kaja: ka˞niru˥ ku̠toː ˥naruŋkajaː](彼は私の仕事を兼務す < 兼ね > ると言うが、如何だろうか。兼ねることは出来るだろうかね)。

˥カニン **[˥kaniŋ]** 【名】(植) 和名、エビツル。ブドウ科植物。野ぶどう。原野の雑木林の中のガジマル [ga˞ʤi˥maru](木容樹) や˞ゴーナ˥キ [˞goːna˥ki](桑の木) などに巻きつくように生えて、直径約 1 センチほどの球状の実をつける。未熟の実は緑色を呈するが完熟する濃い赤紫色になり、甘く美味である。長さ 15〜17 センチの房いっぱいに実をつける。カニンの蔓を切って、その樹液を目に入れると眼病が治るといわれていて、目ヤニが出ると眼病の薬として樹液を目にさして利用していた。˞ソー˥ランナー ˥カニン ˥ブリキー ム˞ルムル˥ナー イ˞ルタン [˞soː˥ranna: ˥kanim ˥buriki: mu˞rumuru˥na: ʔi˞rutaŋ](お盆には野ブドウを挽いで < 折って > 来て、お盆のムルムルに入れたものだ)。

˥カニンカザ **[˥kaniŋkaʤa]** 【名】植物。エビヅルのかずら (蔓)。野葡萄の蔓。イ˞ラ˥ブレーヌ ˥シンタヌ ˞ヤシキ˥ヌ ガ˞ジ˥マルキーナ ˥カニンカザヌ カ˞ラマ˥キティ ˥ムイ ˞ベー˥タン [ʔi˞ra˥bureːnu ˥ʃintanu ˞jaʃi̠ki˥nu ga˞ʤi˥maruki:na ˥kaniŋkaʤanu ka˞rama˥kiti ˥mui ˞beː˥taŋ](西原家の後ろの屋敷のガジマル木に野葡萄の蔓が巻き付いて生えていた)。

カ˞ニンマ **[ka˞niʔmma]** 【名】自転車。「鉄馬 < かねうま >」の義。石垣方言からの借用語。˞キーン˥マ [˞kiːʔm˥a](竹馬) の対義語。イ˞サナキプソー˥ ヤ˞ラ˥ビン カ˞ニンマ ヌーリス [ʔi˞sanakipu̠soː˥ ja˞ra˥biŋ ka˞niʔmma nuːrisu](石垣の人は子供も自転車 < 鉄馬 > に乗るよ)。

カ˞ヌ **[ka˞nu]** 【連体】あの。かの。カ˞ヌ˥ プ˞ソー ター˥ヤ [ka˞nu˥ pu̠˞so: taː˥ja](あの人は誰か)。ク˞レー˥ カ˞ヌ˥ プ˞スヌ˥ ムヌ [ku˞reː˥ ka˞nu˥ pu̠˞sunu˥ munu](これはあの人の物だ)。カ˞ヌ˥ プ˞スヌ˥ パルカー ˞バン˥ヌン ˥パルン [ka˞nu˥ pu̠˞sunu˥ paruka: ˞ban˥num ˥paruŋ](あの人が行くなら私も行く)。˥バー カ˞ヌ˥ プ˞ス˥ ッ˞シェー˥ン [˥baː ka˞nu˥ pu̠˞su˥ ʃ˞ʃeː˥ŋ](私はあの人を知っている)。

カ˞ヌ˥カムラ **[ka˞nu˥kamura]** 【名】鹿川村 (廃村)。船浮湾の裏 < 南 > 海岸にあった古村。カ˞ヌ˥カムラー ム˞カ˥シナ ム˞ラドーリ シー˥ マ˞ナ˥マー プ˞ソー˥ ブ˞ラーヌ [ka˞nu˥kamura: mu˞ka˥ʃina mu˞rado:ri ʃiː˥ ma˞na˥ma: pu̠˞soː˥ bu˞raːnu](鹿川村は昔に村倒れして < 廃村になって >、今は人はいない)。

カ˞ヌ˥カワン **[ka˞nu˥kawaŋ]** 【名】地名。鹿川湾。西表島船浮湾の反対側、南海岸の入り江。廃村になった鹿川村の南海岸。カ˞ツシンヌ˥ ザコー ˥トゥリンティ カ˞ヌ˥カワン ˞バー˥キン ˞オーッ˥タンティ ˞ダー [ka̠˞tsuʃinnu˥ ʤako: ˥turinti ka˞nu˥kawam ˥baː˥kiŋ ˞ʔoːt˥tanti˞daː](カツオ船の餌 < 雑魚 > を獲りに鹿川湾まで行かれたそうだよ)。

カ˞ヌシャー˥マ **[ka˞nuʃaː˥ma]** 【名】男性からいう女性の恋人。いとしく可愛いひと。「愛 < かな > しき人」。石垣方言からの借用語。「可奈之久米具之〜<〜かなしくめぐし〜>『万葉集 4106』」の義。/ナカドウ道カラ 七ケラ 通ユルケ 仲筋カヌシャマ 相談ヌ ナラヌ (囃子) イラ、ンゾーシーヌ、カヌシャマヨウ/「トゥバラーマ節」『八重山民謡誌』。

カ˞ヌチバウ **[ka˞nutʃibau]** 【名】˞閂棒」の義。「かんぬき (貫木。閂)・棒」の転訛したもの。豊年祭の綱引きで雄綱と雌綱の大綱を合わせて、その耳に貫き通す棒のこと。単に˥バウ [˥bau](棒) ともいう。シ˞

ナ˥ヌミンナー　カ˩ヌチバウバ˥　ヌ˩キティル˥　シナー　ピ˩コーッ˥タ [ʃi˩nanu˥minna: ka˩nutʃibauba˥ nu˩kitiru˥ ʃina: pi̥˩ko:t˥ta](綱の耳に閂棒を貫き通して＜ぞ＞綱は引かれた)。

カ˩ヌトゥ [kanutu] 【名】かのと (辛)。「金の弟」の義。十干＜じっかん＞の第七、˥キニー (木の兄・木の弟)、˥ピニー (火の兄・弟)、シ˩チ˥ニー (土の兄、弟)、˥カニー (金の兄・弟)、ミ˩ジニー (水の兄・弟) の第 8 の「˥カニーの弟 (辛)」に当たる日。十干の辛。ク˩レー˥　カ˩ヌトゥ　ニー˥ヌ　˥ピンナー　ス˩クラ˥レー　˥ムヌ [ku˩re:˥ ka˩nutu ni:˥nu pinna: su˩kura˥re: ˥munu](これは辛＜かのと＞の年に作られたものだ)。

カ˩ヌ　プス [ka˩nu pu̥su] 【連】あの人。彼。「彼の人」の義。カ˩ヌ　プソー　ター˥ヤ [ka˩nu pu̥so: ta:˥ja](あの人＜彼＞は誰か)。

カ˩ヌ　ユー [ka˩nu ju:] 【名】あの世。「彼の世」の義。˥グソー [guso:] ともいう。カ˩ヌ　ユー˥ティ　ア˩ズ˥　ム˩ノー　フン˥トー　˥アンカヤー [ka˩nu ju:˥ti ʔa˩ʤu˥ mu˩no: ɸun˥to: ˥ʔaŋkaja:](あの世というものは本当にあるのかなあ)。

カ˩ノーシ [ka˩no:ʃi] 【名】鉄製の芋を掘る器具。農具の一つ。「金・掘串＜ふくし＞」の転訛したもの。「堀串＜フクシ＞」は、「〜布久思毛與　美夫君志持」『万葉集　1』の「布久志」の義。芋畑の草取りや芋を掘るのに用いる鉄製の堀串。長さ約 30 センチ、直径約 2 センチの鉄筋の先端部を尖らせ、片方に匙状の頭をつける。この部分を右手の掌に当てて握り、土を突き起こすようにして左手で除草する。硬い土塊などは叩いたり、突いたりして細かく砕くのに用いる。芋ほりをする際は、これで地中の芋をを探り当て、実の大きいのを選んで掘り出した。カ˩ノーシ˥シ　˥ウン　˥プリバ [ka˩no:ʃi˥ʃi ˥ʔum˥puriba](金堀串で芋を掘れよ)。カ˩ノーシ˥シ　˥ッサ　˩ソーリ [ka˩no:ʃi˥ʃi ˥ssa ˩so:ri](かなふ串で畑の雑草を除草しなさい＜さくれ・刹(サク)り取れ＞)。

カ˩バ [ka˩ba] 【名】芳香。カ˩バッ˥サ　カ˩バヌ　スン [ka˩bas˥sa ka˩banu suŋ](香ばしい香がする)。

˥ガバー [˥gaba:] 【名】あか (垢)。汚れ。「かび」の転訛で、転意したもの『石垣方言辞典』という。˥ガバー　˥フーン [˥gaba: ˥ɸu:ŋ](垢がつく＜垢喰う＞)。˥ガバー　ウ˩タ˥シ [˥gaba: ʔu˩ta˥ʃi](垢を落とせ)。˩キン˥ヌ　˥ガバー [˩kin˥nu ˥gaba:](衣服のよがれ)。˥オンダー　シ˩ティ˥　ガバー　ウ˩タ˥シ　˥クーバ [˥ʔonda: ʃi̥˩ti˥ gaba: ʔu˩ta˥ʃi ˥ku:ba](海で泳いで垢を落としてこいよ)。˥ガバー　˩フシゥカリ˥ムヌ [˥gaba: ˩ɸusï̥˩kari˥ munu](汚れた＜垢がくっついた＞人)。

カ˩バーカバー˥シ [ka˩ba:kaba:˥ʃi] 【副】香ばしく。馥郁(フクイク)と。˩ティン˥プラ　ヤ˩コー˥ル　カ˩ザヌ˥　カ˩バーカバー˥シ　カ˩バサリン [˩tim˥pura ja˩ko:˥ru ka˩ʤanu˥ ka˩ba:kaba:˥ʃi ka˩basariŋ](テンプラを揚げる＜焼く＞匂いが香ばしく嗅(カ)がれる)。

カバー˩カバー˥シ [kaba:˩kaba:˥ʃi] 【副】良い香りがする。馥郁と香る。˩ティン˥プラ　ヤ˩キオー˥ルユー　カバー˩カバー˥シ　カ˩ザヌ　シー˥　フ˩チジル˥　ン˩ジ˥スバン [˩tim˥pura ja˩kio:˥ruju: kaba:˩kaba:˥ʃi ka˩ʤanu ʃi:˥ ɸu̥˩tʃiʤiru˥ ʔn˩ʤi˩subaŋ](テンプラを揚げて＜焼いて＞おられるのか、美味しそうな香りが漂ってきて、涎＜口汁＞がでるよ)。

˥ガバーフー [˥gaba:ɸu:] 【名】思いがけない幸運。こぼれざいわい (零れ幸い)。ぎょうこう (僥倖)。˩ワー˥　メー　˩ソートゥジバ　ミシキラ˥リ　˥ガバーフー　シ˩キ˥ブバン [˩wa:˥ me: ˩so:tuʤiba mi̥ʃi̥˩kira˥ri ˥gaba:ɸu: ʃi̥˩ki˥bubaŋ](君は、もう、立派な妻を娶ることが出来て＜見つけられて＞、思いがけない幸運が付いているよ)。ウ˩レー˥　イッ˩ケナ˥　ガバーフーバ　シ˩キ˥ブー [ʔu˩re:˥ ʔik˩kena˥ gaba:ɸu:ba ʃi̥˩ki˥bu:](彼は非常な幸運に巡りあえた＜思わぬ幸運が付いている＞)。

˥ガバー　˥フーン [˥gaba: ˥ɸu:ŋ] 【連】垢がつく＜垢が喰う＞。汚れる。˩ユー˥フルーン　ア˩マムティ˥　ナー˩イ˥　ガバー　˩フイ˥ヤーティ　˩アー˥ク [˩ju:˥ɸuru:ŋ ʔa˩mamuti˥ na:˩i˥ gaba: ˩ɸui˥ja:ti ˩ʔa:˥ku](風呂にも入らないで＜風呂も浴びないで＞、ただ汚れたままにして＜垢をつけて＞いる＜あるく＞)。

ガ˩バーフイ˥ムヌ [ga˩ba:ɸui˥munu] 【名】垢まみれの者。汚れだらけのもの。不潔な者。˥ガバーフヤー [˥gaba:ɸuja:](垢まみれの不潔者) ともいう。ガ˩バーフイ˥ムヌ　˥ナリティ　キ˩ムフクレー˥ヌ　˩マー˥ビン　アザ˩ケーアザケー˥シ　˩アー˥キ [ga˩ba:ɸui˥munu ˥nariti ki˩muɸu̥˩kure:˥nu ˩ma:˥biŋ ʔaʤa˩ke:ʔaʤake:˥ʃi ˩ʔa:˥ki](垢まみれの不潔者になってしまって、きたない。もっときちっと清潔にしておれ＜あるけ＞)。

˥ガバーフヤー [˥gaba:ɸuja:] 【名】垢にまみれた物。垢まみれの不潔もの。˥ガバーフヤーヌ　˥ムティクー　˥ムノー　ビ˩ナー˥ヌ　ッ˩ふァーラヌ [˥gaba:ɸu-ja:nu ˥mutiku: ˥muno: bi˩na:˥nu f˩fa:ranu](垢まみれ

の不潔者が持ってくるものは、不潔で食べられない)。

ガ˩バーンガバーン˥シ [ga˩baːŋgabaː˥ʃi] 【副】硬いものがぶつかり合って出す音。擬音語 (onomatopoeia)。がたんがたん。サ˩ケー˥　ヌミティ　ガ˩バーンガバーン˥シ　˩ヤー˥バリ　˩シーベー˥ヌ　˩ヌー˥ヌ　˩アッ˥タカヤー [sḁ˩keː˥ numiti ga˩baːŋgabaːŋ˥ʃi ˩jaː˥ bari ˩ʃiːbeː˥nu ˩nuː˥nu ˩ʔat˥takajaː](酒を飲んでがたんがたんと家を打ち壊＜家割り＞しているが、なにがあったのだろうか)。

カ˩バ˥アバ [ka˩ba˥ʔaba] 【名】香油。香りのよい髪油。バ˩カー˥ムンケーヤ　˩ユールナー˥ヤ　ガ˩マ˥ジナ　カ˩バ˥アバ　˥シキティ　˩アーキ˥バ　イ˩カムス˥ク　カ˩バッ˥サタワ˩ツォー [ba˩kaː˥muŋkeːja ˩juːrunaː˥ja ga˩ma˥ʤina ka˩ba˥ʔaba ˥ʃi̥kiti ˩ʔaːki˥ba ʔi ˩kamusu̥˥ku ka˩bas˥satawa˩tsoː](若者達は夜には髪の毛に香油をつけてあるくので、どんなに香ばしかったことか)。

カ˩パカパ˥シ [kḁ˩pakapa˥ʃi] 【副】カパカパと。パリパリと。洗濯して糊付けした衣類などがパリパリと固く乾いたさま。˥キン　ア˩ライティ　ヌー˥ルシ˩ティ˥　プシ　˥シケーター　カ˩パカパ˥シ　˩カーラキ　ベー [˥kiŋ ʔa˩raiti nuː˥ru ʃi̥˩ti˥ pu̥ʃi ˥ʃi̥keːtaː kḁ˩pakapa˥ʃi ˩kaːraki beː](着物を洗って糊付けして干しておいたら、カパカパと固くなって乾いている)。

カ˩バサリン [ka˩basariŋ] 【他動】嗅がされる。カ˩バスン [ka˩basuŋ](匂いを嗅ぐ) の未然形カ˩バサ [ka˩basa] に受身・可能・自発の助動詞˩-リン [˩-riŋ](れる) が下接して形成された、受身・可能動詞。ウ˩リトゥ　ベー˥ルカー　ッ˩サリ˥ピー　カ˩バサリン˥ダー [ʔu˩ritu beː˥ruka: s˩sari˥pi: ka˩basarin˥daː](彼と一緒にいると臭い屁を嗅がされるよ)(受身)。˥クナーティン　ッ˩サリピー˥ヌ　カ˩ザー˥　カ˩バサリン [˥kunaːtin s˩saripiː˥nu ka˩ʤaː˥ ka˩basariŋ](ここでも臭い屁の臭いは嗅がれる＜嗅ぐことができる＞)(可能)。

カ˩バスン [ka˩basuŋ] (1)【自動】匂いがする。「臭い・する」の義。˩ティンプラ˥ヌ　カ˩バスン [˩timpura˥nu ka˩basuŋ](テンプラの匂いがする)。 **(2)**【他動】嗅ぐ。嗅がせる。˩ヌー˥ヌ　カ˩ザ˥ユーティ　カ˩リン˥　カ˩バシミタ [˩nuː˥nu ka˩ʤa˥juːti ka˩riŋ˥ ka˩baʃimita](何の臭いか、彼に嗅がせた)。カ˩バ　スンティ　スンドゥ˥　パ˩ナ˥　シ˩マ˥リティ　カ˩バ˥サ˩ラヌ [ka˩ba sunti sundu˥ pa˩na˥ ʃi˩ma˥riti ka˩ba˥sa˩ranu](匂いを嗅ごうとするが、鼻が詰まって匂いを嗅ぐことが出来ない)。

カ˩バ˥スン [ka˩ba˥suŋ] 【他動】かぶせる。覆う。上からかける。ナ˩ビ˥ヌ　フ˩タ˥　カ˩バ˥スン [na˩bi˥nu ɸu̥˩ta˥ ka˩ba˥suŋ](鍋の蓋をかぶせる)。˩ピー˥ヤバ　˥ウズ　カ˩バ˥シバ [˩piː˥jaba ˥ʔuʤu ka˩ba˥ʃiba](寒いから布団をかけ＜被せ＞なさい)。˥バー　カ˩バサ˥ヌ [˥baː ka˩basa˥nu](私はかぶせない)。マ˩ナ˥マ　カ˩バ˥シ　˥ミサンカヤー [ma˩na˥ma ka˩ba˥ʃi ˥misaŋkajaː](今被せてもいいかねえ)。カ˩バ˥ス　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [ka˩ba˥su ˥ku̥toː na˩ra˥nu](被せてはならない。＜被せることはならない＞)。˩マー˥ビン　カ˩バ˥シェー　˥ミサムヌ [˩maː˥biŋ ka˩ba˥ʃeː ˥misamunu](もっと被せたらよいのに)。

カ˩バッ˥サン [ka˩bas˥saŋ] 【形】 **1**香ばしい。かんばしい。「香細寸　花橘乎＜カグハシキ　花橘を～＞。万、1967』」の義。ウ˩ヌ˥　パナー　イッ˩ケナ˥　カ˩バッ˥サン [ʔu˩nu˥ pana: ʔik˩kena˥ ka˩bas˥saŋ](この花は非常に香ばしい)。ノー˩ン˥　カ˩バッ˥サー　˩ナー˥ヌ [noː˩ŋ˥ ka˩bas˥saː ˩naː˥nu](ちっとも香ばしくない)。˩シンダイ˥　カ˩バッ˥サ　˥ナルン [˩ʃindai ˥ ka˩bas˥sa ˥naruŋ](次第に香ばしくなる)。カ˩バッ˥サル　˥パナーラ　˩カイ˥バ [ka˩bas˥saru ˥panaːra ˩kai˥ba](香ばしい花から買えよ)。˩マー˥ビン　カ˩バッ˥サカー　˩カーサリン [˩maː˥biŋ ka˩bas˥sakaː ˩kaːsariŋ](もっと香ばしかったら売れる＜売られる＞)。**2**上品である。˥アイニ　ウ˩リヌ˥　ム˩ニ˥ヌ　カ˩バッ˥サワレー [˥ʔaini ʔu˩rinu˥ mu˩ni˥nu ka˩bas˥sawareː](何とあんなにも彼の言葉が上品なことよ)。˩バンスル˥ヌ　˩ウーミ˥カザー　イッ˩ケナ˥　カ˩バッ˥サン　フ˩チジル˥　ン˩ジ˥ス [˩bansuru˥nu ˩ʔuːmi˥kaʤaː ʔik˩kena˥ ka˩bas˥saŋ ɸu̥˩ʧiʤiru˥ ʔn˩ʤi˥su](グワバの熟れた香は非常に香ばしい。涎が出るよ)。

カ˩バムニ [ka˩bamuni] 【名】上品な言葉遣い。匂やかな物言い。「香ばしい物言い」の義。ウ˩ヌ˥　プ˩ソー˥　イッ˩チン˥　カ˩バムニ˥ル　ア˩ゾー˥ル　ヤ˩ナ˥ムニ　˩ソーッ˥ター　シ˩キミラ˥ヌ [ʔu˩nu˥ pu̥˩soː˥ ʔit˩ʧiŋ˥ ka˩bamuni˥ru ʔa˩ʤoː˥ru ja˩na˥muni ˩soːt˥taː ʃi̥˩kimira˥nu](その人はいつも上品な言葉遣いをなさるのであって、下品な悪い言葉遣いをされたのを聞いたことがない)。

ガ˩バ˥ラ [ga˩ba˥ra] 【名】かけや (掛矢)。樫などで作った大槌。建築工具。家屋建築の際に用いる大槌。木材を繋ぎ合わせたり、ほぞあな (枘穴) に木材の

接合部を入れる際に打ち込むのに用いる大槌。˞バンギ [˞baŋgi](「板木」の義か。敷き木。丸太＜円形の固い回転木＞をその上に乗せ、カツオ漁船を陸揚げする際に用いる) のコ˞ロ [ko˞ro](回転木) を打つ際にも用いた。ガ˞バ˞ラシル　˞グイユン˞　ウティ　ヌ˞キ　ヤーヌ˞　パラーン　˞シッ˞キ　˞ペーラ˞ソーッタ [ga˞ba˞raʃiru ˞guijuŋ˞ ʔuti nu˞ki ja:nu˞ para:ŋ ˞ʃik˞ki ˞pe:ra˞so:tta](掛矢でもって杭をも打ち、貫木家の柱も打ちこんで入れられた)。

ガ˞バ˞ラ [ga˞ba˞ra] 【名】(動) 魚名。和名、スズメダイの仲間 (デハスズメ、クラカオスズメダイ、シリスズメダイ、オキナワスズメ、スズメダイ、モンスズメダイ、アマミスズメ、ロクセンスズメダイ、オヤビッチャ) の総称。枝珊瑚の中に群棲している。釣り糸の餌を盗み食いする。食用にはほとんど利用されない。ム˞チイズ　ホー˞スンティ　˞ベー˞ヌンドゥ　ガ˞バラ˞ヌ　ア˞ツァ˞マリ　˞キー　˞ムン˞ダニ　ムー˞ル˞　ッ˞ふァイナー˞ヌ [mu ˞tʃiʔidʑu ho:˞sunti ˞be:˞nundu ga˞bara˞nu ʔa˞tsa˞mari ˞ki: ˞mun˞dani mu:˞ru˞ f˞faina:˞nu](ノコギリダイを釣ろうとしているのに、ガバラが集まってきて餌をみんな食べてしまった)。

ガバ˞ラーッティ [gaba˞ra:tti] 【副】がばっと跳ね起きるさま。˞キュウ　シ˞トゥム˞テー　˞ヌーティ　ウ˞ムー˞タユー　ガバ˞ラーッティ˞　ウキティ　パ˞タ˞ケー　パリ˞ナー˞ヌ [˞kju: ʃi̥˞tumu˞te: ˞nu:ti ʔu˞mu:˞taju: gaba˞ra:tti˞ ʔukiti pḁ˞ta˞ke: pari˞na:˞nu](今朝は何を思ったのか急にがばっと跳ね起きて畑へ行ってしまった)。

ガ˞バラガバラ [ga˞baragabara] 【副】硬いものがガラガラと音を立てるさま。˞キーパク˞バ　ガ˞バラガバラ˞シ　ク˞ルバシ　パッ˞タ [˞ki:paku˞ba ga ˞baragabara˞ʃi ku˞rubaʃi pat˞ta](木箱をガラガラと転がしていった)。

ガ˞バラガバラ˞シ [ga˞baragabara˞ʃi] 【副】擬音語。ごろごろと。がらがらと。重くて硬いものが音を立てて転がっていく様子。ミ˞チェー˞ラ　ガ˞バラガバラ˞シ　˞サンギ˞　パルモー　˞ヌーカヤー [mi˞tʃe:˞ra ga˞baragabara˞ʃi ˞saŋgi˞ parumo: ˞nu:kaja:](道からがらがらごろごろ音を立てながら引張って行くのは何かなあ)。

ガ˞バラグブル [ga˞baraguburu] 【副】1雷の音。硬くて大きなものが崩れ落ちる音。˞カンナール˞ヌ　ガ˞バラグブル˞シ　˞ナール˞カー　˞クゥー˞ヌシチャ　˞クゥー˞ヌシチャティ　ア˞ゾーッ˞タツォー [˞kanna:ru˞nu ga˞baraguburu˞ʃi ˞na:ru˞ka: ˞kwa:˞ nuʃi̥tʃa ˞kwa:˞nu ʃi̥tʃati ʔa˞dʑo:t˞tatso:](雷がごろごろと鳴ると「桑の下桑の下」と唱えたそうだ)。2大きな浮遊物が流れていく音。がらりころり。どぶりんどぶりん。˞シザバナリヌ　サ˞キ˞ナー　キ˞ライ˞ヌ　˞ガバラグブルシ　˞ナー˞リキー　˞ベータン˞ドゥ　シ˞ヌ˞ヌ　イ˞シ˞ナ　シゥ˞カッティティル　パシゥクル˞タツォー [˞ʃidʑabanarinu sḁ˞ki˞na: ki˞rai˞nu ˞gabaraguburuʃi ˞na:˞riki: ˞be:tan˞du ʃi˞nu˞nu ʔi˞ʃi˞na si̥˞kattitiru pasi̥kuru˞tatso:](西表島北岸の下離れの崎に機雷がドブリンドブリン流れてきていたが、角＜信管＞が石に触れて炸裂したそうだ)。

ガ˞バラパタラ [ga˞barapatara] 【副】がたごとと騒がしく動き回るさま。˞アー˞ネーナ　ヤ˞ラ˞ビンケーヌ　ガ˞バラパタラ˞シ　˞アーリティ˞　ン˞ガマサ˞ヌ　ナ˞ラ˞ヌ [˞ʔa:˞ne:na ja˞ra˞biŋke:nu ga˞barapatara˞ʃi ˞ʔa:riti˞ ʔŋ˞gamasa˞nu na˞ra˞nu](東隣の家で子供たちががたごとと騒がしく立ち騒いで騒がしくて堪らない)。

ガ˞バラパタラ˞シ [ga˞barapatara˞ʃi] 【副】擬態語。慌て騒ぐさま。がらがらばたばたと。がらがらと音をたてながら立ち働く様子。˞ムネー　イ˞ザンドー˞シ　ガ˞バラパタラ˞シ　パ˞タラキ [˞mune: ʔi˞dʑando:˞ʃi ga˞barapatara˞ʃi pa˞taraki](無駄口をたたかないで＜ものを言わずに＞ばたばたと働け)。擬音語。がらりころりと。がらころがらころと。ガ˞バラパタラ˞＜ガ˞バラガバラ˞＞シ　ア˞チ˞ツァ　˞ナーラシェー˞ティ　フ˞ミ　アー˞ク [ga˞barapatara˞ ＜ga˞baragabara˞＞ʃi ʔa˞tʃi˞tsa ˞na:raʃe:˞ti ɸu˞miʔa:˞ku](下駄をがらころと音を立てながら履いている)。

ガバラ˞ラー [gabara˞ra:] 【副】ガラガラッ (擬音語)。積み上げてあるものが一瞬に崩れ落ちる音。˞ナイ˞ヌ　ウ˞クル˞ター　˞マイグス˞コー　ガバラ˞ラーッ˞ティ　˞クー˞リ　˞ナーン˞シェン [˞nai˞nu ʔu˞kuru ˞ta: ˞maigusu˞ko: gabara˞ra:t˞ti ˞ku:˞ri ˞na:ŋ˞ʃeŋ](地震が起こったので前の石垣がガラガラッと崩れてしまった＜なくなった＞よ)。

ガ˞バンミカ˞スン [ga˞bammika˞suŋ] 【他動】ガバンと音をたてるようにする。擬声語ガ˞バン [ga˞baŋ] に、接尾語のミ˞カ˞スン [mi˞ka˞suŋ](～めかす。～のようにする) がついて形成された語。˞ドンミカ˞スン [˞dommika˞suŋ](ドーンと音が出るほど打ちのめす)。˞バンミカ˞スン [˞bammika˞suŋ](バーンと音が出るほど打ち据える)。

カ˩ビ **[ka˩bi]** 【名】紙。ア˩バ˥カビ [ʔa˩ba˥kabi](油紙)。ッ˩ス˥カビ [s˩su˥kabi](白紙)。ッ˩ふ˥カビ [f˩fu˥kabi](黒い紙)。ア˩ガカビ [ʔa˩gakabi](赤紙)。ウ˩ティン˥ガビ [ʔu˩tiŋ˥gabi](法事に焼いて供える紙銭) などがある。˩ソッコーヤー˥ヌ　ム˩チェー˥　カ˩ビ˥ナー　ッ˩ス˥ミティ　˥シトゥ　ム˩タ˥シ [˩sokk:ja:˥nu mu˩tʃe:˥ ka˩bi˥na: s˩su˥miti ˥ʃi̥tu mu˩ta˥ʃi](法事の餅は紙に包んでお土産 < つと > に持たせなさい)。ア˩バ˥カビシ　˥ブーブー　ス˩ク˥ルカ　イッ˩ケン　ナールン [ʔa˩ba˥kabiʃi ˥bu:bu: su̥˩ku˥ruka: ʔik˩ken na:ruŋ](油紙で凧の鳴き紙を作ると非常によく鳴る)。

カ˩ビ˥ウズ **[ka˩biˀʔudʑu]** 【名】掛け布団。「被り布団」の義。フ˩ユヌ　ピー˥ヤ　˥ピンマー　オ˩シ˥イレーラ　カ˩ビ˥ウズ　ウ˩ラ˥シ　カ˩ブ˥タン [ɸu˩junu pi:˥ja ˥pimma: ʔo˩ʃiˀʔire:ra ka˩biˀʔudʑu ʔu˩ra˥ʃi ka˩bu˥taŋ](冬の寒い時は押入れから掛け布団を下ろして被った)。子供らは布団を頭から被って寝たので、冬期には唇がカ˩ラバル [ka˩rabaru](あかぎれ < 皸 > 状に切れること) することが多かった。

カ˩ビオンギ **[ka˩biʔoŋgi]** 【名】うちわ (団扇)。「紙扇」の義。幅約 1、5 センチ、長さ約 30 センチの竹を、柄の部分に約 10 センチ残し、他の部分を細く裂いて骨とし、紙を張って半円形の団扇に仕上げたもの。カ˩ビオンゲー　カイ˥ヤー　ア˩ル˥ヌ　シ˩グ˥　ヤ˩リ˥シタ　ク˩バオンギル˥　マ˩シ　ヤッタ [ka˩bioŋge: kai˥ja: ʔa˩ru˥nu ʃi˩gu˥ ja˩ri˥ʃi̥ta ku˩baoŋgiru˥ ma˩ʃi jatta](紙扇は美しくはあるが、直ぐに破れた。蒲葵の葉扇が良かった < 増しであった >)。

カ˩ビシキンガニ **[ka˩biʃi̥kiŋgani]** 【名】法事の際に死者のために焼いて供える後生の紙銭、ウ˩ティン˥ガビ [ʔu˩tiŋ˥gabi] を作る際に˩銭型」を打ちつける器具。木製と鉄製がある。直径約 1、5 センチ長さ約 12 センチの円柱状の型棒、または円筒状の金具。底部は銭型の鋳型になっている。˩ワー˥　ピ˩マー˥　ヤ˩ル˥カー　カ˩ビシキンガニ˥シ　ウ˩ティン˥ガビ　シ˩キ˥　ッ˩ふィーリ [˩wa:˥ pi˩ma:˥ ja˩ru˥ka: ka˩biʃikiŋgani˥ʃi ʔu˩tiŋ˥gabi ʃi̥˩ki˥ f˩fi:ri](君は、暇(ヒマ)なら紙銭突き器具で紙銭を突いて < 押して > くれ)。

カ˩ビジン **[ka˩biʤiŋ]** 【名】紙幣。「紙銭」の義。カ˩ニジン [ka˩niʤiŋ](硬貨) の対義語。カ˩ビジン˥　ン˩ザ˥シティ　˩クー˥ジン　˥クリキー　ッ˩ふィーリ [ka˩biʤin˥ ʔn˩ʤa˥ʃi̥ti ˩ku:˥ʤiŋ ˥kuriki: f˩fi:ri](紙幣を出して小銭に両替してきてくれ)。

カ˩ビッスン **[ka˩bissuŋ]** 【名】紙包み。ク˩レー˥　カ˩ビッスン˥ナー　ク˩メーキ˥　ッ˩ス˥ミティ　˥ムティパリバ [ku˩re:˥ ka˩bissun˥na: ku˩me:ki˥ s˩su˥miti ˥mutipariba](これは紙包みに丁寧に包んで持っていってくれ)。ク˩ヌ˥　カ˩ビッスン˥ナー　˩ヌー˥ヌ　˩ペー˥リ　˩ブーワ [ku˩nu˥ ka˩missun˥na: ˩nu:˥nu ˩pe:˥ri ˩bu:wa](この紙包みには、何が入っているか)。

カ˩ビファイムシ **[ka˩bifaimuʃi]** 【名】(動) シミ。「紙喰い虫」の義。˩ホンバク˥ナー　カ˩ビふァイムシヌ˥　シディティ　˩ホンヌ˥　カ˩ベー˥　ッ˩ふァーリ　ナー˥ヌ [˩hombaku˥na: ka˩bifaimuʃinu˥ ʃiditi ˩honnu˥ ka˩be:˥ f˩fa:ri na:˥nu](本箱にシミが発生 < 孵化 > して、本の紙は喰われてしまった)。

カ˩ビフクル **[ka˩biɸu̥kuru]** 【名】紙風船。「風袋」の義。普通は、ゴム風船は˩プー˥カー [˩pu:˥ka:] という。出来ものが腫れあがることにも˩プー˥カー　˥ナルン [˩pu:˥ka: ˥naruŋ](御出来がパンパンに腫れあがる) という。カ˩ビ˥シ　˩プー˥カー　ス˩ク˥リ　ア˩サブン [ka˩biʃi ˩pu:˥ka: su̥˩ku˥ri ʔa˩sabuŋ](紙で風船玉を作って遊ぶ)。カ˩ビフクル˥　ス˩ク˥リ　ア˩サブン [ka˩b7iɸu̥kuru˥ su̥˩ku˥ri ʔa˩sabuŋ](風船を作って遊ぶ)。˩ヨイシヤー˥ヌ　˥シトー　カ˩ビフクル˥ナ　イ˩リティ　オーシ˥バ [˩joiʃi:ja:˥nu ˥ʃi̥to: ka˩biɸukuru˥na ʔi˩riti ʔo:ʃi˥ba](お祝いの家からのつと < 苞 > は紙袋に入れて差し上げなさい)。

カ˩ビ˥ムヌ **[ka˩biˀmunu]** 【名】被り物の総称。1頭に被るもの < 帽子、笠 >。頭上に覆うもの < 傘 >。ア˩ミ˥ヌ　˩フイ˥バ　カ˩ビ˥ムヌ　˥カサ　ヤ˩ラバン˥　カビパリ [ʔa˩mi˥nu ˩ɸui˥ba ka˩biˀmunu ˥kasa ja˩rabaŋ˥ kabipari](雨が降るから被り物、傘でも差して < かぶって > 行け)。2体にかけるもの。体を覆うもの < 寝具、夜具 >。パ˩ダピー˥ヤ　˥ナリケーチバ　カ˩ビ˥ムノー　˥ウズ　ン˩ザ˥シ　カ˩バ˥シティ　ニ˩バシ˥バ [pa˩dapi:˥ja ˥narike:tʃiba ka˩biˀmuno:˥ ʔudʑu ʔn˩ʤa˥ʃi ka˩ba˥ʃi̥ti ni˩baʃi˥ba](肌寒くなってきたので被り物 < 寝具 > は布団を出して掛けて < 被せて > 寝かしなさい)。

カ˩ビヤー **[ka˩bija:]** 【名】紙屋。紙を売る家。紙店。カ˩ビヤー˥ラ　˩ソージカビ　カイ˥キー　˩ソージ˥　パ˩リ˥バ [ka˩bija:˥ra ˩soːʤikabi kai˥ki: ˩soːʤi˥ pa˩ri˥ba](紙店から障子紙を買ってきて障子を張れよ)。

カ˩ビヤキムヌ **[ka˩bijakimunu]** 【名】紙銭を焼きあげる器具。小型の金盥に載せて使う。長さ約 1 尺に切った 2 本のバ˩サ˥ヌ　˥ウディ [ba˩sa˥nu ˥ʔudi](芭蕉の葉柄) を、長さ約 1 尺に切った 2 本の˩ユシ˥キ [˩

juʃi̥˞ki](ススキの生木) で貫き刺し、井の字型に作ったもの。長さ約 1 尺の˞ユシ˞キパシ [˞juʃi̥˞kipaʃi](ススキ箸) で紙銭を挟みながら焼いた。

カ˞ビ˞ラ [ka˞bi˞ra] 【名】 (地) 川平村。石垣島の西北海岸、名蔵湾裏側の川平湾に面した美しい集落で石垣市中心部から約四里の里程にある。˞マユンガナシ [˞majuŋganaʃi] の神事が伝わる歴史の古い集落といわれている。パ˞トゥマ˞プソー　カ˞ビ˞ラーラ　˞イーシ˞ヌ　˞タニ　トゥ˞ロー˞リ　˞ダイ˞クビー　ウ˞ブ˞ビー　˞イーリジマー˞ナ　イ˞ボーッ˞タツォー [pḁ˞tu˞mapu̥so: ka˞bi˞ra:ra ˞?i:ʃi˞nu ˞tani tu˞ro:˞ri ˞dai˞kubi: ?u˞bu˞bi: ˞?i:ri ʤima:˞na ?i˞bo:t˞tatso:](鳩間の人が川平からツノマタ < 角叉 > の種苗を採取されて˞ダイ˞クビー、˞イーリジマー、ウ˞ブ˞ビーの干瀬に養殖された < 植えられた > そうだ)。

˞カブ [˞kabu] 【名】 (人)「加部」と表記されている男性の名前。パ˞トゥ˞メーナー　˞カブティ　˞スー˞　プ˞スヌ　オーッ˞タン [pḁ˞tu˞me:na: ˞kabuti ˞su:˞ pu̥˞sunu ?o:t˞taŋ](鳩間家にカブという人がおられた)。˞カブヤッチー [˞kabujatʧi:](カブ兄)→　カ˞ブッチー [ka˞buttʧi:](カブ兄) と音韻変化し、カ˞ブッチ [ka˞butʧi](南瓜) とニックネームに呼ばれゆようになった。

カ˞ブ [ka˞bu] 【名】撒き餌。魚をおびき寄せるために撒く餌。パ˞ローマ˞バ　˞シッ˞キティ　イ˞ノントゥ˞　カ˞ケー˞シティ　カ˞ブ˞　マ˞コーッ˞タ [pa˞ro:ma˞ba ˞ʃik˞kiti ?i˞nontu˞ kḁ˞ke:˞ʃi̥ti ka˞bu˞ ma˞ko:t˞ta](ツノメガニをシャコ貝の殻に入れて搗き、砂を混ぜ合わせて撒き餌にした)。

˞カブ [˞kabu] 【助数】出漁回数を表す。数を表す語の下に付いて数える対象となる物の性質、回数、形状などを表す。プ˞スˇカブ [pu̥˞su˞kabu](一度出漁)。フ˞タカブ [ɸu̥˞takabu](二度出漁)。˞ミーカブ [˞mi:kabu](三度出漁)。カ˞ツシンマー　タイロー　スー˞　ピンマー　˞プスイ　フ˞タカブナー˞　ン˞ジ˞ソーッタ [kḁ˞tsuʃimma: tairo: su:˞ pimma: ˞pusui ɸu̥˞takabuna:˞ ?n˞ʤi˞so:tta](カツオ漁船は、大漁する時は一日に二度、漁場に出られた <2 カブ出漁された >)。

˞カフー [˞kḁɸu:] 【名】果報。幸福。ウ˞レー˞　カ˞フー˞バ　タ˞ボーラ˞リ　サ˞クシッふァ˞ヌ　マ˞リサカリン˞　ア˞ラ˞センツォー [?u˞re:˞ kḁ˞ɸu:˞ba ta˞bo:ra ˞ri sḁ˞kuʃiffa˞nu ma˞risakariŋ˞ ?a˞ra˞ʃentso:](その人は幸運 < 果報 > を賜って長男の誕生 < 生まれ栄え > もできた < あらせた > そうだ)。

カ˞フーヌ˞　プ˞ス [kḁ˞ɸu:˞nu pu̥˞su] 【連】媒酌人。人徳があり、富貴繁昌を肖ることのできる人を媒酌人 (「果報の人」の義) に頼んだ。カ˞ドゥ˞ヌプス [ka˞du˞nupu̥su] ともいう。カ˞フー˞ヌ　プ˞ス˞　タ˞ナ˞ミ　シ˞キ˞リ [kḁ˞ɸu:˞nu pu̥˞su˞ ta˞na˞mi ʃi̥˞ki˞ri](媒酌人を頼んでおきなさい)。

カ˞ブシンカ [ka˞buʃiŋka] 【名】株仲間。カツオ漁業の組合員。「株臣下」の義。昭和に入ってから発動機船が導入され、組合も株組織に編成さらたという。ウ˞ヤ˞カタ [?u˞ja˞kata](親方) を中心に、その親戚を (約 20 名) 集めて組合を組織し、組合員が小額ずつ出資したいう。各組合に所属する組員を˞シン˞カ [˞ʃiŋka](仲間、「臣下」の義) と称した。カ˞ブシンカ˞　ア˞ツァ˞ミティ　カ˞ツシンヌ˞　ス˞コール　ソー˞ラ [ka˞buʃiŋka˞ ?a˞tsa˞miti kḁ˞tsuʃinnu˞ su̥˞ko:ru so:˞ra](株仲間を集めてカツオ漁業の準備をしましょう)。

˞ガフ˞タ [˞gaɸu˞ta] 【名】ざんばら髪。伸び放題の乱れた髪のままにいること。手入れをしない見苦し頭髪。˞ガフ˞タ　˞カベーティ　˞アー˞クム　˞ミルカー　˞ミーヌッサ˞ヌ　ナ˞ラ˞ヌ [˞gaɸu̥˞ta ˞kabe:ti ˞?a:˞kumu ˞miruka: ˞mi:nussa˞nu na˞ra˞nu](ざんばら髪で出歩くのを見ると、見苦しくて堪らない)。

カ˞ブッチ [ka˞buttʧi] 【名】 (植) カボチャ (南瓜)。苗床に苗をおろして育苗し、シ˞ブル [ʃi˞buru](冬瓜) と同じように、本圃へ移植する。花が咲くとオシベの花粉をメシベにつけて受粉させた。実は、普通直径約 30 センチの球形になった。収穫した果実は、˞トー˞ラ [˞to:˞ra](炊事小屋)、または母屋の裏座やユ˞クンツァ˞メー [ju˞kuntsa˞me:](床下) などに、藁で作った˞シケー [˞ʃi̥ke:](ゆりわ < 揺輪 >) を置き、その上に置いてタ˞ブータン˞ダー [ta˞bu:tan˞da:](保存したよ)。パ˞トゥ˞マナー　カ˞ブッチェー˞　イッ˞ケナ˞　ナ˞ルタン [pḁ˞tu˞mana: ka˞buttʃe:˞ ?ik˞kena˞ na˞ru˞taŋ](鳩間島ではカボチャは非常に良く稔った)。カ˞ブッチェー˞　ユ˞コー˞ナーン　ユ˞クンツァ˞メナーン　˞シケー　シ˞カシ˞　ビ˞シティル˞　タ˞ブイヨーッ˞タ [ka˞buttʃe:˞ ju˞ko:˞na:ɲ ju˞kuntsa˞me:na:ŋ ˞ʃi̥ke: ʃi̥˞kaʃi˞ bi˞ʃitiru˞ ta˞buijo:t˞ta](カボチャは裏座にも床下にもゆりわ < 揺輪 > を敷いて、その上に据えておいて保存された)。

ガフ˞ティ [gaɸu̥˞ti] 【副】 1ぴったり。ガッ˞ツティとも言う。˞ワー˞　ア˞ズタ˞　ム˞ニ˞トゥ　ガフ˞ティ˞　ア˞タリブー [˞wa:˞ ?a˞ʤuta˞ mu˞ni˞tu gaɸu̥˞ti˞ ?a˞

taribu:](君が言った話 < 言葉 > とぴったり合致している)。˞サンミン˥マー　ガフ˞ティ˥　ア˞タリブー [˞sammim˥ma: gaɸu̥˞ti˥ ʔa˞tari bu:](計算はぴったりと当っている)。2ぱくっと。口を大きく開けて食いつくこと。ウ˞ヌ˥　イン　ガフ˞ティ　ホー˥リティ　ナ˞キベー [ʔu˞nu˥ ʔiŋ gaɸu̥˞ti ho:˥riti na˞kibe:](この犬にぱくっと咬まれて泣いている)。

ガ˞ブヌン [ga˞bununŋ] 【名】がぶ飲み。酒や水をがぶがぶ飲むこと。若年層はガ˞ブヌミ [ga˞bunumi] ともいう。ミ˞ジバ˥　ガ˞ブヌン　スー˥カー　ン˞ツァイルント ダー [mi˞ʤiba˥ ga˞bunun su:˥ka: ʔn˞tsairunt̚da:](水をがぶ飲みするとむせ < 咽 > て咳き込むぞ)。

˥カブルキー [˥kaburuki:] 【名】(植) 木の名。若年層は、ビンダ˞ロー˥マキー [binda˞ro:˥maki:] ともいう。和名、オオバイヌビワ。˥カブルキーヌ　ッ˞サーン˥ナ　˞ブー˥　マコヤー　˞ビー˥ルンティ˞ダー˥　ウ˞レー˥　ッ˞ふーナ˥ヨー [˥kaburuki:nu s˞sa:n˥na ˞bu:˥ makoja: ˞bi:˥runti˞da:˥ ʔu˞re:˥ f˞fu:na˥jo:](オオバイヌビワの下にいるヤシガニは食中毒する < 酔う > そだよ。それは食べるなよ)。

カ˞ブ˥ルン [ka˞bu˥ruŋ] 【他動】損する。背負い込む。˞被る」の義。タ˞カダイ˥　シキ　˞カウター˥　カ˞ブ˥リ　˞ナー˥ヌ [tạ˞kadai˥ ʃi̥ki ˞kauta:˥ ka˞bu˥ri ˞na:˥nu](高値をつけて買ったので損をしてしまった)。ギュー˞サ˥シ　˞カーバン˥　カ˞ブラ˥ヌ [gju:˞sa˥ʃi ˞ka:baŋ˥ ka˞bura˥nu](いくらで買っても損しない)。˞タンガ˥シ　カ˞ブ˥ルンティ　˥ウムイ [˞taŋga˥ʃi ka˞bu˥runti ˥ʔumui](自分一人損する < 一人で負債を被る > と思え)。カ˞ブ˥ルクトー　˞ナー˥ヌ [ka˞bu˥ru ˥ku̥to: ˞na:˥nu](損する < 一人でひっかぶる > ことはない)。カ˞ブ˥レー　˥ミサムヌ [ka˞bu˥re: ˥misamunu](損すればよいのに)。カ˞ブ˥リバ [ka˞bu˥riba](損しろ)。

カ˞ブ˥レー [ka˞bu˥re:] 【名】(動) コウモリ (蝙蝠)。˞蝙蝠、カハボリ『類聚名義抄』」の義。ナ˞チェー˥　ユネン　˥ナルカー　フ˞クンヌ˥　ナル　ッ˞ふンティル˥　カ˞ブレー˥ヤー　ウ˞ヌス˥ク　トゥ˞ビ　クータ˥ル [na˞ʧe:˥ junen ˥naruka: ɸu̥˞kunnu˥ naru f˞funtiru˥ ka˞bure:˥ja ʔu˞nusu̥˥ku tu˞bi ku:ta˥ru](夏は、夜になると福木の実を食べようとして蝙蝠はあんなに沢山飛んで来たものだ)。

˥カブン [˥kabuŋ] 【他動】1かぶる (被る)。帽子や面をかぶる。˥アツァバ　˥カサ　˥カビ [˥ʔatsaba ˥kasa ˥kabi](暑いから笠を被れ)。2布団を被る。˞〜麻被引可賀布利 <〜麻ふすま引きかがふり >『万葉集 892』」の義か。˥ウズ　カ˞バン˥カー　˞ピーヤ˥ヌニ˞バラヌ [˥ʔuʤu ka˞baŋ˥ka: ˞pi:ja˥nu ni˞baranu](布団を被らないと寒くて眠れない)。3傘をさす。ア˞ミ˥ヌ　˞フイ˥バ　˥サナー　カ˞バン˥カー　˞ゾールン˥ダー [ʔa˞mi˥nu ˞ɸui˥ba ˥sana: ka˞baŋ˥ka: ˞ʤo:run˥da:](雨が降るから傘を差さない < 被らない > と濡れるぞ)。4浴びる。水をかぶる。ス˞ブ˥ローラ　ミ˞ジェー˥　カビティ　˥ティダナカーラ　パリ˞パッ˥タ [su˞bu˥ro:ra mi˞ʤe:˥ kabiti ˥tidanaka:ra pari˞pat˥ta](頭から水を被って太陽光線をあびて走って行った)。5罪や負債を被る。˥アイブ　˥クトゥ　˞スー˥カー　プ˞スヌ˥　バ˞チ˥　カブン˞ダー [˥ʔaibu ˥ku̥tu ˞su:˥ka: pu̥˞sunu˥ batʃi kabun˞da:](あんな事をすると、他人の罰が当たる < 罰を被る > ぞ)。

カ˞ブン [ka˞buŋ] 【他動】嗅ぐ。カ˞ザ˥　カ˞ブン [ka˞ʤa˥ ka˞buŋ](匂いを嗅ぐ)。パ˞ナ˥　シ˞マ˥リティ　カ˞ザー˥　カ˞バラヌ [pa˞na˥ ʃi˞ma˥riti ka˞ʤa˥ ka˞baranu](鼻が詰まって匂いが嗅がれない)。カ˞ザ˥　カ˞ビ˥　ミサン [ka˞ʤa˥ ka˞bi˥ misaŋ](匂いを嗅いでもいい)。ッ˞サー˥ムノー　カ˞ブ　プソー˥　ブ˞ラーヌ [s˞sa:˥ muno: ka˞bu pu̥so:˥ bu˞ra:nu](臭いものを嗅ぐ人はいない)。カ˞ベー˥　ミサムヌ [ka˞be:˥ misamunu](嗅げばよいのに)。ク˞ヌ˥カ　˞ザ˥　カ˞ビ˥バ [ku˞nu˥ ka˞ʤa˥ ka˞bi˥ba](この匂いを嗅げよ)。

カ˞マ [ka˞ma] 【名】かま (釜)。˥ナビカマ [˥nabikama](鍋釜。炊飯器)。鰹節工場のカツオを煮る大きな釜。イ˞ズネーシカマ [ʔi˞ʤune:ʃikama](カツオを煮る大きな釜。直径約 110 センチ、深さ約 150 センチの大きな鉄製の釜。鰹節工場の土間を約 2 メートル掘り下げて特設竈を作って大きな釜を設置した)。この釜には、ナ˞カ˥ワリ [na˞ka˥wari](三枚下ろし)、ヨ˞ツ˥ワリ [jo˞tsu˥wari](四つ割り) にしたカツオを、直径約 100 センチ、高さ約 10 センチのカ˞グ [ka˞gu](煮篭) に詰め、その篭の 12〜3 枚を釜に入れて煮た。˞シーゾー˥ヤーナー　イ˞ズネーシカマー　ミーチブカラ　スイシキラリ　ブタ [˞ʃi:ʤo:˥ja:na: ʔi˞ʤune:ʃikama: mi:ʧibukara suiʃi̥kirari buta](製造屋にはカツオを煮る釜が三基ほど据えつけられていた)。

˥カマ [˥kama] 【名】1接合部分。両方の継ぎ合わせ目。ク˞レー˥　カマー　˞ホー˥シティ　シ˞ナイ [ku˞re:˥ kama: ˞ho:˥ʃi̥ti ʃi˞nai](これは継ぎ目を合わせて繋げよ)。2つじつま (辻褄)。˞ワー˥　ムネー　˞ピッ˥チン

˥カマー　˥フイ　ブ˩ラーヌ˥　カマー　˩ホー˥ヌ [˩waː˥ muneː ˩pit˥tʃiŋ ˥kamaː ˥ɸui bu˩raːnu˥ kamaː ˩hoː˥nu](君の話はちっとも辻褄があっていない。辻褄が合わない)。

˥カマ [˥kama] 【代】あそこ。遠称の指示語。˥カマナ　˩ベー˥リ [˥kamana ˩beː˥ri](あそこに居れ)。カ˩マ˥ヌ　˥トン [ka˩ma˥nu ˥toŋ](あそこの所)。カ˩マー˥パリ [ka˩maː˥ pari](あそこへ行け)。˥カマーラ　˥クーン [˥kamaːra ˥kuːŋ](あそこから来る)。カ˩マ˥ルマ˩シ [ka˩ma˥ru ma˩ʃi](あそこがよい＜ましだ＞)。ク˩マ˥トゥ　カ˩マ˥トー　˩マー˥ル　マ˩シ˥ユー　ワ˩カラ˥ヌ [ku˩ma˥tu ka˩ma˥to: ˩maː˥ru ma˩ʃi˥juː wa˥˩ kara˥nu](ここととあそことでは、何処が良いか分からない)。˥カマナ　˩ベー˥リ [˥kamana ˩beː˥ri](あそこに居れ)。

ガ˩マ [ga˩ma] 【名】洞窟。鍾乳洞。天然の横穴。洞穴(竪穴)にはア˩ブ [ʔa˩bu] といい、ガ˩マ [ga˩ma] とは言わない。˥インダガマ [˥ʔindagama](西表島北岸の伊武田にある洞窟。戦争中、鳩間島の人が避難したところ。洞窟の奥に石垣囲いで人骨を納めてあった。平家の落ち武者の骨という伝説がある)、ピ˩ナイサキヌ　ガマ [pi˩naisakinu gama](船浦のピナイ崎にある鍾乳洞。戦争中、鳩間島の人が避難したところ。小さな蝙蝠が群棲していた)。˩ナーパマヌ　ガマ [˩naːpamanu gama](伊武田の長浜の上にある洞窟)。˩クーラー˥ラ　˩アンタ　ユシ˥キダーサ˩キンダバーキ˥ヌ　˩シー˥トゥンケーヤ　˥インダガマナール　˩ガッ˥コー　ン˩ズ˥タ　˩バン˥ターシン˩トゥ˥　プスイカー˩ニヌ˥　イ˩チネンセイ　ヤタル [˩kuːraː˥ra ˩ʔanta juʃi̥˥kidaː sḁ˩kindabaːki˥nu ˩ʃiː˥tuŋkeːja ˥ʔindagamanaːru ˩gak˥koː ʔn˩ʤu˥ta ˩ban˥taː ʃin˩tu˥ pu̥suika:˩ninu˥ ʔi˩tʃineŋʃei˥ ja˩taru](久浦から東、ヨシキダ、崎田までの生徒達はインダガマで学校をでた。私たちは、たった一日だけの一年生だったよ)。

カ˩マー˥クマー [ka˩maː˥kumaː] 【代】あちこち(彼方此方)。あちらこちら。˥ウマーカマー [˥ʔumaːkamaː](そこここ)の対語。ク˩マー˥カマーナとも言う。カ˩マー˥クマーナ　˩ポーリ˥　シゥ˩カン˥ドーシ　シ˩ズ˥ミ　˥シキバ [ka˩maː˥kumaːna ˩poːri˥ si̥˩kan˥doːʃi ʃi˩ʤu˥mi ˥ʃi̥kiba](あちこちに散らかしておかないで片付けておけよ)。

˥カマー　˥フーン [˥kamaː ˥ɸuːŋ] 【連】辻褄があう。食い違いがなく、筋道が通る。˥アイ　ヤ˩ルンデー˥カー　パ˩ナ˥シェー　˥カマー　˥フーン [˥ʔai ja˩runde:˥ka: pa˩na˥ʃe: ˥kamaː ˥ɸuːŋ](そうであるならば話は辻褄があう＜筋が通っている＞)。˥アイニパ˩ナ˥スカー　˥カマー　˥フーン [˥ʔaini pa˩na˥su̥kaː ˥kamaː ˥ɸuːŋ](そのように話すと辻褄があう)。

˥カマー　˩ホー˥スン [˥kamaː ˩hoː˥suŋ] 【連】辻褄を合わせる。筋道をたてる。理路整然とする。˥カマー　˩ホーシ˥ル　˥ムネー　イ˩ズ˥ダー [˥kamaː ˩hoːʃi˥ru muneː ʔi˩ʤu˥daː](辻褄を合わせて、道理にかなうように話はする＜ものは言う＞ものだ)。˥ユー　˥カマー　˩ホー˥シェーティ　˥ムネー　イ˩ザン˥カー　ナ˩ラン˥ダー [˥juː ˥kamaː ˩hoː˥ʃeːti ˥muneː ʔi˩ʤaŋ˥kaː na˩ran˥daː](よく辻褄を合わせてものを言わないといけないよ)。

カ˩マーラ˥サン [ka˩maːra˥saŋ] 【形】悲しい。わびしい。物悲しい。イ˩クサユー˥ヌ　˥クトゥ　˥ウムーカー　カ˩マラーサ˥ヌ　ナ˩キル˥　シ˩ラリ [ʔi˩kusajuː˥nu ˥ku̥tu ˥ʔumuːkaː ka˩maraːsa˥nu na˩kiru˥ ʃi˩rari](戦争時代のことを思うと悲しくて泣けてくる)。˩ワー˥　カ˩マラーサ˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌティ　ア˩ズヌ˥　カ˩マラー˥サル　˥クトー　ムー˩ル˥　ユ˩ヌ˥ムヌティムカーヤ [˩waː˥ ka˩maːrasa˥nu na˩ra˥nuti ʔa˩ʤunu˥ ka˩maːra˥saru ˥ku̥toː muː˩ru˥ ju˩nu˥munutimukaːja](君は悲しいと言うが、悲しいことは皆同じということだよ)。ム˩カシ˥ヌ　ク˩トゥ˥ヌ　ウ˩ムインザサ˥リティ　カ˩マーラサ˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [mu˩kaʃi˥nu ku̥˩tu˥nu ʔu˩muiʔnʤasa˥riti ka˩maːrasa˥nu na˩ra˥nu](昔のことが思い出されてもの悲しくてなって、たまらない)。カ˩マーラ˥サー　˩ナー˥ヌ [ka˩maːra˥saː ˩naː˥nu](もの悲しくはない)。イッ˩ケナ˥　カ˩マーラ˥サン [ʔik˥kena˥ ka˩maːra˥saŋ](非常にもの悲しい)。カ˩マーラ˥サカー　ナ˩カバン˥　ミサン [ka˩maːra˥saka: na˩kabam˥ misaŋ](もの悲しかったら泣いても良い)。ア˩スン˥ケン　カ˩マーラ˥サ　˥クトー　˩ナーヌ˥ヌ　ナ˩ダ˥ヌ　˥パルサー [ʔa˩suŋ˥keŋ ka˩maːra˥sa ˥ku̥toː ˩naːnu˥nu na˩da˥nu ˥parusaː](そんなに悲しいことはない＜悲しくない＞が涙がでる＜走る＞よ)。

-ガ˩マーラ˥サン [-ga˩maːra˥saŋ] 【接尾】～し勝ちである。よく～する。チ˩カ˥グロー　˥ヌンティル　ヤ˩ル˥ユー　イ˩ミガマーラサ˥ヌ　˩ソーシ˥　ナ˩ラン˥サー [tʃi˩ka˥guroː ˥nuntiru ja˩ru˥juː ʔi˩migamaːrasa˥nu na˩ran˥saː](最近は何故か夢みがちで、心配で仕方がないよ)。˥トゥシ　トゥ˩ル˥ター　˩ヤンガマーラ˥サ　カー˩ニル˥　アル˩ツォー [˥tu̥ʃi tu˩ru˥taː ˩jaŋgamaːra˥sa kaː˩niru˥ ʔaru˩tsoː](年をとったので

病気がちであるんだよ)。ア˩ミガマーラ˥サティ˥ンジン　˥ペーリン　ナ˩ラ˥ヌ [ʔa˩migama:ra˥sati˥ʔndʒim ˥pe:rin na˩ra˥nu](雨降り続きで＜雨降りがちで＞外出もままならない＜出たり入ったりも出来ない＞)。

カ˩マアギ **[ka˩maʔagi]** 【名】釜揚げ。鰹節製造工場の大釜で、円い蒸籠に並べて煮たカツオを釜より引き上げること。カ˩マアギ˥　シ˩ティ　ピーラ˥シティル　バ˩ラ˥ヌギ　˩ソーッ˥タ [ka˩maʔagi˥ ʃi̥˩ti pi:ra˥ʃi̥tiru ba˩ra˥nugi ˩so:t˥ta](釜揚げして冷ましてからバラヌギ＜棘(トゲ)抜き。小骨抜き。「荊棘(バラ)抜き」＞をされた)。

˥カマイ **[˥kamai]** 【名】いのしし (猪)。「○羊、加万之々 (かましし)、大ニ於羊一而大角者也」『和名抄』の転訛したものか。西表島の山中には猪が多数棲息しており、夏の稲の収穫時には猪害が発生した。この猪害を防ぐために、田圃の周囲を猪垣でめぐらさなければならなかった。カ˩キ [kḁ˩ki](垣)は、直径約4センチ、長さ約2メートルの˥キチ [˥ki̥tʃi](若木、木の枝) を約4センチ間隔で編みあげて作る。カ˩マイ˥ヌ　カ˩キ　スンティ　パイ˥ター　˩パッ˥タ [ka˩mai˥nu kḁ˩ki sunti pai˥ta: ˩pat˥ta](猪の垣を作る＜垣をする＞といって西表北岸の田んぼ＜南端＞へ行った)。

カ˩マイ **[ka˩mai]** 【名】構え。構造。間取り。˩ヤー˥ヌ　カ˩マイヤー˥　イッ˩ケナ　ガン˥ゾー　ス˩クラリ˥ブー [˩ja:˥nu ka˩maija:˥ ʔik˩kena gan˥dʑo: su̥˩kurari˥bu:](家の構えは非常に頑丈に作られている)。カ˩ザンガマイ [ka˩dʑaŋgamai](暴風対策) として、家の四隅に支柱を建てた。

˥カマイ　トゥ˩リ˥プス **[˥kamai tu˩ri˥pu̥su]** 【連】猪を獲る人。猟人。猪のかりゅうど (猟人)。イ˩ラムティ˥ナー　˥シンニン　˥カマイ　トゥ˩リプス˥ヌ　˩オーッ˥タン [ʔi˩ramuti˥na: ˥ʃinniŋ ˥kamai tu˩ripu̥su˥nu ˩ʔo:t˥taŋ](西表には専ら猪を獲る猟人(リョウジン)がおられた)。

カ˩マイ˥ヌ　カ˩キ **[ka˩mai˥nu kḁ˩ki]** 【連】猪の垣。猪の害を防ぐために田圃の周りに若木や竹を編んで張り巡らした垣。直径約4センチ、長さ約6尺の若木や竹を、上、中、下段に横木を渡してトウズルモドキの皮で編んだ垣根。カ˩マイ˥ヌ　カ˩キ˥　ス˩クランカー˥　カ˩マイ˥ヤー　フ˩シガラン˥シェン [ka˩mai˥nu kḁ˩ki su̥˩kuraŋ˥ka: ka˩mai˥ja: ɸu̥˩ʃigaraŋ˥ʃeŋ](猪の垣を作らないと猪の害は防げ＜防がれ＞なかった)。

カ˩マイ˥ヌ　˥キム **[ka˩mai˥nu ˥kimu]** 【連】猪の胆嚢。「猪の肝」の義。猛烈な苦味を有するが胃薬として重宝されていた。乾燥した猪の胆嚢を煎じて服用すると、胃潰瘍などの胃の病気に効くといわれていた。バ˩タ˥ヤン　ム˩ティ˥プソー　カ˩マイ˥ヌ　˥キム　˥シジティ　ヌ˩モーッ˥タ [ba˩ta˥jam mu˩ti˥pu̥so: ka˩mai˥nu ˥kimu ˥ʃidʑiti nu˩mo:t˥ta](胃病＜腹の病＞持ちの人は乾燥した猪の胆嚢を煎じて服用された＜飲まれた＞)。

カ˩マイ˥ヌ　˥シー **[ka˩mai˥nu ˥ʃi:]** 【連】猪の巣。カ˩マイ˥ヌ　˥シー　ス˩クリ　˥シケー [ka˩mai˥nu ˥ʃi: su̥˩ku˥ri ʃi̥ke:](猪が巣を作ってある)。

カ˩マイ˥ヌ　˥ミン **[ka˩mai˥nu ˥miŋ]** 【連】猪の耳。猪の耳のように聡い耳。小さな物音にも敏感に反応する耳のこと。カ˩マイ˥ヌ　˩ミン˥ヌ　˥カタチニ　˩サッ˥コー　˩ミン　パヤー˥ン＜˥ミン　パ˩ヤー˥ン＞[ka˩mai˥nu ˩min˥nu ˥kḁtatʃini ˩sak˥ko: ˩mim paja:˥ŋ ＜˥mim pa˩ja:˥ŋ＞](猪の耳のように非常に耳が聡い＜耳が早い＞)。

˥カマイヤマ **[˥kamaijama]** 【名】猪の罠。猪を捕獲する仕掛け。獣道を探して、猪の好む餌を撒いて罠へ導き、罠の中に入ったところを、上に揚げておいた木の枠を落として捕獲する仕掛け。仕掛けは、タ˩ル˥キ [ta˩ru˥ki](垂木、棰) を戸板状に編み、その上に重い石を載せ、片面を吊るし上げて支柱で支えておき、猪がその中に入ったとたんに戸板が落下して猪を押えて捕獲するようにしたもの。˥カマイヤマ　ア˩ギティ˥　カマイ　˥トゥルン [˥kamaijama ʔa˩giti˥ kamai ˥turuŋ](猪を捕る仕掛けをして猪を捕獲する)。

カ˩マイ˥ヨー **[ka˩mai˥jo:]** 【名】構造。家の構え。「構え様」の義。˩ヤー˥ヌ　カ˩マイ˥ヨー　˥ミルカー　ユ˩カラプス˥ヌ　˩ヤー˥ル　ヤ˩ローリン˥ギサバン [˩ja:˥nu ka˩mai˥jo: ˥miruka: ju˩karapusu˥nu ˩ja:˥ru ja˩ro:riŋ˥gisabaŋ](家の構え＜家の構造＞を見ると士族の家であられるようだわい)。

カ˩マイ˥ルン **[ka˩mai˥ruŋ]** 【自動】構える。身構える。˩プール˥ヌ　サ˩ク˥ボー　˥ウトゥピンマー　ガ˩マ˥コー　イ˩リティ˥　カ˩マイ˥ル˩ダー [˩pu:ru˥nu sḁ˩ku˥bo: ˥ʔutu ˥pimma: ga˩ma˥ko: ʔi˩riti˥ ka˩mai˥ru˩da:](豊年祭のサクボー＜剣を持って打つ棒踊り＞を打つ時は腰＜ガマク＞を入れて構えるのだよ)。˥アイネー　カ˩マイララ˥ヌ [˥ʔaine: ka˩mairara˥nu](そのようには構えられない)。˩バン˥ヌン　カ˩マイ˥ルン [˩ban˥nuŋ ka˩mai˥ruŋ](私も構える)。カ˩

マイ˜ル　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [ka˞mai˜ru ˜kʉto: na˞ra ˜nu](構える事は出来ない)。˞パー˜ク　カ˞マイ˜ヤー　˜ミサムヌ [˞pa:˜ku ka˞mai˜ja: ˜misamunu](早く構えればよいのに)。˜カイニ　カ˞マイ˜リ [˜kaini ka˞mai˜ri](このように構えろ)。

カ˞マイ˜ルン [ka˞mai˜ruŋ] 【自動】吠える。ク˞ヌ　イン˜マー　プ˞スヌ˜　クーカー　˞ギーバー˜　ン˞ザ˜シティ　カ˞マイ˜ルン˞ダー [ku˞nu ʔim˜ma: pʉ˞sunu˜ ku:ka: ˞gi:ba:˜ ʔn˞ʤa˜ʃi̥ti ka˞mai˜run˞da:](この犬は人が来ると牙を出して吠えるぞ)。カ˞マイラ˜ヌ [ka˞maira˜nu](吠えたてない)。

˜カマウン [˜kamauŋ] 【自動】犬が牙を剥いて吠える。身構えて吠え立てる。˞ウン˜ネヌ　˞イン˜マー　ッ˞サン˜　プ˞スヌ˜　クーカー　カ˞マウン˜ドゥ　ッ˞シプスヨー˜ <ッシプスネー>　カ˞マー˜ヌ [˞ʔun˜nenu ˞ʔim˜ma: s˞sam˜ pʉ˞sunu˜ ku:ka: ka˞maun˜du ʃ˞ʃipusujo:˜ <ʃʃipusune:> ka˞ma:˜nu](あの家の犬は知らない人が来ると吠えるが、知人をば吠えない)。˞ウン˜ネーヤ　˞イン˜ヌ　˜カマイティ　ナ˞クラー˜ヌ　˞ペーララ˜ヌ [˞ʔun˜ne:ja ˞ʔin˜nu ˜kamaiti na˞kura:˜nu ˞pe:rara˜nu](犬が吠えて、怖くては入れない)。ッ˞シプス˜ネー　˜カマウ　˜クトー　サ˞ヌ [ʃ˞ʃipusu˜ne: ˜kamau ˜kʉto: sa˞nu](知人<知っている人>には吠えることはしない)。

ガ˞マ˜ク [ga˞ma˜ku] 【名】腰周りの細くくびれた部分。ウエスト。サ˞ク˜ボーン　ル˞クサク˜ボーン　ガ˞マ˜ク　イ˞リラン˜カー<イランカー>　˞ミーヌ　ッサ˜ヌ　ミ˞ララ˜ヌ [sḁ˞ku˜bo:n ru˞kusaku˜bo:ŋ ga˞ma˜ku ʔi˞riraŋ˜ka: <iraŋka:> ˞mi:nussa˜nu mi˞rara ˜nu](サクボー演武も六尺棒演武もカマク<ウエスト>を入れないと見苦しくて見ておれない)。

ガマ˞コー˜マ [gama˞ko:˜ma] 【名】ほっそりしたウエスト。細腰。細くくびれた腰周り。リブ (肋骨) とヒップ (腰) の間の胴のくびれた所。ミ˞ドーン˜ッふァヌ　ガ˞マコー˜マー　イ˞カムス˜ク　˞カイ˜ヤワ˞ツォー [mi˞do:ŋ˜ffanu gama˞ko:˜ma: ʔi˞kamusʉ˜ku ˞kai˜jawa˞tso:](女の子のほっそりしたウエストはどんなに美しいことかってば)。

カ˞マ˜サー [ka˞ma˜sa:] 【名】 (動) 魚の名。和名、オオカマス (体長約 1、5 メートル)。和名、ヤマトカマス (体長約 30 センチ) の総称。カ˞ツシンラ˜　パ˞ニビキ　シー˜　クンケン　˞カマサー˜ヌ　˜フイケータンツォー [kḁ˞tsuʃinra˜ pa˞nibiki ʃi:˜ kuŋkeŋ ka˞masa:˜nu ˜ɸuike:tantso:](カツオ船から擬餌鉤を引いて<引き縄漁をして>きたところオオカマスが釣れた<喰い付いてきた>そうだ)。

カ˞マ˜ジ [ka˞ma˜ʤi] 【名】かます。藁蓆を二重にし、二つ折りにして作った袋。穀物や塩を入れるのに用いられた。石垣島から農業用化学肥料の˞リュー˜アン [˞rju:˜aŋ](硫安<金肥>) や˞チッ˜ソ [˞ʧis˜so](窒素肥料) を入れて送るのにも用いられた。カ˞マ˜ジナール　˞マー˜ソー　イ˞リラリティ˜　ウ˞クラリ　クー˜タ [ka˞ma˜ʤina:ru ˞ma:˜so: ʔi˞rirariti˜ ʔu˞kurari ku:˜ta](かますに塩は入れられて送られてきた)。

ガ˞マ˜ジ [ga˞ma˜dʒi] 【名】 [1]頭髪。「かもじ」(<髪>「女房言葉」) の転か。ガ˞マ˜ジ　˞ユーン [ga˞ma˜dʒi ˞ju:ŋ](髪を結う)。ガ˞マ˜ジ　˜キズン [ga˞ma˜dʒi ˜kiʤuŋ](髪を梳る)。ガ˞マ˜ジ　˞ナームイ　シーナー˜ヌ [ga˞ma˜ʤi ˞na:mui ʃi: na:˜nu](髪の毛が長く伸びてしまった)。˞ダン˜パチヤーナ　˞ギー˜　ガ˞マ˜ジ　˜シミ　˜クー [˞dam˜patʃija:na ˞gi:˜ ga˞ma˜ʤi ˜ʃimi ˜ku:](理髪店<断髪屋>に行って髪を摘んでこい)。ガ˞マ˜ジ　˜シミン　˞ダン˜パチヤー　˞パッ˜タ [ga˞ma˜ʤi ˜ʃimin ˞dam˜patʃija: ˞pat˜ta](髪を刈りに<髪を詰めに>床屋<断髪屋>へ行った)。ム˞カ˜シェー　バ˞リ˜カンシル　ガ˞マ˜ジェー　シ˞ムタ˜ル [mu˞ka˜ʃe: ba˞ri˜kaŋʃiri ga˞ma˜ʤe: ʃi˞muta ˜ru](昔はバリカンで髪を刈った<摘んだ>ものだ)。[2]頭。ガ˞マジ˜ヌ　˜ヤミ　ナ˞ラ˜ヌ [ga˞maʤi˜nu ˜jami na˞ra˜nu](頭痛がしてたまらない)。

ガ˞マ˜ジキジ [ga˞ma˜dʒikidʒi] 【名】髪梳き。髪をすくこと。˞マイカリヌ　パンタ˜サー　ガ˞マ˜ジキジンツァン　ナ˞ラ˜ヌ [˞maikarinu panta˜sa: ga˞ma˜ʤikiʤintsan na˞ra˜nu](稲刈りの忙しさで<繁多さで>髪梳きすら出来ない)。

ガ˞マ˜ジ　˜シ˞ミ˜ルン [ga˞ma˜ʤi ʃi˞mi˜ruŋ] 【連】ガ˞マ˜ジ　˜シムン [ga˞ma˜ʤi ˜ʃimuŋ] と同じ。˜ドゥーシ　ガ˞マ˜ジ　シ˞ミ˜ルンティ　˞ベーン˜ドゥ　シ˞ミララン˜バン [˜du:ʃi ga˞ma˜ʤi ʃi˞mi˜runti ˞be:n˜du ʃi˞miraram˜baŋ](自分で髪を刈り<詰め>ようとしているが、刈りられ<詰められ>ないんだよ)。

ガ˞マ˜ジ　ス˞ミルン [ga˞ma˜ʤi su˞miruŋ] 【連】髪の毛を染める。ガ˞マ˜ジ　ス˞ミルンティ˜　ウ˞ムーン˜ドゥ　ス˞ミクーヌ　ナー˜ヌ [ga˞ma˜ʤi su˞mirunti ˜ʔu˞mu:n˜du su˞miku:nu na:˜nu](髪の毛を染めようと思うが、染粉がない)。

ガ˞マジ˜ヌ　˜アバ [ga˞maʤi˜nu ˜ʔaba] 【連】髪の油。髪油。びんつけあぶら。ポマード。シ˞キ˜アバ [ʃi̥˞ki ˜ʔaba](つけあぶら) ともいう。ム˞カシ˜ヌ　ガ˞マジ˜

ヌ　˥アバー　カ˩バッ˥サタン [muˬkaʃiˬnu gaˬmaʤi ˬnu ˬ?aba: kaˬbasˬataŋ](昔の付け油は香ばしかった)。

ガ˩マジ˥ヌ　グ˩ル [gaˬmaʤiˬnu guˬru] 【連】断髪して切り落とした髪の毛。「髪の殻」の義。ガ˩マジ˥ヌ　グ˩ロー˥　ムティ　˩ギー˥　パ˩タキ˥ヌ　˥コイ　˩シー˥バ　˩ヨー [gaˬmaʤiˬnu guˬroː muti ˬgiː paˬ ˬtakiˬnu ˬkoi ʃiːˬba ˬjo](刈り落とした髪の毛を畑に持って行って畑の肥やしにしなさいね)。

ガ˩マジ˥ヌ　˥ヤン [gaˬmaʤiˬnu ˬjaŋ] 【連】頭の病。頭痛。「頭の病み」の転か。ガ˩マジ˥ヌ　˩ヤン˥バ　ワ˩チライティ˥　バー　シ˩グトゥン　シーユーサヌ [gaˬmaʤiˬnu ˬjamˬba waˬʧiraitiˬ baː ʃiˬgutuŋ ʃiːjuːsanu](頭痛を患って、私は仕事もすることが出来ない)。

ガ˩マ˥ジ　フ˩キルン [gaˬmaˬʤi ɸu̥ˬkiruŋ] 【連】結い髪がとける。ガ˩マジ˥ヌ　フ˩キルン˥ケン　˩キッ˥ス　˩シー˥　イ˩ニッ˥サイ　シ˩ティ˥　ブ˩ガ˥リ　˩ナー˥ヌ [gaˬmaʤiˬnu ɸu̥ˬkiruŋˬkeŋ ˬkisˬsu ʃiː ?iˬniˬ ssai ʃi̥ ˬtiˬ buˬgaˬri ˬnaːˬnu](結い髪がとけるまで一所懸命に稲搗きをして疲れてしまった)。

ガ˩マ˥ジ　˥ヤムン [gaˬmaˬʤi ˬjamuŋ] 【連】頭が痛い。頭痛がする。「頭が病む」の義。ス˩ブ˥ル　˥ヤムン [suˬbuˬru ˬjamuŋ](頭が痛) とも。˩キュー˥ヤ　ガ˩マジ˥ヌ　˥ヤミティ　シ˩グトー˥　ン˩ジラリ˥ダケー　˩ナー˥ヌ [ˬkjuːˬja gaˬmaʤiˬnu ˬjami ʃiˬgutoːˬ ?n ˬʤirariˬdakeː ˬnaːˬnu](今日は頭痛がして < 頭が病みて > 仕事に出られそうにはない)。

ガ˩マジ˥ヤン [gaˬmaʤiˬjaŋ] 【名】頭痛。「かもじ病み」の転訛したもの。ガ˩マジ˥ヤンヌ　ウ˩ク˥リティ　˥ムヌ　ウ˩モーラ˥ヌ [gaˬmaʤiˬjannu ?uˬkuˬriti ˬmunu ?uˬmoːranu](頭痛の病気が起きて、何も考えら < もの思わ > れない)。

ガ˩マ˥ジ　˩ユーン [gaˬmaˬʤi ˬjuːŋ] 【連】髪を結う。サ˩カサンケー˥ヤ　マ˩ナ˥マ　シ˩キ˥ティン　ガ˩マ˥ジェー　˩ユイル　オー˥ル [sḁˬkasaŋkeːˬja maˬnaˬ ma ʃi̥ˬkiˬtiŋ gaˬmaˬʤeː ˬjuiru ?oːˬru](司の方々は、今でも髪を結っておられる)。

カ˩マチ [kaˬmaʧi] 【名】かまど (竈)。鍋や釜をかけて炊飯するところ。へっつい。竈は粘土を捏ねて炊事場のナ˩カ˥ザ [naˬkaˬʤa](土間) の西側壁面の前に造った。ウ˩ブカマ˥チ [?uˬbukamaˬʧi](大竈。˩シンマイ˥ナビ [ˬʃimmaiˬnabi]< 四枚鍋。芋を煮る大型の鍋 > 用の竈)、ナ˩カカマ˥チ [naˬkakamaˬʧi](中竈。˩イー˥ナビ [ˬ?iːˬnabi]< 飯鍋。ご飯を炊く鍋 >、˩スー˥ナビ [ˬsuːˬnabi]< 汁鍋。お汁を炊く鍋 > 用の竈)、カ˩マチェー˥マ [kaˬmaʧeːˬma](小竈。˥ヤコン [ˬjakoŋ]< 薬缶。湯沸し > 用の竈) の三種の竈を造り、それぞれの竈の前面に「水」の文字を刻印するのが慣わしであった。竈の後方には、山石、野石、海石の三個を置き、ピ˩ナカン [piˬnakaŋ](火の神) として信仰した。ピ˩ナカンマー˥　イ˩シ　ミック˥　ビ˩シティ˥　ウ˩ガ˥モーッタ [piˬnakammaːˬ ?iˬ ʃi mikkuˬ biˬʃitiˬ ?uˬgaˬmoːtta](火の神は山の石、野の石　海の石の三個を据え供えて信仰され < 拝まれ > た)。

カ˩マ˥チ [kaˬmaˬʧi] 【名】かまち (框)。玄関の上がり口。床の間、縁側などの床面の端を隠すための化粧横木。ク˩ル˥キシ　˩ザートゥク˥ヌ　カ˩マ˥チ　ス˩クラ˥リ　˩ベー [kuˬruˬkiːʃi ˬʤaːtukuˬnu kaˬmaˬʧi su̥ ˬkuraˬri ˬbeː](黒木 < 黒檀 > で床の間の化粧横木はつくられている)。

カ˩マチェー˥マ [kaˬmaʧeːˬma] 【名】小さな竈。湯沸し用の竈。カ˩マチェー˥マナ　˥ヤコン　ビ˩シティ˥　ユー　フ˩カ˥シバ [kaˬmaʧeːˬmana ˬjakom biˬʃitiˬ juː ɸu̥ˬkaˬʃiba](小さな竈に湯沸し < 薬缶 > を据えて湯を沸かしなさいよ)。

カ˩マチヌ˥　シン [kaˬmaʧinuˬ ʃiŋ] 【連】竈の消し炭。カ˩マチヌ˥　シンナー　˥ピー　˩タシキティ˥　タ˩バク˥ブンナー　ウ˩ティ˥クー [kaˬmaʧinuˬ ʃinnaː ˬ piː ˬtaʃi̥kitiˬ taˬbakuˬbunnaː ?uˬtiˬkuː](竈の炭に火を焚きつけて、煙草盆に移して運んでこい)。

カ˩マチフチ [kaˬmaʧiɸu̥ʧi] 【名】台所。「竈口」の義。シ˩ム [ʃiˬmu](台所。下) ともいう。ビ˩コーンッふァー˥　カ˩マチフチマール　スームノー˥　ア˩ラ˥ヌ [biˬkoːffaːˬ kaˬmaʧifuʧimaːru suːmunoːˬ ?aˬra ˬnu](男の子は台所回りをするものではない)。˩マーキ [ˬmaːki](薪。木を割って乾燥させた薪) 以外にも燃えやすい˩ユシ˥キキー [ˬjuʃi̥ˬkikiː](枯れたススキの燃料) も燃料として利用したので、竈の前は火事にならぬよう、特に気を配った。竈の前には桶に水を入れて置いた。竈の前面には水の字を彫り込んでいた。カ˩マチフチ˥ナー　˩ユシ˥キキーンドレー　˩ポーリ˥　シ˩キ˥ルカー　˩ピー˥ヌ　ン˩ジ˥ルン˩ダー [kaˬmaʧiɸu̥ʧiˬnaː ˬjuʃi̥ˬkikiːndoːreː ˬpoːriˬ ʃi̥ˬki ˬrukaː ˬpiːˬnu ?nˬʤiˬrunˬdaː](竈口の周りにススキの薪を散らかしておくと火事になるぞ < 火が出るぞ >)。

カ˩マデー [kaˬmadeː] 【名】人名。女の名。カ˩マデー　マー　パッ˥タ [kaˬmadeː maː patˬta](カマデーは

何処へ行ったか)。パ˞タ˥ケー　˞パッ˥タ [pḁ˞ta˥ke:˞pat˥ta](畑へ行った)。

カ˞マドー [ka˞mado:] 【名】人名。女の名。カ˞マドー˥　イ˞ニ˥ッサイ　˞テー˥ナイ　˞シー˥　ッ˞ふィーリ˥ヨー [ka˞mado:˥ ʔi˞ni˥ssai ˞te:˥nai ˞ʃi:˥ f˞fi:ri˥jo:](カマドー! 米搗き＜稲精げ＞の手伝いしてくれよ)。

ガ˞マナーリ [ga˞mana:ri] 【名】反響を伴って鳴り響くこと。洞窟の中で反響するように鳴り響くこと。˞ヤーン˥ナカナー　ウ˞ヤー˥ルカー　ガ˞マナーリスン [˞ja:n˥nakana: ʔu˞ja:˥ruka: ga˞mana:ri suŋ](家の中で叫ぶと反響して鳴り響く)。

ガ˞マナール [ga˞mana:ru] 【名】大反響。がらんどう(伽藍堂)の室内で声が大きく反響すること。ガ˞マヌ˥　ナ˞カ˥ナー　˥ムニ　イ˞ズ˥カー　˞クイ˥ヤー　ガ˞マナール　スン˥ダー [ga˞manu˥ na˞ka˥na: ˥muni ʔi˞ʤu˥ka: ˞kui˥ja: ga˞mana:ru sun˥da:](洞窟の中で話す＜ものを言う＞と大きく反響するよ)。グゥーングゥーンと反響音を響かせて鳴る音。˞コン˥クリヤーヤ　˥ムニ　イ˞ズバン˥　ガ˞マナール　スンダ˥　ミン　ク˞ジリンギサ˥ル [˞koŋ˥kurija:ja ˥muni ʔi˞ʤubaŋ˥ ga˞mana:ru sunda˥ miŋ ku˞ʤiriŋgisa˥ru](コンクリート建ての家は話をするだけでも反響音が鳴り響くから耳が潰れそうだ)。

ガ˞マナキ [ga˞manaki] 【名】悲しみにくれて泣くこと。大声で泣き喚くこと。ッ˞ふァバ˥　シ˞ナシティ˥　ガ˞マナキ　シーベー˥ムヌ　˥ミルカー　キ˞ムイツァー˥ヌ　˥ミリ　˞ベーララ˥ヌ [f˞faba˥ ʃi˞naʃiti˥ ga˞manaki ʃi:be:˥ munu ˥miruka: ki˞muitsa:˥nu ˥miri ˞be:rara˥nu](子供を失って＜死なせて＞悲嘆に暮れて大声で泣いている姿＜の＞を見ると気の毒で＜可哀相で＞見ておれない)。

カ˞マ˥ヌ　˥ティダイ [ka˞ma˥nu ˥tidai] 【連】先方のおごり。「あそこのおごり＜饗応＞だ」の義。˞キュー˥ヤ　カ˞マ˥ヌ　˥ティダイ　ヤ˞ルンダ˥　バ˞タ˥ミツンケン　˥ヌミバ [˞kju:˥ja ka˞ma˥nu ˥tidai ja ˞runda˥ ba˞ta˥mitsuŋken ˥numiba](今日は先方のおごりだから、満腹するまで飲めよ)。

カ˞マ˥ヌ　パ˞タ [ka˞ma˥nu pḁ˞ta] 【連】あちら側。˥アイブー　˥ムノー　カ˞マ˥ヌ　パ˞タ˥ナ　シ˞キ˥リク˞マー˥　トゥ˞グ˥ナ [˥ʔaibu: ˥muno: ka˞ma˥nu pḁ˞ta˥na ʃi̥˞ki˥ri ku˞ma:˥ tu˞gu˥na](あんな物はあちら側に置きなさい。此処へは持ってくるな)。

ガ˞マヌ˥　ミー [ga˞manu˥ mi:] 【連】洞窟の中。ガ˞マヌ˥　ミーナ　プ˞スヌ˥　プ˞ニ˥ヌ　˞アッ˥タン [ga˞manu˥ mi:na pu̥˞sunu˥ pu˞ni˥nu ˞ʔat˥taŋ](洞窟の中に人の骨があった)。

カ˞マブク [ka˞mabuku] 【名】蒲鉾。魚肉を臼で搗き、それに˞パイ˥ザイ [˞pai˥ʤai](繋ぎの配剤。でんぷん)に˥クジ [˥kuʤi](葛粉。澱粉)か、ミ˞リキン˥グ [mi˞rikiŋ˥gu](メリケン粉)を加えて搗き、成形し煮て仕上げる。イ˞ラブ˥チン　シ˞ヌマー˥ルン　ピ˞サー˥　ン˞コー˥シティ　˥プネー　˥トゥリティ　˥ウシナー　˞シッ˥キティ　カ˞マブク˥　ス˞ク˥リバ [ʔi˞rabu˥ʧiŋ ʃi˞numa:˥rum pi̥˞sa:˥ ʔŋ˞ko:˥ʃi̥ti ˥ʔuʃina: ˞ʃik˥kiti ka˞mabuku˥ su̥˞ku˥riba](スジブダイやテングハギも三枚下ろしにして骨を除去して、臼で搗いて蒲鉾を作れよ)。マ˞ルカマブク [ma˞rukam-abuku](円蒲鉾。祝儀用、法事用)、ア˞ガカマブク [ʔa˞gakamabuku](赤蒲鉾。祝儀用の丸い蒲鉾)。ッ˞スカマ˥ブク [s˞sukama˥buku](白蒲鉾。法事用の蒲鉾)。˥イツァカマブク [˥ʔitsakamabuku](板蒲鉾。蒲鉾の枠板に練り捏ねた魚肉を詰めて作った祝儀用、法事用の薄い蒲鉾)などがある。蒲鉾の枠板を、カ˞マブクヌ˥シー [ka˞mabukunu˥ʃi:](蒲鉾の鞘。型枠)という。これで造った蒲鉾は、ピ˞サカマブク [pi̥˞sakamabuku](平蒲鉾)ともいう。

カ˞マブクシッキ˥ウシ [ka˞mabukuʃikki˥ʔuʃi] 【名】蒲鉾搗き臼。松の幹を切って作った。直径約20センチ、高さ約50センチの臼。魚肉を入れて杵で搗き、澱粉の˞パイ˥ザイ [˞pai˥ʤai](いもの澱粉やメリケン粉)をいれ、搗き捏ねて蒲鉾を作るのに用いる臼。カ˞マブクシッキ˥ウシナー　イ˞ズヌ˥　ピ˞サー˥　ン˞コー˥シ　イ˞リティ˥　カ˞マブク　シッ˥キバ [ka˞mabukuʃikki˥ʔuʃina: ʔi˞ʤunu˥ pi̥˞sa:˥ ʔŋ˞ko:˥ʃi ʔi˞riti˥ ka˞mabuku ʃik˥kiba](蒲鉾搗き臼に、魚の肉を三枚下ろしにして入れて、蒲鉾を搗けよ)。

カ˞マブクヌ˥　シー [ka˞mabukunu˥ ʃi:] 【連】蒲鉾の型枠。「蒲鉾の鞘」の義。ピ˞サカマブク [pi̥˞sakamabuku](平蒲鉾)を造るのに用いる木製の型枠。長さ約15センチ、厚さ約1、5センチ、幅約7センチの枠。ピ˞サカマブコー˥　カ˞マブクヌ˥　シーシ　カ˞ター˥　トゥリティ　ス˞ク˥ローッタ [pi̥˞sakamabuko:˥ ka˞mabukunu˥ ʃi:ʃi kḁ˞ta:˥ turiti su̥˞ku˥ro:tta](平蒲鉾は蒲鉾の型枠＜鞘＞で型をとって作られた)。

カ˞マ˥リン [ka˞ma˥riŋ] 【他動】噛むことが出来る。食べることが出来る。食える。˥カムン [˥kamuŋ](噛む・食う)の未然形に受身・可能の助動詞˥-リン [˥-riŋ](～れる)が下接して形成された受身・可能動詞。ガ˞シタク˥ヌ　˞ティー˥ヤ　カ˞マ˥リン [ga˞ʃitaku˥

nu ˩ti:˥ja ka˩ma˥riŋ](燻製の蛸の手は噛める)(可能)。˩パー˥ク　ッ˩ふァーン˥カー　プ˩スン˥　カ˩マ˥リン˩ダー [˩pa:˥ku f˩fa:ŋ˥ka: pu̥˩suŋ˥ ka˩ma˥rin˩da:](早く食べないと他人に食べられるよ)(受身)。

カ˩マ˥レー [ka˩ma˥re:] 【名】人名。男の名。ウ˩キ˥ナーラ　˩オー˥レー　プ˩スヌ˥　ッ˩ふァ˥ナー　カ˩マ˥レーティ　˩スー˥　プ˩スヌ　オーッ˥タン [ʔu˩ki˥na:ra ˩ʔo:˥re: pu̥˩sunu˥ f˩fa˥na: ka˩ma˥re:ti ˩su:˥ pu̥˩sunu ʔo:t˥taŋ](沖縄から来られた人の子供にカマレーという名の人がおられた)。

カ˩マ˥レザー [ka˩ma˥redʑa:] 【名】人名。˩カマレ兄さん」の義。カ˩マ˥レザー　˩マー　オーッ˥ター [ka˩ma˥redʑa: ˩ma: ʔo:t˥ta:](カマレ兄さんは何処へ行かれたのか)。

˥カマンタ [˥kamanta] 【名】(動) 魚の名。和名、イトマキエイ科の軟骨魚の総称。マンタエイ。アカエイ。大きいのは約 3 メートルに達する。ユ˩ノーラミズ [ju˩no:ramidʑu](小浜島と西表島の間の水道。潮の流れが速い難所である) や鳩間島と西表島の間の鳩間水道に大型のアカエイが現れる。鳩間島のリーフの内には体長 70〜80 センチのカマンタが捕獲された。尾は細長く、ムチ状で毒針をもつので恐れられていた。˥カマンター　˩ズー˥ナー　˥ドゥクンギヌ　アリ˩ベー˥ティ　˩ズーヤ˥　キシ　ウ˩タシ˥ソーッタ [˥kamanta: ˩dʑu:˥na ˥duku ʔŋginu ʔari ˩be:˥ti ˩dʑu:ja˥ ki̥ʃi ʔu˩taʃi˥so:tta](アカエイは尾に毒針 < 毒のぎ > があるので尾はすぐ切り落とされた)。首里方言の kamaNta(大鍋の蓋) に似ることから命名されたという。˥マンタヌ　˩トゥー˥ナー　˥ユー　˥カマンタヌ　ミ˩ラ˥リン [˥mantanu ˩tu:˥na: ˥ju: ˥kamantanu mi˩ra˥riŋ](前の渡(ト)< 深い海峡 > にはよくカマンタ < アカエイ > が見られる)。

˥カマンタ [˥kamanta] 【代】あちら。あそこら。向こう側。あちら側。˥カマンタナー　ビ˩リベー˥リ [˥kamantana: bi˩ribe:˥ri](あそこら側に座っておれ)。˩マー˥ビン　˥カマンター　˥ナリ [˩ma:˥biŋ ˥kamanta: ˥nari](もっとあちら側になれ)。

˥カマンター [˥kamanta:] 【連】あちら側へ。バ˩カー˥ムンケーヤ　˥カマンター　˥ナリ　ビ˩リ˥バ [ba˩ka: ˥muŋke:ja ˥kamanta: ˥nari bi˩ri˥ba](若者たちはあちら側へいって座りなさいよ)。˩ワー˥　カマンター　˥パリ [˩wa:˥ kamanta: ˥pari](君はあちら側へ行きなさい < 行け >)。

˥カミ [˥kami] 【名】神。神様。˥カン [˥kaŋ](神) ともいう。˩ティンヌ˥　カメー (カンマー)　˩ウイヌウガン˥ヌ　ク˩バヌ˥　キーラル　ウ˩ロー˥ルツォー [˩tinnu˥ kame: (˩kam˥ma:)˩ʔuinuʔugan˥nu ku˩banu˥ ki:raru ʔu˩ro:˥rutso:](天の神様は友利御嶽のクバ < 蒲葵 > の木から < 木を伝わって > 天下りなさるそうだ)。

˥カミ [˥kami] 【名】かめ (甕)。ミ˩ジカミ [mi˩dʑikami](水甕)。˩ミース˥カミ [˩mi:su˥kami](味噌甕)。シ˩タ˥ディカミ [ʃi˩ta˥dikami](醤油甕)。ア˩バ˥カミ [ʔa˩ba˥kami](油甕)。サ˩キカミ [sḁ˩kikami](酒甕)。˩マー˥スカミ [˩ma:˥sukami](塩甕)。˥クチカミ [˥ku̥tʃikami](骨甕。骨壷)。ビ˩ソーミ [bi˩so:mi](据付てある水甕)。ミ˩ジ˥　カ˩タ˥ミ　˥キー　ミ˩ジカミ˥　ミ˩ツァ˥シ [mi˩dʑi˥ kḁ˩ta˥mi ˥ki: mi˩dʑikami˥ mi˩tsa˥ʃi](水を < 水桶で > 担いで運んできて水甕を満たせ)。

カ˩ミ [ka˩mi] 【名】 (動)、カメ (亀)。海亀。カ˩ミヌ˥　クー [ka˩minu˥ ku:](亀の甲羅)。カ˩ミヌ　コー˥マ [ka˩minu ko:˥ma](亀の卵)。パ˩トゥマ˥ヌ　˩アンタヌ˥　パ˩マ˥ナー　カ˩ミヌ˥　ユー　˩コー˥マ　ナ˩ス˥タン [pḁ˩tuma˥nu ˩ʔantanu˥ pa˩ma˥na: ka˩minu˥ ju: ˩ko:˥ma na˩su˥taŋ](鳩間の東の浜には亀がよく卵を産んだよ)。

カ˩ミアキ˥ナイ [ka˩miʔaki˥nai] 【名】商品を頭に載せて行商すること。石垣の糸満女性は頭上に塩や魚などを載せて売りあるいた。イ˩サンケー˥ナー　カ˩ミアキ˥ナイ　˩ソー˥ル　プ˩スン　オーッ˥タン [ʔi˩saŋke:˥na: ka˩miaki˥nai ˩so:˥ru pu̥˩suŋ ʔo:t˥taŋ](石垣には頭上に商品を載せて行商される人もおられた)。

カミガ˩ナ˥シ [kamiga˩na˥ʃi] 【名】神様。歌謡語。日常語では、カンガ˩ナ˥シ [kaŋga˩na˥ʃi](神様) ともいう。/ウブトゥムル　カミガナシ　アミブシャヌ/、/ガラクトートゥ　カミガナシ　アミブシャヌ/雨降願歌 (雨乞歌)『鳩間島古典民謡古謡集』。

カ˩ミクル˥スン [ka˩mikuru˥suŋ] 【他動】噛み殺す。食い殺す。カ˩マイ˥ヤー　パ˩ブン˥　カ˩ミクル˥スンティ˩ダー [ka˩mai˥ja: pa˩buŋ˥ ka˩mikuru˥sunti˩da:](猪はハブをも噛み殺すそうだよ)。

カ˩ミ˥ザー [ka˩mi˥dʑa:] 【名】上座。˥シザウヤンケーヌ　˩オー˥ル　カ˩ミ˥ザーナー　˩ゴーサ˥ヌ　ビ˩リベーララ˥ヌ [˥ʃidʑaʔujaŋke:nu ˩ʔo:˥ru ka˩mi˥dʑa:na: ˩go:sa˥nu bi˩ribe:rara˥nu](親や長老の方々、ご年配の方々がいらっしゃる上座には、恐れ多くて座っておられません)。

カ˩ミシミ˥ルン [ka˩miʃimi˥ruŋ] 【他動】酒などを頂かせる。神酒などを額の位置まで持ち上げて頂くよ

うにさせる。長寿を肖るための献杯をさせる際、また、神前に供えた˜グシ [˜gusi](神酒。御酒) を恭しく持ち上げて頂かせる際にいう。˞ワンヌン˜　グシ　カ˞ミシミ˜ルン [˞wannuŋ˜ guʃi ka˞miʃimi˜ruŋ](君にも神酒を頂戴させる < 頂かせる >)。˜グシ　カ˞ミシ˜モーリ [˜guʃi ka˞miʃi˜mo:ri](神酒を頂戴させてください)。

カ˞ミ˜シム [ka˞mi˜ʃimu] 【名】上下。職務の上下。立場の上下。身分の上下。マー˞ン˜ナーン　カ˞ミ˜シムティ　˞スームノー˜　ア˞リバ˜ル　プ˞ソー　ウーカサ˜リ [ma:˞n˜na:ŋ ka˞mi˜ʃimuti ˞su:muno:˜ ʔa˞riba˜ru pu̥˞so: ʔu:kasa˜ri](何処でも上下というのがあってこそ (あればこそ < あればぞ >) 人は動かすことができるものだ)。

カ˞ミニン˜ガイ [ka˞miniŋ˜gai] 【名】神への祈願。「神願い」の義。パ˞トゥマ˜ヌ　カ˞ミニンガイ˜ヤー　シ˞キング˜トゥ　ア˞リ˜オーッタ [pḁ˞tuma˜nu ka˞miniŋgai˜ja: ʃi̥˞kiŋgu˜tu ʔa˞ri˜ʔo:tta](鳩間の神願い < 神事 > は毎月 < 月毎に > ございました < 有り御座した >)。

カ˞ミニン˜トゥー [ka˞minin˜tu:] 【名】神様への年頭の挨拶。「神年頭」の義。旧暦の元旦の朝、サ˞カサ (司) やティ˞ジリ˜ビー (男性神職者。「手摩り部」の義か) たちが正装をして御嶽の神様に対して行う年始の挨拶。新年の報告、新年度中の村人の健康と村の繁栄とを祈願する。新暦の正月には、カ˞ミニン˜トゥーは行わない。新暦の正月に統一された後も、神職者の家では旧正月を行った。˞キューヌ˜　ソンガチナール　カ˞ミニン˜トー　˞ソーッタ˜ル [˞kju:nu˜ soŋgatʃina:ru ka˞minin˜to: ˞so:tta˜ru](旧暦の正月に < ぞ > 神様への年頭の挨拶はなさったものだ)。

カ˞ミヌ˜　クー [ka˞minu˜ ku:] 【連】亀の甲。亀の甲羅。カ˞ミヌ˜クーヨーチ [ka˞minu˜ku:jo:tʃi](亀の甲羅で作った簪。鼈甲(ベッコウ)製の簪(カンザシ))。カ˞ミヌ˜クーパカ [ka˞minu˜ku:paka](亀甲墓)。カ˞ミヌ˜クーシ　˞ヨー˜チン　˜フチン　ス˞ク˜ローッタ [ka˞minu˜ku:ʃi ˞jo:˜tʃiŋ ˜ɸu̥tʃin su̥˞ku˜ro:tta](鼈甲(ベッコウ)で簪(カンザシ)も櫛(クシ)も作られた)。

カ˞ミヌ˜クーウジ [ka˞minu˜ku:ʔudʑi] 【名】(動) 魚の名。和名、ウツボの仲間。ニセゴイシ (体長約 1 メートル。体表は茶褐色の亀甲模様におおわれている)。浅い珊瑚礁の中に棲息する。ウツボの仲間で最も凶暴といわれている。カ˞ミヌ˜クーウジェー　ユ˞クン˜ユン　マ˞ギティ　ピン˜ギ　パ˞リ˜ス [ka˞minu˜ku:˜ʔudʑe: ju˞kuŋ˜jum ma˞giti piŋ˜gi pa˞ri˜su](ニセゴイシウツボは銛(モリ)をもへし曲げて逃げていくものだ)。

カ˞ミヌ˜クーパカ [ka˞minu˜ku:pḁka] 【名】亀甲墓。屋根が亀の甲の形をした沖縄の伝統的な墓。ナ˞カン˜ブレ [na˞kam˜bure](中岡) の西側の岡に発達した砂岩の南面に亀甲墓が作られている。明治以降、沖縄からの寄留民の手によって掘られたという。ア˞ラ˜カーウガンヌ　˞インタナー˜ル　カ˞ミヌ˜クーパカー　˞ゴー˜ラー [ʔa˞ra˜ka:ʔugannu ˞ʔintana:˜ru ka˞minu˜ku:pḁka: ˞go:˜ra:](新川御嶽の西側に亀甲墓は多い)。

カ˞ミ˜ヌ　シ˞ビバー˜キン　˞ピー˜チ [ka˞mi˜nu ʃi˞biba:˜kim ˞pi:˜tʃi] 【成】瓶の底までも一つ (諺)。仲の良い夫婦は死後にも一つの骨壷に納まるの意。トゥ˞ジブトー˜　カ˞ミ˜ヌ　シ˞ビバー˜キン　˞ピー˜チティ　ウ˞モーン˜カー　ナ˞ラン˜ダー [tu˞dʑibuto:˜ ka˞mi˜nu ʃi˞biba:˜kim ˞pi:˜tʃiti ʔu˞mo:ŋ˜ka: na˞ran˜da:](夫婦は骨壷の中まで一つと思わないといけないよ)。

カ˞ミヌズー [ka˞minudʑu:] 【名】子供の後頭部の盆の窪にうぶがみ (産髪) を剃り残してある髪の毛。「亀の尾」の義。子供のお守りとして、大切にされていた。˞ウッソン˜ヌ　カ˞ミヌズーヤ˜　ス˞ラン　ブリ˜バ [˞ʔusson˜nu ka˞minudʑu:ja˜ su˞ram buri˜ba](盆の窪に剃り残した亀の尾の産髪は剃るなよ < 剃らないでおれよ >)。˜ヌンティル　ヤ˞ラビ˜ヌ　カ˞ミヌズーヤ˜　ス˞ラン˜シェンカヤー [˜nuntiru ja˞rabi˜nu ka˞minudʑu:ja˜ su˞raŋ˜ʃeŋkaja:](どうして < 何とてぞ > 子供の産髪は剃らなかったのかねえ)。

カ˞ミヌ˜　ナ˞ダ˜ヌ　˜カタチニ [ka˞minu˜ na˞da˜nu ˜kḁtatini] 【連】亀が大粒の涙を流すように。非常に悲しいことの比喩表現。カ˞ミヌ˜　ナ˞ダ˜ヌ　˜カタチニ　ウ˞ブ˜ナダ　ウ˞タ˜シ　ナ˞キベー˜ワ　キ˞ムイ˜ツァー [ka˞minu˜ na˞da˜nu ˜kḁtatʃini ʔu˞bu˜nada ʔu˞ta˜ʃi na˞kibe:˜wa ki˞mui˜tsa:](亀の涙のように大粒の涙を流して泣いているのは、なんとも可哀相だ)。

カ˞ミ˜ヌ　バ˞リ [ka˞mi˜nu ba˞ri] 【連】甕の欠片(カケラ)。シ˞マッサル˜ヌ　˜ピンマー　カ˞ミ˜ヌ　バ˞リバ　シッ˜ケーティル　˜イソーパーレー　シ˞タ˜ダー [ʃi˞massaru˜nu ˜pimma: ka˞mi˜nu ba˞riba ʃik˜ke:tiru ˜ʔiso:pa:re: ʃi̥˞ta˜da:](シ˞マッサ˜ル < 島クサラシ祭 > の時は甕の欠片を打ち鳴らしながらイソーパーレーをしたものだよ)。

カ˞ミ˞ヌ　˞ミン [ka˞mi˞nu ˞miŋ] 【連】瓶の耳。「無用の長物」の意。瓶の耳は単に装飾用として付いているのみで、実用に供されないことからの比喩表現。カ˞ミ˞ヌ　˞ミン˞マー　カ˞ザリユーティル˞　シ˞キラ˞リ　˞ブー˞　ノー˞ン˞　シゥ˞カイミチェーナー˞ヌ [ka˞mi˞nu ˞mim˞ma: ka˞ʤariju:tiru˞ ʃi̥˞kira˞ri ˞bu:˞ no:˞n˞ si̥˞kaimitʃe: na:˞nu](瓶の耳は飾り用として付いている。なんにも利用価値＜使い道＞はない)。

カ˞ミ˞ブシ [ka˞mi˞buʃi] 【名】鰹節の一つ。小判のカツオを三枚に下ろして、上身と下身を四つ割りにしないままで、一節の鰹節に製造したもの。上等の鰹節より一ランク下のカツオ節。カ˞ミブ˞シェー　˞ダイヤー　ヤッサ˞ンダ　˞モーカラ˞ヌ [ka˞mibu ˞ʃe: ˞daija: jassa˞nda ˞mo:kara˞nu](亀節は値段が安いから儲からない)。

カ˞ミラリ˞ヤン [ka˞mirari˞jaŋ] 【名】差し込むように痛む胃の病。カ˞ミラリヤン˞ヌ　ウ˞クリ˞ルカー　ニ˞ジララン˞スコー　ヤムン˞ダー [ka˞mirarijan ˞nu ʔu˞kuri˞ruka: ni˞ʤiraran˞su̥ko: jamun˞da:](差し込むように痛む胃の病が起きると我慢できないほどにいたむよ)。

カ˞ミ˞ルン [ka˞mi˞ruŋ] 【他動】1頭に載せる。˞バー˞キナ　˞ウン˞バ　イ˞リ˞　ス˞ブ˞ルナ　˞カミティ　˞クータ˞ル [˞ba:˞kina ˞ʔum˞ba ʔi˞ri˞ su˞bu˞runa ˞kamiti ˞ku:ta˞ru](竹製の笊に芋を入れ、頭に載せて来たものだよ)。ク˞レー˞　バー　カ˞ミ˞ルン [ku˞re:˞ ba: ka˞mi˞ruŋ](これは私が頭に載せる)。˞グッふァ˞ヌ　˞バン˞マー　カ˞ミララ˞ヌ [˞guffa˞nu ˞bam˞ma: ka ˞mirara˞nu](重くて私には頭に載せられない)。ク˞レー˞　カ˞ミ˞ルクトー　ナ˞ラ˞ヌ [ku˞re:˞ ka˞mi˞ru ˞ku̥to: na˞ra˞nu](これは頭に載せることは出来ない)。ス˞ブ˞ルナー　カ˞ミ˞レー　˞ミサムヌ [su˞bu˞runa: ka˞mi˞re: ˞misamaunu](頭に載せればよいのに)。2おし頂く。頂戴する。˞グシェー　オッ˞ティ˞　カ˞ミ˞リバ [˞guʃe: ʔot˞ti˞ ka˞mi˞riba](神酒は神妙にかしこまって頭の上まで押し上げて頂戴しなさいよ)。

カ˞ミ˞ルン [ka˞mi˞ruŋ] 【自動】錐を差し込むように痛む。バ˞タヌ˞ドゥ　カ˞ミラ˞リ　ヤム˞ツォー [ba ˞tanu˞du ka˞mira˞ri jamu˞tso:](腹が差し込むように痛むんですよ)。˞ヤー˞サ　˞ピンマー　˞バター　カ˞ミ˞ル　˞ヤムンダ　ニ˞ジララ˞ヌ [˞ja:˞sa ˞pimma: ˞bata: ka˞mi˞ru ˞jamunda ni˞ʤirara˞nu](空腹の時はお腹は差し込むように痛むので我慢できない)。マ˞ナ˞マー　カ˞ミラ˞ヌ [ma˞na˞ma: ka˞mira˞nu](今は差し込むように痛まない)。バ˞タ˞ヌ　カ˞ミ˞ルン [ba˞ta˞nu ka˞mi˞ruŋ](お腹が差し込むように痛む)。カ˞ミラリヤン˞ヌ　˞スー˞カー　ム˞チ˞カサンティ˞ダー [ka˞mirarijan˞nu ˞su:˞ka: mu˞ʧi˞kasanti˞da:](差し込まれるような傷みがすると、病気は重い＜難しい＞そうだよ)。

カ˞ムーン [ka˞mu:ŋ] 【自動】かまう。関わる。面倒をみる。関与する。「構ひ」の転訛したもの。ウ˞リヌ˞　クトー　カ˞モーン˞タンティン　˞ミサン　˞ドゥー˞ヌ　˞クトゥ　˞タン˞ガ　˞シー [ʔu˞rinu˞ ku̥to: ka˞mo:n˞tantim ˞misan ˞du:˞nu ˞ku̥tu ˞taŋ˞ga ˞ʃi:](その人のことは構わなくてもよい。自分のことだけせよ)。カ˞ムイ　ッふィーリ [ka˞mui ffi:ri](かまってくれ。面倒みてくれ)。カ˞ムー˞　クトー　ナ˞ラ˞ヌ [ka˞mu:˞ ku̥to: na˞ra˞nu](かまうことは出来ない)。カ˞ムーンティ˞　ア˞ズタンティン˞　シ˞キ˞ニン　ム˞ティユーサ˞ヌ [ka˞mu:nti˞ ʔa˞ʤutantiŋ ʃi̥˞ki ˞nim mu˞tiju:sa˞nu](面倒を見ると言っても責任は持つことが出来ない)。ン˞ベーマー˞　カ˞ムイヤー˞　ミサムヌ [ʔm˞be:ma:˞ ka˞muija:˞ misamunu](少しは面倒をみてくれれば＜構えば＞よいのに)。˞ドゥーシ　カ˞ムイ˞バ [˞du:ʃi ka˞mui˞ba](自分で面倒をみれよ)。

カ˞ムイ [ka˞mui] 【名】鴨居。敷居の上部に渡した、溝をつけた横木。襖、障子などを立てるために敷居の上に渡した溝のある横木。「高欄鴨居(カモイ)」『延喜式』の転訛したもの。カ˞ムイ˞ナー　˞ソージ　フッカー˞リティ　ア˞キララヌ [ka˞mui˞na: ˞so:ʤi ɸukka:˞ riti ʔa˞kiraranu](鴨居に障子が挟まって開けられない)。

カ˞ムイ [ka˞mui] 【名】係。担当。「構ひ」の義。「さきざきまでかまふといふ事〜」『仮名草子・清水物語』の転訛したものか。ク˞ヌ˞　シ˞グトー˞　バー　カ˞ムイヤー˞　ア˞ラ˞ヌ　˞ワー　カムイルヤル [ku ˞nu˞ ʃi˞guto:˞ ba: ka˞muija:˞ ʔa˞ra˞nu ˞wa: kamuiru jaru](この仕事は私の担当ではない。君の担当だ)。˞ナー˞　カ˞ムイカムイヌ˞　シ˞グトゥル　スー˞　プ˞スヌ˞　シ˞グトー˞　ス˞ナ [˞na:˞ ka˞muikamuinu˞ ʃi ˞guturu su:˞ pu̥˞sunu˞ ʃi˞guto:˞ su˞na](各自の担当＜分担＞の仕事をするのであって、他人の仕事はするな)。

カ˞ムラー˞マ [ka˞mura:˞ma] 【名】豊年祭に豊穣予祝芸能の神の一団として出現する東村の芸能神。西村の弥勒神と対をなす。カムラー [kamura:] は、「かぶろ (禿)、カムロに転。童、ワラハ・カブロ『類聚

名義抄』」の義で、語源は「禿、无髪、加夫呂奈利」『新撰字鏡』と解され、「かむろき (神漏岐)、かむろみ (神漏美)」に繋がる言葉と解される。子孫繁栄を予祝する「おかっぱの童神」の意か。-マ [-ma] は接尾指小辞。カムラーマの一団は、翁神と童神七・八人で構成されてた芸能団である。翁には、代々東村の小浜家の人が扮する。頭に茶褐色の棕櫚の鬚で作った三角の帽子を被り < 後に黄色い布を被るようになった >、裸足のまま、クバ扇を右手に持ち、黄色い衣装を纏って、右足を上げると扇を左に払い、左足を上げると扇を右に払う仕草で前進してカ˞ムラーマ˥ヌ　ッ˞ふァ [ka˞mura:ma˥nu f˞fa](カムラーマの子供) をリードする。童神は黄色い袖無しの陣羽織を着、カムラーマの歌に合わせて両手を肩の上に乗せたり払い上げたりする所作を繰り返しつつ翁に導かれて反時計回りに円陣をつくる。翁が円陣の中央に立つ頃、カムラーマ歌は第二連まで歌い終わる。そこで翁神が「ヘイ」という掛け声を入れ、「ホーイ、ホーイ」と声をかけて童神たちを呼び集める。童神たちは翁神の足元へ転びまろび寄ってくる。それを翁神はクバの葉扇で撫でる。カムラーマのこのシーンが村人の爆笑を誘うのであった。続いて直ぐにカムラーマ歌が始まると童神たちは元の陣形に戻り、第三連、第四連の歌に合わせて楽屋へと引かれていく。桟敷の舞台には村人たちの歓え誇る哄笑が子孫繁盛予祝の余韻を残すのであった。/パトゥマユーヌ　ナウラバ　トゥムルユーヌミギラバ　カムラマーヌ　アマイヤ　ミリクユーバ　タボラリ/タルトゥユードゥ　ティユマス　ジリトゥユードゥ　ナトゥラス　カムラマーヌ　アマイヤ　ウヤキユーバ　タボラリ/マブルシュードゥ　ティユマス　ウヤガミドゥ　ナトゥラス　カムラマーヌ　アマイヤ　ミリクユーバ　タボラリ/カムラマーヌ　アマイヤ　ヌーフサティル　アマイル　カマウラマーヌ　アマイヤ　アカカラジフサティル　アマイル　カムラマーヌ　アマイヤ　ウヤキユーバ　タボラリ/(カムラーマヌ　ウタ)『鳩間島古典民謡古謡集』。

˥カムン [˥kamuŋ] 【他動】噛む。食べる。˥ムノー　˥カミティ < ッ˞ふァイティ >　˥パリバ [˥muno: ˥kamiti <f˞faiti> ˥pariba](ご飯を食べて < ものを食べて > から行けよ)。˞パー˥ヌ　˥ヤミティ　˥ムノー　カマラヌ [˞pa:˥nu ˥jamiti ˥muno: ka˞mara˥nu](歯が痛くてご飯は食べられない < 噛めない >)。˥クヌ　˞ブン˥シェー　カ˞ミユーサ˥ヌ [˥kunu ˞buŋ˥ʃe: ka˞miju:sa˥nu](このままでは噛み得ない)。˥バー　カ˞ムン˥ドゥ　˥フカナー　˥カム　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [˥ba: ka˞mun˥du ˥ɸu̥kana: ˥kamu pu̥˞so: ˥ bu˞ra:nu](私は噛むが、ほかに噛む人はいない)。˞マー˥ビン　˥カメー　˥ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ˥kame: ˥misamunu](もっと噛めばよいのに)。˞ワンヌン　パー˥ク　˥カミ [˞wannum pa:˥ku ˥kami](君も早く噛め)。

˥カムン [kamuŋ] 【他動】頂く。頂戴する。おし頂く。˞カンヌマイ˥ヌ　˥グシェー　オッ˞ティ˥　カミバ [˞kannumai˥nu ˥guʃe: ʔot˞ti˥ kamiba](神前に供えた神酒は恭しく頭の位置まで押し上げて頂戴しなさい)。

˥カムン [kamuŋ] 【自動】 ¹籾摺り臼の上下の歯がよく噛みあう。よく籾摺りが出来る。ウ˞シ˥ヌ　˞パー˥ヤ　イッ˞ケナ˥　カムン [ʔu˞ʃi˥nu ˞pa:˥ja ʔik˞kena˥ kamuŋ](籾摺り臼の歯がよく噛みあう。籾殻がよく摺り落とされる)。²酒などのもろみ (諸味、醪) がよく醗酵する。ム˞ルン˥マー　マ˞ダ˥　カ˞マ˥ヌ [mu˞rum˥ma: ma˞da˥ ka˞ma˥nu](諸味はまだ醗酵しない)。

˥カモーッピテー [˥kamo:ppite:] 【名】屋号。大城加茂氏宅。˞アッピー [˞ʔappi:](兄さん) は糸満方言。人名の˥カム [˥kamu](加茂) に˥アッピー [ʔappi:] が下接して生成された合成語˞カモーッピー [˞kamo:p-pi:](加茂兄さん) に、接尾辞˥テー [˥te:](〜の家) が付いたもの。三男の大城安一氏と四男の大城盛喜氏は沖縄県警察署に勤務した。˥カモーッピテーヌ　マ˞サエーヤ　バン˥ター　ユ˞ヌ˥シリ [˥kamo:ppite:nu ma˞saje:ja ban˥ta: ju˞nu˥ʃiri](大城加茂氏宅の政江は私達の同級生 < 同輩 > だ)。

カ˞ヤ [ka˞ja] 【名】腕。肘から肩の付け根あたり。二の腕。「〜木綿たすき可比奈尓 < カヒナニ > かけて〜。万、420」の転訛したもの。カ˞ヤ˥　ウ˞ク˥ルン [ka˞ja˥ ʔu˞ku˥ruŋ](腕から肩の付け根の痛みがおこる)。ウ˞ディ˥バ　˥ヤミ　ムリ˞ヒューバ˥< 腕が痛むほど子守してくれるから >　カ˞ヤバ˥ヤミ　ダ˞キヒューバ < かいなの痛むほど抱いて子守りしてくれるから >(アガロウザ節)『八重山民謡誌』。

˥カヤー [˥kaja:] 【終助】〜だろうか。〜かな。〜かしら。疑問の意を表す。語源的には、疑問の終助詞「か」に間投助詞の「ヤー」が融合して形成されたもの。¹活用語の終止形につく。例。˞キュー˥ヤ　˥パルンカヤー [˞kju:˥ja ˥paruŋkaja:](今日はいくかな)。ウ˞

レー　カイ˥ヤンカヤー [ʔuˈreː kai˥jaŋkajaː](それは美しいかな)。ˈバン˥ヌン　カˈカ˥リンカヤー [ˈban˥nuŋ kąˈka˥riŋkajaː](私にも書ける＜書かれる＞かなあ)。2活用語の連体形に付く。˥ヌンティル　ナˈク˥カヤー [˥nuntiru naˈku˥kajaː](どうして＜ぞ＞泣くのかな)。˥ヌンティル　˥アイニ　パˈヤー˥カヤー [˥nuntiru ˥ʔaini paˈjaː˥kajaː](どうしてそんなに早いのかな)。˥ヌンティル　ˈワンマー˥　ミˈラリ˥タカヤー [˥nuntiru ˈwammaː˥ miˈrari˥takajaː](どうして君には見えたのかな)。3体言、体言に準ずる形 (準体助詞) につく。˥カナー　ˈベー˥　モー　ˈター˥カヤー [˥kana: ˈbeː˥mo: ˈtaː˥kajaː](あそこに居るのは誰だろうか)。ˈアンター˥ラ　˥クー　˥ムノー　˥フニカヤー [ˈʔantaː˥ra ˥kuːmuno: ˥ɸunikajaː](東の方からくるのは船だろうか)。クˈリン˥　カクムーカヤー [kuˈriŋ˥ kakumuːkajaː](これも書くものだろうか)。4格助詞につく。˥キュー　˥ケー　プˈソー˥　ウˈキ˥ナーラカヤー [˥kjuː ˥keː pu̥ˈsoː˥ ʔuˈki˥naːrakajaː](今日来た人は沖縄からかな)。5副助詞につく。ヌˈカ˥レーモー　ˈミーチブカラ˥カヤー [nuˈka˥reːmoː ˈmiːtʃibukara˥kajaː](残っているのは三つぐらいだろうか)。6係助詞につく。˥カクムノー　クˈリン˥カヤー [˥kąku ˥munoː kuˈriŋ˥kajaː](書くのはこれもかな)。

˥ガヤー [˥gajaː] 【名】 (植) 茅。茅葺家の屋根を葺く材料、シˈラ [ʃiˈra](稲叢) のトゥˈマー [tuˈmaː](苫) を編む材料。ˈマーガヤー [ˈmaːgajaː](「真茅」の義か)。「萱、和名、加夜＜かや＞」『和名抄』の転訛したもの。マーガヤは 150 センチほどの長さがあり、ナˈビン˥フタ [naˈbiŋ˥ɸu̥ta](鍋蓋)、ˈフイ˥バ [ˈɸui˥ba](米や豆等の穀物入れ) などを編み上げる際の材料となる。˥ガヤー　˥スリキー　トゥˈルン˥ヤー　フˈカト ディー [˥gaja: ˥suriki: tuˈruŋ˥ja: ɸuˈkaɻdiː](茅を刈ってきて鶏舎を葺こうよ)。

˥ガヤー　ˈアイプス [˥gaja: ˈʔaipu̥su] 【連】茅葺屋根を葺く際に茅を屋根に投げ上げる人。˥ガヤー　ˈアイプソー˥　ガヤー　プˈスマラキ˥ナー　フˈルマーシ　ナン˥ギ　ˈアイオーッ˥タ [˥gaja: ˈʔaipu̥so:˥ gaja: pu̥ˈsumaraki˥na: ɸuˈrumaːʃi naŋ˥gi ˈʔaioːt˥ta](茅を屋根に上げる人は、茅を一丸ずつ振り回して投げ上げられた)。

ガˈヤー˥クビ [gaˈjaː˥kubi] 【名】茅で葺いた壁。「茅壁」の義。現在は板壁が多いが、昔は母屋の壁も茅で葺いた家が多かったという。「新室の壁草刈りにいまし給はね～『万葉集　2351』」はそれを忍ばせる。壁にする部分に桟を入れ、柱と柱を連結して竹やススキでユˈチル [juˈtʃiru](えつり) を編む。その上に、下から順に茅を並べてティˈブ˥ク [tiˈbu˥ku](木矛) で押さえ、締め縄で締め結わえて順に上へ葺き上げて行く。ˈトー˥ラーヤ　ˈゴー˥ラー　ガˈヤー˥クビ　サˈリブタ [ˈtoː˥raːja ˈgoː˥raː gaˈjaː˥kubi saˈributa](炊事小屋は、多くは茅壁にされていた)。

ガˈヤー˥シキ [gaˈjaː˥ʃi̥ki] 【名】茅野。茅が一面に広がっている野原。「茅敷」の義。クˈヌ˥　ガˈヤー˥シケーラ＜ガˈヤー˥ヌーラ＞　˥ガヤー　˥スリティ˥ヤー　フˈキ˥バ [kuˈnu˥ gaˈjaː˥ʃi̥keːra ˥gajaː ˥suriti˥jaː ɸu̥ˈki˥ba](この茅野から茅を刈って屋根を葺きなさい)。

ガˈヤー˥スリ [gaˈjaː˥suri] 【名】茅刈り。ˈガー˥スリ [ˈgaː˥suri](茅刈り) ともいう。ˈジュー˥ニン　˥ブカラシ　ガˈヤー˥スリ　ˈサン˥カー　ˈヤーフキ˥ガヤー　ˈオーサラヌ [ˈʤuː˥nim ˥bukaraʃi gaˈjaː˥suri ˈsaŋ˥ka: ˈjaːɸu̥ki˥gaja: ˈʔoːsaranu](十人ぐらいで茅刈りしないと、屋根葺き用の茅は準備＜対応＞できない)。

ガˈヤースリ˥プス [gaˈjaːsuri˥pu̥su] 【名】茅葺屋根を葺く際に頼む結い作業の茅刈り人。茅を刈る人。ガˈヤースリ˥プス　タˈナ˥ミティ　ˈヤーフキ˥ガヤースˈラ˥シ [gaˈjaːsuri˥pu̥su taˈna˥miti ˈjaːɸu̥ki˥gaja: suˈra˥ʃi](茅を刈る人を頼んで家葺き用の茅を刈らせなさい)。

˥ガヤー　˥スルン [˥gajaː ˥suruŋ] 【連】茅を刈る。「茅を剃る」の義。˥ガヤー　˥スリティ　マˈラキ˥　シケー [˥gaja: suriti maˈraki˥ ʃi̥keː](茅を刈って大きく束ねて＜丸げて＞ある)。

カˈヤースン [kaˈjaːsuŋ] 【他動】荷を運搬する。荷を担いで往復する。若年層は、カˈヨースン [kaˈjoːsuŋ] ともいう。「通わす」の義。ヤˈマー˥ラ　ˈザイ˥ギ　カˈタ˥ミ　カˈヤースンティ˥＜ウˈラ˥スンティ＞　ッˈス˥フキ　ˈベー [jaˈmaː˥ra ˈʤai˥gi kąˈta˥mi kaˈjaːsunti˥ ＜ʔuˈra˥sunti＞ sˈsu˥ɸu̥ki ˈbeː](山から材木を担いで往復＜運搬＞しようとして＜下ろそうとして＞、生糞が出る (脱糞する) ほど苦労している)。ギューˈムシン˥　カˈヤーサラヌ [gjuːˈmuʃiŋ˥kaˈjaːsaranu](何度も荷を担いで往復できない)。カˈヤーシ˥　ミサカー　カˈヤース˥　クトー　˥ナルン [kaˈjaːʃi˥ misakaː kaˈjaːsu˥ ku̥toː ˥naruŋ](荷を担いで通わして良ければ通わせることはできる)。カˈヤーシェー˥　ミサムヌ [kaˈjaːʃeː˥ misamunu](荷を

担いで通わせば良いのに)。˞タンガ˜シ　カ˞ヤーシ [˞taŋga˜ʃi ka˞jaːʃi](一人で荷を担いで往復しなさい)。

˜ガヤーティンゾー [˜gajaːtindʑoː] 【名】板張りにしてない天井。梁に竹竿の桟を掛け渡し、その上に蓆や茅で編んだこも (薦) 状の敷物を張った天井。˜ガヤーティンゾー　ヤ˞ルンダ˜　ニ˞ビベーン˜ケン　ミ˞ツム˜ヌ　˞ペーリ˜ス [˜gajaːtindʑoː ja˞runda˜ ni ˞bibeːŋ˜kem mi˞tsumu˜nu ˞peːri˜su](蓆張りの天井だから寝ているうちに目にゴミ＜塵＞が入るよ)。

ガ˞ヤー˜ヌー [ga˞jaː˜nuː] 【名】1茅の繁茂している原野。「茅野」の義。˞ガー˜ヌー [˞gaː˜nuː](茅野) ともいう。原野一般をさす。ガ˞ヤー˜ヌーラ　˜ガヤー　˜スリ　˜クーバ [ga˞jaː˜nuːra ˜gajaː ˜suri ˜kuːba](原野＜茅野＞から茅を刈ってきなさいよ)。2畑が放置され、雑草や茅が繁茂するようになった、荒れた状態の土地。ウ˞シクラシムノー˜　パ˞タキ˜ヌ　˜ッサーンツァン　˞ソーラムティ˜　ガ˞ヤー˜ヌー　˜ナシ　˜シケー [ʔu˞ʃikuraʃimunoː˜ pḁ˞taki˜nu ˜ssaːntsan ˞soːramuti˜ ga˞jaː˜nuː ˜naʃi ˜ʃi̥keː](怠け者めが、畑の草も取らずに＜除草もせず＞茅野にしてある＜畑を荒れさせて放置してある＞)。

˜ガヤーパジン [˜gajaːpadʑiŋ] 【名】 (動) 蜂の一種。˜ガーパジン [˜gaːpadʑiŋ](茅蜂)、˜アガパジン [˜ʔa-gapadʑiŋ](赤い蜂) ともいう。茅の中に巣を作る小さな蜂。˜ッふパジン [˜ffupadʑiŋ](黒蜂) より毒は弱い。茅を刈りに行って、よく刺されたものである。˜ガヤー　˜スルンティ　˞アー˜クンケン　˜ガヤーパジン　ッ˞サ˜リティ　ヤ˞ミ˜ス [˜gajaː ˜surunti ˞ʔaː˜kuŋkeŋ ˜gajaːpadʑin s˞sa˜riti ja˞mi˜su](茅を刈ろうとして茅蜂に刺されて傷むよ)。

ガ˞ヤーン˜　ミー [ga˞jaːm˜ miː] 【連】茅原の中。茅の密生した原野の中。˜ガザフケーヤ　ガ˞ヤーン˜ミーナール　˜シー　ス˞ク˜ル [˜gadʑaɸu̥keːja ga˞jaːm˜ miːnaːru ˜ʃiː su̥˞ku˜ru](雲雀は茅の密生した原野の中にが＜ぞ＞巣を作る)。

˜ガヤヤー [˜gajajaː] 【名】茅葺きの家。「茅家」の義。˞カー˜ラヤー [˞kaː˜rajaː](瓦葺きの家。瓦家) の対義語。˜ガヤヤーナール　マ˞リ˜　ス˞ダティラ˜レーンダヤー˞ディン　カー˜ラヤーバ　ス˞ク˜リ　˜ウヤン　˞オースンティル　ギーバルタ˜ダー [˜gajajaːnaːru ma˞ri˜ su˞datira˜reːnda ja˞diŋ kaː˜rajaːba su̥˞ku˜ri ˜ʔujaŋ ˞ʔoːsuntiru giːbaruta˜daː](茅葺の家に生まれ育てられたのだから、きっと瓦葺きの家を造って親に差し上げようと＜ぞ＞頑張ったのだよ)。

カ˞ユーン [ka˞juːŋ] 【自動】通う。行き来する。往来する。˞ウン˜ネヌ　˞ゾー˜ヌ　˞タウムン˜ケン　カ˞ユイル˜　トゥ˞ジ　クイ˜ヤー˞ダー [˞ʔun˜nenu ˞dʑoː ˜nu ˞taumuŋ˜keŋ ka˞juiru˜ tu˞dʑi kui˜jaː˞daː](その家の前の道が窪むほど歩き通って妻にして＜乞うて＞あるのだよ)。カ˞ヨーヌ [ka˞joːnu](通わない)。カ˞ユイ˜プサタンティン　˜クマー　カ˞ユー　プソー˜　ブ˞ラーヌ [ka˞jui˜pu̥satantiŋ ˜kuma: ka˞juː˜ pu̥ ˞soː˜ bu˞raːnu](通いたくてもここは通う人はいない)。˞バン˜ヌン　カ˞ユーン [˞ban˜nuŋ ka˞juːŋ](私も通う)。˞マー˜ビン　カ˞ユイヤー˜　ミサムヌ [˞maː ˜biŋ ka˞juijaː˜ misamunu](もっと通えばよいのに)。ア˞ツァー˜ラ　˞ワンヌン˜　カ˞ユイ˜バ [ʔa˞tsaː˜ra ˞wannuŋ˜ ka˞jui˜ba](明日からきみも通えよ)。/クラヌパマカラ　カユーピトゥヤ　ウラヌマイヌ　ピトゥグクル/(久浦の浜から通う人は、蔵元の前の人のようだ＜行き交うひとが多い＞) 鳩間中岡。『鳩間島古典民謡古謡集』。

カ˞ヨーリン [ka˞joːriŋ] 【自動】通われる。通うことが出来る。通える。カ˞ユーン [ka˞juːŋ](通う) の未然形に受身、可能の助動詞˞リン [˞riŋ](れる) が付いて派生した可能動詞。マ˞ナ˜マー　カ˞ヨーラヌ [ma ˞na˜maː ka˞joːranu](今は通われない)。˜エンブカラーラ　カ˞ヨーリン˜ギサン [˜jembukaraːra ka˞joːriŋ ˜gisaŋ](来年あたりからは通えそうだ)。カ˞ヨーリ˜　プ˞ソー　トゥー˜ヤタンティン　カ˞ユイ˜バ [ka ˞joːri˜ pu̥˞soː tuː˜jatantiŋ ka˞jui˜ba](通える人は遠くても通えよ)。˞ワーヤ　マー˜ビン　カ˞ヨーレー˜　ミサムヌ [˞waːja maː˜biŋ ka˞joːreː˜ misamunu](君はもっと通えたらよいのに)。

˜カヨーン [˜kajoːŋ] 【名】 (植) キールンヤマノイモ。葉の間に、ウン˞ナー˜マ [ʔun˞naː˜ma](ぬかご＜零余子＞) がある。ぬかごは、ご飯やおかゆに混ぜて炊いた。˜カヨーンマー　ス˞ク˜ル　プ˞ソー　ナン˜ゾー　ブ˞ラーンセン˜　ナー˞イ˜　ヤ˞マ˜ナール　˜ムイ　ブ˞タ˜ダー [˜kajoːmmaː ˞nan˜dʑoː su̥˞ku˜ru pu̥˞soː˜ bu˞raːŋʃen˜ naː˞i˜ ja˞ma˜naːru ˜mui bu˞ta˜daː](ぬかご＜零余子＞は植える＜作る＞人はあまりいなかった。ただ林や森、山の中に生えていただけだよ)。

カ˞ラ [ka˞ra] 【名】から (空)。からっぽ。何もないこと。˞ンーナガラ [˞ʔnːnagara](空っぽ) ともいう。カ˞ミ˜ヌ　ミ˞ジェー˜　シゥ˞カイキシ˜　カメー　カ˞ラ˜　ナリ˞ナーン˜バ　ミ˞ジ˜　カ˞タ˜ミ　˜カミ　ミ˞ツァ˜シ [ka˞mi˜nu mi˞dʑeː˜ si̥˞kaiki̥ʃi˜ kameː ka˞ra˜ nari

˞na:m˜ba mi˞ʤi˜ kḁ˞ta˜mi ˜kami mi˞tsa˜ʃi](瓶の水は使い切ってしまって、瓶は空になってしまったので、水を担いで瓶を満たせ)。˜フネー　カ˞ラ˜ニー　˞シー˜　ケーバン [˜ɸune: ka˞ra˜ni: ˞ʃi:˜ ke:baŋ](舟は不漁＜空荷＞で帰港してきているよ)。カ˞ラバタ˜ナー　サ˞キ˜　ヌム　˜ムノー　ア˞ラ˜ヌ [ka˞rabata ˜na: sḁ˞ki˜ numu ˜muno: ʔa˞ra˜nu](空腹＜腹に何も入れないで＞に酒を飲むものではない)。茶請け、茶菓子、点心などを伴わないお茶のこと。カ˞ラサーンツァン˜　ヌミティ　˜パリバ [ka˞rasa:ntsan˜ numiti ˜pariba](空茶＜茶請けや菓子類を伴わないお茶＞だけでも飲んでから行きなさいよ)。

カ˞ラ [ka˞ra] 【名】乳児の頭に鱗のように垢が重なってこびりついているもの。それを剥がすことはしないで、ぬるま湯で柔らかく洗っていた。˞シーッふァイッふァ˜ヌ　ス˞ブ˜ルナー　カ˞ラヌ˜　アン [˞ʃi:ffaiffa˜nu su˞bu˜runa: ka˞ranu˜ ʔaŋ](乳飲み子の頭にはカラがある)。

カ˞ラ [ka˞ra] 【名】体格。体力。ウ˞レー˜　カ˞ラヌ　ナーン˜ユンダ　ヤ˞マシグ˜トー　ナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞re:˜ ka ˞ranu na:ɲ˜junda ja˞maʃigu˜to: na˞ra˜nu](彼＜それ＞は体力がないから山仕事はできないよ)。カ˞ラバ˜　ミ˞リ˜ル　˜ムコー　トゥ˞ミ˜ル˞ダー [ka˞raba˜ mi ˞ri˜ru ˜muko: tu˞mi˜ru˞da:](体格や人柄をみて婿はさがすものだよ)。マ˞リトーラ˜　カ˞ラヌ　ヨー˜ンダ　ガ˞ク˜ムンシ　˞ミー˜　タ˞ティラン˜カー　ナ˞ラ˜ヌ [ma˞rito:ra˜ ka˞ranu jo:˜nda ga˞ku˜muŋʃi ˞mi: ˜ tḁ˞tiraŋ˜ka: na˞ra˜nu](生まれつき体格が弱いから、学問で立身出世しないと＜身を立てないと＞いけない)。

˜カラ [˜kara] 【助数】動物を数える単位。家畜類、家禽類、野獣、魚類、爬虫類、昆虫類、蝶類、虫類を数えるのに用いる。ウ˞シ˜　プ˞スッ˜カラ [ʔu˞ʃi˜ pu̥˞suk˜ kara](牛一匹＜頭＞)。フ˞タッカラ [ɸu̥˞takkara](二匹)。˜オー　˞ミッカラ [˜ʔo: ˞mikkara](豚三匹)、トゥ˞ル　ユッカラ [tu˞ru jukkara](鶏四羽)。˜パトゥザ　イ˞チッ˜カラ [˜pḁtuʤa ʔi˞ʧik˜kara](鳩五羽)。イ˞ズ　ムッカラ [ʔi˞ʤu mukkara](魚六尾)。˜タク　˞ヤッカラ [˜taku ˞jakkara](蛸八匹)。イ˞ラ˜ブ　ク˞ヌッ˜カラ [ʔi˞ra˜bu ku˞nuk˜kara](エラブうみへび九匹)。パ˞ジンヌ　トゥッカラ [pa˞ʤinnu tukkara](蜂が十匹)。ウ˞シ˜　プ˞スッ˜カラ　シゥ˞カ˜ナウン [ʔu˞ʃi˜ pu̥˞suk˜kara si̥˞ka˜nauŋ](牛を一匹＜頭＞飼育する＜養う＞)。

ガ˞ラ [ga˞ra] 【名】人柄。ク˞ヌ˜　プ˞ソー˜　ガ˞ラヌ　ワッ˜サンダ　ク˞ヌ˜　プ˞ストー˜　ピ˞ラウ˜ナ˞ヨー [ku˞nu˜ pu̥˞so:˜ ga˞ranu was˜sanda ku˞nu˜ pu̥˞suto:˜ pi˞rau˜na˞jo:](この人は人柄が悪いから、この人とは交際するなよ)。

ガ˞ラ [ga˞ra] 【名】柄。図柄。模様。デザイン。ク˞ヌ　キン˜ヌ　ガ˞ラー˜　ジ˞ミ [ku˞nu kin˜nu ga˞ra: ˜ ʤi˞mi](この着物の柄＜模様・デザイン＞は地味だ)。

ガ˞ラ [ga˞ra] 【名】抜け殻。あきがら。パ˞ブヌ˜　シ˞ディガラ˜ヌ　˜アン [pa˞bunu˜ ʃi˞digara˜nu ˜ʔaŋ](ハブの抜け殻＜脱皮した抜け殻＞がある)。ム˞ミガラー˜　パ˞タキ˜ヌ　˜コイ　˜ナシ [mu˞migara:˜ pḁ˞taki˜ nu ˜koi ˜naʃi](籾殻は畑の肥料になしなさい)。ナ˞ツァーラ˜ヌ　シ˞ジ˜ガラ [na˞tsa:ra˜nu ʃi˞ʤi˜gara](海人草の煎じ糟)。

カラー˞カラー˜シ [kara:˞kara:˜ʃi] 【副】辛く。非常に辛く。ABCABCD 型の重言。ナ˞マ˜シナー　カラー˞カラー˜シ　˞クース　ピッツァ˜シ　イ˞リバル˜　ン　˞マー˜ダー [na˞ma˜ʃina: kara:˞kara:˜ʃi ˞ku:su pittsa˜ʃi ʔi˞ribaru˜ ʔm˞ma:˜da:](刺身には非常に辛く唐辛子を潰して入れたほうが＜入ればぞ＞美味しいのだよ)。

カ˞ラーカラー˜シ [ka˞ra:kara:˜ʃi] 【副】軽々と。軽く。ABCABCD 型の重言。若年層は、カ˞ローカロー˜シ [ka˞ro:karo:˜ʃi](軽々と) という。バ˞カー˜ムノー　ル˞クトゥダー˜ラン　カ˞ラーカラー˜シル　カ˞タ˜ミ　˜パル [ba˞ka:˜muno: ru˞kutuda:˜raŋ ka˞ra:kara: ˜ʃiru kḁ˞ta˜mi ˜paru](若者は六斗俵も軽々と担いでいく)。

カ˞ラー˜ン [ka˞ra:˜ŋ] 【形】辛い。˞クース [˞ku:su](唐辛子) やワ˞サ˜ビ [wa˞sa˜bi](山葵) の辛さにいう。ナ˞マ˜シナ　˞クース˜　イ˞ルター˜　カ˞ラー˜ヌ　フ˞チ　パス˜クリ　˞ナー˜ヌ [na˞ma˜ʃina ˞ku:su˜ ʔi˞ruta:˜ ka ˞ra:˜nu ɸu̥˞ʧi pasu̥˜kuri ˞na:˜nu](刺身に唐辛子をいれたところ、辛くて口がはじけてしまった)。˞シンダイ˜　カ˞ラー˜ナルン [˞ʃindai˜ ka˞ra:˜ naruŋ](次第に辛くなる)。˞クーソー˜　イッ˞ケナ˜　カ˞ラー˜ン [˞ku:so:˜ ʔik˞kena˜ ka˞ra:˜ŋ](唐辛子は非常に辛い)。カ˞ラー˜ル　˞クーソーラ˜　イ˞ラ˜ビ　ムティ　˜クー [ka˞ra:˜ru ˞ku:so:ra˜ ʔi˞ra˜bi ˜muti ˜ku:](辛い唐辛子から選んで持ってこい)。˜アイニ　カ˞ラー˜カー　ッ˞ふァーラヌ [˜ʔaini ka˞ra:˜ka: f˞fa:ranu](あんなに辛かったら食べられない)。˞マー˜ビン　カ˞ラー˜レー　˜ミサムヌ [˞ma:˜biŋ ka˞ra:˜re: ˜misamunu](もっと辛ければいいのに)。˞クーソー˜　カ˞ラー˜ンティ

ウ˞ムータ˜ヌ　ク˞レー˜　カ˞ラー　ナー˜ヌ [˞kuːsoː ˜ ka˞raː˜nti ʔu˞muːta˜nu ku˞reː˜ ka˞raːnaː˜nu](唐辛子は辛いと思ったが、これは辛くない)。カ˞ラー˜　ムノー　ッ˞ふァーラヌ [ka˞raː˜ munoː fˢfaːranu](辛いものは食えない)。˜ドゥク　カ˞ラー˜カー　ッ˞ふァーンブリ˜バ [˜duku ka˞raː˜kaː fˢfaːmburi˜ba](あまりにも辛かったら食べるなよ)。

カ˞ライー [ka˞raʔiː] 【名】お汁や副食物の付かないご飯。カ˞ライー˜　カー˞ニ˜テー　ッ˞ふァーラヌ˜　バ˞タガラ˜スンツァン　ン˞ザ˜シバ [ka˞raʔiː˜ kaː˞ni ˜teː fˢfaːranu˜ ba˞tagara˜suntsaŋ ʔn˞ʤa˜ʃiba](副食物のないご飯だけでは食べられないよ。カツオの腸の塩漬けでも出せよ)。

カ˞ライキ [ka˞raiki] 【名】絶え絶えの息遣い。やっとで呼吸しているような息遣い。「空息」の転訛か。ヤ˞ミプス˜ヌ　カ˞ライキ　シェー˜ラー　˞ナームテー　サン˜ツォー [ja˞mipusu˜nu ka˞raʔiki ʃeː˜raː ˞naːmuteː san˜tsoː](病人が絶え絶えの息遣いをすると長持ちしないそうだ)。カ˞ライキ˜　カー˞ニ　シーベー˜ンダ　ナ˞ガムテー　サン˜パジ [ka˞raiki˜ kaː˞ni ʃiːbeː˜nda na˞gamuteː sam˜paʤi](絶え絶えの呼吸をだけしているから、長生きはしないはずだ)。

カ˞ラ˜イシ [ka˞ra˜ʔiʃi] 【名】かるいし (軽石)。海底火山から湧出した溶岩が急速冷却されて形成された岩石。鍋や釜などの錆落しに使用された。昭和の初期頃に鳩間島の東約 4 ㎞、高那の北約 4 ㎞の海底火山が噴火して大量の軽石が湧出し、鳩間水道は軽石で塞さがれて台北、石垣、那覇間の定期蒸気船が航行不能になったことがあったという。そのとき打ち上げられた軽石が今も西表北岸や鳩間島の海岸に残っている。˞パイタ˜ヌ　パ˞マヌ˜　ヤ˞マン˜ミーナー　マ˞ナマー˜キン　カ˞ライ˜シェー　アン˞ダー [˞paita˜nu pa˞manu˜ ja˞mam˜miːna: ma˞namaː ˜kiŋ ka˞raʔi˜ʃeː ʔan˞daː](西表島の浜の雑木林には今も軽石があるよ)。

カ˞ライ˜ルン [ka˞rai˜ruŋ] 【他動】 1からげる (絡げる)。まくり上げる。˜ガザン　˞ペーラサン˜ヨーニ　カ˞ツァー˜　フ˞ルシティティル˜　カ˞ライ˜ル [˜gaʤam ˞perasaŋ˜ joːni ka˞tsaː˜ ɸu˞ruʃititiru˜ ka˞rai˜ru](蚊を入れないよう、蚊帳を振るってから絡げるのだ)。˞グッふァ˜ヌ　˞タンガ˜シェー　カ˞ライラ˜ヌ [˞guffa˜nu ˞taŋga˜ʃeː ka˞rairara˜nu](重くて一人では絡げられない)。ク˞リン˜　カ˞ライ˜ルン [ku ˞riŋ˜ ka˞rai˜ruŋ](これも絡げる)。カ˞ライ˜ル　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [ka˞rai˜ru ˜kutoː na˞ra˜nu](絡げることは出来ない)。カ˞ライ˜ヤー　˜ミサムヌ [ka˞rai˜jaː˜ misamunu](絡げればよいのに)。˜ドゥーシ　˜カライ [˜duːʃi ˜karai](自分でからげよ)。2裾を捲くり上げる。˞キン˜ヌ　シ˞ベー˜　カライティ　パ˞タラキ [˞kin˜nu ʃi˞beː˜ karaiti pa˞taraki](着物の裾 < 尻 > を絡げて働け)。たくしあげる。ス˞デー˜　カ˞ライラン˜カー　˞ゾールン˜ダー [su˞deː˜ ka˞raːŋ˜kaː ˞ʤorun˜daː](袖をたくしあげないと濡(ヌ)れるぞ)。

カ˞ラウン [ka˞ra ʔuŋ] 【名】おかずがなくて、芋だけで食事をすませること。カ˞ティ˜ムノー　˞ナーン˜バ　˜アシェー　カ˞ラウン˜シ　シ˞マ˜シバメー [kḁ˞ti˜ muno: ˞naːm˜ba ˜ʔaʃeː ka˞raʔuŋ˜ʃi ʃi˞ma˜ʃibameː](おかずがないから昼食は芋だけで済ませなさいよ)。

˜カラウン [˜karauŋ] 【他動】からげる (絡げる)。裾を捲くり上げる。袖をたくし上げる。カ˞ライ˜ルンとも言う。˜バー　ス˞デー˜　カ˞ラー˜ヌ [˜baː su˞deː ˜ ka˞raː˜nu](私は袖をからげない)。ク˞レー˜　カ˞ライ　ヤッ˜サン [ku˞reː˜ ka˞rai jas˜saŋ](これ絡げやすい)。ヤー˞ディン˜　ス˞ディ˜　カラウン [jaː˞din˜ su ˞di˜ karauŋ](必ず袖を絡(カラ)げる)。ス˞ディ˜　カラウ˜クトゥ [su˞di˜ karau ˜kṵtu](袖を絡げること)。ス˞デー˜　カ˞ライ˜ヤー　˜ミサムヌ [su˞deː˜ ka˞rai˜jaː˜ misamunu](袖を絡げばよいのに)。˞パー˜ク　˜カライ [˞paː˜ku ˜karai](早く絡げよ)。

カ˞ラカーラヌ [ka˞rakaːranu] 【連】手に負えない。対応できない。付き合えない。カ˞ラカウン [ka˞ rakauŋ](対応する。相手にする。宥める) の未然形に受身・可能の助動詞˞リン [riŋ](～れる) の未然形が付いた形。ク˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　パ˞ダキネー˜ヌ　˞バン˜マー　カ˞ラカーラヌ [ku˞nu˜ fˢfaː˜ pa˞dakineː ˜nu ˞bam˜maː ka˞rakaːranu](この子は悪戯(イタズラ)が過ぎる < 腕白過ぎる > ので、私には手に負えない)。ウ˞ヌ˜　ア˞タ˜ロー　ミ˞ドゥ˜ムン　カ˞ラカーリン [ʔu ˞nu˜ ʔa˞ta˜roː mi˞du˜muŋ ka˞rakaːriŋ](この程度は女にも対応できる < 手に負える >)。

カ˞ラカウン [ka˞rakauŋ] 【他動】1言い争う。相手にして争い宥(ナダ)める。応対する。ヤ˞ラビ˜ヌ　˞フンダイバ˜　シ˞ティル˜　ウ˞リトゥ˜　カ˞ラカウンティ˜　シ˞グトー˜　ナ˞ラ˜ヌ [ja˞rabi˜nu ˞ɸundaiba˜ ʃi̥˞tiru˜ ʔu˞ritu˜ ka˞rakaunti˜ ʃi˞guto:˜ na˞ra˜nu](子供が駄々を捏ねて、それを相手になだめようとして仕事が出来ない)。カ˞ラカーラヌ˜　ナルスコー　ア˞ラ˜ヌ [ka˞rakaːranu˜ narusṵko: ʔa˞ra˜nu](応対して宥められない。取り付く島がない < 成るどころではない

>)。˞タンガ˜シル　カ˞ラカイヤッ˜サ [˞taŋga˜ʃiru ka˞rakaijas˜sa](一人でするのが応対しやすい)。²人をなぶる < 嬲る >。人を揶揄する。冗談を言って困らせる。笑いものにする。プ˞スバ˜　カ˞ラカウ˜クトー　ス˞ナ˜ヨー [pu̥˞suba˜ ka˞rakau˜ ku̥to: su˞na˜jo:](人をからかい、冷やかすことはするなよ)。カ˞ラカイヤー˜　ミサムヌ [ka˞rakaija:˜ misamunu](揶揄すればよいのに。からかえば < 冷やかせば > いいのに)。カ˞ラカイ˜バ [ka˞rakai˜ba](冷やかせよ)。

ガ˞ラガラ [ga˞ragara] 【副】空っぽのさま。がらんどう。ウ˞ビ˜ヌ　˜ヤーナ　プ˞ソー˜　ター˞ン˜　ブ˞ラームティ˜　ガ˞ラガラ˜シ　˞シー˜シケー [ʔu˞bi˜nu ˜ja:na pu̥˞so:˜ ta:˞m˜ bu˞ra:muti˜ ga˞ragara˜ʃi ˞ʃi:˜ʃi̥ke:](あれだけの大きな家に人は誰もいないでガラガラ < がらんどう > にしてある)。

ガ˞ラ˜ガラー [ga˞ra˜gara:] 【名】乳幼児の玩具で、カラカラと振り鳴らして遊ぶもの。戦後、石垣島から入ってきた。ガ˞ラ˜ガラー　ム˞カ˜シェー　˞ナーン˜シェン　イ˞クサユー˜ヌ　˜アトゥナー　イ˞サナケーラ　ペー˜リ　ケー˞ダー [ga˞ra˜gara: mu˞ka˜ʃe: ˞na:ŋ˜ʃeŋ ʔi˞kusaju:˜nu ˜ʔatuna: ʔi˞sanake:ra pe:˜ri ke:˞da:](ガラガラーは昔はなかった。戦後石垣から入ってきたのだよ)。

カ˞ラカンナール [ka˞rakanna:ru] 【名】雨を伴わない雷。「空雷」の義。˞カンナー˜ロー　˞ナーリ　ブンドゥ˜　アメー　˞ホーン˜バン　カ˞ラカンナールユン [˞kanna:˜ro: ˞na:ribundu˜ ʔame: ˞ho:m˜baŋ ka˞rakanna:rujuŋ](雷は鳴っているが雨は降らないワイ。空雷だよ)。

カ˞ラグ [ka˞ragu] 【名】錨。現在は˞アン˜カー [˞ʔaŋ˜ka:](錨) という人が多い。カ˞ラグ [ka˞ragu](錨) を知る人は八十歳以上の、限られた人である。鳩間島では、日露戦争の頃に海軍へ入隊した人 (通事家の人) が海軍式の航海用語を流行らせたという (加治工伊佐氏直話)。˞アン˜カージナ [˞ʔaŋ˜ka:ʤina](anchor-rope) という合成語を本来の鳩間方言と思っているほどである。その他、˞ゴーヘー [˞go:he:](前進せよ。go ahead)、˞ゴーシターン [˞go:ʃita:ŋ](後進せよ。go astern)、˞ソーローソーロー [˞so:ro:so:ro:](微速前進せよ。slow) なども本来の鳩間方言と思われている。

カ˞ラクジ [ka˞rakuʤi] 【名】空くじ。パ˞ギ˜クジ [pa˞gi˜kuʤi](はずれ籤(クジ)。< 禿籤 >) ともいう。˜バー˜クジ　˞コー˜ンダ　カ˞ラクジ˜　カー˞ニ˜　ピ˞キバ˜　クジ　˞ヤー˜ラー　プ˞スン˜　ピ˞カシ˜バ [˜ba: ˜kuʤi ˞ko:˜nda ka˞rakuʤi˜ ka:˞ni˜ pi̥˞kiba˜ kuʤi ˞ja:˜ra: pu̥˞sum˜ pi̥˞kaʃi˜ba](私は籤運に弱いので外れ籤 < 空籤 > だけ引くから、籤運の強い < 籤に柔らかい > 人に引かせなさいよ)。

ガ˞ラ˜ク˞トートゥ [ga˞ra˜ku˞to:tu] 【感】なにとぞ、なにとぞ。是非とも是非とも。˞タン˜ディ˞トートゥ [˞tan˜di˞to:tu](願わくば是非とも) と重ねて用いられる。/タンディトートゥ　マブルシュヨー/ガラクトートゥ　カミガナシ　ハーリ　アミタボリ　リューガナシ/(恐れながらお願い申し上げます守り神さま、どうか、どうぞ、是非とも是非とも神様、ハーリ雨を賜りませ竜宮の神様)「アマングイ」(雨乞い歌。早め句第 2 連)『鳩間島古典民謡古謡集』。

カ˞ラ˜クリ [カ˞ラ˜クリ] 【名】三味線の弦を引き締める糸巻き。てんじゅ (転手)。˞ウー˜ジル [˞ʔu:˜ʤiru](雄弦)、ナ˞カ˜ジル [na˞ka˜ʤiru](中弦)、˞ミー˜ジル [˞mi:˜ʤiru](雌弦) の三本の弦を締める専用の転手がある。左側に一本、右側に二本の転手が装着されている。˞サンシンヌ˜　シ˞ロー˜　カ˞ラ˜クリシル　シ˞ミ˜ル [˞saŋʃinnu˜ ʃi˞ro:˜ ka˞ra˜kuriʃiru ʃi˞mi˜ru](三味線の弦は転手(テンジュ)で < ぞ > 締める)。˞サンシンヌ˜　カ˞ラ˜クレー　ク˞ル˜キーシ　ス˞クラ˜リ˞ブー [˞saŋʃinnu˜ ka˞ra˜kure: ku˞ru˜ki:ʃi su̥˞kura˜ri ˞bu:](三線の転手 < 糸巻き > は黒檀で作られている)。

ガ˞ラ˜サ [ga˞ra˜sa] 【名】(動) カラス (烏)。雑食性で非常に食欲旺盛な害鳥。黒い鳥で不吉を連想されるといわれている。˞ユーガラ˜サー [˞ju:gara˜sa:]< 夜烏 > は不吉の象徴とされている。烏は他の鳥よりも知能指数が高く、人を怖がらないことから悪知恵の働くずるい人間にたとえられる。˞マイカリヌ˜　ピンナ　ガ˞ラサ˜ヌ　˜ウリキー　˞マイ˜　プシ　˜シケームバ　カ˞キッツァーサ˜リティ　スズー˞コオ (ー) ス˜ク　シ˞ラリミッ˜タン [˞maikarinu˜ pinna ga˞rasa˜nu ˜ʔuriki: ˞mai˜ pu̥ʃi ˜ʃi̥ke:muba kḁ˞kittsa:sa˜riti suʤu:˞ko ʔo(:)su˜ku ʃi˞rarimit˜taŋ](稲刈りの時に、烏が下りてきて稲を干してあるのを掻き散らされて、ひどくなぶられたことがる)。

カ˞ラサー [ka˞rasa:] 【名】茶請けがなく、茶だけの接待。「空茶」の義。˞ンーナサー [˞ʔn:nasa:](空茶) ともいう。カ˞ラサー˜　カー˞ニ˜　ヌ˞マサ˜リティ˜サービー　˞シーナー˜ヌ [ka˞rasa:˜ ka:˞ni˜ nu˞masa˜riti ˜sa:bi: ˞ʃi:na:˜nu](茶請けのない茶だけ飲まされてお茶酔いしてしまった)。カ˞ラサーンツァン˜　ヌミティ　˜パリバ [ka˞rasa:ntsan˜ numiti ˜pariba](お

茶だけ＜空茶だけ＞でも飲んで行きなさいよ)。

カ˞ラ˥サーシツ [ka˞ra˥sa:ʃi̥tsu] 【名】(動) 魚の名。和名、オキナメジナ (体長約 35 センチ)。シ˞ツ [ʃi̥˞tsu] ともいう。西表島の˞イーリイマ干瀬でよく漁獲された。高級魚の一つで美味である。

カ˞ラザキ [ka˞radʑaki] 【名】肴(サカナ)無しで飲む酒。「からざけ (空酒)」の義。カ˞ラザケー˥　ヌ˞マン˥ドーシ˥ムヌーン　ッ˞ふァイヤー˥ティ　サ˞ケー˥　ヌ˞マン˥カー　˞ヤン˥マイ　シ˞キ˥ルン˞ダー [ka˞radʑake:˥ nu˞man˥do:ʃi ˥munu:n f˞faija:˥ti sa˞ke:˥ nu˞maŋ˥ka: ˞jam˥mai ʃi̥˞ki˥run˞da:](肴(サカナ)無しで酒を飲まなずに、食い物を食べながら酒を飲まないと病気になるよ＜病気が付くよ＞)。

ガ˞ラ˥サニーバル [ga˞ra˥sani:baru] 【名】(動) 魚の名。和名、イシガキダイ (体長 45 センチ)。

ガ˞ラサ˥ヌ　˞コー˥マ [ga˞rasa˥nu ˞ko:˥ma] 【連】(動) うに (海栗)。「烏の卵」の義。直径 5〜7 センチの球形または厚い円盤状の殻の外面が長い刺(トゲ)に覆われて、海底の砂の上を移動したり岩に吸着したりしている。パ˞トゥ˥マプソー　ガ˞ラサ˥ヌ　˞コーマ˥ヨー　ッ˞ふァイムヌ˥テー　ッ˞サンセン [pḁ˞tu˥mapu̥-so: ga˞rasa˥nu ˞ko:ma˥jo: f˞faimunu˥te: s˞saŋʃeŋ](鳩間人は、うに＜海栗＞を食べられるものとは＜食べるものと＞知らなかった)。

ガ˞ラサ˥ヌ　フ˞チ [ga˞rasa˥nu ɸu̥˞ʧi] 【連】口角炎。「烏の口」の義。口角に生ずる糜爛性(ビランセイ)の炎症。「烏の口角」に似ることからいう。チ˞カ˥グロー　ッ˞ふァイムヌヌ˥　カナイ　˞ブンダ˥　ガ˞ラサ˥ヌ　フ˞チ˥　ンジ　˞ブー˥　プ˞ソー˥　ミ˞ララン˥バン [ʧi̥˞ka˥guro: f˞faimununu˥ kanai ˞bunda˥ ga˞rasa˥nu ɸu̥˞ʧi˥ ʔnʤi ˞bu:˥ pu̥˞so:˥ mi˞raram˥baŋ](近頃は食べ物が豊かだから＜叶っているから＞口角炎の出ている人は見当たらない＜見られない＞わい)。

ガ˞ラ˥サパブ [ga˞ra˥sapabu] 【名】(動) 蛇の一種。サキシマヒバー。「カラスハブ」の義。˞マーパブ [˞ma:pabu](毒蛇) の対義語。体長 40〜50 センチ。無毒。鼠や蛙などの小動物を捕食している。鳩間島では雨の後に、非常に稀に見られることがあった。パ˞トゥ˥マナー　˥ドゥクパボー　ブ˞ラーヌヌ˥　ガ˞ラ˥サパボー　タ˞マーニ˥　ミ˞ラリ˥タン [pḁ˞tu˥mana: ˥dukupabo: bu˞ra:nunu˥ ga˞ra˥sapabo: ta˞ma:ni˥ mi˞rari˥taŋ](鳩間島には毒蛇はいないが、ガラスハブは極稀にみられた)。

ガ˞ラ˥サマール [ga˞ra˥sama:ru] 【名】手の指や足の指の痙攣。手足の痙攣。「烏曲がり」の義。˞ペンシキビリ　シー　ベーン˥ケン　˞パン˥ヌ　ウ˞ヤビ˥ヌ　ガ˞ラ˥サマール　˞シー˥　タ˞タラン˥シェン [˞peŋʃik-ibiri ʃi: be:ŋ˥kem ˞pan˥nu ʔu˞jabi˥nu ga˞ra˥sama:ru ˞ʃi:˥ tḁ˞taraŋ˥ʃeŋ](ひざまずき＜正座＞していると足の親指が痙攣して立てなかった)。˞ティー˥ヌ　ウ˞ヤビ˥ヌ　ガ˞ラ˥サマール　˞シェー˥ラ　˥ムヌ　カ˞サマラヌ [˞ti:˥nu ʔu˞jabi˥nu ga˞ra˥sama:ru ˞ʃe:˥ra˥munu ka˞samaranu](手の親指が痙攣したら物を掴むことが出来ない)。˞ティー˥ヌ　ウ˞ヤ˥ベー　ガ˞ラ˥サマール　シ˞ティ˥　ムヌ　カ˞サマラヌ [˞ti:˥nu ʔu˞ja˥be: ga˞ra˥sama:ru ʃi̥˞ti˥ munu kḁ˞samaranu](手の指が痙攣して、物を掴むことができない＜掴まれない＞)。

ガ˞ラ˥サマイ [ga˞ra˥samai] 【名】(植) 稲の品種名。「カラス米」の義。実が黒いことからその名があるという。マ˞ナ˥マー　ガ˞ラ˥サマイヤー　˞ナー˥ヌ [ma˞na˥ma: ga˞ra˥samaija: ˞na:˥nu](今はカラス米はない)。

カ˞ラジー [ka˞raʤi:] 【名】地べた。何も敷いてない裸の地面。「からぢ＜空地＞」の義。ノー˞ン˥　シ˞カムティ˥　カ˞ラジー˥ナ　ビ˞リベー [no:˞ŋ˥ ʃi̥˞kamuti˥ ka˞raʤi:˥na bi˞ri be:](何も敷かないで地べたに座っている)。ヤ˞ラ˥ベー　カ˞ラジー˥ナー　ビ˞ダーキビリ　シティ˥　ア˞サビ　ベー [ja˞ra˥be: ka˞raʤi:˥na: bi˞da:kibiri ʃi̥ti˥ ʔa˞sabi be:](子供は地べたにべったりと座って遊んでいる)。

カ˞ラシーシ [ka˞raʃi:ʃi] 【名】体は小さいが筋肉がしまって頑健な人。ウ˞ヌ˥　プ˞ソー˥　フ˞ドー˥　グ˞マー˥ンドゥ　カ˞ラシーシ˥　ヤ˞ルンダ˥　シゥ˞カラー˥　ター˞ン˥ラン　˞スーワ˥ル　˥アル [ʔu˞nu˥ pu̥˞so:˥ ɸu˞do:˥ gu˞ma:˥ndu ka˞raʃi:ʃi˥ ja˞runda˥ si̥˞kara:˥ ta:˞n˥ran ˞su:wa˥ru ˥ʔaru](その人は体は小さいが筋肉のしまった頑健な人だから力は誰よりも強い＜強くぞある＞)。

カ˞ラシチン [ka˞raʃiʧiŋ] 【名】貸し料。貸し賃。˞ヤーヤシキ˥バ　プ˞スン˥　カ˞ラシティ˥　カ˞ラシチン˥シル　ッ˞ふァー˥　ス˞ダ˥テーティ˞ダー [˞ja:jaʃi̥ki˥ ba pu̥˞suŋ˥ ka˞raʃi̥ti˥ ka˞raʃiʧiŋ˥ʃiru f˞fa:˥ su˞da˥te:ti˞da:](家屋敷を他人に貸して、貸し賃で子供を育てたそうだよ)。

カ˞ラ˥シニ [ka˞ra˥ʃini] 【名】すね (脛)。向う脛。はぎ (脛)。下肢の膝からくるぶし (踝) に至る部分。「からすね＜骸脛＞」の転訛か。脛を卑しめていう言葉。カ˞ラ˥シニ　キ˞リマラバシ˥ティ　ナ˞キベーン˥ティ [ka˞ra˥ʃini ki˞rimaraba˥ʃi̥ti na˞kibe:n

˜ti](向う脛を蹴り飛ばして痛くて泣いているさ)。イ˞シガンパラミチ˜ナー　シ˞キッ˜クミ　˞カイ˜リティル　カ˞ラ˜シニ　シ˞リ˜パギ　˜シケーバン [ʔi˞ʃigamparamitʃi˜naː ʃi̥˞kik˜kumi ˞kai˜ritiru ka˞ra˜ʃini ʃi˞ri˜pagi ʃi̥keːbaŋ](石ころ道に突っ込み転んで裸の脛を擦り剥いてあるよ)。カ˞ラ˜シニ　キ˞ラ˜リティル　ビ˞ダーキ˜　ビ˞リベー [ka˞ra˜ʃini ki˞ra˜ritiru bi˞daːki˜ bi˞ribeː](向う脛を蹴られて、ひしゃげて < 痛みに耐えかねて > 地べたにどかっと座っているよ)。

カ˞ラシヤー [ka˞raʃijaː] 【名】貸家。パ˞トゥ˜マナー　˜シンニン　カ˞ラシヤー　ソー˜ル　プ˞ソー　オーラン˜シェン　˞ガッコー˜ヌ　˞シン˜シンケーヤ　イ˞チバンザー˜トゥ　ユ˞コーバ˜　カ˞リル　オーッタ˜ル [pḁ˞tu˜mana: ˜ʃinniŋ ka˞raʃija: soː˜ru pu̥˞soː ʔoːraŋ˜ʃeŋ ˞gakkoː˜nu ˞ʃiŋ˜ʃiŋkeːja ʔi˞tʃibandʑaː˜tu ju ˞koːba˜ ka˞riru ʔoːtta˜ru](鳩間島には専ら貸家をなさる人はおられなかった。学校の先生方は一番座と裏座を借りておられた)。˞ウシトゥンケー˜ヤ　カ˞ラシヤーバ˜　カ˞リティ　ヤーウチ˜リ　˞シーパッ˜タ [˞ʔuʃi̥tuŋkeː˜ja ka˞raʃija:ba˜ ka˞riti jaːʔutʃi˜ri˞ʃiː pat˜ta](弟たちは貸し屋を借りて引越して < 屋移りして > 行った)。

カ˞ラシュー [ka˞raʃuː] 【名】からつゆ (空梅雨)。ク˞トゥシェー˜　カ˞ラシュー˜ティ　ア˞ザリブーヌ˜　ア˞ミ˜ヌ　˞ホーン˜カー　˞ヌー˜スカヤー [ku̥˞tuʃeː˜ ka˞raʃuː˜ti ʔa˞dʑaribuːnu˜ ʔa˞mi˜nu ˞hoːŋ˜kaː ˞nuː˜suka-jaː](今年はから梅雨といわれているが、雨が降らなければどうしようか)。

カ˞ラ˜ス [ka˞ra˜su] 【名】塩辛。イカやカツオの内臓を塩漬けにして醗酵させたもの。カ˞ツヌ˜　バ˞タガラ˜ス [kḁ˞tsunu˜ ba˞tagara˜su](カツオの内臓の塩漬け)、イ˞ガカラス [ʔi˞gakarasu](烏賊の塩漬け)、イ˞ガヌ˜　バ˞タガラ˜ス [ʔi˞ganu˜ ba˞tagara˜su](烏賊の内臓の塩漬け) などがある。カ˞ラ˜ス　ス˞クン [ka˞ra˜su su̥˞kuŋ](塩辛を漬ける)。カ˞ラ˜ソー　フ˞ユヌ˜　カ˞ティ˜ムヌ　˞ヤッタ [ka˞ra˜soː ɸu˞junu˜ kḁ˞ti˜munu ˞jatta](塩漬けは冬のおかずであった)。

カ˞ラスー [ka˞rasuː] 【名】小潮の期間。潮のあまり引かない期間。ゆみはりづき (弦月) の頃の潮。˞ウー˜スー [˞ʔuː˜suː](大潮) の対義語。月と太陽とが地球に対して互いに直角の方向に位置する場合の潮があまり引かない期間。マ˞ナ˜マー　カ˞ラスー˜　ヤ˞ルンダ　ナン˜ゾー　˞スー˜ヤ　ピ˞サ˜ヌ [ma˞na˜maː ka˞rasuː˜ ja˞runda nan˜dʑoː ˞suː˜ja pi̥˞sa˜nu](今は小潮だから、あまり潮は引かない < 干(ヒ)ない >)。

カ˞ラズー˜ワン [ka˞radʑuː˜waŋ] 【形】体力がある。体が強い。抵抗力が強い。ク˞ヌ˜　ヤ˞ラ˜ベー　カ˞ラズー˜ワンダ　パ˞ナシキ˜　カ˞カラ˜ヌ [ku˞nu˜ ja˞ra˜beː ka˞radʑuː˜wanda pa˞naʃi̥ki˜ kḁ˞kara˜nu](この子供は体力があり、抵抗力が強いから風邪をひかない)。

カ˞ラスン [ka˞rasuŋ] 【他動】貸す。借りさせる。「借る」の使役形に対応する形。金銭や食糧をなどを貸す意。返済は借りた金銭や食料と同額、同量とし、利子利息一切なしとするのが常識であった。プ˞スンマー˜　カ˞ラサラヌ [pu̥˞summaː˜ ka˞rasaranu](他人には貸せない)。プ˞スン˜　カ˞ラシ˜ミサン [pu̥˞suŋ˜ ka˞raʃi˜misaŋ](他人に貸してもいい)。カ˞ラスンティ˜　ウムーカー　カ˞ラシ˜バ [ka˞rasunti˜ ʔumuːkaː ka˞raʃi˜ba](貸すと思うなら貸せよ)。˜クベー　ヤー˞ディン˜　カ˞ラス˜　クトゥ [˜kubeː jaː˞diŋ˜ ka˞rasu˜ ku̥tu](これだけは必ず貸すこと)。˜クベーンツァン　カ˞ラシェー˜　ミサムヌ [˜kubeːntsaŋ ka˞raʃeː˜ misamunu](これだけでも貸せばよいのに)。

ガ˞ラスン [ga˞rasuŋ] 【他動】 1明るくする。明かりを灯す。照らす。ッ˞ふァーン˜　トン　ガ˞ラシ [f˞faːn˜ toŋ ga˞raʃi](暗い所を照らせ)。ッ˞ふァー˜ヌ　ミ˞ララ˜ヌ　˞トゥー˜ル　˞マー˜ビン　ガ˞ラシ [f˞faː˜nu mi˞rara˜nu ˞tuː˜ru ˞maː˜biŋ ga˞raʃi](暗くて見えない。灯火をもっと明るくしなさい)。2夜を明かす。プ˞スユー˜ン　˜サートゥ　ニ˞バラムティ˜　ユー　ガ˞ラシ　ナーン˜セン [pu̥˞sujuː˜ŋ ˜saːtu ni˞baramuti˜ ju: ga˞raʃi naːŋ˜ʃeŋ](一晩じゅう眠れないで夜を明かしてしまった)。プ˞スユー˜ヌ　サートゥ　ウ˞リヌ　トゥンザ˜ク　˞スンティ˜　ユー　ガ˞ラシ　ナーン˜セン [pu̥˞sujuː˜nu ˜saːtu ʔu˞rinu tundʑa˜ku ˞sunti˜ ju: ga˞raʃi naːŋ˜ʃeŋ](一晩中、その人の看病をしようとして夜を明かしてしまった)。

ガ˞ラ˜スン [ga˞ra˜suŋ] 【他動】かからせる (繋らせる)。ひっかからせる。引っ掛ける。魚を網に引っ掛けて獲る。[kḁkarasuŋ] → [k'arasunŋ] → [garasuŋ] の音韻変化による。˜アン　ウ˞ラ˜シティ　イ˞ズ˜　ガ˞ラ˜スン [˜ʔaŋ ʔu˞ra˜ʃi̥ti ʔi˞dʑu˜ ga˞ra˜suŋ](漁網を海に下ろして魚を引っ掛けて捕る)。˞ナン˜ヌ　˞スー˜ワティ　イ˞ゾー˜　ガ˞ラサラ˜ヌ [˞nan˜nu ˞suː˜wati ʔi˞dʑoː˜ ga˞rasara˜nu](波が荒いので < 強いので > 魚は網で引っ掛けて獲れない)。イ˞ズ˜　ガ˞ラシ˜プサン [ʔi˞dʑu˜ ga˞raʃi˜pu̥saŋ](網に魚をかからせて獲りたい)。イ˞ズ˜　ガ˞ラ˜ス　˜ピン

[ʔi˞ʤu˥ ga˞ra˥su ˥piŋ](魚を網に魚をかからせて獲るとき)。˞マー˥ビン　ガ˞ラ˥シェー　˥ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ga˞ra˥ʃe: ˥misamunu](もっと漁網に魚をかからせて獲ればよいのに)。イ˞ズ˥　ガ˞ラ˥シ [ʔi˞ʤu˥ ga˞ra˥ʃi](魚を漁網にかからせよ)。˥クナーテー　イ˞ゾー˥　ガ˞ラサラ˥ヌ [˥kuna:te: ʔi˞ʤo:˥ ga˞rasara˥nu](ここでは、魚は網で漁獲できない＜網に引っ掛けられない＞)。イ˞ズ˥　ガ˞ラ˥ス　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [ʔi˞ʤu˥ ga˞ra˥su pu̥˞so:˥ bu˞ra:nu](魚を網で漁獲する＜網に引っかからす＞人はいない)。シ˞ヌマー˥ル　˥アンシ　ガ˞ラ˥シェー　˥ミサムヌ [ʃi˞numa:˥ru ˥ʔaŋʃi ga˞ra˥ʃe: ˥misamunu](テングハギを網で巻き取ればいいのに)。

カ˞ラ˥タ [ka˞ra˥ta] 【名】体。˞ドゥー˥タイ [˞du:˥tai](胴体) ともいう。˞ウン˥ネヌ　ッ˞ふァー˥　ムー˞ル˥　カ˞ラタ˥ヌ　˥カナイ　˞ブンダ˥　イッ˞ケナ˥　ウ˞ラーミ˥サン [˞ʔun˥nenu f˞fa:˥ mu:˞ru˥ ka˞rata˥nu ˥kanai ˞bunda˥ ʔik˞kena˥ ʔu˞ra:mi˥saŋ](その家の子供はみんな体が頑丈＜叶っている＞だから非常に羨ましい)。

カ˞ラッサーク [ka˞rassa:ku] 【名】からせき (空咳)。痰の出ない乾いた咳で喉が切れるように痛む病気。カ˞ラッサークバ　シール˥　ヌ˞ドゥ˥ヌ　ヤム˞ツォー [ka˞rassa:kuba ʃi:ru˥ nu˞du˥nu jamu˞tso:](痰の出ない乾いた空咳をするので喉が痛むんですよ)。

カ˞ラッス [ka˞rassu] 【名】胎便。出生後 2〜4 日間に嬰児が排泄する糞便。「空糞」の義。カ˞ラッソー˥マ [ka˞rasso:˥ma](小さな胎便。小さな空糞) ともいう。カ˞ラッソー˥　マレーンカヤー [ka˞rasso:˥ mare:ŋkaja:](胎便は排泄したかね)。

カ˞ラッスリ [ka˞rassuri] 【名】から拭き。布巾を水に濡らさないで拭くこと。ジ˞ブ˥コー　カ˞ラッスリ　シー˥シキ˞ヨー [ʤi˞bu˥ko: ka˞rassuri ʃi:˥ ʃi̥ki˞jo:](重箱はから拭きしておきなさい)。˞シームヌバンヌン　カーラケー˥カー　カ˞ラッスリ˥　シ˞ティ˥　シ˞ズ˥ミ　シ˞キ˥リバ [˞ʃi:munubannuŋ ka:rake:˥ka: ka˞rassuri˥ ʃi˞ti˥ ʃi˞ʤu˥mi ʃi˞ki˥riba](吸い物椀も乾いたのなら、から拭きして片付けておきなさい)。

ガラッ˞ティ [garat˞ti] 【副】がらっと。がらりと。急変するさま。すっかり変わるさま。プ˞スヌ　クー˥ター　ガラッ˞ティ˥　キモー　˞カウリティ˥　ピン　˞シーナー˥ヌ [pu̥˞sunu ku:˥ta: garat˞ti˥ kimo: ˞kauriti˥ piŋ ˞ʃi:na:˥nu](他人が来たのですっかり心が変わってしまって、拗ねてひねくれてしまった)。マー˞ズン˥　パルンティ　˞シーベータン˥ドゥ　ガラッ˞ティ　カウリ　ンー˥バ˞トゥ˥ツォー [ma:˞ʤum˥ parunti ˞ʃi:be:tan˥du garat˞ti kauri ʔm:˥ba˞tu ˥tso:](一緒に行くと言っていたのに＜していたのに＞急変して、いやだとさ)。

カ˞ラティー [ka˞rati:] 【名】空手 (術)。標準語からの借用語か。普通は、˥ティー [˥ti:](空手) という。カ˞ラティー˥　ナラウン [ka˞rati:˥ narauŋ](空手を習う)。˥ティー　シゥ˞カウン [˥ti: si̥˞kauŋ](空手を使う)。

カ˞ラドゥー [ka˞radu:] 【名】手ぶら。何も持参せず、体一つで。˞ンーナドゥー [˞ʔn:nadu:](手ぶら) というのが普通である。ア˞バタサリティール˥　ノー˞ン˥　ム˞タ˥ナー　カ˞ラドゥー˥シ　ケー˞ダー [ʔa˞batasaritiru˥ no:˞m˥ mu˞ta˥na: ka˞ra˥du:ʃi ke:˞da:](急がされて、何も持たずに手ぶらで来てしまったのですよ)。

カ˞ラナキ [ka˞ranaki] 【名】涙を出さない声だけの泣き方。「空泣き」の義。˥ナダー　ウ˞タサ˥ムテイ　クイカー˞ニ˥　ン˞ザ˥シ　カ˞ラナキ　スー˥　プ˞スヌ˥カ　˞ブン˥ツォー [˥nada: ʔu˞tasa˥muti kuika:˞ni˥ ʔn˞ʤa˥ʃi ka˞ranaki su:˥ pu̥˞sunu ˥ka ˞bun˥tso:](涙は落とさ＜出さ＞ないで、声だけ出して空泣きする人がいるもんかね＜いないよ＞)。

カ˞ラ˥ニー [ka˞ra˥ni:] 【名】軽い荷。「軽荷」の義。ン˞ブニー [ʔm˞buni:](重荷) の対義語。ナ˞カラ˥ニー [na˞kara˥ni:](半分荷)。˥フネー　マ˞ダ˥　カ˞ラ˥ニー　ヤ˞ルンダ　マー˥ビン　˞ニー˥ヤ　シ˞マリン˥ダー [˥ɸune: ma˞da˥ ka˞ra˥ni: ja˞runda ma:˥bin ˞ni:˥ ja ʃi˞marin˥da:](船の荷はまだ軽い荷だから、もっと荷を積むことができる＜積まれる＞ぞ)。カ˞ラ˥ニーシェー　˥フネー　ン˞ザサラ˥ヌ [ka˞ra˥ni:ʃe: ˥ɸune: ʔn˞ʤasara˥nu](軽荷では船は出港できない＜出されない＞)。

カ˞ラネーシ [ka˞rane:ʃi] 【名】水を入れないで煮ること。からだき (空焚き) の義。魚や南瓜、冬瓜、甘藷などを角切りにし、水を入れないで煮ること。カ˞ブッチェー˥　カ˞ラネーシ˥　サ˞バル˥　ン˞マー˥ツォー [ka˞buttʃe:˥ ka˞rane:ʃi˥ sa˞baru˥ ʔm˞ma:˥tso:](南瓜は水を入れずに煮た＜空焚き＞ほうが美味しいそうだ)。

カ˞ラパイ [ka˞rapai] 【名】竈の灰。薪の灰。「からばい (空灰)」の義。竈の灰には魔除け、悪避けの力があるといわれており、葬列が通過する際には門口に竈の灰で線を引いておいて悪霊の侵入を防ぐ習慣があった。˥ドゥク　ヤ˞ナ˥ムニ　プ˞スッふァイムニ

バ˥ ユムカー ˞ウンザー˥ カ˞ラパイ˥ シゥ˞カンッふァー˥シ [˥duku ja˞na˥muni pu̥˞suffaimuniba˥ jumuka: ˞ʔundʑa:˥ ka˞rapai˥ si̥˞˥kaŋffa:˥ʃi](あんまり人を罵ったり、陥れるようなことを言うなら、奴に竈の灰をうち喰らわせてやれ)。

カ˞ラパク [ka˞rapaku] 【名】空箱。空き箱。˞ンーナパク [˞ʔn:napaku](空箱) ともいう。カ˞ラパク˥ナ カ˞ツブシバ˥ シミティ イ˞サンケー˥ ウ˞クリ˥バ [ka˞rapaku˥na kḁ˞tsubuʃiba˥ ʃimiti ʔi˞saŋke:˥ ʔu˞kuri˥ba](空箱に鰹節を詰めて石垣へ送りなさいよ)。

カ˞ラバタ [ka˞rabata] 【名】1空き腹。「からわた (空腸)」の義。˞ンーナバタ [˞ʔn:nabata](空腹) ともいう。イ˞ソープソー ヤー˥サ ˥カラバタシル ˞オーリ˥バ ˞パー˥ク ˥イー ン˞カシ [ʔi˞so:pu̥so: ja:˥sa ˥karabataʃiru ˞ʔo:ri˥ba ˞pa:˥ku ˥ʔi: ʔŋ˞kaʃi](漁に出られた人は空腹で、ひもじい思いでいらっしゃるから早くご飯を差し上げよ)。カ˞ラバタサーリ˥ サ˞キ˥ ヌム ˥ムノー ア˞ラ˥ヌ [ka˞rabatasa:ri˥ sa˞ki˥ numu ˥muno: ʔa˞ra˥nu](空きっ腹に酒を飲むものではない)。カ˞ラバター˥ バ˞タッ˥ふァーン [ka˞rabata:˥ ba˞taf˥fa:ŋ](空複になると怒りっぽくなる＜腹暗い＞)。2妊娠していない女性のお腹。トゥ˞ジェー˥ マ˞ナ˥マー カ˞ラバタ˥ ヤ˞ルンダ˥ ノー˞ンシェー˥ル シ˞グトゥン スンティル スー [tu˞ʤe:˥ ma˞na˥ma: ka˞rabata˥ ja˞˥runda˥ no:˞ŋʃe:˥ru ʃi˞gutun suntiru su:](妻は、今は妊娠していない＜腹が空っぽ＞だから、如何なる仕事もしようとする)。

カ˞ラバッツァー˥ン [ka˞rabattsa:˥ŋ] 【形】すばしこい。敏捷である。すばやい。はしこい。ク˞ヌ˥ ヤ˞ラ˥ベー イッ˞ケナ˥ カ˞ラバッ˥ツァーン [ku˞nu˥ ja˞ra˥be: ʔik˞kena˥ ka˞rabat˥tsa:ŋ](この子は非常にすばしこい)。˥ドゥク カ˞ラバッツァー ナー˥ヌ [˥duku ka˞rabattsa: na:˥nu](あまりすばしこくない)。フ˞ドゥブター˥ル カ˞ラバッ˥ツァー ナリケール [ɸu˞dubuta:ru˥ ka˞rabattsa:˥ narike:ru](成長したのですばしこくなってきたのだ)。カ˞ラバッツァー˥ヌ カ˞サマラヌ [ka˞rabattsa:˥nu kḁ˞samaranu](すばしこくて捕まえられない)。カ˞ラバッ˥ツァー ッ˞ふァー˥ ダ˞カラヌ [ka˞rabat˥tsa: f˞fa:˥ da˞karanu](すばしこい子供は抱けない)。˥ドゥク カ˞ラバッ˥ツァーカー ˞サーリ˥ パ˞ララ˥ヌ [˥duku ka˞rabat˥tsa:ka: ˞sa:ri˥ pa˞rara˥nu](あまりすばしこかったら、連れて行けない＜行かれない＞)。

カ˞ラパナシキ [ka˞rapanaʃi̥ki] 【名】軽い風邪。カ˞ラパナシキ˥ ヤ˞ルンダ˥ シ˞グトー˥ シ˞ラリン [ka˞rapanaʃi̥ki˥ ja˞runda˥ ʃi˞guto:˥ ʃi˞rariŋ](軽い風邪だから仕事は出来る)。

カ˞ラバリ [ka˞rabari] 【名】手足の皮膚のひび割れ。あかぎれ (皸)。冬の寒い時期に手足の指の間にひび割れが生じ、血がにじみ出て痛む。また唇にも亀裂が生じて血がにじみ出て痛む。老年層はカ˞ラバル [ka˞rabaru](あかぎれ＜皸＞) ともいう。ピ˞ラク˥ヌ シ˞ジクター ティーパン˥ヌ ウ˞ヤビ˥ヌ ˥マター カ˞ラバレー シー シーン˥ パリティ ヤ˞ミ˥スバン [pi˞raku˥nu ʃi˞ʤikuta: ti:pan˥nu ʔu˞jabi˥nu ˥mata: ka˞rabare: ʃi: ʃi:m˥ pariti ja˞mi˥subaŋ](寒波が続いたので手足の指の股があかぎれ＜皸＞して血も出て痛むわい)。

カ˞ラバル [ka˞rabaru] 【名】羅針盤。「唐針」の義か。単に、˥パル [˥paru](針。羅針盤) ともいう。イ˞ガメー オー˥ル ˥バソー ヤー˞ディン˥ カ˞ラバル˥ ム˞ティ˥ル ˞オーッ˥タ [ʔi˞game: ʔo:˥ru ˥baso: ja:˞diŋ˥ ka˞rabaru˥ mu˞ti˥ru ˞ʔo:t˥ta](烏賊釣り漁に出られるときは必ず羅針盤を持参された＜持って行かれた＞)。

カ˞ラパン [ka˞rapaŋ] 【名】裸足。むき出しの足。「からはぎ (空脛)」の転訛。ヨー˞ヨー˥ カ˞ラパン˥シ ア˞ラ˥ケーティ ˞アー˥キ タ˞マ˥ヌ バ˞リ˥ナ パン ヤ˞マス˥ナ˞ヨー [˥jo:˞jo:˥ ka˞rapaŋ˥ʃi ʔa˞ra˥ke:ti˞ʔa:˥ki ta˞ma˥nu ba˞ri˥na ˥paŋ ˞jamasu˥na˞jo:](注意してよ、裸足で歩いていてガラスの破片で足を怪我するな＜病ますな＞よ)。カ˞ラパン˥ キ˞ザ˥パンシ ナ˞カー ペール˥ナ [ka˞rapaŋ˥ ki˞ʤa˥paŋʃi na˞ka: peru˥na](何も履かない足、裸足、土足で中へ入るな)。カ˞ラパン˥ キ˞ザパン˥マー ス˞ナカ˥ナー ア˞ラシティティル ヤー˥ヌ ˥ナカー ˞ペー˥ル˞ダー [ka˞rapaŋ˥ ki˞ʤapam˥ma: su˞naka˥na: ʔa˞raʃi̥titiru ja:˥nu ˥naka: ˞pe:˥ru˞da:](裸足、汚れ足は海の水で洗ってから家の中へは入るのだよ)。

カ˞ラビーバキ [ka˞rabi:baki] 【名】からえずき (空嘔吐き)。嘔吐をもようし、むかむかする状態。むかついて戻しそうになる状態。「から・ゑばき (空穢吐き)」の義か。フ˞ナイ˥バ ˞シー˥ ムー˞ル˥ パキ ン˞ザ˥シティ ˥アトー カ˞ラビーバキル˥ シ˞タル [ɸu˞nai˥ba ˞ʃi:˥ mu:˞ru˥ pa˞ki̥ʔnʤa˥ʃi̥ti ˥ʔato: ka˞rabi:bakiru˥ ʃi̥˞taru](船酔いをして、全部吐き出した後は空えずきをした＜嘔吐しそうでむかむかした状態であった＞)。

カ˞ラピサ [ka˞rapisa] 【名】裸足。履物を履かずに歩くこと。カ˞ラパン [ka˞rapaŋ](からはぎ < 空脛 >。からあし < 空足 >)、カ˞ラピサ [ka˞rapira](空足) のように用いられる。˥ピサ [˥pi̥sa](ひら < 平 >) は「踝より下」のこと。踝より下の足に何も履かない汚れた足の状態をカ˞ラピサ [ka˞rapisa] という。ノー˞ン˥ フ˞マムティ˥ カ˞ラピサ˥ナリ ˞アーキ˥ル ˥パン ヤ˞マ˥シェー˞ダー [no:˞ŋ˥ ɸu˞mamuti˥ ka˞rapisa˥nari ˞ʔa:ki˥ru ˥paŋ ja˞ma˥ʃe:˞da:](何も履かないで裸足で歩いていたので < ぞ > 足を痛めてあるのだ)。

カ˞ラピシ [ka˞rapiʃi] 【名】潮があまり引かないこと。˞ウー˥スー アˡラン˥カー カ˞ラピシ スンダ˥ イ˞ソー˥ パ˞ラ˥ヌ [˞ʔu:˥su: ʔa˞raŋ˥ka: ka˞rapiʃi sunda˥ ʔi˞so:˥ pa˞ra˥nu](大潮でないと潮もあまり引かないから潮干狩りには行かない)。

カ˞ラフキ [ka˞raɸuki] 【名】雨を伴わない台風。「空吹き」の義。カ˞ジヌ˥ カ˞ラフキ シター ウンヌ˥パーラ ˞ナーン˥パー ˞バー˥キ ムー˞ル˥ サ˞リキシ ナー˥ヌ [ka˞ʤinu˥ ka˞raɸuki ʃi̥ta: ʔunnu˥pa:ra ˞na:m˥pa: ˞ba:˥ki mu:˞ru˥ sa˞riki̥ʃina:˥nu](雨の降らない台風が吹いたので、芋かずらから菜っ葉までみんな枯れきってしまった)。カ˞ラフキ シー˥ ス˞クリ˥ムノー サ˞リナー˥ヌ [ka˞raɸu̥ki ʃi:˥ su̥˞kuri˥muno: sa˞rina:˥nu](空吹き < 雨を伴わない台風 > して作物は総て枯れてしまった)。カ˞ラフキ スー˥カー ガ˞シヌ˥ クーン [ka˞raɸu̥ki su:˥ka: ga˞ʃinu˥ku:ŋ](雨を伴わない台風 < 空吹き > がくると飢饉がやってくる)。カ˞ラフキ スー˥カー ス˞クリ˥ムノー ムー˞ル˥ ア˞ガサリ シース [ka˞raɸu̥ki su:˥ka: su̥˞kuri˥muno: mu:˞ru˥ ʔa˞gasari ʃi:su](雨の伴わない台風が襲来する < 空吹きする > と作物は潮風で皆赤く枯れてしまう < 赤枯れする >)。

カ˞ラフチ [ka˞raɸutʃi] 【名】塩辛いものを好むこと。アˡマフチ [ʔamaɸutʃi](甘口。またその人) の対義語。「辛口」の義。サ˞クラフチ [sḁ˞kuraɸutʃi](塩辛味好み) ともいう。

カ˞ラ˥プニ [ka˞ra˥puni] 【名】 ¹痩せこけて骨と皮だけになった体格。カ˞ヌ˥ プ˞ソー ヨーガリティ˥ カ˞ラ˥プニ ナリ˞ベー [ka˞nu˥ pu̥˞so: jo:gariti˥ ka˞ra˥puni nari˞be:](あの人は痩せて骨と皮だけになっている)。²白骨。イ˞ラ˥カマイヌ フ˞ジマレー˥ナー カ˞ラスブル < サ˞リスブル > ン˥ カ˞ラ˥プニ < サ˞リプニ > ン ˞アッ˥タンテイ˞ダー [ʔi˞ra˥kamainu ɸu˞ʤiimare:˥na: ka˞rasuburu(sa˞risuburu)ŋ˥ ka˞ra˥puni(sa˞ripuni)ŋ ˞ʔat˥tanti˞da:](イラカマイのフジマレーには人のされこうべ < 髑髏 > も白骨もあったそうだよ)。

カ˞ラフン˥ツァ [ka˞raɸun˥tsa] 【名】敷物を敷いてない板床や板の縁。または竹で編んだままの床や縁。˞フン˥ツァ [˞ɸun˥tsa](床。縁) は「踏み板」の義。カ˞ラフンツァ˥ナ ビ˞ラソーラン˥ドーシ ˥ムスンノーン ノー˞ンヤラバン˥ シ˞キ オーシ [ka˞raɸuntsa˥na bi˞raso:ran˥do:ʃi ˥musunno:n no:˞ɲjarabaŋ˥ ʃi̥˞ki ʔo:ʃi](床に直に座らせ < 腰を掛けさせ > なさらないで、蓆でも何でもよいから敷いて差し上げなさいよ)。

カ˞ラマース [ka˞rama:su] 【名】健康祈願のため、真っ白な塩を盃に入れて山形に成形し、皿に移してお膳に並べ、床の間の˞コン˥ジン [˞kon˥ʤiŋ](根神) に供えたもの。「力塩 (健康祈願の塩)」の義。正月元旦に家族一同床の前にうち揃い、神前に礼拝をした後、家長から˥グシ [˥guʃi](神酒。御屠蘇の一種) を頂いて、さらに箸でカ˞ラマース (力塩) を摘んでもらい、頂戴する慣わしがある。訪問者もそれを頂いて一年中の健康と嘉例を付けてもらうのが慣わしである。˥グシーン ˥カミ カ˞ラマースン˥ カミバ [˥guʃi:ŋ ˥kami ka˞rama:suŋ˥ kamiba](お神酒も頂いて、力塩も頂戴しなさいよ)。

カ˞ラマースン [ka˞rama:suŋ] 【他動】牛耳る。追いたてる。意のままに操る。ウ˞ビ˥ヌ プ˞スヌ˥ カ˞リ タン˥ガン カ˞ラマーサ˥リティル シ˞グトー シェー˥ダー [ʔu˞bi˥nu pu̥˞sunu˥ ka˞ri taŋ˥gaŋ ka˞rama:sa˥ritiru ʃi˞guto: ʃe:˥da:](あれだけの人数の人が彼一人に牛耳られ、追い立てられて仕事をしたのだよ)。カ˞ラマーサヌ [ka˞rama:sanu](牛耳らない)。カ˞ラマーシ˥ プサン [ka˞rama:ʃi˥ pusaŋ](意のままに操りたい)。˞バン˥ヌン カ˞ラマースン [˞ban˥nuŋ ka˞rama:suŋ](私も牛耳る)。カ˞ラマース˥ クトー ナ˞ラ˥ヌ [ka˞rama:su˥ ku̥to: na˞ra˥nu](牛耳ることは出来ない)。カ˞ラマーシェー˥ ミサムヌ [ka˞rama:ʃe:˥ misamunu](牛耳ればよいのに)。カ˞ラマーシ [ka˞rama:ʃi](牛耳れ。意のままに操れ)。

カ˞ラマーリ [ka˞rama:ri] 【名】空転。空回り。エンジンの回転が推進力に転換されていない状態。キ˞カイ˥ヤー ナー˞イ˥ カ˞ラマーリ シーブー [ki̥˞kai˥ja: na:˞i˥ ka˞rama:ri ʃi:bu:](機械はただ空回りしている)。˥ドゥー ˞タンガ˥シ カ˞ラマーリ サンドー˥シ プ˞スン˥ タ˞ナ˥メーティ シ˞グトゥ シー˥バ [˥du: ˞taŋga˥ʃi ka˞rama:ri sando:˥ʃi pu̥˞sun˥ ta˞

na˺me:ti ʃi˹gutu ʃi:˺ba](自分ひとりで空回りしないで、他人も頼みながら仕事をしなさいよ)。

カ˹ラマ˺クン [ka˹rama˺kuŋ] 【他動】絡め巻く。巻きつける。カ˹ルマ˺クン [ka˹ruma˺kuŋ](巻き付ける)ともいう。˹ナー˺ヤ　˺パラーナ　カ˹ラマ˺キ　シ˹キ˺リ [˹na:˺ja ˺para:na ka˹rama˺ki ʃi̥˹ki˺ri](縄は柱に巻きつけておけ)。カ˹ラマ˺クンティ　˹スンドゥ˺　カ˹ラマカラ˺ヌ [ka˹rama˺kunti ˹sundu˺ ka˹ramakara˺nu](巻き付けようとするが、巻き付けられない)。カ˹ラマ˺ク　クトゥ [ka˹rama˺ku ˺ku̥tu](巻きつけること)。ク˹レー˺　カ˹ラマ˺ケー　˺ミサムヌ [ku˹re:˺ ka˹rama˺ke: ˺misamunu](これは巻き付ければよいのに)。˹パー˺ク　˹クン˺ナ　カ˹ラマ˺キ [˹pa:˺ku ˹kun˺na ka˹rama˺ki](早くこれに巻きつけよ)。

カ˹ラマ˺クン [ka˹rama˺kuŋ] 【自動】絡み付く。巻きつく。ピ˹バツン˺マー　˹グス˺クナー　カ˹ラマ˺キ　˹ベー [pi˹batum˺ma: ˹gusu̥˺kuna: ka˹rama˺ki ˹be:](ヒハツモドキは石垣に巻き付いている)。カ˹ラマカ˺ヌ [ka˹ramaka˺nu](巻き付かない)。カ˹ラマキン˺ギサン [ka˹ramakiŋ˺gisaŋ](巻き付きそうだ)。ピ˹バツン˺マー　˹グス˺クナ　カ˹ラマ˺クン [pi˹batsum˺ma: ˹gusu̥˺kuna: ka˹rama˺kuŋ](ヒハツモドキは石垣に巻き付く)。

カ˹ラマ˺ルン [ka˹rama˺ruŋ] 【自動】絡まる。巻きつく。からみつく。ス˹クイ˺ヌ　˹ブー˺ヤ　カ˹ジン˺トゥ˹バサリ˺カー　カ˹ラマ˺ルンダ　カ˹ラマラン˺ヨーニ　ウ˹スイ˺　シキ [su̥˹kui˺nu ˹bu:˺ja ka˹ʤin˺tu˹basari˺ka: ka˹rama˺runda ka˹ramaraŋ˺jo:ni ʔu˹sui˺ ʃi̥ki](おけ < 麻笥 > の麻糸は風に飛ばされると絡まるから、絡まらないように被せておけ)。カ˹ラマリヤッ˺サン [ka˹ramarijas˺saŋ](絡まりやすい)。カ˹ラマ˺ル　˺クトー　˹ナー˺ヌ [ka˹rama˺ru ˺ku̥to: ˹na:˺nu](絡まることはない)。

カ˹ラミ˺ルン [ka˹rami˺ruŋ] 【他動】**1**絡める。巻きつける。ク˹ヌ˺　イトー　イ˹トゥマ˺キナー　カ˹ラミル˺ナ < マ˹クナ >[ku˹nu˺ ʔito: ʔi˹tuma˺kina: ka˹ramiru˺na <ma˹kuna>](この糸は糸巻きに巻きつけるな)。ウ˹レー˺　カ˹ラミララ˺ヌ [ʔu˹re:˺ ka˹rami-rara˺nu](それは巻き付けられない)。˹クン˺ナー　カ˹ラミ˺ルン [˹kun˺na: ka˹rami˺ruŋ](これに巻きつける)。カ˹ラ˺ミ　˺シケー [ka˹ra˺mi ˺ʃike:](巻き付けておいてある)。カ˹ラミ˺ル　˺クトゥ [ka˹rami˺ru ˺ku̥tu](巻きつけること)。**2**縛る。捕らえる。ノー˹ン˺シー　˹シン　クンザー˺　カ˹ラミ˺レー　˺ミサムヌ [no:˹ŋ˺ʃi: ˹ʃiŋ kunʥa:˺ ka˹rami˺re: ˺misamunu](どうにかしてでも、こいつは捕らえればよいのに)。˺キューズーナ　カ˹ラミ˺リ [˺kju:ʥu:na ka˹rami˺ri](今日中に捕らえろ)。

カ˹ラムヌ [ka˹ramunu] 【名】空っぽのもの。空の容器。「からもの (空物)」の義。˹ンーナムヌ [˹ʔn:-namunu](空っぽのもの) ともいう。ク˹ヌ˺　パ˹コー˺　カ˹ラ˺ムヌ˹ダー˺　ノー˹ン　ペー˺リ　ブ˹ラーヌ [ku˹nu˺ pa˹ko:˺ ka˹ra˺munu˹da:˺ no:˹m pe:˺ri bu˹ra:nu](この箱は空っぽだよ。何も入っていない)。

カ˹ラ˺ムン [ka˹ra˺muŋ] 【他動】**1**絡める。巻きつける。˹クン˺ナ　カ˹ラ˺ムン [˹kun˺na ka˹ra˺muŋ](これに巻きつける)。ク˹レー˺　カ˹ラマラ˺ヌ [ku˹re:˺ ka˹ramara˺nu](これは巻かれない)。カ˹ラミヤッ˺サン [ka˹ramijas˺saŋ](巻き付けやすい)。カ˹ラ˺ム　˺ムノー　˺ヌーヤ [ka˹ra˺mu ˺muno: ˺nu:ja](巻きつけるものは何か)。カ˹ラ˺メー　ミサムヌ [ka˹ra˺me: ˺misamunu](巻きつけばよいのに)。˹クン˺ナ　カ˹ラ˺ミ [˹kun˺na ka˹ra˺mi](これに巻きつけろ)。**2**縛る。捕らえる。˹クンザー˺　カ˹ラ˺ミ　トゥ˹ラ˺シ [˹kunʥa:˺ ka˹ra˺mi tu˹ra˺ʃi](こいつは捕縛してやれ)。

カ˹ラ˺ムン [ka˹ra˺mun] 【自動】**1**からま (絡ま) る。˹ナー˺ヤ　˺ティーナ　カ˹ラ˺ムンダ　カ˹ラマン˺ヨーニ　タ˹ク˺ミバ [˹na:˺ja ˺ti:na ka˹ra˺munda ka˹ra-maŋ˺jo:ni ta˹ku˺miba](縄は手に絡まるから、絡まないように畳みなさい)。ク˹ヌ˺　イトー　カ˹ラミヤッサン [ku˹nu˺ ʔito: ka˹ramijas˺saŋ](この糸は絡まりやすい)。サ˹バナーヤ˺　カ˹ラ˺ム　˺クトー　˹ナー˺ヌ [sa˹bana:ja˺ ka˹ra˺mu ˺ku̥to: ˹na:˺nu](鱶釣り用の縄は絡むことはない < 豚の血で染めてあるから >)。**2**まといつく。ッ˹ふァン˺　カ˹ラマ˺リン [ffaŋ ka˹rama˺riŋ](子供にまといつかれる)。

カ˹ラヤン [ka˹rajaŋ] 【名】軽い病気。「軽病み」の義。˹ワー　ヤン˺マー　カ˹ラヤンドゥ˺　ヤ˹レー˺バン　˹ソーヤ　ナー˺ヌ [˹wa: jam˺ma: ka˹rajandu˺ ja˹re:˺ban ˹so:ja na:˺nu](君の病気は軽い病気であったよ。心配はないよ)。対語、ン˹ブヤン [ʔm˹bujaŋ](重病。大病)。

カ˹ラワザ [ka˹rawaʥa] 【名】曲芸。サーカス。˹軽業」の転訛したもの。ヤ˹ラ˺ベー　カ˹ラワザ˺ヌ　˺カタチニ　˹キー˺ヌ　パン˹ター˺マナ　˹ヌーリ˺　ア˹サビアーク˺ヌ　キ˹ムピラケー˺ヌナ˹ラン˺バン [ja˹ra˺be: ka˹rawaʥanu˺ kḁtatʃini ˹ki:˺nu pan˹ta:˺mana ˹nu:ri˺ ʔa˹sabiʔa:ku˺nu ki˹mupirake:˺nu na˹ram˺baŋ](子供は曲芸のように木のてっぺんに登って遊んでいるが、冷や冷やして < 肝を冷やして

＞たまらんよ)。

カ˞ランブシ [ka˞raʔmbuʃi] 【名】からむし (空蒸し)。水を入れないで蒸すこと。˞ドゥー˺ジル [˞du:˺ʤiru](食材に含まれる水分) だけで蒸し上げること。ク˞ヌ˺　イ˞ゾー˺　ビ˞トゥラー˺ンダ　˞トゥンナン˺パーバ　シ˞キティ˺　カ˞ランブシ　シー˺バ [ku˞nu˺ ʔi˞ʤo:˺ bi˞tu˺ra:nda ˞tunnam˺pa:ba ʃi̥˞kiti˺ ka˞raʔmbuʃi ʃi:˺ba](この魚は脂っこいからハルノノゲシの葉を敷いて空蒸しにしなさいよ＜せば＞)。

カ˞リ [ka˞ri] 【代】1あれ。彼。三人称代名詞。男女共にいう。人にも物にもつかう。「〜支見我弥不根可母加礼『万葉集　4045』」の義。カ˞リル˺　バー　˞ウシ˺トゥ [ka˞riru˺ ba: ˞ʔuʃi˺tu](あれ＜彼＞が私の弟です)。カ˞リヌ˺　ッ˞シェー˺　ワケー (パジェー)　˞ナー˺ヌ [ka˞rinu˺ ʃ˞ʃe:˺ wake:(paʤe:) ˞na:˺nu](彼が知っている訳＜はず＞がない)。カ˞レー˺　ッ˞サヌ [ka˞re:˺ s˞sanu](彼は知らない)。2指示代名詞 (遠称)。人、物に用いられる。参考。ク˞リ [ku˞ri](これ＜近称＞)、ウ˞リ [ʔu˞ri](それ＜中称＞)、カ˞リ [ka˞ri](あれ＜遠称＞)。カ˞リ˺　トゥリクー [ka˞ri˺ turiku:](あれを取ってこい)。カ˞リル˺　マ˞シ [ka˞riru˺ ma˞ʃi](あれ＜物＞がいい)。˞クン˺ドー　カ˞リル　ワッ˺サタ [˞kun˺do: ka˞riru was˺sata](今度はあれ＜彼＞が悪かった)。

カ˞リ [ka˞ri] 【名】負債。「借り」の義。ウ˞ヌ˺　プ˞ソーラ　ギューサ˺ヌ　カ˞リヌ˺　ア˞ル˺ワ [ʔu˞nu˺ pu̥ ˞so:ra gju:sa˺nu ka˞rinu˺ ʔa˞ru˺wa](その人から幾らの借りがあるのか)。

カ˞リザク [ka˞riʤaku] 【名】刈り入れ時。十分に熟して収穫に適した時。最適の借り入れ時期。ク˞ヌ　ター˺ヌ　˞マイヤー˺　カ˞リザク˺　ナ˞リ˺ブー [ku˞nu ta:˺nu ˞maija:˺ ka˞riʤaku˺ na˞ri˺bu:](この田圃の稲は完熟して借り入れ時になっている)。

カ˞リジー [ka˞riʤi:] 【名】借地。「借り地」の義。ク˞ヌ　ヤシ˺ケー　カ˞リジー　ヤッタンドゥ　カースンティ　ソーッ˺ター˞ベー˺ティ　˞カウタ˺ヨー [ku˞nu jaʃi˺ke: ka˞riʤi: jattandu ka:sunti so:t˺ta˞be:˺ti ˞kauta˺jo:](この屋敷は借地だったが、売る＜買わせる＞といわれたので買ったよ)。

カ˞リジブン [ka˞riʤibuŋ] 【名】刈り時分。刈り入れ時。収穫時期。˞マイヌ˺　カ˞リジブンマー　ユシ˺キダーラン　˞ウイバルンドゥ˺　パ˞ヤー [˞mainu˺ ka˞riʤibumma: juʃi̥˺kida:raŋ ˞ʔuibarundu˺ pa˞ja:](稲の刈り入れ時期はヨシキダー地区よりも上原地区が早い)。

カ˞リダカ [ka˞ridaka] 【名】収穫高。稲、粟などの穀物の刈り取高。ン˞ジダ˺カ [ʔn˞ʤida˺ka](実入り高。精米した時の穀物の出来高) ともいう。ク˞トゥシヌ　マイヌ˺　カ˞リダカー　ギュー˺サブカラ　˞アッ˺タカヤー [ku̥˞tuʃinu mainu˺ ka˞ridaka: gju:˺sabukara ˞ʔat˺takaja:](今年の米の収穫＜刈り高＞はどれほど＜いくらぐらい＞あったかね)。

ガ˞リピカリ [ga˞ripikari] 【名】明るく光り輝いているさま。浩浩と明るいさま。すっかり明るくなっているさま。˺ティダー　ガ˞リピカリ　シーベー [˺tida: ga˞ripikari ʃi:be:](太陽は浩浩と照り輝いている)。

カ˞リプス [ka˞ripusu] 【名】借り手。借りる人。˺ヤー　カ˞リプソー˺　ター˞ン˺　ブ˞ラーヌ [˺ja: ka˞ripuso:˺ ta:˞m˺ bu˞ra:nu](家を借りる人＜借り手＞は誰もいない)。

カ˞リムヌ [ka˞rimunu] 【名】借り物。ク˞ヌ　ドン˺ゴー　カ˞リムヌ˺　ヤ˞リバ˺　ミス˞コーミスコー˺シ　˞アシゥカイ˺ヨー [ku˞nu doŋ˺go: ka˞rimunu˺ ja˞riba˺ misu̥˞ko:misu̥ko:˺ʃi ˞ʔasi̥kai˺jo:](この道具は借り物だから気をつけて丁寧に扱えよ)。

カ˞リヤー [ka˞rija:] 【名】借家。「借り家」の義。ク˞ヌ˺　トゥシ　˺ナルンケン　˞ヤー˺ユン　ス˞クリユーサ˺ナ　マ˞ナマー˺キ　カ˞リヤー˺ナール　˞ブー˺ダー [ku˞nu˺ tuʃi ˺naruŋkeŋ ˞ja:˺jun su̥˞kuriju:sa˺na ma˞nama:˺ki ka˞rija:˺na:ru ˞bu:˺da:](この年になるまで家をも造りえないで、今まで借家にいるんだよ)。

ガ˞リユーナー [ga˞riju:na:] 【連】照り輝き合い。明るく輝くさま。歌謡語。ガ˞ルン [ga˞ruŋ](明る。照る。照り輝く) の連用形に動作の継続を表す接尾辞˞ユーナー [˞ju:na:](〜し合う) が下接した形。˞ヤー˺　シ˞キ˺ヌ　カ˞タ˺　ミ˞リ˺バ　ガ˞リユーナードゥ　シーユール [˞ja:˺ ʃi̥˞ki˺nu kḁ˞ta˺ mi˞ri˺ba ga˞riju:na:du ʃi:ju:ru](ああ、月の絵＜形＞を見ると、明るく照り輝き合っている)(アーパーレー歌)。

カ˞リユ˺シ [ka˞rijuʃi] 【名】航海安全。海上平安。伝統的に「嘉例吉」で表記されている。˞カンヌ˺マイ　˞ニンガイシキリ˺バ　ウ˞キナー˺タビ　カ˞リユ˺シ　˞シー　オー˺リバ˞ヨー [˞kannu˺mai ˞niŋgaiʃi̥kiri˺ba ʔu˞kina:˺tabi ka˞riju˺ʃi ˞ʃi:ʔo:˺riba˞jo:](神様にお祈りしますから沖縄への旅は航海安全、海上平安の嘉例でいらっしゃって下さい)。カ˞リユシ˺ヌ　タ˞ビ　ソー˺リ˞ヨー [ka˞rijuʃi˺nu ta˞bi so:˺ri˞jo:](航海安全、一路平安の旅をしてくださいね)。

ガ˞リンガタ [ga˞riŋgata] 【名】明け方。夜明け方。ガ˞リンガタ　カンナール˺ヌ　˞ナーリティ　ウーアミヌ　フー˺タン [ga˞riŋgata kanna:ru˺nu ˞na:riti ʔu:ʔaminu ɸu:˺taŋ](明け方に雷が鳴って大雨が降った)。

カ˞リン˺クリン [ka˞riŋ˺kuriŋ] 【連】あれもこれも。あれやこれや。あれこれ。ソンガチ˞バー˺キナー　カ˞リン˺クリン　˞サン˺カー　ナ˞ラン˺ムヌ　アン˞サー [˺soŋgatʃi˞ba:˺kina: ka˞riŋ˺kurin ˞saŋ˺ka: na˞ram˺munu ʔan˞sa:](正月までには、あれもこれもしなければならないのがあるよ)。カ˞リン˺クリン　ス˞ロー˺シ　˺シキ [ka˞riŋ˺kurin su˞ro:˺ʃi ˺ʃi̥ki](あれもこれも揃えておけ)。

ガ˞ル [ga˞ru] 【名】あかり (明かり)。灯火。明るい所。˞トゥール˺ヌ　ガ˞ルヌ˺　ミ˞ラ˺リン [˞tu:ru˺nu ga˞runu ˺mi˞ra˺riŋ](ランプ＜灯籠＞の明かりが見える)。パ˞トゥ˺マナー　˞デンキ˺ヌ　シゥ˞カリ˺ター　パ˞トゥマ˺ヌ　˞ヤー˺ヌ　ガ˞ロー　ウイバロー˺ラン　フ˞ノー˺ララン　ミ˞ラ˺リン [pḁ˞tu˺mana: ˞deŋki˺nu si̥˞kari˺ta: pḁ˞tuma˺nu ˞ja:˺nu ga˞ro: ʔuibaro:˺raŋ ɸu˞no:˺raram mi˞ra˺riŋ](鳩間島に電気が点けられたので鳩間の家の明かりは上原からも、船浦からも見える＜見られる＞)。ッ˞ふァーン˺　トンナー　ブ˞ラーンドー˺シ　ガ˞ロー˺　ン˞ジ˺リ [f˞fa:n˺ tonna: bu˞ra:ndo:˺ʃi ga˞ro:˺ ʔn˞ʤi˺ri](暗がり＜暗い所＞にいないで明るい所に出なさい)。

˺ガル [˺garu] 【名】鉤(カギ)。銛(モリ)の先端部にある返し針のような曲がった鉤。˞ガッ˺ク [˞gak˺ku](吊り下げ用の大きな鉤。自在鉤) は物を掛けておくのに用いる大きな鉤。˺ガルユクン [˺garujukuŋ](先端に鉤のある銛。蛸を漁獲する際に用いる銛)。ガ˞ル˺ヌ　˞ナー˺ン　˞シー˺シェー˺　イ˞ゾー　ホーサラ˺ヌ　˞パンチ　パリ˺ス [ga˞ru˺nu ˞na:˺ŋ ˞ʃi:˺ʃe: ʔi˞ʤo: ho:sara˺nu ˞pantʃi pari˺su](鉤のない釣り針＜返し針のない釣り針＞では魚は釣れない。はずれて逃げていってしまう)。

˺カルイ [˺karui] 【名】嘉例。吉例。幸運。めでたいこと。神のご加護。縁起のよいこと。˞ヨイ˺グトー　カ˞ルイ˺ヌ　˺アルヨーニル　˞スー˺ダー [˞joi˺guto: ka˞rui˺nu ˺ʔarujo:niru ˞su:˺da:](祝い事はめでたい嘉例があるようにするものだ)。˺グシェー　˺カミティ　˺カルイ　シ˞キ˺リ [˺guʃe: ˺kamiti ˺karui ʃi̥˞ki˺ri](神前に供えた神酒をおし頂いて、めでたいこと＜幸運＞がありますよう嘉例をつけなさい)。カ˞ルイ˺ヌ　プ˞ス˺　タ˞ナ˺ミバ [ka˞rui˺nu pu̥˞su˺ ta˞na˺miba](媒酌人＜肖るべき富貴万福の人。子孫繁盛の人を仲人＞を頼みなさいよ)。イッ˞ケナ˺　カ˞ルイ　˺スクン [ʔik˞kena˺ ka˞rui ˺su̥kuŋ](非常に幸運に恵まれる＜非常に幸運がつく＞)。幸運。縁起の良いこと。「嘉例」と表記される。

˺カルイ　˞オー˺ルン [˺karui ˞ʔo:ru˺ŋ] 【連】嘉例をつけておられる。ご加護なさっておられる。˞カンヌマイ˺ヤー　˞ヤーニンズー˺ヌ　˺ドゥーパダ　˞キンコー˺　カルイ　˞オー˺ルン [˞kannumai˺ja: ˞ja:nindʑu: ˺nu ˺du:pada ˞kiŋko:˺ karui ˞ʔo:˺ruŋ](神様は家族の健康を加護しておられる)。

カ˞ルイ˺シゥクン [ka˞rui˺sïkuŋ] 【他動】幸運が付くよう祈願する。守護するよう祈る。吉例が付くよう祈る。「嘉例をつける」の義。˞ヤーニンズー˺ヌ　˺ドゥーパダ　˞キンコーユ˺　ニガイ　カ˞ルイシキル˺バ　˺ドゥーゾーニ　˞シー　ギーバリ˺　クーバ˞ヨー [˞ja:nindʑu:˺nu ˺du:pada ˞kiŋko:ju˺ nigai ka˞ruiʃi̥kiru˺ba ˺du:dʑo:ni ˞ʃi: gi:bari˺ ku:ba˞jo:](家族皆の体＜胴肌＞の健康を祈願し、嘉例＜長寿延命の幸運＞を付ける祈願をするから、健康＜胴強く＞で頑張って＜気張って＞きなさいね)。

˺カルイ　シ˞キ˺ルン [˺karui ʃi̥˞ki˺ruŋ] 【連】嘉例をつける。幸運を授ける祈願をする。「嘉齢をつける」(長寿延命の幸運を授けるよう祈願する) の転訛したもの。˞カンヌマイ˺ヌ　˺グシ　˺カミティ　˺カルイ　シ˞キ˺ルンティ　˞ベー [˞kannumai˺nu ˺guʃi ˺kamiti ˺karui ʃi̥˞ki˺runti ˞be:](神前に供えた神酒を頂いて嘉例をつけよう＜幸運・長寿を頂こう＞としている)。

˺カルイ　タ˞ボー˺ルン [˺karui ta˞bo:˺ruŋ] 【連】嘉例を賜る。幸運を賜る。目出度いことを賜る。ご加護賜る。˞カンヌマイ˺ヌ　˺カルイ　タ˞ボー˺ルンダノー˞ン　ソーヤ　ナー˺ヌ [˞kannumai˺nu ˺karui ta˞bo:˺runda no:˞n so:ja na:˺nu](神様がご加護なさって幸運を賜るから、何も心配はない)。

カ˞ルイ˺ヌ　˺グシ [ka˞rui˺nu ˺guʃi] 【連】嘉例の神酒。神の加護を賜る神酒。長寿者に肖る神酒。御流れの神酒。カ˞ルイ˺ヌ　˺グシ　オッ˞ティ˺　カ˞ミ˺リ [ka˞rui˺nu ˺guʃi ʔot˞ti˺ ka˞mi˺ri](神のご加護の神酒をかしこまって＜畏まって。うやうやしく＞頂戴しなさい)。

カ˞ルイマー˺スン [ka˞ruima:˺suŋ] 【他動】背負って歩き回る。マ˞ブ˺ルクミ [ma˞bu˺rukumi](魂籠め) の呪文などで、ピ˞キマーシ˺　カ˞ルイマー˺シのように対句的に用いられる。「Carui,u,uta　カルイ、ウ、

ウタ (かるひ、ふ、うた)　物を背負う. 下の語. 上 (Cami) では Voi(負ひ、ふ) と言う」『邦訳日葡辞書』の転訛した語。

カ˞ルイ˜ルン [ka˞rui˜ruŋ] 【他動】幸運を祈る。守護する。嘉例を祈る。吉例を祈る。˜ドゥーパダヌ　˞キンコートゥ˜　ス˞クサイユ˜　カ˞ルイ˜ル˞ダー [˜du:padanu ˜kiŋko:tu˜ sụ˞kusaiju˜ ka˞rui˜ru˞da:](体 < 胴肌 > の健康と息災を祈るのだよ)。カ˞ルイラ˜ヌ [ka˞ruira˜nu](健康を祈らない)。カルイッ˞ふォー˜リ [karuif˞fo:˜ri](健康を祈ってください)。カ˞ルイ˜ルンティ　˜ウムーカー　カ˞ルイ˜リ [ka˞rui˜runti ˜ʔumu:ka: ka˞rui˜ri](嘉例を祈ろうと思うなら祈れ)。カ˞ルイ˜ヤー　˜ミサムヌ [ka˞rui˜ja: misamunu](嘉例を祈ればよいのに)。

ガ˞ルマ˜キ [ga˞ruma˜ki] 【他動】勤める。仕える。勤務する。歌謡語。ガ˞ルマ˜シと表記されている『鳩間島古典民謡古謡集』は、首里方言の garamicuN(奉仕する。勤める) の転訛したものであろう。「がらめき　勤め営む事也」『混効験集』とある。/イヤイーヤ　ウスーメーデー　ガルマシ　ウラリティ　ウヤクチョーデー　トゥジックゥ　ヤシナティ～/(いやいや < 弥々 > 囃子。国王様の公務を勤めることが出来て、親子兄弟、妻子を養って～) 鳩間口説節。

カ˞ルマ˜クン [ka˞ruma˜kuŋ] 【他動】巻き付ける。絡める。カ˞ラマ˜クン [ka˞rama˜kuŋ](巻き付ける) ともいう。˜イトー　タ˞キ˜ナ　カ˞ルマ˜クンティ　˞スンドゥ˜　カ˞ルマカラ˜ヌ [˜ʔito: tạ˞ki˜na ka˞ruma ˜kunti ˞sundu˜ ka˞rumakara˜nu](糸は竹に巻きつけようとするが、巻きつけられない)。カ˞ルマ˜キ　˜ミサカー　カ˞ルマ˜ク　˜クトー　˜ナルン [ka˞ruma ˜ki ˜misaka: ka˞ruma˜ku ˜kụto: ˜naruŋ](巻き付けて良ければ巻き付けることは出来る)。カ˞ルマ˜ケー　˜ミサムヌ [ka˞ruma˜ke: ˜misamunu](巻き付ければ良いのに)。ムー˞ル˜　カ˞ルマ˜キ [mu:˞ru˜ ka˞ruma˜ki](全部巻き付けよ)。

カ˞ル˜ムン [ka˞ru˜muŋ] 【他動】軽くする。軽く扱う。˞グッ˜ふァカー　ン˞ベーマ < ン˞メーマ >　カ˞ルミ˜リバ [˞guf˜faka: ʔmbe:ma: < ʔmme:ma: > ka˞rumi˜riba](重かったら、少し軽くしなさい < 軽めなさい > よ)。カ˞ルミ˜ルンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　カ˞ルミララ˜ヌ [ka˞rumi˜runti ʔu˞mu:n˜du ka˞rumirara ˜nu](軽くしようと思うが、軽められない)。ン˞メーマ˜　カ˞ル˜ミ　˜ミサカー　カ˞ルミ˜ル　˜クトー　˜ナルン [ʔm˞me:ma˜ ka˞ru˜mi ˜misaka: ka˞rumi˜ru ˜kụto: ˜naruŋ](少し軽くして < 軽めて > 良ければ軽くする < 軽める > ことは出来る)。ン˞ベーマ˜　カ˞ル˜メー < カ˞ルミリ˜バ >　˜ミサムヌ [ʔm˞be:ma ˜ ka˞ru˜me: < ka˞rumiri˜ba > ˜misamunu](少し軽くすれ < 軽めれ > ば良いのに)。

˜ガルユクン [˜garujukuŋ] 【名】鉤のある銛。鉤のあるやす (籍(ヤス)・褶(ヤス))。主として˜タク [˜tạku](蛸) を獲るのに用いる。穴の中にいるフ˞クラ˜ベー [ɸụ˞kura˜be:](タスキモンガラ) や˜ウジ [˜ʔuʤi](ウツボ) などは、この銛で漁獲した。˜ガルユクンシ　˜タク　シ˞キ˜バ [˜garujukuŋʃi ˜tạku ʃị˞ki˜ba](鉤のある銛で蛸を突きなさいよ)。

カ˞ルン [ka˞ruŋ] 【他動】借りる。金銭や穀物類を借り、それと同額、同質、同量のものを返済する際に用いる。家や土地などの不動産を有償、無償の条件で借りる際にも用いる。˜クーン [˜ku:ŋ](貰う。乞う) とは意味が異なり、石垣方言のような使い分けはない。˜ウヤーラ　˜ジン　カ˞ルン [˜ʔuja:ra ˜ʤiŋ ka˞ruŋ](親からお金を借りる)。˞ジン˜マー　カ˞ララヌ [˞ʤim˜ma: ka˞raranu](お金は借りられない)。˜ジン　カ˞リ˜プサンドゥ　カ˞ラシ˜　ッ˞ふォー˜ルンカヤー [˜ʤiŋ ka˞ri˜pụsandu ka˞raʃi˜ f˞fo:˜ruŋkaja:](お金を借りたいが貸して下さるかな)。˞ジン˜マー　カ˞ル˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [˞ʤim˜ma: ka˞ru˜kụto: na˞ra ˜nu](お金は借りてはならない)。ン˞メーマ˜　カ˞レー˜　ミサムヌ [ʔm˞me:ma˜ ka˞re:˜ misamunu](少しは借りればよいのに)。ヤー˞ディン˜　カ˞リ˜バ [ja:˞diŋ˜ ka˞ri˜ba](必ず借れよ)。

カ˞ルン [ka˞ruŋ] 【他動】刈る。˞アー˜ヤー　˞マイ˜　カ˞ルンティル　オー˜ル [˞ʔa:˜ja: ˞mai˜ ka˞runitiru ʔo:˜ru](お父さんは稲 < 米 > を刈ろうとしておられる)。ア˞ミ˜ヌ　˜フーカー　˞マイヤ˜　カ˞ラヌ [ʔa˞mi˜nu ˜ɸu:ka: ˞maija˜ ka˞ranu](雨が降ったら稲は刈らない)。˞フー˜タンティン　カ˞リ˜プサン [˞ɸu:˜tantiŋ ka˞ri˜pụsaŋ](< 雨が > 降っても刈りたい)。˞マイ˜　カ˞ル˜　プソー　˞オーシキ˜　ミリ [˞mai˜ ka˞ru˜ pụso: ˞ʔo:ʃị˞ki˜ miri](稲 < 米 > を刈るときは天気を見ろ)。˞キュー˜ヤ　カ˞レー˜　ミサムヌ [˞kju:˜ja ka ˞re:˜ misamunu](今日は < 稲を > 刈ればよいのに)。˜ウベー　˞ワー　タンガ˜シ　カ˞リ˜バ [˜ʔube: ˞wa: taŋga˜ʃi ka˞ri˜ba](これだけは君一人で刈れよ)。

ガ˞ルン [ga˞ruŋ] 【自動】1明るくなる。光り輝く。˞デン˜ケー　イッ˞ケン˜　ガ˞ルン [˞deŋ˜ke: ʔik˞keŋ˜ ga ˞ruŋ](電灯は非常に明るく輝く)。ク˞ヌ　トゥー˜ロー　イッ˞ケナ˜　ガ˞ルン [ku˞nu tu:˜ro: ʔik˞kena˜ ga

˞ruŋ](このランプ＜灯籠＞は非常によく輝く＜明るい＞)。˞ナン˥ゾー　ガ˞ラヌ [˞nan˥ʤo: ga˞ranu](あまり輝かない＜明るくない＞)。ガ˞リ˥　ピ˞カ˥リ　˞ベー [ga˞ri˥ pi̥˞ka˥ri ˞be:](明るく輝いている)。カ˞レー˥ラン　ク˞リル˥　ガ˞リダー [ka˞re:˥raŋ ku˞riru˥ ga˞rida:](あれよりもこれがより明るく輝く)。ティ˞ダ˥ヌ　˥ブカラ　ガ˞リ˥バ [ti˞da˥nu ˥bukara ga˞ri˥ba](太陽くらいに輝け＜明るくなれ＞)。ク˞ヌトゥー˥ロー　˥ユー　ガ˞ルン˥サ˞ナー [ku˞nu tu:˥ro:˥ju: ga˞run˥sa˞na:](このランプ＜灯篭＞は、よく光り輝くよねえ)。2明ける。夜が明ける。˞ユー˥ヤ　ガ˞レーント ダー　˞パー˥ク　ウ˞キ˥リ [˞ju:˥ja ga˞re:nt̚da: ˞pa:˥ku ʔu˞ki˥ri](夜は明けたぞ。早く起きなさい＜起きれ＞)。˥マー　ン˞ベーマ˥　スカー　˞ユー˥ワ　ガ˞ルン [˥ma: ʔm˞be:ma˥ suka: ˞ju:˥wa ga˞ruŋ](もう少ししたら夜が明ける)。マ˞ダ˥　ガ˞ラヌ [ma˞da˥ ga˞ranu](まだ夜が明けない)。キ˞サーティ˥　ガ˞リ　ナー˥ヌ＜ガレーン＞[ki̥˞sa:ti˥ ga˞ri na:˥nu ＜gare:ŋ＞](既に夜が明けてしまった)。˞オーパ˥ヤー　ガ˞ル˥　クトー　˞ナー˥ヌ [˞ʔo:pa˥ja: ga˞ru˥ ku̥to: ˞na:˥nu](そんなに早く夜が明けることはない)。˞パー˥ク　˞ユー˥ワ　ガ˞レー˥　ミサムヌ [˞pa:˥ku ˞ju:˥wa ga˞re:˥ misamunu](早く夜が明けたらいいのに)。

カ˞ルンガキララヌ [ka˞ruŋgakiraranu] 【他動】抱きかかえて制止できいない。カ˞ルンガキルン [ka˞ruŋgakiruŋ](抱きかかえて制止する) の未然形。ヤ˞ラ˥ベー　マー˞ンベーマ˥　フ˞ドゥブ˥カー　ブ˞ネー˥シェーカ˞ルンガキララン˥　パジ˞ダー [ja˞ra˥be: ma:˞mbe:ma˥ ɸu˞dubu˥ka: bu˞ne:˥ʃe: ka˞ruŋgakiraram˥ paʤi˞da:](子供は、もう少し成長すると母親では抱きかかえて制止することが出来なくなるはずだよ)。

カ˞ルンジルン [ka˞runʤiruŋ] 【他動】軽んじる。軽くあしらう。ないがしろにする。ウ˞ヤ˥バ　カ˞ルンジルンティ　アー˥キ　˥ドゥーン　ッ˞ふァン˥　カ˞ルンジラリ　アー˥クンティ [ʔu˞ja˥ba ka˞runʤirunti ʔa:˥ki ˥du:ŋ f˞faŋ˥ ka˞runʤirari ʔa:˥kunti](親を軽んじ、粗略に扱おうとして、自分も己の子に粗略に扱われているさ)。カ˞ルンジララヌ [ka˞runʤiraranu](軽んじられない)。カ˞ルンジヤッ˥サン [ka˞runʤijas˥saŋ](軽んじやすい)。カ˞ルンジル˥　クトー　ナ˞ラ˥ヌ [ka˞runʤiru˥ ku̥to: na˞ra˥nu](軽んじることは出来ない)。カ˞ルンジレー˥　ミサムヌ [ka˞runʤire:˥ misamunu](軽んじればよいのに)。カ˞ルンジリ [ka˞runʤiri](軽んじろ)。

カ˞ルンズン [ka˞runʤuŋ] 【他動】軽んず。軽く扱う。粗略に扱う。ないがしろにする。見下げる。プ˞スバ˥　カ˞ルンズンティ　アー˥キ　プ˞スン˥　カ˞ルンザリ　ベーン˥ティ [pu̥˞suba˥ ka˞runʤunti ʔa:˥ki pu̥˞suŋ˥ ka˞runʤari be:n˥ti](他人を軽く扱おうとして、却って他人に軽くあしらわれているさ、ほらごらんよ)。

カ˞レー [ka˞re:] 【連】1あの人は。彼は。あれは。代名詞、カ˞リ [ka˞ri](あれ。彼。あの人) に係助詞-ヤ [-ja](は。とりたて強調) が下接して、[kari](あれ)+ [ja](は)→ [kare:](あれは。彼は) のように音韻変化した形。カ˞レー　ター˥ヤ [ka˞re: ta:˥ja](あの人＜あれ。彼＞は誰か)。カ˞レー˥　バー　˞ウシ˥トゥ [ka˞re:˥ ba: ˞ʔuʃi̥˥tu](彼＜あれ＞は私の弟＜だ＞)。カ˞レー　ター˥ヤ [ka˞re: ta:˥ja](彼は誰か)。カ˞レー˥　バー　˥シザ [ka˞re:˥ ba: ˥ʃiʤa](彼は私の兄です)。2あれ。指示代名詞。ク˞レー˥　プサンドゥ　カ˞レー˥　プサ　˞ナー˥ヌ [ku˞re:˥ pu̥sandu ka˞re:˥ pu̥sa ˞na:˥nu](これは欲しいが、あれは欲しくない)。

カ˞ローカロー˥シ [ka˞ro:karo:˥ʃi] 【副】軽々と。軽く。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　イダフニユン　カ˞ローカロー˥シ　ムタウン˞ダー [ku˞nu˥ f˞fa:˥ ʔidaɸunijuŋ ka˞ro:karo:˥ʃi mutaun˞da:](この子は、サバニをも軽々と持ち上げるよ)。

カロー˞カロー˥シ [karo:˞karo:˥ʃi] 【副】軽々と。軽く。老年層は、カラー˞カラー˥シ [kara:˞kara:˥ʃi](軽々と) ともいう。˥アイニ　˞グッ˥ふァ　˥ムヌバ　カロー˞カロー˥シ　カ˞タ˥ミ　パル˞ツォー [˥ʔaini ˞guf˥fa munuba karo:˞karo:˥ʃi ka˞ta˥mi paru˞tso:](あんなに重いものを軽がると担いで行くんだよ)。

カ˞ロー˥ン [ka˞ro:˥ŋ] 【形】軽い。˞ナン˥ゾー　カ˞ローナー˥ヌ [˞nan˥ʤo: ka˞ro:na:˥nu](それほど軽くない)。カ˞ロー˥ヌ　ム˞ティングリサ˥ルバン [ka˞ro:˥nu mu˞tiŋgurisa˥rubaŋ](軽くて持ちにくいわい)。˞ヨーガルター˥　カ˞ロー˥　ナリ˞ナー˥ヌ [˞jo:garu-ta:˥ ka˞ro:˥ nari˞na:˥nu](痩せたので軽くなってしまった)。ク˞リン˥　カ˞ロー˥ン [ku˞riŋ˥ ka˞ro:˥ŋ](これも軽い)。カ˞ロー˥　ムノー　˥トゥリ　シ˞ティリ [ka˞ro:˥ muno: turi ʃi̥˞tiri](軽いものは取って捨てろ)。カ˞ロー˥カー　カ˞タマ˥リン [ka˞ro:˥ka: kḁ˞tama˥riŋ](軽かったら担ぐことができる＜担がれる＞)。軽い。ウ˞レー　ヨーガリ　ブンダ˥　カ˞ローン˥ミー [ʔu˞re: jo:garibunda˥ ka˞ro:m˥mi:](彼は痩せているから軽いだろうね)。アー˞イ˥　カ˞ロー　ナー˥

ヌ [ʔa:˹ji˺ ka˹ro: na:˺nu](いや、軽くない)。˹シンダイ˺　カ˹ロー˺　ナルン [˹ʃindai˺ ka˹ro:˺ naruŋ](次第に軽くなる)。˺ドゥク　カ˹ロー˺ヌ　シゥ˹カーラヌ [˺duku ka˹ro:˺nu sï̥˹ka:ranu](あまりにも軽くて使えない)。カ˹ロー˺　ムノー　ヌ˹カ˺シ [ka˹ro:˺ muno: nu˹ka˺ʃi](軽いものは残せ)。カ˹ロー˺カー　シ˹ティリ [ka˹ro:˺ka: ʃi̥˹tiri](軽かったら捨てろ)。

ガ˹ロー˺ン [ga˹ro:˺ŋ] 【形】明るい。光が十分にさしこんであかるい。ッ˹ふァーン˺　トンナー　ユ˹マン˺ドーシ　ガ˹ローン˺　トンナーティ　˺ユミバ [f˹fa:n ˺tonna: ju˹man˺do:ʃi ga˹ro:n˺tonna:ti ˺jumiba](暗い所で読まないで、明るいところで読みなさいよ)。ク˹ヌ　トゥー˺ロー　イッ˹ケナ˺　ガ˹ロー˺ン [ku˹nu tu:˺ro: ʔik˹kena˺ ga˹ro:˺ŋ](このランプ＜灯篭＞は非常に明るい)。ゴ˹ブ˺ランポー　˹ナン˺ゾー　ガ˹ローナー˺ヌ＜ガ˹ラヌ＞[bo˹bu˺rampo: ˹nan˺ʥo: ga˹ro:na:˺nu ＜ga˹ranu＞](五分ランプはあまり明るくない)。ガ˹ロー˺　ランプ　シ˹キ˺リバ [ga˹ro:˺ rampu ʃi̥˹ki˺riba](明るいランプを点けなさい)。˹ズングヤー˺ヌ　˺シケー　イッ˹ケン˺　ガ˹ロー˺ン [˹ʥuŋguja:˺nu ˺ʃi̥ke: ʔik˹keŋ˺ ga˹ro:˺ŋ](十五夜の月は非常に明るい)。

カ˹ワスン [ka˹wasuŋ] 【他動】変える。変化させる。˺ムネー＜ムニイジョー＞　カ˹ワスンティ˺　ウ˹ムーン˺ドゥ　ヤ˹シーヤシー˺　カ˹ワサラヌ [˺mune: ＜muniiʤo:＞ ka˹wasunti˺ ʔu˹mu:n˺du ja˹ʃi:jaʃi:˺ ka˹wasaranu](言葉遣いを変えよう＜表現を変えよう＞と思うが、容易くは変えられない)。ム˹ニ˺バ　カ˹ワシ˺　パ˹ナ˺シ　˹ベー [mu˹ni˺ba ka˹waʃi˺ pa˹na˺ʃi ˹be:](言葉遣いを変えて＜表現を変えて＞話している)。カ˹ワス˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [ka˹wasu˺ ku̥to: na˹ra˺nu](変えることは出来ない)。カ˹ワシェー˺　ミ˹サムヌ [ka˹waʃe:˺ misamunu](変えればいいのに)。カ˹ワシ˺バ [ka˹waʃi˺ba](変えろよ)。/〜ナマヌ　ヒキバヤ　ウタユ　カワシバ/(〜今の引き羽は歌を変えろよ)「鳩間口説」『鳩間島古典民謡古謡集』。

カ˹ワッタ˺　クトゥ [ka˹watta˺ ku̥tu] 【連】変わったこと。珍妙なこと。珍しいこと。ミ˹ジラ˺サ　カ˹ワッタ˺　ク˹トゥ˺バ　˹シー˺　シケーティバン˹ナー˺　ク˹ヌ˺　ッ˹ふァー [mi˹ʤira˺sa ka˹watta˺ ku̥˹tu˺ba ˺ʃi:˺ʃi̥ke:tiban˹na:˺ ku˹nu˺ f˹fa:](珍しく変わったことをしでかしてあるそうだなあ、この子は)。

˺カン [˺kaŋ] 【名】勘。直感。˹カントーリ˺ムヌ [˹kanto:ri˺munu](耄碌したひと＜勘倒れ者＞)。˹カンヨー˺ルン [˹kaɲ jo:˺ruŋ](直感力がにぶる。判断力が鈍る＜痴呆になりかける＞)。˺アブジェー　˺トゥシ　トゥ˹ローッ˺ター　˹カンヨー˺リ　˹ソー˺リ　˹ナー˺ヌ [˺ʔabuʤe: ˺tu̥ʃi tu˹ro:t˺ta: ˹kaɲjo:˺ri ˹so:˺ri ˹na:˺nu](おじいさんは年をとられたので判断力が弱くなってしまわれた＜痴呆が始まった＞)。˹カン˺　トゥルン [˹kan˺ turuŋ](感得する。直感的に理解する)。˹カントゥリ˺　パ˹ヤー˺ン [˹kanturi˺ pa˹ja:˺ŋ](感得するのが早い。理解・会得するのが早い)。

˺カン [˺kaŋ] 【名】乾燥。˹ザイ˺ゲー　˹キー˺ヤーナー　˹サン˺ニンブカラ　˺カン　シ˹ミティル˺　シゥ˹カーリ˺ダー [˹ʥai˺ge: ˹ki:ja:˺na: ˹san˺nimbukara ˺kaŋ ʃi˹mitiru˺ sï̥˹ka:ri˺da:](材木は木小屋に三年ばかり乾燥させてから使えるのだ)。˹スー˺カン [˹su:˺kaŋ](潮乾。材木を干潮時の浜の中に埋めて海水に浸け、白蟻対策を講ずること)。

˺カン [˺kaŋ] 【名】寒。寒さ。寒気。˹ダイ˺カン [˹dai˺kaŋ](大寒。非常に寒いこと。二十四節気の一つ。太陽暦の1月21日頃)。˹ショー˺カン [˹ʃo:˺kaŋ](小寒。二十四節気の一つ。太陽暦の1月5日頃)。ク˹トゥシェー　カン˺ヌ　˹スーワ˺ヌ　˹ターシグ˺トー　ク˹バリンギサ˺ル [ku̥˹tuʃe: kan˺nu ˹su:wa˺nu ˹ta:ʃigu˺to: ku˹bariŋgisa˺ru](今年は寒気が強くて田仕事は凍えそうだ)。

˺カン [˺kaŋ] 【名】神。普通は接尾語ガ˹ナ˺シ [ga˹na˺ʃi](様)、˹ヌ˺マイ [˹nu˺mai](の御前) をつけて、カンガ˹ナ˺シ [kaŋga˹na˺ʃi](神様)、˹カンヌ˺マイ [˹kannu˺mai](神の御前) という。神は、「〜大夫爾　認有神曾〜(ますらおに　つきたる神ぞ)『万葉集　406』」の義。姿が見えず、威力を持ち、人に取り付き神がかりし、海、山、川、森、草、木、家、屋敷、道など森羅万象を領有し鎮座して人々に威力をふるい、雨や風をつかさどるものと信じられている。˹カンシラ˺シ [˹kaŋʃira˺ʃi](神の知らせ＜神のお告げ＞)。˹リューグー˺ヌカン [˹rju:gu:˺nu ˺kaŋ](竜宮の神)、ヤ˹マ˺ヌ　˺カン [ja˹ma˺nu ˺kaŋ](山の神)、˹ヤシキ˺ヌ　˺カン [˹jaʃi̥ki˺nu ˺kaŋ](屋敷の神)、ピ˹ナカン [pi˹nakaŋ](火の神)、ミ˹ジヌ˺　カン [mi˹ʤinu˺ kaŋ](水の神)、パ˹ナシキヌ˺　カン [pa˹naʃi̥kinu˺ kaŋ](風邪の神)。˹カンヌ˺マイ [˹kannu˺mai](神様。＜神の御前＞)。˹カンヌマイ˺ヌ　カ˹ルイ˺シキ　タ˹ボー˺ルンツォー [˹kannumai˺nu ka˹rui˺ʃi̥ki ta˹bo:˺runʦo:](神様が加護して＜嘉例付け＞くださるそうだ)。

˹ガン [˹gaŋ] 【名】がん (龕)。棺を納めて墓へ運ぶこし (輿)。˹ガンダルゴー [˹gandarugo:] ともいう。˹ガンマー˺　シンタ　˺マンタ　ユ˹タールナーシ˺ル

カˈタˌモーッタ [ˈgammaːˌ ʃinta ˌmanta juˈtaːrunaːʃi ˌru kạˈtaˌmoːtta](ガン＜龕＞は前後四人ずつ＜前四人、後四人＞で担がれた)。

ˈカンアタˌル [ˈkaŋʔataˌru] 【名】神罰。神の罰として打たれた痕跡が体に現れる症状。無自覚のうちに青黒い痣が体に現れる症状。ˈカントゥンˌガー [ˈkantuŋˌgaː](神罰。ˈ神科」の義) ともいう。御嶽の樹木を伐ると神罰を受けるといわれている。また、ˈカンˌヌ ˌミチ [ˈkanˌnu ˌmitʃi](神の道) で神に遭遇すると神罰を受けるともいわれている。ˈカンアタルˌドゥ シˈタˌユー ˈティーˌパンナー ッˈふアザˌヌ ンジˈベーˌサー [ˈkaŋʔataruˌdu ʃị̥ˈtaˌjuː ˈtiːˌpanna: fˈfuʔadʑaˌnu ʔndʑiˈbeːˌsaː](神罰に当ったのか手足に黒痣が出ているよ)。ˈカンˌヌ ˌミチェーラ ˈアーˌクンケン ˈカンアタˌル シˈキラˌリティ ウˈヤミˌサ ッˈサルタ [ˈkanˌnu ˌmitʃeːra ˈʔaːˌkuŋkeŋ ˈkaŋʔataˌru ʃị̥ˈkiraˌriti ʔuˈjamiˌsa sˈsaruta](神の道を＜から＞歩いていると、神罰を付けられたので、お詫びのお祈りを申し上げた＜祈願をした＞)。ˈカンヌマイˌヌ ˈトゥーˌロール ˌミチナー ˈゲーサウˌカー ˈカンアタˌル ˈスンˌツォー [ˈkannumaiˌnu ˈtuːˌroːru ˌmitʃinaː ˈgeːsauˌkaː ˈkaŋʔataˌru ˈsunˌtsoː](神様が通られる道に遭遇する＜行き交う＞と神当たり＜神罰を受けること＞するそうだ)。

ˈカンˌガイ [ˈkaŋˌgai] 【名】考え。考え方。思慮。ˈワー カンガイˌヤー ˈヌーˌシヤー [ˈwaː kaŋgaiˌjaː ˈnuːʃiˌjaː](君の考えはどうか)。ˌアイブ ˈカンガイˌヤー ˈサンモーˌ マˈシ [ˌʔaibu ˈkaŋgaiˌjaː ˈsammoːˌ maˈʃi](あんな考えはしないほうが増しだ)。

ˈカンガイˌグトゥ [ˈkaŋˌgaigutu] 【名】考え事。心配事。ˈカンガイグトゥˌバ ˈシー ベーˌティ ヤˈクスクヌˌ ジˈカンˌ スラーˈク バシキナーンˌシェン [ˈkaŋgaigutuˌba ˈʃiː beːˌti jaˈkusụ̥kunuˌ dʑiˈkamˌsuraːˈku baʃị̥kinaːŋˌʃeŋ](考え事をしていて、約束の時間をすっかり＜きれいに＞忘れてしまっていた)。

ˈカンガイˌクムン [ˈkaŋgaiˌkumuŋ] 【自動】一途に考え込む。考え悩む。ウˈレー カンガイˌクム フˈシヌˌ アルンダ ˌドゥク イˈズナˌヨー [ʔuˈreː kaŋgaiˌkumu ɸụ̥ˈʃinuˌ ʔarunda ˌduku ʔiˈdʑunaˌjoː](彼は一途に考え込む癖があるから、あまり叱るなよ)。イˈズˌカー ˈカンガイˌクムン [ʔiˈdʑuˌkaː ˈkaŋgaiˌkumuŋ](叱ったら考え込む)。ˈカンガイクマンˌドーシ パˈタラˌキバ [ˈkaŋgaikumanˌdoːʃi pạˈtarakiˌba](考えこまないで働けよ)。

ˈカンガイˌチガイ [kaŋgaiˌtʃigai] 【名】考え違い。思い違い。判断ミス。論理的な考え方の間違い。ウˈムイˌチガイ [ʔuˈmuiˌtʃigai](誤解。心得違い。感情的な判断の間違い) とはやや語感が違う。ウˈリンナーˌニ タˈナムˌタ ˌクトー ウˈルˌキ ˈナーˌヌ ˈカイˌテー タˈナマンˌシェーカー ˌミサタムヌ ˈドゥーˌヌ ˈカンガイˌチガイ ヤˈレーˌバン [ʔuˈrinnaːˌni taˈnamuˌta ˌkụtoː ʔuˈruˌki ˈnaːˌnu ˈkaiˌteː taˈnamaŋˌʃeːkaː ˌmisatamunu ˈduːˌnu ˈkaŋgaiˌtʃigai jaˈreːˌbaŋ](彼に頼んだところ、欠損してしまった。却って頼まなかったらよかったのに。自分の考え違い＜判断ミス＞であったわい)。

ˈカンガイノーˌスン [ˈkaŋgainoːˌsuŋ] 【他動】考え直す。再考する。ˈカンガイノーˌスンティ ˌウムーカー ˈカンガイノーˌシ ˌミサン [ˈkaŋgainoːˌsuntiˌʔumuːkaː ˈkaŋgainoːˌʃi ˌmisaŋ](考え直すと思うなら考え直してよい)。ˈワー カンガイノーサンˌカー ˈカンガイノーˌス プˈソーラル ˈカーリ [ˈwaː kaŋgainoːsaŋˌkaː ˈkaŋgainoːˌsu pụ̥ˈsoːraru kaːri](君が考え直さなければ、考え直す人からが買われる＜買うことが出来る＞)。

ˈカンガイブスˌク [ˈkaŋgaibusụ̥ˌku] 【名】考え不足。思慮不足。短慮。ˌアイブ ムˈニˌバ ウˈヤンˌナーニ アˈジˌ ッˈサリ ワー カンガイブスˌク ヤˈレーˌバンˈナーˌ イˈナムヌˌダラ [ˌʔaibu muˈniˌba ʔuˈjanˌnaːni ʔaˈdʑiˌ sˈsari waː kaŋgaibusụ̥ˌku jaˈreːˌbanˈnaːˌ ʔiˈnamunuˌdara](あんな悪い言葉を親に向かって申し上げるなんて、君の思慮不足だったんだねえ、残念だよ)。

ˈカンガイˌムヌ [ˈkaŋgaiˌmunu] 【名】考えるべきこと。熟慮すべきこと。サˈクシッふァˌバ ˌアトゥトゥリ シˈミラムティˌ ヤˈマˌトー パˈラˌスンティ ˈスーヌˌ ウˈレー カンガイˌムヌˈダー [sạˈkuʃiffaˌba ˌʔatuturi ʃiˈmiramutiˌ jaˈmaˌtoː paˈraˌsunti ˈsuːnuˌ ʔuˈreː kaŋgaiˌmunuˈdaː](長男を跡取りにしないで本土＜大和＞へ行かせるというが、それは考えるべき重要な＜一考を要する＞ことだ)。

ˈカンガイˌルン [ˈkaŋgaiˌruŋ] 【他動】考える。思う。思考する。思案する。ˌドゥーシ ˈカンガイˌルンティ ˈスーヌンドゥˌ ムッˈトゥ カンガイララˌヌ [ˌduːʃi ˈkaŋgaiˌrunti ˈsuːnunduˌ mutˈtu kaŋgairaraˌnu](自分で考えようとするのだが、ちっとも考えられない)。ˈタンガˌシ ˈカンガイˌル ˌクトー

ナ˹ラン˺ベーティル　˹カンガイヤッサ˺ヨーニ　˺ナラウンティ　˹アー˺ク˹ダー [˹taŋga˺ʃi ˹kaŋgai˺ru ˺kʉto: na˹ram˺be:tiru ˹kaŋgaijas˺sajo:ni ˺naraunti ˹ʔa:˺ku˹da:](一人で考えることは出来ないので、考えやすいように習おうとしている＜してあるく＞のだよ)。˹マー˺ビン　˹カンガイ˺レー　˺ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ˹kaŋgai˺re: ˺misamunu](もっと考えればよいのに)。ヤー˹ディン　カンガイ˺リ [ja:˹diŋ kaŋgai˺ri](必ず考えろ)。

˹カンガインザ˺スン [˹kaŋgaiʔndʑa˺suŋ] 【他動】考え出す。新案を生み出す。新しい工夫や着想を案出する。ミ˹ジラ˺シ　˹ドング˺バ　˹カンガインザ˺スンティ　˹ベー˺ンドゥ　ムッ˹トゥ　カンガインザサラン˺バン [mi˹ʤira˺ʃi ˺doŋguba ˹kaŋgaiʔndʑa˺sunti ˹be:˺ndu mut˹tu kaŋgaiʔndʑasaram˺baŋ](珍しい道具を考え出そうとしているが、ちっとも考え出されない)。

˹カン˺ガウン [˹kaŋ˺gauŋ] 【他動】考える。思考する。思案する。カンガフ (下二段活用)。「宿曜のかしこき道の人にかんがへさせ給ふ『源氏物語　桐壺』」の四段活用化したものか。˺ドゥーシ　˹カン˺ガウンティ　˹スーヌンドゥ˺　ムッ˹トゥ　カンガーラ˺ヌ [˺du:ʃi ˹kaŋ˺gaunti ˹su:nundu˺ mut˹tu kaŋga:ra˺nu](自分で考えようとするが、ちっとも考えられない)。ウ˹レー˺　バー　˹カン˺ガイ　˺ミサン [ʔu˹re:˺ba: ˹kaŋ˺gai ˺misaŋ](それは私が考えてもいい)。˹カン˺ガウ　プ˹ソー˺　ブ˹ラーヌ [˹kaŋ˺gau pʉ˹so:˺ bu˹ra:nu](考える人はいない)。˹ワー　カンガイ˺ヤー　˺ミサムヌ [˹wa: kaŋgai˺ja: ˺misamunu](君が考えればよいのに)。˺ドゥーシ　˹カン˺ガイ [˺du:ʃi ˹kaŋ˺gai](自分で考えよ)。

˹カンカカリ˺ムヌ [˹kaŋkakari˺munu] 【名】神がかりもの。神にとりつかれた＜乗り移られた＞人。˹ワー˺　ヌースンティ　˹カンカカリムヌ˺ヌ　˺カタチニ　ム˹ニユム˺ワ [˹wa:˺ nu:sunti ˹kaŋkakarimunu˺nu ˺kʉtatʃini mu˹nijumu˺wa](君はなぜ神にとりつかれた者のように喋るのか)。

˹カンガカ˺ル [˹kaŋgaka˺ru] 【名】かみがかり (神憑り)。神霊が人に乗り移り、神意を告げること。

˹カンガカ˺ル [˹kaŋgaka˺ru] 【名】神がかりによる神託。神事に関する祈願ごとの不足が神の託宣によって知らされること。˹ウン˺ネヌ　˺アッパー　˹カンガカ˺リ　˹ソー˺リティル　ミ˹ジラ˺シ　ム˹ニ˺バ　ユ˹モー˺レーギサンドゥ　˹コンジン˺ヌ　˹カンガカル˺ヌ　ア˹リン˺サ　˹フージー [˹ʔun˺nenu ˺ʔappa: ˹kaŋgaka˺ri ˹so:˺ritiru mi˹ʤira˺ʃi ˺muniba ju˹mo:˺re:gisandu ˹konʤin˺nu ˹kaŋgakaru˺nu ʔa˹rin˺sa ˹ɸu:ʤi:](その家のお祖母さんが神がかりされて、変な話を述べられた＜妙なことを言われた＞そうだが、どうも金神の神がかり＜神事＞がありそうな様子＜風情＞だ)。フ˹ダマリ [ɸu˹damari](神憑り) ともいう。ウ˹ヌ˺　プ˹スヌ　カンガカ˺ル　˹ソー˺リティール　˹ウン˺ネーナ　˹カングトゥ˺ヌ　˺アルティ　ン˹ザ˺ソーッタツォー [ʔu˹nu˺ pʉ˹sunu kaŋgaka˺ru ˹so:˺riti:ru ˹ʔun˺ne:na ˹kaŋgutu˺nu ˺ʔaruti ʔn˹dʑa˺so:ttatso:](その人が神憑りされて、その家に残された果たすべき神事があると神のお告げを出されたそうだ)。

˹カンガナ˺シ [˹kaŋgana˺ʃi] 【名】神様。カミ˹ガナ˺シ [kami˹gana˺ʃi](神様) とおなじ。-ガナシ [-ganaʃi](様) は接尾敬称辞。/ウ˹ブトゥムル˺ヌ　˺カミガナシ　ア˹ミブシャ˺ヌ/(大友利御嶽の神様、雨が欲しいです)「雨乞い歌」『鳩間島古典民謡古謡集』。

˺カン　カ˹ミ˺ルン [˺kaŋ ka˹mi˺ruŋ] 【連】神を信仰する。「神を戴く」の義。サ˹カサン˺ケー　ティ˹ジリ˺ビンケーヤ　ム˹ー˺ル˺　カン　カ˹ミ˺ル　˹オー˺ル [sḁ˹kasaŋ˺ke: ti˹ʤiri˺biŋke:ja mu:˹ru˺ kaŋ ka˹mi˺ru ˹ʔo:˺ru](司達や男性神職者＜手ずり部＞達はみんな神様を信仰しておられる＜神をおし戴いておられる＞)。ミ˹ドーン˺ッふァー　˹ヤーム˺トゥナーティ　˹フン˺ジン　カ˹ミ˺ルンティ　ス˹コーリ　ベー [mi˹do:ŋ˺ffa: ˹ja:mu˺tuna:ti ˹ɸun˺ʤiŋ ka˹mi˺runti sʉ˹ko:ri be:](女の子は本家＜実家＞で根神を拝もう＜産土神の神霊を受け継ごう＞と準備している)。

カン˹カラー˺マ [kaŋ˹kara:˺ma] 【名】ブリキ製の小さな缶。小さな缶詰の空き缶。ム˹カ˺シェー　カン˹カラーマ˺バ　˺キレーティ　ア˹サブタン [mu˹ka˺ʃe: kaŋ˹kara:ma˺ba ˺kire:ti ʔa˹sabutaŋ](昔は小さなブリキ缶を蹴って遊んだものだ)。

˹カンカン [˹kaŋkaŋ] 【名】缶詰の空き缶。˹カンカン˺ナ　˹ユイ˺　シキティ　フ˹ダ˺ル　ス˹クル˺タ [˹kaŋkan˺na ˹jui˺ ʃi̥kiti ɸu˹da˺ru sʉ˹kuru˺ta](缶詰の空き缶に柄を付けて柄杓を作った)。

˺カンカン [˺kaŋkaŋ] 【名】かくかく。しかじか。こうこう。˺カンカンヌ　˺クトゥシ　ウ˹キ˺ナー　パ˹ラン˺カー　ナ˹ラン˺タ　シ˹キン˺ドゥ (ヌ)　イ˹トゥ˺マ　トゥ˹ラ˺シ　ッ˹ふォー˺リ [˺kaŋkannu ˺kʉtuʃi ʔu˹ki˺na: pa˹raŋ˺ka: na˹ran˺ta ʃi̥˹kin˺du(nu) ʔi˹tu˺ma tu˹ra˺ʃi f˹fo:˺ri](かくかくしかじかの訳で＜ことで

>、沖縄へ行かなければならないので暇をとらせてください)。

˩カン˥ガン [˩kaŋ˥gaŋ] 【名】鏡。˩カンガン˥マー　ミ˩ドゥム˥ヌ　タ˩カ˥ラティ　ア˩ザリ　ブー [˩kaŋgam ˥ma: mi˩dumu˥nu tạ˩ka˥rati ʔa˩ʤari bu:](鏡は女の宝といわれている)。˩カン˥ガン　˥ミリティ　ピ˩ニ˥　スリバ [˩kaŋ˥gam ˥miriti pi˩ni˥ suriba](鏡を見て鬚を剃れよ)。˩カン˥ガン　˥ミレーティ　ピ˩ニ˥　ス˩ラン˥カー　ナ˩クラー˥ヌ　ス˩ララ˥ヌ [˩kaŋ˥gam ˥mire:ti pi˩ni˥ su˩raŋ˥ka: na˩kura:˥nu su˩rara˥nu](鏡を見ながら鬚を剃らないと、怖くて剃れないよ)。˩カンガン˥マー　ヤ˩ナムヌ˥ヌ　ヌ˩キ˥ムヌティ　ア˩ザリブー [˩kaŋgam˥ma: ja˩namunu˥nu nu ˩ki˥munuti ʔa˩ʤaribu:](鏡は魔物の魔除け < 除け物 > と言われている)。˩カンガン˥マー　タ˩マガラ˥スシ　ス˩クラ˥リ　˩ブー [˩kaŋgam˥ma: ta˩magara˥suʃi sụ˩kura˥ri ˩bu:](鏡は玉ガラスで作られている)。

˩カン˥ガン [˩kaŋ˥gaŋ] 【名】とさか (鶏冠)。雄鶏の頭に発達した朱色の冠状の突起。ビ˩キドゥルヌ˥　ス˩ブ˥ルナー　アガー˩アガーヌ　カンガン˥ヌ　˥アン [bi˩kidurunu˥ su˩bu˥runa: ʔaga:˩ʔaga:nu kaŋgan˥nu ˥ʔaŋ](雄鶏の頭に真っ赤な鶏冠がある)。

˥ガンガン [˥gaŋgaŋ] 【名】ブリキ缶(blik。オランダ語。錫を鍍金した薄い鉄板)。˥ガンガンタング [˥gaŋgantaŋgu](ブリキ缶で作った水桶。水担桶)。シ˩キユーカン˥マー　˥ガンガンシ　ス˩クラ˥リ　˩ブーユンダ˥　ウ˩リ˥シン　ミ˩ジタング˥　ス˩クル˥タン [ʃị˩kiju:kam˥ma: ˥gaŋgaŋʃi sụ˩kura˥ri ˩bu:junda˥ ʔu˩riʃiŋ mi˩ʤitaŋgu˥ sụ˩kuru˥taŋ](石油缶はブリキ板で作られているから、それでも水担桶を作った)。˥ガンガンマー　˩ペン˥キ　˩ヌーラン˥カー　サ˩ビパヤー˥ン [˥gaŋgamma: ˩peŋ˥ki ˩nu:raŋ˥ka: sa˩bipaja:˥ŋ](鉄板はペンキを塗らないと錆び早い)。

˩カンガン˥イツァ [˩kaŋgaŋ˥ʔitsa] 【名】欄間の板。小壁。仏壇の正面の板。「鏡板」の義。˩カンガン˥イツァティ　˩スー　モー˥　チ˩カ˥グルシェーラル　˩ペー˥リ　˥ケール　ム˩カ˥シェー　˩ナーン˥シェン [˩kaŋgaŋ˥ʔitsati ˩su: mo:˥ ʧị˩ka˥guruʃe:raru ˩pe:˥ri ke:ru mu˩ka˥ʃe: ˩na:ŋ˥ʃeŋ](欄間の板は近頃になって入ってきたものだ。昔はなかった)。

˩ガンカン˥シ [˩gaŋkaŋ˥ʃi] 【副】きちんきちんと。正確に。パ˩ライビキ˥ヌ　˩ジン˥マー　ヤ˩クスク　トゥール　ガンカン˥シ　パライ˩ダー [pa˩raibiki˥nu ˩ʤim˥ma: ja˩kusụku tu:ru gaŋkaŋ˥ʃi parai˩da:](支払うべき金は約束通りきちんきちんと支払えよ)。˥アブジェー　˩ガンカン˥シ　ム˩ヌパナ˥シ　˩ソー˥ルンダ　ナ˩クラーン˥ダー [˥ʔabuʤe: ˩gaŋkaŋ˥ʃi mu ˩nupana˥ʃi ˩so:˥runda na˩kura:n˥da:](お祖父さんはきちんきちんと厳格に話されるので怖いよ)。

˩ガンガン˥シ [˩gaŋgaŋ˥ʃi] 【副】元気な様。頑丈でバリバリと働く様。˩ウン˥ネヌ　˥アブジェー　マ˩ナ˥マ　シ˩キ˥ティン　パ˩タ˥キナー　˩ガンガン˥シ　˩ウー˥ケーティ　˩オー˥ル [˩ʔun˥nenu ˥ʔabuʤe: ma˩na˥ma ʃi˩ki˥tim pa˩ta˥kina: ˩gaŋkaŋ˥ʃi ˩ʔu:˥ke:ti ˩ʔo:˥ru](その家のお祖父さんは今でも畑でバリバリ働いて < 動いて > おられる)。

˩ガンガン˥シ [˩gaŋgaŋ˥ʃi] 【副】ずきんずきんと。頭がずきんずきんと痛む形容。ス˩ブルン˥ドゥ　˩ガンガン˥シ　ヤム˩ツォー˥　フ˩チ˥ル　ヌ˩マ˥ソーリ [su˩burun˥du ˩gaŋgaŋ˥ʃi ˥jamu˩tso:˥ ɸụ˩ʧi˥ru nu˩ma˥so:ri](頭がずきんずきんと痛むんですよ。薬を飲ませてください)。

˥ガンガンシル [˥gaŋgaŋʃiru] 【名】アルミ板やブリキ缶で作った釣瓶。˥ガンガンシルシ　˩カーヌ˥　ミ˩ジ˥　フ˩ム˥カー　ヤ˩ナンゴーリ˥シタヌ　ク˩バンパーシル˥シ　フ˩ム˥カー　ヤ˩ナンゴーラン˥シェン [˥gaŋgaŋʃiruʃi ˩ka:nu˥ mi˩ʤi˥ ɸu˩mu˥ka: ja ˩naŋgo:ri˥ʃị̈tanu ku˩bampa:ʃiru˥ʃi ɸu˩mu˥ka: ja˩naŋ-go:raŋ˥ʃeŋ](ブリキ缶の釣瓶で井戸水を汲むと < 水は > 濁ったが、クバの葉釣瓶で汲むと濁らなかった)。

˥ガンガンタング [˥gaŋgantaŋgu] 【名】金属製の一斗缶で作った担桶。石油缶の 1 斗缶等を利用して作った (担桶)。˥ガンガンシ　ス˩ク˥ル　ミ˩ジタンゴー˥　ガンガンタングティ　ア˩ズタ˥ダー [˥gaŋgaŋʃi sụ˩ku˥ru mi˩ʤitaŋ˥go: ˥ gaŋgantaŋguti ʔa˩ʤuta˥da:](石油缶の 1 斗缶で作るたごおけ < 担桶 > をガンガンタングと言ったよ)。

˥ガンガンパク [˥gaŋgampaku] 【名】アルミ板やブリキ板で作られた一斗缶。タ˩ニ˥ユー [ta˩ni˥ju:](菜種油) やシ˩キ˥ユー [ʃị˩ki˥ju:](石油) を入れた缶。タ˩ニユー˥ヤ　˥ガンガンパクナール　イ˩ラリブタ [ta ˩niju:˥ja ˥gaŋgampakuna:ru ʔi˩raributa](菜種油はブリキ板の一斗缶に入れられていた)。

˩カンガン˥ムチ [˩kaŋgam˥mutʃi] 【名】鏡餅。正月に、床の間に供える三段重ねの餅。石垣島から導入されたもの。カ˩ザリムチ [ka˩ʤarimutʃi](飾り餅) ともいう。ウ˩ブ˥ソンガチ　˩ソー˥レーラル　˩カンガン˥ムチェー　イ˩サンケーラ　ペー˥リ　˥ケール˩

ナー [ʔuˈbu˞soŋgatʃi ˈsoː˞reːraru ˈkaŋgam˞mutʃeː ʔiˈsanakeːra peː˞ri ˞keːruˈnaː](大正月 < 新暦の正月 > をされるようになってから、鏡餅は石垣から入ってきたのだろうね)。

˞カンキー [ˈkaŋkiː] 【名】関係。関わり。標準語の「関係」が転訛したもの。古老は、˞マールカー˞ル [ˈmaːrukaː˞ru](回り係り) ともいう。˞ベー˞ヤートゥ ˞ウン˞ネートー ˞イカール ˞カンキーヌ˞ アˈル˞ワ [ˈbeː˞jaːtu ˈʔun˞neːtoː ˞ʔikaːru ˈkaŋkiːnu˞ ʔaˈru ˞wa](我が家とその家とは如何なる関係があるのか)。

˞カン˞キスン [ˈkaŋ˞kisuŋ] 【他動】噛み切る。食いちぎる。サˈバー˞ サˈバナー カン˞キシ ˞ピン˞ギ ˞パリˈナー˞ヌ [saˈbaː˞ saˈbana: kaŋ˞kiʃi ˈpiŋ˞gi pariˈnaː˞nu](鮫は鮫釣り縄を噛み切って逃げていってしまった)。˞カンキサラ˞ヌ [ˈkaŋkisara˞nu](噛み切れない)。˞カン˞キシ ˞ミリバ [ˈkaŋ˞kiʃi ˞miriba](噛み切ってみろよ)。クˈレー˞ バー ˞カン˞キスン [kuˈreː˞ ba: ˈkaŋ˞kisuŋ](これは私が噛み切る)。˞カン˞キス ˞クトー ナˈラ˞ヌ [ˈkaŋ˞kisu ˞kuto: naˈra ˞nu](噛み切ることは出来ない)。˞カン˞キシェー ˞ミサムヌ [ˈkaŋ˞kiʃeː ˞misamunu](噛み切ればよいのに)。˞パーシ ˞カン˞キシ [˞paːʃi ˈkaŋ˞kiʃi](歯で噛み切れ)。

˞ガン˞キョー [ˈgaŋ˞kjoː] 【名】めがね (眼鏡)。˞ミーガン˞キョー [ˈmiːgaŋ˞kjoː](水中眼鏡)。クˈクヌ˞トゥグンジュー ˞ナッ˞ター ˞ガン˞キョー カˈカン˞カー ˞ジーヤ˞ ユˈマラ˞ヌ [kuˈkunu˞tugundʒuː ˈnat ˞taː ˈgaŋ˞kjoː kaˈkaŋ˞kaː ˈdʒiːja˞ juˈmara˞nu](四十九歳になったので眼鏡を掛けないと字は読めない < 読まれない >)。

˞ガン˞ク [ˈgaŋku] 【名】頑固。頑固者。˞ガンク˞ウスマイ [ˈgaŋku˞ʔusumai](頑固じいさん)。˞アイブ ˞ガン˞コー ユˈヌナカ˞ナーˈフター˞ルテー ブˈラーン˞パジ [˞ʔaibu ˈgaŋ˞koː juˈnunaka˞naː ɸuˈtaːru ˞teː buˈraːm˞padʒi](あんな頑固者は、この世の中で二人とはおらぬはず)。

˞カング˞ク [ˈkaŋgu˞ku] 【名】監獄。標準語からの転訛したもの。ヤˈナクトゥ スー˞カー ˞カング˞クナー クˈミラ˞リンティˈダー [jaˈnakutu suː˞kaː ˈkaŋgu˞kunaː kuˈmira˞rintiˈdaː](悪事を働くと < 悪い事をすると > 監獄に押し込められるそうだよ)。

˞カング˞トゥ [ˈkaŋgu˞tu] 【名】神事。神行事。˞カング˞トゥ ˞スンティル˞ アイニ ˞パンタ˞サ ˞シーオー˞ル [ˈkaŋgu˞tu ˈsuntiru˞ ʔaini ˈpanta˞sa ˞ʃiːoː˞ru](神行事をしようとして、あんなに繁忙を極めておられる < 忙しくしておられる >)。˞カングトゥ˞バ ハˈバ˞クンティ ムˈヌシリ˞ヌ ˞ヤー ムˈヌ˞ナライ ˞シン オーッ˞タ [ˈkaŋgutu˞ba haˈba˞ kunti muˈnuʃiri˞nu ˞jaː muˈnu˞narai ˞ʃiŋ ʔoːt˞ta](神事を処理しようとユタ < 物知り > の家に神事を習いに行かれた)。

˞カンクム˞チ [ˈkaŋkumu˞tʃi] 【名】神前への供物。「神供物」の義。˞カンクム˞チェー スˈコーリル ニンガイ˞ヤー ˞ソー˞ル [ˈkaŋkumu˞tʃeː sɨˈkoːriru niŋgai˞jaː ˞soː˞ru](神前への供物は準備し < 作り供え > てから祈願 < 神願い > はなさるのだ)。

˞カンコー˞ロー [ˈkaŋkoː˞roː] 【名】歴代その家に伝わる家の根神の香炉。˞カンサカ˞サ [ˈkansaka˞sa](神司)、ティˈジリ˞ビー [tiˈdʒiri˞biː](男性神職者 < 手摺り部 >) の家系に伝わる。各家庭には一定の年齢に達した家族各人の香炉があった。香炉を備える事を、˞コン˞ジン カˈミ˞ルン [ˈkon˞dʒiŋ kaˈmi˞ruŋ](根神を戴いて信仰する) という。サˈカサヌ˞ ヤーナーン ˞カンプス˞ヌ ˞ヤーナーン ˞カンコー˞ロー アˈリ˞ブタ [saˈkasanu˞ jaːnaːŋ ˞kampusu˞nu ˞jaːnaːŋ ˞kaŋkoː˞roː ʔaˈri˞buta](司の家にもティジリビの家にも神香炉はあった < ありおった >)。

˞カンザ [ˈkandza] 【代】あいつ。あいつめ。あの野郎。三人称単数代名詞、カˈリ [kaˈri](あれ。彼。あの人) の卑称。カヌ・ンザ [kanu・ndza](彼の奴) の約まった形。˞カンザンドゥ ヤˈブ˞レール ˞バン˞ター シゥˈカーンシェン [ˈkandzandu˞ jaˈbu˞reːru ˞banˈtaː sɨˈkaːŋʃeŋ](あいつが壊したのだろうよ、私らは使わなかった)。˞カンザヌ シェー˞ クトー ˞ダーッサ ナー˞ヌ [ˈkandzanu ʃeː˞ kɨtoː ˞daːssa naː˞nu](あいつがやったことはよろしくない < 真っ当でない >)。ヨーˈヨー カンザンナー˞トー ˞カシカーサ˞レー ナˈラン˞ダー [joːˈjoː kandzannaː ˞toː ˞kaʃɨkaːsa˞reː naˈran˞daː](よくよく注意しろよ。彼奴などに騙され < 賺され > てはならないぞ)。卑しめていう場合に用いる。˞カンザヌル ワッ˞サ ˞クンザー ワッサナー˞ヌ [ˈkundzanuru was˞sa ˞kundzaː wassana˞nu](かやつ < 彼奴 > が悪い。こいつは悪くない)。

˞カンサカ˞サ [ˈkansaka˞sa] 【名】女性の神職者。司。神女。「神司」の義。˞カンサカサ˞ヌ ˞ピュールバ˞ バˈリ˞ トゥˈローリ˞ル ˞ニンズーヌ˞ カˈミニンガイ˞ヤー ˞ソーッ˞タ [ˈkansakasa˞nu ˞pjuːruba˞ baˈri˞ tuˈroːri˞ru ˞nindzuːnu˞ kaˈminiŋgai˞jaː ˞soːt˞ta](神

司が神事の日和を籤で決めて＜御籤を割って取られて＞、年中の神願いはなされた)。˞カンサカ˞サー　˞カンヌ˞ドゥ　ウ˞タイ˞　マ˞ラソーッ˞タ [˞kansaka˞sa: ˞kannu˞du ʔu˞tai˞ ma˞raso:t˞ta](神司は神が告げられて誕生させられた)。˞ウガンカージナ　˞カンサカ˞サー　˞オーッ˞タン [˞ʔugaŋka:ʤina ˞kansaka˞sa: ˞ʔo:t˞taŋ](御嶽ごとに神司はおられた)。

˞カン˞サツ [˞kan˞satsu] 【名】鑑札。免許証。壮年層は˞カン˞シチ [˞kaŋʃi̥tʃi](鑑札) ともいう。˞カンサツ˞ヌ　ウ˞リ˞ルカー　マ˞チヤー　シー˞　ミサンツォー [˞kansatsu˞nu ʔu˞ri˞ruka: ma˞ʧija: ʃi:˞ misantso:](鑑札が下りたらお店を開いて＜しても＞もいいそうだ)。

˞カンザトゥ˞ヤー [˞kanʤatu˞ja:] 【名】屋号。慶田城勇氏宅。鳩間村七班の海岸に面した屋敷。現在の船着場の上にある。慶田城勇氏は戦前の竹富村の村会議員を歴任され、カツオ漁船の魁丸でカツオ節製造工場を経営された。戦後昭和 23 年頃まではカツオ漁船の建国丸でカツオ節製造業を経営されたが、以後大工定市氏が引き継いで経営された。長男の慶田代亨氏は鳩間島出身で最初に沖縄県師範学校を卒業され、島の教育に従事された後、陸軍に召集された。終戦直後に除隊されて帰郷し、厳しい状況下で島の児童生徒の英才教育に従事し、多くの優れた生徒を育てられ、小中学校長を最後に定年された。次男の慶田城勇吉氏は青年期に義兄の大城昇氏とアラビア石油のタンカー船に乗船して活躍し、定年後は在那覇鳩間島郷友会の会長として活躍された。˞カンザトゥヤー˞ヌ　ウ˞ヤ˞プスンケーン　˞メイジジダイ˞ナー　˞ウイバロー˞ラ　パ˞トゥ˞マー　˞オー˞レーツォー [˞kanʤatuja:˞nu ʔu˞ja ˞pu̥suŋke:m ˞meiʤiʤidai˞na: ˞ʔuibaro:˞ra pḁ˞tu˞ma: ˞ʔo:˞re:tso:](慶田城家の先祖の方々も明治時代に上原から鳩間島に来られたそうだ)。

˞カンザ˞ヤー [˞kanʤa˞ja:] 【名】鍛冶屋。自給自足の時代には各字に鍛冶屋があったといわれている。ム˞カ˞シェー　パ˞トゥ˞マナーン　˞カンザ˞ヤー　˞アッ˞タンティ˞ダー [mu˞ka˞ʃe: pḁ˞tu˞mana:ŋ ˞kanʤa˞ja: ˞ʔat˞tanti˞da:](昔は鳩間島にも鍛冶屋があったそうだよ)。カ˞ザケーヤ˞　ム˞カ˞シェー　˞カンザ˞ヤー　˞ヤッタ˞ツォー [ka˞ʤake:ja˞ mu˞ka˞ʃe: ˞kanʤa˞ja: ˞jatta˞tso:](加治工家は昔は鍛冶屋だったそうだ)。˞ウイバル˞ナー　チ˞カ˞グル　˞バー˞キン　˞カンザヤー˞ヤ　ア˞リ˞ブタ [˞ʔuibaru˞na: ʧi̥˞ka˞guru ˞ba:˞kiŋ ˞kanʤaja:˞ja ʔa˞ri˞buta](上原には最近までも鍛冶屋はあった＜ありおった＞)。「本年、八重山島鬚川村の伊志登新城を褒嘉して赤冠を賞賜す。八重山島鬚川村の伊志登新城は、上届三十午年、令に従りて鍛⊠工職に充任し、〜」『球陽　読み下し編』とあるから、明治 6 年頃までは鬚川村に鍛冶屋があったと推定される。

˞カン˞ザルン [˞kan˞ʤaruŋ] 【他動】上下の歯で噛み砕く。噛みつぶす。咀嚼する。「噛みちらす」の転訛。˞コー˞　ムノー　˞ユー　˞カン˞ザリティ　ッ˞ふァイ˞ヨー [˞ko:˞ muno: ˞ju: ˞kan˞ʤariti f˞faiˉjo:](固い物はよく噛んで食べなさいよ)。˞カン˞ザルンティ　˞スンドゥ　パー˞ヌ　˞ヤミティ　˞カンザララ˞ヌ [˞kan˞ʤarunti ˞sundu pa:˞nu ˞jamiti ˞kanʤarara ˞nu](噛み砕こうとするが、歯が痛いので噛み砕かれない)。˞カン˞ザル　˞ムノー　˞パー˞ク　˞カン˞ザレー　˞ミサムヌ [˞kan˞ʤaru ˞muno: ˞pa:˞ku ˞kan ˞ʤare: ˞misamunu](噛み砕くものは早く噛み砕けばいいのに)。ヤー˞ディン　カン˞ザリ˞ダー [ja:˞diŋ kan˞ʤari˞da:](必ず噛み砕けよ)。ッ˞ふァイムノー˞　ユー　˞カン˞ザリ　ッ˞ふァイバル˞　マ˞シ˞ツォー [˞faimuo:˞ ju: ˞kan˞ʤari f˞faibaru˞ ma˞ʃi˞tso:](食べ物はよく噛んで食べたほうがいいそうだ)。˞ドゥク　˞カンザラ˞ヌ [˞duku ˞kanʤara˞nu](あんまり噛み砕かない)。˞カン˞ザルンティ　˞ウムーカー　˞カン˞ザレー　˞ミサムヌ [˞kan˞ʤarunti ˞ʔumu:ka: ˞kan˞ʤare: ˞misamunu](噛み砕こうと思うなら噛み砕けばよいのに)。˞カン˞ザル　˞ムヌン　˞ナー˞ヌ [˞kan˞ʤaru ˞munun ˞na:˞nu](噛むのも無い)。ク˞リカン˞ザリ [ku˞ri kan˞ʤari](これを噛み砕け)。

˞カン˞シチ [˞kaŋ˞ʃi̥tʃi] 【名】鑑札。商店経営の許可証。˞カンシチ˞ヌ　˞ユレーカ　マ˞チヤー˞　ナ˞リ˞ス [˞kaŋʃi̥tʃi˞nu ˞jure:ka ma˞ʧija:˞ na˞ri˞su](鑑札が許可された＜下りた。許された＞のなら商店＜町家＞ができる＜開店できる＞)。

˞カン˞シバ [˞kaŋ˞ʃiba] 【名】カンシバ (神芝) の義か。豊年祭の当日、友利御嶽から司やティジリビー、スーダイ＜総代＞、ムラヤクサ達がミチウタ (道歌) を歌いながらサンシキ (桟敷) へ降りていく際に、頭に巻きつけるマーニ (クロツグ) の葉。神前に供えて祈願をし、神霊を宿しているといわれている＜神の憑代(ヨリシロ)＞。˞カン˞プスンケーラ　ヤ˞ク˞サンケー　˞バー˞キ　ムー˞ル˞　˞カン˞シバー　˞ユイティ˞　ミ˞チウタバ˞　イ˞ジェー˞ティル　ッ˞サンター˞　ウ˞ローッ˞タ [˞kam˞pu̥suŋke:ra ja˞ku˞saŋke: ˞ba:˞

ki muːˈruˈ ˈkaŋˈʃibaː ˈjuitiˈ mitʃiʔutabaˈ ʔiˈʤeːˈtiru s ˈsantaːˈ ʔuˈroːtˈta](神職者から村役人たちまで、皆カンシバを頭に結って、道歌を歌いながら村中の桟敷＜下の方＞へ降りてこられた＜下りられた＞)。ˈカンˈシバー ˈマーニˈヌ ˈパーˈシル スˈブˈルナ マˈコーッˈタ [ˈkaŋˈʃibaː ˈmaːniˈnu ˈpaːˈʃiru suˈbuˈruna: maˈkoːtˈta](神芝はマーニの葉で頭に巻かれた)。

ˈカンシビˈルン [ˈkaŋʃibiˈruŋ] 【他動】噛んで吸う。「噛み吸う」の義。ˈパームイジブンˈマー ˈシーˈヌ フチ ˈカンシビˈルンダ ガˈシˈタク シˈビラシ [ˈpaːmuiʤibumˈmaː ˈʃiːˈnuɸu̥tʃi ˈkaŋʃibiˈrunda gaˈʃiˈtaku ʃiˈbiraʃi](歯が生え始める時分は乳首を噛んで吸うから、焙乾したタコをしゃぶらせなさい)。ˈカンシビラˈヌ [ˈkaŋʃibiraˈnu](噛んで吸わない)。ˈカンシビˈル ˈクトゥン ˈアン [ˈkaŋʃibiˈru ˈku̥tuŋ ˈʔaŋ](噛み吸うこともある)。ˈカンシビˈレー ˈミサムヌ [ˈkaŋʃibiˈreː ˈmisamunu](噛み吸えばいいのに)。ˈマーˈビン ˈカンシビˈリ [ˈmaːˈbiŋ ˈkaŋʃibiˈri](もっと噛み吸え)。ヤˈラビˈヌ ˈパー ˈムイパジミルˈター ˈシーヌˈ フチ ˈカンシビラˈリティ ヤˈミˈスバン [jaˈrabiˈnu ˈpaː ˈmuipaʤimiruˈtaː ˈʃiːnuˈ ɸu̥tʃi ˈkaŋʃibiraˈriti jaˈmiˈsubaŋ](子供の歯が生え始めたので、乳首を噛み吸われて痛いよ)。

ˈガンˈジミ [ˈganˈʤimi] 【名】釘抜き。「蟹爪」の義。ˈガンˈジミ カˈリˈキー クˈヌ フンˈ ヌイ ッˈフィーランˈノーレー [ˈganˈʤimi kaˈriˈki: kuˈnu ɸunˈnui fˈfiːranˈnoːreː](釘抜きを借りてきて、この釘を抜いてくれないかねえ)。ˈガンˈジミシ フˈトゥッチˈパー ˈフッカーˈシティ ˈヌイバ [ˈganˈʤimiʃi ɸu̥ˈtuttʃiˈpaː ˈɸukkaːˈʃi̥ti ˈnuiba](釘抜き＜蟹爪＞で虫歯を挟んで抜きなさい)。

ˈカンˈジョー [ˈkanˈʤoː] 【名】勘定。計算。標準語からの借用語。普通は、ˈサンˈミン [ˈsamˈmiŋ](計算)という。ˈクビシ ˈダイヤー ギューˈサ ˈナルユー ˈカンˈジョー ˈシートミー [ˈkubiʃi ˈdaijaː gjuːˈsa ˈnaruju: ˈkanˈʤoː ˈʃiːɨmiː](これで値段はいくらになるか勘定してみよ (ごらん))。

ˈカンシラˈシ [ˈkaŋʃiraˈʃi] 【名】神のお告げ。神託。神女 (巫女) がˈカンダーˈリ [ˈkandaːˈri](神がかり)して告げたり、ユˈタ [juˈta](巫げき) の占いによって知らされたりする。夢によって知らされることもある。「神知らせ」の義。ˈカンシラシˈヌ アˈローˈリキー ˈニンˈガイ シˈミルンティ ベー [ˈkaŋʃiraʃiˈnu ʔaˈroːˈriki: ˈniŋˈgai ʃiˈmirunti beː](神のお告げ＜神知らせ＞があったので祈願をさせようとしている)。

ˈガンˈズー [ˈganˈʤuː] 【名】元気。達者。ˈ頑丈」の転訛。ˈガンˈズーシ ˈオーッタン [ˈganˈʤuːʃi ˈʔoːttaŋ](お元気でいらっしゃいましたか)。ˈガンˈズーシ パˈタラキˈヨー [ˈganˈʤuːʃi pḁˈtarakiˈjoː](元気で働きなさいよ)。

ˈガンズーˈマリ [ˈganʤuːˈmari] 【名】頑丈な生まれ。健康に生まれついていること。クˈヌ ッˈふァーˈ イッˈケナ ガンズーˈマリ ˈシー ブーバンˈ ウˈラーミˈサワレー [kuˈnuˈ fˈfaːˈ ʔikˈkena ganʤuːˈmari ˈʃiː buːbaŋˈ ʔuˈraːmiˈsawareː](この子は非常に頑丈な生まれつき＜頑健な生まれつき＞をしているわい。羨ましいことよ)。

ˈガンズーˈムヌ [ˈganʤuːˈmunu] 【名】頑丈な者。元気な者。剛健な者。ウˈレー ガンズーˈムヌ ヤˈルンダ ウンˈナー パˈナシケー フシゥカラˈヌ [ʔuˈreː ganʤuːˈmunu jaˈrunda ʔunˈnaː paˈnaʃi̥keː ɸusi̥karaˈnu](彼は頑丈者＜剛健な者＞だから、彼は風邪を引かない＜彼には風邪はくっ付かない＞)。ウˈレー ガンズーˈムヌ ヤˈルンダˈ ギューˈサˈ シゥˈカーバンˈ グˈタイˈヤー ピˈナラヌ [ʔuˈreː ganʤuːˈmunu jaˈrundaˈ gjuːˈsaˈ si̥ˈkaːbaŋˈ guˈtaiˈjaː piˈnaranu](彼は頑健な者だから、いくら使っても体力＜五体＞は減らない)。

ˈガンズーˈルン [ˈganʤuːˈruŋ] 【自動】丈夫になる。体が強くなる。ˈドゥーズーリ ˈガンズーˈリ ˈシー キーˈブバ ˈソーヤ ナーˈヌ [ˈduːʤuːri ˈganʤuːˈri ˈʃiː kiːˈbuba ˈsoːja naːˈnu](体力もつき、丈夫＜頑丈＞になってきているから心配ない)。ˈガンズーˈルンティドゥ ˈガーˈバ ˈタティ ˈファイムヌン ファイ ヨーˈゾーン ˈシーベー [ˈganʤuːˈruntidu ˈgaːˈba ˈtati ˈfaimunuŋ fai joːˈʤoːŋ ˈʃiːbeː](丈夫になろうとして我慢をして食べ物も食べて養生もしているよ)。

ˈカンズーˈワン [ˈkanʤuːˈwaŋ] 【形】記憶力が強い。直感力がつよい。「勘強い」の義。ˈトゥシェー ˈトゥリ ˈオールンˈドゥ シカイˈトゥ カンズーˈワ アˈローリˈブバンˈナー [ˈtuʃeː ˈturi ˈʔoːrunˈdu ʃi̥kaiˈtu ˈkanʤuːˈwa ʔaˈroːriˈbubanˈnaː](年はとっておられるが、非常に＜しかと＞記憶力が強くあられますねえ)。ˈドゥーˈワ ˈヨーリˈブンドゥ スˈブˈロー ˈカンズーˈワンˈダー [ˈduːˈwa ˈjoːriˈbundu suˈbuˈroː ˈkanʤuːˈwanˈdaː](体は弱っているが頭は記憶力が強いよ)。

˞カン˞スクン **[˞kan˞sʉkuŋ]** 【自動】感じ取る。感得する。気付く。˞ウンヌ˞　クトー　˞バシキティ˞　ムッ˞トゥ˞　ウ˞ムインザサラン˞シェンドゥ　˞サシン　ミ˞ラシター˞ル　ヤッ˞トゥ˞シ　˞ター˞ティ　˞カンスク˞タ˞ダー [˞ʔunnu˞ kʉto: ˞baʃɨkiti˞ mut˞tu˞ ʔu˞muiʔndʑasaraŋ˞ʃendu ˞saʃim mi˞raʃita:˞ru jat˞tu˞ʃi ˞ta:˞ti ˞kansʉku˞ta˞da:](そのときのことは忘れてしまって全く＜少しも＞思い出せなかったが、写真を見せたので、やっとのことで誰だと気付いた＜感づいた＞よ)。˞バークトー　マ˞ダ　カンシゥカ˞ヌ [˞ba: ˞kʉto: ma˞da kansɨ̞ka˞nu](私のことはまだ気付づかない)。˞カンシキ˞　パ˞ヤー˞ン [˞kaŋʃɨ̞ki˞ pa˞ja:˞ŋ](感づき＜気付き＞早い)。˞カイ　˞スー˞カー　˞カン˞スクンパジ [˞kai ˞su:˞ka: ˞kan˞sʉkum ˞paʤi](こうしたら気づくはずだ)。˞カン˞スク　˞クトー　˞ナー˞ヌ [˞kan˞sʉku ˞kʉto: ˞na:˞nu](気づくことはない)。˞バイ˞ヨー　˞ター˞ティ　˞カン˞シケー　˞ミサムヌ [˞bai˞jo:˞ta:˞ti ˞kaŋ˞ʃɨ̞ke: misamunu](私を誰だと気付けばよいのに)。˞パー˞ク　˞カン˞シキバ [˞pa:˞ku ˞kaŋ˞ʃɨ̞kiba](早く気付けよ)。˞ウビ　ア˞ズ˞カー　˞カン˞スクン　パジ˞ダー˞ヌ　マ˞ダ　カンシゥカン˞バン [˞ʔubi ʔa˞ʤu˞ka: ˞kan˞sʉkum ˞paʤi˞da: ˞nu ma˞da kansɨ̞kam˞baŋ](これだけ言えば気付くはずだろうが、まだ気付かないよ)。˞カン˞シキ　˞シェーン˞カヤー [˞kaŋ˞ʃɨ̞ki ˞ʃe:ŋ˞kaja:](気付ききれるだろうかねえ)。˞オーパ˞ヤー　˞カン˞スク　˞クトー　˞ナー˞ヌ [˞ʔo:pa˞ja: ˞kan˞sʉku ˞kʉto: ˞na:˞nu](こんなに早く気付くことはない)。˞パー˞ク　˞カン˞シケー　˞ミサムヌ [˞pa:˞ku ˞kaŋ˞ʃɨ̞ke: ˞misamunu](早く気付けば良いのに)。˞カン˞シキバ [˞kaŋ˞ʃɨ̞kiba](気づけよ)。

˞カン˞ズミ **[˞kan˞ʤumi]** 【名】缶詰。終戦後から米軍の配給物資として出回るようになった。イ˞クサユー˞ヌ　˞アトゥナール　˞カン˞ズメー　ミリ˞ミッ˞タ [ʔi˞kusaju:˞nu ˞ʔatuna:ru ˞kan˞ʤume: miri˞mit˞ta](戦後＜戦世の後＞に＜ぞ＞缶詰は見てみた)。

˞カン˞スル **[˞kan˞suru]** 【名】剃刀。「剃刀、カミソリ」『類聚名義抄』の転訛したもの。˞カン˞スルシ　ピ˞ニ˞　スルン [˞kan˞suruʃi pi˞ni˞ suruŋ](剃刀で鬚を剃る)。˞ニチ　˞パッサン　シ˞ミルンティ　カン˞スルシ　フ˞タイ　パン˞キティ　バ˞サ˞ヌ　˞シルシ　˞シー˞　ッ˞スリ˞　トゥ˞ローッ˞タ [˞nitʃi ˞passaŋ ʃi˞mirunti kan˞suruʃi ɸʉ˞tai paŋ˞kiti ba˞sa˞nu ˞ʃiruʃi ˞ʃi:˞ s˞suri˞ tu˞ro:t˞ta](熱を発散させようとして剃刀で額を軽く切って＜弾いて＞、芭蕉の汁で血を拭き取られた)。˞カン˞スロー　ヤ˞ラビ˞ヌ　˞ティー˞ヌ　トゥ˞ドゥ˞クン　˞トンナー　ス˞ク˞ナ [˞kan˞suro: ja˞rabi˞nu ˞ti:˞nu tu˞du˞kun ˞tonna: sʉ˞ku˞na](剃刀は子供の手の届く所に置くな)。

˞カンゾー **[˞kanʤo:]** 【名】植物。かんぞう (萱草)。ユリ科の多年草。忘れ草。根の部分の煎じ汁には睡眠の薬効があるとされ、昔は経産婦に豚の肝臓と共に煮て食させたという。˞カンゾーヤ　オー˞ヌ　キ˞ム˞トゥ　バ˞カシティ˞　ッ˞ふァナシ˞プスン　ッ˞ふァーソーッ˞タティ˞ダー [˞kanʤo:ja ʔo:˞nu ki˞mu˞tu ba˞kaʃɨ̞ti˞ f˞fanaʃi˞pʉsuŋ f˞fa:so:t˞tati˞da:](かんぞう＜萱草＞は豚の肝臓と煮て経産婦に食させたそうだ)。

ガン˞ゾーガンゾー˞シ **[gan˞ʤo:ganʤo:˞ʃi]** 【副】元気で。元気に。パ˞ナシキ˞　マ˞マランドー˞シ　ガン˞ゾーガンゾー˞シ　パ˞タラキ˞バ˞ヨー [pa˞naʃɨ̞ki˞ ma˞marando:˞ʃi gan˞ʤo:ganʤo:˞ʃi pa̠˞taraki˞ba˞jo:](風邪を引かないで＜風邪に塗られないで＞元気で働きなさいよね)。

˞ガン˞ゾーン **[˞gan˞ʤo:ŋ]** 【形】健康である。元気である。「頑丈である」の転訛。ク˞レー˞　イッ˞ケナ　ガン˞ゾーン [ku˞re:˞ ʔik˞kena gan˞ʤo:ŋ](これ＜この人＞は非常に頑丈＜頑健＞である)。˞ナン˞ゾー　˞ガンゾーナー˞ヌ [˞nan˞ʤo: ˞ganʤo:na:˞nu](あまり頑丈ではない)。˞ガン˞ゾー　˞ナルン [˞gan˞ʤo: ˞naruŋ](健康＜頑丈＞になる)。ウ˞ヌ˞　プ˞ソー˞　イッ˞ケナ　ガン˞ゾー　プ˞ス˞ダー [ʔu˞nu˞ pʉ˞so:˞ ʔik˞kena gan˞ʤo: pʉ˞su˞da:](その人は非常に頑丈な人だよ)。˞ウイ˞プソー　˞ガン˞ゾーカー　˞ミサ˞シジ [˞ʔui˞puso: ˞gan˞ʤo:ka: ˞misa ˞ʃiʤi](老人は頑丈なら好いってことよ)。˞ヤーニン˞ズー　ムー˞ル　˞ガン˞ゾーンミー [˞ja:nin˞ʤu: mu:˞ru gan˞ʤo:m-mi:](家族皆元気だろうね)。バ˞カーン˞ケンマー　˞ガン˞ゾータンドゥ　˞ウイ˞プス　ナ˞ル˞ター　˞ガン˞ゾー　˞ナー˞ヌ [ba˞ka:ŋ˞kemma: ˞gan˞ʤo:tandu ˞ʔui˞pʉsu na˞ru˞ta: ˞ganʤo:˞ ˞na:˞nu](若い時は元気だったが、老い人になったので元気＜頑丈＞でない)。˞シンダイ　ガン˞ゾー　˞ナルン [˞ʃindai gan˞ʤo: ˞naruŋ](次第に元気＜頑丈＞になる)。˞アイニ　˞ガン˞ゾー　プ˞ソー˞　ブ˞ラーヌ [˞ʔaini ˞gan˞ʤo: pʉ˞so:˞ bu˞ra:nu](あんなに元気＜頑丈＞な人はいない)。

˞カン˞ター **[˞kan˞ta:]** 【名】1結(ユ)わずに乱れたままにした髪。ざんばら髪。おかっぱ。ガ˞マ˞ジ　ア˞ライテ

ィル　カンˀター　カビ˞ベー [ga˞maˀʤi ʔa˞raitiru kanˀta: kabi˞be:](髪を洗ってざんばら髪にしてい＜ざんばら髪を被ってい＞る)。2成年男子の髪型。たてがみ。両耳の辺りから後頭部にかけて刈り上げる髪型。˞マイガンˀター [˞maiganˀta:] ともいう。ヤ˞ラˀベー　˞マイガンˀター　˞シーˀ　シケーバ　イッ˞ケナˀ　ア˞タラˀサン [ja˞raˀbe: ˞maiganˀta: ˞ʃi:ˀʃi̥ke:ba ʔi˞kkenaˀ ʔa˞taraˀsaŋ](子供はおかっぱ＜たてがみ＞にしてあるので非常に可愛い)。チ˞カˀグロー　ビ˞キドゥモーˀ　ムー˞ル　マイガンターˀル　˞スー [tʃi̥˞kaˀguro: bi˞kidumo:ˀ mu:˞ru maigantaˀru ˞su:](近頃は、男は皆たてがみ＜立髪＞の髪型をする)。

˞カンダーˀリ [˞kanda:ˀri] 【名】神がかり。「カムガカリ」(神懸り) の転訛したもの。若年層は、カ˞ミダーˀリ [kamida:ri](神懸り) ともいう。神霊が人に憑依して神意を告げること。失神状態で神意を告げるという。そのようになることを、フ˞ダマルン [ɸu˞damaruŋ](神霊が憑依する) という。ム˞カˀシェー　サ˞カサヌˀ　マ˞ローˀル　ˀピンマー　˞カンダーˀリ　˞シーソーッˀタツォー [mu˞kaˀʃe: sḁ˞kasanuˀ ma˞roːˀru ˀpimma: ˞kanda:ˀri ˞ʃi:soːtˀtatso:](昔は、司が誕生される時は神霊が憑依されたそうだ)。˞ウンˀネヌ　ˀアッパー　˞カンダーˀリ　シ˞ティˀ　シ˞タˀタカ　ム˞ニˀバ　ユ˞マサˀリ　˞カンムーマˀリ　サ˞リティルˀ　キ˞タˀシキ　˞オーˀルツォー [˞ʔunˀnenu ˀappa: ˞kanda:ˀri ʃi̥˞tiˀ ʃi̥˞taˀtaka mu˞niˀba ju˞masaˀri ˞kammu:maˀri sa˞ritiruˀ ki̥˞taˀʃi̥ki ˞ʔo:ˀrutso:](その家のお祖母さんは神がかりして、たくさん喋(シャベ)らされ、神霊にもみくちゃにもまれて、ぐったりと疲れ衰弱しておられるそうだ)。

˞カンダカーˀイシ [˞kandaka:ˀʔiʃi] 【名】霊石。「神高石」の義。多くは東の庭のビ˞チˀル [bi˞tʃiˀru](賓頭盧(ビンズル)) にあった。霊験あらたかな神として拝む石。子供達には、その上に昇ったりしてはならないと厳しく戒(イマシ)められていた。˞アンタヌˀ　ミ˞ナカˀヌ　ビ˞チˀルナー　˞カンダカーイシˀヌ　ア˞リˀバ　˞ウンˀナー　˞ヌールナˀダー [˞ʔantanuˀ mi˞nakaˀnu bi˞tʃiˀruna: ˞kandaka:ʔiʃiˀnu ʔa˞riˀba ˞ʔunˀna: ˞nu:runaˀda:](東の庭のビチルに霊石があるから、その上に乗るなよ)。

˞カンダカーˀン [˞kandaka:ˀŋ] 【形】神の霊験が高い。「神高さあり」の義。パ˞トゥˀマー　˞カンダカーˀル　ˀシマティ　ア˞ザリブー [pḁ˞tuˀma: ˞kandaka:ˀru ˀʃimati ʔa˞ʤaribu:](鳩間島は霊験高い島といわれている)。ˀクマー　˞カンダカーˀヌ　˞ペーララˀヌ [ˀkuma: ˞kandaka:ˀnu ˞pe:raraˀnu](ここは霊験高くて入れない)。ˀクマー　イッ˞ケン　カンダカーˀン [ˀkuma: ʔik˞keŋ kandaka:aˀŋ](ここは非常に霊験高い)。ˀクマー　˞カンダカーˀカー　˞ペーララˀヌ [ˀkuma: ˞kandaka:ˀka: ˞pe:raraˀnu](ここは霊験高かったら入れない)。

˞ガンダラゴー [˞gandarago:] 【名】棺(ヒツギ)(棺箱) を入れて運ぶ屋形のみこし (御輿)。前 4 人 (2Œ2)、後 4 人 (2Œ2) の男 8 人で担いだ。軒とナ˞カグスˀク [na˞kagusu̥ˀku](ヒンプン) の間の距離は、ガンダラゴーの御輿が入る長さをとって作られてある。˞ガンダルゴー [˞gandarugo:] ともいう。霊柩車。八歳以上の人が死んだときにガンダラゴーに棺を載せて葬式を出すといわれていた。ガンダラゴーを保管する小屋 (˞ガンダラゴーヤー [˞gandarago:ja:]) が西村の村はずれにあった。1960 年頃まで利用されていたが過疎化により担ぐ若者が減ったことと、石垣島における火葬の普及により、利用されなくなった。幼児は朱塗りのガンダラゴーを恐れて西村の村はずれを出て一人で農道を行くことは出来なかった。畑へ行く母親の着物の裾にしがみついて追いすがって来ても、ガンダラゴー保管小屋の前で親と別れて家に帰らざるを得なかった。˞ガンダラゴーヤ　ヤーチˀ　ナ˞ラバˀル　カ˞タˀモーッタツォー [˞gandarago:ja ja:tʃiˀ na˞rabaˀru kḁ˞taˀmo:ttatso:](ガンダラゴーは八歳になったらば＜ぞ＞棺を載せて担がれたそうだ)。

˞ガンダラゴーˀ　カ˞タミˀプス [˞gandarago:ˀ kḁ˞tamiˀpu̥su:] 【連】棺を収めて墓へ運ぶ木製のかご (轎) を担ぐ人 (前後四人ずつ、計八人)。「龕」の転訛したもの。˞ガンダラゴーˀ　カ˞タミˀプソー　ˀマンター　ユ˞タールˀ　シンタン　ユ˞タールˀシル　カ˞タˀモーッタ [˞gandarago:ˀ kḁ˞tamiˀpu̥so: ˀmanta: ju˞ta:ruˀ ʃintaŋ ju˞ta:ruˀʃiru kḁ˞taˀmo:tta](龕＜轎＞を担ぐ人は、前方は四人、後方も四人で担がれた)。

˞ガンダラゴーヤー [˞gandarago:ja:] 【名】˞ガンダラゴーを保管する小屋。イ˞ザˀテヌ　˞インタナーˀル　˞ガンダラゴーヤーヤ　アッˀタ [ʔi˞ʤaˀte:nu ˞ʔintana:ˀru ˞gandarago:ja:ja ʔatˀta](西花家＜入里(イザテー)屋＞の西にガンダラゴー小屋はあった)。

˞カンダンˀイシ [˞kandaŋˀʔiʃi] 【名】かずらいし (葛石) の一種。軒下に置き、それを踏んで縁側に登ったり、履物を並べておく石。軒下の犬走りの縁取りに並べ、雨垂れの落ちるのを受ける石。山石や

砂岩を削って利用した。家の南面の軒下に設置していた。˩アッパー　ウ˩ブヤー˩ヌ　˩カンダン˩イシナー　ビ˩リティ˩　ティダ　ヌ˩クˬミ　˩オーッ˩タ [˩ʔappa: ʔu˩buja:˩nu ˩kandaŋ˩ʔiʃina: bi˩riti˩ tida nu˩ku˩mi ˩ʔo:t˩ta](お婆さんは、母屋のかずら石に腰掛けて＜座って＞日向ぼっこをしておられた＜太陽に当って温まっておられた＞)。˩カンダン˩イシナー　フ˩ミムノー˩　ナ˩ラビ˩　シ˩キ˩リ [˩kandaŋ˩ʔiʃina: ɸu˩mimuno:˩ na˩rabi˩ ʃi̥˩ki˩ri](縁側の踏み石に履物を並べておけ)。ヤ˩ドゥ˩フチェーラ　ク˩ルビ˩ウティティ　˩カンダン˩イシナ　ス˩ブ˩ルバ˩リ˩シケー [ja˩du˩ɸu̥tʃe:ra ku˩rubi˩ʔutiti ˩kandaŋ˩ʔiʃina su˩bu˩ru ba˩ri˩ʃi̥ke:](縁側＜戸口＞から転び落ちて、縁石に頭を打ってある)。

˩カンダン˩ドー **[˩kandan˩do:]** 【固】(地) 観音堂。老年層は˩カンナン˩ドー [˩kannan˩do:](観音堂) というのが普通。石垣市西方の富崎 (ふさき) にある拝所。航海安全、大漁祈願をするところ。カ˩ツシンヌ˩　ス˩ビニガイ [ka˩tsuʃinnu˩ su˩binigai](カツオ漁船の大漁祈願と感謝の祈願。「首尾願」の義) が行われるところ。カ˩ツシンヌ　ナー˩ン　˩ナッ˩ター　マ˩ナ˩マー　˩カンダン˩ドー　ウ˩ガ˩ム　プ˩スン˩　ブ˩ラーン˩ナー [kḁ˩tsuʃinnu na:˩n ˩nat˩ta: ma˩na˩ma: ˩kandan˩do: ʔu˩ga˩mu pu̥˩sum˩ bu˩ra:n˩na:](カツオ漁船＜カツオ漁業＞がなくなったので、今では観音堂のお宮＜御願＞を拝む人もいないねえ)。

˩カン˩チガイ **[˩kan˩ʧigai]** 【名】勘違い。考え違い。ウ˩レー˩　バー　˩カン˩チガイ　ヤ˩レー˩バ　˩マープス˩ケン　パ˩ナシアー˩シ　˩ミラ [ʔu˩re:˩ ba: ˩kan˩ʧigai ja˩re:˩ba ˩ma: pu̥su˩kem pa˩naʃiʔa:˩ʃi ˩mira](それは私の勘違い＜誤解＞であったから、もう一度話し合ってみようよ)。

˩カン˩チョー **[˩kan˩ʧo:]** 【名】かんちょう (浣腸) すること。標準語からの借用語。戦後から使用されるようになった。シ˩ビコー˩リティ　˩ッス　マ˩リユーサン˩ベーティ　˩カン˩チョー　シ˩ミルタ [ʃi˩biko:˩riti ˩ssu ma˩riju:sam˩be:ti ˩kan˩ʧo: ʃi˩miruta](便秘して排便できないので浣腸させた)。

˩カン˩ツァーアサビ **[˩kan˩tsa:ʔasabi]** 【名】昔は司やティジリビ達がユーニンガイの後に神歌を習い覚えるためにヨーカヤー (西原家) に集まって神歌の練習をされたという神遊び。ム˩カ˩シェー　˩ユーニンガイヌ˩　アトゥナー　˩カン˩プスンケーヤー　˩ヨー˩カヤーナーティ　˩カン˩ツァーアサビ˩ソー˩ッ˩タツォー [mu˩ka˩ʃe: ˩ju:niŋgainu˩ ʔatuna: ˩kam˩pu̥suŋke:ja ˩jo:˩kaja:na:ti ˩kan˩tsa:ʔasabi ˩so:t˩tatso:](昔はユーニンガイの後に神職者＜司・ティジリビー＞達はヨーカヤー＜西原家＞で神歌を習い覚える「神遊び」をされたそうだ)。

˩カンツァー˩スン **[˩kantsa:˩suŋ]** 【他動】噛み散らす。散散に噛み砕く。「噛み散らす」の義。「～ツァースン」(～散らす) は動詞の連用形に下接して動作を強調し、「散散に～する」意を添える。˩アイニ　˩カンツァーサン˩ドーシ　カ˩シーカシー˩　ッ˩ふァイ˩バ [˩ʔaini ˩kantsa:san˩do:ʃi ka˩ʃi:kaʃi:˩ f˩fai˩ba](あんなに噛み散らさないで、ちゃんとしっかり食べなさいよ)。˩ワー　カンツァー˩シ　ッ˩ふー˩カー　カ˩リン　カンツァー˩スン˩ダー [˩wa: kantsa:˩ʃi f˩fu:˩ka: ka˩riŋ kantsa:˩sun˩da:](君が噛み散らして食べると、彼も噛み散らすよ)。˩アッ˩タル　˩ムヌバ　˩カンツァー˩ス　˩クトー　ナ˩ラ˩ヌ [˩ʔat˩taru ˩munuba ˩kantsa:˩su ˩ku̥to: na˩ra˩nu](惜しむべき＜勿体無い＞ものを噛み散らすことはいけない)。˩カンツァー˩シェー　˩ミサムヌ [˩kantsa:˩ʃe: ˩misamunu](噛み散らしたらいいのに)。˩カイブ　˩ムノー　˩カンツァー˩シ [˩kaibu ˩muno: ˩kantsa:˩ʃi](こんな物は噛み散らせ)。

˩**-カンティー** **[˩-kanti:]** 【接尾】～かねること。～できないこと。～することがむずかしい。動詞の連用形について、不可能、困難、躊躇などの意を表す。「～流るる涙　等騰未可祢都母＜～トドミカネツモ＞『万葉集　4160』」の義。˩グッ˩ふァティム˩ティカン˩ティー　˩シーベー [˩guf˩fati mu˩tikan˩ti: ˩ʃi:be:](重いので持ちかねて＜持つことが出来ないで＞いる)。˩パンタ˩サティ　パ˩リカン˩ティー　˩シーベー [˩panta˩sati pa˩rikan˩ti: ˩ʃi:be:](忙しいので行きかねて＜行くことが出来ないで＞いる)。マ˩ティカン˩ティ [ma˩tikan˩ti](待ちかねて)。˩シーカンティ [˩ʃi:kanti](しかねる)。ア˩ラキカン˩ティ [ʔa˩rakikan˩ti](歩きかねる)。バ˩カリカン˩ティ [ba˩karikan˩ti](別れかねて)。ウ˩キカン˩ティ [ʔu˩kikan˩ti](起きかねる)。

˩カンドー **[˩kando:]** 【名】(地) 鳩間島の中岡の北西部、タチバル [tḁ˩ʧi˩baru](立原) の東側の地名。˩ウブシケーヌ　˩カンドーヌ　パ˩タ˩キナー　˩ウン˩バイ˩ビティ　ミーラシ˩　シケー [˩ʔubuʃi̥ke:nu ˩kando:nu pḁ˩ta˩kina: ˩ʔum˩ba ʔi˩biti mi:raʃi˩ ʃi̥ke:](大城家のカンドーの畑に芋を植えて稔らせて＜実入らせて＞おいてある)。

˹ガンドーヌキル [˹gando:nukiru] 【名】横引き鋸 (のこぎり)。もくめ (木理) と直角にきる鋸。普通は薪を伐る際に用いる。˹ガンドーヌキル˺シ　˹キー˺バ　˺キシティル　タ˹ム˺ノー　バ˹ルタ [˹gando:nukiru˺ ʃi ˹ki:˺ba ˺kʲʃitiru ta˹mu˺no: ba˹ruta](ガンドー鋸で木を切って薪は割った)。

˹ガンドーリ˺ムヌ [˹gando:ri˺munu] 【名】元気のない者。覇氣のない者。気力のない者。˹ガンドー˺ラー [˹gando:˺ra:](元気のない奴) は卑語。ヌー˹スンティル˺　アイニ　˹ガンドーリ˺ムヌ　˺ナレーティ　˹アーク˺ワ [nu:˹suntiru˺ ʔaini ˹gando:ri˺munu ˺nare:ti ˹ʔa:ku˺wa](どうしてあんなに元気のない者になっている < あるく。〜している > のか)。

˹ガンドー˺ルン [˹gando:˺ruŋ] 【自動】元気がなくなる。落胆する。悄然とする。気落ちして沈む。しおれる。しょんぼりする。ぐったり力を落とす。˺ヌンティ　˹ガンドー˺レーティ　˹アーク˺ワ [˺nunti ˹gando:˺re:ti ˹ʔa:ku˺wa](どうして気落ちしているのか)。ノー˹ンティ˺　イ˹ゾーラ˺バン　˹ガンドーラン˺ドーシ　˹シーッ˺パイ　シ˹グトゥ　シー˺ヨー [no:˹nti˺ ʔi˹ʤo:ra˺baŋ ˹gando:ran˺do:ʃi ˹ʃi:p˺pai ʃi ˹gutu ʃi:˺jo:](なんとお叱りになられても、しょんぼり気落ち < 落胆 > しないで精一杯仕事をしなさい < せ > よ)。イ˹ザリ˺カー　ター˹ン　ガンドー˺ルンティル　ウ˹モー˺リ [ʔi˹ʤari˺ka: ta:˹ŋ gando:˺runtiru ʔu˹mo:˺ri](叱られたら誰でもしおれると思われる)。イ˹ザリター　ガンドー˺リ　˹ナー˺ヌ [ʔi˹ʤarita: gando:˺ri ˹na:˺nu](叱られたのでしおれて気落ちしてしまった)。˹ガンドー˺ル　˺クトー　˹ナー˺ヌ [˹gando:˺ru ˺kʷto: ˹na:˺nu](気落ちすることはない)。˹マー˺ビン　˹ガンドー˺レー　˺ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ˹gando:˺re: ˺misamunu](もっと気落ちすれば良いのに)。

˹カン˺ドゥ [˹kan˺du] 【名】寒露。太陽暦の十月八日ごろ。˹カンドゥ˺ヌ　˺シチ　イ˹レー˺チバ　˹ナーッ˺ス　ス˹クラン˺カー　ナ˹ラ˺ヌ [˹kandu˺nu ˺ʃʲtʃi ʔi˹re:˺ʧiba ˹na:s˺su sʷ˹kuraŋ˺ka: na˹ra˺nu](寒露の季節に入ったから苗代を作らないといけない)。

˺カン　トゥ˹ブン [˺kan tu˹buŋ] 【連】失念する。記憶を失う。ぼける。耄碌する。「勘飛ぶ」の義。˹ウイ˺プス　˺ナルカー　ター˹ン˺　カントゥ˹ブン [˹ʔui˺pʷsu ˺naruka: ta:˹ŋ˺ kan tu˹buŋ](老人になると誰でも耄碌する < 勘が飛ぶ >)。˺トゥシ　トゥ˹ル˺ター　˺カン　トゥ˹ビティ˺　ムッ˹トゥ˺　ウ˹ムインザサラ˺ヌ [˺tʷʃi tu˹ru˺ta: ˺kan tu˹biti˺ mut˹tu˺ ʔu˹mui˺nʤasara˺nu](年を取ったので記憶力を失って < 勘が飛んで >、ちっとも思い出されない)。˺カン　˹トー˺ルン [˺kan ˹to:˺ruŋ](勘倒れる) ともいう。˺トゥシ　トゥ˹ローッ˺ター　カン　トゥ˹ビティ˺　ッ˹ふァヌ˺　シラン　˹バシゥコー˺リ　˹ナー˺ヌ [˺tʷʃi tu˹ro:t˺ta: ˺kan tu˹biti˺ f˹fanu˺ ʃiram ˹basʷko:˺ri ˹na:˺nu](年をとられたので、耄碌して子供の顔も忘れてしまわれた)。

˹カンドゥヤブ˺リ [˹kandujabu˺ri] 【名】寒露の季節に時化ること。「寒露破れ」の転訛したもの。晩秋から初冬の間に吹き荒れる季節風。˹カンドゥヤブ˺レー　˹アッ˺タニ　ニ˹シクベーラ˺　ウティクーンダ　ナ˹クラーン˺ダー [˹kandujabu˺re: ˹ʔat˺tani ni˹ʃikube:ra˺ ʔutiku:nda na˹kura:n˺da:](寒露の時化は急に北壁から吹き降ろして < 落ちて > くるから怖いよ)。

˹カン˺トゥルン [˹kan˺turuŋ] 【他動】感じとる。感得する。気付く。「勘取る」の義。˹ティーヨー˺　ピ˹サ˺ヨー　˹シー˺　ミ˹シルン˺ドゥ　ムッ˹トゥ　カントゥリユーサン˺バン [˹ti:jo:˺ pʲ˹sa˺jo: ˹ʃi:˺ mi ˹ʃirun˺du mut˹tu kanturiju:sam˺baŋ](手まね足まねして見せるのだが、相手はちっとも理解することが < 感じ取ることが > 出来ないよ)。˹カントゥララ˺ヌ [˹kanturara˺nu](理解できない。感得出来ない)。˹カン˺トゥル　プ˹ソー　カン˺トゥルンツォー [˹kan˺turu pʷ˹so: kan˺turuntso:](気付く人は気付くそうだ)。˹カン˺トゥレー　˺ミサムヌ [˹kan˺ture: ˺misamaunu](気付けばよいのに)。˹パイ˺サ　˹カン˺トゥリ [˹pai˺sa ˹kan˺turi](早く感じ取れ < 気付けよ >)。

˹カントゥン˺ガー [˹kantuŋ˺ga:] 【名】神罰。˹神科」の義。聖域、神域を穢したり、神職を穢したりすると神罰を受けるといわれている。ウガン (お願) の樹木を伐ったり、乗馬して鳩間島の道路を進んだり、勝手に神職を継承したり、辞めたりすると˹カントゥン˺ガー (神罰) を受けるといわれている。˺ドゥーカッティシ　サ˹カサ　ソー˺ルカー　˹カントゥン˺ガー　ア˹ティラリン˺ティ˹ダー [˺du:kattiʃi sʲ˹kasa so:˺ruka: ˹kantuŋ˺ga: ʔa˹tirarin˺ti˹da:](自分勝手に司の神職を勤められると神罰を当てられるそうだよ)。ウ˹ガン˺ヌ　˺キー　˺キスカー　˹カントゥン˺ガー　ア˹ティラリン˺ダー [ʔu˹gan˺nu ˺ki: ˺kʲsuka: ˹kantuŋ˺ga: ʔa˹tirarin˺da:](御嶽の木を切ると神罰 < 神科 > を受ける < 当てられる > ぞ)。ヤ˹ラ˺ビ　˹シェーン˺ケン　˹バン˺ター　ミ˹ツァール

˞シ　˞ウガン˞ヌ　˞マーニ˞バ　˞キシティ　˞ケンバ˞　ス˞ク˞リ　ア˞サビベー˞ティ　ミ˞ツァールヌ˞　ウ˞ヤッ˞ふァー　˞フー˞カラジナシ　フ˞バラリティ　カンヌ˞マイ　ウ˞ヤミ˞サ　ッ˞サリ　ニン˞ガイ　シ˞テイル　カントゥン˞ガー　˞ヌンガー˞レータティ˞ダー [ja˞ra˞bi ˞ʃeːŋ˞kem ˞ban˞taː mi˞tsaːru˞ʃi ʔu˞gan˞nu ˞maːni˞ba ˞kiʲʃiti ˞kemba˞ sɥ˞kuːri ʔa˞sabibeː˞ti mi˞tsaːrunu˞ ʔu˞jaf˞faː ˞ɸuː˞karaʤinaʃi ɸu˞bararitikannu˞mai ʔu˞jami˞sa s˞sari niŋ˞gai ʃiʲ˞tiru kantuŋ˞gaː ˞nuŋgaː˞reːtati˞daː](子供の頃、私たち三人で御嶽のマーニを切って剣を作って遊んでいたので、三人の親子は棕櫚縄で縛られて、神様にお詫びを申し上げ、お許し願いの祈願をして＜ぞ＞神罰は免れたそうだ)。

˞カンナー˞ル [˞kannaː˞ru] 【名】雷。「襲芳舎、加美奈利乃豆保 (かみなりのつほ)『和名抄』」の転訛。˞カンナール˞ヌ　˞ナール˞カー　ム˞カ˞シプソー　˞クゥー˞ヌ　˞シチャ　˞クゥー˞ヌ　˞シチャティ　ア˞ゾーッ˞タツォー [˞kannaːru˞nu ˞naːru˞kaː mu˞ka˞ʃipɥsoː ˞kwaː˞nuʃiʲʧa ˞kwaː˞nuʃiʲʧati ʔa˞ʤoː˞tatsoː](雷が鳴ると昔の人は桑の下、桑の下といわれたそうだ)。˞カンナー˞ロー　イッ˞ケナ˞　ナ˞クラー˞タン [˞kannaː˞roː ʔik˞kena˞ na˞kuraː˞taŋ](雷は非常に怖かった)。

˞カン˞ニガイ [˞kan˞nigai] 【名】神への祈願。祈願。「神願い」の義。イ˞クサ˞ユーナーン　˞クーシューヌ˞　マ˞ドゥ˞バ　パ˞カ˞レーティ　˞カンニン˞ガイ　˞スンティ　カン˞プスンケーヤ　パ˞トゥ˞マー　˞オーッ˞タ˞ダー [ʔi˞kusa˞juːnaːŋ ˞kuːʃuːnu˞ ma˞du˞ba pa˞ka˞reːti ˞kanniŋ˞gai ˞sunti kam˞pɥsuŋkeːja pa˞tu˞maː ˞ʔoːt˞ta˞daː](戦争中にも空襲の合い間をぬって＜見計らって＞神願いをしようと神職者＜司や手摺部＞たちは鳩間島へ渡られた＜行かれた＞よ)。

˞カン˞ヌ　˞クー [˞kan˞nu ˞kuː] 【連】神司の交替の儀式を行う際に使う米の粉。交替の儀式を行う家の庭に、˞クー˞ジ [˞kuː˞ʤi](トウヅルモドキ) を˞カンヤマ [˞kaŋjama](御嶽。＜神の山＞) より採取してきて、注連縄も張り巡らす。祈願をしている間にシ˞ル [ʃi˞ru](代。注連縄の中) で屈強の男が米粉を搗いて神に供え、それを参会者に配る。

˞カン˞ヌ　ク˞ム˞ル [˞kan˞nu ku˞mu˞ru] 【連】堰の川上にある池 (水籠(ミズコモリ))。谷間にできた自然の小池。水深1〜2メートル程度の池が多い。保水力が弱く、旱魃が続くと干上がることがある。˞カン˞ヌ　ク˞ムル˞ヌ　ミ˞ジヌ˞　ピ˞シ˞ルンケン　˞ペーレー　スー˞　ピンヌン　˞アッ˞タン [˞kan˞nu ku˞muru˞nu mi˞ʤinu˞ pi˞ʃi˞ruŋkem ˞peːreː suː˞ pinnuŋ ˞ʔat˞taŋ](川上の池の水が干上がるほど旱魃することもあった)。

˞カン˞ヌシ [˞kan˞nuʃi] 【名】神主。御嶽の管理をしたり、朔日十五日の祈願をする司やティジリビ。ピ˞ナイウガン˞ヌ　˞カン˞ヌシェー　パ˞ナシケヌ˞　イガンマトゥ　カ˞ザケヌ˞　ウスマイル　˞シーオーッ˞タ [pi˞nai ʔugan˞nu ˞kan˞nuʃeː pa˞naʃikenu˞ ʔigammatu ka˞ʤakenu˞ ʔusumairu ˞ʃiːʔoːt˞ta](ピナイ御嶽の神主は花城家のイガお母さん＜司＞と加治工家の伊佐ウスマイ＜手摺部＞が努めておられた＜しておられた＞)。

˞カンヌ˞ッふァ [˞kannu˞ffa] 【名】神に仕える女性。サ˞カサ [sa˞kasa](司) やバ˞キサカ˞サ [ba˞kisaka˞sa](脇司。司の補佐職) のこと。˞カンヌッふァ˞ヌ　マ˞ロー˞レーンツォー [˞kannuffa˞nu ma˞roː˞reːntsoː](神女＜司＞が誕生されたそうだ)。

˞カンヌ˞マイ [˞kannu˞mai] 【名】神様。「神の御前」の義。˞-マイ [˞-mai](〜様＜御前＞) は接尾語。˞カンヌマイ˞ヤー　ミシゥ˞カーマ˞シル　˞オー˞ル˞ダー [˞kannumai˞jaː misiʲ˞kaːma˞ʃiru ˞ʔoː˞ru˞daː](神様はいつも＜密(ミソカ)に。こっさりと＞見守っておられるのだよ)。

˞カン˞ヌ　˞ミチ [˞kan˞nu ˞miʧi] 【連】「神の道」の義。伝承によると、フ˞ナ˞バルパマ [ɸu˞na˞barupama](船原浜) から˞ウイヌ˞ウガン [˞ʔuinu˞ʔugaŋ](友利御嶽) へ通ずる道は神の古道で、村建ての際に神々が通られた道だという (鳩間真吉氏伝承)。また、˞ウイヌ˞ウガンから˞ヨー˞カヤー [˞joː˞kajaː](西原家) の東庭のビ˞チ˞ル [bi˞ʧi˞ru](東庭の聖域) へ通じる˞カン˞ヌ　˞ミチ [˞kan˞nu ˞miʧi](神の道) があって、戦前までは、サ˞カサ [sa˞kasa](司) やティ˞ジリ˞ビー [ti˞ʤiri˞biː](手摩り部。男性神職者) の˞カン˞プス [˞kam˞pɥsu](神人。神職者) たちが、そこを通って西原家に集まり、˞カンアサ˞ビ [˞kaŋʔasa˞bi](神遊び) をされ、神歌の練習をされたという。フ˞ナ˞バローラ　˞ウイヌ˞ウガン　˞バー˞ケー　˞カン˞ヌ　˞ミチヌ　アンティ˞ダー [ɸu˞na˞baroːra ˞ʔuinu˞ʔugam ˞baː˞keː ˞kan˞nu ˞miʧinu ʔanti˞daː](船原浜から友利御嶽までは神の古道があるそうだよ)。

˞カン˞ヌ　˞ユー [˞kan˞nu ˞juː] 【連】神の世。神代。太古。豊穣で平和な不老長寿の理想郷として憧れた神の御世。ミ˞ルクユー　カン˞ヌユーバ　タ˞ボーラ˞リ　ウ˞ヤ˞キパンジョー　ア˞ラ˞シミ　タ˞ボー˞リ

[mi˞rukuju: kan˞nu ˞ju:ba ta˞bo:ra˞ri ʔu˞ja˞kipandʒo: ʔa˞ra˞ʃimi ta˞bo:˞ri](弥勒の世、神の世を賜って富貴繁盛をあらしめて下さい)。

˞カン˞ネ [˞kan˞ne]【連】あの家。˞ウン˞ネ [˞ʔun˞ne](その家)、˞クン˞ネ [˞kun˞ne](此の家) と対立する。˞クン˞ネーヤ　˞カン˞ネーラヌ　バ˞カ˞リミー [˞kun˞ne:ja ˞kan˞ne:ranu ba˞ka˞rimi:](此の家はあの家からの分家 < 別れ > でしょう?)。

˞ガン˞パジ [˞gam˞padʒi]【名】がんはすし (願外し)。老年層は˞グヮン˞パジ [˞gwam˞padʒi] という。生前に神様に感謝の祈願をしていない者や神職の隠居願いをしてないで死去した場合、死者に代わって願外し (隠居願い) の祈願をすること。˞マーラソーッ˞タ　プ˞スヌ　ガン˞パジ　˞シーオースンティニン˞ガイ　˞ソーッ˞タ [˞ma:raso:t˞ta pu̥˞sunu gam˞padʒi ˞ʃi:ʔo:sunti niŋ˞gai ˞so:t˞ta](亡くなられた人の願外しの祈願 < 願解きの祈願 > をして差し上げようとして祈願をされた)。

˞カンパチ [˞kampatʃi]【名】はげ (禿げ)。頭の傷跡にできる赤く光る皮膚。沖縄本島方言からの借用語。伝統的な鳩間方言では、ピ˞ジ˞ル [pi˞dʒi˞ru](頭の禿げ) という。˞キーヌ　パン˞ターラ　˞ウティティ　ス˞ブ˞ル　ヤ˞マ˞シ　˞シケータンドゥ　キ˞ジヌ　ウイル˞ター　˞カンパチ˞　ナリ˞ベー [˞ki: nupan˞ta:ra ˞ʔutiti su˞bu˞ru ja˞ma˞ʃi ˞ʃi̥ke:tandu ki˞dʒinu ʔuiru˞ta: ˞kampatʃi˞ nari˞be:](木の枝の先から落ちて頭を痛めてあったが傷が治ったので傷跡がカンパチになっている)。

˞カン˞バチェー　˞ヨーンナー [˞kam˞batʃe: ˞jo:nna:]【連】˞カン˞バチェー　˞ヨーンナー˞ティル　ア˞ザリ　ブー˞ダー [˞kam˞batʃe: ˞jo:nna:˞tiru ʔa˞dʒari bu: ˞da:](神罰はゆっくり来ると言われているよ < 諺 >)。

˞カンバヤー˞ン [˞kambaja:˞ŋ]【形】感じ方が早い。理解が早い。勘が鋭い。直観力がある。˞カンバヤー˞ティ　プ˞スム˞シ　ナ˞ラー˞スカー　シ˞グ　カントゥリ˞ス [˞kampaja:˞ti pu̥˞sumu˞ʃi na˞ra:˞suka: ʃi˞gu kanturi˞su](勘が鋭いので、一度教えたらすぐ会得する < 感得する >)。イッ˞ケナ　カンバヤー˞ン [ʔik ˞kena kambaja:˞ŋ](非常に理解が早い)。˞ナン˞ゾー　˞カンバ˞ヤー　˞ナー˞ヌ [˞nan˞dʒo: ˞kambaja˞: ˞na: ˞nu](それほど理解が早くない)。˞シンダイ　カンバヤー˞　ナリケーン [˞ʃindai kambaja:˞ narike:ŋ](次第に勘が鋭く < 理解が早く > なってきた)。˞カイニ　˞カンバヤー˞　プ˞ソー˞　ブ˞ラーヌ [˞kaini ˞kambaja:˞ pu̥˞so:˞ bu˞ra:nu](こんなに勘の鋭い < 理解の早い > 人はいない)。

˞カンパヤー˞ン [˞kampaja:˞ŋ]【形】感じ方が早い。理解が早い。敏感である。「勘早い」の義。˞ピー˞チ˞アジ　シゥ˞カス˞カー　˞トゥーヤ˞　バ˞カ˞ルスコー　˞カンパヤー˞ン [˞pi:˞tʃi ˞ʔadʒi si̥˞kasu˞ka: ˞tu:ja˞ ba˞ka˞rusu̥ko: ˞kampaja:˞ŋ](一つ言って教えたら < 聞かせたら >、十は分かるほど理解が早い < 勘が早い >)。

˞ガンパラ [˞gampara]【名】岩だらけのところ。タ˞チバル˞ヌ　ス˞ムスコー　ガンパラ˞　ナリティ　パ˞タ˞キ　ス˞クララ˞ヌ [tḁ˞tʃibaru˞nu su˞musuko: gampara˞ nariti pḁ˞ta˞ki su̥˞kurara˞nu](立原の最北端 < 下底 > は岩だらけになっていて畑は作られない)。

˞ガンパラミチ [˞gamparamitʃi]【名】石ころ道。石だらけの道。石のでこぼこ道。˞ガンパラミチェーラ˞　パリ　˞クー˞ナ˞ダー˞　ク˞ルベーラ˞　ドゥーヤ˞マ˞スン˞ダー [˞gamparamitʃe:ra˞ pari ˞ku:˞na˞da: ˞ku˞rube:ra˞ du: ja˞ma˞sun˞da:](石ころ道を走って来るなよ。転んだら怪我するよ < 胴を病ますよ >)。˞ニーシキイシ˞ヌ　˞アル　ミ˞チ˞バ　˞ガンパラミチ˞ティ　ア˞ズ˞ミー [˞ni:ʃi̥ki?iʃi˞nu ˞ʔaru mi˞tʃi˞ba ˞gamparamitʃi˞ti ʔa˞dʒu˞mi:](根付き石 < 地中に深く根ざした岩や石 > のある道を岩だらけの道 < 岩原道 > という)。

˞ガン˞バリ [˞gam˞bari]【名】いたずら (悪戯)。˞ガン˞マリ [˞gam˞mari](悪戯) ともいう。˞ガン˞バリ　˞スン [˞gam˞bari ˞suŋ](悪戯 < を > する)。˞ミー˞ヌ　˞ガン˞バレー　サ˞バン　ティー˞ヌ　˞ガン˞バレー　ス˞ナ [˞mi:˞nu ˞gam˞bare: sa˞ban ti:˞nu ˞gam˞bare: su˞na](見るだけの悪戯はしてもよいが、手を出しての悪戯はするな < 諺 >)。

˞カン˞ピュー [˞kam˞pju:]【名】干し大根。切干大根。「干瓢」の義。干瓢が意味変化して切干大根の意となったもの。˞カンピュー˞ヤ　イ˞サナケーラル　カイクータ˞ル [˞kampju:˞ja ʔi˞sanake:raru kaiku:ta˞ru](カンピョーは石垣島から買ってきたものだ)。

˞カンピュー˞ル [˞kampju:˞ru]【名】神日和。神事をとり行うのに選定された日。旧暦の七月は神事を執り行ってはならないといわれていた。ミ˞ジニー [mi˞dʒini:](壬、癸) に神行事が執り行われることが普通であった。˞カンピュー˞ロー　ミ˞ジニーナー˞ル　トゥ˞ローッ˞タ [˞kampju:˞ro: mi˞dʒini:na:˞ru tu ˞ro:t˞ta](神行事の日和は壬、癸の日に取られた)。

ˈカンˈビョー [ˈkamˈbjoː] 【名】看病。標準語からの借用語。伝統方言ではˈトゥンザˈク [ˈtundʑaˈku](看病。「頓着」の転訛したものか) という。ウˈヤˈヌ　ˈカンˈビョー　ˈシェーˈティ　ヤーˈディン　ヤンˈマー　ˈノーˈシˈヨー [ʔuˈjaˈnu ˈkamˈbjoː ˈʃeːˈti jaːˈdiɲ jamˈmaː ˈnoːˈʃiˈjoː](親の看病をしながら必ず病気は治せよ)。ヤˈラˈベー　ˈカンビョーˈル　イッˈチンˈ　フˈチˈル [jaˈraˈbeː ˈkambjoːˈru ʔitˈʧiŋˈ ɸuˈʧiˈru](子供は看病が一番の薬だ)。

ˈカンビョーブガˈリ [ˈkambjoːbugaˈri] 【名】看病疲れ。ˈカンビョーブガˈリ　ˈシールˈ　アイニ　ˈヨーガリ　アーˈク [ˈkambjoːbugaˈri ˈʃiːruˈ ʔaini ˈjoːgari ʔaːˈku](看病疲れをしてあんなに痩せているのだ)。

ˈカンピラ [ˈkampira] 【名】(地) 浦内川上流のカンピラ滝のある地名。ムˈカˈシェー　ウˈラッチガーラˈヌ　ˈカンピラˈバーˈキ　ˈパル　プˈソー　ナンˈゾー　ブˈラーンシェン [muˈkaˈʃeː ʔuˈrattʃigaːraˈnu ˈkampiraˈbaːˈki ˈparu pu̥ˈsoː nanˈdʑoː buˈraːŋeŋ](昔は浦内川のカンピラまで行く人はあまりいなかった)。

ˈカンビラˈキ [ˈkambiraˈki] 【名】司 (巫女) が修習をおえて正式に就任すること。ムˈトゥˈウガン [muˈtuˈʔugaŋ](本御嶽。友利御嶽) において就任の祈願をし、家の床の神にも祈願をしてˈカンˈヨイ [ˈkaɲˈjoi](就任の神祝い) をした。神職者が高齢になって引退する際にはˈインクニガイ [ˈʔiŋkunigai](隠居願いの祈願) をし、神職者や村の幹部、親戚、隣人、友人を招待して感謝の宴をもった。サˈカサヌ　カンビラˈケー　イˈチ　ソーッˈタカヤー [sḁˈkasanu kambiraˈkeː ʔiˈʧi soːtˈtakajaː](司の就任祈願はいつなさったのかねえ)。ˈヤマ　ダˈコーˈルン [ˈjama daˈkoːˈruŋ](御嶽を抱かれる) ともいう。ˈカンビラˈキ　ˈソーˈル　ˈピンマー　イˈチバンザーˈヌ　カˈムイˈナ　ˈクージˈバ　ˈミーソーナˈ　パˈリソーッˈタ [ˈkambiraˈki ˈsoːˈru ˈpimmaː ʔiˈʧibandʑaːˈnu kaˈmui ˈna ˈkuːʤiˈba ˈmiːsoːnaˈ paˈrisoːtˈta](神司就任される時は一番座の鴨居にトーズルモドキを三重に張り巡らされた)。

ˈカンˈビン [ˈkamˈbiŋ] 【名】徳利。かんびん (燗壜)。ˈカンˈビン　フˈタックˈナー　サˈケーˈ　イˈリティˈ　ッˈスˈカビシ　ˈザウ　スˈクˈリ　ˈッシティ　ˈジンˈナー　パˈナングミˈトゥ　サˈカシキバˈ　シキティ　マˈチˈバ [ˈkamˈbiŋ ɸu̥ˈtakkuˈnaː sḁˈkeːˈ ʔiˈritiˈ sˈsuˈkabiʃi ˈdʑau su̥ˈkuˈri ˈʃʃiti ˈʤinˈnaː paˈnaŋgumiˈtu sḁˈkaʃi̥kibaˈ ʃi̥kiti maˈʧiˈba](燗壜二個に酒を入れて白紙で栓を作って挿して、お膳には花米と杯とを置いて供えなさい)。

ˈカンˈプー [ˈkamˈpuː] 【名】沖縄女性の伝統的髪型。ムˈカˈシェー　ˈアッパター　ムーˈル　カンˈプー　ˈユイル　オーッˈタ [muˈkaˈʃeː ˈʔappataː muːˈru kamˈpuː ˈjuiru ʔoːtˈta](昔は、お婆さんたちは皆カンプーを結っておられた)。

ˈカンプー [ˈkampuː] 【名】船のみよし (舳)。和船の船首材。フˈニˈヌ　ˈアンˈカージナー　ˈカンプーˈナ　フˈバリˈ　シキ [ɸuˈniˈnu ˈʔaŋˈkaːʤinaː ˈkampuːˈna ɸuˈbariˈ ʃi̥ki](船の綱 < アンカー綱 > はみよし < 舳 > に縛って <括(クビ)って > おきなさい)。

ˈカンˈプス [ˈkamˈpu̥su] 【名】神に仕える人。神職者。サˈカサ [sḁˈkasa](司。巫女) やティˈジリˈビ [tiˈʤiriˈbi](男性神職者。手摺部) をいう。特にティˈジリˈビー [tiˈdʑiriˈbiː](手擦り部) に対して、「ˈウガン [ˈʔugaŋ](御嶽) の維持管理をする男性神職者」の意味で指すことがある。「神人」の義。ˈカンˈプスンケーヤ　ˈニンˈガイ　ˈニンガイヌ　ˈアトー　ˈカンプスˈヌ　ˈヤーナ　アˈツァˈマローリティ　ˈカンウタˈバ　イˈジˈ　ニˈガイˈフチ　ウˈキトゥリˈシモーッタ [ˈkamˈpu̥suŋkeːja ˈniŋˈgai ˈniŋgainu ˈʔatoː ˈkampu̥suˈnu ˈjaːna ʔaˈtsaˈmaroːriti ˈkaŋʔutaˈba ʔiˈʤiˈ ni ˈgaiˈɸu̥ʧi ʔuˈkituriˈʃimoːtta](神職者たちは祈願祈願の後に神職者の家に集まられて神歌を歌い、祈願文 < 願い口 > を伝授せしめられた)。

ˈカンˈフチ [ˈkaŋˈɸu̥ʧi] 【名】祝詞。神への祈願の言葉。「神口 < かみくち >」の義。ˈニンガイˈフチ [ˈniŋgaiˈɸu̥ʧi](願い口)、ニˈガイˈフチ [niˈgaiˈɸu̥ʧi](願い口) ともいう。バˈカーˈル　サˈカサンˈケーヤ　キˈザルキザルヌˈ　アトー　ˈカンˈフチ　ˈニンガイˈフチ　ウˈキˈトゥルンティ　ˈウイヌˈ　サˈカサンˈケーラ　ˈナライ　ˈオーッˈタˈダー [baˈkaːˈru sḁˈkasaŋˈkeːja kiˈdʑaru kidʑarunuˈ ʔatoː ˈkaŋˈɸu̥ʧi niˈgaiˈɸu̥ʧi ʔuˈkiˈturunti ˈʔuinuˈ sḁˈkasaŋˈkeːra ˈnarai ˈʔoːtˈtaˈdaː](若い司達は行事行事の後には祝詞、願い口 < 祈願の詞章。願文 > を伝承しようと年上の司方から習っておられたよ)。

ˈカンプトゥˈキ [ˈkamputuˈki] 【名】神仏。鳩間島では、人が死んで三十三年忌を済ませると神になると信じられている。仏壇に祀られているが、ˈウヤパープジ [ˈʔujapaːpudʑi](祖先神。「親大母大父」の義) と称えられ、神として子孫を守護していると信じられている。ウˈサンギソッコー　シーオースˈカー

ウ˹ヤ˺プソー　˹カンプトゥ˺キ　ナ˹ロー˺ルツォー [ʔu˹saŋgisokko: ʃiːʔoːsu˺kaː ʔu˹ja˺pu̥soː ˹kampu̥tu˺ki na˹roː˺rutsoː](三十三年忌の＜押し上げ焼香＞法事をして差し上げると先祖たちは神仏になられるそうだ)。˹カンプトゥ˺キティン　˹オーラン˺ドゥ　˹ブー˺ユー　˺ヌスンティ　˺カイニ　ク˹チ˺サカヤー [˹kampu̥tu˺kitiŋ ˹ʔoːran˺du ˹buː˺juː ˺nuːsunti ˺kaini ku̥ ˹ʧi˺sakajaː](神仏とてもおられぬものでしょうか。何故にこうも苦しいのでしょう)。

˹カン˺ブリ [˹kam˺buri] 【名】神がかりしたように気が狂れること。狂信すること。「神狂れ＜かみふれ＞」の義。˹カン˺ブレー　˹シーティル˺　ユ˹タカイ　シーマーリ˺　ヤーン　キ˹ナイン˺　イ˹カシタティ　ナー˺ヌ [˹kam˺bureː ˹ʃiːtiru˺ ju˹takai ʃiːmaːri˺ jaːŋ ki˹naiŋ˺ ʔi˹kaʃi̥tati naː˺nu](神がかりしたように気がふれて、ユタを買いまくって家庭も家族のことも忘れて顧みようとしない)。

˺ガンボーシ [˺gamboːʃi] 【名】(植) 雑草の名。畑に生える雑草で生命力が強く、除草しても次々に生えてくるので農民に嫌われる雑草である。幅 5〜8 ミリ、高さ 12〜15 センチの雑草。力草の茎に似ている。パ˹タ˺キナー　˺ガンボーシヌ　˹ムイカバ˺シティ　˹ウン˺マー　˹ピッ˺チン　˹ミーランバン [pḁ˹ta˺ kinaː ˺gamboːʃinu ˹muikaba˺ʃi̥ti ˹ʔum˺maː ˹pit˺ʧim ˹miːrambaŋ](畑には雑草のガンボーシが一面に覆いかぶさるように繁茂して、芋はちっとも稔らないワイ)。

˹カン˺マキ [˹kam˺maki] 【名】寒負け。寒冷のために植物の発育が弱ること。明治生まれの老年層は、ピ˹ラ˺クマキ [pi˹ra˺kumaki](寒冷負け) というのがふつうである。˹カン˺マキ　シ˹ティ˺　ヤ˹サイ˺ヤー　ムー˹ル˺　ガ˹ギリナー˺ヌ [˹kam˺maki ʃi̥˹ti˺ ja˹sai˺ jaː muː˹ru˺ ga˹girinaː˺nu](寒さのために＜寒冷負けして＞野菜は全部縮れて発育不良になってしまった)。

˹ガン˺マラー [˹gam˺maraː] 【名】悪戯っ子。˹ガン˺マリ [˹gam˺mari](悪戯) に、「〜する人」の意味の接尾辞˹ヤー [jaː] が付いて形成された語。相手に対し多少の卑下した気持ちを表す。ウ˹レー　サッコー˺ヌ　˹ガン˺マラー˹ダー [ʔu˹reː sakkoː˺nu ˹gam˺maraː˹daː](あいつ＜あれは＞は酷(ヒドイ)い悪戯っ子だよ)。

˹ガン˺マラーン [˹gam˺maraːŋ] 【形】よく悪戯する。悪戯っぽい。ク˹ヌ˺　ッ˹ふァー　サッ˺コー　˹ガン˺マラーン˹ダ　-[ku˹nu˺ f˺fa: sak˺koː ˹gam˺maraːn ˹daː](この子は非常に悪戯っぽいよ)。カ˹リヌ˺　スコー　˹ガンマラー　ナー˺ヌ [ka˹rinu˺ su̥koː ˹gam-maraː naː˺nu](あの子ほど悪戯っぽくない)。˹シンダイ　ガン˺マラー　ナルン [˹ʃindai gam˺maraː ˺naruŋ](次第に悪戯っぽくなる)。˺ドゥク　˹ガン˺マラーティ　˹マーズンマー˺　ア˹サバラヌ [˺duku ˹gam˺maraːti ˹maːʤumma:˺ ʔa˹sabaranu](あまりにも悪戯するので一緒には遊べない)。˺アイニ　˹ガン˺マラー　ッ˹ふァー˺　ミリ　ミ˹ラ˺ヌ [˺ʔaini ˹gam ˺maraː f˺faː miri mi˹ra˺nu](あんな悪戯っぽい子は見たことがない)。

˹ガン˺マリ [˹gam˺mari] 【名】いたずら (悪戯)。やんちゃ。˹ガン˺バリ [˹gam˺bari](悪戯) ともいう。˹ミー˺ヌ　˹ガン˺マレー　サ˹バン　ティー˺ヌ　˹ガン˺マレー　ス˹ナ [˹miː˺nu ˹gam˺mareː sa˹ban tiː˺nu ˹gam ˺mare su˹na](目で見るだけの悪戯はしてもよいが、手で触れてする悪戯はするな)。˹ガン˺マリ　˹シー˺ナ　ナ˹ラ˺ヌ [˹gam˺mari ˹ʃiː˺na na˹ra˺nu](悪戯して困る＜堪らない＞)。

˹ガン˺マリ　˹スン [˹gam˺mari ˹suŋ] 【連】悪戯する。ふざける。ナー˹イ　ガン˺マリカー˹ニ　シー˺　ア˹サバンドー˺シ　ウ˹ヤ˺ヌ　˹テー˺ナインツァン　˹シー˺バ [naː˹ji gam˺marika:˹ni ʃiː˺ ʔa˹sabandoː˺ʃi ʔu˹ ja˺nu ˹teː˺naintsaŋ ˹ʃiː˺ba](ただ悪戯だけして遊ばないで親の手伝いでもせよ)。

˹ガンヤー [˹gaŋja:] 【名】がん (龕) を納めて保管する小屋。「龕屋」の転訛したもの。若年層は、˹ガンダラゴーヤー [˹gandarago:jaː] ともいう。˹ガンヤーヤ˺　イ˹ザ˺テヌ　˹インタヌ　ナードーヌ˺　ヤ˹マン˺ミーナール　˹アッ˺タ [˹gaŋja:ja˺ ʔi˹ʤa˺tenu ˹ʔintanu naːdoːnu˺ ja˹mam˺miːnaːru ˹ʔat˺ta](龕小屋は西花家＜西里家＞の西側のナードー＜長堂＞の林の中にが＜ぞ＞あった)。

˹カンユー [˹kaŋjuː] 【名】肝要。肝心。大切。重用。標準語からの借用語。カンヌー˺とも言う。ノー˹ン˺ラン　˹キンコール　カンユー˺ダー　˹キンコー˺　ア˹リバ˺ル　˺ウムークトゥン　ノー˹ン˺　ナル [noː˹n˺raŋ ˹kiŋkoːru kaŋjuː˺da: ˹kiŋkoː˺ ʔa˹riba˺ru ˺ʔumuːkutun noː˹n˺ naru](何よりも健康が大切だよ。健康であればこそ思うことも何事も出来るのだ)。

˹カンヨー˺ルン [˹kaŋjoː˺ruŋ] 【自動】耄碌しかける。物忘れがひどくなる。判断力が低下する。「勘弱る」の義。˺アブジェー　˺トゥシ　トゥ˹ローッ˺ター　ダイ˹ブン　カンヨー˺リ　˹ソー˺リ　˹ナー˺ヌ [˺ʔabuʤeː˺tu̥ʃi tu˹roːt˺taː dai˹buŋ kaŋjoː˺ri ˹soː˺ri ˹naː ˺nu](お祖父さんは年をとられたので大分耄碌しか

けてしまわれた)。

˹カン˺ヨイ **[˹kaɲ˺joi]** 【名】神職に就任したとき、神職を退任したときに行う祝い。˹カンプス˺ヌ　˺カン　カ˹モー˺ル　˺ピントゥ　˹インクニガイ　ソー˺ル　˺ピン　˹カン˺ヨイ　˹ソーッ˺タツォー [˹kampu̥su˺nu ˺kaŋ ka˹moː˺ru ˺pintu ˹ʔiŋkunigai soː˺ru ˺piŋ ˹kaɲ˺joi ˹soːt˺tatsoː](神職者が神を戴いて神職に就かれる時と隠居願いをされる＜引退される＞時に祝いをされたそうです)。

˹カン˺ルー **[˹kan˺ruː]** 【名】寒露。二十四節気の一つ。太陽暦の 10 月 9 日頃 (旧暦の 9 月ごろ) に当る。晩秋から初冬の間。˹カン˺ドゥー [˹kan˺duː](甘露)ともいう。˹カンルーヌ　˺シチ　˹ペー˺ルカー　タ˹ナドゥル˺ヌ　˹オー˺ルンダ　ア˹ロー˺ナー　˹シー˺　シ˹キラン˺カー　ナ˹ラ˺ヌ [ka˹nruː˺nu ˺ʃi̥tʃi ˹peː˺ruka: ta˹naduru˺nu ˹ʔoː˺runda ʔa˹roː˺na: ˹ʃiː˺ ʃi̥˹kiraŋ ˺ka: na˹ra˺nu](寒露の季節に入ったら種取り祭が来られるのだから、それまでに田の初耕し＜荒ごなし＞をしておかないといけない)。

˹カンルーヤ˺ブリ **[˹kanruːjabu˺ri]** 【名】寒露の節に天気が荒れること。しばしば猛烈な台風となることがある。十月台風は大型台風になるといわれて、恐れられている。˹カンルーヤブ˺リティ　ア˹ザリブンダ˺　フ˹ニ˺ヌ　タ˹ベー　˺ユー　˹キー˺　シケーティ　˹アー˺キ˹ダー [˹kanruːjabu˺riti ʔa˹ɖaribunda ˺ɸu˹ni˺nu ta˹beː˺ juː ˹kiː˺ ʃi̥keːti ˹ʔaː˺ki˹daː](寒露の節は天気が荒れる＜寒露荒れ＞といわれているから、船の旅はよく気をつけながらいきなさいよ)。

キ

˥キ [˥ki] 【接尾】食。「け＜笥＞から転じて食物、食事」を表す。食事を数える単位。「食、クヒモノ・ケ」『類聚名義抄』の転訛したもの。アˬサ˥キ [ʔaˬsa˥ki](朝食)「朝食、アサケ『饅頭屋本節用集』」の義。プˬス˥キ [pu̥ˬsu˥ki](一食)。フˬタキ [ɸu̥ˬtaki](二食)。ˬミーキ [ˬmiːki](三食)。˥プスイ　ˬミーキ　ウン˥バ　ッˬふァイル˥　フˬドゥビ˥ケール [˥pu̥sui ˬmiːki ʔum˥ba fˬfairu˥ ɸuˬdubi˥keːru](一日三食芋を食べて成長してきたのである)。

˥キー [˥kiː] 【名】(植) 木。樹木。薪。ナˬマ˥キー [naˬma ˥kiː](生木。乾ききらない木)。ˬマーキー [ˬmaːkiː](樹木を切り、割って薪にしたもの)。サˬリキー [saˬrikiː](枯れ木)。ˬユシ˥ककिー [ˬjuʃi̥˥kikiː](ススキの薪)。ˬコーン˥ギ [ˬkoːŋ˥gi](桑の木)。ˬキーン˥マ [ˬkiːʔm˥ma](木馬。木材や荷物運搬に用いる橇(ソリ))。ˬキーヌナル˥ヌ　パˬチパチバ˥　ブリ　カˬザリ˥　ナˬリキー˥ヌ　シˬナジナバ˥　トゥリ　カˬザリ [ˬkiːnunaru˥nu pḁˬtʃipḁ。tʃiba˥ buri kaˬʤari˥ naˬrikiː˥nu ʃiˬnaʤinaba˥ turi kaˬʤari](種々の木の実の初生りを挽(モ)いで供え、実の生る木の品々を取って供え)「七月念仏歌。ウシトゥヌクイ＜弟の声＞」『鳩間島古典民謡古謡集』。

ˬキー [ˬkiː] 【名】毛。ガˬマジ˥ヌ　ˬキー [gaˬmaʤi˥nu ˬkiː](髪の毛)。ˬキームイ˥　プス [ˬkiːmui˥ pusu](毛の濃い人)。スˬブル˥ヌ　ˬキー [suˬburu˥nu ˬkiː](頭の毛＜髪＞)。ˬパン˥ヌ　ˬキー˥　スルン [ˬpan˥nu ˬkiː˥ suruŋ](足の毛を剃る)。ˬキーヌ　ムイ˥ルン [ˬkiːnu mui˥ruŋ](毛が生える)。ˬキーバ˥　スˬミルン [ˬkiːba˥ suˬmiruŋ](毛を染める)。ピˬビザヌ　キー˥シ　フˬディ˥　スˬク˥ルン [piˬbiʤanu kiː˥ʃi ɸuˬdi˥ su̥ˬku˥ruŋ](山羊の毛で筆を作る)。

ˬキー [ˬkiː] 【名】(け) 卦。占い。ˬキー˥　ウˬク˥スン [ˬkiː˥ ʔuˬku˥suŋ](占いをする＜卦をおこす＞)。ˬキー˥　タˬティ˥ルン [ˬkiː˥ tḁˬti˥ruŋ](占いをしてもらう)。ˬキーラ˥ル　˥アイニ　˥ンジケーツォー [ˬkiːra˥ru ˥ʔaini ˥ʔnʤikeːtsoː](占い＜卦＞からそのように出てきているそうだ)。

ˬキー [ˬkiː] 【名】気。心。気持ち。ˬキーヤ˥　シˬズ˥ミティ　˥ユー　ウˬティ˥シケーティ　パˬナシアー˥シ [ˬkiːja˥ ʃiˬʤu˥miti ˥juː ʔuˬti˥ʃi̥keːti paˬnaʃiʔaː˥ʃi](気を静めて、よくよく落ち着いて話し合いしなさい＜話し合え＞)。ˬフン˥トー　シˬグトゥ　スー　キーヤ˥　アンカヤー [ˬɸun˥toː ʃiˬgutu suː kiːja˥ ʔaŋkajaː](本当に仕事をする気持ちはあるのかなあ)。

˥ギー [˥giː] 【名】芸。˥ギームチ [˥giːmutʃi](芸持ち。芸能人)。˥ギー　˥ゾージ [˥giːʤoːʤi](芸達者、芸上手)。ウˬレー˥　ギームチ　ヤˬルンダ˥　ザー　パˬネーカシ˥プス [ʔuˬreː˥ giːmutʃi jaˬrunda˥ ʤaː paˬneːkaʃi˥ pu̥su](彼は芸達者だから祝いの座を華やかす人だ)。

ˬギー [ˬgiː] 【名】意地。言い分。道理。信条。正義。ˬドゥー˥ヌ　ˬギール　ギー˥ティ　ˬシー˥　イッˬカ˥　プˬスヌ˥　ムニ　シゥˬカヌ [ˬduː˥nu ˬgiːru giː˥ti ˬʃiː˥ ʔikˬka˥ pu̥ˬsunu˥muni si̥ˬkanu](自分の言い分が正義だといって、一向に他人の意見＜ことば。言うこと＞を聞き入れない＜聞かない＞)。

ˬキーアイ˥ク [ˬkiːʔai˥ku] 【名】木のおうご (朸)。担い棒。天秤棒 (朸)。両端に荷物をかけて担ぐ木製の朸。「朸、和名阿布古 (あふこ)、杖名也」『和名抄』の転訛したもの。タˬキアイク [tḁˬkiʔaiku](竹製のおうご＜朸＞) の対義語。˥カシンキー [˥kaʃiŋkiː](オキナワウラジロガシ) やシˬター˥マキー [ʃi̥ˬta˥makiː](エゴノキ) の若木を利用して天秤棒を作った。ˬキーアイ˥クシ　ミˬジタング˥　カˬタ˥ミ　ミˬジ˥　フˬミ˥クー [ˬkiːʔai˥kuʃi miˬʤitaŋgu˥ kḁˬta˥mi miˬʤi˥ ɸuˬmi˥kuː](天秤棒で水担桶を担いで水を汲んでこい)。ˬキーアイ˥クシ　ミˬジタン˥グ　カˬタム˥タ [ˬkiːʔai˥kuʃi miˬʤitaŋ˥gu kḁˬtamu˥ta](木製の朸で水たご＜担桶・たどおけ＞を担いだ)。

ˬキーアイダ˥チ [ˬkiːʔaida˥tʃi] 【名】木槌。ˬキーアイダ˥チシ　˥ヌン　ˬシッ˥キティ　パˬラー˥ヌ　˥アナ

プ˞ローッ˜タ [˞ki:ʔaida˜ʧiʃi ˜nuŋ ˞ʃik˜kiti pa˞ra:˜nu ˜ʔana pu˞ro:t˜ta](木槌で鑿を搗き叩いて柱のほぞあな＜枘穴＞を掘られた)。

˞キーイリ **[˞ki:ʔiri]** 【名】気に入り。心にかなうこと。˜アブジェー ˞ドゥー˜ヌ ˞キーイリヌ˜ マーッふァカー˞ニル˜ ア˞タラサ ソー˜ル [˜ʔabuʤe: ˞du:˜nu ˞ki:ʔirinu˜ ma:ffaka:˞niru˜ ʔa˞tarasa so:˜ru](お祖父さんは自分の気に入りの孫だけを可愛がられる)。

˞キーウー˜ル **[˞ki:ʔu:˜ru]**【名】(植) 和名、キウリ (胡瓜、木瓜)。畑で栽培したり家庭菜園で栽培していた。畑で栽培する場合は露地栽培にするが、菜園で栽培する際は竹棚や木の棚を架けて栽培した。カツオの刺身やイ˞ノー˜イズ [ʔi˞no:ʔiʤu](環礁内の魚) の刺身のつまにすると美味であった。˞キーウー˜ロー˜キサー タ˞ナー˜ カ˞カン˜ドーシ ˞ジー˜ナー ˞パー˜シ ナ˞ラ˜ソーッタ [˞ki:ʔu:˜ro: ˜kiʲsa: ta˞na:˜ kaʲ˞kan˜do:ʃi ˜ʤi:na ˞pa:˜ʃi na˞ra˜so:tta](キューリは以前は棚を架けないで地面に這わせて実をつけさせた＜生らせた＞)。˞キーウール˜ヌ ヤ˞マシゥ˜カ ˜ナレーン [˞ki:ʔu:ru˜nu ja˞masiʲ˜ka ˜nare:ŋ](きうりが沢山生った)。

˞キー˜ウシ **[˞ki:˜ʔuʃi]** 【名】木臼。松の木で作った臼で、ピ˞キウシ [piʲ˞kiʔuʃi](碾き臼) とシ˞キ˜ウシ [ʃiʲ˞ki˜ʔuʃi](搗き臼、米搗き臼) がある。対義語はイ˞ソーシ [ʔi˞so:ʃi](石臼)。˞キー˜ウシェー ˜マチキーシル ス˞ク˜ローッタ˞ナー [˞ki:˜ʔuʃe: ˜maʧiki:ʃiru suʲ˞ku˜ro:tta˞na:](木臼は松の木で作られたよねえ)。

˞キー˜ウン **[˞ki:˜ʔuŋ]** 【名】 (植) キャッサバ。タピオカ。「木芋」の義。葉は掌状に中裂し、約 2 メートルの高さに成長する。サツマイモに似た、30〜40 センチの巨大な塊根を稔らせる。塊根を摩り下ろして絞り、汁を桶に入れて一晩放置すると真っ白な澱粉が沈殿する。これを箕に剥ぎ取って乾燥させたものが˞キーウン˜ヌ ˜クジ [˞ki:ʔun˜nu ˜kuʤi](キャッサバの澱粉) である。ミ˞リキン˜グ [mi˞rikiŋ˜gu](小麦粉) が簡単に入手出来なかった頃、小麦粉の代用として利用され重宝された。絞り粕も握り寿司の大きさに握って乾燥させ、臼で搗いて粉にし、芋や米に混ぜて食した。ただ、˞キー˜ウンを作付けした畑は土地が痩せるといわれ、連作されなかった。˞キーウン˜ヌ ˞ティン˜プラー イッ˞ケン˜ ン˞マー˜タン [˞ki:ʔun˜nu ˞tim˜pura: ʔik˞kem˜ ʔm˞ma:˜taŋ](キャッサバ澱粉のテンプラは非常に美味しかった)。

˞ギーカイ **[˞gi:kai]** 【名】行き来。往来。往還。「行き通い」の義。パ˞トゥ˜マー ˞パイ˜ター ˜イダフネーラ ˞ギーカイ シェー˜ティル ˞マイヤー˜ス˞ク˜ローッタル [pa̠˞tu˜ma: ˞pai˜ta: ˜ʔidaɸune:ra ˞gi:kai ʃe:˜tiru ˞maija:˜ su̠˞ku˜ro:ttaru](鳩間島へ、南端＜西表島北岸＞へとサバニ＜板船＞で行き来しながら稲作され＜米は作ら＞れた)。

˞ギーカイリ **[˞gi:kairi]** 【名】行き返り。往来。往還。フ˞ヨー˜ イダフネーラヌ ˞パイター˜ヌ ˞ギーカイレー˜ ナ˞クラー˜タン [ɸu˞jo:˜ ʔidaɸune:ranu ˞paita:˜nu ˞gi:kaire:˜ na˞kura:˜taŋ](冬は、サバニ＜イダフニ＞からの南端＜西表島＞への往来は怖かった)。

˞キー˜カザ **[˞ki:˜kaʤa]**【名】木の香り。材木の香り。ア˞ラヤー˜ ス˞ク˜ルンティ ドゥ˞ス˜ヌキーバ カ˞ナ˜シ キ˞ジオールン˜ドゥ ˞キーカザ˜ヌ カ˞バッ˜サティ ナー˞イ˜ カ˞ビベー˜タ [ʔa˞raja:˜ su̠˞ku˜runti du˞su˜nuki:ba ka˞na˜ʃi ki˞ʤio:run˜du ˞ki:kaʤa˜nu ka˞bas˜sati na:˞i˜ ka˞bibe:˜ta](家を新築しようとタイワンオガタマノキを鉋で削っておられるのだが、木の香りが香ばしいので、じっと嗅いでいた)。

˞キーカサカサー **[˞ki:kasakasa:]** 【名】物事が思うように進まず腹立たしいさま。落ち着かない様子。気がいらいら (苛苛) すること。ウ˞リヌ シーヨー˜ミルカー ˞キーカサカサー シース [ʔu˞rinu ʃi:jo:˜ miruka: ˞ki:kasakasa: ʃi:su](彼の仕方を見ると、いらいらする)。

˞ギーギー **[˞gi:gi:]** 【副】厳しく責めつけるさま。厳しく指導するさま。˞ヤー˜ナーテーラ ˜ウヤン ˞ギーギー˜シ ナ˞ラーサ˜リ ˜ケー ッ˞ふァ˜ ヤ˞ルンダ˜ イッ˞ケナ マイフナー˜ マ˞リブー [˞ja:˜na:te:ra ˜ʔujaŋ ˞gi:gi:˜ʃi na˞ra:sa˜ri ˜ke: f˞fa˜ ja˞runda˜ ʔik˞kena maiɸuna:˜ ma˞ribu:](実家において親に厳しく躾けられ、指導されてきた子だから非常に利発で働きものに育っているよ)。

˞ギーギー˜シ **[˞gi:gi:˜ʃi]** 【副】(擬音語) ぎいぎいと。ぎいぎいときし (軋) むさま。˞タイフー˜ヌ ˜ピンマー ˜ヤドー ˞ギーギー˜シ ˞ナーリス [˞taiɸu:˜nu ˜pimma: ˜jado: ˞gi:gi:˜ʃi ˞na:risu](台風の時は戸はギーギーと軋んで鳴るよ)。

˞ギーギー˜シ **[˞gi:gi:˜ʃi]** 【副】(擬態語) ¹絞られるように痛むさま。ぎゅうっぎゅうっと痛むさま。˞ギーギー˜シ バ˞タ˜ヌ ˜ヤムサー ˜ヌーカヤー [˞gi:gi:˜ʃi ba˞ta˜nu ˜jamusa: ˜nu:kaja:](ぎゅうっぎゅうっと

腹が痛むのだよ。なんだろうかねえ)。(擬音語) 2ぎりぎりと歯軋 < はぎしり > りするさま。ニ˞ビベーン˜ドゥ ˞ギーギー˜シ ˞パー˜バ ˜フイ ナ˞クラーントダー [ni˞bibe:n˜du ˞gi:gi:˜ʃi ˞pa:˜ba ˜ɸui na˞kura:nˊda:](寝ているが、ぎりぎりと歯軋(ハギシ)りして怖いよ)。

˞キーキシヌキ˜ル [˞ki:kiʃinuki˜ru] 【名】丸太などを切るのに用いる鋸。「薪伐り鋸」の義。薪などを切るのに用いられ、それにはきこり (樵) 用の山鋸の劣化したものを利用した。˞キーキシヌキ˜ロー ˞ナーヌ˜ヌ ˞ターン˜ カ˞ラシタ˜カヤー [˞ki:ki̥ʃinuki˜ro: ˞na:nu˜nu ˞ta:ŋ˜ ka˞raʃi̥ta˜kaja:](薪伐り鋸は無くなっているが < 無いが >、誰に貸したのかなあ)。

˞キー˜ク [˞ki:˜ku] 【名】素晴らしい表現。優れた技量。グイ˞ユー˜ ウ˞レータ キーク˜ユン ˜アイニ ウ˞ムッ˜サワレー [gui˞ju:˜ ʔu˞re:ta ki:ku˜juŋ ˜ʔaini ʔu˞mus˜saware:](何とまあ、これはまた素晴らしい技だよ。なんとあんなにも面白いことか)。

˞キー˜ク [˞ki:˜ku] 【名】稽古。練習。˞プールゾーラ˜キ ˞キー˜ク ˞シー˜ヨー [˞pu:rudʑo:ra˜ki ˞ki:˜ku ˞ʃi:˜jo:](豊年祭の踊りを稽古しなさいよ)。ノー˞ンキー˜ク サ˞バル˜ プ˞スマイヤー˜ ナ˞ラ˜リティ ˜ムカーヤ [no:˞ŋ ki:˜ku sa˞baru˜ pu̥˞sumaija:˜ na˞ra˜riti ˜muka:ja](何事も稽古してこそ人の前になれる < 他人よりも上になれる > ものだ)。マ˞リットーラヌ ゾー˜ジテー ブ˞ラーヌ キーク˜ヌ ˞ウイナー˜ル ˞ゾー˜ジェー マ˞リル [ma˞ritto:ranu dʑo:˜dʑite: bu˞ra:nu ki:ku˜nu ˞ʔuina:˜ru ˞dʑo:˜dʑe: ma˞riru](生まれつきの上手とては居ないものだ。稽古の上に < ぞ > 上手は生まれるものだ)。

˞ギーグイ [˞gi:gui] 【名】愚痴。不平不満。文句。苦情。「義声 < 正義の声 >」の義か。不平不満をいうこと。˞ウンザー˜ パ˞タラカムティ サッ˜コー ˞ギーグイ スン˜ダー [˞ʔundʑa:˜ pḁ˞tarakamuti sak˜ko: ˞gi:gui sun˜da:](そいつは働かないで、よく不平不満を言う < 愚痴を言う > よ)。˞ギーグヤー [˞gi:guja:](よく愚痴をこぼす人)。サ˞マネー˜ ア˞ジユーサムティ˜ サ˞キ˜ ヌムカー ˞ギーグイ˜カー˞ニル スー [sa˞mane:˜ ʔa˞dʑiju:samuti˜ sḁ˞ki˜numuka: ˞gi:gui˜ka:˞niru su:](しらふ < 素面 > では言えないで酒を飲むとよく愚痴る)。

˞ギーグヤー [˞gi:guja:] 【名】愚痴っぽい人。不平不満をいう人。ウ˞レー ギーグヤー˜ ヤ˞ルンダ˜ タ˞ナマン˜モー マ˞シ [ʔu˞re: gi:guja:˜ ja˞runda˜ ta˞namam˜mo: ma˞ʃi](彼は不平不満を言う人 < 不平家 > だから、頼まないほうが良いよ)。

˞ギーゴー˜ムヌ [˞gi:go:˜munu] 【名】強情者。頑なに自我を通そうとする者。意地っ張り。˞ウンザー ギーゴー˜ムヌ ヤ˞ルンダ˜ プ˞スヌ˜ ア˞ズ˜ムニ シゥ˞カヌ [˞ʔundʑa: gi:go:˜munu ja˞runda˜ pu̥˞sunu˜ ʔa˞dʑu˜muni si̥˞kanu](そいつ < 其奴 > は強情者だから、他人の言うことを聞かない)。

˞ギーゴームヌ [˞gi:go:munu] 【名】強情者。頑固者。意地っ張り。˜アイブ ˞ギーゴームヌテー˜ ミリ ミ˞ラ˜ヌ [˞ʔaibu ˞gi:go:munute:˜ miri mi˞ra˜nu](あんな強情者は見たことがない)。

˞ギーゴー˜ン [˞gi:go:˜ŋ] 【形】強情である。意地っ張りである。「義・こはし < 磽、己波志 (こはし)『新撰字鏡』> さ・あり」の転訛したものか。ウ˞レー ギーゴー˜ンダ プ˞スム˜シ ア˞ズ˜カー トゥ˞ミララヌ [ʔu˞re: gi:go:˜nda pu̥˞sumu˜ʃi ʔa˞dʑu˜ka: tu˞miraranu](彼は強情だから、一度言ったら止められない)。ム˞カ˜シェー ˞ギーゴーナーン˜シェンドゥ マ˞ナ˜マー ˞ギーゴー˜ヌ ナ˞ラ˜ヌ [mu˞ka˜ʃe: ˞gi:go:na:ŋ˜ʃendu ma˞na˜ma: ˞gi:go:˜nu na˞ra˜nu](昔は強情でなかったが、今は強情で堪らない)。˜アイニ ˞ギーゴー˜ プ˞ソー˜ ブ˞ラーヌ [˞ʔaini ˞gi:go:˜ pu̥˞so:˜ bu˞ra:nu](あんなに強情な人はいない)。ウ˞レー ˞サッ˜コー ˞ギーゴー˜ン [ʔu˞re: sak˜ko: ˞gi:go:˜ŋ](その人は非常に強情である)。˞ナン˜ゾー ˞ギーゴーナー˜ヌ [˞nan˜dʑo: ˞gi:go:na:˜nu](それほど強情ではない)。˞ギーゴー˜ヌ パ˞ナ˜シェー ナ˞ラ˜ヌ [˞gi:go:˜nu pa˞na˜ʃe: na˞ra˜nu](強情で、意地っ張りで話が出来ない)。˞ギーゴー˜カー [˞gi:go:˜ka:](強情なら)。˞ギーゴー˜ バソー [˞gi:go:˜ baso:](強情な時は)。˞ギーゴー˜カー タ˞ナム˜ナ [˞gi:go:˜ka: ta˞namu˜na](強情なら頼むな)。

˞キーシゥカイ [˞ki:si̥˞kai] 【名】気遣い。˞ヌー˜ヤークイヤー ˞キシゥカイ サンドー˜シ イ˞ジン˜ジ シ˞グトゥギーバリ˜ヨー [˞nu:˜jakuija: ˞ki:si̥˞kai sando:˜ʃi ʔi˞dʑin˜dʑi ʃi˞gutu gi:bari˜jo:](あれこれ気遣いしないで精出して仕事を気張れよ)。

˞キー˜シキ ˜ミルン [˞ki:˞ʃi̥ki ˜miruŋ] 【連】気をつけて見る。˞ジーヌ˜ グ˞マー˜ンダ ˞キー˜シキ ミリ˞ヨー [˞dʑi:nu˜ gu˞ma:˜nda ˞ki:˜ʃi̥ki miri˞jo:](文字が小さいから気をつけて見なさいよ)。

˞キーシキ˜ルン [˞ki:ʃi̥ki˜ruŋ] 【自動】気付く。気が付く。感づく。˞キーシキ˜ルンカヤーティ ˜マティ ˞ベーン˜ドゥ ムッ˞トゥ キーシキラン˜バン [˞ki:ʃi̥ki˜ruŋkaja:ti ˜mati ˞be:n˜du mut˞tu ki:ʃi̥kiram˜

baŋ](気付くだろうかと待っているが、ちっとも気付かないよ)。˩バイ˥ヨー　˩ターティ　キーシキ˥ル　プ˩ソー˥　ブ˩ラーンシェン [˩bai˥jo: ˩ta:ti ki:ʃi̥ki˥ru pu̥˩so:˥ bu˩ra:ŋʃeŋ](私を誰と気付く人はいなかった)。˩キーシキ˥レー　˥ミサムヌ [˩ki:ʃi̥ki˥re: ˥misamunu](気付けば良いのに)。ヤー˩ディン　キーシキ˥リ [ja:˩diŋ ki:ʃi̥ki˥ri](必ず＜きっと＞必気づけよ)。

˩キー˥　シ˩キ˥ルン **[˩ki:˥ ʃi̥˩ki˥ruŋ]** 【連】注意する。気をつける。用心する。ッ˩ふァヨーンサーリ˥　ミ˩チェー˥ラ　ア˩ラ˥キクー　˥ピンマー　ク˩ルバン˥ヨーニ　˩キー˥　シ˩キ˥リ˩ダー [f˩fajo:nsa:ri˥ mi˩tʃe:˥ra ʔa˩ra˥kiku: ˥pimma: ku˩rubaŋ˥jo:ni ˩ki:˥ ʃi̥˩ki˥ri˩da:](暗闇で道を歩いてくるときは転ばぬよう気をつけれよ)。˩ター˥ヌ　˥アザ　ア˩ラ˥ク　˥ピンマー　パ˩ブヌ　ブン˥ユー　ッ˩サンダ　チャー　キー˥　シ˩キ˥ルン [˩ta:˥nu ˥aʤa ʔa˩ra˥ku ˥pimma: pa˩bunu buŋ˥ju: s˩samda tʃa: ki:˥ ʃi̥˩ki˥ruŋ](田の畦を歩く時は毒蛇がいるかも知れないから、いつも気をつける)。

˩キーシチ **[˩ki:ʃi̥tʃi]** 【名】警察。「警察」の転訛したもの。ヤ˩ナクトゥ　スー˥カー　˩ズンサ˥ヌ　˩オー˥リ　˩キーシチェー　サンガリントダー [ja˩nakṵtu su:˥ka: ˩ʤunsa˥nu ˩ʔo:˥ri ˩ki:ʃi̥tʃe: saŋgarintda:](悪事を働くと＜悪いことをすると＞巡査が来られて警察へ引張られるぞ)。ヨー˩ヨー　キーシチヌ　ヤッカイ˥ムヌ　˥ナレー　ナ˩ラントダー [jo:˩jo: ki:ʃi̥tʃinu jakkai˥munu ˥nare: na˩rantda:](よくよく注意しろよ。警察の厄介者になってはいけないぞ)。

˩キーズ **[˩ki:ʤu]** 【名】系図。パ˩トゥ˥マナー　˩キーズヌ˥　アル　˩ヤー˥ヤ　˩ナー˥ヌ [pḁ˩tu˥mana: ˩ki:ʤunu˥ ʔaru ˩ja:˥ja ˩na:˥nu](鳩間島に系図のある家はない)。˩キーズ˥　ス˩ク˥リバ [˩ki:ʤu˥ su̥˩ku˥riba](系図を作りなさいよ)。

˩キー　スー˥ルン **[˩ki: su:˥ruŋ]** 【連】元気になる。気分がすっきりする。気が強くなる。自信がつく。自負する。うぬぼれ (自惚れ) る。「気強まる」の義。プ˩ス˥フチ　サ˩キ˥　ヌムカー　˩キー　スー˥ルン [pu̥˩su˥ɸu̥tʃi sḁ˩ki˥ numuka: ˩ki: su:˥ruŋ](一口酒を飲むと元気になる)。

˩キーズー˥ワン **[˩ki:ʤu:˥waŋ]** 【形】1気が強い。強情である。意地っ張りである。ミ˩ドゥ˥ム　ヤ˩ルンドゥ˥　イッ˩ケン　キーズー˥ワン [mi˩du˥mu ja˩rundu˥ ʔik˩keŋ ki:ʤu:˥waŋ](女性だが非常に気が強い＜強情である＞)。˩ワー˥　スコー　˩キーズーワナー˥ヌ [˩wa:˥su̥ko: ˩ki:ʤuwa na:˥nu](君ほど気が強くない)。˥アイニ　˩キーズー˥ワ　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [˩ʔaini ˩ki:ʤu:˥wa pu̥˩so:˥ bu˩ra:nu](あのように気の強い人はいない)。˩キーズー˥ワ　˥ナルン [˩ki:ʤu:˥wa ˥naruŋ](気が強くなる)。2心強い。頼れて安心である。˩キーズー˥ヤン [˩ki:ʤu:˥jaŋ] ともいう。˩ワー　オー˥リ　ッ˩ふォー˥ルンダ　イッ˩ケナ　キーズー˥ワン [˩wa: ʔo:˥ri f˩fo:˥runda ʔik˩kena ki:ʤu:˥waŋ](貴方がいらっしゃってくださるから非常に心強い)。˩キーズーワナー˥ヌ [˩ki:ʤu:wana:˥nu](心強くない)。˩キーズー˥ワカー [˩ki:ʤu:˥waka:](心強かったら)。˩アウ˥ヌ　˩ブー˥カー　ユ˩ナカー˥ラ　ア˩ラカ˥バン　˩キーズー˥ワン˩ツォー [˩ʔau˥nu ˩bu:˥ka: ju˩naka:˥ra ʔa˩raka˥baŋ ˩ki:ʤu:˥wan˩tso:](連れ＜同伴者＞がいると、たとえ＜仮令＞夜中から歩いて行っても安心である＜心強い＞よ)。

˩ギーズー˥ワン **[˩gi:ʤu:˥waŋ]** 【形】意地っ張りである。「義・強し」の義。普通は、˩ギーンゴー˥ン [˩gi:ŋgo:˥ŋ](意地っ張りである。義理堅い) という。ウ˩レー　ギーズー˥ワンダ　プ˩スヌ˥　ムニ　シゥ˩カヌ [ʔu˩re: gi:ʤu:˥wanda pu̥˩sunu˥ muni si̥˩kanu](彼は意地っ張りだから他人の言うことを聞かない)。

˩キー˥スクン **[˩ki:˥su̥kuŋ]** 【自動】1気付く。気が付く。感づく。˩キーシキ˥ルン [˩ki:ʃi̥ki˥ruŋ](気付く) ともいう。˩アイ˥ジ　˩スー˥カー　˩キー˥スクンティ　ウ˩ムータ˥ヌ　マ˩ダ　キー˥　シゥ˩カン˥バン [˩ʔai˥ʤi ˩su:˥ka: ˩ki:˥su̥kunti ʔu˩mu:ta˥nu ma˩da ki:˥ si̥˩kam˥baŋ](合図したら気付くと思ったが、まだ気付かないわい)。ウ˩レー˥　キ˩サーティ　キーシキ˥　ブー [ʔu˩re:˥ ki̥˩sa:ti ki:ʃi̥ki˥ bu:](彼は既に気付いている)。˩オーパ˥ヤー　˩キー˥スク　˥クトー　˩ナーヌ˥ヌ　˩キー˥シケー　˥ミサムヌ [˩ʔo:pa˥ja: ˩ki:˥su̥ku ˥ku̥to: ˩na:nu˥nu ˩ki:˥ʃi̥ke: ˥misamunu](そんなに早く気付くことはないはずだが、気付けば良いのに)。˩キー˥シキバ [˩ki:˥ʃi̥kiba](気づけよ)。˥ティーシ　˩アイ˥ジ　˩スンドゥ　キーシゥカン˥バン [˥ti:ʃi ˩ʔai˥ʤi ˩sundu ki:s̥ïkam˥baŋ](手で合図するのだが気付かないわい)。パ˩タ˥　フ˩ル˥カー　˩キー˥シゥクンパジ [pḁ˩ta˥ ɸu˩ru˥ka: ˩ki:˥su̥kumpaʤi](旗を振ると気付くはずだ)。˩キー˥シキ　˩ベー˥ン [˩ki:˥ʃi̥ki ˩be:˥ŋ](気付いている)。˩キー˥シゥク　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [˩ki:˥su̥ku pu̥˩so:˥ bu˩ra:nu](気付く人はいない)。˩キー˥シケー　˥ミサムヌ [˩ki:˥ʃi̥ke: misamunu](気付けばよいのに)。˩パイ˥サ　˩キー˥シキ [˩pai˥sa ˩ki:˥ʃi̥ki](早く気づけよ)。˥マー　ン˩ベーマ　パイ˥サ

˹キーシキバ˺ル　ヤ˹タンドゥ˺　ウ˹クリナーン˺バン [˺maː ʔm˹beːma paiˀsa ˹kiːʃi̥kibaˀru ja˹tanduˀ ʔu˹kurinaːm˺baŋ](もう少し早く気付けばよかったのだが、遅れてしまった)。²正気にもどる。意識を取り戻す。ブ˹チ˺クン　シ˹ティ˺　マ˹ダ　キーシゥ˺カヌ [bu˹ʧiˀkuŋ ʃi̥˹tiˀ ma˹da kiːʃi̥ka˺nu](気絶して < 人事不省に陥って >、まだ意識を取り戻さない < 気付かない >)。

˹キー　スラ˺スン **[˹kiː suraˀsuŋ]** 【連】気を晴らす。憂さを晴らす。ふさいだ気分を晴らして快活にする。˹ヤーングマ˺ル　˹タン˺ガ　˹サンドー˺シ　プ˹スケン˺ナー　˺フカーユン　˺ンジ　˹キー　スラ˺シ [˹jaːŋguma˺ru ˹taŋˀga: ˹sandoː˺ʃi pu̥˹suken˺naː ˺ɸu̥ka:jun ˺ʔnʤi ˹kiː suraˀʃi](家の中にだけ籠もっていないで、偶には < 一度ぐらいは > 外にも出て気を晴らしなさい)。˹キー　スラサラ˺ヌ [˹kiː surasara˺nu](気が晴らされない)。˹キー　スラシ˺　プサン [˹kiː suraʃiˀ pu̥saŋ](気を晴らしたい)。˹キー　スラ˺スンティ　˺ウムーカ　ミ˹ナ˺カー　˺ンジキー　˹キー　スラ˺シェー　˺ミサムヌ [˹kiː suraˀsunti ˺ʔumuːka mi˹naˀka: ʔnʤiki: ˹kiː suraˀʃe: ˺misamunu](気を晴らそうと思うなら、庭に出てきて気を晴らせばよいのに)。˹ヤーン˺ナカナテー　˹キー　スラ˺ス　˺クトゥン　ナ˹ラ˺ヌ [˹jaːn˺nakanate: ˹kiː suraˀsu ˺ku̥tun na˹raˀnu](家の中では気を晴らすことも出来ない)。

˹キーソー **[˹kiːsoː]** 【名】卦の書物。卦をたてる書物。占いをするための書物。「卦書」の転訛したものか。˹キーソー˺ラ　˺ヌーティル　˺ンジェータユー　シ˹キト ミー [˹kiːso:raˀ nuːtiru ˺ʔnʤeːtaju: ʃi̥˹kiɨ-miː](占いで < 卦書から > 何と出たのか、答えを聞いてみてごらん < みれ >)。

˹キーダカー˺ン **[˹kiːdakaː˺ŋ]** 【形】気位が高い。威張っているさま。「気高い」の義。キ˹ムダカー˺ン [ki˹mudakaː˺ŋ](気位が高い。「肝高い」の義) ともいう。˹キーダカー　ナー˺ヌ [˹kiːdaka: naː˺nu](気位が高くない)。˹キーダカー˺ヌ　プ˹ストゥ˺　ア˹タラヌ [˹kiːdakaː˺nu pu̥˹sutuˀ ʔa˹taranu](気位が高くて他人と気が合わない)。カ˹レー˺　イッ˹ケン　キーダカー˺ン [ka˹reː˺ ʔik˹keŋ kiːdakaː˺ŋ](あの人は非常に気位が高い)。˹キーダカー˺　プ˹ソー˺　ピ˹ライグリ˺サン [˹kiːdakaː˺ pu̥˹soː˺ pi˹raiguriˀsaŋ](気位の高い人は付き合いにくい)。˺アイニ　˹キーダカー˺カー　ピ˹ラーラ˺ヌ [˺ʔaini ˹kiːdakaː˺ka: pi˹raːraˀnu](あんなに気位が高ければ付き合えない)。

˹キータティ˺プス **[˹kiːtatiˀpu̥su]** 【名】易者。吉凶を判断する人。「卦 (け) 立て人」の義。˹キースヌ˺ヤー [˹kiːsunu˺jaː](易者の家)、˹キータティ˺ヤー [˹kiːtati˺jaː](易者の家 < 卦立て家 >) ともいう。˹キータティプス˺ヌ　˺ムニ　˹タンガ˺ル　ス˹ク˺　プ˹スヌ˺ムニ˹ナー˺トー　シゥ˹カヌ [˹kiːtatipusu˺nu muni˹tnagaˀru su̥˹kuˀ pu̥˹sunuˀ muni˹naː˺to: si̥˹kanu](易者の言うことだけしか聞かない <〜言うことだけが聞く >。他の人の言うことなど聞かない)。˺サンギンソー [˺saŋginso](三世相) ともいう。˹キータティ˺ヤーナ　˹ギー　ウンキ˺　ク˹ラ˺シ　˺クー [˹kiːtati˺jaːna ˹giː ʔuŋkiˀ ku˹raˀʃi ˺kuː](易者の家 < 卦を立てる家 > に行って運気を占ってもらってこい)。

˹キータティ˺ヤー **[˹kiːtatiˀjaː]** 【名】占いをする家。易者の家。「卦立て家」の義。˹ヤーニンズ˺ヌ　˹ウンキ˺　ク˹ラ˺シン　イ˹サナキヌ　キータティ˺ヤー　˹パッ˺タ [˹jaːniʤu˺nu ˹ʔuŋkiˀ ku˹raˀʃiŋ ʔi˹sanakinu kiːtatiˀjaː ˹patˀta](家族の運気を見立ててもらいに < 繰らせに >、石垣島の易者の家に行った)。

˹キータティ˺ルン **[˹kiːtatiˀruŋ]** 【他動】占う。吉凶を判断する。「卦をたてる」の義。˺サンギンソーヤー　˹キータティ˺ルンティ　ス˹ムチ˺バ　˺クリ　˹オー˺ル [˺saŋginsoːja ˹kiːtatiˀrunti su˹mutʃiˀba ˺kuri ˹ʔoː˺ru](易者 < 三世相 > は運気を占おうと書物を繰っておられる)。˹キータティララ˺ヌ [˹kiːtatirara˺nu](占えない)。˹キータティ˺ル　˺ピン [˹kiːtatiˀru ˺piŋ](占うとき)。˹キータティ˺レー　˺ミサムヌ [˹kiːtatiˀreː ˺misamunu](占えばよいのに)。˹パー˺ク　˹キータティ˺リ [˹paː˺ku ˹kiːtatiˀri](早く占え)。

˹キー˺　タ˹ティ˺ルン **[˹kiː˺ tḁ˹tiˀruŋ]** 【連】易者に易学の書物を見てもらって、卦、風水、運勢、ひえり (日択り) をすること。˹キー˺　タトゥン [˹kiː˺ tḁtuŋ](卦を立てる。運勢を占う) ともいう。˹ヤーニンズー˺ヌ　˹キー˺　タ˹ティ˺ルンティ　˺ウムーカ　イ˹サナキヌ˺　サンギンソーヌ　˺ヤー　˹ギー˺　ミリバ [˹jaːninʤu:˺nu ˹kiː˺ taˀtiˀrunti ˺ʔumuːka: ʔi˹sanakinu˺ saŋginsoːnu ˺jaː ˹giː˺ miriba](家族の運気 < 運勢 > を占って < 見立てて > みようと思うなら石垣島の易者の家に行ってごらんよ)。

˹キー˺　タトゥン **[˹kiː˺ tḁtuŋ]** 【連】占いをする。占いをして吉凶を判断する。「卦をたてる」の転訛したもの。˹キー˺　タトゥンティ　˹オールン˺ドゥ　˹キュー˺ヤ　˹キー˺　タ˹タラン˺ツォー [˹kiː˺tḁtunti ˹ʔoːrun˺du ˹kjuː˺ja ˹kiː˺ tḁ˹taranˀtsoː](占いをしようとしておられるが、今日は占えないそうだ)。˹キー˺　タティミサカー　˺タトゥ　˺クトー　˺ナルン

[˹kiː˺ tạtimisakaː ˺tạtu ˺kutoː ˺naruŋ](占ってよければ占うことは出来る)。˹パー˺ク　˹キー˺　タテー˺ミサムヌ [˹paː˺ku ˹kiː˺ tạteː ˺misamunu](早く占えば良いのに)。˹キー˺　タティバ [˹kiː˺ tạtiba](占えよ)。

˹キー˺　タトゥン [˹kiː˺ tatuŋ] 【連】意気が上がる。気合が入る。気力が出る。気概が上がる。てきぱきしている。「気が立つ」の義。˺ダレーティ　˹アーカン˺ドーシ　˹キー˺　タティ　シ˹グトゥ　シー [˺dareːti ˹ʔaːkan˺doːʃi ˹kiː˺ tatị̈ ʃi˹gutu ʃiː](だらだらしないで気合を入れて、集中して仕事をせよ)。˹サンシンヌ˺　ウ˹トゥヌ˺　シゥ˹カリ˺カー　˹キー˺タティティ　シ˹ベー˺　ム˹タイ˺ナムタイナ　˹シー˺　ナー˹イ　ベーリユーサ˺ヌ [˹saŋʃinnu˺ ʔu˹tunu˺ sï˹kari˺kaː ˹kiː˺ tạtiti ʃi˹beː˺ mu˹tai˺namutaina ˹ʃiː˺ naː˹i beːrijuːsa˺nu](三味線の音が聞こえてくると意気が上がり、うきうきして < 尻を上げたり下げたいして > じっとしていることが出来ない)。

˹キータム˺ヌ [˹kiːtamu˺nu] 【名】薪。生木や枯れ木を切って薪にしたもの。˹ユシ˺キキー [˹juʃị˺kiki:](枯れたススキの薪)、ヤ˹キバイ [ja˹kibai](ススキ林を焼き払い、燃え残ったススキを刈って薪にしたもの) の対義語。鳩間島の人は西表島の田圃の回りや海岸端の雑木を伐って自家用の薪にしたり、丸太を長さ約 40 センチに切って斧で割り、直径約 16 センチの束にして石垣島へ売ったりした。輸出用の薪は、薪の束を高さ約 150 センチ、長さ約 2 メートルに積んで、それをプ˹ス˺ヤマ [pụ˹su˺jama](一山) と称して入札にかけ、値段を決めて売買していた。˹キータム˺ノー　バ˹リタムヌ˺ティン　ア˹ジティ˺　ウ˹リバ　キー˺タナナ　シ˹ミティ　モーシタ [˹kiːtamu˺noː ba˹ritamunu˺tiŋ ʔa˹ʤiti˺ ʔu˹riba kiː˺tanana ʃi˹miti moːʃita](木の薪は割り薪とも言い、それを薪棚に積んで乾燥させて燃やしたものだ)。

˹キーダリ [˹kiːdari] 【名】落胆。がっかりすること。疲労感、脱力感に襲われること。「けだるい (気怠い)」の転訛したもの。˺シケンナー　˺ウティティル　˹キーダリ　シー　ベー˺バン　˺ヌヤー [˺ʃị̈kennaː ˺ʔutitiru ˹kiːdari ʃiː beː˺ban ˺nujaː](不合格になって < 試験に落ちて >< ぞ > 落胆しているわいな、何かと思ったら)。サ˹キムイ　シー˺　シケータンドゥ　˹パンクラ˺リティ　˹キーダリ　シーベー [sạ˹kimui ʃiː˺ ʃị̈keːtandu ˹paŋkura˺riti ˹kiːdari ʃiːbeː](結納をしておいたのに断られて落胆している)。

˹キーダリ　スン [˹kiːdari suŋ] 【連】落胆する。気落ちする。がっかりする。「けだるい (気怠い) 感じがする」の義。ウ˹ヌ˺　パ˹ナ˺シ　シゥ˹カス˺カー　˹キーダリ　スンダ˺　ウ˹ヤン˺ナーネー　イッ˹カ˺　パ˹ナス˺ナ˹ヨー [ʔu˹nu˺ pa˹na˺ʃi sị̈˹kasu˺kaː ˹kiːdari sunda˺ ʔu˹jan˺naːneː ʔik˹ka˺ pa˹nasu˺na˹joː](その話を聞かせると落胆する < がっかりする > から、親には絶対 < 一向に > に話すなよ)。ウ˹リン˺　ウ˹バーサリティ　キーダリ　シー　ドゥー˺ヤ　˹ウーカサラ˺ヌ [ʔu˹riŋ˺ ʔu˹baːsariti kiːdari ʃiː duː˺ja ˹ʔuːkasara˺nu](その人に驚かされて、気力が抜けて体が動かされない)。˺ドゥク　ウ˹バーサリ˺カー　プ˹ソー　キーダリ　スントダー [˺duku ʔu˹baːsari ˺kaː pụ˹soː kiːdari sunt-daː](ひどく驚かされると人は気落ちして脱力するぞ)。

˹キーダリ˺ムヌ [˹kiːdari˺munu] 【名】気抜けしてだらだらした者。活力のない者。ぼんやり者。˹ワー˺　ヌンティ　˺アイニ　˹キーダリ˺ムヌ　˺ナリ　˹ベー˺ワ [˹waː˺ nunti ˺ʔaini ˹kiːdari˺munu ˺nari ˹beː˺ wa](君は何故あんなに気抜けしたぼんやり者になっているのか)。

˹キー˺ダルン [˹kiː˺daruŋ] 【自動】気落ちする。「気だれる」の義。˺ドゥク　イ˹ザリ˺カー　˹キー˺ダルントダー˺　プ˹ソー [˺duku ʔi˹ʤari˺kaː ˹kiː˺darunt-daː˺ pụ˹soː](あんまり叱られると気落ちするぞ、人は)。˹キーダラ˺ヌ [˹kiːdara˺nu](気落ちしない)。˹キー˺ダリティ　シ˹グトゥン　サラヌ [˹kiː˺dariti ʃi˹gutun saranu](気落ちして仕事が出来ない)。イ˹ザリタンティン　キー˺ダル　˺クトー　˹ナー˺ヌ [ʔi˹ʤari-tantiŋ kiː˺daru ˺kụtoː ˹naː˺nu](叱られても気落ちすることはない)。

˹キーッ˺カラ [˹kiːk˺kara] 【名】木屑。木の削り屑。「木・欠片 (き・かけら)」の義か。丸太をはつっ < 削っ > て粗削りし、角材にする際にできる削り屑。大きなフ˹クンキー [ɸu˹kuŋkiː](福木) の丸太などを、先ず˹ブー˺ヌ [˹buː˺nu](斧) で削る。その際、目測で 15〜20 センチ間隔に丸太の横っ腹に削り目を打ち、それに従って斧ではつり < 削り >、角材にする。その時に出来る木屑が˹キーッ˺カラ [˹kiːk˺kara] である。次に˹チョー˺ナ [˹ʧoː˺na](手斧) や˹トゥイ˺ヌ [˹tui˺nu](手斧。平たい鑿状の堅牢な鉄の刃に柄を付けた斧。平面を削る斧) で削り、更にカ˹ナ [ka˹na](鉋) をかけて仕上げる。˹キーッ˺カラー　ア˹ツァ˺ミ　˺プシティ　˹モーシ˺バ [˹kiːk˺kara: ʔa˹tsa˺mi ˺pụʃiti ˹moːʃi˺ba](木屑を集め、干して燃やし < 燃料にし > なさいよ)。

˹ギーッキー˺シ **[˹giːkkiː˺ʃi]** 【副】きゅっきゅっと。力強く引き締めるさま。˹マイマラケー　ギーッキー˺シ　˺シミ　マ˹ラカン˺カー　フ˹キウティ˺ルン˹ダー [˹maimarakeː giːkkiː˺ʃi ˺ʃimi ma˹rakaŋ˺kaː ɸu̥˹kiuti˺run˹daː](米丸ぎ＜稲束 30 束を一まとめに縛りつけた単位＞は力強く締めないと抜け落ちるよ)。

ギーッ˹ティ **[giːt˹ti]** 【副】ぎゅっと握り締めるさま。しっかりと握り締めるさま。りんしょく (吝嗇) なさま。ギッ˹ティ [git˹ti](ぎゅっと) の強調表現。フ˹ク˺ベー　ギーッ˹ティ˺　シミティ　パ˹ラン˺カー　ア˹ラ˺キ　˺パルンケン　フ˹キルン˺ダー [ɸu̥˹ku˺beː giːt˹ti˺ ʃimiti pa˹raŋ˺kaː ʔa˹ra˺ki ˺paruŋkeŋ ɸu̥˹kirun ˺daː](帯びはぎゅっと引き締めて行かないと歩いて行くうちにほどける＜抜ける＞ぞ)。ウ˹レージン˺マー　ギーッ˹ティ˺　カ˹サミティ˺　ク˹ビッ˺チンツァン　パ˹ナサ˺ヌ [ʔu˹reː ʤim˺maː giːt˹ti˺ kḁ˹samiti˺ ku˹bittʃim˺maːntsam pa˹nasa˺nu](その人は、お金はぎゅっと握り締めて＜掴んで＞これぽっちたりとも手放さない)。ギーッ˹ティ　ティー˺バ　˹ニー˺リ [giːt˹ti tiː˺ba ˹niː˺ri](ぎゅっと手を握れ)。ギーッ˹ティ˺　シミ [giːt˹ti˺ ʃimi](ぎゅっと締めなさい)。

˹キートー˺シ **[˹kiːtoː˺ʃi]** 【名】伐採。「木倒し」の義。畑を新しく開墾する際には雑木を切り倒して枯らせ、それを焼いて切株＜切杭＞を掘り起こし、除去して耕した。ク˹ヌ˺　ター　カ˹クタン˺ケンマー　˹キートー˺シーン　˹タンガ˺シル　シ˹タ˺ダー [ku ˹nu˺ taː kḁ˹kutaŋ˺kemmaː ˹kiːtoː˺ʃiːn ˹taŋga˺ʃiru ʃi̥˹ta ˺daː](この田圃を開墾した時は伐採も切株おこしも一人でしたんだよ)。

˹キー˺　トゥ˹ラ˺リン **[˹kiː˺ tu˹ra˺riŋ]** 【連】気を取られる。注意を他のものに奪われる。˺ウタサンシンヌ　ウ˹ムッ˺サティ　˹ウン˺ナ　˹キー˺　トゥ˹ラ˺リ　˹ベーン˺ケンマー　ヤ˹クスクヌ˺　ジ˹カン　バシキナー˺ヌ [˺ʔutasaŋʃinnu ʔu˹mus˺sati ˹ʔun˺na ˹kiː˺ tu˹ra˺ri ˹beːŋ˺kemmaː ja˹kusu̥kunu˺ ʤi˹kam baʃi̥kinaː˺nu](歌三味線が面白くて、それに気を取られているうちに約束の時間を忘れてしまった)。

˹キー˺　トゥ˹リノー˺スン **[˹kiː˺ tu˹rinoː˺suŋ]** 【連】気を取り直す。落胆した状態から思い直して元気を出す。ア˹キ˺ナイ　ウ˹ル˺キティ　マ˹ガリ　ベータン˺ドゥ　˹キー˺　トゥ˹リノーシ˺ティ　パ˹タラキベー [ʔa˹ki˺nai ʔu˹ru˺kiti ma˹gari beːtan˺du ˹kiː˺ tu˹rinoː˺ʃi̥ti pḁ˹taraki beː](商売で大欠損をして曲がり縮まっていたが、気を取り直して働いているよ)。

˹キーニイリ **[˹kiːniʔiri]** 【名】気に入り。その人の心にかなう人やもの。可愛がられる人やもの。˺アッパー　˹キーニイリヌ˺　ッ˹ふァー˺　サ˹クシ˺ッふァ　˹タン˺ガ [˺ʔappaː ˹kiːniʔirinu ffaː˺ sa˹kuʃi˺ffa ˹taŋ˺ga](お祖母さんの気に入りの子は長男一人だけだ)。

˹キーヌー˺リ **[˹kiːnuː˺ri]** 【名】木登り。ヤ˹ラ˺ビ　˹シェーン˺ケンマー　˺ユー　˹キーヌー˺リ　˹シー˺　ア˹サブタン [ja˹ra˺bi ˹ʃeːŋ˺kemmaː ˺juː ˹kiːnuː˺ri ˹ʃiː˺ ʔa˹sabutaŋ](子供の頃はよく木登りして遊んだ)。

˹キー˺ヌ　˺アバ **[˹kiːnu ˺ʔaba]** 【連】樹脂。「木の油 (脂)」の義。まつやに (松脂) やテリハボクの樹脂など。ム˹カ˺シェー　˺マチキーラ　˺アバ　ス˹ブ˺ローッタツォー [mu˹ka˺ʃeː ˺matʃikiːra ˺ʔaba su˹bu˺roːtatsoː](昔は松の木から油を搾られて＜搾油された＞そうだ)。

˹キー˺ヌ　˺アヤ **[˹kiː˺nu ˺ʔaja]** 【連】年輪。木目。「木の綾」の義。シ˹ギキーヌ˺　アヤ [ʃi˹giki:nu˺ ʔaja](杉の木目)。˺マチキーヌ　˺アヤー　イッ˹ケナ　カイ˺ヤン [˺matʃikiːnu ˺ʔajaː ʔik˹kena kai˺jaŋ](松の木目は非常に美しい)。

˹キーヌ˺　ア˹ラー˺ン **[˹kiːnu˺ ʔa˹raː˺ŋ]** 【連】気が荒い。ウ˹レー　サッ˺コー　˹キーヌ˺　ア˹ラー˺ンダ　ウ˹リトー˺　シ˹グトー˺　シ˹ララヌ [ʔu˹reː sak˺ko: ˹kiːnu˺ ʔa˹raː˺nda ʔu˹ritoː˺ ʃi˹gutoː˺ ʃi˹raranu](彼は非常に気が荒いので彼とは＜一緒に＞仕事は出来ない)。

˹キーヌ˺カー **[˹kiːnu˺kaː]** 【名】樹の皮。˹キー˺ヌ˺カー [˹kiː˺nu ˺kaː](「木の皮」は連語)。ム˹チンキーヌ　キー˺ヌ　˺カー　˹シッ˺キティ　ム˹チン˺　ス˹ク˺リティ　メ˹ジ˺ロ　シ˹ビシキ˺　シゥ˹カム˺タン [mu˹tʃiŋkiːnu kiːnu˺kaː ˹ʃik˺kiti mu˹tʃin˺ su̥˹ku˺riti me˹ʤi˺ro ʃi˹biʃi̥ki˺ si̥˹kamu˺taŋ](モチノキ＜黐の木＞の皮を搗いてとりもち＜鳥黐＞を作ってメジロをひっつけて捕まえた)。

˹キー˺ヌ　˺カイ **[˹kiː˺nu ˺kai]** 【連】木陰。木の陰。˺アツァユンダ　˹キー˺ヌ　˺カイ　˹ペー˺リバ [˺ʔatsa-junda ˹kiː˺nu ˺kai ˹peː˺riba](暑いから木陰に入りなさい)。˹キーヌカイ˺ヌ　ヌ˹ビ˺ルカー　˺ティダー　˹イールティダ˺　ナリ　˹ヨーリ˺ス [˹kiːnukai˺nu nu ˹bi˺ruka: ˺tida: ˹ʔiːrutida˺ nari ˹joːri˺su](木陰が伸びると太陽は西日になって暑さも弱くなる＜やわらぐ＞)。˺カイナカ [˺kainaka](陰。陰中)、˹キー˺ヌ˺カイナカ [˹kiː˺nu ˺kainaka](木陰。木の陰中) とも

いう。

˹キー˺ヌ　˺キシ [˹kiː˺nu ˺kiʃi] 【連】木の切れ。木の切れ端。˹ヤースクリヤー˺ヌ　˹キー˺ヌ　˺キシ　ア˹ツァ˺ミ　˺キー　タ˹ム˺ヌ　˹シー˺バ [˹jaːsu̥kurijaː˺nu ˹kiː˺nu ˺ki̥ʃi ʔa˹tsa˺mi ˺kiː ta˹mu˺nu ˹ʃiː˺ba](新築中の家の木の切れ端を集めてきて薪にしなさい＜せ＞よ)。˹キー˺ヌ　˺キシェー　シゥ˹カーリン˺　ム˹ニ˺ヌ　˺キシェー　シゥ˹カーラヌ [˹kiː˺nu ˺ki̥ʃeː si̥ ˹kaːriŋ˺ mu˹ni˺nu ˺ki̥ʃeː si̥˹karanu](木の切れ端は使える。言葉の切れ端は使えない＜余計な言葉で身を滅ぼす＞)。

˹キーヌ˺キシ [˹kiːnu˺ki̥ʃi] 【名】木片。木っ端。アクセントの違いにより一語と認定される。˹キーヌキシ˺ヌ　˺アン [˹kiːnukiʃi˺nu ˺ʔaŋ](木片がある)。˹キーヌ˺キシェー　シ˹ティランドー˺シ　タ˹ム˺ヌ　˹シー˺バ [˹kiːnu˺ki̥ʃeː ʃi̥˹tirandoː˺ʃi ta˹mu˺nu ˹ʃiː˺ba](木片は捨てずに薪にしなさいよ)。

˹キー˺ヌ　˹シー [˹kiː˺nu ˹ʃiː] 【連】木の精。古木に宿ると考えられている木の精霊。ガ˹ジ˺マル [ga˹ʤi˺maru](榕樹) の古木には生霊が宿っているといわれている。鬱蒼と繁った大木の下に行くと、総身に鳥肌が立って樹木の精を感じるという。ウ˹ブキー˺ヌ　ッ˹サーン˺ナ　ニ˹ブ˺カー　˹キー˺ヌ　˹シーン˺　ウ˹ソーリン [ʔu˹bukiː˺nu s˹saːn˺na ni˹bu˺kaː ˹kiː˺nu ˹ʃiːŋ˺ ʔu˹soːriŋ](大木の下に寝ると、木の精に襲われる)。

˹キー˺ヌ　˺シル [˹kiː˺nu ˺ʃiru] 【連】樹液。「木の汁」の義。ガ˹ジマル˺ヌ　˹キー˺ヌ　シ˹ル˺バ　ア˹シ˺ブナ　˹ヌーリ˺　シケー [ga˹ʤimaru˺nu ˹kiː˺nu ʃi˹ru˺ba ʔa˹ʃi˺buna ˹nuːri˺ ʃikeː](ガジマル＜榕樹＞の樹液を御出来＜あせも＞の周囲に塗っておいてある)。

˹キー˺ヌ　˺スラ [˹kiː˺nu ˺sura] 【連】木の枝の先。こずえ (梢)。˹キー˺ヌ　˺スラナ　˺パトゥザヌ　トゥ˹マリ　ベー˺ン [˹kiː˺nu ˺surana ˺pḁtuʤanu tu˹mari beː˺ŋ](木の枝の先に鳩がとまっている)。

˹キーヌ˺ナル [˹kiːnu˺naru] 【名】木の実。果実。果物。˹キー˺ヌ　˺ナル [˹kiː˺nu ˺naru](木の実。＜連語＞)。「果、日本紀私記云古乃美＜このみ＞、俗云久太毛乃＜くだもの＞『和名抄』」の義。˹ソーラン˺ヌ　ム˹ルムロー　キーナナル˺ヌ　パ˹チパチバ˺　トゥリ˹キー˺ル　カ˹ザルタ [˹soːran˺nu mu˹rumuroː kiː-nunaru˺nu pḁ˹tʃipatʃiba˺ turi ˹kiː˺ru ka˹ʤaruta](お盆のムルムルは木の実の初生りを取って来て供えた)。

˹キー˺ヌ　˺ナル [˹kiː˺nu ˺naru] 【連】木の実。˹キー˺ヌ　˺ナロー　˹タイ˺フーナ　˹アイ˺ウティ　˹ナー˺ヌ [˹kiː˺nu ˺naroː ˹taiˡ˺ɸuːna ˹ʔai˺uti ˹naː˺nu](木の実は台風で捩(モ)がれて落ちてしまった)。

˹キー˺ヌ　˺ニー [˹kiː˺nu ˺niː] 【連】木の根。˹キー˺ヌ　˹ニー˺ヤ　˹デー˺ジ˹ダー　コン˺クリーン　バ˹ルン˺ダー [˹kiː˺nu ˹niː˺ja ˹deː˺ʤi˹daː koŋ˺kuriːm ba˹run˺daː](木の根は大変だよ。コンクリートをも割るよ)。

˹キーヌ˺パー [˹kiːnu˺paː] 【名】木の葉。「〜夕闇乃木葉隠有月待如＜〜夕闇の木の葉隠れる月待つ如し＞『万葉集　2667』」の義。˹タイフー˺ヌ　˺アトー　˹キーヌ˺パー　˹ポー˺キ　ア˹ツァ˺ミティ　パ˹タ˺ケー　˺ムティ˹ギー˺　パ˹タキ˺ヌ　˺コイ　˹ナシタ˺ル [˹taiɸuː˺nu ˺ʔatoː ˹kiːnu˺paː ˹poː˺ki ʔa˹tsa˺miti pḁ˹ta˺keː ˺muti ˹giː˺ pḁ˹taki˺nu ˺koi ˹naʃita˺ru](台風の後は木の葉を掃き集めて、畑へ持って行き、畑の肥やしにしたものだ)。

˹キー˺ヌ　˺バイ [˹kiː˺nu ˺bai] 【連】木の芽。若芽。ウ˹ルズン˺ヌ　˺シチ　˹ペール˺ター　˹キー˺ヌ　˺バイン　ンジ˹キー˺　ブー [ʔu˹ruʤun˺nu ˺ʃi̥ʧi ˹peːru˺taː ˹kiː˺nu ˺bai̥ŋ ˺ʔnʤi ˹kiː˺ buː](初夏の季節に入ったので木の芽も出てきている)。

˹キーヌパン˺タ [˹kiːnupan˺ta] 【名】梢。「木の先端」の転訛したもの。˹キーヌパン˺タナ　˺パトゥザヌ　˺シー　ス˹ク˺リ　˺シケー [˹kiːnupan˺tana ˺pḁtuʤanu ˺ʃiː su̥˹ku˺ri ˺ʃi̥keː](梢に鳩が巣を作ってある)。

˹キー˺ヌ　パン˹ター˺マ [˹kiː˺nu pan˹taː˺ma] 【連】木の最先端。˹キー˺ヌ　パン˹ター˺マナ　˹ヌーリ˺　ア˹サビベー˺ティ　˺ウマーラ　ウ˹ティ˺ルカー　˺ドゥー　ヤ˹マ˺スン˹ダー [˹kiː˺nu pan˹taː˺mana ˹nuːri˺ ʔa˹sabibeː˺ti ˺ʔumaːra ʔu˹ti˺ruka: ˺duː ja˹ma˺sun˹daː](木の先端部に登って遊んでいて、そこから落ちたら怪我するぞ)。

˹キー˺ヌ　マ˹ガレー [˹kiː˺nu ma˹gareː] 【連】木の曲がったもの。木の曲がり。˹キー˺ヌ　マ˹ガレー　ノーサ˺リン　プ˹スヌ˺　マ˹ガレー　ノーサラ˺ヌ [˹kiː˺nu ma˹gareː noːsa˺riŋ pu̥˹sunu˺ ma˹gareː noːsara ˺nu](木の曲がったのはなせる。人の曲がりは直せない＜諺＞)。

˹キー˺ヌ　˺マタ [˹kiː˺nu ˺mata] 【連】木の股。ヤ˹ラ˺ビ　˹シェーン˺ケン　˹キー˺ヌ　˺マタナー　˹ヌーリ˺　ア˹サビベーン˺ケン　˺ウマーラ　˺ウティティ　ス˹ブル˺バ　˹ピッ˺キ　˺シケータル [ja˹ra˺bi ˹ʃeːŋ˺keŋ ˹kiː˺nu ˺matanaː ˹nuːri˺ ʔa˹sabi beːŋ˺keŋ ˺

ʔumaːra ˥ʔutiti suˤburu˥ba ˤpik˥ki ˥ʃi̥keːtaru](子供の頃、木の股に上って遊んでいたが、そこから落ちて頭に傷をつけて＜孔を開けて＞しまっていたよ)。

˞キー˥ヌ　˥ミー [ˤkiː˥nu ˥miː] 【連】林の中。雑木林の中。˞キー˥ヌ　˥ミーナール　パˤボー　ブー˥ダー [ˤkiː˥nu ˥miːnaːru paˤboː buː˥daː](雑木林の中に＜ぞ＞ハブはいるのだよ)。

˞キーヌ˥ムシ [ˤkiːnu˥muʃi] 【名】木の虫。材木の中に棲み、材質を食う虫。˞キーヌムシ˥ヌ　˞ペー˥リティ　˞キー˥ヌ　˞シン˥マー　˥ッサリ　˞ユーゾーナー˥ヌ [ˤkiːnumuʃi˥nu ˤpeː˥riti ˤkiː˥nu ˤʃim˥maː ˥ssari ˤjuːʤoːnaː˥nu](木の虫が入って木の芯が腐れ、役に立たない。木の芯を虫が食って材木は台無しである)。

˞ギー˥ヌ　˥ムヌ [ˤgiː˥nu ˥munu] 【連】下等な物。「下の物」の義。かつて鳩間島でも米や芋、南瓜、西瓜、瓜などの農産物、豚や山羊などの畜産、その他織物工芸品などの品評会で上、中、下の品質の判定が行われた。クˤレー　ダーッ˥サ　˞ナーン˥バン。˞ギー˥ヌ　ムˤヌ˥ユン [kuˤreː daːs˥sa ˤnaːm˥baŋ。ˤgiː˥nu muˤnu˥juŋ](これは良くないワイ。下等な物だよ)。˥スブットゥヌル　˞ギー˥ヌ　˥ムノー　スˤクˤル　˞マイフナーヌ˥　スˤクˤルムノー　˞チャー　ゾー˥ヌ　˥ムヌ [˥subuttunuru ˤgiː˥nu ˥munoː su̥ˤku˥ru ˤmaiɸunaːnu˥ su̥ˤku˥ru ˥munoː ˤʧaː ʤoː˥nu ˥munu](怠け者が下の物＜農作物＞を作る。働き者が作る作物は常に上の物＜農産品＞だ)。

˞キー˥ヌ　˥ヤー [ˤkiː˥nu ˥jaː] 【連】建築用材を積んで乾燥させておく小屋。木小屋。˞キー˥ヤー [ˤkiː˥jaː](木小屋) ともいう。昔は長期計画で建築用材を山出しした。西表島北岸での農作業の合い間にヤˤマ˥フミ [jaˤma˥ɸumi](山踏み。山に入り、木材を探すこと) をして上質の建築用材を伐り出し、島に運んで約一年間˞スー˥カン [ˤsuː˥kaŋ](海中に沈めたり、海の砂に埋めて潮乾燥) をした後、木小屋で保管した。˞キー˥ヤ　˞スー˥カン　シˤティ　キー˥ヌ　˥ヤーナ　シˤミ˥　シˤキ˥ルカー　ムˤシェー　ペーラン˥シェン [ˤkiː˥ja ˤsuː˥kaŋ ʃi̥ˤti kiː˥nu ˥jaːna ʃiˤmi˥ ʃi̥ˤki˥ruka: muˤʃe: peːra˥ŋʃeŋ](材木は海水に沈めて潮乾燥して、木小屋に積み上げておくと虫は入らなかった)。

˞キーヌ˥ユダ [ˤkiːnu˥juda] 【名】木の枝。枝。˞キーヌ˥ユダー　˥キシ　ウˤタ˥シバ [ˤkiːnu˥juda: ˥ki̥ʃi ʔuˤta˥ʃiba](木の枝は切り落としなさいよ)。

˞ギーバー [ˤgiːbaː] 【名】八重歯。犬歯。「牙、キバ・キ」『類聚名義抄』の転訛したもの。ウˤヌ˥　ミˤドーン˥ッふァー　アˤバ˥レーンドゥ　バˤラウ˥カー　˞ギーバーヌ˥　ンジティ　ナˤクラー˥ン [ʔuˤnu˥ miˤdoːŋ˥ffaː ʔaˤba˥reːndu baˤrau˥kaː ˤgiːbaːnu˥ ʔnʤiti naˤkuraː˥ŋ](その女の子は美しいんだが、笑うと八重歯が出て怖いよ)。カˤマイ˥ヌ　˞ギーバー [kaˤmai˥nu ˤgiːbaː](猪の牙)。クˤヌ˥　ッˤふァー　ギーバーヌ　トゥンジベー [kuˤnu˥ fˤfaː giːbaːnu tunʤibeː](この子は犬歯＜牙＞が突き出ている)。

˞キー˥パイ [ˤkiː˥pai] 【名】こくわ (木鍬)。木で作った鍬。沖縄古語に「くはい　鍬の事」『混効験集』とある。カˤナパイ [kaˤnapai](鍬。「鉄鍬」の義) の対義語。田打ちに用いる鍬をいう。硬質の木を刳り削って作った田鍬。刃幅約 25 センチ、長さ約 35 センチ、柄の長さ約 130 センチの田打ち鍬は昭和 40 年頃まで使用されていた。刃の内側はゆるい V 字形に刳り込むが、柄を差し込む部分は厚みをもたせてある。かなりの重量があるため、戦後は薄い鉄板を利用して木製の˞キー˥パイ [ˤkiː˥pai] の形に田鍬を作ったが、これに対しても˞キー˥パイ [ˤkiː˥pai] と称した。˞キー˥パイはユˤビター [juˤbitaː](深田) を耕す際に使用した。˞キーパイ˥ヤ　˞グッ˥ふァンダ　ウˤリ˥シ　˥ター　˞カイ˥スピンマー　ブˤガ˥リ　ナˤラン˥シェン [ˤkiːpai˥jaː ˤgufˤfandaː ʔuˤri˥ʃi ˥taː ˤkai˥su ˥pimmaː buˤga˥ri naˤraŋ˥ʃeŋ](木鍬は重いから、それで田を耕すときは疲れて堪らなかった＜ならなかった＞)。

˞キーパガー [ˤkiːpagaː] 【名】毛の抜けた人。頭髪の禿げた人。禿頭。キーパギ (毛禿げ) に接尾語のヤー (人) が下接して形成された合成語。ウˤブヤンバ　シーティル˥　アイニ　˞キーパガー˥　ナリ　˞ベー˥ル [ʔuˤbujamba ʃiːtiru˥ ʔaini ˤkiːpagaː˥ nari ˤbeː˥ru](大病をして、あのように頭髪の禿げた人＜禿頭＞になっているのだ)。

˞キーバキ˥タナ [ˤkiːbaki˥tana] 【名】木材を木挽き鋸で挽き割る装置。製材棚。立ち木の適当な枝に 2 本の材木を斜めに掛け、それに横木を渡して固定したもの。その横木に製材する材木を載せ、一人はその材木の上に乗り、一人は地上に立って、双方力を合わせて一本の木挽き鋸を挽いて製材した。重労働であった。˞キーバキ˥タナ　˥カキティ　フˤタール˥シ　˥キー　˥バキティ　˥イツァン　˥パラーン　スˤク˥ローッタ [ˤkiːbaki˥tana ˥kḁkiti ɸu̥ˤtaːru˥ʃi ˥kiː ˥bakiti ˥ʔitsam ˥paraːn su̥ˤku˥roːtta](木材を鋸で

挽き割る装置＜棚＞を掛けて、二人で材木を挽き割って板も柱も製材され＜作られ＞た)。

˹キーバキヌキ˺ル [˹ki:bakinuki˺ru] 【名】木挽き鋸。「木分＜ヮキ＞鋸」の義。材木を挽いて板を製材するのに用いる巾の広い大鋸。˹キーバキヌキ˺ルシ　フ˹クンキーラ˺　イツァ　バ˹コーッ˺タ [˹ki:bakinuki˺ruʃi ɸu̥˹kuŋki:ra˺ ʔitsa ba˹ko:t˺ta](木挽き鋸で福木を挽き分けて板を製材された)。

˹キーバキ˺プス [˹ki:baki˺pu̥su] 【名】木挽き。木材をおが (大鋸) で挽く人。「工」の字型の木枠に鋸身を張った、縦挽用の大きな鋸を用いて木材を挽く人。二人一組で挽く。一人挽きの大型柄鋸 (えのこ) もあったが、それを二人で挽くことが多かった。˹キーバキ˺プス　タ˹ナ˺ミティ　˺イツァ　バ˹カ˺シ [˹ki:baki˺pu̥su ta˹na˺miti ˺ʔitsa ba˹ka˺ʃi](木挽きを頼んで木材を板に挽いてもらいなさい)。

˹キー˺パク [˹ki:˺pḁku] 【名】木箱。杉板で作った箱。˺ガンガンパク [˺gaŋgampḁku](アルミ板や鉄板で作った箱) の対義語。˺ガンガンパコー　サ˹ビ　フイ˺スンダ　˹キー˺パクナ　イ˹リリ˺ヨー [˺gaŋgampako: sa˹bi ɸui˺sunda ˹ki:˺pḁkuna ʔi˹riri˺jo:](鉄板の箱は錆がつく＜錆食う＞から、木箱に入れなさいよ)。

˹キー˺　バクン [˹ki:˺ bakuŋ] 【連】材木を縦に挽いて製材する。材木から板を製材する。˹キーバキヌキ˺ルシ　フ˹クンキー˺　バキティ　˹フンツァイツァ˺　ス˹ク˺ローッタ [˹ki:bakinuki˺ruʃi ɸu̥˹kuŋki:˺ bakiti ˹ɸuntsaʔitsa˺ su̥˹ku˺ro:tta](縦挽き鋸で福木を挽き分けて床板を作られた)。

˹キー˺パシ [˹ki:˺pḁʃi] 【名】木製の箸。上品な箸。祝い用の箸。日常生活に用いる箸はタ˹キパシ [tḁ˹kipaʃi](竹箸) を用いた。˹ユシ˺キパシ [˹juʃi̥˺kipḁʃi](ススキ箸) は、ウ˹ティン˺ガビ [ʔu˹tiŋ˺gabi](紙銭) を焼く際に用いた。˹キー˺パシェー　イ˹サンケーラ　カイヨーッ˺タ [˹ki:˺pḁʃe: ʔi˹saŋke:ra kaijo:t˺ta](木箸は石垣島から買ってこられた)。˺チニヒージェー　タ˹キパシル˺　シゥ˹カウタ [˺ʧinihi:ʤe: tḁ˹kipaʃiru˺ si̥˹kauta](常日頃は竹箸を使った)。

˹キーパチ˺ムヌ [˹ki:paʧi˺munu] 【名】活気のある人。活力のある人。生き生きした元気な人。ウ˹レー　キーパチ˺ムヌ　ヤ˹ルンダ˺　シ˹グトゥン˺　ユ˹ダン　サンドー˺シ　タ˹デー˺マンチン　トゥ˹ズミ˺ス [ʔu˹re: ki:paʧi˺munu ja˹runda˺ ʃi˹gutuŋ˺ ju˹dan sando:˺ʃi ta˹de:˺manʧin tu˹ʤumi˺su](彼は活力のある人だから、仕事も油断しないで即座に＜すぐさま。只今のうちに＞終わらせる)。

˹キーパツァー˺ン [˹ki:patsa:˺ŋ] 【形】せっかち＜急勝＞である。性急である。ク˹レー　キーパツァー˺ンダ　ノー˹ン˺　シ˹ミバン˺　プ˹ソーラ　パイ˺サ　シ˹グトゥ　シー˺　トゥ˹ズミス [ku˹re: ki:patsa:˺nda: no:˹ŋ˺ ʃi˹mibam˺ pu̥˹so:ra pai˺sa ʃi˹gutu ʃi:˺ tu˹ʤumisu](この人＜これ＞はせっかちな性分だから、何をさせても他人より早く仕事を完成＜し終え＞させる)。˹キーパツァーナー˺ヌ [˹ki:patsa:na:˺nu](せっかちでない)。˹キーパツァー˺　プス [˹ki:-patsa:˺ pu̥su](せっかちな人)。気が早くてきぱきと行動する。˹キーパツァー˺　プ˹ソー˺　シ˹グトー˺　パ˹ヤー˺ン [˹ki:pḁtsa:˺ pu̥˹so:˺ ʃi˹guto:˺ pa˹ja:˺ŋ](せっかちな人は仕事は早い)。˹キーパツァー˺ンティス˹クタンドゥ　ナン˺ゾー　˹キーパツァー　ナー˺ヌ [˹ki:pḁtsa:˺nti su̥˹kutandu nan˺ʤo: ˹ki:patsa: na:˺nu](せっかちだと聞いたがあまりせっかちではない)。˹キーパツァー˺　ナリ　˹キー˺ブバン [˹ki:patsa:˺ nari ˹ki:˺bubaŋ](せっかちになってきているよ)。˺マー　ン˹ベーマ　キーパツァー˺レー　˺ミサムヌ [˺ma: ʔm˹be:ma ki:patsa:˺re: ˺misamunu](もう少しせっかちだったら良いのに)。

˹キーパヤー˺ン [˹ki:paja:˺ŋ] 【形】気が早い。気早い。せっかちである。気短でてきぱきと行動する。ウ˹レー　キーパヤー˺ンダ　シ˹グトゥ˺　タ˹ナ˺ムカー　タ˹デー˺マンチン　˹シー˺　ッ˹ふィールン [ʔu˹re: ki:paja:˺nda ʃi˹gutu˺ ta˹na˺muka: ta˹de:˺manʧiŋ ˹ʃi:˺ f˹fi:ruŋ](彼は気が速いから仕事を頼むとすぐさま＜只今の内に＞してくれる)。ウ˹レー　キーパヤー˺ンダー　ナー˹イ˺　ブ˹リサヌ˺　ケーンティ　˺ウムーカー　シ˹グ˺　パ˹リ˺ス [ʔu˹re: ki:paja:˺nda: na:˹i˺ bu˹risanu˺ ke:nti ˺ʔumu:ka: ʃi˹gu˺ pa˹ri˺su](その人は気が早い＜せっかちだ＞から、ただじっとして居れない＜性分だ＞。来たと思ったらすぐ行ってしまう)。˺ドゥク　˹キーパヤー˺ヌ　ウ˹ティシゥカ˺ヌ [˺duku ˹ki:paja:˺nu ʔu˹tisi̥ka˺nu](あまりにも気が早くて＜せっかちだが＞落ち着かない)。˺アイヤー　˹キーパヤーナー˺ヌ [˺ʔaija: ˹ki:paja:na:˺nu](そんなに気が早くない＜せっかちでない＞)。˹キーパヤー˺　プ˹ソー˺　ヤ˹トーラ˺ヌ [˹ki:paja:˺ pu̥˹so:˺ ja˹to:ra˺nu](気の早い＜せっかちな＞人は雇うことができない＜雇われない＞)。

˹キー˺　パルン [˹ki:˺ paruŋ] 【連】消えていく。ティ˹ガ˺ミ　˺アミナ　˹ゾーラス˺カー　˹ジーヤ　キー˺パルン [ti˹ga˺mi ˺ʔamina ˹ʤo:rasu˺ka: ˹ʤi:ja ki:˺

paruŋ](手紙を雨に濡らすと文字は消えていく)。

「ギーバルン [「gi:baruŋ] 【自動】気張る。元気を出す。頑張る。精を出す。「Qibari,u,atta. キバリ, ル, ッタ (気張り, る, つた) 物事をするのに一層力を出す.〜」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。「タンガ˺シ　「ギーバルンティ˺　ウ「ムーン˺ドゥ　「ギーバララヌ [「taŋga˺ʃi「gi:barunti˺ ʔu「mu:n˺du「gi:bararanu](一人で頑張ろうと思うが、頑張られない)。「ギーバリ˺　ミサカー　「ギーバル˺　クトー　ナ「ルン˺ドゥ　「ワンヌン　ギーバレー˺　ミサムヌ [「gi:bari˺ misaka:「gi:baru˺ kṵto: na「run˺du「wannuŋ gi:bare:˺ misamunu](頑張って良ければ頑張ることは出来るが、君も頑張れば良いのに)。イ「ジン˺ジ　「ギーバリ˺ヨー [ʔi「ʤin˺ʤi「gi:bari˺jo:](一生懸命に頑張れよ)。シ「グトー　タンガ˺シン　「ギーバルン [ʃi「guto:˺「taŋga˺ʃim「gi:baruŋ](仕事は一人ででも頑張る)。「ギーバラン˺タンティン　˺ミサン [「gi:baran˺tantim˺misaŋ](頑張らなくてもいい)。「ギーバリ˺　プサン [「gi:bari˺ pṵsaŋ](頑張りたい)。「ギーバル˺　クトゥ [「gi:baru˺ kṵtu](頑張ること)。「ギーバレー˺　ミサムヌ [「gi:bare:˺ misamunu](頑張ればよいのに)。ク「ヌ˺　シ「グトー˺　ヤー「ディン　ギーバリ [ku「nu˺ ʃi「guto:˺ ja:「diŋ gi:bari](この仕事は必ず頑張れ)。

「キー˺プサイ [「ki:˺pṵsai] 【名】薪拾い。「バン˺トゥ　「マーズン　キー˺プサイン　パラ「ディー [「ban˺tu「ma:ʤuŋ ki:˺pṵsaim para「di:](私と一緒に薪拾いに行こうよ)。

˺キー　プ「サウン [˺ki: pṵ「sauŋ] 【連】薪取りをする。薪拾いをする。パ「タ˺キ　「カイ˺シティ　˺アトー　˺キー　プ「サウン [pạ「ta˺ki「kai˺ʃi̥ti ˺ʔato: ˺ki: pṵ「sauŋ](畑を耕した後に薪拾いをする < 薪を拾う >)。

「キー˺プゾー [「ki:˺puʤo:] 【名】木製の煙草入れ。「木宝蔵」の義。直径約 10 センチ、高さ約 15 センチの円筒状に木材を刳り込んで造った煙草入れ。漁師が烏賊釣り漁やカツオ釣り漁に出る際に、木製の煙草入れにマッチを入れ、さらに煙草入れを「ナーブ˺ク [「na:bu˺ku](板製の縄箱) に入れてカ「キン˺グ [kạ「kiŋ˺gu](格護。保護。保管) した。「キー˺プゾーナール　シ「キダ˺キン　イ「リティル˺　イ「ソー　オーッ˺タ [「ki:˺puʤo:na:ru ʃi̥「kidaki˺ŋ ʔi「ritiru˺ ʔi「so: ʔo:t˺ta](木製の煙草入れ < 木宝蔵 > にマッチ < 付け竹 > をも入れて漁には行かれた)。

「キー˺フタ [「ki:˺ɸṵta] 【名】木製の蓋。「木蓋」の義。「スー˺ナビ [「su:˺nabi](汁鍋) や「イー˺ナビ [「ʔi:˺nabi](飯鍋) の蓋は木製の蓋をつかったが、芋を煮る「シンマイ˺ナビ [「ʃimmai˺nabi](大鍋。「四枚鍋」の義) は、萱で編んだ円錐形の鍋蓋を用いた。「イーナビ˺ヌ　「キーフタ˺ヌ　ア「チメー˺　ア「ツァン˺ドゥ　「スーナビ˺ヌ　フ「タヌ˺　ア「チメー˺　ピサン [「ʔi:nabi˺nu「ki:ɸṵta˺nu ʔa「ʧime:˺ ʔa「tsan˺du「su:nabi˺nu ɸṵ「tanu˺ ʔa「ʧime:˺ pi̥saŋ](飯鍋の木蓋の厚みは厚いが、汁鍋の蓋の厚さは薄い)。

「キーブッター [「ki:butta:] 【名】毛深い人 (男)。毛むくじゃらの人。ク「ヌ˺　プ「ソー　タッ˺テヌ　マ「リル˺　シ「タ˺ユー　˺アイニ　「キーブッター˺　ナリ　「ブー˺ツォー [ku「nu˺ pṵ「so: tat˺tenu ma「riru˺ ʃi̥「ta˺ju: ˺ʔaini「ki:butta:˺ nari「bu:˺tso:](この人は何処の家の血統を受けて生まれた < 何処の家の生まれをした > のか、あんなに毛むくじゃらになっているのだよ)。

「キープトゥ˺キ [「ki:pṵtu˺ki] 【名】木仏。木彫の仏像。「ウイヌ˺　ウガンナー　「キープトゥキ˺ヌ　マ「ツァリ　オー˺ルン [「ʔuinu˺ ʔuganna:「ki:pṵtuki˺nu ma「tsari ʔo:˺ruŋ](友利御嶽には木仏が祀られ < 奉祀され > ておられる)。

「キーブル [「ki:buru] 【名】身の毛立つこと。鳥肌。悪寒。「毛震い」の義か。「キーブル　スン [「ki:buru suŋ](鳥肌が立つ。身震いする)。

「キーブルスン [「ki:burusuŋ] 【自動】身の毛が弥立って身震いする。身の毛がよだつ。ウ「ヌ˺　パ「ナ˺シ　シ「キティ˺　ナ「クラー˺ヌ　「キーブル　シーナーン˺シェン [ʔu「nu˺ pa「na˺ʃi ʃi̥「kiti˺ na「kur:˺nu「ki:buru ʃi:na:ŋ˺ʃeŋ](その話を聞いて驚いて身の毛が弥立ち、身震いしてしまった)。ウ「ヌ˺　パ「ナ˺シ　ス「ク˺カー　ター「ン　ヤラバン　キーブルスン [ʔu「nu˺ pa「na˺ʃi sṵ「ku˺ka: ta:「ɲ jarabaŋ ki:burusuŋ](その話を聞くと誰でも身の毛が弥立つ)。「キーブル　サヌ [「ki:buru sanu](身震いしない)。「キーブルスー˺　プス [「ki:burusu:˺ pṵsu](身震いするとき)。

「キーブル　スン [「ki:buru suŋ] 【連】恐怖感で身の毛がよだつ。ぞっとする。鳥肌が立つ。身震いする。「ウンヌ˺　クトゥ　˺ウムーカー　マ「ナ˺マン　「キーブル　シース [「ʔunnu˺ kṵtu ˺ʔumu:ka: ma「na˺maŋ「ki:buru ʃi:su](その時のことを思うと、今でも恐怖感でぞっとするよ)。ウ「ヌ　パナ˺シ　ス「ク˺カー　「キーブルスン [ʔu「nu panа˺ʃi sṵ「ku˺ka:「ki:buru suŋ](その話を聞くと鳥肌が立つ)。ウ「ヌ˺　パ「ナ˺シ　ス「ク˺カー　ナ「クラー˺ヌ　「キーブル　シース [ʔu「nu˺ pa「na˺ʃi sṵ「ku˺ka: na「kura:˺nu「

ki:buru ʃi:su](その話を聞くと、恐ろしくて鳥肌が立つよ)。

˞キー˜フン [˞ki:˜ɸuŋ] 【名】木釘。「栓、　岐久岐　木釘也『和名抄』」の転化したもの。柱や桁材に直径約 2 センチ程の孔をあけ、それに˜カシンキー [˜kaʃiŋki:](オキナワウラジロガシ) で作った棒状の木釘を打ち込んでジョイント部分を強化するのに用いた木釘。˞キー˜フン　˜ウティ　シ˞キ˜ルカー　˜キター　˞パンチラヌ [˞ki:˜ɸuŋ ˜ʔuti ʃi̥˞ki˜ruka: ˜ki̥ta: ˞pantʃiranu](木釘を打っておくと桁材は < 柱から > 外れない)。

˞キーボー˜ン [˞ki:bo:˜ŋ] 【形】煙たい。˜クマー　˞キーボー˜ン [˜kuma: ˞ki:bo:˜ŋ](此処は煙たい)。˞ナン˜ゾー　˞キーボーナー˜ヌ [˞nan˜ʤo: ˞ki:bo:na:˜nu](あまり煙たくない)。˞シンダイ　キー˜ボー　˜ナルン [˞ʃindai ki:˜bo: ˜naruŋ](次第に煙たくなる)。˜ドゥク　˞キーボー˜カー　カ˞マー˜　パリバ [˜duku ˞ki:bo: ˜ka: ka˞ma:˜ pariba](あまりに煙たかったら、向こうへ行けよ)。˞キーボー˜　トンマー　˞クー˜ナ [˞ki:bo: ˜ tomma: ˞ku:˜na](煙たい所へは来るな)。˜アイ　˞スン˜ケン　˞キーボー˜カー　˞ワー˜　カ˞マチフチェー　クーン˜　ブリバ [˜ʔai ˞suŋ˜keŋ ˞ki:bo:˜ka: ˞wa: ˜ ka˞matʃiɸu̥tʃe: ku:m˜ buriba](そんなに < それ程に > 煙たければ、君は竈口 < へっついの辺り > にうろつくな < 来るな > よ)。

˞キー˜ボーン [˞ki:˜bo:ŋ] 【形】煙たい。けぶい。キ˞ボーシ˜　フ˞チ˜マリティ　˞キーボー˜ヌ　ナ˞ラ˜ヌ [ki ˞bo:ʃi˜ ɸu̥˞tʃi˜mariti ˞ki:bo:˜nu na˞ra˜nu](煙が燻って煙たくてたまらない)。˞キーボーナー˜ヌ [˞ki:bo:na: ˜nu](煙たくない)。˜クマン　˞キー˜ボーン [˜kumaŋ ˞ki:˜bo:ŋ](ここも煙たい)。˞キー˜ボー　˜クトー　˞キー˜ボーンドゥ　˜ニジバ [˞ki:˜bo: ˜ku̥to: ˞ki:˜bo:ndu ˜niʤiba](煙たいことは煙たいが、我慢しなさい)。˞キー˜ボーカー [˞ki:˜bo:ka:](煙たいなら)。

˞キーマッ˜ふァ [˞ki:maf˞fa] 【名】木枕。「敷細　吾木枕 <〜しきたへの吾が木枕 < コマクラ > は〜>『万葉集　2630』」の義。芳香のある木を利用して枕に作ったもの。台湾産の楠木は樟脳の芳香を有し、頭痛やのぼせなどの持病に効くといって枕の材料に重用された。パ˞クマッふァ [pḁ˞kumaffa](箱形の枕)、ヤ˞キ˜ムヌマッふァ [ja˞ki˜munumaffa](陶磁器製の枕) もあった。ヤ˞キ˜ムヌマッふァ [ja˞ki ˜munumaffa](陶磁器製の枕) は涼しいといって夏季に好まれた。˞キーマッ˜ふァ　˞サン˜カー　ヌ˞ビカジ˜ヌ　˞コー˜リティ　˜ユー　ニ˞バラヌ [˞ki:maf ˜fa ˞saŋ˜ka: nu˞bikaʤi˜nu ˞ko:˜riti ˜ju: ni˞baranu](木枕をしないと首筋が凝ってよく寝ることが出来ない)。

˞キームインガー˜リ [˞ki:muiŋga:˜ri] 【名】動物の毛が生え変わること。˞イン˜ヌ　˞キーン˜　マ˞ヤ˜ヌ　˞キーン˜　ム˞インガー˜リ　˞スン [˞ʔin˜nu ˞ki:m˜ ma ˞ja˜nu ˞ki:m muiŋga:˜ri ˞suŋ](犬の毛も猫の毛も生え変わる < 生え変わりする。再生する >)。

˞キームシ [˞ki:muʃi] 【名】毛虫。毛の密生した虫。˞キームシェー˜　プ˞ス˜　ッスンダ　˞キー˜　シ˞キ˜リ˞ヨー [˞ki:muʃe:˜ pu̥˞su˜ ssunda ˞ki:˜ ʃi̥˞ki˜ri˞jo:](毛虫は人を刺すから、気をつけなさいよ)。

˞キームチ [˞ki:mutʃi] 【名】陽気な人。活発な人。賑やかな人。活力に溢れた人。活気に溢れた人。ウ˞レー　キームチ˜　ヤ˞ルンダ˜　パ˞ナ˜シン　ウ˞ムッ˜サ　˜ザームチン　˞ゾー˜ジ [ʔu˞re: ki:mutʃi˜ ja˞runda˜ pa˞na˜ʃiŋ ʔu˞musˀsa ˜ʤa:mutʃin ˞ʤo:˜ʤi](その人は陽気な人だから話も面白く、座持ち < 座に興を添えること > も上手である)。˞キームチヌプソー　サンシンヌ　ウトゥヌ˜　シゥ˞カリ˜カー　シ˞グ　トゥンタティ˜　ブ˞ドゥル　シース [˞ki:mutʃipu̥so: saŋʃinnu ʔutunu˜ si̥˞kari˜ka: ʃi˞gu tuntati˜ bu˞duru ʃi:su](活気に溢れた人は三味線の音を聞くと、すぐさま立ち上がって踊りをする)。

˞ギーム˜チ [˞gi:mu˜ʧi] 【名】芸達者。「芸持ち」の義。˜ギームチ [˜gi:mutʃi] ともいう。パ˞トゥ˜マプソー　˞ギームチ˜ヌ　˞ゴー˜ラーンダ　˞ターティナー˜ン　˞サンシンマー˜　ピ˞キス [pḁ˞tu˜ma ˜pu̥so: ˞gi:mutʃi˜ nu ˞go:˜ra:nda ˞ta:ti na:˜n ˞saŋʃimma:˜ pi̥˞kisu](鳩間島の人は芸達者が多いから、誰でも < 誰彼無しに > 三味線が弾ける)。˜ギームチナー　ヤ˞ナプソー˜　ブ˞ラーヌ [˜gi:mutʃina: ja˞napu̥so:˜ bu˞ra:nu](芸持ちに悪人はいない)。

˞ギームドゥル [˞gi:muduru] 【名】行き帰り。行き戻り。往来。˜イダフニナー　˞ニー˜バ　マ˞ジ˜ミティ　˞パイ˜ター　˞ギームドゥル　スー˜　ピン　˞ジンプーヌ˜　マ˞ラン˜カー　˜イダフニ　˜クーンティ　˞ナン˜ギ　シ˞タン˜ダー [˞ʔidaɸunina: ˞ni:˜ba ma˞ʤi ˜miti ˞pai˜ta: ˞gi:muduru su:˜ pimma: ˞ʤimpu:˜ ma˞raŋ˜ka: ˜ʔidaɸuni ˜ku:nti ˞naŋ˜gi ʃi̥˞tan˜da:](サバニに荷を積んで南端へ行き帰りする時は順風にならない < 順風が生まれない > とサバニを漕ぐのに難儀したものだよ)。˞パイ˜ターヌ　˞ギームドゥロー˜　イダフニバ　˞クイ˜ヤーティル　˞オーッタ˜ル [˞pai˜ta:nu ˞gi:muduro:˜ ʔidaɸuniba ˞kui˜ja:tiru ˞

ʔoːtta˩ru](南端＜西表島＞への往来はサバニ＜板舟＞を漕ぎながら行かれたものだ)。

キー˩ヤ˩マ [kiː˩ja˩ma] 【名】小さな木。小木。小枝。潅木。˩シンタヌ　カ˩クナー　キー˩ヤ˩マ　イ˩ビ˩バ [˩ʃintanu ka˩ku˩naː kiː˩ja˩ma ʔi˩bi˩ba](後ろの屋敷に小木を植えなさいよ)。サ˩リキーヤー˩マーンツァン　プ˩サイ˩キー　˩モーサン˩　ノーレー [sa˩rikiːjaː˩maːntsam pu̥˩sai˩kiː ˩moːsan˩noːreː](枯れた潅木でも拾ってきて燃やしなさいよ＜燃やさないか＞)。

˩-キー˩ル [˩-kiː˩ru] 【助】接続助詞連語。～ので＜ぞ＞。～から＜ぞ＞。動詞の連用形に下接して、原因、理由の強調を表す。大正生まれまでの老年層で多用される。若年層では用いない。˩ワー˩　ドゥク　イ˩ジキー˩ル　ヤ˩ラビ˩ヌ　シ˩ムチ˩　˩ヤビ　シ˩テー˩　ダー [˩waː˩ duku ʔi˩ʤikiː˩ru ja˩rabi˩nu ʃi˩mutʃi˩ jabi ʃi̥˩teː˩daː](貴方は、あまりにも酷く叱るので＜ぞ＞、子供の気持ちを損ね＜破っ＞てしまったのだよ)。プ˩スヌ˩　バイ　パ˩タラキキー˩ル　ウ˩ヤ˩キン　˩シェー˩ル　パ˩タラカン˩カー　˩モーキララ˩ヌ [pu̥˩sunu˩ bai pḁ˩tarakikiː˩ru ʔu˩ja˩kiŋ ˩ʃeː˩ru pḁ˩tarakaŋ˩kaː ˩moːkirara˩nu](他人の倍も働いたので金持ちにもなったのであって、働かなければ儲けられない)。

˩キール [˩kiːru] 【名】黄色。˩キールムチ [˩kiːrumutʃi](黄色い餅、ういきょう＜うい香＞の実で黄色の着色をした)。˩キールキン [˩kiːrukiŋ](黄色い着物)。カム˩ラー˩マ [ka˩muraː˩ma](豊年祭に出現する繁盛(ハンジョウ)の神、かむろ祇(ギ)の衣装は黄色い着物である)。カ˩ムラーマ˩ヌ　˩キン˩マー　フ˩クンヌ˩カー　シジティ　˩キンキン˩シ　ス˩ミラリ　ブー [ka˩mu˩raːma˩nu ˩kim˩maː ɸu̥˩kunnu˩kaː ˩ʃiʤiti ˩kiŋkiŋ˩ʃi su˩mirari buː](カムラーマの衣装は福木の皮を煎じて黄色く染められている)。

˩キールムチ [˩kiːrumutʃi] 【名】黄色い餅。祝儀用の餅。˩トーカキ˩ヌ　˩ヨイナー　˩キールムチン˩　ス˩ク˩ローッタン [˩toːkaki˩nu ˩joinaː ˩kiːrumutʃin˩ su̥˩ku˩roːttaŋ](米寿の祝いには黄色い餅も作られた)。

˩キールムン [˩kiːrumuŋ] 【自動】黄ばむ。黄色くなる。「黄色む」の義。キン˩キン˩シ　˩キールムン [kiŋ˩kiŋ˩ʃi ˩kiːrumuŋ](金色のように黄ばむ)。˩キナイヌ˩ム˩ター　˩ドゥー˩ヤ　˩キールミ　ベー [˩kanai nu˩mu˩taː ˩duː˩ja ˩kiːrumi beː](キニーネを飲んだので体が黄ばんでいる)。

˩キールン [˩kiːruŋ] 【自動】消える。火が消える。˩ピー˩ヤ　˩キーラヌ [˩piː˩ja ˩kiːranu](火は消えない)。キ˩サーティ　キーナー˩ヌ [ki̥˩saːti kiːnaː˩nu](既に消えてしまった)。˩キール˩　クトー　˩ナー˩ヌ [˩kiːru˩ kutoː ˩naː˩nu](消えることはない)。˩キール˩カー [˩kiːru˩kaː](消えたら)。˩キーヤー˩　ミサムヌ [˩kiːjaː˩ misamunu](消えればよいのに)。˩パー˩ク　˩キーレー˩　ミサムヌ [˩paː˩ku ˩kiːreː˩ misamunu](早く消えればいいのに)。˩キーリ [˩kiːri](消えろ。消えれ)。˩キーン˩ギサン [˩kiːŋ˩gisaŋ](消えそうだ)。ギュー˩サ˩　ミ˩ジ˩　カキ　˩ケーシタンティン　キーラヌ [gjuː˩sa˩ mi˩ʤi˩ kaki ˩keːʃitantiŋ ˩kiːranu](いくら水をかけて消しても消えない)。ミ˩ジ˩　カクカー　˩キールン˩ツォー [mi˩ʤi˩ kḁkukaː ˩kiːrun˩tsoː](水をかけたら消えるそうだ)。

˩キールンコー [˩kiːruŋkoː] 【名】カステラのような菓子。「鶏卵糕(けいらんこう)」。マ˩ナ˩マー　˩キールンコー˩　ス˩ク˩リ　˩ソー˩レー　プ˩ソー　オーラ˩ヌ [ma˩na˩maː ˩kiːruŋkoː˩ su̥˩ku˩ri ˩soː˩reː pu̥˩soː ʔoːra˩nu](今は、キールンコー菓子を作れる人は居られない)。

˩ギーンゴー˩ン [˩giːŋgoːŋ] 【形】強情である。我が強い。老年層のことば。˩ギーゴー˩ン [˩giːgoː˩ŋ](強情である)と同じ。ウ˩レー　サッ˩コー　˩ギーンゴーン˩ダー [ʔu˩reː sak˩koː ˩giːŋgoːn˩daː](彼は非常に強情だよ)。˩アイニ　˩ギーンゴー˩　プ˩ソー˩　ブ˩ラーヌ [˩ʔaini ˩giːŋgoː˩ pu̥˩soː˩ bu˩raːnu](あんなに強情な人はいない)。˩ナン˩ゾー　˩ギーンゴー　ナー˩ヌ [˩nan˩ʤoː ˩giːŋgoː naː˩nu](あまり強情ではない)。˩シンダイ　ギーン˩ゴー　˩ナリ　˩ナー˩ヌ [˩ʃindai giːŋgoː˩ nari ˩naː˩nu](次第に意地っ張り＜強情＞になってしまった)。˩アイニ　˩ギーンゴー˩カー　サ˩ケー˩　ヌ˩マサラ˩ヌ [˩ʔaini ˩giːŋgoː˩kaː sḁ˩keː˩ nu˩masara˩nu](あんなに強情で我が強かったら酒は飲まされない)。

˩キーン˩マ [˩kiːʔm˩ma] 【名】木製のそり(橇)。材木や米俵などの重いものを積んで牛や馬に曳かせて運ぶ道具。˩キーン˩マナ　˩マイダーラ˩　シ˩ミテイ˩　ク˩バシ˩ターラ　˩クーラミナトー˩　ウ˩シンサンガシ˩　ウ˩ラシ˩タ [˩kiːʔm˩mana ˩maidaːra˩ ʃi˩miti˩ ku˩baʃi̥˩taːra ˩kuːraminatoː˩ ʔu˩ʃin saŋgaʃi˩ ʔu˩raʃi̥˩ta](木橇に米俵を積んでクバシタから久浦港まで牛に曳かせて下ろした)。

˩キガ [˩kiga] 【名】怪我。若年層の言葉。老年層は˩ドゥーヤマ˩シ [˩duːjama˩ʃi](怪我。＜胴病まし＞)という。イ˩フナ˩　ア˩サビバ　シーベー˩ティ　˩キガ　˩スントダー＜˩ドゥ　ヤ˩マ˩スン˩ダー＞[ʔi˩ɸuna

˥ ʔaˈsabiba ʃiːbeː˥ti ˥kiga ˈsun˧daː <˥du jaˈma˥sunˈ daː>](妙な遊びをしていて、怪我をするぞ)。ˈウイ˥プソー　クˈルブ˥カー　˥キガ　ˈソーリ˥スバミスˈコーミスコー˥シ　アˈラ˥コーリ [ˈʔui˥pu̥soː kuˈrubu˥kaː ˥kiga ˈsoːri˥suba misu̥ˈkoːmisu̥koː˥ʃi ʔaˈra˥koːri](老人は転んだら怪我をされるから、注意深く慎重に歩いてください < お歩きなされまし >)。

˥キカイ [˥ki̥kai] 【名】器械。器具。機械。断髪器具。バリカン。ガˈマ˥ジ　ˈフッツァシ˥　キカイ　カˈリ˥キー　ガˈマ˥ジ　ˈフッツァ˥シバ [gaˈma˥ʤi ˈɸuttsaʃi˥ ki̥kai kaˈri˥ki: gaˈma˥ʤi ˈɸuttsa˥ʃiba](髪を刈る < 詰める > 器械を借りてきて髪を刈りなさい)。

キˈガイ [kiˈgai] 【名】根性。意気地。意地。標準語の「気概」の転訛。ウˈレー　ピッ˥チン　キˈガイヌ　ナー˥ヌ [ʔuˈreː pit˥ʧiŋ kiˈgainu naː˥nu](彼は少しもやる気 < 遣る気。気概。気骨 > がない)。イˈカナ˥　ムˈチ˥カサール　シˈグトゥ˥　ヤˈラバン　シー˥ミラティ　ˈスー˥　キˈガイヌ˥サーギ　˥アルカー　シˈララン˥クトー　ˈナー˥ヌ [ʔi˥kana˥ muˈʧi˥kasaːru ʃiˈgutu˥ jaˈrabaŋ ʃiː˥mirati ˈsuː˥ kiˈgainu˥saːgi ˥ʔarukaː ʃiˈraraŋ˥ku̥toː ˈnaː˥nu](如何に難しい仕事であっても、やってみようという根性がさえあれば出来ないことはない)。

キˈガイ [kiˈgai] 【名】着替え。「着替え」の転訛したもの。老年層は、ˈカイキシキン [ˈkaiki̥ʃikiŋ](替え着。着替えの着物) ともいう。˥アミナー　ˈゾッふィティ˥　キˈガイ˥　トゥミキー　キˈスンティ　ベー [˥ʔaminaːˈʤoffiti˥ kiˈgai˥ tumikiː ki̥ˈsunti beː](雨に濡れて着替えを探して着ようとしている)。

キˈカイ˥シン [ki̥ˈkai˥ʃiŋ] 【名】発動汽船。「機械船」の義。焼玉エンジン搭載の船。一気筒と二気筒の焼玉エンジンを搭載した漁船があった。ˈプーシン [ˈpuːʃiŋ](帆船) の対義語。ˈタイショーヌ˥　ジˈダイ˥　ナリテーラル　カˈツシンマー˥　キˈカイ˥シン　ナレーˈダー [ˈtaiʃoːnu˥ ʤiˈdai˥ nariteːraru kḁˈtsuʃimmaː˥ ki̥ˈkai˥ʃin nareːˈdaː](大正の時代になってから、カツオ漁船は機械船になったのだよ)。鳩間島で発動汽船による鰹釣漁が開始されたのは大正に入ってからである。焼玉式一気筒エンジンを搭載していたが、昭和 18 年頃には二気筒エンジンが導入されていた。これをダーブルと言っていた。ˈベー˥ヌ　˥アチャター　バˈカー˥ロータケン　ˈダーブルバ　サーソー˥リティ　カˈツシン　ソーッ˥タティˈダー [ˈbeː˥nu ˥ʔatʃataː baˈkaː˥roːttaken ˈdaːburuba saːsoː˥riti kaˈtsuʃin soːt˥tatiˈdaː](我が家のお父さん達が若かった時、二気筒式エンジン < ダブルシリンダーエンジン > を搭載した船を新造して鰹漁業をされたそうだよ)。

キˈガ˥ニン [kiˈga˥niŋ] 【名】怪我人。負傷者。「怪我人」の転訛。老年層は、ˈドゥーヤマシ˥プス [ˈduːjamaʃi ˥pu̥su](怪我人 < 胴病まし人 >) という。ˈダイダマ˥ヌ　ˈパス˥クリティ　キˈガニン˥ヌ　˥ンジェーンティバンˈナー [ˈdaidama˥nu ˈpasu̥˥kuriti kiˈganin˥nu ˥ʔnʤeːn tibanˈnaː](ダイナマイトが爆発して怪我人が出たそうだねえ)。

キˈガラスン [kiˈgarasuŋ] 【他動】けがす (汚す)。よごす。名誉、名声を傷つける。˥アイブ　クˈトゥ˥バ　ˈシー˥　ウˈヤ˥ヌ　ˈナーバ˥　キˈガラシ˥　イˈナムヌ˥ダラ [˥ʔaibu ku̥ˈtu˥ba ˈʃiː˥ ʔuˈja˥nu ˈnaːba˥ kiˈgaraʃi˥ ʔiˈnamunu˥dara](あんな事をして、親の名を汚して残念でならないよ)。

キˈガリムヌ [kiˈgarimunu] 【名】成仏しない死霊。妖怪。もののけ (物の怪)。「穢れ者」の義。ヤˈナシニ　シェー˥ティル　キˈガリムヌ˥　ナリ　ˈアー˥クティˈダー [jaˈnaʃini ʃeː˥tiru kiˈgarimunu˥ nari ˈʔaː˥kutiˈdaː](変死したので成仏できずに死霊怨霊になっているそうだよ)。

キˈガリルン [kiˈgariruŋ] 【自動】子供に強く責めたてられる。他人から責めたてられる。他動詞キˈグン [kiˈguŋ](責めたてる) の未然形にリルン [ˈ-riruŋ](～られる) が下接して形成された受身動詞。ヤˈラビ˥ヌ　ˈフンダイ　スー˥　ピンマー　ˈコー˥シ　ッˈふァーシ˥ティ　ˈシー˥　キˈガリルン˧ダー [jaˈrabi˥nu ˈɸundai suː˥ pimmaː ˈkoː˥ʃi fˈfaːʃi˥ti ˈʃiː˥ kiˈgarin˧daː](子供が拗ねてわがまま (我儘、放題) する時は、お菓子を呉れといって責めたてられるよ)。

キˈガリン [kiˈgariŋ] 【自動】子供に強く責めたてられる。他動詞キˈグン [kiˈguŋ](責めたてる) の未然形に、受身・可能の助動詞ˈ-リン [ˈ-riŋ](れる) 下接して形成された、受身・可能動詞。クˈヌ˥　ッˈふァン˥　キˈガリン [kuˈnu˥ fˈfaŋ˥ kiˈgariŋ](この子に責めたてられる)。

キˈガルン [kiˈgaruŋ] 【自動】穢れる。汚れる。˥アイブ　˥クトゥ　ˈスー˥カー　ˈドゥー˥ヌ　ˈナーン˥　キˈガルン˥ダー [˥ʔaibu ˥ku̥tu ˈsuː˥kaː ˈduː˥nu ˈnaːŋ˥ kiˈgarun˥daː](あんな事をすると、自分の名前も汚れるぞ)。キˈガラヌ [kiˈgaranu](汚れない)。キˈガリナー˥ヌ [kiˈgarinaː˥nu](汚れてしまった)。キˈガリル˥　クトー　ˈナー˥ヌ [kiˈgariru˥ ku̥toː ˈnaː˥nu](汚れ

ることはない)。キ˩ガレー˥　ナ˩ラ˥ヌ [ki˩gare:˥ na˩ra˥nu](汚れてはならない)。キ˩ガリリ [ki˩gariri](汚れろ＜れ＞)。

キ˩カン˥チョー [kḭ˩kan˥ʧo:] 【名】機関長。標準語からの借用語。カツオ漁業の発動汽船が導入された時に借用された語であろう。一気筒の焼玉エンジンや二気筒の焼玉エンジンの操作担当者。キ˩カンチョー˥ヌ　˩キン˥マー　˥アバゴーダー　˩シーブタ [kḭ˩kanʧo:˥nu ˩kim˥ma: ˥ʔabago:da: ˩ʃi:buta](機関長の着物はエンジンオイルがべとついていた)。

キ˩キョーザラ [kḭ˩kjo:ʤara] 【名】蓋付きの漆器製壷皿 (小さく深い食器)。˩ドーング˥ブン [˩do:ŋgu˥buŋ](仏前に供える一式の膳に使用される。石垣方言よりの借用語。「霊供盆」の転訛か)。ア˩ロー˥ル　˩ヤー˥ヌ　ウ˩ブソッコー˥ヤ　イ˩サナキプスヌ˥　カタチニ　˩ドーング˥ブンナー　キ˩キョーザラバ˥　シゥ˩カイヨーッ˥タ [ʔa˩ro:˥ru ˩ja:˥nu ʔu˩bu-sokko:˥ja ʔi˩sanakipusunu˥ kạtatʃini ˩do:ŋgu˥bunna: kḭ˩kjo:ʤaraba˥ sḭ˩kaijo:t˥ta](裕福な家の年忌焼香＜十三回忌以上の法事＞には、石垣島の人のようにキキョーザラ＜桔梗皿＞を˩ドーング˥ブン [˩do:ŋgu˥buŋ]＜霊供盆＞に使われた)。

キ˩ギン [ki˩giŋ] 【名】機嫌。˥アブジェー　˩キュー˥ヤ　キ˩ギンマー˥　ミサー　ア˩ロー˥ルンカヤー [˥ʔabuʤe: ˩kju:˥ja ki˩gimma:˥ misa: ʔa˩ro:˥ruŋka-ja:](お祖父さんは今日はご機嫌如何でしょうか＜機嫌は良くあられますでしょうか＞)。キ˩ギンヌ　ワッ˥サカー　パ˩ナス˥ナ [ki˩ginnu was˥saka: pa ˩nasu˥na](機嫌が悪ければ話すな)。˥アブジェー　キ˩ギンヌ　ワッ˥サカー　˥ウキピントー　˩ソーラ˥ヌ [˥ʔabuʤe: ki˩ginnu was˥saka: ˥ʔukipinto: ˩so:ra˥nu](お祖父さんは機嫌が悪いと返事＜受け答え＞をされない)。

˥キク [˥kḭku] 【名】 (植)。菊。キク科キク属の多年草。キ˩ク˥ヌ　˥パナ　パ˩ナ˥イキナ　˥イキティ　カ˩ザリ˥バ [kḭ˩ku˥nu ˥pana pa˩na˥ʔikina ˥ʔikiti ka˩ʤari ˥ba](菊の花を花瓶＜花活け＞に生けて飾りなさいよ)。

キ˩クザ˥キ [kḭ˩kuʤa˥ki] 【名】菊酒。重陽の日 (旧暦九月九日) に盃に菊の葉を浮けて健康を祈願し、祝って飲む酒。˩クンガ˥チ　˥クニチェー　キ˩ク˥ヌ　˩パーバ˥　サ˩カシキ˥ナ　イ˩リティ˥　キ˩ク˥ザキ˥　ヌ˩モーッ˥タ [˩kuŋga˥ʧi ˥kunitʃe: kḭ˩ku˥nu ˩pa:ba˥ sa˩kaʃiki˥na ʔi˩riti˥ ki˩ku˥zaki nu˩mo:t˥ta](九月九日は、菊の葉を盃に入れて菊酒を飲まれた)。

キ˩クッ˥ツァーン [kḭ˩kut˥tsa:ŋ] 【形】暑苦しい。息苦しい。蒸し暑い。キ˩クッツァー˥ヌ　˩ヤー˥ヌナカナー　˩ベーララ˥ヌ [kḭ˩kuttsa:˥nu ˩ja:˥nu ˥nakana: ˩be:rara˥nu](暑苦しくて家の中には居れない)。˩ナン˥ゾー　キ˩クッツァーナー˥ヌ [˩nan˥ʤo: kḭ˩kuttsa: na:˥nu](それほど暑苦しくない)。ティ˩ダ˥ヌ　プ˩スマ˥　ナル˩アーシ　シンダイ˥　キ˩クッ˥ツァー　˥ナルン [ti˩da˥nu pṵ˩suma˥ naru˩ʔa:ʃi ʃindai˥ kḭ˩kut˥tsa: naruŋ](太陽が真昼になるにつれて次第に暑苦しくなる)。˥クマー　イッ˩ケナ˥　キ˩クッ˥ツァーン [˥kuma: ʔik˩kena˥ kḭ˩kut˥tsa:ŋ](ここは非常に暑苦しい)。キ˩クッ˥ツァー　˥ピンマー　˥カイナカー　˩ペー˥リ [kḭ˩kut˥tsa: ˥pimma: ˥kainaka: ˩pe:˥ri](暑苦しい時は木陰に入れ)。キ˩クッ˥ツァーカー　ミ˩ジ˥　ヌミバ [kḭ˩kut˥tsa:ka: mi˩ʤi˥ numiba](暑苦しかったら水を飲めよ)。˥カイブ　˥アッツァ　˥ピンナー　˩アーシキン˥バ　キ˩ササリティ˥　キ˩クッツァー˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [˥kaibu ˥ʔattsa ˥pinna: ˩ʔa:ʃikim˥ba kḭ˩sasariti˥ kḭ˩kuttsa:˥nu na˩ra˥nu](こんなに暑い日に袷の着物を着せられて暑く、息苦しくて堪らない)。キ˩クッツァー　ナー˥ヌ [kḭ˩kuttsa: na:˥nu](暑苦しくない)。キ˩クッ˥ツァー　˥プソー [kḭ˩kut˥tsa: ˥pṵso:](暑苦しい時は)。˥アイニ　キ˩クッ˥ツァーレーラ　˥ウナー　ブ˩ララヌ [˥ʔaini kḭ˩kut˥tsa:re:ra ˥ʔuna: bu˩raranu](あんなに暑苦しければ、そこには居れない)。

キ˩グン [ki˩guŋ] 【他動】責めたてる。子供が親を責めたてる。駄々を捏ねる。「希求(呉音)」の転訛か。キ˩ヌン [ki˩nuŋ](責めたてる) ともいう。ヤ˩ナナラーシ˥　サ˩レー˥　ッ˩ふァー˥　プ˩ス˥　キ˩グン [ja˩nanara:ʃi˥ sa˩re:˥ f˩fa:˥ pṵ˩su˥ ki˩guŋ](悪い躾をされた子は駄々を捏ねて他人を責めたてる)。˩ナン˥ゾー　プ˩ス˥　キ˩ガヌ [˩nan˥ʤo: pṵ˩su˥ ki˩ganu](あまり駄々を捏ねて責めたてない)。˥アイニ　プ˩ス˥　キ˩グ˥　ッ˩ふァー˥　ブ˩ラーヌ [˥ʔaini pṵ˩su˥ ki˩gu˥ f˩fa:˥ bu˩ra:nu](あんなに駄々を捏ねて他人を責めたてる子はいない)。幼児が親を責め立てる。幼児が駄々を捏ねて母親に無理な要求をする。˩コーシ˥ルッ˩ふー˥ティ　キ˩ガリ˥　ナ˩ラ˥ヌ [˩ko:ʃi˥ru f˩fu:˥ti ki˩gari˥ na˩ra˥nu](菓子を食べるんだと駄々を捏ね、責め立てられて困る)。ブ˩ネーバ˥　キ˩ギベー [bu ˩ne:ba˥ ki˩gibe:](母親を責め立てている)。˩サッ˥コー　キ˩グン˥ダ˩レー [˩sak˥ko: ki˩gun˥da˩re:](ひどく責め立てるんだよ)。˥ウヤ　キ˩グ˥　ッ˩ふァ [˥ʔuja ki˩gu˥ f˩fa](親を責め立てる子)。˥ウヤ　キ˩ゲー˥ラ

˞デー˥ジ [˥ʔuja ki˞geː˥ra ˞deː˥ʤi](親を責め立てたら大変だ)。˞パー˥ク　キ˞ギ˥バ [˞paː˥ku ki˞gi˥ba](早く責め立てなさいよ)。

˥キサ [˥kᵢ̥sa]【名】先刻。さっき。最前。以前。˥キサーラ　シ˞キベーン˥ドゥ　˞ワー˥　ユ˞ヌパナシバ˥ル　˞シーブー [˥kᵢ̥saːra ʃᵢ̥˞kibeːn˥du ˞waː˥ juˢnupanaʃiba˥ru ˞ʃiːbuː](先刻より聞いているが、君は同じ話を＜ぞ＞話している＜している＞)。キ˞サ˥ヌ　パ˞ナ˥シェー　˥アイヤー　ア˞ラン˥シェンワー˞ヌー [kᵢ̥˞sa˥nu pa˞na˥ʃeː ˥ʔaija: ʔa˞raŋ˥ʃeŋwaː˞nuː](さっきの話は、そうではなかったのではないか)。キ˞サ˥トゥ　マ˞ナ˥マー [kᵢ̥˞sa˥tu ma˞na˥maː](最前と今では)。

キ˞サ [kᵢ̥˞sa]【副】既に。さっき。とっくに。強調すると、キッ˞サ [kis˞sa](既に) ともいう。˞ワー˥　タ˞ナム˥タ　シ˞グトー˥　キ˞サ˥　トゥ˞ズ˥メーン [˞waː˥ ta˞namu˥ta ʃi˞guto:˥ kᵢ̥˞sa˥ tu˞ʤu˥meːŋ](君が頼んだ仕事は既に済ませ＜完了し＞た)。

˥キザ [˥kiʤa]【名】ひづめ (蹄)。「けづめ (蹴爪)」の転訛したものか。ウ˞シェー˥　キ˞ザ˥ヌ　˞ヨー˥カー　パ˞タラキユーサヌ [ʔu˞ʃeː˥ ki˞ʤa˥nu ˞joː˥kaː pḁ˞tarakijuːsanu](牛は蹄(ヒヅメ)が弱いと働くことができない)。

˥ギサー [˥gisaː]【名】平民男子の名。「儀佐」と表記されることが多い。古典民謡「鳩間節」の原歌「鳩間中岡」には、鳩間家のギ˞サ˥マシュ [gi˞sa˥maʃu](儀佐真主) が作詞作曲したという伝承がある。˥ギサー　˞パイ˥ター　ア˞ロー˥ナ　˞シン　パッ˥タ [˥gisaː ˞pai˥taː ʔa˞roː˥na ˞ʃim pat˥ta](儀佐は西表北島岸＜南端＞へ田圃を耕し＜アローナー。荒こなし＞に行った)。

キ˞ザーサリン [ki˞ʤaːsariŋ]【他動】掻き乱される。掻き混ぜられる。撹乱される。キ˞ザースン [ki˞ʤaːsuŋ](掻き乱す) の未然形に、受身・可能の助動詞˞-リン [˞-riŋ](～れる) が下接して形成された受身・可能の派生動詞。˞ター˥ヌ　˞マイヤー˥　カマイン　キ˞ザーサリティ　ユー˥ゾー　˞ナー˥ヌ [˞taː˥nu ˞maijaː˥ kamaiŋ ki˞ʤaːsariti juː˥ʤoː ˞naː˥nu](田圃の稲は猪に撹乱されて台無しになってしまった＜養生はなくなった＞)。

キ˞ザーシ [ki˞ʤaːʃi]【名】眉間やこめかみ等を、炎で炙って消毒した剃刀やガラス瓶の鋭利な破片で浅く傷つけて血を抜くこと。そのような民間療法。ガ˞マジ˥ヌ　˥ヤム　˥ピンマー　フ˞タイ˥　キ˞ザーシ　シーソーッ˥タ [ga˞maʤi˥nu ˥jamu ˥pimmaː ɸu̥˞tai˥ ki˞ʤaːʃi ˞ʃiːsoːt˥ta](頭痛がする時は、剃刀で額に軽く傷をつけて血を抜く療法を施された)。

キ˞ザーシムヌ [ki˞ʤaːʃimunu]【名】悪化＜化膿＞させるもの。蹴散らすもの。かき乱すもの。撹乱するもの。ク˞ヌ˥　イ˞ゾー˥　キ˞ジ˥　キ˞ザーシムヌ˥　ヤ˞リバ˥　ッ˞ふァースナ [ku˞nu˥ ʔi˞ʤoː˥ ki˞ʤi˥ ki˞ʤaːʃimunu˥ ja˞riba˥ f˞faːsuna](この魚は傷を悪化＜化膿＞させるものだから、食べさせるな)。

キ˞ザースン [ki˞ʤaːsuŋ]【他動】掻き乱す。引っ掻き回す。掻き混ぜる。撹乱する。マ˞ナ˥マ　˞ムン˥ドー　ウ˞ク˥スカー　˞ヤー˥キナイ　キ˞ザースン˥ダー [ma˞na˥ma ˞mun˥doː ʔu˞ku˥suka: ˞jaː˥kinai ki˞ʤaːsun˥daː](今、喧嘩＜問答＞を起すと家庭を掻き乱すよ)。カ˞マイ˥ヌ　パ˞タ˥キ　キ˞ザース˥　カタチニ　キ˞ザーシ˥　シケーバン [ka˞maiˢnu pḁ˞ta˥ki ki˞ʤaːsu˥ kḁtatʃini ki˞ʤaːʃi˥ ʃᵢ̥keːbaŋ](猪が畑を撹乱するように掻き乱してあるわい)。˥アイニ　プ˞スヌ˥　ン˞ニウチ˥　キ˞ザーサン˥　ブ˞リ˥バ [˥ʔaini pu̥˞sunu˥ ʔn˞niʔutʃi˥ ki˞ʤaːsam˥ bu˞ri˥ba](そんなに他人の胸中を掻き乱すな＜掻き乱さずに居れ＞よ)。˞マー˥ビン　キ˞ザーシェー˥　ミサムヌ [˞maː˥biŋ ki˞ʤaːʃeː˥ misamunu](もっと掻き乱せばいいのに)。キ˞ザーシ˥バ [ki˞ʤaːʃi˥ba](掻き乱せよ)。

キサー˞ティ [kᵢ̥saː˞ti]【副】とっくに。既に。˥バー　˥パルンケンマー　カ˞レー˥　キサー˞ティ˥　ンジパリ　˞ナーン˥シェン [˥baː ˥paruŋkemmaː ka˞reː˥ kᵢ̥saː˞ti˥ ʔnʤipari ˞naːŋ˥ʃeŋ](私が行った時には＜行くと＞彼は既に出て行ってしまっていた)。

キ˞ザ˥ク [ki˞ʤa˥ku]【名】(動) フネガイ科の貝。シレナシジミ。和名、アカガイ。殻長約 12 センチ。よく膨らんだ、やや扇形の丸い殻。西表島の船浦辺りの川口の泥地やヒルギの気根の下りる泥地に棲息していた。殻は祭祀に用いる˞トゥイ˥ミョー [˞tuiˢmjoː](灯明) のタ˞ニ˥ユー [ta˞niˢjuː](菜種油) を入れる容器として用いられる。戦前までは御玉杓子 (ォタマジャクシ) に利用されていた。貝そのものは、昔はよく食したようだが、戦後はあまり食用に供されなかったようである。キ˞ザク˥ヌ　ガ˞ラ˥シ　˞トゥイ˥ミュー　ス˞ク˥リ、˞スーガイ˥ユン　ウ˞リ˥シル　ス˞ク˥ローッタ [ki˞ʤaku˥nu ga˞ra˥ʃi ˞tui˥ mjuː sᵤ̥˞ku˥ri、˞suːgai˥juŋ ʔu˞ri˥ʃiru sᵤ̥˞ku˥roːtta](キザク貝の殻で灯明を作り、玉杓子もそれで造られた)。

キ˞ザ˥ク [ki˞ʤa˥ku]【名】しんちゅう (真鍮)。石垣方言からの借用語か。˞バン˥テナー　キ˞ザク˥ヌ　パ˞ナイキ˥ヌ　˞アッ˥タンティ˞ダー [˞ban˥tenaː ki˞ʤaku˥

nu pa˞naiki˞nu ˞ʔat˞tanti˞da:](私の家に真鍮製の花活けがあったそうだよ)。

キ˞サ˞スン [ki˞sa˞suŋ] 【他動】来させる。寄越す。˞バー ˞カール˞ ッ˞ふァ˞ キ˞サ˞スンティ ウ˞ムー˞ヌ キ˞サ˞シ ˞ミサンカヤー [˞ba: ˞ka:ru˞ f˞fa˞ ki̥˞sa ˞sunti ʔu˞mu:˞nu ki̥˞sa˞ʃi ˞misaŋkaja:](私の代わりに子供を来させよう＜寄越そう＞と思うが、来させ＜寄越し＞て良いだろうか)。

キ˞サ˞スン [ki̥˞sa˞suŋ] 【他動】1切らせる。切断させる。ク˞ヌ˞ キー キ˞サ˞スンティ ウ˞ムーン˞ドゥ ユ˞リー˞ヌ ˞ナーン˞カー キ˞ササラ˞ヌ [ku˞nu˞ ki: ki̥˞sa˞sunti ʔu˞mu:n˞du ju˞ri:˞nu ˞na:ŋ˞ka: ki˞sasara˞nu](この木を切らせようと思うが、許可がないと切らせられない)。キ˞ササ˞ヌ [ki̥˞sasa˞nu](切らせない)。キ˞サ˞シ ˞ミサカー キ˞サ˞ス ˞クトー ˞ナルン [ki̥˞sa˞ʃi ˞misaka: ki̥˞sa˞su ˞kʉto: ˞naruŋ](切らせて良ければ切らせることは出来る)。˞パー˞ク キ˞サ˞シェー ˞ミサムヌ [˞pa:˞ku ki̥˞sa˞ʃe: ˞misamunu](早く切らせば良いのに)。ク˞レー˞ ヤー˞ディン˞ キ˞サ˞シ [ku˞re:˞ ja:˞diŋ˞ ki̥˞sa˞ʃi](これは必ず切らせろ)。絶やせる。売り切れてしまう。プ˞ス˞ タ˞ナ˞ミティ ˞キーヌ˞ ユダ キ˞サ˞スン [pʉ˞su˞ ta˞na˞miti ˞ki:nu˞ juda ki˞sa˞suŋ](他人に頼んで木の枝を切らせる。枝打ちさせる)。キ˞サシ˞ プサン [ki̥˞saʃi˞ pʉsaŋ](切らせたい)。キ˞サ˞ス ˞ピン [ki̥˞sa˞su ˞piŋ](切らせる時)。2酢が十分に醗酵して酸味が強くなるように熟成させる。ア˞マザキ˞ カミナ ニ˞バシティ˞ キ˞サ˞スン [ʔa˞madʑaki˞ kamina ni˞baʃi̥ti˞ ki̥˞sa˞suŋ](酢を甕に寝かして十分に醗酵、熟成＜酸味を強くする＞させる)。

キ˞サスン [ki̥˞sasuŋ]【他動】着せる。着させる。ッ˞ふァン˞ キン キ˞サスン [f˞faŋ˞ kiŋ ki̥˞sasuŋ](子供に着物を着せる)。マ˞ナ˞マー キ˞ササヌ [ma˞na˞ma: ki̥˞sasanu](今は着せない)。˞キン キ˞サシ˞ ミサカー キ˞サス˞ クトー ナルン˞ダー [˞kiŋ ki̥˞saʃi˞ misaka: ki̥˞sasu˞ kʉto: narun˞da:](着物を着せてよければ着させることは出来るよ)。˞パー˞ク キ˞サシェー˞ ミサムヌ [˞pa:˞ku ki̥˞saʃe:˞ misamunu](早く着せれば良いのに)。˞パー˞ク キ˞サシ [˞pa:˞ku ki̥˞saʃi](早く着せろ)。キ˞サシティ [ki̥˞saʃiti](着せて)。キ˞サス˞ プ˞ソー˞ ブ˞ラーヌ [ki̥˞sasu˞ pʉ˞so:˞ bu˞ra:nu](着させる人はいない)。˞キン プ˞スッ˞クベー キ˞サセー˞ ミサムヌ [˞kim pʉ˞suk˞kube: ki̥˞saʃe:˞ misamunu](着物一着は着せればよいのに)。

キ˞サ˞スン [ki̥˞sa˞suŋ] 【他動】酢をつくる。酢を熟成させる。酒や豆腐はマ˞ラスン [ma˞rasuŋ](生ませる) という。˞ウン˞ヌ ˞ネーシジル˞ナー ˞パイルヌ˞ ッふァ イ˞リティ パイル˞ キ˞サ˞シティ シゥ˞カイヨーッ˞タ [˞ʔun˞nu ˞ne:ʃidʑiru˞na: ˞pairunu˞ ffa ʔi˞riti pairu˞ ki˞sa˞ʃi̥ti si̥˞kaijo:t˞ta](芋の煮汁に酢のたね＜酢の子。酢の種＞を入れて、酢を熟成させて＜切らせて＞使われた)。

キ˞ザ˞パン [ki˞dʑa˞paŋ] 【名】はだし (裸足)。すあし (素足)。泥のついたままの足 (土足)。「げざ (下坐)・はぎ (脛)」の転訛したものか。足を卑しめた語。キ˞ザ˞パンサーリ ˞ヤーン˞ナカー ˞ペール˞ナ [ki˞dʑa˞pansa:ri ˞ja:n˞naka: ˞pe:ru˞na](土足で家の中に入るな)。キ˞ザ˞パンシ ˞ヤーン˞ ナカー ˞ペール˞ナ [ki˞dʑa˞paŋʃi ˞ja:n˞ naka: ˞pe:ru˞na](裸足で家の中に入るな)。キ˞ザパン˞バ プ˞スヌ˞ マイ ˞ナーリ˞ ヌーヤ ウ˞レー [ki˞dʑapam˞ba pʉ˞sunu˞ mai ˞na:ri˞ nu:ja ʔu˞re:](汚れた足を人様の前に出して、何だこれは＜失礼だぞ＞)。ウ˞ヌ˞ キ˞ザパン˞マー ス˞ナカ˞ナー ˞ギー˞ ア˞ライ˞ クー [ʔu˞nu˞ ki˞dʑapam˞ma: su˞naka˞na: ˞gi:˞ ʔa˞rai˞ku:](この泥だらけの汚れた脚は海に行って洗ってこいよ)。

キ˞ザミイツァ [ki˞dʑami?itsa] 【名】刻み板。葉煙草を刻む際に下に敷く台板。キ˞ザミイツァー˞ シ˞キティ˞ タ˞バ˞コー ク˞マークマー˞シ ウ˞ラ˞シバ [ki˞dʑami?itsa˞ ʃi̥˞kiti˞ ta˞ba˞ko: ku˞ma:kuma:˞ʃi ʔu˞ra˞ʃiba](刻み板を敷いて煙草は細かく刻み＜下ろし＞なさいよ)。

キ˞ザミクブ [ki˞dʑamikubu] 【名】刻んだ昆布。刻み昆布。キ˞ザミクブトゥ˞ カ˞マブクヌ˞ イ˞ラキ˞ムノー イッ˞ケン˞ ン˞マー˞ン [ki˞dʑamikubutu˞ ka˞mabukunu˞ ʔi˞raki˞muno: ʔik˞kem˞ ʔm˞ma:˞ŋ](刻み昆布と蒲鉾の炒め物は非常に美味しい)。

キ˞ザミタバク [ki˞dʑamitabaku] 【名】刻み煙草。乾燥した˞パータバク [˞pa:tabaku](葉煙草) の葉柄と葉の中心の葉脈を取り除いた部分を何枚か重ねて包丁で細かくおろしたもの。これをキ˞シ˞ル [ki̥˞ʃi˞ru](煙管) のス˞ブ˞ル [su˞bu˞ru](頭) に詰め、タ˞バク˞ブン [ta˞baku˞buŋ](煙草盆) のウ˞キル [ʔu˞kiru](熾火) に当て、着火して煙草をすった。戦後十数年ほどまでキザミタバクを紙袋に詰めて販売していたが現在ではほとんど見られない。˞キサー シ˞マ˞ナテー ムー˞ル˞ キ˞ザミタバクバル˞ フキ ˞オーッタ˞ヌ マ˞ナ˞マー ミ˞ララ˞ヌ [˞ki̥sa: ʃi˞ma˞nate: mu:˞ru˞ ki˞dʑamitabakubaru˞ ɸʉki ˞ʔo:tta˞nu ma˞na˞ma: mi˞rara˞nu](以前は、島では皆刻み煙草を吸っ

て＜吹いて＞おられたが、今では見られない)。˞パータバク [˞paːtabaku](葉煙草) を細かく刻んで下ろした煙草。キ˞シ˜ル [ki˞ʃi˜ru](煙管) に詰めて吸ったが最近ではほとんど見られない。˜キサー　キ˞ザミタバクバ˜　プゾーナ　イ˞レー˜ティ　フ˞コーッタン˜ドゥ　ク˞ヌ˜グロー　ミ˞ララン˜サ˞ナー [˞kᵢsaː ki˞ʤamitabakuba˜ puʤoːna ʔi˞reː˜ti ɸᵤ˞koːttan ˜du ku˞nu˜guroː mi˞raran˜sa˞naː](以前は刻み煙草を煙草入れ＜宝蔵＞に入れて持参して吸っておられたが、このごろでは見られないねえ)。

キ˞ザミポーツァー [ki˞ʤamipoːtsaː] 【名】刻み包丁。葉タバコを刻む包丁。キ˞ザミポーツァー˜シ　˞パータバク˜　ウ˞ラ˜スンティ　˞ベー˜ダー [ki˞ʤamipoːtsaː˜ʃi ˞paːtabaku˜ ʔu˞ra˜sunti ˞beː˜daː](刻み包丁で葉タバコを下ろそう＜細かく刻もう＞としている)。

キ˞ザミルン [ki˞ʤamiruŋ] 【他動】刻む。細かく切る。ク˞マークマー˜シ　キ˞ザミルンティ　スンドゥ˜　キ˞ザミララン˜サー [ku˞maːkumaː˜ʃi ki˞ʤamirunti sundu˜ ki˞ʤamiraran˜saː](細かく刻もうとするが刻まれない)。ク˞ヌ˜　カ˞タ˜ナシェー　キ˞ザミル˜　クトー　ナ˞ラ˜ヌ [ku˞nu˜ kᵩ˞ta˜naʃeː ki˞ʤami˜ru ˜kᵩto: na˞ra˜nu](この包丁＜刀＞では刻むことは出来ない)。ク˞リ˜シ　キ˞ザミレー˜　ミサムヌ [ku˞ri ˜ʃi ki˞ʤamireː˜ misamunu](これで刻めば良いのに)。˞パー˜ク　キ˞ザミリ [˞paː˜ku ki˞ʤamiri](早く刻めよ)。

キ˞ザムン [ki˞ʤamuŋ] 【他動】刻む。細かく切る。クマー˞クマー˜シ　キ˞ザムン [kuma:˞kuma:˜ʃi ki˞ʤamuŋ](非常に細かく刻む)。キ˞ザマヌ [ki˞ʤamanu](刻まない)。キ˞ザミ˜　プサン [ki˞ʤami˜ pᵤsaŋ](刻みたい)。キ˞ザム˜　クトー　ナ˞ラ˜ヌ [ki˞ʤamu˜ kᵤto: na˞ra˜nu](刻むことは出来ない)。キ˞ザメー˜　ミサムヌ [ki˞ʤameː˜ misamunu](刻めばよいのに)。バカー˞バカー˜シ　キ˞ザミ [baka:˞baka:˜ʃi ki˞ʤami](細く刻め)。

キ˞ザリグスク [ki˞ʤarigusuku] 【名】アワイシ (粟石。砂岩) を削って積み上げた石垣。「削り石垣」の義か。イ˞サナキヌ　ム˞カ˜シドゥンチヌ　˞ヤー˜ヤ　キ˞ザリグスクル˜　シ˞マリブー [ʔi˞sanakinu˜ mu˞ka˜ ʃiduntʃinu ˞ja:˜ja ki˞ʤarigusᵤkuru˜ ʃi˞maribu:](石垣島の昔殿内の家はアワイシ＜砂岩＞の石垣が積まれている)。

キ˞ザル [ki˞ʤaru] 【名】祭祀行事。年中行事。旧暦の一月から十二月まで、ほぼ毎月決まって行われた村の祭祀・行事。その中で、ウ˞ブキザ˜ル [ʔu˞buk-iʤa˜ru](大祭祀・行事) と称されるものが˜ソンガチ [˜soŋgatʃi](正月)、ジ˞ル˜クンチ [ʤi˞ru˜kuntʃi](十六日祭)、˞プー˜ル [˞puː˜ru](豊年祭)、˞ソー˜ラン [˞soː˜raŋ](お盆)、キ˞チゴン [kᵢ˞tʃigoŋ](結願祭)、˜シチ [˜ʃᵢtʃi](節祭り) 等である。パ˞トゥ˜マー　ム˞カ˜シェーラ　キ˞ザルヌ　ゴー˜ラール　˜シマ　˞ヤッタ [pᵩ˞tu˜maː muˢka˜ʃeːra ki˞ʤarunu goː˜raːru ˜ʃima ˞jatta](鳩間島は昔から祭祀行事＜年中行事＞の多い島であった)。キ˞ザルキザルヌ　ピューロー˜　サ˞カサヌ˜　アッパタール　ク˞ロー˜リティ　˞スー˜ダイ　ヤ˞ク˜サンケートゥ　パ˞ナシアー˜シティ　˜アトゥピュール　サ˞キピュール˜ティ　キ˞モーッ˜タ [ki˞ʤarukiʤarunu pjuːroː˜ sᵩ˞kasanu˜ ʔap-pataːru ku˞roː˜riti ˞suː˜dai ja˞ku˜saŋkeːtu pa˞naʃiʔaː˜ ʃᵢti ˜ʔatupjuːru sᵩ˞kipjuːru˜ti ki˞moːt˜ta](祭祀行事の日取りは、司のお婆さん方が佳日を調べて＜繰られて＞、村の総代や役人たちと話し合って、後日和にするか、先日和にするかを決められた)。

キ˞ザルキザル [ki˞ʤarukiʤaru] 【連】祭祀毎の。年中行事毎の。キ˞ザルキザルヌ　ニンガイ˜ヤー　˞ウイヌ˜ウガンナーティル　˞ニン˜ガイ　˞ソーッ˜タ [ki ˞ʤarukiʤarunu niŋgai˜ja: ˞ʔuinu˜ʔuganna:tiru ˞niŋ˜ gai ˞so:t˜ta](年中祭祀毎の祈願は友利御嶽＜上のお願＞で祈願をなされた)。

˜キザン [˜kiʤaŋ] 【名】(動) 卵から孵化したばかりの虱の幼虫。˞ワー˜　ガ˞マ˜ジナ　キ˞ザン˜ヌ　˜シディ　˞ベー [˞waː˜ ga˞maˢʤina ki˞ʤan˜nu ˜ʃidi ˞beː](君の髪に虱の幼虫が孵化している)。カ˞トーシ˜シ　˜キザン　シ˞キ　ウタ˜シ [kᵩ˞toːʃi˜ʃi ˜kiʤaŋ ʃᵢ˞ki ʔuta˜ʃi](歯の細かい櫛＜梳き櫛＞で虱の幼虫を梳き落とせ)。

˜ギサン [˜gisaŋ] 【助動】～しそうである。～するらしい。活用語の連用形に付いて形容詞型活用をする。老年層は、-ン˜ギサン [-ŋ˜gisaŋ](～そうだ。～らしい) という。カ˞キン˜ギサン [kᵩ˞kiŋ˜gisaŋ](書きそうだ)。カ˞キン˜ギサタンドゥ　カ˞カン˜シェン [kᵩ ˞kiŋ˜gisatandu kᵩ˞kaŋ˜ʃeŋ](書きそうだったが書かなかった)。パ˞リン˜ギサ　˞ナー˜ヌ [pa˞riŋ˜gisa ˞naː ˜nu](行きそうにない)。カ˞キン˜ギサ　プ˞ソー　ター˜ヤ [kᵩ˞kiŋ˜gisa pᵤ˞soː taː˜ja](書きそうな人は誰か)。

˜ギサン [˜gisaŋ] 【名】(動) アタマジラミ (頭虱) の幼虫。˞ケー˜サ [˞keː˜sa](虱の卵)。˞ケー˜サーラ　ギ˞サン˜ヌ　˜シディティ　シ˞ディックル˜ヌ　ギャン˞テ

ィ˥　カ˩タマリ　フシゥ˥カリ　˩ベー [˩keː˥saːra gi ˩san˥nu ˥ʃiditi ʃi˩dikkuru˥nu gjan˩ti˥ ka˩tamari ɸusi̥˥ kari ˩beː](虱の卵からアタマジラミの幼虫が孵化して、その抜け殻がぎっしり固まって＜凝集＞してくっついている)。

キ˩ザン˥ムヌ [ki˩ʤam˥munu] 【名】施餓鬼用のお盆の供物。「刻み物」の義。歌謡語。鳩間島に伝わる念仏歌 (シ˩ザ˥ヌ　˥クイ [ʃi˩ʤa˥nu ˥kui]＜兄の声。歌＞) に歌いこまれている。砂糖黍の茎、ウリ、ナスビを細かく賽の目に刻み、小豆、米を混ぜて皿に入れ、水を少量垂らしておき、˥マヤーブー [˥majaːbuː](メドハギを 2,3 本束ねたもの) で朝、昼、晩の食事を仏壇に供える前に、それを戸外へ撥ね飛ばして施餓鬼とする供物。日常の方言では、ミ˩ジヌ˥クー [mi˩ʤinu˥kuː](「水の子」の義か。無縁仏への施しの食物。施餓鬼の食べ物) という。/ウギヌスラ　ウリ　ナスビ　キザンムヌ　シスイヌ　ウハンキヌ　スイヌ　ミジ/(砂糖黍の茎、ウリ、ナスビを刻んだもの、添えの撥ね飛ばす水を添えて)「七月念仏歌 (兄の声)」。

˥キシ [˥ki̥ʃi] 【名】崖(ガケ)。断崖。切り立った所。「涯、岸、水辺曰☒涯、涯☒而高曰☒岸、和名岐之 (きし)」『和名抄』の転訛したもの。˩ユシ˥キダミナトゥヌ　˥パンタヌ　キ˩シ˥ヌ　˩ウイラ˥　キー　˥キシ　ウ˩タシ˥ティ　˥イダフニナ　˩ヌーシタ [˩juʃi ˥kidaminatunu ˥pantanu ki̥˩ʃi˥nu ˩ʔuira˥ ki: ˥ki̥ʃi ʔu˩ta˥ʃi̥ti ˥ʔidaɸunina ˩nuːʃita](ヨキシダ港の南の断崖＜岸＞の上から、木を伐って落としてサバニ＜板舟＞に積んだ＜載せた＞)。

˥キシ [˥ki̥ʃi] 【名】1一区切り。一定の広さの畑。畑一枚。「切れ」の義。畑を数える単位。プ˩ス˥キシ [pu̥ ˩su˥ki̥ʃi](一区切り。一枚)。フ˩タキシ [ɸu̥˩takiʃi](二区切り。二枚)。パ˩タ˥キ　˩ミーキシ˥ナ　ア˩ガマミ˥　イ˩ビ˥シケー [pḁ˩ta˥ki ˩miːkiʃi˥na ʔa˩gamami˥ ʔi˩bi˥ʃi̥keː](畑三枚に小豆をうえてある)。枚。畑を数える単位。プ˩ス˥　キシ [pu̥˩su˥ ki̥ʃi](畑一枚＜一切れ＞)。フ˩タ　キシ [ɸu̥˩ta kiʃi](畑二枚＜二切れ＞)。パ˩タ˥キ　プ˩ス˥キシナー　シ˩ビラバ˥　イ˩ビ˥　プ˩ス˥キシナーヤ　ビ˩ラ˥バ　イ˩ビ˥シケー [pḁ˩taki˥ nu pu̥˩su˥ki̥ʃina: ʃi˩biraba˥ ʔi˩bi˥ pu̥˩su˥ki̥ʃinaːja bi˩ra ˥ba ʔi˩bi˥ʃi̥keː](畑の一枚にはネギ＜葱＞を植え、一枚にはニラ＜韮＞を植えてある)。2切れ端。˩キー˥ヌ　˥キシ　ア˩ツァ˥ミティ　タ˩ム˥ヌ　˩サー˥ディー [˩kiː˥nu ˥ki̥ʃi ʔa˩tsa˥miti ta˩mu˥nu ˩saː˥diː](木の切れ端を集めて薪にしようよ)。˩トーフー˥ヌ　˥キシ [˩toːɸuː˥nu ˥ki̥ʃi](豆腐の切れ端。一切れ)。カ˩マブクヌ˥　キシ [ka˩mabukunu˥ ki̥ʃi](蒲鉾の切れ。一切れ)。˩トーフー˥ヌ　˥キシンノーン　イ˩リテイ˥　スー　バ˩カシ˥バ [˩toːɸuː˥nu ˥ki̥ʃinnoːŋ ʔi˩riti˥ suː ba˩ kaʃi˥ba](豆腐の切れ端でも入れてお汁を炊けよ)。˩キー˥ヌ　˥キシ [˩kiː˥nu ˥ki̥ʃi](木の切れ端)。イ˩ツァ˥ヌ　˥キシ [ʔi˩tsa˥nu ˥ki̥ʃi](板の切れ端)。

キ˩ジ [ki˩ʤi] 【名】傷。˩パン˥ヌ　キ˩ジヌ　ウー˥ミ　˩ナー˥ヌ [˩pan˥nu ki˩ʤinu ʔuː˥mi ˩naː˥nu](足の傷が化膿してしまった)。キ˩ジェー　ノー˥レーン [ki ˩ʤeː noː˥reːŋ](傷は治った)。「呰、岐受 (きず)」『華厳経音義私記』の転訛したもの。˩パン˥ヌ　キ˩ジェー　ピン˥グル　˩ペーリヤッ˥サンダー　ピ˩ルザキ˥シ　トゥ˩イットー˥シ [˩pan˥nu ki˩ʤeː piŋ˥guru ˩peːrijas˥sandaː pi˩ruʤaki˥ʃi ˩tuittoː˥ʃi](足の傷は破傷風菌が入りやすいから大蒜酒で消毒して拭きとっておきなさい＜摺りこんでおけ＞)。ヨー˩ヨー˥ミ˩ドーンッふァ˥ヌ　˥シラナ　˩ナー˥ト　キ˩ジ˥シケー　ナ˩ラン˥ダー [joː˩joː˥ mi˩doːŋffa˥nu ˥ʃirana ˩naː˥to ki˩ʤi˥ ʃi̥keː na˩ran˥daː](よくよく注意しろよ。女の子の顔に傷などをつけてはならないぞ)。

˥ギシ [˥giʃi] 【名】下男下女。使用人。身分の低い者。「下司」の転訛。首里方言では「平侍。また平役人。下級官吏。げす (下司・下衆) に対応する語か。按司 ([ʔazi]) などの高官に対する」『沖縄語辞典』とある。ウ˩ヌ˥　プ˩ソー˥　ナー˩イ˥　プ˩スン˥ヤーヌ　˥ギシ　˥ナリ　シゥ˩カーリオーッ˥タ [ʔu˩nu˥ pu̥˩soː˥ naː˩i˥ pu̥˩suɲ˥jaːnu ˥giʃi ˥nari si̥˩kaːrioːt˥ta](あの人はずっと余所の家の使用人として使われておられた)。プ˩スヌ˥　ギシ　ナ˩ル˥ナ [pu̥˩sunu˥ giʃi na ˩ru˥na](他人の使用人＜下男下女＞になるな)。プ˩スヌ˥　ギシ　˥ナリティ　ナー˩イ˥　プ˩スン˥　シゥ˩カーリ　ベー [pu̥˩sunu˥ giʃi ˥nariti naː˩i˥ pu̥˩sun ˥ si̥˩kaːri beː](他人の下使い＜下男＞になって、ただ他人に扱き使われ＜酷使され＞ている)。イ˩チンバー˥キン　プ˩スヌ˥　ギシ　˥ナレーティ　˩アーク˥ナ [ʔi˩ʧimbaː˥kim pu̥˩sunu˥ giʃi ˥nareːti ˩ʔaːku˥na](何時までも他人の下男＜使用人＞になっているな)。

キ˩シェー˥マ [ki˩ʃeː˥ma] 【名】切れ。切れ端。˥キシ [˥ki̥ʃi](切れ) に指小辞の-マ [-ma](小さい観念、親愛の情を表す接尾辞) が下接したもの。イ˩ツァ˥ヌ　キ˩シェー˥マシ　パ˩コー˥マ　ス˩クリバ [ʔi˩tsa˥nu ki˩ʃeː˥maʃi pa˩koː˥ma su̥˩ku˥riba](板の切れ端で小箱を作りなさいよ)。˩ヌーヌヌ˥　キ˩シェー˥マ　ア˩ツ

ァ˥ミ　˥クー [˩nu:nunu˥ kᵢ̥˩ʃe:˥ma ʔa˩tsa˥mi ˥ku:](布の切れ端を集めてこい)。

˩キシキ **[˩kiʃᵢ̥ki]** 【名】景色。風景。眺望。/パトゥマナカムリ　パリヌブリ　ユムヌ　キシキユ　ナガムリバ　イヌチナガカル　クバヌシタ　イヤイーヤ　ピトゥヌ　イヌチヤ　サンアティ　ナランサ　ヌチヌアリワドゥ　チムヌ　ウムティン　ククルヌ　アルティン　ジュージュー　サマザマ　カナワティ　イカリサ　ナマヌパヤシニ　クドゥキ　ユミユミ/(鳩間中岡に走り登って四方の景色を眺めると寿命が長くなるような檳榔樹の下の景色だ。いやいーや　人の寿命は計算して予測できないものだ。命があればこそ胸の想いも心に思うように種々様々に叶えていけるものだ。今の囃子に口説きを歌おうよ)「鳩間口説」『鳩間島古典民謡古謡集』。

˩ギシ˥キ **[˩giʃᵢ̥˥ki]** 【名】儀式。神事や仏事、祝儀、不祝儀などで執行される一定の決まりごと。˩プール˥ヌ　˩パー˥レーナーン　シ˩ナ˥ピキナーン　ム˩カ˥シェーラヌ　˩ギシキ˥ヌ　ア˩リ˥ブンダ　ウ˩リ　バシキルナ˥ダー [˩pu:ru˥nu ˩pa:˥re:na:ŋ ʃi˩na˥ pᵢ̥kina:m mu˩ka˥ʃe:ranu ˩giʃᵢ̥ki˥nu ʔa˩ri˥bunda ʔu˩ri baʃᵢ̥kiruna˥da:](豊年祭の爬竜船競漕や綱引きにも昔からの儀式があるから、それを忘れるなよ)。

ギ˩シギシ **[gi˩ʃigiʃi]** 【副】歯軋りするさま。歯軋りして鳴らす音。ギ˩シギシ˥シ　˥パー　˥フーン [gi˩ʃigiʃi˥ʃi ˥pa: ˥ɸu:ŋ](ギシギシと歯軋(ハギシ)りする＜歯を噛む＞)。

キ˩シククチ **[kᵢ̥˩ʃikukutʃi]** 【名】着心地。ナ˩チェー˥　バサキンヌ　キ˩シククチェー　ヌー˥シカヤー　ピ˩ラ˥ケーンカヤー [na˩tʃe:˥ basakinnu kᵢ̥˩ʃikukutʃe: nu:˥ʃikaja: pi˩ra˥ke:ŋkaja:](夏は、芭蕉着の着心地はどうだろうか。涼しいだろうか)。ク˩レー˥　キ˩シククチヌ　ダーッ˥サー　˩ナー˥ヌ [ku˩re:˥ kᵢ̥˩ʃikukutʃinu da:s˥sa: ˩na:˥nu](これは着心地がよろしくない)。

˥ギシシゥカイ **[˥giʃisᵢ̥kai]** 【名】したづかい (下使)。下司のように扱ぎ使われること＜下司使い＞。酷使されること。˩ウン˥ネーナ　ナー˩イ˥　ギシシゥカイバ　シ˩ラリ　ベー [ʔun˥ne:na na:˩i˥ giʃisᵢ̥kaiba ʃi˩rari be:](その家にずうっと下使いをさせられている＜下司のように酷使されている＞)。

キ˩ジシキ˥ルン **[ki˩ʤiʃᵢ̥ki˥ruŋ]** 【他動】傷つける。身体や器物に傷を負わせる。˩ガン˥バリ　˩シー　ベー˥ティ　˥パラーナ　キ˩ジシキ˥ルン˩ダー [˩gam˥bari ˩ʃi: be:˥ti ˥para:na ki˩ʤiʃᵢ̥ki˥run˩da:](悪戯をしていて、柱に傷つけるぞ)。マ˩カ˥ルドンゴー　˩ウッツァー˥スカー　パ˩タカキ˥　キ˩ジシキ˥ルン˩ダー [ma ˩ka˥rudoŋgo: ˩ʔuttsa:˥suka: pᵢ̥˩takaki˥ ki˩ʤiʃᵢ̥ki˥run˩da:](お碗類はぶつける＜打ち合わせる＞と縁が欠けて傷をつけるよ)。˩ウッツァーサ˥バン　キ˩ジ˥シ˩キラ˥ヌ [˩ʔuttsa:sa˥baŋ ki˩ʤe:˥ ʃᵢ̥˩kira˥nu](ぶつけ＜打ち合わせ＞ても傷をつけない)。

キ˩シシティ˥ルン **[ki˩ʃiʃᵢ̥ti˥ruŋ]** 【他動】切り捨てる。切って捨てる。ムー˩ル˥シ　˥バキティ　タ˩ラーンモー˥　キ˩シシティ˥ルンティ　ウ˩ムー˥ヌ　キ˩シ˥シティ　˥ミサンカヤー [mu:˩ru˥ʃi ˥bakiti ta˩ra:mmo: ˥ kᵢ̥˩ʃiʃiti˥runti ʔu˩mu:˥nu ki˩ʃi˥ʃᵢ̥ti ˥misaŋkaja:](全部分けて足りない分は切り捨てようと思うが、切り捨てて良いかね)。

キ˩ジ˥　スクン **[ki˩ʤi˥ sᵢ̥kuŋ]** 【連】傷をつける。イ˩ツァ˥クビナ　カ˩ニフン˥シ　キ˩ジ˥　スクン [ʔi˩tsa ˥kubina ka˩niɸuŋ˥ʃi ki˩ʤi˥ sᵢ̥kuŋ](板壁に鉄釘で傷をつける)。

キ˩シッツァー˥スン **[kᵢ̥˩ʃittsa:˥suŋ]** 【他動】切り刻む。切りまくる。「切り散らす」の転訛したもの。˩アッ˥タル　シ˩ナ˥バ　キ˩シッツァー˥シ　˥シケー [˩ʔat˥taru ʃi˩na˥ba kᵢ̥˩ʃittsa:˥ʃi ˥ʃᵢ̥ke:](あたら＜可惜＞綱を切り散らして＜切り刻んで＞ある)。キ˩シッツァーサン˥ドーシ　シゥ˩カイ˥バ [kᵢ̥˩ʃittsa:san˥do:ʃi sᵢ̥˩kai ˥ba](切り散らさないで使えよ)。キ˩シッツァー˥シ　˥ミサカー　キ˩シッツァー˥ス　˥クトー　˥ナルン [kᵢ̥˩ʃittsa:˥ʃi misaka: kᵢ̥˩ʃittsa:˥su ˥kᵢ̥to: ˥naruŋ](切り散らしてよければ切り散らすことは出来る)。˩クン˥ゾー　ウ˩ク˥ルカー　ム˩ル˥　キ˩シッツァー˥スン [˩kun˥ʤo: ʔu˩ku˥ruka: mu:˩ru˥ kᵢ̥˩ʃittsa:˥suŋ](怒ったら全部切りまくる)。キ˩シッツァー˥シェー　˥ミサムヌ [kᵢ̥˩ʃittsa:˥ʃe: ˥misamunu](切りまくれば良いのに)。˥ヌーティ　˩ナー˥ン＜ヌーン　クイン＞　ム˩ル˥　キ˩シッツァー˥シバ [˥nu:ti ˩na:˥m ＜nu:ŋ kuim＞ mu:˩ru˥ kᵢ̥˩ʃittsa:˥ʃiba](何もかも全部きりまくれ)。ぶった切る。散々に切る。切り捲る。「切り散らす」の転訛したもの。˩マイ˥ヤー　グ˩マ˥ー　˩カンガーン˥ドーシ　イ˩ゾー˥　キ˩シッツァー˥シ　˥ナビナー　イ˩リティ˥　スー　バ˩カシ˥バ [˩mai˥ja: gu˩ma˥: ˩kaŋga:n˥do:ʃi ʔi˩ʤo:˥ kᵢ̥˩ʃittʃa:˥ʃi ˥nabina: ʔi ˩riti˥ su: ba˩kaʃi˥ba](大きい小さいを考えずに魚をぶった切りにして、鍋に入れてお汁を炊きなさい＜炊け＞)。キ˩シッツァーサ˥ヌ [kᵢ̥˩ʃittsa:sa˥nu](ぶった切らない)。˩クン˥ゾー　ウ˩ク˥ルカー　˥ヌーン

クイン　キ˩シッツァー˥スン [˩kun˥ʤo: ʔu˩ku˥ruka: ˥nu:ŋkuiŋ kᵢ̥˩ʃittsa:˥suŋ](怒ったら何もかもぶった切る)。

キ˩シッツァー˥ルン [kᵢ̥˩ʃittsa:˥ruŋ] 【自動】千切れる。切れ切れになる。「切れ散れる」の転訛したもの。˩アン˥マー　キ˩シッツァー˥リティ　˩ユー˥ゾー　˩ナー˥ヌ [˩ʔam˥ma: kᵢ̥˩ʃittsa:˥riti ˩ju:˥ʤo: ˩na:˥nu](網は千切れて使い物にならない＜養生、手当てできない＞)。キ˩シッツァーラ˥ヌ [kᵢ̥˩ʃittsa:ra˥nu](千切れない)。˥アイニ　グ˩チ˥ホーニ　ピ˩キスク˥カー　キ˩シッツァー˥ルン˩ダー [˥ʔaini gu˩ʧi˥ho:ni pᵢ̥˩kisuku˥ka: kᵢ̥˩ʃittsa:˥run˩da:](あんなに強引に＜無鉄砲に＞引張ると千切れるぞ)。キ˩シッツァー˥ル　˥ムノー [kᵢ̥˩ʃittsa:˥ru ˥muno:](千切れるものは)。˥アイブ　˥ムノー　キ˩シッツァー˥レー　˥ミサムヌ [˥ʔaibu ˥muno: kᵢ̥˩ʃittsa:˥re: ˥misamunu](千切れればよいのに)。˩パー˥ク　キ˩シッツァーリ˥リ [˩pa:˥ku kᵢ̥˩ʃittsa:ri˥ri](早く千切れろ)。

キ˩シットー˥スン [kᵢ̥˩ʃitto:˥suŋ] 【他動】切り倒す。伐り払う。薙ぎ倒す。˩キー˥ヤマー　キ˩シットー˥シティ　サ˩ラシ˥　ヤ˩キティル　カイクン˥　ア˩コーッ˥タ˩ダー [˩ki:˥jama: kᵢ̥˩ʃitto:˥ʃiti sa˩raʃi˥ ja˩kitiru kaikuŋ˥ ʔa˩ko:t˥ta˩da:](森＜木の山＞を伐り払って、木を枯らし､焼いて＜ぞ＞開墾地は開拓されたものだよ)。˩タンガ˥シェー　キ˩シットーサラ˥ヌ [˩taŋga ˥ʃe: kᵢ̥˩ʃitto:sara˥nu](一人では切り倒せない)。カ˩マーバー˥キ　キ˩シットー˥スン [ka˩ma:ba:˥ki kᵢ̥˩ʃitto: ˥suŋ](あそこまで切り倒す)。キ˩シットー˥スン　˥トン [kᵢ̥˩ʃitto:˥suntoŋ](切り倒すところ)。キ˩シットー˥シェー　˥ミサムヌ [kᵢ̥˩ʃitto:˥ʃe: ˥misamunu](切り倒せばよいのに)。キ˩シットー˥シ [kᵢ̥˩ʃitto:˥ʃi](切り倒せ)。

キ˩シドーリ [ki˩ʃido:ri] 【名】着倒れ。キ˩シドーリ　スン˥ケン　˥キン　˩サーソー˥ル　プ˩スン　オー˥ルンティ˩ダー [kᵢ̥˩ʃido:ri suŋ˥keŋ ˥kiŋ ˩sa:so:˥ru pu̥ ˩suŋ ʔo:˥runti˩da:](着倒れするほど着物を新調される人もいらっしゃるそうだよ)。

˥キシトゥルン [˥kᵢ̥ʃituruŋ] 【他動】切り取る。ア˩マ˥ル　˩ブン˥マー　˥キシトゥリティ　˩カーシ˥バ [ʔa ˩ma˥ru ˩bum˥ma: ˥kᵢ̥ʃituriti ˩ka:ʃi˥ba](余るぶんは切り取って売りなさいよ)。キシトゥ˩ラ˥ヌ [kᵢ̥ʃitu˩ra˥nu](切り取らない)。˥クベー　キシトゥルン˩ドー [˥kube: kᵢ̥ʃiturun˩do:](これだけは切り取るよ)。˥キシトゥル　˥ムヌ [˥kᵢ̥ʃituru munu](切り取るもの)。˥キシトゥレー　˥ミサムヌ [˥kᵢ̥ʃiture: ˥misamunu](切り取ればよいのに)。˥キシトゥリ [˥kᵢ̥ʃituri](切り取れ)。

キ˩シパイ˥ル [ki˩ʃipai˥ru] 【名】酸味の強い酢。酢の酸味は、˥キスン [˥kisuŋ](きれる。酢が非常に効く)。キ˩シ˥ルン [kᵢ̥˩ʃi˥ruŋ](きれる。酢が非常に効く) のようにいう。キ˩シパイ˥ロー　ン˩メーマ˥ナー　ミ˩ジバ˥　イ˩リ　バイティ˥　シゥ˩カイ˥ヨー [kᵢ̥˩ʃipai ˥ro: ʔm˩me:ma˥na: mi˩ʤiba˥ ʔi˩ri baiti˥ sᵢ̥˩kai˥jo:](酸味の強い酢は少しずつ水を加え、薄めて＜希釈して＞使いなさいよ)。

キ˩シパダ [kᵢ̥˩ʃipada] 【名】着飾りたがる年頃。˥パダ [˥pada](肌) は「肌」が原義であるが、＜若い年頃＞の意味を派生させている。若者以上の人に対しては、「パダ (年頃)」は用いられない。ヤ˩ラビ˥パダ [ja˩rabi˥pada](子供の頃)、ウ˩ビ˥パダ　˩スン˥ケン [ʔu˩bi˥pada ˩suŋ˥keŋ](その年ごろ＜十二、三歳頃＞になるまで) のように用いられる。パ˩タチヌ　マングロー＜マーラー＞˥　キ˩シパダ　ヤリバ˥　ア˩ラキン　サーシ˥　キ˩サシ˥バ [pḁ˩tatʃinu maŋguro:＜ma:ra:＞˥ ki˩ʃipada jariba˥ ʔa˩rakin sa:ʃi ˥ ki˩saʃi˥ba](二十歳のころは着飾りたい年頃だから、新しい着物を新調して着せなさいよ)。

キ˩シパン˥スン [kᵢ̥˩ʃipan˥suŋ] 【他動】切断する。切り抜ける。乗り切る。「切り外す」の義。マ˩ナマ˥ヌ　˩ナン˥ギ　˥アウリサーギ　キ˩シパンサ˥リカー　˩ソーヤ　ナーントゥォー [ma˩nama˥nu ˩naŋ˥gi ˥ ʔawarisa:gi ki˩ʃipansa˥rika: ˩so:ja na:n˧tso:](今の難儀苦労さえ切り抜けることが出来れば＜切り外せたら＞心配は無いのだがなあ)。

キ˩シフクラスン [kᵢ̥˩ʃiɸu̥kurasuŋ] 【他動】着脹れさせる。重ね着して脹れあがらせる。ヤ˩ラ˥ベー　˥ドゥク　キ˩シフクラサンバル˥　ドゥーガンゾー　マ˩リル [ja˩ra˥be: ˥duku kᵢ̥˩ʃiɸu̥kurasambaru˥ du:-ganʤo: ma˩riru](子供は、あまり着脹れさせないほうが健康に成長する＜胴頑丈に生まれる＞)。

キ˩シフクリ [kᵢ̥˩ʃiɸukuri] 【名】着膨れ。贅沢に着ること。飽きるほどに着ること。キ˩シフクリシー　ブンダ˥　ア˩ラキン˥　プサンテー　ウ˩モー˥ヌ [kᵢ̥˩ʃiɸukuri ʃi: bunda˥ ʔa˩rakim˥ pu̥sante: ʔu˩mo: ˥nu](贅沢に着ているから、新しい着物を欲しいとは思わない)。キ˩シフクリ˥　シ˩ティ˥　キン　ア˩タラサ　スンティ˥　クトゥ　ッ˩サヌ [kᵢ̥˩ʃiɸukuri˥ ʃᵢ̥ ˩ti˥ kiŋ ʔa˩tarasa sunti˥ ku̥to: s˩sanu](着飽きて着物を大事にする＜惜しむ＞ことを知らない)。˩アーシ˥キン　˩ミーカサビ˥　キ˩スター˥　キ˩シフクリ˥

シ˹ティ　ウーキグリサ˺ヌ　ナ˹ラ˺ヌ [˹ʔa:ʃi˺kim ˹mi:kasabi˺ ki̥˹suta:˺ ki̥˹ʃiɸukuri˺ ʃi̥˹ti˺ ˹ʔu:kigurisa˺nu na˹ra˺nu](袷を三枚重ね着したら着膨れして動きづらくてたまらない＜どうにもならない＞)。

キ˹シフチ [ki̥˹ʃiɸutʃi] 【名】**1**着方。着る方法。˹ヌー˺シル　キ˹ス˺ユー　˹キン˺ヌ　キ˹シフチンツァン˺　ッ˹サヌ [˹nu:˺ʃiru ki̥˹su˺ju: ˹kin˺nu ki̥˹ʃiɸutʃintsan˺ s˹sanu](どうやって着るのか、着物の着方すらも知らない)。キ˹シミチ [ki̥˹ʃimitʃi](着方) ともいう。**2**着た時。イ˹チヌ˺マドゥナー　キ˹スタ˺ユー　ウ˹リヌ˺　キン　キ˹シフチン˺　ッ˹サンシェン [ʔi˹tʃinu˺ maduna:ru ki̥˹suta˺ju: ʔu˹rinu˺ kiŋ ki̥˹ʃiɸutʃin˺ s˹saŋʃeŋ](何時の間に着たのか、彼が着物を着た時も知らなかった)。

キ˹シ˺フチ [ki̥˹ʃi˺ɸu̥tʃi] 【名】切り口。切れ目。切り方。キ˹シ˺フチェー　ス˹ロー˺シティ　ナ˹ラビ˺バ [ki̥˹ʃi˺ɸu̥tʃe: su˹ro:˺ʃi̥ti na˹rabi˺ba](切り口を揃えて並べなさい)。キ˹シフチ˺ヌ　˹ワッ˺サカー　ギャン˹ティ˺　ハ˹マラ˺ヌ [ki̥˹ʃiɸu̥tʃi˺nu ˹was˺saka: gjan˹ti˺ ha˹mara˺nu](切り口が悪いときっちりとはまら＜填ら＞ない)。キ˹シ˺ミチ [ki̥˹ʃi˺mitʃi](切り方) ともいう。

キ˹シ˺ムヌ [ki̥˹ʃi˺munu]【名】切れ者。敏腕家。腕利き。ウ˹ヌ˺　プ˹ソー˺　キ˹シ˺ムヌティ　ア˹ザリブー⊦ダー [ʔu˹nu˺ pu̥˹so:˺ ki̥˹ʃi˺munuti ʔa˹ʥaribu:⊦da:](その人は切れ者だといわれているよ)。トゥ˹シ˺トゥ　ア˹タラン˺　キ˹シムヌ˺　ユン　˹ナー [tu˹ʃi˺tu ʔa˹taraŋ˺ ki˹ʃimunu˺ jun˹na:](若いのに＜年に似合わず＞切れ者だなあ)。ウ˹ヌ˺　プ˹ソー˺　シマズーヌ　キ˹シ˺ムヌティ　ア˹ザリブー [ʔu˹nu˺ pu̥˹so:˺ ʃimaʥu:nu ki˹ʃi˺munuti ʔa˹ʥaribu:](その人は、島中で一番の切れ者といわれている)。

キ˹シ˺ル [ki˹ʃi˺ru] 【名】きせる (煙管)。キセル (煙管)。カンボジア語の [khsier] から転訛したものという (E サトー説)。刻み煙草を詰めて火をつけ、喫煙するのに用いる器具。頭と吸い口は金属で作られており、中間は長さ約 30 センチの竹の管で連結されている。煙草のやに (脂) がたまると藁の芯を吸い口の方から入れて頭の方から出してやに (脂) を除去した。キ˹シル˺ヌ　フ˹キン˺グチェーラ　バ˹ラフタ˺ヌ　˺シン　ヌ˹キティ˺　キ˹シル˺ヌ　˺ッス　サ˹ライ˺バ [ki̥˹ʃiru˺nu ɸu̥˹kiŋ˺gutʃe:ra ba˹raɸu̥ta˺nu ˺ʃin nu˹kiti˺ ki̥˹ʃiru˺nu ˺ssu sa˹rai˺ba](煙管の吸い口から稲藁の芯を貫き通して煙草のやに＜糞＞をとって煙管を浚えなさい)。

キ˹シル˺ヌ　˺サウ [ki̥˹ʃiru˺nu ˺sau] 【連】キセル (煙管) の竿。˹ラウ [˹rau](キセル＜煙管＞の竹製の管。羅宇(ラウ)) ともいう。煙管のがん首＜雁首＞と吸い口とを繋ぐ約 30 センチの竹管。˺アブジェー　キ˹シル˺ヌ　˹サウ˺ヤー　˺アッパー　˺モーラン　ナ˹ガー˺ル　˺アル [˺ʔabuʤe: ki˹ʃiru˺nu ˹sau˺ja: ˺ʔappa: ˺mo:ran na˹ga:˺ru ˺ʔaru](お祖父さんの煙管の竿＜羅宇＞はお祖母さんのものより長い＜長くぞある＞)。

キ˹シル˺ヌ　サ˹ラ [ki˹ʃiru˺nu sa˹ra] 【連】キセル (煙管) の雁首。キ˹シル˺ヌ　サ˹ラ˺ナー　キ˹ザミタバク˺　ッ˹シナ˺キ　˹ピー˺バ　˺シキティ　タ˹バ˺ク　フ˹コーッ˺タ [ki̥˹ʃiru˺nu sa˹ra˺na: ki˹ʥamitabaku˺ ʃ˹ʃina˺kiti ˹pi:˺ba ˺ʃi̥kiti ta˹ba˺ku ɸu̥˹ko:t˺ta](煙管の雁首に刻み煙草を詰め込んで火をつけて煙草を吸われた)。

キ˹シル˺ヌ　˺ッス [ki˹ʃiru˺nu ˺ssu] 【連】キセル (煙管) のやに (脂)。「煙管の糞」の義。キ˹シル˺ヌ　˺ッソー　バ˹ラフタ˺ヌ　˺シンシル　˹ソー˺ジ　シ˹タル [ki̥˹ʃiru˺nu ˺sso: ba˹raɸuta˺nu ˺ʃiŋʃiru ˹so:˺ʤi ʃi̥˹taru](煙管のやに＜脂＞は稲藁の芯で掃除したものだ)。

キ˹シ˺ルン [ki˹ʃi˺ruŋ] 【自動】切れる。品物が無くなる。˹ナー˺ヤ　˺ドゥク　ピ˹キスク˺カー　キ˹シ˺ルン˹ダー [˹na:˺ja ˺duku pi̥˹kisuku˺ka: ki̥˹ʃi˺run˹da:](縄はあんまり強く引張ると切れるぞ)。ピ˹キスクバン˺　キ˹シラ˺ヌ [pi̥˹kisukubaŋ˺ ki̥˹ʃira˺nu](引張っても切れない)。キ˹シヤッ˺サン [ki̥˹ʃijas˺saŋ](切れやすい)。キ˹シ˺ル　˺クトー　˹ナー˺ヌ [ki˹ʃi˺ru ˺ku̥to: ˹na:˺nu](切れることはない)。キ˹シ˺レー　˺ミサムヌ [ki̥˹ʃi˺re: ˺misamunu](切れればよいのに)。˹パー˺ク　キ˹シ˺リ [˹pa:˺ku ki̥˹ʃi˺ri](早く切れろ)。シ˹ナムヌヌ˺　キ˹シ˺ルカー　シ˹グ˺　ア˹ナ˺ミ　˹カイ˺クー [ʃi˹namununu˺ ki˹ʃi˺ruka: ʃi˹gu˺ ʔa˹na˺mi ˹kai˺ku:](品物が切れたら、すぐ探して買ってこい)。

キ˹シ˺ルン [ki˹ʃi˺ruŋ]【自動】**1**切れる。ピ˹キスク˺カー　キ˹シ˺ルンティ　ス˹クタヌ˺　キ˹シラン˺バン [pi̥˹kisuku˺ka: ki̥˹ʃi˺runti su̥˹kutanu˺ ki̥˹ʃiram˺baŋ](引っ張ったら切れると聞いたが、切れないよ)。˺クマーラ　キ˹シ˺ル　˺パジェー　˹ナー˺ヌ [˺kuma:ra ki˹ʃi˺ru ˺paʤe: ˹na:˺nu](ここから切れるはずが無い)。˺ドゥク　ピ˹キスク˺カー　˺シナー　キ˹シ˺ルン˹ダー [˺duku pi̥˹kisu̥ku˺ka: ˺ʃina: ki˹ʃi˺run˹da:](あんまり強く引張ると綱は切れるよ)。ピ˹キシゥカバン˺　キ˹シラ˺ヌ [pi̥˹kisi̥kabaŋ˺ ki̥˹ʃira˺nu](引張っても

切れない)。キ˩シヤッ˥サン [kiˬʃijasˬsaŋ](切れやすい)。ギュー˩ムシン˥　キ˩シ˥ルピンマー [gjuː˩muʃiŋ˥ kiˬʃiˬru ˬpimmaː](何度も切れるときは)。˥アイニ　˥キシェーラー　シゥ˩カーラヌ [˥ʔaini ˥kiʃeːra sɨ̥˩kaːranu](あんなに切れたら使えない)。˩パイ˥サキ˩シ˥リ [˩paiˬsa ki˩ʃiˬri](早く切れろ)。2絶える。ッ˩ふァ˥　ナ˩サン˥カー　ウ˩ヌ　ヤー˥ヤ　˥タネー　キ˩シ˥ルンティ　ウ˩モー˥リ [f˩fa˥ na˩saŋˬka: ʔu˩nu jaːˬja ˥taneː kɨ̥˩ʃiˬrunti ʔu˩moː˥ri](子供を生まないと、その家は断絶＜種が切れる＞すると思われる)。

キ˩スク [kɨ̥˩suku] 【名】規則。きまり。おきて。˩マーン˥ナーン　キ˩スコー˥　ア˩リ˥　ブー　キ˩スクヌ　ナーン˥カー　˥イキ　パ˩ララ˥ヌ [˩maːnˬnaːŋ kɨ̥˩sukoː˥ ʔa˩riˬbuː kɨ̥˩sukunu naːŋˬkaː ˥ʔiki pa˩rara˥nu](何処にも規則はあるものだ＜有り居る＞。規則が無いと生きていけない)。

˩キス˥クン [˩kisɥ̥kuŋ] 【他動】凝視する。じっと見つめる。プ˩スバ　キス˥クン [pɥ̥˩suba kisɥ̥˥kuŋ](人を凝視する)。˥アイニ　˩キシゥカン˥　ブ˩リ˥バ [˥ʔaini ˩kisɥ̥kam˥ bu˩riˬba](そんなに凝視するな＜しないでおれ＞よ)。˩キシ˥キ　˥ミリ [˩kiʃɨ̥ˬki ˥miri](凝視しろ＜気を付けて見よ＞)。˩キス˥ク　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [˩kisɥ̥˥ku pɥ̥˩soː˥ bu˩raːnu](凝視する人はいない)。˩マー˥ビン　˩キシ˥ケー　˥ミサムヌ [˩maː˥biŋ ˩kiʃɨ̥ˬkeː ˥misamunu](もっと凝視すればいいのに)。ナー˩イ　キシ˥キ [naː˩ji kiʃɨ̥ˬki](じっと見つめろ)。

˩キス˥クン [˩kisɥ̥˥kuŋ] 【自動】1気付く。感づく。˥ウナー　プ˩スヌ　ベー˥ンティ　˩キス˥クンカヤー [˥ʔunaː pɥ̥˩sunu beːnˬti ˩kisuˬkuŋkajaː](そこには今人がいると気付くかねえ)。˥バー　˩ピッ˥チン　˩キシゥカン˥シェン [˥baː ˩pitˬʧiŋ ˥kisukaŋˬʃeŋ](私はちっとも気付かなかった)。キサー˩ティ　キシ˥キ　˩ナー˥ヌ [kisaː˩ti kiʃɨ̥ˬki ˩naː˥nu](既に気付いてしまった)。˩オーパ˥ヤ　˩キス˥ク　˥クトー　˩ナー˥ヌ [˩ʔoːpaˬjaː ˩kisɥ̥˥ku ˥kɥ̥toː ˩naː˥nu](そんなに早く気付くことはない)。˩パー˥ク　˩キシ˥ケー　˥ミサムヌ [˩paː˥ku ˩kiʃɨ̥ˬkeː ˥misamunu](早く気付けば良いのに)。˩パー˥ク　˩キシ˥キバ [˩paː˥ku ˩kiʃɨ̥ˬkiba](早く気づけよ)。2正気に戻る。ブ˥チ˥クン　˩シー　ベータン˥ドゥ　ヤッ˩トゥ˥シ　˩キシ˥ケーン [bu˩ʧiˬkuŋ ˩ʃiː beːtanˬdu jat˩tuˬʃi ˥kiː˥ ʃɨ̥keːŋ](気絶していたが、やっとで正気に戻った)。

˥キスン [˥kɨ̥suŋ] 【他動】1(他動) 切る。伐る。断つ。「延太伎里於呂之～<～枝キリオロシ＞『万葉集　3603』」の転訛したもの。鳩間方言には、kiru の-r-が iru のように狭母音に挟まれると　[r]　→　[s]　の音韻変化を起こす音韻法則がある。˥キー˥キスン [˥kiː ˥kɨ̥suŋ](木を切る)。キ˩サン˥タンティン　˥ミサン [kɨ̥˩sanˬtantim ˥misaŋ](切らなくてもいい)。˥キシ　˥ミサンカヤー [˥kɨ̥ʃi ˥misaŋkajaː](切ってよいかなあ)。キ˩シ˥　プサン [kɨ̥˩ʃiˬ pɥ̥saŋ](切りたい)。˩タンガˬシ　˥キスクトゥ [˩taŋgaˬʃi kɨ̥su ˥kɥ̥tu](一人で切ること)。˥キシェー　˥ミサムヌ [˥kɨ̥ʃeː ˥misamunu](切ればよいのに)。˩パー˥ク　˥キシ [˩paːˬku ˥kɨ̥ʃi](早く切れ)。分断する。伐採する。ク˩ヌ˥　カ˩タ˥ナシェー　キ˩サラ˥ヌ [ku˩nu˥ kɨ̥˩taˬ naʃeː kɨ̥˩saraˬnu](この包丁では切れない＜切られない＞)。˥クマーラ　キ˩シパジミ˥リ [˥kumaːra kɨ̥˩ʃipaʤimiˬri](ここから切り始めよ)。ク˩リ˥シ　˥キスン [ku˩riˬʃi ˥kɨ̥suŋ](これで切る)。˥キス　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [˥kɨ̥su pɥ̥˩soː˥ bu˩raːnu](切る人はいない)。˩マー˥ビン　˥キシェー　˥ミサムヌ [˩maːˬbiŋ ˥kɨ̥ʃeː ˥misamunu](もっと切ればよいのに)。˩パー˥ク　˥キシ [˩paːˬku ˥kɨ̥ʃi](早く切れ)。2補助動詞。動詞の連用形に下接して、「～尽くす。完全に～する」の意味を表す。˩タンガˬシ　ヌ˩ミ˥キシ　˩ナーン˥ボヨー [˩taŋgaˬʃi nu˩miˬkiʃi ˩naːmˬbojoː](一人で飲みきってしまってあるわいな)。

˥キスン [˥kɨ̥suŋ] 【自動】切れる。老年層は、˥ッスン [˥ssuŋ](切る。切れる)、ッ˩シ˥ルン [ʃ˩ʃiˬruŋ](切れる)ともいう。˥イトー　ピ˩キスク˥カー　キスン˩ダー [˥ʔitoː pɨ̥˩kisɥ̥kuˬkaː kɨ̥sun˩daː](糸を引っ張ると切れるよ)。ピ˩キシゥカバン˥　イッ˩カ˥　キ˩サ˥ヌ [pɨ̥˩kisɨ̥kabaŋ˥ ʔik˩kaˬ kɨ̥˩saˬnu](引っ張っても絶対に切れない)。˥キシ　˩ナー˥ヌ [˥kɨ̥ʃi ˩naː˥nu](切れてしまった)。˥キス　˥クトー　˩ナー˥ヌ [˥kɨ̥su ˥kɥ̥toː ˩naː˥nu](切れることは無い)。˩パー˥ク　˥キシェー　˥ミサムヌ [˩paːˬku ˥kɨ̥ʃeː ˥misamunu](早く切れたら良いのに)。

キ˩スン [kɨ̥˩suŋ] 【自動】着る。「～之多邇毛伎余等＜下にもキヨト～＞『万葉集　3585』」、˩衣、キ・キイ『類聚名義抄』」の転訛したもの。˥キン　キ˩スン [˥kiŋ kɨ̥˩suŋ](着物を着る)。˩キン˥マー　キ˩サヌ [˥kim ˥maː kɨ̥˩sanu](着物は着ない)。キ˩シ˥　プサン [kɨ̥˩ʃiˬ pɥ̥saŋ](着たい)。˩タンガˬシ　キ˩スˬ　クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˩taŋgaˬʃi kɨ̥˩suˬ kɥ̥toː naˬraˬnu](一人で着ることは出来ない)。ク˩リ˥　キ˩シェー˥　ミサムヌ [ku˩riˬ kɨ̥˩ʃeː˥ misamunu](これを着ればよいのに)。ヤー˩ディン˥　ク˩ヌ˥　キン　キ˩シ [jaː˩dŋˬ ku˩nu˥ kiŋ

ki̥˹ʃi](必ずこの着物を着よ < 着れ >)。

˺-キスン [˺-ki̥suŋ] 【補動】～切る。～し切る。～し尽くす。～し終える。～し終える。動詞の連用形に下接して「完全に～する」の意を表す。カ˹キ˺キスン [kḁ˹ki˺ki̥suŋ](書き終える < 書き切る >)。ユ˹ミ˺キスン [ju˹mi˺ki̥suŋ](読み終える < 読み切る >)。˹シーキスン [˹ʃiːkisuŋ](し終える)。ッ˹ふァイキスン [f˹faikisuŋ](食べ終える)。ッ˹ふァイキサン˺ケンナ　˺バキトゥリ [f˹faikisaŋ˺kenna ˺bakituri](食べ尽くさないうちに分けて取れ)。ッ˹ふァイキシナー˺ヌ [f˹faiki̥ʃinaː˺nu](食べ尽くしてしまった)。˺キューズーナ　ッ˹ふァイキスン [˺kjuːʥuːna f˹faikisuŋ](今日中に食べ尽くす)。ッ˹ふァイキス˺　プ˹ソー [f˹faikisu˺ pu̥˹soː](食べ尽くす人は)。ッ˹ふァイキシェー˺　ミサムヌ [f˹faikiʃeː˺ misamunu](食べ尽くせばよいのに)。˺キューズーナ　˹ファイキシリ [˺kjuːʥuːna f˹faiki̥ʃiri](今日中に食べ尽くせ)。

キ˹ズン [ki˹ʥuŋ] 【他動】**1**削る。薄くそぎ取る。カ˹ナ˺シ　˺イツァ　キ˹ジ˺プサンドゥ　˹バン˺マー　キ˹ザラヌ [ka˹na˺ʃi ˺ʔitsa ki˹ʤi˺pusandu ˹bam˺maː ki˹ʥaranu](鉋で板を削りたいが、私には削られない < 削れない >)。キ˹ズンティ˺　ウムーカー　キ˹ズ˺クトー　˺ナルン [ki˹ʥunti˺ ʔumuːka ki˹ʥu˺ ku̥toː ˺naruŋ](削ろうと思うならば削ることはできる)。[˹paː˺ku ki˹ʤeː˺ misamunu](早く削ればいいのに)。キ˹ジ˺バ [ki˹ʤi˺ba](削れよ)。˹ザイギ˺バ　カ˹ナ˺シ　キ˹ズンティ　ベーン˺ドゥ　キ˹ザラヌ [˹ʥaigi ˺ba ka˹na˺ʃi ki˹ʥunti beːn˺du ki˹ʥaranu](材木を鉋で削ろうとしているが、削られない)。キ˹ジヤッ˺サ　˺ムノーラ　キ˹ジ˺バ [ki˹ʤijas˺sa ˺munoːra ki˹ʤi˺ba](削り易いものから削れよ)。キ˹ズ　プソー　パー˺ク　キ˹ジェー˺　ミサムヌ [ki˹ʥu pu̥soː paː˺ku ki˹ʤeː˺ misamunu](削る人は早く削ればいいのに)。カ˹ツブシ˺　キ˹ズン [kḁ˹tsubuʃi˺ ki˹ʥuŋ](鰹節を削る)。ク˹ヌ　キー˺ヤ　˺マー　ン˹メーマ˺　キ˹ザバル˺　シゥ˹カーリ [ku˹nu kiː˺ja ˺maː ʔm˹meːma˺ ki˹ʥabaru˺ sï̥˹kaːri](この材木はもう少し削らないと使えない < 削ればぞ使われる >)。キ˹ジ˺プサン [ki˹ʤi˺pu̥saŋ](削りたい)。˺ドゥーシ　キ˹ズン [˺duːʃi ki˹ʥuŋ](自分で削る)。キ˹ズ˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [ki˹ʥu˺ ku̥toː na˹ra˺nu](削ることは出来ない)。˹マー˺ビン　キ˹ジェー˺　ミサムヌ [˹maː˺biŋ ki˹ʤeː˺ misamunu](もっと削ればよいのに)。˺クマンターラ　˹パー˺ク　キ˹ジ˺バ [˺kumantaːra ˹paː˺ku ki˹ʤi˺ba](ここから早く削れよ)。**2**。

˺キズン [˺kiʥuŋ] 【他動】梳る。櫛で髪の毛を梳く。「～朝寝髪　掻きも氣頭良受 (ケヅラズ)～。万、4101」の転訛したもの。カ˹トーシ˺シ　ガ˹マ˺ジ　˺キズン [ka˹toːʃi˺ʃi ga˹ma˺ʤi ˺kiʥuŋ](梳き櫛 < 歯の細い櫛 > で髪の毛を梳る)。カ˹トーシ˺シ　ガ˹マ˺ジ　キ˹ジ˺　プサンド　˺クナーテー　キ˹ズ˺クトー　ナ˹ラ˺ヌ [kḁ˹toːʃi˺ʃi ga˹ma˺ʤi ki˹ʤi˺ pu̥sandu ˺kunaːteː ki˹ʥu˺ ku̥toː na˹ra˺nu](梳き櫛で髪の毛を梳きたいが、此処では梳くことが出来ない)。˹パー˺ク　キ˹ジェー˺　ミサムヌ [˹paː˺ku ki˹ʤeː˺ misamunu](早く梳れば良いのに)。˺ドゥーシ　キ˹ジ˺バ [˺duːʃi ki˹ʤi˺ba](時分で削れよ)。「～朝寝髪　掻きも氣頭良受 < ケヅラズ >～。万、4101」の転訛したもの。ガ˹マ˺ジ　˺キズン [ga˹ma˺ʤi ˺kiʥuŋ](髪をとく < 梳く。梳る >)。ガ˹マ˺ジ　キ˹ザヌ [ga˹ma˺ʤi ki˹ʥanu](髪を梳かない)。˺キジ˺ミサカー　キ˹ズ　˺クトー　˺ナルン [˺kiʤi ˺misakaː ki˹ʥu ˺ku̥toː ˺naruŋ](梳ってよければ梳ることはできる)。ガ˹マ˺ジェー　キ˹ジェー˺　ミサムヌ [ga˹ma˺ʤeː ki˹ʤeː˺ misamunu](髪は梳ればいいのに)。ガ˹マ˺ジ　キ˹ジ˺バ [ga˹ma˺ʤi ki˹ʤi˺ba](髪を梳きなさいよ < 梳れよ >)。

キ˹ズン [ki˹ʥuŋ] 【他動】梳る。髪をとかす。˺フチシ　ガ˹マ˺ジ　˺キズン [˺ɸu̥ʧiʃi ga˹ma˺ʤi ki˹ʥuŋ](櫛で髪の毛をとかす < 梳(クシケズ)る >)。

キ˹ソー [ki˹soː] 【名】気性。気だて。心だて。気質。ク˹ヌ˺　プ˹ソー˺　キ˹ソーヌ˺　ア˹ラー˺ンダ　ピ˹ライグリ˺サン [ku˹nu˺ pu˹soː˺ ki˹soːnu˺ ʔa˹raː˺nda pi˹raiguri˺saŋ](この人は気性が荒いから付き合いにくい)。バ˹タッふァー˺ル　キ˹ソー˺　ヤ˹ルンダ˺　ク˹ビッ˺チンツァン　イ˹ザラヌ˺　シ˹グ　クン˺ゾー　ウ˹クリ˺ス [ba˹taf˺faːru ki̥˹soː˺ ja˹runda˺ ku˹bit˺ʧintsaŋ ʔi˹ʥaranu˺ ʃi˹gu kun˺ʥoː ʔu˹kuri˺su](怒りっぽい気性だから、これぽっちも叱られない。すぐ怒り出す)。

˺キタ [˺ki̥ta] 【名】桁。桁材。梁。屋根を支えるために柱の上に横に渡す材木の総称。˹ンニギタ [˹ʔnnigita](「棟桁」の義か。棟木のこと)。˹カー˺ラヤーヌ　˺キター　˺イゾイキー　シゥ˹カーン˺カームタ˺ヌ [˹kaː˺rajaːnu ˺ki̥taː ˺ʔiʥoikiː sï̥˹kaːŋ˺kaː mu˹ta˺nu](瓦葺家の桁材は、イゾイ < モッコク。木斛 > を使用しないともたない < 瓦の重さに耐えられない >)。˹サンバンザー˺ヌ　˺キター　ク˹ヌ˺　フ˹クンキー˺　シゥ˹カーラン˺カヤー [˹sambanʥaː˺nu ˺ki̥taː ku˹nu˺ ɸu̥˹kuŋki˺ sï̥˹kaːraŋ˺kajaː](三番座の桁材にはこの福木を使えないかな)。

˥キタ [˥kᵢ̥ta]【名】1網を数える単位。桁 (張り)。プ˩ス˥キタ [pu̥˩su˥kᵢ̥ta](1 桁)。フ˩タキタ [ɸu̥˩takita](2 桁)、˩ミーキタ [˩mi:kita](3 桁)、˩ユーキタ [˩ju:kita](4 桁)、イ˩チ˥キタ [ʔi˩ʧi˥kᵢ̥ta](5 桁)。˥アン　フ˩タキタ˥　カ˩タ˥ミティ　イ˩ズ˥　ガ˩ラ˥シン　˩パッ˥タ [˥ʔaŋ ɸu̥˩takita˥ kᵃ̥˩ta˥miti ʔi˩ʤu˥ ga˩ra˥ʃim ˩pat˥ta](網を 2 桁 < 張り > 担いで魚を獲り < 網で引っ掛け > に行った)。˥タカアン　˩ミーキタトゥ˥　キタアン　˩ユーキタ˥　ムティティ　˩アン˥シゥカイ　˩シン　パッ˥タ [˥tᵃ̥kaʔam ˩mi:kᵢ̥tatu˥ kᵢ̥taʔaŋ ˩ju:kita˥ mutiti ˩ʔan˥sᵢ̥kai ˩ʃim pat˥ta](高網を 3 桁と低い桁網を 4 桁を持って追い込み漁 < 網使い > をしに行った)。2縄を測る単位。五十尋で一桁。(助数) 縄の一束 (長さ約 20 尋を単位とするものと、長さ約 30 尋を単位とするものがある)。

キ˩ダ [ki˩da]【名】(植) 琉球黒檀。ク˩ル˥キー [ku˩ru˥ki:](黒木) ともいう。床の間のシ˩キー [ʃi˩ki:](敷居) やカ˩ムイ [ka˩mui](鴨居) などに用いられた。芯材は˩サンシン [˩saŋʃiŋ](三線。三味線) の棹に利用され、重宝された。キ˩ダヌ˥　シンシ　˩サンシンヌ˥　サウ　ス˩ク˥ローッタ [ki˩danu˥ ʃiŋʃi ˩saŋʃinnu˥ sau su̥˩ku˥ro:tta](琉球黒檀の芯材で三線 < 三味線 > の棹を作られた)。黒檀の実は紡錘形で長さ 8〜14 ミリ。7〜9 月ごろに黄金色に色づいて美しい。黒褐色に完熟すると熟れた柿の実のように美味である。これを子供達は木の上でよく食べた。黄色い実はお盆のム˩ルムル [mu˩rumuru] の飾りつけとして砂糖きびの束にさして飾った。キ˩ダーヤ˥　ク˩ル˥キーティン　ア˩ザリティ　キームトゥ˥ヌ　˩シン˥マー　˩コー˥ンダー　ム˩カ˥シェーラ　ウ˩リ˥シル　˩サンシンヌ˥　サウ　ス˩ク˥ローッタ [ki˩da:ja˥ ku˩ru˥ki:tiŋ ʔa˩ʤariti ki:mutu˥nu ˩ʃim˥ma: ˩ko:n˥da: mu ˩ka˥ʃe:ra ʔu˩ri˥ʃiru ˩saŋʃinnu˥ sau su˩ku˥ro:tta](キダはクルキともいわれ、木材の芯は堅い材質だから昔からそれで三味線の竿を作られた)。

˥キタアン [˥kᵢ̥taʔaŋ]【名】桁網。高さ約 1 メートル、長さ約 10 メートルの低い網。˥タカアン [˥tᵃ̥kaʔaŋ](高網) に繋いで用いる。網は通常、上記の長さを単位として作製され、それを˥キタ [˥kᵢ̥ta](桁) で表した。それを、プ˩ス˥キタ [pu̥˩su˥kita](一桁)、フ˩タキタ [ɸu̥˩takita](二桁)、˩ミーキタ [˩mi:kita](三桁) と数えた。各種の網はフ˩クル˥アン [ɸu̥˩kuru˥ʔaŋ](袋網) を中心にして左右に、˥タカアン [˥tᵃ̥kaʔaŋ](高網) に袖状に 3〜4 桁繋ぎ、それにッサジナ [s˩sa˥ʤina](草綱。魚脅し綱) を繋いで魚を袋網へと誘導した。˥キタアンマー　ア˩サーン˥　トンナール　シゥ˩カイヨーッタ [˥kᵢ̥taʔamma: ʔa˩sa:n˥ tonna:ru sᵢ̥˥kaijo:t˥ta](桁網は水深の浅い所で < ぞ > 使われた)。

キ˩タイ˥ルン [kᵢ̥˩tai˥ruŋ]【他動】鍛える。˩ウン˥ドー　シ˩ティ˥　ドゥー　キ˩タイルン [˩ʔun˥do: ʃᵢ̥˩ti˥du: kᵢ̥˩tairuŋ](運動をして体を鍛える)。バ˩カーン˥　ケンナー　˥ドゥー　キ˩タイラン˥カー　トゥ˩シ˥　トゥリテーラー　キ˩タイララヌ [ba˩ka:ŋ˥ kenna: ˥du: kᵢ̥˩tairaŋ˥ka: tu̥˩ʃi˥ turite:ra: kᵢ̥˩tairara˥nu](若い時に体を鍛えないと、年を取ってからでは鍛えられない)。キ˩タイル˥　クトゥ [kᵢ̥˩tairu˥ ku̥tu](鍛えること)。キ˩タイリ [kᵢ̥˩tairi](鍛えろ)。

キ˩タシキ˥ルン [kᵢ̥˩taʃiki˥ruŋ]【自動】衰弱する。重篤になる。˥ヤミ　キ˩タシキ˥ルンケン　˥イサン　カ˩カラ˥ナ　˩ベー [˥jami kᵢ̥˩taʃiki˥ruŋkeŋ ˥ʔisaŋ kᵃ̥˩kara˥na ˩be:](衰弱するまで医者にかからないでいる)。ク˩ビ˥ナー　キ˩タシキ˥ルカー　˥メー　ナ˩ガイケー　サラヌ [ku˩bi˥na: kᵢ̥˩taʃᵢ̥ki˥ruka: ˥me: na˩ga?ike: saranu](こんなに極度に衰弱しては長生きは出来ない)。

キ˩ダシケー [ki˩daʃᵢ̥ke:]【固】屋号。石嶺伊佐氏宅。イ˩シミネ˥テー [ʔi˩ʃimine˥te:](石嶺家) ともいう。石嶺純市氏は鳩間出身で最初の弁護士である。キ˩ダシケーヤ˥　イ˩ラ˥ブレーヌ　˩アー˥ネー　˥ナリ　˩ブー [ki˩daʃike:ja˥ ʔi˩ra˥bure:nu ˩ʔa:˥ne: ˥nari ˩bu:](石嶺家は西原家の東隣の家になっている)。ケ˩ダグスク [ke˩dagusu̥ku](慶田城)・ヤー [˩ja:] → [ki˩dasu̥kuja:] → [ki˩daʃᵢ̥ke:](慶田城家) のように音韻変化して生成された合成語。˥ウブシケーヌ　˩イー˥ネール　キ˩ダシケー　ヤッタ [˥ʔubuʃᵢ̥ke:nu ˩ʔi:˥ne:ru ki˩daʃᵢ̥ke: jatta](大城家の西隣が石嶺家であった)。

キ˩タ˥スクン [kᵢ̥˩ta˥sukuŋ]【自動】1衰弱する。重篤になる。˥ヤミティ　キ˩タ˥シキ　˩オー˥ル [˥jamiti kᵢ̥˩ta˥ʃᵢ̥ki ˩ʔo:˥ru](病んで重篤になって < 衰弱して > おられる)。ウ˩ブヤン　シェー˥カー　キ˩タ˥スクンティ　ウ˩モー˥リ　˩ナー [ʔu˩bujaŋ ʃe:˥ka: kᵢ̥˩ta˥sukunti ʔu˩mo:˥ri˩na:](重病をしたのなら衰弱すると思われるねえ)。ヤ˩ム˥タンティン　キ˩タシゥカ˥ヌ [ja˩mu˥tantiŋ kᵢ̥˩tasᵢ̥ka˥nu](病気しても衰弱しない)。バ˩カー˥ンダ　キ˩タス˥ク　˥クトオー　˩ナー˥ヌ [ba˩ka:˥nda kᵢ̥˩ta˥su̥ku ˥kuto: ˩na:˥nu](若いから衰弱することはない)。キ˩タ˥シケーラ　˩デー˥ジ [kᵢ̥˩ta˥ʃᵢ̥ke:ra ˩de:˥ʤi](衰弱したらたいへんだ)。キ˩タ

˜シキ　˞ナー˜ヌ [kḭ˞taʃi˜ki ˞naː˜nu](衰弱しまった)。キ˞タス˜ク　˜クトー　˞ナー˜ヌ [kḭ˞ta˜sṵku kṵtoː ˞naː˜nu](極度に衰弱することは無い)。キ˞タシ˜ケーラ　˞デー˜ジ [kḭ˞ta˜ʃḭkeːra ˞deː˜ʤi](衰弱したら大変だ)。˜メー　キ˞タシキ˜ル　˞オー˜ル　ナ˞ガムテー　ソーラ˜ヌ [˜meː kḭ˞taʃḭki˜ru ˞ʔoː˜ru na˞gamuteː soːra˜nu](もう衰弱しておられる。長生きなさることはない)。²疲労困憊する。ブ˞ガ˜リ　キ˞タ˜シキティ　˞ウーキユーサ˜ヌ [bu˞ga˜ri kḭ˞ta˜ʃḭkiti ˞ʔuːkijuːsa˜nu](疲労困憊して動けない)。

キ˞ダヌ˜　ナル [ki˞danu˜ naru] 【連】黒檀の実。直径約 8 ミリ、長さ約 1.5 センチの紡錘形の実をつける。未熟果は黄色を呈するが、完熟すると黒褐色になる。未熟果は渋柿の味がするが、完熟すると甘柿の味を呈し、美味である。お盆には、仏壇に供えるム˞ルムル [mu˞rumuru](砂糖キビを約 15 センチに切り、七八本束ねたものを˜サンボー [˜sambo:]< 三方 > に載せ、それに果物や木の実を挿して供えるもの) に挿したりするのに用いた。キ˞ダヌ˜　ナル　˜ブリ　˜キー　ム˞ルムル˜ナ　˜ッシバ [ki˞danu˜ naru ˜buri ˜ki: mu˞rumuru˜naː ˜ʃʃiba](黒檀の実を折ってきてムルムルに挿しなさいよ)。

キ˞ダヌ˜ナル [ki˞danu˜naru] 【名】リュウキュウ黒檀の実。黒木の実。実は紡錘形で長さ 8〜14 ミリ。

キ˞ダバナ [ki˞dabana] 【固】地名。タカスク山からインダ崎に張り出した台地は、トゥ˞マダタバルの西側に崖状をなして切り落ちている。そして崖の岩間を縫うように階段状の山道を作り、それを利用して上り下りしていた。そこを、キ˞ダバナミチ [ki˞dabanamitʃi](「切り落ち端 < 断崖先端 > 道」の義か。キンタバナ < 断崖先端 >→ ティンダハナタ < 天蛇鼻。与那国方言 > と考えられる) という。地滑りを起こして赤い地層を露出させた所。脱穀機を担いでこの坂道を登ることは大変な苦労であった。˞ベー˜ヌ　˜アチャー　˞ダッコッキ˜バ　カ˞タ˜ミティ　キ˞ダバナミチバ　ヌーリ˜　ウリ　˞スンティ　アウ˜リ　˞ソーッ˜タン˞ダー [˞beː˜nu ˜ʔatʃaː ˞dakkokki˜ba ka˞ta˜miti ki˞dabanamitʃiba nuːri˜ ʔuri ˞sunti ʔau˜ri ˞soːt˜tan˞daː](我が家のお父さんは脱穀機を担いでキダバナ道を上り下りするのに大変な苦労をされたよ)。

˜キチ [˜kḭʧi] 【名】垂木の一種。瓦葺屋根の桁材の上を、棟から各桁材、軒へ掛け渡した木材。フ˞クン [ɸṵ˞kuŋ](福木) 等が˜キチによく利用された。˜キチは、普通縦約 6 センチ、横約 8 センチ、長さ約 4 メートルに製材した角材を用いる。茅葺き屋根の場合は、タ˞ル˜キ [ta˞ru˜ki](垂木。「木衰、太流岐」『和名抄』の義) といい、直径約 8 センチ、長さ約 4 メートルの、シ˞ター˜マ [ʃḭ˞taː˜ma](エゴノキ) の樹皮を剥いだ丸太が多く使用された。˞ヤー˜ヌ　˜キチ　キ˞シ˜プス　タ˞ナマ˜リ　ッ˞ふィーリ˜ヨー [˞jaː˜nu ˜kḭʧi kḭ˞ʃi˜pṵsu ta˞nama˜ri f˞fiːri˜joː](新築する家の垂木を切る人に頼まれてくれよねえ)。

˜キチ [˜kḭʧi] 【名】瓦葺屋根の垂木。棟から軒へかけわたした材木。よく利用される樹種に、シ˞ター˜マキー [ʃḭ˞taː˜makiː](エゴノキ) がある。˜キチ [˜kḭʧi] は、普通は約 8 センチ角の長さ約 3 メートルに製材した材木を用い、茅葺き屋根のタ˞ル˜キ [ta˞ru˜ki](垂木) は、直径約 8 センチの丸太を用いた。瓦葺屋根に竹のえつり (桟) を載せるために棟から軒先へ渡す材木。直径約 10 センチ、長さ約 3 メートルに製材した角材が多く使用された。茅葺屋根の場合はタ˞ル˜キ [ta˞ru˜ki](垂木) という。˞ウン˜ネヌ　˞ヤー˜ヌ　˜キチェー　˞キャーンギキー˜　プ˞スカタ˜ル　シゥ˞カーリブー [˞ʔun˜nenu ˞jaː˜nu ˜kḭʧeː ˞kjaːŋgikiː˜ pṵ˞sukata˜ru sḭ˞˜kaːribuː](その家の垂木はいぬまき (犬槇) の木一方のみしか使用されてない < 一方がぞ使用されている >)。˞ヤー˜ヌ　˜キチ　˜キシン　˜パラ [˞jaː˜nu ˜kḭʧi ˜kḭʃim ˜para](家の垂木を伐りに行こう)。

ギ˞チ [gi˞ʧi] 【名】指図。命令。「京畿七道に下知して〜。」『続日本紀延暦一・閏一・二』の転訛したもの。ク˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　ギ˞チ　サン˜カー　ムッ˞トゥ　ウーカ˜ヌ [ku˞nu˜ f˞faː˜ gi˞ʧi saŋ˜kaː mut˞tu ʔuːka˜nu](この子は指図しないとちっとも働かない < 動かない >)。ウ˞レー˜　ギ˞チ　サン˜カー　シ˞グトゥ　サンバン [ʔu˞reː˜ gi˞ʧi saŋ˜kaː ʃi˞gutu sambaŋ](彼は指図しないと仕事をしないよ)。プ˞スン˜　ギ˞チ˜　シ˞ラレー˜ティ　カー˞ニ　アーカン˜ドーシ　˜ドゥーシ　˞カンガイ˜ヤーティ　シ˞グトゥ　シー˜バ [pṵ˞suŋ˜ gi˞ʧi˜ ʃi˞rareː˜ti kaː˞ni ʔaːkan˜doːʃi ˜duːʃi ˞kaŋgai˜jaːti ʃi˞gutu ʃiː˜ba](他人から指図をされてばかりいないで、自分で考えながら仕事をしなさいよ)。ギ˞チ　スン [gi˞ʧi suŋ](命令 < 下知 > する)。

キ˞チカザ [kḭ˞ʧikaʤa] 【名】鼻を突くきつい臭気。˞ヌー˜ヌ　カ˞ザ˜カヤー　˜アイニ　キ˞チカザヌ　スーヌ [˞nu:˜nu ka˞ʤa˜kaja: ˜ʔaini kḭ˞ʧikaʤanu su:nu](何の臭いかねえ。あんなに鼻をつくきつい臭いがするんだが)。

キ˞チゴン [kiᵝ˞ʧigoŋ] 【名】結願祭。一年を通して祈願した豊年、豊漁の祈願、健康祈願、家庭繁盛祈願等の諸々の祈願の˞グヮンプトゥ˜キ [˞gwampu̥tu˜ki](願解) が˞ウイヌ˜ウガン [˞ʔuinu˜ʔugaŋ](友利御嶽) で執り行われる村祭りである。旧暦九月の壬の日から三日間にわたって行われる。初日は˞ユードゥー˜シ [˞juːduː˜ʃi](夜通し)、二日目は˜トーピン [˞toːpiŋ](当日 < 祭り本番 >)、三日目はトゥ˞ズミ [tu˞ʤumi](終結) の三日間で祭りは完結する。˞ユードゥー˜シにはユ˞ネン˜ヌ　˜パイ [ju˞nen˜nu ˜pai](宵の拝 < 祈願 >。午後八時ごろ開始)、ユ˞ナカ˜ヌ　˜パイ [ju˞naka˜nu ˜pai](夜中の拝礼 < 祈願 > 午前零時ごろ開始)、シ˞トゥムティ˜ヌ　˜パイ [ʃi̥˞tumuti˜nu ˜pai](朝 < つとめて > の拝礼 < 祈願 > 午前五時ごろ開始) の三度の礼拝と神遊びからなる祈願があり、友利御嶽の本殿ウ˞ブ˜ヤー [ʔu˞buˆjaː](母屋) 内においてサ˞カサ [sḁ˞kasa](司。巫女)、ティ˞ジリ˜ビ [ti˞ʤiri˜bi](手摺り部。男性神職者)、バ˞キサカ˜サ [ba˞kisaka˜sa](脇司)、ム˞ラヤクサ [mu˞rajakusa](村の役人) 達により厳粛な祈願がなされる。˜トーピン [˜toːpiŋ](結願祭当日) は午前十一時頃から、サ˞カサ、バ˞キサカ˜サ　ティ˞ジリ˜ビー達により˞パイ˜ディン [˞paiˆdiŋ](拝殿) に於いて祈願が始まる。祈願が終わると本殿ウブヤーに舞踊団が入り、そこは楽屋に変化する。午後からは本殿ウブヤーから拝殿側へ張り出すように作られた舞台上で奉納芸が上演され、午後五時頃まで続いて祭りは終了した。この日の余興を村人達は舞台の東と西に座席を作り、˜ウサイ [˜ʔusai](御馳走) の弁当持参で鑑賞した。子供達は鎮守の森のマーニで剣を作って一日中遊んだ。三日目はトゥズミ [tu˞ʤumi](完結。終わり) で村役人たちの一種の慰労会であり、祭りが準備から本番まで順調に進行したことに対する村役人たちへの感謝とお礼と宴会であった。

キ˞チッサー˜ク [kiᵝ˞ʧissaː˜ku] 【名】苦しい咳。きつい咳。重い咳。カ˞ラッサーク˜　キ˞チッサーク˜バ　˞シール˜　ヌ˞ドゥ˜バ　ヤ˞マ˜シー　˜ムニ　イ˞ザラヌ [ka˞rassaːku˜ kiᵝ˞ʧissaːku˜ba ˞ʃiːru˜ nu˞du˜ba ja˞ma˜ʃi ˜muni ʔi˞ʤaranu](痰の伴わない空咳、苦しい咳をしたので喉を痛めて、声が出して話をすることが出来ない < ものが言えない >)。

ギ˞チ˜ナー [gi˞ʧi˜naː] 【名】(動) 魚の名。和名、イソモンガラ (体長約 50 センチ)。キヘリモンガラ (体長約 60 センチ) の総称。ギ˞チ˜ナー　フ˞クラ˜ベーラン　˞パー˜ヤ　˞スー˜ワン [gi˞ʧi˜naː ɸu̥˞kura˜beːram ˞paː˜ja ˞suː˜waŋ](ギチナー < イソモンガラ > はフクラベー < タスキモンガラ > よりも歯は強い)。

キ˞チ˜ニン [kiᵝ˞ʧi˜niŋ] 【名】厳格な人。厳しい人。気難しい人。˜アブジェー　ミ˞ジラ˜シ　キ˞チニン˜　ヤ˞ロー˜ルンダー　ナ˞クラーン˜ダー [˜ʔabuʤeː mi˞ʤira˜ʃi ˜kiᵝʧiniŋ ja˞roː˜rundaː na˞kuraːn˜daː](お祖父さんは珍しい厳格な人であられるから怖いよ)。

キ˞ツァムニ [kiᵝ˞tsamuni] 【名】きつい言葉。厳しい言葉。文句や苦情。苦言。諫め言葉。ウ˞ヤ˜ヌ　キ˞ツァ˜ムニ　ア˞ゾール˜バティ　キ˞ライヤー˜　ナ˞ラン˜ダー　ウ˞ヤ˜ヌ　˞クイ˜ヤー　˞カン˜ヌ　˜クイティ　ア˞ザリブーバ˜　ユー　シゥ˞カナ˜ー [ʔu˞ja˜nu kiᵝ˞tsa˜muni ʔa˞ʤoːru˜bati ki˞raijaː˜ na˞ran˜daː ʔu˞ja˜nu ˞kui˜ja ˞kan˜nukuiti ʔa˞ʤaribuːba˜ juː si̥˞kana˜ː](親が苦言を言われるからとて嫌がってはならないよ。親の声は神の声 < 言葉 > と言われているから、よく聞かなくては)。

キ˞ツァ˜ン [ki˞tsa˜ŋ] 【形】1きつい。厳しい。厳格である。ウ˞ヤ˜ヌ　˜ドゥク　キ˞ツァ˜ティ　ッ˞ファンケー˜ヤ　マ˞ガリティ˜　ヌ˞ビラン˜バン [ʔu˞ja˜nu ˜duku ki˞tsa˜ti f˞faŋkeː˜ja ma˞gariti˜ nu˞biram˜baŋ](親があまりにも厳格だから子供は縮みこまって伸びないよ)。厳格である。˜キツァン [˜ki̥tsaŋ] ともいう。ウ˞ヌ˜　プ˞ソー　サッ˜コー　キ˞ツァ˜ンダー　ター˞ン˜　ナライン　パ˞ラ˜ヌ [ʔu˞nu˜ pu̥˞soː sak˜koː ki̥˞tsa˜ndaː taː˞n˜ naraim pa˞ra˜nu](あの人は非常に厳しいから誰も習いに行かない)。˞ナン˜ゾー　˜キツァー　˞ナー˜ヌ [˞nan˜ʤoː ˜ki̥tsaː ˞naː˜nu](それほど厳しくない)。˜キツァカー　ナ˞ラーサラ˜ヌ [˜ki̥tsakaː na˞raːsara˜nu](厳しかったら人を教えられない < 習わされない >)。2味や色、香りなどが濃厚すぎて不快である。カ˞ザヌ˜　キ˞ツァ˜ヌ　˞ナン˜ゾー　ン˞マーナー˜ヌ [ka˞ʤanu˜ ki˞tsa˜nu ˞nan˜ʤoː ʔm˞maːna˜nu](匂いがきつくて、あまり美味しくない)。˞ナン˜ゾー　˜キツァー　˞ナー˜ヌ [˞nan˜ʤoː ˜kitsaː ˞naː˜nu](あまりきつくない)。˞シンダイ˜　キ˞ツァー˜　ナルン [˞ʃindai˜ ki˞tsaː˜naruŋ](次第にきつくなる)。カ˞ザヌ˜　キ˞ツァー˜　ムノー˞カーヌ [ka˞ʤanu˜ ki˞tsaː˜ muno: ˞kaːnu](匂いのきついものは買わない)。カ˞ザヌ˜　キ˞ツァ˜カー　ッ˞ふァーン　ブリ˜バ [ka˞ʤanu˜ ki˞tsa˜kaː fˆfaːmburi˜ba](匂いがきつかったら食べるなよ < 食べずにいろよ >)。カ˞ザヌ˜　キ˞ツァ˜ヌ　ン˞カーラヌ [ka˞ʤanu˜ ki̥˞tsa˜nu ʔŋ˞kaːranu](匂いがきつくて堪らない < 顔が向けられない >)。カ˞ザヌ˜　キ˞ツァ˜ムノ

ー ˞カウナ [ka˞ʤanu˥ kᵢ˞tsa˥ muno: ˞kauna](匂いのきついのは買うな)。

˞キッ˥カラ [˞kik˥kara] 【名】材木の削り殻。こっぱ(木っ端)。こけら(木屑)。「柿、和名古介良＜こけら＞『和名抄』」の転訛か。˞キーッ˥カラ [˞ki:k˥kara](木っ端。木の削り殻)ともいう。˞キッ˥カラ プ˞サイ˥キー ˥ユー フ˞カ˥シ ˥サー イ˞リリ [˞kik˥kara pᵤ˞sai˥ki: ˥ju: ɸᵤ˞ka˥ʃi ˥sa: ʔi˞riri](木の削りからを拾ってきて湯を沸かして茶を入れなさい＜入れれ＞)。

˞ギッキュー [˞gikkju:] 【名】月給。明治29年の尋常小学校開校以後に標準語から転訛したものであろう。1957年の小学校助教諭の月給は3210円であった。˞ワー ギッキューヤ ギュー˥サ トゥ˞ル˥ワ [˞wa: gikkju:ja gju:˥sa tu˞ru˥wa](君は、月給は幾ら取るか)。˞シューセンゴヌ シンシー˥ヌ ˞ギッキューヤ ヒャ˥ク ハ˞チジュー˥エン、 サ˞ケー イッ˥ス ˞ヒャ˥ク ハ˞チジュー˥エン ˞ヤッタ˥ ツォー [˞ʃu:ʃeŋgonu ˞ʃiŋʃi:˥nu ˞gikkju:ja ça˥ku ha˞tʃiʤu:˥eŋ, sa˞ki ʔis˥su ˞ça˥ku ha˞tʃiʤu:˥eŋ ˞jat˥tatso:](終戦後の先生の月給は百八十円、酒一升が百八十円だったそうだ)。˞ギッキュー˥ トゥ˞リ˥プス ナリ˞ヨー [˞gikkju:˥ tu˞ri˥pᵤsu nari˞jo:](月給取り＜月給取人＞になりなさいねえ)。

キッ˞サ [kis˞sa] 【副】既に。キ˞サ [ki˞sa](既に)の強調表現。ウ˞レー˥ キッ˞サ˥ ッ˞ふァイティ˥ シケール [ʔu˞re:˥ kis˞sa˥ f˞faitiru˥ ʃᵢke:ru](それはとっくに食べて＜ぞ＞おいてある)。

˞キッ˥ス [˞kis˥su] 【名】競争すること。一生懸命に励むこと。努力すること。「競う」の義。シ˞トゥム˥テーラ ユネン˞バー˥キ ˥シマズーヌ プ˞ソー キッ˥ス ˞シェー˥ティ ˞イー˥シ トゥ˞ローッ˥タ [ʃ。i˞tumu˥te:ra junem˞ba:˥ki ˥ʃimaʤu:nu pᵤ˞so: kis˥su ˞ʃe:˥ti ˞ʔi:˥ʃi tu˞ro:t˥ta](朝から夕方まで島中の人は競争してツノマタ＜角叉＞を採取された)。

˞キッツァー˥スン [˞kittsa:˥suŋ] 【他動】蹴り散らす。蹴りまくる。蹴り合いをする。キ˞リッツァー˥スン [ki˞rittsa:˥suŋ](蹴り散らす)ともいう。˞ンー˥マー ˥アウカー ˥アトゥパンシ ˞キッツァー˥スン [˞ʔm:˥ma: ˥ʔauka: ˥ʔatupaŋʃi ˞kittsa:˥suŋ](馬は喧嘩すると後足で蹴りまくる)。

ギッ˞ティ [git˞ti] 【副】1ぎゅっと。力をこめて、締めたり握ったりするさま。ギッ˞ティ˥ フ˞バリ [git˞ti˥ ɸu˞bari](ぎゅっと強く縛れ)。˥バー ˞ティー˥バ ギッ˞ティ˥ カ˞サミティ˥ パ˞ナサ˥ヌ [˥ba: ˞ti:˥ba git˞ti˥ kᵤ˞samiti˥ pa˞nasa˥nu](私の手をぎゅっと掴んで放さない)。ギッ˞ティ˥ カ˞サミティ パンツァスナ [git˞ti˥ kᵤ˞samiti pantsasuna](ぎゅっと掴んで離すな)。2じっと。動かずにいるさま。ギッ˞ティ˥ ス˞ク˥マリティ ˞ウーカ˥ヌ [git˞ti˥ sᵤ˞ku˥mariti ˞ʔu:ka˥nu](じっとすくまって＜竦(スクマ)って。うずくまって＞動かない)。

˞キットゥ [˞kittu] 【副】きっと。必ず。確実に。しっかり。歌謡語。/イヤイヤ ユタカナルユヌ シルシサミエー アミヤ トゥカグシ カジヤ シジカニ シクリムジクイ マンサク ソーリバ イヒンカタトゥキ ユダンヤ ナランサ キットゥ キバリヨ ニセタ ウムシルムヌサミ ナマヌ パヤシニ クドゥキ ユミユミ/(いよいよ＜弥々＞、豊かなる世＜豊年＞の兆候だ。雨は十日越しに降り、風は静かに吹いて、作物は満作＜豊作＞するので、少しも片時も油断は出来ないものだ。きっと＜しっかり＞気張れよ、若者たちよ。愉快ではないか。ただ今の囃子に口説きを歌おうよ)。

キッ˥トゥ [kit˞tu] 【副】きっと(屹度)。必ずや。しっかり。話者の、相手に対する要望が強いことを表現する。/～イヒン カタトゥキ ユダンヤ ナランサ キットゥ キバリヨ ニセタ～/(～少しも片時も油断はならないものだ。しっかり＜屹度＞気張れよ若者たちよ)「鳩間口説」『鳩間島古典民謡古謡集』。

˞キットゥー [˞kittu:] 【名】毛布。「毛糸」の転訛したものか。イ˞ツォーン˥プソー ˞キットゥー˥シ イ˞ソーキン サーソー˥リ キ˞ソーッタ˥ヌ イッ˞ケン ヌッ˥サタン [ʔi˞tso:m˥pᵤso: ˞kittu:˥ʃi ʔi˞so:kin sa:so:tta˥nu ʔik˞ken nus˥sataŋ](糸満漁師は毛布で漁に出るときの着物を作られたが非常に温かった)。

˞キットゥー [˞kittu:] 【名】血統。血筋。˞タックイ [˞takkui](血統。DNA)ともいう。˞ウン˥ネーヤ ˞チョーミーヌ キットゥー [˞ʔun˥ne:ja ˞ʧo:mi:nu kittu:](あの家は長寿の血統だ)。血筋。˞キットゥーヌ カイ˥ヤル ˥ヤーラ シ˞ラ˥ベーティ ユ˞メー˥ クイ˞オーッ˥タ [˞kittu:nu kai˥jaru ˥ja:ra ʃi˞ra˥be:ti ju˞me:˥ kui˞o:t˥ta](血統の素晴らしい＜美しい＞家から、調べて嫁をもらわれた＜乞われた＞)。

˞キッ˥トゥー [˞kit˥tu:] 【名】毛布。近代以後の借用語。「ブランケット(blanket)」の「ケット」(毛布)の転訛したもの。˞ピー˥ヤティ ウ˞ズ˥ヌ ッ˞サンター˥ラ ˞キットゥーバ˥ カビティル ニ˞ブタル [˞pi:˥jati ʔu˞ʤu˥nu s˞santa:˥ra ˞kittu:ba˥ kabitiru ni˞butaru](寒いので布団の下から毛布を被って寝た

ものだよ)。

˞キットゥバ˜スン [˞kittuba˜suŋ] 【他動】蹴飛ばす。蹴って飛ばす。キ˞リットゥバ˜スン [ki˞rittuba˜suŋ](蹴飛ばす) ともいう。˞キットゥバスン˜カティ　ウ˞ムータン˜ドゥ　˞キットゥバサラン˜シェン [˞kit-tubasuŋ˜kati ʔu˞muːtan˜du ˞kittubasaraŋ˜ʃeŋ](蹴飛ばそうかと思ったが、蹴飛ばされなかった)。˞キットゥバ˜シ　˜ミサカー　˞キットゥバ˜ス　˜クトー　˜ナルン [˞kittuba˜ʃi ˜misakaː ˞kittuba˜su ˜kuto: ˜naruŋ](蹴飛ばしてよければ、蹴飛ばすことはできる)。˞マー˜ビン　˞キットゥ˜バシェー　˜ミサムヌ [˞maː˜biŋ ˞kittuba˜ʃeː ˜misamunu](もっと蹴飛ばせばいいのに)。˞パー˜ク　˞キットゥバ˜シ [˞paː˜ku ˞kittuba˜ʃi](早く蹴飛ばせ)。

˞キッパイ [˞kippai] 【名】様子。人のなりふり。人のそぶり。身のこなし。人の容姿。「気配」の転訛したものか。ウ˞リヌ　キッパイ˜　ミ˞リバ˜ル　˜メー　バ˞カヤ˜ヌ　ナ˞ラン˜シェン [ʔu˞rinu kippai˜ mi˞riba˜ru ˜meː ba˞kaja˜nu na˞raŋ˜ʃeŋ](その人のそぶりを見ていると、もうどうにも可笑しくてたまらなかったよ)。ウ˞リヌ　キッパイ˜　ミ˞リバ˜ル　˞サッ˜コー　バ˞カ˜ヤー˞ツォー [ʔu˞rinu kippai˜ mi ˞riba˜ru ˞sak˜koː ba˞ka˜ja˞tsoː](あの人の様子を見ると非常に滑稽 < おかしい > なんだよ)。

˞キッ˜プ [˞kip˜pu] 【名】切符。乗船切符。標準語からの借用語。戦前は直接に運賃を払って乗船していた。戦争中に切符が使われるようになり、昭和四十年代ごろから切符が使用されだした。˞ウンパンシン˜ヌ　˞キッ˜プ　˞カイティ　イ˞サンケーパッ˜タ [˞ʔumpaŋʃin˜nu ˞kip˜pu ˞kaiti˜ ʔi˞saŋkeː pat ˜ta](運搬船の切符を買って石垣島へ行った)。

キ˞ティン [ki̥˞tiŋ] 【名】機転。機知。頓知。標準語からの借用語。カ˞レー˜　キ˞ティンヌ˜　アルユンダ　˞チャー˜　イ˞ザリヌンガール　タン˜ガー　˞シー　アー˜ク [ʔu˞reː˜ ki̥˞tinnu˜ ʔarujunda ˞ʧaː˜ ʔi˞ʤarinuŋgaːru taŋ˜gaː ˞ʃiː ʔaː˜ku](彼は機転が利く < ある > から、いつも叱られ逃れ < 言われ逃れ > ばかりしている)。気が利くこと。時に応じて正しい判断が出来ること。標準語からの転訛。ウ˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　キ˞ティンヌ˜　スクンダ　ウ˞ヤ˜カターラン　˞シンヨー˜　シ˞ラリ　ブン [ʔu˞nu˜ f˞faː˜ ki̥˞tinnu˜ su̥kunda ʔu˞ja˜kataːraŋ ˞ʃiŋjoː˜ ʃi˞rari buŋ](この子は機転が利くから親方からも信用されている)。

キ˞トー [kitoː] 【名】祈祷。お祓い。標準語からの借用語。普通は、ウ˞ハ˜ライ [ʔu˞ha˜rai](お祓い)、˞ヤー˜ザライ [˞jaː˜ʤarai](お祓い。「家浚え」の義) ともいう。˞スー˜ヌ　˜パナ　フ˞ミ˜キー　˜マキ　˞マー˜ス　˞パン˜キティ　˞ヤー˜ヌ　キ˞トー　シー˜バ [˞suː˜ nu ˜pana ɸu˞mi˜kiː ˜maki ˞maː˜su ˞paŋ˜kiti ˞jaː˜nu ki̥ ˞toː ʃiː˜ba](人が足を踏み入れないときの海水 < 潮の花 > を汲んできて撒き、塩を撒いて家の祈祷 < お祓い > をしなさい < せよ >)。

キ˞ドゥ [ki˞du] 【名】親戚関係。血縁関係。血族関係。˞ウン˜ネートー　ヤ˞マシ˜カ　キ˞ドー˜　ヌ˞キルブー [˞ʔun˜neːtoː ja˞maʃi˜ka ki˞doː˜ nu˞kiru buː](その家とは随分親戚関係が隔たって < 遠退いて > いる)。キ˞ドゥ　ヌクン [ki˞du nukuŋ](疎遠になる) ともいう。

キ˞ドゥ　ヌクン [ki˞du nukuŋ] 【連】疎遠になる。間遠になる。訪問することが稀になること。チ˞カ˜グロー　˞ウン˜ネートー　キ˞ドゥ　ヌキル　ブー˜ツォー [ʧi̥˞ka˜guroː ˞ʔun˜neːtoː ki˞du nukiru buː˜ tsoː](近頃はあの家とは疎遠になっているそうだ)。

キ˞ドゥヌ˜　ムヌ [ki˞dunu˜ munu] 【連】魔物。「外道の者」の転訛か。マ˞ドゥヌ˜　ムヌ [ma˞dunu˜ munu](魔道の者) の対語として用いられる。普通、供養する人のいない死者の霊がさ迷い出て人間に祟ると信じられている。祟りをもたらす霊をマ˞ドゥヌ˜ムヌ (魔道のもの)　キ˞ドゥヌ˜ムヌ (外道のもの) という。お盆の仏壇に食事を供える前にミ˞ジヌ˜クーを撒くのは、マ˞ドゥヌ˜ムヌ　キ˞ドゥヌ˜ムヌへのお布施といわれている。

キ˞ナー˜ン [ki˞naː˜ŋ] 【形】疎ましい。嫌らしい。貧しい。シ˞ラカタチ˜ン　キ˞ナー˜ンティ　イ˞ザリティ˜　ナ˞キベー [ʃi˞rakata˜ʧiŋ ki˞naː˜nti ʔi˞ʤariti˜ na ˞kibeː](容貌 < 顔形 > からして嫌らしいと叱られて泣いている)。˜ドゥク　キ˞ナー˜ティ　ウ˞リンマー˜　タ˞ナマン˜シェン [˜duku ki˞naː˜ti ʔu˞rimmaː˜ ta˞namaŋ˜ʃeŋ](あまりにも嫌らしいので、その人には頼まなかった)。

キ˞ナイ [ki˞nai] 【名】 [1]˞Qenai. ケナイ (家内)Iyeno Vchi(家の内) 家族, または, 家中の人々.」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。キ˞ナイヌ˜　ドゥーパダニンガイヤ　˞ソー˜レーンカヤー [ki˞nainu˜ duː-padaningaija ˞soː˜reːŋkajaː](家族の健康祈願はなされたかねえ)。キ˞ナイムティ　ゾー˜ジ [ki˞naimuti ʤoː˜ʤi](家庭経営 < 家庭持ち > が上手だ)。キ˞ナイヤー　ヌー˜シ　ム˞タバ˜ル　˜ミサカヤー [ki˞naijaː nuː˜ʃi mu˞taba˜ru ˜misakajaː](家庭は如何に運営した < 持ったら > らよいのだろうか)。[2]家庭。世帯。

一家中。家庭。所帯。一家。「家内」の義。キ˞ナイムティ˥プス [ki˞naimuti˥pu̥su](所帯持ち。家庭持ち)。キ˞ナイ　カイ˥ヤー　ユ˞ミヌ　ッふァー˥ラーティル　ム˞カ˥シムネー　˥アル [ki˞nai kai˥ja: ju˞minu ffa:˥ratiru mu˞ka˥ʃimune: ˥ʔaru](家庭が立派に＜美しく＞経営されるには先ず嫁子の態度から始まると先賢＜昔＞の言葉にある)。

˥キナイ [˥kinai] 【名】キニーネ。マラリアの特効薬。厚さ約 2 ミリ、直径約 3 ミリの円形の黄色い錠剤。これを服用すると顔の色もだんだん黄色になった。戦後米軍の八重山民政府から支給された。˥キナイ　˥ヌムカー　マ˞ラリ˥ア　カ˞カラン˥シェン [˥kinai ˥numuka: ma˞rari˥a ka˞karaŋ˥ʃeŋ](キニーネを飲むとマラリアに罹らなかった)。マ˞ラリ˥ヤナー　キ˞ナイ˥ル　イッ˞ケナ˥　ス˞クタト ダー [ma˞rari˥jana: ki˞nai˥ru ʔik˞kena˥ su̥˞kutaɻ-da:](マラリアにはキニーネという薬がよく効いたものだよ)。

キ˞ナイカージ [ki˞naika:ʤi] 【連】家庭毎。各家。「家内数」の転訛したもの。キ˞ナイカージ˥ラ　グ˞サーク˥マイ　ン˞ザ˥ソーッタン [ki˞naika:ʤi˥ra gu˞sa:ku ˥mai ʔn˞ʤa˥so:ttaŋ](各家庭から供物の五勺米を出された)。

キ˞ナイズー [ki˞naiʤu:] 【名】家族全員。家族中。˞キナイズーヌ˥　ドゥーパダニンガイ　˞ソー˥ルン [ki ˞naiʤu:nu˥ du:padaniŋgai ˞so:˥ruŋ](家族全員の健康祈願をなさる)。

キ˞ナイダティ [ki˞naidati] 【名】分家して独立すること。「家内立て」の義。˥ニービキ　˞シェー˥チバ　キ˞ナイダティ˥　シ˞ミラン˥カー　ナ˞ラ˥ヌ [˥ni:biki ˞ʃe:˥ʧiba ki˞naidati˥ ʃi˞miraŋ˥ka: na˞ra˥nu](結婚したから分家して独立させないといけない)。

キ˞ナイドング [ki˞naidoŋgu] 【名】家財道具。家具。「家内道具」の義。キ˞ナイドンゴー˥　ス˞ロー˥シティル　˞ヤーバカ˥リ　˞スー˥ダー [ki˞naidoŋgo:˥ su˞ro:˥ʃitiru ˞ja:baka˥ri ˞su:˥da:](家具類を揃えてから分家＜家別れ＞するのだよ)。

キ˞ナイニン˥ズ [ki˞nainin˥ʤu] 【名】家族。「家内人数」の義。˞ヤーニン˥ズ [˞ja:nin˥ʤu](家族。家人数) ともいう。キ˞ナイニン˥ズー　˥ビーン　˥サビーン　シ˞キ˥シミ　タ˞ボーラン˥スクニ　カ˞ルイ˥シキ　タ˞ボー˥ローリ [ki˞nainin˥ʤu: ˥bi:n ˥sabi:ŋ ʃi̥˞ki˥ʃimi ta˞bo:ran˥sukuni ka˞ruiʃi̥ki ta˞bo:˥ro:ri](家族一同に災いも不幸も＜水垢も錆びも＞与え給わらないで＜付け給わらないで＞健康と幸福を予祝＜嘉例付け＞して下さい＜給われ＞)。

キ˞ナイニンズー [ki˞nainindʤu:] 【名】家族一同。家族全員。歌謡語。「家内人数」の転訛したもの。˞ヤーニン˥ズー [˞ja:nin˥ʤu:](家族。「家人数」の義) と言うのが普通。キ˞ナイニンズー˥　ムー˞ル˥　ミサンミー [ki˞nainindʤu:˥ mu:˞ru˥ misammi:](家族全員元気＜良い＞でしょうね)。フ˞コーラサ˥　ウ˞カ˥ギシ　キ˞ナイニンズー˥　ミサナリ　˞アー˥クン˞ダー [ɸu̥˞ko:rasa˥ ʔu˞ka˥giʃi ˞kinainindʤu:˥ misanari ˞ʔa:˥kun˞da:](有難う。お陰で家族全員元気で暮らしている＜あるく＞よ)。

キ˞ナイムチ [ki˞naimuʧi] 【名】家庭持ち。家庭経営。家計の維持。家庭の切り盛り。キ˞ナイムチ˥　ヤ˞ルンダ　ンーナパタラケー˥　ナラヌ [ki˞naimuʧi ˥ja˞runda ʔn:napatarake:˥ na˞ra˥nu](家庭持ちだから、ただ働き＜空働(ムナハタラキ)＞は出来ない)。

キ˞ナイムチ˥ザク [ki˞naimuʧi˥ʤaku] 【名】家庭を持つ時期。結婚適齢期。ミ˞ドーン˥ッふァーヤ　キ˞ナイムチ˥ザク　ナ˞リ˥ブーバ　˞パー˥ク　˥ドゥー　ム˞タ˥シ [mi˞do:ŋ˥ffa:ja ki˞naimuti˥ʤaku na˞ri˥bu:ba ˞pa:˥ku ˥du: mu˞ta˥ʃi](女の子は家庭を持つ時期＜結婚適齢期＞になっているので、早く結婚させ＜胴を持たせ＞なさい)。家庭を持つ時期。所帯を持つ時期。結婚適齢期。年頃。˞ウン˥ネヌッ˞ふァー˥　キ˞ナイムチ˥ザク　ナ˞リ˥ブバン [˞ʔun˥nenu f˞fa:˥ ki˞naimuʧi˥ʤaku na˞ri˥bubaŋ](その家の子供は家庭を持つ時期＜結婚適齢期＞になっているワイ)。

キ˞ナイムチゾー˥ジ [ki˞naimuʧiʤo:˥ʤi] 【名】家庭持ち上手。家庭の切り盛り上手。家庭経営上手。家計の遣り繰り上手。トゥ˞ジェー˥　キ˞ナイムチゾー˥ジ　ヤ˞ルンダ　ソーヤ　ナー˥ヌ [tu˞ʤe:˥ ki ˞naimuʧiʤo:˥ʤi ja˞runda so:ja na:˥nu](妻は家庭経営上手だから心配はない)。

キ˞ナイ˥　ムトゥン [ki˞nai˥ mutuŋ] 【連】家庭を持つ。所帯を持つ。分家して独立する。˞エン˥マー　˞ヤー˥ユン　ス˞ク˥リティ　˞ドゥー˥ヌ　キ˞ナイ˥　ムトゥンティ　˞カン˥ガイ　˞ベー [˞jem˥ma: ˞ja:˥jun su̥˞ku˥riti ˞du:˥nu ki˞nai˥ mutunti ˞kaŋ˥gai ˞be:](来年は家も新築して自分の家庭を持とうと考えている)。

キ˞ナイムンドー [ki˞naimundo:] 【名】家内騒動。家庭内の喧嘩。「家内問答」の義。普通は、˞ヤームン˥ドー [˞ja:mun˥do:](家庭問答＜喧嘩＞) という。トゥ˞ジヌ˥　ア˞サ˥ニベー　キ˞ナイムンドー˥ヌ　˥ムトゥティ　ア˞ザリ　ブー [tu˞ʤinu˥ ʔa˞sa˥nibe: ki˞naimundo:˥nu ˥mututi ʔa˞ʤari bu:](妻の朝寝坊は家

内騒動＜家内喧嘩＞の元と言われている)。

キ˞ナッ˺ふァ [ki˞naf˞fa] 【名】嫌われている子。憎まれっ子。マ˞マウヤン˺　キ˞ナッ˺ふァ　シ˞ラリティ˺　イッ˞ケン˺　ク˞チ˺サタン [ma˞maʔujaŋ˺ ki˞naf˞fa ʃi˞rariti˺ ʔik˞keŋ˺ kʉ˞ʧi˺sataŋ](まま親＜継母＞に憎まれっ子にされて、非常に苦しかった)。憎まれっ子。嫌われている子。疎んぜられている子。キ˞ムイ˺ツァー　˺アイニ　キ˞ナッふァ　シラリ˺　イ˞ナムヌ˺ダラ [ki˞mui˺tsa: ˺ʔaini ki˞naffa ʃirari˺ ʔi˞namunu˺dara](可哀相に、あんなに憎まれっ子になって、残念だよ)。

キ˞ナマリ [ki˞namari] 【名】生まれつきの憎まれっ子。うまれつき人に嫌われる性格。˞ニッふァマリ [˞niffamari](うまれつきの憎まれっ子) ともいう。キ˞ナマリ　シール˺　アイ˞ブー˺ユー　ム˞ニヌ˺ル˞サッ˺コー　ヤ˞ニ˺ヤ˞ツォー [ki˞namari ʃi:ru˺ ʔai˞bu:˺ju: mu˞ninu˺ru ˞sak˺ko: ja˞ni˺ja˞tso:](憎まれっ子に生まれ付いているからあんなだろうか、言葉遣いがあまりにも汚いのですよ)。

キ˞ナ˺ムニ [ki˞na˺muni] 【名】憎まれ口。にくていぐち (憎体口)。憎憎しい物言い。嫌な言葉。˞ワー˺　ヌンティ　ワ˞ザットゥ˺　キ˞ナムニ˺バ　カー˞ニ˺　イ˞ズワト ツォー [˞wa:˺ nunti wa˞ʤattu˺ ki˞namuni˺ba ka:˞ni˺ ʔi˞ʤuwaɻtso:](君は何故にわざと憎まれ口だけをいうのか。疑問の終助詞 o: の前の下がり目のアクセントは中段階まで下がる。低段階まで下がると、伝聞の終助詞˺o:<～だそうだ＞となる)。

˺キニー [˺kini:] 【名】十干の甲、乙 (木の兄。木の弟)。十干の第一と第二。˞ピューロー˺　キニーナール　˺トゥリ　˺シケー [˞pju:ro:˺ kini:na:ru ˺turi ˺ʃi̥ke:](行事の日和は十干の甲、乙＜キノエ、キノト＞の日にとってある)。

キ˞ヌン [ki˞nuŋ] 【他動】駄々を捏ねて責めたてる。ごねる。ごねて困らせる。分別のない子供が母親にものをせがんで責めたてる。物をねだって母親の着物の裾を引っ張って泣き喚いて困らせる。沖縄古語「けぎ・うける」(かき混ぜる)『沖縄古語大辞典』の転訛したものか。この語には、愛児に責めたてられて困惑しきった母親の気持ちが感じられる。ク˞ヌ˺　ッ˞ふァー˺　プ˞ス˺　キ˞ヌン˺ダー [ku˞nu˺ f˞fa:˺ pʉ˞su˺ ki˞nun˺da:](この子は駄々を捏ねて他人を責めたてるよ)。ア˞ラキン　カイ˺　ッ˞ふィーラン˺ナーティ　˞シー˺　アイニ　プ˞ス˺　キ˞ヌト ツォー [ʔa˞rakiŋ kai˺ f˞fi:ran˺na:ti ˞ʃi:˺ ʔaini pʉ˞su˺ ki˞nuɻtso:](新しい着物を買ってくれよといって、あのように人＜私＞を責めたてるんですよ)。無理にねだる。地団太踏んでせがむ。子供がものをねだって責め立てる。子供が我儘を言ってものを要求し困らせる。˞コー˺シ　˞カイ　ファーサン˺カティ　˞シー˺　ウ˞リン˺　キ˞ナリ˺　ムヌ　ウ˞モーラ˺ヌ [˞ko:˺ʃi ˞kai fa:saŋ˺kati ˞ʃi:˺ ʔu˞riŋ˺ ki˞nari˺ munu ʔu˞mo:ra˺nu](お菓子を買って食べさせろといって、子供に地団太踏んでせがまれて、堪らない＜困り果てて、何も考えられない＞)。プ˞ス˺　キ˞ヌン [pʉ˞su˺ ki˞nuŋ](他人に無理にねだる。他人を責め立てる)。ク˞リヌ˺　プ˞ス˺　キ˞ネー˺ラ　トゥ˞マラヌ [ku˞rinu˺ pʉ˞su˺ ki˞ne:˺ra tu˞maranu](この子が親＜他人＞に地団太踏んでせがんだら止まらない)。

˺キノー [˺kino:] 【名】昨日。キ˞ノー˺ル　ウ˞キ˺ナーラ　˞クー˺タ [ki˞no:˺ru ʔu˞ki˺na:ra ˞ku:ta˺ru](昨日＜ぞ＞沖縄から来たよ)。シ˞グトー˺　キ˞ノー˺ヌ　ウ˞チ˺ナー　トゥ˞ズ˺ミ　˺シケーン [ʃi˞guto:˺ ki˞no: ˺nu ʔu˞ʧi˺na: tu˞ʤu˺mi˺ʃi̥ke:ŋ](仕事は昨日のうちに完了＜閉めて＞してある)。キ˞ノー˺ヌ　˞ヨイ˺ヤー　˞ヌー˺シ　˞ヤッター˺カヤー [ki˞no:˺nu ˞joi˺ja: ˞nu:˺ʃi ˞jatta˺kaja:](昨日のお祝いはどうだったかねえ)。

˺キノーキュー [˺kino:kju:] 【名】昨日今日。昨今。最近。ク˞ヌ˺　クトー　˺キノーキューヌ　パ˞ナ˺シェー　ア˞ラ˺ヌ [ku˞nu˺ kʉto: ˺kino:kju:nu pa˞na˺ʃe: ʔa˞ra˺nu](このことは昨日今日＜昨今＞の話ではない)。

キ˞ノー˺ヌ　˺ユー [ki˞no:˺nu ˺ju:] 【連】一昨夜。「昨日の夜」の義。キ˞ノー˺ヌ　˺ユーラ　ユビ˞バー˺キ　カ˞ジェー˺　フ˞キトゥーシ˺ブタ [ki˞no:˺nu ˺ju:ra jubi˞ba:˺ki ka˞ʤe:˺ ɸʉ˞kitu:ʃi˺buta](一昨夜から昨夜まで台風＜風＞は吹き続けて＜吹き通して＞いた)。

キノー˞ブシ˺トゥイ [kino:˞buʃi̥˺tui] 【名】昨日一昨日。一昨日。昨今。先日。キノー˞ブシ˺トゥイラ　ニ˞チ˺ヌ　˺ンジティ　シ˞グトー˺　パ˞ララン˺バン [˺kino: ˞buʃi̥˺tuira ni˞ʧi˺nu ˺ʔnʤiti ʃi˞guto:˺ pa˞raram˺baŋ](昨日一昨日から熱が出て仕事に出られないワイ)。

キ˞バナー˺ン [ki˞bana:˺ŋ] 【形】貧しい。貧乏である。キ˞バラー˺ン [ki˞bara:˺ŋ](貧しい) ともいう。˞ウン˺ネーヤ　ム˞カ˺シェー　˞ファイムヌン　ナー˺ン　˺ピールボール　˞シー˺　キ˞バナー˺タン [˞ʔun˺ne:ja mu˞ka˺ʃe: ˞faimunun na:˺m ˺pi:ribo:ru ˞ʃi:˺ ki˞bana:˺

taŋ](その家は、昔は食べ物もなく、冷え冷えとして貧しかった)。キ˞バナー˜　ナリ　˞ナー˜ヌ [ki˞bana:˜ nari ˞na:˜nu](貧しくなってしまった)。キ˞バナー˜ル　˜ヤーナ　マ˞リ [ki˞bana:˜ru ˜ja:na ma˞ri](貧しい家に生まれて)。マ˞ナ˜マン　イッ˞ケナ˜　キ˞バナー˜ン [ma˞na˜maŋ ʔik˞kena˜ ki˞bana:˜ŋ](今も非常に貧しい。極貧である。ひどく貧しい)。キ˞バナー˜カー [ki˞bana:˜ka:](貧しかったら)。

˜キビ [˜kibi] 【名】 (動) 魚の名。カタクチイワシ科。和名、ミズスルル (体長約 10 センチ)。

キ˞ビッ˜サン [ki˞bis˜saŋ] 【形】1厳しい。厳格である。ビ˞ケーヌ˜ウヤー　キ˞ビッ˜サンティ　ス˞クタンドゥ　ナン˜ゾー　キ˞ビッサ　ナー˜ヌ [bi˞ke:˜nuʔuja: ki˞bis˜santi sṵ˞kutandu nan˜ʤo: ki˞bissa na:˜nu](父親は厳しいと聞いたが、それほど厳しくない)。ウ˞ヤ˜ヌ　キ˞ビッサ˜ヌ　キ˞ビッ˜サ　プ˞ストー˜　ブ˞ララヌ [ʔu˞ja˜nu ki˞bissa˜nu ki˞bis˜sa pṵ˞suto:˜ bu˞raranu](親が厳しくて。厳しい人とは居れない)。˜ドゥク　キ˞ビッ˜サカー　˞サン　ブリ˜バ [˜duku ki˞bis˜saka: ˞samburi˜ba](あまり厳しいようだったらするなよ＜しないでいろよ＞)。2酷(ヒド)い。苦しい。ム˞カシ˜ヌ　ク˞ラシェー˜　キ˞ビッ˜サタン [mu˞kasi˜nu ku˞raʃe:˜ ki˞bis˜sataŋ](昔の暮らしは酷かった＜苦しかった＞)。

キ˞フー [kḭ˞ɸu:] 【名】水蒸気。湯気。キ˞フーヌ˜　ンジ˞ベー [kḭ˞ɸu:nu˜ ʔnʤi˞be:](湯気が出ている)。˞スーヌ˜　フ˞トゥッ˜ツカー　キ˞フーヌ˜　ン˞ジ˜ルン [˞su:˜nu ɸṵ˞tut˜tsuka: kḭ˞ɸu:nu˜ ʔn˞ʤi˜ruŋ](お汁が沸騰したら湯気が出る)。

キ˞ブ˜ラ [ki˞bu˜ra] 【名】生い茂りすぎた樹木の枝。辺りが薄暗くなるほど繁茂した樹木の枝。垂れ下がった木々の枝。˞ゾー˜ヌ　ガ˞ジマル˜ヌ　キ˞ブ˜ラー　ア˞マ˜チ　ウ˞タ˜シバ [˞ʤo:˜nu ga˞ʤimaru˜nu ki˞bu˜ra: ʔa˞ma˜ʧi ʔu˞ta˜ʃiba](門の外の垂れ下がったガジマルの下枝は切り落とし＜枝きり。剪定＞しなさいよ)。

キ˞ブ˜ル [ki˞bu˜ru] 【助数】軒。家を数える語。「煙、気夫利＜けぶり＞」『華厳音義私記』の転訛。「炊事の煙」を表すことから転じて戸数を数える助数詞となったもの。プ˞スキブ˜ル [pṵ˞sukibu˜ru](一軒)。フ˞タキブル [ɸṵ˞takiburu](二軒)、˞ミーキブル [˞mi:k-iburu](三軒)。˞ユーキブル [˞ju:kibiru](四軒)。イ˞チキブ˜ル [ʔi˞ʧikibu˜ru](五軒)。˞ムーキブル [˞mu:k-iburu](六軒)。ナ˞ナキブ˜ル [na˞nakibu˜ru](七軒)。˞ヤーキブル [˞ja:kiburu](八軒)。ク˞ヌキブ˜ル [ku˞nukibu˜ru](九軒)。˞トゥーキブル [˞tu:kiburu](十軒)。キ˞ブルカージヌ　ヤーニン˜ゾー　ギュ˞タールナー　オー˜ルユー　ユミ˞ミー [ki˞buruka:ʤinu ja:nin˜ʤo: gju˞ta:runa: ʔo:˜ruju: jumi˞mi:](各戸＜煙数＞の家族は何人ずつ居られるか、数えてごらん)。

キ˞ブン [ki˞buŋ] 【名】気分。機嫌。気持ち。感情。˞キュー˜ヤ　˞オーシキン　カイ˜ヤー　ア˞ロール˜ヌ　˜アブジェー　キ˞ブンマー　ヌー˜シ　ヤ˞ロー˜ルカヤー [˞kju:˜ja ˞ʔo:ʃikiŋ kai˜ja: ʔa˞ro:ru˜nu ˜ʔabuʤe: ki˞bumma: nu:˜ʃi ja˞ro:˜rukaja](今日は天気もよろしゅうございますが、お祖父さんのご気分はいかがでしょうか)。

キ˞ボーシ [ki˞bo:ʃi] 【名】煙。「烟、介布利『最勝王経音義』」の義。[keburi] → [kibuʃi] → [kibo:ʃi] と音韻変化したもの。狭母音に挟まれた国語の˞～uri」、「～iru」のような音声環境の [r] は、鳩間方言では˞～usi」のように変化する音韻法則がある。キ˞ボーシ˜　フ˞チ˜マリティ　˞キーボー˜ヌ　ナ˞ラ˜ヌ [ki˞bo:ʃi˜ ɸṵ˞ʧi˜mariti ˞ki:bo:˜nu na˞ra˜nu](煙がくすぶって煙たくてたまらない)。キ˞ボーシ　フ˞チ˜マルン [ki˞bo:ʃi˜ ɸṵ˞ʧi˜maruŋ](煙が盛んに出てくすぶる＜燻る＞)。「烟、介布利『倭名類聚鈔』。煙、気夫利＜けぶり＞『華厳音義私記』。＜けむり＞の古形」の転訛。キ˞ボーシ˜　フ˞チ˜マルン [ki˞bo:ʃi˜ ɸṵ˞ʧi˜maruŋ](薪などが湿って、よく燃えずに煙が出てくすぶる＜燻る＞)。カ˞マチェーラ˜　キ˞ボーシヌ˜　ンジティ　˞ティン˜ゾー　˞マールンダ˜　ッ˞サー˜ロー　˞ペーラ˜ヌ [ka˞maʧe:ra˜ ki˞bo:ʃinu˜ ʔnʤiti ˞tin˜ʤo: ˞ma:runda˜ s˞sa:˜ro: ˞pe:ra˜nu](竈から煙が出て天井へ回るから白蟻は入らない)。

キ˞ボーシアミ [ki˞bo:ʃiʔami] 【名】ぬかあめ (糠雨)。こぬかあめ。きりさめ (霧雨)。「煙雨」の義。シ˞トゥム˜テーラ　キ˞ボーシアミヌ˜　フイティ　ダッ˞カティ　ゾーリナー˜ヌ [ʃḭ˞tumu˜te:ra ki˞bo:ʃiʔaminu˜ ɸuiti dak˞kati ʤo:rina:˜nu](今朝から霧雨が降って、びっしょりと濡れてしまった)。ウ˞ル˜ズンナー　˜ユー　キ˞ボーシアミヌ　フー˜タン [ʔu˞ru˜ʤunna: ˜ju: ki˞bo:ʃiaminu ɸu:˜taŋ](晩春にはよく霧雨＜糠雨＞が降った)。

キ˞ボーシカザ [ki˞bo:ʃikaʤa] 【名】燻した匂い。いぶる＜燻る＞匂い。くすぶる＜燻る＞匂い。「煙の臭い」の義。キ˞ボシカザヌ　スーヌ˜　マナール　˞ピー˜ヤ　˞ムイ　ベー˜カヤー [ki˞bo:ʃikaʤanu

su:nu˥ mana:ru ˞pi:˥ja ˞mui be:˥kaja:](煙の臭いがするが、どこで火は燃えているのだろうか)。

キ˞ボーシヌ˥　ミー [ki˞bo:ʃinu˥ mi:] 【連】煙突。「煙の穴」の転訛したもの。カ˞マチェー˥　キ˞ボーシヌ˥　ミー　ス˞クラン˥カー　キ˞ボーシ˥　フ˞チマリ˥ス [ka˞matʃe:˥ ki˞bo:ʃinu˥mi: sṵ˞kuraŋ˥ka: ki˞bo:ʃi˥ ɸṵ˞tʃimari˥su](竈は煙突＜煙の穴＞を作らないと、煙が燻る＜薪が燃えずにくすぶる＞)。

キ˞ママ [ki˞mama] 【名】きまま (気儘)。気儘かって。自由勝手な振る舞い。˥ヌーンクイン　˞ドゥー˥ヌ　˥ウムー　˞トゥー˥ル　キ˞ママニル　シーブ [˥nu:ŋkuin ˞du:˥nu ˥ʔumu: ˞tu:˥ru ki˞mamaniru ʃi:bu](何もかも自分の思う通り、気儘勝手にやっている)。

キ˞マリ [ki˞mari] 【名】決まり。規則。マー˞ン˥ナーン　キ˞マリ˥ティ　˞スームノー˥　ア˞リ˥ブンダ　キ˞マレー˥　マ˞ム˥リバ [ma:˞n˥na:ŋ ki˞mari˥ti ˞su:muno:˥ ʔa˞ri˥bunda ki˞mare:˥ ma˞mu˥riba](何処にも決まりというのはあるから、規則は守れよ)。

キ˞マルン [ki˞maruŋ] 【自動】物事が決まる。決定する。定まる。ク˞リ˥シ　˞スー˥ボー　キ˞マルン˥カヤーティ　ウ˞ムータ˥ヌ　キ˞マランバン [ku˞ri˥ʃi ˞su:˥bo: ki˞maruŋ˥kaja:ti ʔu˞mu:ta˥nu ki˞marambaŋ](これで勝負は決まるだろうかと思ったが、決まらないよ)。˞スー˥ボー　キ˞サーティ˥　キ˞マリ　ブー [˞su:˥bo: kị˞sa:ti˥ ki˞maribu:](勝負は既に決まっている)。プ˞スム˥シシ　キ˞マル˥　クトー　˞ナー˥ヌ [pṵ˞sumu˥ʃiʃi ki˞maru˥ kṵto: ˞na:˥nu](一度で決まることはない)。˞パー˥ク　キ˞マレー˥　ミサムヌ˞ナー [˞pa:˥ku ki˞mare:˥ misamunu˞na:](早く決まればいいのになあ)。˞プール˥ヌ　˞ピューロー˥　キュー˞ズー˥ナ　キ˞マルン [˞pu:ru˥nu ˞pju:ro:˥ kju:ʤu:˥na ki˞maruŋ](豊年祭の日取り＜日程＞は今日中に決まる)。マ˞ダ˥　キ˞マラヌ [ma˞da˥ ki˞maranu](まだ決まらない)。キ˞マリン˥ギサン [ki˞mariŋ˥gisaŋ](決まりそうだ)。キ˞マル˥　クトー　˞ナー˥ヌ [ki˞maru˥ kṵto: ˞na:˥nu](決まることはない)。˥キューズーナ　キ˞マレー˥　ミサムヌ [˥˥kju:ʤu:na ki˞mare:˥ misamunu](今日中に決まればよいのに)。キサー˞ティ˥　キ˞マリ　ナー˥ヌ [kị̈sa:˞ti˥ ki˞mari na:˥nu](既に決まってしまった)。

キ˞ミシキルン [ki˞miʃị̈kiruŋ] 【他動】決め付ける。固く約束する。取り決める。決めておく。˥アイニ　キ˞ミシキランドー˥シ　ッ˞ふァヌ˥　パ˞ナ˥シン　シ˞キ˥バ [˥ʔaini ki˞miʃị̈kirando:˥ʃi f˞fanu˥ pa˞na˥ʃiŋ ʃị̈˞ki˥ba](そんなに決め付けないで子供の話も聞きなさいよ)。キュー˞ズー˥ナ　キ˞ミシキ˥ルンティ　ウムイ˞ベー [˥kju:ʤu:na ki˞miʃị̈ki˥runti ʔumui˞be:](今日中に取り決めよう＜決めておく＞と思っている)。キ˞ミシキ˥ル　˥クトゥ [ki˞miʃiki˥ru ˥kutu](決めておく。約束すること)。キ˞ミシキ˥レー　˥ミサムヌ [ki˞miʃị̈ki˥re: ˥misamunu](取り決めれ＜決めておけ＞ばよいのに)。キ˞ミシ˥キリ [ki˞miʃị̈ki˥ri](取り決めろ＜決めておけ＞)。

キ˞ミスクン [ki˞misṵkuŋ] 【他動】決め付ける。固く約束する。取り決める。ギャ˞ンティ˥　キ˞ミシゥカン˥カー　ナ˞ラ˥ヌ [gjan˞ti˥ ki˞misị̈kaŋ˥ka: na˞ra˥nu](かっちりと取り決めておかないといけない)。キ˞ミ˥シキ　˥ミサン [ki˞mi˥ʃị̈ki ˥misaŋ](取り決めておいてよい)。キ˞ミ˥スクンティ　˥ウムーカー　˞パイ˥サ　キ˞ミ˥シキバ [ki˞misṵkunti ˥ʔumu:ka: ˞pai˥sa ki˞mi˥ʃị̈kiba](決めておこうと思うなら、早く決めておけよ)。キ˞ミ˥シケー　˥ミサムヌ [ki˞mi˥ʃị̈ke: ˥misamunu](決めておけばよいのに)。˞パー˥ク　キ˞ミ˥シキ [˞pa:˥ku ki˞mi˥ʃị̈ki](早く決めておけ)。

キ˞ミルン [ki˞miruŋ] 【他動】決める。決定する。定める。˞ドゥー˥ヌ　˥クトー　˥ドゥーシ　キ˞ミルンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　˞タンガ˥シェー　キ˞ミララヌ [˞du:˥nu ˥kṵto: ˥du:ʃi ki˞mirunti˥ ʔu˞mu:n˥du ˞taŋga˥ʃe: ki˞miraranu](自分のことは自分で決めようと思うが、一人では決められない)。˥ドゥーシ　キ˞ミ˥　ミサカー　キ˞ミル˥　クトー　˥ナルン [˞du:ʃi ki˞mi˥ misaka: ki˞miru˥ kṵto: ˥naruŋ](自分で決めてよければ決めることは出来る)。˞パー˥ク　キ˞ミレー˥　ミサムヌ [˞pa:˥ku ki˞mire:˥ misamunu](早く決めればいいのに)。˥ドゥーシ　キ˞ミリ [˥du:ʃi ki˞miri](自分で決めろ＜決めれ＞)。˞ダイヤー˥ドゥーシ　キ˞ミルンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　˞カッティニ˥　キ˞ミララヌ [˞daija:˥ du:ʃi ki˞mirunti˥ ʔu˞mu:n˥du ˞kattini˥ ki˞miraranu](値段は自分で決めようと思うが、勝手に決められない)。マ˞ナ˥マ　キ˞ミ˥　ミサカー　キ˞ミル˥　クトー　˥ナルン [ma˞na˥ma ki˞mi˥ misaka: ki˞miru˥kṵto: ˥naruŋ](早く決めて良ければ決めることは出来る)。˥ドゥーシ　キ˞ミレー˥　ミサムヌ [˥du:ʃi ki˞mire:˥ misamunu](自分で決めれば良いのに)。˞パー˥ク　キ˞ミリ [˞pa:˥ku ki˞miri](早く決めろ)。

˥キム [˥kimu] 【名】1肝。肝臓。「吾伎毛母　御奈麻須波夜之～＜吾が肝も御膾～＞～。万、3885」の義。˞オー˥ヌ　˥キモー　˞ミース˥トゥ　カ˞ケー˥シ

ティ　ビ˩ラ˥トゥ　イ˩ラ˥クカー　イッ˩ケナ˥　ン˩マー˥ン [˩ʔoː˥nu ˥kimoː ˩miːsu˥tu ka˩keː˥ʃi̥ti bi˩ra˥tu ʔi˩ra˥kukaː ʔik˩kena˥ ʔm˩maː˥ŋ](豚の肝臓は味噌と和えて、韮(ニラ)と煎ると非常に美味しい)。レバー。˩オー˥ヌ　˥キモー　フ˩チ˥ル　ヤ˩ルンダ˥　シジティ　イ˩ラキ˥ムヌ　˩シー˥　ッ˩ふァーシ˥バ [˩ʔoː˥nu ˥kimoː ɸu̥˩ʧi˥ru ja˩runda˥ ʃiʤiti ʔi˩raki˥munu ˩ʃiː˥ f˩faːʃi˥ba](豚の肝臓は薬だから、煎じて炒め物＜炒り物＞にして食べさせなさいよ)。[2]こころ。精神。気持ち。ナー˩イ˥　キ˩ム˥ナー　˥ウムイ　˩ベー [naː˩i˥ ki˩mu˥naː ˥ʔumui ˩beː](じっとこころに思っている)。˩マー˥ヌ　˥キムシ　˥カイブ　ク˩トゥ˥ヌ　シ˩ラリター [˩maː˥nu ˥kimuʃi ˥kaibu ku˩tu˥nu ʃi˩rarita:](どんな気持ちでこんなことがしでかされたのか)。˥キモー　ウ˩ティシゥカ˥シ　˩サー˥ユン　˥ヌミテーラ　トゥ˩クットゥ˥シ　パ˩ナ˥シ [˥kimoː ʔu˩tisi̥ka˥ʃi ˩saː˥jun ˥numiteːra tu˩kuttu˥ʃi pa˩na˥ʃi](心を落ち着けて、お茶も飲んで、穏やかに、ゆっくり話しなさい)。心。愛情。意欲。精神。˩ナン˥ゾー　ッ˩ふァ˥ナー　˥キモー　˩ナー˥ヌ [˩nan˥ʤoː f˩faˢna: ˥kimoː ˩naː˥nu](あまり子供に愛情がない)。

キムー˩キム˥シ [kimuː˩kimu˥ʃi] 【副】己が満足するほど丁寧に。真心を籠めて。心の底から。誠意を尽くして。ウ˩ヤ˥ヌ　˩トゥン˥ザク　キムー˩キム˥シ　˩シー　オーシリ˥ダー　イ˩チンバー˥ケー　˩オーラン˥ダー [ʔu˩ja˥nu ˩tunʤa˥ku kimuː˩kimu˥ʃi ˩ʃiː ʔoːʃiri˥daː ʔi˩ʧimbaː˥keː ˩ʔoːran˥daː](親の看病は真心を籠めてやって差し上げなさいねえ。親はいつまでもおられないからねえ)。

˥キム　˩アー˥スン [˥kimu ˩ʔaː˥suŋ] 【連】心を合わせる。心を一つにする。気を合わせる。「肝をあわせる」の義。˩キョーダイ˥サー　˥ユー　˥キム　ス˩ロー˥シ　˩アーサン˥カー　カ˩ツシンシンカー˥　マ˩トゥミラン˥ダー [˩kjoːdai˥saː ˥juː ˥kimu su˩roː ˥ʃi ˩ʔaːsaŋ˥ka: kḁ˩tsuʃiŋʃiŋka:˥ ma˩tumiran˥daː](親類兄弟同士はよく心を一致させ、合わせないと鰹漁船の船員は纏(マト)められないよ)。

キ˩ムアー˥リ [ki˩muʔaː˥ri] 【名】胸騒ぎ。不安。心配して心が落ち着かないこと。若年層は、キ˩ムサワ˥ギ [ki˩musawa˥gi](胸騒ぎ。心臓騒ぎ＜肝騒ぎ＞)という。˩キュー˥ヤ　キ˩ムアー˥リ　˩シー˥　ナ˩ラ˥ヌ [˩kjuː˥ja ki˩muʔaː˥ri ˩ʃiː˥ na˩ra˥nu](今日は胸騒ぎしてならない)。ウ˩ヌ˥　パ˩ナ˥シ　ス˩クター˥　キ˩ムアー˥リ　シ˩ティ˥　ニ˩バランシェン [ʔu˩nu˥ pa˩na˥ʃi su̥˩kutaː˥ ki˩muʔaː˥ri ʃi̥˩ti˥ ni˩baraŋʃeŋ](その話を聞いて、胸騒ぎがして眠れなかった)。

˥キム　˩アールン [˥kimu ʔaːruŋ] 【連】胸騒ぎする。不安になる。気が急く。「肝暴れする」の義。ウ˩ヌ˥　パ˩ナ˥シ　ス˩クタール˥　キモー　˩アーリティ˥　ウ˩ティ˥シキ　˩ベーララン˥セン [ʔu˩nu˥ pa˩na˥ʃi su̥˩kutaːru˥ kimoː ˩ʔaːriti˥ ʔu˩ti˥ʃi̥ki ˥beːraraŋʃeŋ](その話を聞いて胸騒ぎをして＜肝が暴れて＞落ち着いておれなかった)。˥キモー　˩アーリティ　ヌー˥ル　˥ヌー　ヤ˩ル˥ユー　ア˩ティンガーラヌ [˥kimoː ˩ʔaːriti nuː˥ru ˥nuː ja˩ru˥juː ʔa˩tiŋgaːranu](胸騒ぎがして＜肝が暴れて＞何がなんだかわからない)。

キ˩ムアサー˥ン [ki˩muʔasaː˥ŋ] 【形】情が薄い。薄情である。「肝浅・あり」の義。˩ウンザー˥　キ˩ムアサー˥ンダ　プ˩スヌ˥　クトゥ˩ナー˥ト　˩カンガー˥ヌ [˩ʔunʤaː˥ ki˩muʔasaː˥nda: pu̥˩sunu˥ kutu˩naː˥ to ˥kaŋgaː˥nu](あいつは薄情な奴だから他人のことなど考えない)。キ˩ムアサー˥ヤ　˩ナーヌ˥ヌ [ki˩muʔasaː˥ja ˩naːnu˥nu](情は薄くはないが～)。キ˩ムアサー˥ナルン [ki˩muʔasaː˥naruŋ](薄情になる)。キ˩ムアサー˥　プ˩ス [ki˩muʔasaː˥ pu̥˩su](情の薄い人)。˥アイニ　キ˩ムアサー˥カー　ウ˩リトー˥　ピ˩ララーラ˥ヌ [˥ʔaini ki˩muʔasaː˥ka: ʔu˩ritoː˥ pi˩raːra˥nu](あんなに薄情ならそいつとは交際できない)。

˥キム　ア˩タルン [˥kimu ʔa˩taruŋ] 【連】気が合う。心が通う。「肝当る」の義。˥シキンナーヤ　˥キム　ア˩タル˥　プ˩スン　ブリ˥　キム　ア˩タラン˥　プ˩スン˥　ブ˩リブ [˥ʃi̥kinnaːja ˥kimu ʔa˩taru˥ pu̥˩sum buri˥ kimu ʔa˩taram˥ pu̥˩sum˥ bu˩ribu](世間には気が合う人もおり、気の合わない人もいる＜居り居る＞)。

キ˩ムアツァー˥ン [ki˩muʔatsaː˥ŋ] 【形】情が深い。愛情がある。情が厚い。「肝厚さ・あり」の義。˥バー　ドゥ˩シェー˥　イッ˩ケナ˥　キ˩ムアツァー˥ン [˥baː du˩ʃeː˥ ʔik˩kena˥ ki˩muʔatsaː˥ŋ](私の友人は非常に情が深い)。キ˩ムアツァー　ナー˥ヌ [ki˩muʔatsaːna:˥nu](情が厚くない)。˥ピラウカー　キ˩ムアツァー˥　ナルン [˥pirauka: ki˩muʔatsaː˥ naruŋ](交際したら情が深く＜情が厚く＞なるよ)。キ˩ムアツァー˥　プ˩ス [ki˩muʔatsaː˥ pu̥˩su](情の深い人)。マーン˩ベーマ˥　キ˩ムアツァー˥カー [maːm˩beːma˥ ki˩muʔatsaː˥ka:](もう少し情が深かったら)。

キ˩ムアン˥ガリ [ki˩muʔaŋ˥gari] 【名】おごり(驕り)高ぶること。思い上がること。高慢になること。ウ˩ナール˥　イッ˩チン˥　ア˩バ˥レーティ　キ˩ムアン˥ガレー　˩シー　バン˥タ˩ナー˥ト　˩ミームタイ˥ヤ

ーンツァン　˩サンシェン [ʔu˩naːru˥ ʔit˩ʧiŋ kai˥jati ki˩muʔaŋ˥gareː ˩ʃiː ban˥ta˩naː˥to ˩miːmutai˥jaːntsan ˩saŋʃeŋ](己が一番美しい＜美人だ＞と驕り高ぶって私なんか見向きさえもしなかった)。

キ˩ムイカラー˥ン [ki˩muʔikaraː˥ŋ] 【形】気分が悪く、吐き気がこみ上げる。吐き気がして気分が変である。むかむかする。˩イン˥ヌ　ク˩ラサリ˥　シ˩ニベー˥ムヌバ　˥ミルカー　キ˩ムイカラー˥ヌ　˩ビーバキンギサ˥ル [˩ʔin˥nu ku˩rasari˥ ʃi˩nibeː˥munuba ˥miriuka: ki˩muʔikaraː˥nu ˩biːbakiŋgisa˥ru](犬が殺されて死んでいるのを見ると、吐き気がして気分が変で嘔吐しそうである)。キ˩ムイカラー˥　ナルンケン　˥サタ　ッ˩ふァイ　ミッ˥タン [ki˩muʔikaraː˥ naruŋken ˥sata f˩fai mit˥taŋ](吐き気がするほど砂糖を食べたことがある)。˩フントー˥ヤ　キ˩ムイカラー˥ンドゥ　キ˩ムイカラー　ナー˥ヌティ　ア˩ジアー˥ク [˩ɸuntoː˥ja ki˩muʔikaraː˥ndu ki˩muikaraː naː˥nuti ʔa˩ʤiʔaː˥ku](本当は吐き気がするのだが、吐き気がしないといっている)。˥アイブ　パ˩ナ˥シ　シゥ˩ク˥カー　キ˩ムイカラー˥　ナ˩リ˥ス [˥ʔaibu pa˩na˥ʃi sɨ̥˩ku˥ka: ki˩muʔikaraː˥ na˩ri˥su](あんな話を聞くと心が痛んで体調が変になりそうだ)。˥アイブ˥ムヌ　˥ミルカー　キ˩ムイカラーントダー [˥ʔaibu ˥munu ˥miruka: ki˩muʔikaraːnˈdaː](あんなものを見ると心痛のあまり体調がおかしいよ)。

キ˩ムイ˥ツァー　˩スン [ki˩mui˥tsaː ˩suŋ] 【連】気の毒がる。気の毒に思う。同情する。イ˩ク˥サナ　ウ˩ヤ˥ヌ　ブ˩ラーン˥　ッ˩ふァバ˥　キ˩ムイ˥ツァー　˩シー˥　シゥ˩カ˥ナイ　マ˩ナ˥マ　ナシェー˩ダー [ʔi ˩ku˥sana ʔu˩ja˥nu bu˩raːn˥ f˩faba˥ ki˩mui˥tsaː ˩ʃiː˥ sɨ̥˩ka˥nai ma˩na˥ma ˥naʃeː˩daː](戦争で親のいない子供を気の毒に思って養い育てて今日になしてあるのだよ)。

キ˩ムイ˥ツァーン [ki˩mui˥tsaːŋ] 【形】かわいそう＜可哀相＞である。気の毒である。不憫(フビン)である。「肝痛・有り」の義。キ˩ムイ˥ツァーンティ　˥ウムーカー　マー˩ズン　サーリ˥パリバ [ki˩mui˥tsaːnti ˥ʔumuːkaː maː˩ʤun saːri˥pariba](かわいそうだと思うなら一緒に連れていけよ)。ノー˩ン˥　キ˩ムイツァーナー˥ヌ [noː˩ŋ˥ ki˩muitsaːnaː˥nu](ちっとも可哀相ではない)。˥ドゥク　キ˩ムイツァー˥ヌ　ミリ˩ベーララ˥ヌ [˥duku ki˩muitsaː˥nu miri˩beːrara˥nu](あまりにも可哀相で見てはおれない)。キ˩ムイ˥ツァー　˥ナルン [ki˩mui˥tsaː ˥naruŋ](可哀相になる)。キ˩ムイ˥ツァー　˥プソー　˩タシ˥キ　˩ッふィーリ˥バ [ki˩mui˥tsaː ˥pu̥soː ˩taʃi̥˥ki f˩fiːri˥ba](可哀相なときには助けてやれ)。キ˩ムイ˥ツァーカー [ki˩mui˥tsaːkaː](可哀相だったら)。

キ˩ムイツァムヌ [ki˩muitsamunu] 【名】気の毒な者。プ˩スカージヌ˥　イ˩ザリムヌ˥　バ˩ラーリムヌバ˥　サ˩レー˥ティ　˩アー˥クムヌ　˥ミルカー　˩サッ˥コー　キ˩ムイツァムヌ˥ダー [pu̥˩sukaːʤinu˥ ʔi ˩ʤarimunu˥ ba˩raːrimunuba˥ sa˩reː˥ti ˩ʔaː˥kumunu ˥miruka: ˩sak˥ko: ki˩muitsamunu˥daː](多くの人＜人毎＞の叱られもの、笑われものにされているのを見ると、非常に気の毒な者なのだよ)。

キ˩ム˥イリ [ki˩mu˥ʔiri] 【名】気に入り。可愛がること。愛顧を受けること。「肝入り」の義。˥アブジェー　キ˩ムイリ˥ヌ　ッ˩ふァ˥　ヤ˩レー˥ティ　ン˩マー˥ムヌン　ムー˩ル˥　カ˩タピ˥ケー　˩シール　ッ˩ふァーソー˥ル [˥ʔabuʤeː ki˩muʔiri˥nu f˩fa˥ ja˩reː˥ti ʔm˩maː ˥munum muː˩ru˥ kḁ˩tapi˥keː ˩ʃiːru faːsoː˥ru](お祖父さんの気に入りの子であるので美味しいものも総て一方にひいき＜贔屓＞をして食べさせられる)。

˥キム　イ˩ルン [˥kimu ʔi˩ruŋ] 【連】念を入れる。入念に仕事をする。心を籠める。「肝入れる」の義。˥ユー　˥キモー　イ˩レー˥ティル　ノー˩ン˥　シ˩グトー　スートダー [˥juː ˥kimoː ʔi˩reː˥tiru noː˩ŋ˥ ʃi˩gutoː suːˈdaː](よくよく心を籠めて如何なる仕事もするものだよ)。

˥キム　ウ˩クン [˥kimu ʔu˩kuŋ] 【連】1気が浮く。心がはずむ。˥キモー　ウ˩クン [˥kimoː ʔu˩kuŋ](心は浮き立つ) ともいう。˥シケンナ　ウ˩カ˥レーンティス˩クター˥　キモー　ウ˩キティ　ヤー˥　パリ˩パッ˥タ [˥ʃi̥kenna ʔu˩ka˥reːnti su̥˩kutaː˥ kimoː ʔu˩kiti jaː˥ pari˩pat˥ta](試験に受かった＜合格した＞と聞いて、心が浮き立って、家へ走って行った)。2そわそわして落ち着かない。平静さを失う。おろおろして手につかない。ッ˩ふァヌ˥　ヤ˩ム˥ター　ブ˩ネーヤ˥　キモー　ウ˩キティ˥　ノー˩ン　シーユーサン　ベー˥ティ　˥アッパール　˩オー˥リ　˩トゥンザ˥ク　˩ソーッ˥タ [f˩fanu˥ ja˩mu˥taː bu˩neːja˥ kimoː ʔu˩kiti˥ noː˩ŋ ʃiːjuːsambeː˥ti ˥ʔappaːru ˩ʔoː˥ri ˩tunʤa˥ku ˩soːt ˥ta](子供が病気したので母親はおろおろして何も手につかないので、お祖母さんが来られて子供の看病をなさった)。

キ˩ムウダ˥ラキ [ki˩muʔudara˥ki] 【名】心の衝撃。ひどく驚くこと。びっくり仰天すること。˩キーヌ　パン˥ターラ　˥ウティティ　キ˩ムウダラ˥キ　˩シール˥

タ˹マ˺シ　シ˹テーン˺ギサール [˹ki:nu pan˺ta:ra ˺ʔu-titi ki˹muʔudara˺ki ˹ʃi:ru˺ ta˹ma˺ʃi ʃi̥˹te:ŋ˺gisa:ru](木のてっぺんから落ちて、びっくり仰天して魂を落としたらしい)。

キ˹ムウダラ˺キ　ン˹ニウダラキ [ki˹muʔudara˺ki ʔn ˹niʔudaraki] 【連】びっくり仰天すること。「肝驚き・胸驚き」の義。ひどく驚くこと。ABCDEF・GHCDEF 型の重言。神口や祝詞の中に現れ、リズミカルな表現を作り上げている。～ア˹サビブリバ　シー　アー˺クンケン　キ˹ムウダラ˺キ　ン˹ニウダラキ　シー　ベー˺ティ～[～ʔa˹sabiburiba ʃi: ʔa:˺ kuŋkeŋ ki˹muʔudara˺ki n˹niʔudaraki ʃi: be:˺ti～](～遊び惚けているときに、肝驚き胸驚きをしているので～)。

キ˹ム˺ウチ [ki˹mu˺ʔutʃi] 【名】心中。内心。胸中。ク˹クル˺ウチ [ku̥˹kuru˺ʔutʃi](心うち) ともいう。˹ワー˺　キ˹ム˺ウチナ　ウムイ˹ブー˺　クトゥ　パ˹ナ˺シ˹ミー [˹wa:˺ ki˹mu˺ʔutʃina ʔumui˹bu:˺ ku̥tu pa˹na˺ʃi˹mi:](君の胸中に思っていることを話し手ごらん)。ウ˹ヌ˺　パ˹ナ˺シェー　˹ワー　タンガ˺ヌ　キ˹ム˺ウチナー　ウ˹サ˺ミ　˺シキ　ッ˹ふィーリ⊦ヨー [ʔu˹nu˺ pa˹na˺ʃe: ˹wa: taŋga˺nu ki˹mu˺ʔutʃina: ʔu˹sa˺mi ʃiki f˹fi:ri⊦jo:](その話は君一人の心中に納めておいてくれよ < 他言しないでくれ >)。

˺キム　ウ˹ティシゥカ˺スン [˺kimu ʔu˹tisi̥ka˺suŋ]【連】心を落ち着かせる。˺キム　ウ˹ティシゥカ˺スンティ　˹ベー˺ヌンドゥ　プ˹スヌ˺　マイナーテー　˹ピッ˺チン　˺キム　ウ˹ティシゥカサラン˺サー [˺kimu ʔu˹tisi̥ka˺sunti ˹be:˺nundu pu̥˹sunu˺ maina:te: ʔu˹tisi̥kasaran˺sa:](落ち着かせようとしているが、人前では心が落ち着かされないさ)。

キ˹ム˺ウティ　˹スン [ki˹mu˺ʔuti ˹suŋ]【連】落胆する。気落ちする。「肝落ちする」の義。˹クン˺ドー　ナ˹ラン˺タンティン　キ˹ム˺ウティ　ス˹ナ˺ヨー　˹マー˺　プ˹ス˺ケンティン　ア˹リ˺ブンダー [˹kun˺do: na˹ran˺tantiŋ ki˹mu˺ʔuti su˹na˺jo: ˹ma:˺ pu̥˹su˺kentiŋ ʔa˹ri˺bunda:](今度できなくても落胆するなよ。再度 < もう一度 > ということもあるから)。

˺キム　˺ウトゥン [˺kimu ʔutuŋ] 【連】動悸(ドウキ)がする。胸がどきどきする。「肝が打つ」の義。ウ˹バウ˺カー　˹ドーントーン˺シ　˺キム　ウトゥン˹ダー [ʔu˹bau˺ka: ˹do:nto:ŋ˺ʃi ˺kimu ˺ʔutun˹da:](驚いたら、ドントンと動悸がする < 肝が打つ > よ)。

キ˹ムガー˺リ [ki˹muga:˺ri] 【名】心変わり。変心。老年層は、キ˹ムンガー˺リ [ki˹muŋga:˺ri](心変わり。< 肝変わり >) という。ウ˹ヌス˺ク　アッ˹ツァ˺ー　ピライ　ブ˹タンドゥ˺　ク˹ヌ˺グロー　˹カイシナ˺ターンツァン　ミ˹ララヌ˺ヌ　キ˹ムガーリ˺ル　シ˹タ˺カヤー　˺イナムヌ [ʔu˹nusi̥˺ku ʔat˹tsa˺: pirai bu˹tandu˺ ku˹nu˺guro: ˹kaiʃina˺tantsam mi˹rara˺nu ki˹muga:ri˺ru ʃi̥˹ta˺kaja: ˺ʔinamunu](あんなに親しく < 篤く > 交際していたのに、最近では < この頃は > 影も姿も見られない。心変わりを < ぞ > したのかなあ。残念だなあ)。

˺キム　˹カールン [˺kimu ˹ka:ruŋ] 【連】心が変わる。心変わりする。ヤ˹クスク˺　シ˹ティ˺　ドゥク　マ˹タ˺スカー　プ˹ソー˺　キム　˹カールン˺ダー [ja˹kusu̥ku˺ ʃi̥˹ti˺ duku ma˹ta˺suka: pu̥˹so:˺ kimu ˹ka:run˺da:](約束してあまり待たせると人は心が変わるよ)。

キ˹ムカイ˺ヤン [ki˹mukai˺jaŋ] 【形】心が優しい。「心が美しい」の義。ク˹ヌ˺　ッ˹ふァー˺　イッ˹ケナ˺　キ˹ムカイ˺ヤン [ku˹nu˺ f˹fa:˺ ʔik˹kena˺ ki˹mukai˺jaŋ](この子は非常に心が優しい)。キ˹ムカイ˺ヤー　˹ナー˺ヌ [ki˹mukai˺ja: ˹na:˺nu](心が優しくない)。˺アイニ　キ˹ムカイ˺ヤル　プ˹ソー˺　ブ˹ラーヌ [˺ʔaini ki˹mukai˺jaru pu̥˹so:˺ bu˹ra:nu](あんなに心優しい人はいない)。マーン˹ベーマ˺　キ˹ムカイ˺ヤカー　˺ミサムヌ [ma:m˹be:ma˺ ki˹mukai˺jaka: ˺misamunu](もう少し心優しかったら良いのだが)。

˺キム　˹カイ˺ルン [˺kimu ˹kai˺ruŋ] 【連】急に気分が悪くなり、吐き気を催す。キ˹ムバカー˺　ナルン [ki˹mubaka:˺ naruŋ](吐き気を催す) ともいう。甘いのを食べ過ぎたり、脂っこい物を食べ過ぎた時に起こる生理現象。˹オー˺ヌ　ア˹バッタラ˺ヌ　ビ˹トゥラー˺ムヌバ　ッ˹ふァイシギル˺カー　キ˹ムカイ˺ルン˹ダー [˹ʔo:˺nu ʔa˹battara˺nu bi˹tura:˺ munuba f˹faiʃigiru˺ka: ki˹mukai˺run˹da:](豚の脂身の脂っこいものを食べ過ぎると吐き気を催すよ)。

キ˹ムガカ˺リ [ki˹mugaka˺ri]【名】気掛り。心配。懸念。気遣い。若年層の言葉。老年層はキ˹ムガッ˺カイ [ki˹mugak˺kai](気掛かり) という。タ˹ビ˺ナー　˹ベー˺　ッ˹ふァンケー˺ヌ　ク˹トゥ˺ル　ナー˹イ˺　キ˹ムガカ˺リ　˹シーベー⊦ツォー [ta˹bi˺na: ˹be:˺ f˹faŋke:˺nu ku˹tu˺ru na:˹ji˺ ki˹mugaka˺ri ˹ʃi:be:⊦tso:](旅にいる子供達のことが、ただ気掛りなのです < 気掛りにしているんです >)。ウ˹ヌ˺　ク˹トゥ˺ル　イッ˹チン˺　キ˹ムガカ˺リ [ʔu˹nu˺ ku˹tu˺ru ʔit˹tʃiŋ˺ ki˹mugaka˺ri](そのことが一番の気掛り < 心配事 > だ)。

キ˞ムガサー˜ン [ki˞mugasa:˜ŋ] 【形】気が急(セ)く気性である。気があせる気性である。せっかちである。性急である。ウ˞レー˜ キ˞ムガサー˜ンダー ウ˞リンマー˜ ク˞マシグトー˜ シ˞ミララヌ [ʔu˞re:˜ ki˞mugasa:˜nda: ʔu˞rimma:˜ ku˞maʃiguto:˜ ʃi˞mi-raranu](あれはせっかちだから、あれには細かな仕事はさせられない)。キ˞ムガサー ナー˜ヌ [ki˞mugasa: na:˜nu](せっかちでない)。キ˞ムガサー˜ヌ ナ˞ラ˜ヌ [ki˞mugasa:˜nu na˞ra˜nu](せっかちでたまら＜堪ら＞ない)。キ˞ムガサー˜ プ˞ス [ki˞mu-gasa:˜ pu̥˞su](せっかちな人)。˜アイニ キ˞ムガサー˜カー ˞デー˜ジ˞ゲ˜ラ [˜ʔaini ki˞mugasa:˜ka: ˞de:˜ʤi ˞ge˜ra](あんなにせっかちなら大変だよ)。

キ˞ムガサガ˜サ ˞スン [ki˞mugasaga˜sa ˞suŋ] 【連】心が焦る。気がいらいらする。ドゥ˞ク˜ヌ ˞ティーフコー˜ティ キ˞ムガサガ˜サ ˞シー˜ アトー ˜メー ˜ウヤー ˜ドゥーシ ピ˞キトゥリティ ソー˜リ ˞ナーン˜シェン [du˞ku˜nu ˞ti:ɸu̥ko:˜ti ki ˞mugasaga˜sa ˞ʃi:˜ ʔato: ˜me: ˜ʔuja: ˜du:ʃi pi̥˞kituriti so:˜ri ˞na:ŋ˜ʃeŋ](あまりにも手つきが鈍いので、いらいらして、後はもう我慢できずに親は自分で引き取ってやってしまわれた)。

キ˞ムカサマ˜サン [ki˞mukasama˜saŋ] 【形】気が焦り、いらだたしい (苛立たしい)。心がいらいら＜苛苛＞する。しつこくてやりきれない。煩雑で面倒だ。ク˞ヌ˜ ッ˞ふァー フンダイサ˜ヌ ˞サッ˜コー キ˞ムカサマ˜サン˞ダー [ku˞nu˜ f˞fa: fundaisa ˜nu ˞sak˜ko: ki˞mukasama˜san˞da:](この子はわがままっ子で、やりたい放題で非常に苛立(イラダ)たしいよ)。キ˞ムカサマサ˜ヌ ナ˞ラ˜ヌ [ki˞mukasamasa˜nu na ˞ra˜nu](苛立たしく、煩(ワズラワシ)くて堪らない)。キ˞ムカサマ˜サ ˞ナー˜ヌ [ki˞mukasama˜sa ˞na:˜nu](苛立たしくない)。キ˞ムカサマ˜サ ˜ナルン [ki˞mukasama ˜sa ˜naruŋ](苛立たしくなる)。キ˞ムカサマ˜サー ˜プソー [ki˞mukasama˜sa: ˜pu̥so:](苛立たしいときは)。˜アインドゥ キ˞ムカサマ˜サーカ ˜ウナー ブ˞ララヌ [˜ʔaindu ki˞mukasama˜sa:ka ˜ʔuna: bu˞raranu](あんなに苛立たしかったら、そこには居れないよ)。

キ˞ムガタガ˜ター [ki˞mugataga˜ta:] 【連】胸がどきどきして震(フル)えるさま。ウ˞ブナイ˜ヌ ˞パッタ˜ル ウ˞ダラ˜キティ キ˞ムガタガター˜シ ˞フッツォーリ ベー˜タ [ʔu˞bunai˜nu ˞patta:˜ru ʔu˞daraki˜ti ki˞mugatagata:˜ʃi ˞ɸuttso:ri be:˜ta](大地震が通過した＜走った＞ので驚いて胸がどきどきして震えていた)。

キ˞ムガッ˜カイ [ki˞mugak˜kai] 【名】気掛かり。心配。懸念。老年層の言葉。シ˞ケン˜マー ˞ヌー˜シ ˞ナッ˜タユー ウ˞ヌ˜ ク˞トゥ˜バ キ˞ムガッ˜カイ ˞シー˜ ナ˞ラント ツォー [ʃi̥˞kem˜ma: ˞nu:˜ʃi ˞nat˜taju: ʔu˞nu˜ ku̥˞tu˜ba ki˞mugak˜kai ˞ʃi:˜ na˞ranˢtso:](試験はどうなったのか、そのことを気に掛けて＜そのことが気掛かりで＞堪らないのだよ)。

キ˞ムガマーラ˜サン [ki˞mugama:ra˜saŋ] 【形】なんとなく悲しい。物悲しい。うら悲しい。˜アッパー ク˞トゥ˜ヌ ウ˞ムインザサ˜リティ キ˞ムガマーラサ˜ヌ ナ˞ラ˜ヌ [˜ʔappa: ku˞tu˜nu ʔu˞mui ʔnʤasa ˜riti ki˞mugama:rasa˜nu na˞ra˜nu](お祖母さんのことが思い出されて、もの悲しくて堪らない)。シ˞マ˜ナー プ˞スヌ˜ ブ˞ラーン˜ ナ˞ル˜ター イッ˞ケナ˜ キ˞ムガマーラ˜サン [ʃi˞ma˜na: pu̥˞sunu˜ bu ˞ra:n˜ na˞ru˜ta: ʔik˞kena˜ ki˞mugama:ra˜saŋ](島に人がいなくなったので、すごく物悲しい)。キ˞ムガマーラサ ナー˜ヌ [ki˞mugama:rasa na:˜nu](うら悲しくない)。キ˞ムガマーラ˜サール ˜ピンマー ナ˞キル˜ シ˞ラリ [ki˞mugama:ra˜sa:ru ˜pimma: na ˞kiru˜ ʃi˞rari](うら悲しいときは泣けてくる)。

˜キム ガ˞ルン [˜kimu ga˞ruŋ] 【連】気が晴れて爽(サワ)やかとなる。気が清清する。心が晴れ晴れとなる。ウ˞ナー˜ プサムヌバ キ˞ム˜ヌ フ˞グン˜ケン ˞カイッふィーッター˜ キモー ガ˞リベーン˜ティ [ʔu ˞na:˜ pu̥samunuba ki˞mu˜nu ɸu˞guŋ˜keŋ ˞kaiffi:tta:˜ kimo: ga˞ribe:n˜ti](己の欲しいものを満足するほど買ってやったら、気が晴れて清清しているよ)。ッ˞ふァヌ ヤン˜ヌ ˞ノー˜レーンティ ˞スー サウヌ˜ シゥ˞カリ˜カー ˜キム ガ˞ルン˜パジ [f˞fanu jan ˜nu ˞no:˜re:nti ˞su: saunu˜ si̥˞kari˜ka: ˜kimu ga˞rum˜ paʤi](子供の病気が治ったという便り＜さう・左右＞が聞けたら心が晴れ晴れするはずだ)。

キ˞ムグク˜ル [ki˞muguku˜ru] 【名】心。精神。「きもこころ (肝心)」の義。「肝心も砕けて～『宇治拾遺物語』」の義。˞ニンギン˜マー キ˞ムグクル˜ヌ ˞カイ˜ヤ ˜ムヌル ˞ダイイチ [˞niŋgim˜ma: ki˞mugukuru ˜nu ˞kai˜ja ˜munuru ˞dai ʔitʃi](人間は心の美しいのが第一重要＜肝要＞である)。キ˞ムグクル˜ヌ ˞カイ˜ヤバル シ˞キン˜マー バ˞タラリ [ki˞mugukuru ˜nu ˞kai˜jabaru ʃi˞kim˜ma: ba˞tarari](心が美しくなければ世間は渡れない＜心が美しければこそ世間は渡れるものだ＞)。

キ˞ムグマー [ki˞muguma:] 【名】小心者。ビ˞キドゥ

ヌ˥　キˈムグマー˥　ナリティ　ウˈバイ˥カバイ　ˈシェー˥ティ　ˈアー˥ク [biˈkidumunu˥ kiˈmugumaː˥ nariti ʔuˈbai˥kabai ˈʃeː˥ti ˈʔaː˥ku](男のくせに < 男が > 小心者になって、びくびくしているよ)。

キˈムグマー˥ン [kiˈmugumaː˥ŋ] 【形】小心である。小胆である。度胸がない。「肝が小さい」の義。キˈムグマー˥ンダ　ノーˈン　シーユーサヌ [kiˈmugumaː˥nda noːˈŋ ʃiːjuːsanu](小心であるから何も出来ない)。キˈムグマーナー˥ヌ [kiˈmugumaːna:˥nu](度胸は小さくない < 小心でない >)。キˈムグマー˥ヌ　シゥˈカーラヌ [kiˈmugumaː˥nu sɨ̥ˈkaːranu](度胸がなくて < 小胆者で > 使えない)。キˈムグマー˥　プˈス [kiˈmugumaː˥ pu̥ˈsu](度胸のない者 < 小胆である人 >)。˥ドゥク　キˈムグマー˥カー　タˈナマラ˥ヌ [˥duku kiˈmugumaː˥kaː taˈnamara˥nu](あんまり度胸がなかったら頼めない < 頼まれない >)。

キˈムクラ˥シ [kiˈmukura˥ʃi] 【名】気苦労すること。苦悩すること。心労すること。思い悩むこと。「肝殺し」の義か。ブˈネーヤ˥　ビˈコーンッふァヌ˥　クトゥシ　ナーˈイ˥　キˈムクラ˥シ　ˈシーオー˥ル [buˈneːja˥ biˈkoːnffanu˥ ku̥tuʃi naːˈi˥ kiˈmukura˥ʃi ˈʃiːʔoː˥ru](母親は男の子のことで、いつも悩んで < 苦悩をして > おられる)。

キˈムグリ˥サン [kiˈmuguri˥saŋ] 【形】気の毒である。可哀相である。哀れで胸が締め付けられる思いである。見るに忍びない。「肝苦し」の義。ウˈヌ˥　プˈスヌ˥　パˈナ˥シェー　キˈムグリサ˥ヌ　シゥˈカラヌ [ʔuˈnu˥ pu̥ˈsunu˥ paˈna˥ʃeː kiˈmugurisa˥nu sɨ̥ˈkaranu](その人の話は哀れで胸が締め付けられるほど気の毒で、聞くことができない)。イッˈケン˥　キˈムグリ˥サン [ʔikˈkeŋ˥ kiˈmuguri˥saŋ](非常に気の毒である)。キˈムグリ˥サル　パˈナ˥シ [kiˈmuguri˥saru paˈna˥ʃi](気の毒な話)。˥アイニ　キˈムグリ˥サカー　シゥˈカウナ [˥ʔaini kiˈmuguri˥saka: sɨ̥ˈkauna](そんなに気の毒に思うなら使うな)。ッˈふァヌ　オーラ˥ン　ˈウイプス˥ヌ　ˈアウ˥リナンギ　ˈシー　オー˥ル　˥ムヌ　˥ミルカー　キˈムグリサ˥ヌ　ナˈラ˥ヌ [fˈfanu ʔoːra˥ŋ ˈʔuipusu˥nu ˈʔau˥rinaŋgi ˈʃiː ʔoː˥ru ˥munu ˥miruka: kiˈmugurisa˥nu naˈra˥nu](子供のいない年寄りの難儀苦労を見ると気の毒でたまらない)。ˈワー　タン˥ガン　ˈアウ˥リ　シˈミル˥カー　キˈムグリ˥サンダ　キˈムグリサ　ナーン˥ヨーニ　ˈバン˥ヌン　ˈサン˥カー　ナˈラ˥ヌ [ˈwaː taŋ˥gaŋ ˈʔau˥ri ʃiˈmiru˥kaː kiˈmuguri˥sanda kiˈmugurisa naːɲ˥joːni ˈban˥nun ˈsaŋ˥kaː naˈra˥nu](君一人に苦労をさせると気の毒だから、気の毒に思わないように私も < 何か > しないといけない)。キˈムグリサ˥ヌ　ナˈラ˥ヌ [kiˈmugurisa˥nu naˈra˥nu](不憫で堪らない)。˥アイニ　キˈムグリ˥サ　˥クトー　ˈナー˥ヌ [˥ʔaini kiˈmuguri˥sa ˥ku̥toː ˈnaː˥nu](あんなに不憫なことはない)。

キˈムグリ˥ムヌ [kiˈmuguri˥munu] 【名】気の毒なこと。哀れなこと。憐憫(レンビン)の情に耐えないこと。ˈタンガッふァ˥バ　イˈク˥サナ　シˈナシティ˥　ナˈキオール˥　シˈナタ˥　ミルカー　ˈフン˥トー　キˈムグリ˥ムヌˈダー [ˈtaŋgaffa˥ba ʔiˈku˥sana ʃiˈnḁʃi̥ti˥ naˈkiʔoː˥ru ʃiˈnata˥ miruka: ˈɸun˥toː kiˈmuguri˥munuˈdaː](一人子を戦争で亡くしてしまって泣いておられる姿を見ると、誠に気の毒なことだよ)。

キˈムサー˥サー [kiˈmusaː˥saː] 【副】神霊を感じて心が落ち着かないさま。ˈキュー˥ヤ　シˈトゥム˥テーラ　キˈムサーサー˥シ　ムッˈトゥ˥　ウˈティシゥカラン˥ベーティ　ˈカンヌ˥マイ　ˈティー　ウサー˥シ　ˈベートダー [ˈkjuː˥ja ʃi̥ˈtumu˥teːra kiˈmusaːsaː˥ ʃi mutˈtu˥ ʔuˈtisi̥karam˥beːti ˈkannu˥mai ˈtiː ʔusaː˥ʃi ˈbeːɾdaː](今日は朝から神霊を感じてちっとも落ち着かないので、神前に手を合わせているよ)。

キˈムザニ˥ヤプス [kiˈmudʒani˥japu̥su] 【名】快活で楽しい人。明るく楽しい人。˥アブジェーヤ　イッˈケン˥　キˈムザニ˥ヤプス　ヤˈローッ˥タ [˥ʔabudʒeːja ʔikˈkeŋ˥ kiˈmudʒani˥japu̥su jaˈroːt˥ta](お祖父さんは非常に明るくて楽しい人であられた)。

キˈムサニ˥ヤン [kiˈmusani˥jaŋ] 【形】心が晴れ晴れとして楽しい。明るく楽しい。嬉しい。「肝嬉し」の義。ˈキュー˥ヤ　ˈイー　ソーヌ˥　シゥˈカリ˥　イッˈケン˥　キˈムサニ˥ヤン [ˈkjuː˥ja ˈʔiː soːnu˥ sɨ̥ˈkari˥ ʔikˈkeŋ˥ kiˈmusani˥jaŋ](今日は良い消息 < 左右 > が聞けて心が晴れ晴れとして非常に嬉しい)。キˈムサニヤ˥ヌ　ナˈラ˥ヌ [kiˈmusanija˥nu naˈra˥nu](嬉しくて堪らない)。

キˈムサビ˥サン [kiˈmusabi˥saŋ] 【形】うらさびしい(心淋しい)。なんとなく淋しい。˥ウヤンケーヌ　ˈオーラ˥ン　˥ヤーナ　ˈタン˥ガ　ヌˈカ˥リティ　キˈムサビサ˥ヌ　ナˈラ˥ヌ [˥ʔujaŋkeːnu ˈʔoːra˥ŋ ˥jaːna ˈtaŋ˥ga nuˈka˥riti kiˈmusabisa˥nu naˈra˥nu](親たちが居られない家に一人残されて、心淋しくて堪らない)。キˈムサビ˥サ　ˈナー˥ヌ [kiˈmusabi˥sa ˈnaː˥nu](心淋しくない)。キˈムサビ˥サ　˥ピンマー　ˈサンシンバ˥　ピˈキティ˥　パˈトゥ˥マナカムリ　イˈゾー˥ルツォー [kiˈmusabi˥sa ˥pimmaː ˈsaŋʃimba˥ pi̥ˈ

kiti˺ paˈtu˺manakamuri ʔiˈʤoː˺rutsoː](心淋しい時は三線を弾いて鳩間節を歌われるそうだ)。

キˈムサラー˺ン [kiˈmusaraː˺ŋ] 【形】あっさりしている。高ぶらず、もったいぶらない。てらわず、飾り立てない。他人を優しく扱う。ウˈヤ˺キプス　ヤˈルンドゥ˺　イッˈケン˺　キˈムサラー˺ン　ターˈントゥン˺　ユー　˺ピライ　ッˈふィールン [ʔuˈja˺kipu̥su jaˈrundu˺ ʔikˈkeŋ˺ kiˈmusaraː˺ŋ taːˈntuɲ˺ juː ˺pirai fˈfiːruŋ](金持ちだが非常にあっさりした性格で、高ぶらない。誰とでもよく付き合ってくれる)。キˈムサラー˺ル　プˈス [kiˈmusaraː˺ru pu̥ˈsu](あっさりした、勿体ぶらない人)。

キˈムサワ˺ギ [kiˈmuwawa˺gi] 【名】胸騒ぎ。凶事の予感がして落ち着かないこと。ˈキュー˺ヤ　˺ヌンティル　ヤˈル˺ユー　キˈムサワ˺ギ　ˈシー˺　ナˈラン˺サー [ˈkjuː˺ja ˺nuntiru jaˈru˺juː kiˈmusawa˺gi ˈʃiː˺ naˈran˺saː](今日は何故か胸騒ぎがしてならない)。不安。心配して心が落ち着かないこと。キˈムアー˺リ [kiˈmuʔaː˺ri](胸騒ぎ) と同じ。

キˈムシカラー˺ン [kiˈmuʃikaraː˺ŋ] 【形】うら寂しい。ものさびしい。侘(ワビ)しい。寂寞(セキバク)としてる。キˈムシカラー˺サン [kiˈmuʃikaraː˺saŋ] ともいう。ッˈふァン˺ケン　ムーˈル˺　タˈベー˺　パˈラシ˺ティ　タˈンガ˺シ　ˈベー˺ヌンドゥ　キˈムシカラー˺ヌ　ニˈバラヌ [fˈfaŋ˺kem muːˈru˺ taˈbeː˺ paˈra˺ʃi̥ti ˈtaŋga˺ʃi ˈbeː˺nundu kiˈmuʃikaraː˺nu niˈbaranu](子供達をみんな旅に出して＜行かせて＞一人でいるが、うら寂しくて寝ることができない)。キˈムシカラー˺サ　ˈナー˺ヌ [kiˈmuʃikaraː˺sa ˈnaː˺nu](うら寂しくない)。キˈムシカラ˺サー　˺プソー　サˈキル˺　ヌム [kiˈmuʃikara˺saː pu̥soː saˈkiru˺ numu](心さびしいときは酒を飲む)。キˈムシカラーサ˺カー　ウˈキ˺ナー˺パリバ [kiˈmuʃikaraːsa˺kaː ʔuˈki˺naː ˺pariba](うら寂しかったら沖縄へ行きなさいよ)。

˺キム　シˈナー˺スン [˺kimu ʃiˈnaː˺suŋ] 【連】心を合わせる。心をそろえる。心を一つにする。ˈキョーダイ˺サ　˺キム　シˈナー˺シェーティ　˺タティパリˈダー [ˈkjoːdai˺sa ˺kimu ʃiˈnaː˺ʃeːti ˺tatipariˈdaː](兄弟仲良く心を合わせて暮らしていきなさいよ)。

˺キム　シˈナウン [˺kimu ʃiˈnauŋ] 【連】機嫌を取る。「心を調和させる。心を合わせる」の義。ˈフンダイナキ　スー˺　ッˈふァヌ˺　キム　シˈナウンティ　コーシ˺バ　ˈカイオー˺ル [ˈɸundainaki suː˺ fˈfanu˺ kimu ʃiˈnaunti koːʃi˺ba ˈkaiʔoː˺ru](我儘で勝手放題の子供の機嫌を取るために菓子を買っておられる)。ウˈヤ˺ヌ　˺キム　シˈナウンティ　シー　ベー˺ンドゥ　ムッˈトゥ˺　シˈナーラヌ [ʔuˈja˺nu ˺kimu ʃiˈnaunti ʃiː beː˺ndu mutˈtu˺ ʃiˈnaːranu](親の機嫌をとろうとしているのだが、ちっとも機嫌が取れない)。

キˈムシピ˺リ　ˈスン [kiˈmuʃipi˺ri ˈsuŋ] 【連】胃の具合が悪くなり、絞られるように感じる。ˈコー˺ムヌバ　ウˈブ˺ファイ　ˈスー˺カー　キˈムシピ˺リ　ˈスン˺ダー [ˈkoː˺munuba ʔuˈbu˺fai ˈsuː˺kaː kiˈmuʃipi˺ri ˈsun˺daː](固いものを大食いすると胃の具合が悪くなり、絞られるように感じるよ)。

キˈムシララ˺ヌ [kiˈmuʃirara˺nu] 【連】我慢できない。心が落ち着かない。耐えられない。アˈムサ˺ヌ　キˈムシララム˺ティル　イˈサン˺ヤー　パレーˈツォー [ʔaˈmusa˺nu kiˈmuʃirara˺mutiru ʔiˈsaɲ˺jaː pareːˈtsoː](頭痛がして気分が悪く我慢できなかったので病院へ行ったのだよ)。キˈムシララン˺ドゥ　ˈブー˺ユー　ˈパー˺　フイ　ˈベー [kiˈmuʃiraran˺du ˈbuː˺ juː ˈpaː˺ɸui ˈbeː](我慢できないのか、歯ぎしりして＜歯をこすり合わせて＞いる)。

キˈム˺シル [kiˈmu˺ʃiru] 【名】ぐずつく (愚図つく) こと。ぐずる (愚図る) こと。子供がむずかること。子供がじれて泣く。すねて逆らうこと。気がくしゃくしゃすること。気が苛立(イラダ)つこと。「肝・摺り」の後接語の母音 [i] と [u] が音位転倒 (metathesis) を起したもの。ヤˈラ˺ベー　ニˈブンティンマー˺　ヤーˈディン˺　キˈム˺シル　ˈシー˺　ナˈキス [jaˈra˺beː niˈbuntimmaː˺ jaːˈdiŋ˺ kiˈmu˺ʃiru ˈʃiː˺ naˈkisu](子供は寝るときには必ずむずかって泣く)。子供がじれ (焦れ) て泣くこと。すねてさからうこと。「肝摺りの義」との説がある『石垣方言辞典』。ヤˈラビ˺ヌ　キˈム˺シル　ˈスー˺　ピンマー　ニˈチ˺ヌ　˺アルパジ　ˈダー˺バ　キー˺　シˈキ˺リˈヨー [jaˈrabi ˺nu kiˈmu˺ʃiru ˈsuː˺ pimmaː niˈʧi˺nu ˺ʔarupaʤi ˈdaː˺ba ˈkiː˺ ʃi̥ˈki˺rijoː](子供がむずかる時は熱があるはずだろうから気をつけろよ)。ニˈブンティル˺　キˈム˺シル　ˈシェー˺ルˈナー [niˈbuntiru˺ kiˈmu˺ʃiru ˈʃeː˺ruˈnaː](寝ようとしてむずかっていたのだなあ)。ヤˈラ˺ベー　ニˈチ˺ヌ　ンˈジ˺ルガー　キˈム˺シル　ˈスン˺ダー [jaˈraˈbeː niˈʧi˺nu ʔnˈʤi˺ruka: kiˈmu˺ʃiru ˈsun˺daː](子供は熱が出るとぐずつくよ＜ぐずるよ＞)。

キˈムシルカー˺シル　ˈスン [kiˈmuʃirukaː˺ʃiru ˈsuŋ] 【連】気がくしゃくしゃする。気が苛立(イラダ)つ。むしゃくしゃする。キˈム˺シル [kiˈmu˺ʃiru] の ABCDEFCD

型の重言。「肝摺り・皮摺り」の義か。ヤ˩ラ˥ベー　ン˩メーマ˥　パ˩ナシキ˥　マ˩マル˥カー　キ˩ムシルカー˥シル　˩スン [ja˩ra˥be: ʔm˩me:ma˥ pa˩naʃi̥ki˥ ma˩maru˥ka: ki˩muʃiruka:˥ʃiru ˩suŋ](子供は、ちょっと風邪をひくと、気がいらだって拗(ス)ねて泣いて逆らってくしゃくしゃする)。

キ˩ム˥シル　˩スン [ki˩mu˥ʃiru ˩suŋ] 【連】むずかる(憤)。子供がじれ(焦れ)て泣く。˩フンダイ　スー˥　ッ˩ふァー　ドゥー˥ヌ　˥ウムー　˥トゥール　ナ˩ラン˥カー　キ˩ム˥シル　˩スン˩ダー [˩ɸundai su:˥ f˩fa: du:˥nu ˥ʔumu: ˥tu:ru na˩raŋ˥ka: ki˩mu˥ʃiru ˩sun˩da:](我儘っこ＜駄々っ子＞は自分の思い通りにならなかったらむずかる＜憤＞よ)。

キ˩ムズー˥ワン [ki˩mudʒu:˥waŋ] 【形】心強い。頼もしい。キ˩ムズー˥ヤン [ki˩mudʒu:˥jaŋ] ともいう。ッ˩ふァヌ　ブー˥カー　イッ˩ケナ˥　キ˩ムズー˥ワン [f˩fanu bu:˥ka: ʔik˩kena˥ ki˩mudʒu:˥waŋ](子供がいたら非常に心強い)。キ˩ムズーワナー˥ヌ [ki˩mudʒu:wana:˥nu](心強くない)。キ˩ムズー˥ワ　˥ナルン [ki˩mudʒu:˥wa ˥naruŋ](心強くなる)。キ˩ムズー˥ワル　プ˩ソー˥　ミサンドゥ [ki˩mudʒu:˥waru pu̥˩so:˥ misandu](心強い人はいいけれど)。キ˩ムズー˥ワカー　タンガシン　˩ベーラ˥リン [ki˩mudʒu:˥waka: ˩taŋga˥ʃim ˩be:ra˥riŋ](心強ければ一人でもいることができる＜居られる＞)。心強い。安心である。心丈夫である。˩ワーンドゥ˥　アウ　˩シー˥　ッ˩ふィール˥カー　キ˩ムズー˥ワン˩ツォー [˩wa:ndu˥ ʔau ˩ʃi:˥ f˩fi:ru˥ka: ki˩mudʒu:˥wan˩tso:](君が私の連れ＜道連れ。同伴者＞をしてくれたら心強いんだよ)。

˥キム　ス˩クッツァーサリン [˥kimu su̥˩kuttsa:sariŋ] 【連】心がちぢ(千千)に乱される。気が狂いそうにされる。心が打ち砕かれる。心の思いがス˩クッツァーサリン [su̥˩kuttsa:sariŋ](打ち砕かれる。粉々に砕かれる)の義。ウ˩リンマー˥　キム　ス˩クッツァーサリティル˥　ナ˩カヤブ˥リ　˩シェー˥ダー [ʔu˩rimma:˥ kimo: su̥˩kuttsa:saritiru˥ na˩kajabu˥ri ˩ʃe:˥da:](そいつに心の思いを打ち砕かれて中途でぐれてしまった＜中途やぶれ。非行化＞したのだ)。

˥キム　ス˩ラ˥スン [˥kimu su˩ra˥suŋ] 【連】気分を晴れ晴れとさせる。清清(スガスガ)しい気分にする。気分を爽(サワ)やかにする。清清する。ン˩マー˥ムノー　ッ˩ふァイティ˥　ヤ˩ナクトー　バシキ˥　キム　ス˩ラ˥シバ [ʔm˩ma:˥muno: f˩faiti˥ ja˩nakuto: baʃi̥ki˥ kimu su˩ra˥ʃiba](美味しい物を食べて、嫌な、悪いことを忘れて気分＜心＞を清清(スガスガ)しくさせなさい＜晴れ晴れとさせなさい＞)。˩ユー˥フルン　ア˩ミ˥　カ˩ジン˥　フ˩カ˥リティ　˥キム　ス˩ラ˥スンティ　˩ベー [˩ju: ˥ɸuruŋ ʔa˩mi˥ ka˩ʤiŋ˥ ɸu̥˩ka˥riti ˥kimu su˩ra˥sunti ˩be:](風呂にも入り＜湯も浴び＞、そよ風に吹かれて気分を爽(サワ)やかにしようとしている)。

˥キム　ス˩リ˥ルン [˥kimu su˩ri˥ruŋ] 【連】元気になる。元気づく。心が晴れる。快活になる。すがすがしい＜清清しい＞気分になる。ヤ˩ラ˥ベー　ナ˩キベー˥ヌ　ウ˩ヤ˥ヌ　ミ˩ラ˥リカー　˥キムン　ス˩リ˥ルンパジ [ja˩ra˥be: na˩kibe:˥nu ʔu˩ja˥nu mi˩ra˥rika: ˥kimun su˩ri˥rumpaʤi](子供は泣いているが、親が見えたら心も晴れて元気になるでしょう)。

キ˩ム˥ズルイ [ki˩mu˥dʒurui] 【名】心を合わせること。協力すること。˩ウン˥ネヌ　˩キョーダイ˥サー　キ˩ム˥ズルイ　˩シー　オー˥ルンダ˥　イッ˩ケナ˥　ウ˩ラーミ˥サン˩ダー [˩ʔun˥nenu ˩kjo:dai˥sa: ki˩mu˥dʒurui ˩ʃi:ʔo:˥runda ʔik˩kena˥ ʔu˩ra:mi˥san˩da:](その家の兄弟達は心を合わせて協力しておられるので非常に羨ましいよ)。

キ˩ムダー˥リ [ki˩muda:˥ri] 【名】うたたね(転寝)。座ったままで寝てしまうこと。「肝・たはれ＜戯れ＞」の転訛か。「たはれ」は˩～多波礼＜タハレテ＞てありける。万、1738」の義か。マー˩ズン˥　パ˩ナ˥シ　˩ベータン˥ドゥ　イ˩チヌ˥　マ˩ドウ˥ル　ニ˩ブタ˥ユー　キ˩ムダー˥リ　˩シーベー [ma:˩dʒum˥ pa˩na˥ʃi ˩be:tan˥du ʔi˩tʃinu˥ ma˩du˥ru ni˩buta˥ju: ki˩muda:˥ri ˩ʃi:be:](一緒に話していたが、いつの間に寝たのか、転寝(ウタタネ)して＜座ったまま寝てしまって＞いるよ)。˥キモー　˩タールン [˥kimo: ˩ta:ruŋ](うたたねする。熟睡する)ともいう。

キ˩ムダー˥リ　˩スン [ki˩muda:˥ri ˩suŋ] 【連】うとうとする。うつらうつらする。とろとろと居眠りする。熟睡する。パ˩ナシ˥ヌ　ウ˩ムッ˥サティ　キ˩ムダー˥リ　˩スン˥ケン　シ˩キ　ベー˥タ [pa˩naʃi˥nu ʔu˩mus˥sati ki˩muda:˥ri ˩suŋ˥keŋ ʃi̥˩ki be:˥ta](話が面白いので、とろとろと居眠りするまで聞いていた)。

キ˩ムダカー˥ン [ki˩mudaka:˥ŋ] 【形】気位が高い。キ˩ムダカー˥　ミ˩ドゥ˥モー　˥ヤー　ム˩タ˥ヌティル　ム˩カ˥シプソー　ア˩ゾーッ˥タ [ki˩mudaka:˥ mi˩du˥mo: ˥ja: mu˩ta˥nutiru mu˩ka˥ʃipu̥so: ʔa˩dʒo:t˥ta](気位の高い女は家庭を持つことが出来ないと昔の人はいわれた。/パラダカフニヤ　シィマトゥラヌ　キィムタカミドゥンヤ　ヤームチャヌ/　デンサー節＜上原＞)『八重山民謡誌』。

キ˩ムタラー˥シ [ki˩mutara:˥ʃi] 【名】寛恕(カンジョ)。相手を

思いやること。相手の欠点を善意に解釈し、補って許してやること。「肝たらはし＜足＞。韓国爾　由伎多良波之＜ユキタラハシ＞て～『万葉集4262』」の義か。˩キョーダイ˥サー　˩ナー˥　タ˩ラーシタラーシ˥　キ˩ムタラー˥シ　˩シェー˥ティル˥タティパル˩ダー [˩kjo:dai˥sa: ˩na:˥ ta˩ra:ʃi˥ ta˩ra:ʃi˥ ki˩mutara:˥ʃi ˩ʃe:˥tiru ˥tatiparu˩da:](兄弟は互いに補い合って、相手の欠点を補い許しあって生活していくのだよ)。

キ˩ム˥ダリ [ki˩mu˥dari] 【名】気抜け。脱力。気落ち。意気沮喪(ソウ)すること。意気消沈すること。体から力が抜けてだらりとなること。˩クン˥ドー　˩フー˥ヤ　˩ナーン˥セーンタンティン　キ˩ム˥ダレー　˩サンドー˥シ　˩マー˥　プ˩ス˥ケンティン　ア˩リ˥ブンダ　ア˩ツァー˥ラ　˩ギーバリ˥ヨー [˩kun˥do: ˩ɸu:˥ja ˩na:ŋ˥ʃe:ntantiŋ ki˩mu˥dare: ˩sando:˥ʃi ˩ma:˥ pu̥˩su ˥kentiŋ ʔa˩ri˥bunda ʔa˩tsa:˥ra ˩gi:bari˥jo:](今回は果報＜良い結果＞はなかったが気落ちしないで、もう一度あるから、明日から頑張れよ)。

˥キム　˥ダルン [˥kimu ˥daruŋ] 【連】気抜けする。気落ちする。脱力する。意気消沈する。ウ˩ブキザ˥ルウ˩チナシ˥ター　ウミ˩ナーク˥　シ˩ティ˥　キ˩ムダリ　˩シーナー˥ヌ [ʔu˩bukiʤa˥ru ʔu˩tʃinaʃi̥˥ta: ʔumi ˩na:ku˥ ʃi̥˩ti˥ ki˩mu˥dari ˩ʃi:na:˥nu](大きな祭り行事を打ち済ませたらほっとして＜安心して＞気抜けしてしまったよ)。

キ˩ムチ [ki˩mutʃi] 【名】気持ち。心地。シ˩ムチ [ʃi ˩mutʃi] ともいう。ウ˩ヌ˥　プ˩スヌ˥　ウタ　シ˩キバル˥　メー　˩イー　キムチト ツォー [ʔu˩nu˥ pu̥˩sunu˥ ʔuta ʃi̥˩kibaru˥ me: ˩ʔi: kimutʃi˧tso:](その人の話を聞けば＜ぞ＞もう、実にいい気持ちなんだよ)。キ˩ムチヌサーギ˥＜キ˩ムヌサーギ＞　アルカー　ノー˩ン˥　ナルン [ki˩mutʃinusa:gi˥ ＜ki˩mu˥nusa:gi＞ ʔaruka: no:˩n˥ naruŋ](気持ち＜意欲＞がさえあれば人は何でもできる)。老年層は、単に˥キム [˥kimu](肝。心) ともいう。˥ムヌ　ア˩タラ˥サ˩スー˥　キ˩ムチヌ　ナー˥ヌ [˥munu ʔa˩tara˥sa ˩su:˥ ki˩mutʃinu na:˥nu](物を惜しむ＜大事にする。可愛がる。勿体無いと思う＞気持ちが無い)。

˥キム　トゥ˩ラ˥リン [˥kimu tu˩ra˥riŋ] 【連】心を奪われる。あることがらに夢中になる。あることに魅せられる。ク˩レー˥　シ˩バヤーミドゥム˥ナー　˥キモー　トゥ˩ラ˥リティ　シ˩バヤーカユイバシー　ピッ˥チン　˩ヤー　ガカラ˥ヌ [ku˩re:˥ ʃi˩baja:midumu˥na: ˥kimo: tu˩ra˥riti ʃi˩baja:kajuiba ʃi: pit˥tʃiŋ ˩ja: gakara˥nu](この人は芝居女に心奪われて、芝居小屋通いをしてちっとも家にいない＜家に留まることがない＞)。

キ˩ム˥　トゥルン [ki˩mu˥ turuŋ] 【連】機嫌をとる。気に入るようにする。ッ˩ふァヌ˥　キ˩ム˥　トゥルンティ　イ˩ル˥ジナムヌバ　˩カイオー˥レーンドゥ　˩ミームタイ˥ヤーンツァン　サ˩ヌ [f˩fanu˥ ki˩mu˥ turunti ʔi˩ru˥ʤinamunuba ˩kaiʔo:˥re:ndu ˩mi:mutai ˥ja:ntsan sa˩nu](子供の機嫌を取ろうと、いろいろな物を買ってこられたが、見向きすらしない)。

˥キム　˥ドンドン　˩スン [˥kimu ˥dondon ˩suŋ] 【連】胸＜心臓＞がドキドキする。ツ˩ゲー　ドゥー˥ヌ　˩バン˥ヌ　˥クーカヤーティ　˥ウムーカ　˥キムドンドン　˩シース [tsu˩ge: du:˥nu ˩ban˥nu ˥ku:kaja:ti ˥ʔumu:ka ˥kimu ˥dondoŋ ˩ʃi:su](次は自分の順番が来るかと思うと胸がどきどきするよ)。

キ˩ム˥ナー　カ˩カ˥ルン [ki˩mu˥na: kḁ˩ka˥ruŋ] 【連】気にかかる。心から離れず心配である。˩タンガッふァ˥バ　タ˩ベー˥　パ˩ラ˥シティ　ウ˩ヌ˥　ク˩トゥ˥ヌ　キ˩ム˥ナー　カ˩カリ˥ル　シ˩グトゥン˥　シ˩ララン˥ツォー [˩taŋgaffa˥ba ta˩be:˥ pa˩ra˥ʃi̥ti ʔu˩nu˥ ku˩tu˥nu ki˩mu˥na: ka˩kari˥ru ʃi˩gutuŋ˥ ʃi˩raran˥tso:](一人っ子を旅に行かせて、そのことが心配で心から離れず仕事も出来ないそうだ)。

キ˩ム˥ナー　ス˩マルン [ki˩mu˥na: su˩maruŋ] 【連】心に染みる。肝に銘ずる。ウ˩ヤ˥ヌ　˥ムネー　キ˩ム˥ナー　ス˩マリティ　バシキララヌ [ʔu˩ja˥nu ˥mune: ki˩mu˥na: su˩mariti baʃi̥kiraranu](親の言葉が心に染み付いて忘れられない)。キ˩ム˥ナー　ス˩ミリ [ki ˩mu˥na: su˩miri](肝に刻み込みなさい＜肝に染めよ＞)。

˥キム　˩ナー˥ヌ [˥kimu ˩na:˥nu] 【連】興味関心がない。その気がない。心がない。愛情が無い。˥キモー　˩ナー˥ヌ [˥kimo: ˩na:˥nu](愛情が無い。関心がない) ともいう。ク˩ヌ˥　プ˩ソー˥　シ˩グトゥ˥ナー　˩ナン˥ゾー　˥キモー　˩ナー˥ヌ [ku˩nu˥ pu̥˩so:˥ ʃi˩gutu˥na: ˩nan˥ʤo: ˥kimu ˩na:˥nu](この人は、仕事にはあまり興味関心がない＜情熱がない＞)。˥キモー　˩ナーン˥　シ˩グトー˥　ス˩ナ˥ヨー [˥kimo: ˩na:˥ŋ ʃi˩guto:˥ su˩na˥jo:](情熱のこもらない仕事はするなよ)。ウ˩レー　ピッ˥チン　ッ˩ふァ˥ナー　˥キモー　˩ナー˥ヌ [ʔu˩re: pit˥tʃiŋ f˩fa˥na: ˥kimo: ˩na:˥nu](彼はちっとも子供に愛情が無い＜子供を愛しない＞)。

キ˩ムナガー˥ン [ki˩munaga:˥ŋ] 【形】呑気である。気が長い。辛抱強い。キ˩ムナガー˥　プ˩ソー˥　ア˩ギ

マーシェー˜ティル　シゥ˞カウ˜ダー [ki˞munaga:˜ pu̥˞so:˜ ʔa˞gima:ʃe:˜tiru si̥˞kau˜da:](呑気な人は急(セ)きたて追廻しながら使うものだよ)。ア˞スン˜ケン　キ˞ムナガー　ナー˜ヌ [ʔa˞suŋ˜keŋ ki˞munaga:na:˜nu](それほど呑気(ノンキ)でない)。キ˞ムナガー˜ヌ　シゥ˞カーラヌ [ki˞munaga:˜nu si̥˞ka:ranu](呑気すぎて使えない)。イッ˞ケナ˜　キ˞ムナガー˜ン [ʔik˞kena˜ ki˞munaga:˜ŋ](非常に呑気である)。˜アイニ　キ˞ムナガー˜カー　シゥ˞カーラヌ [˜ʔaini ki˞munaga:˜ka: si̥˞ka:ranu](あんなに呑気だったら使う＜働かせる＞ことはできない)。ウ˞レー˜　キ˞ムナガー˜ンダ　プ˞ストゥヌ˜　ヤ˞クスク˜　マ˞ムラ˜ン　˜クトゥン　˜アン [ʔu˞re:˜ ki˞munaga:˜nda pu̥˞sutunu˜ ja˞kusu̥ku˜ ma˞mura˜ŋ ˜ku̥tuŋ ʔaŋ](彼は呑気物だから他人との約束を守らないこともある)。

キ˞ム˜ヌ　˜アン [˜kimu ʔaŋ] 【連】気がある。愛情がある。関心がある。意欲がある。ク˞ヌ˜　シ˞グトゥ　スン˜ティ　˞スー˜　キ˞ム˜ヌ　˜アンユー　˞トゥイ˜　シ˞キ˜ミリ [ku˞nu˜ ʃi˞gutu sun˜ti ˞su:˜ ki˞mu˜nu ˜ʔaŋju: ˞tui˜ ʃi̥˞ki˜miri](この仕事をしよう＜する＞という気があるか、問い尋ねて＜聞いて＞みれ)。

キ˞ム˜ヌ　ウ˞ム˜ティン [ki˞mu˜nu ʔu˞mu˜tiŋ] 【連】心に思うことも。「肝に思っても」の転化したもの。/～ヌチヌ　アリワドゥ　チムヌ　ウムティン　ククルヌ　アルティン　ジュージュー　サマザマ　カナワティ　イカリサ～/(～命があればこそ、胸に願っていることも、心に思うことも重ね重ね幾重にも適えさせていけるものだ～)「鳩間口説」。

キ˞ムヌカ˜ル [ki˞munuka˜ru] 【名】心残り。未練に思うこと。残念に思うこと。カ˞クビチ˜　キ˞ムヌカ˜ロー　˞ナー˜ヌンドゥ　ブ˞ネーヌ˜　ウ˞ヤ˜ヌ　˞トー˜カキ　シ˞ミ　オーシユサンタ˜　ク˞トゥ˜ル　キ˞ムヌカ˜ル　ナリ˞ブー [kḁ˞kubitʃi˜ ki˞munuka˜ro: ˞na:˜nundu bu˞ne:nu˜ ʔu˞ja˜nu ˞to:˜kaki ʃi˞mi ʔo:rasan˜ta ku˞tu˜ru ki˞munuka˜ru nari˞bu:](格別心残りはないが、母親の米寿の誕生祝いをして差し上げられなかったことが心残りだ)。

キ˞ム˜ヌ　˞シン˜ジ [ki˞mu˜nu ˞ʃin˜ʤi] 【連】心底よりの信仰。本心からの信仰。キ˞ム˜ヌ　˞シンジ˜ヌ　˞ナーン˜カー　˞カンプトゥ˜ケーヌ　˞ニンガイ˜ヤ　トゥ˞ドゥカ˜ヌ [ki˞mu˜nu ˞ʃinʤi˜nu ˞na:ŋ˜ka: ˞kampu̥tu˜ke:nu ˞niŋgai˜ja: tu˞duka˜nu](心底よりの信仰が無いと神仏への願いは届かない)。

キ˞ム˜ヌ　˞ソー [ki˞mu˜nu ˞so:] 【連】心配事。「心の心配＜世話。さう。左右＞」の義か。あれこれ心配して心を砕く意。ッ˞ふァムチェー˜　イッ˞チン　ナッ˜タンティン　キ˞ム˜ヌ　˞ソーカーニル˜　アル　キ˞ム˜ヌ　˜ユリテー　˞ナー˜ヌ [f˞famutʃe:˜ ʔit˞ʧin nat˜tantiŋ ki˞mu˜nu ˞so:ka:niru˜ ʔaru ki˞mu˜nu ˜jurite: ˞na:˜nu](子持ちは何時になっても心配事だけだ。心配事からの開放される＜心を緩める。安心すること＞ことはない)。

キ˞ム˜ヌ　タ˞ダリ˜スク [ki˞mu˜nu ta˞dari˜su̥ku] 【連】断腸の思いをするほど。胸が爛(タダ)れ焦がれるほど。「肝が爛れるほど」の義。ブ˞ラーン˜　ッ˞ふァヌ˜　ク˞トゥ˜バ　キ˞ム˜ヌ　タ˞ダリ˜スク　˜ウムイ　ナ˞クタンティン˜　ム˞ドゥ˜リ　˞クー˜ヌ [bu˞ra:ŋ˜ f˞fanu˜ ku̥˞tu˜ba ki˞mu˜nu ta˞dari˜su̥ku ˜ʔumui na˞kutantim˜ mu˞du˜ri ˞ku:˜nu](亡くなった子供の事を胸が爛れるほど思い、泣き暮らしても戻って来ない)。

キ˞ムヌ˜　ッふァ [ki˞munu˜ ffa] 【連】寵愛(チョウアイ)している子。心から愛している子。サ˞ク˜シェーヤ　˜アトゥトゥリ　ヤ˞ルンダ˜　カ˞ナ˜サ　˞ソール˜ヌ　キ˞ムヌ˜　ッふァーヤ　ジ˞ナンドゥ˜　ヤ˞ル [sḁ˞ku ˜ʃe:ja ˜ʔatuturi ja˞runda˜ ka˞na˜sa ˞so:ru˜nu ki˞munu˜ ffa:ja ʤi˞nandu˜ ja˞ru](長男は跡取りだから可愛がられるが、寵愛しているのは次男だ)。

キ˞ムヌ˜ッふァ [ki˞munu˜ffa] 【名】最愛の子。心底から可愛がっている子。˞アー˜ヤ　キ˞ムヌッふァ˜ヌ　ウ˞キ˜ナーラ　˞カイ˜リケーティ　イッ˞ケナ˜　サ˞ニヤ　シーオー˜ル [˞ʔa:˜ja ki˞munuf˞fanu ʔu˞ki˜na:ra ˞kai˜rike:ti ʔik˞kena˜ sa˞nija ʃi:ʔo:˜ru](お父さんの最愛の子が沖縄から帰ってきたので、非常に喜んでおられる)。

キ˞ムヌ˜ドゥ　˜ムノー　˜ミル [ki˞munu˜du ˜muno: ˜miru] 【連】心が物を見る。見ようという気持ちがあるからこそ見ることが出来るのだ。キ˞ムヌ˜ドゥ　˜ムノー　˜ミル　キ˞ム˜ヌ　˞ナーン˜カー　ム˞ヌ˜ヌ　˞アッ˜タンティン　ミ˞リユーサヌ [ki˞munu˜du ˜muno: ˜miru ki˞mu˜nu ˞na:ŋ˜ka: mu˞nu˜nu ˞ʔat˜tantim mi˞riju:sa˜nu](心＜肝＞が物を見るのだ。心が無ければ物があっても見ることは出来ない)。

キ˞ム˜ヌ　˜ヌビ [ki˞mu˜nu ˜nubi] 【連】耐え忍んで許すこと。寛大(カンダイ)に許すこと。怒りを堪えること。˜アイニ　プ˞スン˜　イ˞ジフザレー˜ティン　˞クン˜ゾー　ン˞ザサ˜ヌ　イッ˞ケナ˜　キ˞ム˜ヌ　ヌ˞ビ˜ヌ　˜アル　プ˞ス˜ダー [˜ʔaini pu̥˞suŋ˜ ʔi˞ʤiɸuʤare:˜tiŋ ˞kun˜ʤo: ʔn˞ʤasa˜nu ʔik˞kena˜ ki˞mu˜nu nu˞bi˜nu ˜ʔaru pu̥˞su˜da:](あんなに他人に叱りとばされても腹を立て＜立腹し＞ない。非常に耐え忍んで許す

ことのできる人だよ)。

キ˞ムˀヌ　バ˞ザールン [ki˞muˀnu ba˞ʤa:ruŋ] 【連】気がはやる。心が浮き立つ。気持ちが勢いづく。˞サンシンヌˀ　ウ˞トゥˀ　ス˞クˀカー　キ˞ムˀヌ　バ˞ザーリティ　トゥンタティˀ　ブ˞ドゥル　シース [˞saŋʃinnuˀ ʔu˞tuˀ si̥˞kuˀka: ki˞muˀnu ba˞ʤa:riti tuntatiˀ bu˞duru ʃi:su](三線の音を聞くと心が浮き立って、飛び出て躍りだす＜踊りをする＞)。

キ˞ムヌベˀー [˞kimunubeˀ:] 【名】呑気な人。気の長い人。のんびり屋。怠け者。キ˞ムヌビˀムヌ [ki˞munubiˀmunu](呑気物。怠け者) ともいう。ウ˞レーˀ　キ˞ムヌベˀー　ヤ˞ルンダˀ　ウ˞リンマーˀ　タ˞ナマˀラヌ [ʔu˞reːˀ ki˞munubeˀ: ja˞rundaˀ ʔu˞rimmaːˀ ta˞namaraˀnu](彼＜それ＞は呑気な怠け者だから、彼には頼めない)。

キ˞ムヌベーˀン [ki˞munubeːˀŋ] 【形】気が長く油断しがちである。悠長で怠惰である。呑気で怠けがちである。「肝・延び・あり」の義。ク˞ヌˀ　プ˞ソーˀ　キ˞ムヌベーˀンダ　ˀユー　˞トゥシˀキ　シゥ˞カシェーˀティ　シゥ˞カーンˀカー　ナ˞ランˀダー [ku˞nuˀ pu̥˞soːˀ ki˞munubeːˀnda: ju: ˞tuʃi̥ˀki si̥˞kaʃeːˀti si̥˞ka:ŋˀka: na˞ranˀda:](この人は呑気で怠惰だから、よく言いつけて使用しないといけないよ)。˞キムヌベˀー　˞ナーンˀシェンドゥ　˞シンダイ　キムヌベーˀ　ナリキー　˞ナーˀヌ/　ˀアイニ　˞キ˞ムヌベーˀ　プ˞ソーˀ　タ˞ナムˀナ [˞ki:nubeˀ: ˞na:ŋˀʃendu ˞ʃindai ki:nubeːˀ nariki: ˞naːˀnu/ ˀʔaini ˞ki:nubeːˀ pu̥˞soːˀ ta ˞namuˀna](呑気で油断しがちはなかったが次第に呑気になって怠けるようになってしまった。あんなに呑気で怠惰な人は頼むな)。

˞キムヌベーˀン [ki˞munubeːˀŋ] 【形】呑気で油断しがちである。「肝延びさあり」の転訛したもの。ク˞ヌˀ　ッ˞ふァーˀ　キ˞ムヌベーˀンダ　ˀユー　˞トゥシˀキ　ギ˞チ　シェーˀティ　シゥ˞カイˀヨー [ku˞nuˀ f˞fa:ˀ ki˞munubeːˀnda ˀju: ˞tuʃi̥ˀki gi˞ʧi ʃeːˀti si̥˞kaiˀjo:](この子は呑気で油断しがちだから、よく注意して指図しながら使いなさいよ)。キ˞ムヌベーナーˀヌ [ki˞munube: naːˀnu](呑気ではない)。キ˞ムヌベーˀヌ　シゥ˞カーラヌ [ki˞munubeːˀnu si̥˞ka:ranu](呑気すぎて使えない)。ˀアイニ　キ˞ムヌベーˀ　プ˞ソーˀ　ブ˞ラーヌ [ˀʔaini ki˞munubeːˀ pu̥˞soːˀ bu˞ra:nu](あのように呑気で油断しがちな人はいない)。

キ˞ムヌˀ　ユリ [ki˞munuˀ juri] 【連】1油断。「心の緩み」の義。イ˞ガメーˀ　ン˞ジˀルカー　キ˞ムヌˀユレー　ティ˞キˀダー [ʔi˞gameːˀ ʔn˞ʤiˀruka: ki˞munuˀ jure: ti̥˞kiˀda:](烏賊釣り漁に出たら油断は禁物＜敵＞だよ)。2安心。心を許すこと。ッ˞ふァˀ　ス˞ダティˀバナー　キ˞ムˀヌ　ˀユリティ　˞スー　ムノー　ナーンˀシェン [f˞faˀ su˞datiˀbana: ki˞muˀnu ˀjuri ˞su: muno: naːŋˀʃeŋ](子育ての最中＜最盛期＞には安心などと言うものはなかった)。

キ˞ムノーˀシ [ki˞muno:ˀʃi] 【名】機嫌直し。気晴らし。˞イーˀユン　ッ˞ふァイˀ　サ˞キンˀ　ヌミティ　キ˞ムノーˀシ　˞シーˀバ [˞ʔi:ˀjuŋ f˞faiˀ si̥˞kinˀ numiti ki˞muno:ˀʃi ˞ʃi:ˀba](ご飯も食べ、酒も飲んで機嫌直しをしなさいよ)。

ˀキム　˞ノーˀスン [ˀkimu ˞no:ˀsuŋ] 【連】機嫌を直す。相手の気分や感情を良くする。ッ˞ふァヌˀ　キム　˞ノーˀスンティ　˞コーˀシ　˞カイ　クーˀタ [f˞fanuˀ kimu ˞no:ˀsunti ˀko:ˀʃi ˞kai ku:ˀta](子供の機嫌を直そう＜機嫌をとろう＞として、お菓子を買ってきた)。イ˞ザリティ　ニッˀターン　パジ˞ダーˀヌ　ク˞リˀシ　サ˞キンˀノーン　ˀヌミ　ˀキム　˞ノーˀシティ　パ˞タラキˀバ˞ヨー [ʔi˞ʤariti nitˀta:m paʤi˞daːˀnu ku˞riˀʃi si̥˞kinˀno:m ˀnumi ˀkimu ˞no:ˀʃi pḁ˞taraki ˀba˞jo:](叱られて妬ましくもあるだろうが、これで酒でも飲んで機嫌を直して、働きなさいねえ)。

ˀキム　˞ノーˀルン [ˀkimu ˞no:ˀruŋ] 【連】機嫌がなおる。機嫌をとる。相手の気分や感情が良くなる。ン˞マーˀムヌ　ッ˞ふァースˀカー　ˀキム　˞ノーˀルンカヤー [ʔm˞maːˀmunu f˞fa:suˀka: ˀkimu ˞no:ˀruŋkaja:](美味しいのを食べさせたら機嫌は直るかねえ)。

キ˞ムバカーˀン [ki˞mubaka:ˀŋ] 【形】胸がむかむかするさま。吐き気をもよおす。胃がむかつく。ウ˞ヌˀ　カ˞ザˀ　カ˞ブˀカー　キ˞ムバカーˀ　ナ˞リˀス [ʔu˞nuˀ ka˞ʤaˀ ka˞buˀka: ki˞mubaka:ˀ na˞riˀsu](その匂いを嗅ぐと吐き気をもよおす)。キ˞ムバカˀー　˞ナーˀヌ [ki˞mubakaˀ: ˞naːˀnu](胸はむかむかしない)。キ˞ムバカーˀンドゥ　ニ˞ジˀル　˞ベートダー [ki˞mubaka:ˀndu ni˞ʤiˀru ˞be:ɦda:](吐き気をもよおすが、我慢して＜念じて＞いるんだよ)。キ˞ムバカーˀ　ピンマー [ki˞mubaka:ˀ pimma:](胸がむかむかする時は)。ˀドゥク　キ˞ムバカーˀカー　ˀパキバ [ˀduku ki ˞mubaka:ˀka: ˀpḁkiba](あまりにも吐き気をもよおすなら吐きなさいよ)。

ˀキム　バ˞クン [ˀkimu ba˞kuŋ] 【連】心が勇み立つ。気力が奮い立つ。嬉しくなる。勢い込む。心がはずんで落ち着かない。「肝が沸く＜発酵する。盛んに起る＞」の義。ˀキモー　バ˞クン [ˀkimo: ba˞kuŋ](心

は勇み立つ) ともいう。プ˩スン˥　フ˩ミラリ˥ター　˥キモー　バ˩キティ˥　ブ˩ドゥルン˥　ノー˩ン　シーンギサーッ˥タ [pu̥˩suŋ˥ ɸu˩mirarit˥ta: ˥kimo: ba˩kiti˥ bu˩durun˥ no:˩ŋ ʃi:ŋgisa:t˥ta](他人に誉められて心が勇み立ち、踊りでも何でもやりそうだった)。

˥キム　バ˩ザールン [˥kimu ba˩ʤa:ruŋ] 【連】せい＜急い＞て気をもむ。いらだつ。怒る。「肝が勢いづく」の義。ウ˩ヤ˥ヌ　˥ムニン　シゥ˩カムティ˥　ア˩サビマール　シェー˥ティ　˩アー˥ク　シ˩ナタ˥　ミリティ　˥キモー　バ˩ザーリドゥ　オー˥ル [ʔu˩ja˥nu ˥munin si̥˥kamuti˥ ʔa˩sabima:ru ʃe:˥ti ˩ʔa:˥ku ʃi˩nata˥ miriti ˥kimo: ba˩ʤa:ridu ʔo:˥ru](親のいうことも聞かずに遊びまわっている姿を見て気がいらだって＜怒って＞おられる)。

キ˩ム˥バ　˥ムトゥン [ki˩mu˥ba ˥mutuŋ] 【連】心がける。思って行動する。˥アイブ　キ˩ム˥バ　˥ムテー　ナ˩ラ˥ヌ [˥ʔaibu ki˩mu˥ba ˥mute: na˩ra˥nu](あのような気持ちを持ってはならない＜あんな心を持って行動すること＞は良くない)。

キ˩ムパヤー˥ン [ki˩mupaja:˥ŋ] 【形】気が早い。キ˩ムパヤー˥ンダー　˥バー　ア˩ザン˥ケンナー　キ˩サーティ˥　キ˩ミ˥シケー [ki˩mupaja:˥nda: ˥ba: ʔa˩ʤaŋ˥ kenna: kisa:˩ti˥ ki˩mi˥ʃi̥ke:](気が早いから、私が言わないうちに既に決めてある)。キ˩ムパヤ˥ー　˩ナー˥ヌ [ki˩mupaja˥: ˩na:˥nu](気が早くない)。˥ドゥクキ˩ムパヤー˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [˥duku ki˩mupaja:˥nu na˩ra˥nu](あまりにもせっかちで＜気が早くて＞堪(タマ)らない)。˥アイニ　キ˩ムパヤー˥　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [˥ʔaini ki˩mupaja:˥ pu̥˩so:˥ bu˩ra:nu](あんなにせっかちな＜気の早い＞人はいない)。

˥キム　パ˩リ˥ルン [˥kimu pa˩ri˥ruŋ] 【連】気が晴れる。心が晴れる。心のわだかまりが解けてさわやかになる。キ˩ム˥ウチナー　ウ˩ムイ˥ル　˥クトゥ　ムー˩ル˥　アジ　ッ˩サル˥カー　˥キモー　パ˩リ˥ルン˩ダー [ki˩mu˥ʔutʃina: ʔu˩mui˥ru ˥ku̥tu mu:˩ru˥ ʔaʤi s˩saru˥ka: ˥kimo: pa˩ri˥run˩da:](心に思っている事を総て申し上げたら気が晴れてさっぱりするよ)。

キ˩ムピー˥チ [ki˩mupi:˥ʧi] 【名】心を一つにすること。心を合わせること。ム˩ラズー˥　キ˩ムピー˥チ　˥ナリ　ニガイ　˩オー˥ラ [mu˩raʤu:˥ ki˩mupi:˥ʧi ˥nari ˥nigai ˩ʔo:˥ra](村中の人が心を一つにして祈願しましょう)。/ユスヌ　カミガナシ　キムピーチ　ムスビョーリ/ハーリ　アミタボリ　リューガナシ/(四方の神様　心を一つに結んで下さい。ハーリ＜囃子＞雨をお恵み下さい、竜神さま　)「雨乞い歌　『鳩間島古典民謡古謡集』」。

˥キム　˩ピーラ˥スン [˥kimu ˩pi:ra˥suŋ] 【連】感情を落ち着かせる。心を落ち着かせる。イ˩ザリタ　イットゥ˥ケー　˩ニッ˥ふァータンドゥ　˥キム　˩ピーラ˥シティ　˥ウムーカー　ア˩ゾー˥ル　˩トゥール˥ユン [ʔi˩ʤarita ʔittu˥ke: ˩nif˥fa:tandu˥kimu ˩pi:ra˥ʃi̥ti˥ ʔumu:ka: ʔa˩ʤo:˥ru ˩tu:ru˥juŋ](叱られた一時は憎かったが、心を落ち着かせて考えると、言われる通りだよ)。

キ˩ム˥ピキ [ki˩mu˥pi̥ki] 【名】贔屓。「肝引き」の転訛したもの。個人的感情で＜心情的に、気分的に＞気に入った者を特別に援助すること。私的関係で後援すること。˥ドゥーマーラヌ　ッ˩ふァン˥ケー　˩タン˥ガ　キ˩ム˥ピキ　˩サンドー˥シ　ムー˩ル˥　マー˩タキナー˥　バキ　ッ˩ふァーシ˥バ [˥du:ma:ranu f˩faŋ˥ke: ˩taŋ˥ga ki˩mu˥pi̥ki ˩sando:˥ʃi mu:˩ru˥ ma:˩takina:˥ baki f˩fa:ʃi˥ba](身内＜自分の周り＞の子供たちだけを贔屓(ヒイキ)しないで、みんなに同等に分けて食べさせなさい)。ク˩ヌ˥　プ˩スバ˥　ナー˩イ˥　キ˩ム˥ピキ　˩シー　ベー [ku˩nu˥ pu̥˩suba˥ na:˩i˥ ki˩mu˥pi̥ki ˩ʃi: be:](この人をただえこひいきしている)。キ˩ム˥ピキ　˩スン [ki˩mu˥pi̥ki ˩suŋ](贔屓(ヒイキ)する)。

˥キム　ビ˩シルン [˥kimu bi˩ʃiruŋ] 【連】落ち着かせる。度胸を据えさせる＜座らせる＞。˥キム　ビ˩シルンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　プ˩スヌ˥　マンター　ン˩ジ˥ルカー　˥キム　ビ˩シラランバン [˥kimu bi˩ʃirunti˥ ʔu˩mu:n˥du pu̥˩sunu˥ manta: ʔn˩ʤi˥ruka: ˥kimu bi˩ʃirarambaŋ](己を落ち着かせようと思うんだが、人前に出ると落ち着けないわい)。

キ˩ムピダ˥ティ [ki˩mupida˥ti] 【名】心隔て。睦みあわないこと。心が打ち解けないこと。ユ˩ヌ˥　シマプスル　ヤ˩ル˥　キ˩ムピダ˥ティ　˩ソーラン˥ドーシ　アチー˩アチー˥　ピライ　ッ˩ふォー˥リ [ju˩nu˥ ʃimapu̥suru ja˩ru˥ ki˩mupida˥ti ˩so:ran˥do:ʃi ʔatʃi:˩ ʔatʃi:˥ pirai f˩fo:˥ri](同じ島出身の人間です。心隔てなさらずに親密に交際して下さい)。

キ˩ムピダ˥ミ [ki˩mupida˥mi] 【名】心隔て。かたびいき。依怙贔屓(エコヒイキ)。睦みあわないこと。打ち解けない心。キ˩ムピダ˥ミ　˩サンドー˥シル　˥ピライケー　シ˩ムル˥　ヤ˩タンドゥ˥　カ˩タ˥ピキティ　ウ˩モー˥リ　ブ˩レー˥バン [ki˩mupida˥mi ˩sando:˥ʃiru˥ piraike: ʃi˩muru˥ ja˩tandu˥ kḁ˩ta˥pikiti ʔu˩mo:˥ri bu˩re:˥baŋ](心隔てしないで付き合ってきたつもりであったが、依怙贔屓と思われていたんだわい)。

˥キム　˩ピャーン˥ガルン [˥kimu ˩pja:ŋ˥garuŋ] 【連】

びっくり仰天する。肝を潰(ツブ)す。「肝＜が＞飛び上がる＜跳ね上がる＞」の義。ッ˹ふァヨーンサーリ˺ミ˹チ˺ナー　ウ˹リトゥ˺　ガッ˹ふァティ　ゲーサイティ˺　キム　˹ピャーン˺ガリ˹ベー˺タ [fˈfajoːnsaːri˺ miˈ˹tʃi˺naː ʔu˹ritu˺ gafˈfati geːsaiti˺ kimu ˹pjaːŋ˺gari ˹beː˺ta](暗闇でその人とばったりでくわし＜出会わし＞てびっくり仰天して＜肝が跳ね上がって＞いたよ)。

キ˹ムピラ˺ケーン [ki˹mupira˺keːŋ] 【形】怖い。危険を感じて背筋が寒くなる。恐怖感でひやりとする。肝を冷やす。高所から見下ろした時など、恐怖感でぞっとする。「肝涼しい」の義。ヤ˹ラビ˺ヌ　˹カン˺スル　ム˹タ˺ビ　˹ベー˺ムヌ　˺ミルカー　キ˹ムピラケー˺ヌ　˺ミリ　ブ˹ララヌ [ja˹rabi˺nu ˹kan˺suru mu˹ta˺bi ˹beː˺munu ˺miruka: ki˹mupirakeː˺nu ˺miri bu˹raranu](子供が剃刀をいじって＜弄(モテアソ)んで＞いるのを見ると、ぞっとするような恐怖感で、怖くて見ておれない)。キ˹ムピラ˺ケー　˹ナー˺ヌ [ki˹mupira˺keː ˹naː˺nu](怖くない)。˹ヤー˺ヌ　ティ˹ジ　ヌール˺カー　キ˹ムピラ˺ケー　˺ナルン [ˈjaː˺nu ti˹ʤi nuːru˺ka: ki˹mupira˺keː ˺naruŋ](家の頂きに登ると恐怖感でぞっとする)。˹キーヌ　パン˺ター　˹ヌール˺カー　キ˹ムピラ˺ケーン [ˈkiːnu pan˺taː ˹nuːru˺ka: ki˹mupira˺keːŋ](木のてっぺんに登るとぞっとして背筋が寒くなるほど怖い)。キ˹ムピラ˺ケーカー　˺ウリバ [ki˹mupira˺keːka: ˺ʔuriba](恐怖感でぞっとするようだったら降りなさい)。

˺キム　ビ˹ルン [˺kimu bi˹ruŋ] 【連】落ち着く。度胸がある。「肝が座る」の義。ウ˹レー˺　キモー　ビ˹リブンダ　ターン˺　ノー˹ンティ˺　ア˹サバン˺　ウ˹バウムノー　ナー˺ヌ [ʔu˹reː˺ kimoː biˈ˹ribunda taːn˺ noː˹nti˺ ʔa˹ʤabaŋ˺ ʔu˹bau munoː naː˺nu](その人は肝が座っていて度胸があるから、誰が何と言おうと怖がるものはない)。

キ˹ム˺フク [ki˹mu˺ɸuku] 【名】心。「肝・肺」の義。キ˹ム˺フク　˹ピー˺チ　˺ナシ [ki˹mu˺ɸu̥ku ˹piː˺tʃi ˺naʃi](心を一つにせよ)。

キムフク˹レー [kimuɸu̥ku˹reː] 【感】まー汚い。なんと汚いことか。キムフク˹レー˺　アイブ　˺ムヌ　ッ˹ふァーリント˺トゥー [kimuɸu̥ku˹reː˺ ʔaibu ˺munu f˹faːrinˈtuː](まー汚い。あんなものが食べられるか)。

キ˹ムフク˺レーン [ki˹muɸu̥ku˺reːŋ] 【形】汚い。汚らしい。穢い。けがらわしい。ウ˹レー　サッ˺コー　キ˹ムフク˺レーン [ʔu˹reː sak˺koː ki˹muɸu̥ku˺reːŋ](それは非常に汚い)。キ˹ムフクレー˺ヌ　カ˹サマラヌ [ki˹muɸu̥kureː˺nu kḁ˹samaranu](汚くて掴めない)。キ˹ムフク˺レー　˹ナー˺ヌ [ki˹muɸu̥kureː naː˺nu](汚くない)。キ˹ムフクレー˺　ムヌ [ki˹muɸu̥kureː˺munu](汚いもの)。˺アイニ　キ˹ムフク˺レーカー　カ˹サムナ [˺ʔaini ki˹muɸu̥ku˺reːka: kḁ˹samuna](あんあに汚ければ掴むな)。

キ˹ム˺フグン [ki˹mu˺ɸuguŋ] 【自動】満足する。納得する。˹ワー˺　キ˹ム˺フグンケン　ッ˹ふァイ˺ミサン [˹waː˺ ki˹mu˺ɸuguŋkeŋ fˈfai˺ misaŋ](君が満足するほど食べて良い)。マ˹ダ˺　キ˹ムフガ˺ヌ [ma˹da˺ ki˹muɸuga˺nu](まだ満足しない)。キ˹ム˺フギティ　パ˹ナ˺シ　シ˹キベー [ki˹mu˺ɸugiti pa˹na˺ʃi ʃi̥˹ki beː](満足して話を聞いている)。キ˹ム˺フグ　˺クトー　˹ナー˺ヌ [ki˹mu˺ɸugu ˺ku̥toː ˹naː˺nu](満足することはない)。キ˹ム˺フゲー　˺ミサムヌ [ki˹mu˺ɸugeː ˺misamunu](満足すればいいのに)。˺ウビシ　キ˹ム˺フギバ [˺ʔubiʃi ki˹mu˺ɸugiba](これで満足せよ)。

˺キム　フ˹グン [˺kimu ɸu˹guŋ] 【連】満足する。納得する。˺キム [˺kimu](肝) に、フ˹グン [ɸu˹guŋ](「ほき＜祝き・禱き＞。少名御神＜すくなみかみ＞の、神＜かむ＞ほき祝きくるほし」『古事記、歌謡』、「～君がやどにし千年保久等曾＜チトセ　ホクトゾ＞。万、4289」、「祠、春祭也、保加不＜ほかふ＞」『新撰字鏡』) が下接した「キモ・ホギ」から転訛したものか。良い結果が出るように、祝いいうことから、「心に引っ掛かるものがなく、すっきりと納得できるようになること。満足して納得できること」へ意味派生したものか。˺キム　フ˹グン˺ケン　ン˹マー˺ムヌ　ッ˹ふァイミッ˺タン [˺kimu ɸu˹guŋ˺kem ʔm˹maː˺munu fˈfaimit˺taŋ](満足するほど美味しいご馳走＜もの＞を食べたことがある)。˺ウビシェー　˺キモー　フ˹ガヌ [˺ʔubiʃeː ˺kimoː ɸu˹ganu](これだけでは満足しない)。˺キム　フ˹グ˺クトー　˹ナー˺ヌ [˺kimu ɸu˹gu˺kutoː ˹naː˺nu](満足することはない)。˺キム　フ˹ゲー˺カー　ナ˹クナ [˺kimu ɸu˹geː˺kaː na˹kuna](満足したら泣くな)。˺ウビシ　˺キム　フ˹ギ [˺ʔubiʃi ˺kimu ɸu˹gi](これで満足しなさい)。

˺キム　フ˹トゥフトゥー [˺kimu ɸu̥˹tuɸutuː] 【連】ぶるぶる。がたがた。怒りで心が震えるさま。怒りで震えが抑えられないさま。˺キム　フ˹トゥフトゥー　スン˺ケン　イ˹ザリ　ベー˺タ [˺kimu ɸu̥˹tuɸu̥tuː suŋ˺keŋ ʔi˹ʤari beː˺ta](怒りでぶるぶる震えるほど

叱られていた)。

˺キム　フ˽ラックン [˺kimu ɸu˽rakkuŋ] 【連】気が晴れる。朗らかになる。心が広々となる。「肝が開く」の義。シ˽ラフク˺リ　˽シー　ベータン˺ドゥ　ウ˽キ˺ナー　パ˽ラ˺スンティ　ア˽ズター˺　キモー　フ˽ラッキティ˺　サ˽ニーサニー˺シ　˽ベーン˺ティ [ʃi˽raɸu̥ku˺ri ˽ʃi:be:tan˺du ʔu˽ki˺na: pa˽ra˺sunti ʔa˽ʤuta:˺ kimo: ɸu˽rakkiti˺ sa˽ni:sani:˺ʃi ˽be:n˺ti](脹れっ面をしていたが沖縄へ行かせると言うと、気が晴れて嬉しそうにしているよ、ほら)。

キ˽ム˺ブリ [ki˽mu˺buri] 【名】心迷い。心が乱れること。男女が惚れること。˺アイブ　ヤ˽ラ˺ビナ　キ˽ム˺ブリ　˽マーブリバ　シェー˺ティ　˺ヌーヤ　ウ˽レー　ウイプス˺ヌ　˽フージェー　ナー˺ヌ [˺ʔaibu ja˽ra˺bina ki˽mu˺buri ˽ma:buriba ʃe:˺ti ˺nu:ja ʔu˽re: ʔuipusu˺nu ˽ɸu:ʤe: na:˺nu](あんな子供 < 童 > に心迷いし、真剣に惚れるなんて何事だそれは。年寄りのくせに全く体裁が悪い < 風情がない >)。

キ˽ムマイ˺ヤン [ki˽mumai˺jaŋ] 【形】大胆である。度胸が大きい。肝っ玉が大きい。「肝が大きい」の義。ク˽ヌ˺　ッ˽ふァー˺　キ˽ムマイ˺ヤンダ　イッ˽カ˺　プ˽スウバイ˺　サ˽ヌ [ku˽nu˺ f˽fa:˺ ki˽mumai˺janda ʔik˽ka˺ pu̥˽suʔubai˺ sa˽nu](ここ子は度胸が大きいから、ちっとも < いっこうに、全く > 人怖(オ)じしない)。キ˽ムマイ˺ヤ˽ナー˺ヌ [ki˽mumaijana:˺nu](度胸が大きくない)。キ˽ムマイ˺ヤナルン [ki˽mumai˺ja ˺naruŋ](度胸が大きくなる)。キ˽ムマイ˺ヤ　プ˽ス [ki˽mumai˺ja pu˽su](度胸の大きい人)。キ˽ムマイ˺ヤカー [ki˽mumai˺jaka:](度胸が大きければ)。

キ˽ム˺ミサン [ki˽mu˺misaŋ] 【形】心優しい。気立てが優しい。心根が優しい。キ˽ムカイ˺ヤン [ki˽mukai˺jaŋ](心が優しい) ともいう。ウ˽ヤ˺キプスティン　ウ˽モーラ˺ヌ　イッ˽ケン˺　キ˽ム˺ミサン [ʔu˽ja˺kipu̥sutiŋ ʔu˽mo:ra˺nu ʔik˽keŋ˺ ki˽mu˺misaŋ](金持ちとも思えない、非常に気立てが優しい)。キ˽ム˺ミサー　˽ナー˺ヌ [ki˽mu˺misa: ˽na:˺nu](心優しくない)。キ˽ム˺ミサンギサン [ki˽mu˺misaŋgisaŋ](気立てが優しそうだ)。キ˽ム˺ミサー　プ˽ス [ki˽mu˺misa: pu̥˽su](心優しい人)。キ˽ム˺ミサカー　˽ソーヤ　ナー˺ヌ [ki˽mu˺misaka: ˽so:ja na:˺nu](心が優しければ心配はない)。

キ˽ムムチ˺ムヌ [ki˽mumutʃi˺munu] 【名】感情を持っているもの。心のあるもの。「肝持ち者」の義。キ˽ムムチ˺ムヌドゥ　ヤ˽ル˺　アイニ　プ˽スバ˺　ウ˽ムイナサリ˺ラ　˽ナー [ki˽mumutʃi˺munudu ja˽ru˺ ʔaini pu̥˽suba˺ ʔu˽muinasari˺ra ˽na:](感情を持っている者であるのを、あんなにも人を侮り軽んじられ < 侮辱できる > るものかね)。

キ˽ムヤカシ˺ッふァ [ki˽mujakaʃi˺ffa] 【名】親の胸を痛ませる子。親の心を悩ませる子。「肝焼かせ子」の義。ウ˽ヌスクナー˺ヌ　˺ウヤーラン　キ˽ムヤカシッふァ˺ヌ　マ˽リスバン˺　ピ˽ルマ˺サ [ʔu˽nusu̥kuna:˺nu ˺ʔuja:raŋ ki˽mujakaʃiffa˺nu ma˽risubam˺ pi˽ruma˺sa](あれほど立派な親からも親の心を悩ませる子が生まれるものだなあ、珍しいことよ)。

˺キム　ヤ˽クン [˺kimu ja˽kuŋ] 【連】肝を焼く。心を悩ます。ッ˽ふァヌ˺　ク˽トゥ˺バ　˺ウムイ　ナー˺イ˺　キ˽ム˺バ　ヤ˽キ˺　ナ˽キカザリオー˺ル [f˽fanu˺ ku̥˽tu˺ba ˺ʔumui na:˽i˺ ki˽mu˺ba ja˽ki˺ na˽kikaʤari?o:˺ru](子供のことを思い、ずっと心を悩まして、泣きながら思いの丈を述べ立てておられる)。

キ˽ムヤッ˺サ [ki˽mujas˺sa] 【副】優しくするさま。これが融合変化して、形容詞キ˽モーッ˺サン [ki˽mo:s˺saŋ](気持ちよい) となる。˽ウン˺ネヌ　プ˽ソー˺　イッ˽ケナ˺　キ˽ムヤッ˺サ　˽シー˺　ッ˽ふォー˺ルン　˽ダー [˽ʔun˺nenu pu̥˽so:˺ ʔik˽kena˺ ki˽mujas˺sa ˽ʃi:˺ f˽fo:˺run˽da:](あの家の人は大変優しくして下さるよ)。

キ˽ムヤッ˺サン [ki˽mujas˺saŋ] 【形】心安い。気がおけない。気づかいしなくてもよい。付き合いやすい。簡単である。イッ˽ケン˺　キ˽ムヤッ˺サ　プ˽ス˺　ヤ˽ルンダ　ソー　サン˺タンティン　˺ミサン [ʔik˽keŋ˺ ki˽mujas˺sa pu̥˽su˺ ja˽runda so: san˺tantim ˺misaŋ](大変気のおけない < 心安い > 人だから、心配しないでも良い)。ドゥ˽シン˺ケー　ヤ˽ルンダ˺　キ˽ムヤッ˺サン [du˽ʃiŋ˺ke: ja˽runda˺ ki˽mujas˺saŋ](友人同士だから気がおけない)。キ˽ムヤッ˺サ　プ˽ス [ki˽mujas˺sa pu̥˽su](気がおけない人。付き合いやすい人)。

キ˽ムヤニ˺ヤン [ki˽mujani˺jaŋ] 【形】意地が悪い。心がきたない。根性が悪い。心根が悪い。「肝汚い」の義。ウ˽レー　サッ˺コー　キ˽ムヤニ˺ヤンダー　ウ˽リンナー˺ネー　タ˽ナム˺ナ [ʔu˽re: sakk˺ko: ki˽mujani˺janda: ʔu˽rinna:˺ne: ta˽namu˺na](その人は非常に心がきたないから、その人には頼むな)。キム˽ヤン˺ヤン [kimu ˽jan˺jaŋ] ともいう。˺アイ　˽スー˺スコー　キ˽ムヤニ˺ヤ　˽ナー˺ヌ [˺ʔai ˽su:˺su̥ko: ki˽mujani˺ja ˽na:˺nu](それほど根性悪くない)。キ˽ムヤニヤ˺ヌナ˽ラ˺ヌ [ki˽mujanija˺nu na˽ra˺nu](根性が悪くてたまらない)。˺アイニ　キ˽ムヤニ˺ヤ　プ˽ソー˺　ブ˽

ラーヌ [˥ʔaini ki˞mujani˥ja pu̥˞so:˥ bu˞ra:nu](あんなに心の汚い人はいない)。キ˞ムヤニ˥ヤカー　ウ˞リン˥トン　˞パン˥ナ [ki˞mujani˥jaka: ʔu˞rin˥tom ˞pan˥na](根性悪ければ彼の所に行くな)。

˥キム　ヤ˞ビ˥ルン [˥kimu ja˞bi˥ruŋ] 【連】不愉快にする。感情を害する。機嫌をそこねる。「肝やぶる」の義。ヤッ˞トゥ˥シ　キム　˞ノー˥シシケー　˥ムヌバ　カ˞タ˥ピキ　˞スー˥カー　ヤ˞ラ˥ベー　˥キム　ヤ˞ビ˥ルン˞ダー [jat˞tu˥ʃi ˥kimu ˞no:˥ʃiʃu̥ke: ˥munuba ku̥˞ta˥pu̥iki ˞su:˥ka: ja˞ra˥be: ˥kimu ja˞bi˥run˞da:](ようやくなだめて機嫌を直して、＜取り成して＞おいてあるのに、依怙贔屓したら子供は機嫌をそこねるよ)。˥キム　˥ヤブン [˥kimu ˥jabuŋ](機嫌をそこねる。感情を害する) ともいう。

˥キム　ヤ˞マ˥スン [˥kimu ja˞ma˥suŋ] 【連】胸を痛める。心を痛める。心痛をさせる。「肝病ます」の義。イ˞フナー　クトゥバ　シー˥　ウ˞ヤ˥ヌ　˥キム　ヤ˞マ˥ス　˥クトゥカー˞ニル　スー˥ツォー　ク˞ヌ˥ッ˞ふァー [ʔi˞ɸuna: kutuba ʃi:˥ ʔu˞ja˥nu ˥kimu ja˞ma˥su ˥ku̥tuka:˞niru su:˥tso: ku˞nu˥ f˞fa:](変なことをして、親の心を痛めることだけをしでかす＜する＞んだよ、この子は)。アガ˞ヤー˥　イ˞ラザラン˥　ク˞トゥ˥バ　˞シー˥　ッ˞ふァヌ˥　キ˞ム˥バ　ヤ˞マ˥シ˞ナー [ʔaga˞ja:˥ ʔi˞radʑara˥ŋ ku˞tu˥ba ˞ʃi:˥ f˞fanu˥ ki˞mu˥ba ja˞ma˥ʃi˞na:](ああ、かわいそうに、余計なことをして子供の胸を痛めてしまって＜心を苦しめて＞)。

キ˞ム˥ヤミ [ki˞mu˥jami] 【名】後悔。心痛。心を痛めること。「肝病み」の義。ウ˞ヌ˥　ク˞トゥ˥バ　ナー˞イ˥　キ˞ム˥ヤミ　˞シーベー [ʔu˞nu˥ ku̥˞tu˥ba na:˞i˥ ki˞mu˥jami ˞ʃi:be:](そのことを、ずっと後悔している)。

キ˞ム˥ヤムン [ki˞mu˥ jamuŋ] 【自動】後悔する。残念がる。悔やむ。悲しむ。心を痛める。「肝が痛む＜病む＞」の義。˥ジン　カ˞ルンティ　オー˥レームヌ　˞カイ˥シ　˞オーラ˥スカー　˥アトー　キ˞ム˥ヤムン˞ダー [˥ʤiŋ ka˞runti ʔo:˥re:munu ˞kai˥ʃi ˞ʔo:ra˥su̥ka: ki˞mu˥jamun˞da:](お金を借りに来られたのに、断ってお帰ししたら後で後悔するよ)。ウ˞ヤン˥ナーニ　˞ゴーグ˥チ　シ˞ティ˥　キ˞ム˥ヤミ　˞ベー [ʔu˞jan ˥na:ni ˞go:gu˥ʧi ʃi̥˞ti˥ ki˞mu˥jami ˞be:](親に反抗して内心悔やんで＜後悔して＞いる)。ウ˞リン˥　キ˞ムヤマサ˥リティ　ナ˞キ　ベー [ʔu˞riŋ˥ ki˞mujamasa˥riti na˞ki be:](彼に後悔させられて＜心を痛められて＞泣いているよ)。ノー˞ン˥　キ˞ム˥ヤム　クトー　˞ナー˥ヌ [no:˞ŋ˥ ki˞mu˥jamu ku̥to: ˞na:˥nu](何も後悔することはない)。˥アイブ　˥クトゥシ　イッ˞カ˥　キ˞ム˥ヤメー　ナ˞ラ˥ヌ [˥ʔaibu ˥ku̥tuʃi ʔik˞ka˥ ki˞mu˥jame: na˞ra˥nu](あんなことで決して後悔してはならない)。˥シンニン　˥バー　˥ミルンティ　˥ケータティ　ア˞ズヌ˥　ミ˞ラ˥ナー　パ˞ラ˥シティル　キ˞ム˥ヤミ　˞ベー [˥ʃinnim ˥ba: ˥mirunti ˥ke:tati ʔa˞ʤunu˥ mi˞ra˥na: pa˞ra˥ʃi̥tiru ki˞mu˥jami ˞be:](わざわざ私に会いに来たというのに、会わずに帰してしまって後悔している)。˥アイブ　ク˞トゥ˥バシ˞ティ˥　キ˞ムヤマン˥　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ˥　ター˞ン　ヤラバン˥　キ˞ム˥ヤムン [˥ʔaibu ku̥˞tu˥ba ʃi̥˞ti˥ ki˞mujamam˥ pu̥˞so:˥ bu˞ra:nu˥ ta:˞ŋ˥ ja˞rabaŋ˥ ki˞mu˥jamuŋ](あんな事をして後悔しない人はいない。誰であっても後悔する)。キ˞ム˥ヤミ　ナ˞ラ˥ヌ [ki˞mu˥jami na˞ra˥nu](後悔してならない)。˞ワーバー˥キン　キ˞ム˥ヤム　˥クトー　˞ナー˥ヌ [˞wa:ba:˥kiŋ ki˞mu˥jamu ˥ku̥to: ˞na:˥nu](君までも悔やむことは無い)。˞マー˥ビン　キ˞ム˥ヤメー　˥ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ki˞mu˥jame: ˥misamunu](もっと後悔すれば良いのに)。

キ˞ムユラ˥シ [ki˞mujura˥ʃi] 【名】安心。油断。「心許し」の義。˞ヤンマイ˥ヤー　シ˞キ˥パナナ　˞ノーサン˥カー　ナ˞ラ˥ヌ　キ˞ムユラ˥シ　˞スー˥カー　ナ˞ガビクン [˥jammai˥ja: ʃi̥˞ki˥panana ˞no:saŋ˥ka: na˞ra˥nu ki˞mujura˥ʃi ˞su:˥ka: na˞gabikuŋ](病は初期＜付き端＞に治さなければならない。油断すると長引く)。

˥キム　ユ˞ラ˥スン [˥kimu ju˞ra˥suŋ] 【連】心を許す。安心する。相手を信頼する。相手を受け入れる。ミ˞ドゥム˥トゥ　ビ˞キドゥムヌ˥　ナカー　˞ミートゥン˥ダ　˥ナルンケンマー　イッ˞カナ˥シ　キ˞ムユラ˥シ　パ˞ナ˥シェー　ナ˞ラン˥ダー [mi˞dumu˥tu bi˞kidumunu˥ naka: ˞mi:tun˥da ˥naruŋkemma: ʔik˞kana˥ʃi ki˞mujura˥ʃi pa˞na˥ʃe: na˞ran˥da:](男と女の中は、夫婦になるまでは決して心を許して話してはいけないよ)。ヤ˞マ˥トー　˥パルカー　ノー˞ン˥ナーン　˥キム　ユ˞ラサン˥ドーシ　˞ギーバリ˥ダー [ja˞ma˥to: ˥paruka: no:˞n˥na:ŋ ˥kimu ju˞rasan˥do:ʃi ˞gi:bari˥da:](本土＜大和＞へ行ったら何にも心を許さないで、注意して頑張れよ)。ク˞ヌ˥　プ˞ストー˥　キム　ユ˞ラ˥シ　ピ˞ラーラ˥ヌ [ku˞nu˥ pu̥˞suto:˥ kimu ju˞ra˥ʃi pi˞ra:ra˥nu](この人とは心を許して付き合えない)。

キ˞ム˥ユリ　˞スン [ki˞mu˥juri˞suŋ] 【連】気が緩む。油断する。安心する。「肝緩みする」の義。キ˞ム˥

ヌ ˡユリ [ki˞muˡnu ˡjuri](心の緩み。安堵感。心の油断) ともいう。ン˞ベーマˡ ミサ ˡナレーバティ ˞シーˡ キ˞ムˡユリ ス˞ナˡヨー [ʔm˞be:maˡ misa ˡnare:bati ˞ʃi:ˡ ki˞muˡjuri su˞naˡjo:](少し回復したからといって油断する < 心の緩みをみせる。安心する > なよ)。

キ˞ムン [ki˞muŋ] 【他動】決める。定める。決定する。確定する。「きむ < 下二段活用 >」の四段活用に転訛したもの。ウ˞ヌˡ クトー マ˞ダˡ キ˞マヌ [ʔu˞nuˡ ku̥to: ma˞daˡ ki˞manu](そのことは、まだ決めない)。ˡドゥーシ キ˞ミˡ ミサン [ˡdu:ʃi ki ˞miˡmisaŋ](自分で決めてよい)。˞タンガˡシ キ˞ムンティˡ ウムーカ キ˞ミˡバ [˞taŋgaˡʃi ki˞muntiˡ ʔumu:ka ki˞miˡba](一人で決めようと思ったら決めなさいよ)。ˡドゥーシ キ˞ムˡクトー ナ˞ラˡヌ [ˡdu:ʃi ki˞muˡku̥to: na˞raˡnu](自分で決めることは出来ない)。˞タンガˡシ キ˞メーˡ ミサムヌ [˞taŋgaˡ ʃi ki˞me:ˡ misamunu](一人で決めればよいのに)。

キ˞ムンガーˡリ [ki˞muŋga:ˡri] 【名】心変わり。心が他に移ること。変心すること。˞タールˡ シ˞ムチˡ ヤ˞ブルˡタユー ウ˞ヌˡ ミ˞ドーンˡッふァー キ˞ムンガーˡリ ˞シーナーンˡティバーヤ [˞ta:ruˡ ʃi˞mutʃiˡ ja˞buruˡtaju: ʔu˞nuˡ mi˞do:ŋˡffa: ki˞muŋga: ˡri ˞ʃi:na:nˡtiba:ja](誰が気持ちを損ねた < 破った > のか、その女の子は心変わりをしてしまったそうな)。ウ˞ヌˡ ッ˞ふァーˡ キ˞ムンガーˡリ ˞シー ナーンˡティバーヤ [ʔu˞nuˡ f˞faˡ ki˞muŋga:ˡri ˞ʃi: na:nˡtiba:ja](その子は心変わりをしてしまったそうだよ)。

ˡキム ン˞カウン [ˡkimu ʔŋ˞kauŋ] 【連】気が向く。気が進む。「肝が向かう」の義。ˡキム ン˞カーンˡ シ˞グトーˡ シ˞ミランムルˡ マ˞シ [ˡkimu ʔŋ˞ka:ŋ ˡ ʃi˞guto:ˡ ʃi˞mirammuruˡ ma˞ʃi](気が進まない仕事はさせないほうがいい)。ウ˞リヌˡ キム ン˞カウˡ シ˞グトゥヌˡ アンカヤー [ʔu˞rinuˡ kimu ʔŋ˞kau ˡ ʃi˞gutunuˡ ʔaŋkaja:](彼が気の向く < 気に入る。好きな > 仕事はあるかなあ)。

キ˞ムンガカˡリ [ki˞muŋgakaˡri] 【名】気掛り。懸念。心配。心残り。未練に思うこと。「肝がかり」の義。˞ヤーˡヌ キ˞ムンガカˡレー ˞ソーランˡドーシ イ˞ジンˡジ ˞ヤンˡマイ ˞ノーˡス ˞トゥンザˡク ˞ソーˡリ [˞ja:ˡnu ki˞muŋgakaˡre: ˞so:ranˡdo:ʃi ʔi˞ʤin ˡʤi ˞jamˡmai ˞no:ˡsu ˞tunʤaˡku ˞so:ˡri](家の心配はなさらずに、精を出して病気を治すための看病 < 頓着 > をなさってください)。

ˡキムン キ˞ムナラˡヌ [ˡkimuŋ ki˞munaraˡnu] 【連】悲しみに打ちひしがれて耐えられない。残念で諦めきれない。心配で堪らない。˞タンガッふァˡバ ˞ピーˡタイ トゥ˞ラˡリ シ˞ナシティˡ ウ˞リバˡ ウムーカー ˡキムン キ˞ムナラˡヌ ナ˞キトゥーシ ベー [˞taŋgaffaˡba ˞pi:ˡtai tu˞raˡri ʃi˞naʃi̥tiˡ ʔu˞ribaˡ ʔumu:ka: ˡkimuŋ ki˞munaraˡnu na˞kitu:ʃi be:](一人っ子を兵隊に取られて死なせてしまい、それを思うと悲しみに耐えられず、泣きとおしている)。˞アッˡタニ ニ˞シカジヌˡ ウティ フ˞キカバˡシ ˞クータˡル イ˞ソープスヌ ソーバ シーˡ キムーン キ˞ムナラˡヌ [˞ʔatˡtani ni˞ʃikaʤinuˡ ʔuti ɸu̥˞kikabaˡʃi ˞ku:taˡru ʔi˞so:pusunu so:ba ʃi:ˡ kimu:ŋ ki˞munaraˡnu](急に北風が落ちて吹き荒れてきたので、漁に出た人のことが心配で気が気でない < 落ち着いておれない >)。

キ˞ムングˡチ [ki˞munguˡʧi] 【名】みぞおち (鳩尾)。胸の中央前面のくぼんだところ。キ˞ムングチˡヌ < ウ˞トゥシˡヌ > ˡマーラヌ ヤム˞サー [ki˞muŋgutʃiˡ nu < ʔu˞tuʃiˡnu > ˡma:ranu jamu˞sa:](みずおちの辺りが傷むよ)。

ˡキモー ˞ウッケーˡルン [ˡkimo: ˞ʔukke:ˡruŋ] 【連】びくついて意気そそう < 沮喪 > する。心変わりする。「肝がひっくり返る」の義。ウ˞ヌˡ シ˞グトーˡ シキン ˡウキティ ˞ミンキョーˡ トゥ˞ラバˡル ナルティ ア˞ズターˡ パ˞ナˡシェー シ˞キティˡ キサー˞ティˡ キモー ˞ウッケーˡリ ˞ベー [ʔu ˞nuˡ ʃi˞guto:ˡ ʃi̥kiŋ ˡʔukiti ˞miŋkjo:ˡ tu˞rabaˡru naruti ʔa˞ʤuta:ˡ pa˞naˡʃe: ʃi̥˞kitiˡ ki̥sa:˞tiˡ kimo: ˡʔukke:ˡri ˞ be:](その仕事は試験を受けて免許を取得しなければならないといったら、話を聞いて、もう既にびくついて意欲を失って < 心変わりして > いるよ)。

ˡキモー サ˞キˡナリ [ˡkimo: sḁ˞kiˡnari] 【連】心が焦る。心がはやる。気がはやる。せいて気をもむ。「肝が先になって」の義。˞パーˡク ˞ヤーˡ パ˞ランˡカティ ˡウムイ ˡキモー サ˞キˡナリ ˞ベーˡヌンドゥ ˞パンヌˡドゥ ˞ウーカサラˡヌ [˞pa:ˡku ˞ja:ˡ pa˞raŋˡkati ˡʔumui ˡkimo: sa˞kiˡnari ˞be:ˡndu ˞pannu ˡdu ˞ʔu:kasaraˡnu](早く家に帰ろうと思って心は焦っているが足が動かされない)。ˡキモー ア˞バトゥン [ˡkimo: ʔa˞batuŋ](心がはやる。気が急く) ともいう。

キ˞モーッˡサ [ki˞mo:sˡsa] 【副】気持ちよく。愉快に。気分よく。楽しく。快く。「チム・ウッシャン (心楽しい。嬉しい)」の転訛したものか。ˡアイニ

キ˞モーッ˥サ　パ˞タラク˥　プ˞ソー˥　ミリ　ミ˞ラ˥ヌ [˥ʔaini ki˞moːsˢsa pḁ˞taraku˥ pu̥˞soː˥ miri mi˞ra˥nu](あんなに気持ちよく働く人は見たことがない)。キ˞モーッ˥サ　サ˞キ˥　ヌムン [ki˞moːsˢsa sḁ˞ki˥ numuŋ](気持ちよさそうに酒を飲む)。

キ˞モーッ˥サン [ki˞moːsˢsaŋ] 【形】気持ちがいい。気分爽快(ソウカイ)である。「キム・ウッシャン (肝・嬉しい)」の転訛したもの。ガ˞マ˥ジ　˥キズカー　イッ˞ケナ˥　キ˞モーッ˥サン [ga˞ma˥ʤi ˥kidʑuka: ʔik˞kena˥ ki˞moːsˢsaŋ](髪を梳ると非常に気持ちがいい)。キ˞モーッ˥サ　ニ˞ビベー [ki˞moːsˢsa ni˞bibeː](気持ちよく寝ている)。キ˞モーッ˥サ　˞ナー˥ヌ [ki˞moːsˢsa ˞naː˥nu](気持ちよくない)。キ˞モーッ˥サ　˥クトー　˞ナー˥ヌ [ki˞moːsˢsa ˥ku̥toː ˞naː˥nu](気持ちいいことはない)。キ˞モーッ˥サカー [ki˞moːsˢsakaː](気持ちよければ)。

˥キモー　˞ナー˥ヌ [˥kimoː ˞naː˥nu] 【連】1気がない。愛情がない。興味関心がない。意欲がない。ク˞ヌ˥　プ˞ソー　ドゥー˥ヌ　シ˞グトゥ˥ナー　˞ピッチン˥マーンツァン　˥キモー　˞ナー˥ヌ [ku˞nu˥ pu̥˞soː duː˥nu ʃi˞gutu˥naː ˞pittʃim˥maːntsaŋ ˥kimoː ˞naː˥nu](この人は自分の仕事にこれぽっちも愛情がない＜意欲が無い＞)。ッ˞ふァ˥ナー　˥キモー　˞ナー˥ヌ [f˞fa˥naː ˥kimoː ˞naː˥nu](子供に愛情が無い)。2熱心でない。誠意がない。˥ク˞ヌ˥　シ˞グトゥ˥ナ　˥キモー　˞ナー˥ヌ [ku˞nu˥ ʃi˞gutu˥na ˥kimoː ˞naː˥nu](この仕事に熱心でない)。キモー　˞ナー˥ン　ム˞ニ˥バ　イ˞ズナ [˥kimoː ˞naː˥m mu˞ni˥ba ʔi˞ʤuna](誠意のないことを言うな)。

˥キモー　˞マイマイ˥シ [˥kimoː ˞maimai˥ʃi] 【連】自信をを持って。誇(ホコ)らかに。胸を張って。人怖じしないで。「肝を大きくして」の義。˞ジン˥ヌ　˞ナーン˥カー　˥キモー　˞マイマイ˥シ　˥ムテーティ　˞アーカラ˥ヌ [˞ʤin˥nu ˞naːŋ˥kaː ˥kimoː ˞maimai˥ʃi ˥muteːti ˞ʔaːkara˥nu](お金がないと自信を持って居れない＜あるけない＞)。

キ˞モー˥ラ [ki˞moː˥ra] 【副】心から。衷心より。心を込めて。˞ワー˥　ク˞トゥ˥バ　キ˞モー˥ラ　˥ウムイ　˞ブー˥　プ˞ソー˥　バーラ　˥フカナー　ター˞ン˥　ブ˞ラーン˥パジ [˞waː˥ ku̥˞tu˥ba ki˞moː˥ra ˥ʔumui ˞buː˥ pu̥˞soː˥ baːra ˥ɸu̥kanaː taː˞m˥ bu˞raːm˥paʤi](君のことを心から思っている人は、私のほかに誰もいないはずだ)。

˥-キャー [˥-kjaː] 【接尾】人の複数を表す接尾語の敬語 (歌謡語)。˞～がた (方)」。「～方 (司＜巫女。神女＞、手摺部＜男性神職者＞、先祖)」の複数をあらわす敬語。日常会話では、˥-ケー [˥-keː](～方。～達)という。/(五)、ヘイヤー＜囃子＞　サカサキャードゥ＜司の方を＞　ホー　ティユマス＜轟かす。讃える＞　ヘイヤー　ティジリキャードゥ＜手すり部。男性神職者がたを＞　ホー　ナトゥラス＜讃える＞(六)、ヘイヤー　サカサキャーヌ　ホー　アトゥンヤー　ヘイヤー　ティジリキャーヌ　ホー　アトゥンヤー　(七)、ヘイヤー　ユムチキャードゥ　ホー　ティユマス　ヘイヤー　シマムチキャードゥ　ホー　ナトゥラス (以下略)/。豊年祭の歌 (みちううた)『鳩間島古典民謡古謡集』。

˞ギャ˥ー [˞gjaˢː] 【終助】～さ。終助詞˞ゲ˥ラ [˞ge˥ra](～さ。丁寧な表現。老年層が多用する) の縮約形 (ぞんざいな表現)。若年層が多く用いる。˞バン˥ヌン　パリ˞ギャ˥ー＜˞ゲ˥ラ＞[˞ban˥num pari˞gjaˢː＜˞ge˥ra＞](私も行くさ)。ウ˞レー　バー˥　ムヌ˞ギャ˥ー＜˞ゲ˥ラ＞[ʔu˞reː baː˥ munu˞gjaˢː＜˞ge˥ra＞](それは私のものさ)。ク˞レー　マー˥ビン　˞カイ˥ヤ˞ギャ˥ー＜˞ゲ˥ラ＞[ku˞reː maː˥biŋ ˞kai˥ja˞gjaˢː＜˞ge˥ra＞](これはもっと美しいさ＜綺麗さ＞)。アイ˞ギャ˥ー　˥メー [ʔai˞gjaˢː ˥meː](そうさ、もう)。

˞ギャーギャー˥シ [˞gjaːgjaː˥ʃi] 【副】(擬音語) がやがやと。やかましく。バ˞カー˥ムンケーヌ　サ˞キバ˥　ヌミティ　˞ギャーギャー˥シ　ウ˞ヤー˥リ　˞ベー [ba˞kaː˥muŋkeːnu sḁ˞kiba˥ numiti ˞gjaːgjaː˥ʃi ʔu˞jaː˥ri ˞beː](若者達が酒を飲んでギャーギャーと大声を出している)。豚の泣き叫ぶ声。˥ユネンガタ˥ナルカー　˞オー˥ヤ　˞ヤー˥サティ　˞ギャーギャー˥シ　ン˞ガマ˥サ　˥スコー　ナ˞クン [˥juneŋgata˥naruka: ˞ʔoː˥ja ˞jaː˥sati ˞gjaːgjaː˥ʃi ʔŋ˞gama˥sa ˥su̥koːna˞kuŋ](夕方になると、豚はひもじいのでギャーギャーと煩(ウルサ)いほど鳴く)。

˞キャーンギ [˞kjaːŋgi] 【名】(植) 樹木の名。イヌマキ (犬槇)。「けや・の・木＜際立って他と異なる木。立派な木＞。～心毛計夜爾　所念＜心もけやに思ほゆる＞『万葉集　3875』」の義か。材質が堅く、白蟻の食害が無いといわれ、建築用材として最高級といわれている。˞キャーンギパラー˥　プ˞スˢカタシス˞クラ˥リ　˞ブー　ヤー˥ヌ　˥アン [˞kjaːŋgipara:˥ pu̥˞su˥kataʃi su̥˞kura˥ri ˞buː jaː˥nu ˥ʔaŋ](イヌマキ＜犬槇＞の柱一種類だけで造られている家がある)。˞バン˥テヌ　˞ヤー˥ヤ　˞キャーンギ˥シル　˥パラー　ス˞クラ˥リ　˞ブー [˞ban˥tenu ˞jaː˥ja ˞kjaːŋgi˥ʃiru ˥para: su̥˞kura˥ri ˞buː](私の家は槇の木で柱は作られ

ている)。

˞キャーンギヌ˜ ナル [˞kjaːŋginu˜ naru] 【連】イヌマキ (犬槙) の実。˞キャーンギヌ˜ ナ˞ルˬヌ ˬナレーン [˞kjaːŋginu˜ na˞ruˬnu ˬnareːŋ](犬槙の実が生った)。

˞キャーンギバラー [˞kjaːŋgibaraː] 【名】イヌマキ (犬槙) の柱。「犬槙柱」の義。˞キャーンギバラー˜ ッ˞サーˬルン シゥ˞カˬンダ ˞ナームティ スン [˞kjaːŋgibaraː˜ s˞saːˬrun sᵢ˞kaˬnda ˞naːmuti suŋ](犬槙の柱は白蟻がつかないので長持ちする)。

˞ギャーンキャーンˬシ [˞gjaːŋkjaːŋˬʃi] 【副】犬が甲高い声で鳴くさま。きゃんきゃんと。˞インˬヌ ˞ギャーンキャーンˬシ ナ˞キティ˜ ン˞ガマサˬヌ ニ˞バラヌ [˞ʔinˬnu ˞gjaːŋkjaːŋˬʃi na˞kiti˜ ʔŋ˞gamasaˬnu ni˞baranu](犬がきゃんきゃんと鳴いて、うるさくて眠れない)。

キャ˞ハン [kja˞haŋ] 【名】1きゃはん (脚絆)。歩きやすくするために脛にまとう布。軍隊はゲートル (仏蘭西語) と言っていた。˞ピーˬタインケーヤ ムー˞ルˬ キャ˞ハンˬ マ˞キティ˜ フカー ン˞ゾーッˬタ [˞piːˬtaiŋkeːja muː˞ruˬ kja˞hamˬ ma˞kiti˜ ɸᵤka: ʔn˞ʥoːtˬta](兵隊たちは皆脚絆を巻いて外へ出られた)。2軽快な舞踊や棒踊りの際、脛にまとうコスチュームの一つ。ˬボー <ˬバウ> ˬウトゥ ˬピンマー ˬパンナ キャ˞ハンˬ マ˞キシタ [ˬboː <ˬbau> ˬʔutu ˬpimmaː ˬpanna kja˞hamˬ ma˞kiʃita](棒踊りをする < 棒をうつ > 時は足に脚絆を巻いた)。

˞キャラ [˞kjara] 【名】香木の名。沈香 (じんこう)。沈香からとった黒いつやのある優良な天然香料。「伽羅、キャラ、香の名」『文明本節用集』の転化したもの。歌謡語。/スディフラバ サトゥヌシ ジンキャラヌ ニウイ ショウリ イチィン スマル ニウイ/(袖を振ると里主様、沈香製の伽羅の香がして、何時までも私に染まっていく匂いです)「古見の浦節」『八重山民謡誌』参照。

˞ギャンキャンˬシ [˞gjaŋkjaŋˬʃi] 【副】きちんきちんと。厳密に。正確に。ウ˞サミビキˬヌ ˬムノー ˞ギャンキャンˬシ ウ˞サミˬリ [ʔu˞samibikiˬnu ˬmunoː ˞gjaŋkjaŋˬʃi ʔu˞samiˬri](納めるべきものは、きちんきちんと納めなさい)。

˞ギャンギャンˬシ [˞gjaŋgjaŋˬʃi] 【副】ぴんぴんと。健康で元気なさま。飛び跳ねるほど元気なさま。頑健なさま。˞ガンガンˬシ [˞gaŋgaŋˬʃi](ぴんぴんと) ともいう。ˬトゥシェー ˬトゥリ ˞オールンˬドゥ ˞ギャンギャンˬシ シ˞グトー シール オーˬル˞ダー [ˬtuʃeː ˬturi ˞ʔoːrunˬdu ˞gjaŋgjaŋˬʃi ʃi˞guto: ʃiːru ʔoːˬru˞daː](年はとっておられるが、ぴんぴんとして元気で仕事をしておられるよ)。

ギャンティ [gjan˞ti] 【副】ぴったりと (隙間なく密着している様。ものごとが的中している様)。ぎゅっと。びっしりと (たくさんのものが隙間なく詰まっているさま。密生している様)。フ˞ターˬ ギャン˞ティ˜ シ˞マˬリティ ミ˞ジェーˬ ム˞リラˬヌ [ɸᵤ˞taː˜ gjan˞ti˜ ʃi˞maˬriti mi˞ʥeː˜ mu˞riˬranu](蓋はぴったり < ぎゅっ > と閉まっていて、水は漏れない)。パ˞タˬキナー ˬガンボーシヌ ギャン˞ティ˜ ムイ˞ベー [pḁ˞taˬkinaː ˬgamboːʃinu gjan˞ti˜ mui˞beː](畑には雑草のガンボーシが密生している)。

ギャン˞ティ [gjan˞ti] 【副】1びっしり。ぎっしり。強く。いっぱい詰まっているさま。結び目などを強く締めるさま。フ˞クˬベー ギャン˞ティ˜ フ˞バリ [ɸᵤ˞kuˬbeː gjan˞ti˜ ɸu˞bari](帯びはきつく括(ククル)れ < 強く縛れ >)。パ˞タˬキナー ˬガンボーシヌ ギャン˞ティ˜ ムイティ ˞ナーンパーˬヤ ガ˞ギリ ベー [pḁ˞taˬkinaː ˬgamboːʃinu gjan˞ti˜ muiti ˞naːmpaːˬ ja ga˞giribeː](畑には雑草のガンボーシがびっしりと密生して、菜っ葉は生長が止まって < 発育不良になって > いる)。2ぴったり。完全に一致するさま。˞ジンˬヌ サ˞ンミンˬマー ギャン˞ティ˜ ア˞タリブタ [˞ʥinˬnu ˞sammimˬmaː gjan˞ti˜ ʔa˞taributa](お金の計算はぴったりと当っていた)。

˜キュー [˜kjuː] 【名】今日。˞キューˬヤ ˞マー˜ パ˞ルˬワ [˞kjuːˬja ˞maː˜ pa˞ruˬwa](今日は何処へ行くか)。˞キューˬヌ ˬクトー ˞バスクナ [˞kjuːˬnu ˬkᵤto: ˞basᵤkuna](今日のことは忘れるな)。˞キューˬル ˞ワー˜ マ˞リビー [˞kjuːˬru ˞waː˜ ma˞ribiː](今日が < ぞ > 君の誕生日 < 生まれ日 > だ)。˜キューン ミ˞ララˬヌ [˜kjuːm mi˞raraˬnu](今日も見られない)。˞キョーˬラ パ˞ジミリ [˞kjoːˬra pa˞ʥimiri](今日から始めよ)。

˞キュー [˞kjuː] 【名】旧暦。˞キューヌ˜ シキ [˞kjuːnu˜ ʃᵢ̥ki](旧の月。旧暦) ともいう。˞キューヌ˜ シ˞キダˬチ ˬズングニチナー ヤー˞ディン˜ ウ˞ヤプスンˬマイ ˞サーˬドー ˞ソーッˬタン [˞kjuːnu˜ ʃᵢ̥˞kidaˬʧi ˬʥuŋgunitʃinaː jaː˞diŋ˜ ʔu˞japusumˬmai ˞saːˬdoː ˞soːt ˬtaŋ](旧暦のついたち < 朔日 >、十五日には必ず先祖の前に茶湯をされた)。

˞キュー [˞kjuː] 【名】急なこと。突然なこと。標準語からの借用語。˞キューヌ˜ パ˞ナˬシ ヤ˞レースヌ˜ ドー˞ディン˜ シ˞キトゥドゥキˬ タ˞ボーˬラ

ナー˞ラ < タ˞ボー˜リ >[˞kjuːnu˜ pa˞naˀʃi ja˞reːsunu˜ doː˞diŋ˜ ʃi̥˞kituduki˜ ta˞boː˜ranaː˞ra < ta˞boː˜ri >](急な話でありますが、どうぞお聞き届け下さいませんでしょうか < お聞き届け賜りますように >)。

˞ギュー [˞gjuː] 【接頭】いく (幾)。名詞や接尾語の前に付いて数量、程度などの不明の意や疑問の意を表す。˞ギューチ [˞gjuːtʃi](幾つ)。˞ギューカ [˞gjuːka](幾日)。ギュ˞タール [gju˞taːru](何人。幾たり)。˞ギュームトゥ [˞gjuːmutu](幾本)。˞ギューマカル [˞gjuːmakaru](幾まかり、何杯)。˞ギュームシ [˞gjuːmuʃi](幾度、何回)。˞ギュッカラ [˞gjukkara](幾から、何匹)。˞ギューケーラ [˞gjuːkeːra](幾返り、何回)。[iku-] の [k] が狭母音 [i] により口蓋化されて [-kj-] となり、第一拍の [i] が脱落した結果の代償として口蓋化した [-kj-] が無気喉頭化して [kʔj-] となり、さらに [gj-] と音韻変化したと考えられる。˜ウナー　ギュ˞タール　ベー˜ワ [˜ʔunaː gju˞taːru beː˜wa](そこに何人いるか)。˞ギューチ˜　ナ˞ル˜ワ [˞gjuːtʃi˜ na˞ru˜wa](幾つになるか。何歳か)。

˜キューアツァ [˜kjuːʔatsa] 【名】今日明日。ごく近いうち。近日中。˜キュウアツァヌ　ウ˞チ˜ナー　˜パライ　ッ˞ふィーリ˜ヨー [˜kjuːʔatsanu ʔu˞tʃi˜naː ˜parai f˞fiːri˜joː](今日明日中に支払ってくれよなあ)。˜ウカー　パ˞ラーン˜カー　ナ˞ラヌ˜ヌ　˜キューアツァヌ　˜クトー　ア˞ラン˜バ　˞アールナ [˜ʔukaː pa˞raːŋ˜kaː na˞ranu˜nu ˜kjuːʔatsanu ˜kṵtoː ʔa˞ram˜ba ˞ʔaːruna](借金は返済しなければならないが、今日明日のことではないから騒ぐな < 慌てるな >)。

˞ギューカ [˞gjuːka] 【名】幾日。何日。「いくか < 幾日 >」の義。˜アッパー　˞トーカキ˜ヌ　˜ヨイ　˞ソー˜レーラ　˞ギューカ˜　ナ˞ル˜ワ [˜ʔappaː ˞toːkaki˜nu ˜joi ˞soː˜reːra ˞gjuːka˜ na˞ru˜wa](お祖母さんの米寿 < 斗掻き > の祝いをなさってから幾日になりますか < 何日過ぎましたか >)。

˞ギューケーラ [˞gjuːkeːra] 【名】不定の回数を表す。いくど (幾度)。何回。何度。「いくかへり (幾帰り < 回 >)。ただひとかへり舞ひて入りぬるは『源氏物語 < 若菜下 >』」の転訛。˞タンガ˜シ　˞ギューケーラナー˜　ミ˞ジェー˜　カ˞タマバ˜ル　˜ナルカヤー [˞taŋga˜ʃi ˞gjuːkeːranaː˜ mi˞ʤeː˜ ka˞tamaba˜ru ˜narukajaː](一人で何回ずつ水を担がないといけない < 担げばぞなる > のかなあ)。

˞ギュー˜サ [˞gjuː˜sa] 【名】いくら (ものの値段)。˞オー˜ヤ　˞イッキン　ギュー˜サ　˞スー˜カヤー [˞ʔoː˜ja ˞ʔikkiŋ gjuː˜sa ˞suː˜kajaː](豚は、一斤でいくらするかなあ)。˞ダイヤー　ギュー˜サブカラ　パ˞ラウバ˜ル　˜ミサカヤー [˞daijaː gjuː˜sabukara pa˞rauba˜ru ˜misakajaː](代金 < 値段 > はいかほど支払えばよいのかねえ)。

˞キュー˜ジ [˞kjuː˜ʤi] 【名】給仕。雑用係。明治 29 年の学校設置以降、標準語からの借用語。˞ガッコー˜ヌ　˞キュー˜ジ　˞シーベー˜テイ　˞ビンキョーバシー˜　˞シンシー˜ヌ　˞ミンジョー　トゥッ˜タツォー [˞gakkoː˜nu ˞kjuː˜ʤi ˞ʃiːbeː˜ti ˞biŋkjoːba ʃiː ʃiŋʃiː˜nu ˞minʤoː tut˜tatsoː](学校の給仕をして先生の免状を取ったそうだ)。

˜キュー　シ˞トゥム˜ティ [˜kjuː ʃi̥˞tumu˜ti] 【連】今朝。今日の朝。「今日・つとめて」の転訛したもの。˜キュー　シ˞トゥム˜ティ　˞パイ˜サーラ　˞ウーアミヌ˜　フイティ　パ˞タ˜ケー　パ˞ララ˜ヌ [˜kjuː ʃi̥˞tumu˜ti ˞pai˜saːra ˞ʔuːʔaminu˜ ɸuiti pḁ˞ta˜keː pa˞rara˜nu](今朝早くから大雨が降って畑に行けない)。

˞ギューシナ [˞gjuːʃina] 【連】幾種類。幾種類。「幾品」の義。ウ˞サイ˜ヤー　˞ギューシナ˜　ス˞コールワ [ʔu˞sai˜jaː ˞gjuːʃina˜ sṵ˞koːruwa](ご馳走は幾品作る < こしらえる > か)。

˞キューダイ [˞kjuːdai] 【名】及第。進級すること。明治 29 年の鳩間尋常小学校設置以降、標準語からの借用したことば。ラ˞クダイ [ra˞kudai](落第。進級出来ないこと) の対義語。明治 33 年に第 1 回卒業生が誕生しているから、その間に借用された語であろう。˞キューダイ　シェー˜カー　˞マイフナー˜　ドー [˞kjuːdai ʃeː˜ka: ˞maiɸunaː˜doː](及第したのならお利口さん < 立派なもの > だよ)。

˞ギューチ [˞gjuːtʃi] 【名】いくつ (幾つ)。¹不定個数を表したり、または個数を問うのに用いる。シ˞グトー　タンガ˜シ　ギュー˞チン　サン˜カー　ナ˞ラ˜ヌ [ʃi˞guto: taŋga˜ʃi guː˞tʃin saŋ˜kaː na˞ra˜nu](仕事は一人で幾つもしなければならない)。˞ワッ˜テナー　˞サイクドン˜ゴー　˞ギューチ˜　ア˞ル˜ワ [˞wat˜tenaː ˞saikudoŋ˜go: ˞gjuːtʃi˜ ʔa˞ru˜wa](君の家には、大工道具は幾つあるか)。²何歳。年齢を問うのに用いる。˞ワー　ギューチ˜ヤー [˞waː gjuːtʃi˜jaː](君はいくつか)。カ˞レー　ギューチ˜　ナ˞ル˜ワ [ka˞reː gjuːtʃi˜ na˞ru˜wa](あの人 < あれ > は幾つ < 何歳 > になるか)。

˞ギューティ [˞gjuːti] 【名】いくとし。何年。いくとせ (幾年)。過去や将来にわたる年数を表す。˜アブジェー　˞マーラソー˜レーラ　˞ギューティ˜　ナ˞ル˜ワ [

ˀabuʤeː ˈmaːraso:ˀreːra ˈgjuːtiˀ naˈruˀwa](おじいさんが亡くなられてから何年になるかねえ)。ウˈブソッコーˀヤ ˈマー ギューˀティヤ [ʔuˈbusokkoːˀja ˈmaː gjuːˀtija](大焼香 < 大法事 > は、あと何年後か)。

ˈキューヌˀ シキ [ˈkjuːnuˀ ʃi̥ki] 【連】旧暦の月。ˈシンˀヌ ˀシキ [ˈʃinˀnu ˀʃi̥ki](新暦の月) の対義語。パˈトゥマˀヌ ˈユーズピーˀゾー ˈキューヌˀ シキナール ˈソーッタ [pḁˈtumaˀnu ˈjuːʤupiːˀʤoː ˈkjuːnuˀ ʃi̥kinaːru ˈsoːtˀta](鳩間島の祭祀 < 年中行事 > は旧暦で実施された)。

ˈキューˀヌ ˀピー [ˈkjuːˀnu ˀpiː] 【連】今日の日。今日という日。本日。日常会話では、ˈキューˀヌ ピˈニチ [ˈkjuːˀnu piˈnitʃi](今日の日) という。/アーˈパーレー キューヌ ピーˀバ ムˈトゥˀバˈシー/(あーぱーれー < ああ素晴らしことよ、今日の日を本 < 礎 > にして)「アーパーレー < 新室寿ぎ歌。ハヤミク >」『鳩間島古典民謡古謡集』。『沖縄文化』第 6 巻、第 3、4 号。「鳩間島古謡の一つ・新室寿歌アーパーレーについて」。

ˈキューˀヌ ピˈニチ [ˈkjuːˀnu piˈnitʃi] 【連】今日の日。今日の佳日 (嘉日)。今日のめでたい日。ˈキューˀヌ ピˈニチˀナー ˈヨイˀヌ ˈピュールˀ トゥリシキ [ˈkjuːˀnu piˈnitʃiˀnaː ˈjoiˀnu ˈpjuːruˀ turiʃi̥ki](今日の佳日にお祝いの日取りを決めておけ < 日取りを取っておけ >)。ˈキューˀヌ ピˈニチェーˀ ヌー ˀニーヤ [ˈkjuːˀnu piˈnitʃeːˀ nuː ˀniːja](今日の日は、何の日 < 干支の何の日に当たる > か)。

ˈキューˀヌ ˀユー [ˈkjuːˀnu ˀjuː] 【連】今日の夜。今晩。今夜。普通は、ˀニカ [ˀnika](今晩) という。ˈキューˀヌ ˈユーˀヤ ˀマーッふァヌ ˈゴーカクヨイソーˀラˈナー [ˈkjuːˀnu ˈjuːˀja ˀmaːffanu ˈgoːkakujoi soːˀraˈnaː](今夜は孫の合格祝いをしましょうね)。

ˈギュームシ [ˈgjuːmuʃi] 【名】不定の回数を表す。いくど (幾度)。幾たび。何度。ˈワー ギュームシˀ ミˈジˀ カˈタムˀター [ˈwaː gjuːmuʃiˀ miˈʤiˀ kḁˈtamuˀtaː](君は何度 < 幾度 > 水を担いだか)。ˈギュームシンˀ シキン ウˈクタンˀドゥ カˈカランˀバン (ˈトゥーランˀバン)[ˈgjuːmuʃinˀ ʃi̥kin ʔuˈkutanˀdu kḁˈkaramˀban(ˈtuːramˀban)](何度も試験を受けたが受からないわい < かからないわい。(通らないわい)>)。

ギュˈタール [gjuˈtaːru] 【名】いくたり (幾人)。何人。ˈタール [taːru](たり。人数を数える接尾語)。ギュˈタールˀシル パˈタˀケー ˈカイスˀター [gjuˈtaːruˀʃiru pḁˈtaˀkeː ˈkaisuˀtaː](何人 < 幾たり > で < ぞ > 畑は耕したのか)。ギュˈタールヌˀ プˈスˀシ スˈワーˀ マˈシˀヤ [gjuˈtaːrunuˀ pu̥ˈsuˀʃi suˈwaːˀ maˈʃiˀja](何人の < 幾たりの > 人ですればよいのか)。

ˈギュック [ˈgjukku] 【名】何個。トゥˈロー キューˀヤ ˈコーˀマ ˈギュックˀ ナシェーユー ユミˈミー [tuˈroː kjuːˀja ˈkoːˀma ˈgjukkuˀ naʃeːjuː jumiˈmiː](鶏は、今日は卵を何個産んだか数えてごらん)。

キˈユミˀルン [kiˈjumiˀruŋ] 【他動】清める。ˈマーˀス ˈパンˀキ ˀヤー キˈユミˀリ [ˈmaːˀsu ˈpaŋˀki ˀjaː kiˈjumiˀri](塩を撒いて家を清めなさい)。キˈユミラˀヌ [kiˈjumiraˀnu](清めない)。ˈスーヌˀパナシ ˀヤー キˈユミˀルン [ˈsuːnuˀpanaʃi ˀjaː kiˈjumiˀruŋ](潮の花で家を清める)。キˈユミˀル ˀトンマ ˀマーヤ [kiˈjumiˀru ˀtomma ˀmaːja](清める所は何処か)。キュˈユミˀレー ˀミサムヌ [kiˈjumiˀreː ˀmisamunu](清めればよいのに)。キˈユミˀリ [kiˈjumiˀri](清めよ < 清めれ >)。

キˈユˀムン [kiˈjuˀmuŋ] 【他動】清める。「清む < 下二段活用 >、〜麻都呂倍奴 比等乎母夜波之 波吉伎欲米〜(まつろ < 服従 > はぬ人をもやは < 和 > し 掃き清め)『万葉集 4465』」の四段活用に転訛したもの。ˀヤー キˈユマバˀル ナル [ˀjaː kiˈjumabaˀru ˀnaru](家を清めないといけない < 清めばぞなる >)。キˈユミˀプサン [kiˈjumiˀpu̥saŋ](清めたい)。ˀヤー キˈユˀムン [ˀjaː kiˈjuˀmuŋ](家を清める)。キˈユˀム ˀクトゥ [kiˈjuˀmu ˀku̥tu](清めること)。キˈユˀメー ˀミサムヌ [kiˈjuˀmeː ˀmisamunu](清めればよいのに)。キˈユˀミ [kiˈjuˀmi](清め)。

ˈキョーˀダイ [ˈkjoːˀdai] 【名】兄弟姉妹。標準語からの借用語。本来は、ブˈナルビキル [buˈnarubikiru](をなり・えけり) という。ビˈキドゥムキョーダイ [biˈkidumukjoːdai](男兄弟)、ミˈドゥムキョーˀダイ [miˈdumukjoːˀdai](姉妹。女兄弟)、ˀムクキョーダイ [ˀmukukjoːdai](婿兄弟)。ˈキョーˀダイサ ˈカイˀヤー ˈウシˀトーラティル ムˈカˀシムネー アルˈダー [ˈkjːdaiˀsa ˈkaiˀja: ˈʔuʃi̥ˀtoːratiru muˈkaˀʃimuneː ʔaruˈdaː](兄弟姉妹の仲が良くなるのは弟から < 弟次第 > だと昔の言葉 < 先賢の言葉。諺 > にあるよ)。ˈキョーˀダイ ムˈチマˀサン [ˈkjoːˀdai muˈʧimaˀsaŋ](兄弟仲睦ましい)。

ˈキョーダイˀサ [ˈkjoːdaiˀsa] 【名】兄弟姉妹。兄弟姉妹同士。ˈキョーダイˀサ ナリˈベーˀティ ˈアイカーフンˀカー ˈサンブリˀバ [ˈkjoːdaiˀsa nariˈbeːˀti ˈʔaikaːɸuŋˀkaː ˈsamburiˀba](兄弟姉妹同士で喧嘩騒

動するなよ)。˹キョーダイ˺サ　˺ナカー　˹カイ˺ヤン [˹kjo:dai˺sa ˺naka: ˹kai˺jaŋ](兄弟同士は仲睦まじい＜仲が美しい＞)。

˹キョー˺ダイムイサン [˹kjo:˺daimuisaŋ] 【形】兄弟思いである。˹ウン˺ネヌ　˹キョー˺ダインケーヤ　ムー˹ル　キョー˺ダイムイサン˹ダー [˹ʔun˺nenu ˹kjo:˺daiŋke:ja mu:˹ru kjo:˺daimisan˹da:](あの家の兄弟たちは皆兄弟思いだよ)。

˹キョー˺ムン [˹kjo:˺muŋ] 【名】経文。お経。歌謡語。˹ニンブ˺ツァー [˹nimbu˺tsa:](念仏歌) の伝播に伴って鳩間島に定着した言葉。/ニシカイ　ムカユティ　キョームンバ　ユミ　ヒガシニ　ムカユティ　キョームンバ　カキ　ユムタル　キョームンヤ　ウヤヌタミ　カキタル　キョームンヤ　ハハヌタミ　ウキトゥリ　タマワリヨー　チチヌヤ　ウキサシ　タマワリヨー　ハハヌウヤ　ナムアミダブチヨー　ウクリンデームヌ/(西に向かって経文＜お経＞を読み、東に向かって経文を書き、読み上げた経文は父親のため、書きあげた経文は母親のため、受け取りくださいお父さま、受け差し下さいお母さま。南無阿弥陀仏、お送りですから)。ン˹ゾーニンブツァー [ʔn˹ʤo:nimbutsa:]＜無常念仏歌・シ˹ザ˺ヌクイ [ʃi˹ʤa˺nu ˺kui](兄の声・歌)＞『鳩間島古典民謡古謡集』。「八重山地方に流布する念仏歌について」『沖縄文化』通巻 36・37 号。

˹ギョーリツ [˹gjo:ritsu] 【名】行列。標準語からの借用語。˹ウンドー˺カイナ　˹ガッ˺コーシートゥヌ　˹ギョーリツ˺　ス˹ク˺リ　ア˹ラ˺クム　˺ミルカー　イッ˹ケン　カイ˺ヤタン [˹ʔundo:˺kaina ˹gak˺ko:ʃi:-tunu ˹gjo:ritsu˺ sụ˹ku˺ri ʔa˹ra˺kumu ˺miruka: ʔik˹keŋ kai˺jataŋ](運動会で学校生徒が行列を作って行進する＜歩く＞のを見ると非常に美しかった)。

˹キョン˺ギン [˹kjoŋ˺giŋ] 【名】狂言。演劇。「Qiovguen. キヤゥゲン (狂言)〜。」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。キ˹チゴン˺ナー　ブ˹ドゥル　キョンギンマー˺　マイ˹トゥシ˺　ヤー˹ディン　シーソーッ˺タ [ki˹ʧigon˺na: bu˹duru kjoŋgimma:˺ mai˹tuʃi˺ ja:˹diŋ ʃi:so:t˺ta](結願祭には、踊りや狂言＜芝居。劇＞は毎年必ず上演なされた＜しなさった＞)。

˺ギラ [˺gira] 【名】 1(動) 貝の名。シャコガイ (車庫貝) の総称。˹マーギラ [˹ma:gira](オオジャコ。ヒレジャコ。海底の砂の上に生息する。殻長 80 センチから 1 メートルに成長するものもいた。最近は 30 センチ程度のものが獲れる) とサ˹ク˺ラギラ [sa ˹ku˺ragira](ヒメジャコ。珊瑚礁の岩に穴をあけて棲息する。殻長 10〜15 センチのものが多い。海中で口を開けているところを刃物を入れて貝柱を切り、中身を取って殻は海中に放置していた)。サ˹ク˺ラギラ [sạ˹ku˺ragira](マーギラの一種) は「下げ薬 (のぼせを下げる薬)」として重宝された。イ˹シギラ [ʔi˹ʃigira](「石しゃこ貝」の義か。海中の珊瑚礁の石の中にはまり込んでいるため、長さ 10 センチ程度に成長する)。女性たちは潮干狩りの際、˹ティンガラー˺マ [˹tiŋgara:˺ma](小さなかなてこ。金てこ。片方の先端は平たくなっていて、岩の中から貝やしゃこ貝を掻き出すのに用いられる) でしゃこ貝を掘りおこして取った。˺ギラー　サ˹ギフチ˺ル　ヤ˹リバ˺　シジ　˺ヌミバ [˺gira: sa˹giɸụ˺ʧi˺ruti ja˹riba ˺ʃiʤi ˺numiba](しゃこ貝は下げ薬だから煎じて飲みなさい)。ノボセに効く、利尿剤として重宝される) がいる。˺ギラ　˹コーシ˺キー　˺シジ　˺ヌミバ [˺gira ˹ko:ʃi˺ ki: ˺ʃiʤi ˺numiba](シャコ貝を掘り起こしてきて煎じて飲みなさいよ)。2隠語で女性性器をさす。

キ˹ラーリン [ki˹ra:riŋ] 【他動】嫌われる。他動詞、キ˹ラウン [ki˹rauŋ](嫌う) の未然形に、受身の助動詞˹-リン [˹-riŋ](〜れる) が下接して形成された受身の派生動詞 (受身動詞)。ウ˹ヌ˺　パ˹ナ˺シ　˹スー˺カー　˹ワン˺　キ˹ラーリンダ˺　キ˹ラーラン˺ヨーニ　˹ジン˺ヌ　パ˹ナ˺シェー　サ˹ヌ [ʔu˹nu˺ pa˹na˺ʃi ˹su: ˺ka: ˹waŋ˺ ki˹ra:rinda˺ ki˹ra:raŋ˺jo:ni ˹ʤin˺nu pa˹na˺ʃe: sa˹nu](その話をしたら君に嫌われるから、嫌われないように、お金の話はしない)。˺バー　キ˹ラーリ˺　ミサンダ　キ˹ラーリル˺　パ˹ナ˺シン　マ˹ナマ˺ヌ　ウ˹チ˺ナ　˹ワン˺　ア˹ジ˺　シゥ˹カサ˺ナー [˺ba: ki˹ra:ri˺ misanda ki˹ra:riru˺ pa˹na˺ʃim ma˹nama ˺nu ʔu˹ʧi˺na ˹waŋ˺ ʔa˹ʤi˺ sị˹kasa˺na:](私は嫌われても良いから、嫌われる話を今のうちに君に言って聞かせようね)。キ˹ラーレー˺　ミサムヌ [ki˹ra:re: ˺ misamunu](嫌われれば良いのに)。プ˹スン˺　キ˹ラーリリ˺バ [pụ˹suŋ˺ ki˹ra:riri˺ba](他人に嫌われろよ)。

キ˹ラウン [ki˹rauŋ] 【他動】 1嫌う。除去する。˺アイブ　˺クトゥ　˹スー˺カー　プ˹スン˺　キ˹ラーリント˺ダー [˺ʔaibu ˺kụtu ˹su:˺ka: pụ˹suŋ˺ ki˹ra:rinト˺da:](あんなことをすると他人に嫌われるぞ)。キ˹ライ˺　ミサン [ki˹rai˺ misaŋ](嫌ってもよい)。キ˹ラウ˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [ki˹rau˺ kụto: na˹ra˺nu](嫌うことは出来ない)。ウ˹レー˺　キ˹ラウンティ˺　ア˹ザリブンドゥ　ッふァイミラバ˺ル　ワ˹カ˺ルティ　˺ムカーヤ

[ʔu˹re:˺ ki˹raunti˺ ʔa˹ʥaribundu f˹faimiraba˺ru wa˹ka˺ruti muka:ja](それは嫌う＜禁止する＞と言われているが、食べてみないと分からない＜食べてみればぞ分かる＞)。キ˹ラウ　ムノー　ナー˺ヌ [ki˹rau muno: na:˺nu](嫌うものはない)。キ˹ライヤー˺　ミサムヌ [ki˹raija:˺ misamunu](嫌ったらいいのに)。忌み嫌う。フ˹チル˺バ　キ˹ライティル　ヤンマイ˺ヤ　˹ノーサラ˺ヌ [ɸu̥˹ʧiru˺ba ki˹raitiru jammai˺ja ˹no:sara˺nu](薬を嫌って＜ぞ＞病気を治せない)。ウ˹ヤ˺ヌ　フ˹チ˺ル　キ˹ラウンダ˺　ッ˹ふァン˺　キ˹ラーン˺　クトー　˹ナーン˺ヨー [ʔu˹ja˺nu ɸu̥˹ʧi˺ru ki˹raunda˺ f˹faŋ˺ ki˹ra:ŋ˺ ku̥to: ˹na:ŋ˺jo:](親が薬を嫌うから、子供も＜薬を＞嫌わないことは無いよ)。フ˹チ˺ル　キ˹ラウ˺　クトー　˹ナー˺ヌ [ɸu̥˹ʧi˺ru ki˹rau˺ ku̥to: ˹na:˺nu](薬を嫌うことは無い)。2断つ。避ける。˺ヤミ　˹ブー˺　ピンマー　サ˹ケー˺　キ˹ライリ [˺jami ˹bu:˺ pimma: sḁ˹ke:˺ ki˹rairi](病気のとき＜病んでいるとき＞は酒は避けよ＜断て＞)。ア˹バ˺ムヌ　キ˹ライリ [ʔa˹ba˺munu ki˹rairi](脂肪分の多いものを断て＜避けよ＞)。断つ。嗜好品の摂取を断つ。ン˹ベーマー˺　フ˹チキライヤー˺　ミサムヌ [ʔm˹be:ma:˺ ɸu̥˹ʧikiraija:˺ misamunu](少しは嗜好品の摂取を断てば良いのに)。シ˹バラムノー˺　キ˹ライリ [ʃi˹baramuno:˺ ki˹rairi](傷を化膿させ、病気に悪影響を及ぼす食品は摂取を断て)。

˺ギラガラス **[˺giragarasu]** 【名】しゃこ貝の塩漬け。˹ウン˺マー　˺ギラガラストゥ　˺カティ　ッ˹ふァイ˺バ [˹ʔum˺ma: ˺giragarasutu ˺kati f˹fai˺ba](芋はしゃこ貝の塩漬けとかてて＜糅て＞て食べなさい)。

ギ˹ラギラ **[gi˹ragira]** 【副】ぎらぎら。油などの光るさま。˹ミー˺ヤ　ギ˹ラギラ˺シ　ピ˹カ˺リティ　イ˹カムス˺ク　ナ˹クラー˺ワ˹ツォー [˹mi:˺ja gi˹ragira ˺ʃi pi̥˹ka˺riti ʔi˹kamusu˺ku na˹kura:˺wa˹tso:](目はぎらぎらと光って、どんなに怖いかってば、ねえ)。

キ˹ラ˺リン **[ki˹ra˺riŋ]** 【自動】来られる。来ることが出来る。カ行変革動詞˺クーン [˺ku:ŋ](来る) に、受身・可能の助動詞˹ラ˺リン [˹-ra˺riŋ](～られる) が下接して形成された可能動詞。˹バン˺ヌン　˺アツァー　キ˹ラ˺リン [˹ban˺nuŋ ˺ʔatsa: ki˹ra˺riŋ](私も明日は来られる)。キ˹ララン˺カー　キ˹ラ˺リ　˺ピンナ　˺クーバ [ki˹raraŋ˺ka: ki˹ra˺ri ˺pinna ˺ku:ba](来られなかったら、来られる時に来なさいよ)。

キ˹ラリン˺　ギサン **[ki˹rariŋ˺ gisaŋ]** 【連】来られそうだ。˺アツァー　キ˹ラリン˺　ギサン [˺ʔatsa: ki˹rariŋ˺ gisaŋ](明日は来られそうだ)。

ギ˹リ **[gi˹ri]** 【名】1義理。道徳。人間としてふみ行うべき正しい道。˺アイブ　ヤ˹ナクトゥバ　シー　ウンザー˺　ギ˹リン˺　パジン　˹ナーン˺　ムヌナリ˹ナー˺ヌ [˺ʔaibu ja˹nakutuba ʃi: ʔunʣa:˺ gi˹rim˺ paʤin ˹na:m˺ munu nari˹na:˺nu](あんな悪事を働いて、彼奴は義理も恥もない者になってしまった)。2交際上の義務。˹ウン˺ネートー　˹ブン˺ギ　˹カイ˺ス　ギ˹リヌ˺　ア˹リ˺ブバ　ウ˹リ　バスクナ˺ヨー [˹ʔun˺ne:to: ˹buŋ˺gi ˹kai˺su gi˹rinu˺ ʔa˹ri˺buba ʔu˹ri basu̥kuna˺jo:](あの家とは恩義を返す義理がある＜有り居る＞から、それを忘れるなよ)。

キ˹リ˺カイ **[ki˹ri˺kai]** 【名】切り替え。転換すること。カ˹ツシンマー　タイショーヌ　ユー˺ナ　˹プーシン˺ラ　キ˹カイ˺シン　キ˹リ˺カイ　˹オーッ˺タツォー [kḁ˹tsuʃimma: taiʃo:nu ju:˺na ˹pu:ʃin˺ra ki̥˹kai˺ʃiŋ ki˹ri˺kai ˹ʔo:t˺tatso:](カツオ漁船は大正の時代＜世＞に帆船から発動汽船＜機械船＞に切り替えなされたそうだ)。

キ˹リカイ˺スン **[ki˹rikai˺suŋ]** 【他動】蹴り返す。プ˹スン˺　キ˹ラ˺リカー　キ˹リカイスン˺ドゥ　˹クン˺ドー　キ˹リカイサヌ [pu̥˹suŋ˺ ki˹ra˺rika: ki˹rikaisun˺du ˹kun˺do: ki˹rikaisa˺nu](他人に蹴られたら蹴り返すが、今度は蹴り返さない)。キ˹リカイ˺シ　˺ミサカー　キ˹リカイ˺ス　˺クトー　˺ナルン [ki˹rikai˺ʃi ˺misaka: ki˹rikai˺su ˺ku̥to: ˺naruŋ](蹴り返して良ければ、蹴り返すことは出来る)。キ˹リカイ˺シェー　˺ミサムヌ [ki˹rikai˺ʃe: ˺misamunu](蹴り返せば良いのに)。キ˹リカイ˺シバ [ki˹rikai˺ʃiba](蹴り返せよ)。

ギ˹リガター˺ン **[gi˹rigata:˺ŋ]** 【形】義理堅い。ク˹ヌ˺　プ˹ソー˺　ギ˹リガター˺ンティ　ス˹クタヌ˺　カ˹ルタ　ジン˺ユン　˹カイサ˺ヌ　˹ピッ˺チン　ギ˹リガター　ナー˺ヌ [ku˹nu˺ pu̥˹so:˺ gi˹rigata:˺nti su̥˹kutanu˺ ka˹ruta ʤiŋ˺juŋ ˹kaisa˺nu ˹pit˺ʧiŋ gi˹rigata: na:˺nu](この人は義理堅いと聞いたが、借りた金をも返さない。ちっとも義理堅くない)。ギ˹リガター˺ヌ　ナ˹ラ˺ヌ [gi˹rigata:˺nu na˹ra˺nu](義理堅くて堪らない)。ギ˹リガター˺　ナルン [gi˹rigata:˺ naruŋ](義理堅くなる)。ウ˹リン˺　カタチニ　ギ˹リガター˺　プ˹ソー˺　ブラーヌ [ʔu˹riŋ˺ kḁtaʧini gi˹rigata:˺ pu̥˹so:˺ bu˹ra:nu](その人のように義理堅い人はいない)。

キ˹リ˺ガヤ **[ki˹ri˺gaja]** 【名】茅束の根元を切り揃えたもの。「切り茅」の義。茅葺屋根の甍を仕上げる際に、甍の両端へ切り揃えた茅の根元を向け、積み重ねて成形し、竹簾を掛け、くろつぐ＜桄榔＞

の縄で引き締めて甍を作った。˞ガヤヤーヌ　イ˞ラ˞カ　ス˞ク˞ル　˞ピンマー　ガ˞ヤータバル˞ヌ　˞ニー　˞キシ　˞スルイティ　キ˞リ˞ガヤ　˞ナシティ　イ˞ラ˞カナー　シ˞ミティ˞　ス˞クル˞タ [˞gajaja:nu ʔi˞ra˞ka sʉ˞ku˞ru ˞pimma: ga˞ja:tabaru˞nu ˞ni: ˞kʉ̥ʃi ˞suruiti ki˞ri˞gaja ˞naʃiti ʔi˞ra˞kana: ʃi˞miti˞ sʉ˞kuru˞ta](茅葺家の甍を作る時は茅束の根元を切り揃えて切り茅にし、甍に積み重ねて作った)。

キ˞リキザ˞ムン [ki˞rikidʑa˞muŋ] 【他動】細かく刻む。「切り刻む」の義。ヤ˞サイ˞バ　キ˞リキザ˞ムンティ　˞スンドゥ˞　キ˞リキザマラ˞ヌ [ja˞sai˞ba ki˞rikidʑa˞munti ˞sundu˞ ki˞rikidʑamara˞nu](野菜を切り刻もうとするが、切り刻まれない)。キ˞リキザ˞ミ　˞ミサカー　キ˞リキザ˞ム　˞クトー　˞ナルン [ki˞rikidʑa˞mi ˞misaka: ki˞rikidʑa˞mu ˞kʉ̥to: ˞naruŋ](切り刻んで良ければ切り刻むことは出来る)。キ˞リキザ˞メー　˞ミサムヌ [ki˞rikidʑa˞me: ˞misamunu](切り刻めば良いのに)。ムー˞ル˞　キ˞リキザ˞ミ [mu:˞ru˞ ki˞rikidʑa˞mi](全部切り刻め)。

キ˞リ˞キジ [ki˞ri˞kiʤi] 【名】切り傷。ビ˞コーンッふァー˞　パ˞ダ˞ラーンダ　ク˞ルビティ˞　キ˞リキジ˞ヌ　˞キシテー　˞ナー˞ヌ [bi˞ko:ŋffa:˞ pa˞da˞ra:nda ku˞rubiti˞ ki˞rikiʤi˞nu ˞kʉ̥ʃite: ˞na:˞nu](男の子は腕白ですばしこいから、切り傷の切れる＜無くなる＞ことはない)。

ギ˞リギリ˞ヤー [gi˞rigiri˞ja:] 【名】ひきもの (挽物) 屋。ろくろかんな (轆轤鉋) で挽いて食器類や家庭用器具、遊具類を造る職業。鳩間島には無く、石垣島に注文して購入していた。ギ˞リギリヤー˞ヤ　パ˞トゥ˞マナー　˞ナーン˞シェン [gi˞rigirija:˞ja pa̰˞tu˞ mana: ˞na:ŋ˞ʃeŋ](ギリギリ屋＜挽き物屋＞は鳩間島には無かった)。

キ˞リッ˞クナー [ki˞rik˞kuna:] 【名】蹴り勝負。蹴り合い。「蹴り比べ」の転訛したもの。ヤ˞ラ˞ビンケーヤ　˞ゾーナ　ア˞ツァ˞マリティ　˞マール˞ヌ　キ˞リッ˞クナー　˞シー˞　ア˞サビ　ベー [ja˞ra˞ biŋke:ja ˞dʑo:na ʔa˞tsa˞mariti ˞ma:ru˞nu ki˞rik˞kuna: ˞ʃi:˞ ʔa˞sabi be:](子供達は家の外の道に集まって、毬の蹴り合いをして遊んでいる)。

キ˞リックル˞スン [ki˞rikkuru˞suŋ] 【他動】蹴り殺す。ン˞ギ˞ウシェー　˞アトゥパンシ　プ˞ス˞　キ˞リックル˞スンティ˞ダー [ʔŋ˞gi˞ʔuʃe: ˞ʔatupaŋʃi pʉ̥˞su˞ ki˞rikkuru˞sunti˞da:](牛舎から逃げた牛は後ろ足で人を蹴り殺すそうだよ)。

キ˞リッケーラ˞スン [ki˞rikke:ra˞suŋ] 【他動】蹴飛ばす。「蹴り返らす」の義。プ˞スバ˞　キ˞リッケーラ˞スンティ　˞アー˞キティ　プ˞スン˞　キ˞リッケーラサ˞リ　˞ベー [pʉ̥˞suba˞ ki˞rikke:ra˞sunti ˞ʔa:˞kiti pʉ̥˞suŋ˞ ki˞rikke:rasa˞ri ˞ʔa:˞ku](他人を蹴飛ばそうとしていて、他人に蹴飛ばされている)。キ˞リッケー˞ラシ　˞ミサカー　キ˞リッケーラ˞ス　˞クトー　˞ナルン [ki˞rikke:ra˞ʃi ˞misaka: ki˞rikke:ra˞su ˞kʉ̥to: ˞naruŋ](蹴飛ばしてよければ、蹴飛ばすことはできる)。「マー˞ビン　キ˞リッケーラ˞シェー　˞ミサムヌ [˞ma:˞biŋ ki˞rikke:ra˞ʃe: ˞misamunu](もっと蹴飛ばせばいいのに)。キ˞リッケーラ˞シバ [ki˞rikke:ra˞ʃiba](蹴飛ばせよ)。サ˞キバ˞　ヌミティ　˞クン˞ゾー　ウ˞ク˞ルカー　˞ヌーンクイン　キ˞リッケーラ˞スン [sa̰˞kiba˞ numiti ˞kun˞dʑo: ʔu˞ku˞ruka: ˞nu:ŋkuiŋ ki˞rikke:ra˞suŋ](酒を飲んで怒ると何もかも蹴り飛ばす)。キ˞リッケーラサ˞リン [ki˞rikke:rasa˞riŋ](蹴り飛ばされる)。キ˞リッケーラサリヤッ˞サン [ki˞rikke:rasarijas˞saŋ](蹴り飛ばされやすい)。キ˞リッケーラサリ˞ル　˞クトー　˞ナー˞ヌ [ki˞rikke:rasari˞ru ˞kʉ̥to: ˞na:˞nu](蹴り飛ばされることは無い)。キ˞リッケーラ˞シェー　ナ˞ラ˞ヌ [ki˞rikke:ra˞ʃe: na˞ra˞nu](蹴飛ばしてはならない)。キ˞リッケーラ˞シ [ki˞rikke:ra˞ʃi](蹴っ飛ばせ)。

キ˞リッツァー˞スン [ki˞rittsa:˞suŋ] 【他動】蹴散らす。˞ドゥークンゾーバ　˞ンジティル　ヌーテー˞ナー˞ン　キ˞リッツァー˞シ　パ˞ニポー˞リ　˞シケー [˞du:kundʑo:ba ˞ʔnʤitiru nu:te:˞na:˞ŋ ki˞rittsa:˞ʃi pa˞nipo:˞ri ʃʉ̥ke:](怒りの矛先が己に向いて＜自分自身に腹が立って＞、手当たり次第に＜何を特定するでもなく＞蹴飛ばして、そこら一面に乱雑に蹴散らかしてある)。キ˞リッツァーサ˞ヌ [ki˞rittsa:sa˞nu](蹴散らさない)。

キ˞リットー˞スン [ki˞ritto:˞suŋ] 【他動】蹴倒す。「蹴り倒す」の義。˞パンシ　キ˞リットー˞スン [˞paŋʃi ki˞ritto:˞suŋ](足で蹴り倒す)。シ˞マ˞バ　˞トゥリティ　キ˞リットーサ˞リ　˞ドゥー　ヤ˞マ˞シ　˞シケー [ʃi˞ma˞ba ˞turi ki˞ritto:sa˞riti ˞du: ja˞ma˞ʃi ˞ʃʉ̥ke:](相撲をとって蹴倒されて、体に怪我をして＜胴を病ましておいて＞ある)。キ˞リットーサラ˞ヌ [ki˞ritto:sara˞nu](蹴倒されない)。

キ˞リットゥバ˞スン [ki˞rittuba˞suŋ] 【他動】蹴飛ばす。「蹴り飛ばす」の義。ウ˞レー˞　キ˞リットゥバサラ˞ヌ [ʔu˞re:˞ ki˞rittubasara˞nu](それは蹴飛ばされない)。キ˞リットゥバシ˞　プサン [ki˞rittubaʃi˞ pʉ̥saŋ](蹴飛ばしたい)。キ˞リットゥバ˞スンティ　˞

ウムーカー　キ˞リットゥバ˞シバ [ki˞rittuba˞sunti ˞ʔumu:ka: ki˞rittuba˞ʃiba](蹴飛ばそうと思うなら蹴っ飛ばせよ)。˞キットゥバ˞スン [˞kittuba˞suŋ](蹴っ飛ばす) ともいう。˞キットゥバ˞ス　˞クトゥ [˞kittuba˞su ˞kuͭtu](蹴飛ばすこと)。˞キットゥバ˞シェー　˞ミサムヌ [˞kittuba˞ʃe: ˞misamunu](蹴飛ばせばよいのに)。

キ˞リ˞ビラ [ki˞ri˞bira] 【名】 (植) にら (韮)。˞ビラ [˞bira](韮) ともいう。「薤、ミラ、ニラ、ヒル」『類聚名義抄』に接頭語、キ˞リ-[kiri-](切り) が付いて形成だれた合成語。キ˞リ˞ビラーンツァン　˞スリ　˞キー　˞スー˞ヌ　˞オーンガキ　シー˞バ [ki˞ri˞bira:ntsan ˞suri ˞ki: ˞su:˞nu ˞ʔo:ŋgaki ʃi:˞ba](韮でも剃ってきて、お汁の薬味 < うわおき > にしなさいよ)。

キ˞リ˞ボシ [ki˞ri˞boʃi] 【名】˞切り干し」の義。イモ類を薄く輪切りにして乾燥した物。キリボシは長期保存できるので、非常用食品として保存された。カ˞シガーフク˞ル [kaͭ˞ʃiga:ɸuͭku˞ru](南京袋) に入れて保存し、必要に応じて臼で搗き、粉にして米に混ぜて炊いた。芋の澱粉が米と適当に混じりあい、粘り気が出て旨味をだす効果があった。イ˞クサユー˞ヌ　˞アトゥナー　˞ウン˞ヌ　キ˞リ˞ボシン　ス˞クル˞タン˞ダー [ʔi˞kusaju:˞nu ˞ʔatuna: ˞ʔun˞nu ki˞ri ˞boʃin suͭ˞kuru˞tan˞da:](終戦後には芋の切り干しも作ったものだよ)。

キ˞リ˞マス [ki˞ri˞masu] 【名】枡に盛った穀物を斗掻できっちりと切り均した枡。石垣方言からの借用語。対語は、ム˞リマス [mu˞rimasu](盛り枡)。マ˞チヤーヌ˞　プ˞ソー˞　キ˞リ˞マスシル　ノー˞ン　カーソー˞ル [ma˞ʧija:nu˞ puͭ˞so:˞ ki˞ri˞masuʃiru no:˞ŋ ka:so:˞ru](店の人は何でも切り枡で量って売られる)。

キ˞リマラバ˞スン [ki˞rimaraba˞suŋ] 【他動】散々に蹴って打ち据える。打ちのめす。強打する。˞蹴まろばす < 転ばす >」の義。ヤ˞ナクトゥ　スー˞カー　˞ヌンガーラサ˞ヌ　キ˞リマラバ˞スン [ja˞nakuͭtu su: ˞ka: ˞nuŋga:rasa˞nu ki˞rimaraba˞suŋ](悪事を働くと許さない。散々に蹴って打ち据える)。キ˞リマラバサ˞リ　˞ベー [ki˞rimarabasa˞ri ˞be:](散々に打ち据えられている)。

キ˞リユー˞ナー [ki˞riju:˞na:] 【連】蹴り合い。˞ヤー　ンーマ˞ヌ　カ˞タ˞　ミ˞リ˞バ　キ˞リユーナー˞ドゥ　˞シーユール [˞ja: ʔm:ma˞nu kaͭ˞ta˞ mi˞ri˞ba ki˞riju:na:˞du ˞ʃi:ju:ru](ああ、馬の絵を見ると、蹴り合いを < ぞ > している)(アーパーレー歌)。

˞キルン [˞kiruŋ] 【他動】蹴る。「蹴散、俱穢 < くゑ > はららかす」『日本書紀　神代上』、「Qe,ru,eta. ケ、ケル、ケタ (蹴、ける、けた) 足で前方へ蹴る」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ク˞レー˞　キ˞ララ˞ヌ [ku˞re:˞ ki˞rara˞nu](これは蹴られない)。˞マー˞ル　˞パンシ　˞キルンティ　˞ウムーカー　˞キリバ [˞ma:˞ru ˞paŋʃi ˞kirunti ˞ʔumu:ka: ˞kiriba](鞠を足で蹴ようと思うなら蹴りなさい < 蹴れよ >)。˞マー˞ル　キ˞リ˞プサン [˞ma:˞ru ki˞ri˞ puͭsaŋ](鞠を蹴りたい)。˞マー˞ル　˞キル　˞バス [˞ma:˞ru ˞kiru ˞basu](鞠を蹴るとき)。˞パンシ　˞キレー　˞ミサムヌ [˞paŋʃi ˞kire: ˞misamusu](足で蹴ればよいのに)。

˞キワ [˞kiwa] 【名】ある行動や状態に移る限界点。瞬間。どたんば。〜のきわ (際)。〜の羽目。老年層は、˞キファ [˞kiɸa] という。ウ˞カ˞ヌ　˞ミーシ　˞ヤー˞ヤ　˞サシウサイ　サ˞リル˞　キワ　˞ナリ　˞キー˞ル　プ˞ステー˞　バ˞タシェー˞ティムカーヤ [ʔu ˞ka˞nu ˞mi:ʃi ˞ja:˞ja ˞saʃiʔusai sa˞riru˞ kiwa ˞nari ˞ki: ˞ru puͭ˞sute:˞ ba˞taʃe:˞timuka:ja](借金のかた < 抵当 > に家が差し押さえされる際になったので人手に渡したということだよ)。ナ˞ガヤンマイ　シー　オーッタン˞ドゥ　˞マーラス˞　キワ˞ナリ　˞オー˞ルツォー [na˞gajammai ʃi: ʔo:ttan˞du ˞ma:rasu˞ kiwa ˞nari ˞ʔo:˞rutso:](長患い < 長病み > しておられたが、亡くなる際になっておられるそうだ)。

キ˞ワミティ [ki˞wamiti] 【副】定めて。必ず。きまって。「極めて」の転訛したもの。歌謡語。/アサニシヨル　ユナグ　アサピキィ　シヨルミドゥン　ウリカラドゥ　キハミティ　ブトゥヤ　ユダンシミユル/(朝寝坊の女性と朝食用の芋堀に行く婦人の家庭では夫は常に油断しがちで家運は衰退する)。˞デンサ節」『八重山民謡誌』。

˞キン [˞kiŋ] 【名】着物。衣服。「足掻きの水に伎奴々礼爾家里 < キヌ　ヌレニケリ >。万、4022」。「素、キヌ」『類聚名義抄』の転訛したもの。˞キン　キ˞スン [˞kiŋ kiͭ˞suŋ](着物を着る)。˞キン　パズン [˞kim ˞paʤuŋ](着物を脱ぐ)。パ˞ダ˞キン [pa˞da˞ kiŋ](肌着)。ナ˞チ˞キン [na˞ʧi˞kiŋ](夏着)。フ˞ユ˞キン [ɸu˞ju˞kiŋ](冬着)。˞アーシ˞キン [˞ʔa:ʃi˞kiŋ](袷)。シ˞グトゥキン [ʃi˞gutukiŋ](仕事着)。イ˞ソーキン [ʔi ˞so:kiŋ](漁に出る際の衣服。「磯着」の転訛か)。フ˞タ˞キシキン [ɸuͭ˞ta˞kiʃikiŋ](普段着)。˞クーシ˞キン [˞ku:ʃi˞kiŋ](継ぎ当てした着物)。ヤ˞リ˞キン [ja˞ri˞kiŋ](破れ衣)。ア˞ラキン [ʔa˞rakiŋ](新しい着物)。ッ˞ふ˞キン [f˞fu˞kiŋ](古着)。ヤ˞リ˞カコー [ja˞

ri˥kako:](破れかかふ)。フ˩ク˥ダー [ɸu̥˩ku˥da:](襤褸(ボロ)着)。

˥キン [˥kiŋ] 【名】(植) キビ (黍)。五穀の一つ。鳩間島ではあまり栽培されなかった。˩キン˥マー　パ˩トゥ˥マナテー　˩ナン˥ゾー　ス˩ク˥ロー˩ラン˥シェン [˩kim˥ma: pḁ˩tu˥manate: ˩nan˥ʤo: su̥˩ku˥ro:˩raŋ˥ʃeŋ](黍は鳩間島ではあまり栽培されなかった＜作られなかった＞)。

˩キン [˩kiŋ] 【助数】斤。重量をあらわす単位。˩イッキン [˩ʔikkiŋ](一斤)。˩ニッ˥キン [˩nik˥kiŋ](二斤)。˥サンギン [˥saŋgiŋ](三斤)。˩ヨンキン [˩joŋkiŋ](四斤)。ゴ˩キン [go˩kiŋ](五斤)。˩ロッ˥キン [˩rok˥kiŋ](六斤)。シ˩チ˥キン [ʃi̥˩ʧi˥kiŋ](七斤)。ハ˩チ˥キン [ha˩ʧi˥kiŋ](八斤)。˩キューキン [˩kju:kiŋ](九斤)。˥ジッキ [˥ʤikki](十斤)。˥ニジッキ [˥niʤikki](二十斤)。˩ピャッ˥キ [˩pjak˥ki](百斤)、˥シンギ [˥ʃiŋgi](千斤)。˥マンギ [˥maŋgi](万斤)。˩オー˥ヤ　ニ˩ヒャッ˥キ　˩バー˥キ　フ˩ドゥバシティル　カーシタル [˩ʔo:˥ja ni ˩hjak˥ki ˩ba:˥ki ɸu˩dubaʃi̥tiru ka:ʃitaru](豚は二百斤まで肥育してから＜ぞ＞売ったものだ)。

˩ギン [˩giŋ] 【名】件。事柄。例のこと。一件。ウ˩ヌ　ギン˥シェー　ウヤ˩バー˥キ　˩ガッ˥コー　ヤ˩ラバーリル˥　ヤッ˩トゥ˥シ　ユ˩ラー˥レー＜ユ˩ルサ˥レー＞˩ダー [ʔu˩nu giŋ˥ʃe: ʔuja˩ba:˥ki ˩gak˥ko: ja˩raba:riru˥ jat˩tu˥ʃi ju˩ra:˥re:＜ju˩rusa˥re:＞˩da:](その件では親まで学校に呼ばれてやっとのことで許してもらえた＜許された＞のだよ)。ク˩リティル　ギンマー˥　メー　イッ˩カ˥　ユ˩ラ˥スクトー　ナ˩ラ˥ヌ [ku˩ritiru gimma:˥me: ʔik˩ka˥ ju˩ra˥su ˥ku̥to: na˩ra˥nu](これということ＜この件＞ばかりは、もう決して＜一向に＞許すことは出来ない)。

˩キン˥アライ [˩kiŋ˥ʔarai]【名】洗濯。「衣洗い」の義。ミ˩ジヌ　ナー˥ン　˥シマナテー　˩キンアライ˥ヤー　ウ˩ブシグトゥ　ヤッタ [mi˩ʤinu na:˥ŋ ˥ʃimanate: ˩kiŋʔarai˥ja: ʔu˩buʃigutu jatta](水のない島では洗濯＜衣洗い＞は大仕事であった)。

˩キンアライ˥タライ [˩kiŋʔarai˥tarai] 【名】洗濯用盥。「衣洗い盥」の転訛。˩キンアライ˥タライナ　˩キン˥マー　イ˩リティ˥　フ˩クラシ˥　シキ [˩kiŋʔarai˥taraina ˩kim˥ma: ʔi˩riti˥ ɸu̥˩kuraʃi˥ʃi̥ki](洗濯用盥に着物を入れて、水に浸けてふやかして＜ふくれさせて＞おけ)。

˥キンカー [˥kiŋka:] 【名】衣類。衣服。「衣皮」の転訛か。˥キンカーン　タカー˩ニン˥　アリ　˩ソーヤ　ナー˥ヌ [˥kiŋka:n tḁka:˩niŋ˥ ʔari ˩so:ja na:˥nu](衣類も沢山あり、心配はない)。キ˩ス˥　キンカーティン　ノー˩ン　ナー˥ヌ [ki̥˩su˥ kiŋka:tin no:˩n na:˥nu](着る着物とても何もない)。

˩キンキン [˩kiŋkiŋ] 【名】黄色。黄々。カ˩ムラー˥マー　˩キンキンヌ　キン˥バ　キ˩ソーッ˥タ [ka˩mura:˥ma: ˩kiŋkinnu kim˥ba ki̥˩so:t˥ta](カムラーマは黄色の着物を着けられた)。強調するとカム˩ラー˥マ [kamu˩ra:˥ma] ともいう。

キン˩キン˥シ [kiŋ˩kiŋ˥ʃi] 【副】黄色く。˥イロー　キン˩キン˥シ　ス˩ミバル˥　マ˩シ [˥ʔiro: kiŋ˩kiŋ˥ʃi su˩mibaru˥ ma˩ʃi](色は黄色く染めたほうがよい＜染めればぞましだ＞)。

˩キンキン˥シ [˩kiŋkiŋ˥ʃi] 【副】黄色に。˩真黄色に」の義。「黄色黄色」の転訛したもの。フ˩クンヌ˥カー　˥シジティ　˩キンキン˥シ　ス˩ミ˥シケー [ɸu̥˩kunnu˥ka: ˥ʃiʤiti ˩kiŋkiŋ˥ʃi su˩mi˥ʃi̥ke:](福木の皮を煎じて真黄色に染めてある)。

˩キンク [˩kiŋku] 【名】金庫。標準語からの借用語。老年層は、普通は˩ジン˥グラ [˩ʤiŋ˥guru](金蔵) という。ウ˩ヤ˥キプソー　˩キンクナー˥ル　˩ジン˥マー　カ˩キン˥グ　˩ソーッ˥タツォー [ʔu˩ja˥kipu̥so: ˩kiŋkuna:˥ru ˩ʤim˥ma: ka˩kiŋ˥gu ˩so:t˥tatso:](金持ちは金庫に＜ぞ＞お金を保管されたそうだ)。ム˩カ˥シェー　˩キンクバ　ジン˥グラティ　ア˩ゾーッタ˥ル [mu˩ka˥ʃe: ˩kiŋkuba ʤiŋ˥gurati ʔa˩ʤo:tta˥ru](昔は金庫をジングラ＜銭倉＞といわれたものだ)。

˩キンクー [˩kiŋku:] 【名】金庫。標準語からの借用語。˩ウン˥ネーナ　˩キンクーン˥　アンティ˩ダー [˩ʔun˥ne:na ˩kiŋku:ŋ˥ ʔanti˩da:](あの家には金庫もあるそうだよ)。

˩キンクーレー [˩kiŋku:re:] 【名】(動) 魚の名。和名、アヤコショウダイ (体長約 60 センチ)。鳩間島では 30～40 センチの˩キンクーレーが漁獲されていた。鰓蓋の辺りから尾びれにかけて黒の丸い斑点が並び、上体部から背びれにかけて黒のストライプが斜めに並んで、背びれや尾びれ、口元が淡いオレンジ色に染まった美しい魚である。

˩キンコー [˩kiŋko:] 【名】健康。標準語からの転訛。普通は、˥ドゥーガンズー [˥du:ganʤu:](胴頑丈) という。˩キンコー˥　ア˩ラバ˥ル　˥ウムークトゥーン　ノー˩ン˥　ナル [˩kiŋko:˥ ʔa˩raba˥ru ˥ʔumu:kutu:n no:˩n˥ naru](健康であってこそ思うこともなにもかも叶う＜出来る＞のだ)。パ˩チング˥チナール　˩ヤーニンズー˥ヌ　˥ドゥーパダ　˩キンコー　ニガイヤー　ソーッ˥タ [pḁ˩ʧiŋgu˥ʧina:ru ˩ja:nindʤu:˥nu

˥du:pada ˩kiŋko: nigaija: so:t˥ta](八月に家族の身体健康祈願をされた)。˥ドゥーパダ　˩キンコー˥　ア˩ラ˥シ　タ˩ボー˥リ [˥du:pada ˩kiŋko:˥ ʔa˩ra˥ʃi ta˩bo:˥ri](体 < 胴肌 > を健康にして < 有らして > ください)。

˩キンコースクサイ [˩kiŋko:sɯ̥kusai] 【名】健康息災。健康で身にさわりのないこと。無病息災であること。主として神仏に祈願する、˩カン˥フチ　ニ˩ガイ˥フチ [˩kaŋ˥ɸɯ̥tʃi ni˩gai˥ɸɯ̥tʃi](神口・願い口 < 祝詞 >) の中で唱えられるが、日常の挨拶言葉の中でも用いられる。˩カンヌ˥マイ　ニ˩ガイシキラ˥バ　˩キンコースクサイ˥　ア˩ラ˥シミ　タ˩ボー˥リ [˩kannu˥mai ni˩gaiʃi̥kira˥ba ˩kiŋko:sɯ̥kusai˥ ʔa˩ra˥ʃimi ta˩bo:˥ri](神様の御前に祈願申し上げますから健康息災あらしめてください)。

˩キンコー˥　ス˩クサイ [˩kiŋko:˥ sɯ̥˩kusai] 【連】˩健康、息災」の転訛。無病息災であること。˩キンコー˥　ス˩クサイユ˥　ニ˩ガイシキラ˥バ　イ˩ジン˥ジパ˩タラキ˥バ˩ヨー [˩kiŋko:˥ sɯ̥˩kusaiju˥ ni˩gaiʃi̥kira˥ba ʔi˩ʤin˥ʤi pḁ˩taraki˥ba˩jo:](健康と息災をお祈り < 願いつけ > しますから、頑張って働きなさいねえ)。

˩キンコーニガイ [˩kiŋko:nigai] 【名】健康祈願。健康祈願の行事。˥ソンガチ　パ˩チニンガイ [˥soŋgatʃi pḁ˩tʃiniŋgai](正月の初祈願) やパ˩チンガチニン˥ガイ [pḁ˩tʃiŋgatʃiniŋ˥gai](八月祈願) の際に健康祈願を行った。本人のマ˩リビー [ma˩ribi:](生まれた干支の日) に˩クームチ [˩ku:mutʃi](神に供える一式の供物) を供えて、サ˩カサ [sa˩kasa](司。巫女) に頼んで健康祈願をしてもらった。˥ドゥーパダニンガイ [˥du:padaniŋgai](身体 < 胴肌 > 健康祈願)、トゥ˩シ˥ビーニンガイ [tɯ̥˩ʃi˥bi:niŋgai](生まれた干支の日に行う健康祈願) ともいう。

˩キン˥サ [˩kin˥sa] 【名】検査。標準語からの転訛。老年層は、˥トゥリシラビ [˥turiʃirabi](取調べ。検査) という。˩グイ˥フゾーノーヌ　˩キン˥サ [˩gui˥ɸuʤo:no:nu: ˩kin˥sa](貢納布 < 御庸布 > の検査)。˩ピータイキン˥サ [˩pi:taikin˥sa](徴兵検査 < 兵隊検査 >)。ム˩カ˥シェー　˩グイ˥フゾーノーヌ　˩キン˥サ　˩トゥーラ˥ン　ミ˩ドゥ˥モー　パ˩マウリソージ˥ヌ　˥ピン　˥サンシキナーティ　ム˩ラズーヌ˥　プ˩スヌ˥　マイナー　ビ˩ササリソーッ˥タツォー [mu˩ka˥ʃe: ˩gui˥ɸuʤo:no:nu ˩kin˥sa ˩tu:ra˥m mi˩du˥mo: pa˩maʔuriso:ʤi˥ni ˥pin ˥saŋʃi̥kina:ti mu˩raʤu:nu˥ pɯ̥˩sunu˥ maina: bi˩sasariso:t˥tatso:](昔は、御庸布上納 < 納税 > の検査に合格しない < 通らない > 女は浜下り精進の日に桟敷において、村人全員の前に座らされたそうだ)。

˩キン˥ザン [˩kin˥ʤaŋ] 【名】 (動) ころもじらみ (衣虱)。きものじらみ (着物虱)。着物に付くシラミ (虱)。「˩キン・ッサン [˩kin˥ssaŋ]< 衣・虱 >」の [n] により [-ss-] が有声化し、[˩kin˥ʤaŋ] と転訛したもの。終戦後、西表島の避難小屋から鳩間島に帰ったとき、着物虱が湧き出るように発生 < 孵化 > してマラリアアと共に苦しめられたが、米軍による DDT 散布により駆除することができた。˩キンザン˥ヌ　˥シディティ　˩ヨー˥ゾー　ナ˩ラン˥シェタンドゥ　˩ディーディー˥ティー　マ˩クター˥ル　ヤッ˩トゥ˥シ　ウ˩サマ˥レータル [˩kinʤan˥nu ˥ʃiditi ˩jo:˥ʤo: na˩raŋ˥ʃe:tandu ˩di:di:˥ti: ma˩ku˥ta: jat˩tu˥ʃi ʔu˩sama˥re:taru](衣虱が発生して < 孵化し湧き出て > 手が付けられなかった < 養生、手当てができなかった > が DDT を頭から全身、全集落散布をしたら、やっとで収まった)。˩キンザン˥マー　˩キン˥ヌ　ブ˩リ˥ミ　˩ヌイ˥ミーナ　˥ユー　˥シディ　ブ˩タンドゥ˥　マ˩ナ˥マー　ブ˩ラーヌ [˩kinʤam˥ma: ˩kin˥nu bu˩ri˥mi: ˩nui˥mi:na ˥ju: ʃidibu˩tandu˥ ma˩na˥ma: bu˩ra:nu](衣虱は衣類の折り目、縫い目によく発生 < 孵化 > していたが、今はいない)。

˩ギン˥シェー [˩giŋ˥ʃe:] 【連】～からには。～する以上。前条件を受けて、下に当然起こり得る、起こり得た未然の、既に起きた出来事を表す。バ˩ライベ˥ー　˩ギン˥シェー　˩ゴーカク　シェート ナー [ba˩raibe˥: ˩giŋ˥ʃe: ˩go:kaku ʃe:ɦ-na:](笑っているからには、合格したんだな)。

˩キンシタダル [˩kiŋʃi̥tadaru] 【名】黄色が濃いこと。黄金色の果実が鈴なりに生るさま。「黄味滴り」の義。フ˩ナブ˥ヌ　キ˩ンシタダル　スン˥ケン　ナリ˩ベー [ɸu˩nabu˥nu ˩kiŋʃi̥tadaru suŋ˥ken nari˩be:](蜜柑 < 九年母 > が黄金色が滴るほどに、鈴生りに生っている)。

˩キンズ [˩kinʤu] 【名】近所。標準語「近所」の転訛。トゥ˩ナル [tu˩naru](隣)、又は˩ヤートゥナ˥ル [˩ja:tuna˥ru](近所。家隣) というのが普通。˩キンズ [˩kinʤu](近所) 単独で用いることは少ない。トゥ˩ナルキンズ [tu˩narukinʤu](隣近所) のように複合語の形で用いられることが多い。トゥ˩ナルキンズトー˥　ユー　ピ˩ライバ˥ル　キ˩ナイヤー˥　ム˩ティヤッ˥サ˩ダー [tu˩narukinʤuto:˥ ju: pi˩raiba˥ru ki˩naija:˥ mu˩tijas˥sa˩da:](隣近所とはよく付き合って

こそ家庭は経営しやすいものだよ)。

˹キンスー [˹kinsu:] 【名】斤数。斤量。斤目。目方。ク˹ヌ˺ ス˹ビ˺ヌ ˹キンスー ギュー˺サ カ˹カ˺ルユー パ˹カ˺リ˹ミー [ku˹nu˺ su˹bi˺nu ˹kinsu: gju:˺sa kạ˹ka˺ruju: pạ˹ka˺ri˹mi:](このマグロの斤数 < 斤量 > いくらかかるか、計ってごらん)。ク˹ヌ オー˺ヌ ˹キンソー ギュー˺サ ˺ブカラ カ˹カ˺ルユー パ˹カ˺リ˹ミー [ku˹nu ʔo:˺nu ˹kinso: gju:˺sa ˺bukara kạ˹ka˺ruju: pạ˹ka˺ri˹mi:](この豚の斤数は幾らほど < どれぐらい > かかるか量ってごらん)。

˹キン˺タ [˹kin˺ta] 【名】がけ (崖)。キ˹ダバナ [ki˹da-bana](断崖の先端) ともいう。「切り・ひら < 坂 >」(傾斜地や斜面を「ひら・へら」という)『全国方言辞典』。「切り・ひら < 坂 >」の合成語か。˹黄泉平坂」『古事記上』とも関係ある語か。˹現在も坂のことをフィラという『沖縄古語大辞典』」。「嶽の嶽のぼてひらのひらおりて〜『琉歌全集 1273』」。「黄泉平坂。泉津平坂、此をば余母都比羅佐可 < よもつひらさか > といふ」『日本書紀 神代上』の転訛か。ティ˹ドゥ˺クヤマヌ ˹キン˺ターラ ˹キャーンギキーバ˺ キシ ウ˹ラ˺ソーッタ [ti˹du˺ku jamanu ˹kin˺ta:ra ˹kja:ŋgiki:ba˺ kị̥ʃi ʔu˹ra˺so:tta](西表島のティドゥク山の崖からイヌ槇の木を伐り下ろされた)。

˹キンタールン [˹kinta:ruŋ] 【自動】黄ばむ。黄色になる。「黄にてあり」の転訛か。˺ウキンバ ˺シジ ˺ヌミ ˹シッ˺キティ ˺ドゥーナ ッ˹シットー˺スカー ˺パダー ˹キンタールン˺ダー [ʔu˹kim˺ba ˺ʃiʤi ˺numi ˹ʃik˺kiti ˺du:na ʃ˹ʃitto:˺sụ̥ka: ˺pada: ˹kinta:run ˺da:](うこん < 鬱金 > を煎じて飲み、搗いて体 < 胴体 > に擦り付けると肌は黄ばむよ)。˹キンターラヌ [˹kinta:ranu](黄ばまない)。˹キンターリティ [˹kinta:riti](黄ばんで)。˹キンタール ムヌ [˹kinta:ru munu](黄ばむもの)。˹キンターレー˺ ミサムヌ [˹kinta:re:˺ misamunu](黄ばめばよいのに)。˹キンターリリ [˹kinta:riri](黄ばめ)。

˹キンダイクニ [˹kindaikuni] 【名】(植) 和名、ニンジン (人参)。この植物は、民俗分類学的にはアブラナ科の大根類に入っている。大根と共に鳩間島でよく栽培されていた。豚汁や魚の汁と共に煮て食した。シ˹ミ˺ムー [ʃi˹mi˺mu:](煮しめ物) の食材として必需品であった。子供は一般的に好まなかったが、親たちは積極的に子供に与えなかった。ク˹トゥシェー キンダイクニヌ˺ イッ˹ケナ ミーレー˺ン [kụ̥˹tuʃe: kindaikuninu˺ ʔik˹kem mi:re:˺ŋ](今年は人参が非常に豊作だ < 非常によく稔った >)。(植) 人参。ヤ˹ラ˺ベー ˹キンダイクネー ナン˺ゾー ッ˹ふァーヌ [ja˹ra˺be: ˹kindaikune: nan˺ʤo: f˹fa:nu](子供は人参はあまり食べない)。ヤ˹ラ˺ビ ˹シェーン˺ケンマー ˹キンダイクネー ナン˺ゾー ン˹マーナーン˺シェン [ja˹ra˺bi ˹ʃe:ŋ˺kemma: ˹kindaikune: nan˺ʤo: ʔm˹ma:na:ŋ˺ʃeŋ](子供の頃は、人参はあまり美味しくなかった)。

˹キン˺ダン [˹kin˺daŋ] 【名】地団太踏んで泣きわめく。激しく暴れまわる。ウ˹ヤ˺ヌ シ˹ビ ウーンティ˺ ナ˹キ キン˺ダン ˹シーベー [ʔu˹ja˺nu ʃi˹bi ʔu:nti˺ na˹ki kin˺daŋ ˹ʃi:be:](親の後追いをしようとして、地団太踏んで泣きわめき暴れている)。

˹キン˺ダン [˹kin˺daŋ] 【名】子供が暴れまわること。駄駄をこねる。子供が機嫌をそこねて引っ掻き乱すこと。地団太ふむこと。ヤ˹ラ˺ベー カ˹ジェー マーリティ キン˺ダン ˹シーベー [ja˹ra˺be: ka˹ʤe: ma:riti kin˺daŋ ˹ʃi:be:](子供は機嫌をそこねて <˹風が回って吹き荒れること」の比喩表現 > 暴れまわり、引っ掻き回ししている)。

˹キン˺チョー [˹kin˺ʧo:] 【名】県庁。˺バー マ˹ナ˺マー ˹キン˺チョーナ シ˹トゥ˺ミ ˹ベー [˺ba: ma˹na˺ ma: ˹kin˺ʧo:na ʃị̥˹tu˺mi ˹be:](私は今県庁に勤めている)。

˹キンツァースン [˹kintsa:suŋ] 【他動】踏み散らす。かき乱す。ン˹ギウシ˺ヌ パ˹タ˺キ ˹キンツァーシ˺ シケー [ʔŋ˹gi ʔuʃi˺nu pạ˹ta˺ki ˹kintsa:ʃi˺ ʃị̥ke:](逃げた牛が畑を踏み散らかしてある)。˹キン [˹kiŋ] は沖縄古語の「けぐ」(掻き混ぜる) の転訛したもの。接尾語˹ツァースン [˹tsa:suŋ](散らかす) が複合して形成された合成語。ヤ˹ラ˺ベー パ˹タ˺キ ˹キンツァースンダ サーパン˺ナ [ja˹ra˺be: pạ˹ti˺ki ˹kintsa:sunda sa:pan˺na](子供は畑を踏み散らすので連れて行くな)。˹キンツァーサヌ [˹kintsa:sanu](掻き混ぜない)。パ˹タ˺キ ˹キンツァース モー˺ カマイ˹ゲ˺ラ [pạ˹ta˺ki ˹kintsa:su mo:˺ kamai˹ge˺ra](畑を踏み散らかすのは猪さ)。˹キンツァシェー˺ ミサムヌ [˹kintsaʃe:˺ misamunu](踏み散らかせば良いのに)。˹キンツァーシ˺バ [˹kintsa:ʃi˺ba](踏み散らかせよ)。

˹キンツァー˺ン [˹kintsa:˺ŋ] 【形】黄色い。˹キーロー˺ン [˹ki:ro:˺ŋ](黄色い) ともいう。˹サッ˺コー ˹キンツァー˺ン [˹sak˺ko: ˹kintsa:˺ŋ](非常に黄色い)。˹キンツァーナー˺ヌ [˹kintsa:na:˺nu](黄色くない)。˺ドゥク ˹キンツァー˺ヌ ˹キールムチェー˺ ッ˹ふァーラヌ [˺duku ˹kintsa:˺nu ˹ki:rumuʧe:˺ f˹fa:ranu](あ

まりに黄色いので、黄色餅は食べられない)。˹キンツァー˺ル　ム˹チェー　カウナ [˹kintsa:˺ru mu˹tʃe: kauna](黄色い餅は買うな)。˹キンツァー˺カー　˹カウナ [˹kintsa:˺ka: ˹kauna](黄色かったら買うな)。

˹キントー [˹kinto:] 【名】検討。ムー˹ル˺シ　˹キントー　サン˺カー＜パ˹ナシ　アーサン˺カー＞　キ˹ミララヌ [mu:˹ru˺ʃi ˹kinto: saŋ˺ka: ＜pa˹ʃi ʔa:saŋ˺ka:＞ ki˹miraranu](皆で検討しないと決められない)。

˹ギンニ [˹ginni] 【副】実際に。現実に。誠に。本当に。「現に」の転訛したもの。ム˹カ˺シクトゥバー　˹ギンニ＜˹フン˺トー＞　アッタ˺　ク˹トゥ˺バ　ム˹トゥ˺バ　˹シール˺　ア˹ザリ　ブーユンダ˺　ス˹ムカラン˺ダー [mu˹ka˺ʃikutuba: ˹ginni ＜˹ɸun˺to:＞ ʔat˺ta ku˹tu˺ba mu˹tu˺ba ˹ʃi:ru˺ ʔa˹ʤaribu:junda˺ su˹mukaran˺da:](昔の諺は実際にあった事に基づいて＜本にして＞いわれているから、教えに背かれない＜逆らえない＞よ)。˹ギンニ＜˹フン˺トー＞　ワー˺　ア˹ズタ　トゥー˺ル　˺ナリ　˹ナーヌ˺ヌ　˹ヌー˺　サバル　マ˹シ˺ヤ [˹ginni ＜˹ɸun˺to:＞ wa:˺ ʔa˹ʤuta tu:˺ru ˺nari ˹na:nu˺nu ˹nu:˺ sabaru ma˹ʃi˺ja](実際に、君が言った通りになってしまったが、どうすればいいのか)。

˹キンヌイ˺パル [˹kinnui˺paru] 【名】縫い針。裁縫用の針。˹ミー˺ヌ　˹ムイティ　キンヌイパル˺ヌ　˺ミー　˺イトゥ　ヌ˹キユーサヌ [˹mi:˺nu ˹muiti kinnui paru˺nu ˺mi: ˺ʔitu nu˹kiju:sanu](目がジラジラ燃えるように老眼になって、針の目に縫い糸を通すことが出来ない)。

˹キンヌイ˺プス [˹kinnui˺pu̥su] 【名】縫い子。針子。仕立て屋。˹衣縫い人」の義。˺バー　˹ヨーサイ˺テンナー　˹キンヌイプス˺バ　˹シェー˺ティル　˹ガッ˺コー　ン˹ズ˺タ [˺ba: ˹jo:sai˺tenna: ˹kinnuipu̥su˺ba ˹ʃe:˺tiru ˹gak˺ko: ʔn˹ʤu˺ta](私は洋裁店で縫い子をしながら学校を出た＜通学した＞)。

˹キンヌ˺キシ [˹kinnu˺ki̥ʃi] 【名】衣類の切れ端。布の切れ端。˹キンヌキシ˺バ　˹ヌイアー˺シェーティ　˹キンヌ˺クー　˹シー˺　シケー [˹kinnukiʃi˺ba ˹nuiʔa: ˺ʃe:ti ˹kin˺nu ˺ku: ˹ʃi:˺ ʃi̥ke:](衣類の切れ端を縫い合わせて着物の繕い＜補修＞をしてある)。

˹キン˺ヌ　ッ˹ス [˹kin˺nu s˹su] 【連】着物の裾。˹キン˺ヌ　ッ˹スヌ˺　ナ˹ガー˺ン [˹kin˺nu s˹sunu˺ na˹ga: ˺ŋ](着物の裾が長い)。˹キン˺ヌ　ッ˹スヌ˺　ユ˹グリルン [˹kin˺nu s˹sunu˺ ju˹guriruŋ](着物の裾が汚れる)。

˹キン˺ヌ　フ˹ビ [˹kin˺nu ɸu˹bi] 【連】着物の襟。˹キン˺ヌ　フ˹ビヌ　マイ˺ヤン [˹kin˺nu ɸu˹binu mai˺jaŋ](着物の襟が大きい)。˹キン˺ヌ　フ˹ビ˺　ブリティ　キ˹シ˺バ [˹kin˺nu ɸu˹bi˺ buriti ki̥˹ʃi˺ba](着物の襟を折って着なさい)。

˹キン˺ヌ　マ˹チ [˹kin˺nu ma˹ʧi] 【連】着物のまち (襠(マチ))。「Facamano machiuo iruru『邦訳日葡辞書』」の転訛か。˹キン˺ヌ　マ˹チ˺　ア˹ティラン˺カー　˺マター　ヤ˹リ˺ス [˹kin˺nu ma˹ʧi˺ ʔa˹tiraŋ˺ka: ˺mata: ja˹ri˺su](着物の襠(マチ)を当てないと股が破れるよ)。

˹ギン˺ノー [˹gin˺no:] 【名】かなづち (金槌)。げんのう (玄翁)。カ˹ニチチ [ka˹niʧiʧi](金槌) ともいう。若年層の人は、˹ゲン˺ノー [˹gen˺no:](玄翁) というようになった。˹ギン˺ノーシ　カ˹ニフン˺　ウティ [˹gin˺no:ʃi ka˹niɸuŋ˺ ʔuti](玄翁で鉄釘を打ち込め＜打て＞)。

˹キンバー [˹kimba:] 【名】金歯。標準語からの借用語。フ˹トゥッチ˺パー　˺ヌイティ　˹キンバー　ウイ˺シケー [ɸu̥˹tuttʃi˺pa: ˺nuiti ˹kimba: ʔui˺ʃi̥ke:](虫歯を抜いて金歯を植えておいてある)。˹キンバー˺　カ˹バ˺シ [˹kimba:˺ ka˹ba˺ʃi](金歯をかぶせなさい)。˹キンバー　ウイルムノー　ギュー˺サ　カ˹カル˺ワ [˹kimba: ʔuirumuno: gju:˺sa kḁ˹karu˺wa](金歯を植えるのに＜お金は＞いくら掛るか)。

˹ギンバイ [˹gimbai] 【名】体に銀色の光沢を持つ大型の蝿。イ˹ズヌ˺　ッサリティ　˹ギンバイヌ˺　シディ　˹ベー [ʔi˹ʤunu˺ ssariti ˹gimbainu˺ ʃidi ˹be:](魚が腐って、銀蝿が発生＜孵化＞している)。

˺キンパダ [˺kimpada] 【名】衣類。着物。「衣肌」の義。˹ウン˺ネヌ　ッ˹ふァン˺ケーヤ　˺キンパダヌ　˺カナイ　˹ブンダ˺　アツァピーヤティ　˹スームノー˺　ッ˹サヌ [˹ʔun˺nenu f˹faŋke:˺ja ˺kimpadanu ˺kanai ˹bunda ˺ʔatsapi:jati ˹su:muno:˺ s˹sanu](その家の子供達は衣類が十分に揃っているから暑さ寒さの苦労というのは知らない)。

˹キンバタテー [˹kimbatate:] 【名】屋号。通事安二郎氏宅。通事安二郎氏はカツオ漁船の˹シン˺ドゥー [˹ʃin˺du:](船頭。船長) をしていた。˹キンバタテーヤ　ウフタン˺ヤーヌ　˺マンタナル　˹アッ˺タ [˹kimbatate:ja ʔuɸu̥taŋ˺ja:nu ˺mantana:ru ˹ʔat˺ta](通事安二郎氏宅は大田家の前＜南＞にあった)。

˹キンバトゥ [˹kimbatu] 【名】(動物)。鳥の名。リュウキュウキンバト。八重山群島に生息するハト科の鳥。体長約 25 センチ。翼と背に金属光沢の緑色の美しい羽毛がある。国指定の天然記念物。パ˹トゥ˺マナーン　˹キンバトー˺　ユー　ミ˹ラリ˺タン [pḁ˹

tu˺mana:ŋ ˞kimbato:˺ ju: mi˞rari˺taŋ](鳩間島にもキンバトはよく見られた＜見ることができた＞)。

˞キンパナ [˞kimpana] 【名】こうじ (麹) の一種。金色の麹。味噌、醤油を製造する際の麹菌。˺パナ [˺pana] は「花」の義。コウジカビ (麹黴) の先端に多数の黄色い胞子を形成することからの命名。ッ˞ふ˺パナ [f˞fu˺pana](黒麹) は酒の醸造に用いる。˞キンパナ˺ マ˞ラシティ ミー˺ス ス˞ク˺ラ˞ディー [˞kimpana˺ ma˞raʃi̥ti mi:˺su su̥˞ku˺ra˞di:](金麹を発生さ＜産ま＞せて味噌を造ろうよ)。

˞キンバニ [˞kimbani] 【名】(動) 魚の名。和名、フウライボラ (体長約 60 センチ)。別名、ア˞カバニブラ [ʔa˞kabanibura] ともいう。

˞キンバニ˺スビ [˞kimbani˺subi] 【名】(動) 魚の名。和名、キハダ (体長約 2 メートル)。鳩間島では、イカ釣り漁の時期にイカを生餌にして釣った。

˞キンバル [˞kimbaru] 【名】はり (鍼)。鍼術に用いる金製の医療用具の鍼。˞キンパル [˞kimparu](はり＜鍼＞) ともいう。ヤ˞ブバ˺ タ˞ナ˺ミ ˞キンバル˺ ウ˞タシタ˺ル ク˞シヌ ヤン˺マー ピ˞ケー˺ダー [ja˞buba˺ ta˞na˺mi ˞kimbaruba˺ ʔu˞taʃi̥ta˺ru ku̥˞ʃinu jam˺ma: pi̥˞ke:˺da:](藪医者＜鍼灸の経験者＞に頼んで金の鍼を打ってもらったので腰の痛みは退いた＜消えた＞のだ)。

˞キンパル [˞kimparu] 【名】金針。˞キンバル [˞kimbaru](金針) ともいう。˞キンパル˺ イ˞リシミタル˺ ク˞シヌ ヤン˺マー ピ˞ケー˺ダー [˞kimparu˺ ʔi˞riʃimitaru˺ ku˞ʃinu jam˺ma: pi̥˞ke:˺da:](金針を打たした＜入れさせた＞ので腰痛は治まった＜引いた＞のだ)。

˞キンパルン [˞kimparuŋ] 【名】カツオの筋子。˞キンパルンマー マー˺スナ シ˞キティ˺ パ˞ルン˺ ヌ カ˞ラ˺ス ス˞ク˺ローッタ [˞kimparumma: ma:˺ suna ʃi̥˞kiti˺ pa˞run˺nu ka˞ra˺su su̥˞ku˺ro:tta](カツオの黄色い筋子は塩に漬けて筋子の塩辛を作られた)。

˞キン˺ピー [˞kim˺pi:] 【名】憲兵。標準語からの転訛。戦時中住民生活全体を監視し、取り締まって恐れられた軍人。˞キンピー˺タイ [˞kimpi:˺tai](憲兵隊)。イ˞クサユー˺ヌ ˺ピンマー ˞キンピー˺ヤ ナ˞クラー˺タン [ʔi˞kusaju:˺nu ˺pimma: ˞kimpi:˺ja na˞kura:˺taŋ](戦争の時代＜第二次世界大戦中＞には憲兵は怖かった)。

˞キンビリ [˞kimbiri] 【名】かけべり (掛減り)。めべり (目減り)。「斤減り」の義。収穫時の産物の目方が時間の経過とともに目減りすること。ナ˞マ˺ムノー ˺ティダナー ˺プシ ˞カン˺ソー ˞スー˺カーノー˞ン キンビリ シース [na˞ma˺muno: ˺tidana: ˺pu̥ʃi ˞kan˺so: ˞su:˺ka: no:˞ŋ kimbiri ʃi:su](生ものは太陽に干して乾燥すると、何でも目方が減る＜斤減りする＞)。

˞キン˺ビン [˞kim˺biŋ] 【名】菓子の名。首里方言の˞チンビン [˞ʧimbiŋ](巻餅) に同じ。国語のカ行イ段、エ段音に対応する鳩間方言の音韻は口蓋化しないので [ki] となり、首里方言は口蓋化するので [ʧi] となる。˞キン˺ビンは小麦粉を水でこね、黒砂糖と卵を混ぜて油を引いた鍋で丸形に焼いてくるくると巻いたもの。ヤ˞ラ˺ビ ˞シェーン˺ケン マ˞ルケーティ˺ナー ˞キン˺ビン ヤ˞キ ッふァーソーッ˺タン [ja˞ra˺bi ˞ʃe:ŋ˺kem ma˞ruke:ti˺na: ˞kim˺biɲ ja˞ki ffa:so:t˺taŋ](子供の頃、偶にチンビンを焼いてくださった＜焼いて食べさせられた＞)。

˞キンプシ˺サウ [˞kimpuʃi˺sau] 【名】物干し竿。「着物干し竿」の義。竹竿や木の竿があった。庭に二本の股木を立て、それらに竹竿や木の竿をかけて洗濯物を干すのに用いた。˞キン˺マー ア˞ライ˺ブ˞ナシティティ キンプシ˺サウナー ヌ˞キティ˺ プシバ˞ヨー [˞kim˺ma: ʔa˞rai˺ bu˞naʃi̥titi kimpuʃi˺sauna: nu˞kiti˺ pu̥ʃiba˞jo:](着物は洗って、ゆすいで＜濯いで＞物干し竿に貫き通して干しなさいよ＜干せよ＞ねえ)。

˞キンプシ˺トン [˞kimpuʃi˺toŋ] 【名】洗濯物干し場。「着物干し所」の義。普通は、ナ˞カグス˺ク [na˞kagusu̥˺ku](目隠し。ヒンプン) の内側や˞トー˺ラ [˞to:˺ra](炊事小屋) の南側に干し場を作った。物干し竿に貫き通して干すのが普通だが、終戦直後まで洗濯物を˞グス˺ク [˞gusu̥˺ku](石垣) やナ˞カグス˺ク [na˞kagusu̥˺ku](ヒンプン。目隠し) にかけて干すこともあった。˞キンプシ˺トンマー ˺マナー ア˞ル˺ワ [˞kimpuʃi˺tomma: ˺mana: ʔa˞ru˺wa](洗濯干し場は何処にあるか)。

˞キンブ˺ツ [˞kimbu˺tsu] 【名】見物。標準語からの転訛。ヤ˞ス˺ミ ˞ペー˺ルカー イ˞サナケー キンブ˺ツ ˞シン˺ パラ˞ナー [ja˞su˺mi ˞pe:˺ruka: ʔi˞sanake: kimbu˺tsu ˞ʃim˺ para˞na:](夏休みになったら＜入ったら＞、石垣島へ見学に行こうねえ)。

˞ギン˺マイ [˞gim˺mai] 【名】玄米。標準語からの転訛。若年層が多用する。老年層は˺カーマイ [˺ka:mai](皮米) という。˞ギンマイ˺ヤ ッ˞サイ˺マイラン ビ˞タミン˺マー ˞ゴー˺ラーンドゥ ン˞マー ナー˺ヌ

[˞gimmai˜ja s˞sai˜mairam bi˞tamim˜ma: ˞go:˜ra:ndu ʔm˞ma: na:˜nu](玄米は白米＜精げ米＞よりもビタミンは多いが美味しくない)。

˞キンミ **[˞kimmi:]** 【名】斤目。目方。マ˞チヤーヌ˜ プ˞ソー˜ シ˞ナムヌ カウ˜ ピンマー ピ˞キヌ サウ˜ヌ ˞アンガル˜スコー ˞キンミーヤ スー˜ワ パ˞カ˜ルン [ma˞ʧija:nu˜ pu̥˞so:˜ ʃi˞namunu kau˜ pimma: pi̥˞kinu sau˜nu ˞ʔaŋgaru˜su̥ko: ˞kimmi:ja su: ˜wa pa˞ka˜ruŋ](店の人は品物を買う＜仕入れる＞時は秤の竿が跳ね上がるほど斤目を強めに厳しく量る)。

˞ギン˜ミ **[˞gim˜mi]** 【名】吟味。協議。詮議。相談。ム˞ラギンミ [mu˞ragimmi](集落の年次総会での吟味。村協議)。ム˞カ˜シェー ˞ニンズーヌ˜ キ˞ザロー˜ ム˞ラズー˜ ア˞ツァ˜マリティ ˞ギン˜ミ ˞シェー˜ティル キ˞モーッ˜タ [mu˞ka˜ʃe: ˞nindʑu:nu˜ ki ˞dʑaro:˜ mu˞radʑu:˜ ʔa˞tsa˜mariti ˞gim˜mi ˞ʃe:˜tiru ki˞ mo:t˜ta](昔は一年中の年中行事＜神行事＞は村中の人が集まって吟味をしながら決められた)。

˞キンヤ˜ク **[˞kiŋja˜ku]** 【名】倹約。節約。標準語からの転訛。普通は˞スー˜タイ ˞スン [˞su:˜tai ˞suŋ](節約＜所帯＞する。つづまやか＜約やか＞にする)という。˞キンヤ˜ク ˞サン˜カー キ˞ナイヤー˜ ムティ パ˞ララ˜ヌ [˞kiŋja˜ku ˞saŋ˜ka: ki˞naija:˜ muti pa˞rara˜nu](倹約しないと家計は維持できない＜家庭生活は持っていけない＞)。

˞キンヤン **[˞kiɲjaŋ]** 【名】おうだん (黄疸)。「黄病み」の義。˞アウダン [˞ʔaudaŋ](黄疸) ともいう。˞キンヤン˜ カ˞カリ˜プス [˞kiɲjaŋ˜ ka˞kari˜pu̥su](黄疸患者。黄疸かかり人)。˞キンヤン˜ カ˞カリ˜プソー˜アシン キン˞キン˜シ ン˞ジ˜ルティ˞ダー [˞kiɲjaŋ˜ ka˞kari˜pu̥so: ˜ʔaʃiŋ kiŋ˞kiŋ˜ʃi ʔn˞ʤi˜ruti˞da:](黄疸にかかった人は汗も黄色く出るそうだよ)。

˞キンラー **[˞kinra:]** 【名】自惚(ウヌボ)れる人 (女)。自負心の高い女。お高くとまる女性。「権利意識の高い人」の転訛したもの。ウ˞レー キンラー˜ ヤ˞ルンダ˜ ユ˞メー コーラ˜ヌ [ʔu˞re: kinra:˜ ja˞runda˜ ju˞me: ko:ra˜nu](あれは自負心の高い人だから、嫁には貰え＜乞われ＞ない)。˞キンラーミドゥム [˞kinra:midumu](うぬぼれる女)。

˞キンリ **[˞kinri]** 【名】権利。権勢。実権。威勢。自尊心。プライド。˞ウン˜ネーヤ ˜アブジェー ˞ヨー˜シ ヤ˞ロー˜レーティ ˜アッパール ˞キンレー スー˜ワ ア˞ロー˜ル [˞ʔun˜ne:ja ˜ʔabuʤe: ˞jo:˜ ʃi ja˞ro:˜re:ti ˜ʔappa:ru ˞kinre: su:˜wa ʔa˞ro:˜ru](その家は、お祖父さんは養子であられるので、お祖母さんが実権は強くていらっしゃる)。ウ˞ヌ˜ ミ˞ドゥ˜モー ˞サッ˜コー ˞キンラー [ʔu˞nu˜ mi˞du˜mo: ˞sak˜ko: ˞kinra:](その女は非常にプライドが高い＜権勢家だ＞)。

ク

˥ク **[˥ku]** 【接尾】個。石、卵、芋、甕、瓶、急須、茶碗等を数える単位。˩コー˥マ　プ˩スッ˥ク [˩koː˥ma pu̥˩suk˥ku](卵一個)。フ˩タック [ɸu̥˩takku](二個)。˩ミック [˩mikku](三個)。˩ユック [˩jukku](四個)。イ˩チッ˥ク [ʔi˩ʧik˥ku](五個)。˩ムック [˩mukku](六個)。ナ˩ナッ˥ク [na˩nak˥ku](七個)。˩ヤック [˩jakku](八個)。ク˩ヌッ˥ク [ku˩nuk˥ku](九個)。˩トゥック [˩tukku](十個)。

˩ク **[˩ku]** 【名】数の名。数量や順序を表す。九。ク˩ニン [ku˩niŋ](九人)。˩クン˥ゴー [˩kuŋ˥goː](九合)。˩クンガ˥チクニチ [˩kuŋga˥ʧikuniʧi](九月九日。重陽の節句)。

˥グ **[˥gu]** 【接頭】ご (御)。敬意を表す。「御」の付く語例は少なく、次のような漢語系の語に限られている。グ˩ブ˥リー [gu˩bu˥riː](ご無礼。失礼)。˥グリー [˥guriː](お礼。お辞儀)。˥グシ [˥guʃi](お酒 < 御水 >)。グ˩フー˥ク [gu˩ɸuː˥ku](ご奉公)。˥グハイロー [˥guhairoː](御拝領。長寿者が行政の長から戴く賞 < 金杯 > のこと。官庁から賞を戴くこと)。˥グユー [˥gujuː](御用。用件)。

˥グ **[˥gu]** 【名】五。五つ。グ˩サー˥ク [gu˩saː˥ku](五勺)。˩グン˥ゴー [˩guŋ˥goː](五合)。グ˩ス [gu˩su](五升)。グトゥ [gu˩tu](五斗)。グ˩クク [gu˩kuku](五石)。グ˩キン [gu˩kiŋ](五斤)。グ˩ニン [gu˩niŋ](五年)。グ˩ニン [gu˩niŋ](五人)。グ˩スー [gu˩suː](五艘)。グ˩ニチ [gu˩niʧi](五日)。グ˩カン [gu˩kaŋ](五貫)。グ˩スン [gu˩suŋ](五寸)。

˥クー **[˥kuː]** 【名】甲羅。甲。カ˩ミヌ˥クー [ka˩minu˥kuː](亀の甲)。カ˩ミヌ˥クーシ　˥フチ　ス˩ク˥リ [ka˩minu˥kuːʃi ˥ɸu̥ʧi su̥˩ku˥ri](亀の甲で櫛を作れ)。

˥クー **[˥kuː]** 【名】粉。こな。˩ムンヌ˥クー [˩munnu˥kuː](麦粉)。˩マイヌ˥クー [˩mainu˥kuː](米粉。上糝粉(ジョウシンコ))。餅を作る際に用いる粉は、一晩水に浸けた粳米をサ˩ギティー˥グ [sa˩gitiː˥gu](竹製の吊るし笊) に移して水切りし、臼で搗いて粉にした。麦粉は、石臼で挽いて造った。イ˩ソーシ˥シ　˩ムンヌ˥クーピ˩クン [ʔi˩soːʃi˥ʃi ˩munnu˥kuː pi̥˩kuŋ](石臼で煎った麦を挽く)。˩ムンヌ˥クーナ　ッ˩ふ˥サタ　キ˩ジイリティ˥　ユ˩ナ˥ク　ス˩ク˥リ [˩munnu˥kuːna f˩fu˥sata ki˩ʤi ʔiriti˥ ju˩na˥ku su̥˩ku˥ri](麦粉に黒砂糖を削って入れて麦焦がしを作れ)。

˥クー **[˥kuː]** 【名】1鍋の穴を塞ぐこと。ナ˩ビ˥ヌ　˥クー　˩スン [na˩bi˥nu ˥kuː ˩suŋ](鍋の穴を塞ぐ)。漢語の「鍋」< 金属を溶かして隙間をふさぐ。鋳掛けて閉じ込める > の義由来の語であろう。2衣服の破れや傷んだところに継ぎを当てること。˩キン˥ヌ˥クー　˩スン [˩kin˥nu ˥kuː ˩suŋ](着物のつぎ < 継ぎ > を当てる)。

˩クー **[˩kuː]** 【接頭】小。名詞や名詞相当句に上接して「小さいもの」の意を表す。形容詞˩クー˥サン [˩kuː˥saŋ](小さい) の語幹。˩クー˥ザラ [˩kuː˥ʤara](小皿)。˩クー˥ジン [˩kuː˥ʤiŋ](小銭)。˥クビン [˥kubiŋ](瓶。小瓶)。ア˩ガリ˥グヤー [ʔa˩gari˥guja:](東の小屋。石垣市字登野城の海岸にあった糸満漁師たちの小屋)。イ˩リ˥グヤー [ʔi˩ri˥guja:](西の小屋。石垣市字新川の海岸にあった糸満漁師たちの小屋)。

˥グー **[˥guː]** 【名】1組。仲間。相棒。漢語の「伍 < くみ。なかま。五人または五家を一組とした昔の制度 >」の義に由来する語であろう。˩バン˥トゥ　˥グー　シ˩ティ˥　ジン　˩モー˥カ　˩ナー [˩ban˥tu guː˩ʃiti˥ ʤim ˩moː˥ka˩naː](私と組して金儲けしようねえ)。˩ベー˥　グー˩ダー [˩beː˥ guː˩daː](我々は仲間 < 相棒 > だよ)。2伴侶。夫婦。カップル。連れ。伴侶。˩ウッ˥ツァー　フ˩ターロー˥　キサー˩ティ˥　グー　ナ˩リ˥ブー [˩ʔut˥tsaː ɸu̥˩taːroː˥ ki̥˩saː˩ti˥ guː na˩ri˥buː](あれら二人はとっくに夫婦 < カップル > になっているよ)。

˥グー **[˥guː]** 【名】˥イノー [˥ʔinoː](礁内湖) 海域で、干潮時に現れる海底珊瑚礁の岩盤。˩アー˥サ [˩ʔaː˥sa](あおさ) などの海草が密生しており、色々な貝類が棲息しているところ。

˥グー **[˥guː]** 【名】碁。囲碁。˥グー　˥ウトゥン [˥guː

˥ʔutuŋ](碁を打つ)。˥グー　˥ウトゥカー　ウ˩ヤ˥ヌ　シ˩ニミー˥ナ　˩アーラン˥ツォー [˥guː ˥ʔutukaː ʔu ˩jaˬnu ʃi˩nimiː˥na ˩ʔaːranˬtsoː](囲碁を打つと親の死に目に会えないそうだ)。

˩クー˥イシ **[˩kuː˥ʔiʃi]** 【名】水成岩の一種。コー˩シェー˥マイシ [koː˩ʃeː˥maʔiʃi] ともいう。ナ˩カン˥ブレ [na ˩kamˬbure](中岡) の下やパ˩カヤマ [pḁ˩kajama](墓山) にある。墓山の南斜面の水成岩には伝統的な˩フインチ˥バカ [˩ɸuintʃiˬbaka](掘抜き墓。亀甲墓) が作られている。パ˩カヤマヌ　クー˥イシナー　パ˩カヌ˥　プ˩ラ˥リ　˩ベー [paˬkajamanu kuː˥ʔiʃinaː pḁ ˩kanuˬ pu˩raˬri ˩beː](墓山の水成岩には亀甲墓が掘られている)。

˩グー˥イシ **[˩guː˥ʔiʃi]** 【名】碁石。˩タール　グー˥イシ　パ˩ニポール˥タユー　˩ザー˥ヌ　˩ピッ˥チン　˩ポッツァーリベー [˩taːru guː˥ʔiʃi pa˩nipoːruˬtaju: ˩ʤaː ˥nu ˩pitˬtʃim ˩pottsaːribeː](誰が碁石を投げ散らかしたのか、座一杯に散らかっている)。

˩クーガー˥シ **[˩kuːgaː˥ʃi]** 【名】落雁。蒸し菓子。お盆の際に仏壇に供える蒸し菓子。バラの花や魚の型枠に入れて、型押しして作った菓子。˩コーガー˥シ [˩koːgaː˥ʃi] ともいう。糯米を水に浸けて水切りをし、搗き臼に入れて搗き、米粉にしたものに砂糖を混ぜて型枠で成形し蒸し上げて造った菓子。˩ソー˥ランナー　マ˩ツ　クーガー˥シ　˩カイ˥クーバ [˩soː˥ranna: ma˩tsu kuːgaː˥ʃi ˩kaiˬkuːba](お盆に供える蒸し菓子を買ってきなさいよ)。

˥クーコーシ **[˥kuːkoːʃi]** 【名】らくがん (落雁)。「粉菓子」の義。˩ソッ˥コー [˩sokˬkoː](焼香。法事) や˩ソー˥ラン [˩soː˥raŋ](お盆。精霊祭) の時に作って仏壇に供えた。˥クーコーシェー　イ˩サナケーラ　カイ˥キーティル　˩ソー˥ランナー　マ˩ツォーッ˥タ [˥kuːkoːʃeː ʔi˩sanakeːra kaiˬkiːtiru ˩soː˥ranan: ma˩tsoːt ˥ta](落雁＜粉菓子＞は石垣島から買ってきて＜ぞ＞お盆には供えられた)。

˩クーサ **[˩kuːsa]** 【名】幼少。小さいこと。貧しいこと。˩クーサ˥ケンラ＜グ˩マーン˥ケンラ＞　イッ˩ケナ˥　ア˩ワ˥リナンギバ　˩シール˥　マ˩ナ˥マ　˥ナリケー˩ダー [˩kuːsaˬkenra ＜gu˩maːŋˬkenra＞ ʔik˩kenaˬ ʔa˩waˬrinaŋgiba ˩ʃiːruˬ ma˩naˬma narikeː˩daː](幼少の頃から非常に難儀苦労をして現在に至っている＜今になってきている＞のだよ)。

˩クー˥サアワリ **[˩kuːˬsaʔawari]** 【名】貧困。貧苦。悲哀。貧困の苦しさ。˩クー˥サアワリヌ　ナ˩カー˥ラ　˩モーキ˥　ン˩ザ˥シ　˥ドゥー　˥イチダイシ　ク˩ビ˥ヌ　˥ザイサン　ア˩ラ˥シェー˩ダー [˩kuːˬsaʔawarinu na˩kaːˬra ˩moːkiˬ ʔn˩ʤaˬʃi ˥duː ˥ʔitʃidaiʃi ku˩biˬnu ˥ʤaisaŋ ʔa˩raˬʃeː˩daː](貧困の中から儲け出して、自分一代でこれほどの財産を築いたのだ)。

˩クーサスダティ **[˩kuːsasudati]** 【名】貧乏育ち。˩クーサスダティ˥　シ˩ラリ˥　ケーユンダ　イッ˩ケナ˥　ク˩マー˥ン [˩kuːsasudati˥ ʃi˩rari˥ keːjunda ʔik˩kenaˬ ku˩maː˥ŋ](貧乏育ちをしてきたから、非常に緻密である＜細かい＞)。

˩クーサビ˥ラー **[˩kuːsabiˬraː]** 【名】継ぎ接ぎだらけの着物。石垣方言の˩クーシャ˥ビラー [˩kuːʃabira](継ぎ当てした着物) から転訛したもの。˥ビラー [˥biraː] は「夫恋に比例布利之 (ヒレフリシ) より〜。万、871」の「ひれ」(領巾) の義か。˥バー　˩キン˥マー　˩クーサビ˥ラー　˥ナリティ　バ˩カヤ˥ヌ　キ˩サラヌ [˥baː ˩kimˬmaː ˩kuːsabiˬraː ˥nariti ba˩kajaˬnu ki̥˩saranu](私の着物は継ぎ接ぎだらけになって恥ずかしくて着られない)。シ˩グトゥキンマー˥　ムー˩ル　クーサビ˥ラー　˩ヤッタル [ʃi˩gutukimmaː˥ muː˩ru kuːsabiˬraː ˩jattaru](作業着は全部継ぎはぎだらけの着物だったものだ)。

˩クーサビ˥ラーキン **[˩kuːsabiˬraːkiŋ]** 【名】継ぎ接ぎだらけの着物。

˩クー˥ザラ **[˩kuː˥ʤara]** 【名】小皿。直径 5〜6 センチ程の皿。銘々皿。大皿より料理を取り分けるのに用いる皿。ナ˩カ˥ザラ [na˩kaˬʤara](中皿)、˩チュー˥ザラ [˩ʧuː˥ʤara](中皿)、˩ウー˥ザラ [˩ʔuː˥ʤara](大皿) 等に対するもの。ウ˩サイ˥ヤー　˩クー˥ザラナ　˥バキティ　˩オーシ˥バ [ʔu˩saiˬjaː ˩kuː˥ʤarana ˥bakiti ˩ʔoːʃiˬba](お菜＜惣菜。副食物。料理。ご馳走＞は小皿に分けとって差し上げなさい)。

˩クー˥サン **[˩kuː˥saŋ]** 【形】 1幼い。小さい。幼少である。沖縄方言からの借用語か。˩クーサ˥ケーラヌ＜ヤ˩ラ˥ビ˩シェーン˥ケーラヌ＞　ドゥ˩シ [˩kuːsaˬ keːranu ＜ja˩raˬbi˩ʃeːŋˬkeːranu＞ du˩ʃi](幼少からの友人)。2如才が無い。手抜かりが無い。詳しい。/クリヤ　クムムラ　ムジクイ　クーサー＜クーシェー＞　ハマサチドゥ　ヤル/(罷り出でたるは＜これは＞この村の耕作＜もの作り＞に詳しい浜崎という者である)。˥ピラ [˥pira](狂言＜へら＞)『鳩間島古典民謡古謡集』。3貧しい。貧乏である。˩クーサムヌ˥ティ＜˩ピンソー˥ムヌティ＞　ウ˩サイラリ˥　ケー　˥クトー　˩バシキララヌ [˩kuːsamunuˬti ＜˩piŋ-soːmunuˬti＞ ʔu˩sairariˬ keː ˥kuto: ˩baʃi̥kiraranu](貧乏者とさげずまれ＜蔑(サゲス)まれ＞てきたことは忘れら

れない)。

˞クー˜ジ [˞kuː˜ʤi] 【名】(植) トウヅルモドキ。茎の直径約 1 センチ。長さは 10〜16 メートルに達する蔓性植物。雑木に巻きついて伸びている。茎は強靭で弾力に富み。割いて芯を除き、表皮で笊を編みあげ、芋を入れて運ぶのに用いる。また茅葺の家を葺く際には柱を結わえたり、垂木を結わえ、ユ˞チル [juˀʧiru](えつり) を編んだりするのに用いた。˞クー˜ジェー ˜サキ ˜バター ˜トゥリティ ˜カーシル ˞ウン˜ディロー フ˞モーッ˜タ [˞kuː˜ʤeː ˜saki ˜bataː ˜turiti ˜kaːʃiru ˞ʔun˜diroː ɸu˞moːt˜ta](トウヅルモドキは割いて芯を除去し、表皮で芋笊を編まれた)。

˞クー˜シカーシ [˞kuː˜ʃikaːʃi] 【名】継ぎ合わせ、接ぎ合わせすること。継ぎ接ぎすること。継をあてること。˞キン˜マー ˞クー˜シカーシ ˞シェー˜ティ キ˞シアー˜ク [˞kim˜maː ˞kuː˜ʃikaːʃi ˞ʃeː˜ti kᵢ̥˞ʃia:˜ku](着物は継ぎ接ぎして繕って着ている)。˞クー˜シカーシ ˞シー [˞kuː˜ʃikaːʃi ˞ʃiː](継ぎ接ぎせよ。継当てしなさい)。

˜クー ˜シキ [˜kuː ˜ʃᵢ̥ki] 【連】来月。「来る月」の義。˜クー ˜シケー ˞ワー˜ マ˞リビー˜ ヤ˞リバ˜ ミス˞コー ミスコー˜シ ˞アー˜キ˞ヨー [˜kuː ˜ʃᵢ̥keː ˞waː ˜ma˞ribiː˜ ja˞riba˜ misu˞koːmisukoː˜ʃi ˞ʔaː˜ki˞joː](来月は君の誕生日 < 生まれ日 > だから慎重に、用心深くして過ごしなさい < あるきなさい > よ)。

˞クーシ˜キン [˞kuːʃi˜kiŋ] 【名】継ぎ接ぎした着物。継ぎ当てした着物。シ˞グトゥキンマー クーシキン˜ル キ˞ソーッタ˜ル [ʃiˀgutukimmaː kuːʃikin˜ru ki˞soːtta˜ru](仕事着には継ぎ当てした着物を着用され < 着られ > た)。

˞クー˜シビー [˞kuː˜ʃibiː] 【名】(海底地名)。干瀬の名。鳩間島の西側、やや北寄りの干瀬の名。連続して島を取り巻く環礁の一部位の名。フ˞チマチル [ɸᵤ˞ʧimatʃiru] 漁の行われる干瀬である。

˞クー˜ジン [˞kuː˜ʤiŋ] 【名】小銭。グ˞マ˜ジン [gu˞ma˜ʤiŋ](小銭) ともいう。˞クー˜ジン ˜クリ ッ˞ふィーリ [˞kuː˜ʤiŋ ˜kuri f˞fiːri](小銭に両替してくれ)。˞カイ˜レー ˞クー˜ジン˜シ ッ˞ふィーリ [˞kai˜reː ˞kuː˜ʤiŋʃi f˞fiːri](釣銭は小銭でくれ)。

˞クース [˞kuːsu] 【名】唐辛子。「胡椒」の転訛。果皮や種子に刺激性の強い辛味があり、刺身に入れて食するのにこのまれる。各家の庭に 2〜3 本植栽されている。果実は未熟の間は濃緑色を呈し、熟すると赤味をおびる。˞クーソー ヤーカー˜ジナ イ˞ビラリティ˜ ナ˞マ˜シナ イ˞リティ˜ ン˞コーッ˜タ [˞kuːsoː jaːkaː˜ʤina ʔi˞biraritiˀ na˞maʃina ʔi˞riti˜ ʔŋ˞koːtˀta](唐辛子は家ごとに植えられていて、刺身に入れて召し上がられた)。カ˞ツナマシェー ミー˜ス ˜タリティ ˞クースン ピッツァ˜シ イ˞リティ ッふー˜カー イッ˞ケナ˜ ン˞マー˜ン [kᵃ̥˞tsunamaʃeː miː˜su ˜tariti ˞kuːsum pittsa˜ʃi ʔi˞riti ffuː˜kaː ʔik˞kena˜ ʔm˞maː˜ŋ](カツオの刺身は味噌を水で溶いて唐辛子も潰し入れて食べると大変に美味しい)。

˞クース [˞kuːsu] 【名】古酒。ア˞ドー˜ヌ ウ˞キ˜ナーラ ˞オー˜レーツムヌ ˞クースーバ˜ ン˞ザ˜シ ˞オーシ˜バ [ʔa˞doː˜nu ʔu˞ki˜naːra ˞ʔoː˜reːtsumunu ˞kuːsuːba˜ ʔn˞ʤa˜ʃi ˞ʔoːʃi˜ba](あんなに遠い沖縄からいらっしゃったのだから、古酒を出して差し上げなさい)。˞クース [˞kuːsu](古酒) は限られた一部の家にしかなかった。

˞クーズメ [˞kuːʤume] 【名】 1(動物) 貝の一種。和名、ヨメガガサか。卵形の平たい貝。海岸の岩にくっ付いている貝。食べられるが美味ではない。˞クーズメーヤ˜ フ˞チ˜ルティ ス˞クタヌ˜ ッ˞ふァイ˜ ミ˞ラン˜シェン [˞kuːʤumeːja˜ ɸᵤ̥˞ʧi˜ruti sᵤ̥˞kutanu˜ f˞fai˜ mi˞raŋ˜ʃeŋ](クーズメー貝は薬だと聞いたが、食べたことはなかった)。2一箇所にくっ付いて、あまり動かないことから、転じて「引きこもりの人」、「外に出ないで閉じこもる人」を指していう。ウ˞レー クーズメ˜ ヤ˞ルンダ˜ プ˞スン˜ヤー パ˞ラ˜ヌ [ʔu˞reː kuːʤume˜ ja˞runda˜ pᵤ̥˞suŋ˜ jaː pa˞ra˜nu](あれ < 彼 > はクーズメ < 引きこもり > だから、よその家には行かない)。

˜クー ˞スン [˜kuː ˞suŋ] 【連】 1鍋の穴を塞ぐ。ナ˞ビ˜ヌ ˜クー ˞スン [na˞bi˜nu ˜kuː ˞suŋ](鍋の穴を塞ぐ)。2継を当てる。˞キン˜ヌ ˜クー ˞スン [˞kin˜nu ˜kuː ˞suŋ](着物の継ぎを当てる。着物の繕いをする)。˜クー ˞サンドー˜シ キ˞シ ベー [˜kuː ˞sandoː˜ʃi kᵢ̥˞ʃi beː](着物の継ぎを当てないで着ている)。衣類の乏しかった頃、着物の尻や服の尻、袖の肘のあたりに穴があくと、布地を当てて継ぎ当てをした。˞キン˜ヌ ˜クー シ˞ティ˜ キ˞シ˜バ [˞kin˜nu ˜kuː ʃᵢ̥˞ti˜ kᵢ̥˞ʃi˜ba](着物の継ぎを当てて着なさい)。˞キン˜ヌ ˜クー ˞スー˜ プ˞ソー˜ ブ˞ラーヌ [˞kin˜nu ˜kuː ˞suː˜ pᵤ̥˞soː˜ bu˞raːnu](着物の継ぎを当てる人はいない)。˜クー ˞シェー˜ ミサムヌ [˜kuː ˞ʃeː˜ misamunu](継ぎを当てればいいのに)。˜クー ˞シー˜バ [˜kuː ˞ʃiː˜ba](継ぎを当てなさい)。

˩クー˩スン [˩**kuː˩suŋ**] 【他動】崩す。ッ˩ふ˩ヤー ˩クー˩スン [fʲfu˩jaː ˩kuː˩suŋ](古家を崩す)。マ˩ナ˩マー ˩カッティニ クーサラ˩ヌ [ma˩na˩maː ˩kattini kuːsara˩nu](今は勝手に崩されない)。˩アツァー ˩クー˩シ ˩ミサンカヤー [˩ʔatsaː ˩kuː˩ʃi ˩misaŋka-jaː](明日崩していいかねえ)。˩エン ˩バー˩ケー ˩クー˩ス ˩クトー ナ˩ラ˩ヌ [˩jem ˩baː˩keː ˩kuː˩su ˩kʷtoː na˩ra˩nu](来年までは崩すことは出来ない)。˩パー˩ク ˩クー˩シェー ˩ミサムヌ [˩paː˩ku ˩kuː˩ʃeː ˩misamunu](早く崩せばよいのに)。ヤー˩ディン クー˩シ [jaː˩diŋ kuː˩ʃi](必ず崩せ)。ッ˩ふ˩ヤー ˩クー˩シティ ア˩ラヤー˩ ス˩ク˩ルツォー [fʲfu˩jaː ˩kuː˩ʃʲti ʔa˩rajaː˩ sʷ˩ku˩rutsoː](古い家を崩して新しい家を造るそうだ)。

˩クー˩ドゥー [˩**kuː˩duː**] 【名】小鼓。「小胴」の義。˩ウー˩ドゥー [˩ʔuː˩duː](大きい鼓) の対義語。˩トゥヌスクヌ ˩アジャー ˩クー˩ドゥー ウ˩トー˩ルンティ˩ダー [˩tunusʷkunu ˩ʔaʤaː ˩kuː˩duː ʔu˩toː˩runti ˩daː](石垣市登野城の兄さん < 佐村用明氏 > は小鼓を打たれるそうですよ)。

˩クートゥシ [˩**kuːtuʃi**] 【名】来年。「来る年」の義。˩クートゥシェー ˩マービン˩ヌ ユ˩ガフ˩ ニ˩ガイシキ˩ルン˩ユー [˩kuːtuʃeː ˩maːbin˩nu ju˩gaɸu˩ ni˩gaiʃʲki˩ruɲ˩juː](来年 < 来る年 > は尚一層の豊年 < 世果報 > をお祈り致します)。

˩グーナー [˩**guːnaː**] 【名】びっこ (跛)。びっこを引くこと。足の怪我や故障によって歩行の釣合いがとれないこと。若年層のことば。老年層は、˩ネーガー [˩neːgaː](びっこ) という。イ˩クサナ ˩ティップ˩シ ˩パン イ˩ラリティ˩ グーナー ˩ナリ ˩ベー [ʔi˩ku˩sana ˩tippu˩ʃi ˩paŋ ʔi˩rariti˩ guːna ˩nari ˩beː](戦争で、鉄砲で足を撃たれてびっこ < 跛 > になっている)。

˩グー ナルン [˩**guː ˩naruŋ**] 【連】1仲間になる。味方になる。˩ワンヌン バン˩ター ˩グー ナリ˩ヨー [˩wannum ban˩taː ˩guː nari˩joː](君も僕らの仲間になれよなあ)。2男女が結ばれる。情を交わす。˩ウッ˩ツァー フ˩ターロー˩ キサー˩ティ˩ グー ˩ナリティ ミ˩ドゥ˩モー パ˩ル˩ミ ˩ベー˩ダー [˩ʔut˩tsaː ɸʷ˩taːroː˩ kʲsa˩ti˩ guː ˩nariti mi˩du˩moː pa˩ru˩mi ˩beː˩daː](あれら二人はとっくに結ばれていて、女は妊娠して < 孕んで > いるよ)。

˩クー˩ヌ サ˩ミ [˩**kuː˩nu sa˩mi**] 【連】砕け米。籾摺りや精白の際、または水に浸けた粳米を臼で搗いて上新粉を作る際、篩で篩った後に残る米粒の砕けたもの < 砕米 > や粗い米粉。˩クー˩ヌ サ˩メー˩ シ˩トゥンドー˩シ トゥ˩ルン˩ ッ˩ふァーシ˩バ [˩kuː˩nu sa˩meː˩ ʃʲ˩tundoː˩ʃi tu˩run˩ fʲfaːʃi˩ba](砕け米や粗い粉は捨てないで鶏に食べさせなさいよ)。

˩クーネー˩シ [˩**kuːneː˩ʃi**] 【名】調理法の名。「皮煮」の転訛したものか。ハリセンボンなど、はらわたを取って、皮のまま煮ること。薬効があるといって、妊婦や生理不順の女性に煎じて与えていた。ア˩バ˩サー ˩クーネー˩シ サ˩バル˩ フ˩チ˩ル ナルティ˩ダー [ʔa˩ba˩saː ˩kuːneː˩ʃi sa˩baru˩ ɸʷ˩ʧi˩ru naruti ˩daː](ハリセンボンは皮付きのまま煮た方が薬効がある < 薬になる > そうだよ)。

˩クー˩バイ [˩**kuː˩bai**] 【名】勾配。「勾配」からの転訛。傾斜面の斜度。屋根の斜度。˩クーバイ˩ヌ タ˩カー˩カー カ˩ジアタルヌ スー˩ワンダ ˩ドゥク タ˩カー˩ トゥ˩ル˩ナ˩ヨー [˩kuːbai˩nu tʷ˩kaː˩kaː ka ˩ʤiatarunu suː˩wanda ˩duku tʷ˩kaː˩ tu˩ru˩na˩joː](勾配が高いと風当たり強いから、あまり高くとるなよ)。

˩クー˩バリ [˩**kuː˩bari**] 【名】製粉すること。上新粉を作ること。「粉割」の義。水に漬けた粳米をシ˩キ˩ウシ [ʃʲ˩ki˩ʔuʃi](搗き臼。木臼) に入れて杵で搗き、製粉すること。搗いた粉を˩シノー [˩ʃinoː](篩。小麦粉用の篩) で篩って漉し、粗いものを更に搗いてメリケン粉のような細かい粉に製粉した。それを箕の上に振りかけ、まぶしておき、蒸し揚げた餅を成形する際に振りかけ、まぶし < 塗し > て用いた。ム˩チヌ ニールン˩ケン ˩クー˩バリ ˩サ˩ディー [mu˩ʧinu niːruŋ˩keŋ ˩kuː˩bari ˩saː˩diː](餅が煮えるまで米粉を製粉 < 粉割 > しようよ)。˩マイヌ˩ クー バ˩ルン [˩mainu˩ kuː ba˩ruŋ](米粉を製粉する < 割る >)。

˩グーパン˩チャー [˩**guːpan˩ʧaː**] 【名】不揃いのもの。対をなして揃うべきものの片方が欠けているもの。˩カイブ ˩グーパンチャー˩バ ˩カイ˩キー ˩ヌー˩ スー ˩カン˩ガイヤ [˩kaibu ˩guːpanʧaː˩ba ˩kai˩kiː ˩nuː˩ suː ˩kaŋ˩gaija](こんな不揃いのものを買ってきて何をするつもりかね)。

˩グーパンツァーリ˩ムヌ [˩**guːpantsaːri˩munu**] 【名】1対を成さないもの。不揃いのもの。「偶外れ物」の義。ク˩ヌ˩ パシェー ˩グーパンツァーリ˩ムヌ ナ˩リ˩ブー [ku˩nu˩ pʷʃeː ˩guːpantsaːri˩munu na˩ri ˩buː](この箸は不揃いのもの < 対を成さないもの > になっている)。2配偶者の欠けた者。やもめ (寡婦。鰥夫「鰥夫、無妻曰⊠鰥、和名夜無乎 < やもを >

『和名抄』」)。ク˞ヌ˜　ビ˞キドゥモー˜　トゥ˞ジヌ　マーラシター　グーパンツァーリ˜ムヌ　ナリ˞ベー [ku˞nu˜ bi˞kidumo:˜ tu˞ʤinu ma:raʃi̥ta: gu:pantsa:ri˜ munu nari˞be:](この男は妻が亡くなったので鰥夫(ヤモオ)になっている)。

˞クー˜ピキ [˞ku:˜pi̥ki] 【名】製粉。「粉挽き」の義。ム˞チマイ [mu˞ʧimai](糯米) を一晩水に浸(ツ)けてふやかし、˞ウー˜キ [˞ʔu:˜ki](桶) の上にア˞ジ˜マー [ʔa˞ʤi˜ma:](十文字に組んだ台木) を置いてイ˞ソーシ [ʔi˞so:ʃi](石臼) を載せ、それに糯米を入れて石臼をまわす。水を少量ずつ流しながら挽く。乳液状の汁が桶に溜まると袋に入れて水切りをする。袋の上に石臼を乗せておくと一晩で水切りが完了し、澱粉がとれる。その澱粉を成形して蒸すと餅ができあがる。˞タンガ˜シ　˞クー˜ピキ　˞シーベー [˞taŋga˜ʃi ˞ku:˜pi̥ki ˞ʃi:be:](一人で餅を作るための粉挽きをしている)。˞ヨイ˜ヌ　ム˞チ˜　ス˞ク˜ルンティ　˞クー˜ピキ　˞シー　オー˜ル [˞joi˜nu mu˞ʧi˜ su̥˞ku˜runti ˞ku:˜pi̥ki ˞ʃi: ʔo:˜ru](お祝いの餅を作るとて、糯米の粉を石臼で挽いておられる)。

˞クーピキウー˜キ [˞ku:pi̥kiʔu:˜ki] 【名】「粉挽き桶」の義。石臼で糯米や大豆を挽くのに用いる桶。桶の上にア˞ジ˜マー [ʔa˞ʤi˜ma:](十字に交差した支え棒) を掛け、その上に石臼を据えて糯米や大豆を挽いた。˞クーピキウー˜ケー　˜ティダナー　サ˞ラスナ˧ヨー [˞ku:pi̥kiʔu:˜ke: ˜tidana: sa˞rasuna˧jo:](粉挽き桶は太陽に晒す < 干す > なよ)。

˜クー　ピ˞クン [˜ku: pi̥˞kuŋ] 【連】製粉する。糯米を一晩水につけてふやかし、石臼で水を少しずつ加えながら挽く。ム˞チマイヌ˜　クー　ピ˞クンティ　オー˜ル [mu˞ʧimainu˜ ku: pi̥˞kunti ʔo:˜ru](糯米の粉を挽こうとしておられる)。

˞クーフキ˜ウン [˞ku:ɸu̥ki˜ʔuŋ] 【名】(植) サツマイモの一種。「粉ふき芋」の義。澱粉が多く、ふかす < 蒸かす > と粉がふきでるように、ふかふかして美味なサツマイモ。˞クーフキウン˜マー　バ˞カス˜カー　˞クー˜　フキティ　ン˞マー˜タン [˞ku:ɸu̥kiʔum˜ ma: ba˞kasu˜ka: ˞ku:˜ɸu̥kiti ʔm˞ma:˜taŋ](粉ふき芋は炊くと粉がふきだして美味しかった)。

˜クー　˜フクン [˞ku: ˜ɸu̥kuŋ] 【連】粉がふく。サツマイモをふかす (蒸かす) と澱粉質が粉のようにふかふかする。ヒャ˞クゴー˜ヤ　バ˞カス˜カー　˜クー　˜フキティ　イ˞カス˜ク　ン˞マー˜ワ˞ツォー [ça˞kugo:˜ja ba˞kasu̥˜ka: ˜ku: ˜ɸu̥kiti ʔi˞kasu˜ku ʔm˞ma:˜wa˞tso:](百号 < 台中百号種の芋 > は蒸かすと粉をふいて、どんなに美味しいことか)。

˞クーフシ˜ル [˞ku:ɸuʃi˜ru] 【名】粉薬。散薬。「こぐすり」の義。˞クーフチ˜ル [˞ku:ɸu̥ʧi˜ru](粉薬) とも言う。ミ˞ジフチ˜ル [mi˞ʤiɸuʧi˜ru](水薬) の対義語。˞クーフシ˜ル　˜ヌムンティ　シ˞ター˜　ッ˞サー˜ク　シ˞ティ˜　フ˞キンザ˜シ　˞ナー˜ヌ [˞ku:ɸu̥ʃi ˜ru ˜numunti ʃi̥˞ta:˜ s˞sa:˜ku ʃi̥˞ti˜ ɸu̥˞ki?nʤa˜ʃi ˞na:˜nu](粉薬を飲もうとしたところ、咳をして口から噴き出してしまった)。

˞クーフチ˜ル [˞ku:ɸu̥ʧi˜ru] 【名】こぐすり (粉薬)。˞クーフシ˜ル [˞ku:ɸuʃi˜ru] ともいう。ミ˞ジフチ˜ル [mi˞ʤiɸuʧi˜ru](水薬) の対義語。˞クーフチ˜ル　˜ヌムンティ　˞アー˜キ　ン˞ツァイテイ˜　ムー˞ル˜　フ˞キトゥバ˜シ　˞ナー˜ヌ [˞ku:ɸuʧi˜ru ˜numunti ˞ʔa:˜ki ʔn˞tsaiti˜ mu:˞ru˜ ɸu̥˞kituba˜ʃi ˞na:˜nu](粉薬を飲もうとして喉に詰まらせて、咳き込んで全部吹き飛ばしてしまった)。˞クーフチ˜ル　˜ヌムン [˞ku:ɸu̥ʧi ˜ru ˜numuŋ](粉薬を飲む)。ク˞ヌ　クーフチ˜ロー　バ˞タ˜ヤンナ　ス˞クン [ku˞nu ku:ɸu̥ʧi˜ro: ba˞ta˜ janna: su̥˞kuŋ](この粉薬は腹痛に効く)。

˜クーマイ [˜ku:mai] 【名】砕けまい。砕米。粒が砕けた米。˞ハイキューマイ˜ヤ　˜クーマイ　˜ナリティ　ン˞マーナーン˜シェン [˞haikju:mai˜ja ˜ku:mai ˜nariti ʔm˞ma: na:ŋ˜ʃen](配給米はクーマイ < 砕米 > になっていて、美味しくなかった)。

˜グーマンチャー [˜gu:manʧa:] 【名】不揃い。ちぐはぐなもの。˞グーパンツァー˜リムヌ [˞gu:pantsa:ri˜ munu](具・外れもの、不揃いのもの)。箸や下駄など、一式のが不揃いであるもの。沖縄方言からの借用語か。「具・混じり」の転訛したもの。鳩間方言では、普通は˞グーパンツァー˜リムヌ [˞gu:pantsa:ri ˜munu](不揃い物。「具・外れ物」の義) ともいう。カタグーマンチャー [ka˞tagu:manʧa:](不揃い物) ともいう。ク˞ヌ˜　ア˞チ˜ツァー　˞グーマン˜チャー < グーパンチャー >　˜ナリティ　フ˞マラヌ [ku˞nu˜ ʔa˞ʧi˜tsa: ˞gu:man˜ʧa: < gu:panʧa: > ˜nariti ɸu˞maranu](この下駄は不揃いになって履けない)。

˞クームチ [˞ku:muʧi] 【名】供物。神に供える一式の品物。若年層はク˞ムチ [ku˞muʧi](供物) ともいう。イ˞キ˜パナ [ʔi˞ki˜pana](生け花。イ˞ツァン˜パイキー [ʔi˞tsam˜paiki:] < まさき > の小枝を活けた) 一対。ア˞ライパナ [ʔa˞raipana](洗米。精米した粳米を水で洗って茶碗に盛ったもの) 一対。˞サー˜ドー [˞sa:˜do:](茶湯) 一対。˞トゥイ˜ミョー [˞tui˜mjo:](灯明。キザク貝の殻に種油を入れ、約 10 センチの

こより＜紙縒＞を灯心としたもの) 一対。ウˈツァナˀク [ʔuˈtsanaˀku](白玉粉で作った小さな餅) 一対。ミˈキ [miˈki](神酒。ˈカンˀビン [ˈkamˀbiŋ]＜燗瓶の義か＞一対、盃一対)。ˀクバン [ˈkubaŋ](焙乾にした魚肉を 1 センチ角、長さ約 10 センチに切ったもの) 七本ないし九本ずつ結わえたムˈリクバン [muˈrikubaŋ]＜盛りクバン＞を皿に入れ、塩とピˈルミーカキ [piˈru mi:kaki](大蒜三片) を入れたもの。一対。これら一式の供物の中から、各種の祈願に必要な供物をバˈキトゥリˀブン [baˈkituriˀbuŋ](通い盆。供物を入れて運び、供えるのに用いる細長いお膳) に入れて祈願に供えた。バˈキサカˀサ [baˈkisakaˀsa] がその任に当たった。ˈクームチェーˀスˈコーレーˀン [ˈku:mutʃeːˀ sṵˈko:reːˀŋ](供物は準備できた)。

ˈクーラ [ˈku:ra] 【名】 (地) 西表島北岸の伊武田地区の西に広がる水田地帯。「久浦」と表記されている。ˈクーラガーラ [ˈku:raga:ra](クーラ川) からウˈボルˀダー [ʔuˈboruˀda:]、ˀウシダー [ˈʔuʃida:]、ˈクーラ [ˈku:ra]、ˈナーダ [ˈna:da]、ˀシザバナリ [ˈʃidʑa-banari](下離) に至る水田地帯。ˈトゥーˀジェ [ˈtu:ˀdʑe](通事家)、アˈマシェー [ʔaˈmaʃe:](小浜家)、イˈラˀブレー [ʔiˈraˀbure:](西原家)、ナˈカンˀテー [naˈkanˀte:](仲本家)、カˈナˀケー [kaˈnaˀke:](兼久家)、ˈウイカナケー [ˈʔuikanake:](浦崎家＜上兼久家＞)、クˈメー [kuˈme:](小浜家)、ˀユージェー [ˈju:dʑe:](松竹家)、カˈザケー [kaˈdʑake:](加治工家)、ナˈカシˀケー [naˈkaʃi̥ˀke:](仲底家)、パˈトゥˀメー [pḁˈtuˀme:](鳩間家)、ˈウイザテー [ˈʔuidʑate:](上里家)、ムˈルスメー [muˈrusume:](盛島家)、ˀナラシケー [ˈnaraʃi̥ke:](成底家) などの水田があった。ˈバンˀテヌ　ˈクーラヌˀ　バˈケーラマシˀナー　ˈターウナイˀヌ　ブˈタンˀダー [ˈbanˀtenu ˈku:ranuˀ baˈke:ramaʃiˀna: ˈta:ʔunaiˀnu buˈtanˀda:](私の家のクーラのバケーラマシ＜湧き水の湧き出る田圃＞には田圃鰻がいたよ)。/マンカパイバタ　ミワタシバ　パマヌ　ミルスヤ　クーラヌパマ/(真向かいの南端を見渡すと、浜が見える所＜の＞は小浦＜久浦＞の浜だ)(鳩間中岡節)。

ˈクーラミナトゥ [ˈku:raminatu] 【名】クーラ川の川口。「久浦港」の義。伊武田の西側と久浦田原の境を流れる川の河口。古見岳の西側、タˈカˀスクヤマ [tḁˈkaˀsṵkujama](タカスク山) とティˈドゥˀクヤマ [tiˈduˀkujama](ティドゥク山) から流れる雨水を集めて流れるˈクーラガーラ [ˈku:raga:ra](久浦川) の河口は海砂が堆積して干潮時には船の通行ができない。満潮時に伝馬船やサバニを河口から乗り入れて荷物の積み下ろしをした。

ˈクーリ [ˈku:ri] 【名】 1氷。ニˈチˀヌ　タˈカーˀカ　ˈクーリˀシ　ヒˈヤˀシバ [niˈtʃiˀnu tḁˈkaːˀka ˈku:riˀʃi ˈçiˈjaˀʃiba](熱が高かったら氷で冷せよ)。2氷砂糖。ˈクーリザタ [ˈku:ridʑata](氷砂糖) の略。ムˈカˀシェー　ˈウイˀプソー　ˀユー　ˀサーナ　ˈクーリˀ　イˈリティˀ　ヌˈモーッˀタン [muˈkaˀʃe: ˈʔuiˀpṵso: ˀju: ˀsa:na ˈku:riˀ ʔiˈritiˀ nuˈmo:tˀtaŋ](昔は老人は、よくお茶に氷砂糖を入れて飲まれたものだ)。

ˈクーリ [ˈku:ri] 【名】柳行李。ヤˈマトゥˀタビ　ˈタイパンˀタビ　ˈソーˀル　プˈソー　クーリˀナ　ˀキンカー　イˈリティˀ　ムˈトーッˀタ [jaˈmatuˀtabi ˈtaipanˀtabi ˈso:ˀru pṵˈso: ku:riˀna ˀkiŋka: ʔiˈritiˀ muˈto:tˀta](日本本土への旅行、台湾への旅行をされる人は柳行李に衣類を入れて持っていかれた)。

ˈクーリザタ [ˈku:ridʑata] 【名】氷砂糖。ˈクーリザタˀ　サーナ　トゥˈカˀシ　ˀヌミバ [ˈku:ridʑataːˀ sa:na tṵˈkaˀʃi ˀnumiba](氷砂糖をお茶に溶かして飲めよ)。

ˈクーリミジ [ˈku:rimidʑi] 【名】氷水。ˈクーリミジˀ　ヌˈミˀ　プサン [ˈku:rimidʑiˀ nuˈmiˀ pṵsaŋ](氷水を飲みたい)。

ˈクーリˀルン [ˈku:riˀruŋ] 【自動】崩れる。崩壊する。ˈクーˀルンとも言う。ウˈブアミヌˀ　フーカー　ˈサンˀガラー　ˈクーリˀルン [ʔuˈbuʔaminuˀ ɸu:kaː ˈsaŋˀgara: ˈku:riˀruŋ](大雨が降ると崖が崩れる)。アˈミˀヌ　ˈフーˀタンティン　ˈクーリラˀヌ [ʔaˈmiˀnu ˈɸu:ˀtantiŋ ˈku:riraˀnu](雨が降っても崩れない)。アˈミˀヌ　ˀフーカー　ˈクーリヤッˀサン [ʔaˈmiˀnu ˀɸu:kaː ˈku:rijasˀsaŋ](雨が降ると崩れやすい)。ˈクーリˀル　ˀクトー　ˈナーˀヌ [ˈku:riˀru ˀkṵto: ˈna:ˀnu](崩れることはない)。ˈクーˀレー　ˀミサムヌ [ˈku:ˀre: ˀmisamunu](崩れればよいのに)。ˀカイブ　ˀトンマー　ˈパーˀク　ˈクーリˀリ [ˈkaibu ˀtomma: ˈpa:ˀku ˈku:riˀri](こんな所は早く崩れろ)。ˈナイˀヌ　ウˈクルˀター　ˈグスˀコー　ˈクーリ　ˈナーˀヌ [ˈnaiˀnu ʔuˈkuruˀta: ˈgusṵˀko: ˈku:ˀri ˈna:ˀnu](地震が起こったので石垣が崩れてしまった)。クˈヌˀ　カˈジˀナーン　ˈヤーˀヤ　ˈクーリランˀセン [kuˈnuˀ kaˈdʑiˀna:ŋ ˈja:ˀja ˈku:riraŋˀʃeŋ](この台風にも家は崩れなかった＜壊れなかった＞)。ウˈヌアタルˀヌ　カˈジˀナー　ˈクーリˀル　ˀクトー　ˈナーンˀ　パジˈダーˀヌ　ˈクーリˀルンティ　ウˈムイˀル　カˈキンˀゴー

˹スート ダー [ʔu˹nu˺ ʔa˹taru˺nu ka˹ʤi˺na: ˹ku:ri˺ru ˺kṵto: ˹na:m˺ paʤi˹da:˺nu ˹ku:ri˺runti ʔu˹mui˺ru kạ˹ki˺go: ˹su:ɨda:](その程度の台風で崩れることは無いはずだが、崩れると思って保護対策＜格護＞はするのだよ)。˹クーリ˺レー ˺ミサムヌ [˹ku:ri˺re: ˺misamunu](崩れればよいのに)。˹パー˺ク ˹クーリ˺リ [˹pa:˺ku ˹ku:ri˺ri](早く崩れろ)。

˹クール [˹ku:ru] 【名】(植) 紅露。山地に自生する蔓性の植物で、1〜3 キロの丸い長芋の根茎をつける。八重山特産の赤色染料。ム˹カ˺シェー ˹クール˺シ ˹ヌーヌ˺ ス˹モーッ˺タツォー [mu˹ka˺ʃe: ˹ku:ru ˺ʃi ˹nu:nu˺ su˹mo:t˺tatso:](昔は黄櫨(コウロ)で布を染められたそうだ)。

˹クール [˹ku:ru] 【名】「庫裡(クリ)」の転訛か。籾を積んで保管しておくところ。ユ˹コー [ju˹ko:](裏座の片隅) や˹トー˺ラ [˹to:˺ra](炊事小屋) の一角に穀類の保管場所を作る家もあった。老年層 (80 歳以上) の人が使用する語である。˹ベー˺ヌ ˹クーロー˺ ウ˹ブヤー˺ヌ ˹サン˺ヌパー ˺シヌナール ˹アッ˺タ˹ナー [˹be:˺nu ˹ku:ro:˺ ʔu˹buja:˺nu san˺nupa: ˺ʃinuna:ru ˹ʔat˺ta˹na:](我が家の庫裡＜米蔵＞は母屋の南西＜申＞の方角の角にあったねえ)。

˹クー˺ルン [˹ku:˺ruŋ] 【自動】崩れる。「崩る＜下二段活用＞」の四段活用に転訛したもの。˹グス˺コー ˹クー˺リ ˹ナー˺ヌ [˹gusṵ˺ko: ˹ku:˺ri ˹na:˺nu](石垣は崩れてしまった)。˹ナイ˺ヌ ウ˹ク˺ルカー ˹グス˺クン ˹クー˺ルン [˹nai˺nu ʔu˹ku˺ruka: ˹gusṵ˺kuŋ ˹ku:˺ruŋ](地震が起こると石垣も崩れる)。ア˹ミ˺ヌ ˹ホー˺バン ＜˹フー˺バン＞˹クーラ˺ヌ [ʔa˹mi ˺nu ˹ho:˺baŋ ＜˹ɸu:˺baŋ＞ ˹ku:ra˺nu](雨が降っても崩れない)。˹グスク˺ヌ ˹クー˺ル ˺ピンマー ナ˹クラーン˺ダー [˹gusṵku˺nu ˹ku:˺ru ˺pimma: na˹ku-ra:n˺da:](石垣が崩れる時は怖いよ)。ヤ˹ナ トンマー クー˺レー ˺ミサムヌ [ja˹na tomma: ku:˺re: ˺misamunu](悪いところは崩れればよいのに)。˺アイブ ˺ムノー ˹パー˺ク ˹クーリ˺リ [˺ʔaibu ˺muno: ˹pa:˺ku ˹ku:ri˺ri](あんなのは早く崩れろ＜崩れれ＞)。˹クーラン˺ティ ウ˹ムイ˺ヤー ス˹ヌ クー˺ルンティ ˺ウムイティ カ˹キン˺ゴー サ˹バル˺ナル [˹ku:ran˺ti ʔu˹mui˺ja: su˹nu ku:˺runti ˺ʔumuiti kạ˹ki˺go: sa˹baru˺ naru](崩れないと思いはするが、崩れると思って保護対策＜格護＞をしたほうがよい＜すればぞ事はよくなる＞)。˹クー˺リ ˹ナー˺ヌ [˹ku:˺ri ˹na:˺nu](崩れてしまった)。˹クー˺ルクトゥン ˺アン [˹ku:˺ru ˺kutuŋ ˺ʔaŋ](崩れることもある)。

˹クー˺レー [˹ku:˺re:] 【名】(動) 魚の名。和名、チョウチョウコショウダイ。体長約 60 センチに達するという。和名、ムスジコショウダイ (体長約 35 センチ)、和名、クロコショウダイ (体長約 35 センチ)、和名、オシャレコショウダイ (体長約 40 センチ)、コロダイ (体長約 50 センチ) などの総称。鳩間島では 35〜40 センチの成魚が釣れた。˹クー˺シビー [˹ku:˺ʃibi:](島の西側にある干瀬) の˹ピーヌ˺クシ [˹pi:nu˺kṵʃi](干瀬の外海) あたりで漁獲された。

˺クーン [˺ku:ŋ] 【自動】カ変。1来る (こちらへ向かって近づく)。「之多比己之 伊毛我己許呂乃〜＜慕い来し妹が心の＞『万葉集 796』」の義。˺カマーラ ˺プ˹スヌ˺ クーン [˺kama:ra pṵ˹sunu˺ ku:ŋ](向こうから人が来る)。ター˹ン クー˺ヌ (˹コー˺ヌ)[ta:˹ŋ ku:˺nu(˹ko:˺nu)](誰も来ない)。˺アツァー ˹キー˺プサンツォー [˺ʔatsa: ˹ki:˺ pṵsantso:](明日は来たいそうだ)。˺クー ˺プ˹ソー パイ˺サ ˺ケー ˺ミサムヌ [˺ku: pṵ˹so: pai˺sa ˺ke: ˺misamunu](来る人は早く来ればよいのに)。タ˹デー˺マンチン＜マ˹ナ˺マ シ˹グ˺＞ ˺クー [ta˹de:˺mantʃiŋ ＜ma˹na˺ma ˹ʃi˺gu＞ ˺ku:](今すぐ＜唯今の内に＞来い)。2＜目的地に話者の意識を置いた、来る＞行く。「倭爾者 鳴而か來良武〜＜大和には鳴きてか来らむ＞『万葉集 70』」の義。˺アツァー クー˹ナー [˺ʔatsa: ku:˹na:](明日来よう＜そちらへ行く＞ねえ)。

˺クーン [˺ku:ŋ] 【他動】こぐ (漕ぐ)。櫓や櫂を動かして船を進める。「麻萬能宇良末乎 許具布祢能〜＜眞間の浦回を漕ぐ船の＞『万葉集 3349』」の義。˺イダフニ ˺クーン [˺ʔidaɸuni ˺ku:ŋ](板船＜サバニ＞を漕ぐ)。˺フネー ˹コー˺ヌ [˺ɸune: ˹ko:˺nu](船は漕がない)。˺フニ クイ˹サヌ [˺ɸuni kui˹sanu](船を漕ぎきれない)。˹ワー˺ クー ˺フネー ˺ヌーヤ [˹wa:˺ ku: ˺ɸune: ˺nu:ja](君が漕ぐ舟はどれか)。˹マー˺ビン ˹クイ˺ヤー ˺ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ˹kui˺ja: ˺misamanu](もっと漕げばよいのに)。˹パー˺ク ˺クイ [˹pa:˺ku ˺kui](早く漕げ)。˹パー˺レー ˺クイ ˺ミサカー ˺クー ˺クトー ˺ナルン [˹pa:˺re: ˺kui ˺misaka: ˺ku: ˺kṵto: ˺naruŋ](爬虫竜舟を漕いで良ければ、漕ぐことは出来る)。˹ワンヌン クイ˺ヤー ˺ミサムヌ [˹wannuŋ kui˺ja: ˺misamunu](君も漕げば良いのに)。˹パー˺ク ˺クイバ [˹pa:˺ku ˺kuiba](早く漕げよ)。

˺クーン [˺ku:ŋ] 【他動】1乞う。求める。貰う。ユ˹ミ˺ クイン ˹オーッ˺タ [ju˹mi˺ kuiŋ ˹ʔo:t˺ta](嫁を

乞いに＜貰いに＞行かれた)。˩ウン˥ネーラー　ユ˩メー　コー˥ヌ [˩ʔun˥neːraː ju˩meː koː˥nu](その家からは嫁は貰わない)。˩ウン˥ネーラ　ユ˩ミ　クーン [˩ʔun˥neːra ju˩mi˥ kuːŋ](その家から嫁を貰う)。ユ˩ミ˥　クー　˥プス [ju˩mi˥ kuː ˥pu̥su](嫁を貰うとき)。˩カン˥ネーラ　ユ˩ミ　クイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˩kan ˥neːra ju˩mi kui˥jaː ˥misamunu](あの家から嫁を貰えばよいのに)。˩パー˥ク　ユ˩ミ˥　クイ [˩paː˥ku ju˩mi˥ kui](早く嫁を貰え)。2借りる。˩シー˥ネーラ　カ˩ナパイ˥　クイクー [˩ʃiː˥neːra ka˩napai˥ kuikuː](後ろ隣の家から鍬を借りてこい)。

˩**クーン [˩kuːŋ]** 【他動】越える。ものごとの上を越える。障害物を乗り越える。˩クイルン [˩kuiruŋ](越える) ともいう。「～あしひきの山坂古延弖＜コエテ＞～。万、3962」の転訛したもの。˥キューズーナ　˥ヤマー　˩クーン [˥kjuːʤuːna ˥jamaː ˩kuːŋ](今日中に山を越える)。˩キュー˥ヤ　˩コーラヌ [˩kjuː˥ja ˩koːranu](今日は越えられない)。˥キューズーナ　˩クイ˥　プサン [˥kjuːʤuːna ˩kui˥ pu̥saŋ](今日中に越えたい)。˥ヤマ　˩クー　プソー　パイ˥サ　˥パリ [˥jama ˩kuː pu̥soː pai˩sa ˥pari](山を越える人は早く行け)。˩クイヤー˥　ミサムヌ [˩kuijaː˥ misamunu](越えればよいのに)。˩パー˥ク　˩クイ˥バ [˩paː˥ku ˩kui ˥ba](早く越えなさいよ)。˩コーヌ [˩koːnu](超えない)。ダ˩ディ˥クダキ　˩クーンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩バン˥マー　˩コーララヌ [da˩di˥kudaki ˩kuːnti ˥ʔu˩muːn˥du ˩bam˥maː ˩koːraranu](ダディク岳を越えようと思うが、私には越えられない)。˩クイ˥　ミサカー　˩クー˥　クトー　ナルン˩ダー [˩kui˥ misakaː ˩kuː˥ ku̥toː narun˩daː](超えて良ければ越えることは出来るよ)。˩クイヤー˥　ミサムヌ [˩kuijaː˥ misamunu](越えたら良いのに)。˩パー˥ク　˩クイ˥バ [˩paː˥ku ˩kui˥ba](早く越えなさいよ)。

˥**クイ [˥kui]** 【名】恋。ム˩カ˥シェー　˩クイ˥ヌ　˥ミチ　ッ˩サン˥カー　˩キンダイクネー˥　ッ˩ふーナ˥ティ　ア˩ゾーッタ˥ル [mu˩ka˥ʃeː ˩kui˥nu ˥mitʃi s˩saŋ˥ kaː ˩kindaikuneː˥ f˩fuːna˥ti ʔa˩ʤoːtta˥ru](昔は、恋の道を知らなければ人参を食べるなといわれたものだ)。

˥**クイ [˥kui]** 【名】声。˩クイ˥ヌ　˩マイ˥ヤン [˩kui˥nu ˩mai˥jaŋ](声が大きい)。˩クイ˥バ　ン˩ザ˥シ [˩kui˥ba ʔn˩ʤa˥ʃi](声を出せ)。˥クイシ　˩ターティ˥　ワ˩カ˥ルン [˥kuiʃi ˩taːti˥ wa˩ka˥ruŋ](声で誰だと分かる)。ク˩リヌ˥　ウター　˥クイナー　ヌ˩ビ˥ヌ　˥アリティ　シ˩キグトゥ [ku˩rinu˥ ʔutaː ˥kuinaː nu˩bi˥nu ˥ʔariti ʃi̥˩kigutu](これ＜この人＞の歌は、声に伸びがあって＜美声で＞素晴らしい＜聞きごとである＞)。

˩**グイ [˩gui]** 【名】杭。地中に打ち込む棒。直径約 4 センチ、長さ約 80 センチの垂木の先端部を削って土中に打ち込んで支柱に使用するもの。畑の畦などに打ち込んで藁縄を張り、畑に侵入する者を防ぐ。パ˩タキ˥ヌ　˥アザナー　˩グイ˥　ウティ　シ˩キ˥リ [pḁ˩taki˥nu ˥ʔaʤana: ˩gui˥ ʔuti ʃi̥˩ki˥ri](畑の畦に杭を打っておけ)。

˩**グイ [˩gui]** 【名】みおつくし (澪標)。水路標識。「水脈 (みお) の串」の義。通行する船に深い水脈を知らせるために立てた杭。タ˩カビー˥ヌ　フ˩チ [tḁ˩kabiː˥nu ɸu̥˩ʧi](高干瀬の津口) から桟橋に至る数箇所の浅瀬に立てた杭。戦後は寄合三戸氏が運搬船の水路標識として松の枝を立てた。それを、ユ˩レーヌ　アー˥ヤ　˩ブイ [ju˩reːnu ʔaː˥ja ˩bui](寄合家のお父さんの浮標) といっていた。

˥**クイイズ [˥kuiʔiʤu]** 【名】(動) 鯉。「鯉魚」の義。˩カーング [˩kaːŋgu](「川鯉」の義か) ともいう。鳩間島には鯉は棲息していなかった。西表島の川や田圃のシ˩キム˥トゥ [ʃi̥˩kimu˥tu](水源池にはカーングが棲息していた)。˥クイイゾー　パ˩トゥ˥マナー　ブ˩ラーンシェン [˥kuiʔiʤoː pḁ˩tu˥manaː bu˩raːŋʃeŋ](鯉は鳩間島にはいなかった)。

˩**クイガー˥リ [˩kuigaː˥ri]** 【名】声変わり。変声。変声期。˩クインガー˥リ [˩kuiŋgaː˥ri](声変わり) ともいう。ビ˩コーンッふァー˥　ウ˩ブ˥プス　˥ナルカー　˩クイガー˥リ　˩スン　[bi˩koːŋffaː˥ ʔu˩bu˥pu̥su ˥naruka: ˩kuigaː˥ri ˩suŋ](男の子は成人したら＜大人になったら＞声変わりする)。

˩**クイ˥ガリ [˩kui˥gari]** 【名】しわがれ声 (嗄れ声)。しゃがれごえ。「声枯れ」の義。ウ˩ヤー˥リ　˥ウタ　イ˩ズター　クイ˥ガリ　˩シーナー˥ヌ [ʔu˩jaː˥ri ˥ʔuta ʔi ˩ʤuta: kui˥gari ˩ʃiːnaː˥nu](大声で歌を歌ったのでしわがれ声になった＜声枯れしてしまった＞)。

˩**クイ˥ガルン [˩kui˥garuŋ]** 【自動】しゃがれる。しわがれる (嗄れる)。声がかれ (嗄れる) る。「ガルン」は、「死、カル」『類聚名義抄』、「～朝毎にしぼみ可礼由苦＜カレユク＞～。万、4122」の転訛したものか。˥ドゥク　ウ˩ブ˥クイシ　ウ˩ヤー˥ルカー　˩クイ˥ガルンティ　ス˩ヌ˥　バー　˩クイガラ˥ヌ [˥duku ʔu˩bu˥kuiʃi ʔu˩jaː˥ruka: ˩kui˥garunti su˩nu˥ baː ˩kuigara˥nu](あまり大声で叫ぶとしわがれるというが、私はしわがれない)。˩クイ˥ガリティ　˥ムニ

シゥ˞カラヌ [˞kui˜gariti ˜muni si̥˞karanu](声がかれて言葉は聞こえない)。ウ˞ヤーラ˜バン　˞クイ˜ガル　˜クトー　˞ナー˜ヌ [ʔu˞jaːra˜baŋ ˞kui˜garu ˜ku̥to: ˞naː˜nu](大声で叫んでもしゃがれることはない)。˞クイ˜ガレー　˜ミサムヌ [˞kui˜gare: ˜misamunu](しゃがれたら良いのに)。ウ˞ヤー˜ルン [ʔu˞ja˜ruŋ](動) 大声で叫ぶ。

˞クイ˜　クーン [˞kui˜ kuːŋ] 【連】越えて来る。ティ˞ドゥ˜クヤマ　˞クイ˜　クーン [ti˞du˜kujama ˞kui˜ kuːŋ](ティドゥク山を越えてくる)。フ˞ノーラミナ˜トー　˞ヌー˜シ　˞クイ　クー˜ター [ɸu˞noːra mina˜to: ˞nuː˜ʃi ˞kui kuː˜taː](船浦湾 < 港 > をどうやって越えて < 渡って > 来たのか)。

˜クイ　˜クーン [˜kui ˜kuːŋ] 【連】漕いで来る。「漕ぎ来る」の義。˞パイター˜ラ　˜イダフニ　˜クイ　˜クーン [˞paitaː˜ra ˜ʔidaɸuni ˜kui ˜kuːŋ](南端 < 西表島 > から板舟 < サバニ > を漕いで来る)。

˞クイクガリ˜ルン [˞kuikugari˜ruŋ] 【自動】恋焦がれる。恋しさにもだえ苦しむ。耐え難いほど恋い慕う。ウ˞ムイ˜ツメーラ　˞クイクガリ˜ルンケン　ウムーンティ˞ダー [ʔu˞mui˜tsumeːra ˞kuikugari˜ruŋkeŋ ʔumuːnti˞daː](思い詰めたら恋焦がれるほど思うそうだ)。˞クイクガ˜リティ　シ˞ヌタ˜ティ　˞スー˜　パ˞ナ˜シ　ス˞クタン [˞kuikuga˜riti ʃi˞nuta˜ti ˞suː˜ pa˞na˜ʃi su̥˞kutaŋ](恋い焦がれて死んだという話を聞いたことがある)。˞クイクガリ˜ル　プ˞ソー　ヌー˜シ　˞ブー˜　プ˞ス˜カヤー [˞kuikugari˜ru pu̥˞soː nuː˜ʃi ˞buː˜ pu̥˞su˜kajaː](恋焦がれる人はどんな人かなあ)。˜ウナー　˞ベー˜ティ　ナー˞イ　クイクガリ˜リバ [˜ʔunaː ˞beː˜ti naː˞i kuikuga˜riba](其処にいて、ただ恋焦がれていろ)。

˜クイ　グ˞マー˜ン [˜kui gu˞maː˜ŋ] 【連】声が小さい。小声である。ウ˞リヌ˜　ムネー　˜クイ　グ˞マー˜ヌ　ムッ˞トゥ˜　シ˞キトゥララ˜ヌ [ʔu˞rinu˜ muneː ˜kui gu˞maː˜nu mut˞tu˜ ʃi̥˞kiturara˜nu](彼 < それ > の話は声が小さくてちっとも聞き取れない)。

˜クイダー [˜kuidaː] 【名】(固)。平民の女の子の名。˜クイダーヤ　ミ˞ドーン˜ッふァ˜ヌ　˞ナー　ヤッタ [˜kuidaːja mi˞duŋ˜ffanu ˞naː jatta](クイダーは女の子の名前だった)。

˞クイ˜チ [˞kui˜ʧi] 【名】峠。「越地 (こえち)」の転訛したもの。ウ˞ハ˜ラクイチィ [ʔu˞ha˜rakuitsï] の峠は西表島の崎山村と鹿川村との間にある峠。歌謡語。/ウハラクイチミチィナガ　ユサバサヌ　ミチィナガ/(大原と称する峠道に、ユサバサと、となえる坂道に)「大原越地節 < ウハラクイチィブシ >(西表)」『八重山民謡誌』。鳩間島ではウ˞ハ˜ラクイチブシ [ʔu˞ha˜rakuitʃibuʃi](大原越地節) という。

˞クイックナー [˞kuikkunaː] 【名】越え競争。子供の遊戯の一つ。高飛びのバー等を飛び越えるのを競う遊び。越え競 (こえくらべ) の転訛したもの。˞ガッ˜コーナーティ　タ˞カ˜トゥビ　˞クイックナー　シー˜　ア˞サブタン [˞gak˜koːnaːti tḁ˞ka˜tubi ˞kuikkunaː ʃiː˜ ʔa˞sabutaŋ](学校で高飛びの飛び越え競争をして遊んだものだ)。˞キュー˜ヤ　マー˞ズン　クイックナー　シー˜　ア˞サバ˧ディー [˞kjuː ˜ja maː˞ʤuŋ kuikkunaː ʃiː˜ ʔa˞saba˧diː](今日は一緒に縄跳びをして遊ぼうよ)。フ˞タール˜シ　˞クイックナー　スン [ɸu̥˞taːru˜ʃi ˞kuikkunaː suŋ](二人で縄跳びをする)。

グイッ˞ティ [˞guit˞ti] 【副】ごくりと。ぐいと。残さず。˞カンヌマイ˜ヌ　˜グシ　グイッ˞ティ˜　ヌミバ [˞kannumai˜nu ˜guʃi guit˞ti˜ numiba](神前に供えた神酒をぐいと飲みなさいよ)。

˞クイツ˜バーオン [˞kui˜tsubaːʔoŋ] 【名】石垣島にある御嶽の名。˞クイ˜ツバー [˞kui˜tsubaː](人名。˞ナー˜タフージの妹) を祀ってあるという。˞クイ˜ツバーオンマー　イ˞サナキヌ˜　ウ˞ガン˜ドゥ　ヤ˞ル [˞kui˜tsubaːʔomma: ʔi˞sanakinu˜ ʔu˞gan˜du ja˞ru](クイツバーオンは石垣島の御嶽で < ぞ > あるのだ)。

˜クイ　˜パルン [˜kui ˜paruŋ] 【連】漕いで行く。舟を漕いで行く。カ˞ジヌ˜　トゥ˞ル˜カー　˞パイ˜ター　˜クイ　˜パルン [ka˞ʤinu˜ tu˞ru˜ka: ˞pai˜taː ˜kui ˜paruŋ](凪ぐと南端 < 西表島 > へ漕いで行く)。

˞グイ˜フ [˞gui˜ɸu] 【名】ごようふ (御用布)。平民女子の貢納布。苧麻布や芭蕉布。対語は˜カナイヌヌ [˜kanainunu](士族女子の貢納布。極細の˜ブー [˜buː]< からむし。苧麻 > の糸で織る最高の布)。ム˞カ˜シェー　˞グイ˜フゾーノーヌ　˞キン˜サ　˞トゥーラン˜カー　パ˞マウリソージ˜ヌ　˜ピン　˜サンシキナー　ム˞ラズーヌ˜　プ˞スヌ˜　マイナー　ビ˞シラリシタ˜ツォー [mu˞ka˜ʃeː ˞gui˜ɸuʤoːnoːnu ˞kin ˜sa ˞tuːraŋ˜ka: pa˞mauriso:ʤi˜nu ˜pin ˜saŋʃi̥kina: mu ˞raʤuːnu˜ pu̥˞sunu˜ maina: bi˞ʃirariʃi̥ta˜tsoː](昔は御庸布 < 御用布 > の検査に合格しないと < 通らないと >、その女は浜下り精進の日に桟敷において村中の人の前に座らされたそうだ)。

˞グイ˜フゾーノー [˞gui˜ɸuʤoːnoː] 【名】御庸布。「御庸布上納」の義か。ム˞カ˜シェー　˞グイ˜フゾーノー

ウ˞サミ˞ルンティル　ウ˞ヌス˞ク　˞アウ˞リナンギ　˞ソーッ˞タツォー [mu˞kaˀʃe: ˞guiˀɸudʑo:no: ʔu˞samiˀruntiru ʔu˞nusu̥ˀku ˞ʔauˀrinaŋgi ˞so:tˀtatso:](昔は御庸布上納を納めるために、あれほどに難儀苦労をされたそうだ)。

˞グイ˞フマイ [˞guiˀɸumai] 【名】上納米。ビ˞キドゥモー　ジュー˞ゴーラ　˞グイ˞フゾーノー　ウ˞サミ˞シタツォー [bi˞kidumo: ʤu:ˀgo:ra ˞guiˀɸudʑo:no: ʔu˞samiˀʃi̥tatso:](男は十五から上納米を納めたそうだ)。

˞クイ˞ブリ [˞kuiˀburi] 【名】恋狂い。邪恋に身を持ち崩すこと。「恋惚れ」の義。˞アッ˞タル　バ˞カー˞ムヌ　˞クイ˞ブリ　˞シーナーン˞バン [˞ʔatˀtaru ba ˞ka:ˀmunu ˞kuiˀbure: ˞ʃi:na:ˀnu](あたら＜可惜＞若者が、邪恋に身を持ち崩してしまって、もったいないことだ)。

˞クイブリ˞ヨー [˞kuiburiˀjo:] 【名】節回し。「声折り」の転訛したもの。ウ˞レー　クイ˞ヤー　タ˞カー˞ンドゥ　˞クイブリヨー˞ヌ　˞ダーッ˞サー　˞ナー˞ンダ　ウ˞リヌ˞　ウター　˞ダシェー　˞ナー˞ヌ [ʔu˞re: kuiˀja: tą˞ka:ˀndu ˞kuiburijo:ˀnu ˞da:sˀsa: ˞na:ˀnda ʔu ˞rinuˀ ʔuta: ˀdaʃe: ˞na:ˀnu](彼は声は高いが節回しが良くないので、彼の歌は出汁＜しみじみとした情感＞がない)。

˞クイム˞ク [˞kuimuˀku] 【名】こいむこ (請婿)。入り婿。女性の方から所望してもらった婿。˞クイム˞ク　シ˞ラリル˞　ユ˞メー　サーレー˞ティ˞ダー [˞kuimuˀku ʃi˞rariruˀ ju˞me: sa:re:ˀti˞da:](女性の家から婿に所望されて、嫁を連れた＜もらった＞そうだよ)。

グイ˞ユー [gui˞ju:] 【感】あらまあ。何とまあ。グイ˞ユー˞　ア˞ブネーム　シーブバン [gui˞juːˀ ʔa˞bune:mu ʃi:bubaŋ](何とまあ! 大変な＜危ない＞ことになっているワイ)。

˞グイル [˞guiru] 【名】カツオ漁船の大漁旗の一つ。カ˞ツシンマー　グイル˞　タティティ　˞カイ˞リ˞ケーン [ką˞tsuʃimma: guiruˀ tą̣titi ˞kaiˀri ˀke:ŋ](カツオ漁船は五色の大漁旗を立てて帰ってきた)。

˞クイルン [kuiruŋ] 【他動】越える。またぐ (跨ぐ)。˞ヤマ　˞クイルン [˞jama ˞kuiruŋ](山を越える)。ク˞ヌ˞　ヤマー　˞クイララヌ [ku˞nuˀ jama: ˞kuiraranu](この山は越えられない)。˞クイ˞　ミサン [˞kuiˀ misaŋ](越えてよい)。˞クイル˞　クトー　ナ˞ラ˞ヌ [˞kuiruˀ kṵto: na˞raˀnu](越えることは出来ない)。˞クイレー˞　ミサムヌ [˞kuire:ˀ misamunu](越えればよいのに)。˞クイリ [˞kuiri](越えろ＜れ＞)。

˞クイン [˞kuiŋ] 【名】暦。「暦　古与美＜こよみ＞『和名抄』」からの転訛。ク˞トゥシヌ　プー˞ロー　˞ヌーニーナ　ア˞タル˞ユー　ク˞イン˞バ　˞クリ　ミリ˞ミー [kṵ˞tuʃinu pu:ˀro: ˀnu:ni:na ʔa˞taruˀju: ˞kuimˀba ˀkuri miri˞mi:](今年の豊年祭は干支の何の日に当たるのか暦を捲って見てごらん＜見てみれ＞)。

˞クインガー˞リ [˞kuiŋga:ˀri] 【名】声変わり。変声期。˞クイガー˞リ [˞kuiga:ˀri](声変わり。変声期) ともいう。ビ˞コーンッふァー　ジュー˞ゴーラ　˞クインガー˞リ　˞スントダー [bi˞ko:ŋffa: ʤu:ˀgo:ra ˞kuiŋga:ˀri ˞sunt-da:](男の子は十五歳から声変わりするよ)。˞クインガー˞レー　˞シー˞　シカイ˞トゥ˞　ウ˞ブ˞プス　ナ˞リ˞ブーバン [˞kuiŋga:ˀre: ˞ʃi:ˀ ʃi̥kai˞tuˀ ʔu˞buˀpṵsu na˞riˀbu:baŋ](声変わりはして、すっかり大人になっているわい)。

˞クガイズ [˞kuga?iʤu] 【名】(動) 魚の名。渚に群れて寄る小魚。稚魚は体長約 5 センチ。成魚の体長は約 15 センチ。頭のところに棘があって毒を含む。˞クガイズ　シゥ˞カ˞ムンティ　˞ベーン˞ケン　ン˞ギ˞ナ　ッ˞サ˞リティ　フ˞クリ　ベー [˞kuga?iʤu si̥˞kaˀmunti ˞be:ŋˀkeŋ ʔŋ˞giˀna s˞saˀriti ɸṵ˞kuri be:](クガイズを捕獲＜掴もうと＞しようとしているときに棘に刺されて腫れている)。

ク˞ガニ [ku˞gani] 【名】1こがね (黄金)。金。ク˞ガニヨー˞チ [ku˞ganijoːˀtʃi](黄金の簪(カンザシ))。ク˞ガニカニ [ku˞ganikani](黄金の鋼材)。/クガニカニバ　パラーバシー　ヤーバシクリ　アンティスー　ウリユー　ミューナーキャームイ/(黄金を柱にして家を造ってあるという。それを見なければなるまい)「アーパーレー＜新室寿ぎ歌。ナガミク＞」『鳩間島古典民謡古謡集』。2接頭語。黄金のように貴重な。大切な。立派な。ク˞ガニッふァ [ku˞ganiffa](黄金のように大切な子)。ク˞ガニピーバ˞　ム˞トゥ˞バシー [ku˞ganipi:baˀ mu˞tuˀba ˀʃi:](黄金のような佳き日をもとにして～)。

ク˞ガニカニ [ku˞ganikani] 【名】黄金。黄金の鋼材。「黄金の鉄」の義。歌謡語。ク˞ガニカニバ˞　キ˞チ˞バ　˞シー～[ku˞ganikanibaˀ ki̥˞tʃiˀba ˀʃi:～](黄金の鋼材を桁にして～)「アーパーレー (新室寿歌)」。

ク˞ガニッふァ [ku˞ganiffa] 【名】黄金のように大切な子。ク˞ガナー [ku˞gana:](黄金のような大切な子) ともいう。˞マイフナー˞　マ˞リリ˞ヨー　ク˞ガニッふァ [˞maiɸuna:ˀ ma˞ririˀjo: ku˞ganiffa](立派な人に

成長しなさいよ、黄金のような大切な子よ)。

クˈガニピー [kuˈganipiː] 【名】吉日。佳日。最良の日。「黄金日」の義。「カイピューˀル [ˈkaipjuːˀru](佳日) と同じ。祝詞や歌謡に用いられる。「キューˀヌ　「カイピュールˀバ　ムˈトゥˀバ　ˀシー　クˈガニピーバˀ　ムˈトゥˀバ　ˀシー　ウˈガミトゥーˀシ　アˈギルˀ　ニˈガイˀヤー　ドーˈディンˀ　ピˈナカンガナシヌˀマイ　シˈキウˀキ　トゥˈリウˀキ　タˈブˀローリ [ˈkjuːˀnu ˈkaipjuːruˀba muˈtuˀba ˀʃiː kuˈganipiːbaˀ muˈtuˀba ˀʃiː ʔuˈgamituːˀʃi ʔaˈgiruˀ niˈgaiˀ jaː doːˈdimˀ piˈnakaŋganaʃinuˀmai ʃi̥ˈkiʔuˀki tuˈriʔuˀki taˈbuˀroːri](今日の佳日をもとにして、黄金日をもとにして祈願申し上げる願いは、どうぞ火の神さま、お聞き届け、お受け取り賜りますように)。/アーパーレー　キューヌピーバ　ムトゥバシー　アーパレー　クガニピーバ　ニシキシー/(ああなんと素晴らしいことか。今日の日を元にして、ああなんと素晴らしいことか。黄金の日を礎にして)「アーパーレー＜新室寿ぎ歌。ハヤミク＞」『鳩間島古典民謡古謡集』。

クˈガニピュール [kuˈganipjuːru] 【名】黄金の日。吉日。佳日。「黄金の日和＜日選り＞」の義。物事を執り行うのに選りすぐった吉日。干支の組み合わせで定められた最高の吉日。クˈガニピュールバˀ　トゥˈリˀル　「ニンˀガイ　「オーˀル [kuˈganipjuːrubaˀ tuˈriˀru ˈniŋˀgai ˈʔoːˀru](黄金の吉日をとって祈願される)。

クˈガニマース [kuˈganimaːsu] 【名】黄金の塩。「黄金塩」の義。正月に床の間に盛り塩を供えて健康祈願をし、それを戴いて健康と長寿をあやかる (肖る)。「ナンツァマーˀス [ˈnantsamaːˀsu](銀の塩)、シゥˈカラマース [si̥ˈkaramaːsu](力塩。健康を付ける塩) ともいう。クˈガニマースˀ　カミティ　「チョーミーガフˀ　アˈヤカーˀリ [kuˈganimaːsuˀ kamiti ˈtʃoːmigaɸuˀ ʔaˈjakaːˀri](黄金塩を戴いて長寿の嘉報＜果報＞を肖りなさい)。

クˈガラスン [kuˈgarasuŋ] 【他動】こがす (焦がす)。心労する。心配する。ˀキム　クˈガラスン [ˀkimu kuˈgarasuŋ](胸を焦がす)。「ウンザンˀ　キム　クˈガラサリティルˀ　ナˈキ　オーˀル [ˈʔundʑaŋˀ kimu kuˈgarasaritiruˀ naˈki ʔoːˀru](あいつに心労させられて＜肝を焦がされて＞泣いておられる)。

クˈガリルン [kuˈgariruŋ] 【自動】1焦がれる。深く思い慕う。ˀウムイ　クˈガリティル　シンˀケー　ˀナレーティバーヤ [ˀʔumui kuˈgaritiru ʃiŋˀkeːˀnareːtibaːja](思い焦がれて＜ぞ＞精神を病まれたんだってば)。クˈガリラヌ [kuˈgariranu](焦がれない)。ˀウムイ　クˈガリルン [ˀʔumui kuˈgariruŋ](思い焦がれる)。クˈガリルˀ　クトー [kuˈgariruˀ ku̥toː](焦がれることは)。クˈガリリ [ˀʔumui kuˈgariri](思い焦がれろ)。2焦げる。バˈクダンˀヌ　ˀウティティ　「ウンˀネヌ　「ヤーˀヤ　ムーˈルˀ　ヤˈキˀ　クˈガリティˀ　ノーˈンˀ　ヌˈカラˀヌ [baˈkudanˀnu ˀʔutiti ˈʔunˀnenu ˈjaːˀja muːˈruˀ jaˈkiˀ kuˈgaritiˀ noːˈŋˀ nuˈkaraˀnu](爆弾が落ちて、あの人の家は全部焼け焦がれて何も残らない)。

クˈガルン [kuˈgaruŋ] 【自動】焦がれる。「こがる (焦る)＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。クˈガルン [kuˈgaruŋ](焦がれる)。クˈガラヌ [kuˈgaranu](焦がれない)。クˈガリティ [kuˈgariti](焦がれて)。クˈガルˀ　プˈソー [kuˈguruˀ pu̥ˈsoː](焦がれる人は)。クˈガレー　ˀミサムヌ [kuˈgareːˀ misamunu](焦がればよいのに)。ˀウムイ　クˈガリˀバ [ˀʔumui kuˈgariˀba](思い焦がれろ)。

ˀクク [ˀku̥ku] 【名】石。10 斗。体積を表す単位。主として米穀を量るのに用いる。ムˈカˀシ　ˀクトゥバナー　「ムンドーˀヤ　ˀシングクシン　「カイシティリティルˀ　アルˈダー [muˈkaˀʃi ˀku̥tubanaː ˈmundoːˀja ˀʃiŋgukuʃiŋ ˈkaiʃitiritiruˀ ʔaruˈdaː](昔の諺＜昔言葉＞に「喧嘩騒動＜問答＞は米千石でも買って捨てろ」と言われているよ)。

グˈク [guˈku] 【名】極み。最低、最高の状況、状態。最悪、最善の状況、状態。「極 (ゴク)」の転訛したもの。善悪の両極端 (得手・不得手) であることを表す。アˈワリˀヌ　グˈクˀ　シキ　「ミッˀタン [ʔaˈwariˀnu guˈkuˀ ʃi̥ki ˈmitˀtaŋ](難儀苦労の極みを経験した＜就いてみた＞)。ウˈヤキˀヌ　グˈクトゥ　ピンソーˀヌ　グˈクˀ　シキ　「ミッˀタンティダー [ʔuˈjakiˀnu guˈkutu pinsoːˀnu guˈkuˀ ʃi̥ki ˈmitˀtannti ˈdaː](最高の富貴と極貧を経験してみたそうだ)。

クˈグサイˀナー [kuˈgusaiˀnaː] 【名】小型の魚を狙って釣るのに用いる釣り縄。ナˈカダンˀグ [naˈkadaŋˀgu](中道具) ともいう。

グˈクシキˀルン [guˈkuʃikiˀruŋ] 【自動】精根尽き果てる。疲労困憊する。窮する。グˈクˀスクン [guˈkuˀsu̥kuŋ] ともいう。「ダイˀカンナー　ˀター　イˈビルンティ　シー　ピーˀヤ　ˀブガラサヌ　グˈクシキˀルンティ　「アークˀタ [ˈdaiˀkannaː ˀtaː ʔiˈbirutiʃiːˀ guˈkuʃi̥kiˀrunti ˈʔaːkuˀta](大寒の季節に田植えをしようとして、寒さと疲労で精根尽きるとこ

ろだった)。グ˞クシキラ˜ヌ [guˀkuʃi̥kiraˀnu](精根尽き果てない)。グ˞クシキ˜ル　˜クトー [guˀkuʃi̥kiˀru kuto:](精根尽きることは)。グ˞クシキ˜レーカー [guˀkuʃikiˀre::](精根尽きれば＜精根尽きたら、尽きたのなら＞)。グ˞クシキ˜リ [guˀkuʃi̥kiˀri](精根尽き果てろ)。

グ˞ク˜　スクン [guˀku˜ su̥kuŋ] 【連】疲労困憊する。苦労や苦しみの極みに達する。ウ˞ビ˜ヌ　˞ター˜バ　˞タンガ˜シ　˞カイ˜スカー　グ˞ク˜　スクン˞ダー [ʔuˀbiˀnu ˞taːˀba ˞taŋgaˀʃi ˞kaiˀsu̥kaː guˀku˜ su̥kun ˞daː](あれだけの大きな田圃を一人で耕すと疲労困憊するよ)。

グ˞ク˜スクン [guˀku˜su̥kuŋ] 【自動】精根尽き果てる。疲労困憊する。窮する。˞ピーヤ˜ヌ　グ˞ク˜スクンティ　˞アーク˜タ [˞piːjaˀnu guˀku˜su̥kunti ˞ʔaːku˜ta](寒くて精根尽き果てようとしていた)。グ˞クシゥカ˜ヌ [guˀkusïkaˀnu](疲労困憊しない)。グ˞ク˜シキ　˞ナー˜ヌ [guˀku˜ʃiki ˞naːˀnu](疲労困憊した)。グ˞ク˜スク　˜クトー　˞ナー˜ヌ [guˀku˜su̥ku ˜ku̥to: ˞naːˀnu](疲労困憊することはない)。グ˞ク˜シケー　˜ミサムヌ [guˀku˜ʃi̥keː ˜misamunu](疲労困憊すればよいのに)。グ˞ク˜シキ [guˀku˜ʃi̥ki](疲労困憊しろ)。

ク˞クダカ [ku̥ˀkudaka] 【名】こくだか (石高)。米など穀類の生産高。˞リュー˜アンティ　˞スー˜　ヒ˞リョー˜ヌ　ン˞ズ˜ター　ユ˞ヌ˜　ターラヌ　˞マイヌ˜　ク˞クダカー　ゴー˜ラー　ナ˞リ˜ブー [˞rjuːˀʔanti ˞suː˜ çiˀrjoːˀnu ʔnˀʤuˀtaː juˀnu˜ taːranu ˞mainu˜ ku̥ˀkudakaː goː˜raː naˀriˀbuː](硫安という肥料が出たので同じ田からの米の石高は多くなっている)。

ク˞ク˜チ [ku̥ˀku˜ʧi] 【名】心地。気分。ウ˞ルズン˜ヌ　˜シチン　˞ペー˜リ　˞イー　ククチ　イー˜　パ˞ダム˜チ　˜ナリ　˞キー˜ブ [ʔuˀruʤunˀnu ˜ʃi̥ʧi ˞peːˀri ˞ʔiː˜ ku̥ˀkutʃi ʔiː˜ paˀdamu˜ʧi ˜nari ˞kiːˀbu](初夏の季節に入り、いい気分、いい肌具合＜肌持ち、肌触り＞の季節になってきている)。

ク˞クヌ˜カ [ku̥ˀkunu˜ka] 【名】九日。ウ˞ビ˜ヌ　˞ター˜ヤ　ク˞クヌ˜カシン　˞タンガ˜シェー　˞カイサラ˜ヌ [ʔuˀbiˀnu ˞taːˀja ku̥ˀkunu˜kaʃin ˞taŋgaˀʃeː ˞kaisara˜nu](あれだけの田は九日でも一人では耕されない)。

ク˞クヌ˜ク [ku̥ˀkunu˜ku] 【名】九個。ク˞ヌッ˜ク [ku ˞nuk˜ku] ともいう。「ここの・こ。大欲寸　九　児等哉＜おほほしき　ここの児らや＞。万、3794」の義。˞コー˜マー　ク˞クヌ˜ク　ヌ˞カ˜リ　˞ベー˜ン [˞koːˀmaː kuˀkunu˜ku nuˀkaˀri ˞beːˀŋ](卵は九残っている)。

ク˞クヌ˜シチ [ku̥ˀkunu˜ ʃi̥ʧi] 【連】穀雨の季節。二十四節気の一つ。清明の次の季節で春の季節の最後。四月廿日頃。春雨が降って百穀を潤す意味があるという。ク˞クヌ˜　シチン　˞ペー˜ローレーチバ　ウ˞ロイ˜ヌン　ア˞リ˜ス　˜パジ [ku̥ˀkunu˜ ʃi̥ʧim ˞peːˀroreːʧiba ʔuˀroiˀnuŋ ʔaˀriˀsu ˜paʤi](穀雨の季節に入られたので恵の雨＜潤い＞もあることでしょう)。

ク˞クヌ˜チ [ku̥ˀkunu˜ʧi] 【名】九つ。九歳。ク˞ヌ˜チ [ku ˞nu˜ʧi](九つ) ともいう。ク˞ヌ˜　ナカーラ　ク˞クヌ˜チェー　˜バキトゥリバ [kuˀnu˜ nakaːra ku̥ˀkunu ˜ʧeː ˜bakituriba](この中から九つは分けて取りなさい)。˜トゥシェー　ク˞トゥシ˜　ク˞クヌ˜チ　ナルン˞ダー [˜tuʃeː ku̥ˀtuʃi˜ ku̥ˀkunu˜ʧi narunˀdaː](年は、今年で九歳になるよ)。

ク˞クヌ˜チン [ku̥ˀkunu˜ʧiŋ] 【名】九つ。九個。ここの・つ (箇)。ム˞チェー˜　ク˞クヌチン˜ナー　カ˞ザリ˜バ [muˀʧeː˜ ku̥ˀkunuʧin˜naː kaˀʤariˀba](餅は九つずつ供えなさい)。

ク˞クヌ˜トゥグンジュー [ku̥ˀkunu˜tuguntʤuː] 【名】四十九歳。厄年といわれて、厄払いと健康祈願が行われた。また人頭税時代には、成人としての納税の義務を果たす最後の年で人生の重要な境目であった。ム˞カ˜シェーク˞クヌ˜トゥグンジューヌ　˞ヨイ˜ヤー　ヤー˞ディン　シーソーッ˜タ [muˀka˜ʃeː ku̥ˀkunu˜tuguntʤuːnu ˞joiˀjaː jaːˀdiŋ ʃiːsoːt˜ta](昔は四十九歳の生年祝い＜厄払いと健康祈願＞は必ずなさった)。

ク˞クムン [ku̥ˀkumuŋ] 【他動】口に含む。口の中に含ませる。フ˞チ˜ナ　ク˞クムンティ　スンドゥ˜　フ˞チヌ˜　ヤミティ　ク˞クマラヌ [ɸu̥ˀʧiˀna ku̥ˀkumunti sundu˜ ku̥ˀkumaranu](口に含もうとするが、含まれない)。フ˞チ˜ナ　ク˞クミ˜　ミサカー　ク˞クム˜　クトー　˜ナルン [ɸu̥ˀʧiˀna ku̥ˀkumi˜ misakaː ku̥ˀkumu˜ ku̥toː ˜naruŋ](口に含んで良ければ含むことは出来る)。˞マー˜ビン　ク˞クメー˜　ミサムヌ [˞maːˀbiŋ ku̥ˀkumeː˜ misamunu](もっと含めばいいのに)。ク˞クミ [ku̥ˀkumi](含め)。

グ˞クラ˜ク [guˀkuraˀku] 【名】1極楽。極楽浄土。全く苦患＜くげん＞のない安楽な世界で念仏行者は死後にそこに生まれるという。˞イークトゥ　スー˜カー　グ˞クラ˜ク　パ˞ラ˜リンツォー [˞ʔiːkutu suː˜kaː guˀkuraˀku paˀraˀrintsoː](善行をつめば極楽に行け

るそうだ)。2極楽往生すること。成仏すること。グ˞クラ˜ク　˞ソー˜リ˞ヨー [go˞kura˜ku ˞so:˜ri˞jo:](極楽往生＜成仏＞してくださいよ)。

ク˞ク˜ル [ku˞ku˜ru] 【名】1心。「心、ココロ、五臓之一也」『色葉字類抄』。意思のはたらき。˞イーククル [˞ʔi:kukuru](良い心)。ヤ˞ナククル [ja˞nakukuru](悪い心)。ク˞クル˜ウチ [kṵ˞kuru˜ʔutʃi](心中、内心。胸中)。2望み。こころざし (志)。意向。「多麻可豆良　多延武能己許呂＜玉蔓　絶えむの心＞〜」『万、3507』の義。「世の中の人これを例にてこころ高くなりぬべき頃なめり」『源氏物語　若菜下』。/イヤイーヤ　ピトゥヌイヌチヤ　サンアティナランサ　ヌチヌアリワドゥ　チムヌウムティン　ククルヌアルティン　ジュージューサマザマ　カナワティイカリサ　ナマヌパヤシニ　クドゥキユミユミ/(いやいや＜弥弥＞、人の命は予測できる＜計算して頼れる＞ものではないよ。命があればこそ希望や望み、意志があるのも、いろいろとその形にに叶えていけるものだ。今の囃子に口説きを歌おうよ)＜鳩間口説＞『鳩間島古典民謡古謡集』。

ク˞クル˜アティ [ku˞kuru˜ʔati] 【名】心当て。心積もり。心中にあてにすること。心に思って頼みにすること。シゥカイ˞トゥ˜　ヤ˞クスコー˜　ナ˞ラ˜ヌヌ　˞ピー˜チ　ク˞クルアティ˜ヌ　˜アン [sị̥kai˞tu˜ ja˞kusṵko:˜ na˞ra˜nunu ˞pi:˜tʃi kṵ˞kuruʔati˜nu ˜ʔaŋ](しかとは約束は出来ないが、一つ心当てがある)。

ク˞クル˜ウチ [kṵ˞kuru˜ʔutʃi] 【名】心中。内心。心の中。胸中。石垣方言からの借用語か。老年層は、キ˞ム˜ウチ [ki˞mu˜ʔutʃi](心中。˞肝内」の義) という。ク˞クル˜ウチナー　ウ˞ムイ˜ル　˜クトー　ムー˞ル˜　パ˞ナ˜シ　˜ミリバ [kṵ˞kuru˜ʔutʃina: ʔu˞mui˜ru ˜kuto: mu:˞ru˜ pa˞na˜ʃi ˜miriba](胸中に思っていることを全部話してみなさいよ)。

ク˞クルガー˜リ [kṵ˞kuruga:˜ri] 【名】心変わり。変心すること。愛情が他の人に移ること。老年層はキ˞ムンガー˜リ [ki˞muŋga:˜ri](心変わり) という。ユ˞ミ˜　トゥル　ヤ˞クスク　シー˜　シケータンドゥ　ク˞クルガー˜リ　˞シー　ナーン˜ツォー [ju˞mi˜ turu ja˞kusuku ʃi:˜ ʃị̥ke:tandu kṵ˞kuruga:˜ri ˞ʃi: na:n ˜tso:](嫁を取る約束をしてあったが、心変わりしてしまったそうだ)。

ク˞クルガ˜キ [kṵ˞kuruga˜ki] 【名】心掛け。心構え。標準語からの転訛。老年層は、キ˞ム˜ヌ　ム˞ティ˜ヨー [ki˞mu˜nu mu˞ti˜jo:](心掛け。「肝の持ち様」) という。˞ウイ˜プス　ウ˞ヤマイル˜　ク˞クルガキ˜ヌ　˞ナーン˜カー　ユ˞ヌナカー˜　マ˞シェー˜　ナ˞ラ˜ヌ [˞ʔui˜pṵsu ʔu˞jamairu˜ kṵ˞kurugaki˜nu ˞na:ŋ˜ka: ju˞nunaka:˜ ma˞ʃe:˜ na˞ra˜nu](年寄り＜老人＞を敬う心掛けがなかったら世の中は良くならない)。

ク˞クルガキ˜ルン [kṵ˞kurugaki˜ruŋ] 【他動】心掛ける。標準語から転訛したもの。老年層は、キ˞ム˜バ　˜ムトゥン [ki˞mu˜ba ˜mutuŋ](心掛ける。「肝を持つ」) という。˞ピントゥルピン˜　ア˞サ˜ニビ　˞サン˜ヨー＜サ˞ヌ˜ヨー＞　ク˞クルガキ˜ルン [˞pintu-rupiŋ˜ ʔa˞sa˜nibi ˞saŋ˜jo: ＜sa˞nu˜jo:＞ kṵ˞kurugaki˜ruŋ](毎日朝寝坊をしないよう心掛ける)。ク˞クルガキラ˜ヌ [kṵ˞kurugakira˜nu](心掛けない)。ク˞クル˜ガキティ [kṵ˞kuru˜gakiti](心掛けて)。ク˞クルガキ˜ル　˜クトゥ [kṵ˞kurugaki˜ru kutu](心掛けること)。ク˞クルガキ˜レー　˜ミサムヌ [kṵ˞kuruga˜ke: misamunu](心掛ければよいのに)。ク˞クルガキ˜リ [kṵ˞kurugaki˜ri](心掛けよ)。

ク˞クル˜ザシ [kṵ˞kuru˜ʤaʃi] 【名】1志。目標。標準語から転訛したもの。老年層は、ヌ˞ズミ [nu˞ʤumi](志。「望み」) という。バ˞カーン˜ケンマー　ク˞クルザ˜シェー　マ˞ギーマギー˜シ　˜ムティ　˞アー˜キ [ba ˞ka:ŋ˜kemma: kṵ˞kuruʤa˜ʃe: ma˞gi:magi:˜ʃi ˜muti ˞ʔa:˜ki](若い時には志は大きく持っておれ＜あるけ＞)。2厚意。気持ちばかり。寸志。シン˞トゥヌ˜　ク˞クルザ˜シ　ヤ˞レースヌ　ヨイ˜ヌ　キ˞ムチ˜ユー [ʃin˞tunu˜ kṵ˞kuruʤa˜ʃi ja˞re:sunu joi˜nu ki˞mutʃi ˜ju:](ほんの心許りのもの＜寸志＞ですがお祝いの気持ちです)。

ク˞クルミ˜ルン [kṵ˞kurumi˜ruŋ] 【他動】試みる。ためしてみる。老年層は、タ˞ミ˜スン [ta˞mi˜suŋ](試す) を多用する。˞ヌー˜ル　シゥ˞カイヤッ˜サユー　シゥ˞カイ˜　ク˞クルミ˜ルンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　˜クナーテー　ク˞クルミララ˜ヌ [˞nu:˜ru sị̥˞kaijas˜saju: sị̥˞kai˜ kṵ˞kurumi˜runti ʔu˞mu:n˜du ˜kuna:te: kṵ˞kurumirara˜nu](何が使いやすいか、使って試みようと思うが、此処では試みられない)。

ク˞クルム˜チ [kṵ˞kurumu˜tʃi] 【名】1性格。性情。標準語から転訛したもの。老年層は、シ˞ムチ [ʃi˞mutʃi](性格。「肝持ち」) という。˞イー˜　ク˞クルムチヌ˜　プ˞ス [˞ʔi:˜ kṵ˞kurumutʃinu˜ pṵ˞su](よい性格の人)。ヤ˞ナ˜　ク˞クルムチ˜　ス˞カウナ＜ム˞トゥ˜ナ＞[ja˞na˜ kṵ˞kurumutʃi˜ sị̥˞kauna ＜mu˞tu˜na＞](悪意＜悪い性格＞を持つな＜使うな＞)。2ほんの少し。やや。標準語から転訛したもの。ク˞クルム˜チ＜ン˞メーマ＞　˞ヤン˜マー　ピ˞ケー˜ン [kṵ˞kurumu˜tʃi ＜m

ˈmeːma＞ ˈjamˈmaː pi̥ˈkeːˈŋ](ほんの少し＜心持＞痛みは減った＜ひいた＞)。

ˈクサ [ˈku̥sa] 【名】フィラリア。象皮病。「Cusa. クサ (くさ) 突然に起こる熱病のような病気. 下の語. 例 Cusauo furu.(くさを震う) このような病気にかかる. Ximogusa. (下ぐさ) 股根 (ももね) とか睾丸とかにできる腫物のような病気. 婦人の間で Camicusa(上くさ) と言うのは、頭痛のことである.」『邦訳日葡辞書』。ˈシーˈクサ [ˈʃiːˈku̥sa](乳房が赤くはれるフィラリア症)。ˈクサ　ウˈクˈルン [ˈku̥sa ʔuˈkuˈruŋ](フィラリア症が発症する＜起こる＞)。

グˈサーˈク [guˈsaːˈku] 【名】五勺。容積の単位。一合の半分。お米を計量するのに用いる。イˈチンゴーナカムルˈバ　カˈトンカˈシティ　グˈサーˈコー　パˈカˈローッタ [ʔiˈtʃiŋgoːnakamuruˈba kḁˈtoŋkaˈʃi̥ti guˈsaːˈkoː pḁˈkaˈroːtta](一合枡を 45 度斜めに傾けて五勺の分量は計られた)。

グˈサークˈマイ [guˈsaːkuˈmai] 【名】五勺米。ˈプーˈル [ˈpuːˈru](豊年祭) やキˈチゴン [ki̥ˈtʃigoŋ](結願祭) などの神行事に各家庭より十五歳以上の人数分供出するパˈナンˈグミ [paˈnaŋˈgumi](花米)。

グˈサークˈマイ [guˈsaːkuˈmai] 【名】五勺米。村の神行事のために各戸から、その家の八歳以上の家族の人数分徴収される米のこと。グˈサークマイˈヤー　キˈザルヌˈ　マイナー　ヤˈクˈサンケール　アˈツァˈモーッタ [guˈsaːkumaiˈjaː kiˈʤarunuˈ mainaː jaˈkuˈsaŋkeːru ʔaˈtsaˈmoːtta](五勺米は行事の前に村役人たちが＜ぞ＞徴収され＜集められ＞た)。神行事のパˈナンˈグミ [paˈnaŋˈgumi](花米) に使用され、祭祀の終了後、ムˈラヤクサ [muˈrajakusa](村の役人) たちによって、イˈチˈヤマ [ʔiˈtʃiˈjama](五箇所の御嶽) のサˈカサ [sḁˈkasa](司) に配分された。豊年祭には、各ˈウガン [ˈʔugaŋ](御嶽。お願) において祈願が行われるので、グˈサークˈマイ [guˈsaːˈkumai] も事前に各ˈウガン [ˈʔugaŋ] にはいぶんされる。グˈサークマイˈヤー　ˈヤーカーˈジェーラヤˈクˈサンケーヌ　アˈツァˈモーッタ [guˈsaːkumaiˈjaː ˈjaːkaːˈʤeːra jaˈkuˈsaŋkeːnu ʔaˈtsaˈmoːtta](五勺米は各家から村役人達が集められた)。

クˈサーテー [ku̥ˈsaːteː] 【名】右手を背中の後ろへ持っていき、その手を更に右方へ捻り回すようにして物品を霊界のものに手渡すこと。人間に対する行為としては禁じ手である。「腰手へ」の転訛したものか。幼児が無意識に、ふざけてクˈサーテーを使うと、祖父母に厳しく咎められ、ˈティーダラˈシ [ˈtiːdaraˈʃi](手を叩くこと) された。クˈサーテーˈニ　ムˈヌˈバ　トゥˈラˈス　ムノー　アˈラˈヌ [ku̥ˈsaːteːˈni muˈnuˈba tuˈraˈsu ˈmunoː ʔaˈraˈnu](手を腰の後ろから右方に回して他人に物を手渡すものではない)。

クˈサイルン [ku̥ˈsairuŋ] 【他動】1道路や畦道の除草をして整備する。不要なものを除去して整える。こしらえる (拵える)。整える。「誘、古之良布 (こしらふ)」『華厳経音義私記』の転訛したもの。ˈミチクˈサイルン [ˈmitʃi ku̥ˈsairuŋ](道の草を刈り、雑木の枝を落として道路を修理、整備する)。アˈザˈバライ　シˈティ　ターˈヌ　ˈアザ　クˈサイルン [ʔaˈʤaˈbarai ʃi̥ˈti taːˈnu ˈʔaʤa ku̥ˈsairuŋ](畦の草刈りをして田の畦を修理、整備する)。2砂糖黍などの葉や節の皮などを落としてきれいに整える。ˈシンˈザ　クˈサイティˈ　ムˈルムルˈ　スˈコーリ [ˈʃinˈʤa ku̥ˈsaitiˈ muˈrumuruˈ su̥ˈkoːri](砂糖きびの皮を落としてきれいに整え、ムルムルを準備しなさい)。

クˈサウン [ku̥ˈsauŋ] 【他動】拵える。魚を捌く。手を加えて仕上げる。「拵へ＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。ˈドゥーシ　イˈゾーˈ　クˈサウン [ˈduːʃi ʔiˈʤoːˈ ku̥ˈsauŋ](自分で魚を捌(サバ)く)。ˈシンˈザ　クˈサウン [ˈʃinˈʤa ku̥ˈsauŋ](砂糖きびを拵える)。クˈサウˈ　クトゥ [ku̥ˈsauˈku̥tu](拵えること)。ˈバー　クˈサーヌ [ˈbaː ku̥ˈsaːnu](私は捌かない)。クˈサイˈプサン [ku̥ˈsaiˈpu̥saŋ](捌きたい)。イˈズˈ　クˈサウˈ　プˈソーˈ　ブˈラーヌ [ʔiˈʤuˈ ku̥ˈsauˈ pu̥ˈsoːˈ buˈraːnu](魚を捌く人はいない)。ˈワーˈ　クˈサイヤーˈ　ミサムヌ [ˈwaːˈ ku̥ˈsaijaːˈ misamunu](君が捌けばよいのに)。ˈシンˈザ　クˈサイ [ˈʃinˈʤa ku̥ˈsai](砂糖きびの枯葉や鬚を落としてきれいに拵えなさい)。

ˈクサクサー　ˈスン [ˈku̥saku̥saːˈsuŋ] 【連】くしゃくしゃする。思い通りにことが運ばず、不愉快になる。ˈドゥーˈヌ　ˈウムイドゥール　ナˈラˈン　ˈベーˈティ　ˈクサクサー　ˈシーˈ　プˈスバˈ　イˈジッツァーシ　ベー [ˈduːˈnu ˈʔumuiduːru naˈraˈm ˈbeːˈti ˈku̥saku̥saːˈ ʃiːˈ pu̥ˈsubaˈ ʔiˈʤittsaːʃi beː](自分の思い通りに出来ないので、くしゃくしゃして、訳もなく他人を叱り散らしている)。

クˈサティ [ku̥ˈsati] 【名】うしらだて (後ろ盾)。「腰当」の義。/クモマティル　シマヤ　カフヌシマヤリバ　ウフダキバ　クサティ　シルパマ　マイナシ/(小浜という島は果報の島であるから　大嶽を腰当にし、白浜を前面にして)「小浜節」『八重山

民謡誌』　。

クˈサティー [kʉˈsati:] 【名】うしろで (後ろ手)。両手を背にまわすこと。ˈアブジェー　ˈティーˈヤ　クˈサティーˈ　ナシティ　パˈタキˈヌ　ˈミーマール　シーオーˈル [ˈʔabuʤeːˈtiːˈja kʉˈsatiˈ naʃi̥ti pḁˈtakiˈnu ˈmiːmaːru ʃiːoːˈru](お祖父さんは両手を腰にして畑の見回りをしておられる)。

クˈサマキカーˈマキ [kʉˈsamakikaːˈmaki] 【副】ひねくれ (捻くれ) て憤慨するさま。ねじけ (拗け) て怒るさま。拗けて自暴自棄になるさま。イˈザリターˈ　クˈサマキカーˈマキ　ˈシーˈ　シラー　フˈクリティ　ウーカˈヌ [ʔiˈʤaritaːˈ kʉˈsamakikaːˈmaki ˈʃiːˈ ʃiraː ɸʉˈkuriti ʔuːˈkanu](叱られたので捻くれて憤慨し、顔を膨らませて怒って動かない)。

クˈサマキˈムニ [kʉˈsamakiˈmuni] 【名】ひねくれた物言い。ねじけ (拗け) て、不平がましく、人の言う事を聞かない物言い。癪に障るような物言い。クˈサˈムニ [kʉˈsaˈmuni] ともいう。クˈサマキˈムニ　カーˈニˈ　イˈジˈ　ウˈヤˈヌ　ˈムニーン　シゥˈカヌ [kʉˈsamakiˈmuni kaːˈniˈ ʔiˈʤiˈ ʔuˈjaˈnu ˈmuniːn si̥ˈkanu](ひねくれた物言いだけ言って、親の言うことも聞き入れない)。

クˈサマˈクン [kʉˈsamaˈkuŋ] 【自動】ひねくれて憤慨する。癪にさわって、ねじけ (拗け) る。思うようにいかず、すね (拗ね) て怒る。ˈドゥク　イˈズˈカー　クˈサマˈクンダー　イˈズナˈヨー [ˈduku ʔiˈʤuˈkaː kʉˈsamaˈkundaː ʔiˈʤunaˈjoː](あんまり叱るとねじけ＜拗け＞て怒るから、叱るなよ)。クˈサマカˈヌ [kʉˈsamakaˈnu](拗(ネジ)けて怒らない)。クˈサマˈキティ　ˈムニーン　イˈザヌ [kʉˈsamaˈkiti ˈmuniːŋ ʔiˈʤanu](拗けて怒ってものもいわない)。クˈサマˈク　ˈクトーˈナーˈヌ [kʉˈsamaˈku ˈkʉto: ˈnaːˈnu](拗けて怒ることはない)。ˈマーˈビン　クˈサマˈケーˈミサムヌ [ˈmaːˈbiŋ kʉˈsamaˈkeː ˈmisamunu](もっと拗けて怒ればいいのに)。クˈサマˈキ [kʉˈsamaˈki](拗けて怒れ)。

クˈサラー [kʉˈsaraː] 【名】 (動) 魚の名。和名、ニジョウサバ (体長約 60 センチ)。

グˈザラー [guˈʤaraː] 【名】小者。取るに足りない小さなもの。ˈグザラーヌ　ˈメーヌ　アˈツァˈマリ　ˈベーˈヌ　ˈノーンガサ　シンˈギサ　ˈフージユン [ˈguʤaraːnu ˈmeːnu ʔaˈtsaˈmari ˈbeːˈnu noːˈŋgasa ʃiŋˈgisaru ˈɸuːʤijuŋ](小者たちが集まっているが、何かをしでかすつもりらしい＜風情だ＞)。

グˈザラーブジェーˈ　クˈムˈル [guˈʤarabuʤeːˈ kuˈmuˈru] 【連】 (海底地名)。グザラー祖父さんの漁場 (礁池)。ニˈシムレー [niˈʃimureː](米盛家) の祖父さんが漁をした所と伝えられている。魚が、グザラグザラと沢山漁獲できたので命名されたという。島中浜のˈピー [ˈpiː](干瀬) よりやや東に寄った所にある大きなクˈムˈル [kuˈmuˈru](礁池)。

グˈザラグザラ [guˈʤaraguʤara] 【副】沢山のものが群がるさま。うようよ。グˈザラグザラˈシ　ˈウジェー　ˈバイティˈ　キˈムフクレーˈヌ　ナˈラˈヌ [guˈʤaraguʤaraˈʃi ˈʔuʤeːˈbaitiˈ kiˈmuɸʉkureːˈnu naˈraˈnu](うようよと蛆が湧いて汚くて我慢できない)。

ˈクサン [ˈkʉsaŋ] 【名】漁法の名。この漁法を糸満の漁師は、ˈヒータマラˈサ [ˈçiːtamaraˈsa] というという。鳩間島のタˈチˈバルパマ [tḁˈʧiˈbarupama](立原浜) からˈピーヌˈクシ [ˈpiːnuˈkʉʃi](干瀬の頂上部) へ続く珊瑚礁 (a coralreef) は左側のˈフンシキ [ˈɸunʃi̥ki] との間に約 40 センチ程の段差がある。そこは干潮時には、海水が滝のように流れ落ちる。満潮時にリーフの頂上部で海草を食べていた魚は引き潮に乗ってフンシキの方へと下がっていく。その自然の流れを利用し、魚網を入れて漁獲する漁法をˈクサン [ˈkʉsaŋ] といい、袋網を入れる水深 1〜2 メートルの礁池をˈクサンクムル [ˈkʉsaŋkumuru](クサン礁池。「籠＜コモリ＞」の義) という。

ˈグサン [ˈgusaŋ] 【名】 1杖。「くにごしやん (国を御する力のある杖)」『おもろ語辞典』。「みごしやん (乾・器材)」『混効験集』。「グサーˈニ」『沖縄今帰仁方言辞典』。「こさんちく (鼓山竹) の略」『石垣方言辞典』。ˈキーˈグサン [ˈkiːˈgusaŋ](木の杖)。タˈキグサン [tḁˈkigusaŋ](竹の杖) 等がある。ˈアブジェーˈグサン　シˈケーˈティル　アˈラコˈール [ˈʔabuʤeːˈgusaŋ ʃi̥ˈkeːˈtiru ʔaˈraˈkoːru](お祖父さんは杖をついて＜ぞ＞歩かれる)。2ˈソーˈラン [ˈsoːˈraŋ](盂蘭盆) の供物として供える砂糖黍の長い棒。お盆の供物を土産として担いで帰る際の天秤棒と言われている。

ˈクサンクムル [ˈkusaŋkumuru] 【名】ˈクサン漁で袋網を設置する礁池をˈクサンクムル [ˈkusaŋkumuru] という。西村のˈクサンクムルはタˈチˈバルパマ [tḁˈʧiˈbarupama](立原浜) のˈズンズン [ˈʤunʤuŋ] の西側にあり、東村のそれは、フˈカバˈカパマ [ɸʉˈkabaˈkapama](外若浜) のˈズンズン [ˈʤunʤuŋ] の南側にある。タˈチˈバルのˈフンシキ [ˈɸuŋʃi̥ki](礁内湖の枝サンゴ地帯) には、ˈウブシケーヌ　ˈアーˈヤ　クˈムˈル [ˈʔubuʃi̥keːnu ˈʔaːˈja kuˈmuˈru](大城

家のお父さんの籠もり池 < 礁池 >)、又は˩クシケーヌ˥　アブジェー　ク˩ム˥ル [˩kuʃi̥keːnu˥ ʔabuʤeː kuˬmu˥ru](小底家のお祖父さんの籠もり池 < 礁池 >) と呼ばれている礁池があり、伝統的にその礁池に袋網を入れてクサン漁をした。シ˩マナカヌ˥　ピー [ʃiˬmanakanu˥ piː](島仲の干瀬) にはグ˩ザラブジェー˥　ク˩ム˥ル [guˬʤarabuʤeː˥ kuˬmu˥ru](米盛家の先祖が袋網を入れて、グザラグザラするほど漁獲したと伝えられる所。ヤ˩トゥ [jaˬtu]< 干瀬の裂け目 > へ繋がる籠もり池) がある。

˥クサンダキ [˥kṵsandaki] 【名】鼓山竹。˩ポー˥キダキ [˩poː˥kidaki](箒竹) ともいう。竹箒に利用された。˥クサンダキシン　タ˩キポーケー˥　ス˩ク˥ローッタン [˥kṵsandakiʃin tạˬkipoːkeː˥ sṵˬku˥roːttaŋ](鼓山竹でも竹箒は作られた)。

ク˩シ [kṵˬʃi] 【名】1腰。背中。背中全体。「腰、許志爾多何祢提 < 腰にたがねて >〜。『万葉集　804』」の転訛したもの。ク˩シヌ˥　ヤミ　ナ˩ラ˥ヌ [kṵˬʃinu˥ jami naˬra˥nu](腰が痛くて堪らない)。ク˩シヌ˥　マ˩ガルン˥ケン　パ˩タ˥キ　˩カイ˥スン [kṵˬʃinu˥ maˬgaruŋ˥kem pạˬta˥ki ˩kai˥suŋ](腰が曲がるまで畑を耕す)。ク˩シヌ　ビー˥ヨーン [kṵˬʃinu biː˥joːŋ](背中が痒い)。2背後。背面。後ろ。˩ヤー˥ヌ　ク˩シ˥ナー　バ˩サン˥ナルヌ　ナリ˩ベー˥ン [˩jaː˥nu kṵˬʃi˥naː baˬsan˥narunu ˥nari ˩beː˥ŋ](家の背後にバナナ < 芭蕉の実 > が生っている)。

˥クジ [˥kuʤi] 【名】1くじ (籤)。神意を占うこと。ウ˩ク˥ジ [ʔuˬku˥ʤi](「御籤」の義。「ウ (御)」は接頭語。神前に祈願し、一掴みの米粒をお膳に置き、対になるよう並べて神意を占うもの)。ウ˩ク˥ジ　バ˩ルン [ʔuˬku˥ʤi baˬruŋ](神意を占う籤を起こす < 割る >)。2事柄を決定するために紙片や竹片に符号を付したものを引き当てること。˥クジ　ピ˩クン [˥kuʤi pi̥ˬkuŋ](籤を引く)。ア˩タリクジ˥　ピ˩キティ　ウーモーキ　シーベ˥ー [ʔaˬtarikuʤi˥ pi̥ˬkiti ʔuːmoːki ʃiːbe˥ː](当たり籤を引き当てて大儲けしている)。ア˩タリクジ [ʔaˬtarikuʤi](当たり籤)。パ˩ギ˥クジ [paˬgi˥kuʤi](外れ籤)。

˥クジ [˥kuʤi]【名】くずこ (葛粉)。でんぷん (澱粉)。˥シトゥ [˥ʃi̥tu](澱粉) ともいう。˩ウンヌ˥クジ [˩ʔunnu˥kuʤi](サツマイモの葛粉)。˩キーウン˥ヌ　˥クジ [˩kiːʔun˥nu ˥kuʤi](キャッサバの澱粉。葛粉)。シ˩トゥッチ˥ヌ　˥クジ [ʃi̥tuttʃi˥nu ˥kuʤi](蘇鉄の実の澱粉。葛粉)。˩ウンヌ˥クジ　˥タリティ　˩ティン˥プラ　ヤ˩キ˥バ [˩ʔunnu˥kuʤi ˥tariti ˩tim˥pura jaˬki˥ba](芋の葛粉を水に溶いてテンプラを揚げ < 焼き > なさい)。

˥グシ [˥guʃi] 【名】酒。特に神仏に供える酒 (神酒) のこと。「御酒」の転訛か。サ˩キ [sạˬki](酒) は酒一般の名称。˥グシ　カ˩ミ˥リ [˥guʃi kaˬmi˥ri](神仏の前に供えた酒を恭しく頭の上まで持ち上げて頂きなさい) という。儀式や改まった場面では、˥グシを用い、日常的場面では、サ˩キを用いる。サ˩キ˥ヌミ [sạˬki˥ numi](酒をのめ)。˩カンヌマイ˥ヌ　˥グシ　ピ˩キ˥キー　˩ヤーニン˥ズーン　カ˩ミシミ˥リ [˩kannumai˥nu ˥guʃi pi̥ˬki˥ki: ˩jaːnin˥ʤuːŋ kaˬmiʃimi˥ri](神前に供えた神酒を下げてきて家族みんなに頂戴 < 両手で持ち、目より高く持ち上げて頂く > させなさい)。

グ˩シ [guˬʃi] 【接尾】〜おきにすること。〜ごとに。「越すこと」の義。時間や日数等を表す数詞に下接して、その数量ずつ間隔を置いて動作、行為が行われ、現象が起きる意をあらわす。歌謡語。日常会話では、˩ゴー˥シ [˩goː˥ʃi](〜おき) という。プ˩スインゴー˥シシ　ア˩ミ˥ヌ　˥フーン [pṵˬsuiŋgoː˥ʃiʃi ʔaˬmi˥nu ˥ɸuːŋ](一日おきに雨が降る)。/ミルクユーヌ　シルシ　トゥカグシヌ　ユアミ　カキブサイ　ミソリ　シマヌアルジ　シマヌアルジ/(弥勒世のしるし < 兆候 > は十日おきに降る夜の雨。その雨を掛け < 降らせ > て下さい神様 < 島の主様 >)。ミリ (ル) クウタ < 弥勒節 >『鳩間島古典民謡古謡集』。

グ˩シ [guˬʃi] 【名】くし (串)。竹串。箸のように先を尖らせた木や竹の切れ端。細長くて物を貫きさすのに用いる物。「堀串 < ふくし >、〜布久思毛與　美夫君志持　此岳爾〜。『万葉集　1』」の転訛。ヤ˩ラビ˥ヌ　グ˩シバ˥　ムテーティ　˩パッツァー˥シ　˥パリ　˩アーク˥ヌ　˩カイ˥ルカー　˥ミー　˩ピッ˥クン˩ダー˥　パ˩ダカウ˥ワワレー [jaˬrabi˥nu guˬʃiba˥ muteːti ˩pattsaː˥ʃi ˥pari ˩ʔaːku˥nu ˩kai˥ruka: ˥mi: ˩pik˥kunˬdaː˥ paˬdakau˥waware:](小児が竹串を持ちながら走っているよ。転ぶと竹串で目を突くぞ。危なっかしくて。鳥肌がたつよ < 肌が痒ゆくてたまらない >)。

グ˩ジ [guˬʤi] 【名】1肉刺(マメ)。˩ティー˥ヌ　グ˩ジヌ　ピッ˥チティ　カ˩ナパイ˥　ムトゥカー　ヤ˩ミ˥ス [˩tiː˥nu guˬʤinu pit˥ʧiti kaˬnapai˥ mutukaː jaˬmi˥su](手の肉刺が潰れて、鍬を持つと痛む)。2たこ (胼胝(タコ))。てのひら (掌) や足の裏などの表皮が激しい作業などの圧迫により角質化して厚くなったもの。˩ティー˥ヌ　グ˩ジ [˩tiː˥nu guˬʤi](手の胼胝(タコ)、肉刺(マメ))。˩パン˥ヌ　グ˩ジ [˩pan˥nu guˬʤi](足裏の胼胝、肉刺)。˥

ティーナ　グ˞ジヌ˥　ン˞ジ˥ルンケン　˞ターパタ˥キ　˞カイシ˥ル　マ˞ナ˥マ　˥ナレー˞ダー [˥tiːna gu˞ʤinu˥ ʔn˞ʤi˥ruŋken ˞taːpata˥ki ˞kaiʃi˥ru ma˞na˥ma nareː˞daː](手に胼胝が出来るほど田畑を耕して今になっているのだよ)。˥ミンナー　グ˞ジヌ　ムイ˥ルンケン　ア˞ジ˥　シゥ˞カスンドゥ˥　ムッ˞トゥ˥　シゥ˞カヌ [˥minnaː gu˞ʤinu mui˥ruŋkeŋ ʔa˞ʤi˥ si̥˞kasundu˥ mut˞tu˥ si̥˞kanu](耳にたこ＜胼胝＞ができるほど話してやる＜言って聞かせる＞が、ちっとも聞き入れようとしない)。

˥グジ **[˥guʤi]** 【名】(植) 樹木の名。デイゴ。˞ズグ [˞ʤugu](デイゴ)＜石垣方言＞の頭子音 [ʤ] と末尾音節の子音 [g] が音位転倒 (metathesis) を起こしたもの。˥グジキー [˥guʤikiː] ともいう。˥グジキーヤ　˞ヤー˥ラーンダ　ウ˞リシ˥ル　˞シー˥シェー　ス˞ク˥ローッタル [˥guʤikiːja ˞jaː˥raːnda ʔu˞riʃi˥ru ˞ʃiː˥ʃeː sṵ˞ku˥roːttaru](デイゴの木は柔らかいから、それで＜ぞ＞獅子頭は作られたのだ)。

ク˞シアミ **[kṵ˞ʃiʔami]** 【名】「腰浴び」の義。夏の暑い時に帯から上の衣服を脱ぎ、上半身水浴びすること。女性がはだぬぎ＜肌脱ぎ＞して前屈みになり、背中に水をかけてもらって水浴びすること。ドゥ˞ク˥ヌ　キ˞クッ˥ツァティ　ク˞シアミシーティル　ベート ダー [du˞ku˥nu ki̥˞kut˥tsati kṵ˞ʃiami ʃiːtiru beːˈ˞daː](あまりにも暑苦しいので、肌脱ぎして上半身水浴びを済ませているんだよ)。

ク˞シェー **[kṵ˞ʃeː]** 【名】後方。背面。ク˞シ [kṵ˞ʃi](背中、後ろ) に接尾辞˞ヤー [jaː](もの、ところ) が下接して形成されたもの。˥マイラン　ク˞シェー˥ラン　シ˞ミラ˥リティ　˞ウーカラ˥ヌ [˥mairaŋ kṵ˞ʃeː˥raŋ ʃi˞miraˈriti ˞ʔuːkara˥nu](前からも後ろからも攻められて動かれない)。

グ˞シェー˥マ **[gu˞ʃeː˥ma]** 【名】小串。爪楊枝。グ˞シェー˥マシ　˞パー˥ヌ　˥ッス　˥トゥルン [gu˞ʃeː˥maʃi ˞paː˥nu ˥ssu ˥turuŋ](小串で歯垢＜はくそ。歯の糞。食べ滓＞を取る)。

ク˞シカキ **[kṵ˞ʃikaki]** 【名】腰掛。標準語からの借用語。普通は、ビ˞リダイ [bi˞ridai](座り台) という。ク˞ヌ˥　ク˞シカキ˥ナー　ビ˞リ˥バ [ku˞nu˥ kṵ˞ʃikaki ˥na: bi˞ri˥ba](この腰掛に座りなさいよ)。

˥グシ　カ˞ミ˥ルン **[˥guʃi ka˞mi˥ruŋ]** 【連】神前に供えた神酒を恭しく頂く。˞カンヌマイ˥ヌ　˥グシ　カ˞ミ˥ルンティ　˞クー˥タ [˞kannumai˥nu ˥guʃi ka˞mi˥runti ˞kuː˥ta](神前に供えた神酒を頂きに＜頂こうと＞来ました)。

˞クシ˥キ **[˞kuʃi̥˥ki]** 【名】戸籍。ッ˞ふァヌ˥　マ˞ル˥カー　ブ˞トゥヌ　クシ˥キナ　˞ヌーサン˥カー　ナ˞ラ˥ヌ [f˞fanu˥ ma˞ruˈka: bu˞tunu kuʃi̥˥kina ˞nuːsaŋ˥ka: na˞ra˥nu](子供が生まれると、夫の戸籍に載せないといけない)。

˞クシ˥キ **[˞kuʃi̥˥ki]** 【名】1甑(コシキ)。蒸籠(セイロ)。米などを蒸すのに用いる器具。旧来の甑はビロー樹 (蒲葵樹) の芯を刳り抜いて筒形の蒸し器につくったものである。「許之伎爾波　久毛能須可伎て『万葉集　892』。甑、古之岐＜こしき＞炊飯器也『和名抄』」の転訛したもの。˥グジクシキ [˥guʤikuʃi̥˥ki](デイゴの幹を刳り抜いて作った蒸し器) やク˞バクシキ [ku˞bakuʃi̥˥ki](蒲葵の幹を刳り抜いて作った蒸し器) を˞シンマイ˥ナビ [˞ʃimmai˥nabi](大鍋。四枚鍋) にア˞ジ˥マー [ʔa˞ʤi˥maː](石臼を載せるに用いる十字形の木の枠) を架けて、その上に載せ、蒸気が漏れないように密閉して米や餅などを蒸し煮した。戦後になって四角い板製の上品な甑も使用された。˞クシ˥キシル　˞プール˥ムチン　˞ネーソーッ˥タ [˞kuʃi˥kiʃiru ˞puːru˥mutʃin ˞neːsoːt˥ta](甑で豊年祭の餅も煮られた)。2甑飯。こわいい (強飯)。˞シンマイ˥ナビナー　˞クシ˥ケー　ビ˞シティ˥　ミ˞ジ˥ナー　フ˞クラシ˥シケー　˞マイバ˥　イ˞リティ˥　フ˞カ˥シティ　˞カシ˥キ　ス˞ク˥ローッタ [ʃimmai˥nabinaː ˞kuʃi̥˥keː biˈʃiti˥ mi˞ʤi˥naː ɸṵ˞kuraʃi˥ʃi̥˞keː ˞maiba˥ ʔi˞riti˥ ɸṵ˞kaʃi̥˞ti ˞kaʃi̥˥ki sṵ˞ku˥roːtta](大鍋＜四枚鍋＞に甑を据えて、水に浸けてふやかしてある米を入れ、蒸かしてこわ飯を炊かれた＜作られた＞)。

˞クシ˥キ **[˞kuʃi̥˥ki]** 【名】戸籍。˞クシ˥キ　˞ヌーシルン [˞kuʃi̥˥ki ˞nuːʃiruŋ](戸籍に載せる。戸籍に入れる)。˞クシ˥キ　˞ヌースン [˞kuʃi̥˥ki ˞nuːsuŋ](戸籍に載す＜下二段に対応＞) ともいう。ッ˞ふァヌ˥　マ˞ルター　クシ˥キ　˞ヌーシン˥　イ˞サンケー　パッ˥タ [f˞fanu˥ ma˞ruta: kuʃi̥˥ki ˞nuːʃiŋ˥ ʔi˞saŋke: pat˥ta](子供が生まれたので入籍届けに＜戸籍に載せに＞石垣島へ行った)。˞クシ˥キ　˥ヌグン [˞kuʃi̥˥ki ˥nuguŋ](戸籍を抜く)。

˥グジキー **[˥guʤikiː]** 【名】デイゴの木。˥グジキーヤ　サ˞カリパヤー˥ン [˥guʤikiːja sạ˞karipajaː˥ŋ](デイゴの木は成長が早い)。

˞クシキルン **[˞kuʃi̥kiruŋ]** 【他動】1腰紐に差し込んで着る。したひも (下紐) に差し込む。˥ウシンチ— [˥ʔuʃintʃiː] ともいう。フ˞クベー　˞サンドー˥シ　˞クシキリ˥バ [ɸṵ˞ku˥be: ˞sandoː˥ʃi ˞kuʃi̥kiri˥ba](帯びはしないで腰に差し込めよ)。˞クシキルンティ　ベ

ー˥ヌンドゥ　˩クシキラランバン [˩kuʃi̥kirunti beː˥ nundu ˩kuʃi̥kiraramban̪ŋ](腰に差し込もうとするんだが、差し込まれない)。2腰に携える。腰に差して携帯する。引っ提げる。ヤ˩マー˥　パルカー　ヤー˩ディン˥　ヌ˩キル˥トゥ　ヤ˩マンガラシ˥バー　˩クシキ˥パリ [ja˩maː˥ paruka: jaː˩din˥ nu˩kiru˥tu ja ˩man̪garaʃi˥ba ˩kuʃi̥ki˥pari](山へ行くなら必ず鋸と山刀を携帯して＜腰に差して＞行け)。˩クシキラヌ [˩kuʃi̥kiranu](腰に差さない)。˩クシキル˥　バス [˩kuʃi̥kiru˥ basu](腰に差すとき)。˩クシキレー˥　ミサムヌ [˩kuʃi̥kireː˥ misamunu](腰に差せばよいのに)。˩パー˥ク　˩クシキリ [˩paː˥ku ˩kuʃi̥kiri](早く腰に差せ)。

ク˩シクイ [ku̥˩ʃikui] 【名】1田植えなどの「ゆい (結)」でする農作業の仕事納めに酒食をともにして互いの労苦をねぎらうこと。仕事納めの慰労会。「腰・憩い」の転訛したもの。˩マイイビン˥　シ˩マ˥シェーチバ　˥ニカー　マー˩ズン˥　ク˩シクイ　ソー˥ラ˩ナー [˩maiʔibin ʃi˩ma˥ʃeːtʃiba ˥nikaː maː˩dʑuŋ˥ ku̥˩ʃikui soː˥ra˩naː](田植えも済ませましたから、今夜は一緒に仕事納めの慰労会をしましょうよ)2休憩。腰休め。中休み。˩イットゥ˥ケー　˩ティー˥ヤ　ウ˩ツァ˥ナイ　˩オー˥リティ　ク˩シクイ　ソー˥リバ [˩ʔittu ˥keː ˩tiː˥ja ʔu˩tsa˥nai ˩ʔoː˥riti ku̥˩ʃikui soː˥riba](いっとき＜一時＞手を休めて＜手をおいて＞おかれて、お休みをなされませ)。

˥グジクシキ [˥gudʑikuʃi̥ki] 【名】デイゴの木で作った甑。˥グジクシキバ　˩シンマイ˥ナビナー　ビ˩シティ　カシ˥キ　ア˩ガラソーッ˥タ [˥gudʑikuʃi̥kiba ˩ʃimmai˥nabinaː biʃiti kaʃi̥˥ki ʔa˩garasoːt˥ta](甑を大鍋＜四枚鍋＞に据えて、おこわ＜蒸し飯＞を蒸しかしいだ＜炊いだ＞)。

˥クジ　ク˩バー˥ン [˥kudʑi ku˩baː˥ŋ] 【連】籤運が悪い。

˥グシクビン [˥guʃikubiŋ] 【名】神仏に供える神酒や酒を入れる小瓶。「御酒小瓶」の転訛したもの。錫合金製のカ˩ニクビン [ka˩nikubiŋ](金属製の小瓶)、陶製のクビン [˥kubiŋ](小瓶)、首の細長い、チ˩ルビン [tʃi˩rubiŋ](鶴瓶)、カ˩ザリクビン [ka˩dʑarikubiŋ](飾り小瓶) 等があった。˥グシクビンナ　˥グシ　イ˩リティ˥　マ˩チ˥バ [˥guʃikubinna ˥guʃi ʔi˩riti˥ ma˩tʃi˥ba](御酒瓶に神酒を入れて供え＜祀り＞なさい)。ア˩サクビン [ʔa˩sakubiŋ](神事や法事に供物の酒を入れる、裾の広がった瓶) などがある。˥グシクビンナー　˥グシ　イ˩リティ˥　マ˩チ˥バ [˥guʃikubinnaː ˥guʃi ʔi˩riti˥ ma˩tʃi˥ba](酒を入れて供える瓶に酒を入れてお供えしなさい)。

˩クシケー [˩kuʃi̥keː] 【名】屋号。小底太郎氏宅。鳩間島西村の網元の家。小底家を中心にして˩シン˥カ [˩ʃiŋ˥ka](組員。メンバー) を集め、シ˩ナカキ˥ヤー [ʃi˩nakaki˥jaː](追い込み漁) をされた。タ˩チ˥バル [tḁ˩tʃi˥baru](立ち原) の˩フンシキ [˩ɸuŋʃiki] に˩クシケー　アー˥ヤ　ク˩ム˥ル [˩kuʃi̥keːnu ʔaː˥ja ku˩mu˥ru](小底家のお祖父さんの籠もり池＜礁池＞) という漁場がある。ピ˩ナイウガン [pi˩naiʔugan̪ŋ](鬚川御嶽) の北向かいにある。˩クシケヌ　アンタヌ˥　ビ˩チ˥ロー　˩カンダカーン˥ツォー [˩kuʃi̥kenu ʔantanu˥ bi˩tʃi˥roː ˩kandakaːn˥tsoː](小底家の東庭のビチル＜賓頭蘆＞は霊威が高い＜神高い＞そうだ)。

˩クシケーヌ　サン˥ドーザーテー [˩kuʃi̥keːnu san˥doːdʑaːteː] 【連】屋号。小底三戸氏宅。˩ウン˥ネーヤ　˥ウブシケーヌ　˩アー˥ネール　˥ナリ　˩ブー [˩ʔun˥neːja ˥ʔubuʃi̥keːnu ˩ʔaː˥neːru ˥nari ˩buː](その家は大城博氏家の東隣に＜ぞ＞なっている)。

˥クジ　˩コー˥ン [˥kudʑi ˩koː˥ŋ] 【連】籤運が悪い。籤が当らない。「籤・硬い」の義。˥バー　˥クジ　˩コー˥ユンダ　˩ワール˥　クジ　ピ˩クモー˥　マ˩シ [˥baː˥ kudʑi ˩koː˥junda ˩waːru˥ kudʑi pi̥˩kumoː˥ ma˩ʃi](私は籤運が悪いので、君が籤を引いたほうが良い＜ましだ＞)。

˥クジ　˩コー˥ン [˥kudʑi ˩koː˥ŋ] 【連】くじ＜籤＞運が悪い。籤がなかなか当らない。「籤・強し」の義。老年層は、˥クジ　ク˩バー˥ン [˥kudʑi ku˩baː˥ŋ](籤運が強し) という。˥クジ　˩ヤー˥ラーン [˥kudʑi ˩jaː˥raːŋ](籤運が柔い。よく籤に当たる)、˥クジ　ヤ˩バー˥ン [˥kudʑi ja˩baː˥ŋ](籤運が柔い) と同義語。˥クジ　˩コー˥ンダ　˥バー　˥クジ　ピ˩カヌ [˥kudʑi ˩koː˥nda ˥baː ˥kudʑi pi̥˩kanu](籤運が悪いので私は籤を引かない)。

˥グシゾーグ [˥guʃidʑoːgu] 【名】酒上戸。酒好き。「御酒上戸」の義。ク˩レー˥　グシゾーグ　ギュー˩サ˥　ヌ˩マサ˥バン　タ˩ラーヌ˥　バ˩リカミ [ku˩reː˥ guʃidʑoːgu gjuː˩sa˥ nu˩masa˥ban ta˩raːnu˥ ba˩rikami](これ＜この人＞は酒上戸だ。いくら飲ませても足りない。割れ瓶(カメ)同然だ)。

˥クジ　˥タルン [˥kudʑi ˥taruŋ] 【連】澱粉を溶かして煮る。˥クジ　˥タリティ　˩ヌー˥ル　ッ˩ふァーシ˥　シ˩ビシキ˥バ [˥kudʑi ˥tariti ˩nuː˥ru f˩faːʃi˥ ʃi˩biʃi̥ki ˥ba](澱粉を溶かして煮て、糊をつけてくっつけなさいよ)。

クˈシナカ **[kṵˈʃinaka]** 【名】背中。背の中央。クˈシナカ ˺ナー　アˈシブ˺ヌ　˺ンジティ　ヤˈミ˺ス [kṵˈʃinaka ˺naː ʔaˈʃibu˺nu ˺ʔnʤiti jaˈmi˺su](背中に御出来がでて痛むよ)。クˈシナカ　ビーワ˺ヌ＜ビーヨー˺ヌ＞　˺ガジ　ッˈふィーリ [kṵˈʃinaka biːwa˺nu ＜biːjoː˺nu＞ ˺gaʤi fˈfiːri](背中が痒いので掻いてくれ)。ムˈカ˺シェー　ヤˈラ˺ベー　クˈシナカ˺ナー　カˈサナイ˺ヤーティル　フˈドゥバシタル [muˈka˺ʃeː jaˈra˺beː kṵˈʃinaka˺naː kạˈsanai˺jaːtiru ɸuˈdubaʃitaru](昔は、子供は背中に背負いながら育て＜成長させ＞たものだ)。

クˈシ˺　ヌˈバ˺スン **[kṵˈʃi˺ nuˈba˺suŋ]** 【連】腰を伸ばす。ˈコー˺グ　˺ナリ　ˈベー˺ティ　クˈシ˺　ヌˈバ˺スンティ　ˈスンドゥ˺　ヌˈバサラ˺ヌ [ˈkoː˺gu ˺nari ˈbeː˺ti kṵˈʃi˺ nuˈba˺sunti ˈsundu˺ nuˈbasara˺nu](せむし＜脊柱後湾＞になっているので、腰を伸ばそうとするが、伸ばされない)。

クˈシパダカ **[kṵˈʃipadaka]** 【名】もろはだぬぎ (諸肌脱ぎ)。上半身裸になること。ナˈチェー˺　アツァユンダ　クˈシパダカ˺　ナレーティル　シˈグトー˺　シˈタル [naˈʧeː˺ ʔatsajunda kṵˈʃipadaka˺ nareːtiru ʃi ˈgutoː˺ ʃi̥ˈtaru](夏は暑いから諸肌脱いで仕事をしたものだ)。

˺グシパナ **[˺guʃipana]** 【名】神仏に供える酒と花米。「御酒花」の義か。神事や仏事の際に供えられる。酒は白磁製のˈカン˺ビン [ˈkam˺biŋ](燗壜) にいれ、白紙を折って蓋をしたものをˈイッチー [ˈʔitʧiː](一対)、パˈナン˺グミ [paˈnaŋ˺gumi](花米) はジˈブ˺ク [ʤiˈbu˺ku](重箱) 一枚に米一合、叉は三合、五合、九合のように入れたもの。他に、ウˈブ˺グシ [ʔuˈbu˺guʃi](祝儀用の神酒。大酒)、ウˈブ˺パナ [ʔuˈbu˺pana](正式のパナングミ＜花米＞。四つ重ねの重箱に花米を盛って二十八宿の甲立(コウダテ)で囲ってあるもの) と中皿に盛ったものがある。˺グシパナン　スˈコーリ˺　マˈチ˺バ [˺guʃipanan sṵˈkoːri˺ maˈʧi˺ba](神仏に供えるお酒や花米を準備してお供えしなさい)。

˺クジ　バˈルン **[˺kuʤi baˈruŋ]** 【連】神意を占う。籤を引く。「籤を割る」の義。神前で祈願をして供物のパˈナン˺グミ [paˈnaŋ˺gumi](花米) を一掴み取ってお膳の上に並べて神意を占うこと。ウˈクˈジ　バˈリ˺　マˈラソー˺ルン [ʔuˈku˺ʤi baˈri˺ maˈrasoː ˺ruŋ](お籤を割って、神意を誕生させられる) という。

クˈジビ˺キ **[kuˈʤibi˺ki]** 【名】くじ引き。抽籤。籤を引くこと。ウˈキ˺ナー　˺パル　プˈソー˺　クˈジビ˺キシ　キˈミラ˺ナー [ʔuˈki˺naː ˺paru pṵˈsoː˺ kuˈʤibi ˺kiʃi kiˈmira˺naː](沖縄へ行く人は籤引きで決めようね)。イコーˈラ˺　パˈナシアー˺シ　サˈバン˺　キˈミラランバ˺　クˈジビ˺キシ　キˈミラ˺ナー [ʔikoːˈra ˺ paˈnaʃiʔaː˺ʃi saˈbaŋ˺ kiˈmiraramba˺ kuˈʤibi˺kiʃi kiˈmira˺naː](いくら話し合いをしても決められないから、籤引きをして決めようねえ)。

クˈシブニ **[kṵˈʃibuni]** 【名】背骨。脊椎。「腰骨」の義。クˈシブニバ˺　ヤˈマ˺シティ　アˈラキマー˺キ　ˈシーアー˺クン [kṵˈʃibuniba˺ jaˈma˺ʃi̥ti ʔaˈrakimaː˺ ki ˈʃiː ʔaː˺kuŋ](腰骨を痛めて歩き兼ねている)。

クˈシマキ **[kṵˈʃimaki]** 【名】腰巻。女性が和服の下に腰から脚部にかけてまとう布帛(フハク)。おこし。結願祭や豊年祭の舞踊の衣装として着用された。アˈガーガヌ˺　クˈシマケー˺　キˈシティル˺　ブˈドゥルキンマー˺　キˈソーッ˺タ [ʔaˈgaːganu˺ kṵˈʃimakeː˺ ki̥ˈʃi-tiru˺ buˈdurukimmaː˺ ki̥ˈsoːt˺ta](真っ赤な腰巻を着けて＜ぞ＞踊り衣装は着られた)。パˈトゥ˺マナカムリヌ　ブˈドゥル　ソー˺ル　˺プソー　クˈシマキン˺　キˈソーッ˺タンミー [pạˈtu˺manakamurinu buˈduru soː˺ru ˺pimmaː kṵˈʃimakiŋ˺ ki̥ˈsoːt˺tammiː](鳩間中岡の踊りをされる時は腰巻も着られたでしょう?)。

クˈシミチ **[kṵˈʃimiʧi]** 【名】裏通り。後ろの道。「腰＜後＞道」の義。˺マイミチェー　アˈラキヤッ˺サヌ　クˈシミチェー˺　ッˈサ˺ヌ　ヤˈマ˺カビティ＜ˈムイ˺カビティ＞　アˈラカラ˺ヌ [˺maimiʧeː ʔaˈrakijas˺sanu kṵˈʃimiʧeː˺ sˈsa˺nu jaˈma˺kabiti ＜ˈmui˺kabiti＞ ʔaˈrakara˺nu](前通り＜前の道＞は歩きやすいが裏通りは草が山のように生い茂って歩けない)。˺シンタミチ [˺ʃintamiʧi](後道。裏道) ともいう。ˈウイヌウガン˺ヌ　クˈシミチェーラ˺　ニˈシ˺ドー　パˈラ˺リンミー [ˈʔuinuʔugan˺nu kṵˈʃimiʧeːra˺ niˈʃi˺doː paˈra˺rimmiː](友利御嶽の裏道から西堂へ行けるでしょう?)。

クˈジ˺ムチ **[kuˈʤi˺muʧi]** 【名】くずもち (葛餅)。ˈウンヌ˺クジ [ˈʔunnu˺kuʤi](芋葛＜澱粉＞) やˈキーウン˺ヌ　˺クジ [ˈkiːʔun˺nu ˺kuʤi](キャッサバの葛＜澱粉＞) を熱湯でこね＜捏ね＞て蒸したもの。キˈザル [kiˈʤaru](祭祀行事) の時のお茶請けとして食した。ˈウンヌ˺クジシ　˺クジムチェー　スˈクル˺タ [ˈʔunnu˺kuʤiʃi ˺kuʤimuʧeː sṵˈkuru˺ta](いもくず＜芋葛＞で葛餅は作った)。クˈジム˺チ　スˈク˺リティ　ˈサー˺フキ　ンˈザ˺シ [kuˈʤimu˺ʧi sṵˈku˺riti ˈsaː˺ɸṵki ʔnˈʤa˺ʃi](葛餅を作ってお茶請けに出しな

さい)。

ˀクジ　ˈヤーˀラーン **[ˀkuʤi ˈjaːˀraːŋ]** 【連】籤運がいい。よく籤に当たる。「籤・柔らかい」の義。ˈワールˀ　クジ　ˈヤーˀラーバ　ˈワーˀシ　ˀクジ　ピˈキˀバ [ˈwaːruˀ kuʤi ˈjaːˀraːba ˈwaːˀʃi ˀkuʤi pi̥ˈkiˀba](君が籤運はいいから、君が籤を引きなさいよ)。

クˈジヤバーˀン **[kuˈʤijabaːˀŋ]** 【形】くじ (籤) 運が強い。籤に当たりやすい。クˈジヤーˀラーン [kuˈʤijaːˀraːŋ](籤運が強い。< 籤柔らかい >) ともいう。ウˈレー　サッˀコー　クˈジヤバーˀン [ʔuˈreː sakˀkoː kuˈʤijabaːˀŋ](その人は非常に籤運がいい)。クˈジヤバーナーˀヌ [kuˈʤijabaːnaːˀnu](籤運が良くない)。クˈジヤバーˀティ [kuˈʤijabaːˀti](籤運が良いので)。クˈジヤバーˀ　プソー [kuˈʤijabaːˀ pu̥soː](籤運のいいときは)。

クˈシˀ　ヤムン **[ku̥ˈʃiˀ jamuŋ]** 【連】腰が痛む (病む)。ˀプスイピーズ　ウˈスビティ　マイˀ　イˈブˀカー　クˈシˀ　ヤムン [ˀpu̥suipiːʤu ʔuˈsubiti maiˀ ʔiˈbuˀkaː ku̥ˈʃiˀ jamuŋ](一日中うつむい < 俯い > て稲 < 米 > を植えると腰が痛む)。

ˀクジラー **[ˀkuʤiraː]** 【名】成長が止まったもの。発育が止まった人や動物。背の低い人。矮小性のもの。クˈヌˀ　ッˈふァーˀ　クジラー　ˀナリティ　フˈドゥバンバン [kuˈnuˀ fˈfaːˀ kuʤiraː ˀnariti ɸuˈdubambaŋ](この子は発育不良の背の低い人になって、成長しないよ)。ˈウンˀマー　ˀクジラー　ˀナリティ　ˈピッˀチン　ッˈふァーラヌ [ˈʔumˀmaː ˀkuʤiraː ˀnariti ˈpitˀʧin fˈfaːranu](芋は成長が止まり、固く萎縮してちっとも食べられない)。ヤˈラˀベー　ˀドゥク < アˈマˀヌ >　ヤˈナアシゥカイˀ　サˈリティルˀ < シˈラリティルˀ >　クジラー　ナリˈベˀー [jaˈraˀbeːˀduku <ʔaˈmaˀnu> jaˈnaʔasïkaiˀ saˈritiruˀ <ʃiˈraritiruˀ> kuʤiraː nariˈbeˀː](子供は、ひどく悪い扱い方をされて < ぞ > 成長が止まって固く萎縮した人になっている)。

クˈシライルン **[ku̥ˈʃirairuŋ]** 【他動】こしらえる (拵える)。魚をさばく (捌く)。食べられるように仕上げる。手を加えて細工する。「誘、古之良布 < こしらふ >『華厳経音義私記』」の意味派生したもの。イˈゾー　ヨーランˀケン　パーˀク　クˈシライティˀ　カˈマブク　シッˀキ [ʔiˈʤoː joːraŋˀkem ˈpaːˀku ku̥ˈʃiraitiˀ kaˈmabuku ʃikˀki](魚は腐敗し < 弱ら > ないうちに捌いて蒲鉾に搗き揚げなさい < 搗いて蒲鉾を作れ >)。

グˈジラˀフタイ **[guˈʤiraˀɸu̥tai]** 【名】 (動) ぶだいの仲間。背びれの付近は薄紫色の体色で、腹部は灰色に近い。体調 1 メートルに成長するものがいるという。鳩間島では体長 50〜60 センチの成魚がよく網にかかった。頭の形が鯨の頭に似ることから命名されたものという。ˈアウピナカン [ˈʔaupinakaŋ](なんようぶだい。体色は紺色に近い) に似るが体色が異なる。グˈジラフタイˀヤー　ˈアウピナカンˀラン　ˈマーˀビン　ˈマイヤˀル　ˀアル [guˈiraɸutaiˀjaːˈʔaupinakanˀram ˈmaːˀbim ˈmaijaˀru ˀʔaru](グジラフタイは、ナンヨウブダイよりももっと大きい)。

クˈジリˀウン **[kuˈʤiriˀʔuŋ]** 【名】成長が止まった小さな芋。矮小性の芋。病気等による生育不良の芋。ˀクジラー [ˀkuʤiraː](生育不良のもの。発育不良のもの) ともいう。「崩れ芋」の転訛したものか。クˈジリウンˀマー　ˈオーˀヌイール　ˀナル [kuˈʤiriʔumˀmaː ˈʔoːˀnuʔiːru ˀnaru](発育不良の芋は豚の飼料にしかならない <〜飼料にぞなる >)。

クˈジリˀムヌ **[kuˈʤiriˀmunu]** 【名】発育不良のもの。成長が止まって萎縮したもの。人間をはじめ、他の動物、植物にもいう。「崩れる」の転訛したものか。クˈジリˀウン [kuˈʤiriˀʔuŋ](発育不良の芋)。クˈジリˀプス [kuˈʤiriˀpu̥su](発育不良の人)。ˈペーレーヌˀ　シˈター　ウンˀヌン　クˈジˀリティ　ˈミーラヌ [ˈpeːreːnuˀ ʃi̥ˈtaː ʔunˀnuŋ kuˈʤiˀriti ˈmiːranu](旱魃が続いたので芋も発育不良になって稔らない < 芋の塊根が成長しない。実が入らない >)。

クˈジˀルン **[kuˈʤiˀruŋ]** 【自動】発育停止する。成長が止まる。萎縮する。子供を生まなくなる。「崩れる」の転訛したものか。クˈヌˀ　ッˈふァーˀ　クˈジˀリティ　フˈドゥバンバン [kuˈnuˀ fˈfaːˀ kuˈʤiˀriti ɸuˈdubambaŋ](この子は発育が止まって成長しないわい)。パˈタˀケー　パˈギˀジー　ˀナリティ　ˈウンˀヌン　ˈミーラヌ　ナーンˀパーン　クˈジˀリティ　サˈカラヌ [pḁˈtaˀke: paˈgiˀʤiː ˀnariti ˈʔunˀnum ˈmiːranu naːmˀpaːŋ kuˈʤiˀriti sḁˈkaranu](畑は痩せ地になって芋も稔らない。菜っ葉も委縮して繁茂しない < 盛らない >)。パˈギˀジーナ　イˈブˀカー　クˈジˀルン [paˈgiˀʤiːna ʔiˈbuˀkaː kuˈʤiˀruŋ](痩せた土地に植えると成長が止まって萎縮する)。マˈミˀグルナ　イˈブˀカー　スˈクリˀムノー　クˈジランˀドーシ　サˈカルンˀツォー [maˈmiˀguruna ʔiˈbuˀkaː su̥ˈkuriˀmunoː kuˈʤiranˀdoːʃi sḁˈkarunˀtsoː](豆を収穫したあとの畑に植えると作物は萎縮しないで繁茂するそうだ)。ˈウンˀマー　クˈジˀリティ　ˈミーラヌ [ˈʔumˀmaː kuˈʤiˀriti ˈmiːranu](芋は成長が

止まって稔らない)。ミˈジˈ　マクカー　クˈジラˈヌ [miˈʤiˈ makuka: kuˈʤiˈranu](水を撒くと成長が止まって萎縮することはない)。アˈミˈヌ　ˈホーンˈカー　ムˈヌスクˈロー＜スˈクリˈムノー＞　クˈジˈルンティル　ウˈモーˈリ [ʔaˈmiˈnu ˈhoːŋˈkaː muˈnusu̥kuˈroː ＜suˈkuriˈmunoː＞ kuˈʤiˈruntiru ʔuˈmoːˈri](雨が降らないと作物は成長が止まって萎縮するとおもわれる)。クˈジˈル　ˈクトー　ˈナーˈヌ [kuˈʤiˈru ˈku̥toː ˈnaːˈnu](成長が止まって萎縮することはない)。クˈジˈレーラー　ˈデーˈジ [kuˈʤiˈreːraː ˈdeːˈʤi](成長が止まって萎縮したら大変だ)。クˈジˈリ [kuˈʤiˈri](成長が止まって萎縮しろ)。

グˈジンˈフー [guˈʤiŋˈɸuː] 【名】沖縄 (首里) の古典芸能の名。「かぎやで風節」。一名「御前風」。古老は、グˈジヌˈフー [guˈʤinuˈɸuː](御前風) といった。ウˈキˈナーナテー　ˈヨイˈヌ　パˈジメーˈ　グˈジンˈフー　ヤˈルヌˈ　パˈトゥˈマナテー　パˈトゥˈマナカムリラル　パˈジマル [ʔuˈkiˈnaːnateː ˈjoiˈnu paˈʤimareːˈ guˈʤiŋˈɸuː jaˈrunuˈ pḁˈtuˈmanateː pḁˈtuˈmanakamuriraru paˈʤimaru](沖縄ではお祝いの始まりは「御前風節」であるが、鳩間島では「鳩間中岡節」である)。

ˈクズ [ˈkuʤu] 【名】こぞ (去年)。昨年。「許序能秋安比見之末爾末〜。『万葉集　4117』」。「去年・昔歳、コソ『類聚名義抄』」の転訛。クˈズˈヌ　マˈナˈマ　ˈグロー　ˈマイカリ　スンティ　シーッˈパイ　ˈシーˈ　ブˈレーˈバン [kuˈʤuˈnu maˈnaˈmaguroː ˈmaikari sunti ʃiːpˈpai ˈʃiːˈ buˈreːˈbaŋ](去年の今頃は稲刈りをするとて一所懸命していたんだなあ)。

ˈクスˈク [ˈkusu̥ˈku] 【名】 (動) 魚の名。和名、メガネクロハギ (体長約 16 センチ)、キイロハギの変種 (体長約 18 センチ)、クログチニザ (体長約 20 センチ) の仲間の総称。和名、クログチニザは、ブˈナー [buˈnaː] ともいう。和名、クロモンツキは、ˈビンクスˈク [ˈbiŋkusu̥ˈku] ともいう。鳩間島では島の西側にある干瀬のˈクーˈシビー [ˈkuːˈʃibiː] で、潮の満ち干を利用してˈクスˈク [ˈkusu̥ˈku] を網で巻いて漁獲した。干瀬の上の海草を食っている魚が引き潮と共に外洋へ下がるところを巻き獲る漁法である。ˈクスˈク　ガˈラˈシン　パラˈディー [ˈkusu̥ˈku gaˈra ˈʃim paraˈdiː](クスクを網で巻き獲りに行こうよ)。

ˈグスˈク [ˈgusu̥ˈku] 【名】石垣。石を積み上げて屋敷を囲ってあるもの。屋敷の前方の、ˈマイグスˈク [ˈmaigusu̥ˈku](前石垣) は二重に積み、ナˈカフクˈル [naˈkaɸu̥kuˈru](「中袋」の義。中間部) にはバˈタˈイシ [baˈtaˈiʃi](腹石) という小石を詰めて崩れないように積み上げてあったが、後方及び両側の石垣にはバˈタˈイシを詰めないで二重積にしたものが多かった。キˈザリグスク [kiˈʤarigusu̥ku](石を削って積み上げた美しい石垣。アˈワˈイシ [ʔaˈwaˈiʃi]＜砂岩＞を削って積み上げた美しい石垣。石垣島に多い) は鳩間島にはない。ナˈカグスˈク [naˈkagusu̥ˈku](目隠しの石垣。沖縄本島方言のヒンプン)。パˈトゥマˈヌ　ˈヤシキˈヌ　ˈグスˈコー　ˈグガン　スˈクˈローッタ　ˈバス　ˈザラ　スˈクˈルンティル　シゥˈカイオーッˈタツォー [paˈtumaˈnu ˈjaʃi̥kiˈnu ˈgusu̥ˈkoː ˈgugan su̥ˈkuˈroːtta ˈbasu ˈʤara su̥ˈkuˈruntiru si̥ˈkaioːtˈtatsoː](鳩間島の屋敷の石垣は護岸を作られたとき、砂利を作るために使われたそうだ)。ˈマイグスˈクナーヤ　バˈタˈイシ　ˈシミティ　シˈムンダ　ガンˈゾータン　ヤˈシーヤシ　クーリˈル　ˈクトゥーン　ˈナーンˈシェン [ˈmaigusu̥ˈkunaːja baˈtaˈiʃi ˈʃimiti ʃiˈmunda ganˈʤoːtaŋ jaˈʃiːjaʃiː kuːriˈru ˈku̥toː ˈnaːŋˈʃeŋ](前石垣には腹石を詰めて積み上げるから頑丈だった。簡単に＜易々と＞崩れることはなかった)。

グˈズグズ [guˈʤuguʤu] 【副】くすぐる時の形容。こちょこちょ。乳幼児を抱き上げ、グˈズグズティˈグˈズˈルン [guˈʤuguʤuˈti guˈʤuˈruŋ](こちょこちょとくすぐる) といってあやす。

ˈクスクン [ˈkusu̥kuŋ] 【他動】 1腰紐に差し込んで着る。下紐に差し込む。ˈクスクンティˈ　ウムーカー　ˈクシゥカリン [ˈkusu̥kuntiˈ ʔumuːka: ˈkusi̥kariŋ](下帯に差し込もうと思えば差し込める)。2腰に差して携行する。腰に差し込んで持ち運ぶ。ノーˈンヤラバン　ヤーˈヌ　ˈシトゥ　ˈクシキˈパリバ [noːˈn jarabaŋ jaːˈnu ˈʃi̥tu ˈkuʃi̥kiˈpariba](何でもいいから家へのお土産＜つと＞を腰に携えて行け)。ˈガッˈケ [ˈgakˈke](鎌) やヤˈマンガラˈシ [jaˈmaŋgaraˈʃi](山刀)、ヌˈキˈル [nuˈkiˈru](鋸) 等の農耕用の刃物を腰に差す。クˈシˈナ　ˈガッˈケー　ˈクシキティ　マーˈティ　ˈオールˈワ [ku̥ˈʃiˈna ˈgakˈke: ˈkuʃi̥kiti maːˈti ˈʔoːruˈwa](腰に鎌を差して、何処へいらっしゃるのですか)。クˈシˈナ　ˈクスクンティ　スンドゥ　クシゥカランバン [ku̥ˈʃiˈna ˈkusu̥kunti sundu kusi̥karambaŋ](腰に差そうとするが、差されない)。ˈクスクˈ　クトゥン　ナˈラˈヌ [ˈkusu̥kuˈ ku̥tun naˈraˈnu](腰に差すことも出来ない)。クˈシˈナ　ˈクシケーˈ　ミサムヌ [kuˈʃiˈna ˈkuʃi̥keːˈ misamunu](腰に差せば良いのに)。クˈシˈナ　ˈクシキˈバ [ku̥ˈʃiˈna

˞kuʃi̥˞ba](腰に差せよ)。ヤ˞マンガラ˞シ　˞クスクン [ja˞maŋgara˞ʃi ˞kusu̥kuŋ](山刀を腰に差す)。˞クシゥカヌ [˞kusu̥kanu](腰に差さない)。˞クシキ˞ミサン [˞kuʃi̥˞misaŋ](腰に差してよい)。˞クスク˞　クトー [˞kusu̥ku˞ ku̥to:](腰に差すことは)。˞クシケー˞　ナ˞ラ˞ヌ [˞kuʃi̥ke:˞ na˞ra˞nu](腰に差してはならない)。˞パー˞ク　˞クシキ [˞pa:˞ku ˞kuʃi̥ki](早く腰に差せ)。

˞クズズー [˞kudʑudʑu:] 【名】去年中。昨年中。シ˞グトー˞　˞クズズーナ　トゥ˞ズミ˞　シケーンドゥ　˞キンサ˞ヌ　マ˞ダ˞　ウ˞ワーランバン [ʃi˞guto:˞ kudʑudʑu:na tu˞dʑumi˞ ʃi̥ke:ndu ˞kinsa˞nu ma˞da˞ ʔu ˞wa:rambaŋ](仕事は昨年中に完成させておいてあるが、検査がまだ終わらないよ)。

ク˞スッ˞クレー [ku̥˞suk˞kure:] 【感】くしゃみをする時に唱える呪(マジナイ)。くしゃみをすると、これを唱えて魔物を祓う。一説に「休息万命＜くそくまんみょう＞」、略して「休息命＜くそくみょう＞」とも。ク˞スッ˞クレヒャー [ku̥˞suk˞kureça:](糞喰らえ野郎!)。ッ˞スッ˞ふァイ [s˞suf˞fai](糞食らえ。嫌だ) は相手を罵倒し、反抗する際に用いるものとは異なる。

グ˞スミ˞クン [gu˞sumi˞kuŋ] 【自動】痰が絡まって激しく咳き込む。喉がジェージェーと鳴るように激しく咳き込む。˞ピーマキヌ˞　ウ˞ク˞ルカー　グ˞スミ˞クン [˞pi:makinu˞ ʔu˞ku˞ruka: gu˞sumi˞kuŋ](喘息の発作が起こるとジェージェーと激しく咳き込む)。˞ナン˞ゾー　グ˞スミカ˞ヌ [˞nan˞dʑo: gu˞sumika˞nu](あまり咳き込まない)。˞キサー　グ˞スミ˞キティ　イ˞キザー˞サタンドゥ　マ˞ナ˞マー　グ˞スミ˞ク˞クトー　˞ナー˞ヌ [˞ki̥sa: gu˞sumi˞kiti ʔi˞kidʑa:˞satandu ma˞na˞ma: gu˞sumi˞ku ˞ku̥to: ˞na:˞nu](以前はジェージェーと激しく咳き込んで息苦しかったが、今は激しく咳き込むことはない)。

グ˞スル˞　ピ˞クン [gu˞suru˞ pi̥˞kuŋ] 【連】痰が気管に詰まって呼吸のたびにゼイゼイと異常音が聞こえる。˞ピーマキヌ˞　ウ˞ク˞リティ　˞ピーズ　ジェージェー˞シ　グ˞ス˞ル　ピ˞キル　オー˞ル [˞pi:-makinu˞ ʔu˞ku˞riti ˞pi:dʑu ʤe:ʤe:˞ʃi gu˞su˞ru pi̥˞kiru ʔo:˞ru](喘息を患って毎日ゼーゼーと痰が気管に詰まった異常音を出しておられる)。

グ˞ズ˞ルン [gu˞dʑu˞ruŋ] 【他動】くすぐる (擽る)。腋の下を刺激してむずがゆい感じを起こさせる。「擽、己曾久留 (こそくる)」『新撰字鏡』の転訛したもの。˞ワー˞　グ˞ズ˞ルカー　˞バン˞ヌン　グ˞ズ˞ルン [˞wa:˞ gu˞dʑu˞ruka: ˞ban˞nuŋ gu˞dʑu˞ruŋ](君が擽る(コソグ)と私もくすぐるよ)。˞バー　グ˞ズラ˞ヌ [˞ba: gu˞dʑura˞nu](私は擽らない)。グ˞ズリ˞プサン [gu˞dʑuri˞ pusaŋ](擽りたい)。グ˞ズ˞レー　˞ミサムヌ [gu˞dʑu˞re: ˞misamunu](擽ればよいのに)。グ˞ズ˞リ [gu˞dʑu˞ri](擽れ)。グ˞ズ˞ルンティ　˞スンドゥ˞　グ˞ズラサ˞ヌ [gu˞dʑu˞runti ˞sundu˞ gu˞dʑurasa˞nu](擽ろうとするが、擽らせない)。グ˞ズ˞リ　˞ミサカー　グ˞ズ˞ル˞クトー　˞ナルン [gu˞dʑu˞ri ˞misaka: gu˞dʑu˞ru ˞ku̥to: ˞naruŋ](擽って良ければ擽ることはできる)。グ˞ズ˞リバ [gu˞dʑu˞riba](擽れよ)。グ˞ズラン˞ブリバ [gu˞dʑuram˞buriba](くすぐるな＜擽らずに居れよ＞)。

グス˞ローッティ [gusu˞ro:tti] 【副】ごそっと。硬い物が一気に崩れてこすれるさま。˞サン˞ガラーラ　ウ˞ブイシ˞ヌ　グス˞ローッティ　クー˞リ　˞サンガリ˞　キー˞ベー [˞saŋ˞gara:ra ʔu˞buʔiʃi˞nu gusu˞ ro:tti ku:˞ri ˞saŋgari˞ ki:˞be:](崖から大きな石がごそっと崩れ落ち、引きずられて来ているよ)。

ク˞スン [ku̥˞suŋ] 【他動】越す。引っ越す。移転する。イ˞サンケー˞　ク˞スンティ˞　ウ˞ムーン˞ドゥ　マ˞ナ˞マー　ク˞サラヌ [ʔi˞saŋke:˞ ku̥˞sunti˞ ʔu˞mu:n˞du ma˞na˞ma: ku̥˞saranu](石垣へ引っ越そうと思うが、今は引っ越されない)。ク˞シ˞　ミサカー　˞アツァナーン　ク˞ス˞　クトー　˞ナルン [ku̥˞ʃi˞ misaka: ˞ʔatsana:ŋ ku̥˞su˞ ku̥to: ˞naruŋ](引っ越してよければ、明日にも引っ越すことはできる)。˞パー˞ク　ク˞シェー˞　ミサムヌ [˞pa:˞ku ku̥˞ʃe:˞ misamunu](早く引っ越せばいいのに)。ヤー˞ディン˞　ク˞シ [ja:˞diŋ˞ ku̥˞ʃi](必ず引っ越せ)。

ク˞スン [ku̥˞suŋ] 【他動】こす (漉す)。˞ミー˞ソー　ク˞シティ˞　バ˞カシ˞バ [˞mi:˞so: ku̥˞ʃiti˞ ba˞kaʃi˞ba](味噌は漉してから炊きなさい)。ク˞サラヌ [ku̥˞saranu](漉せない)。ク˞スンティ˞　ウムーカー　ク˞シ˞バ [ku̥˞sunti˞ ʔumu:ka: ku̥˞ʃi˞ba](漉そうと思うなら漉しなさい)。ヤー˞ディン˞　ク˞ス˞　クトゥ [ja:˞diŋ˞ ku̥˞su˞ ku̥tu](必ず漉すことだ)。˞パー˞ク　ク˞シェー˞　ミサムヌ [˞pa:˞ku ku̥˞ʃe:˞ misamunu](早く漉せばよいのに)。

˞グソー [˞guso:] 【名】後生。死後の世界。後の世。「後生」の転訛したもの。グ˞ソーン˞プス [gu˞so:m ˞pu̥su](後生の人。死者。死出の旅) などという。˞ソーラン˞ヌ　ウ˞ヤ˞プスンケーヤ　˞シンザ˞バ　˞アイ˞ク　˞シー˞　グ˞ソー˞ヌ　˞シトゥ　カ˞タ˞ミ　˞オー˞ルツォー [˞so:ran˞nu ʔu˞ja˞pu̥suŋke:ja ˞ʃindʑa˞ba ˞ʔai˞ku ˞ʃi:˞ gu˞so:˞nu ˞ʃi̥tu kḁ˞ta˞mi ˞ʔo:˞rutso:](お

盆の祖霊たちは砂糖きびを担ぎ棒にして後生＜あの世＞への土産＜つと＞を担いで行かれるそうだ)。

グˈソーシタˀフ [guˈsoːʃitaˀɸu] 【名】後生 (あの世) へ行く支度。死者に着せる着物。しにしょうぞく (死装束)。プˈスヌ　マーラスˀカー　グˈソーシタˀフ　シˈモーˀルン [pu̥ˈsunu maːrasuˀkaː guˈsoːʃi̥taˀɸu ʃiˈmoːˀruŋ](人が亡くなると死装束を着せられる)。

グˈソーˀタビ [guˈsoːˀtabi] 【名】死出の旅。死ぬこと。亡くなる。ˈアーˀネヌ　ˀアブジェー　ナˈガヤン　シー　オーッタˀヌ　イˈサˀヌ　フˈチˀルン　シゥˈカヌˀ　グˈソーˀタビ　ˈソーˀリ　ˈナーンˀツォー [ˈʔaːˀnenu ˀʔabuʤeː naˈgajaŋ ʃiː ʔoːttaˀnu ʔiˈsaˀnu ɸu̥ˈʧiˀrun su̥ˈkanuˀ guˈsoːˀtabi ˈsoːˀri ˈnaːnˀtsoː](東隣のお祖父さんは長患い＜長病み＞しておられたが、医者の薬も効かず＜薬石効無く＞死出の旅につかれた＜亡くなられた＞そうだ)。

グˈソーˀヌ　ˀパナ [guˈsoːˀ nuˀpana] 【連】(植) ブッソウゲ (仏桑花)。ハイビスカス。戦前は多く墓地に植栽され、墓前に供えられる花であったのでそういう。屋敷内にはほとんど植栽されなかった。グˈソーˀヌパナー　パˈカナーˀル　イˈボーッタˀル [guˈsoːˀnu ˀpanaː pḁˈkanaːˀru ʔiˈboːttaˀru](ブッソウゲの花は墓地に＜ぞ＞植えられたものだよ)。

グˈソーヌˀプス [guˈsoːnuˀpu̥su] 【名】後生の人。あの世の人。死者。マˈジムヌ [maˈʤimunu](マジモノ。魔物) は「死者が悪霊と化したもの」をさすのに対し、グˈソーヌˀプスは、守護霊をさす場合が多く、先祖の霊に対して用いられる。グˈソーヌプスˀヌˀシトゥ　マˈチ　オーシ [guˈsoːnupu̥suˀnu ˀʃi̥tu maˈʧi ʔoːʃi](祖霊のつと＜苞＞を供えて差し上げよ)。

グターッˈティ [gutaːtˈti] 【副】ぐったり。ぐたっと。ˈマイイビˀ　シˈマウターˀ　グターッˈティˀ　ブˈガˀリティ　シˈビフチˀ　ッˈサンˀケン　ニˈビナーンˀシェン [ˈmaiʔibiˀ ʃiˈmautaːˀ gutaːtˈtiˀ buˈgaˀriti ʃiˈbiɸu̥ʧiˀ sˈsaŋˀken niˈbinaːŋˀʃeŋ](田植えが終わったのでぐったりと疲れて、前後が分からないほどに＜前後不覚に＞寝入ってしまった)。ブˈガˀリティ　グターッˈティ　シー　ベー [buˈgaˀriti gutaːtˈti ʃiːbeː](疲れてぐったりしている)。

ˀグタイ [ˀgutai] 【名】五体。身体を構成する五つの部分。転じて身体。頑健な体格。グˈタイˀヌ　カナイˈブンダˀ　ノーˈンシェーˀル　シˈグトゥンシース [guˈtaiˀnu kanaiˈbundaˀ noːˈŋʃeːˀru ʃiˈgutuŋ ʃiːsu](身体が頑健だ＜五体が叶っている＞から如何なる仕事もできる＜する＞)。

ˀグタイ　ヌˈギˀルン [ˀgutai nuˈgiˀruŋ] 【連】ぐったり疲れる。全身の力が抜ける。体力が消耗する。疲労困憊する。ˈシーミラˀン　ヤˈマシグˀトゥ　シˈティˀ　グタイ　ヌˈギˀルンティ　ˈアークˀタ [ˈʃiːmiraˀŋ jaˈmaʃiguˀtu ʃi̥ˈtiˀ gutai nuˈgiˀruti ˈʔaːkuˀta](したことの無い山仕事をして、やがて疲労困憊するところであった)。

クˈタイˀルン [ku̥ˈtaiˀruŋ] 【他動】答える。返事をする。ピントースンとも言う。ˈワー　トゥイスクˀカー　ˀバー　クˈタイˀルンティ　ウˈムーンˀドゥ　マˈナˀマー　クˈタイラˀヌ [ˈwaː tuisu̥kuˀkaː ˀbaː ku̥ˈtaiˀrunti ʔuˈmuːnˀdu maˈnaˀmaː ku̥ˈtairaˀnu](君が問い尋ねたら＜問い聞いたら＞、私は答えると思うが、今は答えない)。クˈタイˀル　ˀクトー　ナˈラˀヌ [ku̥ˈtaiˀru ˀku̥toː naˈraˀnu](答えることはならない＜出来ない＞)。ヤーˈディンˀ　クˈタイˀリ [jaːˈdiŋˀ ku̥ˈtaiˀri](必ず答えよ)。

クˈタイˀルン [ku̥ˈtaiˀruŋ] 【自動】身にしみる。骨身にしみる。体にこたえる。くたびれる。ヤˈマシグトゥˀヌ　ˈアウˀリナンゲー　ˀドゥーナ　クˈタイˀルン [jaˈmaʃigutuˀnu ˈʔauˀrinaŋgeː ˀduːna ku̥ˈtaiˀruŋ](山仕事の難儀苦労は身にしみる＜胴体に応える＞)。

クˈダˀキ [kuˈdaˀki] 【名】かけら。砕けた欠片。砕け米。クダˈケーˀマ [kudaˈkeːˀma](細かい欠片) ともいう。ˈマイヌˀ　クˈダˀケー　トゥˈルンˀ　ッˈふァーシˀバ [ˈmainuˀ kuˈdaˀkeː tuˈrunˀ fˈfaːʃiˀba](米の砕け＜砕米＞は鶏に食わせなさいよ)。

クˈダキˀムヌ [kuˈdakiˀmunu] 【名】破片。砕片。「砕け物」の義。タˈマガラスˀヌ　クˈダキˀムノー　プˈスンˀトンナ　ˈポーˀキ　アˈツァミˀリ [taˈmagarasuˀnu kuˈdakiˀmunoː pu̥ˈsunˀtonna ˈpoːˀki ʔaˈtsamiˀri](ガラスの破片は一箇所に掃いて集めなさい＜集めれ＞)。

クˈダキˀルン [kuˈdakiˀruŋ] 【自動】砕ける。スˈクッチルン、ˈバッツァールンとも言う。ˀクビン　ウˈタˀスカー　バˈリˀ　クˈダキˀルンˈダー [ˀkubiŋ ʔuˈtaˀsu̥kaː baˈriˀ kuˈdakiˀrunˈdaː](瓶を落とすと割れて砕けるよ)。ウˈタサˀバン　クˈダキラˀヌ [ʔuˈtasaˀbaŋ kuˈdakiraˀnu](落としても砕けない)。クˈダキヤッˀサン [kuˈdakijasˀsaŋ](砕けやすい)。クˈダキˀル　ˀムノー [kuˈdakiˀru ˀmunoː](砕けるものは)。クˈダキˀレー　ˀミサムヌ [kuˈdakiˀreː ˀmisamunu](砕ければよいのに)。クˈダキˀリ [kuˈdakiˀri](砕けれ)。

クˈダˈクン **[kuˈdaˈkuŋ]** **(1)**【自動】砕ける。タˈマガラˈス　ウˈタˈスカー　クˈダˈクン [taˈmagaraˈsu ʔuˈtaˈsukaː kuˈdaˈkuŋ](ガラスを落とすと砕ける)。 **(2)**【他動】砕く。スˈクッツァスンとも言う。パˈローマˈトゥ　ˈアミツァヌ　ˈシミ　ˈシッˈキ　クˈダˈキティル　カˈブˈ　スˈクルˈタ [paˈroːmaˈtu ˈʔamitsanu ˈʃimi ˈʃikˈki kuˈdaˈkitiru kaˈbuˈ sʷˈkuruˈta](ツノメガニとヤドカリの爪を搗いて砕いて撒き餌を作った)。クˈダカˈヌ [kuˈdakaˈnu](砕かない)。クˈダˈクンティ　ˈウムーカー　クˈダˈキバ [kuˈdaˈkunti ˈʔumuːkaː kuˈdaˈkiba](砕こうと思うなら砕けよ)。クˈダˈクˈムヌ [kuˈdaˈku ˈmunu](砕くもの)。ˈパーˈク　クˈダˈケー　ミサムヌ [ˈpaːˈku kuˈdaˈkeː ˈmisamunu](早く砕けばよいのに)。

クˈダケーˈマ **[kuˈdakeːˈma]** 【名】小さな破片。細片。タˈマガラスˈヌ　クˈダケーˈマン　ˈドゥーヤマシˈムヌ　ヤルˈンダˈ　ヌˈカサンˈヨーニ　ˈトゥリ　シˈティリˈヨー [taˈmagarasuˈnu kuˈdakeːˈman ˈduːjamaʃiˈmunu jaˈrundaˈ nuˈkasaŋˈjoːni ˈturi ʃiˈtiriˈjoː](ガラスの細片も怪我のもと＜胴病ましもの＞だから残さぬように取り捨てよ)。ッˈふサタˈヌ　クˈダケーˈマ [fˈfusataˈnu kuˈdakeːˈma](黒砂糖の細片)。

クˈダシ **[kuˈdaʃi]** 【名】下痢。腹下し。「下し」の義。ˈヌーナール　アˈタルタˈユー　クˈダシティ　ウーカラˈヌ [ˈnuːnaːru ʔaˈtarutaˈjuː kuˈdaʃiti ʔuːkaraˈnu](何に当ったのか、下痢＜腹下し＞して動かれない＜動けない＞)。バˈタクダˈシ [baˈtakudaˈʃi](腹下し) ともいう。

クˈダシフチル **[kuˈdaʃiɸʷtʃiru]** 【名】下し薬。下剤。シˈビコーリˈプソー　クˈダシフチルˈ　ヌミバ [ʃiˈbikoːriˈpʷsoː kuˈdaʃiɸʷtʃiruˈ numiba](便秘の人は下剤を飲みなさい)。

クˈダスン **[kuˈdasuŋ]** 【自動】下痢する。下す。クˈヌˈ　フˈチˈル　ˈヌムカー　クˈダスン [kuˈnuˈ ɸʷˈtʃiˈru ˈnumukaː kuˈdasuŋ](この薬を飲むと下痢をする＜下す＞)。ギューˈサˈ　ヌˈマˈバン　クˈダサヌ [gjuːˈsaˈ nuˈmaˈbaŋ kuˈdasanu](いくら飲んでも下痢しない)。クˈダシヤッˈサン [kuˈdaʃijasˈsaŋ](下痢しやすい)。クˈダスˈ　クトー [kuˈdasuˈ kʷtoː ˈnaːˈnu](下痢することはない)。クˈダシェーˈ　ミサムヌ [kuˈdaʃeːˈ misamunu](下痢すればよいのに)。クˈダシˈバ [kuˈdaʃiˈba](下痢せよ)。

グˈダランケーˈリ **[guˈdaraŋkeːˈri]** 【副】青々と。葉野菜などが青々と生い茂っているさま。瑞々しく。ˈナーンパーˈヤ　グˈダランケーˈリ　ˈムイ　サˈカリベー [ˈnaːmpaːˈja guˈdaraŋkeːˈri ˈmui saˈkaribeː](菜っ葉は青々と生い茂っ＜繁茂し＞ている)。ˈナーヌˈパーン　グˈダランケーˈリ　サˈカリティˈ　イッˈケナˈ　ンˈマーンˈ　ギサン [ˈnaːnuˈpaːŋ guˈdaraŋkeːˈri sʷˈkaritiˈ ʔikˈkenaˈ ʔmˈmaːŋˈ gisaŋ](菜っ葉も青々と生い茂って非常においしそうだ)。

クˈダˈルン **[kuˈdaˈruŋ]** 【自動】1下る。「美豆保国乎　安麻久太利～＜瑞穂の国を天下り＞『万葉集4094』」の義。ˈウルン、ウˈリˈルンとも言う。ティˈドゥˈクダキ　クˈダˈルンティ　ˈスンˈケン [tiˈduˈkudaki kuˈdaˈrunti ˈsuŋˈkeŋ](ティドゥク岳を下ろうとすると)。クˈダˈリ　ˈクンケン [kuˈdaˈri ˈkuŋkeŋ](下ってくると)。2北 (沖縄本島) から南 (八重山・鳩間島) へ「下る」。「安麻射加流　比奈爾久太理伎＜天離る鄙に下り来＞『万葉集　3962』」の義。/ヤイマシマ　クダリヨーリヨー　ウフイサナキ　クダリヨーリヨー　ハーリ　アミタボリ　リューガナシ/(八重山島へ下って御出で下さい。大石垣へ下って御出でください。ハーリ、雨を降らせて下さい竜神さま)。/バガパトゥマ　クダリヨーリヨー　フナバマニ　フナシキヨー　ハーリ　アミタボリ　リューガナシ/(鳩間島に下られて、船原浜に船着きなされ、ハーリ雨を降らせてください竜神さま)「アマングイ＜雨乞い神歌＞」『鳩間島古典民謡古謡集』。

クˈタンˈディ **[kʷˈtanˈdi]** 【名】疲れはて。疲れ果てること。疲労困憊。「くたびれ (草臥れ)」の義。「憔悴、クタハル」『類聚名義抄』の連用形から転成名詞化したもの。ブˈガˈリ　クタンディヌ　ˈスーワˈヌ　ˈパンˈマーンツァン　ˈウーカシユーサˈヌ [buˈgaˈri ˈkʷtandinu ˈsuːwaˈnu ˈpamˈmaːntsaŋ ˈʔuːkaʃijuːsaˈnu](疲れ草臥れが激しくて足をさえも動かし得ない)。

クˈタンディノーˈシ **[kʷˈtandinoːˈʃi]** 【名】疲れ直し。くたびれなおし。田植えや稲刈りなど重労働で疲れ果てた体を休めるために酒食をとること。ウˈブシグトゥンˈ　ウˈチナˈソーレチバ　ˈニカー　クˈタンディノーˈシ　ˈソーˈラˈナー [ʔuˈbuʃigutuŋˈ ʔuˈtʃinaˈ soːreːtʃiba ˈnikaː kuˈtandinoːˈʃi ˈsoːˈraˈnaː](大仕事も完了しましたから今夜は疲れなおし＜草臥れなおし＞をしましょうねえ)。

クˈタンディˈルン **[kʷˈtandiˈruŋ]** 【自動】疲れ果てる。くたびれる (草臥れる)。「憔悴、クタハル」『類聚名義抄』の転訛したもの。ウˈビˈヌ　ˈター　ˈタ

ンガˀシ　ˈカイˀスカー　ターˈン　ヤラバンˀ　クˈタンディˀルンヨー [ʔuˈbiˀnu ˀtaː ˈtaŋgaˀʃi ˈkaiˀsukaː taːˈɲ jarabaŋˀ kṵˈtandiˀruɲjoː](あれだけの田圃を一人で耕したら誰でも草臥れるよ)。クˈタンディラˀヌ [kṵˈtandiraˀnu](草臥れない)。クˈタンˀディ　ˈナーˀヌ [kṵˈtanˀdi ˈnaːˀnu](草臥れてしまった)。クˈタンディˀル　ˀクトー [kṵˈtandiˀru ˀkṵtoː](草臥れることは)。クˈタンディˀレー　ˀミサムヌ [kṵˈtandi ˀreː ˀmisamunu](草臥ればよいのに)。クˈタンディˀリ [kṵˈtandiˀri](草臥れよ＜くたびれれ＞)。

クˈタンˀドゥン [kṵˈtanˀduŋ] 【自動】疲れ果てる。くたびれる (草臥れる)。クˈタンディˀルンとも言う。クˈタンˀディティ　ˈウーカラˀヌ [kṵˈtanˀditi ˈʔuːkaraˀnu](草臥れて動けない)。ˀウビシェー　クˈタンダˀヌ [ˀʔubiʃeː kuˈtandaˀnu](それだけでは草臥れない)。クˈタンˀドゥンティル　ウˈモーˀリ [kṵˈtanˀduntiru ʔuˈmoːˀri](草臥れると＜ぞ＞思われる)。クˈタンˀドゥ　ˀプソー [kṵˈtanˀdu pṵsoː](草臥れるときは)。クˈタンˀデー　ナˈラˀヌ [kuˈtanˀdeː naˈraˀnu](草臥れてはいけない)。クˈタンˀディバ [kṵˈtanˀdiba](草臥れろ)。

グˈタンブー [guˈtambuː] 【名】五反帆の帆船。長さ七尋 (約 12.6m)、幅二尋二尺五寸 (約 4.35m) の船。ムˈカˀシェー　グˈタンブーˀ　ルˈクタンブーˀヌ　ˈプーシンˀシル　カˈツシン　ソーッˀタ [muˈkaˀʃeː guˈtambuːˀ ruˈkutambuːˀnu ˈpuːʃiŋˀʃiru kạˈtsuʃin soːtˀta](昔は五反帆、六反帆の帆船でカツオ釣漁＜カツオ漁船＞をされた)。

ˀクチ [ˀkṵtʃi] 【名】骨。死者の骨。ˀウヤパープジヌ　クˈチˀバ　アˈライクサイˀ　シˈティルˀ　クチカミナー　ウˈサムˀタ [ˀʔujapaːpuʤinu kuˈtʃiˀba ʔaˈraikusaiˀ ʃi̥ˈtiruˀ kṵˈtʃikamina: ʔuˈsamuˀta](掘り抜き墓に棺を入れて葬ってある先祖のお骨を洗骨葬に付してから＜ぞ＞骨壷に納めた)。

ˀグチ [ˀgutʃi] 【名】文句。小言。ぐち (愚痴)。不平不満。言っても仕方の無いことを言って嘆くこと。プˈスカージヌ　グチ　スˈクン [pṵˈsukaːʤinu gutʃi sṵˈkuŋ](皆の＜人数の＞文句を聞く)。グˈチˀ　フーン [guˈtʃiˀ ɸuːŋ](反抗する。不平不満をいう)。ˀグチ＜ˈガイ＞　ˈスン [ˀgutʃi ＜ˈgai＞ ˈsuŋ](文句をいう。反抗する)。

ˀクチカミ [ˀkṵtʃikami] 【名】骨壷。洗骨葬をした後に骨を納める甕。「骨甕」の義。パˈカヌˀ　ナˈカˀナー　ˀクチカメー　ナˈラビラリ　ブー [pạˈkanuˀ naˈkaˀna: kṵtʃikameː naˈrabirari buː](墓の中に骨壷が並べられている)。アˈライクサイˀ　シˈティˀ　クチェー　ˀクチカミナール　ウˈサˀミ　スˈコーッˀタ [ʔaˈraikusaiˀ ʃi̥ˈtiˀ kutʃe: ˀkutʃi̥kamina:ru ʔuˈsaˀmi sṵˈkoːtˀta](洗骨をして、お骨は骨壷に＜ぞ＞納めておかれた)。

クˈチˀグゥー [kṵˈtʃiˀgwaː] 【名】(海底地名)。「小津口」の義。ˈウーグˀチ [ˈʔuːguˀtʃi](大津口) とˈクーˀシビー [ˈkuːˀʃibiː](クーシ干瀬) の間にある小さな干瀬の入り口。水深が浅いのでカツオ漁船は、平時は使用しない。大潮の満潮時に利用することがある。

クˈチˀサ [kṵˈtʃiˀsa] 【名】苦しさ。苦しみ。苦労。クˈチˀサ　ˈスン [kṵˈtʃiˀsa ˈsuŋ](苦しむ)。イˈクサユーˀヌ　クˈチˀサー　マˈナˀマ　シˈキˀティン　ˈバシキララヌ [ʔiˈkusajuːˀnu kṵˈtʃiˀsa: maˈnaˀma ʃi̥ˈkiˀtim ˈbaʃi̥kiraranu](戦争時＜戦世＞の苦労は今だに＜今においても＞忘れられない)。フˈクˀビシ　ˀシムカー　クˈチサˀドゥ (ル)ˀアル [ɸṵˈkuˀbiʃi ˀʃimuka: kṵˈtʃisaˀdu(ru)ˀʔaru](帯で引き締めると苦しい＜苦しくぞある＞)。イˈクサユーˀヌ　アˈワˀリクチサー　アˈタリˀ　ミレール　プˈスˀ　アˈランˀカー　ッˈサンˀパジ [ʔiˈkusajuːˀnu ʔaˈwaˀrikutʃisa: ʔaˈtariˀ mireːru pṵˈsuˀ ʔaˈraŋˀka: sˈsamˀpaʤi](戦争中＜戦世＞の難儀苦労は経験した＜当たってみた＞人でなければ分からないはずだ)。

クˈチˀサ　ˈスン [kṵˈtʃiˀsa ˈsuŋ] 【連】苦しむ。「苦しさ・する」の転訛したもの。イˈクサˀユーナ　シˈヌタˀ　ッˈふァヌˀ　クトゥ　ˀウムーカ　クˈチˀサ　ˈスンダˀ　パˈナスˀナ [ʔiˈkusaˀjuːna ʃiˈnutaˀ fˈfanuˀ kṵtu ˀʔumuːka kṵˈtʃiˀsa ˈsundaˀ paˈnasuˀna](戦争で死んだ子供のことを思うと苦しむから話すな)。

クˈチˀサン [kṵˈtʃiˀsaŋ] 【形】苦しい。精神的にも肉体的に苦しいときにいう。アˈガティダンˀ　プˈサˀレーティヌ　ˈターシグˀトー　イッˈケンˀ　クˈチˀサンˈダー [ʔaˈgatidamˀ pṵˈsaˀreːtinu ˈtaːʃiguˀtoː ʔik ˈkeŋˀ kṵˈtʃiˀsanˈdaː](炎天下＜真っ赤な太陽に乾されて＞での田圃仕事は非常に苦しいよ)。ˈナンˀゾー　クˈチˀサー　ˈナーˀヌ [ˈnanˀʤoː kuˈtʃiˀsaː ˈnaːˀnu](それほど苦しくはない)。ˈシンダイˀ　クˈチˀサ　ˀナルン [ˈʃindaiˀ kṵˈtʃiˀsa ˀnaruŋ](次第に苦しくなる)。クˈチˀサ　ˀクトー　クˈチˀサン [kṵˈtʃiˀsa ˀkṵtoː kṵˈtʃiˀsaŋ](苦しいことは苦しい)。[ˈmaːˀbiŋ kṵˈtʃiˀsakaː ˀmisamunu](もっと苦しければよいのに)。ˀイキ　シˈマˀリティ　クˈチサˀヌ　ナˈラˀヌ [ˀʔiki ʃiˈmaˀriti kṵˈtʃisaˀnu naˈraˀnu](息が詰まって苦しく

てたまらない)。イッˈケナˀ　クˈチˀサンギサン [ʔikˈkenaˀ kʉˈʧiˀsaŋgisaŋ](非常に苦しそうだ)。クˈチˀサ　ˀクトー　ˈバシキリ [kʉˈʧiˀsa ˀkʉto: ˈbaʃi̥kiri](苦しいことは忘れなさい)。ˀアイニ　クˈチˀサカー　ˈサンブリˀバ [ˀʔaini kʉˈʧiˀsaka: ˈsamburiˀba](あんなに苦しければするなよ＜しないでおれ＞)。

ˀグチ　ˈスン [ˀguʧi ˈsuŋ] 【連】文句をいう。苦情を言う。不平不満をいって反抗する。強情になる。パˈタラケーˀ　サˈムティˀ　グチカーˈニ　スー [pḁˈtarakeːˀ saˈmutiˀ guʧikaːˈni suː](働きはしないで不平不満ばかり言って反抗する)。

ˀクチタルン [ˀkʉʧitaruŋ] 【自動】朽ちる。朽ち溶ける。パˈカヌˀ　ナˈカヌˀ　ムˈカˀシプスヌ　ˀプネー　ˀクチタリ　ˈナーˀヌ [pḁˈkanuˀ naˈkanuˀ muˈkaˀʃipʉsunu ˀpune: ˀkʉʧitari ˈnaːˀnu](墓の中の昔人の骨は朽ち溶けてしまった)。サˈリキーヤˀ　アˈミˀカジナー　ˀクチタリ　ˈナーˀヌ [saˈrikiːjaˀ ʔaˈmiˀkaʤina: ˀkʉʧitari ˈnaːˀnu](枯れ木は風雨で＜によって＞朽ち溶けてしまった)。

ˀクチプサイ [ˀkʉʧi pʉˈsai] 【名】骨を拾うこと。骨拾い。洗骨した骨を拾って骨壺に納めること。シˈチニンˀキ　ˈスーˀカー　アˈライクサイ　シーˀ　クチプサイ　ˈシーティルˀ　クチカミナ　ウˈサˀモーッタ [ʃi̥ˈʧiniŋˀki ˈsuːˀka: ʔaˈraikusai ʃiːˀ kʉʧipʉsai ˈʃiːtiruˀ kʉʧikamina ʔuˈsaˀmoːtta](七年忌をしたら洗骨をし、骨拾いをして骨壷に納められた)。

ˀクチプニ [ˀkʉʧipuni] 【名】遺骨。死者の骨。「こつほね」の義。ムˈカˀシプスヌ　ˀクチプネー　アˈライクサイˀ　シˈティルˀ　マˈタカザミ　ソーッˀタ [muˈkaˀʃipʉsunu ˀkutʃi̥pune: ʔaˈraikusaiˀ ʃi̥ˈtiruˀ ma ˈtakaʤami soːtˀta](死者の遺骨は洗骨してから改葬された)。

グˈチˀホー [guˈʧiˀhoː] 【名】無鉄砲な者。むやみやたらにする人。強引な人。粗野な人。ウˈレー　サッˀコー　グˈチˀホー [ʔuˈreː sakˀkoː guˈʧiˀhoː](あいつは非常に無鉄砲な奴だ)。ˈウンザーˀ　グˈチホーˀムヌ [ˈʔunʤaːˀ guˈʧihoːˀmunu](あいつは無鉄砲者だ)。

グˈチˀホーニ [guˈʧiˀhoːni] 【副】無鉄砲に。力任せに。むやみに。強引に。無礼に。ウˈヤンˀナーニ　グˈチˀホーニ　ˀムネー　イˈズナ [ʔuˈjanˀnaːni guˈʧiˀhoːni ˀmune: ʔiˈʤuna](親に対して無礼にものを言うな＜無礼な物言いをするな＞)。ˀアイニ　グˈチˀホーニ　ピˈキスクナ [ˀʔaini guˈʧiˀhoːni pi̥ˈkisʉkuna](あんなに無鉄砲に引張るな)。

ˀクチャ [ˀkʉʧa] 【名】土壌の名。腐植土。クˈチャˀヌ　ˀジーナーヤ　ˈウンˀマー　スˈクリヤッˀサタン [kʉˈʧaˀnu ˀʤiːnaːja ˈʔumˀmaː sʉˈkurijasˀataŋ](クチャ土壌にはサツマイモは栽培し＜作り＞やすかった)。

クˈチラクン [kʉˈʧirakuŋ] 【自動】打開する。切り開く。斡旋する。助言する。口添えする。世話する。「口開く」の転訛か。シˈグトゥヌˀ　クˈチラキ　スンティˀ　イˈサナケー　パッˀタ [ʃiˈgutunuˀ kʉˈʧiraki suntiˀ ʔiˈsanakeː patˀta](仕事を探しに＜斡旋してもらいに＞石垣島へ行った)。ˀアイブ　シˈグトーˀ　クˈチラカラヌ [ˀʔaibu ʃiˈgutoːˀ kʉˈʧirakaranu](あんな仕事は斡旋できない)。シˈグトゥˀ　クˈチラクンティˀ　ヤˈクˀバー　ˈパッˀタ [ʃiˈgutuˀ kʉˈʧirakuntiˀ jaˈkuˀbaː ˈpatˀta](仕事を斡旋してもらいに役場へ行った)。クˈチラカスン [kʉˈʧirakasuŋ](斡旋させる)。クˈチラクˀ　クトー　ˀナルン [kʉˈʧirakuˀ kʉtoː ˀnaruŋ](斡旋することはできる)。クˈチラケーˀ　ミサムヌ [kʉˈʧirakeːˀ misamunu](斡旋すればいいのに)。シˈグトゥˀ　クˈチラキ [ʃiˈgutuˀ kʉˈʧiraki](仕事を斡旋しろ)。

クˈチˀルン [kʉˈʧiˀruŋ] 【自動】朽ちる。物が腐食して壊れる。ˈCuchi,tçuru,ita クチ, ツル, チタ (朽ち, つる, ちちた) 腐る. 多くの場合樹木, 竹, 材木に関して言う.」『邦訳日葡辞書』の転訛か。アˈナˀプリヤーヌ　パˈラーˀヌ　クˈチˀルンケン　ッˈサールˀヌ　ˀシディ　ˈベーˀタ [ʔaˈnaˀpurijaːnu paˈraːˀnu kʉˈʧiˀruŋken sˈsaːruˀnu ˀʃidi ˈbeːˀta](掘建て小屋の柱が朽ちるほど白蟻が発生＜孵化して＞いた)。ˈスーˀカン　ˈスーˀカー　パˈラーˀヤ　クˈチラˀヌ [ˈsuːˀkan ˈsuːˀka: paˈraːˀja kʉˈʧiraˀnu](海水に材木を長期間浸けて＜潮乾＞すると柱は朽ちないよ)。クˈチヤッˀサン [kʉˈʧijasˀsaŋ](朽ち易い)。クˈチˀルクトー　ˈナーˀヌ [kʉˈʧiˀrukʉto: ˈnaːˀnu](朽ちることはない)。ムーˈルˀ　クˈチˀレー　ˀミサムヌ [muːˈruˀ kʉˈʧiˀreːˀmisamunu](全部朽ちればよいのに)。クˈチˀリ [kʉˈʧiˀri](朽ちろ)。

クˈツァˀスン [kʉˈtsaˀsuŋ] 【他動】腐らせる。くたす(腐す)。腐敗させる。木の葉や茅、ススキなどを積んで腐らせ、堆肥を作る。ˈキーヌˀパーン　ˀガヤーン　クˈツァˀシティル　シˈキゴイヤˀ　スˈクˀル [ˈkiːnuˀpaːŋ ˀgajaːŋ kʉˈtsaˀʃi̥tiru ʃi̥ˈkigoijaːˀ sʉˈkuˀru](木の葉も茅も腐して堆肥は作るのだ)。

グˈツァˀバ [guˈtsaˀba] 【名】皮膚病の名。たむし＜田虫。頑癬＞。白癬菌の寄生によって生じる皮膚病。

老年層は、ウ˞ルプトゥ˜キ [ʔuˑruputuˑki](たむし)ともいう。グ˞ツァ˜バ　ン˞ジプス˜ヌ　˜キン　˞サウル˜カー　グ˞ツァ˜バ　ウ˞チ˜ルンティ　ア˞ザリブタ [guˑtsaˑba ʔnˑʤipusuˑnu ˜kin ˞sauruˑkaː guˑtsaˑba ʔuˑʧiˑrunti ʔaˑʤari buta](田虫に罹患した人の着物に触ると田虫に感染する＜移る＞と言われていた)。皮膚病の一種。˜ティーナ　グ˞ツァバ˜ヌ　˜ンジティ　˞ビーヨー˜ヌ　ナ˞ラ˜ヌ [˜tiːna guˑtsabaˑnu ˜ʔnʤiti ˞biːjoː˜nu naˑraˑnu](手にタムシが出て痒くてたまらない)。

グッ˞カン [gukˑkaŋ] 【名】極寒。非常に寒いこと。グッ˞カンヌ˜　ピ˞ラ˜クサーリ　˞マイイビ　スンティ　シー˜　ク˞バ˜リ　シ˞ヌンティ　アーク˜タ　˞ドー˜スカーヤ [gukˑkannuˑ piˑraˑkusaːri ˞maiibi suntiʃiː˜ kuˑbaˑri ʃiˑnunti ʔaːkuˑta ˞doːsuˑkaːja](極寒の寒さの中で田植えをしようとして、すんでのところで凍え死にするところだったんだってばよ)。

˞クッチルン [ˑkutʧiruŋ] 【自動】崩壊する。ばらばらに崩れる。˜クツンとも言う。˞ネーサバン　クッチラヌ [ˑneːsabaŋ kutʧiranu](煮ても煮崩れしない＜崩れない＞)。˞ネーシター　クッチナー˜ヌ [ˑneːʃitaː kutʧinaːˑnu](煮たら崩れてしまった)。˞ネース˜カー　˞クッチルン [ˑneːsuˑkaː ˞kutʧiruŋ](煮たら荷崩れする＜崩れる＞)。˞クッチル˜　バソー [ˑkutʧiruˑ basoː](崩れる時は)。˞クッチレー˜　ミサムヌ [ˑkutʧireːˑ misamunu](崩れたらいいのに)。˞パー˜ク　˞クッチリ [ˑpaːˑku ˞kutʧiri](早く崩れろ)。

˞クッ˜ツァー [ˑkutˑtsaː] 【代】これら。指示代名詞ク˞リ [ku˞ri](これ) の複数形。ク˞リ˜ター [ku˞riˑtaː] の転訛。˞クッ˜ツァー　パ˞ラ˜シテーラ　˞ベーヤ˜　マー˞ズン˜　ン˞コー˜ラ˞ナー [ˑkutˑtsaː paˑraˑʃi̥teːra ˞beːjaˑ maː˞ʤuŋˑ ŋˑkoː˜raˑnaː](この人たちを出発させ＜行かせ＞てから、私たちは一緒にたべ＜召しあがり＞ましょうよねえ)。˞クッ˜ツァー　˞カーサランバ˜　ムティパリバ [ˑkutˑtsaː ˞kaːsaramba˜ mutipariba](これらは売れないから、持って帰れよ)。˞クッ˜ツァー　グ˞マー˜ンダ　˞カーサラヌ [ˑkutˑtsaː guˑmaːˑnda ˞kaːsaranu](これらは小さいから売れない)。˞クッツァー˜ル　˞シェー˜ル　˞カッ˜ツァー　˜アイブ　˜クトー　˞サヌ [ˑkuttsaːˑru ˞ʃeː˜ru ˞katˑtsaː ˜ʔaibu ˜ku̥toː ˞sanu](この人達＜これら＞がしたのであって、彼等はあんな事はしない)。˞クッ˜ツァー　グ˞マー˜ンダ　˞カーサラヌ [ˑkutˑtsaː guˑmaːˑnda ˞kaːsaranu](これらは小さいから売れない)。

˞クッツァー˜スン [ˑkuttsaːˑsuŋ] 【他動】ばらばらに崩す。ばらばらに破壊する。めちゃくちゃにする。˜アガヤー　˞アッ˜タルムン＜˞アッ˜タルムヌ＞バ　˞クッツァーシ　ナー˜ヌ [˜ʔagajaː ˞ʔatˑtarumum＜˞ʔat˜tarumunu＞ba ˞kuttsaːʃi naːˑnu](ああ残念! もったいないものを、ばらばらに崩してしまったよ)。˜アイニ　˞クッツァーサンブリ˜バ [˜ʔaini ˞kuttsaːsamburiˑba](あんなにばらばらに破壊するなよ)。˞クッツァースンティ˜　ウムーカー　˞クッツァーシ˜バ [ˑkuttsaːsuntiˑ ʔumuːka: ˞kuttsaːʃiˑba](めちゃくちゃに壊そうと思うなら壊しなさい)。˞クッツァース˜　クトー　ナ˞ラ˜ヌ [ˑkuttsaːsuˑ kutoː naˑraˑnu](ばらばらに壊すことはいけない)。˜アイブ　˜ムノー　˞パー˜ク　˞クッツァーシェー˜　ミサムヌ [˜ʔaibu ˜munoː ˞paːˑku ˞kuttsaːʃeːˑ misamunu](あんな物は早くばらばらに崩せばよいのに)。

˞クッツン [ˑkuttsuŋ] 【自動】崩壊する。ばらばらに崩れる。「くづる＜下二段活用＞。勢多の橋みなくづれて」『更級日記』の転訛か。˞クッツンとも言う。ミ˞ジウー˜ケー　˜ティダナ　˜プシ　サ˞ラス˜カー　˞クッツント ダー [miˑʤiʔuːˑke: ˜tidana ˜pu̥ʃi sa ˞rasuˑka: ˞kuttsunt̚-daː](水桶は太陽に干して晒すとばらばらに崩れるよ)。˞クッツァヌ [ˑkuttsanu](崩れない)。˞クッチヤッ˜サン [ˑkutʧijasˑsaŋ](崩れやすい)。˞クッツ˜　ピン [ˑkuttsuˑ piŋ](崩れるとき)。˞クッツェー˜　ミサムヌ [ˑkutʧeːˑ misamunu](崩ればよいのに)。˞パー˜ク　˞クッチ [ˑpaːˑku ˞kutʧi](早く崩れろ)。

グッ˞ふァグッふァ˜シ [guf˞faguffaˑʃi] 【副】重そうに。ヤ˞ラ˜ベー　プ˞スカタミ˜ヌ　ミ˞ジバ˜　グッ˞ふァグッふァ˜シ　カ˞タ˜ミ　˞パッ˜タヤー [jaˑraˑbeː pu̥ˑsukatamiˑnu miˑʤibaˑ guf˞faguffaˑʃi kḁˑtaˑmi ˞patˑtaja:](子供は、一荷の水＜天秤棒の両端に水を満たした水桶をかけたもの＞を重そうに担いで行ったよ)。

˞グッ˜ふァン [ˑguf˞faŋ] 【形】重い。ク˞レー˜　イッ˞ケン　グッ˜ふァン [kuˑreːˑ ʔikˑkeŋ guf˞faŋ](これは非常に重い)。˞ナン˜ゾー　˞グッ˜ふァー　˞ナー˜ヌ [ˑnanˑʤoː ˞guˑffaː ˞naːˑnu](あまり重くない)。˞シンダイ　グッ˜ふァー　˜ナルン [˞ʃindai guf˞faː˜naruŋ](次第に重くなる)。˞グッふァ˜ヌ　カ˞タマラ˜ヌ [˞guffaˑnu kḁˑtamaraˑnu](重くて担がれない)。˞グッ˜ふァー　˜ムノー　カ˞タム˜ナ [˞guf˞faː ˜munoː kḁˑtamuˑna](重いのは担ぐな)。˞グッ˜ふァーカー　シ˞トゥバン˜　ミサン [˞guf˞faːka: ʃi̥ˑtubam˜ misaŋ](重

かったら捨てても良い)。

˩グッ˥ふァンギサン [˩gufˢfaŋgisaŋ] 【連】重そうだ。˥ミルカー　˩グッ˥ふァンギサンダ　˥バー　カ˩タマ˥ヌ [˥miruka: ˩gufˢfaŋgisanda ˥ba: kḁ˩tama˥nu](見ると重そうだから、私は担がない)。

˥クツン [˥ku̥tsuŋ] 【自動】朽ちる。「くつ＜上ニ段活用＞」の四段活用化したもの。「獨寝等　薦朽目八方＜独り寝＜ぬ＞と薦朽ちめやも＞『万葉集　2538』」の義。ク˩ツァ˥ヌ [ku̥˩tsa˥nu](朽ちない)。クチ˩ナー˥ヌ [ku̥tʃi˩na:˥nu](朽ちてしまった)。˥ジーナ　ウ˩ズミ˥　シ˩キ˥ルカー　˥クツン [˥ʤi:na: ʔu˩ʤumi˥ ʃi̥˩ki˥ruka: ˥ku̥tsuŋ](地中に埋めておくと朽ちる)。˥クツクトー　˩ナー˥ヌ [˥ku̥tsu ˥ku̥to: ˩na:˥nu](朽ちることはない)。˩パー˥ク　˥クチェー　˥ミサムヌ [˩pa:˥ku ˥ku̥tʃe: ˥misamunu](早く朽ちればよいのに)。˥クチバ [˥ku̥tʃiba](朽ちよ)。

˥クティ [˥ku̥ti] 【名】異なること。別。別物。別個。˥ウヤー　˥クティ　ッ˩ふァー˥　クティ　ナ˩シ˥ル＜˥ナシティル＞　˩スータイ˥ヤー　˥ムティ　˩オー˥ル [˥ʔuja: ˥ku̥ti fˢfa:˥ ku̥ti na˩ʃi˥ru ＜˥naʃitiru＞ ˩su:tai˥ja: ˥muti ˩ʔo:˥ru](親は別、子供は別にして所帯を持っておられる)。

˥クティ　˥ナスン [˥ku̥ti ˥nasuŋ] 【連】別にする。別物にする。「異 (こと) になす」の転訛したもの。ウ˩リトゥ˥　ク˩リトー˥　マ˩ザーサン˥ドーシ　˥クティ　˥ナシ　シ˩キ˥リ＜˥シキ＞[ʔu˩ritu˥ ku˩rito:˥ ma˩ʤa:san˥do:ʃi ˥ku̥ti ˥naʃi ʃi̥˩ki˥ri ＜˥ʃiki＞](それとこれとは混ぜないで別にしておきなさい)。

ク˩ティ˥ナビ [ku̥˩ti˥nabi] 【名】別鍋。病人食や特別な他人を接待するために食事を作ること。特別炊飯。「ことなべ＜異鍋＞」の義。˥アッパーモー　ク˩ティ˥ナビ　シ˩キティル　カイバ˥　タ˩キティ　オーシタル [˥ʔappa:mo: ku̥˩ti˥nabi ʃi̥˩kitiru kaiba˥ tḁ˩kiti ʔo:ʃi̥taru](お祖母さんのは別鍋を用意して＜据えて＞、お粥を炊いて差し上げたものよ)。

ク˩ティ˥バタ [ku̥˩ti˥bata] 【名】腹違い。異腹。「ことはら」の義。ク˩ティバタ˥ヌ＜ハ˩ラチガイ˥ヌ＞　˩キョーダイ˥ヤー　˩ゴー˥ラー　˩グンボーッ˥ふァ　˩ヤッタ˥ナー [ku̥˩tibata˥nu ＜ha˩ratʃigai˥nu＞ ˩kjo:dai˥ja: ˩go:˥ra: ˩gumbo:fˢfa ˩jatta˥na:](腹違いの兄弟は多くは士族と平民の混血児だったねえ)。

ク˩ティ˥ムニ [ku̥˩ti˥muni] 【名】別の言葉。二枚舌。ク˩ティ˥プス [ku̥˩ti˥pu̥su](別人。別の人)。

ク˩ティ˥ムニ　˥ユクムニ [ku̥˩ti˥muni ˥jukumuni] 【連】事実と異なる言葉。別の言葉。うそ (虚言)。˩フントー˥ヌ　˥クトー　ア˩ザムティ˥　ク˩ティ˥ムニ　˥ユクムニバ　ア˩ジ　アー˥ク [˩ɸunto:˥nu ˥ku̥to: ʔa˩ʤamuti˥ ku̥˩ti˥muni ˥jukumuniba ʔa˩ʤi ʔa:˥ku](本当のことを言わないで、事実と異なること＜嘘＞を言っている)。

ク˩ティ˥ムヌ [ku̥˩ti˥munu] 【名】別物。ユ˩ヌ˥　シ˩ナ˥ムヌ　˩チュー˥ムン　シ˩タヌ˥　ク˩ティムヌ˥バ＜ク˩トゥムヌ˥バ＞　ウ˩クリ˥　ケーバン [ju˩nu ˥ʃi˩na˥munu ˩ʧu:˥muŋ ʃi̥˩tanu˥ ku̥˩timunu˥ba ＜ku˩tumunu˥ba＞ ʔu˩kuri˥ ke:baŋ](同じ品物を注文したが、別物を送ってきてあるよ)。

˥クディン [˥kudiŋ] 【名】要領。こつ＜骨＞。かんどころ。秘訣。「くでん＜口伝＞」のように、意味派生したものか。ノー˩ン˥　サ˩バン˥　ク˩ディン˥ヌ　ア˩リ˥ル　˥ムノー　˩スー [no:˩n sabaŋ˥ ku˩din˥nu ʔa˩ri˥ru ˥muno: ˩su:˥](何事をするにしても要領＜口伝＞があって、＜それに従って＞物事はするものだ)。

˥クティンクティン [˥kutiŋkutiŋ] 【名】別々。˩サンミン˥マー　˩ブックマンドー˥シ　˥クティンクティン　˥ナシ　シ˩キ˥リ [˩sammim˥ma: ˩bukkumando:˥ ʃi ˥ku̥tiŋku̥tin ˥naʃi ʃi̥˩ki˥ri](計算は合算しないで、別々にしておきなさい)。

˥クディン　˥トゥルン [˥kudin ˥turuŋ] 【連】機嫌を取る。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　クディン　˥トゥルンティ　˩スンドゥ˥　ムッ˩トゥ˥　クディン　トゥ˩ララ˥ヌ [ku˩nu˥ fˢfa:˥ kudin ˥turunti ˩sundu˥ mut˩tu˥ kudin tu˩rara˥nu](この子は、機嫌を取ろうとするが、一向に機嫌が取れない)。

˥クトゥ [˥ku̥tu] 【名】1事。ことがら。様子。˩イークトゥ [˩ʔi:kutu](良いこと)、ヤ˩ナクトゥ [ja˩nakutu](悪いこと) のように形容詞の語幹について名詞をつくる。˩ヨイグ˥トー　マギー˩マギー˥シ [˩joigu˥to: magi:˩magi:˥ʃi](祝い事は大きく)。ク˩トゥ˥ヌ　イ˩サイユ˥　ク˩マークマー˥　パ˩ナ˥シ　ッ˩サリリ [ku̥˩tu˥nu ʔi˩saiju˥ ku˩ma:kuma:˥ pa˩na˥ʃi s˩sariri](事件の詳細な事情を細かく申し上げなさい)。ク˩トゥ˥ヌ　ユ˩タ˥サ　ビ˩ナ˥サー　˩シーミラバ˥ル　ワ˩カ˥ル [ku̥˩tu˥nu ju˩ta˥sa bi˩na˥sa: ˩ʃi:miraba˥ru wa˩ka˥ru](ことの良し悪しは、してみないと分らない＜してみたらばぞ分る＞)。2事件。異変。異様なことがら。ウ˩キ˥ナーナ　ク˩トゥ˥ヌ　ウ˩ク˥リ　ブ˩リン˥ギサ˩サー [ʔu˩ki˥na:na ku̥˩tu˥nu ʔu˩ku˥ri bu˩riŋ˥gisa˩sa:](沖縄では事変が起きているようだ＜らしい＞よ)。

˥クトゥ **[˥kṵtu]**【名】琴。˩クン˥ネーナーヤ　˥クトゥン　˩サンシンヌン　アッ˥タン [˩kun˥neːnaːja kṵtun ˩saŋʃinnuŋ ˩ʔat˥taŋ](この家には琴も三味線＜を＞もあった)。˥クトゥ　ピ˩キシェー˥ン [˥kṵtu pi̥˩kiʃeː˥ŋ](琴を弾くことができる)。

˥クトゥ **[˥kṵtu]**【接助】～したところで～ない。～しても～ない。活用語の過去形に下接して未来の動作、作用を逆態接続的に表す。後続の文や句が先行する文や句の予想や推論と異なる接続表現。ウ˩リヌ　パッ˥タクトゥ　˩ターシタガーヤ [ʔu˩rinu pat˥takṵtu ˩taːʃitagaːja](その人が行ったところで、だれが知ったことか)。

ク˩トゥ **[kṵ˩tu]**【接頭】別の。他の。「こと (異)」の義。ク˩トゥ˥ムヌ [kṵ˩tu˥munu](別物)。ク˩トゥ˥ムヌ˥ユクムヌ [kṵ˩tu˥munu ˥jukumunu](別物)。ク˩トゥ˥ムニ [kṵ˩tu˥muni](別の言葉。嘘言)。ク˩トゥ˥ムヌ　˥ユクムノー　カ˩クサラ˥バン　ク˩レー˥　カ˩クサラ˥ヌ [kṵ˩tu˥munu ˥jukumunoː kạ˩kusara˥baŋ ku˩reː˥ kạ˩kusa˥ranu](別のことは隠せても、これは隠せない)。˩バー˥ネー　˥カイ　ア˩ジティ˥　プ˩ス˥ネー　ク˩トゥムニ˥バ　イ˩ジアー˥ク [˩baː˥neː ˥kai ʔa˩ʤiti˥ pṵ˩su˥neː kṵ˩tumuni˥ba ʔi˩ʤiʔaː˥ku](私にはこう言って、他人には別の言葉＜虚言＞を言っている＜言って歩く＞)。

˩グ˥トゥ **[˩gu˥tu]**【接尾】～たびに。～毎に。動詞の終止形に付いて、「その度に～」の意味を表す。˩ウン˥ネー　パルン˩グトゥ　ヤー˥ナ　ブ˩ラーヌ [˩ʔun˥neː paruŋ˩gutu jaː˥na bu˩raːnu](その＜彼の＞家に行く度に家にいない)。

˥グトゥイ **[˥gutui]**【名】(動) 力の強い牡牛。ことういうし (特牛)。耕牛。「事負乃牛之　倉上之瘡＜ことひの牛の鞍の上の瘡＞」『万葉集　3838』。˩特牛、俗語云、古度比＜ことひ＞」『和名抄』。「Cotoi、コトイ＜特牛＞『邦訳日葡辞書』」。「こてい『混効験集』」の転訛したもの。ヤ˩マー˥ラ　˩キー˥バ　˥キシティ　˥グトゥイン　˩サンガシ˥　ウ˩ラ˥ソーッタ [ja˩maː˥ra ˩kiː˥ba ˥kḭʃiti ˥gutuin ˩saŋgaʃi˥ ʔu˩ra˥soːtta](山から木を伐って特牛に曳かせて下ろされた)。

ク˩ドゥ˥キ **[ku˩du˥ki]**【名】口説。ク˩ドゥ˥キンともいう。琉歌の一形態。長歌形式で七、五調の連続を基調にした一定の曲調の歌謡。/サティムユタカヌ　パトゥマムラ　フーキマンプク　ウチチジク　ユユムカワラヌ　パトゥマムラ/＜さても豊かな鳩間村富貴万福うち続く世々に変わらぬ鳩間村＞「鳩間本口説」。/ギニヤユタカヌ　パトゥマムラシマヌナガリユ　ミワタシバ　ルクヌイチジニチカクアリ。(囃子) イヤイーヤ　ウスーメーデー　ガルマキウラリティ　ウヤクチョーデー　トゥジックゥ　ヤシナティ　ムラトゥンワブクニ　ワルビトゥシユリ　カンカウドゥクヌ　ムジキナムヌサミ　ンゾサソーリバ　ティンヌミグミヌ　ウヤキパンジョー　アラシミセユサ　ナマヌパヤシニ　クドゥキユミユミ/＜誠に豊かな鳩間村、島の形 (流れ) を見渡すと禄の一字に字画あり。囃子。いやいーや、御主みへていがらみち　おらりて親と兄弟妻子を養て村とん和睦に、童年寄　鰥寡孤独(カンカコドク)のもちきなものまで無蔵さ志うり王、天の恵みのうやき繁盛阿らしみ志へよさ、今の囃子に口説きを歌おう＞「鳩間口説」。/バンドゥパトゥマニ　ナウタチュル　インダシクドゥン　クヌシマヌ　トゥシヌシジャガタ　バンドゥヤル/＜私が鳩間に名だたる伊武田筑登之で、この島における年長者 (長老) とはこの私である＞「伊武田口説」『鳩間島古典民謡古謡集』などがある。

ク˩ドゥキパヤ˥シ **[ku˩dukipaja˥ʃi]**【名】˩口説」の中の「囃子」の部分。舞い方が舞いながら三味線に合わせて唱えるもの。

ク˩トゥ˥キム **[kṵ˩tu˥kimu]**【名】脇心(ワキゴコロ)。別心。「異肝」の義。他の男や女に惹かれる心。あたしごころ。ユ˩クキム [ju˩kukimu](脇心(ワキゴコロ)。別心)。˩ワー˥　フカナー　ク˩トゥ˥キモー　˩ナー˥ヌ [˩waː˥ ɸṵkanaː kṵ˩tu˥kimoː ˩naː˥nu](貴方以外に脇心はありません)。

グ˩トゥ˥ク **[gu˩tu˥ku]**【名】「五徳」の義。˥シチリン [˥ʃitʃiriŋ](七輪) やウ˩ブピバ˥チ [ʔu˩bupiba˥tʃi](大火鉢) の中に鉄瓶などをかける輪型の三脚。老人のいる家では、冬期になると五徳に˥ヤコン [˥jakoŋ](薬缶) をかけて炭火を起こし、湯を沸かして飲むのが楽しみといわれた。ピ˩バ˥チナ　グ˩トゥ˥ク　ビ˩シティ˥　ヤコン　˥カキティ　˩タン　タシキ˥　シ˩キ˥ルカー　˥ユー　フ˩ク˥タン [pi˩ba˥tʃina gu˩tu˥ku bi˩ʃiti˥ jakoŋ ˥kạkiti ˩tan taʃḭki˥ ʃḭ˩ki˥ruka: ˥ju: ɸṵ˩ku˥taŋ](大火鉢に五徳を据えて薬缶をかけておいて、炭火を焚きつけておくと、湯は沸いたよ)。

ク˩トゥ˥ケン **[kṵ˩tu˥keŋ]**【名】日頃。平常。平生。普段。いつも。常日頃。「今回とは別の時」の意。「異時」の義『八重山語彙』。現在の異常な状態を取り上げて話す際に、現在が特異な状態であり、現在以外の時、つまり「異時」が正常であるという意で、「日頃、平常」の意味となる。ク˩トゥケン˥マー　˥

アイヤー　ブˈラーヌヌ　キューˉヤ　ˉヌンティ　ヤˈルˉユー　アˈムサˉヌ　ナˈラˉヌ [kʉˈtukemˉma: ˉ?aija: buˈra:nunu kju:ˉja ˉnunti jaˈruˉju: ?aˈmusaˉnu naˈraˉnu](普段はそうではないが、今日は何故か気分が悪くて＜頭痛がして＞我慢できない)。クˈトゥケンˉトー　ˈカウリ　ブー [kʉˈtukenˉto: ˈkauri bu:](平常とは変わっている)。

クˈトゥˉサラ [kʉˈtuˉsara] 【副】わざわざ。わざと。故意に。特に。「殊更」の転訛したもの。ムˈカシˉヌ　クˈトゥˉバ　マˈナˉマ　ˉナリ　クˈトゥˉサラ　フˈジッˉクリ　ンˈザˉシ　ˉヌーˉス　ˈカンˉガイヤ [muˈkaʃiˉnu kʉˈtuˉba maˈnaˉma ˉnari kʉˈtuˉsara ɸuˈʤikˉkuri ?nˈʤaˉʃi ˈnu:ˉsu ˈkaŋˉgaija](昔のことを今になって故意に穿り出して如何するつもり＜考え＞か)。

クˈトゥシ [kʉˈtuʃi] 【名】今年。「是歳、コトシ」『類聚名義抄』の転訛したもの。クˈトゥシヌ　マイヤーˉ　イッˈケン　ノーˉレーン [kʉˈtuʃinu maijaːˉ ?ikˈken noːˉreːŋ](今年の稲＜米＞は非常によく稔っている)。クˈトゥシェーˉ　アˈミˉドゥシ　ヤˈリバˉ　ミˈジェー　ソーヤ　ナーˉヌ [kʉˈtuʃeː ?aˈmiˉduʃi jaˈribaˉ miˈʤe: soːja naːˉnu](今年は雨年だから水は心配ない)。クˈトゥシンˉ　ユˈガフˉ　タˈボーラˉレーン [kʉˈtuʃiɲˉ jaˈgaɸuˉ taˈboːraˉreːŋ](今年も豊年満作と豊漁＜世果報＞を賜った)。クˈトゥシンˉ　パルン [kʉˈtuʃimˉ paruŋ](今年も行く)。

クˈトゥジキˉルン [kʉˈtuʤikiˉruŋ] 【他動】人に頼んで言いやる。伝言する。「ことづける＜言付ける＞」の転訛。人に頼んで物を届ける。ˈウンパンシンˉヌ　ˈシンˉドゥン　クˈトゥジキˉルンティ　ウˈムーンドゥˉ　イˈスガサˉヌ　クˈトゥジキララˉヌ [ˈ?umpaŋʃinˉnu ˈʃinˉduŋ kʉˈtuʤikiˉrunti ?uˈmu:nˉdu ?iˈsugasaˉnu kʉˈtuʤikiraraˉnu](運搬船の船長に頼んで預けようと思うが、忙しくて預けられない)。クˈトゥジˉキ　ˉミサカー　クˈトゥジキˉル　ˉクトー　ˉナルン [kʉˈtuʤiˉki ˉmisaka: kʉˈtuʤikiˉru ˉkʉ-to: ˉnaruŋ](預けて良ければ、預けることは出来る)。

クˈトゥˉバ [kʉˈtuˉba] 【名】言葉。標準語からの転訛。普通は、ˉムニ [ˉmuni](ことば＜物言い＞)という。宮古、八重山の諸方言に対しては、ˈメークムニ [ˈmeːkumuni](宮古ことば＜物言い＞)。ˈヤイマムニ [ˈjaimamuni](八重山ことば＜物言い＞)。イˈサナキムニ [?iˈsanakimuni](石垣ことば＜物言い＞)といい、首里、那覇方言に対しては　ˉスイクトゥバ [ˉsuikʉtuba](首里ことば)、ˉナハクトゥバ [ˉnahakʉtuba](那覇ことば)のようにいう。同じ沖縄方言でも糸満方言に対しては、イˈツマンˉムニ [?iˈtsumamˉmuni](糸満ことば＜物言い＞)、ˈヤンˉバルムニ [ˈjamˉbarumuni](山原ことば＜物言い＞)のようにいう。

クˈトゥˉバルン [kʉˈtuˉbaruŋ] 【他動】断る。拒絶する。辞退する。ウˈヌˉ　パˈナˉシェー　クˈトゥˉバルンティ　ˉウムーカー　クˈトゥˉバリ　ミサンˈダー [?uˈnuˉ paˈnaˉʃe: kʉˈtuˉbarunti ˉ?umu:ka: kʉˈtuˉbari ˉmisanˈda:](その話は断ろうと思うなら断っていいんだよ)。マˈナˉマー　クˈトゥバララˉヌ [maˈnaˉma: kʉˈtubararaˉnu](今は断れない)。クˈトゥˉバル　プˈソーˉ　クˈトゥˉバレー　ˉミサムヌ [kʉˈtuˉbaru pʉˈsoːˉ kʉˈtuˉbare: ˉmisamunu](断る人は断ればよいのに)。ˈダンダンˉシ　クˈトゥˉバリ [ˈdandaŋˉʃi kʉˈtuˉbari](さっさと断れ)。

クˈトゥˉプス [kʉˈtuˉpʉsu] 【名】別人。別の人。他人。「異人」の義。「ことひとと見なさむは『源氏物語　胡蝶』」の義。クˈトゥˉプス　ˉユクプステー　ウˈモーラˉヌ　ユˈヌˉプスティル　ウˈモーˉリ [kʉˈtuˉpʉsu ˉjukupʉsute: ?uˈmoːraˉnu juˈnuˉpʉsutiru ?uˈmoːˉri](他人別人とは思われない。同じ人としか思われない＜同じ人とぞ思われる＞)。

クˈトゥˉムニ [kʉˈtuˉmuni] 【名】別のことば。別言。クˈトゥˉムニ　ˉユクムネー　アˈザバンˉ　クˈヌˉクトー　アˈジェーˉ　ナˈラˉヌ [kʉˈtuˉmuni ˉjuku-mune: ?aˈʤabaŋˉ kuˈnuˉkʉto: ?aˈʤeːˉ naˈraˉnu](別の話や他の言葉＜異言、別言＞は言ってもいいが、このことは言ってはならない)。

クˈトゥˉムヌ [kʉˈtuˉmunu] 【名】別物。こともの(異物)。別の物。クˈトゥˉムヌ　ˉユクムノー　ミˈラˉバン　ˉカイブ　ˉムノー　ˉミレー　ナˈラˉヌ [kʉˈtu ˉmunu ˉjukumuno: miˈraˉbaŋ ˉkaibu ˉmuno: ˉmire: naˈraˉnu](他の物、別の物は見てもいいが、こんなものは見てはならない)。

クˈトゥˉムヌユクムヌ [kʉˈtuˉmunu ˉjukumunu]【連】異物・別物。別件の重言(畳語)。ABCDEFCD 型の重言。クˈトゥˉムヌユクムヌン　ˈデーˉカー　ˈヌンガーラサリンˉドゥ　クˈレー　ヌンガーラサラˉヌ [kʉˈtuˉmunu jukumunun ˈdeːˉka: ˈnuŋgaːrasarinˉdu kuˈre: nuŋgaːrasaraˉnu](別のことなら許せる＜見逃せる＞が、これは許せ＜見逃せ＞ない)。

クˈトゥヤッˉサン [kuˈtujasˉsaŋ] 【形】たやすい(容易い)。易しい。簡単である。容易である。「事易

さ・あり」の融合変化したもの。シˈキンˀマー　クˈトゥヤッˀサンティ　アˈザリブタヌˀ　クˈトゥヤッˀサー　ˈナーンˀシェン [ʃi̥ˈkimˀma: ku̥ˈtujasˀsanti ʔaˈʤaributanuˀ ku̥ˈtujasˀsa: ˈna:ŋˀʃeŋ](試験は易しいといわれていたが、容易くはなかった)。クˈトゥヤッˀサル　シˈグトゥテーˀ　ノーˈン　ナーˀヌ [ku̥ˈtujas ˀsaru ʃiˈgutute:ˀ no:ˈn na:ˀnu](容易い仕事とて何もない)。

クˈトゥˀワキ [ku̥ˈtuˀwaki] 【名】謝罪。詫び。言い訳。弁解。「ことわけ (事訳)」の義。ˈシーˀネヌ　カˈナパイヌ　ユイバˀ　ブリティル　クˈトゥˀワキ　ˈシン　ギーティ　クーˀタ [ˈʃi:ˀnenu kaˈnapainu juibaˀ buritiru ku̥ˈtuˀwaki ˈʃiŋ gi:ti ku:ˀta](後ろの家の鍬の柄を折ってしまって、それで謝り＜謝罪＞に行ってきた)。クˈトゥワキˀヌ　ˈダンˀダン　アˈジˀ　ッˈサリシタンドゥˀ　スˈコーランˀシェン [ku̥ˈtuwakiˀnu ˈdanˀdaŋ ʔaˈʤiˀ sˈsariʃi̥tanduˀ su̥ˈko:raŋˀʃeŋ](謝罪の限りを尽くしたが聴いて下さらなかった)。

クˈトゥˀワザ [ku̥ˈtuˀwaʤa] 【名】ほかのこと。別のこと。余事。他事。「異業 (Vaza『邦訳日葡辞書』)」の義。ユˈクワザˀ　クˈトゥワザˀル　ˈスーˀ　ドゥクーˈドゥクˀ　カイブ　ワˈザˀバ　ˈシートナー [juˈkuwaʤaˀ ku̥ˈtuwaʤaˀru ˈsu:ˀ duku:ˈdukuˀ kaibu waˈʤaˀba ˈʃi:ɨna:](他のこと、別の事を＜ぞ＞するのであって、見す見すこんなことを仕出かしてねえ)。

クˈトゥˀワリ [kuˈtuˀwari] 【名】1断り。拒絶すること。老年層はクˈトゥˀバリ [ku̥ˈtuˀbari](断り) という。クˈトゥワリˀヌ　ティˈガミˀヌ　ˀケーン [ku̥ˈtuwariˀnu tiˈgamiˀnu ˀke:ŋ](断りの手紙がきた)。クˈレー　カーサヌˀティ　ˈスーˀ　クˈトゥワリˀヌ　カˈビˀ　パˈリˀ　シˈキˀリ [kuˈre: ka:sanuˀti ˈsu:ˀ ku̥ˈtuwariˀnu kaˈbiˀ paˈriˀ ʃi̥ˈkiˀri](これは売らないと言う断りの紙を貼っておきなさい)。2申し訳。言いわけ。事前に理由を告げること。ヌˈシンˀナーニン　クˈトゥˀワリ　アˈザムティ　カッティニˀ　シゥˈカイベー [nuˈʃinˀna:niŋ ku̥ˈtuˀwari ʔaˈʤamuti kattiniˀ si̥ˈkai be:](持ち主にも断りを言わないで、勝手に使っている)。

ˀクナー [ˀkuna:] 【代】此処に。ˀクマナ [ˀkumana](ここ・に) の縮約転訛したもの。ˈワーˀ　クナー　ˈベーˀリ [ˈwa:ˀ kuna: ˈbe:ˀri](君は此処に居れ)。ˈワーˀ　クナーティ　ˀヌー　ˈスー　カンˀガイヤ [ˈwa:ˀ kuna:ti ˀnu: ˈsu: kaŋˀgaija](君は此処で何をするつもり＜考え＞か)。ˀクナー　ˀマティ　ˈベーˀリ [ˀkuna: ˀmati ˈbe:ˀri](此処に待っておれ)。ˀクナーン　ˀマコヤー　ˈブンˀカヤー [ˀkuna:m ˀmakoja: ˈbuŋˀkaja:](此処にもヤシガニは棲息しているかなあ)。

ˀクナー [ˀkuna:] 【接尾】くらべ (競べ)。競争。「くら (競)」の転訛。動詞の連用形に下接して「競争する」意に用いる。ˈジーˀ　カˈキッˀクナー [ˈʤi:ˀ kḁˈkikˀkuna:](字書き競争)。ˀウタ　イˈジックナー [ˀʔuta ʔiˈʤikkuna:](歌うたい競争)。イˈジックナー [ʔiˈʤikkuna:](自慢競争。豊年祭に西村と東村に分かれて行われる余興の一つで、村自慢競争)。ˈイー　ッふァイˀクナー [ˈʔi: ffaiˀkkuna:](飯食い競争。早食い競争)。ˈウイッˀクナー [ˈʔuikˀkuna:](泳ぎ競争)。ˈウイックナー [ˈʔuikkuna:](鬼ごっこ＜追い競争＞)。

クˈナイˀルン [kuˈnaiˀruŋ] 【他動】こらえる (堪える)。忍耐する。我慢する辛抱する。ノーˈンティˀ　イˈザラバンˀ　バー　クˈナイˀルン [no:ˈntiˀ ʔiˈʤarabamˀ ba: kuˈnaiˀruŋ](何と叱られようとも私は堪える)。クˈチˀサラバン　クˈナイˀリˈダー [ku̥ˈʧiˀsarabaŋ kuˈnaiˀriˈda:](苦しくても堪えなさいよ)。ウビˈバーキˀル　クˈナイラˀリ　ˀメー　クˈナイˀル　ˀクトー　ナˈラˀヌ [ʔubiˈba:kiˀru kuˈnairaˀri ˀme: kuˈnaiˀru ˀku̥to: naˈraˀnu](ここまでしか堪えられない＜ここまでが堪えられる＞。もう堪えることは出来ない)。イˈザラバンˀ　ナーˈイˀ　クナイ　ˈベーˀリ [ʔiˈʤarabanˀ naˈiˀ kunai ˈbe:ˀri](叱られても、じっと堪えていなさい)。マーンˈベーマˀ　クˈナイˀレーˀミサムヌ [ma:mˈbe:maˀ kuˈnaiˀre: ˀmisamunu](もう少し堪えればよいのに)。

クˈナシダー [kuˈnaʃida:] 【名】よく耕した田。何度も耕し、土を砕いて柔らかくした田。「こなし＜熟し＞田」の義。「Conaxi＜こなし＞、Tçuchiuo conasu＜土をこなす＞『邦訳日葡辞書』」の義。クˈナシダーヌ　マイヤーˀ　イッˈケナ　ノーˀルン [kuˈnaʃida:nu maija:ˀ ʔikˈkena no:ˀruŋ](よく耕した田の稲はよく稔る)。

クˈナスン [kuˈnasuŋ] 【他動】1こなす (熟す)。土を砕いて細かくする。「Conaxi＜こなし＞、Tçuchiuo conasu＜土をこなす＞『邦訳日葡辞書』」の義。ˀミツァ　クˈナスン [ˀmitsa kuˈnasuŋ](土をこなす)。ˈコーˀヌ　クˈナサラヌ [ˈko:ˀnu kuˈnasaranu](固くてこなされない)。クˈナシヤッˀサン [kuˈnaʃijasˀsaŋ](こなしやすい)。クˈナス　プス [kuˈnasu pu̥su](こなす＜熟す＞人)。クˈナシェーˀ　ミサムヌ [kuˈnaʃe:

ˀ misamunu](こなせばよいのに)。ˈマーˀビン　クˈナシ [ˈmaːˀbiŋ kuˈnaʃi](もっとこなせ)。2煮た芋などを捏ねる。粉などに水分を加えて捏ねる。ˈウンˀバ　ˈネーシティˀ　クˈナスˀカー　スˈブˀリティ　ユˈナンˀパーナ　ッˈスˀミ [ˈʔumˀba ˈneːʃitiˀ kuˈnasu ˀkaː suˈbuˀriti juˈnamˀpaːʃi sˈsuˀmi](芋を煮て捏ねたら握って＜両手で絞って＞ユーナの葉で包みなさい)。

クˈナフチˀル [kuˈnaɸu̥ʧiˀru] 【名】粉薬。散薬。ミˈジフチˀル [miˈʤiɸu̥ʧiˀru](水薬) の対義語。クˈナフチˀル　ˀヌムンティ　ˈアーˀキ　ンˈツァイティ　ミーˀパナナ　フˈキˀカキ　ˀシケーバン [kuˈnaɸu̥ʧiˀru ˀnumunti ˈʔaːˀki ʔnˈtsaiti miːˀpanana ɸu̥ˈkiˀkḁki ˀʃi̥keːbaŋ](粉薬を飲もうとして、喉を詰まらせ、噴き出して顔に吹きかけてあるよ)。

クˈナリルン [kuˈnariruŋ] 【自動】こなれる (熟れる)。細かくなる。砕かれて粉になる。アˈガミツァーˀ　ミˈジˀ　カキティ　ˀパンシ　クˈナスˀカー　イッˈケンˀ　クˈナリルン [ʔaˈgamitsaːˀ miˈʤiˀ kḁkiti ˀpaŋʃi kuˈnasuˀkaː ʔikˈkeŋˀ kuˈnariruŋ](赤土は水をかけて足でこなすと良くこなれる)。マˈダˀ　クˈナリラヌ [maˈdaˀ kuˈnariranu](まだこなれない)。ヤˈシーヤシーˀシ　クˈナリルˀ　ムノー　アˈラˀヌ [jaˈʃiːjaʃiːˀʃi kuˈnariruˀ munoː ʔaˈraˀnu](簡単にこなれるものではない)。

クˈナルン [kuˈnaruŋ] 【自動】こなる (熟る)。こなれる。ˀパンシ　ˈフンツァースˀカー　クˈナルンティˀ　ウˈムーンˀドゥ　マˈダˀ　クˈナランバン [ˈpaŋʃi ˈɸuntsaːsuˀkaː kuˈnaruntiˀ ʔuˈmuːnˀdu maˈdaˀ kuˈnarambaŋ](足で踏みつける＜踏み散らす＞とこなれ＜熟れ＞る思ったが、まだこなれないよ)。

グˈナン [guˈnaŋ] 【名】五男。ビˈコーンッふァーˀ　サˈクˀシェーラ　グˈナンバーˀキ　ˈウイヌ　ガッˀコー　ンˈザˀソーレーン [biˈkoːŋffaːˀ sḁˈkuˀʃeːra guˈnambaːˀki ˈʔuinu gakˈko: ʔnˈʤaˀsoːreːŋ](男の子は長男から五男まで上の学校を出された＜進学させられた＞)。

クˈニ [kuˈni] 【名】1国。ˈフン [ˈɸuŋ](国) ともいう。「須賣呂伎乃　之伎麻須久爾能＜天皇の敷きます国の＞『万葉集　4122』」の転訛。ヤˈマトゥˀヌ　クˈニ [jaˈmatuˀnu kuˈni](大和の国)。ˈトーˀヌ　クˈニ [ˈtoːˀnu kuˈni](唐の国)。クˈニヌ　カウルˀカー　プˈソーˀ　シˈラカタˀチン　ˈカウリˀ　パˈナˀス　ˀムニン　ˈカウリス [kuˈninu kauruˀkaː puˈsoːˀ ʃiˈrakataˀ ʧiŋ ˈkauriˀ paˈnaˀsu ˀmuniŋ ˈkaurisu](国が変わると人は顔貌も変わるし、話す言葉も変わる)。2生まれた国、故郷。「鴈鳴者　本郷思都追 (雁がねは本郷＜くに＞思ひつつ)『万葉集　4144』」の義。/クニムトゥヌ　マブルシュー　アミブシャヌ　ウヤムトゥヌ　カミガナシ　アミブシャヌ/(国もと＜鳩間島＞の守り神様、雨が欲しいです。親元先祖代々の神様、雨が欲しいです)『鳩間島古典民謡古謡集』。

クˈニチ [kuˈniʧi] 【名】九日。老年層は、クˈクヌˀカ [ku̥ˈkunuˀka](九日) ともいう。クˈヌˀ　シˈグトー　タンガˀシ　クˈニチˀ　カˈカリˀル　トゥˈズミラリタ [kuˈnuˀ ʃiˈguto: taŋgaˀʃi kuˈniʧiˀ kḁˈkariˀru tuˈʤumirarita](この仕事は一人で九日かかって＜ぞ＞完了できた＜終えられた＞)。ˈクンガˀチ　ˀクニチ [ˈkuŋgaˀʧi ˀkuniʧi](九月九日。重陽の節句の日にˈウンˀヌ　ˈニンˀガイ [ˈʔunˀnu ˈniŋˀgai]＜甘藷の豊作祈願＞を菊酒で祈願し、祝う)。

グˈニチ [guˈniʧi] 【名】五日。老年層は、ˈイシゥˀカ [ˈʔisi̥ˀka](いつか＜五日＞) ともいう。クˈヌˀ　シˈキˀヌ　グˈニチˀナー　フˈニˀヌ　スˈラウラˀシ　ˈソーˀルンツォー [kuˈnuˀ ʃi̥ˈkiˀnu guˈniʧiˀnaː ＜ɸuˈniˀnu＞ suˈrauraˀʃi ˈsoːˀruntsoː](今月の 5 日に新造船の進水式をされるそうだ)。

クˈニチヨイ [kuˈniʧijoi] 【名】九月九日の祝い。重陽の節句の日に村では酒に菊を浮かべてˈウンˀヌ　ˈニンˀガイ [ˈʔunˀnu ˈniŋˀgai](甘藷の豊作祈願) とタˈクˀヌ　ˈニンˀガイ [tḁˈkuˀnu ˈniŋˀgai](蛸の豊漁祈願) が行われる。各家庭でも芋の豊作と蛸の豊漁を祈願して菊酒が振舞われた。ˈクンガˀチ　ˀクニチナー　ˈウンˀヌ　ˈニンガイˀトゥ　タˈクˀヌ　ˈニンガイˀバ　ˈソーッˀタ [ˈkuŋgaˀʧi ˀkuniʧinaː ˈʔunˀnu ˈniŋgaiˀtu tḁˈkuˀnu ˈniŋgaiˀba ˈsoːtˀta](九月九日には芋の豊作祈願と蛸の豊漁祈願をなさった)。

クˈヌ [kuˈnu] 【連体】この。クˈヌ　プスルˀ　バーˀウヤ [kuˈnu pu̥suruˀ baː ˀʔuja](この人が私の親だ)。クˈヌˀ　ムˈニˀバ　シˈキトゥミリ [kuˈnuˀ muˈniˀba ʃi̥ˀkitumiri](この言葉を肝に銘じて＜聞きとめて＞おけ)。クˈヌˀ　クトー　イッˈカ　バシキラヌ [kuˈnuˀ ku̥to: ʔikˈka baʃi̥kiranu](この事は決して＜いっかな＞忘れない)。

クˈヌウイ [kuˈnuʔui] (1) 【名】このうえ＜これ以上＞。ˀナシパンジョーティル　ˀアル　ウˈヌウイヌˀ　ユˈルˀクビテー　ˈナーˀヌ [ˀnaʃipanʤoːtiru ˀʔaru kuˈnuʔuinuˀ juˈruˀkubiteː ˈnaːˀnu](子孫繁盛＜生まれ繁盛＞と昔から尊ばれている。これ以上の喜び

はない)。 **(2)**【副】さらに。この上。マˈナマバー˥キ スˈダ˥ティ ッˈふォー˥リ マˈタ˥ クˈヌウイ˥ バˈキ˥ダマ ˈバー˥キ タˈボーラ˥リ シカイッˈトゥ˥ フˈコーラサ˥ユー [maˈnamabaː˩ki suˈda˥ti fˈfoː˩ri maˈta˥ kuˈnuʔui˥ baˈkidama ˈbaː˩ki taˈboːra˥ri ʃi̥kaitˈtu˥ ɸu̥ˈkoːrasa˥juː](今まで育てて頂き、また更に＜この上＞財産分与まで賜り誠に＜しかと＞有難うございます)。

クˈヌウ˥チ [kuˈnuʔu˥ʧi] 【副】その内。間もなく。やがて。近日中に。クˈヌウ˥チ ウˈキ˥ナーラ ˈイー ソーン˥ シゥˈカリス˥ パジ [kuˈnuʔu˥ʧi ʔuˈki˥naːra ˈʔiː soːŋ˥ si̥ˈkarisu˥ paʤi](間もなく沖縄からいい知らせも聞ける＜聞かれる＞ことでしょう)。

クˈヌ˥グル [kuˈnu˥guru] 【名】このごろ。近頃。最近。「穂に出し君が見延奴己能許呂＜見えぬ此の頃＞。万、3506」の転訛。クˈヌグル˥ヌ バˈカー˥ムヌヌ ˈスー˥ クトー ムッˈトゥ˥ アˈティンガーラヌ [kuˈnuguru˥nu baˈkaː˩mununu ˈsuː˥ kṵtoːmutˈtu˥ ʔaˈtiŋgaːranu](最近の若者のすることはちっとも分からない＜見当がつかない＞)。クˈヌ˥グロー ミˈララヌ˥ヌ ˈヌー˥シタカヤー [kuˈnu˥guroːmiˈraranu˥nu ˈnuː˩ʃi̥takajaː](最近は姿が見られないが、どうしたのかなあ)。クˈヌ˥グルシェー タˈキ˥フドゥン ˈスー˥リティ アˈラ˥クンˈダー ˥メー [kuˈnu˥guruʃeː taˈki˥ɸudun ˈsuː˩riti ʔaˈra˥kunˈdaː˩meː](此の頃では身長も伸びて＜成長して＞、もう歩くよ＜歩くことが出来るよ、もう＞)。クˈヌグロー ヌー˥シ ˈオーッ˥ター [kuˈnuguroː nuː˩ʃi ˈʔoːt˥taː](近頃は如何でしたか＜如何しておられましたか＞)。クˈヌ˥グロー ˥ミサナリ ˈオーッタン˥ドゥ ˥キノーラ ˈヤン˥ヌ ˈフッカイ シーナー˥ヌ [kuˈnuguroː˥ misanari ˈʔoːttan˥du ˥kinoːra ˈjan˥nu ˈɸukkai ʃiːnaː˩nu](此の頃はずっと元気でおられたが、昨日から病気が再発して＜ぶり返して＞しまった)。

クˈヌ˥ シキ [kuˈnu˥ ʃi̥ki] 【連】この月。今月。クˈヌ˥ シˈキ˥ヌ ンˈザシ˥マイ [kuˈnu˥ ʃi̥ˈki˥nu ʔnˈʤaʃi˥mai](この月の支払い＜出し前。割り当て額＞)。クˈヌ˥ シケー キˈザルヌ ゴー˥ラーン [kuˈnu˥ ʃi̥keːkiˈʤarunu goː˩ra:ŋ](今月は祭祀行事が多い)。

クˈヌ˥シキ [kuˈnu˥ʃi̥ki] 【名】九ヶ月。クˈヌ˥シキシ マˈリル˥ ッˈふァー˥ グˈマー˥ン [kuˈnu˥ʃi̥kiʃi maˈriru˥ fˈfaː˥ guˈmaː˩ŋ](九ヶ月で生まれる子は＜体が＞小さい)。

クˈヌシチ [kuˈnuʃi̥ʧi] 【名】このたび。今回。このごろ。近頃。「此の節」の義。クˈヌシチェー˥メー ˈカン˥ボーン ビˈスンカーリティ˥ ノーˈン˥ ナˈラン˥シェン [kuˈnuʃi̥ʧeː˥ meː ˈkam˥boːm biˈsuŋkaːriti˥ noː˩n˥ naˈraŋ˥ʃeŋ](この度は、もう感冒に打ちのめされて何もできなかった)。クˈヌシチェー˥ ヌンティル ヤˈル˥ユー ˈタイフー˥ヌ ˈゴー˥ラーバン [kuˈnuʃi̥ʧeː˥ nuntiru jaˈru˥juː ˈtaiɸuː˥nu ˈgoː˩ra:baŋ](此の頃は何故か台風が多いワイ)。

クˈヌ˥スク [kuˈnu˥sṵku] 【名】これほど (是程)。これくらい。この程度。こんなにまで。クˈヌ˥スクンツァン ˈウイユーサ˥ヌ [kuˈnu˥sṵkuntsaŋ ˈʔuiju:sa˥nu](この程度すらも泳げない)。クˈヌスク˥ヌ スˈブ˥ルシェー ˈウイヌ ガッコー˥ヌ シˈキン˥マー ˈトゥーラ˥ヌ [kuˈnusṵku˥nu suˈbu˥ruʃeː ˈʔuinugakkoː˩nu ʃi̥ˈkim˥maː ˈtuːra˥nu](この程度の頭＜学力＞では上級学校の試験には受からない＜通らない＞)。

クˈヌッ˥ク [kuˈnuk˥ku] 【名】九個。トゥˈルヌ コー˥マ クˈヌッ˥ク バˈラフ˥タッスンヌ ˥シトゥ シˈラリ˥ ウˈクラリ˥ ケーン [tuˈrunu koː˩ma kuˈnuk˥ku baˈraɸṵ˥tassunnu ʃi̥tu ʃiˈrari˥ ʔuˈkurari˥ keːŋ](鶏の卵を九個、わらづと＜藁苞＞の土産物にされて送られてきた)。

クˈヌッ˥コー [kuˈnuk˥koː] 【名】こんな (このざま)。このようなありさま。連体詞的に、下に省略された悪い意味内容の名詞を修飾する。ˈウンザン カシカーサ˥リティル クˈヌッ˥コー ˥ナリ ˈベートダー [ˈʔunʤaŋ kaʃi̥kaːsa˥ritiru kuˈnuk˥koː ˥nari ˈbeːトdaː](あの野郎に騙されて、このざまになっているのだよ)。クˈヌッ˥コーヌ ムˈヌ˥ヌ アˈズ˥ ムˈニ˥バ シˈキ アー˥ク [kuˈnuk˥koːnu muˈnu˥nu ʔaˈʤu˥ muˈni˥ba ʃi̥ˈki ʔaː˩ku](こん奴の言うことを聞いている)。

クˈヌッ˥チ [kuˈnut˥ʧi] 【名】九つ。九歳。クˈクヌ˥チ [kṵˈkunu˥ʧi](九つ) の縮約形。サˈクシ˥ヌ マˈリティ˥ クˈヌッ˥チ ˥ナルンケン ˈウシトゥ˥ッふァー マˈランシェン [sḁˈkuʃi˥nu maˈriti˥ kuˈnut˥ʧi˥naruŋkeŋ ˈʔuʃitu˥ffaː maˈraŋʃeŋ](長男が生まれて九つになるまで、弟＜下の子＞は生まれなかった)。

クˈヌティー˥ カˈヌティー˥ [kuˈnutiː˥ kaˈnutiː˥] 【連】あの手この手。「此の手・彼の手」の義。いろいろと手段を講じること。クˈヌティー˥ カˈヌティー˥バ シゥˈカイ˥ プˈス カシゥカー˥スンティ ˈアー˥ク [kuˈnutiː˥ kaˈnutiː˥ba si̥ˈkai˥ pṵˈsu kasi̥kaː˩sunti ˈʔaː˩ku](あの手この手を使って人を騙そうとしてい

る)。

クˈヌトゥーˀル [kuˈnutuːˀru] 【名】このとおり (此の通り)。同様。クˈヌトゥーˀル　ˀカクカー　マˈチガーˀヌ [kuˈnu tuːˀru ˀkq̥kukaː maˈʧigaːˀnu](この通りに書いたら間違わない)。

クˈヌˀトン [kuˈnuˀtoŋ] 【連】連体詞クヌ [kunu](この) に、場所を表すトン [toŋ](所) が付いた (この所。ここ。此の場所)。ウˈヌˀトン [ʔuˈnuˀtoŋ](その所。そこ)、カˈヌˀトン [kaˈnuˀtoŋ](あの所。あそこ) の対義語。クˈヌˀトンナール　ミˈジカメーˀ　ビˈサーリˀ　ブˈタˀナー [kuˈnuˀtonnaːru miˈʤikameːˀ biˈsaːriˀ buˈtaˀnaː](ここに < 此の場所にぞ > 水甕は据えられていたよねえ)。

クˈヌマーˀマ [kuˈnu maːˀma] 【名】このまま (此の儘)。今のまま。クˈヌマーマˀヌ　ˈシーヨーˀシェー　ウˈドゥキˀスバ　ˈシーˀヨー　ˈカイリ [kuˈnumaːmaˀnu ˈʃiːjoːˀʃeː ʔuˈdukiˀsuba ˈʃiːˀjoː ˈkairi](今の儘のやり方では欠損するから、方法 < やり方 > を変えなさい)。

クˈヌマˀマ [kuˈnumaˀma] 【名】このまま。今のまま。クˈヌママˀヌ　ˈトゥーˀル　カˈジヌˀ　フクカー　ˀフネー　ンˈザサラˀヌ [kuˈnumamaˀnu ˈtuːˀru ka ˈʤinuˀ ɸu̥kukaː ˀɸuneː ʔnˈʤasaraˀnu](このままの状態で < 通りに > 風が吹くと舟は出されない)。

クˈヌˀムン [kuˈnuˀmuŋ] 【他動】 1好む。好きである。カˈレーˀ　サˈケーˀ　クˈヌムンˀドゥ　アˈマムノーˀ　クˈヌマˀヌ [kaˈreːˀ sq̥ˈkeːˀ kuˈnumunˀdu ʔaˈmamunoːˀ kuˈnumaˀnu](彼は酒は好むが、甘い物は好まない)。サˈケーˀ　クˈヌミンˀギサンティ　アˈズンドゥˀ　クˈヌˀム　ˀクトー　ˈナーンˀパジ [sq̥ˈkeːˀ kuˈnumiŋˀgisanti ʔaˈʤundu kuˈnuˀmu ˀku̥toː ˈnaːmˀpaʤi](酒を好みそうだと言うが、好むことはないはずだ)。ˈワーˀ　クˈヌミˀヌ　ˀムノーラ　イˈラˀビ　ˀトゥリ [ˈwaːˀ kuˈnumiˀnu ˀmunoːra ʔiˈraˀbi ˀturi](君の好みのものから選んで取れ)。ˀバー　ˀアイブー　ˀムノー　クˈヌマヌˀヌ　クˈヌˀム　プˈスン　ブンˀパジ [ˀbaːˀʔaibuː ˀmunoː kuˈnumanuˀnu kuˈnuˀmu pu̥ˈsum buŋˀpaʤi](私は、あんな物は好まないが、好む人もいる)。ターˈンˀ　クˈヌˀミ　ブˈラーヌ [taːˈŋˀ kuˈnuˀmi buˈraːnu](誰も好んでいない)。 2企てる。もくろむ。計画する。たくらむ。考え出す。ˈヌーˀバ　クˈヌˀムンティ <ˈスンティˀ>　アˈツァˀマリ　ˈベーˀワ [ˈnuːˀba kuˈnuˀmunti <ˈsuntiˀ> ʔaˈtsaˀmari ˈbeːˀwa](何を企てようと集まっているのか)。ヤˈナクトゥバˀ　クˈヌˀミ　ˈベー [jaˈnakutubaˀ kuˈnuˀmi ˈbeː](悪事をたくらんでいる)。

クˈヌ　ユー [kuˈnu juː] 【連】この世。現世。クˈヌユーˀラ　イˈクˀサティ　ˈスー　ムヌヌ　ナーンˀナルカー　ˀミサムヌティ　ウˈモーˀリ [kuˈnu juːˀra ʔiˈkuˀsati ˈsuː mununu naːnˀnarukaː ˀmisamunuti ʔuˈmoːˀri](この世から戦争というものが無くなればよいのにと思われる)。ˈソーˀランナーヤ　ˀウヤパープジンケーヌ　ˀグソーラ　ˈオーˀリ　クˈヌ　ユーˀナーティ　トゥˈリムˀチ　サˈリティˀ　グソーヌ　シˈトゥˀバ　カˈタミˀル　ˈカイˀロールツォー [ˈsoːˀranna:ja ˀʔujapaːpuʤiŋkeːnu ˀgusoːra ˈʔoːˀri kuˈnu juːˀnaːti tuˈrimuˀʧi saˈritiˀ gusoːnu ʃi̥ˈtuˀba kq̥ˈtamiˀru ˈkaiˀroːrutsoː](お盆にはご先祖様たちがあの世 < 後生 > から来られてこの世で接待されて、後生への土産 < つと > を担いで帰られるそうだ)。

ˀクヌヨーナ [ˀkunujoːna] 【連体】このような。ˀクヌヨーナ　クˈトゥˀバ　ˈシー　ヌーˀ　スー　ˈカンˀガイヤ [ˀkunujoːna ku̥ˈtuˀba ˈʃiː nuːˀ suː ˈkaŋˀgaija](このような事をして < 為出かして > どうするつもりか < どうする考えか >)。

ˀクヌヨーニ [ˀkununoːni] 【副】このように。ˀクヌヨーニ　ˀナルンテー　イˈミˀサラーンツァン　ウˈモーンˀシェン [ˀkunujoːni ˀnaruntеː ʔiˈmiˀsaraːntsaŋ ʔuˈmoːŋˀʃeŋ](このようになろうとは夢だにも < 夢にさえも > 思わんかった)。

ˀクヌヨーヌ [ˀkunujoːnu] 【連体】このような。こういう。こんな。かかる。若年層は、ˀクヌヨーナ [ˀkunujoːna](このような) ともいう。ˀクヌヨーヌ　ˀクトー　イッˈカ　シェーˀ　ナˈランˀ　クトゥ [ˀkunujoːnu ˀku̥toː ʔikˈka ʃeːˀ naˈraŋˀ ku̥tu](このようなことは絶対にしてはならないことだ)。

クˈノー　スン [kuˈnoː suŋ] 【連】苦悩する。苦しみ悩む。標準語からの借用語。イˈクサˀユーナ　ッˈふァバˀ　シˈナシティルˀ　アイニ　クˈノー　シーオーˀルツォー [ʔiˈkusaˀjuːna fˈfabaˀ ʃiˈnaʃi̥tiruˀ ʔaini kuˈnoː ʃiːʔoːˀrutsoː](戦争で子供を失って < 死なせて > ぞ、あのように苦悩しておられるそうだ)。

クˈバ [kuˈba] 【名】 (植) ビロウ (蒲葵)。古名、あじまさ。ヤシ科の一属で亜熱帯性常緑高木。高さ約 15 メートルに達するという。びんろう (檳榔) 樹とは別属。葉は円形で直径約 1 メートル。掌状に分裂して幹頂に叢生する。鳩間中岡 < なかもり > には蒲葵の群落があったが、明治の中期に測量のため伐採されという。民謡パˈトゥˀマナカムリ [paˈtuˀmanakamuri](鳩間中岡) に歌われて有名である。

また蒲葵は神木、神のよりしろ (依代。憑代) といわれており、友利御嶽の拝殿の側にも高さ十数メートルの蒲葵が一本自生している。口碑によると、この蒲葵の樹を伝って神が降臨されるという。

クバーˈクバーˀシ [kubaːˈkubaːˀʃi] 【副】不器用で。危なっかしく。たどたどしく。クバーˈクバーˀシ　パˈナˀシ　ˈベー [kubaːˈkubaːˀʃi paˈnaˀʃi ˈbeː](たどたどしく話している)。ウˈリヌ　シーˀグ　シゥˈカイヨーヤーˀ　クˈバークバーˀシティ　ナˈクラーˀヌ　ˀミリ　ブˈララヌ [ʔuˈrinu ʃiːˀgu si̥ˈkaijoːjaˀ kuˈbaːkubaːˀʃi̥ti naˈkuraːˀnu ˀmiri buˈraranu](彼が小刀を使うのは全く不器用で、心配で見ておれない)。

クˈバーˀン [kuˈbaːˀŋ] 【形】1仲が悪い。そり < 剃り > が合わない。ˈキョーダイˀサ　ˀナカー　クˈバーˀン [ˈkjoːdaiˀsa ˀnakaː kuˈbaːˀŋ](兄弟の仲は悪い)。アˈスンˀケン　クˈバーナーˀヌ [ʔaˈsuŋˀkeŋ kuˈbaːnaːˀnu](それほど仲は悪くない)。ˈシンダイˀ　クˈバーˀナルン [ˈʃindaiˀ kuˈbaːˀnaruŋ](次第に仲が悪くなる)。ナˈカˀヌ　クˈバーˀ　プˈストー　マーズンマーˀシˈララヌ [naˈkaˀnu kuˈbaːˀ pu̥ˈsutoː maːʤummaːˀ ʃiˈraranu](仲の悪い人は一緒には出来ない)。ˀアイニ　クˈバーˀカー　ユˈヌˀ　トンナー　シˈキララˀヌ [ˀʔaini kuˈbaːˀkaː juˈnuˀtonnaː ʃi̥ˈkiraraˀnu](あんなに仲が悪いと同じ所には置いておけない)。2不器用である。のろい < 鈍い >。動作、作業がおそい。不慣れである。未熟である。フˈチ　クバーˀン [ɸu̥ˈʧikubaːˀŋ](話べたである)。ˈティーˀ　クˈバーˀユンダ　ˀヌー　シˈミラバン　ダーッˀサー　ˈナーˀヌ [ˈtiːˀ kuˈbaːˀjunda ˀnuː ʃiˈmiraban daːsˀsaː ˈnaːˀnu](不器用だから < 手仕事が鈍いから > 何をさせても様にならない)。

ˀクバイゾー [ˀkubaiʤoː] 【名】地名。クーラ川河口の右方、伊武田寄りの低丘陵地。クˈバシˀター [kuˈbaʃi̥ˀtaː] からクーラ川河口へ下りてきた所の右側。クˈバシˀターから産出する稲の積み出し地 (ˈニーˀウレー [ˈniːˀʔureː]< 荷下ろし所 >)。ˀクバイゾーラ　パˈマダーˀチ　アˈラキˀル　バˈケーラマシェー　オーッˀタ [ˀkubaiʤoːra paˈmadaːˀʧi ʔaˈrakiˀru baˈkeːramaʃeː ʔoːtˀta](クバイゾーから浜沿いに歩いて < ぞ > バˈケーラマシ < 湧き水の田圃 > へ行かれた)。

クˈバイˀルン [kuˈbaiˀruŋ] 【他動】加える。クˈマˀヌ　ˈニンガイˀヤー　シˈマˀソーレーチバ　ˀサギティ　ˈマーˀ　プˈスヤマˀヌ　ˀブン　ˀグシェー　クˈバイˀリバ < タˈシˀバ >[kuˈmaˀnu ˈniŋgaiˀjaː ʃiˈmaˀsoːreːʧiba ˈmaːˀ pu̥ˈsujamaˀnu ˀbuŋ ˀguʃeː kuˈbaiˀriba <taˈʃiˀba>](ここの祈願は済まされたから < 供物は > 下げて、もう一御嶽 < 一山 > の分、神酒 < 御酒 > を加えよ)。クˈバイランˀタンティン　ˀミサン [kuˈbairanˀtantim misaŋ](加えなくてもいい)。クˈバイヤッˀサン [kuˈbaijasˀsaŋ](加え易い)。クˈバイˀルンティ　ウˈムーンˀドゥ　クˈバイˀルˀムノー　ˈナーˀヌ [kuˈbaiˀrunti ʔuˈmuːnˀdu kuˈbaiˀru ˀmunoː ˈnaːˀnu](加えようと思うのだが加えるものがない)。クˈバイˀレー　ˀミサムヌ [kuˈbaiˀreːˀ misamunu](加えたらよいのに)。

ˀグハイロー [ˀguhairoː] 【名】「ご拝領」の転訛した語。昭和五十年ごろから長寿者に対して官 (町長) から贈られるようになった金杯。村をあげて長寿を祝い、村民が長寿を肖った。ナˈガイキバ　ˈシーベーˀティ　ˀグハイローン　タˈボーラˀリ　シˈディガˀフー　ˈユー [naˈgaikiba ʃiːbeːˀti guhairoːn taˈboːraˀri ʃiˈdigaˀɸuː ˈjuː](長生きをしていてご拝領の金杯も賜り、最高の幸運 < 果報者 > です)。

クˈバオンギ [kuˈbaoŋgi] 【名】ビロウ (蒲葵) の葉で作ったうちわ (団扇)。クˈバ [kuˈba](蒲葵) の葉を切って 2,3 日陰干しにした後、水を打って押し板で押し拡げ、一枚の葉を二等分にし、半円形に成形して団扇に仕上げたもの。軽くて、よく風を送るので最高の団扇である。長持ちするし、母親がこの団扇で子供の背中や腹部を軽く撫でつつ扇いでやると誠に気持ちがいい。夏の夜など縁側で子供を寝かせながら、サーッ、サーッと扇いでくれる母親の側で、子供は平和で幸福な眠りにつくのが常であった。生の蒲葵の葉扇は死者の扇と言われている。クˈバオンゲーˀ　カˈローˀン　ˀアリˈオンギドゥルˀヌ　カˈジンˀ　ピˈラˀケーンダ　イッˈケナˀ　ニˈビヤッˀサタン [kuˈbaʔoŋgeːˀ kaˈroːˀŋ ˀʔari ˈʔoŋgiduruˀnu kaˈʤimˀ piˈraˀkeːnda ʔikˈkenaˀ niˈbijasˀataŋ](蒲葵扇は軽くもあり、扇ぐときの風も涼しいので非常に寝やすかった)。

クˈバガサ [kuˈbagasa] 【名】かさ (笠)。蒲葵の葉で作った笠。「クバ (蒲葵) 笠」の義。農耕用の笠は肩幅を覆うほどに笠のつば < 鍔 > が広く、漁師用の笠は、つば < 鍔 > が狭いのでカツオ釣などの船上での作業に適していた。農業用の笠は、蒲葵の葉で作ったˀミヌ [ˀminu](蓑) と一対をなすものであった。蒲葵笠は通風がよくて涼しく、炎天下での作業に適していた。クˈバガサは、意味が拡張して笠一般を示すようになり、ˈムンˀグルク

バガサ [ˈmuŋˀgurukubagasa](麦藁の笠。沖縄本島からの輸入製品)、タˈキヌˀカークバガサ [tạˈkinuˀ kaːkubagasa](竹の皮笠。台湾や本土からの輸入製品) のように複合語を作って他の製品の「笠の名」に用いられた。輸入品は島で作るクバガサ (蒲葵笠) のように実用的でなかった。クˈバガサˀ　カˈバンˀカー　アˈガティダヌˀ　ッˈサーンˀナー　シˈグトーˀ　ナˈラˀヌ [kuˈbagasaˀ kaˈbaŋˀkaː ʔaˈgatidanuˀ sˈsaːnˀnaː ʃiˈgutoːˀ naˈraˀnu](蒲葵笠を被らないと炎天下では仕事は出来ない)。

クˈバクシキ [kuˈbakuʃi̥ki] 【名】クバ甑。クˈバ [kuˈba](蒲葵) の幹を刳り抜いて作った、直径約 30 センチ、高さ約 60 センチの円筒状の甑。糯米を蒸してˈカシˀキ [ˈkaʃiˀki](こわ飯) を作ったり、麦、粟、豆などを蒸すのに用いた。ˈミーˀス [ˈmiːˀsu](味噌) やシˈタˀディ [ʃi̥ˈtaˀdi](醤油。下地。「助枝、之太知」『倭名類聚鈔』) の麹を作る際に穀類を蒸して煮るのにも用いた。クˈバクシキˀナー　ˈトーˀフマミ　ンˈブˀシ [kuˈbakuʃi̥kiˀnaː ˈtoːˀɸumami ʔmˈbuˀʃi](蒲葵甑で大豆を蒸しなさい)。

クˈバサンシン [kuˈbasaŋʃiŋ] 【名】クバ (蒲葵) の葉柄で作った三味線。蒲葵の柄三味線。子供の玩具として作った。ヤˈラˀベー　クˈバサンシンバˀ　ムˈタˀベーティ　アˈサブタ [jaˈraˀbeː kuˈbasaŋʃimbaˀ muˈtaˀbeːtiru ʔaˈsabuta](子供は蒲葵の柄三味線をいじって < 弄って。> 遊んだ)。

クˈバシˀター [kuˈbaʃi̥ˀtaː] 【名】 (地) 西表島北岸伊武田地区の山裾の原野にある水田地帯。タˈカˀスクの原野からクーラ川に台地が緩やかに傾斜していき、川岸で急に台地が落ち込んでいる。その原野の中間に谷状に窪んだ所がある。そこを開拓して水田にしたところをいう。幅約 80 メートル、長さ約 1500 メートルの谷間の上流部に、カˈザケー [kaˈʤake:](加治工家) と、イˈラˀブレー [ʔiˈraˀbure:](西原家) の水田があった。ˀアチャトゥ　ˀアンマー　クˈバシターˀヌ　ˀター　アˈキˀ　スˈクˀルンティ　イッˈケナ　アウˀリ　ˈソーッˀタン [ˀʔatʃatu ˀʔammaː kuˈbaʃitaːˀnu ˀtaː ʔaˈkiˀ sụˈkuˀrunti ʔikˈkena ʔauˀri ˈsoːtˀtaŋ](お父さんとお母さんはクバシターの水田を開墾して耕作するのに、非常に難儀苦労をされた)。

クˈバˀスン [kuˈbaˀsuŋ] 【他動】こぼす (零す)。ミˈジˀ　クˈバˀスン [miˈʤiˀ kuˈbaˀsuŋ](水を零す)。ˈタングˀヌ　ミˈジェーˀ　クˈバサラˀヌ [ˈtaŋguˀnu miˈʤeːˀ kuˈbasaraˀnu](水桶の水は零されない)。ˀクナー　クˈバˀシ　ˀミサン [ˀkunaː kuˈbaˀʃi ˀmisaŋ](ここに零していい)。クˈバˀス　ˀムノー　クˈバˀシェー　ˀミサムヌ [kuˈbaˀsu ˀmunoː kuˈbaˀʃeː ˀmisamunu](零すものは零せばよいのに)。ˈパーˀク　クˈバˀシ [ˈpaːˀku kuˈbaˀʃi](早く零(コボ)せ)。

クˈバデーˀサー [kuˈbadeːˀsaː] 【名】 (植) 樹木の名。モモタマナ (コバデイシ)。冬になると落葉する高木で、高さ 20 メートル以上に達する。建築材、家具材、造船材に利用される。墓地に植える木とされ、屋敷に植えることを嫌った。クˈバデーサーˀヤパˈトゥˀマナー　ミリミˈランˀシェン [kuˈbadeːsaːˀja pạˈtuˀmanaː mirimiˈraŋˀʃeŋ](コバデイシの樹は鳩間島では見たことはなかった)。

クˈバヌˀ　ウディ [kuˈbanuˀ ʔudi] 【連】ビロウ (蒲葵) の葉柄。子供は枯れた蒲葵の葉柄を切って約 20 センチの舟を作り、竹ひごで帆柱を作って立て、フˈクン [ɸụˈkuŋ](福木) の葉で帆を作って帆柱に貫き差し、竹を削って梶を作り船尾に挿して海に浮かべ、帆走させて遊んだ。ヤˈラˀビンケーヤクˈバヌˀ　ウディシ　フˈニˀバ　スˈクˀリティ　スˈナカˀナー　パˈラˀシェーティ　アˈサブタル [jaˈraˀbiŋke:ja kuˈbanuˀ ʔudiʃi ɸuˈniˀba sụˈkuˀriti suˈnakaˀna: paˈraˀʃe:tiru ʔaˈsabutaru](子供達は蒲葵の葉柄で舟を作り、海上に走らせて遊んだものだ)。

クˈバヌパーウムル [kuˈbanupaːʔumuru] 【名】ビロウ (蒲葵) の葉で作った、水を汲む容器、ひしゃく (柄杓)。下り井戸から湧水を汲み取るのに用いた柄杓。クˈバヌパーシル [kuˈbanupaːʃiru](蒲葵の葉釣瓶) に似た、小さな釣瓶の柄杓。ˈアンヌカーˀラ　ミˈジˀ　カˈタˀモール　ˀピンマー　ˈカーヌˀ　スˈクˀナー　ˈタンˀゴー　ビˈシˀ　シキティ　ウˈムˀルシル　ミˈジェーˀ　スˈクイˀ　フˈモーッˀタ [ˈʔannukaːˀra miˈʤiˀ kaˈtaˀmoːru ˀpimmaː ˈkaːnuˀ sụˈkuˀnaː ˈtaŋˀgoː biˈʃiˀ ʃi̥kiti ʔuˈmuˀruʃiru miˈʤeːˀ sụˈkuiˀ ɸuˈmoːtˀta](東の村井戸 < 下り井戸 > から水を担がれる < 運搬される > ときは、井戸の底にたごおけ < 水担桶 > を据え置いて、クˈバヌパーウムル < 蒲葵の葉で作った柄杓 > で水を掬って汲まれたものだ)。

クˈバヌパーオンˀギ [kuˈbanupaːʔoŋˀgi] 【名】ビロウ (蒲葵) の葉で作った扇。うちわ (団扇)。クˈバンパーオンギ [kuˈbampaːʔoŋgi](蒲葵の葉扇) ともいう。クˈバオンギ [kuˈbaʔoŋgi](蒲葵団扇) と同じ。ˈクバヌパーオンゲーˀ　カˈローˀン　ˀアリ　ウˈリˀシ　ˈオンガˀリ　カˈジェーˀ　ピˈラˀケーンダ　ウˈヤˀヌ

ˈフンスクルˈナ　ˈブーˈ　カタチニ　ˈナシゥカˈサ　ウˈモーˈリン [kuˈbaʔoŋgeːˈ kaˈroːˈŋ ˈʔari ʔuˈriˈʃi ˈʔoŋgaˈri kaˈʤeːˈ piˈraˈkeːnda ʔuˈjaˈnu ˈɸunsu̥kuruˈna ˈbuːˈ kḁtatʧini ˈnasi̥kaˈsa ʔuˈmoːˈriŋ](蒲葵の葉団扇は軽くもあり、それで煽がれる風は涼しいので、親の懐にいるように懐かしく思われる)。

クˈバヌパーシル [kuˈbanupaːʃiru] 【名】ビロウ (蒲葵) の葉で作った釣瓶。クˈバンパーシル [kuˈbampaːʃiru](蒲葵の葉釣瓶) ともいう。「蒲葵の葉釣瓶」の義。蒲葵の葉を葉柄 (長さ約 30 センチ) ごと切って 2、3 日陰干しにした後、水を打って柔らかくし、両膝で押して葉の部分を丸く曲げて絞り込み、葉柄を曲げて絞り込んだ葉の部分に強く結びつけて釣瓶に仕上げたもの。その釣瓶に縄を結んで井戸から湧水を汲みあげた。釣瓶の絞込みの部分に小石を結わえておくと、釣瓶が一定の方向に傾くので水汲みに便利であった。クˈバヌパーシローˈ　ヤˈリヤッˈサンダー　グˈチˈホーニ　ˈアシゥカウナˈヨー [kuˈbanupaːʃiroːˈ jaˈrijasˈsandaː guˈʧiˈhoːni ˈʔasi̥kaunaˈjoː](蒲葵の葉釣瓶は破れ易いので無鉄砲に扱うなよ < 乱暴に扱うなよ >)。

クˈバヌパームチ [kuˈbampaːmuʧi] 【名】ビロウ (蒲葵) の葉で包んだ餅。「蒲葵の葉餅」の義。与那国島の特産の餅。鳩間島ではバˈサンˈパームチ [baˈsamˈpaːmuʧi](芭蕉の葉で包んだ餅)、サˈミンパームチ [saˈmimpaːmuʧi](月桃の葉餅) がよく作られた。ユˈノンマーˈ　クˈバヌ　ゴーˈラーンダ　ˈユー　クˈバンパーˈシ　クˈバンパームチˈ　スˈクˈローッタン [juˈnommaːˈ kuˈbanu goːˈraːnda ˈjuː kuˈbampaːˈʃi kuˈbampaːmuʧiˈ su̥ˈkuˈroːttaŋ](与那国島にはビロウ < 蒲葵 > が多いので、よく蒲葵の葉で蒲葵の葉餅を作られた)。

クˈバフニ [kuˈbaɸuni] 【名】玩具の名。クバ (蒲葵) の葉柄で作った舟。上部を削り、福木の葉を竹箸で通して差し、竹で梶を作って海に浮かべたり、水に浮けたりして遊んだ。クˈバフニˈ　スˈクˈリ　ッˈふィーラˈナー [kuˈbaɸuniˈ su̥ˈkuˈri fˈfiːraˈnaː](蒲葵舟を作ってあげようね)。

クˈバミˈルン [kuˈbamiˈruŋ] 【他動】節約する。倹約する。少しずつ分けて出す。小まめに出す。ク [ku](小) に接尾語バム [bamu](そのような性質、状態を帯びる意) が付いてクˈバˈムン [kuˈbaˈmuŋ](小さく分ける。節約する) が形成され、そのラ行四段化したものか。クˈバミランˈカー　タˈラーサラヌ [kuˈbamiraŋˈkaː taˈraːsaranu](少しずつ分けて、節約しないと充足できない)。クˈバミˈルクトー　クˈバミルンˈドゥ　ノーˈンˈシタンティン　タˈラーヌ [kuˈbamiˈrukṵtoː kuˈbamirunˈdu noːˈŋˈʃi̥tantin taˈraːnu](少しずつ分けて節約することは節約するが、どうやっても < 何としても > 足りない)。クˈバミˈレー　ˈミサムヌ [kuˈbamiˈreːˈ misamunu](節約すればよいのに)。クˈバミリバˈル < クˈバミバˈル >　タˈラーサリル [kuˈbamiribaˈru <kuˈbamibaˈru> taˈraːsariru](節約すれば < ぞ > 足らされる)。ヤーˈディンˈ　クˈバミˈリ [jaːˈdiŋˈ kuˈbamiˈri](必ず節約しなさい)。

クˈバムトゥ [kuˈbamutu] 【名】ビロウ (蒲葵) の幹。ˈウイヌˈウガン [ˈʔuinuˈʔugaŋ](友利御嶽) のˈパイˈディン [ˈpaiˈdiŋ](拝殿) の側に一本のクˈバ [kuˈba](蒲葵) が生えている。その蒲葵の、クバˈムトーラˈル　ˈカンヌマイˈヤー　ウリˈオーˈルツォー [kuˈbamutoːraˈru ˈkannumaiˈjaːˈ ʔuri ˈʔoːˈrutsoː](蒲葵の幹を伝って < 蒲葵本から > 神様は降臨される < 降りて来られる > そうだ)。

クˈバˈムニ [kuˈbaˈmuni] 【名】1たどたどしいィ話し方。片言。ろれつ (呂律) の回らない話し方。「こわ物言い」の義。クˈバˈムニン　イˈジッシˈ　イッˈケナ　スーˈリ　ˈキー　アˈタラˈサン [kuˈbaˈmuniŋ ʔiˈʤiʃʃiˈ ʔikˈkena suːˈri ˈkiː ʔaˈtaraˈsaŋ](片言ながら話せるようになり、ずいぶん成長してきていて可愛いよ)。2筋の通らない、おかしな話。クˈバムニˈバ　イˈジアークˈヌ　ウˈリヌˈ　パˈナˈシェー　ˈミーヤ　ナーˈヌ [kuˈbamuniˈba ʔiˈʤi ʔaːkuˈnu ʔuˈrinuˈ paˈnaˈʃeː ˈmiːja naːˈnu](筋の通らない、おかしな話をしているが、その人の言う事は真実味が無い < 中身が無い。嘘だ >)。

クˈバˈムン [kuˈbaˈmuŋ] 【他動】節約する。倹約する。少しずつ分けて蓄える。ˈマイヤーˈ　プスイ　イˈチンゴーˈナー　クˈバˈミ [ˈmaijaːˈ pu̥sui ʔiˈʧiŋgoːˈnaː kuˈbaˈmi](お米は一日一合ずつに節約しなさい)。クˈバミˈプサンドゥ　クˈバマラˈヌ [kuˈbamiˈpu̥sandu kuˈbamaraˈnu](節約したいが節約出来ない)。クˈバˈムンティ　ˈウムーカー　クˈバˈムクトー　ナレーˈスヌˈ　キˈムイツァーˈヌ　ナˈラˈヌ [kuˈbaˈmuntiˈ ʔumuːka: kuˈbaˈmu ˈkṵtoː nareːˈsunuˈ kiˈmuitsaːˈnu naˈraˈnu](節約しようと思えば節約することは出来るが可哀相でたまらない < ならない >)。ˈマーˈビン　クˈバˈメー　ˈミサムヌ [ˈmaːˈbiŋ kuˈbaˈmeː misamunu](もっと節約すればよいのに)。

クˈバˈメーカバメー　ˈスン [kuˈbaˈmeːkabameː ˈ

suŋ] 【連】倹約節約し、小出しにして使う。金銭や食品などを倹約して、少しずつ使うこと。ABCDE-BCD 型の畳語 (重言)。ˈジンˀマー シンˈトゥˀ クˈビˀル ヌˈカˀレーバ クˈバˀメーカバメー ˈシーˀ シゥˈカイˀヨー [ˈʤimˀma: ʃinˈtuˀ kuˈbiˀru nuˈkaˀre:ba kuˈbaˀme:kabame: ˈʃi:ˀ sɨ̥ˈkaiˀjo:](お金はたったこれだけしか残っていない < これだけが残っている > ので、倹約節約して使いなさいよ)。

クˈバヤマクイチˀブシ [kuˈbajamakuitʃiˀbuʃi] 【名】石垣島の古典民謡「久場山越地節」。クˈバヤマクイチˀブシェー ヌˈスˀクムラヌ ˈユンチュヌルˀ スˈクˀローッタティ ˈアザリブー [kuˈbajamakuitʃiˀbuʃe: nuˈsuˀkumuranu ˈjuntʃunuruˀ sɨ̥ˈkuˀro:ttati ʔaˈʤaribu:](久場山越地節は野底村の与人が < ぞ > 作られたといわれている)。クˈバヤマクイチˀブシェー イˈサナキヌˀ ウタ ヤˈルンダˀ パˈトゥˀマプソー ˈナンˀゾー イˈゾーラˀヌ [kuˈbajamakuitʃiˀbuʃe: ʔiˈsanakinuˀ ʔuta jaˈrundaˀ pa̠ˈtuˀmapu̥so: ˈnanˀʤo: ʔiˈʤo:raˀnu](久場山越地節は石垣の歌だから鳩間島の人はあまり歌われない)。

クˈバリピラˀク [kuˈbaripiraˀku] 【名】凍えるような寒さ。厳しい寒さ。「こはばり (強張り)・冷え」の転訛したものか。クˈバリピラˀフ [kuˈbaripiraˀɸu](凍えるような寒さ) ともいう。クˈヌˀ クˈバリピラˀフナー スˈナカˀヌ イˈズンˀ ブˈチˀクン シˈティ イッˀパイ ウˈケーリ ベー [kuˈnuˀ kuˈbaripiraˀkuna: suˈnakaˀnu ʔiˈʤumˀ buˈʧiˀkuŋ ʃi̥ˈti ʔipˀpai ʔuˈke:ri be:](この厳しい寒さで海の魚も気絶して < 仮死状態になって > 沢山浮いている)。

クˈバリンˀガター ナˈリˀ ブー [kuˈbariŋˀgata: naˈriˀ bu:] 【連】凍えそうになっている。ˈピーヤˀヌ クˈバリンˀガター ナˈリˀ ブー [ˈpi:jaˀnu kuˈbariŋˀgata: naˈriˀbu:](寒くて凍えそうになっている)。

クˈバˀルン [kuˈbaˀruŋ] 【自動】1凍える。かじかむ。寒さで硬直する。「こわばる < 強張る >」の転訛したもの。ˈクンドゥˀヌ ピˈラˀクナー クˈバˀリティ シˈニンガターˀ ナリ ˈベーˀタ [ˈkunduˀnu piˈraˀkuna: kuˈbaˀriti ʃiˈniŋgataˀ nari ˈbeˀta](このたびの厳しい寒さでは凍えて死にそうになっていたよ)。ˈアーシˀキン ˈミックビˀ キˈスターˀ クˈバランセン [ˈʔa:ʃiˀkim ˈmikkubiˀ kɨ̥ˈsutaˀ kuˈbaraŋˀʃeŋ](袷を三着重ね着したので凍えかった)。パˈダˀキン プˈスッˀクビ カーˈニˀ キˈシティˀ クˈバˀリ ˈナーンˀセン [paˈdaˀkim pu̥ˈsukˀkubi kaˈniˀ kɨ̥ˈʃitiˀ kuˈbaˀri ˈna:ŋˀʃeŋ](肌着一枚だけ着て凍えてしまった)。ˀキン キˈサンˀカー クˈバˀルンˈダー [ˀkiŋ kɨ̥ˈsaŋˀka: kuˈbaˀrunˈda:](着物を着ないと凍えるぞ)。クˈバˀル ˀクトー ˈナーˀヌ [kuˈbaˀru ˀkuto: ˈna:ˀnu](凍えることはない)。クˈバˀレー ˀミサムヌ [kuˈbaˀre: ˀmisamunu](凍えればよいのに)。アイˈベーˀティ クˈバˀリバ [ʔaiˈbe:ˀti kuˈbaˀriba](そうやっていて凍えろよ)。2吃る。フˈチェーˀ クˈバˀリティ ˀムネー イˈザラヌ [ɸu̥ˈʧe:ˀ kuˈbaˀriti mune: ʔiˈʤaranu](口が吃って話が出来ない < ものが言えない >)。フˈチクバリˀムニ イˈズン [ɸu̥ˈʧikubariˀmuni ʔiˈʤuŋ](声がつかえて吃ることば < 吃り言葉 > を話す < 言う >)。

クˈバˀルン [kuˈbaˀruŋ] 【自動】こぼれる (零れる)。あふれおちる (溢れ落ちる)。ˈタングˀヌ ミˈジヌˀ クˈバˀルンダ クˈバランˀ ヨーニ ウˈキˀ イˈリティˀ カˈタˀミバ [ˈtaŋguˀnu miˈʤinuˀ kuˈbaˀrunda kuˈbaraŋˀ jo:ni ʔuˈkiˀ ʔiˈritiˀ ka̠ˈtaˀmiba](たご < 担桶 > の水が零れるから、零れないように浮きを入れて担ぎなさいよ)。ムーˈルˀ クˈバˀリ ˈナーˀヌ [mu:ˈruˀ kuˈbaˀri ˈna:ˀnu](全部零れてしまった)。クˈバˀル ˀクトー ˈナーンˀ パジ [kuˈbaˀru ˀku̥to: ˈna:mˀ paʤi](零れることは無いはずだ)。ムーˈルˀ クˈバˀレー ˀミサムヌ [mu:ˈruˀ kuˈbaˀre: ˀmisamunu](全部零れたら良いのに)。

クˈバˀルン [kuˈbaˀruŋ] 【他動】1配る。手配する。手配りする。標準語からの転訛。イˈソーシンカˀ クˈバˀルンティ ˈベーンˀドゥ ˈシンカˀヌ タˈラーンバン [ʔiˈso:ʃiŋkaˀ kuˈbaˀrunti ˈbe:nˀdu ˈʃiŋkaˀnu taˈra:mbaŋ](漁撈の人数を手配しよう < 配ろう > としているが、人数が足りないよ)。2配布する。分配する。配る。老年層はˈパウン [ˈpauŋ](配る) ともいう。イˈソーシンカヌˀ タˈマシˀ ムーˈルンˀ クˈバˀリ ˈオーシ [ʔiˈso:ʃiŋkanuˀ taˈmaʃiˀ muːˈruŋˀ kuˈbaˀri ˈʔo:ʃi](出漁仲間の配分を全員に配って差し上げなさい)。ムーˈルンマーˀ クˈバララˀヌ [muːˈrummaːˀ kuˈbararaˀnu](全員には配られない)。クˈバˀルンティ ˀウムーカー ˈパイˀサ クˈバˀレー ˀミサムヌ [kuˈbaˀrunti ˀʔumu:kaː ˈpaiˀsa kuˈbaˀre: ˀmisamunu](配ろうと思うなら早く配ればよいのに)。クˈバˀル プˈソーˀ ˈパーˀク クˈバˀリ [kuˈbaˀru pu̥ˈso: paːˀku kuˈbaˀri](配る人は早く配れ)。ˈシンˀカー ギュˈタールナーˀ クˈバラリˀワ [ˈʃiŋˀkaːgjuˈtaːrunaːˀ kuˈbarariˀwa](仲間 < 人員 > は何人ずつ配分出来る < 配られる > か)。

ˀクバン [ˀkubaŋ] 【名】神饌の一つ。昔は牛肉の薫製

を用いたというが、戦争直前ごろから魚の薫製を用いるようになったという。燻製の魚肉を約 1 センチ角で長さ約 10 センチに切ったもの。それを 7 本、または 9 本に束ねてクバン皿に入れ、塩とピ˩ル [pi˩ru](大蒜) 三片を添えたもの。クバンを束ねたものを、ム˩リクバン [mu˩rikubaŋ](盛りクバン) という。ム˩カ˥シェー　ク˩バン˥マー　ウ˩シヌ˥ニク　˥ガシティル　シゥ˩カイオーッ˥タツォー [mu˩ka˥ʃe: ku˩bam˥ma: ʔu˩ʃinu˥niku ˥gaʃitiru sɨ̞˩kaio:t˥tatso:](昔は、クバンは牛肉 < 牛の肉 > を燻製にして < ぞ > 使われた)。イ˩ズクバン [ʔi˩ʤukubaŋ](魚クバン)、˥タククバン [˥tą̣kukubaŋ](燻製蛸のクバン) などがある。

ク˩バン [ku˩baŋ] 【名】「小判」の義。カツオ (鰹) の大きさを示す語。4、5 斤ほどのカツオ。それより小さいカツオをビ˩リ˥グゥー [bi˩ri˥gwa:](最小のカツオ) という。˩ダイ˥バン [˩dai˥baŋ](大判) は 12、3 斤のカツオ。トゥ˩ビダイ [tu˩bidai](超大判) は 15、6 斤以上のカツオをいう。ク˩バン˥シェー　カ˩ミブシ˥ル　ス˩クラ˥リ [ku˩baŋ˥ʃe: ka˩mibuʃi˥ru sụ˩kura˥ri](鰹の小判では亀節しか造れない < 亀節ぞ造られる >)。

ク˩バンパーッスン [ku˩bampa:ssuŋ] 【名】ビロウ (蒲葵) の葉包み。味噌や漬物、魚などの焙乾したものを蒲葵の葉で包んでお土産としたもの。プ˩シイガ˥ヌ　ク˩バンパーッスン　ピー˥チェー　イ˩サンケーヌ˥　シトゥ　ム˩タ˥シバ [pụ˩ʃiʔiga˥nu ku˩bampa:ssum pi:˥ʧe: ʔi˩saŋke:nu˥ ʃi̥tu mu˩ta˥ʃiba](干し烏賊を包んだ蒲葵の葉包を一つ石垣島への土産 < つと > に持たせなさい)。

ク˩バンパービー [ku˩bampa:bi:] 【名】蒲葵の葉樋。蒲葵の葉を桑や福木の幹に巻きつけて、樹木に降った雨水を受けて水甕に導くようにしたもの。ム˩カ˥シェー　フ˩クンキー˥ナ　ク˩バンパービー˥　マ˩キ˥シキティ　シゥ˩カイミジ˥　カミナー　タ˩モーッ˥タ [mu˩ka˥ʃe: ɸụ˩kuŋki:˥na: ku˩bampa:bi:˥ ma˩ki˥ʃi̥kiti sɨ̞˩kaimiʤi˥ kamina: ta˩mo:t˥ta](昔は福木の幹に蒲葵の葉樋を巻きつけて日常用水を水甕に溜められた)。

ク˩ビ [ku˩bi] 【名】壁。「壁、加閉 < かべ >、室之屏蔽也」『和名抄』の転訛したもの。イ˩ツァ˥クビ [ʔi˩tsa˥kubi](板壁)。ガ˩ヤー˥クビ [ga˩ja:˥kubi](茅壁) などがある。板壁に用いる˩サンブ˥イツァ [˩sambu˥ʔitsa](三分板) は本土産の杉板を購入していたが、それ以前はフ˩クイキー [ɸụ˩kuiki:](ウラジロエノキ) などの柔らかい材質の木材を˥バキティ [˥bakiti](製材して) 用いていた。˩トー˥ラ [˩to:˥ra](炊事小屋) は茅で壁を葺いていた。竹やススキを網代に組んで茅壁に当て、ティ˩ブ˥ク [ti˩bu˥ku](竹矛) で押さえ、締め縄で締めて固定した。˩カー˥ラヤーナーヤ　イ˩ツァクビ˥ル　フ˩コー˥ル　ガ˩ヤー˥クベー　フ˩コーラ˥ヌ [˩ka:˥raja:na:ja ʔi˩tsakubi˥ru ɸụ̞˩ko:˥ru ga˩ja:˥kube: ɸụ̞˩ko:ra˥nu](瓦葺きの家には板壁を < ぞ > 張られる < 葺かれる >、茅壁は葺かれない)。

˥クビ [˥kubi] 【名】これだけ。これ位。これほど。体積や量の程度を表す。ク˩ビ˥ル　バ˩キラ˥リ [ku˩bi˥ru ba˩kira˥ri](これだけしか分けられない < これだけぞ分けられる >)。˥クベー　˩カーシ˥ミサン [˥kube: ˩ka:ʃi˥ misaŋ](これだけは売ってもいい)。ク˩ビ˥ヌ　ム˩ヌ˥バ　シ˩ティララヌ [ku˩bi˥nu mu˩nu˥ba ʃi̥˩tiraranu](これほどのものを、勿体無くて捨てられない)。˥クビシェー　タ˩ラーヌ [˥kubiʃe: ta˩ra:nu](これだけでは足りない)。˥クベー　バ˩キ˥リバ [˥kube: ba˩ki˥riba](これだけは分けなさいよ)。˥クビシ　˥ミサン　˥メー　˥ドゥク　イ˩ズナ [˥kubiʃi ˥misam ˥me: ˥duku ʔi˩ʤuna](これでよい。もう、あまり叱るな)。

˥クビダキ [˥kubidaki] 【名】これだけ。これしき。量的少程度。˥クビダキヌ < ク˩ビッチン˥ヌ >　˥クトゥシ　˩クン˥ゾー　ウ˩ク˥レー　ナ˩ラ˥ヌ [˥kubidakinu < ku˩bittʃin˥nu > ˥kụtuʃi ˩kun˥ʤo: ʔu˩ku˥re: na˩ra˥nu](これだけのことで腹を立ててはならない)。これほども。物事の形態的内容、質的程度の限定。˥クビダキ < ク˩ビ˥ナー >　˥アジ　シゥ˩カサバン˥　バー　ア˩ズ˥　ムニ　シゥ˩カヌ [˥kubidaki < ku˩bi˥na: > ˥ʔaʤi sɨ̞˩kasabam˥ ba: ʔa˩ʤu˥ muni sɨ̞˩kanu](これほど言って諭しても < 言い聞かせても > 私の助言 < 言うこと > を聞き入れないのか)。

クビ˩タン˥ガ [kubi˩taŋ˥ga] 【連】これだけ。「これ一つ」の義。「これだけ」と限定・強調する表現。クビ˩カーニル [kubi˩ka:niru](これだけしか < これだけぞ >) ともいう。クビ˩タンガ˥ル　˥ムティ　キ˩ラリ˥タ [˥kubi ˩taŋga˥ru ˥muti ki˩rari˥ta](これだけしか < これだけぞ > 持ってこられなかった < 持ってこられた >)。クビ˩タン˥ガーンツァン　バ˩キララヌ [kubi˩taŋ˥ga:ntsam ba˩kiraranu](これだけすらも分けられないのか)。

ク˩ビッ˥チン [ku˩bit˥ʧiŋ] 【名】これぼっち。˩バン˥マー　ク˩ビッ˥チン　カー˩ニル˥　バキ　ッ˩ふィー

ッタ [ˈbamˈma: kuˈbitˈʧiŋ kaːˈniruˈ baki fˈfiːtta](私にはこれぼっちだけしか分けてくれなかった＜これぼっちだけぞ分けてくれた＞)。クˈビッチンˈヌ　ˈクトゥシ　ˈアウター [kuˈbittʃinˈnu ˈkṵtuʃi ˈ ʔautaː](これぼっちのことで喧嘩したのか)。ˈバー　ˈムネー　クˈビッチンˈマーンツァン　シゥˈカヌ [ˈbaː ˈmuneː kuˈbittʃimˈmaːntsan sị̥ˈkanu](私の言うこと＜言葉＞はこれぼっちも聞かない)。

ˈクビブカラ [ˈkubibukara] 【連】これ位。この程度。このくらい (両手で形を限定して指し示す)。ˈウビブカラ [ˈʔubibukara]＜それくらい。やや漠然と示す＞よりも明確に明示的に指示する表現。名詞ˈクビ [ˈkubi](これだけ) に副助詞ˈブカラ [ˈbukara](くらい。体言、活用語の連体形、格助詞などについて、おおよその程度、分量、範囲を表す) の付いた形。ˈクビブカラヌ　ウˈブˈイズ　ˈホーˈシ　ˈケーン [ˈkubibukaranu ʔuˈbuˈʔiʤu ˈhoːˈʃi ˈkeːŋ](これくらいの大きな魚を釣ってきた)。ˈクビブカラ　ˈバキ　ˈカーソーˈリ [ˈkubibukara ˈbaki ˈkaːsoːˈri](これくらい分けて売ってください)。ˈクビブカラー　ヌˈマリˈス [ˈkubibukaraː nuˈmariˈsu](これくらいは飲まれ＜飲め＞るよ)。

クˈビラˈナー [kuˈbiraˈnaː] 【名】イカを餌にしてカジキやヒラクサー、サバ (鱶) などを釣る際に用いる釣り縄。ムˈカˈシェー　クˈビラナーˈシル　サˈバー　ホーˈソーッタ [muˈkaˈʃeː kuˈbiranaːˈʃiru saˈbaː hoːˈsoːtta](昔はクビラ縄で鱶をを釣られた)。

ˈクビン [ˈkubiŋ] 【名】瓶。「Quafin クヮヒン」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。サˈキクビン [sạˈkikubiŋ](酒瓶)。ˈイッスˈクビン [ˈʔissuˈkubiŋ](一升瓶)。ˈサンゴーˈクビン [ˈsaŋgoːˈkubiŋ](三合瓶)。イˈガメーヤ　イッスˈクビンナー　ミˈジェーˈ　イˈリティルˈ　ムˈトーッˈタ [ʔiˈgameːja ʔissuˈkubinnaː miˈʤeːˈ ʔiˈritiruˈ muˈtoːtˈta](烏賊釣り漁へは一升瓶に水を入れて持って行かれた)。

クˈビンˈヌ　ˈザウ [kuˈbinˈnu ˈʤau] 【連】瓶の栓。クˈビンˈヌ　ˈザウ　ˈッシバ [kuˈbinˈnu ˈʤau ˈʃʃiba](瓶の栓を差せ＜差し込め＞よ)。

クˈビンˈヌ　バˈリ [kuˈbinˈnu baˈri] 【連】ガラス製瓶の破片。「瓶の割れ」の義。イˈクサユーˈヌ　アトゥˈバーˈケー　クˈビンˈヌ　バˈリバˈ　ピーナヤˈキティˈ　ウˈリˈシル　アˈシˈボー　バˈローッˈタˈダー [ʔiˈkusajuːˈnu ʔatuˈbaːˈke: kuˈbinˈnu baˈribaˈ piːna jaˈkitiˈ ʔuˈriˈʃiru ʔaˈʃiˈboː baˈroːtˈtaˈdaː](終戦後までは、ガラス瓶の破片を火で焼いて、それでお出来を＜はれもの＞を切開された＜割られて＞ものだよ)。

ˈクブ [ˈkubu] 【名】(植) 海草の昆布。干し昆布。本土から輸入された。クブは昔から祝儀、不祝儀の料理に欠く事の出来ない食材である。クˈブˈマキ [kuˈbuˈmaki](魚の昆布巻き) やムˈスビクブ [muˈsubikubu](大きな結び昆布) の料理にしたり、炒め物に入れたりして食した。また、正月にはˈザーˈトゥク [ˈʤaːˈtuku](床の神) に供える、こうだて (甲立て) したジˈブˈク [ʤiˈbuˈku](重箱) のパˈナンˈグミ [paˈnaŋˈgumi](花米) の上に立てて、その家に慶事が招来されることを祈願する。ˈヨイナーン　ˈソッˈコーナーン　ˈクブシ　ˈウサイ　スˈクˈローッタˈダー [ˈjoinaːn ˈsokˈkoːnaːŋ ˈkubuʃi ˈʔusai sṵˈkuˈroːttaˈdaː](お祝いにも法事＜焼香＞にも昆布でご馳走＜料理＞を作られたのだよ)。

ˈクブ [ˈkubu] 【名】こぶ (瘤)。たんこぶ。筋肉が異常に固まって盛り上がったもの。クˈシナカヌˈ　クˈブˈバ　バˈラスンティˈ　イˈサナキヌˈ　イˈサンˈヤー　ˈオーッˈタ [kuˈʃinakanuˈ kuˈbuˈba baˈrasuntiˈ ʔiˈsanakinuˈ ʔiˈsaŋˈjaː ʔoːtˈta](背中の瘤を切開させに石垣島の病院＜医者の家＞へ行かれた)。

ˈクブ [ˈkubu] 【名】(動) くも (蜘蛛)。若年層は、ˈクム [ˈkumu](蜘蛛) ともいう。ガˈマˈジナ　クˈブˈヌ　ˈシーˈヌ　ˈフシゥˈカリ　ˈベー [gaˈmaˈʤina kuˈbuˈnu ˈʃiːˈnu ˈɸusị̥ˈkari ˈbeː](髪の毛に蜘蛛の巣がくっ付いている)。

グˈフーˈク [guˈɸuːˈku] 【名】ご奉公。主家に対して奉仕すること。他家に住み込んで家事、家業に従事すること。ムˈカˈシェー　ヤˈマトーˈラ　ˈサンガリˈ　ケー　プˈスンケーˈヤ　ˈタンコーナ　グˈフーˈク　シˈミラリˈ　ブˈタˈダー [muˈkaˈʃeː jaˈmatoːˈra ˈsaŋgariˈ keː pṵˈsuŋkeːˈja ˈtaŋkoːna guˈɸuːˈku ʃiˈmirariˈ buˈtaˈdaː](昔は、大和から引っ張られてきた人達は炭坑に奉公させられていたよ)。

クˈブイラˈキ [kuˈbuˈʔiraˈki] 【名】昆布の炒め物。昆布を細かく下ろし、蒲鉾や魚、コブシメ、野菜などと一緒に炒めた料理。祝儀料理にも不祝儀料理にも調理された一般的な料理。「昆布煎り」の転訛したもの。イˈラキˈムヌ [ʔiˈrakiˈmunu](炒め物＜煎り物＞) ともいう。クˈブイラˈキン　ナˈマˈシン　スˈコーリˈ　ンˈザˈシバ [kuˈbuʔiraˈkin naˈmaˈʃin sṵˈkoːriˈ ʔnˈʤaˈʃiba](昆布の炒めものも刺身も作って＜用意して＞出しなさいよ)。

グˈブグブ [guˈbugubu] 【名】互角。半分。確率五

分。優劣のつけられないさま。「五分五分」の義。˞クンドゥ˥ヌ　˞セン˥キョー　カ˞カ˥ルンユー　˞ヌー˥シユー　ワ˞カラ˥ヌ　グ˞ブグブ˥　ヤ˞リン˥ギサ [˞kundu˥nu ˞ʃeŋ˥kjo: kạ˞ka˥ruŋju: ˞nu:ʃi˥ju: wa˞kara ˥nu gu˞bugubu˥ ja˞riŋ˥gisa](今度の選挙は当選するか、どうか分らない。五分五分 < 互角 > のようだ)。

グ˞ブトゥール [gu˞butu:ru] 【名】灯心が五分幅のランプ。「五分灯籠」の義。若年層はグ˞ブ˥ランプ [gu˞bu˥rampu](五分ランプ) と言っていた。グ˞ブトゥーロー˥　ハ˞チブトゥール˥ヌ　˥スコー　ガ˞ラヌ [gu˞butu:ro:˥ hạ˞tʃibutu:ru˥nu ˥sụko: ga˞rau](五分ランプは八分ランプほど明るくならない < 輝かない >)。

ク˞ブ˥ヌ　˥シー [ku˞bu˥nu ˥ʃi:] 【連】蜘蛛の巣。古老は˥グブンダニヌ　˥シー [˥gubundaninu ˥ʃi:](蜘蛛の巣) という。˞ティンゾー˥ヌ　˞ソー˥ジ　シ˞ター˥　ガ˞マ˥ジナー　ク˞ブ˥ヌ　˞シー˥ヌ　カ˞ルマ˥キティ　キ˞ムフクレー˥ヌ　ナ˞ラ˥ヌ [˞tindʑo:˥nu ˞so:˥ʤi ʃị˞ta:˥ ga˞maʤi˥na: ku˞bu˥nu ˞ʃi:˥nu ka˞ruma˥kiti ki˞muhukure:˥nu na˞ra˥nu](天井の掃除をしたら髪の毛に蜘蛛の巣が絡み付いて汚くてたまらぬ)。

ク˞ブマ˥キ [ku˞buma˥ki] 【名】昆布巻き。魚肉や烏賊、蛸を芯にして昆布で巻き、味付けをして煮付けたもの。˥アボー　ス˞ク˥ロール　ク˞ブ˥マケー　イ˞カムス˥ク　ン˞マー˥タワ˞ツォー [˥ʔabo: sụ˞ku˥ro:ru ku˞bu˥make: ʔi˞kamusụ˥ku ʔm˞ma:˥tawa˞tso:](お母さんが作られる昆布巻きはどんなに美味しかったことか)。

ク˞ブミ [ku˞bumi] 【名】くぼみ (窪み)。ア˞ミ˥ヌ　˥フーカー　ミ˞チ˥ヌ　ク˞ブミ˥ナー　ミ˞ジヌ˥　タ˞マルン [ʔa˞mi˥nu ˥ɸu:ka: mi˞tʃi˥nu ku˞bumi˥na: mi˞ʤinu˥ ta˞maruŋ](雨が降ると道の窪みには水が溜まる)。

グ˞ブ˥リー [gu˞bu˥ri:] 【名】ご無礼。失礼。˞マー˥ビン　˞パイ˥サ　˥キー　ク˞ヨーマバ˥ル　ヤ˞ルンドゥ　キーユーサ˥ナ　グ˞ブ˥リー　˥ナリ　˞ブー˥ユー [˞ma:˥bim ˞pai˥sa ˥ki: ku˞jo:mamba˥ru ja˞rundu ki:ju:sa˥na gu˞bu˥ri: nari ˞bu:˥ju:](もっと早く来てご機嫌伺い致すべきところですが、来ることが出来ずにご無礼致しております < ご無礼になっております >)。

グブローッ˞ティ [guburo:t˞ti] 【副】一気に水を流し込むさま。グブローッ˞ティ˥　ミ˞ジェー　ノー˥シティ　マ˞タ˥　ミ˞ジ˥　カ˞タ˥ミン　˞パッ˥タヤー [guburo:t˞ti˥ mi˞ʤe: no:˥ʃị˥ti ma˞ta˥ mi˞ʤi˥ kạ˞ta˥mim ˞pat˥taja:](一気に水担桶の水を移して < ゴボロッと注ぎいれて >、また水を運びに < 担ぎに > 行ったよ)。

˥グブンダニ [˥gubundani] 【名】(動) 蜘蛛 (古老のことば)、『八重山語彙』。˥クブ [˥kubu](蜘蛛) ともいう。˞バン˥テヌ　アチャター˞バー˥ケー　ク˞ブ˥バ˥クブンダニティ　ア˞ゾーッ˥タ [˞ban˥tenu ʔatʃata:˞ba:˥ke: ku˞bu˥ba ˥kubundaniti ʔa˞ʤo:t˥ta](私の家のお父さん達までは蜘蛛のことをクブンダニと言われた)。

˥クマ [˥kuma] 【名】こま (独楽)。子供の玩具。˥ソンガチ　˥ナルカー　˥クマ　˞マーシ˥　ア˞サブタン [˥soŋgatʃi ˥naruka: ˥kuma ˞ma:ʃi˥ ʔa˞sabutaŋ](正月になると独楽を回して遊んだ)。

˥クマ [˥kuma] 【代】ここ (此処)。場所を表す。空間的に話し手のいる所、また、それにごく近い所を指す。近称の代名詞。˥ウマ [˥ʔuma](そこ < 其処 >。中称)、˥カマ [˥kama](あそこ。遠称) の対義語。「此・間 < コ・マ >」の義。˥クマー　˥マーヤ [˥kuma: ˥ma:ja](ここ < 此処 > はどこ < 何処 > か)。ク˞マー˥　クー [ku˞ma:˥ ku:](此処へ来い)。˞ニー˥ヤ　˥クマナ　シ˞キ˥リ [˞ni:˥ja ˥kumana ʃị˞ki˥ri](荷物は此処に置け)。˥クマーラ　ン˞ジ˥リ [˥kuma:ra ʔn˞ʤi˥ri](ここから出ろ)。ア˞バティ˥　ク˞マー˥　クー [ʔa˞bati˥ ku˞ma:˥ ku:](急いで此処へ来い)。˥クマナー　˥タティ　˞ベー˥リ [˥kumana: ˥tạ̀ti ˞be:˥ri](此処に立っておれ)。ク˞マ˥ヌ　イ˞ゾー˥　ン˞マー˥ン [ku˞ma˥nu ʔi˞ʤo:˥ ʔm˞ma:˥ŋ](此処の魚は美味しい)。ク˞マ˥トゥ　˥カマ [ku˞ma˥tu ˥kama](此処とあそこ)。˥クマーラ　˞ペー˥リ [˥kuma:ra ˞pe:˥ri](ここから入れ)。ク˞マ˥ル　マ˞シ [ku˞ma˥ru ma˞ʃi](ここが < ぞ > いい < ましだ >)。˥クマー　ピ˞ラ˥ケーン [˥kuma: pi˞ra˥ke:ŋ](此処は涼しい)。˥クマン　˞ピー˥ヤン [˥kumam ˞pi:˥jaŋ](ここも寒い)。

˥グマ [˥guma] 【名】(植)。ごま (胡麻)。うごま (胡麻)。「胡麻、五万、訛云、宇古末 (うごま)」『和名抄』の転訛したもの。餅の餡に用いられ、美味である。グ˞マ˥バ　イ˞ソーシ˥シ　ピ˞キティ˥　ッ˞ふサタ˥トゥ　マ˞ザー˥シティ　˥グマアンヌ　バ˞タム˥チ　ス˞ク˥ローッタ [gu˞ma˥ba ʔi˞so:ʃi˥ʃi pị˞kiti˥ f˞fusata˥tu ma˞ʤa:˥ʃị˥ti ˥guma ʔannu ba˞tamu˥tʃi sụ˞ku˥ro:tta](胡麻を石臼で挽いて黒砂糖と混ぜて胡麻餡の餡餅を作られた)。ッ˞ス˥グマ [s˞su˥guma](白胡麻)、ッ˞ふ˥グマ [f˞fu˥guma](黒胡麻) などがある。ム˞カ˥シェー　˥アーン　˥グマン　ス˞ク˥ローッタン [mu˞ka˥ʃe: ˥

ʔaːŋ ˥guman su̥˥ku˥roːttaŋ](昔は、粟も胡麻も栽培された＜作られた＞)。˥グマー　フ˥クラシティ　ダイ˥パーナ　˥ッシティ　グ˥マドー˥フ　ス˥ク˥ローッタ [˥guma: ɸu̥˥kuraʃi̥ti dai˥paːna ˥ʃʃiti gu˥madoː ˥ɸu su̥˥ku˥roːtta](胡麻はふやかし、擂鉢で擂って胡麻豆腐を造られた)。

グ˥マ **[gu˥ma]** 【接頭】小さな。形容詞グ˥マー˥ン [gu˥maː˥ŋ](小さい) の語幹から転成したもの。グ˥マ˥クイ [gu˥ma˥kui](小さい声。小声。低い声)。グ˥マ˥ムヌ [gu˥ma˥munu](小さな物。小物)。グ˥マ˥イズ [gu˥ma˥ʔidʑu](小さな魚。小魚)。グ˥マ˥ムヌ [gu˥ma˥munu](小さいもの)。グ˥マ˥プス [gu˥ma˥pu̥su](小さい人。子供)。グ˥マ˥ソンガチ [gu˥ma˥soŋgatʃi](旧暦の正月。小正月)。グ˥マシグ˥トゥ　カー˥ニル　シーユース˥　ウ˥ブシグ˥トー　˥シーユーサヌ [gu˥maʃigu˥tu kaː˥niru ʃiːjuːsu˥ ʔu˥buʃigu˥toː ˥ʃiːjuːsanu](小さな仕事だけしか出来ない＜だけがし得る＞、大きな仕事は出来ない＜し得ない＞)。

˥グマー **[˥guma:]** 【名】小さいもの。小物。ウ˥レー˥　グマー＜グ˥マ˥ムヌ＞　ヤ˥ルンダ˥　シゥ˥カイユーゾー　ナー˥ヌ [ʔu˥reː˥ guma: ＜gu˥ma˥munu＞ ja˥runda˥ si̥ï˥kaijuːdʑoː naː˥nu](それは小さいものだから使い道がない)。グ˥マー˥ヤ＜グ˥マ˥ムノー＞　シ˥ティリ [gu˥maː˥ja ＜gu˥ma˥munoː＞ ʃi̥˥tiri](小物は捨てなさい)。

ク˥マー˥カマー **[ku˥ma:˥kama:]** 【代】ここかしこ (此処彼処)。あちこち (彼方此方)。ク˥マー˥カマーラ　ア˥ツァ˥マリ　˥オー˥ル　プ˥ソー˥　フ˥タテー˥ニ　ナリティ　シ˥ナ˥ピキ　˥ソーッ˥タ [ku˥maː˥kamaːra ʔa˥tsa˥mari ˥ʔoː˥ru pu̥˥soː˥ ɸu̥tateː˥ni nariti ʃi˥na˥piki ˥soːt˥ta](彼方此方から集まって来られた人が二手に分かれて綱引きをされた)。

ク˥マークマ **[ku˥ma:kuma]** 【副】こまごまと (細細)。詳しく。詳細に。委細に。細かく。強調すると、クマー˥クマ [kumaː˥kuma] となる。クマー˥クマ˥　パ˥ナ˥シ　ッ˥サリ˥バ [kumaː˥kuma˥ pa˥na˥ʃi s˥sari˥ba](詳細にお話し申し上げなさいよ)。ク˥ヌ˥　クトー　クマー˥クマー˥シ　シ˥ラ˥ビテーラル　ケー˥ラ˥ネー　パ˥ナサ˥リ [ku˥nu˥ ku̥toː kumaː˥kumaː˥ʃi ʃi˥ra˥biteːraru keː˥ra˥neː pa˥nasa˥ri](この事は詳細に調べてからでないと皆さんには話されない＜調べてからぞ、皆さんには話される＞)。

ク˥マークマー˥シ **[ku˥ma:kuma:˥ʃi]** 【副】細かく。詳細に。˥フンムヌ˥トゥ　ビッ˥ツティ　ネーシ˥　ク˥マークマー˥シ　ス˥ク˥リ　˥シケー [˥ɸummunu˥tu bit˥tsuti neːʃi˥ ku˥maːkumaː˥ʃi su̥˥ku˥ri ʃi̥keː](本物とそっくりに似せて詳細に作ってある)。ク˥マークマー˥シ　シ˥ラ˥ビ [ku˥maːkumaː˥ʃi ʃi˥ra˥bi](詳細に調べよ)。ク˥マークマー˥シ　ク˥ダ˥キ [ku˥maːkumaː˥ʃi ku˥da˥ki](細かく砕け)。ナ˥リウ˥チェー　ク˥マークマー˥シ　パ˥ナ˥シ　ッ˥サリ˥バ [na˥riʔu˥tʃeː ku˥maːkumaː˥ʃi pa˥na˥ʃi s˥sari˥ba](事情＜内情＞を詳細に話して差し上げなさい＜申し上げなさい＞)。

グ˥マーグマー˥シ **[gu˥ma:guma:˥ʃi]** 【副】小さく。ム˥チェー˥　グ˥マーグマー˥シ　ス˥クリバ˥ル　ッ˥ふァイヤッ˥サ [mu˥tʃeː˥ gu˥maːgumaː˥ʃi su̥˥kuriba˥ru f˥faijas˥sa](餅は小さく作ったほうが食べやすい)。

グ˥マーグマーヌ **[gu˥ma:guma:nu]**【連体】小さな。グ˥マーグマーヌ˥　プ˥ス˥　ヤ˥ルヌ　カンガイ˥ヤー　˥マイ˥ヤン [gu˥maːgumaːnu˥ pu̥˥su˥ ja˥runu kaŋgai˥jaː ˥mai˥jaŋ](小さな人だが、考えは大きい)。グ˥マーグマーヌ˥　フネーラ　˥クー˥タ [gu˥maːgumaː˥nu ˥ɸuneːra ˥kuː˥ta](小さな舟で＜舟から＞来た)。

クマー˥クマ˥シ **[kuma:˥kuma˥ʃi]** 【副】こまごま (細々) と。詳しく。細かく＜微細に＞。クマー˥クマ˥シ　パ˥ナ˥シ　ッ˥サリ˥バ [kumaː˥kuma˥ʃi pa˥na˥ʃi s˥sari˥ba](細かく＜詳細に＞お話し申し上げなさい)。˥ティー˥グ　クマー˥クマ˥シ　˥フミ　˥シケー [˥tiː˥gu kumaː˥kuma˥ʃi ˥ɸumi ˥ʃi̥keː](竹篭を細かく＜微細に＞編んである)。

グ˥マー˥ムヌ **[gu˥ma:˥munu]** 【名】小さいもの。小さな物。ク˥ツン˥　ア˥シ˥ツァン　グ˥マー˥　ムノー　フ˥マラヌ [ku̥˥tsuŋ˥ ʔa˥ʃi˥tsaŋ gu˥maː˥ munoː ɸu˥maranu](靴も下駄も小さいものは履けない)。

ク˥マー˥ン **[ku˥ma:˥ŋ]** 【形】1細かい。細い。˥カイク˥ヌ　˥イトー　イッ˥ケン˥　ク˥マー˥ン [˥kaiku˥nu ˥ʔitoː ʔik˥keŋ˥ ku˥maː˥ŋ](蚕の糸は非常に細い)。˥ナン˥ゾー　ク˥マー　ナー˥ヌ [˥nan˥dʑoː ku˥maː naː˥nu](あまり細かくない)。ク˥マー˥　ナルン [ku˥maː˥ naruŋ](細くなる)。ク˥マー˥　イトー　シゥ˥カーヌ [ku˥maː˥ ʔitoː si̥ï˥kaːnu](細い糸は使わない)。2つましい。倹約家である。ク˥マー˥　プ˥スル˥　ウ˥ヤ˥ケー　˥スー [ku˥maː˥ pu̥˥suru˥ ʔu˥ja˥keː ˥suː](つましい＜細かい＞人が金持ちにはなる)。几帳面である。倹約家である。ウ˥ヌ˥　プ˥ソー˥　イッ˥ケン˥　ク˥マーン [ku˥nu˥ pu̥˥soː˥ ʔik˥keŋ˥ ku˥maː˥ŋ](この人は非常に細かい＜几帳面である＞)。3細かい。緻密である。きめ細かい。入念である。ク˥ヌ˥　プ˥ソー˥　イッ˥ケナ　ティー　クマー˥ン [ku˥nu˥ pu̥˥soː˥ ʔik˥kena tiː kumaː˥ŋ](この人は非常に仕事が緻

密である＜手が細かい＞)。ˈティーˉヤ　クˈマーナーˉヌ [ˈtiːˉja kuˈmaːnaːˉnu](仕事が緻密でない＜手が細かくない＞)。ˈティー　クマーˉ　ナリケーン [ˈtiː kumaːˉ narikeːŋ](仕事が緻密に＜手が細かく＞なってきた)。クˈリヌˉ　スコー　ˈティーˉ　クˈマーˉ　プˈソーˉ　ブˈラーヌ [kuˈrinuˉ su̥koː ˈtiːˉ kuˈmaːˉ pu̥ˈsoːˉ buˈraːnu](この人くらい仕事の緻密な＜手の細かい＞人はいない)。ˉマー　ンˈベーマティーˉ　クˈマーˉカー　ˉミサムヌ [ˉmaː ʔmˈbeːmatiːˉ kuˈmaːˉkaː ˉmisamunu](もう少し仕事が緻密だったらいいのだが)。

グˈマーˉン [guˈmaːˉŋ] 【形】小さい。物の形や容積が小さい。音声など音量が小さい。度量が狭い。フˈドーˉ　グˈマーˉンドゥ　シゥˈカラー　スーˉワン [ɸuˈdoːˉ guˈmaːˉndu si̥ˈkaraː suːˉwaŋ](体は小さいが力は強い)。ˈナンˉゾー　グˈマーナーˉヌ [ˈnanˉʤoː guˈmaːnaːˉnu](あまり小さくない)。ˈシンダイˉ　グˈマーˉ　ナルン [ˈʃindaiˉ guˈmaːˉ naruŋ](次第に小さくなる)。ˉドゥク　グˈマーˉ　プˈソーˉ　ヤˈトーˉヌ [ˉduku guˈmaːˉ pu̥ˈsoːˉ jaˈtoːˉnu](あまり小さい人は雇わない)。パˈトゥˉマー　ˉシマー　グˈマーˉンドゥ　ウˈサイララヌ [paˈtuˉmaː ˉʃimaː guˈmaːˉndu ʔuˈsairaranu](鳩間は島は小さいが侮れない＜抑えられない＞)。グˈマー　ナーˉヌ [guˈmaː naːˉnu](小さくない)。トゥˈシˉトゥ　ˈアーシˉル　グˈマーˉ　ナリクー [tu̥ˈʃiˉtu ˈʔaːʃiˉru guˈmaːˉ nariku:](年齢に伴ってぞ＜合わせて＞小さくなってくる)。グˈマーˉ　ムノー　ˈカーサラヌ [guˈmaːˉmunoː ˈkaːsaranu](小さいのは売れない)。ンˈベーマˉ＜マーンˈベーマˉ＞　グˈマーˉカー　ˉミサムヌ [ʔmˈbeːmaˉ ＜maːmˈbeːbaˉ＞ guˈmaːˉkaː ˉmisamunu](少し小さかったらよいのに)。

グˈマーンˉギサン [guˈmaːŋˉgisaŋ] 【連】小さそうだ。小さいようだ。見るからに小さそうだ。ビˈコーンッふァーˉ　ミˈドーンˉッふァーラン　フˈドーˉ　グˈマーンˉギサンドゥ　シゥˈカラー　スーワˉルバンˈナー [biˈkoːŋffaːˉ miˈdoːŋˉffaːraŋ ɸuˈdoːˉ guˈmaːˉŋgisandu si̥ˈkaraː suːwaˉrubanˈnaː](男の子は女の子よりも体は小さいようだが、力は強いんだねえ)。

グˈマˉアシ　ˈサイˉルン [guˈmaˉʔaʃi ˈsaiˉruŋ] 【連】こあし＜小足＞で歩く。小さな歩幅で歩く。足並みを細かく刻んで歩く。「Coaxini ayumu＜小足に歩む＞『邦訳日葡辞書』」の義。グˈマˉアシ　ˈサイˉヤーティル　ヤッˈトゥˉシ　アˈラˉキ　キˈラリタˉル [guˈmaˉʔaʃi ˈsaiˉjaːtiru jatˈtuˉʃi ʔaˈraˉki kiˈraritaˉru](チョコチョコと足並みを細かく刻んで、やっとで歩いて来られたよ)。

クˈマアミ [kuˈmaʔami] 【名】糠雨。霧雨。こぬかあめ。クˈマアミヌˉ　フーンダ　ˉプシ　ˉシケール　ˈキンˉマー　ˈパーˉク　ˈペーラˉシ [kuˈmaʔaminuˉ ɸuːndaˉ pu̥ʃi ˉʃi̥keːru ˈkimˉmaː ˈpaːˉku ˈpeːraˉʃi](糠雨が降るので、干してある着物は早く取り入れなさい)。キˈボーシアミ [kiˈboːʃiʔami](霧雨。煙雨) ともいう。ˉカイブ　クˈマアミˉシェー　ウˈロイˉヤー　ˈサンˉヨー [ˉkaibu kuˈmaʔamiˉʃeː ʔuˈroiˉjaː ˈsaŋˉjoː](こんな小雨では、畑の潤いはしないよ)。

ˉグマアン [ˉgumaʔaŋ] 【名】ごま餡。胡麻の餡。挽き胡麻に黒砂糖を削ったのを混ぜて作った餡。ˉバタムチェー　ˉグマアンル　イッˈチンˉ　ンˈマーˉタ [ˉbatamutʃeː ˉgumaʔanru ʔitˈʧimˉ ʔmˈmaːˉta](餡餅は、胡麻餡が一番美味しかった)。

ˉグマアン [ˉgumaʔaŋ] 【名】ごまあん (胡麻餡)。ムˈチヌˉ　バター　ˉグマアンル　マˈシ [muˈʧinuˉ bataːˉ gumaʔanru maˈʃi](餅の餡＜腸＞は胡麻餡が良い)。

グˈマˉイシ [guˈmaˉʔiʃi] 【名】小さな石。小石。イˈシェーˉマ [ʔiˈʃeːˉma](小石) ともいう。ˈグスクˉヌ　バˈタˉイシェー　グˈマイシバˉル　イˈローッˉタ [ˈgusu̥kuˉnu baˈtaˉʔiʃe: guˈmaʔiʃibaˉru ʔiˈroːtˉta](石垣の腹石には小さな石を入れられた)。

グˈマˉウシ [guˈmaˉʔuʃi] 【名】小さな臼。魚肉を搗いて蒲鉾を作るのに用いる臼。ウˈシェーˉマ [ʔuˈʃeːˉma](小臼) ともいう。カˈマブコーˉ　グˈマˉウシナール　ˈシックˉタ [kaˈmabukoːˉ guˈmaˉʔuʃinaːru ˈʃikkuˉta](蒲鉾は小さな臼で搗いた)。

クˈマˉキ [kuˈmaˉki] 【名】細かいかけら (欠片)。細かい断片。砕片。物の砕けた細片。ッˈふサタˉヌ　クˈマˉキ　アˈツァˉミティ　ˉサーナ　イˈリˉ　ヌミバ [fˈfusataˉnu kuˈmaˉki ʔaˈtsaˉmiti ˉsaːna ʔiˈriˉ numiba](黒糖のかけらを集めて茶に入れて飲めよ)。

クˈマˉキ　ˉナスン [kuˈmaˉki ˉnasuŋ] 【連】粉々にする。細かい断片にする。マˈカˉル　ウˈタˉシティ　クˈマˉキ　ˉナスンケン　バˈリシティ　ナーˉヌ [maˈkaˉru ʔuˈtaˉʃi̥ti kuˈmaˉki ˉnasuŋkem baˈriʃi̥tinaːˉnu](お椀を落として粉々にするまで割ってしまった)。

グˈマˉクイ [guˈmaˉkui] 【名】小声。小さな声。ウˈブˉクイシ　パˈナサンˉドーシ　グˈマˉクイシ　パˈナˉシバ [ʔuˈbuˉkuiʃi paˈnasanˉdoːʃi guˈmaˉkuiʃi paˈnaˉ

ʃiba](大声で話さないで、小声で話せよ)。

ク˞マケー˥マ [ku˞makeː˥ma] 【名】ごく細かいかけら (欠片)。極細かい砕片。極細かい断片。タ˞マガラス˥ヌ　ク˞マ˥ケー　˞ドゥーヤマシ˥ムヌ　ヤ˞ルンダ˥　ク˞マケー˥マ　˞バー˥キ　ムー˞ル˥　ア˞ツァ˥ミ　ッ˞スリ˥　シ˞ティリ [ta˞magarasu˥nu ku˞ma˥keː ˞duːjamaʃi˥munu ja˞runda˥ ku˞makeː˥ma ˞baː˥kimuː˞ru˥ ʔa˞tsa˥mi s˞suri˥ ʃi̥˞tiri](ガラスの細かい欠片は怪我の元 < 体を病ますもの > だから極細かいかけら < 欠片 > までも全部集めて、拭いて捨てなさい)。

ク˞マ˥ジー [ku˞ma˥ʤiː] 【名】細字。細かい文字。˥トゥシ　トゥ˞ル˥ター　˞ガン˥キョー　カ˞キラン˥カー　ク˞マジー˥ヤ　ユ˞ミユーサ˥ヌ [˥tuʃi tu˞ru˥taː ˞ganŋ˥kjoː kḁ˞kiraŋ˥kaː ku˞maʤiː˥ja ju˞mijuːsa˥nu](年を取ったので、眼鏡をかけないと細字は読めない)。

グ˞マ˥ジー [gu˞ma˥ʤiː] 【名】小さい土地。ウ˞ビッチン˥ヌ　グ˞マジー˥バ　バ˞キ˥ダマティ　˞イー˥リティ　˥ヌーシゥカイ　˞スーワレー [ʔu˞bittʃin˥nu gu˞maʤiː˥ba ba˞ki˥damati ˞ʔiː˥riti ˥nuːsi̥kai ˞suːwareː](これっぽっちの土地を財産分与として貰ったって、何に利用出来るというのかね < 何使いするかね >)。

グ˞マシグ˥トゥ [gu˞maʃigu˥tu] 【名】小さな仕事。手間のかからない仕事。ウ˞ブシグ˥トー　ナ˞ラヌ˥ヌ　グ˞マシグ˥トー　˥ナルン [ʔu˞buʃigu˥toː na˞ranu˥nu gu˞maʃigu˥toː ˥naruŋ](大仕事は出来ないが、小さな仕事は出来る)。

グ˞マシジェー˥マ [gu˞maʃiʤeː˥ma] 【名】小粒。小さな粒。ク˞トゥシヌ　トー˥フマメー　グ˞マシジェー˥マ　˥ナリティ　˞ダーッ˥サー　˞ナー˥ヌ [ku̥˞tuʃinu toː˥ɸumameː gu˞maʃiʤeː˥ma ˥nariti ˞daːs˥saː ˞naː˥nu](今年の大豆は小粒になっていて良くないよ)。

グ˞マ˥シマ [gu˞ma˥ʃima] 【名】小島。シ˞マー˥マ [ʃi˞maː˥ma](小島。小さな島) ともいう。パ˞トゥ˥マーラ　˞ダイガク˥ヌ　ガ˞クチョーン˥　マ˞ロー˥リ　グ˞マ˥シマティ　ア˞ナンドゥララヌ [pḁ˞tuma˥nu ˞joːtʃi˥jenna: gu˞maffaː˥maŋkeː ʔa˞tsa˥miti ˞çoːʤuŋ˥goʃi na˞raːʃi˥ta ˞beː˥ti ˞ʃindai˥ ʃimamuneː ˞baʃi̥kirareːꜜna:](鳩間島の幼稚園で幼児を集めて標準語で教えたので、次第に島言葉 < 鳩間方言 > は忘れられたのだろうね)。

グ˞マ˥シン [gu˞ma˥ʤiŋ] 【名】小さなお金。小額のお金。˞クー˥ジン [˞kuː˥ʤiŋ](小銭。少額の貨幣) とは異なる。グ˞マジン˥マー　ン˞ザサリン˥ドゥ　ウ˞ブジン˥マー　ン˞ザシユーサ˥ヌ [gu˞maʤim˥maː ʔn˞ʤasarin˥du ʔu˞buʤim˥maː ʔn˞ʤaʃijuːsa˥nu](小額のお金 < 小銭 > は出せるが、大金は出すことが出来ない)。˞クー˥ジン　クリッ˞ふィーリ [˞kuː˥ʤiŋ kuri f˞fiːri](小銭に両替してくれ)。小額の金銭。少ない金。ウ˞ブジン [ʔu˞buʤiŋ](大金) の対義語。グ˞マ˥ジンラル　ウ˞ブジンマー˥　ナス　˞イットゥ˥キシ　ウ˞ブモーキ　スンティ˥　ウムーカー　ウ˞ルキ˥ルン˞ダー [gu˞ma˥ʤinraru ʔu˞buʤimmaː˥ nasu ˞ʔittu˥ki̥ʃi ʔu˞bumoːki sunti˥ ʔumuːkaː ʔu˞ruki˥run˞daː](小額の金から大金になすものだ。一時に大儲けしようと思うと大損するぞ)。

グ˞マジン˥ブン [gu˞maʤim˥buŋ] 【名】こさい (小才)。ちょっとした才知。ウ˞レー˥　グ˞マジンブン˥ヌ　˥アルンダ　˞ジンモー˥ケー　˞ゾー˥ジ [ʔu˞reː˥ gu˞maʤimbun˥nu ˥ʔarunda ˞ʤimmoː˥keː ˞ʤoː˥ʤi](彼 < それ > は小才がきく < ある > から、金儲けは上手だ)。

グ˞マスク˥リ [gu˞masuku˥ri] 【名】こがら (小柄)。からだつきの小さいこと。「こづくり (小作り)」の転訛したもの。グ˞マ˥マリ [gu˞ma˥mari](小さな生まれ) ともいう。˞ドゥー˥ヤ　グ˞マスク˥リ　ヤ˞ルンドゥ˥　カ˞ラー　スー˥ワン [˞duː˥ja gu˞masuku˥ri ja ˞rundu˥ ka˞raː suː˥waŋ](体は小柄 < 小作り > だが、体格は強い)。

グ˞マッふァー˥マ [gu˞maffaː˥ma] 【名】小さな子供。幼児。パ˞トゥマ˥ヌ　˞ヨーチ˥エンナー　グ˞マッふァー˥マンケー　ア˞ツァ˥ミティ　˞ヒョージュン˥ゴシ　ナ˞ラーシ˥タ　˞ベー˥ティ　˞シンダイ˥　シマムネー　˞バシキラレートナー [pḁ˞tuma˥nu ˞joːtʃi˥jenna: gu˞maffaː˥maŋkeː ʔa˞tsa˥miti ˞çoːʤuŋ˥goʃi na˞raːʃi˥ta ˞beː˥ti ˞ʃindai˥ ʃimamuneː ˞baʃi̥kirareːꜜna:](鳩間島の幼稚園で幼児を集めて標準語で教えたので、次第に島言葉 < 鳩間方言 > は忘れられたのだろうね)。

ク˞マトゥ [ku˞matu] 【名】質の細かい砥石。緻密な質の砥石。ア˞ラトゥ [ʔa˞ratu](粗砥石) の対義語。ア˞ラトゥ˥ナ　˥トゥイティ　˥アトー　ク˞マトゥ˥ナ　˥トゥイバ [ʔa˞ratu˥na ˥tuiti ˥ʔtoː ku˞matu˥na ˥tuiba](質の粗い砥石で研いだ後、質の細かい砥石で研げよ)。カ˞ナー˥　ア˞ラトゥイ　シティ˥　アトー　ク˞マトゥ˥ナ　˞トゥイバ˥ル　キ˞シ˥ル [ka˞naː ˥ʔa˞ratui ʃi̥ti˥ ʔato: ku˞matu˥na ˞tuiba˥ru ki̥˞ʃi˥ru](鉋は粗研ぎして後は質の細かい砥石で研いだほうがよく削れる < 切れる >)。

グ˹マドン˺グ **[gu˹madoŋ˺gu]**【名】小道具。こまごまとした道具。鑿や鉋、小刀などの工具類や、鎌や箆などの小さな農具類。˹サイクドング˺ヌ　グ˹マドン˺グ　カ˹ラス˺カー　˹バシキティ˺　ム˹ドゥサン˺　プ˹スヌ　ブンダ˺　カ˹ラスナ [˹saikudoŋgu˺nu gu˹madoŋ˺gu ka˹rasu˺ka: ˹baʃḭkiti˺ mu˹dusam˺ pṵ˹sunu bunda˺ ka˹rasuna](大工道具小道具 < 細工道具 > を貸したら、忘れて返さない < 戻さない > 人がいるから、貸すな)。

グ˹マヌシ˺トゥル **[gu˹manuʃḭ˺turu]**【名】こそ泥。˹細盗人」の義。ウ˹ブヌシ˺トゥル [ʔu˹bunuʃḭ˺turu](大泥棒) の対義語。ヌシトゥ˹ロー˺マ [nuʃḭtu˹ro:˺ma](こそ泥) ともいう。グ˹マヌシ˺トゥローラル　ウ˹ブヌシ˺トゥロー　˺ナル [gu˹manuʃḭ˺turo:raru ʔu˹bunuʃḭ˺turo: ˺naru](こそ泥から大泥棒になるのだ)。

˺グマバタ **[˺gumabata]**【名】ごま餡 (胡麻餡)。˺バタ [˺bata](腹) は餅の腹 (中身) の義で、餡の意。餅の餡に胡麻を利用したもの。ク˹ヌ˺　バタムチェー　˺グマバタ　ヤ˹ルンダ˺　ン˹マー˺ン [ku˹nu˺ batamutʃe: ˺gumabata ja˹runda˺ ʔm˹ma:˺ŋ](この餡餅は胡麻餡 < 腹 > だから、美味しい)。ム˹チ˺ヌ　˺バター　˺グマバタル　イッ˹チン˺　ン˹マー˺タ [mu˹tʃinu˺ bata: ˺gumabataru ʔit˹tʃim˺ ʔm˹ma:˺ta](餅の餡は、胡麻餡が一番美味しかった)。

グ˹マ˺バタ **[gu˹ma˺bata]**【名】小さなお腹。バ˹ター˺マ [ba˹ta:˺ma](小腹) とも言う。ウ˹ブ˺バタ [ʔu˹bu˺bata](たいこばら < 太鼓腹 >) の対義語。ヤ˹ラビ˺ヌ　˺バター　グ˹マ˺バタ　ヤ˹ルンダ˺　ウ˹ビ˺ナーッ˹ふァイサヌ [ja˹rabi˺nu ˺bata: gu˹ma˺bata ja˹runda˺ ʔu˹bi˺na: f˹faisanu](子供のお腹は小さなお腹だから、こんなには食べきれない < 食べることが出来ない >)。

グ˹マ˺フイ **[gu˹ma˺ɸui]**【名】こぶり (小降り)。雨の降り方がわずかなこと。ウ˹ブフイ [ʔu˹buɸui](大降り。雨が激しく降ること) の対義語。ア˹ミ˺ヌ　グ˹マフイ　シェーン˺ケンナ　˹ヤー˺　パラ˹ディー [ʔa˹mi˺nu gu˹maɸui ʃe:ŋ˺kenna: ˹ja:˺ para˹di:](雨が小降りしているうちに、家へ帰ろうよ)。

グ˹マフイ **[gu˹maɸui]**【名】小降り。ア˹ミ˺ヌ　グ˹マフイ　シェーン˺ケンナー　˹ヤー˺　パ˹ライ [ʔa˹mi˺nu gu˹maɸui ʃe:ŋ˺kenna: ˹ja:˺ pa˹rai](雨が小降りになっている間に < 小降りしているうちに > 家に帰るね)。˺アメー　ウ˹ブフイヤー˺　サ˹ムティ˺　ナー˹イ˺　グ˹マフイ˺　カー˹ニ　シーベー [˺ʔame: ʔu˹buɸuija:˺ sa˹muti˺ na:˹i˺ gu˹maɸui˺ ka:˹ni ʃi:be:](雨は大降りはしないで、ただ小降りだけしている)。

グ˹マ˺プス **[gu˹ma˺pṵsu]**【名】小さな人。グ˹マ˺プソーラル　ウ˹ブ˺プス　˺ナリ　フ˹ドゥブユンダ˺　イ˹ジ˺ンジ　シゥ˹カ˺ナイ　フ˹ドゥバシ˺ヨー [gu˹ma˺pṵso:raru ʔu˹bu˺pṵsu ˺nari ɸu˹dubujunda˺ ʔi˹dʑi˺ndʑi sḭ˹ka˺nai ɸu˹dubaʃi˺jo:](小さな人から < ぞ > 大人 < 大きな人 > になるのだから、一所懸命養育して成長させなさいよ)。

グ˹マ˺フディ **[gu˹ma˺ɸudi]**【名】小筆。細字用の小さな筆。フ˹デー˺マ [ɸu˹de:˺ma](小筆) ともいう。マ˹ギ˺フディシェー　カ˹カラン˺バ　グ˹マ˺フディシ˺カキバ [ma˹gi˺ɸudiʃe: kḁ˹karam˺ba gu˹ma˺ɸudiʃi ˺kḁkiba](大筆では書けないから、小さな筆で書けよ)。

グ˹マ˺フニ **[gu˹ma˺ɸuni]**【名】小舟。小さな舟。フ˹ネー˺マ [ɸu˹ne:˺ma](小舟) ともいう。マ˹ギ˺フニ [ma˹gi˺ɸuni](大きな船) の対義語。˺イダフニンドーレーヌ　グ˹マ˺フネーラル　˹パイ˺ター　バ˹タリ　タースク˺ル　˹ソーッ˺タ [˺ʔidaɸunindo:re:nu gu˹ma˺ɸune:raru ˹pai˺ta: ba˹tari ta:sṵku˺ru ˹so:t˺ta](板舟 < サバニ > 等の小舟で < から > 南端 < 西表北岸 > へ渡り稲作 < 田造り > をなされた)。

グ˹マ˺マタ **[gu˹ma˺mata]**【名】小股。歩幅のせまいこと。せかせかと気ぜわしく歩くさま。ウ˹ブ˺マタ [ʔu˹bu˺mata](大股) の対義語。˺カマーラ　グ˹マ˺マタシ　ア˹ラ˺キ　˺クー　プ˹ソー　ター˺ヤ [˺kama:ra gu˹ma˺mataʃi ʔa˹ra˺ki ˺ku: pṵ˹so: ta:˺ja](あそこから小股でせかせか歩いてくるのは誰か)。

グ˹マ˺マヤ **[gu˹ma˺maja]**【名】子猫。小さな猫。マ˹ヤー˺マ [ma˹ja:˺ma](子猫) ともいう。グ˹マ˺マヤーヤ　˹ミー˺マヤ、ウ˹ブ˺マヤーヤ　ビ˹キマヤ˺　ヤ˹リン˺ギサ [gu˹ma˺maja:ja ˹mi:˺maja ʔu˹bu˺maja:ja bi˹kimaja˺ ja˹riŋ˺gisa](どうやら小さな猫は雌猫、大きな猫は雄猫のようだ)。

グ˹ママリ **[gu˹mamari]**【名】生来小さな体に生まれていること。体格の小さな生まれつき。グ˹ママレー　シーブンドゥ˺　タ˹マ˺シェー　イ˹リ˺　イッ˹ケナ　マイフナー˫ダー [gu˹mamare: ʃi:bundu˺ ta˹ma˺ʃe: ʔi˹ri˺ ʔik˹kena maiɸuna:˫da:](体格の小さな人に生まれついているが、心根がしっかりして < 魂が入って > いて、よく働く利口者だよ)。

ク˹マミ **[ku˹mami]**【名】(植) 緑豆。リョクズ。やえなり (八重生)。「細豆」の義。マ˹ミ˺ナー [ma˹mi˺na:](もやし) の原料として栽培された。ク˹マメー˺　マ˹ミ˺ナー　ス˹クリ˺ユーティ　ン˹メーマナ

ー˥ル　スˈク˥ローッタル [kuˈmameː˥ maˈmi˥naː sɥˈkuri˥juːti ʔmˈmeːmanaː˥ru sɥˈku˥roːttaru](緑豆は萌やしを作るための原料として＜萌やし作り用として＞少しずつ栽培さ＜作ら＞れたものだった)。マˈミ˥ナー [maˈmi˥naː](もやし＜萌やし＞) を作るのに用いる他、ぜんざい、お粥、豆ご飯の食材として利用される。マˈミナー˥ヤ　クˈマミバ˥　ミˈジ˥ナ　フˈクラシティ˥　スˈク˥ル　˥ムヌル　ンˈマー˥タ [maˈminaː˥ja kuˈmamiba˥ miˈʤi˥na ɸɥˈkuraʃɨti˥ sɥˈku˥ru ˥munuru ʔmˈmaː˥ta](萌やしは緑豆を水でふやかして作るのが美味しかった)。

グˈマ˥ミチ [guˈma˥mitʃi] 【名】小道。幅の狭い道。グˈマ˥ミチェー　アˈラキングリ˥サンダ　ウˈブ˥ミチェーラ　パリバˈヨー [guˈma˥mitʃeː ʔaˈrakiŋguri˥ sanda ʔuˈbu˥mitʃeːra paribaˈjoː](小道は歩きにくいから大きな道から行きなさいね)。

クˈマミヌ　カイ [kuˈmaminu kai] 【連】緑豆のお粥。お米に緑豆を混ぜて炊いたお粥。マˈルケーティ˥ナー　クˈマミヌ　カイ˥　タˈキ˥　ッˈふァーソーッ˥タン [maˈrukeːti˥naː kuˈmaminu kai˥ tɑˈki˥ fˈfaːsoːt˥taŋ](たまに＜偶に。稀に＞緑豆のお粥を炊いて食べさせられた＜食べさせてくださった＞)。

グˈマ˥ムニ [guˈma˥muni] 【名】小声で話すことば。内緒ばなし。「小・物言い」の義。ˈミシゥカムニ [ˈmisɨkamuni](みそか＜密＞物言い。ないしょ話) ともいう。ウˈヌ˥　クトー　グˈマ˥ムニシル　アˈザリ˥　ウˈブ˥ムニシェー　アˈザラヌ [ʔuˈnu˥ kɥto: guˈma˥muniʃiru ʔaˈʤari˥ ʔuˈbu˥muniʃeː ʔaˈʤaranu](そのことは内緒＜小声＞でしか話せない。大げさに＜大声で＞は話せない)。

クˈマラ˥スン [kuˈmara˥suŋ] 【他動】困らせる。相手を苦しめる。処置に苦しめる。相手を責めたてる。˥アイブー　˥クトゥ　ˈスー˥カー　プˈス˥　クˈマラ˥スンダ　クˈマラサン˥　ヨーニ　ˈシー [˥ʔaibuː˥ kɥtu ˈsuː˥ka: pɥˈsu˥ kuˈmara˥sunda kuˈmarasaŋ˥ joːni ˈʃiː](あんなことをすると他人を困らせるから、困らせないようにしろ＜せい＞)。

グˈマリクッチ [guˈmarikuttʃi] 【名】こさい (小才)。ちょっとしたずるい知恵。対義語は、ヤˈナリクッチ [jaˈnarikuttʃi](悪知恵。奸知)。ˈウンザー˥　グˈマリクッチヌ˥　アンダー　ウˈリン　カシカーサリ˥ナˈダー [ˈʔunʤaː˥ guˈmarikuttʃinu˥ ʔanda: ʔuˈriŋ kaʃikaːsari˥naˈdaː](あいつは小才のきく人だから、あいつに騙されるなよ)。

クˈマリコー˥イ [kuˈmarikoː˥i] 【名】隠れん坊 (『八重山語彙』)。ムˈカ˥シプソー　カˈクレンボー˥バ　クˈマリコー˥イティル　アˈゾー˥リ　ブˈレーン˥ギサール [muˈka˥ʃipɥso: kɑˈkurembo:˥ba kuˈmarikoː˥ itiru ʔaˈʤoː˥ri buˈreːŋ˥gisaːru](昔の人は隠れん坊を「クマリコーイ」といって居られたようです)。隠れん坊。『八重山語彙』参照。現在は使用されない。

クˈマリック˥ナー [kuˈmarikku˥naː] 【名】かくれんぼう (隠れん坊)。クˈマリコー˥イ [kuˈmarikoː˥i](隠れん坊) ともいう『八重山語彙』。ヤˈラ˥ビンケーヤ　˥ゾーナー　アˈツァ˥マリティ　クˈマリック˥ナー　ˈシー˥　アˈサビ　ベー [jaˈra˥biŋkeːja ˥ʤoːna ʔaˈtsa˥mariti kuˈmarikku˥naː ˈʃiː˥ ʔaˈsabi beː](子供達は外の道に集まって隠れん坊をして遊んでいる)。

クˈマリッ˥クナー [kuˈmarik˥kunaː] 【名】隠れん坊。クˈマリッ˥クナー　ˈシー˥　アˈサブン [kuˈmarik˥ kunaː ˈʃiː˥ ʔaˈsabuŋ](隠れん坊をして遊ぶ)。

クˈマ˥ルン [kuˈma˥ruŋ] 【自動】こもる (籠る)。隠れる。家にいて外出しない。中に充満する。「若草の妻もこもれり我もこもれり『古今和歌集 17』」、「玉かぎる岩垣淵の隠庭＜コモリニハ＞『万葉集　2700』」の義。バˈカ˥ヤティ　ユˈコー˥ナ　クˈマ˥リ　ˈベー [baˈka˥jati juˈkoː˥na kuˈma˥ri ˈbeː](恥ずかしいので裏座に籠っている)。ˈヤー˥ナ　カーˈニ˥　クˈマラン˥ドーシ　ミˈチェー˥ン　ンˈジ˥リバ [ˈjaː˥na kaːˈni˥ kuˈmaran˥doːʃi miˈtʃeː˥n ʔnˈʤi˥riba](家にだけ籠らないで道にも出なさい)。クˈマ˥ルンティ　˥ウムーカ　クˈマ˥リバ [kuˈma˥runti ˥ʔumuːka kuˈma˥riba](籠る＜隠れる＞と思うなら籠れよ)。クˈマ˥ル　プˈソー˥　ブˈラーヌ [kuˈma˥ru pɥˈsoː˥ buˈraːnu](籠る＜隠れる＞人はいない)。ˈマー˥ビン　クˈマ˥レー　˥ミサムヌ [ˈmaː˥biŋ kuˈma˥reː ˥misamunu](もっと籠れ＜隠れれ＞ばよいのに)。ˈヤーン˥　ナカナー　キˈボーシヌ˥　クˈマ˥リティ　ˈキー˥ボー˥ヌ　ナˈラ˥ヌ [ˈjaːn˥ nakanaː kiˈboːʃinu˥ kuˈma˥riti ˈkiːboː˥nu naˈra˥nu](家の中に煙が籠って＜充満して＞煙たくてたまらない)。

クˈマ˥ルン [kuˈma˥ruŋ] 【自動】困る。処置に苦しむ。標準語からの転訛。若年層が用いる。普通はˈザー˥パイ　ˈシーナー˥ヌ [ˈʤaː˥pai ˈʃiːnaː˥nu](困ったことになった。始末に負えなくなった。手に負えなくなった)、ˈザーパイ˥ユン [ˈʤaːpai˥juŋ](困ったことだ) という。シˈナムヌヌ　ダイ˥　パˈラーン˥カー　マˈチヤーヌ˥　クˈマ˥ルンダ　ˈパー˥ク　˥パライバ [ʃiˈnamununu dai˥ paˈraːŋ˥kaː maˈtʃijaːnu˥ kuˈma˥runda ˈpaː˥ku ˥paraiba](品物の代金を払わないと

お店が困るから、早く払えよ)。パˈラーンˀタンティン　クˈマラˀヌ。クˈマˀル　ˀクトー　ˈナーˀヌ [paˈra:nˀtantiŋ kuˈmaraˀnu。kuˈmaˀru ˀkṵto: ˈna:ˀnu](支払わなくても困らない。困ることはない)。

ˀクマンタ [ˀkumanta] 【代】こちら。こちら側。このあたり。ˈワーˀ　クマンター　ˀクーバ [ˈwa:ˀ kumanta: ˀku:ba](君はこちらへ来なさいよ)。ˀカマンター [ˀkamanta:](あちら。あちら側) の対義語。ˀクマンタナ　シˈキˀリ [ˀkumantana ʃi̥ˈkiˀri](こちら側に置け)。

クˈマンˀトン [kuˈmanˀtoŋ] 【代】ここの所。この場所。クˈマンˀトンナー　ˀシケータンドゥ　ˈタールˀ　ムティˈパッˀタユー　ˈナーンˀナリ　ˈナーˀヌ [kuˈmanˀtonna: ʃi̥ke:tandu ˈta:ruˀ mutiˈpatˀtaju: ˈna:nˀnari ˈna:ˀnu](ここの所に置いたのだが、誰が持って行ったのか、無くなってしまった)。クˈマンˀトンマー　ˈペーˀレー　ナˈラˀヌ [kuˈmanˀtomma: ˈpe:ˀre: naˈraˀnu](この場所は入ってはならない)。

ˀクミ [ˀkumi] 【名】1組。組合。カˈツシンマー　インタ　アンタヌˀ　クˈミˀバ　スˈクˀリティ　ˈパイヨーッˀタ [kḁˈtsuʃimma: ʔinta ʔantanuˀ kuˈmiˀba sṵˈkuˀriti ˈpaijo:tˀta](カツオ漁船は西村、東村の組合を作って造船された < 接がれた >)。標準語からの借用語。普通は、ˀグー [ˀgu:](組。「偶」の義) という。ˈワーˀ　ヌーグミヤー [ˈwa:ˀ nu:gumija:](君は　何組か)。ˈバンˀター　ˀクミ　ˈペーラヌー [ˈbanˀta: ˀkumi ˈpe:ranu:](僕達 < 聞き手を含まない > の組に入らないか)。ˈベーˀ(ˈベーター)　ユˈヌˀクミ　ナラˈディー [ˈbe:ˀ(ˈbe:ta:) juˈnuˀkumi naraˈdi:](我々 < 聞き手を含む僕達 > は同じ組になろうよ)。2対。足(ソク)。揃い。複数のものを組み合わせたものを表す単位 (助数詞)。ˀソンガチアシツァ　イˈチッˀクミ　ˈカイˀクーバ [ˀsoŋgatʃiʔaʃi̥tsa ʔiˈtʃikˀkumi ˈkaiˀku:ba](正月用下駄を五組 < 五足 > 買って来なさいよ)。

ˀグミ [ˀgumi] 【名】ごみ。塵芥。標準語の「ごみ (塵・芥)」の転訛したもの。普通は、フˈクˀジ [ɸṵˈkuˀʤi](塵)、フˈクイ [ɸṵˈkui](ほこり < 埃 >) という。ˀグミ　プˈサウン [ˀgumi pṵˈsauŋ](ごみを拾う)。

クˈミˀアイ [kuˈmiˀai] 【名】組合。カˈツシンヌˀ　クˈミˀアイ　スˈクˀリティ　カˈツシン　ソーッˀタ [kḁˈtsuʃinnuˀ kuˈmiˀai sṵˈkuˀriti kḁˈtsuʃin so:tˀta](カツオ船の組合を作ってカツオ漁業を操業された)。

ˀクミカン [ˀkumikaŋ] 【名】こめかみ。「蟀谷、古米加美 (こめかみ)」『和名抄』の転訛したもの。ガˈマジˀヌ　ˀヤミティ　ˀクミカンヌ　ˀトンラ　ˈドントンˀシ　ˈメークˀヌ　ˀウトゥン [gaˈmaʤiˀnu ˀjamiti ˀkumikannu ˀtonra ˈdontoŋˀʃi ˈme:kuˀnu ˀʔutuŋ](頭痛がして < かもじが病んで > こめかみの所からトントンと脈がうつ)。

ˀクミカンコーヤク [ˀkumikaŋko:jaku] 【名】頭痛薬の塗り薬。「こめかみ膏薬」の義。こめかみの辺りに塗布した。樟脳の芳香で頭痛の鎮痛効果があった。ガˈマジˀヌ　ˀヤムカー　ˀクミカンコーヤクバ　ˈヌーリˀ　シキバ [gaˈmaʤiˀnu ˀjamuka: ˀkumikaŋko:jakuba ˈnu:riˀ ʃikiba](頭痛がしたらクミカン膏薬を塗っておけよ)。

クˈミˀジマ [kuˈmiˀʤima] 【固】島の名。久米島。沖縄本島の西方約 100 キロメートルにある離島。古くは、御冠船や進貢船の中継基地であったという。

クˈミタティˀルン [kuˈmitatiˀruŋ] 【他動】組み立てる。ˀパラー　クˈミタティˀルンティ　ˈスンドゥタンガˀシェー　クˈミタティラˀヌ [ˀpara: kuˈmitatiˀrunti ˈsundu taŋgaˀʃe: kuˈmitatirraˀnu](柱を組み立てようとするが、一人では組み立てられない)。ˀキューズーナ　クˈミタティˀル　ˀクトゥ [ˀkju:ʤu:na kuˈmitatiˀru ˀkṵtu](今日中に組み立てること)。クˈミタティˀレー　ˀミサムヌ [kuˈmitatiˀre: ˀmisamunu](組み立てれば良いのに)。ˈタンガˀシクˈミタティˀリ [ˈtaŋgaˀʃi kuˈmitatiˀri](一人で組み立てろ)。

クˈミˀタトゥン [kuˈmiˀtḁtuŋ] 【他動】組み立てる。ˀパラー　クˈミˀタトゥンティ　ウˈムータˀヌ　ˈキューˀヤ　クˈミタタˀヌ [ˀpara: kuˈmiˀtatunti ʔuˈmu:taˀnu ˈkju:ˀja kuˈmitataˀnu](柱を組み立てようと思ったが、今日は組み立てない)。クˈミˀタティ　ˀミサカー　クˈミˀタトゥ　ˀクトー　ˀナルン [kuˈmiˀtḁti ˀmisaka: kuˈmiˀtḁtu ˀkṵto: ˀnaruŋ](組み立てて良ければ組み立てることは出来る)。クˈミˀタテー　ˀミサムヌ [kuˈmiˀtḁte: ˀmisamunu](組み立てれば良いのに)。ˀドゥーシ　クˈミˀタティバ [ˀdu:ʃi kuˈmiˀtḁtiba](自分で < 自力で > 組み立てよ)。

クˈミˀヌ　ˈヤイダキ [kuˈmiˀnu ˈjaidaki] 【連】古見の連山。歌謡語。「古見の八重岳」の義。/アレニミユルワ　ウムトゥダキ　ヤラブ　タキドゥンクバマダキ　クミヌ　ヤイダキ　パトゥバナリ/(あれ < 彼方 > に見えるは於茂登岳、屋良部、竹富、小浜岳、古見の八重岳、鳩離島)「鳩間口説」。

クˈミˀルン [kuˈmiˀruŋ] 【他動】1こめる (籠める)。閉

じ込める。隠す。マˈブ˥ル　クˈミ˥ルンティ　シゥˈコーリベー˥バ　ˈニン˥ガイ　ッˈふォー˥リ [maˈbu˥ru kuˈmi˥runti sɨ̞ˈkoːribeː˥ba ˈniŋ˥gai fˈfoː˥ri](魂籠めをしようと準備しているので祈願をして下さい)。クˈミラ˥ヌ [kuˈmira˥nu](籠めない)。マˈブ˥ル　クˈミ˥プサン [maˈbu˥ru kuˈmi˥pu̥saŋ](魂籠めしたい < マブイを籠めたい >)。マˈブ˥ル　クˈミ˥ル　プˈソー　ター˥ヤ [maˈbu˥ru kuˈmi˥ru pu̥ˈsoː taː˥ja](魂籠めする人は誰か)。マˈブ˥ル　クˈミ˥レー　˥ミサムヌ [maˈbu˥ru kuˈmi˥reː ˥misamunu](魂籠めすればよいのに)。ヤーˈディン˥　マˈブ˥ル　クˈミ˥リ [jaːˈdim˥ maˈbu˥ru kuˈmi˥ri](必ず魂籠めをしなさい < 籠めれ >)。ウˈズ˥ヌ　˥バタ　クˈミ˥ルン [ʔuˈʤu˥nu ˥bata kuˈmi˥ruŋ](布団に綿を込める < 入れる >)。2弾丸をこめる (つめる)。ˈティップヌ˥　タマ　クˈミ˥ルン [ˈtipunu˥ tama kuˈmi˥ruŋ](鉄砲の弾をこめる)。

˥クム [˥kumu] 【名】雲。「み空由久　々母々使と〜。万、4410」の義。「Cumo. クモ (雲).Cumoga faruru.(雲が晴るる)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ッˈふ˥クム [fˈfu˥kumu](真っ黒の雨雲)。ヌˈリクム [nuˈrikumu](乗り雲。入道雲)。ッˈス˥クム [sˈsu˥kumu](白雲)。イˈラキ˥グム [ʔiˈraki˥gumu](鱗雲)。ニˈシクベー˥ラ　ッˈふクム˥ヌ　カˈバ˥シ　˥クン [niˈʃikubeː˥ra fˈfukumu˥nu kaˈba˥ʃi ˥kuŋ](北の空 < 北壁 > から真っ黒な雨雲が覆い被ってくる)。

クˈム [kuˈmu] 【名】こも (菰)。藁やススキで編んだ木炭を入れる俵。「薦、コモ、ムシロ」『類聚名義抄』の転訛したもの。ˈユシ˥キシ　クˈム˥　フムン [ˈjuʃi̥˥kiʃi kuˈmu˥ ɸumuŋ](ススキで菰を編む)。

˥グム [˥gumu] 【名】ゴム (gom< オランダ語 >)。標準語からの借用語。˥グムシ　ˈミーカンガン˥ヌ　ˈブー˥　スˈク˥リバ [˥gumuʃi ˈmiːkaŋgan˥nu ˈbuː˥ sɨ̞ˈku˥riba](ゴムで水中眼鏡の紐を作りなさいよ)。

˥グムカン [˥gumukaŋ] 【名】遊具の一種。ゴム鉄砲。Y 字形の木の枝にゴム紐をつけて小石を挟み、強く引き飛ばして小鳥を撃つのに用いる遊具。˥グムカンシ　˥パトゥザ　アˈトゥン [˥gumukaŋʃi ˥pḁtuʤa ʔaˈtuŋ](ゴム鉄砲で山鳩を撃つ < 当てる >)。

クˈム˥シ [kuˈmu˥ʃi] 【名】(動) ゴキブリ。普通は、ヤˈマトゥクム˥シ [jaˈmatukumu˥ʃi](ゴキブリ) という。クˈムシェー˥　ヤˈニ˥ヤンダ　ッˈふァイムヌ˥ナー　シˈカッタサンヨー˥シ　ˈウイパラ˥シ [kuˈmuʃeː˥ jaˈni˥janda fˈfaimunu˥na: ʃi̥˥kattasaŋjoː˥ʃi ˈʔuipara ˥ʃi](ゴキブリは汚いから食べ物に触れさせないように追い払え)。

クˈムチ [kuˈmuʧi] 【名】供物。ˈクームチ [ˈkuːmuʧi](供物) の項参照。

クˈム˥ヌ　˥ニー [kuˈmu˥nu ˥niː] 【連】雲の根。雲が湧き出てくる方向の根元にある雲。クˈム˥ヌ　ˈニー˥ヌ　キˈシラン˥ダー　˥アメー　ヤˈマヌ [kuˈmu˥nu ˈniː˥nu ki̥ˈʃiran˥daː ˥ʔameː jaˈmanu](雲の根が切れないから雨は止まない)。

˥グムマール [˥gumumaːru] 【名】ゴムまり (鞠)。ミˈドーン˥ッふァー　˥グムマールバ　˥ウティティ　アˈサブタ [miˈdoːŋ˥ffaː ˥gumumaːruba ˥ʔutiti ʔaˈsabuta](女の子はゴム鞠をついて < 打って > 遊んだ)。

クˈム˥リ [kuˈmu˥ri] 【名】曇り。曇天。標準語からの転訛。アˈツァ˥ヌ　ˈオーシケー˥　クˈム˥リ [ʔaˈtsa˥nu ˈʔoːʃikeː˥ kuˈmu˥ri](明日の天気は曇り < 曇天 > だ)。

クˈム˥ル [kuˈmu˥ru] 【名】ふち (淵、潭)。川や環礁、干瀬などの深いところ。ウˈブミジ˥ヌ　˥カンナー　クˈムル˥ヌ　˥アン [ʔuˈbumiʤi˥nu ˥kannaː kuˈmuru˥nu ˥ʔaŋ](大見謝川の川上に淵がある)。ˈインタヌ˥　フキクムルナール　˥アン　ウˈラ˥ソーッタ [ˈʔintanu˥ ɸu̥kikumurunaːru ˥ʔaŋ ʔuˈra˥soːtta](島の西側のフキクムル < 環礁の中に出来た深い所 > に網を下ろされた < 網を仕掛けられた >)。

クˈム˥ル [kuˈmu˥ru] 【名】沼。池。水溜り。潮溜まり。礁内湖の深い所。ウˈブミジ˥ヌ　˥カンナー　マˈギ˥　クˈムル˥ヌ　アンˈダー [ʔuˈbumiʤi˥nu ˥kannaː maˈgi˥ kuˈmuru˥nu ʔanˈdaː](大見謝川の川上に大きな池 < 深い水溜り > があるよ)。ピˈナカンクムル [piˈnakaŋkumuru](島の東南東のˈナーバレー [ˈnaːbareː] の干瀬から南東のタˈカ˥ビ [taˈka˥bi] へ行く途中の干瀬の頂きにある礁内池)、˥フキクムル [˥ɸu̥kikumuru](島の西北部にある礁内湖の深い所) などのクˈム˥ル [kuˈmu˥ru] がある。

クˈム˥ルン [kuˈmu˥ruŋ] 【自動】曇る。標準語からの転訛。普通は、ッˈふァムン [fˈfamuŋ](暗む) という。カˈジヌ　マール˥カー　ˈティンマー˥　クˈムルン˥ドゥ　ˈキュー˥ヤ　クˈムラン˥バン [kaˈʤinu maːru ˥kaː ˈtimmaː˥ kuˈmurun˥du(fˈfamundu) ˈkjuː˥ja kuˈmuram˥baŋ(fˈfamambaŋ)](風が北風に回ると空は曇るが、今日は曇らないよ)。ˈティンマー˥　ニˈシクベーラ˥　クˈム˥リ　˥キー　ˈウーアミヌ　フイン˥ギサバン [ˈtimmaː˥ niˈʃikubeːra˥ kuˈmu˥ri(fˈfamari) ˥kiː ˈʔuːaminu ɸuiŋ˥gisabaŋ](空は北壁から曇ってきて大雨が降りそうだ)。クˈム˥ル　˥ピンマー　ˈキ

ンˀマー　ˈカーラカヌ [kuˈmuˀru ˀpimmaː ˈkimˀmaː ˈkaːrakanu](曇る日は、着物は乾かない)。クˈムˀレー　ˀミサムヌ [kuˈmuˀreː ˀmisamunu](曇れば良いのに)。

クˈムローˀマ [kuˈmuroːˀma] 【名】海中の小さな礁池。クˈムローˀマナ　イˈズヌˀ　クˈミラˀリ　ˈベー [kuˈmuroːˀmana ʔiˈʤunuˀ kuˈmiraˀri ˈbeː](海中の小さな礁池に魚が閉じ込められている)。

ˀクムン [ˀkumuŋ] 【他動】こめる (籠める)。閉じ込める。隠す。「こむ < 下二段活用 >」の四段活用化したもの。マˈブˀル　ˀクムン [maˈbuˀru ˀkumuŋ](魂籠めをする < 魂を籠む >)。クˈマˀヌ [kuˈmaˀnu](籠めない)。マˈブˀル　クˈミˀプサン [maˈbuˀru kuˈmiˀ pusaŋ](魂を籠めたい)。マˈブˀル　ˀクム　プˈス [maˈbuˀru ˀkumu pu̥ˈsu](魂を籠める人)。マˈブˀル　ˀクメー　ˀミサムヌ [maˈbuˀru ˀkumeː ˀmisamunu](魂を籠めればよいのに)。ˈビョーˀザーンダ　マˈブˀル　ˀクミバ [ˈbjoːˀʤaːnda maˈbuˀru ˀkumiba](病弱だから < 病気がちだから > 魂籠めをしなさいよ)。

ˀクムン [ˀkumuŋ] 【自動】組む。手足を絡み合わせる。仲間になる。ˀウディ　ˀクムン [ˀʔudi ˀkumuŋ](腕を組む)。ˀウデー　クˈマˀヌ [ˀʔudeː kuˈmaˀnu](腕は組まない)。ˀクミ　ˀミサカー　ˀクム　ˀクトー　ˀナルン [ˀkumi ˀmisakaː ˀkumu ˀku̥toː ˀnaruŋ](組んで良ければ組むことは出来る)。ˀクメー　ˀミサムヌ [ˀkumeː ˀmisamunu](組めば良いのに)。ˀクミバ [ˀkumiba](組めよ)。サˈキンダヌˀ　マˈケー　ユシˀキダータバルトゥ　サˈキンダタバルヌˀ　プˈスンケーˀヌ　ˀグー　ˀクミティ　ˀインダヌ　マˈケーラˀ　バˈカルˀタツォー [sḁˈkindanuˀ maˈkeː juʃi̥ˀ kidatabarutu sḁˈkindatabarunuˀ pu̥ˈsuŋkeːˀnu ˀguː ˀkumiti ˀʔindanu maˈkeːraˀ baˈkaruˀtatsoː](崎田の牧場はヨシキラ田原と崎田田原の人たちが組を組んで < 組合を作って > 伊武田の牧場から別れたそうだ)。

クˈメー [kuˈmeː] 【固】小浜家。小浜家一族。クˈメーヌ　ノーˀザザーテー [kuˈmeːnu noːˀʤaʤaːteː](小浜真那氏宅)。老年層は、その屋敷名をクˈモーヤー [kuˈmoːjaː](小浜家) ともいう。東村のˈシーˀシ [ˈʃiːˀʃi](獅子頭) を保管している家。ˈアンヌムラヌ　シーˀシェー　クˈメーナーˀル　カˈキンˀグ　ˈシー　オーˀル [ˈʔannumuranu ʃiːˀʃeː kuˈmeːnaːˀru kḁˈkiŋˀgu ˈʃiː ʔoːˀru](東村の獅子頭は小浜家に < ぞ > 保管 < 格護 > しておられる)。

クˈメーキルン [kuˈmeːkiruŋ] 【他動】 1細心にする。入念にする。丁寧にする。クˈメークンとも言う。パˈタキシグˀトゥン　クˈメーキランˀカー　スˈクリˀムノー　ˈミーラントˈダー [pḁˈtakiʃiguˀtum kuˈmeːkiraŋˀkaː su̥ˈkuriˀmunoː ˈmiːranˈdaː](畑仕事の入念にしないと作物は稔らないよ)。クˈメーキˀミルン [kuˈmeːkiˀ miruŋ](入念にしてみる)。クˈメーキルンティˀ　ウムーカー　クˈメーキリˀバ [kuˈmeːkirountiˀ ʔumuːkaː kuˈmeːkiriˀba](入念にしようと思うなら入念にしなさいよ)。クˈメーキルˀ　クトゥ [kuˈmeːkiruˀ ku̥tu](入念にすること)。ˈマーˀビン　クˈメーキレーˀ　ミサムヌ [ˈmaːˀbiŋ kuˈmeːkireːˀ misamunu](もっと入念にすればよいのに)。入念に仕事をする。細かく仕事をする。イッˈケナˀ　クˈメーキルン [ʔikˈkenaˀ kuˈmeːkiruŋ](非常に入念に仕事をする)。ˈピッˀチン　クˈメーキラヌ [ˈpitˀʧiŋ kuˈmeːkiranu](ちっとも仕事に念を入れない)。シˈグトーˀ　クˈメーキリバルˀ　ナル [ʃiˈgutoːˀ kuˈmeːkiribaruˀ naru](仕事は入念にしなければならない)。ˈマーˀビン　クˈメーキリ [ˈmaːˀbiŋ kuˈmeːkiri](もっと仕事を入念にしろ)。2節約する。ˈスータイˀヤー　ˈマーˀビン　クˈメーキラバルˀ　ナル [ˈsuːtaiˀjaː ˈmaːˀbiŋ kuˈmeːkirabaruˀ naru](家庭経済 < 所帯 > はもっと節約しないと維持できない < 節約したらぞ成る >)。

クˈメークン [kuˈmeːkuŋ] 【他動】念を入れる。入念に仕事をする。精密にする。委細にする。細かくする。丁寧にする。クˈヌˀ　プˈソーˀ　イッˈケナˀ　シˈグトゥˀ　クˈメークン [kuˈnuˀ pu̥ˈsoːˀ ʔikˈkenaˀ ʃiˈgutuˀ kuˈmeːkuŋ](この人は非常に入念に仕事をする)。シˈグトーˀ　クˈメーキリ [ʃiˈgutoːˀ kuˈmeːkiri](仕事は入念に、細かくしなさい)。クˈメーカンˀタンティン　ˀミサン [kuˈmeːkanˀtantim ˀmisaŋ](入念にしなくてもよい)。ˈマーˀビン　クˈメーキˀ　ッˈふィーリ [ˈmaːˀbiŋ kuˈmeːkiˀ fˈfiːri](もっと入念に、精密にしてくれ)。ウˈリヌˀ　スコー　クˈメークˀ　プˈソーˀ　ブˈラーヌ [ʔuˈrinuˀ su̥ko: kuˈmeːkuˀ pu̥ˈsoːˀ buˈraːnu](彼ぐらい念入りにする人はいない)。ˈマーˀビン　クˈメーケーˀ　ミサムヌ [ˈmaːˀbiŋ kuˈmeːkeːˀ misamunu](もっと入念に、細かくすればよいのに)。

クˈメーヌˀ　クˈムˀル [kuˈmeːnuˀ kuˈmuˀru] 【連】(海底地名)。小浜家の籠もり池 (礁内湖)。フˈカバˀカパマ [ɸu̥ˈkabaˀkapama](外若浜) とフˈナˀバルパマ [ɸuˈnaˀbarupama](舟原浜) の中間の海岸にあるクˈムˀル [kuˈmuˀru](礁内湖)。小浜家の人が網を入れ

て漁獲したところ。

クˈメーヌ　ノーˀザザーテー [kuˈmeːnu noːˀ ʤaʤaːteː] 【連】屋号。クˈモーヤー [kuˈmoːjaː](小浜真那氏宅。小浜家)、クˈメー [kuˈmeː](小浜家) ともいう。東村のˈシーˀシ [ˈʃiːˀʃi](獅子頭) を保管している家。ˈソーˀラン [ˈsoːˀraŋ](お盆) の中日の夜にˈシーシマチˀリ [ˈʃiːʃimatʃiˀri](獅子頭祭り。獅子頭の祈願) をして東村の家々を巡回して祖霊を慰め、悪霊祓えをした。

クˈメーヌ　マンˀダラッパーテー [kuˈmeːnu manˀ darappaːteː] 【連】屋号。小浜マンダル氏宅。名前のˈマンˀダル [ˈmanˀdaru](真・樽) に、ˀアッパー [ˀappaː](お祖母さん) が下接し、接尾語ˀテー [ˀteː](〜の家) が付いた合成語。

クˈモーマ [kuˈmoːma] 【固】(地) 小浜島。西表島東部の古見村から古くに分村したといわれ、クンˈマーˀマ [kumˈmaːˀma](小さな古見) と称されていたのが転訛したものという。伝統的秘祭「アカマター・クロマターの祭り」も古見村から小浜島、新城島、宮良村へと伝播したといわれている。小浜島は地下水の豊富な島で海岸の砂浜を掘ると真水が湧出するほどで、昔から水田耕作も盛んである。古典民謡「小浜節」は島の見事な景観や稲作の豊穣を歌って名曲の誉れが高い。また瓦葺建築用のユˈチルダキ [juˈʧirudaki](えつり < 桟 > 竹) の産地として有名である。パˈトゥマˀヌ　カˈツシンマーˀ　クˈモーマバーˀキ　ザˈコーˀ　トゥリン　ˈオーッˀタンツォー [pḁˈtumaˀnu kḁˈtsuʃimmaːˀ kuˈmoːmabaːˀki ʤaˈkoːˀ turiŋ ˈʔoːtˀtantsoː](鳩間島のカツオ漁船は餌を獲り < 雑魚を獲りに > に小浜島まで行かれたそうだ)。

クˈモーマダキ [kuˈmoːmadaki] 【名】(植) カンザンチク。小浜島産の竹。細い竹は建築用材のエツリ (桟) に用い、太い竹はタˈキフンツァ [taˈkiɸuntsa](竹床) に使用した。ˈダイˀマーダキ [ˈdaiˀmaːdaki](大名竹、大明竹) ともいう。タˈキフンツァー　ゴーˀラー　クˈモーマダキバルˀ　シゥˈカイオーッˀタ [tḁˈkiɸuntsaː goːˀraː kuˈmoːmadakibaruˀ si̥ˈkaioːtˀta](竹床には多くは小浜島産の大名竹を使われた)。

ˀクヤー [ˀkujaː] 【固】(人) 女子の名前。クˈヤーˀマ [kuˈjaːˀma](クヤーの愛称) ともいう。イˈラˀブレーナール　クˈヤーˀマンマー　ˈオーッˀタ [ʔiˈraˀbureːnaːru kuˈjaːˀmammaː ˈʔoːtˀta](西原家に < ぞ > クヤマー姉さんはおられた)。

クˈヤˀミ [kuˈjaˀmi] 【名】お悔やみ。弔問。クˈヤˀミˈシンˀ　パˈランˀカー　ナˈラˀヌ [kuˈjaˀmi ˈʃimˀ paˈraŋˀkaː naˈraˀnu](お悔やみしに行かないとならない)。

ˀクヤンマー [ˀkujammaː] 【固】(人) 女子の名前。アˈザテナーˀル　ˀクヤンマー　ˈオーッˀタ [ʔaˈʤatenaːˀru ˀkujammaː ˈʔoːtˀta](東里家に < ぞ > クヤンマー < クヤ姉さん > はおられた)。

グˈユー [guˈjuː] 【名】御用。ˈキューˀヤ　ˈヌーˀヌ　グˈユーˀヌ　アˈローˀルネーˈラ [ˈkjuːˀja ˈnuːˀnu guˈjuːˀnu ʔaˈroːˀruneːˈra](今日は何の御用がおありでしょうか)。

クˈユˀサ [kuˈjuˀsa] 【名】幼少。歌謡語。イˈミˀサカラ　クˈユˀサカラ [ʔiˈmiˀsakara kuˈjuˀsakara](子供の頃から、幼少のころから) のように用いられる。/トゥバラマトゥ　バントゥヤ　カヌシャマトゥ　クリトゥヤ　イミシャカラ　クユサカラ　ムチリィトゥラ/(チィンダラ節)『八重山民謡誌』。

クˈヨー [kuˈjoː] 【名】苦労。「苦労」の転訛したもの。バˈカーンˀケンラ　クˈヨーヌ < クˈローヌ > ゴーˀカジェー　ˈシール　モーキンザˀシ　ウˈヤˀキヤー　ナレーティˈダー [baˈkaːŋˀkenra kuˈjoːnu < kuˈroːnu > goːˀkaʤeː ˈʃiːru moːkiʔnʤaˀʃi ʔuˈjaˀki-jaː ˀnareːtiˈdaː](若い時から苦労かぎりを経験して儲けだして金持ちになったそうだよ)。

クˈヨー [kuˈjoː] 【名】供養。ˈソッˀコー [ˈsokˀkoː](焼香) などをして死者の霊に供物を供え、供養を尽くすこと。ウˈヤプスˀヌ　クˈヨーバ　シー　オースンティ　ベー [ʔuˈjapu̥suˀnu kuˈjoːba ʃiː ʔoːsunti beː](先祖の供養をして差し上げようとしている)。

クˈヨーˀマナーˈラ [kuˈjoːˀmanaːˈra] 【感】こんにちは。「拝顔致します。お目にかかります」の義。校長や村長、学校の先生、郵便局長、巡査など島外から来られる地位の高い人、知名の士に対して使う挨拶ことば。クˈヨーˀマナーˈラ　コーˀチョーシンシー [kuˈjoːˀmanaːˈra koːˀʧoːʃiŋʃiː](こんにちは < お目にかかります > 校長先生)。島内の長老や目上の人に対しては、ミサローッˈタン [misaroːtˈtaŋ](お元気でいらっしゃいましたか) という。

クˈヨーˀムン [kuˈjoːˀmuŋ] 【他動】拝顔する。お目にかかる。老年層の言葉。ˈコーˀチョーシンシー　クˈヨーˀムンティ　ˈクータンˀドゥ　クˈヨーマラˀヌ [ˈkoːˀʧoːʃiŋʃiː kuˈjoːˀmunti ˈkuːtanˀdu kuˈjoːmaraˀnu](校長先生にお目にかかりに参りましたが、お目にかかれません)。ˈシンˀシー　クˈヨーˀミン　ˈパッˀタ [ˈʃiŋˀʃiː kuˈjoːˀmim ˈpatˀta](先生にお目にかかり < ご挨拶 > に行った)。クˈヨーミˀプサカー　クˈ

ヨーˉメー　ˉミサムヌ [kuˈjoːmiˉ pu̥saka: kuˈjoːˉmeːˉmisamunu](お目にかかりたければ、お目にかかればよいのに)。クˈヨーˉム　プˈソー　パーˉク　クˈヨーˉミバ [kuˈjoːˉmu pu̥ˈso: paːˉku kuˈjoːˉmiba](お目にかかる人は早くお目にかかりなさい)。

ˉクラ [ˉkura] 【名】米や穀物を入れる所。「新墾田の鹿猪田の稲を　倉にあげて～。万、3848」からの借用語か。裏座に約四尺四方、高さ約五尺の填(ハ)め込み式の板箱を作って籾米を保管したところ。モˈミグラ [moˈmiguru](米倉) ともいう。ˈマイヤーˉティダナー　ˉプシティ　ユˈコーヌˉ　クラナー　タˈブイˉ　シˈキˉリ [ˈmaijaːˉ tidana: pu̥ʃiti juˈkoːnuˉ kurana: taˈbuiˉ ʃi̥ˈkiˉri](米は太陽に干して乾燥させ、裏座の倉に入れて保管しておきさい)。

クˈライ [kuˈrai] 【名】位。標準語からの借用語。日常的にはほとんど使用しない。ˈガッˉコーナーテー　ˈコーˉチョーシンシール　クˈライヤーˉ　タˈカーˉロールミー [ˈgakˉkoːnaːteː ˈkoːˉʧoːʃiŋʃiːru kuˈraijaːˉ taˈkaːˉroːrumiː](学校では校長先生が位は高くいらっしゃるでしょうねえ)。

ˉグライ [ˉgurai] 【副助】くらい (位)。ˉブカラ [ˉbukara](ぐらい。程度)、アˈタˉル [ʔaˈtaˉru](ぐらい。程度) と同じ意味。体言や活用語の連体形、格助詞などに付いて大体の程度、分量、範囲を表す。ˉウビグライヤー　ナˈリˉスパジ [ˉʔubiguraija: naˈriˉsu ˉpaʤi](これぐらいは出来るはずだ)。パˈナˉス　グˈライヤーˉ　ナルン [paˈnaˉsu guˈraijaːˉ naruŋ](話す程度は出来る)。ヤˈラビˉヌ　グˈライヤーˉ　ムˈタˉリン [jaˈrabiˉnu guˈraijaːˉ muˈtaˉriŋ](子供の程度は持てる＜持たれる＞)。

クˈライˉルン [kuˈraiˉruŋ] 【他動】堪える。我慢する。辛抱する。許す。勘弁する。クˈナイˉルン [kuˈnaiˉruŋ](堪える) の項参照。ニˈジˉルンとも言う。サˈキヌミˉヌ　ˈウイヌˉ　クトゥ　ヤˈリバ　ニッˉターン　ˈサンドーˉシ　クˈライˉリˈダー [sḁˈkinumiˉnu ˈʔuinuˉ ku̥tu jaˈriba nitˉtaːn ˈsandoːˉʃi kuˈraiˉriˈdaː](酒を飲んでのことなので、妬ましく思わないで堪えてくれ＜堪えろ＞よなあ)。クˈライˉルンティ　ˈベーˉヌンドゥ　ˈクンˉドゥ　ˈカーネーˉ　クˈライラˉヌ [kuˈraiˉrunti ˈbeːˉnundu ˈkunˉdu ˈkaːneːˉ kuˈrairaraˉnu](堪えようと思うのだが、今度だけは堪えられない)。クˈライˉル　ˉクトー　クˈライ　ヤッˉサン [kuˈraiˉru ˉku̥toː kuˈrai jasˉsaŋ](堪えることは堪えやすい)。ˉマー　ンˈベーマˉ　クˈライˉヤー　ˉミサムヌ [ˉmaː ʔmˈbeːmaˉ kuˈraiˉjaː ˉmisamunu](もう少し堪えればよいのに)。

クˈラガーˉウン [kuˈragaːˉʔuŋ] 【名】(植) サツマイモの品種名。中身は白く、外皮は赤い。甘味があり美味である。読谷村クラガー (暗川) 地区から広まったのでその名があるという。ハˈナクラˉガー [haˈnakuraˉgaː](甘藷の名) ともいう。クˈラガーウンˉマー　ˉユー　ˈミーリーン　シーˉ　イッˈケナˉ　ンˈマーˉン　ˈアッˉタン [kuˈragaː ʔumˉmaː ˉjuː ˈmiːriːŋ ʃiːˉ ʔikˈkenaˉ ʔmˈmaːˉŋ ˈʔatˉtaŋ](クラガー芋はよく稔りもし、非常に美味しくもあった)。

ˉグラグラ　タˈギルン [ˉguragura taˈgiruŋ] 【連】ぐつぐつ沸騰する。ヤˈコンˉヌ　ˈユーˉヤ　ˉグラグラ　タˈギラシティ　サイˉバ [jaˈkonˉnu ˈjuːˉja ˉguragura taˈgiraʃi̥ti saiˉba](薬缶の湯はぐつぐつ沸騰させて＜から＞注ぎなさい)。

クˈラシ [kuˈraʃi] 【名】生活。生計。「暮らし」の義。ˈキューˉヤ　ˈキューˉヌ　クˈラシˉ　アツァー　アˈツァˉヌ　クˈラシヌˉ　アルユンダ　ˈナンク　クˈル　ˈナーメーメーヌˉ　クˈラシェーˉ　ナˈリˉス [ˈkjuːˉja ˉkjuːˉnu kuˈraʃiˉ ʔatsa: ʔaˈtsaˉnu kuˈraʃinuˉ ʔarujunda ˈnaŋkukuˉru ˈnaːmeːmeːnuˉ kuˈraʃeːˉ naˈriˉsu](今日は今日の暮らし、明日は明日の風が吹くから＜明日は明日の風が吹くから＞、おのずと各自それぞれの＜銘銘の＞暮らしが出来るよ)。

クˈラシガタ [kuˈraʃigata] 【名】暮らし。生活の仕方。生計。くちすぎ。すぎわい (生業)。ˉアイニ　ムˈヌˉヌ　ˈダイヌˉ　タˈカーˉカ　ˈヌーˉシル　クˈラシガタンˉ　ムティパルユー　ッˈサントツォー [ˉʔainiˉ muˈnuˉnu ˈdainuˉ taˈkaːˉkaː ˈnuːˉʃiru kuˈraʃigatamˉ mutiparuju: sˈsanˊtsoː](あんなに物価＜ものの値段＞が高いと、どうやって生計を維持して＜持って＞いくのか分からないのだよ)。

クˈラスン [kuˈrasuŋ] 【自動】生活する。暮らす。「長春日乎　念晩久＜長き春日を思ひ暮さく＞『万葉集　1936』」の義。マˈナˉマー　ユキーˈユキーˉシ　クˈラシ　ベーˉン [maˈnaˉmaː jukiːˈjukiːˉʃi kuˈraʃi beːˉŋ](今はゆったりと＜余裕を持って＞暮らしている)。ˉクビシェー　クˈラサラヌ [ˉkubiʃeː kuˈrasaranu](これだけでは暮らされない)。ターˈンˉ　ユˈチˉクニ　クˈラスンティルˉ　ウムー [taːˈɲˉ juˈʧiˉkuni kuˈrasuntiruˉ ʔumuː](誰でも裕福に暮らしたいと＜ぞ＞思うものだ)。ˉクナー　クˈラスプソーˉ　クˈラシˉバ [ˉkunaː kuˈrasu pu̥soːˉ kuˈraʃiˉba](ここに暮らす人は暮らせ)。ˉクナー　クˈラシェーˉ

ミサムヌ [ˀkuna: kuˈraʃeːˀ misamunu](此処で暮らせばいいのに)。

クˈラスン [kuˈrasuŋ] 【他動】1殺す。ˀオー　クˈラスン [ˀʔo: kuˈrasuŋ](豚を屠る＜屠殺する＞)。ˈカッティニˀ　クˈラサラヌ [ˈkattiniˀ kuˈrasaranu](勝っ手に屠殺できない)。ˀソンガチオー　クˈラシˀ　プサン [ˀsoŋgatʃiʔo: kuˈraʃiˀ pu̥saŋ](正月用の豚を屠殺したい)。ˀオー　クˈラス　プソーˀ　ブˈラーヌ [ˀʔo: kuˈrasu pu̥soːˀ buˈraːnu](豚を屠殺する人はいない)。ˈクラシェーˀ　ミサムヌ [kuˈraʃeːˀ misamunu](屠殺すればよいのに)。ˈパーˀク　ˀオー　クˈラシ [ˈpaːˀ ku ˀʔo: kuˈraʃi](早く豚を屠れ＜屠殺せよ＞)。2打つ。殴る。「懲、コロス『類聚名義抄』」の転訛したもの。ˀアイニ　プˈスˀ　クˈラスナ [ˀʔaini pu̥ˈsu ˀ kuˈrasuna](あんなに強く他人を打つな＜殴るな＞)。ウˈヤˀヌ　ˀムニ　シˈカンムノーˀ　シˈビˀ　タˈタックラˀシ [ʔuˈjaˀnu ˀmuni si̥ˈkammunoːˀ ʃiˈbiˀ tḁˈtakkuraˀʃi](親の言う事を聞かない奴はお尻をぶっ叩け)。

クˈラビルン [kuˈrabiruŋ] 【他動】比べる。比較する。老年層はフˈラビルン [ɸuˈrabiruŋ](比べる) という。「くらべ来し振り分け髪も『伊勢物語』」の転訛したもの。クˈレーˀ　フˈカˀヌ　ムˈヌˀトー　クˈラビララヌ [kuˈreːˀ ɸu̥ˈkaˀnu muˈnuˀto: kuˈrabiraranu](これは他のものとは比べられない)。クˈラビヤッˀサン [kuˈrabijasˀsaŋ](比べやすい)。クˈラビルンティˀ　ウムーカー　クˈラビリˀバ [kuˈrabiruntiˀ ʔumuːkaː kuˈrabiriˀba](比べようと思うなら比べなさいよ)。クˈラビルˀ　クトゥ [kuˈrabiruˀ ku̥tu](比べること)。クˈラビレーˀ　ˀミサムヌ [kuˈrabireːˀ misamunu](比べればよいのに)。ˈヌーˀル　タˈカーˀユー　クˈラビˀ　ミルン [ˈnuːˀru tḁˈkaːˀjuː kuˈrabiˀ miruŋ](どれが高いか、比べてみる)。クˈラビルンティˀ　ウˈムーンˀドゥ　クˈラビララヌ [kuˈrabiruntiˀ ʔuˈmuːnˀ du kuˈrabiraranu](比べようと思うのだが比べられない)。クˈラビルムノー　ナーˀヌ [kuˈrabirumunoː naːˀnu](比べるものがない)。クˈラビレーˀ　ミサムヌ [kuˈrabireːˀ misamunu](比べればよいのに)。ヤーˈディンˀ　クˈラビリ [jaːˈdiŋ kuˈrabiri](必ず比べなさい＜比べれ＞)。

クˈラブン [kuˈrabuŋ] 【他動】比べる。比較する。照合する。老年層の人は、フˈラブン [ɸuˈrabuŋ](比べる) という。「くらぶ＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。クˈレーˀ　クˈラビヤッˀサン [kuˈreːˀ kuˈrabijasˀsaŋ](これは比べやすい)。ˀヌンティ　クˈラバンワ [ˀnunti kuˈrabaŋwa](何故比べないか)。クˈラブンティˀ　ウムーカー　ˈパーˀク　クˈラビˀバ [kuˈrabuntiˀ ʔumuːkaː ˈpaːˀku kuˈrabiˀba](比べようと思うなら早く比べなさいよ)。クˈラブ　プソーパーˀク　クˈラベーˀ　ミサムヌ [kuˈrabu pu̥soː paːˀku kuˈrabeːˀ misamunu](比べる人は早く比べればよいのに)。

クˈラˀムトゥ [kuˈraˀmutu] 【名】琉球国時代の宮古・八重山に設置された行政官庁。ˀウラ [ˀʔura](蔵元) ということがおおい。クˈラムˀトゥナール　ˈグイˀフゾーノーヤ　ウˈサˀモーッタツォー [kuˈramuˀ tunaːru ˈguiˀɸuɕoːnoːja ʔuˈsaˀmoːttatsoː](蔵元で御用布・上納は納められたそうだ)。/クラヌパマカラ　カユピトゥヤ　ウラヌマイヌ　ピトゥグクル/＜久浦の浜から通う人は行政官庁蔵元の前の賑やかな人通りのようだ＞「鳩間中森＜岡＞」『鳩間島古典民謡古謡集』。

クˈリ [kuˈri] 【代】指示代名詞。これ (単数)。ˈクッˀツァー [ˈkutˀtsaː](これ等)(複数)。1空間的・時間的・心理的に話し手領域に属し、話しての近くにあると認められる「もの」や「こと」を指し示す語。「吾に得しめし夜麻都刀曾許礼『万葉集　4293』」の義。クˈリヌˀ　クーカー　シˈグトーˀ　ナルン [kuˈrinuˀ kuːkaː ʃiˈgutoːˀ naruŋ](これが来たら仕事はできる)。クˈリンˀ　クーパジ [kuˈriŋˀ kuːpaɕi](これ＜この人＞も来るはずだ)。クˈレーˀラ　ˈワーˀ　マˈシェーˀムヌ　イˈラˀビ　ˀトゥリバ [kuˈreːˀra ˈʔwaːˀ maˈʃeːˀmunu ʔiˈraˀbi ˀturiba](これ＜この中＞から、君がいい物のを選んで取りなさい)。クˈレー　ターˀムヌヤ [kuˈreː taːˀmunuja](これは誰のものか)。

グˈリ [guˈri] 【名】リンパ腺の腫れたもの。ぐりぐり。腋下部や腿のつけね (鼠径部) にできる大豆の大きさに腫れたリンパ腺。手足に外傷のある時にできた。バˈキンッサーˀラナ　グˈリˀヌ　ˀンジ　ˈベーˀヌ　ˀヌーカヤー [baˈkinssaːˀrana guˈriˀnu ˀʔnɕi ˈbeːˀnu ˀnuːkajaː](腋の下にぐりぐりが出来ている＜出ている＞が、何だろうか)。

ˀグリー [ˀguriː] 【名】礼。お辞儀。「御礼」の義。ピサーˈピサˀ　グˈリーˀバ　ˈシー　オーッˀタ [pi̥saːˈpisa ˀ guˈriːˀba ˈʃiː ʔoːtˀta](頭を非常に低く下げてお辞儀をしておられた)。ˈミーウイˀヌ　プˈスヌˀ　マイナーテー　ヤーˈディンˀ　グレー　ˈシェーˀティ　ˈアーˀキ [ˈmiːʔuiˀnu pu̥ˈsunuˀ mainaː jaːˈdiŋˀ gureː ˈʃeːˀ ti ˈʔaːˀki](目上の人の前ではお辞儀をしておれ＜お辞儀をしてあるけ＞)。ˀシザンケーニ　ˀグリー　ˈ

シー˥バ [˥ʃidʑaŋkeːni ˥guriː ˩ʃiː˥ba](年長者の方にお辞儀をしなさい)。

ク˩リカイ˥スン [ku˩rikai˥suŋ] 【他動】繰り返す。「手染之糸乎　絡反 < 手染の糸をくりかへし >『万葉集　1316』」の義。ユ˩ヌムニ˥バ　ク˩リカイ˥スン [ju˩numuni˥ba ku˩rikai˥suŋ](同じ話 < 言葉 > を繰り返す)。ク˩リカイサラ˥ヌ [ku˩rikaisara˥nu](繰り返されない)。ク˩リカイ˥シ　˥ミサン [ku˩rikai˥ʃi misaŋ](繰り返してもいい)。ク˩リカイ˥ス　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [ku˩rikai˥su ˥kʉ̥toː na˩ra˥nu](繰り返すことはいけない)。ク˩リカイ˥シェー　˥ミサムヌ [ku˩rikai˥ʃeː ˥misamunu](繰り返せばよいのに)。ク˩リカイ˥シ [ku˩rikai˥ʃi](繰り返せ)。

ク˩リ˥カリ [ku˩ri˥kari] 【代】これかれ (此彼)。あれこれ。これやあれや。ク˩リン˥カリン [ku˩riŋ˥kariŋ](あれも此れも) ともいう。ク˩リ˥カリ　シゥ˩カイミッタン˥ドゥ　˩ヌー˥ル　マ˩シェー˥ユー　シカイ˩トー˥　ア˩ティンガーラヌ [ku˩ri˥kari sï̥˥kaimittan˥du ˩nuː˥ru ma˩ʃeː˥juː ʃi̥kai˩toː˥ ʔa˩tiŋgaːranu](あれこれ使ってみたけれど、どれがいいのか見当 < 予想 > がつかない)。

˥グリグリ [˥guriguri] 【名】腋の下に出来る丸い塊。手足に傷があると腿の付け根や腋の下に丸い塊が出来た。これが出来るとピ˩ル [pi˩ru](にんにく < 大蒜 >) を擂り潰して塩と混ぜ、傷口に塗って治療した。バ˩キンッサー˥ラナ　˥グリグリヌ　˥ンジ˩ベー [ba˩kinssaː˥rana ˥gurigurinu ˥ʔndʑi ˩beː](腋の下にぐりぐりが出ている)。

˩グリ˥サン [˩guri˥saŋ] 【助動】～づらい。～(し) づらい、～にくい。形容詞型活用。˩ングリ˥サン [˩ŋguri˥saŋ](～づらい) の項参照。

ク˩リ˥タ [ku˩ri˥ta] 【名】樽や桶、水担桶を組み立てる板。˩ウーキ˥ヌ　ク˩リ˥ター　˩ミーガー˥ガー　˥ナリティ　ム˩リ˥ス [˩ʔuːki˥nu ku˩ri˥taː ˩miːga˥gaː nariti mu˩ri˥su](桶のクレ板は隙間が開いて水漏れする)。

˥クリフドゥ [˥kuriɸudu] (1)【名】これぐらい。歌謡語。˥クリフドゥヌ　ク˩トゥ˥バ　˩シーシェー˥　プ˩ソー˥　パ˩トゥ˥マナー　ブ˩ラーヌ [˥kuriɸudunu kʉ̥˩tu˥ba ˩ʃiːʃeː˥ pʉ̥˩soː˥ pḁ˩tu˥manaː bu˩raːnu](これ程の事をし得る人は、鳩間島にはいない)。 **(2)**【副】歌謡語。これほどに。この程度 (特に程度が高いこと)。/クリフドゥ　ウヤニ　ウムワリティ/(是程親に思われて)「無蔵念仏節」『八重山民謡誌』。

ク˩リ マ ー˥シ　シ ゥ˩カ イ マ ー シ [ku˩rimaː˥ʃi sï̥˩kaimaːʃi] 【連】やりくりする (遣り繰り) すること。「繰り回し、使い回し」の義。少ない物を融通しあうこと。ク˩リマー˥シ　シゥ˩カイマーシ　シェー˥ティドゥ　シ˩ヌギ˥ケー˩ダー [ku˩rimaː˥ʃi sï̥ ˩kaimaːʃi ʃeː˥tidu ʃi˩nugi˥keː˩daː](遣り繰りしあって凌いできたのだよ)。

ク˩リルン [ku˩riruŋ] 【自動】狂う。色欲に溺れる。情欲に狂う。獣類のように発情する。バ˩カーン˥ケンマー　ミ˩ドゥ˥ムナー　ク˩リル˥　クトゥン˥アン [ba˩kaːŋ˥ kemmaː mi˩du˥muna ku˩riru˥ kʉ̥tuŋ ˥ʔaŋ](若い時は女に狂うこともある)。˩アッ˥タル　バ˩カー˥ムヌヌ　ミ˩ドゥ˥ムナ　ク˩リティ　ヨー˥ゾー　シ˩キララ˥ヌ [˩ʔat˥taru ba˩kaː˥mununu mi˩du˥muna ku˩riti joː˥dʑoː ʃi̥˩kirara˥nu](あたら < 可惜 > 若者が色欲に溺れて、手のつけようがない < 養生できない >)。

グ˩リン [gu˩riŋ] 【名】五厘銭。グ˩リンミー [gu˩rim-miː](五厘目) ともいう。ム˩カ˥シェー　グ˩リン˥シ˩マイ˥　イ˩チン˥ゴー　˩カーリタン˥ツォー [mu˩ka˥ʃeː gu˩riŋ˥ʃi ˩mai˥ ʔi˩ʧiŋ˥goː ˩kaːritan˥tsoː](昔は五厘銭で米一合買えたそうだ)。˥イッシング˩リン˥シ˩ピー˥タイ　˩サンガリ　パッ˥タ [˥ʔiʃʃiŋ gu˩riŋ˥ʃi ˩piː˥tai ˩saŋgari pat˥ta](一千五厘で兵隊に引っ張られて行った)。

ク˩リン˥　カリン [ku˩riŋ˥ kariŋ] 【連】あれもこれも。˩スー˥タイ　˥ムトゥカー　ク˩リン˥　カリン　ス˩ローサン˥カー　ナ˩ラ˥ヌ [˩suː˥tai ˥mutukaː ku˩riŋ˥ karin su˩roːsaŋ˥kaː na˩ra˥nu](所帯を持つなら、あれもこれも揃えないといけない)。

˥クル [˥kuru] 【名】色の黒い人のあだ名。黒い人。新しく沖縄方言から借用された語。鳩間方言の [kuro](黒) の狭母音 [i、u] と広母音 [a] や半広母音 [o] が [r] を挟むと、法則的に kurV　→　ffV のように音韻変化を起こす。従って、˥クルスー [˥kurusuː](色の黒い男) は、非鳩間方言の特徴で、沖縄方言からの借用語といえる。˩イー˥シ　˥トゥルンティ　˥ティダナ　プ˩サ˥リティ　˥クルスー　ナリ˩ベー [˩ʔiː˥ʃi ˥turunti ˥tidana pʉ̥˩sa˥riti ˥kurusuː nari ˩beː](ツノマタを採取しようとして太陽に焼かれて < 干されて > 黒い人になっている)。

グ˩ル [gu˩ru] 【名】容器の底に溜まった汚れた液体。汚れた残り水。泥混じりの残り水。飲み残し。残り滓。˩タング˥ヌ　ス˩クヌ˥　グ˩ロー˥　シ˩ティリ [˩taŋgu˥nu sʉ̥˩kunu˥ gu˩roː˥ ʃi̥˩tiri](水担桶の底の泥混じりの残り水は捨てなさい < 捨てれ >)。ヌ˩ミ˥グ

ル [nuˀmiˀguru](飲み残しの水)。

ˀグル [ˀguru] 【名】ころ (頃)。時分。時間や季節のある時点を漠然と指す語。「我念君之　不所見比者鴨 < 我が思ふ君が見えぬ頃かも >『万葉集 2972』」の義。クˀズˀヌ　マˀナˀマグル [kuˀʤuˀnu maˀnaˀmaguru](去年の今頃)。イˀチグルヌˀ　パˀナˀシヤ [ʔiˀʧigurunuˀ paˀnaˀʃija](何時頃の話か)。クˀヌˀグロー　˞ヌーˀシヤ　ミˀサン [kuˀnuˀguro: ˞nu:ˀʃija miˀsaŋ](最近は < 此の頃 > はどうか。元気か < いいか >)。

グˀル [guˀru] 【名】1から (殻)。あきがら。抜け殻。ˀアミツァヌ　グˀル [ˀʔamitsanu guˀru](ヤドカリの抜け殻)。˞アーˀグル [ˀʔaːˀguru](粟を刈り取った後の畑)。˞ムンˀグル [ˀmuŋˀguru](麦を刈り取った後の畑)。マˀミˀグル　˞カイˀシティ　ˀウン　イˀビˀシケーターˀ　イッˀケン　ミーレーˀン [maˀmiˀguru ˞kaiˀʃi̥ti ˀʔuŋ ʔiˀbiˀʃi̥keːta ʔikˀkem miːreːˀŋ](豆を刈り取った後の畑を耕して芋を植えておいたら非常に実っている)。˞ワーˀ　ガˀマˀジェー　ˀアミツァヌ　グˀルˀ　ナリ　˞ベー [ˀwaːˀ gaˀmaˀʤeː ˀʔamitsanu guˀruˀ nari ˞beː](君の髪の毛は不揃いに刈られて、ヤドカリの殻のように、まだらに < 斑 > になっている)。2食べ残し。飲み残し。おり (澱)。容器の底に沈んでいる滓。プˀスヌˀ　ヌˀミグルˀバ　ˀバンヌˀマˀスンティ　˞アーˀク [pu̥ˀsunuˀ nuˀmiguruˀba ˀban nuˀmaˀsunti ˞ʔaːˀku](他人の飲み残しを私に飲ませようとしている)。

グˀルˀイシ [guˀruˀʔiʃi] 【名】小石。こぶし (拳) ほどの大きさの石。二重積みの石垣を積む際に、バˀタˀイシ [baˀtaˀʔiʃi](腹石。中間に詰める小石) として使用する小石。グˀルイシˀバ　アˀツァˀミキー　˞グスクˀヌ　バˀタˀイシ　˞シーˀバ [guˀruʔiʃiˀba ʔaˀtsaˀmikiː ˞gusu̥kuˀnu baˀtaˀiʃi ˞ʃiːˀba](小石を集めてきて石垣の詰め石にしなさい)。

クˀルˀキ [kuˀruˀki] 【名】(植) 樹木の名。リュウキュウコクタン。黒檀の一種。鳩間方言では、普通は、キˀダ [kiˀda](リュウキュウコクタン) という。キˀダヌˀナル [kiˀdanuˀnaru](リュウキュウコクタンの実) は旧暦 7 月～8 月ごろに熟する。8 ミリ～14 ミリの大きさで、未熟な実の色は黄色を呈し、味は渋い。実が完熟すると暗紫色になり、甘味が増して柿の実のように美味になる。お盆の供物 (ムルムルの砂糖きびの束) に挿して飾り供える。芯材は黒光りするので三味線の棹材として珍重され、床柱、家具用材としても重宝されている。キˀダヌ　シンˀマー　クˀルˀキティ　˞シーˀ　ウˀリˀシ　˞サンシンヌˀ　サウ　スˀクˀローッタ [kiˀdanu ʃimˀmaː kuˀruˀkiti ˞ʃiːˀ ʔuˀriˀʃi ˞saŋʃinnuˀ sau su̥ˀkuˀroːtta](リュウキュウコクタン < キˀダ > の芯材はクˀルˀキ < 黒木。黒檀 > といって、それで三味線の竿を作られた)。

ˀグルグル [ˀguruguru] 【副】ぐるぐる。幾重にも巻きつけるさま。何度も回転するさま。ˀナーシ　ˀグルグル　マˀクン [ˀnaːʃi ˀguruguru maˀkuŋ](縄でぐるぐる巻く)。ˀグルグル　˞マースン [ˀguruguru ˞maːsuŋ](ぐるぐる回す)。

グˀルグルˀシ [guˀruguruˀʃi] 【副】目を大きく見開いて見回すさま。ウˀダラˀキティ　˞ミーˀヤ　グˀルグルˀシ　˞ベー [ʔuˀdaraˀkiti ˞miːˀja guˀruguruˀʃi ˞beː](びっくりして < 驚いて >、目を大きく見開いて辺りを見回している)。

グˀルˀクン [guˀruˀkuŋ] 【名】(動) 魚名。タカサゴの仲間。沖縄本島糸満方言からの借用語。『原色沖縄の魚』の写真番号 91˞くまささはなむろ」は、ウˀクー [ʔukuː](グルクンの一種)。写真番号 92˞たかさご」は、˞コーˀサー [ˀkoːˀsaː](グルクンの一種)。写真番号 93「うめいろもどき」は、ムˀレーˀジ [muˀreːˀʤi](グルクンの一種) という。写真番号 94「ささむろ」は、ヒˀラー [çiˀraː](平たい体でやや大きい。グルクンの一種)。写真番号 95「はなたかさご」、写真番号 96「ゆめうめいろ」には、ヒˀラー [çiˀraː](グルクンの一種) という (加治工伊佐氏談)。グルクンは沖縄県の県魚に指定されており、油で揚げると美味である。煮魚、蒲鉾の原料にも利用される。グˀルクンˀマー　パˀトゥˀマプソー　ムˀカˀシェーラ　ムˀレーˀジティル　アˀゾーッˀタˀナー [guˀrukumˀmaː pḁˀtuˀmapu̥soː muˀkaˀʃeːra muˀreːˀʤitiru ʔaˀʤoːtˀta ˀnaː](グルクンには、鳩間の人は昔からムˀレーˀジ <˞群れ魚」の転訛 > といっていたねえ)。ムˀレーˀジイズ [muˀreːˀʤiʔiʤu](群れ魚。グルクン) ともいう。

クˀルˀシマ [kuˀruˀʃima] 【固】(地) 黒島。古老は、フˀシˀマ [ɸu̥ˀʃiˀma](黒島) ともいう。保里、宮里、仲本、東筋、伊古の集落があった。現在は牧畜が盛んである。クˀルˀシマナー　ムˀカˀシ　サˀバン　タシキラˀレータ　プˀスヌ　オーッˀタンツォー [kuˀruˀʃimanaː muˀkaˀʃi saˀban taʃi̥kiraˀreːta pu̥ˀsunu ʔoːtˀtantsoː](黒島には昔、鱶に助けられた人がおられたそうだ)。

クˀルˀシマクドゥキ [kuˀruˀʃimakuduki] 【名】黒島口説。黒島を代表する民謡と民俗舞踊の一つ。7・5・

7・5 の口説き形式の歌詞と 7・7 調の囃子があり、軽快な民俗舞踊と対をなして形成されている。囃子の部分には島の生活様式がリアルに描写されていて、豊年を寿ぐものになっている。クˈルˀシマクドゥキヌ　ブˈドゥローˀ　イッˈケンˀ　ウˈムッˀサン [kuˈruˀʃimakudukinu buˈduroːˀ ʔikˈkeŋˀ ʔuˈmusˀsaŋ](黒島口説の踊は非常に面白い)。

クˈルˀスメー [kuˈruˀsumeː] 【名】 (動) コブシメ。胴長約 40 センチ。背中に船形の固い甲を持つ。肉は厚く美味である。刺身、和え物、煮物にして食す。腕は太く短い。2 本の長い蝕腕は柔らかく先端が太い。クˈルスメーˀヤ　ˀマンタヌ　パˈマˀナーティ　イˈガジーバ　ナンˀゲー　ˈトーリトーˀリ　ˈシェーˀティ　ˀユー　ˈホーシˀタン [kuˈrusumeːˀja ˀmantanu paˈmaˀnaːti ʔiˈgadʒiːba naŋˀgeː ˈtoːritoːˀri ˈʃeːtiˀ juː ˈhoːʃi̥ˀtaŋ](コブシメは前の浜で餌木を投げては手繰り手繰りしながら、よく釣ったものだ)。

グルッˈカ [gurukˈka] 【副】ころりと。ころっと。ぐるっと。丸みのあるものが一回転する様子。クˈヌˀ　ヤˈラˀベー　クˈルブタンティンˀ　グルッˈカˀティ　ˈカイˀリ　ウキ　ˈキーˀス [kuˈnuˀ jaˈraˀbeː kuˈrubutantiŋˀ gurukˈkaˀti ˈkaiˀri ʔukiˈkiːˀsu](この子供は転んでも、ころっ＜くるり＞と一回転して起きてくることができるよ)。ˀマイニン　クˈシェーˀニン　グルッˈカˀティ　ˈカイˀルン [ˀmainiŋ kṵˈʃeːˀniŋ gurukˈkaˀti ˈkaiˀruŋ](前方にも後方ろにもぐるっ＜くるり＞と一回転出来る＜前転・後転できる＞)。

グˈルッカイˀスン [guˈrukkaiˀsuŋ] 【他動】ひっくり返す。裏返す。覆す。転覆させる。ˈイーˀシェー　プˈスマˀ　アトー　グˈルッカイˀシ　ˀプシ [ˈʔiːˀʃeː pṵˈsumaˀ ʔato: guˈrukkaiˀʃi ˀpṵʃi](角叉は午後＜昼間後＞には、ひっくり返して干せ)。グˈルッカイˀスンティ　ˈスンドゥˀ　グˈルッカイサラˀヌ [guˈrukkaiˀsuntiˈsunduˀ guˈrukkaisaraˀnu](ひっくり返そうとするが、ひっくり返されない)。グˈルッカイˀシ　ˀミサン [guˈrukkaiˀʃi ˀmisaŋ](ひっくり返してよい)。グˈルッカイˀス　ˀクトー　ナˈラˀヌ [guˈrukkaiˀsu ˀkṵto: naˈraˀnu](ひっくり返すことは出来ない)。グˈルッカイˀシェー　ミサムヌ [guˈrukkaiˀʃeː ˀmisamunu](ひっくり返せばよいのに)。マˈナˀマ　グˈルッカイˀシ [maˈnaˀma guˈrukkaiˀʃi](今ひっくり返せ)。キˈメーˀ　クトゥ　グˈルッカイˀスンティ　ˈスンドゥˀ　グˈルッカイサラˀヌ [kiˈmeːˀ kṵtuˀ guˈrukkaiˀsuntiˈsunduˀ guˈrukkaisaraˀnu](決めたことをひっくり返そうとするが、ひっくり返されない)。グˈルッカイˀシ　ˀミサカー　グˈルッカイˀス　ˀクトー　ˀナルン [guˈrukkaiˀʃi ˀmisaka: guˈrukkaiˀsu ˀkṵto: ˀnaruŋ](ひっくり返して良ければひっくり返すことはできる)。グˈルッカイˀシェー　ˀミサムヌ [guˈrukkaiˀʃeː ˀmisamunu](ひっくり返せば良いのに)。グˈルッカイˀシバ [guˈrukkaiˀʃiba](ひっくり返せよ)。

グˈルッカイˀルン [guˈrukkaiˀruŋ] 【自動】ひっくり返る。寝返る。転覆する。くつがえる (覆る)。若年層は、グˈルッケーˀルン [guˈrukkeːˀruŋ] ともいう。ヤˈラˀベー　ˈユーシキˀ　ナルカーˀ　ドゥーシ　グˈルッカイˀルンツォー [jaˈraˀbeː ˈjuːʃikiˀ narukaːˀduːʃi guˈrukkaiˀruntsoː](子供は四ヶ月になると自力でひっくり返る＜寝返る＞そうだ)。マˈダˀ　グˈルッカイラˀヌ [maˈdaˀ guˈrukkairaˀnu](まだひっくり返らない)。グˈルッカイリ　ヤッˀサン [guˈrukkairi jasˀsaŋ](ひっくり返りやすい)。グˈルッカイˀル　ˀクトゥ [guˈrukkaiˀru ˀkṵtu](ひっくり返ること)。グˈルッカイˀレー　ˀミサムヌ [guˈrukkaiˀreː ˀmisamunu](ひっくり返ればよいのに)。ˀクナーティ　グˈルッカイˀリ [ˀkunaːti guˈrukkaiˀri](ここでひっくり返れ)。ˀシンター　グˈルッカイˀルン [ˀʃintaː guˈrukkaiˀruŋ](後方へひっくり返る)。ヤˈラˀベー　ナˈクˀカー　ˀシンター　グˈルッカイˀルン [jaˈraˀbeː naˈkuˀkaː ˀʃintaː guˈrukkaiˀruŋ](子供は泣くと後に反り返る)。グˈルッカイラˀヌ [guˈrukkairaˀnu](ひっくり返らない)。グˈルッカイˀリ　ˀミサカー　グˈルッカイˀル　ˀクトー　ˀナルン [guˈrukkaiˀri ˀmisakaː guˈrukkaiˀru ˀkṵtoː ˀnaruŋ](ひっくり返ってよければ、ひっくり返ることは出来る)。ˀドゥーシ　グˈルッカイˀレー　ˀミサムヌ [ˀduːʃi guˈrukkaiˀreː ˀmisamunu](自分でひっくり返れば良いのに)。

グˈルッカグルッカ [guˈrukkagurukka] 【副】ぐらぐら。ぐらりぐらり揺れるさま。ゆらゆら。ゆらりゆらり揺れるさま。ABCDABCD 型の重言 (畳語)。クˈヌˀ　ビˈリダイヤーˀ　グˈルッカグルッカˀ　シティ　ビˈリングリˀサワレー [kuˈnuˀ biˈridaijaːˀ guˈrukkagurukkaˀ ʃi̥ti biˈriŋguriˀsawareː](この椅子＜座り台＞はぐらぐらして座り心地がわるいねえ)。ˈバーキˀヌ　ˈピッチˀン　ˈウンˀバ　イˈリティˀ　スˈブˀルナー　カˈムˀター　ˀヌベー　グˈルッカグルッカˀ　シティ　クˈルビンギサˀタル [ˈbaːkiˀnu ˈpitˀtʃiŋ ˈʔumˀba ʔiˈritiˀ suˈbuˀruna kaˈmuˀtaː ˀnubeː guˈ

rukkagurukkaˀʃi̥ti kuˀrubiŋgisaˀtaru](竹筴の一杯芋を入れて頭に載せて担いだら首がぐらぐらして転びそうだったよ)。

グ˞ルッケーˀルン [guˀrukkeːruŋ] 【自動】ひっくり返る。若年層の言葉。グ˞ルッカイˀルン [guˀrukkaiˀruŋ](ひっくり返る) と同じ。グ˞ルッケーラˀヌ [guˀrukkeːraˀnu](ひっくり返らない)。グ˞ルッケーˀリˀミサン [guˀrukkeːˀri ˀmisaŋ](ひっくり返ってよい)。グ˞ルッケーˀル　ˀクトゥ [guˀrukkeːˀru ˀku̥tu](ひっくり返ること)。グ˞ルッケーˀレー　ˀミサムヌ [guˀrukkeːˀreː ˀmisamunu](ひっくり返れば良いのに)。グ˞ルッケーˀリ [guˀrukeːˀri](ひっくり返れ)。

グルッ˞ティ [gurutˀti] 【副】1ぐるっと。くるっと。一回りするさま。丸くなるさま。カ˞ジェー˞　グルッ˞ティ　マーリナーˀヌ [kaˀʤeːˀ gurutˀti maːrinaːˀnu](風はぐるりと回ってしまった)。ア˞ミサーˀリ　ア˞ガミツァˀナー　グルッ˞ティ˞　マ˞ラビティˀ　ドゥー　ヤ˞マˀシ　ˀシケー [ʔaˀmisaːˀri ʔaˀgamitsaˀnaː gurutˀtiˀ maˀrabiti ˀduː jaˀmaˀʃi ˀʃi̥keː](雨で赤土＜赤粘土＞にぐるっと滑って転んで体を痛めてある)。2ころりと。ころっと。物が転がるさま。˞ユーˀボン　ッ˞ふァイティ˞　グルッ˞ティ˞　ク˞ルビ˞　ニ˞ブタターˀナ　˞チャーˀニビ　˞シーナーˀヌ [˞juːˀbon ふˀfaitiˀ gurutˀtiˀ kuˀrubiˀ niˀbutataːˀna ˞tʃaːˀnibi ˞ʃiːnaːˀnu](夕食を食べて、ころりと転がって寝たまま、ずっと寝込んで熟睡してしまった)。

ク˞ルバˀサー [kuˀrubaˀsaː] 【名】水田の土をこなすのに用いる農具。直径約一尺。長さ約 4 尺ほどの硬質の大木 (普通は、ドゥ˞スˀヌ [duˀsuˀnu]＜オガタマノキ＞やˀマチ [ˀmatʃi]＜松＞の幹を使用した) に歯車状の深い歯を作り、木枠に心棒を固定し、牛に引かせて回転させ、田の土を砕くのに用いる農具。タ˞カˀスクナー　ウ˞ブマチˀヌ　イッ˞ケナˀ　ムイ˞ベーˀタ　˞ベーˀティ　ˀウナーティ　マ˞チˀバ　ˀキシティ　ク˞ルバˀサー　ス˞クˀローˀタ　ツォー [tạˀkaˀsu̥kunaː ʔuˀbumatʃiˀnu ʔikˀkenaˀ muiˀbeːˀta ˀbeːˀti ˀʔunaːti maˀtʃiˀba ˀki̥ʃiti kuˀrubaˀsaː su̥ˀkuˀroːttatsoː](タカスク＜地名＞には大きな松が沢山生えていたので、そこ＜タカスク＞で松の木を切ってクルバサーを作られたそうだ)。

ク˞ルバシカーˀバシ [kuˀrubaʃikaːˀbaʃi] 【副】転ばすさま。ごろごろ転ばして。ABCDEFCD 型の重言。カ˞タマランˀ　ベーティ　ク˞ルバシカーˀバシ　˞シェーˀティ　ヤッ˞トゥˀシ　˞サンギ　クーˀタ [kḁˀtamaramˀ beːti kuˀrubaʃikaːˀbaʃi ˀʃeːˀti jatˀtuˀʃi ˀsaŋgi kuːˀta](担げない＜担がれない＞ので、ごろごろ転ばして、やっとで引張ってきた)。

ク˞ルバスン [kuˀrubasuŋ] 【他動】転ばす。転がす。˞ウシゥカラシティˀ　ク˞ルバスン [ˀʔusi̥karaʃitiˀ kuˀrubasuŋ](押し倒して転ばす)。˞グッふァˀヌ　ク˞ルバサラヌ [ˀguffaˀnu kuˀrubasaranu](重くて転ばされない)。ク˞レーˀ　ク˞ルバシˀ　ミサン [kuˀreːˀ kuˀrubaʃiˀ misaŋ](此れは転ばしてもいい)。ク˞リバˀ　ク˞ルバスˀ　プ˞ソーˀ　ブ˞ラーヌ [kuˀribaˀ kuˀrubasuˀ pu̥ˀsoːˀ buˀraːnu](此れを転ばす人はいない)。ク˞ルバシェーˀ　ミサムヌ [kuˀrubaʃeːˀ misamunu](転ばせばよいのに)。ˀドゥーシ　ク˞ルバシ [ˀduːʃi kuˀrubaʃi](自分で転ばしなさい)。

ク˞ルˀパン [kuˀruˀpaŋ] 【名】菓子の名。黒褐色の平たい丸い菓子。黒いパン。ミ˞リキンˀグ [miˀrikiŋˀgu](メリケン粉) に黒糖を混ぜて焼き上げた菓子。˞マイボーˀル [ˀmaiboːˀru] と同じ。イ˞サナケーナーˀル　ク˞ルパンˀマー　˞カーシ　オーッˀタ [ʔiˀsanakeːnaːˀru kuˀrupamˀmaː ˀkaːʃi ʔoːtˀta](石垣島で＜ぞ＞クルパンは売っておられた)。

ク˞ルビニブン [kuˀrubinibuŋ] 【自動】ごろ寝する。ごろりと横になる。寝じたくをしないで寝転ぶ。ˀドゥク　ブ˞ガˀルカー　ク˞ルビニブンㅏダー [ˀduku buˀgaˀruka: kuˀrubinibunㅏdaː](ひどく疲れたらごろ寝するよ)。

ク˞ルブン [kuˀrubuŋ] 【自動】転ぶ。転がる。転倒する。イ˞シˀナ　ˀパン　ˀキリティ　ク˞ルビ　ベー [ʔiˀʃiˀna ˀpaŋ ˀkiriti kuˀrubi beː](石に蹴躓いて＜足を蹴って＞転んで＜転倒して＞いる)。イカー˞ラ＜イコー˞ラ＞　ビーラˀバン　ク˞ルバヌ [ʔikaːˀra ＜ʔikoːˀra＞ biːraˀbaŋ kuˀrubanu](どんなに酔っても転倒しない)。ˀビータルカー　ク˞ルブンㅏダー [ˀbiːtaruka: kuˀrubunㅏdaː](酔っ払うと転倒するよ)。ク˞ルブˀ　クトー　˞ナーˀヌ [kuˀrubuˀ ku̥to: ˀnaːˀnu](転ぶ＜転倒する＞ことはない)。ク˞ルベーˀ　ミサムヌ [kuˀrubeːˀ misamunu](転べば＜転倒すれば＞よいのに)。˞パーˀク　ク˞ルビ [ˀpaːˀku kuˀrubi](早く転べ)。

ク˞ルベーˀマラベー [kuˀrubeːˀmarabeː] 【副】倒れ転ぶさま。滑ったり転んだり。「転轉＜コイマロビ＞恋は死ぬとも～。万、2274」、「地に宛＜まろ＞び転＜かへ＞ること～」『金光明最勝王経　平安初期点』の転訛したものか。ˀアミン　˞ゾッふァーリˀ　ク˞ルベーˀマラベー　˞シェーˀティ　パリ˞パッˀタヤー [ˀʔamin ˀʤoffaːriˀ kuˀrubeːˀmarabeː ˀʃeːˀti pari

ˈpatˈtaja:](雨に濡れて、滑ったり転んだり＜転びまろび＞しながら走って行ったよ)。

クˈルˈマ [kuˈruˈma] 【名】車。荷車。ˈニーグルˈマ [ˈni:guruˈma](荷車)。ˈシートーグルマ [ˈʃi:to:guruma](製糖車)。バˈシャグルマ [baˈʃaguruma](馬車) などがある。ˈサタダロー　バˈシャグルマˈナー　ˈヌーシティルˈ　カˈヨーシタル [ˈsḁtadaro: baˈʃaguumaˈna: ˈnu:ʃitiruˈ kaˈjo:ʃitaru](砂糖樽は馬車に載せて運んだ＜通わせた＞)。

クˈルマイーˈル [kuˈruma?i:ˈru] 【名】まいぎり (舞錐)。まわしぎり。軸の上部に穴をあけて、紐を通し、その両端を腕木の両端に結び、腕木を上下させて軸を回転させる錐。クˈルマイーˈルシ　ˈミーˈピッˈクカー　ˈピッキヤッˈサン [kuˈruma?i:ˈruʃi ˈmi: ˈpikˈkuka: ˈpikkijasˈsaŋ](舞錐で穴をあけるとあけやすい)。

グルˈミャーˈウ [guruˈmja:ˈu] 【名】(幼) 猫。ごろごろ喉を鳴らす猫。ˈウリウリ　ナˈキベーンˈケンマー　ˈグルミャーウヌ　クンˈダー　パーˈク　ナˈキヤミリ [ˈ?uri?uri naˈkibe:ŋˈkemma: ˈgurumja:unu kunˈda: pa:ˈku naˈkijamiri](それそれ、泣いていると＜泣いているときには＞ゴロゴロ喉を鳴らす猫がくるぞ。早く泣くのを止めなさい)。

クˈルˈムン [kuˈruˈmuŋ] 【他動】包み巻き込む。くるむ。つつむ。ˈフイヤキ　スーˈカー　ˈウズシ　クˈルˈムンˈダー [ˈɸuijaki su:ˈka: ˈ?uʤuʃi kuˈruˈmunˈda:](マラリアの高熱で震えが起きると＜震え熱発すると＞布団で包むよ)。ˈンーネーˈ　クˈルマンˈドーシ　スˈブˈル　ヒˈヤˈシ [ˈ?n:ne:ˈ kuˈrumanˈdo:ʃi suˈbuˈru çiˈjaˈʃi](胸はくるまないで頭を冷せ)。ˈパンˈマー　ˈウズシ　クˈルˈミティ　アˈツァˈシ [ˈpamˈma: ˈ?uʤuʃi kuˈruˈmiti ?aˈtsaˈʃi](足は布団でくるんで暖めよ)。

ˈクルン [ˈkuruŋ] 【他動】刳りぬく。えぐる (抉る)。形を写して刳りぬく。ˈミーカンガンˈマー　ッˈスイキーバˈ　クリティ　スˈクˈロッタ [ˈmi:kaŋgamˈma: sˈsuiki:baˈ kuriti su̥ˈkuˈro:tta](水中眼鏡はモンパノキを刳り抜いて作られた)。ˈマチキー　ˈクルン [ˈmatʃiki: ˈkuruŋ](松の木を刳る)。ˈコーˈティ　クˈララˈヌ [ˈko:ˈti kuˈraraˈnu](硬くて刳られない)。ˈクルクトー　ナˈラˈヌ [ˈkuru ku̥to: naˈraˈnu](刳ることは出来ない)。ˈクレー　ˈミサムヌ [ˈkure: ˈmisamunu](刳ればよいのに)。ˈパーˈク　ˈクリ [ˈpa:ˈku ˈkuri](早く刳れ)。ˈトーˈネー＜フˈノーˈロー＞　アˈカンキーバˈ　クリティ　スˈクˈロッタ [ˈto:ˈne: ＜ɸuˈno:ˈro:＞ ?aˈkaŋki:baˈ kuriti su̥ˈkuˈro:tta](田舟＜豚の飼葉桶＞は赤木を刳って作られた)。ˈマチフネー　ˈマチキーバ　ˈクリティ　スˈクˈロッタ [ˈmatʃiɸune: ˈmatʃiki:ba ˈkuriti su̥ˈkuˈro:tta](松舟＜松の刳り舟＞は松の木を刳り抜いて作られた)。ˈクマー　クˈラˈヌ [ˈkuma: kuˈraˈnu](ここは刳らない＜えぐらない＞)。ˈヌンシ　ˈクリミサカー　ˈクルˈクトー　ˈナルン [ˈnuŋʃi ˈkurimisaka: ˈkuru ˈku̥to: ˈnaruŋ](鑿で刳って良ければ刳ることは出来る)。ˈクレー　ˈミサムヌ [ˈkure: ˈmisamunu](刳れば良いのに)。ˈマーˈビン　ˈクリバ [ˈma:ˈbiŋ ˈkuriba](もっと刳れよ)。

ˈクルン [ˈkuruŋ] 【他動】両替する。紙幣を小銭に替える。ˈジン　ˈクルン [ˈʤiŋ ˈkuruŋ](お金を両替する)。ˈクナーテー　ˈジン　クˈララˈヌ [ˈkuna:te: ˈʤiŋ kuˈraraˈnu](ここでは両替できない)。クˈリˈプサン [kuˈriˈ pusaŋ](両替したい)。ˈクル　ˈクトー　ナˈラˈヌ [ˈkuru ˈku̥to: naˈraˈnu](両替することは出来ない)。ˈクナーティ　ˈクレー　ˈミサムヌ [ˈkuna:ti ˈkure: ˈmisamunu](ここで両替すればよいのに)。ˈジン　ˈクリバ [ˈʤiŋ ˈkuriba](お金を両替しなさいよ)。ˈクーˈジン　ˈクリ　ッˈふォーˈリ [ˈku:ˈʤiŋ ˈkuri fˈfo:ˈri](小銭に両替して＜繰って＞ください)。ˈクーˈジン　ˈクルンティ　ˈクータˈヌ　クˈラランˈツォー [ˈku:ˈʤiŋ ˈkurunti ˈku:taˈnu kuˈraranˈtso:](小銭に両替しようとやって来たが両替できないそうだ)。

ˈクルン [ˈkuruŋ] 【他動】1繰る。糸を巻き取る。ˈイトゥ　ˈクルン [ˈ?itu ˈkuruŋ](糸を繰る)。2暦の日をめくる。順々に日を数えて佳日を選ぶ。ピˈニチェーˈ　クリティ　ˈカイピニˈチ　イˈラˈビバ [piˈnitʃeˈ kuriti ˈkaipiniˈtʃi ?iˈraˈbiba](日にちを繰って佳日を選びなさいよ)。ピˈニチˈ　クルンティ　ウˈムーンˈドゥ　ˈバンˈマー　クˈララˈヌ [piˈnitʃiˈ kurunti ?uˈmu:nˈdu ˈbamˈma: kuˈraraˈnu](日にちを繰ろうと思うが、私には繰られない)。ピˈニチˈ　クル　プˈスヌ　オーラˈヌ [piˈnitʃiˈ kuru pu̥ˈsunu ?o:raˈnu](日にちを繰る人がいらっしゃらない)。ˈパーˈク　ピˈニチˈ　クレー　ˈミサムヌ [ˈpa:ˈku piˈnitʃiˈ kure: ˈmisamunu](早く良い日を繰ればいいのに)。ˈドゥーシ　ピˈニチˈ　クリバ [ˈdu:ʃi piˈnitʃiˈ kuriba](自分で日にちを繰りなさいよ)。

クˈレー [kuˈre:] 【連】これは。指示代名詞クˈリ [kuˈri](此れ) に係助詞ヤ [ja]＜とりたて＞が付いて融合変化した形。クˈレーˈ　ヌーヤ [kuˈre:ˈ

nu:ja](此れは何か)。クˈレー　ッˈふァーラヌ [kuˈreːˀ fˈfaːranu](此れは食べられない＜食えない＞)。

クˈレーラ [kuˈreːra] 【連】これより。これから。[kuri] ＋ [kara] → [kurihara] → [kuriara] → [kureːra] のように融合変化したもの。ˀバー　クˈレーラˀン　カˈリルˀ　マˈシ [ˈbaː kuˈreːra ˀŋ kaˈriruˀ maˈʃi](私はこれよりもあれが良い)。

クˈレˀクレ [kuˈreˀkure] 【感】これこれ。おいおい (呼びかけ)。目下の者に対していう。老年層の言葉。クˈレˀクレ　コーˈネーˀ　クˈマーˀ　キーˈミリ [kuˈreːˀ kureː koːˈneːˀ kuˈmaːˀ kiːˈmiri](これこれ、坊や、ここへ来てごらん＜来てみれ＞)。

クˈロー [kuˈroː] 【名】苦労。標準語からの借用語。アˈワˀリクチサ [ʔaˈwaˀri ˀkuᵝtʃisa](難儀苦労) ともいう。キˈムˀヌ　クˈロー　ティーパンˀヌ　クˈローバˀ　ウヤン　カˈキˀル　タˈキˀフドゥ　イˈリˀ　マˈナˀマ　ˀナリケー [kiˈmuˀnu kuˈroː tiːpanˀnu kuˈroːbaˀ ʔujaŋ kᵝˈkiˀru tᵝˈkiˀɸudu ʔiˈriˀ maˈnaˀma ˀnarikeː](精神的＜心の＞苦労、肉体的＜手足の＞苦労を親にかけて成長して現在に至っている)。

グˈローˀン [guˈroːˀŋ] 【形】1船の横揺れが激しい。横揺れして不安定である。座りが悪い。船がローリングする。クˈヌˀ　フネー　グˈローˀン [kuˈnuˀ ɸuneː guˈroːˀŋ](この舟は横揺れが激しい)。ˈナンˀゾー　グˈローナーˀヌ [ˈnanˀʤoː guˈroːnaːˀnu](あまり横揺れしない)。フˈニˀヌ　グˈローˀカー　ˈヌーララヌ [ɸuˈniˀnu guˈroːˀkaː ˈnuːraranu](舟の横揺れが激しいと乗れない)。ˈナンˀヌ　ンˈジˀルカー　ˀフネー　グˈローˀ　ナルン [ˈnanˀnu ʔnˈʤiˀrukaː ˀɸuneː guˈroːˀnaruŋ](時化て波が出ると舟は横揺れが激しくなる)。グˈローˀ　フニナー　ˈヌールナ [guˈroːˀ ɸunina: ˈnuːruna](横揺れの激しい舟には乗るな)。2すばしこい。敏捷である。クˈヌˀ　ヤˈラˀベー　パˈダグローˀヌ　カˈサマラヌ [kuˈnuˀ jaˈraˀbeː paˈdaguroːˀnu kaˈsamaranu](この子は敏捷でつかまらない)。

ˀクロマター [ˀkuromataː] 【名】古見村の豊年祭に出現する草装神。秘祭のアカマラター祭に、ˀアカマター [ˀʔakamataː](赤い面の草装神)、ˀシロマター [ˀʃiromataː](白面の草装神) と共に来訪され、各氏子の家々を回って村人を祝福し、豊年を予祝して夕刻頃に名残を惜しまれつつ村人に見送られて山へ帰る神。ˀアカマターン　ˀクロマターン　ˀシロマターン　ˈクーˀジシ　ˈドゥーˀヤ　マˈカリティ＜カˈルマカˀリティ＞　メンバˀ　カビティ　ˈバウˀバ　ˀムティティ＜ヤˈマーˀラ＞　ウˈローッˀタ [ˀʔakamataːŋ ˀkuromataːŋ ˀʃiromataːŋ ˀkuːˀʤiʃi ˈduːˀ ja maˈkariti ＜kaˈrumakaˀriti＞ membaˀ kabiti ˈbau ˀba ˀmutiti jaˈmaːˀra ʔuˈroːtˀta](赤マターも黒マターも、白マターもトウズルモドキで全身を巻かれてお面を被り、棒を持って山奥から降りて来られた)。

ˀクゥー [ˀkwaː] 【名】 (植) 桑。沖縄本島方言の借用語か。ˈゴーナˀキー [ˈgoːnaˀkiː](桑の木)＜若年層＞、ˈコーンˀギ [ˈkoːŋˀgi](桑の木)＜老年層＞ともいう。地震避けの呪文として、ˈクゥーˀヌ　シチャ　ˈクゥーˀヌ　シチャ [ˈkwaːˀnu ˀʃᵝtʃa ˈkwaːˀnu ˀʃᵝtʃa](桑の下、桑の下) と唱えた。葉は養蚕用に、材は固く老木になるに従い黒褐色となり、光沢を有するので装飾的高級用材に利用される。芯材は三味線の竿にも利用される。実は熟すると赤褐色を呈し甘味をますので、子供の好物となった。

ˈ-クゥーˀスン [ˈ-kwaːˀsuŋ] 【接尾】「～過ぎる」の意。沖縄本島方言からの借用語か。特定の動詞の連用形に下接して「～過ぎる」の意味を表す。ˈハイクゥーˀスン [ˈhaikwaːˀsuŋ](行き過ぎる。超過する)。ッˈふァイクゥースン [fˈfaikwaːsuŋ](食べ過ぎる)、イˈジックゥースン [ʔiˈʤikkwaːsuŋ](言い過ぎる。叱り過ぎる) のように言う。

ˀグゥイ [ˀgwai] 【名】具合。状態。調子。都合。標準語からの借用語。ˈグゥイˀヌ　ˈワッˀサティ　ˈヤーˀナ　ニˈビ　ベー [ˈgwaiˀnu ˈwasˀsati ˈjaːˀna niˈbi beː](具合＜体調＞が悪くて、家で寝ている)。ˈキューˀヤ　ˈグゥイˀヤー　ˈヌーˀシカヤー [ˈkjuːˀja ˈgwaiˀjaː ˈnuːˀʃikajaː](今日は具合＜都合＞は如何だろうかねえ)。

ˈクゥイˀシキ [ˈkwaiˀʃᵝki] 【名】会席膳の料理。一の膳、二の膳を略して一つの膳に盛るようにした簡略化した料理。八重山では大正三年頃「結婚式の料理始めて会席料理に改まる」『八重山生活誌』というから、鳩間島へは昭和期に導入されたのであろう。ムˈカˀシェー　ˈクゥイˀシキティ　ˈスームノー　ファイミランˀシェン [muˈkaˀʃeː ˈkwaiˀʃᵝkiti ˈsuːmunoː faimiraŋˀʃeŋ](昔は会席料理というものは食べたことはなかった＜食べてみなかった＞)。ˈユーチングー [ˈjuːtʃiŋguː](四つ組料理) はめったに食することはできなかった。

ˈクゥイシキˀジン [ˈkwaiʃᵝkiˀʤiŋ] 【名】会席膳。会席料理を盛り付ける膳。脚がなく、赤 (祝儀用膳)、黒 (不祝儀用膳) の塗り物と木地にニス塗りの膳があ

ったが、日常はニス塗りの膳を多用した。石垣方言からの借用語か。若年層は、˩カイシキ˥ジン [˩kaiʃi̥ki ˥ʤiŋ](会席膳) という。˩ヨイ˥ヌ　ウ˩サイ˥ヤー　˩クゎイシキ˥ジンナ　ム˩リティ˥　ン˩ザ˥シ [˩joi˥nu ʔu ˩sai˥ja: ˩kwaiʃi̥ki˥ʤinna mu˩riti˥ ʔn˩ʤa˥ʃi](お祝いのご馳走 < 御菜 > は会席膳に盛って出しなさい)。˩クゎイシキジン˥マー　˩ヌール˥ムノー　ア˩ロー˥ル˥ヤーナー　˩アッタ˥ヌ　˥チニヒージェー　ッ˩スジンバ˥ル　シゥ˩カイ　オーッ˥タ [˩kwaiʃi̥kiʤim˥ma: ˩nu:ru˥muno: ʔa˩ro:˥ru ˥ja:na: ˩ʔatta˥nu ˥ʧiniçi:ʤe: s ˩suʤimba˥ru si̥˩kai ʔo:t˥ta](会席膳は、漆塗りのものはお金持ちの家にはあったが、平生は白膳 < ニス塗りの膳 > をば < ぞ > 使っておられた)。

˩クゎイ˥シャ [˩kwai˥ʃa] 【名】会社。標準語からの借用語。老年層は˩クゎイ˥サ [˩kwai˥sa] という。イ˩サナキヌ　スイサンクゎイ˥シャーラ　˥ジン　カ˩リクー˥タツォー [ʔi˩sanakinu suisaŋkwai˥ʃa:ra ˥ʤiŋ ka˩ riku:˥tatso:](石垣の水産会社から金を借りてきたそうだ)。

ク˩ワイ˥ルン [ku˩wai˥ruŋ] 【他動】加える。加入させる。添加する。重ね添える。標準語からの借用語の転訛したもの。物の場合は˩スイルン (イ˩リルン)[˩suiruŋ(ʔi˩rirun)](加える。添える < 入れる >) を多用し、仲間に入れる場合は、˥グー　˥ナスン (˩ペーラ˥スン)[˥gu: ˥ナスン (˩pe:ra˥suŋ)](仲間にする < 組に入れる >) を多用する。ミ˩ジェー　マー˥ビン　ク˩ワイ˥リ < イ˩リリ >[mi˩ʤe: ma:˥biŋ ku˩wai ˥ri < ʔi˩riri >](水はもっと加えなさい)。

˩クゎッ˥チ [˩kwat˥ʧi] 【名】ご馳走。老年層のことば。首里方言からの借用語。若年層は、˩コッ˥チ [˩kot˥ʧi](ご馳走) ともいう。「活計 (歓楽。奢侈。贅沢) に対応する語か」『沖縄語辞典』という。˩クゎッ˥チー　タ˩ボーラリ˥タン [˩kwat˥ʧi: ta˩bo:rari˥taŋ](ご馳走様でした < ご馳走を賜りました >)。

˥クゎン [˥kwaŋ] 【名】官。役所。政府。˩クゎン˥ヌ　シ˩グトゥ [˩kwan˥nu ʃi˩gutu](役所 < 官 > の仕事)。トゥ˩シ˥バ　˥トゥリ　˩クゎン˥ヌ　˩ヤッ˥カイ　カ˩カ˥リ　˩ナー˥ヌ [tu̥˩ʃi˥ba ˥turi ˩kwan˥nu ˩jak˥kai kḁ˩ ka˥ri ˩na:˥nu](年をとって役所の世話 < 厄介に > になってしまった)。

˥クゎン [˥kwaŋ] 【助数】重さの単位。貫。千もんめ (匁)。3、75 キログラム。ク˩ヌ˥グロー　˩イッ˥クゎン　˥ニクゎンティ　˩スー˥　ムネー　シ˩キミラン˥バン˩ナー [ku˩nu˥guro: ˩ʔik˥kwan nikwanti ˩su:˥ mune: ʃi̥˩kimiram˥ban˩na:](最近は、一貫二貫という言葉は聞いたことがないねえ)。

˥グゎン [˥gwaŋ] 【名】願。祈願。若年層は、˥ガン [˥gaŋ](願。祈願) という。ク˩トゥシズーヌ　ヤーニンズー˥ヌ　˥ドゥーパダニンガイ　˩キンコーニンガイバ　カンヌ˥マイ　˥グゎン　˥タティ　˩ニン˥ガイ　ッ˩サルバ˥　シ˩キウキ˥　タ˩ブ˥ローリ [ku̥ ˩tuʃiʤu:nu ja:nindʒu:˥nu ˥du:padaniŋgai ˩kiŋko:niŋ-gaiba kannu˥mai ˥gwan ˥tḁti ˩niŋ˥gai s˩saruba˥ ʃi̥k-iuki˥ ta˩bu˥ro:ri](今年中の家族の体 < 胴肌 > の祈願、健康祈願を神様の前に願を立て、祈願申し上げますので、お聞き届け賜りますように < お聞き届け賜れ >)。

˩グゎン˥クー [˩gwaŋ˥ku:] 【名】頑固。若年層は、˩ガン˥クー [˩gaŋ˥ku:](頑固) という。˩ウン˥ネヌ　˥アブジェー　ドゥ˩ク˥ヌ　˩グゎン˥クー　ヤ˩ロー˥レーティ　ムー˩ル˥　ウ˩バイ˥カバイ　˩シェー˥ティル　˥ムネー　イ˩ゾーッ˥タ [˩ʔun˥nenu ˥ʔabuʤe: du˩ ku˥nu ˩gwaŋ˥ku: ja˩ro:˥re:ti mu:˩ru˥ ʔu˩bai˥kabai ˩ʃe: ˥tiru ˥mune: ʔi˩ʤo:t˥ta](その家のお祖父さんは、非常な頑固者であられたので、みんなびくびくされながら < ぞ > 話をなさったものだ)。

˩グゎン˥ス [˩gwan˥su] 【名】祖先。先祖。先祖の位牌。「元祖」の義。˩グゎンス˥グトゥ [˩gwansu˥gutu](先祖を祀る法事。「元祖事」の義)。˩グゎンス˥ムチ [˩gwansu˥muʧi](先祖供養をすべき位牌を継承している人)。˩グゎンスサバ˥キ [˩gwansusaba˥ki](元祖を探すこと。血筋をただして元祖を祀ること。ユ˩タ [ju˩ta] や˥サンギンソー [˥saŋginso:] などのム˩ヌ˥シリ [mu˩nu˥ʃiri]< 物知り。祈祷や占いをする人 > に依頼して先祖供養の不足を調べて補足したりした)。˥ウヤグゎンス [˥ʔujagwansu](先祖) ともいう。˩グゎン˥ス　サ˩バカ˥スンティ　イ˩サナケー　ギー˥ユ˩タ˥　シゥ˩カイクー˥タツォー [˩gwan˥su sa˩baka ˥sunti ʔi˩sanake: gi:˥ ju˩ta˥ si̥˩kaiku:˥tatso:](元祖を調べようと石垣島へ行って、ユタ < 巫女 > を訪ねて使って来たそうだ)。

˩グゎンス˥パカ [˩gwansu˥paka] 【名】元祖墓。ム˩トゥ˥パカ [mu˩tu˥paka](本墓) というのが普通。旧暦一月十六日のジ˩ル˥クニチ [ʤi˩ru˥kunitʃi](十六日祭) には親族が墓前に集まって先祖を祭る墓。ジ˩ル˥クンチェー　グ˩ソー˥ヌ　˥ソンガチティ　ア˩ザリ˥　ム˩ラズー　メーメーヌ　グァンス˥パカナー　ッ˩ふァ˥マー　ウ˩トゥザマリ˥　ア˩ツァ˥マリティ　˩ソッ˥コー　˩ソーッ˥タ [ʤi˩ru˥kuntʃe: gu˩so: ˥nu soŋgatʃiti ʔa˩ʤari˥ mu˩raʤu: me:me:nu gwansu˥

pakana: ˹fa˺ma: ʔu˹tudʑamari˺ ʔa˹tsa˺mariti ˹sok˺ko: ˹so:t˺ta](十六日祭は後生の正月と言われており、村中の人が銘銘の元祖墓に子孫、親戚一同が集まって焼香をされた)。

˹グゥン˺タティ [˹gwan˺tati] 【名】立願。発願。「願立て」の義。神仏に願をかけること。˺ソンガチ　パ˹チニガイ˺ナー　˹ヤーニンズー˺ヌ　˺ドゥーパダニガイヌ　˹グゥンタティ˺ヌ　˹ニン˺ガイ˹ソーッ˺タ [˺soŋgatʃi pa˹tʃinigai˺na: ˹ja:ninʤu:˺nu ˺du:padanigainu ˹gwantati˺nu ˹niŋ˺gai ˹so:t˺ta](正月初祈願の祭祀に家族の健康祈願＜胴肌願い＞を祈る立願の祈願をなされた)。

˹グゥン˺タン [˹gwan˺taŋ] 【名】元旦。元日。˹グゥンタン˺ヌ　シ˹トゥム˺テー　シ˹ディ˺ミジシ　ウ˹ム˺テー　ア˹ライテイル　ニントー　ソーッ˺タ [˹gwantan˺nu ʃi̥˹tumu˺te: ʃi˹di˺miʤiʃi ʔu˹mu˺te: ʔa˹raitiru ninto: so:t˺ta](元旦の朝は若水＜孵で水＞で顔を洗ってから新年の年始の挨拶＜年頭の挨拶は＞をされた)。

˹グゥン˺ニチ [˹gwan˺nitʃi] 【名】元日。歌謡語。石垣方言からの転訛。「ションガジゥヌ　シゥトゥムティ　グゥンニチゥヌ　アサパナ〜」(正月の早朝、元日の朝まだき)「鷲の鳥節」。

˹クゥン˺ニン [˹kwan˺niŋ] 【名】官人。役人。ヤ˹クバ˺ヌ　˹クゥンニン˺ヌ　˹オー˺リ　シ˹マ˺ヌ　˺クトゥシ˹ラ˺ビティ　˹カイ˺ローッタ [ja˹kuba˺nu ˹kwan-nin˺nu ˹ʔo:˺ri ʃi˹ma˺nu ˺ku̥tu ʃi˹ra˺biti ˹kai˺ro:tta](役場の役人＜官人＞がいらっしゃって、島の事を調べて帰られた)。

˹クゥン˺ヌ　˹ユー˺フル [˹kwan˺nu ˹ju:˺ɸuru] 【連】海水浴。「官の湯風呂」の義。誰でも無料で入浴できることから公共の風呂と考えたことに基づく命名であろう。ス˹ナカ˺ナー　˺オンダー　˹スームバ˺　ム˹カ˺シプソー　˹クゥン˺ヌ　˹ユー˺フル　ア˹ミン˺　パルティ　ア˹ゾーッ˺タ [su˹naka˺na: ˺ʔonda: ˹su:muba˺ mu˹ka˺ʃipuso: ˹kwan˺nu ˹ju:˺ɸuru ʔa˹mim˺ paruti ʔa˹ʤo:t˺ta](海で海水浴することを昔の人は「官の風呂に入浴し＜浴び＞に行く」といわれた)。˺オンダーヤ　˹クゥン˺ヌ　˹ユー˺フル　ヤ˹リバ˺　ター˹ン　カッティニ　ペーラ˺リン [˺ʔonda:ja ˹kwan˺nu ˹ju:˺ɸuru ja˹riba˺ ta:˹ŋ kattini pe:ra˺riŋ](海水浴は官の風呂だから、誰でも勝手に入浴できる＜入られる＞)。

˹クゥンバク [˹kwambaku] 【名】棺。棺桶。「棺箱」の義。˺アブジェー　˹クゥンバク˺ナー　ニ˹バシ　オーラ˺シ　˺シケーバ　˺ミリ　˹オーシ˺バ [˺ʔabuʤe: ˹kwambaku˺na: ni˹baʃi ʔo:ra˺ʃi ˺ʃi̥ke:ba ˺miri ˹ʔo:ʃi˺ba](お祖父さんはお棺に休ませて＜寝かせてさしあげて＞あるから、見て差し上げなさい)。˹クゥンバコー　ガンダラゴー˺ナ　イ˹リティル˺　カ˹タ˺モーッタ [˹kwambako: gandarago:˺na ʔi˹ritiru˺ kḁ˹ta˺mo:tta](棺箱はガンダラゴー＜輿＞にのせて担がれた＜舁(カ)かれた＞)。

˹グゥンプトゥ˺キ [˹gwampu̥tu˺ki] 【名】がんほどき(願解き)。老年層の言葉。若年層は˹ガンプトゥ˺キ [˹gampu̥tu˺ki] という。1一月から六月までの間に友利御嶽で祈願したことによって豊年満作と健康繁盛を迎えたことに対する神への感謝の祈願をすること。˹プール˺ヌ　˹ユードゥー˺シナーヤ　˹グゥンプトゥ˺キ　˹ソー˺リティー　˹ナーツァー˺　イェントゥシヌ　ユ˹ガフバ˺　ニガイ˹ヨー˺ルツォー [˹pu:ru˺nu ˹ju:du:˺ʃina:ja ˹gwampu̥tu˺ki ˹so:˺riti ˹na:tsa:˺ jenduʃinu ju˹gaɸuba˺ nigai˹jo:˺rutso:](豊年祭のユードゥーシ＜徹夜の祈願＞には一月から六月までの諸祈願に対するお礼の祈願をされて、翌日は来年＜新年＞の世果報＜豊年＞を祈願されるそうだ)。˹ニンガイグトゥ˺ヌ　˹グゥンプトゥ˺ケー　キ˹チゴン˺ナーティル　˹ソーッ˺タミー [˹niŋgaigutu˺nu ˹gwamputu˺ke: ki̥˹tʃigon˺na:ru ˹so:t˺tami:](祈願ごとの願解きは結願祭においてなされたのですね)。2願ほどき＜解き＞。死者が生前において神仏に祈願したことが成就していたのに、神仏へのお礼の祈願がなされていないときなどに、近親の者が代わってお礼の祈願をすること。˹ガンプトゥ˺キ [˹gamputu˺ki](願解き) と同じ。

˹クン [˹kuŋ] 【名】紺。紺色。ク˹ヌ　ヌーノー　クン˺ ＜˹クンイル˺＞ ス˹ミル˺カー　˹カイ˺ヤン　˺パジ [ku ˹nu nu:no: kun˺ ＜˹kuŋʔiru˺＞ su˹miru˺ka: ˹kai˺jam ˺paʤi](この布は紺 (紺色) に染めたら美しいはずだ)。˹クンジキン [˹kunʤikiŋ](紺地の着物)。

˹クン [˹kuŋ] 【名】こん (根)。根気。精根。元気。˺ガー [˺ga:](意志力。我慢強さ。「我」の義) ともいうのが普通。˹クン　スー˺ブ [˹kun su:˺bu](根競べ。頑張り競争＜勝負＞)。˹マー˺ムヌ　˹ファイ　クン˺ ＜クンキ˺＞　シ˹キ˺リ [˹ma:˺munu ˹fai kuŋ˺ ＜kuŋki˺＞ ʃi̥˹ki˺ri](滋養のある美味しいものを食べて根気＜根＞をつけなさい)。

˺クン [˺kuŋ] 【名】古見村。西表島東部に開けた最も古い村。「慶長検地記録」(1610 年) によると、「高　九拾八石三斗壱升三合九勺三才　鳩間村」は当

時古見間切りに属していた」『八重山の御嶽』という。˩クンノー˥ラブシ [˩kunno:˥rabuʃi](古見の浦節)は有名。パ˩トゥ˥マプソー　˥クンラーン　バ˩カ˥リ　˩オー˥レーンティ˩ダー [pḁ˩tu˥mapu̥so: ˥kunra:m ba˩ka˥ri ˩ʔo:˥re:nti˩da:](鳩間の人は古見からも分かれて来られたそうだよ)。

˩**クンイル [˩kuŋʔiru]** 【名】紺色。˩プー˥ル　˥キチゴンナー　キ˩ソー˥ル　˩カン˥プスケンヌ　˩キン˥マー　˩クンイルヌ　クンジキン˥　ヤ˩ロー˥ッ˥タ˩ナー [˩pu:˥ru ˥ki̥tʃigonna: ki̥˩so:˥ru ˩kam˥pu̥sukennu ˩kim ˥ma: ˩kuŋʔirunu kundʒikiɲ˥ ja˩ro:t˥ta˩na:](豊年祭に着られる神職者＜司、ティジリビ＞方の着物は、紺色の紺地染めでございましたねえ＜あられましたねえ＞)。ティ˩ジリ˥ビーンケーヤ　˩クンイルヌ　キン˥ル　キ˩ソー˥ッ˥タ [ti˩dʒiri˥bi:ŋke:ja ˩kuŋʔirunu kin˥ru ki̥˩so:t˥ta](ティジリビー＜男性神職者＞の方々は紺色の着物を着られた)。

˩**クンガ˥チ [˩kuŋga˥tʃi]** 【名】九月。老年層は、˩クングヮ˥チ [˩kuŋgwa˥tʃi](九月) ともいう。˩クンガ˥チシキヌ　˥タトゥカー　イ˩ガメール˥　ン˩ゾー˥ッ˥タ [˩kuŋga˥tʃiʃi̥kinu ˥tḁtuka: ʔi˩game:ru˥ ʔn˩dʒo:t˥ta](九月になる＜九月の月が立つ＞とイカ釣り漁に出られた)。

˩**グンガ˥チ [˩guŋga˥tʃi]** 【名】五月。旧暦五月十五日頃には稲の初穂祭りのス˩ク˥マ [su̥˩ku˥ma](稲の初穂祭り) が執り行われた。若年層は、グ˩カ˥チ [gu˩ga˥tʃi](五月) ともいう。˩グンガチ˥ヌ　ナ˩カ˥グルナー　ス˩ク˥マー　˩ソー˥ッ˥タ˩ナー [˩guŋgatʃi˥nu na˩ka˥guruna: su̥˩ku˥ma: ˩so:t˥ta˩na:](五月の中ごろにスクマ＜稲の初穂祭り＞は執り行われたねえ)。

˩**グンガチ˥イビ [˩guŋgatʃi˥ʔibi]** 【名】五月植え。芋を五月に植え付けたもの。老年層は、˩グングヮチ˥イビ [˩guŋgwatʃi˥ʔibi](五月植え) ともいう。˩ウン˥マー　˩グンガチイビ˥ル　˩ミーリダー [˩ʔum˥ma: ˩guŋgatʃiʔibi˥ru ˩mi:rida:](芋は五月植えがより多く稔る)。

˩**クンガ˥チクニチ [˩kuŋga˥tʃikunitʃi]** 【名】旧暦九月九日。重陽の節句。老年層は、クングヮチクニチ [˩kuŋgwa˥tʃikunitʃi](重陽の節句) ともいう。˩クンガ˥チクニチナー　˩カン˥プスンケーヤ　˥グシパナー　シ˩キティ　ニン˥ガイ　˩ソー˥ッ˥タン [˩kuŋga ˥tʃikunitʃina: ˩kam˥pu̥suŋke:ja ˥guʃipana: ʃi̥˩kiti niŋ˥gai ˩so:t˥taŋ](旧暦九月九日には、神職者＜神人＞方は神酒や花米を供えて祈願をなさった)。

˩**グンガ˥チグニチ [˩guŋga˥tʃigunitʃi]** 【名】旧暦五月五日。学校教育 (明治 29 年以降) を通して導入された端午の節句。紙で鯉幟を作って立てた。ヤ˩ラ˥ビ　˩シェーン˥ケンマー　˩グンガ˥チグニチナー　˩コイノボ˥リン　ス˩ク˥リ　タ˩トゥ˥タン˩ダー [ja˩ra˥bi ˩ʃe:ŋ˥kemma: ˩guŋga˥tʃigunitʃina: ˩koinobo˥rin su̥˩ku˥ri tḁ˩tu˥tan˩da:](子供の頃は五月五日には鯉幟も作って立てたよ)。

˩**グンガ˥チャー [˩guŋga˥tʃa:]** 【名】五月植えの芋。老年層は、˩グングヮ˥チャー [˩guŋgwa˥tʃa:](五月植えの芋) ともいう。˩グンガ˥チャー　イッ˩ケン　ミーレー˥ン [˩guŋga˥tʃa: ʔik˩kem mi:re:˥ŋ](五月植えの芋は非常に実っている)。

˩**グンガ˥チユッカ [˩guŋga˥tʃijukka]** 【名】旧暦五月四日。糸満の人たちが石垣島でハーレー (爬龍船競漕) をして豊漁祈願と健康祈願を行った。˩グンガ˥チユッカー　イ˩ツォーンプス˥ヌ　キ˩ザルル˥　ヤ˩ロー˥ッ˥タ　パ˩トゥ˥マプソー　˩ソーラン˥シェン [˩guŋga˥tʃijukka: ʔi˩tso:mpu̥su˥nu ki˩dʒaruru˥ ja˩ro:t˥ta pḁ˩tu˥mapu̥so: ˩so:raŋ˥ʃeŋ](旧暦五月四日は糸満の人の祭りでした。鳩間人は祭りをされなかった)。

˩**クン˥ガニ [˩kuŋgani]** 【名】黄金。黄金のように大切な子。ク˩ガニ [ku˩gani](黄金) ともいう。ウ˩ブ˥プス　˥タカプス　˥ナリ　˩マイフナー˥　マ˩リ˥ヨー　˩クン˥ガニッふァー [ʔu˩bu˥pu̥su ˥tḁkapu̥su ˥nari ˩maiɸuna:˥ ma˩ri˥jo: ˩kuŋ˥ganiffa:](大人になり、背の高い人に成長して、よく働く賢い人になりなさいよ。黄金の子、可愛い子よ)。

˩**クンキ [˩kuŋki]** 【名】根気。精力。気力。スタミナ。˩クンキブスク˥　ヤ˩リバ˥　イ˩ジン˥ジ　˩マー˥ムノー　ッ˩ふァイヤー˥ティ　˩クンキ˥　シ˩キ˥リ [˩kuŋkibusu̥ku˥ ja˩riba˥ ʔi˩dʒin˥dʒi ˩ma:˥muno: f˩faija: ˥ti ˩kuŋki˥ ʃi̥˩ki˥ri](根気不足だから、一所懸命に美味しいものを食べて精力＜根気＞をつけなさい)。

˩**クンキシキ˥ムヌ [˩kuŋkiʃi̥ki˥munu]** 【名】滋養食品。滋養物。スタミナ食品。「根気付け物」の義。鶏肉や鶏卵、豚肉や魚肉など。鶏肉や鶏卵、魚肉などは手っ取り早い滋養食品として病み上がりの人に供された。トゥ˩ルンコー˥マ　ア˩チ˥ビカイナ　カ˩ケー˥シティ　˩クンキシキ˥ムヌティ　˩シー˥　ッ˩ふァーソー˥ッ˥タ [tu˩ruŋko:˥ma ʔa˩tʃi˥bikaina kḁ˩ke:˥ʃi̥ti ˩kuŋkiʃi̥ki˥munuti ˩ʃi:˥ f˩fa:so:t˥ta](鶏卵を熱いお粥に掻き混ぜて滋養食品として食べさせられた＜食べさせてくださった＞)。イ˩ジン˥ジ　˩クンキシキ

ムヌ˺バ　ッ˹ふァイバル　ヤンマイ˺ヤー　˹パイ˺サ　˹ノーサ˺リ˹ダー [ʔi˹ʤin˺ʤi ˹kuŋkiʃi̥ki˺munu f˹faibaru jammai˺ja: ˹pai˺sa ˹no:sa˺ri˹da:](精一杯＜一所懸命＞滋養物を食べたほうが＜食えばぞ＞早く病気を治せるのだよ)。

˹クンキ˺　シ˹キ˺ルン **[˹kuŋki˺ ʃi̥˹ki˺ruŋ]** 【連】栄養を取って元気＜精力＞をつける。˹ヤンマイ˺ヌ　˺アトゥ　ウ˹シヌ˺　シー　˺ヌミティ　˹クンキ˺　シ˹キ˺ルンティ　˹ベー [˹jammai˺nu ˺ʔatu ʔu˹ʃinu˺ ʃi: ˺numiti ˹kuŋki˺ ʃi̥˹ki˺runti ˹be:](病気の後に牛乳＜牛の乳＞を飲んで精力＜元気＞をつけようとしている)。

˹クンキ˺　スクン **[˹kuŋki˺ su̥kuŋ]** 【連】栄養をとって精力＜元気＞がつく。パ˹ナシキ　フシゥ˺カル　˺ピンマー　ピ˹ルザキ˺ナー　˹コー˺マ　˹ピッツァ˺シ　イ˹リティ˺　カ˹ケー˺シティ　˺ヌムカー　イッ˹ケナ　クンキ˺　スクン [pa˹naʃi̥ki ɸusï̥˺karu ˺pimma: pi˹ruʤaki˺na: ˹ko:˺ma ˹pittsa˺ʃi ʔi˹riti˺ kḁ˹ke: ˺ʃi̥ti ˺numuka: ʔik˹kena kuŋki˺ su̥kuŋ](風邪を引く＜風邪が取り付く＞時は、大蒜酒に卵をつぶして入れて、掻き混ぜて飲むと非常に精力＜元気＞がつく)。˹根気が付く˺の義。栄養がついて元気になる。˹オー˺ヌ　キ˹ム˺トゥ　シ˹ビラバ˺　˹ミー˺スナ　イ˹ラ˺キティ　˹ッふー˺カー　イッ˹ケナ　クンキ˺　スクンツォー [˹ʔo:˺nu ki˹mu˺tu ʃi˹biraba mi:˺suna ʔi˹ra˺kiti ˹ffu:˺ka: ʔik˹kena kuŋki˺ su̥kuntso:](豚のレバー＜肝臓＞と韮を味噌で炒めて食べると滋養になる＜根気がつく＞そうだ)。

˹クンキダーリ **[˹kuŋkida:ri]** 【名】栄養不良。元気のないこと。根気不足。「根気倒れ」の義。˹ヤン˺ヌ　˺アトゥ　ヤ˹ルンダ　クンキダーリ˺　シ˹ティ˺　シ˹グトー˺　ノー˹ン˺　シ˹ラランバン [˹jan˺nu ˺ʔatu ja˹runda kuŋkida:ri˺ ʃi̥˹ti˺ ʃi˹guto:˺ no:˹ŋ˺ ʃi ˹rarambaŋ](病気の後だから、栄養不足で＜根気倒れして＞、仕事は何もできないよ)。

˹クンキバー **[˹kuŋkiba:]** 【名】バイラス＜ウイルス＞に罹って、芋の葉や野菜の葉がちぢれ＜縮れ＞たもの。˹クンキャー˺バー [˹kuŋkja:˺ba:] の転訛したもの。終戦後の一時期バイラスが蔓延して芋の蔓を焼却処分したことがある。「ハンセン病の葉」の義『石垣方言辞典』。˹ウンヌ˺カザー　ムー˹ル　クンキバー˺　ナリ　˹ベー˺ティ　ヤ˹キシティラン˺カー　ナ˹ラン˺シェン [˹ʔunnu˺kaʤa: mu:˹ru kuŋkiba: ˺nari ˹be:˺ti ja˹ki̥ʃi̥tiraŋ˺ka: na˹raŋʃeŋ](芋蔓はみんなバイラスに罹っているので、焼き捨てないといけなかった＜ならなかった＞)。

˹クンキブスク **[˹kuŋkibusu̥ku]** 【名】精力不足。栄養不良。「根気不足」の義。ア˹ドゥ˺ナー　ヤミ　ブ˹レー˺ンダー　˹クンキブスク˺　ナ˹リ˺スヨー [ʔa˹du˺na: ˺jami bu˹re:˺nda: ˹kuŋkibusu̥ku˺ na˹ri˺su-jo:](あんなに長期間にわたって病気して＜病んで＞いたのだから、栄養不良に＜根気不足＞になるよ)。˹ファイムヌヌ　マーダーッサー　ナー˺ン　˹ベー˺ティル　˹クンキブスク　˺ナリ　˹ベー [˹faimununu ma:da:ssa: na:˺m ˹be:˺tiru ˹kuŋkibusu̥ku ˺nari ˹be:](食べ物が立派に、きちんと摂取されてない＜食事として相応しくない＞から栄養不良になっている)。

˹クンキブラーリ **[˹kuŋkibura:ri]** 【名】不元気なこと。「根気折られ」の義か。貧血気味で根気がなく、気だるく、ふらふらするさま。ふらつく様子。めまい (眩暈) 症状をおこすこと。˹フシゥカヌ˺　アイ　ニ˹チ˺　ンジティ　˹イー˺ユン　ッ˹ふァーラムティ　クンキブラーリ　シー˺　ナ˹ラ˺ヌ [˹ɸusï̥ka˺nu ˺ʔai ni˹ʧi˺ʔnʤiti ˹ʔi:˺juŋ f˹fa:ramuti kuŋkibura:ri ʃi:˺ na˹ra˺nu](二日の間、発熱してして飯＜を＞も食べられずに、ふらふらして眩暈がしてたまらない＜仕様がない＞)。ナ˹ガヤンバ˺　シ˹ティル˺　ムヌーン　ッ˹ふァーラムティ　クンキブラーリ　シー˺　ア˹ラカラ˺ヌ [na˹gajamba˺ ʃi̥˹tiru˺ munu:ŋ f˹fa:ramuti kuŋkibura:ri ʃi:˺ ʔa˹rakara˺nu](長患い＜長病み＞をして、食事も出来ず＜ものも食べられないで＞、眩暈して歩くことが出来ない＜歩かれない＞)。

˹クンキマキ **[˹kuŋkimaki]** 【名】根気負け。根負け。ギュー˹サ˺　アジ　シゥ˹カサバン˺　シゥ˹カヌ˺　ウ˹ドーサバン˺　ウ˹ダラカ˺ヌ　ウ˹リトー　クンキマキル˺　シ˹ラリ [gju:˹sa˺ ʔaʤi si̥˹kasabaŋ˺ si̥˹kanu˺ ʔu˹do:sabaŋ˺ ʔu˹daraka˺nu ʔu˹rito: kuŋkimakiru˺ ʃi˹rari](いくら言って聞かせても聞き入れない。威しても怖がらない＜驚かない＞。こいつとは根負けしていまう＜根負けぞされる＞)。

˹クン˺キャー **[˹kuŋ˺kja:]** 【名】1ハンセン病患者。パ˹トゥ˺マナー　˹クンキャー˺ヤ　ブ˹ラーンシェン [pḁ˹tu˺mana: ˹kuŋkja:˺ja bu˹ra:ŋʃeŋ](鳩間島にはハンセン病患者はいなかった)。2他人を罵るときに使う卑語。˹クン˺キャー　˹マーシ˺ノ [˹kuŋ˺kja: ˹ma:ʃi ˺no](クンキャー猿めが)。

˹グンギン˺ドー **[˹guŋgin˺do:]** 【名】権現堂。石垣市字石垣にある桃林寺。ティ˹ラ [ti˹ra](寺) ともいう。

1614 年に創建されたという。子供が病弱の場合、桃林寺の仁王佛を拝ませると健康になるといわれていた。ヤ˹ラビ˺ヌ　˹ビョー˺ザーカー　イ˹サナケー　サーギ˺　グンギンドーヌ　ティ˹ラヌ˺　ウンプトゥキ　ウ˹ガマ˺スカー　パ˹シットゥ　スン˺ティ˹ダー [ja˹rabi˺nu ˹bjo:˺ʤa:ka: ʔi˹sanake: sa:gi˺ guŋgindo:nu ti˹ranu˺ ʔumpu̥tuki ʔu˹gama˺su̥ka: pḁ˹ʃittu sun˺ti˹da:](子供が病弱だと石垣島へ連れて行って、権現堂の寺の仁王様を拝ませるとすっきりとなり、元気になるそうだよ)。

˹グングルマー˺シェー **[˹guŋguruma:˺ʃe:]**【名】輪回し遊び。グ˹ルグルマー˺シェー [gu˹ruguruma:˺ʃe:](輪回し) ともいう。「ぐるぐる回すもの」の義。桶や樽の竹製または金属製のたが (箍) を鉤の付いた棒で押して回す遊び。ヤ˹ラ˺ビ　˹シェーン˺ケンマー　˹グングルマー˺シェー　˹シール˺　ア˹サブタル [ja˹ra˺bi ˹ʃe:ŋ˺kemma: ˹guŋguruma:˺ʃe: ˹ʃi:ru˺ ʔa˹sabutaru](子供の頃は輪回しをして遊んだものだよ)。

˹グングルマー˺スン **[˹guŋguruma:˺suŋ]**【他動】1掻き回す。かき乱す。攪乱する。「ぐるぐる回す」の義。ヤ˹ラビ˺ヌ　˹フンダイバ　シー˺　プ˹スユー˺ヌ　˺サートゥ　ウ˹リン　グングルマーサ˺リ　ニ˹バランシェン [ja˹rabi˺nu ˹ɸundaiba ʃi:˺ pu̥˹suju:˺nu ˺sa:tu ʔu˹riŋ guŋguruma:sa˺ri ni˹baraŋʃeŋ](子供がわがまま < 我儘 > し放題で、これに掻き回されて一晩中眠れなかった)。˹グングルマーシ˺　プサン [˹guŋguruma:ʃi˺pu̥saŋ](かき回したい)。˹グングルマー˺スンティ　˺ウムーカー　˹グングルマー˺シバ [˹guŋguruma:˺sunti ˺ʔumu:ka: ˹guŋguruma:˺ʃiba](掻き回すと思うなら掻き回せよ)。˹グングルマー˺スプ˹ソー　グングルマー˺セー　˺ミサムヌ [˹guŋguruma:˺su pu̥˹so: guŋguruma:˺ʃe: ˺misamunu](掻き回す人は掻き回せばよいのに)。2牛耳る。操る。˹ウシ˺トゥン　˹グングルマーサ˺レーティ　˹アー˺ク [˹ʔuʃi̥˺tuŋ ˹guŋguruma:sa˺re:ti ˹ʔa:˺ku](弟に牛耳られている)。

グン˹クロー˺マ **[guŋ˹kuro:˺ma]**【名】こもづち (薦槌)。こも (菰) を編む縄を巻きつけたおもり (錘)。直径約 4 センチ、長さ約 10 センチの円筒状木片を中央部の直径が約 2 センチになるように、両端から斜めに削って作った縄巻きの錘。菰編み機の桁の約 10 センチ間隔に刻み込んだ所に吊るし、内側、外側へと交互に送り越して編むのに用いる。ア˹ダン˺パームス　˺フム　˺ピンマー　グン˹クロー˺マ　˹カールガール　ウーカ˺シェーティル　˺フム [ʔa˹dam ˺pa:musu ˺ɸumu ˺pimma: guŋ˹kuro:˺ma ˹ka:ruga:ru ʔu:ka˺ʃe:tiru ˺ɸumu](アダン葉筵を編む時は、グンクローマ < 薦槌 > を交互に動かして編むのだ)。

˹クングゥ˺チ **[˹kuŋgwa˺ʧi]**【名】九月。˹クンガ˺チ [˹kuŋga˺ʧi](九月。< 若年層 >) ともいう。若年層は ク˹ガ˺チ [ku˹ga˺ʧi](九月) ともいう。˹クングゥ˺チナール　キ˹チゴンマー　ソーッ˺タ˹ナー [˹kuŋgwa˺ʧina:ru ki̥˹ʧigomma: so:t˺ta˹na:](九月に結願祭は行われたよねえ < なされたよねえ >)。

˹クングゥ˺チクニチ **[˹kuŋgwa˺ʧi ˺kuniʧi]**【名】旧暦の九月九日。˹ウン˺ヌ　˹ニン˺ガイ [˹ʔun˺nu ˹niŋ˺gai](甘藷の豊作祈願) と タ˹ク˺ヌ　˹ニン˺ガイ [tḁ˹ku˺nu ˹niŋ˺gai](蛸の豊漁祈願) が行われる。˹ウイヌ˺　ウガンナーティル　˹ウン˺ヌ　˹ニンガイ˺トゥ　タ˹ク˺ヌ　˹ニン˺ガイ　˹ソーッ˺タ [˹ʔuinu˺ ʔu-ganna:tiru ˹ʔun˺nu ˹niŋgai˺tu tḁ˹ku˺nu ˹niŋ˺gai ˹so:t˺ta](友利御嶽 < 上の御嶽 > において < ぞ > 甘藷の豊作祈願と蛸の豊漁祈願はなされた)。一般の家庭では花米と神酒 < 菊酒 > を床の神に供え、健康長寿と豊年豊漁を祈願して菊酒を飲んだ。

˹クンクン˺シ **[˹kuŋkuŋ˺ʃi]**【名】琉球音楽の三線演奏用の楽譜。曲譜。伝統的に「工工四」の字を当てる。キ˹チゴンヌ˺　ジーシンカー　˹クンクンシー˺バ　˺ミレーティル　˹ジーウタイ˺ヤー　˹ソーッ˺タ [ki̥˹ʧigonnu˺ ʤi:ʃiŋka: ˹kuŋkuŋʃi:˺ba ˺mire:tiru ˹ʤi:ʔutai˺ja: ˹so:tta˺ru](結願祭の地謡の仲間は工工四を見ながら地謡をなさった)。

˹グン˺ゴー **[˹guŋ˺go:]**【名】五合。一升の半分。˹タンガ˺シ　˺プスイ　˹グンゴー˺ヌ　˺イー　ッ˹ふァイシェー˺ン [˹taŋga˺ʃi ˺pu̥sui ˹guŋgo:˺nu ˺ʔi: f˹faiʃe:˺ŋ](一人で一日五合の御飯を食べることができる)。

˹グンゴーナカ˺ムル **[˹guŋgo:naka˺muru]**【名】五合枡。一升枡は、˹イッス˺サー [˹ʔissu˺sa:] という。五合枡がない時は立方体の一升枡の底の角を中心にして 45 度に傾けて量った。˹グンゴーナカムル˺ヌ　˹ナーン˺ピンマー　˹イッスサー˺バ　カ˹トンカ˺シティル　パ˹カ˺ローッタル [˹guŋgo:nakamuru ˺nu ˹na:m˺ pimma: ˹ʔissusa:˺ba kḁ˹toŋka˺ʃi̥tiru pḁ˹ka ˺ro:ttaru](五合枡が無いときは一升枡を傾けて量られたよ)。

˹グンゴー˺パナ **[˹guŋgo:˺pana]**【名】五合の花米。˺パナ [˺pana] は、パ˹ナン˺グミ [pa˹naŋ˺gumi](花米) の略。精米五合を一つの重箱に入れ、˹カン˺ビン [

˹kam˺biŋ](燗瓶) 一対の神酒と共に神前に供えるもの。˹グンゴー˺パナー　ス˹コーリ˺　シ˹キリ˺バ [˹guŋgo:˺pana: su̥˹ko:ri˺ ʃi̥˹kiri˺ba](五合の花米を準備して神前に供えなさいよ)。

˹クンザ [˹kundʑa] 【代】こいつ。こやつ (此奴)。近称卑称の代名詞。＜単数＞ク˹ヌ˺　ンザ [ku˹nu˺ ʔndʑa](この下郎 < 奴 >) の縮約融合したもの。人を軽侮したり、相手を罵倒していう語。˹クンザン˺　キ˹ニラ˺リ　シ˹ミラ˺レーラー　˺イ˹キーン　˺ヌビ　シ˹ララヌ [˹kundʑaŋ˺ ki˹nira˺ri ʃi˹mira˺re:ra:˺ ʔiki:n ˺nubi:n ʃi˹raranu](こいつにせがまれ、責め立てられたら何もできない < 息もつけない、欠伸も出来ない >堪(タマ)らない)。˹クンザヌ˺　ア˹ズ˺　ムネー　˹ピッ˺チン　˹ミーヤ　ナー˺ヌ [˹kundʑanu˺ ʔa˹dʑu ˺mune: ˹pit˺tʃim ˹mi:ja na:˺nu](此奴のいうことには一つも真実味 < 中身 > がない)。˹クンザー　イッ˹カ　ヌンガーラサ˺ヌ [˹kundʑa:˺ ʔik˹ka nuŋga:rasa ˺nu](こいつは決して許さない)。˹クンザンメー [˹kundʑamme:](こつら)< 複数 >。˹クンザヌ　シェー˺　クトー　˹ピッ˺チン　˹マーパカラーサー　ナー˺ヌ [˹kundʑanu ʃe:˺ ku̥to: ˹pit˺tʃim ˹ma:pakarasa: na: ˺nu](こいつのしたことは、一つもまとも < 正道な。真っ当な > なもなものは無い < 信用できない >)。˹クンザー　シシキ˺　トゥ˹ラ˺シ [˹kundʑa: ʃiʃi̥ki˺ tu˹ra˺ʃi](こいつめ懲らしめてやれ)。˹ウンザ [˹ʔundʑa](そいつ < 其奴 >。そやつ。その野郎)、˹カンザ [˹kandʑa](あの野郎。かやつ < 彼奴 >。あいつ。きゃつ) の対義語。ンザ [ndʑa](奴。野郎) は、人を卑しめていう語。˹クンザー˺　ユ˹ラ˺シェー　ナ˹ラ˺ヌ [˹kundʑa:˺ ju˹ra˺ʃe:](この野郎 < こいつ > は許してはならない)。

˹グンザンマヤー [˹gundʑammaja:] 【名】(幼) 恐ろしい山猫。恐ろしい西表山猫。子供が拗ねて聞き分けない時、脅かすのに用いる語。幼児は凶悪な山猫を想像し、その想像上の山猫に連れ去られるのが怖くて親の言う事を聞き分けるようになったものである。˹ウリウリ˺　ウナー　ナ˹キベーン˺ケンマー　˹グンザンマヤーヌ˺　クン˹ダー [˹ʔuriʔuri˺ ʔuna: na˹kibe:ŋ˺kemma: ˹gundʑammaja:nu˺ kun˹da:](それそれ、そこで泣いているうちにグンザンマヤー < 恐ろしい山猫 > が出てくるぞ。< 知らないよ。大変だぞ >)。

˹クンザンメー [˹kundʑamme:] 【名】こいつらめ。卑称 (複数)。˹クンザンメーヤ˺　イッ˹カ　ヌンガーラサ˺ヌ [˹kundʑamme:ja˺ ʔik˹ka nuŋga:rasa˺nu](こいつらめは決して許さない)。˹クンザンメール˺　ヤ˹ナクトー　シェー˺ナー [˹kundʑamme:ru˺ ja˹nakuto: ʃe:˺ na:](こいつらが悪事を働いた < した > のだなあ)。˹クンザンメール˺　ア˹ツァ˺マリキー　ウ˹ヤー˺リ　˹ベー˺バン [˹kundʑamme:ru˺ ʔa˹tsa˺mariki: ʔu˹ja:˺ri ˹be:˺baŋ](こいつらが集まってきて大声をだしているわい)。

˹クンジ [˹kundʑi] 【名】紺地。紺染め。˹クンジキン [˹kundʑikiŋ](紺染めの着物)。˹カン˺プスンケーヤ　˹プール˺トゥ　キ˹チゴンナー˺ヤ　˹クンジキンバル˺　キ˹ソーッ˺タ [˹kam˺pu̥suŋke:ja ˹pu:ru˺tu ki̥˹tʃigonna:˺ja ˹kundʑikimbaru˺ ki̥˹so:t˺ta](男性神職者 < ティジリビー > の方々は豊年祭と結願祭には紺染めの着物を着られた)。

˹クンジキン [˹kundʑikiŋ] 【名】紺地の着物。「紺地衣」の義。˺アッパー　バ˹カーン˺ケン　キ˹ソーッ˺タ　˹クンジキンマー˺　マ˹ナマー˺キン　アン˹ダー [˹ʔappa: ba˹ka:ŋ˺keŋ ki̥˹so:t˺ta ˹kundʑikimma:˺ ma˹na-ma:˺kiŋ ʔan˹da:](お祖母さんが着られた紺地の着物は、今まで残っている < 今まである > よ)。˹カン˺プスンケーヤ　˹クンジキンバ˺　キ˹シティル˺　ウガン　˹オーッ˺タ [˹kam˺pu̥suŋke:ja ˹kundʑikimba˺ ki̥˹ʃitiru˺ ˺ʔugaŋ ˹ʔo:t˺ta](ティジリビー < 神人 > の方々は紺地の着物を着て御嶽 < お願 > へ行かれた)。

˹グン˺ジュ [˹gun˺dʑu] 【名】五十。五十歳。˹バン˺ターン　ク˹トゥシェー　グン˺ジュー　ナルン˹ダー [˹ban˺ta:ŋ ku̥˹tuʃe: gun˺dʑu: narun˹da:](私たち < 聞き手を含まない > も今年は五十歳になるよ)。

˹グン˺ジュー　˺フダユリ [˹gun˺dʑu: ˺ɸudajuri] 【連】五十歳免税。五十歳から人頭税が免除になること。「五十札許り」の義。四十九歳が人頭税や夫役のなどの納税義務の年限で、五十歳からは「頭迦 (ずはずれ)」となって納税の義務を免除されたという。ム˹カ˺シェー　˹グン˺ジュー　˺フダユリティ　˹シー　ウイ˺プス　ナ˹ローッ˺タツォー [mu˹ka˺ʃe: ˹gun˺dʑu: ˺ɸudajuriti ˹ʃi: ʔui˺pu̥su na˹ro:t˺tatso:](昔は五十札許りといって、老人になられたそうだ)。

˹クン˺ジン [˹kun˺dʑiŋ] 【名】根神。娘が成人したら床の間に香炉を据えて拝み、嫁したらそれを婚家へ移した。˹コン˺ジン　カ˹ミ˺リ [˹kon˺dʑiŋ ka˹mi˺ri](根神を信仰しなさい)。

˹クンスーブ [˹kunsu:bu] 【名】根競べ。根気強さ競争。忍耐勝負。我慢勝負。「根勝負」の義。根気の強さを競うこと。バ˹カー˺タンケンマー　˺ユー　˹

ガー˥バ　˥タティ　ˈクンスーブ　シー˥　パˈタラクタン [baˈkaː˥takemmaː ˥juː ˈgaː˥ba ˥tạti ˈkunsuːbu ʃiː ˥ pạˈtarakutaŋ](若かった頃はよく我慢ををし、根競べして働いたものだ)。

ˈクンズミ [ˈkundzumi] 【名】紺染め。˥アッパー　ˈクンズミヌ　キンバ˥ル　ブˈドゥルキン　ソーッ˥タ [˥ʔappaː ˈkundzuminu kimba˥ru buˈdurukin soːt˥ta](お祖母さんの紺染めの着物を踊り衣装 < 踊り衣 > にされた)。

ˈクン˥ゾー [ˈkun˥dzoː] 【名】怒り。立腹すること。怒りっぽい人。「根性」の義。ˈクン˥ゾー　˥ンズン [ˈkun˥dzoː ˥ʔndzuŋ](怒る。「怒りがでる」の義)。ˈクン˥ゾー　ンˈズ˥ナ [ˈkun˥dzoː ʔnˈdzu˥na](怒るな)。ˈクン˥ゾーン　ッˈふァーリ˥　ムニ　イˈズ˥カー　ˈドゥー˥ヌ　˥スンˈダー [ˈkun˥dzoːn fˈfaːri˥ muni ʔiˈdzu˥kaː ˈduː˥nu ˥sunˈdaː](怒りに任せて < 怒りに食われて > 話したら < ものを言うと > 自分の損だよ)。ˈクンザー　サッ˥コー　ˈクン˥ゾーˈダー [ˈkundzaː sak˥koː ˈkun˥dzoːˈdaː](こいつは非常に怒りっぽい人だよ)。ˈクン˥ゾー　ンˈジラン˥　プˈソー˥　ブˈラーヌ [ˈkun˥dzoː ʔnˈʤiram˥ pụˈsoː˥ buˈraːnu](怒らない < 怒りの出ない > 人はいない)。

ˈクン˥ゾー　ウˈク˥ルン [ˈkun˥dzoː ʔuˈku˥ruŋ]【連】立腹する。怒る。「根性起こる」の義。˥サク　ウˈク˥ルン [˥sạku ʔuˈku˥ruŋ](立腹する。「癪起こる」) ともいう。˥アイニ　イˈザリ˥カー　ターˈン　クン˥ゾー　ウˈク˥ルン [˥ʔaini ʔiˈdzari˥kaː taːˈŋ kun˥dzoː ʔuˈku˥ruŋ](あんなに叱られたら誰でも立腹する)。ウˈリ˥　スˈク˥カー　ターˈン　クン˥ゾー　ウˈクリ˥スヨー [ʔuˈri˥ sụˈku˥kaː taːˈŋ kun˥dzoː ʔuˈkuri˥sujoː](それを聞いたら、誰でも立腹する < 怒る > よ)。

ˈクンゾー˥バタ [ˈkundzoː˥bata] 【名】かんしゃくもち (癇癪持ち)。怒りっぽい人。「根性腹」の義か。ウˈレー　クンゾー˥バタ　ヤˈルンダ　クン˥ゾー　ンˈザ˥シェーラ　ˈデー˥ジˈダー [ʔuˈreː kundzoː˥bata jaˈrunda kun˥dzoː ʔnˈdza˥ʃeːra ˈdeː˥ʤiˈdaː](彼は癇癪持ちだから怒らせたら大変だぞ)。

ˈクン˥ゾームチ [ˈkun˥dzoːmutʃi] 【名】癇癪持ち。怒りっぽい人。「根性持ち」の義。クˈレー　クンゾー˥ムチ　ヤˈルンダ˥　ドゥク　イˈズナ˥ヨー [ʔuˈreː kundzoː˥mutʃi jaˈrunda˥ duku ʔiˈdzuna˥joː](これ < この人 > は癇癪持ちだから、あんまり叱るなよ)。

ˈクン˥ゾー　ˈワッ˥サン [ˈkun˥dzoː ˈwas˥saŋ] 【連】怒りっぽい。性格が悪い。「根性悪い」の義。ウˈレー˥　イッˈケン　クン˥ゾー　ˈワッ˥サン [ʔuˈreː˥ ʔikˈkeŋ kun˥dzoː ˈwas˥saŋ](彼は非常に怒りっぽい)。

ˈクン˥ゾー　ンˈザ˥スン [ˈkun˥dzoː ʔnˈdza˥suŋ] 【連】怒る。怒らせる。癇癪を起こす。「根性を出す」の義。ˈクンザー˥　バー　バˈタ˥バ　˥フジ　ˈクン˥ゾーンˈザ˥ス　ˈカンガイ˥ユンˈナー [ˈkundzaː˥ baː baˈta˥ba ˥ɸuʤi ˈkun˥dzoː ʔnˈdza˥su ˈkaŋgai˥junˈnaː](こいつは、わざと私の気持ちを不愉快にさせて < 腹を扶(クジ)って > 怒らせるつもり < 心算 > だな)。

ˈクン˥ゾー　ンˈジ˥ルン [ˈkun˥dzoː ʔnˈʤi˥ruŋ]【連】怒る。腹を立てる。怒りが出る。立腹する。癇癪がでる。「根性いでる < 出でる >」の義。ウˈク˥ルンとも言う。ˈクン˥ゾー　˥ンズン [ˈkun˥dzoː ˥ʔudzuŋ](怒る。腹を立てる) ともいう。ウˈヌ˥　パˈナ˥シ　スˈク˥カー　ターˈン　クン˥ゾー　ンˈジ˥ルン [ʔuˈnu˥ paˈna˥ʃi sụˈku˥kaː taːˈŋ kun˥dzoː ʔnˈʤi˥ruŋ](その話を聞いたら誰でも怒る < 腹を立てる >)。

ˈクン˥ゾー　˥ンズン [ˈkun˥dzoː ˥ʔudzuŋ] 【連】怒る。「根性出づ」の義。˥アイブ　パˈナ˥シ　スˈク˥カー　ˈクン˥ゾー　˥ンズンダ　シゥˈカンモー˥　マˈシ [˥ʔaibu paˈna˥ʃi sụˈku˥kaː ˈkun˥dzoː ˥ʔndzunda sị˥kammoː˥ maˈʃi](あんな話を聞くと怒る < 腹が立つ > から、聞かないほうがましだ)。

ˈクン˥ダ [ˈkun˥da] 【名】こむら (腓)。こぶら。ふくらはぎ。脛の後の膨れたところ。「腓、古無良 < こむら >、脚腓也『和名抄』」の義。ˈクンダ˥ヌ　˥ヤムン [ˈkunda˥nu ˥jamuŋ](こむらが痛む)。ˈクンダアガ˥リ　シˈティ˥　ヤミ　アˈラカラ˥ヌ [ˈkundaʔaga˥ri ʃị˥ti˥ jami ʔaˈrakara˥nu](こむら返りして、痛くて歩かれ < 歩け > ない)。

ˈクンダアガ˥リ [ˈkundaʔaga˥ri] 【名】こむら返り。ふくらはぎ (脹脛) の痙攣。ˈアッ˥タニ　カˈキッツァー˥シ　˥パリパルンケンドゥ　ˈクンダアガ˥リ　ˈシー　ナー˥ヌ [ˈʔat˥tani kạˈkittsaː˥ʃi ˥paruŋkendu ˈkundaʔaga˥ri ˈʃiː naː˥nu](急に競争して走っていったところ、こむら返りをしてしまった)。

˥クンダキ [˥kundaki] 【名】山岳の名。古見岳。西表島東部にある、島で最も高い山。標高 469、5 メートル。ティˈドゥ˥クダキヌ　ˈアンタナー˥ル　˥クンダケー　˥アル [tiˈdu˥kudakinu ˈʔantanaː˥ru ˥kundakeː ˥ʔaru](ティドゥク岳の東に < ぞ > 古見岳はある)。

ˈクンダ˥ヌ　ガˈラ˥サマール [ˈkunda˥nu gaˈra˥samaːru] 【連】こむら (腓) の痙攣。ふくらはぎ (脹脛) の痙攣。ˈクンダ˥ヌ　ガˈラ˥サマール　ˈスー˥カー　アˈラカラ˥ヌ [ˈkunda˥nu gaˈra˥samaːru ˈsuː˥

ka: ʔa˹rakara˺nu](こむら＜腓＞が痙攣すると歩かれない)。

˹グンダン˺　タ˹ギラスン [˹gundan˺ ta˹girasuŋ] 【連】酒に酔ってくどくどという。くだを巻く。˹クンザヌ˺　サ˹キ˺　ヌミティ　˹ビー˺ルカー　˹グンダン˺　タ˹ギラスンダ　パー˺ク　˹ヤー˺　パ˹ラ˺シ [˹kundʑanu˺ sḁ˹ki˺ numiti ˹biː˺ruka: ˹gundan˺ ta˹gira-sunda paː˺ku ˹jaː˺ pa˹ra˺ʃi](こいつが酒を飲んで酔うとくだを巻くから、早く家に帰せ＜行かせ＞)。

˹グンダンマーレー [˹gundamma:re:] 【名】転びまわること。寝返りしながら転がること。ドゥ˹ク˺ヌ　˺アツァティ　˹グンダンマーレー　シー˺　カマンタナ　ク˹ルビ˺　ニ˹ビベー [du˹ku˺nu ˺ʔatsati ˹gundamma:re: ʃiː˺ kaman˹ta˺na: ni˹bibe:](あまりの暑さで、転びまわって、ずっとあちら側まで転んでいって寝ているよ)。

˹クン˺デー [˹kun˺de:] 【名】この前。先日。数日前。この間。以前。˹クン˺デーラ　˹ミー˺マイ　˹シン˺　パ˹ラン˺カーティ　ウムイ˹ベータン˺ドゥ　˹キーマー˺キ　˹ベー˺ティ　˹キュー˺ル　キ˹ラリ˺タ˹ユー [˹kun˺de:ra ˹miː˺mai ˹ʃim˺ pa˹raŋ˺ka:ti ˺ʔumui ˹be:tan ˺du ˹ki:maː˺ki ˹beː˺ti ˹kjuː˺ru ki˹rari˺ta˹juː](この前からお見舞いしに行かなければと思っていましたが、来かねていて、やっと今日来ることが出来ました＜今日来られました＞です)。˹クンデー˺ヌ　˺クトー　˹バシキ　ナー˺ヌ [˹kundeː˺nu ˺kṵto: ˹baʃi̥ki naː˺nu](先日のことは忘れてしまった)。˹クン˺デー　ウ˹キ˺ナーラ　ン˹マー˺ムヌヌ　ウ˹クラリ˺　ケーティル　ウ˹リバ˺　ムティ　˹クータ˺ル [˹kun˺de: ʔu˹ki˺naːra ʔm˹maː˺mununu ʔu˹kurari˺ ke:tiru ʔu˹riba˺muti ˹ku:ta˺ru](先日、沖縄から美味しいものが送られて来たので、それを持ってきたよ)。

˹クン˺ドゥ [˹kun˺du] 【名】今度。今回。このたび。˹クンドゥ˺ヌ　ウ˹キナー˺タベー　˹オーシキン　カイ˺ヤバ　˹ソーヤ　ナー˺ヌ [˹kundu˺nu ʔu˹kinaː˺tabe: ˹ʔoːʃikiŋ kai˺jaba ˹soːja naː˺nu](今度の沖縄旅行＜沖縄への旅＞は天気が良いから＜きれいだから＞心配はない)。˹クン˺ドー　˹マー˺　パ˹ル˺ワ [˹kun˺do: ˹maː˺ pa˹ru˺wa](今度は何処へ行くか)。

˹クン˺ナ [˹kun˺na] 【連体】こんな。このような。˹クン˺ナ　˺カンナヌ　˺クトゥ [˹kun˺na ˺kannanu ˺kṵtu](こんなあんなのこと)。˹ウン˺ナカンナヌ　˺クトゥ [˹ʔun˺nakannanu kṵtu](そんなこんなのこと)。˹ワータル　ムンヌ˺　ドゥクー˹ドゥク　クン˺ナ　˺クトゥバ　˹シー˺ヨー [˹waːtaru munnu˺ duku: ˹duku kun˺na ˺kṵtuba ˹ʃiː˺joː](君ともあろうものが、余りにも期待を裏切って、思慮分別もなく、こんな事をしでかすなんて、ねえ)。

˹クンニャ˺ク [˹kunɲa˺ku] 【名】こんにゃく (蒟蒻)。標準語からの借用語。ム˹カ˺シェー　˹クンニャ˺コー　˹ナーン˺シェン [mu˹ka˺ʃe: ˹konɲa˺ko: ˹naːŋ˺ʃeŋ](昔は、蒟蒻は無かった)。

˹クンノー˺ラ [˹kunnoː˺ra] 【名】古典民謡の「古見の裏節」。古典民謡の名曲˹クンノー˺ラブシ [˹kunnoː˺rabuʃi](古見の浦節) には古典舞踊の「古見の浦舞踊」が対を成していて、雅(ミヤビ)やかな宮廷舞踊の様式美が認められる。ク˹ンノー˺ラー　イッ˹ケン˺　ウ˹ムッ˺サン [˹kunnoː˺ra: ʔik˹keŋ˺ ʔu˹mus˺saŋ](古見の浦節＜踊り＞は非常に面白い)。

˺クンピピル [˺kumpipiru] 【名】黒のヒヒル (黒絹糸。「蛾、比比流」『和名抄』の転訛)。˺クンピピルバカ˹キ˺ナー　˹シー　ヤー˺バ　ス˹ク˺リ　˺アンティ　˺スー [˺kumpipiruba kḁ˹ki˺naː ˹ʃiː jaː˺ba sṵ˹ku˺ri ˺ʔanti ˺suː](黒の棕櫚縄＜絹糸＞を掛け縄にして家を造ってあるという)(アーパーレー歌)。

˹グン˺ボー [˹gum˺boː] 【名】 (植) ゴボウ (牛蒡)。石垣方言からの借用語か。鳩間島には産しない。フ˹ノー˺ラ [ɸu˹noː˺ra](船浦) や˹ウイバル [˹ʔuibaru](上原) あたりで栽培されていた。あまり食べなかった。˹グンボー˺ヤ　シ˹チ˺ビーシチビーヌ　シ˹ミ˺ムンナール　イ˹ローッタ˺ヌ　˹ナン˺ゾー　ッ˹ふァイミラン˺シェン [˹gumboː˺ja ʃi̥˹tʃi˺biːʃi̥tʃibiːnu ʃi˹mi˺munnaːru ʔi˹roːtta˺nu ˹nan˺dʑoː f˹faimiraŋ˺ʃeŋ](牛蒡は月々の祭祀行事の煮しめもの料理に入れられたが、あまり食することはなかった)。

˹グンボー˺ッふァ [˹gumboː˺ffa] 【名】混血児。妾腹の子。士族の役人と任地の平民女性＜賄い女＞との間に生まれた子。˹グン˺ボー [˹gum˺boː] ともいう。パ˹トゥ˺マナー　イ˹サナキグンボー˺　ヤ˹マシゥ˺カ　˹オー˺ルン˹ダー [pḁ˹tu˺manaː ʔi˹sanakigumboː˺ja˹masi̥˺ka ˹ʔoː˺run˹daː](鳩間島には、石垣島から着任した役人と鳩間の賄い女性との間で生まれた子供が大分＜かなり＞いらっしゃるよ)。

˺クンムラ [˺kummura] 【名】古見村。ム˹カ˺シェー　˹グイ˺フゾーノーヤ　˺クンムラナール　ン˹ザ˺ソーッタツォー [mu˹ka˺ʃe: ˹gui˺ɸudʑoːnoːja ˺kummu-ranaːru ʔn˹dʑa˺soːttatsoː](昔は御用布、上納＜上納米＞は古見村で納められたそうだ)。

˺クンリーヨイ [˺kunriːjoi] 【名】婚礼祝い。石垣方言からの借用語か。普通は˺ニービキヨイ [˺niːbikijoi](結

婚祝い) という。イ˩サナキプソー　˥ニービキヨイバ　˥クンリーヨイティル　ア˩ゾー˥ル [ʔi˩sanakipu̥-so: ˥ni:bikijoiba ˥kunri:joitiru ʔa˩ʤo:˥ru](石垣の人は結婚祝いを婚礼祝いと言われる)。

ケ

˥**ケー [keː]** 【接尾】〜達。〜方。〜等。˥ケン [˥keŋ](達、方) ともいう。人や先祖などの名詞に同格の助詞ヌ [nu](の) を介して下接する複数の接尾辞で敬意を表す。キア [kia] が融合変化してケー [keː] となったもの。鳩間方言は口蓋化しないのが普通である。従って [kia] → [kjaː] → [tʃaː] の口蓋化は起こっていない。複数の接尾辞は、1ン [ŋ]< の > を介して名詞につく。˥ウヤンケー [˥ʔujaŋkeː](親御達)。˥シザンケー [˥ʃidʑaŋkeː](年長者がた)。ビ˩キルン˥ケー [biˬkiruŋ˥keː](兄弟達)。ブ˩ナルン˥ケー [buˬnaruŋ˥keː](姉妹達)。ッ˩ふァン˥ケー [fˬfaŋkeː](子供さん達)。˩カン˥プスンケー [˩kam˥pu̥suŋkeː](神職者がた)。ウ˩ヤ˥プスンケー [ʔu˩ja˥pu̥suŋkeː](ご先祖達)。ドゥ˩シン˥ケー [du˩ʃiŋ˥keː](友人達)。2指示代名詞には、˥ケー [˥keː](〜達) の代わりに、˥ツァー [˥tsaː](〜達 < 敬意を含まない >。ター [taː]< 達。敬意を含まない >) の転訛したものがつく。˥ター [˥taː](〜達) は、上接語の語末に狭母音 [i] が立つと口蓋化して˥ツァー [˥tsaː] となる。人称代名詞の語尾が [i] 母音以外の語には、˥ター [˥taː](達) がが付く。˩クッ˥ツァー [˩kut˥tsaː](これら)、˩ウッ˥ツァー [˩ʔut˥tsaː](それら)、˩カッ˥ツァー [˩kat˥tsaː](かれら)。˩バン˥ター [˩ban˥taː](僕たち < 聞き手を含まない >)、˩ベーター [˩beːtaː](私達 < 聞き手を含む >)、˩ワター [˩wataː](君たち)、˩ターター [˩taːtaː](誰たち)。

˩**ゲーゲー˥シ [˩geːgeː˥ʃi]** 【副】ゲーゲーと。擬音語。船酔い等で、激しく嘔吐するさま。フ˩ナイ˥バ ˩シー ゲーゲー˥シ ム˩ヌ˥パキ ˩ベー [ɸuˬnai˥ba ˩ʃiː geːgeː˥ʃi muˬnu˥pḁki ˩beː](船酔いをして、ゲーゲーと嘔吐して < ものを吐いて > いる)。

˩**ケー˥サ [˩keː˥sa]** 【名】しらみ (虱) の卵。イ˩クサユー˥ヌ ˥アトー ˩ターティ ナー˥ン ガ˩マ˥ジナ ˩ケーサ˥ヌ ˥シディ ˥ッサリティ ヤ˩ニ˥ヤタン [ʔiˬkusaju:˥nu ˥ʔato:˩ta:tina:˥ŋ gaˬma˥ʤina ˩keːsa˥nu ˥ʃidi ˥ssariti jaˬni˥jataŋ](戦後は誰彼となく、皆の髪の毛に虱の卵が沢山発生 < 孵化 > して汚かった)。

˩**ゲーサウン [˩geːsauŋ]** 【自動】 1出会う。遭遇する。出くわす。˥ミチナー ˩ゲーサウン [˥mitʃinaː˩geːsauŋ](道で出会う。行き会う)。マ˩ナ˥マ ˥パルカー ˩ゲーサーヌ [maˬna˥ma ˥paruka: ˩geːsaːnu](今行ったら出くわさない)。˩ゲーサイ˥ ミサン [˩geːsai˥ misaŋ](出くわしてもいい)。˩ゲーサウ˥ クトー ˩ナー˥ヌ [˩geːsau˥ ku̥to: ˩naː˥nu](出くわすことはない)。˩ゲーサイヤー˥ ミサムヌ [˩geːsaijaː˥misamunu](出くわせばよいのに)。˩ゲーサイリ [˩geːsairi](出くわせ)。ミ˩チ˥ナー ˩ゲーサイティ サーリクー˥タ [miˬtʃi˥naː ˩geːsaiti saːrikuː˥ta](道中で出会って、連れて来た)。2擦れ違う。行き違う。イ˩サンケー˥ パル フ˩ニ˥トゥ パ˩トゥ˥マー ˥パル ˥フネー ク˩モーマン˥ トンナー ˩ゲーサウン [ʔiˬsaŋkeː˥ paru ɸu˩ni˥tu pḁ˩tu˥maː ˥paru ˥ɸuneː ku˩moːman˥ tonnaː ˩geːsauŋ](石垣へ行く船と鳩間島へ行く船は小浜島の所で行き違う)。

˩**ゲーサラカー˥サラ [˩geːsarakaː˥sara]** 【副】人がぞろぞろと歩いて行き来するさま。プ˩スヌ ゲーサラカー˥サラ ˩シェー˥ティ ˩アーク˥ヌ ˩ヌー˥バ ˥ミルンティ ˩アー˥クカヤー [pu̥˩sunu geːsarakaː˥sara ʃeː˥ti ˩ʔaːku˥nu ˩nuː˥ba ˥mirunti ˩ʔaː˥kukajaː](人がぞろぞろと歩いて行き交っているが、何を見ようとしているのだろうか)。

˩**ケージ [˩keːʤi]** 【名】 (植) 樹木の名。落葉高木。和名、マルバチシャノキ。高さ約 10 メートルに達する。葉の表面には粗毛があり、裏面には小さな固い毛 < 繊毛 > が密生しているので、床や柱などの汚れ落とすのに使用した。これで洗うとサンドペーパーをかけたようになった。ビ˩キケージ [bi˩kikeːʤi](雄株) と˩ミーケー˥ジ [˩miːkeː˥ʤi](雌株) がある。庭園樹として、˥ユージェー [˥juːʤeː](松竹家) の屋敷内に植えられていたのが一番大きかった。実はやや球形で直径約 2 センチ。黄褐色に熟した。渋みがある果肉で美味ではなかった。˩ケージ

ヤ˥　ビ˞キケージトゥ　ミーケージ˥ヌ　˞アッ˥タン　˞ケージヌ　パー˥シ　˞トゥーシ˥　ッシティ　˥ガバー　ウ˞タシ˥タ [˞keːʤija˥ bi˞kikeːʤitu miːkeːʤi˥ nu ʔat˥taŋ ˞keːʤinu paː˥ʃi ˞tuːʃi˥ ʃʃiti ˥gabaː ʔu˞taʃi̥˥ ta](マルバチシャノキには雌と雄があった。マルバチシャノキの葉で縁側の床板をこすって汚れを落とした)。ケージの葉で机の表面をこすって汚れを落としたものである。

˞ケースン [˞keːsuŋ] 【他動】消す。˥ピー　˞ケースン [˥piː ˞keːsuŋ](火を消す)。˞ピー˥ヤ　˞ケーサヌ [˞piː˥ja ˞keːsanu](火は消さない)。˞ケーシ˥　ミサン [˞keːʃi˥ misaŋ](消してもいい)。˥バー　˥ドゥーシ　˞ケースン [˥baː ˥duːʃi ˞keːsuŋ](私は自分で消す)。˞ケース˥クトー　ナ˞ラ˥ヌ [˞keːsu˥ kʉ̥toː na˞ra˥nu](消すことはいけない < ならぬ >)。˞ケーシェー˥　ミサムヌ [˞keːʃeː˥ misamunu](消せばよいのに)。ウ˞キロー˥　カ˞マチェーラ˥　ン˞ザ˥シティ　˞パー˥ク　˞ケーシ [ʔu˞kiroː˥ ka˞matʃeːra˥ ʔn˞ʤa˥ʃi̥ti ˞paː˥ku ˞keːʃi](熾は竈から出して早く消せ)。ク˞レー　ケーシヤッ˥サン [ku˞reː keːʃijas˥saŋ](これは消しやすい)。˞ケース˥　プ˞ソー　ケーシ˥バ [˞keːsu˥ pʉ̥˞soː keːʃi˥ba](消す人は消しなさい)。ウ˞キロー˥　カ˞マチェー˥ラ　カ˞キンザ˥シティ　ミ˞ジ˥　ウティティ　˞ケーシ˥ヨー [ʔu˞kiroː˥ ka˞matʃeː˥ra ka˞kiʔnʤa˥ʃi̥ti mi˞ʤi˥ ʔutiti ˞keːʃi˥joː](熾は竈から掻きだして、水を打って消しなさい)。ク˞レー　ケースナ [ku˞reː keːsuna](これは消すな)。

˞ケー˥ダ [˞keː˥da] 【固】(地)。慶田。大見謝川の西側にある˞ケーダガー˥ラ [˞keːdagaː˥ra](ケーダ川。慶田川) の流域 (北西流域) に発達した美田地帯。昔は、この辺一帯の水田は西表村の人たちの所有する水田であったという。これとウ˞タ˥ラ [ʔu˞ta˥ra](浦内川流域、浦内湾沿岸の水田地帯) にあった鳩間村の水田と交換されたという口碑がある (宮良ヲナリ氏、加治工ムヲシヤ氏、大城サカイ氏伝承)。ア˞ラブシケー [ʔa˞rabuʃi̥keː](大工家 < 東大城家 >)、˞ダイ˥ケー [˞daiˉkeː](大工家)、イ˞ラ˥ブレー [ʔi˞ra˥bureː](西原家)、パ˞ナシケー [pa˞naʃi̥keː](花城家) などの水田がある。ウ˞ブミジ˥ヌ　˞インタナー˥ル　˞ケー˥ダー　˥アル [ʔu˞bumiʤi˥nu ˞ʔintanaː˥ru ˞keː˥daː ˥ʔaru](大見謝川の西に < ぞ > ケーダはある)。

˞ケーダガー˥ラ [˞keːdagaː˥ra] 【固】ケーダ川。この辺りでは最も水量の豊かな川。ウ˞ブ˥ミジ [ʔu˞bu˥miʤi](大見謝川) と共にティ˞ドゥ˥クダキ (ティドゥク山) の北側に流出する川。ティドゥク岳やタ˞カ˥スク [ta˞ka˥sʉ̥ku] の野、ブ˞ナージマ [bu˞naːʤima] の野一帯に降る雨を集めて流れる川であるから、ウ˞ブ˥ミジ (大見謝川) の流水が枯れるような旱魃にも、この川の水は枯れないといわれている。この川の流域に発達した美田地帯が˞ケーダタバ˥ル [˞keːdataba˥ru](ケーダ田原 <˞田袋」の義か >) である。下流の両岸一帯にはア˞カ˥ズミキー [ʔa˞ka˥ʤumikiː](ひるぎ。マングローブ) が群落密生する。

˞ケーダタバ˥ル [˞keːdataba˥ru] 【固】地名。ケーダ田原 (ケーダ田袋)。˞ケーダガー˥ラ [˞keːdagaː˥ra](ケーダ川) の西側流域に発達した水田地帯。˞ダイ˥ケー [˞daiˉkeː](大工家)、ア˞ラブシケー [ʔa˞rabuʃi̥keː](東大城家 < 大工家 >)、イ˞ラ˥ブレー [ʔi˞ra˥bureː](西原家)、パ˞ナシケー [pa˞naʃi̥keː](花城家) の水田があった。˞ケーダタバ˥ロー　イッ˞ケナ　マイ　ノー˥ルン [˞keːdataba˥roː ʔik˞kena mai noː˥ruŋ](ケーダ田原 < 田袋 > は非常に稲が稔る)。

˞ゲーッケー˥シ [˞geːkkeː˥ʃi] 【副】嘔吐するさま。げえげえと。擬音語。カ˞ツシン˥ナーティ　フ˞ナイ˥バ　˞シー　ゲーッケー˥シ　ム˞ヌ˥バ　パキ　˞ベー [ka˞tsuʃin˥naːti ɸu˞nai˥ba ˞ʃiː geːkkeː˥ʃi mu˞nu˥ba ˥pḁki ˞beː](カツオ漁船で船酔いをして、げえげえと嘔吐して < ものを吐いて > いる)。

ゲーッ˞ティ [geːt˞ti] 【副】ものを吐くさま。げーっと。嘔吐するとき、喉から出る音を形容して、そのように吐くさま。(擬音語)。ムヌ˞パキッ˥ツァーカー　フ˞チンナカー　ティー˥バ　ウ˞シナキティ˥　ゲーッ˞ティ˥　パ˞キザ˥シバ [mu˞nupakit˥tsaːkaː ɸʉ̥ ˞tʃinnakaː tiː˥ba ʔu˞ʃinakiti˥ geːt˞ti˥ pa˞kiʤa˥ʃiba](むかむかして嘔吐しそうだったら、口の中に手を突っ込んで、げーっと吐き出しなさいよ)。ゲーッと。のど (喉) の鳴るさま。擬音語。満腹して胃の中のガスが口外に出るときに鳴る音。˞ンーニ˥　ス˞クン˥ケン　ッ˞ふァイティ˥　バ˞タフク˥ル　シ˞ティル˥　ゲーッ˞ティ˥　ヌドゥ　˞ナーラシ　ベー [˞ʔnːni˥ sʉ̥˞kuŋ˥keŋ f˞faiti˥ ba˞taɸʉ̥ku˥ru ʃi̥˞tiru˥ geːt˞ti˥ nudu ˞naːraʃi beː](胸につかえる < 痞える > ほど食べて、お腹が張って < 腹膨れして >、ゲーっと喉を鳴らしている)。

ケー˞ラ [keː˞ra] 【名】私たち皆。全員。すべての皆さん。皆様。丁寧は表現。人間以外には用いない。ケー˞ラネーラ [keː˞raneːra](私たち全員。「吾等全員」の丁寧な言い方) ともいう。シ˞マ˥ヌ　ケー˞ラヌ

ˌ　タˈミバˌ　ウˈムイˌル　ˈシェーˌクトゥˈユー [ʃiˈmaˌnu keːˈranuˌ taˈmibaˌ ʔuˈmuiˌru ˈʃeːˌkṵtuˈjuː](島の皆の為＜利益＞を思ってやったことでございます)。ケーˈラネーラヌˌ　ドゥーパダニンガイ　ˈシー　オースン [keːˈraneːraˌnu ˌduːpadaniŋgai ˈʃiː ʔoːsuŋ](島の皆さん＜全員＞の健康祈願をしてさしあげます)。

ˈケーˌラ [ˈkeːˌra] 【接尾】回。度。回数、度数を数える語。「ただひとかへり舞ひて入りぬるは『源氏物語(若菜)』」の転訛したもの。プˈスケーˌラ　フˈタケーラˌ　ヤˈルˌカー　ˌミサンドゥ　ˌカイニ　ギューˈムシンˌ　イˈミラˌリカー　ターˈン　クンˌゾーンˈジˌス [pṵˈsukeːˌra ɸṵˈtakeːraˌ jaˈruˌkaː ˌmisandu ˌkaini gjuːˈmuʃiŋˌ ʔiˈmiraˌrikaː taːˈŋ kunˌʤoː ʔnˈʤiˌsu](一度や二度であればよいが、このように何度もせびられると誰でも怒る＜根性が起こる＞)。ˈミーケーラ [ˈmiːkeːra](三度)。ˈユーケーラ [ˈjuːkeːra](四度)。イˈチケーˌラ [ʔiˈʧikeːˌra](五度)。ˈムーケーラ [ˈmuːkeːra](六度)。ナˈナケーˌラ [naˈnakeːˌra](7度)。ˈヤーケーラ [jaːkeːra](八度)。クˈヌケーˌラ [kuˈnukeːˌra](九度)。ˈトゥーケーラ [ˈtuːkeːra](十度)。

ゲーˈラーゲーラーˌシ [geːˈraːgeːraːˌʃi] 【副】貧相なさまで。みすぼらしい様子で。粗末に。ˈヤーˌユンゲーˈラーゲーラーˌシ　スˈクˌリ　ˌシケー [ˈjaːˌjuŋ geːˈraːgeːraːˌʃi sṵˈkuˌri ˌʃi̥keː](家もみすぼらしく作ってある)。

ˈゲーˌラーン [ˈgeːˌraːŋ] 【形】物量が少ない。幼稚である。未熟である。イˈズーンˌ　タクーン　ˈゲーˌラーンダ　バˈキララˌヌ [ʔiˈʤuːnˌ tạkuːŋ ˈgeːˌraːnda baˈkiraraˌnu](魚も蛸も少ないので分けられない)。ˌアイ　ˈスンˌケン　ˈゲーラーナーˌヌ [ˌʔai ˈsuŋˌkeŋ ˈgeːraːnaːˌnu](それほど未熟ではない)。ˌドゥク　ˈゲーラーˌヌ　バˈキララˌヌ [ˌduku ˈgeːraːˌnu baˈkiraraˌnu](あまりにも少ないので分けられない)。ˈゲーˌラー　ˌムノーラー　バˈキララˌヌ [ˈgeːˌraː ˌmunoːraː baˈkiraraˌnu](少ないものからは分けられない)。アˈミˌヌ　ˈホーˌンダル　ヤˈサイˌヌン　ガˈギリティ　ˈサッˌコー　ˈゲーˌラーツォー [ʔaˈmiˌnu ˈhoːnˌdaru jaˈsaiˌnun gaˈgiriti ˈsakˌkoː ˈgeːˌraːʦoː](雨が降らないので野菜も痩せて非常に未熟だそうだ)。

ˈケーラˌスン [ˈkeːraˌsuŋ] 【他動】ひっくり返す。転倒させる。勢いよく倒す。老年層は、ˈカイラˌスン [ˈkairaˌsuŋ](ひっくり返す) という。アˈバトゥˌカー　ˈサーˌブン　ˈケーラˌスンˈダー [ʔaˈbatuˌkaː ˈsaːˌbuŋ ˈkeːraˌsunˈdaː](あわてる＜慌てる＞と茶盆をひっくり返すよ)。ˈケーラサˌヌ [ˈkeːrasaˌnu](ひっくり返さない)。ˈケーラˌシ　ˈナーˌヌ [ˈkeːraˌʃi ˈnaːˌnu](ひっくり返してしまった)。

ケーˈラネーラ [keːˈraneːra] 【名】皆々様。ケーˈラネーラヌˌ　ニˈガイˌシキ　タˈブˌローッタ　ウˈカˌギシ　ˈウイヌ　ガッˌコーン　ˈペーラˌリ　マイˈダンˌ　フˈコーラサˌユー [keːˈraneːranuˌ niˈgaiˌʃi̥ki taˈbuˌroːtta ʔuˈkaˌgiʃi ˈʔuinu gakˌkoːm ˈpeːraˌri mai ˈdaŋˌ ɸṵˈkoːrasaˌjuː](皆々様がご祈願くださいましたお陰で上級学校に入ることが出来まして、誠に有難うございます)。

ˈケーˌルン [ˈkeːˌruŋ] 【他動】叩き切る。ぶった切る。ぶっきる。ヤˈマンガラˌシ [jaˈmaŋgaraˌʃi](山刀) やˌナタ [ˌnata](鉈) などを振り下ろして切る。ˈキーヌˌユダ　ˈケーˌリ　ウˈタˌシ [ˈkiːnuˌjuda ˈkeːˌri ʔuˈtaˌʃi](木の枝を叩き切って落とせ)。ˈケーララˌヌ [ˈkeːraraˌnu](叩き切れない)。クˈリˌシ　ˈシンˌザ　ˈケーˌルンティ　ˌウムーカー　ˈケーˌリバ [kuˈriˌʃi ˈʃinˌʤa ˈkeːˌrunti ˌʔumuːkaː ˈkeːˌriba](これで砂糖きびを叩き切ろうと思うなら叩き切れ)。ˈケーˌル　ˌムノー　ˈケーˌレー　ˌミサムヌ [ˈkeːˌru ˌmunoː ˈkeːˌreː ˌmisamunu](叩き切るものは叩き切ればよいのに)。ˈパーˌク　ˈケーˌレー　ˌミサムヌ [ˈpaːˌku ˈkeːˌreː ˌmisamunu](早くぶった切ればいいのに)。ˈケーˌリバ [ˈkeːˌriba](ぶった切れ)。

ˈケットー [ˈketto:] 【名】血統。血筋。新しく標準語から借用された語。普通はˌシジ [ˌʃiʤi](筋、血筋) という。ˈウンˌネーヤ　ディˈキヤーˌヌ　ˈケットー＜タックイ＞[ˈʔunˌneːja diˈkijaːˌnu ˈketto: ＜takkui＞](その家は秀才の血統だ)。

ˈゲˌラ [ˈgeˌra] 【終助】～さ。～よ。若年層は、ˈギャˌー [ˈgjaˌː](～さ。～よ) ともいう。いろいろな語に付く。1名詞に付く。クˈレーˌ　ヌーヤ。イˈズゲˌラ [kuˈreːˌ nuːja。ʔiˈʤugeˌra](これは何か。魚さ)。ウˈレーˌ　フニˈゲˌラ [ʔuˈreːˌ ɸuniˈgeˌra](それは舟さ)。2文末の動詞の連用形に下接する。同等又は目下に対して用いられ、軽い断定の意を、ぞんざいな感じで表現する。ˈバンˌヌン　パリˈゲˌラ＜パリˈギャˌー＞[ˈbanˌnum pariˈgeˌra ＜pariˈgjaˌː＞](私も行くさ)。ˌアツァー　カキˈゲˌラ [ˌʔatsaː kạkiˈgeˌra](明日は書くさ)。ˌドゥーシ　パˈナˌシˈゲˌラ [ˌduːʃi paˈnaˌʃiˈgeˌra](自分で話すさ)。ˌドゥーシ　タティˈゲˌラ [ˌduːʃi tạtiˈgeˌra](自分で立つさ)。シˈティシキˌルカー　シˈニゲˌラ [ʃi̥ˈtiʃi̥kiˌrukaː ʃiˈnigeˌra](放置し

ておくと死ぬさ)。˥ドゥーシ　トゥリ˞ゲ˥ラ [˥duːʃi turi˞ge˥ra](自分で取るさ)。˞タンガ˥シン　ユミ˞ゲ˥ラ [˞taŋga˥ʃiŋ jumi˞ge˥ra](一人ででも読むさ)。˥アツァン　キー˞ゲ˥ラ [˥ʔatsaŋ kiː˞ge˥ra](明日も来るさ)。ア˞ザン˥タンティン　˞シーゲ˥ラ [ʔa˞ʤan˥tantiŋ ˞ʃiːge˥ra](言わなくたってするさ)。3形容詞の連体形に付く。ク˞リル　カイ˥ヤ˞ゲ˥ラ [ku˞riru kai˥ja ˞ge˥ra](これが＜ぞ＞美しいさ)。4助動詞の連体形に付く。ウ˞レー˥　キノー　˞ワー˥　カ˞ク˥タ˞ゲ˥ラ [ʔu˞reː˥ kinoː ˞waː˥ kạ˞ku˥ta˞ge˥ra](それは昨日君が書いたさ)。

˥ケン [˥keŋ] 【名】尺貫法で、長さを表す単位。六尺 (約 1、818 メートル)。柱と柱の間。˞イッケン [˞ʔikkeŋ](一間)。˞ニッ˥ケン [˞nik˥keŋ](二間)。˥サンゲン [˥saŋgeŋ](三間)。˞ヨンケン [˞joŋkeŋ](四間)。ゴ˞ケン [go˥keŋ](五間)。˞ロッ˥ケン [˞rok˥keŋ](六間)。ナ˞ナ˥ケン [na˞na˥keŋ](七間)。˞ハッ˥ケン [˞hak˥keŋ](八間)。˞キューケン [˞kjuːkeŋ](九間)。˥ジッケン [˥ʤikkeŋ](十間)。ウ˞ブヤー˥ヤ　サンゲン˞ハン˥ナ　˞ヨンケンハンヌ　カー˥ラヤー [ʔu˞bujaː˥ja saŋgeŋ ˞han˥na ˞joŋkeŋhannu kaː˥rajaː](母屋は三間半に四間半の瓦葺家だ)。

˥ケン [˥keŋ] 【接尾】回。回数。たび。度。プ˞ス˥ケンシ　ム˞タラ˥ヌ [pụ˞su˥keŋʃi mu˞tara˥nu](一度に持てない)。フ˞タケン˥シェー　ム˞タ˥リン [ɸụ˞takeŋ˥ʃeː mu˞ta˥riŋ](二度では運べる＜持てる＞)。

˥ケン [˥keŋ] 【接尾】複数を表す。～たち。～ら＜等＞。～がた＜方＞。～˥ケー [˥keː](～たち。～がた＜方＞) ともいう。ウ˞トゥ˥ザンケンヌ　˥カナイ　˞オー˥ルン [ʔu˞tu˥ʤaŋkennu ˥kanai ˞ʔoː˥ruŋ](親戚の方々がしっかりして＜敵って＞おられる)。˥シザンケン [˥ʃiʤankeŋ](年輩方。年上の人々)。˥ウヤンケン˥ラク　シ˞ミオーラ˥シ [˥ʔujaŋken ˥raku ʃi˞mi?oːra˥ʃi](親達に楽をさせて差し上げなさい＜おわさせよ＞)。

˥-ケン [˥-keŋ] 【副助】～まで。動作動詞、状態動詞の終止形に付いて、1動作、作用が時間的、空間的に到達する点 (到達点) を表す。˥バー　˞イー˥　ッふンケン　˥マティ　˞ベー˥リ [˥baː ˞ʔiː˥ ffuŋkem ˥mati ˞beː˥ri](私が飯を食うまで待っておれ)。サ˞クラヌ˥パ˞ナ˥ヌ　˥サクンケン˞バー˥キナ　ス˞クラ˥リンパジ [sạ˞kuranu˥ pa˞na˥nu sạkuŋkem˞baː˥kina sụ˞kura ˥rimpaʤi](桜の花の咲く頃までには作られるはずだ)。キ˞ム˥ヌ　フ˞グン˥ケン　ア˞サバシティ　サーク˥タ [ki˞mu˥nu ɸu˞guŋ˥keŋ ʔa˞sabaʃị̈ti saːku˥ta](満足する＜肝が祝ぐ＞まで遊ばせて連れ帰った)。˞ウー˥ケーラ　ミ˞ジヌ˥　ア˞バッカイルン˥ケン　ミ˞ジ˥　パ˞ラ˥シ　˥シケー [˞ʔuː˥keːra mi˞ʤinu˥ ʔa˞bakkairuŋ˥kem mi˞ʤi˥ pa˞ra˥ʃi ˥ʃị̈keː](桶から水が溢れるまで水を流して＜走らせて＞おいてある)。2～の間に。～までに。ヌ˞チ˥ヌ　˥アルンケンナー　˥ヌーンクイン　˥カキ　ヌ˞カサン˥カー　ナ˞ラ˥ヌ [nu˞ʧi˥nu ˥ʔaruŋkenna: ˥nuːŋkuiŋ ˥kạki nu˞kasaŋ˥kaː na ˞ra˥nu](命がある間に何もかも書き残さないといけない)。

˥-ケン [˥-keŋ] 【接助】1～と。～すると。～とそのとき。～うちに。～あいだに。活用語の終止形に下接して、前件のある動作が起きたときに、後件の事件や動作が起きることを表す。˞ター˥ヌ　˞ミーマー˥ル　˞シン˥　パルンケン　パ˞ブン　ホー˥リ　˞ナーン˥シェン [˞taː˥nu ˞miːmaː˥ru ˞ʃim˥ paruŋkem pa˞buŋ hoː˥ri ˞naːŋ˥ʃeŋ](田圃の見回りをしに行くと＜その時に＞、ハブに咬まれてしまった)。˥ヤドゥ　ア˞キルン˥ケン　˥ウナー　プ˞スヌ˥　タティ　˞ベー˥タ [˥jadu ʔa˞kiruŋ˥keŋ ˥ʔunaː pụ˞sunu˥ tati ˞beː˥ta](戸を開けると、そこに人が立っていた)。

˞ケン˥グ [˞keŋ˥gu] 【名】踊り。狂言。˞キョン˥ギン [˞kjoŋ˥giŋ](踊り。狂言。芝居) のくだけたた言い方。˞ケン˥グ　˞シート ミー [˞keŋ˥gu ˞ʃiːト miː](踊りをしてごらん＜してみれ＞)。キ˞チゴンナー˥ヤ　ブ˞ドゥルケングン˥　ス˞クミティル　ソーッタ˥ル [ki˞ʧigonnaː ˥ja bu˞durukeŋgun˥ sụ˞kumitiru soːtta˥ru](結願祭には踊り狂言をも仕組んでなさったものだ)。

˞ケン˥ツァ [˞ken˥tsa] 【名】片足とび遊び。地面に六、七段の一定の区画図を描き、出発点から最も遠いところを天国とする。˞ゾン˥ギ [˞ʤoŋ˥gi](定規。瓦の破片でつくる円盤) を投げて一段から順次各段の区画に入れる。定規のある区画は飛び超えて天国へ行き、帰りに定規を取って出発点に戻り得点する。これを繰り返して得点を競う遊び。ヤ˞ラ˥ビ　˞シェーン˥ケンマー　˥ユー　˞ケン˥ツァー　˞シー˥　ア˞サブタン [ja˞ra˥bi ˞ʃeːŋ˥kemmaː juː ˞ken˥tsaː ˞ʃiː˥ ʔa˞sabutaŋ](子供の頃はよく片足とび遊びをして遊んだ)。

˞ケンナー [˞kennaː] 【名】間縄。稲を植え付ける最適間隔の目印を施した縄。これを田圃に張って真っ直ぐに田植えをした。˞ケンナー˥　パ˞リティ　マイ˥　イ˞ブ˥カー　バ˞カー˥ムヌンケーン　ミ˞ドゥムン˥ケーン　マッ˞シグ˥　イ˞ブ˥クトー　˞ナッ˥タン [˞kennaː˥ pa˞riti mai˥ ʔi˞bu˥kaː ba˞kaː˥muŋkeːm mi˞

dumuŋ˥keːm maʃ˩ʃigu˥ ʔi˩bu˥kṵtoː ˩nat˥taŋ](間縄を張って稲を植えると若者達も女性達も真っ直ぐに稲を植えることが出来た)。

˩ゲン˥ノー **[˩gen˥noː]** 【名】げんのう (玄翁)。金槌。鉄製の槌。道具の導入に伴い、新しく借用された語。頭部のみ鉄製で、柄は木で出来ているものもある。頭が四角錐形のものや、羽形の釘抜きになっているものもある。ウ˩ブゲン˥ノー [ʔu˩bugen˥noː](大きな玄翁)。ゲン˩ノー˥マ [gen˩noː˥ma](小さな玄翁)。˩ゲン˥ノーシ ˩フン˥ ウティ [˩gen˥noːʃi ˩ɸuŋ˥ ʔuti](玄翁で釘を打て)。

コ

「コー [ˈkoː] 【名】孝。孝行。イ「ジン˥ジ　ウ「ヤ˥ヌ　「コー　シーオーサバル　マイフナー˥　マ「リル˥ダー [ʔiˈʤin˥ʤi ʔuˈja˥nu ˈkoː ʃiː ʔoːsabaru maiɸunaːja˥ maˈriri˥daː](一所懸命親に孝を尽くし < 孝行をして差し上げ > たらばこそ立派な人になることが出来る < 生まれる。成長する > のだぞ)。

「コー [ˈkoː] 【接頭】形容詞「コー˥ン [ˈkoː˥ŋ](硬い) の語幹。接頭語。「硬い。厳しい」の意味。「こはし (強)、己波志 < こはし >『新撰字鏡』」の転訛したもの。「コー˥ムヌ [ˈkoː˥munu](硬いもの)。「コー˥ムニ　シゥ「カイベー [ˈkoː˥muni si̥ˈkaibeː](厳しい表現 < 硬い言葉 > を使っている < 喧嘩の前兆だ >)。「コー˥イー [ˈkoː˥ʔiː](強めし < 強飯 >。米の御飯)。「コーズー˥シー [ˈkoːʤuː˥ʃiː](硬い雑炊。硬いおじや)。

˥ゴー [ˈgoː] 【助数】合。容積の単位を表す。一升の 10 分の 1。イ「チン˥ゴー [ʔiˈʧiŋ˥goː](一合)。「ニン˥ゴー [ˈniŋ˥goː](二合)。「サン˥ゴー [ˈsaŋ˥goː](三合)。「シン˥ゴー [ˈʃiŋ˥goː](四合)。「グン˥ゴー [ˈguŋ˥goː](五合)。ル「クン˥ゴー [ruˈkuŋ˥goː](六合)。シ「チン˥ゴー [ʃi̥ˈʧiŋ˥goː](七合)。パ「チン˥ゴー [paˈʧiŋ˥goː](八合)。「クン˥ゴー [ˈkuŋ˥goː](九合)。「イッ˥スー [ˈʔis˥suː](一升) と数える。

「コー˥イー [ˈkoː˥ʔiː] 【名】おこわ。こわいい (強飯)。硬めに炊いた米飯。「強飯、コハイヒ、飯字亦作餅」『色葉字類抄』。「強飯、コワイイ、或云赤飯 < せきはん >」『文明本節用集』。「Couaiiy. コワイイ (強い飯)→　Xeqifan.couaiiy. セキハン、または、コワイイィ (赤飯。または、強い飯) 熱湯の湯気で蒸した糯米 (もちごめ) の飯」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ピ「サシ˥イー [pi̥ˈsaʃi˥ʔiː](硬めに炊いた米飯。「水分を干させた飯」の義。通常の米飯ともいう)。「マイヌ　コーイー˥ヤー　マ「ルケーティナー˥ル　バ「カソーッ˥タ [ˈmainu koːʔiː˥ja maˈrukeːtinaː˥ru baˈkasoːt˥ta](お米のご飯 (強飯) はたま < 偶 > に < ぞ > 炊かれた)。ヤ「ミプスン˥マー　「コー˥イーラン　「カイ˥　ッ「ふァースル˥　マ「シトダー [jaˈmipusum˥maː ˈkoː˥ʔiːraŋ ˈkai˥ fˈfaːsuru˥ maˈʃiトdaː](病人にはご飯 < 強飯 > よりもお粥を食べさせるのがよい)。

「コー˥ガー [ˈkoː˥gaː] 【名】疲労困憊して、眼の隈(クマ)ができ、力がなくぼんやりしていること。ブ「ガ˥リティ　「ミーコー˥ガー　ナリ「ベー [buˈga˥riti ˈmiːkoː˥ga: nariˈbeː](疲れ果てて、眼の隈ができてぼんやりしている)。

「コーガー˥キ [ˈkoːgaː˥ki] 【名】頬被り。覆面。「顔掛け」の義。タオルで頬被りすること。「ソーラン˥ヌ　「アン˥ガマ　˥カブ　˥ピンマー　ウ「スッ˥ふァイシ　「コーガー˥ケー　「シェー˥ティル　「ソーッ˥タ [ˈsoːran˥nu ˈʔaŋ˥gama ˥kabu ˥pimmaː ʔuˈsuf˥faiʃi ˈkoːgaː˥keː ˈʃeː˥tiru ˈsoːt˥ta](お盆のアンガマ踊りをする < アンガマを被る > ときは風呂敷で頬被りをしてなさった)。

「コーカイ˥シン [ˈkoːkai˥ʃiŋ] 【名】定期船。運搬船。「航海船」の転訛したもの。「コーカイシン˥マー < ˈウンパンシン˥マー >　「フシゥカゴーシ˥シル˥クー [ˈkoːkaiʃim˥maː < ˈʔumpaŋʃim˥maː > ˈɸusi̥kagoːʃi˥ʃiru ˥kuː](定期船は二日おきにしか来ない < 二日おきにぞ来る >)。

「ゴー˥カジ [ˈgoː˥kaʤi] 【名】種々。数々。色々。ありったけ。シ「ナムヌヌ　ゴー˥カジ　˥ヌーンクイン　ス「ルイ˥ブ [ʃiˈnamununu goː˥kaʤi ˥nuːŋkuiŋ suˈrui˥bu](品物のありったけ < 数々 >、あらゆる物が揃っている)。「カーシムヌヌ˥　シ「ナカジ　ゴー˥カジ　カ「ザラリ　ベー [ˈkaːʃimununu˥ ʃiˈnakaʤi goːka˥ʤi kaˈʤarari beː](売り物 < 商品 > のあらゆる種類を取り揃えて並べられて < 飾られて > いる)。「ゴーグチ˥ヌ　「ゴー˥カジ [ˈgoːguʧi˥nu ˈgoːka˥ʤi](罵詈雑言のありったけ)。

「コー˥キー [ˈkoː˥kiː] 【名】硬い木。木質の硬い木。「コーキーヌ˥ル　ブ「リ˥ル　「ヤー˥ラー　˥キーヤ　ブ「リラ˥ヌ [ˈkoːkiːnu˥ru buˈri˥ru ˈjaː˥raː ˥kiːja buˈrira˥nu](硬い木が折れる < 折れやすい >。軟らかい木

は折れない＜健康に自信のある人が病に倒れやすい。一病息災＞。諺)。

˹コー˺グ [˹koː˺gu] 【名】腰の曲がった者。背骨が弓状に湾曲すること。その病気。˹コー˺グ　マ˹ガルン [˹koː˺gu ma˹garuŋ](背骨が湾曲する)。˺トゥシ　˹トゥッ˺ター　˹コー˺グ　マ˹ガリティ˺　ア˹ラキユーサ˺ヌ [˺tuʃi ˹tut˺taː ˹koː˺gu ma˹gariti˺ ʔa˹rakijuːsa˺nu](年をとったので背骨が曲がって歩けない＜歩きえない＞)。

˹ゴーグ˺チ [˹goːgu˺ʧi] 【名】罵詈雑言。強い苦情。盛んに悪口を言うこと。不平不満の悪口。強く反抗すること。「こわぐち (強口)」の義。ウ˹リン　ゴーグ˺チ　サ˹リ˺カー　ナ˹クラーン˺ダー [ʔu˹riŋ goːgu˺ʧi sa˹ri˺ka: na˹kuraːn˺daː](この人に罵詈雑言をいわれたら怖いよ)。

˹コーコー [˹koːkoː] 【名】孝行。ウ˹ヤ˺ヌ　˹コーコーヤ˺　ッ˹ふァヌ˺　ス˹クブン [ʔu˹ja˺nu ˹koːkoːja˺ f˹fanu˺ sʉ˹kubuŋ](親の孝行は子供の義務＜職分＞だ)。

˹ゴーゴー [˹goːgoː] 【副】ぐうぐう。ぐっすり眠るさま。いびき (鼾) をかいて眠るさま。˹ゴーゴー˺シ　ニ˹ビ　ターリベー [˹goːgoː˺ʃi ni˹bi taːribeː](ぐうぐうと寝入っている。熟睡している)。˹ゴーゴー˺シ　パ˹ナ˺フキ　ニ˹ビベー [˹goːgoː˺ʃi pa˹na˺ɸʉki ni ˹bibeː](ぐうぐう鼾(イビキ)をかいて眠っている)。

˹コーコー˺シ [˹koːkoː˺ʃi] 【副】硬く。硬めに。形容詞˹コー˺ン [˹koː˺ŋ](硬い。「磽、己波志＜こはし＞」『新饌字鏡』からの転訛) の語幹重複形 (畳語) に格助詞シ [ʃi](～と) が付いて状態や様子を表す副詞。˹イー˺ヤ　˹コーコー˺シ　バ˹カシ [˹ʔiː˺ja ˹koːkoː˺ʃi](御飯は硬めに＜強強と＞)。

˹ゴーゴー˺シ [˹goːgoː˺ʃi] 【副】ぐうぐうと。老年層は˹ゴールゴール˺シ [˹goːrugoːru˺ʃi](こおろこおろと。ぐうぐうと) という。˹ゴーゴー˺シ　パ˹ナ˺フキ　ニ˹ビ　ベー [˹goːgoː˺ʃi pa˹na˺ɸʉki ni˹bi beː](ぐうぐうと鼾(イビキ)をかいて眠っている)。˹ゴールゴール˺シ　パ˹ナ˺フキ　ニ˹ビ　ベー [˹goːrugoːru˺ʃi pa˹na˺ɸʉki ni˹bi beː](こおろこおろといびき＜鼾＞をかいて寝ている)。

˹ゴー˺サ [˹goː˺sa] 【名】かいせん (疥癬)。伝染性皮膚病の一種。˹ゴー˺サー　˺カキティ　˹ビーヨー˺ヌ　ナ˹ラン˺ツォー [˹goː˺saː ˺kakiti ˹biːjoː˺nu na˹ran˺tsoː](疥癬にかかって痒(カユ)くてたまらないそうだ)。

˹コー˺サー [˹koː˺saː] 【名】拳骨。握り拳で打つこと。˹コー˺サー　ッ˹ふァースン [˹koː˺saː f˹faːsuŋ](拳骨を食らわす)。ウ˹ヤ˺ヌ　˺ムニ　シゥ˹カンモー　コー˺サー　ッ˹ふァーシ [ʔu˹ja˺nu ˺muni sʉ˹kammoː koː˺saː f˹faːʃi](親の言うことを聞かない奴は拳骨を食らわせ)。

˹コー˺サー [˹koː˺saː] 【名】 (動) 魚の名。和名、タカサゴ (体長約 25 センチ)。グ˹ル˺クン [gu˹ru˺kuŋ] の仲間。グ˹ル˺クンは沖縄方言からの借用語。˹コー˺サーグルクンともいう。

˹ゴーサゴーサ [˹goːsagoːsa] 【副】 1がさがさ。ごうしごうし。物を引きずるさま。擬音語。脚を引きずるさま。˹ヌー˺バ　˺アイニ　˹ゴーサゴーサ˺シ　˹サンゲー˺ティ　˹アーク˺ワ [˹nuː˺ba ˺ʔaini ˹goːsagoːsa ˺ʃi ˹saŋgeː˺ti ˹ʔaːku˺wa](何をそんなにごうしごうしと引きずっているのか)。2ごしごしと。勢いよく体を洗ったり、物を洗ったりするさま。ユ˹グリ　ブン˺トンマー　˹ゴーサゴーサ˺　トゥ˹イットー˺シ　ア˹ライ˺バ [ju˹guri bun˺tomma: ˹goːsagoːsa˺ tu˹ittoː ˺ʃi ʔa˹rai˺ba](汚れているところは、ごしごしと研ぎ洗いしなさい)。タ˹ワ˺シシ　˹ゴーサゴーサ˺シ　˺ナビ　ア˹ライベー [ta˹wa˺ʃiʃi ˹goːsagoːsa˺ʃi ˺nabi ʔa˹rai beː](たわし＜束子＞でごしごしと鍋を洗っている)。ミ˹ドゥムンケー˺ヤ　˹シーゾー˺ヤーナーティ　カ˹ツピギシー˺グシ　˹ゴーサゴーサ˺　キ˹モーッ˺サ　カ˹ツ˺　ピ˹ゴーッ˺タン [mi˹dumuŋkeː˺ja ˹ʃiːʤoː˺ja:na:ti ka˹tsupigiʃiː˺guʃi ˹goːsagoːsa˺ ki˹moːs˺sa ka˹tsu˺ pi˹goːt˺taŋ](女性たちは製造屋で、鰹節削り小刀でゴーサゴーサと気持ちよさそうに鰹節を削られた＜へぐ。剥がれた＞)。

˹ゴー˺サ　˹スン [˹goː˺sa ˹suŋ] 【連】恐れ入る。畏まる。畏れ多く思う。ブ˹リー˺ヌ　ク˹トゥ˺バ　シ˹ティ　ゴー˺サ　˹シー˺　ク˹トゥ˺ワキ　˹シーンツァン˺　パ˹リユーサント˺ツォー [bu˹riː˺nu kʉ˹tu˺ba ʃʉ˹ti goː˺sa ˹ʃiː˺ kʉ˹tu˺waki ˹ʃiːntsam˺ pa˹rijuːsan˺tsoː](無礼なことをして、恐れ多くて、お侘びしにすら行けないんですよ＜行き得ないのですよ＞)。

˹ゴー˺サビナサ [˹goː˺sabinasa] 【名】恐れ多いこと。畏まるべきこと。畳語。˹ドゥー˺ヌ　タキン　ッ˹サヌ　ゴー˺サビナサティ　ア˹ズムヌン˺　ッ˹サムティ˺　ノー˹ンティン˺　ム˹ニ˺バ　イ˹ジ　アー˺ク˹ツォー [˹duː˺nu tʉkin s˹sanu goː˺sabinasati ʔa˹ʤumunun˺ s˹samuti˺ noː˹ntim˺ mu˹ni˺ba ʔi˹dʒi ʔaː˺ku˹tsoː](自分の身の丈も知らない、恐れ慎むべきことも知らないで、何とでもものを言っているよ＜言ってあるくよ＞)。

˹ゴーサラゴー˺サラ [˹goːsagoː˺sara] 【副】がさごそと。ぞろぞろと。蟹や亀、ヤドカリなどが列を作

って這いずりまわるさま。˺マコヤヌ　アˡダンブラ˺ヌ　˺ミー　ˡゴーサラゴー˺サラ　ˡペー˺リ　ˡパッ˺タヤー [˺makojanu ʔaˡdambura˺nu ˺miː ˡgoːsarago˺sara ˡpeː˺ri ˡpat˺tajaː](ヤシガニががさごそと＜ぞろぞろと＞アダン林の中へ入って行ったよ)。

˹ゴー˺サン [ˡgoː˺saŋ] 【形】畏れ多い。相手に対して己はけがらわしい＜汚らわしい＞。神様のような崇高な、高貴なものに対して自分は礼を失し畏れ多い。近寄ることの出来ない汚(ケガ)らわしい存在で、勿体ないの意。ˡゴー˺サビナサ [ˡgoː˺sabinasa](畏れ多く、近寄りがたい。己が汚らわしい) のように畳語化して用いられる。ˡソー˺ランシケー　ˡゴーサ˺ヌ　カˡミグ˺トー　パˡナサラ˺ヌ [ˡsoː˺raŋʃi̥ke: ˡgoːsa˺nu kaˡmigu˺to: paˡnasara˺nu](お盆の月は汚らわしく、畏れ多くて神事に関することは話せない)。ˡカンヌマイ˺ヤー　イッˡケナ　ゴー˺サ　ˡシー　アー˺キˡヨー [ˡkannumai˺ja ʔiˡkena goː˺sa ˡʃiː ʔaː˺kiˡjoː](神様の前は大変に恐れ畏まって、慎んで行動しなさいよ＜恐れ多くしてあるけよ＞)。˺カイブ　˺クトゥˡバー˺ケー　ˡゴーサ˺ヌ　タˡナマラ˺ヌ [ˡkaibu ku̥tu ˡbaː˺keː ˡgoːsa˺nu taˡnamara˺nu](こんなことまでは恐れ多くて頼めない＜頼まれない＞)。大変有り難くもったいない。敬いつつしむさま。ˡゴーサ˺ヌ　ˡカンヌ˺マイ　ンˡジララ˺ヌ [ˡgoːsa˺nu ˡkannu˺mai ʔnˡʤirara˺nu](畏れ多くて神様の御前に出られない)。ˡゴー˺サンティ　ウˡムイ˺ブンドゥ　ˡニン˺ガイ　ッˡサリルン˺ユー [ˡgoː˺santi ʔuˡmui˺bundu ˡniŋ˺gai sˡsariruŋ˺juː](畏れ多いとは思っていますが祈願致＜お祈り申し上げます＞します)。

˹コー˺シ [ˡkoː˺ʃi] 【名】菓子。[kwaʃi]　→　[kuaʃi]　→　[koːʃi]　と音韻変化して形成された語。アˡミダマ [ʔaˡmidama](飴玉)、ˡシン˺ビーコーシ [ˡʃim˺biːkoːʃi](煎餅) は新しく借用された語。アˡラシコーシ [ʔaˡraʃikoːʃi](甑で蒸し上げた菓子)、パˡツァˡグミ [pḁˡtsa˺gumi](おこし。糯米を蒸し、乾して炒り、砂糖を加えて四角に固めた菓子)、ˡクーガー˺シ [ˡkuːgaː˺ʃi](お盆の時に仏前に供える菓子) などは石垣島から購入してきた。ˡコー˺シ　ˡカイ˺クー [ˡkoː˺ʃi ˡkai˺kuː](菓子を買ってこい)。ˡコー˺シ　˺ミルカー　ˡッふァイプサ˺ヌ　フˡチジル˺　ン˺ジ˺スバン [ˡkoː˺ʃi ˺miruka: fˡfaːipu̥sa˺nu fu̥ˡtʃiʤiru˺ ʔnˡʤi ˺subaŋ](お菓子を見ると食べたくて、涎＜口汁＞が出てくるわい)。「Quaxi. クヮシ (菓子) 果実. 特に食後の果物をいう」『邦訳日葡辞書』とある。ˡ中世まではおもに果実を用いたのでいう。近世では、米・小麦の粉・餅などに、砂糖・　餡などを加えた食品をもいった」『岩波古語辞典』。従って、[kwasi]　→　[kuasi]　→　[koːsi]　→　[koːʃi]　のように音韻変化したものであろう。ˡコー˺シ　ッˡふァーソー˺リ [ˡkoː˺ʃi fˡfaːso˺ri](お菓子をください＜菓子を食べさせてください＞)。

˹コー˺シ [ˡkoː˺ʃi] 【名】格子。格子戸。ウˡラッチ˺ヌ　˺タンコーナー　ˡコー˺シマドゥヌ　˺ヤーン　ˡアッ˺タン [ʔuˡrattʃi˺nu ˺taŋkoːna: ˡkoː˺ʃimadunu ˺jaːŋ ˡʔat˺taŋ](浦内の炭鉱には格子戸の家もあった)。

˹コージ [ˡkoːʤi] 【名】麹。味噌や醤油を造る際に、米や麦を煮て˺ムス [ˡmusu](筵) に広げ、麹の種を蒔いてねかせ、黴を密生させたもの。繁殖した黴の種類によって、ッˡふ˺パナ [fˡfu˺pana](黒黴)、ˡキンパナ [ˡkimpana](黄黴) などといわれた。ˡコージ˺　タティティ　ˡミー˺ス　スˡクˡラˡナー [ˡkoːʤi˺ tḁtiti ˡmiː˺su su̥ˡku˺raˡnaː](麹をたてて味噌を造ろうね)。

˹ゴー˺シ [ˡgoː˺ʃi] 【接尾】～おき (置き)。数量を表す語に下接して、その数量ずつの間隔をおく意を表す。標準語の「～ごし (越し)」が上接語の数量の間中続いてきたことを表すのに対し、鳩間方言は、「その数量ずつの間隔を置く」の意である。プˡスインゴー˺シ　アˡミ˺ヌ　˺フーン [pu̥ˡsuiŋgoː˺ʃi ʔaˡmi˺nu ˺ɸuːŋ](一日置きに雨が降る)/ミルクユヌ　シルシ　トゥカグシヌ　ユアミ　カキブサイミソリシマヌアルジ　シマヌアルジ/(弥勒世果報の徴候は十日置きに降る夜雨である。雨を降らせて＜掛けさせて。あびせて。撒き注いで＞下さい、島の主さま＜神様＞)「ミルクうた (弥勒節)」『鳩間島古典民謡古謡集』。

˹コー˺シアヤ [ˡkoː˺ʃiʔaja] 【名】格子模様。ˡコー˺シアヤヌ　˺キン　キˡシティ˺　イッˡケナ˺　ピˡラ˺ケーンギサン [ˡkoː˺ʃiʔajanu ˺kiŋ kj̥ˡʃiti˺ ʔikˡkena˺ piˡra˺keːŋgisaŋ](格子模様の着物を着て非常に涼しそうだ)。

コーˡシェー˺マ [koːˡʃeː˺ma] 【名】小さな菓子。ちょっとした菓子。マ [ma] は接尾指小辞。マˡルケーティナー˺ル　˺クームヌ　コーˡシェー˺マーンツァン　ˡカイ˺　キー　ッˡふァーシ˺バ [maˡrukeːtinaː˺ru ˺kuːmunu koːˡʃeː˺maːntsaŋ ˡkai˺ ki: fˡfaːʃi˺ba](稀にしか来ない＜偶に来る＞んだもの、お菓子でも買って来て食べさせなさいよ)。

˹コージカザ [ˡkoːʤikaʤa] 【名】かび臭い匂い。クˡヌ˺　ウゾー　ˡコージカザヌ˺　ッˡサー˺ヌ　˺ティダナ　プˡサン˺カー　カˡバラ˺ヌ [kuˡnu˺ ʔuʤoː

˹koːʤikaʤanu˺ s˹saː˺nu ˺tidana pu̥˹saŋ˺kaː ka˹bara˺nu](この布団はかび臭くて、太陽に干さないと掛け＜被せ＞られない)。

˹ゴーシゴーシ [˹goːʃigoːʃi] 【副】鋸を引いて物を切るさま。また、その音。ヌ˹キ˺ルシ　˹ゴーシゴーシ˺　タ˹ム˺ヌ　˺バキ　˹ベー [nu˹ki˺ruʃi ˹goːʃigoːʃi˺ ta˹mu˺nu ˺baki ˹beː](鋸でゴーシゴーシと薪を＜一定の長さに＞切っている)。

˹コー˺シザラ [˹koː˺ʃiʤara] 【名】菓子皿。菓子を盛る蓋付きの漆器。˹コー˺シザラナ　˹コー˺シ　イ˹リティ˺　ムティ˺クーバ [˹koː˺ʃiʤarana ˹koː˺ʃi ʔi˹riti˺ muti ˺kuːba](菓子皿に菓子を入れて持ってきなさいよ)。

˹コー˺シシンザ [˹koː˺ʃiʃinʤa] 【名】砂糖きびの一種。「菓子砂糖黍」の義。黍の表皮は紫色で硬い。糖度が高くて美味しい砂糖きびである。˹コー˺シシンザー　˹カー˺ヤ　˹コー˺ンドゥ　イッ˹ケナ˺　ア˹ジマー˺ン [˹koː˺ʃiʃinʤaː ˹kaː˺ja ˹koː˺ndu ʔik˹kena˺ ʔa˹ʤimaː˺ŋ](菓子砂糖黍は、表皮は硬いが非常に甘い)。

˹ゴーシターン [˹goːʃitaːŋ] 【感】船を後退させよ。英語の、go astern の訛ったもの。海軍を退役し人が流行らせたという。今では本来の鳩間島方言と思われている。˹ゴーシターン　ゴーシターン [˹goːʃi̥taːŋ goːʃi̥taːŋ](後退、後退)。˺フネー　˹ゴーシターン˺　シ˹ミリ [˺ɸuneː ˹goːʃi̥taːŋ˺ ʃi˹miri](船は後退させなさい)。

˹ゴーシタン [˹goːʃitaŋ] 【名】後進せよ。船を後進させること。英語 (go astern) からの借用語。大正の中期に帝国海軍を除隊した通事家の先祖が海軍航海用語を流行させたという伝承 (加治工伊佐) がある。同氏は 1,2 年の兵役で「鳩間方言は全部忘れた」と公言するほどの徹底ぶりだったという。大正末期から昭和初期にかけて鰹漁業の発動汽船が導入されるようになり、操船用語が海軍より伝播したという。˹ゴーヘー [˹goːheː](前進せよ。＜英語の go ahead より)、˹アン˺カー [˹ʔaŋ˺kaː](錨。＜英語の anchor より)、˹デッコー [˹dekkoː](投錨せよ＜英語の let go より)、ソ˹ロー [so˹roː](微速前進＜英語の slow より)、˹フルゴーヘー [˹ɸurugoːheː](全速前進＜英語の full go ahead より)、˹ホイル [˹hoiru](焼玉エンジンの車輪＜英語の wheel より)、˺ペラ [˹pera](推進器。プロペラ。＜英語の propeller より)、ブ˹リッ˺ジ [bu˹rid˺ʤi](船室＜英語の bridge より)、˹ディッ˺キ [˹dik˺ki](船の甲板＜英語の deck より) 等がある。

ゴーシ˹ティ [goːʃi̥˹ti] 【副】ごそっと。ことごとく。一時に大量の物が音を立てて崩壊するさま。˹サンガラ˺ヌ　ゴーシ˹ティ　˹クー˺リ　˹パッ˺タ [˹saŋgara ˺nu goːʃi̥˹ti kuː˺ri ˹pat˺ta](崖がごそっと崩れていった)。

˹コーシトゥ˺ナイ [˹koːʃi̥tu˺nai] 【名】かたねり (固練り)。粘土や漆喰等を搗いて固めに捏ねること。シ˹トゥ˺ナウン [ʃi̥˹tu˺nauŋ](敲(タタ)く。敲いて捏ねる) の連用形に接頭語の˹コー [˹koː](固。「強＜コハシ＞」の語幹) が付いて形成された合成語。˹ワー˺　ミツァー　˹コーシトゥ˺ナイ　サ˹リブーバ˺　ミ˹ジェー˺　イ˹リティ　ヤーラシトゥナイ　シー˺バ [˹waː˺ mitsaː ˹koːʃitu˺nai sa˹ribuːba˺ mi˹ʤeː˺ ʔi˹riti jaːraʃi-tunai ʃiː˺ba](君の粘土は固練りされているから、水を加えて柔らか練りしなさいよ)。

˹コージ˺　ニ˹バスン [˹koːʤi˺ ni˹basuŋ] 【連】こうじ (麹) をねかせる。ユ˹コー˺ナ　˹コージ˺　ニ˹バシ˺　シケーン [ju˹koː˺na ˹koːʤi˺ ni˹baʃi˺ ʃi̥keːŋ](裏座に麹をねかせておいてある)。˹コージ˺　ニ˹バスンティ˺　シゥ˹コーリ　ベー [˹koːʤi˺ ni˹basunti˺ su̥˹koːri beː](麹をたてよう＜ねかせようと＞準備している)。

˹コージヌ˺　パナ [˹koːʤinu˺ pana] 【連】麹の黴。こうじかび (麹黴)。˹コージヌ˺　パナ　タ˹ティ˺ルン [˹koːʤinu˺ pana tḁ˹ti˺runŋ](麹の黴を発生させる)。˹コージヌ˺　パナ　イッ˹ケナ　カイ˺ヤ　マ˹レー˺ン [˹koːʤinu˺ pana ʔik˹kena kai˺ja ma˹reːŋ](麹の黴が大変みごとに＜きれいに生まれた＞発生した)。

˹コー˺シヤー [˹koː˺ʃijaː] 【名】菓子店。「菓子屋」の義。イ˹サナキヌ　コー˺シヤーナー　マ˹ダ˺　ミリ　ミ˹ラ˺ヌ　ミ˹ジ˺ラサ　˺コーシヌ　˹カーサリ˺　ブ˹タン˺ダー [ʔi˹sanakinu koː˺ʃijaːnaː ma˹da˺ miri mi˹ra˺nu mi˹ʤira˺sa ˺koːʃinu ˹kaːsari˺ bu˹tan˺daː](石垣の菓子店に、まだ見たことのない珍しい菓子が売られていたよ)。イ˹サンケーナー˺ル　˹コー˺シヤーヤ　˹アッタ˺ル　パ˹トゥ˺マナー　˹ナーン˺シェン [ʔi˹saŋkeːna˺ru ˹koː˺ʃijaːja ˹ʔatta˺ru pḁ˹tu˺manaːja ˹naːŋ˺ʃeŋ](石垣島に＜ぞ＞菓子屋はあったのだ。鳩間島にはなかった)。

˹コー˺シンガナシ [˹koː˺ʃiŋganaʃi] 【固】孔子様。˺ガナシ [˺ganaʃi](様。「加那志」と表記される。「愛し」の転訛)。「妻子見波　可奈之久米具之＜かなしくめぐし＞『万葉集　4106』」の義から、派生した＜敬愛する人、～様＞の敬称接尾辞。˺アブジェー　˺ユー　˹コー˺シンガナシ　˹モー˺シンガナシヌ

パ˹ナ˺シ　˹シー˺　シ˹カソーッ˺タン [˺ʔabuʤeː ˺juː ˹koː˺ʃiŋganaʃi ˹moː˺ʃiŋganaʃinu pa˹na˺ʃi ˹ʃiː˺ si̥˹kasoːt ˺taŋ](おじいさんは、よく孔子様と孟子様の話をして聞かされた)。

˹コーズー˺シ [˹koːʤuː˺ʃi] 【名】五目飯。「こわぞうすい (強雑炊)」の義。加薬飯。ピ˹サシズー˺シ [pi̥˹saʃiʤuː˺ʃi] ともいう。鶏肉や豚肉、魚肉、蒲鉾、牛蒡、イモ類、野菜などを具として炊き込んだ味付け飯。˹ピン˺ガン [˹piŋ˺gaŋ](彼岸) には、˹ピン˺ガンズーシー [˹piŋ˺ganʤuːʃiː](彼岸雑炊。春分や秋分の日に炊く五目飯) を炊き、˹ソー˺ラン [˹soː˺raŋ](お盆) には、ン˹カイズーシー [ʔŋ˹kaiʤuːʃiː](精霊迎えの五目飯。ウンケージューシー) を炊いて仏前に供えた。˹コーズー˺シェー　˹オー˺ヌ　˺ニク　カ˹マブク　キンダイクニ˺　ヤ˹マ˺ウンドーレーバ　キ˹ザミ˺　マ˹ザー˺シティ　シ˹タ˺ディシ　ア˹ジェー˺　シキティ　バ˹カソーッ˺タ [˹koːʤuː˺ʃeː ˹ʔoː˺nu ˺niku ka˹mabuku kindaikuni˺ ja˹ma˺undoːreːba ki˹ʤami˺ ma˹ʤaː˺ʃiti ʃi̥˹ta˺diʃi ʔa˹ʤeː˺ ʃi̥kiti ba˹kasoːt˺ta](五目飯 < 強雑炊 > は豚の肉、蒲鉾、人参、山芋などを賽の目に刻んで混ぜ、下地 < 醤油 > で味を付けて炊かれた)。

˹コースク˺ライ [˹koːsuku˺rai] 【名】咳払い。他家を訪問する際に咳払いをすること。「こわづくろひ (声作ろい)」の義。「『宿直 < とのゐ > 申しさぶらふ』とこわづくる < 声作る > なり」『源氏物語、賢木』の転訛したもの。˹ウリウ˺リ　˺アブジェー　˹コースク˺ライ　˹シー　オー˺ルン˹ドー　ダンダン˺シ　パ˹タ˺ケー　パリ˹ヨー [˹ʔuriʔu˺ri ˺ʔabuʤeː ˹koːsu̥ku˺rai ˹ʃiː ʔoː˺run˹doː dandaŋ˺ʃi pḁ˹ta˺keː pari ˹joː](それそれ、お祖父さんが咳払いをして来られるぞ。さっさと畑へいきなさいよ)。

˹コースン [˹koːsuŋ] 【他動】1根こそぎにする。引き抜く。すっかり取り除く。˹キー˺ヌ　˺ニー　˹コースン [˹kiː˺nu ˺niː ˹koːsuŋ](木の根をすっかり取り除く < 引き抜く >)。˹タンガ˺シェー　˹コーサラヌ [˹taŋga ˺ʃeː ˹koːsaranu](一人では根こそぎに出来ない)。ク˹ヌ　キー˺ヌ　˺ニー　˹コーシ˺プサン [ku˹nu kiː˺nu ˺niː ˹koːʃi˺ pu̥saŋ](この木の根をすっかり取り除き < 根こそぎし > たい)。˹コース˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [˹koːsu˺ ku̥toː na˹ra˺nu](根こそぎにすることは出来ない)。ク˹レー　コーシェー˺　ミサムヌ [ku˹reː koːʃeː˺ misamunu](これは根こそぎにすればいいのに)。˹コーシ [˹koːʃi](根こそぎにせよ)。2越す。越えさせる。˺トゥシ　˹コースン [˺tu̥ʃi ˹koːsuŋ](年を越す)。˺ヤホー　˺トゥシ　˹コーシェー˺チバ　˹ソーヤ　ナー˺ヌ [˺jahoː ˺tuʃi ˹koːʃeː˺ʧiba ˹soːja naː˺nu](厄は年を越したから心配はない)。イ˹シマシェー　コーサリン˺　プ˹スマシェー　コーサラヌ [ʔi ˹ʃimaʃeː koːsarim˺ pu̥˹sumaʃeː koːsaranu](石垣 < 石牧 > は越されるが人垣 < 人格 > は越されない < 人を馬鹿にしてはならない >)。

˹コースン [˹koːsuŋ] 【他動】越す。˹ヤー˺ヌ　ティ˹ジ　コースン [˹jaː˺nu ti˹ʤi koːsuŋ](家の頂を越す)。ウ˹ヤ˺ヌ　˺タケー　マ˹ダ　コーサヌ [ʔu˹ja˺nu ˺tḁkeː ma˹da koːsanu](親の身長 < 丈 > はまだ越さない)。˹コーシ˺　パルン [˹koːʃi˺ paruŋ](越して行く)。˹コース˺　クトー　˹ナーヌ˺ヌ　˹コーシェー˺　ミサムヌ [˹koːsu˺ ku̥toː ˹naːnu˺nu ˹koːʃeː˺ misamunu](越すことはないが、越せば良いのに)。˹キー˺ヌ　˹ウイ˺ラ　˹コーシ [˹kiː˺nu ˹ʔui˺ra ˹koːʃi](木の上から越せ)。

˹コー˺ソーリ [˹koː˺soːri] 【連】下さい。頂きたい。「乞ひ」(〜吾は祈奈牟 < コヒナム >〜。万、379) の未然形に使役の助動詞「す」の連用形が下接し、それに「在せ」が付いたものが転訛したものか。お盆の精霊送りの後、村の子供達は家々を回り、裏声を使って˹シン˺ザ　˹コー˺ソーリ [˹ʃin˺ʤa ˹koː˺sori](砂糖きびを下さい) と唱えて、供物の砂糖きびを貰って食べるのを楽しんでいた。家の中からは戸外へ砂糖きびを投げ与えたものである。これも施餓鬼の一つと云われていた。

˹-ゴー˺ダー [˹-goː˺daː] 【接尾】汚れたものを表す語に下接して、「〜だらけ」、「〜まみれ」の意味を表す。˺アバゴーダー　˹スン [˺ʔabagoːdaː ˹suŋ](油だらけ < 油まみれ > になる)。˹シーゴーダー　スン [˹ʃiːgoːdaː suŋ](血だらけ < 血まみれ > になる)。ドゥ˹ルゴー˺ダー　˹スン [du˹rugoː˺daː ˹suŋ](泥だらけになる)。ヤ˹ラビ˺ヌ　シ˹ベー˺　ッスゴーダー　˹シーベー˺バ　ア˹ラシティリ [ja˹rabi˺nu ʃi˹beː˺ ssugoːdaː ˹ʃiː beː˺ba ʔa˹raʃi̥tiri](子供の尻は糞まみれになっているから洗ってやりなさい)。

˹ゴー˺ダー　˹スン [˹goː˺daː ˹suŋ] 【連】1まみれる (塗(マミレ)る)。ドゥ˹ルミチ˺ナー　ク˹ルブ˺カー　ドゥ˹ルゴー˺ダー　˹スント ダー [du˹rumiʧi˺naː ku˹rubu˺kaː du˹rugoː˺daː ˹sunt-daː](泥んこ道で転ぶと泥まみれになるよ)。2いっぱい付ける。塗りたくる。〜塗(マミレ)にする。ピ˹サビ˺バ　˺シラナー　˹ゴー˺ダー　˹シー˺　シケー [pi̥˹sabi˺ba ˺ʃirana: ˹goː˺daː ˹ʃiː˺ʃi̥keː](鍋墨 < へぐろ。「竈錆び」の義か > を顔いっぱいに塗り

たくってある)。

˞ゴー˞ダカーダ [˞goː˞dakaːda] 【副】液体や粘着物がべっとり付着して汚れているさま。ドゥ˞ルヌ　ゴー˞ダーカーダシー　˞フシゥ˞カリティ　ヤ˞ニヤ˞ヌ　ナ˞ラ˞ヌ [du˞runu goː˞daːkaːdaːʃi ˞ɸusɨ̞˞kariti ja ˞nija˞nu na˞ra˞nu](泥がべっとりくっついて汚くてたまらない)。

˞コーダ˞ティ [˞koːda˞ti] 【名】こうだて (甲立)。きょうだて (饗立)。正式の饗膳の時、盛り物の周囲に立てる折り紙。パ˞ナン˞グミ [pa˞naŋ˞gumi](花米) を重箱に盛る際、重箱の内側に沿って立てて飾る紅白の紙。二十八宿を表すため、二十八本の鋸歯状に作る。˞ソンガチナーヤ　˞ザートゥク˞ヌ　パ˞ナン˞グメー　ア˞ガカビトゥ˞　ッ˞スˇカビサーリ　˞コーダ˞ティ　ス˞ク˞リティ　カ˞ザローッ˞タ [˞soŋ-gatʃinaːja ˞ʤaːtuku˞nu pa˞naŋ˞gumeː ʔa˞gakabitu˞ s˞su˞kabisaːri ˞koːda˞ti sɨ̞˞ku˞riti ka˞ʤaroːt˞ta](正月には床の間の花米に赤紙と白紙で甲立てを作って飾られた)。

˞コー˞チョーシンシー [˞koː˞ʧoːʃiŋʃiː] 【名】校長先生。明治 29 年以降に学校設置に伴って標準語から借用された語。˞カマーラ　˞コー˞チョーシンシーヌ　˞オー˞ルン [˞kamaːra ˞koː˞ʧoːʃiŋʃiːnu ˞ʔoː˞ruŋ](向こう < あそこ > から校長先生がいらっしゃる < 来られる >)。

˞コーッタルムヌ [˞koːttarumunu] 【感】ままよ (儘よ)。どうにでもなれ。なんとでもなれ。施す術がなく自暴自棄になった時に発する語。˞コッタルムン [˞kottarumuŋ](ままよ) を強調した形。˞マトゥ　˞ブン˞ドゥ　マ˞タ˞リ　˞コーッタルムヌ　クーン˞カー　˞ターシタガーヤ˞　メー　˞ドゥー˞ヌ　˞スン　˞ゲ˞ラ [˞matu ˞bun˞du ma˞ta˞ri ˞koːttarumunu kuːŋ˞ka: ˞taːʃitagaːja˞ meː ˞duː˞nu suŋ˞ge˞ra](待つだけ待った < 待つ分しか待たれない >、儘よ、来なければ誰がしるものか。もう < 来なければ > 自分の損だ)。

ゴーッ˞ティ [goːt˞ti] 【副】ごくりと。水などの液体を音を立てて一息に飲み干すさま。老年層は、ゴン˞ティ [gon˞ti](ごくりと) ともいう。ン˞ガフチ˞ロー　˞ミー˞ヤ　ッ˞サーリティ˞　ゴーッ˞ティ˞　ヌミバ [ʔŋ˞gaɸutʃi˞roː ˞miː˞ja s˞saːriti˞ goːt˞ti˞ numiba](苦い薬は目をつぶって < 瞑って > ごくりと飲めよ)。

˞ゴーッふァゴーッふァ [˞goːffagoːffa] 【副】こっくりこっくり。頭を前に垂れたり上げたりして、さも気持ちよさそうに居眠りするさま。ナー˞イ˞　ス˞クイ˞バ　ダ˞キ˞　ブー　˞ウー˞ミ　˞オーッタン˞ドゥ　˞ゴーッふァゴーッふァ　ニーヌブル　ソー˞リ　˞ナー˞ヌ [naː˞i˞ sɨ̞˞kui˞ba da˞ki˞ buː ˞ʔuː˞mi ˞ʔoːttan˞du ˞goːffagoːffa niːnuburu soː˞ri ˞naː˞nu](ただ麻桶を抱いて麻を績んでおられたが、こっくりこっくりと居眠りをされてしまった < 居眠りをなさってしまった >)。

˞ゴーッふァゴーッふァ [˞goːffagoːffa] 【副】こくりこくり。居眠りをするさま。気持ちよさそうに居眠りをするさま。ABCDABCD 型の重言。˞ブー　˞ウーミンテン˞ナー　˞ゴーッふァゴーッふァ˞シ　˞ニーヌブル　シーオーッ˞タ [˞buː ˞ʔuːminte:˞naː ˞goːffagoːffa˞ʃi ˞niːnuburu ʃiː ʔoːt˞ta](麻糸を紡ぎ < 績み > ながらこっくりこっくり居眠りをしておられた)。

˞ゴーッふァスン [˞goːffasuŋ] 【他動】根こそぎにする。ごっそり流される。ごっそり持ち去られる。老年層は、˞コッふァースン [˞kofffaːsuŋ](根こそぎにする) ともいう。˞タイ˞フーナ　ウ˞ブナン˞ヌ　˞ユーシ˞キーティ　˞アンタヌ˞　パマー　˞ゴーッふァサリ　ナーン˞シェン [˞tai˞ɸuːna ʔu˞bunan˞nu ˞juːʃi˞ kiːti ˞ʔantanu˞ pamaː ˞goːffasari naːŋ˞ʃeŋ](台風で大波が寄せてきて、東の浜はごっそり流されてしまった)。˞ゴーッふァシ˞　パルン [˞goːffaʃi˞ paruŋ](ごっそり流していく)。ウ˞ブナン˞ヌ　˞ユース˞カーム˞ル　ゴーッふァスン [ʔu˞bunan˞nu ˞juːsu˞kaː muː˞ru goːffasuŋ](大波が寄せると何もかもごっそり流出する < 根こそぎにする >)。

˞コー˞ディン [˞koː˞diŋ] 【名】香典。戦後、標準語からの借用語。昭和 30 年ごろまでは、˞コー˞パナ [˞koː˞pana](線香・花米)、˞ソッコー˞ムヌ [˞sokkoː˞munu](「焼香もの」と言った。普通の法事には、イ˞ツァ˞カウ [ʔi˞tsa˞kau]< 板香 >3 枚と白米 3 合、ウ˞ティン˞ガビ [ʔu˞tiŋ˞gabi]< 紙銭 >3 枚) を送るのが慣わしであった。イ˞クサユー˞ヌ　˞アトーラル　˞コー˞ディンティ　˞シー　ジン˞バ　ッ˞ス˞モール　˞ヨーニ　˞ナレー˞ダー [ʔi˞kusaju:˞nu ˞ʔatoːraru ˞koː˞dinti ˞ʃiː ʤim˞ba s˞su˞moːru ˞joːni nareː˞daː](戦後になってから < 戦世の後からぞ > 香典といってお金を包まれるようになったのだよ)。

˞ゴーナ˞キー [˞goːna˞kiː] 【名】 (植) 桑の木。和名、シマグワ。老年層は˞コーン˞ギー [˞koːŋ˞giː](桑の木) という。「〜母がそのなる桑尚 < クハスラニ〜 >。万、1352」の転訛したもの。[kuɸanoki] → [kuwanoki] → [koːnakiː] → [koːŋgiː]

と音韻変化したもの。若年層は、˞ゴーナ˜キー [˞goːna˜kiː](桑の木) を多用する。ナイロン製品が出回る以前の昭和 26 年ごろまでは養蚕が行われていた。桑の葉は養蚕用に供された。桑の材質は緻密で木目が美しい。従って床柱や床縁に用いられたり、三味線の棹に用いられたりした。実は赤いが完熟すると赤黒を呈し美味である。子供達は木の上で唇が赤く染まるまで食べた。˞ゴーナキー˜ヌ　˜ナロー　˞ウー˜ムカー　イッ˞ケナ˜　ン˞マー˜タン [˞goːnakiː˜nu ˜naroː ˞ʔuː˜mukaː ʔik˞kena˜ ʔm˞maː˜taŋ](桑の実は熟れると非常に美味しかった)。

˞ゴーナキ˜ヌ　˜ナル [˞goːnaki˜nu ˜naru] 【連】桑の実。「桑の木の実」の義。˞ゴーナキ˜ヌ　ナ˞ル˜ヌ　ア˞ガシタダル　スン˜ケン　˞ウー˜ミ　˞ベー [˞goːnaki˜nu na˞ru˜nu ʔa˞gaʃitadaru suŋ˜keŋ ˞ʔuː˜mi ˞beː](桑の木の実が赤黒くなって、今にも落ちそうになるほど熟れている)。

˜コーネー [˜koːneː] 【名】男の子。男児の名称、呼称。坊や。坊ちゃん。˞ワー　タッ˜テヌ　˜コーネーヤー [˞waː tat˜tenu ˜koːneːjaː](君は何処の家の男の子か)。コー˞ネー˜　ダン˞ティ˜　ク˞マー˜　キー　ミ˞リ [koː˞neː˜ dan˞ti˜ ku˞maː˜ kiː mi˞ri](坊や、急いで此処へ来てごらん)。

コー˞ネ˜マ [koː˞ne˜ma] 【名】坊ちゃん。坊や。男の子の愛称。˞ウン˜ネナー　コー˞ネマ˜ヌ　マ˞レー˜ン [˞ʔun˜nenaː koː˞nema˜nu ma˞reː˜ŋ](その家に坊ちゃんが生まれた)。

コー˞ネ˜マー [koː˞ne˜maː] 【名】男の子の愛称。坊ちゃん。˞コーネー [˞koːneː](男の子。少年) に愛称の指小辞˜マー [maː] が下接したもの。対義語はピ˞シェー˜マ [pi˞ʃeː˜ma](お嬢ちゃん)。コー˞ネマー˜　ダン˞ティ˜　ク˞マー˜　キー　ミ˞リ [koː˞nemaː˜ dan˞ti˜ ku˞maː˜ kiː mi˞ri](坊っちゃん、すぐこっちへ来てごらん < 来てみれ >)。

˞コーバ [˞koːba] 【名】工場。鰹節製造工場。˞シーゾー˜ヤー [˞ʃiːʤoː˜jaː](製造屋) ともいう。˞コーバナー˜ル　カ˞ツォー　ネーソーッ˜タ [˞koːbanaː˜ru kạ˞tsoː neːsoːt˜ta](工場でが < ぞ > カツオは煮られた)。

˞コー˜パナ [˞koː˜pana] 【名】こうばな。香花。「香華 (こうげ)」の義。仏前に供える供物。神事にはア˞ライパナ [ʔa˞raipana](米を水に漬けてふやかしたもの。洗米) を供える。˞イツァ˜カウ [ʔi˞tsa˜kau](沖縄線香、板香)1 枚または 3 枚と白米 1 合または 3 合 (法事にはウ˞ティン˜ガビ [ʔu˞tiŋ˜gabi]< 紙銭 >3 枚を添える) をウ˞トゥザマリ [ʔu˞tuʤamari](親戚) 間の法事で贈るのが慣わしであった。遠い親戚にはイ˞チンゴー˜パナ [ʔi˞ʧiŋgoː˜pana](白米 1 合のコーパナ)、近い親戚には˞サンゴー˜パナ [˞saŋgoː˜pana](白米 3 合に板香 3 枚、紙銭 3 枚のコーパナ) が贈られた。˞ソッコームヌ˜ヌ　˞コー˜パナ　シゥ˞コーリ˜　ム˞タ˜シ [˞sokkoːmunu˜nu ˞koː˜pana sị̈˞koːri˜ mu˞ta˜ʃi](焼香用のコーパナを用意して贈り < 持たせ > なさい)。

˞コーパン˜タリ [˞koːpan˜tari] 【名】硬太り。乳幼児の筋肉が引き締まって成長している状態。対義語はミ˞ジパン˜タリ [mi˞ʤipan˜tari](水太り。脂肪太り)。サッ˞ティー˜　ク˞ヌ˜　ッ˞ふァヌ　コーパン˜タリ　˞シェー˜クトゥ˞ヨー˜　ウ˞ラーミ˜サ [sat˞tiː˜ ku˞nu˜ f˞fanu koːpan˜tari ˞ʃeː˜kụtu˞joː˜ ʔu˞raːmi˜sa](なんとまあ! この子の硬太りしていることよ。羨ましい!)。

˞コー˜フ [˞koː˜ɸu] 【名】(動) 魚の名。和名、オオクチサギ (体長約 25 センチ)。˞コー˜フイズ [˞koː˜ɸuiʤu] ともいう。大寒の冷え込みで浅海魚のコーフが凍死して海岸に打ち寄せられることがしばしばあった。

˞コー˜フイズ [˞koː˜ɸuʔiʤu] 【名】(動) 魚名。セイタカヒイラギの一種。海岸端で釣れる。海水温が 10 度を下ると仮死状態になって浮き上がるのを拾って漁獲した。˞コー˜フイゾー　パ˞マー˜ラ　˜ユー　˞ホーシ˜タン [˞koː˜ɸu ˜ʔiʤoː pa˞maː˜ra ˜juː ˞hoːʃi˜taŋ](コーフ魚は浜からよく釣り上げた)。˞ダイカン˜ヌ　˜マーラヌ　˞ウーピラ˜クナー　˞コー˜フイゾー　ク˞バ˜リティ　˞ユーリ　クー˜タン [˞daikan˜nu ˜maːranu ˞ʔuːpira˜kuna: ˞koː˜ɸuʔiʤoː ku˞ba˜riti ˞juːri kuː˜taŋ](大寒の頃の冷え込みにコーフイズは凍えて仮死状態で流れ寄ってきたものだ)。

˞コーブ˜ク [˞koːbu˜ku] 【名】香箱。こうごう (香合)。香を入れる箱。幅約 14 センチ、高さ約 10 センチ、長さ約 30 センチの蓋付きの箱。司 (神女) やティ˞ジリ˜ビー [ti˞ʤiri˜biː](男性神職者) はシ˞キダ˜チ [ʃị˞kida˜ʧi](朔日、ついたち)、˜ズングニチ [˜ʤuŋgunitʃi](十五日) に線香やマッチ等を香箱に入れて˞ウガン [˞ʔugaŋ](御嶽) へ持参し、祈願をして掃除した。˞カン˜プスンケーヤ　シ˞キダ˜チズングニチナー　˞コーブク˜バ　˜ムティティル　˜ウガンマー　˞オーッタ˜ル [˞kam˜pụsuŋkeːja ʃị˞kida˜ʧi ʤuŋgunitʃina: ˞koːbuku˜ba ˜mutitiru ˞ʔugammaː ˞ʔoːtta˜ru](神職者の方々は香箱を持って˜ウガン [˜ʔugaŋ](御嶽) へいらっしゃったものだよ)。

˞ゴーヘー **[˞goːheː]** 【感】船を前進させよ。英語の、go ahead が訛ったもの。通事家の先祖が大正年間に帝国海軍に徴兵され、除隊した際に海軍航海用語を流行らせたという伝承がある (加治工伊佐)。˞フル　ゴーヘー [˞ɸuru goːheː](全速前進せよ。full go ahead の転訛)。

ゴー˞ベーゴーベー **[goː˞beːgoːbeː]** 【副】ゆるく (緩く)。弱々しく。力を抜いて手加減して。緩みを持たせて。粗末に。˞ニー˩ヤ　ゴー˞ベーゴーベー˩シ　フ˞バリ˩　シケー [˞niː˩ja goː˞beːgoːbeː˩ʃi ɸu˞bari˩ ʃi̥keː](荷は緩く縛っておいてある)。

˞コー˩マ **[˞koː˩ma]** 【名】卵。「かひ＜卵＞、貝＜カヒ＞と同根」、「殻、和名与貝＜かひ＞同、虫乃皮甲也」『和名抄』という。˞カフィ・マ」、*[kaɸi・ma] → [kawima] → [koːma] の音韻変化によるもの。トゥ˞ルヌコー˩マ [tu˞runukoː˩ma](鶏卵。鶏の卵)。˩パトゥザヌ　˞コー˩マ (鳩の卵)。カ˞ミヌコー˩マ [ka˞minukoː˩ma](亀の卵)。ピ˞ルザキ˩ナー　˞コー˩マ　カ˞ケー˩シ　˩ヌミティ　パ˞ナシキノー˩シ [pi˞rudʑaki˩naː ˞koː˩ma ka˞keː˩ʃi ˩numiti pa˞naʃiki noː˩ʃi](大蒜酒に卵を混ぜて飲んで風邪を治しなさい)。

˞コー˩マッスン **[˞koː˩massuŋ]** 【名】˞卵包み」の義。バ˞ラフ˩タッスン [ba˞raɸ̞utassuŋ](藁包み) ともいう。卵のわらづと (藁苞)。藁を束ねて反転させたものに卵を数個縦に並べて外れないように縛って包み、それを 3〜4 本まとめて石垣島の親類への土産にしたもの。˞コー˩マッスン　トゥ˞ドゥ˩キ　ッ˞ふィーリ˩ヨー [˞koː˩massun tu˞du˩ki f˞fiːri˩joː](卵包み＜卵の藁苞＞を届けてくれよね)。

˞コー˩ムニ **[˞koː˩muni]** 【名】怒鳴り声。「強物言い」の義。強い調子の物言い。硬い口調で議論すること。我を押し通す物言い。喧嘩口調の物言い。˩アイニ　˞コー˩ムネー　˞サンドー˩シ　マーン˞ベーマ˩　ヤー˞ラヤーラ˩シ　˩ムネー　イ˞ザラヌ [˩ʔaini ˞koː˩muneː ʔi˞dʑando:˩ʃi maːm˞beːma˩ ja:˞raja:ra˩ʃi ˩muneː ʔi˞dʑaranu](あんなに喧嘩口調でものを言わずに、もっと柔らかく＜優しく＞ものは言えないのかね)。

˞コーモリ˩ガサ **[˞koːmori˩gasa]** 【名】こうもりがさ (蝙蝠傘)。洋がさ。標準語からの借用語。金持ちの人が持っていた。ア˞ミ˩ヌ　˞フー˩ター　˞コーモリ˩ガサ　˩カビティ　˞パッ˩タ [ʔa˞mi˩nu ˞ɸuː˩taː ˞koːmori˩gasa ˩kabiti ˞pat˩ta](雨が降ったので蝙蝠傘を差して＜被って＞行った)。

˞ゴー˩ヤー **[˞goː˩jaː]** 【名】(植) 和名、ニガウリ (苦瓜)。ウリ科植物。[nigauri・jaː] → [nigoːrjaː] → [ŋgoːjaː] → [goːjaː] の変化過程を経て形成されたものと考えられる。ゴーヤーは、鳩間島では戦後多くの人に食されるようになった。戦前は各家の菜園で栽培されていたが、子供達は苦味を忌み嫌って食べなかった。子供の嫌悪感と反比例して、この野菜は何処でも、グ˞ダランケー˩リ　˩ナリ　フ˞チジルヌ˩　ン˞ジ˩ルスコー　サ˞カリシタ [gu˞daraŋkeː˩ri ˩nari ɸu̥˞tʃidʑirunu˩ ʔn˞dʑi˩rusu̥koː sḁ˞kariʃi̥ta](瑞々しく生い茂り、実をつけ、涎が出るほど実が生り、繁茂したものだ)。ゴーヤーはチャンプルーにしたり、湯掻いて刺身のけんにしたりして食する。夏場の野菜として重宝される。

˞ゴーヤーチャン˩プルー **[˞goːjaːtʃam˩puruː]** 【名】料理名。ニガウリに豚肉、豆腐、鶏卵などを混ぜて炒めた料理。ゴーヤーのほろ苦味と豆腐の味が調和して美味である。その他、豚のポーク缶詰、蛸や剥(ム)き海老などの食材もゴーヤーチャンプルーに利用され、夏のビタミン補給の料理として重宝される。ナ˞チェー˩　ヤ˞サイ˩ヌ　˞ナーン˩ユンダー　˞ゴーヤーチャン˩プルー　カー˞ニ　ファーソーッ˩タ [na˞tʃeː˩ ja˞sai˩nu naːŋ˩junda ˞goːjaːtʃam˩puruː ka:˞ni faːsoːt˩ta](夏は野菜がないからゴーヤーチャンプルーだけ食べさせなされた)。

˞コーヤ˩ク **[˞koːja˩ku]** 【名】膏薬。膏＜あぶら＞で練って軟膏(ナンコウ)にし、外傷や出来物に塗布して治療する薬剤。˩クミカンコーヤク [˩kumikaŋkoːjaku](こめかみに塗って頭痛に効く膏薬)、ユ˞ビダシコーヤク [ju˞bidaʃikoːjaku](化膿を吸い出す膏薬)、˞オーシコー˩ヤク [˞ʔoːʃikoː˩jaku](「生＜お＞やし膏薬」の義。傷を治す膏薬。傷薬) などがある。ア˞シ˩ブナー　˞コーヤ˩ク　シ˞キ˩ルカー　˞パイ˩サ　˞ノー˩ルン [ʔa˞ʃi˩buna: ˞koːja˩ku ʃi̥˞ki˩ruka: ˞pai˩sa ˞noː˩ruŋ](出来もの＜あせも＞に膏薬をつけると早く治る)。

˩コーヨー **[˩koːjoː]** 【名】孝養。親に孝行を尽くすこと。死んだ親の法要＜供養＞を営むこと。˞マイフナー　マリ˩　ウ˞ヤ˩ヌ　˩コーヨーヤ　˩ユー　˞シー　オーシリ˩ヨー [˞maiɸuna: mari˩ ʔu˞ja˩nu ˩koːjoːja ˩juː ˞ʃiː ʔoːʃiri˩joː](一人前の立派な男になって親の孝養はよくして差し上げなさいよ)。˞ソーラン˩マー　ウ˞ヤプス˩ヌ　˩コーヨー　˞スンティル˩　ムー˞ル　シッ˩パイ　˞シー　オー˩ル˞ダー [˞soːram˩maː ʔu˞japusu˩nu ˩koːjoː ˞suntiru˩ muː˞ru ʃip˩pai ˞ʃiː ʔoː˩ru˞daː](お盆は祖霊の孝養を尽くそうと皆精一杯＜

一生懸命＞頑張っておられるのだ)。

˩ゴーラー [˩goːraː] 【名】悪性の化膿性の出来物。膿みただれ (爛れ) て患部の筋肉が陥没する。˩ゴールン [˩goːruŋ](陥没して穴が開く) に˩ヤー [˩jaː](「～もの。～やつ」の意の接尾辞) か下接して形成された語。²陥没した穴。ヤ˩マトゥゴー˥ラー [ja˩matugoːraː](「大和悪性出来物」の義。最も悪性の化膿性出来物) は治癒困難な出来物としておそれられた。˩ワー˥ア˩シ˥ボー ˥ゴーラー ˥ナリ ˩ベー˥バ ˥イサカ˩カリ˥ル ˩ノーサ˥リ ˥ドゥートゥンザクシェー ˩ノーサラ˥ヌ [˩waː˥ ʔa˩ʃi˥boː ˥goːraː ˥nari ˩beː˥ba ˥ʔisa kḁ˩kari˥ru ˩noːsa˥ri ˥duːtundʑakuʃeː ˩noːsara ˥nu](君の御出来は悪性の、化膿して穴の開いた出来物になっているから医者に掛かってぞ治される。自己養生＜自己流の治療＞では治されない)。

˩ゴー˥ラー [˩goː˥raː] 【副】多くは。大方は。大概は。˥チニヒージェー ˩ヌー˥バ ッ˩ふーター。ピーゾー ゴー˥ラー ˩ウンヌイー˥ル ッ˩ふァイブタル。マイヌイー˥ヤ マ˩ルケーティナー˥ル ッ˩ふァーリタル [˥ʧiniçiːʤeː ˩nuː˥ba f˩fuːtaː、piːʤoː goː˥raː ˩ʔunnuiː˥ru f˩faibutaru。mainuʔiː˥ja ma˩rukeːtinaː˥ru f˩faːritaru](常日頃は何を食べたか。いつもは、多くは芋のご飯を＜ぞ＞食べていた。米飯は稀にしか食べられなかった＜稀にぞ食べられた＞)。

˩ゴー˥ラー ˥ナスン [˩goː˥raː ˥nasuŋ] 【連】他動詞的用法。多くなす。増やす。イ˩ジン˥ジ ˩モー˥キティ ˩マー˥ビン ˥ザイサンユン ˩ゴー˥ラー ˥ナシティ ˥ウヤ ユ˩ルクバ˥シバ [ʔiˈʤin˥ʤi ˩moː˥kiti ˩maː˥bin ˥ʤaisaŋjuŋ ˩goː˥raː ˥naʃiti ˥ʔuja ju˩rukuba˥ʃiba](一生懸命儲けて、もっと財産をも増やして親を喜ばせなさいよ)。

˩ゴー˥ラー ˥ナルン [˩goː˥raː ˥naruŋ] 【連】自動詞的用法。多くなる。増える。˥トゥシ トゥ˩ル˥ター ッ˩サイ˥ヌ ˩ゴー˥ラー ˥ナリキー ˩ナー˥ヌ [˥tu̥ʃi tu˩ru˥taː s˩sai˥nu ˩goː˥raː ˥nariki: ˩naː˥nu](年を取ったので白髪が増えて＜多くなって＞きてしまった)。

˩ゴー˥ラーン [˩goː˥raːŋ] 【形】多い。～より多い。サ˩クマイ˥ル ˩ゴー˥ラー [sḁ˩kumai˥ru ˩goː˥raː](粳米が＜ぞ＞多い)。サ˩クマイ˥ヤー ˩ゴー˥ラーンドゥ ム˩チマイヤー ゴー˥ラー ˩ナー˥ヌ [sḁ˩kumai ˥ja: ˩goː˥raːndu mu˩ʧimaija: goː˥raː ˩naː˥nu](粳米は多いが、糯米は多くない)。˩エン˥マー ˩ゴー˥ラー ˥ナルン [˩jem˥maː ˩goː˥raː ˥naruŋ](来年は多くなる)。ア˩マ˥ヌ ˩ゴー˥ラーティ ムー˩ロー˥ ム˩タラン˥シェン [ʔa˩ma˥nu ˩goː˥raːti muː˩roː˥ mu˩taraŋ˥ʃeŋ](あまりにも多いので全部は持てなかった＜持たれなかった＞)。˩ゴー˥ラー ˥ムノーラ ˩カーシ˥バ [˩goː˥raː ˥munoːra ˩kaːʃi˥ba](多いものから売りなさい)。˩ゴー˥ラーカー ˥ミサンドゥ [˩goː˥raːkaː ˥misandu](多かったらいいのだが)。˩ゴー˥ラー ˥ナスン [˩goː˥raː ˥nasuŋ](多くなす。増やす)。˩ゴー˥ラー ˥ナルン [˩goː˥raː ˥naruŋ](多くなる。増える)。

˩コーラ˥クン [˩koːra˥kuŋ] 【自動】固まる。硬くなる。凝固する。˩コン˥クレー ˩ヌーリティ˥ プスイ ˥タトゥカー ˩コーラ˥クンカヤー [˩koŋ˥kureː ˩nuːriti˥ pu̥sui ˥tu̥tuka: ˩koːra˥kuŋkajaː](コンクリートは塗ってから一日経つたら固まるかなあ)。˩コーラカ˥ヌ [˩koːraka˥nu](固まらない)。˩コーラキパヤー˥ン [˩koːrakipajaː˥ŋ](固まり早い)。˩パイ˥サ ˩コーラク˥ ムノーラ ˥トゥリバ [˩pai˥sa ˩koːraku ˥ muno:ra ˥turiba](早めに固まるものから取れよ)。˩コーラケー˥カー ˥トゥリミサン [˩koːrakeː˥kaː ˥turimisaŋ](固まったら取ってもいい)。˩コーラク˥カー ˩コーラキ˥ ˩ターシタガーヤ [˩koːraku˥kaː ˩koːraki˥ ˩taːʃitagaːja](固まるなら固まれ、誰がしるものか)。

˩ゴー˥ラザ [˩goː˥raʤa] 【名】ゴイサギ。夜飛びながらカーカーと鳴く鳥。老年層は、˩ヨーラ˥サー [˩joːra ˥saː] ともいう。若年層は、˩ユーガラ˥サー [˩juːgara ˥saː](夕鳥。ゴイサギ) という。˩ゴー˥ラザーヌ ナ˩ク˥カー カ˩ラウシ シッ˥キティ ˥ナーマヤーヌ ッ˩ふァー˥マ˩ドー˥ティ ウ˩ヤーリ˥シタ [˩goː ˥raʤaːnu na˩ku˥kaː ka˩raʔuʃi ʃik˥kiti ˥naːmajaːnu f˩faː˥ma˩doː˥ti ʔu˩jaːri˥ʃi̥ta](ゴイサギが鳴くと空の臼を叩いて、ナーマヤーの子孫だよ、と叫んだ)。

˩コーラ˥シ [˩koːra˥ʃi] 【接尾】あたかも～の素振りで。さながら～振りをして。まるで～様子で。ッサン ˩コーラ˥シ ミリ˩ベー [ssaŋ˩koːra˥ʃi miri˩beː](知らんふりして見ている)。イッ˩ケナ˥ ッ˩シェー˥ン˩コーラ˥シ パ˩ナ˥シ ˩ベー [ʔik˩kena˥ ʃ˩ʃeːŋ˩koːra˥ʃi pa˩na˥ʃi ˩beː](あたかもよく知っている振りをして話している)。ッ˩サンコーラ˥シ ˩ベー [s˩saŋkoːra˥ʃi ˩beː](知らん振りしている)。

˩コーラ˥シゥクン [˩koːra˥su̥kuŋ] 【自動】¹固まる。凝固する。硬くなる。˩キーウン˥バ ˩ウー˥キナ ˥ッシ ˥クジタリティ ˥シケーター ス˩ク˥ナー カ˩タマリ コーラ˥シキ ˩ベー [˥kiːum˥ba ˩ʔuː˥kina ˥ʃʃi ˥kuʤitariti ˥ʃi̥keːta: su̥˩ku˥naː kḁ˩tamari koːra˥ʃi̥ki ˩beː](キャッサバの芋を桶に擂って澱粉をとって

おいたら、桶の底に沈殿して固まり、凝固している)。マ˹ダ　コーラシゥカ˺ヌ [ma˹da ko:rasi̥ka˺nu](まだ凝固していない)。˹コーラシ˺キ　˹ナー˺ヌ [˹ko:raʃi̥˺ki ˹na:˺nu](凝固してしまった)。˹オーパ˺ヤー　˹コーラス˺ク　˺クトー　˹ナー˺ヌ [˹ʔo:pa˺ja: ˹ko:rasu̥˺ku ˺ku̥to: ˹na:˺nu](こんなに早く凝固することはない)。˹パー˺ク　˹コーラシ˺ケー　˺ミサムヌ [˹pa:˺ku ˹ko:raʃi̥˺ke: ˺misamunu](早く凝固すればよいのに)。2乳児がよく成長・発育する。ク˹ヌ˺　ッ˹ふァー˺　マ˹リティ˺　プ˹スシキ˺ル　ナ˹ルン˺ドゥ　イッ˹ケナ　コーラシキ˺　ブーバン [ku˹nu˺ f˹fa:˺ ma˹riti˺ pu̥˹suʃi̥˺ki˺ru na˹run˺du ʔik˹kena ko:raʃi̥˺ki˺ bu:baŋ](この子は生まれて一月しか経たない＜一月ぞ経つ＞がよく発育している)。

˹コーラシキ˺ルン [˹ko:raʃi̥˺ki˺ruŋ] 【自動】強張る。硬直する。˺アゴー　˹コーラ˺シキティ　˺ムネー　イ˹ジユーソーラ˺ヌ [˹ʔago: ˹ko:ra˺ʃi̥kiti ˺mune: ʔi˹ʤiju:so:ra˺nu](顎は硬直して話をすることが出来ない)。カ˹クチ˺ヌ　˹コーラシキラン˺ヨーニ　˹ヤー˺ラ　˺ムヌバ　ン˹カシ　オーラシタン˺ドゥ　˹コーラ˺シキ　˹ナー˺ヌ [kḁ˹kutʃi˺nu ˹ko:raʃikiraŋ˺jo:ni ˹ja:˺ramunuba ʔŋ˹kaʃi ʔo:raʃitan˺du ˹ko:ra˺ʃi̥ki ˹na:˺nu](顎が硬直しないように柔らかいものを召し上がらせたが、硬直してしまった)。

˹コーラ˺スクン [˹ko:ra˺su̥kuŋ] 【自動】強張る。硬直する。固まる。˹ティーパン˺マー　˹コーラ˺シキティ　マ˹ギララヌ [˹ti:pam˺ma: ˹ko:ra˺ʃi̥kiti: ma˹gi-raranu](手足が硬直して曲げられない)。ス˹ブシヌ　コーラス˺クカー　ア˹ラカラン˺バ　˹コーラシゥカン˺ヨーニ　˺ユーシ　タ˹ディ˺バ [su˹buʃinu ko:ra˺su̥kuka: ʔa˹rakaram˺ba ˹ko:rasi̥˺kaŋ˺jo:ni ˺ju:ʃi ta˹di˺ba](膝が硬直すると歩かれないから、硬直化しないようにお湯で温め＜温湿布し＞なさいよ)。˹コーラス˺ク　˺クトー　˹ナー˺ヌ [˹ko:rasu˺ku ˺ku̥to: ˹na:˺nu](硬直することはない)。˹コーラ˺シケー　˺ミサムヌ [˹ko:ra˺ʃi̥ke: misamunu](硬直すればよいのに)。˹パイ˺サ　˹コーラ˺シキ [˹pai˺sa ˹koara˺ʃi̥ki](早く硬直せよ)。

˹コーラ˺スン [˹ko:ra˺suŋ] 【他動】1固くする。軟らかい物を硬くする。凝固させる。ム˹チェー　ピーラ˺シティ　˹コーラ˺スン [mu˹ʧe: pi:ra˺ʃi̥ti ˹ko:ra˺suŋ](餅は冷やして固める)。˹コーラ˺スンティ　ウ˹ムーン˺ドゥ　˹コーラサラン˺バン [˹ko:ra˺sunti ʔu˹mu:n˺du ˹ko:rasaram˺baŋ](固めようと思うのだが固められない)。ク˹レー　コーラシヤッ˺サン [ku˹re: ko:raʃijas˺saŋ](これは固めやすい)。˹コーラ˺ス˺ムノー　˺ヌーヤ [˹ko:ra˺su ˺muno: ˺nu:ja](固めるのは何か)。˹マー˺ビン　˹コーラ˺シェー　˺ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ˹ko:ra˺ʃe: ˺misamunu](もっと固めればよいのに)。˹パー˺ク　˹コーラ˺シ [˹pa:˺ku ˹ko:ra˺ʃi](早く固めよ)。˹ウン˺ヌ　˺シトゥ　˺ティダナ　˺プシティ　˹コーラ˺スン [˹ʔun˺nu ˺ʃi̥tu ˺tidana ˺pu̥ʃiti ˹ko:ra˺suŋ](芋の澱粉を太陽に干して固くする)。˹コーラサ˺ヌ [˹ko:rasa˺nu](固くしない)。˹コーラ˺シ˺ミサカー　˹コーラ˺ス　˺クトー　˺ナルン [˹ko:ra˺ʃi misaka: ˹ko:ra˺su ˺ku̥to: ˺naruŋ](固くして良ければ固くすることは出来る)。˹コーラ˺シェー　˺ミサムヌ [˹ko:ra˺ʃe: ˺misamunu](固くすれば良いのに)。˹コーラ˺シ [˹ko:ra˺ʃi](固くしろ)。2成長させる。強くする。ヤ˹ラ˺ベー　ン˹マー˺ムヌ　ッ˹ふァーシティ˺　ドゥー　˹コー˺ラシ [ja˹ra˺be: ʔm˹ma:˺munu f˹fa:siti˺ du: ˹ko:ra˺ʃi](子供は美味しいものを食べさせて成長させ＜体を硬く成長させ＞なさい)。

˹コーリ [˹ko:ri] 【名】行李。竹の皮や柳を編んで箱形に作り、蓋付きの衣類入れとしたもの。日露戦争で兵役に就いた人が内地より導入したといわれている。戦前まで台湾旅行に行く人が必ず持参していった。ヤ˹ナギゴー˺リ [ja˹nagigo:˺ri](柳行李)ともいう。ム˹カ˺シェー　˹コーリナー˺ル　˺キンカーン　イ˹リテイ˺　タ˹ベー　オーッ˺タ [mu˹ka˺ʃe: ˹ko:rina:˺ru ˺kiŋka:ŋ ʔi˹riti˺ ta˹be: ʔo:t˺ta](昔は行李に衣類を入れて旅に行かれた)。

˹ゴーリ [˹go:ri] 【名】窪んだ所。陥没した穴。御出来の膿(ウミ)が出て筋肉が窪んだ所。˹ゴールン [˹go:ruŋ](陥没する)の連用形からの転成名詞。イ˹シェー˺マーンドーレーヤ　ク˹マ˺ヌ　˹ゴーリ˺ナー　イ˹リリ˺バ [ʔi˹ʃe:˺mandore:ja ku˹ma˺nu ˹go:ri˺na: ʔi˹riri˺ba](小石などは此処の陥没した穴に入れなさいよ)。

˹コーリ˺ッス [˹ko:ri˺ssu] 【名】硬い糞。便秘の際に出る固まった大便。ナ˹マバン˺スル　ッ˹ふー˺カー　シ˹ビ　コー˺リティ　˹コーリ˺ッス　マルン˹ダー [na˹maban˺suru f˹fu:˺ka: ʃi˹bi ko:˺riti ˹ko:ri˺ssu marun˹da:](未熟のグヮバ＜蕃石榴＞を食べると便秘して＜尻が固くなって＞硬い大便を出すぞ)。

˹ゴーリバンスル [˹go:ribansuru] 【名】完熟して雀や雲雀に食べられて大きく穴の開いたバンジロウ＜蕃石榴＞。パ˹タキ˺ヌ　アザナー　˹バンスル˺ヌ　˹ウー˺ミ　˹ベータン˺ドゥ　˺チンチン(˺ガザフケーン)　ッ˹ふァーリティ　ゴーリバンスル˺ナリ　˹ベー [pḁ˹taki˺nu ˺ʔaʤana: ˹bansuru˺nu ˹ʔu:

˥mi ˩be:tan˥du ˥ʧintʃin(˥gaʤaɸuke:n)˩fˬfa:riti go:rib-ansuru˥ nari ˩be:](畑の畦にバンジロウが熟していたが雲雀に突っついて食べられて穴の開いたバンジロウになっているよ)。

˩ゴーリルン [˩**go:riruŋ**] 【自動】出来物が化膿して筋肉が陥没する。悪性の出来物が膿んで潰れて筋肉が陥没する。陥没して穴が開く。ごっそり削り取られる。˥ニーブター ˥ナリ ˩ウー˥ムカー ˩ゴーリルン˥ティ˩ダー [˥ni:buta: ˥nari ˩ʔu:˥muka: ˩go:rirun˥ti˩da:](根太 < 臀部などにできる悪性の腫れ物。せつ > になって化膿すると筋肉が陥没するってよ)。˩ゴーリラヌ [˩go:riranu](化膿して陥没しない)。˩ゴーリル˥ クトー ˩ナー˥ヌ [˩go:ri˥ru ˥kʰto: ˩na:˥nu](化膿して陥没することはない)。˩ゴーリル ムンデー˥カー ˩ゴーリリ [˩go:riru munde:˥ka: ˩go:riri](化膿して筋肉が陥没するものなら陥没しろ)。

˩ゴールゴール [˩**go:rugo:ru**] 【副】いびき (鼾) をかくさま。˩ゴールゴール˥シ パ˩ナ˥フキ ニ˩ビベー [˩go:rugo:ru˥ʃi pa˩na˥ɸʰuki ni˩bibe:](ゴーロゴーロと鼾をかいて寝ている)。腹の鳴るさま。˩ヤー˥サティル ˥バター ˥アイニ ˩ゴールゴール˥シ ˩ナール˥ヨー [˩ja:˥satiru ˥bata: ˥ʔaini ˩go:rugo:ru˥ʃi ˩na:ru ˥jo:](腹がすいて < ひもじいので >、お腹はあんなにもゴーロゴーロと鳴るのだよ)。

˩コー˥ルン [˩**ko:˥ruŋ**] 【自動】 1固まる。硬くなる。˩ヌー˥ロー ˩ピール˥ター ˩コー˥リ ˩ナー˥ヌ [˩nu: ˥ro: ˩pi:ru˥ta: ˩ko:˥ri ˩na:˥nu](糊は冷えたから固まってしまった)。マ˩ダ コーラ˥ヌ [ma˩da ko:ra˥nu](まだ固まらない)。˩ピーラ˥スカー ˩コー˥ルン [˩pi:ra˥sʰuka: ˩ko:˥ruŋ](冷やしたら固まる)。˩コー˥ル ˥ムノー シ˩ティリ [˩ko:˥ru ˥muno: ʃi˩tiri](固まるのは捨てろ)。˩コー˥レーラー ˩デー˥ジ˩ダー [˩ko:˥re:ra: ˩de:˥ʤi˩da:](固まったら大変だぞ)。2成長する。ク˩ヌ ˥ッ˩ふァー˥ イッ˩ケナ コーリ˥ ブーバン [ku˩nu˥ fˬfa:˥ ʔik˩kena ko:ri˥ bu:baŋ](この子は非常に成長しているわい)。3意地を張る。強く主張する。サ˩キ˥ ヌムカー ˥ムニ ˩コー˥ルン [sʰa˩ki˥ numuka: ˥muni ˩ko:˥ruŋ](酒を飲んだら意地を張る < もの言いが硬くなる >)。˥ドゥク ˥アイ ˩コーラン˥ドーシ プ˩スヌ˥ ムニン シ˩キ˥バ [˥duku ˥ʔai ˩ko:ran ˥do:ʃi pʰu˩sunu˥ muniŋ ʃi˩ki˥ba](そうあんまり意地を張らないで他人の話も聞きなさいよ)。マー˩ンバー˥キン ˩コーリ˥バ˩ヨー [ma:˩mba:˥kiŋ ˩ko:˥riba ˩jo:](どこまでも強く主張しなさいよ < 意地をはれよ >)。

˩ゴールン [˩**go:ruŋ**] 【自動】出来物が化膿して筋肉が陥没する。ごっそり削り取られる。肉が削(ソ)げ落ちる。ア˩シブ˥ヌ ˩ウー˥ミタリティ ˩ゴーリ ナー˥ヌ [ʔa˩ʃibu˥nu ˩ʔu:˥mitariti ˩go:ri na:˥nu](出来物 < 汗も > が化膿し過ぎて、潰れて筋肉が陥没してしまった)。ク˩ヌ コー˥ヤク ˩ヌーリ˥ シ˩キ˥ルカー ˩ゴーラヌ [ku˩nu ko:˥jaku ˩nu:ri˥ ʃi˩ki˥ruka: ˩go:ranu](この膏薬を塗っておくと筋肉が化膿して陥没しない)。ク˩ヌ˥ ア˩シ˥ボー ˩ヨー˥ゾー ˩サン˥カー ˩ゴールン˥ティ˩ダー [ku˩nu˥ ʔa˩ʃi˥bo: ˩jo: ˥ʤo: ˩saŋ˥ka: ˩go:run˥ti˩da:](この御出来は手当てをしないと化膿して筋肉が陥没するってよ)。˩ゴール˥ クトー ˩ナー˥ヌ [˩go:ru˥ kʰto: ˩na:˥nu](化膿して筋肉が陥没することはない)。˩ゴーレー˥ラー ˩デー˥ジ˩ゲ˥ラ [˩go:re:˥ra: ˩de:˥ʤi˩ge˥ra](化膿して筋肉が陥没したら大変だよ)。˩ゴール˥カー ˩ゴーリバ [˩go:ru˥ka: ˩go:ri˥ba](化膿して筋肉が陥没するなら陥没しろ)。

˩コー˥ロー [˩**ko:˥ro:**] 【名】香炉。神や祖霊を祀るために線香を立てるのに用いる陶磁器の器。人の足跡のない砂浜から砂を運び、篩にかけて細かい砂を選別して香炉に入れた。直径約 18 センチ、高さ約 12 センチの広口碗型の器がウ˩ブコー˥ロ [ʔu˩buko:˥ro:](大香炉) といわれており、香炉は大型の物ほど子孫繁栄に繋がるといって喜ばれる。一番座の˩ザー˥トゥク [˩ʤa:˥tuku](床の間) の香炉は、˩コン˥ジン [˩kon˥ʤiŋ](「根神」の義か) といわれ、家の香炉として継承される。家には、代々の香炉と妻が嫁入りした際に里から分けて建てた香炉や、家の女達の香炉がある。個人の香炉を建てることを、˩コン˥ジン タ˩ティ˥ルン [˩kon˥ʤin tʰa˩ti˥ruŋ](金神を立てる) という。娘が嫁入りして行く場合、里の香炉を廃してその灰を持参して婚家で新たに香炉を建てるが、里の香炉を廃することを、˩コン˥ジン ピ˩クン [˩kon˥ʤim pʰi˩kuŋ] という。˩コー˥ローナー ˩カウワー˥ シキ タ˩ティ˥リ [˩ko:˥ro:na: ˩kauwa:˥ ʃi˩ki tʰa˩ti˥ri](香炉に線香の < は > 火を付けて立てなさい)。

˩コー˥ン [˩**ko:˥ŋ**] 【形】硬い。「磽、己波志 (こはし)」『新撰字鏡』の転訛したもの。ク˩ヌ キー˥ヤ ˩コー˥ンティ ウ˩ムータ˥ヌ ˩ナン˥ゾー ˩コーナー˥ヌ [ku˩nu ki:˥ja ˩ko:˥nti ʔu˩mu:ta˥nu ˩nan˥ʤo: ˩ko:na:˥nu](この木は硬いと思ったが、あまり硬くない)。˩シンダイ コー˥ ナルン [˩ʃindai ko:˥ naruŋ](次

第に硬くなる)。ク˞レー　コー˞ヌ　ッ˞ふァーラヌ [ku˞re: ko:˞nu f˞fa:ranu](これは硬くて食えない)。˞ウイ˞プソー　˞コー˞　ムノー　ッ˞ふァイ　ユーサヌ [˞ʔui˞ pu̥so: ˞ko:˞ muno: f˞fai ju:sanu](年寄りは硬いものは食べきれない)。˞シン˞ザー　˞コー˞ヌ　カ˞マラ˞ヌ [˞ʃin˞ʤa: ˞ko:˞nu ka˞mara˞nu](砂糖黍は固くて噛んで食べることが出来ない＜噛まれない＞)。˞ナン˞ゾー　˞コーナー˞ヌ [˞nan˞ʤo: ˞ko:na:˞nu](あまり固くない)。˞シンダイ　コー˞　ナルン [˞ʃindai ko:˞ naruŋ](次第に固くなる)。˞コー˞　ムノー　˞カウナ [˞ko:˞ muno: ˞kauna](固いものは買うな)。˞マー˞ビン　˞コー˞カー　カ˞マラ˞ヌ [˞ma:˞biŋ ˞ko:˞ka: ka˞mara˞nu](もっと固ければ噛めない)。

˞コーン˞ギ [˞ko:ŋ˞gi] 【名】桑。「桑の木」の義。˞ゴーナ˞キー [˞go:na˞ki:](桑の木) ともいう。葉は養蚕用に、堅くて木目の美しい材質は床柱や床縁、三味線の棹に利用された。実は完熟すると赤褐色から黒褐色を呈して美味である。子供は木の上で唇が赤く染まるまでとって食べた。台風の後、落葉すると結実した。養蚕が廃止されると桑の葉は山羊の飼料に利用された。˞コーンギー˞ヌ　˞パーヤ˞　ピ˞ビザー˞　イッ˞ケナ˞　ッ˞ふータン [˞ko:ŋgi˞nu ˞pa:ja˞ pi˞biʤa:˞ ʔik˞kena˞ f˞fu:taŋ](桑の葉は、山羊はよく食べた)。

˞ゴーンコーン [˞go:ŋko:ŋ] 【副】 1堅い木材を叩く音の形容。擬音語。˞ゴーンコーン˞シ　ウ˞トゥヌ˞　シゥ˞カリヌ　タッ˞テヌ　プ˞スヌ˞　ヤー　ス˞ク˞ロールカヤー [˞go:ŋko:ŋ˞ʃi ʔu˞tunu˞ si̥˞karinu tat˞tenu pu̥˞sunu˞ ja: su̥˞ku˞ro:rukaja](コーンコーンと大槌で木材を打つ音が聞こえるが、何処の家の人が家を新築される＜造られる＞のかなあ)。2咳き込む音の形容。˞ゴーンコーン˞シ　ッ˞サーク˞ヌ　シゥ˞カリヌ˞　パ˞ナシキヌ˞　パ˞ヤー˞リ　˞アー˞クカヤー [˞go:ŋko:ŋ˞ʃi s˞sa:ku˞nu si̥˞karinu˞ pa˞naʃi̥kinu˞ pa˞ja:˞ri ˞ʔa:˞kukaja:](ごほんごほんと咳き込む音＜声＞が聞こえるが、風邪が流行っているのかなあ)。

˞コイ [˞koi] 【名】肥やし。肥料。「肥、古由＜こゆ＞」『華厳音義私記』の転訛か。˞オンケーヌ　˞コイ [˞oŋke:nu ˞koi](便所の肥やし。人糞肥料)。ミ˞ジ˞ゴイ [mi˞ʤi˞goi](水肥やし)。カ˞ジ˞ゴイ [ka˞ʤi˞goi](堆肥)。˞コイ　カ˞タ˞ミ [˞koi ka˞ta˞mi](肥やしを運べ＜担げ＞)。˞ワンヌン˞　コイタングナ　ミ˞ジ˞ゴイ　イ˞リティ˞　パ˞タ˞ケー　カ˞タ˞ミ　˞パリ˞ヨー [˞wannuŋ˞ koitaŋguna mi˞ʤi˞goi ʔi˞riti˞ pa˞ta˞ke: ka˞ta˞mi ˞pari˞jo:](水肥桶に水肥を入れて畑へ担いで行きなさいねえ)。

˞コイスブ [˞koisubu] 【名】肥え壷。肥え溜め。水肥を蓄えて発酵させる壷 (穴)。普通は便所の裏に作られていた。ヨー˞ヨー˞　パ˞タキ˞ヌ　˞アザナー　˞コイスブヌ　ア˞リ˞バ　ウ˞ティル˞ナ˞ダー [jo:˞jo:˞ pḁ˞taki˞nu ˞ʔaʤana: ˞koisubunu ʔa˞ri˞ba ʔu˞tiru˞na˞da:](よくよく注意してよ。畑の畦に肥え壷があるから落ちるなよ)。

˞コイタング [˞koitaŋgu] 【名】肥え桶。肥えたご (担桶)。˞コイタング　カ˞リ˞キー　ミ˞ジ˞ゴイ　カ˞タミ˞リ [˞koitaŋgu ka˞ri˞ki: mi˞ʤi˞goi ka˞tami˞ri](肥え担桶を借りてきて水肥を運べ＜担げ＞)。˞コイタンゴー　プ˞スター　サ˞リティ˞　ム˞リ˞スバン [˞koitaŋgo: pu̥˞su˞ta: sa˞riti˞ mu˞ri˞subaŋ](水肥桶は日に干しておいたから乾燥してしまって＜枯れてしまって＞漏れるわいよ)。

˞コイナー [˞koina:] 【名】 (動) 鳥の名。歌謡語。コイナーユンタに歌われている鳥。正体不明の鳥。「アジサシの一種」という『石垣方言辞典』。

˞コイフダル [˞koiɸudaru] 【名】こえびしゃく (肥柄杓)。糞尿を汲み取る柄杓。ム˞カ˞シェー　˞オンケーヌ　˞コイスボーラ　˞コイフダルシル　˞コイ　フ˞モーッ˞タ [mu˞kaʃe: ˞ʔoŋke:nu ˞koisubo:ra ˞koiɸu-daruʃiru ˞koi ɸu˞mo:t˞ta](昔は豚便所の肥え壷から肥柄杓で肥えを汲み取られた)。

˞コイマキ [˞koimaki] 【名】水肥によるかぶれ。農作業で直接に肥えが手足に触れて発疹や炎症をおこすこと。「肥え負け」の義。キ˞ムイ˞ツァー　˞コイマケー　˞シー　パン˞マー　ア˞ガーアガー˞シ　フ˞クリ　ベー [ki˞mui˞tsa: ˞koimake: ˞ʃi: pam˞ma: ʔa˞ga:ʔaga:˞ʃi ɸu̥˞kuri be:](可哀相に、肥えにかぶれて手足が赤く腫れている)。

ゴ˞コゴッコー˞ー [go˞kogokko:˞:] 【副】こけこっこう。鶏鳴の形容。雄鶏の鳴く声。ゴ˞ケゴッコー˞ーティイ˞チバンドゥル˞ヌ　ナ˞ク˞カー　マ˞ジムノー　ピン˞ギ　パ˞リ˞スティ　˞スンダー　ウンダー˞　ノー˞ン˞　ナ˞クラーラー　ナーン˞シェン [go˞kogokko:˞:ti ʔi˞tʃibanduru˞nu na˞ku˞ka: ma˞ʤimuno: piŋ˞gi pa˞ri˞suti ˞sunda:˞ no:˞n˞ na˞kura: na:ŋ˞ʃeŋ](こけこっこうと一番鳥が鳴くと、マジモノ＜魔物＞は逃げていくというから、それからは何も怖くなかった)。

˞ゴザ [˞goʤa] 【名】ござ (莫蓙)。輸入品の高級筵。ハ˞ナ˞ゴザ [ha˞na˞goʤa](花模様の付いた高級筵) は来

客用に用いた。標準語からの借用語。普通は、パ˩ダ˥ムス [pa˩da˥musu](肌筵) という。寝る時に敷く筵。夏は暑いので縁側に筵を敷いて寝ると、床板の冷気が熟睡を誘うのであった。莫蓙は来客がある際に敷いて用いた。普通は、ア˩ダン˥パームス [ʔa˩dam˥pa:musu](あだん葉で編んだ筵) か、˩サーラムス [˩sa:ramusu](藺草で編んだ筵) を用いた。˥ゴザ　シ˩キティ˥　ユクイ　˩オーラ˥シ [˥godʑa ʃi̥˩kiti˥ jukui ˩ʔo:ra˥ʃi](莫蓙を敷いてお休みになっていただきなさい)。

ゴシ˩ティ [goʃi̥˩ti] 【副】ばっさり。刃物で勢いよく切るさま。イ˩ズヌ˥　ス˩ブ˥ロー　ゴシ˩ティ˥　キシティ　ピ˩サ˥　ウ˩コー˥シバ [ʔi˩dʑunu˥ su˩bu˥ro: goʃi̥˩ti˥ ki̥ʃiti pi̥˩sa˥ ʔu˩ko:˥ʃiba](魚の頭をばっさりと切り落として、三枚に卸しなさいよ)。

˩コッ˥カー [˩kok˥ka:] 【名】ほおずき (酸漿)。˩ホッ˥カー [˩hok˥ka:] ともいう。昔は˥シラプス [˥ʃira-pu̥su](産婦) が˥シラムヨー [˥ʃiramujo:](産気づく) とほおずき (酸漿) を煎じて飲ませた。サ˩ギフチ˥ル [sa˩giɸu̥tʃi˥ru](下し薬) の煎じ薬。日常生活でも女の子たちは酸漿(ホオズキ)の実が熟れると捥(モ)いで食した。ム˩カ˥シェー　ミ˩ドーン˥ッふァンケーヤ　˩コッ˥カー　フ˩チ˥ナー　フ˩ク˥メーティ　˥ユー　˩ナーラシ˥　ア˩サブン˥ダー [mu˩ka˥ʃe: mi˩do:n˥ffaŋke:ja ˩kok˥ka: fu˩tʃi˥na: ɸu̥˩ku˥me:ti ˥ju: ˩na:raʃi˥ ʔa˩sabu-tan˥da:](昔は女の子供達はほおずき < 酸漿 > を口にふくみながら、よく鳴らして遊んだものだ)。˩コッ˥カーヤ　パ˩タ˥キナー　˥ムイ　ブ˩タン [˩koka:˥ ja pḁ˩ta˥kina: ˥mui ˩butaŋ](ほおずき < 酸漿 > は畑に生えていた)。

˥ゴッカル [˥gokkaru] 【名】鳥の名。アカショウビン (赤翡翠)。背は朱色、腰は瑠璃色、腹は黄褐色。嘴が大きい。ア˩ガ˥ゴッカル [ʔa˩ga˥gokkaru] ともいう。鳩間島では初夏のころに友利御嶽の森や西村井戸の後背部の林、˩アンヌカー [˩ʔannuka:](東村井戸 < ウ˩リ˥カー [ʔu˩ri˥ka:] 下り井戸 >) の林の中などに現れた。時々、˥アミツァ [˥ʔamitsa](ヤドカリ) の殻を嘴で割って捕食するのもいた。˥ゴッカロー　˩インヌカーヌ　キー˥ヌミー　˩ウイヌウガン˥ヌ　˩キーヌ˥ミーナ　ミ˩ラリ˥タン˩ダー [˥gokka:ro: ˩ʔinnuka:nu ki:˥numi: ˩ʔuinuʔugan˥nu ˩ki: ˥numi:na mi˩rari˥tan˩da:](アカショウビンは西村井戸の林の中、友利御嶽の林の中に見ることができた < 見られた > よ)。

˩コッ˥キー [˩kok˥ki:] 【名】ご馳走。「活計」の転訛したものか。˩コッ˥チー [˩kot˥ʧi:](ご馳走) ともいう。˩キュー˥ヤ　ユ˩カーラ　コッキー˥　タ˩ボーラ˥リ　フ˩コーラサ˥　ヌチ　˩ムイ˥ヤーツバン [˩kju:˥ja ju˩ka:ra kokki:˥ ta˩bo:ra˥ri ɸu̥˩ko:rasa˥ nuʧi ˩mui˥ ja:tsubaŋ](今日は大変なご馳走を頂いて有難う。生き返った < 命が生えた、蘇った > よ)。

˩コッコー˥ッふァー [˩kokko:˥ffa:] 【名】孝行の子。孝行者。ウ˩ヌ˥　ッ˩ふァー　コッコー˥ッふァー　ヤ˩ルンダ˥　ウ˩ヤ˥ヌ　˥クトゥーン　˥ユー　˩スン [ʔu˩nu˥ f˩fa: kokko:˥ffa: ja˩runda˥ ʔu˩ja˥nu ˥ku̥tu:ɲ ˥ju: ˩suŋ](その子は孝行の子 < 親孝行な子 > であるから親にもよく尽くす < 親のことも良くする >)。

˩コッコー˥マ [˩kokko:˥ma] 【名】お利口さん。孝行な子。愛しい子。子供を慈しんで呼びかける言葉。コッコー˩マー　ワー　タンガ˥シ　˩クーター [kokk:˩ma: wa: taŋga˥ʃi ˩ku:ta:](愛しい子よ、お前一人で来たのか。「よくひとりで来ることができたねえ。いらいよ」の含意がある)。

˩ゴッスンクギ [˩gossuŋkugi] 【名】五寸釘。屋根の タ˩ル˥キ [ta˩ru˥ki](垂木) を桁材に打ち付けるのに用いる釘。˩ゴッスンフン [˩gossuŋɸuŋ](五寸釘) ともいう。˩ヤー˥ヌ　ヤ˩ドゥパシ˥ロー　˩ゴッスンフン˥シ　˥ウティ　˥シケーバ　˩タイフー˥ヌ　˩クー˥バン　˩ソーヤ　ナー˥ヌ [˩ja:˥nu ja˩dupaʃi˥ro: ˩gos-suŋɸuŋ˥ʃi ˥ʔuti ˥ʃi̥ke:ba ˩so:ja na:˥nu](家の雨戸は五寸釘で打ちつけてあるので、台風が来ても心配ない)。

˩コッタルムヌ [˩kottarumunu] 【感】ままよ (儘よ)。なるようになれ。どうなろうと知るものか。不都合なことが惹起して残念がったり、なす術がなくなり、怒ったり自暴自棄に陥ったりするときに発することば。˩コーッタルムヌ˥　ウビ˩バーキ˥ル　イ˩ジ˥　ナ˩ラー˥シン　シ˩ラリル˥　ドゥーシ　˩ノーサン˥カー　˩ターシタガーヤー˥　メー [˩ko:ttaru-munu˥ ʔubi˩ba:ki˥ru ʔi˩ʤi˥ na˩ra:˥ʃiŋ ʃi˩rariru˥ du:ʃi ˩no:saŋ˥ka: ˩ta:ʃitaga:ja˥ me:](ままよ。これだけしか < が > 叱って教えることも出来ない < 出来る >。己自身で治さなければ、誰が知ったことか < 俺は知らんぞ >)。˩コーッタルムヌ˥　アイブ　ム˩ヌン˥ナーニ　ア˩ザンブレー˥バ　˥ミサタムヌ [˩ko:ttarumunu˥ ʔaibu mu˩nun˥na:ni ʔa˩dʑambure:˥ba ˥misatamunu](どうにでもなれ < えい、ままよ >。あんな奴に言わなければよかったのに)。

˩コッ˥チー [˩kot˥ʧi:] 【名】ご馳走。老年層は、˩クァッ˥チー [˩kwat˥ʧi:](ご馳走) という。˩クァッ˥チー [

˞kwat˞ʧi:] の項参照。

˞**コッチャン [˞kottʃaŋ]** 【固】浦崎英七氏の童名。「お坊ちゃん」の義。石垣方言の˞コー˞ニー [˞ko:˞ni:](男の子。士族男子の名) の愛称で、コッ˞チ [kot˞ʧi](ちんちん。男の子) に由来するものであろう。˞ウイカナケーヌ　エイシチャザー˞　ヤ˞ラビナー˞ヤ　˞コッチャン˞ティル　ア˞ゾーッタ˞ル [˞ʔuikanakeːnu jeiʃi̥ʧaːʤa:˞ ja˞rabina:˞ja ˞kottʃan˞tiru ʔa˞ʤo:tta˞ru](浦崎家の英七兄さんは、童名はコッチャンとぞ言われたよ)。

˞**コッパ˞チャー [˞koppa˞ʧa:]** 【名】硬い物。頭の固い人。我の強い人。ク˞レー　コッパ˞チャー　˞ナリティ　カ˞マラ˞ヌ [ku˞re: koppa˞ʧa: ˞nariti ka˞mara˞nu](これは硬い物になって食べられない)。˞アイブ　˞コッパ˞チャーティン　プ˞スヌ　ブン˞ツォー　˞ピッ˞チン　プ˞スヌ˞　パ˞ナ˞シ　シゥ˞カヌ [˞ʔaibu ˞koppa˞ʧa:tim pu̥˞sunu bun˞tso: ˞pit˞ʧim pu̥˞sunu˞ pa ˞na˞ʃi si̥˞kanu](あんな堅物って、人たるものがいるものかよ。一つも他人の話を聞き入れない < 聞かない >)。

˞**コッパリ˞ムヌ [˞koppari˞munu]** 【名】1固くなったもの。凝固したもの。˞コッパリ˞ムノー　ミ˞ジ˞ナ　イ˞リティ˞　フ˞クラシ　ヤーラカシ [˞kopari˞munoː mi˞ʤi˞na ʔi˞ri˞ ɸu̥˞kuraʃi jarakaʃi](固くなった物は水に入れて膨らませて軟らかくしなさい)。2強張っているもの。プ˞スヌ˞　マンター　ン˞ジ˞ルカー　˞コッパリ˞ムヌ　˞ナリティ　˞ムニ　イ˞ジサヌ [pu̥˞sunu˞ manta: ʔn˞ʤi˞ruka: ˞koppari˞munu ˞nariti ˞muni ʔi˞ʤisanu](人前に出ると堅物 < 強張ったもの > になって物が言えない)。

˞**コッ˞パルン [˞kop˞paruŋ]** 【自動】硬くなる。硬直する。「強張る」の義。ム˞チェー　コーッ˞パリティ　カ˞マラ˞ヌ [mu˞ʧe: koːp˞pariti ka˞mara˞nu](餅は硬くなって噛めない)。˞ピーラシ˞タンティン　˞コッパラ˞ヌ [˞piːraʃi˞tantiŋ ˞koppara˞nu](冷やしても硬くならない < 強張らない >)。˞ピーラ˞スカー　˞コッ˞パルクトー　˞コッパルン˞ドゥ　ヤ˞ク˞カー　˞ヤーラクン˞ダー [˞piːra˞su̥ka: ˞kop˞parukṵto: ˞kopparun˞du ja˞ku˞ka: ˞ja:rakun˞da:](冷やすと硬くなる < 強張る > ことは硬くなるが < 強張るが >、焼くと柔らかくなる < やわらぐ > よ)。˞コッ˞パレー　˞ミサムヌ [˞kop˞pare: ˞misamunu](硬くなれば < 強張れば > よいのに)。˞コッ˞パリ [˞kop˞pari](硬くなれ)。ム˞チェー　コッ˞パリティ　ッ˞ふァーラヌ [mu˞ʧe: kop˞pariti f˞fa:ranu](餅は硬くなって食べられない)。マ˞ダ　コッパラ˞ヌ [ma˞da koppara˞nu](まだ硬くならない)。˞ピーラ˞スカー　˞コッ˞パルン [˞piːra˞su̥ka: ˞kop˞praruŋ](冷やしたら硬くなる)。˞コッ˞パルムノー　˞コッパラ˞シ [˞kop˞paru ˞muno: ˞koppara˞ʃi](硬くなる < 固まる > ものは硬くなせ < 固まらせ >)。˞マー˞ビン　˞コッ˞パレー　˞ミサムヌ [˞ma:˞biŋ ˞kop˞pare: ˞misamunu](もっと硬くなれば < 硬直すれば > よいのに)。˞タンガ˞プス　ヤ˞ロー˞レーティ　˞マーラシティ　コッ˞パルンケン　ター˞ン˞　ッ˞サンシェン˞ツォー [˞taŋga˞pu̥su ja˞ro:˞re:ti ˞ma:raʃiti kop˞paruŋken ta:˞n ˞ s˞saŋʃen˞tso:](一人暮らしでおられた < 一人身であられた > ので、亡くなって硬直するまで誰も知らなかったそうだ)。

˞**コッふァスン [˞koffasuŋ]** 【他動】根こそぎにする。˞タイ˞フーナ　˞ウーナン˞ヌ　˞ユーシ˞キー　˞サンバ˞シェー　˞コッふァシ˞　パリ˞ナー˞ヌゥ [˞tai ˞ɸu:na ˞ʔu:nan˞nu ˞juːʃi˞ki: ˞samba˞ʃe: ˞koffaʃi˞ pari˞na:˞nu](台風で大波が押し寄せて、桟橋は根こそぎ、ごっそり押し流されてしまった)。˞ウーナン˞マー　ノー˞ン　コッふァスン [˞ʔu:nam˞ma: no:˞ŋ koffasuŋ](大波は何でも根こそぎにする)。˞コッふァサラヌ [˞koffasaranu](根こそぎにされない)。˞コッふァス˞　クトゥン　˞アン [˞koffasu˞ ku̥tuŋ ʔaŋ](根こそぎにすることもある)。˞コッふァシェー˞　ミサムヌ [˞koffaʃe:˞ misamunu](根こそぎにすればいいのに)。˞コッふァシ [˞koffaʃi](根こそぎにせよ)。

˞**コッふァスン [˞koffasuŋ]** 【他動】根こそぎにする。ごっそり掘り起こして持ち去る。ことごとくぶっ壊して持ち去る。根こそぎ鋤き起こしたように持ち去る。雪崩れ込む。˞ウーミジヌ˞　ウ˞ク˞リティ　˞ター˞ヌ　˞アザー　˞コッふァシ˞　パリ˞ナー˞ヌ [˞ʔu:miʤinu˞ ʔu˞ku˞riti ˞ta:˞nu ˞ʔaʤa: ˞koffaʃi˞ pari ˞na:˞nu](洪水 < 大水 > が起って田の畦は根こそぎに掘り起こして押し流してしまった)。˞ウーミジェー˞　ノー˞ン　コッふァスン [˞ʔu:miʤe:˞ no:˞ŋ koffasuŋ](洪水は何もかも根こそぎ鋤き起こしたように流し去る)。˞コッふァサラヌ [˞koffasaranu](根こそぎにされない)。˞ウーミジヌ˞　ター　˞コッふァス˞　ピンマー　˞イットゥ˞キシル　˞コッふァス˞ダー [˞ʔu:miʤinu˞ ta: ˞koffasu˞ pimma: ˞ʔittu˞kiʃiru ˞koffasu˞da:](洪水が田を根こそぎに破壊するときは、一瞬の間にぶっ壊して流し去るのだ)。

˞**ゴッふァスン [˞goffasuŋ]** 【他動】幼児が額を物にゴツンと当てる。フ˞タイ　ゴッふァスン [ɸu̥˞tai goffasuŋ](額を物にゴツンと当てる)。˞ゴッふァサ

ヌ [˩goffasanu](額を打ち付けない)。ゴッ˩ふェー˥ティ ˩ゴッふァス˥ ピンマー ˩ヤーラマ˥シ ˩ゴッふァシ˥バ [gof˩feː˥ti ˩goffasu˥ pimmaː ˩jaːrama˥ʃi ˩goffaʃi˥ba](ゴツンと額をぶつける時は柔らかくぶつけなさいよ)。

ゴッ˩ふァティ [gof˩fati] 【副】 1ごつんと。ゴッ˩ふァティ˥ フ˩タイ˥ バ˩リ˥ シケー [gof˩fati˥ ɸu̥˩tai˥ ba˩ri˥ ʃi̥ke:](ゴツンと額を打ちつけてある)。2ごっそり。根こそぎにするさま。ことごとく。余すところなく。ウ˩ブアミヌ フー˥ター ˩ウーミジヌ˥ ウ˩ク˥リティ パ˩タキ˥ヌ ˥アザー ゴッふァティ サンガリ˥ パリ˩ナー˥ヌ [ʔu˩buaminu ɸuː˥taː ˩ʔuːmiʤinu˥ ʔu˩ku˥riti pḁ˩taki˥nu ˥ʔaʤaː gof˩fati saŋgari˥ pari˩naː˥nu](大雨が降ったので洪水＜大水＞が起こって畑の畦は根こそぎ流されて＜引張られて＞いってしまった)。

ゴッ˩ふェー [gof˩feː] 【感】ゴッツンコ。母親が乳幼児の額に母親の額を軽く当ててあやすこと。愛情をこめた一種のスキンシップ。ゴッ˩ふェー˥ゴッ˩ふェー˥ ウ˩ブ˥プス タ˩カ˥プス ナリ˩ヨー [gof˩feː˥ gof˩feː˥ ʔu˩bu˥pu̥su tḁ˩ka˥pu̥su nari˩joː](ゴッツンコ、大きくなれよ、高くなれよ)。

˥コテ [˥kote] 【名】こて (鏝)。漆喰を塗る際に用いる道具。標準語からの借用語か。˥コテシ ˩カーラ˥ヌ ム˩チ ヌールンティ ベー [˥koteʃi ˥kaːra˥nu mu˩ʧi nuːrunti beː](鏝で瓦の漆喰を塗ろうとしている)。

ゴ˩ブヌン [go˩bunuŋ] 【名】五分鑿。細工の工具。五分巾の鑿。柱のほぞ穴を掘る際に用いる鑿。ゴ˩ブヌン˥シル パ˩ラー˥ヌ ˥アナー プ˩ル˥タ [go˩bunuŋ˥ʃiru pa˩raː˥nu ˥ʔanaː pu˩ru˥ta](五分鑿で＜ぞ＞柱のほぞ穴は掘った)。

˥ゴムカン [˥gomukaŋ] 【名】パチンコ。˥グムカン [˥gumukaŋ] ともいう。二股の小枝の両端にゴムひもを結わえ、小石を挟んで飛ばす玩具。子供達は、これでスズメやメジロ、アオバト等を打ち落として狩りを楽しんだ。ヤ˩ラ˥ビンケーヤ ˥ゴムカンシ ˥ユー ˥パトゥザ ア˩トゥタン [ja˩ra˥biŋkeːja ˥gomukaŋʃi ˥juː ˥patuʤa ʔa˩tutaŋ](子供達はゴムカンでよく鳩を撃った)。

コ˩ロ [ko˩ro] 【名】ころ (転)。下に敷いて転がすのに用いる堅く丸い棒。鰹漁船を陸揚げしたり、下ろしたりする際に˩バンギ [˩baŋgi](「板木」の義か) の上置き、その上に船体を載せて転がし、陸揚げや船おろし＜進水＞するのに用いる、直径約 15 センチ、長さ約 2 メートルの堅くて丸い棒。鰹漁船は漁期が終了すると陸揚げされ、翌年の漁期に船下ろしされた。カ˩ツシン アンギル˥ ピンマー ˩バンギ˥ シ˩キティ˥ ウ˩リトゥ˥ フ˩ニ˥ヌ ス˩ク˥ナー コ˩ロ˥ カ˩マ˥シティル ˥ビービーシ マ˩キティ アンゴーッ˥タ [kḁ˩tsuʃiŋ ʔaŋgiru˥ pimmaː ˩baŋgi˥ ʃi̥˩kiti˥ ʔu˩ritu˥ ɸu˩ni˥nu su̥˩ku˥naː ko˩ro˥ ka˩ma˥ʃi̥tiru ˥biːbiːʃi ma˩kiti ʔaŋgoːt˥ta](鰹漁船を陸揚げする時は板木を敷いて、それと船底にコロをかませて巻上げ機を回して引張って陸に揚げられた)。

˩ゴンゴン [˩goŋgoŋ] 【副】ぐるぐる。勢い良く回転するさま。˩ゴンゴン˥シ ˥ヤマー ˩マーセー˥ティ ˥フダー マ˩コーッ˥タ [˩goŋgoŋ˥ʃi ˥jamaː ˩maːʃeː˥ti ˥ɸudaː ma˩koːt˥ta](ぐるぐる糸車をまわして、管に糸を巻きとられた＜くだを巻かれた＞)。

˩ゴンコン˥シ [˩goŋkoŋ˥ʃi] 【副】 1ごくりごくりと。ごくんごくんと。擬音語。水など、液体を音を立てて一息に飲むさま。˥アイニ ˩ゴンコン˥シ ミ˩ジ˥ ヌム ˩ギン˥シェー イッ˩ケナ˥ ヌ˩ドゥカー˥キ ˩シー˥ ブ˩レーン˥ギサーバン˩ナー [˥ʔaini ˩goŋkoŋ˥ʃi mi˩ʤi˥ numu ˩giŋ˥ʃeː ʔik˩kena˥ nu˩dukaː˥ki ˩ʃiː˥ bu˩reːŋ˥gisaːban˩naː](あんなにがぶがぶ＜ごくんごくんと音を立てて＞水を飲むようでは相当に喉が渇いていたようだなあ)。2擬音語。硬い木材などをコンコンと打つ音。˩ゴンコン˥シ ˩ヌン˥バ ˩シッ˥ケーティ ˩ザイギ˥ナ ア˩ナ˥バ ˥プリ ˩ベー [˩goŋkoŋ˥ʃi ˩num˥ba ˩ʃik˥keːti ˩ʤai˥gina ʔa˩na˥ba ˥puri ˥beː](コンコンと鑿を叩いて材木に穴を掘っている)。

˩コン˥ジン [˩kon˥ʤiŋ] 【名】「根神」の義か。˩クン˥ジン [˩kun˥ʤiŋ] ともいう。床の間の香炉に継承される神。その家の女が香炉を建てて信仰する。ミ˩ドーン˥ッふァー ˩ヤーム˥トゥナーティ ˩コン˥ジン ˥タティ ス˩コー˥リティ ˩ヤーバカ˥リ ˩スー˥ ピンドゥ バ˩カ˥ソーッタ [mi˩doːŋ˥ffaː ˩jaːmu˥tunaːti ˩kon˥ʤin ˥tḁti su̥˩koː˥riti ˩jaːbaka˥ri ˩suː˥ pindu ba˩ka˥soːtta](女の子は里＜本家＞で根神を立てて置いて、嫁ぐ＜家分する＞時に里の根神を分けられた)。

˩コン˥ジン [˩kon˥ʤiŋ] 【名】「金神」の義か。寅の方角の神をいう。その方角に向かって嫁入りしたり、移転することを、˩コン˥ジン カ˩ミ˥ルン [˩kon˥ʤiŋ ka˩mi˥ruŋ](金神の方角に向かう＜金神を頂く＞)といって忌み嫌う。˩コンジン˥バ ˥カミ ˩ヤーウ

チ˞リ　˞スームノー˞　ア˞ラ˞ヌ [˞kondʒim˞ba ˞kami ˞ja:utʃi˞ri ˞su:muno:˞ ʔa˞ra˞nu](金神の方角に転居 < 家移り > するものではない)。

ゴン˞ティ [gon˞ti] 【副】ごくっと。一気に飲み下ろすさま。擬態語。ヌ˞ミグリ˞サーラバン　ゴン˞ティ˞　プ˞ス˞イキサーリ　˞ヌムカー　ヌ˞マ˞リン [nu ˞miguri˞sa:rabaŋ gon˞ti˞ pu˞sui˞kisa:ri ˞numuka: nu˞ma˞riŋ](飲みづらくてもゴクント一息で飲めば飲める。飲まれる)。

˞コンピタ [˞kompita] 【名】(動)、貝の名。和名、リュウキュウアマガイ (『原色沖縄海中動物生態図鑑』白石祥平)。海岸の海水のかかる岩礁にくっついている。満潮時は岩礁が水面下に没するので、岩礁の表面に出ているが、干潮時には岩礁の下部や海水の水溜りのところに集まっている。満潮時は岩礁のノッチ部分の海水の溜まった所に集まっている。お汁にすると美味である。イ˞シバナヌ˞　ッ˞サーラ˞ラー　˞コンピター　プ˞サイ˞　キー　˞スー　バカ˞シ [ʔi˞ʃibananu˞ s˞sa:ra˞ra: ˞kompita: pu̥˞sai˞ ki: ˞su: baka˞ʃi](海岸の岩礁の下からコンピターを拾ってきてお汁に炊きなさい)。

サ

˺サー [˺saː] 【名】神の霊威。˺サーダカマリ [˺saːdakamari](生来、神霊威を授かっている女性)。パ˹トゥマ˺ヌ　ウ˹ガン˺マー　イッ˹ケナ˺　サー　タ˹カー˺　ア˹ロー˺ルンティ˹ダー [pḁ˹tuma˺nu ʔu˹gam˺maː ʔik˹kena˺ saː tḁ˹kaː˺ ʔa˹roː˺runti˹daː](鳩間島の御願 < 御嶽 > は非常に神霊威が高くあられるそうだよ)。˹ヤシキ˺ヌ　ビ˹チ˺ロー　˺サー　タ˹カーン˺トンティ　ア˹ザリブー [˹jaʃi̥ki˺nu bi˹ʧi˺roː ˺saː tḁ˹kaːn˺ti ʔa˹ʤaribuː](屋敷の東側にあるビチル [bi˹ʧi˺ru]< 「賓頭櫨」の義か > は神霊威の高い所だと言われている)。

˺サー [˺saː] 【名】ます (枡)。度量衡器の一つ。液体や粉、粒状穀物を計量するのに使用される。˹イッス˺サー [˹ʔissu˺saː](一升枡)。˹イッス˺サーシ　パ˹カ˺リバ [˹ʔissu˺saːʃi pḁ˹ka˺ribaː](一升枡で計りなさい)。˹グンゴーナカ˺ムル [˹guŋgoːnaka˺muru](五合枡)。イ˹チンゴーナカ˺ムル [ʔi˹ʧiŋgoːnaka˺muru](一合枡) などがある。

˺サー [˺saː] 【名】茶。お茶。ヤ˹マトゥ˺サー [ja˹matu˺saː](「大和茶」の義。緑茶)。˹タイパン˺サー [˹taipan˺saː](台湾茶。煎茶。戦前は台湾より輸入されていた)。˹サーサー˺ドー [˹saːsaː˺doː](仏壇に供える茶湯)。カ˹タサー [kḁ˹tasaː](濃い茶)。˹ミーパギ˺サー [˹miːpagi˺saː](出涸らしの茶。非常に薄い茶)。カ˹ラサー [ka˹rasaː](茶請けのない、お茶。お茶だけ)。˹サーサー˺フキ [˹saːsaː˺ɸu̥ki](茶請け。茶菓子)。˺サー　フ˹カ˺シ [˺saː ɸu̥˹ka˺suŋ](茶を沸かす)。˺サー　˹サイ˺バ [˺saː ˹sai˺ba](茶を注ぎなさいよ)。

˹サー [˹saː] 【副】いつも。常に。老年層は、˹チャー [˹ʧaː](常に) ともいう。˹ウン˺ネーヤ　˹サー˺ <˹チャー˺>　ウ˹ヌ˺　クトゥシル　˹ムン˺ドー　ウ˹ク˺ス˹ツォー [˹ʔun˺neːja ˹saː˺ <˹ʧaː˺> ʔu˹nu˺ ku̥tuʃiru ˹mun˺doː ʔu˹ku˺su˹tsoː](その家は、いつもこのことで家庭騒動を起こすのだよ)。

˺サー [˺saː] 【終助】〜よ。〜さ (様態)。軽い断定を含む詠嘆の意。˺アイブ　˺クトー　˺バー　ッ˹サン˺サー [˺ʔaibu ˺ku̥toː ˺baː s˹san˺saː](あんなことは、私は知らないさ < よ >)(軽い断定)。ア˹ミ˺ヌ　˹フイン˺ギササー <˹フイン˺ギサバン >[ʔa˹mi˺nu ˹ɸuiŋ˺gisasaː <˹ɸuiŋ˺gisabaŋ >](どうも雨が降りそうだよ < さ >)。

˺ザー [˺ʤaː] 【名】座。座敷。˹ザー˺ヌ　ピ˹ソー˺ン [˹ʤaː˺nu pi̥˹soː˺ŋ](座敷が広い)。˹ザー˺ヌ　シ˹バー˺ン [˹ʤaː˺nu ʃi˹baː˺ŋ](座敷が狭い)。イ˹チバン˺ザー [ʔi˹ʧiban˺ʤaː](一番座、床の間)。˹ニーバン˺ザー [˹niːban˺ʤaː](二番座、仏間)。˹サンバン˺ザー [˹samban˺ʤaː](三番座、居間)。˹ヨイ˺ザー [˹joi˺ʤaː](祝いの座敷)。˹ザームチ [˹ʤaːmuʧi](「座持ち」の義。酒宴の座を賑わす人。酒宴の座に興を添える人)。ウ˹ラ˺ザー [ʔu˹ra˺ʤaː](「裏座」の義。奥座敷)。

˹ザー [˹ʤaː] 【名】じゃ (蛇)。へび。˹ジャー [˹ʤaː] ともいう (若年層)。˺ウン [˺ʔuŋ](鬼) と重ねて用いられ、繰り返し強調の特別用法がある。ッ˹ふァヌ˺　タ˹ミ˺シェー　˺ウヤー　ウン　˺ナリー　˹ザーン˺ <˹ジャーン˺>　ナルン [f˹fanu˺ ta˹mi˺ʃeː ˺ʔujaː ˺ʔun˺nariː ˹ʤaːn˺ <˹ʤaːn˺> naruŋ](子供のためには親は鬼にもなり、蛇にもなる)。ミ˹ドゥム˺ヌ　パ˹ティ˺ルカー　˹ザー˺ <˹ジャー˺> ナルン [mi˹dumu˺nu pḁ˹ti˺ruka: ˹ʤaː˺ <˹ʤaː˺> naruŋ](女が思い極まると < 極限状況になって決意すると > 蛇になる)。

˹ザーアタ˺ル [˹ʤaːʔata˺ru] 【名】座敷担当。「座当たり」の義。最下級の村役人。小学校卒業したての少年が西村、東村より各 1 名選ずつ選出された。ヤ˹ク˺サ [ja˹ku˺sa](村役人) の下で、その指示の下に˹ジンバイ [˹ʤimbai](お膳配り。膳担当。東、西村より各 1 名選出) と一緒に働いた。豊年祭や結願祭のような大きな村行事の際には、桟敷の準備、舞台設営、友利御嶽での˹ユードゥー˺シ [˹juːduː˺ʃi](夜通し祈願) の準備などを取り仕切った。また、ヤクサの指導の下に、グ˹サーク˺マイ [gu˹saːku˺mai](5 勺米) の徴収に従事したり、供物のカ˹マブク [ka˹mabuku](蒲鉾) や˺クバン [˺kubaŋ](焙乾した魚肉の

供物) の準備に当たったりした。キ⌜チゴンヌ⌝　ピンマー　⌜ザーアタ⌝ロー　⌜ヤーカー⌝ジェーラ　⌝ムス　カ⌜リ⌝キー　マ⌜タ　カイ⌝ス　シ⌜グトゥン　シーシタ [ki̥⌜ʧigonnu⌝ pimma: ⌜ʣa:ʔata⌝ro: ⌜ja:ka:⌝ʤe:ra ⌝musu ka⌜ri⌝ki: ma⌜ta kai⌝su ʃi⌜gutuŋ ʃi:ʃi̥ta](結願祭の時は座席係は家々から筵を借りてきて、また返済する仕事もしたものだ)。

⌝**ザー　ア⌜ツァ⌝スン [⌝ʣa: ʔa⌜tsa⌝suŋ]** 【連】一座を面白く、楽しくする。一座を楽しませる。「座をあたためる」の義。ク⌜ヌ⌝　プ⌜ソー⌝　ムニ　ウ⌜ムッ⌝サユンダー　ク⌜ヌ⌝　プ⌜スヌ⌝　ム⌜ヌパナシ⌝　パ⌜ジミル⌝カー　⌝ザー　ア⌜ツァ⌝スン⌜ツォー [ku⌜nu⌝ pu̥⌜so:⌝ muni ʔu⌜mus⌝sajunda: ku⌜nu⌝ pu̥⌜sunu⌝ mu⌜nupana⌝ʃi pa⌜ʤimiru⌝ka: ⌝ʣa: ʔa⌜tsa⌝sun⌜tso:](この人は話が面白いから、この人が話を始めると一座を楽しませるんだよ)。プ⌜スヌ　ゴー⌝ラーバル　⌜ザー⌝ヤ　ア⌜ツァサ⌝リ [pu̥⌜sunu go:⌝ra:baru ⌜ʣa:⌝ja ʔa⌜tsasa⌝ri](人が多かったらばこそ一座は賑やかに出来る)。

⌜**ザー⌝カ [⌜ʣa:⌝ka]** 【副】水が桶や船底よりザーザーと漏れるさま。ザーザーと雨が降るさま。擬声語。ア⌜ミ⌝ヌ　⌜ザー⌝カ　⌝フイケーン [ʔa⌜mi⌝nu ⌜ʣa:⌝ka ⌝ɸuike:ŋ](雨がザーザーと降ってきた)。ミ⌜ジタンゴー⌝　サ⌜リティ⌝　ミ⌜ジェー　ザー⌝カ　ム⌜リ⌝ス [mi⌜ʤitaŋgo:⌝ sa⌜riti⌝ mi⌜ʤe: ʣa:⌝ka mu⌜ri⌝su](水桶は枯れて＜太陽に干されて桶板の合わせ目が開いて＞、水はザーザー漏れる)。

⌜**サー⌝カシ [⌜sa:⌝kḁʃi]** 【名】ちゃかす (茶滓)。ちゃがら (茶殻)。茶を煎じた残りかす。⌜サー⌝カシ　⌜ザシ⌝キナ　⌝マキティ　⌜ポーキンザ⌝スカー　フ⌜クイン⌝　ク⌜マークマ　ポーキンザサ⌝リン⌜ダー [⌜sa:⌝kḁʃi ⌜ʣaʃi̥⌝kina ⌝makiti ⌜po:kiʔnʣa⌝su̥ka: ɸu̥⌜kuiŋ⌝ ku⌜ma:kuma po:kiʔnʣasa⌝rin⌜da:](茶滓を座敷に撒いて掃き出すと、埃も非常に細かく掃き出すことが出来るよ)。

⌝**ザー　ガ⌜ラスン [⌝ʣa: ga⌜rasuŋ]**【連】一座を明るくする。一座を華やかにする。一座を楽しませる。⌝アブジェー　⌜オー⌝ルカー　⌜サンシンバ⌝　ピ⌜キティ⌝　イッ⌜ケナ⌝　ザー　ガ⌜ラソーッ⌝タン [⌝ʔabuʤe: ⌜ʔo:⌝ruka: ⌜saŋʃimba⌝ pi̥⌜kiti⌝ ʔik⌜kena⌝ ʣa: ga⌜raso:t⌝taŋ](お祖父さんが来られると三線を弾いて、非常に一座を明るくされた)。

⌝**サーギ [⌝sa:gi]** 【副助】～さえ。**(1)** 体言や活用語の連用形に付いて仮定条件を表す句の中に用いられ、そのことだけで条件が満たされれば他は不問にする意を表す。⌝ジンサーギ　⌝アルカー　ノー⌜ン　ソーヤ　ナー⌝ヌ [⌝ʤinsa:gi ⌝ʔaruka: no:⌜n so:ja na:⌝nu](お金さえあれば何も心配はない)。⌜ワー⌝　カキサーギ　⌜スー⌝カー　⌝ミサン [⌜wa:⌝ kḁkisa:gi ⌜su:⌝ka: ⌝misaŋ](君は書きさえしたらいい)。ミ⌜ドーン⌝ッふァー　ア⌜バ⌝レーサーギ <⌜カイ⌝ヤサーギ > アルカー　⌜イー⌝ロール　プ⌜ソー　オー⌝ルン [mi⌜do:ŋ⌝ffa: ʔa⌜ba⌝re:sa:gi ＜⌜kai⌝jasa:gi＞⌝ʔaruka: ⌜ʔi:⌝ro:ru pu̥⌜suŋ ʔo:⌝ruŋ](女の子は美しくさえあれば貰ってくださる人もおられる)。**(2)** 格助詞ヌ [nu](～が)、ニ [ni](～に)、ン [n](～に)、バ [ba](～を)、ラ [ra](～から)、トゥ [tu](～と)、ナー [na:](～に) に下接する。プ⌜スヌ　サーギ⌝　ア⌜ツァ⌝マルカー　⌝アン　ウ⌜ラサ⌝リン [pu̥⌜sunu sa:gi⌝ ʔa⌜tsa⌝maruka: ⌝ʔaŋ ʔu⌜rasa⌝riŋ](人がさえ集まれば、追い込み漁をする＜網を下ろす＞ことが出来る)。ユ⌜ク⌝　プ⌜スンサーギ⌝　ア⌜ザン⌝カー　⌝ミサン [ju⌜ku⌝ pu̥⌜sunsa:gi⌝ ʔa⌜ʣaŋ⌝ka: ⌝misaŋ](他人にさえ言わなければいい)。ク⌜リバ⌝サーギ　カ⌜タジキ⌝ルカー　ヌ⌜カ⌝ロー　⌝アツァ　サ⌜バン⌝　ミサン [ku⌜riba⌝sa:gi ka⌜taʤiki⌝ruka: nu⌜ka⌝ro: ⌝ʔatsa sa⌜bam⌝ misaŋ](これをさえ片付けたら残りは明日してもいい)。⌝ウヤーラサーギ　タ⌜ナ⌝モールカー　⌜ンー⌝バテー　ア⌜ザヌ [⌝ʔuja:rasa:gi ta⌜na⌝mo:ruka: ⌜ʔm:⌝bate: ʔa⌜ʣanu](親からさえ頼まれたら、否とはいわない)。ク⌜ヌ⌝　シ⌜トゥウヤトゥ⌝サーギ　ピライ⌜シェー⌝カー　ター⌜ントゥン⌝　ピ⌜ラー⌝リン [ku⌜nu⌝ ʃi̥⌜tuʔujatu⌝sa:gi pirai⌜ʃe:⌝ka: ta:⌜ntum⌝ pi⌜ra:⌝riŋ](この姑とさえうまく付き合えたら、誰とでも付き合える)。パ⌜トゥ⌝マナーサーギル　⌝アル　イ⌜サナキ⌝ナー　⌜ナーン⌝テー <⌜ナーン⌝クトー >　⌜ナー⌝ヌ [pḁ⌜tu⌝manasa:giru ⌝ʔaru ʔi⌜sanaki⌝na: ⌜na:n⌝te: ＜⌜na:ŋ⌝kuto:＞ ⌜na:⌝nu](鳩間島にさえあるのだ。石垣島にないということはない)。**(3)** 格助詞ヌ [nu](～の) に上接する。⌝クビサーギヌ　シ⌜グトゥンツァン⌝　ナ⌜ラ⌝ムティ　⌜ヌー⌝ヌ　ナ⌜ル⌝ワ [⌝kubisa:ginu ʃi⌜gutuntsan⌝ na⌜ra⌝muti ⌜nu:⌝nu na⌜ru⌝wa](これしきの＜これさえの＞仕事すら出来ないで、一体何が出来るのか)。**(4)** 係助詞ル [ru](～ぞ)、ン [n](～も) を下接して限定強調の条件文をつくり、続く疑問文にかかる。サ⌜ケー　ワー⌝　ウンシサーギル　⌝タリ　ス⌜ク⌝ル　⌜マイ⌝シェー　パ⌜ナザ⌝キン　ス⌜クラ⌝リ⌜ゲ⌝ラ [sḁ⌜ke: wa:⌝ ʔuŋʃisa:giru ⌝tari su̥⌜ku⌝ru ⌜mai⌝ʃe: pa⌜naʣa⌝kin su̥⌜kura⌝ri⌜ge⌝ra](酒は君、芋でさえも＜ぞ＞醸造される。米では花酒も作れるさ)。ヤ⌜ラ⌝ビンサーギン

ナ˩リ˥ス　˥ムヌバ　ウ˩ブプス˥ヌ　ナ˩ラン˥テー＜ナ˩ラン˥ティクトー＞　˩ナー˥ヌ [ja˩ra˥binsa:gin na˩ri˥su ˥munuba ʔu˩bupu̥su˥nu na˩ran˥te: ＜na˩ran˥tikuto:＞ ˩na:˥nu](子供にさえも出来るものを、大人が出来ないことはない)。

˩サーク [˩sa:ku] 【名】仕事。職。職業。老年層は、ッ˩サーク [s˩sa:ku](仕事) という。˩オーシキヌ˥　ヤビティ　ムッ˩トゥ˥　サークン˥　ナ˩ラ˥ヌ [˩ʔo:ʃiki˥nu ˥jabiti mut˩tu˥ sa:kun˥ na˩ra˥nu](天候が崩れてちっとも＜一向に＞仕事が出来ない)。˩ワー　ヌー˥シル　˩サークバ　シー　アーク˥ワ [˩wa: nu:˥ʃiru ˩sa:kuba ʃi: ʔa:ku˥wa](君はどんな仕事をしているのか)。

˩サーサー [˩s:sa:] 【副】気分が落ち着かないさま。霊感が働いて心が落ち着かないさま。擬態語。˥キモー　˩サーサー˥シティ　ウ˩ティ˥シキ　˩ベーララ˥ヌ [˥kimo: ˩sa:sa:˥ ʃi̥ti ʔu˩ti˥ʃi̥ki ˩be:rara˥nu](霊的に感じるものがあって、心がわさわさして落ち着いて居られない)。

˩ザーザー [˩ʤa:ʤa:] 【副】ざあざあ。雨が勢いよく降る音。擬音語。˩ザーザー˥シ　ア˩ミ˥ヌ　˥フイ　ダッ˩カティ　ゾッふィナー˥ヌ [˩ʤa:ʤa:˥ʃi ʔa˩mi˥nu ˥ɸui dak˩kati ʤoffina:˥nu](ざあざあと雨が降ってびっしょりと濡れてしまった)。

サーザー˩トゥ [sa:ʤa:˩tu] 【副】すっきり。さっぱり。さわやか (爽やか) に。すがすがし (清清し) く。はればれと。爽快に。擬態語。バ˩タ˥ウチナー　˥ウムー　ク˩トゥ˥バ　ムー˩ル˥　パ˩キザ˥スカー＜パ˩キンザ˥スカー＞　サーザー˩トゥ　スン˧ダー [ba˩ta˥ ʔutʃina: ˥ʔumu: ku̥˩tu˥ba mu:˩ru˥ pḁ˩kiʤa˥suka: ＜pa˩kinʤa˥suka:＞ sa:ʤa:˩tu sun˧da:](心に思う事を全部吐き出すとすっきりするよ)。キ˩クッ˥ツァタンドゥ　ピ˩ラキ˥ミジ　ア˩ムター˥　サーザー˩トゥ　シェー˥チバン [ki̥˩kut˥tsatandu pi˩raki˥miʤi ʔa˩muta:˥ sa:ʤa:˩tu ʃe:˥ʧibaŋ](暑苦しかったが冷たい水を浴びたらばさっぱりしたよ)。

˩サー˥スブ [˩sa:˥subu] 【名】茶筒。「茶壷」の義。˩ジン˥ギリ [˩ʤiŋ˥giri](ブリキ製の茶筒) ともいう。茶を入れておく木製、またはブリキ <blik。錫鍍金(メッキ)した薄い鉄板＞製の茶筒。˩サー˥スブナー　˩サー˥ヤ　ヌ˩カ˥リ　˩ベーン˥カヤー [˩sa:˥subuna: ˩sa:˥ja nu˩ka˥ri ˩be:ŋ˥kaja:](茶壷にお茶は残っているかねえ)。

˩サースン [˩sa:suŋ] 【他動】新しく作る。着物を新調する。ア˩ラキン　サースン [ʔa˩rakin sa:suŋ](新しい着物を作る)。˩サーサヌ [˩sa:sanu](新しく作らない。新調しない)。˩サーシ˥　プサン [˩sa:ʃi˥ pu̥saŋ](新調したい)。ア˩ラキン　サース˥　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [ʔa˩rakin sa:su˥ pu̥˩so:˥ bu˩ra:nu](新しい着物を新調する人はいない)。˥キン　プ˩スッ˥クビ　˩サーシェー˥　ミサムヌ [˥kim pu̥˩suk˥kubi ˩sa:ʃe:˥ misamunu](着物を一着新調すれば良いのに)。ヤー˩ディン　サーシ˧ヨー [ja:˩din sa:ʃi˧jo:](必ず新調しなさいよ)。

˩サースン [˩sa:suŋ] 【他動】仕立てる。着物を新調する。老年層は、(着物を仕立てる) という。ア˩ラキン˥　˩サースンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩イッ˥タンシェー　サーサラン˥ツォー [ʔa˩rakiŋ˥ ˩sa:sunti˥ ʔu˩mu:n˥du ˩ʔit˥taŋʃe: sa:saran˥tso:](新しい着物を仕立てようと思うが、一反では仕立てられないそうだ)。˩サース˥　クトー　˥ナルン [˩sa:su ˥ku̥to: ˥naruŋ](仕立てることはできる)。˩サーシェー˥　ミサムヌ [˩sa:ʃe:˥ misamunu](仕立てれば良いのに)。シ˩タティリ [ʃi̥˩tatiri](仕立てろ)。

˩サー˥ダイ [˩sa:˥dai] 【名】ちゃたく (茶托)。「茶台」の義。木製の茶托が多かった。˩サー˥ダイナ　˥サバン　˩ヌーシティ˥　サー　˩サイ˥　ン˩ザ˥シバ [˩sa:˥daina ˥saban ˩nu:ʃi̥ti˥ sa: ˩sai˥ ʔn˩ʤa˥ʃiba](茶托に茶碗を載せて、お茶を注いで出しなさいよ)。

サーダ˩カー˥ン [sa:da˩ka:˥ŋ] 【形】霊感能力が高い。霊験があらたかである。シジダ˩カー˥ン [ʃiʤida˩ka:˥ŋ](霊験があらたかである) と同じ。˩サーダカーン˥　トンマー　˩ゴーサ˥ヌ　˩ペーララ˥ヌ [˩sa:dakaːn˥ tomma: ˩go:sa˥nu ˩pe:rara˥nu](神霊の高いところ＜霊験があらたかな所＞は、畏れ多くて入ることは出来ない＜入られない＞)。ク˩ヌ˥　ウ˩ガン˥ヌ　˩カン˥マー　イッ˩ケナ˥　サーダ˩カー˥　ア˩ロー˥ルンティ˩ダー [ku˩nu˥ ʔu˩gan˥nu ˩kam˥ma: ʔik˩kena˥ sa:da˩ka:˥ ʔa˩ro:˥runti˩da:](このお宮＜御嶽＞の神様は非常に霊験あらたかであられるそうだ)。

˥サーダカマリ [˥sa:dakamari] 【名】生来、神の霊威を授かっている女性。神や祖先の霊と交信する能力があると信じられている女性。ブ˩ナルンガンマー˥　サーダカマリティ　ア˩ザリブーユンダ˥　ウ˩ムンジリ˥ダー [bu˩naruŋgamma:˥ sa:dakamariti ʔa˩ʤaribu:junda˥ ʔu˩munʤiri˥da:](ヲナリガミは生まれつき神の霊威を授かっていると言われているから大事にし＜重んじ＞なさい)。ク˩ヌ˥　プ˩ソー˥　サーダカマリ　ヤ˩ルンダ˥　ウ˩リヌ˥　ア˩ズ˥　ムネー　˥ユー　シ˩キ˥ヨー [ku˩nu˥ pu̥˩so:˥ sa:-

dakamari jaˈrunda˥ ʔuˈrinu˥ ʔaˈʤu˥mune: ˥ju: ʃi̥ˈki˥ jo:](この人は生まれつき霊感能力の高い人だから、その人のいうことはよく聞けよ)。˥サーダカマリ　ˈシー　ブー˥　プˈソー˥　ユー　˥ムヌ　ミルンˈダー [˥sa:dakamari ˈʃi: bu:˥ pu̥ˈso:˥ ju: ˥munu mirun ˈda:](生まれつき霊力＜霊感能力＞の高い人は、よく生霊や死霊をみるよ)。

ˈザーッサー˥リ [ˈʤa:ssa:˥ri] 【名】 1満室。総ての部屋が満杯になること。「座塞がり」の転訛したもの。ヤˈドゥヤー˥ヤ　ムーˈル　ザーッサー˥リ　シˈティ˥　トゥˈマララヌ [jaˈduja:˥ja mu:ˈru ʤa:ssa:˥ri ʃi̥ˈti˥ tuˈmararanu](宿屋は全部屋が満室になって宿泊できない＜泊まれない＞)。2部屋の入り口を塞ぐこと。ˈワー　ザーッサー˥リ　ˈシー　ベー˥ンダ　ナˈカー　ペーララ˥ヌ [ˈwa: ʤa:ssa:˥ri ˈʃi: be:˥nda naˈka: pe:rara˥nu](君は部屋の入り口を塞いでいるから中へは入れない)。

ˈザーッツァー˥シ [ˈʤa:ttsa:˥ʃi] 【副】びりびり。紙や布などが引き裂かれるさま。擬音語、擬態語。ˈクン˥ゾー　ウˈク˥リティ　ˈドゥー˥ヌ　ˈキン˥バ　ˈザーッツァー˥シ　˥ヤリ　シˈティナー˥ヌ [ˈkun˥ʤo: ʔuˈku˥riti ˈdu:˥nu ˈkim˥ba ˈʤa:ttsa:˥ʃi ˥jari ʃi̥ˈtina:˥nu](腹を立てて＜怒って＞自分の着物をびりびりと破り捨ててしまった)。

ˈサー˥ドー [ˈsa:˥do:] 【名】ちゃとう (茶湯)。「Chato. チャタウ (茶湯)　ある場所、すなわち、死者の名前をしるした小さな板 (位牌) の前に供えてその人に捧げる茶 (Cha) と湯」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。毎月の朔日、十五日には床の間の神前と仏壇の先祖に茶湯を供えた。シˈキダ˥チ　˥ズングニチェー　ˈサーサー˥ドー　ˈバシキランドー˥シ　シˈキ　オーシ [ʃi̥ˈkida˥ʧi ˥ʤuŋgunitʃe: ˈsa:sa:˥do: ˈbaʃi̥irando:˥ʃi ʃi̥ˈki ʔo:ʃiri](朔日、十五日には茶湯を忘れずにお供えして差し上げなさい)。

ˈサー˥ドーサバン [ˈsa:˥do:sabaŋ] 【名】茶湯用茶碗。「茶湯茶碗」の義。床の間、仏壇に備え付けられてある茶湯専用の茶碗。˥フカサバン [˥ɸu̥kasabaŋ](深い茶碗) が一対ずつ供え付けられるのが一般的であった。ˈサー˥ドーサバンマー　˥ユー　アˈラーン˥カー　˥ビー　シˈキ˥ルンˈダー [ˈsa:˥do:sabamma: ˥ju: ʔaˈra:ŋ˥ka: ˥bi: ʃi̥ˈki˥runˈda:](茶湯茶碗はよく洗わないと茶渋がつくよ)。

˥サートゥ [˥sa:tu] 【接尾】その間ずっと。～じゅう (中)。プˈスユー˥ヌサートゥ　ˈビー˥プスン　ワˈチラーサリティ˥　プˈスミー˥ヤンツァン　ニˈビミラン˥シェン [pu̥ˈsujuˈnusa:tu ˈbi:˥pu̥suŋ waˈʧira:sariti˥ pu̥ˈsumi:˥jantsan niˈbimiraraŋ˥ʃeŋ](一晩中、酔っ払いに煩わされて一睡すらも出来なかった＜一目すら眠られなかった＞)。

ˈザー˥トゥク [ˈʤa:˥tu̥ku] 【名】床の間。一番座に設けられた、その家の神を祀ったところ。床を一段高くし、正面の壁に書画の幅(フク)(掛物、軸物) をかけ、花瓶、茶碗、香炉を設置して床の神、ˈコン˥ジン [ˈkon˥ʤiŋ](「根神」の義か) を祀る。嫁は里の香炉から分けてきた灰を自分用の小さな香炉入れて仕立て、ˈコン˥ジン [ˈkon˥ʤiŋ](「根神」の義か) として拝んだ。姉妹たちも各自の小さな香炉を作って並べ、ˈコン˥ジン　タˈティ˥ルン [ˈkon˥ʤin tạˈti˥ruŋ](根神を立てる) といって、コンジン (根神) を拝んだ。娘が嫁ぐ際には、ˈコン˥ジン　ピˈクン [ˈkon˥ʤim pi̥ˈkuŋ](根神を引く) といって、本人の香炉を下げて嫁ぎ先の床の間に移した。掛軸には「福禄寿」が好まれ、掛絵には、虎、鶴亀、松竹梅、共白髪の夫婦像、などを掛けて富貴、繁盛、長寿を祈願した。花瓶には朔日、十五日に虎の尾が好んで活けられた。ˈバン˥テヌ　ˈザー˥トゥコー　ˈカンダカー˥ティ　ˈパン˥バ　ˈナーリ˥　ニˈバランシェントゥダー [ˈban˥tenu ˈʤa:˥tu̥ko: ˈkandaka:˥ti ˈpam˥ba ˈna:ri˥ niˈbaraŋʃen˧da:](私の家の床の間は神霊あらたか＜灼＞だったので、足を向けて寝られなかったよ)。シˈキダ˥チ　˥ズングニチェー　ˈザートゥク˥ヌ　˥パナー　ˈカイリ [ʃi̥ˈkida˥ʧi ˥ʤuŋgunitʃe: ˈʤa:tuku˥nu ˥pana: ˈkairi](朔日十五日は床の間の花を活け換えなさい＜換えれ＞)。

ˈザーニン˥ズ [ˈʤa:nun˥ʤu] 【名】一座の人。職場の者一同。ˈザーニン˥ズ　ムーˈル˥　キˈム˥ズルイ　サˈバル˥　ノーˈン˥　サˈバン˥　ウˈムッ˥サˈツォー [ˈʤa:nin˥ʤu mu:ˈru˥ kiˈmu˥ʤurui saˈbaru˥ no:ˈn˥ saˈbaŋ˥ ʔuˈmus˥saˈtso:](一座の人は皆心を一つにしてこそ＜肝揃えすればぞ＞何をしても楽しいのだ)。

ˈサー˥ヌ　˥イル [ˈsa:˥nu ˥ʔiru] 【連】茶の色。茶色。ッˈス˥キンナ　ˈサー˥ヌ　イˈル˥ヌ　スˈマリティ˥　ウˈティラ˥ヌ [sˈsu˥kinna: ˈsa:˥nu ʔiˈru˥nu suˈmariti˥ ʔuˈtira˥nu](白い着物に茶の色が染まって落ちない)。

ˈサー˥ヌ　˥カシ [ˈsa:˥nu ˥kạʃi] 【連】ちゃかす (茶滓)。ちゃがら (茶殻)。ˈサー˥ヌ　˥カシェー　ナˈカ˥ザナ　˥マキティ　シˈトゥッ˥チポーキシ　ˈポー˥キバ [ˈsa:˥nu ˥kạʃe: naˈka˥ʤana ˥makiti ʃi̥ˈtut˥ʧipo:kiʃi ˈpo:˥kiba](茶殻を台所の土間に撒いて、蘇鉄の葉等で

掃きなさいよ)。

˞サー˥ヌ　グ˞ル [˞saː˥nu gu˞ru] 【連】茶のおりかす(澱滓)。茶の飲み残し。茶碗の底に残るお茶のおどみ (澱)。˞サー˥ヌ　グ˞ロー˥　シ˞ティティ　マー˥　プ˞ス˥サバン　˥サー　˞サイ˥バ [˞saː˥nu gu˞roː˥ ʃi̥ ˞titi maː˥ pu̥˞su˥saban ˥saː ˞sai˥ba](茶の澱滓を捨てて、もう一杯＜もう一茶碗＞お茶を注ぎなさい)。

˞サー˥ヌ　˥シン [˞saː˥nu ˥ʃiŋ] 【名】茶柱。「茶の芯」の義。˞サー˥ヌ　˞シン˥ヌ　˥タティ　˞ベー　ギン˥シェー　˞イークトゥヌル˥　ア˞リン˥ギサバン [˞saː˥nu ˞ʃin˥nu ˥tạti ˞beː giŋ˥ʃeː ˞ʔiːkutunuru˥ ʔa˞riŋ˥ gisabaŋ](茶の芯が立っていることからすると、どうやら良いことがありそうだわい)。

˞サー˥ヌ　˥パナ [˞saː˥nu ˥pana] 【連】茶の花。まつりか (茉莉花)。ジャスミン茶の中の花。˞タイパン˥サーナ　˞サー˥ヌ　パ˞ナ˥ヌ　˞ペー˥リ　˞ブンダ˥　イッ˞ケン˥　カ˞バッ˥サン [˞taipan˥saːna ˞saː˥nu pa˞na˥nu ˞peː˥ri ˞bunda˥ ʔik˞keŋ˥ ka˞bas˥saŋ](台湾茶の中に茶の花＜茉莉花＞が入っているので非常に香ばしい)。

˞サーヌミ˥アウ [˞saːnumi˥ʔau] 【名】茶飲み相手。老人の連れ合い。˞ウイ˥プソー　˞サーヌミアウ˥ヌ　ブ˞ラーン˥カー　サ˞ビサ˥ヌ　タ˞ンガ˥シェー　イ˞キララ˥ヌ [˞ʔui˥pu̥so: ˞saːnumiʔau˥nu bu˞raːŋ˥kaː sa ˞bisa˥nu ˞taŋga˥ʃeː ʔi˞kirara˥nu](老人は茶飲相手＜連れ合い＞がいないと寂しくて、一人では生きられない)。

˞サーヌミ˥ドゥシ [˞saːnumi˥duʃi] 【名】茶飲友達。˞サーヌミドゥシ˥ヌ　ア˞ツァ˥マリティ　˞サンシン˥　ピ˞キ　オー˥ル [˞saːnumiduʃi˥nu ʔa˞tsa˥mariti ˞saŋʃim˥ pi̥˞kioː˥ru](茶飲友達が集まって三線を弾いておられる)。

˞サーヌミパナ˥シ [˞saːnumipana˥ʃi] 【名】茶飲話。茶を飲みながらする雑談。˥ニカー　˞ベー˥　スルイティ　˞サーヌミパナ˥シ　˞サー˥ディー [˥nikaː ˞beː˥ suruiti ˞saːnumipana˥ʃi ˞saː˥diː](今夜は、われわれ集まって＜打ち揃って＞茶飲み話をしようよ)。

˞ザー˥パイ [˞ʤaː˥pai] 【名】始末に負えないこと。困ること。ぶちこわし。台無し。キュー˞ズー˥ナ　˞オー˥ルンティ　˞シー˥　プ˞スバ˥　ア˞ティ˥　シ˞ミティ　オーラン˥カー　˞ザー˥パイ　˞スントダー　メー [kjuː˞ʤuː˥na ˞ʔoː˥runti ˞ʃiː˥ pu̥˞suba˥ ʔa˞ti˥ ʃi˞miti ʔoːraŋ˥kaː ˞ʤaː˥pai ˞sunˈdaː ˥meː](今日中にいらっしゃる＜来られる＞といって、人を当てにさせておいて、いらっしゃらないと全く困ること＜ぶち毀し(コワシ)＞になるよ、もう)。˞ザー˥パイ　˞シー　ナー˥ヌ [˞ʤaː˥pai ˞ʃiː naː˥nu](ぶち毀して＜台無しにして＞しまった)。

˞サー　˞バカスン [˥saː ba˞kasuŋ] 【連】茶を沸かす。湯を沸かして茶をたてる。˥ユー　フ˞カ˥スン [˥juː ɸu̥˞ka˥suŋ](湯を沸かす) ともいう。バ˞カスン [ba˞kasuŋ](沸かす) は、「煖、阿太々牟、又、和可須 (わかす)」『新撰字鏡』の転訛したもの。˥ヤコンナ˥サー　バ˞カサバ˥　ヌミティ　˥パリバ [˥jakonna ˥saː ba˞kasaba˥ numiti ˥pariba](薬缶で茶を沸かしたら＜沸かすから＞飲んで行きなさいよ)。

˞サーパナ˥シ [˞saːpana˥ʃi] 【名】さわ (茶話)。茶飲み話。˞サンバン˥ザーナーティル　ウ˞トゥザマリヌ　ウイ˥プスンケーヤ　シ˞トゥムティ˥　ユ˞ネン˥ナー　ア˞ツァ˥マリ　˞サーパナ˥シ＜ム˞ヌパナ˥シ＞　˞ソーッ˥タン [˞samban˥ʤaːnaːru ʔu˞tuʤamarinu ʔuipusuŋkeː˥ja ʃi̥˞tumuti˥ ju˞nen˥naː ʔa˞tsa˥mari ˞saː-pana˥ʃi ＜mu˞nupana˥ʃi＞ ˞soːt˥taŋ](三番座に＜ぞ＞親戚の年寄りたちは朝夕集まって茶飲み話をされたものだ)。

˥サービー [˥saːbiː] 【名】茶酔い。茶を飲みすぎて食傷気味になること。茶を飲みすぎて気分が悪くなること。ドゥ˞ク˥ヌ　˥アツァサーリ　˥サー　カー˞ニ˥　ヌミ　˞ベー˥タクトー　˥サービー　˞シー　ナー˥ヌ [du˞ku˥nu ˥ʔatsasaːri ˥saː kaː˞ni˥ numi ˞beː˥ta ˥ku̥to: ˥saːbiː ˞ʃiːnaː˥nu](あまりの暑さでお茶だけを飲んでいたところ、茶を飲みすぎて食傷気味になって＜茶酔いをして＞しまった)。

˞ザーピラ˥キ [˞ʤaːpira˥ki] 【名】「座開き」の義。祝宴を始めること。開宴の歌。祝宴にふさわしい目出度い歌を三線で演奏しながら祝宴を開始した。鳩間島では先ず、パ˞トゥ˥マナカムリ [pḁ˞tu˥manakamuri](「鳩間中岡」＜本節＞、「鳩間節」ともいう) から始まり、パ˞トゥ˥マブシ [pḁ˞tu˥mabuʃi](鳩間節)＜早節＞、バ˞シヌ˥トゥル [ba˞ʃinu˥turu](鷲の鳥節)、˥アカンマブシ [˥ʔakaʔmmabuʃi](赤馬節) または、˞クンノー˥ラ [˞kunnoː˥ra](古見の浦節) 等へと演奏展開された後に自由に歌曲を演奏して祝宴を盛り上げるのが慣わしであった。˞ザーピラ˥ケー　イッ˞チン˥　パ˞ジメー˥　パ˞トゥ˥マナカムリバ　ピ˞キティル˥　パ˞ジモーッ˥タ [˞ʤaːpira˥keː ʔit ˞ʧim˥ pa˞ʤimeː˥ pḁ˞tu˥manakamuriba pi̥˞kitiru˥ pa˞ʤimoːt˥ta](座開き＜開宴＞は、一番初めには˞鳩間中岡本節」を弾いてから始められた)。

˞サーフーフー [˞saːɸuːɸuː] 【名】ほろ酔い。ほろ酔い

機嫌。ウˈブ˥ムニ　ˈソー˥ル　ˈギン˥シェー　キサーˈティ˥　˥サーフーフー　ˈシール　オー˥ルˈナー [ʔu ˈbu˥muni ˈsoː˥ru ˈgiŋ˥ʃeː kᵢsaːˈti˥ saːɸuːɸuː ˈʃiːru ʔoː˥ruˈnaː](大言壮語されるようだから、既にほろ酔いしておられるんだなあ)。

ˈサー˥フキ [ˈsaː˥ɸᵤki] 【名】茶請け。茶菓子。くちとり (口取)。茶を飲む時に食べる菓子。ッˈふ˥サタ　ヤˈラバン　サーサーフ˥キ　ンˈザサン˥ノーレー [fˈfu˥sᵃta jaˈraban saːsaː˥ɸᵤki ʔnˈʤasan˥noːreː](黒砂糖でもお茶請けに出してくれないか)。ˈウイ˥プソー　ˈサー˥ヌ　˥アウ　ˈサーフキ˥ヌ　アˈラバ˥ル　ˈサー˥ユン　ンˈマー˥ティ　ンˈコー˥ル＜ヌˈモー˥ル＞[ˈʔui˥pᵤsoː ˈsaː˥nu ˥ʔau ˈsaːɸᵤki˥nu ʔaˈraba˥ru ˈsaː˥jum ʔmˈmaː˥ti ʔŋˈkoː˥ru ＜nuˈmoː˥ru＞](年寄りはお茶の伴として茶請け＜茶の子＞があってこそ＜有らばこそ＞お茶をも美味しいといって召し上がるものだ)。ピˈシェー　サー˥フキ　ンˈザ˥シ [pᵢˈʃeː saː˥ɸᵤki ʔuˈʤa˥ʃi](ピシ＜娘の一般的な呼称＞ちゃん、お茶請けを出しなさいよ)。

ˈサーフ˥ケーイズ [ˈsaːɸᵤ˥keːʔiʤu] 【名】(動) 魚の名。和名、サザナミハゼ (体長約 15 センチ)。

˥サー　プˈス˥サバン [˥saː pᵤˈsu˥sabaŋ] 【連】茶一杯。「茶一茶碗」の義。お茶一杯だけ飲むのは不吉とされ、必ずもう一杯飲んでから行くように勧めたものである。˥サー　プˈス˥サバン　カーˈニ˥テー　˥ヌム　˥ムノー　アˈラ˥ヌティ　ムˈカ˥シプソー　ナˈラー˥ソーッタ [˥saː pᵤˈsu˥sabaŋ kaːˈni˥teː ˥numu ˥munoː ʔaˈra˥nuti muˈka˥ʃipᵤsoː naˈraː˥soːtta](お茶を一杯だけとは飲むものではないと先祖＜昔の人＞は教えられた)。

˥サーブラ [˥saːbura] 【名】(動) 貝の名。ホラガイ (法螺貝)。殻高約 40 センチ。殻口は大きく、肉は食用にし、殻は湯沸しに用いた。˥ブラ [˥bura] ともいう。ˈパイタ˥ナーテー　イˈクサユー˥ヌ　アトゥˈバー　˥キ　˥サーブラシル　ˈユー˥ヤ　フˈカ˥ソーッタル [ˈpaita˥naːteː ʔiˈkusajuː˥nu ʔatuˈbaː˥ki ˥saːburaʃiru ˈjuː˥ja ɸᵤˈka˥soːttaru](南端＜西表北岸＞では戦後までホラガイでお湯を沸かされたものだ)。

ˈザーブルザーブル˥シ [ˈʤaːburuʤaːburu˥ʃi] 【副】ざぶざぶと。じゃぶじゃぶ。水中で泳いだり歩いたりする時の水の音の形容。擬音・擬態語。ヤˈラ˥ビンケーヤー　ピˈザ˥フチナー　ˈザーブルザーブル˥シ　˥オンダー　ˈシーベー [jaˈra˥biŋkeːja piˈʤa ˥ɸᵤtʃinaː ˈʤaːburuʤaːburu˥ʃi ˥ʔondaː ˈʃiːbeː](子供達は渚でじゃぶじゃぶと音をたてて泳いでいる＜水遊びしている＞)。

ˈサー˥ブン [ˈsaː˥buŋ] 【名】茶盆。茶器を載せて用いるお盆。直径約 30 センチの木の幹を厚さ 3〜4 センチに切って中を刳り、お盆につくったもの。急須や茶碗を入れて客に出し、接待するのに用いた。茶托を揃えた家はあまりなかったので、普通は茶盆に茶碗を置いたまま湯茶を注いで客に出した。ˈサー˥ブンナー　˥サバン　ˈスッ˥カー　ウˈスンフカシティ˥　シˈキ˥リ [ˈsaː˥bunnaː ˥saban ˈsuk˥kaː ʔu ˈsuŋɸᵤkaʃiti˥ ʃᵢˈki˥ri](茶盆に茶碗や急須を伏せておきなさい)。ˈサー˥ブンナ　˥サバン　ˈスッ˥カー　ウˈスバシティ˥　ムティ　˥クーバ [ˈsaː˥bunna ˥saban ˈsuk˥kaː ʔuˈsubaʃᵢti˥ muti ˥kuːba](茶盆に茶碗や急須を伏せて持ってきなさいよ)。

ˈサーブン˥シキ [ˈsaːbuŋ˥ʃᵢki] 【名】一種の茶托。代用茶托。約 8 センチ四方、厚さ約 3 ミリの板や布で作った茶托。賓客のある場合に出した。サˈバン˥マー　ˈサーブン˥シキナ　˥シキティ　ンˈザ˥シˈヨー [saˈbam˥ma: ˈsaːbuŋ˥ʃᵢkina ˥ʃᵢkiti ʔnˈʤa˥ʃiˈjoː](茶碗は茶托＜代用茶托＞に置いて出しなさいよ)。

ˈサー˥ミジ [ˈsaː˥miʤi] 【名】お茶用の水。井戸水は硬水であるからお茶を立てるのに不向きである。天水を溜めてお茶を立てるのに用いた。ムˈカ˥シェー　ˈティンシーバ˥　タˈミティル　サー˥ミジ　シゥˈカウタル [muˈka˥ʃeː ˈtiŋʃiːba˥ taˈmitiru saː˥miʤi sᵢˈkautaru](昔は天水＜雨水＞を溜めてお茶用の水に使ったものだ)。ˈカーヌ　ミジェー　サー˥ミジ　シゥˈカーラヌ [ˈkaːnu miʤeː saː˥miʤi sᵢˈkaːranu](井戸水はお茶用の水には使えない)。

ˈサーミルン [ˈsaːmiruŋ] 【他動】奪い取る。盗み取る。分捕る。荒す。ˈマイヤー˥　カマイン　ˈサーミラリ　ナー˥ヌ [ˈmaijaː˥ kamain ˈsaːmirari naː˥nu](稲は猪に荒らされてしまった)。ˈサーミ　ヤッ˥サン　˥トンマー　カˈマイ˥ヤー　ˈチャー　サーミルンティ˥　カマイ　ˈブンダー˥　カˈケー　スーミ˥リ [ˈsaːmi jas˥san ˥tomma: kaˈmai˥ja: ˈʧaː saːmirunti˥ kamai ˈbundaː˥ kᵃˈkeː suːmi˥ri](荒らしやすい＜盗みやすい＞所は、猪は常に荒らそうと構えているから、猪垣は強化＜強めろ＞せよ)。プˈスヌ˥　ムヌ　ˈサーミル˥　クトー　ナˈラ˥ヌ [pᵤˈsunu˥ munu ˈsaːmiru˥ kᵤtoː naˈra˥nu](他人のものを奪い取る＜盗む＞ことはいけない)。˥アイブ　˥ムノー　ˈサーミレー˥　ミサムヌ [˥ʔaibu ˥munoː ˈsaːmireː˥ misamunu](あんなのは奪い取れば＜盗めば＞いいのに)。ˈサーミリ [ˈsaːmiri](奪い取れ。盗み取れ)。

˩ザームチ [˩ʤaːmutʃi] 【名】一座を楽しくする人。一座に興を添える人。祝いの座を賑やかにする人。「座持ち」の義。ク˩ヌ˥ プ˩ソー˥ ウタゾージ パ˩ナ˥シゾージ ヤ˩ルンダ˥ イッ˩ケナ˥ ザームチ˩ツォー [ku˩nu˥ pu̥˩soː˥ ʔutaʤoːʤi pa˩na˥ʃiʤoːʤi ja˩runda˥ ʔik˩kena˥ ʤaːmutʃi˩tsoː](この人は歌上手で話上手だから非常に一座を賑やかにする人なんだよ)。

˥ザームチ [˥ʤaːmutʃi] 【名】ざもち (坐持ち)。その座に興を添えること、またその巧みな人。ウ˩レー˥ ザームチ ヤ˩ルンダ˥ ウ˩リヌ ブー˥カー イ˩カムス˥ク ウ˩ムッ˥サワ˩ツォー [ʔu˩reː˥ ʤaːmutʃi ja˩runda˥ ʔu˩rinu buː˥kaː ʔi˩kamusu̥˥ku ʔu˩mus˥sawa˩tsoː](彼 < それ > は座持ちだから、彼がいるとどんなに < いかほど > 面白い < 楽しい > ことか)。

˩ザームチ˥ナリ [˩ʤaːmutʃi˥nari] 【名】席替わり。座席移動。˩ワー˥ ユ˩ヌ˥トンナ カー˩ニ ベーラン˥ドーシ ˥カマンター ˩ザームチ˥ナリ ˩シー˥バ [˩waː˥ ju˩nu˥tonna kaː˩ni beːran˥doːʃi ˥kamantaː˩ʤaːmutʃi˥nari ˩ʃiː˥ba](君は同じところにだけいないで、あちら側へ座席移動 < 席替わり > しなさいよ)。

˩ザー˥ムトゥ [˩ʤaː˥mutu] 【名】座元。頼母子講の責任者。ム˩エーヌ ザー˥ムトー シ˩ルクヌ˥ アル プ˩スンドゥ˥ ナル [mu˩jeːnu ʤaː˥mutoː ʃi˩rukunu˥ ʔaru pu̥˩sundu˥ naru](頼母子講の座元は資力のある人が < ぞ > 出来る)。

˩サームン [˩saːmuŋ] 【他動】奪い取る。盗み取る。荒す。˩サーマリ ナー˥ヌ [˩saːmari naː˥nu](やられてしまった。奪われてしまった)。˩サーミヤッ˥サン [˩saːmi jas˥saŋ](奪いやすい。盗みやすい)。˩サームンティ˥ ウムーカ ˩サーマリンドゥ サーム˥クトー ˩ワッ˥サンダ ˩サーメー˥ ナ˩ラ˥ヌ [˩saːmunti˥ ʔumuːkaː ˩saːmarindu ˩saːmu˥ ku̥toː ˩was˥sanda ˩saːmeː˥ na˩ra˥nu](奪い取ろう < 盗もう > と思えば奪い取れる < 盗める > が、奪い取る < 盗む > ことは悪いから奪い取って < 盗んで > はならない)。˩サーミ [˩saːmi](奪い取れ < 盗め >)。

˩サー˥ユー [˩saː˥juː] 【名】さゆ (白湯)。フ˩チ˥ロー ˩サー˥ユーシ ヌ˩ミバ˥ル ス˩ク˥ティ˩ダー [ɸu̥˩ʧi˥roː ˩saː˥juːʃi nu˩miba˥ru su̥˩ku˥ti˩daː](薬は白湯で飲んだほうが効くそうだよ)。

˩サー˥ラ [˩saː˥ra] 【名】(植) サンカクイ (三角藺)。シチトウイ。筵に編んだり、畳の表に利用される。西表島の田の畦や休耕田などに栽培されていた。高さ 1〜1、5 メートルに成長する。˩バン˥テヌ トゥ˩マダヌ ター˥マーラ ˩サーラ˥バ ˥スリ ˥キー˥プシティ ウ˩リ˥シル ˥ムソー フ˩モーッタ˥ル [˩ban˥tenu tu˩madanu ˩taː˥maːra ˩saːra˥ba ˥suri ˥kiː˥pu̥ʃiti ʔu˩riʃi˥ru ˥musoː ɸu˩moːtta˥ru](私の家のトゥマダの小さな田圃からサーラ < 三角い草 > を刈ってきて干して、それで筵を編まれたものだ)。

˩サーラ [˩saːra] 【名】(動) 魚の名。和名、ヨコシマサワラ (体長約 1、5 メートル)。オキザワラ (体長約 2 メートル) の 2 種類の総称。鰹漁船で漁場への行き帰りの時にピ˩キナー [pi̥˩kinaː](引き縄、牛の角で造った擬餌針を流して釣ること) でよく釣れた。˩ユーリキー [˩juːrikiː](流木) のあるところで釣れた。イ˩ガウメー オー˥ル ˥ピンマー ˥ユー ˩サー˥ラン ウ˩キザー˥ラン ˩ホー˥ソーッタン [ʔi˩gaumeː ʔoː˥ru ˥pimmaː ˥juː ˩saː˥raŋ ʔu˩kiʤaː˥raŋ ˩hoː˥soːttaŋ](イカ釣漁に行かれる時には、よくオキザワラも、ウ˩キザー˥ラ < 鮫 > も釣られたよ)。

˩サーラサーラ [˩saːrasaːra] 【副】 1さらさら。浅い川の水が淀みなく流れる音 < 擬音語 >。˩カーラヌ˥ ミ˩ジヌ サーラサー˥ラシ ˩ナー˥リ ˥パルン [˩kaːranu˥ mi˩ʤinu saːrasaː˥ra˥ʃi ˩naː˥ri ˥paruŋ](川の水がさらさらと流れていく)。2流れるように文字や絵を描くさま < 擬態語 >。若年層は˩サーラ˥ナイ [˩saːra˥nai](さらさらと) ともいう。˩ティー˥ヤ ˩フッツォーリ ブンドゥ˥ ン˩メーマ˥ サ˩キ˥ヌムカー ˩サーラサーラ˥シ ˩ジー˥ カクン [˩tiː˥ja ˩ɸuttsoːri bundu˥ ʔm˩meːma˥ sḁ˩ki˥ numukaː ˩saːrasaːra˥ʃi ˩ʤiː˥ kḁkuŋ](手は震えているが、少し酒を飲むとさらさらと文字を書く)。

˩ザーラザーラ [˩ʤaːraʤaːra] 【副】ざあざあ。大粒の雨が激しく降るさま。擬音語。土砂降りのさま。米や豆などの粒状のものが音を立てて大量に落ちるさま。˩ザーラザーラ˥シ ア˩ミ˥ヌ ˥フイティ ダッ˩カティ ゾーリナー˥ヌ [˩ʤaːraʤaːra˥ʃi ʔa˩mi˥nu ˥ɸuiti dak˩kati ʤoːrinaː˥nu](ざあざあと雨が降って、びっしょり濡れてしまった)。

˩サーラスン [˩saːrasuŋ] 【連】連れさせる。同行させる。˩サールン [˩saːruŋ](連れる。同行する。連れ立つ) の未然形に使役の助動詞˥スン [˥suŋ](せる。させる) が下接して形成された使役動詞。ミ˩ドーン˥ッふァン ˩サーラシ˥ パ˩ラシ˥タ [mi˩doːn˥ffan ˩saːraʃi˥ pa˩raʃi̥˥ta](女の子に連れさせて行かせた)。˩サーラサヌ [˩saːrasanu](連れさせない)。ウ˩リン サーラス˥ クトゥ [ʔu˩rin saːrasu˥ ku̥tu](その人に

連れさせること)。

˥サーラダク [˥saːradaku] 【名】(動) 蛸の一種で、真蛸より腕が細く長い。真蛸が痩せこけた感じの蛸で、鳩間島では決して食しない。食中毒を起すという。˥サーラダコー ˞ヨーガリタク˥ ナリティ ˞ビー˥ルンダ パ˞トゥ˥マプソー ウ˞レー˥ ッ˞ふァーヌ [˥saːradakoː ˞joːgaritaku˥ nariti ˞biː˥runda pḁ˞tu˥mapu̥soː ʔu˞reː˥ f˞faːnu](サーラ蛸は痩せ蛸になっていて、食中毒をおこすから、鳩間島の人は、それは食べない)。

˞サーラ˥ヌ [˞saːra˥nu] 【連】足りない。不足する。「触らぬ」の意味が「かかわる。よりつく」の意に派生転訛したものか。ウ˞ビッチン˥ヌ ム˞ヌ˥バ ˥バクカー フ˞チン サーラ˥ヌ [ʔu˞bittʃin˥nu mu˞nu˥ba ˥bakukaː ɸu̥˞tʃin saːra˥nu](これぽっちのものを分けると、少なすぎて口にする＜食べるには＞には足りない＜当たらない＞)。

˞サーラマキ [˞saːramaki] 【名】つわり (悪阻)。˞サーラマケー シール˥ ムノー ˞ファイユーサナ ヨーガレー˥ティ ˞アー˥ク [˞saːramakeː ʃiːru˥ munoː ˞faijuːsana joːgareː˥ti ˞ʔaː˥ku](つわりをしてご飯を食べることが出来ないで、痩せ細っている)。

˞サーラ˥ミジ [˞saːra˥mid͡ʒi] 【名】滝。西表島北岸のピ˞ナイサーラ [pi˞naisaːra](ピナイ＜鬚川＞滝) のこと。/マエニミユルワ ピナイサラ ウミニナガユル タツカワワ ユユムカワラン ウムシルヤ/(前に見えるのはピナイ滝、海へと流れ落ちる立つ川＜滝＞は世々も変わらず見事である)「鳩間口説」『鳩間島古典民謡古謡集』。

˞サーラ˥ムス [˞saːra˥musu] 【名】サーラ (三角藺＜カヤツリグサ科の多年草＞) を干して編んだ筵。ナ˞チェー˥ アツァンダ ˞トゥーシ˥ナ ˞サーラ˥ムス シ˞キティ˥ ニ˞ブタ [na˞tʃeː˥ ʔatsanda ˞tuːʃi˥na ˞saːra˥musu ʃi̥˞kiti˥ ni˞buta](夏は暑いから縁側にサーラ筵を敷いて寝た)。

˥サーリ [˥saːri] 【格助】1～で＜手段＞を表す。名詞や代名詞に付いて手段格関係を表す。ク˞リ˥サーリ ˞シー˥ ミリ˞ミー [ku˞ri˥saːri ˞ʃiː˥ miri˞miː](これでやって＜して＞みてごらん)。2～で＜をもって＞＜材料＞を表す。イ˞ガバーケー˥ タ˞キ˥サーリル ス˞ク˥ル [ʔi˞gabaːkeː˥ tḁ˞ki˥saːriru su̥˞ku˥ru](烏賊釣り漁の笊は竹で作る)。3～と＜と共に＞＜動作作用の相手に添加＞をあらわす。ク˞リ˥ カー˞ニ˥ ア˞ラン˥ドーシ ˥ジンサーリ ッ˞ス˥ミ ム˞タ˥シバ [ku˞ri˥ kaː˞ni˥ ʔa˞ran˥doːʃi ˥d͡ʒinsaːri s˞su˥mi mu ˞ta˥ʃiba](これだけ＜のみ、だけ＞でなく、お金といっしょに包んで＜お金を添えて一緒に包んで＞持たせてやりなさい)。ウ˞リサーリル クー˥タ [ʔu ˞risaːriru kuː˥ta](彼＜それ＞と一緒に来た)。

˥-サーリ [˥-saːri] 【接助】～ので。～くて。動詞の連用形に下接して、原因・理由を表す。˥ドゥク カ˞ジヌ˥ フキ ア˞ミ˥ヌ ˥フイサーリ マー˞ン˥ パ˞ララン˥シェン [˥duku ka˞d͡ʒinu˥ ɸu̥ki ʔa˞mi˥nu ˥ɸuisaːri maː˞m˥ pa˞raraŋ˥ʃeŋ](あまりにも風が強く吹き、雨が降るので、何処にも行かれなかった)。

˞ザーリ [˞d͡zaːri] 【名】うろ (虚。洞)。木のうろ。木が朽ちて開いた穴。ガ˞ジマル˥ヌ ˞ザーリ˥ナール ˥パトゥザヌ ˥シー ス˞ク˥リ ˥シケー [ga˞d͡ʒimaru ˥nu ˞d͡zaːri˥naːru ˥pḁtud͡zanu ˥ʃiː su̥˞ku˥ri ˥ʃi̥keː](ガジマルの木のうろ＜洞＞に土鳩が巣を作ってある)。

˞ザーリキー [˞d͡zaːrikiː] 【名】朽木。うつろぎ (空ろ木)。芯の朽ちた木。ク˞レー ザーリキー˥ ヤ˞ルンダ˥ シゥ˞カーラヌ [ku˞reː d͡zaːrikiː˥ ja˞runda˥ si̥˞kaːranu](これは空(ウ)ろ木＜中心が空ろになっている木＞だから使えない)。

˞サーリキスン [˞saːrikʲsuŋ] 【他動】注ぎつくす。お茶や水などを他の容器に注ぎつくす。「注ぎきる」の義。˞スッカー˥ヌ ˞サー˥ヤ ˞サーリキシティ˥ シ˞キ˥リバ [˞sukkaː˥nu ˞saː˥ja ˞saːrikʲʃiti˥ ʃi̥˞ki˥riba](急須のお茶は注ぎきっておきなさいよ)。˞サーリキサン˥カー ˞ミー˥ザ ˥ナルン˞ダー [˞saːrikʲsaŋ˥kaː ˞miː˥d͡za ˥naruŋ˞daː](注ぎきらないと不味くなるよ)。˞サーリキシ˥ ミサン [˞saːrikʲʃi˥ misaŋ](注ぎきってよい)。˞サーリキス˥ クトゥ [˞saːrikʲsu˥ ku̥tu](注ぎきること)。˞サーリキシェー˥ ミサムヌ [˞saːrik-ʲʃeː˥ misamunu](注ぎきれば良いのに)。˞サーリキシ˥バ [˞saːrikʲʃi˥ba](注ぎきれよ)。

˞サーリ˥ クーン [˞saːri˥ kuːŋ] 【連】連れてくる。˥アツァー シ˞マー˥ラ ッ˞ふァン˥ケー ˞サーリ˥ クーンツォー [˥ʔatsaː ʃi˞maː˥ra f˞faŋ˥keː ˞saːri˥ kuːntsoː](明日島から子供たちを連れて来るそうだ)。

˞ザーリグイ [˞d͡zaːrigui] 【名】しわがれ声。どら声。「朽ちたしわがれ声」の義か。ウ˞ヤーリ˥シギティル ˞クイ˥ヤー ˞ザーリグイ˥ ナリ˞ベー [ʔu˞jaːri˥ ʃigitiru ˞kui˥jaː ˞d͡zaːrigui˥ nari˞beː](大声を出しすぎて、声はしわがれ声になっている)。

˞サーリジブン [˞saːrid͡ʒibuŋ] 【名】男の結婚適齢期。「嫁を貰う＜連れる＞時分」の義。女性は˞ヤームテ

ィ˺ジブン [˹ja:muti˺ʤibuŋ](家庭を持つ時期 < 時分 >)、または、ム˹ティ˺ジブン [mu˹ti˺ʤibuŋ](持ち時分) という。˹サーリジブン˺　ナ˹リ˺ブバ　˹パイ˺サ　トゥ˹ジ˺　トゥミ　˹フィーラン˺カ　ナ˹ラ˺ヌ [˹sa:riʤibun˺ na˹ri˺buba ˹pai˺sa tu˹ʤi˺ tumi ˹fi:raŋ˺ka: na˹ra˺nu](結婚適齢期になっているので、早く嫁 < 妻 > を探してやらないといけない)。

˹**ザーリドゥー [˹ʤa:ridu:]** 【名】弱って、がたがたになった体。子供を多く産んだ女の体。「腐れ胴」の義か。ッ˹ふァナシ˺　ミ˹ドゥム˺ヌ　˹ドゥー˺ヤ　˹ザーリドゥー˺　ヤ˹リバ˺　ドゥー　ア˹タラ˺サ　˹シー˺　パ˹タラキ˺ヨー [f˹fanaʃi˺ mi˹dumu˺nu ˹du:˺ja ˹ʤa:ridu:˺ ja˹riba˺ du: ʔa˹tara˺sa ˹ʃi:˺ pḁ˹taraki˺jo:](出産した女の体は体がガタガタに弱った体だから、体を大切にして < いたわって > 働きなさいよ)。

˹**サーリ˺　パルン [˹sa:ri˺ paruŋ]** 【連】連れて行く。ビ˹コーンッふァー˺　マー˹ズン˺　イ˹ソー　サーリ˺　パルン [bi˹ko:ŋffa:˺ ma:˹ʤuŋ˺ ʔi˹so: sa:ri˺ paruŋ](男の子は一緒に漁に連れて行く)。

˹**サーリミジ [˹sa:rimiʤi]** 【名】˹流し水」の義。容器に水を溜めないで、流しっぱなしにすること。流しっぱなしで物を洗うこと。薬缶の湯を注ぐように、水がなくなるまで流すこと。˹サーリミジ　サンドー˺シ　˹ビン˺ダライナー　ミ˹ジェー˺　イ˹リティ˺　ア˹ライ˺バ [˹sa:rimiʤi sando:˺ʃi ˹bin˺daraina: mi˹ʤe:˺ ʔi˹riti˺ ʔa˹rai˺ba](流しっぱなしにしないで、洗面器に水を入れて洗いなさいよ)。

˹**ザーリルン [˹ʤa:riruŋ]** 【自動】朽ちて穴があく。˹ウイキー˺ヤ　ブ˹シ˺ヌ　˺トンラ　フ˹トゥッ˺ツカー　˹ザーリルン˺ティ　ウ˹モー˺リ [˹ʔuiki:˺ja bu˹ʃi˺nu ˺tonra ɸu̥˹tut˺tsuka: ˹ʤa:rirun˺ti ʔu˹mo:˺ri](老木は節の所から朽ちると腐って穴が開いて洞(ウロ)になると思われる)。

˹**サール [˹sa:ru]** 【名】1、付き物。「連れ」の義か。付録。伴侶。子供。御供。ウ˹ヌ　ヤンマイ˺ヤー　˹ウイプス˺ヌ　˹サール [ʔu˹nu jammai˺ja: ˹ʔuipusu˺nu ˹sa:ru](その病は老人の付きもの <連(ッ)れ > だ)。˹サールヌ　ブンダ˺　マー˹ン˺　パ˹ララ˺ヌ [˹sa:runu bunda˺ ma:˹m˺ pa˹rara˺nu](手数のかかる連れ < 子供や伴侶 > がいるから何処にも行けない)。2おうつり (御移り)。贈り物を受けたとき、容器に何かを入れて返礼にするもの。野菜や乾燥した蛸の手などを包んで入れて贈った。イ˹サンケーラヌ˺　シ˹トゥ˺ヌ　˹サール˺　パ˹リタク˺　ム˹タシ˺タ [ʔi˹saŋke:ranu˺ ʃi̥˹tu˺nu ˹sa:ru˺ pa˹ritaku˺ mu˹taʃi̥˺ta](石垣島からの苞 < 土産 > の御釣りに乾燥張り蛸を持たせてやった)。

˹**サール [˹sa:ru]** 【名】さわり (触り)。差障り。霊的なたたり (祟り)。˹ヌー˺ヌ　˹サールヌ　アッ˺タカヤー [˹nu:˺nu ˹sa:runu ʔat˺takaja:](どんな < 何の > 差障り < 祟り > があったのかねえ)。

˹**サールン [˹sa:ruŋ]** 【自動】触る。手で触れる。老年層は、˹サウルン [˹sauruŋ](触る) ともいう。˺ティーシェー　ナ˹クラー˺ンダ　˹サーララヌ [˺ti:ʃe: na ˹kura:˺nda ˹sa:raranu](手では怖いから触れない)。˺クマー　˹サーリ˺　ミサン [˺kuma: ˹sa:ri˺misaŋ](此処は触ってよい)。˺ティーシ　˹サールン [˺ti:ʃi ˹sa:ruŋ](手で触る)。˹サール˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [˹sa:ru˺ ku̥to: na˹ra˺nu](触ることは出来ない)。˹サーレー˺　ミサムヌ [˹sa:re:˺ misamunu](触ればよいのに)。˺ティーシ　˹サーリ [˺ti:ʃi ˹sa:ri](手で触れ)。

˹**サールン [˹sa:ruŋ]** 【他動】連れる。子守をする。めとる (娶る)。ク˹ヌ　ッふァ　ワー　サー˹ルン [ku ˹nu ffa: wa: sa:˹ruŋ](この子は君が連れる < 子守する >˺か)。アー˹イ˺　バー　˹サーラヌ [ʔa:˹i˺ ba: ˹sa:ranu](いや、僕は連れない < 子守しない >)。ヤー˹ディン　サーリ˺パリ [ja:˹din sa:ri˺pari](是非とも < 必ず > 連れて行け)。ッ˹ふァ　サール˺　プ˹スンドゥ˺ < プ˹スヌ >　ブ˹ラーヌ [f˹fa sa:ru˺ pu̥˹sundu˺ < pu˹sunu > bu˹ra:nu](子供を連れる < 子守する > 人がいない)。˹サーレー˺　ミサムヌ [˹sa:re:˺ misamunu](連れれば < 子守すれば > よいのに)。˹ワー　サーリ˺バ [˹wa: sa:ri˺ba](君が連れなさい < 子守をしなさい > よ)。

˹**サールン [˹sa:ruŋ]** 【自動】腫れ物の腫れが引く（ピ˹クンとも言う)。痩せる（˹ヨーガルンとも言う)。ア˹シ˺ブナ　ユ˹ビダシコーヤク　ヌーリ˺　スクカー　˹サールン˺ダー [ʔa˹ʃi˺buna: ju˹bidaʃiko:jaku nu:ri˺ su̥kuka: ˹sa:run˺da:](おでき < 出来物 > に吸い出し膏薬を塗っておくと腫れが引くよ)。マ˹ダ　サーランバン [ma˹da sa:rambaŋ](まだ腫れが引かないよ)。˺ルガイナ　˹マー˺ス　˹ヌーリティ˺　パ˹リ˺スクカー　˹サール˺　クトゥン　˺アン [˺rugaina ˹ma:˺su ˹nu:riti˺ pa˹ri˺su̥kuka: ˹sa:ru˺ ku̥tuŋ ˺ʔaŋ](アロエに塩を塗って腫れ物に貼り付けておくと腫れが引くこともあるよ)。ッ˹ふァ˺　ナ˹ス˺ター˹ミーッサラン˺スコー　˹サーリ　ナー˺ヌ [f˹fa˺ na˹su˺ta: ˹mi:ssaran˺su̥ko: ˹sa:ri na:˺nu](子供を産んだので、見分けがつかないほどに痩せてしまった)。

˹**サールン [˹sa:ruŋ]** 【他動】注ぐ。残らず注ぐ。薬缶

や急須などの水を注ぎ尽くす。芋の煮汁を他の容器に移し注ぐ。˞サウンとも言う。ヤ˞コンˀヌ　ˀユー　˞サールンティˀ　ウ˞ムーンˀドゥ　˞ティーˀヌ　˞フッツォーリティˀ　ムッ˞トゥ　サーララヌ [ja ˞konˀnu ˀjuː ˞saːruntiˀ ʔu˞muːnˀdu ˞tiːˀnu ˞ɸuttsoːritiˀ mut˞tu saːraranu](薬缶のお湯を注ごうと思うのだが、手が震えて一向に注がれない)。˞サーリナーˀヌ [˞saːrinaːˀnu](注いでしまった)。ノー˞シン　サールˀ　クトゥン˞デーˀカー　˞パイˀサ　˞サーレーˀ　ミサムヌ [noː˞ʃin saːruˀ kʰtun˞deːˀkaː ˞paiˀsa ˞saːreːˀ misamunu](どうせ注ぐことなら、早く注げばよいのに)。ˀユー　˞サーリ [ˀjuː ˞saːri](お湯を注げ)。

˞ザールン [˞ʤaːruŋ] 【自動】朽ちて穴があく。ク˞ヌ　キーˀヤ　˞シンˀマー　˞ザーリティˀ　シゥ˞カーラヌ [ku˞nu kiːˀja ˞ʃimˀmaː ˞ʤaːritiˀ sʲ˞kaːranu](この木は芯が朽ちて穴が開き <洞(ウロ)になって >、使用できない)。˞キャーンゲー　ザーラヌ [˞kjaːngeː ʤaːranu](犬槇は芯が朽ちない)。ユ˞ダˀ　ウ˞タˀシェントンマー　˞ザールン [ju˞daˀ ʔu˞taˀʃentommaː ˞ʤaːruŋ](枝を落としたところは朽ちて穴が開く < 洞になる >)。˞ザールˀ　クトー　˞ナーˀヌ [˞ʤaːruˀ kʰtoː ˞naːˀnu](朽ちて穴が開くことはない)。˞ザーレーˀラー　˞デーˀジ [˞ʤaːreːˀraː ˞deːˀʤi](朽ちて穴が開いたら大変だ)。˞ザールˀカー　˞ザーリˀバ [˞ʤaːruˀkaː ˞ʤaːriˀba](朽ちて穴があくなら朽ちろ)。

˞サーレー [˞saːreˀː] 【終助】～だろうよ。～でしょうよ。「～サ・ウレー」(～そうだ、それは) の融合縮約した形。推量の意を表す。ˀウヌ　˞ブンˀシェーˀアツァン　ア˞ミˀヌ　フー˞サーレˀー [ˀʔunu ˞buŋˀʃeː ˀʔatsaŋ ʔa˞miˀnu ˀɸuː ˞saːreˀː](この分では明日も雨が降るでしょうよ)。

ˀザーン [ˀʤaːŋ] 【接尾】同士。名詞について、それと同じ種類、同じ関係にあることを表す。˞キョーダイˀサザーン　パ˞ナシアーˀシ　˞シェーˀティル　ム˞ヌグˀトー　キ˞ミルˀダー [˞kjoːdaiˀsaʤaːm pa ˞naʃiʔaːˀʃi ˞ʃeːˀtiru mu˞nuguˀtoː ki˞miruˀdaː](兄弟同士で相談 < 話し合い > しながら物事は決めるのだよ)。ヤ˞ラˀベー　ヤ˞ラˀビザーンドゥ　ア˞サブ [ja˞raˀbeː ja˞raˀbiʤaːndu ʔa˞sabu](子供は子供同士で遊ぶ)。

ザーン [ʤaːnŋ] 【名】同士。

˞ザーンツァンˀシ [˞ʤaːntsaŋˀʃi] 【副】ざくっと。ざっくり。ザンと。斧を振り下ろして薪を割る音の形容。擬音語。タ˞ブキー　タムヌˀ　シ˞ターˀマキー　ˀタムノー　バ˞リヤッˀサンダ　˞ザーンツァーンˀシ　バ˞リˀバ [ta˞bukiː tamunuˀ ʃiʲ˞taːˀmakiː ˀtamunoː ba˞ rijasˀsanda ˞ʤaːntsaːŋˀʃi ba˞riˀba](タブノキ < タ˞ブキー > の薪やエゴノキ < シ˞ターˀマキー > の薪は割りやすいから、ざっくりざっくりと割りなさいよ)。

˞サイ [˞sai] 【名】加勢すること。味方になること。支え。守り。守護神。援護すること。ウ˞リヌ　サイバ　スンティ　アーˀクンケン <˞アーˀキ >　イ˞ザリˀ　ア˞ダーサリティ　スンカブˀル　˞シェーˀチバン [ʔu˞rinu saiba sunti ʔaːˀkuŋkeŋ <˞ʔaːˀki > ʔi˞ʤariˀ ʔa˞daːsariti suŋkabuˀru ˞ʃeːˀʧibaŋ](そいつの加勢をしようとしていて叱られ、どやされて大損 < 損被り > してしまったよ)。

˞ザイ [˞ʤai] 【名】舞踊の小道具の一つ。˞麾 (キ)。軍隊の指揮者の持つ旗」を沖縄の古典舞踊では、˞ザイ・ゼイ」と言っている。白紙や色紙を末広に切って篠竹の先に結わえたもの。沖縄本島では「ゼイ踊り」に用いられるが、鳩間島では豊年祭のイ˞ジックナー [ʔi˞ʤikkunaː](村誉めの言い合い。言挙げ) をする˞ガーˀリー [˞gaːˀriː] 踊りで用いられる。「サイ (采)」の転訛したものか。˞プールˀヌ　˞ガーˀリナール　˞ザイバˀ　ムティティ　˞ガーˀローッタ [˞puːruˀnu ˞gaːˀrinaːru ˞ʤaibaˀ mutiti ˞gaːˀroːtta](豊年祭のガーリ踊りでザイを持って踊られた)。

ˀザイ [ˀʤai] 【接尾】～に専念すること。～を専らにすること。名詞や動詞の連用形に下接して˞～に専念することで精一杯 (他事無し、余念が無い)」の意を表す。˞マイカリジブンマー　パンタサˀヌ　ˀドゥーザイル　ˀナル　プ˞スヌˀ　クトゥ˞バーˀケー　˞ティーˀヤ　˞マーラヌ [˞maikariʤibummaː pantasaˀnu ˀduːʤairu ˀnaru pʰ˞sunuˀ kʰtu˞baːˀkeː ˞ tiːˀja ˞maːranu](稲刈り時分は忙しくて < 繁多さで > 自分のことしか出来ない < 自分のことで精一杯だ >。他人のことまでは手が回らない)。˞イーッふァイザイˀル　ˀナル　˞ウイヌ　ガッˀコー˞ナーˀトー　ン˞ザシユーサˀヌ [˞ʔiːffaiʤaiˀru ˀnaru ˞ʔuinu gakˀko:˞naːˀtoː ʔn˞ʤaʃijuːsaˀnu](食べて生活するだけで精一杯だ < 飯を食うことしか出来ない >。上級の学校へは出せない)。パ˞タラキザイバ　シーベーˀティ　ッ˞ふァンケーˀトゥ　ム˞ヌパナˀシン　˞シーユーサヌ [pʰ˞tarakiʤaiba ʃiːbeːˀti f˞faŋkeːˀtu mu˞nupanaˀʃiŋ ˞ʃiːjuːsanu](働くことだけに専念していて、子供たちと話し合いをすることが出来ない)。

-ザイ [-ʤai] 【接尾】名詞や動詞の連用形に付いて、˞～に没頭するだけで、他のことに気がまわらな

い」の意を表す。プ˩スザイ [pu̥˩sudʑai](客の接待に没頭するだけ〜)。ッ˩ふァザイル˥ ナル [f˩fadʑairu˥ naru](子育てに没頭するだけで他のことは考えられない)。

˩ザイ˥ギ **[˩dʑai˥gi]** 【名】材木。建築用材木。普通は、西表島の山から伐りだした。山で粗削りをし、牛に引かせるか、二、三人で担いで下ろし、鳩間島に運んで砂浜に埋め、˩スー˥カン [˩suː˥kaŋ](潮乾。海水に浸けて木汁を抜き取る) をした。半年ほど海水に浸けた後、陸上に揚げ、水洗いをして˩キー˥ヤー [˩kiː˥jaː](材木小屋) に入れ、二、三年間自然乾燥をさせて建築用材に使った。˥ヤー ス˩ク˥ルンティ ˩パイタ˥ヌ ヤ˩マー˥ラ ˩ザイ˥ギ ˥キシ ウ˩ラ˥ソーッタ˩トゥ˥ツォ [˥jaː su̥˩ku˥runti ˩paita˥nu ja˩maː˥ra ˩dʑai˥gi ˥kiʃi ʔu˩ra˥soːtta˩tu˥tsoː](家を新築しようと西表島の山から材木を伐って下ろされたってさ)。

˩サイ˥ク **[˩sai˥ku]** 【名】大工。˩ヤーザイ˥ク [˩jaːdʑai˥ku](家大工。建築大工)。フ˩ナザイ˥ク [ɸu˩nadʑai˥ku](船大工)。サ˩シ˥ムヌザイク [sḁ˩ʃi˥munudʑaiku](指物師。家具類を作る人) 等の類義語がある。˩サイ˥ク タ˩ナ˥ミティ ˩ヤー˥ヌ ˩ヨー˥リ ˩ノーシミ˥ラ [˩sai˥ku ta˩na˥miti ˩jaː˥nu ˩joː˥ri ˩noːʃimi˥ra](大工を頼んで家の弱っているところを直させよう)。

˩サイク˥カティ **[˩saiku˥kati]** 【名】大工の経験者。大工仕事に通じている人。˩サイクカティ˥ヌ ˥アルユンダ ム˩ヌ˥ヌ ˥クチェー ッ˩シ˥ ノー˩ン˥シ˩ミルバン˥ プ˩ス˥ラ マ˩キラヌ [˩saikukati˥nu ˥ʔarujunda mu˩nu˥nu ˥ku̥tʃeː ʃ˩ʃi˥ noː˩ŋ˥ ʃi˩mirabam˥ pu̥˩su˥ra ma˩kiranu](大工仕事の経験があるから物事のコツ < 要領。勘所 > を心得ていて < 知っていて >、何をさせても他人に負けない)。

˩サイクシグ˥トゥ **[˩saikuʃigu˥tu]** 【名】大工仕事。˩ベー˥ヌ ˩アー˥ヤー ˩サイクシグ˥トゥ ˩ゾー˥ジ ヤ˩ロー˥ッタツォー [˩beː˥nu ˩ʔaː˥ja: ˩saikuʃigu˥tu ˩dʑoː˥ʤi ja˩roːt˥tatsoː](我が家のお祖父さんは大工仕事が上手であられたそうだ)。

˩サイクドン˥グ **[˩saikudoŋ˥gu]** 【名】大工道具。鋸。鉋。鑿。斧。手斧。錐。玄翁など。˩サイクドン˥ゴー ˩ドング˥パクナー イ˩リティ ˥ユー ˩ティー˥リ ˩サン˥カー ナ˩ラント ダー [˩saikudoŋ˥go: ˩doŋgu˥ pḁkuna: ʔi˩riti ˥juː ˩tiː˥ri ˩saŋ˥kaː na˩ranˢ˥daː](大工道具は道具箱に入れて、よく手入れをしないといけないよ)。

˩サイク˥ヌ ˩オーナール **[˩saiku˥nu ˩ʔoːnaːru]** 【成】大工の嫉妬 (諺)。大工は互いによく嫉妬するの意。イ˩サ˥ヌ ˩オーナール [ʔi˩sa˥nu ˩ʔoːnaːru](医者の嫉妬 < 諺 >) ともいう。˩サイク˥ヌ ˩オーナールティ˥ ア˩ザリブー [˩saiku˥nu ˩ʔoːnaːruti˥ ʔa˩dʑaribuː](大工の嫉妬と言われているように、大工は互いによく嫉妬するという)。

˩サイクヌキ˥ル **[˩saikunuki˥ru]** 【名】大工用鋸。細工用鋸。˩キーバキヌキ˥ル [˩kiːbakinuki˥ru](山鋸。「木切り鋸」の義) に比べて鋸の刃が小さい。˩リョーバーヌキル [˩rjoːbaːnukiru](両刃鋸。片側は縦びき、片側は横引きとなっている) は繊細な木工細工に対応する鋸である。特に指物細工などが用いる鋸をいう。ヤ˩シ˥ルシ ˩サイクヌキル˥ヌ ˥パー ˥タトゥンティ < タ˩ティ˥ルンティ > ˩ベー [ja˩ʃi˥ruʃi ˩saikunukiru˥nu ˥paː ˥tḁtunti < ta˩ti˥runti > ˩beː](鑢で大工用鋸の歯を研ごうと < たてようと > している)。

˩サイ˥クピンソー **[˩sai˥kupinsoː]** 【成】大工は貧乏 (諺)。大工は他人の仕事ばかりして、自分の家の事を顧みないから、自分の家を飾り立てることはできないので貧乏にみえるの意。˩ユー˥ル ˩サイ˥クピンソーティ ア˩ザリブー˥サー ˩ドゥー˥ヌ ˩ヤー˥ヤ イ˩カシタテー ナー˥ヌ [˩juː˥ru ˩sai˥ku˥pinsoːti ʔa˩dʑaribuː˥sa: ˩duː˥nu ˩jaː˥ja ʔi˩kaʃi̥tate: naː˥nu](よくぞ、「大工は貧乏」といわれているものだよ。自分の家のことはほったらかしだ < どうするかとも考えない >)。

˩サイ˥サイ **[˩sai˥sai]** 【副】再々。度々。幾度も。何度も。イ˩ガ カイプスヌ˥ イ˩サナケー˥ラ ˩サイ˥サイ ˩オーッ˥タン˩ダー [ʔi˩ga kaipu̥sunu˥ ʔi˩sanakeː˥ra ˩sai˥sai ˩ʔoːt˥tan˩daː](烏賊買い商人が石垣から度々来られたよ)。˥アイ ˩サイ˥サイ ティ˩ダイラリ˥カー˩ニ シーベー˥ティ ˩ドゥーグリサ˥ヌ ナ˩ラン˥バンメー [˥ʔai ˩sai˥sai ti˩dairaˢ˥rikaː˩ni ʃiːbeː˥ti ˩duːgurisa˥nu na˩ram˥baŋ](そう何度も奢られてばかりしていて、恐縮の極みでだよ < 心苦しくてならないわい >)。

˩サイ˥サン **[˩sai˥saŋ]** 【副】再三。何度も。たびたび (度々)。しばしば。˩サイ˥サン ア˩ズンドゥ˥ シュ˩カンバン [˩sai˥saŋ ʔa˩dʑuundu˥ si̥˩kambaŋ](再三 < なんども > 言うけれど、聞き入れないわい)。

˥ザイサン **[˥dʑaisaŋ]** 【名】財産。˥ヤーザイサン [˥jaːdʑasaŋ](家財産)。不動産の土地には、普通は˩ジーマ˥シ [˩dʑiːma˥ʃi](土地枡) といって、˥ザイサン [

˥dʑaisaŋ] とは言わない。琉球国時代の昔、土地の個人所有は認められていなかった事を表しているのであろう。明治 37 年以降は、ウ˩ヤ˥ヌ　ア˩ラ˥ソーレール　˥ザイサンマー　˩カーシェー˥　ナ˩ラ˥ヌ [ʔu˩ja˥nu ʔa˩ra˥soːreːru ˥dʑaisammaː ˩kaːʃeː˥ na˩ra˥nu](親が作られた財産は売ってはならない) という。

˩サイ˥スク [˩saiˬsu̥ku] 【名】催促。標準語からの転訛。老年層は、イ˩ミ˥リ [ʔi˩mi˥ri](催促。ねだり。要求)、イ˩ミ˥ルン [ʔi˩mi˥ruŋ](催促する。ねだる。要求する) という。˩サイクドン˥グ　カ˩リ　パッタン˥ドゥ　ムッ˩トゥ　カイサ˥ヌ　˩サイ˥スク　˩サン˥カー　˩カイサン˥バン [˩saikudoŋ˥gu ka˩ri pattan˥du mut˩tu kaisa˥nu ˩saiˬsu̥ku ˩saŋ˥kaː ˩kaisam˥baŋ](大工道具を借りていったが、一向に返却しない。催促しないと返さないわい)。

˩サイトゥビムヌ [˩saitubimunu] 【名】才知に長けた者。才知が優れている者。才気ばしっている者。ウ˩レー　サイトゥビムヌ˥　ヤ˩ルンダ˥　ウ˩リンナー˥ネー　ウ˩カットゥ˥シ　˥ムネー　イ˩ザラヌ [ʔu˩reː saitubimunu˥ ja˩runda˥ ʔu˩rinnaː˥neː ʔu˩kattu˥ʃi ˥mune: ʔi˩dʑaranu](その人は才知に長けた人だから、その人には迂闊にものが言えない)。

˩サイナン [˩sainaŋ] 【名】災難。災い。標準語からの借用語。˩ウン˥ネーナー　˥クゾー　プ˩ス˥ケンナー　˩サイナンヌ˥　ウ˩ク˥レータン [˩ʔun˥neːnaː ˥kudʑuː pu̥˩su˥kennaː ˩sainannu˥ ʔu˩ku˥reːtaŋ](あの家には、去年は一度に災難が起こった)。

˥ザイバン [˥dʑaibaŋ] 【名】在番。琉球国時代に首里王府より宮古、八重山へ派遣された行政長官。一時期は薩摩藩からの在番もいたという (『石垣方言辞典』)。ム˩カ˥シェー　イ˩サナキ˥ナー　˥ザイバンヌ　˩オー˥リ　˩グイ˥フゾーノー　˥トゥリシラビ　˩ソーッ˥タツォー [mu˩kaˬʃe: ʔi˩sanaki˥naː ˥dʑaibannu ˩ʔoː˥ri ˩gui˥ɸudʑoːno: ˥turiʃirabi ˩soːt˥tatsoː](昔は石垣島に在番がおられて、御庸布、上納の取調べをされたそうだ)。

˩サイ˥　ヤリ [˩sai˥ jari] 【連】支えである。守護神。歌謡語。ウ˩クダ˥カ　˥エンヤー　カ˩ニブーヤー˥ヌ　˩サイ˥ヤリ [ʔu˩kuda˥ka ˥jeŋja: ˩kanibuːja:˥nu ˩sai˥ jari](この数 < ここに挙げた数の動物 > がこの鋼材で造った家 < 新室 > の支え < 守護神 > である)。

˩サイ˥ルン [˩saiˬruŋ] 【他動】下げる。吊るす。ぶら下げる。˩キン˥マー　˩ナーラ˥シナー　˩サイル˥ナ [˩kim˥maː ˩naːra˥ʃinaː ˩sairu˥na](着物は軒に吊るすな)。タ˩カー˥ヌ　˩サイララ˥ヌ [tḁ˩kaː˥nu ˩sairara˥nu](高くて吊るされない)。˥クナー　˩サイ˥ルン [˥kunaː ˩sai˥ruŋ](此処に吊るす)。˥クナー　˥サイミサカー　˩サイ˥ル　˥クトー　˥ナルン [˥kunaː ˥saimisakaː ˩sai˥ru ˥ku̥toː ˥naruŋ](ここに下げて < 吊るして > 良ければ、下げる < 吊るす > ことは出来る)。˥クナー　˩サイ˥リ [˥kunaː ˩sai˥ri](此処に吊るせ)。˩キン˥マー　˩ナーラ˥シナ　˩サイ˥ルンティ　ウ˩ムータ˥ヌ　˩サイララ˥ヌ [˥kim˥maː ˩naːraʃi˥na ˩sai˥runti ʔu˩muːta˥nu ˩sairara˥nu](着物は軒下のなげしに吊るそうと思ったが吊るされない)。

˩ザイ˥レー [˩dʑai˥reː] 【名】 (植) 稲の品種名。在来種の稲。穂の先に長い芒がある。ピ˩ジルマイ [pi˩dʑirumai](米粒が小さく、一等美味で、多収穫の品種)、˥ウシノーマイ [˥ʔuʃinoːmai](米粒は黒褐色。米粒が大きく、味は不味いので長く貯蓄された)。ダ˩ネー˥ママイ [da˩neː˥mamai](米粒は赤褐色。味は美味で、お粥にすると脂分が浮き出た) 等の品種が作付けされていた。ザ˩イレーマイ˥ヤー　˥プーナ　ン˩ギヌ˥　アルンダ　カ˩マイ˥ヤー　ッ˩ふァーンシェン [˩dʑaireːmai˥jaː ˥puːna ʔŋ˩ginu˥ ʔarunda: ka˩mai˥jaː f˩faːŋʃeŋ](在来種の稲は穂に長い芒があるから、猪は食べなかった)。

˩サウ [˩sau] 【名】 1正気。意識。正しい判断力。明治、大正生まれの老年層の言葉。若年層は、˩ソー [˩soː](正気、意識) という。[sau] → [soː] の音韻変化法則に基づく。˩サウ˥　シ˩ティルン˥ケン　サ˩キ˥　ヌ˩ム˥ナ [˩sau˥ ʃi̥˩tiruŋ˥ken sḁ˩ki˥ nu˩mu˥na](正気 < 意識 > を失うほど酒を飲むな)。ブ˩チ˥クン　˩シー　ベータン˥ドゥ　ヤッ˩トゥ˥シ　˩サウヤー˥　シケーン [bu˩tʃi˥kuŋ ˩ʃiːbeːtan˥du jat˩tu˥ʃi ˩sauja:˥ ʃi̥keːŋ](人事不省に陥っていたが、やっとで意識が回復した < 意識がついた >)。2音信。ッ˩ふァンケー˥ヌ　˩サウバ˥　ス˩クンティ　クータ˥ル [f˩faŋkeː˥nu ˩sauba˥ su̥˩kunti kuːta˥ru](子供達の音信 < 便り > を聞こうとやって来たのだ)。

˥サウ [˥sau] 【名】竿。竹竿。枝葉を落とした竹の幹。みさを (水竿)。「〜朝凪に楫引きのぼり夕汐に佐乎佐之久太理〜『万葉集　4360』」の転訛。˥サウス˩クン [˥sau su̥˩kuŋ](棹をさす)。˥フネーラ　˥サウ　シ˩ケー˥ティ　˥タク　シ˩キ˥　トゥ˩ローッ˥タン [˥ɸuneːra ˥sau ʃi̥˩keː˥ti ˥tḁku ʃi̥˩ki˥ tu˩roː˥taŋ](サバニから竿をつきながらタコを突いて獲られた)。パ˩タザウ [pḁ˩tadʑau](旗竿)。˩キンプシ˥サウ [˩kimpuʃi˥sau](着物干し竿)。カ˩ツホーシ˥サウ [kḁ˩tsuhoːʃi˥

sau](カツオ釣り竿)。

˥ザウ [˥ʤau] 【名】栓。瓶など細長い容器に差し込む栓。若年層の中には˥ゾー [˥ʤoː](栓) と言う人もいる。クˬビン˥ヌ ˥ザウ ˥ッシバ [kuˬbin˥nu ʤau ˥ʃʃiba](瓶に栓をしなさい < 栓を差込みなさい >)。アˬガカビ˥シ カˬザリクビンヌ ザウ˥バ ˥ブリティ ˥ッシバ [ʔaˬgakabi˥ʃi kaˬʤarikubinnu ʤau˥ba ˥buriti ˥ʃʃiba](赤色の紙を、神前に供える神酒入れ用の瓶子 < 飾り瓶 > の栓として三角に折って差し込みなさい)。

ˬサウガスン [ˬsaugasuŋ] 【他動】騒がす。やかましくさせる。騒動させる。ˬアーラスンとも言う。˥アイブー パˬナ˥シ ˬスー˥カ プˬス サウガスンダ サウガサン˥ヨーニ ˬシー˥バ [˥ʔaibuː paˬna˥ʃi ˬsuː˥kaː pu̥ˬsu saugasunda saugasaŋ˥joːni ˬʃiː˥ba](あんな話をすると人を騒動させるから、騒動させないようにしなさいよ)。シˬキン˥バ ˬサウガシ˥ シケー [ʃi̥ˬkim˥ba ˬsaugaʃi˥ ʃi̥keː](世間を騒がしてある)。シˬキン˥バ ˬサウガス˥ クトー スˬナ˥ヨー [ʃi̥ˬkim ˥ba ˬsaugasu˥ ku̥toː suˬna˥joː](世間を騒がすことはするなよ)。ˬサウガシェー˥ ミサムヌ [ˬsaugaʃeː˥ misamunu](騒がせばいいのに)。ˬサウガシ˥バ [ˬsaugaʃi˥ba](騒がせなさいよ)。˥シキン ˬサウガス˥ プˬソー˥ ドゥーシェー ˬサウガスンティ˥ ウˬモーン ダー˥ヌ ˥アイブ ˥クトゥ ˬスー˥カー シˬキン˥マー ˬサウガサリス [˥ʃi̥kin ˬsaugasu˥ pu̥ˬsoː˥ duːʃeː ˬsaugasunti˥ ʔuˬmoːn daː˥nu ˥ʔaibu ˥ku̥tu ˬsuː˥kaː ʃi̥ˬkim˥ma ˬsaugasarisu](世間を騒がす人は、自分では騒がそうとは思わないだろうが、あんな事をしたら世間は騒がされる)。˥シキン ˬサウガシ˥ プサカー ˬサウガシ˥バ [˥ʃi̥kin ˬsaugaʃi˥ pu̥sakaː ˬsaugaʃi˥ba](世間を騒がしたかったら騒がしなさいよ)。ˬマー˥ビン ウˬダラカ˥シ ˥シキン ˬサウガシェー˥ ミサムヌ [ˬmaːbiŋ ʔuˬdarakaˬʃi ˥ʃi̥kin ˬsaugaʃeː˥ misamunu](もっと驚かせて、世間を騒がせばよいのに)。

ˬサウガッ˥サン [ˬsaugas˥saŋ] 【形】騒がしい。物音や声などがやかましい。ˬサウガ˥サン [ˬsauga˥saŋ](騒がしい)、ンˬガマ˥サン [ʔŋˬgama˥saŋ](やかましい) ともいう。˥クマー プˬスヌ˥ アˬツァ˥マリティ ˬサウガッ˥サンダ ˬサウガッサナーン˥ トンパラˬディー [˥kumaː pu̥ˬsunu˥ ʔaˬtsa˥mariti ˬsaugas˥sanda ˬsaugassanaːn˥ tom paraˬdiː](ここは人が集まって騒がしいから、騒がしくない所へ行こうよ)。ˬシンダイ サウガッ˥サ ˥ナリケーン [ˬʃindai saugas˥sa ˥narikeːŋ](次第に騒がしくなってきた)。ˬサウガッ˥サン ˥トン [ˬsaugas˥san ˥toŋ](騒がしい所)。˥アイニ ˬサウガッ˥サカー ˥ウナー ブˬララヌ [˥ʔaini ˬsaugas˥sakaː ˥ʔunaː buˬraranu](あのように騒がしければ、そこには居られない)。

ˬサウグン [ˬsauguŋ] 【自動】1騒ぐ。多数のものが集まって騒々しくなる。「〜あぢ群佐和伎 < サワキ >〜。万、3991」の転訛したもの。ヤˬラ˥ビンケーヌ アˬツァ˥マリ ˬサウギ ベー˥ヌ ˬサウガサンドー˥シ アˬサバシ [jaˬra˥biŋkeːnu ʔaˬtsa˥mari ˬsaugi beː˥nu ˬsaugasandoː˥ʃi ʔaˬsabaʃi](子供たちが集まって騒いでいるが、騒がさないで遊ばせ)。ˬバン˥ヌン ˬサウグン [˥ban˥nun ˬsauguŋ](私も騒ぐ)。ˬサウグ˥ クトー ˬナーヌ˥ヌ ˬサウゲー˥ ミサムヌ [ˬsaugu˥ ku̥toː ˬnaːnu˥nu ˬsaugeː˥ misamunu](騒ぐことはないが、騒げばいいのに)。ˬマー˥ビン ˬサウギ [ˬmaː˥bin ˬsaugi](もっと騒げ)。プˬスヌ˥ アˬツァ˥マリティ ˬサウギ ベー [pu̥ˬsunu˥ ʔaˬtsa˥mariti ˬsaugi beː](人が集まって騒いでいる)。ˬサウグ プスヌ˥ ブˬラーン˥カー ˬサウグンティ˥ シˬタンティン サウガラヌ [ˬsaugu pu̥sunu˥ buˬraːŋ˥kaː ˬsaugunti˥ ʃi̥ˬtantin saugaranu](騒ぐ人がいなければ騒ごう < 騒ぐ > としても騒がれない)。ˬマー˥ビン ˬサウゲー˥ ミサムヌ [ˬmaː˥bin ˬsaugeː˥ misamunu](もっと騒げばいいのに)。ˬパー˥ク ˬサウギ [ˬpaː˥ku ˬsaugi](早く騒げ)。騒動がおこる。イˬサナキ˥ナーヤ ˬシェンキョ˥ヌ ˥クトゥシ ˬサウギ ブー˥ティバン [ʔiˬsanakinaː˥ja ˬʃeŋkjo˥nu ˥ku̥tuʃi ˬsaugi buː˥tibaŋ](石垣島では選挙のことで騒動しているそうだよ)。2思い乱れる。ˬンーニヌ サウギティ˥ ウˬティシュカラ˥ヌ [ˬʔnːninu saugiti˥ ʔuˬtiʃi̥karaˬnu](胸騒ぎして < 胸が騒いで > 落ち着かれない)。

ˬサウシキ˥ムヌ [ˬsauʃi̥ki˥munu] 【名】気付薬 (気付け物)。

ˬサウ˥ スクン [ˬsau˥ su̥kuŋ] 【連】正気づく。意識が正常に戻る。ˬソー˥ スクン [ˬsoː˥ su̥kuŋ](正気づく) ともいう。ブˬチ˥クン ˬスー˥ バソー ミˬジ˥ フˬク˥ミティ ˥シラナー フˬキカキ˥ルカー ˬサウ˥ スクン [buˬʧi˥kun ˬsuː˥ basoː miˬʤi˥ ɸu̥ˬku ˥miti ˥ʃirana: ɸu̥ˬkikaki˥ruka ˬsau˥ su̥kuŋ](気絶する時は水を口に含んで顔に吹きかけると正気づく)。

˥サウ スˬクン [˥sau su̥ˬkuŋ] 【連】竿をさす。˥サウシˬケー˥ティ ˥バターラ ˬマーリ˥ パリバ [˥sau ʃi̥ˬkeː˥ti ˥bataːra ˬmaːri˥ pariba](竿を刺しながら湾

伝いに回って行きなさい)。

˥サウパサン [˥saupasaŋ] 【名】「竿挟み」の義。竿挟みに縛ること。台風対策として戸の外側と部屋の柱の側に竿を渡して挟み、強く縛って戸を固定し、風圧に耐えるようにすること。ˬタイフー˥ヌ　ˬスー˥リ　ˬキー˥バ　˥ヤドー　ウˬチ˥フカーラ　˥サウパサン　ˬシー˥　カˬキン˥グ　ˬシー [ˬtaiɸu:˥nu ˬsu:˥ri ˬki:˥ba ˥jado: ʔuˬtʃi˥ɸu̥ka:ra ˥saupasaŋ ˬʃi:˥ kḁˬkiŋ˥gu ˬʃi:](台風が強くなってくるから、戸は内外から竿で竿挟みにして台風対策＜格護＞しなさい)。

ˬサウリ [ˬsauri] 【名】1さしさわり (差し障り)。支障。クˬリ　ウーカ˥スカー　ビˬチ˥ヌトンナ　ˬサウリヌ˥　ンˬジ˥ルンダ　˥クマー　ˬノーサラ˥ヌ [kuˬri ʔu:ka˥su̥ka: biˬtʃi˥nu ˥tonna ˬsaurinu˥ ʔnˬʤi˥runda ˥kuma: ˬno:sara˥nu](これを動かすと別の所に障り＜支障＞が出るから、ここは直されない)。2さわり (障り) ごと。神仏の祟り。ˬカッティニ˥　パˬカウーカ˥スカー　ˬサウリヌ˥＜タˬタリ˥ヌ＞　ンˬジ˥ルンティˬダー [ˬkattini˥ pḁˬka ʔu:ka˥su̥ka: ˬsaurinu˥ ＜taˬtari˥nu＞ ʔnˬʤi˥runtiˬda:](勝手に墓を動かすと祟りが出るそうだよ)。

ˬサウリグトゥ [ˬsaurigutu] 【名】障りごと。たたり (祟り)。悪い報い。ユˬタヌ˥　ヤーナ　ˬゲー˥タ　ˬサウリグトゥ　ヌ˥　アˬリ˥バ　ˬニン˥ガイ　ˬシーバル˥　ナルツォー [juˬtanu˥ ja:na ˬge:˥ta ˬsaurigutunu˥ ʔaˬri˥ba ˬniŋ˥gai ˬʃi:baru˥ narutso:](ユタ＜口寄せする巫げき＞の家に行ってみたところ、障りごとがあるので祈願をする必要がある＜祈願をすればぞなる＞そうだ)。

ˬサウルン [ˬsauruŋ] 【自動】1触る。プˬスヌ˥　ドゥーナ　ˬサウルナ [pu̥ˬsunu˥ du:na ˬsauruna](他人の体に触るな)。ˬサウリ˥　プサンンティ　ウˬムー˥タンティン　ˬサウル˥　プˬスヌ˥　ブˬラーン˥カー　ˬサウララヌ [ˬsauri˥ pu̥santi ʔuˬmu:˥tantin ˬsauru˥ pu̥ˬsunu˥ buˬra:ŋ˥ka: ˬsauraranu](触りたいと思っていも触る人がいなければ触られない)。ˬサウリ˥　プサカー　ˬサウリ˥バ [ˬsauri˥ pu̥saka: ˬsauri˥ba](触りたければ触れ)。˥クマー　ˬサウレー˥　ミサムヌ [˥kuma: ˬsaure:˥ misamunu](此処は触ればよいのに)。ˬサールン [ˬsa:ruŋ](触る) ともいう。イˬツァー˥ヌ　˥ティーシェー　ˬサウララヌ [ʔiˬtsa:˥nu ˥ti:ʃe: ˬsauraranu](熱いから素手では触れない)。˥ティーシ　ˬサウリ˥　ミリˬミー [˥ti:ʃi ˬsauri˥ miriˬmi:](手で触ってみてごらん)。ˬサウルンティ˥　ウムーカー　ˬサウレー˥　ミサムヌヌ＜ミサムヌバ＞　ˬサウル˥　プˬソー˥　ターˬン˥　ブˬラーヌ [ˬsaurunti˥ ʔumu:ka: ˬsaure:˥ misamununu ＜misamunuba＞ ˬsauru˥ pu̥ˬso:˥ ta:ˬm˥ buˬra:nu](触ろうと思うなら触ればよいものを、触る人は誰もいない)。ˬサウリ˥バ [ˬsauri˥ba](触れよ)。2障る。障害となる。差し支える。ナˬマ˥ムノー　キˬジ˥ナー　ˬサウルン˥ティˬダー˥　ンˬバイルン˥ツォー [naˬma˥muno: kiˬʤi˥na: ˬsaurun˥tiˬda:˥ ʔmˬbairun˥tso:](生ものは傷に障るってよ。傷が化膿して悪化するそうだ)。3神仏が祟る。˥アイブー　˥クトゥ　ˬスー˥カー　ˬグゥンスˬグトゥナ　ˬサウルン˥ティˬダー [˥ʔaibu: ˥ku̥tu ˬsu:˥ka: ˬgwansu˥gutuna ˬsaurun˥tiˬda:](あんなことをすると、元祖の祭りごとに祟るそうだよ)。

ˬサウワー　ナー˥ヌ [ˬsauwa: na:˥nu] 【連】正気がない。意識がない。前後不覚に陥る。記憶を失う。ˬサウ˥　シˬティルン [ˬsau˥ ʃi̥ˬtiruŋ](記憶＜意識＞を失う) ともいう。ˬウンザー˥　ビータリティ　ˬサウワー　ナー˥ヌ [ˬʔunʤa:˥ bi:tariti ˬsauwa: na:˥nu](こいつは酔いつぶれて意識がない)。

˥サウン [˥sauŋ] 【他動】稲をこく＜扱く＞。フˬドー˥シ [ɸuˬdo:˥ʃi](稲を扱く竹管) を片手で握って、他の手で稲を引いて脱穀する。ˬマイ˥　サウン [ˬmai˥ sauŋ](稲を扱(シゴ)く)。ˬマイ　サイ˥　プサンドゥ　クˬリ˥シェー　ˬサーラン˥バ　˥サウ　プˬス˥　トゥミ　˥キー　ˬサイ˥ヤー　˥ミサムヌ [ˬmai sai˥ pu̥sandu kuˬri˥ʃe: ˬsa:ram˥ba ˥sau pu̥ˬsu˥ tumi ˥ki: ˬsai˥ja: ˥misamunu](稲を扱(コ)きたいが、これでは扱けないから扱(シゴ)く人を捜してきて扱けばよいのに)。ˬパー˥ク　˥サイ [ˬpa:˥ku ˥sai](早く扱け)。ˬマイ˥　サウン [ˬmai˥ sauŋ](稲を扱く)。クˬリ˥シェー　ˬサーラ˥ヌ [kuˬri˥ʃe: ˬsa:ra˥nu](これでは扱かれない)。ˬマイ˥　サイッˬふィーリ [ˬmai˥ saifˬfi:ri](稲を扱いてくれ)。ˬマイ˥　サウ　プˬソー˥　ブˬラーヌ [ˬmai˥ sau pu̥ˬso:˥ buˬra:nu˥](稲を扱(コ)く人はいない)。ˬマー˥ビン　ˬサイ˥ヤー　˥ミサムヌ [ˬma:˥bin ˬsai˥ja: ˥misamunu](もっと扱(シゴ)けばよいのに)。ˬマイ˥　サイバ [ˬmai˥ saiba](稲を扱けよ)。

˥サウン [˥sauŋ] 【他動】下げる。吊るす。「下げ＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。ˬサイ˥ルン [ˬsai˥ruŋ](下げる。吊るす) ともいう。ˬナーラ˥シナー　ˬサーン˥ドーシ　ˬキンプシ˥サウナー　˥サイミサカー　˥バー　サウンˬダー [ˬna:ra˥ʃina: ˬsa:n˥do:ʃi ˬkimpuʃi˥sauna ˥saimisaka: ˥ba: saunˬda:](軒には吊るさないで、着物干し竿に吊るしてよければ、私は吊るすよ)。˥サウ　˥ムノー　ˬパー˥ク　ˬ

サイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˥saumunoː ˩paː˥ku ˩sai˥jaː ˥misamunu](吊るすものは早く吊るせば良いのに)。˥ドゥーシ　˥サイ [˥duːʃi ˥sai](自分で吊るせ)。˩ナーラ˥シナー　˥サウン [˩naːra˥ʃinaː ˥sauŋ](軒に吊るす)。˥クナー　˩サーラ˥ヌ [˥kunaː ˩saːra˥nu](此処には吊るせない)。˥クナール　˩サイ˥　プサ˩ツォー [˥kunaːru ˩sai˥ pu̥sa˩tsoː](ここに＜ぞ＞吊るしたいのだよ)。˥クナー　˥サウ　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˥kunaː ˥saukṵtoː na˩ra˥nu](此処には、吊るしてはならない)。˩マー˥ビン　˩サイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˩maː˥bin ˩sai˥jaː ˥misamunu](もっと吊るせばよいのに)。˥クナー　˥サイバ [˥kunaː ˥saiba](此処に吊るせ)。

˩サウン [˩sauŋ] 【他動】注ぐ。サ˩キ　サウン [sḁ˩ki sauŋ](酒を注ぐ)。酒を注ぐ。サ˩キ　サウンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩トゥーヤ˥ヌ　˩サーラヌ [sḁ˩ki saunti˥ ʔu˩muːn˥du ˩tuːja˥nu ˩saːranu](酒を注ごうと思うが遠いので注げない)。˩サイ˥　ミサカー　˩サウ˥　クトー　˥ナルン [˩sai˥ misakaː ˩sau˥ kṵtoː ˥naruŋ](注いで良ければ注ぐことは出来る)。˩マー˥ビン　˩サイヤー˥　ミサムヌ [˩maː˥bin ˩saijaː˥ misamunu](もっと注げば良いのに)。˩パー˥ク　˩サイ˥バ [˩paː˥ku ˩sai˥ba](早く注げよ)。˥サー　˩サイ˥バ [˥saː ˩sai˥ba](お茶を注げよ)。˩クン˥ナー　サ˩ケー　サーラヌ [˩kun˥naː sḁ˩keː saːranu](これには酒は注がれない)。˥サー　˩サイ˥　プサンドゥ　˩サウ　プスヌ˥　ブ˩ラーヌ [˥saː ˩sai˥ pu̥sandu ˩sau pu̥sunu˥ bu˩raːnu](お茶を注ぎたいが、注ぐ人がいない)。˩マー˥ビン　˩サイヤー˥　ミサムヌ [˩maː˥bin ˩saijaː˥ misamunu](もっと注げばよいのに)。

˥サウン [˥sauŋ] 【他動】裂く。麻の繊維を細かく裂く。芭蕉の繊維を裂く。若年層は˥サクン [sakuŋ] という。˩ブー˥ヤ　ク˩マークマー˥シ　˥サイティル　˩ウー˥モール [˩buː˥ja ku˩maːkumaː˥ʃi ˥saitiru ˩ʔuː˥moːru](麻は細かく裂いて＜ぞ＞績まれる)。

サ˩カ [sḁ˩ka] 【名】坂。傾斜のある道。「佐可＜坂＞越えて～。万、3523」の義。サ˩カミチ　クイルンティ　ナン˥ギ　˥アウリ　˩シー　ベー [sḁ˩kamitʃi kuirunti naŋ˥gi ˥ʔauri ˩ʃiː beː](坂道を越えようとして難儀苦労をしている)。

˥ザカ [˥ʤaka] 【名】 (動) ジャコウネズミ。˥ザカー　カ˩ザヌ˥　ッ˩サーン˥ダ　シ˩グ˥　ワ˩カ˥ルン [˥ʤaka: ka˩ʤanu˥ s˩saː˥nda ʃi˩gu˥ wa˩ka˥ruŋ](ジコウネズミは匂いが臭いからすぐそれと分かる)。˩ワー　ミー˥ヤ　ザ˩カ˥ヌ　˥ミー　˩ニーブ [˩waː miː˥ja ʤa˩ka˥nu ˥miː ˩niːbuː](君の目はジャコウネズミの目に似ている。目が小さいのをいう)。

サ˩ガー [sa˩gaː] 【名】 (動) 鳥の名。サギ (鷺)。鷺のように痩せてすらりとしている人。˩マイカリジブンマー　ター˥ナ　˥ユー　サ˩ガーヌ˥　ウリ　˩クー˥タン [˩maikariʤibumma: taː˥na ˥juː sa˩gaːnu˥ ʔuri ˩kuː˥taŋ](稲刈りの時分には田圃によく鷺が降りてきたものだ)。バ˩ツァ˥ミ　˥シケー　ウ˩シヌ　ウイ˥ナーン　サ˩ガーヌ˥　トゥ˩マリ　ベー˥ン [ba˩tsa˥mi ˥ʃi̥keː ʔu˩ʃinu ʔui˥naːn sa˩gaːnu˥ tu˩mari beː˥ŋ](繋いである牛の上にも鷺が止まっている)。白鷺。サ˩ガーヌ　ター˥ナ　˥ウリティ　˩ナーッ˥ス　キ˩ザーシ˥　シケー [sa˩gaːnu taː˥na ˥ʔiriti ˩naːs˥su ki˩ʤaːʃi˥ ʃi̥keː](白鷺が田圃に下りて苗代を攪乱してある)。

サ˩カイ [sḁ˩kai] 【名】栄え。繁昌。ウ˩ヤ˥キパンジョー　サ˩カイパンジョー˥　ア˩ラ˥シ　タ˩ボー˥リ [ʔu˩ja˥kipanʤoː sḁ˩kaipanʤoː˥ ʔa˩ra˥ʃi ta˩boː˥ri](富貴繁昌、栄え繁昌＜子孫繁昌＞あらしめて下さい)。

サ˩カイミ [sa˩kaʔimi] 【名】逆夢。実際とは正反対のことを見る夢。吉凶を占う時、実際には逆のことが起こるとされる夢。˥イメー　サ˩カイミティル˥　アルユンダ˥　˩ソーヤ　サン˥タンテイン　˥ミサン [˥ʔime: sa˩kaʔimitiru˥ ʔarujunda ˩soːja san˥tantim ˥misaŋ](夢は逆夢といわれているから、心配しないでもよい)。

サ˩カイルン [sḁ˩kairuŋ] 【自動】栄える。繁栄する。˥ウヤコーコー　˩スー˥カー　ッ˩ふァ˥マー　サ˩カイルン [˥ʔujakoːko: ˩suː˥ka: f˩fa˥maː sḁ˩kairuŋ](親孝行すると子孫が栄える)。ヤ˩ナクトゥ　スー˥カー　サ˩カイラヌ [ja˩nakutu suː˥kaː sḁ˩kairanu](悪事をすると栄えない)。イッ˩ケン˥　サ˩カイル　ヤー˥ヌ　˥アン [ʔik˩ken˥ sḁ˩kairu jaː˥nu ˥ʔaŋ](非常に栄える家がある)。

サ˩カキジ [sḁ˩kakiʤi] 【名】逆削り。逆さに削ること。鰹節を尾部から頭部へ削ること。逆削りすると、ささくれ立つて削れなくなる。鰹の魚体は頭部から尾部へかけて流線形をなして細くなっているので、鰹節もその流れに沿って削るのが伝統的な削り方であると言われている。カ˩ツブシェー˥　サ˩カキジ　スー˥カー　˩ゾー˥ブンニ　キ˩ザラヌ [kḁ˩tsubuʃeː˥ sḁ˩kakiʤi suː˥kaː ˩ʤoː˥bunni ki˩ʤaranu](鰹節は逆削りすると、うまく＜上手に＞削れない)。

サ˩カサ [sḁ˩kasa] 【名】司。女性の神職者。˩カン˥プス [˩kam˥pu̥、su](神職者。「神人」の義) で、担当する˥ウガン [˥ʔugaŋ](お願。御嶽) の˥ウボー [˥ʔubou](威部。霊域) を護る神女。毎月の朔日、十五日には

˥ウガン [ʔugaŋ] にお参りをして祈願をした。キ˞ザル [ki˞ʤaru](村の祭祀) には神事の中心となって、担当する˥ウガン [˥ʔugaŋ](お願。御嶽) で祈願をする。˥サーダカマリ [˥saːdakamari](セジ高い生まれ。生来霊感のすぐれた人) で、カ˞ンダー˥リ [ka˞ndaː˥ri](神懸り) したり、フ˞ダマリ [ɸu˞damari](神懸り。体調を崩したりして寝込んでいて、急に神が憑依して常人と異なる言動をし、神託を告げるようになること)　　によって就任する。˥シジ [˥siʤi](血筋)、ピ˞キ [pi̥˞ki](御嶽を中心とする血統) によって所属する御嶽 (お願) のサカサが誕生する。サカサ (司) に就任することを、˥ヤマ　ダ˞クン [˥jama da˞kuŋ](山を抱く) という。特定の˥ウガン [˥ʔugaŋ](御嶽) でサカサの欠員が生じた場合、それぞれのピ˞キ [pi̥˞ki](血統) の御嶽で祈願をし、ウ˞ク˥ジ　バ˞リ [ʔu˞ku˥ʤi ba˞ri](神籤を占い)、後継者を決定した。また、˥シジダカマリ [˥ʃiʤidakamari](セジ高い人) で病弱な状態が続いた場合、石垣島の˥サンギンソー [˥saŋginsoː](三世相。易者) やユタ [ju˞ta](かんなぎ。口寄せする巫女。霊能者) に観てもらい、継ぐべき神職を決めてもらうこともあった。また本人が神がかり状態になって、神司職を継ぐべき御嶽の神意を告げることもあった。神懸り状態になることを、フ˞ダマルン [ɸu˞damaruŋ] という。サ˞カサー　カンダー˥リ　シ˞ティ˥　ウ˞ガ˥モール　プ˞スン　オー˥リ　フ˞ダマリティ˥　ナ˞ロー˥ル　プ˞スン　オー˥ルン [sḁ˞kasaː kandaː˥ri ʃi̥˞ti˥ ʔu˞ga˥moːru pu̥˞suŋ ʔoː˥ri ɸu˞damariti˥ na˞roː˥ru pu̥˞suŋ ʔoː˥ruŋ](司は神懸りして拝まれる人もおられ、フダマリ＜神懸り＞して神託によって成られる人も居られる)。1970 年頃の司は、˞ウイヌ˥ウガン [ʔuinu˥ʔugaŋ](友利御嶽。加治工千代氏)、ピ˞ナイ˥ウガン [pi˞nai˥ʔugaŋ](鬚川御嶽。花城イガ氏)、ニ˞シ˥ドーウガン [ni˞ʃi˥doːʔugaŋ](西堂御嶽、米盛クヤ氏)、ア˞ラ˥カーウガン [ʔa˞ra˥kaːʔugaŋ](新川御嶽、吉川信子氏) であった。

サ˞カザー [sḁ˞kaʤaː] 【名】「酒座」の義。飲酒の座席。サ˞カザー˥ナテー　ヤ˞ナ˥ムネー　ア˞ザンドー˥シ　ウ˞ムッ˥サ　パ˞ナ˥シカー˞ニ　シートツォー [sa˞kaʤaː˥naːte: ja˞na˥mune: ʔa˞ʤando:˥ʃi ʔu˞mus˥sa pa˞na˥ʃikaː˞ni ʃiːɨtsoː](酒の座では悪い話はしないで、面白い話だけしなさいよ＜しなさいってば＞)。

サ˞カサマー [sa˞kasamaː] 【名】逆さま。逆様。さかしま。さかさ。˞ワー˥　ムノー　サ˞カサマー˥　ナ˞リ˥ブバ　˞ノー˥シ˞ヨー [˞waː˥ muno: sa˞kasamaː˥ na˞ri ˥buba ˞noː˥ʃi˞joː](君のは逆さまになっているので、直しなさいねえ)。

サ˞カシキ [sa˞kaʃi̥ki] 【名】さかずき (盃・杯)。「〜誰か浮かべし佐加豆岐＜サカヅキ＞の上＜へ＞に。万、840」の転訛したもの。サ˞カシキ˥ナー　サ˞ケー　サイティ˥　オッ˞ティ˥　カ˞ミ˥リ [sa˞kaʃi̥ki˥naː sa˞keː saiti˥ ʔot˞ti˥ ka˞mi˥ri](盃に酒を注いで、有難く＜尊く＞おし頂きなさい)。

サ˞カッふァ [sḁ˞kaffa] 【名】逆子。足の方から生まれてくる新生児。サ˞カッふァ˥　ヤ˞タンティン˥　マ˞ナ˥マー　ナ˞シ˥シキ　˥ナルカー　˞ノーサ˥リンティバ　˞ソーヤ　ナー˥ヌ [sḁ˞kaffa˥ ja˞tantim˥ ma˞na˥maː na˞ʃi˥ʃi̥ki ˥naruka: ˞noːsa˥rintiba ˞soːja naː˥nu](逆子であっても今では臨月＜産み月＞になったら正常に直されるそうだから心配はないよ)。

サ˞カナ [sḁ˞kana] 【名】さかな (肴)。酒を飲むときに添えて食べるもの。「酒菜 (さかな)」の義か。「酉音、サカナ『類聚名義抄』」の義。˥ウサイ [˥ʔusai](御菜。副食物) ともいう。ガ˞シタク˥ヌ　˞ティー˥ヤンツァン　˥キシキー　サ˞キヌ˥　サ˞カナン˥ノーンサン˥ノーレー [ga˞ʃitaku˥nu ˞tiː˥jantsaŋ ˥ki̥ʃiki: sḁ˞ki˥nu sḁ˞kanan˥noːn ˞san˥noːreː](燻製蛸の手でも切ってきて酒の肴にでも＜なりとも＞しないかね)。

サ˞カナキ [sḁ˞kanaki] 【名】めんどり (雌鶏) が通常と違った鳴き方をすること。「逆さ鳴き」の義。不吉の兆しとして嫌われた。˞ミードゥル˥ヌ　サ˞カナキ　シーベー˥ヌ　˞マー˥ル　ン˞カイ˥　ナ˞キベー˥ワ [˞miːduru˥nu sḁ˞kanaki ʃiːbeː˥nu ˞maː˥ru ʔŋ˞kai˥ na˞kibeː˥wa](雌鶏が逆さ鳴きしているが、何処の方向に向かってないているか)。雌鶏の逆さ鳴きする方向に不吉なことが起きるといわれていた。中国雲南省元陽県全福庄の少数民族ハニ族や、ラオスのカムー族にも鶏の頭で吉凶を占う習慣がある事を県立芸術大学附属研究所の東南アジア研究会でラオスと雲南省を現地調査して確認した。

サ˞カナシ [sḁ˞kanaʃi] 【名】逆子を出産すること。「逆産し」の義。ッ˞ふァバ˥　サ˞カナシ　シーティル˥　イッ˞ケナ　ナンザン　シー　ブレー˥ンギサール [f˞faba˥ sḁ˞kanaʃi ʃiːtiru˥ ʔi˞kkena nanʤaŋ ʃiː bur: ˥ŋgisaːru](子供を逆子で生んで＜逆産みして＞、非常に難産をしていたそうだよ)。

サ˞カナヤー [sḁ˞kanajaː] 【名】料亭。遊郭。「酉音、サカナ」『類聚名義抄』に、ヤー [jaː](屋) の付いた語か。カ˞ツシンヌ　モー˥ケー　サ˞カナヤー　カユイバシー˥　ッ˞ふァイシティ　ナー˥ヌ [kḁ

˞tsuʃinnu moː˥ke: sḁ˞kanaja: kajuibaʃiː˥ f˞faiʃi̥ti naː˥nu](鰹漁船の儲けは料亭通いをして食いつぶしてしまった)。サ˞カナヤーミドゥムバ˥　トゥ˞ジ˥ティ　˞シー　サーリオー˥レー　プ˞スン　オーッ˥タン [sḁ˞kanaja:midumuba˥ tu˞ʤi˥ti ˞ʃi: sa:rioː˥re: pu̥˞sunŋ ʔoːt˥taŋ](料亭の女を妻といって身請けして＜連れ出して＞こられた来られた人も居られた)。

サ˞カナヤーッふァイムヌ [sḁ˞kanaja:ffa:munu] 【名】料亭に入り浸るもの。遊蕩児。「料亭喰らいもの」の義。サ˞カナヤーッふァイムヌ˥　ナリ　˞ヤー˥ヤ　˞トー˥シ　シ˞ティナー˥ヌ [sḁ˞kanaja:ffaimunu˥ nari ˞ja:˥ja ˞toː˥ʃi ʃi̥˞tinaː˥nu](遊蕩児になって家を潰して＜倒して＞しまった)。

サ˞カナヤーミドゥム [sḁ˞kanaja:midumu] 【名】料亭の女。酌婦。娼婦。サ˞カナヤーミドゥム˥バ　˞サーリ˥キーティル　˞ヤームン˥ドー　˞シーオー˥ル [sḁ˞kanaja:midumu˥ba ˞sa:ri˥ki:tiru ˞ja:mun˥doː ˞ʃi: ʔoː˥ru](料亭女を＜妻として＞連れてきて、家庭騒動を起こしておられる)。

ザ˞カ˥ヌ　˥ミー [ʤḁ˞ka˥nu ˥miː] 【連】ジャコウネズミの目のように小さな目。モグラの目。ウ˞リヌ　ミー˥ヤ　ザ˞カ˥ヌ　˥ミー　˥ナリティル　˞サッ˥コー　バ˞カ˥ヤー˞ツォー [ʔu˞rinu miː˥ja ʤa˞ka˥nu ˥miː ˥naritiru ˞sak˥koː ba˞ka˥ja˞tsoː](その人の目はジャコウネズミの目のように小さくなって非常に滑稽で可笑しいんだよ)。

サ˞カバラー [sḁ˞kabaraː] 【名】さかさま (逆さま・逆様)。さかしま。上下の向きが反対であること。˞ワー˥　ムネー　サ˞カバラー˥　ナリ　˞ブーバ˥　イ˞ジノーシ˥バ [˞waː˥ mune: sḁ˞kabaraː˥ nari ˞buːba˥ ʔi ˞ʤinoːʃi˥ba](君の話は逆さまになっているから、言い直しなさいよ)。

サ˞カバラーウイ [sḁ˞kabaraːʔui] 【名】上と下がひっくり返っていること。逆転していること。逆さま。˞ワー˥　ムノー　サ˞カバラーウイ˥　ナ˞リベー [˞waː˥ muno: sḁ˞kabara: ʔui˥ na˞ribeː](君の物は逆さまになっている)。

サ˞カフバリ [sa˞kaɸubari] 【名】「逆縛り」の義。相手に本音を吐かせるために、誘導して言わせること。結論の証拠となる前提部分を先に言わせて縛りつけ、本音を言わざるを得ないようにすること。ウ˞リヌ˥　ム˞ニイジョーヤ˥　マン˞カーマ˥　ア˞ザムティ˥　プ˞スバ˥　サ˞カフバレー　シーティル˥　ムネー　イ˞ズユンダ˥　ウ˞リン˥　カ˞サマレーラ　ピンギララ˥ヌ [ʔu˞rinu˥ mu˞niʔiʤijoː˥ja maŋ˞kaːma ˥ʔa˞ʤamuti˥ pu̥˞suba˥ sa˞kaɸubareː ʃiːtiru˥ muneː ʔi ˞ʤujunda˥ ʔu˞riŋ˥ kḁ˞samareːra ˞piŋgiraraˌnu](彼の議論の仕方＜ものの言いよう＞は、正攻法では言わずに逆縛り＜他人の本音とするところを先に言わせておいて、それを楯にとって結論へ誘導する論法＞をして進めるので、彼に捕まったら逃れられない)。

サ˞カマチ [sḁ˞kamatʃi] 【名】さかまつげ (逆睫毛)。目の内側へ向いて生える睫毛。サ˞カマチヌ˥　ムイティル　˥ミー　シ˞キ˥ナー　ナ˞ラン˥バン [sḁ˞kamatʃinu˥ muitiru ˥miː ʃi̥˞ki˥naː na˞ram˥baŋ](逆睫毛が生えて、それが目をつついてこまるよ)。

サ˞カマリ [sḁ˞kamari] 【名】逆子で生まれること。ウ˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　サ˞カマリ˥　ヤ˞タンドゥ˥　マー˞ン˥　ヤ˞マサ˥ナー　˞ゾー˥ブンニ　マ˞レーン˥ツォー [ʔu˞nu˥ f˞faː˥ sḁ˞kamari˥ ja˞tandu˥ maː˞ɲ ja˞masa ˥naː ˞ʤoː˥bunni ma˞reːn˥tsoː](その子は逆子で生まれたが何処も傷めずに立派に生まれたそうだ)。

サ˞カミジ [sḁ˞kamiʤi] 【名】「逆水」の義。水に湯を入れたもの。死者に湯浴みをさせるとき、水を先に入れ、後から湯を加えて湯浴みさせることによる。通常は湯に水を加えて湯浴みするので、その逆を意味していう。標準語の「逆水」(逆流するみず) とは意味が異なる。サ˞カミジバ　シー˥　ミ˞ジ　バイ˥　ヌ˞マス˥ナ [sḁ˞kamiʤiba ʃiː˥ mi˞ʤi bai ˥nu˞masu˥na](逆水にして、水を湯で割って＜薄めて＞飲ませるな)。

サ˞カミチ [sḁ˞kamitʃi] 【名】坂道。ク˞バシター˥ヌ　˞マイ　アースンティ˥　アチャー　˞ダッコッ˥キ　カ˞タ˥ミティ˥　サ˞カミチ　ヌーローッ˥タ [ku˞baʃi̥taː˥nu ˞mai ʔaːsunti˥ ʔatʃaː ˞dakkok˥ki kḁ˞ta˥miti sḁ˞kamitʃi nuːroːt˥ta](クバシタの田圃の稲を脱穀するために、お父さんは脱穀機を担いで坂道を登られた)。

サ˞カ˥ヤ [sḁ˞ka˥ja] 【名】平民女子の名。˥アボー　˞ナーヤ˥　サ˞カ˥ヤティル　ア˞ゾーッ˥タミー [˥ʔaboː ˞naːja˥ sḁ˞ka˥jatiru ʔa˞ʤoːt˥tamiː](お母さんの名前はサカヤといわれたんでしょう?)。

サ˞カ˥ヤー [sḁ˞ka˥jaː] 【名】女の子の名前 (名称、呼称)。公簿にはサカイと記録されている。サ˞カ˥ヤンマー [sa˞ka˥jammaː](サカヤ姉さん)。サ˞カヤー˥　ダン˞ティ˥　キー　˥ユー　フ˞カ˥シ [sḁka˞jaː˥ dan˞ti ˥ki: ˥ju: ɸu̥˞ka˥ʃi](サカヤーよ、急いで来てお湯を沸かせ＜湯を立てよ＞)。

サ˞カヤー [sḁ˞kajaː] 【名】酒屋。酒を醸造する家。そ

の店。「はしたての　熊来酒屋爾～『万葉集　3879』」の転訛。サ˞カヤーヤ˥　イ˞サナキナー˥ル　˥アル [sḁ ˞kaja:ja˥ ʔi˞sanakina:˥ru ˥ʔaru](酒屋は石垣島に＜ぞ＞ある)。イ˞クサユー˥ヌ　˥アトー　˞ナーメーメー˥シ　サ˞キ˥　タリ˞オーッ˥タン [ʔi˞kusaju:˥nu ˥ʔato: ˞na: me:me:˥ʃi sḁ˞ki˥ tari˞ʔot˥taŋ](戦後は各家庭で＜銘銘で＞酒を醸造しておられた)。

サ˞ガラシアキ˥ナイ [sa˞garasiʔaki˥nai] 【名】掛け売り商売。パ˞トゥ˥マナテー　マ˞チヤーヤ　イーシ˥ヌ　˞ダイヌ　ペー˥ルンケン　イ˞ガウミヌ　モー˥キ　カ˞ツシンヌ　モーキ˥ヌ　˞ペー˥ルンケン　サ˞ガラシアキ˥ナイ　˞ソーッ˥タ [pḁ˞tu˥manate: ma˞ʧija:ja ʔi:ʃi˥nu ˞dainu pe:˥ruŋkeŋ ʔi˞gauminu mo:˥ki kḁ˞tsuʃinnu mo:ki˥nu ˞pe:˥ruŋken sa˞garaʃiʔaki˥nai ˞so:t˥ta](鳩間島では、お店はツノマタ収穫の代金が入るまで、烏賊釣り漁の儲け、鰹漁船の儲けが入るまでといって、掛売り商売をされた)。

サ˞ガラシカー˥シ [sa˞garaʃika:˥ʃi] 【名】掛売り。サ˞ガラシカー˥シカー˞ニ　スー˥カー　マ˞チヤーヤ　シー˥　パ˞ララ˥ヌ [sa˞garaʃika:˥ʃika:˞ni su:˥ka: ma˞ʧija:ja ʃi:˥ pa˞rara˥nu](掛売りだけしたら、店は経営していけない＜やっていけない＞)。

サ˞カラスン [sḁ˞karasuŋ] 【他動】繁茂させる。盛らせる。繁昌させる。ッ˞ふァ˥　ナシ　サ˞カラスン [f˞fa˥naʃi sḁ˞karasuŋ](子を産んで繁昌させる＜盛らせる＞)。˥クナーテー　˞ナーンパー˥ヤ　サ˞カラサラヌ [˥kuna:te: ˞na:mpa:˥ja sḁ˞karasaranu](此処では菜っ葉は繁茂させられない＜盛らせない＞)。サ˞カラシヤッ˥サン [sḁ˞karaʃijas˥saŋ](繁茂させやすい)。サ˞カラサス˥　クトー　ム˞チ˥カサン [sḁ˞karasu˥ ku̥to: mu˞ʧi˥kasaŋ](繁茂させることは難しい)。˞マー˥ビン　サ˞カラシェー˥　ミサムヌ [˞ma:˥bin sḁ˞karaʃe:˥ misamunu](もっと繁茂させればよいのに)。˞イッ˥パイ　サ˞カラシ [˞ʔip˥pai sḁ˞karaʃi](沢山繁茂させなさい＜盛らせよ＞)。

サ˞ガラ˥スン [sa˞gara˥suŋ] 【他動】掛買いする。掛売りする。「下がらす＜記帳してつるしておく＞」の義か。ウ˞ビ˥ナー　サ˞ガラサラ˥ヌ [ʔu˞bi˥na: sa˞garasara˥nu](そんなに沢山掛売りできない＜下がらされない＞)。サ˞ガラ˥シ　˞カイ˥クー [sa˞gara˥ʃi ˞kai˥ku:](掛けで買ってこい)。サ˞ガラ˥スンティ˥ウムーカー　˞パー˥ク　サ˞ガラ˥シ [sa˞gara˥sunti˥ ʔumu:ka: ˞pa:˥ku sa˞gara˥ʃi](掛けで買おうと思うなら早く掛けで買え)。サ˞ガラ˥ス　˥ムノー　˞マー˥ビン　サ˞ガラ˥シェー　˥ミサムヌ [sa˞gara˥su ˥muno: ˞ma:˥bin sa˞gara˥ʃe: ˥misamunu](掛け買いするものは、もっと沢山掛買いすればいいのに)。サ˞ガラ˥シ　˞カーソー˥リ [sa˞gara˥ʃi ˞ka:so:˥ri](掛売りして下さい)。

サ˞カリ [sḁ˞kari] 【名】盛り。最盛期。カ˞ツシンヌ˥　サ˞カレー˥　グ˞ルクガ˥チ [kḁ˞tsuʃinnu˥ sḁ˞kare:˥ gu˞rukuga˥ʧi](カツオ漁船の最盛期は5、6月頃だ)。ミ˞ドーン˥ッふァヌ　サ˞カレー˥　パ˞タチグル [mi ˞do:ŋ˥ffanu sḁ˞kare:˥ pḁ˞tatʃiguru](女の子の盛りは二十歳ごろだ)。

サ˞ガリオシ˥キ [sa˞gariʔoʃi̥˥ki] 【名】雨の降りそうな天気 (空模様)。サ˞ガリオシ˥キ　˥ナリ　ア˞ツァー˥ラ　ア˞ミ˥ヌ　˞フイン˥ギササー [sa˞gariʔoʃi̥˥ki˥ nari ʔa˞tsa:˥ra ʔa˞mi˥nu ɸu˞iŋ˥gisasa:](下り天気になって＜雨が降りそうな空模様＞になって、明日から雨が降りそうだ)。

サ˞ガリ˥カジ [sa˞gari˥kaʤi] 【名】北風から南風に変わって吹く風。ウ˞リ˥カジ [ʔu˞ri˥kaʤi](下り風) ともいう。「下がり風」の義。風が北から南に変わると。天気が良くなるといわれている。カ˞ジヌ˥　ウ˞リ˥ルン [ka˞ʤinu˥ ʔu˞ri˥ruŋ](風が下りる＜南風になる＞)。

サ˞ガリ˥ティダ [sa˞gari˥tida] 【名】落日。夕日。没する太陽。˞アーリティダ [˞ʔa:ritida](昇る太陽) の対義語。˞アーリティダル˥　ウ˞ガ˥ム　サ˞ガリ˥ティダー　ウ˞ガマ˥ヌ [˞ʔa:ritidaru˥ ʔu˞ga˥mu sa˞gari˥tida: ʔu˞gama˥nu](昇る太陽を拝むのであって、落日は拝まない＜諺：寄らば大樹のもと＞)。

サ˞カリバナ [sa˞karibana] 【名】最盛期。「盛り端」の義。働き盛りであること。サ˞カリバナヌ　キョーダイサ˥ヌ　˥スルイ　˞ブンダ　ウン˥ネヌ　˥ウヤー　˞ソーヤ˥　ア˞ローラ˥ヌ [sa˞karibananu kjo:daisa˥nu ˥surui ˞bunda ʔun˥nenu ˥ʔuja: ˞so:ja˥ ʔa˞ro:ra˥nu](働き盛りの兄弟が揃っているから、その家の親は何の心配もございません＜あられない＞)。

サ˞カリパンジョー [sḁ˞karipanʤo:] 【名】子孫繁昌。「盛り繁昌」の義。˞ヤーキナイ˥ヤー　サ˞カリパンジョーヌ˥　ア˞リバ˥ル　˥ウヤパープジンケーヤ　サ˞ニヤ　ソー˥ル [˞ja:kinai˥ja: sḁ˞karipanʤo:nu˥ ʔa ˞riba˥ru ˥ʔujapa:puʤiŋke:ja sa˞nija so:˥ru](家庭の子孫繁昌があればこそ先祖様は喜ばれる)。

サ˞ガ˥ル [sa˞ga˥ru] 【名】お下がり。着古し。古着。キ˞シパジリ [ki˞ʃipaʤiri](古着) ともいう。年上の兄や姉の着古したものを弟妹が着用したことをいう。シ˞ザ˥ヌ　サ˞ガ˥ル　カー˞ニル˥　キ˞スタル˥　ア˞ラ

キンマー˥　キ˞シミラン˥シェン [ʃi˞ʤa˜nu sa˞ga˜ru ka:˞niru˜ kᵢ̥˞sutaru˜ ʔa˞rakimma:˜ kᵢ̥˞ʃimiraŋ˜ʃeŋ](年上＜兄・姉＞のお下がりだけを着た。新しい着物は着た事がない＜着てみなかった＞)。ア˞ラキンマー　カイユーサンベー˥ティ　シ˞ザ˜ヌ　サ˞ガル˥バ　キ˞シェー˥ティル　フ˞ドゥビ˜　ケー˞ダー [ʔa˞rakimma: kaiju:sambe:˜ti ʃi˞ʤa˜nu sa˞garu˜ba kᵢ̥˞ʃe:˜tiru ɸu˞dubi˜ ke:˞da:](新しい着物は買えないので、兄のお下がり＜古着＞を着ながら成長してきたのだよ)。

サ˞カルン [sḁ˞karuŋ] 【自動】1栄える。盛る。繁栄する。植物が繁茂する。ク˞ヌ　ヤシ˥キナー　プ˞ソー˥　イッ˞ケナ˥　サ˞カルン [ku˞nu jaʃᵢ̥˜kina: pu̥˞so:˜ ʔik˞kena˜ sḁ˞karuŋ](この屋敷では人はよく繁昌する。栄える)。˞ナン˥ゾー　サ˞カラヌ [˞nan˜ʤo: sḁ˞karanu](あまり繁昌しない。栄えない)。˞シンダイ˥　サ˞カリ˥　パルン [˞ʃindai˜ sḁ˞kari˜paruŋ](次第に繁昌して＜栄えて＞いく)。サ˞カル　ヤー˥ヤ　ミ˞チ˥ブー [sḁ˞karu ja:˜ja mi˞ʧi˜bu:](繁昌する＜栄える＞家は沢山ある＜満ちている＞)。˞マー˥ビン　サ˞カレー˥　ミサムヌ [˞ma:˜bin sḁ˞kare:˜ misamunu](もっと繁昌すれば＜栄えれば＞よいのに)。サ˞カリリ [sḁ˞kariri](繁昌せよ＜栄えれ＞)。˞ジー˥ヌ　フキ˞ベー˥ティ　˥コイ　イ˞ラン˥タンティン　グ˞ダランケー˥リ　サ˞カリベー [˞ʤi:˜nu ɸu̥˞kiˆbe:˜ti ˜koi ʔi˞ran˜tantiŋ gu˞daraŋke:˜ri sḁ˞karibe:](土地が肥えているので、肥やしを入れなくても青々と生い茂っている)。フ˞キ˥ジー　ヤ˞ルンダ˥　ム˞ヌスク˞ロー　ノー˞ン˥　サ˞カルン [ɸu̥˞ki˜ʤi: ja˞runda˜ mu˞nusu̥ku˜ro: no:˞n˜ sḁ˞karuŋ](肥えた土地＜肥え地＞だから、作物は何でも繁茂する)。˞ナーンパー˥ヤ　サ˞カラヌ [˞na:mpa:˜ja sḁ˞karanu](菜っ葉は繁茂しない)。˞ナーンパー˥ヤ　グ˞ダランケー˥リ　サ˞カリティ˥　イッ˞ケナ˥　ン˞マーン˥ギサン [˞na:mpa:˜ja gu˞daraŋke:˜ri sḁ˞kariti˜ ʔik˞kena˜ ʔm˞ma:ŋ˜gisaŋ](菜っ葉は青々と生い茂って美味しそうだ)。サ˞カル˥　ピンマー　バ˞カ˥シ˞ヨー [sḁ˞karu˜ pimma: ba˞ka˜ʃi˞jo:](繁茂するときは株分けしなさいよ)。˥ガンボーシヌ　˥ムイ　サ˞カレーラー　シー˥ヨー　ナ˞ラ˥ヌ [˜gambo:ʃinu ˜mui sḁ˞kare:ra ʃi:˜jo: na˞ra˜nu](ガンボー草が生え盛ると手がつけられない＜仕様がない＞)。サ˞カリ˥ヨー [sḁ˞kari˜jo:](繁茂せよ)。2動物が発情する。ウ˞シヌ˥　サ˞カリティ　ミー˥ウシ　ミ˞シララ˥ヌ [ʔu˞ʃinu˜ sḁ˞kariti mi:˜ʔuʃi mi˞ʃirara˜nu](牛が発情して牝牛を見せられない)。動物が発情する。マ˞ヤ˥ヌ　サ˞カリ˥　シキティ　˥フヤー˞シーベー [ma˞ja˜nu sḁ˞kari˜ ʃᵢ̥kiti˜ ɸuja: ˞ʃi:be:](猫が発情して吠えている)。

サ˞ガ˜ルン [sa˞ga˜ruŋ] 【自動】1下がる。˥ニチェーサ˞ガ˜ルン [˜nitʃe: sa˞ga˜ruŋ](熱は下がる)。シ˞キユー˥ヌ　˞ダイヤー˥　ムッ˞トゥ˥　サ˞ガラン˥バン [ʃᵢ̥˞kiju:˜nu ˞daija:˜ mut˞tu˜ sa˞garam˜baŋ](石油の値段がちっとも下がらないよ)。イ˞ズヌ　ダイヤー˥　サ˞ガ˜リティ　˞モーカラ˥ヌ [ʔi˞ʤunu daija:˜ sa˞ga˜riti ˞mo:kara˜nu](魚の値段が下がって儲からない)。˞タイロー　スー˥カー　イ˞ズヌ　ダイヤー˥　ム˞タ˥ヌ　˞ダイヤー˥　サ˞ガ˜ルンティル　ウ˞モー˥リ [˞tairo: su:˜ka: ʔi˞ʤunu daija:˜ mu˞ta˜nu ˞daija:˜ sa˞ga˜runtiru ʔu˞mo:˜ri](大漁すると魚の値段はつかない。値段は下がると＜ぞ＞思われる)。˞ダイヌ˥　サ˞ガ˜ル　˥ピンマー　˞カーサラヌ [˞dainu˜ sa˞ga˜ru ˥pimma: ˞ka:saranu](値段が下がるときは売れない)。˞ダイヤー　マー˥ビン　サ˞ガ˜レー　˥ミサムヌ [˞daija: ma:˜bin sa˞ga˜re: ˜misamunu](値段はもっと下がれば＜安くなれば＞よいのに)。サ˞ガリ˥リ [sa˞gari˜ri](下がれれ＜安くなれ＞)。2退く。˞ニンガイ˥ヤー　シ˞マ˥シェーチバ　˞ワー˥　メー　サ˞ガ˥リ　ミサン˞ダー [˞niŋgai˜ja: ʃi˞ma˜ʃe:ʧiba ˞wa:˜ me: sa˞ga˜ri misan˞da:](お祈りはすんだ＜済ませた＞から、君はもう退いても＜下がっても＞いいよ)。

サ˞カンキ [sḁ˞kaŋki] 【名】さかむけ (逆剥け)。爪の生え際の皮膚が剥けること。シ˞ミ˥ヌ　˞カー˥ヌ　サ˞カンキ　シティ˥　ヤ˞ミ˥ス [ʃi˞mi˜nu ˞ka:˜nu sḁ˞kaŋki ʃᵢ̥ti˜ ja˞mi˜su](爪の生え際の皮膚が逆剥けして痛いよ)。

サ˞キ [sḁ˞ki] 【名】酒。「一土不乃濁酒乎＜ヒトツキノ　ニゴレルサケヲ＞　可飲有良師＜ノムベクアルラシ＞。万、338」の義。白米を煮て麹をたて、˥ムルン [˜muruŋ](もろみ。諸味) を作り、それを蒸留して造った酒。蒸留した残り滓をカ˞シ˥ザイ [kḁ˞ʃi˜ʤai](残滓) といい、味噌や漬物に利用していた。パ˞ナザ˥キ [pa˞naʤa˜ki](蒸留して最初に取れる度数の高い酒) のアルコール度数は 45 度程度あった。˞ブー˥ブ [˞bu:˜bu](瀉血) をする際は、竹筒に度数の高い酒を入れて点火し、それを背中に吸着させてッ˞ふ˥シー [f˞fu˜ʃi:](黒い血) を取った。サ˞キ˥　タルン [sḁ˞ki˜ taruŋ](酒を醸造する)。サ˞キカミナー˥ル　サ˞ケー˥　イ˞リティ˥　タ˞ブイ˥　ス˞コー˥レー [sḁ˞kikamina:˜ru sḁ˞ke:˜ ʔi˞riti˜ ta˞bui˜ su̥˞ko:˜re:](酒瓶に酒は入れて保存して置いてある)。サ˞

キッふァイムヌ˥　ナリティ　˞ユー˥ゾー　˞ナー˥ヌ [sḁ˞kiffaimunu˥ nariti ˞juː˥ʤoː ˞naː˥nu](酒くらいになって役に立たない＜養生できない。どうにもならない＞)。

サ˞キ [sḁ˞ki] 【名】1岬。崎。ウ˞ランザ˥キ [ʔu˞ranʤa˥ki](西表島の宇奈利崎)。ピ˞ナイサキ [pi˞naisaki](西表島船浦の北岸、鬚川崎)。ヤ˞ラ˥ブザキ [ja˞ra˥buʤaki](石垣島の屋良部崎)。ウ˞ガンザ˥キ [ʔu˞ganʤa˥ki](石垣島の御神崎)。ヒ˞ラ˥クブザキ [çi˞ra˥kubuʤaki](平久保崎) のように地名を構成する要素となる。ヤ˞マ˥トゥ　˞ピーグルマー˥ヌ　ウ˞ランザ˥キ　˞マーリパッ˥タンドー [ja˞ma˥tu ˞piːguru-maː˥nu ʔu˞ranʤa˥ki ˞maːripat˥tandoː](大和＜内地＞の蒸気船＜火車＞が宇奈利崎を回って＜回航して＞行ったよ)。戦前は鹿児島、那覇、石垣、台湾航路の大型貨客船が燃料の石炭を補給するために白浜港へ回航するのが鳩間島から手に取るように見えた。2先端部。尖った所。先。前方。前途。ユ˞クン˥ヌ　サ˞キ˥シ　˞ピッ˥キバ [ju˞kun˥nu sḁ˞ki˥ʃi ˞pik˥kiba](銛の先＜先端＞で突けよ)。˞ワー˥　サ˞キ˥ナリ　˥パリバ [˞waː˥ sḁ˞ki˥ nari ˥pariba](君は先に行けよ)。先の方。突き出た部分。ウ˞ヤビ˥ヌ　サ˞キ˥シ　カ˞サミ˥バ [ʔu˞jabi˥nu sḁ˞ki˥ʃi kḁ˞sami˥ba](指の先で掴みなさい)。ク˞ヌ˥　サ˞キ˥ナー　˞ヌー˥ヌ　ア˞ル˥ワ [ku˞nu˥ sḁ˞ki˥naː ˞nuː˥nu ʔa˞ru˥wa](この先に何があるか)。3先。前。時間、空間ともにいう。進んで行く前方。˞ワー˥　サ˞キ˥ナリ　ア˞ラ˥キ [˞waː˥ sḁ˞ki˥nari ʔa˞ra˥ki](君は先になって歩け)。ク˞ヌ˥　サ˞ケー　ヌー˥ヌ　ウ˞ク˥ルユー　ワ˞カラ˥ヌ [ku˞nu˥ sḁ˞ke: nuː˥nu ʔu˞ku˥ruju: wa˞kara˥nu](この先何が起こるか分らない)。

サ˞キカク [sḁ˞kikaku] 【名】酒中毒。アルコール中毒。カ˞ク [ka˞ku](不治の病に罹ること。胃癌) は単独でも用いられる。˞ヤンマイ˥ヤー　カ˞ク˥　ナリ　˞ナーン˥ツォー [˞jammai˥jaː kḁ˞ku˥nari ˞naːn˥tsoː](病気は癌になってしまったそうだ)。

サ˞キカザ [sḁ˞kikaʤa] 【名】酒臭み。酒の悪臭。ウ˞リヌ˥　スバ　˥パルカー　サ˞キカザヌ˥　ッ˞サー˥ヌ　ン˞カーラヌ [ʔu˞rinu˥ suba ˥paruka: sḁ˞kikaʤanu˥ s˞saː˥nu ʔŋ˞kaːranu](彼の側に行くと酒の悪臭が臭くてたまらない＜側に向かわれない＞)。

サ˞キカシ [sḁ˞kikaʃi] 【名】酒粕。サ˞キカシェー˥シ˞ティランドー˥シ　˞オー˥ヌイーナ　マ˞ザー˥ソーッタ [sḁ˞kikaʃeː˥ ʃi̥˞tirandoː˥ʃi ˞ʔoː˥nuʔiːna ma˞ʤaː˥soːtta](酒粕は捨てないで、豚の飼料に混ぜられた)。

サ˞キカミ [sḁ˞kikami] 【名】1酒瓶。酒を入れる瓶。サ˞キ˥　タル　˥ピンマー　サ˞キカミ˥ナー　ム˞ルン˥バ　イ˞リ˥　カ˞マ˥シティ　˥ナビナー　˞ネーシティ˥　タ˞ロー˥タ [sḁ˞ki˥ taru ˥pimmaː sḁ˞kikami˥naː mu˞rum˥ba ʔi˞riti˥ ka˞ma˥ʃi̥ti ˥nabinaː ˞neːʃi̥ti˥ ta ˞roːt˥ta](酒を醸造するときは酒瓶にもろみ＜諸味＞を入れて、醸(カ)ませて、鍋で煮て醸造された＜蒸気を冷やして酒の雫を垂らされた＞)。2酒豪。

サ˞キ˥クイ [sḁ˞ki˥kui] 【名】どら声。だみ声。「裂け声」の義。ヤ˞リ˥クイ [ja˞ri˥kui](破れ声) ともいう。˥ドゥク　ウ˞ヤー˥リティル　サ˞キ˥クイ　˥ナリ˞ベーン˥ティ [˥duku ʔu˞jaː˥ritiru sa˞ki˥kui ˥nari ˞beːn˥ti](あんまり大声を出しすぎてだみ声になっているよ)。

サ˞キクビン [sḁ˞kikubiŋ] 【名】酒を入れるガラス製の瓶。酒瓶。˞ニンゴー˥ビン [˞niŋgoː˥biŋ](二合瓶)、˞サンゴー˥ビン [˞saŋgoː˥biŋ](三合瓶)、˞イッス˥ビン [˞ʔissu˥biŋ](一升瓶)、˞イッス˥クビン [˞ʔissu˥kubiŋ] ともいう、等がある。サ˞キクビン˥ナー　サ˞ケー˥　ヌ˞カ˥レー˞ン [sḁ˞kikubin˥naː sḁ˞keː˥ nu˞ka˥reː˞ŋ](酒瓶に酒は残っているか)。˥ユネン　ナ˞ル˥ター　サ˞キクビン˥ナー　サ˞キバ˥　イ˞リティ　ピーヤー˥ティル　˞オー˥ル [˥junen na˞ru˥taː sḁ˞kikubin˥naː sḁ˞kiba˥ ʔi˞ritiru piːja:˥ti ˞ʔoː˥ru](夕方になったので、酒瓶に酒を入れて、持ち運んでおられる)。

サ˞キシギリ [sḁ˞kiʃigiri] 【名】急性アルコール中毒。「酒過ぎれ」の義か。未成年者が酒を飲みすぎて人事不省に陥ること。˥ウスマイヤー　ヤ˞ラ˥ビ　˞シェーン˥ケン　サ˞キシギリ　シティ˥　イダフネーラ　イ˞サナケー　サーリ˥　パルンケン　ク˞モーマヌ˥　ニ˞シンタ˥ナーティル　イ˞キガイ˥ローッタツォー [˥ʔusumaija: ja˞ra˥bi ˞ʃeːŋ˥ken sḁ˞kiʃigiri ʃi̥ti˥ ʔidaɸuneːra ʔi˞sanake: saːri˥ parunkeŋ ku˞moːmanu˥ ni˞ʃinta˥naːtiru ʔi˞kigai˥roːttatsoː](ウスマイさんは子供の頃急性アルコール中毒になってサバニで (から) 石垣島へ連れて行くときに小浜島の北側で意識回復された＜生き返えられた＞そうです)。

サ˞キスク˥リ [sḁ˞kisu̥ku˥ri] 【名】酒造り。米を炊いて麹を造り、諸味を造り、醸造する全作業過程を含めて言う。サ˞キスク˥レー　˞デージ˥ナ　ピ˞マダーリムヌ [sḁ˞kisu̥ku˥re: ˞deːʤi˥na pi˞madaːrimunu](酒造りは大変な手間隙のかかる仕事だ＜隙絶やすもの＞)。

サ˞キスッカー [sḁ˞kisukkaː] 【名】酒を入れる土瓶。酒を入れる急須。土瓶状の、小型の急須。陶磁製

のものが多い。サ˞キスッカー˺ラ　サ˞キ　サイ　オーシ˺バ [sḁ˞kisukkaː˺ra sḁ˞ki sai ʔoːʃi˺ba](急須から酒を注いで差し上げなさい)。˞イッス˺ビンラ　サ˞キスッカー˺　サ˞キ　サイ˺　ウ˞ツァ˺シ　˺シキ [˞ʔissu˺binra sḁ˞kisukkaː˺ sḁ˞ki sai˺ ʔu˞tsa˺ʃi](一升瓶から酒急須に酒を注いで移せ)。

サ˞ギソー˺キ [sa˞gisoː˺ki] 【名】下げ籠。「吊り下げ箕」の義。竹の皮を編んで作った箕に吊手を付けたもの。吊り下げられるように柄を付けて編んだ竹製の箕。竹の皮で箕の型に編み、箕より深めに仕上げた柄付きの竹籠。揚げ豆腐や揚げ魚、てんぷら、お握りなどの食品を腐敗させぬように軒や台所に吊るしておく。蝿を防ぎ、網目から空気の流通があるので食品の腐敗が防げる。サ˞ギソー˺キナー　ガ˞シ˺タクン　カ˞マブクン˺　イ˞リティ˺　サイ　シ˞キ˺リバ [sa˞gisoː˺kina: ga˞ʃi˺tḁkuŋ ka˞mabukuŋ˺ ʔi˞riti˺ sai ʃi˞ki˺riba](下げ籠に燻製蛸も蒲鉾も入れて軒に吊るして＜下げて＞おきなさい)。

サ˞キゾーグ [sḁ˞kidʑoːgu] 【名】酒上戸。大酒飲み。ウ˞レー˺　サ˞キゾーグ˺　ヤ˞ルンダ˺　サ˞ケー˺　ミ˞シララ˺ヌ [ʔu˞reː˺ sḁ˞kidʑoːgu˺ ja˞runda˺ sḁ˞keː˺ mi˞ʃirara˺nu](彼＜その人＞は酒上戸だから彼には酒は見せられない)。

サ˞キダイ [sḁ˞kidai] 【名】酒代。˞ドゥー˺ヌ　サ˞キダイヤンツァン　モーキユーサ˺ヌ [˞duː˺nu sḁ˞kidai-jantsam moːkijuːsa˺nu](自分の酒代すらも儲けることが出来ない)。サ˞キダイヌ˺　タ˞マリベー˺バ　ウ˞リ˺　パ˞ラーン˺カー　サ˞ケー˺　ヌ˞マラ˺ヌ [sḁ˞kidainu˺ ta˞maribeː˺ba ʔu˞ri˺ pa˞raːŋ˺kaː sḁ˞keː˺ nu˞mara˺nu](酒代の支払いが溜まっているので、それを支払わないと酒は飲めない)。

サ˞キ˺タリ [sḁ˞ki˺tari] 【名】醸造。酒造り。「酒垂れ」の義。˺タリは、˺タルン [˺taruŋ](酒や醤油を醸して造る。豚の脂を炒って油を抽出する) の連用中止形。イ˞クサユー˺ヌ　˺アトー　パ˞トゥ˺マナーン　˞ヤーカー˺ジ　サ˞キ˺タリ　˞シーオーッ˺タン [ʔi˞kusaju:˺nu ˺ʔato: pḁ˞tu˺manaːɲ ˞jaːkaː˺ʤi sḁ˞ki˺tari ˞ʃiːoːt˺taŋ](戦後には鳩間島にも家毎に酒を醸造＜酒垂れ＞しておられた)。

サ˞キタリ˺ナビ [sa˞kitari˺nabi] 【名】酒を醸造する大型の鍋。各家庭の˞シンマイ˺ナビ [˞ʃimmai˺nabi](四枚鍋) を利用して、˺ムルン [˺muruŋ](諸味) を煮立て、蒸気を冷却する装置を付けて醸造した鍋。˞シンマイナビバ˺ル　サ˞キタリ˺ナビ　˞シー　オーッタ˺ル [˞ʃimmainabiba˺ru sḁ˞kitari˺nabi ˞ʃiːoːtta˺ru](大型鍋＜四枚鍋＞を醸造鍋にしておられたよ)。

サ˞キ˺　タルン [sḁ˞ki˺ taruŋ] 【連】酒を醸造する。˺ムルン [˺muruŋ](もろみ) を蒸留して冷却し、酒を醸造した。˺タルン [˺taruŋ](垂れる。したたる) の義で、「〜奈美太　多利＜ナミダ　タリ＞〜。万、4408」の転訛したもの。イ˞クサユー˺ヌ　アトゥ˞バー˺ケー　パ˞トゥ˺マナーン　サ˞ケー˺　タ˞ローッ˺タン [ʔi˞kusaju:˺nu ʔatu˞baː˺keː pḁ˞tu˺manaːn sḁ˞keː˺ ta˞roːt˺taŋ](終戦後までは鳩間島でも酒を醸造され＜垂られ＞た)。サ˞キ˺　タルンティル　˞コージバ˺　タティシケー˞ダー [sḁ˞ki˺ taruntiru ˞koːʤiba˺ tatiʃi̥ke:˞daː](酒を醸造しようと麹をたててあるよ)。

サ˞キッサー˺ン [sḁ˞kissaː˺ŋ] 【形】酒臭い。ウ˞レー˺　サ˞キッサーント ダー [ʔu˞reː˺ sḁ˞kissaːnt̚-daː](彼＜それ＞は酒臭いよ)。˞ナン˺ゾー　サ˞キッサーナー˺ヌ [˞nan˺ʤoː sḁ˞kissaː naː˺nu](あまり酒臭くない)。˞ユージ˺クーカ　サ˞キッサー˺　ナルン [˞juːʤi ˺kuːka sḁ˞kissaː˺ naruŋ](寄って来たら酒臭くなる)。サ˞キッサー˺　プ˞ソー　サーク˺ナ [sḁ˞kissaː˺ pu̥˞soː saːku˺na](酒臭い人は連れて来るな)。

サ˞キッツァー˺スン [sḁ˞kittsaː˺suŋ] 【他動】ずたずたに引き裂く。˞裂き散らす」の転訛。˞シッカ˺ク＜˞アッ˺タラ＞　˺カケー　˺ムヌバ　サ˞キッツァー˺シ　˺シケー [˞ʃikka˺ku ＜˞ʔat˺tara＞ ˺kḁkeː ˺munuba sḁ˞kittsaː˺ʃi ˺ʃi̥keː](折角書いたものを、ずたずたに引き裂いてある)。サ˞キッツァー˺スンティ　˺ウムーカー　サ˞キッツァーサリン˺ドゥ　˺アイニ　サ˞キッツァー˺シェー　ナ˞ラン˺ティ　ウ˞ムイ˺ル　カ˞ザ˺ミ　˺シケー [sḁ˞kittsaː˺sunti ˺ʔumuːka: sḁ˞kittsaːsarin˺du ˺ʔaini sḁ˞kittsaː˺ʃe: na˞ran˺ti ʔu˞mui˺ru ka˞ʤa˺miʃi̥keː](裂き散らそうと思えば裂き散らされるが、あんなに裂き散らしてはならないと思って隠してある)。サ˞キッツァー˺ス　˺ムノー　˞パー˺ク　サ˞キッツァー˺シバ [sḁ˞kittsaː˺su ˺muno: ˞paː˺ku sḁ˞kittsaː˺ʃiba](引き裂き散らすものは早く引き裂き散らせよ)。ずたずたに引き裂く。˺アウカー˺キン　サ˞キッツァー˺スン [˺ʔauka: ˺kin sḁ˞kittsaː˺suŋ](喧嘩すると着物をずたずたに引き裂く)。˞キン˺マー　サ˞キッツァーサヌ˺ヌ　サ˞キッツァー˺シ　˺ミサカー　サ˞キッツァー˺ス　˺クトー　˺ナルン [˞kim˺ma: sḁ˞kittsaːsanu˺nu sḁ˞kittsaː˺ʃi ˺misaka: sa˞kittsaː˺su ˺ku̥to: ˺naruŋ](着物は引き裂くことはしないが、引き裂いて良ければ引き裂くことはできる)。

サ˞キッふァイムヌ [sḁ˞kiffaimunu] 【名】大酒飲み。サ˞キッふァイムヌティ˥　ッ˞シナガラ˥　ヌンティル　˥アイニ　サ˞キ˥　ヌ˞マシ˥ター [sḁ˞kiffaimunu˥ ʃ˞ʃinagara˥ nuntiru ˥ʔaini sḁ˞ki˥ nu˞maʃi̥˥ta](大酒のみと知りつつ、何故あんなに酒を飲ませたのか)。

サ˞ギティー˥グ [sa˞giti:˥gu] 【名】下げ籠。「吊り下げ手籠」の義。竹のひご＜籤＞で編んだ籠に吊手を付けたもの。吊り下げられるように柄を付けて編んだ竹製の籠。サ˞ギソー˥キ [sa˞giso:˥ki] と同様に食品保存のために軒や台所などに吊るして使用された。竹ひごを使用しているので、がっちりと強固に仕上がっている。竹ひごの織り成す綾がうつくしい。サ˞ギティー˥グナー　イ˞リティ˥　サイシ˞キ˥ルカー　˥ッサラヌ [sa˞giti:˥guna: ʔi˞riti˥ sai ʃi̥˞ki˥ruka: ˥ssaranu](下げ籠に入れて吊るしておくと腐れない)。

サ˞キトゥジ [sḁ˞kituʤi] 【名】先妻。サ˞キトゥジェー˥　イ˞クサ˥ユーナー　マ˞ラリ˥ヤ　カ˞カリ˥ル　˞マーラシェー˥ダー [sḁ˞kituʤe:˥ ʔi˞kusa˥ju:na: ma˞rari˥ja ka˞kari˥ru ˞ma:raʃe:˥da:](先妻は戦争でマラリアに罹患して＜ぞ＞亡くなられたのだ)。

サ˞キナリシン˥ダイ [sḁ˞kinariʃin˥dai] 【連】先になり次第。プ˞ス˥　マ˞タン˥ティン　˥ミサバ　サ˞キナリシン˥ダイ　パリバ˞ヨー [pu̥˞su˥ ma˞tan˥tantim ˥misaba sḁ˞kinariʃin˥dai pariba˞jo:](他人を待たなくても良いから、先になり次第行きなさいね)。

サ˞キ˥　ナルン [sḁ˞ki˥ naruŋ] 【連】先になる (時間的)。前になる (空間的)。「前年之　先年従　至今年＜おととしの先つ年より＞『万葉集　783』」の義。プ˞ソーラ˥　サ˞キ˥　ナリ　パ˞タ˥ケー　˥パリ　ティ˞ダ˥ヌ　ウ˞ティ˥ルンケン　シ˞グトゥ　シェー˥ティル　ッ˞ふァ˥ー　フ˞ドゥバシタ [pu̥˞so:˥ra sḁ˞ki˥ nari pḁ˞ta˥ke: ˥pari ti˞da˥nu ʔu˞ti˥ruŋkeŋ ʃi˞gutu ʃe:˥tiru f˞fa:˥ ɸu˞dubaʃita](他人よりも先になって畑へ行き、太陽が没する＜落ちる＞まで仕事をしながら子供を育てた＜成長させた＞)。˥アトゥナリ　サ˞キ˥ナリ　˞キッ˥ス　˞シェー˥ティ　ア˞ラ˥キ　˞パッ˥タヤー [˥ʔatunari sḁ˞ki˥nari ˞kis˥su ˞ʃe:˥ti ʔa˞ra˥ki ˞pat˥taja:](後になり先になりしながら、競争して歩いて行ったよ)。先に行く。˥バー　サ˞キ˥　ナ˞ル˥バ　˞ワーター˥　アトーラ　クーバ˞ヨー [˥ba: sḁ˞ki˥ na˞ru˥ba ˞wa:ta:˥ ʔato:ra ku:ba˞jo:](私は先に行くから、君たちは後から来なさいね)。

サ˞キヌ˥　ザー [sḁ˞kinu˥ ʤa:] 【連】酒の座。酒宴の座。酒盛り。サ˞キヌ˥　ザーナーティヌ　˥クトゥヤ˞リバ　ヌンガーラ˥シ　ッ˞ふォー˥リ [sḁ˞kinu˥ ʤa:na:tinu ˥ku̥tu ja˞riba nuŋga:ra˥ʃi f˞fo:˥ri](酒の座におけることでありますから許して＜見逃して＞下さい)。

サ˞キヌ˥　サ˞カナ [sḁ˞kinu˥ sḁ˞kana] 【連】酒の肴。イ˞ガーンツァン˥　ヤ˞キティ˥　サ˞キヌ˥　サ˞カナ˥　ン˞ザサン˥ノーレー [ʔi˞ga:ntsaŋ˥ ja˞kiti˥ sḁ˞kinu˥ sḁ˞kana˥ ʔn˞ʤasan˥no:re:](スルメイカでも焼いて酒の肴にして出してくれないか)。

サ˞キ˥ヌマー [sḁ˞ki˥numa:] 【名】大酒飲み。サ˞キッふァイムヌ [sḁ˞kiffaimunu](酒食らい。酒食らい者) ともいう。ウ˞レー　デージ˥ヌ　サ˞キ˥ヌマー [ʔu˞re: de:ʤi˥nu sḁ˞ki˥nu˥ma:](彼は大変な大酒のみ)。˥ワンザー˥　バ˞カー˥ムヌヌ　サ˞キ˥ヌマー　˥ナリティ˞ヌー˥ス　˞カン˥ガイヤ [˥wanʤa: ba˞ka:˥mununu sḁ˞ki˥numa: ˥nariti ˞nu:˥su ˞kaŋ˥gaija](お前めは、若者のくせに酒食らいになってどうするつもりか)。

サ˞キヌミ˥ドゥシ [sḁ˞kinumi˥duʃi] 【名】酒飲み友達。サ˞キヌミドゥシ˥ヌ　˞ゴー˥ラーユンダ　˞ピーズン˥　サ˞キ˥　ヌ˞ミン˥ドゥ　˞サーラリ˥　パル [sḁ˞kinumiduʃi˥nu ˞go:˥ra:junda ˞pi:ʤun˥ sḁ˞ki˥ nu˞min˥du ˞sa:rari˥ paru](酒飲み友達が多いので、いつも酒を飲みに＜ぞ＞誘われて＜連れられて＞行く)。

サ˞キバイ [sḁ˞kibai] 【名】さきがけ (魁)。他人に先立って行動すること。ユ˞ク˥バ　˥シキ　プ˞スヌ˥　サ˞キバイ　シー　モー˥クンティ　˞アー˥キ　カ˞ブ˥リ　˞ナー˥ヌ [ju˞ku˥ba ˥ʃi̥ki pu̥˞sunu˥ sḁ˞kibai ʃi: mo:˥kunti ˞ʔa:˥ki ka˞bu˥ri ˞na:˥nu](欲張って他人に先駆けて儲けようとしていて、欠損してしまった)。

サ˞キパヤー˥ン [sḁ˞kipaja:˥ŋ] 【連】花の咲くのがはやい。「咲き早い」の義。ク˞ヌ˥　パナー　サ˞キパヤー˥ン [ku˞nu˥pana: sḁ˞kipaja:˥ŋ](この花は咲くのが早い)。

サ˞キバルテー [sḁ˞kibarute:] 【名】屋号。「崎原家」の義。˞ヨー˥カヤーヌ　˞アンタヌ　ヤシ˥キナール　サ˞キバルテーヤ　アッ˥タ [˞jao:˥kaja:nu ˞ʔantanu jaʃi̥˥kina:ru sa˞kibarute:ja ʔat˥ta](ヨーカヤーの東の屋敷に崎原家はあった)。

サ˞キパンタリ [sḁ˞kipantari] 【名】酒太り。サ˞キパンタリバ　シール˥　シラン　ア˞ガメー˥ティ　˞アー˥クンティ [sḁ˞kipantariba ʃi:ru˥ ʃiraŋ ʔa˞game:˥ti ˞ʔa:˥kunti](酒太りをして顔も赤らんでいるさ)。

サ˞キビー [sḁ˞kibi:] 【名】酒酔い。サ˞キカザ˥　カ˞ブ˥　ウビシン　サ˞キビー　シース [sḁ˞kikaʤa˥ ka˞bu

˺ ʔubiʃin sḁ˹kibi: ʃi:su](酒の匂いを嗅ぐだけでも酒酔いするよ)。イ˹ズビー [ʔi˹ʥubi:](魚毒にあたる。魚の食中毒) の対義語。

サ˹キピュール [sḁ˹kipju:ru] 【名】先日和。神行事などの日程を決める際、その月の前半に当たる干支の日和。˺アトゥピュール [˺ʔatupju:ru](後日和。その月の後半に当たる干支の日和) の対義語。ク˹トゥシェー˺　サ˹キピュールナー˺ル　˹プー˺ロー　˹ソー˺ルツォー [kṵ˹tuse:˺ sḁ˹kipju:runa:˺ru ˹pu:˺ro: ˹so:˺rutso:](今年は先日和に豊年祭をされるそうだ)。

サ˹キビン [sḁ˹kibiŋ] 【名】せんびん (先便)。前便。前回の便り。˺アトゥビン [˺ʔatubiŋ](後便) の対義語。サ˹キビン˺ラ　ウ˹クルタ　ジン˺マー　トゥ˹ドゥ˺ケーンカヤー [sḁ˹kibin˺ra ʔu˹kuruta ʥim˺ma: tu˹du ˺ke:ŋkaja:](先便で送ったお金は届いたかねえ)。

サ˹キフシ [sa˹kiɸuʃi] 【名】酒癖。サ˹キフシヌ　ワッ˺サンダ　カ˹リンマー˺　ドゥク　サ˹キ˺　ヌ˹マス˺ナ˹ヨー [sḁ˹kiɸuʃinu was˺sanda ka˹rimma:˺ duku sḁ˹ki˺ nu˹masu˺na˹jo:](酒癖が悪いから、彼にはあまり酒を飲ませるなよ)。˺シンピーゾー　˹ミンダリ˺ムヌ　ヤ˹ルンドゥ˺　サ˹キフシヌル　ワッ˺サ˹ツォー [˺ʃimpi:ʥo: ˹mindari˺munu ja˹rundu˺ sḁ˹kiɸuʃinu was˺sa˹tso:](常日頃は大人しい人＜耳垂れ者。従順な人＞であるが酒癖が悪いんだよ)。

サ˹キフチ [sḁ˹kiɸṵʧi] 【名】せんくち (先口)。先約。他人より先に発言する。˹バー˺ル＜˹バン˺ドゥ＞　サ˹キフチ˺　ヤ˹リバ˺　バーラ＜˺バンラ＞　シ˹ダキ˺　アジッ˹サラー [˹ba:˺ru＜˹ban˺du＞ sḁ˹kiɸuʧi˺ ja˹riba˺ ba:ra＜˺banra＞ ʃi˹daki˺ ʔaʤis˹sara](私が先口だから、私から先に申し上げましょう)。

サ˹キ˺フチ [sa˹ki˺ɸṵʧi] 【名】˹裂け口」の義。裂け目。裂け始めた所。サ˹キ˺フチェー　グ˹マー˺タンティン　˺ウマーラル　˹ミー˺バレー　˹シー˺　サキパル˹ダー [sḁ˹ki˺ɸṵʧe: gu˹ma:˺tantiŋ ˺ʔuma:raru ˹mi:˺bare: ˹ʃi:˺ sakiparu˹da:](裂け目は小さくても、そこからひび割れして裂けていくんだよ)。

サ˹ギフチ˺ル [sa˹giɸuʧi˺ru] 【名】「下げ薬」の義。頭痛や、のぼせを下げる薬。便秘に効く薬。利尿剤。下剤。˹マーギラ˺　サ˹ク˺ラギラー　ム˹カ˺シェーラ　サ˹ギフチ˺ルティ　ア˹ザリブンダ˺　シジ　ヌ˹マ˺シバ [˹ma:gira˺ sḁ˹ku˺ragira: mu˹ka˺ʃe:ra sa˹giɸuʧi˺ruti ʔa˹ʥaribunda˺ ʃiʤi nu˹ma˺ʃiba](シラナミ＜しゃこ貝の一種＞やヒメジャコ＜しゃこがいの一種＞は昔から利尿剤といわれているので、煎じて飲ませなさいよ)。ア˹バ˺サーン　サ˹ギフチ˺ルティ˹ダー [ʔa˹ba˺sa:n sa˹giɸṵʧi˺ruti˹da:](ハリセンボンも下げ薬＜利尿剤＞だそうだよ)。

サ˹キブッター [sḁ˹kibutta:] 【名】先が太くなったもの。先太。サ˹キトゥガ˺ヤー [sḁ˹kituga˺ja:](先が尖ったもの) の対義語。ウ˹レー˺　サ˹キブッター˺　ナリティ　˹ペーラサラ˺ヌ [ʔu˹re:˺ sḁ˹kibutta:˺ nariti ˹pe:rasara˺nu](それは先が太くなっていて、入れられない)。

サ˹キブトゥ [sḁ˹kibutu] 【名】前夫。先夫。前の夫。ウ˹ヌ　プスヌ˺　サ˹キブトー˺　イ˹ク˺サナー　˹マーラソー˺リティ　マ˹ナマ˺ヌ　ブ˹トゥトー　ウンダ˺　ヤー˹タ˺シティル　マー˹ズン˺　ナ˹ロー˺レール [ʔu˹nu pṵsunu˺ sḁ˹kibuto:˺ ʔi˹ku˺sana: ˹ma:raso:˺riti ma˹nama˺nu bu˹tuto: ʔunda˺ ja:˹ta˺ʃḭtiru ma:˹ʥun˺ na˹ro:˺re:ru](その人の先夫は戦争で亡くなられて、今の夫とは、それから暫くしてから＜ぞ＞一緒になられたのだ)。

サ˹キマール [sḁ˹kima:ru] 【名】先回り。˹ワーヤ˺　サ˹キマール　シー　ギーベー˺ティ　シ˹グトゥヌ　ダン˺ドゥリ　˹シー˺　シ˹キ˺リ [˹wa:ja˺ sḁ˹kima:ru ʃi:be:˺ti ʃi˹gutunu dan˺duri ˹ʃi:˺ ʃḭ˹ki˺ri](君は先回りして行っていて、仕事の準備をしておけ)。ウ˹レー˺　パ˹ナ˺シェー　シ˹キティ˺　キサー˹ティ˺　サ˹キマール　シー˺　マティ　˹ベー [ʔu˹re:˺ pa˹na˺ʃe: ʃḭ˹kiti˺ kḭsa:˹ti˺ sḁ˹kima:ru ʃi:˺ mati ˹be:](彼は話を聞いて、既に先回りして待っている)。

サ˹ギ˺ミー [sa˹gi˺mi:] 【名】下がり目。「下げ目」の義。目尻の下がった目。垂れ目。サ˹ガリ˺ミー [sa˹gari ˺mi:] ともいう。サ˹ギミー˺ヌ　プ˹ソー˺　ウ˹トゥナッ˺サンティ˹ダナー [sa˹gimi:˺nu pṵ˹so:˺ ʔu˹tunas ˺santida˹na:](下がり目の人は大人しいってねえ)。

サ˹キムイ [sa˹kimui] 【名】結納。婚約をして婿の家から祝いの品を揃えて嫁方へ納める儀式。「酒盛り」の転訛したもの。サ˹キムイヤー˺　ム˹ク˺ヌ　ブ˹ネーヌ˺　ウ˹ヤ˺ヌ　˹パンビン˺バ　ヤ˹キティ˺　バー˹ケー˺マナー　ム˹リティ　アウ˺ヌ　プ˹スタン˺ガ　˹サーリ˺　サ˹キ　サン˺ゴー　˺ムティティ　ユ˹ミ˺ヌヤー　˹オー˺リ　フ˹コーラサ　ソーッ˺タ [sḁ˹kimuija:˺ mu˹ku˺nu bu˹ne:nu˺ ʔu˹ja˺nu ˹pambim˺ba ja˹kiti˺ ba:˹ke:˺mana mu˹riti ʔau˺nu pṵ˹su taŋ˺ga ˹sa:ri˺ sḁ˹ki saŋ˺go: ˺mutiti ju˹minu˺ja: ˹ʔo:˺ri ɸṵ˹ko:rasa so:t˺ta](結納は婿の母親がはんぺん＜テンプラ＞を揚げて＜焼いて＞、小さな竹笊に盛って入れ、供の人を一人連れて、三合瓶の酒を持

って嫁の家に行き、婚約承諾の御礼をされた)。

サ˞ギ˜ムヌ [sa˞gi˜munu] 【名】「下げ物」の義。シ˞ル˜イカ [ʃi˞ru˜ika](ッ˞ス˜イカ [s˞su˜ika] ともいう。和名、アオリイカ。シロイカともいう。餌木で釣る)、サ˞ク˜ラギラ [sa˞ku˜ragira](ヒメジャコ。車庫貝の仲間) は、のぼせを下げ、利尿効果があるといわれている。サ˞ク˜ラギラトゥ　ッ˞ス˜イカンドーレー　サ˞ギ˜ムヌティ　˞シー˜　シジ　ッ˞ふァーソーッ˜タン [sa˞ku˜ragiratu s˞sui˜kandore: sa˞gi˜munuti ˞ʃi:˜ ʃiʤi f˞fa:so:t˜taŋ](ヒメジャコとアオリイカ < 白烏賊 > などは、下げ薬として煎じて食べさせられた)。

サ˞ギ˜ヤー [sa˞gi˜ja:] 【名】˜イダフニ [˜ʔidaɸuni](サバニ) の両舷外側に付ける「浮き」の一種。竹のフロート。「下げるもの」の義で、糸満方言からの借用語。直径 8〜10 センチ、長さ約 3 メートルの竹竿。ローリングを防ぐための一種のアウトリガー (outrigger) の機能を果たす。外洋へ出漁する際、又は多少波の立つ日に西表島へ往来するする際に装着した。サ˞ギ˜ヤー　˜サウカー　˜イダフネー　ヨー˞ニ　フンナカヌ [sa˞gi˜ja: ˜sauka: ˜ʔidaɸune: jo:˞ni ɸunnakanu](サギヤーを装着したら < 吊るしたら > イダフニ (サバニ。舟) は容易に沈没 < 転覆 > しない)。

サ˞キ˜ヤマ [sa˞ki˜jama] 【名】地名。崎山部落。人頭税制下の 1755 年に琉球王府の強制移住政策によって波照間島から西表島西南部に分村された新村であるが、1948 年に廃村となった。有名な「崎山節」は、新村の人々がユクイ山の頂きにのぼって故郷波照間島の父母を偲ぶ心情を切々と歌いあげたもので、西表島を代表する民謡の一つである。サ˞キ˜ヤマムラー　イ˞クサユー˜ヌ　˜アトゥナール　˞トー˜レーツォー [sḁ˞ki˜jamamura: ʔi˞kusaju:˜nu ˜ʔatua:ru to:˜re:tso:](崎山村は戦後に廃村 < 村倒れした > になったそうだ)。

サ˞キ˜ヤマブシ [sḁ˞ki˜jamabuʃi] 【名】崎山節。人頭税制時代の 1775 年に、首里王府の寄百姓政策によって波照間島から強制的に「道切り」移住させられた人々の崎山村創建にまつわる悲しい歴史を歌った歌。/崎山ヌ新村ユ建ティダス　誰ルヌ主ヌ　ジリヌ親ヌドゥ　建ティダネ　ナンヌ故　イキャヌチゥニヤンドゥ　建ティダネ〜/『八重山民謡誌』。サ˞キ˜ヤマブシ　ス˞ク˜カー　˞フン˜トー　ナ˞キル˜　シ˞ラリ [sḁ˞ki˜jamabuʃi su̥˞ku˜ka: ˞ɸun˜to: na˞kiru˜ ʃi˞rari](崎山節を聴くと、本当に涙が出る < 泣きぞされる >)。

サ˞キ˜ルン [sḁ˞ki˜ruŋ] 【自動】裂ける。˞キー˜ヌ　ユ˞ダヌ˜　サ˞キ˜ルン [˞ki:˜nu ju˞danu˜ sḁ˞ki˜ruŋ](木の枝が裂ける)。ピ˞キスクタンティン˜　サ˞キラ˜ヌ [pi̥˞kisu̥kutantin˜ sḁ˞kira˜nu](引張っても裂けない)。˞タイ˜フーナー　˞キー˜ヌ　ユ˞ダン˜　サキパリ　˞ナー˜ヌ [˞tai˜ɸu:na: ˞ki:˜nu ju˞dan˜ sḁkipari ˞na:˜nu](台風で木の枝も裂けていってしまった)。サ˞キ˜ル˜ムノー　シ˞ティリ [sḁ˞ki˜ru ˜muno: ʃi̥˞tiri](裂けるものは捨てれ)。

サ˞ギ˜ルン [sa˞gi˜ruŋ] 【他動】1下げる。「つるす、ぶらさげる」の意味は単独用法にはない。それには˞サイ˜ルン [˞sai˜ruŋ](吊るす) という。1下げる。2低くする。3高い所から低い所へ位置を移す。˜ニチ　サ˞ギ˜ルンティ　ヒ˞ヤ˜シ　˞ベー [˜nitʃi sa˞gi˜runti çi˞ja˜ʃi ˞be:](熱を下げようと冷している)。ピ˞ダリティー˜ヤ　サ˞ギ˜ルンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　ムッ˞トゥ˜　サ˞ギララ˜ヌ [pi˞dariti:˜ja sa˞gi˜runti ʔu˞mu:n˜du mut˞tu˜ sa˞girara˜nu](左手は下げようと思うが下げられない)。サ˞ギ˜ル　˜ムノー　サ˞ギ˜レー　˜ミサムヌ [sa˞gi˜rumuno: sa˞gi˜re: ˜misamunu](下げるものは下げればよいのに)。サ˞ギ˜　プサカー　˞パー˜ク　サ˞ギ˜リ [sa˞gi˜ pu̥saka: ˞pa:˜ku sa˞gi˜ri](下げたいなら早く下げよ < 下げれ >)。3後退させる。シ˞ナヌミン˜マー　˞イーラー˜　サ˞ギ˜リ [ʃi˞nanumim˜ma: ˞ʔi:ra:˜ sa˞gi˜ri](シナヌミン < 綱の耳 > は西側へ後退させよ)。4神前仏前の供物を下げる < 移す >。˜ウサンダイヤー　˜サギ　˜ミサン [˜ʔusandaija: ˜sagi ˜misaŋ](供物は引き下げても < 移しても > よい)。5下げ渡す。6金を引き出す < 下ろす >。ヤ˞ク˜バーラ　˜ジン　サ˞ギ˜ルンティ　˞クータ˜ル [ja˞ku˜ba:ra ˜ʤin sa˞gi˜runti ˞ku:ta˜ru](役場から金を引き下ろそうとやってきたよ)。7見下げる < けなす >。プ˞スヨー　ミーサギル˜ナ [pu̥˞sujo: mi:sagiru˜na](他人を見下すな)。9下痢する。くだす (瀉)。フ˞チ˜ル　˜ヌムカー　サ˞ギ˜ルンパジ [ɸu̥˞tʃi˜ru ˜numuka: sa˞gi˜rumpaʤi](薬を飲んだら下げる < 下痢する > はずだ)。

サ˞キンジ˜ルン [sḁ˞kiʔnʤi˜ruŋ] 【連】咲き出す。「咲き出る」の義。パ˞ナ˜ヌ　サ˞キンジ˜ルン [pa˞na˜nu sḁ˞kiʔnʤi˜ruŋ](花が咲き出す)。

サ˞キンダ [sḁ˞kinda] 【名】地名。「崎田」の義か。西表島北部、ガ˞バナレー [ga˞banare:](赤離) とシ˞タ˜ダレー [ʃi̥˞ta˜dare:](地名。水の滴り落ちる所) の中間に開けた水田地帯。˞ヨー˜カヤー [˞jo:˜kaja:](西原

家)、カ˞ナ˜ケー [ka˞na˜ka:](兼久家) などの水田があった。サ˞キンダ˜ナー　˞ヨー˜カヤーヌ　˞ター˜ヌ　˜アン [sḁ˞kinda˜na: ˞jo:˜kaja:nu ˞ta:˜nu ˜ʔaŋ](サキンダには西原家の水田がある)。

サ˞キンダタバル [sḁ˞kindatabaru] 【名】(地)「崎田田原」の義。サ˞キンダの水田地帯。サ˞キンダタバルナー˜ヤ　˞タッ˜テタッテヌ　˞ター˜ヌ　ア˞ル˜ワ [sḁ˞kindatabruna:˜ja ˞tat˜tetattenu ˞ta:˜nu ʔa˞ru˜wa](崎田田原 < 水田地帯 > には何処何処の家の水田があるのか)。サキンダ (崎田) 水田地帯。「崎田田袋 (崎田田墾(タハリ))」の義か。シ˞タ˜ダレーラ　ニ˞シェーキ˜ナール　サ˞キンダタバロー˜　アル [ʃi̥˞ta˜dare:ra ni˞ʃe:kina:˜ru sḁ˞kindatabaro:˜ ʔaru](シタダレーから北側にサキンダ水田地帯はある)。

サ˞キンダヌマキ [sḁ˞kindanumaki] 【名】崎田田原の上の原野にあった鳩間島のウ˞シマキ [ʔu˞ʃi-maki](牛の放牧場)。サ˞キンダヌマケー˜　インダヌ　マ˞ケーラヌ˜　バ˞カ˜リ　˞ヤッタ˜ツォー [sḁ˞kindanumake:˜ ʔindanu ma˞ke:ranu˜ ba˞ka˜ri ˞jatta˜tso:](崎田の牧場は伊武田牧場からの分れだったそうだ)。

˜サク [˜sḁku] 【名】腹立ち。怒り。かんしゃく (癇癪)。「癪」の義。˜サクバタ [˜sḁkubata](立腹しやすい人。神経過敏で立腹し易い人) と同じ。˜サク　ウ˞ク˜ルン [˜sḁku ʔu˞ku˜ruŋ](立腹する。腹が立つ)。˜アブジェー　˜サク　ウ˞ク˜ローレーラー　ナ˞クラー˜ンダー　˞パー˜ク　˜パリ [˜ʔabuʤe: ˜sḁku ʔu˞ku˜ro:re:ra: na˞kura:˜nda ˞pa:˜ku ˜pari](お祖父さんが立腹されたら怖いから早く行け)。

˜サク [˜sḁku] 【名】いとめ (糸目)。凧の表面につけ、上がり具合や勾配等、つりあいを調節する糸。ピ˞キダマヌ˜　サク　ア˞ティルン [pi̥˞kidamanu˜ sḁku ʔa˞tiruŋ](凧の糸目 (勾配) を当てて調節する < シャクを当てる >)。˜サク　˞アトゥン [˜sḁku ʔa˞tuŋ](凧の勾配を当てる) ともいう。

˜サク [˜sḁku] 【名】程度。ほど。頃合。おおよその程度。時間的、空間的、観念的な広がりの程度。ム˞ヌグトゥ˜ナー　ノー˞ン˜　サクティ　˞スー˜　ム˞ヌ˜ヌ　ア˞リ˜ブンダー　グ˞チ˜ホーニ　˞シェー˜　ナ˞ラ˜ヌ [mu˞nugutu˜na: no:˞n˜ sḁkuti ˞su:˜ mu˞nu˜nu ʔa˞ri˜bunda: gu˞ʧi˜ho:ni ˞ʃe:˜ na˞ra˜nu](物事には何でも程度というものがあるから、無鉄砲 < むこうみず > にしてはならない)。

˜サク [˜sḁku] 【助数】尺。尺貫法における長さの単位。若年層は、˜シャク [˜ʃḁku](尺) ともいう。˞イッ˜サク [˞ʔis˜saku](一尺)。ニ˞サ˜ク [ni˞sa˜ku](二尺)。˜サンザク [˜sanʤaku](三尺)。˜サンジャクバサンナル [˜sanʤkubasannaru](三尺芭蕉のバナナ)。ル˞クサク˜ボー [ru˞kusaku˜bo:](六尺棒。豊年祭の奉納芸の一つの棒踊り)。

˜サク [˜sḁku] 【助数】勺。一合の十分の一。˜シャク [˜ʃaku](勺)、˞サー˜ク [˞sa:˜ku](勺) ともいう。グ˞サーク˜マイ [gu˞sa:ku˜mai](五勺米。村の神行事に八歳以上の家族の人数に割り当てて供出する花米)。日常生活では一勺、二勺、三勺、四勺は、それを計量する枡がないので使わないが、五勺は一合枡を斜めに傾けて計量できるので日常的に使用される。グ˞サークマイ˜ヤー　イ˞チンゴーナカ˜ムル　カ˞トンカシ˜ティル　パ˞カ˜ローッタ [gu˞sa:kumai˜ja: ʔi˞ʧiŋgo:naka˜muru kḁ˞toŋka˜ʃi̥tiru pḁ˞ka˜ro:tta](五勺米は一合枡を斜めに傾けて計量された < 量られた >)。

˜サク [˜sḁku] 【名】1程度。ほど。˜スク [˜su̥ku](程度。ほど) ともいう。ウ˞ヌ˜　サクカー˞ニ˜　アリティ　ウ˞ブムニ˜バ　イ˞ジェー˜ティ　˞アー˜ク [ʔu˞nu˜sḁkuka:˞ni˜ ʔariti ʔu˞bumuni˜ba ʔi˞ʤe:˜ti ˞ʔa:˜ku](この程度しかなくて < この程度だけあって >、おお法螺をふいている < 大言している >)。2取立ての係助詞-ヤ [-ja](は) が下接すると母音が融合変化して、˜サコー [˜sako:](ぐらい、ぐらいは) となる。ウ˞ヌ˜サコー　ター˞ン˜　ナ˞リ˜ス [ʔu˞nu˜sḁko: ta:˞n˜na˞ri˜su](これぐらいは誰でもできるよ)。

サ˞ク˜アー [sa˞ku˜ʔa:] 【名】うるちあわ (粳粟)。ム˞チアー [mu˞ʧiʔa:](糯粟) の対義語。果実は小粒で黄色。米と混ぜたり、芋と混ぜたりして˞アーヌ˜イー [˞ʔa:nu˜i:](粟飯。「粟の飯」の義) を炊いた。鳩間島では水田耕作に力を注いで畑作の粟はあまり作らなかった。サ˞クアー˜ヤ　˞マイ˜ナー　マ˞ザー˜シティ　˞アーヌ˜イー　バ˞カソーッ˜タ [sa˞kuʔa:˜ja ˞mai˜na: ma˞ʤa:˜ʃi̥ti ˞ʔa:nu˜i: ba˞kaso:t˜ta](粳粟は米に混ぜて粟飯を炊いた)。サ˞クアー˜ヤ　˞ナン˜ゾー　ン˞マーナー˜ヌ [sḁ˞kuʔa:˜ja ˞nan˜ʤo: ʔm˞ma:na:˜nu](粳の粟はあまり美味しくない)。

サ˞ク˜ウキ [sa˞ku˜ʔuki] 【名】「酌受け」の義。三々九度の盃を受けること。サ˞ク˜ウキン　シ˞マ˜ソーリ　ウミ˞ナーク　ソー˜レーンミー [sḁ˞ku˜ʔukiŋ ʃi˞ma˜so:ri ʔumi˞na:ku so:˜re:mmi:](三々九度の盃を受けることも済まされ、安心 < 思い無く > されたでしょうね)。

˜サク　ウ˞ク˜ルン [˜sḁku ʔu˞ku˜ruŋ] 【連】腹が立つ。

立腹する。怒る。「癪起こる」の義。プ˩スン˥　イ˩ザリ˥カー　ター˩ン˥　サク　ウ˩ク˥ルン [pu̥˩suŋ˥ ʔi˩ʤari˥ka: ta:˩n˥ sḁku ʔu˩ku˥ruŋ](他人に叱られたら誰でも腹が立つ＜怒る＞)。

サ˩ク˥シ [sḁ˩ku˥ʃi] 【名】嫡子。長男。正妻の子で家督を継ぐ男子。ウ˩ヌ˥　プ˩ソー˥　サ˩ク˥シ　ヤ˩ルンドゥ˥　ウヤ　ミ˩リユーサン˥　ベーティ　ジ˩ナンヌル　ウン˥ネヌ　˥アトゥシギ　˩シー　ブー˥ツォー [ʔu˩nu pu̥so:˥ sḁ˩ku˥ʃi ja˩rundu˥ ʔuja mi˩riju:sam˥ be:ti ʤi˩nannuru ʔun˥nenu ˥ʔatuʃigi ˩ʃi:bu:˥tso:](その人は長男であるが、親を世話できない＜見得ない＞ので、次男がその家の跡継ぎをしているそうだ)。

サ˩クシウシ˥クミ [sḁ˩kuʃiʔuʃi˥kumi] 【名】嫡子 (長男) 以外の人が家督を継ぐこと。「嫡子押し込め」の義。サ˩クシウシ˥クミ　˩スー˥カー　タ˩メー　ナー˥ンティ　ム˩カ˥シプソー　ア˩ゾーッ˥タ [sḁ˩kuʃiʔuʃi̥˥kumi ˩su:˥ka: ta˩me: na:˥nti mu˩ka˥ʃipu̥so: ʔa˩ʤo:t˥ta](長男以外の人が家督を継ぐ＜嫡子押し込め＞ことは家のためにならないと昔の人はいわれた)。

サ˩クシ˥ッふァ [sḁ˩kuʃi˥ffa] 【名】長男。嫡子。˩マイ˥ネーナ　サ˩クシッふァ˥ヌ　マ˩レーン˥ツォー [˩mai˥ne:na sḁ˩kuʃiffa˥nu ma˩re:n˥tso:](前隣の家に嫡子が生まれたそうだ)。

サ˩クシ˥マー [sḁ˩kuʃi˥ma:] 【名】嫡孫。長男の長男。ウ˩ヤーンチ˥ジ　˩ベー˥タ　サ˩クシマー˥ヌ　マ˩レー˥ティル　˥ヨイ　˩スンティ　アー˥ク˩ダー [ʔu˩ja:ntʃi˥ʤi ˩be:˥ta sḁ˩kuʃima:˥nu ma˩re:˥tiru ˥joi ˩sunti ʔa:˥ku˩da:](待望していた長男孫が生まれたので、お祝いをしようとしているんですよ)。

サ˩クシミドーン˥ッふァ [sḁ˩kuʃimido:n˥ffa] 【名】長女＜名称＞。「嫡子女の子」の義。˩ホン˥マ [˩hom˥ma](長姉。「大姉」＜名称、呼称＞の義)。˥シザマリ [˥ʃiʤamari](年長者。年上) ともいう。サ˩クシミドーン˥ッふァー　キサー˩ティ˥　ドゥームティ　˥パレーン [sḁ˩kuʃi˥ mi˩do:n˥ffa: kisa:˩ti˥ du:muti˥ pare:ŋ](長女はすでに嫁いで＜体を持って＞いった)。

サ˩クナ [sḁ˩kuna] 【名】(植) 薬草の名。海岸の砂地に自生している。和え物、酢の物などにいれる。鶏肉と共に煮て食べると万病に効くといわれていた。刺身に和える際には細かく下ろして味噌和えにして食した。最近は長命草と命名し、薬草として栽培されている。サ˩クナー˥　クマー˩クマー˥シ　ウ˩ラ˥シティ　イ˩ズナマシ˥ナ　イ˩リティ　ミース˥トゥ　カ˩ケー˥スカー　イッ˩ケナ˥　ン˩マー˥ン [sḁ˩kuna:˥ kuma:˩kuma:˥ʃi ʔu˩ra˥ʃi̥ti ʔi˩ʤunamaʃi˥na ʔi˩riti mi:su˥tu kḁ˩ke:˥suka: ʔik˩kena˥ ʔm˩ma:˥ŋ](長命草は細かく下ろして魚の刺身に入れて味噌と混ぜると非常に美味しい)。サ˩クナー˥　ム˩カ˥シェー　パ˩マン˥パタナー　˥ムイ　ブ˩タンドゥ˥　マ˩ナ˥マー　フ˩チ˥ルティ　˩シール˥　イ˩ビル　オー˥ル [sḁ˩kuna:˥ mu˩ka˥ʃe: pa˩mam˥pḁtana: ˥mui bu˩tandu˥ ma˩na˥ma: ɸu̥˩tʃi˥ruti ˩ʃi:ru˥ ʔi˩biru ʔo:˥ru](ボタンニンジンは、昔は海岸端に生えていたが、今では薬として栽培して＜植えて＞おられる)。

サ˩クバイ [sḁ˩kubai] 【名】しゃっくり (吃逆)。さくり。ヤ˩ラビ˥ヌ　サ˩クバイヤー˥　ミ˩ジヌマ˥スカー　˩ノー˥ルン [ja˩rabi˥nu sḁ˩kubaija:˥ mi˩ʤi˥ nu˩ma˥suka: ˩no:˥ruŋ](子供のしゃっくりは水を飲ませると治る)。

˥サクバタ [˥sḁkubata] 【名】怒りっぽい人。癇癪持ち。「癪腹」の義。ウ˩レー˥　サクバタ　ヤ˩ルンダクン˥ゾー　ウ˩ク˥ルカー　ナ˩クラーン˥ダー [ʔu˩re:˥ sḁkubata ja˩runda kun˥ʤo: ʔu˩ku˥ruka: na˩kura:n˥da:](この人は癇癪持ちだから、怒ったら怖いよ)。

˥サクブニ [˥sḁkubuni] 【名】たこ (凧) の頭骨。˥ブーブーブニ [˥bu:bu:buni](糸で竹の頭骨を曲げ、紙を貼ってブーブーと鳴らすもの) ともいう。サ˩ク˥ブニ　˩ナー˥マシ　マ˩ギティ　ウン˥ナ　カ˩ビ˥　パ˩リティ˥　ブーブー　˩ナーラシタ [sḁ˩ku˥buni ˩na:˥maʃi ma˩giti ʔun˥na ka˩bi˥ pa˩riti˥ bu:bu: ˩na:raʃi̥ta](凧の頭骨を細い縄で曲げて、それに紙を貼ってブーブー鳴らした)。

サ˩ク˥ボー [sḁ˩ku˥bo:] 【名】棒術 (棒踊り) の一種。木刀を持ち、二人一組で演武する西村の棒術。サ˩クボー˥ヤ　˥バウウティ　˩シーヤッ˥サンダ　イッ˩チン˥　バ˩カー˥ムンドゥ　ウ˩トゥ˥ター [sḁ˩kubo:˥ja ˥bauʔuti ˩ʃi:jas˥sanda ʔit˩tʃim˥ ba˩ka:˥mundu ʔu˩tu˥ta](サクボーは演武しやすいから、一番若い者が打った)。

サ˩ク˥マイ [sḁ˩ku˥mai] 【名】粳米。うるしね。炊いた時、糯米のように粘りけを持たない米。普通は、この米を炊飯して˩マイヌ˥イー [˩mainu˥ʔi:](米のご飯) にした。ム˩チマイ [mu˩tʃimai](糯米) の対義語。ム˩チマイラー˥　サ˩クマイ˥ル　˩ゴー˥ラース˩ク˥ロール [mu˩tʃimaira:˥ sḁ˩kumai˥ru ˩go:˥ra: su̥˩ku˥ro:ru](糯米よりも粳米の方を多く作られる)。サ˩ク˥マイシェー　ム˩チェー˥　ス˩クララ˥ヌ [sḁ˩ku˥maiʃe: mu˩tʃe:˥ su̥˩kurara˥nu](粳米では餅は作られ

ない)。イ˩チンマーˬ　サ˩クマイバˬル　˩ゴーˬラー　イ˩ボーˬル [ʔi˩ʧimmaːˬ sḁ˩kumaiˬru ˩goːˬraː ʔi˩boːˬru](いつもは粳米を多く栽培される＜植えられる＞)。

ˬサクムチ [ˬsḁkumuti] 【名】怒りっぽい人。癇癪持ち。˩ウンザー　サッˬコー　ˬサクムチ˩ダー [˩ʔundʑaː sakˬkoː ˬsḁkumuʧi˩daː](そいつは大変な癇癪持ち＜怒りっぽい人＞だよ)。

サ˩グˬヤー [sa˩guˬjaː] 【名】夜這い。若い男が自分の気持ちを若い娘に打ち明けるため、夜中に意中の娘の寝床に忍び込んでいく風習。中国の少数民族、ハニ族の高床式家屋では、階段の脇に年頃の娘の寝室が配置してあって、夜這いに好都合な構造になっていた。ム˩カˬシェー　バ˩カーˬムンケーヤ　サ˩グˬヤー　˩ソーッˬタンツォー [mu˩kaˬʃeː ba˩kaːˬ muŋkeːja sa˩guˬjaː ˩soːtˬtantsoː](昔は、若者たちは夜這いをされたそうだ)。イ˩クサユーˬヌ　ˬアトゥ˩バーˬケー　バ˩カーˬムンケーヤ　サ˩グˬヤー　˩シン　オーッˬタンティ˩ダー [ʔi˩kusajuːˬnu ˬʔatu˩baːˬkeː ba˩kaːˬmuŋkeːja sa˩guˬjaː ˩ʃiŋ ʔoːtˬtanti˩daː](戦後までは若者達は夜這いをしに行かれたそうだよ)。

サ˩クラ [sḁ˩kura] 【名】(植) 木の名。桜。イ˩サナキヌˬ　ム˩トゥˬヤーンドーレーナー　サ˩クラヌˬ　イ˩ビラリブタン [ʔi˩sanakinuˬ mu˩tuˬjaːndoːreːnaː sḁ˩kuranuˬ ʔi˩biraributaŋ](石垣島の本家筋などには、桜の木が植えられていた)。

ザ˩クˬラ [dʑa˩kuˬra] 【名】(植) 木の名。ざくろ (石榴)。˩ダイˬケー [˩daiˬkeː](大工家)、ˬウブシケー [ˬʔubuʃi̥keː](大城家)、パ˩ナシケー [pa˩naʃi̥keː](花城家)、˩ウイカナケー [˩ʔuikanakeː](浦崎家) などに観賞用ととして植栽されていた。種皮は生食されていたが、美味ではなかった。ザ˩クラˬヌ　ˬナロー　˩ナンˬゾー　ン˩マーンˬテー　ウ˩モーランˬシェン [dʑa˩kuraˬnu ˬnaroː ˩nanˬdʑoː ʔm˩maːnˬteː ʔu˩moːraŋˬʃeŋ](ザクロの実はあまり美味しいとは思われなかった)。

サ˩クラーˬマ [sḁ˩kuraːˬma] 【名】(動) 魚の名。和名、ヒメメナダ (体長 15～20 センチ)。西表島の北岸の水田地帯で稲作作業の傍ら、投網で漁獲して食した。パ˩トゥˬマプソー　˩タースクˬル　˩シンテーナˬ　ウツァンシ　サ˩クラーˬマ　カ˩バˬシティ　カ˩ティˬムヌ　˩ソーッˬタ [pḁ˩tuˬmapu̥soː ˩taːsu̥kuˬru ˩ʃinteːnaˬ ʔutsanʃi sḁ˩kuraːˬma ka˩baˬʃiti kḁ˩tiˬmunu ˩soːtˬta](鳩間の人は稲作をしながら投網でサクラーマを投げ被せて漁獲し、おかずにされた)。

サ˩クラーˬン [sḁ˩kuraːˬŋ] 【形】塩辛い。ク˩リヌˬバ˩カス　スーˬヤ　サ˩クラーントダー [ku˩rinuˬ ba˩kasu suːˬja sḁ˩kuraːnt̚daː](これ＜この人＞が炊くお汁は塩辛いよ)。ク˩ヌ　スーˬヤ　サ˩クラーˬヌ　ヌ˩マラˬヌ [ku˩nu suːˬja sḁ˩kuraːˬnu nu˩maraˬnu](このお汁は塩辛くて飲まれない)。˩ナンˬゾー　サ˩クラーナーˬヌ [˩nanˬdʑoː sḁ˩kuraːnaːˬnu](それほど塩辛くない)。˩シンダイˬ　サ˩クラーˬナルン [˩ʃindaiˬ sḁ˩kuraːˬ naruŋ](次第に塩辛くなる)。サ˩クラーˬムノー　ッ˩ふーナ [sḁ˩kuraːˬ munoː f˩fuːna](塩辛いものは食うな)。サ˩クラーˬカー　ッ˩ふァーラヌ [sḁ˩kuraːˬkaː f˩faːranu](塩辛ければ食えない)。

サ˩クラˬカー [sḁ˩kuraˬkaː] 【固】 1ブ˩シンˬヤー [bu˩ʃiŋˬjaː](武士の家) の近くにあった洞穴の井戸の名。湧水が少し塩辛かったことから命名されたという。ˬウブシケー [ˬʔubuʃi̥keː](大城家) の先祖は、畑仕事の際に、この井戸から水を汲んで湯を沸かして飲んだという。2地名。サ˩クラˬカー [sḁ˩kuraˬkaː](塩辛い井戸) の側の畑の名。タ˩チˬバル [ta˩ʧiˬbaru](立原。地名) のブ˩シンˬヤー [bu˩ʃiŋˬjaː](武士の家) の近くにあるˬウブシケー [ˬʔubuʃi̥keː](大城家) の畑一帯の地名。畑の畦に自然に形成された洞穴の井戸があって、その井戸の水が塩辛かったことによる命名という。この井戸は戦後になって土砂の流入により半分埋まったという。ˬウブシケーヌ　サ˩クラカーˬヌ　パ˩タキˬヌ　ˬアザナー　˩カーヌ　アッタンˬドゥ　ウ˩ヌ　カーヌ　ミジェーˬ　ン˩メーマˬ　サ˩クラーˬタンツォー [ˬʔubuʃikeːnu sḁ˩kurakaːˬnu pa˩takiˬnu ˬʔadʑana: ˩kaːnu ʔattanˬdu ʔu˩nu kaːnu miʤeːˬ ʔm˩beːmaˬ sḁ˩kuraːˬtantsoː](大城家のサクラカーの畑の畦に洞穴の井戸があったが、その井戸の水は多少塩辛かったそうだ)。

サ˩クˬラギラ [sḁ˩kuˬragira] 【名】(動) シャコガイ (硨磲貝) の一種。オオジャコ。貝殻はア˩ザˬカイ [ʔa˩dʑaˬkai](貝殻) という。殻長 20 センチ～130 センチに成長するという。戦後、殻長 40 センチを越えるシャコ貝は、鳩間島の近海ではあまり漁獲されていない。しかし鳩間島のタ˩カˬビ [ta˩kaˬbi](高干瀬) の海底からは、殻長が世界最大といわれるシャコ貝の古い殻が発見された。鳩間島の屋敷の石垣の中には殻長 60～70 センチのオオジャコの貝殻がよく見られた。養豚をしていたころ、殻長 60～70 センチのア˩ザˬカイ [ʔa˩dʑaˬkai](貝殻) を飼葉桶に使用していた。ウ˩ブアザˬカイナール　˩オーˬヌ　ˬイー　イ˩リティ　ファーソーッˬル [ʔu˩buʔadʑa

ˉkaina:ru ˞ʔoːˉnu ˉʔi: ʔi˞ritiˉ f˞fa:soːttaˉru](大きなシャコ貝の殻に豚の餌を入れて食わせられたよ)。

サ˞クラグチ [sa̠˞kuragutʃi] 【名】海底地名。石垣島の東南方のリーフの切れ目＜津口＞。イ˞サナキヌˉ　カ˞ツシンマーˉ　サ˞クラグチェーラˉ　ンジペーリ　シ˞タンˉダー [ʔi˞sanakinuˉ ka˞tsuʃimmaːˉ sa̠˞kuragutʃeːraˉ ʔndʒipeːri ʃi̠˞tanˉdaː](石垣の鰹漁船はサクラグチ＜津口＞から船が出入りをしたよ)。

サ˞クラフチ [sa̠˞kuraɸutʃi] 【名】かん味 (塩辛い味) を好むこと。塩辛い味付けを好む人。ウ˞レーˉ　サ˞クラフチˉ　ヤ˞ルンダˉ　ウ˞リヌˉ　バ˞カス　スーˉヤ　ヌ˞マラˉヌ [ʔu˞reːˉ sa̠˞kuraɸutʃiˉ ja˞rundaˉ ʔu˞rinuˉ ba˞kasu suːˉja nu˞maraˉnu](あの人は塩辛い味付けを好む人だから、彼の炊く＜沸かす＞お汁は飲まれない＜飲めない＞)。

サ˞クˉルン [sa̠˞kuˉruŋ] 【他動】切り裂く。削り取る。こそげる。「さくる＜刳る＞」の義。イ˞ズˉ　サ˞クˉリ＜バ˞ザイ＞[ʔi˞dʒuˉ sa̠˞kuˉri＜ba˞dʒai＞](魚を切り裂け)。カ˞ツヌˉ　ナ˞カˉブニ　サ˞クˉリティ　シ˞ルˉク　˞シッˉキ [ka̠˞tsunuˉ na˞kaˉbuni sa̠˞kuˉriti ʃi˞ruˉku ˞ʃikˉki](鰹の中骨から肉をこそぎとって鰹節補修材シルクを臼で搗いて作れ)。ヌ˞キˉルシ　ˉパン　サ˞クラˉリ　˞ベー [nu˞kiˉruʃi ˉpan sa˞kuraˉri ˞beː](鋸で脚を切り裂かれて＜筋肉が削りとられて＞いる)。ˉガイシ　イ˞ズヌミーˉ　サ˞クˉルン [ˉgaiʃi ʔi˞dʒunu miːˉ sa̠˞kuˉruŋ](匙で魚の身＜肉＞をこそげる)。ク˞リˉシェー　サ˞クˉルクトー　ナ˞ラˉヌ [ku˞riˉʃeː sa̠˞kuˉru ˉkṵtoː na˞raˉnu](これでは削り取ることはできない)。ク˞リˉシ　サ˞クˉレー　ˉミサムヌ [sa̠˞kuˉreː misamunu](これで削りとればよいのに)。

サ˞グルン [sa˞guruŋ] 【他動】探る。ˉティーシ　サ˞グルンドゥˉ　ムッ˞トゥˉ　サ˞グララヌ [ˉtiːʃi sa˞gurunduˉ mut˞tuˉ sa˞guraranu](手で探るのだが、ちっとも探られない)。サ˞グリ　ヤッˉサン [sa˞guri jasˉsaŋ](探りやすい)。ウ˞ヌˉ　フカー　サ˞グルˉクトー　ナ˞ラˉヌ [ʔu˞nuˉ ɸṵkaː sa˞guruˉ kṵtoː na˞raˉnu](その他は探ることはならぬ)。˞マーˉビン　サ˞グレーˉ　ミサムヌ [˞maːˉbin sa˞gureːˉ misamunu](もっと探ればよいのに)。ッ˞ふァヨーンヌˉ　イ˞シガンパラミチェーˉ　パンシ　サ˞グレーティˉルア˞ラカˉリ [f˞fajoːnnuˉ ʔi˞ʃigamparamitʃeːˉ paŋʃi sa˞gureːˉtiru ʔa˞rakaˉri](暗闇の中の石の多い道は、足で探りながら＜ぞ＞歩かれる)。ˉティーシ　サ˞グリ [ˉtiːʃi sa˞guri](手で探れ)。

ˉサクン [ˉsa̠kuŋ] 【自動】咲く。花が咲く。花のつぼみ＜蕾＞が開く。「～時毎に佐加牟＜サカム＞花をし～。万、4314」の転訛したもの。パ˞ナˉヌ　ˉサクン [pa˞naˉnu ˉsa̠kuŋ](花が咲く)。ˉパナー　マ˞ダˉ　サ˞カˉヌ [ˉpanaː ma˞daˉ sa̠˞kaˉnu](花はまだ咲かない)。サ˞キˉ　パ˞ヤーˉン [sa̠˞kiˉ pa˞jaːˉŋ](咲くのが早い＜咲き早い＞)。パ˞ナˉヌ　ˉサク　ˉピンマー　カ˞バッˉサン [pa˞naˉnu ˉsa̠ku ˉpimmaː ka˞basˉsaŋ](花の咲くときは香ばしい)。˞パーˉク　ˉサケー　ˉミサムヌ [˞paːˉku ˉsa̠keː ˉmisamunu](早く咲けば良いのに)。ˉサキバ [ˉsa̠kiba](咲けよ)。パ˞ナˉヌ　ˉサクン [pa˞naˉnu ˉsa̠kuŋ](花が咲く)。ア˞ミˉヌ　˞ホーンˉカー　ˉパナー　サ˞カˉヌ [ʔa˞miˉnu ˞hoːŋˉkaː ˉpanaː sa̠˞kaˉnu](雨が降らないと花は咲かない)。ˉパナー　ˉサク　ˉクトー　サ˞クンˉドゥ　シ˞グ　アイˉ　ウ˞ティˉス [ˉpanaː ˉsa̠ku ˉkṵtoː sa̠˞kunˉdu ʃi˞gu ʔaiˉ ʔu˞tiˉsu](花は咲くことは咲くが、すぐ散ってしまう)。˞パーˉク　ˉサキ [˞paːˉku ˉsa̠ki](早く咲け)。

ˉサクン [ˉsa̠kuŋ] 【他動】1裂く。細かく破り、引き離す。刃物で切り開く。ˉブー　ˉサキティ　˞ウーˉムン [ˉbuː ˉsa̠kiti ˞ʔuːˉmuŋ](麻を裂いて紡ぐ)。裂く。引き破る。切り割る。「割、サク」『類聚名義抄』の転訛したもの。ˉブー　ˉサクンティ　˞ベーンˉドゥ　˞ミーˉヤ　˞ムイティˉ　サ˞カラˉヌ [ˉbuː ˉsa̠kunti ˞beːnˉdu ˞miːˉja ˞muitiˉ sa̠˞karaˉnu](麻を裂こうとしているが、目は老眼になって一向に裂け＜裂かれ＞ない)。ˉサキ　ˉミサカー　ˉサク　ˉクトー　ナ˞リˉスンダ　˞パークˉ　サケー　ˉミサムヌ [ˉsa̠ki ˉmisakaː ˉsa̠ku ˉkṵtoː na˞riˉsunda ˞paːˉku ˉsa̠keː ˉmisamunu](裂いてよければ裂くことは出来のだから、早く裂けば良いのに)。ヤー˞ディンˉ　マ˞ナˉマ　ˉサキ [jaː˞dimˉ ma˞naˉma ˉsa̠ki](必ず今裂け)。2二人の仲をむりやりに引き離す。トゥ˞ジブトゥヌˉ　ナカー　サ˞クˉナ [tu˞dʒibutunuˉ nakaː sa̠˞kuˉna](夫婦仲を裂くな)。

ˉサグン [ˉsaguŋ] 【他動】下げる。下方へ垂らす。「さぐ (下二)」の転訛したもの。カ˞ジヌ　スーˉヤンダ　˞プーˉ　サグンティ　˞スンドゥˉ　ミ˞ナーヌˉ　カ˞カˉリティ　サ˞ガラˉヌ [ka˞dʒinu suːˉjanda ˞puːˉ sagunti ˞sunduˉ mi˞naːnuˉ ka̠˞kaˉriti sa˞garaˉnu](風が強いので帆を下げようとするが、水縄＜みなわ＞が引っかかって下げられない)。˞マーˉビン　ˉサギミサカー　ˉサグ　ˉクトー　ˉナルン [˞maːˉbin ˉsagi ˉmisakaː ˉsagu ˉkṵtoː ˉnaruŋ](もっと下げてよければ、下げることは出来る)。ˉサゲー　ˉミサムヌ [ˉsageː ˉmisamunu](下げればよいのに)。˞パーˉク

˥サギ [˩paː˥ku ˥sagi](早く下げよ)。

˥ザコー [˥ʤakaː] 【名】カツオの餌となる稚魚。「雑魚」の転訛したもの。˩シー˥ラ [˩ʃiː˥ra](ミナスキビナゴ『原色沖縄の魚』。体長 6〜7 センチ)。バ˩カザ˥コー [ba˩kaʤa˥koː](体長 4〜5 センチ、体幅約 3 ミリの細長い鰯の稚魚。最も一般的なカツオの餌)、ガ˩サガ˥サー [ga˩saga˥saː](熱帯魚の稚魚。下級の餌)。サ˩ネー˥ラ [sa˩neː˥ra](最上級の餌。ム˩レー˥ジ [mu˩reː˥ʤi](グルクン) の稚魚といわれ、深い海底の岩の穴 < 巣 > に棲息する)。カ˩ツシンマー˥ シ˩トゥム˥ティ ˩パイ˥サ ˥ザコー ˥トゥリティ ˥ウケー ン ˩ゾーッ˥タ [ka˩tsuʃimmaː˥ ʃi̥˩tumu˥ti ˩pai˥sa ˥ʤakoː˥ turiti ˥ʔukeː ʔn˩ʤu˥ta](カツオ漁船は朝早く雑魚 < カツオの餌 > と捕って沖へ出た)。

ザ˩コー˥カグ [ʤa˩koː˥kagu] 【名】餌籠。鰹の餌となる稚魚を活けておく竹製の大きな籠。幅約 1、5 メートル、長さ約 2 メートル、深さ約 1、5 メートルの竹製の籠。石垣島の餌取り専門の糸満漁師が使用した。鳩間島の漁師は自前で餌取りをした。パ˩トゥマ˥ヌ カ˩ツシンマー˥ ザ˩コー˥カグ シゥ˩カーンシェン [p˩tuama˥nu kḁ˩tsuʃimmaː˥ ʤa˩koː˥kagu si̥˩kaːŋʃeŋ](鳩間島のカツオ漁船は餌を活ける籠を使わなかった)。

ザ˩コー˥トゥリ [ʤa˩koː˥turi] 【名】カツオ漁の餌取り。島の前の˩マイ˥ズニ [˩mai˥ʤuni](前曽根) の周辺海域、西表島北岸一帯の干瀬の周りで餌取りをした。石垣島の漁船のように、漁師による専属のザ˩コー˥トゥヤー [ʤa˩koː˥tujaː](餌取り) がいないので、乗組員全員で餌取りをして出漁した。パ˩トゥマ˥ヌ カ˩ツシンマー˥ ザ˩コー˥トゥレー ヤ˩トーン˥シェン [pḁ˩tuma˥nu kḁ˩tsuʃimmaː˥ ʤa˩koː˥tureː ja˩toːŋ˥ʃeŋ](鳩間のカツオ漁船は、専属の餌取りは雇わなかった)。

ザ˩コー˥バ [ʤa˩koː˥ba] 【名】カツオの餌 < 生餌。雑魚 > を獲る場所。餌取り場。「雑魚場」の転訛したもの。˩キュー˥ヌ ザ˩コー˥バー ˥マーヤ [˩kjuː˥nu ʤa˩koː˥baː ˥maːja](今日の餌取り場はどこか)。

ザ˩コー˥バチ [ʤa˩koː˥batʃi] 【名】カツオの餌 < 生餌。雑魚 > を入れる木製の枡形の容器。「雑魚鉢」の義。カツオ漁船がカツオの魚群に船をつけて撒き餌をする際に、活け間 (生け簀) より生餌を タ˩ブ [ta˩bu](たも網) で掬って入れる木の容器。ザ˩コー˥バチナ ˥ザコー ス˩クイ˥ イ˩リ˥バ [ʤa˩koː˥batʃina ˥ʤakoː su̥˩kui˥ ʔi˩ri˥ba](生餌を入れる木鉢 < 雑魚鉢 > に生餌を入れなさいよ)。

˥サザミナ [˥saʤamina] 【名】(動) 貝の名。リュウテン科。和名チョウセンサザエ。さざえ (栄螺)。貝殻は拳の大きさで、殻口は丸い。直径約 3 センチ大の、石灰質で硬く渦巻き状に形成された円形の蓋 (ウブシ˩ケー˥マ [ʔubuʃi̥˩keː˥ma]< 満月形のおはじき玉 >) を有する。子供は、このウブシ˩ケー˥マ [ʔubuʃi̥˩keː˥ma] でおはじきをして遊ぶ。肉は煮たり茹でたりして食すると美味である。殻は終戦後までは貝ボタンの材料として輸出されていたが、プラスチック製品が出回るようになって昭和 30 年中期ごろには売れなくなった。イ˩ソー シン˥ パルカー ˩ピーヌ˥クシナー ˥サザミナー ˥ユー プ˩サーリタン [ʔi˩soː ʃim˥ paruka: ˩piːnu˥ku̥ʃina: ˥saʤamina: ˥juː pu̥˩saːritaŋ](漁り < 潮干狩り > をしに行くと干瀬の上では、さざえ貝はよく拾われた)。˥サザミナ プ˩サイ˥ クー˩ディー [˥saʤamina pu̥˩sai˥ ku:˩diː](さざえ貝を拾ってこようよ)。

˥サシ [˥saʃi] 【名】錠。錠前。老年層のことば。˥サシ イ˩リルン [˥saʃi ʔi˩riruŋ](鍵を掛ける < 錠をおろす。鍵を入れる >)。

˥サジ [˥saʤi] 【名】てぬぐい (手拭)。鉢巻き。顔や手、体を拭う布。「割出、サイデ、布切也」『易林本節用集』の転訛したものか。˩ティーッス˥ル [˩tiːssu˥ru](手拭き) ともいう。女性はサジを広げて「姉さん被り」にし、その上に˥シケー [˥ʃi̥keː](揺り輪。頭上運搬の際のクッション) を置いて芋の入った笊や米俵などを頭上に載せて運んだ。男は手拭を頭に巻いて用いた。˥サジシ ˩コーガー˥キ ˩サン˥カー ア˩ツァ˥ヌ ˥ティダナカナー シ˩グトー˥ ナ˩ラ˥ヌ [˥saʤiʃi ˩koːga:˥ki ˩saŋ˥kaː ʔa˩tsa˥nu ˥tidanakana: ʃi˩guto:˥ na˩ra˥nu](手拭で頬被りしないと暑くて、強い日差しの中では、仕事は出来ない)。˥サジ ス˩ブ˥リティ ˥ドゥー ッ˩スリ [˥saʤi su˩bu˥riti ˥duː s˩suri](手拭を絞って体を拭きなさい)。

˥サジ [˥saʤi] 【名】さじ (匙)。標準語からの借用語。スプーン。普通は˥ガイ [˥gai](匙) という。˩カイヤー˥ サジシ ス˩クイティ˥ ヌ˩マ˥シバ [˩kaijaː˥ ˥gaiʃi su̥˩kuiti˥ nu˩ma˥ʃiba](お粥は匙で掬って飲ましなさいよ)。サ˩ジ˥ヌ ˩ナーン˥カー ガ˩ジマル˥ヌ ˩パー˥シ ユ˩ナ˥コー ス˩クイ˥バ [sa˩ʤi˥nu ˩naːŋ˥kaː ga˩ʤimaru˥nu ˩paː˥ʃi ju˩na˥koː su̥˩kui˥ba](匙がなければガジマル < 木容樹 > の葉で麦焦がしは掬いなさいよ)。

サ˩シカ˥ジ [sḁ˩ʃika˥ʤi] 【名】帆船の長い舵。着脱自由な舵で泊中は抜いて船上に上げておき、帆走する際

に舵穴に差し込んで使った。「差し舵」の義か。˞プーシンヌ˜　カ˞ジェー˜　サ˞シカ˜ジ　ヤ˞ルンダ˜　ミ˞ナトゥ˜ナーテー　˜ヌイティ　˞アンギ˜　ス˞ク˜タ [˞puːʃinnu˜ ka˞ʤe:˜ sḁ˞ʃika˜ʤi ja˞runda˜ mi˞natu˜ naːte: ˜nuiti ˞ʔaŋgi˜ su̥˞ku˜ta](帆船の舵は差込式の舵だから、港では抜き取って上げておいた)。

˜サジ　˜カブン [˜saʤi ˜kabuŋ] 【連】タオルを頭に巻く。タオルを被る。˞ピー˜ヤカー　˜サジ　˜カブン [˞piː˜jakaː ˜saʤi ˜kabuŋ](寒かったらタオルを被る)。

˞ザシ˜キ [˞ʤaʃi̥˜ki] 【名】座敷。普通は、˜ザー [˜ʤaː](座)という。イ˞チバン˜ザー [ʔi˞ʧiban˜ʤaː](一番座)、˞ニーバン˜ザー [˞niːban˜ʤaː](二番座) のように、来客を接待する部屋。˞コー˜チョーシンシー　˞ザシ˜ケー　˞アン˜ナイ　ッ˞サリ [˞koː˜ʧoːʃiŋʃiː ˞ʤaʃi̥˜keː ˞ʔan˜nai s˞sari](校長先生を座敷へご案内申し上げなさい)。˜シザウヤンケーヤ　˞ウイヌ　ザシ˜ケー　シゥ˞カシ [˜ʃiʤaʔujaŋkeːja ˞ʔuinu ʤaʃi̥˜keː si̥˞kaʃi](長老方は上座の方へご案内 < お通し > しなさい)。˞ザシキ˜ヌ　˞ピッ˜チン　プ˞スヌ˜　ア˞ツァ˜マリ　˞オー˜ルン [˞ʤaʃi̥ki˜nu ˞pit˜ʧim pu̥˞sunu˜ ʔa˞tsa˜mari ˞ʔoːru˜ŋ](座敷一杯人が集まっておられる)。

サ˞シゲ˜タ [sa˞ʃige˜ta] 【名】さしげた (差下駄)。標準語からの借用語。高下駄。歯の高い下駄。戦後の一時期まで若者の間に流行していた。普通は、タ˞カアシ˜ツァ [ta˞kaʔaʃi˜tsa](高下駄) という。ア˞ミ˜ヌ　˜フーカー　サ˞シゲ˜タ　フ˞ミ˜　パリバ [ʔa˞mi ˜nu ˜ɸuːkaː sa˞ʃige˜ta ɸu˞mi˜ pariba](雨が降ったら差下駄を履いて行けよ)。

˜サシシゥカイ [˜sḁʃisi̥kai] 【名】差し支え。支障。標準語から転訛したもの。˜サシシゥカイヌ　˜アルカー　パ˞ナサン˜タンティン　˜ミサン [˜saʃisi̥kainu ˜ʔarukaː pa˞nasan˜tantim ˜misaŋ](差支えがあったら話さなくても良い)。

サ˞シシゥカイ˜ルン [sa˞ʃisi̥kai˜ruŋ] 【自動】差し支える。都合が悪くなる。妨げとなる。˞ワー　クーン˜カー　シ˞グトゥ˜ナー　サ˞シシゥカイ˜ルンティ　ア˞ゾーッタン˜ドゥ　サ˞シシゥカイラン˜　パジ [˞waː kuːŋ˜kaː ʃi˞gutu˜naː sa˞ʃisi̥kai˜runti ʔa˞ʤoːttan˜du sa˞ʃisi̥kairam˜paʤi](君が来なかったら仕事に差し支えると言われたが、差し支えないはずだ)。˞クン˜ドー　サシ˞シゥカイ˜ヤー　˞ナーヌ˜ヌ <˞ナーン˜シェヌ >　˜アツァン　カ˞ギル˜カー　サ˞シシゥカイ˜ル　˜クトゥン　˜アン　パジ˞ダー [˞kun˜do: sa˞ʃisi̥kai˜jaː ˞naːnu˜nu < ˞naːŋ˜ʃenu > ˜ʔatsaŋ ka˞giru˜kaː sa˞ʃisi̥kai˜ru ˜kutuŋ ˜ʔam ˜paʤi˞daː](今度は差し支えはないが、明日も欠席する < 欠ける > と差し支えることもあるはずだよ)。

サ˞シ˜ヌ　ッ˞ふァ [sa˞ʃi˜nu f˞fa] 【連】鍵。「錠 (鎖) の子」の義。錠の孔に差し入れてこれを開閉する道具。サ˞シ˜ヌ　ッ˞ふァー˜　シ˞トゥーン˜ヨーニ　ア˞タラ˜サ　˞シー˜ヨー [sḁ˞ʃi˜nu f˞faː˜ ʃi̥˞tuːŋ˜joːni ʔa˞tara˜sa ˞ʃiː˜joː](鍵 < 錠の子 > を無くさないように < 捨てないように。紛失しないように > 大切に < 可惜しさ > しなさい)。

サ˞ジ˜ヌ　˜ナイ [sa˞ʤi˜nu ˜nai] 【連】手拭の長さ。短いものの比喩表現。˞ウイヌムラテイ˜　ア˞ザバン˜　サ˞ジ˜ヌ　˞ナイ˜ル　˜アル　ダン˞ティ　ギーッティ˜　クー [˞ʔuinumurati˜ ʔa˞ʤaban˜ sa˞ʤi˜nu ˞nai˜ru ˜ʔaru dan˞ti giːtti˜ kuː](上の村といっても手拭の長さぐらいの < 手拭の長さぞある > ところだ。さっと行ってこい)。

サ˞シ˜マタ [sa˞ʃi˜mata] 【名】鍬形。兜の前立て物として用いられた、慈姑 < くわい > の形を切り抜いて頭飾としたもの。˞プー˜ルナー　˜ボー　˜ウトゥ　˜ピンマー　ビ˞キドゥモー˜　ス˞ブ˜ルナ　ハ˞チマ˜キ　˜シミティ　˞ウン˜ナー　サ˞シ˜マタ　ッ˞ソーッ˜タ [˞puː˜runaː ˜boː ˜ʔutu ˜pimmaː bi˞kidumoː ˜ su˞bu˜runa hḁ˞ʧima˜ki ˜ʃimiti ˞ʔun˜naː sḁ˞ʃi˜mata s˞soːt˜ta](豊年祭に棒を打つ < 棒踊りをする > 時は、男は頭に鉢巻をしめて、それにサシマタ < 鍬形 > を差し込まれた)。

サ˞シ˜ムヌ [sḁ˞ʃi˜munu] 【名】さしもの (指物)。たんす (箪笥)、長持、お膳、重箱など。釘を用いず、板を差し合わせて作った器具。サ˞シ˜ムノー　イ˞サナキヌ˜　サ˞シ˜ムヌヤーナー˜ル　ス˞クラ˜ソーッタ [sḁ˞ʃi˜munoː ʔi˞sanakinu˜ sḁ˞ʃi˜munujaːnaːru su̥˞kura˜soːtta](指物は石垣島の指物屋で < ぞ > 作らされた)。

サ˞シ˜ムヌザイク [sḁ˞ʃi˜munuʤaiku] 【名】指物細工。指物師。カ˞レー˜　サ˞シ˜ムヌザイク　ヤ˞ルンダ　ティー˜ヤ　イッ˞ケナ˜　ク˞マー˜ン [ka˞reː˜ sḁ˞ʃi˜munuʤaiku ja˞runda tiː˜ja ʔik˞kena˜ ku˞maː˜ŋ](あの人は指物細工だから技術 < 腕 > は緻密である < 細かい >)。

サ˞シ˜ムヌヤー [sḁ˞ʃi˜munujaː] 【名】指物細工。「指物屋」の義。指物師は、鳩間島にはいなかった。細工の心得のある者が自己流に調度品を作っていた。石垣島には、サ˞シ˜ムヌヤー [sḁ˞ʃi˜munujaː](指物屋)

やギ˞リギリ˜ヤー [gi˞rigiri˜ja:](挽物屋。轆轤で挽いて食器類を作る所) があった。サ˞シ˜ムヌヤーナジ˞ブク˜トゥ　˞ジンバ˜　ア˞チ˜ライ　˜シケー [sa̠˞ʃi ˜munuja:na ʤi˞buku˜tu ˞ʤimba˜ ʔa˞ʧi˜rai ˜ʃi̠ke:](指物屋に重箱とお膳を注文して < 誂えて > おいてある)。

˜サシン [˜saʃiŋ] 【名】写真。˜サシン　ウ˞ツァ˜スン [˜saʃiŋ ʔu˞tsa˜suŋ](写真を写す < 撮影する >)。

˜サタ [˜sa̠ta] 【名】噂。風評。評判。世間の取り沙汰。「沙汰」の義。˜アガヤー　プ˞スヌ˜　フ˞チ˜ナー　˞ヌーリ˜　サタ　シ˞ラリ˜　イ˞ナムヌ˜ダラ [˜ʔaga-ja: pu̠˞sunu˜ ɸu̠˞ʧi˜na: ˞nu:ri˜ sa̠ta ʃi˞rari˜ ʔi˞namunu ˜dara](ああ! 人の噂話の話題になって < 人の口にのぼって >、いろいろ取り沙汰されて残念だ)。プ˞スン˜　サタ　シ˞ラルン˜ヨーシ　˞シェー˜ティ　˞アー˜キ [pu̠˞sun˜ sa̠ta ʃi˞raruŋ˜jo:ʃi ˞ʃe:˜ti ˞ʔa:˜ki](世間の人に取り沙汰されぬように、しっかりしてあるけ)。

˜サタ [˜sa̠ta]【名】砂糖。ッ˞ふ˜サタ [f˞fu˜sa̠ta](黒糖)、ッ˞ス˜サタ [s˞su˜sa̠ta](白糖)、ザ˞ラ˜メー [ʤa˞ra˜me:](粗目糖) などがあった。ッ˞ふ˜サター　˞シン˜ザ　ス˞ブ˜リティ　˜シル　タ˞キティ˜　ス˞ク˜ローッタ [f˞fu ˜sa̠ta: ˞ʃin˜ʤa su˞bu˜riti ˜ʃiru ta̠˞kiti˜ su̠˞ku˜ro:tta](黒糖は砂糖黍を搾って、汁を炊いて < 煮て > 造られた)。

˜サタ [˜sata] 【名】砂糖。ッ˞ス˜サタ [s˞su˜sata](白砂糖)、ッ˞ふ˜サタ [f˞fu˜sata](黒砂糖)、ザ˞ラ˜ミ [ʤa˞ra˜mi](ざらめ < 粗目 > 糖) の総称。戦前の一時期、鳩間島にも製糖組合が結成されて黒糖生産をしていた。戦前には台湾からザ˞ラ˜ミ [ʤa˞ra˜mi](ざらめ糖) が輸入されていた。˜サタ　˜タルン [˜sata ˜taruŋ](砂糖黍の汁を加熱して黒砂糖を製造する)。ッ˞ふ˜サタ　˜タリティ　ン˞ガフチル˜トゥ　マ˞ザー˜シ　ヌ˞マ˜シバ [f˞fu˜sata ˜tariti ʔŋ˞gaɸuʧiru˜tu ma˞ʤa:˜ʃi nu˞ma˜ʃiba](黒砂糖を溶かして苦い薬と混ぜて飲ませよ)。

˜サタグルマ [˜sa̠taguruma] 【名】砂糖黍圧搾機。「砂糖車」の義。砂糖黍を圧搾して汁を搾る歯車。三連の歯車の梶棒を牛に牽かせて回し、歯車の間に砂糖黍を差し込んで搾った汁を釜に入れ、煮込んで黒糖を製造した。˜サタグルマシ　˞シン˜ザ　ス˞ブ˜ルン [˜sa̠tagurumaʃi ˞ʃin˜ʤa su˞bu˜ruŋ](砂糖車で砂糖黍を搾る < 圧搾する >)。

˜サタゾーグ [˜sa̠taʤo:gu] 【名】砂糖が大好きな者。「砂糖上戸」の義。バ˞カーン˜ケンラ　˜サタゾーグヤ˞レー˜ティ　˞パー˜ヤ　ムー˞ル˜　フ˞トゥッチ˜パー　˜ナリ　˞ベー [ba˞ka:ŋ˜kenra ˜sa̠taʤo:gu ja˞re:˜ti ˞pa:˜ja mu:˞ru˜ ɸu̠˞tuttʃi˜pa: ˜nari ˞be:](若い頃から砂糖が大好き < 砂糖上戸 > だったから、歯は全部虫歯になっている)。

˜サタタムヌ [˜sa̠tatamunu] 【名】製糖用の薪。˜サタタムノー　˞パイター˜ラ　プ˞サイ˜　トゥ˞ゴーッ˜タ [˜sa̠tatamuno: ˞paita:˜ra pu̠˞sai˜ tu˞go:t˜ta](製糖用の薪は南端 < 西表島 > から拾って持ってこられた)。

˜サタタリ [˜sa̠tatari] 【名】製糖。砂糖黍の汁を煮込んで黒糖を製造すること。「砂糖・垂れ」の転訛したものか。パ˞トゥマ˜ヌ　˜サタタリ　シ˞グトー　セイコー　サンシェン˜ツォー [pa̠˞tuma˜nu ˜sa̠tatari ʃi˞guto: ʃeiko: saŋʃen˜tso:](鳩間島での製糖業 < 砂糖を製造する仕事 > は成功しなかったそうだ)。

˜サタ　タ˞リ˜ジブン [˜sa̠ta ta˞ri˜ʤibuŋ] 【連】砂糖を製造する時期。製糖期。「砂糖垂れ時分」の転訛したものか。˜サタ　タ˞リ˜ジブン　˜ナルカー　˜サタ　˜タル　カ˞ザヌ˜　イッ˞ケン˜　カ˞バッ˜サタン [˜sa̠ta ta˞ri˜ʤibun ˜naruka: ˜sa̠ta ˜taru ka˞ʤanu˜ ʔik˞keŋ˜ ka˞bas˜sataŋ](製糖期になると砂糖黍の煮汁の匂いが非常に香ばしかった)。

˜サタダル [˜sa̠tadaru]【名】砂糖樽。黒砂糖を入れる樽。ッ˞ふ˜サター　˜サタダルナール　˜シミティ　イ˞サナケー˜　ウ˞クローッ˜タ [f˞fu˜sata: ˜satadaruna:ru ˜ʃimiti ʔi˞sanake:˜ ʔu˞kuro:t˜ta](黒砂糖は、砂糖樽に < ぞ > 詰めて石垣へ送られた)。

˜サタ　˜タルン [˜sa̠ta ˜taruŋ]【連】黒砂糖を製造する。プ˞ス˜パナー　パ˞トゥ˜マナーン　˜サタ　˜タルンティ　ク˞ミ˜アイ　ス˞ク˜ローッタティ　ス˞ヌ　ダーッ˜サー　˞ナーン˜シェンツォー [pu̠˞su˜pana: pa̠ ˞tu˜mana:n ˜sa̠ta ˜tarunti ku˞mi˜ai su̠˞ku˜ro:ttati su˞nu da:s˜sa: ˞na:ŋ˜ʃentso:](一時期は鳩間島にも黒糖を製造しようと組合を作られたというが、うまくいかなかったそうだ)。

˜サタティンプラ [˜sa̠tatimpura] 【名】砂糖テンプラ。小麦粉を水に溶いて鶏卵を掻き混ぜ、それに黒糖を鉋で削って加え、味付けして鶏卵の大きさに成形し、脂鍋で揚げたもの。普通は直径約 4 センチほどのボール状に揚げる。上部に裂け目が生じるように揚げるのが良いといわれている。祝儀の際は、ソフトボール大に揚げて目出度さを表現する習慣がある。˞ヨイ˜ヌ　˜ピンマー　˜サタティンプラン　ア˞ゴーッ˜タン [˞joi˜nu ˜pimma: ˜sa̠tatimpuraŋ

ʔaˈgoːt˥taŋ](お祝いの時は砂糖テンプラも揚げられた)。

˥サタナビ [˥satanabi] 【名】黒砂糖を作るのに使用する大鍋。ˈカーヌ˥　マンタナー　˥サタヤーバ　スˈク˥リ　˥ウナー˥　サタナビバ　ビˈシティ˥　サター　タˈローッタ [ˈkaːnu˥ mantanaː ˥sataja:ba sɥˈku˥ri ˥ʔunaː ˥satanabiba biˈʃiti˥ sataː sɥˈku˥roːtta](西村の井戸の前に砂糖小屋を作って、そこに砂糖鍋を据えて砂糖を作られた)。

˥サタニー [˥satani:] 【名】ぜんざい。「砂糖煮」の義。緑豆 (やえなり) と黒砂糖を煮て白玉餅を加えたもの。戦後はˈジェン˥ザイ [ˈʤen˥ʤai] というようになった。マˈルケーティ˥ナー　˥サタニー　バˈカシ　ッふァーソーッ˥タン [maˈrukeːti˥naː ˥satani: baˈkaʃi ffaːsoːt˥taŋ](稀にゼンザイを炊いて食べさせられた)。

˥サタパンビン [˥satapambiŋ] 【名】砂糖てんぷら。小麦に卵を加えて練り、黒砂糖を削って混ぜ合わせ、直径 3〜4 センチの球形に手で搾り出し、油で揚げたもの。˥サタティンプラ [˥satatimpura](砂糖てんぷら) ともいう。祝儀の時に作った。˥サタパンビンマー　ˈヨイ˥ヌ　˥ピンナール　˥ユー　スˈク˥ローッタ [˥sa̧tapambimmaː ˈjoi˥nu ˥pinnaːru ˥juː sɥˈku˥roːtta](砂糖てんぷらは、お祝いのときによく作られた)。

サˈダ˥マルン [saˈda˥maruŋ] 【自動】定まる。確定する。きまる。「〜大君にまつらふものと定有 < サダマレル >〜。万、4214」の転訛したもの。キˈマルンとも言う。アˈツァバー˥キナ　ˈタール˥　スˈク˥ルティ　サˈダ˥マルンテー　ウˈモーラ˥ヌ [ʔaˈʦabaː˥kina ˈtaːru˥ sɥˈku˥ruti saˈda˥marunteː ʔuˈmoːra˥nu](明日までに誰が作ると決まるとは思われない)。˥ヤー　シˈギプソー　ナンク˥ル　サˈダマ˥ルンティ　ウˈムータ˥ヌ　マˈダ˥　サˈダマラン˥バン [˥jaː ʃiˈgi˥ pɥˈsoː naŋku˥ru saˈdama˥runti ʔuˈmuːta˥nu maˈda˥ saˈdamaram˥baŋ](家を継ぐ人は、自然と < 自ずから > 定まると思ったが、まだ定まらないわい)。キサーˈティ˥　サˈダマリ˥　ブー [ki̧saːˈti˥ saˈdamari˥ buː](既に決まっている)。サˈダマ˥ル　˥ピンマー　イˈチ˥カヤー [saˈdama˥ru ˥pimmaː ʔiˈʧi˥kajaː](決まる時は何時かね)。サˈダマ˥レー　˥ミサムヌ [saˈdama˥reː ˥misamunu](決まれば良いのに)。

サˈダ˥ミ [saˈda˥mi] 【名】 1定め。決定。ムˈラヌ˥　サˈダ˥ミ　ヤˈルンダ˥　シˈカター　ナー˥ヌ　シゥˈカン˥カー　ナˈラ˥ヌ [muˈranu˥ saˈda˥mi jaˈrunda˥ ʃi̥ˈkataː naː˥nu si̥ˈkaŋ˥kaː naˈra˥nu](村の定め < 決定 > だからし方がない。聞かないといけない)。定め。決定。決まり。おきて。規則。ムˈカ˥シェーラヌ　ムˈラヌ˥　サˈダ˥ミ　ヤˈルンダ˥　マˈム˥リˈヨー [muˈka˥ʃeːranu muˈranu˥ saˈda˥mi jaˈrunda˥ maˈmu˥riˈjoː](昔からの村の決まり < おきて > だから、守りなさいよ)。2運命。˥ヌンティル　ˈオーパ˥ヤー　シˈヌタ˥カヤーティ　ˈピーズ˥　キˈム˥バ　ヤˈマ˥シ　ˈオーッタン˥ドゥ　マˈナ˥マー　ウˈビ˥ヌ　サˈダミ˥ル　ヤˈレー˥ルティ　ˈシー˥　ウˈムイ˥キシ　ˈオー˥ルツォー [˥nuntiru ˈʔoːpa˥jaː ʃiˈnuta˥kajaːti ˈpiːʤu˥ kiˈmu˥ba jaˈma˥ʃi ˈʔoːttan˥du maˈna˥maː ʔuˈbi˥nu saˈdami˥ru jaˈreː˥ruti ˈʃiː˥ ʔuˈmui˥kiʃi ˈʔoː˥rutsoː](何故そんなに早く死んだのだろかと、毎日心を痛めて悲しんでおられたが、今はそれだけの運命 < 定め > であったのだろうと諦めて < 思い切って > おられるそうだ)。運命。ˈマー˥　ンˈベーマ　スー˥カー　ˈピャー˥ク　ナˈローリ˥　シタヌ　ウˈリル˥　サˈダ˥ミ　ヤˈロー˥レール [ˈmaː˥ ʔmˈbeːma suː˥kaː ˈpjaː˥ku naˈroːri˥ ˥ʃi̥tanu ʔuˈriru˥ saˈda˥mi jaˈroː˥reːru](もう少ししたら百歳になられたのだが、それが定め < 運命 > であられたのでしょう)。

サˈダミ˥ティ [saˈdami˥ti] 【副】定めて。きっと。かならず。間違いなく。おそらく。ユˈミヌ˥　アˈサ˥ニビーラル　サˈダミ˥ティ　ˈヤームンドー˥ヤ　ウˈク˥ルティ　ムˈカ˥シムネー　˥アル [juˈminu˥ ʔaˈsa˥nibiːraru saˈdami˥ti ˈjaːmundoː˥ja ʔuˈku˥ruti muˈka˥ʃimuneː ˥ʔaru](嫁の朝寝坊から < ぞ >、必ず家内騒動は起ると昔の諺にある)。

サˈダミ˥ルン [saˈdami˥ruŋ] 【他動】定める。決める。キˈミルン、キˈムンとも言う。ˈウイダル˥ヌ　˥クトー　ˈベーカーニ˥シ　サˈダミ˥ルンティ　シˈタンティン˥　サˈダミララ˥ヌ [ˈʔuidaru˥nu ˥ku̧toː ˈbeːkaːni˥ʃi saˈdami˥runti ʃi̥ˈtantin˥ saˈdamirara˥nu](神行事のことは我々だけで決めようとしても決められない)。サˈダミ˥ル　プˈスヌ˥　ブˈラーン˥カー　ˈベーカーニ˥シ　サˈダ˥ミ　˥ミサンカヤー [saˈdami˥ru pɥˈsunu˥ buˈraːŋ˥kaː ˈbeːkaːni˥ʃi saˈda˥mi ˥misaŋkajaː](決める人がいないなら、我々だけで決めていいのかねえ)。ˈパー˥ク　サˈダミ˥リ [ˈpaː˥ku saˈdami˥ri](早く決めれ)。ˈワターカーニ˥シ　サˈダミ˥レー　˥ミサムヌ [ˈwataːkaːni˥ʃi saˈdami˥reː ˥misamunu](君たちだけで決めればいいのに)。

サˈダ˥ムン [saˈda˥muŋ] 【他動】定める。「さだむ (定む)、下二段活用」の四段活用化したもの。「上つ毛

野　佐野田の苗の占なへに許登波佐太米都『万葉集　3418』」の義。ピ˞ニチェー˥　ドゥーシ　サ˞ダ˥ミ　˥ミサム˞ヌ˥ユー　ア˞ティンガーラヌ [piˀnitʃeː˥ duːʃi saˀda˥mi ˥misa muˀnu˥juː ʔaˀtiŋgaːranu](日程 < 日にち > は自分で決めてよいものか見当がつかない)。˞タンガ˥シ　サ˞ダ˥ム　˥ピンマー　˞ダンダン˥シ　サ˞ダ˥ミバ [ˀtaŋga˥ʃi saˀda˥mu ˥pimmaː˞ dandaŋ˥ʃi saˀda˥miba](一人で決めるときは、さっさと決めよ)。ク˞トゥシヌ　イー˥シトゥリヌ　ピ˞ニチ˥　サ˞ダ˥ムンティ　˞スンドゥ˥　マ˞ナ˥マー　サ˞ダマラン˥バ　˥アトーラ　サ˞ダ˥ミバ [kuˀtuʃinu ʔiː˥ʃiturinu piˀnitʃi˥ saˀda˥munti ˞sundu˥ maˀna˥maː sa˞damaram˥ba ˥ʔatoːra saˀda˥miba](今年のツノマタ採取の日を定めようとするが、定まらないから、後で定めなさいよ)。˞パー˥ク　サ˞ダ˥メー　˥ミサムヌ [ˀpaː˥ku saˀda˥meː ˥misamunu](早く決めればよいのに)。

˥サタユー [˥sataju:] 【名】「砂糖湯」の義。黒砂糖や氷砂糖をお湯に溶かし、生姜汁を加えた飲み物。風邪で体力が落ちたり、喉の痛みがある時などに鎮痛用、体力回復用として飲ませた。パ˞ナシキ˥　マ˞マリティ˥　ヌ˞ドゥ˥ヌ　˥ヤム　˥ピン　˥サタユーヌ˞マ˥スカー　˞ノー˥ルン [paˀnaʃi̥ki˥ maˀmariti˥ nu˞du˥nu ˥jamu ˥pin ˥sḁtaju: nuˀma˥suka: ˞noː˥ruŋ](風邪に罹って喉が痛むとき砂糖湯を飲ませる治る)。

サ˞タ˥ラ [sḁˀta˥ra] 【名】一房。バナナの実が一茎に群がり生じているものを数える単位。バ˞サン˥ナルプ˞スサタ˥ラ　˥キシ　˥シトゥ　ム˞タ˥シバ [baˀsan˥ naru pu̥ˀsusata˥ra ˥ki̥ʃi ˥ʃi̥tu muˀta˥ʃiba](バナナを一房切ってお土産に持たせてあげなさいよ)。

˥ザッカザッカ [˥ʤakkaʤakka] 【副】湿っている状態の形容 (擬態語)。じとじと。じめじめ。˞ナーアミヌ　フー˥ター　パ˞タ˥ケー　˥ザッカザッカ˞シー　ペーラ˞ラ˥ヌ [ˀnaːʔaminu ɸuː˥taː pḁˀta˥keː˥ ʤakkaʤakka ˞ʃiː peːra˥ranu](長雨が降ったので畑はじめじめして入られない)。˞マー˥ソー　˥ザッカザッカ　˞スン˥ケン　シ˞ミッケー˥リ　˞ナー˥ヌ [ˀmaː˥soː ˥ʤakkaʤakka ˞suŋ˥keŋ ʃiˀmikkeː˥ri ˞naː˥nu](塩はじとじとするほど湿ってしまった)。

˞サッ˥コー [˞sak˥koː] 【副】非常に。大層。甚だしく。あまりに。法外に。過度に。ウ˞レー　サッ˥コー　ユ˞コー˥ユンダ　˥イッシンマーンツァン　カ˞ラサヌ [ʔuˀreː sak˥koː juˀko˥junda: ˥ʔiʃʃimmaːntsaŋ kaˀrasanu](あれは非常に欲が深いから < 吝嗇家だから >、一銭すらも貸さない)。˞サッ˥コー　ッ˞ファイダマー˥ユンダ　ウ˞リンマー˥　ミ˞シル˥ナ˞ヨー [˞sak˥koː fˀfaidamaː˥junda ʔuˀrimmaː˥ miˀʃiru˥na ˞joː](あまりにも食いしん坊だから、あれには見せるなよ)。

˞サッサ˥シ [˞sassa˥ʃi] 【副】さっさと。すばやく。急いで。速やかに。˞ユン˥タク　˞サンドー˥シ　˞サッサ˥シ <˞ダンダン˥シ >　ア˞ラ˥キ [˞jun˥taku ˞sandoː˥ʃi ˞sassa˥ʃi <˞dandaŋ˥ʃi> ʔaˀra˥ki](お喋りしないで、さっさと歩け)。

サッ˞スク [sas˞suku] 【副】速やかに。すぐに。さっそく。標準語からの借用語「早速」の転訛したもの。本来は、シ˞グ [ʃiˀgu](すぐ)、ユ˞ドゥマ˥ナー [ju˞duma˥naː](淀まずに。滞らず。ためらわず)、トゥ˞キユドゥマ˥ナー [tuˀkijuduma˥naː](すぐさま。時を移さず。手間取らず) のようにいう。˞ワー˥　ナ˞ラー˥ソーッタ　˞トゥー˥ル　サッ˞スク˥　ス˞ク˥リ　˞ミッタン˥ドゥ　˞ゾー˥ブンニ　ス˞クリユーサン˥シェン [˞waː˥ naˀraː˥soːtta ˞tuː˥ru sas˞suku˥ su̥ˀku ˥ri ˞mittan˥du ˞ʤoː˥bunni su̥ˀkuriju:saŋ˥ʃeŋ](貴方が教えて下さった < 習わされた > 通りに、さっそく作ってみたけれど上手に作れません < 作り得ません > でした)。

˞サッスン [˞sassuŋ] 【他動】察する。推察する。同情する。石垣方言からの借用語か。˞サッス˥　クトー　˞サッスンドゥ　フントー˥ヌ　˥キム　˞サッシユースン˥ユー　˞ヌー˥シカヤー　ナ˞レ [˞sassu˥ ku̥to: ˞sassundu ɸunto:˥nu ˥kimu ˞saʃʃiju:suŋ˥juː ˞nuː˥ʃikaja: naˀre](察することは察するが本当の気持ちを察しうるか、どうかなあ)。˞バー˥ネー　ノー˞ン˥　パ˞ナサ˥ユンダ　キ˞ムウチェー　˞バン˥マー　˞サッサラヌ [˞baː˥neː noː˞m˥ paˀnasa˥junda kiˀmuʔu˥ʃeː ˞bam˥maː ˞sassaranu](私には何も話さないから、心の内は私には察せられ < 察することができ > ない)。ア˞ザン˥タンティン　˞サッシェー˥　ミサムヌ [ʔaˀʤan˥tantin ˞saʃʃeː˥ misamunu](言わなくても察すればよいのに)。˞ワー˥シ　˞サッシ [˞waː˥ʃi ˞saʃʃi](君で察しなさい)。

サッ˞ティー [satˀtiː] 【感】なんとまあ。なんだと。とんでもない。何を言うか。「さてもあやしや」『源氏物語　柏木』と同系統の語。「Satemo. サテモ (偖も) 驚嘆の感動詞」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。驚き呆れて強く反問するときに用いる。サッティサッ˞ティー [sattisatˀtiː] と畳語化して強い驚きを表すのに用いられる。サッティサッ˞ティー˥ヌーティ　˞スンティ˥ー˞ー˥　ヤ˞ラビ˥ヌ　ウ˞ヤン˥

ナーニ　˞ガイル　スー˥トゥ˞ー [sattisat˞tiː˥ nuːti ˞sunti˥ːˑ˥ ja˞rabi˥nu ʔu˞jan˥naːni ˞gairu suː˥tu˞ː](とんでもない、何をいうか。子供のくせに親に対して反抗をするってえっ?)。

サッティムサッ˞ティムー [sattimusat˞timuː] 【感】なんとまあ。ほんとにまあとんでもない。強調表現。重言。驚き呆れて発することば。「さてもさても」の義か。サッティムサッ˞ティムー˥　マナール　˥アイブ　ク˞トゥ˥ヌ　ア˞ル˥ワ　˥アイブ　˥クトゥ　˞ナー˥ト　˥バー　イッ˞カナ˥シ　ユ˞ラサ˥ヌ [sattimusat˞timuː˥ manaːru ˥ʔaibu kʉ˞tu˥nu ʔa˞ru˥waː ˥ʔaibu kʉtu˞naː˥to ˥baː ʔik˞kana˥ʃi ju˞rasa˥nu](なんとまあ、とんでもない。いったい何処にあんなことがあるものか。あんなことなど私は決して許さない)。何と何と。ほんとにまあ。何とまったく。「サッティム」を重ねた強調表現 (畳語)。驚いたり、呆れたりする時にいう語。サッティムサッ˞ティムー˥　ヌーティ˞スンティ˥ー˞ー˥　ヤ˞ラビ˥ヌ　ウ˞ヤン˥ナーニ　˞ガイ˥　シ˞タ˥ー˞ー [sattimusat˞timuː˥ nuːti˞sunti˥ːˑ˥ ja˞rabi˥nu ʔu˞jan˥naːni ˞gai˥ ʃi̥˞ta˥ːˑ](何とまあ、呆れた < 何ということか >。子供が親に対して反抗したってえ!)。

ザッ˞トゥ [ʤat˞tu] 【副】1あらまし。おおかた。おおまかに。簡単に。簡素に。格式ばらないさま。˞トーカキ˥ヌ　˞ヨイ˥ヤー　ザッ˞トゥ˥シェー　ナ˞ラ˥ヌ [˞toːkaki˥nu ˞joi˥jaː ʤat˞tu˥ʃeː na˞ra˥nu](米寿の祝いは簡単にはできない)。2外見を飾らないこと。物事にこだわらないこと。無頓着なこと。質素なこと。質朴なこと。ウ˞ヌ　プソー˥　ザッ˞トゥヌ　プス˥　ヤ˞ロー˥ルンダ　イッ˞ケナ˥　パ˞ナシヤッ˥サン [ʔu˞nu pʉ̥soː˥ ʤat˞tunu pʉ̥su˥ ja˞roː˥runda ʔik˞kena˥ pa˞naʃijas˥saŋ](あの人は外見を飾らない質素な人だから非常に話しやすい)。

ザッ˞トゥヌ　パンシ [ʤat˞tunu paŋʃi] 【連】ほんのちょっとのつもりで。気軽なつもりで。ザッ˞トゥヌ　パンシティ˥　ウ˞ムイ˥ル　カ˞ルタンドゥ˥　カイ　ナリ˞ナー˥ヌ [ʤat˞tunu paŋʃiti˥ ʔu˞mui˥ru ka˞rutandu˥ kai ˥nari˞naː˥nu](ほんのちょっとのつもりで借りたのだが、こうなってしまった)。

ザッ˞トゥヌ　プス [ʤat˞tunu pʉ̥su] 【連】格式ばらない人。質素な人。見栄を張らない人。好い加減な人。ほどほどの人。ザッ˞トゥヌプソー˥　ア˞ラン˥ダ　˞マイカニ˥テーラ　ギャン˞ティ˥　パ˞ナシアー˥シ　シ˞キ˥リ [ʤat˞tunu pʉ̥su˥ ʔa˞ran˥da ˞maikani˥ teːra gjan˞ti˥ pa˞nasiʔaː˥ʃi ʃi̥˞ki˥ri](物事に厳しい人だ < 好い加減な人ではない > から、前もってきちんと話し合っておけ)。

˞ザッふァザッふァ [˞ʤaffaʤaffa] 【副】ざっくざっくと。柔らかいものを突き刺す音の形容。鍬で土を耕す音の形容。パ˞タ˥ケー　マ˞タカイシ˥　ヤ˞レー˥ティ　˞ザッふァザッふァ˥シ　˞カイシヤッ˥サタン [pḁ˞ta˥ke: ma˞takaiʃi˥ ja˞reː˥ti ˞ʤaffaʤaffa˥ʃi ˞kaiʃijas˥sataŋ](畑は又耕し < 二度目の耕し > だから、ざっくざっくと耕し易かった)。

˥サッフン [˥saɸɸuŋ] 【名】石鹸。ポルトガル語からの借用語、シャボン [sabão] の転訛したもの。ム˞カ˥シェー　˥サッフンマー　˞ナン˥ゾー　˞ナーン˥シェン [mu˞ka˥ʃeː ˥saɸɸumma: ˞nan˥ʤoː ˞naːŋ˥ʃeŋ](昔は、石鹸はあまりなかった)。

˞サ˥ティ [˞sa˥ti] 【感】はてさて。それにしても。いやはや。感心した時に発する語。歌謡語。/アワヤシミタティ　サティ　ミグトゥ/(粟は積み立てて、いやはや　見事である)「鳩間中岡」。

˥サディプス [˥sadipʉ̥su] 【名】さるどし (申年) 生まれの人。「申年人」の義。ブ˞トー˥　サディプス　トゥ˞ジェー　トゥンディプス　ヤッタ˥ツォー [bu ˞toː˥ sadipʉ̥su tu˞ʤe: tundipusu jatta˥tsoː](夫は申年生まれの人、妻は酉年生まれの人であったそうです)。

˥サディマリ [˥sadimari] 【名】申年生まれ。申年生まれの人。˞クン˥ネヌ　プ˞ソー˥　ウヤン　ッ˞ふァン˥　サディマリ　ユン˞ナー [˞kun˥nenu pʉ̥˞soː˥ ʔujan f˞fan˥ sadimarijun˞naː](この家の人は親も子も申年生まれだねえ)。

サ˞ティム [sa˞timu] 【感】ほんとうにまあ。何とまあ。喜び、驚きなどの感情を表す。歌謡語で、文頭に立つ。日常会話では、˥サッティム [˥sattimu](何とまあ) という。/サティムユタカヌ　パトゥマムラ　フウキマンプク　ウチチジク　ユユムカワラヌ　パトゥマムラ/(誠に < 何とまあ > 豊かな鳩間村は、富貴万福がうち続く、代々に変わらぬ鳩間村である)「鳩間本口説」『鳩間島古典民謡古謡集』。

サ˞トゥ˥ヌシ [sa˞tu˥nuʃi] 【名】士族の男性をいう。歌謡語。日常語として用いられない。/スディフラバ　サトゥヌシ　ジンキャラヌ　ニウイショーリ　イチン　スマル　ニウイ/(袖を振ると里主の袖から伽羅沈香の香りが漂い何時までも染まるようだ)「古見の浦節」『八重山民謡誌』。

サ˞ドゥリカドゥ˥リ [sa˞durikadu˥ri] 【副】闇の中を手探りするさま。ッ˞ふァヨーンヌ˥　ナカーラ　サ

˞ドゥリカドゥ˥リ　˞シェー˥ティ　タ˞ドゥ˥リ　˞クー˥タ˞ダー [fˀfajo:nnu˥ naka:ra sa˞durikadu˥ri ˞ʃe:˥ti ta˞du˥ri ˞ku:˥ta˞da:](暗闇の中を＜から＞手探りしながらたどって＜辿って＞来たのだよ)。

サ˞トゥ˥ルン [sḁ˞tu˥ruŋ] 【自動】悟る。気付く。察知する。知覚する。˞カンヌマイ˥ヌ　イ˞ミシラシ˥ヌ　˞アッタン˥ドゥ　サ˞トゥリユーサン˥　ブ˞レー˥バン [˞kannumai˥nu ʔi˞miʃiraʃi˥nu ˞ʔattan˥du sḁ˞turiju:sam˥ bu˞re:˥baŋ](神様の夢の託宣があったのだが悟り得な＜察知できな＞かったのだわい)。˥イミラー　サ˞トゥララヌ [˥ʔimira: sa˞turaranu](夢からは悟られない)。ウ˞マ˥クマーヤー　サ˞トゥ˥ル　˥クトー　サ˞トゥルン˥ドゥ　˞フントー˥ヌ　˥クトー　サ˞バカラ˥ヌ＜ッ˞サヌ＞[ʔu˞ma˥kuma:ja sḁ˞tu˥ru ˥kuto: sḁ˞turun˥du ˞ɸunto:˥nu ˥kuto: sa˞bakara ˥nu＜s˞sanu＞](ところどころは察知することは察知するが、本当のことは解明できない＜捌かれない＞)。

サ˞ドゥルン [sa˞duruŋ] 【他動】探る。目に見えないものを手探りして求める。探知する。ッ˞ふァヨーン˥ナ　˥パンシ　サ˞ドゥリ˥　カドゥリ　˞シェー˥ティル　ヤッ˞トゥ˥シ　ア˞ラ˥キ　˞クー˥タ [fˀfajo:n˥na: ˥paŋʃi sa˞duri˥ kaduri ˞ʃe:˥tiru jat˞tu˥ʃi ʔa˞ra˥ki ˞ku:˥ta](暗闇の中を足で探り探りしながら＜ぞ＞、やっとのことで歩いてきた)。˥ティーシェー　サ˞ドゥララヌ [˥ti:ʃe: sa˞duraranu](手では探られない)。˥ティーシル　サ˞ドゥリヤッ˥サ [˥ti:ʃiru sa˞durijas˥sa](手で＜ぞ＞探りやすい)。˥ティーシン　サ˞ドゥル˥クトー　サ˞ドゥルンドゥ˥　ア˞ティンガーラヌ [˥ti:ʃin sa˞duru˥kuto: sa˞durundu˥ ʔa˞tiŋga:ranu](手でも探る事は探るが、見当がつかない)。˥ティーシ　サ˞ドゥレー˥　ミサムヌ [˥ti:ʃi sa˞dure:˥ misamunu](手で探ればよいのに)。˥ドゥーシ　サ˞ドゥリ [˥du:ʃi sa˞duri](自分で探れ)。

˥サナ [˥sana] 【名】からかさ (唐傘)。「み-さあなあ」(御傘)『混効験集』の義。漢語の「傘 (san)」が CVCV 構造の琉球語に借用される際に母音 [a] が付いて/sana/(傘) が形成されたもの。ア˞ミ˥ヌ　˞フイ˥バ　˥サナー　カ˞リ˥　カビ　˞ギーティ　˥アツァー　˞カイ˥シバ [ʔa˞mi˥nu ˞ɸui˥ba ˥sana: ka˞ri˥ kabi ˞gi:ti ˥ʔatsa: ˞kai˥ʃiba](雨が降るから傘を借りて被って行って明日返しなさい)。

˥サナイ [˥sanai] 【名】ふんどし (褌)。男性用褌。語源を「種着 (さねぎ)」とする説『石垣方言辞典』がある。˞メー˥カン [˞me:˥kaŋ](女性用褌) の対義語。˞マーサナイ [˞ma:sanai](六尺褌。鱶の襲来を防ぐために着用するという) などがある。˞マーサナイヤー˥　サ˞バ˥　ウ˞ドーシムヌ˥ティ　˞シール˥　キ˞ソーッ˥タツォー [˞ma:sanija:˥ sa˞ba˥ ʔu˞do:ʃimunu˥ti ˞ʃi:ru˥ ki̥˞so:t˥tatso:](六尺褌は鱶を避ける物＜鱶脅し物＞として着用されたそうだ)。

サ˞ナ˥カ [sa˞na˥ka] 【名】最中。もなか。まっさかり。ナ˞チヌ　マイカリパンタヌ˥　サ˞ナ˥カナー　ッ˞ふァバ˥　ナシティル　˞アウ˥リ　˞シェー˥ダー [na˞ʧinu maikaripantanu˥ sa˞na˥kana: fˀfaba˥ naʃitiru ˞ʔau˥ri ˞ʃe:˥da:](夏の稲刈り繁多さの最中に子供を産んで＜ぞ＞難儀苦労をしたのだよ)。ユ˞ナカサナ˥カーラ　˞ビー˥プスン　ウ˞コーサ˥リティ　˞ニフター˥ヌ　ナ˞ラ˥ヌ [ju˞nakasana˥ka:ra ˞bi:˥pu̥suŋ ʔu˞ko:sa˥riti ˞niɸu̥ta:˥nu na˞ra˥nu](真夜中＜夜中最中＞から酔っ払いに起こされて、眠たくてたまらない)。

˥サニ [˥sani] 【名】種。種子。さね (実、核)。˥タニ [˥tani](種) ともいう。ク˞レー˥　サニ　˥トゥリ　シ˞キ˥リ˞ヨー [ku˞re:˥ sani ˥turi ʃi̥˞ki˥ri˞jo:](これは種子を取っておきなさいね)。˞ダイクニ˥ヌ　˥サニ [˞daikuni˥nu ˥sani](大根の種子)。

˥サニ [˥sani] 【名】干支のさる (申) の日。˞キュー˥ヤ　˥サニー　ヤ˞ルンダ　ワー˥　マ˞リビー˥　ア˞タリブー [˞kju:˥ja ˥sani: ja˞runda wa:˥ ma˞ribi:˥ ʔa˞taribu:](今日は干支の申の日だから、君の誕生日＜生まれ日＞に当っている)。

サニー˞サニー˥シ [sani:˞sani:˥ʃi] 【副】嬉しそうに。楽しそうに。˞トーカキ˥ヌ　˥ヨイ　˞シー　オーシター˥　アブジェー　サニー˞サニー˥シル　˞オー˥ル [˞to:kaki˥nu ˥joi ˞ʃi: ʔo:ʃi̥ta:ru˥ ʔabuʤe: sani:˞sani:˥ʃiru ˞ʔo:˥ru](米寿のお祝いをして差し上げたのでお祖父さんは嬉しそうにしていらっしゃる)。ブ˞ネーヌ˥　ミ˞ラリ˥ター　ヤ˞ラ˥ベー　サニー˞サニー˥シ　ブ˞ダッカレー˥ティ　˥パリクンティー [bu˞ne:nu˥ mi˞rari˥ta: ja˞ra˥be: sani:˞sani:˥ʃi bu˞dakkare:˥ti ˥parikunti:](母親が見えたので、子供は嬉しそうに飛び跳ねて走ってくるさ)。

サ˞ニ˥オー [sa˞ni˥ʔo:] 【名】(動) 種豚。繁殖用の種付け豚。˥アヒャーオー [˥ʔaça:ʔo:](繁殖用母豚) の対義語。サ˞ニ˥オー　シゥ˞カ˥ナウ　プ˞ソー˥　ブ˞ラーンシェン [sa˞ni˥ʔo: si̥˞ka˥nau pu̥˞so:˥ bu˞ra:ŋʃeŋ](繁殖用の種付け豚を飼育する人はいなかった)。

サ˞ニキム [sa˞nikimu] 【名】嬉しい気持ち。明るい気持ち。˥カイニ　˞アウ˥リ　˥ナンギバ　˞シーベー˥

ティ ˞ヌー˞シ サ˞ニキムヌ˞ ム˞タリ˞ワ [ˈkaini ˞ʔauˈri ˈnaŋgiba ˞ʃiːbeːˈti ˞nuːˈʃi sa˞nikimunuˈ mu˞tariˈwa](こんなに難儀苦労をしていてどうやって嬉しい気持ちが持て＜持たれ＞ようか)。

サ˞ニグトゥ [sa˞nigutu] 【名】嬉しいこと。愉快なこと。サニー˞サニー˞シ ˞ベー˞ン ˞ギン˞シェー サ˞ニグトゥヌドゥ˞ アリ ブ˞レーン˞ギサバン [ˈsaniː˞saniːˈʃi ˞beːˈŋ ˞giŋˈʃeː sa˞nigutunuduˈ ʔari bu˞reːŋˈgisabaŋ](嬉しそうにしているからには＜様子では＞、嬉しいことがあったようだわい)。

サ˞ニジラ [sa˞niʤira] 【名】嬉しそうな顔。楽しそうな顔。明るい顔。˞カイブ プ˞スバ˞ サ˞ニジラ˞シ ン˞カイッふィーティ˞ イッ˞ケナ˞ フ˞コーラサˈタン [ˈkaibu pu̥˞subaˈ sa˞niʤiraˈʃi ʔŋ˞kaiffiːtiˈ ʔik˞kenaˈ ɸu̥˞koːrasaˈtaŋ](こんな人を明るい顔で嬉しそうに迎えてくれて非常に有難かった)。

サ˞ニチ [sa˞niʧi] 【名】旧暦 3 月 3 日の女の節句。一年で最も潮のひく日であるので、女子はこぞって干潮時に潮干狩りに行く風習がある。菱形のヨモギモチ (蓬餅) を作って女の子に食べさせた。女子が潮干狩りをするのは、海水で身を清めるためだといわれている。それについて次の口碑が伝えられている。昔、蛇の化身の子を身ごもった娘がいた。不審に思った老女が娘に対して夜のうちに化身の髪に績いだ糸を挿しておくように命じた。翌朝糸をたどっていくと、大きな洞窟の中入っていた。老女は、化身が仲間に自慢話をしているのを聞き、さらに娘が浜に降りて白砂を踏み、潮水に手足を濡らして珊瑚礁の上を飛び越えていくと胎内の子は流産するとの話も聞いた。そこで老女は大急ぎ娘を浜に連れ出し、件の如くして身を清めさせたという。そのときに流出したのがウミヘビだという。サ˞ニチェー˞ ミ˞ドーンッ˞ふァヌ ヤ˞ク˞バライティ ˞シール˞ イ˞ソー˞ パルティ˞ダー [sa˞niʧeːˈ mi˞doːnˈffanu jaˈkuˈbaraiti ˞ʃiːruˈ ʔi˞soːˈ paruti˞daː](三月三日は女の子の厄払いといって、潮干狩りに行くのだそうだよ)。

サ˞ニナキ [sa˞ninaki] 【名】嬉し泣き。シ˞ニシタ˞カヤーティ ウ˞ムイ˞キシ ˞オーッタン˞ドゥ ˞ピー˞タイラー ヌ˞チ˞バ ˞ムイ ˞カイ˞リ ˞クータ˞ル ウ˞ヌス˞ク サ˞ニナキ ソーッ˞タ˞ツォー [ʃi˞niʃi̥taˈkajaːti ʔu˞muiˈki̥ʃi ˞ʔoːttanˈdu ˞piːˈtaira nu˞ʧiˈba ˈmui ˞kaiˈri ˞kuːtaˈru ʔu˞nusu̥ˈku sa˞ninaki soːtˈta ˞tsoː](死んだだろうかと思って諦めて＜思い切って＞おられたが、兵隊から生き還って＜命を萌やして帰って＞きたので、あれほどに嬉し泣きされたんだよ)。

サ˞ニプス [sa˞nipusu] 【名】愛嬌の良い人。愛嬌者。愛想の良い人。明るい性格の人。˞ワッ˞テヌ ˞アブジェー イッ˞ケナ˞ サ˞ニプス˞ ヤ˞ローッ˞タ˞ダー [˞watˈtenu ˈʔabuʤeː ʔik˞kenaˈ sa˞nipu̥suˈ ja˞roːtˈta˞daː](お宅のお祖父さんは大変愛嬌の良い人であられたよ)。

˞サニマイ [ˈsanimai] 【名】種籾。「種米」の義。ム˞チマイヌ˞ サニマイヤー ˞アンカヤー [mu˞ʧimainuˈ sanimaija: ˈʔaŋkajaː](糯米の種籾はあるかなあ)。

˞サニマキ [ˈsanimaki] 【名】種蒔き。穀物の種を播くこと。˞スジマキ [ˈsuʤimaki](筋蒔き。麦や白菜などの種を播く際に、種子を蒔く溝を浅く掘って蒔く方法) と、バ˞ラ˞マキ [ba˞raˈmaki](ばら蒔き。小豆などのように、整地した畑に直に散布するように蒔く方法) がある。˞ナーッ˞ス [˞naːsˈsu](苗代) には、蜜にバ˞ラ˞マキ [ba˞raˈmaki](ばら蒔き) をした。マ˞ミ˞ヌ ˞サニマケー イ˞チル ソール˞ワ [ma˞miˈnu ˈsanimakeː ʔi˞ʧiru soːruˈwa](豆の種蒔きは何時なさるのですか)。

˞サニマリ [ˈsanimari] 【名】父親に似た顔つき。「種生まれ」の転訛したもの。ク˞ヌ ッふァー˞ サニマリ ˞シーブバン˞ナー [ku˞nu ffaːˈ sanimari ˞ʃiːbuban˞naː](この子は父親似だね＜種生まれしているわいね＞)。

サ˞ニマリ [sa˞nimari] 【名】愛嬌者。˞ワッ˞テヌ ミ˞ドーン˞ッふァー ムー˞ル˞ サ˞ニマリ シーベー˞バ ア˞タラ˞サワレー ˞フン˞トー ウ˞ラーミサ˞ルバン [˞watˈtenu mi˞doːŋˈffaː muː˞ruˈ sa˞nimari ʃiːbeːˈba ʔa˞taraˈsawareː ˞ɸunˈtoː ʔu˞raːmisaˈrubaŋ](お宅＜君のところ＞の娘さん＜女の子＞は皆愛嬌者に育って＜生まれて＞可愛いことよ。本当に羨ましいよ)。

サ˞ニムニ [sa˞nimuni] 【名】嬉しいことば。楽しいことば。ヤ˞ナ˞ムネー シ˞キプサー ナー˞ヌ サ˞ニムニル˞ シ˞キ˞プサ [ja˞naˈmuneː ʃi̥˞kipusaː naːˈnu sa˞nimuniruˈ ʃi̥˞kiˈpusa](嫌な言葉は聞きたくない。嬉しい言葉が聞きたいのだ)。

サ˞ニムヌ [sa˞nimunu] 【名】嬉しいこと。喜ぶこと。嬉しがること。ウ˞レー˞ サ˞キ˞ ミ˞シ˞ルカー サ˞ニムヌ˞ バ˞ライッツォーレー˞ティル ム˞ヌパナ˞シン ˞スー˞ツォー [ʔu˞reːˈ sḁ˞kiˈ mi˞ʃiˈruka: sa˞nimunuˈ ba˞raittsoːreːˈtiru mu˞nupanaˈʃin ˞suːˈtsoː](その人は、酒を見せると嬉しがる＜嬉し

いことである＞。にこにこと微笑みながら話もするんだよ)。

サ˞ニ˜ムミ [sa˞ni˜mumi] 【名】種籾。サ˞ニ˜ムメーヌ˞カ˜シティル ˞カース˜ダー [sa˞ni˜mume: nu˞ka˜ʃitiru ˞ka:su˜da:](種籾は残してから売るんだよ)。

サ˞ニ˜ヤ [sa˞ni˜ja] 【名】嬉しさ。サ˞ニ˜ヤン [sa˞ni˜jaŋ](嬉しい) の語幹部が独立して体言化したもの。˞キュー˜ヌ サ˞ニ˜ヤー ˜ヌーニール タ˞トゥイ˜ルカヤー [˞kju:˜nu sa˞ni˜ja: ˜nu:ni:ru ta˞tui˜ruka-ja:](今日の嬉しさは何に譬えるかねえ)。

サ˞ニ˜ヤ ˞スン [sa˞ni˜ja ˞suŋ] 【連】喜ぶ。楽しむ「嬉しさ・する」の義。ヤ˞ラ˜ベー ウ˞ヤ˜ヌ ˜シラ ミ˞ラ˜リカー サ˞ニ˜ヤ ˞スン [ja˞ra˜be: ʔu˞ja˜nu ˜ʃira mi˞ra˜rika: sa˞ni˜ja ˞suŋ](子供は親の顔が見えると喜ぶ)。

サ˞ニ˜ヤン [sa˞ni˜jaŋ] 【形】嬉しい。楽しい。「む月たち春の来らば～多努之岐乎倍米＜タノシキヲヘメ＞。万、815」。˞イ昌＜楽＞、太乃之＜たのし＞、又佐加由＜さかゆ＞、又、由太介之＜ゆたけし＞」『新撰字鏡』」の義。「楽しさ・あり」→ ˞サ˜ニシャーン [˞sa˜niʃa:ŋ] → サ˞ニ˜ヤン [sa˞ni˜jaŋ] の音韻変化をへたものであろう (タ [ta] → スァ [s̬a] 久高島方言参照)。˞キュー˜ヤ イッ˞ケナ˜ サ˞ニ˜ヤン [˞kju:˜ja ʔik˞kena˜ sa˞ni˜jaŋ](今日は非常に嬉しい)。ッ˞ふァマー˜ヌ ブ˞ラーン˜カー サ˞ニヤーナー˜ヌ [f˞famaː˜nu bu˞ra:ŋ˜ka: sa˞nija: na:˜nu](子孫がいないと嬉しくない)。˞シンダイ˜ サ˞ニ˜ヤ ˜ナルン [˞ʃindai˜ sa˞ni˜ja ˜naruŋ](次第に嬉しくなる)。サ˞ニヤ˜ヌ ナー˞イ ベーララ˜ヌ [sa˞nija˜nu na:˞i be:rara˜nu](嬉しくてじっとしておれない)。ウ˞リバ˜ シ˞キティ˜ サ˞ニ˜ヤ プ˞ソー˜ ブ˞ラーヌ [ʔu˞riba˜ ʃi̥˞kiti˜ sa˞ni˜ja pu̥˞so:˜ bu˞ra:nu](それを聞いて嬉しい人はいない)。サ˞ニ˜ヤカー ˜ウタンツァン イ˞ジ˜バ [sa˞ni˜jaka: ˜ʔutantsaŋ ʔi˞ʤi˜ba](嬉しかったら歌でも歌えよ)。

˞ザニ˜ヤン [˞ʤani˜jaŋ] 【接尾】愛嬌がある。プ˞スザニ˜ヤン [pu̥˞suʤani˜jaŋ](愛嬌がある。人に会うのが楽しそうである)。ム˞ニ ザニ˜ヤン [mu˞ni ʤani˜jaŋ](楽しそうに話す。話すことが楽しそうである)。

サ˞ニンガーリ˜ムヌ [sa˞niŋga:ri˜munu] 【名】植物の変種。かわりだね。血統の違う人。変人。突然変異したもの。「種変わり・もの」の義。˞ウン˜ネヌ ˞タックイ˜ナー ˜アイブ プ˞ソー˜ ブ˞ラーンシェン˜ ウ˞レー˜ サ˞ニンガーリ˜ムヌヨー [˞ʔun˜nenu ˞takkui˜na: ˜ʔaibu pu̥˞so:˜ bu˞ra:ŋʃeŋ˜ ʔu˞re:˜ sa˞niŋga:ri˜munujo:](あの家には、あんな人はいなかった。あれは変り種＜変人＞だよ)。

サ˞ニンケールン [sa˞niŋke:ruŋ] 【自動】心から喜ぶ。嬉しがる。楽しむ。嬉々としている。満足して喜ぶ。ブ˞ネートゥ˜ マー˞ズン ヤル˜カー サ˞ニンケールンドゥ˜ マー˞ズン˜ ア˞ラン˜カー ム˞タビ˜ムヌ トゥ˞ラサ˜バン サ˞ニンケーラヌ [bu˞ne:tu˜ ma:˞ʤuŋ˜ ja˞ru˜ka: sa˞niŋke:rundu˜ ma:˞ʤuŋ˜ ʔa˞raŋ˜ka: mu˞tabi˜munu tu˞rasa˜ban sa˞niŋke:ranu](母親と一緒だと心から喜ぶが、一緒でないと玩具を与えても心から喜ばない)。˜ウヤサーリ サ˞ニンケーリ˜ ア˞サブン [˜ʔujasa:ri sa˞niŋke:ri˜ ʔa˞sabuŋ](親と楽しそうに遊ぶ)。サ˞ニンケール˜ クトゥン ア˞リ˜ブ [sa˞niŋke:ru˜ ku̥tuŋ ʔa˞ri˜bu](心から喜ぶこともある)。キ˞モー˜ラ サ˞ニンケーレー˜ ミサムヌ [ki˞mo:˜ra sa˞niŋke:re:˜ misamunu](心から喜べばよいのに)。サ˞ニンケーリ˜バ [sa˞niŋke:ri˜ba](心から喜べよ)。

サ˞バ [sa˞ba] 【名】草履。˜カーサバ [˜ka:saba](皮革製の最上級品の草履)、ア˞ダン˜パーサバ [ʔa˞dam˜pa:saba](アダン葉草履) がある。鳩間島の人はア˞ダン˜パーサバ [ʔa˞dam˜pa:saba](アダン葉草履) を履いた。ム˞カ˜シ ˜アッパター サ˞ババ˜ フ˞メーティ˜ル マー˞ン オーッ˜タ [mu˞ka˜ʃi ˜ʔappata: sa˞baba˜ ɸu˞me:ti˜ru ma:˞ŋ ʔo:t˜ta](昔のおばあさん達は草履を履いて何処へも行かれた)。

サ˞バ [sa˞ba] 【名】 (動) 鮫。鱶。˞エージ [˞ʔe:ʤi](おながざめ。体長約 4 メートル)。˞イーパイサバ [˞ʔi:paisaba](しゅもくざめ。体長約 3 メートル)。˞ウー˜バニ [˞ʔu:˜bani](よごれ。体長約 4 メートル)。˞オーナン˜ジャー [˞ʔo:nan˜ʤa:](よしぎりざめ。体長約 6 メートル)。ウ˞キザー˜ラ [ʔu˞kiʤa:˜ra](あおざめ。体長約 7 メートル)。˞ミン˜ダナー [˞min˜dana:](めじろざめ。体長約 7 メートル)。˞イッ˜チョー [˞ʔit˜ʧo:](ほほじろざめ。体長約 9 メートル)。ミ˞ジサバ [mi˞ʤisaba](じんべいざめ。体長約 12 メートル)。イッチョーやミジサバ、ミンダナーなどはめったに漁獲さらなかったという。イ˞ガメージブン˜ ナルカー サ˞バン ホー˜ソールンダ サ˞バソーギリ˜ ス˞ク˜リ ˞カーソーッ˜タン [ʔi˞game:ʤibun˜ naruka: sa˞baŋ ho:˜so:runda sa˞baso:giri˜ su̥˞ku˜ri ˞ka:so:t˜taŋ](烏賊釣り漁の時期になると鮫も釣り上げられるから、鮫肉の切干や塩漬けを作って売られたものだ)。

サ˞パーサパー˺シ [sa̯˞paːsapaː˺ʃi] 【副】もろく砕けやすいさま。ふかふかしたさま。ク˞ヌ˺　ア˞ガラシコーシェー˺　サ˞パーサパー˺シティ　ッ˞ふァイヤッ˺サン [ku˞nu˺ ʔa˞garaʃikoːʃeː˺ sa̯˞paːsapaː˺ʃi̥ti f˞faijas˺saŋ](この蒸し菓子はふかふかして食べやすい)。

サ˞パールン [sa̯˞paːruŋ] 【自動】粘り気が無く、サクサクする。ほろほろする。

サ˞バー˺ン [sa˞baː˺ŋ] 【形】もろい。裂けやすい。折れやすい。サ˞パー˺ン [sa̯˞paː˺ŋ](もろい) ともいう。˺グジキーヤ　サ˞バー˺　クトー　サ˞バー˺ンドゥ　キ˞ジ　ヤッ˺サン [˺guʤikiːja sa˞baː˺ kṵtoː sa˞baː˺ndu ki˞ʤijas˺saŋ](デイゴの木はもろいことはもろいが、削りやすい)。サ˞バー　キー˺ヤ　シゥ˞カーラヌ [sa˞baː kiː˺ja si̥˞kaːranu](もろい木は使えない)。

サ˞パー˺ン [sa̯˞paː˺ŋ] 【形】もろい。裂けやすい。折れやすい。サ˞バー˺ン [sa˞baː˺ŋ](もろい。折れやすい。こわれやすい) ともいう。˺グジキーヤ　サ˞パー˺ンダ　˞ヤーザイ˺ギーナ　シゥ˞カーラヌ [˺guʤikiːja sa̯˞paː˺nda ˞jaːʤai˺giːna si̥˞kaːranu](デイゴ＜梯梧＞の木は脆いから建材には使えない)。˺ドゥク　サ˞パー˺ヌ　シゥ˞カーラヌ [˺duku sa̯˞paː˺nu si̥˞kaːranu](あまりにも脆くて使えない)。サ˞パー˺　ムノー　シ˞ティリ [sa̯˞paː˺ munoː ʃi̥˞tiri](脆いものは捨てれ)。サ˞パー˺カー　シ˞ティリ [sa̯˞paː˺kaː ʃi̥˞tiri](脆かったら捨てれ)。˞ナン˺ゾー　サ˞パーナー˺ヌ [˞nan˺ʤoː sa̯˞paːna˺nu](それほど脆くない)。サ˞リル˺カー　サ˞パー˺　ナルン [sa˞riru˺kaː sa̯˞paː˺ naruŋ](枯れたら脆くなる)。ク˞レー˺　サ˞パー˺ヌ　シゥ˞カーラヌ [ku˞reː˺ sa̯˞paː˺nu si̥˞kaːranu](これは脆くて使えない)。サ˞パー˺カー　ブ˞リヤッ˺サン [sa̯˞paː˺kaː bu˞rijas˺saŋ](脆ければ折り易い)。

サ˞バ˺アバ [sa˞ba˺ʔaba] 【名】鱶油。鱶や鮫の肝臓を煎じて抽出する油。強烈な匂いがある。これを˺イダフニ [˺ʔidaɸuni](板船。サバニ) に塗布して船体の腐食劣化を防いだ。舟を陸揚げして乾燥させ、サ˞バ˺アバ [sa˞ba˺ʔaba](鱶脂) をすりこんだ。それによって舟体が長持ちすると同時に、船足も早くなった。˺イダフニナー　サ˞バ˺アバ　ッ˞ふァーソー˺ル　˺ピンマー　ッ˞サー˺ヌ　フ˞シガラン˺セン [˺ʔidaɸunina: sa˞ba˺ʔaba f˞faːsoː˺ru ˺pimmaː s˞saː˺nu ɸṵ˞ʃigaraŋ˺ʃeŋ](サバニに鱶油を塗布する＜食わせる＞時は臭くてたまらなかった)。

サ˞バガキ˺ヤー [sa˞bagaki˺jaː] 【名】釣った鱶や鮫、大魚を引っ掛ける漁具。カ˞キ˺ヤー [ka̯˞ki˺jaː](引っ掛ける漁具) ともいう。鱶やマグロを釣り上げる際に、鱶やマグロの頭部をサ˞バガキ˺ヤーで引っ掛けて船べりに引き寄せるのに用いる漁具。船べりに鱶やマグロを固定し、サ˞バカタナ [sa˞bakatana](鱶の頭を切る包丁) で鱶やマグロの頭部を切って殺した。

サ˞バカ˺スン [sa˞baka˺suŋ] 【他動】捌かせる。入り組んだものを解き明かす。元祖などを捜し求める。絡まったものを処理する。ユ˞タヌ˺　ヤーナ˞ギー˺　ウヤパープジ　サ˞バカ˺シ　˺クー [ju˞tanu˺jaː ˞giː˺ ʔujapaːpuʤi sa˞baka˺ʃi ˺kuː](ふげき＜巫巫見。占いを業とする人。ユタ＞の家に行って先祖の関係を解き明かさせて来い)。˺シジ　サ˞バカスン˺ドゥ　ムッ˞トゥ˺　サ˞バカサラ˺ヌ [˺ʃiʤi sa˞bakasun˺du mut˞tu˺ sa˞bakasara˺nu](血統を捌かせるのだが、ちっとも捌かされない)。˺シジ　サ˞バカ˺ス　プ˞ソー˺　サ˞バカ˺シ [˺ʃiʤi sa˞baka˺su pṵ˞soː˺ sa˞baka˺ʃi](血統を捌かせる人は捌かせ)。˞マー˺ビン　クマー˞クマ˺　サ˞バカ˺シェー　˺ミサムヌ [˞maː˺biŋ kumaː˞kumaː˺ sa˞baka˺ʃeː ˺misamunu](もっと詳細に捌かせればよいのに)。

サ˞バカタナ [sa˞bakatana] 【名】鱶 (鮫) の頭を切って殺す専用の包丁。鱶を釣って船べりに引き寄せ、サ˞バガキヤーで頭部を引っ掛けて船べりに固定し、専用の包丁で頭部を切って殺すのに用いた。鱶の皮は硬くて切りにくいので、手の滑止めとして、包丁の柄の部分を総て波形に切り込んである。サ˞バカタナヌ　ユイヤー˺　ス˞ベーラン˺ヨーニ　˺ギザギザシ　キ˞ザマリ　ブー [sa˞bakatananu juijaː˺ su˞beːraŋ˺ joːni ˺giʤagiʤaʃi ki˞ʤamari buː](鱶包丁の柄は手が滑らぬようにギザギザに刻まれている)。

サ˞バ˺キカバキ [sa˞ba˺kikabaki] 【副】複雑に入り組んだものを解き明かして。尋ね探して。ABCDBC 型の重言。強調表現。イ˞サナケー˺ラ　ウ˞キ˺ナー˞バー˺キ　サ˞バ˺キカバキ　˞シェー˺ティ　ヤッ˞トゥ˺シ　˺ムトゥ　サ˞バ˺キ　˞クー˺タ [ʔi˞sanakeː˺ra ʔu˞ki˺naː˞baː˺ki sa˞ba˺kikabaki ˞ʃeː˺ti jat˞tu˺ʃi ˺mutu sa˞ba˺ki ˞kuː˺ta](石垣から沖縄まで尋ね探して、やっとで元祖＜元＞を解き明かして来た)。

サ˞バ˺クン [sa˞ba˺kuŋ] 【他動】尋ね探す。探し求める。探し当てる。解き明かす。˞ウン˺ネーヤ　サ˞バ˺クンティ　ウ˞ムー˺タンティン　サ˞バカラ˺ヌ [˞ʔun˺neːja sa˞ba˺kunti ʔu˞muː˺tantin sa˞bakara˺nu](その家は尋ね探そうと思っても探されない)。˞バン˺ヌン　サ˞バ˺ク　˺クトー　サ˞バ˺キ　ミ˞ルン˺ドゥ　˞ワンヌン˺　ドゥーシ　サ˞バ˺キバ [˞ban˺nun sa˞ba

˥ku ˥kʉto: saˈba˥ki miˈrun˥du ˈwannun˥ du:ʃi saˈba˥kiba](私も尋ね探すことは探すが、君も自分で探せよ)。先祖を捜し当てる。ˈグヮン˥ス　サˈバ˥クンティ　ˈゲータ˥ヌ　サˈバカラン˥シェン [ˈgwan˥su saˈba˥kunti ˈge:ta˥nu saˈbakaraŋ˥ʃeŋ](元祖の家を探しに行ったが探し当てられなかった)。サˈバキ˥　プサカー　サˈバ˥ク　˥クトー　ナルンˈダー [saˈbaki˥ pʉsaka: saˈba˥ku ˥kʉto: narunˈda:](探し当てたければ探し当てることは出来るよ)。˥ドゥーシ　サˈバ˥キバ [˥du:ʃi saˈba˥kiba](自分で探し当てなさい)。ˈパー˥ク　サˈバ˥ケー　˥ミサムヌ [ˈpa:˥ku saˈba˥ke: ˥misamunu](早く探せばよいのに)。

サˈバ˥クン [saˈba˥kuŋ] 【他動】さばく (捌く)。三枚におろす。魚や鳥などを解体し、肉や骨に分ける。錯綜した物事をきちんと処理する。イˈゾー˥　バˈザイティ˥　プˈニ˥トゥ　˥カー　サˈバ˥クンティ　ˈスンドゥ　ゾー˥トゥニ　サˈバカラ˥ヌ [ʔiˈʤo:˥ baˈʤaiti˥ puˈni˥tu ˥ka: saˈba˥kunti ˈsundu ʤo:˥tuni saˈbakara˥nu](魚を三枚におろして、骨と皮に捌こうとするが、上手に捌かれない)。サˈバ˥キ　ッˈふィーリ [saˈba˥ki fˈfi:ri](捌い＜解体して＞てくれ)。

サˈバソーギリ [saˈbaso:giri] 【名】鱶肉の切干。鱶肉を幅約 3 センチ、長さ約 15 センチに切り、塩を塗して天日乾燥したもの。島の特産品として沖縄本島へ輸出した。鱶肉はサクサクして不味いが、ソーギリにすると長期保存ができる上に、火に焼いて食すると茶漬けの味が出て美味であった。サˈバソーギレー˥　ピーナ　ヤˈキティ˥　ッˈふー˥カー　イッˈケナ˥　ンˈマー˥タン [saˈbaso:gire:˥ pi:na jaˈkiti˥ fˈfu:˥ka: ʔikˈkena˥ ʔmˈma:˥taŋ](サバソーギリは火に焼いて食べる非常に美味しかった)。

サˈバソー˥ギリ [saˈbaso:˥giri] 【名】鱶の肉を巾約 4 センチ、長さ約 20 センチに切り、塩をふって天日干しにしたもの。焼き魚にすると美味である。サˈバソーギレー˥　フˈユヌ˥　カˈティ˥ムヌティ　ˈシー　カーソーッ˥タ [saˈbaso:gire:˥ ɸuˈjunu˥ kʉˈti˥munuti ˈʃi: ka:so:t˥ta](鱶肉の天日干しは冬の副食物として売られた)。

サˈバナー [saˈbana:] 【名】鱶釣り縄。普通の鱶釣り縄では、鱶つりの際の格闘によって手先が擦り切れて怪我をすることがある。漁師たちは、その怪我を防ぐためと釣り縄の強化のために、縄を豚の血で煮染めて蒸しあげることを繰り返した。従ってサˈバナー (鱶釣り縄) は豚の血でコーティングされることになり、長持ちっするとともに縺れないという特徴を備えた。サˈバナー　オー˥ヌ　ˈシー˥　ッˈふァーサリ　ブンダ　スー˥ワン [saˈbana: ʔo:˥nu ˈʃi:˥ fˈfa:sari bunda su:˥waŋ](鱶釣り縄は豚の血で煮染められ、コーティングされ＜食わされ＞ているから強い)。

サˈバフチ [saˈbaɸutʃi] 【名】人を陥れる者。「鱶口」の義。サˈバ [saˈba](鱶、鮫) は人を襲い喰うことから、人を破滅させる物言いをする口を持つ人をいう。プˈスッふァイムヌ [pʉˈsuffaimunu](人喰い者) ともいう。ˈウンザー˥　サˈバフチ˥　ヤˈルンダ˥　ウˈリトー　アウ˥ナˈヨー˥　アウカー　ッˈふァーリン˥ダー [ˈʔunʤa:˥ saˈbatʃutʃi˥ jaˈrunda˥ ʔuˈrito: ʔau˥naˈjo:˥ ʔauka: fˈfa:rin˥da:](あいつ＜彼奴＞は人を陥れる奴だから、彼奴とは喧嘩するなよ。喧嘩したら彼奴に陥れられる＜食われる＞ぞ)。

サˈバラクン [saˈbarakuŋ] 【他動】密林や叢の草木を伐りはらって道を通す。伐採する。ヤˈマ˥ミチェー　サˈキ˥ナル　プˈスヌ˥　サˈバラカン˥カー　アˈラカラ˥ヌ [jaˈma˥mitʃe: sʉˈki˥naru pʉˈsunu˥ saˈbarakaŋ˥ka: ʔaˈrakara˥nu](山道は先頭になる人が草木を伐採しないと歩かれない)。サˈバラキ˥ミサカー　サˈバラクンドゥ˥　サˈバラク˥　クトー　ムˈチ˥キサンˈダー [saˈbaraki˥ misaka: saˈbarakundu˥ saˈbaraku˥ kʉto: muˈtʃi˥kisanˈda:](草木を伐採してよければ伐採するが、伐採することは難しいよ)。ˈワー˥　サˈバラケー˥　ミサムヌ [ˈwa:˥ saˈbarake:˥ misamunu](君は草木を伐採すれば良いのに)。サˈバラキ˥バ [saˈbaraki˥ba](草木を伐採せよ)。

˥サバン [˥sabaŋ] 【名】ゆのみぢゃわん (湯呑み茶碗)。「茶碗」の義。˥フカサバン [˥ɸʉkasabaŋ](底の深い円筒形の茶碗)。ˈミートゥ˥サバン [ˈmi:tu˥sabaŋ](夫婦茶碗)。ˈサー˥ドーサバン [ˈsa:˥do:sabaŋ](神前、仏前に供えるお茶湯用の茶碗)。妊婦は、フˈチカカイサバン [ɸʉˈtʃikakaisabaŋ](口欠け茶碗。茶碗の縁が欠けた茶碗) でお茶を飲まない、といわれている。サˈバン˥バ　ウˈタ˥シティ　バˈリシティナー˥ヌ [saˈbam˥ba ʔuˈta˥ʃʉti baˈriʃʉti na:˥nu](茶碗を落として割ってしまった)。フˈチカキサバン˥ナー　˥サー　˥ヌムカー　トゥˈク˥ヌ　ピˈナルン˥ツォー [ɸʉˈtʃikakisaban˥na: ˥sa: ˥numuka: tʉˈku˥nu piˈnarun˥tso:](飲み口の欠けた茶碗で茶を飲むと、果報が減るそうだ)。

サˈバンパニ [saˈbampani] 【名】ふかひれ (鱶鰭)。「鱶の鰭」の義。鱶鰭は胸鰭、背びれ、尾びれを天日乾燥して中華料理の食材として香港や中国に輸出

された。鳩間島の人はこれが食材になるということ自体を不思議に思っていた。˥カイブ　˥ムヌヌ　ッ˞ふァーリン˥ティ　シ˞バ˥　ピ˞ルマ˥サワレー [˥kaibu ˥mununu f˞fa:rin˥ti ʃi˞ba˥ pi˞ruma˥sawareː](このような物が食べられるというから不思議なことよ)。

サ˞ビ [sa˞bi]【名】1さび (錆)。カ˞ナサビ [ka˞nasabi](金属の錆)。サ˞ビ˥　フーン [sa˞bi˥ ɸuːŋ](錆が付く < 錆が喰う >)。˞サイクドン˥グ　サ˞ビ　ホースˇナ [˞saikudoŋ˥gu sa˞bi hoːsu˥na](大工道具に錆をつかせるな)。2災い。災厄。ッ˞ふァ˥マーンケナー　˥ビーン　˥サビーン　シ˞キ˥シミ　タ˞ボーラン˥スクニ　マ˞ブ˥リ　タ˞ブ˥ローリティル　˥ニガイ　ッ˞サリル˥ユー [f˞fa˥maːŋkenaː ˥biːn ˥sabiːŋ ʃi̥˞ki˥ʃimi ta˞buroːran˥su̥kuni ma˞bu˥ri ta˞bu˥roːritiru nigai s˞sariru˥juː](子孫には垢 < 穢れ。水垢 > も災厄ももたらして下されませんようにとお祈り申し上げます)。

ザ˞ヒ [ʥa˞çi]【名】蛇皮張りの三味線。「蛇皮」の義。ザ˞ヒバリ [ʥa˞çibari](蛇皮張り) ともいう。最上級の三味線。ス˞ブバリ [su˞bubari](渋張り) の対義語。˞サンシンマー˥　ザ˞ヒル　ナーリダー [˞saŋʃimmaː˥ ʥa˞çiru naːridaː](三味線は蛇皮張りがよりよく鳴る)。

サ˞ビーサビー˥シ [sa˞biːsabiː˥ʃi]【副】1淡白に。あっさりと。˞コッチー˥ヌ　˥アトー　サ˞ビーサビー˥シ　バ˞カサバルイー˥ヤ　ン˞マー [˞koːttʃiː˥nu ˥ʔatoː sa˞biːsabiː˥ʃi ba˞kasabaru ʔiː˥ja ʔm˞maː](ご馳走の後は淡白に炊いた方がご飯は美味しい)。2ひっそりと。侘しく。寂寞として。物足りなく感じられて。「さび < 寂 > し」の義。トゥ˞ジヌ　オーラ˥ン　˞ナッ˥ター　˞タンガ˥シ　サ˞ビーサビー˥シ　ク˞ラシオー˥ル [tu˞ʥinu ʔoːra˥n ˞nat˥taː ˞taŋga˥ʃi sa˞biːsabiː˥ʃi ku˞raʃi ʔoː˥ru](妻が亡くなられた < おられなくなった > ので、一人でひっそりと暮らしておられる)。

サ˞ビ˥キ [sa˞bi˥ki]【名】さびき釣りの擬餌針。カツオのさびき釣りに用いる擬餌針。ピ˞キナー [pi̥˞kinaː](引き縄釣り。疑似餌を引いて釣る漁法) に用いる擬餌針。ヒ˞ローサ˥ヌ　イ˞ラキ˥トゥ　˞ドーギ˥ヌ　パ˞ニ˥シル　サ˞ビ˥キ　ス˞ク˥ローッタ [çi˞roːsa˥nu ʔi˞raki˥tu ˞doːgi˥nu pa˞ni˥ʃiru sa˞bi˥ki su̥˞ku˥roːtta](めがねもちのうお < ベラ科の魚、体長約 1 メートル > の鱗と雄鶏の羽で擬餌針を作られた)。

サ˞ビ˥サ　˞スン [sa˞bi˥sa ˞suŋ]【連】寂しく思う。寂しがる。「寂しさ・する」の義。ヤ˞ラ˥ベー　プ˞スヌ˥　ブ˞ラーン˥カー　サ˞ビ˥サ　˞スン˥ダー [ja˞ra˥be: pu̥˞sunu˥ bu˞raːŋ˥ka: sa˞bi˥sa ˞sun˥daː](子供は人がいないと寂しがるよ)。

サ˞ビ˥サン [sa˞bi˥saŋ]【形】寂しい。ッ˞ふァンケー˥ヌ　タ˞ベー˥　パ˞リキス˥ター　サ˞ビサ˥ヌ　ナ˞ラ˥ヌ [f˞faŋkeː˥nu ta˞beː˥ pa˞rikiʲsu˥taː sa˞bisa˥nu na˞ra˥nu](子供達がみな旅に行ってしまったので寂しくてたまらない)。マ˞ナバー˥ケー　サ˞ビ˥サー　˞ナーン˥シェンドゥ　˞シンダイ˥　サ˞ビ˥サ　ナリ　˞キー˥ス [ma˞nabaː˥keː sa˞bi˥saː ˞naːŋ˥ʃendu ˞ʃindai˥ sa˞bi˥sa ˥nari ˞kiː˥su](今までは寂しくはなかったが、次第に寂しくなってくるよ)。サ˞ビ˥サ　˥クトー　サ˞ビ˥サンドゥ　˥マナール　シ˞カタヌ˥　ア˞ル˥ワ　˥メー [sa˞bi˥sa ˥ku̥to: sa˞bi˥sandu ˥manaːru ʃi̥˞katanu˥ ʔa˞ru˥wa ˥meː](寂しいことは寂しいが、いったい何処に仕方があるものか、もう)。

サ˞ビ˥ジル [sa˞bi˥ʥiru]【名】出汁の効かない汁。魚介類、肉類の出汁のない汁。サ˞ビ˥ジルカー˞ニッふァーサンドー˥シ　パ˞モー˥ル　ヤ˞ラバン˥　カキキー　˥ギラ　ヤ˞ラバン　コーシ˥キー　バ˞カシ˥バ [sa˞bi˥ʥiruka˞ni ffaːsandoː˥ʃi pa˞moː˥ru ja˞rabaŋ˥ kḁkiki: ˥gira ja˞rabaŋ koːʃi˥ki: ba˞kaʃi˥ba](出汁の効かない汁だけ食べさせないで、蛤でも掻いて拾ってきて、シャコ貝でも掻き起して炊きなさいよ)。

サ˞ビ˥　スクン [sa˞bi˥ su̥kuŋ]【連】錆がつく。老年層は、サ˞ビ˥フーン [sa˞bi˥ɸuːŋ](錆喰う) という。˞パー˥ムノー　˥トゥイティ　˥アバ　ッ˞ふァーサン˥カー　サ˞ビ˥　スクン˞ダー [˞paː˥muno: ˥tuiti ˥ʔaba f˞faːsaŋ˥kaː sa˞bi˥ su̥kun˞daː](刃物は研いで油をひかない < 食わさない > と錆がつくぞ)。

ザ˞ヒバリ [ʥa˞çibari]【名】蛇皮張り。ニシキヘビの蛇皮で張った三味線 (三線)。ス˞ブバリ [su˞bubari](芭蕉の渋で張った三線) の対義語。˞ベー˥ヌ　ザ˞ヒバレー　ウイカナケーバー˥キ　シゥ˞カリ˥スコー　˞ナールタベー˥ティル　ヤ˞クニン˥ヌ　ザ˞ヒバリサンシントゥ˥　トゥ˞リ˥カイ　シ˞ミローッ˥タティ˞ダー [˞beː˥nu ʥa˞çibareː ʔuikanakeːbaː˥ki si̥˞kari˥ su̥ko: ˞naːrutabeː˥tiru ja˞kunin˥nu ʥa˞çibarisaŋʃintu˥ tu˞ri˥kai ʃi˞miroːt˥tati˞daː](我が家の蛇皮張り三線は浦崎家 < 上兼久家 > まで聞こえるほど鳴ったので、役人の蛇皮張り三線と交換させられたそうだよ)。

サ˞ビ˥フーン [sa˞bi˥ɸuːŋ]【自動】錆びる。「錆び喰う」

の義。˞ガッ˞ケーン　カ˞ナパイン˞　サ˞ビ˞フイ˞ナー˞ヌ [˞gak˞keːŋ ka˞napain˞ sa˞bi˞ɸui ˞naː˞nu](鎌も鍬も錆びてしまった)。サ˞ビ˞フーンティ　˞ウムーカー　サ˞ビホーン˞ヨーニ　˞アバ　ピ˞キ˞　シキバ [sa˞bi˞ɸuːnti ˞ʔumuːka: sa˞bihoːɲ˞joːni ˞ʔaba pi̥˞ki ˞ʃi̥kiba](錆びる < 錆び喰う > と思うなら錆びないように < 錆び喰わぬように > 油をひいておけ)。サ˞ビ˞フー　˞ムノー　ナー˞イ˞　サ˞ビホー˞シ [sa˞bi˞ɸu: ˞muno: naː˞i˞ sa˞biho:˞ʃi](錆びるものは放置して錆びつかせ < 錆び喰わせ > よ)。サ˞ビフイ˞ヤー　˞ミサムヌ [sa˞biɸui˞jaː ˞misamunu](錆びれば < 錆喰えば > よいのに)。

サ˞ビフン [sa˞bihuŋ] 【名】錆びた釘。「錆釘」の義。サ˞ビフン　フンク˞カー　ハ˞ショーフ˞　カ˞カ˞ルンティ˞ダー [sa˞biɸuŋ ɸuŋku˞kaː ha˞ʃoːɸu˞ kn̥˞ka˞runti ˞daː](錆びた釘を誤って踏みつけると破傷風 < 病気 > に罹るそうだよ)。

˞サフ˞キ [˞saɸu̥˞ki] 【名】先の尖ったもの。ウ˞ヌ˞　ヤ˞ラビ˞ヌ　ムティ˞ベー˞　グ˞シェー　サフ˞キ　˞ナーリ　ベー˞バ　˞トゥリ　シ˞キ˞リ [ʔu˞nu˞ ja˞rabi ˞nu muti˞beː˞ gu˞ʃe: saɸu̥˞ki ˞naːri beː˞ba ˞turi ʃi̥˞ki˞ri](子供が持っている竹串は先が鋭く尖っているから取り上げておけ)。

˞サフクン [˞saɸu̥kuŋ] 【他動】尖らす。先端を研いで鋭利にする。˞キーヌ˞　ユダ　キ˞ジティ　サフクンティ　スンドゥ˞　ク˞リ˞シェー　˞サフカラヌ [˞kiːnu˞ juda ki˞ʤiti saɸu̥kunti sundu˞ ku˞ri˞ʃe: ˞saɸu̥karanu](木の枝を削って尖らそうとするが、これでは尖らされない)。

˞サフクン [˞saɸu̥kuŋ] 【他動】鋭利な物で突く。突き刺す。ヤ˞ラ˞ベー　ム˞ヌ˞アテー　˞ナー˞ンダ　グ˞シ˞シ˞ミー　˞サフクン˞ダー [ja˞ra˞be: mu˞nu˞ʔate: ˞naː˞nda gu˞ʃi˞ʃi ˞mi: ˞saɸu̥kun˞daː](幼児は分別がないから、小串で目を突き刺すよ)。タ˞キグシ˞シ　˞パン　˞サフカリティ˞　ヤミ　ナ˞ラ˞ヌ [tn̥˞kiguʃi˞ʃi ˞pan ˞sn̥ɸukariti˞ jami na˞ra˞nu](竹串で足を突き刺されて痛くて堪らない)。

サフ˞ケー˞マ [saɸu̥˞keː˞ma] 【名】小さく尖ったもの。小さくて鋭く尖ったもの。-マ [-ma](小さいもの、親愛なるものを表す語) は指小辞 (diminutive)。サフ˞ケー˞マ　˞トゥン˞ガリ　˞ブー　ムノー˞　パ˞ダカウワ˞ヌ　シ˞ティリ [saɸu̥˞keː˞ma ˞tuŋ˞gari ˞buː muno:˞ pa˞dakauwa˞nu ʃi̥˞tiri](先が鋭く尖っているものは、見るだけで肌がむずむずする < 肌が痒い。肌がすくむ > ので捨てなさい)。タ˞キパシヌ˞　サ˞キ˞　キ˞ジテイ˞　サフ˞ケー˞マ　˞ナシ　˞シケー [tn̥˞kipaʃinu˞ sn̥˞ki˞ ki˞ʤiti saɸu̥˞keː˞ma ˞naʃi ˞ʃi̥keː](竹箸の先を削って鋭利なものにしてある)。

ザフ˞ティ [ʤaɸu̥˞ti] 【副】ぐさりと。ざくっと。柔らかいものを突き刺すさま。˞マンズイ˞ヌ　˞ナル　˞ユクンシ　ザフ˞ティ　ピッ˞キティ　˞アーシウタ˞シバ [˞manʤui˞nu ˞naru ˞jukuŋʃi ʤaɸu̥˞ti pik˞kiti ˞ʔaːʃiʔuta˞ʃiba](パパイヤの実を銛でぐさりと突いて、挽ぎおとしなさいよ)。˞シー˞メーユクンシ　イ˞ラブ˞チ　ザフ˞ティ˞　シ˞キピッ˞キ [˞ʃiː˞meːjukuŋʃi ʔi˞rabu˞ʧi ʤaɸu̥˞ti˞ ʃi̥˞ki pik˞ki](スジブダイを鉤のない銛でぐさりと突き刺しなさい)。

˞サフン [˞saɸuŋ] 【名】石鹸。˞サッフン [˞saɸɸuŋ](石鹸) ともいう。ポルトガル語のシャボン [sabão](石鹸) の転訛したもの (『広辞苑』)。石垣方言からの借用語か。石鹸の無かった昔は、˞ウンヌ˞カザ [˞ʔunnu˞kaʤa](芋蔓) の葉などを揉んで、その青汁で髪を洗ったり、ア˞ガミツァ [ʔa˞gamitsa](赤粘土。「赤にた < 湿地 >」の義) で女性は長い髪を洗った。明治生まれの古老の言葉。若年層では死語化しつつある。˞ティー˞ヤ　˞サフンシ　シカイ˞トゥ˞　ア˞ライ˞ヨー [˞tiː˞ja ˞saɸuŋʃi ʃi̥˞kai˞tu˞ ʔa˞rai˞joː](手は石鹸でしっかりと洗いなさいよ)。

ザ˞ブンティ [ʤa˞bunti] 【副】ざぶんと。水が激しく打ちつけられる音。擬音語。ザ˞ブンティ˞　ス˞ナ˞カー　トゥ˞ビクムタ [ʤa˞bunti˞ su˞na˞kaː tu˞ bikumuta](ざぶんと海中に飛び込んだ)。

サ˞ボーリルン [sa˞boːriruŋ] 【自動】さびれる。衰えて見る影もなくなる。荒廃する。荒れ果てる。プ˞スヌ˞　ブ˞ラーン˞カー　˞シマー　サ˞ボーリルン [pu̥˞sunu˞ bu˞raːŋ˞kaː ˞ʃima: sa˞boːriruŋ](人がいないと島は寂れる)。ム˞カ˞シェー　ウ˞ヌス˞ク　サ˞カリブタ˞　ヤー　ヤ˞ルヌ˞　ッ˞ふァヌ˞　ブ˞ラーン　ナッ˞ター　サ˞ボーリ　ナー˞ヌ [mu˞kaʃe: ʔu˞nusu̥ ˞ku sa˞kaributa˞ ja: ja˞runu˞ f˞fanu˞ bu˞raːnnat˞taː sa ˞boːri naː˞nu](昔はあれ程に繁昌していた家であるが、子供がいなくなったので寂れてしまった)。サ˞ボーリランティ˞　ア˞ザバン˞　ナシパンジョーヌ　˞ナーン˞カー　サ˞ボーリルン˞ダー [sa˞boːriranti˞ ʔa ˞ʤaban˞ naʃipanʤoːnu ˞naːŋ˞kaː sa˞boːrirun˞daː](寂れないとは言っても、子孫繁昌が無くては寂れるよ)。サ˞ボーリル　ヤー˞ヤ　サ˞ボーリリ [sa˞boːriru jaː˞ja sa˞boːriri](寂れる家は寂れろ)。

サ˞ボールン [sa˞boːruŋ] 【自動】寂れる。落ちぶれる。零落する。「さびる < 寂びる > 下二段活用」

の四段活用化したもの。プ˞スヌ˥　ブ˞ラーン　ヤー˥ヤ　ッ˞サ˥ヌ　˞ムイカバ˥シティ　サ˞ボーリベー [pu̥˞sunu˥ bu˞raːɲ jaː˥ja ˥s˞sa˥nu ˞muikaba˥ʃi̥ti sa˞boːri beː](人のいない家は、草が伸び放題で寂れている)。˞ティー˥リ　˞サン˥カー　サ˞ボールン˥ダー [˞tiː˥ri ˞saŋ˥kaː sa˞boːrun˥daː](手入れしないと寂れるよ)。˞ガッコー˥ヌ　˞ナーン˥ナルカー　˥シマー　サ˞ボールン˥ティ　シ˞タヌ˥　˞フン˥トー　サ˞ボーリ　ナー˥ヌ [˞gakkoː˥nu ˞naːn˥naruka: ˥ʃimaː sa˞boːrun˥ti ʃi̥˞tanu ɸun˥toː sa˞boːri naː˥nu](学校が無くなると島は寂れるといったが、本当に寂れてしまったなあ)。プ˞スヌ˥サーギ　˞ブー˥カー　サ˞ボーラヌ˥　サ˞ボール˥クトー　˞ナーン˥パジ [pu̥˞sunu˥saːgi ˞buː˥kaː sa˞boːranu˥ sa˞boːru˥ku̥toː ˞naːm˥pa ʤi](人がさえいたら寂れない。寂びれることはないはずだ)。サ˞ボーレー˥　ミサムヌ [sa˞boːreː˥ misamunu](寂びればよいのに)。サ˞ボール˥　トンマー　サ˞ボーリ [sa˞boːru˥ tommaː sa˞boːri](寂れるところは寂れろ)。

ザ˞ボーンザボーン˥シ [ʤa˞boːnʤaboːŋ˥ʃi] 【副】ざぶんざぶんと。水中で飛び跳ねるさま。ザ˞ボーンザボーン˥シ　˥オンダー　˞シーベー [ʤa˞boːnʤaboːŋ˥ʃi ˥ʔonda: ˞ʃiːbeː](ざぶんざぶんと泳ぎ回っている＜海水浴をしている＞)。

サ˞マ [sa˞ma] 【名】しらふ (素面)。酒を飲んでいない平常の状態。˞ビープスン˥ナーニ　ノー˞ンティ˥　ア˞ザバン　ユー˥ゾー　˞ナー˥ヌ　サ˞マヌ˥　ピンナー　ア˞ジ　シゥカシ [˞biːpusun˥naːni noː˞nti˥ ʔa˞ʤabaɲ juː˥ʤoː ˞naː˥nu sa˞manu˥ pinna: ʔa˞ʤi si̥kaʃi](酔っ払い＜酔人＞には何を言っても役にたたない＜何の養生にもならない＞。素面のときに言って聞かせなさい＜教え諭しなさい＞)。サ˞マネー˥　ウ˞シダマリティ˥　サ˞キ˥　ヌムカータ　フ˞チブシ [sa˞maneː˥ ʔu˞ʃidamariti˥ sḁ˞ki˥ numukaːta ɸu̥˞ʧibuʃi](しらふ＜素面＞では押し黙っていて、酒を飲むと饒舌家＜口武士＞になる)。

ザ˞マ [ʤa˞ma] 【名】様。有様。体裁。おもむき。なりふり。対象をあざけっていう場合にいう。ザ˞マー　ナー˥ン　ム˞ニ˥バ　イ˞ジ　アー˥ク [ʤa˞maː naː˥m mu˞ni˥ba ʔi˞ʤi ʔaː˥ku](体裁のない言葉＜訳のわからないこと。責任の持てない話＞を話している)。ウ˞ヌザマー˥　ヌーヤ　ウ˞レー [ʔu˞nu ʤamaː˥ nuːja ʔu˞reː](そのていたらく＜体たらく＞は何事だ)。˥ウヌ　˥ザマ　˥ナリ　˞ナー˥ヌ [˥ʔunu ˥ʤama ˥nari˞naː˥nu](その体たらくになってしまった)。

ザ˞マ [ʤa˞ma] 【名】邪魔。さまたげ (妨げ)。妨害。障害。プ˞スヌ˥　ザ˞マー　サンブリ˥バ [pu̥˞sunu˥ ʤa˞maː samburi˥ba](他人の邪魔はするな＜しないでおれ＞よ)。˥ウナー　˥タトゥカー　ザ˞マ˥　ヤ˞ルンダ˥　カ˞マー˥　マ˞ダ˥キ [˥ʔunaː ˥tḁtuka: ʤa˞ma˥ ja˞runda˥ ka˞maː˥ ma˞da˥ki](そこに立つと邪魔だから、あそこへ退きなさい)。

ザ˞マー　ナー˥ヌ [ʤa˞maː naː˥nu] 【連】みっともない。体裁が悪い。結果がそれに相応しくない。けじめをつけない。始末が悪い。無責任である。ザ˞マー　ナーン˥　ム˞ニ˥バ　イ˞ジアーク [ʤa˞maː naːm˥ mu˞ni˥ba ʔi˞ʤiʔaː˥ku](始末のわるい、無責任なことを言っている)。ザ˞マー　ナーン˥　プ˞ス˥　ヤ˞ルンダ˥　ウ˞リンマー˥　タ˞ナマラ˥ヌ [ʤa˞maː naːm˥ pu̥˞su˥ ja˞runda˥ ʔu˞rimmaː˥ ta˞namara˥nu](無責任な＜けじめのない＞人だから、彼には頼まれない)。

サ˞マ˥ザマ [sa˞ma˥ʤama] 【名】いろいろ。種々。様々。歌謡語。/～ヌチヌ　アリワドゥ　チムヌ　ウムティン　ククルヌ　アルティン　ジュウージュー　サマザマ　カナティ　イカリサ～/(命があればこそ胸中の思いも心中の望みも重々様々＜重々無尽＞に叶えて行けるものだ)「鳩間口説」。

サ˞マシフチ˥ル [sa˞maʃiɸuʧi˥ru] 【名】熱冷まし。解熱剤。「冷まし薬」の義。サ˞マシフチ˥ル　˥ヌミティ˥ニチ　サ˞マ˥シバ [sa˞maʃiɸuʧi˥ru ˥numiti ˥niʧi sa˞ma˥ʃiba](解熱剤を飲んで熱を冷ましなさい)。

サ˞マ˥スン [sa˞ma˥suŋ] 【他動】 ¹冷ます。冷やす。˥ニチ　サ˞マ˥スン [˥niʧi sa˞ma˥suŋ](熱を冷ます)。˥ニチ　サ˞マ˥スンティ　ウ˞ムー˥タンティン　フ˞チル˥ヌ　˞ナーン˥カー　サ˞マサラ˥ヌ [˥niʧi sa˞ma˥sunti ʔu˞muː˥tantiŋ ɸu̥˞ʧiru˥nu ˞naːŋ˥kaː sa˞masara˥nu](熱を冷まそうと思っても薬がないと冷まされない)。˥ニチ　サ˞マ˥ス　˥クトゥグライヤー＜ク˞トゥ˥ヌ　ア˞タロー＞　˥ドゥーシ　サ˞マ˥シェー　˥ミサムヌ [˥niʧi sa˞ma˥su ˥ku̥tuguraija:＜ku˞tu˥nu a˞taroː＞ ˥duːʃi sa˞ma˥ʃeː ˥misamunu](熱を冷ますことぐらいは自分で冷ませばよいのに)。˥ニチ　サ˞マシ˥　プサカー　˞ダンダン˥シ　˥ドゥーシ　サ˞マ˥シ [˥niʧi sa˞maʃi˥ pu̥saka: ˞dandaŋ˥ʃi ˥duːʃi sa˞ma˥ʃi](熱を冷ましたければ、さっさと自分で冷ませ)。²覚ます。迷いを解く。悟らせる。ユ˞ナカー˥ラ　˞ミー˥　サ˞マ˥シティ　ニ˞バランセン [ju˞nakaː˥ra ˞miː˥ sa˞ma˥ʃi̥ti ni˞baraŋʃeŋ](夜中から目を覚まして眠れなかった)。シ˞トゥム˥ティ　˞サン˥ジナー　ヤー

˞ディン˞　ミー　サ˞マ˞スン　シ˞バルン˞ドゥ　ミー　サ˞マサ˞リ˞ツォー＜ウ˞コーサ˞リ˞ツォー＞[ʃi̥˞tumu˞ti ˞san˞ʤina: ja:˞dim˞ mi: sa˞ma˞suŋ ʃi˞barun˞du ˞mi: sa˞masa˞ri˞tso:＜ʔu˞ko:sa˞ri˞tso:＞](午前3時に必ず目を覚ます。尿意で目が覚まされるんですよ)。˞ミー˞　サ˞マ˞ス　プ˞ソー　パー˞ク　˞ミー˞　サ˞マ˞シ [˞mi:˞ sa˞ma˞su pu̥˞so: pa:˞ku ˞mi:˞ sa˞ma˞ʃi](目を覚ます人は早く目を覚ませ)。˞ミー˞　サ˞マ˞シェー　˞ミサムヌ [˞mi:˞ sa˞ma˞ʃe: ˞misamunu](目を覚ませばよいのに)。

サ˞マタギ˞ルン [sa˞matagi˞ruŋ]【他動】妨げる。邪魔する。ウ˞リヌ˞　シ˞グトー˞　サ˞マタギ˞ルンティ　シ˞タンティン˞　サ˞マタギララ˞ヌ [ʔu˞rinu˞ ʃi˞guto:˞ sa˞matagi˞runti ʃi̥˞tantin˞ sa˞matagirara˞nu](彼の仕事を妨げようとしても妨げられない)。サ˞マタギ˞ル　プ˞ソー˞　サ˞マ˞タギ　˞ミサン [sa˞matagi˞ru pu̥˞so:˞ sa˞ma˞tagimisaŋ](妨げる人は妨げてもいい)。プ˞スヌ˞　シ˞グトゥ˞　サ˞マタギ˞レーラー　˞デー˞ジ˞ゲ˞ラ [pu̥˞sunu˞ ʃi˞gutu˞ sa˞matagi˞re:ra: ˞de:˞ʤi ˞ge˞ra](他人の仕事を邪魔したら大変さ)。ク˞レー˞　サ˞マタギ˞リ [ku˞re:˞ sa˞matagi˞ri](これは妨げよ)。

サ˞マ˞タグン [sa˞ma˞taguŋ]【他動】妨げる。邪魔する。妨害する。「妨ぐ＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。サ˞マタギ˞ルンとも言う。ウ˞リヌ˞　シ˞グトー˞　イッ˞カ˞　サ˞マタガン˞ティ　ウ˞ムータン˞ドゥ　サ˞マ˞タギ　˞ナー˞ヌ [ʔu˞rinu˞ ʃi˞guto:˞ ʔik˞ka˞ sa˞matagan˞ti ʔu˞mu:tan˞du sa˞ma˞tagi ˞na:˞nu](彼の仕事は決して妨げないと思ったが、妨げてしまった)。サ˞マ˞タグ　˞クトー　サ˞マタグン˞ドゥ　プ˞スヌ˞　シ˞グトゥバ˞　サ˞マ˞タゲー　ナ˞ラ˞ヌ [sa˞ma˞tagu ˞kuto: sa˞matagun˞du pu̥˞sunu˞ ʃi˞gutuba˞ sa˞ma˞tage: na˞ra˞nu](妨げることは妨げるが、他人の仕事ば妨げてはならない)。˞ワー　タンガ˞シ　サ˞マ˞タギ [˞wa: taŋga˞ʃi sa˞ma˞tagi](君一人で妨げよ)。

サ˞マダリ˞ムヌ [sa˞madari˞munu]【名】衣服の帯が解けてだらしなくなった者。サ˞キバ˞　ヌミ　˞ビータリティ　サ˞マダリ˞ムヌ　˞ナリティ　˞ヌーヤー　ウ˞レー　フージェーナー˞ン [sa˞kiba˞ numi ˞bi:tariti sa˞madari˞munu ˞nariti ˞nu:ja: ʔu˞re: ɸu:ʤe: na:˞ŋ](酒を飲んで酔いつぶれて、衣服の帯びも解け、だらしのない者になって何だこれは。みっともない＜風儀がない。風情がない＞)。

サ˞マ˞ダレー [sa˞ma˞dare:]【名】衣服がだらしなくなった者。帯を締めずに前を開けて裾をぶらつかせるさま。思慮分別のない者。放心状態の者。サ˞マダリ˞ムヌ [sa˞madari˞munu](衣服の帯がだらけて、だらしの無い者) ともいう。「酩酊、恵比佐万太留 (ゑひさまたる)」『新撰字鏡』の転訛したものか。フ˞ク˞ビン　フ˞カシティ˞　サ˞マ˞ダレー　˞ナリ　˞アー˞クムヌ　˞ミリ　˞ッふィーリ˞バ [ɸu˞ku˞biŋ ɸu̥˞kaʃi̥˞ti˞ sa˞ma˞dare: ˞nari ˞ʔa:˞kumunu ˞miri f˞fi:ri˞ba](帯びもほどけて、衣服がだらしなくなっているんだもの、見てやってくれよ)。

サ˞マ˞ルン [sa˞ma˞ruŋ]【他動】縛る。結わえる。くくる。˞キーヌ˞　ユダ　サ˞マ˞ルンティ　˞ベー˞ヌンドゥ　˞バン˞マー　サ˞マララ˞ヌ [˞ki:˞nu ˞juda sa˞ma˞runti ˞be:˞nundu ˞bam˞ma: sa˞marara˞nu](木の枝を結わえよう＜縛る＞としているが、私には結わえら＜縛れ＞れない)。サ˞マ˞ル　˞ムノー　プ˞スタバル˞ナー　サ˞マ˞リ　˞シキ [sa˞ma˞ru ˞muno: pu̥˞sutabaru˞na: sa˞ma˞ri ʃi̥ki](結わえる＜縛る＞ものは、一束ずつ結わえ＜縛っ＞ておけ)。グマー˞グマー˞シ　サ˞マ˞レー　˞ミサムヌ [guma:˞guma:˞ ʃi sa˞ma˞re: misamunu](小さく結わえ＜縛＞ればよいのに)。バ˞ラフ˞タジナシ　サ˞マ˞リ [ba˞raɸu˞ taʤinaʃi sa˞ma˞ri](藁縄で縛れ)。

サ˞マ˞ルン [sa˞ma˞ruŋ]【自動】冷める。熱が下がる。「さむ＜下二段＞」の四段活用に転訛したもの。フ˞チン˞パー　˞シッ˞キティ　˞シル　ス˞ブ˞リ　ヌ˞マ˞スカー　˞ニチェー　サ˞マ˞ルン [ɸu̥˞ʧim˞pa: ˞ʃik˞kiti ˞ʃiru su˞bu˞ri nu˞ma˞su̥ka: ˞nitʃe: sa˞ma˞ruŋ](蓬の葉を搗いて汁を絞って飲ますと熱が下がる＜冷める＞)。マ˞ナ˞マー　˞ニチェー　サ˞マラン˞タンティン　フ˞チ˞ル　ヌ˞マ˞スカー　サ˞マリ　パジミ˞ルン [ma˞na˞ma: ˞nitʃe: sa˞maran˞tantin fu̥˞ʧi˞ru nu˞ma˞suka: sa˞mari paʤimi˞ruŋ](今は熱が冷めなく＜冷まらなく＞ても薬を飲ませると冷め＜冷まり＞始める)。ニ˞チ˞ヌ　サ˞マ˞ル　˞マイ˞ヤー　ア˞シ˞ヌ　ン˞ジ˞ルンダー　ン˞メーマンツァン˞　サ˞マ˞レー　ミサムヌヌ [ni˞ʧi˞nu sa˞ma˞ru ˞mai ˞ja: ʔa˞ʃi˞nu ʔn˞ʤi˞runda: ʔm˞me:mantsan˞ sa˞ma˞re: ˞misamununu](熱が下がる＜冷まる＞前には汗が出るから、少しでも下がれば＜冷まれば＞いいのだが)。

ザ˞マンドゥリ˞カジ [ʤa˞manduri˞kaʤi]【名】方向の定まらない風。˞マイ˞　トゥ˞バスンティ　ベー˞ヌンドゥ　ザ˞マンドゥリカジ˞ヌ　フ˞キ˞ル　トゥ˞バサランバン [˞mai˞ tu˞basunti be:˞nundu ʤa˞mandurikaʤi˞nu ɸu̥˞ki˞ru tu˞basarambaŋ](籾殻(モミガラ)

を風で飛ばそうとしているが、方向の定まらない風が吹いて籾殻(モミガラ)を飛ばされないよ)。

ザ˞マン˥ドゥリカマンドゥリ [ʤa˞man˥durikamanduri] 【副】さまよう (さ迷う) さま。うろうろする。心が安定せずあちらこちらを歩く。˥ミチン　ッ˞サヌ˥　ッ˞シェー˥　プスン　ブ˞ラーン˥　トンナー　ザ˞マン˥ドゥリ　˥カマンドゥリ　˞シェー˥ティ　ヤッ˞トゥ˥シ　˥トゥミ　˞クー˥タ [˥mitʃin s˞sanu˥ ʃ˞ʃe:˥ pu̥sum bu˞ra:n˥ tonna: ʤa˞man˥duri ˥kamanduri ˞ʃe:˥ti jat˞tu˥ʃi ˥tumi ˞ku:˥ta](道も知らない、知っている人もいないところで、さ迷いながらやっとのことで探し当ててきた)。

ザ˞マン˥ドゥルン [ʤa˞man˥duruŋ] 【自動】さ迷う。まごつく。頭が混乱する。不意の出来事でうろたえる。ウ˞ヤ˥ヌ　˞マーラシター˥　ザ˞マン˥ドゥリ　˞ナー˥ヌ [u˞ja˥nu ˞ma:raʃi̥ta:˥ ʤa˞man˥duru ˞na:˥nu](親が亡くなったのでうろたえてしまった)。˥アイブ　˥ピンマー　ター˞ン　ヤラバン˥　ザ˞マン˥ドゥルン　ザ˞マンドゥラン˥　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [˥ʔaibu ˥pimma: ta:˞ɲ jaraban˥ ʤa˞man˥durun ʤa˞manduram˥ pu̥˞so:˥ bu˞ra:nu](そのような時は誰であってもうろたえる。うろたえない人はいない)。ザ˞マン˥ドゥル　˥ピンマー　ザ˞マン˥ドゥレー　ミサムヌ [ʤa˞ma˥duru ˥pimma: ʤa˞man˥dure:˥misamunu](うろたえる時はうろたえればよいのに)。ン˞ベーマー˥　ザ˞マン˥ドゥリ [ʔm˞be:ma:˥ ʤa˞man˥duri](少しはうろたえろ)。

サ˞ミ [sa˞mi] 【名】砕け米。精白の際に米粒が数個に砕けたもので、粉ではない。イ˞クサユー˥ヌ　˥アトー　˞ソー˥キナー　サ˞ミン˥　プ˞サイヤー˥ティ　˞カイバ˥　タ˞キ˥　ッ˞ふァーソーッ˥タ [ʔi˞kusaju:˥nu ˥ʔato: ˞so:˥kina: sa˞mim˥ pu̥˞saija:˥ti ˞kaiba˥ tḁ˞ki˥ f˞fa:so:t˥ta](戦後はソーキ < 竹製の浅い笊 > に砕け米を拾いながら、それでお粥を炊いて食べさせられた)。

サ˞ミ [sa˞mi] 【名】(植) ゲットウ (月桃)。ショウガ科の多年草。葉の長さ約 70 センチ、大きさ約 13 センチ。芳香を有し、餅や握り飯を包むのに用いられる。サ˞ミンパームチェー˥　サ˞ミヌ　パー˥シ　ッ˞ス˥ミテイ　˞ネーソー˥ルンダ　カ˞バッ˥サン　˥アリー　ン˞マー˥ン　˞アッ˥タン [sa˞mimpa:mutʃe:˥ sa˞minu pa:˥ʃi s˞su˥miti ˞ne:so:˥runda ka˞bas˥saŋ ˥ʔari ʔm˞ma:˥ŋ ˞ʔat˥taŋ](月桃餅は、月桃の葉で包んで蒸し煮されるのだから、香ばしくもあり美味しくもあった)。

サ˞ミゴーサ [sa˞migo:sa] 【名】皮膚病の名。かいせん (疥癬) の一種。人疥癬虫が、皮膚の柔らかいところに寄生して起こる発疹。乾燥肌にぶつぶつが出来て膿みは無く、掻くと白くなり、痒い。ウ˞レー˥　サ˞ミゴーサ˥　ガジ˞ベー˥ティ　˞ウン˥ナー　シ˞カットゥ˥カー　ウ˞チ˥ルン˞ダー [ʔu˞re:˥ sa˞migo:sa˥ gaʤi˞be:˥ti ˞ʔun˥na: ʃi̥˞kattu˥ka: ʔu˞ʧi˥run˞da:](彼は乾燥肌の疥癬に罹患して < 疥癬をを掻いて > いるから、それに触る < 接触する > と伝染するよ)。

サ˞ミゴーサー [sa˞migo:sa:] 【名】乾性の疥癬。皮膚病の名。膿みはなくて痒く、掻くと白くなる。˞疥癬 (scabies) 人疥癬虫が、皮膚の柔らかいところに寄生しておこる発疹」『医学沖縄語辞典』。˞ゴー˥サー [˞go:˥sa] は「こせがさ」の転訛したもの。「こせ (瘡)」は「かさ (瘡)、加佐『和名抄』」の義か。サ˞ミ [sa˞mi](砕米粒。米粉になる前の細かい粒状のもの) は、˞ゴー˥サ [˞go:˥sa] に係る修飾語。サ˞ミゴーサ [sa˞migo:sa] は合成語で < サ˞ミ [sa˞mi] のような、ざらざらした疥癬 > の義。サ˞ミゴーサー˥　マ˞ナ˥マー　ミ˞ララン˥バン [sa˞migo:sa:˥ ma˞na˥ma: mi˞raram˥baŋ](乾性の疥癬は、今は見られないよ)。

サ˞ミヌ˥　パナ [sa˞minu˥ pana] 【連】ゲットウ (月桃) の花。サ˞ミヌ˥　パナー　ッ˞ソーッソー˥シティ　イッ˞ケナ　カイ˥ヤン [sa˞minu˥ pana: s˞so:sso:˥ʃi̥ti ʔik˞kena kai˥jaŋ](ゲットウ < 月桃 > の花は真っ白で < 白々として。清浄潔白で > 非常に美しい < 綺麗だ >)。

サ˞ミ˥ルン [sa˞mi˥ruŋ] 【自動】1覚める。酔いが醒める。˞トゥンナキン˥ナー　ヤー˞ディン˥　ミー　サ˞ミルン˥ドゥ　サ˞キ˥　ヌミティ　ニ˞ブ˥カー　˞ミー˥ヤ　サ˞ミラ˥ヌ [˞tunnakin˥na: ja:˞dim˥ mi: sa˞mirun˥du sḁ˞ki˥ numiti ni˞bu˥ka: ˞mi:˥ja sa˞mira˥nu](暁 < 鶏鳴の時 > には必ず目が覚めるが酒を飲んで寝ると目は覚めない)。˥ミー　サ˞ミ˥ル　˥プソー　ユ˞ナカー˥ラ　˥ミー　˥サミティ　ニ˞バラヌ [˥mi: sa˞mi˥ru ˥pu̥so: ju˞naka:˥ra ˥mi: ˥samiti: ni˞baranu](目が覚めるときは夜中から目が覚めて眠れない)。˞パイ˥サ　˥ミー　サ˞ミ˥レー　˥ミサムヌ [˞pai˥sa ˥mi: sa˞mi˥re: ˥misamunu](早く目が覚めればよいのに)。˞パー˥ク　˥ミー　サ˞ミ˥リ [˞pa:˥ku˥ mi: sa˞mi˥ri](早く目覚めよ)。2熱が冷める。「Same, uru eta, サメ、ムル、メタ (冷・覚・醒め、むる、めた) 熱い物が冷える」『邦訳日葡辞書』からの転訛か。フ˞チ˥ル　˥ヌムカー　˥ニチェー　サ˞ミ˥ルン

[ɸu̥ˈtʃiˈru ˈnumukaː ˈnitʃeː saˈmiˈruŋ](薬を飲んだら熱は冷める)。

サ˞ミンパームチ [saˈmimpaːmutʃi] 【名】月桃の葉餅。月桃の葉で包んで蒸した餅。サ˞ミンパームチェー˞ バ˞サン˞パームチェーラン カ˞バッ˞サン ˞アリ ン˞マー˞ン ア˞リ˞ブー [saˈmimpaːmutʃeː˞ baˈsamˈpaːmutʃeːraŋ kaˈbasˈsaŋ ˞ʔari ʔmˈmaːˈŋ ʔaˈriˈbuː](月桃の葉餅は芭蕉の葉餅よりも香ばしくもあり、美味しくもある)。

サ˞ムティ [saˈmuti] 【連】〜しないで。(i) 打ち消した状態を維持する意を表して連用修飾したり、(ii) 条件文を中止して反語表現を作る。動詞˞スン [ˈsuŋ](する) の未然形˞サ [ˈsa](しない) に、打消しの助動詞ン [m](〜ない < ぬ >)+ 接続助詞ティ [ti](〜て) が下接したもの。(i) シ˞グトー˞ サ˞ムティ ンーナッふァイ シー ベー [ʃiˈgutoː˞ saˈmuti ʔnːnaffai ʃiːbeː](仕事はしないで、無駄食いしている)。(ii) シ˞グトー˞ サ˞ムティ ヌー˞スワ [ʃiˈgutoː˞ saˈmuti nuː˞suwa](仕事はしないで、どうするのか < 如何するつもりか >)。

サ˞ムライ [saˈmurai] 【名】さむらい (侍)。武士。士族。パ˞トゥ˞マナー サ˞ムライヤー オーラン˞シェン ムー˞ル˞ アカカラジ ヤ˞ローッ˞タ [pḁˈtu˞manaː saˈmuraijaː ʔoːraŋˈʃeŋ muːˈru˞ ʔakakaraʤi jaˈroːtˈta](鳩間島には侍 < 士族 > は居られなかった。みんな百姓でいらっしゃった < あられた >)。

˞サムン [ˈsamuŋ] 【自動】1熱が冷める。熱が引く。2冷める。覚める。醒める。「さむ < 冷む。覚む。醒む > 下二段活用」の四段活用へ転訛したもの。˞ニチェー マ˞ダ˞ サ˞マ˞ヌ [ˈnitʃeː maˈda˞ saˈma˞nu](熱はまだ下がらない < 冷めない >)。サ˞ミ˞ パ˞ヤー˞ン [saˈmi˞ paˈjaːˈŋ](冷め早い)。˞ニチェー ˞サムクトー サ˞ムン˞ドゥ ˞マー˞ビン ˞パイ˞サ ˞サメー ˞ミサムヌ˞ツォー [ˈnitʃeː ˞samukutoː saˈmun˞duˈmaːˈbim ˞paiˈsa sameːˈmisamunuˈtsoː](熱は冷めることは冷めるが、もっと早く冷めればよいのにさ)。ミ˞ジ˞ ヌミティ ˞ビー サ˞ミリ [miˈʤi˞ numiti ˞biː saˈmiˈri](水を飲んで酔いから醒めよ)。

サ˞ヤ [saˈja] 【名】1さや (莢)。マ˞ミ˞ヌ プ˞ス˞サヤナー ˞マメー ˞ギューシジ ペー˞リ ˞ブーワ [maˈmi ˞nu pu̥ˈsu˞sajanaː ˞mameː ˞gjuːʃiʤi peːˈri ˞buːwa](豆の一莢(サヤ)に豆の実が幾粒入っているか)。2刀の鞘。˞サヤンガタナ [ˈsajaŋgatana](伝説上の、鞘の付いた刀剣。日本刀)。鞘のことを普通は、カ˞タナ˞ヌ ˞シー [kaˈrana˞nu ˞ʃiː](刀の巣 < 鞘 >) という。

˞サヤマミ [ˈsajamami] 【名】(植) エンドウ (豌豆)。˞サヤマメー パ˞トゥ˞マプソー ˞ナン˞ゾー イ˞ボーラン˞シェン [ˈsajamameː pḁˈtu˞mapu̥soː ˞nan˞ʤoːʔiˈboːraŋˈʃeŋ](エンドウは鳩間島の人はあんまり栽培しなかった)。

˞サヤンガタナ [ˈsajaŋgatana] 【名】鞘の付いた刀剣。「鞘の刀」の義。日本刀。鳩間村を創建したという伝説上の人物 (儀佐真主) は˞サヤンガタナ [ˈsajaŋgatana](鞘の付いた刀剣) を宮古の仲宗根豊見親から頂いたという (鳩間真吉氏伝承)。ニ˞シ˞ドーウガンナー ˞サヤンガタナトゥ サ˞カシキヌ ア˞ッ˞タンツォー [niˈʃiˈdoːʔuganna: ˞sajaŋgatanatu sḁˈkaʃi̥kinu ʔatˈtantsoː](西堂御嶽には˞サヤンガタナ [ˈsajaŋgatana](鞘の付いた刀 < 日本刀 >) と盃があったそうだ)。

˞サラ [ˈsara] 【名】1皿。普通は、˞カイ˞キ [ˈkaiˈki](皿。け < 笥 >、万葉集 142) という。˞ウー˞ザラ [ˈʔuː˞ʤara](大皿)。˞チュー˞ザラ [ˈʧuː˞ʤara](中皿)。˞クー˞ザラ [ˈkuː˞ʤaru](小皿) 等がある。˞ウー˞ザラナン˞ブシ˞ムヌ イ˞リ˞ シケーバ ˞ナーメーメーヌ クー˞ザラナ ˞バキ ˞トゥリバ [ˈʔuː˞ʤarana ʔm˞buʃiˈmunu ʔiˈriˈ ʃikeːba ˞naːmeːmeːnu kuː˞ʤarana ˞baki ˞turiba](大皿に蒸し煮したものを入れてあるから、各自の小皿に分けて取りなさい)。2皿の形状をしたもの、ひざざら (膝蓋骨) や頭頂骨、くるぶし (踝) など。ク˞ルビティル˞ ス˞ブシヌ˞ サ˞ラ˞バ バ˞リ˞ シケーバン [ku˞rubitiru˞ su˞businu˞ sa˞ra˞ba ba˞ri˞ ʃi̥keːbaŋ](転んで膝の膝皿を強打して < 割って > あるよ)。˞パン˞ヌ サ˞ラー˞マ ˞パラーナ ˞キリ ア˞ティティ˞ ヤミ ナ˞ラ˞ヌ [ˈpan˞nu sa˞raː˞ma ˞paraːna ˞kiri ʔa˞titi˞ jami na˞ra˞nu](踝を柱に蹴り当てて痛くてたまらない)。

サ˞ラ [saˈra] 【接頭】さら (更)。まっさら (真っ新)。混じりけのない。石垣方言からの借用語か。サ˞ラミー˞ムヌ ヤ˞ルヌ˞ ッ˞ふムヌ˞ン ˞カタチニル ミ˞ラ˞リ [saˈramiː˞munu ja˞rundu˞ f˞fumunu˞ŋ ˞kḁtatʃiniru miˈra˞ri](真っ新の新品であるが古物のように見える)。

˞ザラ [ˈʤara] 【名】砂利。枝珊瑚が死んで、その死骸が砂利状になったものにもいう。鳩間島と西表島上原の中間に海中に、枝珊瑚の砂利が集積されて出来た島のような洲がある。終戦直後までは周囲約 200 メートル程の島状の洲をなしていた。これを鳩間島ではユ˞ニ [juˈni](「寄丹」、「寄土」の義か) という。戦後の一時期、これをコンクリート用の砂

利に使用したため、コンクリートの鉄骨が塩分で酸化し劣化したので、現在は使用していない。パ˩トゥ˥マレーヌ　˩インタヌ˥　ユ˩ネーラ˥ル　パ˩トゥ˥マ　˥プソー　˥ザラ　ト˩ロー˥リ　˩コン˥クリー　ス˩ク˥ローッタ [pḁ˩tu˥mareːnu ˩ʔintanu˥ ju˩neːra ˥ru pḁ˩tu˥ma ˥pu̥soː ˥ʤara tu˩roː˥ri ˩koŋ˥kuriː su̥˩ku˥roːtta](鳩離島の西のユニ < 砂利が堆積して出来た砂洲 > から鳩間の人は砂利を取ってコンクリートを造られた)。

サ˩ラー˥ン [sa˩raː˥ŋ] 【形】水分が無く、さらさらしている。カ˩ニクジー˥ヤ　ミ˩ジ˥　サ˩ラー˥ヌ　˩マイ˥　ス˩クララ˥ヌ [ka˩nikuʤiː˥ja mi˩ʤi˥ sa˩raː˥nu ˩mai˥ su̥˩kurara˥nu](砂地 < 兼久地 > はさらさらして水が留まらないから、稲は作られない)。ア˩ガミツァー˥　ム˩チンダーリティ˥　サ˩ラー　ナー˥ヌ [ʔa˩gamitsaː˥ mu˩ʧindaːriti˥ sa˩raː naː˥nu](赤粘土は粘っこくてさらさしていない)。サ˩ラーン˥　トンラ　˩カイ˥シバ [sa˩raːn˥ tonra ˩kai˥ʃiba](さらさらしている所から耕せよ)。ク˩ヌ　ジー˥ヤ　サ˩ラー˥　クトー　サ˩ラー˥ン [ku˩nu ʤiː˥ja sa˩raː˥ ku̥toː sa ˩raː˥ŋ](この土地はさらさらしていることは、さらさらしている)。

サ˩ラー˥ン [sa˩raː˥ŋ] 【形】1流暢である。滑らかである。よどみなく喋る。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー　イッ˩ケナ˥　ムニ　サ˩ラー˥ン [ku˩nu˥ f˩fa:˥ ʔik˩kena˥ muni sa˩raː˥ŋ](この子は非常に言葉が流暢である)。˩シンダイ˥　ムニ　サ˩ラー˥　ナルン [˩ʃindai˥ muni sa˩raː˥ naruŋ](次第に言葉が流暢になる)。ム˩ニ˥　サ˩ラー　ナー˥ンダ　プ˩スヌ˥　マイナー　˥ムニ　イ˩ジユーサヌ [mu˩ni˥ sa˩raː naː˥nda pu̥˩sunu˥ maina: ˥muni ʔi˩ʤiju:sanu](言葉が滑らかでないから人前で話しが出来ない)。ム˩ニ　サラー˥ル　ッ˩ふァ [mu˩ni sara:˥ru f˩fa](言葉の流暢な子)。2敏捷である。仕事などが手際よくでする。機敏に処理する。˩ティー˥　サ˩ラーン˥ダ　シ˩グトー˥　パ˩ヤー˥ン [˩tiː˥ sa ˩raː˥nda ʃi˩guto:˥ pa˩jaː˥ŋ](手が敏捷だから、仕事は速い)。

サ˩ライルン [sa˩rairuŋ] 【他動】さらえる (浚える)。シ˩マッサル˥ヌ　˥ピンマー　˩カーン˥　サ˩ライオーッ˥タン [ʃi˩massaru˥nu ˥pimma: ˩kaːn˥ sa˩raio:t ˥taŋ](島ッサルの祭祀の日には村井戸も浚えられた)。˩カー˥　サ˩ライルンティ　ベー˥ヌ　˩クーリンギサ˥ヌ　サ˩ライララヌ [˩kaː˥ sa˩rairunti beː˥nu ˩ku:riŋgisa˥nu sa˩rairaranu](井戸浚えしようとしているが、崩れそうで浚えられない)。サ˩ライル˥　バ˩カー˥ムヌヌ　ブ˩ラーンバ　ワー˥シ　サ˩ライリ [sa˩rairu˥ ba˩kaː˥mununu bu˩raːmba waː˥ʃi sa˩rairi](浚える若者がいないから、君が浚えなさい)、˥ドゥーシ　サ˩ライヤー˥　ミサムヌ [˥duːʃi sa˩raijaː ˥ misamunu](自分で浚えばよいのに)。2厄祓いする。˥イソーパーレー　˩シー˥　ム˩ラ˥　サ˩ライリ　[˥ʔisoːpaːreː ˩ʃiː˥ mu˩ra˥ sa˩rairi](イソーパーレーをして村の厄を祓え)。

サ˩ラウン [sa˩rauŋ] 【他動】1浚う。2さらえる (浚える)。「さらへ (下二段)」の転訛したもの。˩カー˥　サ˩ラウン [˩kaː˥ sa˩rauŋ](井戸を浚う < 浚える >)。サ˩ラウ˥　プ˩スヌ˥　ブ˩ラーン˥カー　˩カーヤ˥　サ˩ライ˥　プサタンティン　サ˩ラーラヌ [sa˩rau˥ pu̥˩sunu ˥ bu˩raːŋ˥ka: ˩kaːja˥ sa˩rai˥ pu̥satantin sa˩raːranu](浚える人がいないと、井戸は浚えたくても浚えない < 浚えられない >)。˥ドゥーシ　サ˩ライヤー˥　ミサムヌ [˥duːʃi sa˩raijaː˥ misamunu](自分で浚えばよいのに)。˩パー˥ク　サ˩ライ˥バ [˩paː˥ku sa˩rai˥ba](早く浚えよ)。˥ミズ　サ˩ラウン [˥miʤu sa˩rauŋ](溝を浚う < 浚える >)。

サ˩ラ˥カキ [sa˩ra˥kaki] 【名】(植) いばら。刺のある潅木。

サ˩ラサラーッ˥ティ [sa˩rasaraːt˥ti] 【副】さっさと。手際よく。ものごとが流れるように進むさま。˩キュー˥ヌ　シ˩グトー˥　サ˩ラサラーッ˥ティ　シ˩マシバ˥ル　˥マイヤー　˩ユーザリ˥ダー [˩kjuː˥nu ʃi˩gutoː˥ sa˩rasaraːt˥ti ʃi˩maʃiba˥ru ˥maija: ˩juːʤari˥daː](今日の仕事はさっさと済ませてこそ前進できる < 前へ寄れる > のだよ)。

ザ˩ラザラ˥シ [ʤa˩raʤara˥ʃi] 【副】ざらざらと。粒状のものが擦れ合う音の形容 (擬音語)。手触りや肌触りが粗く感じられるさま (擬態語)。イ˩ツァフン˥ツァナー　イ˩ノンヌ　ポーラリティ˥　ザ˩ラザラ˥　シティ　ビ˩ララヌ [ʔi˩tsaɸun˥tsana: ʔi˩nonnu poːrariti˥ ʤa˩raʤara˥ ʃi̥ti bi˩raranu](板床に砂が撒き散らされて、ざらざらして座ることが出来ない < 座れない >)。

˥サラサラジー [˥sarasaraʤiː] 【名】さらさらしている土地。カ˩ニクジー˥ヤ　˥サラサラジー　ヤ˩ルンダ˥　ア˩ミ˥ヌ　˩フー˥タンティン　ム˩ツァーリ˥　ドゥ˩ルゴー˥ダー　サ˩ヌ [ka˩nikuʤiː˥ja ˥sarasaraʤiː ja˩runda˥ ʔa˩mi˥nu ˩ɸuː˥tantim mu˩tsaːri˥ du˩rugoː˥ da: sa˩nu](砂地 < 兼久地 > はさらさらした土地だから、雨が降っても粘っこくなって泥んこになることはない)。

サ˹ラスン [sa˹rasuŋ] 【他動】漂白する。「晒す」の義。日光や風雨に晒す。海水に晒す。˹ヌーヌ˺ サ˹ラスンティ ベーン˺ドゥ ムッ˹トゥ˺ サ˹ラサランバン [˹nu:nu˺ sa˹rasunti be:n˺du mut˹tu˺ sa˹rasarambaŋ](布を晒そうとしているんだが、ちっとも晒されない)。˹ヌーヌ˺ サ˹ラシ˺ プサカー ス˹ナカ˺ナー サ˹ラシ˺バ [˹nu:nu˺ sa˹raʃi˺ pu̥saka: su˹naka˺na: sa˹raʃi˺ba](布を晒したいなら海で晒せよ)。サ˹ラス˺ ピンマー ˹オーシキバ˺ ミレーティ サ˹ラシェー˺ ミサムヌ [sa˹rasu˺ pimma: ˹ʔo:ʃi̥kiba˺ mire:ti sa˹raʃe:˺ misamunu](晒すときは天気を見ながら晒せばよいのに)。ッ˹サ˺ザリ ˹スン˺ケン ナー˹イ キン˺バ ˹グス˺クナー ˺カキシケー [s˹sa˺ʥari ˹suŋ˺ken na:˹i kim˺ba ˹gusu̥˺kuna: ˺kḁkiʃi̥ke:](漂白され過ぎて朽ちかけるまで、着物を石垣にかけ捨て放置してある)。太陽光に当てて放置する。風雨に晒す。乾燥する。˹ウー˺ケー ˺ティダナー サ˹ラサンドー˺シ ˹カーラカシ˺. サ˹ラシェー˺ラ ム˹リ˺ス [˹ʔu:˺ke: ˺tidana: sa˹rasando:˺ʃi ˹ka:rakaʃi˺, sa˹raʃe:˺ra mu˹ri˺su](桶は太陽に干し晒さないで乾かせ。晒してしまったら漏れるよ)。˹ウー˺キ サ˹ラスプソー˺ ブ˹ラーン˫ダー サ˹ラシ˺ プサカー ˹ドゥー˺ヌ ˹ウー˺キ サ˹ラシ˺バ [˹ʔu:˺ki sa˹rasu ˺ pu̥˹so:˺ bu˹ra:n˫da: sa˹raʃi˺ pu̥saka: ˹du:˺nu ˹ʔu:˺ki sa˹raʃi˺ba](桶を晒す人はいないよ。晒したければ自分の桶を晒せ)。

サ˹ラスン [sa˹rasuŋ]【他動】枯らす。枯れさせる。ス˹クリ˺ムノー ミ˹ジカキラン˺カー サ˹ラスン˺ダー [su̥˹kuri˺muno: mi˹ʤi˺ kḁ˹kiraŋ˺ka: sa˹rasun˺da:](作物は水をかけないと枯らすぞ)。˹キーヌ˺ユダ ˺キシティ サ˹ラシ [˹ki:nu˺ juda ˺ki̥ʃiti sa˹raʃi](木の枝を切って枯らせ)。ス˹クリ˺ムノー サ˹ラサン˺ヨーニ ミ˹ジ˺ カ˹キ˺リ [su̥˹kuri˺muno: sa˹rasaŋ˺ jo:ni mi˹ʤi˺ kḁ˹ki˺ri](作物は枯れさせないように水をかけてやりなさい)。サ˹ラス˺ クトー ス˹ナ˫ヨー [sa˹rasu˺ ku̥to: su˹na˫jo:](枯れさせることはするなよ)。˹マー˺ビン サ˹ラシェー˺ ミサムヌ [˹ma: ˺bin sa˹raʃe:˺ misamunu](もっと枯れさせれば良いのに)。

サ˹ラッティ [sa˹ratti]【副】さっと。素早く。急に。サラッ˹ティ˺ ッ˹スリ [sa˹ratti˺ s˹suri](さっと拭け)。ク˹ヌ˺ シ˹グトー˺ ムー˹ル˺シ サラッ˹ティ スー˺カー タ˹デー˺マンチン ナ˹リ˺ス [ku˹nu˺ ʃi˹guto: ˺ mu:˹ru˺ʃi sarat˹ti su:˺ka: ta˹de:˺mantʃin na˹ri˺su](この仕事は皆で素早くやれば短時間の内に < 今すぐに。「唯今の内に」の義 > できる)。

サ˹ラ˺ティー ˹ンーナティー [sa˹ra˺ti: ˹ʔn:nati:]【連】手に何も持たないこと。手ぶら。徒手。「からて (空手)」の義。˺アドーラ ˺ケームヌ サ˹ラ˺ティー ˹ンーナティー˺シェー パ˹ラサラ˺ヌ ガ˹シ˺タクーンツァン ˺シトゥ ム˹タ˺シバ [˺ʔado:ra ˺ke:munu sa˹ra˺ti: ˹ʔn:nati:˺ʃe: pa˹rasara˺nu ga˹ʃi˺taku:ntsaŋ ˺ʃi̥tu mu˹ta˺ʃiba](あんなに遠方から来たのだから、何も持たさずに手ぶらでは帰さ < 行かさ > れない。燻製蛸でもお土産に持たせなさいよ)。

サ˹ラバシ˺キ [sa˹rabaʃi̥˺ki] 【名】どわすれ (度忘れ)。すっかり忘れて思い出せない。サ˹ラ [sa˹ra](完全に。全く) は強意の接頭辞。

サラ˹ラーッティ [sara˹ra:tti] 【副】さっさと。さっと。すばやく。シ˹グトー˺ サ˹ララーッティ˺ カ˹タジ˺キティ ア˹サビ˺バ [ʃi˹guto:˺ sa˹rara:tti˺ ka˹taʤi˺kiti ʔa˹sabi˺ba](仕事はさっさと片付けて遊びなさい)。イ˹チヌマドゥ˺ル ˹パッ˺タユー サラ˹ラーッティ˺ パリ ˹ナー˺ヌ [ʔi˹ʧinuma˺duru ˹pat ˺taju: sara˹ra:tti˺ pari ˹na:˺nu](何時の間に行ったのか、さっさと行ってしまった)。

サ˹リーザリー [sa˹ri:ʥari:] 【副】乾燥した状態。ナ˹ガアミヌ˺ アトゥ ヤ˹ルヌ˺ ミ˹ナ˺カー サ˹リーザリー˺ シティ イッ˹ケン˺ ア˹ザ˺ケーン [na˹gaʔaminu˺ ʔatu ja˹runu˺ mi˹na˺ka: sa˹ri:ʥari:˺ ʃi̥ti ʔik˹keŋ˺ ʔa˹ʥa˺ke:ŋ](長雨の後だが、庭は乾燥して非常に清潔である)。

サ˹リキー [sa˹riki:] 【名】枯れ木。サ˹リキー˺ナ ˺パトゥザヌ ˺シー ス˹ク˺リ ˺シケー [sa˹riki:˺na ˺pḁtuʥanu ˺ʃi: su̥˹ku˺ri ˺ʃi̥ke:](枯れ木に鳩が巣を作ってある)。

サ˹リキスン [sa˹rikisuŋ] 【自動】すっかり枯れてしまう。枯れ尽す。「枯れ切る」の義。˹ペーレーヌ˺ シ˹ジク˺カー ス˹クリ˺ムヌン サ˹リキスンドゥ˺ フ˹チン˺パー ˹カーネー˺ サ˹リキサンドー˺シ ˺ムイ ˹ベーン˺ツォー [˹pe:re:˺nu ʃi˹ʤiku˺ka: su̥˹kuri˺munun sa˹rikisundu˺ ɸu̥˹ʧim˺pa: ka:˹ne:˺ sa˹rikisando:˺ʃi ˺mui ˹be:n˺tso:](旱魃が続くと作物もすっかり枯れ尽くす < 枯れきってしまう > が、蓬だけは枯れ尽さない < 枯れきらない > で生えているそうだ)。

サ˹リスブル [sa˹risuburu] 【名】風雨に曝されて白けた頭蓋骨。されこうべ (髑髏)。「されこうべ (曝頭)」の転訛したもの。イ˹ラ˺カマイヌ フ˹ジマレー˺ナー サ˹リスブルン アッ˺タン [ʔi˹ra˺kamainu ɸu˹

ʤimare:˺na: sa˹risuburuŋ ʔat˺taŋ](イラカマイ＜地名＞の石積み古墓にはされこうべ＜髑髏＞もあった)。

サ˹リタムヌ [sa˹ritamunu]【名】枯れた薪。ナ˹マタム˺ヌ [na˹matamu˺nu](生の薪) の対義語。サ˹リタムヌ˺　ヤ˹ルンダ˺　イッ˹ケナ　ムイルン [sa˹ritamunu˺ ja˹runda˺ ʔik˹kena muiruŋ](枯れた薪だから非常によく燃える)。

サ˹リッサ [sa˹rissa]【名】枯れ草。サ˹リッサー˺　パ˹タ˺キナ　ア˹ツァ˺ミ　˹モーシ˺バ [sa˹rissa:˺ pḁ˹ta˺kina ʔa˹tsa˺mi ˹mo:ʃi˺ba](枯れ草を畑に集めて燃やしなさいよ)。

サ˹リパー [sa˹ripa:]【名】かれは (枯葉)。枯れた葉。サ˹リパー˺　ア˹ツァ˺ミティ　˹モーシ [sa˹ripa:˺ ʔa˹tsa˺miti ˹mo:ʃi](枯葉を集めて燃やせ)。

サ˹リフトゥッチ˺ルン [sa˹riɸututʧi˺ruŋ]【自動】枯れ朽ちる。朽ち果てる。フ˹クンキーヤ˺　ヤ˹マン˺ミーナ　˺キシ　˹トー˺シ　シ˹キ˺ルカー　ッ˹サール˺ヌ　˹ペー˺リティ　サ˹リフトゥッチ˺ルン [ɸu̥˹kuŋki:ja˺ ja˹mam˺mi:na ki̥ʃi ˹to:˺ʃi ʃi̥˹ki˺ruka: s˹sa:ru˺nu ˹pe:˺riti sa˹riɸututʧi˺ruŋ](福木は山の中に切って倒しておくと白蟻が入って朽ち果てる)。

サ˹リプニ [sa˹ripuni]【名】白骨。フ˹ジマレー˺ナー　サ˹リプニン　アッ˺タン [ɸu˹ʤimare:˺na: sa˹ripuniŋ ʔat˺taŋ](フジマレー＜大昔の人を葬った無縁墓＞には白骨もあった)。

サ˹リユダ [sa˹rijuda]【名】枯れ枝。˹キー˺ヌ　サ˹リユダバ˺　プ˹サイ˺　クー [˹ki:˺nu sa˹rijudaba˺ pu̥˹sai˺ ku:](木の枯れ枝を拾ってこい)。

サ˹リルン [sa˹riruŋ]【自動】乾燥する。「枯れる」の義。風雨や太陽光線に晒される。˹ウー˺ケー　˺ティダナー　˺プスカー　サ˹リルン˺ダー [˹ʔu:˺ke: ˺tidana: ˺pu̥suka: sa˹rirun˺da:](桶は日に干すと乾燥して水漏れするぞ)。プ˹ス˺タンティン　サ˹リラヌ [pu̥˹su˺tantin sa˹riranu](干しても乾燥して水漏れしない)。˹ウー˺ケー　サ˹リティ˺　ム˹リ˺ス [˹ʔu:˺ke: sa˹riti˺ mu˹ri˺su](桶は乾燥して水漏れするよ)。サ˹リル˺　ピンマー　ミ˹ジ˺ナー　フ˹クラシ [sa˹riru˺ pimma: mi˹ʤi˺na: ɸu̥˹kuraʃi](乾燥するときは水に浸けてふやかせ＜膨らませ＞)。プ˹スム˺シ　サ˹レー˺ラ　シゥ˹カーランバ˺　メー　サ˹リリ˺バ [pu̥˹sumu˺ʃi sa˹re:˺ra si̥˹ka:ramba˺ me: sa˹ririba](一度乾燥したら使えないから、もう勝手に乾燥しろ)。

サ˹リルン [sa˹riruŋ]【自動】**1**枯れる。「枯れる＜下一段活用＞。燥　加留『新撰字鏡』」の義。˹キー˺ヌ　˺カー　˺パグカー　サ˹リルン˺ダー [˹ki:˺nu ˺ka: ˺paguka: sa˹rirun˺da:](木の皮を剥ぐ戸と枯れるよ)。サ˹リル　キー˺ヤ　サ˹リカキル˺カー　サ˹リラン˺ヨーニ　˹ピンピン˺　ミ˹ジ˺　カ˹キ˺リ [sa˹riru ki:˺ja sa˹rikakiru˺ka: sa˹riraɲ˺jo:ni ˹pimpim˺ mi˹ʤi˺ kḁ˹ki˺ri](枯れる木は、枯れかけると枯れないように毎日水を遣れ＜掛けれ＞)。サ˹レー˺　ミサムヌ [sa˹re:˺ misamunu](枯れればいいのに)。サ˹リリ [sa˹riri](枯れろ)。**2**乾燥する。桶などが乾燥して水漏れする。˹ウー˺キ　˺ティダナー　˺プスカー　サ˹リルン [˹ʔu:˺ki ˺tidana: ˺pu̥suka: sa˹riruŋ](桶を太陽に干すと乾燥して水漏れする)。**3**晒される。海水や日光に晒されて白く変色する。˺バサキンマー　ス˹ナカ˺ナー　サ˹ラス˺カー　ッソーッ˹ソー˺シ　サ˹リルン [˺basakimma: su˹naka˺na: sa˹rasu˺ka: sso:s˹so:˺ʃi sa˹riruŋ](芭蕉着は海の潮水で晒すと白く晒される)。

˺サル [˺saru]【名】さる (申)。十二支の第九番目。˺サディプス [˺sadipu̥su](申年生まれの人)。˺サディマリ [˺sadimari](申年生まれ)。˹サン˺ヌパー　˺シヌ [˹san˺nupa: ˺ʃinu](申の方角。西南西の方角)。˹サン˺ヌパー　˺シノー　ミ˹ドーン˺ッふァヌ　シ˹ティントン [˹san˺nupa: ˺ʃino: mi˹do:ŋ˺ffanu ʃi̥˹tintoŋ](西南西の方角は、女の子の捨てどころ＜諺＞。屋敷の南西の方角には女の子の家を建ててもよいとのこと)。

サ˹ルン [sa˹ruŋ]【自動】**1**枯れる。乾燥する。ア˹ミ˺ヌ　˹ホー˺ンダ　˹マイヤー˺　サ˹ルンティ˺　ウムイティ　サ˹ラサン˺ヨーニ　˺シキ　バ˹リ˺　ミ˹ジ˺　ピ˹クタ [ʔa˹mi˺nu ˹ho:˺nda ˹maija:˺ sa˹runti˺ ʔu-muiti sa˹raŋ˺jo:ni ˺ʃi̥ki ba˹ri˺ mi˹ʤi˺ pi̥˹kuta](雨が降らないので稲は枯れると思って、枯れないように、堰を掘って水を引いた)。サ˹ル˺　クトー　˹ナーヌ˺ヌ　サ˹リ˺　パ˹ヤー˺ンダー　サ˹レー˺ラー　˹デー˺ジ˹ダー [sa˹ru˺ ku̥to: ˹na:nu˺nu sa˹ri˺ pa˹ja:˺nda: sa˹re:˺ra: ˹de:˺ʤi˹da:](枯れることはないが、枯れ早い＜枯れ易い＞から、枯れたら大変だ)。˺アイブ　˺ムノー　サ˹リリ [˺ʔaibu ˺muno: sa˹riri](あんなものは枯れろ)。**2**晒される。日光や風雨に当たって白くなる。˺ティダナ　˺プスカー　サ˹ルンダー (サ˹リルン˺ダー)[˺tidana ˺pu̥suka: sa˹run˺da:(sa˹rirun˺da:)](太陽に干したら晒されるよ)。

˺ザルン [˺ʣaruŋ]【接尾】激しくおこなう。盛んにする。～散らす。˺カムン [kamuŋ](噛む)、˹フンクン [ɸuŋkuŋ](踏む)、ケールン [˹ke:˺ruŋ](ぶった切る) などの動詞の連用形に下接して「盛んに～ちらす。

激しく～する」の意味を表す。˩カン˥ザルン [˩kan˥ʤaruŋ](盛んに噛む。盛んに噛み砕く)。˩フンザルン [˩ɸunʤaruŋ](盛んに踏む。盛んに踏みつける)。˩ケーン˥ザルン [˩keːn˥ʤaruŋ](切り刻む) 等。˩コー˥ムノー˥ユー˩カン˥ザリティ˩ッ˩ふァイ˥ヨー [˩koː˥ muno: ˥ju: ˩kan˥ʤariti ˩fai˥joː](硬い物はよく噛み砕いてから食べなさいよ)。

˥サン [˥saŋ] 【名】桟。戸や障子などの骨。ア˩カルヌ˥サン˥ブリ˩シ˩ティナー˥ヌ [ʔa˩karu˥nu ˥sam˥buri ʃi̥˩tinaː˥nu](障子の桟をを折ってしまった)。ヤ˩ドゥ˥ヌ˩サン˥マー˩シ˩ギル˥マ˩シ [ja˩du˥nu ˩sam˥maː ʃi˩giru˥ ma˩ʃi](戸の桟は杉材がよい)。

˥サン [˥saŋ] 【名】1まじない < 呪い > の標。藁やススキの茎の先をとんぼ結び < 十字形 > に結んだもの。種蒔きした田や畑に挿したり、食べ物を戸外に持ち運ぶ際に添えたりして魔除けとした呪符。˥シチ [ʃi̥tʃi](節祭り) の時は、それに桑の枝を添えて家の四隅の軒に差した。˥マメー˥マキティパ˩タキ˥ヌ˩フンキル˥ヌ˥カドーラ˩ミーパン˥ナ˩カー˩ペー˥リ˥サン˩ユイ˥タ˩ティ˥リ [˥mameː ˥makiti ˩ɸuŋkiru˥nu ˥kadoːra ˩miːpan˥ na˩kaː peː˥ri ˥san ˩jui˥ ta˩ti˥ri](豆を蒔いて畑の一切れの角から三歩内入ってサンを立てなさい < 立てれ >)。2自己の所有権を示す印。ヤ˩マ˥ナー˥キシェー˥キーナー˥ヤ˩パン˩イリティ˩サン˥バ˩ユイ˥シキ [ja˩ma˥naː ˥kiʃe: ˥kiːnaːja ˩paŋ ʔiriti sam˥ba ˩jui˥ ʃi̥ki](山で伐った材木には印を入れてサンを結んでおけ)。

˥サン [˥saŋ]【名】三。˩サングゥ˥チ [˩saŋgwa˥ʧi](三月)。˩サン˥ゴー [˩saŋ˥goː](三合)。˩サン˥ス [˩san˥su](三升)。˥サンダン [˥sandaŋ](三段)。˩サン˥トゥ [˩san˥tu](三斗)。˩サン˥ニン [˩san˥niŋ](三人)。˥サンブン [˥sam-buŋ](三本)。サ˩キ˩サン˥ゴー˩カーソー˥リ [sḁ˩ki saŋ˥goː ˩kaːsoː˥ri](酒を三合売って下さい)。

˥ザン [˥ʤaŋ] 【名】(動) ジュゴン (儒艮)。海草のウミショウブを餌とする哺乳動物。「沖縄では知念半島東方海から中城湾一帯、八重山諸島の石垣、黒島、新城島の周辺海域でジュゴン漁が近代まで行われていた」(『沖縄古語大辞典』) という。現在、名護市辺野古の新基地建設反対闘争の理由の一つに、希少動物ジュゴンの保護が挙げられている。昔から滅多に捕獲できない動物で、その肉や皮は不老の妙薬として王府へ献上され、八重山新城島では租税の一つとされていた。八重山からの献上品は、その皮、肉を煮て天日乾燥して贈ったという (『石垣方言辞典』)。˩ザン˥マー˩ム˩カ˥シェー˩パ˩ナ˥レーラル˩グイ˥フゾーノーティ˩シー˥˩ウ˩サ˥モーッタツォー [˩ʤam˥maː mu˩ka˥ʃe: pa˩na˥reːraru ˩gui˥ɸuʤonoːti ˩ʃiː˥ ʔu˩sa˥moːttatsoː](ジュゴン < 儒艮 > は、昔は新城島 < パナリ > から上納品として納められたそうだ)。

˥サンイチ [˥saŋʔitʃi] 【名】三分の一。˩ミーチヌ˩ピー˥チ [˩miːtʃinu piː˥tʃi](三つの一つ) ともいう。ク˩ヌ˥˩パ˩タキ˥ヌ˥サンイチェー˥バー˩バ˩キ˥ダマ [ku˩nu˥ pa˩taki˥nu ˥saŋʔitʃe: ˥ba: ba˩ki˥dama](この畑の三分の一は私の相続分 < 分け前 > だ)。

˩サンウラ˥シ [˩saŋʔura˥ʃi] 【名】やまおろし (山颪)。山から吹きおろす風。˩カーチーバイ˥ヌ˥ピンマー˩ティ˩ドゥ˥コーラヌ˩サンウラシ˥ヌ˩ア˩ミカジ˥ヌ˩スー˥ワティ˩マイヤー˥˩カ˩ララヌ [˩kaːʧiːbai˥nu ˥pimmaː ti˩du˥koːranu ˩saŋʔuraʃi˥nu ʔa˩mikaʤi˥nu ˩suː˥wati ˩maijaː˥ ka˩raranu](夏至の強風の時はティドゥク山からの山颪の雨風が強くて稲刈りは出来ない < 米は刈られない >)。

˥サンカク [˥saŋkaku] 【名】三角。˥サンカクマシ [˥saŋkakumaʃi](三角形の田地。「三角枡」の義)。ク˩ヌ˥˩カ˩ベー˥サンカクニ˥ブリティ˩カンビン˥ヌ˥ザウ˩ス˩ク˥リバ [ku˩nu˥ ka˩beː˥ saŋkakuni ˥buriti ˩kambin˥nu ˥ʤau sṵ˩ku˥riba](この紙は三角に折って徳利 < 燗壜 > の栓に作れよ)。

˩サンガマ˥チ [˩saŋgama˥ʧi] 【名】戸や障子、天井に用いる桟。約 5 センチ四方、長さ約 3 メートル角材。「桟框」の義か。˩ティンゾー˥ヌ˩サンガマ˥チェー˩フ˩トゥッ˥チ˩ナーン˥バ˩トゥ˩リカイラン˥カー˩ナ˩ラ˥ヌ [˩tinʤoː˥nu ˩saŋgama˥ʧeː ɸṵ˩tut˥ʧi ˩naːm˥ba tu˩rikairaŋ˥ka: na˩ra˥nu](天井のサンガマチ < 桟 > は朽ちてしまったので取り替えないといけない)。

˩サン˥ガラ [˩saŋ˥gara] 【名】断崖。がけ (崖)。トゥ˩マダーヌ˩インター˩サン˥ガラ˥ナリ˩ブー [tu˩ mada:nu ʔinta: saŋ˥gara ˥nari ˩buː](トゥマダーの西側は崖になっている)。

˩サン˥ガラミチ [˩saŋ˥garamiʧi] 【名】崖の道。˩サン˥ガラミチェーラ˩カ˩ユイヤー˥ティル˩ク˩バシター˥ヌ˩ター˥ヤ˩ス˩ク˥ローッタ [˩saŋ˥garamiʧeːra ka˩juijaː˥tiru ku˩baʃi̥taː˥nu ˩taː˥ja sṵ˩ku˥roːtta](崖の道を通いながらクバシターの田圃は作られた)。

˩サンギ˥˩パルン [˩saŋ˥gi ˥paruŋ] 【連】引っ張って行く。引きずって行く。牽引して行く。カ˩ツシンマ˥˩イ˩ガメー˥˩イダフニバ˩サンギ˥˩パルン [kḁ˩

tsuʃimma˞ ʔi˞game:˞ ʔidaɸuniba ˞saŋgi˞paruŋ](カツオ漁船はイカ釣り漁へサバニを引っ張って＜牽引して＞行く)。

˞ザン˞ギリ [˞ʤaŋ˞giri] 【名】坊主刈り。丸刈りにした男の髪型。戦前の小中学校男子生徒の髪型。ア˞メリカユー˞ヌ　˞マイ˞ヤー　˞ガッ˞コーッふァンケーヤ　ムー˞ル　ザン˞ギリ　˞ヤッタ [ʔa˞merikaju:˞nu ˞mai˞ja: ˞gak˞ko:ffaŋke:ja mu:˞ru ʤaŋ˞giri ˞jatta](米国統治以前は学校の男生徒達は皆ザンギリ＜坊主刈り＞だった)。

˞サンギ˞　ン˞ザ˞スン [˞saŋgi˞ ʔn˞ʤa˞suŋ] 【連】引っ張り出す。引きずり出す。˞サンギ˞　ン˞ザ˞シ　˞サーリ˞パリ [˞saŋgi˞ ʔn˞ʤa˞ʃi ˞sa:ri˞ pari](引きずり出してつれて行け)。˞サンギ˞　ン˞ザ˞スンティ　˞スーヌ　サンギ˞　　ン˞ザサラ˞ヌ [˞saŋgi˞ ʔn˞ʤa˞sunti ˞su:nu saŋgi˞ ʔn˞ʤasara˞nu](引っ張り出そうとするが、引っ張り出されない)。

˞サンギンソー [˞saŋginso:] 【名】易者。「三世相」の義。沖縄本島方言からの借用語。普通は、ム˞ヌ˞シリ [mu˞nu˞ʃiri](物知り) という。˞サンギンソーヌ　˞ヤーナ　˞ギー　ウンキ˞　ク˞ラ˞シ　˞クー [˞saŋginso:nu ˞ja:na ˞gi: ʔuŋki˞ ku˞ra˞ʃi ˞ku:](易者＜三世相＞の家に行って、運気を占って＜繰らして＞もらってこい)。

˞サン˞グナー [˞saŋ˞guna:] 【名】淫らな女。淫売女。罵詈表現。沖縄本島方言からの借用語。˞サングァン [˞saŋgwan](三貫、六銭) で密かに売春をしたので、その名があるという (辻君。街娼。『沖縄語辞典』)。˞アイブ　˞サン˞グナーッテー　˞ミリ　ミ˞ラ˞ヌ [˞ʔaibu ˞saŋ˞guna:tte: ˞miri mi˞ra˞nu](あんな淫らな女は見たことがない)。˞サングナー˞ヒャー [˞saŋguna:˞ ça:](淫らな女野郎)。

˞サン˞グナー　˞スン [˞saŋ˞guna: ˞suŋ] 【連】密通する。姦通する。ク˞ビッチン˞ヌ　˞シマナー　˞サン˞グナー　˞スンダー˞　シマズーヌ　プ˞ソー˞　ムー˞ル˞　ッ˞シブー [ku˞bittʃin˞nu ˞ʃimana: ˞saŋ˞guna: ˞sunda:˞ ʃimaʤu:nu pu̥˞so:˞ mu:˞ru˞ ʃ˞ʃibu:](これぽっちの小さな島で密通をするのだから、島中の人は皆知っている)。

˞サン˞グナーン [˞saŋ˞guna:ŋ] 【形】淫らである。男女関係がだらしない。女性に関して用いられる語。ム˞カ˞シェー　˞ナン˞ゾー　˞サン˞グナー　ア˞ラン˞シェンドゥ　チ˞カ˞グロー　˞サッ˞コー　˞サン˞グナーンティ　バ˞ラーリ　ブー [mu˞ka˞ʃe: ˞nan˞ʤo: ˞saŋ˞guna: ʔa˞raŋ˞ʃendu tʃi̥˞ka˞guro: ˞sak˞ko: ˞saŋ˞guna:nti ba˞ra:ri bu:](昔はそれほど淫らではなかったが、近頃はあまりにも淫らであると笑われている)。˞サン˞グナール　˞ムノー　キ˞ナイ˞　ム˞ティユーサ˞ヌ [˞saŋ˞guna:ru ˞muno: ki˞nai˞ mu˞tiju:sa˞nu](淫らな女は家庭を作ることは出来ない)。

˞サングニ˞チ [˞saŋguni˞ʧi] 【名】産後の熱。医師のいない島の、衛生環境の良くない地炉での出産であるから、分娩時の処置による細菌感染によって発熱することがあった。それが過去における妊産婦死亡の主因であったという『医学沖縄語辞典』。鳩間島でも˞サングニ˞チは恐れられていた。˞サングニ˞チ　カ˞カ˞ルカー　˞デー˞ジ　ヤ˞ルンダ˞　イ˞ジン˞ジ　˞ピーヌク˞ミティ　˞アシ　パ˞ラ˞シティ　ア˞ゾーッ˞タ [˞saŋguni˞ʧi kḁ˞ka˞ruka: ˞de:˞ʤi ja˞runda˞ ʔi ˞ʤin˞ʤi ˞pi: nu˞ku˞miti ˞ʔaʃi pa˞ra˞ʃiti ʔa˞ʤo:t˞ta](産後の熱に罹ったら大変だから、頑張って地炉の火に当たって体を温めなさいといわれた)。

˞サングァ˞チ [˞saŋgwa˞ʧi] 【名】三月＜老年層＞。˞サンガ˞チ [˞saŋga˞ʧi](三月。＜若年層＞) ともいう。˞サングァ˞チヌ　˞シケー　ウ˞ル˞ズン　˞ペー˞ルン [˞saŋgwaʧi˞nu ˞ʃi̥ke: ʔu˞ru˞ʤum ˞pe:˞ruŋ](三月の月はウルズン＜初夏＞にはいる)。

˞サングァ˞チサニチ [˞saŋgwa˞ʧisaniʧi] 【名】旧暦三月三日の行事。˞サンガ˞チサニチ [˞saŋga˞ʧisaniʧi]＜若年層＞ともいう。菱形のフ˞チン˞パームチ [ɸu̥˞ʧim˞pa:muʧi](蓬餅) を作って女の子の健康祈願をした。一年のうちで最も大きく潮が引く日といわれ、女の子は干潮時に皆海へ出て潮干狩りをし、厄祓いをした。

˞サングァンヌ　˞シームヌ [˞saŋgwannu ˞ʃi:munu] 【連】供物の吸い物。「三願の吸い物」の義か。大きな祭祀等で神前や仏前に祈願する際に供える吸い物。イ˞チバンシー˞ムヌ [ʔi˞ʧibaŋʃi:˞munu](一番吸い物)、˞ニーバンシー˞ムヌ [˞ni:baŋʃi:˞munu](二番吸い物)、˞サンバンシー˞ムヌ [˞sambaŋʃi:˞munu](三番吸い物) が供えられる。魚肉の塩煮したものを、3、5、7 切れの奇数個と餅、モヤシ、昆布、野菜二切れは一番吸い物、三番吸い物に必要な食品で、二番吸い物には豆腐三切れを入れた椀一対だけである。˞サングァンヌ　˞シームノー˞　ウ˞ブニン˞ガイナール　ス˞ク˞ローッタ [˞saŋgwannu ˞ʃi:muno: ˞ʔu˞buniŋ˞gaina:ru su̥˞ku˞ro:tta](三願の吸い物は大きな祈願の際に作られた)。

˞サングン [˞saŋguŋ] 【他動】引張る。牽引する。引きずる。力ずくで引く。しょっぴく。「Sobiqi,u,ijta. ソ

ビキ, ク, イタ (そびき, く, いた) 無理に引っ張る。」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。˥イダフニ ˞サング フンシン˥ヌ ブ˞ラーン˥カー ˞サンギ˥ プサタンティン ˞サンガラヌ˥ イ˞ガメー˥ ン ˞ジララ˥ヌ [˥ʔidaɸuni ˞saŋgu ɸuŋʃin˥nu bu˞raːŋ˥kaː ˞saŋgi˥ pu̥satantin ˞saŋgaranu˥ ʔi˞gameː˥ ʔn˞ʤirara˥nu](板船 < サバニ > を引張る本船がいないと引張りたくても引張られない)。˞サングンティ˥ ウムーカー ノー˞シ シン サンギ [˞saŋgunti˥ ʔumuːkaː noː˞ʃi ʃin saŋgi](引張ると思うなら、いかようにしてでも引張れ)。˞マー˥ビン ˞サンゲー˥ ミサムヌ [˞maː˥bin ˞saŋgeː˥ misamunu](もっと引張ればいいのに)。

˞サンゴー˥ビン [˞saŋgoː˥biŋ] 【名】三合瓶。˞サンゴー˥クビン [˞saŋgoː˥kubiŋ](三合小瓶) の転訛したもの。˞ヨイ˥ヌムヌ [˞joi˥numunu](祝儀の贈り物) や、˞ソッコー˥ムヌ [˞sokkoː˥munu](焼香物。法事の際に、親戚筋から贈られる、˥グシパナ [˥guʃipana]< 酒、花米 > と˞カウ [˞kau]< 板香。線香 >) が供えられるが、酒は三合瓶に入れて供える風習があった。また、ユ˞ミ˥ クイン ˥パル ˥ピン [ju˞mi˥ kuim ˥paru ˥pimmaː](嫁を乞い < 貰い > に行く際には)、サ˞キムイ [sḁ˞kimui](「酒盛り」の義。結納の準備段階の儀式) と称して、男の側から二、三人の男が˞サンゴウ˥ビン [˞saŋgoː˥biŋ](三合瓶) の酒を持参して女性側の家に行き、嫁取りの話を内々にまとめた。˞サンゴー˥ビン ˞ピーティ˥ ユ˞ミ˥ クイン ˞オーッ˥タ [˞saŋgoː˥bim ˞piːti˥ ju˞mi˥ kuiŋ ˞ʔoːt˥ta](三合瓶を引っさげて嫁を乞いに行かれた)。

˞サン˥サギ [˞san˥sagi] 【名】三下がり。三線演奏上の調子 < 音程 >。第三の糸 < 女弦 > を下げて演奏するもの。ク˞ヌ˥ ウター ˞サン˥サギシェー ピ˞カラヌ [ku˞nu˥ ʔuta: ˞san˥sagiʃeː pi̥˞karanu](この歌は三下げでは弾かれない)。

˞サンサ˥ナー [˞sansa˥naː] 【名】おてんば (お転婆)。ウ˞ヌ˥ ッ˞ふァー サンサ˥ナー ˥ナリティ イッ˞カ˥ プ˞スヌ˥ ムニ シゥ˞カヌ [ʔu˞nu˥ f˞faː sansa˥naː ˥nariti ʔik˞ka˥ pu̥˞sunu˥ muni si̥˞kanu](その子はお転婆になって一向に人の忠告 < 言うこと > を聞かない)。

˞ザンザラ˥ゴー [˞ʤanʤara˥goː] 【名】散り散りになること。粉粉に割ること。˥マカルダナーラ マ˞カ˥ル ウ˞ラ˥スンティ ˞アー˥クンケン マ˞カ˥ル ウ˞タ˥シティ ˞ザンザラ˥ゴー ˥ナシ シ˞ティナー˥ヌ [˥makarudanaːra ma˞ka˥ru ʔu˞ra˥sunti ˞ʔaː ˥kuŋkem ma˞ka˥ru ʔu˞ta˥ʃi̥ti ˞ʤanʤa˥rago: ˥naʃi ʃi̥˞tinaː˥nu](水棚 < お椀棚 > からお椀を下ろそうとしていて、お椀を落として粉粉にしてしまった)。

˥サンサン [˥sansaŋ] 【名】(動) せみ (蝉)。油蝉。夏樹上でジージーと鳴く。捕獲しようとすると、小便を放出して飛び立つ。ナ˞チヌ˥ シチ ˞ペー˥ルカー パ˞タ˥キナー ˥サンサンヌ ナ˞キ˥ プ˞スヌ˥ ムニン シゥ˞カラヌ [na˞ʧinu˥ ʃi̥ʧi ˞peː˥ruka: pḁ˞ta˥kinaː ˥sansannu na˞ki˥ pu̥˞sunu˥ munin si̥˞karanu](夏の季節に入ると畑では蝉が鳴いて人の話 < 言葉 > も聞き取れない < 聞かれない >)。

˞サン˥ザン [˞san˥ʤaŋ] 【副】散々に。したたかに。甚だしく。˞アン˥バ ˞パンツァシティ˥ イ˞ゾー˥ムー˞ル ピンガ˥シティ ˞サン˥ザン < シ˞タ˥タカ > イ˞ザリティ˥ マ˞ガリベー [˞ʔam˥ba ˞pantsaʃi̥ti˥ ʔi˞ʤoː˥ muː˞ru piŋga˥ʃi̥ti ˞san˥ʤaŋ < ʃi˞ta˥taka > ʔi˞ʤariti˥ ma˞garibeː](網を手放して魚を総て逃がしてしまって、散々に叱られて縮こまっているよ)。

˥サンサンクド [˥sansaŋkudo] 【名】三三九度。標準語から転訛したもの。祝言の際の献杯の礼。三つ組の酒杯で三度ずつ三回酒杯を献酬すること。˥ニービキヨイナー ˥サンサンクドヌ サ˞カシキ˥ ウ˞コーッ˥タン [˥niːbikijoinaː ˥sansaŋkudonu sḁ˞kaʃiki˥ ʔu˞koːt˥taŋ](結婚式のお祝いには三三九度の盃を受けられた)。

˞サンザンクン˥ザン [˞sanʤaŋkun˥ʤaŋ] 【副】散々に。したたかに。˞サン˥ザン [˞san˥ʤaŋ] の ABCDEBCD 型の重言。強調表現。ウ˞カ˥ヌ ˞ソーヤンツァンヌー˥シカヤーティ ˥ウムイ ˞ベー˥カー ヤン˞バー˥キ カ˞カ˥リ ˥キモー ˞サンザンクン˥ザン ナリ˞ナー˥ヌ [ʔu˞ka˥nu ˞soːjantsan nuː˥ʃikajaːti ˥ʔumui ˞beː˥kaː ˥jam˞baː˥ki kḁ˞ka˥ri ˥kimoː ˞sanʤaŋkun ˥ʤan nari˞naː˥nu](借金の心配ですら、どうなるだろうと思っていたら病気にまで罹ってしまって、心は千千に思い乱れてしまった)。

˥サンシキ [˥saŋʃi̥ki] 【名】さじき (桟敷) の義。˞プー˥ル [˞puː˥ru](豊年祭) の˞ゾーラキ [˞ʤoːraki](奉納芸能) が上演されるのを見物するところ。村のサ˞カサ [sa˞kasa](司。神女) やティ˞ジリ˥ビ [ti˞ʤiri˥bi](男性神職者) が前列に座り、その後ろに村の有識者や招待客が座して奉納芸能を観覧する。その周囲を一般の人々が囲んで奉納芸を立ち見する。海岸道路と東村、西村の境界道路の交わる˞アイ˥ザムトゥ [˞ʔai˥ʤamutu](合流点。交差点) の東南の空間で、イ˞ラカザケー [ʔi˞rakaʤakeː](西加治工家)、ナ˞カザー

ヒー˥テー [naˈkaʤaːçiː˥teː](大城家) の南側、˥マイトゥゼー [˥maituzeː](通事家) の西側、ピˈナイ˥ウガン [piˈnai˥ʔugaŋ](ピナイ < 鬚川 > 御嶽) の東側に位置する。1953 年頃まで、周囲約 3 メートルのアˈコーキー [ʔaˈkoːkiː](アコウ) の巨木が 2 本生えていて、海岸の方へ大きく枝を伸ばしていたが、大型のキット台風で折れてしまった。ピナイ御嶽のヤˈラブ [jaˈrabu](テリハボク) の巨木も同じ台風で折れた。豊年祭には、この空間で東村、西村のカˈシ˥ラ [kaˈʃi˥ra](旗頭) を立てておき、東村西村対抗のˈゾーラキ [ˈʤoːraki](奉納芸能。入子型芸能。「常楽」の転訛か) の競演が行われた後、サンシキの浜へ移動してˈパー˥レー [ˈpaː˥reː](爬竜船) を漕ぎ、竜宮の神より豊穣を招く儀式が執り行われる。豊年祭の二日目も、この場所で東西に分かれてシˈナ˥ピキ [ʃiˈna˥pi̥ki](綱引き) が行われる。

˥サンシキ [˥saŋʃi̥ki] 【名】お産の月。産み月。「産月」の義。普通は、ナˈシ˥シキ [naˈʃi˥si̥ki](産み月) という。˥サンシキ　ナˈリ˥ブバ　˥ドゥク　シゥˈカラシグトー˥　スˈナ˥ヨー [˥saŋʃi̥ki naˈri˥buba ˥duku ʃi̥˥karaʃiguto:˥ suˈna˥jo:](産み月になっているから、あまり力の要る仕事はするなよ)。

˥サンシキヌウタ [˥saŋʃikinuʔuta] 【名】桟敷の歌。神歌の一種。豊年祭に歌われる。ˈプール˥ウタ [ˈpuːru ˥ʔuta] の項参照。

ˈサンジ˥ヌ　ˈサー˥フキ [ˈsanʤi˥nu ˈsaː˥ɸu̥ki] 【連】3 時の茶請け。ˈサンジ˥ヌ　ˈサー˥フキ　ノーˈン˥　ヤˈラバン˥　ンˈザサン˥ノーレー [ˈsanʤi˥nu ˈsaː˥ɸu̥ki noːˈŋ˥ jaˈraban˥ ʔnˈʤasan˥noːreː](3 時のお茶請けに何でも良いから出してくれ < 出さないか >)。

˥サンジャクバサンナル [˥sanʤakubasannaru] 【名】(植) 台湾バナナ。台湾芭蕉。高さ約 150 センチと背が低く、実が大きいので支柱で支える。「三尺バナナ」の義。˥サンジャクバサンナロー　ˈタイ˥パンラル　˥ムティケーティˈダー [˥sanʤakubasannaroːˈtai˥panraru ˥mutikeːtiˈdaː](三尺バナナは台湾から導入された < 持ってきた > そうだよ)。

˥サンジャクマドゥ [˥sanʤakumadu] 【名】ˈ三尺窓」の義。洋風建築の窓で、壁の上半分に作られた窓。タˈカ˥マッドゥ [tą̣ˈka˥madu](高窓) ともいう。この種の窓は鰹節製造工場が建てられるようになって、ナˈヤ [naˈja](納屋) に高窓が設置されたことから始まったという。˥サンジャクマドー　カˈツシンヌ˥　ナˈヤナー˥ル　スˈクラ˥リ　ブˈタ [˥sanʤakumadoːkąˈtsuʃinnu˥ naˈjanaː˥ru su̥ˈkura˥ri buˈta](三尺窓はカツオ漁船の鰹節製造工場の納屋にが < ぞ > 造られていた)。

サンジャˈコー˥マ [sanʤaˈkoː˥ma] 【名】南向きの家の三番座の南西隅。三尺四方の空間。「三尺小間」の義。嫁がずに死去した娘の位牌を設置する棚を作る所という。˥ドゥー　ムˈタ˥ン　ミˈドーン˥ッふァヌ　ˈイーパイヌ˥　タˈナー˥　サンジャˈコー˥マナール　スˈク˥ローッタツォー [˥duː muˈta˥m mi ˈdoːŋ˥ffanu ˈʔiːpainu˥ taˈnaː˥ sanʤaˈko˥manaːru su̥ˈku˥roːttatsoː](嫁がない女の子の位牌の棚は三尺小間に作られたそうだ)。

サンジューˈサンニン˥キ [sanʤuːˈsanniŋ˥ki] 【名】三十三年忌。最後の法事で、死者の霊は三十三年忌の後、昇天して神になるといわれている。ウˈサンギソッコー [ʔuˈsaŋgisokkoː](「押し上げ焼香」の義か) ともいう。サンジューˈサンニン˥キ　ˈスー˥カー　ウˈヤ˥プソー　˥カン　ナˈロー˥ルツォー [sanʤuːˈsanniŋ˥ki ˈsuː˥kaː ʔuˈja˥puso: ˥kan naˈro˥rutsoː](三十三年忌をすると祖霊は神になられるそうだ)。

ˈサン˥シン [ˈsaŋ˥ʃiŋ] 【名】「再饌」の義かという『八重山語彙』。飲食物の御代り。法事の際に供える正式の食事の他に、茶碗に盛り飯して供えるものは、ˈブー˥ソー [ˈbuː˥soː](仏食(ブッショウ)向の転訛か) という。

ˈサンシン [ˈsaŋʃiŋ] 【名】三味線。「三線」の義。三線楽器は、˥シガ [˥ʃiga](胴) と˥サウ [˥sau](棹) に分かれる。棹の上部はスˈブ˥ル [suˈbu˥ru](天 < 面 >) といわれ、天と乳袋の間に調弦用の装置、男弦掛け、女弦掛け、中弦掛けのカˈラ˥クリ [kaˈra˥kuri](巻き締め器。黒檀の材に装飾を施されたもの) がある。胴の上にはˈンー˥マ [ˈʔmː˥ma](駒) が立てられて、弦を張る役を果たす。弦の根はイˈトゥ˥カキ [ʔiˈtu˥kaki](糸掛け) に結ばれて猿尾にかけられる。撥は水牛の角でできている。ˈサンシンマー˥　ザˈヒバリ˥　シˈミル˥カー　イッˈケナ　ナールン [ˈsaŋʃimmaː˥ ʤaˈçibari˥ ʃiˈmiru˥ka: ʔikˈken naːruŋ](三線は胴を蛇皮張りにすると、非常によく鳴る)。

ˈサンシンヌ˥　シˈル [ˈsaŋʃinnu˥ ʃiˈru] 【連】三味線の弦。ˈサンシンヌ˥　シˈロー　ウー˥ジル　ナˈカ˥ジル　ˈミー˥ジルシ　スˈクラ˥リ　ˈブー [ˈsaŋʃinnu˥ ʃiˈroː ʔuː˥ʤiru naˈka˥ʤiru ˈmiː˥ʤiruʃi su̥ˈkura˥ri ˈbuː](三味線の弦は男弦、中弦、女弦で作られている)。

ˈサンシンヌ　ンー˥マ [ˈsaŋʃinnu ʔmː˥ma] 【連】三味線の駒。「三線の馬」の義。単に、ˈンー˥マ [ˈʔmː˥ma](駒) ともいう。パˈトゥ˥マプソー　ˈサンシンヌ　ンー˥

マー　タ˞キ˞シル　ス˞ク˞ローッタ [pḁ˞tu˞mapu̥so: ˞saŋʃinnu ʔm:˞ma: tḁ˞ki˞ʃiru su̥˞ku˞ro:tta](鳩間の人は、三線の駒は竹で＜ぞ＞作られた)。

˞サンシンパク [˞samʃimpaku] 【名】三線箱。三線を収納する家紋をいれた木箱。床の間に置いて保管した。˞サンシンマー　サンシンパク˞ナ　イ˞リティ˞　カ˞キン˞グ　˞サン˞カー　ザ˞ヒバレー˞　キ˞シ˞ス [˞saŋʃimma: saŋʃimpaku˞na ʔi˞riti˞ kḁ˞kiŋ˞gu ˞saŋ˞ka: ʤa˞çibare:˞ ki̥˞ʃi˞su](三線は三線箱に入れて保管しないと蛇皮張は裂ける)。

˞サンシンピキ [˞saŋʃimpiki] 【名】三線弾き。三線演奏者。˞ジーシンカ [˞ʤi:ʃiŋka](ジカタ＜地方＞)ともいう。キ˞チゴンヌ˞　ピンマー　˞サンシンピキヌ˞　ブ˞ラーン˞カー　ブ˞ドゥロー˞　シ˞ララヌ [ki̥˞ʧigonnu˞ pimma: ˞saŋʃimpikinu˞ bu˞ra:ŋ˞ka: bu˞duro:˞ ʃi˞raranu](結願祭の時は三線弾き＜地方＞がいないと踊りは出来ない)。

˞サンシン˞ビラ [˞saŋʃim˞bira] 【名】しゃもじ (杓文字)。「再饌飯箆」の義。老年層の言葉。イ˞ビ˞ラ [ʔi ˞bi˞ra](飯箆) は大きな杓文字で、煮た芋を捏ねるのに用いた。ご飯を掬う杓文字は、˞イー˞ガイ [˞ʔi:˞gai](飯匙) という。日常的にはこの語を多用する。ム˞カ˞シプソー　イ˞ビラ˞バ　˞サンシン˞ビラティ　ア˞ゾーッ˞タ [mu˞ka˞ʃipu̥so: ʔi˞bira˞ba ˞saŋʃim ˞birati ʔa˞ʤo:t˞ta](昔の人は、しゃもじ＜飯箆＞をサンシンビラ＜再饌箆＞といわれた)。

˞サンス˞ダキ [˞sansu˞daki] 【名】三升炊き。米三升炊くことの出来る釜。˞サンス˞ダキナール　バ˞コーシンカ˞ヌ　˞イー˞ヤ　バ˞カサリル [˞sansu˞dakina:ru ba˞ko:ʃiŋka˞nu ˞ʔi:˞ja ba˞kasariru](三升炊きの釜に＜ぞ＞共同作業人員の飯は炊かれる)。

˞サンズ˞ヌ　˞カーラ [˞sanʤu˞nu ˞ka:ra] 【連】三途の川。死者が死んで七日目に渡るという、冥土の途中にあるといわれる川。積善の功あるものは楽に渡り、悪事をつんだものは苦しんで渡るという。˞アブン　˞アー˞ヤン　˞サンズ˞ヌ　˞カーラー˞　バ˞タリ˞　グ˞クラ˞ク　˞シーオー˞ル [˞ʔabuŋ ˞ʔa:˞jan ˞sanʤu˞nu ˞ka:ra˞ ba˞tari˞ gu˞kura˞ku ˞ʃi:ʔo:˞ru](お母さんもお父さんも三途の川を渡って極楽しておられる)。

˞サンズン˞クギ [˞sanʤuŋ˞kugi] 【名】三寸釘。標準語からの借用語。タ˞ル˞キンドーレーナーヤ　˞サンズンクギ˞バ　ウ˞トーッ˞タ [ta˞ru˞kindo:re:na:ja ˞sanʤuŋkugi˞ba ʔu˞to:t˞ta](垂木等には三寸釘を打たれた)。

˞サン˞ソー　˞マールン [˞san˞so: ˞ma:ruŋ] 【連】うろたえる。周章狼狽する。どうしてよいか分からず、うろたえ騒ぐ。頭が混乱して、まごつく。てんてこ舞いする。˞アッ˞タニ　ウ˞ビ˞ヌ　プ˞スヌ˞　ヤ˞ク˞バーラ　˞オー˞ルンティ　シ˞キティ　ヌー˞シル　トゥ˞ル˞ムチ　˞スー˞ユーティ　˞サン˞ソー　˞マーリ　ベー [˞ʔat˞tani ʔu˞bi˞nu pu̥˞sunu˞ ja˞ku˞ba:ra ˞ʔo:˞runti ʃi̥˞kiti nu:˞ʃiru tu˞ru˞mutʃi ˞su:˞ju:ti ˞san˞so: ˞ma:ri be:](急にあれだけの多くの人が役場から来られると聞いて、どうやって接待してよいか分からずうろたえ騒いでいる)。˞サン˞ソー　˞マーリティ˞　ム˞ヌカン˞ガイ　ナ˞ラ˞ヌ [˞san˞so: ˞ma:riti˞ mu˞nukaŋ˞gai na˞ra˞nu](頭が混乱して、ちゃんと考えることが出来ない。＜考えられない＞)。

˞サン˞ダー [˞san˞da:] 【固】人名の一つ。三郎。目下の者に対する見下げた呼び方。沖縄方言からの転訛。鳩間島固有の人名は、˞サン˞ドー [˞san˞do:](三戸) と表記される。˞サン˞ドーザー [˞san˞do:ʤa:](三戸兄さん)。˞サン˞ダーヒー [˞san˞da:çi:](三郎兄さん) は沖縄糸満方言からの借用語であろう。

˞サン˞ダン [˞san˞daŋ] 【名】算段。工面。手段を工夫すること。˞ジン˞ヌ　˞サン˞ダン　˞スンティ　ベー˞ヌンドゥ　ナ˞リン˞ギサ　˞ナーン˞バン [˞ʤin˞nu ˞san˞dan ˞sunti be:˞nundu na˞riŋ˞gisa ˞na:m˞baŋ](お金の工面をしようとしているが、出来そうにないよ)。

˞サンダンブー [˞sandambu:] 【名】1帆の大きさの名称。布三反分の大きさの帆。三反帆船。長い径が五尋、短い径が　二尋の帆船。帆の長径、短径が次のようになっていて、それぞれの名がある。すなわち、四反帆は長径五尋三尺に短径二尋五寸。五反帆は長径七尋に短径二尋ニ尺五寸。六反帆は長径八尋に短径二尋四尺。七反帆は長径九尋に短径三尋一尺。八反帆は長径九広に短径三尋一尺六寸『石垣方言辞典』。2帆船の大きさによる名称。三反帆の舟。サンタンブーの舟には四十石の積載能力があったという。˞サンタンブーナー　˞グイ˞フゾーノーヤ　シ˞ミティル˞　イ˞サナケー˞　ウ˞サ˞モーッタツォー [˞sandambu:na: ˞gui˞ɸuʤo:no:ja ʃi˞mitiru˞ ʔi˞sanake:˞ ʔu˞sa˞mo:ttatso:](三反帆船に御庸布、上納は積んで石垣島へ納められたそうだ)。

˞ザン˞ツァルン [˞ʤan˞tsaruŋ] 【自動】粉粉になる。散り散りに砕ける。砕け散る。˞マカルドング　タ˞ナー˞ラ　ウ˞タシ˞ター　˞ザン˞ツァリ　˞ナー˞ヌ [˞makarudoŋgu ta˞na:˞ra ʔu˞taʃi̥˞ta: ˞ʤan˞tsari ˞na:˞

nu](お椀類を棚から落としたら、粉々に砕けてしまった)。タ˞カーン˞　トンラ　ウ˞タ˞スカー　˞ザン˞ツァルン　パジ˞ダー˞ヌ　ク˞ビッチン˞　トンラ　ウ˞タサ˞バン　˞ザンツァリ˞ス [tạ˞ka:n˞ tonra ʔu˞ta˞suka: ˞ʤan˞tsarum paʤi˞da:˞nu ku˞bittʃin˞ tonrara˞ ʔu˞tasa˞ban ˞ʤantsari˞su](高い所から落としたら砕け散るはずだろうが、たったこれだけの所からは落としても砕け散るよ)。˞ザン˞ツァリ　˞ナー˞ヌ [˞ʤan˞tsari ˞na:˞nu](砕け散ってしまった)。シ˞カットゥダキ˞シ＜シ˞カットゥ˞ウビシ＞　˞ザン˞ツァル　ムヌン˞デー˞カー　˞カウナ [ʃị˞kattudaki˞ʃi＜ʃi ˞kattu˞ubiʃi＞ ˞ʤan˞tsaru munun˞de:˞ka: ˞kauna](触るだけで砕ける散る物であるなら買うな)。˞ザン˞ツァレー　˞ミサムヌ [˞ʤan˞tsare: ˞misamunu](砕け散ればよいのに)。˞ザン˞ツァリ [˞ʤan˞tsari](砕け散れ)。

˞ザンツァン˞シ [˞ʤantsaŋ˞ʃi] 【副】1相手に負けずに堂々と議論する。激しく口論するさま。ヤ˞マトゥプス˞トゥン　ヤ˞マトゥ˞ムニシ　˞ザンツァン˞シ　タ˞タカー˞シ　マ˞キランシェン [ja˞matupụsu˞tuŋ ja˞matu˞muniʃi ˞ʤantsaŋ˞ʃi tạ˞taka:˞ʃi ma˞kiraŋʃeŋ](本土の人＜大和人＞とも標準語＜大和言葉＞で堂々と議論を戦わせて負けなかったよ)。2ざくざくと刈り取るさま。ちょきちょきと切り取るさま。てきぱきと仕事をこなす。バ˞カー˞タン　˞ケンマー　˞ザンツァン˞シ　˞マイヤ˞　カ˞リシタンドゥ˞　マ˞ナ˞マー　ク˞シヌ˞　ヤミ　ナ˞ラ˞ヌ [ba˞ka:˞taŋ˞ kemma: ˞ʤantsaŋ˞ʃi ˞maija˞ka˞riʃị̈tandu˞ ma˞na˞ma: kụ˞ʃinu˞ jami na˞ra˞nu](若かった頃はざくざくと稲を刈り込んだものだが、今は腰が痛くてたまらない)。3頭がずきんずきんと痛む。ニ˞チ˞ヌ　˞アルユー　˞ザンツァン˞シ　ス˞ブル˞ヌ＜ガ˞マジ˞ヌ＞　˞ヤム [ni˞ʧi˞nu ˞ʔaruju: ˞ʤantsaŋ˞ʃi su˞buru˞nu＜ga˞maʤi˞nu＞ ˞jamu](熱があるのか、ずきんずきんと頭が＜髪＞が痛む)。

ザン˞ティ [ʤan˞ti] 【副】擬態語。ぷつんと。ぷつりと。糸や綱、縄などが切れるさま。刃物で物を切断する形容。カ˞ジヌ　スー˞ワティ　フ˞バリ˞シケータ　トゥ˞ム˞ジナー　ザン˞ティ˞　キシパリ　˞ナー˞ヌ [ka˞ʤinu su:˞wati ɸu˞bari˞ʃị̈ke:ta tu˞mu˞ʤina: ʤan˞ti˞ kị̈ʃipari ˞na:˞nu](風が強くて、括っておいた艫綱はぷつんと切れていってしまった)。

˞サン˞ドー [˞san˞do:] 【名】男子の名前。戸籍簿の名前とは別の伝統的な名前 (祖父の名を受け継ぐ名前)。˞サン˞ドーヤ　˞ヤー˞ナー　˞ヤッタ [˞san˞do:ja ˞ja:˞na: ˞jatta](三戸は伝統的な家の名前＜童名＞であった)。

˞サントースン [˞santo:suŋ] 【他動】ぎゅうぎゅう詰めにする。袋の中に杵で搗きながら詰め込む。カ˞シガーフク˞ルナー　˞イー˞シ　˞サントーシ˞　イ˞リリ [kạ˞ʃiga:ɸuku˞runa: ˞ʔi:˞ʃi ˞santo:ʃi˞ ʔi˞riri](朝鮮袋に乾燥ツノマタを詰め込んで入れよ)。カ˞シガーフク˞ルナー　˞サントースンティ　ベー˞ヌンドゥ　˞サントーサラヌ [kạ˞ʃiga:ɸuku˞runa: ˞santo:sunti be:˞nundu ˞santo:saranu](朝鮮袋に詰め込もうとしているが詰め込まれない)。˞サントース˞　プソー˞パンシ　˞サントーシ˞バ [˞santo:su˞ pụso: ˞paŋʃi ˞santo:ʃi˞ba](詰め込む時は足で踏み込んで詰め込めよ)。˞マー˞ビン　˞サントーシェー˞　ミサムヌ [˞ma:˞bin ˞santo:ʃe:˞ misamunu](もっと詰め込めばよいのに)。

˞サン˞トゥ [˞san˞tu] 【名】三斗。三十升。ヤ˞ラ˞ビ　ヤ˞ルンドゥ　サントゥダー˞ラ　カ˞タ˞ムン˞ダー [ja˞ra˞bi ja˞rundu santuda:˞ra kạ˞ta˞mun˞da:](子供だが三斗入り俵を担ぐよ)。

˞サン˞トゥ [˞san˞tu] 【名】三度目の田打ち作業。ム˞カ˞シェー　˞ター˞ヤ　ア˞ロー˞ナ　マ˞トーナ　サン˞トゥ　˞バー˞ケー　ヤー˞ディン　シーソーッ˞タ [mu˞ka˞ʃe: ˞ta:˞ja ʔa˞ro:˞na ma˞to:na san˞tu ˞ba:˞ke: ja:˞diŋ ʃi:so:t˞ta](昔は、田圃は荒こなし＜荒打ち＞、二度耕し、三度耕しまでは必ずなさった＜し為さった＞)。

˞サン˞トゥルサー [˞san˞turusa:] 【名】(動) カマキリ (蟷螂)。昆虫。頭は三角形をし、前肢は鎌状をなし、これで他の虫を捕食する。体色は緑色。子供はこれを捕まえて、˞タンコーマーヤー [˞taŋko:ma:ja:](炭鉱はどこか) と尋ねると、蟷螂が鎌状の前肢をしきりに動かして炭鉱の方角を示す動きをするのを楽しんだ。従って、子供は蟷螂を˞タンコーマーヤー [˞taŋko:ma:ja:] という。ヤ˞ラ˞ビ　˞シェーン˞ケンマー　˞サン˞トゥルサーバ　シゥ˞カ˞ミティ　˞タンコーマーヤーティ　ア˞ジェー˞ティル　ア˞サブタル [ja˞ra˞bi ˞ʃe:ŋ˞kemma: ˞san˞turusa:ba sị̈˞ka˞miti ˞taŋko:ma:ja:ti ʔa˞ʤe:˞tiru ʔa˞sabutaru](子供の頃は蟷螂を捕まえて「炭鉱はどこか」と言いながら遊んだものだよ)。

˞ザン　˞ナルン [˞ʤan ˞naruŋ] 【連】太る。「ジュゴンになる」の義。ジュゴンのように丸々と太ること。˞ヌー˞バ　ッ˞ふァイル˞　アイニ　˞パン˞タリ　˞ザン　˞ナリ　˞ベー˞カヤー [˞nu:˞ba f˞fairu˞ ʔaini ˞pan

˥tari ˥ʤan ˥nari ˩beː˥kajaː](何を食べて、あのように太って、ジュゴンのようになっているのかね)。

˩サン˥ナン **[˩san˥naŋ]**【名】三男。ク˩レー˥　バー　˩サン˥ナン˩ダー [ku˩reː˥ baː ˩san˥nan˩daː](これは私の三男だよ)。˩サンナン˥　カ˩キマカ˥ラーティ　ア˩ザリ　ブー [˩sannaŋ˥ kạ˩kimaka˥raːti ʔa˩ʤari buː](三男は欠けた椀 < 欠けた椀しか相続できない > といわれている)。

˩サン˥ナン　カ˩キマカル **[˩san˥naŋ ka˩kimakaru]**【成】三男は欠け茶碗。三男は欠けた茶碗しか財産分与できないの意。ム˩カ˥シェーラ　˩サン˥ナン　カ˩キマカルティ˥　ア˩ザリティ˥　ザイサンマー　˩ナーン˥ユンダ　マー˩ン˥ナーティン　˥タティミサタン [mu˩ka˥ʃeːra ˩san˥naŋ kạ˩kimakaruti˥ ʔa˩ʤari-iti˥ ʤaisammaː ˩naːŋ˥jundaː maː˩n˥naːtin ˥tatimisa-taŋ](昔から˩三男は欠け茶碗」といわれて財産はないから、何処でも暮らしてよかった)。

˩サンニン˥キ **[˩sanniŋ˥ki]**【名】三年忌。死後満二年目の法事。˩ミーティヌ　ソッ˥コー [˩miːtinu sok˥ koː](三年の焼香) とおいう。˥アボー　˩サンニン˥ケー　イ˩チ　ソーッ˥タカヤー [˥ʔaboː ˩sanniŋ˥keː ʔi ˩ʧi soːt˥takajaː](お母さんの三年忌はいつされたかね)。

˩サン˥ヌ　ティ˩ジ **[˩san˥nu ti˩ʤi]**【連】山の頂上。˩ケーダ˥ヌ　˩サン˥ヌ　ティ˩ジ˥ナー　˩キャーンギキーヌ˥　ヤ˩マシ˥カ　ムイ˩ベーン˥ティ˩ダー [˩keːda ˥nu ˩san˥nu ti˩ʤi˥naː ˩kjaːŋgikiːnu˥ ja˩maʃi̥˥ka mui˩ beːn˥ti˩daː](ケーダ水田地帯の山の頂上には犬槇の木が沢山生えているそうだよ)。˩サン˥ヌ　ティ˩ジェー˥ラ　˥フキ　ウ˩ラ˥ス　カ˩ジヌ　スー˥ワティ　˩マイヤー˥　ムー˩ル　トー˥リ　˩ナー˥ヌ [˩san˥nu ti˩ʤe:˥ra ˥ɸu̥ki ʔu˩ra˥su ka˩ʤinu suː˥wati ˩maijaː˥ muː˩ru toː˥ri ˩naː˥nu](山の頂上から吹き降ろす風が強くて、稲はみんな倒れてしまった)。

˩サン˥ヌパー **[˩san˥nupaː]**【名】申の方角。南西の方角。「さるのはう (申の方)」の義。カ˩ジェー　サン˥ヌパー　˩マーリ˥　パレーン [ka˩ʤeː san˥nupaː ˩maːri˥ pareːŋ](風は南西の方へ回っていった)。

˩サン˥ヌパーカジ **[˩san˥nupaːkaʤi]**【名】申の方角から吹く風。穏やかに吹く風の一種。˩サン˥ヌパーカジ　˥ナレーチバ　˩オーシケー　ノー˥ルン [˩san˥nupaːkaʤi ˥nareːʧiba ˩ʔoːʃi̥keː noːruŋ](西南西 < 申の方角 > の風になったから、天気は良くなる)。

˩サン˥ヌパー　˥シヌ **[˩san˥nupaː ˥ʃinu]**【連】申の方角の片隅。南西の方角。˩サン˥ヌパー　˥シノー　ミ˩ドーン˥ッふァヌ　シ˩ティントン˥ティ　ア˩ザリブー [˩san˥nupaː ˥ʃinoː mi˩doːŋ˥ffanu ʃi̥˩tinton˥ti ʔa˩ʤari buː](屋敷の南西の角は嫁がない女の子の捨て所 < 諺 >、屋敷の南西の方角の片隅には女の子の家を建ててもよい、といわれている)。

˩サン˥バ **[˩sam˥ba]**【名】産婆。戦後に標準語から借用された語。鳩間島には産婆はおらず、経験豊かな取り上げ婆が西村と東村にいた。これを˩カッティ [˥katti](取り上げ婆経験者。自己流。「勝手」の義か) という。西村では宮良ヲナリ氏と大城サカイ氏が昭和四十年頃まで産婆の役 < 取り上げ婆 > を果たしていた。その後保健所の指導により妊婦は石垣島の産婆の世話になって出産するようになった。パ˩トゥ˥マナー　˩サン˥バー　˩オーラン˥ベーティ　˩カッティバ˥　タ˩ナミ˥ル　ッ˩ふァ˥　ナ˩ソーッ˥タ [pạ˩tu˥mana: ˩sam˥ba: ˩ʔoːram˥beːti ˩kattiba˥ ta˩ nami˥ru f˩fa˥ na˩soːt˥ta](鳩間島には産婆がいらっしゃらなかったので、カッティ < お産経験者。取り上げ婆 > を頼んでお産をされた < 子供を生まれた >)。

˩サンバー˥レー **[˩sambaː˥reː]**【名】神歌の一種。豊年祭に旗頭をトゥニムトゥ (宗家) に納める際に歌われる。˩プール˥ウタ [˩puːru˥ʔuta](豊年祭の歌) の項参照。

˩サン˥バガッコー **[˩sam˥bagakkoː]**【名】˩産婆学校」の義。戦後米軍統治下の沖縄本島の中部病院で設置されてた看護婦養成機関。˩クシケヌ˥　ヒ˩ロコネーサンマー　サンバガッ˥コー　ン˩ゾー˥リティ　イ˩ラムティ˥ナーティ　タ˩ケ˥トミチョーヌ　ジョ˩サン˥シ　ナ˩ローッ˥タツォー [˥kuʃi̥keːnu˥ çi ˩rokoneːsammaː sambagak˥koː ʔn˩ʤoː˥riti ʔi˩ramuti ˥naːti tạ˩ke˥tomitʃoːnu ʤo˩saŋ˥ʃi na˩roːt˥tatsoː](小底家の弘子姉さんは産婆学校を出られて西表で竹富町の助産師になられたそうだ)。

˩サンバカッ˥ティ **[˩sambakat˥ti]**【名】取り上げ婆。˩産婆経験者」の義。˩イー˥ネヌ　ブ˩バートゥ˥　ウブシケーヌ　˥アボー　˩サンバカッ˥ティ　ヤ˩ローッ˥タ [˩ʔiː˥nenu bu˩baːtu˥ ʔubuʃi̥keːnu ˥ʔaboː ˩sambakat˥ti ja˩roːt˥ta](西隣の家の伯母さんと大城家のお母さんは取り上げ婆さん < 産婆経験者 > であられた)。

˩サンバ˥シ **[˩samba˥ʃi]**【名】桟橋。1934(昭和 9) 年、鳩間島の護岸の完成と共に桟橋も完成し、石垣、鳩間、西表祖納への˩ウンパン˥シン [˩ʔumpaŋ˥ʃiŋ](定期運搬船) も就航するようになって、島の生活も便利になった。˩スー˥ヌ　˥ピスカー　˩ウンパンシ

ン˥マー　˥サンバシナー　シ˩キララン˥シェン [˩suː ˥nu ˥pi̥suka: ˩ʔumpaŋʃim˥ma: ˥sambaʃina: ʃi̥˩kiraraŋ ˥ʃeŋ](潮が引くと運搬船は桟橋に着けられなかった)。

˩サンバンウラ˥ザ [˩sambaŋʔura˥ʤa] 【名】三番裏座。˩サンバンウラ˥ザナール　˥ジロー　ス˩ク˥ローッタ [˩sambaŋʔura˥ʤana:ru ˥ʤiro: su̥˩ku˥ro:tta](三番裏座に地炉は作られた)。

˩サンバン˥ザー [˩samban˥ʤa:] 【名】三番座。ナ˩カ˥ザ [na˩ka˥ʤa](台所の土間) に面した居間兼食事部屋。主婦の部屋。親戚や隣人達は、ここに上がりこんで雑談をする。この部屋の北側の隅には˩ミー˥スカミ [˩miː˥sukami](味噌瓶) や˩マー˥スカミ [˩maː ˥sukami](塩瓶)、˥ミンスブ [˥minsubu](˩耳壷」の義か。調味料を入れる壷) などが置かれていた。˩サンバン˥ザーナール　˩イー˥ユン　ッ˩ふァイ　ヤーニンズー˥ヌ　パ˩ナシアー˥シン　˥ウナーティル　˩ソーッタ˥ル [˩samban˥ʤa:na:ru ˩ʔiː˥jun f˩fai ja:nin̪ʤu: ˥nu pa˩naʃiʔa:˥ʃiŋ ˥ʔuna:tiru ˩so:tta˥ru](三番座で＜ぞ＞飯も食べ、家族の話し合いも、そこでなされたものだ)。

˥ザンパンタリ [˥ʤampantari] 【名】でぶ。˥ザン [˩ʤaŋ](ジュゴン) のようにまるまると太っていること。ミ˩ドゥム˥ヌ　˥ザンパンタリ　˩スー˥カー　ッ˩ふァ˥　ナ˩サ˥ヌティ　ム˩カ˥シプソー　ア˩ゾーッ˥タ [mi˩dumu˥nu ˥ʤampantari ˩su:˥ka: f˩fa˥ na˩sa˥nuti mu˩ka˥ʃipu̥so: ʔa˩ʤo:t˥ta](女がジュゴンのように太ると子供を産まない、と昔の人はいわれた)。

˩サンバン˥ドゥル [˩samban˥duru] 【名】さんばんどり (三番鶏)。チ˩リドゥル [ʧi˩riduru](連れ鶏) ともいう。夜明けに一斉に鳴く鶏。イ˩チバン˥ドゥル [ʔi˩ʧiban˥duru](一番鶏)、˩ニーバン˥ドゥル [˩niːban˥duru](二番鶏) に続いて鳴く鶏。˩サンバンドゥル˥ヌ　ナ˩ク˥カー　˥ウキティ　ア˩サキ˥ヌ　ス˩コール　ソーッ˥タ [˩sambanduru˥nu na˩ku˥ka: ˥ʔukiti ʔa˩saki˥nu su̥˩ko:ru so:t˥ta](三番鳥が鳴くと起きて朝食の準備をされた)。

˥サンピキ [˥sampiki] 【名】道具の名。幅約 6 センチ、長さ約 30 センチの板の先に左右対称に 2 本ずつ釘を 4 本打ちつけて、アダン葉の左右の刺と中央の刺をを取り除くように作られた器具。これでアダン葉を約 1 センチ幅に裂き採り、乾燥してア˩ダン˥パーゾーリ [ʔa˩dam˥pa:ʤori](アダン葉草履) を編んだ。˥サンピキシ　ア˩ダン˥パー　˥サキ　˥プシティ　˩ゾー˥リ　フ˩モーッ˥タ [˥sampikiʃi ʔa˩dam˥pa: ˥sḁki ˥pu̥ʃiti ˩ʤo:˥ri ɸu˩mo:t˥ta](サンピキでアダン葉を裂き、干してアダン葉草履を編まれた)。

˥サンピンサー [˥sampinsa:] 【名】台湾から輸入された銘茶。˩香片茶」の訛ったもの。˥サンピンサーバ　˩カイ˥　ケーンドゥ　イッ˩ケナ˥　カ˩バッ˥サン [˥sampinsa:ba ˩kai˥ ke:ndu ʔik˩kena˥ ka˩bas˥saŋ](香片茶を買ってきてあるが、非常に香ばしいよ)。

˩サンブ˥イツァ [˩sambu˥ʔitsa] 【名】三分板。厚さ三分 (約 9 ミリメートル) の杉板。家の壁板に用いる杉板。イ˩ツァクビ˥ヌ　˥イツァー　シ˩ギヌ　サンブイツァバ˥ル　シゥ˩カイヨーッ˥タ [ʔi˩tsakubi˥nu ˥ʔitsa: ʃi˩ginu sambuʔitsaba˥ru si̥˩kaijo:t˥ta](板壁用の板は杉板の三分板を使われた)。

˩サンブ˥ヌン [˩sambu˥nuŋ] 【名】三分鑿。極小の穴を掘るのに用いる巾三分の鑿。˩ソージヌ˥　サンナー　˩サンブ˥ヌンシル　˥アナー　プ˩ル˥タ [˩soːʤinu˥sanna: ˩sambu˥nuŋʃiru ˥ʔana: pu˩ru˥ta](障子の桟には三分鑿で＜ぞ＞枘穴(ホゾアナ)は掘った)。

˥サンボー [˥sambo:] 【名】さんぽう (三方)。祭具名。神仏への供物を載せる台。前面、左右面に丸い孔があけてある。˩ソーラン˥ヌ　ム˩ルムロー˥　サンボーナー　˩シン˥ザ　˥シキティ　˩ウン˥ナー　˩バン˥スル　キ˩ダヌ˥ナル　フ˩ナ˥ブンドーレー　˥ッシティ　カ˩ザローッ˥タ [˩soːran˥nu mu˩rumuro:˥ sambo:na: ˩ʃin˥ʤa ˥ʃi̥kiti ˩ʔun˥na: ˩ban˥suru ki˩danu ˥naru ɸu˩na˥bundo:re: ˥ʃʃiti ka˩ʤaro:t˥ta](お盆の供物のムルムルは、三方に砂糖きびを置いて、それに蕃石榴＜グワバ＞、黒檀の実、蜜柑などを挿して飾られた)。

˩ザン˥マイ [˩ʤam˥mai] 【名】夢中になること。一心不乱に事をするさま。˩さんまい (三味)」の転訛したもの。˩ウン˥ネーヤ　˩ヨイ˥ヌ　ス˩コール　スンティ˥　ク˩ヌ˥グロー　ブ˩ドゥルザンマイ　シー　オー˥ル [˩ʔun˥ne:ja ˩joi˥nu su̥˩ko:ru sunti˥ ku˩nu˥guro: bu˩durudammai ʃi: ʔo:˥ru](あの＜その＞家はお祝いの準備をするとて近頃は踊り三味にしておられる)。

˩サンマイ˥ナビ [˩sammai˥nabi] 【名】五升炊きの鍋。グ˩スタキ [gu˩sutaki](五升炊き) ともいう。鍋を製作するのに鉄板を三枚要することからの命名という『石垣方言辞典』。˩ヤースクリヤー˥ヌ　バ˩コーシンカ˥ヌ　˩イー˥ヤ　˩サンマイ˥ナビナール　バ˩カサリル [˩ja:su̥kurija:˥nu ba˩ko:ʃiŋka˥nu ˩ʔiː˥ja ˩sammai˥nabina:ru ba˩kasariru](家屋を建築する家の共同作業員のご飯は三枚鍋で＜ぞ＞炊かれる＜

炊くことが出来る >)。

˹サンマギ˺リ **[˹sammagi˺ri]** 【名】三間切 (さんまぎり)。琉球国時代の石垣、大浜、宮良の三つの間切 (現在の村に相当)。明治三十五年ごろは、石垣間切に十一の村、大浜間切には九つの村、宮良間切には十一の村があった『石垣方言辞典』という。鳩間村は宮良間切に属していた。パ˹トゥ˺マムラー　˹メーラ　マギリナー˺ル　˹ペー˺リ　ブ˹タ˺ツォー [pa˹tu˺mamura: ˹me:ra magirina:˺ru ˹pe:˺ri bu˹ta˺tso:](鳩間村は宮良間切に入っていたそうだ)。

˹サン˺ミン **[˹sam˺miŋ]** 【名】計算。勘定。カ˹ツシンヌ　モー˺キ　˹ギューサ˺ナ　ア˹タル˺ユー　˹サン˺ミン　˹シー˺ミリ [kḁ˹tsuʃinnu mo:˺ki ˹gju:sa˺na: ʔa˹taru˺ju: ˹sam˺miŋ ˹ʃi:˺miri](カツオ漁船の儲けはいくらずつ配当されるか < 当たるか > 計算してみよ)。ク˹レー˺　マ˹ナ˺マー　サンミン˺マー　ナ˹ラ˺ヌ [ku˹re:˺ ma˹na˺ma: ˹sammim˺ma: na˹ra˺nu](これは、今は計算はできない)。˹サン˺ミン　˹シー˺ミリ˹ミー　モーキ˺ル　˹ブー˺ユー　カ˹ブリ˺ル　˹ブーユー [˹sam˺miŋ ˹ʃi:˺miri˹mi: mo:ki˺ru ˹bu:˺ju: ka˹buri˺ru ˹bu:˺ju:](計算してごらんよ。儲けているのか、損をしているのか)。

˹サン˺ミン **[˹sam˺miŋ]** 【名】蚕の三眠。蚕は四眠して後に繭を作った。˹カイコ˺ヤ　˹サン˺ミン　˹スー˺カー　˹ゴーナキー˺ヌ　˹パー˺　ヤ˹マシゥ˺カ　ッ˹ふァイシタ [˹kaiko˺ja ˹sam˺min ˹su:˺ka: ja˹masi̥˺ka ˹go:naki:˺nu ˹pa:˺ f˹faiʃi̥ta](蚕は三眠すると大量に桑の葉を食べた)。

˹サン˺ミン　˹スン **[˹sam˺min ˹suŋ]** 【連】計算する。ク˹レー˺　バー　˺ドゥーシ　˹サン˺ミン　˹スン [ku˹re:˺ ba: ˺du:ʃi ˹sam˺min ˹suŋ](これは私自身で計算する)。

˹サンミンバッ˺パイ **[˹sammimbap˺pai]** 【名】計算違い。˹サンミンチガ˺イ [˹sammintʃiga˺i](計算違い) ともいう。˹サンミンバッ˺パイ　シ˹ティ˺　パ˹ライ˺シギ　˹シー　ナー˺ヌ [˹sammimbap˺pai ʃi̥˹ti˺ pa˹rai˺ʃigi ˹ʃi: na:˺nu](計算違いして、払い過ぎてしまった)。

˹サンムス˺ビ **[˹sammusu˺bi]** 【名】˺サン [˺saŋ](しめ < 標。注連 >) の形に結んだもの。とんぼ結び。バ˹ラフ˺タシ　ヤ˹ラバン　サンムス˺ビ　シ˹ティ˺　ッ˹ふァイムヌヌ　ウイ˺ナー　˺シキティ　ム˹タ˺シバ [ba˹ra˺ɸu̥taʃi ja˹raban sammusu˺bi ʃi̥˹ti˺ f˹faimu-nunu ʔui˺na: ˺ʃi̥kiti mu˹ta˺ʃiba](藁ででもサン結び < とんぼ結び > をして食べ物の上において持たせてやれよ)。

˹サン˺ムヨー **[˹sam˺mujo:]** 【名】産気づくこと。「産模様」の義。ナ˹シ˺シケー　マ˹ダ　クーン˺パジ　˹ダー˺ヌ　˹オーパ˺ヤー　˹サン˺ムヨー　˹シー˺　ブ˹リン˺ギサバン [na˹ʃi˺ʃi̥ke: ma˹da ku:m˺paɕi ˹da:˺nu ˹ʔo:pa˺ja: ˹sam˺mujo: ˹ʃi:˺ bu˹riŋ˺gisabaŋ](産み月はまだ来ないはずだが、そんなに早く産気づいて < 産模様して > いるようだ)。

˺サン　˹ユーン **[˺saŋ ˹ju:ŋ]** 【連】藁やススキの茎でサンを結う。注連縄を結う。トンボ結びの片方結びをする。˹ユシキ˺ヌ　˺フキシ　˺サン　˹ユイティ˺　パ˹タ˺キナ　˺ッシシケー [˹juʃi̥ki˺nu ˺ɸu̥kiʃi ˺saŋ ˹juiti˺ pḁ˹ta˺kina ˺ʃʃiʃi̥ke:](ススキの茎で注連を結って畑に刺してある)。

シ

˥**-シ [˥-ʃi]** 【格助】〜で。1材料を表す。クˬヌ　バーˬケー　タˬキヌˬカーシ　スˬクラˬリ　ˬブー [kuˬnu baːˬkeː taˬkinuˬkaːʃi sɯ̥ˬkuraˬri ˬbuː](この笊は竹の皮で作られている)。˥ガヤーシ　˥ヤー　フˬクン [˥gajaːʃi ˥jaː ɸɯ̥ˬkuŋ](茅で家＜屋根＞を葺く)。2手段、方法を表す。フˬディˬシ　ˬジー˥　カクン [ɸuˬdiˬʃi ˬʤiːˬkɑ̥kuŋ](筆で字を書く)。˥ティーシ　クˬリˬ　カˬサミ [˥tiːʃi kuˬriˬ kɑ̥ˬsami](手でこれを掴め)。イˬガジーˬシ　イˬガ　ホーˬスン [ʔiˬgaʤiːˬʃi ʔiˬga hoːˬsuŋ](餌木でアオリイカ＜烏賊＞を釣る)。3数を表す語について、用言の表す動作を行う人数や数を表す。フˬタールˬシ　˥ムトゥン [ɸɯ̥ˬtaːruˬʃi ˥mutuŋ](二人で持つ)。4原因、理由を表す。〜のために、〜の故に。ウˬブアミˬシ　キˬララン˥シェン [ʔuˬbuamiˬʃi kiˬraraŋˬʃeŋ](大雨で来れなかった)。[接続関係]**(1)** 体言及び体言に準ずる形に付く。1、2、3、4参照。**(2)** 格助詞˥-トゥ [-tu](と＜相手格＞) につく。ˬワットゥ　バン˥トゥシ　スˬクˬレール　ˬヤー˥キナイ　サˬカラシˬ　パラ [ˬwattu banˬtuʃi sɯ̥ˬkuˬreːru ˬjaːˬkinai sɑ̥ˬkaraʃiˬ para](君と僕とで作った家庭を繁昌させていこう)。**(3)** 副助詞カーˬニ [kaːˬni](だけ)、˥-スク [˥-suku](ほど)、˥-ブカラ [˥-bukara](ほど)、-アˬタˬル [-ʔaˬtaˬru](ぐらい)、˥-ダキ [˥-daki](だけ) につく。ˬワーカーニˬシ　シゥˬカウナ [ˬwaːkaːniˬʃi sɨ̥ˬkauna](君だけで使うなよ)。ウˬヌˬスクシ　プˬスヌˬ　マイヤー　ナˬララˬヌ [ʔuˬnuˬsɯ̥kuʃi pɯ̥ˬsunuˬ maijaː naˬraraˬnu](この程度で人の前に立てない)。ウˬヌˬ　アˬタˬルシ　ˬヌーˬヌ　ナˬルˬワ [ʔuˬnuˬ ʔaˬtaˬruʃi ˬnuːˬnu naˬruˬwa](この程度で何ができるものか)。˥ウビ　ダˬキˬシェー　ˬヌンガーラサラˬヌ [˥ʔubi daˬkiˬʃeː ˬnuŋgaːrasaraˬnu](これだけでは許されない)。**(4)** 係助詞˥-ヤ [˥-ja](は)、˥-ル [˥-ru](ぞ)、˥-ン [˥-m,n,ŋ](も) が付く。**(4)** の例、クˬリˬシェー　ムˬチェーˬ　スˬクララˬヌ [kuˬriˬʃeː muˬʧeːˬ sɯ̥ˬkurara ˥nu](これでは餅は作られない)。タˬキˬシル　ˬバー˥ケー　スˬクˬル [taˬkiˬʃiru ˬbaːˬkeː sɯ̥ˬkuˬru](竹でが＜ぞ＞バーキー笊は作るのだ)。ウˬヌ　ユイˬシル　ˬムンドーˬヤ　ウˬクˬレータ [ʔuˬnu juiˬʃiru ˬmundoːˬja ʔuˬkuˬreːta](そのような訳で＜ぞ＞喧嘩＜問答、紛争＞が起きたのだ)。ˬクーˬジシン　˥ティロー　スˬクラˬリン [ˬkuːˬʤiʃin ˥tiroː sɯ̥ˬkuraˬriŋ](トウズルモドキでも笊は作られる)。**(5)** 副助詞˥-ツァン [˥-tsaŋ](すら)、˥サーギ [˥saːgi](さえ)、カーˬニ [kaːˬni](だけ)、ˬ-ナーˬト [ˬ-naːˬto](など) が付く。クˬリˬシンツァン　スˬクラランˬカー　˥ヌーシル　スˬクˬルカヤー [kuˬriˬʃintsan sɯ̥ˬkuraraŋˬkaː ˥nuːʃiru sɯ̥ˬkuˬrukajaː](これですらも作られなかったら、何で作られるのかなあ)。クˬリˬシサーギ　スˬクラˬリカー　ˬソーヤ　ナー˥ヌ [kuˬriˬʃisaːgi sɯ̥ˬkuraˬrikaːˬsoːja naːˬnu](これでさえ作られれば心配はない)。イˬズˬシカーˬニˬ　スˬクランˬドーシ　˥クジン　マˬザーˬシティ　カˬマブクˬ　スˬクˬリバ [ʔiˬʤuˬʃikaːˬniˬ suˬkuranˬdoːʃi ˥kuʤim maˬʤaːˬʃi̥ti kaˬmabukuˬ sɯ̥ˬkuˬriba](魚だけで作らないで、澱粉＜くず、ˬ葛」の義か＞も混ぜて作れよ)。サˬバヌ　ミーˬシˬナーˬト　カˬマブク　シッˬケー　ナˬランˬダー　サˬバヌ　ミーヤ　バックリストˬダー [saˬbanu miːˬʃiˬnaːˬto kaˬmabuku ʃikˬke: naˬranˬdaː saˬbanu miːja bakkurisuˬdaː](鮫の身でなど蒲鉾を搗いてはならんぞ。鮫の身は粘り気がなくて割れ砕けてしまうぞ)。

˥**シー [˥ʃiː]** 【名】1巣。˥パトゥザヌ　˥シー [˥patuʤanu ˥ʃiː](鳩の巣)。トゥˬルヌˬ　シー [tuˬrunuˬ ʃiː](鶏の巣)。˥パトゥザヌ　˥シー [˥pɑ̥tuʤanu ˥ʃiː](土鳩の巣)。トゥˬルヌˬ　シーナ　ˬコー˥マ　˥ナシ　˥シケーン [tuˬrunuˬ ʃiːna ˬkoːˬma ˥naʃi ˥ʃi̥keːŋ](鶏が巣に卵を産んである)。パˬジンヌˬ　シー [paˬʤinnuˬ ʃiː](蜂の巣)。カˬマイˬヌ　˥シー [kaˬmaiˬnu ˥ʃiː](猪の巣)。ッˬサール˥ヌ　˥シー　ˬミシゥˬクカー　フˬチˬル　˥マキ　シˬキˬリ [sˬsaːruˬnu ˥ʃiː ˬmisɯ̥ˬkukaː ɸɯ̥ˬʧiˬru ˥maki ʃi̥ˬkiˬri](白蟻の巣を見付けたら駆除薬＜薬＞を撒いておけ)。2鞘。ヤˬマンガラˬシェー　˥シーナ

˥ッシティル　ムˈトーッ˥タˈダー [jaˈmaŋgara˥ʃe: ˥ʃi:na ˥ʃʃitiru muˈto:t˥taˈda:](山刀は鞘に差して持参され＜持たれ＞たよ)。3収納箱。「シームヌバンヌ˥　シー [ˈʃi:munubannu˥ ʃi:](吸い物椀の箱)。

˥シー [ˈʃi:]【名】血。血液。˥シー˥　パルン [ˈʃi:˥ paruŋ](血が出る＜流れる＞)。˥シーヌ　サッ˥コー　タˈカー˥ティ　˥ブー˥ブ　トゥˈラシ˥タ [ˈʃi:nu sak˥ko: tạˈka:˥ti ˥bu:˥bu: tuˈraʃi˥ta](血圧＜血＞が非常に高い＜多い＞ので、瀉血させた＜血液を取らせた＞)。˥シーヤ˥　マˈザーリ˥　ブー [ˈʃi:ja˥ maˈʤa:ri˥ bu:](混血している＜血は混じっている＞)。˥オー˥ヌ　˥シーバ˥　トゥリティ　キˈム˥トゥ　カˈケー˥シティ　イˈラキ˥ムヌ　˥ソーッ˥タ [ˈʔo:˥nu ˥ʃi:ba˥ turiti kiˈmu˥tu kạˈke:˥ʃi̥ti ʔiˈraki˥munu ˥so:t˥ta](豚の血を採って肝臓と混ぜて炒めものにされた)。

˥シー [ˈʃi:]【名】精霊。もののけ。「精」の義。˥キー˥ヌ　˥シー [ˈki:˥nu ˥ʃi:](木の精)。ガジマルの古木、大木には精霊が宿っているといわれている。昼でも、ガジマルや福木の大木の下で昼寝をすると、木の精に襲われて、全身が金縛りの状態になることがある。ガˈジマル˥ヌ　ッˈサーン˥ナ　ニˈブ˥カー　˥キー˥ヌ　˥シーン˥　ウˈソーリン˥ダー [gaˈʤimaru ˥nu sˈsa:n˥na niˈbu˥ka: ˥ki:˥nu ˥ʃi:ŋ˥ ʔuˈso:rin˥da:](ガジマル＜榕樹＞の下で寝ると木の精に襲われるよ)。

˥シー [˥ʃi:]【名】1乳房。「緑児の〜乳飲哉君之＜チノメヤキミガ＞〜。万、2925」の「乳＜チ＞」の転訛したもの。ウˈブ˥シー [ʔuˈbu˥ʃi:](大きな乳)。シー˥ヤー˥マ [ʃi:ˈja:˥ma](小さな乳)。ジッˈチェー˥マ [ʤitˈʧe: ˥ma](子供の小さな乳房。発育不全の乳房) などがある。2乳。乳汁。˥シー　˥アイルン [˥ʃi: ˥ʔairuŋ](乳が出る)。˥シーヌ　˥アイラヌ [ˈʃi:˥nu ˥ʔairanu](乳が出ない)。˥シーッふァイッふァ˥ヌ　˥ブンダー˥マー˥ン　ウーカラ˥ヌ [ˈʃi:ffaiffa˥nu ˥bunda˥ ma:ˈŋ ʔu:kara˥nu](乳飲み子がいるので何処にも動け＜行け＞ない)。˥シー˥バ　˥クイ　ヌˈマ˥シェーティル　フˈドゥバシェー˥ダー [ˈʃi:˥ba ˥kui nuˈma˥ʃe:tiru ɸuˈdubaʃe:˥da:](乳を貰って飲ませて育てたのだよ)。˥シーン　ッˈふァーシ˥バ [˥ʃi:ŋ fˈfa:ʃi˥ba](乳も飲ませ＜食べさせよ＞)。˥シー　フˈクマ˥スン [˥ʃi: ɸụ ˥kuma˥suŋ](乳を与える＜乳首を口にくくませる＞)。

˥シー [˥ʃi:]【名】釣り針。「其の故の鉤＜ち＞を責＜はた＞る『日本書紀　神代下』」の転訛したもの。˥アミツァバ　˥ムン˥ダニ　シˈティ　シー˥ナ　˥カキティ　ムˈチイズ　ホー˥スン [˥ʔamitsaba ˥mun ˥dani ʃi̥ˈti ʃi:˥na ˥kakiti muˈʧiʔiʤu ho:˥suŋ](ヤドカリを餌にして釣り針にかけてノコギリダイを釣る)。

˥シー [ˈʃi:]【名】尿。小便。おしっこ (幼児語)。シˈバ˥ル。˥クナーティ　˥シー　˥シー˥バ [˥kuna:ti ˥ʃi: ˥ʃi: ˥ba](此処でおしっこしなさいよ)。

˥シー [ˈʃi:]【名】四。ガ行音の助数詞の前では長音脱落し、撥音化する。˥シン˥ゴー [ˈʃiŋ˥go:](四合)。˥シンマイ˥ナビ [ˈʃimmai˥nabi](四枚鍋。大鍋)。

˥ジー [ˈʤi:]【名】文字。漢字。仮名。˥ジー˥　カクン [ˈʤi:˥ kạkuŋ](字を書く)。˥ジー˥　トゥˈミ˥　スクン [ˈʤi:˥ tuˈmi˥ sụkuŋ](文字を書き留めておく)。˥ジー˥　ユムン [ˈʤi:˥ jumuŋ](文字を読む)。˥ジー˥　ナラウン [ˈʤi:˥ narauŋ](字を習う)。˥ジー˥　ナˈラー˥スン [ˈʤi:˥ naˈra:˥suŋ](字を教える)。

˥ジー [˥ʤi:]【名】地面。土地。田畑。クˈマ˥ヌ　˥ジー˥ヤ　フˈキ˥ジー　ヤˈルンダ　ウン˥マー　イッˈケン　ミールン [kuˈma˥nu ˥ʤi:˥ja ɸụˈki˥ʤi: jaˈrunda ʔum˥ma: ʔikˈkem mi:ruŋ](ここの土地は肥沃な土地だから、芋は非常に良く実る)。˥ジー˥ヤ　˥パギティ　ノーˈン　ムイラ˥ヌ [ˈʤi:˥ja ˥pagiti noːˈm muira˥nu](土地が痩せて何も生えない)。パˈギ˥ジー [paˈgi ˥ʤi:](痩せ地)。クˈヌ　ジー˥ヤ　˥タッ˥テヌ　˥ジーヤ [kuˈnu ʤi:˥ja ˥tat˥tenu ˥ji:ja](この土地は何処の家の土地＜田畑＞か)。

˥ジー [˥ʤi:]【名】1ずい (髄)。カˈツヌ˥　ナˈカブニ˥ヌ　˥ジーナーン　˥ダシェー　˥アン [kạˈtsunu˥ na ˥kabuni˥nu ˥ʤi:na:n ˥daʃe: ˥ʔaŋ](カツオの中骨の髄にも出汁がある)。ウˈリトゥ˥　トゥˈレー˥スカー　プˈニ˥ヌ　ジーˈバー˥キ　ヌˈガ˥リンˈダー [ʔuˈritu ˥ tuˈre:˥suka: puˈni˥nu ʤi:ˈba:˥ki nuˈga˥rinˈda:](彼＜それ＞と付き合って遊ぶ＜連れ立って遊ぶ＞と骨の髄まで搾り取られる＜抜かれる＞ぞ)。2植物の芯。バˈサ˥ヌ　˥ジー˥ヤ　シゥˈカーラヌ [baˈsa˥nu ˥ʤi:˥ja si̥ˈka:ranu](芭蕉の芯は使えない)。

˥ジー [˥ʤi:]【名】痔。肛門の病気で、痛み、出血がある『医学沖縄語辞典』。˥ジーヌ˥　ヤミティル　ビˈリン˥　シˈララヌ [˥ʤi:nu˥ jamitiru biˈriŋ˥ ʃiˈraranu](痔が痛くて座りも出来ない)。˥ジーヌ˥　アルユンダ　ナˈガビリ　シーユーサヌ [˥ʤi:nu˥ ʔarujunda naˈgabire: ʃi:ju:sanu](痔があるので長く座ることは出来ない)。

˥シー　˥アースン [˥ʃi: ˥ʔa:suŋ]【連】乳を搾り出す。搾乳する。˥シー　˥アースンティ　ベーン˥ドゥ　˥ア

イランバン シー˥ヌ ˩アイル ッふァイムノー ナーン˥カヤー [˥ʃi: ˩ʔa:sunti be:n˥du ˩ʔairambaŋ ʃi:˥nu ˩ʔairu faimuno: na:ŋ˥kaja:](乳を出そうとしているが、出ないよ。乳のよく出る食べ物はないかなあ)。˥シー ˩アーシティ˥ ヤ˩ラビ˥ヌ ˩ミー˥ヌ ˥ッス ˩ヤーラカシ˥ トゥリバ [˥ʃi: ˩ʔa:ʃiti˥ ja˩rabi˥nu ˩mi:˥nu ˥ssu ˩ja:rakaʃi˥ turiba](母乳を搾って子供の目やにを柔らかくして除去し＜取り＞なさい)。

˥シー ˩アイルン [˥ʃi: ˩ʔairuŋ]【連】乳が出る。˥シー ˩アイルン [˥ʃi: ˩ʔairuŋ](乳は出るか)。˩シー˥ヤ イッ˩ケナ アイルン˥ダー [˩ʃi:˥ja ʔik˩kena ʔairun˥da:](乳はよく出るよ)。˥シー ˩アイラヌ [˥ʃi: ˩ʔairanu](乳が出ない)。

˥シー ˩アウン [˥ʃi: ˩ʔauŋ] 【連】乳が出る。乳汁が滴り落ちる。「乳零ゆ」の義。「〜香ぐはしみ 置きて枯らしみ 安由流実波 玉に貫きつつ『万葉集 4111』」の転訛したものか。˥シー ˩アーヌ [˥ʃi: ˩ʔa:nu](乳が出ない)。˩シー˥ヤ ˩アイティ˥ キン ˩ゾーラシナー˥ヌ [˩ʃi:˥ja ˩ʔaiti˥ kin ˩ʤo:raʃina:˥nu](乳が出て着物を濡らしてしまった)。˩シー˥ヌ ˩アウ˥ ピンマー ˩イッ˥パイ ヌ˩マ˥シバ [˩ʃi:˥nu ˩ʔau˥ pimma: ˩ʔip˥pai nu˩ma˥ʃi](乳が出る時は沢山飲ませ)。

˩シーアカ˥リ [˩ʃi:ʔaka˥ri] 【名】乳離れ。離乳。牛や豚、山羊などの家畜の離乳にいう。特に子豚が離乳したものには、ア˩カラー˥オー [ʔa˩kara:˥ʔo:](離乳した子豚) といって売買された。一般家庭ではこのア˩カラー˥オーを購入して肥育し、石垣島へ輸出した。˩オー˥ヌッふァヌ ˩シーアカ˥リ ˩シェー˥ムーバ ˩カイ˥キー フ˩ドゥバシティ カースタ [˩ʔo:˥nuffanu ˩ʃi:ʔaka˥ri ˩ʃe:˥mu:ba ˩kai˥ki: ɸu˩dubaʃi̥ti ka:suta](豚の子の離乳したのを買ってきて肥育して＜成長させて＞売った)。

˩ジー˥アバ [˩ʤi:˥ʔaba] 【名】動物の脳みそ。カツオの頭の脳みそ。カ˩ツシンジブンマー˥ カ˩ツンスブル˥ヌ ˩ジー˥アバン ˩ミン˥タマン フ˩ジ˥リ ッ˩ふータン [ka˩tsuʃinʤibumma:˥ ka˩tsunsuburu˥nu ˩ʤi:˥ʔabam ˩min˥tamaŋ ɸu˩ʤi˥ri f˩fu:taŋ](カツオの漁期にはカツオの頭の脳みそも目の玉もほじくって＜穿って＞食べたよ)。

˩ジー˥イキ [˩ʤi:˥ʔiki] 【名】ちりょく (地力)。土地の生産力。「地息」の義か。˥クマー ˩ジーイキ˥ヌ ˩スー˥ワンダー ˩コイ˥ヤー イ˩ラン˥タンティン ス˩クリ˥ムノー イッ˩ケン ムイ˥ルン [˥kuma: ˩ʤi:iki˥nu ˩su:˥wanda: ˩koi˥ja: ʔi˩ran˥tantin su̥˩kuri˥muno: ʔik˩kem mui˥ruŋ](ここは地力が強いので肥やしを入れなくても作物は非常によく生える＜萌える＞)。

˩シーイラキ˥ムヌ [˩ʃi:ʔiraki˥munu] 【名】豚の血を肝臓や肉、韮などの野菜と一緒に炒めた料理。「血炒り物」の義。˩オー˥ヌ ˩シーバ˥ キ˩ム˥トゥ ˥ビラマ˩ザー˥シティ ˩シーイラキ˥ムヌ ス˩ク˥ルカーン˩マーン˥ダー [˩ʔo:˥nu ˩ʃi:ba˥ ki˩mu˥tu ˥bira ma˩ʤa:˥ʃi̥ti ˩ʃi:ʔiraki˥munu su̥˩ku˥ruka: ʔm˩ma:n˥da:](豚の血を肝と韮に混ぜて血炒めもの＜血炒り＞に作ると美味しいよ)。

˥シー イ˩ルン [˥ʃi: ʔi˩ruŋ] 【連】すが立つ。大根や牛蒡などにすが立つ。「すが入る」の義。ク˩ヌ ダイ˥クネー ˥シー イ˩リティ コー˥ヌ ッ˩ふァーラヌ [ku˩nu dai˥kune: ˥ʃi: ʔi˩riti ko:˥nu f˩fa:ranu](この大根はすが立って、硬くて食べられない)。

˩シー˥ ウ˩ク˥スン [˩ʃi:˥ ʔu˩ku˥suŋ] 【連】猪防除の石垣を造る＜起こす。再建する＞。ク˩トゥシン˥ カ˩マイ˥ヌ ˩ガイヌ スーワ˥ヌ ˩シー˥ ウ˩クサン˥カー ナ˩ラ˥ヌ [ku̥˩tuʃiŋ˥ ka˩mai˥nu ˩gainu su:wa˥nu ˩ʃi:˥ ʔu˩kusaŋ˥ka: na˩ra˥nu](今年も猪の害が甚大な＜強い＞ので猪害防除の石垣を造らないとならない)。

˩ジー˥ウタ [˩ʤi:˥ʔuta] 【名】地謡。舞踊をする人のために三味線 (三線) を演奏し、謡うこと。˩プールゾーラキ˥トゥ キ˩チゴンヌ ジー˥ウター ˩タールソール˥ワ [˩pu:ruʤo:raki˥tu ki̥˩tʃigonnu ʤi:˥ʔuta:˩ta:ru so:ru˥wa](豊年祭の競演舞踊と結願祭の奉納舞踊の地謡は誰が演奏される＜なさる＞のか)。

˩シー˥ウヤ [˩ʃi:˥ʔuja] 【名】「乳親」の義。母親が死んだり、母乳が出なかったりする場合、母親に代わって授乳する人。ブ˩ネーヌ˥ ウ˩ヤ˥ヌ ˩マーラソーッタ˥ル ˩シーウヤ˥バ タ˩ナ˥ミ ヤッ˩トゥ˥シ ウ˩ヌ ッふァー˥ ヌチ ˩モー˥シェー˩ダー [bu˩ne:nu˥ ʔu˩ja˥nu ˩ma:raso:tta˥ru ˩ʃi:ʔuja˥ba ta˩na˥mi jat˩tu˥ʃi ʔu˩nu ffa:˥ nutʃi ˩mo:˥ʃe:˩da:](母親が亡くなったので乳親を頼んで、やっとのことで、その子の命をすくった＜命を萌えさせた＞のだよ)。

˩シーカイシ [˩ʃi:kaiʃi] 【名】仕返し。復讐。仇討ち。ヨー˩ヨー˥ プ˩スン シーカイシ スンティ スー˥ キモー ˥ムテー ナ˩ラン˥ダー [jo:˩jo:˥ pu̥˩suŋ ʃi:kaiʃi sunti su:˥ kimu ˥mute: na˩ran˥da:](よく注意しなさいよ。他人に仕返し＜復讐＞するという心＜気持ち＞を持ってはならないよ)。

˞ジーカキゾー˜ジ **[˞ʤi:kakiʤo:ʤi]** 【名】字書き上手。能書家。˜バーラン　カ˞リル　ジーカキゾー˜ジ　ヤ˞リバ˜　カ˞リン˜　タ˞ナ˜ミ　カ˞カ˜シバ [˜ba:raŋ ka ˞riru ʤi:kakiʤo:˜ʤi ja˞riba˜ ka˞rin˜ ta˞na˜mi ka˞ka˜ ʃiba](私よりも彼が字書き上手＜能書家＞だから、彼に頼んで書いて貰いなさい＜書かせなさい＞よ)。

˞ジーカキ˜プス **[˞ʤi:kaki˜pu̥su]** 【名】字を書く人。字の上手な人。書家。˞ジーカキ˜プス　˞サーリ˜　キー　˞テンカン　シフク　シビランガーヌ　ジー˜　カ˞カ˜シバ [˞ʤi:kaki˜pu̥su ˞sa:ri˜ ki: ˞teŋkaŋ ʃi˜ɸu̥ku ʃi˞bi raŋga:nu ʤi:˜ kḁ˞ka˜ʃiba](字の上手な人を連れて来て、天官賜福紫微鸞駕の文字を書かせなさいよ)。˜バー　ユ˞ミ˜プス　サ˞バ　ワー　ジーカキ˜プス　˞シー˜バ [˜ba: ju˞mi˜pu̥su sa˞ba wa: ʤi:kaki˜pu̥su ˞ʃi:˜ba](私は読み役＜読み人＞をするから君は字書き役＜字書き人＞をせよ)。

˞シー˜カザ **[˞ʃi:˜kaʤa]** 【名】乳の臭い。乳臭さ。ッ˞ふァナシプス˜ヌ　˞キンマー˜　ユー　˞シー˜カザ　˞スン˜ダー [f˞fanaʃipusu˜nu ˞kim˜ma: ˜ju: ˞ʃi:˜kaʤa ˞sun˜da:](産婦の着物は非常に乳の臭いがするよ)。

˞シーカタ **[˞ʃi:kata]** 【名】仕方。方法。˞シー˜ヨー [˞ʃi:˜jo:](仕方。方法) ともいう。ク˞レー　ヌー˜シ　˞スー˜ユー　˞シーカタ˜　ナ˞ラー˜シ　ッ˞ふィーラン˜ノーレー [ku˞re: nu:˜ʃi ˞su:˜ju: ˞ʃi:kata˜ na˞ra:˜ʃi f ˞fi:ran˜no:re:](これはどのようにするのか、仕方を教えてくれないか)。

˞シーカラー˜ン **[˞ʃi:kara:˜ŋ]** 【形】「乳軽し」の義。乳の出が少ない。鳩間島では、産婦の乳の出を良くするために、˞マンズイ˜ヌナル [˞manʤui˜nu ˜naru](パパイヤの実) を食べさせた。ッ˞ふァナシプス˜ヌ　˞シーカラー˜カー　˞マンズイ˜ヌ　˜ナル　ッ˞ふァーソーッ˜タ [f˞fanaʃipusu˜nu ˞ʃi:kara:˜ka: ˞manʤui˜nu ˜naru f˞fa:so:t˜ta](産婦の乳の出が少ないとパパイヤの実を食べさせられた)。˞シーカラ˜ー　˞ナー˜ンドゥ　˞シーカラー˜ンティ　ア˞ジアー˜ク [˞ʃi:kara˜: ˞na:˜ndu ˞ʃi:kara:˜nti ʔa˞ʤe:˜ti ˞ʔa:˜ku](乳の出が悪く＜乳軽く＞はないが、乳の出が悪い＜乳軽い＞といっている)。パ˞ナシキ˜　マ˞マリティ　シーカラー˜　ナリ˞ナー˜ヌ [pa˞naʃi̥ki˜ ma˞mariti ʃi:kara:˜ nari˞na:˜nu](風邪をひいて乳の出が悪く＜乳軽く＞なってしまった)。˞シーカラー˜　プ˞ス [˞ʃi:kara:˜ pu̥˞su](乳の出の悪い人)。

˞シーカンティー **[˞ʃi:kanti:]** 【連】し兼ねる。「為兼ねて」の義。なかなか～しにくい。なかなか～むずかしい。˞タンガ˜シ　˞シーカンティー　シー　ベー˜バ　˞テー˜ナイ　˞シー˜　ッ˞ふィーリ˜バ [˞taŋga ˜ʃi ˞ʃi:kanti: ʃi: be:˜ba ˞te:˜nai ˞ʃi:˜ f˞fi:ri˜ba](一人で＜仕事を＞し兼ねているから、手伝ってやりなさいよ)。

˞シー˜キサ **[˞ʃi:˜ki̥sa]** 【名】帆柱の楔の一種。˜イダフニ [˜ʔidaɸuni](板舟＜サバニ＞) の帆柱を立てるウ˞シカキ [ʔu˞ʃikaki](船首の梁) の穴に差し込んで帆柱の角度を調整する楔形の船具。穴の˞オーラ [˞ʔo:ra](風上の側) には薄い˞シー˜キサを差し、ッ˞ソーマ [s˞so:ma](風下の側) には厚くて大きな˞シー˜キサを差し込む。強風の際は、風下側にシー˜キサを二枚重ねて差し込み、帆柱の角度を風上側に傾けて風力を減殺する。また、帆柱の前方にも二枚の˞シー˜キサを重ねて帆柱を艫側にも傾け、風力をさらに減殺することもある。これによって˞プームティシゥカ˜ラ [˞pu:mutisi̥ka˜ra](風力。風圧。帆にかかる力) を˞ピーヌール [pi:nu:ru](˞舳乗り」の義か。ミ˞ナー [mi˞na:]＜帆を吊るし揚げる縄。「水縄」の義か＞を手に巻いて風上の方へ身を乗り出し、帆柱を引っぱってサバニの安定を図る乗員) 一人分の風圧の調整ができるという。˞シー˜キサ　カ˞サブ˜カー　˞ピーヌール　タンガ˜ヌ　シゥ˞カラー˜　ン˞ジ˜ルン [˞ʃi:˜ki̥sa kḁ˞sabu˜ka: ˞pi:nu:ru taŋga˜nu ssi̥˞ kara:˜ ʔn˞ʤi˜ruŋ](シーキサ＜帆柱の楔＞を重ねて差し込むすと舳乗り一人分の力が出る)。カ˞ジヌ　スー˜ワバ　˞シー˜キサー　マン˞タ˜ナー　˜ッシティ　パ˞ラー˜ヤ　ン˞メーマ　トー˜シ [ka˞ʤinu su: ˜waba ˞ʃi:˜kisa: man˞ta˜na: ˜ʃʃiti pa˞ra:˜ja ʔm˞me:ma to:˜ʃi](風が強いので楔を前に差し込んで帆柱を少し後方に倒せ)。強風の時は柱を約 80 度ぐらいに倒して立て、風圧を調整した。

˞シーキスン **[˞ʃi:kisuŋ]** 【他動】し遂げる。成し遂げる。終了する。完了する。「為切る」の転訛したもの。シ˞グトー˜　キューズーナ　˞シーキスンティ　ウ˞ムータ˜ヌ　マ˞ダ　シーキサヌ [ʃi˞guto:˜ kju:ʤu:na ˞ʃi:kisun˜ti ʔu˞mu:ta˜nu ma˞da ʃi:kisanu](仕事は今日中に終了する＜為切る＞と思ったが、まだ終了しない)。シ˞グトー˜　キューズーナ　˞シーキスンティ˜　ウ˞ムーン˜ドゥ　˞シーキサン˜カー　˞ヌー˜スカヤーメ [ʃi˞guto:˜ kju:ʤu:na ˞ʃi:kisunti˜ ʔu˞mu:n ˜du ˞ʃi:kisaŋ˜ka: ˞nu:˜sukaja:me](仕事は今日中にやり遂げると思うが、やり遂げないとどうしようかねえ)。

˞シー　キスン **[˞ʃi: kisuŋ]** 【連】全うする。し遂げ

る。成し遂げる。「し切る」の義。クˈヌ˨　シˈグトー˨　キューズーナ　˞シーキスン [kuˈnu˨ ʃiˈgutoː˨ kjuːʤuːna ˈʃiːkisuŋ](この仕事は今日中に成し遂げる)。

˞シー˨キチ [ˈʃiː˨kᵢ̥tʃi] 【名】まんなおし (間直し)。げん直し。「清潔」の転訛したものか。不漁の際、豊漁を祈願する行事。カツオ漁船の不漁が続くと、漁船を浜辺に寄せ、干潮時に船底に付着した海苔や小さな牡蠣などを、茅を燃やして焼き落とし、船を洗って船霊様に豊漁を祈願して酒宴を開いた。˞マン˨ヌ　˞ワッ˨サカー　˞シーキチ˨バ　˞シー　マンノー˨シ　˞サン˨ノーレー [ˈman˨nu ˈwas˨sakaː ˈʃiːkᵢ̥tʃi˨ba ˈʃiː mannoː˨ʃi ˈsan˨noːreː](げんが悪ければシーキチ＜清潔＞をして祈願し、間直しをしないか)。

˞シー˨グ [ˈʃiː˨gu] 【名】小刀。削りそぐ小刀。沖縄古語「みすへご」『混効験集』とある。「鉏＜さひ＞(鋭利な剣)・具」の転訛したものか。「太刀ならば呉 (くれ) の真鉏」「日本書紀歌謡 103」の転訛したものか。カˈタパーシー˨グ [kᵢ̥ˈtapaːʃiː˨gu](片刃小刀。片刃) ともいう。カˈツピギシー˨グシ　カˈツブシ˨　ピグン [kᵢ̥ˈtsupigiʃiː˨guʃi kᵢ̥ˈtsubuʃi˨ piguŋ](鰹削り小刀で鰹節を削る)。˞シー˨グシル　˞ミーカンガン˨マース˞ク˨ル [ˈʃiː˨guʃiru ˈmiːkaŋgam˨maː sᵤ̥ˈku˨ru](小刀で＜ぞ＞水中眼鏡は作る)。

˨シー　˨クーン [ˈʃiː ˨kuːŋ] 【連】貰い乳をする＜乳を乞う＞。「～緑児の知許布我其登久『万葉集 4122』」の義。クˈヌッふァヌ˨　˨シー　˨クーイッˈふァースンティル　マーリアー˨クˈダー [kuˈnu ffanu˨ ʃiː ˨kui fˈfaːsuntiru maːriʔaː˨kuˈdaː](この子のために貰い乳をして食べさせようと回り歩いているんだよ)。

˞シー˨クイ [ˈʃiː˨kui] 【名】もらいぢ (貰い乳)。「乳乞い」の義。他人の乳を貰って乳児を育てること。ブˈネーヌ˨　ヤミティ　˞シー˨ヌ　˞アイラン　ナッタ˨ル　ブˈトー　シー˨クイ　˞シー　アー˨ク [buˈneːnu˨ jamiti ˈʃiː˨nu ˈʔairan natta˨ru buˈtoː ʃiː˨kui ˈʃiː ʔaː˨ku](母親が病気して乳が出なくなったので夫は貰い乳をしている)。

˞シー˨クサ [ˈʃiː˨kusa] 【名】フィラリア症。フイラリアの感染によって女性の乳房が腫れ、悪寒発熱、頭痛が続く疾病。˞シー˨ネヌ　ユˈメー　シークサ˨ヌ　ウˈク˨リ　ニˈチ˨　ンジ　ニˈビベー [ˈʃiː˨nenu juˈmeː ʃiːkusa˨nu ʔuˈku˨ri niˈtʃi˨ ʔnʤi niˈbibeː](後ろ隣の家の嫁は乳フィラリアがおこって熱が出て寝ている)。

˞ジー˨クサイ [ˈʤiː˨kusai] 【名】1整地。整地して種蒔きする準備をすること。地こしらえ (地拵え)。パˈタ˨ケー　˞ジー˨クサイ　シˈティ˨　マミ　˨マキバ [pᵃ̥ˈta˨keː ˈʤiː˨kᵤ̥sai ʃᵢ̥ˈti˨ mami ˨makiba](畑は整地をして豆を播きなさいよ)。2地面をならし固めること。˨ヤッシェー [˨jaʃʃeː](かけや＜掛矢＞。地搗き) で地固めをすること。˞ヤシ˨ケー　˞ジー˨クサイ　シˈティ˨　イˈシジ˨　ビˈソーッ˨タ [ˈjaʃᵢ̥˨keː ˈʤiː˨kusai ʃᵢ̥ˈti˨ ʔiˈʃiʤi˨ biˈsoːt˨ta](屋敷は地均しをし、地搗きをしてイシジ＜礎石＞を据付けられた)。パˈタキ˨ヌ　˞ジー˨クサイ　˞シーティ˨　マミ　˨マクンティ　˞ベー˨ダー [paˈtaki˨nu ˈʤiː˨kusai ˈʃiːti˨ mami ˨makunti ˈbeː˨daː](畑の整地をして豆を蒔こうとしているところだよ)。

˞ジークシ˨ライ [ˈʤiːkuʃi˨rai] 【名】土ならし。畑の整地。畑などの地均し。「地拵え」の義。˞ジー˨クサイ [ˈʤiː˨kusai](土均し。整地) ともいう。˞ジークシ˨ライ　˞シーティル˨　タネー　˨マク [ˈʤiːkuʃi˨rai ˈʃiːtiru˨ taneː ˨maku](畑の整地をしてから種子は蒔くのだ)。

˞シーグリ˨サン [ˈʃiːguri˨saŋ] 【連】しにくい (為難い)。しづらい。やりにくい。クˈヌ˨　シˈグトー　シーグリ˨サンダ　˞タンガ˨シェー　ナˈラ˨ヌ [kuˈnu˨ ʃiˈguto: ʃiːguri˨sanda ˈtaŋga˨ʃeː naˈra˨nu](この仕事はしづらいから一人では出来ない)。˞シーグリサ　ナー˨ヌ [ˈʃiːgurisa naː˨nu](しづらくない)。˞シンダイ　シーグリ˨サ　˨ナルン [ˈʃindai ʃiːguri˨sa ˨naruŋ](次第にしづらくなる)。˞シーグリ˨サ　˨ムノー　˞サンブリ˨バ [ˈʃiːguri˨sa ˨munoː ˈsamburi˨ba](し難いものはするなよ＜せずにおれよ＞)。

˞シークゥー˨サー [ˈʃiːkwaː˨saː] 【名】(植) 蜜柑の一種。ヒラミレモン。酸味が強く、刺身に振りかけて食すると美味である。沖縄方言からの借用語か。鳩間島では、単にフˈナ˨ブ [ɸuˈna˨bu](九年母) ということが多い。イˈズナマシ˨ナー　˞シークゥー˨サー　˨キシ　˨カキティ　˞ミー˨ス　カˈケー˨シティ　ッˈふァイ˨バ [ʔiˈʤunamaʃi˨naː ˈʃiːkwaː˨saː ˨kᵢ̥ʃi ˨kᵃ̥kiti ˈmiː˨su kaˈkeː˨ʃᵢ̥ti fˈfai˨ba](魚刺身＜膾(ナマス)＞にヒラミレモンを切って振りかけて、味噌と掻き混ぜて食べなさいよ)。

˞シーゴー˨ダー [ˈʃiːgoː˨daː] 【名】血だらけ。血まみれ。血液がべったりと付くさま。クˈルビティ˨　イˈシ˨ナー　˨シラ　バˈリティ　シーゴー˨ダー　˞シーベー [kuˈrubiti˨ ʔiˈʃi˨naː ˨ʃira baˈriti ʃiːgoː˨daː ˈʃiːbeː](転んで、石に顔を打って＜面割って。怪我

して > 血まみれになっている)。

˹ジー˺サンシキル **[˹ʤiː˺saŋʃi̥kiru]** 【名】 (動) ナマコ (海鼠) の一種。鳩間島の後ろの干瀬の頂上部に多く棲息している。体長約 15 センチの小さなナマコ。これを足で踏みつけて汁を出し、潮溜まりに入れると魚が仮死状態になって浮いてくるので、簡単に漁獲することが出来た。˹ジー˺サンシキルヌ ˺シロー イ˹ズベーシフチ˺ル ˹ヤッタ [˹ʤiː˺saŋʃi̥kirunu ˺ʃiro: ʔi˹ʤubeːʃiɸu̥tʃi˺ru ˹jatta](ジーサン海鼠の汁は魚を酔わせる薬だった)。

˹シー˺シ **[˹ʃiː˺ʃi]** 【名】すす (煤)。煙が塵や埃と一緒になって固まったもの。「〜凝烟を訓みて州須 (スス) と云ふ」『和名抄』の転訛したもの。˹ティン˺ゾーナ ˹ヌーリ ソー˺ジ シ˹タ˺ クトー ガ˹マ˺ジナー ˹イッ˺パイ ˹シー˺シ カビ˹ベー [˹tin˺ʤoːna ˹nuːri soː˺ʤi ʃi̥˹ta˺ ku̥toː ga˹ma˺ʤinaː ˹ʔip˺pai ˹ʃiː˺ʃi kabi˹beː](天井に上って掃除をしたところ、髪に沢山煤を被っている)。˹ワー˺ ス˹ブ˺ロー ˹シー˺シ ˺カビ ˹ベー [˹waː˺ su˹bu˺roː ˹ʃiː˺ʃi ˺kabi ˹beː](君の頭は煤だらけだ < 煤をかぶっている >)。˹ティンゾー˺ヤ ˹シー˺シ ˺フイティ ン˹カーラヌ [˹tinʤoː ˺ja ˹ʃiː˺ʃi ˺ɸuiti ʔŋ˹kaːranu](天井は煤けて < 煤を喰って > 覗かれない < 入れない。向かわれない >)。

˹シー˺シ **[˹ʃiː˺ʃi]** 【名】肉。四つ足 (獣) 類の肉。稀に人間の肉についてもいう。ア˹バッ˺タラ [ʔa˹bat˺tara](脂肉) に対して赤肉などをいう。˹オー˺ヌ ˹シー˺シ [˹ʔoː˺nu ˹ʃiː˺ʃi](豚肉)、カ˹マイ˺ヌ ˹シー˺シ [ka˹mai˺nu ˹ʃiː˺ʃi](猪の肉) という。魚類の肉は˹ミー [˹miː](身) という。˹オー˺ヌ ˹マーシーシ イッキンブカラ カイ˺ク [˹ʔoː˺nu ˹maːʃiːʃi ʔikkimbukara kai˺kuː](豚の赤肉 < ロース > を一斤ほど買って来い)。˹ミーキブル˺シ ˺ソンガチオー プ˹スッ˺カラ ク˹ラシティ シー˺シ ˹ミーチェー˺ニ バ˹ク˺タ [˹miːkiburu˺ʃi ˺soŋgatʃiʔoː pu̥˹suk˺kara ku˹raʃi̥ti ʃiː˺ʃi ˹miːtʃeː˺ni ba˹ku˺ta](三軒で正月用の豚を一匹 < 一頭 > 屠殺して肉を三つに分けた)。˹ピー˺ヤサーリ ク˹バ˺リティ ˹シー˺シフイ ˹ベー [˹piː˺jasaːri ku˹ba˺riti ˹ʃiː˺ʃiɸui ˹beː](寒いので、凍えて身震い < 肉震え > している)。˹オー˺ヌ ˹シー˺シ ˹スー˺シキ シ˹ティ˺ タ˹ブーン [˹ʔoː˺nu ˹ʃiː˺ʃi ˹suː˺ʃi̥ki ʃi̥˹ti ˺ta˹buːŋ](豚の肉を塩漬けにして保存す < 蓄え > る)。

˹シー˺シ **[˹ʃiː˺ʃi]** 【名】獅子頭。獅子舞の獅子。西村の獅子は雌で、東村の獅子は雄といわれている。西村の獅子元 (獅子頭を保管する家) は大工家。東村の獅子元は小浜家である。盆のナ˹カヌ˺ピー [na ˹kanu˺piː](中の日。旧暦 7 月 14 日) の夜からウ˹クリ [ʔu˹kuri](精霊送りの日。旧暦 7 月 15 日) の夜にかけて獅子舞とアンガマ踊り隊が各家を回って踊り、祖霊を慰める。˹シー˺シ ˹パー˺スン [˹ʃiː˺ʃi ˹paː ˺suŋ](獅子舞いを囃す)。˹シー˺シ ˺カブン [˹ʃiː˺ʃi ˺kabuŋ](獅子頭を被る。獅子舞いをする)。

˹ジージー **[˹ʤiːʤiː]** 【副】じとじと。じくじく。汗の流れるさま。ナ˹チェー˺ アツァンダ ˹ヤーン˺ナカナ ˹ベー˺ルカ ˹ジージー˺シ ˺アシ ˺パルン [na˹tʃeː˺ ʔatsanda ˹jaːn˺nakana ˹beː˺ruka: ˹ʤiː˺ʤiːʃi ˺ʔaʃi ˺paruŋ](夏は暑いから家の中にいると、じとじとと汗が流れる)。ドゥ˹ク˺ヌ ˺アツァティ ˺アシェー ˹ジージー˺シ ˺パリ ˹キー˺シタ [du˹ku˺nu ˺ʔatsati ˺ʔaʃeː ˹ʤiːʤiː˺ʃi ˺pari ˹kiː˺ʃi̥ta](あまりにも暑いので、汗はじとじとと噴き出て < 流れて。走って > きた)。

˹ジージー **[˹ʤiːʤiː]** 【副】 1ニイニイゼミの鳴き声。擬声語。˺サンサンヌ ˹ジージー˺シ ナ˹キ ベー˺ティ ン˹ガマサ˺ヌ ナ˹ラ˺ヌ [˺sansannu ˹ʤiːʤiː˺ʃi na˹ki beː˺ti ʔŋ˹gamasa˺nu na˹ra˺nu](ニイニイ蝉がジージーと鳴いているので、うるさくて堪らない)。2豚肉や魚肉を油炒めにする音。ア˹バ˺ナビナ ˹オー˺ヌ ア˹バッ˺タラ ˹ジージー˺シ イ˹ラ˺キ ˹ベー [ʔa˹ba˺nabina ˹ʔoː˺nu ʔa˹bat˺tara ˹ʤiːʤiː˺ʃi ʔi˹ra˺ki ˹beː](油鍋 < 炒り鍋。フライパン > で豚の脂肉をジージーと炒っている)。

˹ジージー˺シ **[˹ʤiːʤiː˺ʃi]** 【副】汗がじくじく出るさま。脂汗が出るさま。ニ˹チ˺ヌ ˺ンジティ ガ˹マ˺ジン ˺ヤミ ˺アシェー ˹ジージー˺シ ˺ンジ ˹キー˺シタンドゥ ナー˹イ˺ ニジ ˹ベー˺タ [˺nitʃeː ˺ʔnʤiti ga˹ma˺ʤiɲ ˺jami ˺ʔaʃeː ˹ʤiːʤiː˺ʃi ˺ʔnʤi ˹kiː˺ʃi̥tandu naː˹i˺ niʤi ˹beː˺ta](汗はじくじく出てきたが、ただじっと我慢して < 念じて > いた)。

˹シーシェー˺ン **[˹ʃiːʃeː˺ŋ]** 【自動】出来る。可能である。することが出来る。しきれる。「し・きれる」の転訛したもの。丁寧な発音では、シーッシェーン [ʃiːʃʃeːŋ] という。˹バン˺ヌン ク˹ヌ˺ シ˹グトー シーシェー˺ン [˹ban˺nuŋ ku˹nu˺ ʃi˹guto: ʃiːʃeː˺ŋ](私もこの仕事はすることが出来る)。ク˹レー シーサヌ [ku˹reː ʃiːsanu](これはすることが出来ない)。ウ˹レー バン˺ヌン ˹シーシェー˺ン [ʔu˹reː ban˺nuŋ ˹ʃiːʃeː˺ŋ](それは私も出来る < しきれる >)。˹シーッシブンド シーッサヌ˺ティ ア˹ジアー˺ク [˹ʃiːʃʃi-bundu ʃiːssanu˺ti ʔa˹ʤiʔaː˺ku](出来るのに出来ない

といっている)。˹シーシェー˺　プ˹ソー˺　ブ˹ラーヌ [˹ʃiːʃeː˺ pu̥˹soː˺ bu˹raːnu](出来る＜しきれる＞人はいない)。˹ワー　シーシェー˺カー　ミサムヌ˹ナー [˹waː ʃiːʃeː˺kaː misamunu˹naː](君が出来たら＜しきれたら＞良いのになあ)。ク˹ヌ˺　シ˹グトー˺　バー　˹タンガ˺シ　˹シーシェー˺ン [ku˹nu˺ ʃi˹gutoː˺ baː˹taŋga˺ʃi ˹ʃiːʃeː˺ŋ](この仕事は、私一人で出来る)。˹タンガ˺シェー　˹シーサヌ [˹taŋga˺ʃeː ˹ʃiːsanu](一人では出来ない)。˹タンガ˺シ　˹シーッシティ˺　˹シーッサン˺ティ　ア˹ジアー˺ク [˹taŋga˺ʃi ˹ʃiːʃʃiti ʃiːssan˺ti ʔa˹ʤiʔaː˺ku](一人で出来ていて＜し得て＞、出来ないと言っている)。シ˹グトゥ　シーッシェー˺　プ˹ソー˺ラ　˺ヤトゥイバ [ʃi˹gutu ʃiːʃʃeː˺ pu̥˹soːra˺ jatuiba](仕事の出来る＜仕事をし得る＞人から雇えよ)。˹シーッシェー˺カー　˺ヤトゥーン [˹ʃiːʃʃeː˺kaː ˺jatuːŋ](出来る＜し得る＞ならば雇う)。˹シーッシバ˺　ミサムヌ [˹ʃiːʃʃiba˺ misamunu](することが出来れば＜し得れば＞いいのに)。

˹シーシェー˺ン˹コー˺ラシ [˹ʃiːʃeː˺ŋ ˹koːra˺ʃi] 【連】出来るふりをして。ブ˹ドゥル　シーシェー˺ン　˹コーラ˺シ　˹ベー˺ンドゥ　ジ˹チェー　シーサヌ [bu˹duru ʃiːʃeː˺ŋ ˹koːra˺ʃi ˹beː˺ndu ʤi˹ʧeː ʃiːsanu](踊りが出来るふりをしているが、実はできないのだ)。

˹シー˺シ　˺カブン [˹ʃiː˺ʃi ˺kabuŋ] 【連】1獅子舞をする (獅子頭を被る)。ウ˹リン　シー˺シ　カ˹バシバ˺ル　ウ˹ムッ˺サ [ʔu˹riŋ ʃiː˺ʃi ka˹baʃiba˺ru ʔu˹mus˺sa](彼に獅子舞をさせた方が面白い)。2獅子頭のように頭髪が伸び放題になり、外見が甚だしく悪くなる。˹ワー˺　ガ˹マ˺ジェー　˹シー˺シェー　˺カビティ　˹ホー˺ル　キ˹シ˺ムヌ　ナリ˹ベー [˹waː˺ ga˹ma˺ʤeː ˹ʃiː˺ʃeː ˺kabiti ˹hoː˺ru ki˹ʃi˺munu ˺nari˹beː](君の髪の毛は獅子頭のように伸び放題になって思慮分別のない者になっている)。

˹ジーシキ˺ムヌ [˹ʤiːʃi̥ki˺munu] 【名】栄養物。滋養分。根気のつく食品。ク˹ヌ˺　ッ˹ふァン　ジーシキ˺ムヌ　ス˹クリ　ッ˹ふァーシ [ku˹nu˺ f˹fan ʤiːʃi̥ki˺munu su̥˹ku˺ri f˹faːʃi](この子に滋養分のある＜根気のつく＞食品を作って食べさせなさい)。

˹シーシギルン [˹ʃiːʃigiruŋ] 【他動】し過ぎる。やりすぎる。˹ビンキョーヤ　シーシギルンティ˺　ウムー　˺スコー　サ˹バン　シーシギル˺　クトー　˹ナー˺ヌ [˹biŋkjoːja ʃiːʃigirunti˺ ʔumuː ˺su̥koː sa˹baŋ ʃiːʃigiru˺ ku̥toː ˹naː˺nu](勉強はし過ぎると思うほどしても、し過ぎることはない)。

˹シー˺シダマ [˹ʃiː˺ʃidama] 【名】(植) 数珠玉。畑地に自生するイネ科の多年草植物。高さ約 1 メートル。硬い果実の珠をつける。子供はこれに糸を通し、数珠やネックレスに作って遊んだ。パ˹タキ˺ヌ　˺アザナー　˹シー˺シダマヌ　˺ムイ　˹ベー˺バ　˹シー˺シダマヌ　˺ナル　˺ブリ　˺クーバ [pḁ˹taki˺nu ˺ʔaʤana: ˹ʃiː˺ʃidamanu ˺mui ˹beː˺ba ˹ʃiː˺ʃidamanu ˺naru ˺buri ˺kuːba](畑の畦に数珠玉が生えているから、数珠玉の実を挽いで＜折って＞きなさいよ)。

˹シーシ˺ヌ　˺キン [˹ʃiːʃi˺nu ˺kiŋ] 【連】˹獅子の衣˺」の義。獅子頭につけて獅子舞をするのに用いる衣装。サ˹ミ [sa˹mi](月桃) の幹を打ち裂いて乾燥し、これで縄を綯い、目の粗い網を編んで衣装の土台にした。芭蕉の皮を打ち裂いて乾燥させた繊維を土台の網に結んで獅子の衣装に作った。サミの代わりに˹フー˺カラ [˹ɸuː˺kara](クロツグ＜桄榔＞の繊維) で綯った縄を用いることもあった。これは、西村、東村の子供たちがお盆の月に入ると一定の場所に集まって、競争して作ったものである。ム˹カ˺シェー　˹ソー˺ランシキ　˹ペー˺ルカー　ヤ˹ラ˺ビンケーヤ　ア˹ツァ˺マリティ　˹インヌムラ　アンヌムラ　キッ˺スー　˹シェー˺ティ　˹シーシ˺ヌ　˺キン　ス˹クル˺タ [mu˹kaʃeː ˹soː˺raŋʃi̥ki ˹peː˺ruka: ja˹ra˺biŋkeːja ʔa˹tsa˺mariti ˹ʔinnumura ʔannumura kis˺suː ˹ʃeː˺ti ˹ʃiːʃi˺nu ˺kin su̥˹kuru˺ta](昔はお盆の月に入ると子供たちは集まって西村、東村競争しながら獅子頭の着物を作った)。

˹シー˺シ　˹パー˺スン [˹ʃiː˺ʃi ˹paː˺suŋ] 【連】獅子舞いを囃し立てる。獅子舞を先導しながら囃す。獅子舞をさせる。鞠を投げたり、棒を振ったりして囃す。˹ソー˺ランナー　˹ヤーカー˺ジ　˹マーリ　シー˺シ　˹パー˺シ　ウ˹ヤ˺プス　トゥ˹リム˺ツォーッタ [˹soː˺ranna: ˹jaːka˺ʤi ˹maːri ʃiː˺ʃi ˹paː˺ʃi ʔu˹ja˺pu̥su tu˹rimu˺tsoːtta](お盆には家ごとに回って獅子舞をさせて先祖の霊を持て成された)。

˹シーシバル [˹ʃiːʃibaru] 【名】血尿。潜血尿。「血いばり」の義。腎炎、膀胱炎等にみられる『医学沖縄語辞典』。˹シーシバルヌ˺　ン˹ジル˺ヌ　˹マー˺ヌ　˹ワッ˺サカヤー [˹ʃiːʃibarunu˺ ʔn˹ʤiru˺nu ˹maː˺nu ˹was˺sakajaː](血尿が出るが、どこが悪いのかなあ)。˹シーシバルバ　シー　ベー˺ヌ　˹マー˺ヌ　˹ワッ˺サカヤー [˹ʃiːʃibaru ʃiː beː˺nu ˹maː˺nu ˹was˺sakajaː](血尿をしているが、何処が悪いのかね)。

˹シーシピカ˺リ [˹ʃiːʃipi̥ka˺ri] 【名】痩せこけること。筋肉がこそげること。筋肉がそぎ落とされること。˹アッ˺タニ　˹シーシピカ˺リ　˹スン˺ケン　˹ヨーガリ

ベーˌンドゥ　ˈヌーˌシタカヤー [ˈʔatˌtani ˈʃiːʃipiˌkaˌri ˈsuŋˌkeŋ ˈjoːgari beːˌndu ˈnuːˌʃi̥takajaː](急に筋肉がそぎ落とされるほど痩せているが、どうしたんだろうか)。

ˌシー　シˈビルン [ˌʃiː ʃiˈbiruŋ] 【連】母親の乳を強く吸う。しゃぶる。ˈシーヌミˌッふァー　ˈヤーˌサカー　ˌシー　シˈビルント ダー [ˈʃiːnumiˌffaː ˈjaːˌsakaːˌʃiː ʃiˈbirunt̪daː](乳飲み子はひもじいと母乳を強く吸う＜しゃぶる＞よ)。

ˈシーˌシ　ˌフーン [ˈʃiːˌʃi ˌɸuːŋ] 【連】煤ける。煤が付く。「煤喰らう」の義。「Susu. スス (煤) 煙突の煤、または、煙突のない家の煤」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˈティンゾーˌヤ　ˈシーˌシ　ˌフイティ　ヤˈニヤˌヌ　ˈペーララˌヌ [ˈtindʑoːˌja ˈʃiːˌʃi ˌɸuiti jaˈnijaˌnu ˈpeːraraˌnu](天井は煤けているので、汚くて入られない)。

ˈシーˌシ　ˌフーン [ˈʃiːˌʃi ˌɸuːŋ] 【連】身震いする。寒さで筋肉が震える。ˈシーˌシ [ˈʃiːˌʃi] は、「Xixi. シシ (肉) 骨と区別して肉のことをいう」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˌフーン [ˌɸuːŋ](震える) は、「Furui,ru,uta. フルイ、ゥ、ゥタ (震・振ひ、ふ、うた) 寒さや恐ろしさのためにふるえる」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ドゥˈクˌヌ　ˈピーˌヤティ　ˈシーˌシ　ˌフイティ　トゥˈマラヌ [duˈkuˌnu ˈpiːˌjati ˈʃiːˌʃi ˌɸuiti tuˈmaranu](あまりの寒さで筋肉が震えて、身震いが止まらない)。ピˈラクˌヌ　ˈスーˌルカー　ˈシーˌシ　ˌフーン [piˈrakuˌnu ˈsuːˌruka: ˈʃiːˌʃi ˌɸuːŋ](寒気が強まると身震いする)。イˈカーラ　ピーˌヤタンティン　ˈシーˌシ　ˈホーˌヌ　ˈシーシˌ　フー　スˈクˌヌ　ピˈラˌコー　ˈクーˌヌ [ʔikaːˈra piːˌjatantiŋ ˈʃiːˌʃi ˈhoːˌnu ˈʃiˌʃi ˌɸuː su̥ˈkuˌnu piˈra ˌkoː ˈkuːˌnu](いくら寒くても身震いしない。身震いするほどの寒気は来ない)。ドゥˈクˌヌ　ˈピーˌヤティ　クˈバˌリティ　ˈシーˌシフイ　ˈベー [duˈkuˌnu ˈpiːˌjati kuˈbaˌriti ˈʃiːˌʃiɸui ˈbeː](あまりにも寒いので、凍えて身震いしている)。ドゥˈクˌヌ　ˈピーˌヤティ　ˈシーˌシフイ　ˈフッツォーリ　ベー [duˈkuˌnu ˈpiːˌjati ˈʃiːˌʃiɸui ˈɸuttsoːri beː](あまりにも寒くて、ぶるぶる身震いして震えている)。ˌドゥク　ˈピーˌヤカー　ˈシーˌシフーン [ˌduku ˈpiːˌjakaː ˈʃiːˌʃiɸuːŋ](あまりにも寒かったら身震いする)。

ˈシーˌシ　ˈマーシ [ˈʃiːˌʃi ˈmaːʃi] 【連】獅子舞をすること。「獅子まわし」の義。ˈシーˌシ　ˈパーˌシ [ˈʃiːˌʃi ˈpaːˌʃi](獅子はやし) ともいう。普通は、獅子頭を持つ人と、尻尾を持つ人に二人一組で獅子舞をした。ビーロビ、ビーロビー、という笛の音に乗せて、百獣の王よろしく、ゆっくりと力強く舞うことによって悪霊を祓い、邪気を祓うものと信じられている舞い方と、モーヤーなどの三線歌曲に乗せて舞うことによって祖霊を慰める舞い方があるといわれている。

ˈシーˌシ　ˈマースン [ˈʃiːˌʃi ˈmaːsuŋ] 【連】獅子舞をする。「獅子舞わす」の転訛したもの。獅子頭を持つ人と尻尾を動かす人が獅子の着物＜衣装＞を被って、呼吸を合わせて獅子舞をした。

ˈシーシマチˌリ [ˈʃiːʃimatʃiˌri] 【名】「獅子頭祀り」の義。お盆の中日に、ˈダイˌケー [ˈdaiˌkeː](大工家) とクˈメー [kuˈmeː](小浜家) で執り行われる獅子頭供養の儀式。ˌグシパナ [ˌguʃipana](神酒と花米) を供え、香を焚いて行われる。お盆の中日の夕刻、化粧した獅子頭に衣装をつけ、当家の仏間の庭に安置して供物を供えて祈願する。それが済んでから獅子舞が行われる。獅子祀りの酒は集まった人々に振舞われた。ˈインヌムラヌ　シーシマチˌレー　ˈダイˌケーナーティル　ˈソーッˌタ [ˈʔinnumuranu ʃiːʃimatʃiˌreː ˈdaiˌkeːnaːtiru ˈsoːtˌta](西村の獅子頭祀りは大工家において＜ぞ＞なさった)。

ˈシーシムラˌシ [ˈʃiːʃimuraˌʃi] 【名】筋肉の塊。肉塊。バˈカーˌムヌヌ　パˈダˌカ　ˌナルカー　カˈタˌヌ　ˈシーシムラˌシン　ミˈラˌリン [baˈkaːˌmununu paˈdaˌka ˌnaruka: kḁˈtaˌnu ˈʃiːʃimuraˌʃim miˈraˌriŋ](若者が裸になると肩の筋肉の塊が見られる)。

ˈシージル [ˈʃiːʤiru] 【名】血管。「血弦」の義か。ˈシージルˌ　タˈティˌルンケン　ˌシラー　アˈガミティ　クンˌゾー　ウˈクˌリ　ˈオーッˌタ [ˈʃiːʤiruˌ tḁˈtiˌruŋkeŋ ˌʃira: ʔaˈgamiti kunˌʤo: ʔuˈkuˌri ˈʔoːtˌta](静脈の血管が浮き出る＜立つ＞ほど顔は赤らめて怒って＜根性起って＞おられた)。ヨーˈヨ　ガンバリˌバ　ˈシーアーˌキ　ˈシージルバナーˌト　ˌキシェー　ナˈランˌダー [joːˈjo gambariˌba ˈʃiːʔaːˌki ˈʃiːʤirubanaːˌto ˌki̥ʃe: naˈranˌdaː](大変だよ。悪戯をしていて血管をなど切ってはいけないよ)。ˈアウシージル [ˈʔauʃiːʤiru](静脈。「青血弦」の義)。

ˈシージル [ˈʃiːʤiru] 【名】血まみれになること。血みどろになること。血だらけになること。ˈカイˌリティ　イˈシˌナー　フˈタイˌ　バˈリティˌ　シラー　ˈシージル　シーベー [ˈkaiˌriti ʔiˈʃiˌna: ɸu̥ˈtaiˌ baˈriti ˌʃira: ˈʃiːʤiru ʃiːbeː](転んで石に額を強打して、顔は血まみれになっている)。ˈカイˌリティ　イˈシˌナ　スˈブˌル　バˈリティ　キンˌマー　ˈシージル　シ

ー　ベー [˩kai˥riti ʔi˩ʃi˥na su˩bu˥ru ba˩riti˥ ˩kim˥ma: ˩ʃi:ʤiru ʃi: be:](転んで石に頭を打って着物は血まみれになっている)。

˩シージル [˩ʃi:ʤiru] 【名】血管。血筋。アウー˩アウ˥シ　˩シージルヌ˥　ミ˩ラ˥リン [ʔau:˩ʔau˥ʃi ˩ʃi:ʤirunu˥ mi˩ra˥riŋ](青々と血管が見える)。

˩ジージルマー˥スン [˩ʤi:ʤiruma:˥suŋ] 【他動】懲らしめる。叩いて厳しく仕付ける (躾ける)。泥まみれにして諌め懲らしめる。ウ˩ヤ˥ヌ　˥ムニ　シゥ˩カン˥カー　˩ジージルマー˥スンティ　イ˩ズタンドゥ　ジージルマーサラン˥シェンバン [ʔu˩ja ˥nu ˥muni si̥˩kaŋ˥ka: ˩ʤi:ʤiruma:˥sunti ʔi˩ʤutandu ʤi:ʤiruma:saraŋ˥ʃembaŋ](親の言うことを聞かないと懲らしめてやると叱ったが、懲らしめることはできなかった)。˥アイニ　ヤ˩ラビ˥バ　˩ジージルマー˥ス　˥クトー　˩サンブリ˥バ [˥ʔaini ja˩rabi˥ba ˩ʤi:ʤiruma:˥su ˥ku̥to: ˩samburi˥ba](あのように子供を叩いて躾けることはするなよ)。˩ジージルマー˥シ　˥シケー [˩ʤi:ʤiruma:˥ʃi ˥ʃi̥ke:](厳しく仕付けてある)。˩マー˥ビン　˩ジージルマー˥シェー　˥ミサムヌ [˩ma:˥bin ˩ʤi:ʤiruma:˥ʃe: ˥misamunu](もっと厳しく仕付ければ良いのに)。˩ジージルマー˥シバ [˩ʤi:ʤiruma:˥ʃiba](厳しく仕付けろよ)。

˥ジーシンカ [˥ʤi:ʃiŋka] 【名】地謡衆。地謡人数。「地臣下」の義。地謡のメンバー。パ˩ナシケヌ˥　アチャー　キ˩チゴンヌ˥　ジーシンカバ　˩シーオー˥レーティ　˥ウタゾージ　˩サンシンゾージ˥　ヤ˩ローッ˥タ [pa˩naʃi̥kenu˥ ʔatʃa: ki̥˩ʧigonnu˥ ʤi:ʃiŋkaba ˩ʃi: ʔo:˥ re:ti ˥ʔutaʤo:ʤi ˩saŋʃinʤo:ʤi˥ ja˩ro:t˥ta](花城家のお父さんは、結願祭の地謡衆をしておられたので歌上手、三線上手であられた)。キ˩チゴンヌ˥　ジーシンカー　˩ターター　ソール˥ワ [ki̥˩ʧigonnu˥ ʤi:ʃiŋka: ˩ta:ta:ru so:ru˥wa](結願祭の地謡は誰々がなさいますか)。

˩シースー [˩ʃi:su:] 【名】師匠。先生。˩ワー˥　ブ˩ドゥルヌ　ティー˥ヌ　˩シーソー　ター˥　ヤ˩ロール˥ワ [˩wa:˥ bu˩durunu ti:˥nu ˩ʃi:so: ta:˥ ja˩ro:ru˥wa](貴方の踊りの手 < 型 > の師匠はどなた < 誰 > でいらっしゃいますか)。˩タール　ワー˥　ブ˩ドゥルヌ　シースー˥　ヤ˩ローッ˥ター [˩ta:ru wa:˥ bu˩durunu ʃi:su:˥ ja˩ro:t˥ta:](誰が貴方の踊りの師匠であられたのか)。シ˩マ˥ヌ　˥シザウヤンケール　˥ウタ　˥ブドゥルヌ　˩シースー˥　ヤ˩ローッ˥タ [ʃi˩ma˥nu ˥ʃiʤaʔujaŋke:ru ˥ʔuta ˥buduru ˩ʃi:su:˥ ja˩ro:t˥ta](島の親たち、先輩方が歌や踊りの師匠であられた)。

˩シースギ [˩ʃi:sugi] 【名】し過ぎること。やりすぎ。˩ワー˥　シ˩グトゥ　シースギ˥　ドゥク　シ˩グトゥ　シースギル˥カー　˥ドゥー　ヤ˩マ˥スン˩ダー [˩wa:˥ ʃi˩gutu ʃi:sugi˥ duku ʃi˩gutu ʃi:sugiru˥ka: ˥du: ja˩ma˥ sun˩da:](君は仕事のしすぎだ。あまり仕事をし過ぎると体を壊す < 病ます > よ)。

˩シースク˥ライ [˩ʃi:su̥ku˥rai] 【名】巣ごしらえ。豚の出産準備に茅を豚小屋に敷き詰めること。˩オー˥ヌ　ッ˩ふァ˥　ナ˩シン˥ギサバ　˥ガヤー　˥スリキー　˩シースク˥ライ　˩シー˥ヨー [˩ʔo:nu˥ f˩fa˥ na˩ʃiŋ˥ gisaba ˥gaja: ˥suriki: ˩ʃi:suku˥rai ˩ʃi:˥jo:](豚が出産し < 子供を産み > そうだから、茅を刈ってきて巣ごしらえしなさいよ)。

˥シー　ス˩ク˥ルン [˥ʃi: su̥˩ku˥ruŋ] 【連】巣を造る。巣食う。˥パトゥザー　˩キーヌ˥ユダナール　˥シース˩クルン˥ドゥ　˩ホートゥバレー˥ヌ　˥パトゥザー　˩ユシキ˥ヌ　˥ムトゥナーン　˥シー　ス˩ク˥ルン [˥pḁtuʤa: ˩ki:nu˥judana:ru ˥ʃi: su̥˩kurun˥du ˩ho:-tubare:˥nu ˥pḁtuʤa: ˩juʃi̥ki˥nu ˥mutuna:ŋ ˥ʃi: su̥˩ku˥ ruŋ](山鳩は木の枝に巣を造るが、鳩離島の山鳩はススキ群落の根元にも巣を造る)。

˩ジー˥　スクン [˩ʤi:˥ su̥kuŋ] 【連】滋養がつく。栄養になる。カ˩ツヌ˥　ダ˩シ˥トゥ　トゥ˩ルヌ˥　ダシェー　˩ヤン˥ヌ　˥アトー　イッ˩ケナ　ジー˥　スクン [kḁ˩tsunu˥ da˩ʃi˥tu tu˩runu˥ daʃe: ˩jan˥nu ˥ʔato: ʔik˩ kena ʤi:˥ su̥kuŋ](カツオの出汁と鶏の出汁は、病気のあとには非常に滋養がつく)。

˩ジー　スクン [˩ʤi: sukuŋ] 【連】滋養がつく。栄養、薬用効能が効く。ヤ˩ミ˥プスン　トゥ˩ルトゥ˥　サ˩クナ˥　シジ　ッ˩ふァース˥カー　イッ˩ケナ　ジー　スクン [ja˩mi˥pu̥sun tu˩rutu˥ sa˩kuna˥ ʃiʤi f˩fa:su ˥ka: ʔik˩kena ʤi: su̥kuŋ](病み人に鶏とボタンボウフウ < 長命草 > を煎じて食べさせると滋養がつく)。

˩シー˥ソー [˩ʃi:˥so:] 【名】 (植) 紫蘇。ア˩ガシーソー [ʔa˩gaʃi:so:](赤紫蘇)。ッ˩スシー˥ソー [s˩suʃi:˥so:](白紫蘇) がある。香味料として刺身の妻に用いられる。/シーシェマーヌ　オールンドー　アンガマターヌ　オールンドー　パダラヤナマシ　ナマシヤパイル　パイルヤフナブ　オンガキヤ　シーソヌパー　ソーランヤーヌ　アッパター　ミーザンマーサン　オーショーリ　ソーランヤーヌ　アッパター/(獅子舞一行がいらっしゃるよ。アンガマ達がいらっしゃるよ。トウゴロウイワシを刺身 < 膾(ナマス) > にし、膾には酢をかけ、酢には九年母を用い、刺身

の妻には紫蘇の葉を、精霊屋の祖母たちよ、不味くても美味しくても召し上がれ)「獅子舞のみちうた」『鳩間島古典民謡古謡集』。

˞シー˞ゾー [˞ʃiː˞ʤoː] 【名】製造。パ˞トゥマ˞ヌ　˞カツブシヌ　シーゾー˞ヤ　ウ˞トゥンジ˞　ブタ [pa̯ ˞tuma˞nu ka̯˞tubuʃi ʃiːʤoː˞ja ʔu˞tunʔʤi˞ buta](鳩間島の鰹節製造は有名であった＜音に出ていた＞)。

˞シーゾージ [˞ʃiːʤoːʤi] 【名】上手である。上手。「為・上手」の義。ブ˞ドゥル˞　シ˞ムバン˞　ノー˞ン˞　シ˞ミルバン˞　ウ˞リヌ˞　カタチヌ　˞シーゾージェー˞　ブ˞ラーヌ [bu˞duru˞ ʃi˞muban˞ noː˞ŋ˞ ʃi˞mirubaŋ˞ ʔu˞rinu˞ ka̯tatʃinu ˞ʃiːʤoːʤeː˞ bu˞raːnu](踊りをさせても、何をさせても、それ＜その人。彼・彼女＞のような上手＜為上手＞は他にいない)。

˞シーゾー˞ニン [˞ʃiːʤoː˞niŋ] 【名】鰹節製造人。˞シーゾーニン˞マー　カ˞ツ˞　バ˞ザイティ˞　カ˞ツブシ˞　ス˞ク˞ル　プ˞ス˞　ヤ˞ルンダ　タイロー　スー˞　ピンマー　ニ˞ブ˞ミーン　˞ナーン˞シェン [˞ʃiːʤoːnim˞maː ka̯˞tsu˞ ba˞ʤaiti˞ ka̯˞tsubuʃi˞ su̯˞ku˞ru pu̯˞su˞ ja˞runda tairoː suː˞ pimmaː ni˞bu˞miːn ˞naːŋ˞ ʃeŋ](製造人はカツオを捌いて鰹節を造る人だから、大漁する時は眠る暇もなかった)。

˞シーゾー˞ヤー [˞ʃiːʤoː˞jaː] 【名】鰹節製造工場。「製造屋」の転訛したもの。カツオ漁業の導入に伴って沖縄本島の本部方言から借用された語であろう。鰹節製造工場には、一棟に生魚を捌く所、ナ˞カ˞ワリ [na˞ka˞wari](三枚卸し)、ヨ˞ツワリ [jo˞tsuwari](四つ割り。三枚卸したものを˞ミー˞ブシ [˞miː˞buʃi]＜女節＞と˞ウー˞ブシ [˞ʔuː˞buʃi]＜雄節＞の部分に卸すこと) にする、カ˞ツバザイマニツァ [ka̯˞tsubaʤaimanitsa](カツオを捌く俎板) のある場所、イ˞ズネーシカマ [ʔi˞ʤuneːʃikama](カツオを煮る大釜) の場所、シ˞ル˞ク　ッ˞ふァーシトン [ʃi˞ru˞ku f˞faːʃitoŋ](大釜で煮たカツオを焙乾する前に整形補正する所) があり、別棟にナ˞ヤ [na˞ja](事務所、倉庫を兼ねた納屋) と、バイカンヤー [˞baikaŋ˞jaː](焙乾屋) があった。˞シーゾー˞ヤーナー　ナ˞ヤン　バイカン˞ヤーン　˞アッ˞タン [˞ʃiːʤoː˞jaːnaː na ˞jam baikaŋ˞jaːŋ ˞ʔat˞taŋ](鰹節製造工場には、焙乾屋も納屋もあった)。

˞ジー˞ダイ [˞ʤiː˞dai] 【名】地代。田地や畑地の地代。ス˞クリバキ˞ヌ　˞ジーダイ˞ヤー　˞マイ˞シル　パ˞ラウ˞タ [su̯˞kuribaki˞nu ˞ʤiːdai˞jaː ˞mai˞ʃiru pa˞rau ˞ta](造り分け＜借地料を穀物で支払う契約の小作＞は米で＜ぞ＞支払ったものだ)。

˞シー˞ダニ [˞ʃiː˞dani] 【名】乳房のしこり。「乳種＜ぐりぐり＞」(リンパ腺) の義か。˞シーダニ˞ヌ　コー˞コー˞シ　カ˞サマリスヌ˞　ヌーカヤー　˞ヤン˞ヌ　シ˞ルシ˞カヤー [˞ʃiːdani˞nu koː˞koː˞ʃi ka˞samarisunu ˞nuːkajaː ˞jan˞nu ʃi˞ruʃi˞kajaː](乳房のしこりが硬く手に触れる＜掴まれる＞が何だろうか。病気の前兆だろうか)。

˞シー˞ダニ　バ˞リ [˞ʃiː˞dani ba˞ri] 【連】産婦の乳房のしこりを揉みほぐすこと。「乳種割り」の義。しこりを取り除くことによって乳の出をよくしたり、乳の病気の予防にしたりした。˞シラプソー　イ˞ジン˞ジ　˞シー　˞ムーミ　シー˞ダニ　バ˞リバル　シー˞ヤ　ン˞ジヤッ˞サティ˞ダー [˞ʃirapusoː ʔi˞ʤin˞ʤi ˞ʃiː ˞muːmi ʃiː˞dani ba˞ribaru ʃiː˞ja ʔn˞ʤijas˞sati˞daː](産婦は乳房をよく揉んで、揉みほぐしたほうが＜乳種を割ったほうが＞乳は出やすいそうだ)。

˞シー˞　ダラダラ [˞ʃiː˞ daradara] 【連】血がタラタラ滴る。˞キーヌ˞　ウイラ　˞ウティティ　ス˞ブ˞ル　˞ピッ˞キティ　˞シー˞　ダラダラ　パ˞ラ˞シェーティ　˞アー˞ク [˞kiːnu˞ ʔuira ˞ʔutiti su˞bu˞ru ˞pik˞kiti ˞ʃiː˞ daradara pa˞ra˞ʃeːti ˞ʔaː˞ku](木の上から落ちて頭を傷つけて血をタラタラ流している)。

˞シーッ [˞ʃiːt] 【感】他の動作を制止するときの声。人差し指を口に当てて、˞シーーッ [˞ʃiːːt](静かに!)。乳幼児を抱いて便器に向かい、小用を催促する際に発する声。˞シーッ　˞シーッ [˞ʃiːʃ ˞ʃiːt](「おしっこ、おしっこ」の義)。動物を追い立てる声。˞シーッ [˞ʃiːt](「それ行け」、「あっちへ行け」の義)。

˞シーッサリ˞カザ [˞ʃiːssari˞kaʤa] 【名】母乳の発酵した臭い。「乳腐れ臭い」の義。ッ˞ふァナシプス˞ヌ　˞キン˞マー　シ˞ナッふァ˞ヌ　˞パク　˞シーッサリカザ˞ヌ　˞スン [f˞fanaʃipusu˞nu ˞kim˞maː ʃi˞naffa ˞nu ˞pa̯ku ˞ʃiːssarikaʤa˞nu ˞suŋ](産婦の着物は幼い乳児が吐く母乳の発酵した臭いがする)。

˞シー˞　ッ˞シー [˞ʃiː˞ ʃ˞ʃiː] 【感】鶏など家畜類を追いやる際に発する語。˞マイ˞　プシ　˞シケーバ　トゥ˞ルヌ˞　クーカー　˞シー˞　ッ˞シー˞ティ　˞シー　ウイ˞　パ˞ラ˞シ˞ヨー [˞mai˞ pu̯ʃiʃi̯keːba tu˞runu˞ ku:ka: ˞ʃiː˞ ʃ˞ʃiː˞ti ˞ʃiː ʔui˞ pa˞ra˞ʃi˞joː](籾＜米＞を干してあるから、鶏が来たらシーッシーといって追い払えよ)。

˞シーッス [˞ʃiːssu] 【名】血便。血液の混じった便。「血糞」の義。シ˞ビ　コー˞リ　˞ベータン˞ドゥ　ン˞グミ˞　マ˞ル˞ター　˞シーッスバ˞　マリシケーンドゥ

ノー˞ンサン˜　ミサンカヤー [ʃiˀbi koːˀri ˞beːtanˀdu ʔŋ˞gumi˜ ma˞ruˀtaː ˞ʃiːssubaˀ mariʃi̥keːndu noː˞nsam˜ misaŋkajaː](便秘をしていたけど、力んで排便したら血便をまって <放(マ)って。排泄して > あるが、大丈夫だろうか < 何もしないだろうか >)。

˞シーッ˜パイ **[˞ʃiːpˀpai]** 【副】精一杯。一生懸命。˞シーッ˜パイ　パ˞タラキ　ベー˜ンドゥ　ク˞ビ˜ル˜ナル [˞ʃiːpˀpai pḁ˞taraki beːˀndu ku˞biˀru ˀnaru](精一杯働いているのだがこれだけしか出来ない < これだけが出来る >)。ア˞サバンドー˜シ　˞シーッ˜パイ　˞モー˜キ　˜クー [ʔa˞sabandoː˜ʃi ˞ʃiːpˀpai ˞moː˜ki ˀkuː](遊ばないで精一杯儲けてこい)。

˞シーッふァイ˜ッふァ **[˞ʃiːffaiˀffa]** 【名】乳飲み子。「乳食い子」の義。˞シーッふァイッふァ˜ヌ　˞ブーアイ˜ヤー　˞ティー˜パン　フ˞バラリティ˜　マー˞ン˜　パ˞ララ˜ヌ [˞ʃiːffaiffaˀnu ˞buː ʔaiˀjaː ˞tiːˀpaŋ ɸu ˞barariti˜ maː˞m˜ pa˞raraˀnu](乳飲み子 < 乳喰らい子 > がいる間は手足が拘束 < 束縛 > されて何処にも行くことが出来ない)。

˞シーッふァイ˜パー **[˞ʃiːffaiˀpaː]** 【名】乳歯。「乳食い歯」の義。生後 6 ヶ月頃から生え始めるが、7,8 歳〜11、12 歳頃に永久歯に生えかわる。˞シーッふァイパー˜ヤ　ナ˞ナッチ　ヤー˜チ　˜ブカラーラ　˞ムイカー˜ルン [˞ʃiːffaipaː˜ja na˞nattʃijaː˜tʃi ˜bukaraːra ˞muikaː˜ruŋ](乳歯は 7、8 歳頃から生えかわる)。˞ワー　パー˜ヤ　˞シーッふァイパー˜　アー˞イ　シーッふァイパー˜ヤ　ムー˞ル　ムイカー˜リ　˞ベー [˞waː paː˜ja ˞ʃiːffaipaː˜ ʔaː˞i ʃiːffaipaː˜ja muː˞ru muikaː˜ri ˞beː](君の歯は乳歯か。いや、乳歯は全部生え替わっているよ)。

シー˞ティ **[ʃiː˞ti]** 【副】強いて。無理に。敢てさからって。むやみに。˞ワーヤ˜　シー˞ティ˜　パ˞ラン˜タンティン　ミサン˞ダー [˞waːjaˀ ʃiː˞tiˀ pa˞ranˀ tantim ˀmisaŋ](君は無理に行かなくてもよい)。˞ワール˜　シー˞ティ˜ティ　タ˞ナムター˜ル　カ˞リンナー˜ニ　パ˞ナ˜シェー　˜シジ˞ダー [˞waːruˀ ʃiː˞tiˀti ta˞namutaː˜ru ka˞rinnaː˜ni pa˞naˀʃeː ˜ʃiʤi˞daː](君が強いて < 無理に > といって、頼んだので彼に話したわけだよ)。

˞シーティー **[˞ʃiːtiː]** 【名】名手。名人。やり手。「仕手」の義。パ˞トゥ˜マナテー　ブ˞ドゥルヌ　シーティーヤ　ウッ˜ツァー　˞バー˜キ˞ダー [pḁ˞tuˀmanateː bu˞durunu ʃiːtiːjaˀ ˞ʔutˀtsaː ˞baːˀki˞daː](鳩間島では、踊りの名手 < 仕手 > といえば彼らまでだよ)。

˞シー˜トゥ **[˞ʃiːˀtu]** 【名】生徒。「明治 29 年 6 月 16 日、初めて当村においても学校を設立することとなり、当村事務所の西隣の僅か 92 坪の地に、幅が 2 間、長さ 3 間半、総坪数 7 坪の掘建て小屋を作り、就学児童 23 人を収営して大川尋常小学鳩間分校と称し、雇教員大濱安能氏当分校勤務を命ぜらる。此れ当村に於て教育の嚆矢なり」『波濤をこえて　鳩間小学校創立百周年記念誌』とある。昭和になって八重山に中等学校、女学校が設置されたから「生徒」という語彙も其の頃に借用されたものであろう。戦後の六・三・三・四制教育により、鳩間島に鳩間中学校が設置され、「生徒会」も設置された。˞ウンヌマーラー　ガッ˜コーシートー　ギュ˞タール˜　ブ˞タ˜カヤー [˞ʔunnumaːra: gakˀkoːʃiːto: gju ˞taːruˀ bu˞taˀkajaː](その頃、学校の生徒は何人いたかねえ)。

˞シートゥー **[˞ʃiːtuː]** 【名】製糖。戦前には鳩間島にも製糖組合が結成され、製糖小屋を作り、圧搾機を牛に引かせて回し、砂糖黍を絞って製糖していたという。ム˞カ˜シェー　パ˞トゥ˜マナーン　˞シートゥー　シー　オーッ˜タンティ˞ダー [mu˞kaˀʃeː pḁ ˞tuˀmanaːŋ ˞ʃiːtuː ʃiː ʔoːtˀtanti˞daː](昔は鳩間島にも製糖をしておられたってよ)。

˞シートゥーグルマ **[˞ʃiːtuːguruma]** 【名】製糖用の鉄製の歯車。製糖用の圧搾機。˜サタグルマー [˞sataguramaː](砂糖車) ともいう。牛に引かせて回し、砂糖黍を圧搾して汁を搾り、鉄鍋に煮て黒糖に仕上げた。製品は樽に詰めて石垣島に出荷された。˞シートゥーグルマ˜ナー　˜ティー　˞フッカーサ˜リカー　˞デー˜ジ˞ダー [˞ʃiːtuːguramaˀnaː ˜tiː ˞ɸukkaːsaˀrikaː ˞deːˀʤi˞daː](圧搾機 < 製糖車 > に手を挟まれると大変だぞ)。

˞シートゥーヤー **[˞ʃiːtuːjaː]** 【名】製糖小屋。「製糖屋」の義。プ˞スシタ˜ラー　˞シートゥーヤーン˜　ス˞ク˜リ　˜サタ　˜タリ　˞オーッ˜タンティ　ス˞ヌ　モーカラン˜センツォー [pu̥˞suʃitaˀraː ˞ʃiːtuːjaːn˜ su̥˞kuˀri ˀsḁta ˀtari ˞ʔoːtˀtanti su˞nu moːkaraŋ˜ʃentsoː](一時期は製糖小屋も作って砂糖を作っ < 砂糖黍の汁を煮詰めて凝固させ、黒糖を製造し > ておられたが、儲からなかったそうだ)。

˞シートゥズミ˜ルン **[˞ʃiːtuʤumiˀruŋ]** 【他動】終了させる。し終える。完了させる。完成する。˞スン [˞suŋ](する) の連用形˞シー [˞ʃiː] にトゥ˞ズミ˜ルン [tu˞ʤumiˀruŋ](完了する。「とぢめ (閉ぢめ) 下二」、源氏物語　空蝉、の転訛か) が下接してラ行四段活用化した複合動詞。シ˞グトー˜　キューズー

ナ　˹シートゥズミルン [ʃi˹guto:˺ kju:ʤu:na ˹ʃi:˺ tu ˹ʤumiruŋ](仕事は今日中に完了させる)。ヤー˹ディン˺　ア˹ツァバー˺キナ　˹シートゥズミラン˺カー　ナ˹ラ˺ヌ [ja:˹diŋ˺ ʔa˹tsaba:˺kina ˹ʃi:tuʤumiraŋ˺ka: na˹ra˺nu](必ず明日までにし終えないといけない)。

˹シートゥズムン [˹ʃi:tuʤumuŋ]　【他動】終了する。し終える。完了する。˹シートゥズミルン [˹ʃi:tuʤu-miruŋ](し終える) と同じ複合動詞。マ行四段活用化したもの。˺キューズーナ　˹シートゥズムンティ　˹ギーバリ　ベー [˺kju:ʤu:na ˹ʃi:tuʤumuti gi:bari be:](今日中に完了しようと頑張って < 気張って > いる)。

˹シーナライ [˹ʃi:narai]　【名】しなれること。熟練すること。常日頃やっていること。習慣的にしていること。「し慣れ」の義。パ˹ジミテー˺　ア˹ラ˺ヌ　˹シーナライル˺　ヤ˹リバ　ソーヤ　ナー˺ヌ [pa˹ʤimite: ˺ ʔa˹ra˺nu ˹ʃi:narairu˺ ja˹riba so:ja na:˺nu](初めてではない。し慣れていることだから心配はない)。˹ミー˺ナライ　˹シーナライ　シェー˺ティル　˹ゾー˺ジェー　˺ナル [˹mi:˺narai ˹ʃi:narai ʃe:˺tiru ˹ʤo:˺ʤe: ˺naru](見習い、し習いしながら < 経験を積んで > 上手にはなるものだ)。

˹ジーナラ˺シ [˹ʤi:nara˺ʃi]　【名】地ならし。家屋建築の際、柱を立てる地面を水平に搗き固めること。ア˹ラヤー˺　ス˹ク˺ル　˺ピンマー　˹ジーナラ˺シ　˹ソーッ˺タン [ʔa˹raja: su̥˹ku˺ru ˺pimma: ˹ʤi:nara˺ʃi ˹so:t˺taŋ](新しい家を造る時は地均しををされた)。

˹シー˺ニー [˹ʃi:˺ni:]　【名】後ろの荷。˹シー˺ニー　˹マイ˺ニー　マー˹タキ˺　ナ˹シバ˺ル　カ˹タミヤッ˺サ [˹ʃi:˺ni: ˹mai˺ni: ma:˹taki˺ na˹ʃiba˺ru ka˹tamijas˺sa](後ろの荷、前の荷を同じ重さにしたほうが担ぎやすい)。後ろの荷が重いこと。対義語は、˹マイ˺ニー [˹mai˺ni:](前の荷が重いこと)。˹ワー　ニー˺ヤ　˹シー˺ニー　˺ナリ　˹ベー˺ティル　カ˹タミグリ˺サル [˹wa: ni:˺ja ˹ʃi:˺ni: ˺nari ˹be:˺tiru ka˹tamiguri˺saru](君の荷は、後ろが重い荷になっているので担ぎにくいのだよ)。

˹シーヌ　アールン [˹ʃi:nu ʔa:ruŋ]　【連】血が騒ぐ。興奮する。「血が暴れる」の義。霊的なものによって胸がざわざわして上気 < じょうき > し、血が頭に上って興奮し、取り乱す。˺シラプソー　˹シーヌ　アール˺カー　プ˹リルン˺ティ˹ダー [˺ʃirapuso: ˹ʃi:nu ʔa:ru˺ka: pu˹rirun˺ti˹da:](産婦は興奮すると気が狂うそうだ)。˹シーヌ　アーリティ˺　キ˹ム˺　ワ˹サワ˺サ　˹シー˺　ナ˹ラン˺サー [˹ʃi:nu ʔa:riti˺ ki˹mu ˺ wa˹sawa˺sa ˹ʃi:˺ na˹ran˺sa:](血が騒いで、気分が上気して、心がわさわさして < ざわめいて >、落ち着けない < どうにもならない > よ)。

˹シーヌウチ [˹ʃi:nuʔutʃi]　【名】「垣の内」の義。西表島北岸の伊武田崎にある地名。猪垣を廻らした跡が今も残っている。明治中期頃まで鳩間島の人が˹シーヌウチ [˹ʃi:nuʔutʃi](垣の内) に小屋がけして水田耕作をしたと伝えられるところ。乾隆 18 年 (1753) の「参遣状」に同 < 人口 >450 人、同 < 耕作当 >1 人、現在の定員以外に一人、増員お願い申しあげます。但し、土地が狭いので、西表地域へ海を越えて渡り、仮屋を作り耕作しており、一人では指示できないため、」『参遣状抜書 < 下巻 >』とある。˺インダヌ　˹シーヌウチ˺ナー　パ˹トゥ˺マ　˺ムラヌ　˹アッ˺タンティ˹ダー [˺ʔindanu ˹ʃi:nuʔutʃi˺na: pḁ˹tu˺ mamuranu ˹ʔat˺tanti˹da:](伊武田の垣の内には鳩間村があったそうだよ)。珊瑚石や山石などを積み上げて作ったもの。幅約 50 センチ、高さ約 1 メートルに積み、昔の伊武田村一帯を張り巡らしてあったという。その内側をシーヌウチという。˹シーヌウチ˺ナー　˺インダガマン　˺アリ　˹ヨー˺カヤーヌ　マ˹ルマシン˺　アン [˹ʃi:nuʔutʃi˺na: ˺ʔindagamaŋ ˺ʔari ˹jo:˺kaja:nu ma˹rumaʃiŋ˺ ʔaŋ](シーニウチには伊武田ガマ < 洞窟 > もあり、西原家の円マシ < 田圃 > もある)。

˹ジー˺ヌ　カ˹ザ˺　カ˹ブン [˹ʤi:˺nu ka˹ʤa:˺ ka˹buŋ]　【連】腰が曲がって歩くさま。年老いて腰が曲がって歩くさま。「地面の匂いを嗅ぐ」の義。ク˹シェー˺　マ˹ガリ　ジー˺ヌ　カ˹ザー˺　カ˹ベー˺ティル　ア˹ラ˺コール [ku˹ʃe:˺ ma˹gari ʤi:˺nu ka˹ʤa:˺ ka˹be:˺ tiru ʔa˹ra˺ko:ru](腰は曲がって、地面の匂いを嗅ぎながら < ぞ > 歩かれる)。

˹ジーヌギ [˹ʤi:nugi]　【名】「地抜き」の義か。旅先や海上で死んだ人の霊魂は、落命 (臨終) の地に落ちてさ迷い成仏できないと信じられている。従って、出来るだけ早く落命した地へ行き、地の神や竜宮の神に祈願をし、死者の霊を解放してもらい、成仏させるための祭事を執り行った。老婆やサ˹カサ [sḁ˹kasa](司。女性神職者) に依頼して祈願してもらうか、ユ˹タ [ju˹ta](巫女。いちこ) に依頼して˹ジーヌギ [˹ʤi:nugi](地抜き) の祈願をしてもらった。この祈願は、仕方を誤ると霊界に通らないこともあり、難しいという。˹ジーヌギ　サン˺カー　ナ˹ラン˺ティ　˹シー˺　サ˹カサ˺　タ˹ナ˺ミ　˹ジーヌギ˺　シ

˹モーッ˺タツォー [˹ʤiːnugi saŋ˺kaː na˹ran˺ti ˹ʃiː˺ sa̯ ˹kasa˺ ta˹na˺mi ˹ʤiːnugi˺ ʃi˹moːt˺tatsoː](ジーヌギの祈願をしなくてはいけないとのことで＜といって＞、司を頼んでジーヌギ＜地抜き＞の祈願をさせられたそうだ)。タ˹ビ˺ナー ˹マーラシェー˺ プ˹ソー ジーヌギ˺ サ˹バル˺ ナルツォー [ta˹bi˺naː ˹maːraʃeː˺ pu̯˹soː ʤiːnugi˺ sa˹baru˺ narutsoː](旅で亡くなった人は、霊魂をその地から地抜きをしないといけない＜地抜きすればぞなる＞そうだ)。

˹ジーヌギ [˹ʤiːnugi] 【名】不慮の事故で死んだ人の霊を落命の地より解放＜抜き放＞して故郷へ戻す祈願。「地抜き」の義か。ス˹ナカ˺ナーティ ˹マーラシェー˺ プ˹ソー ジーヌギ ソー˺ルン [su˹naka˺naːti ˹maːrasoː˺reː pu̯˹soː ʤiːnugi soː˺ruŋ](海で亡くなった人は落命の地より死者の霊を解放して故郷へ返す祈願をされる)。

˹シー˺ ヌ˹ギ˺ルン [˹ʃiː˺ nu˹gi˺ruŋ] 【連】血が抜ける。体力が極度に弱る。「血抜ける」の義。˹シー˺ ヌ˹ギ˺ル ˺スコー ˹ナーヤンバ シー˺ イルン ˺ッサイティ ˹ヨーガリ ベー [˹ʃiːnugi˺ru ˺su̯koː ˹naːjamba ʃiː˺ ʔirun ˺ssaiti ˹joːgari beː](血が抜けるほどに長病み＜長患い＞をして、顔も青白くなって＜白んで＞痩せている)。

˹シー˺ ヌグン [˹ʃiː˺ nuguŋ] 【連】血が抜ける。体力が極度に弱る。「血抜く」の義。˹アッ˺タニ ウ˹バーサリ シー˺ヌギティ ˺ドゥー ˹ウーカサラ˺ヌ [˹ʔat˺tani ʔu˹baːsari ʃiː˺nugiti ˺duː ˹ʔuːkasara˺nu](急に驚かされ、血が抜けて＜腰を抜かして＞体を動かすことが出来ない)。

˹ジー˺ヌシ [˹ʤiː˺nuʃi] 【名】地主。ク˹ヌ ヤシキ˺ヌ ˹ジー˺ヌシェー ˹ター˺ヤ [ku˹nu jaʃi̯˺ki˺nu ˹ʤiː˺nuʃeː ˹taː˺ja](この屋敷の地主は誰か)。˹ジーヌシン˺ナーニ タ˹ナ˺ミティ ク˹ヌ ヤシ˺キ カ˹リ˺バ [˹ʤiːnuʃin˺naːni ta˹na˺miti ku˹nu jaʃi̯˺ki ka˹ri˺ba](地主に頼んで、この屋敷を借りなさいよ)。

˹シーヌ˺ タ˹カー˺ン [˹ʃiːnu˺ ta̯˹kaː˺ŋ] 【連】血圧が高い。˹パンタリ˺プソー ˹シーヌ˺ タ˹カーン˺ティ ア˹ザリ ブー [˹pantari˺pu̯soː ˹ʃiːnu˺ ta̯˹kaːn˺ti ʔa˹ʤari buː](肥満の人は血圧が高いといわれている)。

˹シーヌ˺ タ˹ラーヌ [˹ʃiːnu˺ ta˹raːnu] 【連】血圧が低い。貧血である。「血が足りない」の義。ム˹カ˺シプソー ミ˹ドーンッふァ˺ヌ ˹シーヌ˺ タラーン˺ プソー ˹オー˺ヌ ˺キム ッ˹ふァーシ˺ティ ア˹ゾーッ˺タ [mu˹ka˺ʃipu̯soː mi˹doːŋffa˺nu ˹ʃiːnu˺ ta˹raːm˺ pu̯soː ˹ʔoː˺nu ˺kimu f˹fa:ʃi˺ti ʔa˹ʤoːt˺ta](昔の人は、女の子が貧血の＜血が足りない＞時、豚の肝を食べさせなさいといわれた)。

˹シー˺ヌ パ˹ラシキルン [˹ʃiː˺nu pa˹raʃi̯kiruŋ] 【連】乳房に乳が溜まって張り詰める。ッ˹ふァ アシ˺キティ シ˹トゥ˺ミ ブ˹レー˺ンダ ˹シー˺ヌ パ˹ラシキルン˺ケン ˺シー ヌ˹マシユーサン˺シェン [f˹fa ʔaʃi̯˺kiti ʃi̯˹tu˺mi bu˹reː˺nda ˹ʃiː˺nu pa˹raʃi̯kiruŋ ˺keŋ ˺ʃiː nu˹maʃijuːsaŋ˺ʃeŋ](子供を預けて勤めていたので、乳房が張り詰めるほどになるまで乳を飲ませることができなかった)。

˹シー˺ヌ フ˹チ [˹ʃiː˺nu ɸu̯˹ʧi] 【名】乳首。「乳の口」の義。ヤ˹ラビ˺ヌ ˺パー ˹ムイ˺ジブン ˺ナルカー ˺ユー ˹シー˺ヌ フ˹チ フッ˺ツァムン˹ダー [ja˹rabi˺nu ˺paː ˹mui˺ʤibun naruka: ˺juː ˹ʃiː˺nu ɸu̯˹ʧi ɸut˺tsamaun˹daː](子供の歯が生える頃になると、よく乳首を噛む＜喰い掴む＞よ)。

˹シーヌ˺フチ [˹ʃiːnu˺ɸuʧi] 【名】乳首。˹シーッふァイ˺ッふァー ˹パー˺ヌ ˹ムイジブン˺マー ˹シーヌ˺フチ フーン˹ダー [˹ʃiːffai˺ffa: ˹paː˺nu ˹muiʤibum˺maː ˹ʃiːnu˺ ɸu̯ʧi ɸuːn˹daː](乳飲み子は歯の生える時期＜時分＞には乳首を噛むよ)。

˹シーヌミキョー˺ダイ [˹ʃiːnumikjoː˺dai] 【名】乳兄弟 (乳飲み兄弟)。肉親ではないが、同じ人の乳で育てられたもの同士。˹ウン˺ネヌ ˺アボー ˹シー˺バ タ˹ボーラリ˺ル ス˹ダティラ˺レーティ ˹シーヌミキョー˺ダイティ ア˹ザリブー˺ダー [˹ʔun˺nenu ˺ʔabo: ˹ʃiː˺ba ta˹boːrari˺ru su˹datira˺reːti ˹ʃiːnumikjoː ˺daiti ʔa˹ʤaribuː˺daː](其の家のお母さんの乳を頂いて育てられたので乳兄弟といわれているのだよ)。

˹シーヌ˺ ミチ [˹ʃiːnu˺ miʧi] 【連】血管。「血の道」の義。˹シージル [˹ʃiːʤiru](血管。＜血弦＞の義)、˹アウジル [˹ʔauʤiru](青筋。静脈。＜青弦＞の義)ともいう。˹ヨーガルター シーヌ˺ ミチーン ˹トゥンジ˺ キー˹ナー˺ヌ [˹joːgaruta: ʃiːnu˺ miʧiːn ˹tunʤi˺ kiː˹naː˺nu](痩せたので血管＜血の道＞も飛び出てきてしまった)。˹シーヌ˺ ミ˹チ˺ヌ ン˹ジ˺ルンケン ン˹グムナ˺ヨー [˹ʃiːnu˺ mi˹ʧi˺nu ʔn˹ʤi ˺ruŋkeŋ ʔŋ˹gumuna˺joː](血管が出るほど＜まで＞力むなよ)。

˹シー˺ネー [˹ʃiː˺neː] 【名】後ろ隣。後ろの家。北隣。鳩間村は友利御嶽を腰当森にし、島の南海岸に面して立地しているので、原則として各家の門は南に向いている。従って、後ろの家は全て北側にあり、北隣の家となる。˹シー˺ネーラ ˹ブー˺ヌ カ˹

リ˺キー　タ˹ム˺ヌ　バ˹リ [˹ʃiː˺neːra ˹buː˺nu ka˹ri˺kiː ta˹mu˺nu ba˹ri](後ろ隣から薪割り斧を借りてきて薪を割りなさい)。[ʃiːnujaː](後の家)　→　[ʃiːɲaː]　→　[ʃiːneː]　と音韻変化したもの。˹シー˺ネーナー　˹ギー　タン˺グ　カ˹リ˺　クー [˹ʃiː˺neːna: ˹giː taŋ˺gu ka˹ri˺kuː](後ろの家に行って担桶 < たごおけ > を借りてこい)。˹シー˺ネーナ　˹ギー　クン˺デー　カ˹ラシタ　ブー˺ヌ　˺トゥリクー [˹ʃiː˺neːna ˹giː kun˺deː ka˹raʃi̥ta buː˺nu ˺turikuː](後ろ隣の家に行って、先日貸した斧を取ってきなさい)。

˹シーノースン [˹ʃiːnoːsuŋ]　【他動】為直す。やり直す。˹シーノースンティ˺　ウムイ　˹シーノーシ˺　プサン　ア˹リ˺ブンドゥ　ムッ˹トゥ　シーノーサラヌ [˹ʃiːnoːsunti˺ ʔumui ˹ʃiːnoːʃi˺ pu̥saŋ ʔa˹ri˺bundu mut˹tu ʃiːnoːsaranu](やり直そうと思い、やり直したくもありおるが、ちっともやり直されない)。˹サン˺ミン　˹シーノースンティ˺　ウ˹ムー˺ヌ　˹ヌー˺シカヤー [˹sam˺miŋ ˹ʃiːnoːsunti˺ ʔu˹muː˺nu ˹nuː˺ʃikajaː](計算をし直そうと思うが、どう < 如何 > でしょうか)。˹シーノース˺　クトー　イ˹チン˺　ナ˹リ˺スバ　˹パー˺ク　˹シーノーシ [˹ʃiːnoːsu˺ ku̥to: ʔi˹tʃin˺ na˹ri˺suba ˹paː˺ku ˹ʃiːnoːʃi](やり直すことはいつでも出来るから、早くやり直せ)。˹シーノーシェー˺　ミサムヌ [˹ʃiːnoːʃeː˺ misamunu](やり直せばよいのに)。

˹シー˺バイ [˹ʃiːbai]　【名】残飯や饐えた食品にたか (集) る小さな蝿。小蝿。「饐え蝿」の転訛したものか。ッ˹ふァイムヌ˺　ッサラスカー　˹シーバイ˺ヌ　バ˹キ˺　シ˹ディ˺ルン [f˹faimunu˺ ssarasuka: ˹ʃiːbai˺nu ʃi˹di˺ruŋ](食べ物を腐らせると小さな蝿 < 饐え小蝿 > が湧き出てくる < 孵化して湧き出る >)。

˹シー˺バイ [˹ʃiː˺bai]　【名】(動) 昆虫の名。饐えたものにたかる小さな蝿。「饐え蝿」の義か『沖縄今帰仁方言辞典』。夏になると食物の饐えたものなどにこの小蝿がたかる。˹シーリカザ˺ヌ　˹スー˺カー　˹シーバイ˺ヌ　ア˹ツァ˺マルン [˹ʃiːrikaʤa˺nu ˹suː˺kaː ˹ʃiːbai˺nu ʔa˹tsa˺maruŋ](饐えた匂いがすると小さな蝿がたかってくる < 集まる >)。

˹シー˺パキ [˹ʃiː˺paki]　【名】よだれかけ (涎掛け)。「乳吐き」の義か。乳児が飲んだ母乳を口から涎と一緒に出すのを拭き取るために首に掛けるもの。˹シー˺パケー　パ˹カセー˺ティ　カ˹サナーン˺カー　ヤ˹ラ˺ベー　ニ˹ベー˺ティナーン　˺シー　˺パキ　˺キン　˹ゾーラスン˺ダー [˹ʃiː˺pḁke: pḁ˹kaʃeː˺ti kḁ˹sanaːŋ ˺kaː ja˹ra˺beː ni˹beː˺tinaːŋ ˺ʃiː ˺pḁki ˺kin ˹ʤoːrasun˺daː](涎掛けをはかせて背負わないと、乳児 < 童 > は寝ながらも乳を吐いて着物を濡らすよ)。

˹シーバク [˹ʃiːbaku]　【名】釣り針箱。漁具を入れる箱。˹シーバク˺ナー　イ˹ズホーシダン˺ゴー　ス˹コーリ˺　イ˹リティル˺　イ˹ソーヤ　オーッ˺タ [˹ʃiːbaku˺na: ʔi˹ʤuhoːʃidaŋ˺goː su̥˹koːri˺ ʔi˹ritiru˺ ʔi˹soːja ʔoːt˺ta](釣り針箱に魚釣り道具を準備して入れて漁には出られた)。

˹シーパジミ [˹ʃiːpaʤimi]　【名】開始。し始め。やり始め。物事のやり始め。˺ソンガチヌ　パ˹チウクシェー˺　シ˹グトゥヌ　シーパジミ˺ティ　ア˹ゾーッ˺タ [˺soŋgatʃinu pḁ˹tʃiʔukuʃeː˺ ʃi˹gutunu ʃiːpaʤimi˺ti ʔa˹ʤoːt˺ta](正月のパチウクシ < 初起し > は仕事のし始めといわれ < 話され > た)。

˹シーパジミルン [˹ʃiːpaʤimiruŋ]　【他動】開始する。し < 為 > 始める。˹キョー˺ラ　シ˹グトゥ　シーパジミルン [˹kjoː˺ra ʃi˹gutu ʃiːpajimiruŋ](今日から仕事をし始める)。シ˹グトゥ　シーパジミルンティ　ベー˺ンドゥ　マ˹ダ　シンカ˺ヌ　ス˹ローン˺ツォー [ʃi˹gutu ʃiːpaʤimirunti beː˺ndu ma˹da ʃiŋka˺nu su˹roːn˺tsoː](仕事をし始めようと思うのだが、まだ作業員 < 臣下・仲間 > が揃わないんだよ)。シ˹グトゥ　シーパジミ˺　プサンドゥ　˹キュー˺ヤ　シ˹グトゥ　シーパジミララヌ [ʃi˹gutu ʃiːpaʤimi˺ pu̥sandu ˹kjuː˺ja ʃi˹gutu ʃiːpaʤimiraranu](仕事をし始めたいが、今日は仕事をし始められない)。

˹ジーバ˺タ [˹ʤiːba˺ta]　【名】じばた (地機)。脚の低い伝統的な織機。いざりばた (居座機)。後に改良された˹カバ˺タ [tḁ˹kaba˺ta](たかばた < 高機 >) が普及した。昭和 30 年代までは年寄り達によって地機が使用されたいた。˹ウイ˺プスンケーヤ　˹ジーバ˺タナール　˺バサキンマー　ウ˹ローッタ˺ル [˹ʔui˺pu̥suŋkeːja ˹ʤiːba˺tanaːru ˺basakimmaː ʔu˹roːtta˺ru](老人達は地機で < ぞ > 芭蕉布は織られたものだ)。

˹シーパナ˺リ [˹ʃiːpana˺ri]　【名】乳離れ。乳児の離乳についてのみいう。ヤ˹ラ˺ベー　˹シーパナ˺リ　˹シェー˺チバ　˹ヤー˺ラムヌ　イ˹ラ˺ビ　ッ˹ふァー˺シ˺バ [ja˹ra˺beː ˹ʃiːpana˺ri ˹ʃeːtʃiba jaː˺ramunu ʔi˹ra˺bi ˹faːʃi˺ba](子供は離乳したから柔らかいものを選んで食べさせなさいよ)。ム˹カ˺シプソー　ガ˹シタク˺ヌ　˹ティー˺バ　シ˹ビラシェー˺ティル　˹シーパナ˺レー　シ˹モーッ˺タ˹ダー [mu˹ka˺ʃipu̥so: ga˹ʃitaku˺nu ˹tiː˺ba ʃi˹biraʃeː˺tiru ˹ʃiːpana˺reː ʃi˹moːt˺ta˹daː](昔の人は焙乾したタコの手を叩いてしゃぶら

せながら離乳させられたよ)。プ˞スル˞ッふァ <˞タンガッ˞ふァ > ヤ˞ルンダ フンダイ˞ シ˞ミティ ミーチ˞ ナルンケン ˞シーパナ˞リ サ˞ヌ [pu̥˞suru˞ffa < taŋgaf˞fa˞ > ja˞runda ɸundai˞ ʃi˞miti mi:tʃi˞ naruŋkeŋ ˞ʃi:pana˞ri sa˞nu](一人っ子だから、我儘し放題させて、三歳になるまで乳離れしない)。

˞シー˞バ ˞フイ [˞ʃi:˞ba ˞ɸui] 【連】巣をくう。巣くう。巣を造る。カ˞ジブタラーマ˞ヌ ˞ヤー˞ヌ ヌ˞キ˞ナー ˞シー˞バ ˞フイティ ッ˞ふァ˞ シ˞ダ˞シ ˞シケー [ka˞ʤibutara:ma˞nu ˞ja:˞nu nu˞ki˞na: ˞ʃi:˞ba ˞ɸuiti f˞fa˞ ʃi˞da˞ʃi ˞ʃi̥ke:](燕が家の軒に巣を喰って雛 < 子 > を孵して < 孵化させて > おいてある)。˞シー ス˞ク˞ルン [˞ʃi: su̥˞ku˞ruŋ](巣を作る) ともいう。

˞シー˞ パ˞ヤー˞ン [˞ʃi:˞ pa˞ja:˞ŋ] 【連】するのが早い。仕事が速い。やり遂げるのが早い。ウ˞レー ティークマー˞ン ˞アリ シ˞グトゥン シーパヤー˞ンダ ウ˞リン˞ タ˞ナムバ˞ル マ˞シ [ʔu˞re: ti:kuma:˞ŋ ˞ʔari˞ ʃi˞gutuŋ ʃi:˞ pa˞ja:˞nda ʔu˞rin˞ ta˞namuba˞ru ma˞ʃi](彼は手先が細かく < 仕事が細密であり >、仕事をするのも速いから、彼に頼むほうが良い < 増しだ >)。

˞シー˞ パルン [˞ʃi:˞ paruŋ] 【連】血が流れる。血が出る。「血・走る」の義。˞パルシ ˞ティー˞ヌ サ˞キ ピッ˞クカー ˞シー˞ パルン [˞paruʃi ˞ti:˞nu sḁ˞ki pik˞kuka: ˞ʃi:˞ paruŋ](針で指先 < 手の先 > を刺すと血が出る < 血が流れる >)。

˞シー˞バン [˞ʃi:˞baŋ] 【名】巣の番。巣守。鶏卵を全部取らないで、産卵を促すために一個だけ巣に残す卵。トゥ˞ルヌコー˞マー ムー˞ル˞ トゥ˞ラン˞ドーシ プ˞スッ˞コー ˞シー˞バン ヌ˞カ˞シバ [tu˞runuko:˞ma: mu:˞ru˞ tu˞ran˞do:ʃi pu̥˞suk˞ko: ˞ʃi:˞ban nu˞ka˞ʃiba](鶏卵は全部取らないで、一個は巣の番 < 巣守 > として残せよ)。

˞シー˞ピキマイピキ [˞ʃi:˞pi̥kimaipi̥ki] 【名】前後に供の者を多数従えること。ABCDEFCD 型の重言。˞マーッふァバ ˞シー˞ピキマイピキ ˞シェー˞ティ ˞オー˞ル ˞ムヌ ˞ミルカー ウ˞ラーミ˞サワレー [˞ma:ffaba ˞ʃi:˞pi̥kimaipi̥ki ˞ʃe:˞ti ˞ʔo:˞ru ˞munu ˞miruka: ʔu˞ra:mi˞saware:](多数の子孫を前後に従えていらっしゃるのを見ると羨ましいよ)。

˞シー ピクン [˞ʃi:˞ pi̥˞kuŋ] 【連】1血を流す。「血・引く」の義。ク˞ルビティ シー˞ ピ˞クン˞ケン ˞ドゥー ヤ˞マ˞シ ˞シケー [ku˞rubiti ʃi:˞ pi̥˞kuŋ˞ken ˞du: ja˞ma˞ʃi ˞ʃi̥ke:](転んで血を流すほど体を怪我して < 病まして > ある)。2血縁関係にある。血の繋がり < 血を引く関係 > がある。˞ウン˞ネートー ˞シー˞ ピ˞キ ブー [˞ʔun˞ne:to: ˞ʃi:˞ pi̥˞ki bu:](その家とは血縁関係にある < 血を引いている >)。

˞シー˞ ピ˞クン [˞ʃi:˞ pi̥˞kuŋ] 【連】血を引く。血筋を受け継ぐ。ク˞ヌ˞ ミ˞ドーン˞ッふァー˞ ビ˞ケーヌ シー˞ ピ˞キ˞ マ˞レー˞ティル ア˞バ˞レー˞ツォー [ku˞nu˞ mi˞do:ŋ˞ffa: bi˞ke:nu ʃi:˞ pi̥˞ki˞ ma˞re:˞tiru ˞ʔaini ʔa˞ba˞re:˞tso:](この女の子は父親の血を引いて生まれているので < ぞ >、あんなに美しいのだよ)。

˞シー˞ピサ [˞ʃi:˞pi̥sa] 【名】屋根の後方の斜面。「背平 < 後ろ平 >」の義。˞マイ˞ピサ [˞mai˞pi̥sa](前平。前の斜面) の対義語。˞シーピサ˞ヌ ˞カー˞ラー カ˞ジ˞ナー トゥ˞バサリナー˞ヌ [˞ʃi:pisa˞nu ˞ka:˞ra: ka˞ʤi˞na: tu˞basarina:˞nu](屋根の後方斜面の瓦は台風に飛ばされてしまった)。ウ˞ブヤー˞ヌ ˞シー˞ピサー ˞ナン˞ゾー ˞ティダー ア˞タラヌ [ʔu˞buja:˞nu ˞ʃi:˞pi̥sa: ˞nan˞ʤo: ˞tida: ʔa˞taranu](母屋の屋根の後ろ側斜面は、あまり太陽が当らない)。

˞ジー˞ピシ [˞ʤi:˞pi̥ʃi] 【名】地搗きすること。胴突きすること。「地へし」の義。家屋建築の際、柱を建てる礎石の地盤を固めるために人力を利用して搗き固める作業のこと。˞ヤー ス˞ク˞ロール ˞ピンマー ˞ヤッシェーシ ˞ジー˞ピシ ˞ソーッ˞タ [˞ja: su̥˞ku˞ro:ru ˞pimma: ˞jaʃʃe:ʃi ˞ʤi:˞piʃi ˞so:t˞ta](家屋新築 < 家造り > される時は地突きで突いて地固めをされた)。˞ヤッシェー [˞jaʃʃe:](胴突き) 参照。イ˞シジー˞ ビ˞スン˞ トンマー イ˞シグー˞ イ˞リティ ジー˞ピシ ˞シー˞ カ˞タミリ˞バ [ʔi˞ʃiʤi:˞ bi˞sun˞ tomma: ʔi˞ʃigu:˞ ʔi˞riti ʤi:˞pi̥ʃi ˞ʃi:˞ ka˞tamiri˞ba](礎石を据える所は砂利を入れて地搗きをして固めなさいよ)。˞ヤッシェー [˞jaʃʃe:](胴突き。掛矢) ともいう。

˞ジーピシ˞ヤマ [˞ʤi:pi̥ʃi˞jama] 【名】地搗き櫓。胴突き。地盤を突き固めるために櫓を組んで、その中に丸太を立て、数本の綱をそれに結びつけ、多数の人がそれを引いては落とす仕掛けをしたもの。ア˞ラヤー˞ ス˞ク˞ロール ˞ピンマー ˞ジーピシ˞ヤマー ˞フミティ ムー˞ル˞シ ˞ヤッシェーシ ˞シッ˞キティ イ˞シジ˞ ビ˞ソーッ˞タ [ʔa˞raja:˞ su̥˞ku˞ro:ru ˞pimma: ˞ʤi:piʃi˞jama ˞ɸumiti mu:˞ru˞ʃi˞jaʃʃe:ʃi ˞ʃik˞kiti ʔi˞ʃiʤi˞ bi˞so:t˞ta](新築家屋を造られる時は地搗き櫓を組んで皆でヤッシェー < 胴突き > で搗いて礎石を据えられた)。

˞ジー˜ビラ **[˞ʤiː˜bira]** 【名】(植) 野菜の名。ニラ (韮)。全体に強い臭気があり、葉は扁平で柔らかく、幅約 8 ミリ、長さ約 25 センチに成長する。魚のお汁に入れて臭みを消すのに用いられる。˞ソーミンチャン˜プルー [˞soːmintʃam˜puruː](素麺の炒めもの) にいれると美味である。˞ジー˜ビラー　˞ソー˜ミンチャンプルーナ　イ˞ル˜カー　カ˞バッ˜サン　˜アリ　イッ˞ケナ˜　ン˞マー˜ン [˞ʤiː˜biraː ˞soː˜mintʃampuruːna ʔi˞ru˜kaː ka˞bas˜saŋ ˜ʔari ʔik˞kena˜ ʔm˞maː˜ŋ](ニラ < 韮 > は素麺炒めに入れると香ばしくもあり、非常においしい)。

˞シーブ **[˞ʃiːbu]** 【名】お歳暮。お中元。歳末や御盆にする贈り物。1960 年頃までは自家製の米や漁獲物の燻製品を親戚や姉妹の家に贈っていた。ク˞トゥシェー˜　ガ˞シタク˜バ　˞シーブ　オースンティ˜　ス˞コーリ　ベー [kuᵝ˞tuʃeː˜ ga˞ʃitaku˜ba ˞ʃiːbu ʔoːsunti˜ suᵝ˞koːri beː](今年は燻製蛸を歳暮に差し上げようと準備している)。ム˞カ˜シェー　ム˞チマイ˜　ガ˞シ˜タク　パ˞リタクン˜ドーレーバ　ウ˞トゥザン˜ヤー　˞シーブ˜　ム˞タ˜ソーッタ [mu˞ka˜ʃeː mu˞tʃimai˜ ga˞ʃi˜taku pa˞ritakun˜doːreːba ʔu˞tuʤaŋ˜jaː ˞ʃiːbu˜ mu˞ta˜soːtta](昔は、もち米、燻製の蛸、日干し張り蛸などを親戚の家にお歳暮として届けら < 持たさ > れた)。

˜ジー　フ˞カ˜スン **[˜ʤiː ɸuᵝ˞ka˜suŋ]** 【連】土地を肥やす。パ˞タ˜キナー　˞キーヌ˜パー　シ˞キックミティ˜　ジー　フ˞カ˜スンティ　˞ベー [paᵝ˞ta˜kinaː ˞kiːnu˜paː ʃiᵝ˞kikkumiti˜ ʤiː ɸuᵝ˞ka˜sunti ˞beː](畑に木の葉を鋤きこんで土地を肥やそうとしている)。˞ジー˜ヌ　フキ˞ブンダ　ウン˜マー　イッ˞ケナ　ミールン [˞ʤiː˜nu ɸuᵝki˞bunda ʔum˜maː ʔik˞kena miːruŋ](土地が肥えているから芋は非常によく稔る < 実入る。成長する >)。

˞シーフク˜ル **[˞ʃiːɸuᵝku˜ru]** 【名】乳房。「乳袋」の義。ヤ˞ラ˜ベー　˞ミー˜ヤ　ッ˞サーリティ˜　ブ˞ネーヌ　シーフクル˜バ　サ˞ドゥレー˜ティ　˜シー　˜ヌムンティ　˞ベー [ja˞ra˜beː ˞miː˜ja s˞saːriti˜ bu˞neːnu ʃiːɸuᵝkuru˜ba sa˞dureː˜ti ˜ʃiː ˜numunti ˞beː](乳児 < 童 > は目をつぶって母親の乳房を探りながら乳を飲もうとしている)。˞シーフクル˜ヌ　˞マイ˜ヤ　プ˞ソー˜　イッ˞ケン˜　ッ˞ふァ˜　ナスンツォー [˞ʃiːɸuᵝkuru˜nu ˞maiˇja puᵝ˞soː˜ ʔik˞keŋ˜ f˞fa˜ na-suntsoː](乳房の大きい人は子供を多く産むそうだ)。

˞シー˜　プサン **[˞ʃiː˜ puᵝsaŋ]** 【連】したい。動詞˞スン [˞suŋ](する) の連用形に補助形容詞˜プサン [˞puᵝsaŋ](〜たい < 欲しい >) が付いて形成された形。発話者自身の欲する気持ちを表す。シ˞グトゥ　シー˜　プサン [ʃi˞gutu ʃiː˜ puᵝsaŋ](仕事をしたい)。

˞シー˜プサン **[˞ʃiː˜puᵝsaŋ]** 【連】したい。動詞˞スン [˞suŋ](する) の連用形に、形容詞˜プサン [˜puᵝsaŋ](〜欲しい。〜たい) が下接して形成された連語。シ˞グトゥ　シー˜　プサン [ʃi˞gutu ʃiː˜ puᵝsaŋ](仕事をしたい)。生理現象を表す場合は、シ˞バ˜ル　˞シッ˜ツァーン [ʃi˞ba˜ru ˞ʃit˜tsaːŋ](小便をしたい <〜したさ・あり >) のように融合変化した形を用いる。ク˞ヌ˜　シ˞グトー˜　イッ˞ケン　シー˜プサン [ku˞nu˜ ʃi˞gutoː˜ ʔik˞keŋ ʃiː˜puᵝsaŋ](この仕事は非常にやりたい)。ク˞レー　シー˜プサー　˞ナー˜ヌ [ku˞reː ʃiː˜puᵝsaː ˞naː˜nu](これはしたくない)。

˞シーフチ **[˞ʃiːɸuᵝʧi]** 【名】1仕方。方法。やり方。「仕口」の転訛したもの。シ˞グトゥヌ　シーフチェー˜　ユー　˜ナライティル　˞スー˜ダー [ʃi˞gutunu ʃiːɸuᵝʧeː˜ juː ˜naraitiru ˞suː˜daː](仕事の仕方 < 仕口 > はよく習ってするのだよ)。2し初め。イ˞チル˜　シ˞タ˜ユー　シ˞グトゥヌ　シーフチェー　ピッ˜チン　ッ˞サンシェン [ʔi˞ʧiru˜ ʃiᵝ˞ta˜juː ʃi˞gutunu ʃiːɸuʧeː pit˜ʧin s˞saŋʃeŋ](何時したのか、仕事にし初めは、ちっとも < ひとつも > 知らなかった)。

˞ジー˜フナイ **[˞ʤiː˜ɸunai]** 【名】下船して陸に上がってもなお続く船酔い。「地船酔い」の義。˞ジーフナイ˜バ　˞シール˜　ス˞ブ˜ロー　フ˞ルマーリ˜　ナ˞ラン˜バン [˞ʤiːɸunai˜ba ˞ʃiːru˜ su˞bu˜roː ɸu˞ruma:ri˜ na˞ram˜baŋ](陸に上がっても船酔いがして、頭はぐるぐる回って困る < どうにもならない > よ)。˞ジー˜フナイ　˞シー˜　ム˞ヌパキッツァー˜ヌ　ナ˞ラ˜ヌ [˞ʤiː˜ɸunai ˞ʃiː˜ mu˞nupakittsaː˜nu na˞ra˜nu](地船酔いをして嘔吐しそうでたまらない)。

˞ジー˜ブニ **[˞ʤiː˜buni]** 【名】「地船」の義。地元八重山で造られた船。˜シザバナリヌ　パ˞ヤーキ˜ヌ　ヤ˞ドゥル˜ガンナー　˜スラズーヌ　˜アリティ　˜ウナール　˞ジー˜ブネー　˞パイ˜　マ˞ラソー˜ッタティ˞ダー [˜ʃiʤabanarinu pa˞jaː˜kinaː ˜suraʤu:nu ˜ʔariti ˜ʔunaːru ˞ʤiː˜buneː ˞pai˜ ma˞rasot˜tati˞daː](下離の南の方のヤドゥルガンに造船所、船下ろし所 < 修羅所 > があって、そこで地船は造船 < 接ぎ産まら > されたそうだよ)。

˞シーブン **[˞ʃiːbuŋ]** 【名】おまけ (御負け)。品物を添えたり、値引きしたりすること。ク˞ヌ˜　マ˞チヤーヤ˜　タカー˞ニン　シーブン　ソー˜ルン˞ダー [ku˞nu˜

ma˞ʧija:ja˩ tạka:˞niŋ ʃi:bun so:˩run˞da:](この店は沢山おまけをされるよ)。˩クベー　˞シーブン˩　ゾー˞ゾー˩　ムティ　˞オー˩リバ [˩kube: ˞ʃi:bun˩ ʤo:˞ʤo:˩ muti ˞?o:˩riba](これだけはおまけです。さあさあ、持っていらっしゃい)。

˞ジー˩ホー **[˞ʤi:˩ho:]** 【名】屋敷。屋敷の祈願の願文˞カン˩フチ　ニ˞ガイ˩フチ [˞kaŋ˩ɸụtʃi](神口・願い口) の語。˞トー˩ヌ　˞ハッ˩シン　ヤ˞マトゥ˩ヌ　ク˞カル˩　ウ˞キナー˩ヌ　˩サンシカン　˞ヤイマヌ˩　カサ　˞ミートゥクル　ウイ˩シ　˞オーシェー˩ル　˞ジー˩ホー〜[˞to:˩nu ˞haʃ˩ʃiŋ ja˞matu˩nu kụ˞karu˩ ?u ˞kina:˩nu ˩saŋʃikaŋ ˞jaimanu˩ kasa ˞mi:tukuru ?ui˩ʃi ˞?o:˩ʃe:ru ˞ʤi:˩ho:〜](唐の八神、大和の九家老、沖縄の三司官、八重山の頭三方 < 所 > に差し上げました屋敷 < 地方 >〜)。

˞シーマーキ **[˞ʃi:ma:ki]** 【連】〜し兼ねて。することが出来ない。動詞の連用形ついて˞〜できない」状態を表す。˞タンガ˩シ　˞シーマーキ　ベー [˞taŋga˩ʃi ˞ʃi:ma:ki be:](一人でしかね < 為兼ね > ている)。˞ジー˩　カ˞キマー˩キ　˞ベー [˞ʤi:˩ kạ˞kima:˩ki ˞be:](字を書きかねて < 書くことが出来ないで > いる)。

˞ジー˩マイ **[˞ʤi:˩mai]** 【名】(植) おかぼ。陸稲。「地米」の義。˞ジーマイ˩ヤー　パ˞トゥ˩マプソー　ス˞ク˩ローランシェン [˞ʤi:mai˩ja: pạ˞tu˩mapụso: sụ˞ku˩ ro:raŋʃeŋ](陸稲は、鳩間島の人は作付けされ < 作られ > なかった)。˞ジーマイ˩ヤ　ス˞クラン˩シェン [˞ʤi:mai˩ja sụ˞kuraŋ˩ʃeŋ](陸稲は栽培しなかった < 作らなかった >)。

˞シーマザーリ˩　シ˞バ˩ル **[˞ʃi:maʤa:ri˩ ʃi˞ba˩ru]** 【連】潜血尿 (occult blood in urine)。「血の混じった小便」の義。˞シーマザーリ˩　シ˞バル˩ヌ　ン˞ジル˩ヌ　˩ヌーカヤー [˞ʃi:maʤa:ri˩ ʃi˞baru˩nu ?n˞ʤiru˩nu ˩nu:kaja:](潜血尿が出るけれど何だろうか)。シ˞バ˩ルナ　˩イル　˩シキ　˞ベー [ʃi˞ba˩runa: ˩?iru ˩ʃiki ˞be:](尿に色がついている。着色尿。colored urine)『医学沖縄語辞典』。

˞ジーマ˩シ **[˞ʤi:ma˩ʃi]** 【名】土地財産。田や畑等の財産。ジ˞ナン　サンナン˩マー　˞ジーマシ˩ヌ　バ˞キ˩ダマー　˞ナー˩ヌ [ʤi˞nan sannam˩ma: ˞ʤi:maʃi˩nu ba˞ki˩dama: ˞na:˩nu](次男三男は土地財産の分与が無い)。

˞ジー˩マシ **[˞ʤi:˩maʃi]** 【名】土地。財産。地所。「じます (地枡)」の義か。˞ジーマシ˩ヌ　˩カナイ　˞オー˩ル　˩ヤー　ヤ˞ルンダ˩　ユ˞チ˩クニ　ン˞キ　オー˩ルン [˞ʤi:maʃi˩nu ˩kanai ˞?o:˩ru ˩ja: ja˞runda˩ ju ˞ʧi˩kunu ?ŋ˞ki ?o:˩ruŋ](土地財産が十分にあられる < 叶っておられる > 家だから、食べ物も豊かに召し上がっておられる)。˩ウヤパープジヌ　˞ジー˩マシェー　˞カーサヌ [˩?ujapa:puʤinu ˞ʤi:˩maʃe: ˞ka:sanu](先祖伝来の土地財産は売らない)。

˞シーマチガイ **[˞ʃi:maʧigai]** 【名】しまちがい。し誤り。失敗。˞シーマチガイヤー˩　ター˞ン˩ナーン　ア˞リ˩ル　˩ブーバ　˞ソーヤ　サン˩タンティン　˩ミサンヨー [˞ʃi:maʧigaija:˩ ta:˞n˩na:ŋ ?a˞ri˩ru ˩bu:ba ˞so:ja san˩tantim ˩misaŋ](し間違いは誰にでもあることだから、心配はしなくてもよい)。˞サン˩ミン　˞シーマチガイバ　シー　ザー˩パイ　˞シーナー˩ヌ [˞sam˩miŋ ˞ʃi:maʧigaiba ʃi: ʤa:˩pai ˞ʃi:na:˩nu](計算のし間違い < 計算ミス > をしてしまって、始末に負えなくなって < めちゃくちゃになって > しまった)。

˞ジーママ **[˞ʤi:mama]** 【名】じまま (自儘)。わがまま (我儘)。きまま (気儘)。やりたい放題。標準語からの借用語か。˞ドゥー˩ヌ　˞カッティ　ジーママシー˩　ケー　プ˞ス˩　ヤ˞ルンダ˩　プ˞スヌ˩　ムネー　˩ミンナー　イ˞リラヌ [˞du:˩nu ˞katti ʤi:mama ʃi:˩ ke: pụ˞su˩ ja˞runda˩ pụ˞sunu˩ mune: ˩minna: ?i˞riranu](自分の勝手で自儘にしてきた人だから、他人の言葉 < 忠告 > は聞かない < 耳に入れない >)。

˞ジー˩マミ **[˞ʤi:˩mami]** 【名】落花生。南京豆。「地豆 (地中に出来るまめ)」の義。ピーナツ。地下で繭形のきょうか < 莢果 > をむすぶ。パ˞トゥ˩マナー　˞ジー˩マミン　ス˞ク˩ローッタン [pạ˞tu˩mana: ˞ʤi:˩mami:n sụ˞ku˩ro:ttaŋ](鳩間島には落花生も作られた)。成熟した落花生を天日で干し、乾燥させる。十分に乾燥した落花生の殻を除去し、実を炒って食する。酒の摘みとして好まれる。また、落花生を石臼で挽き、˞ジーマミドー˩フ [˞ʤi:mamido:˩ɸu](落花生豆腐) を造る。˞ジー˩マミ　˞ダイ˩パーナ　˩ッシティ　˞ジーマミドー˩フ　ス˞ク˩リバ [˞ʤi:˩mami ˞dai˩pa:na ˩ʃʃiti ˞ʤi:˩mamido:˩ɸu sụ˞ku˩riba](落花生をすり鉢に擂って落花生豆腐を作りなさいよ)。˞ジー˩マミ　イ˞ラ˩キティ　˞サー˩フキ　ス˞コーリ [˞ʤi:˩mami ?i˞ra˩kiti ˞sa:˩ɸụki sụ˞ko:ri](落花生を炒って茶請けを作りなさい)。

˞ジーマミトー˩フ **[˞ʤi:mamito:˩ɸu]** 【名】落花生の豆腐。落花生を擂り潰して作った豆腐。˞ジーマミトー˩ホー　ム˞チームチー˩シテ　イッ˞ケン˩　ン˞マー˩ン [˞ʤi:mamito:˩ho: mu˞ʧi:muʧi:˩ʃi̥ti ?ik˞kem˩

?m˩ma:˥ŋ](落花生の豆腐はねっとりして非常に美味しい)。

˩ジーマミドー˥フ [˩ʤi:mamido:˥ɸu] 【名】落花生豆腐。落花生で造った豆腐。˩ジーマミドー˥ホーイッ˩ケナ˥　ン˩マー˥ン [˩ʤi:mamido:˥ho: ?ik˩kena˥ ?m˩ma:˥ŋ](落花生豆腐は非常に美味しい)。

˩ジーマン [˩ʤi:maŋ] 【名】自慢。うぬぼれる (自惚れる) こと。フ˩チガール [ɸu̥˩ʧiga:ru](自慢すること。自惚れること。自負すること。思いあがること。威張ること) ともいう。˥アブジェー　ム˩カシ˥ヌ　ク˩トゥバ˥ル　˩チャー　ジーマン　ソー˥ル [˥?abuʤe: mu˩kaʃi˥nu ku̥˩tuba˥ru ˩ʧa: ʤi:man so:˥ru](お祖父さんは昔のことをいつも自慢される)。˩ドゥー˥ヌ　クトゥカー˩ニ　ジーマン　サンブリ˥バ [˩du:˥nu ku̥tuka:˩ni ʤi:man samburi˥ba](自分のことばかり自慢するなよ < 自慢しないでおれよ >)。

˩ジーマンサー [˩ʤi:mansa:] 【名】自惚れる人。自惚れや。よく自慢する人。フ˩チガール [ɸu̥˩ʧiga:ru](自慢すること) ともいう。˩ウンザー　˩サッ˥コー　ジ˩マンサー˥　ヤ˩ルンダ˥　ドゥ˩シピライ　シーユーサヌ [˩?unʤa: sak˥ko: ʤi˩mansa:˥ ja˩runda˥ du˩ʃipirai ʃi:ju:sanu](そいつは非常に自惚れる人だから、友人付き合いも出来ない)。

˥シーミーサー [˥ʃi:mi:sa:] 【名】清明茶。中国茶の一つ。主に台湾から輸入されていた。˥シーミーサーヤ　カ˩バッ˥サンダ　ウ˩リバ˥　シジティ　˥ユー　ヌ˩モーッ˥タン [˥ʃi:mi:sa:ja ka˩bas˥sanda ?u˩riba˥ ʃiʤiti ˥ju: nu˩mo:t˥taŋ](清明茶は香ばしいから、それを煎じてよく飲まれたものだ)。

˩シーミチ [˩ʃi:miʧi] 【名】仕方。方法。しよう。「しみち (為道)」の転訛したもの。ア˩キナイ˥ヌ　˩シーミチェー˥　ッ˩サムティ˥　ウ˩ブアキナイバ　シー˥　ウ˩ル˥キ　˩ベー [?a˩kinai˥nu ˩ʃi:miʧe:˥ s˩samuti˥ ?u˩bu?akinaiba ʃi:˥ ?u˩ru˥ki ˩be:](商売の仕方を知らないで、大きな商売をして欠損している)。

˩シー˥ミルン [˩ʃi:˥miruŋ] 【自動】やってみる。してみる。試みる。試してみる。˩バン˥ヌン　˩シー˥ミルン [˩ban˥nuŋ ˩ʃi:˥miruŋ](私もやってみる)。ク˩レー˥　マ˩ダ　シーミラ˥ヌ [ku˩re:˥ ma˩da ʃi:mira˥nu](これは、まだしたことが無い < してみない >)。ノー˩ン　シー˥ミル　˥クトゥ [no:˩ŋ ʃi:˥miru ˥ku̥tu](何でもやってみることだ)。˩ワンヌン　シー˥ミレー　˥ミサムヌ [˩wannuŋ ʃi:˥mire: ˥misamunu](君もやってみたら良いのに)。ヤー˩ディン　シー˥ミリバ [ja: ˩diŋ ʃi:˥miriba](必ずやってみなさいよ)。˩ワンヌン　シート ミー [˩wannuŋ ʃi:ɨmi:](君もしてみろよ)。

˩シームヌ [˩ʃi:munu] 【名】吸い物。すまし汁に、˩ソー˥ミン [˩so:˥miŋ](素麺)、カ˩マブク [ka˩mabuku](蒲鉾) を賽の目に切ったもの、シ˩ビラ [ʃi˩bira](韮) 等を入れた汁。カ˩マブクヌ　シームヌ˥　ン˩ザ˥シバ [ka˩mabukunu ʃi:munu˥ ?n˩ʤa˥ʃiba](蒲鉾の吸い物を出しなさい)。祝儀や法事などには、イ˩チバンシー˥ムヌ [?i˩ʧibaŋʃi:˥munu](一番吸い物)、˩ニーバンシー˥ムヌ [˩ni:baŋʃi:˥munu](二番吸い物) などと作った。ナ˩カミ˥ヌ　˩シームヌ˥　ッ˩ふァイミッ˥タヌ　イッ˩ケナ˥　ン˩マー˥タン [na˩kami˥nu ˩ʃi:munu˥ f˩faimitta˥nu ?ik˩kena˥ ?m˩ma:˥taŋ](豚の中身 < 臓物 > の吸い物を食べたことがあるが美味しかった)。˩ユーチングヌ　シームノー˥　ス˩コーリティ˥　ウ˩ヤプスン˥マイ　マ˩チ˥バ [˩ju:ʧiŋgunu ʃi:muno:˥ su̥˩ko:riti˥ ?u˩japusum˥mai ma˩ʧi˥ba](四つ組の吸い物をこしらえて仏前に供えなさいよ)。

˩シー˥ムヌ [˩ʃi:˥munu] 【名】酸っぱいもの。酸味のあるもの。イ˩ズナマシ˥ナーン　イ˩ガナマシ˥ナーン　˩クーストゥ　シー˥ムヌ　カ˩ケーシバ˥ル　ン˩マー [?i˩ʤunamaʃi˥na:ŋ ?i˩ganamaʃi˥na:ŋ ˩ku:sutu ʃi:˥munu kḁ˩ke:ʃiba˥ru ?m˩ma:](魚刺身にも烏賊刺身にも唐辛子と酸っぱいもの < 九年母 > を混ぜ合わせたほうが美味しい)。

˩シームヌ [˩ʃi:munu] 【名】すいもの (吸物)。野菜や魚肉などを入れた澄まし汁。神事や祝儀、法事の際に供されるお汁。カ˩マブクトゥ　アーサ˥ヌ　˩シームヌ˥　ン˩コー˥リバ [ka˩mabukutu ?a:sa˥nu ˩ʃi:munu˥ ?ŋ˩ko:˥riba](蒲鉾とアーサの吸い物を召し上がれ)。

˩シームヌバン [˩ʃi:munubaŋ] 【名】吸い物椀。˩ヨイ˥ヌ　˩シームヌバントゥ　ソッコー˥ヌ　˩シームヌバンマー˥　イロー　˩カウリス [˩joi˥nu ˩ʃi:munubantu sokko:˥nu ˩ʃi:munubamma:˥ ?iro: ˩kaurisu](お祝いの吸い物椀と法事 < 焼香 > の吸い物椀は、色が違う < 色は変わる >)。˩ヨイ˥ヌ　˩シームノー　シームヌバン˥ナー　イ˩リティ˥　ン˩ザ˥シ [˩joi˥nu ˩ʃi:muno: ʃi:munuban˥na: ?i˩riti˥ ?n˩ʤa˥ʃi](お祝いの吸い物は、吸い物椀に入れて出しなさい)。

˩シームヌバン [˩ʃi:munubaŋ] 【名】吸い物椀。キ˩ザルキザル˥ナ　シゥ˩カウ　シームヌバンマー˥　ス˩ロー˥シ　シ˩キ˥リ [ki˩ʤarukiʤaru˥na si̥˩kau ʃi:-munubamma:˥ su˩ro:˥ʃi ʃi̥˩ki˥ri](行事行事に使う吸い物椀は揃えておきなさい)。

˩シームラシ [˩ʃi:muraʃi] 【名】血の固まり。血の凝

固したもの。˺ニーブターアシブバ　バ˹ルタール˺　クビブカラヌ　˹シームラシヌ˺　ンジキーティル　ベーシ˹ティ˺　ウ˹バイベー˺タ˹ツォー [˺ni:buta:ʔaʃibuba ba˹ruta:ru˺ kubibukaranu ˹ʃi:muraʃinu˺ ʔnʤiki:tiru be:ʃi̥˹ti˺ ʔu˹baibe:˺ta˹tso:](ねぶと＜根太＞を切開＜割った＞したらば、これくらいの血の固まりが出てたので非常にびっくりして＜驚いて＞いたよ)。

˹ジームラ˺シ **[˹ʤi:mura˺ʃi]** 【名】つちくれ (土塊)。開墾して大きく掘り返した土塊。˹ジームラシ˺バ　カ˹ナパイヌ˺　ス˹ブ˺ルシ　バ˹リ　カイ˺スンティ　˹ベート ダー [˹ʤi:muraʃi˺ba ka˹napai˺nu˺ su˹bu˺ruʃi ba˹ri kai˺sunti ˹be:ɨ-da:](土塊を鍬の頭で割って耕そうとしているところだよ)。

˹シー˺メーユクン **[˹ʃi:˺me:jukuŋ]** 【名】鉤のない鋭利な銛。銛の先端に返し鉤のないもの。魚を突いて漁獲する漁具。鳩間島の漁師が素潜り漁をする際には、この˹シー˺メーユクン [˹ʃi:˺me:jukuŋ](鉤のない銛) と˺ガルユクン [˺garujukuŋ](先端に鉤のある銛) を持参し、使い分けて漁をした。˹シー˺メーユクンシ　イ˹ラブ˺チ　シ˹キ˺バ [˹ʃi:˺me:jukuŋʃi ʔi˹rabu˺ʧi ʃi̥˹ki˺ba](鉤のない銛でブダイを突きなさいよ)。

˹シーヤッ˺サン **[˹ʃi:jas˺saŋ]** 【連】いやすい (為易い)。˹スン [˹suŋ](する) の連用形に補助形容詞˹ヤッ˺サン [˹jas˺saŋ](～し易い) が下接した形。ク˹ヌ˺　シ˹グトー　シーヤッサン [ku˹nu˺ ʃi˹guto: ʃi:jas˺saŋ](この仕事はし易い)。

˹シーヤビ˺プス **[˹ʃi:jabi˺pu̥su]** 【名】ハンセン病患者。「血やぶれ人」の義。パ˹トゥ˺マナー　˹シーヤビ˺プソー　ブ˹ラーンシェン [pḁ˹tu˺mana: ˹ʃi:jabi˺pu̥so: bu˹ra:nʃeŋ](鳩間島にはハンセン病患者はいなかった)。

˹シー˺ヤン **[˹ʃi:˺jaŋ]** 【形】酸い。酸っぱい。˹シー˺ルン [˹ʃi:˺ruŋ](饐える) から派生した語か。「酢、スユル」『色葉字類抄』の転訛したもの。ク˹ヌ　パイロー　シーヤ˺ヌ　ヌ˹マラ˺ヌ [ku˹nu pairo: ʃi:ja˺nu nu˹mara˺nu](この酢は酸っぱくて飲まれない)。˹ナン˺ゾー　˹シーヤナー˺ヌ [˹nan˺ʤo: ˹ʃi:jana:˺nu](それほど酸っぱくない)。˹シンダイ　シー˺ヤ　˺ナルン [˹ʃindai ʃi:˺ja ˺naruŋ](次第に酸っぱくなる)。フ˹ナ˺ボー　˹シー˺ヤンティ　ア˹ズヌ　シー˺ヤムノー　˹カーサラヌ [ɸu˹na˺bo: ˹ʃi:˺janti ʔa˹ʤunu ʃi:jamuno: ˹ka:saranu](九年母＜シークヮーサー＞は酸っぱいというが、酸っぱいものは売れない)。ク˹ヌ˺　フ˹ナ˺ボー　イッ˹ケン　シー˺ヤン [ku˹nu˺ ɸu˹na˺bo: ʔik˹keŋ ʃi:˺jaŋ](この九年母は非常に酸っぱい)。˹ウー˺ムカー　˹シーヤーナー˺ヌ [˹ʔu:˺muka: ˹ʃi:ja:na:˺nu](熟れたら酸っぱくない)。˺ドゥク　˹シーヤ˺ヌ　ヌ˹マラ˺ヌ [˺duku ˹ʃi:ja˺nu nu˹mara˺nu](あまりにも酸っぱくて飲めない)。˹シー˺ヤ　˺ムノー　シ˹ティリ [˹ʃi:˺ja ˺muno: ʃi̥˹tiri](酸っぱいものは捨てなさい)。˹シー˺ヤカー　ヌ˹マラ˺ヌ [˹ʃi:˺jaka: nu˹mara ˺nu](酸っぱかったら飲めない)。

˹シー˺ヨー **[˹ʃi:˺jo:]** 【名】仕方。要領。仕様。しぐさ (仕種)。˹シーヨー˺ヌ　˹ワッ˺サカー　イ˹ザリン˺ダー [˹ʃi:jo:˺nu ˹was˺saka: ʔi˹ʤarin˺da:](仕方が悪かったら叱られるよ)。˹トー˺フ　マ˹ラシェー　シーヨー˺ヌ　˹ナーン˺カー　カ˹タマラヌ [˹to:˺ɸu ma˹raʃe: ʃi:jo: ˺nu ˹na:ŋ˺ka: kḁ˹tamaranu](豆腐作りは要領がないと固まらない)。˹シーヨーヌ˺　ア˹リ˺ル　˺ムノー　˹スー˺　ヌーッツァ　ム˹ヌ˺ヤー　ク˹レー [˹ʃi:jo:nu ˺ ʔa˹ri˺ru ˺muno: ˹su:˺ nu:ttsa mu˹nu˺ja: ku˹re:](やり方があって物事はするのであって、何たることかこれは)。ノー˹ン˺ナーン　˹シーヨーヤー˺　ア˹リ˺ブー　グ˹チ˺ホーニ　˹シェー˺　ナ˹ラ˺ヌ [no:˹n˺na:ŋ ˹ʃi:jo:ja:˺ ʔa˹ri˺bu: gu˹ʧi˺ho:ni ˹ʃe:˺ na˹ra˺nu](何においても仕方やり方はあるものだ。無鉄砲にしてはならない)。

˹ジー˺ヨー **[˹ʤi:˺jo:]** 【名】甍を作るときに、甍に差し込む横木のこと。

˹ジー˺ヨー **[˹ʤi:˺jo:]** 【名】前方へ張る˹ティン˺ナー [˹tin˺na:](手縄)。フ˹クル˺プー [ɸu̥˹kuru˺pu:](袋帆。和船の帆) の中間に一本と、更に下の˹プーギタ [˹pu:gita](帆桁。その左半分を˺カタ [˺kata]＜肩＞という) との中間部に一本張る˹ティン˺ナー [˹tin˺na:](手縄)。

˹シーヨーシザマ **[˹ʃi:jo:ʃiʤama]** 【名】仕様しざま。やり方や心がけ。要領や態度。シ˹グトゥヌ　シーヨーシザマ˺シル　プ˹スヌ˺　タケー　シ˹ムラリ˺ダー [ʃi˹gutunu ʃi:jo:ʃiʤama˺ʃiru pu̥˹sunu˺ tḁke: ʃi˹murari˺da:](仕事をこなす要領や態度でもってその人のレベルが推し量られる＜見積もられる＞)。

˹シーヨームイ˺ヨー **[˹ʃi:jo:mui˺jo:]** 【名】仕方、模様。仕様、様子。方法。やり方。「仕様模様」の義。ABCDEFCD 型の重言。シ˹グトゥヌ　シーヨームイ˺ヨー　˺ミルカー　ドゥッ˹トゥ˺　ピ˹ルマサ˺ヌ　ナ˹ラン˺ツォー [ʃi˹gutunu ʃi:jo:mui˺jo: ˺miruka: dut ˹tu˺ pi˹rumasa˺nu na˹ran˺tso:](仕事のやり方、仕様模様をみると、とっても珍しくてたまらないんだ

よ)。

˞シー˞ラ [˞ʃiː˞ra] 【名】(動) 魚の名。和名、ミナミキビナゴ (体長約 6 センチ)。バ˞カザ˞コー [ba˞kadʑa˞koː] ともいう。カツオ漁船の撒餌として漁獲された。ム˞ジ˞アン [mu˞dʑi˞aŋ](網目の細い網 < 約 1、5 ミリ四方の網目 >) で掬い取って漁船のイ˞キ˞マ [ʔi˞ki˞ma](生け間。生簀) に生けてカツオを釣る際に撒餌にした。中級の撒餌といわれていた。˞シー˞ラーラー　バ˞カザコーン˞ドゥ　マ˞シ　ヤッタ˞ナー　カ˞ツォー　シー˞ラナー　˞ナン˞ゾー　シ˞キラン˞シェン [˞ʃiː˞rara: ba˞kadʑakoːn˞du ma˞ʃi jatta˞na: kạ˞tsoː ʃiː˞rana: ˞nan˞dʑoː ʃi̥˞kiraŋ˞ʃeŋ](シーラよりもバカザコーのほうがよか < 増しだ > った。シーラにはカツオはあまり喰い付かなかった < 付かなかった >)。

˞シー˞ラ [˞ʃiː˞ra] 【名】冷え込みから生じる病気。女性の冷え性。ミ˞ドゥム˞ヌ　˞ピー˞ヤサーリ　˞ターシグ˞トゥ　˞スー˞カー　˞シー˞ラ　ク˞マ˞ルン˞ダー [mi˞dumu˞nu ˞piː˞jasaːri ˞taːʃigu˞tu ˞suː˞kaː ˞ʃiː˞ra ku˞ma˞run˞daː](女が寒い中で田圃仕事をすると寒気の毒気が体内にこもるよ)。˞ピー˞ヤサーリ　ミ˞ジシグトゥ　スー˞カー　˞シー˞ラ　ク˞マ˞ルン˞ダー [˞piː˞jasaːri mi˞dʑiʃigutu suː˞kaː ˞ʃiː˞ra ku˞ma˞run˞daː](寒い中で水仕事をすると冷え込みからくる病気になるよ < 冷えが体にこもるよ >)。

˞シー˞ラ　ク˞マ˞ルン [˞ʃiː˞ra ku˞ma˞ruŋ] 【連】寒気の毒気が体内にこもって病気になる。˞アミン　˞ゾッふァーレー˞ティ　シ˞グトゥ　スー˞カー　˞シー˞ラ　ク˞マ˞ルン˞ダー　ダンダン˞シ　˞キン˞マー　˞カイキシティ˞　ヌクー˞ヌクー˞シ　˞ヌフタマ˞リ [˞ʔamin ˞dʑoffaːreː˞ti ʃi˞gutu suː˞kaː ˞ʃiː˞ra ku˞ma ˞run˞daː dandaŋ˞ʃi ˞kim˞maː ˞kaikiʃiti˞ nukuː˞nukuː˞ʃi ˞nuɸu̥˞tama˞ri](雨に濡れて仕事をすると寒気の毒気が体内にこもるぞ。さっさと着物は着替えて、ぬくぬくと体を温めなさい < 温まれ >)。

˞シーラ˞スン [˞ʃiːra˞suŋ] 【他動】饐えさせる。˞シー˞ルン [˞ʃiː˞ruŋ](饐える) の未然形に使役の助動詞˞スン [˞suŋ](する) が下接して形成された使役動詞。˞アツァン　˞トンナ　シ˞キ˞ルカー　˞イー　˞シーラ˞スン˞ダー [˞ʔatsan ˞tonna ʃi̥˞ki˞ruka: ˞ʔiː ˞ʃiːra˞sun˞daː](暑い所に置くと御飯を饐えさせるよ)。

˞シー˞ラッサーク [˞ʃiː˞rassaːku] 【名】冷え込みがもとで発症する激しい咳の病気。「気管支炎の慢性炎症で、気管支粘膜からの分泌物が多く見られる病気。痰が長らくよく出る状態」『医学沖縄語辞典』。˞シー˞ラッサーク　カ˞カ˞ルカー　ユ˞ビッサークバ　シー˞　ナ˞ガムティ　スントダー [˞ʃiː˞rassaːku kạ˞ka˞ruka: ju˞bissaːkuba ʃiː˞ na˞gamuti sunˈ-daː](冷え込みによる慢性気管支炎に罹ると吸い込むような咳 < 喘息 > をして長引くよ)。

˞シーリ˞イー [˞ʃiːri˞ʔiː] 【名】饐えたご飯。「饐え飯」の義。˞シーリイー˞バ　プ˞スン˞　ッ˞ふァースナ [˞ʃiːriʔiː˞ba pu̥˞sun˞ f˞faːsuna](饐えたご飯を他人に食わせるな)。

˞シーリ˞ウン [˞ʃiːri˞ʔuŋ] 【名】饐えた煮芋。˞シーリウン˞マー　˞タリ　ア˞ツァ˞シティ　˞オー˞ヌイー　˞シー˞　ッ˞ふァーシ˞バ [˞ʃiːriʔum˞maː ˞tari ʔa˞tsa˞ʃi̥ti ˞ʔoː˞nuʔiː ˞ʃiː˞ f˞faːʃi˞ba](饐えた煮芋は溶かし温めて豚の飯 < 飼料 > にして食わせなさい)。

˞シーリ˞カザ [˞ʃiːri˞kadʑa] 【名】饐えた臭い。˞イー˞ヤ　˞シーリ˞カザ　˞シーブバ˞　ッ˞ふァースナ˞ヨー [˞ʔiː˞ja ˞ʃiːri˞kadʑaː ˞ʃiːbuba˞ f˞faːsuna˞joː](ご飯は饐えた臭いがしているので食べさせるなよ)。

˞シー˞ルン [˞ʃiː˞ruŋ] 【自動】饐える。食物が腐敗して酸っぱくなる。「酢、スユル」『色葉字類抄』の転訛したもの。ナ˞チェー　イー˞ヤ　˞シー˞ルン [na˞ʧeː ʔiː˞ja ˞ʃiː˞ruŋ](夏は、ご飯は饐える)。˞シーリヤッ˞サン [˞ʃiːrijas˞saŋ](饐えやすい)。˞ナビナー　イ˞リスク˞バン　˞シーラ˞ヌ [˞nabinaː ʔi˞risu̥ku˞baŋ ˞ʃiːra˞nu](鍋に入れておいても饐えない)。˞シー˞ル˞ムノー　˞シーレー　˞ミサムヌ [˞ʃiː˞ru ˞munoː ˞ʃiː˞ reː ˞misamunu](饐えるものは饐えればよいのに)。˞パー˞ク　˞シー˞リ [˞paː˞ku ˞ʃiː˞ri](早く饐えろ)。˞アツァンダ　˞イー˞ヤ　˞シーリ　ヤッ˞サン˞ダー [˞ʔatsanda ˞ʔiː˞ja ˞ʃiːri jas˞san˞daː](暑いからご飯は饐えやすいよ)。˞シー˞ルンティ　シ˞タヌ　ティー˞グナ　イ˞リ˞　スクカー　˞シーラ˞ヌ [˞ʃiː˞runti ʃi̥˞tanu tiː˞guna ʔi˞ri˞ su̥kuka: ˞ʃiːra˞nu](饐えるといったが、吊るし篭にいれておいたら饐えないよ)。˞シー˞ル　˞ムノー　シ˞ティリ [˞ʃiː˞ru ˞muno: ʃi̥˞tiri](饐えるものは捨てなさい)。ムー˞ル　シー˞レー　˞ミサムヌ [muː˞ru ʃiː˞reː ˞misamunu](みんな饐えればよいのに)。˞パー˞ク　˞シー˞リバヒャー [˞paː˞ku˞ʃiː˞ ribaça:](早く饐えろヒャー)。

˞シー˞ルン [˞ʃiː˞ruŋ] 【自動】ぐずつく。ぐずる。駄駄を捏ねる。˞ユードゥー˞シ　ニ˞ビン　サムティ　シー˞リ　˞ベー˞ンドゥ　˞ヌーカヤー　ク˞ヌ˞ッ˞ふァー [˞juːduː˞ʃi ni˞bin samuti ˞ʃiː˞ri ˞beː˞ndu ˞nuːkaja: ku˞nu˞ f˞faː](夜通し眠りもしないで、ぐずっているが何だろうか、この子は)。ヤ˞ラ˞ベー　ニ

˩チ˥ヌ　˥アルカー　˩シー˥ルン˩ダー [ja˩ra˥be: ni˩ʧi˥nu ˥ʔaruka: ˩ʃi:˥run˩da:](子供は熱があると愚図るよ)。ヤ˩ラビ˥ヌ　ユ˩ナ˥カ　˩シー˥ル　˥プソー　˩キー˥　シ˩キ˥リ˩ダー [ja˩rabi˥nu ju˩na˥ka ˩ʃi:˥ru ˥pu̥so: ˩ki:˥ ʃi̥˥ki˥ri˩da:](子供が夜中に愚図るときは気を付けなさいよ)。

˩シーワザ [˩ʃi:waʤa] 【名】仕業。所業。標準語からの借用語が転訛したもの。卑しめた言い方。ク˩レー˥　タンザヌ　˩シーワザ˥ヤー [ku˩re:˥ tanʤanu ˩ʃi:waʤa˥ja:](これはどやつ＜何奴＞の仕業か)。ク˩レー˥　ヤ˩ラビ˥ヌ　˩シーワザティン˥　ウ˩モーラ˥ヌ [ku˩re:˥ ja˩rabi˥nu ˩ʃi:waʤatiŋ˥ ʔu˩mo:ra˥nu](これは子供の仕業とも思われない)。ク˩レー　ター　シーワザ˥ヤ [ku˩re: ta: ʃi:waʤa˥ja](これは＜一体全体＞誰の仕業か)。˥カイブ　ク˩トゥ˥バ　˩シー˥シケーヌ　˥タンザヌ　˩シーワザ˥ヤー [˥kaibu ku̥˩tu˥ba ˩ʃi:˥ ʃi̥ke:nu ˥tanʤanu ˩ʃi:waʤa˥ja:](こんな事を為出かしてあるが、どいつの仕業か)。

シ˩アガルン [ʃi˩agaruŋ] 【自動】仕上がる。完成する。出来上がる。ア˩ツァバー˥キナ　シ˩グトー˥　シ˩アガルン˥カヤー [ʔa˩tsaba:˥kina ʃi˩guto:˥ ʃi˩agaruŋ˥kaja:](明日までに仕事は仕上がるかなあ)。

シ˩アギルン [ʃi˩agiruŋ] 【他動】仕上げる。完成する。しおえる。シ˩グトー˥　キューズーナ　シ˩アギルン˥テー　ウ˩ムーン˥ドゥ　シ˩アギララン˥パジ [ʃi˩guto:˥ kju:ʤu:na ʃi˩agirun˥te:˥ ʔu˩mu:n˥du ʃi˩agiraram˥paʤi](仕事は今日中に仕上げようとは思うが、仕上げられないだろう＜はず＞)。

シ˩アグン [ʃi˩aguŋ] 【他動】仕上げる。成し遂げる。完成する。「しあぐ＜下二段＞」の四段活用に転訛したもの。˥キューズーナ　シ˩アグンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　シ˩アガラン˥パジ [˥kju:ʤu:na ʃi˩agunti˥ ʔu˩mu:n˥du ʃi˩agaram˥paʤi](今日中に仕上げようと思うが、仕上がらないだろう＜はず＞)。ア˩ツァバー˥キナ　シ˩アギ˥　ミサカー　シ˩アグ˥　クトー　˥ナルン [ʔa˩tsaba:˥kina ʃi˩agi˥ misaka: ʃi˩agu˥ku̥to: ˥naruŋ](明日までに仕上げて良ければ、仕上げることは出来る)。

˥シゥカ [˥si̥ka] 【助数】一束の半分。「つか＜束＞」の義か。片手で握った分。これを二つ合わせて、プ˩スタブ˥ル [pu̥˩sutabu˥ru](ひとたば＜一束＞)という。˩マイヤー˥　フ˩タシゥカ˥シル　プ˩スタブ˥ル　˩ユイオーッ˥タ [˩maija:˥ ɸu̥˩tasi̥ka˥ʃiru pu˩sutabu˥ru ˩juiʔo:t˥ta](稲＜米＞は二つかで一束＜ひとたば＞に束ねられた)。˩マイヤー˥　フ˩タシゥカ˥シル　プ˩スタブ˥ルティ　ア˩ズト˥ダー [˩maija:˥ ɸu̥˩tasi̥ka˥ʃiru pu̥˩sutabu˥ruti ʔa˩ʤuɩ˥da:](稲は二つかで一束と言うのだよ)。フ˩タシゥカ˥シ　プ˩スタバ˥ル　˩サンジュータバ˥ルシ　プ˩スマラ˥キ　マ˩ラコーッタ [ɸu̥˩tasi̥ka˥ʃi pu̥˩sutaba˥ru ˩sanʤu:taba˥ruʃi pu̥˩sumara˥ki ma˩rako:t˥ta](2 束で 1 タバル＜把＞、30 タバリで 1 マラキ＜丸げ＞に束ねられた)。

シゥ˩カーリムヌ [si̥˩ka:rimunu] 【名】召使。小使。下男。用務員。下働き。「使われ者」の転訛した語。ナー˩イ˥　プ˩スヌ˥　シゥ˩カーリムヌ˥　カー˩ニ　シー˥　ブ˩ラーンドー˥シ　˥ドゥーシ　パ˩タラキ˥バ [na:˩ji˥ pu̥˩sunu˥ si̥˩ka:rimunu˥ ka:˩ni ʃi:˥ bu˩ra:ndo:˥ʃi ˥du:ʃi pḁ˩taraki˥ba](ただ他人の小使い＜使われ者＞だけしていないで、自分で働きなさいよ)。

シゥ˩カー˥ン [si̥ka:ŋ] 【形】近い。距離の隔たりが小さい。シ˩カー˥ンとも言う。˩バン˥テーラー　˩ガッ˥コーヤ　シゥ˩カー˥ンティ　ウ˩ムータ˥ヌ　シゥ˩カーナー˥ヌ [˩ban˥te:ra: ˩gak˥ko:ja si̥˩ka:˥nti ʔu˩mu:ta˥nu si̥˩ka:na:˥nu](私の家から学校までは近いと思ったが、近くない)。シゥ˩カー˥　ナルン [si̥˩ka:˥naruŋ](近くなる)。シゥ˩カーン˥　トンマー　˥マーヤ [si̥˩ka:n˥ tomma: ma:ja](近い所は何処か)。若年層はシ˩カー˥ン [ʃi̥˩ka:˥ŋ](近い) ともいう。˩アンヌムラー˥ラ　˩ガッ˥コー　シゥ˩カー˥ン [˩ʔannumura:˥ra ˩gak˥ko: si̥˩ka:˥ŋ](東村から学校は近い)。˩インヌムラー˥　シゥ˩カー　ナー˥ヌ [˩ʔinnumura:˥ si̥˩ka:na:˥nu](西村は近くない)。˩シンダイ˥　シゥ˩カー˥　ナルン [˩ʃindai˥ si̥˩ka:˥ naruŋ](次第に近くなる)。シゥ˩カーン˥　トンマー　パ˩ル˥ナ [si̥˩ka:n˥ tomma: pa˩ru˥na](近い所へは行くな)。マーン˩ベーマ˥　シゥ˩カー˥カー　˥ミサムヌ [ma:m˩be:ma˥ si̥˩ka:˥ka: ˥misamunu](もう少し近ければ良いのに)。

シゥ˩カイ [si̥˩kai] 【名】差し支え。支障。心配事。「つかえ＜支え＞」の義。˩ワー˥　パ˩ラ˥バン　シゥ˩カイヤー　ナーン˥カヤー [˩wa:˥ pa˩ra˥ban si̥˩kaija: na:ŋ˥kaja:](君が行っても差し支えないかねえ)。˩ダイヤー　ヤッ˥サタンティン　シゥ˩カイヤー　ナー˥ヌ [˩daija: jas˥satantin si̥˩kaija: na:˥nu](値段は安くても支障はない)。

シゥカイ [si̥˩kai] 【名】支柱。˩ユーカドゥ˥ナ　シゥ˩カイ˥　イ˩リ˥　シケーバ　カ˩ジヌ˥　フ˩カ˥バン　˩ソーヤ　ナー˥ヌ [˩ju:kadu˥na si̥˩kai˥ ʔi˩ri˥ ʃi̥ke:ba ka˩ʤinu˥ ɸu̥˩ka˥ban ˩so:ja na:˥nu](四隅に支柱を入れてあるから、台風が吹いても心配はない)。

シゥ˩カイ　アー˥スン [si̥˩kai ʔa:˥suŋ] 【連】使い較

べる。「使い合わせる」の義。二つのものを使い比べてみる。ク˞ヌ　マイカリガッケートゥ˥　ム˞カ˥シェーラヌ　˞ガッケー˥トゥ　˞ヌー˥ル　マ˞シェー˥ユー　シゥ˞カイ　アーシ˥　ミリ˞ミー [ku˞nu maikarigakke:tu˥ mu˞ka˥ʃe:ranu ˞gakke:˥tu ˞nu:˥ru ma˞ʃe:˥ju: sɨ̥˞kai ʔa:ʃi˥ miri˞mi:](この稲刈り鎌と昔からの鎌と、どれが良いか使い比べてみてごらんよ)。

シゥ˞カイキー [sɨ̥˞kaiki:]【名】支柱。「つかえぎ＜支え木＞」の義。老年層は、シゥ˞カンギー [sɨ̥˞kaŋgi:](支柱) というのが普通。シゥ˞カイキー˥　シゥ˞カース˥カー　˞ソーヤ　ナー˥ヌ [sɨ̥˞kaiki:˥ sɨ̥˞ka:su˥ka: ˞so:ja na:˥nu](支柱を構えたら心配はない)。

シゥ˞カイグトゥ [sɨ̥˞kaigutu]【名】支障。差し支え。「支え事」の義。˞ヤー˥ナー　シゥ˞カイグトゥヌ˥　アレーティル　キ˞ララン˥　ブ˞レー˥ル [˞ja:˥na: sɨ̥˞kaigutunu˥ ʔare:tiru ki˞raram˥ bu˞re:˥ru](実家＜家＞に不都合＜差し支えごと＞があって＜ぞ＞、来れなかった＜こられずに居た＞のだろうよ)。

シゥ˞カイットー [sɨ̥˞kaitto:]【名】使っての便利さ。使い勝手。利用価値。「使いとう＜度う＞」『石垣方言辞典』の義。ク˞ヌ　ヤー˥ヤ　˞ピッ˥チン　シゥ˞カイットー　ナー˥ヌ　ス˞クリノーサン˥カー　ナ˞ラ˥ヌ [ku˞nu ja:˥ja ˞pit˥ʧin sɨ̥˞kaito: na:˥nu sʉ̥˞kurino:saŋ˥ka: na˞ra˥nu](この家はちっとも便利でない＜使い勝手が悪い＞。作り直さないといけない)。

シゥ˞カイトースン [sɨ̥˞kaito:suŋ]【他動】使い潰す。散々に使う。こぎ使う。「使い倒す」の義。シゥ˞カイットースン [sɨ̥˞kaitto:suŋ](使い潰す。こぎ使う) ともいう。˞ウン˥ネナー　˥ギシ　˥ナリ　シゥ˞カイトーサリベー [˞ʔun˥nena: ˥giʃi ˥nari sɨ̥˞kaito:sari be:](あの家で下男＜下衆。下種。下司＞にされて、こぎ使われて＜使い潰されて＞いる)。シゥ˞カイトースンティ˥　ウムーカー　シゥ˞カイトーサリンドゥ˥　アイニ　シゥ˞カイトース˥　クトー　ナ˞ラン˥　パジ [sɨ̥˞kaito:sunti˥ ʔumu:ka: sɨ̥˞kaito:sarindu˥ ʔaini sɨ̥˞kaito:su˥ kʉ̥to: na˞ram˥ paʤi](こぎ使おうと思ったらこぎ使われるが、あんなに使い潰すことは出来ないはずだ)。シゥ˞カイトーシェー˥　ミサムヌ [sɨ̥˞kaito:ʃe:˥ misamunu](こぎ使えば＜使い潰せば＞よいのに)。シゥ˞カイトーシ [sɨ̥˞kaito:ʃi](こぎ使え＜使い潰せ＞)。

シゥ˞カイ˥バー [sɨ̥˞kai˥ba:]【名】経費。入用の経費。出費。「使い方＜ほう＞」の義。シゥ˞カイバー˥ヌ　˞スーワ˥ヌ　˥ウカー　˞オーサラヌ [sɨ̥˞kaiba:˥nu ˞su:wa˥nu ˥ʔuka: ˞ʔo:saranu](出費が多くて借金は順調に支払いできない＜負えない＞)。

シゥ˞カイバタ [sɨ̥˞kaibata]【名】陣痛。差し込むように痛む腹痛。ッ˞ふァナシ˥バタ [f˞fanaʃi˥bata](子産み腹) ともいう。シゥ˞カイバタ˥　ヤ˞リバ˥　カ˞ティ˥　シゥ˞カシ˥　クー [sɨ̥˞kaibata˥ ja˞riba˥ kʉ̥˞ti˥ sɨ̥˞kaʃi˥ ku:](陣痛だから、取り上げ婆さん＜経験者。その道に通じている人＞をお連れして来なさい)。

シゥ˞カイミジ [sɨ̥˞kaimiʤi]【名】使い水。雑用水。飲料水に対する用水。カ˞ミ˥ヌ　ミ˞ジェー˥　ヌ˞ミ˥ミジ　˞バンドーヌ˥　ミ˞ジェー˥　シゥ˞カイミジ [ka˞mi˥nu mi˞ʤe:˥ nu˞mi˥miʤi ˞bando:nu˥ mi˞ʤe:˥ sɨ̥˞kaimiʤi](水瓶の水は飲料水、バンドー瓶の水は雑用水)。

シゥ˞カイミチ [sɨ̥˞kaimiʧi]【名】用途。使い方。「使い道」の義。˞ジン˥ヌ　シゥ˞カイミチ˥　ッ˞サン˥カー　˥バン　カ˞ラシ˥バ　˞モー˥キ　ミ˞サ˥スン˞ダー [˞ʤin˥nu sɨ̥˞kaimiʧi˥ s˞saŋ˥ka: ˥baŋ ka˞raʃi˥ba ˞mo:˥ki mi˞sa˥sun˞da:](お金の使い方を知らなければ私に貸しなさいよ。儲けて見せるよ)。

シゥ˞カイムヌ [sɨ̥˞kaimunu]【名】1毎日使っているもの＜物品＞。ク˞レー˥　バー　˞ピンピンヌ˥　シゥ˞カイムヌ˥　ヤ˞リバ　タイ˥シチニ　シゥ˞カイ˥ヨー [ku˞re:˥ ba: ˞pimpinnu˥ sɨ̥˞kaimunu˥ ja˞riba tai˥ʃɨ̥ʧini sɨ̥˞kai˥jo:](これは私の毎日の使い物＜毎日使う道具＞だから大切に使いなさいよ)。2使い者。使者。下僕。下男。召使い。ナー˞イ˥　プ˞スヌ˥　シゥ˞カイムヌ˥　シ˞ラリ　ベー [na:˞ji˥ pʉ̥˞sunu˥ sɨ̥˞kaimunu˥ ʃi˞rari be:](ただ人の下僕＜使い者＞にされている)。

シゥ˞カイルン [sɨ̥˞kairuŋ]【自動】1支える。˞タイフー˥ヌ　フ˞キ˥バ　パ˞ラー˥ヤ　シゥ˞カイラン˥カー　ナ˞ラ˥ヌンドゥ　シゥ˞カイル　キー˥ヌ　˞ナー˥ヌ [˞taiɸu:˥nu ɸʉ̥˞ki˥ba pa˞ra:˥ja sɨ̥˞kairaŋ˥ka: na˞ra˥nundu sɨ̥˞kairu ki:˥nu ˞na:˥nu](台風が吹くから柱を支えなければならないが、支える木材がない)。ク˞ヌ˥　キーシ　シゥ˞カイ˥　ミサカー　˥ドゥーシ　シゥ˞カイルンドゥ˥　カ˞ジヌ˥　フ˞カン˥ケンナー　シゥ˞カイヤー˥　ミサタムヌ [ku˞nu˥ ki:ʃi sɨ̥˞kai˥misaka: ˥du:ʃi sɨ̥˞kairundu˥ ka˞ʤinu˥ ɸʉ̥˞kaŋ˥kenna: sɨ̥˞kaija:˥ misatamunu](この木材で支えてよいなら自分で支えるが、台風が吹かないうちに支えればよかったのに)。˞ユーカドー˥ラ　シゥ˞カイリ [˞ju:kado:˥ra sɨ̥˞kairi](四つ角から支柱を入れて支え

ろ)。**2**差し込まれるように痛む。陣痛や腹痛で痛む。˹ンーニ˺　シゥ˹カイルン˺ケン　˺ヤムン [˹ʔnːni˺ si̥˹kairuŋ˺keɲ jamuŋ](胸がつかえる＜痞える＞ほど痛む＜病む＞)。

シゥ˹カウン [si̥˹kauŋ] 【他動】**1**使う。使用する。シ˹カウン [ʃi̥˹kauŋ](使う)(若年層) ともいう。カ˹ナパイヤー˺　シゥ˹カーン˺カー　カ˹ラシ [ka˹napaijaː˺ si̥˹kaːŋ˺kaː ka˹raʃi](鍬は使わなければ貸せ)。˹キュー˺ヤ　シゥ˹カウンダー˺　カ˹ラサラヌ˺　アツァー　シゥ˹カイ˺　ミサン [˹kjuː˺ja si̥˹kaundaː˺ ka˹rasaranu˺ ʔatsaː si̥˹kai˺ misaŋ](今日は使うから貸せない。明日は使ってよい)。シゥ˹カウ　ムノー˺　ムー˹ル˺　シゥ˹カイ˺バ [si̥˹kau munoː˺ muː˹ru˺ si̥˹kai˺ba](使うものは全部使え)。˹マー˺ビン　シゥ˹カイヤー˺　ミサムヌ [˹maː˺bin si̥˹kaijaː˺ misamunu](もっと使えばよいのに)。**2**雇って働かせる。使役する。ウ˹レー˺　フ˹ヨー˺ヌ　シゥ˹カーラヌ [ʔu˹reː˺ ɸu˹joː˺nu si̥˹kaːranu](あいつは怠け者だから使えない)。**3**用にあてる。役立たせる。ク˹リ˺シ　ガ˹ク˺ヒ　シゥ˹カイ˺バ [ku˹ri˺ʃi ga˹ku˺çi si̥˹kai˺ba](これで学費に使いなさい)。**4**操る。操作する。ウ˹キナー˺ムニーン　シゥ˹カイシェー˺ン [ʔu˹kinaː˺munuːn si̥˹kaiʃeː˺ŋ](沖縄言葉も使える)。**5**費やす。消費する。˹モー˺ケール　˹ジン˺マー　ムー˹ル˺　シゥ˹カイキシ　ナー˺ヌ [˹moː˺keːru ˹ʤim˺maː muː˹ru˺ si̥˹kaikiʃi naː˺nu](儲けた金は全部使い切ってしまった)。

シゥ˹カウン [si̥˹kauŋ] 【自動】支える。支柱で支える。シゥ˹カンギー˺シ　˺パラー　シゥ˹カウンティ˺　ウ˹ムー˺ヌ　シゥ˹カイ˺　ミサンカヤー [si̥˹kaŋgiː˺ʃi ˺paraː si̥˹kaunti˺ ʔu˹muː˺nu si̥˹kai˺ misaŋkajaː](支柱で柱を支えようと思うが支えてよいかねえ)。ク˹リ˺シェー　シゥ˹カーララヌ˺。ビ˹チ˺ヌ　シゥ˹カウ　キー˺バ　˺トゥミ　˺キー　シゥ˹カイ˺バ [ku˹ri˺ʃeː si̥˹kairaranu˺。bi˹ʧi˺nu si̥˹kau kiː˺ba ˺tumi ˺kiː si̥˹kai˺ba](これでは支えられない。別の支える木＜支柱＞を探してきて支えなさい)。ク˹マ˺ン　˺トンラー　シゥ˹カイヤー˺　ミサムヌ [ku˹ma˺n ˺tonraː si̥˹kaijaː˺ misamunu](ここのところから支えたらよいのに)。**2**陣痛や腹痛で痛む。差しこまれるように痛む。バ˹タ˺ヌ　シゥ˹カイ˺　ヤ˹ミ˺ス [ba˹ta˺nu si̥˹kai˺ ja˹mi˺su](陣痛などで差し込まれるように痛む)。˺バタ　シゥ˹カウン [˺bata si̥˹kauŋ](陣痛が起きる＜腹が差し込まれるように痛む＞)。

シゥ˹カスン [si̥˹kasuŋ] 【他動】鋤きで田畑を鋤く＜鋤かせる＞。ウ˹シヌ˺ヤマ　ウ˹シン˺　ピ˹カシティ˺　パ˹タ˺キ　シゥ˹カスンティ　スンドゥ˺　イ˹シヌ　ゴー˺ラーティ　シゥ˹カサラヌ [ʔu˹ʃinu˺ jama ʔu˹ʃim˺ pi̥˹kaʃiti˺ pḁ˹ta˺ki si̥˹kasunti sundu˺ ʔi˹ʃinu goː˺raːti si̥˹kasaranu](鋤を牛に引かせて畑を鋤こう＜鋤かせよう＞とするが、石が多いので鋤け＜鋤かされ＞ない)。若年層は、シ˹カスン [ʃi̥˹kasuŋ](鋤かせる) という。ウ˹シヌ˺　ヤマシ　パ˹タ˺キ　シゥ˹カスンティ˺　ウ˹ムーン˺ドゥ　イ˹シヌ　ゴー˺ラーティ　シゥ˹カサラヌ [ʔu˹ʃinu˺ jamaʃi pḁ˹ta˺ki si̥˹kasunti˺ ʔu˹muːn˺du ʔi˹ʃinu goː˺raːti si̥˹kasaranu](鋤で畑を鋤かせようと思うが、石が多いので鋤かされない)。シ˹ダケー˺　ヤマシ　シゥ˹カシティ˺　アトーラ　˹カイ˺シバ [ʃi˹dakeː˺ jamaʃi si̥˹kaʃiti˺ ʔatoːra ˹kai˺ʃiba](先に鋤きで鋤かして＜土を起して＞、後から＜鍬で＞耕しなさいよ)。˺カイブ　˺トンマー　˺ヤマシ　シゥ˹カス˺　クトー　ナ˹ラヌ˺ヌ　シゥ˹カシ˺　ミサカー　シゥ˹カシ˺バ [˺kaibu ˺tommaː ˺jamaʃi si̥˹kasu˺ ku̥toː na˹ranu˺nu si̥˹kaʃi˺ misakaː si̥˹kaʃi˺ba](こんな所は鋤で鋤かせることは出来ないが、鋤かして良ければ鋤かせなさいよ)。

シゥ˹カ˺スン [si̥˹ka˺suŋ] 【他動】置かす。置かせる。˹ニー˺ヤ　˺クナー　シゥ˹カ˺スンティ　ウ˹ムー˺ヌ　シゥ˹カ˺シ　˺ミサンカヤー [˹niː˺ja ˺kunaː si̥˹ka˺sunti ʔu˹muː˺nu si̥˹ka˺ʃi ˺misaŋkajaː](荷物はここに置かせようと思うが、置かせて良いでしょうか)。シゥ˹カ˺ス　˺クトー　ナ˹ラ˺ヌ [si̥˹ka˺su ˺ku̥toː na˹ra˺nu](置かすことは出来ない)。˺ウナー　シゥ˹カ˺シェー　˺ミサムヌ [˺ʔunaː si̥˹ka˺ʃeː ˺misamunu](其処に置かせれば良いのに)。˺クナー　シゥ˹カ˺シ [˺kunaː si̥˹ka˺ʃi](ここに置かせよ)。

シゥ˹カスン [si̥˹kasuŋ] 【他動】聞かせる。若年層は、シ˹カスン [ʃi̥˹kasuŋ](聞かせる) という。˹ワンナー˺ニン　パ˹ナ˺シ　シゥ˹カサン˺カー　ナ˹ラ˺ヌヌ　シゥ˹カシ˺ミサンティ　ア˹ゾーラン˺ユンダ　シゥ˹カス˺　クトゥン　ナ˹ラン⊦ツォー [˹wannaː˺nim pa˹na˺ʃi si̥˹kasaŋ˺kaː na˹ra˺nunu si̥˹kaʃi˺misanti ʔa˹ʥoːraɲ˺junda: si̥˹kasu˺ ku̥tun na˹ran⊦tsoː](君にも話して聞かさないといけないのだが、聞かしてよいといわれないものだから、聞かすこともできないのだよ)。˺アツァー　ヤー˹ディン˺　シゥ˹カスン [˺ʔatsaː jaː˹diŋ˺ si̥˹kasuŋ](明日は必ず聞かす)。˺バン　シゥ˹カシェー˺　ミサムヌ [˺baŋ si̥˹kaʃeː˺ misamunu](私に聞かせたら良いのに)。˹マー˺ビン　シ˹カシ˺バ [˹maː˺biŋ si̥˹kaʃi˺ba](もっと聞かせろよ)。

シゥ˹カスン [si̥˹kasuŋ] 【他動】案内する。お連れす

る。招待する (老年層)。「使いする」の義。案内役を出して招待する意味。「みおむつかい　奉屈請事『混効験集』」、「請来　子蓋失『琉球館訳語』」とある『沖縄古語大辞典』。シ˞カスン [ʃi̥˞kasuŋ](案内する。お連れする。招待する) ともいう (若年層)。˥アッパー　シゥ˞カスンティ　クータン˥ドゥ　カ˞ジヌスー˥リ　˥キー　˞ベー˥ティ　シゥ˞カサランバ˥　アツァ　シゥ˞カサ˥ナー [˥ʔappa: si̥˞kasunti ku:tan ˥du ka˞ʤinu su:˥ri ˥ki: ˞be:˥ti si̥˞kasaramba˥ ʔatsa si̥˞kasa˥na:](お祖母さんを招待しに来たが、風が強くなってきて招待できないので、明日招待しますね)。シゥ˞カシ˥　クー [si̥˞kaʃi˥ ku:](案内してきなさい。お連れしてきなさい)。シゥ˞カス˥　クトー　ナ˞ラ˥ヌ [si̥˞kasu˥ kṵto: na˞ra˥nu](案内することは出来ない)。˥アブジェーン　シゥ˞カシェー˥　ミサムヌ [˥ʔabuʤe:n si̥˞kaʃe:˥ misamunu](お祖父さんもご案内＜お連れ＞すればいいのに)。ヤー˞ディン˥　シゥ˞カシ [ja:˞din˥ si̥˞kaʃi](必ずお案内しなさい＜お連れしなさい＞)。˥イサ　シゥ˞カシ˥　クー [˥ʔisa si̥˞kaʃi˥ ku:](お医者さんを案内してこい＜お迎えしてこい＞)。

シゥ˞カソー˥ラナー˞ラ [si̥˞kaso:˥rana:˞ra] 【感】いらっしゃいませ。よくお出でくださいました。お上がりくださいませ。最上級の挨拶。校長先生や村長さんなど、石垣島から見えた役人に対して用いた。シゥ˞カソー˥ラナー˞ラ　コー˥チョーシンシー [si̥˞kaso:˥rana:˞ra ko:˥ʧo:ʃiŋʃi:](いらっしゃいませ、校長先生)。

シゥ˞カソー˥リ [si̥˞kaso:˥ri] 【感】いらっしゃいませ。よくお出でくださいました。お上がりください。島の長老や年長者に対して用いた。アッ˞パー˥　シゥ˞カソー˥リ [ʔap˞pa:˥ si̥˞kaso:˥ri](お祖母さん、いらっしゃいませ)。

シゥ˞カッティグトゥ [si̥˞kattigutu] 【名】さわりごと。障害となること。差し支え。たたり。「～沖つ浪千重に立つとも佐波里安良米也母『万葉集3583』」の義が派生変化したものか。シゥ˞カッティグトゥ [si̥˞kattigutu](さわりごと。たたり) ともいう。シゥ˞カッティグトゥンドゥ˥　アルティ　˞キーラ˥　ンジェーティ　˞ニン˥ガイ　シ˞モーッ˥タツォー [si̥˞kattigutundu˥ ʔaruti ˞ki:ra˥ ʔnʤe:ti ˞niŋ˥gai ʃi˞mo:t˥tatso:](さわりごと＜たたり＞があると、易者から出たので、祈願をさせられた)。

シゥ˞カットゥン [si̥˞kattuŋ] 【自動】さわる (触る)。触れる。老年層の用いることば。ア˞シ˥ブナ　シゥ˞カッタヌ˥　ヨーニ　シ˞タンティン˥　シゥ˞カットゥンティ˥　ウ˞モー˥リ [ʔa˞ʃi˥buna si̥˞kattanu˥ jo:ni ʃi̥˞tantiŋ si̥˞kattunti˥ ʔu˞mo:˥ri](お出来に触らないようにしても、触ると思われる)。シゥ˞カッティヤッ˥サン [si̥˞kattijas˥saŋ](触れやすい)。シゥ˞カットゥ˥　ピンマー　ヤムン˞ダー [si̥˞kattu˥ pimma: ˥jamun ˞da:](触れるときは痛い＜病む＞よ)。シゥ˞カッテー˥　ミサムヌ [si̥˞katte:˥ misamunu](触ればよいのに)。シゥ˞カッティ [si̥˞katti](触れ)。

シゥ˞カ˥ナイ [si̥˞ka˥nai] 【名】養育。飼育。シカナイ [ʃi̥˞ka˥nai](養育)(若年層) ともいう。ッ˞ふァ˥　シゥ˞カナイ˥ヤー　シ˞ナーン˥ケンドゥ　˞ティー˥ヤ　ッ˞ふー [f˞fa˥ si̥˞kanai˥ja: ʃi˞na:˥ŋkendu ˞ti:˥ja f˞fu](子供の養育には幼少の時にが＜ぞ＞手が掛る＜手を食う＞ものである)。

シゥ˞カナイ˥ウヤ [si̥˞kani˥ʔuja] 【名】養い親。養親。若年層は、ヤ˞シナイウヤ [ja˞ʃinaiʔuja](養い親) ともいう。ウ˞レー˥　シ˞カナイウヤヌ˥ル　ス˞ダ˥トーレー˞ダー [ʔu˞re:˥ si̥˞kanaiʔujanu˥ru su˞da˥to:re:˞da:](彼は養い親が育てられたのだよ)。

シゥ˞カナイグリ˥サン [si̥˞kanaiguri˥saŋ] 【連】養いにくい。養育しにくい。動詞シゥ˞カ˥ナウン [si̥˞ka˥nauŋ](養う) の連用形に形容詞型助動詞グ˞リ˥サン [gu˞ri˥saŋ](容易でない。むずかしい) が下接して、複合語を作り、その動作をすることが困難である意を表す。˞タンガ˥ッふァー　シゥ˞カナイグリ˥サンティ　ウ˞ムー˞タ˥ヌ　シゥ˞カナイグリサー　ナー˥ヌ [˞taŋga˥ffa: si̥˞kanaiguri˥santi ʔu˞mu:ta˥nu si̥˞kanaigurisa na:˥nu](一人っ子は養いにくい＜育てにくい＞と思ったが、養いにくく無い)。˞フンダヤー˥　シゥ˞カナイグリサ˥ヌ　ナ˞ラ˥ヌ [˞ɸundaja:˥ si̥˞kanaigurisa˥nu na˞ra˥nu](わがまま駄々っ子は養いにくくて堪らない)。シゥ˞カナイグリ˥サー　ッ˞ふァー˥　ウ˞ヤム˥トー　˞カイ˥シバ [si̥˞kanaiguri˥sa: f˞fa:˥ ʔu˞jamu˥to: ˞kai˥ʃiba](養いにくい子は親元へ返しなさいよ)。

シゥ˞カナイ˥ッふァ [si̥˞kanai˥ffa] 【名】養子。「養い子」の義。シ˞カナイ˥ッふァ [ʃi̥˞kanai˥ffa](養子)(若年層)、ヤ˞シナイッふァ [ja˞ʃinaiffa](養い子) ともいう。マ˞リトゥ˥　フ˞タケ˥ナーラ　ブ˞ザサ˥ヌ　シゥ˞カナイ˥ッふァ　˥ナリ　˞オーッ˥タツォー [ma˞ritu˥ ɸṵ˞take˥na:ra bu˞ʤasa˥nu si̥˞kanai˥ffa ˥nari ˞ʔo:t˥tatso:](生まれてすぐから＜生後すぐから＞叔父の養子となってこられたそうだ)。

シゥ˞カナイ˥ヌシ [si̥˞kanai˥nuʃi] 【名】飼い主。シ˞

カナイ˥ヌシ [ʃi̥˩kanai˥nuʃi](飼い主)(若年層) ともいう。˩イン˥マー　イッ˩カナ˥シ　シゥ˩カナイ˥ヌシ　˩バシキラン˥ティ　ア˩ザリブー [˩ʔim˥maː ʔik˩kana˥ʃi si̥˩kanai˥nuʃi ˩baʃi̥kiran˥ti ʔa˩ʤaribuː](犬は決して飼い主を忘れないといわれている)。

シゥ˩カナイ˥バキ [si̥˩kanai˥baki] 【名】こわけ (仔分け)。立て分け。シゥ˩カナイバ˥キ [ʃi̥˩kanaiba˥ki](仔分け) ともいう (若年層)。家畜 (牛や豚) の所有主と飼育者が、家畜の生んだ仔を両者で折半する契約の基に飼育者が家畜を飼育すること。˥アヒャーオーバ　シゥ˩カナイバ˥キ　˩シール　バン˥テヌ　˩オー˥ヤ　サ˩カラシェー˥ダー [˥ʔaça:ʔoːba si̥˩kanaiba˥ki ˩ʃiːru ban˥tenu ˩ʔoː˥ja sa˩karaʃeː˥daː](繁殖用豚を仔分け方式で飼育して＜ぞ＞、私の家の豚は繁殖させ＜盛らせ＞たのだよ)。

シゥ˩カナイパン˥タ [si̥˩kanaipan˥ta] 【名】子育て真っ最中。多くの子供を育てるのに多忙な時期。˩養育繁多」の義。シ˩カナイパン˥タ [ʃi̥˩kanaipan˥ta](子育て真っ最中)(若年層) ともいう。˩ベー˥　マ˩ナマ˥ル　シゥ˩カナイパン˥タ　ヤ˩ルンダ　ジン˥マー　ギュー˩サ　モーカ˥バン　タ˩ラーサラヌ˥　マー˩ズン　ギーバラ [˩beː˥ ma˩nama˩ru si̥˩kanaipan˥ta ja˩runda ʤim˥maː gjuː˩sa moːka˥ban ta˩raːsaranu˥ maː˩ʤuŋ giːbara](我々は今が子育ての真っ最中＜養育繁多の時期＞だから、お金はいくら儲けてもたりない＜足らされない＞。一緒に頑張ろうよ)。

シゥ˩カナイ˥ムシ [si̥˩kanai˥muʃi] 【名】家畜。˩養い虫」の義。イ˩キム˥シ [ʔi˩kimu˥ʃi](動物の総称。˩生き虫」の義)『図説琉球語辞典』。˩虫。動物の総称。羽虫は鳥類、毛虫は獣類、甲虫は亀類、鱗虫は魚類、裸虫は人類のこと」『学研漢和大字典』とある。シゥ˩カナイ˥ムシ　シ˩カ˥ナウンティ　イ˩キム˥シン　˩アシゥカーリ　アウ˥リナンギバ　˩シーベー [si̥˩kanai˥muʃi si̥˩ka˥naunti ʔi˩kimu˥ʃiŋ ˩ʔasi̥kaːri ʔau˥rinaŋgiba ˩ʃiːbeː](家畜を飼育するとて、家畜にこぎ使われて難儀苦労をしている)。

シゥ˩カ˥ナウン [si̥˩ka˥nauŋ] 【他動】養う。飼う。飼育する。˥オー　シゥ˩カ˥ナウンティ　˥ウムーカー　シゥ˩カナーリン˥ドゥ　˥クナーテー　シゥ˩カ˥ナウ　˥クトー　ナ˩ラン˥ツォー [˥ʔoː si̥˩ka˥naunti ˥ʔumuːkaː si̥˩kanaːrin˥du ˥kunaːteː si̥˩ka˥nau ˥kutoː na˩ran˥tsoː](豚を飼おうと思うなら飼える＜飼われる＞が、此処では飼うことは出来ないそうだ)。シゥ˩カナイ˥　プサ　プ˩ソー˥　シゥ˩カナイ˥ヤー　˥ミサムヌ [si̥˩kanai˥ pu̥sa pu̥˩soː˥ si̥˩kanai˥jaː ˥misamunu](飼いたい人は飼えばいいのに)。˥オー　シゥ˩カ˥ナイバ [˥ʔoː si̥˩ka˥naiba](豚を飼えよ)。

シゥ˩カバ˥　シ˩キ [si̥˩kaba˥ ʃi̥˩ki] 【連】聞こえよがしに。聞きたければ聞くがよい。わざと聞こえるように。˩聞かば聞け」の義。シ˩カバ˥　シ˩キ˥ティ　ア˩ザラン˥　ナカーラ　ウ˩ブ˥クイシ　パ˩ナ˥シ　˩ベー [si̥˩kaba˥ ʃi̥˩ki˥ti ʔa˩ʤaran˥ nakaːra ʔu˩bu˥kuiʃi pa˩na˥ʃi˩beː](聞こえよがしに＜聞かば聞けと言えないばかりに＞、大声で話している)。

シゥ˩カ˥バラー [si̥˩ka˥baraː] 【名】束柱。短い柱。老年層の言葉。˩欄、太知乃豆加＜たちのつか＞、剣柄也」『和名抄』の˩豆加＜つか＞」が転訛したもの。若年層は、シ˩カ˥バラー [ʃi̥˩ka˥baraː](束柱) ともいう。桁柱の上に立てる 30〜40 センチの短い柱。四寸角の角材を用いることが多い。これで屋根の勾配を作る。ウ˩ダ˥ティ [ʔu˩da˥ti](うだち＜桝＞。˩宇太知＜うだち＞」˩正倉院文書　天平宝字五・十二・二十八」) に似た柱。˩ザイギ˥ヌ　パ˩シェー˥　シ˩ティランドー˥シ　ウ˩リ˥シ　シゥ˩カ˥バラ　ス˩クリ [˩ʤaigi˥nu pa˩ʃeː˥ ʃi̥˩tirandoː˥ʃi ʔu˩ri˥ʃi si̥˩ka˥baraː su̥˩ku˥ri](材木の切れ端は捨てないで、それで束柱を作れ)。

シゥ˩カマー˥ル [si̥˩kamaː˥ru] 【名】近回り。近道。近道を通って行くこと。˩トゥーマール　サンドー˥シ　シゥ˩カマー˥ル　˩スー˥カー　マ˩ニ˥アウン [˩tuːmaːru sandoː˥ʃi si̥˩kamaː˥ru suː˥kaː ma˩ni˥auŋ](遠回りしないで、近道＜近回り＞すると間に合う)。

シゥ˩カマブシ [si̥˩kamabuʃi] 【名】金星。˩仕事星」の義。野良仕事を終えて帰宅する頃に出る星の義という。˩ユーボン˥ブシ [˩juːbom˥buʃi](夕飯星) ともいう。ナ˩チェー˥　アツァユンダ　˩ヨーコイ˥ラー　パ˩タ˥ケー　˩ギー˥　シゥ˩カマブシバ˥　ミレーティル　˩ヤー　オーッ˥タ [na˩tʃeː˥ ʔatsajunda ˩joːkoi˥ra pḁ˩ta˥keː ˩giː˥ si̥˩kamabuʃiba˥ mireːtiru ˩jaː ʔoːt˥ta](夏は暑いので、午後 3 時ごろ＜夕影＞になって畑へ行き、金星＜仕事星＞を見ながら家に帰られ＜来られ＞た)。

シゥ˩カ˥ミ [si̥˩ka˥mi] 【名・助数】つまみ (摘み)。つかみ (掴み)。米粒や塩等を親指と中指、人差し指でつまんで取る時にいう。老年層は、˥シゥカン [˥si̥kaŋ](つかみ＜掴み＞) という。プ˩スシゥカ˥ミ [pu̥˩susi̥ka˥mi](一掴み)。フ˩タシゥカミ [ɸu̥˩tasi̥kami](二掴み)。˩スー˥ヤ　ア˩マー˥カー　˩マー˥ス　プ˩ス˥シゥカン　イ˩リリ˥バ [˩suː˥ja ʔa˩maː˥kaː maːsu pu̥˩su˥si̥kaŋ ʔi˩riri˥ba](お汁は味が薄かったら塩を一つまみ入れ

なさいよ)。プ˩ス˥シゥカン [pu̥˩su˥si̥kaŋ](一つかみ)、フ˩タシゥカミ [ɸu̥˩tasi̥kaŋ](二つかみ)。

シゥ˩カ˥ミ [si̥˩ka˥mi] 【名】掴むこと。握ること。シゥ˩カミ˥ヌ ˩ヨー˥カー ˩パンチ˥パルン˩ダー [si̥˩kami˥nu ˩joː˥kaː ˩pantʃi˥parun˩daː](握り方が弱いと外れていくよ)。

シゥ˩カ˥ミー [si̥˩ka˥miː] 【名】近眼。シゥ˩カ˥ミー˥ナリティ ˩ガン˥キョー カ˩キラン˥カー ˩ジー˥ ユ˩マラ˥ヌ [si̥˩ka˥miː ˥nariti ˩gaŋ˥kjoː kḁ˩kiraŋ˥kaː ˩ʤiː˥ ju˩mara˥nu](近眼になって眼鏡を掛けないと文字が読めない)。

シゥ˩カ˥ミー [si̥˩ka˥miː] 【名】近視。「近目」の義。若年層は、シ˩カ˥ミー [ʃi̥˩ka˥miː](近視) ともいう。シゥ˩カ˥ミー ヤ˩ルンダ˥ カイブ クマー˩クマーヌ ジーヤ˥ ユ˩マラ˥ヌ [si̥˩ka˥miː jaˬrunda˥ kaibu kumaː˩kumaːnu ʤiːja˥ ju˩mara˥nu](近視だから、こんな細かい文字は読め < 読まれ > ない)。

シゥ˩カミ˥アライ [si̥˩kami˥ʔarai] 【名】揉み洗い。「掴み洗い」の義。両手で洗濯物を掴んで揉み洗うことからいう。部分洗い。シ˩カミ˥アライ [ʃi̥˩kami˥ʔarai](揉み洗い)(若年層) ともいう。˩キン˥マー ˥タライナー イ˩リティ˥ シゥ˩カミ˥アライ シ˩ティ˥ プシバ [˩kim˥maː ˥taraina: ʔi˩riti˥ si̥˩kami˥ʔarai ʃi̥˩ti˥ pu̥ʃiba](着物は盥に入れて揉み洗いをして干しなさい)。

シゥ˩カ˥ミチ [si̥˩ka˥miʧi] 【名】近道。ク˩ヌ˥ ミ˩チ˥トゥ カ˩ヌ˥ ミ˩チ˥トー ˩マー˥ル シゥ˩カ˥ミチヤー [ku˩nu˥ mi˩ʧi˥tu ka˩nu˥ mi˩ʧi˥toː ˩maː˥ru si̥˩ka˥miʧijaː](この道とあの道とでは何処が近道か)。シ˩カ˥ミチ [ʃi̥˩ka˥miʧi](近道)(若年層) ともいう。シゥ˩カミ˥チェーラ ˥パルカー マ˩ニ˥アウン ˥パジ˩ダー [si̥˩kami˥ʧeːra ˥paruka: ma˩ni˥aum paʤi˩daː](近道から行くと間に合うはずだよ)。

シゥ˩カミ ンザ˥スン [si̥˩kami ʔnʤa˥suŋ] 【連】掴み出す。摘み出す。若年層は、「シ˩カミンザ˥スン [ʃi̥˩kamiʔnʤa˥suŋ](掴みだす)」ともいう。ヤ˩ナマヤーヤ˥ ミ˩ナ˥カー シゥ˩カミンザ˥シ [ja˩namajaːja˥ mi˩na˥kaː si̥˩kamiʔnʤa˥ʃi](悪い猫は外へ掴み出せ)。˥アイニ シゥ˩カミ˥ ン˩ザサン˥タンティン ˥ミサン [˥ʔaini si̥˩kami˥ ʔn˩ʤasan˥tantim ˥misaŋ](あのように掴み出さなくてもいいよ)。

シゥ˩カミンザ˥スン [si̥˩kamiʔʤa˥suŋ] 【他動】掴み出す。つまみだす (撮み出す)。パ˩ナン˥ギ ˩スー˥カー ミ˩ナ˥カー シゥ˩カミンザ˥スン˩ダー [pa˩naŋ˥gi ˩suː˥kaː mi˩na˥kaː si̥˩kamiʔnʤa˥sun˩daː](悪ふざけをすると庭へ撮み出すぞ)。

シゥ˩カ˥ムン [si̥˩ka˥muŋ] 【他動】1掴む。˩ニーリティー˥シ ギッ˩ティ˥ シゥ˩カ˥ミ [˩niːritiː˥ʃi git˩ti˥ si̥˩ka˥mi](右手でぎゅっと掴め)。˥ティーシェー シゥ˩カマ˥ヌ [˥tiːʃeː si̥˩kama˥nu](手では掴まない)。シゥ˩カミ˥ プサン [˥tiːʃi si̥˩kami˥ pu̥saŋ](手で掴みたい)。˥ティーシ シゥ˩カ˥ム プ˩ソー˥ ブ˩ラーヌ [˥tiːʃi si̥˩ka˥mu pu̥˩soː˥ bu˩raːnu](手で掴む人はいない)。シゥ˩カ˥メー ˥ミサムヌ [si̥˩ka˥meː ˥misamunu](掴めば良いのに)。シゥ˩カ˥ミバ [si̥˩ka˥miba](掴めよ)。2捕まえる。捕獲する。イ˩ズ˥ シゥ˩カ˥ムン [ʔi˩ʤu˥ si̥˩ka˥muŋ](魚を掴む < 捕獲する >)。ン˩ギ˥ウシ シゥ˩カ˥ミ ˥クー [ʔŋ˩gi˥ʔuʃi si̥˩ka˥mi ˥kuː](逃げた牛を捕獲してこい)。

シゥ˩カ˥ムン [si̥˩ka˥muŋ] 【他動】掴む。捕まえる。捕縛する。シ˩カ˥ムン [ʃi̥˩ka˥muŋ](掴む)(若年層) ともいう。˩ティー˥ヌ ˩ピッ˥チン マ˩ミ˥ヌ ˥サニ シゥ˩カ˥ミティ マ˩コーッ˥タ [˩tiː˥nu ˩pit˥ʧim ma˩mi˥nu ˥sani si̥˩ka˥miti ma˩koːt˥ta](手の一杯豆の種を掴んで蒔かれた)。˥パトゥザ シゥ˩カ˥ムンティ ˩ゲータン˥ドゥ シゥ˩カマラン˥シェン [˥patuʤa si̥˩ka˥munti geːtan˥du si̥˩kamaraŋ˥ʃeŋ](山鳩を捕まえようと行ったが捕まえられなかった)。シゥ˩カミ˥プサカー ˥ドゥーシ シゥ˩カ˥ムクトゥ [si̥˩kami˥ pu̥suka: ˥duːʃi si̥˩ka˥mu ˥ku̥tu](捕まえたければ自分で捕まえること)。˩パー˥ク シゥ˩カ˥メー ˥ミサムヌ [˩paː˥ku si̥˩ka˥meː ˥misamunu](早く捕まえればよいのに)。˩ワー˥ シゥ˩カ˥ミ [˩waː˥ si̥˩ka˥mi](君が捕まえろ)。˥ティーシ ギッ˩ティ˥ シゥ˩カ˥ムンティ ˩スンドゥ˥ シゥ˩カマラ˥ヌ [˥tiːʃi git˩ti˥ si̥˩ka˥munti ˩sundu˥ si̥˩kamara˥nu](手でぎゅっと掴もうとするが、掴まれない)。シゥ˩カミ ヤッ˥サン [si̥˩kamija s˥saŋ](掴みやすい)。シゥ˩カ˥ム ク˩トゥ˥ヌ ˥ナルカー シゥ˩カ˥メー ˥ミサムヌ [si̥˩ka˥mu ku̥˩tu˥nu ˥naruka: si̥˩ka˥meː ˥misamunu](掴むことが出来たら掴めばいいのに)。ギッ˩ティ˥ シゥ˩カ˥ミ [git˩ti˥ si̥˩ka˥mi](ぎゅっと掴め)。捕まえる。˩アウ˥タ シゥ˩カ˥ムン [˩ʔau˥ta si̥˩ka˥muŋ](蛙を捕まえる < 捕獲する >)。

シゥ˩カラ [si̥˩kara] 【名】力。体力。気力。能力。若年層は、シ˩カラ [ʃi̥˩kara](力) ともいう。「出で立たむ知加良乎 < チカラヲ > 無みと～『万葉集 3972』」の義。˩ワー˥ シゥ˩カラヌ スー˥ワンダ タ˩ンガ˥シ カ˩タ˥ミバ˩ヨー [˩waː˥ si̥˩karanu suː ˥wanda ˩taŋga˥ʃi kḁ˩ta˥miba˩joː](君は力が強いから

独りで担ぎなさいねえ)。

シゥ˩カラー˥サン [si̥˩karaː˥saŋ] 【形】寂しい。侘しい。うら寂しい。寂寞としている。若年層は、シ˩カラー˥サン [ʃi̥˩karaː˥saŋ] ともいう。˥ドゥー ˩タンガ˥シェー ˥ドゥク シゥ˩カラーサ˥ヌ ニ˩バラヌ [˥duː ˩taŋga˥ʃeː ˥duku si̥˩karaːsa˥nu ni˩baranu](自分一人ではあまりにも寂しくて眠られない)。˩タンガ˥シェー シゥ˩カラー˥サンティ ウ˩ムータン˥ドゥ ˥アイ ˩スー˥スコー シゥ˩カラー˥サー ˩ナーン˥シェン [˩taŋga˥ʃeː si̥˩karaː˥santi ʔu˩muːtan˥du ˥ʔai ˩suː ˥sʉko: si̥˩karaː˥saː ˩naːŋ˥ʃeŋ](一人では寂しいと思ったが、それほど寂しくはなかった)。マ˩ナ˥マーラル シゥ˩カラー˥サ ˥ナル [ma˩na˥maːraru si̥˩karaː˥sa ˥naru](これからが＜今からぞ＞寂しくなる)。シゥ˩カラー˥サ (ル) ˥バソー ウ˩タ˥バ イ˩ジェー˥ティ ˩ピーグラシ シー˥バ [si̥˩karaː˥sa(ru) ˥basoː ʔu˩ta˥ba ʔi˩ʤeː˥ti ˩piːguraʃi ʃiː˥ba](寂しいときは歌を歌って暮らし＜日暮らししなさい)。

シゥ˩カラ˥ シ˩キ˥ルン [si̥˩kara˥ ʃi̥˩ki˥ruŋ] 【連】励ます。応援する。元気付ける。「力をつける」の義。若年層は、シ˩カラ˥ シ˩キ˥ルン [ʃi̥˩kara˥ ʃi̥˩ki˥ruŋ](励ます) ともいう。イ˩ズン˥ タクン ッ˩ふァーシティ˥ シゥ˩カラ˥ シ˩キ˥ルンティル ˥ムティ ˩クー˥タ˩ダー [ʔi˩ʤun˥ tʉ̥kuŋ ˩fa:ʃi̥ti˥ si̥˩kara˥ ʃi̥˩ki˥runtiru ˥muti ˩kuː˥ta˩daː](魚も蛸も食べさせて励まそう＜力をつけさせよう＞と持ってきたんだよ)。

シゥ˩カラシグトゥ [si̥˩karaʃigutu] 【名】力仕事。肉体労働。シ˩カラシグトゥ [ʃi̥˩karaʃigutu](力仕事。肉体労働)(若年層) ともいう。グ˩タイ˥ヌ カ˩ナー˥ンダー シゥ˩カラシグトー ワンマー˥ シ˩ミララヌ [gu˩tai˥nu ka˩naː˥nda: si̥˩karaʃiguto: wammaː˥ ʃi˩raranu](体力がない＜五体が叶わない＞から力仕事は君にはさせられない)。

シゥ˩カラジナ [si̥˩karaʤina] 【名】力綱。産婦が出産の時に力を入れるために強く引き、握り締める綱。屋根の梁に綱を掛て力綱とした。若年層は、シ˩カラジナ [ʃi̥˩karaʤina](力綱) ともいう。ム˩カ˥シェー シゥ˩カラジナバ˥ ピ˩キシキ˥ カ˩サミ˥ シゥ˩カラ˥ ン˩ザ˥シェーティル ッ˩ふァー˥ ナ˩ソーッ˥タティ˩ダー [mu˩ka˥ʃeː si̥˩karaʤinaba˥ pi̥˩kiʃi̥ki˥ kʉ̥˩sami˥ si̥˩kara˥ ʔn˩ʤa˥ʃeːtiru ˩fa: na˩soːt˥tati˩daː](昔は力綱を引張り掴んで、力を出して子供を出産された＜産まれた＞そうだよ)。

シゥ˩カラ˥ スクン [si̥˩kara˥ sʉ̥kuŋ] 【連】励ます。応援する。元気付ける。元気が出る＜元気付く＞。「力つける」の義。若年層は、シ˩カラ˥ シ˩キ˥ルン [ʃi̥˩kara˥ ʃi̥˩ki˥ruŋ](励ます。元気付ける) ともいう。˥クビ ン˩マー˥ムン ッ˩ふー˥カー シゥ˩カラ˥ スクン ˥パジ [˥kubi ʔm˩maː˥muŋ ˩fuː˥kaː si̥˩kara˥ sʉ̥kum paʤi](これだけ美味しいものを食べたら元気が出るはずだ)。カ˩リバ˥ シゥ˩カラ˥ シキ ッ˩ふィーリ [ka˩riba˥ si̥˩kara˥ ʃi̥ki ˩fiːri](彼を励ましてくれ)。

シゥ˩カラマース [si̥˩karamaːsu] 【名】神前の供物。飾り塩。盛り塩。「力塩」の義。正月に茶碗で半球形に成形した塩を皿に盛って神前に供えた供物。家族や来客に少量ずつ箸で摘んで与え、健康と長寿を祈願し嘉例を予祝する習慣がある。若年層は、シ˩カラマース [ʃi̥˩karamaːsu](盛り塩・力塩) ともいう。˥ソンガチ ˩ニントゥー シン˥ パルカー シゥ˩カラマースン˥ カミティル ˩クー˥タ˩ダー [˥soŋgatʃi ˩nintuː ʃim˥ paruka: si̥˩karamaːsuŋ˥ kamitiru ˩kuː˥ta ˩daː](正月の年頭の挨拶をしに行くと飾り塩＜力塩＞も頂いて＜ぞ＞帰ってきたものだ)。

シゥ˩カラムチ [si̥˩karamutʃi] 【名】力持ち。強力。若年層は、シ˩カラムチ [ʃi̥˩karamutʃi](力持ち) ともいう。シゥ˩カラムチ˥ ア˩ラン˥カー ˩プール˥ヌ カ˩シ˥ラー ム˩ティユーサ˥ヌ [si̥˩karamutʃi˥ ʔa˩raŋ ˥ka: ˩puːru˥nu ka˩ʃi˥ra: mu˩tiju:sa˥nu](力持ちでないと豊年祭の旗頭は持つことが出来ない＜持ちえない＞)。

シゥ˩カラ˥ムチ [si̥˩kara˥mutʃi] 【名】力持ち。ウ˩ヌ˥ プ˩ソー˥ ウ˩トゥンジ˥ シゥ˩カラムチ˥ ヤ˩ロー˥ル [ʔu˩nu˥ pʉ̥˩soː˥ ʔu˩tunʤi˥ si̥˩kara˥mutʃi ja˩roː˥ru](この人は有名な＜音に聞く＞力持ちでいらっしゃる＜あられる＞)。

シゥ˩カラワザ [si̥˩karawaʤa] 【名】力仕事。体力を要する仕事。「力業」の義。若年層は、シ˩カラワザ [ʃi̥˩karawaʤa](力業) ともいう。グ˩タイ˥ヌ ˥カナイ ˩ブンダ˥ シゥ˩カラワザ サバン˥ プ˩ス˥ マ˩キラヌ [gu˩tai˥nu ˥kanai ˩bunda˥ si̥˩karawaʤa sabam˥ pʉ̥˩su˥ ma˩kiranu](体格が優れて＜五体が叶って＞いるから、力仕事をしても他人に負けない)。

シゥ˩カラ˥ ンジ [si̥˩kara˥ ʔnʤi] 【連】力を出して。努力して。頑張って。若年層は、シ˩カラ˥ ンジ [ʃi̥˩kara˥ ʔnʤi](頑張って。力をだして) ともいう。˩マー˥ ン˩ベー˥マ ヤ˩リバ˥ シゥ˩カラ˥ ンジ パ˩タラキ˥ヨー [˩maː˥ ʔm˩beː˥ma ja˩riba˥ si̥˩kara˥ ʔnʤi pḁ˩taraki˥joː](もう少しだから頑張って働きなさい

よ)。

シゥ˞カラ˜　ンズン [si̥˞kara˜ ʔndʑuŋ] 【連】力を出す。努力する。頑張る。若年層は、シ˞カラ˜　ンズン [ʃi̥˞kara˜ ʔndʑuŋ](力を出す。頑張る) ともいう。ッ˞ふァヌ　ウイヌ　ガッ˜コー　˜パルンティ　シ˞ター˜　ウヤン　シゥ˞カラ˜　ンズンティ　ア˞ジ　オー˜ル [f˞fanu ʔuinu gak˜ko: ˜parunti ʃi̥˞ta:˜ ʔujan si̥˞kara˜ ʔndʑunti ʔa˞ʤio:˜ru](子供が上の学校へ行くといったので、親も頑張ると言っておられる)。

シゥ˞カリ˜ルン [si̥˞kari˜ruŋ] 【連】好かれる。好まれる。動詞˜スクン [˜sụkuŋ](好く。好む) の未然形に受身の助動詞˞リ˜ルン [˞ri˜ruŋ](～れる) が下接して形成された受身動詞。プ˞スン˜　シゥ˞カリ˜ルンティ　˜ウムーカー　シゥ˞カリ˜ル　˜クトゥ　˞シー˜バ [pụ˞sun˜ si̥˞kari˜runti ˜ʔumu:ka: si̥˞kari˜ru ˜kụtu ˞ʃi:˜ba](人に好かれようと思うならば、好かれることをしなさいよ)。

シゥ˞カリルン [si̥˞kariruŋ] 【自動】突かれる。他動詞、ス˞クン [sụ˞kuŋ](突く) の未然形に受身の助動詞˞リルン [˞riruŋ](れる) が付いた形 (受身動詞)。マーン˞ベーマ˜　スカー　ウ˞シン˜　シゥ˞カリンティ　アーク˜タ　˞ドー˜スカーヤ [ma:m˞be:ma˜ sụka: ʔu˞ʃin˜ si̥˞karinti ʔa:ku˜ta ˞do:˜sụka:ja](すんでのところで＜もう少ししたら＞牛に突かれるところだったんだってば)。ウ˞シン˜　シゥ˞カリルン [ʔuʃin si̥kariruŋ](牛に突かれる)。

シゥ˞カリン [si̥ï˞kariŋ] 【自動】1突かれる。˜ウナー　˞ベー˜ルカー　ウ˞シン˜　シゥ˞カリン˜ダー [˜ʔuna: ˞be:˜ruka: ʔu˞ʃin˜ si̥ï˞karin˜da:](此処にいると牛に突かれるぞ) 受身動詞。ス˞クン [sụ˞kuŋ](突く) の受身表現。ス˞クン [sụ˞kuŋ](突く) の未然形、シゥ˞カ [si̥ï˞ka] に受身・可能の助動詞リン [riŋ](れる) が付いた形。˜ウナー　˞ベー˜ルカー　ウ˞シン˜　シゥ˞カリン˜ダー [˜ʔuna: ˞be:˜ruka: ʔu˞ʃiŋ˜ si̥ï˞karin˜da:](そこにいると牛に突かれるよ)。グ˞シ˜シ　シゥ˞カリティ　シー˜　パリ　˞ベー [gu˞ʃi˜ʃi si̥ï˞kariti ʃi:˜ pari ˞be:](竹串で刺され＜突かれ＞て、血が出ている)。2突くことができる。ス˞クン [sụkuŋ](突く) の可能表現。ク˞リ˜シン˞デー˜カー　˞バン˜ヌン　イ˞ゾー˜　シゥ˞カリン [ku˞ri˜ʃin˞de:˜ka: ˞ban˜nuŋ ʔi˞ʤo:˜ si̥ï˞kariŋ](これでなら私にも魚は突け＜突かれ＞る)。他動詞、ス˞クン [sụ˞kuŋ](突く) の未然形に受身、可能の助動詞˜リン [˜riŋ](れる) が付いた形 (受身動詞。可能動詞)。˞バン˜ヌン　シゥ˞カリン [˞ban˜nun si̥ï˞kariŋ](私にも突ける＜突かれる＞) 可能動詞。

シゥ˞カリン [si̥˞kariŋ] 【自動】漬かる。漬かれる。漬物が十分に成熟される。他動詞、ス˞クン [sụ˞kuŋ](漬ける) の未然形に受身、可能の助動詞˜リン [˜riŋ](れる) が付いた形 (受身動詞。可能動詞)。シ˞カリン [ʃi̥˞kariŋ](漬かる)(若年層) ともいう。ク˞ヌ　ダイ˜クネー　タ˞ク˜アン　シゥ˞カリンティ˜　ウムイ　ス˞クタンドゥ　ナン˜ゾー　ン˞マー˜　シゥ˞カランバン [ku˞nu dai˜kune: tạ˞ku˜an si̥˞karinti˜ ʔumui sụ˞kutandu nan˜ʤo: ʔm˞ma:˜ si̥˞karambaŋ](この大根は沢庵漬けに漬かる＜自然に漬けられる＞と思って漬けたが、あまり美味しくは漬からない＜漬かってない＞わい)。˞キュー˜レー　˞トゥッカ˜シェー　シゥ˞カリン [˞kju:˜re: ˞tukka˜ʃe: si̥˞kariŋ](きゅうり＜胡瓜＞は十日では漬かる＜漬けられる。漬物として成熟する＞)。

シゥ˞カリン [si̥ï˞kariŋ] 【自動】聞こえる。聞かれる。˞サンシンヌ˜　ウ˞トゥヌ˜　シゥ˞カリ　ブーヌ　ワンヌン˜　シゥ˞カリン [˞saŋʃinnu˜ ʔu˞tunu˜ si̥ï˞kari bu:nu wannuŋ˜ si̥ï˞kariŋ](三味線の音が聞こえているが、君も聞こえるか)。˞クイ˜ヌ　グ˞マー˜ヌ　シゥ˞カラヌヌ˜　シゥ˞カリ˜　ピンヌン　˞アッ˜タン [˞kui˜nu gu˞ma:˜nu si̥ï˞karanunu˜ si̥ï˞kari˜ pinnuŋ ˞ʔat˜taŋ](声が小さくて聞こえない＜聞かれない＞が、聞こえるときもあった)。˞マー˜ビン　シゥ˞カレー˜　ミサムヌ [˞ma:˜biŋ si̥ï˞kare:˜ misamunu](もっと聞こえればいいのに)。˜ウナー　ナ˞キベー˜ティ　プ˞スン˜　シゥ˞カリリ˜バ [˜ʔuna: na˞kibe:˜ti pụ˞suŋ˜ si̥ï˞kariri˜ba](そこで泣いていて他人に聞かれれよ＜聞かれなさいよ。聞かれたら恥だぞ＞)。ス˞クン [sụ˞kuŋ](聞く) の未然形に受身の助動詞リン [riŋ](れる) が付いた受身表現。ウ˞ブ˜クイシ　パ˞ナ˜スカー　プ˞スン˜　シゥ˞カリン˜ダー [ʔu˞bu˜kuiʃi pa˞na˜sụka: pụ˞sun˜ si̥ï˞karin˜da:](大声で話すと他人に聞かれるぞ)。2可能表現。聞くことができる。ス˞クン [sụ˞kuŋ](聞く) の未然形に可能の助動詞˞リン [riŋ](れる) の付いた可能表現。ク˞レー　バン˜ヌン　シゥ˞カリン [ku˞re: ban˜nuŋ si̥ï˞kariŋ](これは私にも聞くことができる＜聞かれる＞)。

シゥ˞カリン [si̥˞kariŋ] 【連】膳を供せられる。供えられる。1ス˞クンン [sụ˞kuŋ](供える) の受身表現。バー˞バー˜キ　˞ジン˜　シゥ˞カリ˜カー　˞デー˜ジ [ba: ˞ba:˜ki ˞ʤin˜ si̥˞kari˜ka: ˞de:˜ʤi](私まで膳を供される＜供えられる＞と大変だ)。2供えることが出来る。ス˞クン [sụ˞kuŋ](供える) の可能表現。˞ジンヌ˜　ア˞タロー　ウイ˜プス　ヤ˞ラバン˜　シゥ˞カリ

ン [˩ʤinnu˥ ʔa˩taro: ʔui˥pu̥su ja˩raban˥ si̥˩kariŋ](お膳ぐらいは老人にでも配膳できる＜供えられる＞)。

シゥ˩カ˥リン [si̥˩ka˥riŋ] 【連】置かれる。1˩スクン [˥su̥kuŋ](置く) の受身動詞。˩タール˥ ス˩ク˥タユー ˩カッティニ˥ ミ˩ナ˥カナー ˩ニー˥バ シゥ˩カ˥リティ ˩ヤッカイ˥ヌ [˩ta:ru˥ su̥˩ku˥taju: ˩kattini˥ mi˩na˥kana: ˩ni:˥ba si̥˩ka˥riti ˩jakkai˥nu](誰が置いたのか、勝手に庭に荷物を置かれて厄介なことだ)。2置くことが出来る。置ける。˥スクン [˥su̥kuŋ](置く) の可能動詞。˥クナーテー イ˩チンバー˥キン シゥ˩カ˥リン [˥kuna:te: ʔi˩tʃimba:˥kiŋ si̥˩ka˥riŋ](此処では何時までも置くことが出来る＜置かれ＞る)。

シゥ˩カル [si̥˩karu] 【名】水瓶などの保護網。水瓶や酒瓶、味噌瓶などを保護するために外側に棕櫚縄で作った網をかけたもの。˩フー˥カラジナシ カ˩ミ˥ヌ シゥ˩カル˥ カキ ˥シケーバ ˥カメー バ˩ラヌ [˩ɸu:˥karaʤinaʃi ka˩mi˥nu si̥˩karu˥ kąki ˥ʃi̥ke:ba ˥kame: ba˩ranu](棕櫚綱で瓶の保護網を掛けてあるから、瓶は割れないよ)。

シゥ˩カルン [si̥˩karuŋ] 【自動】つかる。つかる (浸かる)。ひたる (浸る)。水につかってぬれる。ウ˩レー˥ イ˩ザン˥カー ˥プスイピーズ ミ˩ジ˥ナー シゥ˩カルントダー [ʔu˩re:˥ ʔi˩ʤaŋ˥ka: ˥pu̥suipi:ʤu mi˩ʤi˥na: si̥˩karun˩da:](彼は叱らないと一日中水に浸かるぞ)。ミ˩ジ˥ナー シゥ˩カリ˥ティ ˥ガバー ウ˩タ˥シティ ア˩ザバン˥ シゥ˩カラヌ [mi˩ʤi˥na: si̥˩kariti˥ gaba: ʔu˩ta˥ʃi̥ti ʔa˩ʤaban˥ si̥˩karanu](水に浸かって垢を落とせと言っても浸からない)。˩ピー˥ヤンダ ミ˩ジ˥ナー シゥ˩カル˥ プ˩ソー˥ ブ˩ラーヌ [˩pi:˥janda mi˩ʤi˥na: si̥˩karu˥ pu̥˩so:˥ bu˩ra:nu](寒いから水に浸かる人はいない)。˩マー˥ビン シゥ˩カレー˥ ミサムヌ [˩ma:˥bin si̥˩kare:˥ misamunu](もっと水に浸かれば良いのに)。

˥シゥカン [˥si̥kaŋ] 【名・助数】つかみ (掴み)。片手で握れるだけの量。数詞に下接して物の数量を表す。˥シカン [˥ʃi̥kaŋ](掴み)(若年層) ともいう。˩マイタブロー˥ フ˩タシゥカン˥シル プ˩スタブ˥ルティ ˩スー [˩maitaburo:˥ ɸu̥˩tasi̥kaŋ˥ʃiru pu̥˩sutabu˥ruti ˩su:](稲の 1 束＜稲束＞は 2 つか＜掴み＞で 1 束という)。˩マイシジ˥ プ˩ス˥シゥカン シゥ˩カ˥ミ イ˩リリ˥バ [˩maiʃiʤi˥ pu̥˩su˥ si̥kan si̥˩ka˥mi ʔi˩riri˥ba](米粒を一掴み握って＜掴んで＞入れなさいよ)。˩ミーシゥカン [˩mi:si̥kaŋ](3 掴み)。˩ユーシゥカン [˩ju:si̥kaŋ](4 掴み)。イ˩チ˥シゥカン [ʔi˩tʃi˥si̥kaŋ](5 掴み)。˩ムーシゥカン [˩mu:si̥kaŋ](6 掴み)。

シゥ˩カン- [si̥˩kan-] 【接頭】ぶち〜。動詞に上接して意味を強め、修飾する語の語義に粗野で下品な強い意味を加味する。シ˩カン-[ʃi̥˩kan-](ぶち〜)(若年層) ともいう。シゥ˩カントー˥ルン [si̥˩kanto:˥ruŋ](ぶっ倒れる)。ヤ˩ナクトゥバ シー˥ プ˩スヌ˥ バチ シゥ˩カン˥カビバ [ja˩nakutuba ʃi:˥ pu̥˩sunu˥ batʃi si̥˩kaŋ˥kabiba](悪事をして、人の罪＜罰＞をおっ被りやがれ)。˥ワンザー ˩タンガ˥シ シゥ˩カン˥ッふァイバ [˥wanʤa: ˩taŋga˥ʃi si̥˩kaŋ˥ffaiba](お前一人で打ち喰らえやがれ)。プ˩スヌ˥ ム˩ヌ˥バ シゥ˩カン˥バカイ ˥バカイ トゥ˩ル˥ナ [pu̥˩sunu˥ mu˩nu˥ba si̥˩kam˥bakai ˥bakai tu˩ru˥na](他人の物をぶん取って、奪い取るな)。

シゥ˩カンカー˥スン [si̥˩kaŋka:˥suŋ] 【他動】売り飛ばす。˩マートゥリ˥ムノー シゥ˩カンカー˥スンティ ウ˩ムーン˥ドゥ ウ˩ムイ˥ツァー ˥ナリティ シゥ˩カンカー˥ス ˥クトゥーン ナ˩ラ˥ヌ [˩ma:-turi˥muno: si̥˩kaŋka:˥sunti ʔu˩mu:n˥du ʔu˩mui˥tsa: ˥nariti si̥˩kaŋka:˥su ˥kutu:n na˩ra˥nu](邪魔な物＜場所塞ぎ物＞は売り飛ばそうと思うが、惜しくなって売り飛ばすことが出来ない)。シゥ˩カンカーシ˥ プサカー ˩パー˥ク シゥ˩カンカー˥シェー ˥ミサムヌ [si̥˩kaŋka:ʃi˥ pu̥saka: ˩pa:˥ku su̥˩kaŋka:˥ʃe: ˥misamunu](売り飛ばしたければ早く売り飛ばせばいいのに)。シゥ˩カンカーサラ˥ヌ [su̥˩kaŋka:sara˥nu](売り飛ばされない)。˩パー˥ク シゥ˩カンカー˥シ [˩pa:˥ku su̥˩kaŋka:˥ʃi](早く売り飛ばせ)。

シゥ˩カンギ [si̥˩kaŋgi] 【名】支柱。支え柱。カ˩ジヌ˥ フクンティ ˩スンダ˥ パ˩ラー˥ヌ シゥ˩カンギ˥ カ˩マ˥シ [ka˩ʤinu˥ ɸu̥kunti ˩sunda˥ pa˩ra:˥nu si̥˩kaŋgi˥ ka˩ma˥ʃi](台風＜風＞が吹くというから、柱の支柱をかませ＜入れ＞よ)。˩ヤー˥ヌ シゥ˩カンギ ホー˥シティ ˩ヤー˥ヌ カ˩キン˥グ ˩シー˥ヨー [˩ja:˥nu si̥˩kangi ho:˥ʃi̥ti ˩ja:˥nu ką˩kiŋ˥gu ˩ʃi:˥jo:](家の支柱を立てて＜咬ませて＞家の暴風対策＜格護＞をしなさいよ)。

シゥ˩カンギー [si̥˩kaŋgi:] 【名】支柱。「つかえぎ＜支え木＞」の義。「Tçucaye. ツカエ (支へ) 支え, または, 支柱.Tçucayeuo suru.(支へをする) 倒れかかった塀その他の物に支柱を立てる」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。シゥ˩カンギー˥ シゥ˩カイティ ヤー˥ヌ カ˩キン˥グ ˩サン˥カー ナ˩ラ˥ヌ [si̥˩kaŋgi:˥ si̥˩kaiti ja:˥nu ką˩kiŋ˥gu ˩saŋ˥ka: na˩ra˥nu](支柱を

構えて＜突っ支えにして。つっかい棒にして＞家の格護＜防風対策＞をしないといけない)。

シゥ˹カン˺　シキ [sḭ̈˹kaŋ˺ ʃḭki] 【連】聞きやがれ。耳を穿って聞け。よく聞け。シゥ˹カン [sḭ̈˹kaŋ](掴み)は強意の接頭語。ウ˹ヤ˺ヌ　˹クイ˺ヤー　˹カン˺ヌ　˺クイティル　˺アル　˹ミン˺バ　トゥ˹ルッ˺サイ　シゥ˹カン˺　シキ [ʔu˹ja˺nu ˹kui˺ja: ˹kan˺nu ˺kui ˺tiru ˺ʔaru ˹mim˺ba tu˹rus˺sai sḭ̈˹kaŋ˺ ʃḭki](親の言葉＜声＞は神の言葉＜声＞と箴言にある。耳を穿って＜注意して＞よく聞け)。

シゥ˹カン　シキ [sḭ˹kaŋ ʃḭki]【連】上の空で聞くこと。他のことに心が奪われてしっかりと聞かないこと。「聞かぬ聞き」の義。ナー˹イ˺　シゥ˹カン　シキバ　シーベー˺ティ　ウ˹ヤ˺ヌ　˹トゥス˺コーッタ　˺ムネー　˹バシキ　ベー˺ミー [na:˹i˺ sḭ˹kaŋ ʃḭkiba ʃi:be:˺ti ʔu˹ja˺nu ˹tusṵ˺ko:tta ˺mune: ˹baʃḭki be:˺mi:](ただぼけっとして、上の空で聞いていて、親が言い付けられた言葉を忘れているだろうねえ)。

シゥ˹カンツァー˺ルン [sḭ̈kantsa:˺ruŋ] 【自動】ごちゃごちゃに纏(モツ)れる。絡(カラ)まりつく。散乱する。混乱する。めちゃくちゃになる。ス˹クイ˺バ　キ˹リッケーラ˺スカー　˺イトー　シゥ˹カンツァー˺ルン [sṵ˹kui˺ba ki˹rikke:ra˺sṵka: ˺ʔito: sḭ̈˹kantsa:˺ruŋ](麻桶を蹴転がしたら、績んだ糸は散乱してごちゃごちゃに纏れ絡まる)。ヤシー˹ヤシー˺　シゥ˹カンツァー˺ラヌ [jaʃi:˹jaʃi:˺ sḭ̈˹kantsa:ra˺nu](易々とは纏れ絡まらない)。シゥ˹カンツァー˺リティ　˹パンツァサラヌ [sḭ̈˹kantsa:˺riti ˹pantsasaranu](纏れ絡まって解け＜外され＞ない)。シゥ˹カンツァー˺ル　˺イトー　シ˹ティリ [sḭ̈˹kantsa:˺ru ˺ʔito: ʃḭ˹tiri](纏れ絡まる糸は捨てろ)。シゥ˹カンツァー˺レー　˺ミサムヌ [sḭ̈˹kantsa:˺re: ˺misamunu](纏れ絡まりつけばよいのに)。シゥ˹カンツァーリ˺リ [sḭ̈˹kantsa:ri˺ri](纏れ絡まれ)。

シゥ˹カンッふァー˺スン [sḭ˹kaŋffa:˺suŋ] 【他動】打ち食らわす。打ち食らわせる。動詞ッ˹ふァースン [f˹fa:suŋ](食わせる) に強意の接頭語シゥ˹カン-[sḭ˹kaŋ-](うち＜掴み＞〜) が上接して形成された使役動詞。表現上は、喧嘩口調で、捨て鉢で、粗野で、下品な感じが伴う。シゥ˹カンッふァー˺スンティ　˺ウムーカー　˹パー˺ク　シゥ˹カンッふァー˺シェー　˺ミサムヌ [sḭ˹kaŋffa:˺sunti ˺ʔumu:ka: ˹pa:˺ku sḭ˹kaŋffa:˺ʃe: ˺misamunu](打ち食わせようと思うなら、早く打ち食わせば良いのに)。

シゥ˹カン˺ッふン [sḭ˹kaŋ˺ffuŋ] 【他動】打ち食らう。他動詞ッ˹ふン [f˹fuŋ](食う。食らう) に強意の接頭語シゥ˹カン-[sḭ˹kaŋ-](うち。＜掴み〜>) が付いて形成された他動詞。喧嘩口調の、粗野で、捨て鉢で下品な感じが伴う。˺バー　˺ドゥーシ　シゥ˹カン˺ッふン [˺ba: ˺du:ʃi sḭ˹kaŋ˺ffuŋ](私は自分で打ち食らう)。シゥ˹カンッふァー˺ヌ [sḭ˹kaŋffa:˺nu](打ち食らわない)。シゥ˹カン˺ッふァイ　˺ミサン [sḭ˹kaŋ˺ffai ˺misaŋ](打ち食らって良い)。シゥ˹カンッふー˺ナ [sḭ˹kaŋffu:˺na](打ち食らうな)。シゥ˹カン˺ッふー　˺クトゥ [sḭ˹kaŋ˺ffu: ˺kṵtu](打ち食らうこと)。シゥ˹カンッふァイ˺ヤー　˺ミサムヌ [sḭ˹kaŋffai˺ja: ˺misamunu](打ち食らえば良いのに)。シゥ˹カン˺ッふァイバ [sḭ˹kan˺ffaiba](打ち食らえよ)。

シゥ˹カン˺ッふン [sḭ˹kaŋ˺ffuŋ] 【他動】打ち食らう。「掴み食らう」の義。「食う」の粗野で卑下した表現。˺スブットーヤ　パ˹タラカムティ˺　イー˹カーニ˺　シゥ˹カン˺ッふァイ　˹ベー [˺subutto:ja pḁ˹tarakamuti˺ ʔi:˹ka:ni˺ sḭ˹kaŋ˺ffai ˹be:](怠け者野郎は働かないで飯だけ打ち食らっている)。シゥ˹カン˺ッふァイ　˺ミサカー　シゥ˹カン˺ッふー　˺クトゥン　˺ナルン [sḭ˹kaŋ˺ffai ˺misaka: sḭ˹kaŋ˺ffu: ˺kṵtun ˺naruŋ](打ち食らって良ければ打ち食らうこともできる)。˹マー˺ビン　シゥ˹カンッふァイ˺ヤー　˺ミサムヌ [˹ma:˺bin sḭ˹kanffai˺ja: ˺misamunu](もっと打ち食らえばいいのに)。˹パー˺ク　シゥ˹カン˺ッふァイ [˹pa:˺ku sḭ˹kaŋ˺ffai](早く打ち食らえ)。

シゥ˹カントー˺ルン [sḭ̈˹kanto:˺ruŋ] 【自動】打っ倒れる。マ˹ラビ˺　シゥ˹カントー˺リティ　˺パン　˺ブリ　˺シケーバン [ma˹rabi˺ sḭ̈˹kanto:˺riti ˺pam ˺buri ˺ʃḭke:baŋ](まろび＜転び＞ぶっ倒れて足を折ってあるわい)。˺シンターラ　˹アッ˺タニ　˹ウシゥカラス˺カー　シゥ˹カントー˺ルンダ　シゥ˹カントーラン˺　スコーニ　˹シー˺バ [˺ʃinta:ra ˹ʔat˺tani ˹ʔusḭ̈karasu˺ka: sḭ̈˹kanto:˺runda sḭ̈˹kanto:ran˺ sṵko:ni ˹ʃi:˺ba](後ろから急に押すと打っ倒れるから、打っ倒れないようにしなさいよ)。

シゥ˹カン˺バナ [sḭ˹kam˺bana] 【名】占いに用いる、選ばれた米粒。「掴み花米」の義。シ˹カン˺バナ [ʃḭ˹kam˺bana](掴み花米)(若年層) ともいう。ウ˹ク˺ジ [ʔu˹ku˺ʤi](御籤) をバ˹ルン [ba˹ruŋ](割る。占う) 際に神前に供える粒選びした専用の白米。供物のパ˹ナン˺グミ [pa˹naŋ˺gumi](花米) とは別に供える。シゥ˹カン˺バナー　ウ˹ク˺ジ　バ˹ロー˺ル　˺バス　シゥ˹カイオー˺ル　˺パナ　ヤ˹ルンダ˺　パ˹ナングミ˺トー　クティ˹ダー [sḭ˹kam˺bana: ʔu˹ku˺ʤi ba˹ro:˺

ru ˥basu si̥˖kaijo:˥ru ˥pana ja˖runda˥ pa˖naŋgumi˥to: ku̥ti˖da:](シゥカンバナ < 掴み花米 > は御籤を占う < 籤を割る > 際に使われる花米だから、普通の花米とは別 < こと。異 > だよ)。

シゥ˖カン˥プスン [si̥˖kam˥pu̥suŋ] 【他動】放屁しやがる。「掴み・放る」の義。「シゥカン [si̥kam](掴み)」は、強意の接頭語。「放屁する」の下品な表現。˖ウンザー˥ ッ˖サリピー˥バ ˥ユー シゥ˖カン˥プスン [˖ʔundʑa:˥ s˖saripi:˥ba ˥ju: si̥˖kam˥pu̥suŋ](彼奴は臭い屁をよく放屁しやがる)。マ˖ナ˥マー シゥ˖カンプサ˥ヌ [ma˖na˥ma: si̥˖kampu̥sa˥nu](今は放屁しやがらない)。シゥ˖カン˥プシ ˥ミサカー シゥ˖カン˥プス ˥クトー ナ˖ルン˥ドゥ プ˖スム˥シ シゥ˖カン˥プシェーラー トゥ˖マラヌ [si̥˖kam˥pu̥ʃi ˥misaka: si̥˖kam˥pu̥su ˥ku̥to: na˖run˥du pu̥˖sumu ˥ʃi si̥˖kam˥pu̥ʃe:ra: tu˖maranu](放屁しくさって良ければ放屁しくさることは出来るが、一度放屁しくさったら止まらない)。シゥ˖カン˥プシバ [si̥˖kam˥pu̥ʃiba](放屁しやがれ)。

˥-シェー [˥-ʃe:] 【連】助詞連語。1～では。～をもってしては。格助詞˥-シ [˥-ʃi](で < 手段格 >) に係助詞˥-ヤ [˥-ja](は < 取立て >) が付いて融合変化した形。ク˖ヌ˥ ヌ˖キ˥ルシェー キ˖サラ˥ヌ [ku˖nu˥ nu˖ki˥ruʃe: ki̥˖sara˥nu](この鋸では切れない < 切られない >)。˖ワー タンガ˥シェー シ˖ララヌ [˖wa: taŋga˥ʃe: ʃi˖raranu](君一人では出来ない)。2～には。～< までに > には。˖ワー˥ ク˖マー˥ クーン˖ケン˥シェー ˥フネー ˥ンジ パ˖リ˥ス [˖wa:˥ ku˖ma:˥ ku:ŋ˖keŋ˥ʃe: ɸune: ˥ʔndʑi pa˖ri˥su](君がここへ来るまでには、船は出港して < 出て > 行くよ)。

˥-シェー [˥-ʃe:] 【終助】～よ。～< なんだ > よ。相手の意見を認めて、それを確認、追認する時に用いる。˥アイヌシェー ウ˖レー ワー˥ アズ ˖トゥール˥ヌシェー [˥ʔainuʃe: ʔu˖re: wa:˥ ʔadʑu ˖tu:ru˥nuʃe:](そうなんだよ。それは、君のいう通りだよ)。

˥シェー [˥ʃe:] 【連】助詞連語。～では。各助詞˥シ [˥ʃi](～で) に取立ての助詞˥ヤ [ja](～は) が下接して形成された助詞連語。[ʃi] + [ja] → [ʃe:] と音韻変化したもの。ク˖ヌ˥ フ˖ディ˥シェー ˖ジー˥ カ˖カラ˥ヌ [ku˖nu˥ ɸu˖di˥ʃe: ˖dʑi:˥ kḁ˖kara˥nu](この筆では、字は書けない < 書かれない >)。

˖シェーガー˥トゥリ [˖ʃe:ga:˥turi] 【名】カツオの背びれとそれに付いている背の皮の鱗の部分を除去すること。˖背皮取り」の義。鰹節製造過程で、頭を切ったカツオを納屋の大きな俎板に載せ、ナ˖カ˥ワリ [na˖ka˥wari](三枚卸) にする際に˖シェーガー [˖ʃe:ga:](背皮) を取ることをいう。先ず、カ˖ツバザイカタナ [kḁ˖tsubadʑaikatana](カツオ捌き包丁) の先を、背びれの左右にある小さな鱗の部分に軽く差し込んで背皮をおこし、次に˖ズーブニ [˖dʑu:buni](尾びれ。< 尾骨 >) の付け根から背びれの方へ包丁で背皮を薄く切り剥いでいき、その背皮を手に持ち替えて一気に引き抜くとシェーガーが除去できる。˖シェー˥ガー ˥パギティル ナ˖カ˥ワレー ˖ソー˥ル [˖ʃe:˥ga: ˥pagitiru na˖ka˥ware: ˖so:˥ru](背皮を剥いでから中割 < 三枚卸 > はされるのだ)。

˖ジェージェー [˖dʑe:dʑe:] 【擬態】泥酔したさま。泥酔して涎を垂らしているさま。˖ジェージェー スン˥ケン ˥ビータリティ ニ˖ビベー [˖dʑe:dʑe: suŋ˥kem ˥bi:tariti ni˖bi be:](涎を垂らすほど酔いつぶれて寝ている)。

˖シェー˥ ミサムヌ [˖ʃe:˥ misamunu] 【連】すれば良いのに。動詞˖スン [˖suŋ](する < 為る >) の已然形に形容詞˥ミサン [˥misaŋ](良い) の連体形が付いて形成された形。ウ˖レー˥ ドゥーシ ˖シェー˥ ミサムヌ [ʔu˖re:˥ du:ʃi ˖ʃe:˥ misamunu](それは自分ですれば良いのに)。

˖シェー˥ラー [˖ʃe:˥ra:] 【連】～したら。～したからには。動詞˖スン [˖suŋ](する) の已然形に、接続助詞˥ラー [˥ra:](からには。ra:<hara<kara< から > と音韻変化したもの) の付いた形。˖イッ˥タン ク˖ヌ˥ シ˖グトゥ シェー˥ラー ナ˖カバー˥ラ ヤ˖ミララヌ [˖ʔit˥taŋ ku˖nu˥ ʃi˖gutu ʃe:˥ra: na˖kaba:˥ra ja˖miraranu](一旦、この仕事をしたからには、途中で < から > 止められない)。

˖シェー˥ン [˖ʃe:˥ŋ] 【他動】した。動詞˖スン [˖suŋ](する) の活用形 (確認過去形 < してある >)。過去におこなった結果が残っているときにも用いる。˖ワー˥ シ˖グトー シェーン˥ナー˖レー [˖wa:˥ ʃi˖guto: ʃe:n˥na:˖re:](君は、仕事はしてあるだろうねえ)。キサー˖ティ シェー˥ン [ki̥sa:˖ti ʃe:˥ŋ](< いうまでもなく > 既にしてある)。˖シェーナー˥ヌ [˖ʃe:na:˥nu](まだしてない < しておいてない >)。˖シェー˥ル ˥クトゥ [˖ʃe:˥ru ˥ku̥tu](してあること)。

˖シェー˥ン [˖ʃe:˥ŋ] 【助動】～できる。～し得る。「きれる」が音韻変化した形。可能を表す助動詞。動詞の連用形に付いて、「完全に～することができる」の意味を表す。˥バー ˖ジー˥ カキ˖シェー˥ン [˥ba: ˖dʑi:˥ kḁki˖ʃe:˥ŋ](私は字を書くことが出来る < 書き

きれる・書ける＞)。ムˈチˈカサ　ˈジーヤˈ　カキˈサヌ [muˈtʃiˈkasa ˈʤi:jaˈ kạ̊kiˈsanu](難しい字は書けない)。ˈジーˈ　カキˈシェーˈ　プˈスˈ　トゥミ　ˈクー [ˈʤi:ˈ kạ̊kiˈʃe:ˈ pụ̊ˈsuˈ tumi ˈku:](字の書ける人を探してこい)。ˈジーˈ　カキˈシェーˈカー　ˈミサムヌ [ˈʤi:ˈ kạ̊kiˈʃe:ˈka: ˈmisamunu](字が書けたら良いのに)。ˈウンマーˈ　カキッˈシ　ブレーˈル [ˈʔummaːˈ kạ̊kiʃˈʃi bureːˈru](あの時は書けた＜書ききれていた＞だろうよ)。ˈジーˈ　カキ　ˈシェーˈン [ˈʤi:ˈ kạ̊ki ˈʃe:ˈŋ](字を書ける＜書き切れる＞)。ˈユミ　ˈシェーˈン [ˈjumi ˈʃe:ˈŋ](読める＜読み切れる＞)。ˈトゥリ　ˈシェーˈン [ˈturi ˈʃe:ˈŋ](取れる＜取りきれる＞)。ˈカイ　シェーˈン [ˈkai ʃe:ˈŋ](買える＜買い切れる＞)。ˈキー　ˈシェーˈン [ˈki: ˈʃe:ˈŋ](来れる＜来切れる＞)。ˈブˈリ　シェーˈン [buˈri ʃe:ˈŋ](居れる＜居り切れる＞)。ˈジーˈ　カキ　ˈサヌ [ˈʤi:ˈ kạ̊ki ˈsanu](字が書けない＜書き切れない＞)。ˈジーˈ　カキ　ˈシェーˈ　プˈス [ˈʤi:ˈ kạ̊ki ˈʃe:ˈ pụ̊ˈsu](字を書ける＜書き切れる＞人)。

ˈシェイキツァザーテー [ˈʃeikitsaʤa:te:] 【名】屋号。西花誠吉氏宅。ˈナラシケーヌ　ˈボッパーテー [ˈnaraʃi̥ke:nu ˈboppa:te:](成底家のボッパー姉宅) ともいう。ˈウンˈネーヤ　ˈナラシケートゥ　ˈヤガンマテーヌ　ˈアイナˈカナール　ˈアッˈタミー [ˈʔunˈne:ja ˈnaraʃi̥ke:tu ˈjagammate:nu ˈʔainaˈkana:ru ˈʔatˈtami:](その家は成底家と西原信一宅の中間に＜ぞ＞あったんでしょう?)。

ˈシェメンガーラ [ˈʃemeŋga:ra] 【名】セメント瓦。セメントで作った屋根瓦。鳩間島にはなかった。終戦後石垣島で利用されるようになった。ˈシェメンガーラー　パˈトゥˈマナーテー　ターˈンˈ　シゥˈカイ　ヨーランˈシェン [ˈʃemeŋga:ra: pạ̊ˈtuˈmana:te: ta:ˈnˈ si̥ˈkai jo:raŋˈʃeŋ](セメント瓦は、鳩間島では誰も使われなかった)。

ˈシェンˈスル [ˈʃenˈsuru] 【名】1ˈ扇子」の転訛したもの。竹や木で骨格部を作り、末広になるように要を固定し、紙を貼って折り畳めるように作った扇。古典舞踊や儀式の際に用いられた。舞踊に用いる扇子を特にブˈドゥルオンギ [buˈduruʔoŋgi](踊り扇) という。バˈシヌトゥロー　シェンˈスル　ムˈティˈル　ブˈドゥル　ソーˈル [baˈʃinuturo: ʃenˈsuru muˈtiˈru buˈduru soːˈru](鷲の鳥節は扇子を持って踊りをされる)。2魚名。カワハギ (皮剥ぎ) の仲間。ˈシェンˈスロー　ˈカーˈバ　ˈパギティル　ˈネーソーッˈタ [ˈʃenˈsuro: ˈkaːˈba ˈpagitiru ˈne:so:tˈta](シェンスル＜かわはぎの仲間＞は皮を剥いで炊かれた＜煮られた＞)。

ˈシェンˈスル [ˈʃenˈsuru] 【名】(動) 魚の名。和名、ウスバハギ。体長約 70 センチ。和名、ソウシハギ (体長約 70 センチ) の総称。鳩間島では漁獲数も少ないし、あまり好まれない魚である。

ˈシカ [ˈʃi̥ka] 【名】 (地) 旧石垣市内。「四箇」の義。字登野城、字大川、字石垣、字新川の四箇字のこと。「四箇村」の意。八重山の中心都市で、ˈシカプス [ˈʃi̥kapụ̊su](四箇村人) は都会人を意味した。普通はイˈサナキ [ʔiˈsanaki](石垣)、イˈサンケー [ʔiˈsaŋke:](石垣) という。シˈカˈヌ　ウˈトゥザンˈヤー　プˈシˈイガ　ˈシトゥ　ムˈタˈシバ [ʃi̥ˈkaˈnu ʔuˈtuʤaŋˈja: pụ̊ˈʃiˈʔiga ˈʃi̥tu muˈtaˈʃiba](四箇村の親戚の家に干し烏賊＜スルメ＞をお土産＜苞＞にもたせなさいよ)。

シˈカーˈグゥー [ʃi̥ˈkaːˈgwa:] 【名】臆病者。小心者。怖がりや。糸満方言からの転訛。ウˈレーˈ　シˈカーˈグゥー　ヤˈルンダ　ユーˈロー　ˈタンガˈシェー　マーˈンˈ　パˈリユーサˈヌ [ʔuˈre:ˈ ʃi̥ˈkaːˈgwa: jaˈrunda juːˈro: ˈtaŋgaˈʃe: ma:ˈmˈ paˈriju:saˈnu](あいつは臆病者だから夜は一人では何処へも行けない＜行かれない＞)。ウˈレー　サッˈコー　シˈカーˈグゥー [ʔuˈre: sakˈko: ʃi̥ˈkaːˈgwa:](この人は非常に臆病者である)。

シカーシˈカーˈシ [ʃi̥ka:ʃi̥ˈkaːˈʃi] 【副】びくびく。こわごわ。恐る恐る。ウˈヤˈヌ　ブˈラーンˈティル　ˈアイ　ˈブーˈユー　シカーシˈカーˈシル　パˈナˈシン　ˈスートゥォー [ʔuˈjaˈnu buˈra:nˈtiru ˈʔai ˈbu:ˈju: ʃi̥ka:ʃi̥ˈkaːˈʃiru paˈnaˈʃin ˈsu:ɦtso:](親がいないからそうなのか、びくびくして＜ぞ＞話もするんだよ)。

シカーシˈカーˈシ [ʃi̥ka:ʃiˈkaːˈʃi] 【副】まのあたり (目の当り) に。目の前に。間近に。「近々に」の義か。チˈカˈグロー　ˈマーラソーッˈタ　ウˈヤˈヌ　クˈトゥˈル　シカーシˈカーˈシ　ˈイミナー　ミˈラˈリ　ˈオーˈルˈツォー [tʃi̥ˈkaˈguro: ˈma:raso:tˈta ʔuˈjaˈnu kụˈtuˈru ʃi̥ka:ʃiˈkaːˈʃi ˈʔimina: miˈraˈri ˈʔo:ˈruˈtso:](近頃は亡くなられた親のことが目の当たり夢に現れて＜見られて＞こられるんですよ)。

シカーˈシカーˈシ [ʃi̥ka:ˈʃikaːˈʃi] 【副】びくびくして。恐る恐る。気弱そうに。寂しそうに。ウˈヤˈヌ　ˈオーランˈ　ッˈふァˈ　ヤˈレーˈティル　ˈアイニ　シカーˈシカーˈシル　ˈムニン　イˈズˈツォー [ʔuˈjaˈnu ˈʔo:ranˈ fˈfaˈ jaˈreːˈtiru ˈʔaini ʃi̥ka:ˈʃikaːˈʃiru ˈmuniŋ

ʔi˹ʥu˺tsoː](親のいらっしゃらない子供だから、あんなにびくびくしてものも言うそうだ)。

シ˹ガースン [ʃi˹gaːsuŋ] 【他動】脱臼する。関節をくじく。捻挫する。˹パン˺ヌ　˺フビ　シ˹ガーシティ˺　ア˹ラカラ˺ヌ [˹pan˺nu ˺ɸubi ʃi˹gaːʃi̥ti˺ ʔa˹rakara˺nu](足首を捻挫して歩けない＜歩かれない＞)。グ˹チ˺ホーニ　˺ウディ　フ˹ルマース˺カー　シ˹ガースン˺ティ　ア˹ゾーッタ˺ヌ　シ˹ガーサンシェン [gu˹ʧi˺hoːni ˺ʔudi ɸu˹rumaːsu˺kaː ʃi˹gaːsun˺ti ʔa˹ʥoːtta˺nu ʃi˹gaːsaŋʃeŋ](無鉄砲に腕を振り回すと捻挫すると言われたが捻挫しなかった)。˺ヌビ　シ˹ガース˺　プソー　˹フン˺トー　˺ヌビ　˹マーサランダー˺　イッ˹カナ˺シ　シ˹ガシェー˺　ナ˹ラ˺ヌ [˺nubi ʃi˹gaːsu˺ pu̥soː ˹ɸun˺toː ˺nubi ˹maːsarandaː˺ ʔik˹kana˺ʃi ʃi˹gaːʃeː˺ na˹ra˺nu](頚骨を捻挫する時は本当に首が回されないから、決して捻挫してはならない)。シ˹ガーシ [ʃi˹gaːʃi](捻挫しろ)。タ˹カーン˺　トンラ　トゥ˹ビウリ˺ルカー　˺パン　シ˹ガースンㅏダー [tḁ˹kaːn˺ tonra tu˹biʔuri˺rukaː ˺paŋ ʃi˹gaːsunㅏdaː](高い所から飛び降りると足を挫くぞ)。シ˹ガーサヌ [ʃi˹gaːsanu](捻挫しない。挫かない)。˺パン　シ˹ガーシティ˺　ア˹ラカラ˺ヌ [˺paŋ ʃi˹gaːʃi̥ti˺ ʔa˹rakara˺nu](足を挫いて歩けない)。˺パン　シ˹ガース˺クトー　˹ナー˺ヌ [˺paŋ ʃi˹gaːsu˺ ku̥toː ˹naː˺nu](足を挫くことはない)。シ˹ガーシェー˺　ミサムヌ [ʃi˹gaːʃeː˺ misamunu](挫けば良いのに)。ブ˹ダッカリ　ベー˺ティ　˺パン　シ˹ガーシ˺バ [bu˹dakkari beː˺ti ˺paŋ ʃi˹gaːʃi˺ba](飛び跳ねていて足を挫けろよ＜挫けるな＞)。ヤ˹ナトーリ　スー˺カー　˺パン　シ˹ガースンティ˺　シ˹タヌ˺　バー　シ˹ガーサンシェン [ja˹natoːri suː˺kaː ˺paŋ ʃi˹gaːsunti˺ ʃi̥˹tanu˺ baː ʃi˹gaːsaŋʃeŋ](悪い倒れ方をすると足を捻挫するといったが、私は捻挫しなかった)。シ˹ガーシ　ナー˺ヌ [ʃi˹gaːʃi naː˺nu](捻挫してしまった)。˺パン　ム˹ディマーシ˺タンティン　シ˹ガース˺　クトー　˹ナー˺ヌ [˺pam mu˹dimaːʃi̥˺tantiŋ ʃi˹gaː˺su ˺ku̥toː ˹naː˺nu](足を捻じ曲げても捻挫することはない)。

シ˹カー˺ン [ʃi̥˹kaː˺ŋ] 【形】1近い。シゥ˹カー˺ンとも言う。˺クマーラ　˺パルカー　シ˹カー˺ン [˺kumaːra ˺parukaː ʃi̥˹kaː˺ŋ](ここから行ったら近い)。˹ヤー˺ラ　シ˹カー˺カー　パ˹ラリン˺ドゥ　シ˹カーナーン˺カー　パ˹ラ˺ヌ [˹jaː˺ra ʃi̥˹kaː˺kaː pa˹rarin˺du ʃi̥˹kaː-naːŋ˺kaː pa˹ra˺nu](家から近ければ行ける＜行かれる＞が、近くなければ行かない)。˹シンダイ˺　シ˹カー˺　ナルン [˹ʃindai˺ ʃi̥˹kaː˺naruŋ](次第に近くなる)。ウ˹レー˺　ドゥク　シ˹カー˺ヌ　ミ˹ララ˺ヌ [ʔu˹reː˺ duku ʃi̥˹kaː˺nu mi˹rara˺nu](これはあまりにも近くて見られない＜近すぎて見えない＞)。シ˹カー˺　トンラ　˹カイ˺シバ [ʃi̥˹kaː˺ tonra ˹kai˺ʃiba](近い所から耕しなさい)。2近しい。親戚である。親密である。睦まじい。˹バン˺テートゥ　˹ウン˺ネーヤ　シ˹カーン˺ダー [˹ban˺teːtu ˹ʔun˺neːja ʃi̥˹kaːn˺daː](私の家とあの家は近しい＜親戚関係にある＞)。

シ˹カー˺ン [ʃi̥˹kaː˺ŋ] 【形】臆病である。怯えやすい。小心である。気が小さい。怖がりである。びくびくするさま。ウ˹ヌ　プソー˺　シ˹カー˺ンダー　ウ˹バースナ˺ヨー [ʔu˹nu pu̥soː˺ ʃi̥˹kaː˺ndaː ʔu˹baːsuna˺joː](あの人は怯えやすい＜怖がりだ＞から驚かすなよ)。˹ナン˺ゾー　シ˹カー　ナー˺ヌ [˹nan˺ʥoː ʃi̥˹kaː naː˺nu](それほど怯えやすくない＜臆病でない＞)。˺トゥシ　トゥ˹ル˺ター　シ˹カー˺　ナリティ　マー˹ン　サーパララ˺ヌ [˺tu̥ʃi tu˹ru˺taː ʃi̥˹kaː˺ nariti maː˹n saːparara˺nu](年をとったらば臆病に＜怯えやすく＞なって何処にも連れて行かれない)。シ˹カー˺ヌ　ナ˹ラ˺ヌ [ʃi̥˹kaː˺nu na˹ra˺nu](怯えやすくて仕方がない)。シ˹カー˺　プ˹ソー˺　タ˹ナマラ˺ヌ [ʃi̥˹kaː˺ pu̥˹soː˺ ta˹namara˺nu](臆病な人は頼めない)。

シ˹カー˺ン [ʃi̥˹kaː˺ŋ] 【形】気が弱い。臆病である。ウ˹レー˺　シ˹カー　ナーン˺ティ　ウ˹ムータン˺ドゥ　˺アイニ　シ˹カー˺ンダー　˹タンガ˺シェー　パ˹ラサラ˺ヌ [ʔu˹reː˺ ʃi̥˹kaːnaːn˺ti ʔu˹muːtan˺du ˺ʔaini ʃi̥˹kaː˺ndaː ˹taŋga˺ʃeː pa˹rasara˺nu](この人は気が弱くないと思ったが、あんなに気が弱いから一人では遣れない)。˺トシ　トゥ˹ル˺ター　シ˹カー˺　ナリ　˹ナー˺ヌ [˺tu̥ʃi tu˹ru˺taː ʃi̥˹kaː˺nari ˹naː˺nu](年をとったので気が弱くなってしまった)。シ˹カー˺　プ˹スンマー˺　シ˹ミララヌ [ʃi̥˹kaː˺ pu̥˹summaː˺ ʃi˹miraranu](気の弱い人にはさせられない)。

˺シカイ [˺ʃi̥kai] 【名】世界。標準語からの借用語。シ˹カイ˺ヌ　プ˹ストゥ˺　ム˹ヌパナシ˺ヌ　ナルカ˹ナー [ʃi̥˹kai˺nu pu̥˹sutu˺ mu˹nupanaʃi˺nu naruka˹naː](世界の人と会話＜話し＞が出来たらなあ)。

˺シカイズー [˺ʃi̥kaiʥuː] 【名】世界中。標準語からの借用語が転訛したもの。ヌ˹チ˺ヌ　˺アルンケンナ　˺シカイズー　˹マーリ˺　ミ˹リ˺プサワ˹ナー [nu˹ʧi˺nu ˺ʔaruŋkenna ˺ʃi̥kaiʥuː ˹maːri˺ mi˹ri˺pu̥sawa˹naː](命があるうちに世界中回ってみたいものだねえ)。

シカイ˹トゥ [ʃi̥kai˹tu] 【副】しかと。しっかりと。確かに。十分に。「志可登阿良農　比宜＜しかとあら

ぬ鬚＞『万葉集　892』」の義。˞シンシー˥ヌ　ア˞ゾー˥ル　˥ムネー　シカイ˞トゥ˥　シ˞キ˥ダー [˞ʃiŋʃi:˥ nu ʔa˞ʤo:˥ru ˥mune: ʃi̥kai˞tu˥ ʃi̥˞ki˥da:](先生のおっしゃることはしっかり聞くんだぞ＜聞けよ＞)。シカイ˞トゥ˥　パ˞ナ˥シ　ッ˞サリリ [ʃi̥kai˞tu˥ pa˞na˥ʃi s˞sariri](しっかりと、十分に話し申し上げよ＜れ＞)。シカイ˞トゥ　˞ミシ˥キ　˥ミリ [ʃi̥kai˞tu miʃi̥˥ki ˥miri](しっかり捜して＜見つけて＞みよ＜みれ＞)。

シ˞カキ [ʃi̥˞kaki] 【名】仕掛け。装置。仕組み。からくり。ク˞ヌ˥　ウ˞ヤ˥ザヤマー　˞ヌー˥シ　˞ブー˥　シ˞カキ˥シ　ス˞クラ˥リ　˞ブーワ [ku˞nu˥ ʔu˞ja˥ ʤajama: ˞nu:˥ʃi ˞bu:˥ ʃi̥˞kaki˥ʃi su̥˞kura˥ri ˞bu:wa](この鼠獲り器はどのような仕掛けで作られているか)。

シ˞カキルン [ʃi̥˞kakiruŋ] 【他動】仕掛ける。挑む。˥シマ　˥トゥルバソー　˥クマーラ　シ˞カキラン˥カー　シ˞カキルンティ˥　ウ˞ムー˥タンティン　シ˞カキル˥　クトー　ム˞チ˥カサ　ナ˞リ˥ス [˥ʃima ˥tu-rubaso: ˥kuma:ra ʃi̥˞kakiraŋ˥ka: ʃi̥˞kakirunti˥ ʔu˞mu: ˥tantiŋ ʃi̥˞kakiru˥ ku̥to: mu˞ʧi˥kasa na˞ri˥su](相撲をとるときには、こちらから仕掛けないと仕掛けようと思っても仕掛けることは難しくなる)。シ˞カキグリ˥サタンティン　シ˞カキレー˥　ミサムヌ [ʃi̥˞kakiguri˥satantiŋ ʃi̥˞kakire:˥ misamunu](仕掛けにくくても仕掛ければいいのに)。˥クマーラ　シ˞カキリ [˥kuma:ra ʃi̥˞kakiri](ここから仕掛けろ＜仕掛けれ＞)。

シ˞ガキルン [ʃi˞gakiruŋ] 【他動】早起きして仕事をする。他人に先んじて仕事を手がける。他人に先んじて仕事をし、他人に負けぬよう努力する。˥アツァー　シ˞ガキルンティ˥　ウ˞ムイ˥バ　˞ワンヌン˥　シ˞ガキ　ッふィーリ [˥ʔatsa: ʃi˞gakirunti˥ ʔu˞mui˥ba ˞wannuŋ˥ ʃi˞gaki ffiri](明日は早起きて仕事をしようと思うから君も早起きして仕事をしてくれ)。シ˞ガキラン˥カー　ウ˞クリシバ˥　ヤー˞ディン˥　シ˞ガキル˥　クトゥ [ʃi˞gakiraŋ˥ka: ʔu˞kuriʃiba˥ ja:˞diŋ˥ ʃi˞gakiru˥ ku̥tu](早起きしないと後れるから、必ず早起きすることだ)。シ˞ガキレー˥　ミサムヌ [ʃi˞gakire:˥ misamunu](早起きすればいいのに)。シ˞ガキリ [ʃi˞gakiri](早起きして仕事をせよ)。

シ˞カ˥ク [ʃi̥˞ka˥ku] 【名】四角。四角形。˞ナーシカ˥ク [˞na:ʃi̥ka˥ku](長方形)。˞マシカク [˞maʃi̥kaku](正方形。真四角)。マロー˞マローヌ˥　ム˞チトゥ˥　シ˞カク˥ヌ　ム˞チバ˥　ス˞ク˥リ [maro:˞maro:nu˥ mu˞ʧitu˥ ʃi̥˞kaku˥nu mu˞ʧiba˥ su̥˞ku˥ri](丸い餅と四角い餅を造れ)。

シ˞カク [ʃi̥˞kaku] 【名】資格。マ˞ナ˥マー　ノー˞ンシブー˥　クトゥン　シ˞カクヌ　ナーン˥カー　シ˞グトー˥　サ˞ラヌ＜シ˞ララヌ＞[ma˞na˥ ma: no:˞ŋʃibu:˥ ku̥tuŋ ʃi̥˞kakunu na:ŋ˥ka: ʃi˞guto:˥ sa˞ranu＜ʃi˞raranu＞](今はどんなことも資格がないと仕事は出来ない＜されない＞)。

シ˞カクン [ʃi̥˞kakuŋ] 【他動】1仕掛ける。挑む。相手に働きかける。装置する。「しかく＜仕掛く＞下二段活用、『知らぬことよ』とて、猿楽＜さるがう＞しかくるに」『枕草子 143』の義。˥ドゥーシ　シ˞カクンティ˥　ウ˞ムータン˥ドゥ　シ˞カキラランバ　ワー˥ラ　シ˞カキ˥　ミリ˞ミー [˥du:ʃi ʃi̥˞kakunti˥ ʔu˞mu:tan˥du ʃi̥˞kakiraramba wa:˥ra ʃi̥˞kaki˥ miri˞mi:](自分で仕掛けようと思ったが、仕掛けられないから、君から仕掛けてみてごらん)。˥クマーラ　シ˞カク˥　クトー　ナ˞ラン˥バ　˞ワーヤ˥　シ˞カケー˥　ミサムヌ [˥kuma:ra ʃi̥˞kaku˥ ku̥to: na˞ram˥ba ˞wa:ja˥ ʃi̥˞kake:˥ misamunu](こちらからは仕掛けることは出来ないから、君は仕掛ければ良いのに)。2事をしはじめる。「Xigotouo xicaquru＜仕事を仕掛くる＞」『邦訳日葡辞書』の義。˞パー˥ク　シ˞グトゥ˥　シ˞カキリ [˞pa:˥ku ʃi˞gutu˥ ʃi̥˞kakiri](早く仕事を仕掛けろ)。

シ˞ガクン [ʃi˞gakuŋ] 【他動】早起きして仕事をする。他人に先んじて仕事を仕掛ける。シ˞ガキルン [ʃi˞gakiruŋ] と同じ。˥アツァー　シ˞ガクンティ˥　ウ˞ムイ˥バ　˞ワンヌン˥　シ˞ガキ　ッふィーリ [˥ʔatsa: ʃi˞gakunti˥ ʔu˞mui˥ba ˞wannuŋ˥ ʃi˞gaki ffi:ri](明日は早起きして仕事をしようと思うから、君も早起きして仕事をしてくれ)。シ˞ガカン˥カー [ʃi˞gakaŋ˥ ka:](早起きして仕事をしないと)。シ˞ガク˥　クトゥ [ʃi˞gaku˥ ku̥tu](早起きして仕事をすること)。シ˞ガケー˥　ミサムヌ [ʃi˞gake:˥ misamunu](早起きして仕事をすればよいのに)。シ˞ガキ˥バ [ʃi˞gaki˥ ba](早起きして仕事をせよ)。

シ˞カ˥サ [ʃi̥˞ka˥sa] 【名】近さ。近い所。˥アドー　パ˞ラン˥タンティン　シ˞カサ˥ナーティ　トゥ˞ミラ˥リス [˥ʔado: pa˞ran˥tantiŋ ʃi̥˞kasa˥na:ti tu˞mirari˥su](あんなに遠くへ行かなくても近くで探せる＜探される＞よ)。

シ˞カ˥サ　˞スン [ʃi̥˞ka˥sa ˞suŋ] 【連】親しくする。懇意にする。˞ウン˥ネートー　ム˞カ˥シェーラ　シ˞カ˥サ　˞シール　オー˥レール [˞ʔun˥ne:to: mu˞ka˥ʃe:ra

ʃi̥˹ka˺sa ˹ʃiːru ʔoː˺reːru](その家とは昔から懇意にして＜ぞ＞今にいたっている＜来られている＞)。

シ˹カスン **[ʃi̥˹kasuŋ]** 【他動】鋤かせる。パ˹タ˺ケー　ウ˹シヌ˺　ピラシ　シ˹カスンティ　ベーン˺ドゥ　イ˹シヌ　ゴーラー˺ヌ　シ˹カサランバン [pḁ˹ta˺keː ʔu˹ʃinu˺ piraʃi ʃi̥˹kasunti beːn˺du ʔi˹ʃinu goːraː˺nu ʃi̥˹kasarambaŋ](畑は鋤＜牛の篦＞で鋤かせようとしているが、石が多くて鋤かされないわい)。シ˹カシ˺　ミサカー　˹パー˺ク　シ˹カシ [ʃi̥˹kaʃi˺ misakaː ˹paː˺ku ʃi̥˹kaʃi](鋤かせてよいなら早く鋤かせろ)。ウ˹シ˺シ　シ˹カス˺　パ˹タ˺ケー　˹パー˺ク　シ˹カシェー˺　ミサムヌ [ʔu˹ʃi˺ʃi ʃi̥˹kasu˺ pḁ˹ta˺keː ˹paː˺ku ʃi̥˹kaʃeː˺ misamunu](牛で鋤かせる畑は早く鋤かせればよいのに)。

シ˹カスン **[ʃi̥˹kasuŋ]** 【他動】案内する。お連れする。招待する (若年層)。老年層は、シゥ˹カスン [si̥˹kasuŋ](案内する。招待する。お連れする) という。若年層は、[ʦu]　→　[ʦi̥]　→　[si̥]　→　[ʃi]　のように、中舌母音 [i̥] が弱化して [i] に変化し、それに伴って [s] が口蓋化したもの。˺アッパー　シ˹カシ˺　クー [˺ʔappaː ʃi̥˹kaʃi˺ kuː](お祖母さんをお連れして来い)。

シ˹カスン **[ʃi̥˹kasuŋ]** 【他動】聞かせる。老年層は、シゥ˹カスン [si̥˹kasuŋ](聞かせる) ともいう。パ˹ナ˺シ　シ˹カスン [pa˹na˺ʃi ʃi̥˹kasuŋ](話を聞かせる)。˹ワンマー˺　シ˹カサヌ [˹wammaː˺ ʃi̥˹kasanu](君には聞かさない)。ムー˹ル˺　シ˹カシ˺　プサンドゥ　シ˹カス˺　クトー　ナ˹ラン˺ツォー [muː˹ru˺ ʃi̥˹kaʃi˺ pu̥sandu ʃi̥˹kasu˺ ku̥toː na˹ran˺ʦoː](全部聞かせたいが、聞かせることは出来ないそうだ)。ン˹メーマー˺　シ˹カシェー˺　ミサムヌ [ʔm˹meːmaː˺ ʃi̥˹kaʃeː˺ misamunu](少しは聞かせばよいのに)。ヤー˹ディン　ワー˺ラ　シ˹カシ [jaː˹diŋ waː˺ra ʃi̥˹kaʃi](必ず君から聞かせなさい)。

シ˹ガスン **[ʃi˹gasuŋ]** 【他動】継がせる。サ˹ク˺シン　˺アトゥ　シ˹ガスンティ　スンドゥ˺　ウ˹リンマー˺　シ˹ガサラヌ˺ティ　ア˹ズ˺　プ˹スヌ　ブン [sḁ˹ku˺ʃiŋ ˺ʔatu ʃi˹gasunti sundu˺ ʔu˹rimmaː˺ ʃi˹gasaranu˺ti ʔa˹ʣu˺ pu̥˹sunu buŋ](嫡子に跡目を継がそうとするが、彼には継がされないという人がいる)。ウ˹リン˺　シ˹ガシ˺　ミサカー　シ˹ガス˺　クトー　˺ナルン [ʔu˹riŋ˺ ʃi˹gaʃi˺ misakaː ʃi˹gasu˺ ku̥toː ˺naruŋ](彼に継がせて良ければ継がせることは出来る)。˹ウシ˺トゥン　シガ˹シェー˺　ミサムヌ [˹ʔuʃi˺tuŋ ʃi˹gaʃeː˺ misamunu](弟に継がせれば良いのに)。˹パー˺ク　サ˹ク˺シン　˺アトゥ　シ˹ガシ [˹paː˺ku sḁ˹ku˺ʃiŋ ˺ʔatu ʃi˹gaʃi](早く嫡子に跡目を継がせろ)。

ジ˹カ˺タ **[ʤi˹ka˺ta]** 【名】地方。首里方言からの借用語。舞踊で、三線、笛、太鼓等を演奏する人々。普通は、˺ジーシンカ [˺ʤiːʃiŋka](地謡仲間＜臣下＞。地謡担当) という。ジ˹カ˺ター　˹オーラ˺ムティ　˹ヌー˺シ　ブ˹ドゥル　スーワ [ʤi˹ka˺taː ˹ʔoːra˺muti ˹nuː˺ʃi bu˹duru suːwa](地謡がいらっしゃらないのに、どうやって踊りをするのか)。

シ˹カター　ナー˺ヌ **[ʃi̥˹kataː naː˺nu]**【連】仕方がない。˹ワー˺　シ˹ゴー　ホーサラン˺カー　シ˹カター　ナー˺ヌ　˺バー　˹タンガ˺シ　˺パルン [˹waː˺ ʃi˹goː hoːsaraŋ˺kaː ʃi̥˹kataː naː˺nu ˺baː ˹taŋga˺ʃi ˺paruŋ](君は都合がつかない＜合わせられない＞なら仕方がない。私一人で行く)。

シ˹カッティカー˺ティ **[ʃi̥˹kattikaː˺ti]** 【副】あちらへぶつかり、こちらへぶつかり。体が触れ合って邪魔になること。うろちょろするさま (若年層)。老年層は、シゥ˹カッティカー˺ティ [si̥˹kattikaː˺ti](あちらへぶつかり、こちらへぶつかり) という。ビ˹キドゥモー˺　カ˹マチフチ˺ナー　シ˹カッティカー˺ティ　˹シェー˺ティ　˹アーク˺ナ [bi˹kidumoː˺ ka˹maʧiɸuʧi˺naː ʃi̥˹kattikaː˺ti ˹ʃeː˺ti ˹ʔaːku˺na](男の子は台所＜竈口のまわり＞をうろちょろするな)。シ˹カッティカー˺ティ　˺マナール　˹マーリ　アーク˺ター [ʃi̥˹kattikaː˺ti ˺manaːru ˹maːri ʔːku˺taː](何処をうろつき回り歩いたのか)。

シ˹カッティルン **[ʃi̥˹kattiruŋ]** 【自動】さわる (触る)。触れる。(若年層)。老年層は、シゥ˹カッティルン [si̥˹kattiruŋ](触る)(老年層) という。˺カイニ　シ˹キ˺ルカー　˺パンナー　シ˹カッティルンダー˺　シ˹カッティラン˺ヨーニ　シ˹キ˺リ [˺kaini ʃi̥˹ki˺rukaː ˺pannaː ʃi̥˹kattirundaː˺ ʃi̥˹kattiraɲ˺joːni ʃi̥˹ki˺ri](このように置くと足に触れるから、触れないように置きなさい)。シ˹カッティ˺　プサンドゥ　シ˹カッティル˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [ʃi̥˹katti˺ pu̥sandu ʃi̥˹kattiru˺ ku̥toː na˹ra˺nu](触りたいが、触ることは出来ない)。シ˹カッティレー˺　ミサムヌ [ʃi̥˹kattireː˺ misamunu](触ればよいのに)。シ˹カッティリ [ʃi̥˹kattiri](触れ)。

シ˹カットゥン **[ʃi̥˹kattuŋ]** 【自動】さわる (触る)。触れる (若年層)。老年層は、シゥ˹カットゥン [si̥˹kattuŋ](触る) という。˹クン˺ナー　シ˹カッタン˺ヨーシ　シ˹タンティン˺　シ˹バー˺ンダー　シ˹カットゥンティ˺　ウ˹モー˺リ [˹kun˺naː ʃi̥˹kattaɲ˺joːʃi ʃi̥˹tantin˺ ʃi˹baː˺ndaː ʃi̥˹kattunti˺ ʔu˹moː˺ri](これに触れないよ

うにしても狭いから触れると思われる)。シ˞カッティ˜　ミサカー　シ˞カッティ˜バ [ʃi̥˞katti˜ misaka: ʃi̥˞katti˜ba](触れてよかったら触れろよ)。シ˞カットゥ˜　クトー　ナ˞ラ˜ヌ [ʃi̥˞kattu˜ kʉto: na˞ra˜nu](触れることは出来ない)。ン˞メーマー˜　シ˞カッテー˜　ミサムヌ [ʔm˞me:ma:˜ ʃi̥˞katte:˜ misamunu](少しは触れればよいのに。〜触れたら)。

シ˞カ˜ボー [ʃi̥˞ka˜bo:] 【名】臆病者。小心者。˞ウンザー˜　シ˞カ˜ボー　˜ナリティ　˞タンガ˜シェー　ノー˞ン　シーユーサヌ [˞ʔundʑa:˜ ʃi̥˞ka˜bo: ˜nariti ˞taŋga˜ʃe: no:˞ŋ ʃi:ju:sanu](こいつは臆病者になって、ひとりでは何にも出来ない＜なし得ない＞)。

シ˞カマブル [ʃi̥˞kamaburu] 【名】(動) 魚名。シ˞カマブル˜ティ　ア˞ズ˜　イ˞ズ˜　ミリ˞ミッタン [ʃi̥˞kamaburu˜ti ʔa˞ʤu˜ ʔi˞ʤu˜ miri˞mittaŋ](シカマブルという魚を見たことがあるか＜見てみたか＞)。

シ˞カミルン [ʃi̥˞kamiruŋ] 【他動】しかめる (顰)。不機嫌、苦痛などで眉間に皺をよせる。「Xicame、uru、eta・シカメ、ムル、メタ (顰め、むる、めた)」『邦訳日葡辞書』。マ˞ユヌ˜　フ˞タナカバ˜　シ˞カミティ˜　プ˞スバ˜　ミ˞ロー˜ル [ma˞junu˜ ɸʉ˞tanakaba˜ ʃi̥˞kamiti˜ pʉ˞suba˜ mi˞ro:˜ru](眉の間を顰めて他人をご覧になる＜見られる＞)。シ˞カミランドー˜シ　パ˞ナ˜スンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　バ˞タ˜ヌ　˜ヤムカー　˞ナンク˜ル　シ˞カミルンダー˜　ナ˞ラン˜バン [ʃi̥˞kamirando:˜ʃi pa˞na˜sunti ʔu˞mu:n˜du ba˞ta˜nu˜jamuka: ˞naŋku˜ru ʃi̥˞kamirunda˜ na˞ram˜baŋ](顰(シカ)めないで話そうと思うが、腹が痛むと自然に顰めるのでどうにもならない)。シ˞カミル˜　プソー　ナ˞クラー˜ン [ʃi̥˞kamiru˜ pʉso: na˞kura:˜ŋ](顰めるときは怖い)。シ˞カミリ [ʃi̥˞kamiri](顰めよ)。

シ˞カ˜ムニ [ʃi̥˞ka˜muni] 【名】臆病な物言い。小心者の言い方。こわごわ言うこと。恐る恐る言うこと。シ˞カー˜グゥー　ヤ˞ルンダ˜　シ˞カ˜ムニ　カー˞ニル˜　ア˞ズ [ʃi̥˞ka:˜gwa: ja˞runda˜ ʃi̥˞ka˜muni ka:˞niru˜ ʔa˞ʤu](臆病者だから小心者の物言いばかり＜ぞ＞する)。˞クンザー˜　シ˞カ˜ムニ　カー˞ニル˜　ア˞ズト ツォー [˞kunʤa:˜ ʃi̥˞ka˜muni ka:˞niru˜ ʔa˞ʤu˧tso:](こいつは怖気づいたこと＜臆病な物言い＞だけ言うんだよ)。

シ˞カ˜ムヌ [ʃi̥˞ka˜munu] 【名】臆病者。˞クンザー˜　シ˞カ˜ムヌ　˜ナリティ　˞ユー˜ゾー　˞ナー˜ヌ [˞kunʤa:˜ ʃi̥˞ka˜munu ˜nariti ˞ju:˜ʤo: ˞na:˜nu](こいつは臆病者になってしまって役にたたない)。

シ˞カムン [ʃi̥˞kamuŋ] 【他動】しかめる (顰める)。不機嫌、苦痛などで眉間に皺を寄せる。「しかむ＜顰む＞下二段活用、cauouo xikamuru＜顔を顰むる＞『邦訳日葡辞書』」の四段活用化したもの。˞ミー˜パナ　シ˞カマンドー˜シ　シ˞キ˜　プサンドゥ　ウ˞ヌ˜　パ˞ナ˜シ　ス˞ク˜カー　ター˞ン˜　シ˞カミス [˞mi:˜pana ʃi̥˞kamando:˜ʃi ʃi̥˞ki˜ pʉsandu ʔu˞nu˜ pa˞na˜ʃi sʉ˞ku˜ka: ta:˞ŋ˜ ʃi̥˞kamisu](顔を顰(シカ)めないで聞きたいが、その話を聞くと誰でも顔を顰める)。シ˞カム˜　クトー　˞ナー˜ンドゥ　イ˞ザリ˜カー　ヤー˞ディン˜　シ˞カムン [ʃi̥˞kamu˜ kʉto: ˞na:˜ndu ʔi˞ʤari˜ka: ja:˞diŋ˜ ʃi̥˞kamuŋ](顔を顰めることはないが、叱られると必ず顔を顰める)。シ˞カメー˜　ミサムヌ [ʃi̥˞kame:˜ misamunu](顔を顰めればよいのに)。˞マー˜ビン　シ˞カミ˜バ [˞ma:˜biŋ ʃi̥˞kami˜ba](もっと顔を顰めろよ)。

シ˞カムン [ʃi̥˞kamuŋ] 【自動】びくつく。びくびくする。怖がる。怯える。ひるむ (怯む)。˜アイニ　シ˞カマンドー˜シ　パ˞ナ˜シ。シ˞カミティ˜　パ˞ナス˜カー　パ˞ナ˜シェー　トゥ˞ズミララヌ [˜ʔaini ʃi̥˞kamando:˜ʃi pa˞na˜ʃi。ʃi̥˞kamiti˜ pa˞na˜sʉka: pa˞na˜ʃe: tu˞ʤumiraranu](あんなに怖がらないで話なさい。怖がって話すと、話は結末がつけ＜閉じ＞られない)。プ˞スヌ˜　マイナー　パ˞ナ˜ス　˜ピンマー　シ˞カムンドゥ　ヤー˜ナーテー　˜ドゥク　シ˞カム˜クトー　˞ナー˜ヌ [pʉ˞sunu˜ maina: pa˞na˜su˜pimma: ʃi̥˞kamundu ja:˜na:te: ˜duku ʃi̥˞kamu˜ kʉto: ˞na:˜nu](人の前で話すときは怖がるが、家ではあんまり怖がることはない)。˞パー˜ク　シ˞カメー˜　ミサムヌ [˞pa:˜ku ʃi̥˞kame:˜ misamunu](早く怖がればよいのに)。˞マー˜ビン　シ˞カミ [˞ma:˜biŋ ʃi̥˞kami](もっと怖がれ)。˞キーヌパン˜ター　˞ヌールタンドゥ˜　ッ˞サーラ˜　ミリティ　シ˞カミティ˜　ウ˞リユーサ˜ヌ [˞ki:nupan˜ta: ˞nu:rutandu˜ s˞sa:ra˜miriti ʃi̥˞kamiti˜ ʔu˞riju:sa˜nu](木のてっぺんに登ったが下を見て、怖くなって下りることができない)。

シ˞カユー˜ルン [ʃi̥˞kaju:˜ruŋ] 【自動】近づく。「近寄る」の義。シ˞カユー˜ルンティ　˞スー˜カー　˞ナン˜ヌ　˞スー˜ヤティ　˜サンバシェー　シ˞カユーララン˜シェン [ʃi̥˞kaju:˜runti ˞su:˜ka: ˞nan˜nu ˞su:˜jati ˜sambaʃe: ʃi̥˞kaju:rara˜ŋʃeŋ](近寄ろうとすると波が強くて桟橋へは近寄られなかった)。シ˞カユー˜リ　˜ミサカー　シ˞カユー˜ル　˜クトー　˜ナルン [ʃi̥˞kaju:˜ri ˜misaka: ʃi̥˞kaju:˜ru ˜kuto: ˜naruŋ](近寄ってよければ、近寄ることは出来る)。˞マー˜ビン

シ˩カユー˥レー　˥ミサムヌ [˩maː˥biŋ ʃi̥˩kajuː˥reː˥ misamunu](もっと近寄ればよいのに)。˩パー˥ク　シ˩カユー˥リ [˩paː˥ku ʃi̥˩kajuː˥ri](早く近寄れ)。

シ˩カラー˥サン [ʃi̥˩karaː˥saŋ] 【形】寂しい。侘しい。ッ˩ふァンケー˥ヤ　タ˩ベー˥　パ˩リ˥キシティ　シ˩カラーサ˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [f˩faŋkeː˥ja ta˩beː˥ pa˩ri˥kiʃiti ʃi̥˩karaːsa˥nu na˩ra˥nu](子供達は旅へ行ってしまって寂しくてたまらない)。˩シンダイ˥　シ˩カラー˥サ　˥ナリ　˥クーン [˩ʃindai˥ ʃi̥˩karaː˥sa ˥nari ˥kuːŋ](次第に寂しくなってくる)。シ˩カラー˥サ　˥プソー　˩サンシンバ˥　ピ˩キ˥　シ˩カラー˥サ　˩ナーン˥ヨーニ　˩シーブー [ʃi̥˩karaː˥sa ˥pu̥soː ˩saŋʃimba˥ pi̥˩ki˥ ʃi̥˩karaː˥sa ˩naːɲ˥joːni ˩ʃiːbu](寂しいときは三味線を弾いて寂しくないようにしている)。˩タンガ˥シェー　シ˩カラー˥サン˩ダー [˩taŋga˥ʃeː ʃi̥˩karaː˥san˩daː](一人では寂しいよ)。

シ˩ガルン [ʃi˩garuŋ] 【自動】痩せ衰える。衰弱する。衰える。˩サーラマキ　スー˥カー　˥ヤギ　シ˩ガルン˥ティ　ス˩クタヌ˥　アイ　˩スン˥ケン　シ˩ガランワン˥ノー [˩saːramaki suː˥kaː ˥jagi ʃi˩garunti˥ su̥˩kutanu˥ ʔai ˩suŋ˥keŋ ʃi˩garaŋwan˥noː](つわり＜悪阻＞をしたら痩せ衰えると聞いたが、それほど痩せ衰えないでわないか)。˩ヨーガリ˥　シ˩ガリ　ベーン˥ティ [˩joːgari˥ ʃi˩gari beːn˥ti](痩せ衰えているさ＜ほらご覧よ＞)。シ˩ガル　プソー˥　シ˩ガリリ　ター˥　ッ˩シェー˥バヤー [ʃi˩garu pu̥soː˥ ʃi˩gariri taː˥ ʃ˩ʃeː˥baja:](痩せ衰える人は痩せ衰えろ、誰が知るものか)。˥アイニ　シ˩ガレー˥テー　˥ワザー　ナ˩ラ˥ヌ [˥ʔaini ʃi˩gareː˥te: ˥wadʑa: na˩ra˥nu](あんなに痩せ衰えては何も＜仕事は＞出来ない)。

ジ˩カン [ʤi˩kaŋ] 【名】時間。標準語からの借用語。伝統方言では˥トゥキ [˥tu̥ki](時、時刻) といい、トゥ˩ロー˥　トゥキ　˥トゥル　ス˩クブン [tu˩roː˥ tu̥ki ˥turu su̥˩kubuŋ](鶏は時刻を測るのが職分だ) のように用いられる。ジ˩カンマー　ナーン˥バ　˩パー˥ク　˥パリ [ʤi˩kamma: naːm˥ba ˩paː˥ku ˥pari](時間がないから早く行け)。ヤー˩ディン˥　ジ˩カン˥　マ˩ニアー˥シ　˥クー˩ダー [jaː˩din˥ ʤi˩kam˥ ma˩niaː˥ʃi kuː˩daː](必ず時間に間に合わせて来いよ)。ア˩サブ˥　ジ˩カンマー　ナー˥ヌ [ʔa˩sabu˥ ʤi˩kamma: naː˥nu](遊ぶ時間は無い)。˩ガッ˥コー　˥パル　ジ˩カン˥　ナ˩リ˥ブーバ　˩パー˥ク　˥パリ [˩gak˥koː ˥paru ʤi ˩kan˥ na˩ri˥buːba ˩paː˥ku ˥pari](学校へ行く時刻になっているから、早く行け)。

シ˩キ [ʃi̥˩ki] 【名】土地柄。地相。場所。「敷」の義か。風水の一種。˩カーシキ [˩kaːʃi̥ki](井戸としての地相)。パ˩カシキ [pa˩kaʃi̥ki](墓所としての地相)。˩ヤー˥シキ [˩jaː˥ʃi̥ki](屋敷としての地相。立地条件)。ム˩ラシキ [mu˩raʃi̥ki](村の立地条件。村を設置するところの地形。地相)。パ˩トゥ˥マムラヌ　ム˩ラシケー˥　パ˩ヤー˥　ン˩カイ　ブンダ˥　イッ˩ケナフン˥シェー　˩カイ˥ヤン　ム˩ラヌ˥　ク˩シ˥ナー　˩カーン˥　ウ˩ガン˥ヌン　アリ　ッ˩ス˥パマン　˥マイ　˥ナシティ　イ˩ズン˥　タクン　トゥ˩ラ˥リティ　˩プーキーン　ナーン˥シェン [pḁ˩tu˥mamuranu mu˩raʃi̥keː˥ pa˩jaː˥ ŋ˩kai bunda˥ ʔik˩kena ɸuŋ˥ʃeː ˩kai ˥jaŋ mu˩ranu˥ ku̥˩ʃi˥naː ˩kaːŋ˥ ʔu˩gan˥nuŋ ʔari s˩su˥ pamam ˥mai ˥naiti ʔi˩ʤun˥ tḁkun tu˩ra˥riti ˩puːkiːn naːŋ˥ʃeŋ](鳩間村の立地条件＜村の地相＞は南に向いているから非常に風水が良い＜美しい＞。村の裏手＜腰＞には井戸もあり、御嶽もあり、白浜も前になして魚も蛸も獲れて、風土病＜マラリア＞もなかった)。

˥シキ [˥ʃiki] 【名】好き。好み。嗜好。標準語からの借用語。˩ミースジル˥トゥ　˩アーサ˥ヌ　˩スー˥トー　˩ヌー˥ル　˥シキヤー＜マ˩シ˥ヤ＞[˩miːsuʤiru˥tu ˩ʔaːsa˥nu ˩suː˥toː ˩nuː˥ru ˥ʃi̥kijaː＜ma˩ʃi˥ja＞](味噌汁とヒトエグサ＜アーサ＞のお汁とはどれが好きか)。˩アーサ˥ヌ　˩スー˥ル　˥シキ　˩ヤッタヌ˥　ッ˩ふァイフクリ　シーナー˥ヌ [˩ʔaːsa˥nu ˩suː˥ru ˥ʃi̥ki ˩jattanu˥ ffaiɸukuri ʃiːnaː˥nu](ヒトエグサのお汁が好きだったが、喰い飽きてしまいました)。

˥シキ [˥ʃi̥ki] 【名】式。儀式。結婚式。標準語からの借用語。˩ワター˥　ニービケー　˥マナー　˩スーワー˥。シケー　˩ヤー˥ナーティ　ア˩ギル˥　ス˩コール　シーベー [˩wataː˥ niːbikeː ˥manaː ˩suːwa˥。ʃi̥keː ˩jaː ˥naːti ʔa˩giru˥ su̥˩koːru ʃiːbeː](君達は結婚式は何処でするのか。式は家で挙げる準備をしている)。

˥シキ [˥ʃiki] 【名】せき (堰)。田に水を引くために谷間の水源より水路を作ったもの。西表島の北部一帯に開けた水田は、山間、谷間に大小のシ˩キム˥トゥ [ʃi̥˩kimu˥tu](水源池) をもっており、そこから各自の田圃へ水路を作って水を導き、水田耕作をする。夏の旱魃が続くと、堰を切ったり切られたりの水争いがおこることもあった。˥シキ　サ˩ライティ˥　ミ˩ジ˥　パ˩ラ˥シ [˥ʃi̥ki sa˩raiti˥ mi˩ʤi˥ pa˩ra˥ʃi](堰を浚って水を通し＜流し＞なさい)。

˥シキ [˥ʃi̥ki] 【名】 **(1)**ɪ月。「～長濱の浦に都奇照りにけり『万葉集　4029』」の義。˩ズングヤー˥ヌ　˥シケー　˩アーロー˥レーン [˩ʤuŋguja:˥nu ˥ʃi̥keː ˩ʔaːroː

˥reːŋ](十五夜の月は上がられた)。シ˩キ˥ヌ　˩アーリオー˥ルン [ʃi̥˩ki˥nu ˩ʔaːrioː˥ruŋ](お月様が上がってこられる)。2月日。一ヶ月の間。˩パッ˥タ　シ˩キ˥ヌ　シ˩キダ˥チナー　マ˩レーント ダー [˩pat˥ta ʃi̥˩ki˥nu ʃi̥˩kida˥ʧinaː maˬreːnˬdaː](先月＜行った月＞の朔日に生まれたよ)。**(2)**(助数) プ˩ス˥シキ [pu̥˩su˥ʃi̥ki](一月(ヒトツキ))。フ˩タシキ [ɸu̥˩taʃi̥ki](二月)。˩ミーシキ [˩miːʃi̥ki](三月)。˩ユーシキ [˩juːʃi̥ki](四月)。イ˩チ˥シキ [ʔi˩ʧi˥ʃi̥ki](五月)。˩ムーシキ [˩muːʃi̥ki](六月)。ナ˩ナ˥シキ [na˩na˥ʃi̥ki](七月)。˩ヤーシキ [˩jaːʃi̥ki](八月)。ク˩ヌ˥シキ [ku˩nu˥ʃi̥ki](九月)。˩トゥーシキ [˩tuːʃi̥ki](十月)。˩トゥーシキ˥　ミ˩ツァシ˥ル　ッ˩ふァー˥　マ˩リル [˩tuːʃi̥ki˥ mi˩tsaʃi˥ru ˩fa:˥ ma˩riru](十月を満たして＜ぞ＞子供は生まれるものだ)。

シ˩ギ [ʃi˩gi] 【名】(植物) 杉。杉の木。˥イダフニヌ　˥パラー　シ˩ギシ˥ル　ス˩クラ˥リ　˩ブー [˥ʔidaɸuninu ˥paraː ʃi˩giʃi˥ru su̥˩kura˥ri ˩buː](サバニの帆柱は杉の木で作られている)。シ˩ゲー　ヤイマ˥ナー　˥ムイ　ブ˩ラーヌ [ʃi˩geː jaima˥naː ˥mui bu˩raːnu](杉の木は八重山には生えていない)。

シ˩ギ [ʃi˩gi] 【名】次。˥バー　シ˩ゲー　ター˥ヤ [˥baː ʃi˩geː taː˥ja](私の次は誰か)。シ˩ギヌ˥　プ˩ソー˥　ス˩コール　シー [ʃi˩ginu˥ pu̥˩soː˥ su̥˩koːru ʃiː](次の人は準備をしなさい)。シ˩ゲー˥ラ　˥ジン　ン˩ザ˥シ　˩カイ˥ヨー [ʃi˩geː˥ra ˥ʤin ʔn˩ʤa˥ʃi ˩kai˥joː](次からはお金を出して買いなさいよ)。

シ˩ギ [ʃi˩gi] 【名】補い。補充。継ぎ足し。続き具合。跡継ぎ。「〜巻向山は　継之宜霜『万葉集　1093』」、「継ぎ」の義。˥イダフニヌ　ス˩クヌ　ピッ˥ケー　シ˩ギ˥　ア˩ティティ　クー˥　シバ [˥ʔidaɸuninu su̥˩kunu pik˥keː ʃi˩gi˥ ʔa˩titi kuː˥ʃiba](板舟＜サバニ＞の船底の穴は継ぎを当てて補修しなさい)。ム˩ヌ˥ヌ　シ˩ゲー˥　ア˩ラサ˥リン　ヌ˩チ˥ヌ　シ˩ゲー˥　ア˩ラサラ˥ヌ [mu˩nu˥nu ʃi˩geː˥ ʔa˩rasa˥rin nu˩ʧi˥nu ʃi˩geː˥ ʔa˩rasara˥nu](物の補い＜代理、補充＞はできるが、命の補い＜代理、補充＞は出来ない)(諺)。

シ˩キー [ʃi̥˩kiː] 【名】敷居。カ˩ムイ [ka˩mui](鴨居) の対語。引き戸や障子、襖などを立てるために、その下に、溝を掘った横木を渡して滑らせて開閉できるようにしたもの。「閾、門限也、之岐美＜しきみ＞」『華厳経音義私記』、『和名抄』の転訛したもの。シ˩キーヤ　フンシゥカンドー˥シ　ア˩ラ˥キ [ʃi̥˩kiːja ɸunsu̥kandoː˥ʃi ʔa˩ra˥ki](敷居は踏みつけないで歩け)。ア˩マ˥ヌ　˥ヤドゥ　ア˩キフイ　シー˥ナー　シ˩キーン˥　キ˩ジッふァーリ　ナー˥ヌ [ʔa˩ma˥nu ˥jadu ʔa˩kiɸui ʃiː˥naː ʃi̥˩kiːŋ˥ ki˩ʤiffaːri naː˥nu](あまりにも戸を開け閉めするので敷居も摩滅して＜削り食われて＞しまった)。

シ˩ギアースン [ʃi˩giʔaːsuŋ] 【他動】継ぎ合わせる。木材や板等を継ぎ合わせる。イ˩ツァ˥バ　シ˩ギアースンティ　ベー [ʔi˩tsa˥ba ʃi˩giʔaːsunti beː](板を継ぎ合わせようとしている)。˥イツァー　シ˩ギアーサン˥カー　タ˩ラーサラヌ [˥ʔitsaː ʃi˩giʔaːsaŋ˥kaː ta˩raːsaranu](板は継ぎ合わせないと足りない)。

シ˩キアキルン [ʃi̥˩kiakiruŋ] 【他動】突き開ける。標準語からの借用語。˥ヤドー　シ˩キアキティル　ペー˥リ　˩クー˥タ [˥jadoː ʃi̥˩kiakitiru peː˥ri ˩kuː˥ta](戸を突き開けて入ってきた)。

シ˩キアギルン [ʃi̥˩kiagiruŋ] 【他動】突き上げる。ム˩ー˩ル˥シ　ア˩ツァ˥マリティ　ッ˩サンター˥ラ　˥ムタイ　シ˩キアギルンドゥ˥　シ˩キアギララヌ [muː˩ru˥ʃi ʔa˩tsa˥mariti s˩santaː˥ra ˥mutai ʃi̥˩kiagirunti sundu˥ ʃi̥˩kiagiraranu](皆で集まって下から持ち上げて突き上げようとするが、突き上げられない)。

シ˩キアタルン [ʃi̥˩kiataruŋ] 【自動】突き当たる。標準語からの借用語。マッ˩シング˥　ア˩ラ˥キパルカー　˩ウン˥ネー　シ˩キアタルン [maʃ˩ʃiŋgu˥ ʔa˩ra˥kiparukaː ˩ʔun˥neː ʃi̥˩kiataruŋ](真直ぐ歩いて行くとその家に突き当たる)。

シ˩キ˥アバ [ʃi̥˩ki˥ʔaba] 【名】頭髪用の油。「つけあぶら (付け油)」の義。年頃の女性は、祝祭日に髪の毛に香ばしい梅香油などをつけて人前に出る習慣があった。戦後になって、成年男子もポマードなどをつけてハイカラ気分を出すようになった。男女とも日常生活では農作業に追われて髪油をつける余裕はなかった。˥アボー　イ˩サナケーラヌ˥　シトゥティ　˩シー˥　シ˩キアバ˥バ　˩カイオー˥レーツォー [˥ʔaboː ʔi˩sanakeːranu˥ ʃi̥tuti ˩ʃiː˥ ʃi̥˩kiʔaba˥ba ˩kaiʔoː˥reːtsoː](お母さんは、石垣島からの土産＜つと。苞＞として髪油＜付け油＞を買って来られたそうだ)。

シ˩キアンガラスン [ʃi̥˩kiʔaŋgarasuŋ] 【他動】船を暗礁に突き上げてしまう。船を暗礁に乗り上げてしまう。標準語からの借用語。˩ハーガラ˥スン [˩haːgara˥suŋ](座礁させる) より酷い状態。˩ハー˥ガイナー　˥フネー　シ˩キアンガラシティ˥　ウ˩ラサラ˥ヌ [˩haː˥gaina: ˥ɸuneː ʃi̥˩kiaŋgaraʃiti˥ ʔu˩rasara˥nu](浅瀬に船を乗り上げてしまって下ろされない)。

シ˫キアン˥ガルン **[ʃi̥˫ki?aŋ˥garuŋ]** 【自動】付け上がる。いい気になる。増長する。標準語からの借用語。ン˫ベーマ˥　フ˫ミラリ˥ター　シ˫キアン˥ガリティ　プ˫スバ˥　ウ˫サイ˥　ウ˫ブムニ˥バ　カー˫ニ˥　イ˫ズ˥ツォー [?m˫be:ma˥ ɸu˫mirari˥ta: ʃi̥˫ki?aŋ˥gariti pu̥˫suba˥ ?u˫sai˥ ?u˫bumuni˥ba ka:˫ni˥ ?i˫ʤu˥tso:](少々褒められたので、付け上がって他人を小ばかにして、大きなこと＜高慢なこと＞をだけ言うそうだ)。

シ˫キイシ **[ʃi̥˫ki?iʃi]** 【名】敷石。庭に飛びとびに敷いた石。ア˫ミ˥ヌ　˥フー　˥ピンマー　ミ˫ナカ˥ヌ　シ˫キイシバ　トゥンクイヤー˥ティル　ア˫ラクタ˥ル [?a˫mi˥nu ˥ɸu: ˥pimma: mi˫naka˥nu ʃi̥˫ki?iʃiba tuŋkuija:˥tiru ?a˫rakuta˥ru](雨が降るときは庭の敷石を跳び越えて＜ぞ＞歩いたものだ)。

シ˫キイツァ **[ʃi̥˫ki?itsa:]** 【名】敷板。鉋をかける際に用いる土台。シ˫キイツァ˥ナー　˫ヌーシティ˥　カ˫ナー˥　シゥ˫カバル　ゾー˥ブンニ　シゥ˫カリト ダー [ʃi̥˫ki?itsa˥na: ˫nu:ʃiti˥ ka˫na:˥ si̥˫kabaru ʤo:˥bunni si̥˫kariト da:](鉋を掛ける台＜敷板＞に載せて鉋を掛けた方が＜鉋を掛けたらばこそ＞立派に＜上手に＞鉋掛けができるのだよ)。

シ˫ギイツァ **[ʃi˫gi?itsa]** 【名】杉板。シ˫ギイツァー˥　イ˫サナケーラ˥ル　˫カイヨー˥タ [ʃi˫gi?itsa:˥ ?i˫sanake:ra˥ru ˫kaijo:t˥ta](杉板は石垣から＜ぞ＞買われた)。

シ˫キイリルン **[ʃi̥˫ki?iriruŋ]** 【他動】聞き入れる。承諾する。˥バー　ニ˫ガイ˥ヤー　シ˫キイリ　ッふィーリ [˥ba: ni˫gai˥ja: ʃi̥˫ki?iriffi:ri](私の願いは聞き入れてくれ)。˥ドゥートゥシテー　シ˫キイリルンティ˥　ウムイ　˫ベー˥ンドゥ　シ˫キイリラランティ˥　ア˫ズ˥　プ˫スン　ブン [˥du:tu ˥ʃi̥te: ʃi̥˫ki?irirunti˥ ?umui ˫be:˥ndu ʃi̥˫ki?iriranti˥ ?a˫ʤu˥ pu̥˫sum buŋ](自分としては聞き入れよう思っているが、聞き入れられないという人もいる)。シ˫キイリラランティ˥　クトー　˫ナー˥ンダ　シ˫キイリレー˥　ミサムヌ [ʃi̥˫ki?iriraranti˥ ku̥to: ˫na:˥nda ʃi̥˫ki?irire:˥ misamunu](聞き入れられないということはないから、聞き入れればよいのに)。シ˫キイリリ [ʃi̥˫ki?iriri](聞き入れろ)。

シ˫キウキ˥　トゥ˫リ˥ウキ **[ʃi̥˫ki?uki˥ tu˫ri˥?uki]** 【連】願いをお聞き届け＜お聞き受け＞、お受け取りください。神仏に懇願する際に用いることば。ピ˫ナカンガナシヌ˥マイ　シ˫キウキ˥　トゥ˫リ˥ウキ　タ˫ブ˥ローリ [pi˫nakaŋganaʃinu˥mai ʃi̥˫ki?uki˥ tu˫ri˥?uki ta˫bu˥ro:ri](火の神様、願いをお聞き届け、お受け取りくださいませ)。

シ˫キウキ˥ルン **[ʃi̥˫ki?uki˥ruŋ]** 【他動】聞き受ける。聞き届ける。承知する。˥ニガイ　ッ˫サルバ˥　ドー˫ディン˥　シ˫キウキ˥　タ˫ブ˥ローリ [˥nigai s˫saruba˥ do:˫diŋ˥ ʃi̥˫ki?ukitabu˥ro:ri](祈願申し上げますから、どうぞお聞き届けください)。˫ワー˥サーギ　シ˫キウキ˥ルンティ　ア˫ジ　ッふォー˥ルカー　ター˫ン˥　シ˫キウキラン˥テー　ア˫ゾーラ˥ヌ [˫wa:˥sa:gi ʃi̥˫ki?uki˥runti ?a˫ʤi ffo:˥ruka: ta:˫ŋ˥ ʃi̥˫ki?ukiran˥te: ?a˫ʤo:ra˥nu](貴方さえ承知する＜聞き受ける＞といって下さるなら、誰も承知しない＜聞き受けない＞とはいわれない)。˥バー　ウ˫ヌ˥　パ˫ナ˥シェー　シ˫キウキル˥　クトー　ナ˫ラヌ˥ヌ　˫ワーヤ˥　シ˫キウキレー˥　ミサムヌ [˥ba: ?u˫nu˥ pa˫na˥ʃe: ʃi̥˫ki?ukiru˥ ku̥to: na˫ranu˥nu ˫wa:ja˥ ʃi̥˫kiukire:˥ misamunu](私はその話は聞き受ける＜承知する＞ことは出来ないが、君は聞きうければよいのに)。シ˫キウキリ [ʃi̥˫ki?ukiri](聞き受けれ。承知しろ)。

シ˫キ˥ウシ **[ʃi̥˫ki˥?uʃi]** 【名】搗き臼。木製の稲搗き臼。大きな松の幹を約 90 センチの高さに切り、上端部を深さ約 20 センチ、直径約 25 センチ半球形の凹部に刳りぬいて作った臼。その中に玄米 1 升～2 升を入れてイ˫ナシ˥キ [?i˫na˥ʃi̥ki](杵) で搗いて精米した。臼の口縁部の内側に藁で作った˥シケー [˥ʃi̥ke:](揺輪) を嵌めて米が飛散しないようにし、最初は弱く、糠が出るまで搗き (これをアザラスン [?a˫ʤarasuŋ] という)、次に力をこめて搗く。また在来種の芒の長い赤米は挽き臼にかける前に、大きな搗き臼に入れて杵で搗き、芒を落とす (これを˥カトゥン [˥kḁtuŋ] という)。シ˫キ˥ウシナー　˫マイ˥　ッサイ [ʃi̥˫ki?uʃi˥na: ˫mai˥ ssai](搗き臼で米を搗け＜精げれ＞)。対義語は、ピ˫キウシ [pi̥˫ki?uʃi](挽き臼)。

シ˫キウズ **[ʃi̥˫ki?uʤu]** 【名】敷布団。鳩間島では、一部の家以外には敷布団はなかった。冬期においても敷布団を必要とするほどの寒さはあまり無かったし、それを作る余裕も無かった。パ˫トゥ˥マナテー　シ˫キウズ˥　ス˫コー˥ル　˫ヤー˥ヤ　˫ナン˥ゾー　˫ナーン˥シェン [pḁ˫tu˥manate: ʃi̥˫ki?uʤu˥ su̥˫ko:˥ru ˫ja:˥ja ˫nan˥ʤo: ˫na:ŋ˥ʃeŋ](鳩間島では敷布団を敷かれる家はあまりなかった)。

シ˫キウブイ **[ʃi̥˫kiubui]** 【名】聞き覚え。記憶。ウ˫ヌ　クイ˥ヤー　シ˫キウブイヌ˥　アル　˥クイ　ヤ˫ルヌ　ターヤッタ˥カヤー [?u˫nu kui˥ja: ʃi̥˫ki?ubuinu˥

ʔaru ˺kui ja˞runu taː jattaˀkajaː](その声は聞き覚えのある声だが、誰だったかなあ)。

シ˞キカイスン [ʃi̥˞kikaisuŋ] 【他動】突き返す。押し返す。標準語からの転訛。˞バン˺テー　˞ナー˺ト　ウ˞リバ˺　ムティクーカー　シ˞キカイスントダー [˞ban˺teː ˞naː˺to ʔu˞ribaˀ mutikuːka: ʃi̥˞kikaisunˈdaː](私の家へなど、それを持って来たら付き返すぞ)。

シ˞キカイスン [ʃi̥˞kikaisuŋ] 【他動】聞き返す。一度聞いたことを繰り返したずねる。反問する。ピ˞ルマ˺サカー　ヤー˞ディン˺　プ˞スヌ˺　ムニ　シ˞キカイスン [pi˞rumaˀsaka: jaː˞dim˺ pu̥˞sunuˀ muni ʃi̥˞kikaisuŋ](珍しかったら＜不思議だったたら＞、必ず人の話を聞き返す)。ウ˞レー˺　ヤー˞ディン˺　プ˞スヌ˺　ムニ　シ˞キカイスン [ʔu˞reː˺ jaː˞dim˺ pu̥˞sunuˀ muni ʃi̥˞kikaisuŋ](彼は必ず他人の話を問い返す＜聞き返す＞)。シ˞キカイサンドー˺シ　˞ダン˺シ　˺パリバ [ʃi̥˞kikaisandoːˀʃi ˞daŋ˺ʃi ˺pariba](聞き返さない＜反問しない＞で早く行けよ)。シ˞キカイシ˺　ミサカー　シ˞キカイス˺　クトー　ナルン˞ダー [ʃi̥˞kikaiʃi˺ misaka: ʃi̥˞kikaisu˺ ku̥toː narun˞daː](聞き返してよければ聞き返すことは出来るよ)。

シ˞キカウ [ʃi̥˞kikau] 【名】供物を供える際に焚く線香。対語は、ピキカウ [pi̥˞kikau]。普通は、香三本を焚いて香炉に立て、供物の贈り主の名前を唱え、健康祈願を唱えて合掌する。ム˞チン˺　ウ˞サイ˺ユン　シ˞キマチティ˺　シ˞キカウ˺　タティバ [mu˞tʃiŋ˺ ʔu˞saiˀjuŋ ʃi̥˞kimatʃitiˀ ʃi̥˞kikauˀ tḁ tiba](餅もお重も供えて、付け香を焚いて立てよ)。シ˞キカウヤー˺　シキタティティ　˞イー˺ヤ　シ˞キオーシ˺バ [ʃi̥˞kikaujaˀ ʃi̥kitatiti ˞ʔiːˀja ʃi̥˞kiʔoːʃiˀba](お供えの香を焚いてからご飯はお供えして差し上げなさい)。

シ˞キガクムン [ʃi̥˞kigakumuŋ] 【名】耳学問。聞きかじり。˺トゥシシザンケートゥ　˺ピライ　ム˞ヌ˺シリンケーラ　シ˞キガクムンバ　シー　ブンダ˺　ノー˞ン˺　ッ˞シル　ブー [˺tu̥ʃiʃidʑaŋkeːtu ˺pirai mu˞nuˀʃiriŋkeːra ʃi̥˞kigakumumba ʃiː bundaˀ noː˞ŋ˺ ʃ˞ʃiru buː](年配＜年上＞の方々と交際そして、博識＜物知り＞の方々から耳学問をしているから、何でも知っている)。

シ˞キカタナ [ʃi̥˞kikatana] 【名】カ˞ツピギシー˺グ [kḁ˞tsupigiʃiːˀgu](鰹節削り小刀) の一種。˞突き刀」の義。押し切ったり、前方へ突き押すようにして削るのに用いる小刀。シ˞キカタナ˺シル　カ˞ツブシヌ˺　パ˞ナー˺　ウ˞シキサリ [ʃi̥˞kikatanaˀʃiru kḁ˞tsubuʃinuˀ pa˞naː˺ ʔu˞ʃikisari](突き刀の小刀で＜ぞ＞鰹節の鼻面は切られる)。

シ˞ギキー [ʃi˞giki:] 【名】 (植) 杉の木。杉材。シ˞ギザイ [ʃi˞gidʑai](杉材)。シ˞ギイツァ [ʃi˞giʔitsa](杉板) などがあるが、すべて輸入もので、杉の木は生えていない。シ˞ギキーヤ˺　パ˞トゥ˺マナー　˺ムイ　ブ˞ラーヌ [ʃi˞giki:jaˀ pḁ˞tuˀmanaː ˺mui bu˞raːnu](杉の木は鳩間島には生えていない)。˺イダフネー　シ˞ギキー˺シル　˞パウ [˞ʔidaɸuneː ʃi˞giki:ˀʃiru ˞pau](板船＜サバニ＞は杉材で造る＜接ぐ＞)。

シ˞キグトゥ [ʃi̥˞kigutu] 【名】聞き事。聞くだけの値うちのあること。聞いて感動する素晴らしい話や素晴らしい歌 (音楽)。「これは近頃一興ある聞き事にて～」『文明本節用集』の義。˞ミー˺グトゥ　シ˞キグトゥ [˞miːˀgutu ʃi̥˞kigutu](見て感動する、聞いて感激する素晴らしい芸術や講演談話だ) のように使われる。˞キュー˺ヌ　パ˞ナ˺シェー　˞フン˺トー　シ˞キグトゥ　ヤッタ [˞kjuːˀnu pa˞naˀʃeː ˞ɸun˺toː ʃi̥˞kigutu jatta](今日の話は誠に聞く価値のある、素晴らしい話であった)。˺アッパー　˺ウター　シ˞キグトゥ　ヤッタ [˺ʔappaː ˺ʔutaː ʃi̥˞kigutu jatta](お祖母さんの歌は、聞きごと＜聞いて感動する素晴らしい＞歌だった)。

シ˞キグリ˺サン [ʃi̥˞kiguriˀsaŋ] 【形】聞きづらい。聞きにくい。シ˞キングリ˺サン [ʃi̥˞kiŋguriˀsaŋ] ともいう。˞フントー˺ヤ　˞ドゥー˺ヌ　˺クトー　シ˞キグリ˺サンダー　シ˞キグリ˺サー　˞ナーン˺テー　ア˞ザラヌ [˞ɸuntoːˀja ˞duːˀnu ˺ku̥toː ʃi̥˞kiguriˀsandaː ʃi̥˞kiguriˀsaː ˞naːnˀteː ʔa˞dʑaranu](本当は、自分のことは聞きづらいから、聞きづらくないとは言われない)。˞シンダイ˺　シ˞キグ˺リサ　˺ナリ　˞クター˺ル　シ˞キグリサ˺ヌ　シ˞カラヌ˺ティ　ウ˞ヤール˺タ [˞ʃindaiˀ ʃi̥˞kiguriˀsa ˺nari ˞kuːtaːˀru ʃi̥˞kigurisa ˺nu si̥˞karanuˀti ʔu˞jaːruˀta](次第に聞きづらくなってきたので、聞きづらくて聞こえないと怒鳴った)。シ˞キグリ˺サ　ウ˞トー˺　ヌーヤ [ʃi̥˞kiguriˀsa ʔu˞toː˺ nuːja](聞きづらい音はどれか)。

シ˞キクルバスン [ʃi̥˞kikurubasuŋ] 【他動】突き転ばす。˞ウンザー˺　サ˞キ˺　ヌムカー　プ˞ス˺　シ˞キクルバスン˺ダー [˞ʔundʑaːˀ sḁ˞kiˀ numukaː pu̥˞suˀ ʃi̥˞kikurubasunˀdaː](こいつ＜此奴＞は酒を飲むと他人を突き転ばすんだよ)。

シ˞キゴイ [ʃi̥˞kigoi] 【名】元肥。「敷き肥」の義。作付けする前に堆肥や落ち葉、茅、ススキなどを鋤きこんで入れる肥料。畑に畝を上げ、畝の底に堆肥を敷いて土を被せ、その上に苗を植えて元肥にした。堆

肥は豚舎の側に積み上げて作った。ススキや茅を刈り込んで数日間豚に踏ませた後、ガ˞キ˥ザー [ga˞ki˥ʤa:](熊手) で集めて積み上げ、更に木の葉や茅を積み重ね、水肥をかけて発酵させて作った。シ˞キゴイ˥　パ˞タ˥キナー　イ˞リバル˥　ス˞クリ˥ムノー　˞ミール [ʃi̥˞kigoi˥ pḁ˞ta˥kina: ʔi˞ribaru˥ su̥˞kuri˥muno: ˞mi:ru](元肥を畑に入れたらばこそ、作物は稔る)。

シ˞キザースン [ʃi̥˞kiʤa:suŋ] 【他動】かき乱す。蹴散らす。発散させる。撹乱する。体内の熱を突き出す。フ˞チン˥パー　˞シッ˥キティ　˥シル　ヌ˞マ˥スカー　˥ニチ　シ˞キザースン＜パッサン˞スン＞[ɸu̥˞tʃim˥pa: ˞ʃik˥kiti ˥ʃiru nu˞ma˥su̥ka: ˥nitʃi ʃi̥˞kiʤa:suŋ＜passaŋ˞suŋ＞](よもぎ＜蓬＞の葉を突っついて汁を飲ませると熱を発散させる)。シ˞キザーサヌ [ʃi̥˞kiʤa:sanu](発散させない)。シ˞キザーシト ミー [ʃi̥˞kiʤa:ʃi-mi:](発散させてごらん)。シ˞キザース˥　クトー　˞ナー˥ヌ [ʃi̥˞kiʤa:su˥ ku̥to: ˞na:˥nu](わざわざ発散させることはない)。シ˞キザーシェー˥　ミサムヌ [ʃi̥˞kiʤa:ʃe:˥ misamunu](発散させれば良いのに)。シ˞キザーシ [ʃi̥˞kiʤa:ʃi](発散させよ)。

シ˞ギザイ [ʃi˞giʤai] 【名】杉材。

シ˞キ˥シー [ʃi̥˞ki˥ʃi:] 【名】月末。標準語からの借用語。シ˞キ˥シー　˥ナルカー　˞イーシ˥ヌ　˞ダイヌ　ペー˥ルンツォー [ʃi̥˞ki˥ʃi: ˥naruka ˞ʔi:ʃi˥nu ˞dainu pe:˥runtso:](月末になったらツノマタの代金が入るそうだ)。

シ˞キシーグ [ʃi̥˞kiʃi:gu] 【名】鰹節削り専用の小刀の一種。「ツキサイグ (突き・鉏具)」の転訛したもの。鰹節の筋に逆らわないように、親指で小刀の背を前方へと押し、小指で小刀の柄を支えながら削ったり、押し切ったりするのに用いる小刀。シ˞キシーグ˥シ　キ˞ジ˥バ [ʃi̥˞kiʃi:gu˥ʃi ki˞ʤi˥ba](突き小刀で削りなさいよ)。シ˞キシーグ˥シ　カ˞ツブシヌ˥　シヌ　ウ˞シキシ˥バ [ʃi̥˞kiʃi:guʃi kḁ˞tsubuʃinu˥ʃinu ʔu˞ʃiki̥ʃi˥ba](突き小刀＜突き鉏具＞で鰹節の角を押し切りなさい)。

˥シキシキ [˥ʃi̥kiʃi̥ki] 【名】月々。毎月。˥シキシキヌ　˞ニンガイ˥グトー　˞バスクンドー˥シ　シ˞ミオーラ˥シ˞ダー [˥ʃi̥kiʃi̥kinu ˞niŋgai˥guto: ˞basu̥kund:˥ʃi ʃi ˞miʔo:ra˥ʃi˞da:](月々の祈願＜願いごと＞は忘れずに祈願させて差し上げなさいよ)。

˥シキジキ [˥ʃi̥kiʤiki] 【名】月々。毎月。ウ˞ヤ˥ヌ　シゥ˞カイバー˥ヤ　ッ˞ふァヌ˥　トンラ　˥シキジキ　ウ˞クラリ˥　クーン [ʔu˞ja˥nu si̥˞kaiba:˥ja f˞fanu˥ tonra ˥ʃi̥kiʤiki ʔu˞kurari˥ ku:ŋ](親の経費＜使い分＞は子供の所から月々送られてくる)。

シ˞ギシュー [ʃi˞giʃu:] 【名】次のお方。「次主」の義。歌謡語。˥インダヌ　マ˞キ [˥ʔindanu ma˞ki](伊武田牧場) のウ˞シヌ˥ヨイ [ʔu˞ʃinu˥joi](牛の祝い。牛の耳に˞ヤー˥バン [˞ja:˥baŋ]＜家の判。印＞を付ける祭) の際にミ˞キバタ˥シ [mi˞kibata˥ʃi](酒器) を左上～右上に振って歌われる歌のミキバタシ (酒器) を次の二番手へと手渡しする相手 (次主)。「次のお方」の意味。～シ˞ギシューヤ　タッ˥テヌ　ウ˞ナンナー˥マ˥ドゥ　シ˞ギシューユー˥　サリー　イ˞メーヌ　カ˥ージ [～ʃi˞giʃu:ja tat˥tenu ʔu˞nanna:ma˥du ʃi˞giʃu:ju:˥ sari ʔi˞me:nu ka˥:ʤi](次のお方は何処其処の家の、その方が＜ぞ＞次のお方でございます。イメーヌカージ＜順風満帆。「行先に真っ直ぐに向かった舵」。航海安全予祝する、出帆の時の掛け声『沖縄語辞典』という＞)。相手は、˞ウー˥タリ [˞ʔu:˥tari](かしこまり＜畏まり＞ました。つつしんで拝受します) と言って酒器を受け取る。

シ˞キゾージ [ʃi̥˞kiʤo:ʤi] 【名】聞き上手。相手の話を上手に聞き出すこと。ウ˞レー˥　シ˞キゾージ˥　ヤ˞ルンダ˥　ウ˞リトゥ˥　パ˞ナ˥スカー　カ˞クシ˥グトー　シ˞ララヌ [ʔu˞re:˥ ʃi̥˞kiʤo:ʤi˥ ja˞runda˥ ʔu˞ritu˥ pa˞na˥su̥ka: kḁ˞kuʃi˥guto: ʃi˞raranu](彼は聞き上手だから、彼と話すと隠し事はできない)。シ˞キゾージル˥　パ˞ナシゾー˥ジティ　ア˞ザリ　ブー˥ダー [ʃi̥˞kiʤo:ʤiru˥ pa˞naʃiʤo:˥ʤiti ʔa˞ʤari bu:˥da:](聞き上手が話上手と言われているよ)。

シ˞キ˥ダ [ʃi̥˞ki˥da] 【名】織機の部品名。「敷き板」の義。機を織る際に織り子 (織工) が腰掛ける板。シ˞キダ˥ヌ　パ˞バヌ˥　グ˞マー˥ティ　ナ˞ガビリ　スー˥カー　シ˞ベー˥　ヤ˞ミ˥ス [ʃi̥˞kida˥nu pa˞banu˥ gu˞ma:˥ti na˞gabiri su:˥ka: ʃi˞be:˥ ja˞mi˥su](敷き板の幅が狭い＜小さい＞ので、長時間座る＜長座りする＞と尻が痛む)。

シ˞キダースン [ʃi̥˞kida:suŋ] 【自動】どっかと座る。どっかりと座って動かない。怠け者の座り方で、農家の人に嫌われる座り方。˥スブットゥル　シ˞キダーシ˥　ビ˞ル　マイフナーヤ˥　シ˞キダーサンドー˥シル　ビ˞ル [˥subutturu ʃi̥˞kida:ʃi˥ bi˞ru maiɸuna:ja˥ ʃi̥˞kida:sando:˥ʃiru bi˞ru](怠け者がどっかと座るのであって、働き者はどっかり座りしないで、すぐ立てるように座る)。シ˞キダース˥　ヤ˞ラ˥ベー　˥スブットゥ [ʃi̥˞kida:su˥ ja˞ra˥be: ˥subuttu](どっかと

座る子供は怠け者だ)。シ˞キダーシェー˜ラ　˞ウーカ˜ヌ [ʃi̥˞kida:ʃe:˜ra ˞ʔu:ka˜nu](一旦どっかり座ると動かない)。˜ウナーティ　シ˞キダーシ [˜ʔuna:ti ʃi̥˞kida:ʃi](そこでどっかり座れ)。

シ˞キダーリ　スン [ʃi̥˞kida:ri suŋ] 【連】聞いていて聞かぬ振りをする。聞き流す。聞き捨てにする。ウ˞ヤ˜ヌ　˜ムニ　ナー˞イ˜　シ˞キダーリ　シー˜　ムッ˞トゥ　ウーカ˜ヌ [ʔu˞ja˜nu ˜muni na:˞ji˜ ʃi̥˞kida:ri ʃi:˜ mut˞tu ʔu:ka˜nu](親の言うことをただ聞き流して、ちっとも動かない)。

シ˞キダイ [ʃi̥˞kidai] 【名】突き台。カツオ漁船の舳先に突き出した釣り台。餌撒きが立って˜ザコー [˜ʤako:](雑魚 < 餌 >) を撒き、カ˞ザル [ka˞ʤaru](釣手 < 飾り >)、イ˞チバン˜ジョー [ʔi˞ʧiban˜ʤo:](一番竿 < 釣手 >)、˞ニーバン˜ジョー [˞ni:ban˜ʤo:](二番竿 < 釣手 >) が座ってカツオを釣る台。カ˞ツホーシゾージ˜ル　シ˞キダイ˜ナー　ビ˞リティ　カ˞ツ　ホー˜ソーッタ [ka˞tsuho:ʃiʤo:ʤi˜ru ʃi̥˞kidai˜na: bi˞riti kḁ˞tsu ho:˜so:tta](カツオ釣り名人 < 上手 > が突き台に座ってカツオを釣られた)。ツ˞キシェン [tsu̥˞kiʃeŋ](突き船) の舳先にも長いシ˞キダイ [ʃi̥˞kidai](突き台) が付いていて、その上から銛を投げてカ˞ジ˜キ [ka˞ʤi˜ki](梶木) を突き、漁獲した。

シ˞キダイビリ [ʃi̥˞kidaibiri] 【名】あぐら (胡坐)。両足を正面で組んで座る座り方。男性の座り方。姿勢が堂々とした座り方になるので、目上の人の前では横柄な態度として注意された。また、女性が胡坐をかくことは、下品な座り方だと戒められた。ヤ˞ラビ˜アタル　ム˞ヌ˜ヌ　プ˞スヌ˜　マンタナー　シ˞キダイビリバ　シェー˜ティ　˞アー˜ク [ja˞ra˜bi ˜ʔararu mu˞nu˜nu pu̥˞sunu˜ mantana: ʃi̥˞kidaibiriba ʃe:˜ti ˞ʔa:˜ku](子供のくせに人様の前で胡坐をかいているよ < 不遜だ >)。

シ˞キダ˜キ [ʃi̥˞kida˜ki] 【名】マッチ。「つけだけ < 付竹 >」の義。˞竹の先端に硫黄などを塗って付け木としたもの。ほくち < 火口 >」『日本国語大辞典』。「付木 ･･･ 昔は竹を薄くへぎて今の付木の如く用いたり『物類称呼四』」。鳩間島でマッチが導入されたのは、日露戦争に出征して帰島した通事家の先祖がもたらしたのが最初だという。竹串の先から火が出る不思議なものとして、部落中の者がそれを見に集まったという (加治工伊佐談)。˜アブジェー　˞キー˜プゾーナ　シ˞キダキ˜バ　イ˞リティ˜　キ˞シル˜トゥ　ク˞シ˜ナー　˞クシキティ˜　パ˞タ˜ケー　ム˞トーッ˜タ [˜ʔabuʤe: ˞ki:˜puʤo:na ʃi̥˞kidaki˜ba ʔi˞riti˜ ki̥˞ʃiru˜tu ku˞ʃi˜na: ˞kuʃi̥kiti˜ pḁ˞ta˜ke: mu˞to:t˜ta](お祖父さんは、木製の煙草入れ < 木宝蔵 > にマッチ < 付竹 > を入れて、煙管と一緒に腰に差して < 装着して > 畑へ持って行かれた)。

シ˞キダ˜チ [ʃi̥˞kida˜ʧi] 【名】ついたち (朔日)。毎月の第一日。「つきたち (月立)」の義。˞Tçuitachi. ツイタチ (朔) 月の最初の日」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。シ˞キダ˜チ　˜ズングニチェー　˞カンヌマイ˜トゥ　ウ˞ヤプス˜ヌ　マイ　˞サー˜ドー　ア˞ギオーシリ˜ヨー [ʃi̥˞kida˜ʧi ˜ʤuŋgunitʃe: ˞kannumai˜tu ʔu˞japu̥su˜numai ˞sa:sa:˜do: ʔa˞giʔo:ʃiri˜jo:](ついたち < 朔日 > 十五日は床の神様の前と、仏壇のご先祖様の前に茶湯をお供えしなさい < 差し上げなさい >)。

˜シキ　タ˞ラーンッふァ [˜ʃi̥ki ta˞ra:ŋffa] 【連】月足らずの子。未熟児。˜シキ　タ˞ラーンッふァ　ヤッタヌドゥ˜< ヤッタンドゥ˜>　イッ˞ケナ　ガン˜ゾー　フ˞ドゥベー˜ン [˜ʃi̥ki ta˞ra:ŋffa jattanudu˜ <jattandu˜> ʔik˞kena gan˜ʤo: ɸu˞dube:˜ŋ](月足らずの子だったが非常に健康 < 頑丈 > に成長している)。

シ˞キ˜タン [ʃi̥˞ki˜taŋ] 【名】石炭。ウ˞タ˜ラタンコー [ʔu˞ta˜rataŋko:](宇多良炭鉱) は西表の浦内に本拠を置く炭鉱で野田小一郎が経営していた。村には小学校、劇場、病院が完備され、坑夫の宿泊する納屋が十数棟もあり、昭和十年代には坑夫千数百人を有する炭鉱だったという。石炭は浦内湾に木製桟橋を作って団平船に積み、白浜港へ運んだ。そこで台湾航路の大型定期船、貨物船に積み込まれて輸出された。炭坑は現在の中野地区、住吉地区に開けていた。鳩間方言では、そこをウ˞ボー˜ダ [ʔu˞bo:˜da](中野地区)、ニ˞シ˜ミジ [ni˞ʃi˜miʤi](住吉地区) という。戦争中は炭坑脱出者が後を絶たず、山中に逃亡した坑夫が山を越えて西表東部地区のトゥ˞マダ [tu˞mada] の避難小屋の所に下りてきて食料を乞うことがあった。島人は握り飯と芋を与えて逃がした。その後を警察犬と官憲が追いかけて行った。浦内村のレンガ造りの社屋の前では、軒に吊るされた逃亡者が精神注入棒で殴られているのが見られ、その光景は子供達に恐れられていた。宇多良炭坑の前には井上炭坑が˜シザバナリ [˜ʃiʤabanari](下離) にあったが炭層が薄くて採算が採れず廃坑になったという。シ˞キタン˜マー　ウ˞タ˜ラタンコーラル　プ˞ロー˜タ [ʃi̥˞kitam˜ma: ʔu˞ta˜rataŋko:raru pu˞ro:t˜ta](石炭は宇多良炭坑から

＜ぞ＞採掘された＜掘られた＞)。

シ˫キタン˥ユー [ʃi̥˫kitaŋ˥juː] 【名】石油。「石炭油」の義。昭和初期頃まで使用されていた語『八重山語彙』参照。老年層は、シ˫キタン˥アバ [ʃi̥˫kitaŋ˥ʔaba](石炭油) ともいう。現在ではほとんど死語化しており、明治生まれの人の理解語彙であるに過ぎない。大正生まれ以後の人は、シ˫キ˥ユー [ʃi̥˫ki˥juː](石油) というのが普通である。シ˫キユー˥ランプ [ʃi̥˫kiju˥rampu](石油ランプ)。

シ˫キックナー [ʃi̥˫kikkunaː] 【名】突き合い。押し合いへし＜圧し＞合い。グ˫シバ˥　ムテーティ　シ˫キックナーバ　シー˥　パ˫ナン˥ギ　˫シー　ベー˥ティ　˥ミー　˫ピッカ˥リ　˫ベー [gu˫ʃiba˥ muteːti ʃi̥˫kikkunaːba ʃiː˥ pa˫naŋ˥gi ˫ʃiː beː˥ti ˥miː ˫pikka˥ri ˫beː](細い竹＜串＞を持って付き合いをし、ふざけ戯れていて目を突かれているよ)。

シ˫キッ˥クムン [ʃi̥˫kik˥kumuŋ] 【自動】つんのめる。前方へ突っ込む。˥パリキー　シ˫キッ˥クムン [˥pariki: ʃi̥˫kik˥kumuŋ](走ってきて前方へ突っ込む)。シ˫キックマン˥ヨーニ　˫キー˥シキ　˫ベータン˥ドゥ　˫カイ˥リティ　シ˫キッ˥クミ　˫ナー˥ヌ [ʃi̥˫kikkumaŋ˥ joːni ˫kiː˥ʃi̥ki ˫beːtan˥du ˫kai˥riti ʃi̥˫kik˥kumi ˫naː˥nu](つんのめらないように気をつけていたが、転んで前方へつんのめってしまった)。シ˫キッ˥クム　˥クトー　˫ナーン˥シェンドゥ　プ˫スム˥シ　シ˫キッ˥クメーラ　˫チャー˥　シ˫キッ˥クムン [ʃi̥˫kik˥kumu ˥kṵtoː ˫naːŋ˥ʃendu pṵ˫sumu˥ʃi ʃi̥˫kik˥kumeːra: ˫tʃaː˥ ʃi̥˫kik˥kumuŋ](つんのめることはなかったが、一度つんのめると、常に＜いつも＞つんのめる)。シ˫キッ˥クミバ [ʃi̥˫kik˥kumiba](つんのめろ)。˫トー˥ルカー　˥マンター　シ˫キッ˥クムンダ　シ˫キックマン˥ヨーニ　˥パラー　カ˫サミ˥バ [˫toː˥ruka: ˥manta: ʃi̥˫kik˥kumunda ʃi̥˫kikkumaŋ˥joːni ˥para: kḁ˫sami˥ba](倒れたら前に突っ込むから、倒れないように柱を掴めよ)。シ˫キッ˥クミ　˫ナー˥ヌ [ʃi̥˫kik˥kumi ˫naː˥nu](突っ込んでしまった)。シ˫キッ˥クム　˥クトゥン　˥アン [ʃi̥˫kik˥kumu ˥kṵtuŋ ˥ʔaŋ](突っ込むこともある)。シ˫キッ˥クメー　˥ミサムヌ [ʃi̥˫kik˥kumeː ˥misamunu](突っ込めば良いのに)。

シ˫キッケーラスン [ʃi̥˫kikkeːrasuŋ] 【他動】押し倒す。突き飛ばす。突き押して転倒させる。突き転ばす。突きひっくり返す。˫ウン˥ナー　ア˫タリティ˥　シ˫キッケーラスンティ˥　シ˫タンドゥ˥　シ˫キッケーラサランシェン [˫ʔun˥naː ʔa˫tariti˥ ʃi̥˫kikkeːrasunti˥ ʃi̥˫tandu˥ ʃi̥˫kikkeːrasaraŋʃeŋ](それにぶつかって押し倒そうとしたが押し倒されなかった)。シ˫キッケーラシ˥　ミサン [ʃi̥˫kikkeːraʃi˥ misaŋ](押し倒しても良い)。シ˫キッケーラス˥　クトゥ [ʃi̥˫kikkkeːrasu˥ kṵtu](押し倒すこと)。シ˫キッケーラシェー˥　ミサムヌ [ʃi̥˫kikkeːraʃeː˥ misamunu](押し倒せばよいのに)。シ˫キッケーラシ [ʃi̥˫kikkeːraʃi](押し倒せ)。

シ˫キッコースン [ʃi̥˫kikkoːsuŋ] 【他動】突き崩す。突き壊す。˥ッサリ　フ˫トゥッ˥チ　˫ブンダ˥　シ˫キッコー˥スンティ　˫スンドゥ˥　シ˫キッコーサラン˥バン [˥ssari ɸṵ˫tut˥tʃi ˫bunda˥ ʃi̥˫kikkoː˥sunti ˫sundu˥ ʃi̥˫kikkoːsaram˥baŋ](腐食している＜腐れ朽ちている＞ので、突き壊そうとするが、ぶっ壊されないよ)。

シ˫キッコースン [ʃi̥˫kikkoːsuŋ]【他動】鋤き起こす。鋤きや鍬で畑を掘り起こす。ムー˫ル˥　シ˫キッコースンティ˥　ウ˫ムー˥ヌ　シ˫キッコーサラヌ [muː˫ru˥ ʃi̥˫kikkoːsunti˥ ʔu˫muːtan˥du ʃi̥˫kikkoːasaranu](総て鋤き起こそうと思うのだが、鋤き起こされない)。シ˫キッコーシ˥　プサカー　シ˫キッコース˥　プ˫ス˥　タ˫ナ˥ミ [ʃi̥˫kikkoːʃi˥ pṵsakaː ʃi̥˫kikkoːsu˥ pṵ˫su˥ ta˫na˥mi](鋤き起こして欲しいのなら、鋤き起こす人を頼め)。シ˫キッコーシェー˥　ミサムヌ [ʃi̥˫kikkoːʃeː˥ misamunu](鋤き起こせばよいのに)。˫パー˥ク　シ˫キッコーシ [˫paː˥ku ʃi̥˫kikkoːʃi](早く鋤き起こせ)。

シ˫キッツァースン [ʃi̥˫kittsaːsuŋ] 【他動】つつく＜突付く＞。「突き散らす」の義。突きまくる。散々に突く。˥パシシ　シ˫キッツァーサンドー˥シ　カシー˫カシー˥　ッ˫ふァイ˥バ [pḁʃiʃi ʃi̥˫kittsaːsandoː˥ʃi kḁʃiː˫kaʃiː˥ f˫faiba](箸で突っつかないで、きちんと食べなさいよ)。シ˫キッツァーシ　ベー [ʃi̥˫kittsaːʃi beː](突っついている)。˫イー˥ヌ　˫ミー˥ザカー　ナー˫イ˥　シ˫キッツァースン [˫ʔiː˥nu ˫miː˥ʤaka: naː˫i˥ ʃi̥˫kittsaːsuŋ](飯が不味かったら、ただ＜飯を＞突付くんだよ)。シ˫キッツァース˥　クトゥ [ʃi̥˫kittsaːsu˥ kṵtu](突付くこと)。シ˫キッツァーシェー˥　ミサムヌ [ʃi̥˫kittsaːʃeː˥ misamunu](突付けばよいのに)。シ˫キッツァーシ [ʃi̥˫kittsaːʃi](散々に突付け＜突き散らせ＞)。

シ˫キットー [ʃi̥˫kittoː] 【名】聞き様。聞き方。礼儀に叶った聞き方。失礼にならない聞き方。聞こえ。イ˫ジットー [ʔi˫ʤittoː](言い方。礼儀に適った言い方) の対義語。シ˫キットーヌ˥　アルニル　˥ムネー　パ˫ナ˥ス　˥アイブ　ム˫ニイジョー˥ヌ　˫ア

ン [ʃi̥˞kitto:nu˜ ʔaruniru mune: pa˞na˜su ˜ʔaibu mu˞ niʔiʤijo:˜nu ˞ʔaŋ](礼儀に叶った聞き方で対応できるようにものは話すのであって、あんな物言い＜ものの言い方＞があるものか)。イ˞ジットーヌ˜ アルカー シ˞キットーヌ˜ アン [ʔi˞ʤitto:˜nu ˜ʔaruka: ʃi̥˞kitto:nu˜ ʔaŋ](言い様があれば聞き様もある。こちらが丁寧に、聞き手を敬って話せば聞き手もそれに応じて礼儀に叶った態度で聞く)。

シ˞キットースン [ʃi̥˞kitto:suŋ] 【他動】1突き倒す。ウ˞シヌ˜ ズ˞ブ˜マイ ˞スー˜ ピンマー プ˞スン˜ シ˞キットースンダ キー˜ シ˞キ˜リ [ʔu˞ʃinu˜ ʤu˞bu˜mai ˞su:˜ pimma: pu̥˞suŋ˜ ʃi̥˞kitto:sunda ki:˜ ʃi̥˞ki˜ri˞jo:](牛が発情期になると人も突き倒すから、気をつけなさいよ)。2敷き均す。ア˞メリカ˜ヌ ブ˞ルトーザー˜ヌ ヤ˞マ˜バ シ˞キットーシ˜ シケーティル ナ˞カダ˜ヌ ˞ター˜ヤ ˞ウーアミ˜ナ ウ˞ズマレー˜ダー [ʔa˞merika˜nu bu˞ruto:za:˜nu ja˞ma˜ba ʃi̥˞kitto:ʃi˜ ʃi̥ke:tiru na˞kada˜nu ˞ta:˜ja ˞ʔu:ami˜na ʔu˞ʤumare:˜da:](米国のブルトーザが山を敷き均しておいたのでナカダの田圃は大雨で埋もれたのだよ)。

シ˞キットー ナー˜ヌ [ʃi̥˞kitto: na:˜nu] 【連】聞くに堪えない。外聞が悪い。体裁が悪くて聞いておれない。「聞きたくはない」の転訛したものか。˜アイブ ヤ˞ナムニ˜バ イ˞ジ˜ プ˞スバカヤヌ˜ シ˞キットー ナー˜ヌ [˜ʔaibu ja˞namuni˜ba ʔi˞ʤi˜ pu̥˞subakajanu˜ ʃi̥˞kitto: na:˜nu](あんな悪口を言って、外聞がわるく、恥ずかしくて聞きたくない＜世間体が悪い＞)。˞ミッ˜トー ˞ナー˜ヌ [˞mit˜to: ˞na:˜nu](みっともない。見るに耐えない。外聞が悪い。「Mitomonai・ミトモナィ＜見ともない＞」『邦訳日葡辞書』の義) に対応する表現。˜アイブ ム˞ニ˜バ シ˞キン˜ヌ プ˞スンナー˜ニ パ˞ナ˜シ ˞アー˜キ シ˞キットーン ナー˜ヌ [˜ʔaibu mu˞ni˜ba ʃi̥˞kin˜nu pu̥˞sunna:˜ni pa˞na˜ʃi ˞ʔa:˜ki ʃi̥˞kitto:n na:˜nu](あんな話を世間の人に話してあるいて、まったく外聞が悪い＜聞くに堪えない＞)。

シ˞キットゥバ˜スン [ʃi̥˞kittuba˜suŋ] 【他動】突き飛ばす。跳ね飛ばす。カ˞キッツァー˜シ ˜パリクー プ˞ソー˜ プ˞ス˜ シ˞キットゥバ˜スン˞ダー [kḁ˞kittsa:˜ʃi ˜pariku: pu̥˞so:˜ pu̥˞su˜ ʃi̥˞kittuba˜sun˞da:](疾走して来る人は、他人を突き飛ばすよ)。

シ˞キットゥルン [ʃi̥˞kitturuŋ] 【他動】しっかりと聞き取る。聞いて受け取る。師の芸を伝受する。奥義を伝授される。「聞き取る」の義。若年層は、シ˞キ˜トゥルン [ʃi̥˞ki˜turuŋ] ともいう。˞シンシー˜ヌ ア˞ゾー˜ル ˜ムネー シカイ˞トゥ˜ シ˞キットゥルンティ˜ ウ˞モーン˜カー シ˞キットゥラン˜ダー [˞ʃiŋʃi:˜nu ʔa˞ʤo:˜ru ˜mune: ʃi̥kai˞tu˜ ʃi̥˞kitturun˜ti ʔu˞mo:ŋ˜ka: ʃi̥˞kitturaran˜da:](先生のおっしゃることを、しっかり聞き取ろうと思わなければ伝受出来＜聞き取れ＞ないよ)。キサー˞ティ˜ シ˞キットゥリティル˜ シ˞キットゥル˜ クトー ナ˞ラン˜ティ ア˞ジベー [kisa:˞ti˜ ʃi̥˞kitturiti˜ ʃi̥˞kitturu˜ ku̥to: na˞ran˜ti ʔa˞ʤi be:](既に伝受して＜聞き取って＞いて、伝受する＜聞き取る＞ことは出来ないといっている)。˞ワーンツァン˜ シ˞キットゥレー˜ ミサムヌ [˞wa:ntsan˜ ʃi̥˞kitture:˜ misamunu](君だけでも伝受すれ＜聞き取れ＞ばよいのに)。ヤー˞ディン˜ シ˞キットゥリ [ja:˞diŋ˜ ʃi̥˞kitturi](きっと＜必ず＞伝受＜聞き取り＞せよ)。

シ˞キッパナスン [ʃi̥˞kippanasuŋ] 【他動】突き放す。標準語からの転訛。ヤ˞ナドゥシェー˜ シ˞キッパナシ˜ シ˞ティリ [ja˞naduʃe:˜ ʃi̥˞kippanaʃi˜ ʃi̥˞tiri](悪友は突き放して捨てろ)。シ˞キッパナスンティ˜ シ˞タンドゥ˜ シ˞キッパナサラヌ [ʃi̥˞kippanasunti˜ ʃi̥˞tandu˜ ʃi̥˞kippanasaranu](突き放そうとしたが、突き放されない)。シ˞キッパナス˜クトゥ [ʃi̥˞kippanasu˜ ku̥tu](突き放すこと)。シ˞キッパナシェー˜ ミサムヌ [ʃi̥˞kippanaʃe:˜ misamunu](突き放せばよいのに)。˞パー˜ク シ˞キッパナシ˜バ [˞pa:˜ku ʃi̥˞kippanaʃi˜ba](早く突き放せよ)。

シ˞キトゥースン [ʃi̥˞kitu:suŋ] 【他動】聞きとおす。聞き続ける。初めから最後まで聞く。ッ˞ふァヌ˜ パ˞ナ˜シェー シ˞ベーバー˜キ シ˞キトゥースン [f˞fanu˜ pa˞na˜ʃe: ʃi˞be:ba:˜ki ʃi̥˞kitu:suŋ](子供の話は最後まで聞きとおす)。

シ˞キトゥバスン [ʃi̥˞kitubasuŋ] 【他動】聞きたくないところは上の空で聞く。必要のないところは飛ばして聞く。「聞き飛ばす」の義。ヤ˞ナ˜ムネー ナー˞イ˜ シ˞キトゥバシ [ja˞na˜mune: na:˞i˜ ʃi̥˞kitubaʃi](悪口は取り合うな、ただ聞き飛ばせ)。

シ˞キトゥルン [ʃi̥˞kituruŋ] 【他動】聞き取る。理解する。˞ミン˜バ トゥ˞ルッ˜サイ シ˞キトゥルンティ スンドゥ˜ ムシ˞トゥ˜ シ˞キトゥララヌ [˞mim˜ba tu˞rus˜sai ʃi̥˞kiturunti sundu˜ muʃi̥˞tu˜ ʃi̥˞kituraranu](耳を研ぎ澄ませて＜謹聴して＞聞き取ろうとするが、ちっとも聞き取れない＜理解できない＞)。

シ˞キナー [ʃi̥˞kina:] 【名】漬け菜。菜っ葉を塩漬けに

したもの。˞ナーヌパー˜ヌ　シ˞キナーンツァン　サー˜フキ　ン˞ザ˜シバ [˞naːnupaː˜nu ʃi̥˞kinaːntsan saː˜ɸu̥ki ʔn˞ʤa˜ʃiba](菜っ葉の塩漬けでもお茶請けに出しなさいよ)。タ˞マナー˜バ　シ˞キナー　シー˜　シケーバ　プ˞ス˜フチ　ア˞ジ　シー˜　ミリ　˞ミー [ta˞manaː˜ba ʃi̥˞kinaː ʃiː˜ ʃi̥keːba pu̥˞su˜ɸu̥tʃi ʔa˞ʤi ʃiː˜ miri ˞miː](キャベツを塩漬け＜漬け菜に＞してあるから一口味見してごらん)。

シ˞キナ˜カ [ʃi̥˞kina˜ka] 【名】中旬。月の半ば。ク˞ヌ˜　シ˞キ˜ヌ　シ˞キナ˜カナ　˜ヨイ　˞ソー˜ルンツォー [ku˞nu˜ ʃi̥˞ki˜nu ʃi̥˞kina˜kanaː ˜joi ˞soː˜runtsoː](今月の中旬にお祝いをされるそうです)。

シ˞キナ˜クン [ʃi̥˞kina˜kuŋ] 【他動】1突っ込む。打ち込む。˜パリキー　˞ヤーン˜ナカー　シ˞キナキ　ペー˜リ　˞ナー˜ヌ [˜pariki: ˞jaːn˜naka: ʃi̥˞kinaki peː˜ri ˞naː˜nu](走ってきて家の中へ突っ込んで入ってしまった)。2突き刺す。「突き貫く」の義。˞カイ˜ルカー　グ˞シ˜シ　フ˞チ˜　シ˞キナクンダ˜　トゥリ　シ˞キ˜リ [˜kai˜ruka: gu˞ʃi˜ʃi ɸu̥˞tʃi˜ ʃi̥˞kinakunda˜ turi ʃi̥˞ki˜ri](転んだら串で口を突き刺すから取っておきなさい)。シ˞キナカリン [ʃi̥˞kinakariŋ](突き刺される)。シ˞キナ˜ク　˜ムヌ [ʃi̥˞kina˜ku ˜munu](突き刺すもの)。シ˞キナ˜ケー　˜ミサムヌ [ʃi̥˞kina˜keː ˜misamunu](突き刺せばいいのに)。シ˞キナキ [ʃi̥˞kinaki](突き刺せ)。

シ˞キ˜ニ [ʃi̥˞ki˜ni] 【名】座席。居場所。「しきね (敷き寝)」の義か。特に、寝る所は、ニ˞ビシキニ [ni ˞biʃikini](寝所。寝室) という。˞ドゥー˜ヌ　シ˞キ˜ニナ　˜マティ　˞ベー˜リ [˞duː˜nu ʃi̥˞ki˜nina ˜mati ˞beː˜ri](自分の座席で待っておれ)。ニ˞ビシキニ [ni ˞biʃi̥kini](寝床)。˞ドゥー˜ヌ　シ˞キ˜ニナー　˞ベー˜リ [˞duː˜nu ʃi̥˞ki˜nina: ˞beː˜ri](自分の座席に居れ)。˞ドゥー˜ヌ　ニ˞ビシキネー˜　ドゥーシ　カ˞タジキ˜リ [˞duː˜nu ni˞biʃi̥kineː˜ duːʃi ka˞taʤiki˜ri](自分の寝床は自分で片付けろ)。シ˞キ˜ニ　ム˞チ˜ナリ [ʃi̥˞ki˜ni mu˞tʃi˜nari](座席を移動せよ)。

シ˞キ˜ヌ　カ˞タ [ʃi̥˞ki˜nu kḁ˞ta] 【連】月の絵。月の形。˞ヤー˜　ク˞ヌ　ヤー˜ヌ　ウ˞チ˜ナカー　シ˞キ˜ヌ　カ˞タ˜　アンティ　˜スー [˞jaː˜ ku˞nu jaː˜nu ʔu˞tʃi˜naka: ʃi̥˞ki˜nu kḁ˞ta˜ ʔanti ˜suː](ああ、この家の中には月の絵があるという)(アーパーレー歌)。

シ˞キヌキルン [ʃi̥˞kinukiruŋ] 【他動】突き抜ける。くぐり (潜り) 抜ける。マ˞ジムン　オーリ˜カー　ヤ˞マン˜ミーン　シキ˞ヌキルン [ma˞ʤimuŋ ʔoːri˜ka: ja˞mam˜miːŋ ʃi̥˞kinukiruŋ](お化け魔物 <蠱物(マジモノ)> 追われたら山の中を突き抜けて逃げる)。シ˞キヌキララヌ [ʃi̥˞kinukiraranu](突き抜けられない)。シ˞キヌキル˜　クトゥ [ʃi̥˞kinukiru˜ ku̥tu](突き抜けること)。シ˞キヌキレー˜　ミサムヌ [ʃi̥˞kinukireː˜ misamunu](突き抜ければ良いのに)。

シ˞キヌクン [ʃi̥˞kinukuŋ] 【他動】突き通す。突き刺す。「突き抜く (貫く)」の転訛したもの。˞ヤー˜ヌ　˜ナカーラ　˞ヤーフキ˜パル　シ˞キヌキティル　ヤーフキ˜ジナー　˞ヤーヌ˜ウイ　ン˞ザシタ˜ル [˞jaː˜nu ˜naka:ra ˞jaːɸu̥ki˜paru ʃi̥˞kinukitiru jaːɸu̥ki˜ʤinaː ˞jaːnu˜ʔui ʔn˞ʤaʃi̥ta˜ru](家の中から家葺き用竹槍＜針＞を突き通して家葺き縄を屋根の上へ通したものだ)。シ˞キヌクンティ　スンドゥ˜　シ˞キヌカラヌ [ʃi̥˞kinukunti sundu˜ ʃi̥˞kinukaranu](突き抜こうとするが、突き抜かれない)。シ˞キヌク˜　クトゥ [ʃi̥˞kinuku˜ ku̥tu](突き抜く＜突き刺す＞こと)。

シ˞キ˜ヌ　˞シュー [ʃi̥˞ki˜nu ˞ʃuː] 【連】月末。月の末。シ˞キ˜ヌ　˞シュー˜　ナルカー　サ˞ガラ˜シ　カ˞イヤー˜ル　シ˞ナムヌヌ　ダイ˜　パ˞ラーン˜カ　ナ˞ラ˜ヌ [ʃi̥˞ki˜nu ˞ʃuː˜ naruka: sa˞gara˜ʃi ˞kaijaː˜ru ʃi˞namununu dai˜ pa˞raːŋ˜ka na˞ra˜nu](月末には掛けで買った品物の代金を払わなければいけない)。

シ˞キヌバスン [ʃi̥˞kinubasuŋ] 【他動】聞くだけで、問題を引きずる。のらりくらりと聞いて解決を遅らせる。「聞き延ばす」の義。パ˞ナ˜シ　シ˞キヌバスンティ　シー　ベー˜バ　シ˞キヌバサラン˜　ヨーニ　シカイ˞トゥ˜　パ˞ナシアー˜シ [pa˞na˜ʃi ʃi̥˞kinubasunti ʃiː beː˜ba ʃi̥˞kinubasaraŋ˜ joːni ʃi̥kai˞tu˜ pa˞naʃiʔaː˜ʃi](話を聞くだけで聞き延ばそうとしているが、聞き延ばされないようにしっかり話し合いなさい)。シ˞キヌバシ˜　ミサー　˞ナー˜ユンダ　イッ˞カナ˜シ　シ˞キヌバス˜　クトー　シ˞ミルナ [ʃi̥˞kinubaʃi˜ misaː ˞naː˜junda ʔik˞kana˜ʃi ʃi̥˞kinubasu˜ ku̥toː ʃi˞miruna](聞き延ばしてよいはずはないから、決して聞き伸ばすことはさせるな)。シ˞キヌバシ [ʃi̥˞kinubaʃi](聞き延ばせ)。シ˞キヌバシェー˜　ミサムヌ [ʃi̥˞kinubaʃeː˜ misamunu](聞き延ばせばよいのに)。

シ˞キ˜ヌ　˞マープスマ [ʃi̥˞ki˜nu ˞maːpusuma] 【連】月の明かりで昼間のように明るくなること。月が真上にくる時刻。月の真昼間。シ˞キ˜ヌ　˞マープスマ˜　ナルカー　˞スー˜ヤ　ピ˞シ˜ブンダ　イ˞ソー˜　パ˞ラ˜リン [ʃi̥˞ki˜nu ˞maːpusuma˜ naruka: ˞suː˜ ja pi̥˞ʃi˜bunda ʔi˞soː˜ pa˞ra˜riŋ](月が真上に来るときは、潮は干潮になっている＜潮は引いている＞の

で潮干狩りに行ける)。

シ˞キヌ˜ムヌ [ʃi̥˞kinu˜munu] 【名】月のもの。月経。シ˞キヌ˜ムノー　ア˞ガリナー˜ヌ [ʃi̥˞kinu˜muno: ʔa˞garina:˜nu](月のものは上がってしまった＜閉経してしまった＞)。

シ˞キ˜ヌムヌ [ʃi̥˞ki˜numunu] 【名】月経。「月のもの」の義。シ˞キ˜ヌムヌヌ　トゥ˞マル˜カー　ッ˞ふァ˜ナシェー　ア˞ガリス [ʃi̥˞ki˜numununu tu˞maru˜ka: f˞fa˜naʃe: ʔa˞garisu](月経が止まると子供を産むの＜妊娠・出産＞も終わる)。

シ˞キ˜ヌ　˜ヤフ [ʃi̥˞ki˜nu ˜jaɸu] 【連】月食。「月の厄」の義。キサー˞ティ˜　シ˞キ˜ヌ　˜ヤホー　カ˞カリ˜ドゥ　˞オー˜ル [kisa:˞ti˜ ʃi̥˞ki˜nu ˜jaho: kḁ˞kari˜du ˞ʔo:˜ru](すでに月食が始まっている＜月が厄に罹って居られる＞)。

シ˞キ˜ヌヤフ [ʃi̥˞ki˜nujaɸu] 【名】月食＜月蝕＞。シ˞キ˜ヌヤフ　カ　˞カ˜リティ　˜シケー　ミ˞ララ˜ヌ [ʃi̥˞ki˜nujaɸu kḁ˞ka˜riti ˜ʃi̥ke: mi˞rara˜nu](月蝕になって＜月蝕にかかって＞月は見えない)。

シ˞キヌ˜　ユー [ʃi̥˞kinu˜ ju:] 【連】月夜。月の夜。シ˞キン˜ユー [ʃi̥˞kiŋ˜ju:](月夜) ともいう。˞ヨーンヌ˜　ユーナーヤ　イ˞ソー˜　パ˞ララ˜ヌ　シ˞キヌユー˜ヌ　˞スー˜チズーナール　˜タク　トゥ˞リン˜マー　パ˞ラ˜リ [˞jo:nnu˜ ju:na:ja ʔi˞so:˜ pa˞rara˜nu ʃi̥˞kinu ju:˜nu ˞su:˜ʧidʑu:na:ru ˜tḁku tu˞rim˜ma: pa˞ra˜ri](闇夜には漁り＜潮干狩り＞には行けない。月夜の大潮の時に＜ぞ＞蛸捕りには行ける)。

シ˞キヌン [ʃi̥˞kinuŋ] 【名】突き鑿。前方へ突き押して穴を開けたり、表面を平らに削るのに用いる鑿。シ˞キヌン˜シ　シ˞キティ˜　キ˞ジ˜バ [ʃi̥˞kinuŋ˜ʃi ʃi̥˞kiti˜ ki˞ʤi˜ba](突き鑿で突き押して削りなさいよ)。

シ˞キノースン [ʃi̥˞kino:suŋ] 【他動】聞き直す。聞いて誤解を解く。問い直す。シ˞キノーサン˜カー　ナ˞ラン˜バ　˞マー˜　プ˞スム˜シ　シ˞キノーシ [ʃi̥˞ki-no:saŋ˜ka: na˞ram˜ba ˞ma:˜ pu̥˞sumu˜ʃi ʃi̥kino:ʃi](問い直さないといけないから、もう一度問い直せ)。シ˞キノーシ˜　ミサンティ　ア˞ジェー˜バ　シ˞キノースンティ˜　ウムーカー　˞パー˜ク　シ˞キノーシェー˜　ミサムヌ　シ˞キノース˜　クトゥンツァン　˞シーユーサヌ [ʃi̥˞kino:ʃi˜ misanti ʔa˞ʤe:˜ba ʃi̥˞kino:sunti˜ ʔumu:ka: ˞pa:˜ku ʃi̥˞kino:ʃe:˜ misamunu ʃi̥˞kino:su˜ ku̥tuntsaŋ ˞ʃi:ju:sanu](問い直して＜聞き直して＞よいと言ってあるので、問い直そうと思うなら早く問い直せば良いものを、問い直すことさえもしえない)。

˜シキ　バ˞カー˜ン [˜ʃi̥ki ba˞ka:˜ŋ] 【連】月が若い。一日～三日の月。

シ˞キバカスン [ʃi̥˞kibakasuŋ] 【他動】聞き分ける。聞いて是非を区別、理解する。判断する。得心する。ク˞ヌ˜　ヤ˞ラ˜ベー　マ˞ダ˜　ムネー　イ˞ザヌヌ˜　ウ˞ヤ˜ヌ　パ˞ナ˜シェー　シ˞キバカスン˜ダー [ku˞nu˜ ja˞ra˜be: ma˞da˜ mune: ʔi˞ʤanunu˜ ʔu˞ja˜nu pa˞na˜ʃe: ʃi̥˞kibakasun˜da:](この子＜童＞はまだ言葉は喋らない＜言わない＞が、親の話は聞き分けるよ)。ウ˞ランタ˜ムネー　シカイ˞トー˜　シ˞キバカサラヌヌ　ヨーンナー˜　パ˞ナ˜スカー　シ˞キバカシ　ヤッ˜サン [ʔu˞ranta˜mune: ʃi̥kai˞to:˜ ʃi̥˞kibakasaranunu jo:nna:˜ pa˞na˜su̥ka: ʃi̥˞kibakaʃi jas˜saŋ](外国語＜オランダ語＞は、きちんと＜しかとは＞理解＜聞き分け＞出来ないが、ゆっくり話すと理解し＜聞き分け＞やすい)。ウ˞キナー˜ムニーン　シ˞キバカス˜　ク˞トゥヌ˜　ナルカー　シカイ˞トゥ˜　パ˞ナ˜シ　シ˞キティ˜　シ˞キバカシ [ʔu˞kina:˜muni:ŋ ʃi̥˞kibakasu˜ ku̥˞tu˜nu ˜naruka: ʃi̥kai˞tu˜ pa˞na˜ʃi ʃi̥˞kiti˜ ʃi̥˞kibakaʃi](沖縄言葉も理解することが出来たら、しっかり話を聞いて理解し＜聞き分け＞なさい)。ウ˞ムクトゥ˜ヌ　˜アルカー　シ˞キバカシェー˜　ミサムヌ [ʔu˞mukutu˜nu ˜ʔaruka: ʃi̥˞kibakaʃe:˜ misamunu](分別＜理性＞があれば言い訳を聞き分けれ＜理解すれ＞ばよいのに)。

シ˞キバッパイ [ʃi̥˞kibappai] 【名】聞き誤り。ウ˞レー˜　バー　シ˞キバッパイ˜　ヤ˞レー˜バ　ク˞ナイ˜リ˞ヨー [ʔu˞re:˜ ba: ʃi̥˞kibappai˜ ja˞re:˜ba ku˞nai˜ri˞jo:](それは私の聞き誤りであるからこらえ＜堪え＞れよ)。

シ˞キ˜バン [ʃi̥˞ki˜baŋ] 【名】石盤。標準語からの転訛。明治時代に用いられた文房具 (筆記用具) の一つ。粘板岩などの薄い板に木の枠を付けて、石筆で文字や絵を書くのに用いた文房具。˜アッパター　シ˞キ˜バンナール　˞ジーヤ˜　カキ　˜ナライ　˞オーッ˜タツォー [˜ʔappata: ʃi̥˞ki˜banna:ru ˞ʤi:ja˜ kḁki ˜narai ˞ʔo:t˜tatso:](オバーサンたちは石盤に文字は書いて習っておられたそうだ)。

シ˞キ˜ヒツ [ʃi̥˞ki˜çi̥tsu] 【名】石筆。標準語からの転訛。明治時代に用いられた文房具 (筆記用具)。蝋石などを筆形に造り、石盤に文字や図画などを書くのに用いた文房具。マ˞ナ˜マー　シ˞キ˜ヒツティ　˞スーモー　ナー˜ヌ [ma˞na˜ma: ʃi̥˞ki˜çi̥tsuti ˞su:mo: na:˜nu](今は石筆というのはない)。

シ˞キピッ˥クン **[ʃi̥˞kipik˥kuŋ]** 【他動】銛で突き刺す。ウ˞ジ˥バ ˥ユクンシ シ˞キピッ˥クンティ ˞ベー [ʔu˞ʤi˥ba ˥jukuŋʃi ʃi̥˞kipik˥kunti ˞be:](ウツボを銛(モリ)で突き刺そうとしている)。シ˞キピッ˥キ ˥ミサカー シ˞キピッ˥ク ˥クトー ˥ナルン [ʃi̥˞kipik˥ki ˥misaka: ʃi̥˞kipik˥ku ˥kṵto: ˥naruŋ](突き刺して良ければ、突き刺すことはできる)。シ˞キピッ˥ケー ˥ミサムヌ [ʃi̥˞kipik˥ke: ˥misamunu](突き刺せばいいのに)。シ˞キピッ˥キバ [ʃi̥˞kipik˥kiba](突き刺せよ)。タ˞キヌ˥ サ˞フケー˥マシ シ˞キピッ˥クン [tạ˞kinu ˥ sạ˞ɸuke:˥maʃi ʃi̥˞kipik˥kuŋ](竹の尖ったもので突きさす)。シ˞キピッキ˥プサン [ʃi̥˞kipikki˥pṵsaŋ](突きさしたい)。

シ˞キピニ˥チ **[ʃi̥˞kipini˥ʧi]** 【名】月日。「月日にち」の義。シ˞キピニチ˥ヌ ˥タトゥモー ユ˞ドゥマ˥ヌ ˥キノー ˞ブシトゥイ˥ル マ˞ルタティ˥ ウ˞ムータ˥ヌ キサー˞ティ˥ ドゥー ム˞ティ˥ジブン ナ˞リ˥ブーバン [ʃi̥˞kipiniʧi˥nu ˥tạtumo: ju˞duma˥nu ˥kino: ˞buʃi̥tui˥ru ma˞rutati˥ ʔu˞mu:ta˥nu ki̥sa:˞ti˥du: mu˞ti˥ʤibun na˞ri˥bu:baŋ](月日の立つのは早いものだ＜淀まない＞。昨日、一昨日生まれたと思ったが、もうすでに嫁ぐ年になっているわい)。シ˞キピニチ˥ル フ˞チ˥ル˞ダー [ʃi̥˞kipiniʧi˥ru ɸṵ˞ʧi˥ru ˞da:](月日が人の薬だよ＜月日が経つと苦しいことも忘れるから治るよ＞)。

シ˞キフジ **[ʃi̥˞kiɸuʤir]** 【名】聞かぬ素振り。「ききこじれ (聞き拗れ)」の義。シ˞キフジル [ʃi̥˞kiɸuʤiru](聞かぬ素振り) ともいう。ウ˞ヤ˥ヌ ˥ムニ シ˞キフジ サンドー˥シ カ˞シーカシー˥ シ˞キ˥バ [ʔu˞ja˥nu ˥muni ʃi̥˞kiɸuʤi sando:˥ʃi kạ˞ʃi:kaʃi:˥ ʃi̥˞ki˥jo:](親の言う事＜話＞を聞かぬ素振りしないで、しっかりと聞き届けなさい)。

シ˞キフジル **[ʃi̥˞kiɸuʤiru]** 【名】聞き流してそ知らぬふりをすること。「聞きくじる＜抉る＞」の転訛したものか。反抗して聞かぬ素振りをすること。シ˞キフジ [ʃi̥˞kiɸuʤi](聞かぬ素振り) ともいう。シ˞キフジル スー˥カー ˞ドゥー˥ヌ スン˞ゲ˥ラ [ʃi̥˞kiɸuʤiru su:˥ka: ˞du:˥nu suŋ˞ge˥ra](聞かぬ素振りをすると自分の損さ＜自分が損するだけさ＞)。シ˞キフジルバ˥ シ˞ティ˥ ムッ˞トゥ˥ プ˞スヌ˥ ムニ シ˞キン サヌ [ʃi̥˞kiɸuʤiruba˥ ʃi̥˞ti˥ mut˞tu˥ pṵ˞sunu˥ muni ʃi̥˞kin sanu](聞き流してそ知らぬふりをしてちっとも人の言う事を聞きもしない)。˞ウンザヌ˥ ピン ˞シェーラ˥ イ˞カス˥ク ヤ˞ラババン˥ シ˞キフジルル スー [˞ʔunʤanu˥ piŋ ˞ʃe:ra˥ ʔi ˞kasṵ˥ku ja˞rababaŋ˥ ʃi̥˞kiɸuʤiruru su:](あいつが反抗したら、どんなに呼んでも聞き流しを＜ぞ＞する)。

シ˞キフジル スン **[ʃi̥˞kiɸuʤiru suŋ]** 【連】聞かぬ素振りをする。反抗してわざと聞かぬ素振りをする。「聞きくじる＜抉る＞」の転訛か。ウ˞リヌ˥ ピン ˞シェー˥ラ シ˞キフジル˥ シ˞ティ˥ イッ˞カ˥プ˞スヌ˥ ムニ シゥ˞カヌ [ʔu˞rinu˥ piŋ ˞ʃe:ra˥ ʃi̥˞kiɸuʤiru˥ ʃi̥˞ti˥ ʔik˞ka˥ pṵ˞sunu˥ muni si̥˞kanu](彼が反抗したら聞かぬ素振りをして、一向に他人のいうことを聞き入れない)。

シ˞キフズン **[ʃi̥˞kiɸuʤuŋ]** 【他動】聞かぬ素振りをする。反抗して聞かないようにする。「聞き・くじる (抉る)」の転訛か。˞ガイバ˥ ˞シティ˥ ウ˞ヤ˥ヌ ˥ムニ シ˞キフズンティ ベ˥ー ˞ダー˥ヌ ˥アトー ˥キー キ˞ム˥ヤムン˞ダー [˞gaiba˥ ʃi̥˞ti˥ ʔu˞ja˥nu ˥muni ʃi̥˞kiɸuʤunti be˥: ˞da:˥nu ˥ʔato: ˥ki: ki˞mu˥jamun˞da:](反抗して親の話を聞かないつもりだろうが＜聞かないようにしているだろうが＞、後になって後悔する＜肝病む＞ぞ)。シ˞キフザンドー˥シ [ʃi̥kiɸuʤando:˥ʃi](反抗して聞かないようにしないで)。シ˞キフズ˥ クトー ス˞ナ˥ヨー [ʃi̥˞kiɸuʤu ˥ kṵto: su˞na˥jo:](反抗して聞かぬ振りをすることはするなよ)。

シ˞ギフチ **[ʃi˞giɸuʧi]** 【名】継ぎ目。「継ぎ口」の義。ク˞ヌ サイ˥コー イ˞ツァ˥ヌ シ˞ギフチェー˥ ワ˞カラン˥ スコー ˞ティー˥ヤ ク˞マー˥ン [ku˞nu sai˥ko: ʔi˞tsa˥nu ʃi˞giɸuʧe:˥ wa˞karan˥ sṵko: ˞ti:˥ja ku˞ma:˥ŋ](この大工＜指物細工＞は、板の継ぎ目が分からないほどに技＜手＞が巧みである＜細かい＞)。˞キン˥ヌ シ˞ギフチェー˥ アヤー ˞アー˥シ [˞kin˥nu ʃi˞giʧuʧe:˥ ʔaja: ˞ʔa:˥ʃi](着物の継ぎ目は模様を合わせなさい)。

シ˞キフチ˥ル **[ʃi̥˞kiɸuʧi˥ru]** 【名】付け薬。塗り薬。皮膚につける薬剤。軟膏。ヌ˞ミフチ˥ル [nu˞miɸuʧi˥ru](飲み薬) の対義語。˞パン˥ヌ キ˞ジヌ˥ フ˞チ˥ナー シ˞キフチ˥ル ˥シキ ッ˞ふィーリ [˞pan˥nu ki˞ʤinu˥ ɸṵ˞ʧi˥na: ʃi̥˞kifṵʧi˥ru ʃi̥ki f˞fi:ri](足の傷の傷口に付け薬＜塗り薬＞を塗ってくれ)。

シ˞キプリ スン **[ʃi̥˞kipuri suŋ]** 【連】聞き惚れる。夢中で聞き入る。「聞き惚れする」の義。ウ˞ヌ プスヌ˥ ウタ イ˞ゾー˥ルカー ナー˞イ˥ シ˞キプリ スントダー [ʔu˞nu pṵsunu˥ ʔuta: ʔi˞ʤo:˥ruka: na:˞i˥ ʃi̥˞kipuri sunt-da:](その人が歌を歌われると、ただもう聞き惚れる＜聞き惚れする＞よ)。

シ˞キマーシ [ʃi̥˞kimaːʃi] 【名】漁法の一つ。「突き回し」の義か。˥イダフニ [˥ʔidaɸuni](板舟。サバニ) に乗って、干瀬や˥イノー [˥ʔinoː](礁内湖) を、竿を差しながら操船し、片手でタ˞マウー˥キ [ta˞maʔuː˥ki](「玉桶」の義。桶の底にガラス < 玉 > を張って海底を覗き見る漁具) を使って海底を覗き、タコや魚を突いて漁獲する漁法。˥ギラ [˥gira](シャコ貝) や˥ミナ [˥mina](「蜷」の義。タカセ貝やヒロセ貝、サザエなど) も漁獲した。

シ˞キマチガイ [ʃi̥˞kimatʃigai] 【名】聞き誤り。「聞き間違い」の義。˞ワー˥　シ˞キマチガイヤー˥　ア˞ラヌ [˞waː˥ ʃi̥˞kimatʃigaijaː˥ ʔa˞ranu](君の聞き間違いではないのか)。

シ˞キ˥ミー [ʃi̥˞ki˥miː] 【名】月見。旧暦八月十五日の十五夜に、ススキの生花、神酒、フ˞チャ˥ギ [ɸu̥˞tʃa˥gi](小豆餅)、フ˞カン˥ガイ [ɸu̥˞kaŋ˥gai](「吹き上げ餅」の義。溶かした餅) を供えて家族の健康を祈願する年中行事。˞ズングヤー˥ヌ　˞ユー˥ロー　ミ˞ナカ˥ナーティ　˥ムソー　シ˞キティ˥　シ˞キ˥ミー　˞ソーッ˥タ [˞ʤuŋguja:˥nu ˞juː˥roː miˀnaka˥naːti ˥musoː ʃi̥˞kiti˥ ʃi̥˞ki˥miː ˞soːt˥ta](十五夜の夜は庭に筵を敷いて月見をされた)。

シ˞キミー [ʃi̥˞kimiː] 【名】効き目。功能。効能。効果。イ˞カス˥ク　ア˞ジ˥　シゥ˞カサバン˥　シ˞キミーヤ　ナー˥ヌ [ʔi˞kasu̥˥ku ˥ʔaʤi si̥˞kasabaŋ˥ ʃi̥˞kimiːja naː˥nu](いかほど言い聞かせても効果 < 効き目 > がない)。ク˞ヌ˥　シ˞ジフチ˥ロー　˞トゥッカブカラー˥　ヌムカー　シ˞キミーヤ˥　ンジクン [ku˞nu˥ ʃi˞ʤiɸu̥tʃi˥ro: ˞tukkabukaraː˥ numukaː ʃi̥˞kimiːja˥ ʔn˞ʤi˥ruŋ](この煎じ薬は十日ほど飲んだら功能 < 効き目 > が出てくる)。

シ˞キ˥ムチ [ʃi̥˞ki˥mutʃi] 【名】搗き餅。正月の鏡餅。ピ˞キムチ [pi̥˞kimutʃi](挽き餅。石臼で挽いて作った餅) の対語。蒸かした糯米を臼で搗いて作った餅。島ではピ˞キムチ [pi̥˞kimutʃi] が普通に作られた。シ˞キ˥ムツェー　ム˞チマイバ˥　フ˞カ˥シティ　˥ウシナー　˞シッ˥キティ　ス˞クル˥タ [ʃi̥˞kimu˥tʃe: mu˞tʃimaiba˥ ɸu̥˞ka˥ʃi̥ti ˥ʔuʃinaː ˞ʃik˥kiti su̥˞kuru˥ta](搗き餅は糯米を蒸かして臼で搗いて作った)。

シ˞キム˥トゥ [ʃi̥˞kimu˥tu] 【名】水源池。「せきもと(堰本)」の義。˞ペーレーヌ˥　シ˞ジクター˥　シ˞キムトゥ˥ヌ　ミ˞ジン　サーラリキシ　ナーン˥バン [˞peːreːnu˥ ʃi˞ʤikutaː˥ ʃi̥˞kimutu˥nu mi˞ʤin saːrarikiʃi naːm˥baŋ](旱魃が続いたので水源地 < 堰本 > の水もすっかり流されきって、涸れてしまったよ)。水田に水を引く水路。トゥ˞マダタバルヌ˥　シ˞キム˥トゥナー　˥ウナイン　˞カーングン˥　ブ˞リブタ [tu˞madatabarunu˥ ʃi̥˞kimu˥tunaː ˥ʔunaiŋ ˞kaːŋgum˥ bu˞ributa](泊田田原 < 田袋 > の用水路 < 堰本。水源池 > にはウナギもカーング < 川魚 > もいた < 居りおった >)。

シ˞キムヌ [ʃi̥˞kimunu] 【名】漬物。大根や木瓜 < 胡瓜 > などを塩漬けにして、カ˞ティ˥ムヌ [ka˞ti˥munu](おかず) にしていた。˞ダイクニ˥ヌ　シ˞キムヌンツァン　サー˥フキ　ン˞ザ˥シバ [˞daikuni˥nu ʃi̥˞kimu-nuntsan saː˥ɸu̥ki ʔn˞ʤa˥ʃiba](大根の漬物でも茶請けに出しなさいよ)。ダ˞イクニ˥ヌ　シ˞キムヌンツァン　サー˥フキ　ン˞ザシ˥バ [˞daikuni˥nu ʃi̥˞kimu-nuntsan saː˥ɸu̥ki ʔn˞ʤa˥ʃiba](大根の漬物だけでも茶請けに出しなさいよ)。˞ダイ˥クネー　˞カーサラン˥カー　シ˞キムヌ　シー˥バ [˞daiˀkuneː ˞kaːsaraŋ˥ kaː ʃi̥˞kimunu ʃiː˥ba](大根は売れなかったら漬け物にしなさいよ)。˞ダイ˥クニ　ピ˞キ˥　キー　シ˞キムヌ˥　シ˞キ˥バ [˞daiˀkuni pi̥˞ki˥kiː ʃi̥˞kimunu˥ ʃi̥˞ki˥ba](大根を引き抜いてきて漬物に漬けなさいよ)。

シ˞キムヌ [ʃi̥˞kimunu] 【名】敷物。蓆や畳。˥ムスン　タ˞タミン˥　シ˞キムヌテー˥　ノー˞ン　ナー˥ヌ [˥musun ta˞tamiŋ˥ ʃi̥˞kimunuteː˥ noː˞n naː˥nu](蓆も畳みも、敷物は何もない)。ム˞スシキ˥ムヌ [mu˞suʃiki˥munu](敷物。敷物一般)。シ˞キムノー˥　マナー　ア˞ル˥ワ [ʃi̥˞kimunoː˥ manaː ʔa˞ru˥wa](敷物は何処にあるか)。ム˞スシキ˥ムヌ [mu˞suʃiki˥munu](敷物。敷き筵) ともいう。ム˞スシキ˥ムヌティン　ノー˞ン　ナー˥ムティ　カ˞ラフンツァナー˥ル　ニ˞ビ　ブー [mu˞suʃiki˥munutin noː˞n naː˥muti ka˞raɸuntsanaː˥ru ni˞bi buː](蓆などの敷物とて何もなくて、板敷きの空床に寝ている)。˞トゥーシ˥ナ　シ˞キムノー˥　シ˞キティ˥　ニ˞バシ˥バ [˞tuːʃi˥na ʃi̥˞kimunoː˥ ʃi̥˞kiti˥ ni˞baʃi˥ba](縁側に敷物を敷いて寝かしなさいよ)。

シ˞キムヌ [ʃi̥˞kimunu] 【名】供物。供え物。ウ˞ヤプスン˥　マイナー　シ˞キル˥　シ˞キムノー˥　ヌーカヤー [ʔu˞japusum˥ mainaː ʃi̥˞kiru˥ ʃi̥˞kimunoː˥ nuːka-jaː](ご先祖様に供える供物は何 < 何れ。どれ > かねえ)。

シ˞キ˥ユー [ʃi̥˞ki˥juː] 【名】石油。明治生まれの人は、シ˞キタン˥ユー [ʃi̥˞kitaɲ˥juː](石油)『八重山語彙』という。シ˞キ˥ユー　˞イッ˥ス　˞カイ˥クー [ʃi̥˞ki˥juː ˞ʔis˥su ˞kai˥kuː](石油を一升買ってこい)。˞トゥール˥ヌ　ア˞バ˥スブナー　シ˞キ˥ユー　イ˞リリ [˞tuːru

˜nu ʔa˞ba˜subuna: ʃi̥˞ki˜ju: ʔi˞riri](ランプ＜灯籠＞の油壺に石油を入れなさい)。シ˞キユー˜ランプ　シ˞キ˜リ [ʃi̥˞kiju:˜rampu ʃi̥˞ki˜ri](石油ランプを灯しなさい)。

シ˞キユーナー [ʃi̥˞kiju:na:] 【連】突き合い。牛が角を突き合わせること。歌謡語。˞ヤー˜　ウ˞シヌ˜　カ˞タ˜　ミ˞リ˜バ　シ˞キユーナードゥ　シーユール [˞ja:˜ ʔu˞ʃinu˜ kḁ˞ta˜ mi˞ri˜ba ʃi̥˞kiju:na:du ʃi:ju:ru](ああ、牛の絵を見ると角を突き合わせている)(アーパーレー歌)。

シ˞キユー˜ランプ [ʃi̥˞kiju:˜rampu] 【名】石油ランプ。石油で灯すランプ。明生まれの古老は、˞トゥー˜ル [˞tu:˜ru](灯篭) という。ア˞バ˜スブ [ʔa˞ba˜subu](油壺)、フ˞チガニ [ɸu̥˞ʧigani](芯を出す口金)、フ˞ヤ [ɸu˞ja](火屋)、˜カサ [˜kḁsa](笠) などから成る。シ˞キユー˜ランプヌ　フ˞ヤ˜　ッ˞スリ [ʃi̥˞kiju:˜rampunu ɸu˞ja˜ s˞suri](石油ランプの火屋を拭きなさい)。

シ˞キヨー˜リ [ʃi̥˞kijo:˜ri] 【名】毎月体力が弱くなっていくこと。月ごとの衰弱。˞ウイプス˜ヌ　ウ˞ブヤン　スー˜カー　プ˞ソー˜　シ˞キヨー˜リ　˞スン˜ダー [˞ʔuipusu˜nu ʔu˞bujan su:˜ka: pu̥˞so:˜ ʃi̥˞kijo:˜ri ˞sun˜da:](老人が大病すると、人は月ごとに衰弱する)。

シ˞ギ˜リ [ʃi˞gi˜ri] 【名】度合いを過ぎたもの。適度を超したもの。熟し過ぎて、す (鬆) が入ること。˞ダイ˜クネー　シ˞ギリ˜ムヌ　˜ナリティ　ッ˞ふァーラヌ [˞dai˜kune: ʃi˞giri˜munu ˜nariti f˞fa:ranu](大根はすいり＜鬆入り＞になって食べられない)。

シ˞ギリ˜ムヌ [ʃi˞giri˜munu] 【名】熟しすぎて、す (鬆) が入ったもの。ナ˞ベー˜ラー　シ˞ギリ˜ムヌ　˜ナルカー　ッ˞ふァーラヌ [na˞be:˜ra: ʃi˞giri˜munu ˜naruka: f˞fa:ranu](ヘチマは熟し過ぎてすいり＜鬆入り＞になると食べられない)。

シ˞キル [ʃi̥˞kiru] 【名】 (動) ナマコの名。和名、クロナマコ (体長約 30 センチ)、白色や黒色のナマコがいる。捕獲すると噴門より白いねばねばした糸を出し、手や足にくっ付く。戦前から戦後にかけて、漁獲したナマコを乾燥して中国料理の素材として輸出していたが、島では食べなかった。シ˞キロー˜　ガシティ　˞カーソーッタ [ʃi̥˞kiro:˜ gaʃi̥ti ˞ka:so:t˜ta](ナマコは焙乾して売られた)。ッ˞スシキ˜ル [s˞suʃiki˜ru](白なまこ)、ッ˞ふシキ˜ル [f˞fuʃiki˜ru](黒なまこ)、ビ˞キシキル [bi˞kiʃi̥kiru](雄ナマコ)、˞ミーシキ˜ル [˞mi:ʃi̥ki˜ru](雌ナマコ) などがいる。足で踏むと真っ白な、素麺のような強い粘着性のある糸を吐いて絡みつく。戦後一時期までは、腸を出して乾燥したものを中国料理の食材として輸出していた。マ˞ナ˜マー　シ˞キル˜　トゥル　プ˞スン　カウ　プスン˜　ブ˞ラーヌ [ma˞na˜ma: ʃi̥˞kiru˜ turu pu̥˞suŋ kau pu̥sum˜ bu˞ra:nu](今はナマコを獲る人も買う人もいない)。

シ˞キルカマサー [ʃi̥˞kirukamasa:] 【名】 (動) 魚の名。和名、オニカマス (体長約 1、5 メートル)。カツオ漁船のピ˞キナー [pi̥˞kina:](引き縄釣り) で釣れることがあった。

シ˞キ˜ルン [ʃi̥ki˜ruŋ] 【他動】 1付ける。命名する。付与する。˞ナー˜　シ˞キ˜ルン [˞na:˜ ʃi̥˞ki˜ruŋ](名前を付ける)。˞ナー˜　シ˞キラ˜ヌ [˞na:˜ ʃi̥˞kira˜nu](名前を付けない)。˞ナー˜　シ˞キ˜プサン [˞na:˜ ʃi̥˞ki˜pu̥saŋ](名前を付けたい)。2備える。ク˞リ˜　ッ˞ふァイティ˜　シゥ˞カラ˜　シ˞キ˜リ [ku˞ri˜ f˞faiti˜ si̥˞kara˜ ʃi̥˞ki˜ri](これを食べて力を付けなさい)。シゥ˞カラ˜　シ˞キ˜ル　˜クトゥ [si̥˞kara˜ ʃi̥˞ki˜ru ˜ku̥tu](力を付けること)。3気をつける。ン˞メーマー　キー˜　シ˞キ˜レー　˜ミサムヌ [ʔm˞me:ma ki:˜ ʃi̥˞ki˜re: ˜misamunu](少しは気を付ければいいのに)。˞キー˜　シ˞キ˜リ [˞ki:˜ ʃi̥˞ki˜ri](気を付けなさい)。4点灯する。˞トゥー˜ル　シ˞キ˜リバ [˞tu:˜ru ʃi̥˞ki˜riba](ランプ＜灯籠＞を点灯せよ)。5色を染める。色を塗る。カ˞マブク˜ナ　ア˞ガイル˜　シ˞キ˜ルン [ka˞mabuku˜na ʔa˞gairu˜ ʃi̥˞ki˜ruŋ](蒲鉾に赤色＜朱色＞を染める)。6交尾させる。交配させる。種付けする。˜アヒャーオーナ　˜サニ　˜シキティ　ッ˞ふァ˜　ピ˞ルガシ [˜ʔaça:ʔo:na ˜sani ˜ʃi̥kiti f˞fa˜ pi˞rugaʃi](母豚に種付けして子豚を繁昌させ＜広げさせ＞なさい)。

シ˞キ˜ルン [ʃi̥˞ki˜ruŋ] 【他動】着ける。行きつく。到着する。接岸する。寄港する。˞ウンパンシン˜マー　˞ジュー˜ジナ　シ˞キ˜ルンダ　ウ˞ヌ　ビン˜ナ　˞ヌーリ˜バ [˞ʔumpaŋʃim˜ma: ˞ʤu:˜ʤina ʃi̥˞ki˜runda ʔu˞nu bin˜na: ˞nu:ri˜ba](運搬船は十時に到着＜接岸＞するから、その便に乗りなさい)。シ˞キラン˜セン [ʃi̥˞kiraŋ˜ʃeŋ](到着しなかった。寄港しなかった)。フ˞ニ˜ヌ　シ˞キ˜ル　˜ピン [ɸu˞ni˜nu ʃi̥˞ki˜ru ˜piŋ](船が到着する時)。シ˞キ　ヤッ˜サン [ʃi̥˞kijas˜saŋ](着けやすい。接岸しやすい)。シ˞キ˜レー　˜ミサムヌ [ʃi̥˞ki˜re: ˜misamunu](着ければよいのに)。˞ジュー˜ジナー　シ˞キ˜リ [˞ʤu:˜ʤina: ʃi̥˞ki˜ri](十時に接岸しなさい)。

シ˞キルン [ʃi̥˞kiruŋ] 【他動】 1漬ける。ス˞クン [su̥˞kuŋ](漬く) ともいう。˞ダイ˜クニシ　タ˞ク˜アン　シ˞キルンティ˜　ウ˞ムーン˜ドゥ　シ˞キララ

ヌ [˹dai˺kuniʃi tḁ˹ku˺ʔaŋ ʃi̥˹kirunti˺ ʔu˹mu:n˺du ʃi̥˹ki-raranu](大根でたくあんを漬けようと思うが漬けられない)。タ˹ク˺アン　シ˹キル　ムノー　ナー˺ヌ [tḁ˹ku˺ʔaŋ ʃi̥˹kiru muno: na:˺nu](たくあんに漬けるものはない)。2浸す。マ˹カ˺ルサラー　ミ˹ジ˺ナー　シ˹キレー˺　ミサムヌ [ma˹ka˺rusara: mi˹ʤi˺na: ʃi̥˹kire:˺ misamunu](お椀や皿は水に浸ければ良いのに)。˹パー˺ク　ミ˹ジ˺ナー　シ˹キリ [˹pa:˺ku mi˹ʤi˺na: ʃi̥˹kiri](早く水に浸けろ)。

シ˹キルン [ʃi̥˹kiruŋ]【他動】供える。供物を祀る。˹シームヌ˺　シ˹キルンティ˺　シ˹タヌ˺　シ˹キラン˺タンティン　˺ミサンティバ　˹ワー˺　シ˹キ˺　ッ˹ふィーリ [˹ʃi:munu˺ ʃi̥˹kirunti˺ ʃi̥˹tandu˺ ʃi̥˹kiran˺tantim ˺misantiba ˹wa:˺ ʃi̥˹ki˺ f˹fi:ri](吸い物を供えようとしたが、供えなくてもよいとのことだから、君が供えてくれ)。シ˹キル˺　ム˹ノー　パー˺ク　シ˹キレー˺　ミサムヌ [ʃi̥˹kiru˺ mu˹no: pa:˺ku ʃi̥˹kire:˺ misamunu](供えるものは早く供えればよいのに)。シ˹キリ [ʃi̥˹kiri](供えよ)。スクン [su̥˹kuŋ](供える) ともいう。ム˹チェー˺　ウ˹ヤプス˺ヌ　˺マイナー　シ˹キティ˺　ヌ˹カ˺ロー　˺バキ　ッ˹ふァーシ [mu˹ʧe:˺ ʔu˹japusu˺nu ˺maina: ʃi̥˹kiti˺ nu˹ka˺ro: ˺baki f˹fa:ʃi](餅は仏前に供えて、残りは分けて食べさせなさい)。ク˹レー˺　シ˹キラララヌ [ku˹re:˺ ʃi̥˹kiraranu](これは供えられない)。˺ドゥーシ　シ˹キルン [˺du:ʃi ʃi̥˹kiruŋ](自分で供える)。シ˹キル˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [ʃi̥˹kiru˺ ku̥to: na˹ra˺nu](供えることは出来ない)。˺クナー　シ˹キレー˺　ミサムヌ [˺kuna: ʃi̥˹kire:˺ misamunu](此処に供えればよいのに)。˹パー˺ク　シ˹キリ [˹pa:˺ku ʃi̥˹kiri](早く供えれ)。

シ˹キルン [ʃi̥˹kiruŋ]【他動】鍋を竈に据える＜掛ける＞。ス˹クン [su̥ku˹ŋ](鍋を竈に据える) ともいう。マ˹ダ˺　シ˹キラヌ [ma˹da˺ ʃi̥kiranu](未だ鍋を竈に据えない)。キ˹サーティ˺　シ˹ケー˺ン [ki̥sa:˹ti˺ ʃi̥˹ke:˺ŋ](既に鍋を据えた)。鍋を竈に据える。据える。ス˹クン [su̥˹kuŋ](据える) ともいう。˺ナビ　シ˹キルンティ　スンドゥ　グッふァ˺ヌ　シ˹キラララヌ [˺nabi ʃi̥˹kirunti sundu guffa˺nu ʃi̥˹kiraranu](鍋を竈に据え付けようとするが、重くて据え付けられない)。

シ˹キ˺ルン [ʃi̥˹ki˺ruŋ]【他動】置く。˺スクン [˺su̥kuŋ](置く) ともいう。˺ウナー　シ˹キラン˺ドーシ　˺カナー　シ˹キ˺リバ [˺ʔuna: ʃi̥˹kiran˺do:ʃi ˺kana: ʃi̥˹ki˺riba](そこに置かないで、あそこに置きなさいよ)。˺クナー　˺シキミサカー　シ˹キルン˺ドゥ　シ˹キ˺ル　˺クトー　ナ˹ラン˺ティバーヤ [˺kuna: ˺ʃi̥kimisaka: ʃi̥˹kirun˺du ʃi̥˹ki˺ru ˺ku̥to: na˹ran˺tiba:ja](此処に置いてよければ置くが、置くことはできないってよ)。˹パー˺ク　˺クナー　シ˹キ˺レー　˺ミサムヌ [˹pa:˺ku ˺kuna: ʃi̥˹ki˺re: ˺misamunu](早く此処に置けばよいのに)。

シ˹ギ˺ルン [ʃi˹gi˺ruŋ] (1)【自動】1過ぎる。時間が経過する。˺シグン [˺ʃiguŋ](過ぎる) ともいう。˹ジューニ˺ジ　シ˹ギラン˺ケン　˹カイ˺リ　˺クンティ　シ˹タヌ˺　イ˹チ˺ジ　シ˹ギ˺ルンケン　˹クー˺ヌ [˹ʤu:ni˺ʤi ʃi˹giraŋ˺keŋ ˹kai˺ri ˺kunti ʃi̥˹tanu˺ ʔi˹ʧi˺ʤi ʃi˹gi˺ruŋkeŋ ˹ku:˺nu](12 時過ぎないうちに帰ってくるといったが、1 時過ぎるまで来ない)。˺ニジ　˺シギテーラル　˺ケータ [˺niʤi ˺ʃigite:raru ˺ke:ta](2 時過ぎてから来た)。˹サン˺ジ　シ˹ギ˺ル　˺クトー　˹ナー˺ヌ [˹san˺ʤi ʃi˹gi˺ru ˺kuto: ˹na:˺nu](3 時を過ぎることはない)。˺ウヌ　˺ブンシェー　ユ˹ナ˺カ　シ˹ギ˺ルンダ　ユ˹ナ˺カ　シ˹ギ˺レーラー　ア˹ツァ˺ヌ　シ˹グトー˺　ナ˹ラン˺バ　˹パー˺ク　ニ˹バシ [˺ʔunu ˺buŋʃe: ju˹na˺ka ʃi˹gi˺runda ju˹na˺ka ʃi˹gi˺re:ra: ʔa˹tsa˺nu ʃi˹guto:˺ na˹ram˺ba ˹pa:˺ku ni˹baʃi](この分では夜中を過ぎるから、夜中を過ぎたら明日の仕事は出来ないから、早くねかせろよ)。通過する。よぎる。ジ˹カンマー˺　シ˹ギルン˺ドゥ　シ˹グトー˺　マイ　˹ユーザヌ [ʤi˹kamma:˺ ʃi˹girun˺du ʃi˹guto:˺ mai ˹ju:ʣanu](時間は過ぎるが仕事は前に進まない)。ウ˹ヤ˺ヌ　˺マイラ　シ˹ギ˺ル　˺クトー　ナ˹ラン˺シェン [ʔu˹ja˺nu ˺maira ʃi˹gi˺ru ˺ku̥to: na˹raŋ˺ʃeŋ](親の前を過ぎ去ることは出来なかった)。2程度を超える。仮死状態になる。サ˹キシギリ　シティ˺　シ˹ニンガター˺　ナ˹リ˺ブタ [sa˹kiʃigiri ʃiti˺ ʃi˹niŋgata:˺ na˹ri˺buta](急性アルコール中毒＜酒過ぎ＞になって死にそうになっていた)。(程度が) 過ぎる。基準を超える。度合いを越す。「～八十島須義弖＜スギテ＞別れゆかむ。万、4349』」の転訛したもの。サ˹キン˺　シ˹ギ˺ルカー　ドゥ˹ク˺ル　˺ナルンダ　シ˹ギラン˺　ヨーニ　˺ヌミバ [sḁ˹kiŋ˺ ʃi˹gi˺ruka du˹ku˺ru ˺narunda ʃi˹giraɲ˺jo:ni ˺numiba](酒も過ぎると毒に＜ぞ＞なるから、過ぎないように飲めよ)。3芋や大根、果実類が熟し過ぎて食べられない状態になる。痩せてす (鬆) が入る。「～吾聞き継がず花は須疑都追＜スギツツ＞。万、4194」、「～立つ霧の思ひ須疑米夜＜スギメヤ＞～。万、4000」の義か。˹ダイ˺クネー　シ˹ギ˺リティ　ッ˹ふァーラヌ [˹dai˺kune: ʃi˹gi˺riti f˹fa:ranu](大根は熟し過ぎて食べられない)。

シ˞ギリ˜ウン [ʃi˞giri˜ʔuŋ](腐った芋)。˞ウン˜ヌン ˞ダイ˜クニン　シ˞ギ˜リティ　ッ˞ふァーラヌ [˞ʔun ˜nun ˞dai˜kuniŋ ʃi˞gi˜riti f˞fa:ranu](芋も大根も熟しすぎて＜すがはいって、腐って＞食べられない)。**(2)**【補動】動詞について複合語をつくり、動作が普通の状態より度を越してひどくなる意を表す。˞ウーミシギ˜ルン [˞ʔu:miʃigi˜ruŋ](熟れすぎる)。˞ネーシシギルン [˞ne:ʃiʃigiruŋ](煮すぎる)。˞ニーシギルン [˞ni:ʃigiruŋ](煮え過ぎる)。

シ˞ギ˜ロールン [ʃi˞gi˜ro:ruŋ] 【自動】お亡くなりになる。高齢の人が亡くなることに対して言う敬語。「〜吾聞き継がず　花は須疑都追＜スギツツ＞。万、4194」の義。˞ウン˜ネヌ　˜アブジェー　シ˞ギ˜ローリ　˞ナーン˜ツォー [˞ʔun˜nenu ˜ʔabuʤe: ʃi ˞gi˜ro:ri ˞na:n˜tso:](その家のお祖父さんはお亡くなりになったそうだ)。˞ウイ˜プス　ヤ˞ロー˜ルンダ　シ˞ギ˜ロールンテー　ウ˞モーリ˜　ブタンドゥ　˞ユー˜　シ˞ギ˜ロールター　サ˞ビサ˜ヌ　ナ˞ラ˜ヌ [˞ʔui ˜pu̥su ja˞ro:˜runda ʃi˞gi˜ro:runte: ʔu˞mo:ri˜ butandu ʃi˞gi˜ro:ruta: sa˞bisa˜nu na˞ra˜nu](お年寄りだからお亡くなりになるとは思われたが、実際にお亡くなりになると寂しくてたまらない)。˞ユー˜　シ˞ギ˜ロールン [˞ju:˜ ʃi˞gi˜ro:ruŋ](亡くなられる＜世を過ぎられる＞)。マ˞ダ˜　シ˞ギ˜ローランシェン [ma˞da ˜ ʃi˞gi˜ro:raŋʃeŋ](まだ亡くなられなかった)。シ˞ギ˜ローリティ [ʃi˞gi˜ro:riti](亡くなられて)。「過ぎし父親 [sijishi chichiuya]」『校註琉球戯曲集』。

˜シキン [˜ʃi̥kiŋ] 【名】試験。標準語からの転訛。「鳩間小学校沿革」によると、明治三十三年四月にはじめて三名の卒業生を出したというから、˜シキン [˜ʃikiŋ](試験) という語もその頃に借用され、転訛したものであろう。˜シキン　˜ウキティ　イ˞チ˜バンシ　˞トゥー˜レーン　ツォー [˜ʃikiŋ ˜ʔukiti ʔi˞ʧi˜ baŋʃi ˞tu:˜re:ntso:](試験を受けて一番で合格した＜通った＞そうだ)。

˜シキン [˜ʃi̥kiŋ] 【名】世間。世の中。社会。˞ドゥー˜ヌ　˜クトー　˜ドゥーシェー　ワ˞カラ˜ヌ　シ˞キンヌ˜　プ˞スヌル˜　イッ˞ケナ˜　ッ˞ソー˜レー [˞du:˜nu ˜ku̥to: ˜du:ʃe: wa˞kara˜nu ʃi̥˞kin˜nu pu̥˞sunuru ˜ ʔik˞kena˜ s˞so:˜re:](自分のことは自分では分からない。世間の人がよく知っておられる)。シ˞キン˜マー　ウ˞ヤマイティル˜　ナ˞ラー˜ソーッタ [ʃi̥˞kim ˜ma: ʔu˞jamaitiru˜ na˞ra:˜so:tta](世間は敬えと＜ぞ＞教えられた)。

シ˞キンガナ˜シ [ʃi̥˞kiŋgana˜ʃi] 【名】お月様。「月加那志」の義。「加那志 (かなし)」は「愛し (いとしい。敬愛する。優れた)」から転じた敬称の接尾語。/アールカラ　アーリオール　ウブシキンガナシ　ウキナーン　ヤイマーン　ティラショーリ　ホーイチョーガ/(東から上がってこられる大きなお月様。沖縄も八重山もお照らしください＜囃子＞)「月ヌマピロウマ節」。シ˞キンガナシ˜ヌ　˞アンター˜ラ　˞アーロー˜ルン [ʃi̥˞kiŋganaʃi˜nu ˞ʔanta:˜ra ˞ʔa:ro:˜ruŋ](お月様が東の空から上がられる)。

シ˞キンガマラ˜サン [ʃi̥˞kiŋgamara˜saŋ] 【形】聞くに堪えない。身内に対する悪口を聞いて頼りなく侘しい。「聞くにもの悲しい」の義。˞ドゥー˜ヌ　ウ˞ヤ˜ヌ　ヤ˞ナ˜フチカー˞ニ˜　シゥ˞カサリティ˜　シ˞キンガマラサ˜ヌ　˜ウナー　ブ˞ララランシェン [˞du:˜nu ʔu˞ja˜nu ja˞na˜ɸu̥ʧika:˞ni˜ si̥˞kasariti˜ ʃi̥˞kiŋgamarasa˜nu ˜ʔuna: bu˞raraŋʃeŋ](自分の親の悪口だけ聞かされて聞くに堪えなくて、そこには居られなかった)。シ˞キンガマラ˜サル　パ˞ナ˜シェー　ス˞クナ [ʃi̥˞kiŋgamara˜saru pa˞na˜ʃe: su̥˞kuna](聞くに堪えないような話は聞くな)。

シ˞キングリ˜サン [ʃi̥˞kiŋguri˜saŋ] 【形】1聞きづらい。聞き取りにくい。聞き苦しい。ス˞クン [su̥˞kuŋ](聞く) の連用形に形容詞型助動詞˞ングリ˜サン [˞ŋguri ˜saŋ](〜づらい) が下接して形成された派生形容詞。ウ˞リヌ˜　ムネー　˞クイ˜ヌ　グ˞マー˜ンダ　シ˞キングリ˜サン [ʔu˞rinu˜ mune: ˞kui˜nu gu˞ma:˜nda ʃi̥˞kiŋguri˜saŋ](彼の話は声が小さいので聞きづらい)。2聞くに堪えないさま。ウ˞リヌ˜　フ˞チガーロー˜　シ˞キングリサ˜ヌ　シ˞キ˜　ブ˞ララヌ [ʔu˞rinu˜ ɸu̥˞ʧiga:ro:˜ ʃi̥˞kiŋurisa˜nu ʃi̥˞ki˜ bu˞raranu](彼の自慢話は聞くに堪えなくて、聞いておられない)。

シ˞キンコー˜スン [ʃi̥˞kiŋko:˜suŋ] 【他動】1引っ剥がす (突き剥がす)。ひん剥く。˞カイ˜リティ　ス˞ブシヌ˜　カー　シ˞キンコーシ˜　シケー [˞kai˜riti su˞buʃinu˜ ka: ʃi̥˞kiŋko:ʃi˜ ʃi̥ke:](転んで膝の皮をひん剥いて＜突き剥がして＞ある)。ク˞ルブ˜カー　˜パダ　シ˞キンコー˜スンダ　シ˞キンコーサン˜ヨーニ　˞ヨーンナー˜　ア˞ラ˜キ [ku˞rubu˜ka: ˜pada ʃi̥˞kiŋko:˜ sunda ʃi̥˞kiŋko:saŋ˜jo:ni ˞jo:nna:˜ ʔa˞ra˜kiba](転んだら肌をひん剥くから、ひん剥かないようにゆっくり歩け)。2田地や畑地などを鋤き起す。掘り起こす。ウ˞シヌ˜ヤマシ　˞ユシキ˜ヌ　ス˞リ˜バイ　シ˞キンコースンティ　スンドゥ˜　シ˞キンコーサラヌ [ʔu˞ʃinu˜jamaʃi ˞juʃi̥ki˜nu su˞ri˜bai ʃi̥˞kiŋko:sunti sundu˜ ʃi̥˞kiŋko:saranu](からすき＜唐鋤。牛の犂＞でスス

キの刈り株を根っこから鋤き起そうとするが、鋤き起されない)。

シ˞キンザ˜スン [ʃi̥˞kiʔndʑa˜suŋ] 【他動】突き出す。˞ヤーフキ˜パルナー　シ˞ミ˜ナー　ヌ˞キティ˜　˞ヤー˜ヌ　ナ˞カー˜ラ　˜パロー　シ˞キンザスントダー [˞jaːɸu̥ki˜paruna: ʃi˞mi˜na: nu˞kiti˜ ˞jaː˜nu na˞kaː˜ra ˜paro: ʃi̥˞kiʔndʑasunt̪-daː:](家葺用の針＜矛＞に締め縄を貫いて、家の中＜内側＞から家葺き針＜矛＞を屋根の上に突き出すんだよ)。

˜シキンナミ [˜ʃi̥kinnami] 【名】世間並み。˞トーカキ˜ヌ　˞ヨイ˜ヤー　˜シキンナメー　˞シー　オーサバル˜　ヤ˞ル [˞toːkaki˜nu ˞joi˜jaː ˜ʃi̥kinnameː ˞ʃiː ʔoːsabaru˜ ja˞ru](米寿のお祝いは、当然世間並みにはして差し上げないといけない)。

˜シキンナリー [˜ʃikinnariː] 【名】世間馴れ。風俗習慣に馴れ親しむこと。キ˞ナイ˜　ム˞トゥター˜ル　˞ヤットゥ˜シ　˜シキンナリーン　˞シー˜　ケール　˜キサー　ノー˞ン˜　ッ˞サンシェン [ki˞nai˜ mu˞tutaː˜ru jat˞tu˜ʃi ˜ʃikinnariːŋ ˞ʃiː˜keːru ˜kisaː noː˞n˜ s˞saŋʃeŋ](家庭を持ったからこそ、やっとで世間馴れもしてきたのだ。以前は何も知らなかった)。

シ˞キン˜ヌ [ʃi̥˞kin˜nu] 【接助】～ので。～から。過去及び完了の助動詞-タ [-ta](た) に下接する。原因、理由を示し、前に述べたことを受けて後の叙述へ繋ぐ順接の機能を果たす。˜バー　˞パッ˜タ　シ˞キン˜ヌ　˞ワー˜　パ˞ラン˜タンティン　˜ミサン [˜baː ˞pat˜ta ʃi̥˞kin˜nu ˞waː˜ pa˞ran˜tantim ˜misaŋ](私が行くから君は行かなくてもよい)。˜バー　˜アイル　˜ウムイ　ブ˞タ˜　シ˞キン˜ドゥ　ウ˞ヌ˜　クトー　˞バシキ˜　ッ˞ふォー˜リ [˜baː ˜ʔairu ˜ʔumui bu˞ta˜ ʃi̥˞kin˜du ʔu˞nu˜ ku̥toː ˞baʃi̥ki˜ f˞foː˜ri](私はそう思っていますので、そのことはお忘れください)。

シ˞キンバナ˜シ [ʃi̥˞kimbana˜ʃi] 【名】世間話。˞キュー˜ヤ　マ˞ルケーティ˜ナ　˞オー˜レーバ　トゥクッ˞トゥ˜シ　シ˞キンバナ˜シンノーン　˞ソー˜ラ˞ディ―[˞kjuː˜ja ma˞rukeːti˜na ˞ʔoːreː˜ba tu̥kut˞tu˜ʃi ʃi̥˞kimbana˜ʃinnoːn ˞soː˜ra˞diː](今日は稀に立ち寄られた＜偶に来られた＞のですから、ゆっくり世間話でもなさいませんか。そうしましょうよ)。

シ˞キン˜マー　˜ドゥーウイ [ʃi̥˞kim˜maː ˜duː ʔui] 【連】世間は先生である (世間は自分より上である＜尊敬せよ＞)。˞世間を尊敬して世間から多く学べ」の義。＜諺＞。

シ˞キン˜ユー [ʃi̥˞kiŋ˜juː] 【名】月夜。月の夜。シ˞キン˜ユーナー　バ˞カー˜ムンケーヤ　ア˞ツァ˜マリティ　˞サンシンバ˜　ピ˞ケー˜ティル　ア˞サブタ [ʃi̥˞kiŋ˜juːna: ba˞kaː˜muŋkeːja ʔa˞tsa˜mariti ˞saŋʃimba˜ pi̥˞keː˜tiru ʔa˞sabuta](月夜には、若者たちは集まって三線を弾いて＜ぞ＞遊んだ)。

シ˞グ [ʃi˞gu] 【副】直ぐに。直ちに。若年層は、ス˞グ [su˞gu](直ぐ) ともいう。˞マルケーティ˜ナ　ウ˞キ˜ナーラ　˜キーティ　シ˞グ˜　パ˞リ˜シタ [˞maruke:ti˜na ʔu˞ki˜naːra ˜kiːti ʃi˞gu˜ pa˞ri˜ʃi̥ta](偶に＜久しぶりに＞沖縄から来て、すぐ帰っていった)。マ˞ナ˜マ　シ˞グッ˜テー　˞カイユーサヌ [ma˞na˜ma ʃi˞gut˜te: ˞kaiju:sanu](今すぐは買い得ない)。イ˞ズ˜カー　シ˞グ˜　ナ˞キス [ʔi˞ʤu˜kaː ʃi˞gu˜ na˞kisu](叱ったらすぐ泣く)。

˜ジク [˜ʤiku] 【名】1軸。標準語からの転訛。老年層は、˜シン [˜ʃiŋ](芯。心棒) という。˞ニーグルマ˜ヌ　ジ˞ク˜ヌ　˜ブリ　˞ナー˜ヌ [˞niːguruma˜nu ʤi˞ku˜nu ˜buri ˞naː˜nu](荷車の車軸が折れてしまった)。2軸物。トゥ˞ラヌ˜　カ˞タヌ˜　ジコー＜カ˞キジ˜コー＞　カ˞ルイ˜ヌ　アンティ˞ダー [tu˞ranu˜ kḁ˞tanu˜ ʤikoː＜kḁ˞kiʤi˜koː＞ ka˞rui˜nu ʔanti˞daː](虎の絵の掛け軸は縁起が良い＜嘉例がある＞そうだ)。

ジ˞グク [ʤi˞guku] 【名】地獄。イキ˞ベーン˜ケンナー　ヤ˞ナクトゥバ　スー˜カー　シ˞ニティ˜　ジ˞グコー˜　ウ˞ティ˜ルンティ˞ダー [ʔiki˞beːŋ˜keɲ ja˞nakutu suː˜ka: ʃi˞niti˜ ʤi˞guko:˜ ʔu˞ti˜runti˞daː](生きているときに悪事を働く＜する＞と、死んで地獄へ落ちるそうだよ)。

シ˞クジルン [ʃi̥˞kuʤiruŋ] 【自動】しくじる。失敗する。˞クン˜ドー　シ˞クジラン˜ヨーニ　シ˞タンドゥ˜　マ˞タ˜　シ˞クジリ　ナー˜ヌ [˞kun˜do: ʃi̥˞kuʤiraɲ ˜joːni ʃi̥˞tandu˜ ma˞ta˜ ʃi̥˞kuʤiri naː˜nu](今度は失敗しない＜しくじらない＞ようにしたが、また失敗して＜しくじって＞しまった)。˜アイニ　˞スー˜カー　シ˞クジルンダー˜　シ˞クジル˜　プソー　シ˞グ˜　ヤ˞ミリ [˜ʔaini ˞suː˜kaː ʃi̥˞kuʤirundaː˜ ʃi̥˞kuʤiru˜ pu̥soː ʃi˞gu˜ ja˞miri](あのようにすると失敗する＜しくじる＞から、失敗する＜しくじる＞時はすぐやめなさい)。˞クン˜ドゥン　シ˞クジレー˜　ミサムヌ [˞kun˜duŋ ʃi̥˞kuʤireː˜ misamunu](今度もしくじればいいのに)。シ˞クジリ [ʃi̥˞kuʤiri](失敗せよ＜しくじれ＞)。

シ˞クチ [ʃi̥˞kutʃi] 【名】職業。定職。生業。日常業務。仕事。石垣方言からの借用語。普通はシ˞グトゥ [ʃi˞gutu](仕事) という。シ˞クチ˜　トゥ˞ミラ˜リンカヤーティ　˞アークン˜ドゥ　トゥ˞ミララン

˜バン [ʃi̥˞kutʃi˜ tu˞mira˜riŋkaja:ti ˞ʔa:kun˜du tu˞mi-raram˜baŋ](仕事が捜せるかと思って＜捜して＞いるんだが捜せないわい)。

シ˞グトゥ [ʃi˞gutu] 【名】仕事。働くこと。作業。職業。業務。「仕事」の転訛したもの。パ˞タキシグ˜トゥ [pḁ˞takiʃigu˜tu](畑仕事)。˞ターシグ˜トゥ [˞ta:ʃigu˜tu](田仕事)。ヤ˞マシグ˜トゥ [ja˞maʃigu˜tu](山仕事)。˜ウミシグトゥ [˜ʔumiʃigutu](海仕事＜漁業＞)。˞サイクシグ˜トゥ [˞saikuʃigu˜tu](大工仕事)。シ˞グトゥヌ　パンタ˜サンダ　マ˞ナ˜マー　パ˞ララン˜サー [ʃi˞gutunu panta˜sanda ma˞na˜ma: pa˞raran˜sa:](仕事が忙しいので、今は行けない＜行かれない＞よ)。

シ˞グトゥキン [ʃi˞gutukiŋ] 【名】作業着。農作業や漁撈の際に着用する衣服。昭和 40 年頃までは婦人の衣類は、˜バサキン [˜basakiŋ](芭蕉着) や˜ブーキン [bu:kiŋ](麻の着物) が一般的であった。以後漸次洋服 (ワンピース、ツーピース) が普及した。ッ˞ふキン˜マー　シ˞グトゥキン˜　ナ˞ソーッ˜タ [f˞fukim˜ma: ʃi˞gutukin˜ na˞so:t˜ta](古着は仕事着にされた)。

シ˞グトゥブラーリ [ʃi˞gutubura:ri] 【名】仕事に夢中になること。仕事に熱中すること。シ˞グトゥブラーリ　シーベー˜ティ　˞ユー˜ボン　˜スコール　ウ˞クリナー˜ヌ [ʃi˞gutubura:ri ʃi:be:˜ti ˞ju:˜bon ˜su̥ko:ru ʔu˞kurina:˜nu](仕事に夢中になっているうちに＜夢中になっていて＞、夕飯の支度がすっかり遅れてしまった)。

シ˞グトゥブリ [ʃi˞gutuburi] 【名】仕事三昧。仕事に夢中になること。仕事に専念すること。パ˞タ˜キナー　シ˞グトゥブリバ　シーベーン˜ケン　˞ユー˜ボンスコールン　˞バシキティ　ヨーンバイ　シーナー˜ヌ [pḁ˞taki˜na: ʃi˞gutuburiba ʃi:be:ŋ˜keɲ ˞ju:˜bonsu̥ko:rum ˞baʃi̥kiti jo:mbai ʃi:na:˜nu](畑で仕事に夢中になっているうちに、夕飯支度も忘れて、すっかり遅れた夕食になってしまった)。

シ˞グトゥマチブリ [ʃi˞gutumatʃiburi] 【名】仕事に夢中になる。仕事に心をうばわれる。シ˞グトゥマチブリバ　シー˜　ティ˞ダ˜ヌ　ウ˞ティ˜ルンケン　パ˞タキ˜ナー　˞アー˜キ　˞ヨーンバイ　シーナー˜ヌ [ʃi˞gutumatʃiburiba ʃi:˜ ti˞da˜nu ʔu˞ti˜ruŋkem pḁ˞taki˜na: ˞ʔa:˜ki ˞jo:mbai ʃi:na:˜nu](仕事に夢中になって、太陽が落ちるまで畑にいて、遅い夕食の準備となってしまった)。

シ˞クミ [ʃi̥˞kumi] 【名】仕掛け。構造。「仕組み」の転訛したもの。明治生まれの老年層は、ス˞クミ [su̥˞kumi](仕組み。仕掛け。構造。リハーサル) という。キ˞カイ˜ヌ　シ˞クメー　バックラシ˜　ミ˞ラン˜カー　イッ˞カ˜　ワ˞カラ˜ヌ [ki̥˞kai˜nu ʃi̥˞kume: bakkuraʃi˜ mi˞raŋ˜ka: ʔik˞ka˜ wa˞kara˜nu](機械の仕組みはばらばらに分解してみないと一向に分らない)。

シ˞クン [ʃi̥˞kuŋ] 【他動】敷く。若年層の言葉。˜ムス　シ˞クン [˜musu ʃi̥˞kuŋ](筵を敷く)。老年層は、ス˞クン [su̥˞kuŋ](敷く) という。老年層の場合、次の音節の母音が前舌母音 [i、e] の場合 [ʃi]、奥舌母音 [u、o] の場合は母音調和して [su]、[a] の場合は [si̥] となる傾向が認められる。˜クナー　˜ムス　ス˞クンティ　スンドゥ˜　シ˞カランバン [˜kuna: ˜musu su˞kunti sundu˜ ʃi̥˞karambaŋ](ここに筵を敷こうとするが、敷かれない)。シ˞キ˜　ミサカー　ス˞ク˜　クトー　˜ナルン [ʃi̥˞ki˜ misaka: su̥˞ku˜ ku̥to: ˜naruŋ](敷いてよければ敷くことは出来る)。˜ムス　シ˞ケー˜　ミサムヌ [˜musu ʃi̥˞ke:˜misamunu](筵を敷けばいいのに)。˞パー˜ク　シ˞キ [˞pa:˜ku ʃi̥˞ki](早く敷け)。

シ˞グン [ʃi˞guŋ] 【他動】1継ぐ。つなぎ合わせる。繋ぐ。˞ナー˜ヌ　タ˞ラーン˜カー　˞バラフ˜タジナシ　シ˞ギ˜バ＜シ˞ナイ˜バ＞[˞na:˜nu ta˞ra:ŋ˜ka: ba˞raɸu ˜taɕiinaʃi ʃi˞gi˜ba＜ʃi˞nai˜ba＞](縄が足りなければ藁綱で継ぎなさい)。2継承する。相続する。˞ヤーム˜トゥ　シ˞グン [˞ja:mu˜tu ʃi˞guŋ](本家を継ぐ)。˜ヤー　シ˞ガヌ˜ティ　ア˞ジベータン˜ドゥ　シ˞グ　プスヌ˜　ブ˞ラーン　ベー˜ティ　˜ドゥーシ　シ˞ギベー [˜ja: ʃi˞ganu˜ti ʔa˞ɕibe:tan˜du ʃi˞gu pu̥sunu˜ bu˞ra:m be:˜ti ˜du:ʃi ʃi˞gibe:](家を継がないと言っていたが、継ぐ人がいないので自分が継いでいる)。ウ˞ヤ˜ヌ　˜アトゥ　シ˞ゲー˜　ミサムヌ [ʔu˞ja˜nu ˜ʔatu ʃi˞ge:˜ misamunu](親の跡目を継げばよいのに)。サ˞ク˜シェー　ヤー˞ディン˜　ウ˞ヤ˜ヌ　˜アトゥ　シ˞ギ [sḁ˞ku˜ʃe: ja:˞diŋ˜ ʔu˞ja˜nu ˜ʔatu ʃi˞gi](長男＜嫡子＞は必ず親の跡目を継げ)。

˜シケー [˜ʃi̥ke:] 【名】ゆりわ (揺輪)。頭上に物を載せて運搬する際、頭と物の間に置くクッション。稲藁を直径約 3 センチの太さに束ねて巻き、それで直径約 10 センチの輪に作ったもの。˜ナビシケー [˜nabiʃi̥ke:](鍋の揺輪＜安定装置＞。˞鍋敷き」の義)。ナ˞カ˜シケー [na˞ka˜ʃi̥ke:](搗き臼の内側に装着して米の飛散するのを防ぐ中揺輪) などがある。バ˞ラフ˜タシケー　シ˞キティ　ウン˜デ

ィル　カ˩ミリバ˥ル＜カ˩ミバ˥ル＞　˩マーンバー˥キン　カ˩ミラ˥リ˩ダー [ba˩raɸu̥˥taʃi̥ke: ʃi̥˩kiti ʔun˥diru ka˩miriba˥ru＜ka˩miba˥ru＞ ˩ma:mba:˥kiŋ ka˩mira˥ri˩da:](稲藁製の揺輪を＜頭上に＞敷いて芋笊を頭に載せるほうが＜載せればぞ＞、どこまでも荷物を頭に載せて運ばれる＜運べる＞のだよ)。シ˩キ˥ウシナー　ナ˩カ˥シケー　˥シキティ　˥ッサウカー　˩マイヤー　ポッツァーラヌ [ʃi̥˩ki˥ʔuʃina: na˩ka˥ʃi̥ke: ˥ʃi̥kiti ˥ssauka: ˩maija: pottsa:ranu](搗き臼に中揺輪を装着して米を搗くと米粒は飛散しないよ)。

シ˩ケースン [ʃi̥˩ke:suŋ] 【他動】刃物を他の刃物の背に斜めに擦りつけて刃を研ぐ。カ˩タ˥ナー　ナ˩マ˥リティ　キ˩シラン˥バ　シ˩ケーシティ˥　キシバ [kḁ˩ta˥na: na˩ma˥riti ki̥˩ʃiram˥ba ʃi̥˩ke:ʃiti˥ ki̥ʃiba](包丁＜刀＞は刃が鈍って切れないので他の包丁の背に斜めにすりつけて刃を研ぎだして切りなさい)。シ˩ケースンティ˥　シ˩タンティン˥　ク˩リ˥シェー　シ˩ケーサラヌ [ʃi̥˩ke:sunti˥ ʃi̥˩tantiŋ˥ ku˩ri˥ʃe: ʃi̥˩ke:saranu](刃を研ごうとしても、これでは研がれない)。シ˩ケース˥　クトゥ [ʃi̥˩ke:su˥ ku̥tu](刃を研ぐこと)。シ˩ケーシェー˥　ミサムヌ [ʃi̥˩ke:ʃe:˥ misamunu](刃を研げばよいのに)。シ˩ケーシ [ʃi̥˩ke:ʃi](刃を研げ)。

シ˩ゴー [ʃi˩go:] 【名】1都合。やりくり。具合の良いこと。˥アツァー　ヤ˩マ˥バコー　˩シン˥　パルンティ　ス˩コーリ　ベー˥ンドゥ　˩ワー˥　シ˩ゴーヤヌー˥シカヤー [˥ʔatsa: ja˩ma˥bako: ˩ʃim˥ parunti su̥˩ko:ri be:˥ndu ˩wa:˥ ʃi˩go:ja nu:˥ʃikaja:](明日は山に入って建築材伐り出しの共同作業を準備しているところだが、君の都合はどうかね)。2万障繰り合わせること。˩ウン˥ネートー　シ˩ゴー˥　カ˩キラバ˥ル　ヤ˩ル˥　ク˩トゥ˥バレー　ナ˩ラ˥ヌ [˩ʔun˥ne:to: ʃi˩go:˥ kḁ˩kiraba˥ru ja˩ru˥ ku̥˩tu˥bare: na˩ra˥nu](あの家＜その家＞とは都合をつけ＜万障繰り合わせ＞ないといけない。断ることは出来ない)。

ジ˩コー [ʤi˩ko:] 【副】ひどく。大変に。どん底に。グ˩クー˥とも言う。˩ピンソー˥ヌ　ジ˩コー˥　スクン [˩pinso:˥nu ʤi˩ko:˥ su̥kuŋ](貧乏のどん底に陥る)。ドゥ˩ク˥ヌ　˩ピー˥ヤティ　ク˩バ˥リティ　ジ˩コー˥　スクンティ　˩アーク˥タ [du˩ku˥nu ˩pi:˥jati ku˩ba˥riti ʤi˩ko:˥ sukunti ˩ʔa:ku˥ta](あまりの寒さで、凍えて死ぬ＜大変になる＞ところだった)。

シ˩コールン [ʃi̥˩ko:ruŋ] 【他動】拵える。準備する。(若年層の言葉)。老年層は、ス˩コールン [su̥˩ko:ruŋ](拵える。準備する) と言う。˥ウサイ　シ˩コールンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩タンガ˥シェー　シ˩コーラランバ˥　フ˩ター˥ル˥シ　シ˩コー˥リ　˥ミサンカヤー [˥ʔu-sai ʃi̥˩ko:runti˥ ʔu˩mu:n˥du ˩taŋga˥ʃe: ʃi̥˩ko:raramba˥ ɸu̥˩ta:ru˥ʃi ʃi̥˩ko:ri˥ misaŋkaja:](ご馳走を拵えようと思うが、一人では拵えられないから二人で拵えていいかねえ)。˩バン˥ヌン　シ˩コール˥　クトー　シ˩コールンダー　ワンヌン˥　シ˩コーレー˥　ミサムヌ [˩ban˥nuŋ ʃi̥˩ko:ru˥ ku̥u̥to: ʃi̥˩ko:runda: wannuŋ˥ ʃi̥˩ko:re:˥ misamunu](私も拵えることは拵えるから、君も拵えればよいのに)。˩パー˥ク　シ˩コーリ [˩pa:˥ku ʃi̥˩ko:ri](早く拵えろ＜れ＞)。

˥シザ [˥ʃiʤa] 【名】年上 (の者)、年長 (者)「せさ (兄)」『おもろさうし辞典・総索引』、「sinca」『語音翻訳』。親族名称。「'u-ra sin-ca　'a-ri」(汝兄あるか)「語音翻訳」『海東諸国紀』(岩波書店) の「sin-ca」、「先札」『琉球館訳語』、「先牝」『音韻字海』、「先之」『中山伝信禄』、「せざ」『おもろ。2-608』。「すざへ　兄の事也。惣して我より長しき方は俗に斯申也」『混効験集 (坤・人倫)』と関係ある語。アー˩ザ [ʔa:˩ʤa] は、「兄」の名称、呼称。ウ˩ヤ˥ヌ　˩クイ˥ヤー　˩カン˥ヌ　˥クイ　シ˩ザ˥ヌ　˩クイ˥ヤ　ウ˩ヤ˥ヌ　˥クイ [ʔu˩ja˥nu ˩kui˥ja ˩kan˥nukui ʃi˩ʤa˥nu ˩kui˥ja: ʔu˩ja˥nu˥ kui](親の言うこと＜声＞は神の言葉＜声＞、兄の言うことは親の言葉＜声＞。諺)。「先札」『琉球館訳語』の義。˩ウシ˥トゥ [˩ʔuʃi̥˥tu](年下、弟妹) の対義語で、関係概念を表す。シ˩ザビキ˥ル [ʃi˩ʤabiki˥ru](兄達)。シ˩ザブナ˥ル [ʃi˩ʤabuna˥ru](姉達)。呼称は、˩アー˥ザ [˩ʔa:˥ʤa](兄さん)。˩ンーネ [˩ʔn:ne](姉さん)。˩アンマ [˩ʔamma](姉さん)。ク˩レー˥　バー˥シザ˩ユー [ku˩re:˥ ba: ˥ʃiʤa˩ju:](これは私の兄＜姉＞です)。˥バー　˩ウシ˥トー　ミ˩ツァール　ブン [˥ba: ˩ʔuʃi̥˥to: mi˩tsa:ru buŋ](私の弟妹は三人いる)。

˥シザウシトゥ [˥ʃiʤauʃi̥tu] 【名】1兄弟、姉妹。「兄姉・弟妹」の義。˥シザウシトゥザーンナリ　˩アイカーフン˥カー　˩シーベー [˥ʃiʤauʃi̥tuʤa:nnari˩ ʔaika:ɸuŋ˥ka: ˩ʃi:be:](兄弟、姉妹同士で喧嘩騒動＜問答＞を起こしている)。2兄と弟 (姉と妹)。シザ˩ウシ˥トゥ　˩タール˥　タ˩カー˥ユー　ワ˩カラン˥バン [ʃiʤa˩uʃi̥˥tu ˩ta:ru˥ tḁ˩ka:˥ju: wa˩karam˥baŋ](兄と弟＜姉と妹＞、誰が高いか分からないわい)。

シザ˩ウシ˥トゥ [ʃiʤa˩ʔuʃi˥tu] 【名】兄弟。シザ˩ウシ˥トゥザーンナリ　˩ター　カイ˥スンティ　˩シーッ˥パイ　˩シーベ [ʃiʤa˩ʔuʃi˥tuʤa:nnari ˩ta: kai˥sunti ˩

ʃiːpˀpai ˞ʃiːbeː](兄弟一緒になって＜連れ立って＞田圃を耕そうと一所懸命になっているよ)。

˜シザウヤ [˜ʃidʑaʔuja] 【名】両親亡き後、伯父、伯母、叔父、叔母、兄、姉を敬っていう語。親代わり。「兄親」の義か。˜シザウヤテー ˞ワータンガ˜ル ˞オー˜ルユンダ ˞ガン˜ズーシ ナ˞ガイキ ソー˜リ˞ダー [˜ʃidʑaʔujateː ˞waː taŋgaˀru ˞ʔoː˜rujunda ˞ganˀdʑuːʃi na˞gaiki soː˜ri˞daː](親代わりは貴方一人しかおられない＜一人がおられる＞から、健康＜頑丈＞で長生きなさってくださいよ)。親の年代以上の年輩の人を崇めていう言葉。˜シザウヤンケーヌ ナ˞ラー˜ソーレール ブ˞ドゥルヌ ティー˜カタ ˞バシキルナ [˜ʃidʑaʔujaŋkeːnu na˞raː˜soːreːru bu˞durunu tiː˜kataː ˞baʃi̥kiruna](老年輩方が教えられた踊りの型は忘れるな)。

˜シザガタ [˜dʑidʑagata] 【名】年長者。年長者の方々。沖縄本島方言からの転訛。˞クリヤ クヌム˜ラ トゥシ˞ヌ シザガタ˜ ワン˞ドゥ˜ ダヤビル～(罷り出でたる＜これ＞はこの村の長老、私でございます) のように唱える。「ザーピラキ」『鳩間島古典民謡古謡集』。

シ˞ザ˜ガタ [ʃi˞dʑaˀgata] 【名】年輩。年輩方。年寄り方。芸能用語。沖縄本島方言からの借用語。/クリヤ クヌムラ トゥシヌ シザガタ ワンドゥダヤビル カク ウジガミヌ ウマムイ ウタビミショーチ ブラクミン カラダケンコウ ウタビミソーティ～/(罷り出でたる＜此なるは＞は、此村の年寄り方は、この私であります。斯くの如く氏神様が御守護くださいまして、部落民の体の健康を賜りましたので～)。狂言「ザーピラキ」『鳩間島古典民謡古謡集』。

シ˞ザッ˜ふァ [ʃi˞dʑafˀfa] 【名】長男長女。年上の子。シ˞ザッ˜ふァー ˞ギューチ˜ ナ˞ル˜ワ [ʃi˞dʑafˀfaː ˞gjuːtʃi˜ na˞ruˀwa](年上の子は何歳＜いくつ＞になるか)。シ˞ザッふァーヌ˜ル ウ˞ヤ˜ヌ ˜クトー ˜ウムー ˞ウシトゥ˜ッふァー ウ˞ヤ˜ヌ ˜クトー イ˞カシタティ ナー˜ヌ [ʃi˞dʑaffanuˀru ʔu˞jaˀnu ˜kṵ-toː ˜ʔumuː ˞ʔuʃi̥tuˀffaː ʔu˞jaˀnu ˜kṵtoː ʔi˞kaʃi̥tati naː˜nu](長男長女が親の事を思う。弟妹は親のことは何とも＜如何したとも＞思わない)。˞ウン˜ネヌ シ˞ザッ˜ふァー ビ˞コーンッふァ ウシトゥ˜ッふァー ミ˞ドーン˜ッふァ ˞ヤッタ [˞ʔunˀnenu ʃi˞dʑaf˜faː biˀkoːŋffaː ʔuʃi̥tuˀffaː mi˞doːŋˀffa ˞jatta](あの＜その＞家の年上の子は男の子、年下の子は女の子だった)。

シ˞ザ˜ヌ ˜クイ [ʃi˞dʑaˀnu ˜kui] 【連】1兄の言うこと (兄の声)。シ˞ザ˜ヌ ˞クイ˜ヤー ウ˞ヤ˜ヌ ˜クイ ウ˞ヤ˜ヌ ˞クイ˜ヤー ˞カン˜ヌ ˜クイ [ʃi˞dʑaˀnu ˞kuiˀjaː ʔu˞jaˀnu ˜kui ʔu˞jaˀnu ˞kuiˀjaː ˞kanˀnnu ˜kui](兄の言うこと＜声＞は親の言うこと＜声＞と同じ。親の言うこと＜声＞は神のいうこと＜声＞と同じだ) 諺。2念仏歌の一つで、兄の歌 (兄の声)。˞ニンブ˜ツァーナ シ˞ザ˜ヌクイ ˞ウシトゥ˜ヌ ˜クイティ アン˞ダー [˞nimbuˀtsaːna ʃi˞dʑaˀnu ˜kui ˞ʔuʃi̥tuˀnu ˜kuiti ʔan˞daː](念仏歌に兄の歌＜声＞、弟の歌＜声＞と＜二種類＞あるよ)。

シ˞ザ˜ヌ ˜ドゥーパダ [ʃi˞dʑaˀnu ˜duːpada] 【連】人間の体。「衆生」の転訛したものか。祝詞にのみ使われる語。

˜シザバナリ [˜ʃidʑabanari] 【名】(地名)。下離。˞クーラタバル [˞kuːratabaru](久浦水田地帯) の西端、フ˞ノー˜ラ [ɸu˞noː˜ra](船浦湾) に湾入する東端の岬。そこは明治期に炭鉱が開設されたが石炭層が薄いとのことで一時栄えただけで閉山されたところである。地図などでは「インタ崎」と記されているが、鳩間島の人は、˜シザバナリ [˜ʃidʑabanari](下離れ) という。˜シザバナリヌ ˞インタヌ˜カドゥマ˞ガリティ˜ パ˞ヤーキ˜ヌ ヤ˞ドゥル˜ガンナー ム˞カ˜シェー ˜スラズーヌ ˞アッ˜タンティ˞ダー [˜ʃidʑabanarinu ˞ʔintanuˀkadu ma˞gariti˜ pa˞jaːki ˜nu ja˞duruˀganna: mu˞kaˀʃeː ˜suradʑuːnu ˞ʔatˀtanti˞daː](下離れの西の角を曲がって南の方のヤドゥルガンという所には昔、スラズー＜造船所＞があったそうだよ)。

シ˞ザビキ˜ル [ʃi˞dʑabiki˜ru] 【名】年上の兄。年上の男兄弟の名称。妹の方からいう言葉。シ˞ザビキ˜ロー ウ˞ヤ˜ヌ ア˞トゥ˜バ シ˞ギ ウシトゥビキ˜ロー ウ˞キ˜ナーナール ˜タティ ˞ブー˜ツォー [ʃi˞dʑabiki˜roː ʔu˞jaˀnu ʔa˞tuˀba ʃi˞gi ʔuʃi̥tubiki˜roː ʔu˞ki˜naːnaːru ˜tati ˞buː˜tsoː](年上の男兄弟は親の跡を継ぎ、年下の男兄弟は沖縄に生活しているそうだ)。˞ウン˜ネーヤ シ˞ザビキル˜ヌ ˜カナイ ˞オー˜ルンダ ˞ソーヤ ナー˜ヌ [˞ʔunˀneːja ʃi˞dʑabikiruˀnu ˜kanai ˞ʔoː˜runda ˞soːja naː˜nu](その家は年上の兄弟が揃っておられるから心配はない)。

シ˞ザビコーン˜ッふァ [ʃi˞dʑabikoːŋˀffa] 【名】長男。年上の男の子。「兄者男の子」の義。シ˞ザビコーン˜ッふァー ク˞クヌ˜チ ˞ウシトゥ˜ッふァー ˞ムーチ˜ ナレーンティバーヤ [ʃi˞dʑabikoːŋˀffaː kṵ˞kunuˀtʃi ˞ʔuʃi̥tuˀffaː ˞muːtʃi˜ nareːntibaːja](長男は九

つ、弟は六つになっているってよ)。

シ˞ザブナ˞ル [ʃi˞ʤabuna˞ru] 【名】長女。年上の姉。弟のほうから年上の女兄弟に対していう言葉。シ˞ザブナルヌ˞ル　ブ˞ネーヌ　カールバシー　バー˞ヨ　ス˞ダ˞トーッタツォー [ʃi˞ʤabunarunu˞ru bu˞ne:nu ka:ruba ʃi: ba:˞jo su˞da˞to:ttatso:](長女が母親代わりなって < 代わりをして > 私を育てられたそうだ)。

˞シザブナル [˞ʃiʤabunaru] 【名】年下の兄弟からいう年上の姉妹 (ヲナリ)。シ˞チ˞ビキザルヌ　˞ニンガイ˞グトー　˞シザブナルル　ムー˞ル　ソーッ˞タ [ʃi̥˞ʧi˞bikiʤarunu ˞niŋgai˞guto: ˞ʃiʤabunaruru mu:˞ru so:t˞ta](せちにち < 節日 > や行事の祈願ごとは年上の姉妹が全部なされた)。

シ˞ザマ [ʃi˞ʤama] 【名】振舞い。事をなす仕方。所業。「仕様」の義。˞シーザマ [˞ʃi:ʤama](仕様) ともいう。˞ワー˞　ク˞ヌ˞　シ˞ザマー˞　ヌーッツァル　˞クトゥヤ [˞wa:˞ ku˞nu˞ ʃi˞ʤama:˞ nu:ttsaru ˞kutuja:](お前のこの振舞い < 仕様 > は、何たることか)。

˞シザマリ [˞ʃiʤamari] 【名】長男や長女。「兄者生まれ」の義。˞ウシトゥ˞マリ [˞ʔuʃi̥tu˞mari](弟妹。「弟生まれ」の義) の対義語。˞シザマレー　˞ウシトゥンケー˞バ　ナ˞ラー˞ス　˞ムヌル　ス˞クブン [˞ʃiʤamare: ˞ʔuʃi̥tuŋ˞ke: na˞ra:˞su ˞munuru su̥˞kubuŋ](長男長女は弟妹達を教えるのが義務 < 職分 > だ)。˞ワー˞　シザマリ　ヤ˞ルンダ　ウシトゥン˞ケー　ナ˞ラー˞シ [˞wa:˞ ʃiʤamari ja˞runda ʔuʃi̥tuŋ˞ke: na˞ra:˞ʃi](君は年上だから弟たちを指導しなさい)。

シ˞ザミドーン˞ッふァ [ʃi˞ʤamido:ŋ˞ffa] 【名】長女。「兄者女ども子」の義か。シ˞ザミドーン˞ッふァー˞ドゥー　ム˞ティ˞ジブン　ナ˞リ˞ブパジ [ʃi˞ʤamido:ŋ˞ffa: ˞du: mu˞ti˞ʤibun na˞ri˞bu ˞paʤi](長女は結婚適齢期になっているはずだ)。

シ˞ザミドゥ˞ナー [ʃi˞ʤamidu˞na:] 【名】長女。「年長の女」の義。˞ウン˞ネヌ　シ˞ザミドゥ˞ナーヤ　イッ˞ケナ˞　ア˞バ˞レーン [˞ʔun˞nenu ʃi˞ʤamidu˞na:ja ʔik˞kena˞ ʔa˞ba˞re:ŋ](あの家の長女は非常に美しい < 容姿端麗である >)。

シザ˞ムイ˞サン [ʃiʤa˞mui˞saŋ] 【形】兄 (姉) 思いである。兄 (姉) を敬い、兄 (姉) のことをよく思うこと。ウ˞レー˞　イッ˞ケナ˞　シザ˞ムイ˞サン˞ダー [ʔu ˞re:˞ ʔik˞kena˞ ʃiʤa˞mui˞san˞da:](彼は非常に兄思いだよ)。

˞シザンケー [˞ʃiʤaŋke:] 【連】年上の方々。兄さん方。˞シザンケーヤ　˞ウンター˞　ナ˞ロー˞リ [˞ʃiʤaŋke:ja ˞ʔunta:˞ na˞ro:˞ri](年上の方々は上座 < 上の座敷 > になられて < お座りになって > 下さい)。˞シザンケー　シゥ˞カシ˞　クー [˞ʃiʤaŋke: si̥˞kaʃi˞ ku:](年上の方々をご案内 < お連れ > してこい)。

˞シジ [˞ʃiʥi] (1) 【名】1筋。腱。˞パン˞ヌ　シ˞ジ˞バ　˞キシティル　ア˞ラキ　ユーサ˞ヌ [˞pan˞nu ʃi˞ʥi˞ba ˞ki̥ʃitiru ʔa˞raki ju:sa˞nu](足の腱を切ってしまって歩けない < 歩き得ない >)。2繊維。˞ブー˞シジ　ピ˞ニ˞レーティル　˞ブー˞ヤ　˞ウー˞モール [˞bu:˞ʃiʥi ˞ʔu:˞me:tiru ˞bu:˞ja ˞ʔu:˞moru](からむし < 苧 > の繊維を捻りつつ麻糸をうま < 績ま > れた)。3いきさつ。訳。理由。ウ˞ヌ˞　シジシル　˞サーラリ　パッ˞タ [ʔu˞nu˞ ʃiʥiʃiru ˞sa:rari pat˞ta](そんな訳で連れ去られて行った)。 **(2)** 【助数】細長いものを数える単位。すじ (筋)。本。ガ˞マジ˞ヌ　˞キー˞　プ˞ス˞シジ [ga˞maʥi˞nu ˞ki:˞ pu̥˞su˞ʃiʥi](髪の毛一本)。

˞シジ [˞ʃiʥi] (1) 【名】粒。˞マイヌ˞　シジ [˞mainu˞ʃiʥi](米の粒)。˞アー˞ヌ　˞シジ [˞ʔa:˞nu ˞ʃiʥi](粟の粒)。熟語の構成要素として用いられる。˞マイシジ [˞maiʃiʥi](米粒)。˞アー˞シジ [˞ʔa:˞ʃiʥi](粟粒)。マ˞ミ˞シジ [ma˞mi˞ʃiʥi](豆粒)。ア˞ミ˞シジ [ʔa˞mi˞ʃiʥi](雨粒)。 **(2)** 【助数】米粒などを数える単位。プ˞ス˞シジ [pu̥˞su˞ʃiʥi](一粒)。フ˞タシジ [ɸu̥˞taʃiʥi](二粒)。˞ユーシジ [˞ju:ʃiʥi](四粒)。イ˞チ˞シジ [ʔiʧi˞ʃiʥi](五粒)。˞マイシジ　ミーシジ˞　シゥ˞カ˞ミ　˞トゥリ [˞maiʃiʥi mi:ʃiʥi˞ si̥˞ka˞mi ˞turi](米粒を 3 粒掴み取れ)。プ˞ス˞シジ　フ˞タシジ˞　シゥ˞カ˞ミ　˞トゥリ [pu̥˞su˞ʃiʥi ɸu̥˞taʃiʥi˞ si̥˞ka˞mi ˞turi](一粒、二粒掴み取れ)。

˞シジ [˞ʃiʥi] 【名】1血筋。血統。先祖。˞シジ　サ˞バ˞クン [˞ʃiʥi sa˞ba˞kuŋ](先祖からの血筋を解き明かす < 捌く >。縺れた家系を解き明かす)。2霊験。霊威。霊力。オモロ語の「せぢ」に相当する。˞シジダカマリ [˞siʤidkamari](生まれつき霊力の高い人)。˞サーダカマリ [˞sa:dakamari](生まれつき霊力の高い人) ともいう。˞バン˞テヌ　イ˞チバンザー˞ヌ　˞ザートゥク˞ヌ　˞マイヤー　˞シジ　タ˞カー˞ティ　˞パン˞マー　˞ナーリ˞　ニ˞バラヌ [˞ban˞tenu ʔi˞ʧibanʤa:˞nu ˞ʤa:tuku˞nu ˞maija: ˞ʃiʥi ta˞ka:˞ti ˞pam˞ma: ˞na:ri˞ ni˞baranu](私の家の一番座の床の前は霊験高いので、足を向けて眠られない)。ブ˞ナルンガンマー˞　シジ　タ˞カーン˞ティ　ア˞ザリ　ブー [bu˞naruŋgamma:˞ ʃiʥi tḁ˞ka:n˞ti ʔa˞ʤari bu:](姉妹神は霊力が高いといわれている)。

シ˞ジ **[ʃiˈʤi]** 【名】(動) 魚名。ダツの仲間。和名、トオサヨリ (体長約 40 センチ)。和名、タイワンダツ (体長約 1 メートル)。和名、オキザヨリ (体長約 1 メートル)。和名、テンジクダツ (体長約 1 メートル) の総称。鳩間島の海岸から磯釣りでよく釣れる。˞トゥーシジャー [ˈtuːʃiʤaː](ハマダツ。オキザヨリ。体長約 1 メートル) は沖で釣れるが、磯釣りでも釣れる。秋から冬にかけてよく釣れた。シ˞ジェー˥ パ˞マー˥ラン ˥ユー ˞ホーサリ˥タン [ʃiˈʤeː˥ paˈmaː˥raɲ ˥juː ˈhoːsari˥taŋ](ダツの仲間は磯 < 浜 > からもよく釣れた)。

シ˞ジ˥ウン **[ʃiˈʤi˥ʔuŋ]** 【名】丸煮した芋。「煎じ芋」の義。ウ˞ブ˥ナベーラ シ˞ジ˥ウン ˞バー˥キナ ウ˞ティ˥クー [ʔuˈbu˥nabeːra ʃiˈʤi˥ʔum ˈbaː˥kina ʔuˈti˥kuː](大鍋 < 四枚鍋 > から丸煮した芋を竹笊に移して持ってきなさい)。

シ˞ジカスン **[ʃiˈʤikasuŋ]** 【他動】続かせる。シ˞グトー˥ シ˞ジカスンティ˥ ウ˞ムータン˥ドゥ シ˞ジカサラン˥ ナリ ˞ナー˥ヌ [ʃiˈguto:˥ ʃiˈʤikasunti˥ ʔuˈmuːtan˥du ʃiˈʤikasaran˥ nari ˈnaː˥nu](仕事は続かせようと思ったが続かせられなくなった)。シ˞ジカシ˥ プサカー シ˞ジカス˥ クトゥ [ʃiˈʤikaʃi˥ pu̥saka: ʃiˈʤikasu˥ ku̥tu](続かせたかったら続かせることだ)。シ˞ジカセー˥ ミサムヌ [ʃiˈʤikaʃeː˥ misamunu](続かせれよいのに)。シ˞グトー˥ エン ˞バー˥キ シ˞ジカシ [ʃiˈguto:˥ jem ˈbaː˥ki ʃiˈʤikaʃi](仕事は来年まで続かせよ)。

シ˞ジ˥カタ **[siˈʤi˥kata]** 【名】父方の血筋。父系血族。「筋方」の義。シ˞ジ˥カタ サ˞バ˥クン [siˈʤi˥kata saˈba˥kuŋ](父方の血統を辿る < さばく。捌く >)。血統が分からなくなって、カ˞カリ˥ムン [ka̠ˈkari˥muŋ](先祖の祟りごと) がある場合、ユ˞タ [juˈta](与太。巫女) に頼んで血統を捌いてもらい、祈願をした。シ˞ジ˥カタ サ˞バカ˥スン [siˈʤi˥kata saˈbaka˥suŋ](血統を正す < 捌かせる >)。

シ˞ジカニ **[ʃiˈʤikani]** 【形動】静かに。おだやか (穏やか) に。ひっそりして。動作の激しくないさまを表す。歌謡語。/イヤイヤー ユタカナルユヌ シルシサミエー アミヤ トゥカグシ カジヤ シジカニ シクリムジクイ マンサク ソーリバ～/(いやいや < 弥弥 >、豊かなる御世の兆候というものだ。雨は十日越しに降り、風は静かに吹いて、農作物は満作して < 豊かに実って > おりますので～。)(˞鳩間口説」。『鳩間島古典民謡古謡集』)。

シ˞ジ˥ガラ **[ʃiˈʤi˥gara]** 【名】茶殻。だしがら (出し殻)。茶の出涸らし。「煎じがら」の転訛したもの。˞サー˥ヌ シ˞ジ˥ガラー シ˞ティティ サンピン˥チャー イ˞リティ˥ サー ˞サイ˥バ [ˈsaː˥nu ʃiˈʤi˥gara: ʃi̥ˈtiti sampin˥ʧa: ʔiˈriti˥ saː ˈsai˥ba](お茶の出涸らしを捨ててサンピン茶 < 香片茶 > を入れてお茶を注ぎなさいよ)。

˞シシキ **[ˈʃiʃi̥ki]** 【名】躾け。叩いて躾けること。厳しく躾けること。折檻。ヤ˞ラ˥ビ ˞シェーン˥ケンヌ ˞シシケー バシキラヌ [jaˈra˥bi ˈʃeːŋ˥kennu ˈʃiʃi̥keː baʃi̥kiranu](子供の時の厳しい躾けは忘れない)。˞ヤー˥ナーティヌ ˞シシキヌ ワッ˥サカー プ˞スン˥ バ˞ラーリン˥ダー [ˈjaː˥naːtinu ˈʃiʃi̥kinu was˥saka: pu̥ˈsum˥ baˈraːrin˥daː](家での躾が悪いと人に笑われるよ)。

˞シシキルン **[ˈʃiʃi̥kiruŋ]** 【他動】叩いて躾ける。「仕付ける」の義。礼儀作法を身につけさせる。罰を与える。˞ウンザー˥ ウ˞ヤ˥ヌ ˥ムニ シゥ˞カンバ シシキルンティ˥ ウ˞ムーン˥ドゥ ˥ドゥーシェー ˞シシキラランバ ワー˥シ ˞シシキ ッふィーリ [ˈʔundʑaː˥ ʔuˈja˥nu ˥muni si̥ˈkamba ʃiʃi̥kirunti˥ ʔuˈmuːn˥du ˥duːʃeː ˈʃiʃi̥kiraramba waː˥ʃi ˈʃiʃi̥ki ffiːri](そいつは親の言う事を聞かないので叩いて躾けようと思うが、自分では叩いて躾けられないので君で叩いて躾けてくれ)。˞シシキル˥ プ˞スヌ˥ ブ˞ラーン˥タンティン グ˞マーン˥ケンラー ˞シシキレー˥ ミサムヌ [ˈʃiʃi̥kiru˥ pu̥ˈsunu˥ buˈraːn˥tantiŋ guˈmaːŋ˥kenraː ˈʃiʃi̥kireː˥ misamunu](叩いて躾ける人がいなくても、小さい時から叩いて躾ければよいのに)。マ˞ナマン˥ケンナー ˞シシキリ [maˈnamaŋ˥kennaː ˈʃiʃi̥kiri](今のうちに叩いて躾けてやれ < 躾けれ >)。ッ˞ふァ シシキルン [fˈfa ʃiʃi̥kiruŋ](子供を厳しく躾ける)。˞シシキラヌ [ˈʃiʃi̥kiranu](厳しく躾けない)。˞シシキラリン [ˈʃiʃi̥kirariŋ](躾けられる)。˞シシキ˥ ッ˞ふィーリ [ˈʃiʃi̥ki˥ fˈfiːri](厳しく躾けてくれ)。ッ˞ふァ シシキル˥ プ˞ソー˥ ブ˞ラーヌ [fˈfa ʃiʃi̥kiru˥ pu̥ˈsoː˥ buˈraːnu](子供を厳しく躾ける人はいない)。˞マー˥ビン ˞シシキレー˥ ミサムヌ [ˈmaː˥biŋ ˈʃiʃi̥kireː˥ misamunu](もっと厳しく躾ければ良いのに)。˥ドゥーシ ˞シシキリ [˥duːʃi ˈʃiʃi̥kiri](自分で厳しく躾けろ)。ッ˞ふァバ シシキルンティ˥ ウ˞ムーン˥ドゥ ˞バン˥マー ˞シシキラランバ ワー˥シ ˞シシキ ッふィーリ [fˈfaba ʃiʃi̥kirunti˥ ʔuˈmuːn˥du ˈbam˥maː ˈʃiʃi̥kiraramba waː˥ʃi ˈʃiʃi̥ki ffiːri](子供を叩いて指導しようと思うが、私には叩いて指導出来ないから君の方で叩いて指

導してくれ)。˩シシキル˥　プソー　˩シシキレー˥　ミサムヌ [˩ʃiʃi̥kiru˥ pu̥so: ˩ʃiʃi̥kire:˥ misamunu](叩いて教える時は叩いて教えればよいのに)。˥ユー　˩シシキリ [˥ju:˩ʃiʃi̥kiri](厳格に指導せよ＜よく叩いて躾なさい＞)。

シ˩ジキルン [ʃi˩ʤikiruŋ] 【他動】続ける。切らずに繋げる。シ˩ジキ˥　プサカー　シ˩ジキル˥　クトゥ [ʃi˩ʤiki˥ pu̥saka: ʃi˩ʤikiru˥ ku̥tu](続けたかったら続けることだ)。˩マー˥ビン　シ˩ジキレー˥　ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ʃi˩ʤikire:˥ misamunu](もっと続ければよいのに)。ク˩レー˥　シ˩ジキリ [ku˩re:˥ ʃi˩ʤikiri](これは続けなさい＜続けれ＞)。シ˩グトー˥　シ˩ジキルンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩タンガ˥シェー　シ˩ジカラヌ [ʃi˩guto:˥ ʃi˩ʤikirunti˥ ʔu˩mu:n˥du ˩taŋga˥ʃe: ʃi˩ʤikaranu](仕事は続けたいが、一人では続けられない)。シ˩ジキル˥　プ˩ソー˥　シ˩ジキ˥　プサカー　シ˩ジキレー˥　ミサムヌ [ʃi˩ʤikiru˥ pu̥˩so:˥ ʃi˩ʤiki˥ pu̥saka: ʃi˩ʤikire:˥ misamunu](続ける人は、続けたければ続ければよいのに)。˥クナーティ　シ˩ジキリ [˥kuna:ti ʃi˩ʤikiri](此処で続けろ＜続けれ＞)。シ˩ジキ˥　プサカー　シ˩ジケー˥　ミサムヌ　シ˩ジクンティ　スー˥　キ˩ムヌ˥ル　˩ナー˥ヌ [ʃi˩ʤiki˥ pu̥saka: ʃi˩ʤike:˥ misamunu ʃi˩ʤikunti su:˥ ki˩munu˥ru ˩na:˥nu](続けたいなら続けばよいものを、続けようという気持ちがないのだ)。ク˩ヌ˥　シ˩グトー˥　ヤー˩ディン˥　シ˩ジキ [ku˩nu˥ ʃi˩guto:˥ ja:˩diŋ˥ ʃi˩ʤiki](この仕事は必ず続けろ)。

シ˩ジ˥グル [ʃi˩ʤi˥guru] 【名】煎じ糟。煎じ殻。˩サー˥ヌ　シ˩ジ˥グロー　˩オー˥ヌイーナ　イ˩リティ˥　ッ˩ふァーシ˥バ [˩sa:˥nu ʃi˩ʤi˥guro: ˩ʔo:˥nuʔi:na ʔi˩riti˥ f˩fa:ʃi˥ba](お茶の煎じ糟は豚の餌に入れて食わせなさいよ)。

シ˩ジクン [ʃi˩ʤikuŋ] 【自動】続く。˩ジン˥マー　イ˩チンバー˥キン　シ˩ジクンティ˥　ウ˩ムータン˥ドゥ　シ˩ジカンバン [˩ʤim˥ma: ʔi˩tʃimba:˥kiŋ ʃi˩ʤikunti˥ ʔu˩mu:tan˥du ʃi˩ʤikambaŋ](お金は何時までも続くと思ったが続かないわい)。シ˩ジク˥　シ˩グトゥル˥　マ˩シ [ʃi˩ʤiku˥ ʃi˩guturu˥ ma˩ʃi](続く仕事がよい＜増しだ＞)。シ˩ジキブン [ʃi˩ʤiki buŋ](続いている)。シ˩ジケー˥　ミサムヌ [ʃi˩ʤike:˥ misamunu](続けばよいのに)。マー˩ン　バー˥キン　シ˩ジキ [ma:˩m ba:˥kiŋ ʃi˩ʤiki](何処までも続けよ)。「鳩間口説」に「～シジク　ワシマニ　スダチ　ンチャリバ～(続く我が島に育ってみれば～)」とある。˩ダイヌ˥　タ˩カー˥カー　シ˩ジク　ムヌン˥　シ˩ジカヌ [˩dainu˥ ta˩ka:˥ka: ʃi˩ʤiku munuŋ˥ ʃi˩ʤikanu](値段が高かったら、続くものも続かない)。

シ˩ジコー˥マ [ʃi˩ʤiko:˥ma] 【名】ゆで卵。煮抜き卵。鶏卵を殻のまま茹でたもの。シ˩ジコー˥マ　ミ˩ジ˥ナー　˩ピーラシ˥ティ　ッ˩ふァイ˥バ [ʃi˩ʤiko:˥ma mi˩ʤi˥na: ˩pi:raʃi̥˥ti f˩fai˥ba](ゆで卵を水に冷やして食べなさい)。シ˩ジコー˥マーラ　˩ホッファー˥ル　ン˩マ˥ー [ʃi˩ʤiko:˥ma:ra ˩hoɸɸa:˥ru ʔm˩ma˥:](茹で卵よりも卵焼きが美味しい)。

˥シジ　サ˩バ˥クン [˥ʃiʤi sa˩ba˥kuŋ] 【連】父方血縁の元祖を訪ねも止める。元祖を捜し求める。˥シジ　サ˩バ˥クンティ　イ˩サンケー˥ナ　˩ギーティ　クー˥タ [˥ʃiʤi sa˩ba˥kunti ʔi˩saŋke:˥na ˩gi:ti ku:˥ta](セジ＜父方血縁の元祖＞を捜そうと石垣島へ行ってきた)。

シ˩ジ˥ジル [ʃi˩ʤi˥ʤiru] 【名】煎じ汁。煮出汁。˩シンジ˥ジル [˩ʃinʤi˥ʤiru](煎じ汁) ともいう。ギ˩ラ˥ヌ　シ˩ジ˥ジル　ヌ˩マ˥スカー　サ˩ギ˥ルン [gi˩ra˥nu ʃi˩ʤi˥ʤiru nu˩ma˥suka: sa˩gi˥ruŋ](シャコ貝の煎じ汁を飲ませると、のぼせ＜逆上＞が下がる)。

シ˩ジダカー˥ン [ʃi˩ʤidaka:˥ŋ] 【形】霊力が強い (セジ高い)。霊験あらたかである。パ˩トゥマ˥ヌ　ウ˩ガン˥マー　イッ˩ケナ˥　シ˩ジダカー˥ン [pḁ˩tuma˥nu ʔu˩gam˥ma: ʔik˩kena˥ ʃi˩ʤidaka:˥ŋ](鳩間の御嶽＜お願＞は非常に霊力が強い＜セジ高い＞。クバ＜蒲葵＞やクロツグ＜桄榔＞、福木、ヤラブ＜テリハボク＞などの大木が密生していて、そこへ入るだけで鳥肌が立つような雰囲気を漂わせている)。シ˩ジダカー˥　ア˩ロー˥ルン [ʃi˩ʤidaka:˥ ʔa˩ro:˥ruŋ](セジ高くあらせられる)。ウ˩ガン˥マー　シ˩ジダカー˥ヌ　˩ペーララ˥ヌ [ʔu˩gam˥ma: ʃi˩ʤidaka:˥nu ˩pe:rara˥nu](御嶽はセジ高くて、立ち入りできない＜入られない＞)。マ˩リットーラ˥　シ˩ジダカー˥　プ˩ス [ma˩ritto:ra˥ ʃi˩ʤidaka:˥ pu̥˩su](生まれつきセジの高い人)。ブ˩ナルンガンマー˥　シ˩ジダカー˥ンティ　ア˩ザリブー [bu˩naruŋgamma:˥ ʃi˩ʤidaka:˥nti ʔa˩ʤari bu:](をなり＜姉妹＞神は霊力が高いといわれている)。グ˩マー˥タンケンマー　シ˩ジダカー　˩ナーン˥シェンドゥ　フ˩ドゥブンアーシ˥　シ˩ジダカー˥　ナルン [gu˩ma:˥taŋkemma: ʃi˩ʤidaka˥: ˩na:ŋ˥ʃendu ɸu˩dubuŋ˥ʔa:˩ʃi˥ ʃi˩ʤidaka:˥ naruŋ](小さかった時はセヂ高くなかったが、成長するにつれてセヂ高くなる)。シ˩ジダカー˥　プ˩ソー˥　マ˩リットーラ˥　キ˩マリ　ブー [ʃi˩ʤidaka:˥ pu̥˩so:˥ ma˩ritto:ra˥ ki˩mari bu:](セヂ高い人は生まれつき決ま

っている)。

シ˞ジッ˞クル [ʃi˞ʤik˞kuru] 【名】何度も煎じた後の煎じ殻 (出し殻)。ダ˞シ˞ヌ　シ˞ジッ˞クロー　シ˞ティリ˞バ [da˞ʃi˞nu ʃi˞ʤik˞kuro: ʃi̥˞tiri˞ba](出汁の出涸らし < 煎じ殻 > は捨てろよ)。

シ˞ジフチ˞ル [ʃi˞ʤiɸutʃi˞ru] 【名】煎じ薬。˞アッパー　シ˞ジフチ˞ル　ヌ˞ミトゥー˞シ　˞オー˞ル [˞ʔappa: ʃi˞ʤiɸutʃi˞ru nu˞mitu:˞ʃi ˞ʔo:˞ru](お祖母さんは煎じ薬を飲み続けて < 飲み通して > おられる)。シ˞ジフチ˞ル　˞シジ　ヌ˞マ˞スカー　バ˞タヤン˞マー　˞ノー˞ルン [ʃi˞ʤiɸu̥tʃi˞ru ˞ʃiʤi nu˞ma˞suka: ba˞tajam ˞ma: ˞no:˞ruŋ](煎じ薬を煎じて飲ませると腹痛は治る)。

シ˞ジマルン [ʃi˞ʤimaruŋ] 【自動】縮まる。縮む。縮こまる。縮んだ状態になる。ス˞ク˞マルン [su̥˞ku˞maruŋ](竦まる) ともいう。˞マイ˞ヌ　プ˞ストゥヌ˞　ナカー　˞シンダイ˞　シ˞ジマリ˞　クンティ　ウ˞ムータン˞ドゥ　マ˞ダ˞　シ˞ジマランバン [˞mai˞nu pu̥˞sutunu˞ naka: ˞ʃindai˞ ʃi˞ʤimari˞ kunti ʔu˞mu:tan˞du ma˞da˞ ʃi˞ʤimarambaŋ](先頭 < 前 > の人との間は次第に縮まってくると思ったが、まだ縮まらないわい)。シ˞ジマル˞　クトー　シ˞ジマルンドゥ　マー˞ビン　シ˞ジマレー˞　ミサムヌ [ʃi˞ʤimaru˞ ku̥to: ʃi˞ʤimarundu ma:˞biŋ ʃi˞ʤimare:˞ misamunu](縮まることは縮まるが、もっと縮まればよいのに)。シ˞ジマリ [ʃi˞ʤimari](縮まれ)。

シ˞ジ˞マルン [ʃi˞ʤi˞maruŋ] 【自動】静まる。若年層は、シ˞ズ˞マルン [ʃi˞ʤu˞maruŋ](静まる) という。カ˞ジヌ˞　シ˞ジ˞マルンケン　˞マティ　˞ベー˞ンドゥ　シ˞ジマラン˞バン [ka˞ʤinu˞ ʃi˞ʤi˞maruŋkem ˞mati ˞be:˞ndu ʃi˞ʤimaram˞baŋ](台風が静まるまで待っているが、静まらないよ)。˞キューズーナ　シ˞ジ˞マル　˞クトー　˞ナーヌ˞ヌ　˞シンダイ˞　シ˞ジ˞マリ　˞クーン [˞kju:ʤu:na ʃi˞ʤi˞maru ˞ku̥to: ˞na:nu˞nu ˞ʃindai˞ ʃi˞ʤi˞mari ˞ku:ŋ](今日中に < 台風が > 静まることはないが、次第に静まってくる)。

˞シジミチ [˞ʃiʤimitʃi] 【名】筋道。道理。パ˞ナ˞シェー　˞シジミチェー　˞タティティ　パ˞ナサバ˞ル　ワ˞カ˞ル [pa˞na˞ʃe: ˞ʃiʤimitʃe: ˞tatiti pa˞nasaba˞ru wa˞ka˞ru](話は筋道を立てて話してこそ < 話さばぞ > 理解できる < 分かる > ものだ)。

シ˞ジミラ˞リン [ʃi˞ʤimira˞riŋ] 【他動】片付けられる。下一段系動詞、シ˞ジミ˞ルン [ʃi˞ʤimi˞ruŋ](片付ける) の連用形に可能の助動詞˞ラ˞リン [˞ra˞riŋ](られる) が下接して形成された、可能動詞。˞クマー˞タンガ˞シン　シ˞ジミラ˞リン [˞kuma: ˞taŋga˞ʃiŋ ʃi˞ʤumira˞riŋ](ここは一人でも片付けられる)。

シ˞ジミ˞ルン [ʃi˞ʤimi˞ruŋ] 【他動】片付ける。静める。落ち着かせる。パ˞ニポー˞リ　˞シケー　˞ムヌバ　シ˞ジミ˞ルンテイ　˞ベー˞ヌンドゥ　ムッ˞トゥ˞　シ˞ジミララ˞ヌ [pa˞nipo:˞ri ˞ʃi̥ke: ˞munuba ʃi˞ʤimi˞runti ˞be:˞nundu mut˞tu˞ ʃi˞ʤimirara˞nu](撒き散らしてあるものを片付けようとしているが、ちっとも片付けられない)。シ˞ジミ˞　プサカー　シ˞ジミ˞ル　プ˞ス˞　タ˞ナ˞ミ [ʃi˞ʤimi˞ pu̥saka: ʃi˞ʤimi˞ru pu̥˞su˞ ta˞na˞mi](片付けたかったら、片付ける人を頼め)。シ˞ジミ˞レー　˞ミサムヌ [ʃi˞ʤi˞mire: ˞misamunu](片付ければいいのに)。˞パイ˞サ　シ˞ジミ˞リ [˞pai˞sa ʃi˞ʤimi˞ri](早く片付けろ < 片付けれ >)。

シ˞ジミルン [ʃi˞ʤimiruŋ] 【他動】縮める。短縮する。ン˞メーマ˞　シ˞ジミルンティ˞　ウ˞ムーン˞ドゥ　˞ヌー˞シ　サ˞バル˞　シ˞ジミラリ˞カヤー　シ˞ジミ　ッふィラン˞ノーレー [ʔm˞me:ma˞ ʃi˞ʤimirunti˞ ʔu˞mu:n˞du ˞nu:˞ʃi sa˞baru˞ ʃi˞ʤimirari˞kaja: ʃi˞ʤimi ffi:ran˞no:re:](少し縮めようと思うが、どうしたら縮められるかねえ。縮めてくれないかねえ)。˞バーヤ　シ˞ジミル˞クトー　ナ˞ラヌ˞ヌ　˞ワーヤ˞　シ˞ジミリ [˞ba:ja ʃi˞ʤimiru˞ ku̥to: na˞ranu˞nu ˞wa:ja˞ ʃi˞ʤimiri](私は縮めることは出来ないが、君は縮めろ)。シ˞ジメー˞　ミサムヌ [ʃi˞ʤime:˞ misamunu](縮めればよいのに)。

シ˞ジュームドゥル˞チ [ʃi˞ʤu:muduru˞ʧi] 【名】四十歳頃に視力が戻ること。シ˞ジュームドゥル˞チ　˞シー˞　マ˞ナ˞マー　パ˞ル˞ヌミー　˞イトゥ　˞トゥーサ˞リン˞ダー [ʃi˞ʤu:muduru˞ʧi ˞ʃi:˞ ma˞na˞ma: pa˞ru˞numi: ˞ʔitu ˞tu:sa˞rin˞da:](視力が四十戻りして、今は針の孔に糸を通すことが出来るよ)。

シ˞ジ˞リ [ʃi˞ʤi˞ri] 【名】硯。「Suzuri、スズリ (硯) 日本のインク壺」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。シ˞ジ˞リナ　˞シン　˞ッシティ　˞シン˞スブナ　イ˞リリ [ʃi˞ʤi˞rina ˞ʃiŋ ˞ʃʃiti ˞ʃin˞subuna ʔi˞riri](硯に墨を擦って墨壺に入れなさい)。

˞シジリカジリ [˞ʃiʤirikaʤiri] 【副】爛れて縮れ捩(ヨジレ)れるさま。ア˞チ˞ユーナ　ユ˞ダ˞リティ　˞ティー˞ヌ　˞カー˞ヤ　˞シジリカジリ　˞スン˞ケン　タ˞ダリティ˞　キ˞ムイ˞ツァーン [ʔa˞ʧi˞ju:na ju˞da˞riti ˞ti:˞nu ˞ka:˞ja ˞ʃiʤirikaʤiri ˞suŋ˞ken ta˞dariti˞ ki˞mui ˞tsa:ŋ](熱湯に茹でられて手の皮は縮れるほどに爛れて可哀相だ)。

シ˞ジ˜ルン **[ʃi˞ʤi˜ruŋ]**【自動】爛(タダ)れちぢれる (縮れる)。爛れよじれる (捩(ヨジ)れる)。ア˞チ˜ユーナ　ユ˞ダ˜リティ　˞ティー˜ヌ˜カー　シ˞ジ˜リ　パリ˞ナー˜ヌ [ʔa˞ʧi˜juːna ju˞da˜riti ˞tiː˜nu ˜kaː ʃi˞ʤi˜ri pari˞naː˜nu](熱湯で茹でられて手の皮が爛(タダ)れ縮れて破れていってしまった)。シ˞ジラ˜ヌ [ʃi˞ʤira˜nu](爛れ縮れない)。フ˞キ˜ユーナ　タ˞ク˜ヌ　˜ティー　イ˞ル˜カー　˜カー　シ˞ジ˜ルン [ɸu˞ki˜juːna ta˞ku˜nu ˜tiː ʔi˞ru˜kaː ˜kaː ʃi˞ʤi˜ruŋ](沸騰した湯に蛸の手を入れると皮が爛れ縮れる)。˞カー˜ヌ　シ˞ジ˜ル　˜クトー　˞ナー˜ヌ [˞kaː˜nu ʃi˞ʤi˜ru ˜kuto: ˞naː˜nu](皮が爛れ縮れることは無い)。シ˞ジ˜レー　˜ミサムヌ [ʃi˞ʤi˜reː ˜misamunu](爛れ縮ればよいのに)。

˞シスクン **[˞ʃisu̥kuŋ]**【他動】叩いて躾ける。厳しく躾ける。礼儀作法を身につけさせる。「しつく＜下二段活用＞」の四段活用動詞化したもの。˞シシキルン [˞ʃiʃi̥kiruŋ](厳しくしつける。処罰して教える) ともいう。˞ドゥー˜ヌ　ッ˞ふァー　シスクンティ˜　ウムーカー　˜ドゥーシル　˞シスク˜　プ˞スンマー　シシカサラヌ　シシキ˜　プサー　˞ナーン˜タンティン　˜アイ　サ˞バル˜　ナル [˞duː˜nu f˞fa: ʃisu̥kunti ˜ʔumuːka: ˜duːʃiru ˞ʃisuku˜ pu˞summa: ʃiʃi̥kasaranu ʃiʃi̥ki˜ pu̥sa: ˞naːn˜tantiŋ ˜ʔai sa˞baru˜ naru](自分の子供を躾けようと思うなら自分で躾けるのであって、他人には躾けさせられない。躾けたくなくてもそうすべきである)。˞マー˜ビン　˞シシケー˜　ミサムヌ [˞maː˜biŋ ˞ʃiʃi̥keː˜ misamunu](もっと躾ければよいのに)。˜ドゥーシ　˞シシキ [˜duːʃi ˞ʃiʃi̥ki](自分で躾けろ)。ビ˞ケーヤ˜　ッ˞ふァ　シスクンドゥ˜　ブ˞ネーヤ˜　カ˞タ˜カ　シ˞ティ˜　イッ˞カ　シシカヌ [bi˞keːja˜ f˞fa ʃi̥sukundu˜ bu˞neːja˜ kḁ˞ta˜ka ʃi̥˞ti˜ ʔik˞ka ʃiʃi̥kanu](父親は子供を折檻(セッカン)するが、母親は庇(カバ)って＜味方になって＞、決して折檻しない)。˞シシキ˜　プサン [˞ʃiʃi̥ki˜ pu̥saŋ](折檻したい)。˞シスク˜　クトゥ [ʃisu̥ku˜ ku̥tu](折檻すること)。˞シシケー˜　ミサムヌ [˞ʃiʃi̥keː˜ misamunu](折檻すれば良いのに)。˞シシキ˜バ [˞ʃiʃi̥ki˜ba](折檻しろよ)。「為付けも無い奴を使うて面目を失う」『虎明本狂言・察化』の義。ッ˞ふァバ　シスクンティ　ベーン˜ドゥ　˞バン˜マー　˞シシゥカランバ　ワー˜シ　˞シシキッふィーリ [f˞faba ʃisu̥kunti beːn˜du ˞bam˜maː ˞ʃiʃi̥karamba waː˜ʃi ˞ʃiʃi̥ki ffiːri](子供を叩いて指導しようと思うが、私には叩いて指導出来ないから君で叩いて指導してくれ)。˞シスク˜　プス＜バス＞[˞ʃisu̥ku˜ pu̥su＜basu＞](叩いて指導するとき)。˞シシケー˜　ミサムヌ [˞ʃiʃi̥keː˜ misamunu](叩いて指導すればいいのに)。˞シシキ [˞ʃiʃi̥ki](叩いて指導しなさい)。

シ˞ズ˜クン **[ʃi˞ʤu˜kuŋ]**【自動】後へさがる。後ずさりする。退く。退出する。/ヘイヤー　ピナイパナヌ　ホー　マブルシュー　ヘイヤー　カンパナヌ　ウヤンガミ　ヘイヤー　ニガウカラ　シズカヘイヤー　ティジルカラ　ムドゥラ/(へいやー＜囃子＞鬚川御嶽の、ホー＜囃子＞守り神＜主＞　ヘイヤー＜囃子＞最高神の親神、ヘイヤー＜囃子＞願ってから退こう、ヘイヤー＜囃子＞手擦り合わせて退こう＜戻ろう＞)「ピナイウガン＜鬚川御嶽＞の歌 (豊年祭の歌)」『鳩間島古典民謡古謡集』。シ˞ズ˜キ　パルン　[ʃi˞ʤu˜ki paruŋ](後ずさりしていく)。シ˞ズ˜クンティ　˞スーンドゥ˜　シ˞ズカラ˜ヌ [ʃi˞ʤu˜kunti ˞suːndu˜ ʃi˞ʤukara˜nu](後ずさりしようとするが、後ずさり出来ない)。シ˞ズ˜ク　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [ʃi˞ʤu˜ku ˜ku̥to: na˞ra˜nu](後ずさりすることは出来ない)、シ˞ズ˜ケー　˜ミサムヌ [ʃi˞ʤu˜keː ˜misamunu](後ずさりすればいいのに)。シ˞ズ˜キ [ʃi˞ʤu˜ki](後ずさりせよ)。

シ˞ズ˜マルン **[ʃi˞ʤu˜maruŋ]**【自動】静まる。落ち着く。平静になる。カ˞ジフケー˜　ユネン˞バー˜キナー　シ˞ズ˜マルンティ　シ˞タヌ˜　シ˞ズマラン˜バン˞ナー [ka˞ʤiɸukeː˜ junem˞baː˜kinaː ʃi˞ʤu˜marunti ʃi̥˞tanu˜ ʃi˞ʤumaram˜ban˞naː](台風＜風吹き＞は夕方までにはおさまる＜静まる＞と言ったが、まだ収まらない＜静まらない＞ねえ)。˞カイシ˜ヌ　˜アトー　シ˞ズマリ˜　パ˞ヤー˜ンドゥ　˞ナン˜ヌ　シ˞ズ˜マル　˜クトー　ウ˞クリス [˞kaiʃi˜nu ˜ʔato: ʃi˞ʤumari˜ pa˞jaːn˜du ˞nan˜nu ʃi˞ʤu˜maru ˜kuto: ʔu˞kurisu](吹返しの後は静まり早いが、荒波が静まることは遅れる)。˞パー˜ク　シ˞ズ˜マレー　˜ミサムヌ [˞paː˜ku ʃi˞ʤu˜mareː ˜misamunu](早く静まればよいのに)。ウ˞ヤーラン˜ドーシ　シ˞ズ˜マリ [ʔu˞jaːran˜doːʃi ʃi˞ʤu˜mari](大声で騒がないで落ち着け＜静まれ＞)。

シ˞ズミ˜ルン **[ʃi˞ʤumi˜ruŋ]**【他動】片付ける。整理する。落ち着かせる。˞ヤーン˜ナカ　シ˞ズミ˜ルンティ　˞スンドゥ˜　シ˞ズミララヌ [˞jaːn˜naka ʃi˞ʤumi˜runti ˞sundu˜ ʃi˞ʤumirara˜nu](部屋＜家の中＞を片付けようとするが、片付けられない)。˜クマ　シ˞ズミ˜ル　プ˞ソー　ター˜ヤ [˜kuma ʃi˞ʤumi˜ru pu̥˞soː taː˜ja](ここを片付ける人は誰か)。シ˞ズミ˜レー　˜ミサムヌ [ʃi˞ʤumi˜reː ˜misamunu](片付ければ

良いのに)。˞パー˞ク　シ˞ズミ˞リ [˞paː˞ku ʃi˞ʤumi˞ri](早く片付けろ)。

シ˞ズ˞ムン [ʃi˞ʤu˞muŋ] 【他動】1片付ける。整理する。落ち着かせる。˞ヤー˞ヌ　˞ナカー　シ˞ズ˞ムンティ　˞ベー˞ンドゥ　˞タンガ˞シェー　シ˞ズマラン˞バ＜シ˞ズミララン˞バ＞　˞マー　タン˞ガ　シ˞ズ˞ム　プ˞ス˞　ヤ˞ラシ [˞jaː˞nu ˞naka: ʃi˞ʤu˞munti ˞beːn˞du ˞taŋga˞ʃe: ʃi˞ʤumaram˞ba＜ʃi˞ʤumiraram˞ba＞ ˞ma: taŋ˞ga ʃi˞ʤu˞mu pu̥˞su˞ ja˞raʃi](家の中を片付けようとしているが、一人では片付けられないから、もう一人片付ける人を寄越せ)。シ˞ズミ˞プサカー　˞ドゥーシ　シ˞ズ˞ミ [ʃi˞ʤumi˞ pu̥saka: ˞duːʃi ʃi˞ʤu˞mi](片付けたかったら自分で片付けろ)。˞ドゥーシ　シ˞ズ˞メー　˞ミサムヌ [˞duːʃi ʃi˞ʤu˞meː ˞misamunu](自分で片付ければよいのに)。2手の中に握る。ミー˞ソー˞マンツァン　˞ティーナ　シ˞ズマ˞シ　パ˞ラ˞シバ [miː˞soː˞mantsan ˞tiːna: ʃi˞ʤuma˞ʃi pa˞ra˞ʃiba](米味噌をほんの僅かでも手の中に握らせて行かせなさい＜握らせて行かせてやりなさい＞)。

シ˞ズラ˞スン [ʃi˞ʤura˞suŋ] 【他動】ずり下ろす。ずらす。˞ナイシマーニ　シ˞ズラ˞スンティ　ウ˞ムー˞ヌ　シ˞ズラサラン˞バ　ッ˞サーラー˞　シ˞ズラ˞シ [˞naiʃimaːni ʃi˞ʤura˞sunti ʔu˞muː˞nu ʃi˞ʤurasaram˞ba s˞saːraː˞ ʃi˞ʤura˞ʃi](縦横にずらせようと思うが、ずらされないので下方にずらせ)。シ˞ズラ˞ス　˞ピンマー　ッ˞サーラー˞　シ˞ズラ˞シェー　˞ミサムヌ [ʃi˞ʤura˞su ˞pimma: s˞saːraː˞ ʃi˞ʤura˞ʃeː˞misamunu](ずらせる時は下方へずらせばよいのに)。シ˞ズラ˞シ　˞ミサン [ʃi˞ʤura˞ʃi ˞misaŋ](ずらしてよい)。

シ˞ズ˞リ　ウ˞ティ˞ルン [ʃi˞ʤu˞ri ʔu˞ti˞ruŋ] 【連】ずり落ちる。ずれてさがる。滑りって落ちる。˞ウーナイヌ　スー˞カー　˞カー˞ラー　シ˞ズ˞リ　ウ˞ティ˞ルン [˞ʔuːnainu suː˞ka: ˞kaː˞raː ʃi˞zu˞ri ʔu˞ti˞ruŋ](大地震が起きると＜すると＞、瓦はずり落ちる)。

シ˞ズ˞リウトゥン [ʃi˞ʤu˞riʔutuŋ] 【自動】ずり落ちる。ずれさがる。滑り落ちる。˞ナイ˞ヌ　˞スー˞カー　˞カー˞ラー　シ˞ズ˞リウトゥンティ　ス˞クタヌ˞　シ˞ズ˞リ　ウ˞タン˞シェン [˞nai˞nu ˞suː˞ka: ˞kaː˞raː ʃi˞ʤu˞riʔutunti su̥˞kutanu˞ ʃi˞ʤu˞ri ʔu˞taŋ˞ʃeŋ](地震が起きると瓦がずり落ちると聞いたが、ずり落ちなかった)。

シ˞ズ˞ルン [ʃi˞ʤu˞ruŋ] 【自動】ずり落ちる。ずり下がる。垂れ下がる。滑り落ちる。「しずる＜垂る＞下二段」の転訛したものか。フ˞ク˞ベー　シ˞ズリ˞ティ　˞キン˞マー　フ˞キン˞ギサバ　シ˞ズラサン˞ヨーニ　ギッ˞ティ˞　シ˞ミ˞リ [ɸu̥˞ku˞beː ʃi˞ʤu˞riti ˞kim ˞maː ˞ɸu̥˞kiŋ˞gisaba ʃi˞ʤuraɲ˞joːni git˞ti˞ ʃi˞mi˞ri](帯がずり下がって、きものは抜け落ちそうだから、ずり下がらないようにギュッと引き締めなさい)。˞フッカ˞シ　˞パルカー　フ˞ク˞ベー　シ˞ズ˞ルンダー　シ˞ズ˞ル　˞ピンマー　˞ヨーンナー˞　ア˞ラ˞キ [˞ɸu̥kka˞ʃi ˞paruka: ɸu̥˞ku˞beː ʃi˞ʤu˞runda: ʃi˞ʤu˞ru ˞pimma: ˞joːnnaː˞ ʔa˞ra˞ki](力んで走ると帯はずり下がるから、ずり下がるときはゆっくり歩け)。シ˞ズ˞レー　˞ミサムヌ [ʃi˞ʤu˞reː ˞misamunu](ずり下がればいいのに)。シ˞ズリ˞リ [ʃi˞ʤuri˞ri](ずり下がれ)。フ˞ク˞ベー　ギッ˞ティ˞　シ˞マン˞カー　シ˞ズ˞ルンダ　シ˞ズラン˞　ヨーニ　˞シミバ [ɸu̥˞ku˞beː git˞ti˞ ʃi˞maŋ˞ka: ʃi˞ʤu˞runda ʃi˞ʤuraŋ˞ joːni ˞ʃimiba](帯はぎゅっと締めないとずり下がるから、ずれないように締めなさい)。ン˞メーマ˞　シ˞ズ˞リ　˞ベー [ʔm˞meːma˞ ʃi˞ʤu˞ri ˞beː](少しずり下がっている)。シ˞ズ˞ル　フ˞ク˞ベー　シ˞ミ˞ヌ　˞ヨー˞パジ [ʃi˞ʤu ˞ru ɸu̥˞ku˞beː ʃi˞mi˞nu ˞joː˞paʤi](ずれる帯は締め方が弱いはずだ)。

˞シズン [˞ʃiʤuŋ] 【他動】1煎じる。薬効のある動植物を湯で煮出す。「煎、センズ」『色葉字類抄』の転訛したもの。ナ˞ツァー˞ラ　˞シジ　ヌ˞マ˞スン [na˞tsaː˞ra ˞ʃiʤi nu˞ma˞suŋ](海人草を煎じて飲ませる)。ナ˞ツァー˞ラ　˞シズンティ　˞ベー˞ンドゥ　シ˞ザラ˞ヌ [na˞tsaː˞ra ˞ʃiʤunti ˞beː˞ndu ʃi˞ʤara˞nu](海人草を煎じようとしているが、煎じられない)。˞ナビナー　˞シジ　˞ミサカー　˞シズ　˞クトー　ナルン˞ダー [˞nabina: ˞ʃiʤi ˞misaka: ˞ʃiʤu ˞ku̥to: narun˞daː](鍋で煎じて良ければ煎じることは出来るよ)。ウ˞リ˞シ　˞シジェー　˞ミサムヌ [ʔu˞ri˞ʃi ˞ʃiʤe: ˞mi-damunu](それで煎じれば良いのに)。˞パー˞ク　˞シジバ [˞paː˞ku ˞ʃiʤiba](早く煎じなさいよ)。サ˞ギフチ˞ル　˞シズンティ　ウ˞ムーン˞ドゥ　ムッ˞トゥ˞　シ˞ザラ˞ヌ [sa˞giɸutʃi˞ru ˞ʃiʤunti ʔu˞muːn˞du mut ˞tu˞ ʃi˞ʤara˞nu](下げ薬を煎じようと思うが、ちっとも煎じられない)。˞シズ　˞ムノー　˞パー˞ク　˞シジ [˞ʃiʤu ˞muno: ˞paː˞ku ˞ʃiʤi](煎じるものは早く煎じよ)。˞マー˞ビン　˞シジェー　˞ミサムヌ [˞maː˞biŋ ˞ʃiʤe: ˞misamunu](もっと煎じればよいのに)。2豚の脂肉を油鍋で焼いて脂肪を抽出する。絞り出す。˞オー˞ヌ　˞アバ　˞シズン [˞ʔoː˞nu ˞ʔaba ˞ʃiʤuŋ](脂肉を焼いて脂を抽出する。煎じ出す)。

˞シタ [˞ʃi̥ta] 【名】舌。シ˞タ˞ヌ　˞ヤムン [ʃi̥˞ta˞nu ˞

jamuŋ](舌が痛い＜病む＞)。シ˩タ˥ヌ　˩ニー˥ヌ　˩カーラカン˥ケンナー　ク˩トゥムニ˥バ　イ˩ジ˥　ヌーヤ　ウ˩レー [ʃi̥˩ta˥nu ˩niː˥nu ˩kaːrakaŋ˥kenna: ku̥˩tumuni˥ba ʔi˩ɕi˥ nuːja ʔu˩reː](舌の根が乾かぬうちに別のことを＜異物言い＞言って、何だこれは)。˥シタ　ン˩ザ˥スン [˥ʃi̥ta ʔn˩ʥa˥suŋ](舌を出す。イダ˩リー [ʔida˩riː]＜まあ汚い＞といって、陰で人をばかにする。˥アガヤー [˥ʔagajaː]＜しまった＞と照れ隠しをする)。

˥シタ [˥ʃi̥ta] 【名】下。歌謡語。/パトゥマナカムリ　パリヌブリ　クバヌ　シタニ　パリヌブリ　ハイヤヨーティバ　カイダキ　ティトゥルトゥ　テンヨー　マサティ　ミグトゥ/(鳩間中岡＜ナカムリ＞に駆け上って、＜囃子＞南の方はといえば、美しい古見の連山＜岳々＞が手に取るようで、誠に見事である)(鳩間中岡＜ナカムリ＞)。

シ˩ダーシダー˥シ [ʃi˩daːʃida:˥ʃi] 【副】涼しく。ひんやりとして気持ちよく。涼やかに。˩キーヌ　ッサー˥ラー　シ˩ダーシダー˥シ　カ˩ジヌ˥　フキティ　イッ˩ケナ˥　ピ˩ラ˥ケーン [˩kiːnu ssaː˥ra: ʃi˩daːʃidaː˥ʃi ka˩ɕinu˥ ɸu̥kiti ʔik˥kena˥ pi˩ra˥keːŋ](木の下は涼やかに風が吹いて非常に涼しい)。

シダー˩シダー˥シ [ʃida:˩ʃida:˥ʃi] 【副】ひんやりと。涼しく。爽やかに。清清しく。「すずすず＜涼涼＞、心もすずすずとして『玉塵抄』」の義。ナ˩チヌ˥　ユ˩ネン˥マー　シ˩ダーシダー˥シ　カ˩ジヌ˥　フク　˥トンナール　プ˩ソー˥　ア˩ツァマル˥タ [na˩ʧinu˥ ju˩nem˥ma: ʃi˩daːʃida:˥ʃi ka˩ɕinu˥ ɸu̥ku ˥tonnaːru pu̥˩soː˥ ʔa˩ʦamaru˥ta](夏の夕方は、涼しく風の吹くところに＜ぞ＞人は集まった)。

シ˩ダースン [ʃidaːsuŋ] 【他動】お洒落をする。着飾る。化粧をする。身なりを整える。装飾を施す。「仕出し」『三体詩抄二ノ二』、「Xidaxi. シダシ (為出し)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ミ˩ドーン˥ッふァー　シ˩ダーシティ˥　ア˩サビン　パッ˥タ [mi˩doːŋ˥ffa: ʃi˩daːʃi̥ti˥ ʔa˩sabim pat˥ta](女の子はおしゃれをして遊びにいった)。シ˩ダーサン˥タンティン　˥ミサンドゥ　シ˩ダースンティ　ベー [ʃi˩daːsan˥tantim ˥misandu ʃi˩daːsunti beː](おしゃれをしなくても良いが、おしゃれをしようとしている)。シ˩ダース˥　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [ʃi˩daːsu˥ pu̥˩soː˥ bu˩raːnu](おしゃれをする人はいない)。シ˩ダーシェー˥　ミサムヌ [ʃi˩daːʃeː˥ misamunu](おしゃれをすればいいのに)。シ˩ダーシ˥バ [ʃi˩daːʃi˥ba](おしゃれをしなさい)。˩キュー˥ヤ　シ˩ダーシティ　マー˥　パ˩ル˥ワ [˩kjuː˥ja ʃi˩daːʃi̥ti maː˥ pa˩ru˥wa](今日はお化粧をして何処へ行くのか)。ブ˩ドゥルシンカーナーメーメー˥　シ˩ダースンティ　シー　ベーン˥ドゥ　˩タンガ˥シェー　シ˩ダーサランバ˥　シ˩ダース˥　プ˩ス˥　タ˩ナ˥ミ [bu˩duruʃiŋka: naːmeːmeː˥ ʃi˩daːsunti ʃiːbeːn˥du ˩taŋga˥ʃeː ʃi˩daːsaramba˥ ʃi˩daːsu˥ pu̥˩su˥ ta˩na˥mi](踊り手達＜「踊り臣下」の義。踊り仲間＞は各自で化粧をしようとしているが、一人では化粧できないので、化粧する人を頼め)。˩マー˥ビン　シ˩ダーシェー˥　ミサムヌ [˩maː˥biŋ ʃi˩daːʃeː˥ misamunu](もっと化粧すればよいのに)。˩パーレー˥　フニ　シ˩ダースン [˩paːreː˥ɸuni ʃi˩daːsuŋ](爬竜船を磨いて美しく飾る＜装飾を施す＞)。

シ˩ター˥マ [ʃi̥˩taː˥ma] 【名】1小さな舌。ア˩ガッふァー˥マー　シ˩ター˥マ　ン˩ザ˥シティ　˩シー˥バ　サ˩ドゥリ˥　ブ˩リン˥ギササー [ʔa˩gaffaː˥maː ʃi̥˩taː˥ma ʔn˩ʥa˥ʃi̥ti ˩ʃiː˥ba sa˩duri˥ bu˩riŋ˥gisa˩saː](赤子は小さな舌を出して、お乳を探っているようだよ)。2ヌ˩ドゥ˥ヌ　シ˩ター˥マ [nu˩du˥nu ʃi̥˩taː˥ma](のどちんこ。口蓋垂。「喉の小舌」の義)。

シ˩ター˥マキー [ʃi̥˩taː˥makiː] 【名】 (植) 和名、エゴノキ。西表島北岸の山林に自生している。鳩間島の人の水田の上流一帯の山林から建築用材の˥キチ [˥kitʃi](垂木) 材として伐り出したり、薪炭用材として切り出したりした。シ˩ター˥マキーヤ　˩パイタ˥ナー　ミ˩チ˥　ブレーンダ　˥キチナーン　タ˩ム˥ヌナーン　シゥ˩カーリ　ブタ [ʃi̥˩taː˥makiːja ˩paita˥naː mi˩ʧi˥ bureːnda ˥ki̥ʧinaːn ta˩mu˥nunaːn si̥˩ka:ributaŋ](エゴノキは西表島には沢山あった＜満ちていた＞から、垂木にも薪にも使われていた)。

シターン˩ティ [ʃi̥taːn˩ti] 【副】すとんと。どんと。物が落ちるさま。物が落ちる音 (擬音語)。フ˩クンヌ˥　ナ˩ル˥ヌ　シターン˩ティ˥　ウ˩トゥタ˥ル　˥ヌーカヤーティ　ウ˩ダラ˥キ　˩ベー˥タ [ɸu̥˩kunnu˥ na˩ru˥nu ʃi̥taːn˩ti˥ ʔu˩tuta˥ru ˥nuːkajaːti ʔu˩dara˥ki ˩beː˥ta](福木の実がすとんと落ちたので、何だろうかと驚いていた)。

シ˩タ˥イ [ʃi̥˩ta˥i] 【感】でかした。うまくやった。うまく事が運んだ時に言う語。快哉を叫ぶ際に言うことば。「したりがほ＜得意顔＞『源氏物語 (葵)』」の義。シッ˩タ˥イ [ʃi̥t˩ta˥i](でかしたぞ) ともいう。シ˩タ˥イ (シッ˩タ˥イ) ビ˩コーンッふァヌ˥　マ˩レーン˥ドー [ʃi̥˩ta˥i(ʃi̥t˩ta˥i)bi˩koːŋffanu˥ ma˩reːn˥doː](でかしたぞ! 男の子が生まれたぞ!)。

シ˩タイヒャー [ʃi̥˩taiça:] 【感】やったぞ。でかしたぞ。

万歳。これはしたり。シッ゚タイヒャー [ʃi̥t゚taiça:] ともいう。シ゚タイヒャー゗ シキン カ゚カ゗レーン゚ドー [ʃi゚̥taiça:˥ ʃi̥kiŋ kḁ゚ka˥re:n゚do:](やったぞ! 万歳! 試験に合格したぞ < 受かったぞ >)。

シ゚タ゗ウチ [ʃi゚̥ta˥ʔutʃi] 【名】「舌打ち」。舌背と歯茎ではじき音を作り、鳴らすこと。感激した時や、残念、忌々しいという気持ちを表す。連続して鳴らすときは、「誠に素晴らしい」、゚誠に残念、誠に忌々しい」などの気持ちをあらわす。゗アブジェー シ゚タ゗ウチ ゚シー オール゗ヌ ゚ヌー゗シル キ゚ムフガン゗ ク゚トゥ゗ヌ ア゚ローッ゗タカヤー [˥ʔabuʤe: ʃi゚̥ta˥ ʔutʃi ゚ʃi: ʔo:ru˥nu ゚nu:˥ʃiru ki゚muhugaŋ˥ ku゚tu˥nu ʔa゚ro:t˥takaja:](お祖父さんは舌打ちをしておられるが、どのような不満 < 納得のいかない点。意に満たないこと > があられるのだろうか)。

シ゚タギ [ʃi゚̥tagi] 【名】下着。標準語からの借用語。ヤ゚ラ゗ベー シ゚タギ゗ キ゚ササン゗カー ゗バタ ゚ピーラ゗スン [ja゚ra˥be: ʃi゚̥tagi˥ ki゚̥sasaŋ˥ka: ˥bata ゚pi:ra˥suŋ](子供は下着を着せないとお腹を冷やしてしまう < 体調を崩す >)。パ゚ダ゗キン [pa゚da˥kiŋ](肌着、「肌衣」の義) ともいう。シ゚タギヌ ウイラ゗ ノー゚ンヤラバン パー゗ク キ゚サシ [ʃi゚̥taginu ʔuira˥ no: ゚ɲ jarabam pa:˥ku ki゚̥saʃi](下着の上から何でも早く着けさせなさい)。

シ゚ダキ [ʃi゚daki] (1)【副】先に。先頭に。゚ワー゗ シ゚ダキ゗ ナリ ゗パリ [゚wa:˥ ʃi゚daki˥ nari ˥pari](君は先になって行け)。シ゚ダキ゗ ケー プ゚ソーラ゗ トゥリバ [ʃi゚daki˥ ke: pu゚̥so:ra˥ turi](先に来た人から取れ)。 **(2)**【名】先頭。先。前。シ゚ダキヌ゗ プ゚ソー゗ ミ゚ドゥ゗ム ゚ヤッタ [ʃi゚dakinu˥ pu゚̥so:˥ mi゚du˥mu ゚jatta](先頭の人は女だった)。シ゚ダキヌ゗ パ゚ナシ゗トー ゚カウリ ブー [ʃi゚dakinu˥ pa゚naʃi˥to: ゚kauri bu:](最前 < 先 > の話とは変わっている)。゚バー゗ル シ゚ダキ ヤッタ [゚ba:˥ru ʃi゚daki jatta](私が先だった)。

シ゚タク [ʃi゚̥taku] 【名】したく (支度)。準備。用意。゚ユー゗ボンシタク シ゚ミルンティ パイ゗サ ゚ヤー゗ パ゚ラシ゗タ [゚ju:˥boŋʃi̥taku ʃi゚mirunti pai˥sa ゚ja:˥ pa゚raʃi̥˥ta](夕食の準備をさせるために早く家に帰した)。

シ゚タクバリ゗ムニ [ʃi゚̥takubari˥muni] 【名】どもり (吃り)。どもること。「舌・こわばり (強張り)・もの言い」の転訛したものか。ン゚ガニ [ʔŋ゚gani](吃音) ともいう。シ゚タクバリムニ゗ヌ ゚マービ スー゗カー ウ゚チ゗ルンティ゚ダー [ʃi゚̥takubarimuni˥nu ゚ma:bi su:˥ka: ʔu゚tʃi˥runti゚da:](どもりの真似をすると移る < 感染する > そうだよ)。

シ゚タクバリ゗ムヌ [ʃi゚̥takubari˥munu] 【名】吃音者。どもり (吃り)。ン゚ガナー [ʔŋ゚gana:](吃り。吃る人) ともいう。シ゚タクバリムヌ゗ヌ ゗ムネー シ゚キングリ゗サン [ʃi゚̥takubarimunu˥nu ˥mune: ʃi゚̥kiŋguri˥saŋ](吃音者の話は聞き取りにくい)。

シ゚タ゗クリカークリ ゚スン [ʃi゚̥ta˥kurika:kuri ゚suŋ] 【連】あれこれと用意する。いろいろと工面する。タ゚ビヌ゗ ス゚コール スンティ シー゗ シ゚タ゗クリカークリ ゚シー ベー [ta゚binu˥ su゚̥ko:ru sunti ʃi:˥ ʃi゚̥ta˥kurika:kuri ゚ʃi: be:](旅の準備をしようとして、あれこれ工面している)。

シ゚タ゗クルン [ʃi゚̥ta˥kuruŋ] 【自動】あれこれと用意する。あれこれ準備する。いろいろと工面する。工夫算段する。シ゚タ゗クリ ッ゚ふァースン [ʃi゚̥ta˥kuri f゚fa:suŋ](あれこれ工夫して作って食べさせる)。シ゚タ゗クルンティ ス゚ヌ゗ シ゚タクララ゗ヌ [ʃi゚̥ta˥kurunti su゚nundu˥ ʃi゚̥takurara˥nu](いろいろ工面しようとするが工面できない)。゗バー ゗ドゥーシェー シ゚タ゗クル ゗クトー ナ゚ラン゗バ ゚ワー゗ ドゥーシ シ゚タ゗クリ [˥ba: ˥du:ʃe: ʃi゚̥ta˥kuru ˥ku̥to: na゚ram˥ba ゚wa:˥ du:ʃi ʃi゚̥ta˥kuri](私は、自分では工面できないから、君は自分で工面しなさい)。シ゚タ゗クレー゗ミサムヌ [ʃi゚̥ta˥kure: ˥misamunu](工面すればよいのに)。

゗シタ ゚コー゗ルン [˥ʃi̥ta ゚ko:˥ruŋ] 【連】「舌が硬くなる < 舌強る >」の義。舌がもつれ < 縺れ > る。舌が回らなくなる。ろれつ < 呂律 > が回らなくなる。ドゥ゚ク゗ヌ ゚ピー゗ヤティ ゗シタ ゚コー゗リティ ゗ムニ ザ゚ラヌ [du゚ku˥nu ゚pi:˥jati ˥ʃi̥ta ゚ko:˥riti ˥muni ʔi゚ʤaranu](あまりにも寒いので呂律が回らない < 舌が硬くなってものが言えない >)。゚ピー゗ヤカー ゗シタ ゚コー゗ルン [゚pi:˥jaka: ˥ʃi̥ta ゚ko:˥ruŋ](寒かったら舌が硬くなる < 呂律が回らなくなる >)。

シ゚ダ゗スン [ʃi゚da˥suŋ] 【他動】孵化させる。雛をかえす < 孵す >。卵を温めて子 < 雛や虫 > にする。トゥ゚ルヌ コー゗マ シ゚ダ゗スンティ ゗シーナビ゚リ ベー゗ンドゥ ゚スー゗マリティ シ゚ディラ゗ヌ [tu゚runu ko:˥ma ʃi゚da˥sunti ˥ʃi:na bi゚ribe:˥ndu ゚su:˥mariti ʃi゚dira˥nu](鶏が卵を孵(カエ)そうとして、巣に座っているが巣守(スモリ)になって孵らない)。シ゚ダサ゗ヌ [ʃi゚dasa˥nu](孵さない)。シ゚ダシ゗ プサン [ʃi゚daʃi˥pusaŋ](孵したい)。シ゚ダ゗ス ゚コー゗マー ゚パー゗ク

シ˞ダ˜シェー　˜ミサムヌ [ʃi˞da˜su ˞ko:˜ma: mu:˞ru˜ ʃi˞da˜ʃe: ˜misamunu](孵す卵は早く孵せばよいのに)。˞パー˜ク　シ˞ダ˜シ [˞pa:˜ku ʃi˞da˜ʃi](早く孵せ)。

シ˞タ˜タカ [ʃi̥˞ta˜taka] 【副】したたか。ひどく。甚だしく。沖縄本島方言からの借用語。カ˞ツシンラ˜　シ˞タ˜タカ　˞モー˜キティル　ア˞ラヤー˜　ス˞ク˜リ　ミ˞ジ˜グラン　ス˞ク˜レー˞ダー [kḁ˞tsuʃinra˜ ʃi̥˞ta˜taka ˞mo:˜kitiru ʔa˞raja:n˜ su̥˞ku˜ri mi˞ʤi˜guran su̥˞ku˜re:˞da:](カツオ漁船からしたたか儲けて家も新築し、水タンク＜水倉＞も作ったのだよ)。シ˞タ˜タカ　˞ビー˜ブー [ʃi̥˞ta˜taka ˞bi:˜bu](ひどく酔っている)。シ˞タ˜タカ　˞スングラリティル˜　ナ˞キベー [ʃi̥˞ta˜taka ˞suŋguraritiru˜ na˞ki be:](ひどく殴られて＜ぞ＞泣いている)。

シ˞タダラ˜スン [ʃi̥˞tadara˜suŋ] 【他動】滴らせる。垂らす。水などを雫のように垂れ落とす。ナ˞マ˜シナ　シ˞タ˜ディ　シ˞タダラ˜シティ　カ˞ケー˜スンティ　˞スーヌンドゥ˜　シ˞タダラサラ˜ヌ [na˞ma˜ʃina ʃi̥˞ta˜di ʃi̥˞tadara˜ʃi̥ti kḁ˞ke:˜sunti ˞su:nundu˜ kḁ˞ke:sara˜nu](刺身に醤油＜下地＞を垂らして掻き混ぜようとするが、垂らされない)。シ˞タダラ˜スンティ　˜ウムーカ　˞パー˜ク　シ˞タダラ˜シ [ʃi̥˞tadara˜sunti ˜ʔumu:ka: ˞pa:˜ku ʃi̥˞tadara˜ʃi](垂らそうと思うなら早く垂らせ)。シ˞タダラ˜ス　˜ムノー　シ˞タダラ˜シェー　˜ミサムヌ [ʃi̥˞tadara˜su ˜muno: ʃi̥˞tadara˜ʃe: ˜misamunu](垂らすものは垂らせば良いのに)。

シ˞タ˜ダル [ʃi̥˞ta˜daru] (1)【名】滴り。しずく (雫)。ミ˞ジヌ˜　シ˞タダル˜ヌ　˜ウティクン [mi˞ʤinu˜ ʃi̥˞tadaru˜nu ˜ʔutikuŋ](水の滴り＜雫＞が落ちてくる)。**(2)**【助数】プ˞ス　シタ˜ダル [pu̥˞su ʃi̥ta˜daru](一滴)。フ˞タ　シタダル [ɸu̥˞ta ʃi̥tadaru](二滴)。

シ˞タ˜ダルアマダル [ʃi̥˞ta˜daruʔamadaru] 【副】たらたらと垂れ落ちるさま。垂れ流すほど。だらしなく垂れ下がっているさま。有り余るほど。シ˞タ˜ダルアマダル　˞シェーティ˜　カ˞タ˜ミ　˞パッ˜タ [ʃi̥˞ta˜daruʔamadaru ˞ʃe:˜ti ka˞ta˜mi ˞pat˜ta](たらたら垂れ流しながら担いで行った)。シ˞タ˜ダルアマダル　˞シェー˜ティ　キ˞シ　アー˜ク　˞キン˜マー　˞ミーヌッサ˜ヌ　ミ˞ララ˜ヌ [ʃi̥˞ta˜daruʔamadaru ˞ʃe:˜ti ki̥˞ʃi ʔa:˜ku ˞kim˜ma: ˞mi:nussa˜nu mi˞rara˜nu](だらしなく垂れ下がって着ている着物は見苦しくて見て居れない＜見られない＞)。

シ˞タダルカー˜ダル [ʃi̥˞tadaruka:˜daru] 【副】ずぶ濡れになったさま。びしょびしょに濡れたさま。˜アイニ　シ˞タダルカー˜ダル　˞シェー˜ティ　˞アーカン˜　ブ˞リ˜バ [˜ʔaini ʃi̥˞tadaruka:˜daru ˞ʃe:˜ti ˞ʔa:kam˜bu˞ri˜ba](あのようにずぶ濡れになったままにいるなよ)。

シ˞タ˜ダルン [ʃi̥˞ta˜daruŋ] 【自動】滴る。しずく (雫) となって落ちる。「淋、志太々留＜シタタル＞又毛留」『新撰字鏡』の転訛したもの。ア˞ミ˜ヌ　˜フーカー　˞ティン˜ゾーラ　ミ˞ジヌ˜　シ˞タ˜ダルンティ　ス˞クタヌ˜　シ˞タダラン˜バン [ʔa˞mi˜nu ˜ɸu:ka: ˞tin˜ʤo:ra mi˞ʤinu˜ ʃi̥˞ta˜darunti su̥˞kutanu˜ ʃi̥˞tadaram˜baŋ](雨が降ったら天井から水が滴ると聞いたが、滴らないよ)。シ˞タ˜ダリ　˞ベー [ʃi̥˞ta˜dari ˞be:](滴っている)。シ˞タ˜ダル　˜トンナー　バ˞キ˜チ　シ˞キ˜リ [ʃi̥˞ta˜daru ˜tonna: ba˞ki˜ʧi ʃi̥˞ki˜ri](水の滴る所にバケツを置きなさい)。ア˞マダラミジ˜ヌ　シ˞タ˜ダルン [ʔa˞madaramiʤi˜nu ʃi̥˞ta˜daruŋ](雨垂れ＜水＞が滴る)。˞キン˜マー　˞ゾーリティ˜　シ˞タ˜ダリ　˞アー˜ク [˞kim˜ma: ˞ʤo:riti˜ ʃi̥˞ta˜dari ˞ʔa:˜ku](着物はびしょ濡れになって水が滴っている)。ア˞マダラ˜ミジェー　シ˞タ˜ダリ　˞ベー˜ヌンドゥ　シ˞タダラ˜ヌティ　ア˞ジ　アー˜ク [ʔa˞madara˜miʤe: ʃi̥˞ta˜dari ˞be:˜nundu ʃi̥˞tadara˜nuti ʔa˞ʤi ʔa:˜ku](雨垂れ＜水＞は滴っているのに滴らないと言っている)。˜クマーラ　シ˞タ˜ダル　˜クトー　˞ナー˜ヌ [˜kuma:ra ʃi̥˞ta˜daru ˜kuto: ˞na:˜nu](此処から滴ることはない)。ン˞ベーマ˜　シ˞タ˜ダレー　˜ミサムヌ [ʔm˞be:ma˜ ʃi̥˞ta˜dare: ˜misamunu](少しは滴れば良いのに)。

シ˞タ˜ダレー [ʃi̥˞ta˜dare:] 【固】 (地名)。˞ユシ˜キダー [˞juʃi̥˜kida:](南ヨシキダ) とサ˞キンダー [sa˞kin-da:](崎田) の境界地点の海岸に、山から流れ出る水がシターンシターンと流れ落ちているところ。山の水がしたたり落ちている所から命名されたものであろう。˞ユシ˜キダタバルヌ　˞ター˜ヌ　シ˞ビナー˜ル　シ˞タ˜ダレーヤ　˜アル　˜スバナーヤ　ク˞メーヌ　ター˜ヌン　˜アン [˞juʃi̥˜kidatabarunu ˞ta:˜nu ʃi ˞bina:˜ru ʃi̥˞ta˜dare:ja ˜ʔaru ˜subana:ja ku˞me:nu ta:˜nuŋ ˜ʔaŋ](ヨシキダ田袋の最下手の田の尻にシタダレーはある。側には小浜家の田圃もある)。シ˞タ˜ダレーラ　ニ˞シェーキル˜　サ˞キンダー˜ティ　ア˞ズ˜ダー [ʃi̥˞ta˜dare:ra ni˞ʃe:kiru˜ sḁ˞kinda:˜ti ʔa ˞ʤu˜da:](シタダレーから北側をサキンダー＜崎田＞と言うのだよ)。˞ユシ˜キダタバルヌ　ニ˞シンタヌ˜　ク˞メーヌ　ター˜ヌ　シ˞ベー˜　シ˞タ˜ダレー

˜ナリ　˞ブー˜ミー [˞juʃi̥˜kidatabarunu ni˞ʃintanu˜ ku˞me:nu ta:˜nu ʃi˞be:˜ ʃi̥˞ta˜dare: ˜nari ˞bu:˜mi:](ユシキダ田袋の北側の小浜家の田圃の田尻はシタダレーになっているねえ)。

シ˞タックラ˜スン [ʃi̥˞takkura˜suŋ] 【他動】ぶん殴る。したたかに打つ。「したたかに懲らす」の義か。˜ドゥクナリ　˞ブー˜カー　シ˞タックラ˜シバ [˜dukunari ˞bu:˜ka: ʃi̥˞takkura˜ʃiba](あんまりひどかったらぶん殴れよ)。シ˞タックラ˜スンティ　シ˞タンティン˜　フ˞ドゥヌ　マイ˜ヤンダ　シ˞タックラサラ˜ヌ [ʃi̥˞takura˜sunti ʃi̥˞tantiŋ˜ ɸu˞dunu mai˜janda ʃi̥˞takkurasara˜nu](ぶん殴ろうと思っても背丈が大きいからぶん殴られない)。シ˞タックラシ˜プサカー　シ˞タックラ˜ス　プ˞スバ˜　タ˞ナ˜ミティ　シ˞タックラ˜シェー　˜ミサムヌ [ʃi̥˞takkuraʃi˜ pu̥saka: ʃi̥˞takkurasu˜ pu̥˞suba˜ ta˞na˜miti ʃi̥˞takkura˜ʃe: ˜misamunu](ぶん殴りたかったら、ぶん殴る人を頼んでぶん殴れば良いのに)。

˜シタ　˜ッスン [˜ʃi̥ta ˜ssuŋ] 【連】舌を刺す。舌を強く刺激する。腐敗してはいないが毒気が舌を刺すように感じる。ビ˞ローサ˜ヌ　˜シル　フ˞チ˜ナー　˞ペー˜ルカー　˜シタ　ッ˞サ˜リティ　˞ピー˜ワン˞ダー [bi˞ro:sa˜nu ˜ʃiru ɸu̥˞tʃi˜na: ˞pe:˜ruka: ˜ʃi̥ta s˞sa˜riti ˞pi:˜wan˞da:](クワズイモの汁が口に入る舌が刺されてえがらっぽい)。

シ˞タ˜ディ [ʃi̥˞ta˜di] 【名】醤油。「したぢ < 下地 >」の義。˞〜御無心ながらしたぢ < 下地 > が少しあらば」『東海道中膝栗毛』の転訛したもの。麦を搗いて糠を除き、一晩水に浸け、強めに煎った大豆を水洗いして一緒にこしき (甑) で蒸し、ニブク (稲掃筵) に寝かせて黄色い麹を造る。それを麹 (5 升) 対塩 (3 升) 対水 (6 升) の割合で甕に入れて仕込む。約 3 ヶ月間掻き混ぜながら醗酵させてシ˞タ˜ディ [ʃi̥˞ta˜di](下地。醤油) を仕上げた。˞シューセンゴバー˜ケー　˞コージ˜　タティティ　シ˞タ˜ディ　マ˞ラソーッ˜タン˞ダー [˞ʃu:ʃeŋgoba:˜ke: ˞ko:ɕi˜ tą̊titi ʃi̥˞ta˜di ma˞raso:t˜tan˞da:](終戦後までは麹をたてて醤油を醸造された < 生まられた > よ)。液を搾り取った残り滓を、シ˞タディ˜　ヌ˜カシ [ʃi̥˞tadi˜nu ˜kaʃi](醤油の滓) といった。シ˞タディ˜ヌ　˜カシ [ʃi̥˞tadi˜nu ˜kaʃi] は豚の餌にしたり、別の壷または小さな甕に詰めて泡盛を加え、炒り胡麻や花がつおを掛けてカ˞ティ˜ムヌ [ką̊˞ti˜munu](副食物。「糅て物」の義か) にした。˞ムン˜ヌ　˞コージバ˜　タティティ　シ˞タ˜ディ　タ˞ローッ˜タン [˞mun˜nu ˞ko:ɕiba˜ tą̊titi ʃi̥˞ta˜di ta˞ro:t˜taŋ](麦の麹をたてて醤油 < 下地 > を醸造され < 垂られ > た)。

シ˞タ˜ディカミ [ʃi̥˞ta˜dikami] 【名】醤油を入れる甕。シ˞タ˜ディカメーラ　シ˞タ˜ディ　フ˞ミ˜　クー [ʃi̥˞ta˜dikame:ra ʃi̥˞ta˜di ɸu˞mi˜ ku:](醤油甕から醤油 < 下地 > を汲んでこい)。

シ˞タディ˜ヌ　˜カシ [ʃi̥˞tadi˜nu ˜ką̊ʃi] 【連】醤油の糟。醤油を絞った残り糟。漬物や味噌代用にしたり、調味料の代用に用いた。カ˞ティムヌ˜ヌ　˞ナーン˜カー　シ˞タディ˜ヌ　˜カシンツァン　ン˞ザ˜シバ [ką̊˞timunu˜nu ˞na:ŋ˜ka: ʃi̥˞tadi˜nu ˜kaʃintsan ʔn˞ɕa˜ʃiba](おかず < 御数 > が無ければ醤油の絞り糟でも出しなさいよ)。

シ˞タディ˜ヌ　ッ˞ふァ [ʃi̥˞tadi˜nu f˞fa] 【連】醤油糟を濾す籠。醤油を甕から汲み取る際に用いる糟を濾す壺状の籠。「下地の子」の義。シ˞タディ˜ヌ　ッ˞ふァヌ˜　ナ˞カー˜ラ　フ˞ダロー˜マシ　シ˞タディ　フ˞ミ˜バ [ʃi̥˞tadi˜nu f˞fanu˜ na˞ka:˜ra ɸu˞daro:˜maʃi ʃi̥˞ta˜di ɸu˞mi˜ba](醤油糟を濾す籠の中から小さな柄杓で醤油を汲みなさいよ)。

シ˞タティルン [ʃi̥˞tatiruŋ] 【他動】仕立てる。拵える。布を織る。˞プール˜キン　シ˞タティルンティ˜　ウ˞ムーン˜ドゥ　˞タンガ˜シェー　シ˞タティラランバン [˞pu:ru˜kiŋ ʃi̥˞tatirunti˜ ʔu˞mu:n˜du ˞taŋga˜ʃe: ʃi̥˞tarirarambaŋ](豊年祭用の着物を仕立てようと思うが、一人では仕立てられないわい)。ア˞ラキン˜　シ˞タティル˜　プ˞ソー　パー˜ク　シ˞タティレー˜　ミサムヌ [ʔa˞rakiŋ˜ ʃi̥˞tatiru˜ pu̥˞so: pa:˜ku ʃi̥˞tatire:˜ misamunu](新しい着物を仕立てる人は早く仕立てればよいのに)。˜ドゥーシ　シ˞タティ˜　ミサカー　˜ドゥーシ　シ˞タティリ [˜du:ʃi ʃi̥˞tati˜ misaka: ˜du:ʃi ʃi̥˞tatiri](自分で仕立ててよければ、自分で仕立てろ < れ >)。

シ˞タトゥン [ʃi̥˞tatuŋ] 【他動】仕立てる。拵える。布を織る。「したつ (下二段活用)、〜御屏風などあたりあたりしたてさせ給ふ」『源氏物語 < 若紫 >』の四段活用化したもの。シ˞タトゥンティ˜　ウムーカー　˜ドゥーシン　シ˞タタリンドゥ˜　シ˞タティ˜　ミサンティ　ア˞ゾーラン˜ユンダ　シ˞タトゥ˜　クトー　ナ˞ラ˜ヌ [ʃi̥˞tatunti˜ ʔumu:ka: ˜du:ʃiŋ ʃi̥˞tatarindu˜ ʃi̥˞tati˜ misanti ʔa˞ɕo:raŋ˜ junda ʃi̥˞tatu˜ ku̥to: na˞ra˜nu](仕立てると思えば自分でも仕立てられるが仕立ててよいと言われないので仕立てることが出来ない)。˜ドゥーシ　シ˞タテー˜　ミサムヌ [˜du:ʃi ʃi̥˞tate:˜ misamunu](自分で仕立てればよ

いのに)。シ˞タティ [ʃi̥˞tati](仕立てろ)。シ˞タティルン [ʃi̥˞tatiruŋ](仕立てる。新調する) と同じ。˥ブーキン　シ˞タトゥン [˥buːkiŋ ʃi̥˞tatuŋ](麻の着物を仕立てる＜新調する＞)。

˥シタニ [˥ʃi̥tani] 【副】ひたすら。もっぱら。一途に。「〜當土＜ヒタツチニ＞足踏み貫き〜。万、3295」の「直＜ひた＞」の転化したものか。˥シタニ　ク˞ヌ˥　シ˞グトゥバ　シーブンダ˥　フ˞カ˥ヌ　シ˞グトー　シーユーサヌ [˥ʃi̥tani ku˞nu˥ ʃi˞gutuba ʃiːbunda˥ ɸu̥˞ka˥nu ʃi˞guto: ʃiːjuːsanu](専らにこの仕事をしているので他の仕事はできない＜することが出来ない・し得ない＞)。ウ˞レー˥　シタニ　˞ターシグトゥ˥トゥ　パ˞タキシグトゥバ˥ル　˞シー˥　ケール　ビ˞チ˥ヌ　シ˞グトー　サンシェン [ʔu˞reː˥ ʃi̥tani ˞taːʃigutu˥tu pḁ˞takiʃigutuba˥ru ˞ʃiː˥ keːru bi˞ʧi˥nu ʃi˞guto: saŋʃeŋ](彼は一途に稲作＜田仕事＞と畑作をしてきたのだ。別の仕事はしなかった)。

シ˞タ˥フ [ʃi̥˞ta˥ɸu] 【名】1服装。衣装。みなり (身形)。シ˞タフヌ　カイ˥ヤン [ʃi̥˞taɸunu kai˥jaŋ](衣装が美しい)。タ˞ビシタ˥フ [ta˞biʃi̥ta˥ɸu](旅支度。旅行用の衣服を着て準備をすること)。ブ˞ドゥルシタフ [bu˞duruʃi̥taɸu](踊り支度。化粧をし、舞踊の衣装を着て出演準備を整えること)。よそおい (装い)。踊りの衣装 (コスチューム)。パ˞トゥ˥マナカムリヌ　ブ˞ドゥルシタフヌ˥　ス˞ディ˥ナー　カ˞ザケートゥ˥　ユ˞レーナー˥ル　アル˞ダー [pḁ˞tu˥manakamurinu bu˞duruʃi̥taɸunu˥ su˞di˥naː ka˞ʤakeːtu˥ ju˞reːnaː˥ru ʔaru˞daː](鳩間中岡節舞踊衣装のスディナは加治工家と寄合家に＜ぞ＞あるのだよ)。2支度。用意。準備。イ˞ソーシタフバ　シェー˥ティ　˞アーク˥ヌ　˞スー˥ヌ　˥ピスカー　タ˞ク˥　トゥリン　˥パルカヤー [ʔi˞soːʃi̥taɸuba ʃeː˥ti ˞ʔaːku˥nu ˞suː˥nu ˥pi̥sukaː tḁ˞ku˥turim ˥parukajaː](漁の支度をしているが、潮が干ると蛸を獲りに行くのかなあ)。支度。準備。˞パイ˥ター　˥パル　シ˞タ˥フ　˞スンティ　ベー [˞pai˥taː ˥paru ʃi̥˞ta˥ɸu ˞sunti beː](南端＜西表島＞に行く準備をしようとしている)。

シ˞ダフ˥カ [ʃi˞daɸu̥˥ka] 【名】(植) はまゆう (浜木綿)。はまおもと (浜万年青)。石垣方言のサディフカの母音 [i] と [a] の音位転倒した形。海岸の砂浜に自生する。子供はシダフカの幹を切り、外皮を剥いでビニール状の内皮を取り出し、風船を作って遊んだ。母親達はシダフカの幹を約 20 センチの長さに切って割り、その皮でお握りを包んだり、弁当を包むのに用いた。˞マイヌ˥イー　ス˞ブ˥リティ　シ˞ダフ˥カシ　ッ˞ス˥ミバ [˞mainu˥ʔiː su˞bu˥riti ʃi˞daɸu̥˥kaʃi s˞su˥miba](米飯を握って浜木綿の皮で包みなさいよ)。

シ˞ダ˥フカー [ʃi˞da˥ɸu̥kaː] 【名】(植) ハマオモト。はまゆう (浜木綿)。海岸の砂地に自生する。葉は炙って二つにはがし、葉肉部を腫れ物に当てて貼り、膿みの吸出し薬に用いた。幹の真っ白い皮を剥がして握り飯などの食べ物を載せる皿の代用にしたり、子供は、その外皮の肉質部を剥がしてビニールのような内皮を取り出し、膨らまして風船に作って遊んだ。

シ˞ダマ˥スン [ʃi˞dama˥suŋ] 【他動】涼しくさせる。涼しませる。「涼ませる」の義。「いと暑き日東の釣殿に出で給ひてすずみ (涼み) 給ふ『源氏物語　常夏』」の他動詞化したもの。˥アッツァティ　˞キー˥ヌ　ッ˞サーン˥ナー　ア˞サバシティ˥　シ˞ダマ˥スンティ　˞ベー˥バ　˞ワンヌン˥　ッ˞ふァ　サーリ˥　キー　シ˞ダマシ [˥ʔattsati ˞kiː˥nu s˞saːn˥naː ʔa˞sabaʃi̥ti ʃi˞dama˥sunti ˞beː˥ba ˞wannun˥ f˞fa saːri˥kiː ʃi˞dama˥ʃi](暑いので、木の下で遊ばして涼しませようとしているので、貴方も子供を連れてきて涼しませなさい)。シ˞ダマシ˥　プサンドゥ　シ˞ダマ˥ス　˥トンヌ　˞ナーン˥ダー　シ˞ダマサラ˥ヌ [ʃi˞damaʃi˥ pu̥sandu ʃi˞dama˥su ˥tonnu ˞naːn˥daː ʃi˞damasara˥nu](涼しませたいが、涼しませる所がないので涼しませられない)。シ˞ダマ˥シェー　˥ミサムヌ [ʃi˞dama˥ʃeː ˥misamunu](涼しいませればよいのに)。

シ˞ダ˥ミ [ʃi˞da˥mi] 【名】1(動) カタツムリ (蝸牛)。若年層は、シ˞ダ˥メー [ʃi˞da˥meː](カタツムリ＜蝸牛＞) ともいう。シ˞ダ˥メー　˞ナーン˥パー　ッ˞ふァイッツァースン [ʃi˞da˥meː ˞naːm˥paː f˞faittsaːsuŋ](カタツムリは菜っ葉を食い荒らす)。ア˞ミ˥ヌ　˥フーカー　シ˞ダミ˥ヌ　˥シ˞ディ˥ルン [ʔa˞mi˥nu ˥ɸuːkaː ʃi˞dami˥nu ʃi˞di˥ruŋ](雨が降るとカタツムリが孵化する)。2縮みこまって黙るさま。イ˞ザリター˥　シ˞ダ˥ミ　˥ナリティ　フ˞チェー˥　フ˞ラッカヌ [ʔi˞ʤaritaː˥ ʃi˞da˥mi ˥nariti ɸu̥˞ʧeː˥ ɸu˞rakkanu](叱られたので、縮みこまったきりカタツムリになって口を開かない)。

シ˞ダミ˥ヌ　グ˞ル [ʃi˞dami˥nu gu˞ru] 【連】カタツムリの殻。シ˞ダミ˥ヌ　グ˞ル˥　ア˞ツァ˥ムン [ʃi˞dami˥nu gu˞ru˥ ʔa˞tsa˥muŋ](カタツムリの殻を集める)。

シ˞ダミ˥ヌ　グ˞ル　アー˥シ [ʃi˞dami˥nu gu˞ru ʔaː˥ʃi] 【連】児童の遊戯の一つ。カタツムリの殻を突き合

わせて潰しあう遊び。殻の底の突起部分を先に潰されたほうが負けとする遊び。ヤ˹ラ˺ベー　シ˹ダミ˺ヌ　グ˹ル　アー˺シ　˹シー˺　ア˹サビ　ベー [ja˹ra˺be: ʃi˹dami˺nu gu˹ru ʔa:˺ʃi ˹ʃi:˺ ʔa˹sabi be:](子供はカタツムリの殻を突き合わせて潰しあう遊びをしている)。

シ˹ダ ミ˺ヌ　ッ˹ふ ァ イ ッ ク ル [ʃi˹dami˺nu f˹faikkuru] 【連】カタツムリの食い残し。˹ナーンパー˺ヤ　シ˹ダミ˺ヌ　ッ˹ふァイックルル˺　ヌ˹カ˺リ　˹ベー [˹na:mpa:˺ja ʃi˹dami˺nu f˹faikkururu˺ nu˹ka˺ri ˹be:](菜っ葉はカタツムリの食い荒らししか残っていない＜食い残りぞ残っている＞)。

シ˹ダ˺ムン [ʃi˹da˺muŋ]【自動】涼む。涼しい風に当って暑さをしのぐ。˹キー˺ヌ　ッ˹サーン˺ナー　シ˹ダ˺ムンティ　˹ベー˺バ　シ˹ダミ˺プサカー　˹ワンヌン˺　キー　シ˹ダ˺ミバ [˹ki:˺nu s˹sa:n˺na: ʃi˹da˺munti ˹be:˺ba ʃi˹dami˺ pu̥saka: ˹wannuŋ˺ ki: ʃi˹da˺miba](木の下で涼もうとしているので、涼みたければ君も来て涼みなさいよ)。˺クナーテー　シ˹ダマラン˺バ　シ˹ダ˺ム　プ˹ソー˺　カイナカナー　シ˹ダ˺メー　˺ミサムヌ [˺kuna:te: ʃi˹damaram˺ba ʃi˹da˺mu pu̥˹so:˺ kainakana: ʃi˹da˺me: ˺misamunu](ここでは涼まれないから、涼む人は木陰の中に入って涼めばよいのに)。

シタ˹ラー [ʃita˹ra:] 【感】まあ汚い! ああ汚い! 不潔! 下品! シタ˹リー [ʃita˹ri:](汚い!) ともいう。シタ˹ラー˺　アイブ　˺ムヌヌ　ッ˹ふァーリン˺　トゥ˹レー [ʃi̥ta˹ra:˺ ʔaibu ˺mununu f˹fa:rin˺ tu˹re:](まあ汚い! あんなものが食べられるものか)。

シ˹タ˺ラー [ʃi̥˹ta˺ra:]【名】時期。期間。プ˹スシタ˺ラー　ウ˹リバ˺　ドゥ˹シバ　シー˺　ム˹チ˺レーティ　˹アークタン˺ドゥ　ウ˹レー　ヌー˺シタカヤー [pu̥˹suʃita˺ra: ʔu˹riba˺ du˹ʃiba ʃi:˺ mu˹ʧi˺re:ti ˹ʔa:kutan˺du ʔu˹re: nu:˺ʃi̥takaja:](一時期はその人を友人にして睦ましく付き合っていたが、＜その後＞どうしたんだろうか)。

˺シタラカタラ [˺ʃi̥tarakatara]【副】じくじく。湿った状態を強調して表す。ABCDBC 型の重言。ナ˹ガアミヌ˺　フイ　シ˹タラカタラ˺　シー　ミ˹ナ˺カーユン　ン˹ジララ˺ヌ [na˹gaʔaminu˺ ɸui ʃi̥˹tarakatara˺ ʃi: mi˹na˺ka:jun ʔn˹ʤirara˺nu](長雨が降って、じめじめじくじくして外 (庭) へも出られない)。

シ˹タラシタラ [ʃi̥˹taraʃi̥tara] 【副】たらたら。水など、液体の滴り落ちるさま。˹タン˺ゴーラ　ミ˹ジヌ˺　シ˹タラシタラ˺シ　˺ムリ　˹ベー [˹taŋ˺go:ra mi˹ʤinu˺ ʃi̥˹taraʃi̥tara˺ʃi ˺muri ˹be:](たごおけ＜担桶＞から水がたらたらと漏れている)。

シ˹タラ˺スン [ʃi̥˹tara˺suŋ] 【他動】名誉を傷つける。けなす (貶す)。くさす (腐す)。そしる (謗る)。˹ドゥーシタラ˺シ [˹du:ʃi̥tara˺ʃi](自分で自分の名誉を傷つけること)。˺アイニ　プ˹スバ˺　シ˹タラ˺スンティ　˹ベー˺ティ　˹カイ˺テー　プ˹スン˺　シ˹タラサ˺リティ　˹ザー˺パイ　˹シーベー [˺ʔaini pu̥˹suba˺ ʃi̥˹tara˺sunti ˹be:˺ti ˹kai˺te: pu̥˹suŋ˺ ʃi̥˹tarasa˺riti ˹ʣa:˺pai ˹ʃi:be:](あんなに他人を貶そうとしていて、逆に＜却って＞他人に貶されてメチャクチャに、ぶち壊しになっている)。ナ˹マラ˺スン [na˹mara˺suŋ](貶める。廃らす) ともいう。˺アイブ　˺クトゥ　˹スー˺カー　˺ドゥー　シ˹タラ˺スンダ　シ˹タラサン˺　スコー　˹シェー˺ティ　˹アー˺キ [˺ʔaibu ˺ku̥tu ˹su:˺ka: ˺du: ʃi̥˹tara˺sunda ʃi̥˹tarasan˺ su̥ko: ˹ʃe:˺ti ˹ʔa:˺ki](あんなことをすると自分を貶めるから、自分を貶めないようにしていなさい)。プ˹スバ˺　シ˹タラ˺ス　˺クトー　˺ドゥーン　シ˹タラ˺シ　˺ミサンティヌ　˺クトゥ [pu̥˹suba˺ ʃi̥˹tara˺su ˺ku̥to: ˺du:ŋ ʃi̥˹tara˺ʃi ˺misantinu ˺ku̥tu](他人を貶(オト)すことは自分も相手が貶していいことだ)。シ˹タラ˺シェー　˺ミサムヌ [ʃi̥˹tara˺ʃe: ˺misamunu](貶せばよいのに)。˺ドゥーシ　˺ドゥー　シ˹タラ˺シバ [˺du:ʃi ˺du: ʃi̥˹tara˺ʃiba](己で己を貶せよ)。

シ˹タラ˺スン [ʃi̥˹tara˺suŋ] 【他動】水を垂らす。˹タング˺ヌ　ミ˹ジェー˺　シ˹タラサン˺ドーシ　カ˹タ˺ミ [˹taŋgu˺nu mi˹ʤe:˺ ʃi̥˹tarasan˺do:ʃi ka˹ta˺mi](水担桶の水は垂らさないように担げ)。パ˹タ˺キナー　ミ˹ジ˺　シ˹タラ˺シ　˺ミサカー　シ˹タラ˺スンティ　ウ˹ムーン˺ドゥ　シ˹タラ˺スクトー　ナ˹ラン˺ツォー [pa˹ta˺kina: mi˹ʤi˺ ʃi̥˹tara˺ʃi ˺misaka: ʃi̥˹tara˺sunti ʔu˹mu:n˺du ʃi̥˹tara˺su ˺kuto: na˹ran˺tso:](畑に水を垂らしてよければ垂らそうと思うが、垂らすことは出来ないそうだ)。シ˹タラ˺シェー　˺ミサムヌ [ʃi̥˹tara˺ʃe: ˺misamunu](垂らせばよいのに)。ヤー˹ディン˺　シ˹タラ˺シ [ja:˹diŋ˺ ʃi̥˹tara˺ʃi](必ず垂らせ)。

シタ˹リー [ʃi̥ta˹ri:] 【感】ああ汚い! まあ不潔! シタ˹リー˺　ヤ˹ニヤ˺ヌ　ウ˹レー˺　カ˹サマラヌ [ʃi̥ta˹ri:˺ ja˹nija˺nu ʔu˹re:˺ ka˹samaranu](まあ汚い! 汚くてそれは掴めない)。まあ汚い。ああ汚い。シタ˹リー˺　ヌーヤ　ウ˹レー [ʃi̥ta˹ri:˺ nu:ja ʔu˹re:](まあ汚い。何だよ、これは)。

シ˹タリ˺ジー [ʃi̥˹tari˺ʤi:] 【名】湿地。水はけ (水捌

け) が悪く、じくじく湿って耕作するのに適しない土地。ク˞ヌ˞　パ˞タ˞ケー　˞タウ˞　ヤ˞ルンダ˞　シ˞タリ˞ジー　˞ナリティ　ア˞ミ˞ヌ　˞フーカー　˞カイサラ˞ヌ [ku˞nu˞ pḁ˞ta˞ke: ˞tau˞ ja˞runda˞ ʃi̥˞tari˞ ʤi: ˞nariti ʔa˞mi˞nu ˞ɸu:ka: ˞kaisara˞nu](この畑は窪地だから湿地になって、雨が降ると耕されない)。

シ˞タリ˞ルン [ʃi̥˞tari˞ruŋ] 【自動】廃れる。シ˞タ˞ルン [ʃi̥˞ta˞ruŋ](廃る。下二段) ともいう。シゥ˞カイカテヌ　ナーン˞カー　˞ドン˞ゴー　シ˞タリ˞ルンティ　ア˞ズヌ˞　ク˞レー˞　シ˞タリラン˞サー [sï̥kaikat-inu na:ŋ˞ka: ˞doŋ˞go: ʃi̥˞tari˞runti ʔa˞ʤunu˞ ku˞re:˞ ʃi̥˞tariran˞sa:](使い勝手がないと道具は廃れるというが、これは廃れないさ＜よ＞)。ク˞ヌ˞　ウター　ム˞カ˞シェー　パ˞ヤーッタ˞ヌ　マ˞ナ˞マー　シ˞タリ˞ナー˞ヌ [ku˞nu˞ ʔuta: mu˞ka˞ʃe: pa˞ja:tta˞nu ma˞na˞ma: ʃi̥˞ta˞ri ˞na:˞nu](この歌は、昔は流行ったが、今は廃れてしまった)。˞オーパ˞ヤー　シ˞タリ˞ルˆクトー　˞ナーン˞　パジ [˞ʔo:pa˞ja: ʃi̥˞tari˞ru ˞kṵto: ˞na:m˞paʤi](こんなに早く廃れることは無いはずだ)。

シ˞ダ˞ル [ʃi˞da˞ru] 【名】すだれ (簾) の総称。˞ユシ˞キ [˞juʃi̥˞ki](ススキ) やタ˞キ [tạ˞ki](竹) を編んで軒に立て、夏の暑い陽光を遮るもの。1˞ユシ˞キシダル [˞juʃi̥˞kiʃidaru](ススキの簾)。ススキの簾は、スルメイカを日干し乾燥する際にも使用された。2タ˞キシダル [tạ˞kiʃidaru](竹簾)。竹簾の甍覆いとして利用された。タ˞キシダル˞　フミティ　˞ガヤヤーヌ　ティ˞ジヌ˞　イ˞ラ˞カ　カ˞バ˞シティ　シ˞ミ˞ナーシ　˞カキ　ピ˞キシミリ [tạ˞kiʃidru˞ ɸumiti ˞gajaja:nu ti˞ʤinu˞ ʔi˞ra˞ka ka˞ba˞ʃi̥ti ʃi˞mi˞na:ʃi ˞kạki pi̥˞kiʃimiri](竹簾を編んで茅葺屋根の甍を覆い被せて、˞フー˞カラジナ [˞ɸu:˞karaʤina](棕櫚の黒い繊維で綯った強力な綱) の締め縄で˞マーリザ˞ヌ　ティ˞ブ˞ク (甍を固定する手矛) に引っ掛けて強く引き絞めなさい)。3すのこ。蒸し器のすのこ (簀子)。˞アーラシパクヌ˞　ス˞ク˞ナー　シ˞ダ˞ル　シ˞キティ˞　ア˞ラシコーシ　アーラシ˞バ [˞ʔa:raʃipakunu ˞ṣṵ˞ku˞na: ʃi˞da˞ru ʃi̥˞kiti˞ ʔa˞raʃiko:ʃi ʔa:raʃi˞ba](蒸し箱の底にすのこを敷いて蒸し菓子を蒸しあげなさいよ)。

˞シタルムノー　ア˞ラ˞ヌ [˞ʃi̥tarumuno: ʔa˞ra˞nu] 【成】こうしてはおれない。このままにしてはおけない。「為たるものではない」の義。シ˞タルムノー˞　ア˞ラ˞ヌ　˞バン˞ヌン　パ˞ラバ˞ル　ヤ˞ル [ʃi̥˞tarumuno:˞ ʔa˞ra˞nu ˞ban˞num pa˞raba˞ru ja˞ru](こうしてはおれない。私も行かなくてはならない)。

シ˞タ˞ルン [ʃi̥˞ta˞ruŋ] 【自動】1湿る。˞マー˞ソー　シ˞タリ　ヤッ˞サンダー　ア˞ミ˞ヌ　˞フーカー　シ˞グ˞　シ˞タ˞ルン˞ダー [˞ma:˞so: ʃi̥˞tari jas˞sanda: ʔa˞mi˞nu ˞ɸu:ka: ʃi˞gu˞ ʃi̥˞ta˞run˞da:](塩は湿りやすいから、雨が降るとすぐ湿るよ)。˞マース˞ヌ　シ˞タ˞ル　˞ピンマー　˞ティダナー　˞プシティ　シ˞タラサン˞スコー　タ˞ブイリ˞ヨー [˞ma:su˞nu ʃi̥˞ta˞ru ˞pimma ˞tidana: ˞pṵʃiti ʃi̥˞tarasan˞ sṵko: ta˞buiri˞jo:](塩が湿る時は日＜太陽＞に干して湿らさないように保存しなさい)。˞マース˞ヌ　シ˞タ˞レーラ　シゥ˞カーラヌ [˞ma:su˞nu ʃi̥˞ta˞re:ra sï̥ka:ranu](塩が湿ったら使えない)。2濡れて滴る。しずくとなって落ちる。ガ˞マヌ　ティン˞ゾーラ　ミ˞ジヌ˞　シ˞タ˞リ˞ウティクン [ga˞manu tin˞ʤo:ra mi˞ʤinu˞ ʃi̥˞ta˞ri ˞ʔutikuŋ](洞穴の天井から水滴＜水＞が滴り落ちてくる)。

シ˞タ˞ルン [ʃi̥˞ta˞ruŋ] 【自動】廃れる。衰える。流行らなくなる。「廃、スタル」『類聚名義抄』の転訛したもの。トゥ˞キ˞ヌ　タ˞トゥ˞カー　˞キン˞マー　シ˞タ˞ルンティ　ウ˞ムータ˞ヌ　シ˞タラン˞バン [tṵ˞ki˞nu ˞tạtuka: ˞kim˞ma: ʃi̥˞ta˞runti ʔu˞mu:ta˞nu ʃi̥˞taram˞baŋ](時が経つと着物は廃れると思ったが、廃れないわい)。シ˞タ˞ル　˞クトー　˞ナーン˞ティ　ウ˞ムータ˞ヌ　˞メー　シ˞タ˞リ　˞ナー˞ヌ [ʃi̥˞ta˞ru ˞kṵto: ˞na:n˞ti ʔu˞mu:ta˞nu ˞me: ʃi̥˞ta˞ri ˞na:˞nu](廃れることはないと思ったが、もう廃れてしまった)。シ˞タ˞レー　˞ミサムヌ [ʃi̥˞ta˞re: ˞misamunu](廃れればいいのに)。

シダ˞ロー˞マ [ʃida˞ro:˞ma] 【名】小さな簾。シダ˞ロー˞マ　˞フミティ　˞ウン˞ナ　イ˞ガ˞　プシバ [ʃida˞ro:˞ma ˞ɸumiti ˞ʔun˞na ʔi˞ga˞ pṵʃiba](小さな簾を編んで、それに烏賊を干しなさいよ)。

シ˞タン˞バイ [ʃi̥˞tam˞bai] 【名】準備すること。用意すること。航海用語で、stand by(用意せよ、の号令) の転訛したもの。鳩間島では、多くの場合˞カツオ漁船の出漁準備」の意味に用いられた。˞アツァー　˞タイパン˞ズネー　ン˞ジリ˞バ　ウ˞ヌ˞　シ˞タン˞バイ＜ス˞コール＞　˞シー˞ヨー [˞ʔatsa: ˞taipan ˞ʤune: ʔn˞ʤiri˞ba ʔu˞nu˞ ʃi̥˞tam˞bai＜su˞ko:ru＞ ˞ʃi: ˞jo:](明日は台湾曽根へ出漁するから、その準備しなさいよ)。

˞シチ [˞ʃi̥ʧi] 【名】七。シ˞チ˞ニン [ʃi̥˞ʧi˞niŋ](七年)。シ˞チンガ˞チ [ʃi̥˞ʧiŋgaka˞ʧi](七月)。シ˞チニ˞チ [ʃi̥˞ʧini ˞ʧi](七日)。ウ˞キ˞ナー　˞パレーラー　シ˞チ˞ニン

ナ˩リ˥ス [ʔu˩ki˥naː ˥pareːraː ʃi̥˩ʧi˥nin na˩ri˥su](沖縄へ行ってから七年経つ＜になる＞)。

˥シチ [˥ʃi̥ʧi] 【名】1時節。季節。ウ˩ルズン˥ヌ　˥シチ　˩ペーリ˥ブー [ʔu˩rudʑun˥nu ˥ʃi̥ʧi ˩peːri˥ buː](初夏の季節に入っている)。ウ˩ルズン˥ヌ　˥シチ　˩ペー˥レーンダ　˥メー　ピ˩ラ˥コー　˩ナー˥ヌ [ʔu˩rudʑun˥nu ˥ʃi̥ʧi ˩peː˥reːnda ˥meː pi˩ra˥koː ˩naː˥nu](春＜初夏＞の季節に入ったから、もう、寒気はない)。2時期、頃。ク˩ヌ　シチェー˥　ヌンティル　ヤ˩ル˥ユー　パ˩ナシキ˥　カ˩カ˥リティ　ナ˩ラン˥サー [ku˩nu ʃi̥ʧeː˥ nuntiru ja˩ru˥juː pa˩naʃi̥ki˥ kạ˩ka ˥riti na˩ran˥saː](此の頃は何故か風邪に罹ってたまらないよ)。3折。時。度。際。回。ク˩ヌ　シチェー˥　メー　イッ˩ケナ　ワー　ヤッ˥カイ　˥ナリ　フ˩コーラサト ユー [ku˩nu ʃi̥ʧeː˥ meː ʔik˩kena waː jak˥kai ˥nari ɸụ˩koːrasa˩juː](この度は、もう大変に貴方の世話＜厄介＞になって有難うございます)。時節。˩バン˥ターン　ウ˩ヤ˥キプス　ナ˩ラ˥リ　˥シチン　˥クンカヤー [˩ban˥taːŋ ʔu˩ja˥kipụsu na˩ra˥ri ˥ʃi̥ʧiŋ ˥kuŋkajaː](僕らにも金持ちになれる時節がくるかねえ)。

˥シチ [˥ʃi̥ʧi] 【名】せつまつり (節祭)。旧暦八、九、十月のいずれかのミ˩ジニー [mi˩ʤiniː](壬、己亥)、シ˩チ˥ニー [ʃi̥˩ʧi˥niː](戊戌) の˩ピュール [˩pjuːru](神事のひより。「日選り」の義か) に友利御嶽で執り行われた˩ズンガチニン˥ガイ [˩dʑuŋgaʧiniŋ˥gai](十月願い) の時に、各家庭では節祭が執り行われた。シ˩チフル˥マイ [ʃi̥˩ʧiɸuru˥mai](節振る舞い。節祭のご馳走) を作っていただく。家の内外を清掃し、祓い清め、シ˩マナカヌ˥パマ [ʃi˩manakanu˥pama](島中の浜) より東の裏海岸の岩の上に自生しているシ˩チ˥カザ [ʃi̥˩ʧi˥kadʑa](節蔓。和名、ヒメノアズキ＜雌の節蔓。˩ミー˥カザ [˩miː˥kadʑa]＞。和名、カニクサ＜雄の節蔓＞。ビ˩キカザ [bi˩kikadʑa]) を採取してきて柱、立ち木、水瓶などに結わえた。五寸ほどに切った節蔓を家族全員の耳に掛けてシチフルマイを食した。家の四隅の軒には˩ユシ˥キ [˩juʃi̥˥ki](ススキ) で作った˥サン [˥saŋ](魔除け) と桑の小枝を挿し、浜砂を屋敷に撒いて厄払いとした。ヤ˩マトゥ˥ソンガチ [ja˩matu˥soŋgaʧi](新暦の正月。大和正月)、ウ˩ブ˥ソンガチ [ʔu˩bu˥soŋgaʧi](旧暦の正月) に対して節祭りを、グ˩マ˥ソンガチ [gu˩ma ˥soŋgaʧi](小正月) といい、グ˩ソー˥ヌ　˥ソンガチ [gu˩soː˥nu ˥soŋgaʧi](後生の正月) とも称していた。節祭りには、あの世の先祖の暮らし向きや、その家の一年中に起こる事の物音が聞こえるといって茅で造った鍋蓋を被り、井戸の側で息を凝らして聞き耳をたてた。ある者は墓の見えるところでシ˩チ˥ビー [ʃi̥˩ʧi˥biː](節の火。イ˩ニンビー [ʔi˩nimbiː]＜意念火＞) を見に行ったものである。シ˩チ˥カザ　˥ミンナー　カ˩キラン˥カー　グ˩ソーン˥　プスン　˥ムティ　パ˩ラ˥リンティ˩ダー [ʃi̥˩ʧi˥kadʑa ˥minnaː kạ˩kiraŋ˥kaː gu˩soːm˥ pụsum ˥muti pa˩ra˥rinti˩daː](節蔓を耳に掛けないと後生の人に持ち去られるってよ)。

˥シチ [˥ʃi̥ʧi] 【名】湿気。˥クマー　˩タウ˥　ナリ　˩ブンダ　ヤー˥ヤ　シ˩チヌ˥　イ˩リヤッ˥サン [˥kumaː ˩tau˥ nari ˩bunda jaː˥ja ʃi̥˩ʧinu˥ ʔi˩rijas˥saŋ](此処は窪地になっているから、家は湿気が入りやすい)。シ˩チヌ　スー˥ワン [ʃi̥˩ʧinu suː˥waŋ](湿気が強い)。シ˩チヌ˥　ク˩マ˥ルン　˥トンマー　˩ビョー˥ザーン [ʃi̥˩ʧinu˥ ku˩ma˥run ˥tommaː ˩bjoː˥dʑaːŋ](湿気のこもる所は病がちである)。

˥シチ [˥ʃi̥ʧi] 【名】質。品物を抵当にして金を借りること。˩キン˥バ　˥シチ　イ˩リティ˥　ジン　カ˩リ˥　クー [˩kim˥ba ˥ʃi̥ʧi ʔi˩riti˥ ʤiŋ ka˩ri˥kuː](着物を質に入れてお金を借りてこい)。

˥シチ [˥ʃi̥ʧi] 【名】1土。土壌。シ˩チ˥ニー [ʃi̥˩ʧi˥niː](つちのえ＜戊＞、つちのと＜己＞)。シ˩チ˥ヌ ＜˩ジー˥ヌ＞　˥フキ　˩ブンダ˥　ム˩ヌスク˥ロー　イッ˩ケン　ノー˥ルン [ʃi̥˩ʧi˥nu＜˩ʤiː˥nu＞ ˥ɸụki ˩bunda˥ mu˩nusụku˥roː ʔik˩ken noː˥ruŋ](土が肥えているから作物は非常に良く実る)。シ˩チ˥ヌ　˥カン [ʃi̥˩ʧi˥nu ˥kaŋ](土の神)。˥クチティ　ム˩ー˩ル˥　シチ　˥ナリ　˩ナー˥ヌ [˥kụʧiti muː˩ru˥ ʃi̥ʧi ˥nari ˩naː˥nu](朽ちて全部土になってしまった)。2熟語の構成要素として用いられる。シ˩チマチ˥ル [ʃi̥˩ʧimaʧi˥ru](土地の祭り＜祈願＞)。シ˩チ˥ニー [ʃi̥˩ʧi˥niː](十干の戊＜つちのえ＞。己＜つちのと＞)。

˥シチ [˥ʃi̥ʧi] 【名】病気の一種。˩シー˥ラ [˩ʃiː˥ra](寒気 <cold>・風雨 <wind and rain>　昔の人は、体が風雨にさらされる事が後日病気を引き起こす誘引と考える人が多かった。『医学沖縄語辞典』) と同じ。˥シチ　ク˩マ˥ルン [˥ʃi̥ʧi ku˩ma˥ruŋ](湿地帯で長時間居住したり、仕事をしたりすると冷気が体内に入って罹患する＜冷気がこもる＞) という。腹が太鼓のように腫れて死ぬことがあるという病気。

ジ˩チ [ʤi˩ʧi] 【名】実。真実。本当。ウ˩レー˥　ユ˩ク˥シェー　ア˩ラ˥ヌ　ジ˩チヌ˥　クトゥ [ʔu˩reː˥ ju˩ku ˥ʃeː ʔa˩ra˥nu ʤi˩ʧinu˥ kụtu](それは嘘ではない。真

実のことである)。ジ˞チェー　ピンガ˥シ　˞ナー˥ヌ [ʤi˞ʧe: piŋga˥ʃi ˞na:˥nu](実は＜本当は＞逃がしてしまったのだ)。まこと。事実。実際。ジ˞チェー˥ウ˞ヌ˥　パ˞ナ˥シェー　˞フン˥トー　ア˞ラン˥シェン˥ツォー [ʤi˞ʧe:˥ ʔu˞nu˥ pa˞na˥ʃe: ˞ɸun˥to: ʔa˞raŋ˥ʃen˥tso:](実は、その話は本当ではなかったそうだ)。

シ˞チ˥カザ [ʃi̥˞ʧi˥kaʤa] 【名】(植) 和名、ヒメノアズキ (雌の節蔓)。カニクサ (雄の節蔓)『石垣方言辞典』。鳩間島の裏海岸の岩原に自生している。節祭りの時、シ˞マナカヌ˥　パ˞マ [ʃi˞manakanu˥ pa˞ma](島中の浜) より東側に自生しているのを採って、家の柱、臼類、杵類、農具類、家具類、瓶類。箸類、庭の立ち木等に結わえた。五寸ほどの長さに切って家族全員の耳に掛けてシ˞チフル˥マイ [ʃi̥˞ʧiɸuru˥mai](節祭りのご馳走) を食べた。シ˞チ˥カザ　˥ミンナー　カ˞キラン˥カー　グ˞ソーン˥プスン　ム˞シトゥラ˥リンティ˞ダー [ʃi̥˞ʧi˥kaʤa ˥minna: kḁ˞kiraŋ˥ka: gu˞so:m˥pusum mu˞ʃitura˥rinti˞da:](節蔓を耳に掛けておかないと後生の人に毟りとられるってよ)。

シ˞チ˥カザ [ʃi̥˞ʧi˥kaʤa] 【名】節祭りに用いる葛。節葛。節葛で巻いてあるものは現世人間の所有物である印とされ、祖霊がそれらをあの世へ持ち去ることは無いと信じられている。和名、カニクサ (雄株)、ヒメノアズキ (雌株)。必ず、シ˞マナカヌ˥　パマ [ʃi˞manakanu˥ pama](島中の浜) より東の岩原に生えているシチカザを採取することになっていた。シ˞チ˥ヌ　˥ピンマー　シ˞チ˥カザシ　˞キーム˥トゥン　˥パラーン　˞ドングペン˥グン　マ˞キ˥シキティ　プ˞スヌ˥　ミンナーン　˥ガキ　シ˞キ˥シタ [ʃi̥˞ʧi˥nu ˥pimma: ʃi̥˞ʧi˥kaʤaʃi ˞ki:mu˥tum ˥para:n ˞doŋgupeŋ˥gum ma˞ki˥ʃi̥kiti pu̥˞sunu˥ minna:ŋ ˥gaki ʃi̥˞ki˥ʃi̥ta](節祭りの日には、節葛で庭木の幹も、柱も道具類も巻きつけておいて、人の耳にも掛けておいた)。

シ˞チギョー [ʃi̥˞ʧigjo:] 【名】卒業。明治 29 年 6 月 16 日に大川尋常小学校鳩間分校が設置され、「明治 33 年 4 月、初メテ本分校第 1 回卒業生 3 人ヲ出セリ」(「鳩間小学校沿革」) とあるから、その年に標準語から借用された語であろう。˞ワー˥　メー　イ˞チル　ガッ˥コー　シ˞チギョー˥　シ˞タ˥カヤー˥メー [˞wa:˥ me: ʔi˞ʧiru gak˥ko: ʃi̥˞ʧigjo:˥ ʃi̥˞ta˥kaja: me:](君は、もう、いつ＜ぞ＞学校を卒業したのかね、もう)。シ˞チギョー　シェーラ　ナン˥ニン　ナ˞ル˥ワ [ʃi̥˞ʧigjo: ʃe:ra nan˥nin na˞ru˥wa](卒業して何年になるか)。

シチジュー˞サン˥ヌ　˥ヨイ [ʃi̥ʧiʤu:˞san˥nu ˥joi]【連】七十三歳の生年祝い。「古稀の祝い」に相当する生年祝い。マ˞ナマ˥ヌ　プ˞ソー˥　ナ˞ガイキ　ソー˥ルンダ　シチジュー˞サン˥ヌ　˥ヨイ　˞ソー˥ル　プ˞ソー　オーラ˥ヌ [ma˞nama˥nu pu̥˞so:˥ na˞gaiki so:˥runda ʃi̥ʧiʤu:˞san˥nu ˥joi ˞so:˥ru pu̥˞so: ʔo:ra˥nu](今の人は長生きされるから七十三歳の生年祝いをされる人はいない)。˞アー˥ヤ　シチジュー˞サン˥ヌ　˞ヨイ˥ヤー　パ˞トゥ˥マナーティル　˞ソーッ˥タ [˞ʔa:˥ja ʃi̥ʧiʤu:˞san˥nu ˞joi˥ja: pḁ˞tu˥mana:tiru ˞so:t˥ta](お父さんの七十三歳の生年祝いは鳩間島でなさった＜行われた＞)。

シ˞チズー˥ワン [ʃi̥˞ʧiʤu:˥waŋ] 【連】湿気が強い。シ˞チズー˥ワン　˥トンマー　タ˞ティグリ˥サン [ʃi̥˞ʧiʤu:˥wan ˥tomma: ta˞tiguri˥saŋ](湿気の多いところは生活し＜立ち＞にくい)。

シ˞チ˥ナビ [ʃi̥˞ʧi˥nabi] 【名】どなべ (土鍋)。カ˞ニナビ [ka˞ninabi](鉄鍋。「金属鍋」の義) の対義語。ヤ˞ミプス˥ヌ　˞カイヤー˥　シ˞チ˥ナビナー　ミス˞コーミスコー˥シ　タ˞キ˥バ [ja˞mipu̥su˥nu ˞kaija:˥ ʃi̥˞ʧi˥nabina: misu̥˞ko:misu̥ko:˥ʃi tḁ˞ki˥ba](病人のお粥は土鍋で注意深く用心して炊きなさい)。

シ˞チナン˥カ [ʃi̥˞ʧinaŋ˥ka] 【名】七七日忌。四十九日の法事。ナ˞ナナン˥カ [na˞nanaŋ˥ka](七七日忌)。普通は、˥シンズク [˥ʃinʤuku](四十日の法事) という。

シ˞チ˥ニー [ʃi̥˞ʧi˥ni:] 【名】干支の戊＜つちのえ＞、己＜つちのと＞。シ˞チ˥ニーナール　˞ニン˥ガイ　˞ソーッ˥タ [ʃi̥˞ʧi˥ni:na:ru ˞niŋ˥gai ˞so:t˥ta](十干の戊に祈願をされた)。十干の第五と第六の日。ム˞ヌスクル˥ヌ　˞ニン˥ガイ　ヤ˞ルンダ˥　シ˞チ˥ニーナ　ア˞ティティ˥　ニガイ　˞ヨー˥ルカー　˥ミサン [mu˞nusu̥kuru˥nu ˞niŋ˥gai ja˞runda˥ ʃi̥˞ʧi˥ni:na ʔa˞titi˥ ni-gai ˞jo:˥ruka: ˥misaŋ](農作物＜物作り＞の祈願だから、戊の日に当てて祈願されたらよい)。

シ˞チニン˥キ [ʃi̥˞ʧiniŋ˥ki] 【名】七年忌。死後七年目の法事。四十九日忌、百日忌と同様の仕方で行われる法事。˞ニンキソッ˥コー [˞niŋkisok˥ko:](年忌焼香) の中でユ˞ノー˥レー [ju˞no:˥re:](死後一年目の法事。焼香)。˞サンニン˥キ [˞sanniŋ˥ki](三年忌の法事。焼香) に次いで行われる法事。˞ジュー˥サンニンキ [˞ʤu:˥sanniŋki](十三年忌の焼香)、ニジューグ˞ニンキ [niʤu:gu˞niŋki](二十五年忌の法事。焼香)、サンジュー˞サンニン˥キ [˥sanʤu:˞sanniŋ˥ki](三十三

年忌の法事。焼香) で法事は終了する。ˈアーˀヤー　シˈチニンキˀヤ　イˈチ　ヤッタˀメー [ˈʔaːˀjaː ʃi̥ˈtʃiniŋkiˀja ʔiˈtʃijattaˀmeː](お父さんの七年忌はいつだったかなあ、もう)。シˈチニンˀケー　シˈマˀシェーン [ʃi̥ˈtʃiniŋˀkeː ʃiˈmaˀʃeːŋ](七年忌はすませた)。

シˈチˀヌ　ˀカン [ʃi̥ˈtʃiˀnu ˀkaŋ] 【連】土の神様。土地神。シˈチˀヌ　ˀカンニン　ˈニンˀガイ　ッˈサリˀ　ウˈヤーミˀサ　ッˈサリティル　インクニガイヤー　ソーˀル [ʃi̥ˈtʃiˀnu ˀkannin ˈniŋˀgai sˈsariˀ ʔuˈjaːmiˀsa sˈsaritiru ʔiŋkunigaijaː soːˀru](土の神様にも祈願申し上げ、畏れ多いと畏まり、お詫び申し上げて神職の隠居願いの祈願はなされる)。

シˈチˀヌ　ˀナル [ʃi̥ˈtʃiˀnu ˀnaru] 【連】季節の果物。季節に実る木の実。ˈソーˀランナー　シˈチˀヌ　ナˈルˀバ　ムˈルムルˀナー　カˈザルタン [ˈsoːˀranna: ʃi̥ˈtʃiˀnu naˈruˀba muˈrumuruˀna: kaˈʤarutaŋ](お盆には季節の木の実をムルムルの供物に供えた)。

シˈチˀヌ　ˀムヌ [ʃi̥ˈtʃiˀnu ˀmunu] 【連】季節のもの。魚介、蔬菜、果物の旬のもの。クˈレーˀ　シˈチˀヌ　ˀムヌ　ヤˈルンダˀ　イッˈケナˀ　ンˈマーˀン [kuˈreːˀ ʃi̥ˈtʃiˀnu ˀmunu jaˈrundaˀ ʔikˈkenaˀ ʔmˈmaːˀŋ](これは旬のものだから非常に美味しい)。

シˈチパジˀリ [ʃi̥ˈtʃipaʤiˀri] 【名】季節外れ。旬でない果物や産物。シˈチパジリˀヌ　ˀムノー　ンˈマー　ナーˀヌ [ʃi̥ˈtʃipaʤiriˀnu ˀmunoː ʔmˈmaː naːˀnu](季節外れのものは美味しくない)。

シˈチˀビ [ʃi̥ˈtʃiˀbi] 【名】毎月の祈願行事。神事を執り行う日。「節日」の転訛したもの。シˈキダˀチ　ˀズングニチヌ　ˀフカー　シˈチˀビシチビヌ　ˈニンガイˀヤー　ˈカンヌˀマイナー　ˀグシパナー　シˈキス [ʃi̥ˈkidaˀtʃi ˀʤuŋgunitʃinu ˀɸu̥ka: ʃi̥ˈtʃiˀbiʃi̥tʃibinu ˈniŋgai ˀja: ˈkannuˀmaina: ˀguʃipana: ʃi̥ˈkisu](朔日、十五日の他は、毎月の節日、節日の祈願には神前に神酒と初米を供える)。

シˈチˀビー [ʃi̥ˈtʃiˀbiː] 【名】祭祀。年中行事。毎月執り行われる村の祭祀。「せちにち (節日)」の転訛したもの。シˈチˀビシチビヌ　ˈニンガイˀヤー　ˀウガンナーティ　ˈコーˀパナー　シˈキˀタティティル　ˈニンˀガイ　ˈオーッˀタ [ʃi̥ˈtʃiˀbiʃitʃibinu ˈniŋgaiˀja: ˀʔuganna:ti ˈkoːˀpana: ʃi̥ˈkiˀ tą̊titiru ˈniŋˀgai ˈʔoːtˀta](年中行事の祈願は御嶽で線香と花米を供えて、香を焚き立てて祈願された)。

シˈチˀピー [ʃi̥ˈtʃiˀpiː] 【名】節祭りの夜に墓所のあたりに見える妖火。村人たちは、この妖火によって、その家の吉凶を占ったという。シˈチˀヌ　ユˈネンˀマー　バˈカーˀムンケーヤ　シˈチˀピー　ˀミルンティ　ˈマーリ　アークˀタ [ʃi̥ˈtʃiˀnu juˈnemˀma: baˈkaːˀmuŋkeːja ʃi̥ˈtʃiˀpiː ˀmirunti ˈmaːri ʔaːkuˀta](節祭りの夜は、若者達は節祭りの妖火を見ようと、あちこち回って歩いた)。

シˈチˀブ [ʃi̥tʃibu] 【名】馬鹿。愚か者。正常な人は十分。七分の人は正常でない意。ウˈレーˀ　シˈチˀブ　ヤˈルンダˀ　ウˈリンナーˀネー　パˈナスˀナ [ʔuˈreːˀ ʃi̥ˈtʃiˀbu jaˈrundaˀ ʔuˈrinnaːˀne: paˈnasuˀna](彼は馬鹿 < 七分 > だから、彼には話すな)。

シˈチブˀイツァ [ʃi̥ˈtʃibuˀʔitsa] 【名】七分板。厚さ七分の床板。イˈツァフンˀツァー　ゴˈブイツァトゥˀ　シˈチブイツァˀバ　シゥˈカイヨーッˀタ [ʔiˈtsaɸunˀtsa: goˈbuʔitsatuˀ ʃi̥ˈtʃibuitsaˀba si̥ˈkaijoːtˀta](床板には五分板と七分板を使用された)。

シˈチブˀクギ [ʃi̥ˈtʃibuˀkugi] 【名】 7 分釘。標準語からの借用語。壁板を打つのに用いる釘。家庭で使われている釘。シˈチブˀフン [ʃi̥ˈtʃibuˀɸuŋ](7 分釘) ともいう。シˈチブˀクギ　ˀサンギンブカラ　ˈカイˀクーカー　クˈビウティˀ　モー　タˈラウン [ʃi̥ˈtʃibuˀkugi ˀsaŋgimbukara ˈkaiˀkuːka: kuˈbiʔutiˀ moː taˈrauŋ](7 分釘を三斤ばかり買ってきたら、壁を打つものは足りる)。

シˈチブドゥˀル [ʃi̥ˈtʃibuduˀru] 【名】節祭りの踊り。西表島租納村の節祭りの踊り。イˈラムティヌˀ　シˈチブドゥˀロー　イッˈケナˀ　ミˈジラˀサンˈダー [ʔiˈramutinuˀ ʃi̥ˈtʃibuduˀroː ʔikˈkenaˀ miˈʤiraˀsanˈdaː](西表島租納村の節祭りの踊りは非常に珍しいよ)。

シˈチブˀヌン [ʃi̥ˈtʃibuˀnuŋ] 【名】七分鑿。建築大工が用いる鑿。ほぞ穴を掘る際に用いる鑿。シˈチブˀヌンシ　ˀアナ　ˀプリバ [ʃi̥ˈtʃibuˀnuŋʃi ˀʔana ˀpuriba](七分鑿でほぞ穴を掘れよ)。

シˈチフルˀマイ [ʃi̥ˈtʃiɸuruˀmai] 【名】節祭りの振る舞い < もてなし。ご馳走。饗応 >。節祭はグˈソーˀヌ　ˀソンガチ [guˈsoːˀnu ˀsoŋgatʃi](後生の正月) と云われており、現世の正月同様に節祭の当日にフˈルマイ [ɸuˈrumai](ご馳走 < 振る舞い。饗応 >) を作って家族で食した。フˈルマイ [ɸuˈrumai] は、「翔、フルマフ」『類聚名義抄』、「せちぶるまひ (節振舞)」の転訛したものか。シˈチフルˀマイ　ンˈコーˀル　ˀピンマー　ヤーˈディンˀ　シˈチˀカザ　ˀミンナー　ˀカキティル　ンˈコーッˀタ [ʃi̥ˈtʃiɸuruˀmai ʔŋˈkoːˀru ˀpimma: jaːˈdiŋˀ ʃi̥ˈtʃiˀkaʤa: ˀminna: ˀkakitiru ʔŋˈkoːtˀta](節祭りのご馳走 < 節振舞い > を召し上が

るときは、必ず節蔓＜ヒメノアズキ＞を耳に掛けて召し上がられた)。

シ˞チマチ˜リ [ʃi̥˞tʃimatʃi˜ru] 【名】土神さまへの祈願。「土祭り」の義。地鎮祭など、土地の神に対する感謝、祈願の祭り。家や墓を移動する際にも執り行われる。シ˞チマチ˜レー ˞シーティル˜ ヤーン パ˞カン˜ ム˞チナ˜ソーッタ [ʃi̥˞tʃimatʃi˜re: ˞ʃi:tiru˜ ja:m pḁ˞kam˜ mu˞tʃina˜so:tta](土地神さまに感謝の祈願してから＜ぞ＞家も墓も移動された)。

シ˞チ˜ヤー [ʃi̥˞tʃi˜ja:] 【名】質屋。シ˞チ˜ヤーティ ˞スー ムノー˜ パ˞トゥ˜マナー ˞ナーン˜シェン イ˞サナキナー˜ル ˞アッ˜タ [ʃi̥˞tʃi˜ja:ti ˞su:muno:˜ pḁ˞tu˜mana: ˞na:ŋ˜ʃeŋ ʔi˞sanakina:˜ru ˞ʔat˜ta](質屋というものは、鳩間島には無かった。石垣島にが＜ぞ＞あった)。

˜シチリン [˜ʃi̥tʃiriŋ] 【名】七輪。素焼きのこんろ (焜炉)。炭火で炊飯する焜炉。戦後の一時期輸入されたが、普及しなかった。農家では炭火を使って炊飯するほどの悠長な生活ではなく、薪を利用する炊飯が普通であった。その後暫くして石油コンロやガスコンロの時代へと流れていった。˜シチリンマー パ˞トゥ˜マナテー シゥ˞カイミチェー ナーン˜シェン [˜ʃi̥tʃirimma: pḁ˞tu˜manate: sɨ̞˞kaimitʃe: na:ŋ˜ʃeŋ](七輪は鳩間島では使い道はなかった)。˜シチリンマー イ˞サナケー˜ラ ˞カイヨー˜リティ ˞タンバ˜ イ˞リ モーシティ˜ スー バ˞カソー˜ル プ˞スン オーッ˜タン [˜ʃi̥tirimma: ʔi˞sanake: ˜ra ˞kaijo:˜riti ˞tamma˜ ʔi˞ri mo:ʃi̥ti˜ su: ba˞kaso:˜ru pu̥˞suŋ ʔo:t˜taŋ](七輪は石垣島から買ってこられて、炭を入れて燃やしてお汁を炊かれる人もおられた)。

シ˞チンガ˜チ [ʃi̥˞tʃiŋga˜tʃi] 【名】(数) 七月。シ˞チンガ˜チ ˜シキヌ ˜タトゥカー ˞ソーランヌ˜ル ˞オー˜ル [ʃi̥˞tʃiŋga˜tʃi ˜ʃi̥kinu ˜tḁtuka: ˞so:rannu˜ru ˞ʔo:˜ru](七月の月が立つとお盆＜精霊会＞がいらっしゃる)。シ˞チンガ˜チシキ ˞ペー˜ルカー ˞ソーランヌ˜ル ˞オー˜ルミー ˜メー [ʃi̥˞tʃiŋga˜tʃiʃi̥ki ˞pe:˜ruka: ˞so:rannu˜ru ˞ʔo:˜rumi: ˜me:](七月の月に入るとお盆が来られるんですよねえ。もう)。

シ˞チンガチウー˜トゥリ [ʃi̥˞tʃiŋgatʃiʔu:˜turi] 【名】旧暦七月の無風状態。「七月大凪」の義。シ˞チンガチウー˜トゥリサーリ ˞マイ˜ トゥ˞バスンティ シーバ˜ トゥ˞バサリントゥレー [ʃi̥˞tʃiŋgatʃi ʔu: ˜turisa:ri ˞mai˜ tu˞basunti ʃi:ba˜ tu˞basarinˈture:](七月の大凪で脱穀した米殻を飛ばして米殻や屑を除去しようとしても飛ばされるものですか)。

シ˞チンガチニンブ˜ツァー [ʃi̥˞tʃiŋgatʃinimbu˜tsa:] 【名】旧暦七月の御盆に歌われる念仏歌。「七月念仏歌」の義。鳩間島で伝承されている念仏歌には、(i) ン˞ゾーニンブツァー [ʔn˞ʤo:nimbutsa:](無蔵念仏歌)、(ii) シ˞ザ˜ヌ ˜クイ [ʃi˞ʤa˜nu ˜kui](兄の声＜歌＞)、˞ウシトゥ˜ヌ ˜クイ [˞ʔuʃi̥tu˜nu ˜kui](弟の声＜歌＞) がある。米盛クヤ氏によると昔は他にも大和由来の「」何種かうたわれていたらしい。(i) の「無蔵念仏歌」は、「親の御恩は深きもの、父くが御恩海深さ、母くが御恩は山深さ、〜」(浜川本) でははじまる。(ii) のシ˞ザ˜ヌ クイ [ʃi˞ʤa˜nu ˜kui](兄の声＜歌＞) は、/ナムアミダブチ アミダプトゥキ イマジョーヌ サンナル シキダイス〜/(南無阿弥陀仏 阿弥陀仏 今十の三になる月であります) で始まり、˞ウシトゥ˜ヌ クイ [˞ʔuʃi̥tu˜nu ˜kui](弟の声＜歌＞) は、/ワリンダカ ユニンナル イヤシングァヌ ムチュタル タカラヤ ネーナヤブリ ムチュタル タカラヤ アリバクリ〜/(兄弟＜頭数＞四人いる中の最貧の子が、持てる宝＜金銭＞は何一つもなくて、持てる宝があればこそ＜孝行を尽せるのだが＞〜) とある。「八重山地方に流布する念仏歌について」『沖縄文化』36・37。

シ˞チンガチ˜ ム˞ドゥリ˜ティダ [ʃi̥˞tʃiŋgatʃi˜ mu˞duri˜tida] 【連】旧暦七月に酷暑が再来すること。「七月戻り太陽」の義。シ˞チンガチ˜ ム˞ドゥリ˜ティダー ˞デー˜ジ˞ダー˜ ユー ˞キー˜ シ˞キラン˜カー ˜ティダビー ˞スン˜ダー [ʃi̥˞tʃiŋgatʃi˜ mu˞duri˜tida: ˞de:˜ʤi˞da:˜ ju: ˞ki:˜ʃi̥˞kiraŋ˜ka: ˜tidabi: ˞sun˜da:](旧暦七月の酷暑の再来は大変だぞ。よく気をつけないと日射病＜太陽酔い＞になるぞ)。

シ˞ツ [ʃi̥˞tsu] 【名】 (動) 魚の名。和名、クロメジナ (体長約 50 センチ。青みを帯びた灰色の体色)。マ˞トゥ [ma˞tu] ともいう。西表島のイーリジマ干瀬でシ˞ナカキ˜ヤー [ʃi˞nakaki˜ja:](追い込み漁) をする際によく漁獲された。シ˞ツイゾー ネース˜カー ˜アバン ˜ンジティ イッ˞ケナ˜ ン˞マー˜ン [ʃi̥˞tsuʔiʤo: ne:su˜ka: ˜ʔaban ˜ʔnʤiti ʔik˞kena˜ ʔm˞ma:˜ŋ](クロメジナは煮ると脂も出て非常に美味しい)。

˞シッカームッ˜カー [˞ʃikka:muk˜ka:] 【名】支離滅裂なさま。バラバラに乱れたさま。滅茶苦茶なさま。混乱したさま。ウ˞リヌ˜ フ˞チンザ˜スカー パ˞ナ˜シェー ムー˞ル˜ シ˞カームッ˜カー ナ˞リ˜ス [ʔu

˹rinu˺ ɸu̥˹ʧiʔndʑa˺suka: pa˹na˺ʃe: mu:˹ru˺ ʃi˹ka:muk˺ka: na˹ri˺su](彼が口を出すと話は総て滅茶苦茶になってしまう)。

˹シッカ˺ク [˹ʃikka˺ku] (1)【名】せっかく。わざわざすること。˹シッカク˺ヌ　パ˹ナ˺シ　ヤ˹ルムヌ˺シ˹キ˺ミリバ [˹ʃikkaku˺nu pa˹na˺ʃi ja˹rumunu˺ ʃi̥˹ki˺miriba](折角の話だから、聞いてみなさいよ)。**(2)**【副】わざわざ。努力してするさま。˹シッカ˺ク <˺シンニン>　タ˹ジ˺ナイ　˹オー˺レームヌ　˹ンーナティー˺シェー　˹カイ˺シ　˹オーラサラ˺ヌ [˹ʃikka˺ku<˺ʃinnin> ta˹ʤi˺nai ˹ʔo:˺re:munu ˹n:nati:˺ʃe: ˹kai˺ʃi ˹ʔo:rasara˺nu](折角訪ねていらっしゃったのを、手ぶら < 素手 > ではお帰りいただけない)。

˹シッ˺キカーキ [˹ʃik˺kika:ki]【名】げんこつ (拳骨) をくらわす。拳骨を食らわしまくること。プ˹スヌ˺ス˹ブル˺バ　˺アイニ　˹シッ˺キカーキ　˹サン˺ <˹シッカ˺ン>　ブ˹リ˺バ [pu̥˹sunu˺ su˹buru˺ba ˺ʔaini ˹ʃik˺kika:ki ˹sam˺ <˹ʃikka˺m> bu˹ri˺ba](他人の頭をあんなに拳骨を食らわししまくるなよ)。

˹シッキツァー˺スン [˹ʃikkitsa:˺suŋ]【他動】搗きつぶす。散々に搗く。うち叩く。叩きつぶす。˺ウシナー　イ˹リティ　シッキツァー˺スンティ　˺シケー [˺ʔuʃina: ʔi˹riti ˹ʃikkitsa:˺sunti ʃi̥ke:](臼に入れて搗きつぶそうとしてある)。˹シッキツァーシ˺　プサタンティン　˹シッキツァーサン˺ドーシ　ヤー˹ラマ˺シ　˹シッ˺キバ [˹ʃikkitsa:ʃi˺ pu̥satantiŋ ˹ʃikkitsa:san˺do:ʃi ja:˹rama˺ʃi ˹ʃik˺kiba](搗きつぶしたくても搗きつぶさないで、柔らかく搗きなさい)。˹シッキツァー˺ス　クトゥ [˹ʃikkitsa:˺su ˺ku̥tu](搗きつぶすこと)。˹シッキツァー˺シェー　˺ミサムヌ [˹ʃikkitsa:˺ʃe: ˺misamunu](搗きつぶせばよいのに)。ムー˹ル　シッキツァー˺シ [mu:˹ru ʃikkitsa:˺ʃi](全部搗きつぶせ)。

˹シッキマー˺サー [˹ʃikkima:˺sa:]【名】漁法の名。サバニに乗ったまま、桶鏡 < 玉桶 > で海底を見ながらタコや魚を突き刺して漁獲する漁法。˹ピー˺ヤンダ　ッ˹スマン˺ドーシ　˺イダフネーラ　タ˹マウー˺キシ　ス˹ナ˺カー　˺ミレーティ　イ˹ズ˺　タク　˺トゥルムバル　˹シッキマー˺サーティ　ア˹ズタ [˹pi:˺janda s˹suman˺do:ʃi ˺ʔidaɸune:ra ta˹mau:˺kiʃi su˹na˺ka: ˺mire:ti ʔi˹ʤu˺ tḁku ˺turumubaru ˹ʃikkima:˺sa:ti ʔa˹ʤuta](寒いから潜らないで、サバニから桶鏡 < 玉桶 > で海底を覗きながら魚やタコを漁獲することをシッキマーサーといった)。

˹シッキマー˺シ [˹ʃikkima:˺ʃi]【名】突っつき回し。急き立てること。追い込み漁の際、魚を追い込む人が竿で珊瑚礁を突っつきながら袋網の方へ追い込むこと。˹シッキマー˺シ　イ˹ズ　ウイ˺クーバ [˹ʃikkima:˺ʃi ʔi˹ʤu ʔui˺ku:ba](突っつき回して魚を追ってこいよ)。

˹シッキン˺ザルン [˹ʃikkin˺ʤaruŋ]【他動】1石などでささくれ立つまで突っつく。搗いて粉々にする。イ˹シ˺シ　˹シッキン˺ザリ　˹ベー [ʔi˹ʃi˺ʃi ˹ʃikkin˺ʤari ˹be:](石で粉々に搗き砕いている)。˹クン˺ゾー　ウ˹ク˺ルカー　ヤ˹ラ˺ベー　˺ヌーンクイン　˹シッキン˺ザルン [˹kun˺ʤo: ʔu˹ku˺ruka: ja˹ra˺be: ˺nu:ŋkuiŋ ˹ʃikkin˺ʤaruŋ](怒ったら子供は何もかも突っつき砕く)。2散々に打ちのめす。叩き付ける。キ˹ムイ˺ツァー　ナー˹イ　シッキンザラ˺リ　˹ベー [ki˹mui ˺tsa: na:˹i ˹ʃikkinʤara˺ri ˹be:](可哀相に < 気の毒に > ただ散々に打ちのめされているよ)。

˹シッ˺クン [˹ʃik˺kuŋ]【他動】叩く。敲(タタ)く。つつく。ぶつ。殴る。搗く。イ˹シ˺シ　˹シッ˺クン [ʔi˹ʃi˺ʃi ˹ʃik˺kuŋ](石で敲く < つつく >)。イ˹シ˺シェー　˹シッカ˺ヌ [ʔi˹ʃi˺ʃe: ˹ʃikka˺nu](石で敲か < つつか > ない)。イ˹シ˺シ　˹シッキ˺　プサン [ʔi˹ʃi˺ʃi ˹ʃikki˺ pu̥saŋ](石で敲き < つつき > たい)。˹シッ˺ク　˺ムノー　˹ナー˺ヌ [˹ʃik˺ku ˺muno: ˹na:˺nu](敲く < つつく > ものはない)。シ˹ル˺ヌ　ン˹ジ˺ルンケン　˹シッ˺ケー　˺ミサムヌ [ʃi˹ru˺nu ʔn˹ʤi˺ruŋkeŋ ˹ʃik˺ke: ˺misamunu](汁が出るまで敲けば < つつけば > よいのに)。˹マー˺ビン　˹シッ˺キ [˹ma:˺biŋ ˹ʃik˺ki](もっと敲け < つつけ >)。ム˹チ　シッ˺クン [mu˹ʧi ʃik˺kuŋ](餅を搗く)。˹ティス˺クンシ　ス˹ブ˺ル　˹シッカントダー [˹tisu̥˺kuŋʃi su˹bu˺ru ˹ʃikkan˺da:](拳骨で頭を叩かないよ)。˹シッ˺キ　˺ミサン [˹ʃik˺ki ˺misaŋ](突っついてもいい)。˹シック˺タン [˹ʃikku˺taŋ](突っつい < 叩い > た)。˹シッ˺ク　˺クトー　ナ˹ラ˺ヌ [˹ʃik˺ku ˺ku̥to: na˹ra˺nu](突っつくことをしてはならない)。˹マー˺ビン　˹シッ˺ケーミサムヌ [˹ma:˺biŋ ˹ʃik˺ke: ˺misamunu](もっと突っつけ < 叩け > ばいいのに)。˹パー˺ク　˹シッ˺キ [˹pa:˺ku ˹ʃik˺ki](早く突っつ < 叩け > け)。˹アイダ˺チシ　˹シッ˺クンティ　˹スーヌンドゥ　シッカラン˺バ　˹ワー˺シ　˹シッ˺キ　ッ˹ふィーリ [˹ʔaida˺ʧiʃi ˹ʃik˺kunti ˹su:nundu ʃikkaram˺ba ˹wa:˺ʃi ˹ʃik˺ki f˹fi:ri](木槌で叩こうとするが、叩かれないので君のほうで叩いてくれ)。˹シッ˺ク　˺ムノー　˹パー˺ク　˹シッ˺ケー　˺ミサムヌ [˹ʃik˺ku ˺muno: ˹pa:˺ku ˹ʃik˺ke: ˺misamunu](叩くものは早く

叩けばよいのに)。˞ナルカー　ムー˞ル　シッ˞キバ [˞naruka: mu:˞ru ʃik˞kiba](出来たら全部叩きなさいよ)。

˞シッタイ [˞ʃittai] 【感】それ見ろ。それ見たことか。相手が失敗したときにいう語。「したり (為たり)」の転訛したもの。˞ウ˞リ　˞シッタイ　プ˞スヌ˞　バチ　カ˞ビ˞ル　˞アイ　˞ナレール [˞ʔu˞ri ʃittai pu̥˞sunu˞ batʃi ka˞bi˞ru ˞ʔai ˞nare:ru](それ見ろ、他人の罰を被って、そうなったのだ)。

˞シッタイヒャー [˞ʃi̥ttaiça:] 【感】それ見ろ。それ見たことか。強調表現。相手が失敗したときにいう語。˞ウリ　˞シッタイヒャー　プ˞スヌ˞　ムニ　シ　ゥ˞カムティ　スンカブ˞リ˞ゲ˞ラ [˞ʔuri ˞ʃittaiça: pu̥˞sunu˞ muni si̥˞kamuti suŋkabu˞ri˞ge˞ra](それ見たことか。他人の言う事を聞かないで、損被りさ)。

˞ジッチ [˞ʤittʃi] 【名】1(植) だんどく (檀特) の芽、茎。茎を抜いて吸うと甘味があるので子供達はそれを嘗めて遊んだ。ジッ˞チェー˞マ [ʤit˞tʃe:˞ma](小さな芽。小さな茎)。ジッ˞チェー˞マ　˞ヌイ　ユ˞ビ˞バ [ʤit˞tʃe:ma˞ nuiti ju˞bi˞ba](だんどくの茎を抜き取って吸いなさいよ)。2幼児語。小さなおっぱい。

ジッ˞チェー˞マ [ʤit˞tʃe:˞ma] 【名】小さなお乳。乳の幼児語。ヤ˞ラビ˞ヌ　˞シー˞ヤ　ジッ˞チェー˞マ　˞ナリ　˞ブー [ja˞rabi˞nu ˞ʃi:˞ja ʤit˞tʃe:˞ma ˞nari ˞bu:](子供のお乳は小さなお乳になっている)。

˞シッツァー˞スン [˞ʃittsa:˞suŋ] 【他動】擦り合わせる。擦り付ける。˞シッツァー˞スン [˞ʃittsa:˞suŋ](擦り合わせる) ともいう。ウ˞ム˞ティナー　˞シッツァー˞シ　˞ヌーリ [ʔu˞mu˞tina: ˞ʃittsa:˞ʃi ˞nu:ri](顔に擦り付けて塗れ)。˞シッツァー˞スンティ　˞スーヌンドゥ　シッツァーサラ˞ヌ [˞ʃittsa:˞sunti ˞su:nundu ʃittsa:sara˞nu](擦り付けようとするが、擦り付けられない)。˞シッツァー˞ス　˞プソー　˞パイ˞サ　˞シッツァー˞シェー　˞ミサムヌ [˞ʃittsa:˞su ˞pu̥so: ˞pai˞sa ˞ʃittsa:˞ʃe: ˞misamunu](擦り付ける時は早く擦り付ければよいのに)。˞シッツァー˞シ [˞ʃittsa:˞ʃi](擦り付けよ)。

˞シッ˞ツァーン [˞ʃit˞tsa:ŋ] 【助動】形容詞型助動詞。〜したい (便意、尿意をもよおす)。生理現象を表す語に付いて、「〜したい」の意を表す。「〜したさ・あり」の転訛した形。シ˞バ˞ル　˞シッ˞ツァーン [ʃi ˞ba˞ru ˞ʃit˞tsa:ŋ](小便したい)。˞ッス　マ˞リッ˞ツァーン [˞ssu ma˞rit˞tsa:ŋ](大便をしたい)。

˞ジットー [˞ʤitto:] 【名】種痘。ム˞カ˞シェー　ナ˞ナッ˞チ　˞ナルカー　˞ジットー˞　イ˞バソーッ˞タン [mu ˞ka˞ʃe: na˞nat˞tʃi ˞naruka: ˞ʤitto:˞ ʔi˞baso:t˞taŋ](昔は七歳になると種痘を接種 < 植え > させられた)。

˞シットー˞スン [˞ʃitto:˞suŋ] 【他動】力をこめて擦り付ける。強くこする (擦る)。強く擦り磨く。˞サジシ　˞シットースン˞ドゥ　˞カマー　˞シットーサラン˞バ　˞ワー　シットー˞シ　ッ˞ふィーリ [˞saʤiʃi ˞ʃitto:-sun˞du ˞kama: ˞ʃitto:saram˞ba ˞wa: ʃitto:˞ʃi f˞fi:ri](手拭で強くこするが、あそこは強く擦られないから君が強く擦ってくれ)。˞シットー˞ス　˞ピンマース˞ブ˞リティ　˞シットー˞シェー　˞ミサムヌ [˞ʃitto:˞su ˞pimma: su˞bu˞riti ˞ʃitto:˞ʃe: ˞misamunu](強く擦る時は絞って擦ればよいのに)。˞シットー˞シバ [˞ʃitto:˞ʃiba](強く擦れよ)。

シッ˞トゥイ [ʃit˞tui] 【感】万歳。「しとと (甚だしく)」の転訛したものか。日常会話では使用することがほとんどない。新築落成式の儀式で˞アーパーレー [˞ʔa:pa:re:](新室寿ぎ歌) を歌う際、˞ユイプス [˞juipu̥su](ユイ人) が人形を抱いて、˞ワンヌンビー˞ティ　˞バンヌン　ビー˞ティ　シッ˞トゥイ˞シッ˞トゥイ [˞wannum bi:˞ti ˞bannum bi:˞ti ʃi̥t˞tui˞ʃi̥t˞tui](貴方も酔って私も酔って、ああ万歳万歳) と唱え、神酒を棟木に投げかけるときにいう語。

ジッ˞パー˞マ [ʤip˞pa:˞ma] 【名】鳥の名。めじろ (目白)『八重山語彙』。ジッ˞パー˞マー　ム˞チ˞シ　シ　˞ビシキン˞　パラ˞ディー [ʤip˞pa:˞ma mu˞tʃi˞ʃi ʃi˞biʃi̥kim˞ para˞di:](目白をもちでくっつけて捕獲しに行こうよ)。

˞シッ˞パイ [˞ʃip˞pai] 【副】うんと。一生懸命。力の限り。精一杯。強意で˞シーッ˞パイ [˞ʃi:p˞pai] ともいう。「精一杯」の転訛したもの。˞シッ˞パイ　パ˞タラキサーギ　スー˞カー　˞ナンクク˞ル　˞ジン˞マータ˞マルン [˞ʃip˞pai pḁ˞tarakisa:gi su:˞ka: ˞naŋkuku˞ru ˞ʤim˞ma: ta˞maruŋ](一生懸命働きさえすれば自ずからお金は貯まる)。

˞シッパイカッ˞パイ [˞ʃippaikap˞pai] 【副】どうにかこうにか。辛うじて。やっとかっと。ABCDEBCD 方の重言。˞シッパイカッ˞パイ　˞シェー˞ティ　パ˞タラキ　モーキ˞ル　ク˞ラシ　ブー [˞ʃippaikap˞pai ˞ʃe:˞ti pḁ˞taraki mo:ki˞ru ku˞raʃi bu:](どうにかこうにか、一生懸命に働いて儲けて暮らしている)。

˞シッピラー [˞ʃippira:] 【名】ぺしゃんこ。押しつぶされて平たいこと。ブ˞ネーヌ　シー˞ヤ　ッ˞ふァン˞　ス˞ブラ˞リティ　˞シッピラー˞　ナリ　˞ベー [bu˞ne:nu ʃi:˞ja f˞fan˞ su˞bura˞riti ˞ʃippira:˞ nari ˞be:](母親のお乳は子供に搾られてぺしゃんこになってい

る)。

ˈシッピルン [ˈʃippiruŋ] 【他動】強く吸う。強く吸い取る。ヤˈラˀビン　ナーˈイˀ　シー　ˈシッピラリˀ　ナˈラˀヌ [jaˈraˀbin naːˈiˀ ʃiː ˈʃippirariˀ naˈraˀnu](子供 < 童 > にずっと乳を強く吸われてたまらない)。ヤˈラビˀヌ　ˀシー　ˈシッピルˀ　ピンマー　ニˈビベーˀティン　ˈシッピルンˀダー [jaˈrabiˀnu ˀʃiː ˈʃippiruˀ pimmaː niˈbibeːˀtiŋ ˈʃippirunˀdaː](子供が乳を強く吸う時は寝ていても強く吸うよ)。ˈシッピレーˀミサムヌ [ˈʃippireːˀ misamunu](強く吸えばよいのに)。ナーˈイ　シッピリ [naːˈi ʃippiri](ずっと強く吸いなさい)。シˈビルン [ʃiˈbiruŋ] ともいう。

シˈティー [ʃi̥ˈti-] 【接頭】最悪の。やけくそに。「捨て」は、「壽毛須底て < 命も捨てて >『万葉集 4211』」、「sute、tçuru,eta。(捨て・棄て)『邦訳日葡辞書』」の義。後続の名詞の意味を最悪に強調する。シˈティシグトゥ [ʃi̥ˈtiʃigutu](最悪の仕事)。シˈティヤマング [ʃi̥ˈtijamaŋgu](ひどいいたずらっ子)。シˈティˀスブットゥ [ʃi̥ˈtiˀsubuttu](最低の怠け者)。

シˈティカーˀシ [ʃi̥ˈtikaːˀʃi] 【名】投売り。「捨て売り」の義。損得を度外視して売り尽くすこと。ナˈマˀムヌ　ヤˈルンダˀ　ッサラシェー　ナˈラˀヌ　シˈティカーˀシ　ヤˈラバン　サンˀカー　ナˈラˀヌ [naˈmaˀmunu jaˈrundaˀ ssaraʃeː naˈraˀnu ʃi̥ˈtikaːˀʃi jaˈraban saŋˀkaː naˈraˀnu](生ものだから腐らせてはいけない。投売り < 捨て売り > でもしないならない)。

シティカーˀシ [ʃi̥ˈtikaːˀʃi] 【名】捨て売り。投げ売り。損失を構わず安値で売ること。

シˈディˀカイ [ʃiˈdiˀkai] 【名】水のようになった粥。ˈカイヤー　シーˀリティ　シˈディˀカイ　ˀナリ　ˈベー [ˈkaijaː ʃiːˀriti ʃiˈdiˀkai nari ˈbeː](お粥は饐えて水のような粥になっている)。

シˈディガˀフ [ʃiˈdigaˀɸu] 【名】幸せ。光栄。冥加。生まれた甲斐。有難うございます。「生まれ < 孵化 > 果報」の転訛したもの。ˈトーカキˀヌ　ˀヨイン　ˈシーˀ　タˈボーˀリ　シˈディガˀフー　ˈユー [ˈtoːkakiˀnu ˀjoiŋ ˈʃiːˀ taˈboːˀri ʃiˈdigaˀɸuːˈjuː](米寿のお祝い < とかきの祝い > もして頂き幸せ < 生まれた果報 > です)。

シˈディˀガフー [ʃiˈdiˀgaɸuː] 【名】栄誉。光栄。幸せ。ウˈビˀナーヌ　ˈヨイˀバ　シˈミタボーˀリ　シˈディガˀフーˈユー [ʔuˈbinaːˀnu ˈjoiˀba ʃiˈmitaboːˀri ʃiˈdigaˀɸuːˈjuː](あれほどのお祝いをして頂いて光栄でございます)。サˈクシˀッふァン　タˈボーラˀリ　イッˈケナˀ　シˈディガフーˀ　ユン [saˈkuʃiˀffan taˈboːraˀri ʔikˈkenaˀ ʃiˈdigaɸuːˀjuŋ](長男にも恵まれて大変光栄 < 幸せ > だよ)。

シˈティˀガラ [ʃi̥ˈtiˀgara] 【名】粗末に扱うこと。おろそかに扱うこと。ほったらかしにすること。粗相に扱うこと。粗略に扱うこと。ˈアッˀタラ　ッˈふァイムヌバˀ　アイニ　シˈティˀガラ　スˈナト ツォー。ˀムノー　アˈタラˀサ　ˈサンˀカー　ナˈラント ダー [ˈʔatˀtara ˈfaimunubaˀ ʔaini ʃi̥ˈtiˀgara suˈnaトtsoːˀmunoː ʔaˈtaraˀsa ˈsaŋˀkaː naˈranˀdaːト](もったいない < あたら > 食べ物を、あんなに粗末にするなよ。ものは惜しん < 可愛がって > で大切にしないといけないよ)。

シˈディˀガラ [ʃiˈdiˀgara] 【名】抜け殻。脱皮した後の殻。シˈディッˀクル [ʃiˈdikˀkuru](抜け殻) ともいう。パˈブヌˀ　シˈディˀガラ [paˈbunuˀ ʃiˈdiˀgara](蛇の抜け殻)。ˀサンサンヌ　シˈディˀガラ [ˀsansannu ʃiˈdiˀgaru](蝉の抜け殻)。

シˈティˀガラシゥカナイ [ʃi̥ˈtiˀgarasi̥kanai] 【名】ほったらかしにすること。子供をほったらかしにして育てること。手を掛けずに育てること。ˈウッˀツァー　ˈキョーダイˀヌ　ˈゴーラーˀトゥ　ˈピンソーˀヤー　ヤˈレーˀティ　シˈティˀガラシゥカナイ　シˈラリルˀ　フˈドゥベート ダー [ˈʔutˀtsaː ˈkjoːdaiˀnu ˈgoːraːˀtu ˈpinsoːˀja: jaˈreːˀti ʃi̥ˈtiˀgarasi̥kanai ʃiˈrariruˀ ɸuˈdubeːト daː](彼らは兄弟が多いのと貧乏な家だったので、ほったらかしにされて成長してきたのだよ)。

シˈティˀガラ　ˈスン [ʃi̥ˈtiˀgara ˈsuŋ] 【連】粗略に扱う。ほったらかしにする。ˈアッˀタル　ˀムヌバ　ウˈリンˀ　ッˈふィールˀカー　シˈティˀガラ　ˈスンダˀ　ッˈふィールナˀヨー [ˈʔatˀtaru ˀmunuba ʔuˈriŋˀ fˈfiːruˀkaː ʃi̥ˈtiˀgara ˈsundaˀ fˈfiːrunaˀjoː](あたらもの < 可惜物。勿体無い物 > を彼に呉れると粗略に扱うから、呉れるなよ)。

シˈティˀガラッふァイ [ʃi̥ˈtiˀgaraffai] 【名】粗末にして食うこと。食い放題にすること。ムˈヌˀヌ　アˈリˀバティ　ˈシーˀ　アイニ　シˈティˀガラッふァイ　ˈサンˀ　ブˈリˀバ [muˈnuˀnu ʔaˈriˀbati ˈʃiːˀ ʔaini ʃi̥ˈtiˀgaraffai ˈsamˀ buˈriˀba](物があるからといって、そんなに粗末にして食い放題にするな < しないで居れ > よ)。

シˈティキム [ʃi̥ˈtikimu] 【名】悪心。悪い考え。非情な心。悪巧み。「捨て肝 < 心 >」の義。ˀアイブ　シˈティキムバˀ　ムティテー　シˈキンˀヌ　プˈストーˀ　ピライ　パˈララˀヌ [ˈʔaibu ʃi̥ˈtikimubaˀ mutiteː

ʃi̥˞kin˞nu pu̥˞suto:˞ pi˞ra:ra˞nu](あんな悪い気持ちを持っていては世間の人と付き合っていけない)。

シ˞ディ˞グル [ʃi˞di˞guru] 【名】抜け殻。蛇や蝉などの脱皮した殻。もぬけ (蛻)。˞サンサンヌ　シ˞ディ˞グル [˞sansannu ʃi˞di˞guru](蝉の抜け殻)。パ˞ブヌ˞　シ˞ディグル˞ヌ　˞アンダ　パ˞ブヌ　ブン˞パジ [pa˞bunu˞ ʃi˞digara˞nu ˞ʔanda pa˞bunu bum˞paʤi](蛇の抜け殻があるので、蛇がいるはずだ)。

シ˞ティシゥカイ [ʃi̥˞tisi̥kai] 【名】無駄遣い。贅沢に使うこと。不要なものを買うこと。「捨て使い」の義。˞ジン˞ヌ　ア˞リ˞バティ　˞シー˞　シ˞ティシゥカイヤー˞　イッ˞カナ˞シン　˞シェー˞　ナ˞ラ˞ヌ [˞ʤin˞nu ʔa˞ri˞bati ˞ʃi:˞ ʃi̥4˞tisi̥kaija:˞ ʔik˞kana˞ʃiŋ ˞ʃe:˞ na˞ra˞nu](お金があるからといって、無駄遣いは決してやってはならない)。

シ˞ティシゥカナイ [ʃi̥˞tisi̥kanai] 【名】粗末な子育て。粗末な養育。ほったらかして子供を育てること。シ˞ティシゥカナイ˞　シラレー˞　ッ˞ふァヌドゥ　マイフナー˞　マ˞リル˞ツォー [ʃi̥˞tisi̥kanai˞ ʃi˞rare:˞ f˞fanudu maifuna:˞ ma˞riru˞tso:](粗末に育てられた子供が＜ぞ＞立派な人に成長する＜生まれる＞そうだ)。

シ˞ティ˞スクン [ʃi̥˞ti˞su̥kuŋ] 【他動】ほっておく。捨て置く。放置しておく。ほったらかす。うちすててておく。シ˞ティ˞スクンティ　ウ˞ムーン˞ドゥ　ウ˞リバ˞　ミリテー　シ˞ティシカラン˞バ　˞ワー˞　シ˞ティ˞シキティ　ア˞ズタンティン˞　シ˞ティ˞スク˞クトー　ナ˞ラ˞ヌ [ʃi̥˞ti˞su̥kunti ʔu˞mu:n˞du ʔu˞riba˞ mirite: ʃi̥˞tisu̥karam˞ba ˞wa:˞ ʃi̥˞ti˞ʃi̥kiti ʔa˞ʤutantiŋ ˞ʃi̥˞ti˞su̥ku ˞kuto: na˞ra˞nu](ほっておこう＜捨て置こう＞と思うが、それを見てからは捨て置かれないから、君が私に捨て置けと言っても、捨て置くことはできない)。シ˞ティ˞シキ　˞ミサカー　シ˞ティ˞シケー　˞ミサムヌ [ʃi̥˞ti˞ʃi̥ki ˞misaka: ʃi̥˞ti˞ʃike:˞ misamunu](捨て置いてよければ捨て置けばよいのに)。

シ˞ディッ˞クル [ʃi˞dik˞kuru] 【名】抜け殻。「すでから＜孵で殻＞」の義。˞サンサンヌ　シ˞ディックル˞ヌ　˞アン [˞sansannu ʃi˞dikkuru˞nu ʔaŋ](蝉の抜け殻がある)。パ˞ブヌ˞　シ˞ディックル˞ヌ　˞アル˞トンマー　˞キー˞　シ˞キ˞リ [pa˞bunu˞ ʃi˞dikkuru˞nu ˞ʔaru ˞tomma: ˞ki:˞ ʃi̥˞ki˞ri](蛇の抜け殻のある所は気をつけなさい)。

シ˞ティッツァースン [ʃi̥˞tittsa:suŋ] 【他動】捨て散らかす。投げ捨てる。放り捨てる。シゥ˞カイヤー˞ル　カ˞ベー˞　シ˞ティッツァーサンドー˞シ　プ˞スン˞　トンナー　ア˞ツァ˞ミ　シ˞キ˞リ [si˞kaija:˞ru ka˞be:˞ ʃi̥˞tittsa:sando:˞ʃi pu̥˞sun˞tonna: ʔa˞tsa˞mi ʃi̥˞ki˞ri](使った紙は捨て散らかさないで一箇所に集めておけ)。シ˞ティッツァーシ˞　ミサカー　シ˞ティッツァースン [ʃi̥˞tittsa:ʃi˞ misaka: ʃi̥˞tittsa:suŋ](捨て散らかしてよければ捨て散らかす)。シ˞ティッツァース　ムノー˞　シ˞ティッツァーシェー˞　ミサムヌ [ʃi̥˞tittsa:su muno:˞ ʃi̥˞tittsa:ʃe:˞ misamunu](捨て散らかすものは捨て散らかせばよいのに)。シ˞ティッツァーシ [ʃi̥˞tittsa:ʃi](捨て散らかせ)。

シ˞ティトゥジ [ʃi̥˞tituʤi] 【名】離別した妻。「捨て刀自 (捨てた妻)」の義。トゥ˞ジ [tu˞ʤi] は、「～己麻勢波々刀自～『万葉集　4342』」の転訛したもの。シ˞ティトゥジトゥヌ˞　ナカナー　ミ˞ドーン˞ッふァヌ　ブ˞タン [ʃi̥˞tituʤitunu˞ nakana: mi˞do:ŋ ˞ffanu bu˞taŋ](離別した妻との間に女の子がいた)。

シ˞ティハギ [ʃi̥˞tihagi] 【名】「外脛」の義か。ハ˞ギバラー [ha˞gibara:](軒柱。「脛柱」の義か) の南面外側に、更に三尺の軒を出して立てた柱。シ˞ティハギの軒下を利用して˞ナーラ˞シ [˞na:ra˞ʃi](均し。ならし竹) を作り、作業着を掛けたり、漁具や農具類を置いたりするのに用いた。シ˞ティハギ　スイザシティ　ナーラ˞シ　ス˞ク˞リバ [ʃi̥˞tihagi suiʤaʃiti na:ra˞ʃi su̥˞ku˞riba](添え出しの軒＜シティハギ＞を作って、ならし竹竿＜かけ竿＞を作りなさい)。

シ˞ティブトゥ [ʃi̥˞tibutu] 【名】離別した夫。「捨て夫」の義。シ˞ティブトー˞　ヤー˞タ˞シ　˞マーラシ　ナーン˞シェン [ʃi̥˞tibuto:˞ ja:˞ta˞ʃi ˞ma:raʃi na:ŋ˞ ʃeŋ](離別した夫は暫くして亡くなってしまわれた)。

シ˞ティプリムヌ [ʃi̥˞tipurimunu] 【名】大ばか。大馬鹿者。「捨て惚れ者」の義。ク˞ヌ˞　シ˞ティプリムノー˞　プ˞スン　カシカーサ˞レーティ　マ˞ルウルキ　シー　ベーン˞ティ [ku˞nu˞ ʃi̥˞tipurimuno:˞ pu̥˞suŋ kaʃi̥ka:sa˞re:ti ma˞ruʔuruki ʃi:be:n˞ti](この大馬鹿者は人に騙されて、大欠損をしているよ)。

シ˞ティポー˞リ [ʃi̥˞tipo:˞ri] 【名】撒き散らすこと。放り捨てること。˞ドン˞ゴー　シ˞ティポー˞リ　˞サンドー˞シ　カ˞タジ˞キ　シ˞キ˞リ [˞doŋ˞go: ʃi̥˞tipo:˞ri ˞sando:˞ʃi kḁ˞taʤi˞ki ʃi̥˞ki˞ri](道具は撒き散らかししないで、片付けておきなさい)。

シ˞ティポー˞リマキポーリ [ʃi̥˞tipo:˞rimakipo:ri] 【連】散々に撒き散らすこと。「捨て放り・撒き放り」の

義。˞ザー˞ヌ　˞ピッ˞チン　ム˞タビ˞ムヌ　シ˞ティポー˞リマキポーリ　˞シー˞　シケー [˞ʤa:˞nu ˞pit˞ʧim mu˞tabi˞munu ʃi̥˞tipo:˞rimakipo:ri ˞ʃi:˞ ʃi̥ke:](座敷の一杯、玩具を散々に撒き散らしてある)。

シ˞ティポールン **[ʃi̥˞tipo:ruŋ]** 【他動】撒き散らす。放り捨てる。うち捨てる。「捨て放る」の義。ア˞ジ˞　シ˞カサン˞カー　シ˞ティポールン˞ダー　シ˞ティポーラサン˞ヨーニ　˞トゥシキ˞リ [˞ʔaʤi ʃi˞kasaŋ˞ka: ʃi̥˞tipo:run˞da: ʃi̥˞tipo:raŋ˞jo:ni ˞tuʃiki˞ri](言って教えない＜聞かさない＞と撒き散らすよ。撒き散らさないように言いつけ＜訓戒せ＞よ)。シ˞ティポーリ˞　ミサタンティン　˞クナー　シ˞ティポー˞ル　˞クトー　ナ˞ラ˞ヌ [ʃi̥˞tipo:ri˞ misatantiŋ ˞kuna: ʃi̥˞tipo:˞ru ˞kṵto: na˞ra˞nu](撒き散らしてよくても、此処では撒き散らすことはならない)。シ˞ティポー˞レー　˞ミサムヌ [ʃi̥˞tipo:˞re: ˞misamunu](撒き散らせばよいのに)。シ˞ティポーリ˞バ [ʃi̥˞tipo:ri˞ba](撒き散らせよ)。

シ˞ディ˞ミジ **[ʃi˞di˞miʤi]** 【名】若水。「すでみず＜孵で水＞」の義。元旦や˞シチ [˞ʃi̥ʧi](節祭り) の未明に井戸から汲んできた水。これで洗面すると孵で変わり、長寿延命するといわれている。「すで水人誕生の時明方の井川より水をとり撫さする也　其水をすで水と云う也」『混効験集』とある。˞ソンガチヌ　˞グヴンタン˞ヌ　シ˞トゥム˞テー　シ˞ディミジ˞バ　フ˞モー˞リティ　ウ˞リ˞シル　ウ˞ム˞ティ　シ˞モーッ˞タ [˞soŋgatʃinu ˞gwantan˞nu ʃi̥˞tumu˞te: ʃi˞dimiʤi˞ba ɸu˞mo:˞riti ʔu˞ri˞ʃiru ʔu˞mu˞te: ʃi˞mo:t˞ta](正月の元日の朝は若水＜孵で水＞を汲んでこられて、それで顔＜面＞を洗われた)。口碑に、「天帝からシ˞ディ˞ミジ [ʃi˞di˞miʤi](「孵で水」の義。不老長寿の薬) を託された˞ガザフケー [˞gaʤaɸuke:](ヒバリ) が地上に降りてくる途中、美味しく稔った˞タイ˞シ [˞tai˞ʃi](野苺) に心奪われ、それを食べている間に蛇がやって来て不老長寿の薬の入った瓶を零し、シディミジを全身に浴びてしまったという。驚いたヒバリが残った僅かのシディミジを持参して人間の爪と髪の毛に塗って天国へ帰り、ことの顛末を天帝に報告したところ、天帝の激しい怒りにふれ、罰として両足を強く縛られたという。それゆえヒバリの脚は細く、蛇は孵で変わり、人間の髪と爪も生え変わるのだという」と伝えられている。ム˞カ˞シ　˞ティンヌ˞　カミサマヌ　˞ガザフケーバ　シゥ˞カイ˞　シ˞ディミジ˞バ　˞ムティ　˞ウリ　プ˞ス˞ニ　˞ニン˞ギンマリーニ　ア˞マシ˞　シ˞ディンガーラ˞シッティ　˞シー˞　シゥ˞カイ˞　ウ˞ラ˞ソーッター　˞ガザフケーヤ　ミ˞ジェー˞　ムティ　˞ウリキー　ミ˞チナカー˞　クンケンマー　˞タイシ˞ヌ　シカイ˞トゥ˞　ナリー　˞ウー˞ミ　˞ベー˞ティ　ウ˞リバ˞　ブリ　ッ˞ふンティ　シー　マーリ　アー˞キ　ウ˞リバ˞　ブリ　ッ˞ふァイティ˞　クンケンマー　パ˞ブヌ˞　キー　ウ˞ヌ˞　ミ˞ジェー˞　ク˞バ˞シ　ア˞ミナーン˞　ベーティ　ウ˞レーン˞　メー　˞ムティ　˞ギー　ニン˞ギンマリ　ア˞マシ　ムン　ナーン˞　ベーティ　シ˞ミ˞ヌ　サ˞キトゥ˞　ガ˞マ˞ジナー　マ˞メー˞ル　˞ウビシー　プ˞スヌ˞　˞ティー˞ヌ　シ˞ミ˞ヌ　サ˞キトゥ˞　ガ˞マ˞ジェー　ム˞インガー˞レー　˞キー˞キー　˞シー　スーッティ　シール˞　ム˞カ˞シパナシェー　˞アイ　˞ヤー˞ティ　˞ガザフケーヤ　ウ˞ヌ　トゥン˞ガーシル　˞ウンザー　パン˞ヌ　˞アリ　˞ベー˞ティル　プ˞スヌ˞　シゥ˞カウ　ムノー˞　トゥ˞ドゥカサ˞ムティ　˞アイ　˞アーキ˞バ　ウ˞ヌ　トゥン˞ガーッティ　˞パン˞マー　シ˞ミラ˞リ　タ˞バラ˞リ　˞ソーッ˞タユー　˞ガザフケーヌ　˞パン˞マー　ウ˞ビッ˞チン　カー˞ニ˞　アルッティ　˞シー˞　ム˞カ˞シパナシェー　シゥ˞カソーッ˞タ [mu˞ka˞ʃi ˞tinnu˞ kamisamanu ˞gaʤaɸṵke:ba si̥˞kai˞ ʃi˞dimiʤi˞ba ˞muti ˞ʔuri pṵ˞su ˞ni ˞niŋ˞gimmari:ni ʔa˞maʃi˞ ʃi˞diŋga:ra˞ʃitti ˞ʃi:˞ si̥˞kai˞ ʔu˞ra˞sotta: ˞gaʤaɸṵke:ja mi˞ʤe:˞ muti ˞ʔuriki: mi˞ʧinaka:˞ kuŋkemma: ˞taiʃi˞nu ʃi̥kai˞tu˞ nari ˞ʔu:˞mi ˞be:˞ti ʔu˞riba˞ buri f˞funti ʃi: ma:ri ʔa:˞ki ʔu˞riba˞ buri f˞faiti˞ kumkemma: pa˞bunu˞ ki: ʔu˞nu˞ mi˞ʤe:˞ ku˞ba˞ʃi ʔa˞mina:m˞be:ti ʔu˞re:m˞me: ˞muti ˞gi: niŋ ˞gimmari ʔa˞maʃi mun na:m˞be:ti ʃi˞mi˞nu sa˞kitu˞ ga˞ma˞ʤina: muti˞gi:˞ ʔa˞maʃe:˞ti ma˞me:˞ru ˞ʔubiʃi: pṵ˞sunu ti:˞nu ˞ʃi˞mi˞nu sạ˞kitu˞ ga˞ma˞ʤe: ˞muiŋga: ˞re: ˞ki:˞ki: ʃi:˞ su:˞tu:t˞ti ˞ʃi:ru˞ mu˞ka˞ʃi ˞panaʃe: ʔai ˞ja:˞ti ˞gaʤaɸuke:ja ʔu˞nu tuŋ˞ga:ʃiru ˞ʔunʤa: pann ˞nu ʔari˞be:˞tiru pṵ˞sunu˞ si̥˞kau muno:˞ tu˞dukasa˞muti ˞ʔai ˞ʔa:ki˞ba ʔu˞nu tuŋ˞ga:tti ˞pam˞ma: ʃi˞mira ˞ri ta˞barari˞ so:ttaju: ˞gaʤaɸuke:nu ˞pam˞ma: ʔu˞bit˞ʧiŋ ka:˞ni˞ ʔaruti ˞ʃi:˞ mu˞ka˞ʃipanaʃe: si̥˞kaso:t˞ta](昔、天の神様がヒバリを使ってスデ水＜孵で水。若水＞を持って天界より下り、人間に浴びせて孵で変わら＜蘇生さ＞せよといって遣い下ろされたら、ヒバリは水を持って下りて途中まで来ると、苺が沢山稔って熟れていたので、それを捥いで＜折って＞食べようと回り歩いて来ると、ハブが来てその水を零して浴びてしまったので、もうそ

れを持っていって人間に浴びせるものがないので、爪の先と髪の毛に持っていって塗った分だけで、人間の手足の爪と髪の毛は生え代わっては来来するんだといって昔話は、それでヒバリはその咎で、あいつは足があるから人の使いを届けないで、そうやって遊んであるくから、＜神様は＞その罰として足は縛られて締められなさったのか、ヒバリの足はあんなに小さいのだ＜それぼっちぞあるのだ＞といって昔話を聞かされた)。シˈディˀミジシ　ˀシラ　アˈライティル　ニントゥーン　ソーッˀタ [ʃiˈdiˀmiʤiʃi ˀʃira ʔaˈraitiru nintuːn soːtˀta](若水で顔を洗って＜ぞ＞年頭の挨拶もされた)。

シˈティˀムヌ [ʃi̥ˈtiˀmunu] 【名】価値のないもの。屑物同然のもの。つまらないもの。「捨て物」の義。役に立たないもの。ウˈレーˀ　シˈティˀムヌ　ヤˈリバˀ　アイブムヌˈナーˀト　ˈカイヤーˀ　ナˈランˀダー [ʔuˈreːˀ ʃi̥ˈtiˀmunu jaˈribaˀ ʔaibumunuˈnaːˀto ˈkaijaːˀ naˈranˀdaː](それは屑物同然だから、あんなものなどを買ってはならないよ)。

シˈティムヌ [ʃi̥ˈtimunu] 【名】捨て物。捨てられたもの。廃棄物。ˀアイブー　シˈティムヌバˀ　アˈツァˀミティ　ˈヌーˀスワ [ˀʔaibuː ʃi̥ˈtimunubaˀ ʔaˈtsaˀ mitiˈnuːˀsuwa](あのような捨て物＜廃棄物＞を集めてどうするのか)。

シˈティヤマング [ʃi̥ˈtijamaŋgu] 【名】ひどいいたずらっ子。ひどい腕白者。手に負えない乱暴もの。ひどく狡猾な者。シˈティー [ʃi̥ˈti-](＜捨て＞強意の接頭語) は続く名詞の悪い意味内容を強調する。ウˈブˀプス　ˈナッターˀル　ˈマイフナーˀ　マˈリˀ　ウˈトゥナˀサール　ヤˈラˀビ　ˈシェーンˀケンマー　シˈティヤマングˀ　ヤˈタル [ʔuˈbuˀpu̥su ˈnattaːˀru ˈmaiɸunaːˀ maˈriˀ ʔuˈtunaˀsaːru jaˈraˀbi ˈʃeːŋˀkemmaː ʃi̥ˈtijamaŋguˀ jaˈtaru](大人になったからこそ立派になっている。子供の頃は手のつけられないひどい腕白ものだったよ)。

シˈティルン [ʃi̥ˈtiruŋ] 【他動】捨てる。手放す。見放す。投げ出す。「たまきはる壽毛須底て～『万葉集4211』」の義。ˀヌーンクイン　シˈティルンティˀ　ウˈムーンˀドゥ　シˈティラランバ　ワーˀシ　シˈティリ [ˀnuːŋkuiŋ ʃi̥ˈtirintiˀ ʔuˈmuːnˀdu ʃi̥ˈtiraramba waːˀʃi ʃ。ˈtiri](何もかも捨てようと思うが、捨てられないので、君の方で捨てろ)。クˈレーˀ　シˈティˀ　ミサカー　シˈティレーˀ　ミサムヌ [kuˈreːˀ ʃi̥ˈtiˀ misakaː ʃi̥ˈtireːˀ misamunu](これは捨ててよければ、捨てればよいのに)。

シˈディˀルン [ʃiˈdiˀruŋ] 【自動】1孵化する。卵からかえる。虫などが涌(ワ)く。卵がかえる(孵(カエ)る)。孵化する。トゥˈルヌ　コーˀマ　ダˈキ　ベーˀンダ　シˈディˀルンカヤーティ　ウˈムータˀヌ　マˈダˀ　シˈディラˀヌ [tuˈrunu koːˀma daˈki beːˀnda ʃiˈdiˀruŋkajaːti ʔuˈmuːtaˀnu maˈdaˀ ʃiˈdiraˀnu](鶏が卵を抱いているので孵る＜孵化する＞かと思ったが、まだ孵らない)。ˀシデーン [ˀʃideːŋ](既に孵った)。シˈディンˀギサン [ʃiˈdiŋˀgisaŋ](孵化しそうだ)。キサーˈティˀ　シディˈナーˀヌ [kisaːˈtiˀ ʃidiˈnaːˀnu](既に孵化してしまった)。ˈオーパˀヤー　シˈディˀル　ˀクトー　ˈナーˀヌ [ˈʔoːpaˀjaː ʃiˈdiˀru ˀku̥toː ˈnaːˀnu](こんなに早く孵化することはない)。トゥˈルヌ　コーˀマ　シˈディˀルン [tuˈrunu koːˀma ʃiˈdiˀruŋ](鶏卵が孵化する)。ˈスーˀマリティ　シˈディラˀヌ [ˈsuːˀ mariti ʃiˈdiraˀnu](すもり＜巣守＞になって孵化しない)。シˈディパヤーˀン [ʃiˈdi pajaːˀŋ](孵化しやすい)。シˈディˀル　ˀピン [ʃiˈdiˀru ˀpiŋ](孵化するとき)。ˈパーˀク　シˈディˀレー　ˀミサムヌ [ˈpaːˀku ʃiˈdiˀreː ˀmisamunu](早く孵化すればよいのに)。シˈディˀリ [ʃiˈdiˀri](孵化しろ)。クˈヌ　コーˀマー　シˈディˀルンティ　ウˈムータンˀドゥ　シˈディランˀバン [kuˈnu koːˀmaː ʃiˈdiˀrunti ʔuˈmuːtanˀdu ʃiˈdiramˀbaŋ](この卵は孵化すると思ったが孵化しないわい)。アˈツァーˀラ　シˈディˀ　パˈジミˀル　ˀパジˈダーˀバ　シˈディˀル　ˈコーˀマー　ムーˈルˀユミ　シˈキˀリ [ʔaˈtsaːˀra ʃiˈdiˀ paˈʤimiˀru ˀpaʤi ˈdaːˀba ʃiˈdiˀru ˈkoːˀmaː muːˈruˀ jumi ʃi̥ˈkiˀri](明日から孵化し始めるはずだから、孵化する卵は全部数えておけ)。ˈマーˀビン　シˈディˀレー　ˀミサムヌ [ˈmaːˀbiŋ ʃiˈdiˀreː ˀmisamunu](もっと孵化すれば良いのに)。ˈパーˀク　シˈディˀリ [ˈpaːˀku ʃiˈdiˀri](早く孵化せよ)。2脱皮する。再生する。若返る。パˈブンˀ　サンサンヌン　シˈディルンˀドゥ　プˈソーˀ　シˈディンガーラˀヌ [paˈbunˀ sansannuŋ ʃiˈdirunˀdu pu̥ˈsoːˀ ʃiˈdiŋgaːraˀnu](蛇もセミも脱皮して生まれ変わるが、人間は脱皮しない)。

シˈディˀルン [ʃiˈdiˀruŋ] 【自動】粥や糊などが水っぽくなる。変成する。ˈカイヤー　シーˀルカー　シˈディˀルン [ˈkaijaː ʃiːˀruka: ʃiˈdiˀruŋ](お粥は饐えると水っぽくなる)。シˈディラˀヌ [ʃiˈdiraˀnu](水っぽくならない)。シˈディヤッˀサン [ʃiˈdijasˀsaŋ](水っぽくなりやすい)。シˈディˀル　ˀピンマー [ʃiˈdiˀru ˀpimmaː](水っぽくなるときは)。シˈディˀレー　ˀミサムヌ [ʃiˈdiˀreː ˀmisamunu](水っぽくなればいい

のに)。˞パー˞ク　シ˞ディ˞リ [˞paː˞ku ʃi˞di˞ri](早く水っぽくなれ)。

シ˞ディンガー˞ルン [ʃi˞diŋgaː˞ruŋ] 【自動】再生する。生まれ変わる。孵化する。脱皮する。「すで < 孵化 > 変わる」の転訛したもの。マ˞リンガーリ˞　シ˞ディンガーラ˞リカ˞ナー [ma˞riŋgaːri˞ ʃi˞diŋgaːra˞rika˞naː](生まれ変わり、脱皮出来るものなら良いのになあ)。ビ˞キレー˞ヌ　˞ズーヤ˞　シ˞ディンガー˞ルン [bi˞kireː˞nu ˞ʤuːja˞ ʃi˞diŋgaː˞ruŋ](とかげ < 蜥蜴 > の尾は再生する)。シ˞ディンガーラ˞ヌ [ʃi˞diŋgaːra˞nu](再生しない)。シ˞ディンガーリ˞　プサン [ʃi˞diŋgaːri˞ pu̥saŋ](生まれ変わりたい)。シ˞ディンガー˞ル　˞クトゥ [ʃi˞diŋgaː˞ru ˞ku̥tu](生まれ変わること)。シ˞ディンガー˞レー　˞ミサムヌ [ʃi˞diŋgaː˞reː ˞misamunu](生まれ変われば良いのに)。シ˞ディンガー˞リバ [ʃi˞diŋgaː˞riba](生まれ変われよ)。

シ˞トーンシトーン [ʃi̥˞toːŋʃitoːŋ] 【副】液体や物が落ちる音の擬音語 (onomatopoeia)。シ˞トーンシトーン˞シ　ウ˞ブ˞ナダ　ウ˞タ˞シ　ナ˞キベー [ʃi̥˞toːŋʃi̥-toːŋ˞ʃi ʔu˞bu˞nada ʔu˞ta˞ʃi na˞kibeː](ぽろぽろ < シトーンシトーン > と大粒の涙を流して泣いている)。シ˞トーンシトーン˞シ　ア˞ミ˞ヌ　˞フーン [ʃi˞toːŋʃi̥toːŋ˞ʃi ʔa˞mi˞nu ˞ɸuːŋ](しとしとと雨が降る)。

˞シトゥ [˞ʃi̥tu] 【名】土産。「つと (苞)」。土地の物産を土産とすること。「〜貝にありせば都刀 < ツト > にせましを『万葉集　4396』」。「贄、タカラ・ニヘ・ツト『類聚名義抄』」の転訛したもの。藁などを束ねて物を包んで土産としたもの。鳩間島から干し烏賊や干し蛸、燻製蛸などが土産品として石垣島の親戚筋へ贈られた。また鶏卵を縦に 5、6 個並べて稲藁で包み、稲藁で 5,6 段結わえて固定し、吊り下げられるようにして土産とした。˞シトー　˞ヌー˞ル　マ˞シ˞カヤー [˞ʃi̥toː ˞nuː˞ru ma˞ʃi˞kajaː](土産物 < 苞 > には何が良いかなあ)。˞ウガンラヌ　˞シトゥ　ッ˞ふァイ˞バ [˞ʔuganranu ˞ʃi̥tu f˞fai˞ba](御嶽 < 拝み所 > からのお土産の餅やウサイ [˞ʔusai]< お菜。蒲鉾や焼き魚などの供物のお下がり > を食べなさいよ)。

˞シトゥ [˞ʃi̥tu] 【名】澱粉。芋や˞キー˞ウン [˞kiː˞ʔuŋ](キャッサバ) の澱粉。桟で作った木枠 (幅約 30 センチ、長さ約 50 センチ) に、釘で多数の穴をあけたブリキ版を張って作った˞ウンッシ˞カナ [˞ʔuŋʃʃi˞kana](芋摺り < 鉋 >) で芋を摺り下ろし、メリケン袋に入れて絞り、絞り汁を沈殿させ、乾燥させた純白の澱粉。搾り滓も団子状に握って乾燥させ、搗き臼に入れて搗くと澱粉の粉が再生産できる。ただし澱粉の質は落ちるので、非常食用として保存された。˞キー˞ウン　˞ッシティ　˞シトゥ　˞トゥリバ [˞kiː˞uŋ ˞ʃʃiti ˞ʃi̥tu ˞turiba](キャッサバの芋を擂(ス)って澱粉をとりなさいよ)。ウン˞バ　˞ッシティ　ミ˞ジ˞ナ　˞タリティ　˞シロー　ス˞ブ˞リ　˞ウー˞キナ　タ˞ミティ˞　シ˞マ˞シティル　˞シトー　トゥ˞ル˞タ [˞ʔum˞ba ˞ʃʃiti mi˞ʤi˞naː ˞tariti ˞ʃiroː su˞bu˞ri ˞ʔuː ˞kina ta˞miti˞ ʃi˞ma˞ʃi̥tiru ˞ʃi̥toː tu˞ru˞ta](芋を擦って水に溶かし、汁は搾り、桶に溜めて沈殿させ < 澄ま し > て芋の澱粉を製造した < とった >)。

シ˞トゥ [ʃi̥˞tu] 【名】しゅうと、しゅうとめ (舅、姑)。夫の親。シ˞トゥヌ　オー˞ル　˞ヤー˞ヤ　シ˞トゥピライル　カンユー˞ダー [ʃi̥˞tunu ʔoː˞ru ˞jaː˞ja ʃi̥˞tupirairu kaŋjuː˞daː](舅のおられる家は舅、姑との付き合いが肝要だよ)。

シ˞トゥウヤ [ʃi̥˞tuʔuja] 【名】しゅうとおや (舅親)。夫の親。シ˞トゥウヤヌ˞　ドゥク　˞キツァティ　˞ウン˞ネヌ　ユ˞メー　ピン˞ギ　˞パリ˞ナー˞ヌ [ʃi̥˞tuʔu-janu˞ duku ki̥˞tsa˞ti ˞ʔun˞nenu ju˞meː piŋ˞gi ˞pari˞naː˞nu](舅親があまりにも厳しいので、あの家の嫁は逃げていってしまった)。

シ˞トゥ˞キ [ʃi̥˞tu˞ki] 【名】潮時。丁度良い時期。干潮時。シ˞トゥキ˞バ　ア˞ティティル˞　ムノー　˞スー [ʃi̥˞tuki˞ba ʔa˞titiru˞ munoː ˞suː](潮時を見て < 当てて > 物事はするのだ)。シ˞トゥ˞キン　ナ˞リ˞ブバイ˞ソーシン˞　パラ˞ディー [ʃi̥˞tu˞kin na˞ri˞buba˞ ʔi ˞soːʃim˞ para˞diː](干潮時 < 丁度良い潮時 > になっているから潮干狩り < 磯をする。漁り > に行こうよ)。

シ˞トゥ˞ギ [ʃi̥˞tu˞gi] 【名】しとぎ。米粉を水で捏ねてウズラの卵の大きさに作った餅。「次米、之度岐 < しとき >」『和名抄』の転訛か。ム˞チマイヤー˞　ミ˞ジ˞ナー　フ˞クラシティ˞　クー　バ˞リティ˞　シ˞トゥ˞ギ　ス˞ク˞リ [mu˞ʧimaijaː˞ mi˞ʤi˞naː ɸu̥ ˞kuraʃi̥ti˞ ku: ba˞riti˞ ʃi̥˞tu˞gi su̥˞ku˞ri](糯米は水に浸けてふやかし、米粉に搗き割って粢(シトギ)を作りなさい)。

シトゥ˞ケーシトゥケー˞シ [ʃi̥tu˞keːʃi̥tukeː˞ʃi] 【副】ずっしりと重く。乳児が発育してずしりと重くなるさま。グイ˞ユー˞　ヤ˞ラ˞ベー　シトゥ˞ケーシトゥケー˞シティ　ム˞タイララン˞バン [gui˞juː˞ ja˞ra ˞beː ʃi̥tu˞keːʃi̥tukeː˞ʃi̥ti mu˞tairaram˞baŋ](あらまあ、驚いた。子供はずっしりと重くて抱き上げられ <

持ち上げられ＞ないわい)。シトゥ˞ケーシトゥケー˜シ　フ˞ドゥビ　ベー [ʃi̥tu˞keːʃituke:˜ʃi ɸu˞dubi beː](ずっしりと重く成長しているよ)。

シ˞トゥ˜ケーン [ʃi̥˞tu˜keːŋ] 【形】乳児がずっしりと重い。乳児が順調に成長して体重が重い。ヤ˞ラ˜ベー　イッ˞ケナ˜シ˞トゥ˜ケー　ナ˞リ˜ブバン [ja˞ra˜beː ʔik˞kena˜ ʃi̥˞tu˜keː na˞ri˜bubaŋ](子供はずいぶんと体重が重くなっているよ)。シ˞トゥ˜ケーンティ　シ˞タンドゥ˜　˞ナン˜ゾー　シ˞トゥ˜ケー　˞ナー˜ヌ [ʃi̥˞tu˜keːnti ʃi̥˞tandu nan˜ʤoː ʃi̥˞tu˜keː ˞naː˜nu](乳児は体重がずっしり重いといったが、あまり重くない)。ヤ˞ラ˜ベー　シ˞トゥケー˜ヌ　ダ˞カラヌ [ja˞ra˜beː ʃi̥˞tukeː˜nu da˞karanu](子供はずっしりと重くて抱かれない＜抱くことが出来ない＞)。˞グッ˜ふァン [˞guf˜faŋ](一般的にものが重い。苦痛に感ずる重さ) とは異なる。ク˞ヌ　ッふァー˜　シ˞トゥ˜ケーン˞ダー [ku˞nu ffaː˜ ʃi̥˞tu˜keːn˞daː](この子は体重が重いよ＜よく成長しているねえ＞)。シ˞トゥケー˜ヌ　ダ˞キ　ベーララン˜バン [ʃi̥˞tukeː˜nu da˞ki beːraram˜baŋ](ずっしりと重くて抱き続けておれないわいよ。嬉しいよ)。シ˞トゥ˜ケー　ナ˞リ˜ブーバン [ʃi̥˞tu˜keː na˞ri˜buːbaŋ](重くなっているよ)。シ˞トゥ˜ケール　ヤ˞ラ˜ビ [ʃi̥˞tu˜keːru ja˞ra˜bi](体重の重い子供)。シ˞トゥ˜ケーカー　˞ソーヤ　ナー˜ヌ [ʃi̥˞tu˜keːka: ˞soːja naː˜nu](体重が重かったら心配はないよ)。

シ˞トゥッ˜チ [ʃi̥˞tut˜ʧi] 【名】(植) そてつ (蘇鉄)。普通は約 2 メートルの高さに育つ。幹頂部に硬い羽片状の葉をつける。羽片状の葉は先端が尖っており、葉を二、三枚重ねて結わえ、ナ˞カ˜ザポーキ [na˞ka˜ʤapoːki](台所の土間箒) をつくる。また、この葉を用いて子供の玩具を作る。果実は卵形で赤黄色の角質の殻を有する。実の内部は白色。殻を割って中の実を出し、有毒成分のサイカシンを水に浸けて十分に毒抜きをし、何度か水に晒して灰汁 (毒) 抜きをし、日干し乾燥して臼で搗き、粉にして救荒食に利用した。日干し乾燥したものを芋に混ぜて炊くこともあった。シ˞トゥッチ˜ヌ　˜ナル [ʃi̥˞tuttʃi˜nu ˜naru](蘇鉄の実)。シ˞トゥッチ˜ヌ　˞パー [ʃi̥˞tuttʃi˜nu ˞paː](蘇鉄の葉)。シ˞トゥッチ˜ヌ　˜ナル　˜キシティ　˞ミー˜　トゥリ　ア˞クヌギ　シテイ˜　ティダナー　˜プシ [ʃi̥˞tuttʃi˜nu ˜naru ˜ki̥ʃiti ˞miː˜ turi ʔa˞kunugi ʃi̥ti˜ tidanaː ˜pu̥ʃi](蘇鉄の実を切って、中の身を取り出し、灰汁抜きをして日干ししなさい)。シ˞トゥッチ˜ヌ　˜ナル　˞ピッ˜キティ　˞ビンダロー˜マ　ス˞ク˜リ　˞ナーラスン [ʃi̥˞tuttʃi˜nu ˜naru ˞pik˜kiti ˞bindaroː˜ma su̥˞ku˜ri ˞naːrasuŋ](蘇鉄の実に穴を開けてビードロ笛＜ビンダローマ＞を作って鳴らす)。

シ˞トゥッチ˜ヌ　˜ナル [ʃi̥˞tuttʃi˜nu ˜naru] 【連】蘇鉄の実。実は卵形。赤黄色の角質の殻を有する。殻の中の実は白色の澱粉質になっている。一本の蘇鉄から 5 升～1 斗の実が採れる。実の周囲には赤黄色の錦状の花弁が密生しており、昔はそれを採取して、˞マー˜ル [˞maː˜ru](鞠) の素材に利用した。殻は割って中身を取り出し、3～4 日水に浸けて十分に灰汁抜きをし、日干し乾燥して保存したり、搗き臼に入れて搗き、粉にして食用に供したりした。芋と混ぜて炊くと美味であった。シ˞トゥッチ˜ヌ　˜ナロー　ア˞クヌギ　サン˜カー　˞ビー˜ルン˞ダー [ʃi̥˞tuttʃi˜nu ˜naroː ʔa˞kunugi saŋ˜kaː ˞biː˜run˞daː](蘇鉄の実は灰汁抜きしない＜灰汁抜きしないで食する＞と中毒するぞ)。

シ˞トゥッチ˜ヌ　˞パー [ʃi̥˞tuttsi˜nu ˞paː] 【連】蘇鉄の葉。シ˞トゥッチ˜ヌ　˞パー˜シ　ナ˞カ˜ザポーキ　ス˞ク˜リ [ʃi̥˞tuttʃi˜nu ˞paː˜ʃi na˞ka˜ʤapoːki su̥˞ku˜ri](蘇鉄の葉で台所箒を作りなさい)。

シ˞トゥッ˜チポーキ [ʃi̥˞tut˜ʧipoːki] 【名】蘇鉄の葉箒。蘇鉄の葉を 3～4 枚重ねて括り、台所土間用の箒に作ったもの。どこでも金をかけずに簡単に作れて機能的にも優れていたので重宝された。シ˞トゥッ˜チポーキシ　ナ˞カ˜ザー　˞ポー˜キ [ʃi̥˞tut˜ʧipoːkiʃi na˞ka˜ʤaː ˞poː˜ki](蘇鉄箒で台所の土間を掃き出しなさい)。

シ˞トゥッ˜チマール [ʃi̥˞tut˜ʧimaːru] 【名】蘇鉄の綿状の花弁で作った鞠。「蘇鉄鞠」の義。ム˞カ˜シェー　ミ˞ドーン˜ッふァー　シ˞トゥッ˜チマールシル　ア˞サブタ [mu˞ka˜ʃeː mi˞doːŋ˜ffaː ʃi̥˞tut˜ʧimaːruʃiru ʔa˞sabuta](昔は女の子は蘇鉄の花弁で作った鞠で遊んだ)。

シ˞トゥッ˜チムトゥ [ʃi̥˞tut˜ʧimutu] 【名】蘇鉄の幹。シ˞トゥッ˜チムトゥ　˞コースン [ʃi̥˞tut˜ʧimutu ˞koː-suŋ](蘇鉄の幹を掘り起こして移す)。

シ˞トゥッ˜チムラシ [ʃi̥˞tut˜ʧimuraʃi] 【名】蘇鉄の群落。蘇鉄が固まって群生して＜叢がって＞いる所。タ˞チバル˜ヌ　パ˞タキ˜ヌ　ス˞バ˜ヌ　シ˞トゥッ˜チムラシェーラ　シ˞トゥッチ˜ヌ　˜ナル　˜ブリ　˜クー [tḁ˞ʧibaru˜nu pḁ˞taki˜nu su˞ba˜nu ʃi̥˞tut˜ʧimuraʃeːra ʃi̥˞tuttʃi˜nu ˜naru ˜buri ˜kuː](立原の畑の側の蘇鉄群落の一株から蘇鉄の実をもいでこい)。

シ˞トゥッ˜チムルク [ʃi̥˞tut˜ʧimuruku] 【名】蘇鉄の群落地。タ˞チ˜バルラ　トゥ˞ビリヌ˜　パ˞タキン˜トン　˜カキティ　シ˞トゥッ˜チムルクヌ　˞アッ˜タン [tḁ˞ʧi˜barura tu˞birinu˜ pḁ˞takin˜toŋ ˜kḁkiti ʃi̥˞tut ˜ʧimurukunu ˞ʔat˜taŋ](立原からトゥビリの畑の所にかけて蘇鉄の群落地があった)。

シ˞トゥッ˜チヤマ [ʃi̥˞tut˜ʧijama] 【名】蘇鉄の群生しているところ。蘇鉄の群落地。タ˞チ˜バルナー　シ˞トゥッ˜チヤマヌ　˞アッ˜タン [ta˞ʧi˜baruna: ʃi̥˞tut ˜ʧijamanu ˞ʔat˜taŋ](立原には蘇鉄の群落地があった)。

シ˞トゥトゥリウー˜キ [ʃi̥˞tuturiʔu:˜ki] 【名】澱粉採取用の桶。直径約 45 センチ、高さ約 50 センチの木製の桶。˞ウンヌ˜クジ [˞ʔunnu˜kuʤi](芋の葛粉。芋の澱粉) や˞キーウン˜ヌ　˜クジ [˞ki:un˜nu ˜kuʤi](キャッサバ芋の葛粉。キャッサバの澱粉) を採取する際、擂り潰した甘藷やキャッサバ芋の滓を搾って、その絞り汁を入れて沈殿させる桶。一昼夜放置して沈殿させると純白の澱粉が桶の底に、2〜3 センチの厚さに沈殿する。それを剥ぎ取って乾燥させ、保存する。シ˞トゥトゥリウー˜キ　カ˞リ˜クー [ʃi̥˞tuturiʔu:˜ki ka˞ri˜ku:](澱粉採取用桶を借りてきなさい)。

シ˞トゥ˜ナイ　ナ˞ラー˜スン [ʃi̥˞tu˜nai na˞ra:˜suŋ] 【連】尻を引っ叩いて教育する。尻を叩いて躾ける。ム˞カ˜シェー　ヤ˞ラ˜ベー　シ˞ビ˜　シ˞トゥナイ˜ヤーティル　ナ˞ラー˜ソッタ [mu˞ka˜ʃe: ja˞ra˜be: ʃi˞bi˜ ʃi̥˞tunai˜ja:tiru na˞ra:˜so:tta](昔は、子供は尻を引っ叩きながら躾けられた)。

シ˞トゥナイ˜ルン [ʃi̥˞tunai˜ruŋ] 【他動】1水を加えて叩き捏ねる。叩いて捏ねる。敲く。シ˞トゥ˜ナウンとも言う。˜ミツァー　ク˞ナシ˜　シ˞トゥ˜ナイティ　˞ヤー˜ヌ　˞ウイ˜　ア˞ギリ [˜mitsa: ku˞naʃi˜ ʃi̥˞tu˜naiti ˞ja:˜nu ˞ʔui˜ ʔa˞giri](粘土を足で踏み捏ね、叩き捏ねて屋根の上に上げなさい)。ウ˞ビ˜ナー　シ˞トゥナイラン˜タンティン　˜ミサンドゥ　˜アイニ　シ˞トゥナイ˜ルンティ　˞シー　アー˜ク [ʔu˞bi˜na: ʃi̥˞tunairan˜tantim ˜misandu ˜ʔaini ʃi̥˞tunai˜runti ˞ʃi: ʔa:˜ku](そんなに強く叩き捏ねなくても良いのに、強く叩き捏ねようとしている)。2叩いて懲らしめる。打ちのめす。やっつける。˜ドゥクナリ　˞ブー˜カー　シ˞ビ˜　シ˞トゥナイ˜リ　シ˞トゥナイ˜ル　˜ピンマー　˜ドゥク　シゥ˞カラ˜　ン˞ザス˜ナ [˜dukunari ˞bu:˜ka: ʃi˞bi˜ ʃi̥˞tunai˜ri ʃi̥˞tunai˜ru ˜pimma: ˜duku si̥˞kara˜ ʔn˞ʤasu˜na](あんまりひどいようだったら、お尻をひっぱたいて懲らしめなさい。ひっぱたく時はあまり力を出すな)。

シ˞トゥ˜ナウン [ʃi̥˞tu˜nauŋ] 【他動】1ぶん殴る。ひっぱたく (引っ叩く)。叩く。˜ドゥクナリ　˞ブー˜カー　シ˞ビ˜　シ˞トゥ˜ナウン˞ダー [˜dukunari ˞bu:˜ka: ʃi˞bi˜ ʃi̥˞tu˜naun˞da:](あんまりひどかったら、尻を引っ叩くぞ)。シ˞トゥナイ˜　プサンドゥ　˞ドゥー˜ヌ　ッ˞ふァ˜　ア˞ラン˜ダ　シ˞トゥナーラ˜ヌ　˞ワー˜　シ˞トゥ˜ナイバ [ʃi̥˞tunai˜ pu̥sandu ˞du:˜nu f˞fa˜ ʔa˞ran˜da ʃi̥˞tuna:ra˜nu ˞wa:˜ ʃi̥˞tu˜naiba](引っ叩きたいが自分の子供でないから引っ叩けない。君が引っ叩けよ)。シ˞トゥ˜ナウ　˜バソー　カシー˞カシー˜　シ˞トゥナイ˜ヤー　˜ミサムヌ [ʃi̥˞tu˜nau ˜baso: kḁʃi: ˞kaʃi:˜ ʃi̥˞tunai˜ja: ˜misamunu](引っ叩くときはしっかり引っ叩けばいいのに)。シ˞トゥ˜ナウンティ　ウ˞ムー˜タンティン　シ˞トゥナーラン˜バ　˞ワー˜シ　シ˞トゥ˜ナイ　ナ˞ラー˜シ [ʃi̥˞tu˜naunti ʔu˞mu:˜tantiŋ ʃi̥˞tuna:ram˜ba ˞wa:˜ʃi ʃi̥˞tu˜nai na˞ra:˜ʃi](引っ叩こうと思っても引っ叩かれないから、君で引っ叩いて教えれ)。シ˞トゥ˜ナウ　˜ピンマー　˜ドゥーシ　シ˞トゥ˜ナイ [ʃi̥˞tu˜nau ˜pimma: ˜du:ʃi ʃi̥˞tu˜nai](引っ叩く時は自分で引っ叩け)。シ˞トゥナイ˜ヤー　˜ミサムヌ [ʃi̥˞tunai˜ja: ˜misamunu](引っ叩けば良いのに)。2叩いて捏ねる。˜ミツァ　シ˞トゥ˜ナイ　˞ヤーラキ [˜mitsa ʃi̥˞tu˜nai ˞ja:raki](粘土を叩いて捏ねよ)。シ˞トゥナイ˜ルン [ʃi̥˞tunai˜ruŋ](叩いて捏ねる。) のア行四段活用化したもの。

シ˞トゥ˜ヌ　ム˞チ [ʃi̥˞tu˜nu mu˞ʧi] 【連】大きな法事の供物の餅。「苞の餅」の義。˜シンズク [˜ʃinʤuku](四十九日忌) からウ˞サンギソッコー [ʔu˞saŋgisokko:](三十三年忌) まで、必ず供える餅。祖霊が土産にする餅といわれている。八寸重箱に一列四個の三列、十二個詰めにして二段重ねにした二十四個の餅をいう。シ˞トゥ˜ヌ　ム˞チェー˜　シ˞キ　オーシリ [ʃi̥˞tu˜nu mu˞ʧe:˜ ʃi̥˞ki ʔo:ʃiri](お土産の餅 < 苞の餅 > はお供えして差し上げなさい)。

シ˞トゥ˜ヌ　˜ムヌ [ʃi̥˞tu˜nu ˜munu] 【連】つと (苞) の物。お盆祭の際に祖霊へ供えた供物を、お送りの日に霊界へのお土産として供物のパ˞チ [pḁ˞ʧi](お初) を取って戸外に置くもの。ウ˞ヤ˜プスンケーヌ　シ˞トゥ˜ヌ　˜ムノー　グ˞サン˜ヌ　˞シン˜ザシル　カ˞タ˜ミ　˞オー˜ルツォー [ʔu˞ja˜pu̥sunʒke:nu ʃi̥˞tu˜nu ˜muno: gu˞san˜nu ˞ʃin˜ʤaʃiru kḁ˞ta˜mi ˞ʔo:˜rutso:](ご先祖様方のお土産 < 苞の物 > は、杖の砂糖黍で担いで行かれるそうだ)。

シ˞トゥバラ **[ʃi̥˞tubara]** 【名】こじゅうと (小姑。小姑)。「しゅうと輩 (ばら)」の意『石垣方言辞典』。こじゅうとめ (小姑)。配偶者の兄弟姉妹。「妹、コジフトメ。婦兄・婦弟・兄公、コジウト」『類聚名義抄』の義。シ˞トゥバラヌ　ゴー˺ラール　˞ヤー˺ヤ　タ˞ティグリ˺サンツォー [ʃi̥˞tubaranu goː˺raːru ˞jaː˺ja ta˞tiguri˺santsoː](配偶者の姉妹の多い家は、嫁は暮らしにくいそうだ)。

シ˞トゥピライ **[ʃi̥˞tupirai]** 【名】しゅうと (舅・姑) と嫁の付き合い。マ˞ナマ˺ヌ　˞ユーヤー˺　シ˞トゥピライティ　スー　ムヌン　ナー˺ンダ　˞ヤームン˺ドーン　˞ナー˺ヌ [ma˞namaˀnu ˞juːja˺ ʃi̥˞tupiraiti suː munun naː˺nda ˞jaːmun˺doːn ˞naː˺nu](現代 < 今の世 > はしゅうと付き合いというものがないので家族騒動というのもない)。

シ˞トゥ˺ベー **[ʃi̥˞tu˺beː]** 【名】シ˞ラ [ʃi˞ra](いなむら < 稲叢 >) の頂上をかぶせる覆い。茅の先を束ねて丸め結わえ、根の部分を円錐状に広げて、稲叢の頂上を覆った苫の上に被せて雨を防ぐ。田の畦や畑で収穫物を一時的に保管するためにも利用した。シ˞ラヌ˺　ティ˞ジェー˺　シ˞トゥ˺ベー　カ˞バサン˺カー　ア˞ミ˺ヌ　˺ムリ　タ˞ボーラヌ [ʃi˞ranu˺ ti˞ɕeː˺ ʃi̥˞tu˺beː kaˀbasaŋ˺kaː ʔa˞mi˺nu ˺muri ta˞boːranu](稲叢の頂上はシトゥベーを被せないと雨が漏るので保存できない)。

シ˞トゥ˺ベーパカ **[ʃi̥˞tu˺beːpḁka]** 【名】シ˞トゥ˺ベーを被せた幼児の墓。二歳以下の幼児の墓で、本墓の隅に埋葬し、カ˞ソーライシ [ka˞soːraʔiʃi](テーブル珊瑚 < 笠石 >) を被せ、その上にシ˞トゥ˺ベーで覆った墓。イ˞クサユー˺ヌ　˺アトゥナー　マ˞ラリ˺ヤシ　シ˞ネー˺　ッ˞ふァヌ˺　シ˞トゥ˺ベーパカヌ　ヤ˞マシゅ˺カ　˞アッ˺タン [ʔi˞kusajuː˺nu ˺ʔatunaː ma˞rari˺jaʃi ʃi˞neː˺ f˞fanu˺ ʃi̥˞tu˺beːpḁkanu ja˞masi̥˺ka ˞ʔat˺taŋ](戦後、マラリアで死んだ子供のシトゥベー墓がたくさんあった)。

シ˞トゥ˺ミ **[ʃi̥˞tu˺mi]** 【名】1神職を勤めること。祈願をすること。サ˞カサンケー˺ヤ　シ˞トゥム˺ティ˺ユネンヌ　シ˞トゥ˺ミ　˞ソー˺ルン [sḁ˞kasaŋkeː˺ja ʃi̥˞tumu˺ti ˺junennu ʃi̥˞tu˺mi ˞soːt˺taŋ](司の方々は朝夕の祈願 < 勤め > をなされた)。2職務。仕事。任務。義務。役目。「勤め」の義。標準語からの借用語。ス˞クリプス˺ヌ　シ˞トゥ˺メー　˞ターパタ˺キ　ス˞ク˺ルー　˺クトゥ [su̥˞kuripusu˺nu ʃi̥˞tu˺meː ˞taːpata ˺ki su̥˞ku˺ru ku̥tu](百姓 < 作り人 > の仕事は田を耕して米を作り、畑を耕して作物を作ることだ)。サ˞クシ˺ヌ　シ˞トゥ˺メー　ウ˞ヤ˺ヌ　˺アトゥ　˺ミル　˺クトゥ [sḁ˞kuʃi˺nu ʃi̥˞tu˺meː ʔu˞ja˺nu ˺ʔatu ˺miru ˺ku̥tu](長男の義務 < 勤め > は親の老後をみることだ)。

シ˞トゥミアギ˺ルン **[ʃi̥˞tumiʔagi˺ruŋ]** 【他動】勤め上げる。やるべきことを成し遂げる。標準語からの借用語。˞テイネンバー˺ケー　ヤー˞ディン˺　シ˞トゥミアギ˺ルンティル　˞ギーバリ　ベー [˞teinembaː ˺keː jaː˞diŋ˺ ʃi̥˞tumiʔagi˺runtiru ˞giːbari beː](定年までは必ず勤め上げるとて、頑張っている)。

シ˞トゥミ˺アグン **[ʃi̥˞tumi˺ʔaguŋ]** 【他動】任務をまっとうする。勤め上げる。やるべきことを成し遂げる。「勤め上ぐ」の義。ク˞ヌ˺　シ˞グトー˺　シ˞トゥミアグバ˺ル　ノー˞ン˺　ナル [ku˞nu˺ ʃi˞guto:˺ ʃi̥˞tumiʔagubaˀru no:˞n˺ naru](この仕事を勤め上げてこそ < 勤め上げたらばこそ > 他の仕事も、何でも出来るものだ)。

シ˞トゥミ˺ニン **[ʃi̥˞tumi˺niŋ]** 【名】月給取り。「勤め人」の義。ヤ˞クバ˺ヌ　シ˞トゥミ˺ニン　˺ナリ　˞マイフナー [ja˞kuba˺nu ʃi̥˞tumi˺nin ˺nari ˞maiɸunaː](役場の職員 < 勤め人 > になって利口者 < 頑張り者、立派な人 > だ)。

シ˞トゥミ˺ルン **[ʃi̥˞tumi˺ruŋ]** 【自動】仕える。勤務する。勤める。ヤ˞ク˺バナー　シ˞トゥミ˺ルンティ　ウ˞ムータン˺ドゥ　シ˞トゥミラン˺シェン [ja˞ku˺ba-naː ʃi̥˞tumi˺runti ʔu˞muːtan˺du ʃi̥˞tumiraraŋ˺ʃeŋ](役場に勤めようと思ったが、勤められなかった)。シ˞トゥミ˺　プサカー　シ˞トゥ˺ミバ [ʃi̥˞tumi˺ pu̥saka: ʃi̥˞tu˺miba](勤めたければ勤めなさい)。シ˞トゥ˺ム　プ˞ソー　パー˺ク　シ˞トゥ˺メー　˺ミサムヌ [ʃi̥˞tu˺mu pu̥˞so: paː˺ku ʃi̥˞tu˺meː ˺misamunu](勤める人は早く勤めればよいのに)。

シ˞トゥム˺ティ **[ʃi̥˞tumu˺ti]** 【名】朝。早朝。「日初出時也、明也、豆止女天 < つとめて >、又阿志太 < あした >」『新撰字鏡』の転訛したもの。シ˞トゥム˺テーラ　ユネン˞バー˺キ　パ˞タラキトゥーシ [ʃi̥˞tumu˺teːra junem˞baː˺ki pḁ˞tarakituːʃi](朝から晩まで働き通し)。シ˞トゥムティ˺ヌ　˞ニン˺ガイ [ʃi̥˞tumuti˺nu ˞niŋ˺gai](朝の祈願 < 願い >)。˺アツァー　シ˞トゥム˺ティ　˞パイ˺サ　イ˞ソー˺　パルン [˞ʔatsa: ʃi̥˞tumu˺ʃi ˞pai˺sa ʔi˞soː˺ paruŋ](明日は、朝早く出漁する < 漁に行く >)。

シ˞トゥムティ˺ヌ　˺イー **[ʃi̥˞tumuti˺nu ˺ʔiː]** 【連】朝の御飯。「つとめての飯」の転訛したもの。ア˞サ˺ボン [ʔa˞sa˺boŋ](朝飯) ともいう。シ˞トゥムティ˺ヌ

ˈイーˀヤ　ッˈふァイヤンˀカヤー [ʃi̥ˈtumutiˀnu ˈʔiːˀja fˈfaijaŋˀkajaː](朝のご飯は食べたかね)。

シˈトゥムティˀヌ　ˀパイ [ʃi̥ˈtumutiˀnu ˀpai] 【連】早朝の祈願。午前 5 時頃に行われる祈願。「ツトメテ (朝) の拝」の義。豊年祭や結願祭のˈユードゥーˀシ [ˈjuːduːˀʃi](夜通しの祈願) の際、ユˈナカˀヌ　ˀパイ [juˈnakaˀnu ˀpai](夜中の拝 < 祈願 >) からシˈトゥムティˀヌ　ˀパイ [ʃi̥ˈtumutiˀnu ˀpai](朝の拝 < 祈願 >) までの間、村の総代を始め、村役人や有志らが神職者 (司、ティジリビー) の祈願の後に飲酒、歌舞をして徹夜で祈願の御供をした。中には仮眠をとる人もあったが、夜通し三線を弾き、太鼓を打ち鳴らし、神歌や民謡を歌いながら睡魔を払って徹夜の祈願をしたものである。「早朝の祈願」が済むとサカサを先頭にしてティジリビーや村役人たちは友利御嶽を下りて家路に向かうのであった。

シˈトゥムティユネン [ʃi̥ˈtumutijuneŋ] 【名】朝夕。シˈトゥムティユネンˀヌ　カーˈジ　サーサーˀドー　トゥˈクニヌˀ　ウˈヤプスˀヌマイ　アˈギ　オースンˀツォー [ʃi̥ˈtumutijunenˀnu kaːˈʤi saːsaːˀdoː tu̥ˈkuninuˀ ʔuˈjapusuˀnu ˀmai ʔaˈgiʔoːsunˀtsoː](朝夕のたび毎に茶湯を仏壇のご先祖の前にお供え差し上げる < 捧げ奉る > そうです)。

シˈトゥˀムン [ʃi̥ˈtuˀmuŋ] 【自動】勤める。「勤む < 下二段活用 >」の四段活用化したもの。ヤˈクˀバナー　シˈトゥˀミ　ミサカー　シˈトゥˀムンティ　ウˈムータンˀドゥ　シˈトゥマランˀシェン [jaˈkuˀbanaː ʃi̥ˈtuˀmi ˀmisakaː ʃi̥ˈtuˀmunti ʔuˈmuːtanˀdu ʃi̥ˈtumaraŋˀʃeŋ](役場に勤めてよければ勤めようと思ったが、勤まらなかった)。シˈトゥˀム　プˈソー　パーˀク　シˈトゥˀメー　ˀミサムヌ [ʃi̥ˈtuˀmu pu̥ˈsoː paːˀku ʃi̥ˈtuˀmeː ˀmisamunu](勤める人は早く勤めればよいのに)。ˈワーˀ　ヤーˈディンˀ　クナー　シˈトゥˀミ [ˈwaːˀ jaːˈdiŋˀ kunaː ʃi̥ˈtuˀmi](君はどうしても < 必ず > 此処に勤めなさい)。

シˈトゥラˀスン [ʃi̥ˈturaˀsuŋ] 【他動】湿らす。湿らせる。シˈミラˀスン [ʃiˈmiraˀsuŋ](湿らす) ともいう。クˈヌ　キンˀマー　ンˈメーマˀ　ミˈジ　パンˀキ　シˈトゥラˀシティ　シˈバナキˀバ [kuˈnu kimˀmaː ʔmˈmeːmaˀ miˈʤi paŋˀki ʃi̥ˈturaˀʃiti ʃiˈbanakiˀba](この着物は、少し水をふってのし < 伸し。皺を伸ばし > なさいよ)。

シˈトゥリˀルン [ʃi̥ˈturiˀruŋ] 【自動】湿る。ナˈチェー　シューˀヌ　ウˈリˀルンダ　ˈジーˀヤ　ンˈメーマˀ　シˈトゥリˀルンティ　スˈクタヌ　フンˀトー　シˈトゥˀリ　ˈベーˀバン [naˈʧeː ʃuːˀnu ʔuˈriˀrunda ˈʤiːˀja ʔmˈmeːmaˀ ʃi̥ˈturiˀrunti su̥ˈkutanu ɸunˀtoː ʃi̥ˈtuˀri beːˀbaŋ](夏は露が下りるから、土地は少し湿ると聞いたが、本当に湿っているよ)。

シˈトゥルシトゥル [ʃi̥ˈturuʃi̥turu] 【副】そろりそろりと。しずしずと。弱弱しく、影が薄く行動するさま。存在感が薄く、ひっそりと行動するさま。イˈクサˀユーナ　ッˈふァヌˀ　ブˈラーンˀナリ　ˀトゥシン　トゥˈローˀリ　シˈトゥルシトゥルˀシ　アˈラˀキ　ˈオーˀル　ˀムヌ　ミˈルバˀルー　キˈムイˀツァーˈツォー [ʔiˈkusaˀjuːnaː fˈfanuˀ buˈraːnˀnari ˀtuʃin tuˈroːˀri ʃi̥ˈturuʃi̥turuˀʃi ʔaˈraˀki ˈʔoːˀru ˀmunu miˈrubaˀru kiˈmuiˀtsaːˈtsoː](戦争で子供も死んでしまい、年もとられて、弱そうに、そろりそろりと歩いておられる様子を見ると、気の毒でならない < 心が痛むのだよ >)。

シˈトゥルシトゥルˀシ [ʃi̥ˈturuʃi̥turuˀʃi] 【副】静かに歩く様子。しおしおと。孤影悄然と。ひっそりと。他人に知られないようにそっと。うなだれて歩く様子。老人や幼子が淋しそうに歩くさま。ABCABC 型の重言。ˈシーˀネヌ　ˀアッパー　トゥˈシˀバ　トゥˈローッˀター　シˈトゥルシトゥルˀシル　アˈラˀコール　ウˈリˀ　ミルカー　キˈムイˀツァーˈツォー [ˈʃiːˀnenu ˀʔappaː tuˈʃiˀba tuˈroːtˀtaː ʃi̥ˈturuʃi̥turuˀʃiru ʔaˈraˀkoːru ʔuˈriˀ mirukaː kiˈmuiˀtsaːˈtsoː](後ろ隣のおばあさんは年をとられたので、元気がなくうなだれて歩かれる。それを見ると気の毒である < 肝が痛い >)。

シトゥˈルッティ [ʃi̥tuˈrutti] 【副】ひっそり。ひそかに。他人に知られないようにさっと。風のようにそっと。ウˈヌ　ッふァーˀ　イˈチヌˀ　マˈドゥˀル　ˈパッˀタユー　シトゥˈルッティˀ　ンジパリ　ˈナーˀヌ [ʔuˈnu ffaːˀ ʔiˈʧinuˀ maˈduˀru ˈpatˀtajuː ʃi̥tuˈruttiˀ ʔnʤipari ˈnaːˀnu](その子は、何時の間に行ったのか、こっそり出て行ってしまった)。

シˈトゥˀレーˀン [ʃi̥ˈtuˀreːˀŋ] 【形】湿っぽいさま。「しとり (湿り)・あり」の転訛したもの。畑の潤いが過ぎてびちゃびちゃするさま。畑の土壌に水分が多くてびちゃびちゃするさま。アˈミˀヌ　ˈフーˀター　シˈトゥレーˀヌ　パˈタˀキ　ˈカイサラˀヌ [ʔaˈmiˀnu ˈɸuːˀta: ʃi̥ˈtureːˀnu pḁˈtaˀki ˈkaisaraˀnu](雨が降ったので、畑の土壌がびちゃびちゃして耕されない)。シˈトゥレーナーˀヌ [ʃi̥ˈtureːnaːˀnu](畑の土壌はびちゃびちゃしていない < 湿っぽくない >)。シˈトゥˀレー　ナルン [ʃi̥ˈtuˀreː ˀnaruŋ](畑の土壌が

びちゃびちゃに、湿っぽくなる)。

シ˞トゥ˞レーン [ʃi̥˞tu˞reːŋ] 【形】しとる (湿る) さま。湿っぽい。ぬかるむ (泥濘む) さま。雨で畑がびちゃびちゃになるさま。ウ˞ブアミヌ　フー˞ター　パ˞タ˞ケー　シ˞トゥ˞レーンティ　ウ˞ムータ˞ヌ　シ˞トゥ˞レー　˞ナーン˞シェン [ʔu˞buaminu ɸuː˞taː pḁ˞ta˞keː ʃi̥˞tu˞reːnti ʔu˞muːta˞nu ʃi̥˞tureː naːŋ˞ʃeŋ](大雨が降ったので畑はぬかるんだ状態だと思ったが、ぬかるんでなかった)。シ˞トゥレー˞ヌ　パ˞タ˞ケー　˞ペーララ˞ヌ [ʃi̥˞tureː˞nu pḁ˞ta˞keː ˞peːrara˞nu](ぬかるんだ状態なので畑に入れない)。シ˞トゥ˞レー　˞ピンマー　パ˞タ˞ケー　˞ペール˞ナ [ʃi̥˞tu˞reː ˞pimmaː pḁ˞ta˞keː ˞peːru˞na](ぬかるんだ状態の時は畑に入るな)。

シ˞トゥン [ʃi̥˞tuŋ] 【他動】 ¹捨てる。投棄する。「すつ＜棄つ＞下二段。～壽毛須底＜イノチモ・ステテ＞て～『万葉集　4211』」の四段活用化したもの。˞ヌーンクイ　ムー˞ル˞　シ˞トゥンティ˞　シ˞タンドゥ˞　シ˞タンドー˞シ　˞パリ　˞ナーン˞バ　˞ワー˞　シ˞ティ˞バ [˞nuːŋkui muː˞ru ʃi̥˞tunti˞ ʃi̥˞tandu˞ ʃi̥˞tandoː˞ʃi ˞pari ˞naːm˞ba ˞waː˞ ʃi̥˞ti˞ba](何もかも全部棄てると言ったが、棄てないで行ってしまったので、君は捨てなさい)。ク˞レー˞　シ˞ティ˞　ミサン [ku˞reː˞ ʃi̥˞ti˞misaŋ](これは棄ててよい)。シ˞トゥ˞プ˞ソー˞　シ˞テー˞　ミサムヌム [ʃi̥˞tu˞ pu̥˞soː˞ ʃi̥˞teː˞ misamunu](棄てる人は棄てればよいのに)。²紛失する。無くする。失う。˞マナール　シ˞トゥタ˞ユー　˞アシゥカリ˞ムヌ　シ˞ティナー˞ヌ [˞manaːru ʃi̥˞tuta˞juː ˞ʔasi̥kari˞munu ʃi̥˞tinaː˞nu](何処で紛失したのか、預かり物を無くしてしまった)。

˞シドゥン [˞ʃiduŋ] 【自動】孵化する。卵から雛がかえ(孵る)。脱皮する。蛆がわく。˞ミー˞ドゥロー　˞コーマ˞ヌ　˞シドゥンケン　˞シー　ア˞ツァ˞シ　˞ベー˞ンドゥ　マ˞ダ˞　シ˞ダ˞ヌ [˞miː˞duroː ˞koːma˞nu ˞ʃiduŋkeŋ ˞ʃiː ʔa˞tsa˞ʃi ˞beː˞ndu ma˞da˞ ʃi˞da˞nu](雌鳥は卵が孵化するまで巣を温めているが、まだ孵化しない)。˞シディ　˞ナー˞ヌ [˞ʃidi ˞naː˞nu](孵化してしまった)。˞シドゥ　˞ピン [˞ʃidu ˞piŋ](孵化する時)。˞パー˞ク　˞シデー　˞ミサムヌ [˞paː˞ku ˞ʃideː ˞misamunu](早く孵化すれば良いのに)。˞パイヌ　コー˞マーラ　ウ˞ジ˞ヌ　˞シドゥンティ˞ダー [˞painu koː˞maːra ʔu˞ʤi˞nu ˞ʃidunti˞daː](蝿の卵から蛆が孵化するそうだよ)。シ˞ダ˞ヌ [ʃi˞da˞nu](孵化しない)。˞シディティ [˞ʃiditi](孵化して)。˞シドゥ　˞ムヌ [˞ʃidu ˞munu](孵化するもの)。˞シデー　˞ミサムヌ [˞ʃideː ˞misamunu](孵化すればよいのに)。˞シディ [˞ʃidi](孵化しろ)。

˞シトンカー [˞ʃi̥toŋkaː] 【名】びっこ (跛) を引くこと。びっこ (跛)。イ˞ク˞サナール　˞キジューシ　˞パン　イ˞ラリティ˞　シトンカー　˞ナリ　˞ベー˞ダー [ʔi˞ku˞sanaːru ˞kiʤuːʃi ˞paŋ ʔi˞rariti˞ ʃi̥toŋkaː ˞nari ˞beː˞daː](戦争で機銃で足を射られてびっこになっているんだよ)。

シトンカー [˞ʃi̥toŋkaː] 【名】びっこの人。足の不自由な人。びっこをひいて歩く人。イ˞ク˞サナー　˞ティップ˞シ　˞パン˞　イ˞ラリティル˞　シトンカー　˞ナリ　˞ベー˞ダー [ʔi˞ku˞sanaː ˞tippu˞ʃi ˞paŋ ʔi ˞raritiru˞ ʃi̥toŋkaː ˞nari ˞beː˞daː](戦争の時に、鉄砲で足を撃たれてびっこになっているのだよ)。

シトン˞ティ [ʃiton˞ti] 【副】ドスンと。ストンと。それほど重くない物が落下して音を出すことの形容。˞カーラ˞ヌ　シトン˞ティ˞　ウティ˞キー　ス˞ブ˞ル　バ˞リ˞　シケー [˞kaːra˞nu ʃi̥ton˞ti˞ ʔuti ˞kiː su˞bu˞ru ba˞ri˞ ʃi̥keː](瓦がストンと落ちてきて、頭を打って＜割って＞ある)。

シ˞ナ [ʃi˞na] 【名】品。品物。シ˞ナムヌ [ʃi˞namunu](品物) ともいう。シ˞ナー˞　ス˞ロー˞シ [ʃi˞naː˞ su˞roː˞ʃi](品物を確保し＜揃え＞なさい)。シ˞ナー　ギューシナ˞　ア˞ル˞ワ [ʃi˞naː gjuːʃina˞ ʔa˞ru˞wa](品物は幾品＜何種類＞あるか)。商品。品目。「品」の義。シ˞ナカジヌ　ゴー˞ラール　マ˞チヤー˞ラ　カ˞ウバル˞　マ˞シ˞ダー [ʃi˞nakaʤinu goː˞raːru ma˞ʧijaː˞ra ˞kaubaru˞ ma˞ʃi˞daː](品数の多い店から買ったほうがいいよ)。/˞キーヌ˞ナル　パ˞チパチバ˞　ブ˞リカザ˞リ/　ナ˞リキー˞ヌ　シ˞ナジナバ˞　トゥリガザリ/(木の実の初生り初生りを捩(モ)ぎ供え、木の実の品々を採り供え)「七月念仏歌・シザヌクイ＜兄の声・歌＞」『鳩間島古典民謡古謡集』。˞サイクドン˞ゴー　˞ギューシナ˞　ア˞ル˞ワ [˞saikudoŋ˞goː ˞gjuːʃina˞ ʔa˞ru˞wa](大工道具は何種類＜幾品＞あるか)。

˞シナ [˞ʃina] 【名】¹綱。藁やアダンの気根の繊維、くろつぐ (桄榔子) の繊維などを縒り合わせて太く長く綯った縄。「～風を疾み都奈波多由登毛＜ツナハタユトモ＞　言な絶えそね『万葉集　3380』」の義。バ˞ラフ˞タジナ [ba˞raɸu̥˞taʤina](藁縄)。ア˞ダナ˞シジナ [ʔa˞dana˞ʃiʤina](アダンの気根の繊維で綯った縄)、˞フー˞カラジナ [˞ɸuː˞karaʤina](クロツグの繊維で綯った縄) などがある。バ˞ラフ˞タジナ　˞ナイティ　タ˞ム˞ヌ　マ˞ラキ [ba˞raɸu˞taʤina ˞naiti ta˞mu˞nu ma˞raki](藁縄綯って薪を束ね＜ま

ろげ＞よ)。˩ユー˥ル [˩juː˥ru](アダンの気根の繊維を縒って綯った細い縄) は強力で美しく、凧揚げの紐にも˩アン˥スク [˩ʔan˥sṵku](網袋) を編むのにも用いられる。ピ˩ダリ˥ジナ [pi˩dari˥ʤina](左綯いの綱。注連縄)、シ˩ビナージナ [ʃi˩binaːʤina](注連縄)、サ˩バホーシ˥ジナ [sa˩bahoːʃi˥ʤina](鱶釣り綱) がある。˥シナ　˥ヌーン [˥ʃina ˥nuːŋ](綱を綯う)。˥バー　˩ノー˥ヌ [˥baː ˩noː˥nu](私は綯わない)。˥ヌイ　ッ˩ふィーリ [˥nui f˩fiːri](綯ってくれ)。2罪人を捕縛する縄。ヤ˩ナクトゥ　スー˥カー　˥シナ　パ˩クン˥ダー [ja˩nakutu suː˥ka: ˥ʃina pḁ˩kun˥daː](悪事を働くと＜すると＞罪人として捕縛される＜罪人として綱を履く。縄をかけられる＞ぞ)。

シ˩ナー˥スン **[ʃi˩naː˥suŋ]** 【他動】1心を合わせる。調和させる。宥(ナダ)めて。仲良くする。˥キム　シ˩ナー˥スン [˥kimu ʃi˩naː˥suŋ](心を合わせる)。˥キム　シ˩ナー˥スンティ　˩スンドゥ˥　ムッ˩トゥ˥　シ˩ナーサラ˥ヌ [˥kimu ʃi˩naː˥sunti ˩sundu˥ mut˩tu˥ ʃi˩naːsara˥nu](気持ちを宥めて、機嫌を取ろうとするが、ちっとも宥(ナダ)められない)。˥キム　シ˩ナー˥シ　˥ミサカー　シ˩ナー˥ス　˥クトー　˥ナルン [˥kimu ʃi˩naː˥ʃi ˥misaka: ʃi˩naː˥su ˥kṵto: ˥naruŋ](気持ちを宥めて機嫌をとってよければ、宥めることはできる)。˥キム　シ˩ナーサラン˥タンティン　ヤー˩ディン˥　キム　シ˩ナー˥シ　ッ˩ふィーリ [˥kimu ʃi˩naːsaran˥tantiɲ ja:˩diŋ˥ kimu ʃi˩naː˥ʃi f˩fiːri](仲良く出来＜心を合わせられ＞なくても、必ず宥めてくれ)。˥キム　シ˩ナー˥ス　クトゥカー˩ニ　カン˥ガイティ　ッ˩ふァトゥ˥　キム　シ˩ナー˥シ [˥kimu ʃi˩naː˥su ˥kutukaː˩ni kaŋ˥gaiti f˩fatu˥ kimu ʃi˩naː˥ʃi](心を合わせることだけ考えて、子供と心を合わせなさい)。ン˩メーマー˥　キム　シ˩ナー˥シェー　˥ミサムヌ [ʔm˩meːmaː˥ kimu ʃi˩naː˥ʃeː ˥misamunu](少しは心を合わせれば＜仲良くすれば＞よいのに)。2取り揃える。しっくり合わせる。はめ込む。ほどよく取り合わせる。揃える。˩ヨイヌ˥　ムノー　シ˩ナー˥シティル　パ˩ナ˥シェー　ン˩ザサ˥リ˩ダー [˩joinu˥ muno: ʃi˩naː˥ʃitiru pa˩na˥ʃeː ʔn˩ʤasa˥ri˩daː](祝いの品々を揃えてから話は切り出せるのだよ)。˩ドングペン˥グ　シ˩ナー˥シ　シ˩キ˥リ [˩doŋgupeŋ˥gu ʃi˩naː˥ʃi ʃi̥˩ki˥ri](家財道具を揃えておきなさい)。

シ˩ナー˥　ムヌ **[ʃi˩naː˥ munu]** 【連】幼い子供。「幼い者」の義。˥アイニ　シ˩ナー˥　ムノー　マー˩ズン　サーリ˥　パ˩ララ˥ヌ [˥ʔaini ʃi˩naː˥ muno: maː˩ʤun saːri˥ pa˩rara˥nu](あんなに幼い子供は一緒に連れて行くことは出来ない＜連れて行かれない＞)。

シ˩ナーリン **[ʃi˩naːriŋ]** 【自動】繋がれる。シ˩ナウン [ʃi˩nauŋ](繋ぐ) の未然形に助動詞˩-リン [˩-riŋ](れる。られる) が下接して、派生動詞の可能動詞、受身動詞が形成されたもの。ク˩ヌ˥　シナー　˩バン˥ヌン　シ˩ナーリン [ku˩nu˥ ʃina: ˩ban˥nuŋ ʃi˩naːriŋ](この綱は私にも繋がれる＜可能＞)。ク˩ヌ˥　シナー　˩タール˥　シ˩ナウタ˥ユー　シ˩ナーリ　ベー [ku˩nu˥ ʃina: ˩taːru˥ ʃi˩nauta˥juː ʃi˩naːri beː](この綱は誰が繋いだのか、繋がれている)。

シ˩ナー˥ルン **[ʃi˩naː˥ruŋ]** 【自動】調和する。適合する。しっくり合う。˥クマ　ン˩メーマ˥　キ˩ズ˥カー　シ˩ナー˥ルン [˥kuma ʔm˩meːma˥ ki˩ʤu˥kaː ʃi˩naː˥ruŋ](ここを少し削ったらぴったり合う)。ク˩リ˥シェー　シ˩ナーラ˥ヌ [ku˩ri˥ʃeː ʃi˩naːra˥nu](これでは適合しない)。ク˩リ˥シン　˩デー˥カー　シ˩ナーリン˥ギサン [ku˩ri˥ʃin ˩deː˥kaː ʃi˩naːriŋ˥gisaŋ](これでならぴったり合いそうだ)。ク˩リトゥ˥　シ˩ナー˥ル　˥ムヌ　˥トゥミ　˥クー [ku˩ritu˥ ʃi˩naː˥ru ˥munu ˥tumi ˥kuː](これとしっくり合うものを捜してこい)。

シ˩ナー˥ン **[ʃi˩naː˥ŋ]** 【形】幼い。幼稚である。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー　サッ˥コー　シ˩ナー˥ン [ku˩nu˥ f˩fa: sak˥koː ʃi˩naː˥ŋ](この子は非常に幼い)。シ˩ナー　ナー˥ヌ [ʃi˩naː naː˥nu](幼くない)。シ˩ナー˥タン [ʃi˩naː˥taŋ](幼かった)。トゥ˩シ˥トー　ア˩タラン˥　イッ˩ケナ˥＜˩サッ˥コー＞　シ˩ナー˥ン [tu˩ʃi˥to: ʔa˩taraŋ˥ ʔik˩kena˥＜˩sak˥koː＞ ʃi˩naː˥ŋ](年に似合わず、非常に幼い〈幼稚で〉ある)。˥ドゥク　シ˩ナー˥ヌ　マ˩ナ˥マー　パ˩ラサラ˥ヌ [˥duku ʃi˩naː˥nu ma˩na˥maː pa˩rasara˥nu](あまりにも幼くて今は行かされない)。˩シンダイ˥　シ˩ナー˥　ナルン [˩ʃindai˥ ʃi˩naː˥naruŋ](次第に幼くなる)。シ˩ナー˥　ッふァー　˩ヤー　サーリ˥　パリ [ʃi˩naː˥ ffa: ˩jaː saːri˥ pari](幼い子供は家に連れて行け＜帰れ＞)。ウ˩レー˥　シ˩ナー˥ンダー　マ˩ナ˥マー　˥ドゥー　ム˩タサラ˥ヌ [ʔu˩reː˥ ʃi˩naː˥nda: ma˩na˥maː ˥duː mu˩tasara˥nu](その子は幼いから今は嫁がされない)。シ˩ナー　ナー˥ヌ [ʃi˩naː naː˥nu](幼くない)。˩シンダイ˥　シ˩ナー˥　ナリ˩ナー˥ヌ [˩ʃindai˥ ʃi˩naː˥ nari˩naː˥nu](次第に幼くなってしまった)。シ˩ナー˥ヌ　マ˩ナ˥マー　パ˩タラカサラヌ [ʃi˩naː˥nu ma˩na˥maː pa˩tarakasaranu](幼くて今は働かされない)。˥ドゥク　シ˩ナー˥　ッふァー　˩サーリ˥　パ˩ララ˥ヌ [˥duku ʃi˩naː˥ ffa: ˩saːri

˞ pa˞rara˞nu](あまりにも幼い子供は連れて行けない＜行かれない＞)。

シ˞ナイッツァースン [ʃi˞naittsaːsuŋ] 【他動】つなぎ散らす。縄をつなぎ散らす。継ぎ足しをする。つぎはぎする。たくさん継ぎをあてる。ク˞ヌ　アン˞マー　シ˞ナイッツァーサリティ˞　ヤリ　˞ベー [ku˞nu ʔam˞maː ʃi˞naittsaːsariti˞ jari ˞beː](この網は継ぎ接ぎされて破れている)。˞シナー　シ˞ナイッツァースン [˞ʃinaː ʃi˞naittsaːsu](網を継ぎ合わせる)。シ˞ナイッツァーシティ˞　ムティパリ [ʃi˞naittsaːʃiti˞ mutipari](継ぎ足して持って行け)。シ˞ナイッツァース˞　シナー　　シゥ˞カラーラヌ [ʃi˞naittsaːsu˞ ʃinaː sɨ̞˞kaːranu](継ぎ足しにした網は使えない)。シ˞ナイッツァーシェー˞　ミサムヌ [ʃi˞naittsaːʃeː˞ misamunu](継ぎ接ぎすればよいのに)。シ˞ナイッツァーシ [ʃi˞naittsaːʃi](継ぎ接ぎせよ)。

シ˞ナイフチ [ʃi˞naiɸu̥tʃi] 【名】1繋ぎ目。繋いだところ。結び目。「繋ぎ口」の義。˞シナー　シ˞ナイフチェーラ　パンチ˞　パリ　˞ナー˞ヌ [˞ʃinaː ʃi˞naiɸutʃeːra pantʃi˞ pari ˞naː˞nu](綱は繋ぎ目から外れて＜解いて＞いってしまった)。繋ぎ目。繋いだ所。「繋ぎ口」の転訛したもの。シ˞ナイフチ˞　ワ˞カラン˞ヨーニル　˞ブー˞ヤ　˞ウー˞ム˞ダー [ʃi˞naiɸutʃi˞ wa˞karaŋ˞ joːniru ˞buː˞ja ˞ʔuː˞mu˞daː](つなぎ目が分らないように＜ぞ＞麻糸は績むのだよ)。2繋ぎ方。˞ヌー˞シル　シ˞ナウ˞ユー　シ˞ナイフチ˞　ッ˞サヌ [˞nuː˞ʃiru ʃi˞nau˞juː ʃi˞naiɸu̥tʃi˞ s˞sanu](どうやって繋ぐのか、繋ぎ方を知らない)。繋ぎ方。˞ヌー˞シ　シ˞ナウ˞ユー　シ˞ナイフチ˞　ナ˞ラー˞シバ [˞nuː˞ʃi ʃi˞nau˞juː ʃi˞naiɸutʃi˞ na˞raː˞ʃiba](如何様に繋ぐか、繋ぎ方を教えなさいよ)。

シ˞ナイヨー [ʃi˞naijoː] 【名】繋ぎ方。「繋ぎ様」の転訛したもの。ク˞ヌ˞　シ˞ナイヨーヤ˞　ム˞チキ˞サン [ku˞nu˞ ʃi˞naijoːja˞ mu˞tʃiki˞saŋ](このつなぎ方は難しい)。

シ˞ナイルン [ʃi˞nairuŋ] 【他動】繋ぐ。繋げる。「繋げる＜下一段＞」の転訛したもの。シ˞ナウンとも言う。˞シナ　シ˞ナイルンティ˞　ウ˞ムーン˞ドゥ　˞バン˞マー　ムッ˞トゥ˞　シ˞ナイララヌ [˞ʃina ʃi˞nairunti˞ ʔu˞muːn˞du ˞bam˞maː mut˞tu˞ ʃi˞nairaranu](綱を繋げようと思うが、私にはちっとも繋げられない＜繋がれない＞)。

˞シナ　˞ウトゥン [˞ʃina ˞ʔutuŋ] 【連】綱を打つ。三本の縄を縒り合わせて太い綱に綯い上げること。船のロープを作る際に、庭先の木の枝に三本の綱を掛け、三人の人が各自一本の綱を縒りながら手渡しつつ三人で一本の太い綱を綯いあげていた。˞シナ　˞ウトゥンティ　˞ベー˞バ　˞テー˞ナイ　˞シー˞　ッ˞ふィーラン˞ノーレー [˞ʃina ˞ʔutunti ˞beː˞ba ˞teː˞nai ˞ʃiː˞ f˞fiːran˞noːreː](綱＜ロープ＞を打とう＜綯う＞としているから、手伝ってくれないか)。

シ˞ナウン [ʃi˞nauŋ] 【他動】繋ぐ。˞ティー　シ˞ナウン [˞tiː ʃi˞nauŋ](手を繋ぐ)。˞シナ　シ˞ナイ˞　プサン [˞ʃina ʃi˞nai˞ pusaŋ](綱を繋ぎたい)。ウ˞リトー　ティー˞ヤ　シ˞ナーヌ [ʔu˞ritoː tiː˞ja ʃi˞naːnu](彼とは手は繋がない)。˞ティー　シ˞ナウ˞　プソー　ギッ˞ティ˞　シ˞ナイヤー˞　ミサムヌ [˞tiː ʃi˞nau˞ pu̥soː git˞ti˞ ʃi˞naijaː˞ misamunu](手を繋ぐ時はぎゅっと繋げば良いのに)。˞パー˞ク　シ˞ナイ˞バ [˞paː˞ku ʃi˞nai˞ba](早く繋げよ)。˞イトゥ　シ˞ナウンティ　スンドゥ˞　シ˞ナーランバ˞　シ˞ナイ　ッふィーリ [˞ʔitu ʃi˞naunti sundu˞ ʃi˞naːramba˞ ʃi˞nai ffiːri](糸を繋ごうとするが、繋げない＜繋がれない＞ので繋いでくれ)。シ˞ナウ˞　ピンマー　ピ˞ニ˞リティ　シ˞ナイヤー˞　ミサムヌ [ʃi˞nau˞ pimmaː pi˞ni˞riti ʃi˞naijaː˞ misamunu](繋ぐときは捻(ヒネ)って繋げばよいのに)。ク˞リ˞シ　シ˞ナイ˞バ [ku˞ri˞ʃi ʃi˞nai˞ba](これで繋げ)。

˞シナウン [˞inauŋ] 【自動】調和する。適合する。ぴったり合う。一致する。フ˞タールヌ˞　キモー　˞シナウンティ　ウ˞ムーン˞ドゥ　キ˞ム˞ヌ　シ˞ナーン˞カー　マー˞ズンマー˞　ナ˞ラ˞ヌ [ɸu̥˞taːrunu˞ kimoː ˞ʃinaunti ʔu˞muːn˞du ki˞mu˞nu ʃi˞naːŋ˞kaː maː˞ʤummaː˞ na˞rara˞nu](二人の気持ち＜心＞は一致すると思うが、心が一致しないと一緒にはなれない)。ウ˞ヤッ˞ふァ　キ˞ム˞ヌ　˞シナイティ　ウ˞ラーミ˞サン [ʔu˞jaf˞fa ki˞mu˞nu ˞ʃinaiti ʔu˞raːmi˞saŋ](親子心が一致して羨ましい)。キ˞ム˞ヌ　˞シナウ　˞クトー　˞ナー˞ヌ [ki˞mu˞nu ˞ʃinau ˞ku̥toː ˞naː˞nu](心が一致することは無い)。˞キモー　シ˞ナイ˞ヤー　˞ミサムヌ [˞kimoː ʃi˞nai˞jaː ˞misamunu](心は一致すれば良いのに)。˞ウッ˞ツァー　˞キモー　シ˞ナー˞ムティ　˞キム　シ˞ナイ˞ヤンティ　ア˞ズヌ˞　ウ˞ヌ　シー˞ヨーシェー　˞キム　˞シナウンテー　ウ˞モーラ˞ヌ [˞ʔut˞tsaː ˞kimoː ʃi˞nai˞janti ʔa˞ʤunu˞ ʔu˞nu ʃiː˞joːʃeː ˞kimu ˞ʃinaunteː ʔu˞moːra˞nu](彼らは仲良くならない＜心が和合しない＞のに仲良くなったというが、あの様子では仲良くなる＜心が和合する＞とは思えない)。ウ˞リトゥ˞　キ˞ム˞　シナウ　プ˞ソー˞　ブ˞ラーヌ [ʔu˞ritu˞ ki˞mu˞ ʃinau pu̥˞soː

˥ buˈraːnu](彼と調和できる人はいない)。キˈム˥ シナイ [kiˈmu˥ ʃinai](心が調和せよ)。

シˈナウン [ʃiˈnauŋ] 【他動】繋ぐ。糸や綱などの切れ目を結び、続け合わせる。「あずの上に古馬乎都奈伎て～『万葉集　3539』」の義。シˈナイルンとも言う。˥シナシ　シˈナウンティ˥　ウˈムーン˥ドゥˈバン˥マー　シˈナーランバ˥　シˈナイ　ッふィーリ [˥ʃinaʃi ʃiˈnaunti˥ ʔuˈmuːn˥du ˈbam˥maː ʃiˈnaːramba˥ ʃiˈnaiffiːri](綱で繋ごうと思うが私には繋げない＜繋がれない＞から繋いでくれ)。シˈナウ　ムノー˥ドゥーシ　シˈナイヤー˥　ミサムヌ [ʃiˈnau munoː˥ duːʃi ʃiˈnaijaː˥ misamunu](繋ぐものは自分で繋げばよいのに)。ˈパー˥ク　シˈナイ˥バ [ˈpaː˥ku ʃiˈnai˥ba](早く繋げよ)。ˈナー˥ヌ　˥キシェーントン　シˈナウン [ˈnaː˥nu ˥kᵢʃeːn ˥toŋ ʃiˈnauŋ](縄の切れたところを繋ぐ)。˥ティー　シˈナウン [˥tiː ʃiˈnauŋ](手を繋ぐ)。˥ティー　シˈナーンドー˥シ　アˈサビ [˥tiː ʃiˈnaːndoː˥ʃi ʔaˈsabi](手を繋がないで遊べ)。シˈナイ˥　ミサカー　シˈナウ˥　クトー　˥ナルン [ʃiˈnai˥ misakaː ʃiˈnau˥ kᵤtoː ˥naruŋ](繋いで良ければ繋ぐことは出来る)。シˈナイヤー˥　ミサムヌ [ʃiˈnaijaː˥ misamunu](繋げば良いのに)。˥ティー　シˈナイ˥バ [˥tiː ʃiˈnai˥ba](手を繋げよ)。

シˈナカイ˥ヤン [ʃiˈnakai˥jaŋ] 【形】姿形が上品で美しい。上等である。容姿が優美である。ミˈドーン˥ッふァー　ブˈドゥル˥　シˈミル˥カー　イッˈケナ˥　シˈナカイ˥ヤン [miˈdoːŋ˥ffaː buˈduru˥ ʃiˈmiru˥kaː ʔikˈkena˥ ʃiˈnakai˥jaŋ](女の子は踊りをさせると容姿が非常に優美で美しい)。シˈナカイ˥ヤ　ブˈドゥル　スン [ʃiˈnakai˥ja buˈduru suŋ](容姿上品で美しく、優美に踊る＜踊をする＞)。カˈツブシン˥　シˈナカイ˥ヤバル　ˈダイヤ˥　ムトゥˈダー [kᵤˈtsubuʃiŋ˥ ʃiˈnakai˥jabaru ˈdaija˥ mutuˈdaː](鰹節も形の上品なものが値段も高くうれる＜値段は持つ＞)。

シˈナカキ˥ヤー [ʃiˈnakaki˥jaː] 【名】漁法名の一つ。フˈクル˥アン [ɸᵤˈkuru˥ʔaŋ](袋網)、˥タカアン [˥takaʔaŋ](高い網)、˥キタアン [˥kitaʔaŋ](桁網)、ッˈサ˥ジナ [sˈsa˥ʤina](魚脅しの網) を用いて魚道に仕掛け、魚を追い込んだりして漁獲する漁法。ˈキュー˥ヤー　˥マナール　シˈナカキ˥ヤー　ˈソー˥ルカヤー [ˈkjuː˥ja ˥manaːru ʃiˈnakaki˥jaː ˈsoːru˥kajaː](今日は何処で追い込み漁をされるのかね)。˥クサン [˥kᵤsaŋ](漁法の一つ) の項参照。

シˈナカキ˥ヤマ [ʃiˈnakaki˥jama] 【名】綱を三本縒り合わせて一本の太い綱に仕上げる器具。「綱掛けやま」の義。「ヤマ」は、「機械」、「仕掛け」の意味。一枚の厚い板に三個の穴を開け、回転式のハンドルを付けて地面に立てた二本の棒に固定する。他方の板には一個の穴を開け、同じ回転式のハンドルを付けておく。三本の縄の片端を三本のハンドルに結び、もう一方のハンドルには三本の縄を結んで、三本のハンドルを右方に回して縄を縒る。適当に縒ったところで三つ又を当てて、片方の一本のハンドルを三本のハンドルと逆方向に回すと太い縄が縒りあがる。鳩間島ではこのようにしてˈフー˥カラジナ [ˈɸuː˥karaʤina] のロープを製造していた。ˈキュー˥ヤ　˥シナ　カˈキ˥ラティ　˥ウムイˈベー˥ティ　ˈワー　テー˥ナイ　ˈシー　ッふィーリ˥ヨー [ˈkjuː˥ja ˥ʃina kᵤˈki˥rati ˥ʔumui ˈbeː˥ti ˈwaː teː˥nai ˈʃiː ffiːri˥joː](今日は綱を掛け合せようと思うので、君は手伝いしてくれよな)。

˥シナ　˥カクン [˥ʃina ˥kᵤkuŋ] 【連】綱を 3～4 本縒り合せて太いロープに作る。縒り合せるて太い綱にする。ˈフー˥カラジナバ　ˈユームトゥ　アー˥シティ　˥シナ　˥カキティ　カˈツシンヌ　アン˥カージナ　スˈク˥ローッタ [ˈɸuː˥karaʤina ˈjuːmutu ʔaː˥ʃi˥ʃina ˥kᵤkiti kᵤˈtsuʃinnu ʔaŋ˥kaːʤina sᵤˈku˥roːtta](くろつぐ＜桄榔子＞の繊維で綯った綱を四本縒り合わせて太い綱にしてカツオ漁船のアンカーロープを作られた)。

シˈナカジ [ʃiˈnakaʤi] 【名】品数。マˈチヤーヌ˥　シˈナムノー˥　シˈナカジ˥　スˈルイ˥リ [maˈʧijaːnu˥ ʃiˈnamunoː˥ ʃiˈnakaʤi˥ suˈrui˥ri](お店の品物は、品数をそろえなさい)。

シˈナカジゴー˥カジ [ʃiˈnakaʤigoː˥kaʤi] 【名】品々のことごとく。ありったけの品。多種類。数々。種々。ありったけ。ある限り。ABCDEFCD 型の重言。シˈナカジゴーカジ˥ヌ　˥ウサイ　スˈコーリ˥　マˈツォーッ˥タ [ʃiˈnakaʤigoːkaʤi˥nu ˥ʔusai sᵤˈkoːri˥ maˈtsoːt˥ta](ある限り、種々の御馳走を作って祀られた)。「品数・合数」の転訛したものか。ABCDEFCD 型の重言。ムˈカシ˥ヌ　˥キンカー　シˈナカジゴー˥カジ　アˈツァ˥ミ　˥シケーン [muˈkaʃi˥nu ˥kiŋkaː ʃiˈnakaʤigoː˥kaʤi ʔaˈtsa˥mi ˥ʃᵢkeːŋ](昔の衣類＜衣皮＞のありったけの品を集めておいてある)。シˈナカジゴー˥カジ　カˈキアツァ˥ミ　ˈカイ˥　クー [ʃiˈnakaʤigoː˥kaʤi kaˈki?atsa˥mi ˈkai˥ kuː](総て品々をかき集めて買ってコイ)。

シˈナギリ [ʃiˈnagiri] 【名】品切れ。˥ヌーンクイーン　シˈナギリ　シーナー˥ヌ [˥nuːŋkuiŋ ʃiˈnagiri ʃiːnaː˥

nu](何もかも品切れしてしまった)。

シ˞ナサダミ [ʃi˞nasadami] 【名】品定め。ク˞トゥシヌ　ヒンピョーカイ˺ヌ　カ˞ブッチヌ˺　シ˞ナサダメー　タール　ソー˺ルカヤー [kʉ̥˞tuʃinu çimpjoːkai˺ nu ka˞buttʃinu˺ ʃi˞nasadameː taːru soː˺rukajaː](今年の品評会の南瓜の品定めは誰がされるかねえ)。

シ˞ナジナ [ʃi˞nacɧina] 【名】品々。いろいろの品物。シ˞ナジナヌ˺　ム˞ヌ˺バ　˞カーシ　オー˺ルン [ʃi˞nacɧinanu˺ mu˞nu˺ba ˞kaːʃi ʔoː˺ruŋ](種々の品物を売っておられる)。

シ˞ナスン [ʃi˞nasuŋ] 【他動】1殺す。「死なす」の義。パ˞ブバ˺　バウシ　ス˞ブ˺ル　タ˞タッ˺キ　シ˞ナスンティ˺　シ˞タンドゥ˺　シ˞ナサラヌ [pa˞buba˺ bauʃi tą̊˞tak˺ki ʃi˞nasunti˺ ʃi̥˞tandu˺ ʃi˞nasaranu](ハブを棒で頭叩いて殺そう＜死なそう＞としたが、殺されない)。2死なせる (死なれる)。˞シー˺ネヌ　˺アッパー　イ˞クサ˺ユーナ　ッ˞ふァ˺　シ˞ナシティル˺　アイニ　キ˞ム˺ヤミ　˞オー˺ル [˞ʃiː˺nenu ˺ʔappaː ʔi˞kusa˺juːna f˞fa˺ ʃi˞naʃi̥ti˺ru ˺ʔaini ki˞mu˺jami ˞ʔoː˺ru](後隣のお祖母さんは戦争で子供を死なせて、あのように心を痛めて＜肝病みして。悲しんで＞おられる)。

シ˞ナタ [ʃi˞nata] 【名】1姿。格好。ウ˞リヌ˺　シ˞ナター˺　ヌーヤ　ウ˞レー˺　ソーン˞ドゥ˺　プ˞リムヌ˺　ア˞ラン˺ノー [ʔu˞rinu˺ ʃi˞nataː˺ nuːja ʔu˞reː˺ soːn˞du˺ pu˞rimunu˺ ʔa˞ran˺noː](彼の姿は何だね。全く気違いではないか。)2嫌な態度。嫌なしぐさ (仕種)。ユ˞ミヌ˺　シ˞ナタ˺　ミ˞ラ˺レーティ　˞アー˺ク　˺ムノー　˞ミーヌッ˺サン [ju˞minu˺ ʃi˞nata˺ mi˞ra˺ reːti ˞ʔaː˺ku ˺munoː ˞miːnus˺saŋ](嫁が嫌な態度をみせている＜嫌な態度が見られる＞のは見苦しい)。

シ˞ナタカタチ [ʃi˞natakatatʃi] 【名】容姿。顔立ちや体つき。˞ウン˺ネヌ　ミ˞ドーン˺ッふァヌ　シ˞ナタカタチヌ　カイ˺ヤー　˺ウヤユジリ　ヤ˞ルバン˺ナー [˞ʔun˺nenu mi˞doːŋ˺ffanu ʃi˞natakatatʃinu kai˺jaː ˺ʔujajuɕiri ja˞ruban˺naː](あの家の女の子の容姿の美しさは親譲りであるよ＜わい＞な)。

シ˞ナダル [ʃi˞nadaru] 【名】病名。せきり (赤痢) などの便。粘液の混じった便。ヤ˞ラビ˺ヌ　シ˞ナダルバ˺　マルカー　ナ˞クラー˺ンダ　シ˞グ˺　イ˞サン˺ヤー　˞サーパラン˺カー　ナ˞ラン˺ダー [ja˞rabi˺ nu ʃi˞nadaruba˺ maruka: na˞kuraː˺nda: ʃi˞gu˺ ʔi˞saɲ˺ ja: ˞saːparaŋ˺ka: na˞ran˺daː](子供が粘液性の便を排泄したら怖いことになるから、すぐ病院＜医者の家＞へ連れて行かないといけない＜ならぬ＞よ)。

シ˞ナッ˺ふァ [ʃi˞naf˺fa] 【名】幼児。おさなご (幼子)。イ˞クサユー˺ヌ　˺アトー　シ˞ナッふァ˺バ　˞サーレー˺ティ　パ˞タキシグ˺トゥ　˞シー˺　ヤッ˞トゥ˺シル　ス˞ダ˺ティ　˺ケー˞ダー [ʔi˞kusajuː˺nu ˺ʔatoː ʃi˞naffa˺ba ˞saːreː˺ti pą̊˞takiʃigu˺tu ˞ʃiː˺ jat˞tu˺ʃiru su˞da˺ti ˺keː˞daː](戦後＜戦世の後＞幼子をかかえて＜連れて＞畑仕事をして、やっとのことで育ててきたのだよ)。乳幼児。シ˞ナッふァ˺ヌ　˞ブーユンダ　ティー˺ヤ　フ˞バラリティ˺　ノー˞ン˺　ナ˞ラ˺ヌ [ʃi˞naffa˺nu ˞buːjunda tiː˺ja ɸu˞barariti˺ noː˞n˺ na˞ra ˺nu](乳幼児がいるから、手は縛られて＜いるようなもので＞、何も出来ない)。

シ˞ナナーイカ˺ナー [ʃi˞nanaːʔika˺naː] 【連】半死半生で。生死の境にあって。やっとのことで。辛うじて生きて。「死なず、生かず」の義。イ˞クサユー˺ヌ　˺アトー　マ˞ラリ˺ヤナ　カ˞カ˺リティ　シ˞ナナーイカ˺ナーシル　ヤッ˞トゥ˺シ　˞ノーシ˺ター　˞ダー [ʔi˞kusajuː˺nu ˺ʔatoː ma˞rari˺jana: ka˞ka˺riti ʃi ˞nanaːʔika˺naːʃiru jat˞tu˺ʃi ˞noːʃi˺ta˞daː](太平洋戦争＜戦世＞の後にはマラリアに罹って半死半生で、やっとのことで治したよ)。

シ˞ナナイスー˺ブ [ʃi˞nanaisuː˺bu] 【名】縄綯い競争 (勝負)。パ˞トゥマ˺ヌ　˞ウンドー˺カイナー　シ˞ナナイスー˺ブン　˞ソーッ˺タン [pą̊˞tuma˺nu ˞ʔundoː˺ kaina: ʃi˞nanaisuː˺bun ˞soːt˺taŋ](鳩間島の運動会には縄綯い競争もされた)。

˺シナ　˺ナウン [˺ʃina ˺nauŋ] 【連】綱＜縄＞を綯う。バ˞ラフ˺タシ　バ˞ラフ˺タジナ　˺ナウン [ba˞raɸu̥˺ taʃi ba˞raɸu̥˺taɕina ˺nauŋ](稲藁で藁縄＜藁綱＞を綯う)。

シ˞ナヌ˺ミン [ʃi˞nanu˺miŋ] 【名】1「綱の耳」の義。豊年祭の綱引きの際に用いる雄綱 (東村)、雌綱 (西村) の大綱の頭部の輪になった部分。雌綱の耳に雄綱の耳を入れて棒を差し込み、結合してから綱を引く。2綱引きの前に行われる儀式。東村から戸板の台に乗った侍装束の若者が長刀で身構え、西村からは同じく戸板の台に乗った紅型衣装の乙女が両手に鎌を持って身構え、笛や銅鑼の音に合わせて桟敷中央へ寄せ合わせ、五穀と神酒の交換をする。桟敷中央に達すると双方とも身構えを解き、東村の男性からは米麦粟豆黍の五穀の種を西村の乙女に手渡され、西村の乙女からは神酒の入った瓶が東村の男性に手渡れて、再び身構えながら東、西へ

と退く儀式である。西村の乙女役は、˥ウブシケー (大城家)、ア˞ラブシケー (大工家 < 東大城家 >)、イ˞ラ˥ブレー (西原家) の血筋の者がなった。シ˞ナピキ˥ヌ　˥マイナー　シ˞ナヌ˥ミン　˞ユーソーッ˥タン [ʃi˞napiki˥nu ˥maina: ʃi˞nanu˥miɲ ˞ju:so:t˥taŋ](綱引きの前に綱の耳を寄せる儀式をされた < 綱の耳を寄せられた >)。

シ˞ナ˥ピキ [ʃi˞na˥pi̥ki] 【名】綱引き。豊年祭の最終日 < 三日目 > に、東村 < 雄綱 > と西村 < 雌綱 > に分かれて豊年予祝の綱引きをする儀式。˞プー˥ル [˞pu: ˥ru](豊年祭) の第三日、早朝から両村の青年たちが各戸から徴収した稲藁で縄を綯い、それらを掛け合わせて更に大きな大綱に仕上げる。大綱の耳の部分は藁束を巻き込んで直径約 30 センチの大綱に作ってあり、雄綱と雌綱の耳を重ね合わせて、カ˞ヌチボー [ka˞nutʃibo:](「閂棒(カンヌキボウ)」の義) を貫き通して固定した後に大綱を引く。雄綱、雌綱を合わせることは生殖の模擬行為と信じられている。シ˞ナ˥ピケー　˞インヌムラヌ˥　カツカー　ユ˞ガフティ˥　ア˞ザリ　ブー [ʃi˞na˥pi̥ke: ˞ʔinnumuranu˥ kḁtsuka: ju˞gaɸuti˥ ʔa˞ʤari bu:](綱引きは西村が勝つと豊年 < 世果報 > と言われている)。

˥シナフクビ [˥ʃinaɸu̥kubi] 【名】藁縄の帯。˞綱帯」の転訛したもの。百姓や漁師は、バ˞ラフ˥タジナ [ba˞raɸu˥taʤina](藁縄) や、˞フー˥カラジナ [˞ɸu:˥ karaʤina](棕櫚縄) を二重、三重に腰に巻いて帯とした。ス˞クリ˥プソー　˥シナフクビバ　˞シェー˥ティル　シ˞グトー　ソーッ˥タ [su̥˞kuri˥pu̥so: ˥ʃinaɸu̥kubiba ˞ʃe:˥tiru ʃi˞guto: so:t˥ta](百姓は藁縄の帯 < 綱帯 > を締めて仕事をされた)。フ˞クビ [ɸu̥˞ku˥bi](帯) は「きき帯」と表記されている。農家の人は、畑や田仕事に出る際、藁縄で作業着を強く締め、山刀や鋸を腰に差し、鎌を持ち、鍬を担いで出かけた。˞ターパタキ˥ヌ　シ˞グトゥ　スー˥ピンマー　˥シナフクビ　˞フンサマリティル　ソーッ˥タ [˞ta:pataki˥nu ʃi˞gutu su:˥ pimma: ˥ʃinaɸu̥kubi ˞ɸunsamaritiru so:t˥ta](田畑の仕事をする時は、藁縄の帯を引き締めてされたものだ)。

シ˞ナ˥マリ [ʃi˞na˥mari] 【名】おくて (晩生)。成長の遅い人。幼稚な生まれ。「幼い生まれ」の義。シ˞ナ˥マリ　˞シー　ブー˥　ッ˞ふァー˥　ユ˞ヌ˥シリンケートー　ア˞サバムティ　ウシトゥンケー˥トゥ　カー˞ニル˥　ア˞サブ [ʃi˞na˥mari ˞ʃi:bu:˥ f˞fa:˥ ju˞nu˥ʃiriŋke:to: ʔa˞sabamuti ʔuʃi̥tuŋke:˥tu ka:˞niru˥ ʔa ˞sabu](晩生 < おくて > に生まれついている子だから同年の子供たちとは遊ばないで、年下の弟達とだけしか遊ばない < 弟達とだけぞ遊ぶ >)。

シ˞ナ˥ムニ [ʃi˞na˥muni] 【名】子供っぽい言葉遣い。幼稚な内容の話。˥トゥシェー　˞ギューチ˥　ナ˞ルバ˥ル　プ˞スバカヤー　ナー˥ナ　˥アイブ　シ˞ナムニ˥バ　イ˞ジ　アー˥ク [˥tuʃe: ˞gju:tʃi˥ na˞ruba˥ru pu̥ ˞subakaja: na:˥na ˥ʔaibu ʃi˞namuni˥ba ʔi˞ʤe:˥ti ˞ʔa:˥ ku](年は幾つになるから、恥ずかしくもなく、あんな子供っぽい言葉遣いをしている)。ウ˞ム˥クトー　˞ナー˥ン　ム˞ヌ˥ヌ　˥カタチニ　シ˞ナムニ˥バ　カー˞ニル˥　ア˞ズ˥ツォー [ʔu˞mu˥kuto: ˞na:˥m mu˞nu˥ nu ˥katatʃini ʃi˞namuni˥ba ka:˞niru˥ ʔa˞ʤu˥tso:](思慮分別のない子供のように幼稚な物言いだけ言うそうだ)。

シ˞ナムヌ [ʃi˞namunu] 【名】品物。˞ユーズピーズ˥ヌ　シ˞ナムノー˥　イ˞サナケー˥ラ　˞カイオーッ˥タ [˞ju:ʤupi:ʤu˥nu ʃi˞namuno:˥ ʔi˞sanake:˥ra ˞kaiʔo:t˥ta](行事 < 年中行事。催しごと > のための品物は石垣島から買って来られた < 買われた >)。マ˞チヤーヌ˥　シ˞ナムノー　オーシキヌ˥　ヤ˞ビ˥ルカー　シ˞ナギリ　シース [ma˞tʃija:nu˥ ʃi˞namuno: ʔo:ʃikinu˥ ja˞bi˥ruka: ʃi˞nagiri ʃi:su](お店の品物は天気がくずれると品切れする)。

ジ˞ナン [ʤi˞naŋ] 【名】次男。二番目の男子。ジ˞ナンヌ　ナーヤ˥　ブ˞ネーカタヌ˥　アブジェー　˞ナーバ˥　シ˞キ˥ルツォー [ʤi˞nannu na:ja˥ bu˞ne:katanu˥ ʔabuʤe: ˞na:ba˥ ʃi̥˞ki˥rutso:](次男の名前は母方の祖父の名前を付けるそうだ)。サ˞クシ˥ヌ　バ˞カ˥ジニ　˞ソーッタール˥　ユージェーヌ　˞ヨー˥シ　˞ペー˥リ　˞オーッ˥タ　ジ˞ナンバ˥　ム˞ドゥ˥シ　˥ヤー　シ˞ガソーッ˥タツォー [sa˞kuʃi˥nu ba˞ka˥ʤini ˞so:tta:˥ru ˥ju:ʤe:nu ˞jo:˥ʃi ˞pe:˥ri ˞ʔo:t˥ta ʤi˞namba˥ mu˞du˥ʃi ˥ja: ʃi˞gaso:t˥tatso:](長男 < 嫡子 > が若死にされたので、松竹家 <[ju˞re:]《寄合の音韻変化した形》に養子に入っておられた次男を戻して家を継がされたそうだ)。

シ˞ナンシニ [ʃi˞naŋʃini] 【連】無駄死に。犬死。「死なぬ死に」の義。˞サン˥タンティン　˥ミサムヌバ　˞シー　アー˥キ　シ˞ナンシニバ　シー˥　イ˞ナムヌ˥ダラ [˞san˥tantim ˥misamunuba ˞ʃi: ʔa:˥ki ʃi˞naŋʃiniba ʃi:˥ ʔi˞namunu˥dara](しなくても良いものをしていて、無駄死にをして誠に残念だよ)。

˥シニ [˥ʃini] 【名】すね (脛)。膝からくるぶし (踝) に至る部分。「Sune. スネ (臑・脛) 臑, または, 足」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˥シニ　キ˞ラ˥リティ

˥ヤミ　ナ˩ラ˥ヌ [˥ʃini ki˩ra˥riti ˥jami na˩ra˥nu](脛を蹴られて痛くて堪らない)。˥シニ　˥ブリティ　ア˩ラキマー˥キ　˩ベー [˥ʃini ˥buriti ʔa˩rakimaː˥ki ˩beː](脛を折って歩きかねている)。ク˩ルビティル˥　シニ　シ˩リ˥パギ　˥シケーバン [ku˩rubitiru˥ ʃini ʃi˩ri˥pagi ˥ʃi̥keːbaŋ](転んで脛を擦り剥いてあるよ)。ア˩サビマール˥　カーニ˩バ　シー　アー˥クカー　˥シニ　ブ˩ラ˥リン˩ダー [ʔa˩sabimaːru˥ kaː˩niba ʃiː ʔaːku˥kaː ˥ʃini bu˩ra˥rin˩daː](遊び回りだけをしていると脛を折られるぞ＜強く折檻されるぞ＞)。

シ˩ニアウリ [ʃi˩niʔauri] 【名】死ぬほどの苦労。「死に哀れ」の義。マ˩ラリ˥ヤン　カ˩カ˥リ　ッ˩ふァイムヌン　ナー˥ヌ　シ˩ヌ˥キファ　ナ˩リ˥ブタ　イ˩クサユー˥ヌ　˩アウ˥レー　シ˩ニアウリ　ヤッタ [ma˩rari˥jaŋ ka̠˥ka˥ri f˩faimunun naː˥nu ʃi˩nu˥ki̥ɸa na˩ri˥buta ʔi˩kusajuː˥nu ˩ʔau˥reː ʃi˩niʔauri jatta](マラリアにも罹患して、食べるものもない。死ぬ寸前＜間際＞になっていた。太平洋戦争時代の難儀苦労は死ぬほどの難儀苦労であった)。

シ˩ニガー [ʃi˩nigaː] 【名】死力。必死の力。「死に我」の義。シ˩ニガー˥　タ˩ティ˥ル　ヤッ˩トゥ˥シ　ア˩ラ˥キ　˩クー˥タ [ʃi˩nigaː˥ ta̠˩ti˥ru jat˩tu˥ʃi ʔa˩ra˥ki ˩kuː˥ta](死力を尽くして＜たてて＞やっとで歩いてきた)。

シ˩ニカザ [ʃi˩nikadza] 【名】死臭。ピ˩トゥ˥ヌ　シ˩ニティ˥　パ˩マ˥ナー　˩アンガリ　ベー˥ヌンドゥ　シ˩ニカザヌ˥　ッ˩サー˥ヌ　フ˩シガラ˥ヌ [pi̥˩tu˥nu ʃi˩niti˥ pa˩ma˥naː ˩ʔaŋgari beː˥nundu ʃi˩nikadzanu˥ s˩saː˥nu ɸu̠˩ʃigara˥nu](イルカが死んで浜に打ち揚げられているが、死臭が臭くてたまら＜防がれ＞ない)。

シ˩ニカタチ [ʃi˩nikatatʃi] 【名】死に顔。シ˩ニカタチン˥　カイー˩カイ˥シル　˩オーッ˥タ [ʃi˩nikatatʃiŋ˥ kaiː˩kai˥ʃiru ˩ʔoːt˥ta](死に顔も美しかった＜美しくおられた＞)。

シ˩ニキスン [ʃi˩nikisuŋ] 【自動】死に絶える。死に果てる。死に尽くす。「死に切れる」の転訛したもの。フ˩チ˥ル　˥マキスクカー　ム˩シェー˥　シ˩ニキスンティ˥　シ˩タンドゥ˥　ガ˩ザン˥マー　シ˩ニキサンバ˥　ミ˩ジヌッふァ˥ヌ　シ˩ニキシティ˥　マ˩ラリヤ˥ヌ　˩ナーン˥　ナルンケン　フ˩チ˥ル　˥マキ [ɸu̠˩tʃi˥ru ˥makisu̠kukaː mu˩ʃeː˥ ʃi˩nikisunti˥ ʃi̥˩tandu˥ ga˩dzam˥maː ʃi˩nikisamba˥ mi˩dʒinuffa˥nu ʃi˩nikiʃiti˥ ma˩rarija˥nu ˩naːn˥ naruŋkeŋ ɸu̠˩tʃi˥ru ˥maki](薬を撒いておくと虫は死に絶えるといったが、蚊はまだ死に絶えないからボウフラが死に絶えてマラリアが絶滅するまで薬を撒け)。シ˩ニキス˥　クトー　˩ナーヌ˥ヌ　シ˩ニキシェー˥　ミサムヌ [ʃi˩nikisu˥ ku̠to: ˩naːnu˥nu ʃi˩nikiʃeː˥ misamunu](死に絶えることはないが、死に絶えたらよいのに)。シ˩ニキシ [ʃi˩nikiʃi](死に絶えろ)。

シ˩ニシタフ [ʃi˩niʃitaɸu] 【名】死に装束。死者に着せる衣装。˩パー˥ク　シ˩ニシタフ˥　カ˩キ˥シミ　˩オーラ˥シ [˩paː˥ku ʃi˩niʃitaɸu˥ ka̠˩ki˥ʃimi ˩ʔoːra˥ʃi](早く死に装束を着け＜掛け＞させて差し上げなさい)。

シ˩ニシタフ [ʃi˩niʃi̥taɸu] 【名】死に装束。「死に支度」の義。正装させて、きょうかたびら (経帷子) をその上に横にして掛ける。両膝は曲げて立たせる。シ˩ニシタホー　ゾー˥ブンニ　˩シー　オーシェーン˥ナー˩レー [ʃi˩niʃi̥taho: dzoː˥bunni ˩ʃiː ʔoːʃeːn˥naː˩reː](死に装束は立派に＜十分に＞して差し上げてあるだろうねえ)。

シ˩ニスクライ [ʃi˩nisu̠kurai] 【名】死んだふり。「死に繕い」の転訛。シ˩ニマービ [ʃi˩nimaːbi](死に真似)よりも迫真の演技で本物の「死人」のようにみせること。シ˩ニスクライバ　スンティ　アー˥キ　˩ソーフン˥トー　シ˩ニ　ナーン˥ツォー [ʃi˩nisu̠kuraiba sunti ʔaː˥ki ˩soːɸun˥to: ʃi˩ni naːn˥tsoː](迫真の演技で死んだふりをしようとしていて、本当に死んでしまったそうだ)。

シ˩ニソー [ʃi˩nisoː] 【名】死相。シ˩ニソーヌ˥　ン˩ジ˥ブンダ　ナ˩ガムテー　サン˥パジ [ʃi˩nisoːnu˥ ʔn˩dʒi˥bunda na˩gamuteː sam˥ padʒi](死相が出ているので長持ちはしないはずだ)。

シ˩ニトゥク [ʃi˩nituku] 【名】死に得。˥カイブ　イ˩クサユー˥ヌ　イ˩キアウ˥リ　˩ソー˥ラ　˩パイ˥サ　˩マーラソー˥リ　˩カイ˥テー　シ˩ニトゥク˥　ヤ˩ロー˥レール [˥kaibu ʔi˩kusajuː˥nu ʔi˩kiʔau˥ri ˩soː˥ra ˩pai˥sa ˩maːrasoː˥ri ˩kai˥teː ʃi˩nituku˥ ja˩roː˥reːru](こんな戦争の生き地獄をみるより＜難儀苦労をされるより＞早く亡くなられて死に得であられたでしょうよ)。

˥シニナガー [˥ʃininagaː] 【名】すね (脛) の長い人。膝から踝までの長い人。背高。のっぽ。˥シニナガーヤ　˩ウーキ˥ヌ　˩ニー˥バンダ　シゥ˩カイ　グリ˥サン [˥ʃininagaːja ˩ʔuːki˥nu ˩niː˥banda si̥˩kaigurisa˥ŋ](背高のっぽ＜脛長＞は動きが遅いから使いづらい)。すね (脛) の長い人。「脛長」の転訛したもの。ウ˩レー˥　シニナガー　ヤ˩ルンダ　ドゥン˥ナーン

[ʔuˤreː˥ ʃininagaː jaˤrunda dun˥naːŋ](彼は脛の長い人だから、動作が鈍い)。

シˤニナガー˥ン [ʃiˤninagaː˥ŋ] 【形】脛が長い。足が長い。ˤウン˥ネヌ　プˤソー˥　ムーˤル˥　シˤニナガー˥ンダ　パˤルスー˥ブ　シˤミル˥カー　ˤチャー˥　イˤチ˥バン [ˤʔun˥nenu pu̥ˤsoː˥ muːˤru˥ ʃiˤninagaː˥nda paˤrusuː˥bu ʃiˤmiru˥kaː ˤtʃaː˥ ʔiˤtʃi˥baŋ](あの家の人は皆足が長い＜脛が長い＞から、走り競争をさせるといつも一番だ)。

シˤニバカリ [ʃiˤnibakari] 【名】死別。死に別れ。カˤレー˥　イˤクサ˥ユーナール　ウˤヤ˥トゥ　シˤニバカリ　シェー˥ダー [kaˤreː˥ ʔiˤkusa˥juːnaːru ʔuˤja˥tu ʃiˤnibakari ʃeː˥daː](彼＜あれ＞は戦争で親と死別したのだよ)。イˤチッチ˥ヌ　˥トゥシナー　ブˤネートゥ˥　シˤニバカリ˥　シˤタ˥ツォー [ʔiˤtʃittʃi˥nu ˥tu̥ʃinaː buˤneːtu˥ ʃiˤnibakari˥ ʃi̥ˤta˥tsoː](五つの年に母親と死別したそうだ)。イˤキバカ˥リ [ʔiˤkibaka˥ri](生き別れ)。ナˤナチ˥ヌ　˥バスナー　ビˤケートゥ˥　イˤキバカ˥リ　ˤシー　ナーン˥シェン [naˤnatʃi˥nu ˥basunaː biˤkeːtu˥ ʔiˤkibaka˥ri ˤʃiː naːŋ˥ʃeŋ](七つの時に父親と生き別れしてしまっていた)。

シˤニパジ [ʃiˤnipaʤi] 【名】死後に残る恥。死ぬときの恥。イˤキ˥パジェー　カˤクサリ˥ヌ　シˤニパジェー˥　カˤクサラ˥ヌ [ʔiˤki˥paʤeː kạˤkusari˥nu ʃiˤnipaʤeː˥ kạˤkusara˥nu](生き恥は隠されるが、死に恥は隠されない)。

シˤニパティルン [ʃiˤnipatiruŋ] 【自動】死に果てる。死に絶える。すべて死んでしまう。ˤプーキ˥　カˤカ˥ルカー　ˤウイ˥プソー　シˤニパティルン˥ティ　スˤクタヌ　フン˥トー　シˤニパティ　ナー˥ヌ [ˤpuːki˥ kạˤka˥ruka: ˤʔui˥pu̥soː ʃiˤnipạtirun˥ti su̥ˤkutanu ɸun˥to: ʃiˤnipati naː˥nu](風気＜マラリア＞に罹ったら老人は死に絶えると聞いたが、本当に死に絶えてしまった)。シˤニパティラヌ [ʃiˤnipạtiranu](死に果てない＜死に絶えない＞)。シˤニパティル˥　クトーˤナー˥ヌ [ʃiˤnipạtiru˥ ku̥to: ˤnaː˥nu](死に果てることはない)。シˤニパティレー˥　ミサムヌ [ʃiˤnipạtireː˥ misamunu](死に果てれば良いのに)。シˤニパティリ [ʃiˤnipạtiri](死に果てよ)。全滅する。マˤナマ˥ヌ　ˤユーヤ˥　イˤク˥サ　ˤスー˥カー　ˤニンギン˥マー　シˤニパティルント ダー [maˤnama˥nu ˤjuːja˥ ʔiˤku˥sa ˤsuː˥kaː ˤniŋgim˥maː ʃiˤnipatirunꜜdaː](今の世界＜世＞は、戦争をすると人間は死に絶えるぞ)。

シˤニパンツァスン [ʃiˤnipantsasuŋ] 【他動】死に後らせる。死に損なわせる。「死に外す」の義。ウˤレー˥　イˤクサ˥ナー　シˤニパンツァシティル˥　アイニ　サˤキ˥　ヌˤム˥タˤダー [ʔuˤreː˥ ʔiˤku˥sanaː ʃiˤnipantsaʃi̥tiru˥ ʔaini sạ̥ˤki˥ nuˤmu˥taˤdaː](その人は戦争で死に損って＜後れて＞あんなに酒を飲んだのだよ)。イッˤカナ˥シ　シˤニパンツァサヌ [ʔikˤkana˥ʃi ʃiˤnipantsasanu](決して死に遅れない)。シˤニパンツァスンティ˥　ウˤムータン˥ドゥ　シˤニパンツァス˥クトー　ˤナーン˥シェン [ʃiˤnipantsasunti˥ ʔuˤmuːtan˥du ʃiˤnipantsasu˥ ku̥to: ˤnaːŋʃeŋ](死に後れると思ったが、死に後れることはなかった)。シˤニパンツァシェー˥　ミサムヌ [ʃiˤnipatsaʃeː˥ misamunu](死に損えば＜後れれば＞よいのに)。シˤニパンツァシ [ʃiˤnipantsaʃi](死に損え＜後れろ＞)。

シˤニパンツン [ʃiˤnipantsuŋ] 【自動】死に損なう。九死に一生を得る。「死に外れる」の転訛したもの。ˤピー˥タイナ　ˤマーズン˥シ　タˤタカウタ˥ヌ　˥バー　ˤタン˥ガ　シˤニパンチティ˥　イˤキヌカ˥リ　ˤベートꜜダー [ˤpiː˥taina: ˤmaːʤuŋ˥ʃi tạˤtakauta˥nu ˥baː ˤtaŋ˥ga ʃiˤnipantʃiti˥ ʔiˤkinuka˥ri ˤbeːꜜdaː](兵隊で一緒に戦ったが、私一人死に損なって生き残っているよ)。イˤクサ˥ユーナ　ˤドゥー˥ヤ　マˤサカ˥　シˤニパンツン˥テー　ウˤモーン˥シェンドゥ˥カイニ　シˤニパンチティ˥　シラー　˥ムティ　ˤアーカラン˥シェン [ʔiˤkusa˥juːnaˤduː˥ja maˤsaka˥ ʃiˤnipantsuteː˥ ʔuˤmoːŋ˥ʃendu ʃiˤnipantʃiti˥ ʃiraː ˥muti ˤʔaːkaraŋ˥ʃeŋ](戦争で自分はまさか死に損なう＜死に外れる＞とは思わなかったが、斯うして死に損なって、＜世間に＞面＜顔＞を持って歩けなかった)。シˤニパンチ　ナー˥ヌ [ʃiˤnipantʃi naː˥nu](死に損なってしまった)。

シˤニプス [ʃiˤnipu̥su] 【名】死人。死者。シˤニプスヌ˥　スˤブ˥ロー　ˤインター˥　ンˤカーシ˥　ニˤバシ [ʃiˤnipu̥sunu˥ suˤbu˥roː ˤʔinta:˥ ʔŋ˥kaːʃi˥ niˤbaʃi](死者の頭は西の方に向けて寝かしなさい)。ˤクンドゥ˥ヌ　パˤヤー˥ルナー　シˤニプスヌ˥　ンˤジ˥ルンティˤダー [ˤkundu˥nu paˤjaː˥runa: ʃiˤnipusunu˥ ʔnˤʤi˥runtiˤdaː](今度の流行り病には死人が出るそうだよ)。パˤトゥ˥マナーン　イˤクサ˥ユーナー　マˤラリ˥ヤシˤマーラソー˥レール　シˤニプソー˥　ルˤクジュー˥ニンブカラ　ˤオー˥ルン [pạˤtu˥manaːm maˤrari˥jaʃiˤmaːrasoː˥reːru ʃiˤnipusoː˥ ruˤkuʤuː˥nimbukara: ˤʔoː˥ruŋ](鳩間島でも戦争時にマラリアで亡くなられた人は六十人ほどおられる)。シˤニプソー˥　イˤキガイラ˥ヌ [ʃiˤnipu̥soː˥ ʔiˤkigaira˥nu](死んだ人＜死人＞は蘇生し＜生き返ら＞ない)。

シ˞ニフチ [ʃiˑniɸu̥tʃi] 【名】死に際。死に目。「死に口＜死に方＞」の義。ウ˞ヤ˜ヌ　シ˞ニフチン˜　ッ˞サヌ˜　ウヤフコームヌ [ʔuˑjaˑnu ʃiˑniɸu̥tʃin˜ sˑsanu˜ ʔujaɸukoːmunu](親の死に際も知らない親不孝者だ)。

シ˞ニマービ [ʃiˑnimaːbi] 【名】死に真似。死んだ真似。死んだ振り。シ˞ニマーベー　スームノー˜　ア˞ラ˜ヌ [ʃiˑnimaːbeː suːmunoː˜ ʔaˑraˑnu](死に真似はするものではない)。

シ˞ニミー [ʃiˑnimiː] 【名】臨終。死に際。「死に目」の義。ウ˞ヤ˜ヌ　シ˞ニミー˜　マ˞ニアー˜シ　˜ケーン [ʔuˑjaˑnu ʃiˑnimiː˜ maˑnijaː˜ʃi ˜keːŋ](親の臨終に間に合わせて来た＜来ている＞)。

シ˞ニミジ [ʃiˑnimiʤi] 【名】1死に水。死者の末期に口に塗る水。シ˞ニミジェー˜　トゥリ　フ˞チ˜ナー　マ˞ミオーシリ˜バ [ʃiˑnimiʤeː˜ turi ɸuˑtʃiˑnaː maˑmi ʔoːʃiri˜ba](死に水は取って口に塗って差し上げなさい)。2ゆかん (湯灌) に用いる水。ム˞カ˜シェー　˞ヤー˜ナーティル　シ˞ニミジェー˜　ア˞マソーッタ˜ヌ　マ˞ナ˜マー　˞ビョー˜インナーティル　シ˞ニミジェー˜　ア˞マソー˜ル [muˑkaˑʃeː ˞jaː˜naːtiru ʃiˑnimiʤeː˜ ʔaˑmasoːttaˑnu maˑnaˑmaː ˞bjoː˜ innaːtiru ʃiˑnimiʤeː˜ ʔaˑmasoː˜ru](昔は家庭で湯灌された＜死に水を浴びせられた＞が、今は病院で湯灌さ＜死に水を浴びせら＞れる)。

シ˞ニヤドゥ [ʃiˑnijadu] 【名】「死に宿」の義。死人の出た家族が一時的に泊まる宿。シ˞ニヤドー˜　カ˞ラサバン˜　シラヤドー　カ˞ラスムノー˜　ア˞ラ˜ヌ [ʃiˑnijadoː˜ kaˑrasabaŋ˜ ʃirajadoː kaˑrasumunoː˜ ʔaˑraˑnu](死者の出た人に宿を貸しても、出産する人には宿を貸すものではない＜諺＞)。死者はその家の災厄を持ち去るが出産した子は、その家の幸福を持ち去るという伝承がある。

シ˞ニヤフ [ʃiˑnijaɸu] 【名】「死に厄」の義。死ぬほどの災厄、災難。ウ˞ブヤンバ　シー　ベータン˜ドゥ　シ˞ニヤホー　コーシェー˜チバ　˞ソーヤー　ナー˜ヌ [ʔuˑbujamba ʃiːbeːtanˑdu ʃiˑnijahoː koːʃeː˜ʧiba ˞soːja naː˜nu](大病をしていたが死ぬほどの災厄は祓われた＜死に厄は越した＞から心配はない)。

シ˞ニヤン [ʃiˑnijaŋ] 【名】死病。不治の病。罹患したら百パーセント死ぬ病気。「死に病」の義。˞ガンマー˜　シ˞ニヤンティ˜　ア˞ザリブタンドゥ˜　マ˞ナ˜マー　シ˞ニヤンヌン　ノーサ˜リ˞ナー˜　ミ˞ジラ˜サ [ˑgammaː˜ ʃiˑnijanti˜ ʔaˑʤaributanduˑ maˑnaˑmaː ʃiˑnijannun noːsaˑriˑnaː˜ miˑʤiraˑsa](癌は不治の病＜死病＞といわれていたが、今は死病も治されるからねえ。不思議なものだ＜珍しい＞)。

シ˞ニヨー [ʃiˑnijoː] 【名】死にざま。死によう。プ˞ソー˜　シ˞ニヨーティン˜　ア˞リ˜ル　˜ブー　バ˞ク˜ダンナー　シ˞ラリティ　ドゥー˜ヌ　カ˞タチン˜　ム˞シッツァーリ　ベー˜ムヌ　˜ミルカー　キ˞ムイツァー˜ヌ　ナ˞ラ˜ヌ [pu̥ˑsoː˜ ʃiˑnijoːtiŋ˜ ʔaˑriˑru ˜buː baˑku˜dannaː ʃiˑrariti duː˜nu kḁˑtatʃim˜ muˑʃittsaːri beː˜munu ˜mirukaː kiˑmuitsaː˜nu naˑraˑnu](人には死にざまというのがある。爆弾にやられて体の形も千切られているのを見ると、可哀相でたまらない)。

シ˞ニンガタ [ʃiˑniŋgata] 【名】死にそうになること。死ぬ直前。シ˞ニンガター˜　ナルンケン　パ˞タラクタン [ʃiˑniŋgataː˜ naruŋkem pḁˑtarakutaŋ](死にそうになるまで働いた)。

シ˞ニンガター [ʃiˑniŋgataː] 【名】瀕死の状態。死にそうな状態。˜ヤミ　キ˞タ˜シキティ　˜メー　シ˞ニンガター˜　ナ˞リ˜　オール [˜jami ki̥ˑta˜ʃi̥kiti ʃiˑniŋgataː˜ naˑri˜ ʔoːru](病み衰えて極限状況にに達し、瀕死の状態になっておられる)。

シ˞ニン˜ギサン [ʃiˑniŋ˜gisaŋ] 【連】死にそうだ。動詞シ˞ヌン [ʃiˑnuŋ](死ぬ) の連用形に、形容詞型接尾語˞ン˜ギサン [ˑ-ŋ˜gisaŋ](～そうだ。外から見て推測されるけはい、様子、感じ、の意を表す。-NgisaN<Ngisa・aN) の下接した形。˜バー　˜ミルカー　ウ˞レー˜　シ˞ニン˜ギサンドゥ　シ˞ニンギサナー˜ヌティ　ア˞ズ˜　プ˞スン　ブン [˜baː ˜mirukaː ʔuˑreː˜ ʃiˑniŋ˜gisandu ʃiˑniŋgisa naː˜nuti ʔaˑʤu˜ pu̥ˑsum buŋ](私が見ると、それは死にそうだが、死にそうでないと言う人もいる)。

˜シヌ [˜ʃinu] 【名】1つの (角)。動物の頭にある堅い突起物。ウ˞シヌ˜　シヌ [ʔuˑʃinu˜ ʃinu](牛の角)。ピ˞ビザヌ˜　シヌ [piˑbiʤanu˜ ʃinu](山羊の角)。˜シヌ　˞ムイ˜ルン [˜ʃinu ˞muiˑruŋ](角が生える)。プ˞スマトゥカー　シ˞ヌ˜ヌ　˜ムイルン [pu̥ˑsu˜ matukaː ʃiˑnuˑnu ˞muiˑruŋ](人を待っていたら角が生える)。2かど (角)。隅。とがって突出した部分。˜カドゥ [˜kadu](角) ともいう。ウ˞ブヤー˜ヌ　˞ユーシヌ˜ナー　˞キャーンギパラー˜　イ˞リ˜シケーン [ʔuˑbujaː˜nu ˞juːʃinuˑnaː ˞kjaːŋgibaraː˜ ʔiˑri˜ʃi̥keː](母屋の四つ角に槇の柱を入れてある)。3こぶ (瘤)。「瘤、之比禰＜しひね＞」『和名抄』の転訛か。フ˞タイ˜　バ˞ラリティ˜　シヌ　˜ムイ　˞ナー˜ヌ [ɸu̥ˑtai˜ baˑrariti˜ ʃinu ˜mui ˞naː˜nu](額を打たれて瘤が＜角が＞生

えてしまった)。

˥シヌアシブ **[˥ʃinuʔaʃibu]** 【名】角のように尖った芯のあるお出来や腫れ物。「角あせも」の義。尖った芯の部分から膿が出るようになるので、芯のない腫れ物やお出来よりも処置しやすいと言われていた。˥シヌアシボー ˩ウー˥ムカー ˥ウマーラ ˩ナンクク˥ル ˩アイ˥クンダー ˩ソーヤ ナー˥ヌ [˥ʃinuʔaʃibo: ˩ʔuː˥muka: ˥ʔumaːra ˩naŋkuku˥ru ˩ʔai˥kundaː˩soːja naː˥nu](角あせもは膿んだら、そこから自然に膿が出る＜膿が出て潰れる＞から心配ない)。

シ˩ヌグン **[ʃi˩nuguŋ]** 【他動】しのぐ(凌ぐ)。乗り越える。耐え忍ぶ。「～秋萩師ノ藝～『万葉集 1609』」の義。ク˩リ˥シェー ピ˩ラ˥コー シ˩ヌガラヌ [ku˩ri˥ʃe: pi˩ra˥ko: ʃi˩nugaranu](これでは寒波は凌がれない)。˥クビシ ˩ヤー˥サ ˥ピラク シ˩ヌグンティ˥ ウ˩ムーン˥ドゥ ン˩ベーマ˥ タ˩ラース˥カー シ˩ヌギ ヤッ˥サン [˥kubiʃi ˩jaː˥sa ˥piraku ʃi ˩nugunti˥ ʔu˩muːn˥du ʔm˩beːma˥ ta˩raːsu˥kaːʃi˩nugi-jas˥saŋ](これだけで飢えと寒波を凌ごうと思うが、少し足すと凌ぎやすい)。シ˩ヌグ˥ クト [ʃi˩nugu˥ kʷtu](凌ぐこと)。シ˩ヌゲー˥ ミサムヌ [ʃi˩nuge:˥ misamunu](凌げばよいのに)。˥クビシ ˩ヤー˥サ シ˩ヌギ [˥kubiʃi ˩jaː˥sa ʃi˩nugi](これだけで空腹＜飢え＞を凌(シノ)げ)。

シ˩ヌ˥ スコー パ˩タラクン **[ʃi˩nu˥ sʷko: pa˩tarakuŋ]** 【連】死ぬほど働く。シ˩ヌ˥ スコー パ˩タラクンドゥ˥ ムッ˩トゥ˥ マイ ˩ユーザラヌ [ʃi˩nu˥ sʷko: pa˩tarakundu˥ mut˩tu˥ mai ˩juːʤaranu](死ぬほど働くのだが、ちっとも前に寄れない。＜生活が楽にならない＞)。

シ˩ヌッ˥クリ ˥カークリ **[ʃi˩nuk˥kuri ˥kaːkuri]** 【連】ぐずぐずして決断しかねているさま。˥キム フ˩ガンドゥ˥ ブ˩タ˥ユー シ˩ヌッ˥クリ ˥カークリ ˩シー ピントー シーマーキ ベーン˥ケンマー ビ˩チ˥ヌ プ˩スヌ˥ ヤ˩トー˥リ ˩ナー˥ヌ [˥kimu ɸu˩gandu˥ bu˩ta˥juː ʃi˩nuk˥kuri ˥kaːkuri ˩ʃiː pinto: ʃiːmaːki beːŋ˥kemma: bi˩ʧi˥nu pʷ˩sunu˥ ja˩to:˥ri ˩naː˥nu](満足できなかった＜納得できなかった＞のか、ぐずぐずして返事しかねているうちに、別の人が雇われてしまった)。

シ˩ヌッ˥クルン **[ʃi˩nuk˥kuruŋ]** 【自動】1あれこれと迷う。思いあぐねる。決めかねて苦しむ。˩ヌー˥ スーカヤーティ ナー˩イ˥ シ˩ヌッ˥クリ ˩ベー [˩nuː˥ suːkajaːti naː˩i˥ ʃi˩nuk˥kuri ˩beː](どうしようかと、ただ思いあぐねている)。˥アイニ シ˩ヌックラン˥ドーシ ˩ダンダン˥シ シ˩グトゥ シー [˥ʔaini ʃi˩nukkuran˥doːʃi ˩dandaŋ˥ʃi ʃi˩gutu ʃiː](そんなにあれこれ迷わないでさっさと仕事をしなさい)。思いあぐねる。決心がつかず悩む。ぐずぐずして決断しかねる。苦心して準備する。˩ヌー˥スティ ˩ナー˥ン プ˩スヌ˥ ムニーン シゥ˩カムティ˥ シ˩ヌッ˥クリ ˩ベー˥ティ ウ˩クリ ナー˥ヌ [˩nuː˥ suːti ˩naː˥m pʷ˩sunu˥ muniːn sʲ˥kamuti˥ ʃi˩nuk˥kuri ˩beː˥ti ʔu˩kurinaː˥nu](何をするともなく＜理由もなく＞、他人の話も聞かないで思いあぐねてぐずぐずしていて、時間に遅れてしまった)。イ˩ズ˥カー シ˩ヌッ˥クルンダー シ˩ヌックラサン˥ヨーニ ヤー˩ラマ˥シ パ˩ナ˥シ [ʔi˩ʤu˥ka: ʃi˩nuk˥kurunda: ʃi ˩nukkuraɲ˥joːni jaː˩rama˥ʃi pa˩na˥ʃi](叱ると思いあぐねてぐずぐずするから、思いあぐねて悩むことが無いようにやんわりと話なさい)。シ˩ヌッ˥クル ˥クトー ˩ナー˥ヌ [ʃi˩nuk˥kuru ˥kutoː ˩naː˥nu](思いあぐねてぐずぐずすることはない)。2駄々を捏ねる。シ˩グトゥ˥ シ˩ミルンティ スー˥カー シ˩グ˥ シ˩ヌッ˥クルン [ʃi˩gutu˥ ʃi˩mirunti suː˥ka: ʃi˩gu˥ ʃi˩nuk˥kuruŋ](仕事をさせようとすると、すぐ駄々を捏(コ)ねる)。シ˩ヌッ˥クル ˥ピンマー ˩ヨー˥ゾー シ˩キララ˥ヌ [ʃi˩nuk˥kuru ˥pimma: ˩joː˥ʤoː ʃi˩kirara˥nu](駄々を捏ねるときは手がつけられない)。シ˩ヌッ˥クレーラー ˩ヨー˥ゾー シ˩キララ˥ヌ [ʃi˩nuk˥kureːra: ˩joː˥ʤoː ʃi˩kirara˥nu](駄々を捏ねたら手がつけられない)。イ˩チンバー˥キン シ˩ヌッ˥クリバ [ʔi˩ʧimbaː˥kiŋ ʃi˩nuk˥kuriba](何時までも駄々を捏ねろよ)。

シ˩ヌブン **[ʃi˩nubuŋ]** 【他動】偲ぶ。思い慕う。心惹かれる。恋い慕う。「～妹が形見とかつも思努播武『万葉集 1626』」の義。ブ˩ラーン˥ プ˩スバ˥ シ˩ヌビ˥ ナ˩キベー [bu˩raːm˥ pʷ˩suba˥ ʃi˩nubi˥ na˩ki beː](亡き人を偲(シノ)んで泣いている)。シ˩ヌブンティ˥ シ˩タンティン˥ シ˩ヌブ˥ プ˩ソー˥ ブ˩ラーンダ˥ ノー˩ン˥ シ˩ヌバラヌ [ʃi˩nubunti˥ ʃi˩tantin˥ ʃi˩nubu˥ pʷ˩soː˥ bu˩raːnda˥ noː˩n˥ ʃi˩nubaranu](偲ぼうとしても偲ぶ人がいないから何も偲ばれない)。シ˩ヌベー˥ ミサムヌ [ʃi˩nubeː˥ misamunu](偲べばよいのに)。シ˩ヌビ [ʃi˩nubi](偲べ)。過ぎ去ったこと、離れている人のことを思い慕う。恋い慕う。˩ニンブツァー˥バ イ˩ジ˥ ウヤパープジヌ ˥クトゥ シ˩ヌブンティ ベー˥ンドゥ ˥ウタン バ˩シキティ˥ シ˩ヌバラヌ [˩nimbutsaː˥ba ʔi˩ʤi

˥ ˥ʔujapaːpuʤinu ˥kuᵝtu ʃi˞nubunti beː˥ndu ˥ʔutam ˞baʃᵝikiti˥ ʃi˞nubaranu](念仏歌を歌って先祖のことを偲ぼうとしているが、歌も忘れて偲ばれない)。˥シマムニ　パ˞ナ˥シェーティ　˥シマ　シ˞ヌブ˥　プ˞スン　ブン [˥ʃimamuni pa˞na˥ʃeːti ˥ʃima ʃi˞nubu˥ puᵝ˞sum buŋ](島ことば＜方言＞を話しながら島を偲ぶ人もいる)。シ˞ヌビ˥　ミサカー　˞キュー˥ヤシン˞ジントゥ˥　シ˞ヌビ˥バ [ʃi˞nubi˥ misakaː ˞kjuː˥ja ʃin˞ʤintu˥ ʃi˞nubi˥ba](偲んで良ければ、今日はしみじみと偲びなさい)。

シ˞ヌブン [ʃi˞nubuŋ] 【他動】我慢する。こらえる (堪える)。耐える。「〜つみし手見つつ志乃備＜シノビ＞かねつも。万、3940」の転訛したもの。ク˞ヌ˥　ク˞チ˥サ　シ˞ヌブンティ　スンドゥ˥　シ˞ヌバラヌ [ku˞nu˥ kuᵝ˞tʃiˢsa ʃi˞nubunti sundu˥ ʃi˞nubaranu](この苦しみを堪えようとするが、堪えられない)。シ˞ヌビ˥　ッ˞ふィーリ [ʃi˞nubi˥ f˞fiːri](堪えてくれ)。シ˞ヌブ˥　クトー　ナ˞ラ˥ヌ [ʃi˞nubu˥ kuᵝtoː na˞ra˥nu](堪えることは出来ない)。˥マー　ン˞ベーマ˥　シ˞ヌベー˥　ミサムヌ [˥maː ʔm˞beːma˥ ʃi˞nubeː˥ misamunu](もう少し耐えたらいいのに)。シ˞ヌビ˥バ [ʃi˞nubi˥ba](堪えろよ)。

シ˞ヌマー˥ル [ʃi˞numaː˥ru] 【名】 (動) 和名、テングハギ。体長は約 50 センチまで成長するという。鳩間島では、体長 35〜40 センチのテングハギがよく漁獲された。頭に一本の角があり、尾びれの付け根に 2 個の刃状の骨盤突起があって、尾を振る際に怪我そすることがある。浅い岩礁に棲息し石灰藻を食べる。皮は鮫皮のサンドペーパーのようにざらざらとしており、肉には油が多く、煮ても刺身にしても美味である。シ˞ヌマー˥ロー　ア˞バ˥ヌ　˞ゴー˥ラーンダ　イッ˞ケナ˥　ン˞マー˥ン [ʃi˞numaː˥ro: ʔa˞ba˥nu ˞goː˥raːnda ʔik˞kena˥ ʔm˞maː˥ŋ](テングハギは油が多いから非常に美味しい)。

˥シヌ　˞ムイ˥ルン [˥ʃinu ˞mui˥ruŋ] 【連】˞角が生える」の義。逆上するほど。嫌というほど。我慢が限界に達して理性で対処できず、鬼面となる様をいう。シ˞ヌ˥ヌ　˞ムイ˥ルンケン　マ˞タサ˥リティ　˥マーラル　˞クン˥ゾー　ウ˞クル˥ワ˞ツォー [ʃi˞nu ˥nu ˞mui˥ruŋkem ma˞tasa˥riti ˥maːraru ˞kun˥ʤoː ʔn˞ʤiru˥wa˞tsoː](嫌というほど＜角が生えるほど＞待たされて、逆上してしまった＜どこから立腹するのか。立腹せずにおれようか＞)。

シ˞ヌン [ʃi˞nuŋ] 【自動】死ぬ。「〜命可死＜イノチシヌベク＞戀ひわたるかも。万、599」の転訛したもの。˥ドゥク　˥ヌムカー　シ˞ヌント˞ダー [˥duku ˥numukaː ʃi˞nunt˞daː](毒を飲んだら死ぬぞ)。ク˞ビッ˥チン　˥ヌ˞ムカー　シ˞ナヌ [ku˞bit˥ʧin ˥numukaː ʃi˞nanu](これぽっち飲んだら死なない)。イ˞コーラ˥　シ˞ニ˥プサタンティン　マ˞ナ˥マー　シ˞ヌ˥クトー　ナ˞ラ˥ヌ [ʔi˞koːra˥ ʃi˞ni˥pusatantim ma˞na˥maː ʃi˞nu˥ kuᵝtoː na˞ra˥nu](いくら死にたくても、今は死ぬことはできない)。˞パー˥ク　シ˞ネー˥　ミサムヌ [˞paː˥ku ʃi˞neː˥ misamunu](早く死ねばいいのに)。˥アイニ　シ˞ニ˥プサカー　シ˞ニ˥バ [˥ʔaini ʃi˞ni˥puᵝsakaː ʃi˞ni˥ba](そんなに死にたければ死ねよ)。

˥シノー [˥ʃinoː] 【名】ふるい (篩)。「すいのう (水嚢)」の転訛したもの。直径約 20 センチ、高さ約 8 センチの円筒形の篩。底部に馬尾毛＜ばす＞や針金で編んだ極細の網を張ったものが多く、麦粉や米粉を篩うのに用いた。約 0、5 ミリ方眼の網を曲げ物の底に張った篩。˥シノーサーリ　ミ˞リキン˥グ　フ˞カシティ　ティン˥プラ　ヤ˞キ˥バ [˥ʃinoːsaːri mi˞rikiŋ˥gu ɸuᵝ˞kaʃᵝiti tim˥pura ja˞ki˥ba](篩(フルイ)でメリケン粉をこしてテンプラを揚げ＜焼き＞なさい)。

˥シノー [˥ʃinoː] 【名】すいのう (水嚢)。目の細かい篩。丸い曲げ物の底をばす＜馬尾毛＞または針金の極細の網で張った篩。小麦粉や米粉を篩うのに用いる調理用器具。ミ˞リキン˥グ　˥シノーシ　フ˞カシ [mi˞rikiŋ˥gu ˥ʃinoːʃi ɸuᵝ˞kaʃi](メリケン粉を篩いで篩いなさい)。

˥シバ [˥ʃiba] 【名】唇の総称。フ˞チヌ˥　シバ [ɸuᵝ˞ʧinu˥ ʃiba](口の唇) ともいう。˞オーシバ [˞ʔoːʃiba](上唇)。ッ˞サシバ [s˞saʃiba](下唇) の部分名称がある。˥シバ　˞フッ˥ツァムン [˥ʃiba ˞ɸut˥tsamuŋ](唇を噛む)。

˥シバ [˥ʃiba] 【名】しゃこ貝の外套膜。青紫色を呈する。酢の物にするとシャキシャキとした食感があり、美味である。˥シバ [˥ʃiba](唇) から意味派生したものであろう。ギ˞ラ˥ヌ　˥シバー　ナ˞マ˥シ　˞スー˥カー　イッ˞ケン˥　ン˞マー˥ン [gi˞ra˥nu ˥ʃibaː na˞ma˥ʃi ˞suː˥ka: ʔik˞kem˥ ʔm˞maː˥ŋ](しゃこ貝のシバ [˥ʃiba](外套膜) は刺身にすると非常に美味しい)。

˥シバ [˥ʃiba] 【名】芝草。庭の石垣の回りや道端に自生している草。水はけのよい土地に繁茂する。5 月頃に小さな花を咲かせることがある。˞バン˥テヌ　ミ˞ナ˥カナー　シ˞バ˥ヌ　˥ムイ　˞ベー˥ン [˞ban˥tenu mi˞na˥kana: ʃi˞ba˥nu ˥mui ˞beː˥ŋ](私の家の庭に芝草が生えている)。˥シバ　イ˞ビルン [˥ʃiba ʔi˞biruŋ](芝草を植える)。

˥シバー **[˥ʃibaː]** 【名】三つ口。いぐち。としん (兎唇)。マ˩ナ˥マー　マ˩リットーラヌ˥　シバーン　˩ノーサ˥リン [ma˩naˢmaː ma˩rittoranu˥ ʃibaːn ˩noːsa˥riŋ](今は生まれつきの兎唇も治される＜治療できる＞)。

シ˩バー˥ン **[ʃi˩baː˥ŋ]** 【形】狭い。面積や幅が小さい。「多爾世婆美峯に延ひたる～『万葉集　3507』」、「Xebai、セバイ＜狭い＞『邦訳日葡辞書』」の義。˥クマー　シ˩バー˥ンダー　カ˩マー˥　ウ˩チ˥リ [˥kumaː ʃi˩baː˥nda ka˩maː˥ ʔu˩ʧi˥ri](此処は狭いから、あそこへ移れ)。ッ˩ふァヌ˥　グ˩マー˥タケンマー　シ˩バー　ナーン˥シェンドゥ　˩シンダイ˥　シ˩バー˥　ナリ　˩ナー˥ヌ [fᶠfanu˥ gu˩maː˥takemmaː ʃi˩baː naːŋ˥ʃendu ˩ʃindai˥ ʃi˩baː˥ nari ˩naː˥nu](子供が小さかった頃は狭くなかったが、次第に狭くなってきてしまった)。シ˩バー˥　クトー　˩ナー˥ヌ [ʃi˩baː˥ ku̥to: ˩naː˥nu](狭いことはない)。シ˩バー˥カー [ʃi˩baː˥kaː](狭かったら)。˥クマー　シ˩バー˥ヌ　ブ˩ララヌ [˥kumaː ʃi˩baː˥nu bu˩raranu](此処は狭くておれない)。

シ˩バイシー **[ʃi˩baiʃiː]** 【名】俳優。男優。女優。芝居役者。「芝居し」の転訛したもの。戦前までは芝居役者の社会的な地位は低かった。農業や漁業、商業等の産業に従事しない人が芝居役者になると蔑まされていた。ム˩カ˥シェー　シ˩バイシーヤ˥　ウ˩シクラシムーヌル　スー˥ティ　ア˩ゾーッ˥タ [mu˩kaˢʃe: ʃi˩baiʃiːja˥ ʔu˩ʃikuraʃimuːnuru suː˥ti ʔa˩ʤoːt˥ta](昔は、芝居役者は怠け者がするといわれた)。

シ˩バナクン **[ʃi˩banakuŋ]** 【他動】のす (伸す)。洗濯して真夏の太陽に干した衣類に噴霧器で水を吹きかけて皺を伸ばす。シ˩バンナクン [ʃi˩bannakuŋ] ともいう (老年層)。˩キン˥マー　シ˩バナキティ˥　サイ　シ˩キ˥リバ [˩kim˥maː ʃi˩banakiti˥ sai ʃi̥˩ki˥ribaba](着物は手で皺を伸ばして衣文掛けに掛けておきなさい)。

シ˩バ˥ミチ **[ʃi˩ba˥miʧi]** 【名】狭い道。小道。シ˩バミチェー˥マ [ʃi˩bamiʧeː˥ma](狭い小道) ともいう。˥カイブ　シ˩バ˥ミチェー　ア˩ラキングリ˥サバ　ウ˩ブ˥ミチェーラ　˥クーバ [˥kaibu ʃi˩bami˥ʧe: ʔa˩rakiŋguri˥saba ʔu˩bumi˥ʧeːra ˥kuːba](このような狭い道は歩きにくいから、大きな道から来なさいよ)。

シ˩バミ˥ルン **[ʃi˩bami˥ruŋ]** 【他動】狭める。狭くする。イ˩チバンザー˥ヤ　シ˩バミラン˥ドーシ　˩サンバンザー˥バ　シ˩バミ˥ルンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　˥アイニ　シ˩バ˥ミティ　˩シンマイヤー˥　トゥ˩ラ˥リンカヤー [ʔi˩ʧibanʤaː˥ja ʃi˩bamiran˥doːʃi ˩sambanʤaː˥ba ʃi˩bami˥runti ʔu˩muːn˥du ˥ʔaini ʃi˩ba˥miti ˩ʃimmaijaː˥ tu˩ra˥riŋkajaː](一番座は狭めないで三番座を狭めようと思うが、そのように狭めて間取りは取れるものかねえ)。˥クマー　シ˩バミ˥ル　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ　フ˩カ˥ヌ　˥トン　シ˩バミ˥レー　˥ミサムヌ [˥kumaː ʃi˩bami˥ru ˥kutoː na˩ra˥nu ɸu̥˩ka˥nu ˥toŋ ʃi˩bami˥reː ˥misamunu](此処は狭めることは出来ない。ほかの所を狭めればよいのに)。˥クマー　˩マー˥ビン　シ˩バミ˥リ [˥kumaː ˩maː˥biŋ ʃi˩bami˥ri](此処はもっと狭めろ＜れ＞)。

シ˩バ˥ムン **[ʃi˩ba˥muŋ]** 【他動】狭める。狭くする。「せばむ＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。シ˩バマ˥ヌ [ʃi˩bama˥nu](狭めない)。シ˩バミ˥　プサン [ʃi˩bami˥ pu̥saŋ](狭めたい)。シ˩バ˥ムンツォー [ʃi˩ba˥muntsoː](狭めるそうだ)。シ˩バ˥ム　˥クトゥ [ʃi˩ba˥mu ku̥tu](狭めること)。シ˩バ˥メー　˥ミサムヌ [ʃi˩ba˥meː ˥misamunu](狭めればよいのに)。シ˩バ˥ミ [ʃi˩ba˥mi](狭めよ)。

シ˩バヤー **[ʃi˩bajaː]** 【名】芝居。芝居小屋。商業演劇。イ˩サナキ˥ナー　シ˩バヤーヌ˥　クー　˥プソー　˥アブジェー　ウ˩リバ˥　ミリティ　ウ˩ヌ˥　パ˩ナ˥シ　˥ユー　シ˩カソーッ˥タン [ʔi˩sanaki˥naː ʃi˩bajaːnu˥ kuː ˥pu̥soː ˥ʔabuʤeː ʔu˩riba˥ miriti ʔu˩nu˥ pa˩na˥ʃi˥juː ʃi̥˩kasoːt˥taŋ](石垣に芝居が来るときは、お祖父さんはそれを見て、その話をよく話して聞かされた)。

シ˩バラー˥ン **[ʃi˩baraː˥ŋ]** 【形】1化膿しやすい。特定の食べ物が傷や腫れ物に悪い影響を及ぼしやすい。妊婦などが産後に特定の食品を食すると傷口が化膿しやすくなるといって嫌った。2差し障る。差障りが多い。「択食、ツハリ」、「胚、ツハリ」『類聚名義抄』の転訛したものか。ク˩ヌ˥　イ˩ゾー˥　シ˩バラー˥ンダ　ッ˩ふァーンドー˥シ　シ˩バラー　ナーン˥　ムヌ　ッ˩ふァイ˥バ [ku˩nu˥ ʔi˩ʤoː˥ ʃi˩baraː˥nda fᶠfaːndoː˥ʃi ʃi˩baraː naːm˥ munu fᶠfai˥ba](この魚は傷に差障りが多いから食べないで、差し障りのない物を食べなさい)。シ˩バラー˥ヌ　ッ˩ふァーラヌ [ʃi˩baraː˥nu fᶠfaːranu](＜傷に＞差障りが多くて食べられない)。シ˩バラー˥　ナルン [ʃi˩baraː˥naruŋ](差障りが多くなる)。シ˩バラー˥　ムヌ [ʃi˩baraː˥ munu](差し障りの多いもの)。シ˩バラー˥カー　ッ˩ふァーンブリ˥バ [ʃi˩baraː˥ka: fᶠfaːmburi˥ba](＜傷が＞化膿しやすいのなら食べるなよ)。

シ˞バライズ [ʃi˞baraʔidʑu] 【名】食べると傷や御出来に差障(サシサワ)りの多い魚。˥シラプソー　シ˞バライゾー˥　ッ˞ふァーンバル˥　マ˞シ [˥ʃirapu̥so:˥ ʃi˞baraidʑo:˥ f˞fa:mbaru˥ ma˞ʃi](産屋にいる産婦は傷や御出来に差し障りの多い＜食べると化膿しやすい＞魚は食べないほうがよい)。

˥シバラカバラ [˥ʃibarakabara] 【連体】狭苦しい。せせこましい。窮屈な。˥カイブ　˥シバラカバラヌ　˥トンナー　˞ヌー˥シ　˞シール˥　ク˞ラシタ˥カヤー [˥kaibu ˥ʃibarakabaranu ˥tonna: ˞nu:˥ʃi ˞ʃi:ru˥ ku˞raʃi̥ta˥kaja:](こんな窮屈な＜狭苦しい＞所で、どうやって暮らしたのかなあ)。

シ˞バラムニ [ʃi˞baramuni]【名】差障りの多い言葉。忌み言葉。縁起の悪い言葉。毒気のある言葉。˞ヨイ˥ヌ　˥ピンマー　˥カイブ　シ˞バラムネー˥　ア˞ズムノー˥　ア˞ラ˥ヌ [˞joi˥nu ˥pimma: ˥kaibu ʃi˞baramuni˥ ʔa˞dʑumuno:˥ ʔa˞ra˥nu](お祝いの日に、こんな縁起の悪い言葉を話すものではない)。ウ˞レー˥　ナー˞イ　ベー˥ティ　シ˞バラムニ˥　カー˞ニル˥　ア˞ズ [ʔu˞re:˥ na:˞i be:˥ti ʃi˞baramuni˥ ka:˞niru˥ ʔa˞dʑu](そいつは黙っていて差し障りの多い、毒気のある言葉だけをいう)。

シ˞バラムヌ [ʃi˞baramunu] 【名】差障りの多い食物。食べると傷や御出来などに悪い影響を及ぼす食物。産婦が特定の食物を摂取すると、傷が化膿しやすいとして嫌われる食品。産婦が食すると、新生児の臍が化膿しやすいといわれている食品。˞オーブヌ˥　ンジ　˞ベー˥バ　シ˞バラムノー　ッふーナ˥ヨー [˞ʔo:bunu˥ ʔndʑi ˞be:˥ba ʃi˞baramuno: ffu:na˥jo:](筋炎＜筋肉内に化膿菌によっておこる炎症＞で腫れ物が出来ているから傷やお出来に差障りの多い食品は食べるなよ)。シ˞ヌマー˥ロー　ア˞バビトゥ˥ラーンダ　シ˞バラムヌ˥ティ　ア˞ザリブタ [ʃi˞numa:˥ ro: ʔa˞babitu˥ra:nda ʃi˞baramunu˥ti ʔa˞dʑaributa](テングハギは脂っこいから、差障りの多い食品といわれていた)。

シ˞バ˥ル [ʃi˞ba˥ru] 【名】小便。尿。「尿、ユバリ」『類聚名義抄』の転訛したもの。シ˞バ˥ル　˞スン [ʃi˞ba˥ru ˞suŋ](小便をする)。シ˞バ˥ル　フ˞カスン [ʃi˞ba˥ru ɸu̥˞kasuŋ](小便を漏らす＜寝小便をする＞)。シ˞バル˥ヌ　フ˞キルン˥ケン　バ˞ラーサリ　ミッ˥タン [ʃi˞baru˥nu ɸu̥˞kiruŋ˥kem ba˞ra:sari mit˥taŋ](尿が漏れるほど笑わされたことがあるよ＜笑わされてみた＞)。

シ˞バ˥ルカザ [ʃi˞ba˥rukadʑa] 【名】小便の臭い。シ˞バ˥ルカザヌ　ッ˞サー˥ン [ʃi˞ba˥rukadʑanu s˞sa:˥ŋ](小便＜寝小便＞の臭いが臭い)。

˥シバルカミ [˥ʃibarukami] 【名】(動) 魚の名。和名、シマハタ (体長約 30 センチ。薄い紅色に黄色の縦縞と白い縦縞が背びれから背部へかけて並んでいる。尾びれに白の縦縞が二つ並んでいる)。あまり漁獲されないし、味は淡白で喜ばれない。

˥シバルカメー [˥ʃibarukame:] 【名】夜尿症の者。寝小便をする子供。˥シバルカメー　ヤ˞ルンダ　ピーズ˥　シ˞バ˥ル　フ˞カスン [˥ʃibarukame: ja˞runda pi:dʑu˥ ʃi˞ba˥ru ɸu̥˞kasuŋ](夜尿症だから毎日小便をもらす＜寝小便をしている＞)。

シ˞バ˥ル　˞シーグリ˥サン [ʃi˞ba˥ru ˞ʃi:guri˥saŋ] 【連】小便しにくい。排尿困難 (dysuria)。病気で尿が出にくい状況。『医学沖縄語辞典』。

シ˞バルッサー˥ン [ʃi˞barussa:˥ŋ] 【形】　小便臭い。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　シ˞バルッサー˥ンダ　ミ˞ジ˥　ア˞マシ [ku˞nu˥ f˞fa:˥ ʃi˞barussa:n˥da mi˞dʑi˥ ʔa˞maʃi](この子は小便臭いから、水を浴びせなさい)。ミ˞ジ˥　ア˞マシッター˥　シ˞バルッサー　ナー˥ヌ [mi˞dʑi˥ ʔa˞maʃi̥ta:˥ ʃi˞barussa: na:˥nu](水を浴び＜入浴さ＞せたから小便臭くない)。

シ˞バ˥ルッスン [ʃi˞ba˥russuŋ] 【名】膀胱。「尿、ユバリ」『類聚名義抄』に「都々美＜ツツミ＞〜。万、4102」の下接した「ゆばりつつみ (尿包み)」の転訛したものか。シ˞バ˥ルフクル [ʃi˞ba˥ruɸu̥kuru](膀胱＜ゆばり袋＞) ともいう。˞オー˥ヌ　シ˞バ˥ルッスンバ　フ˞クラマシティ　マー˥ル　ス˞ク˥リ　ア˞サブタ˥ダー [˞ʔo:˥nu ʃi˞ba˥russumba ɸu̥˞kuramaʃi̥ti ma:˥ru su̥˞ku˥ri ʔa˞sabuta˥da:](豚の膀胱を膨らませて鞠を作って遊んだものだよ)。

シ˞バ˥ル　˥ニズン [ʃi˞ba˥ru ˥nidʑuŋ] 【連】小便を我慢する (念ずる。「念じ果て」＜最後まで辛抱し通す。我慢する。辛抱する＞『源氏物語　蓬生』の義)。シ˞バ˥ル　ニ˞ジユーサ˥ヌ [ʃi˞ba˥ru ni˞dʑiju:sa˥nu](排尿を耐え切れない)『医学沖縄語辞典』。

シ˞バル˥ヌ　˞ゴー˥ラーン [ʃi˞baru˥nu ˞go:˥ra:ŋ] 【連】小便が多い。多尿 (polyuria)。普段より多量の尿量。糖尿病、尿崩症等にみられる『医学沖縄語辞典』。

シ˞バル˥ヌ　タ˞マリベー˥ン [ʃi˞barunu˥ ta˞maribe:˥ŋ] 【文】小便が膀胱に溜まっている。尿貯留 (retention of urine)。『医学沖縄語辞典』。

シ˞バル˥ヌ　トゥ˞マルン [ʃi˞baru˥nu tu˞maruŋ] 【文】小便が止まる。尿閉 (retention of urine)。排尿がないこと。『医学沖縄語辞典』。

シ˞バルˬヌ　ヌ˞カˬルン **[ʃi˞baruˬnu nu˞kaˬruŋ]** 【文】小便が残る。残尿 (residual urine) 排尿後、尿が残ること。『医学沖縄語辞典』。

シ˞バルˬヌ　ˬミー **[ʃi˞baruˬnu ˬmiː]** 【連】尿道。「尿の穴」の義。シ˞バルˬヌ　˞ミーˬヌ　ˬヤミティル　シ˞バˬル　˞シーグリˬサツォー [ʃi˞baruˬnu ˞miːˬnu ˬjamitiru ʃi˞baˬru ˞ʃiːguriˬsatsoː](尿道が痛くて排尿しにくいそうだ)。

シ˞バルˬヌ　ヤ˞ナンゴーˬリ　˞ベー **[ʃi˞baruˬnu ja˞naŋgoːˬri ˞beː]** 【文】混濁尿 (cloudiness of the urine)。尿＜小便＞が濁っている。細菌で濁っている場合が多く、食物による正常な場合もあるという。『医学沖縄語辞典』。シ˞バルˬヌ　ヤ˞ナンゴーˬルカー　˞ヤンマイˬヌ　シ˞ルシˬティ　ア˞ザリ　ブー [ʃi˞baruˬnu ja˞naŋgoːˬruka: ˞jammaiˬnu ʃi˞ruʃiˬti ʔa˞ʤari buː](尿が濁ると病気の印といわれている)。

ˬシバルフカー **[ˬʃibaruɸu̥kaː]** 【名】夜尿症の者。寝小便を垂れる者。「シ˞バˬル＜尿＞・フカシ＜漏らし＞・ヤー＜者＞」の義。˞ウンザーˬ　ク˞ヌˬ　トゥシ˞バーˬキ　シ˞バˬルフカー　ˬナリティ　˞ヨーゾˬー　ナ˞ラˬヌ [˞ʔunʤaːˬ ku˞nuˬ tu̥ʃi˞baːˬki ʃi˞baˬruɸu̥kaː ˬnariti ˞joːˬʤo: na˞raˬnu](そいつはこの年まで寝小便を垂れて仕様がない＜始末に負えない。養生できない＞)。

シ˞バˬルフキヤン **[ʃi˞baˬruɸu̥kijaŋ]** 【名】尿を漏らす病気。シ˞バˬルフキヤン　カ˞カˬリティ　シ˞バˬルフ˞カスムンˬ　ッ˞サヌ [ʃi˞baˬruɸu̥kijaŋ kḁ˞kaˬriti ʃi˞baˬru ɸu̥˞kasumunˬ s˞sanu](尿失禁の病気に罹って小便を漏らすことを知らない＜自覚しない＞)。

シ˞バˬルフクル **[ʃi˞baˬruɸu̥kuru]** 【名】膀胱。˞オーˬヌ　シ˞バˬルフクルシ　˞プーˬカー　ス˞クˬリ　ア˞サブタン [˞ʔoːˬnu ʃi˞baˬruɸu̥kuruʃi ˞puːˬka: su̥˞kuˬri ʔa˞sabutaŋ](豚の膀胱で風船を作って遊んだものだ)。

シ˞バˬルムヨー **[ʃi˞baˬrumujoː]** 【名】尿意。小便がしたくなること。「いばり＜尿＞催し」の義。シ˞バˬルムヨー　˞シェーラˬ　シ˞グˬ　タ˞タンˬカー　ˬパル　ˬアイナー　フ˞カスンˬダー [ʃi˞baˬrumujoː ˞ʃeːraˬ ʃi˞guˬ ta˞taŋˬka: ˬparu ˬʔaina: ɸu̥˞kasunˬdaː](尿意を催したらば、すぐ立たないと、行く途中で漏らすぞ)。

ˬジバン **[ˬʤibaŋ]** 【名】じゅばん (襦袢)。肌着。汗取り。垢取り。「gibão」(襦袢。ポルトガル語) の借用語。ˬドゥク　ˬアツァユンダ　˞キンˬマー　キ˞サラヌˬ　ジバン　プ˞スッˬクビ　カー˞ニˬ　キ˞シティルˬ　マー˞ンˬ　パル [ˬduku ˬʔatsajunda ˞kimˬmaː kiˬ ˞saranuˬ ʤibam pu̥˞sukˬkubi kaː˞niˬ kiˬ˞ʃitiruˬ maː˞mˬ paru](あまりにも暑くて、着物は着られない。襦袢一枚だけ着てどこへでも行く)。

シ˞バンナクン **[ʃi˞bannakuŋ]** 【他動】のす (伸す)。つばなかす (茅花かす) の転訛。老年層の言葉。選択して、天日に乾した衣類に水滴や蒸気をを吹きかけて皺を伸ばす。両手の親指と人差し指で約一寸間隔にたたみこみ、押し広げながら皺を伸ばす。シ˞バナクン [ʃi˞banakuŋ](皺を伸ばす)(若年層) ともいう。˞キンˬマー　シ˞バンナキティˬ　サイバ [˞kimˬ maː ʃi˞bannakiˬti ˬsaiba](着物は皺を伸ばして衣紋がけに吊るしなさいよ)。シ˞バンナクンティ　スンドゥˬ　シ˞バンナカラヌ [ʃi˞bannakunti sunduˬ ʃi˞bannakaranu](指で皺を伸ばそうとするが伸ばされない)。シ˞バンナキˬ　プサカー　ˬドゥーシ　シ˞バンナキˬバ [ʃi˞bannakiˬ pu̥saka: ˬduːʃi ʃi˞bannakiˬ ba](皺を伸ばしたければ自分で伸ばしなさいよ)。シ˞バンナク　キンˬマー　˞マーˬビン　シ˞バンナケーˬ　ミサムヌ [ʃi˞bannaku kimˬmaː ˞maːˬbiŋ ʃi˞bannakeːˬ misamunu](皺を伸ばす着物は、もっと皺を伸ばせばよいのに)。

シ˞ビ **[ʃi˞bi]** 【名】 1尻。臀部。シ˞ビˬナ　ア˞シブˬヌ　ˬンジティ　ビ˞ララヌ [ʃi˞biˬna ʔa˞ʃibuˬnu ˬʔnʤiti bi˞raranu](お尻に御出来が出来て座れない)。2最後尾。後ろ。プ˞スヌˬ　シ˞ビˬ　ナ˞ルˬナ [pu̥˞sunuˬ ʃi˞biˬ na˞ruˬna](他人後ろなるな)。3川の下流の海への出口のところ。˞カーラヌˬ　シ˞ビˬナー　ˬイダフネー　イ˞リˬシキティ　タ˞ムˬノー　シ˞ミˬバ [˞kaːranuˬ ʃi˞biˬna: ˬʔidaɸune: ʔi˞riˬʃi̥kiti ta˞muˬno: ʃi˞miˬba](川の下流の海への出口にサバニを入れておいて薪を積みなさいよ)。4鍋底。底。ナ˞ビˬヌ　シ˞ビヌ　ピング˞ˬ　カ˞ラˬイシシ　ウ˞タˬシバ [na˞biˬnu su̥˞kunu piŋguˬ ka˞raˬiʃiʃi ʔu˞taˬʃi](鍋底の鍋墨、＜竈黒＞を軽石で落としなさい)。

ジ˞ヒ **[ʤi˞çi]** 【副】是非。必ず。どうしても。きっと。標準語の「是非」から転訛したもの。普通はヤー˞ディン [jaː˞diŋ](必ず。きっと。是非。どうしても)、ドー˞ディン [doː˞diŋ](是非。是非とも。どうぞ。どうあっても。どうしても) のように言う。ク˞レーˬ　ジ˞ヒˬ＜ヤ˞ーディンˬ＞　キューズーナ　トゥ˞ドゥˬキ　ッ˞ふィーリ [ku˞reːˬ ʤi˞çiˬ＜ja˞ːdiŋˬ＞ kjuːʤuːna tu˞duˬki f˞fiːri](これは是非今日中に届けてくれ)。

シ˞ビ　ウーン **[ʃi˞bi ʔuːŋ]** 【連】後を追う。後追いす

る。「尻を追う」の義。子供が母親の後を追うこと。ヤ˞ラ˜ベー　ブ˞ネーヌ˜　シ˞ビ　ウーンティ　キン˜ダン　˞シー˜　ナ˞キベー [ja˞ra˜be: bu˞ne:nu˜ ʃi˞bi ʔu:nti kin˜daŋ ˞ʃi:˜ na˞kibe:](子供は母親の後追いをするとて、地団太踏んで泣いている)。˜アッパー　シ˞ビ　ウーン [˜ʔappa: ʃi˞bi ʔu:ŋ](お婆さんの後をおう)。

シ˞ビウイ [ʃi˞biʔui] 【名】後追い。子供が母親の後を追っかけること。「尻追い」の義。ク˞ヌ　ッふァー˜　ウ˞ヤ˜ヌ　シ˞ビウイバー　シー˜　ムッ˞トゥ˜　シ˞グトゥ˜　シ˞ミラヌ [ku˞nu ffa:˜ ʔu˞ja˜nu ʃi˞biʔuiba ʃi:˜ mut˞tu˜ ʃi˞gutu˜ ʃi˞miranu](この子は親の後追いをして、ちっとも仕事をさせない)。

シ˞ビ˜　カ˞サマリン [ʃi˞bi˜ ka˞samariŋ] 【連】ばれる。見抜かれる。言葉の言い損ないを捕らえられる˞言葉尻を掴まれる」の義。ユ˞クシ˜ムニ　ア˞ズ˜カー　シ˞ビ˜　カ˞サマリン˜ダー [ju˞kuʃi˜muni ʔa˞ʤu˜ka: ʃi˞bi˜ ka˞samarin˜da:](嘘をついたらばれる < 言葉尻を掴まれる > ぞ)。

シ˞ビ˜カライ [ʃi˞bi˜karai] 【名】しりからげ (尻からげ)。着物の背縫いの裾をたくし上げて帯に挟むこと。農夫が畑仕事をする際にする。舞踊や演劇などで着物の裾をからげることは、農民、庶民をパロディー化した表現とされている。シ˞グトゥ　ソー˜ル　ピンマー　シ˞ビ˜カライ　˞シェー˜ティル　ノー˞ン　ソーッタ˜ル [ʃi˞gutu so:˜ru pimma: ʃi˞bi˜karai ˞ʃe:˜tiru no:˞n so:tta˜ru](仕事をされるときは尻からげをして何事をもなされたものだ)。

シ˞ビ˜　カラウン [ʃi˞bi˜ karauŋ] 【連】尻をからげる (絡げる)。着物の裾をまくりあげる。˞キン˜マー　˞ナーサイ　サンドー˜シ　シ˞ビ˜　カライティ　シ˞グトゥ　シー˜バ [˞kim˜ma: ˞na:sai sando:˜ʃi ʃi˞bi˜ karaiti ʃi˞gutu ʃi:˜ba](着物は長く垂らさないで < 引き摺らないで >、尻をからげて仕事をしなさいよ)。

シ˞ビ˜　カ˞ロー˜ン [ʃi˞bi˜ ka˞ro:˜ŋ] 【連】よく働く。機敏に働く。腰を下ろして座り込むのでなく、さっさと立ち働くことが若者の、特に女性の美徳とされていた。「尻が軽い」の義。「女の、浮気なこと」の意味はない。シ˞ビ　グッ˜ふァン [ʃi˞biguf˞faŋ](< 尻が重い >。腰が重い。怠け者である) の対義語。「尻軽」の悪い意味はない。ウ˞ヌ　ッふァー˜　イッ˞ケナ˜　シ˞ビカロー˜ン [ʔu˞nu ffa:˜ ʔik˞kena˜ ʃi˞bikaro:˜ŋ](この子は非常に尻が軽い。非常によく働く模範的な子だ)。

シ˞ビクス [ʃi˞bikusu] 【名】びりっけつ。しんがり。「しりくそ < 尻糞 >」の義。ヨー˞ヨー˜　プ˞スヌ˜　シ˞ビクス　ナン˜ナ˞ダー [jo:˞jo:˜ pu̥˞sunu˜ ʃi˞bikusu nan˜na˞da:](よくよく気をつけろよ。他人のびりっけつになるなよ)。

シ˞ビ　グッ˜ふァン [ʃi˞bi guf˞faŋ]【連】怠け者である。「尻が重い」の義。ウ˞レー˜　シ˞ビ　グッふァ˜ヌ　シゥ˞カーラヌ [ʔu˞re:˜ ʃi˞bi guffa˜nu si̥˞ka:ranu](あれは怠け者で < 尻が重いから > 使うことが出来ない < 使われない >)。

シ˞ビコー˜リ [ʃi˞biko:˜ri] 【名】便秘。「尻・強り < 磽、己波志 (こはし)>『新撰字鏡』」の転訛したものか。シ˞ビコーリ˜ヌ　˞ヤン˜ヌ　フ˞チ˜ロー　˜アンカヤー [ʃi˞biko:ri˜nu ˞jan˜nu ɸu̥˞ʧi˜ro: ˜ʔaŋkaja:](便秘症 < 便秘の病 > の薬はあるかねえ)。

シ˞ビコー˜ルン [ʃi˞biko:˜ruŋ] 【自動】便秘する。「しりこわる < 尻強る >」の義。ナ˞マバン˜スル　ッ˞ふー˜カー　シ˞ビコー˜ルンティ　˞スーヌ　ウーミバン˜スロー　シ˞ビコーラ˜ヌ [na˞maban˜suru f˞fu:˜ka: ʃi˞biko:˜runti ˞su:nu ʔu:miban˜suro: ʃi˞biko:ra˜nu](未熟のバンジロウ < 番石榴 > を食べると便秘するというが、熟れたバンジロウは便秘しない)。ウ˞リ˜シ　シ˞ビコー˜ル　˜クトー　˞ナーヌ˜ヌ　シ˞ビコーリ　ヤッ˜サンツォー [ʔu˞ri˜ʃi ʃi˞biko:˜ru ˜kuto: ˞na:nu˜nu ʃi˞biko:rijas˜santso:](それで便秘することはないが、便秘しやすいそうだ)。シ˞ビコー˜レー　˜ミサムヌ [ʃi˞biko:˜re: ˜misamunu](便秘すればよいのに)。ウ˞リ˜　ッ˞ふァイティ˜　シ˞ビコー˜リバ [ʔu˞ri˜ f˞faiti˜ ʃi˞biko:˜riba](それを食って便秘しろ)。「尻強る」の転訛。ナ˞マバン˜スル　ッ˞ふー˜カー　シ˞ビコー˜ルン [na˞maban˜suru f˞fu:˜ka: ʃi˞biko:˜ruŋ](未熟の蕃石榴 < バンジロウ。グアバ > を食べると便秘する)。シ˞ビコーラ˜ヌ [ʃi˞biko:ra˜nu](便秘しない)。シ˞ビコーリ　ヤッ˜サン [ʃi˞biko:ri jas˜saŋ](便秘しやすい)。シ˞ビコー˜ル　˜ピン [ʃi˞biko:˜ru ˜piŋ](便秘するとき)。シ˞ビコー˜レー　˜ミサムヌ [ʃi˞biko:˜re: ˜misamunu](便秘すればよいのに)。シ˞ビコー˜リ [ʃi˞biko:˜ri](便秘せよ)。

シ˞ビシゥカイビリ [ʃi˞bisi̥˞kaibiri] 【名】片膝を立て、片膝を折って尻を支える座り方。「尻支え座り」の義。˞パンタ˜サール　˜バソー　シ˞ビシゥカイビリバ　シェー˜ティル　˜アシェー　ン˞コーッタ˜ル [˞panta˜sa:ru ˜baso: ʃi˞bisi̥˞kaibiriba ʃe:˜tiru ˜ʔaʃe: ʔŋ˞ko:tta˜ru](忙しい < 繁多の > 時は尻支え座りをしながら昼食は召し上がられたものだ)。

シ˞ビシキルン **[ʃi˞biʃi̥kiruŋ]** 【他動】くっつける。ひっつける。˞ヌー˥ルシ　シ˞ビシキルンティ˥　ウ˞ムータン˥ドゥ　シ˞ビシキララランバ˥　シ˞ビシキル˥　ムヌ　˥トゥミ　˥キー　シ˞ビシキリ [˞nuː˥ruʃi ʃi˞biʃi̥kirunti˥ ʔu˞muːtan˥du ʃi˞biʃi̥kiraramba˥ ʃi˞biʃi̥kiru˥ munu ˥tumi ˥kiː ʃi˞biʃi̥kiri](糊でくっつけようと思ったがくっつけられないので、くっつけるものを捜してきてくっつけなさい)。シ˞ビシキ　ヤッ˥サ　˥ムノーラ　シ˞ビシケー˥　ミサムヌ [ʃi˞biʃi̥ki jas˥sa ˥munoːra ʃi˞biʃi̥keː˥ misamunu](くっつけやすいものからくっつければ良いのに)。ア˞ガマミ　ネーシティ˥　ム˞チ˥ナー　シ˞ビシキルン [ʔa˞gamami neːʃiti˥ mu˞ʧi˥na: ʃi˞biʃi̥kiruŋ](赤小豆＜あずき。小豆＞を煮て餅にくっつける)。

シ˞ビシ˥ケー **[ʃi˞biʃi̥˥keː]** 【名】おしめ。むつき。おむつ。「尻敷きもの」の義。ム˞カ˥シェー　フ˞タ˥キシキンバ　˞トー˥シティル　シ˞ビシ˥ケー　˥ヌイ　˞ヨーッタ˥ル [mu˞ka˥ʃe: ɸu̥˞ta˥kiʃikimba ˞toː˥ʃi̥tiru ʃi˞biʃi̥˥ke: ˥nui ˞joːtta˥ru](昔は普段着をつぶしておむつは縫われた＜縫っておられた＞ものだ)。

シ˞ビジナー **[ʃi˞biʤinaː]** 【名】牛を繋ぐ長い綱。牛を原野のススキや茅などに繋いでおき、広範囲の草が自由に食べられるように繋いだ長い綱。「尻綱」の義。ウ˞シヌ˥　シ˞ビジナー˥　ガヤーナ　サ˞マ˥リ　˥シケーティ　˥ッサ　ッ˞ふァーシ˥バ [ʔu˞ʃinu˥ ʃi˞biʤinaː˥ gajaːna sa˞ma˥ri ˥ʃi̥keːti ˥ssa f˞faːʃi˥ba](牛の尻綱を茅に縛り付けておいて草を食べさせなさいよ)。

シ˞ビシンカーシ **[ʃi˞biʃiŋkaːʃi]** 【連】ぎゅうぎゅう詰めにすること。すしづめ (鮨詰) にすること。「尻突合せて」の義。シ˞バーン˥　トンナ　ウ˞ビ˥ヌ　プ˞スバ˥　シ˞ビシンカーシ˥　ビ˞ラシ˥シケー [ʃi˞baːn˥ tonna ʔu˞bi˥nu pu̥˞suba˥ ʃi˞biʃiŋkaːʃi˥ bi˞raʃi˥ʃi̥keː](狭い所にあれだけの人数の人を鮨詰にして座らせてある)。

シ˞ビスクライ **[ʃi˞bisu̥kurai]** 【名】後始末。後々の処置。後々のことを考慮して事前に用意しておくこと。˥アトゥアトー　˞ヌー˥シ　˥ナルユー　ッ˞サンバ˥　シ˞ビスクライヤー　シー˥　シ˞キ˥リ [˥ʔatuʔato: ˞nuː˥ʃi ˥naruju: s˞samba˥ ʃi˞bisukuraija: ʃiː˥ ʃi̥˞ki˥ri](後々どうなるか分からない＜知らない＞ので、後々のための用意＜処置＞をしておきなさい)。

シ˞ビスクン **[ʃi˞bisu̥kuŋ]** **(1)**【他動】くっつける。ム˞チ˥シ　シ˞ビシキ˥　プサンドゥ　シ˞ビシゥカラヌ [mu˞ʧi˥ʃi ʃi˞biʃi̥ki˥ pusandu ʃi˞bisi̥karanu](餅でくっつけようと思うがくっつけられない)。シ˞ビスクンテイ˥　ウムーカー　シ˞ビスク　シーヨー˥ヤ　˥アンダー　˞パー˥ク　シ˞ビシキ [ʃi˞bisukunti˥ ʔumuːka: ʃi˞bisuku ʃiːjoː˥ja ʔa˞ri˥bunda: ˞paː˥ku ʃi˞biʃi̥ki](くっつけようと思うならくっつける仕方はあるから、早くくっつけなさい)。シ˞ビシケー˥　ミサムヌ [ʃi˞biʃi̥keː˥ misamunu](くっつければよいのに)。 **(2)**【自動】ク˞レー˥　シ˞ビスクン˥カヤーティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　シ˞ビシゥカンバン [ku˞reː˥ ʃi˞bisi̥kuŋ˥kajaːti ʔu˞muːtan˥du ʃi˞bisi̥kambaŋ](くっつくかと思ったがくっつかないよ)。ク˞リトー˥　シ˞ビシキ　ヤッ˥サンティ˞ダー [ku˞ritoː˥ ʃi˞biʃi̥ki jas˥santi˞daː](これとはくっつきやすいそうだよ)。

シ˞ビスクン **[ʃi˞bisu̥kuŋ]** 【他動】**(1)** くっつける。接着剤でくっつける。ひっつける。ク˞リ˥シ　シ˞ビスクンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　シ˞ビシゥカランバ˥　シ˞ビシキ　ヤッ˥サ　˥ムヌ　˥トゥミキー　シ˞ビシキ [ku˞ri˥ʃi ʃi˞bisu̥kunti˥ ʔu˞muːn˥du ʃi˞bisi̥karamba˥ ʃi˞biʃi̥kijas˥sa ˥munu ˥tumi ˥kiː ʃi˞biʃi̥ki](これでくっつけようと思うがくっつけられないので、くっつけやすいものを捜してきてくっつけよ)。シ˞ビスク　ムノー˥　ムー˞ル˥　シ˞ビシケー˥　ミサムヌ [ʃi˞bisu̥ku munoː˥ muː˞ru˥ ʃi˞biʃi̥keː˥ misamunu](くっつける物は総てくっつければよいのに)。(自動)**(2)** くっつく。接着する。夫婦となる。˥プスイシ　シ˞ビスクンティ˥　ウ˞ムータン˥ドゥ　シ˞ビシゥカンバン [˥pusuiʃiː ʃi˞bisu̥˞kunti˥ ʔu˞muːtan˥du ʃi˞bisi̥kambaŋ](一日でくっつくと思ったがくっつかないわい)。シ˞ビシキン˥ギサン [ʃi˞biʃi̥kiŋ˥gisaŋ](くっつきそうだ)。シ˞ビスク　ムノー　ナー˥ヌ [ʃi˞bisu̥ku muno: na:˥nu](くっつくものはない)。˞ナンク˥ル　シ˞ビシケー˥　ミサムヌ [˞naŋ˥kuru ʃi˞biʃi̥keː˥ misamunu](自然に＜おのずと＞くっつけば良いのに)。ワ˞ター　マー˥ビン　シ˞ビシキ˥バ [wa˞taː maː˥biŋ ʃi˞biʃi̥ki˥ba](君たちはもっとくっつきなさいよ)。

シ˞ビ　ソールン **[ʃi˞bi soːruŋ]** 【連】他人のあら捜しをする。「尻探る」の義。˞ウンザー˥　プ˞スヌ˥　シ˞ビ　ソールンティ˥　カー˞ニ　スンダ˥　ユー　˞キー˥　シケーティ　˥ムネー　イ˞ジ˥ヨー [˞ʔundʒaː˥ pu̥˞sunu˥ ʃi˞bi soːrunti˥ kaː˞ni sunda˥ juː ˞kiː˥ ʃi̥keːti ˥mune: ʔi˞ʤi˥joː](あいつは他人のあら捜ししようとだけするから、よく気をつけて話をしなさい＜ものを言いなさい＞)。

シ˞ビ˺　タ˞タッ˺クン [ʃi˞bi˺ tḁ˞tak˺kuŋ] 【連】1尻を引っ叩く。˺ドゥク　パ˞ナン˺ギ　˞スー˺カー　シ˞ビ˺　タ˞タッ˺キ　ナ˞ラー˺シバ [˺duku pa˞naŋ˺gi ˞su:˺ka: ʃi˞bi˺ tḁ˞tak˺ki na˞ra:˺ʃiba](あんまりにも悪戯が過ぎると＜ひどい悪ふざけをしたら＞尻を叩いて仕付けて＜教えて＞やりなさい)。2尻を叩いて励ます。トゥ˞ジン˺　シ˞ビ˺　タ˞タッカ˺レーティ　シ˞グトゥ　シェー˺ティ　˞アー˺ク [tu˞ʤiŋ˺ ʃi˞bi˺ tḁ˞takka˺re:ti ʃi˞gutu ʃe:˺ti ˞ʔa:˺ku](妻に尻を叩かれ、励まされて仕事をしている)。

ジ˞ビタムヌ [ʤi˞bitamunu] 【連】下劣なひと。卑しいことをする者。˞ウンザー˺　ジ˞ビタムヌ˺　ヤ˞ルンダ　ヌー˺バ　˞スー˺ユー　ワ˞カラ˺ヌ [˞ʔundza:˺ ʤi˞bitamunu˺ ja˞runda nu:˺ba ˞su:˺ju: wa˞kara˺nu](そいつは下劣な奴だから何をしてくるか分からない)。

シ˞ビッサイピラク [ʃi˞bissaipiraku] 【名】三月の最後の寒さ。余寒。「尻塞ぎ寒さ」の義。首里方言の「別れ寒さ」のこと。シ˞ビッサイピラクル˺　ヤ˞リバ˺　メー　ピ˞ラ˺クン　˺クビ　˞バーキ˺ル　˺アル [ʃi˞bissaipirakuru˺ ja˞riba˺ me: pi˞ra˺kuŋ ˺kubi ˞ba:ki˺ru ˺ʔaru](三月最後の寒さだから、もう寒さもこれでおしまい＜これまでぞある＞だ)。

シ˞ビッス [ʃi˞bissu] 【名】びり。順位の最後。相手を罵る言葉。ノー˞ン˺　シ˞タンティン˺　プ˞スヌ˺　マイ　ナ˞リユーサ˺ヌ　シ˞ビッス [no:˞ŋ˺ ʃi̥˞tantim˺ pu̥˞sunu˺ mai na˞riju:sa˺nu ʃi˞bissu](何をしても人様の前になり得ない。びりっけつだ)。

シ˞ビッタラ [ʃi˞bittara] 【名】しりべた。しりこぶた。「しりたむら＜尻臀＞」、「志利太牟良」『新撰字鏡』、「シリタブラ」『観智院本名義抄』の転訛か。シ˞ビッタラ˺　ム˞サリティ˺　フ˞チ˺　ヤ˞ゴミベー [ʃi˞bittara˺ mu˞sariti˺ ɸu̥˞ʧi˺ ja˞gomi be:](尻べたをつねられ＜抓ねられ＞て口をゆがめている＜泣きそうになっている＞)。

シ˞ビ˺　トゥ˞ズミルン [ʃi˞bi˺ tu˞ʤumiruŋ] 【連】後始末をする。˺ドゥーシ　パ˞ジメー˺ル　シ˞グトー˺　シ˞ビ˺　トゥ˞ズ˺ミテーラル　マー˞ン˺　パル˞ダー [˺du:ʃi pa˞ʤime:˺ru ʃi˞guto:˺ ʃi˞bi˺ tu˞ʤu˺mite:raru ma:˞m˺ paru˞da:](自分で始めた仕事は後始末をして＜尻を閉じめて＞から＜ぞ＞何処にも行くのだよ)。シ˞グトゥヌ˺　シ˞ビ˺　トゥ˞ズミラムティ　ヤー　˺パリ　˞ナー˺ヌ [ʃi˞gutunu˺ ʃi˞bi˺ tu˞ʤumiramuti ja:˺ pari ˞na:˺nu](仕事の後始末をしないで家に帰ってしまった)。

シ˞ビ˺　トゥ˞ズムン [ʃi˞bi˺ tu˞ʤumuŋ] 【連】後始末をする。後片付けをする。「尻を閉じむ」の義。ノー˞ン˺　シ˞グトゥヌ˺　シ˞ビ˺　トゥ˞ズ˺ミティル　ビ˞チ˺ヌ　˺クトー　˞シービキ [no:˞ŋ˺ ʃi˞gutunu˺ ʃi˞bi˺ tu˞ʤu˺mitiru bi˞ʧi˺nu ˺ku̥to: ˞ʃi:biki](何でも、仕事を後片付けてから＜ぞ＞別のことはすべきである)。

ジ˞ヒトゥム [ʤi˞çitumu] 【副】どうしても。何としても。是が非でも。是非に。標準語から転訛したもので若年層が使う。老年層は、普通はヤー˞ディン [ja:˞diŋ](是非とも。「否でも」の転訛) という。ジ˞ヒトゥム˺　カ˞フ˺ヌプス　タ˞ナマ˺リ　ッ˞ふォー˺リ [ʤi˞citumu˺ ka˞ɸu˺nupu̥su ta˞mama˺ri f˞fo:˺ri](是非とも媒酌人に頼まれて下さい＜媒酌人をお頼み致します＞)。

シ˞ビトゥンター [ʃi˞bitunta:] 【名】でっちり (出っ尻)。尻が突き出ているもの。尻が突き出て不安定なもの。ク˞ヌ˺　ナベー　シ˞ビトゥンター˺　ナリティ˺シケー　シ˞カン˺カー　ビ˞シララヌ [ku˞nu˺ nabe: ʃi˞bitunta:˺ nariti ˺ʃi̥ke: ʃi̥˞kaŋ˺ka: bi˞ʃiraranu](この鍋は尻が突き出ていて、揺輪を敷かないと座らされ＜据えられ＞ない)。

シ˞ビナージナ [ʃi˞bina:ʤina] 【名】注連縄。尻久米縄。「端出之縄、此をば斯梨倶梅儺波＜しりくめなは＞といふ」『日本書紀　神代上』の義。藁の根元を七、五、三本ずつ約三寸ほど出して左縒りに綯い、大蒜と塩を吊るした注連縄。魔除けとして用い、神聖な場所や産屋などに張り巡らす。シ˞ビナージナバ˺　ナイ　パ˞リ˺　シケーバ　ヤ˞ナ˺ムノー　˞ペーラ˺ヌ [ʃi˞bina:ʤinaba˺ nai pa˞ri˺ ʃi̥ke:ba ja˞na˺muno: ˞pe:ra˺nu](注連縄を綯って張り巡らしてあるから悪霊は入らない)。

シ˞ビナガー˺ン [ʃi˞binaga:˺ŋ] 【形】長居する。他人の家を訪ねて座ったまま雑談を続けてなかなか帰らないさま。「尻長さ・有り」の転訛したもの。ウ˞レー　サッ˺コー　シ˞ビナガー˺ンダ　ウ˞リヌ˺　ケーラ　シ˞グトゥ˺　ナ˞ラ˺ヌ [ʔu˞re: sak˺ko: ʃi˞binaga:˺ŋ](彼は非常に長居をする＜非常に尻長い＞から、彼が来たら仕事が出来ない)。

シ˞ビ˺　ナルン [ʃi˞bi˺ naruŋ] 【連】最後尾になる。びりっけつになる。˞ドゥー˺ヌ　˞ヨー˺カー　パ˞リスー˺ブン　シ˞ビ˺　ナルンダ　ン˞マー˺ムヌ　ッ˞ふァイ˺　ドゥー　ス˞ク˺リ [˞du:˺nu ˞jo:˺ka: pa˞risu:˺buŋ ʃi˞bi˺ narunda ʔm˞ma:˺munu f˞fai˺ du: su̥˞ku˺ri](体＜胴＞が弱いと走り競争もびりっけつになるから、美味しいものを食べて体＜体力＞を作

れ)。

シ˞ビヌギ [ʃi˞binugi] 【名】帳簿を改ざんして経理をごまかす。帳簿を操作して金銭を横領する。ウ˞レー　キーシキラン˜カー　シ˞ビヌギ　スン˜ティ˞ダー [ʔu˞reː kiːʃi̥kiraŋ˜kaː ʃi˞binugi sun˜ti˞daː](彼は気を付けないと経理をごまかして横領するそうだよ)。

シ˞ビヌシティ˜プス [ʃi˞binuʃi̥ti˜pu̥su] 【名】尻拭い。「尻拭いする人」の義。ヤ˞ビッふァ˜ヌ　シ˞ビヌシティ˜プス　˜ナリティ　キ˞ムイツァー˜ヌ　ナ˞ラ˜ヌ [ja˞biffa˜nu ʃi˞binuʃi̥ti˜pu̥su ˜nariti ki˞muitsaː˜nu na˞ra˜nu](素行不良の子＜身持ちの悪い子。「破れ子」＞の尻拭いになって、可哀そうで堪らない)。

シ˞ビ　ヌシティ˜ルン [ʃi˞bi nuʃi̥ti˜ruŋ] 【連】1尻を拭う。尻を拭く。˜ユナキーヌ　˞パー˜シ　シ˞ビヌシティ˜ルンティ　˞スンド　スシティラ˜ヌ [˜junakiːnu ˞paː˜ʃi ʃi˞binuʃi̥ti˜runti ˞sundu nuʃi̥tirara˜nu](オオハマボウの葉で尻を拭こうとするが、拭かれない)。シ˞ビヌシティ˜ル　˜クトゥ [ʃi˞binuʃi̥ti˜ru ˜ku̥tu](尻を拭くこと)。2他人の失敗の後始末をつける。シ˞ザ˜ヌ　シ˞グトゥヌ˜　シ˞ビヌシティ˜ルンティ　˞アウ˜リ　˞シー　ベー [ʃi˞ʤa˜nu ʃi˞gutunu˜ ʃi˞binuʃi̥ti˜runti ˞ʔau˜ri ˞ʃiːbeː](兄の仕事の尻拭いをするとて、苦労している)。

シ˞ビ　ヌシ˜トゥン [ʃi˞bi nuʃi̥˜tuŋ] 【連】1尻を拭う。尻を拭く。シ˞ビヌシ˜トゥンティ　˜ユナキヌ　˞パー˜　カ˞カイ˜　シケー [ʃi˞binuʃi˜tunti ˜junakinu ˞paː˜ kḁ˞kai˜ ʃi̥keː](尻を拭こうとユウナの葉を挽いである)。ヤ˞ラビ˜ヌ　シ˞ベー˜　ア˞ライティ˜　ヤー˞ラマ˜シ　˞ヌシ˜ティ [ja˞rabi˜nu ʃi˞beː˜ ʔa˞raiti˜ jaː˞rama˜ʃi ˞nuʃi̥˜ti](子供のお尻は洗ってから柔らかくそっと拭いてやれ＜拭け＞)。2責任をとる。後始末する。˞ドゥー˜ヌ　シ˞ベー˜　ドゥーシル　˞ヌシ˜トゥ [˞duː˜nu ʃi˞beː˜ duːʃiru ˞nuʃi̥˜tu](自分の尻は自分で＜ぞ＞拭う。転じて、己が蒔いた種の後始末は己がする＜自分が責任をとる＞の意味。諺)。

シ˞ビヌ˜　ミー [ʃi˞binu˜ miː] 【連】肛門。「尻の穴」の義。シ˞ビ　コー˜リティ　˜ッソー　シ˞ビヌ˜　ミーナ　カ˞タマリ　ベー [ʃi˞bi koː˜riti ˜ssoː ʃi˞binu˜ miːna kḁ˞tamari beː](便秘して便が肛門にかたまっている)。˞ジー˜　カ˞カ˜ルカー　シ˞ビヌ˜　ミーラ　˞シー˜　パルン [˞ʤiː˜ kḁ˞ka˜ruka: ʃi˞binu˜ miːra ˞ʃiː˜ paruŋ](痔に罹ると肛門から血がでる＜流れる＞)。シ˞ビヌ˜　ミーラ　˞ナイシキョー˜バ　イ˞リティ　ダイチョー˜ヌ　˞キン˜サ　˞ソーッ˜タ [ʃi˞binu˜ miːra ˞naiʃi˜kjoː ʔi˞riti daitʃoː˜nu kin˜sa ˞soːt˜ta](肛門から内視鏡を挿入して大腸の検査をされた)。

シ˞ビネー˜ン [ʃi˞bineː˜ŋ] 【形】弾力性があって噛み切れないさま。ゴムのように弾力性があって噛み切れない状態。烏賊や蛸のように柔らかいが弾力性があって咀嚼しにくい。˜タコー　シ˞ビネー˜ヌ　˞ウイプスン˜マー　カ˞マラ˜ヌ [˜takoː ʃi˞bineː˜nu ˞ʔuipusum˜maː ka˞mara˜nu](蛸は弾力性があって噛み切れないので、年寄りには食べられない＜噛めない＞)。イッ˞ケナ˜　シ˞ビネー˜ンティ　ウ˞ムータン˜ドゥ　˞ナン˜ゾー　シ˞ビネーナー˜ヌ [˜takaː ʃi˞bineː ˜nti ʔu˞muːtan˜du ˞nan˜ʤoː ʃi˞bineːnaː˜nu](蛸は弾力性があって噛み切れないと思ったが、そんなに弾力性があって噛みきれないほどではない)。シ˞ビネー˜　ナルン [ʃi˞bineː˜ naruŋ](弾力性があって噛み切れなくなる)。シ˞ビネー˜　ムヌ [ʃi˞bineː˜ munu](弾力性があって噛み切れないもの)。シ˞ビネー˜カー　カ˞マラ˜ヌ [ʃi˞bineː˜kaː ka˞mara˜nu](弾力性があって噛めないなら食べられない＜噛まれない＞)。

シ˞ビ˜　フ˞ガスン [ʃi˞bi˜ ɸu˞gasuŋ] 【連】穴をあける。経理に穴をあける。˜アイニ　タ˞タッ˜クカー　˞ウーキ˜ヌ　シ˞ビ˜　フ˞ガスン˜ダー [˜ʔaini tḁ˞tak˜ kukaː ˞ʔuːki˜nu ʃi˞bi˜ ɸu˞gasun˜daː](あんなに叩くと桶の底を抜かせる＜底に穴をあける＞よ)。

シ˞ビフギ [ʃi˞biɸugi] 【名】底抜け。底＜尻＞に穴があくこと。経理がきちんとせず、穴をあけること。フ˞ギ [ɸu˞gi] はフ˞ギルン [ɸu˞giruŋ](穴があく。˞Fogue、uru、eta. ホゲ、グル、ゲタ＜穴があく＞『邦訳日葡辞書』」の転訛) の連用形から転成した名詞。シ˞ビフギワザバ˜　カー˞ニ　シー˜　ムッ˞トゥ˜　マイ˞ユーザラヌ [ʃi˞biɸugiwaʤaba˜ kaː˞ni ʃiː˜ mut˞tu˜ mai ˞juːʤaranu](雑な経理の底抜けの仕事だけして、ちっとも前進できない)。

シ˞ビフギバーキ [ʃi˞biɸugibaːki] 【名】底の抜けた竹筴。シ˞ビフギバーキ˜ナーヤ　˜ムノー　タ˞ミララヌ [ʃi˞biɸugibaːki˜naːja ˜munoː ta˞miraranu](底穴の抜けた竹筴にはものはためられない)。˞モーキゾー˜ジ　ヤ˞ルンドゥ˜　ト˞ジヌ˜　シ˞ビフギバーキ˜　ヤ˞ルンダ　ジン˜マー　タ˞ミユーサヌ [˞moːkiʤoː˜ ʤi ja˞rundu˜ tu˞ʤinu˜ ʃi˞biɸugibaːki˜ ja˞runda ʤim˜ maː ta˞maranu](儲け上手であるが、妻が底抜け筴だからお金を貯めることができない)。

シ˞ビ˜　フ˞ギルン [ʃi˞bi˜ ɸu˞giruŋ] 【連】1底が抜ける。尻に穴があく。ヤ˞ナアシゥカイ　スー˜カー　˞ウーキ˜ヌ　シ˞ビ˜　フ˞ギルン˜ティ˞ダー [ja˞naʔasïkai

su:˺ka: ˹ʔu:ki˺nu ʃi˹bi˺ ɸu˹girun˺ti˹da:](手荒な扱いをすると桶の底が抜けてしまうそうだ)。2経理に穴があく。˺アイニ　サ゜カナヤー　ッふァイ　スー˺カー　カ゜ツシンマー˺　シ゜ビ゛　フ゜ギルント ダー [˺ʔaini sa˹kanaja: ffai su:˺ka: kạ˹tsuʃimma:˺ ʃi˹bi˺ ɸu˹girunト da:](あんなに料亭の飲み食いをするとカツオ漁業の経理に穴があくぞ)。

シ゜ビ゛　フ゜グン [ʃi˹bi˺ ɸu˹guŋ] 【連】底が抜ける。尻に穴があく。˹ウーキ˺ヌ　シ゜ビ゛　フ゜ギティ゛　シゥ˹カーラヌ [˹ʔu:ki˺nu ʃi˹bi˺ ɸu˹giti˺ si̥˺ka:ranu](桶の尻が抜けて＜桶の底に穴があいて＞使えない)。

シ゜ビフチ [ʃi˹biɸutʃi] 【名】1前後。後先。「尻口」の義。ブ゜ガリ˺シキティ　˺ユベー　シ゜ビフチ゛　ッ゜サン˺ケン　ニ゜ビターリ　ベー˺タ [bu˹gari˺ʃi̥kiti ˺jube: ʃi˹biɸutʃi˺ s˹saŋ˺ken ni˹bita:ri be:˺ta](疲れきって昨夜は前後不覚になる＜正体を失う＞ほど熟睡して＜眠り戯れて＞いた)。2つじつま (辻褄)。筋道。シ゜ビフチ　アーシ˺ル　˺ムネー　イ゜ズ゛　ヌーヤ　ウ゜レー [ʃi˹biɸu̥tʃi ʔa:ʃi˺ru ˺mune: ʔi˹ʤu˺ nu:ja ʔu˹re:](筋道を立てて＜尻口合わせて。辻褄を合わせて＞＜ぞ＞話す＜ものは言う＞ものだ。何事だね、そのざまは)。

シ゜ビフチ゛　ッ゜サヌ [ʃi˹biɸutʃi˺ s˹sanu] 【連】前後不覚である。正体を失う。前後を弁えない。「尻口知らぬ」の義。˺ビータルンケン　サ゜キ゛　ヌ˺ミティ　シ゜ビフチ゛　ッ゜サヌ [˺bi:taruŋken sạ˹ki˺ numiti ʃi˹biɸutʃi˺ s˹sanu](酔い潰れるほど酒を飲んで前後が分からない＜前後不覚である。全く記憶に残っていない＞)。

シ゜ビブニ [ʃi˹bibuni] 【名】1尾てい骨。「尻骨」の義。ナ゜ブッ˺タリ　ク゜ルビティル゛　シ゜ビブニバ゛　シ゜タ˺タカ　˺ウティティ　ヤ゜マ˺シ　˺シケーティバン [na˹but˺tari ku˹rubitiru˺ ʃi˹bibuniba˺ ʃi̥˹ta˺taka ˺ʔutiti ja˹ma˺ʃi ʃi̥ke:tibaŋ](すべって転んで、尾てい骨をしたたかに打って痛めて＜病まして＞おいてあるそうだわい)。2凧の底骨。ピ゜キダマヌ˺ブーブブネー　シ゜ビブネー˺ラ　˹マイ˺ヤン　˺アリ　ナ゜ガー˺ン　˺アン [pi̥˹kidamanu˺ bu:bubune: ʃi˹bibune:˺ra ˹mai˺jaŋ ˺ʔari na˹ga:˺ŋ ˺ʔaŋ](凧の頭骨＜鳴り骨＞は尻骨より大きくもあり、長くもある)。

シ゜ビマチバーリ [ʃi˹bimatʃiba:ri] 【名】尻追い。後追い。「尻まつわり」の義。マ゜チバーリ [ma˹tʃiba:ri] は、「〜藤浪の思纏＜おもひまつはり＞〜『万葉集　3248』」、「絡. 縛. 累、マツフ『類聚名義抄』」の転訛。ヤ゜ラ˺ビン　シ゜ビマチバーリ˺＜シ゜ビオーリ＞　シ゜ラリティ゛　ノー゜ン゛　シ゜グトー゛　ナ゜ラ˺ヌ [ja˹ra˺biŋ ʃi˹bimatʃiba:ri˺＜ʃi˹bio:ri＞ ʃi˹rariti˺ no:˹ŋ˺ ʃi˹guto:˺ na˹ra˺nu](子供に後追い＜尻まつわり＞されて、何も仕事は出来ない)。

シ゜ビヤカリ˺アミツァ [ʃi˹bijaka˺riʔamitsa] 【名】「尻焼かれヤドカリ」の義。殻の尻を焼かれるとヤドカリは急いで外へ丸裸で這い出すことから、始終借家を繰り返している者を揶揄していう表現。˹ドゥー˺ヌ　˺ヤー　ス゜ク˺ルンテー　サ゜ムティ゛　シ゜ビヤカリ˺アミツァトゥ　ユ゜ヌ˺ムヌ　˹ピーズ˺　ヤー　カ゜リバ゛　シ゜グトゥ　シェー˺ティ　˹アー˺ク [˹du:˺nu ˺ja: sụ˹ku˺runte: sa˹muti˺ ʃi˹bijakari˺ ʔamitsatu ju˹nu˺munu ˹pi:ʤu˺ ja: ka˹riba˺ ʃi˹gutu ʃe: ˺ti ˹ʔa:˺ku](自分の家を造ろうとはせずに、尻焼かれヤドカリと同様、始終家を借りることを仕事にしているよ)。

シ゜ビラ [ʃi˹bira] 【名】(植) 野菜の名。ネギ。ワケギ (分葱)。柔らかく独特の芳香があり、魚の臭みを消す野菜としても利用された。短期日で成長するので、野菜不足の夏場には同じ株から何度も刈り取って調理に利用した。香味料や刺身の妻に利用される。シ゜ビラー゛　スリ　˺キー　˹スー˺ヌ　˹オーンガキ　シー˺バ [ʃi˹bira:˺ suri ˺ki: ˹su:˺nu ˹ʔo:ŋgaki ʃi: ˺ba](ワケギ＜分葱＞を刈り取ってきて、お汁の香味料＜つま。あしらい＞にしなさい)。

シ゜ビラシフチル [ʃi˹biraʃiɸu̥tʃiru] 【名】腫れ物に貼る薬。腫れをひかせる薬。吸出し膏薬。シ゜ビラシフチルバ゛　ア゜シ˺ブナ　パ゜リ゛　スクカー　ピ゜クント ダー [ʃi˹biraʃiɸutʃiruba˺ ʔa˹ʃi˺buna pa˹ri˺sụkuka: pi̥˹kunト da:](吸出し膏薬を出来物に貼っておくと腫れが引くよ)。

シ゜ビラシムヌ [ʃi˹biraʃimunu] 【名】おしゃぶり。乳児にしゃぶらせるもの。パ゜トゥ˺マナテー　ガ゜シタク˺ヌ　˹テイー˺ヌ　˹カー˺バ　˺パギティル　シ゜ビラシムヌ　ソーッ˺タ [pạ˹tu˺manate: ga˹ʃitaku˺nu ˹ti:˺nu ˹ka:˺ba ˺pagitiru ʃi˹biraʃimunu so:t˺ta](鳩間島では、燻製蛸の手の皮を剥いで＜その中身を＞おしゃぶりにされた)。

シ゜ビラスン [ʃi˹birasuŋ] 【他動】しゃぶらせる。シ゜ビルン [ʃi˹biruŋ](しゃぶる) の未然形に使役の助動詞˺スン [˺suŋ](せる) が付いて形成された使役動詞。ガ゜シタク˺ヌ　˺ティー　シ゜ビラスン [ga˹ʃitaku ˺nu ˺ti: ʃi˹birasuŋ](焙乾＜燻製＞した蛸の手をしゃぶらせる)。マ゜ナ˺マー　シ゜ビラサヌ [ma˹na˺ma: ʃi ˹birasanu](今はしゃぶらせない)。イッ゜ケナ゛　シ゜

ビラシ˥　プサン˞ツォー [ʔikˈkena˥ ʃiˈbiraʃi˥ pu̥san˞ tsoː](非常にしゃぶらせたいよ)。シ˞ビラス˥　クトゥ [ʃiˈbirasu˥ ku̥tu](しゃぶらせること)。シ˞ビラシェー˥　ミサムヌ [ʃiˈbiraʃeː˥ misamunu](しゃぶらせたらいいのに)。

シ˞ビルン [ʃiˈbiruŋ] 【自動】1しなびる (萎びる)。しぼむ (萎む)。しおれる。「言繁み～雪爾之乎礼て『万葉集　4282』」の転訛。˞ナーヌパー˥ヤ　˥ティダナー　˥プスカー　シ˞ビルンダ˥　シ˞ビラン˥　ヨーニ　ミ˞ジ˥　カキ　˥シキ [ˈnaːnupaː˥ja ˥tidanaː ˥pu̥sukaː ʃiˈbirunda˥ ʃiˈbiraŋ˥ joːni miˈʤi˥ kaki ˥ʃi̥ki](菜っ葉は日に干したら萎れるから、萎れないように水を遣って < かけて > おけ)。シ˞ビル˥　ムヌ [ʃiˈbiru˥ munu](萎れるもの)。シ˞ビレー˥　ミサムヌ [ʃiˈbireː˥ misamunu](萎れたらよいのに)。˞ウン˥ヌン　˞ダイ˥クニン　˥ティダナ　プ˞サ˥リティ　シ˞ビリ　ナー˥ヌ [ˈʔun˥nun ˞daiˈkunin ˥tidana pu̥ˈsa˥riti ʃiˈbiri naː ˥nu](芋も大根も太陽に干されて萎(シナ)びてしまった)。˥ティダナ　˥プスカー　˥プスイシン　シ˞ビルン˥ティ　シ˞タヌ˥　シ˞ビランバ˥　シ˞ビル　ムノー˥　イ˞ラ˥ビ　˥トゥリ [ˈtidana ˥pu̥sukaː ˥pu̥suiʃiŋ ʃiˈbirun˥ti ʃi̥ˈtanu˥ ʃiˈbiramba˥ ʃiˈbiru munoː˥ ʔiˈra˥bi ˥turi](日に干したら一日でも萎びるといったが萎びないから、萎びるものは選んで取れ)。ムー˞ル˥　シ˞ビリ [muːˈru˥ ʃiˈbiri](全部萎れろ < 萎れれ >)。2おでき (御出来)、腫れ物などの腫れがひく。しぼむ (萎む)。ア˞シ˥ボー　˞パー˥ク　シ˞ビレー˥　ミサムヌ [ʔaˈʃiˈboː ˞paː˥ku ʃiˈbireː˥ misamunu](御出来の腫れは早くひけば＜早く萎びれば＞良いのに)。˞マー˥ビン　シ˞ビリ [ˈmaː˥biŋ ʃiˈbiri](もっと腫れがひけ <萎(シボ)め >)。

シ˞ビルン [ʃiˈbiruŋ] 【自動】しびれる (痺れる)。麻痺する。ピ˞ダリティー˥ヤ　シ˞ビリティ˥　ムヌン　カ˞サミユーサヌ [piˈdariti:˥ja ʃiˈbiriti˥ munuŋ kḁˈsamiju:sanu](左手が痺(シビ)れて物を掴むことが出来ない)。シ˞ビル˥　クトー　˞ナー˥ヌ [ʃiˈbiru˥ kuu̥toː ˞naː ˥nu](痺れることはない)。シ˞ビラヌ [ʃiˈbiranu](痺れない)。˞デン˥キナ　シゥ˞カットゥ˥カー　˞ティー˥ヤ　シ˞ビルンㅏダー [ˈdeŋ˥kina si̥ˈkattu˥kaː ˞tiː˥ja ʃi ˞birunㅏdaː](電気に触れると手は痺れるよ)。

シ˞ビルン [ʃiˈbiruŋ] 【他動】しゃぶる。なめる。ねぶる (舐(ナメ)る)。口の中に入れて嘗める。乳児が口で嘗めながら強く吸う。ヤ˞ラ˥ベー　˞ティー˥ヌ　˥ウビ　シ˞ビルンダ˥　シ˞ビリ　ヤッ˥サ　ム˞ヌ˥バ　ム˞タ˥シティ　˞ティー˥ヌ　˥ウビ　シ˞ビランサン˥ヨーニ　˞シー˥バ [jaˈra˥beː ˞tiː˥nu ˥ʔubi ʃiˈbirunda˥ ʃiˈbirijas˥sa muˈnu˥ba muˈta˥ʃi̥ti ˞tiː˥nu ˥ʔubi ʃiˈbirasaŋ˥joːni ˞ʃiː˥ba](子供は指をしゃぶるから、しゃぶり易いものを持たせて、指をしゃぶらないようにさせなさい)。˥ティー　シ˞ビル˥　ヤ˞ラ˥ビ [˥tiː ʃiˈbiru˥ jaˈra˥bi](手をしゃぶる子供)。˞マー˥ビン　シ˞ビレー˥　ミサムヌ [ˈmaː˥biŋ ʃiˈbireː˥ misamunu](もっとしゃぶれば良いのに)。˥ティー　シ˞ビリ [˥tiː ʃiˈbiri](手をしゃぶれ)。

シ˞ビンダティニビ [ʃiˈbindatinibi] 【名】˞尻立て眠り」の義。幼児が尻を立てて、うつ伏せになって寝ること。シ˞ビンダティニビ˥　シ˞ムンドー˥シ　ウ˞ツァバナカ˥シ　ニ˞バシ˥バ [ʃiˈbindatinibi˥ ʃiˈmundoː˥ʃi ʔuˈtsabanaka˥ʃi niˈbaʃi˥ba](尻を立てて寝かさないで、仰向けにして寝かせなさい)。

シ˞ビンダティビリ [ʃiˈbindatibiri] 【名】しゃがむこと。かがむこと。蹲踞(ソンキョ)。˞尻立て座り」の義。股を開き、膝を折って深く腰を下ろし、尻が地面に着かない程度にしゃがむ座り方。シ˞ビシゥカイビリ [ʃiˈbisi̥kaibiri](片膝を立て、片膝を折って尻を支える座り方) より安定性のある座り方。シ˞ビンダティビリ　シーベー˥タ　˞ベー˥ティ　˞ハイッティ˥タティ　キ˞ラリ˥タン [ʃiˈbindatibiri ʃiːbeː˥ta ˞beː˥ti ˞haitti˥ tḁti kiˈrari˥taŋ](蹲踞(ソンキョ)していたので、さっと立ち上がって来られたよ)。

シ˞ブイツァ [ʃiˈbuʔitsa] 【名】四分板。厚さ四分の板。˞ナーブ˥コー　˞ゴー˥ラー　シ˞ブイツァ˥シル　ス˞クラ˥リ　ブ˞タㅏダー [ˈnaːbu˥koː ˞goː˥raː ʃiˈbuʔitsa˥ ʃiru su̥ˈkura˥ri buˈtaㅏdaː](漁師の縄箱は、多くは四分板で作られていたよ)。

シ˞ブク [ʃiˈbuku] 【名】釣竿。「つりほこ (釣り矛)」の転訛したものか。ク˞サンダキ [ku̥ˈsandaki](ホテイチク) という竹が、釣竿に適していることから、ホテイチクをシ˞ブクダキ [ʃiˈbukudaki](釣り竿竹。ホテイチク) ともいう。西表島北岸の鳩間村の水田地帯に密生していた。ク˞サンダキ˥シ　シ˞ブク˥　ス˞ク˥リティ　ム˞チイズ　ホー˥シン　˥パラ [ku̥ˈsandaki˥ ʃi ʃiˈbuku˥ su̥ˈku˥riti muˈʧiʔiʤu hoː˥ʃim ˥para](ホテイチクで釣竿を作ってノコギリダイを釣りに行こう)。

ジ˞ブ˥ク [ʤiˈbu˥ku] 【名】重箱。ル˞クシンジブ˥ク [ruˈkuʃinʤibu˥ku](六寸角の重箱)、˞ハッシンジブ˥ク [ˈhaʃʃinʤibu˥ku](八寸角の重箱) などがあった。紅白の餅を詰めて神前や仏前、ウ˞サンギソッコー [ʔuˈsaŋgisokkoː](三十三年忌など) に供えたり、煮物や

揚げ物、蒲鉾などを詰めて供えるのに用いた。ム˞チン˞　カ˞マブクン˞　ジ˞ブ˞クナー　˞シミティ　マ˞チ˞バ [mu˞tʃiŋ˞ ka˞mabukun˞ ʤi˞bu˞kuna: ˞ʃimiti ma˞tʃi˞ba](餅もカマボコも重箱に詰めて供え＜祀り＞なさいよ)。

シ˞ブクダキ [ʃi˞bukudaki] 【名】 (植) 釣り竿竹。釣り竿用の竹。杖にも利用される。ホテイチク (布袋竹) のこと。シ˞ブク [ʃi˞buku](釣竿) は「釣り矛」の義『石垣方言辞典』といいう説がある。シ˞ブクダケー　パイタ˞ヌ　˞ター˞ヌ　˞ウイ˞ナー　˞イッ˞パイ　˞ムイ　˞ブタン [ʃi˞bukudake: paita˞nu ˞ta:˞nu ˞ʔui˞na: ˞ʔip˞pai ˞mui ˞butaŋ](ホテイチク＜釣竿竹＞は西表島の田圃の上にたくさん生えていた)。

シ˞ブ˞ター [ʃi˞bu˞ta:] 【名】 (動) 魚の名。和名、ソウダガツオ (体長約 35 センチ)。マグロの幼魚か。カツオ漁船ではあまり重視されなかった。シ˞ブ˞タシェー　カ˞ツブシェー˞　ス˞クララ˞ヌ [ʃi˞bu˞taʃe: kḁ˞tsubuʃe:˞ su̥˞kurara˞nu](シブタ＜ソウダガツオ＞では、鰹節は作られない)。

シ˞ブムン [ʃi˞bumuŋ] 【自動】しぼむ (萎む)。縮まる。開いていたものがつぼむ。「萎、シワム、ナユ、シボム」『類聚名義抄』の転訛したもの。シ˞ビルンとも言う。フ˞チ˞ル　˞ヌーリ˞　スクカー　ア˞シ˞ボー　シ˞ブムン [ɸu̥˞tʃi˞ru ˞nu:ri˞ su̥kuka: ʔa˞ʃi˞bo: ʃi˞bumuŋ](薬を塗っておくとおでき＜御出来＞は萎む)。˞ピッ˞チン　シ˞ブマヌ [˞pit˞tʃiŋ ʃi˞bumanu](ちっとも萎まない)。キ˞サーティ˞　シ˞ブメー˞ン [ki̥˞sa:ti˞ ʃi˞bume:˞ŋ](すでに萎んだ)。ア˞シ˞ボー　シ˞ブミ　ナー˞ヌ [ʔa˞ʃi˞bo: ʃi˞bumi na:˞nu](御出来は萎んでしまった)。シ˞ブム˞　クトー　˞ナー˞ヌ [ʃi˞bumu˞ ku̥to: ˞na:˞nu](萎むことはない)。シ˞ブメー˞　ミサムヌ [ʃi˞bume:˞ misamunu](萎めば良いのに)。シ˞ブミ [ʃi˞bumi](萎め)。

シ˞ブル [ʃi˞buru] 【名】 (植) 冬瓜。「しぶい　冬瓜のこと。『しろぶり』(白瓜) の転訛」『琉球古語辞典　混効験集の研究』とある。「ふり＜瓜＞を乞はば器物＜うつはもの＞をまうけよ〜」『大鏡』とある。従って「しろ・ふり」が、[ʃiro・ɸuri]　→　[ʃiruwui]　→　[ʃʃibui]　→　[ʃibui](首里方言) と音韻変化する過程 (ハ行転呼音の b 音化) で、鳩間方言は、[ʃiru・ɸuri]　→　[ʃiruwuri̇]　→　[ssuburi̇:]　＜逆行同化＞　→　[sïburi̇]　→　[ʃiburu]　＜中舌母音の弱化による＞(鳩間方言) の変化過程を経たものであろう。シ˞ブルパタキ [si˞burupataki](冬瓜畑) は、畑を耕した後、植えつける所を約 50 センチ間隔に穴を掘り、シ˞キゴイ [ʃi̥˞kigoi](堆肥) を入れて土を被せ、その上に苗を˞ヤトゥーン [˞jatu:ŋ](移植) した。果実は収穫して˞トー˞ラ [˞to:˞ra](炊事小屋) や、母屋のユ˞クンツァ˞メー [ju˞kuntsa˞me:](床下) に敷き藁を敷き、その上に置いて保管した。シ˞ブルヌ　カー˞ヤ　˞パギティ　˞バタン　˞トゥリティ　イ˞ズトゥ˞　ン˞ブ˞シバ [ʃi˞burunu ka:˞ja ˞pagiti ˞batan ˞turiti ʔi˞ʤutu˞ ʔm˞bu˞ʃiba](冬瓜の皮を剥いで、なかご＜中子＞も取り去って魚と一緒に蒸し煮しなさい)。

ジ˞ブン [ʤi˞buŋ] 【名】時分。とき。時刻。ほどよい時刻＜潮時＞。好機。頃。˞エン˞ヌ　マ˞ナ˞マ　˞ジブンマー　˞マーッふァン　ダ˞カリン˞ギサン [˞jen˞nu ma ˞na˞ma ˞ʤibumma: ˞ma:ffan da˞kariŋ˞gisaŋ](来年の今頃は孫も抱かれそうだ)。˞メー　ジ˞ブン˞　ナ˞リ˞ブバ　イ˞ソースコール　シー˞　イ˞ソー˞　パラ [˞me: ʤi˞bun˞ na˞ri˞buba ʔi˞so:su̥ko:ru ʃi:˞ ʔi˞so:˞para](もう、ちょうどいい時刻＜潮時＞だから潮干狩りの準備をして潮干狩りをしに行こう)。˞ドゥー　ム˞ティ˞ジブン　ナ˞リ˞ブバ　˞パー˞ク　パ˞ラ˞シ [˞du: mu˞ti˞ʤibun na˞ri˞buba ˞pa:˞ku pa˞ra˞ʃi](結婚適齢期＜嫁ぐ時期＞になっているから、早く嫁がせ＜行かせ＞)。

シ˞ベー　ウイ˞　ナルン [ʃi˞be: ʔui˞ naruŋ] 【連】物事の序列が逆になる。物ごとが逆さまになる。「尻の方が上になる」の義。ッ˞ふァバ˞　カ˞ミ˞ザーナ　ビ˞サス˞カー　シ˞ベー　ウイ˞ナリティ　˞ダーッ˞サー　˞ナー˞ヌ [f˞faba˞ ka˞miʤa:na bi˞sasu˞ka: ʃi˞be: ʔui˞ nariti ˞da:s˞sa: ˞na:˞nu](子供を親よりも上座に座らせると序列が逆転して宜しくない)。

シ˞ベー　ウイ˞ナルン [ʃi˞be: ʔui˞naruŋ] 【連】逆になる。逆さまになる。本末転倒する。「尻が上になる」の義。˞ワー˞　パ˞ナ˞シェー　シ˞ベ　ウイ˞　ナ˞リ˞ル　˞ブーユンダ˞　ッ˞ソーラ˞ヌ　ギャン˞ティ˞　ミ˞チェー˞　フ˞マシ˞　アジ　ッ˞サリリ [˞wa:˞ pa ˞na˞ʃe: ʃi˞be: ʔui˞ na˞ri˞ru ˞bu:junda˞ s˞so:ra˞nu gjan ˞ti˞ mi˞tʃe:˞ ɸu˞maʃi˞ ʔaʤi s˞sariri](君の話は逆になっているから、ご理解いただけ＜お分かりになれ＞ない。きっちりと筋道をたてて＜道理を踏まえて＞申し上げなさい)。

シ˞ベー　ナー˞ヌ [ʃi˞be: na:˞nu] 【連】後始末がない。後片付けがない。事後処理がない。「尻がない」の義。シ˞ベー　ナーン˞　プス　ヤ˞ルンダ　ピッ˞チン　カ˞タジキラ˞ヌ [ʃi˞be: na:m˞ pu̥˞su˞ ja˞runda pit ˞tʃiŋ ka˞taʤikira˞nu](後始末をしない人だから、ち

っとも後片付けをしない)。「尻がない」の義。ウ˞レー˥　シ˞ベー　ナーン˥プス　ヤ˞ルムヌ˥　ア˞トゥ˥ヌ　シ˞マチェー　タール˥　シ˞キル˥ワ [ʔu˞reː˥ ʃi˞beː naːm˥pu̥su ja˞rumunu˥ ʔa˞tu˥nu ʃi˞matʃeː taːru˥ ʃi̥˞kiru˥wa](その人は後始末のない人だのに、事後処理は誰がするのか)。

シ˞ベー˥　ナスン [ʃi˞beː˥ nasuŋ] 【連】後回しにする。「尻になす」の義。タ˞ナマ˥リカー　プ˞スヌ˥　シ˞グトゥ˥　サ˞キ˥　ナシティ　˞ドゥー˥ヌ　シ˞グトー˥　シ˞ベー˥<˥アトゥ>　ナスン [ta˞nama˥rikaː pu̥˞sunu˥ ʃi˞gutu˥ sḁ˞ki˥ naʃi̥ti ˞duː˥nu ʃi˞gutoː˥ ʃi˞beː˥<˥ʔatu> nasuŋ](頼まれたら他人の仕事を先にして、自分の仕事は後回しにする)。

シ˞ベー˥　パウン [ʃi˞beː˥ pauŋ] 【連】失敗する。後退する。後退(ズサリ)りする。「後へ這う」の転訛したもの。シ˞ベー [ʃi˞beː](後へ) の義。「父母が殿の志利敝乃〜。万、4326」の転訛したもの。˞シーミラ˥ン　シ˞グトゥ　スー˥カー　シ˞ベー˥　パウンティル　ア˞ザリ　ブー [˞ʃiːmira˥ŋ ʃi˞gutu suː˥kaː ʃi˞beː˥ pauntiru ʔa˞ʤari buː](未経験の<したこと無い>仕事をすると失敗すると<尻へ這(ハ)う>言われている)。

シ˞ベー　ピー˥チ [ʃi˞beː piː˥ʧi] 【連】尻は一つ。同じ穴のむじな (狢)。二人は繋がっている。多くは良くない事に関していう。˞ウッ˥ツァー　シ˞ベー　ピー˥チ　ナ˞リ˥ブンダ　˥ムネー　イ˞ザンモー˥　マ˞シ˥ダー [˞ʔut˥tsa: ʃi˞beː piː˥ʧi na˞ri˥bunda ˥muneː ʔi˞ʤammoː˥ ma˞ʃi˥daː](彼らは尻は一つ<同じ穴の狢>だから、ものは言わない方が良いよ)。

シ˞ベー˥　フ˞ジ˥ルン [ʃi˞beː˥ ɸu˞ʤi˥ruŋ] 【連】後ろへ退く。しそこなうこと。しくじって退却する。失敗して後退する。˥アイブ　˥クトゥ　˞スー˥カー　˞カイ˥テー　シ˞ベール˥　フ˞ジ˥ル [˥ʔaibu ˥ku̥tu ˞suː˥ka: ˞kai˥teː ʃi˞beːru˥ ɸu˞ʤi˥ru](あんなことをすると、逆に<却って>失敗して敗退することになる)。シ˞ベー˥　フ˞ジ˥ルン˞ダー [ʃi˞beː˥ ɸu˞ʤi˥run˞daː](しくじって退却するぞ)。

シ˞ベー˥　ヤリウテーン [ʃi˞beː˥ jariʔuteːŋ] 【連】尻は破れ落ちた。勢いよく屁が破裂放出する時に用いる表現。大きく破裂放出する屁は臭気を伴わないが、爆笑を誘う。この種の屁は男性に多い。女性の屁は無音で臭気を伴うことがあるので、子供たちがその責任を負わされて笑いを誘った。アガイ˞ヤー　ワー˥　シ˞ベー˥　ヤリウテーン˞ナー [ʔagai˞jaː waː˥ ʃi˞beː˥ jariʔuteːn˞naː](まあ大変! 君のお尻は破れ落ちたねえ)。

˥シホーハッポー [˥ʃihoːhappoː] 【名】四方八方。周囲。標準語からの借用語。普通は、˞マール [˞maːru](回り。周囲) という。˞ピンギ˥ウシェー　˥シホーハッポーラ　˞ウイマーシティ˥　マ˞キヌ˥　ナ˞カーペーラシ˥タ [˞piŋgi˥ʔuʃeː ˥ʃihoːhappoːra ˞ʔuimaːʃeː˥ti ma˞kinu˥ na˞kaː peːraʃi˥ta](逃げた牛は四方八方から追い回して牧場の中へ入れた)。

シ˞ボー˥ン [ʃi˞boː˥ŋ] 【形】渋い。(若年層のことば)。未熟な果実を食べた時に舌を刺激するような味がする。老年層は、ス˞ボー˥ン [su˞boː˥ŋ](渋い) という。ナ˞マバン˥スロー　フ˞チ˥　シ˞ボー˥ン [na˞maban˥ suroː ɸu̥˞ʧi˥ ʃi˞boː˥ŋ](未熟な蕃石榴<生の蕃石榴>は渋い)。

˥シマ [˥ʃima] 【名】1島。「をちこちの嶋者雖多<島は多けど>〜『万葉集　220』」の義。パ˞トゥマ˥ヌ　˥シマー　˞カンダカー˥ル　˥シマ [pḁ˞tuma˥nu ˥ʃimaː ˞kandakaː˥ru ˥ʃima](鳩間の島は霊験あらたかな島だ)。˞ベー˥　シマー　˞カンヌ˥　シマ [˞beː˥ ʃimaː ˞kannu˥ ʃima](我々<聞き手を含む>の島は神の島だ)。2村。郷里。部落。˥シマムニ　˞バシキル˥カー　˥シマ　˞バシキルン˥　シマ　˞バシキル˥カー　˥ウヤ　˞バシキルン [˥ʃimamuni ˞baʃi̥kiru˥kaː ˥ʃima ˞baʃi̥kiruŋ˥ ʃima ˞baʃi̥kiru˥kaː ˥ʔuja ˞baʃi̥kiruŋ](方言<島言葉>を忘れたら郷里<島>を忘れる。郷里<島>を忘れたら親を忘れる)。˞アンヌ˥　シマ [˞ʔannu˥ ʃima](東の島)。˞インヌ˥　シマ [˞ʔinnu˥ ʃima](西の島)。˞ウイヌ˥　シマ [˞ʔuinu˥ ʃima](上の島。石垣島より上の沖縄島。日本本土)。プ˞スシマ [pu̥˞suʃima](他島<他人の島>)。ユ˞スジマ [ju˞suʤima](他島<余所の島>)。タ˞シマ [tḁ˞ʃima](他の島)。

˥シマ [˥ʃima] 【名】相撲。「角抵　今之相撲也。須末比<すまひ>『和名抄』」の義。[sumaɸi] → [sumawi] → [sumaji] → [ʃimaː] → [ʃima] の音韻変化を経たものであろう。二人が組み合って戦う沖縄相撲のこと。フ˞タール˥シ　˥シマ　˥トゥリ　˥ミラ [ɸu̥˞taːru˥ʃi ˥ʃima ˥turi ˥mira](二人で相撲を取ってみよう)。2翻弄されること。格闘すること。煩わされること。相手にすること。˥プスイ　˞ピーズ˥　ヤ˞ラビ˥トゥ　シ˞マ˥バ　˥トゥリ　˞ベー˥タ [˥pu̥sui ˞piːʤu˥ ja˞rabi˥tu ʃi˞ma˥ba ˥turi ˞beː˥ta](一日中、子供と相撲を取っていた<子供を相手に格闘していた。子守で苦労させられた>)。

˥シマ [˥ʃima] 【名】織物の模様。縞模様。ウ˞レー

キン˥ヌ　シ˩マ˥ヌ＜ア˩ヤ˥ヌ＞　˩マイ˥ヤンダ　バ˩カー˥ムヌヌ　˥キン [ʔu˩reː kin˥nu ʃi˩ma˥nu＜ʔa˩ja˥nu＞ ˩mai˥janda ba˩kaː˥munuɴu ˥kiŋ](それは着物の縞模様が大きいから若者の着物だ)。

˥シマー [˥ʃimaː]【名】横。˥ナイ [˥nai](縦) の対義語。シ˩マー˥ニ　ナ˩ラビ [ʃi˩maː˥ni na˩rabi](横に並べ)。˥ナイニン　シ˩マー˥ニン　キ˩サ˥リ　˩ベー [˥nainiŋ ʃi˩maː˥niŋ ki̥˩sa˥ri ˩beː](縦にも横にも切られている)。

シ˩マー˥マ [ʃi˩maː˥ma]【名】小島。パ˩トゥ˥マレー　シ˩マー˥マ　ヤ˩ルヌ˥　フ˩ノーラ˥ヌ　ニ˩シカジヌ˥　カ˩タ˥カ　˩シー　ブー [pḁ˩tu˥mareː ʃi˩maː˥ma ja˩runu˥ ɸu˩noːra˥nu ni˩ʃikaʤinu˥ kḁ˩ta˥ka ˩ʃiː buː](鳩離島は小島だが船浦港の北風からの保護を＜自然防波堤の役割を＞している)。

シ˩マイ [ʃi˩mai]【名】終わり。仕舞い。終わること。˩キュー˥ヌ　シ˩グトー˥　ウビシ　シ˩マイ [˩kjuː˥nu ʃi˩gutoː˥ ʔubiʃi ʃi˩mai](今日の仕事はこれで終わり)。

シ˩マイ˥カ [ʃi˩mai˥ka]【名】すみか (住処)。「住まひ・か＜処＞」の義。「天離る鄙に伊都等世　周麻比都々～『万葉集　880』」の転訛したものか。ク˩ヌ˥　トゥシ˥ナリティ　ヤッ˩トゥ˥シ　˩ドゥー˥ヌ　シ˩マイ˥カティ　˩スー　ムヌン˥　ア˩ラサ˥レーン [ku˩nu˥ tuʃi ˥nariti jat˩tu˥ʃi ˩duː˥nu ʃi˩mai˥kati ˩suː munuŋ˥ ʔa˩rasa˥reːŋ](この年になって、やっとで自分家屋＜住み処＞を持てた＜有らされた＞)。

シ˩マイルン [ʃi˩mairuŋ]【他動】しまう (仕舞う)。終了させる。済ませる。片付ける。˥キューズーナ　シ˩グトー˥　シ˩マイルンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　シ˩マイララヌ [˥kjuːʤuːna ʃi˩gutoː˥ ʃi˩mairunti˥ ʔu˩muːn˥du ʃi˩mairaranu](今日中に仕事を終了させようと思うが終了させられない)。シ˩マイル˥　クトゥ [ʃi˩mairu˥ kuu̥tu](終了させること)。˥キューズーナ　シ˩マイヤー˥　ミサムヌ [˥kjuːʤuːna ʃi˩maijaː˥ misamunu](今日中に終えればいいのに)。ヤー˩ディン˥　キューズーナ　シ˩マイリ [jaː˩diŋ˥ kjuːʤuːna ʃi˩mairi](必ず今日中に終えなさい)。

シ˩マ˥ウタ [ʃi˩ma˥ʔuta]【名】沖縄で古くから歌われたきた歌謡。民謡。古典民謡。「島歌」の義。チ˩カ˥グロー　テ˩レ˥ビラーン　シ˩マ˥ウター　˥ユーシゥ˩カリン [tʃi̥˩ka˥guroː te˩re˥biraŋ ʃi˩ma˥ʔutaː ˥juː si̥˩kariŋ](近頃は、テレビからも民謡＜島歌＞はよく聞かれる)。

シ˩マ˥ウチ [ʃi˩ma˥ʔutʃi]【名】島の中。島内。ウ˩ヌ˥　パ˩ナ˥シェー　シ˩マ˥ウチェーラ　˥フカー　ン˩ザス˥ナ˩ヨー [ʔu˩nu˥ pa˩na˥ʃeː ʃi˩maʔu˥ʧeːra ˥ɸu̥ka: ʔn˩ʤasu˥na˩joː](その話は島内から外へは洩らすな＜出すな＞よ)。

シ˩マウン [ʃi˩mauŋ]【他動】終わる。し終える。済ませる。片付ける。シ˩グトー˥　マ˩ダ˥　シ˩マーヌ [ʃi˩gutoː˥ ma˩da˥ ʃi˩maːnu](仕事はまだ終わらない)。シ˩マイヤン [ʃi˩maijaŋ](終わった)。シ˩マイ˥　プサン [ʃi˩mai˥ pusaŋ](終わりたい)。˥キューズーナ　シ˩マウン [˥kjuːʤuːna ʃi˩mauŋ](今日中に終わる)。シ˩マウ˥　クトゥ [ʃi˩mau˥ kutu](終わること)。シ˩マイヤー˥　ミサムヌ [ʃi˩maijaː˥ misamunu](終わればよいのに)。シ˩マイ˥バ [ʃi˩mai˥ba](終われよ)。

シ˩マガカ˥リ [ʃi˩magaka˥ri]【名】船が島に寄港すること。繋船すること。「島掛り」の義。˩オーシキヌ˥　ヤビティ　ク˩モーマ˥ナー　シ˩マガカ˥レー　˩シール˥　イ˩サナケー　パッ˥タ [˥ʔoːʃi̥kinu˥ jabiti ku˩moːma˥naː ʃi˩magaka˥reː ˩ʃiːru˥ ʔi˩sanakeː pat˥ta](天気が崩れて、小浜島に寄港して時化を避けながら石垣島へ行った)。

˥シマクトゥバ [˥ʃimakutuba]【名】方言。「島言葉」の転訛したもの。新しく沖縄方言から借用されたものか。普通は、˥シマムニ [˥ʃimamuni](島言葉。「島物言い」の転訛) という。˥シマムニバ　ク˩ヌ˥グロー　˥シマクトゥバティン　ア˩ズン˥ダ˩ナー [˥ʃimamuniba ku˩nu˥guroː ˥ʃimakutubatiŋ ʔa˩ʤun˥da˩naː](シマムニ＜方言。島のことば。島物言い＞をこの頃ではシマクトゥバ＜島言葉＞とも言うよねえ)。

˥シマサニ [˥ʃimasani]【名】島内に産する穀類の種子。˥サニマイヤー　˥シマサネーラン　イ˩サナキマイヌ˥　サ˩ニ˥ル　˩マイシジェー　ゴー˥ラータ [˥sanimaijaː ˥ʃimasaneːraŋ ʔi˩sanakaimainu˥ sa˩ni˥ru ˩maiʃiʤeː goː˥raːtaː](種籾は、島産の種子よりも石垣産の米の種子の方が＜ぞ＞米粒は多かった)。

˥シマジマ [˥ʃimaʤima]【名】島々。村々。いろいろな島。˥シマジマヌ　˥ムネー　ムー˩ル　カウリブリティ˥　シマジマヌ　˥ムニシェー　パ˩ナシアー˥シ　ナ˩ラン˥ユンダ　イ˩サナキムニ˥シル　パ˩ナシアー˥シェー　˩ソーッ˥タ [˥ʃimaʤimanu ˥muneː muː ˩ru kauriburiti˥ ʃimaʤimanu ˥muniʃeː pa˩naʃiʔaː˥ʃi na˩raŋ˥junda ʔi˩sanakimuni˥ʃiru pa˩naʃiʔaː˥ʃeː ˩soːt˥ta](島々の言葉は全部違っていて、島々の言葉では話し合いは出来ないから、石垣言葉で＜ぞ＞話し合いはなされた)。˥シマジマヌ　˥ナライ [˥

ʃimaʤimanu ˥narai](島々の習慣)。˩ヤイマヌ˥　シマジマヌ　˥シマムネー　タ˩シマヌ˥　プ˩ソー˥　ス˩クタンティン˥　ワ˩カラ˥ヌ＜ッ˩サヌ＞[˩jaimanu ˥ʃimaʤimanu ˥ʃimamuneː tạ˩ʃimanu˥ pụ˩soː˥ sụ˩kutantiŋ˥ wa˩kara˥nu＜s˩sanu＞](八重山の島々の方言＜島言葉。島物言い＞は、他島の人は聞いても分らない)。

˥シマジュー **[˥ʃimaʤuː]**　【名】島中。島全体。村中。若年層の言葉。˥シマズー [˥ʃimaʤuː] ともいう。˩プー˥ル　キ˩チゴンマー˥　シマズーヌ　プ˩ス˥シル　˩ソー˥ル [˩puː˥ru kị˩ʧigommaː˥ ʃimaʤuːnu pụ˩su˥ ʃiru ˩soː˥ru](豊年祭や結願祭は島中の人で執り行われる＜される＞)。˥シマズーナー　イッ˩チン˥　ッ˩スミ˥ダー　プ˩ソー　ター˥ヤ [˥ʃimaʤuːna ʔit˩ʧin s˩sumi˥daː pụ˩soː taː˥ja](島中で一番よく潜れる＜潜ることの出来る＞人は誰か)。

˥シマズー **[˥ʃimaʤuː]**　【名】島中。村全体。若年層はジ˥マジュー [˥ʃimaʤuː](島中) という。˥シマズーナ　イッ˩チン˥　ア˩バ˥レー　ミ˩ドゥ˥モー　˩ター˥ヤ [˥ʃimaʤuːna ʔit˩ʧiŋ˥ ʔa˩ba˥reː mi˩du˥moː ˩taː˥ja](島中で一番美しい女は誰か)。

シ˩マ˥スン **[ʃi˩ma˥suŋ]**　【他動】¹澄ます。濁りを除去し透き通った状態にする。「濁水をシ亭＜す＞まし清浄にあらしめつる時」『金光明最勝王経＜平安初期点＞』、「Mizzuuo sumasu(水を澄ます)『邦訳日葡辞書』」の転訛したもの。˩カーヌミジ˥　シ˩マ˥スンティ　˥シケーンドゥ　シ˩マサラ˥ヌ [˩kaːnumiʤi˥ ʃi˩ma˥sunti ˥ʃị̥keːndu ʃi˩masara˥nu](井戸水を澄ませようと置いてあるが、澄まされない)。ヤ˩ナンゴーリ˥ミジェー　シ˩マシ˥テーラル　˥ヌム˩ダー [ja˩naŋgoːri˥ miʤeː ʃi˩ma˥ʃị̥teːraru ˥numu˩daː](濁った水は澄ましてから＜ぞ＞飲むのだぞ)。²注意を集中する。「Qiqisumasu」(聞きすます)『邦訳日葡辞書』。˩ミン˥バ　シ˩マ˥シ＜トゥ˩ルッ˥サイ＞　˥ユー　シ˩キ [˩mim˥ba ʃi˩ma˥ʃi＜tu˩rus˥sai＞ ˥juː ʃị̥˩ki](耳を澄ましてよく聞け)。³洗う。「Camiuo sumasu(髪を洗ます。頭髪を洗う)」『邦訳日葡辞書』。ヤ˩ラ˥ベー　ウ˩ム˥ティ　シ˩マ˥シテーラル　˩イー˥ヤ　ッ˩ふァース [ja˩ra˥beː ʔu˩mu˥ti ʃi˩ma˥ʃiteːraru ˩ʔiː˥ja f˩faːsu](子供は洗面させて＜面を澄ませて、洗って＞から＜ぞ＞飯は食べさせる＜食わせる＞)。シ˩マサ˥ヌ [ʃi˩masa˥nu](澄まさない)。シ˩マ˥ス　クトゥ [ʃi˩ma˥su ˥kutu](澄ませること)。シ˩マ˥シェー　˥ミサムヌ [ʃi˩ma˥ʃeː ˥misamunu](澄ませばよいのに)。

シ˩マ˥スン **[ʃi˩ma˥suŋ]**　【他動】済ます。済ませる。終わりにする。˥キューズーナ　˩ユー˥ズ　シ˩マ˥スンティ　シ˩タンドゥ˥　シ˩マサラン˥バ　ア˩ツァバー˥キナ　シ˩マ˥シティ　˥パラ [˥kjuːʤuːna ˩juː˥ʤu ʃi˩ma˥sunti ʃị̥˩tandu˥ ʃi˩masaram˥ba ʔa˩tsaba˥kina ʃi˩ma˥ʃị̥ti ˥para](今日中に用事を済まそうとしたが、済まされないので、明日までに済まして帰ろう＜行こう＞)。

シ˩マダイ˥クニ **[ʃi˩madai˥kuni]**　【名】大根。「島大根」の義。品種改良していない伝統的な大根。シ˩マダイ˥クネー　ン˩メーマ˥　カ˩ラー˥ユンダ　ヤ˩マトゥダイクニ˥ヌ　˥カタチニ　ン˩マーナー˥ヌ [ʃi˩madai˥kuneː ʔm˩meːma˥ ka˩raː˥junda ja˩matudaikuni˥nu ˥kạtatʃini ʔm˩maːna˥nu](島大根は少し辛いから大和大根のようには美味しくない)。

シ˩マチ **[ʃi˩matʃi]**　【名】始末。処理をすること。整理すること。˩ドゥー˥ヌ　˩シェー˥ル　˥ワザー　˥ドゥーシ　シ˩マチ˥　シ˩キ˥リ [˩duː˥nu ˩ʃeː˥ru ˥waʤaː ˥duːʃi ʃi˩matʃi˥ ʃị̥˩ki˥ri](自分がしでかした事は自分で始末しろ)。

シ˩マチ **[ʃi˩matʃi]**　【名】後片付け。整理をすること。決着をつけること。「始末」の義。カ˩マチヌ　ピー˥ヌ　シ˩マチェー　シーティル˥　ニ˩ブト ダー [ka˩matʃinu piː˥nu ʃi˩matʃeː ʃiːtiru˥ ni˩buㅏda:](竈の火の後片付けをしてから寝るんだよ)。˩ドゥー˥ヌ　˩シェー˥ル　˥ワザー　˥ドゥーシ　シ˩マチェー˥　シキティ　˥パリ [˩duː˥nu ˩ʃeː˥ru ˥waʤaː ˥duːʃi ʃi˩matʃeː˥ ʃị̥kiti ˥pari](自分のしでかした問題は自分で処理をして＜始末をつけて＞から行け)。

シ˩マチ˥　シ˩キ˥ルン **[ʃi˩matʃi˥ ʃị̥˩ki˥ruŋ]**　【連】後始末をつける。整理をする。˩ドゥー˥ヌ　フ˩チェーラ˥　ンジェール　˥クトゥ　ヤ˩リバ˥　ドゥーシ　シ˩マチェー˥　シ˩キラン˥カー　ナ˩ラ˥ヌ [˩duː˥nu ɸụ˩ʧeːra˥ ʔuʤeːru ˥kutu ja˩riba˥ duːʃi ʃi˩matʃeː˥ ʃị̥˩kiraŋ˥ka: na˩ra˥nu](自分の口から出たことだから、自分で後始末をつけなければならぬ)。

シ˩マッサ˥ル **[ʃi˩massa˥ru]**　【名】悪疫祓いの神事。「島クサラシ」の義。旧暦 11 月に流行病の悪疫祓いの祈願が 2 日間に亘り執り行われる。初日の午後から˥イソーパーレー [˥ʔisoːpareː](「一掃祓え」の義か)の行事を行う。西村、東ムラの各ム˩ラヤクサ [mu˩rajakusa]＜村役人＞が銅鑼(ドラ)を打ち鳴らし、甕(カメ)の破片を打ち鳴らした子供達を引き連れて、先ずは東西の各村井戸を祓え、次に村の全戸の屋敷内を回って、イソー　˩パーレパーレ [˥ʔiso: ˩paːrepaːre](一掃払え祓え) と唱えながら祓いきよめ、島の南海岸ま

で悪疫の神を追い祓って甕の破片を海に投げ捨てる。その夜も昼間と同様、村役人と子供達で˞ユートーパー˞レー [˞juːtoːpaː˞reː](夜の祓え) を行う。その際、子供達は˞ユートーパー˞レー ˞ミー˞ソー ッ˞ふァー [˞juːtoːpaː˞reː ˞miː˞soː fˢfaː](夜の祓え、味噌を食べよう) といって、家々から米味噌の施しを受けることもあった。2 日目は、サ˞カサ [sḁ˞kasa](司。神女)、ティ˞ジリ˞ビ [ti˞ʤiri˞bi](男性神職者) が˞ウイヌ˞ウガン [˞ʔuinu˞ʔugaŋ](友利御嶽) で祈願をする。その間、ムラヤクサ達 (現在は公民館の役員) がシ˞ビナージナ [ʃi˞binaːʤina](注連縄。左に綯った綱) を作り、豚や鶏の血を付けて、海岸に通ずる集落の総ての縦道の入り口を跨(マタ)いで掛けておく。注連縄には大蒜、塩、鶏の足を吊るしておく。御嶽の祈願が済んで神女たちが下りて来る頃、村役人達が˞ミー˞シキパナシキヌ ˞カン ク˞ヌ˞ シマー ˞ペー˞リ ッ˞ふォーンナ [˞miː˞ʃi̥kipanaʃi̥kinu ˞kam ku˞nu˞ ʃimaː ˞peː˞ri fˢfoːnna](目付き鼻付き < 風邪 > の神はこの島へ入って下さるな) と唱えて祈願する。

シ˞マトゥリ˞プス [ʃi˞maturi˞pu̥su] 【名】相撲取り。相撲の強い人。イコー˞ラ スー˞ワンティ ア˞ザバン˞ カ˞リヌ˞ スコー ˞スー˞ワル シ˞マトゥリ˞プソー ブ˞ラーヌ [ʔiko:˞ra suː˞wanti ʔa˞ʤabaŋ˞ ka˞rinu˞ su̥koː ˞suː˞waru ʃi˞maturi˞pu̥soː bu˞raːnu](いくら強いといっても彼ぐらい強い相撲取りはいない)。

˞シマ ˞トゥルン [˞ʃima ˞turuŋ] 【連】島に着く。島にたどり着く。目的を完遂する。「島を取る」の義。/パラダカフニヤ シマトゥラヌ キムダカ ミドゥムヤ ヤームタヌ ドゥクヌ キムダカサヤ パイニル クルビョール デンサー/(帆柱の高い船は島にたどり着けない。驕り高ぶる女は家庭を持つことができない。あまりにも理想の高い女は灰に転んでしまう < 離縁される >。< デンサ節 >)『八重山民謡誌』。イ˞ガメーフニヌ ソーナンシティ˞ シ˞マー˞トゥレー ˞フネー シ˞ントゥ˞ サンズー ˞ヤッタ [ʔi˞gameːɸuninu soːnaŋ˞ ʃi̥˞tiiti˞ ʃi˞maː˞tureː ɸuneː ʃin˞tu˞ sanʤuː ˞jatta](烏賊釣り漁の舟が遭難して島にたどり着いた舟が、たった三艘だった)。

˞シマ ˞トゥルン [˞ʃima ˞turuŋ] 【連】相撲をとる。˞シマ ˞トゥルンティ ˞アー˞キ ˞ドゥー ヤ˞マ˞シ ˞シケーバン [˞ʃima ˞turunti ˞ʔaː˞ki ˞duː ja˞ma˞ʃi ˞ʃi̥keːbaŋ](相撲をとろうとして体を痛めて < 病まして > あるわい)。

シ˞マトドゥ˞ミ [ʃi˞matudu˞mi] 【名】島のある限り。シ˞マトゥトゥ˞ミ [ʃi˞matutu˞mi](島のある限り) ともいう。シ˞マトゥドゥ˞ミ ˞パン˞ジョー ア˞ラ˞シミ タ˞ボー˞リ [ʃi˞matudu˞mi ˞pan˞ʤoː ʔa˞ra˞ʃimi ta˞boː˞ri](島のある限り子孫繁昌あらしめください)。

シ˞マ˞ナー [ʃi˞ma˞naː] 【名】 (植) カラシナ。アブラナ。「地元産の菜」の義。「在来種の菜っ葉」の意であろう。カラシナの一種。葉は楕円形をなし、大きい。葉面に葉脈がいくつも盛り上がって皺状を形成している。辛味があって、子供にはこのまれなかった。イ˞ズヌ˞ スーナー シ˞マ˞ナー イ˞リティ˞ スー バ˞カシ˞バ [ʔi˞ʤunu˞ suːnaː ʃi˞ma˞naː ʔi˞riti˞ suː ba˞kaʃi˞ba](魚の汁にカラシナを入れてお汁を炊きなさい)。島野菜。島産品の葉野菜。シ˞マナー˞ヤ サ˞カリティ˞ イッ˞ケン˞ ン˞マー˞ン [ʃi˞manaː˞ja sḁ˞kriti˞ ʔik˞kem˞ ʔm˞maː˞ŋ](島野菜は生い茂っていて、非常に美味しい)。

シ˞マナカ [ʃi˞manaka] 【名】(地)「島中」と表記されている。桟橋道路を真北に進んで島の中央部に当たる一帯の地名。シ˞マナカ˞ナー ˞バン˞テヌ パ˞タ˞キン ア˞ラブシケヌ˞ パ˞タ˞キン ˞アッ˞タン [ʃi˞mana˞kanaː ˞ban˞tenu pḁ˞ta˞kiŋ ʔa˞rabuʃi̥kenu˞ pḁ˞ta˞kiŋ ˞ʔat˞taŋ](島中には私の家の畑も大工家 < 東大城家 > の畑もあった)。

シ˞マナガ˞シ [ʃi˞managa˞ʃi] 【名】島流し。昔沖縄本島から鳩間島に配流された文化人 (比屋根安弼『八重山舞踊勤王流関係論考・資料集』) がいて、沖縄の古典音楽を伝えたといわれている。ム˞カ˞シ ウ˞キ˞ナーラ パ˞トゥ˞マー シ˞マナガ˞シ サ˞リ オーッ˞タ プ˞スヌ オー˞レーティ カ˞ナ˞カキティ ˞スー˞ ム˞カ˞シウター パ˞トゥ˞マナー ヌ˞カ˞リ ˞ベー˞ツォー [mu˞ka˞ʃi ʔu˞ki˞naːra pḁ˞tu˞maː ʃi˞managa˞ʃi sa˞riʔoːt˞ta pu̥˞sunu ʔoː˞reːti ka˞na˞kakiti ˞suː˞ mu˞ka˞ʃiʔuta: pa˞tu˞mana: nu˞ka˞ri ˞beː˞tsoː](昔、沖縄から鳩間島に島流しされた人 < 比屋根安粥 > がおられたので、カ˞ナ˞カキ [ka˞na˞kaki]< かせかけ > という昔風の古典民謡 < 昔歌 > が鳩間島に残っているそうだ < 大城學氏談 >)。

シ˞マナカヌ˞ パ˞タ˞キ [ʃi˞manakanu˞ pḁ˞ta˞ki] 【連】島中の畑。˞ウイヌカー˞ラ ニ˞シンタナー˞ル シ˞マナカヌ˞ パ˞タ˞ケー アル˞ダー [˞ʔuinukaː˞ra ni˞ʃintanaː˞ru ʃi˞manakanu˞ pḁ˞ta˞keː ʔaru˞daː](上の井戸の北側に島中の畑はあるのだよ)。

シ˞マナカヌ フンシキ [ʃi˞manakanu ɸuŋʃi̥ki] 【連】

(海底地名)。シ˞マナカヌパマ [ʃi˞manakapama](島中浜) から干瀬の頂きへ続く珊瑚礁の中間の礁池部。干潮時でも水深 30〜50 センチの小さな礁池が一面に繋がっているので、子供たちの魚釣り場になっていた。

シ˞マナカパマ [ʃi˞manakapama] 【名】 (地) 島中の浜。鳩間桟橋道路を真北に進んで達する島の北岸に形成された小さな浜。シ˞チ˩カザー　シ˞マナカパマー˩ラ　˞アンタ˩ナ　˩アルムール　˩トゥルティル　ナ˞ラー˩ソーッタ [ʃi̥˞ʧi˩kaʤa: ʃi˞manakapama: ˩ra ˞ʔanta˩na ˩ʔaru mu:ru ˩turuti na˞ra:˩so:tta](シチカザ < 節蔓 > は島中の浜より東の方に生えているのを < ぞ > 取るのだと教えられた)。

˩シマナライ [˩ʃimanarai] 【名】島の習慣。島の風習。˩シマー　˩シマナライティル　˩アル [˩ʃima: ˩ʃimanaraitiru ˩ʔaru](島には島の習い < 生活習慣。風習 > というのが < ぞ > あるのだ。< 郷に入っては郷に従え > の義)。

シ˞マ˩ヌ　˩ナイ [ʃi˞ma˩nu ˩nai] 【連】島の大きさ。「島の長さ」の義。シ˞マ˩ヌ　˩ナイ　˩アル　˞ゾーキヌ˩　ウ˞ランザ˩ケー　˞マーリ˩　シ˞キ˩タン　シ˞ミン　パッ˩タ [ʃi˞ma˩nu ˩nai ˩ʔaru ˞ʤo:kinu˩ ʔu˞ranʤa˩ke: ˞ma:ri˩ ʃi̥˩ki˩tan ʃi˞mim pat˩ta](島の大きさ < 長さ > ほどもある蒸気船が上原の宇那利崎を回って石炭を積みに行った)。シ˞マ˩ヌ　˞ナイ˩ヌ　˩ブカラヌ　フ˞ニ˩ヌ　˞インター　パッ˩タ [ʃi˞ma˩nu ˞nai˩nu ˩bukaranu ɸu˞ni˩nu ˞ʔinta: pat˩ta](島の長さ程の巨大な船が西の方へ行った)。

シ˞マ˩ヌ　˩ナイ [ʃi˞ma˩nu ˩nai] 【連】非常に大きく。大きさが尋常でないことの形容。「島の長さ」の義。シ˞マ˩ヌ　˞ナイ˩ヌ　˩ブカラヌ　フ˞ニ˩ヌ　˩シンタヌ　˞トゥーラ˩　ウ˞ランザ˩キ　˞マーリパッ˩タ [ʃi ˞ma˩nu ˞nai˩nu ˩bukaranu ɸu˞ni˩nu ˩ʃinta ˞tu:ra˩ ʔu˞ranʤa˩ki ˞ma:ripat˩ta](島の長さほどの大きな船が鳩間の後ろの沖から西表島の宇奈利崎を回って行った)。

シ˞マ˩ヌ　˩バタ [ʃi˞ma˩nu ˩bata] 【連】島の入り江。湾。「さざなみの志賀の大和太 < オホワダ > よどむとも〜。万、31」の転訛したもの。ニ˞シカジヌ　スー˩ワティ　ユ˞チン˩ヌ　˩バターラ　˩フネー　˞マーシェー˩ティ　イ˞サンケー˩　バ˞タローッ˩タ [ni ˞ʃikaʤinu su:˩wati ju˞ʧin˩nu ˩bata:ra ˩ɸune: ˞ma:ʃe: ˩ti ʔi˞saŋke:˩ ba˞taro:t˩ta](北風が強いので、ユチン湾沿いに船を回送 < 回航 > しながら、石垣島へ渡られた)。

シ˞マパイ˩ル [ʃi˞mapai˩ru] 【名】自家製造の酢。島産の酢。芋の煮汁や酒の飲み残し等を利用して作った。˞ウン˩ヌ　˞ネーシジロー˩　シ˞ティランドー˩シ　˩カミナー　イ˞リティ˩　キ˞サ˩シティル　˞パイロー˩　ス˞ク˩ローッタ [˞ʔun˩nu ˞ne:ʃiʤiro:˩ ʃi̥˞tirando:˩ʃi ˩kamina: ʔi˞riti˩ ki̥˞sa˩ʃi̥tiru ˞pairo:˩ su̥˞ku ˩ro:tta](芋の煮汁は捨てないで瓶に入れて酢酸発酵させて島産の酢は造られた)。

シ˞マ˩バキ [ʃi˞ma˩baki] 【名】島分け。村を強制的に分割すること。分村。琉球国時代に人頭税制度を維持するために、強制的に島分けして西表島西部や石垣島東北部に移住させたこと。鳩間島も黒島と古見村からの強制移住者よって村建てされたという。/ヘイヤー　クンヌ　ウラヌ　ウチカーラ　ヘイヤー　ミドゥガ　ムユス　クイトゥリ　ヘイヤー　ビフガ　ヤース　クイトゥリ　ヘイヤー　アンシン　マタ　ナラナーキ　ヘイヤー　カンシン　マタ　ナラナーキ　ヘイヤー　クルシマヌ　ウチカーラ　ヘイヤー　ミドゥガ　ヤース　クイトゥリ　ヘイヤー　ビフガ　ムユス　クイトゥリ〜/(囃子、古見の村内から、囃子、女を六十名乞い受け、男を八十名乞い取り、囃子、そうしてもまた出来ないので、囃子、こうしても出来ないので、囃子、黒島の中から、囃子、女を八十名乞い取り、囃子、男を六十名乞い取って〜)< パトゥマ本ジラマ >『鳩間島古典民謡古謡集』。

シ˞マ˩バサ [ʃi˞ma˩basa] 【名】 (植) 在来の芭蕉。糸芭蕉。繊維を採るための芭蕉。シ˞マバサ˩バ　˞トー˩シティ　˩カーパギ　˞ネーシティル˩　バター　˞スー˩リティ　˩イトー　トゥ˞ローッ˩タ [ʃi˞mabasa˩ ba ˞to:˩ʃiti ˩ka: ˩pagi ˞ne:ʃitiru˩ bata: ˞su:˩riti ˩ʔito: tu ˞ro:t˩ta](島芭蕉を切り倒して皮を剥ぎ、煮てから皮の中子をそぎ落として繊維 < 糸 > を取られた)。

シ˞マバサン˩ナル [ʃi˞mabasan˩naru] 【名】 (植) 在来種のバナナ (芭蕉の実)。ヤ˞ラビ˩ヌ　バ˞タ˩ヤビク˞ダス˩　ピンマー　シ˞マバサン˩ナル　ッ˞ふァース˩カー　トゥ˞マルタン [ja˞rabi˩nu ba˞ta˩jabi ku ˞dasu˩ pimma: ʃi˞mabasan˩naru f˞fa:su˩ka: tu˞maru-taŋ](幼児が腹をこわして下痢をする < 下す > 時、島バナナを食べさせると下痢は止まったよ)。

シ˞マフ˩ケー [ʃi˞maɸu̥˩ke:] 【固】屋号。島袋源助氏宅。島袋マカト氏は友利御嶽のサ˞カサ [sḁ˞kasa](司。女性神職者) をつとめられたという。島袋家は 1957 年ごろに船浦へ移住されたが、長男の島袋憲一氏は鳩間島出身で最初に鳩間小中学校長を勤め

た。シ˞マフ˞ケヌ　˞アボー　˞ウイヌウガン˞ヌ　サ˞カサ˞　ヤ˞ロー˞ッ˞タツォー [ʃi˞maɸu̥˞kenu ˞ʔabo: ˞ʔuinuʔugan˞nu sḁ˞kasa˞ ja˞ro:t˞tatso:](島袋家のお母さんは友利御嶽の司であられたそうだ)。˞ショーガッコー˞ヌ　ク˞シヌ˞　ム˞レーマヌ　アー˞ネール　シ˞マフ˞ケー　˞ヤッタ [˞ʃo:gakko:˞nu ku̥˞ʃinu˞ mu˞re:manu ʔa:˞ne:ru ʃi˞maɸu̥˞ke: ˞jatta](小学校の後ろの通事家の東隣が島袋家であった)。

シ˞マフ˞ケーヌ　˞ナカザーテー [ʃi˞maɸu̥˞ke:nu ˞nakaʤa:te:]【連】屋号。島袋秀吉氏宅。˞ナカザテー [˞nakaʤate:] は、ナ˞カ [na˞ka](中)・˞アー˞ザ [˞ʔa:˞ʤa](兄)→　˞ナカザー [˞nakaʤa:](次兄。< 中の兄 >) のように融合変化して形成された語に、さらに接尾辞˞テー [˞te:](〜の家) が下接して生成された合成語。ア˞ラブシケーヌ　アンタナー˞ル　シ˞マフ˞ケーヌ　˞ナカザーテーヤ　˞アッ˞タ [ʔa˞rabuʃi̥ke:nu ʔantana:˞ru ʃi˞maɸu̥˞ke:nu ˞nakaʤa:te:ja ˞ʔat˞ta](アラブシケー < 大工家 > の東側に < ぞ > 島袋秀吉氏宅はあった)。

シ˞マ˞プス [ʃi˞ma˞pu̥su]　【名】島人。離島の人。島の人。故郷の人。郷党。マー˞ン˞ナー　˞ベー˞ティン　˞シマプソー　˞シマプス　˞ダーチル　タ˞タ˞リ [ma:˞n˞na: ˞be:˞tiŋ ˞ʃimapu̥so: ˞ʃimapu̥su ˞da:ʧiru tḁ˞ta˞ri](何処にいても島の人は郷党と共にしか < ぞ > 暮らせない)。˞シマプスティ　ア˞ザリナ˧ヨー [˞ʃimapu̥suti ʔa˞ʤarina˧jo:](離島の人と言われる < 馬鹿にされる > なよ)。

˞シマプス [˞ʃimapu̥su]　【名】島人。パ˞トゥ˞マナー　˞シマプソー　ギュ˞タール　オール˞ワ [pḁ˞tu˞mana: ˞ʃimapu̥so: gju˞ta:ru ʔo:ru˞wa](鳩間島には、島人は何人おられますか)。

シ˞マブドゥ˞ル [ʃi˞mabudu˞ru]　【名】鳩間島の踊り。「島踊り」の義。ウ˞キナーブドゥ˞ル [ʔu˞kina:budu ˞ru](沖縄本島の踊り。沖縄の古典舞踊)、イ˞サナキブドゥル [ʔi˞sanakibuduru](石垣島の踊り)、ヤ˞マトゥブドゥ˞ル [ja˞matubudu˞ru](大和の踊り) 等に対する˞鳩間島の踊り」の義。パ˞トゥ˞マナカムリ　パ˞トゥ˞マクドゥキン「マイ˞ヌパマンドーレーヤ　シ˞マブドゥ˞ル˞ミー [pḁ˞tu˞manakamuri pḁ˞tu˞makudukim ˞mai˞nupamando:re:ja ʃi˞mabudu˞ru ˞mi:](鳩間中岡節、鳩間口説節、前の浜節などは島踊りだろうね?)。

ジ˞ママ [ʤi˞mama]　【名】わがまま (我儘)。自分の思い通りに振る舞うこと。身勝手。「自在、ワガマムマナリ」『類従名義抄』。˞zimama(自まま。わがまま)」『沖縄語辞典』の転訛したもの。ジ˞ママニ˞　ス˞ダティラ˞レー　ッ˞ふァ˞　ヤ˞ルンダ˞　プ˞スヌ˞　ムニ　シゥ˞カヌ [ʤi˞mamani˞ su˞datira˞re: f˞fa˞ ja˞runda˞ pu̥˞sunu˞ muni si̥˞kanu](我が儘に育てられた子だから、他人の言うこと < 注意 > を聞かない)。

シ˞ママーリ˞ムヌ [ʃi˞mama:ri˞munu]　【名】島回り者。島から島へ渡り歩いている者。シ˞ママーリ˞ムヌナー　˞マーパカラ˞サ　˞ムノー　ブ˞ラーヌ [ʃi˞mama:ri˞mununa: ˞ma:pakara˞sa ˞muno: bu˞ra:nu](島々を渡り歩く者でまっとうな <陸(ロク)な。真っ当な。しっかりした > 者はいない)。

シ˞ママー˞ル [ʃi˞mama:˞ru]　【名】1島回り。島々を旅行すること。ム˞ヌスク˞ロー　サ˞ムティ˞　シ˞ママー˞ル　˞シーアーキ˞バン　˞モーキラ˞リ　˞ムノー　ア˞ラ˞ヌ [mu˞nusu̥ku˞ro: sa˞muti˞ ʃi˞mama:˞ru ˞ʃe: ˞ti ˞ʔa:ki˞bam ˞mo:kira˞ri ˞muno: ʔa˞ra˞nu](農業はしないで島回りしていても儲けられるものではない)。2島々の巡視。役人の島々巡視は、ウ˞ヤマー˞ル [ʔu ˞jama:˞ru](親回り) ともいう。ヤ˞クニン˞ヌ　シ˞ママール˞ヌ　トゥ˞ルム˞チェー　˞デー˞ジ　˞ヤッタ˞ツォー [ja˞kunin˞nu ʃi˞mama:ru˞nu tu˞rumu˞ʧe: ˞de: ˞ʤi ˞jatta˞tso:](役人の島回りの接待は大変だったそうだ)。

˞シママイ [˞ʃimamai]　【名】島産米。「島米」の義。˞ザイレー˞マイ [˞ʤaire:˞mai](在来米。在来種の米。伝統的な赤米) ともいう。˞ホーライ˞マイラン　˞シママイル　ン˞マー [˞ho:rai˞mairaŋ ˞ʃimamairu ʔm˞ma:](台湾から導入された蓬莱米よりも島産米が美味しい)。

シ˞マムチユー˞ムチ [ʃi˞mamuʧiju:˞muʧi]　【名】島の総代表。˞スー˞ダイ [˞su:˞dai](総代) ともいう。「島持ち世持ち」の義。昭和 30 年代までは、島の一年間の神行事を執り行うことが島の行政を意味していた。戦時中に部落会長が誕生するまでは、˞スー˞ダイ [˞su:˞dai](総代) が島の行政責任者であったが、戦後の市町村制移行に伴い、行政責任者は部落会長、区長、公民館長へと移行していった。かつてはシ˞マムチユー˞ムチになることが最高の立身出世であったことは、神歌や民謡の中で歌われていることから推定できる。男子が誕生すると、シ˞マムチユー˞ムチにして下さいと祈願したものである。

˞シマムニ [˞ʃimamuni]　【名】島ことば。郷里の言葉。方言。˞ムニ [˞muni](言葉。もの言い) は、言葉を口に出していうこと。「賢しみと　物言従者 <

物いふよりは＞酒飲而『万葉集　341』」の義。˥シマムニ　˩バシキル˥カー　˥シマ　˩バシキルン˥　シマ　˩バシキル˥カー　˥ウヤ　˩バシキルン [˥ʃimamuni ˩baʃi̥kiru˥ka: ˥ʃima ˩baʃi̥kiruŋ˥ ʃima ˩baʃi̥kiru˥ka: ˥ʔuja ˩baʃi̥kiruŋ](方言＜島言葉＞を忘れたら島を忘れる。島を忘れたら親を忘れる)。˥シマムニ　パ˩ナ˥シ˩シー˩　ッ˩シェー˩　プ˩ソー˩　ブ˩ラーン˩　ナリ˩ナー˥ヌ [˥ʃimamuni pa˩na˥ʃi˩ʃi:˥ ʃ˩ʃe:˥ pu̥˩so:˥ bu˩ra:n˥nari ˩na:˥nu](方言を話せる人がいなくなってしまった)。

シ˩マ˥ムヌ [ʃi˩ma˥munu] 【名】島産品。島のもの。カ˩ツブシン˩　イ˩ガン˩　シ˩マムヌ˥ル　ン˩マー˥タンドゥ　˩ダイヤー　ヤッサ˥タ [kḁ˩tsubuʃiŋ˥ ʔi˩gaŋ˥ ʃi˩mamunu˥ru ʔm˩ma:˥tandu ˩daija: jas˥sataŋ](鰹節も干し烏賊＜するめ＞も島産品＜島物＞が美味しかったが、値段は安かった)。

シ˩マ˥リ [ʃi˩ma˥ri] 【名】締まり。しまること。行いをつつしむこと。きちんとしていること。戸締り。シ˩マリ˥ヌ　˩ナーン˩　プ˩ソー　モーキユーサ˥ヌ [ʃi˩mari˥nu ˩na:m˥ pu̥˩so: mo:kiju:sa˥nu](締まりのない人は儲けることが出来ない)。ウ˩レー˩　シ˩マリ˥ヌ　˩ナー˥ンダ　˩ジン˥ヌ　˥クトー　タ˩ナマラ˥ヌ [ʔu˩re:˥ ʃi˩mari˥nu ˩na:˥nda ˩ʤin˥nu ˥ku̥to: ta˩namara˥nu](彼はしまりがない＜きちんとしていない＞からお金のことは頼めない)。

シ˩マ˥リ [ʃi˩ma˥ri] 【名】不景気。「つまり(詰まり)」の義。シ˩マリヌ　スーワ˥ヌ＜˩ケイキヌ　ワッサ˥ヌ＞　˩イー˥シン　˩ダイ˩　ム˩タ˥ヌ [ʃi˩marinu su:wa˥nu＜˩keikinu wassa˥nu＞˩ʔi:˥ʃin ˩dai˥ mu˩ta˥na](ひどい不景気で＜景気が悪くて＞、ツノマタも高値段がつかない)。

シ˩マ˥ルン [ʃi˩ma˥ruŋ] 【自動】締まる。閉まる。詰まる。˥ヌビ　シ˩マ˥リティ　˥イキ　サ˩ラヌ [˥nubi ʃi˩ma˥riti ˥ʔiki sa˩ranu](首が詰まって息が出来ない)。˥ヤドー　シ˩マラ˥ヌ [˥jado: ʃi˩mara˥nu](戸が閉まらない)。ッ˩サー˥ク　˩スー˥カー　˥ヌドゥ　シ˩マ˥ルン [sˢsa:˥ku ˩su:˥ka: ˥nudu ʃi˩ma˥ruŋ](咳をすると喉が詰まる)。フ˩チ˥ル　˥ヌムカー　シ˩マ˥ル　˥クトー　˩ナー˥ヌ [ɸu̥˩tʃi˥ru ˥numuka: ʃi˩ma˥ru ˥ku̥to: ˩na:˥nu](薬を飲んだら＜喉が＞締まる＜詰まる＞ことはない)。˩マー˥ビン　シ˩マ˥レー　˥ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ʃi˩ma˥re: ˥misamunu](もっと閉まればよいが)。シ˩マ˥リ [ʃi˩ma˥ri](閉まれ)。˥ユー　シ˩マ˥レーティ　シ˩グトー　シー(˩シリ)[˥ju: ʃi˩ma˥re:ti ʃi˩guto: ʃi:(˩ʃiri)](しっかり緊張し＜引き締まっ＞て仕事をせよ＜しろ＞)。マ˩チヤーヤ˩　シ˩マ˥リ　˩ナー˥ヌ [ma˩tʃija:ja˥ ʃi˩ma˥ri ˩na:˥nu](お店は閉まってしまった)。

シ˩マ˥ルン [ʃi˩ma˥ruŋ] 【自動】つまる(詰まる)。˥イキ　シ˩マ˥ルン [˥ʔiki ʃi˩ma˥ruŋ](息が詰まる)。ピ˩ルザキ˩　ヌムカー　パ˩ナー˩　シ˩マラ˥ヌ [pi˩ruʤaki˥ numuka: pa˩na:˥ ʃi˩mara˥nu](大蒜酒を飲むと鼻は詰まらない)。パ˩ナー˩　シ˩マ˥リティ　˥ムネー　イ˩ザラヌ [pa˩na:˥ ʃi˩ma˥riti ˥mune: ʔi˩ʤaranu](鼻が詰まってものが言えない)。パ˩ナ˩　シ˩マ˥ル　˥クトー　˩ナー˥ヌ [pa˩na˥ ʃi˩ma˥ru ˥ku̥to: ˩na:˥nu](鼻が詰まることはない)。˩ミー˥ヤ　シ˩マ˥レー　˥ミサムヌ [˩mi:˥ja ʃi˩ma˥re: ˥misamunu](隙間は詰まれば良いが)。シ˩マ˥リ [ʃi˩ma˥ri](詰まれ)。

˥シミ [˥ʃimi] 【名】1爪。「～馬の都米＜ツメ＞～。万、4122」の転訛したもの。˥シミ　˥シムン＜˩フッツァ˥スン＞[˥ʃimi ˥ʃimuŋ＜˩ɸuttsa˥suŋ＞](爪を切る。～を詰める＜食いきる＞)。˩ユー˥ロー　˥シメー　キ˩サ˥ヌ＜˩フッツァサ˥ヌ＞[˩ju:˥ro: ˥ʃime: ki̥˩sa˥nu＜ɸut˩tsasa˥nu＞](夜は爪を切るものではない【諺】)。2三線＜三味線＞、琴などの爪。˩サンシンヌ˩　シメー　ウ˩シヌ˩　シヌシル　ス˩クラ˥リ　˩ブー [˥saŋʃinnu˥ ʃime: ʔu˩ʃinu˥ ʃinuʃiru su̥˩kura˥ri ˩bu:](三線の爪は牛の角で作られている)。

˥シミ [˥ʃimi] 【名】しみ(染み)。汚れ。ウ˩ワギヌ˥　ッ˩ふ˥シミ　ア˩ラウタヌ˩　ウ˩ティラン˥サー [ʔu˩waginu˥ f˩fu˥ʃimi ʔa˩rautanu˥ ʔu˩tiran˥sa:](上着の黒い染みを洗ったが落ちないさ)。

˥シミ [˥ʃimi] 【名】つむ(錘)。糸巻きの心棒。˥ブンブンヤマ [˥bumbuŋjama](糸車)の付属品。鉄製の細い棒で、フ˩ドー˥シ [ɸu˩do:˥ʃi](竹管)を差し込んで回転させ、撚りを掛けながら糸を巻く器具。フ˩ドー˥シナ　バ˩ラフ˥タ　イ˩リティ˩　シミナー　ヌ˩キティ˩　ヤマー　˩マーセー˥ティル　˥イトー　マ˩コーッ˥タ [ɸu˩do:˥ʃina ba˩raɸu̥˥ta ʔi˩riti˥ ʃimina: nu˩kiti˥ jama: ˩ma:ʃe:˥tiru ˥ʔito: ma˩ko:t˥ta](竹管に藁を差し入れて錘(ツム)に貫き差し、糸車を回しながら＜ぞ＞糸は巻かれた)。

シ˩ミ˥ウン [ʃi˩mi˥ʔuŋ] 【名】芋の煮しめ。サツマイモやジャガイモなどの皮を除き、角切りにして豚肉、魚肉と一緒に醤油で煮染めたもの。イモの澱粉が調味料で味付けされていて美味しい。˥アボー　バ˩カソーッ˥タ　シ˩ミウン˥マー　イ˩ズヌ˩　ダ˩シ˥ヌ　シ˩キティ˩　イッ˩ケナ˩　ン˩マー˥タン [˥ʔabo: ba˩kaso:t˥ta ʃi˩miʔum˥ma: ʔi˩ʤunu˥ da˩ʃi˥nu ʃi̥˩kiti˥ ʔik

˞kena˥ ʔm˞ma:˥taŋ](お母さんが炊かれた芋の煮しめは魚の出汁が効いて非常に美味しかった)。

シ˞ミカサニルン [ʃi˞mikạsaniruŋ] 【他動】積み重ねる。シ˞ミシキ˥ルン [ʃi˞miʃi̥ki˥ruŋ](積みおく)、シ˞ムン [ʃi˞muŋ](積む) ともいう。˥クナー　タ˞ム˥ヌタバル　シ˞ミカサニルン [˥kuna: ta˞mu˥nutabaru ʃi˞mikasaniruŋ](ここに薪束を積み重ねる)。

シ˞ミクラスン [ʃi˞mikura˥suŋ] 【他動】絞殺する。首を絞めて殺す。˞ヌシ˥トゥロー　˞ミシゥカ˥リカー　˞ミスク˥タ　プ˞ス˥　シ˞ミクラ˥スンティ˞ダー [˞nuʃi̥˥turo: ˞misi̥ka˥rika: ˞misu̥ku˥ta pu̥˞su˥ ʃi˞mikura˥sunti˞da:](泥棒は見つけられたら、見つけた人を絞め殺すそうだよ)。

˥シミ　˥クン [˥ʃimi ˥kuŋ] 【連】攻めてくる。ティ˞キヌ˥　ウ˞キ˥ナー　˥シミ　˥クンティ　ス˞クタン [ti̥˞kinu˥ ʔu˞ki˥na: ˥ʃimi ˥kunti su̥˞kutaŋ](敵が沖縄に攻めてくると聞いた)。

シ˞ミ˥サキ [ʃi˞mi˥si̥ki] 【名】つまさき (爪先)。˞クンイルヌ˥　シ˞ミ˥サキナー　ス˞マリティ˥　ウ˞ティラン˥サー [˞kuŋʔirunu˥ ʃi˞mi˥sakina: su˞mariti˥ ʔu˞tiram˥sa:](紺色が爪先に染まって色落ちしないよ)。

シ˞ミシゥカー˥ルン [ʃi˞misi̥ka:˥ruŋ] 【自動】ぎっしり詰め寄る。ぎっしり詰まる。詰めてくっ付く。シ˞バー˥カー　シ˞ミシゥカールン˥ドゥ　ピ˞ソー˥ンダ　シ˞ミシゥカーラ˥ヌ [ʃi˞ba:˥ka: ʃi˞misi̥ka:run˥du pi̥˞so:˥nda ʃi˞misi̥ka:ra˥nu](狭かったらぎっしり詰まるが、広いからぎっしり詰め寄らない)。シ˞ミシゥカーリ˥　プサカー　シ˞ミシゥカー˥ル　˥クトー　˥ナルン [ʃi˞misi̥ka:ri˥ pu̥saka: ʃi˞misi̥ka:˥ru ˥ku̥to: ˥naruŋ](詰めてくっ付きたければ詰めてくっ付くことは出来る)。シ˞ミシゥカー˥レー　˥ミサムヌ [ʃi˞misi̥ka:˥re: ˥misamunu](詰めてくっ付けばいいのに)。˞マー˥ビン　シ˞ミシゥカー˥リバ [˞ma:˥biŋ ʃi˞misi̥ka:˥riba](もっと詰めなさい)。

シ˞ミ˥　シ˞キ˥ルン [ʃi˞mi˥ ʃi̥˞ki˥ruŋ] 【連】積んでおく。タ˞ム˥ヌタバロー　˥クナー　シ˞ミ˥　シ˞キ˥ルン [ta˞mu˥nu ˥tabaro: ˥kuna: ʃi˞mi˥ ʃi̥˞ki˥ruŋ](薪の束はここに積んでおく)。

シ˞ミシキ˥ルン [ʃi˞miʃi̥ki˥ruŋ] 【他動】締め付ける。強く縛る。ギーッ˞ティ˥　フ˞バリ˥　シ˞ミシキラン˥カー　˞バックリルン˥ダー [gi:t˞ti˥ ɸu˞bari˥ ʃi˞miʃi̥ki-raŋ˥ka: ˞bakkurirun˥da:](ぎゅっと強く縛って締め付けないとバラバラに崩れるぞ)。シ˞ミシキ　グリ˥サン [ʃi˞miʃi̥kiguri˥saŋ](締め付けにくい)。ク˞ヌター˥ラー　シ˞ミシキ˥ルンティ　ウ˞ムーン˥ドゥ　シ˞ミシ˥キル　プ˞スヌ˥　ブ˞ラーヌ [ku˞nu ta:˥ra: ʃi˞miʃi̥ki˥runti ʔu˞mu:n˥du ʃi˞miʃi̥ki˥ru pu̥˞sunu˥ bu˞ra:nu](この俵は強く縛って締め付けようと思うが締め付ける人がいない)。シ˞ミシキ˥レー　˥ミサムヌ [ʃi˞miʃi̥ki˥re: ˥misamunu](強く締め付ければよいが)。˞マー˥ビン　シ˞ミシキ˥リ [˞ma:˥biŋ ʃi˞miʃi̥ki˥ri](もっと強く締め付けろ)。˞パンチラン˥ヨーニ　˥ナーシ　シ˞ミシキ˥ルンティ　˞スンドゥ˥　シ˞ミシキラン˥サー [˞pantʃiraŋ˥jo:ni ˥na:ʃi ʃi˞miʃiki˥runti ˞sundu˥ ʃi˞miʃi̥kiran˥sa:](外れないように縄で締め付けようとするが、締め付けられないよ)。˥ドゥク　シ˞ミシキ˥ル　˥クトー　ス˞ナ [˥duku ʃi˞miʃi̥ki˥ru ˥ku̥to: su˞na](あまり締め付けることはするな)。˞マー˥ビン　シ˞ミシキ˥レー　˥ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ʃi˞miʃi̥ki˥re: ˥misamunu](もっと締め付ければ良いのに)。シ˞ミシキ˥リ [ʃi˞miʃi̥ki˥ri](締め付けろ)。

シ˞ミ˥スクン [ʃi˞mi˥su̥kuŋ] 【自動】住み着く。定住する。長く住む。動物が棲みつく。˞ニージマ˥ルン [˞ni:ʤima˥ruŋ](住み着く。根をおろす。根付く) ともいう。シ˞グトゥヌ˥　アルカー　˥ウナー　シ˞ミスクン˥ドゥ　˞ナーン˥カー　シ˞ミシゥカ˥ヌ [ʃi˞gutunu˥ ʔaruka: ˥ʔuna: ʃi˞misu̥kun˥du ˞na:ŋ˥ka: ʃi˞misi̥ka˥nu](仕事があれば其処に住み付くが、無ければ住み着かない)。

シ˞ミ˥　スクン [ʃi˞mi˥ su̥kuŋ] 【連】積んで置く。バ˞リタムノー˥　タ˞ム˥ヌダナナー　シ˞ミ˥スクン [ba˞ritamuno:˥ ta˞mu˥nudanana: ʃi˞mi˥su̥kuŋ](割った薪は薪棚に積んで置く)。

シ˞ミス˥クン [ʃi˞misu̥˥kuŋ] 【他動】締め付ける。「締め付く (下二段)、～白き直垂着て馬のに締め付けてぞ～『平家物語二』」の四段活用化したもの。˥ドゥク　シ˞ミシゥカン˥ドーシ　ン˞メーマ˥　シ˞ミ˥シキティ　フ˞バリ˥バ [˥duku ʃi˞misi̥kan˥do:ʃi ʔm˞me:ma˥ ʃi˞mi˥ʃikiti ɸu˞bari˥ba](あまり強く締め付けないで、ちょっと締め付けて縛りなさいよ)。ク˞リバ˥　シ˞ミス˥クンティ　˥ウムーカ　シ˞ミス˥クム˥ヌ　トゥ˞グバ˥ル　˥ナル [ku˞riba˥ ʃi˞misu̥˥kunti ˥ʔumu:ka: ʃi˞misu̥˥ku ˥munu tu˞guba˥ru ˥naru](これを締め付けようとおもうなら、締め付ける物を持ってこないと出来ない < 持って来ればぞなる >)。シ˞ミシ˥ケー　˥ミサムヌ [ʃi˞miʃi̥˥ke: misamunu](締め付ければいいのに)、シ˞ミ˥シキ [ʃi˞miʃi̥˥ki](締め付けよ)。

シ˞ミタイ˥ク [ʃi˞mitai˥ku] 【名】しめだいこ (締め太

鼓)。太鼓の胴の両面の革を紐などで締めて調子を整える太鼓。シ˞ミタイ˥コー　˥シミティル　ウ˞トーッ˥タ [ʃi˞mitai˥ko: ˥ʃimitiru ʔu˞to:t˥ta](締め太鼓は引き締めてから打たれた)。

シ˞ミッカー˥スン [ʃi˞mikka:˥suŋ] 【他動】おし詰める。ぎゅうぎゅう詰めにする。シ˞ミッカー˥ルン [ʃi˞mikka:˥ruŋ](自動) ぎゅうぎゅう詰めになる。

シ˞ミッカーラ˥スン [ʃi˞mikka:ra˥suŋ] 【他動】人を狭い所に詰め寄らせる。鮨詰めにする。ぎゅうぎゅう詰めにする。シ˞バーン˥　トンナー　プ˞ス˥　シ˞ミッカーラ˥スンティ　シ˞タンティン˥　シ˞ミッカーラサラ˥ヌ [ʃi˞ba:n˥ tonna: pu̥˞su˥ ʃi˞mikka:ra˥sunti ʃi̥˞tantiŋ˥ ʃi˞mikka:rasara˥nu](狭い所に人を詰め寄らせようとしても詰め寄らせられない)。˞マー˥ビン　シ˞ミッカーラ˥シ　˥ミサカー　シ˞ミッカーラ˥ス　˥クトー　˥ナルン [˞ma:˥biŋ ʃi˞mikka:ra˥ʃi ˥misaka: ʃi˞mikka:ra˥su ˥ku̥to: ˥naruŋ](もっと詰め寄らせて良ければ、詰め寄らせることは出来る)。シ˞ミッカーラ˥シェー　˥ミサムヌ [ʃi˞mikka:ra˥ʃe: ˥misamunu](詰め寄らせれば良いのに)。シ˞ミッカーラ˥シ [ʃi˞mikka:ra˥ʃi](詰め寄らせよ)。

シ˞ミッカー˥ルン [ʃi˞mikka:˥ruŋ] 【自動】狭い所に寄り合って詰める。すしづめ (鮨詰め) になる。ぎゅうぎゅうに詰め寄る。ひしめく。˥アイニ　シ˞ミッカーラン˥ドーシ　パ˞ナー˥リティ　ビ˞リ˥バ [˥ʔaini ʃi˞mikka:ran˥do:ʃi pa˞na:˥riti bi˞ri˥ba](あんなに詰め寄らないで離れて座りなさいよ)。シ˞ミッカーラン˥カー　˞ペーラン˥　ユンダ　シ˞ミッカー˥ルンティ　˞スンドゥ˥　ク˞ヌ　ウイ˥ <˞マー˥ビン>　シ˞ミッカー˥ル　˥クトー　ナ˞ラ˥ヌ [ʃi˞mikka:raŋ˥ka: ˞pe:raŋ˥junda ʃi˞mikka:˥runti ˞sundu˥ ku˞nu ʔui˥ <˞ma:˥biŋ> ʃi˞mikka:˥ru ˥ku̥to: na˞ra˥nu](すし詰めにならないと入れないから詰め寄ろうとするが、これ以上は詰め寄られない)。シ˞ミッカーリ˥　プサカー　シ˞ミッカー˥レー　˥ミサムヌ [ʃi˞mikka:ri˥ pu̥saka: ʃi˞mikka:˥re: ˥misamunu](詰め寄りたければ詰め寄れば良いのに)。シ˞ミッカー˥リバ [ʃi˞mikka:˥riba](詰め寄れよ)。

シ˞ミッ˥キ [ʃi˞mik˥ki] 【名】しっき (湿気)。「湿り気」の転訛したもの。˥クマー　シ˞ミッキ˥ヌ　˥アン [˥kuma: ʃi˞mikki˥nu ˥ʔaŋ](ここは湿気がある)。˥カイナカナ　˥スクカー　シ˞ミッ˥キ　イ˞ルン [˥kainakana ˥su̥kuka: ʃi˞mik˥ki ʔi˞ruŋ](日陰に置くと湿気が入る)。˥クマー　˞タウ˥　ナリティ　ティ˞ダ˥ヌ　ア˞タランダ˥　シ˞ミッキ˥ヌ　˞ゴー˥ラーン [˥kuma: ˞tau˥ nariti ti˞da˥nu ʔa˞taranda˥ ʃi˞mikki˥nu ˞go:˥ra:ŋ](ここは窪地になって、太陽が当たらないので湿気が多い)。

シ˞ミックマ˥スン [ʃi˞mikkuma˥suŋ] 【他動】染み込ませる。シ˞ミッ˥クムン [ʃi˞mik˥kumuŋ](染み込む)の未然形に使役の助動詞˥-スン [˥-suŋ](〜せる) が下接して形成された使役動詞。˥サジナ　ミ˞ジ˥　シミックマ˥スンティ　˞ベー˥ンドゥ　シ˞ミックマサラ˥ヌ [˥sadʒina mi˞dʒi˥ ʃi˞mikkuma˥sunti ˞be:˥ndu ʃi˞mikkumasaru˥nu](てぬぐい < 手拭 > に水を染み込ませようとしているが、染み込まされない)。シ˞ミックマ˥シ　˥ミサカー　シ˞ミックマ˥ス　˥クトー　˥ナルン [ʃi˞mikkuma˥ʃi ˥misaka: ʃi˞mikkuma˥su ˥ku̥to: ˥naruŋ](染み込ませて良ければ、染み込ますことはできる)。シ˞ミックマ˥シェー　˥ミサムヌ [ʃi˞mikkuma˥ʃe: ˥misamunu](染み込ませば良いのに)。˞マー˥ビン　シ˞ミックマ˥シ [˞ma:˥biŋ ʃi˞mikkuma˥ʃi](もっと染み込ませ)。

シ˞ミッ˥クムン [ʃi˞mik˥kumuŋ] 【他動】詰め込む。˞ナーブ˥クナー　˥ヌーンクイン　シ˞ミッ˥クムンティ　˞スンドゥ　ペーラ˥ヌ [˞na:bu˥kuna: ˥nu:ŋkuiŋ ʃi˞mik˥kumunti ˞sundu pe:ra˥nu](縄箱に何もかも詰め込もうとするが、入らない)。シ˞ミッ˥クミ　˥ミサカー　シ˞ミッ˥クム　˥クトー　˥ナルン [ʃi˞mik˥kumi ˥misaka: ʃi˞mik˥kumu ˥ku̥to: ˥naruŋ](詰め込んでよければ詰め込むことは出来る)。シ˞ミックマラ˥ヌ [ʃi˞mikkumara˥nu](詰めこめない)。

シ˞ミッケー˥ルン [ʃi˞mikke:˥ruŋ] 【自動】湿る。水に潤う。水気を帯びる。ア˞ミ˥ヌ　˥フーカー　˥キンカーン　シ˞ミッケー˥ルンティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　˞ナン˥ゾー　シ˞ミッケーラン˥シェン [ʔa˞mi˥nu ˥ɸu:ka: ˥kiŋka:ŋ ʃi˞mikke:˥runti ʔu˞mu:tan˥du ˞nan˥dʒo: ʃi˞mikke:raŋ˥ʃeŋ](雨が降ると衣類も湿ると思ったが、あまり湿らなかった)。シ˞ミッケー˥リ　˞ナー˥ヌ [ʃi˞mikke:˥ri ˞na:˥nu](湿ってしまった)。シ˞ミッケー˥ル　˥ムノー　˞ナー˥ヌ [ʃi˞mikke:˥ru ˥muno: ˞na:˥nu](湿るものはない)。˞マー˥ビン　シ˞ミッケー˥レー　˥ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ʃi˞mikke:˥re: ˥misamunu](もっと湿ればいいのに)。湿っぽくなる。じめじめする。˥プシシケール　˞キン˥マー　˞シュー˥ヌ　ウ˞リ˥ルカー　シ˞ミッケー˥ルンダー　シ˞ミッケーラン˥ケン　˥トゥリ　˞ペー˥ラシ [˥pu̥ʃi ˥ʃi̥ke:ru ˥kim˥ma: ˞ʃu:˥nu ʔu˞ri˥ruka: ʃi˞mikke:˥runda: ʃi˞mikke:raŋ˥ken ˥turi ˞pe:ra˥ʃi](干してある着物は夜露が下りると湿っぽくなるので、湿らな

いうちに取り入れなさい)。シ˞ミッケーリヤッ˜サン [ʃi˞mikkeːrijas˜saŋ](湿っぽくなりやすい)。シ˞ミッケー˜ル　˜ムヌ [ʃi˞mikkeː˜ru ˜munu](湿っぽくなるもの)。シ˞ミッケー˜レーラー　˞デー˜ジ˞ダー [ʃi˞mikkeː˜reːraː ˞deː˜ʤi˞daː](湿っぽくなったら大変だぞ)。

シ˞ミ˜ティ [ʃi˞mi˜ti] 【副】せめて。少なくとも。「満足ではないが、最低限これだけでも〜たい」の意を表す。標準語の「せめて」の転訛したもの。シ˞ミ˜ティ　˞ワー　タン˜ガーンツァン　˞ウイヌ　ガッ˜コー　˜ンジ　ッ˞ふィーリ [sʃi˞mi˜ti ˞waː taŋ˜gaːntsaŋ ˞ʔuinu gak˜koː ˜ʔnʤi f˞fiːri](せめて君一人でも上の学校に進学してくれ)。

シ˞ミ˜ナー [ʃi˞mi˜naː] 【名】墨糸。墨縄。˞シン˜ナー [˞ʃin˜naː](墨縄) ともいう。大工用工具の˞シン˜スブ [˞ʃin˜subu](墨壷) の車に巻きつけてある縄。木材に直線を引くために、墨壷の縄を墨を付けて引き出し、縄を弾いて直線を引く。「縄墨、須美奈波 < すみなは >」『和名抄』。「〜飛騨人の打つ墨縄之 < スミナハノ >〜。万、2648」の転訛したもの。˞サイ˜コー　シ˞ミ˜ナー　˞パン˜キテーラル　˜イツァン　˜キーン　バ˞コー˜ル [˞sai˜koː ʃi˞mi˜naː ˞paŋ˜kiteːraru ˜ʔitsaŋ ˜kiːm ba˞koː˜ru](大工は墨縄を打って < 弾いて > から板も木材も切り分けられ < 製材され > る)。

シ˞ミ˜ナー [ʃi˞mi˜naː] 【名】締め縄。茅葺屋根の屋根を葺くのに用いる縄。茅葺屋根の甍を引き締める˞フー˜カラジナ [˞ɸuː˜karaʤina](棕櫚縄)。˞ヤー˜　イツピピルバ　シ˞ミ˜ナー　˞シー　ヤー˜バ　ス˞ク˜リ　˜アンティ　˜スー [˞jaː˜ ʔitsupipiruba ʃi˞mi˜anː ˞ʃiː jaː˜ba su̥˞ku˜ri ˜ʔanti ˜suː](ああ、絹の糸 < 蚕蛾の絹糸の綱 > を屋根の締め縄にして家を造ってあるという)「アーパーレー」(アーパーレー歌)。

シ˞ミ˜ヌ　カ˞タ [ʃi˞mi˜nu kḁ˞ta] 【連】1爪の型。˞ワー˜　シ˞ミ˜ヌ　カ˞ター˜　マ˞ルミティ˜　グ˞マーグマー˜シ　˞ブー˜サ˞ナー [˞waː˜ ʃi˞mi˜nu ka˞taː˜ ma˞rumiti˜ gu˞maːguma:˜ʃi ˞buː˜sa˞naː](君の爪の型は丸くて、小さくしているね)。2爪形。爪あと。˞ワー˜　ウディナ　シ˞ミ˜ヌ　カ˞タヌ˜　シキ　˞ベー [˞waː˜ ʔudinaː ʃi˞mi˜nu kḁ˞tanu˜ ʃi̥ki ˞beː](君の腕に爪のあとがついている)。

シ˞ミ˜ヌ　˜ッス [ʃi˞mi˜nu ˜ssu] 【連】つめあか (爪垢)。「爪の糞」の義。パ˞タキシグ˜トゥ　˞スー˜カー　シ˞ミ˜ヌ　˜ッ˞ス˜ヌ　タ˞マルン [pḁ˞takiʃigu˜tu ˞suː˜kaː ʃi˞mi˜nu s˞su˜nu ta˞maruŋ](畑仕事をする爪垢がたまる)。

シ˞ミ˜ヌ　˜ッふァ [ʃi˞mi˜nu ˜ffa] 【連】小爪。爪の付け根にある半月形の白い部分。˞爪の子」の義。シ˞ミ˜ヌ　ッ˞ふァヌ˜　ミ˞ララン˜　ナルカー　˞ドゥー˜ヌ　˞ヨー˜リ　˞ブー˜　タ˞ミ˜シ [ʃi˞mi˜nu f˞fanu˜ mi˞raran˜ naruka: ˞duː˜nu ˞joː˜ri ˞buː˜ ta˞mi˜ʃi](小爪が見えなくなると、体が弱くなっている証拠だ)。

シ˞ミ˜　ブルン [ʃi˞mi˜ buruŋ] 【連】もぎ取る。「摘み折る」の義。ユ˞ダー˜　ブ˞ラン˜ドーシ　ナルカー˞ニ˜　シ˞ミ˜　ブリバ [ju˞daː˜ bu˞ran˜doːʃi naruka:˞ni˜ ʃi˞mi˜ buriba](枝は折らないで実だけもぎ取り < 摘み折り > なさい)。

シ˞ミ˜マキ [ʃi˞mi˜maki] 【名】ひょう疽(panaritium)。爪床の化膿菌による炎症『医学沖縄語辞典』。疼痛が甚だしい。「爪負け」の義。˞ヌー˜　シタムヌユー　シ˞ミ˜マキ　˞シー˜　ヤミ　ナ˞ラ˜ヌ [˞nuː˜ ʃi̥tamunuju: ʃi˞mi˜maki ˞ʃiː˜ jami na˞ra˜nu](どういう訳か < どうしたものか >、爪の付け根が化膿して痛くてたまらない)。

シ˞ミ˜ムヌ [ʃi˞mi˜munu] 【名】煮しめ (煮染め)。大根、豆腐、南瓜、冬瓜、昆布、蒲鉾、肉類 (豚肉や魚肉、烏賊、蛸) を醤油で煮染めた料理。おでん (御田) に似るが、水分を少なめにし、蒸すように煮しめたもの。シ˞ミ˜ムー [ʃi˞mi˜muː] ともいう。ク˞ヌ˜　シ˞ミ˜ムノー　˜ダシ　シ˞キティ˜　イッ˞ケナ˜　ン˞マー˜ン [ku˞nu˜ ʃi˞mi˜muno: ˜daʃi ʃi̥˞kiti˜ ʔik˞kena˜ ʔm˞maː˜ŋ](この煮染め料理は出汁が効いて非常に美味しい)。

シ˞ミラ˜スン [ʃi˞mira˜suŋ] 【他動】湿らせる。ミ˞ジ˜　マキティ　˜ジー　シ˞ミラ˜スンティ　˞スンドゥ˜　シ˞ミラサラ˜ヌ [mi˞ʤi˜ makiti ˜ʤiː ʃi˞mira˜sunti ˞sundu˜ ʃi˞mirasara˜nu](水を撒いて地面を湿らせようとするが、湿らされない)。ナ˞チヌ˜　プ˞シキン˜マー　ミ˞ジ˜　ウティティ　シ˞ミラサバ˜ル　ヌ˞バシヤッ˜サ [na˞ʧinu˜ pu̥˞ʃikim˜maː mi˞ʤi˜ ʔutiti ʃi˞mirasaba˜ru nu˞baʃijas˜sa](夏の干した着物は水を打って湿らしたほうが < 湿らせばぞ > 伸ばしやすい < アイロンがけしやすい >)。

シ˞ミ˜ルン [ʃi˞mi˜ruŋ] 【自動】湿る。潤う。湿気を帯びる。ウ˞ビッチン˜ヌ　˜アミシェー　パ˞タキ˜ヌ　˞ジー˜ヤ　シ˞ミラ˜ヌ [ʔu˞bittʃin˜nu ˜ʔamiʃeː pḁ˞taki˜nu ˞ʤiː˜ja ʃi˞mira˜nu](これぽっちの雨では、畑の地面は湿らない < 潤わない >)。˞ウビ　˜フーカー　シ˞ミ˜ルンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　キ˞ノー˜ラー　シ˞ミリヤッ˜サ　ナ˞リ˜ブー [˜ʔubi ˜ɸuːkaː ʃi˞mi˜runti

ʔu˹mu:n˺du ki˹no:˺ra: ʃi˹mirijas˺sa na˹ri˺bu:](これだけ降ったら湿ると思うが、昨日からは湿りやすくなっている)。シ˹ミ˺ル　タ˹ム˺ノー　˹モーシグリ˺サン [ʃi˹mi˺ru ta˹mu˺no: ˹mo:ʃi guri˺saŋ](湿る薪は燃やしにくい)。シ˹ミ˺レーラー　˹ムイラヌ [ʃi˹mi˺re:ra: ˹muiranu](湿ったら燃えない)。˺クナー　ビ˹ル˺カー　˺キンナー　ア˹バ˺ヌ　シ˹ミ˺ルンダ　シ˹ミラン˺　トン　ム˹チ˺ナリ [˺kuna: bi˹ru˺ka: ˺kinna: ʔa˹ba˺nu ʃi˹mi˺runda ʃi˹miran˺tom mu˹ʧi˺nari](ここに座ったら着物に油が染みるから、染みないところに移りなさい)。ミ˹ジヌ˺　シ˹ミ˺ル　˹キン˺マー　˹カーラキ˺　グ˹リ˺サン [mi˹ʥinu˺ ʃi˹mi˺ru ˹kim˺ma: ˹ka:raki˺ gu˹ri˺saŋ](水が染みる着物は乾きにくい)。˹マー˺ビン　シ˹ミ˺レー　˺ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ʃi˹mi˺re: ˺misamunu](もっと染みればよいのに)。ミ˹ジヌ˺　シミクン [mi˹ʥinu˺ ʃimikuŋ](水が染みてくる)。

シ˹ミ˺ルン [ʃi˹mi˺ruŋ] 【他動】責める。厳しく追及する。˺シムン [˺ʃimuŋ](責む＜下二段＞) ともいう。ッ˹ふァン　コー˺シ　˹カイ˺ティ　シ˹ミラ˺リ　ナ˹ラ˺ヌ [f˹faŋ ko:˺ʃi ˹kai˺ti ʃi˹mira˺ri na˹ra˺nu](子供に菓子を買えといって責められてたまらない)。˹カーン˺カー　イ˹チンバー˺キン　シ˹ミ˺ルン˹ダー [˹ka:ŋ ˺ka: ʔi˹ʧimba:˺kiŋ ʃi˹mi˺run˹da:](買わなかったら何時までも責め立てるよ)。ウ˹ヤ˺バ　シ˹ミトゥー˺シ　˹ベー [ʔu˹ja˺ba ʃi˹mitu:˺ʃi ˹be:](親を責め続けて＜通して＞いる)。プ˹スバ˺　シ˹ミ˺ル　˺クトー　ナ˹ラヌ˺ヌ　ン˹メーマー˺　シ˹ミ˺レー　˺ミサムヌ [pu̥˹suba˺ ʃi˹mi˺ru ˺kuto: na˹ranu˺nu ʔm˹me:ma:˺ ʃi˹mi˺re: ˺misamunu](他人を責めることは出来ないが、少しは責めればよいのに)。シ˹ミ˺リ [ʃi˹mi˺ri](責めろ＜れ＞)。

シ˹ミ˺ルン [ʃi˹mi˺ruŋ] 【他動】1締める。締め付ける。「Xime,uru,eta. シメ, ムル, メタ (締・占め・ムル, めた緒を締むる) 縄や紐を締めつける.」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。フ˹ク˺ベー　シ˹ミラン˺カー　˹キン˺マー　シ˹ズ˺リ　パ˹リ˺ス [ɸu̥˹ku˺be: ʃi˹miraŋ ˺ka: ˹kim˺ma: ʃi˹ʣu˺ri pa˹ri˺su](帯びは締めないと着物はずり落ちていくよ)。ク˹ヌ˺　フ˹ク˺ベー　シ˹ミヤッ˺サンダー　˺ドゥーシ　シ˹ミ˺ルンティ　˹ベー [ku˹nu˺ ɸu̥˹ku˺be: ʃi˹mijas˺sanda: ˺du:ʃi ʃi˹mi˺runti ˹be:](この帯びは締めやすいから、自分自身で締めようとしている)。シ˹ミ˺ル　プ˹スヌ˺　ブ˹ラーン˺カー　˺ドゥーシ　シ˹ミ˺レー　˺ミサムヌ [ʃi˹mi˺ru pu̥˹sunu˺ bu˹ra:ŋ˺ka: ˺du:ʃi ʃi˹mi˺re: ˺misamunu](締める人がいなかったら自分で締めればよいのに)。˺ドゥーシ　シ˹ミ˺リ [˺du:ʃi ʃi˹mi˺ri](自分で締めろ＜れ＞)。ふさぐ。閉め (締め) る。詰める。˹スイドーヌ　コッ˺ク　シ˹ミ˺ルン [˹suido:nu kok˺ku ʃi˹mi˺ruŋ](水道のコックを閉める)。くびる。˺ヌビ　シ˹ミ˺ルン [˺nubi ʃi˹mi˺ruŋ](首を絞める)。シ˹ミラ˺ヌ [ʃi˹mira˺nu](締めない)。˹ドゥー˺ヌ　˺ヌビ　シ˹ミ˺ル　˺クトー　ス˹ナ [˹du:˺nu ˺nubi ʃi˹mi˺ru ˺ku̥to: su˹na](自分の首を絞めることはするな)。˹マー˺ビン　シ˹ミ˺レー　˺ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ʃi˹mi˺re: ˺misamunu](もっと締めればいいのに)。シ˹ミ˺リバ [ʃi˹mi˺riba](締めろよ)。2縮める。つづめる (約める)。ク˹マ˺ヌ　˹ナイ˺ヤー　ン˹メーマー˺　シ˹ミ˺リ [ku˹ma˺nu ˹nai˺ja: ʔm˹me:ma:˺ ʃi˹mi˺ri](ここの長さは少し縮めなさい＜短くせよ＞)。ちぢめる (縮める)。短くする。˹トゥー˺ジン　シ˹ミ˺ルン [˹tu:˺ʥiŋ ʃi˹mi ˺ruŋ](ランプの灯心を縮める＜小さくする＞)。

シ˹ミ˺ルン [ʃi˹mi˺ruŋ] 【他動】詰める。フ˹ク˺ルナー　シ˹ミラ˺リ　˺スコー　シ˹ミ˺リ [ɸu̥˹ku˺runa: ʃi˹mira˺ri ˺su̥ko: ʃi˹mi˺ri](袋に詰められるだけ詰めろ)。シ˹ミ˺ル　˺ムノー　ムー˹ル˺　シ˹ミリバ˺ル　˺ムティ　パ˹ラ˺リ [ʃi˹mi˺ru ˺muno: mu:˹ru˺ ʃi˹miriba˺ru ˺muti pa˹ra˺ri](詰める物は全部詰めたらば＜詰めればぞ＞持って行ける＜行かれる＞)。シ˹ミ　ヤッ˺サ　˺ムノーラ　シ˹ミ˺ルンティ　˹ベー [ʃi˹mi jas˺sa ˺muno:ra ʃi˹mi˺runti ˹be:](詰めやすい物から詰めようとしている)。シ˹ミ˺レー　˺ミサムヌ [ʃi˹mi˺re: ˺misamunu](詰めれば良いのに)。

シ˹ミ˺ルン [ʃi˹mi˺ruŋ] 【他動】攻める。攻撃する。˹タンカー˺ラ　シ˹ミ˺ルンティ　シ˹タンドゥ˺　シ˹ミララン˺タ　˹ベー˺ティ　ヤ˹カター˺ラン　シ˹ミ˺ル　˺クトゥニ　キ˹ミルタ [˹taŋka:˺ra ʃi˹mi˺runti ʃi̥˹tandu˺ ʃi˹miraran˺ta ˹be:˺ti ja˹kata:˺raŋ ʃi˹mi˺ru ˺ku̥tuni ki˹miruta](正面から攻めようとしたが、攻められなかったので、横からも攻めることに決めた)。フ˹タントンラ˺　シ˹ミ˺　プサカー　˹パー˺ク　シ˹ミ˺レー　˺ミサムヌ [ɸu̥˹tantonra˺ ʃi˹mi˺ pu̥saka: ˹pa:˺ku ʃi˹mi˺re: ˺misamunu](二箇所から攻めたければ、早く攻めれば良いのに)。˺クマーラ　シ˹ミ˺リ [˺kuma:ra ʃi˹mi˺ri](ここから攻めろ)。

シ˹ミルン [ʃi˹miruŋ] 【他動】させる (使役)。するようにしむける。することを許す。ッ˹ふァ˺マー　˺ラク　シ˹ミルンティル˺　パ˹タラクタンドゥ˺　ラク　シ˹ミララヌ [f˹fa˺ma: ˺raku ʃi˹miruntiru˺ pḁ˹taraku-tandu˺ raku ʃi˹miraranu](子孫に楽をさせようと働

いたが楽をさせられない)。˥ラク　シ˞ミティ [˥raku ʃi˞miti](楽をさせて～)。˥ラク　シ˞ミ˥　プサティル　˞ウイヌ　ガッ˥コー　ン˞ザシ˥タ [˥raku ʃi˞mi˥ pu̥satiru ˞ʔuinu gak˥koː ʔn˞ʤaʃi̥˥ta](楽をさせたくて上級学校へ出した)。˞シン˥シー　シ˞ミル˥　ク˞トゥ˥ル　ヌ˞ズミ˥　ヤ˞ル˥カー　˞パー˥ク　シ˞ミリ˥バ [˞ʃiŋ˥ʃiː ʃi˞miru˥ ku̥˞tu˥ru nu˞ʤumi˥ ja˞ru˥kaː ˞paː˥ku ʃi ˞miri˥ba](先生させることが望みなら、早くさせなさい)。˞シン˥シー　サ˞シェー˥　(シ˞メー˥＜老年層＞) ミサムヌ [˞ʃiŋ˥ʃiː sa˞ʃeː˥ (ʃi˞meː˥) misamunu](先生させたらよいのに)。ある行為をするようにしむける。˞クン˥ドー　˞ワーン˥　シ˞グトゥ˥　シ˞ミルンティ˥　ウ˞ムータン˥ドゥ　˞ワンマー˥　シ˞ミラン˥ツォー [˞kun˥doː ˞waːŋ˥ ʃi˞gutu˥ ʃi˞mirunti˥ ʔu ˞muːtan˥du ˞wammaː˥ ʃimiran˥tsoː](今度は君に仕事をさせようと思ったのだが、君にはさせないそうだ)。ドゥ˞シン˥　シ˞ミ˥　ミサカー　シ˞ミル˥　クトー　˥ナルン [du˞ʃiŋ˥ ʃi˞mi˥ misakaː ʃi˞miru˥ ku̥toː ˥naruŋ](友人にさせて良ければ、させることは出来る)。プ˞スン˥　シ˞ミレー˥　ミサムヌ [pu̥˞suŋ˥ ʃi ˞mireː˥ misamunu](他人にさせれば良いのに)。ウ˞リン˥　シ˞ミリ˥バ [ʔu˞riŋ˥ ʃi˞miri˥ba](彼にさせなさいよ)。

シ˞ミルン [ʃi˞miruŋ] 【助動】～させる。～せる。使役の助動詞。動詞の未然形につく。(i)　志向形。ク˞ヌ　ジーヤー˥　カ˞リン˥　カ˞カシミ˥ラ [ku˞nu ʤiːja˥ ka˞riŋ˥ kḁ˞kaʃimi˥ra](この字は彼に書かせよう)。(ii)　未然形。タ˞ルーン˥マー　ティ˞ガ˥メー　カ˞カシミラ˥ヌ [ta˞ruːm˥maː ti˞ga˥meː kḁ˞kaʃimira˥nu](太郎には手紙を書かせない)。˥タルーン　ティ˞ガ˥ミ　カ˞カシミラ˥バ　˞ワー˥シ　ン˞ザ˥シ　ッ˞ふィーリ [˥taruːn ti˞ga˥mi kḁ˞kaʃimira˥ba ˞waː˥ʃi ʔn ˞ʤa˥ʃi f˞fiːri](太郎に手紙を書かせたら、君で投函し＜出し＞てくれ)。(iii)　連用形。カ˞リン˥　ティ˞ガ˥ミ　カ˞カシミ˥　プサンドゥ　タ˞ナマ˥リンカヤー [ka˞rin˥ ti˞ga˥mi kḁ˞kaʃimi˥ pu̥sandu ta˞nama˥ riŋkajaː](彼に手紙を書かせたいが、頼むことが出来る＜頼まれる＞かねえ)。(iv)　終止形。カ˞リンマー˥　カ˞カシミ˥ルン [ka˞rimmaː˥ kḁ˞kaʃimi˥ ruŋ](彼には書かせる)。(v)　連体形。ティ˞ガミ˥バ　タ˞ナ˥ミ　カ˞カシミ˥ル　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [ti ˞gami˥ba ta˞na˥mi kḁ˞kaʃimi˥ru pu̥˞soː˥ bu˞raːnu](手紙を頼んで書かせる人はいない)。(vi)　連体形。˥ヌンティ　カ˞リン˥　カ˞カシミル˥ワ [˥nunti ka˞riŋ˥ kḁ˞kaʃimiru˥wa](なぜ彼に書かせるのか)。(vii)　已然形。カ˞リン˥　カ˞カシミ˥レー　˥ミサムヌ [ka˞riŋ˥ kḁ˞kaʃimi˥reː ˥misamunu](彼に書かせればよいのに)。(xii)　命令形。プ˞スン˥　カ˞カシミ˥リ [pu̥˞suŋ˥ kḁ˞kaʃimi˥ri](他人に書かせよ＜書かせれ＞)。

シ˞ム [ʃi˞mu] 【名】末。時間的に後ろの方。ス˞ム [su˞mu] ともいう。ク˞トゥシヌ˥　シ˞ムヌ　マーラ˥ナー　˞ギール　ヨイ˥ヤー　˥ナル [ku̥˞tuʃinu˥ ʃi ˞munu maːra˥naː ˞giːru joi˥jaː ˥naru](今年の末ごろになってはじめて＜いってぞ＞お祝いは出来る)。

シ˞ムガタ [ʃi˞mugata] 【名】下方。下々の者。一般庶民。百姓。˞ウイガタ [˞ʔuigata](上方。高齢の人。役人。位の高い人) の対義語。˞ウイガター˥　カナー　ビ˞サシ　オーラ˥シティ　˞ベー˥　シ˞ムガター˥　クナー　ビ˞ロー˥ラ [˞ʔuigataː˥ kanaː bi˞saʃi ʔoːra ˥ʃi̥ti ˞beː˥ ʃi˞mugataː˥ kunaː bi˞roː˥ra](上方＜高齢の方々＞は、あそこにお座りいただいて、我々＜聞き手を含む＞は此処に座りましょうよ＜座りおわそう＞)。

シ˞ムゴイ [ʃi˞mugoi] 【名】しもごえ (下肥)。人間の糞尿、豚の糞尿を肥料として使用したもの。ミ˞ジ˥ゴイ [mi˞ʤi˥goi](水肥) ともいう。˥コイタングナー　シ˞ムゴイ˥　カ˞タ˥ミティ　˞ダイ˥クニパタキナー　カ˞キ˥リ [˥koitaŋguna: ʃi˞mugui˥ ka˞ta˥miti ˞dai ˥kunipatakinaː ka˞ki˥ri](水肥桶＜肥担桶＞で下肥を担いで大根畑にかけろ)。

シ˞ムザー [ʃi˞muʤaː] 【名】下座。台所。老年層はス˞ムザー [su˞muʤaː] という。カ˞ミ˥ザー [ka˞mi˥ ʤaː](上座) の対義語。ミ˞ドゥムンケー˥ヤ　シ˞ムザー˥ナーティ　ビ˞ロー˥リバ [mi˞dumuŋke:˥ja ʃi˞ muʤaː˥naːti bi˞roː˥riba](女衆＜女性達＞は下座でお座りくださいな)。

シ˞ムザキ [ʃi˞muʤaki] 【名】遅咲き。時期遅れに咲く花。「下咲き」の義。˥アトゥサキ [˥ʔatusaki](後咲き) ともいう。シ˞ムザキヌ˥　パ˞ナ˥ヌ　˥サキ　˞ベー˥ン [ʃi˞muʤakinu˥ pa˞na˥nu ˥saki ˞beː˥ŋ](遅咲きの花が咲いている)。

シ˞ムジム [ʃi˞muʤimu] 【名】しもじも (下々) の者。庶民。˥アイブ　パ˞ナ˥シェー　シ˞ムジムヌ˥　ッ˞シェー˥　ワケー　˞ナー˥ヌ [˥ʔaibu pa˞na˥ʃeː ʃi˞ muʤimunu˥ ʃ˞ʃeː˥ wakeː ˞naː˥nu](あんな話は、庶民＜下々の者＞の知るわけがない)。

シ˞ムチ [ʃi˞mutʃi] 【名】根性。しょうね。「気持ち」の転訛したもの。˥アイブ　シ˞ムチ˥シェー　プ˞スヌ˥　マイ　˞ユーザラヌ [˥ʔaibu ʃi˞mutʃi˥ʃeː pu̥˞sunu˥

mai ˞juːʤaranu](あんな根性では他人の前には進まれ＜寄られ＞ない)。

シ˞ムナル [ʃi˞munaru] 【名】うらなり (末成り)。「しもなり＜下実り＞」『沖縄古語大辞典』。野菜や果物が盛りを過ぎて実がなること。瓜などの蔓の末に実がなるもの。「下生り」の義か。˞バシキカー˥レーラ　フ˞ナブ˥ヌ　シ˞ムナルヌ　ピッチン˥　フ˞タッ˥チン　˥ナリ　˞ベー˥バン [˞baʃi̥kikaː˥reːra ɸu˞nabu˥nu ʃi˞munarunu pittʃiŋ˥ ɸu̥˞tat˥tʃin ˥nari ˞beː˥baŋ](すっかり忘れた頃に九年母＜蜜柑＞の末成りが一つ二つ生っているわい)。

シ˞ムヌ　フン [ʃi˞munu ɸuŋ] 【連】石垣島以外の離島。「下の国」の義。˞ウイヌ　フン [˞ʔuinu ɸuŋ](石垣島及び石垣島以北の島。沖縄本島) の対義語。˞ウイヌ　フン˥ラ　シ˞ムヌ　フンバー˥キ　シ˞ラビ˥ムヌ　˞シン　オー˥レーツォー [˞ʔuinu ɸun˥ra ʃi˞munu ɸumbaː˥ki ʃi˞rabi˥munu ˞ʃiŋ ʔoː˥reːtsoː](沖縄＜上の国＞から八重山の離島＜下の国＞まで調査しに来られたそうだ)。

シ˞ムヌムラ [ʃi˞munumura] 【名】旧鳩間郵便局 (旧姓友利浩氏宅) の前の道より下 (海岸寄り) にある家々。「下の村」の義。単に˞スモー [su˞moː](下の家) ともいう。˞ウイヌムラ [˞ʔuinumura](上の村) の対義語。シ˞ムヌムラー　タイフー˥ヌ　ピンマー　˞スーカジ˥ヌ　フ˞キック˥ムン [ʃi˞munumuraː taiɸuː˥nu ˥pimmaː ˞suːkaʤi˥nu ɸu̥˞kik˥kumuŋ](下の村＜海岸の家々＞は、台風の時は潮風が吹き込むよ)。

シ˞ムル [ʃi˞muru] 【名】布の経糸 80 本の単位。プ˞ス˥パー [pu̥˞su˥paː](2 本) の˞ユーパー [˞juːpaː](4 パー) をプ˞ス˥ティー [pu̥˞su˥tiː](1 手) といい、これの˞トゥーティー [˞tuːtiː](10 ティー。10 手) がプ˞スシム˥ル [pu̥˞suʃimu˥ru](1 シムル＜締り＞の義か) という。˥バサキンヌ　ヌ˞ケー　ギューシムル˥　タティティ　ウ˞リ　オー˥ルカヤー [˥basakinnu nu˞keː gjuːʃimuru˥ tą̥titi ʔu˞ri ʔoː˥rukajaː](芭蕉布の経糸は幾シムル立てて織っておられるのかねえ)。

シ˞ムル [ʃi˞muru] 【名】1つもり。心づもり。計画。「つもり＜積もり＞」の義。˞薀、アツム、ツモル『類聚名義抄』」の義か。ウ˞ヌ˥　シ˞ムルバ　シー　ベータン˥ドゥ　パ˞ララン˥　ナリ　˞ナー˥ヌ [ʔu˞nu˥ ʃi˞muruba ʃiː beːtan˥du pa˞raran˥ nari ˞naː˥nu](そのつもり＜心算＞でいたが、行かれなくなってしまった)。˞ヨイ˥ヤー　˞ヌー˥シ　˞スー˥　シ˞ムル　シーベー˥ワ [˞jo˥jaː ˞nuː˥ʃi ˞suː˥ ʃi˞muru ʃiː beː˥wa](お祝いはどのようにする計画をしているか)。ウ˞ヌ˥　シ˞ムルバ　シーベータン˥ドゥ　ア˞ティパンチ　シーナー˥ヌ [ʔu˞nu˥ ʃi˞muruba ʃiːbeːtan˥du ʔa˞tipantʃi ʃiːnaː˥nu](その予定＜心算＞をしていたが、当て外れになって＜して＞しまった)。2見積もり。予算。˞ヤースクリ˥ヌ　シ˞ムル˥　トゥ˞ラ˥シ　˥ミリバ [˞jaːsu̥kuri˥nu ʃi˞muru˥ tu˞ra˥ʃi ˥miriba](新築＜家造り＞の見積もりを取らせてごらんよ)。

シ˞ムルン [ʃi˞muruŋ] 【他動】見積もる。計る。予測する。˞ギュー˥サ　カ˞カ˥ルユー　シ˞ムリ　ミッタ˥ヌ　シ˞ムラランシェン [˞gjuː˥sa ką̥˞ka˥ruju: ʃi˞muri mitta˥nu ʃi˞muraraŋʃeŋ](いくらかかるか、見積もってみたが見積もられなかった)。ア˞ツァ　バー˥キナ　シ˞ムルンティ˥　ウムーカー　シ˞ムル˥　クトー　˥ナルン [ʔa˞tsa baː˥kina ʃi˞murunti˥ ʔumuːkaː ʃi˞muru˥ ku̥toː ˥naruŋ](明日までに見積もろうと思えば見積もることは出来る)。˞パー˥ク　シ˞ムレー˥　ミサムヌ [˞paː˥ku ʃi˞mureː˥ misamunu](早く見積もればよいのに)。˥ドゥーシ　シ˞ムリ [˥duːʃi ʃi˞muri](自分で見積もれ)。

˥シムン [˥ʃimuŋ] 【他動】責める。「せむ (責む)＜下二段＞」。「～師歯迫山　責而雖問＜責めて問ふとも＞。万、2696」の転訛したものか。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー　サッ˥コー　プ˞ス˥　シムン [ku˞nu˥ f˞fa: sak˥koː pu̥˞su˥ ʃimuŋ](この子は非常に他人を責め立てる)。

˥シムン [˥ʃimuŋ] 【他動】1締める。˥ヌビ　˥シムン [˥nubi ˥ʃimuŋ](首を締める)。プ˞スヌ˥　ヌベー　シ˞マ˥ヌ [pu̥˞sunu˥ nubeː ʃi˞ma˥nu](他人の首は絞めない)。˥シミ　˥ミサカー　˥シム　˥クトー　˥ナルン [˥ʃimi ˥misakaː ˥ʃimu ˥ku̥toː ˥naruŋ](締めて良ければ締めることは出来る)。˥シメー　˥ミサムヌ [˥ʃimeː ˥misamunu](締めたら良いのに)。˥シミバ [˥ʃimiba](締めよ)。フ˞ク˥ビ　˥シムン [ɸu̥˞ku˥bi ˥ʃimuŋ](帯を締める)。ギッ˞ティ˥　シ˞ミラン˥ドーシ　ユ˞リーユリー˥シ　˥シミ　ッ˞ふィーリ [gitˀti˥ ʃi˞miran˥doːʃi ju˞riːjuriː˥ʃi ˥ʃimi f˞fiːri](ぎゅっと強く絞めないで緩く締めてくれ)。˥ドゥーシ　シ˞ミ˥ル　˥クトー　ナ˞ラン˥バ　˞ワー˥　シミバ [˥duːʃi ʃi˞mi˥ru ku̥toː na˞ram˥ba ˞waː˥ʃi ˥ʃimiba](自分で絞めることは出来ないので君が締めよ)。˞マー˥ビン　ギッ˞ティ˥　シメー　˥ミサムヌ [˞maː˥biŋ gitˀti˥ ʃimeː ˥misamunu](もっときつく＜ぎゅっと＞締めればよいのに)。˥ヌビ　˥シ˞ム˥ナ [˥nubi ʃi˞mu˥na](首を絞めるな)。2責める。˥アイニ　プ˞ス˥　シ˞マン˥　ブ

˩リ˥バ [˥ʔaini pu̥˩su˥ ʃi˩mam˥ bu˩ri˥ba](あんなに他人を責めるなよ＜責めなでおれよ＞)。シ˩ミトゥー˥シ [ʃi˩mi tuː˥ʃi](責め続ける＜責め通し＞)。˩サッ˥コー　プ˩ス˥　シムン [˩sak˥koː pu̥˩su˥ ʃimuŋ](非常に他人を責め立てる)。シ˩ム˥ナ [ʃi˩mu˥na](責めるな)。プ˩スバ˥　シムクトー　ナ˩ラ˥ヌ [pu̥˩suba˥ ʃimu ˥kutoː na˩ra˥nu](他人を責めることがあってはならぬ)。˥シミバ [˥ʃimiba](責めよ)。3攻める。˥マーラ　˥シミ　˥クーカヤー [˥maːra ˥ʃimi ˥kuːkajaː](何処から攻めてくるかなあ)。

˥シムン [˥ʃimuŋ] 【他動】詰める。「詰め＜下二段活用＞」の四段活用に転訛したもの。「貯・蓄タクハフ・ツム『類聚名義抄』」の転訛したもの。フ˩ク˥ルナ　シ˩マ˥リカー　˥シミ　イ˩リリ [ɸu˩ku˥runaː ʃi˩ma˥rikaː ˥ʃimi ʔi˩riri](袋に詰められたら詰めて入れろ)。フ˩ク˥ルナー　˥シムンティ　˥ウムーカー　˩マー˥ビン　˥シミバ [ɸu̥˩ku˥runa ˥ʃimunti ˥ʔumuːkaː ˩maː˥biŋ ˥ʃimiba](袋に詰めようと思うなら、もっと詰めなさい)。˩マー˥ビン　˥シメー　˥ミサムヌ [˩maː˥biŋ ˥ʃimeː ˥misamunu](もっと詰めればよいのに)。˩クン˥ナー　˥シミバ [˩kun˥naː ˥ʃimiba](これに詰めなさいよ)。

シ˩ムン [ʃi˩muŋ] 【他動】1摘む。指先や爪先で千切って取る。「捻、以二指末一豆牟＜つむ＞『新撰字鏡』」。「～夜の暇に都賣流～『万葉集　4455』」の転訛したもの。˩ナーンパー˥バ　˥ティーシ　シ˩ムンティ　ベーン˥ドゥ　シ˩マランバ˥　シ˩ミ　ッふィーリ [˩naːmpaː˥ba ˥tiːʃi ʃi˩munti beːn˥du ʃi˩maramba˥ ʃi˩mi ffiːri](菜っ葉を手で摘もうとしているが摘めない＜摘まれない＞ので、摘んでくれ)。シ˩ム˥　プソー　ア˩サカイ˥ナー　シ˩メー˥　ミサムヌ [ʃi˩mu˥ pu̥so: ʔa˩sakai˥naː ʃi˩meː˥ misamunu](摘むときは午前中＜朝陰のあるうち＞に摘めば良いのに)。˩ワー˥　ク˩リ˥シ　シ˩ミ˥バ [˩waː˥ ku˩ri˥ʃi ʃi˩mi˥ba](君はこれで摘めよ)。指先や爪先でつまみ切る。「捻、以2指末1豆牟(つむ)」『新撰字鏡』の転訛したもの。˩ナーン˥パー　シ˩ムンティ　スンドゥ˥　ウ˩ヤ˥ビヤ˩マ˥シティ　シ˩マラヌ [˩naːm˥paː ʃi˩munti sundu˥ ʔu˩ja˥bi ja˩ma˥ʃi̥ti ʃi˩maranu](菜っ葉を摘もうとするが、親指を痛めて摘めない)。カ˩タ˥ティーシ　シ˩ミ˥ミサカー　シ˩ム˥クトー　˥ナルン [kḁ˩ta˥tiːʃi ʃi˩mi˥misakaː ʃi˩mu˥ ku̥toː ˥naruŋ](片手で摘んで良ければ摘むことは出来る)。ウ˩ヤ˥ビシ　シ˩メー˥　ミサムヌ [ʔu˩ja˥biʃi ʃi˩meː˥ misamunu](親指で摘めば良いのに)。˩パー˥ク　シ˩ミ˥バ [˩paː˥ku ʃi˩mi˥ba](早く摘めよ)。2髪を刈り取る。断髪する。つめる。ガ˩マ˥ジ　˥シムン [ga˩ma˥ʤi ˥ʃimuŋ](髪を摘む。髪を刈る)。

シ˩ムン [ʃi˩muŋ] 【他動】積む。うずたかく重ねる。˩グス˥ク　シ˩ムンティ　ベーン˥ドゥ　˩タンガ˥シェー　シ˩マランバ˥　マー˩ズン˥シ　˥キー　シ˩ミ˥　ッ˩ふィーリ [˩gusu̥˥ku ʃi˩munti beːn˥du ˩taŋga˥ʃeː ʃi˩maramba˥ maː˩ʤuŋ˥ʃi ˥kiː ʃi˩mi˥ f˩fiːri](石垣を積もうとしているが一人では積めない＜積まれない＞から、一緒に来て積んでくれ)。˥ニー　シ˩ム˥　プ˩ソー　パー˥ク　シ˩メー˥　ミサムヌ [˥niː ʃi˩mu˥ pu̥˩soː paː˥ku ʃi˩meː˥ misamunu](荷物を積む人は早く積めば良いのに)。˥クマーラ　シ˩ミ [˥kumaːra ʃi˩mi](此処から積め)。うずたかく重ねる。˩グス˥ク　シ˩ムンティ　ベーン˥ドゥ　˩タンガ˥シェー　シ˩マランバ˥　マー˩ズン˥シ　˥キー　シ˩ミ˥　ッ˩ふィーリ [˩gusu̥˥ku ʃi˩munti beːn˥du ˩taŋga˥ʃeː ʃi˩maramba˥ maː˩ʤuŋ˥ʃi ˥kiː ʃi˩mi˥ f˩fiːri](石垣を積もうとしているが一人では積めない＜積まれない＞から、一緒に来て積んでくれ)。˥ニー　シ˩ム˥　プ˩ソー　パー˥ク　シ˩メー˥　ミサムヌ [˥niː ʃi˩mu˥ pu̥˩soː paː˥ku ʃi˩meː˥ misamunu](荷物を積む人は早く積めば良いのに)。˥クマーラ　シ˩ミ [˥kumaːra ʃi˩mi](此処から積め)。˥フニナー　˥ニー　シ˩ムンティ　ベーン˥ケン　カ˩ジヌ˥　フキティ　シ˩マランシェン [˥ɸuninaː ˥niː ʃi˩munti beːŋ˥keŋ ka˩ʤinu˥ ɸu̥kiti ʃi˩maraŋʃeŋ](船に荷を積もうとしていると風が吹いて積めなかった)。˥ニー　シ˩ミ˥　ミサンティ　シ˩タール˥　シ˩ムタヌ˥　ニー　˩バッ˥パイティ　シ˩ミ　ナー˥ヌ [˥niː ʃi˩mi˥ misanti ʃi̥˩taːru˥ ʃi˩mutanu˥ niː ˩bap˥paiti ʃi˩minaː˥nu](荷を積んでいいといったので積んだが、積む荷を間違えて積んでしまった)。˩マー˥ビン　シ˩メー˥　ミサムヌ [˩maː˥biŋ ʃi˩meː˥ misamunu](もっと積めば良いのに)。˩パー˥ク　シ˩ミ [˩paː˥ku ʃi˩mi](早く積め)。

˥シムン [˥ʃimuŋ] 【他動】洗う。濁りや汚れをなくする。澄ます。用法は、顔＜面、おもて＞、手、足を洗う意味に用いられる。ただし、˥シラ [˥ʃira](顔＜面、つら＞)に続く動詞は、ア˩ラウン [ʔa˩rauŋ](洗う) を用いて、˥シムン [˥ʃimuŋ](洗う。清ます) は用いない。ウ˩ム˩ティ　˥シムン [ʔu˩mu˥ti ˥ʃimun](顔を洗う)。ウ˩ム˩ティ　シ˩マ˥ヌ [ʔu˩mu˥ti ʃi˩ma˥nu](顔を洗わない)。ウ˩ム˥ティ　˥シミティ　ア˩サビ [ʔu˩mu˥ti ˥ʃimiti ʔa˩sabi](顔を洗って遊べ)。ウ˩ム˥ティ　˥シム　˥ピンマー　カシ˩ーカシー˥　シメー　˥ミサムヌ [ʔu˩mu˥

ti ˥ʃimu ˥pimma: kaʃiˈ:kaʃi:˥ ʃime: ˥misamunu](顔を洗うときは、しっかりと＜十分に＞洗えばよいのに)。ウˈム˥ティ　˥シミ [ʔuˈmu˥ti ˥ʃimi](顔を洗え)。ˈティー˥ヤ　˥シミティル　ˈイー˥ヤ　ッˈふート ダー [ˈtiː˥ja ˥ʃimitiru ˈʔiː˥ja fˈfuːꜜdaː](手は洗ってから＜ぞ＞飯は食うのだよ)。ウˈム˥ティ　˥シムンティ　ˈスーヌンドゥ˥　シˈマラ˥ヌ　[ʔuˈmu˥ti ˥ʃimunti ˈsuːnundu˥ ʃiˈmara˥nu](顔を洗おうとするのだが、洗えない)。ウˈム˥ティ　シˈミ˥プサカー　˥ドゥーシ　˥シミバ [ʔuˈmu˥ti ʃiˈmi˥pu̥saka: ˥duːʃi ˥ʃimiba](顔を洗いたければ自分で洗えよ)。˥ティー　˥シム　˥ピンマー　アザˈケーアザケー˥シ　˥シメー　˥ミサムヌ [˥ti: ˥ʃimu ˥pimma: ʔadʑaˈke: ʔadʑakeː˥ʃi ˥ʃime: ˥misamunu](手を洗うときは、綺麗に＜清潔に＞洗えばよいのに)。

˥シムン **[˥ʃimuŋ]** 【自動】済む。終わる。ウˈワールンとも言う。˥クビシ　˥シムンカヤーティ　ウˈムータン˥ドゥ　シˈマン˥ティバーヤ [˥kubiʃi ˥ʃimuŋkaja:ti ʔuˈmu:tan˥du ʃiˈman˥tiba:ja](これで済むと思ったが済まないそうだ)。ˈフントー˥ヤ　˥ウビシ　˥シム　˥クトー　ˈナーヌ˥ヌ　ッˈサン˥ケンナー　˥シミ　ˈナーン˥ワーˈヌー [ˈɸunto:˥ja ˥ʔubiʃi ˥ʃimu˥ ku̥to: ˈna:nu˥nu sˈsaŋ˥keŋ ˥ʃimi ˈna:ŋ˥waːˈnu:](本当は、それで済むことはないが、知らぬうちに済んでしまったではないか)。˥ウビシ　˥シメー　˥ミサムヌ [˥ʔubiʃi ˥ʃime: ˥misamunu](それで済めば良いのに)。

˥シムン **[˥ʃimuŋ]** 【自動】澄む。透明になる。濁りがなくなる。ヤˈナンゴー˥リミジェー　ユール˥ヌ　ウˈチ˥ナー　˥シムンティ　シˈタンドゥ˥　マˈダ˥　シˈマン˥バ　シˈミ˥キスンケン　˥マティ [jaˈnaŋgo:ri˥miʤe:miʤe: ˈju:ru˥nu ʔuˈʧi˥na: ˥ʃimunti ʃi̥ˈtandu˥ maˈda˥ ʃiˈmam˥ba ʃiˈmi˥ki̥suŋkem ˥mati](濁り水は夜のうちに澄むといったが、まだ澄まないので、澄みきるまで待て)。ˈオーパ˥ヤー　˥シムクトー　ˈナーヌ˥ヌ　ˈパー˥ク　˥シメー　˥ミサムヌ [ˈʔo:pa˥ja: ˥ʃimuku̥to: ˈna:nu˥nu ˈpaː˥ku ˥ʃime: ˥misamunu](そんなに早く澄むことはないが、早く澄めばいいのに)。

シˈモー˥ルン **[ʃiˈmoː˥ruŋ]** 【他動】1させなさる。せなさる。使役動詞シˈミルン [ʃiˈmiruŋ](させる) の尊敬語。クˈヌ˥　シˈグトー˥　バン　シˈモー˥ルンティ　ウˈムータン˥ドゥ　˥ヌンティ　シˈモーラン˥カヤー [kuˈnu˥ ʃiˈguto:˥ baŋ ʃiˈmo:˥runti ʔuˈmu:tan˥du ˥nunti ʃiˈmo:raŋ˥kaja:](この仕事は私にさせなさると思ったのに、どうしてさせなさらないのかねえ)。カˈリンマー˥　シˈモー˥リ　˥ミサンドゥ　フˈカ˥ヌ　プˈスンナー˥ネー　シˈモー˥ル　˥クトー　ナˈラ˥ヌ [kaˈrimma:˥ ʃiˈmo:˥ri ˥misandu ɸu̥ˈka˥nu puˈsunna:˥ne: ʃiˈmo:˥ru ˥ku̥to: naˈra˥nu](彼にはさせなさっても良いけれど、他の人にはさせなさることはなりません)。˥バン　シˈモー˥レー　˥ミサムヌ [˥baŋ ʃiˈmo:˥re: ˥misamunu](私にさせなさったらよいですのに)。ヤーˈディン˥　バン　シˈモー˥リ [ja:ˈdim˥ baŋ ʃiˈmo:˥ri](どうしても＜必ず＞私にさせなさってください)。2使役の助動詞-シˈミルン [-ʃiˈmirun](せる。させる＜しめる＞) の尊敬語。動詞の未然形に下接続して尊敬の意を表す。カˈカシ˥モーリ [kḁˈkaʃi˥mo:ri](書かせてください)。マˈタシ˥モーラヌ [maˈtaʃi˥mo:ranu](待たせなさらない)。トゥˈラシ˥モーリ　˥ミサン [tuˈraʃi˥mo:ri ˥misaŋ](取らさせなさってよろしゅうございます)。アˈツァバー˥キナ　ˈカーシモー˥ル　˥クトゥ [ʔaˈtsaba:˥kina ˈkaːʃimo:˥ru ˥ku̥tu](明日までに買わさせなさること)。ˈカーシモー˥レー　˥ミサムヌ [ˈkaːʃimo:˥re: ˥misamunu](買わさせなされたらいいのに)。ヤーˈディン˥　カˈカシ˥モーリ [jaːˈdiŋ˥ kḁˈkaʃi˥mo:ri](きっと＜必ず＞書かせなさって下さい)。

ジャˈカジャカ **[ʤaˈkaʤaka]** 【副】じゃかじゃか。ぬかるんだ道や水溜りの道を歩く際の様子。擬態語。アˈミ˥ヌ　˥フーカー　˥ミチナー　ミˈジヌ˥　タˈマリティ˥　ジャˈカジャカ˥シ　ミˈジヌ˥　パニティ　アˈラカラ˥ヌ [ʔaˈmi˥nu ˥ɸu:ka: ˥miʧina: miˈʤinu˥ taˈmariti˥ ʤaˈkaʤaka˥ʃi miˈʤinu˥ paniti ʔaˈrakara˥nu](雨が降ると道に水が溜まってジャカジャカと水が跳ねて歩けない)。

˥シュー **[˥ʃu:]** 【名】つゆ (露)。サˈキバ˥　ヌミティ　˥シューナ　ウˈタ˥リ　ニˈビ　ベー˥ルカー　ˈヤン˥マイ　イˈリルン˥ティˈダー [sḁˈkiba˥ numiti ˥ʃu:na ʔuˈta˥ri niˈbi beː˥ruka: ˈjam˥mai ʔiˈrirun˥tiˈda:](酒を飲んで夜露に打たれて寝ていると病を体に取り込む＜病気になる＞そうだよ)。ムˈカ˥シェー　アˈサシューバ˥　フˈメー˥ティル　パˈタ˥ケー　ˈパッタ˥ル [muˈka˥ʃe: ʔaˈsaʃu:ba˥ ɸuˈmeː˥tiru pḁˈta˥keː ˈpatta˥ru](昔は早朝に朝露を踏みながら畑へ行ったものだ)。

˥ジュー **[˥ʤu:]** 【名】十。数の名。普通は、ˈトゥー [ˈtu:](十。拾) という。ˈジュー˥イチ [ˈʤu:˥itʃi](十一)。ˈジュー˥ニ [ˈʤu:˥ni](十二)。

ˈジュー˥イチンガチ **[ˈʤu:˥ʔitʃiŋgatʃi]** 【名】十一月。シˈマッサ˥ロー　ˈジュー˥イチンガチナ　アˈタル˥　ト

ゥシン　˞アッ˜タン [ʃi˞massa˜ro: ˞ʤu:˜ʔitʃiŋgatʃina ʔa˞taru˜ tu̥ʃiŋ ˞ʔat˜taŋ](シマッサル < 島クサラシ > 祭は、十一月に当たる年もあった)。

˞ジュー˜イチングゥチ [˞ʤu:˜ʔitʃiŋgwatʃi] 【名】十一月。˞ヨイ˜ヤー　˞ジュー˜イチングゥチナー　˞スー˜　ス˞コールバ　シーベー [˞joi˜ja: ˞ʤu:˜ʔitʃiŋgwatʃi-na: ˞su:˜ su̥˞ko:ruba ʃi:be:](お祝いは十一月にする準備をしている)。

˞シューカク [˞sju:kaku] 【名】収穫。共通語からの借用語。普通は、˞マイカリ [˞maikari](稲刈り) という。稲刈りなどの共同作業を、˜バコー [˜bako:](共同作業) という。共同作業員を、バ˞コーシン˜カ [ba ˞ko:siŋ˜ka](共同作業員) という。収穫は短期日のうちに行う必要があり、多くの人手を要することから˜バコーが行われた。ク˞トゥシェー˜　ム˞チマイヌ　シューカコー　ゴー˜ラタン [ku̥˞tuʃe:˜ mu˞tʃimainu ʃu:kako: go:˜rataŋ](今年は糯米の収穫が多かったよ)。

˞ジュー˜サンニンキ [˞ʤu:˜sanniŋki]【名】十三年忌。死後十三年目の法事。˞ジュー˜サンニンケーラー　ウ˞ブソッ˜コーティ　ア˞ザリブー [˞ʤu:˜sanniŋke:ra: ʔu˞busok˜ko:ti ʔa˞ʤari bu:](十三年忌からは大きな法事 < 大焼香 > といわれている)。˞オーパ˜ヤー　˞ジュー˜サンニンキ　ナ˞リス˜　メー [˞ʔo:pa˜ja: ˞ʤu:˜sanniŋki na˞risu˜ me:](こんなに早く < 早くも > 十三年忌を迎えるのか < 十三年忌になるのか >、もう)。

˞ジューサン˜ヌ　˜ヨイ [˞ʤu:san˜nu ˜joi] 【連】十三のお祝い。˞ソーニヨイ [˞so:nijoi](生年祝い) の一つ。娘が十三歳になった誕生日に執り行う生年祝い。ミ˞ドーン˜ッふァヌ　˞ジューサン˜ヌ　˞ヨイ˜ヤー　˞ヤーム˜トゥナー　˞スー　ソーニヨイヌ˜　ウ˞ワーリ˜　ヤ˞ルンダ˜　ア˞ガムチン˜　ス˞ク˜リ　ア˞ガイーン˜　バ˞カシル˜　ヨイ　˞ソーッ˜タ [mi˞do:ŋ ˜ffanu ˞ʤu:san˜nu ˞joi˜ja: ˞ja:mu˜tuna ˞su: so:nijoinu ˜ ʔu˞wa:ri˜ ja˞runda˜ ʔa˞gamutʃin˜ su̥˞ku˜ri ʔa˞gaʔi:m ˜ ba˞kaʃiru˜ joi ˞so:t˜ta](女の子の十三の生年祝いは、実家でする生年祝いの最後だから、赤い餅も作り、赤飯も炊いてお祝いをされた)。

˞ジュー˜シチハチ [˞ʤu:˜ʃi̥tʃihatʃi] 【名】十七、八歳。娘盛り。˞ジュー˜シチハチェー　パ˞ナ˜ヌ　サ˞カリ˜ティ　ア˞ザリ　ブー [˞ʤu:˜ʃi̥tʃihatʃe: pa˞na˜nu sḁ˞kari˜ti ʔa˞ʤari bu:](十七、八歳は娘盛り < 花の盛り > といわれている)。

˞ジュー˜ニン [˞ʤu:˜niŋ] 【名】十年。ク˞ヌ˜　シ˞グトゥ　シェーラ　ジュー˜ニン　ナ˞リ˜スバン˞ナー [ku˞nu˜ ʃi˞gutu ʃe:ra ʤu:˜nin na˞ri˜suban˞na:](この仕事をしてから十年になんるんだねえ)。プ˞ス˜トゥシ [pu̥˞su˜tuʃi](ひととせ。一年)、フ˞タトゥシ [ɸu̥ ˞tatuʃi](二年)。˞ミートゥシ [˞mi:tuʃi](みとせ。三年)、˞ユートゥシ [˞ju:tuʃi](四年)、イ˞チ˜トゥシ [ʔi˞ tʃi˜tu̥ʃi](五年)、˞ムートゥシ [˞mu:tuʃi](六年)、ナ˞ナ˜トゥシ [na˞na˜tu̥ʃi](七年)、˞ヤートゥシ [˞ja:tuʃi](八年)、ク˞ヌ˜トゥシ [ku˞nu˜tu̥ʃi](九年)、その次からは助数詞˜ニン [˜niŋ](年) を用いて数える。

˞ジュー˜ニン [˞ʤu:˜niŋ] 【名】十人。プ˞ス˜ル [pu̥˞su˜ ru](一人)。ル [ru](一名。人の数がひとつ)。フ˞タール [ɸu̥˞ta:ru](二人)。ミ˞ツァール [mi˞tsa:ru](三人)。ユ˞タール [ju˞ta:ru](四人)。五人からは助数詞˞ニン [niŋ](人) を用いる。グ˞ニン [gu˞niŋ](五人)。ル˞ク˜ニン [ru˞ku˜niŋ](六人)。シ˞チ˜ニン [ʃi̥˞tʃi˜niŋ](七人)。ハ˞チ˜ニン [hḁ˞tʃi˜niŋ](八人)。ク˞ニン [ku˞niŋ](九人)。ク˞ヌ˜　プ˞ソー　タンガ˜シ　˞ジューニンガキ˜ヌ　シ˞グトゥ　スン [ku˞nu˜ pu̥˞so: taŋga˜ʃi ˞ʤu:niŋ-gaki˜nu ʃi˞gutu suŋ](この人は一人で十人分 < 十人掛け > の仕事をする)。

˞ジューニンガ˜キ [˞ʤu:niŋga˜ki] 【名】十人力。十人に匹敵すること。「十人掛け」の義。ウ˞レー˜　グ˞タイ˜ヌ　˜カナイティ　˞タンガ˜シ　˞ジューニンガキ˜ヌ　シ˞グトー　シースバ˜　フ˞カ˜ヌ　プ˞ソー˜　ミサンヨー [ʔu˞re:˜ gu˞tai˜nu ˜kanaiti ˞taŋga ˜ʃi ˞ʤu:niŋgaki˜nu ʃi˞gutu ʃi:suba˜ ɸu̥˞ka˜nu pu̥˞so:˜ misaŋjo:](彼は体格もがっちりして < 叶って > いて、一人で十人分の < 十人掛けの > 仕事をするから、他の人は頼まなくてもいいよ < いいよ >)。

˞ジュー˜ニングゥチ [˞ʤu:˜niŋgwatʃi]【名】十二月。若年層は、˞ジュー˜ニンガチ [˞ʤu:˜niŋgatʃi](十二月) という。˞ジュー˜ニングゥチナーヤ　˞ニンズーヌ　ニンガイ˜ヌ　ス˞ビニンガイバ　ウイヌ˜ウガンナーティ　˞ソー˜ル [˞ʤu:˜niŋgwatʃina:ja ˞nindʤu:nu niŋ-gai˜nu su˞biniŋgaiba ʔuinu˜ʔuganna:ti ˞so:˜ru](十二月には年中の祈願の願解き < 終尾。お礼 > の祈願が上のお願 < 友利御嶽 > でなされる)。

˞シューヌール [˞ʃu:nu:ru] 【名】朱塗り。お膳や重箱の朱塗り。祝儀用のお膳や重箱。˜ヨイナー　シゥ˞カウ　ジントゥ˜　ジ˞ブ˜コー　イ˞サナキプソー　シューヌールバ˜　シゥ˞カイオーッ˜タ [˜joina: si̥ ˞kau ʤintu˜ ʤi˞bu˜ko: ʔi˞sanakipu̥so: ʃu:nu:ruba˜ si̥˞ kaijo:t˜ta](お祝いに使用するお膳と重箱は、石垣島の人は朱塗りの膳と重箱を使われた)。

˞シュー˜ヌ　ウ˞リ˜ルン [˞ʃuː˜nu ʔu˞ri˜ruŋ] 【連】露が降りる。ナ˞チェー　シュー˜ヌ　ウ˞リ˜ルン [na˞ʧeː ʃuː˜nu ʔu˞ri˜ruŋ](夏は露が降りる)。

ジュー˞ブン [ʤuː˞buŋ] 【副】十分。充分。不足がないさま。シ˞グトゥンツァン˜　ジュー˞ブン < プ˞スナミ >　シーユーサムティ˜　ティ˞マ˜ヌ　˞イーラ˜リン˞トゥー [ʃi˞gutuntsan˜ ʤuː˞buŋ < pu˞sunami > ʃiːjuːsamuti˜ ti˞ma˜nu ˞ʔiːra˜rin˞tuː](仕事さえも充分 < 人並 > になしえないで、手間賃が貰えるものか)。

˞ジュームン˜ジ [˞ʤuːmun˜ʤi] 【名】十文字。˞ユシキ˜ヌ　˜フキシ　˞サン˜バ　˞ジュームン˜ジニ　ム˞スビティ˜　パ˞タ˜キナー　˜ッシバ [˞juʃi̥ki˜nu ˜ɸu̥kiʃi ˞sam˜ba ˞ʤuːmun˜ʤini mu˞subiti˜ pḁ˞ta˜kinaː ˜ʃʃiba](ススキの茎でサン < 魔除けの標 > を十文字に結んで畑に挿しておきなさい)。

˜シュリ [˜ʃuri] 【名】(地名) 首里。琉球王国の首都。首里方言では˞シュイ [˞ʃui](首里) という。ウシュン˞ガナ˜シェーマイ [ʔuʃuŋ˞gana˜ʃeːmai](国王様) の居城のあるところとして尊称された。ウシュン˞ガナ˜シェーマイヌ　˞オー˜ル　˜トンル　˜シュリティ　ア˞ズ [ʔuʃuŋ˞gana˜ʃeːmainu ˞oː˜ru ˜tonru ˜ʃuriti ʔa˞ʤu](国王様のいらっしゃるところを < ぞ > 首里という)。

シュ˞リグゥー˜イズ [ʃu˞rigwaː˜ʔiʤu] 【名】(動) 魚の名。和名、ミナミフトスジイシモチ (体長約 8 センチ)。食用としては漁獲しない。観賞用熱帯魚。

˞ジョー [˞ʤoː] 【名】愛情。なさけ (情け)。人情。ウ˞ヌ˜　プ˞ソー˜　イッ˞ケン　ジョーヌ˜　フ˞カー˜　ア˞ローッ˜タン [ʔu˞nu˜ pu̥˞soː˜ ʔik˞ken ʤoːnu˜ ɸu̥˞kaː˜ ʔa˞roːt˜taŋ](その人は非常に情の深い人で < 情が深く > あられた)。ウ˞ヌ　プソー　ジョーヌ　ナー˜ヌ [ʔu˞nu pu̥soː ʤoːnu naː˜nu](その人は愛情がない)。˞ジョーヌ˜　フ˞カー˜ン [˞ʤoːnu˜ ɸu̥˞kaː˜ŋ](情が深い)。

˞ショー˜カン [˞ʃoː˜kaŋ] 【名】小寒。二十四節気の一つ。太陽暦の 1 月 6 日頃。寒さの厳しい時期。˞ショーカン˜ヌ　˜シチ　˞ペー˜レーン [˞ʃoːkan˜nu ˜ʃi̥ʧi ˞peː˜reːŋ](小寒の季節に入った)。

˞ショー˜ジキ [˞ʃoː˜ʤiki] 【名】正直。標準語からの借用語。老年層は、マ˞クトゥー [ma˞kutuː](真。誠) という。˞ショージ˜ケー　˞イッショーヌ˜　タ˞カ˜ラティ　ナ˞ラウ˜タ [˞ʃoːʤi˜keː ʔiʃʃoːnu˜ tḁ˞ka˜rati na˞rau˜ta](正直は一生の宝と習った)。

˞ショージキ˜ムヌ [˞ʃoːʤiki˜munu] 【名】正直者。ウ˞リヌ˜　ヨーヌ　˞ショージキ˜ムノー　ブ˞ラーヌ [ʔu˞rinu˜ joːnu ˞ʃoːʤiki˜munoː bu˞raːnu](彼のような正直者はいない)。

˞ジョー˜トゥ [˞ʤoː˜tu] 【名】上等。上質。立派なもの。老年層は、˞ゾー˜トゥ [˞ʤoː˜tu](上等。立派なもの) という。˞ジョートゥ˜ヌ　˜ムノーラ　イ˞ラ˜ビ　˜トゥリバ [˞ʤoːtu˜nu ˜munoːra ʔi˞ra˜bi ˜turiba](上等 < 上質 > の物から選んで取りなさいよ)。

˞ジョーフ [˞ʤoːɸu] 【名】上布。˜ブー [˜buː](苧麻)、˜バサ [˜basa](芭蕉) の細い糸で織り上げた上布。女性に課せられた人頭税。ム˞カ˜シプソー　˞ジョーフバ　グイ˜フゾーノティ　ア˞ゾーッ˜タツォー [mu˞ka ˜ʃipu̥soː ˞ʤoːɸuba gui˜ɸuʤoːnoːti ʔa˞ʤoːt˜tatsoː](昔の人は、上布を御用布上納と言われたそうだ)。

˜ジョーブクル [˜ʤoːbukuru] 【名】封筒。標準語からの借用語か。「状袋」の転訛。˜ジョーブクル　˞カイ˜　キー　ティ˞ガ˜ミ　ン˞ザ˜シ [˜ʤoːbukuru ˞kai˜ kiː ti˞ga˜mi ʔn˞ʤa˜ʃi](封筒を買ってきて手紙を出しなさい)。

˞ジョー˜マイ [˞ʤoː˜mai] 【名】錠。標準語からの借用語か。˜カギ　˞マーシティ　ジョー˜マイ　˞パンツァシ˜バ [˜kagi ˞maːʃi̥ti ʤoː˜mai ˞pantsaʃi˜ba](鍵を回して錠を外しなさいよ)。

˞ジョームチ [˞ʤoːmuʧi] 【名】人情家。人情のあつい人。「情・持ち」の義。˜アブジェー　˞ジョームチ˜　ヤ˞ロー˜レーティ　イッ˞ケナ˜　プ˞スタシキ　ソーッ˜タンツォー [˜ʔabuʤeː ˞ʤoːmuʧi˜ ja˞roː˜reːti ʔik˞kena˜ pu̥˞sutaʃi̥ki soːt˜tantsoː](お祖父さんは人情家であられたので、たくさん人助けをされたそうだ)。

ジョームヌ [˞ʤoː˜munu] 【名】上物。上等の物。品質の高いもの。老年層は、˞ゾー˜ムヌ [˞ʤoː˜munu](上物) という。ユ˞ヌシナ˜ムヌナーン　˞ジョームヌ˜トゥ　˞ソーベームヌヌ˜　アンダ　˜ユー　イ˞ラ˜ビティ　˞カイ˜ヨー [ju˞nuʃina˜munununaːn ˞ʤoːmunu˜tu ˞soːbeːmununu˜ ʔanda ˜juː ʔi˞ra˜biti ˞kai˜joː](同じ品物にも上物と質の悪い物 < 商売物 > があるから、よく選んで買いなさいよ)。

˜シラ [˜ʃira] 【名】顔。「つら < 面。頬 >」の義。「頬、和名　豆良 < つら >、一云保々 < ほほ >、面旁目下也『和名抄』」の転訛したもの。˜シラ [˜ʃira](つら < 面、頬、顔 >) は顔の側面を指す下品な表現。˜シラ　˜ウトゥン [˜ʃira ˜ʔutuŋ](横っ面を張る)、˜シラフクラー [˜ʃiraɸukuraː](脹れっ面)。˜シラ　バ˞ルン [˜ʃira ba˞ruŋ](恥をかかせる < 面を割る >)。˜シラ　˜

ムティ　アˈラカラ˥ヌ [˥ʃira ˥muti ʔaˈrakara˥nu](顔むけ出来ない＜面を持って歩けない＞)。˥シラ　ユˈグスン [˥ʃira juˈgusuŋ](顔を汚す。不名誉になる)。ウˈム˥ティ [ʔuˈmu˥ti](顔。ウムティ＜面＞) は上品な表現。ウˈム˥ティ　˥シムン [ʔuˈmu˥ti ˥ʃimuŋ](顔を洗う＜澄ませる。清める＞) という。˥シラ　アˈライテー˥　アˈザリンドゥ˥　シラ　˥シミテー　アˈザラヌ　ウˈム˥ティ　˥シミテー　アˈザリン [˥ʃira ʔaˈraite:˥ ʔaˈʤarindu˥ ʃira ˥ʃimite: ʔaˈʤarunu ʔuˈmu ˥ti ˥ʃimite: ʔaˈʤariŋ](面(シラ)＜顔＞を洗えとは言えるが、面(シラ)＜顔＞を澄(シミ)ませよ＜洗え＞とは言えない。面(オモテ)を洗えとは言える)。

˥シラ [˥ʃira] 【名】お産。産室。うぶや (産屋)。産室は二番裏座に設えるのが普通であった。床を切って˥ジルー [˥ʤiru:](地炉) を造り、部屋の回りをシˈビナージナ [ʃiˈbina:ʤina](注連縄) を張り巡らして悪霊や不浄の侵入を防いだ。˥シラプス [˥ʃirapu̥su](産婦)。˥シラタムヌ [˥ʃiratamunu](お産用の薪。産屋の地炉に焚く薪)。˥シラキン [˥ʃirakiŋ](産衣)。˥シラヤー [˥ʃiraja:](お産のあった家)。˥シラン　カローˈカロー˥シ　ウˈチナ˥ソーレーンティ　シˈキティ˥　サˈニヤ　シーベートダー [˥ʃiraŋ karo:ˈkaro:˥ʃi ʔuˈʧina ˥so:re:nti ʃi̥ˈkiti˥ saˈnija ʃi:be:ɦda:](お産も安産＜軽くうち済まされた＞と聞いて喜んでいますよ)。

シˈラ [ʃiˈra] 【名】いなむら (稲叢)。刈り取った稲を脱穀せず、藁のついたままシラに積み上げて保存するもの。家の前や後ろに、約 2 メートル四方に高さ約 50 センチの礎石を据え、桁を架け渡して竹で床を編み、藁筵を敷いて、その上に稲穂を中央に向け、稲藁を外側に向けて高く円錐形に積み上げる。最上部は茅で作ったトゥˈマー [tuˈma:](苫。「苫、度万＜とま＞」『和名抄』の転訛) で作ったこも (薦) で巻きながら葺きあげ、頂上はシˈトゥ˥ベー [ʃi̥ˈtu˥be:](茅の束で造った帽子状の覆い) を被せ、苫が飛ばないよう、トウズルモドキや藁縄で網状に巻いて固定した。必要に応じて稲藁を一束一束抜き取り、脱穀して精米した。ˈザイレーマイ˥ヤー　シˈラ˥　シˈミティル˥　タˈブイオーッタ˥ヌ　シゥˈカイオー˥ル　˥ピンマー　シˈラー˥ラ　˥ヌイ　ウˈラ˥シティ　ˈマイ˥　サイ　˥カティティ　ッサイˈオーッ˥タ [ˈʤaire:mai˥ja: ʃiˈra˥ ʃiˈmitiru˥ ta ˈbuio:tta˥nu si̥ˈkaio:ˈru ˥pimma: ʃiˈra:ˈra ˥nui ʔuˈra˥ ʃi̥ti ˈmai˥ sai ˥kḁtiti ssaiˈʔo:t˥ta](在来種の赤米は稲叢を積んで保存されたが、使われる時には稲叢から抜き下ろして稲扱きをし、臼で搗いて芒を落としてから搗き臼で搗かれた)。ウˈブ˥シラ　シˈムン [ʔuˈbu˥ʃira ʃiˈmuŋ](大きないなむら＜稲叢＞を積む)。シˈラー˥マ [ʃiˈra:˥ma](小さな稲叢)。

シˈラーシ˥ムヌ [ʃiˈra:ʃi˥munu] 【名】散らかすもの。散乱させるもの。家の中に雑物を雑然と置いて全体を掻き乱すもの。ˈヤーシラーシ˥ムノー　ムーˈル˥　トゥリ　シˈティリ [ˈja:ʃira:ʃi˥ muno: mu:ˈru˥ turi ʃi̥ˈtiri](家の中を散らかすものは全部取り去って捨てなさい)。

シラーˈシラー˥シ [ʃira:ˈʃira:˥ʃi] 【副】1白白と。夜が次第に明けて白むさま。シラーˈシラー˥シ　ˈユー˥ヤ　ガˈリ˥　ケーン [ʃira:ˈʃira:˥ʃi ˈju:˥ja gaˈri˥ ke:ŋ](白白と夜が明けてきた)。2かすかに。ぼんやりと。ヤˈラ˥ビ　ˈシェーン˥ケンヌ　˥クトー　シラーˈシラー˥シ　ウˈボー˥リ　ˈブン [jaˈra˥bi ˈʃe:ŋ˥kennu ˥kuto: ʃira:ˈʃira:˥ʃi ʔuˈbo:˥ri ˈbuŋ](幼少の＜子供の＞頃のことはかすかに覚えて＜記憶されて＞いる)。うっすら。かすかに。ほのかに。˥アッパー　˥クトー　シラーˈシラー˥シ　˥ウブイ　ˈブン [˥ʔappa: ˥ku̥to: ʃira:ˈʃira:˥ʃi ˥ʔubui ˈbuŋ](お祖母さんのことはうっすらと覚えている)。

シˈラー˥スン [ʃiˈra:˥suŋ] 【他動】散らかす。散らす。乱雑にする。ミˈナ˥カナー　フˈクジ　シˈラー˥シ　˥シケー [miˈna˥kana: ɸuˈku˥ʤi ʃiˈra:˥ʃi ʃi̥ke:](庭に塵を散らかしてある)。シˈラー˥スンカヤーティ　ウˈムータン˥ドゥ　シˈラーサン˥ドーシ　アˈサビ˥　ブˈレー˥バン [ʃiˈra:˥suŋkaja:ti ʔuˈmu:tan˥du ʃiˈra:san˥ do:ʃi ʔaˈsabi˥ buˈre:˥baŋ](散らすだろうかと思ったが、散らさずに遊んでいたようだ)。シˈラー˥ス　˥プソー　ウˈムイ˥キシ　シˈラー˥シェー　˥ミサムヌ [ʃiˈra:˥su ˥pu̥so: ʔuˈmui˥ki̥ʃi ʃiˈra:˥ʃe: ˥misamunu](散らかかすときは思い切って散らかせばよいのに)。ˈマー˥ビン　シˈラー˥シ [ˈma:˥biŋ ʃiˈra:˥ʃi](もっと散らかせ)。ヤˈラ˥ベー　ムˈタビ˥ムヌシ　ˈヤーン˥ナカー　シˈラー˥スンダ　シˈラーサン˥ヨーニ　ミˈナ˥カナー　アˈサバシ [jaˈra˥be: muˈtabi˥munuʃi ˈja:n˥naka: ʃiˈra:˥sunda ʃiˈra:saŋ˥jo:ni miˈna˥kana: ʔa ˈsabaʃi](子供は玩具で部屋＜家の中＞を散らかすから、散らかさないように庭で遊ばせなさい)。シˈラー˥ス　ッˈふァー˥　シˈラー˥シ　˥ミサン [ʃiˈra:˥su fˈfa:˥ ʃiˈra:˥ʃi ˥misaŋ](散らかす子は散らしても良い)。ˈマー˥ビン　シˈラー˥シェー　˥ミサムヌ [ˈma:˥biŋ ʃiˈra:˥ʃe: ˥misamunu](もっと散らせば良いのに)。˥ヤー　シˈラー˥スン [˥ja: ʃiˈra:˥suŋ](家の中を散らかす)。ˈザシ˥キ　シˈラー˥スン [ˈʤaʃi̥˥ki

ʃiˡraːˡsuŋ](座敷を散らす)。シ˩ラーサン˥ドーシ　アˡサビ [ʃiˡraːsanˡdoːʃi ʔaˡsabi](散らかさないで遊べ)。˥クマー　シ˩ラー˥シ　˥ミサン [˥kuma: ʃiˡraːˡʃi ˥misaŋ](此処は散らかしてもいい)。˥クマー　シ˩ラー˥ス　˥クトー　ナˡラ˥ヌ [˥kuma: ʃiˡraːˡsu ˥kṵto: naˡraˡnu](此処は散らすことは出来ない)。

シˡラースン [ʃiˡraːsuŋ] 【他動】孵化させる。生み出させる。新生させる。新任の司の香炉を新しく作ることにいう。ムˡトゥ˥ウガンヌ　シˡルウチヌ˥　コーˡシェー˥マイシェーラ　イˡラ˥ビ　カˡタ˥ミ　ウˡラ˥シ　ˡミーサカサヌ　ヤー˥ヌ　シˡルヌ˥　ナˡカ˥ナーティル　ˡコー˥ロー　クˡサイオーッ˥タ [muˡtuʔuganˡnu ʃiˡruʔutʃinu˥ koːˡʃeːˡmaʔiʃeːra ʔiˡraˡbi kạˡtaˡmi ʔuˡraˡʃi ˡmiːsakasanu jaːˡnu ʃiˡrunu˥ naˡkaˡnaːtiru ˡkoːˡroː kṵˡsaiʔoːtˡta](本御嶽 < 友利御嶽 > の境内の砂岩の中から選んで担ぎ下ろして新しい司の家の屋敷内に拵えたシˡル [ʃiˡru]< 神聖な空間の代 > の中で新司の香炉は拵えなされた)。　シダスン　→　シラースン　→　ッサースン　→　ˡサースン [ˡsaːsuŋ]((i)　船を新造する。(ii)　衣服を新調する) と変化した。

˥シラー　ˡナールン [˥ʃiraː ˡnaːruŋ] 【連】顔 (面) を出す。顔を突き出す。˥トゥキドゥケー　˥シラー　ˡナールンティ˥　ウˡムーン˥ドゥ　ˡパンタサ˥ヌ　˥シラン　ˡナーララヌ [tṵˡkiduˡkeː ˥ʃiraː ˡnaːrunti˥ ʔuˡmuːnˡdu ˡpantasaˡnu ˥ʃiran ˡnaːraranu](時々は顔を出そうと思うが、忙しくて顔も出せない)。

˥シラー　˥ムティ　ˡアーカラヌ [˥ʃiraː ˥muti ˡʔaːkaraˡnu] 【連】顔向けできない。顔向けならない。˥アイブ　クˡトゥ˥バ　ˡシーテー˥　シキンラ　˥シラ　˥ムティ　ˡアーカラ˥ヌ < アˡラカラ˥ヌ >[˥ʔaibu kuˡtu˥ba ˡʃiːteː˥ ʃikinra ˥ʃira ˥muti ˡʔaːkaraˡnu < ʔaˡrakaraˡnu >](あんな事をしては世間に顔向けできない < 世間から顔をぶら下げて、持って歩けない >)。

シˡライ˥カー [ʃiˡraiˡkaː] 【名】(動) 和名、アオリイカ。体長約 45 センチに達するものもいる。島の南海岸に寄ってくるので、イˡガジー [ʔiˡgaʤiː](えぎ < 餌木 >) を浜辺から沖の方へ投げ入れ、手繰りながら釣り上げた。イˡガジーバ　ナン˥ゲー　ˡトーリトー˥リ　ˡシェー˥ティル　シˡライ˥カー　ˡホーシ˥タˡダー [ʔiˡgaʤiːba ˡnaŋ˥geː ˡtoːritoː˥ri ˡʃeː˥tiru ʃiˡraiˡkaː ˡhoːʃiˡtaˡdaː](餌木を投げては手繰り手繰りしながらアオリイカを釣ったものだよ)。

˥シラウチ [˥ʃiraʔutʃi] 【名】産褥中。「産褥内」の義。˥シラウチェー　ヤˡナ˥ムニ　アˡズムノー˥　アˡラ˥ヌ [˥ʃiraʔutʃeː jaˡna˥muni ʔaˡʤumunoː˥ ʔaˡra˥nu](産褥中は悪い言葉を言うものではない)。˥シラウチヌ　プˡスンマー　ジーシキ˥ムヌ　ッˡふァーシト ヨー [˥ʃiraʔutʃinu pṵˡsummaː ʤiːʃi̥ki˥munu fˡfaːʃiɨ-joː](産褥中の人には滋養分の多いものを食べさせなさいよ)。

シˡラウラ˥シ [ʃiˡraʔura˥ʃi] 【名】稲叢おろし。一定量の米が必要な時は、シˡラ [ʃiˡra](稲叢) からトゥˡマー [tuˡmaː](苦) を下ろして、必要な分の稲束を取り、稲扱(イナコキ)をきして臼に入れて突き、ノギ (芒) を除去してから籾摺りをした。在来種の米は、イˡナ˥ピニ [ʔiˡna˥pini](「稲鬚」の義。ノギ < 芒 >) が長く、脱穀しずらかった。シˡラウラ˥シ　ˡテー˥ナイ　ˡスー˥カー　ˡマイヌ˥イー　バˡカシ˥　ッˡふァースント ダー [ʃiˡraʔura˥ʃi ˡteː˥nai ˡsuː˥kaː ˡmainu˥ʔiː baˡkaʃi˥ fˡfaːsunɨ-daː](稲叢おろしの手伝いをしたら、お米のご飯を炊いて食べさせるよ)。主に冬季や春季など、新米の収穫以前に家の行事や祝儀などが当たる際に、必要に応じてˡシラ下ろし」をした。˥アツァー　シˡラウラ˥シ　ˡシーバ　テー˥ナイ　ˡシー˥ヨー [˥ʔatsaː ʃiˡraʔura˥ʃi ˡʃiːba teː˥nai ˡʃiː˥joː](明日は稲叢から大量に稲束を下ろして脱穀精米するから、手伝いしなさいね)。

シˡラ˥ガーウスマイテー [ʃiˡra˥gaːʔusumaiteː] 【名】屋号。金城次郎氏宅。シˡラ˥ガーウスマイ [ʃiˡra˥gaːʔusumai](「白髪の御祖父さん」の義) は明治末期に沖縄本島糸満から漁師として鳩間島に寄留し、三女を産んで島に根を下ろした人である。沖縄本島の漁法や漢方薬の処方を鳩間島に伝えたり、ニˡブ˥ク [niˡbu˥ku](いなばきむしろ < 稲掃筵 >) の編み方などを伝えた。シˡラ˥ガーウスマイヤー　˥マチャーヒーテーヌ　ˡトー˥ラナール　ˡオーッ˥タ [ʃiˡra˥gaːʔusumaijaː ˥matʃaːçiːteːnu ˡtoː˥ranaːru ˡʔoːt˥ta](金城次郎氏は西原松氏宅のˡトー˥ラ [ˡtoː˥ra]< 離れ。炊事小屋 > に住んでおられた)。

シˡラ˥ガーソーミン [ʃiˡra˥gaːsoːmiŋ] 【名】素麺。「白髪素麺」の義。白く細長いことから「白髪」を連想して命名されたものであろう。縁起の良い食品とされ、結婚式などの祝儀の吸い物料理に用いられた。˥ニービキヨイヌ　˥ピンマー　シˡラ˥ガーソーミン　カˡザローッ˥タン [˥niːbikijoinu ˥pimmaː ʃiˡra˥gaːsoːmiŋ kaˡʤaroːtˡtaŋ](結婚祝いの時には共白髪を祈念する素麺を供え飾られた)。

シˡラ˥ガータンメー [ʃiˡra˥gaːtammeː] 【名】白髪の老人。白髪のおじいさん。威厳のある白髪の老人。

首里方言からの借用語。「iragaa(白髪頭の者。悪口としていう語)、taNmee(士族の祖父。士族の老翁。おじいさん)」『沖縄語辞典』とあるが、鳩間島では敬意を含んだ用法が多い。˫ウン˥ネーナ　シ˫ラ˥ガタンメーヌ　˫オーッ˥タン [˫ʔun˥ne:na ʃi˫ra˥gatamme:nu ˫ʔo:t˥taŋ](その家には白髪のおじいさんがいらっしゃった)。

˥シラ　˫カイ˥ヤン [˥ʃira ˫kai˥jaŋ] 【連】容貌が美しい。「面が綺麗だ」の義。ク˫ヌ˥　ミ˫ドーン˥ッふァー　˥シラ　˫カイ˥ヤンドゥ　˥キモー　˫ダーッサーナー˥ヌ [ku˫nu˥ mi˫do:ŋ˥ffa: ˥ʃira: ˫kai˥jandu ˥kimo: ˫da:ssa: na:˥nu](この女の子は容貌は美しいが、心はあまり良くない)。

˥シラ　˫カイ˥ヤン [˥ʃira ˫kai˥jaŋ] 【連】お産が軽く経過も順調である＜お産がうつくしい＞。˥シラカ˫ロー˥ン [˥ʃira ka˫ro:˥ŋ](お産が軽い) ともいう。˫バン˥テヌ　ユ˫メー˥　シラー　˫カイ˥ヤン　˥アリ　˥シーン　イッ˫ケナ　アイルン [˫ban˥tenu ju˫me:˥ ʃira: ˫kai˥jaŋ ˥ʔari ˥ʃi:ŋ ʔik˫kena ʔairuŋ](我が家の嫁は、お産が軽く順調であり、お乳もよく出る)。

シ˫ラカタ˥チ [ʃi˫rakata˥ʧi] 【名】顔貌。顔つき。容貌。「顔形」の義。シ˫ラカタ˥チェー　ビ˫ケーン˥ウヤン　ビッ˫ツティ　ニーベーン˥ティ　˥タネー　カ˫クサラ˥ヌ [ʃi˫rakata˥ʧe: bi˫ke:ŋ˥ʔujam bit˫tsuti ni:be:n˥ti ˥tane: kḁ˫kusara˥nu](顔貌は父親そっくりに似ているよ。血は争えない＜種は隠されないもの＞だ)。

シ˫ラカマ˥チ [ʃi˫rakama˥ʧi] 【名】面構え。顔貌。人相。面つき。「つらがまち (輔)」の転訛したもの。ミ˫ドゥ˥ム　ヤ˫ルヌ˥　シ˫ラカマ˥チェー　ビ˫キスクリ˥　シ˫ラリティ˥　シゥ˫カラン˥　ウ˫ドゥクマサ˥リ　ヤ˫ローッ˥タツォー [mi˫du˥mu ja˫runu˥ ʃi˫rakama˥ʧe: bi˫kisu̥kuri˥ ʃi˫rariti˥ si̥˫karaŋ˥ ʔu˫dukumasa˥ri ja˫ro:t˥tatso:](女であるが、面構え＜顔貌＞は男づくりされて、力も男勝りであられたそうだ)。

˥シラ　ガ˫ルン [˥ʃira ga˫ruŋ] 【連】顔が晴れやかになる。気が晴れる。明るく爽やかな気持ちになる。心配や悩みがなくなる。「顔が明るくなる」の義。ウ˫ナー˥　ウムー　ク˫トゥ˥ヌ　カ˫ナウ˥ター　ヤッ˫トゥ˥シ　˥シラー　ガ˫リベー˥ンティ [ʔu˫na:˥ ʔumu: ku̥˫tu˥nu ka˫nau˥ta: jat˫tu˥ʃi ˥ʃira: ga˫ribe:n˥ti](自分＜己＞の思うことが叶ったので、やっと顔が晴れやかになっているよ)。

˥シラ　カ˫ロー˥ン [˥ʃira ka˫ro:˥ŋ] 【連】お産が軽い。ユ˫メー˥　シ˫ラ˥ヌ　カ˫ロー˥ンダ　˫ソーヤ　ナー˥ヌ [ju˫me:˥ ʃi˫ra˥nu ka˫ro:˥nda ˫so:ja na:˥nu](嫁はお産が軽いから心配はない)。

˥シラキン [˥ʃirakiŋ] 【名】うぶぎ (産衣)。昔は誕生の一週間後に白布で縫った産衣を着せられたという。˥シラキンマー　˥アッパー　˫キン˥バ　˫パンツァシティ　サーソーッ˥タツォー [˥ʃirakimma: ˥ʔappa: ˫kim˥ba ˫pantsaʃi̥ti sa:so:t˥tatso:](産衣はお祖母さんの着物を解いて＜はずして＞新調されたそうだ)。

シ˫ラザニ˥ヤン [ʃi˫radʑani˥jaŋ] 【連】顔が晴れ晴れしく見える。顔が晴れやかである。爽やかである。˫キュー˥ヤ　イッ˫ケナ˥　シ˫ラザニ˥ヤ　ア˫ロー˥ルン˫ダー [˫kju:˥ja ʔik˫kena˥ ʃi˫rdʑani˥ja ʔa˫ro:˥run˫da:](今日は大変はればれしくいらっしゃるよ)。

シ˫ラシ [ʃi˫raʃi] 【名】 1知らせ。通知。マ˫ダ˥　シ˫ラシェー　クーヌ˥ヌ　˫ゴーカクヌ˥　シ˫ラシヌ˥　クーカー　シ˫グ˥　ウ˫キ˥ナー　パ˫ラ˥リ　ス˫コール　シー˥バ [ma˫da˥ ʃi˫raʃe: ku:nu˥nu ˫go:kakunu˥ ʃi˫raʃinu˥ ku:ka: ʃi˫gu˥ ʔu˫ki˥na: pa˫ra˥ri su̥˫ko:ru ʃi:˥ba](まだ通知は来ていないが、合格の通知が来たら、すぐ沖縄へ行ける準備をしなさいよ)。2神仏のお告げ。吉兆、凶兆。見馴れぬ鳥が家の中に入ってきたり、鶏や犬がその家に向かって妙な鳴き方をすると、神仏の「知らせ」があったといって、ユ˫タ [ju˫ta](ふげき＜巫巫見＞) の家に行って神仏のお告げを聞いた。˫イン˥ヌ　˫ナーブイ　シー˥　ヤ˫ナナキ　シーベー˥ヌ　˫ヌー˥ヌ　シ˫ラシヌ˥　アルカヤー [˫ʔin˥nu ˫na:bui ʃi:˥ ja˫nanaki ʃi:be:˥nu ˫nu:˥nu ʃi˫raʃinu˥ ʔarukaja:](犬が遠吠え＜長吠え＞をして悪いなき方をしているが、何のお告げがあるのかねえ)。ム˫ヌシラ˥シ [mu˫nuʃira˥ʃi](もの知らせ。神仏のお告げ)。˫カンシラ˥シ [˫kaŋʃira˥ʃi](神のお告げ)。シ˫ラシグトゥヌ　アッ˥タン˫ダー [ʃi˫raʃigutunu ʔat˥tan˫da:](お告げ＜知らせごと。予兆＞があったよ)。˫イン˥ヌ　ヤ˫ナナキ　スー˥カー　ヤ˫ナクトゥヌ˥　シ˫ルシ˥ティ　ア˫ザリ　ブー [˫ʔin˥nu ja˫nanaki su:˥ka: ja˫nakutunu˥ ʃi˫ruʃi˥ti ʔa˫dʑari bu:](犬が日頃と異なる悪い鳴き方をすると、凶事が起きるという神仏のお告げと言われている)。

シ˫ラシ [ʃi˫raʃi] 【名】斉唱。二人以上で歌う事。「連れさせ」の義。パ˫トゥ˥マクドゥキヌ　˫ヘーシ˥ヌ　˥トンマー　シ˫ラシ˥シ　イ˫ジト ヨー [pḁ˫tu˥ma˥ kudukinu ˫he:ʃi˥nu tomma: ʃi˫raʃi˥ʃi ʔi˫ʤiトjo:](鳩間口説節の囃子のところはシ˫ラシ＜斉唱。踊り手も

一緒に歌うこと＞で歌いなさいよ)。

˥シラシタフ **[˥ʃiraʃi̥taɸu]** 【名】お産の準備。˥シラパマイ [˥ʃirapamai](産褥中の食糧。白米約一斗)、˥シラタムヌ [˥ʃiratamunu](お産の時、地炉にくべ＜焼べ＞る薪。丸太のまま、大きく割った薪、約三駄)の準備をしたり、˥シラキン [˥ʃirakiŋ](産着)、シ˞ビシ˥ケー [ʃi˞biʃi̥˥ke:](おむつ) 等の準備をすること。˥シラシタホー ˞シェーン˥カヤー [˥ʃiraʃi̥taho: ˞ʃe:ŋ˥kaja:](お産の準備は完了したかな)。

シ˞ラシフチル **[ʃi˞raʃiɸutʃiru]** 【名】消炎剤。化膿止め。化膿しかけたおできや腫れたものを治す薬。「散らし薬」の転訛したもの。シ˞ラシフシル [ʃi˞raʃiɸuʃiru](消炎剤。散らし薬) ともいう。シ˞ラシフチルバ ヌーリティ˥ アˇシ˥ブ シ˞ラシ˥バ [ʃi˞raʃiɸutʃiruba nu:riti˥ ʔa˞ʃi˥bu ʃi˞raʃi˥ba](消炎剤＜散らし薬＞を塗って、お出来を散らして治しなさいよ)。ガ˞ジマル˥ヌ ˥シロー アˇシブ˥ヌ シ˞ラシフチル˥ティ ム˞カ˥シプソー アˇゾーッ˥タ [ga˞ʤimaru˥nu ˥ʃiro: ʔa˞ʃibu˥nu ʃi˞raʃiɸutʃiru˥ti mu˞ka˥ʃipu̥so: ʔa˞ʤo:t˥ta](ガジマルの樹液はあせも＜汗疹＞の消炎剤＜散らし薬＞だと昔の人はいわれた)。

シ˞ラズー˥ヤン **[ʃi˞raʤu:˥jaŋ]** 【形】難産である。産褥の肥立ちが順調でない。「お産が強い」の義。シ˞ラズー˥ヤタンドゥ ˥アボー ˥シジ ッ˞ふォーッ˥タ トゥ˞ヤーシフチル˥バ ˥ヌミティ パ˞シットゥ˥ ナレーン [ʃi˞raʤu:˥jatandu ˥ʔabo: ˥ʃiʤi f˞fo:t˥ta tu˞ja:ʃiɸu̥tʃiru˥ba ˥numiti pḁ˞ʃittu˥ nare:ŋ](難産で産褥の肥立ちが思わしくなかったが、お母さんが煎じてくださった漢方の調合薬を飲んで、体調も良くなって気分も爽快になった＜気分がすっきりとした＞)。

シ˞ラスク˥リ **[ʃi˞rasu̥ku˥ri]** 【名】面構え。顔貌。容貌。「面作り」の義。シ˞ラスク˥レー＜シ˞ラカタ˥チェー＞ ˞ピッ˥チン ˥ウヤン ˞ニー ブラーヌ [ʃi˞rasu̥ku˥re:＜ʃi˞rakata˥tʃe:＞ ˞pit˥tʃiŋ ˥ʔujan ˞ni: bura:nu](顔貌はちっとも親に似ていない)。

シ˞ラスクリ˥ヨー **[ʃi˞rasu̥kuri˥jo:]** 【名】面構え。顔貌。容貌。「面作り様」の義。シ˞ラスクリヨー˥ヤウ˞ヤ˥トゥ ˞ピー˥チ [ʃi˞rasu̥kurijo:˥ja ʔu˞ja˥tu ˞pi:˥tʃi](面構え＜顔貌＞は親と一緒だ)。

˥シラ ス˞ク˥ルン **[˥ʃira su̥˞ku˥ruŋ]** 【連】顔を立てる。面目がたつようにする。「顔を作る」の義。˞クンデー˥ヌ ˥クトゥシェー ˞ワンマー˥ シラ バ˞ラレー˥ユンダ ˞クン˥ドー ˥バー ˥シラ ス˞ク˥ルンティ ˥ウムイ パ˞タラキ ッふィーリ [kunde:˥nu ˥ku̥tuʃe: ˞wamma:˥ ʃira ba˞rare:˥junda ˞kun˥do: ˥ba: ˥ʃira su̥˞ku˥runti ˥ʔumui pḁ˞taraki ffi:ri](先日の件では君には恥をかかされた＜顔をつぶされた。～を割られた＞から、今度は私の顔を立てると思って働いてくれ)。˥シラ タ˞ティ˥ルン [˥ʃir tḁ˞ti˥ruŋ](顔を立てる)(若年層) ともいう。

シ˞ラスン **[ʃi˞rasuŋ]** 【他動】お出来の化膿を止めて治す。「散らす」の転訛したもの。シ˞ラシフチル ヌーリティ˥ アˇシ˥ブ シ˞ラスンティ˥ シ˞タンドゥ˥ シ˞ラサランシェン [ʃi˞raʃiɸu̥tʃiru nu:riti˥ ʔa˞ʃi˥bu ʃi˞rasunti˥ ʃi̥˞tandu˥ ʃi˞rasaraŋʃeŋ](化膿止めの薬を塗ってお出来の化膿を止めようとしたが、化膿を止められなかった)。腫れ物を薬草 (アロエ＜ドゥガイ＞) を貼り付けたり、煎じ薬を飲んで化膿させないようにして治す。腫れを退(ヒ)かせる。「散らす」の義。フ˞チ˥ル ˞ヌーリティ˥ アˇシ˥ブ シ˞ラスンティ˥ シ˞タンドゥ˥ シ˞ラサラヌ [ɸu̥˞tʃi˥ru ˞nu:riti˥ ʔa˞ʃi˥bu ʃi˞rasunti˥ ʃi̥˞tandu˥ ʃi˞rasaranu](薬を塗って腫れ物＜お出来＞の腫れを退かそうとしたが退かされない)。アˇシ˥ボー バ˞ランドー˥シ シ˞ラシ ッふィーリ [ʔa˞ʃi˥bo: ba˞rando:˥ʃi ʃi˞raʃi ffi:ri](腫れもの＜おでき＞は切開しないで腫れを退かして＜散らして＞くれ)。ク˞ビ˥ナー ˞ウー˥メーラ アˇシ˥ボー シ˞ラス˥ クトー ナ˞ラ˥ヌ [ku˞bi˥na: ˞ʔu:˥me:ra ʔa˞ʃi˥bo: ʃi˞rasu˥ ku̥to: na˞ra˥nu](こんなに化膿してからは、お出来の腫れは退かすことはできない)。シ˞ラシェー˥ ミサムヌ [ʃi˞raʃe:˥ misamunu](腫れを退かせば＜散らせば＞いいのに)。アˇシ˥ブ シ˞ラシ [ʔa˞ʃi˥bu ʃi˞raʃi](お出来の腫れを退かせよ)。ク˞リ˥シ シ˞ラシ˥ミサカー アˇシ˥ブ シ˞ラス˥クトー ˥ナルン [ku˞ri˥ʃi ʃi˞raʃi ˥misaka: ʔa˞ʃi˥bu ʃi˞rasu˥ ku̥to: ˥naruŋ](これで化膿を止めてよければ、お出来の化膿を止めることはできる)。˞パー˥ク シ˞ラシェー˥ ミサムヌ [˞pa:˥ku ʃi˞raʃe:˥ misamunu](早く化膿を止めれば良いのに)。ク˞リ˥シ アˇシ˥ブ シ˞ラシ [ku˞ri˥ʃi ʔa˞ʃi˥bu ʃi˞raʃi](これでお出来の化膿を留めなさい)。

シ˞ラスン **[ʃi˞rasuŋ]** 【他動】知らせる。通知する。他人に通報して、知るようにする。「知らせる」の転訛したもの。ウ˞ヌ˥ クトー ウ˞ヤン˥ナーニン シ˞ラスンティ˥ ウ˞ムー˥ヌ シ˞ラシ˥ ミサンカヤー [ʔu˞nu˥ ku̥to: ʔu˞jan˥na:niŋ ʃi˞rasunti˥ ʔu˞mu:˥nu ʃi˞raʃi˥ misaŋkaja:](その事は親にも知らせようと思うが、知らせて良いかねえ)。ムー˞ル˥ネー シ˞ラサンドー˥シ シ˞ラス˥ プ˞ス˥ キ˞ミリ [mu:˞ru˥ne: ʃi˞

rasando:˥ʃi ʃi˞rasu˥ pu̥˞su˥ ki˞miri](皆には知らせないで、知らせる人を決めなさい)。˞キョーダイン˥ナーネー　シ˞ラシェー˥　ミサムヌ [˞kjo:dain˥na:ne: ʃi˞raʃe:˥ misamunu](兄弟には知らせればいいのに)。ヤー˞ディン˥　シ˞ラシ [ja:˞diŋ˥ ʃi˞raʃi](必ず知らせろ)。

˥**シラソージ [˥ʃiraso:ʤi]** 【名】産褥中の産婦と嬰児の健康祈願。産屋の穢れを祓い、清浄を保つこと。「産屋精進」の義。˥シラソージティ　˞シー˥　ム˞カ˥シプソー　˥シラプスンマー　ヤ˞ナ˥ムニ　ヤ˞ナソーヤ˥　シゥ˞カソーラン˥シェン [˥ʃiraso:ʤiti ˞ʃi:˥ mu ˞ka˥ʃipu̥so: ˥ʃirapu̥summa: ja˞na˥muni ja˞naso:ja˥ si̥˞kaso:raŋ˥ʃeŋ](産褥中のお祓いといって、昔の人は、産婦には悪い言葉＜話＞や悪い消息は聞かされなかった)。産婦と赤子が無事に産屋を出ることが出来るよう祈願すること。「産屋精進」の義。分娩後の処理が済んだ後、産婦と新生児への手当てが一段落すると、˥ジル [˥ʤiru](地炉) に火を起して産婦の体を温めた。父方の母親か祖母、または産婦の母親たちが˥グシパナ [˥guʃipana](神酒と花米)、それにマ˞カグ [ma˞kagu](重箱に詰めたお握り) を地炉の神に供えて産婦と新生児の健康祈願をした。˥シラソージェー　ッ˞ふァナシプス˥トゥ　ッ˞ふァバ˥　ブ˞ジニ˥　シラヤーラ　ン˞ザ˥シ　ッ˞ふォー˥リティヌ　˞ニン˥ガイ [˥ʃiraso:ʤe: f˞fanaʃipu̥su˥tu f˞faba˥ bu˞ʤini˥ ʃiraja:ra ʔn˞ʤa˥ʃi f˞fo:˥ritinu ˞niŋ˥gai](シラソージ＜産屋精進＞は、産婦と子供を無事に産屋から出してくださいという祈願だ)。

˥**シラタムヌ [˥ʃiratamunu]** 【名】産屋の地炉で燃やす薪、約三駄ほど用意した。お産用の薪。産褥中に火に当ると、肥立ちが良いとされていた。煙らず、火持ちの良い硬い木を選び、地炉で焚いた。丸太のままくべ＜焼べ＞たり、大割りにして焼べたりした。˥シラタムノー　キ˞ボーシ˥　フ˞チ˥マルカー　ナ˞ラン˥バ　˞ソーキーラ˥　イ˞ラ˥ビ　˥シキ [˥ʃiratamuno: ki˞bo:ʃi˥ ɸu̥˞tʃi˥maruka: na˞ram˥ba ˞so:ki:ra˥ ʔi˞ra˥bi ʃi̥ki](お産用の薪は煙がくすぶる＜燻る＞といけないから、良質の薪から選んでおきなさい)。

˥**シラッふァ [˥ʃiraffa]** 【名】嬰児。あかご。みどりご。生まれたばかりの子。「産褥の子」の義。˥シラッふァー　イッ˞ケナ　スー˥リ　マ˞リ˥キー　˞ベー˥バン [˥ʃiraffa: ʔik˞kena su:˥ri ma˞ri˥ki ˞be:˥baŋ](あかご＜新生児＞は十分に＜大変＞成熟して生まれてきているよ)。

˥**シラドゥー [˥ʃiradu:]** 【名】産褥中の産婦の体。産褥中の産婦の体は非常に壊れやすいといわれており、その間の休養が母体を強くするといわれていた。˥シラドゥーヤ　˥ッサリグジキートゥ　ユ˞ヌ˥ムヌ [˥ʃiradu:ja ˥ssariguʤiki:tu ju˞nu˥munu](産褥中の産婦の体は朽ちたデイゴの木と同じだ＜折れやすい＞)。

˥**シラ　ナ˞ガー˥ン [˥ʃira na˞ga:˥ŋ]** 【連】面長である。「面が長い」の義。パ˞トゥ˥マナー　˥シラ　ナ˞ガー˥　プ˞ソー　オーラン˥シェン [pḁ˞tu˥mana: ˥ʃira na ˞ga:˥ pu̥˞so: ʔo:raŋ˥ʃeŋ](鳩間島には顔の長い人はいらっしゃらなかった)。

シ˞ラ˥ヌイ [ʃi˞ra˥nui] 【名】いなむら (稲叢) から稲束を少量ずつ抜き取り、脱穀、精米すること。シ˞ラー˥ラ　プ˞スマラ˥キ　シ˞ラ˥ヌイ　˞シー　マイ˥サイティ　˥ウシナー　˥カティティ　˥ッサイバ [ʃi˞ra:˥ra pu̥˞sumara˥ki ʃi˞ra˥nui ˞ʃi: mai˥ saiti ˥ʔuʃina: ˥kḁtiti ˥ssaiba](稲叢から 1 丸 <30 束＞抜き取り、稲扱きをして臼で搗いて芒落としをし、磨り臼で籾殻を落とし、搗き臼で搗いて精米しなさいよ)。

シ˞ラ˥ヌ　˥カー [ʃi˞ra˥nu ˥ka:] 【連】つら (面) の皮。顔面の表皮。˞イー˥シ　˥トゥルンティ　˥ティダナ　プ˞サ˥リティ　シ˞ラ˥ヌ　˥カー　パギ˞ナー˥ヌ [˞ʔi:˥ʃi ˥turunti ˥tidana pu̥˞sa˥riti ʃi˞ra˥nu ˥ka: pagi˞na: ˥nu](ツノマタを採集しようと太陽に干されて、顔の皮が剥がれてしまった)。

シ˞ラ˥ヌ　˥カー　ア˞ツァ˥ン [ʃi˞ra˥nu ˥ka: ʔa˞tsa˥ŋ] 【連】厚かましい。ずうずうしい。厚顔無恥である。「面の皮が厚い」の義。ウ˞レー˥　シ˞ラ˥ヌ　˞カー˥ヌ　ア˞ツァ˥ンダ　ノー˞ン˥　バ˞カ˥ヤー　˞ナーン˥ツォー [ʔu˞re:˥ ʃi˞ra˥nu ˞ka:˥nu ʔa˞tsa˥nda no:˞m˥ ba ˞ka˥ja: ˞na:n˥tso:](彼は厚顔無恥であるから、何も恥ずかしくないそうだ)。

シ˞ラ˥ヌ　˞カー˥ヌ　ア˞ツァ˥ン [ʃi˞ra˥nu ˞ka:˥nu ʔa˞tsa˥ŋ] 【連】厚顔無恥である。鉄面皮である。あつかましい。「面の皮が厚い」の義。˞ウンザー˥　シ˞ラ˥ヌ　˞カー˥ヌ　ア˞ツァ˥ンダ　バ˞カ˥ヤンティ　˞スーモー˥　ッ˞サンヌ [˞ʔunʤa:˥ ʃi˞ra˥nu ˞ka:˥nu ʔa˞tsa ˥nda ba˞ka˥janti ˞su:muno:˥ s˞sanu](あいつは厚顔無恥な人間だから、恥ずかしいということは知らない)。

シ˞ラヌ˥　ヨイ [ʃi˞ranu˥ joi] 【連】「いなむら (稲叢) の祝い」の義。稲叢を積み上げて完成したら、鼠の害を防ぐ祈願をし、ご馳走を作ってお祝いをした。ウ˞ブ˥シラ　シ˞モー˥ルカー　ウ˞ヤザ˥ヌ　˞ニン˥ガ

イ　シ˞ティ˜　ウ˞ヌ˜　ユ˞ネン˜マー　˞ヨイ˜ル　˞ソーッ˜タ [ʔu˞bu˜ʃira ʃi˞moː˜ruka: ʔu˞jadʑa˜nu ˞niŋ˜gai ʃi̥˞ti˜ ʔu˞nu˜ ju˞nem˜ma: ˞joi˜ru ˞soːt˜ta](大きな稲叢を積まれたら、鼠の害を防ぐ祈願をして、その夜は稲叢完成の祝いをされた)。

シ˞ラ˜ハマ [ʃi˞ra˜hama] 【名】(地) 西表島西部にある白浜集落。戦前は浦内炭坑の石炭積出港として賑わっていた。戦前の台湾航路の定期船は白浜で石炭を補給していた。ム˞カ˜シェー　˞タイ˜パン　˜パル　˞ゾーケー˜　シ˞ラ˜ハマナーティル　シ˞キ˜タン　シ˞ミティ　パッ˜タ [mu˞ka˜ʃe: ˞tai˜pam ˜paru ˞dʑoːke:˜ ʃi˞ra˜hamanaːtiru ʃi̥˞ki˜taŋ ʃi˞miti pat˜ta](昔は、台湾へ行く蒸気船は白浜で石炭を積んで行った)。

˜シラパマイ [˜ʃirapamai] 【名】お産用の米。「産褥飯米」の義。甘藷が常食であった時代、産褥中の˞産婦用の白米 (約 1 斗)」として準備したもの。ク˞ヌ　マイヤー˜　シラパマイティ　ス˞コーリ˜　シケーバ　ッ˞ふァーン　ブリ˜バ˞ヨー [ku˞nu maija:˜ ʃirapamaiti su̥˞koːri˜ ʃi̥ke:ba f˞fa:m buri˜ba˞joː](この米はお産用の米として準備してあるから食べるなよ)。

˜シラ　バ˞ルン [˜ʃira ba˞ruŋ] 【連】顔を割る。面目を失わせる。顔をつぶす。恥をかかせる。˜アイブ　ク˞トゥ˜バ　˞スー˜カー　ウ˞ヤ˜ヌ　˜シラ　バ˞ルンダ　スーナ˧ヨー [˜ʔaibu ˜kutu ˞suː˜ka: ʔu˞ja˜nu ˜ʃira ba˞runda suːna˧joː](あんなことをすると親の顔をつぶす＜割る＞から、するなよ)。˞ワンマー˜　メー　スズー˞コ˜　シラー　バ˞ラレー˜ツバン [˞wamma:˜ me: sudʑu:˞ko˜ ʃira: ba˞rare:˜tsubaŋ](お前にはひどく恥をかかされてしまった＜顔を割られた＞よ)。

シ˞ラビ˜ムヌ [ʃi˞rabi˜munu] 【名】調べ物。調べること。調査物。˞ウシ˜トー　ヤ˞ク˜バナー　シ˞ラビムヌ˜ヌ　˜アルティ　˞シー˜　イ˞サンケー　パッ˜タ [˞ʔuʃi̥˜to: ja˞ku˜bana: ʃi˞rabimunu˜nu ˜ʔaruti ˞ʃiː˜ ʔi˞saŋke: pat˜ta](弟は役場で調べることがあるといって石垣島へ行った)。

シ˞ラビ˜ルン [ʃi˞rabi˜ruŋ] 【他動】調べる。調査する。˞ヌー˜ル　マ˞シ˜ユー　シ˞ラビ˜ルンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　シ˞ラビララ˜ヌ [˞nuː˜ru ma˞ʃi˜juː ʃi˞rabi˜runti ʔu˞muːn˜du ʃi˞rabirara˜nu](何が良いか調べようと思うが調べられない)。シ˞ラビ˜ル　˜クトー　ナ˞リ˜スバ　˜ドゥーシ　シ˞ラビ˜リ [ʃi˞rabi˜ru ˜ku̥to: na˞ri˜suba ˜duːʃi ʃi˞rabi˜ri](調べることは出来るから、自分で調べなさい)。シ˞ラ˜ビ　˜ミサカー　˞パー˜ク　シ˞ラビ˜レー　˜ミサムヌ [ʃi˞ra˜bi ˜misaka: ˞paː˜ku ʃi˞rabi˜reː ˜misamunu](調べてよいなら早く調べればよいのに)。

˜シラフクラー [˞ʃiraɸu̥kuraː] 【名】脹れっ面の人。すぐむっとした顔になる人。不機嫌な顔になる人。˞ウンザー˜　イ˞ザリ˜カー　シ˞グ˜　シラフクラー　˜ナリティ　˞ピン˜ドゥ　˞スート˧ツォー [˞ʔundʑa:˜ ʔi˞dʑari˜ka: ʃi˞gu˜ ʃiraɸu̥kura: ˜nariti ˞pin ˜du ˞suː˧tsoː](あいつは叱られるとすぐ脹れっ面になって反抗をするのだよ)。ウ˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　シラフクラー　ヤ˞ルンダ˜　ン˞メーマ˜　イ˞ズ˜カー　シ˞グ˜　シラ　フ˞クリス [ʔu˞nu˜ f˞faː˜ ʃi-raɸu̥kura: ja˞runda˜ ʔm˞meːma˜ ʔi˞dʑu˜ka: ʃi˞gu˜ ʃira ɸu̥˞kurisu](その子は脹れっ面だから、少し叱るとすぐ脹れる＜怒＞る)。

シ˞ラフク˜リカーフクリ [ʃi˞raɸu̥ku˜rikaːɸu̥kuri]【副】脹れっ面をする。不機嫌な顔をして。˞ヌーン˜ドゥ　キ˞ム˜ナー　˞サウルタ˜ユー　˞ピーズ˜　シ˞ラフク˜リカーフクリ　˞シー　ベー [˞nuːn˜du ki˞mu˜naː ˞sauruta˜juː ˞piːdʑu˜ ʃi˞raɸu̥ku˜rikaːɸu̥kuri ˞ʃiːbeː](何が気に障ったのか、毎日脹れっ面をしている)。

シ˞ラフクリ˜ムヌ [ʃi˞raɸu̥kuri˜munu] 【名】脹れっ面の者。脹れて不平不満をいう者。「面脹れ者」の義。ミ˞ドゥム˜ヌ　シ˞ラフクリ˜ムノー　ア˞タラ˜サー　˞ナー˜ヌ [mi˞dumu˜nu ʃi˞raɸu̥kuri˜muno: ʔa˞tara˜sa: ˞naː˜nu](女の脹れっ面は可愛くない)。

˜シラ　フ˞クルン [˜ʃira ɸu̥˞kuruŋ] 【連】ふくれっつら＜脹れっ面＞をする。不機嫌な顔になる。怒って不機嫌な顔になる。「面脹れる」の義。ク˞ヌ˜　ッ˞ふァー　ドゥー˜ヌ　˜キム　フ˞ガン˜カー　シ˞グ˜　シラ　フ˞クルンダ　カン˜ガイティ　シゥ˞カイ˜ヨー [ku˞nu˜ f˞fa: duː˜nu ˜kimu ɸu˞gaŋ˜ka: ʃi˞gu˜ ʃira ɸu̥˞kurunda kaŋ˜gaiti si̥˞kai˜joː](この子は自分が満足＜納得＞しないと、すぐ脹れっ面になる＜面脹れる＞から考えて使いなさいよ)。怒って顔が脹れる。顔を脹らませる。ウ˞レー　ドゥー˜ヌ　˜ウムー　˞トゥー˜ル　ナ˞ラン˜カー　˜シラ　フ˞クルン˜ダー [ʔu˞reː duː˜nu ˜ʔumu: ˞tuː˜ru na˞raŋ˜ka: ˜ʃira ɸu̥˞kurun˜daː](彼は自分の思い通りにならないと怒る＜顔を脹らませる＞)。

˜シラプス [˜ʃirapu̥su] 【名】産婦。産褥中の人。˜シラプスンマー　シ˞バラムノー˜　ッ˞ふァースナ˜ヨー [˜ʃirapu̥summa: ʃi˞baramunoː˜ f˞faːsuna˜joː](産婦には、悪い影響を及ぼす食べ物は与えるな＜食べ

させるな＞よ)。バ˞カ˥ジラ　˥プスヌ　˞イー˥ヤー　ク˞メーキ˥　ス˞コーリ [ba˞ka˥ʤira ˥pu̥sunu ˞ʔiː˥ ja ku˞meːki˥ su̥˞ku˥ri](産褥を出たばかりの人のご飯は細かく丁寧に作りなさい)。

シ˞ラ˥フチ [ʃi˞ra˥ɸu̥ʧi] 【名】面影。かおつき。顔貌。おもざし。「面口」の義。ウ˞ヤ˥ヌ　シ˞ラ˞フチ　˞バシキティ˥　ウ˞ムインザサラ˥ヌ [ʔu˞ja˥nu ʃi˞ra˥ɸu̥ʧi ˞baʃi̥kiti˥ ʔu˞muiʔnʤasara˥nu](親の面影を忘れて思い出されない)。

シ˞ラ˥ブニ [ʃi˞ra˥buni] 【名】ほおぼね (頬骨)。「つらぼね (面骨)」の転訛したもの。˞ヨーガルター˥　シラブニヌ　˞トゥンジティ˥　シ˞ラカタ˥チェー　˞カウリ　ナー˥ヌ [ˈjoːgarutaː˥ ʃirabuninu ˞tunʤiti˥ ʃi˞rakata˥ʧeː ˞kauri naː˥nu](痩せたので頬骨が突き出て顔貌が変わってしまった)。

シ˞ラ˥ブン [ʃi˞ra˥buŋ] 【他動】調べる。調査する。「しらぶ＜下二段活用＞」の四段活用に転訛したもの。シ˞ラ˥ビ　˥ミサカー　˥ドゥーシ　シ˞ラブン˥ドゥ　˥クナーテー　シ˞ラバラ˥ヌ [ʃi˞ra˥bi ˥misakaː˥ duːʃi ʃi˞raban˥du ˥kunaːteː ʃi˞rabara˥nu](調べて良いなら自分で調べるが、此処では調べられない)。シ˞ラ˥ブ　プ˞ソー　パー˥ク　シ˞ラ˥ベー　˥ミサムヌ [ʃi˞ra˥bu pu̥˞soː paː˥ku ʃi˞ra˥beː ˥misamunu](調べる人は早く調べればよいのに)。ク˞レー˥ラ　˞パイ˥サ　シ˞ラ˥ビ [ku˞reː˥ra ˞pai˥sa ʃi˞ra˥bi](これ＜この方＞から早く調べろ＜れ＞)。

ジ˞ラ˥マ [ʤi˞ra˥ma] 【名】八重山古謡の一つの形態である「ジラバ」の転訛したもの。アヨー、ユンタ、ジラバは、無伴奏の労働歌といわれている。鳩間島には、パ˞トゥ˥マ　ム˞トゥジラ˥マ [pḁ˞tu˥ma mu ˞tuʤira˥ma](鳩間本ジラマ)、˥バガ　パ˞トゥ˥マジラマ [˥baga pḁ˞tu˥maʤirama](わが鳩間ジラマ)、タ˞ビタチ˥ヌ　ジ˞ラ˥マ [ta˞bitaʧi˥nu ʤi˞ra˥ma](旅立ちのジラマ) などがある。/ヘイヤー　バガパトゥマ　パラユ　タティダス　イラヨー　パラタティダス　ミャンガル～/(へいやー＜囃子＞、鳩間島の柱を建てたの＜人＞は、いらよー＜囃子。真に＞島の柱を建てたのは、みゃんがる＜囃子＞～)「鳩間本ジラマ」。˞鳩間本ジラマ」は村建ての歴史を歌い、タ˞ビタチ˥ヌ　ジ˞ラ˥マ [ta˞bitaʧi˥nu ʤi ˞ra˥ma](旅たちのジラマ) は上り下りの沖縄旅の安全航海を祈願する叙事的、物語り的歌謡形式の内容を有するから、むしろ宗教的叙事歌謡というべきであろう。

˥シラ　˥ムティ　ア˞ラカラ˥ヌ [˥ʃira ˥muti ʔa˞rakara˥nu] 【連】顔向けができない。面目ない。「面を下げて＜持って＞歩けない」の義。˥アイブ　˥クトゥ　˞スー˥カー　˥シキンラ　˥シラ　˥ムティ　ア˞ラカラ˥ヌ (˞アーカラ˥ヌ)[˥ʔaibu ˥ku̥tu ˞suː˥kaː ˥ʃi̥kinra ˥ʃira ˥muti ʔa˞rakara˥nu(˞ʔaːkara˥nu)](あんなことをすると恥ずかしくて世間に顔向けできない＜世間から面を持って歩けない＞)。

シ˞ラ˥ムヨー [ʃi˞ra˥mujoː] 【名】顔つき。面相。「面模様」の義。ウ˞ヌ˥　パ˞ナシ˥バ　シ˞キティ˥　マナ˞マンチン˥　シ˞ラムヨー˥ヤ　˞カウリ˥　ウ˞ヤーリ˥ナキ　˞シーベー [ʔu˞nu˥ pa˞naʃi˥ba ʃi̥˞kiti˥ mana˞mantʃiŋ˥ ʃi˞ramujoː˥ja ˞kauri˥ ʔu˞jaːri˥naki ˞ʃiːbeː](その話を聞いて急＜只今の内に。あっと言う間に＞に面相が変わり、号泣＜叫び泣き。わめき泣き叫び＞をしている)。

˥シラヤー [˥ʃirajaː] 【名】お産のあった家。パ˞ナシキ˥　カ˞カリ˥プソー　˥シラヤー　˞パン˥ナ [pa˞naʃi̥ki˥ kḁ˞kari˥pu̥soː ˥ʃirajaː ˞pan˥na](風邪に罹った人はお産をした人の家に行くな)。キ˞ジムティ˥プソー　˥シラヤー　˥パルカー　ン˞バイルン˥ツォー [ki ˞ʤimuti˥pu̥soː ˥ʃirajaː ˥parukaː ʔm˞bairun˥tsoː](体に傷のある人がお産のあった家に行くと、傷が悪化＜化膿＞するそうだ)。ッ˞ふ˥シル　カ˞ビ˥プソー　˥シラヤー　˥パリミサー　˞ナー˥ヌ [f˞fu˥ʃiru ka˞bi˥ pu̥soː ˥ʃirajaː ˥parimisaː ˞naː˥nu](黒衣を被っている＜服喪中の＞人は産褥中の家に行ってはならない＜行って良くない＞)。

˥シラヨーリ [˥ʃirajoːri] 【名】産後の肥立ちが悪く、衰弱すること。産褥中に病弱になること。˥シラプソー　シカイ˞トゥ　ジーシキ˥ムヌ　ッ˞ふァーシ　ユーコー˥シティ　˥ドゥー　˞スーラサン˥カー　˥シラヨーリ　˞スント ダー [˥ʃirapu̥soː ʃi̥kai˞tu ʤiːʃi̥ki ˥munu f˞faːʃi juːkoː˥ʃi̥ti ˥duː ˞suːrasaŋ˥kaː ˥ʃirajoːri ˞sunˊdaː](産婦はしっかり滋養分をたべさせて休養させ、体力をつけないと、肥立ちが悪く衰弱するよ)。

シ˞ラリン [ʃi˞rariŋ] 【連】 1される＜可能＞。することが出来る。˞スン [˞suŋ](する) の連用形˥シ [˥ʃi] に可能の助動詞˞ラ˥リン [˞ra˥riŋ](られる) が下接したもの。ク˞レー　バン˥ヌン　シ˞ラリン˥カヤーティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　˞タンガ˥シェー　シ˞ララヌ [ku˞reː ban˥nuŋ ʃi˞rariŋ˥kajaːti ʔu˞muːtan˥du ˞taŋga ˥ʃeː ʃi˞raranu](これは私にも出来る＜される＞かなあと思ったけれど、一人では出来ない＜されない＞)。2される＜受身＞。˞ウンザン˥　シ˞ダキ˥　シ

ˈラリティ　ザーˈパイ　ˈシーナーˈヌ [ˈʔundʑaŋˈ ʃiˈdakiˈ ʃiˈrariti dʑaːˈpai ˈʃiːnaːˈnu](あいつに先にやられて＜されて＞台無しになって＜ぶち壊されて、困って＞しまった)。

ˈシリ [ˈʃiri] 【名】同じ年齢の者。同年輩。遊び友達。同輩。「連れ」の転訛したものか。ユˈヌˈ　シリンケートゥ　トゥˈレーˈシ　アˈサブン [juˈnuˈ ʃiriŋkeːtu tuˈreːˈʃi ʔaˈsabuŋ](同年の＜同じ年の＞者と連れ立って遊ぶ)。シˈリヌ　ブーバルˈ　クˈレーˈ　ナル [ʃiˈrinu buːbaruˈ kuˈreːˈ naru](供の者＜連れ＞がいてこそ、これは出来る)。

ˈジリ [ˈʤiri] 【代】どれ。どちら。誰。「いづれ (何れ)」の語頭母音「イ」の脱落した形。時・場所・物事・人物等について不定であるものを指す。複数の中から選び出す。「〜常闇に伊豆礼能＜イヅレノ＞日まで〜。万、3742」の転訛したもの。ジˈリˈル　マˈシˈヤ　ˈワーˈ　マˈシェーˈル　ˈムヌ　ˈヌー　ヤˈラバンˈ　ムティ　ˈパリバ [ʤiˈriˈru maˈʃiˈja ˈwaːˈ maˈʃeːˈru ˈmunu ˈnuː jaˈrabamˈ muti ˈpariba](どれが良いか。君がいい＜増しな＞ものを何でも持って行きなさい)。

シˈリˈカク [ʃiˈriˈkaku] 【名】検地役。

シˈリキシˈルン [ʃiˈrikiʃiˈruŋ] 【自動】擦り切れる。ユˈヌˈキン　カーˈニˈ　キˈスˈカー　シˈリキシˈルン [juˈnuˈ kin kaːˈniˈ kᵢˈsuˈkaː ʃiˈrikiʃiˈruŋ](同じ着物だけ着ると擦り切れる)。シˈリキシラˈヌ [ʃiˈrikiʃiraˈnu](擦り切れない)。シˈリˈキシ　ˈナーˈヌ [ʃiˈriˈkᵢʃiˈnaːˈnu](擦り切れてしまった)。シˈリキシˈル　ˈムヌ [ʃiˈrikᵢʃiˈru ˈmunu](擦り切れるもの)。シˈリキシˈレー　ˈミサムヌ [ʃiˈrikᵢʃiˈreː ˈmisamunu](擦り切れたら良いのに)。シˈリキシˈリ [ʃiˈrikᵢʃiˈri](擦り切れろ)。

シˈリˈキスン [ʃiˈriˈkᵢsuŋ] 【他動】摩り切る。こすって切る。縄や布などを擦って切る。ˈナーˈバ　イˈシヌˈ　カドゥナ　シˈリˈキスンティ　ˈスンドゥˈ　シˈリキサランˈバン [ˈnaːˈba ʔiˈʃinuˈ kaduna ʃiˈriˈkᵢsuntiˈ ˈsunduˈ ʃiˈrikᵢsaramˈbaŋ](縄を石の角で摩り切ろうとするが、摩り切られないよ)。シˈリˈキシˈミサカー　シˈリˈキス　ˈクトー　ˈナルン [ʃiˈriˈkᵢʃiˈmisakaː ʃiˈriˈkᵢsu ˈkᵤtoː ˈnaruŋ](摩り切って良ければ、摩り切ることは出来る)。

シˈリシリ [ʃiˈriʃiri] 【副】しとしと。雨が柔らかく静かに降るさま。アˈミˈヌ　シˈリシリˈシ　ˈフーン [ʔaˈmiˈnu ʃiˈriʃiriˈʃi ˈɸuːŋ](雨がしとしとと降る)。そろりそろり。ゆっくりと静かに。ˈアッパー　シˈリシリˈシ　アˈラˈキ　ˈオーッˈタ [ˈʔappaː ʃiˈriʃiriˈʃi ʔaˈraˈki ˈʔoːtˈta](お祖母さんはそろそろと歩いて行かれた)。

シˈリタウˈムン [ʃiˈritauˈmuŋ] 【自動】磨り減って窪む。擦り窪む。ユˈヌˈ　トゥシˈカーニˈ　シゥˈカウˈカー　シˈリタウˈムン [juˈnuˈ tᵤʃiˈkaːniˈ sᵢ。ˈkauˈkaː ʃiˈritauˈmuŋ](同じ砥石だけ使うと磨り減って窪む)。

シˈリッˈクムン [ʃiˈrikˈkumuŋ] 【他動】擦り込む。軟膏を擦り込む。ˈヌーリフチルˈ　シˈリッˈクミ　ˈミサカー　シˈリックムンˈドゥ　クˈシナカーˈ　シˈリックマヌ [ˈnuːriɸᵤtʃiruˈ ʃiˈrikˈkumi ˈmisakaː ʃiˈrikkumunˈdu kᵤˈʃinakaːˈ ʃiˈrikkumaˈnu](塗り薬を擦り込んで良ければ擦り込むが、背中は擦り込まない)。シˈリッˈクム　ˈトンマー　ˈパンˈ　シˈキˈリ [ʃiˈrikˈkumu ˈtommaː ˈpaŋˈ ʃᵢˈkiˈri](擦り込む所は印を付けなさい)。シˈリッˈクメー　ˈミサムヌ [ʃiˈrikˈkumeː ˈmisamunu](擦り込めば良いのに)。シˈリッˈクミバ [ʃiˈrikˈkumiba](擦り込めよ)。

シˈリˈパグン [ʃiˈriˈpaguŋ] 【他動】すりむく (擦り剥く)。クˈルビティˈ　スˈブシˈ　シˈリˈパギ　ˈシケー [kuˈrubitiˈ suˈbuʃiˈ ʃiˈriˈpagi ʃᵢˈkeː](転んで膝を擦り剥いてある)。ˈクナー　クˈルブˈカー　スˈブシˈ　シˈリˈパグンダー　シˈリパガンˈヨーニ　ˈヨーンナーˈ　アˈラˈキ [ˈkunaː kuˈrubuˈkaː suˈbuʃiˈ ʃiˈriˈpagunda: ʃiˈripagaŋˈjoːni ˈjoːnnaːˈ ʔaˈraˈki](ここで転んだら膝を擦り剥くから、擦り剥かないようにゆっくり歩け)。クˈルブタンティンˈ　シˈリˈパグ　ˈクトー　ˈナーˈヌ [kuˈrubutantiŋˈ ʃiˈriˈpagu ˈkᵤtoː ˈnaːˈnu](転んでも擦り剥くことはない)。ンˈベーマーˈ　シˈリˈパゲー　ˈミサムヌ [ʔmˈbeːmaːˈ ʃiˈriˈpageː ˈmisamunu](少しは擦り剥けばよいのに)。シˈリˈパギ [ʃiˈriˈpagi](擦り剥け)。

シˈリパンツァˈスン [ʃiˈripantsaˈsuŋ] 【連】踏み外す。ッˈふァヨーンサーリˈ　イˈシダンˈ　シˈリパンツァˈシティ　クˈルビˈ　ウティ　ˈナーˈヌ [fˈfajoːnsaːriˈ ʔiˈʃidaŋˈ ʃiˈripantsaˈʃᵢti kuˈrubiˈ ʔuti ˈnaːˈnu](暗闇で石段を踏み外して転落して＜転び落ちて＞しまった)。

シˈリピナˈルン [ʃiˈripinaˈruŋ] 【自動】磨り減る。摩耗する。ピˈキウシヌ　パーˈヤ　シˈリピナˈリ　ˈナーンˈバ　ˈパー　タˈティランˈカー　ナˈラˈヌ [pᵢˈkiʔuʃinu paːˈja ʃiˈripinaˈri ˈnaːmˈba ˈpaː tᵩˈtiraŋˈkaː naˈraˈnu](挽き臼の歯が摩耗してしまったから、歯を立てないといけない)。イッˈカˈ　シˈリピナラˈ

ヌ [ʔikˠkaˀ ʃiˠripinaraˀnu](決して < 一向に > 磨り減らない)。ッ˞シゲタ˜ヌ (タ˞カアチ˜ツァ [tạˠkaʔatʃi ˜tsa]) ˞パー˜ヤ シ˞リピナ˜ルクトー シ˞リピナルン˜ドゥ シ˞リピナ˜ルカー トゥ˞リカイラ˜リン [ʃ˞ʃigetaˀnu ˞paː˜ja ʃiˠripinaˀru ˜kụto: ʃiˠripinarun ˜du ʃiˠripinaˀruka: tuˠrikairaˀriŋ](差し下駄の歯は磨り減ることは磨り減るが、磨り減ったら取り替えられる)。˞マー˜ビン シ˞リピナ˜レー ˜ミサムヌ [˞maː˜biŋ ʃiˠripinaˀre: ˜misamunu](もっと磨り減れば良いのに)。

シ˞リルン [ʃiˠriruŋ] 【自動】消失する。散り失せる。ア˞シブ˜ヌ ˞マール˜ナ ガ˞ジマル˜ヌ ˜シル マ˞ミ ヌーリ˜ シ˞キ˜ルカ ア˞シ˜ボー シ˞リルン˜ダー [ʔaˠʃibuˀnu ˞maːruˀna gaˠʤimaruˀnu ˜ʃiru ma ˞mi nuːriˀ ʃi̥ˠkiˀruka: ʔaˠʃiˀboː ʃiˠrirunˀdaː](御出来の周りにガジマルの汁 < 樹液 > をつけて塗っておくと御出来は消失する < 散り失せる > よ)。

シ˞リンコー˜スン [ʃiˠriŋkoːˀsuŋ] 【他動】擦り剥く。転んで皮膚を擦りむく。シ˞リ˜パグンとも言う。˞カイ˜ルカー ˞ティーパン˜ヌ ˜カー シ˞リンコー˜スン [˞kaiˀruka: ˞tiːˀpanˀnu ˜ka: ʃiˠriŋkoːˀsuŋ](転んだら手足の皮を擦りむく)。˞シリンコーサ˜ヌ [ʃiˠriŋkoːsaˀnu](擦りむかない)。シ˞リンコーシ ヤッ˜サン [ʃiˠriŋkoːʃi jasˀsaŋ](擦りむけ易い)。シ˞リンコー˜ス ˜クトー ˞ナー˜ヌ [ʃiˠriŋkoːˀsu ˜kụto: ˞naːˀnu](擦り剥くことはない)。シ˞リンコー˜シェー ˜ミサムヌ [ʃiˠriŋkoːˀʃe: ˜misamunu](擦り剥けば良いのに)。シ˞リンコー˜シバ [ʃiˠriŋkoːˀʃiba](擦り剥けよ)。

˜シル [˜ʃiru] 【名】汁。しみ出る液体。ガ˞ジマル˜ヌ ˜シル ア˞シ˜ブナ ˞ヌール˜カー シ˞ミラ˜リティ ピン˞トー˜マ ˞トゥンジ アイティ ノー˜ルン [gaˠʤimaruˀnu ˜ʃiru ʔaˠʃiˀbuna ˞nuːruˀka: ʃiˠmira ˜riti pinˠtoːˀma ˞tunʤi ʔaiti noːˀruŋ](ガジマル < 榕樹 > の樹液を出来ものの回りに塗ると、樹液に締められて御出来の芯が飛び出て、膿が出て治る)。˜シル ˜パルン [˜ʃiru ˜paruŋ](汁が出る < 流れる。走る >)。ただし、「おつゆ (御汁)」は音韻同化を起こして、˜スー [˜suː] という。˜シル ˜パルン [˜ʃiru ˜paruŋ](汁が出る < 流れる >)。˞ニージル [˞niːʤiru](煮汁)。ガ˞ジマル˜ヌ ˜シル ア˞シ˜ブナ マ˞ミシキ˜ルカー ˞ノー˜ルンツォー [gaˠʤimaru ˜nu ˜ʃiru ʔaˠʃiˀbuna maˠmiʃi̥kiˀruka: ˞noːˀruntsoː](ガジマル < 榕樹 > の樹液をあせも < 小さなおでき > 周りにに塗りつけておくと治るそうだ)。˞マンズイ˜ヌ ˜ナルナ キ˞ジ˜ シ˞キ˜ルカー ッソーッ˞ソーヌ˜ シ˞ル˜ヌ ˜パルン [˞manʤuiˀnu ˜naruna ki ˞ʤiˀ ʃi̥ˠkiˀruka: ssoːsˠsoːnuˀ ʃiˠruˀnu ˜paruŋ](パパイヤ < 蕃瓜樹 > の実に傷を付けると真っ白な汁が流れ出る)。ガ˞ジ˜マルキーヌ ˜シルン ッ˞ソー˜ン [gaˠʤiˀmarukiːnu ˜ʃirun sˠsoːˀŋ](ガジマル木の樹液も白い)。ア˞シブ˜ヌ ˜シル ン˞ジ˜ルン [ʔaˠʃibu ˜nu ˜ʃiru ʔnˠʤiˀruŋ](御出来の濃液が出る)。

シ˞ル [ʃiˠru] 【名】白。標準語から転訛したもの。シ˞ル˜ムチ [ʃiˠruˀmutʃi](白餅)。˜イルジル [˜ʔirudjiru](色白)。普通は、音韻融合が進んで、ッス [˜ssu](白)、ッ˞ス˜ムチ [sˠsuˀmutʃi](白餅)、ッ˞ス˜キン [sˠsuˀkiŋ](白い着物) という。

シ˞ル [ʃiˠru] 【名】 1血管。シ˞ル˜ ピ˞クン [ʃiˠruˀ pi̥ˠkuŋ](血管が走る)。ア˞ウジル [˞ʔauʤiru](静脈。青い血管)。フ˞タイ˜ナ ˞アウジルヌ˜ ンジ ˞ベー [ɸụˠtaiˀna ˞ʔauʤirunu˜ ʔnʤi ˞beː](額に静脈が出ている)。2筋肉の筋。腱。「弦」の転訛したもの。アキレス腱。˞パン˜ヌ シ˞ルヌ˜ キシティ ア˞ラカラ˜ヌ [˞panˀnu ʃiˠrunu˜ ki̥ʃiti ʔaˠrakaraˀnu](足の腱が切れて歩けない)。

シ˞ル [ʃiˠru] 【名】 1屋敷。「しろ。域。代。城。領有して他人に立ち入らせない一定の区画」『岩波古語辞典』の転訛か。˞ヤー˜ウチ シ˞ルウチ [˞jaː˜ʔutʃi ʃiˠruʔutʃi](屋敷内、区画の内)。/シルウチヌ メーヌウチニ ヤーバ シゥクリ アンティスー ウリユ ミューナーキャームイ/(屋敷内の、広場 < 広庭 > の内に 家を造ってあるという。それを見ようよ)「アーパーレー < 新室寿ぎ歌 >」『鳩間島古典民謡古謡集』。2聖なる空間。屋敷の中で˞クー˜ジ [˞kuː˜ʤi](とうづるもどき) とシ˞ビナージナ [ʃiˠbinaːʤina](注連縄) で一定の空間を囲い、神司交替の神事に供える米粉を搗いたり、神司の香炉を作る場所とした聖なる空間。そこで、一週間前より˞スーヌ˜パナ [˞suːnuˀpana](潮の花 < 波 > を汲み取り、それで海砂を七回洗い清め、板の上に干して乾燥させたものを香炉の中に入れ、香炉の灰として使用した)。˞カンコー˜ローヤ シ˞ル˜ナーティル シ˞ラーソーッ˜タ [˞kaŋkoːˀro: ʃiˠruˀnaːtiru ʃiˠraːsoːt ˜ta](神の香炉はシ˞ル [ʃiˠru]< 代 > において作られ < 孵化され > た)。

シ˞ル [ʃiˠru] 【名】釣瓶。「缶、楊氏漢語抄云、都流閉 < つるべ >、汲⊠水器也『和名抄』」の転訛したもの。ク˞バンパーシル [kuˠbampaːʃiru](クバ < 蒲葵 > の葉で作った釣瓶) で井戸水を汲んだが破れ

易いので、後に˥ガンガンシル [˥gaŋgaŋʃiru](ブリキ缶の釣瓶) を作るようになった。˞キー˥シル [˞kiː˥ʃiru](板製の釣瓶) もあった。˞ウイヌカーヌ˥　ミ˞ジェー˥　ク˞バンパーシル˥シ　フ˞ミティ˥　ヌ˞ムタ˥ヌ　ピ˞ラケー　ピラケー˥シティ　ン˞マー˥タン [˞ʔuinukaːnu˥ mi˞ʤeː˥ ku˞bampaːʃiru˥ʃi ɸu˞miti˥ nu˞muta˥nu pi˞rakeː pirakeː˥ʃi̥ti ʔm˞maː˥taŋ](ウイヌカー井戸の水は、蒲葵の葉釣瓶で汲んで飲んだが、ひんやりとして＜冷たくて＞美味しかった)。

シ˞ル [ʃi˞ru] 【名】 1つる (弦)。˞サンシンヌ˥　シ˞ル [˞saŋʃinnu˥ ʃi˞ru](三線＜三味線＞の弦)。˞ウー˥ジル [˞ʔuː˥ʤiru](雄弦)、˞ミー˥ジル [˞miː˥ʤiru](雌弦)、ナ˞カ˥ジル [na˞ka˥ʤiru](中弦) がある。2けん (腱)。˞パン˥ヌ　シ˞ル˥　キシティ　ア˞ラカラ˥ヌ [˞pan˥nu ʃi˞ru˥ ki̥ʃiti ʔa˞rakara˥nu](足の腱を切ってしまって、歩けない)。3血管。˞シージル [˞ʃiːʤiru](血管) ともいう。˞シー˥グシ　˞シージル˥　キ˞ス˥ナ˞ダー [˞ʃiː˥guʃi ˞ʃiːʤiru˥ ki̥˞su˥na˞daː](小刀で血管を切るなよ)。4愛情。ッ˞ふァ˥ナー　˞ピッ˥チン　˥シロー　˞ナー˥ヌ [f˞fa˥naː ˞pit˥ʧiŋ ˥ʃiroː ˞naː˥nu](子供に対してちっとも＜少しも＞愛情がない)。

シ˞ル [ʃi˞ru] 【名】霧。シ˞ル˥　カ˞カ˥リティ　ミ˞ララン˥シェン [ʃi˞ru˥ kḁ˞ka˥riti mi˞raraŋ˥ʃeŋ](霧がかかって見えなかった)。シ˞ルヌ˥　ウリティ　˞トゥーサー˥　ミ˞ララ˥ヌ [ʃi˞runu˥ ʔuriti ˞tuːsaː˥ mi˞rara˥nu](霧が降りて遠くは見えない)。

˥ジル [˥ʤiru] 【名】海底の浅瀬。珊瑚礁の浅瀬。ヤ˞マ˥タジル [ja˞ma˥taʤiru] は、タ˞カ˥ビー [ta˞ka˥biː](高干瀬) の津口から鳩間桟橋に行く途中にある。ア˞ガジル [ʔa˞gaʤiru](赤浅瀬) は、ミ˞ズヌ˥カン [mi˞ʤunu˥kaŋ](「澪の上」の義か) の側にある浅瀬。˞スー˥ヌ　˥ピス　˥ピンマー　˥ジロー　˥ミレーティ　˥フニ　ム˞タン˥カー　˞ハーガラ˥スン˞ダー [˞suː˥nu ˥pi̥su ˥pimmaː ˥ʤiroː ˥mireːti ˥ɸuneː mu˞taŋ˥kaː ˞haːgara˥sun˞daː](潮が引く＜干る＞時は珊瑚礁の浅瀬を見ながら船を操船しないと、浅瀬に乗り上げるよ)。パ˞トゥマ˥ヌ　˥マンタナー　ア˞ガジルティン˥　アリ　ヤ˞マ˥タジルティン　˥アン [pḁ˞tuma ˥nu ˥mantanaː ʔa˞gaʤirutin˥ ʔari ja˞ma˥taʤirutiŋ ˥ʔaŋ](鳩間島の前には赤ジルという浅瀬もあり、ヤマタジルという浅瀬もある)。

˥ジルー [˥ʤiruː] 【名】いろり (囲炉裏)。「地炉」の義。床を切って拵えた炉。産婦が産褥に入る際にジルーを作った。普通は二番裏座か三番裏座に作られた。床を一部切り落として、˞シンマイ˥ナビ [˞ʃimmai˥nabi](「四枚鍋」の義。大鍋) の底の破損したものを据え、砂を入れてその上に薪を燃やした。産褥は四周をシ˞ビナージナ [ʃi˞binaːʤina](注連縄) を張り巡らし、悪霊の侵入を防いだ。1960年代には島で出産する人がいなくなり、石垣島の産婆の下で出産するようになって、鳩間島の地炉は消えた。˥ジルナー　シ˞ビナージナバ˥　パイティ　ヤ˞ナムヌ˥ヌ　ヌ˞キ˥ムヌ　˞ソーッ˥タ [˥ʤiruna: ʃi ˞binaːʤinaba˥ paiti ja˞namunu˥nu nu˞ki˥munu ˞soːt˥ta](囲炉裏＜地炉＞を設(シツラ)えた産褥には注連縄を張り巡らして悪霊のお祓い＜魔除けの護符＞にされた)。

シ˞ルイ˥カ [ʃi˞ruʔi˥ka] 【名】(動) あおりいか。「白烏賊」の義。体長30センチから45センチに成長する。ひれは発達して丸みがあり、腕は太く、2本の長く伸びた太い蝕腕がある。春には産卵のために海岸近くに寄ってくる。シ˞ルイ˥カ [ʃi˞ruʔi˥ka] は食すると利尿効果があるといわれており、サ˞ギフチ˥ル [sa˞giɸu̥ʧi˥ru](のぼせ＜逆上＞をさげる薬。頭痛、眼病、便秘薬) として重宝された。シ˞ルイ˥カー　˞マイ˥ヌ　パ˞マー˥ラン　イ˞ガジーバ　ナン˥ゲーティ　˥ユー　˞ホーサリ˥タン [ʃi˞ruʔi˥kaː ˞mai˥nu pa˞maː˥raŋ ʔi˞gaʤiːba naŋ˥geːti ˥juː ˞hoːsari˥taŋ](あおりいか＜白烏賊＞は、前の浜辺からも餌木を投げながらよく釣れたものだ)。

シ˞ルウチ [ʃi˞ruʔuʧi] 【名】 1屋敷内。境内。ウ˞ガン˥ヌ　シ˞ルウチ [ʔu˞gan˥nu ʃi˞ruʔuʧi](お願＜御嶽＞の境内)。シ˞ビナージナバ˥　ピ˞キ˥　パ˞リティ˥　ヤ˞ナ˥ムヌ　シ˞ルウチェー˥　イ˞リシムナ [ʃi˞binaːʤinaba˥ pi̥˞ki˥ pa˞riti˥ ja˞na˥munu ʃi˞ruʔuʧeː˥ ʔi˞riʃimuna](注連縄を引き張り巡らして悪霊を屋敷内に入れさせるな)。2一定面積の土地。メーヌウチ (広場の中) の対語。歌謡語。/シルウチヌ　メーヌ　ウチ　ヤーバ　スクリ　アンティスー/(城うち、屋敷内に家を造ってあるという～)「アーパーレー (新室寿歌)」。

シ˞ルカー [ʃi˞rukaː] 【名】釣瓶で水を汲む井戸。˞インヌカー [˞ʔinnukaː](西の村井戸)、˞ウイヌカー [˞ʔuinukaː](上の井戸。島仲の井戸) などはシ˞ルカー [ʃi˞rukaː] であるが、˞アンヌカー [˞ʔannukaː](東の村井戸)、パ˞チンガカー [pa˞ʧiŋgakaː] は、ウ˞リ˥カー [ʔu˞ri˥kaː](下り井戸。洞穴の底へ下りていって、湧き水を汲む井戸) である。˞インヌカーヤ˥　シ˞ルカー˥　ヤ˞ルンダ˥　ク˞バンパーシル˥シル　ミ˞ジェー˥　フ˞ムタル [˞ʔinnukaːja˥ ʃi˞rukaː˥ ja˞runda˥

kuˈbampaʃiruˈʃiru miˈʤeːˈ ɸuˈmutaru](西の村井戸はシルカーだから、クバ＜蒲葵＞の葉釣瓶で水を汲んだものだ)。

ジˈルˈカキ [ʤiˈruˈkạki] 【名】(植) 猪垣を作る際に用いる小さな樹木。直径約 3 センチ、高さ約 3 メートルの樹木、または樹木の枝。猪垣として土中に差し込んで横木をわたして編みこんでおくと根付きやすいので多く利用されたという。ジˈルˈカキ ˈキシン ユチンˈバーˈキン ˈオーッˈタンティˈダー [ʤiˈruˈkaki ˈkịʃiŋ jutʃimˈbaːˈkiŋ ˈʔoːtˈtantiˈdaː](猪垣用のジルカキを切り出しに、ユチンまでも行かれたそうだよ)。

シˈルギ [ʃiˈrugi] 【名】連続もの。続き物。反物の長さが二反、三反と続いて織られているもの。ˈニッタンシルˈギ [ˈnittaŋʃiruˈgi](二反続きの織物)。ˈサンダンシルギ [ˈsandaŋʃirugi](三反続きの織物) などがある。ˈニッタンシルギˈヌ ˈヌーヌˈシル クˈヌ キンˈマー ˈサーサリ [ˈnittaŋʃirugiˈnu ˈnuːnuˈʃiru kuˈnu kimˈmaː ˈsaːsari](二反続きの布で＜ぞ＞この着物は仕立てられる)。

シˈルˈキバタ [ʃiˈruˈkibata] 【名】産婦に起きる産後の腹痛。おろ (悪露) を伴い、胸を刺すように痛むという。子宮が締まるために痛むという。ッˈふァナシˈプソー ターˈンˈナーン シˈルˈキバター アˈリˈス [fˈfanaʃiˈpụso: taːˈnˈnaːŋ ʃiˈruˈkibataː ʔaˈriˈsu](産婦は誰にも産後の腹痛が起きる＜ある＞ものだ)。

シˈルˈク [ʃiˈruˈku] 【名】鰹節の補修に用いる魚肉を搗いて澱粉と練りあわせたもの。カツオのハˈラˈゴー [haˈraˈgoː](腹皮) やナˈカˈブニ [naˈkaˈbuni](中骨。脊髄) に着いている魚肉を臼で搗き、澱粉を少量加えて練ったもの。煮込みの過程で鰹節が割れたり、煮崩れしたものを補修し鰹節としての形を補正するのに用いるもの。その後に焙乾した。シˈルˈク ッˈふァーシティˈ プˈシˈヌ カˈタチˈ トゥˈトゥヌイˈリ [ʃiˈruˈku fˈfaːʃị̥tiˈ pụˈʃiˈnu kạˈtatʃiˈ tụˈtunuiˈri](シルクを塗りつけて＜喰わして＞鰹節の形を整えろ)。ˈネーシカツヌ ミーˈバリ ˈシー ブーˈ トンマー シˈルˈク ッˈふァーシˈバ [ˈneːʃikatsunu miːˈbari ˈʃiː buːˈ tommaː ʃiˈruˈku fˈfaːʃiˈba](煮たカツオのひび割れしているところはシルクを塗りなさい＜喰わせ＞よ)。

シˈルˈク ˈシッˈクン [ʃiˈruˈku ˈʃikˈkuŋ] 【連】シルク (煮た魚肉を搗いて鰹節の整形に用いるもの。補正用魚肉) を搗き捏ねる。

シˈルˈクビン [ʃiˈruˈkubiŋ] 【名】酒を入れる、首の細長い飾り瓶。「鶴瓶」の義。シˈルˈクビンナーˈグシェー イˈリティˈ シˈキˈ カˈザリˈバ [ʃiˈruˈkubinnaːˈguʃeː ʔiˈritiˈ ʃị̥ˈkiˈ kaˈʤariˈba](鶴瓶に神酒＜御酒＞を入れ、供えて飾りなさいよ)。

ジˈルˈクンチ [ʤiˈruˈkuntʃi] 【名】十六日祭。旧暦一月十六日の仏事。後生の正月といわれている。墓の周囲の掃除をし、雑草を取り払い、木の枝打ちをして浜から砂を運び、墓前に敷いて当日を迎えた。当日は、ッˈスˈムチ [sˈsuˈmutʃi](白餅)、ˈバタムチ [ˈbatamutʃi](餡餅)、豚肉、カˈマブク [kaˈmabuku](カマボコ)、ˈタク [ˈtạku](蛸)、ˈティンˈプラ [ˈtimˈpura](てんぷら) 等のご馳走とサˈキ [sạˈki](酒)、パˈナンˈグミ [paˈnaŋˈgumi](花米)、ウˈティンˈガビ [ʔuˈtiŋˈgabi](紙銭) をバˈキトゥリˈブン [baˈkituriˈbuŋ](脇取り盆) に揃えて供え、墓前で紙銭を焼き上げて祈願した後、親戚縁者が集まってご馳走を食べながら一家、一族の絆を固めつつ半日を過ごした。ジˈルˈクンチェー パˈカヌ ソーˈジン ˈシーˈ ウˈトゥザマリンˈ パˈカˈナー アˈツァˈマリティ ムˈチンˈ ジˈブˈクン シˈキマチティˈ ウサイ ンˈキティル ヤーˈヤ ˈオーッˈタ [ʤiˈruˈkuntʃeː pạˈkanu soːˈʤiŋ ˈʃiːˈ ʔuˈtuʤamarimˈ pạˈkaˈnaː ʔaˈtsaˈmariti muˈtʃinˈ ʤiˈbuˈkuŋ ʃị̥ˈkimatʃitiˈ ʔusai ʔŋˈkitiru jaːˈja ˈʔoːtˈta](十六日祭には墓の掃除もして、親戚も墓に集まって餅も重箱もお供えし祭って、そこでご馳走を食べてから家には帰られた＜行かれた＞)。

シˈルシ [ʃiˈruʃi] 【名】 1印し。しおり (枝折)。クˈヌˈ シˈルシェー バンˈテヌ ˈヤーˈバン [kuˈnuˈ ʃiˈruʃeː banˈtenu ˈjaːˈbaŋ](この印しは私の家の記号＜家の印し＞だ)。ヤˈマー ペーˈル ˈピンマー ˈキームトゥˈヌ ˈカー キˈジティˈ シˈルシˈ シキティ ˈペーˈリ [jaˈmaː peːˈru ˈpimmaː ˈkiːmutuˈnu ˈkaː kiˈʤitiˈ ʃiˈruʃiˈ ʃị̥kiti ˈpeːˈri](山へ入る時は、木の幹の皮を削って印しを付けて入れ)。2徴候。前兆。ヤˈラビˈヌ ミˈジパナドゥルヌˈ ンˈジˈルカー パˈナシキヌˈ シˈルシ [jaˈrabiˈnu miˈʤipanadurunuˈ ʔnˈʤiˈrukaː paˈnaʃị̥kinuˈ ʃiˈruʃi](子供の水っ洟が出たら風邪の徴候だ)。

シˈルˈシゥカイ [ʃiˈruˈsị̥kai] 【名】おじや。お茶漬け。湯漬け。お茶を注ぎかけたご飯。老年層の言葉。若年層はシˈルˈシケー [ʃiˈruˈʃị̥keː](お茶漬け) ともいう。多くの場合、老人がシˈルˈシゥカイをして食するのを好んだ。子供がそれをまねると叱られた。ˈウ

イプスヌˀル　シˈルˀシゥカイ　ˈシーˀ　ンˈコーッタˀル　ヤˈラビンˀマー　シˈルˀシゥカイ　シˈモーランˀシェン [ˈʔuipusunuˀru ʃiˈruˀsi̥kai ˈʃiːˀ ʔŋˀkoːttaˀru jaˈrabimˀmaː ʃiˈruˀsi̥kai ʃiˈmoːraŋˀʃeŋ](老人が湯漬けをして召し上がられたもので、子供には湯漬けをさせられなかった)。若年層は、シˈルˀシケー [ʃiˈruˀʃi̥keː](お茶漬け。湯漬け) ともいう。

シˈルˀシケー [ʃiˈruˀʃi̥keː] 【名】おじや。お茶漬け。湯漬け。ご飯にお汁やお茶をかけて食べるご飯のこと。若年層の言葉。連母音の [ai] → [eː] による融合変化。老年層は、シˈルˀシゥカイ [ʃiˈruˀsi̥kai](おじや。湯漬け) ともいう。子供がシˈルˀシケー [ʃiˈruˀʃi̥keː] をして食べると行儀が悪いといって叱られた。「汁掛け飯」の義。ヤˈラビˀヌ　シˈルˀシケー　ˈスーˀカー　ヤˈナフシˀティ　ˈシーˀ　イˈジソーッˀタ [jaˈrabiˀnu ʃiˈruˀʃi̥keː ˈsuːˀkaː jaˈnaɸu̥ʃiˀti ˈʃiːˀ ʔiˈʤisoːtˀta](子供がご飯にお汁を掛けてお茶漬けにして食べると、悪い癖といって叱られた＜叱りなさった＞ものだ)。

ˀシルズーシ [ˀʃirudʑuːʃi] 【名】汁の多い雑炊。おじや。「汁雑炊」の義。お粥状に煮込んだ雑炊。ˈコーズーˀシ [ˈkoːdʑuːˀʃi](強雑炊。硬い雑炊)、ピˈサシズーˀシ [piˈsaʃidʑuːˀʃi](五目飯。火薬飯) の対義語。カˈツヌˀ　スˈブルˀトゥ　ˈナーンˀパー　イˈリティˀ　シルズーシ　バˈカスˀカー　イッˈケナˀ　ンˈマーˀタン [kḁˈtsunuˀ suˈburuˀtu ˈnaːmˀpaː ʔiˈritiˀ ʃirudʑuːʃi baˈkasuˀkaː ʔikˈkenaˀ ʔmˈmaːˀtaŋ](カツオの頭と菜っ葉を入れて汁雑炊を炊くと非常に美味しかった)。

シˈルダミ [ʃiˈrudami] 【名】三線＜三味線＞の弦を調弦すること。調弦。「弦矯め」の義。ˈサンシンヌˀ　シˈルダミヌˀ　アˈタランˀカー　ウˈブˀブシェー　ピˈカラヌ [ˈsaŋʃinnuˀ ʃiˈrudaminuˀ ʔaˈtaraŋˀkaː ʔuˈbuˀbuʃeː pi̥ˈkaranu](三線の調弦が正しくないと荘重な本節＜節歌＞は弾奏できない＜弾かれない＞)。

シˈルダリ [ʃiˈrudari] 【名】気落ちして動けなくなること。気抜けしてぐったりすること。精神的打撃を受け、落胆して力が抜けること。がっくりすること。失望したり、驚いたりして立ち上がる気力を失うこと。ウˈリンˀ　ウˈバーサリティˀ　ベーシˈティˀ　ウˈダラˀキティ　シˈルダリ　シーナーˀヌ [ʔuˈriŋˀ ʔuˈbaːsaritiˀ beːʃi̥ˈtiˀ ʔuˈdaraˀkiti ʃiˈrudari ʃiːnaːˀnu](あいつに驚かされて、びっくりして腰を抜かしてしまった＜立ち上がる気力を失ってしまった＞)。

シˈルダリ　スン [ʃiˈrudari suŋ] 【連】気落ちして、がっくりする。気抜けしてぐったりする。ˈユーˀロー　ミˈドーンˀッふァー　ウˈダラカˀスカー　シˈルダリ　スンダˀ　ウˈダラカスˀナˈヨー [ˈjuːˀroː miˈdoːŋˀffaː ʔuˈdarakaˀsu̥kaː ʃiˈrudari sundaˀ ʔuˈdarakasuˀnaˈjoː](夜は、女の子は驚かすとがっくりして動けなくなるから驚かすなよ)。

シˈルˀ　ダルン [ʃiˈruˀ daruŋ] 【連】気落ちしてがっくりする。気抜けしてぐったりする。ウˈヌスˀク　ウˈヤーンチˀジ　ˈベータンˀドゥ　ˀシケン　ˀウティティ　シˈルˀ　ダリ　ˈナーˀヌ [ʔuˈnusu̥ˀku ʔuˈjaːntʃiˀ ʤi ˈbeːtanˀdu ˀʃi̥keŋ ˀʔutiti ʃiˈruˀ dari ˈnaːˀnu](あれほど切望していたのに、試験に落ちて気落ちしてぐったりしてしまった)。

シˈルッˀクムン [ʃiˈrukˀkumuŋ] 【自動】つんのめる。激しい勢いで前方へ倒れる。前方へ突っ込む。カˈキッツァーˀシ　ˀパリクンケンマー　イˈシˀナー　ˀパン　ˈピッカキティˀ　シˈルッˀクミ　フˈタイˀ　パギ　ˀシケー [kḁˈkittsaːˀʃi ˀparikuŋkemmaː ʔiˈʃiˀnaː ˀpam ˈpikkakitiˀ ʃiˈrukˀkumi ɸu̥ˈtaiˀ pagi ˀʃi̥keː](駆け足して走ってくると石に足をひっかっけてつんのめり、額の皮膚を擦り剥いてある)。ˀマンター　シˈルッˀクムン [ˀmantaː ʃiˈrukˀkumuŋ](前方へつんのめる。突っ込む)。ˀグサン　スˈクˀカー　シˈルックマˀヌ [ˀgusan su̥ˈkuˀkaː ʃiˈrukkumaˀnu](杖をついたらつんのめらない)。シˈルッˀクム　ˀクトー　ˈナーˀヌ [ʃiˈrukˀkumu ˀku̥toː ˈnaːˀnu](つんのめることは無い)。シˈルッˀクメー　ˀミサムヌ [ʃiˈrukˀkumeːˀmisamunu](つんのめれば良いのに)。シˈルッˀクミバ [ʃiˈrukˀkumiba](突っ込めよ)。

シˈルッˀコー [ʃiˈrukˀkoː] 【名】台無しになること。ぶち壊しになること。ご破算になること。駄目になること。ˈウンザヌˀ　タˈミˀナー　シˈグトゥンˀ　シˈルッˀコー　ˀナリ　ˈナーˀヌ [ˈʔundʑanuˀ taˈmiˀnaː ʃiˈgutuŋˀ ʃiˈrukˀkoː ˀnari ˈnaːˀnu](あいつのために仕事もぶち壊しになってしまった)。

シˈルッˀコー　ˀナスン [ʃiˈrukˀkoː ˀnasuŋ] 【連】台無しにする。ぶち壊しにする。ˈシッカˀク　ヤッˈトゥˀシ　マˈトゥミˀ　シケー　パˈナˀシン　ウˈリヌˀ　パˈナˀスカー　ムーˈルˀ　シˈルッˀコー　ˀナスン [ˈʃikkaˀku maˈtumiˀ ʃi̥keː paˈnaˀʃiŋ ʔuˈrinuˀ paˈnaˀsu̥kaː muːˈruˀ ʃiˈrukˀkoː ˀnasuŋ](折角やっとでまとめてある話も、彼が話すと総てぶっ壊しにしてしまう)。

シˈルッコーマンˀザイ [ʃiˈrukkoːmanˀdʑai] 【名】台

無しになること。ぶち壊しになること。ご破算になること。畳語的。˞ヌーンクイン　ムー˞ル˞　シ˞ルッコーマン˞ザイ　˞ナリ　˞ナー˞ヌ [˞nuːŋkuim muː˞ru˞ ʃi˞rukkoːman˞ʤai ˞nari ˞naː˞nu](何もかも総て台無しになってしまった)。

シ˞ル ッ コ ー ム ッ˞コ ー [ʃi˞rukkoːmuk˞koː] 【名】ABCDEFCDE 型の重言。台無しになること。ぶち壊しになること。ご破算になること。˞ウンザヌ˞　キーティ　シ˞グトゥ˞　シ˞ター˞　ムー˞ル˞　シ˞ルッコームッ˞コー　˞ナシ　˞ナー˞ヌ [˞ʔunʤanu˞ kiːti ʃi˞gutu˞ ʃi̥˞taː˞ muː˞ru˞ ʃi˞rukkoːmuk˞koː ˞naʃi ˞naː˞nu](あいつが来て仕事をしたので全部台無しにしてしまった)。˞タイフー˞ヌ　フ˞ク˞ター　ス˞クリ˞ムノー　シ˞ルッコームッ˞コー　ナリ˞ナー˞ヌ [˞taiɸuː˞nu ɸu̥˞ku˞taː su̥˞kuri˞munoː ʃi˞rukkoːmuk˞koː nari˞naː˞nu](台風が吹いたので作物は台無しになってしまった)。

シ˞ルッふァー˞スン [ʃi˞ruffaː˞suŋ] 【他動】塗りたくる。やたらに塗る。塗りまくる。シ˞リッふァー˞シとも言う。˞ペン˞キ　シ˞ルッふァー˞スンティ　˞スンドゥ˞　カ˞タマリティ˞　シ˞ルッふァーサラ˞ヌ [˞peŋ˞ki ʃi˞ruffaː˞sunti ˞sundu˞ kḁ˞tamariti˞ ʃi˞ruffaːsara˞nu](ペンキを塗りたくろうとするが、固まって塗りたくられない)。シ˞ルッふァー˞シ　˞ミサカー　シ˞ルッふァー˞ス　˞クトー　˞ナルン [ʃi˞ruffaː˞ʃi ˞misaka: ʃi˞ruffaː˞su ˞ku̥to: ˞naruŋ](塗りたくって良ければ塗りたくることは出来る)。シ˞ルッふァー˞シェー　˞ミサムヌ [ʃi˞ruffaː˞ʃeː ˞misamunu](塗りたくれば良いのに)。シ˞ルッふァー˞シ [ʃi˞ruffaː˞ʃi](塗りたくれ)。

˞シル　˞ナー˞ヌ [˞ʃiru ˞naː˞nu] 【連】愛情がない。「汁がない」の義。ク˞レー˞　ッ˞ふァ˞ナー　˞ピッ˞チン　˞シル　˞ナー˞ユンダ　ナー˞イ˞　シ˞ティ˞ガラ　˞シー˞　ス˞ダ˞ティ　˞ベー [ku˞reː˞ f˞fa˞naː ˞pit˞ʧiŋ ˞ʃiru ˞naː˞junda naː˞i˞ ʃi̥˞ti˞gara ˞ʃiː˞ su˞da˞ti ˞beː](この人は < これは > 全く < ひとつも > 子供に愛情がないから、ただほったらかしにして育てている)。

シ˞ル˞フジカーフジ [ʃi˞ru˞ɸuʤikaːɸuʤi] 【名】台無しにすること。ぶち壊しにすること。めちゃくちゃ (滅茶苦茶) にすること。ABCDEFCD 型の重言。ウ˞ヌス˞ク　˞アウ˞リナンギバ　˞シー˞　ス˞ク˞レール　˞ムヌバ　シ˞ル˞フジカーフジ　˞シーシティ　ナー˞ヌ [ʔu˞nusu̥˞ku ˞ʔau˞rinaŋgiba ˞ʃiː˞ su̥˞ku˞reːru mu˞nu˞ba ʃi˞ru˞ɸuʤikaːɸuʤi ˞ʃiːʃi̥ti naː˞nu](あれほど難儀苦労をして作ったものをいじくって台無しにしてしまった)。

シ˞ル˞フズン [ʃi˞ru˞ɸuʤuŋ] 【他動】ぶち壊す。台無しにする。めちゃくちゃ (滅茶苦茶) にする。損なう。プ˞スヌ˞　シ˞グトゥバ˞　シ˞ル˞フズンティ　シ˞タンティン˞　アイヤー　シ˞ルフザラ˞ヌ [pu̥˞sunu˞ ʃi˞gutuba˞ ʃi˞ru˞ɸuʤunti ʃi̥˞tantiŋ˞ ʔaija: ʃi˞ruɸuʤara˞nu](他人の仕事をぶち壊すと言っても、あんなにはぶち壊せない)。シ˞ル˞フジミサカー　シ˞ル˞フズ˞クトゥン　ナ˞リ˞スヌ　シ˞ル˞フジェー　ナ˞ラ˞ヌ [ʃi˞ru˞ɸuʤi ˞misaka: ʃi˞ru˞ɸuʤu ˞ku̥tun na˞ri˞sunu ʃi˞ru˞ɸuʤe: na˞ra˞nu](ぶち壊してよければぶち壊すこともできるが、ぶち壊してはいけない)。シ˞ル˞フジバ [ʃi˞ru˞ɸuʤiba](ぶち壊せよ)。

シ˞ルング˞チ [ʃi˞ruŋgu˞ʧi] 【名】すりこぎ (擂粉木)。れんぎ。「摺粉木」の [suri] の [u] と [i] が音位転換 (metathesis) し、[kogi] の [ko] が濁音化、[o] が狭母音化して [u] となり (三母音化)、[gi] が口蓋化して [ʤ] となり、更に無声化して [ʧ] と音韻変化して形成された語。˞グマー　˞ダイ˞パーナ　イ˞リティ˞　シ˞ルング˞チシ　˞ッシバ [˞guma: ˞dai˞paːna: ʔi˞riti˞ ʃi˞ruŋgu˞ʧiʃi ˞ʃʃiba](胡麻は擂鉢に入れて擂粉木で擂りなさいよ)。

˞ジロッピテー [˞ʤiroppiteː] 【名】屋号。大城二郎氏宅。「二郎・兄さんの家」の義。˞ジロー [ʤiroː](二郎) に糸満方言の˞アッピー [˞ʔappiː](兄さん) が下接して生成された合成語。ウ˞チ˞ネーヌ　˞シー˞ネール　˞ジロッピテー　˞ヤッタ [ʔu˞ʧi˞neːnu ˞ʃiː˞neːru ˞ʤiropite: ˞jatta](仲伊部家の後隣が大城次郎氏宅だった)。

˞シワ [˞ʃiwa] 【名】しわ (皺)。˞ウイ˞プソー　˞シラナー　シ˞ワ˞ヌ　˞ゴー˞ラーン [˞ʔui˞pu̥so: ˞ʃirana: ʃi˞wa˞nu ˞goː˞raːŋ](老人は顔に皺が多い)。˞ウイ˞プス　˞ナッ˞ター　シ˞ワ˞ヌ　˞ゴー˞ラー　˞ナリ　˞ナー˞ヌ [˞ʔui˞pu̥su ˞nat˞taː ʃi˞wa˞nu ˞goː˞raː ˞nari ˞naː˞nu](老人になったので皺が多くなってしまった)。

シ˞ワザ [ʃi˞waʤa] 【名】仕業。所業。悪い行い。ク˞レー˞　ヤ˞ラビ˞ヌ　シ˞ワザ˞テー　ウ˞モーラ˞ヌ [ku˞reː˞ ja˞rabi˞nu ʃi˞waʤa˞teː ʔu˞moːra˞nu](これは子供の仕業とは思われない)。

˞シン [˞ʃiŋ] 【名】 1しん (心)。心底。˞シンラ　˞ワーヨー　ニッ˞ふァーティ　イ˞ゾー˞ル　˞ムノー　ア˞ラ˞ヌ　˞ワー˞　タ˞ミバ˞　ウ˞ムイ˞ル　イ˞ゾー˞ル˞ダー [˞ʃinra ˞waːjoː nif˞faːti ʔi˞ʤoː˞ru ˞muno: ʔa˞ra˞nu ˞waː˞ ta˞miba˞ ʔu˞mui˞ru ʔi˞ʤoː˞ru˞daː](心底から

君が憎くて叱るのではない。君のためを思って叱るのだよ)。2もののの中心部。しん (芯)。˩ティンプラ˥ヌ　˥シン [˩timpura˥nu ˥siŋ](テンプラの芯)。イ˩ズシンティンプラ [ʔi˩ʤuʃintimpura](魚芯テンプラ)。˥ウンシンティンプラ [˥ʔuŋʃintimpura](芋芯テンプラ)。

˥シン [˥ʃiŋ] 【名】1墨。墨汁。˥シン　˥ッシティ　˩ジー˥　カキ [˥ʃiŋ ˥ʃʃiti ˩ʤi:˥ kąki](墨を擦って字を書け)。シ˩ジ˥リナー　˥シン　˥ッスン [ʃi˩ʤi˥rina: ˥ʃin ˥ssuŋ](硯に墨を擦る)。2消し炭。カ˩マチヌ˥　シン　˥トゥリキー　˥ピー　˩タシキ [ka˩matʃinu˥ ʃin ˥turiki: ˥pi: ˩taʃi̥ki](竈の消し炭を採ってきて火を焚きつけなさい)。炭。˥シンシ　˩ジー˥　カクン [˥ʃiŋʃi ˩ʤi:˥ kakuŋ](炭で字を書く)。

˥シン [˥ʃiŋ] 【名】線。˥クマーラ　カ˩マーバー˥キ　˥シン　ピ˩キ˥バ [˥kuma:ra ka˩ma:ba:˥ki ˥ʃim pi̥˩ki˥ ba](ここからあそこまで線を引けよ)。˩シン˥マー　マ˩ギルナ [˩ʃim˥ma: ma˩giruna](線は曲げるな)。˩シン˥バ　ピ˩クン [˩ʃim˥ba pi̥˩kuŋ](線を引く)。˩シン˥ヌ　˩キール˥　クトー　˩ナー˥ヌ [˩ʃin˥nu ˩ki:ru˥ ku̥to: ˩na:˥nu](線が消えることはない)。

˥シン [˥ʃiŋ] 【名】千。数の名。˥シンニン　˥マンニン　イ˩キ˥ル　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [˥ʃinnim ˥manniŋ ʔi˩ki˥ru pu̥˩so:˥ bu˩ra:nu](千年万年も生きる人はいない)。

˥シン [˥ʃiŋ] 【助数】銭。貨幣の単位。円の百分の一。イ˩クサ˥ユーナー　˩ピータイ˥ヤー　˥イッシン　グ˩リンティル˥　ア˩ザリ　ブタ˥ツォー [ʔi˩kusa˥ju:na: ˩pi:tai˥ja: ˥ʔiʃʃiŋ gu˩rintiru˥ ʔa˩ʤari buta˥tso:](戦争中は、兵隊は一千五厘といわれていたそうだ)。˥イッシンシェー　˩ヌー˥ル　˩カーリタ˥カヤー　ナ˩レー [˥ʔiʃʃiŋʃe: ˩nu:˥ru ˩ka:rita˥kaja: na˩re:](一銭では何を買うことが出来ただろうか < 何が買われただろうか > ねえ、それは)。

˥シン [˥ʃiŋ] 【名】1芯。髄。バ˩ラフタ˥ヌ　˥シン　˥ヌイティ　バ˩ラフ˥タポーキ　ス˩ク˥ルンティ　˩ベー [ba˩raɸu̥ta˥nu ˥ʃin ˥nuiti ba˩raɸu̥˥tapo:ki su̥˩ku˥runti ˩be:](稲藁の芯を抜いて藁芯箒を作ろうとしている)。2心棒。車軸。ク˩ルマ˥ヌ　˥シン　˥ブリ　˩ナー˥ヌ [ku˩ruma˥nu ˥ʃim ˥buri ˩na:˥nu](車の心棒 < 車軸 > が折れてしまった)。

˥ジン [˥ʤiŋ] 【名】お金。貨幣の名称。˩銭、ゼニ」『類聚名義抄』の転訛したもの。˥ジン　˩モーキ˥ルンティル　˩アウ˥リ　˥ナンギン　˩スー [˥ʤim ˩mo:ki ˥runtiru ˩ʔau˥ri ˥naŋgin ˩su:](お金を儲けるために < 儲けようとして > 難儀苦労もするのだ)。イ˩ズ˥　トゥリ　˩カーシ　イー˥シ　˥トゥリ　˩カーシ˥　ナ˩ツァー˥ラ　˥トゥリ　˩カーシ˥　イ˩ガ　ホー˥シ　˩カーシ　シェー˥ティル　˩ジン˥マー　˩モーク˥タ [ʔi˩ʤu˥ turi ˩ka:ʃi ʔi:˥ʃi ˥turi ˩ka:ʃi˥ na˩tsa:˥ra ˥turi ˩ka:ʃi˥ ʔi˩ga ho:˥ʃi ˩ka:ʃe:˥tiru ˩ʤim˥ma: ˩mo:ku˥ta](魚を獲って売り、ツノマタ < 角叉海草 > を採集して売り、かいじんそう < 海人草 > を採取して売り、烏賊釣り漁をして売りながらお金は儲けた)。

˩ジン [˩ʤiŋ] 【名】お膳。料理を載せて運び、配膳する台。˩クヮイシキ˥ジン [˩kwaiʃi̥ki˥ʤiŋ](会席膳)、タ˩カ˥ジン [ta˩ka˥ʤiŋ](高膳) などがある。˩ユーチングヌ˥　ウ˩サイ˥ヤー　˩ジン˥ナー　シ˩キ˥　マ˩チ˥バー [˩ju:ʧiŋgunu˥ ʔu˩sai˥ja: ˩ʤin˥na: ʃi̥˩ki˥ ma˩ʧi˥ba:](四つ組のご馳走はお膳につけてお供えしなさい)。

˥シンイズ [˥ʃiŋʔiʤu] 【名】(動) 魚の名。和名、ヘダイ (体長約 35 センチ)、和名、キジヌの仲間 (糸満方言、チンシラー。体長約 35 センチ)。この大型魚には別名、ガ˩クーガクー [ga˩ku:gaku:] ともいう。高級魚。(糸満方言で、チバー)。きぢぬの仲間。体長約 35 センチ (糸満方言で、チンシラー『原色沖縄の魚』) の総称。マー˩ズン˥　シンイズ　˩ホー˥シン　パラ˩ディー [ma:˩ʤuŋ˥ ʃinʔiʤu ˥ho:˥ʃim para˩di:](一緒にヘダイ < きぢぬ > を釣りに行こうよ)。

˩シン˥カ [˩ʃiŋ˥ka] 【名】仲間。人衆。組合員。乗り組み員。大勢の人。「臣下」の転訛したものか。˩インヌムラシンカ [˩ʔinnumuraʃiŋka](西村の仲間)。˩アンヌムラシンカ [˩ʔannumuraʃiŋka](東村の仲間)。カ˩ツシンシンカ [kḁ˩tsuʃiŋʃiŋka](カツオ漁船の乗組員)。˥ジーシンカ [˥ʤi:ʃiŋka](地謡仲間)。ブ˩ドゥルシンカ [bu˩duruʃiŋka](踊り人衆)。バ˩コーシン˥カ [ba˩ko:ʃiŋ˥ka](共同作業に従事する仲間。「ばくろう < 博労 > 臣下」の転訛か)。バ˩コーシンカ˥ヌ　˥アシ　ス˩コーリ [ba˩ko:ʃiŋka˥nu ˥ʔaʃi su̥˩ko:ri](共同作業人衆の昼食の準備をしなさい)。

˩シンカースン [˩ʃiŋka:suŋ] 【他動】顔をつき合わせる。角突き合わせる。争い対立する。やっつける。互いにやり込める。ユ˩ヌタキ˥ヌ　˥ムヌヌ　˩シンカーシ　ベー˥ティ　˥アトー　˩アイ˥スー˩ダー [ju˩nutaki˥nu ˥munu˥nu ˩ʃiŋka:ʃi be:˥ti ˥ʔato: ˩ʔai˥su˩da:](同じ程度の者が同居し、ひしめき対立していて、後は喧嘩になるぞ)。ウ˩ビ˥ヌ　˩キョーダイ˥サ　プ˩スキブ˥ルナー　˩シンカースンティ　アーキ˥ル　˩アイ˥ヤーチバ　˩シンカーサンドー˥シ　˩ナ

ーメーメー˞ ナ˞サバ˞ル マ˞シ [ʔu˞bi˞nu ˞kjoːdai˞ sa ˞ʃiŋkaːsunti ʔaːki˞ru ˞ʔai˞jaːʧiba ˞ʃiŋkaːsandoː˞ʃi ˞naːmeːmeː˞ na˞saba˞ru ma˞ʃi](あれだけの兄弟が一軒屋に顔をつき合わせていて喧嘩したのだから、顔つき合わせないで各自＜銘銘＞自立させたほうがよい＜増しだ＞)。˞イーレサ アーレサ˞ シ˞ナヌ˞ミンバ ˞ユーシクーバ ˞シンカサー ˞シンカサー [˞ʔiːresa ʔaːresaː˞ ʃi˞nanu˞mimba ˞juːʃikuːba ˞ʃiŋkasaː ˞ʃiŋkasaː](西村東村、寄せてくれば互いに競争しよう、やっつけよう)、豊年祭の東西対抗の口合戦＜イジックナー [ʔi˞ʤikkunaː] 言挙げ競争＞の文句。

˞シンカキゾー˞ジ [˞ʃiŋkakiʤoː˞ʤi] 【名】筆達者。能書家。能筆家。能筆。「墨書き上手」の義。フ˞ディトゥリゾー˞ジ ˞ナリ タ˞ボー˞リ ˞シンカキゾー˞ジ ˞ナリ タ˞ボー˞リ [ɸu˞dituriʤoː˞ʤi ˞nari ta ˞boː˞ri ˞ʃiŋkakiʤoː˞ʤi ˞nari ta˞boː˞ri](筆で書くことが上手な人＜筆達者＞になって下さい。能書家＜墨書き上手＞になってください)。

˞シンカスン [˞ʃiŋkasuŋ] 【他動】沈める。沈ませる。沈没させる。˞フニ ˞ハーガラ˞シティ ˞シンカシ＜˞フンナキ＞ ナー˞ヌ [˞ɸuni ˞haːgara˞ʃi̥ti ˞ʃiŋkaʃi＜˞ɸunnaki＞ naː˞nu](舟を浅瀬に乗り上げて沈ませ＜沈没させ＞てしまった)。˞フニ ˞シンカスンティ˞ ウ˞ムー˞タンティン ˞シンカサラヌ [˞ɸuni ˞ʃiŋkasunti˞ ʔu˞muː˞tantiŋ ˞ʃiŋkasaranu](舟を沈めようと思っても沈められない)。˞シンカス˞ フネー イ˞ズヌ˞ ヤー ˞ナルンダ ˞パー˞ク ˞シンカシ [˞ʃiŋkasu˞ ɸuneː ʔi˞ʤunu˞jaː ˞narunda ˞paː˞ku ˞ʃiŋkaʃi](沈める舟は魚の巣になる＜成る＞のだから早く沈めなさい)。˞クナー ˞シンカシェー˞ ミサムヌ [˞kunaː ˞ʃiŋkaʃeː˞ misamunu](ここに沈めればよいのに)。˞シンカシ˞ ミサン [˞ʃiŋkaʃi˞ misaŋ](沈めてよい)。

˞シンガ˞チ [˞ʃiŋga˞ʧi] 【名】四月。˞シンガ˞チェーラ ˞ガッ˞コーン パ˞ジマルン [˞ʃiŋga˞ʧeːra ˞gak˞koːm pa˞ʤimaruŋ](四月から学校も始まる)。

˞ジン˞カニ [˞ʤiŋ˞kani] 【名】お金。金銭。「ぜにかね (銭金)」の転訛したもの。˞ジンカニ˞ヌ ˞ナーン˞カー ˞ウムー ˞クトゥーン ノー˞ン˞ ナ˞ラ˞ヌ [˞ʤiŋkani˞nu ˞naːŋ˞kaː ˞ʔumuː ˞kutuːn noː˞n˞ na˞ra˞nu](お金がなかったら思うことも何も出来ない)。

˞ジンカヤー [˞ʤiŋkajaː] 【名】借金する人。˞金借り人」の義。石垣方言からの借用語か。˞ウンザー˞ フ˞ユ˞ニン ヤ˞ルンダ˞ パ˞タラクンテー˞ サ˞ムティ˞ ジンカヤー ˞ナリ ˞ウカン シ˞ビ オーレー˞ティ ˞アー˞クンティ [˞ʔundʐaː˞ ɸu˞ju˞niŋ ja˞runda˞ pa̠˞tarakunteː˞ sa˞muti˞ ʤiŋkajaː ˞nari ˞ʔukaŋ ʃi˞bi ʔoːreː˞ti ˞ʔaː˞kunti](あの野郎は怠け者だから、働こうとはしないで、金借りになって、借金に尻追われ＜追っかけられ＞ているさ、見てごらん)。

˞ジン˞カリ [˞ʤiŋ˞kari] 【名】借金。金借り。˞ヤースク˞リナーヤ ˞ジン˞カリーン ˞サン˞カー ナ˞ラン˞パジ [˞jaːsu̠ku˞rinaːja ˞ʤiŋ˞kariːŋ ˞saŋ˞kaː naːram ˞paʤi](家造り＜家屋新築＞には借金もしないとならないはず)。

˞シン˞ギ [˞ʃiŋ˞gi] 【名】(植) イタジイ (オキナワジイ)。辺材、心材とも淡黄白色で反張割裂し易いが水湿に強い。材は堅硬で緻密であるが肌目は粗い。材は建築材・器具材・薪炭材・土木用材などの外、シイタケの木骨木に利用する『図鑑琉球列島有用樹木誌』。˞パイタ˞ヌ ˞ヤマーラ ˞シン˞ギ ˞キシ ˞キー バ˞リティ˞ タ˞ム˞ヌ ˞ソーッ˞タ [˞paita˞nu ˞jamaːra ˞ʃiŋ˞gi ˞kiʃi ˞kiː ba˞riti˞ ta˞mu˞nu ˞soːt˞ta](西表の山からイタジイを伐り出してきて割って薪にされた)。

˞シン˞ギ [˞ʃiŋ˞gi] 【名】(植) しいのき (椎の木)。ア˞ディン˞ガー [ʔa˞diŋ˞gaː](椎の実) は˞鳩間中岡節」に歌われている。建築用材に利用される樹木。西表島の山中に産する。˞シンギ˞バ ˞キシキー パ˞マ˞ナー ウ˞ズミティ スー˞カン ˞シー˞ シケー [˞ʃiŋgi˞ ba ˞ki̥ʃiki: pa˞ma˞na: ʔu˞ʤumiti su:˞kaŋ ˞ʃiː ʃi̥ke:](椎の木を伐ってきて浜に埋めて潮で乾燥してある)。

˞シンギ [˞ʃiŋgi] 【副】より悪いさま。より下等であるさま。より悪化した状態。˞シンギン [˞ʃiŋgiŋ](より悪いさま) ともいう。「賤技」の転訛したものか。ク˞レー マー˞ビン ˞シンギル˞ ヤ˞ル [ku˞reː maː˞biŋ ˞ʃiŋgiru˞ ja˞ru](これはもっと悪い状態である)。˞ヤン˞マー ˞シンギ˞ ナ˞ラン˞ケン ˞パー˞ク ˞イサン ミ˞シ˞リバ [˞jam˞maː ˞ʃiŋgi˞ na˞raŋ˞kem ˞paː˞ku ˞ʔisam mi˞ʃi˞riba](病気はより悪化しないうちに早く医者に看てもらいなさい＜見せなさい＞よ)。˞オーシケー シンダイ シンギ˞ ナリ˞ナー˞ヌ [˞ʔoːʃikeː ʃindai ʃiŋgi˞ nari˞naː˞nu](天気は次第に悪化してしまった)。

˞ジン˞ギ [˞ʤiŋ˞gi] 【名】茶筒。ブリキ製の茶筒。「ずんぎり (寸切)」の転訛したもの。˞ジン˞ギリ [˞ʤiŋ˞giri](茶筒) ともいう。ジンギ˞レー˞マ [ʤiŋgi˞reː˞ma](ブリキ製の小かん＜罐＞) 等がある。イ˞サ˞ヌ フ˞チ˞ロー ˞ジン˞ギリナー イ˞リラリ˞ ブ˞

タヌ˞　イッ˞ケン˞　ス˞クタン˞ダー [ʔi˞sa˞nu ɸu̥˞ʧi˞ ro: ˞ʤiŋ˞girina: ʔi˞rirari˞ bu˞tanu˞ ʔik˞ken˞ su̥˞kutan˞da:](医者の薬は薬品缶に入れられていたが、非常によく効いたよ)。

˞ジン˞ギ [˞ʤiŋ˞gi] 【名】(植) 和名、シマトネリコ。ヤ˞マー˞ラ　˞ジン˞ギ　˞キシキー　タ˞ム˞ヌ　バ˞リ [ja˞ma:˞ra ˞ʤiŋ˞gi ˞kiʃi̥ki: ta˞mu˞nu ba˞ri](山からシマトネリコの木を伐って来て薪に割りなさい)。

˞シン˞ギク [˞siŋ˞giku] 【名】(植) シュンギク (春菊)。葉には独特の香気が強く、子供には好まれなかった。大人が好んで食する野菜であった。˞シンギ˞コー　カ˞ザヌ˞　キ˞ツァ˞ヌ　˞ナン˞ゾー　ン˞マーン˞テー　ウ˞モーラン˞シェン [˞ʃiŋgi˞ko: ka˞ʤanu˞ ki̥˞tsa˞nu ˞nan˞ʤo: ʔm˞ma:n˞te: ʔu˞mo:raŋ˞ʃeŋ](春菊は匂いがきつくて、あまり美味しいとは思われなかった)。˞シンギ˞コー　˞ティン˞プラ　ア˞ギル˞カーン˞マーン˞ドゥ　˞スーナ　バ˞カス˞カー　カ˞ザダカー˞ヌ　ヌ˞ミングリ˞サン [˞ʃiŋgi˞ko: ˞tim˞pura ʔa˞giru˞ka: ʔm˞ma:n˞du ˞su:na ba˞kasu˞ka: ka˞ʤadaka:˞nu nu˞miŋguri˞saŋ](春菊はテンプラにすると美味しいが、お汁に炊くと匂いがきつくて飲みづらい)。

˞シンキスン [˞ʃiŋki̥suŋ] 【他動】摘みきる。ちぎる (千切る)。摘む。ム˞チェー˞　フ˞ターチ　ミーチェー˞ニ　˞シン˞キシ　ッ˞ふァーシ [mu˞ʧe:˞ ɸu̥˞ta:ʧi mi:ʧe:˞ni ˞ʃiŋ˞ki̥ʃi f˞fa:ʃi](餅は二つ三つに千切って食べさせなさい)。˞シミシ　˞シン˞キスンティ　˞スンドゥ　シンキサラ˞ヌ [˞ʃimiʃi ˞ʃiŋ˞ki̥sunti sundu ʃiŋk-i̥Sara˞nu](爪で千切ろうとするが千切られない)。˞シン˞キス　クトー　ヤ˞シ˞ムヌ [˞ʃiŋ˞ki̥su˞ ku̥to: ja˞ʃi˞munu](千切ることはたやすいことだ)。˞ワンヌン　シン˞キシェー　˞ミサムヌ [˞wannuŋ ʃiŋ˞ki̥ʃe:˞ misamunu](君も千切ればいいのに)。˞パー˞ク　˞シンキシ [˞pa:˞ku ˞ʃiŋ˞ki̥ʃi](早く千切れ)。

˞シンキムチ [˞ʃiŋkimuʧi] 【名】フィラリア患者。「疝気持ち」の義。「Xenqi、センキ (疝気) 睾丸の病気で、丹毒、あるいは、腫物のようなもの。Xenquio furu< 疝気をふるふ >」『邦訳日葡辞書』。˞クサ [˞ku̥sa](疝気) ともいう。ウ˞レー　シンキムチ˞　ヤ˞ルンダ　シンキヌ˞　ウ˞クリ˞ルカー　シ˞グトー　シーユーサヌ [ʔu˞re: ʃiŋkimuʧi˞ ja˞runda ʃiŋkinu˞ ʔu˞kuri˞ruka: ʃi˞guto: ʃi:ju:sanu](彼は疝気持ち < フィラリア患者 > だから疝気が起こると仕事をすることが出来ない < 仕事をし得ない >)。

˞ジンキャラ [˞ʤiŋkjara] 【名】天然香料のじんこう (沈香) と、その最上種のきゃら (伽羅)。歌謡語。/スディフラバ　サトゥヌシ　ジンキャラヌ　ニウイショウリ　イチィン　スマルニウイ/(袖を振ったら、里主様、沈香や伽羅の匂いがして、何時までも染まる匂いです < 筆者試訳 >)「古見の浦節」『八重山民謡誌』　。

˞ジン˞ギリ [˞ʤiŋ˞giri] 【名】ブリキ缶の茶筒。茶筒。円筒の缶。「ずんぎり < 寸切 >」の転訛したもの。˞サー˞ヤ　˞ジン˞ギリナー　イ˞リ˞　シキ [˞sa:˞ja ˞ʤiŋ˞girina: ʔi˞ri˞ ʃi̥ki](お茶は茶筒に入れておけ)。

˞シンギン [˞ʃiŋgiŋ] 【名】より悪い状態。˞シンギ [˞ʃiŋgi](より悪い状態) ともいう。ウ˞レー˞ラン　˞シンギンヌ˞　ムヌ [ʔu˞re:˞raŋ ˞ʃiŋginnu˞ munu](それよりもさらに劣悪な物だ)。

˞シングクルマングクル [˞ʃiŋgukurumaŋgukuru] 【名】誠心誠意。心底。「千心万心」の義。˞シングクルマングクローラ　˞ニガイ　ッ˞サリラバ˞　ドー˞ディン˞　カ˞ルイ˞シキ　タ˞ボー˞ローリ [˞ʃiŋgukurumaŋgukuro:ra ˞nigai s˞sariraba˞ do:˞diŋ˞ ka˞rui˞ʃi̥ki ta˞bo:˞ro:ri](心の底からお祈り申し上げますから、どうぞお守りください < 嘉例をつけてください >)。

˞シン˞クチ [˞ʃiŋ˞kuʧi] 【名】洗骨。死後三年以上経た後、五年忌、七年忌等に骨を洗い清めて骨瓶に入れ、本墓に納骨し、改葬する法事。ア˞ライクサイ [ʔa˞raikusai](洗骨。「洗い拵える」の義か) ともいう。洗骨をする年の干支に生まれ年の干支が当っている人は、その洗骨に携わることはできなとされていた。マ˞リドゥシ˞　ア˞タリ　ブーバ˞　バー　ウ˞レー˞　シゥ˞カッティララヌ [ma˞riduʃi˞ ʔa˞taribuba˞ ba: ʔu˞re:˞ si̥˞kattiraranu](生まれ年の干支に当っているので、私はそれには触れられない)。

˞ジング˞トゥ [˞ʤiŋgu˞tu] 【名】金銭問題。金銭の貸し借り。「銭ごと」の義。˞ウッ˞ツァー　˞ジング˞トゥシル　˞アイカーフン˞カー　˞シー　ベー [˞ʔut˞tsa: ˞ʤiŋgu˞tuʃiru ˞ʔaika:ɸuŋ˞ka: ˞ʃi: be:](彼らは金銭問題で喧嘩口論をしている)。

˞ジン˞グラ [˞ʤiŋ˞gura] 【名】金蔵。「ぜにぐら (銭蔵)」の義。˞ジン˞グラティ　˞スー˞　ム˞ノー˞　パ˞ナ˞シナール　シ˞キミッ˞タ [˞ʤiŋ˞gurati ˞su:˞ mu˞no:˞ pa˞na˞ʃina:ru ʃi̥˞kimit˞ta](金蔵というのは、話で < が > 聞いてみたのだ)。

シンク˞ラー˞マ [ʃiŋku˞ra:˞ma] 【名】動植物の発育不全のもの。小さく縮みこまったもの。貧弱なもの。パ˞ギ˞ジー　ヤ˞レー˞ティ　ノー˞ン˞　ス˞クラ˞バン

シンクˈラーˀマ　カーˈニルˀ　スˈクラˀリ [paˈgiˀʤi: jaˈreːˀti noːˈnˀ sṵˈkuraˀbaŋ ʃiŋkuˈraːˀma kaːˈniruˀ sṵˈkuraˀri](痩せ地だから何を栽培し＜作っ＞ても発育不全の小さいものしか作られない＜貧弱なものだけが作られる＞)。

ˈシングリ **[ˈʃiŋguri]** 【副】順繰り。順序を追って。「順繰り」の転訛したもの。サˈカシケーˀ　ムーˈルˀニ　ˈシングリ　マーシˀ　グシェー　カˈミシミˀリバ [sạˈkaʃi̥keːˀ muːˈruˀni ˈʃiŋguri maːʃiˀ guʃeː kaˈmiʃimiˀriba](盃を皆に順繰りに回して神酒を頂戴させなさいよ)。

ˈシンˀクリマンクリ **[ˈʃiŋˀkurimaŋkuri]** 【副】やっとで。散々苦労して。「千繰り万繰り」の義。ABCDE-FCD 型の重言。ˈシンˀクリマンクリ　ˈシーˀ　ヤッˈトゥˀシル　ッˈふァー　ガッˀコー　ンˈザˀシェーˈダー [ˈʃiŋˀkurimaŋkuri ˈʃiːruˀ jatˈtuˀʃiru fˈfaː gakˀkoː ʔnˈʤaˀʃeːˈdaː](散々に苦労をして、やっとで子供を学校に遣ることができた＜学校に出した＞のだ)。

ˈシンクリˀムヌ **[ˈʃiŋkuriˀmunu]** 【名】動物や植物の発育不全のもの。小さく縮みこまったもの。貧弱なもの。シンクˈラーˀマ [ʃiŋkuˈraːˀma](貧弱な体の者) ともいう。ヤˈラˀビ　ˈシェーンˀケンラ　ˈグッˀふァ　ˀムヌバカーˈニˀ　カˈタˀミ　ˈベーティˀル　ˀアイニ　ˈシンクリˀムヌ　ˀナリ　ˈベーˀル [jaˈraˀbi ˈʃeːŋˀkenra ˈgufˀfa ˀmunubakaːˈniˀ kaˈtaˀmi ˈbeːˀtiru ˀʔaini ˈʃiŋkuriˀmunu ˀnari ˈbeːˀru](子供の頃から重いものだけを担いでいるので、あんなに発育不全の小さな体になっているのだよ)。

ˀジン　ˀクルン **[ˀʤiŋ ˀkuruŋ]** 【連】両替する。高額のお金を小銭と交換する。ウˈブˀジン　ˀムティ　ˈアーカランˀバ　マˈチヤーˀナ　ˈギー　クーˀジン　ˀクリクー [ʔuˈbuˀʤim ˀmuti ˈʔaːkaramˀba maˈʧijaːˀna ˈgiː kuːˀʤiŋ ˀkurikuː](大金＜高額の金＞を持ち歩けないから、お店に行って小銭と両替してきなさい＜両替してこい＞)。

ˈシングゥˀチ **[ˈʃiŋgwaˀʧi]** 【名】四月。若年層は、ˈシンガˀチ [ˈʃiŋgaˀʧi](四月) ともいう。ˈシングゥˀチ　ˀナルカー　ウˈヤザˀヌ　ニˈガイヌˀル　アˈローˀル [ˈʃiŋgwaˀʧi ˀnarukaː ʔuˈjaʤaˀnu niˈgainuˀru ʔaˈroːˀru](四月になると鼠の駆除祈願が友利御嶽でなされる＜あられる＞)。この祭りで鼠を捕獲し、小舟を作って乗せ、神酒と花米を添えて、豊穣の西の国へ行くよう祈願して沖へ流す。

ˈシンクン **[ˈʃiŋkuŋ]** 【自動】沈む。沈没する。フˈニˀヌ　ˈシンキ　ベー [ɸuˈniˀnu ˈʃiŋki beː](舟が沈んでいる)。ˀマチフネー　ˈシンクンˀダー [ˀmatʃiɸuneː ˈʃiŋkunˀdaː](松の刳り舟は沈むよ)。ˀイダフネー　ˈシンカヌ [ˀʔidaɸuneː ˈʃiŋkanu](板舟＜サバニ＞は沈まない)。ˈシンクˀ　クトー　ˈナーˀヌ [ˈʃiŋkuˀ kṵtoː ˈnaːˀnu](沈むことはない)。ˈシンケーˀ　ミサムヌ [ˈʃiŋkeːˀ misamunu](沈めばよいのに)。ˈパーˀク　ˈシンキ [ˈpaːˀku ˈʃiŋki](早く沈め)。

ˈシンˀクン **[ˈʃiŋˀkuŋ]** 【自動】あとしざりする。あとずさり (後退り) する。退出する。ˈシンˀクンティ　ˀウムーカー　ˈダンˀシ　ˈシンˀケー　ˀミサムヌ [ˈʃiŋˀkunti ˀʔumuːkaː ˈdaŋˀʃi ˈʃiŋˀkeː ˀmisamunu](後退りして退出しようと思うならば、さっさと退出すればいいのに)。ˈドゥーグリˀサティ　ˀウマーラ　ˈシンˀキ　ˈパッˀタ [ˈduːguriˀsati ˀʔumaːra ˈʃiŋˀki ˈpatˀta](あまりにも恐縮で心苦しいので、そこから後退りして出て行った)。ˈシンカˀヌ [ˈʃiŋkaˀnu](後退りしない)。ˈシンˀク　ˀクトゥン　ナˈラˀヌ [ˈʃiŋˀku ˀkṵtun naˈraˀnu](後退りすることも出来ない)。

ˈシンˀクン **[ˈʃiŋˀkuŋ]** 【他動】つねる (抓る)。爪や指の先で皮膚を摘み強くねじる。ウˈリヌˀ　クˈサマˀクカー　ヤーˈディンˀ　プˈス　シンˀクン [ʔuˈrinuˀ kṵˈsamaˀkukaː jaːˈdimˀ pṵˈsu ʃiŋˀkuŋ](彼が拗(ス)ねて怒ると必ず他人を抓る)。ウˈリン　シンカˀリカー　ヤムンˈダー [ʔuˈriŋ ʃiŋkaˀrikaː jamunˈdaː](あれに抓られたら痛いよ)。ˈシンキˀ　プサン [ˈʃiŋkiˀ pṵsaŋ](抓りたい)。ˈシンˀク　ˀクトー　スˈナ [ˈʃiŋˀku ˀkṵtoː suˈna](抓ることはするな)。ˈシンˀケー　ˀミサムヌ [ˈʃiŋˀkeː ˀmisamunu](抓ればいいのに)。ウˈムイˀキシ　ˈシンˀキバ [ʔuˈmuiˀkiʃi ˈʃiŋˀkiba](思いっきり抓りなさいよ)。

ˈシンˀケー **[ˈʃiŋˀkeː]** 【名】気違い。気狂い。精神障害。ある物事に熱中して他を顧みない人。ˈシンˀケー　カˈカˀリティ　ナーˈイˀ　アˈサビマール　シー　ユーˀゾー　ˈナーˀヌ [ˈʃiŋˀkeː kạˈkaˀriti naːˈiˀ ʔaˈsabimaːru ʃiː juːˀʤoː ˈnaːˀnu](精神障害を患って、ただ遊びまわりをして、役に立たない。どうにもならない＜養生する術がない＞)。

ˈシンケースン **[ˈʃiŋkeːsuŋ]** 【自動】後ずさり (後退り) する。あとしざり (後退り) する。ˀグシェー　ˀカミティル　ˈシンケーシ　パッˀタ [ˀguʃeː ˀkamitiru ˈʃiŋkeːʃi patˀta](神酒を頂いて後退りして退席していった)。ˈシンケースンティ　スンドゥˀ　ムッˈトゥ　シンケーサラヌ [ˈʃiŋkeːsunti sunduˀ mutˈtu ʃiŋkeːsaranu](後退りしようとするが、一向に後退

りできない)。

˞シン˞ザ [˞ʃin˞ʤa] 【名】 (植) かんしゃ (甘蔗)。サトウキビ。˞シン˞ザパタキ [˞ʃin˞ʤapataki](サトウキビ畑)。ム˞カ˞シェー ˞シン˞ザ ス˞ブ˞リティ ˞サタ タ˞ローッ˞タ [mu˞kaˀʃe: ˞ʃin˞ʤa: su˞bu˞riti ˞sata ta˞ro:t˞ta](昔はサトウキビを搾って黒砂糖を製造された)。シ˞ンザ˞ヌ ˞カー ˞パギティ ッ˞ふァイ˞バ [˞ʃinʤa˞nu ˞ka: ˞pagiti f˞faiˀba](サトウキビの皮を剥いで食べなさいよ)。

˞シン˞ザ [˞ʃin˞ʤa] 【名】(植) サトウキビ (砂糖黍)。˞ソーラン˞ヌ ム˞ルムルナー˞ヤ ˞シン˞ザ マ˞ツォーッ˞タン [˞so:ran˞nu mu˞rumuruna:˞ja ˞ʃin˞ʤa ma˞tso:t˞taŋ](お盆のムルムルには砂糖黍も供えられ < 祀られ > た)。

˞シン˞ザパタキ [˞ʃin˞ʤapḁtaki] 【名】サトウキビ畑。˞シン˞ザパタケーラ ˞シン˞ザ ˞トー˞シ ˞キーム˞ルムル˞ ス˞ク˞リ [˞ʃin˞ʤapḁtake:ra ˞ʃin˞ʤa ˞to:˞ʃi ˞ki: mu˞rumuru˞ su̥˞ku˞ri](サトウキビ畑からサトウキビを切り倒してきてお盆の供物ムルムルを作りなさい)。

˞シン˞シー [˞ʃiŋ˞ʃi:] 【名】先生。˞シースー [˞ʃi:su:](師匠) ともいう。パ˞トゥ˞マプスヌ パ˞ジミティ ガッコー˞ヌ ˞シン˞シー ナ˞ロー˞レーワー ˞カンザトゥヤー˞ヌ ˞トールシンシートゥ˞ タ˞シロ˞ヌ ˞トヨシンシー˞ナー [pḁ˞tu˞mapu̥sunu pa˞ʤimiti gakko:˞nu ˞ʃiŋ˞ʃi: na˞ro:˞re:wa: ˞kanʤatuja:˞nu ˞to:ru ʃiŋʃi:tu˞ tḁ˞ʃiro˞nu ˞tojo ˞ʃiŋʃi:˞na:](鳩間出身者で初めて学校の先生になられたのは慶田城享先生と田代豊先生だねえ)。

˞ジン˞シゥカイ [˞ʤin˞si̥kai] 【名】金遣い。ブ˞トー ジンシゥカイ˞ヌ ア˞ラー˞ユンダ トゥ˞ジェー˞ イッ˞ケナ˞ク˞メークン [bu˞to: ʤinsi̥kai˞nu ʔa˞ra: ˞junda tu˞ʤe:˞ ʔik˞kena˞ ku˞me:kuŋ](夫は金遣いが荒いので、妻は非常に細かくなる < 几帳面になる >)。˞ジンシゥカイ˞ヌ ア˞ラー˞ヌ ン˞メーマ˞ク˞メーキ˞ シゥ˞カーン˞カー ナ˞ラ˞ヌ [˞ʤinsi̥kai ˞nu ʔa˞ra:˞nu ʔm˞me:ma˞ ku˞me:ki˞ si̥˞ka:ŋ˞ka: na˞ra ˞nu](金遣いが荒いから、少し入念 < 詳細 > に使わないといけない)。

˞ジンシゥカイ˞ミチ [˞ʤinsi̥kai˞mitʃi] 【名】金の使い方。金の活かし方。˞ジンモー˞ケー ˞ゾー˞ジヤ˞ルンドゥ ジンシゥカイ˞ミチェー ッ˞サンバン [˞ʤimmo:˞ke: ˞ʤo:˞ʤi ja˞rundu ʤinsi̥kai˞mitʃe: s˞sambaŋ](金儲けは上手だが、金の生かし方 < 金の使い方 > は知らないわい)。

˞シンシキルン [˞ʃiŋʃikiruŋ] 【他動】沈める。水中に沈める。カ˞ジヌ スー˞ワ ˞ピンマー ˞イダフネー ˞シンシキティ˞ カ˞ジヌ˞ シ˞ギリバ˞ル ˞フネー ウ˞キルタ [ka˞ʤinu su:˞wa ˞pimma: ˞ʔidaɸune: ˞ʃiŋʃi̥kiti˞ ka˞ʤinu ʃi˞giriba˞ru ˞ɸune: ʔu˞kiruta](風が強いときはサバニ < 板舟 > は沈めて、風が通過したらばぞ舟は浮けたものだ)。˞シンシキルンティ スンドゥ シンシキララヌ [˞ʃiŋʃi̥kirunti sundu ʃiŋʃi̥kiraranu](沈めようとするが沈められない)。マ˞ナ˞マ ˞シンシキル˞ クトー ナ˞ラ˞ヌ [ma˞na˞ma ˞ʃiŋʃi̥kiru˞ ku̥to: na˞ra˞nu](今、沈めることは出来ない < してはならない >)。˞シンシキレー˞ ミサムヌ [˞ʃiŋʃi̥kire:˞ misamunu](沈めれば良いのに)。˞クナー ˞シンシキリ˞バ [˞kuna: ˞ʃiŋʃi̥kiri˞ba](ここに沈めろよ)。

˞ジン˞ シ˞キルン [˞ʤiŋ˞ ʃi̥˞kiruŋ] 【連】お膳を供え < 付け > る。神前や仏前に供物のお膳を供えることをいう。タ˞カ˞ジン シ˞キルン [tḁ˞ka˞ʤiŋ ʃi̥˞kiruŋ](高膳 < 脚付きの膳 > に供物を置いて供える。配膳する)。ウ˞ヤプスン˞マイ ˞ジン˞ シ˞キリ [ʔu˞japu̥sum˞mai ˞ʤiŋ˞ ʃi̥˞kiri](仏壇にお膳を供えなさい)。˞ウン˞ネヌ ユ˞メー ジンシキジマイバシール˞ シ˞トゥウヤ˞ シゥ˞カ˞ナイ ˞オーシタ˞ツォー [˞ʔun˞nenu ju˞me: ʤiŋʃi̥kiʤimaiba ʃi:ru˞ ʃi̥˞tuʔuja˞ si̥˞ka˞nai ˞ʔo:ʃita˞tso:](あの家の嫁はお膳仕立てをし通して舅を養って差し上げてそうだ)。

˞シン˞シチ [˞ʃiŋ˞ʃi̥tʃi] 【名】親切。思いやりのあること。標準語からの借用語。ウ˞ヌ˞ プ˞ソー˞ イッ˞ケナ シン˞シチ ˞シー˞ ッ˞ふォーッ˞タン [ʔu ˞nu˞ pu̥˞so:˞ ʔik˞kena ˞ʃiŋ˞ʃi̥tʃi ˞ʃi:˞ f˞fo:t˞taŋ](その人は非常に親切にしてくださった)。˞ウイ˞プス ˞シン˞シチニ ˞シー オース˞カー ˞イントゥク イーラ˞リンツォー [˞ʔui˞pu̥su ˞ʃiŋ˞ʃi̥tʃini ˞ʃi: ʔo:su˞ka: ˞ʔintuku ʔi:ra˞rintso:](年寄りに親切にして差し上げると陰徳がもらえるそうだ)。

˞シンシチ˞ヌ ˞コー˞シチ [˞ʃiŋʃi̥tʃi˞nu ˞ko:˞ʃi̥tʃi] 【連】親切が却って仇になること。親切にしたことが馴れ合いになってみだらになること。˞コー˞シチ [˞ko:˞ʃi̥tʃi] は「狎褻 (こうせつ)」の転訛したもの。˞ワー˞ タ˞ミバ˞ ウ˞ムイ˞ル シ˞タンドゥ シンシチ˞ヌ ˞コー˞シチ ˞ナリ ˞ナーン˞バン˞ナー [˞wa:˞ ta˞miba˞ ʔu˞mui˞ru ʃi̥˞tandu ʃinʃi̥tʃi˞nu ˞ko:˞ʃi̥tʃi ˞nari ˞na:m˞ban˞na:](君の為を思ってやったことが、却って仇になって < 親切の狎褻になって > しまったね)。

˩シンジフチ˥ル **[˩ʃinʤiɸutʃi˥ru]** 【名】煎じ薬。シ˩ジフチ˥ル [ʃi˩ʤiɸutʃi˥ru](煎じ薬) と同じ。

˩シンジ˥ルン **[˩ʃinʤi˥ruŋ]** 【他動】 1信じる。信ずる。ウ˩リヌ˥　ムネー　ウ˩ヌトゥー˥ル　˩シンジララ˥ヌ [ʔu˩rinu˥ mune: ʔu˩nutu:˥ru ˩ʃinʤirara˥nu](彼の言葉はその通りには信じられない)。2信仰する。帰依する。シ˩マ˥ヌ　˩カンプトゥ˥キ　˩シンジ˥ルンティ　˥ウムーカー　˩コー˥パナーン　ン˩ザ˥シバ [ʃi˩ma˥nu ˩kamputu˥ki ˩ʃinʤi˥runti ˥ʔumu:ka: ˩ko:˥pana:n ʔn˩ʤa˥ʃiba](島の神仏を信仰しようと思うなら、線香や花米を出しなさい)。3信頼する。信用する。˩ワー˥　ウ˩リバ　シンジ˥ル　˥クトー　˩シン˥ジ　˥ミサンドゥ　ン˩メーマー　バン˥ユン　˩シンジ˥レー　˥ミサムヌ [˩wa:˥ ʔu˩riba ʃinʤi˥ru ˥kʷto: ˩ʃin˥ʤi misandu ʔm˩me:ma: baɲ˥juŋ ˩ʃinʤi˥re: ˥misamunu](君が彼を信用することは、信用してもよいが、少しは私＜を＞も信用すればよいのに)。˩シンジ˥リ [˩ʃinʤi˥ri](信用しろ)。

˩シンジ˥ルン **[˩ʃinʤi˥ruŋ]**【他動】煎じる。普通は˥シズン [˩ʃiʤuŋ](煎じる) を多用する。˩シンジフチ˥ル　˩シンジ˥ルンティ　˩ベー˥ンドゥ　˩シンジ˥ミチッ˩サンユンダ　シンジララン˥バン [˩ʃinʤiɸᵘtʃi˥ru ˩ʃinʤi˥runti ˩be:˥ndu ˩ʃinʤi˥mitʃi s˩saŋjunda ʃinʤi-raram˥baŋ](煎じ薬を煎じようとしているが、煎じ方を知らないから煎じられないよ)。

˩ジンジン˥シ **[˩ʤinʤiŋ˥ʃi]** 【副】じんじんと。冷気や痛みなどが心身にしみ入るさま。˩ジンジン˥シ　ガ˩マジ˥ヌ　˥ヤム [˩ʤinʤiŋ˥ʃi ga˩maʤi˥nu ˥jamu](ジンジンと頭痛がする＜頭が痛む＞)。˩ジンジン˥シ　ピ˩ラク˥ヌ　ッ˩シ˥クミティ　ク˩バリ˥ス [˩ʤinʤiŋ˥ʃi pi˩raku˥nu ʃ˩ʃi˥kumiti ku˩bari˥su](ジンジンと寒気がしみこん＜沁み込ん＞で凍えるよ)。

シン˩ジントゥ **[ʃin˩ʤintu]** 【副】しみじみと。しんみりと。かしこまって (畏まって)。誠実に。マ˩ルケーティ˥ナー　ス˩ク˥　シ˩マ˥ヌ　˥ウター　˩ナシカサ˥ヌ　シン˩ジントゥ˥　シ˩キミッ˥タン [ma˩ruke:ti˥na: sᵘ˩ku˥ ʃi˩ma˥nu ˥ʔuta: ˩naʃi̥kasa˥nu ʃin˩ʤintu˥ ʃi̥˩kimit˥taŋ](久々に＜偶に＞聞く島歌は懐かしくて、しみじみと聞いたよ)。

˩ジンジンバヤー **[˩ʤinʤimbaja:]** 【名】 (動) ほたる (蛍)＜老年層＞『八重山語彙』。ム˩カ˥シェー　パ˩トゥ˥マナーン　˩ジンジンバヤーヤ˥　ミ˩ラリ˥タン [mu˩kaʃe: pḁ˩tu˥mana:n ˩ʤinʤimbaja:ja˥ mi˩rari˥taŋ](昔は鳩間にも蛍は見られた)。

˩シンシン˥マー **[˩ʃiŋʃim˥ma:]** 【名】部屋の間取りの大きさ「真芯間」の義という『石垣方言辞典』。コンクリート建築の家屋で、一間が六尺に足りない長さの間取り。木造建築の家屋では一間が六尺の長さに間取りされている˩ジョー˥マ [˩ʤo:ma](「畳間」の義か)。˩シンシンマー˥ヤ　˩ジョー˥マーラグ˩マー˥ル [˩ʃiŋʃimma:˥ja ˩ʤo:˥ma:ra gu˩ma:˥ru](真芯間は六尺のジョー間より小さい)。

˩シン˥ス **[˩ʃin˥su]** 【名】揚げかまぼこ。「しんじょ＜真薯＞」の転訛したものか。˩プー˥ル　˥キチゴンヌ　˩ユードゥーシ˥ヌ　ユ˩ネン˥ヌ　˩パイ˥ヌ˥　˩シームヌ˥ナー　˩シン˥スン　ス˩ク˥ローッタン [˩pu:˥ru ˥kᵘʃigonnu ˩ju:du:ʃi˥nu ju˩nen˥nu ˩pai˥nu ˩ʃi:munu˥na: ˩ʃin˥sun sᵘ˩ku˥ro:ttaŋ](豊年祭、結願祭のユードゥーシ祈願の、夜の拝＜祈願＞には揚げ蒲鉾も作られた)。

˩シン˥ズ **[˩ʃin˥ʤu]** 【名】先祖。標準語からの借用語。˩シン˥ズ　˥ダイダイヌ　パ˩トゥ˥マナカムリヌ　ブ˩ドゥルキンマー˥　カ˩ザケートゥ˥　ユ˩レー˥ナール　˥アル [˩ʃin˥ʤu ˥daidainu pḁ˩tu˥manakamurinu bu˩durukimma:˥ ka˩ʤa:ke:˥tu ju˩re:˥na:ru ˥ʔaru](先祖代々の˩鳩間中岡＜鳩間節＞」の踊り衣装は加治工家と寄合家にある)。˩シン˥ズダイダイヌ　˥ザイサンマー　˩カーサラヌ [˩ʃin˥ʤudaidainu ˥ʤaisamma: ˩ka:saranu](先祖代々の財産は売れない＜売られない＞)。

˥シンズク **[˥ʃinʤuku]** 【名】法事の一つで、四十九日忌。「四十九日」の義。人の死後、七日毎に執り行われる法事の七回目の大きな法事。この法事によって死者は成仏できると言われ、˩カイ˥ジン [˩kai˥ʤiŋ](開眼) の供養が行われる。˥シンズクナーヤ　ム˩ルムルン　カ˩ザリティ　˩ソッ˥コー　˩ソーッ˥タ [˩ʃinʤukuna:ja mu˩rumuruŋ˥ ka˩ʤariti sok˥ko: ˩so:t˥ta](四十九日にはムルムルも飾って焼香をなさった)。˥シンズクヌ　˥アトー　˩ピャーッカニチ˥トゥ　ユ˩ノーレー˥ヌル　˥アル [˥ʃinʤukunu ˥ʔato: ˩pja:kkanitʃi˥tu ju˩no:re:˥nuru ˥ʔaru](四十九日忌の後には百日忌と一年忌がある)。白位牌から本位牌に移し換える法事。˥シンズコー　シ˩マ˥シェーチバ　プ˩スナカーン˥　パリ　˥ミサン [˥ʃinʤuko: ʃi˩ma˥ʤe:tʃiba pᵘ˩sunaka:m˥ pari ˥misaŋ](四十九日の法事も済ませたから人前に出て＜行って＞もよい)。

˩シンスクン **[˩ʃinsᵘkuŋ]** 【自動】沈む。沈没する。船や物が水中に沈む。老年層の言葉。若年層は、˩シンクン [˩ʃiŋkuŋ](沈む) という。ナ˩マ˥キー　ヤ˩ルン

ダ　シンスクン˥　ウ˞ケーラヌ [na˞ma˥ki: ja˞runda ʃinsu̥kuŋ˥ ʔu˞ke:ranu](生木だから沈む。浮かばない)。ウ˞レー　シンシキス [ʔu˞re: ʃiŋʃi̥kisu](それはしずむよ)。

˞シン˥スコーラ [˞ʃin˥su̥ko:ra] 【連】心の底から。˞シン˥スコーラ　ウ˞ヌ˥　ク˞トゥバ˥ル　ウ˞ヤーンチ˥ジ　˞ベートダー [˞ʃin˥su̥ko:ra ʔu˞nu˥ ku̥˞tuba˥ru ʔu˞ja:ntʃi˥ʤi ˞be:ɦda:](心の底からその事を＜ぞ＞念願していますよ)。

˞シン˥スブ [˞ʃin˥subu] 【名】墨壷。大工が直線を引くのに用いる道具。舟型をした木製の墨壷で、後方にシ˞ミ˥ナー [ʃi˞mi˥na:](墨縄、墨糸) を巻きつけた車を取り付け、前方に墨池を作って墨肉を入れる。糸は墨池を通して先端部の孔より出してこきり (小錐) をつける。小錐を木材の一方に刺し、墨縄をタ˞キフディ [tḁ˞kiɸudi](竹筆) で押さえながら引き出し、材木の他方に真直ぐに引張って軽く垂直に弾くと墨の直線が刻印される。˞シンスブ˥ヌ　シ˞ミ˥ナー　パ˞リティ　パス˥クカー　マッ˞シングヌ˥　シン　ピ˞カリン [˞ʃinsubu˥nu ʃi˞mi˥na: pa˞riti pasu̥˥kuka: maʃ˞ʃiŋgunu˥ ʃim pi̥˞kariŋ](墨壷の墨縄を引っ張って弾くと真っ直ぐの線が引かれる)。˞シンスブ˥ヌ　シ˞ミ˥ナー　˥ウティティ (˞パシ˥キティ)　˥シン　ピ˞キーティ˥　キー　キ˞ジ˥バ [˞ʃin˥subu˥nu ʃi˞mi˥na: ˥ʔutiti(˞paʃi̥˥kiti) ˥ʃim pi̥˞kiti˥ ki: ki˞ʤi˥ba](墨壷の墨縄を打って＜弾いて＞、直線を引いて材木を削りなさい)。

˞シン˥ズン [˞ʃin˥ʤuŋ] 【他動】信じる。「信じる＜上一段活用＞」の四段活用化したもの。ウ˞リヌ˥　ムネー　イッ˞カ　シンザ˥ヌ＜シゥ˞カヌ＞[ʔu˞rinu˥ mune: ʔik˞ka ʃinʤa˥nu＜si˞kanu＞](彼の言葉は決して信じない＜聞かない＞)。˥バー　˥ムネー　˞シン˥ジ　˥ミサン [˥ba: ˥mune: ˞ʃin˥ʤi ˥misaŋ](私の話は信じてよい)。˞シン˥ズンティ　ウ˞ムーン˥ドゥ　˞シン˥ズ　˥クトー　ナ˞ラ˥ヌ [˞ʃin˥ʤunti ʔu˞mu:n˥du ˞ʃin˥ʤu ˥ku̥to na˞ra˥nu](信じようと思うが信じることができない)。˞シン˥ジェー　˥ミサムヌ [˞ʃin˥ʤe: ˥misamunu](信じればよいのに)。˞シン˥ジ [˞ʃin˥ʤi](信じろ)。

˥シンタ [˥ʃinta] 【名】1うしろ (後)。後方。˞ヤー˥ヌ　˥シンタヌ　˞インタヌ˥　カドゥナール　˥オンケーヤ　ス˞クラ˥リ　ブ˞タ [˞ja:˥nu ˥ʃintanu ˞ʔintanu˥ kaduna:ru ˥ʔoŋke:ja su̥˞kura˥ri bu˞ta](家の後ろの西の角に豚舎兼用便所が造られていた)。2便所。バ˞タ˥ヤビ　˞ベー˥カー　シ˞ティ˥　シンター　パ˞リザイ˥ル　˞シーブー [ba˞ta˥jabi ˞be:˥ka: ʃi̥˞ti˥ ʃinta: pa˞riʤai˥ru ˞ʃi:bu:](腹を壊して下痢をして後架＜便所＞通いばかりをして＜後ろ通いにかまけて＞いる)。

˞シン˥ダ [˞ʃin˥da] 【名】針金。金属を細長く糸状に延ばして建築用、船具用に用いるもの。その太さによって用途が異なる。直系 1 ミリ程度の針金は釣具に利用されたり、箒等を作るのに利用された。˞シン˥ダシ　タ˞キポーキ˥　シミ　フ˞バル˥カー　˞ウーカ˥ヌ [˞ʃin˥daʃi tḁ˞kipo:ki˥ ʃimi ɸu˞baru˥ka: ˞ʔu:ka˥nu](針金で竹箒を締めて括ると動かない)。

˞ジンターシ˥ムヌ [˞ʤinta:ʃi˥munu] 【名】金銭を浪費するもの。浪費するもの。無駄遣いするもの。˞銭絶やしもの」の義。ナ˞リラ˥ン　˞ソーバイヤ　ジンターシ˥ムヌ　ヤ˞ルンダ　サンモー˥　マ˞シ [na˞rira˥n ˞so:baija: ʤinta:ʃi˥munu ja˞runda sammo:˥ ma˞ʃi](なれない＜慣れれない＞商売は金銭を浪費するものだから、＜経験のない商売は＞しない方が良い)。

˥シンターナリ　˥マンターナリ [˥ʃinta:nari ˥manta:-nari] 【連】抜きつ抜かれつして。互いに競い合って。「後ろになり、前になり」の義。フ˞ターロー˥　シンターナリ　˥マンターナリ　˞シェー˥ティ　˞キッ˥スー　˞シェー˥ティ　˞パッ˥タヤー [˞ɸu̥˞ta:ro:˥ ʃinta:nari ˥manta:nari ˞ʃe:˥ti ˞kis˥su: ˞ʃe:˥ti ˞pat˥ta-ja:](二人は抜きつ抜かれつ＜後ろになり前になり＞しながら、競争して行ったよ)。

シン˞ダー˥マ [ʃin˞da:˥ma]【名】細い針金。-マ [-ma](小) は「小さい物」を表す指小辞。鰹節製造工場の˞シェイロー [˞ʃeiro:](蒸籠。カツオを煮たり、焙乾するのに用いる籠) の竹を編むのに用いられた。˞シーゾーヤー˥ヌ　˞シェイローヌ˥　ス˞コー˥　シン˞ダー˥マシル　タ˞ケー˥　フ˞モーッ˥タ [˞ʃi:ʤo:ja:˥nu ˞ʃeiro:nu˥ su̥˞ko:˥ ʃin˞da:˥maʃiru tḁ˞ke:˥ ɸu˞mo:t˥ta](製造屋の蒸篭の底は細い針金で竹を編まれた)。

˥シンター　˥マンタナリ [˥ʃinta: ˥mantanari] 【連】比喩表現。すっかり落ちぶれてしまって。すっかり零落してしまって。すっかり寂れてしまって、の意。「後ろは前になってしまって」の義。すっかり逆転してしまうこと。ウ˞ヌス˥ク　ア˞ロー˥ル　˥ヤー　ヤ˞タンドゥ˥　マ˞ナ˥マー　˥シンター　˥マンター　ナ˞リ˥ル　˞オール˥バン [ʔu˞nusu̥˥ku ʔa˞ro:˥ru ˥ja: ja˞tandu˥ ma˞na˥ma: ˥ʃinta: ˥manta: na˞ri˥ru ˞ʔo:ru˥baŋ](あれほどの資産家＜金満家＞であった

が、今ではすっかり落ちぶれて＜零落して。いつもと逆転して、後ろが前になってぞ＞おられる)。

˩シンダイ [˩ʃindai] 【副】次第に。～につれて。だんだんと。フ˩ドゥブ　シンダイ　マイフナー　マリ˥　ノー˩ン˥　シ˩ミラバン˥　プ˩スマキラヌ [ɸu˩dubu ʃindai maiɸuna:˥ ma˩ri˥ no:˩ŋ˥ ʃi˩mirabam˥ pu̥˩sumakiranu](成長するにつれて知的にも身体的にも立派な子に育って、何をさせても他人に負けない)。カ˩ジヌ　スー˥ルカー　˥アミン　˩シンダイ　スー˥リ　˩フイ˥ス [ka˩ʤinu su:˥ruka: ˥ʔamiŋ ˩ʃindai su:˥ri ˩ɸui˥su](風が強くなると雨も次第に強く降る)。カ˩ジェー　シンダイ　スー˥リ　˥ケーン [ka˩ʤe: ʃindai su:˥ri ˥ke:ŋ](風は次第に強くなってきた)。

˩ジンダイ˥ク [˩ʤindai˥ku] 【名】銭太鼓。民俗舞踊の一つ。穴の開いた銭を糸に貫き、直径約 2 センチ、長さ 1 尺ほどの竹筒に通した小道具を両手に持って、チャラチャラと打ち鳴らしたり、打ち振ったりしながら踊る舞踊。キ˩チゴン˥ナー　˩ジンダイク˥ヌ　ブ˩ドゥルン　ソーッ˥タン [ki̥˩ʧigon˥na: ˩ʤindaiku˥nu bu˩durun so:t˥taŋ](結願祭には銭太鼓の踊りも上演された＜された＞)。

˩シンダイシンダイ [˩ʃindaiʃindai] 【副】次第次第に。だんだんと。徐々に。ヤ˩ラ˥ビンケーン　˩シンダイシンダイ˥　フ˩ドゥビ˥ケーチバ　˩ソーヤ　ナー˥ヌ [ja˩ra˥biŋke:ŋ ˩ʃindaiʃindai˥ ɸu˩dubi˥ke:ʧiba ˩so:ja na:˥nu](子供達も次第に次第に成長してきたから心配はない)。

˩ジン˥ダカ [˩ʤin˥daka] 【名】金額。経費。「ぜにだか＜銭高＞」の義。˩ヨイ˥ヌ　˩ジン˥ダカー　ムー˩ル˥シ　˩ギュー˥サ　カ˩カル˥ワ [˩joi˥nu ˩ʤin˥daka: mu:˩ru˥ʃi ˩gju:˥sa kḁ˩karu˥wa](お祝いの経費は全部でいくら掛かるか)。

˥シンタ　カ˩ク [˥ʃinta kḁ˩ku] 【連】後ろの屋敷。˥シンタ　カ˩クナ　イ˩ビ˥シケー　˥バサー　イッ˩ケナ˥　ナレーン˩ダー [˥ʃinta kḁ˩ku˥na ʔi˩bi˥ ʃi̥ke: ˥basa: ʔik˩kena˥ nare:n˩da:](後ろの屋敷に植えてある芭蕉＜バナナ＞は沢山実が生ったよ)。

˩シン˥タク [˩ʃin˥taku] 【名】洗濯。標準語からの借用語。˩キン˥アライ [˩kiŋ˥ʔarai](衣洗い) というのが普通。ウ˩ブ˥スーシ　˩シン˥タク　シ˩ティ˥　˩マーミジ˥シ　ブ˩ナシティ˥バ [ʔu˩bu˥su:ʃi ˩ʃin˥taku ʃi̥˩ti ma:miʤi˥ʃi bu˩naʃi̥ti˥ba](海水＜大潮＞で洗濯して真水で濯ぎなさいよ)。

˩シンタク˥イタ [˩ʃintaku˥ʔita] 【名】洗濯板。標準語からの借用語。巾約 30 センチ、長さ約 50 センチの板の約半分に波型の刻み目をつけた洗濯用の板。˩キン˥マー　˩シンタクイタ˥ヌ ＜˩シンタクイツァ˥ヌ＞　˩ウイ˥ナー　˥シキティ　˩ゴーシゴーシ˥シ　˩ムーミティ˥　ア˩ライ˥バ [˩kim˥ma: ˩ʃintaku̥ʔita ˥nu＜˩ʃintakuitsa˥nu＞ ˩ʔui˥na: ˥ʃi̥kiti ˩go:ʃigo:ʃi˥ʃi ˩mu:miti˥ ʔa˩rai˥ba](着物は洗濯板の上に置いてごしごしと揉んで洗いなさいよ)。

シンタ˩グス˥ク [ʃinta˩gusu̥˥ku] 【名】屋敷の後方の石垣。˩マイグス˥ク [˩maigusu̥˥ku](前石垣)、マンタ˩グス˥ク [manta˩gusu̥˥ku](屋敷の前の石垣) の対義語。シンタ˩グス˥クナ　ピ˩バツン˥ヌ　˩イッ˥パイ˥ナリ　˩ベー [ʃinta˩gusu̥˥kuna pi˩batsun˥nu ˩ʔip˥pai˥nari ˩be:](屋敷の後の石垣にヒハツが沢山生っている)。

˥シンタヌ　˥ゾー [˥ʃintanu ˥ʤo:] 【連】後ろの道。裏通り。˥シンタヌ　˥ゾーナー　ア˩サビベー [˥ʃintanu ˥ʤo:na ʔa˩sabi be:](後ろの道で遊んでいる)。

˥シンタ　˥マンタ [˥ʃinta ˥manta] 【連】前と後ろ。「後ろ前」の義。˥シンタ　˥マンタ　˥ユー　˥ミレーティ　ア˩ラカン˥カー　ク˩ルブン˥ダー [˥ʃinta ˥manta ˥ju: ˥mire:ti ʔa˩rakaŋ˥ka: ku˩rubun˥da:](前後をよく見て歩かないと躓いて転ぶよ)。

˥シンタミチ [˥ʃintamiʧi] 【名】後ろの道。裏道。裏通り。「後ろ道」の義。自分の家の後ろの道。˥シンタミチェーラ　˩ビープス˥ヌ　ウ˩ヤー˥リ　˩パッ˥タ [˥ʃintamiʧe:ra ˩bi:pusu˥nu ʔu˩ja:˥ri ˩pat˥ta](後ろの道から酔っ払いが大声で叫んで行った)。ク˩シミチ [ku̥˩ʃimiʧi](後道) ともいう。ム˩レーマトゥ˥　シ˩マフ˥ケーヌ　˥シンタミチェーラ　˩ウイル　ウイヌムラ˥ティ　ア˩ゾーッ˥タ [mu˩re:matu˥ʃi˩maɸu̥˥ke:nu ˥ʃintamiʧe:ra ˩ʔuiru ʔuinumura˥ti ʔa˩ʤo:t˥ta](通事家と島袋家の後ろの道から上の方を上の村と言われた)。

˥シンタヤー [˥ʃintaja:] 【名】後ろの家。後ろ隣。「後ろ家」の義。対義語は、˥マンタヤー [˥mantaja:](前隣)。˥シンタヤーナ　˩タール˥　トゥ˩マリ　ベー˥ワ [˥ʃintaja:na ˩ta:ru˥ tu˩mari be:˥wa](後ろ隣には誰が宿泊して＜泊まって＞いるか)。後の家。˩ワッ˥テヌ　˥シンタヤーヤ　˩タッ˥テーヤ [˩wat˥tenu ˥ʃintaja:ja ˩tat˥te:ja](貴方の家の後ろの家は誰の家か)。˥シンタヤーヤ　カ˩ラシヤー [˥ʃintaja:ja ka˩raʃija:](後の家は貸し屋だ)。

˥シンタヤマ [˥ʃintajama] 【名】後ろの山。「後ろ山」の義。ティ˩ドゥ˥クダキヌ　˥シンタヤマー　˩マー

レーヤマ˥　ナリ　˩ブー˥ミー [tiˬdu˥kudakinu ˥ʃin-tajamaː ˩maːreːjama˥ nari ˩buː˥miː](ティドゥク岳の後ろの山はマーレー山になっているのだろう?)。

˩シンタラー˥シ　ムˬムタラー˥シ [˩ʃintaraː˥ʃi muˬmu-taraː˥ʃi] 【連】寛大に許してもらう。ご寛恕のほど。「千万の堪忍」の義。アˬティナシヌ˥　ムˬヌ˥ヌ　˩シェー˥ル　˥クトゥ　ヤˬリバ˥　ドーˬディン　シンタラー˥シ　ムˬムタラーシ˥　ユˬラ˥シ　タˬボー˥リティル　˥ニガイ　ッˬサリル˥ユー [ʔaˬtinaʃinu˥ muˬnu˥nu ˩ʃeː˥ru ˥kʷtu jaˬriba˥ doːˬdiŋ ʃintaraː˥ʃi mu ˩mutaraː˥ʃi juˬra˥ʃi taˬboː˥ritiru ˥nigai sˬsariru˥juː](思慮分別のない者が仕出かしたことですので、どうぞ千万のご寛恕を賜りますようお願い申し上げます)。

˥シンダラ　カˬヌシャーマ˥ヨー [˥ʃindara kaˬnuʃaːma ˥joː] 【連】可愛い恋人よ。いとしい (愛しい) 恋人よ。歌謡で用いられることば。

˩シン˥ダン [˩ʃin˥daŋ] 【名】(植) 樹木の名。センダン (栴檀)。˩パイタ˥ヌ　˥ヤマーラ　˩シン˥ダン　˥キシキー　˥バキ　˩シェイ˥ザイ　シˬミティ　タン˥シ　スˬク˥ローッタ [˩paita˥nu ˥jamaːra ˩ʃin˥daŋ ˥kʷʃiki: ˥baki ˩ʃei˥ʤai ʃiˬmiti taŋ˥ʃi sʷˬku˥roːtta](西表北岸 < 南端 > の山から栴檀を伐り出してきて、鋸で縦に切り分け、製材させて箪笥を造られた)。˥サンサンマー　˩シン˥ダンキーナー　˥ユー　トゥˬマルタン [˥sansamma: ˩ʃin˥daŋkiːna: ˥juː tuˬmarutaŋ](蝉は栴檀の木によく止まった)。

˩ジンッふァイ˥ムヌ [˩ʤiŋffai˥munu] 【名】金銭の多くかかる者 (こと)。経費の大きなもの。銭食い虫。「銭食い者 (もの)」の義。クˬヌ˥　シˬグトー　ジンッふァイ˥ムヌ　˥ナリティ　˩ピッ˥チン　˩モーキララ˥ヌ [kuˬnu˥ ʃiˬguto: ʤiŋffai˥munu ˥nariti ˩pit ˥ʧim ˩moːkirara˥nu](この仕事は金銭のかかるものになって、ちっとも儲からない)。居候。経費がかかり過ぎるもの。˩ジンッふァイムヌ˥ヌ　˩ゴー˥ラーンダ　ギューˬサ　モーカ˥バン　タˬラーサラヌ [˩ʤinffaimunu˥nu ˩goː˥raːnda: gjuːˬsa moːka˥ban taˬraːsaranu](金のかかる者が多いから、いくら儲けても足りない < 足らされない >)。

˩シン˥ティー [˩ʃin˥tiː] 【名】根性。こころだて。所存。「しんてい (心体)」の転訛したもの。˥アイブ　ヤˬナシンティーバ˥　ムティテー　シˬキン˥マー　バˬタララヌ [˥ʔaibu jaˬnaʃintiːba˥ mutite: ʃiˬkim˥maː baˬtararanu](あんな悪根性を持っては世間は渡られない)。

˥シンティンプラ [˥ʃintimpura] 【名】芯の入った天麩羅。イˬズシンティンプラ [ʔiˬʤuʃintimpura](魚肉を芯にした天麩羅)、イˬガシンティンプラ [ʔiˬgaʃintimpura](烏賊を芯にした天麩羅)、˥ヤサイティンプラ [˥jasaitimpura](野菜天麩羅) などがある。˥シンティンプラーラン　˩カイ˥テー　˥ウンティンプラル　ンˬマー˥ティ　ウˬモー˥リー [˥ʃintimpuraːraŋ ˩kai˥teː ˥ʔuntimpuraru ʔmˬmaː˥ti ʔuˬmoː˥ri](芯のある天麩羅よりも、かえって芋天麩羅が美味しいと思われる)。

˩シントースン [˩ʃintoːsuŋ] 【他動】踏み固めて押し込める。搗き固めてねじ込める。カˬシガーフク˥ルナ　˩イー˥シ　˩シントーシ˥　イˬリルン [kʰˬʃigaːɸuku ˥runa ˩ʔiː˥ʃi ˩ʃintoːʃi˥ ʔiˬriruŋ](麻袋 < 南京袋 > に乾燥角又を踏み固めて押し込める)。˩シントーサヌ [˩ʃintoːsanu](搗き固めて入れない)。˩シントース˥　クトー　ナˬラ˥ヌ [˩ʃintoːsu˥ kʷtoː naˬra˥nu](押し込めることは出来ない)。˩シントーシェー˥　ミサムヌ [˩ʃintoːʃeː˥ misamunu](搗き固めて押し込めばいいのに)。˩マー˥ビン　˩シントーシ [˩maː˥biŋ ˩ʃintoːʃi](もっと搗き固めて押し込め)。

˩シンドーマン˥ドー [˩ʃindoːman˥doː] 【副】難儀苦労をして。かろうじて。ようやく (漸く)。「しんろう < 心労 > ・はんろう < 煩労 >」の義か。アˬガピンソーバ　シー　シンドーマン˥ドー　˩シェー˥ティ　ヤッˬトゥ˥シ　ッˬふァ˥　スˬダ˥ティ　˩クー˥タ [ʔaˬgapinsoːba ʃiː ʃindoːman˥doː ˩ʃeː˥ti jatˬtu˥ʃi fˬfa˥ suˬda˥ti ˩kuː˥ta](赤貧で難儀苦労をしてやっとのことで子供を育ててきた)。

˩シンドー˥ラ [˩ʃindoː˥ra] 【名】もずく (水雲。海蘊)。海産の一年生褐藻。糸状に分岐し、褐色で粘り気がある。鳩間島では一部食通の人が˩シークゥー˥サー [˩ʃiːkwaː˥saː](ヒラミレモン) で酢の物にして食していたが、一般家庭ではほとんど消費されなかった。最近では高級料理の素材となっている。海底の砂地で繁殖していた。昭和 40 年頃は、採取して砂塵を落とし、日干し乾燥して輸出していた。パˬトゥ˥マプソー　˩シンドー˥ラー　˩ナン˥ゾー　ンˬコーラン˥シェン [pʰˬtu˥mapʷso: ˩ʃindoː˥raː ˩nan˥ʤo: ʔŋˬko:raŋ˥ʃeŋ](鳩間島の人はもずくをあまり召し上がらなかった)。若年層はスˬノー˥ル [suˬnoː˥ru](モヅク) ともいうが、これは沖縄方言から転訛したもの。ムˬカ˥シェー　パˬトゥ˥マプソー　˩シンドー˥ラー　ンˬコー˥ル　プˬソー　ナン˥ゾー　˩オーラン˥シェン [muˬka˥ʃe: pʰˬtu˥mapʷso: ˩ʃindoː˥raː ʔŋˬko:

˞ru pu̥ˈso: nanˈʤo: ˈʔo:raŋˈʃeŋ](昔は鳩間島の人は、モヅクを召し上がる人はあまりいらっしゃらなかった)。

シンˈトゥ [ʃinˈtu] 【副】たった。ただ。ほんのわずか。数や量を限定する語 (ˈピー˞チ [ˈpi:ˈʧi]< 一つ >、クˈビッ˞チン [kuˈbitˈʧiŋ]< これぽっち >) と呼応して用いられ、数量の少ないことを強調する。シンˈトゥ　ピー˞チ　カーˈニ˞　バキ　ッˈふォーッ˞タ [ʃinˈtu pi:ˈʧi kaːˈni˞ baki fˈfo:tˈta](たった一つだけ分けて下さった)。シンˈトゥ˞　クˈビッ˞チンシ　ˈヌー˞ヌ　ナˈル˞ワ [ʃinˈtu˞ kuˈbitˈʧiŋʃi ˈnu:ˈnu naˈru ˈwa](たったこれぽっちで何が出来るか)。シˈントゥ˞　クˈビッチン˞ドゥ　ヌˈカ˞レー [ʃinˈtu˞ kuˈbittʃin˞du nuˈka˞re:](たったこれぽっちしか残ってない < たったこれぽっちが残っている >)。イˈゾー˞　シンˈトゥ˞　プˈスッカラ˞ル　ˈホー˞シェーバン [ʔiˈʤo: ʃinˈtu˞ pu̥ˈsukkara˞ru ˈho:ˈʃe:baŋ](魚はたった一匹しか釣ってない < 一匹ぞ釣ってあるわい >)。ッˈふァー˞　シンˈトゥ　タンガ˞ル　ˈブー [fˈfa:˞ ʃinˈtu taŋga˞ru ˈbu:](子供はたった一人しかいない < たった一人がいる >)。「Chinto. チント (ちんと)Monouo chinto qiru(物をちんと切る)」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。

ˈシントゥ [ˈʃintu] 【副】誠に。本当に。歌謡語。首里方言、zintoo(本当) の転訛したもの。/～シジク　ワシマニ　スダチ　ンチャリバ　シントゥ　タヌマシ　ムヌサミ～/(～つづく我が島に育ってみると誠に楽しいものだ～)「鳩間口説-3 連」『鳩間島古典民謡古謡集』。

ˈシン˞ドゥ [ˈʃin˞du] 【名】船頭。船長。カˈツシンヌ　シン˞ドー　カˈツヌ˞　トゥˈルマキバ˞　ミレーティル　フネー　ˈマーシ˞　ザコー　˞マキ　イˈズ˞　シゥˈカ˞シティ　ˈホー˞ソーッタ [kḁˈtsuʃinnu ʃin˞do: kḁˈtsunu˞ tuˈrumakiba˞ mire:tiru ˞ɸune: ˈma:ʃi˞ ʤako: ˞maki ʔiˈʤu˞ si̥ˈkaˈʃi̥ti ˈho:ˈso:tta](カツオ漁船の船頭はカツオ鳥の鳥巻きを見ながら船を回して餌の雑魚を撒いて、カツオの群れを船に寄せ付かせて釣られた)。

シンˈトゥ　ピッ˞チン [ʃinˈtu pitˈʧiŋ] 【連】たった一つ。シンˈトゥ　ピッチン˞ドゥ　ヌˈカ˞リ　ˈベー [ʃinˈtu pittʃin˞du nuˈka˞ri ˈbe:](たった一つしか残っていない < たった一つぞ残っている >)。

ˈジン˞トゥリ [ˈʤin˞turi] 【名】子供の遊びの名。陣取り遊び。ˈジントー˞リ [ˈʤinto:˞ri] ともいう。一組五、六人で二組に分かれ、夫々陣地を決め、じゃんけん (石拳) で負けた方が鬼になり、勝った方が鬼を追いかける。タッチされたらアウトで、メンバーが一人減る。追っ手をかわして陣地に戻れば逆に相手を追う権利を得る。相手にタッチすれば、相手がアウトで一人減となる。これを繰り返して相手方のメンバーを減らした組が勝ちとなるゲーム。ヤˈラ˞ビ　ˈシェーン˞ケンマー　˞ユー　ˈジントゥリ˞バ　ˈシー˞　アˈサブタン [jaˈra˞bi ˈʃe:ŋ ˞kemma: ˞ju: ˈʤinturi˞ba ˈʃi:˞ ʔaˈsabutaŋ](子供の頃はよく陣取りをして遊んだ)。

ˈシンナ˞クン [ˈʃinna˞kuŋ] 【自動】潜り込む。布団の中にもぐりこむ。ˈピー˞ヤティ　ウˈズ˞ヌ　ナˈカー　ˈシンナ˞クンティ　シˈタンドゥ　シˈンナカラン˞シェン [ˈpi:˞jati ʔuˈʤu˞nu naˈka: ʃinna˞kunti ʃi̥ˈtanu ʃinnakaraŋ˞ʃeŋ](寒いので布団の中へ潜り込もうとしたが、潜り込まれなかった)。ˈシンナ˞キ　ニˈビベー [ˈʃinna˞ki niˈbibe:](布団の中に潜り込んで寝ている)。ˈシンナ˞ク　˞クトー　スˈナ˩ヨー　ˈミーヌッサ˞ヌ [ˈʃinna˞ku ˞ku̥to: suˈna˩jo:ˈmi:nussa˞nu](布団の中に潜り込むことはするなよ。見苦しいから)。ˈシンナ˞ケー　˞ミサムヌ [ˈʃinna˞ke: ˞misamunu](潜り込めばいいのに)。ˈシンナ˞キバ [ˈʃinna˞kiba](潜り込めよ)。

˞シンニン [˞ʃinniŋ] 【副】わざわざ。ひたすらに。特別に。いちずに < 一途に >。もっぱら (専ら)。一心不乱に。一意専心。「専念」の転訛したもの。「Xennen. センネン (専念)Mopparani vomô.(専らに念ふ)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˈワー˞　シンニン　ウˈリ　ピー˞チ　ˈカウンティ˞　アドーラ　ˈタンガ˞シ　ˈクーター [ˈwa:˞ ʃinniŋ ʔuˈri pi:ˈʧi ˈkaunti˞ ʔado:ra ˈtaŋga˞ʃi ˈku:ta:](君はわざわざそれ一つを買うために、あんな遠いところから一人で来たのか)。˞アブジェー　˞シンニン　ウˈヌ˞　パˈナ˞シ　ˈスンティ˞　アドーラ　ˈオーッ˞ターカヤー [ˈʔabuʤe:˞ ʃinniŋ ʔuˈnu˞ paˈna˞ʃi ˈsunti˞ ʔado:ra ˈʔo:t ˞ta:kaja:](お祖父さんは、わざわざその話しをしに、あんな遠い所から来られたのかなあ)。

˞シンニンガイ [˞ʃinniŋgai] 【名】(動) 貝の名。トウカムリガイ (唐冠貝)。「千年貝」の義。大型の巻貝で殻高約 20 センチ。倒円錐形の美しい貝である。貝殻は観賞用として床の間などに飾られている。˞シンニンガイヤー　チˈカ˞グロー　ˈミッ˞タニ　ミˈララン˞バン [˞ʃinniŋgaija: ʧi̥ˈka˞guro: ˈmit˞tani mi ˈraram˞baŋ](トウカムリガイ < 唐冠貝 > は近頃は滅多に見られないよ)。

˞ジン˥ヌ　˞サン˥ミン [˞ʤin˥nu ˞sam˥miŋ] 【連】お金の計算。˞イーシ˥ヌ　˞モー˥ケー　˞ギュー˥サ　˥ナルユーティ　˞ジン˥ヌ　˞サン˥ミン　˞シー　ベー [˞ʔiːʃi˥nu ˞moː˥keː ˞gjuː˥sa ˥naruju:ti ˞ʤin˥nu ˞sam˥miŋ ˞ʃiː beː](ツノマタの儲けがいくらになるのだろうかと、お金の計算をしている)。

˞ジン˥ヌ　シゥ˞カラ [˞ʤin˥nu sɨ̥˞kara] 【連】金の力。金力。資金力。˞ジン˥ヌ　シゥ˞カラヌ˥　ア˞リ˥バティ　˞シープサカッ˥ティー　˞シェー˥　ナ˞ラ˥ヌ [˞ʤin˥nu sɨ̥˞karanu˥ ʔa˞ri˥bati ˞ʃiːpu̥Sakat˥tiː ˞ʃeː˥ na˞ra˥nu](金の力があるかといって、したい放題にしてはならない)。

˞ジン˥ヌ　˥ミー [˞ʤin˥nu ˥miː] 【連】貸した金を取りたてる権利。債権。債権者に対する債務。「銭の目」の義。˥ウカ　パ˞ライユーサン˥ベーティ　カ˞ルタ　ジン˥ヌ　˥ミーシ　シゥ˞カーリ　ベー [˥ʔuka pa˞raiju:sam˥beːti ka˞ruta ʤin˥nu ˥miːʃi sɨ̥˞kaːri beː](負債を払うことが出来ないので、借りた金の債務として使われている)。

˞ジン˥バー [˞ʤim˥baː] 【名】(動) 魚の名。和名、オウゴンヒメジ (体長約 25 センチ)、和名、マルクチヒメジ (体長約 35 センチ)、和名、コバンヒメジ (体長約 35 センチ)、和名、ホウライヒメジ (体長約 30 センチ)、和名、リュウキュウアカヒメジ (体長約 40 センチ) などの総称。

˞ジンバイ [˞ʤimbai] 【名】配膳係り。˞膳配り」の義。昔の鳩間村の最下級の役職。ム˞ラヤクサ [mu ˞rajakusa](村行事を司る役人) の下で、神行事の祭祀に必要な供物の諸準備をしたり、村中からお膳を借り受けたり、返済したりする雑役に従事する役職。学校卒業したての若い男子が西村と東村から各 1 人、計 2 人選出された。祭りの当日には供物の運搬等にも従事した。˞ジンバイヤー　プー˥ル　˥キチゴンヌ　グ˞サーク˥マイ　ア˞ツァ˥ミ　˞ジン˥　カ˞リン˥ドーレーヌ　シ˞グトゥ　スンダ˥　イ˞スガ˥サタン [˞ʤimbaija: puː˞ru ˥kɨ̥ʧigonnu gu˞saːku ˥mai ʔa˞tsa˥mi ˞ʤiŋ ka˞rin˥doːreːnu ʃi˞gutu sunda˥ ʔi ˞suga˥sataŋ](膳配り役は豊年祭、結願祭の五勺米集めやお膳の借受、返済などの仕事をするから忙しかった)。

˞ジン˥パク [˞ʤim˥pḁku] 【名】金庫。銭箱。˞ジン˥パクナー　イ˞リルブカラヌ　ジン˥ヌ　˥アルカー　˞ソーヤ　ナー˥ヌ [˞ʤim˥pḁkuna: ʔi˞rirubukaranu ʤin˥nu ˥ʔaruka: ˞soːja naː˥nu](銭箱に入れるくらいのお金があれば心配はないよ)。˞ウン˥ネナー　˞ジン˥マー　˞ジン˥パクナー　ア˞バッカイルン˥ケン　アンティ˞ダー [˞ʔun˥nena: ˞ʤim˥ma: ˞ʤim˥pḁkuna: ʔa ˞bakkairuŋ˥keŋ ʔanti˞daː](あの家には、お金は金庫 < 銭箱 > に溢れるほどあるそうだよ)。

˞シン˥ビー [˞ʃim˥biː] 【名】せんべい (煎餅)。˞シン˥ビーコーシー [˞ʃim˥biːkoːʃiː](煎餅菓子) ともいう。石垣島の商店で買ってお土産にした。˞ウイ˥プソー　˞パー˥ヌ　ア˞ローラン˥ユンダー　フ˞チ˥ナー　˞シン˥ビ　フ˞ク˥ミ　˞ヤーラカシェー˥ティルン˞コーッタ˥ル [˞ʔui˥pu̥soː ˞paː˥nu ʔa˞roːraŋ˥junda: ɸu̥˞ʧi˥na: ˞ʃim˥biː ɸu̥˞ku˥mi ˞jaːrakaʃeː˥tiru ʔŋ˞koːtta ˥ru](年寄り < 老い人 > は歯がおありでない < 有りおわさない > から、口に煎餅を含んで柔らかくしながら召し上がられたよ)。

˞シン˥ビーコーシ [˞ʃim˥biːkoːʃi] 【名】煎餅。˞煎餅菓子」の義。˞シン˥ビーコーシェー　イ˞サンケーラ˥ル　˞カイ　クー˥タ [˞ʃim˥biːkoːʃe: ʔi˞saŋkeːra˥ru ˞kai kuː˥ta](煎餅は石垣島から < ぞ > 買ってきた)。

˥シンピーズ [˥ʃimpiːʤu] 【名】毎日。いつも。常日頃。˞常・日中」の転訛したものか。˥シンピーズ　˞ヌー˥ル　˞スーテー　ナー˥ヌ　ナー˞イ˥　ア˞サビベー [˥ʃimpiːʤu ˞nuː˥ru ˞suːteː naː˥nu naː˞i˥ ʔa˞sabi beː](毎日何をするともなく、ただ毎日遊んでいる)。˥シンピーズ　ユ˞ヌ˥　ムニカー˞ニル˥　イ˞ゾー˥ル˞ツォー [˥ʃimpiːʤu ju˞nu˥ munikaː˞niru˥ ʔi˞ʤoː˥ru˞tsoː](一日中同じ話 < 言葉 > だけを < ぞ > 言われるんですよ)。˥シンピーズ　ユ˞ヌシグ˥トゥ　˞シー　ブンダ˥　ア˞キリス [˥ʃimpiːʤu ju˞nuʃigu˥tu ˞ʃiː bunda˥ ʔa˞kirisu](毎日同じ仕事をしているので飽きてしまう < 飽きれる >)。

˥シンビュー [˥ʃimbjuː] 【名】千俵。˞イッ˥ピュー [˞ʔip˥pjuː](1 俵)。˥ニヒュー [˥niçuː](2 俵)。˥サンビュー [˞sambjuː](3 俵)。˞ヨンピュー [˞jompjuː](4 俵)。グ˞ヒュー [gu˞çuː](5 俵)。˞ルッ˥ピュー [˞rup˥pjuː](6 俵)。ナ˞ナ˥ヒュー [na˞na˥çuː](7 俵)。˞ハッ˥ピュー < ハ˞チ˥ヒュー >[˞hap˥pjuː < ha˞ʧi˥çuː >](8 俵)。˞キューヒュー [˞kjuːçuː](9 表)。˥ジッピュー [˥ʤippjuː](10 俵)。˞ジュー˥イッピュー [˞ʤuː˥ʔippjuː](11 俵)。˥ニジッピュー [˥niʤippjuː](20 俵)。˞ヒャッ˥ピュー [˞çap˥pjuː](100 俵)。

˞シンピルン [˞ʃimpiruŋ] 【他動】ひねりつぶす (捻り潰す)。指先で押して潰す。小さなお出来や腫れ物を指先で押し潰して膿を出す。ア˞シ˥ボー　˞シンピルンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　˥ヤムンダ　˞シンピ

ララヌ [ʔa˞ʃi˞bo: ˞ʃimpirunti˞ ʔu˞mu:n˞du ˞jamunda ˞ʃimpiraranu](お出来は指先で押して潰そうと思うが、痛いので押し潰されない)。˞シンピリ˞　ミサカー　˞シンピレー˞　ミサムヌ [˞ʃimpiri˞ misaka: ˞ʃimpire:˞ misamunu](押し潰して良いなら押し潰せば良いのに)。˞シンピル˞　ア˞シ˞ボー　˞シンピリ˞バ [˞ʃimpiru ʔa˞ʃi˞bo: ˞ʃimpiri˞ba](押し潰すお出来は押し潰せ)。ク˞ヌ˞　ア˞シ˞ボー　˞シンピリティウー˞ミ　˞アーシ˞バ [ku˞nu˞ ʔa˞ʃi˞bo: ˞ʃimpiriti ʔu:˞mi ˞ʔa:ʃi˞ba](この御出来は押しつぶして膿みを出せよ)。˞シンピルンティ˞　シ˞タンドゥ˞　ドゥク˞ヤミティ　˞シンピララヌ [˞ʃimpirunti˞ ʃi̥˞tandu˞ duku ˞jamiti ˞ʃimpiraranu](押しつぶそうとしたが、あまりにも痛くて押しつぶされない)。˞シンピル˞ク˞トゥ˞ヌ　˞ナルカー　˞シンピレー˞　ミサムヌ [˞ʃimpiru˞ ku̥˞tu˞nu naruka: ˞ʃimpire:˞ misamunu](押しつぶすことが出来たら押しつぶせばよいのに)。˞パー˞ク　˞シンピリ [˞pa:˞ku ˞ʃimpiri](早く押しつぶせ)。

˞シンビン˞ヤー **[˞ʃimbiŋ˞ja:]** 【名】(海底地名)。˞イシケーズニ [˞ʔiʃi̥ke:ʤuni](イシケー曽根) とマ˞ルズニ [ma˞ruʤuni](丸曽根) の内側で、水深 8 尋ほどの海底に平たい珊瑚礁 < テーブルサンゴ > が発達している所がある。そこは、カツオの餌になるヤ˞ナザ˞コー [ja˞naʤa˞ko:](特定の穴 < 魚巣 > にいる˞ザコー [ʤako:]< 小魚。雑魚 >) の巣といわれていて、かつてカツオ漁船はそこでカツオの餌を捕っていた。

˞ジンプー **[˞ʤimpu:]** 【名】順風。追い風。˞ジンプーヌ˞　マ˞ルバル < マ˞リバル >　パイター˞ヌ˞フネー　ン˞ザサ˞リ [˞ʤimpu:nu˞ ma˞rubaru < ma˞ribaru > paita:˞nu ˞ɸune: ʔn˞ʤasa˞ri](順風が吹いたらば < 生まれたらば > こそ西表北岸 < 南端 > への舟は出される)。˞ジンプー˞　マ˞ラシ　オー˞リ [˞ʤimpu:˞ ma˞raʃi ʔo:˞ri](順風にのって < 産ませて > おいでになってください)。˞ジンプー˞　マ˞ルン [˞ʤimpu:˞ ma˞ruŋ](順風になる <～が生れる >)。

˞ジンフク˞ル **[˞ʤiŋɸuku˞ru]** 【名】財布。銭入れ。きんちゃく (巾着)。がまぐち。「銭袋」の義。˞ジンフクル˞ヌ　˞ピッ˞チン　˞ジン˞バ　˞モー˞キティ˞ワーン˞　ダ˞カサ˞ナー [˞ʤiŋɸu̥kuru˞nu ˞pit˞ʧin ˞ʤim˞ba ˞mo:˞kiti ˞wa:n˞ da˞kasa˞na:](財布の一杯お金を儲けて君に与えよう < 抱かせよう > ねえ)。

˞ジン˞ブン **[˞ʤim˞buŋ]** 【名】知恵。分別。思慮。考え。存念。才能。「存分」の転訛したもの。˞ワー˞　イッ˞ケナ　ジン˞ブン　ア˞リ˞ブバン [˞wa:˞ ʔik˞kena ʤim˞buŋ ʔa˞ri˞bubaŋ](君は非常に知恵があるわい)。フ˞ドゥビル˞　アー˞シ　ジン˞ブン　˞ンジキー　˞マイフナーユン [ɸu˞dubiru˞ ʔa:˞ʃi ʤim˞buŋ ˞ʔnʤiki: ˞maiɸuna:juŋ](成長するにつれて思慮分別がついて < 出て > きて立派だ < お利巧だ >)。˞ジン˞ブンムチ　ヤ˞ルンダ˞　ノー˞ン˞　シ˞ミルバン˞　プ˞ス˞　マ˞キラヌ [˞ʤim˞bummutʃi ja˞runda˞ no: ˞ŋ˞ ʃi˞mirubam˞ pu̥˞su˞ ma˞kiranu](才能のある人 < 知恵者 > だから何をさせても他人引けを取らない < 負けない >)。

˞ジン˞ブンッサラー **[˞ʤim˞bunssara:]** 【名】愚物。愚鈍。「存分腐れ者」の義。˞ジン˞ブントーラー [˞ʤim˞bunto:ra:](「存分倒れ」) ともいう。˞ジン˞ブンッサラー　˞マーパカラサー　ナー˞ヌ [˞ʤim˞bunssara: ˞ma:pakarasa: na:˞nu](愚物は物事がきちんと処理できないから信頼できない。何事もまっとうにできないから信用できない。まともでない)。

˞ジン˞ブンッサリムヌ **[˞ʤim˞bunssarimunu]** 【名】思慮、分別のない者。「存分腐れ者」の義。˞ジン˞ブンッサリムヌティ　˞ピーズン˞　イ˞ジフザレー˞ティ　キ˞ムイ˞ツァーン˞ダー [˞ʤim˞bunssarimunuti ˞pi:ʤuŋ˞ ʔi˞ʤiɸuʤare:˞ti ki˞mui˞tsa:n˞da:](思慮分別のない者 < 愚物 > といわれて、毎日叱りとばされ、こじ (抉) られて、可哀相だよ)。

˞ジン˞ブン　˞トーリ˞ムヌ **[˞ʤim˞bun ˞to:ri˞munu]** 【連】愚物。愚鈍。知恵、才能のない者。耄碌した人。呆けた人。˞ジン˞ブンッサラー [˞ʤim˞bunssara:](愚物。「存分腐れ」の義) ともいう。˞ジン˞ブン　˞トーリ˞ムヌ　ヤ˞ルンダ˞　シ˞グトゥ˞　シ˞ミルバン　マーパカラサー　ナー˞ヌ [˞ʤim˞bun ˞to:ri˞munu ja˞runda˞ ʃi˞gutu˞ ʃi˞mirubam ma:pakarasa: na:˞nu](愚物だから、仕事をさせても信用のおける、きちんとしたものができない < まともにできない >)。

˞ジン˞ブン　˞トーリ˞ルン **[˞ʤim˞bun ˞to:ri˞ruŋ]** 【連】気が利かなくなる。思慮分別がなくなる。耄碌する。「存分倒れる」の義か。トゥ˞シ˞　トゥルカー　˞ジン˞ブン　˞トーリ˞ルンダー　˞トゥシェー　トゥ˞リ˞プサー　˞ナー˞ヌ [tu̥˞ʃi˞ turuka: ˞ʤim˞bun ˞to:ri˞runda: ˞tu̥ʃe: tu˞ri˞pu̥sa: ˞na:˞nu](年をとると気が利かなくなって耄碌するから、年はとりたくない)。

˞ジン˞ブン　˞トー˞ルン **[˞ʤim˞bun ˞to:˞ruŋ]** 【連】気が利かなくなる。思慮分別が無くなる。耄碌する。˞ジン˞ブン　˞トーリ˞ルン [˞ʤim˞bun ˞tori˞ruŋ](気が

利かなくなる。思慮分別がなくなる。耄碌する) と同じ。

˞ジン˜ブントラー [˞ʤim˜bunto:ra:] 【名】愚鈍。知恵、才能の無い者。呆けた人。耄碌した人。卑語。˞ジン˜ブントーラー　˜ナリティ　˜ヌーンクイン　プ˞スヌ˜　パ˞ナウタン˜カー　シ˞グトゥ　シーサヌ [˞ʤim˜bunto:ra: ˜nariti ˜nu:ŋkuim pu̥˞sunu˜ pa˞naʔutaŋ˜ka: ʃi˞gutu ʃi:sanu](呆けた人になってしまって、何もかも他人が指示しないと仕事をすることが出来ない)。

˞ジン˜ブンムチ [˞ʤim˜bummutʃi] 【名】利口者。思慮、分別のある者。知恵者。世才に長けた人。「存分持ち」の転訛。˞ジン˜ブンムチ　ヤ˞ルンダ˜　プ˞ス˜ピライン　˞ゾー˜ジ　˞ジンモー˜キン　˞ゾージ˜ユン [˞ʤim˜bummutʃi ja˞runda˜ pu̥˞su˜pirain ˞ʤo:˜ʤi ˞ʤimmo:˜kin ˞ʤo:ʤi˜juŋ](利口者だから世間交際も上手だし、金儲けも上手だよ)。

˞ジン˜ブン　ン˞ジ˜ルン [˞ʤim˜buŋ ʔn˞ʤi˜ruŋ] 【連】智恵がつく。ヤ˞ラ˜ベー　˞スー˜リティ　イッ˞ケナ　ジン˜ブン　ン˞ジ˜　ブーバン [ja˞ra˜be: ˞su:˜riti ʔik˞kena ʤim˜buŋ ʔn˞ʤi˜bu:baŋ](子供は成長して、非常に智恵がついてきたよ)。

˞シン˜ボー [˞ʃim˜bo:] 【名】辛抱。忍耐。標準語からの借用語。˞イットゥキ˜ヌ　ク˞チ˜サ　ヤ˞ルンダ　シン˜ボー　˞シー˜ダー [˞ʔittuki˜nu ku̥˞ʧi˜sa ja˞runda ʃim˜bo: ˞ʃi:˜da:](一時の苦しさ＜難儀苦労＞だから、辛抱しなさいよ)。

˞シン˜ボー [˞ʃim˜bo:] 【名】しんぼう (心棒)。車輪やこま (独楽) などの中心をなす棒。標準語からの借用語。˞ニーグルマ˜ヌ　˞シンボー˜ヤ　˜ブリウティ　˞ナー˜ヌ [˞ni:guruma˜nu ˞ʃimbo:˜ja ˜buriʔuti ˞na:˜nu](荷車の心棒は折れてしまった)。

˞シンマイ [˞ʃimmai] 【名】家の間取り。間取り。部屋の設計。部屋の配置。家屋の設計。ク˞ヌ　ヤー˜ヌ　˞シンマイ˜　トゥ˞リヨー˜ヌ　ミ˞ジラ˜サワ˞ナー [ku˞nuja:˜nu ˞ʃimmai˜ tu˞rijo:˜nu mi˞ʤira˜sawa ˞na:](この家の間取り＜家屋の設計＞の取り方が珍しいねえ)。˞ヤー˜ヌ　˞シンマイ˜　トゥ˞リヨー˜ヤ　イッ˞ケナ˜　ミサンドゥ　バ˞カー˜ムヌ　ム˞キル˜　ナリ　˞ブー [˞ja:˜nu ˞ʃimmai˜ tu˞rijo:˜ja ʔik˞kena˜ misandu ba˞ka:˜munu mu˞kiru˜ nari ˞bu:](家の間取りは大変良いが、若者好み＜向き＞の間取りになっている)。˞シンマイ˜　トゥ˞リ˜ヨー [˞ʃimmai˜ tu˞ri˜jo:](間取りの仕方。設計)。

˞シンマイ˜ナビ [˞simmai˜nabi] 【名】「四枚鍋」の義。六升炊き用の大鍋。材料の鉄板四枚で造られたという大鍋。芋を蒸かしたり、餅を蒸かしたりするのに用いる大鍋。ウ˞ビナー˜ヌ　バ˞コーシンカ˜ヌ　˞イー˜ヤ　˞シンマイ˜ナビナール　バ˞カサリル [ʔu˞bina:˜nu ba˞ko:ʃiŋka˜nu ˞ʔi:˜ja ˞ʃimmai˜nabina:ru ba˞kasariru](あれだけの人数の共同作業員のご飯は四枚鍋の大鍋でしか炊けない＜四枚鍋でぞ炊かれる＞)。

˜ジンムチ [˜ʤimmutʃi] 【名】金持ち。ウ˞ヤ˜キプス [ʔu˞ja˜kipu̥su](金持ち。富貴人) ともいう。ウ˞レー　デージ˜ナ　˜ジンムチティバーン　˞ナー [ʔu˞re: de:ʤi˜na ˜ʤimmutʃitiba:n ˞na:](彼は大変な金持ちだそうだなあ)。

˞シンメー˜ナビ [˞ʃimme:˜nabi] 【名】芋をふかす (蒸かす) 大鍋。鉄板四枚で製作される鍋の意という。普通は˞シンマイ˜ナビ [˞ʃimmai˜nabi](四枚鍋) という。˞シンメー˜ナビナール　˞ウン˜マー　バ˞カソーッ˜タ [˞ʃimme:˜nabina:ru ˞ʔum˜ma: ba˞kaso:t˜ta](大鍋＜四枚鍋＞にぞ芋は炊かれ＜蒸(ヲ)かされ＞た)。

˞ジンモー˜キ [˞ʤimmo:˜ki] 【名】金儲け。ウ˞レー　ジンモー˜キ　˞ゾー˜ジ　ヤ˞ルンダ˜　ウ˞リン˜　タ˞ナ˜ミ　˞カーシ˜バ [ʔu˞re: ʤimmo:˜ki ˞ʤo:˜ʤi ja˞runda˜ ʔu˞rin˜ ta˞na˜mi ˞ka:ʃi˜ba](彼は金儲けが上手だから彼に頼んで売りなさいよ)。ウ˞レー　ジンモーキ　ゾー˜ジ　ヤ˞ルンダ˜　ウ˞リンナー˜ニ　タ˞ナ˜ミバ [ʔu˞re: ʤimmo:kiʤo:˜ʤi ja˞runda ʔu˞rinna:˜ni ta˞na˜miba](彼は金儲け上手であるから、彼に頼みなさいよ)。

˞ジンモーキ˜ジク [˞ʤimmo:ki˜ʤiku] 【名】金儲けの仕事。儲け口。˞ジンモーキ˜ザク [˞ʤimmo:ki˜ʤaku](儲け仕事) ともいう。˞ジンモー˜キ [˞ʤimmo:˜ki](金儲け) に、ッ˞サーク [s˞sa:ku](仕事) の縮略形 [-ʤaku] の音韻変化した˜ジク [˜ʤiku] が下接したもの。˞ジンモーキジク˜ヌ　˜アンティ　シ˞バ　ギー˜　ミ˞ライ [˞mo:kiʤiku˜nu ˜ʔanti ʃi˞ba gi:˜ mi˞rai](金儲け仕事＜儲け口＞があるというから、行ってみようねえ)。

˞シンヨー [˞ʃiŋjo:] 【名】信用。確かだと信じること。ウ˞リヌ˜　パ˞ナ˜シェー　˞シンヨー˜　ナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞rinu˜ pa˞na˜ʃe: ˞ʃiŋjo:˜ na˞ra˜nu](彼の話は信用できない)。

˞シン˜ロー [˞ʃin˜ro:] 【名】心労。悩み苦しむこと。精神的な苦労。標準語からの借用語。˞ウン˜ネーヌ　˜ウヤー　ッ˞ふァヌ˜　クトゥシ　˞ピーズ　シン˜ロー　˞シー　オー˜ル＜˜キム　ヤ˞キオー˜ル＞[˞ʔun˜

ne:nu ˥ʔuja: fˈfanu˥ kɥtuʃi ˩pi:ʤu ʃin˥ro: ˩ʃi: ʔo:˥ru < ˥kimu ja˩kio:˥ru >](あの家の親は子供のことで、いつも心労をしておられる)。

ス

˥ス [˥su] 【助数】容積を表す単位。升 (10 合)。˖イッ˥ス [˖ʔis˥su](一升)。˥ニス [˥nisu](二升)。˖サン˥ス [˖san˥su](三升)。˖ユンス [˖junsu](四升)。グ˖ス [gu˖su](五升)。ル˖ク˥ス [ru˖ku˥su](六升)。ナ˖ナ˥ス [na˖na˥su](七升)。˖ハッ˥ス [˖has˥su](八升)。˖キュース [˖kjuːsu](九升)。˖イッ˥トゥ [˖ʔit˥tu](一斗)。˖マイ イッ˥ス ˖カイ˥クー [˖mai ʔis˥su ˖kai˥kuː](米一升買って来なさい < こい >)。

˖スー [˖suː] 【接頭】強い。ひどい。きつい。˖スー˥ワン [˖suː˥waŋ](強い) の語幹が接頭語化したもの。1直接名詞を修飾する。˖スー˥ヤン [˖suː˥jaŋ](重病気 < 強病み >)。˖スー˥ヤン ア˖タリティ˥ マ˖ガリベー [˖suː˥jaŋ ʔa˖tariti˥ ma˖gari beː](重い病気にかかってうずくまっている)。˖ターカイ˥シェー ˖スーシグ˥トゥ˖ダー <˖ウーシグトゥト ダー >[˖taːkai˥ʃeː ˖suːʃigu˥tu˖daː <˖ʔuːʃigutu˖daː >](田圃耕しはきつい仕事だよ)。ヤ˖ラビン˥ナーネー ˥ドゥク ˖スー˥ムニ イ˖ズナ [ja˖rabin˥naːneː ˥duku ˖suː˥muni ʔi˖ʤuna](子供にはあまり厳しい言葉遣いはするな < 強い言葉は言うな >)。2形容詞の語幹が転成名詞を修飾して複合語を形成したもの。˖クンドゥ˥ヌ カ˖ジ˥ナー ˖スーアタ˥リ シ˖ティ クー˥リ ˖ナー˥ヌ [˖kundu˥nu ka˖ʤi˥naː ˖suːʔata˥ri ʃi̥˖ti kuː˥ri ˖naː˥nu](今度の台風に強く当って崩れてしまった)。

˥スー [˥suː] 【名】お汁。[ʃiru](汁) の-iru という狭母音に挟まれた [r] が逆行同化の音韻変化を起こして、[ʃiru] → [ssuː] → [suː] と変化したもの。˥スー バ˖カシ˥バ [˥suː ba˖kaʃi˥ba](お汁を炊きなさい)。イ˖ズヌ˥ スー [ʔi˖ʤunu˥ suː](魚のお汁)。˖オー˥ヌ ˥スー [˖ʔoː˥nu ˥suː](豚肉のお汁)。˖ミース˥ジル [˖miːsu˥ʤiru](味噌汁)、˖ネーシジル [˖neːʃiʤiru](煮汁)、˖ンーナジル [˖ʔnːnaʤiru](むなじる < 空汁 >、中身のないお汁) の˥ジル [˥ʤiru](汁) は複合語の被覆形の中に、複合語化に伴う後接語の語頭子音が有声化したまま保存されたもの。進行同化現象の傍証となる語。˖スーン˥シル [˖suːŋ˥ʃiru](お汁 < 潮の汁。潮汁 >) ともいう。˥タクン イ˖ズン˥ バ˖ザイティ˥ スー バ˖カシ˥バ [˥tạ̊kuŋ ʔi˖ʤum˥ ba˖ʤaiti˥ suː ba˖kaʃi˥ba](蛸も魚も拵えて < 割烹調理して > お汁を炊きなさい)。

˥スー [˥suː] 【名】海水。しおみず (潮水)。˥スー ˥ピスン [˥suː ˥pi̥suŋ](潮が引く)。˥スー ˥ミツン [˥suː ˥mitsuŋ](潮が満つ)。ピ˖シ˥スー [pi̥˖ʃi˥suː](引き潮。干潮)。ミ˖チ˥スー [mi˖ʧi˥suː](満ち潮。満潮)。˖ウー˥スー [˖ʔuː˥suː](大潮)。グ˖マ˥スー [gu˖ma˥suː](小潮)。˥スーミツァール [˥suːmitsaːru](満ち潮。上げ潮)。˥スーピサール [˥suːpisaːru](引き潮。下げ潮)。˖スー˥ヌ ˥ミツカー ˥クマーラ ˥フネー ン˖ザサリン˥ドゥ ˖スー˥ヌ ˥ピスカー ン˖ザサラ˥ヌ [˖suː˥nu ˥mitsukaː ˥kumaːra ˥ɸuneː ʔn˖ʤasarin˥du ˖suː˥nu ˥pi̥sukaː ʔn˖ʤasara˥nu](潮が満たら此処から船は出されるが、潮が引いたら出されない)。

˥スー [˥suː] 【助数】船を数える単位。そう (艘)。˖イッ˥スー [˖ʔis˥suː](1 艘)。˥ニスー [˥nisuː](二艘)。˥サンズー [˥sanʤuː](三艘)。˖ユンスー [˖junsuː](四艘)。グ˖スー [gu˖suː](五艘)。ル˖ク˥スー [ru˖ku˥suː](六艘)、ナ˖ナ˥スー [na˖na˥suː](七艘)。˖ハッ˥スー [˖has˥suː](八艘)。˖キュースー [˖kjuːsuː](九艘)。˥ジッスー [˥ʤis-suː](十艘)。˥カマーラ ˥フネー ˥ナンズー ˖クー˥ワ [˥kamaːra ˥ɸuneː ˥nanʤuː ˖kuː˥wa](あそこから船は何艘来るか)。

˥ズー [˥ʤuː] 【名】木の芯。ずい (髄)。˖キー˥ヌ ˥ズーナ ッ˖サール˥ヌ ˖ペー˥リティ フ˖トゥッ˥チ ˖ベー [˖kiː˥nu ˥ʤuːna s˖saːru˥nu ˖peː˥riti ɸu̥˖tut˥ʧi ˖beː](木の芯に白蟻が入って、朽ちている)。˖キー˥ヌ ˥ズー [˖kiː˥nu ˥ʤuː](木の髄。木の芯)。ク˖ルキー˥ヌ ˥ズーシ ˖サンシン˥ ス˖クリ [ku˖rukiː ˥nu ˥ʤuːʃi ˖saŋʃin˥ su̥˖ku˥ri](黒檀 < 黒木 > の芯で三味線を作れ)。˖キー˥ヌ ˖ズー˥ヤ フ˖トゥッ˥チティ シゥ˖カーラヌ [˖kiː˥nu ˖ʤuː˥ja ɸu̥˖tut˥ʧiti si̥˖kaːranu](木の芯は朽ちて使えない)。

˥ズー [˥ʤu:] 【接尾】～じゅう (中)。時間的空間的に全体にわたることを表す。その間ずっと。一面すべてに。˥プスイピーズー [˥pu̥suipi:ʤu:](一日中)。イ˩チニ˥チズー [ʔi˩ʧini˥ʧiʤu:](一日中)。ク˩トゥシズー [ku̥˩tuʃiʤu:](今年中)。˥エンズーナ [˥jenʤu:na](来年中に)。˩ニンズー [˩ninʤu:](年中)。ム˩ラズー [mu˩raʤu:](村中。村全体)。パ˩マウリソー˥ジェー　ム˩ラズーヌ˥　プ˩スヌ˥　サンシキナー　ウ˩ロー˥リニ˩ビティ˥　サ˩カサ˥　ティ˩ジリ˥ビーンケーヌ　˩ニン˥ガイ　˩ソー˥ル　˥アイ　˩ソー˥ジ　˩ソーッ˥タ [paʔmaʔuriso:˥ʤe: mu˩raʤu:nu˥ pu̥˩sunu˥ saŋʃi̥kina: ʔu˩ro:˥ri ni˩biti˥ sḁ˩kasa˥ ti˩ʤiri˥bi:ŋke:nu ˩niŋ˥gai ˩so:˥ru ˥ʔai ˩so:˥ʤi ˩so:t˥ta](浜下りソージには村中の人が桟敷に集まられ＜下りられ＞て、司やティジリビ＜手擦り部＞方が御嶽で祈願される間、桟敷で眠って＜模擬一夜籠めの＞精進をされた)。

˥ズー [˥ʤu:] 【名】さかな (肴)。おじゅう (御重)。お重に盛る品は、˩ミーシナズー [˩mi:ʃinaʤu:](三品のお重)、イ˩チシナ˥ズー [ʔi˩ʧiʃina˥ʤu:](五品のお重)、ナ˩ナシナ˥ズー [na˩naʃina˥ʤu:](七品のお重)、ク˩ヌシナ˥ズー [ku˩nuʃina˥ʤu:](九品のお重) に盛るのが常であった。˥ズー　ム˩ルン [˥ʤu: mu˩ruŋ](肴＜お重＞を盛り付ける)。ジ˩ブ˥クナー　ム˩チン˥　ウサイン　˥ズー　ム˩リティ˥　シ˩キ˥　マ˩チ˥バ [ʤi˩bu˥kuna: mu˩ʧiŋ˥ ʔusain ˥ʤu: mu˩riti˥ ʃi̥˩ki˥ ma˩ʧi˥ba](重箱に餅も肴もお重盛りにしてお供えし、祭り＜供え＞なさい)。

˩ズー [˩ʤu:] 【名】尾。しっぽ。˩ブー [˩bu:] とは言わない。ウ˩シヌ　ズー [ʔu˩ʃinu ʤu:](牛の尾)。˩オー˥ヌ　˩ズー [˩ʔo:˥nu ˩ʤu:](豚の尾)。マ˩ヤ˥ヌ　˩ズー [ma˩ja˥nu ˩ʤu:](猫の尾)。˩イン˥ヌ　˩ズー [˩ʔin˥nu ˩ʤu:](犬の尾)。ウ˩ヤザ˥ヌ　˩ズー [ʔu˩jaʤa˥nu ˩ʤu:](鼠の尾)。パ˩ブヌ　ズー [pa˩bunu ʤu:](ハブの尾)。ビ˩キレー˥ヌ　˩ズー [bi˩kire:˥nu ˩ʤu:](トカゲ＜蜥蜴＞の尾)。フ˩ダッツメーヌ　ズー [ɸu˩dattsume:nu ʤu:](ヤモリ＜守宮＞の尾)。イ˩ズヌズー [ʔi˩ʤunu ʤu:](魚の尾)。トゥ˩ルヌ　ズー [tu˩runu ʤu:](鶏の尾)。˥パトゥザヌ　˩ズー [˥pḁtuʤa:nu ˩ʤu:](鳩の尾)。˥ズームッカー [˥ʤu:mukka:](しっぽのないもの)。˩イン˥ヌ　˩ズー　フンク˥カー　˩ホー˥リン˩ダー [˩ʔin˥nu ˩ʤu: ɸuŋku˥ka: ˩ho:˥rin˩da:](犬のしっぽを踏むと咬まれるよ)。

˩スーアガ˥リ [˩su:ʔaga˥ri] 【名】高潮。台風時に海水が海岸を越えて陸地に上がること。「潮上がり」の義。˩ミッ˥タニ　アレー˩サンドゥ　マンチョー˥ナ　ウ˩ブタイフーヌ˥　ア˩タル˥カー　˩スーアガ˥リ　˩シー˥　マンタヌ　˥ミチェー　˥スー　カ˩バ˥ス　˥クトゥン　˩アッ˥タン [˩mit˥tani ʔare:˩sandu mantʃo:˥na ʔu˩butaiɸu:˥nu ʔa˩taru˥ka: ˩su:ʔaga˥ri ˩ʃi: ˥ mantanu ˥mitʃe: ˥su: ka˩ba˥su ˥ku̥tuŋ ˩ʔat˥taŋ](滅多に有りはしないが、満潮時に大台風が当たると高潮になって前の道は潮が被(カブ)す＜海水が冠水する＞こともあった)。

˩スーアタ˥リ [˩su:ʔata˥ri] 【名】1台風の直撃を受けること。台風で大きな被害を受けること。「強当り」の義。˩クンドゥ˥ヌ　˩タイ˥フーナー　˩スーアタ˥リ　˩シーティル　カー˥ラン　トゥ˩バサレー˥ティ˩ダー [˩kundu˥nu ˩tai˥ɸu:na: ˩su:ʔata˥ri ˩ʃi:tiru ka: ˥ran tu˩basare:˥ti˩da:](今度の台風に直撃＜強当り＞されて瓦も飛ばされたのだそうだよ)。2流行病に罹って重篤になること。パ˩ヤー˥ルナ　˩スーアタ˥リ　˩シーティ˥　ビ˩ザーカサリ　ベー [pa˩ja:˥runa ˩su:ʔata˥ri ˩ʃi:ti bi˩ʤa:kasari be:](流行病に罹って重篤になり、打ちのめされて＜潰されて＞いる)。

˩スー˥ガイ [˩su:˥gai] 【名】汁杓子。昔はキ˩ザ˥ク [ki˩ʤa˥ku](アカガイ。直径約 7 センチの円形の貝) の貝殻を木の枝や竹を裂いて挟み込み、強く縛って汁杓子に作った。戦後、金属製の御玉杓子が出回るようになって使用されなくなった。ム˩カ˥シェー　キ˩ザク˥ヌ　グ˩ル˥シル　˩スーガイ˥ヤー　ス˩ク˥ローッタ [mu˩ka˥ʃe: ki˩ʤaku˥nu gu˩ru˥ʃiru ˩su:gai˥ja: su̥˩ku˥ro:tta](昔はアカガイの貝殻で汁杓子を作られた)。

˩スーカカ˥ラー [˩su:kaka˥ra:] 【副】すること総て。ことごとく (悉く)。総て。シ˩グトー　スーカカ˥ラー　ムー˩ル　ウーモーキ [ʃi˩guto: su:kaka˥ra: mu:˩ru ʔu:mo:ki](仕事はするもの総て大儲け)。

˩スーガカ˥リ [˩su:gaka˥ri] 【名】総掛かり。ミ˩チクサイヤー˥　ム˩ラズー　スーガカ˥リ　˩サン˥カーナ˩ラ˥ヌ [mi˩ʧikusaija:˥ mu˩raʤu: su:gaka˥ri ˩saŋ˥ka: na˩ra˥nu](道普請は村中総掛かりでしないと出来ない)。

˩スー˥カザ [˩su:˥kaʤa] 【名】潮の香。磯の香。パ˩マバ˥タヤー　ヤ˩ルンダ　スー˥カザ　カ˩ビル˥＜カ˩ビティル˥＞　ウ˩ブ˥プス　˥ナレール [pa˩maba˥taja: ja˩runda su:˥kaʤa ka˩biru˥＜ka˩bitiru˥＞ ʔu˩bu˥pu̥su nare:ru](海岸に近い＜浜端の＞家だから磯の香を嗅いで大きく成長した＜大人になった＞のだ)。

˩スー˥カジ [˩su:˥kaʤi] 【名】潮含みの台風雨。「潮風」

の義。台風の時に吹き込む潮交じりの雨風。˹バン˺テーヤ　パ˹マバ˺タヤー　ヤ˹ルンダ˺　カ˹ジフキサーレー　スーカジ˺ヌ　フ˹キクミ˺ス [˹ban˺teːja pa˹maba˺tajaː ja˹runda˺ ka˹ʤiɸu̥kisaːreː suːkaʤi˺nu ɸu̥˹kikumi˺su](私の家は海岸端の家だから台風の時は潮風 < 潮交じりの強風雨 > が家の中へ吹き込むよ)。˹スーカジ˺ヌ　˺フキ　ス˹クリ˺ムノー　サ˹リナー˺ヌ [˹suːkaʤi˺nu ˺ɸu̥ki su̥˹kuri˺munoː sa˹rinaː˺nu](潮水を含んだ暴風雨 < 潮風 > が吹いて作物は枯れてしまった)。

˹スーカジ [˹suːkaʤi] 【名】強風。強い風。フ˹クンキーヤ　スーカジヌ˺　カ˹タ˺カ　˹スン [ɸu̥˹kuŋkiːja suːkaʤinu˺ kḁ˹ta˺ka ˹suŋ](福木は強風の防護壁の機能を果たす < 風除けをする。強風の防護壁をつくる >)。

˹スーカム˺イ [˹suːkamu˺i] 【名】総責任。「総係り」の義。「総・構い」の転訛したもの。˹クンドゥ˺ヌ　˹ユーズ˺ヌ　˹スーカムイ˺ヤー　˹ター˺ル　シ˹トゥミル˺ワ [˹kundu˺nu ˹juːʤu˺nu ˹suːkamui˺ja ˹taːru˺ ʃi̥ ˹tumiru˺wa](今度の行事の総責任は誰が務めるか)。

˹スー˺カン [˹suː˺kaŋ] 【名】「しおかん (潮乾)」の義。西表島の山から伐り出した材木は白蟻対策として、その建築用材を海水につけて灰汁抜き乾燥させた。砂浜を掘って半年ほど埋めたり、海中に沈めて重石をかけておいた後、陸揚げ後˹キー˺ヤー [˹kiː˺jaː](木材乾燥小屋) で自然乾燥させた。ッ˹サール˺ヌ　˹ペーラン˺ヨーニ　˹ザイギー˺バ　ス˹ナカ˺ナー　˹スー˺カン　˹ソーッタ [s˹saːru˺nu ˹peːraŋ˺joːni ˹ʤaigiː˺ba su˹naka˺naː ˹suː˺kan ˹soːt˺ta](白蟻が入らぬように材木を海で潮乾をされた)。

˹スー˺キ [˹suː˺ki] 【名】潮気。パ˹マバ˺タヤーヤ　˹スーキ˺ヌ　˹スー˺ワン [pa˹maba˺tajaːja ˹suːki˺nu ˹suː˺waŋ](浜端の家は潮気が強い)。

˹スー˺キリ [˹suː˺kiri] 【名】水切り。海面に平たい小石や瓦のかけらを投げて海面を飛び跳ねさせて遊ぶこと。ヤ˹ラ˺ビ　˹シェーン˺ケンマー　パ˹マ˺ナー˺ユー　˹スーキリ˺バ　˹シェー˺ティ　ア˹サブタン˺ダー [ja˹ra˺bi ˹ʃeːŋ˺kemmaː pa˹ma˺naː ˺juː ˹suːkiri˺ba ˹ʃeː˺ti ʔa˹sabutan˺daː](子供の頃は浜でよく水切りをして遊んだよ)。

˹スー˺ク [˹suː˺ku] 【名】証拠。あかし。˹フンドゥ˺ヌ　カ˹タヌ　ヤーパン˺ル　˹バン˺テヌ　˹ドング˺ヌ　スー˺ク˹ダー [˹ɸundu˺nu kḁ˹tanu jaːpan˺ru ˹ban˺tenu ˹doŋgu˺nu ˹suː˺ku˹daː](ちきり < 滕 > の型の家判が私の家の道具である証拠だよ)。˹ワー˺　ムヌティ　ア˹ズ　スーク˺ヌ　˹アン [˹waː˺ munuti ʔa˹ʤu suːku˺nu ˹ʔaŋ](君の物だという証拠があるか)。˹スーク˺ヌ　˹ナーン˺カー　プ˹スバ˺　ウ˹タガイヤー˺　ナ˹ラ˺ヌ [˹suːku˺nu ˹naːŋ˺kaː pu̥˹suba˺ ʔu˹tagaijaː˺ ʔna˹ra˺nu](証拠がないと他人を疑ってはならない)。

˹スーク˺ニン [˹suːku˺niŋ] 【名】証人。「証拠人」の義。ク˹レー　バン˺テヌ　˺ムヌ　ヤ˹ルムヌ　ワッ˺テヌ　˺ムヌティ　˹スー　スーク˺ヌ　˹アン。˺アルカー　˹スーク˺ニン　˹サーリ˺クー [ku˹reː ban˺tenu ˺munu ja˹rumunu wat˺tenu ˺munuti ˹suː suː˺kunu ˹ʔaŋ˺。ʔarukaː ˹suːku˺nin ˹saːri˺ kuː](これは私の家のものだのに、貴方の家のものという証拠があるか。あるなら証人を連れて来い)。

˹スー˺サー [˹suː˺saː] 【名】蝉の一種。青蝿ほどの大きさで、4 月～5 月頃に畑の側のススキの中で鳴く。˹スーサー˺ヌ　ナ˹ク˺カー　ナ˹チヌ˺　シチ　˹ペー˺ルン [˹suːsaː˺nu na˹ku˺kaː na˹tʃinu˺ ʃi̥tʃi ˹peː˺ruŋ](スーサー < ヒヨドリ > が鳴くと夏の季節に入る)。

˹スーザラ˺シ [˹suːʤara˺ʃi] 【名】「潮晒し」の義。織り上げた芭蕉布や麻布を海水で洗い日干しにして晒した。ム˹カ˺シェー　˹ヌーヌバ˺　ス˹ナカ˺ナー　ア˹ライ˺　プシェーティ　˹スーザラ˺シ　˹ソーッ˺タ [mu˹ka˺ʃeː ˹nuːnuba˺ su˹naka˺naː ʔa˹rai˺ pu̥ʃeːti˺ ˹suːʤara˺ʃi ˹soːt˺ta](昔は布を海で洗い、干して潮晒しされた)。

˹スー˺ジ [˹suː˺ʤi] 【名】小路。路地 (露地)。狭い道路。˹スー˺ジスージナー　フ˹クンキーヌ˺　イ˹バリブン [˹suː˺ʤisuːʤina: ɸu̥˹kuŋkiːnu˺ ʔi˹bari buŋ](露地毎に福木が植えられている)。

˹ズー˺シ [˹ʤuː˺ʃi] 【名】おじやの総称。「雑炊」の義。炊飯の仕方によって˺シルズーシ [˺ʃiruʤuːʃi](汁雑炊)。ピ˹サシズー˺シ [pi̥˹saʃiʤuː˺ʃi](硬めに炊いた雑炊)。˹コーズー˺シ [˹koːʤuː˺ʃi](強雑炊)。˹ピン˺ガンズーシー [˹piŋ˺ganʤuːʃiː](彼岸雑炊。豚肉を賽の目に切り、ネギを細く下ろして混ぜて炊いた彼岸雑炊) などがある。普通は粳米を用い、豚肉の三枚肉を賽の目に切り、魚肉、˺クブ [˺kubu](昆布) を 2 センチほどに千切りにして混ぜ、味付けをして炊飯した強飯である。˹ズー˺シェー　˹ピン˺ガンズーシートゥ　˹ソーラン˺ヌ　ン˹カイズーシル˺　ン˹マー˺タ [˹ʤuː˺ʃeː ˹piŋ˺ganʤuːʃiːtu ˹soːran˺nu ʔŋ˹kaiʤuːʃiːru˺ ʔm˹maː˺ta](雑炊は彼岸雑炊とお盆の祖霊迎えの˹迎え雑炊」が美味しかった)。

˞スー˜シキ **[˞suː˜ʃi̥ki]** 【名】塩漬け。イ˞ズン˜　タクン　˞スー˜シキ　シ˞ティル˜　フ˞ユヌ˜　カ˞ティ˜ムヌ　タ˞ブイオーッ˜タ [ʔi˞ʤun˜ tą̥kun ˞suː˜ʃi̥ki ʃi̥˞tiru˜ ɸu˞junu˜ ką̥˞ti˜munu ta˞buioːt˜ta](魚も蛸も塩漬けにして冬用の副食物として保存された)。

˞スーシキ˜イガ **[˞suːʃi̥ki˜ʔiga]** 【名】イカ (烏賊) の塩漬け。「塩漬けイカ」の義。˞スーシキ˜イガー　˞イットゥ˜ダルナー　シ˞キティ˜　イ˞サンケー˜　ム˞タシ˜タ [˞suːʃi̥ki˜ʔiga: ˞ʔittu˜taruna: ʃi̥˞kiti˜ ʔi˞saŋke:˜ mu˞taʃi̥˜ta](塩漬けイカは 1 斗樽に塩漬けして石垣島へ送った < 持たせた >)。

˞スーシキ˜イズ **[˞suːʃi̥ki˜ ʔiʤu]** 【名】塩漬けの魚。シ˞ヌマー˜ル [ʃi˞numaː˜ru](てんぐはぎ)、˜ニーバル [˜niːbaru](はた)、カ˞タカシ [ką̥˞takaʃi](いんどひめじ)、˞オン˜デー [˞ʔon˜deː](じゃばあいご)、˞ボー˜ダ [˞boː˜da](きつねぶだい)。˞アー˜ガイ [˞aː˜gai](ひぶだい) などを塩漬けにして保存した。˞スーシキ˜イゾー　˜ダシェー　˜ヌギティ　ン˞マーナー˜ヌ [˞suːʃi̥ki˜ʔiʤo: ˜daʃe: ˜nugiti ʔm˞maːna:˜nu](塩漬け魚は出汁が抜けてしまって美味しくない)。˞スーシキ˜イゾー　˞スー˜ヌギ　˞サン˜カー　サ˞クラーン˜ダー [˞suːʃi̥ki˜ʔiʤo: ˞suː˜nugi ˞saŋ˜ka: są̥˞kuraːn˜daː](塩漬けした魚は塩抜きしないと塩辛いよ)。

˞スーシキ˜タク **[˞suːʃi̥ki˜tą̥ku]** 【名】塩漬けのタコ (蛸)。「塩漬けタコ」の義。˞スーシキ˜タコー　˞ティー˜ヤ　˜サキティ　パ˞リタク　スー˜カー　ナ˞ガタブイ˜　シ˞ラリン˜ダー [˞suːʃi̥ki˜tą̥ko: ˞tiː˜ja ˜są̥kiti pa˞ritaku suː˜ka: na˞gatabui˜ ʃi˞rarin˜daː](塩漬けタコは、手を割いて張りタコにすると長期保存できるよ)。

˞スーシキ˜ムヌ **[˞suːʃi̥ki˜munu]** 【名】塩漬け。「塩漬け物」の義。˞スーシキ˜ムノー　˞ヌー˜ヌ　ア˞ル˜ワ [˞suːʃi̥ki˜muno: ˞nuː˜nu ʔa˞ru˜wa](塩漬けには何が < 何の塩漬けが > あるのか)。

˞スーシキ˜ルン **[˞suːʃi̥ki˜ruŋ]** 【他動】塩漬けにする。「塩漬ける」の義。野菜や肉類を塩漬けにする。˞スーシキラン˜カー　タ˞ボーランバ　スーシキ˜リ˞ヨー [˞suːʃi̥kiraŋ˜ka: ta˞boːramba suːʃi̥ki˜ri˞joː](塩漬けしないと保存できないから塩漬けしなさいよ)。˞スー˜シキ　˜ミサムノー　˜ドゥーシ　˞スーシキ˜ルン [˞suː˜ʃi̥ki ˜misamuno: ˜duːʃi ˞suːʃi̥ki˜ruŋ](塩漬けして良いものは自分で塩漬けする)。˞スーシキ˜ル　˜ムノー　˞パイ˜サ　˞スーシキ˜レー　˜ミサムヌ [˞suːʃi̥ki˜ru ˜muno: ˞pai˜sa ˞suːʃi̥ki˜reː ˜misamunu](塩漬けするものは早く塩漬けすればよいのに)。

˞スーシグ˜トゥ **[˞suːʃigu˜tu]** 【名】辛い仕事。激務。「強仕事」の義。ア˞ラシアケー　スーシグ˜トゥ　˞ヤッタ [ʔa˞raʃiʔakeː suːʃigu˜tu ˞jatta](新しく開墾することは辛い仕事であった)。

˞スーシトゥ˜キ **[˞suːʃi̥tu˜ki]** 【名】潮時。満ち潮時。引き潮時。家庭における慶事は満ち潮の時、凶事や葬儀などは引き潮に行う慣例がある。˞スーシトゥキ˜バ　ア˞ティティル˜　ノー˞ン　ソーッ˜タ [˞suːʃi̥tuki˜ba ʔa˞titiru˜ no:˞n soːt˜ta](満ち潮、引き潮の潮時に合わせ < 当て > て < ぞ > 何事もされた)。

˞スーズー˜ワン **[˞suːʤuː˜waŋ]** 【形】塩分が濃い。塩っ気が強い。˞スーシキ˜ムノー　˞スーズー˜ワン [˞suːʃi̥ki˜muno: ˞suːʤuː˜waŋ](塩漬けは塩分が濃い < 塩っ気が強い >)。ウ˞レー　ナン˜ゾー　˞スーズーワ　ナー˜ヌ [ʔu˞reː nan˜ʤo: ˞suːʤuːwa naː˜nu](それはあまり塩っ気が強くない)。˞スーズー˜ワ　˜ムノー　ッ˞ふーナ [˞suːʤuː˜wa ˜muno: f˞fuːna](塩分の濃い物は食べるな)。˞シンダイ　スーズー˜ワ　˜ナルン [˞ʃindai suːʤuː˜wa ˜naruŋ](次第に塩分が濃くなる)。

˞スー˜スクン **[˞suː˜sụkuŋ]** 【他動】塩漬けする。「塩漬く」の義。˞カーサンドー˜シ　˞スー˜スクン˞デー˜カー　˞スー˜シキ　˜ミサンドゥ　˜ナルカー　˞スーシカン˜ドーシ　˞カーシ˜バ [˞kaːsando:˜ʃi ˞suː˜sụkun˞deː˜ka ˞suː˜ʃi̥ki ˜misandu ˜naruka: ˞suːʃi̥kan˜doːʃi ˞kaːʃi˜ba](売らないで塩漬けするなら塩漬けしてもよいが、出来るなら塩漬けしないで売りなさいよ)。˞スー˜シケー　˜ミサムヌ [˞suː˜ʃi̥ke: ˜misamunu](塩漬けすればよいのに)。

˞スー˜タイ **[˞suː˜tai]** 【名】 1所帯。ウ˞レー　スー˜タイ　ム˞ティ˜ムヌ˞ダー [ʔu˞reː suː˜tai mu˞ti˜munu˞daː](彼は所帯持ちだよ)。2家計。˞ウン˜ネヌ　˞スータイ˜ヤー　トゥ˞ジヌル˜　カ˞サミ　オー˜ル [˞ʔun˜nenu ˞suːtai˜ja: tu˞ʤinuru˜ ką̥˞sami ʔoː˜ru](あの家の家計は妻が管理して < 把握して > おられる)。3つづまやか (約やか) にすること。節約すること。倹約すること。うまく節約して上手に使うこと。ア˞ラシゥカイ [ʔa˞rasï̥kai](荒使い) の対義語。˞バン˜テヌ　ユ˞メー˜　イッ˞ケナ　スー˜タイ　ム˞ティゾー˜ジ [˞ban˜tenu ju˞meː˜ ʔik˞kena suː˜tai mu˞tiʤo: ˜ʤi](家の嫁は非常に家計節約が上手である < 倹約して家計を切り盛りするのが上手である >)。˞スー˜タイ　˞シール　ジン˜マー　シゥ˞カウ˜ダー　ア˞ラシゥカイヤー　サン˜ダー [˞suː˜tai ˞ʃiːru ʤim˜maː sï̥

ˈkauˈda: ʔaˈrasi̥kaija: sanˈda:](倹約をしてお金は使うのだよ。荒使いはしないよ)。

ˈスーˈタイ [ˈsu:ˈtai] 【名】出し汁になるもの。ˈスーˈダシとも言う。ˈスーˈタイ　シˈラリムノーˈ　ノーˈン　ナーˈヌ [ˈsu:ˈtai ʃiˈrari muno:ˈ no:ˈn na:ˈnu:](出し汁になるものは何かないか)。

ˈスーˈダイ [ˈsu:ˈdai] 【名】総代。部落会長に相当する役職。部落行事の総責任者。現在では公民館長がそれに相当する。シˈマムˈチユームチ [ʃiˈmamu ˈtʃiju:mutʃi](島持ち世持ち) ともいわれた。昭和 30 年代ごろまでは、島の新年の第 1 回部落常会でˈスーˈダイ [ˈsu:ˈdai] 以下の役員が選出された。ˈスーˈダイは西村、東村の総代表で、その下に東支会長、西支会長としてヤˈクˈサ [jaˈkuˈsa](役者) 各 1 名と、その補佐役にˈジンバイ [ˈʤimbai](配膳係)1 名、ˈザーアタˈル [ˈʤa:ʔataˈru](座席係り)1 名の 2 名が東、西支会より選出された。ˈスーˈダイ (総代) は島の神行事や部落の行事について、サˈカサ [sḁˈkasa](司) やティジリビ [tiˈʤiriˈbi](男性神職者) と相談して日程を取り決め、執行する責任者であった。これに選出されることは大変名誉なことで、部落へのお礼として常会の席で酒を寄贈する習慣があった。ムˈカˈシェー　ビˈコーンッふァヌˈ　マˈリルˈカー　シˈマムˈチユームチ　ˈナリ　ˈタボーˈリティル　ˈニガイ　ˈオーッˈタヌ　ウˈレー　スーダイˈヌ　ˈクトゥˈダー [muˈkaˈʃe: biˈko:ŋffanuˈ maˈriruˈka: ʃiˈmamuˈtʃiju:mutʃi ˈnari taˈbo:ˈritiru ˈnigai ˈʔo:ttaˈnu ʔuˈre: su:daiˈnu ku̥tuˈda:](昔は男の子が生まれたら島持ち世持ちになるよう祈願されたが、それは総代のことだよ)。

ˈスーˈダカ [ˈsu:ˈdaka] 【名】総高。総計。合計。カˈツシンヌ　スーˈダカ [kḁˈtsuʃinnu su:ˈdaka](カツオ漁船の総漁獲高)。ˈマイヌ　スーˈダカ [ˈmainu su:ˈdaka](米の総生産高)。ˈイーシˈヌ　ˈスーˈダカー　クˈトゥシル　ゴーˈラータツォー [ˈʔi:ʃiˈnu ˈsu:ˈdaka: ku̥ˈtuʃiru go:ˈra:tatso:](ツノマタの総採取高は今年が多かったそうだよ)。

ˈスーˈチ [ˈsu:ˈtʃi] 【名】干潮。しおひ (潮干)。「難波潟　潮干 < シホヒ > のなごりよく見てむ〜。万、976」の転訛したものか。「潮引き」のこと。ˈサンガチˈヌ　ˈスーˈチ　ˈナルカー　タˈクˈ　トゥリン　ˈパル　スˈコールˈ　シˈティˈ　イˈソーシン　パッˈタ [ˈsaŋgatʃiˈnu ˈsu:ˈtʃi ˈna:ruka: tḁˈkuˈ turim ˈparu su̥ˈko:ruˈ ʃi̥ˈtiˈ ʔiˈso:ʃim patˈta](三月の大潮干の時になると、蛸獲りに行く準備をして潮干狩りに行った)。

ˈスーˈチズー [ˈsu:ˈtʃiʤu:] 【名】大潮干。大干潮の潮時。ˈサンガチˈヌ　ˈスーˈチズー　ˈナルカー　ˈターティ　ナーˈン　ムーˈルˈ　イˈソー　シン　パッˈタ [ˈsaŋgatʃiˈnu ˈsu:ˈtʃiʤu: ˈnaruka: ˈta:ti na:ˈm mu:ˈruˈ ʔiˈso:ʃim patˈta](三月の大潮干の日になったらば誰彼となく皆潮干狩りに行った)。

ˈスーッふァーˈスン [ˈsu:ffa:ˈsuŋ] 【他動】塩漬けにする。塩を塗りつける。「塩喰わす」の義。イˈゾーˈピˈサーˈ　ンˈコーˈシ <ˈウコーˈシ>　ˈスーッふァーˈシティ　ˈプシバ [ʔiˈʤo:ˈ pi̥ˈsa:ˈ ʔŋˈko:ˈʃi <ˈʔukoˈʃi> ˈsu:ffa:ˈʃi̥ti ˈpu̥ʃiba](魚は三枚下ろしにして塩を塗りつけて < 喰わして > 日に干しなさい)。ˈスーッふァーˈスンティ　ˈベーˈンヌンドゥ　ˈタンˈガシェー　ˈスーッふァーサランˈバ　ˈスーッふァーˈス　プˈスˈ　タˈナˈミ　ˈクー [ˈsu:ffa:ˈsunti ˈbe:ˈnundu ˈtaŋgaˈʃe: ˈsu:ffa:saramˈba ˈsu:ffa:ˈsu pu̥ˈsuˈ taˈnaˈmi ˈku:](塩漬けにしようとしているが、一人では塩漬け出来ないから塩漬けする人を頼んできなさい)。クˈレー　スーッふァーˈシェー　ˈミサムヌ [kuˈre: su:ffa:ˈʃe: ˈmisamunu](これは塩漬けすればいいのに)。ヤーˈディン　スーッふァーˈシ [ja:ˈdin su:ffa:ˈʃi](必ず塩漬けしなさい)。

ˈスーˈティダ [ˈsu:ˈtida] 【名】強烈な日光。烈日。ˈスーˈティダナー　プˈサˈレーティ　ˈイーˈシ　イˈルンカスンティ　アーˈク [ˈsu:ˈtidana: pu̥ˈsaˈre:ti ˈʔi:ˈʃi ʔiˈruŋkasunti ʔa:ˈku](正午の強烈な陽光に晒されて < 干されて >、ツノマタを裏返して天日乾燥しようとしている)。

ˈスートゥンˈガー [ˈsu:tuŋˈga:] 【名】重い罰。重科。厳罰。「強科」の義。ˈウヤン　ˈスートゥンˈガーッˈふァーサリティˈ　ナˈキベー [ˈʔujan ˈsu:tuŋˈga: fˈfa:wariti naˈkai be:](親に厳罰をくわされて泣いている)。

ˈスーˈナビ [ˈsu:ˈnabi] 【名】汁鍋。お汁を炊く鍋。つるなべ (釣鍋)。つるかけ。ˈスーˈナビナー　イˈズンˈ　タクン　イˈリティˈ　バˈカシˈバ [ˈsu:ˈnabina: ʔiˈʤunˈ tḁkuŋ ʔiˈritiˈ baˈkaʃiˈba](汁鍋に魚も蛸も入れて炊きなさいよ)。ˈスーˈナベー　シˈケーˈン [ˈsu:ˈnabe: ʃi̥ˈke:ˈŋ](汁鍋は火に掛けてある)。ˈスーˈナビ　カˈマチェーˈラ　ウˈティリ [ˈsu:ˈnabi kaˈmatʃe:ˈra ʔuˈtiri](汁鍋を竈から下ろせ)。

ˈスー　ナˈマˈルン [ˈsu: naˈmaˈruŋ] 【連】小潮になる。「潮の干満が鈍(ナマ)る」の義。上弦、下弦の弦月の頃、潮の干満の差が最少となる。「潮・鈍る」の義。

シ˩キ˥ヌ　バ˩カー˥　ピンマー　˩スー˥ヤ　ナ˩マ˥ルン [ʃi̥˩ki˥nu ba˩ka:˥ pimam: ˩su:˥ja na˩ma˥ruŋ](月が若い＜上弦・下弦の月＞時は、潮はあまり引かない＜小潮になる＞)。˩スー˥ヤ　ナ˩マ˥リティ　ピ˩サン˥バ　イ˩ソー˥　パ˩ラ˥ヌ [˩su:˥ja na˩ma˥riti pi̥˩sam ˥ba ʔi˩so:˥ pa˩ra˥nu](小潮になって、潮があまり引かないので潮干狩りには行かない)。

˩スーニ [˩su:ni] 【連】するように。するままに。ウ˩リヌ　スーニ˥　シ˩ミル˥カー　ヤ˩ブリ˥スンダ　シ˩ミルナ [ʔu˩rinu su:ni˥ ʃi˩miru˥ka: ja˩buri˥sunda ʃi˩miruna](彼がするようにさせると、失敗する＜破れる＞から、させるな)。

˩スー˥ニチ [˩su:˥nitʃi] 【名】高熱。「強熱」の義。˩クンドゥ˥ヌ　パ˩ナシケー　スーニチ˥ヌ　ン˩ジ˥ルンティ　ア˩ザリ　ブート ダー [˩kundu˥nu pa˩naʃi̥ke: su:nitʃi˥nu ʔn˩ʤi˥runti ʔa˩ʤari bu:ɹda:](今度の風邪は高熱がでると言われているよ)。

˩スー˥ヌ　˥アリー [˩su:˥nu ˥ʔari:] 【連】お汁の実。お汁の中に入れる野菜や肉。お汁の具。˥アリー [˥ʔari:] は「洗い (洗魚)」の転訛したものか。˩スー˥ヌ　˥アリー　ノー˩ン˥　ヤ˩ラバン　カイ˥　クーバ [˩su:˥nu ˥ʔari: no:˩ŋ˥ ja˩rabaŋ kai˥ ku:ba](お汁の実＜具＞を何でもいいから買ってきなさいよ)。

˩スー˥ヌギ [˩su:˥nugi] 【名】塩抜き。塩漬け魚や塩漬け豚肉などを真水に浸けて塩分を抜くこと。˩スーシキ˥イゾー　˩スー˥ヌギ　˩サン˥カー　サ˩クラー˥ヌ　ッ˩ふァーラヌ [˩su:ʃi̥ki˥ʔiʤo: ˩su:˥nugi ˩saŋ˥ka: sḁ˩kura:˥nu f˩fa:ranu](塩漬けの魚は塩抜きをしないと、塩辛くて食えない)。˩スー˥ヌキ [˩su:˥nuki](塩抜き) ともいう。

˩スー˥ヌ　˩ナー˥リ [˩su:˥nu ˩na:˥ri] 【連】海流。「潮の流れ」の転訛したもの。ユ˩ノーラミゾー　スー˥ヌ　˩ナーリ˥ヌ　パ˩ヤー˥ンダ　ナ˩クラーン˥ダー [ju˩no:ramiʤo: su:˥nu ˩na:ri˥nu pa˩ja:˥nda na˩kura:n ˥da:](ユノーラ海峡＜澪・水脈＞は海流＜潮の流れ＞が早いから怖いよ)。

˩スー˥ヌ　˩ヌールン [˩su:˥nu ˩nu:ruŋ] 【連】大潮で海水が水田や畑に流入すること。ク˩ヌ　ター˥ヤ　˩ウー˥スー　˥ナルカー　˩スー˥ヌ　˩ヌールン [ku˩nu ta:˥ja ˩ʔu:˥su: ˥naruka: ˩su:˥nu ˩nu:ruŋ](この田圃は大潮になると海水が上がって流入する＜昇ってくる＞)。

˩スーヌ˥パナ [˩su:nu˥pana] 【名】1「潮の花」の義。正月四日に、人がまだ脚を入れていない海の渚から潮水を 7 回掴み取るようにして汲み取り、火の神として祀ってある三個の石を洗い清めたり、屋敷のお祓いとして撒き清めたりする海水。˥ソンガチ　˩ユッカヌ˥　ピンマー　˩スーヌ˥パナ　フ˩ミオー˥リ　ピ˩ナカン˥　ア˩ライ　ヤー˥ヌ　カ˩ク˥ナー　˩パン˥キティ　キ˩ユミ˥ソーッタ [˥soŋgatʃi ˩jukkanu˥ pimma: ˩su:nu˥pana ɸu˩mio:˥ri pi˩nakaŋ˥ ʔa˩rai ja:˥nu kḁ˩ku˥na: ˩paŋ˥kiti ki˩jumi˥so:tta](正月四日には潮の花を汲んで来られて、火の神のご神体＜三個の石＞を洗い、屋敷に撒いたりして祓い清められた)。˩スーヌ˥パナ　ナ˩ナム˥シ　ス˩クイ˥キー　˩ヤー˥ザライ　˩シー˥バ [˩su:nu˥pana na˩namu˥ʃi su̥˩kui ˥ki: ˩ja:˥ʤarai ˩ʃi:˥ba](潮の花を七回掬ってきて家浚え＜お祓い＞をしなさいよ)。2潮の花。岩に砕け散る波のしぶき (飛沫)。˩スーヌパナ˥ヌ　フ˩キアン˥ガリ　˩ベー [˩su:nupana˥nu ɸu̥˩kiaŋ˥gari ˩be:](波＜潮＞の飛沫(シブキ)が吹きあげられている)。

˩スーヌ˥フチ [˩su:nu˥ɸu̥tʃi] 【名】なぎさ (渚)。みぎわ (汀)。ピ˩ザ˥フチ [pi˩ʤa˥ɸu̥tʃi](渚。へた＜端＞「近江の海　邊多波人知～『万葉集　3027』」、「へた」『混効験集』の義) ともいう。ヤ˩ラ˥ベー　˩スーヌ˥フチナール　˥オンダー　˩スー [ja˩ra˥be: ˩su:˥nu ˥ɸu̥tʃina:ru ˥ʔonda: ˩su:](子供は渚で海水浴はするものだ)。˩スーヌ˥フチナール　ヤ˩ラ˥ベー　˥オンダー　シ˩ミルɹ ダー [˩su:nu˥ɸu̥tʃina:ru ja˩ra˥be: ˥ʔonda: ʃi˩miruɹda:](渚で子供達は泳がせる＜海水浴させる＞のだよ)。

˩スー˥ヌ　˩ミー [˩su:˥nu ˩mi:] 【連】お汁の実。中身。お汁の中の魚肉や豚肉など。˩ワー˥モー　˩スー˥ヌ　˩ミーヤー　ゴーラー˥ル [˩wa:˥mo: ˩su:˥nu ˩mi:ja go:ra:˥ru](君のはお汁の実は多い)。˩ミーヤー　イシ˥カー　˥ゴーラーテー　˩ナー˥ヌ　ム˩ル˥　マー˩タキナール˥　イ˩リ˥　シケール [˩mi:ja ʔiʃi̥˥ka: ˥go:ra:te: ˩na:˥nu mu:˩ru˥ ma:˩takina:ru˥ ʔi˩ri˥ ʃi̥ke:ru](お汁の中身には多い少ないはない。みんな同じように＜同等。「真丈」の義か＞入れてある)。

˩スー˥ヌ　˥ミツン [˩su:˥nu ˥mitsuŋ] 【文】潮が満つ。潮が満ちてくる。満潮になってくる。ピ˩シ˥スーナ　˩アーツビ˥ヌ　ン˩ジ˥ルカー　˩スー˥ヌ　˥ミツンティ　˩スー˥　シ˩ルシ˥　ヤ˩ルンダ　ダンダン˥シ　˩ヤー˥　パリ˩ダー [pi̥˩ʃi˥su:na ˩ʔa:tsubi˥nu ʔn˩ʤi˥ruka: ˩su:˥nu ˥mitsunti ˩su:˥ ʃi˩ruʃi˥ ja˩runda dandaŋ ˥ʃi ˩ja:˥ pari˩da:](干潮で海水に泡が出ると潮が満つというしるし＜前兆＞だから、さっさと家に帰りなさいね)。

˞スー˞バー [˞suː˞baː] 【名】強い者。強力。力の強い者。首里方言の˞チューバー [˞ʧuːbaː](強い者) の転訛した形。ウ˞レー˞ グ˞タイ˞ヌ ˞カナイティ ˞スー˞バー˞ダー [ʔu˞reː˞ gu˞tai˞nu ˞kanaiti ˞suː˞baː˞daː](彼は体力がそなわっていて強力者だぞ)。˞ヨー˞バー [˞joː˞ba](弱い人) の対義語。シゥ˞カラー スー˞バー ヤ˞ルンダ˞ ター˞ントゥ スー˞ブ サ˞バン˞ マ˞キラヌ [sɨ̞˞kara: suː˞baː jaˀrunda˞ taː˞ntu suː˞bu sa˞bam˞ ma˞kiranu](力の強い人 < 剛の者 > だから誰と競走 < 勝負 > しても負けない)。

˞スーパタ˞ラキ [˞suːpata˞raki] 【名】激しい労働。厳しい労働。「強い働き」の義。˞スーパタラキ˞ヌ シ˞ジクタール˞ ブ˞ガ˞リ ク˞タン˞ディ ˞ベート ツォー [˞suːpataraki˞nu ʃi˞ʤikutaːru˞ bu˞ga˞ri kṵ˞tan˞di ˞beːˊtsoː](激しい労働が続いたので、疲れてくたびれているんだよ < 多少の自虐的表現を含む >)。

˞スー˞パナ [˞suː˞pana] 【名】波の飛しぶき (飛沫)。時化で大波が干瀬 (リーフ) に打ち砕かれて飛び散る波しぶき (波飛沫)。スーヌパナとも言う。ヤ˞ダン˞ブレーピーヌ ˞ブリティ ˞スーパナ˞ヌ ア˞ガル˞カー ˞オーシケー˞ ヤ˞ビ˞ス [ja˞dam˞bureːpiːnu ˞buriti ˞suːpana˞nu ʔa˞garu˞ka: ˞ʔoːʃi̥keː˞ ja˞bi˞su](上原のヤダンブレ干瀬に大波が群れ砕けて波飛沫(シブキ)が上がると天気は崩れる < 破れる。時化る >)。

˞スー˞パニ [˞suː˞pani] 【名】 1「潮撥ね」の義。˞プーシン [˞puːʃiŋ](帆船) でカツオを釣っていた頃 (明治期)、竹竿を割ったもので海水を撥ね、散水器の機能を果たした漁具。˞プーシンヌ˞ ジ˞ダイヤー スー˞パニサーリ ˞スー˞ヤ ˞パネーティル カ˞ツォー ホー˞ソーッタ [˞puːʃinnu˞ ʤi˞daija: suː˞panisaːri ˞suː˞ja ˞paneːtiru kḁ˞tsoː hoː˞soːtta](帆船の時代には、潮撥ねで海水を撥ねながら < ぞ > カツオを釣られた)。2護岸。防波堤。波除。消波ブロック。「潮撥ね」の義。˞スーパニ˞ヌ < ゴ˞ガン˞ヌ > ˞ナーン˞カー ˞タイフー˞ヌ ˞ナン˞マー フ˞シガラ˞ヌ [˞suːpani˞nu < go˞gan˞nu > ˞naːŋ˞ka: ˞taiɸuː˞nu ˞nam˞ maː ɸṵ˞ʃigara˞nu](護岸が無いと台風時の大波は防げ < 防がれ > ない)。

˞スーバン [˞suːbaŋ] 【連】～(が) しても。～しようとも。する (為る) の連体形に確定条件の接続助詞バン [baŋ](～ても、～とも < バモ >) が付いた形。前条件に拘束されない意味を表す。ク˞ヌ˞ シ˞グトー˞ タ˞トゥイ ワー スーバン˞ バー サ˞ヌ [ku˞nu˞ ʃi˞gutoː˞ tḁ˞tui waː suːbam˞ baː sa˞nu](この仕事は、たとえ君がするとしても、私はしない)。

˞スー˞ピー [˞suː˞piː] 【名】つよび (強火)。煮炊きで、強い火。˞ヨー˞ピー [˞joː˞piː](弱火) の対義語。˞マー˞ソー ˞スー˞ピーシル タ˞クンダ˞ ナ˞チェー˞ ア˞ツァ˞ヌ フ˞シガラン˞シェン [˞maː˞soː ˞suː˞piːʃiru tḁ˞kunda˞ na˞ʧeː˞ ʔa˞tsa˞nu ɸṵ˞ʃigaraŋʃeŋ](塩は強火で焚くものだから、夏は暑くてたまらなかった)。

˞スーピサール [˞suːpi̥saːru] 【名】引き潮どき。しおひ (潮干) どき。潮が引くこと。「～武庫の浦の之保非能可多 < シホヒノカタ > に～。万、3595」の義。˞スーピサールサーリ ˞フニナー ˞ニー シ˞ムンティ アー˞キ ˞スーン ˞オーリ˞ ヤッ˞トゥ˞シ ン˞ザ˞シ ˞クータ˞ル [˞suːpi̥saːrusaːri ˞ɸuni-naː ˞niː ʃi˞munti ʔaː˞ki ˞suːŋ ˞ʔoːri˞ jat˞tu˞ʃi ʔn˞ʤa˞ʃi ˞kuːta˞ru](引き潮時にサバニ < 舟 > に荷を積もうとして、引き潮に追われてやっとのことで出港 < 舟を出 > して来たんだよ)。

˞スー˞ ピスン [˞suː˞ pi̥suŋ] 【連】潮が引く。ティ˞ダ˞ヌ ˞マーウイ˞ クーカー ˞スー˞ ピスン [ti˞da˞nu ˞maːʔui˞ kuːkaː ˞suː˞ pi̥suŋ](太陽が真上に来たら潮が引く)。˞スー˞ ピスカー イ˞ソーシン˞ パラ˞ナー [˞suː˞ pi̥suka: ʔi˞soːʃim˞ para˞naː](潮が引いたら潮干狩りに行こうね)。

˞スー˞ブ [˞suː˞bu] 【名】勝負。競争。勝ち負け。「勝負」の義。˞タール˞ パ˞リ˞ダーユー ˞スー˞ブ ˞シー˞ ミラ [˞taːru˞ pa˞ri˞daːju: ˞suː˞bu ˞ʃiː˞ mira](誰が早いか < より早く走るか > 勝負してみよう)。˞ワットー スー˞ボー ナ˞ラ˞ヌ [˞watto: suː˞boː na˞ra˞nu](君とは < 君が強すぎて > 勝負にならない)。パ˞リスー˞ブ [pa˞risuː˞bu](かけっこ。走り勝負)。パ˞ルスー˞ブ [pa˞rusuː˞bu](畑勝負。農作物の生産競争)。˞ウイスー˞ブ [˞ʔuisuː˞bu](水泳競争)。˞ジーカキスー˞ブ ˞サー [˞ʤiːkakisuː˞bu ˞saː](字書き勝負をしようよ)。

˞スーブ˞グトゥ [˞suːbu˞gutu] 【名】勝負事。賭け事。金品を賭けてする勝負事。˞スーブ˞グトゥ ˞ナー˞トー ˞スーモー˞ ア˞ラ˞ヌ [˞suːbu˞guto: ˞naː˞to: ˞suːmoː˞ ʔa˞ra˞nu](賭け勝負事 < 賭け事 > なんぞはするものではない)。

˞スー ˞フクン [˞suː ˞ɸṵkuŋ] 【連】潮を吹く。˞ピトー ブ˞リバ˞ ナシェーティ ˞スー˞ フキ ˞ウイ ˞パルン [˞pi̥to: bu˞riba˞ naʃeːti ˞suː˞ ɸṵki ˞ʔui ˞paruŋ](イルカは群れをなしながら潮を吹いて泳いでく)。

˞ズーフナ˞ヤー [˞ʤuːɸuna˞jaː] 【名】 (動) セキレイ (鶺鴒)。「ズー」(尾)・クナギ・ヤー (交接する・も

の)<婚、トツク　ツルブ、クナク、マク～>『類聚名義抄』」の転訛したもの。ウ˹ヌ˺　トゥ˹ラー˺マー　˹カーラヌ˺　イ˹シヌ　ウイ˺ナー　トゥ˹マリベー˺ティ　˹ズーバ˺　タ˹タッ˺クンダル　˹ズーフナ˺ヤーティ　ア˹ズ˺ツォー [ʔu˹nu˺ tu˹raː˺maː ˹kaːranu˺ ʔi˹ʃinu ʔui˺naː tu˹maribeː˺ti ˹ʤuːba˺ tạ˹tak˺kundaru ˹ʤuːɸuna˺jaːti ʔa˹ʤu˺tsoː](その小鳥は川の石の上に止まっていて尻尾を叩くのでズーフナヤー<尾くなぐ・もの>と言うそうだ)。

˹ズーブニ [˹ʤuːbuni]　【名】尾骨。魚の尾びれ。特にカツオの尾びれの骨をいう。カツオを三枚卸にすると、ナ˹カ˺ブニ [na˹ka˺buni](中骨) と˹ズーブニ [˹ʤuːbuni](尾びれの骨) が得られる。尾びれ<尾骨>を浜の砂の中に埋めておくと数ヶ月後には美しいカツオの尾骨の爪楊枝が出来る。カ˹ツヌ　ズーブネー˺　ダシーン　˺アリ　ウ˹リバ˺　パ˹マ˺ナー　ウ˹ズミティ˺　シ˹ダ˺スカー　˹ヨー˺ジン　ス˹クラ˺リン [kạ˹tsunu ʤuːbuneː˺ daʃiŋ ˺ʔari ʔu˹riba˺ pa˹ma˺naː ʔu˹ʤumiti˺ ʃi˹da˺sụkaː ˹joː˺ʤin sụ˹kura˺riŋ](カツオの尾びれは出汁もあり、それを数ヶ月間浜に埋めて蘇生させる<再生、孵化させる>と尾びれの骨の爪楊枝が作られる)。

˹スー˺ベー [˹suː˺beː]　【名】 (動) 魚の名。和名、タテフエダイ (体長約 25 センチ)。和名、キスジタルミ (体長約 25 センチ)。和名、アミフエダイ (体長約 25 センチ)。和名、オキフエダイ (体長約 50 センチ)。和名、イッテンフエダイ (体長約 40 センチ) などの総称。

˹スーマカ˺ル [˹suːmaka˺ru]　【名】汁碗。「しるまがり<汁碗>」の転訛か。マ˹カ˺ル [ma˹ka˺ru] は、˹金宛、～土器<かはらけ>を奉りければ、『まがり<金宛>を参らせよ』とて、まがりしてぞ召しける」『徒然草 100』の転訛。˹スーマカル˺ヌ　ア˹バイルン˺ケンナー　˺スー　イ˹ルプスヌ˺　ブ˹ラ˺ー [˹suːmakaru˺nu ʔa˹bairuŋ˺ken ˺suː ʔi˹ru˺ pụ˹sunu˺ bu˹raː˺:](汁碗が溢れるまで、お汁を入れる人が何処にいるものか)。

˹スーマリコー˺マ [˹suːmarikoː˺ma]　【名】1すもり (巣守)。「すもり卵」の転訛。発芽しないもの。孵化しないで巣に残る卵。ク˹ヌ　コー˺マー　˹スーマリコー˺マ　˺ナリ　˹ベー [ku˹nu koː˺maː ˹suːmarikoː˺ma ˺nari ˹beː](この卵はすもり卵<孵化しない卵>になっている)。2家に閉じこもる人。閉じ籠り。ひきこもり。カ˹レー　スーマリコー˺マ　˺ナリティ　˹ピッ˺チン　˹ヤー˺ラ　˺フカー　ン˹ジラ˺ヌ [ka˹reː suːmarikoː˺ma ˺nariti ˹pit˺ʧiŋ ˹jaː˺ra ɸụkaː ʔn˹ʤira˺nu](彼は閉じ籠りになって、まったく家から外へは出ない)。

˹スー˺マルン [˹suː˺maruŋ]　【自動】1卵が孵化しなくなる。腐れる。「蟄、須古毛流<すごもる>、虫至冬隠不出也『倭名抄』」、「巣籠もる」の義。˹コー˺マー　˹スーマラン˺ケン　˺トゥリティ　˺ユディティ　ッ˹ふァイ˺バ [˹koː˺maː ˹suːmaraŋ˺ken ˺turiti ˺juditi f˹fai˺ba](卵は巣籠もらないうちに取って茹でて食べなさい)。˹スー˺マリ　˹ナー˺ヌ [˹suː˺mari ˹naː˺nu](巣籠もって<腐れて>しまった)。˹コー˺マー　˺ティダナ　˺プスカー　˹スー˺マルン [˹koː˺maː ˺tidana ˺pụsukaː ˹suː˺maruŋ](卵は太陽に干すと巣籠もる<腐れる>)。˹スー˺マル　˺クトー　˹ナー˺ヌ [˹suː˺maru ˺kụtoː ˹naː˺nu](巣籠もる<腐れる>ことはない)。2ちぢこまる (縮こまる)。便意をもようしながら排便しなくなる。˹スー˺マレーラ　˺ンジ　˹クー˺ヌ [˹suː˺mareːra ˺nʤi ˹kuː˺nu](縮こまったら、もう出てこない)。˹スー˺マリバ [˹suː˺mariba](縮こまれよ)。

˹スー˺マン [˹suː˺maŋ]　【名】小満。二十四節気の一つ。太陽暦の五月二十一日頃。この頃になると暑気が強くなり、稲が急に色づき熟する。南風が続き、スコールのような雨が降るようになり、梅雨の季節に入る。˹ボースー [˹boːsuː](芒種。6 月 6 日ごろ) になると、降雨がつづいて稲刈りが困難になるので、それまでに稲刈りを終了させ、雨の晴れ間を利用して籾米を干した。˹スーマン˺ヌ　˺シチ　˹ペー˺ルカー　˹マイヌ˺　プーン　˹ミーイリス [˹suːman˺nu ˺ʃiʧi ˹peː˺ruka: ˹mainu˺ puːm ˹miːʔirisu](小満の季節に入ると稲の穂も実が入るようになる)。

˹スー˺マンボースー [˹suː˺mamboːsuː]　【名】小満芒種の季節。˹スー˺マン [˹suː˺maŋ](小満) も˹ボースー [˹boːsuː](芒種) も二十四節気の一つ。沖縄の梅雨期に当たる季節。˹スー˺マン [˹suː˺maŋ] の項参照。

˹スーマンヤブ˺リ [˹suːmaŋjabu˺ri]　【名】太陽暦五月廿日頃に天気が崩れて荒れること。「小満破れ」の義。小満の季節に天気が荒れて、風雨が強くなることがしばしば起きる。この時期は稲の成熟期にあたるので、農家は稲の被害を恐れて稲の品種を早稲にしたり、晩稲にしたり、また稲の植え付け時期を調整したりした。˹マイヌ　プーンジ˺ジブンナー　˹スー˺マンヤブリヌ　クーカー　˹マイヤー˺　シ˹ルッ˺コー　ナ˹リ˺シバ　˹マイイビジキ˺　パ˹ヤミ˺リ [˹mainu puːʔnʤi˺ʤibunnaː ˹suː˺maŋjaburinu ˺

ku:ka: ˹maija:˺ ʃi˹ruk˺ko: na˹ri˺ʃiba ˹mai?ibiʤiki˺ pa ˹jami˺ri](稲の出穂時期に小満破れ＜小満荒れ＞がきたら稲は台無しになるから、稲の植え付け時期を早めなさい＜早めれ＞)。

˹スーミー **[˹su:mi:]** 【名】運。運命。「寿命」の転訛したものか。˺アッパー　˹トー˺カキ　シ˹マ˺シティル　˹マーラソー˺レーンダ　˹スーミー˺　シ˹キ˺ル　˹オー˺レール [˺?appa: ˹to:˺kạki ʃi˹ma˺ʃitiru ˹ma:raso: ˺re:nda ˹su:mi:˺ ʃị˹ki˺ru ˹?o:˺re:ru](お祖母さんは米寿＜斗掻＞の祝いを済ませて亡くなられたので、寿命が尽きておられたのでしょう)。

˹スー˺ミジ **[˹su:˺miʤi]** 【名】潮水。ウ˹ブ˺スー [?u˹bu˺su:](大潮) ともいう。˹トー˺フ　マ˹ラス˺　ピンマー　˹スー˺ミジ　イ˹リティル˺　カ˹タマラシタ [˹to:˺ɸu ma˹rasu˺ pimma: ˹su:˺miʤi ?i˹ritiru˺ kạ˹tama-raʃị̈ta](豆腐を製造する＜産ます＞時は潮水を入れて固まらせた)。塩分の混じった井戸水。ア˹マミジ [?a˹mamiʤi](淡水。「甘い水」の義) の対義語。タ˹チバル˺ヌ　サ˹クラカー˺ヌ　ミ˹ジェー　スーミジヌ˺ル　ン˹ズ˺タツォー [tạ˹ʧibaru˺nu sạ˹kuraka:˺nu mi˹ʤe: su:miʤinu˺ru ?n˹ʤuta˺tso:](立原のサクラカー＜サクラ井戸＞の水は潮水＜塩分の混じった水＞が＜ぞ＞湧き出たそうだ)。

˺スーミツァール **[˺su:mitsa:ru]** 【名】満ち潮。˺スーミツァールサーリル　˹ヨイ˺ヤー　˹スー [˺su:mitsa:rusa:riru ˹joi˺ja: ˹su:](満ち潮と共に＜満ち潮でぞ＞祝い事はするものだ)。

˺スーミツァールアミ **[˺su:mitsa:ru?ami]** 【名】満潮に向かって降り出す雨。満ち潮に向かって降り出す雨は大雨になるといわれている。˺スーミツァールアミ　ヤ˹ルンダ　ウーアミ˺　ナルパジ˹ダー [˺su:mitsa:ruami ja˹runda ˹?u:?ami˺ ja˹ru˺paʤi ˹da:](満ち潮に向けて降る雨だから、大雨になるはずだよ)。

˺スー　˺ミツン **[˺su: ˺mitsuŋ]** 【連】潮が満つ＜満潮になる＞。「潮満つ」の義。シ˹キ˺ヌ　イ˹リル˺カー　˺スー　˺ミツン [ʃị˹ki˺nu ?i˹riru˺ka: ˺su: ˺mitsuŋ](月が没する＜入る＞と潮が満つ)。シ˹キ˺ヌ　˹アール˺カー　˺スー　˺ピスン [ʃị˹ki˺nu ˹?a:ru˺ka: ˺su: ˺pị̈suŋ](月が登る＜上がる＞と潮が引く＜干る＞)。

˹スーミ˺ルン **[˹su:mi˺ruŋ]** 【他動】強める。強化する。カ˹タン˺トンヌ　˺ニジ　˺シミティ　˹スーミ˺ルンティ　˹スンド　スーミララ˺ヌ [kạ˹tan˺tonnu ˺niʤi ˺ʃimiti ˹su:mi˺runti ˹sundu su:mirara˺nu](片方＜一方＞のネジ＜螺子＞を締めて強めようとするが強められない)。ン˹ベーマ　スーミ˺プサン [?m˹be:ma su:mi˺ pụ̈saŋ](少し強めたい)。˹スーミ˺ル　˺ムノー　ムー˹ル　スーミ˺レー　˺ミサムヌ [˹su:mi˺ru ˺muno: mu:˹ru su:mi˺re: ˺misamunu](強めるものは全部強めればよいのに)。ク˹レー˺　ヤー˹ディン　スーミ˺リ [ku˹re:˺ ja:˹din su:mi˺ri](これは必ずつよめよ)。

˹スー　ム **[˹su: mu]** 【連】1すること。するの。˹スー　ムヌ [˹su: munu](するもの。するから) の縮まった形。˹スー　ム　ナーン˺カー　ノー˹ンヤラバン˺　シ˹グトゥ˺　トゥミ　˺クーバ [˹su: mu na:ŋ˺ka: no:˹ɲjarabaŋ˺ ʃi˹gutu˺ tumi ˺ku:ba](すること＜の＞が無かったら、何でも＜いいから＞仕事を探して来いよ)。2～というもの。～というから。˺パルンティ　˹スー　ム＜ヌ＞˺　パ˹ラ˺シバ [˺parunti ˹su: mu＜nu＞˺ pa˹ra˺ʃiba](行くというのだから行かせてやりなさいよ)。

˺ズームッカー **[˺ʤu:mukka:]** 【名】しっぽの無い動物。尻尾の短い動物。ク˹ヌ˺　トゥ˹ロー˺　ズームッカー　˺ナリティ　トゥ˹ビユーサヌ [ku˹nu˺ tu˹ro:˺ ʤu:mukka: ˺nariti tu˹biju:sanu](この鶏はしっぽ切れになって尾が無いから飛べない)。

˹スー˺ムニ **[˹su:˺muni]** 【名】苦言。厳しい忠告。「強い言葉」の義。˹スー˺ムニ　カー˹ニ˺　ア˹ザンドー˺シマ˹ルケーティナー˺ヤ＜タ˹マーネー＞　˺フミーン　˹シー˺　ッ˹ふィーリバル˺　ヤ˹ラ˺ベー　˹マイフナー˺　マ˹リル [˹su:˺muni ka:˹ni˺ ?a˹ʤando:˺ʃi ma˹ruke:tina:˺ja＜ta˹ma:ne:＞ ˺ɸumi:ŋ ˹ʃi:˺ f˹fi:ribaru˺ ja ˹ra˺be: ˹maiɸuna:˺ ma˹riru](厳しい忠告ばかり言わないで、たまには誉めもしてあげた方が子供は利口に育つよ)。

˹スー　ムヌ **[˹su: munu]** 【連】1するもの。˺バー　˹スー　ムノー˺　ヌーヤ [˺ba: ˹su: muno:˺ nu:ja](私がするのは何か)。2～というのに。～というから。˺ドゥーシ　˹スン˺ティ　˹スームヌ˺　シ˹ミリ˺バ [˺du:ʃi ˹sun˺ti ˹su:munu˺ ʃi˹miri˺ba](自分でするというのだから、させなさいよ)。

˺ズー　ム˹ルン **[˺ʤu: mu˹ruŋ]** 【連】お重を盛る。重箱に料理の品を盛り付ける。˹ソッコームヌ˺ヌ　˺ズー　ム˹ルンティ　ベー [˹sokko:munu˺nu ˺ʤu: mu˹runti be:](法事用の＜焼香もの＞お重を盛ろうとしている)。

˹スー˺ムン **[˹su:˺muŋ]** 【他動】1強める。強化する。˹スーミ˺ルン [˹su:mi˺ruŋ](強める) ともいう。「つ

よむ＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。ˉニジ　ˈスーˉムンティ　ˈスンドゥ　スーマラˉヌ [ˉniʤi ˈsuːˉmunti ˈsundu suːmaraˉnu](ネジを締めて強めようとするが強く締められない)。ˉニジ　ˈスーミˉ　プサカー　ˈマーˉビン　ˈスーˉミバ [ˉniʤi ˈsuːmiˉ pu̥saka: ˈmaːˉbin ˈsuːˉmiba](ネジ＜螺子＞を締めて強めたければ、もっと強めなさい)。ˈマーˉビン　ˈスーˉメー　ˉミサムヌ [ˈmaːˉbin ˈsuːˉmeː ˉmisamunu](もっと強めればいいのに)。シゥˈカンギˉ　イˈリティˉ　ヤー　ˈスーミˉリ [si̥ˈkaŋgiˉ ʔiˈritiˉ jaː ˈsuːˉmiba](支柱を入れて補強し、家を強化し＜強め＞なさい)。²酒等の度数を上げる。強くする。クˈヌˉ　サˈケー　ヨーˉヌ　マーンˈベーマ　スーミˉリ [kuˈnuˉ sḁˈkeː joːˉnu maːmˈbeːma suːmiˉri](この酒は弱いから、もう少し度数を上げなさい＜強めなさい＞)。

ˈスーˉヤン [ˈsuːˉjaŋ] 【名】重病。難病。「強い病」の義。ウˈブヤン [ʔuˈbujaŋ](大病) ともいう。ˈスーヤンˉ　カˈカˉリティル　ˈヨーガリˉ　キˈタˉシキ　ˈベー [ˈsuːjaŋˉ kḁˈkaˉritiru ˈjoːgariˉ ki̥ˈtaˉʃi̥ki ˈbeː](重病に罹って、やせて衰弱しきって＜精根尽き果てて＞いる)。ˈスーˉヤン　ワˈチライ　ブーˉティ　スˈクタヌˉ　ミサンカヤー [ˈsuːˉjaŋ waˈʧirai buːˉti su̥ˈkutanuˉ misaŋkajaː](重病を患っていると聞いたが、元気か＜良いか＞ね)。

ˉスーヨー [ˉsuːjoː] 【名】皆様。大勢に向かって話す際にいうことば。「総容」の義。首里方言の suujoo(皆。全員。＜目下に＞呼びかける時に多く使う。諸君)『沖縄語辞典』からの借用語か。ˉスーヨーヌ　キˈモーˉル　ˈトゥーˉル　ˈソーラバˉル　マˈシティˉ　ウˈモーˉリˈユー [ˉsuːjoːnu kiˈmoːˉru ˈtuːˉru ˈsoːrabaˉru maˈʃitiˉ ʔuˈmoːˉriˈjuː](皆様がお決めになる通りになさった方が良いと思います)。

ˈスーラˉスン [ˈsuːraˉsuŋ] 【他動】¹強化する。強くする。ˈスーˉルン [ˈsuːˉruŋ](強くなる) の未然形に使役の助動詞ˉスン [ˉsuŋ](～す。～せる) が下接して形成された派生動詞 (使役動詞)。ˉヤー　ˈスーラˉスンティ　ˈベーンˉドゥ　ˈスーラサラˉヌ [ˉjaː ˈsuːraˉsunti ˈbeːnˉdu ˈsuːrasaraˉnu](家を強化しようといているが強化できない)。ˉドゥーシ　ˈスーラˉシ　ˉミサカー　ˈスーラˉス　ˉクトー　ナルンˈダー [ˉduːʃi ˈsuːraˉʃi ˉmisakaː ˈsuːraˉsu ˉku̥toː narunˈdaː](自分で強化して良ければ強化することは出来るよ)。ˈマーˉビン　ˈスーラˉシェーˉミサムヌ [ˈmaːˉbin ˈsuːraˉʃeː ˉmisamunu](もっと強化すれば良いのに)。ヤーˈディン　スーラˉシ [jaːˈdin suːraˉʃi](必ず強化せよ)。²元気にする。育てる。成長させる。ンˈマーˉムヌ　ッˈふァーシティˉ　ドゥーパダ　ˈスーˉラシ [ʔmˈmaːˉmunu fˈfaːʃi̥tiˉ duːpada ˈsuːraˉʃi](美味しいものを食べさせて体を健康に育て＜成長させ＞よ)。ˈマーˉビン　ˈスーラˉスン [ˈmaːˉbin ˈsuːraˉsuŋ](もっと強化成長させる)。

ˈスーˉリ [ˈsuːˉri] 【名】成長すること。生育すること。ˈスーリˉヌ　トゥˈマルタˉユー　フˈドゥバンバン [ˈsuːriˉnu tuˈmarutaˉjuː ɸuˈdubambaŋ](成長が止まったのか身長が伸びないよ)。

ˈスーリッˉクル [ˈsuːrikˉkuru] 【名】しごき (扱き) 殻。稲藁や麦藁を扱いて除いた屑の茎や枯葉。ˈスーリッˉクロー　アˈツァˉミティ　ˈモーシˉバ [ˈsuːrikˉ kuroː ʔaˈtsaˉmiti ˈmoːʃiˉba](扱き殻は集めて燃やしなさい)。

ˈスーリパヤーˉン [ˈsuːripajaːˉŋ] 【連・形】成長が速い。ヤˈラˉベー　ˈスーリパヤーˉン [jaˈraˉbeː ˈsuːripajaːˉŋ](子供は成長が速い)。

ˈスーリˉルン [ˈsuːriˉruŋ] 【自動】¹強くなる。²成長する。カˈジェーˉ　ユネンガター　ˈマーˉビン　ˈスーリˉルンティˈダー [kaˈʤeːˉ junengataː ˈmaːˉbin ˈsuːriˉrunti ˈdaː](風は夕方にはもっと強くなるそうだよ)。ˈスーリランˉケン　ˈパーˉク　ˈヤーˉ　パリバ [ˈsuːriraŋˉkem ˈpaːˉku ˈjaːˉ pariba](強くならないうちに早く家に帰れ＜家に行け＞よ)。ˈマーˉビン　ˈスーリˉル　ˉクトー　ˈナーンˉパジ [ˈmaːˉbin ˈsuːriˉru ˉku̥toː ˈnaːmˉpaʤi](もっと強くなることは無いはずだ)。

ˈスール [ˈsuːru] 【名】(植) シュロ (棕櫚)。葉柄の付け根に生える茶色の繊維 (シュロ毛)。シュロの繊維で綯った綱は垣根やすのこを結わえるのに用いたり、牛の鼻綱やˈアンˉスク [ˈʔanˉsu̥ku](縄で編んだ箱型の物いれ。運搬具) を作るのに用いた。カˈムラーˉマー　ˈスールヌ　キーバˉ　スˈブˉルナー　ˉカビティール　アˈマイオーッˉタ [kaˈmuraːˉmaː ˈsuːrunu kiːbaˉ suˈbuˉruna: ˉkabitiːru ʔaˈmaijoːtˉta](カムラーマは棕櫚の網状の毛を頭に被り、子孫を従えて豊年祭の歓え踊りをされた)。

ˈスーˉルン [ˈsuːˉruŋ] 【自動】強くなる。強まる。悪化する。カˈジェー　シンダイ　スーˉリ　ˉクン [kaˈʤeː ʃindai suːˉriˉ kuŋ](風は次第に強くなってくる)。カˈジェー　マーˉビン　ˈスーˉルンティ　ウˈムータンˉドゥ　ˈスーランˉドーシ　トゥˈリˉ　パレーン [kaˈʤeː ˈmaːˉbin ˈsuːˉrunti ʔuˈmuːtanˉdu ˈsuːranˉ

do:ʃi tu⌜ri⌝ pare:ŋ](風はもっと強くなると思ったが強まらないで、凪いでいった)。カ⌜ジヌ　スー⌝ル　⌝ピンマー　ヤー⌜デイン⌝　カ⌜ジェー　マーリス [ka⌜ʤinu su:⌝ru ⌝pimma: ja:⌜diŋ ka⌜ʤe: ma:risu](風が強まるときは必ず風向が北へ回る)。⌜スー⌝レーラ [⌜su:⌝re:ra](強くなったら)。

⌜スー⌝ルン [⌜su:⌝ruŋ] 【自動】伸びる。成長する。発育する。ヤ⌜ラ⌝ベー　トゥ⌜キユドマ⌝ナー　⌜スー⌝ルン [ja⌜ra⌝be: tu̥⌜kijuduma⌝na: ⌜su:⌝ruŋ](子供は時を待たずに成長する)。マ⌜ダ　スーラン⌝バン [ma⌜da su:ram⌝baŋ](まだ成長していないよ)。⌜パー⌝ク　⌜スー⌝リ [⌜pa:⌝ku ⌜su:⌝ri](早く成長しなさい)。

⌜スー⌝ルン [⌜su:⌝ruŋ] 【他動】しごく (扱く)。こく (扱く)。稲藁などをしごく。バ⌜ラフ⌝タ　⌜スー⌝ルンティ　⌜スンドゥ　カイナ⌝ヌ　⌝ヤミティ　⌜スーララ⌝ヌ [ba⌜raɸu̥⌝ta ⌜su:⌝runti ⌜sundu kaina⌝nu ⌝jamiti ⌜su:rara⌝nu](稲藁を扱(シゴ)こうとするが、肩が痛くて扱かれない)。⌜スー⌝リ　⌝ミサカー　⌜スー⌝ル　⌝クトー　⌝ナルン [⌜su:⌝ri ⌝misaka: ⌜su:⌝ru ⌝ku̥to: ⌝naruŋ](扱いて良ければ扱くことは出来る)。⌜スー⌝レー　⌝ミサムヌ [⌜su:⌝re: ⌝misamunu](扱けば良いのに)。バ⌜ラフ⌝タ　⌜スー⌝リ [ba⌜raɸu̥⌝ta ⌜su:⌝ri](稲藁を扱け)。

⌜スー⌝ルン [⌜su:⌝ruŋ] 【他動】しごく (扱く)。稲藁などを扱いて下葉を取り除く。「すぐる＜選る＞」。suguru の [g] が脱落して音韻転訛したもの。「藁のはかまを取るをすぐる＜選る＞と云ふ『志不可起　七』」の転訛したもの。バ⌜ラフ⌝タ　⌜スー⌝ルンティ　ウ⌜ムーン⌝ドゥ　⌜バン⌝マー　⌜スーララ⌝ヌ [ba⌜raɸu̥⌝ta ⌜su:⌝runti ʔu⌜mu:n⌝du ⌜bam⌝ma: ⌜su:rara⌝nu](稲藁を扱(シゴ)こうと思うが私には扱けない)。⌜スー⌝リミサカー　⌜スー⌝ルムヌ　ヤ⌜ラシ⌝バ [⌜su:⌝ri ⌝misaka: ⌜su:⌝ru ⌝munu ja⌜raʃi⌝ba](扱いてもよければ扱くものを寄こし＜遣し＞なさいよ)。⌜マー⌝ビン　⌜スー⌝レー　⌝ミサムヌ [⌜ba:⌝bin ⌜su:⌝re: ⌝misamunu](もっと扱けばよいのに)。⌜パー⌝ク　⌜スー⌝リ [⌜pa:⌝ku ⌜su:⌝ri](早く扱け)。

⌜スー⌝ルン [⌜su:⌝ruŋ] 【自動】1強まる。強くなる。カ⌜ジェー　マー⌝ビン　⌜スー⌝ルンティル　ウ⌜モーリ⌝バ　⌜スーラン⌝ケン　カ⌜キン⌝グ　⌜シー⌝ヨー [ka⌜ʤe: ma:⌝bin ⌜su:⌝runtiru ʔu⌜mo:ri⌝ba ⌜su:raŋ⌝keŋ kḁ⌜kiŋ⌝gu ⌜ʃi:⌝jo:](台風はもっと強まるとものと思われるから、強まらないうちに暴風対策＜格護＞しなさいよ)。⌜スー⌝リ　⌝ケーン [⌜su:⌝rike:ŋ](強まってきた)。フ⌜キカイシ⌝ヌ　⌜スー⌝ル　⌜マイ⌝ヤー　カ⌜ジェー⌝　トゥ⌜ルン [ɸu̥⌜kikaiʃi⌝nu ⌜su:⌝ru ⌜mai⌝ja: ka⌜ʤe:⌝ tu⌜ruŋ](吹き返しの風が強まる前には風は凪ぐ)。⌜スー⌝レー　⌝ミサムヌ [⌜su:⌝re: misamunu](強まればいいのに)。⌜マー⌝ビン　⌜スー⌝リ [⌜ma:⌝bin ⌜su:⌝ri](もっと強まれ)。2成長する。ヤ⌜ラ⌝ベー　⌜スーリ　パヤー⌝ン [ja⌜ra⌝be: ⌜su:ri paja:⌝ŋ](子供は成長するのが早い＜成長早い＞)。2目が冴える。カ⌜タサー⌝　ヌミティ　⌝ミー　⌜スー⌝ラシ [kḁ⌜tasa:⌝ numiti ⌝mi: ⌜su:ra⌝ʃi](濃茶を飲んで眠気を覚ませ＜目を冴えさせろ＞)。

⌜スー⌝　ワザ [⌜su:⌝ waʥa] 【連】しわざ (仕業)。所業。行為。「するわざ」の義。ウ⌜リヌ　スー⌝ワザー　⌜ピッ⌝チン　⌜マーパカラサー　ナー⌝ヌ [ʔu⌜rinu su:⌝ waʥa: ⌜pit⌝ʧim ⌜ma:pakarasa: na:⌝nu](彼のなす行為＜仕業＞はまったく＜ひとつも＞信頼できない＜まったく愚かである、まともでない＞)。

⌜スー⌝ワン [⌜su:⌝waŋ] 【形】1強い。シゥ⌜カラー　スー⌝ワン [sɨ̥⌜kara: su:⌝waŋ](力は強い)。⌜ナン⌝ゾー　⌜スーワナー⌝ヌ [⌜nan⌝ʥo: ⌜su:wana:⌝nu](たいして強くない)。カ⌜ジェー　シンダイ　スー⌝ワ　⌝ナリクン [ka⌜ʤe: ʃindai su:⌝wa ⌝narikuŋ](風は次第に強くなってくる)。カ⌜ジヌ　スーワ⌝ヌ　⌝フネー　ン⌜ザサラ⌝ヌ [ka⌜ʤinu su:wa⌝nu ⌝ɸune: ʔn⌜ʥasara⌝nu](風が強くて舟は出されない)。カ⌜ジヌ　スー⌝ワ　⌝ピンマー　⌝フネー　ン⌜ザス⌝ナ [ka⌜ʤinu su:⌝wa ⌝pimma: ⌝ɸune: ʔn⌜ʥasu⌝na](風の強い日は舟は出すな)。カ⌜ジヌ　⌜スーワ⌝ヌ　⌝フネー　ン⌜ザサラ⌝ヌ [ka⌜ʤinu su:wa⌝nu ⌝ɸune: ʔn⌜ʥasara⌝nu](風が強くて船は出せない)。マ⌜ナ⌝マー　⌜スーワナー⌝ヌヌ　⌜シンダイ　スー⌝ワ　⌝ナリクーン [ma⌜na⌝ma: ⌜su:wana:⌝nunu ⌜ʃindai su:⌝wa ⌝nari ⌝ku:ŋ](今は強くないが次第に強くなってくる)。カ⌜ジヌ　スー⌝ワンダ　⌜スー⌝ワ　⌝ピンマー　パ⌜ル⌝ナ [ka⌜ʤinu su:⌝wanda ⌜su:⌝wa ⌝pimmma: pa⌜ru⌝na](風が強いから、強いときは行くな)。⌝アイニ　カ⌜ジヌ　スー⌝ワカー　パ⌜ララ⌝ヌ [⌝ʔaini ka⌜ʤinu su:⌝waka: pa⌜rara⌝nu](あんなに風が強かったら行けない)。2厳しい＜キ⌜ビッ⌝サン [ki⌜bis⌝saŋ](厳しい。厳格である)＞。⌝アブジェー　イッ⌜ケナ　スー⌝ワ　ア⌜ローッ⌝タン [⌝ʔabuʤe: ʔik⌜kena su:⌝wa ʔa⌜ro:t⌝taŋ](お祖父さんは非常に厳しかった＜厳格な方だった＞)。3窮乏している＜生活がきびしい。キ⌜バナー⌝ン [ki⌜bana:⌝ŋ](ひどい貧乏である)＞。キ⌜ナイヌ　スー⌝ワンダ　⌜ガッ⌝コーン　ン⌜ザシユーサ⌝ヌ [ki⌜nainu su:⌝wanda ⌜gak⌝ko:n ʔn⌜ʥaʃiju:sa⌝nu](家庭が窮乏し

ているから学校にも出せない)。4病気が重い。病気が重篤である。˩ヤン˥マー　˩スー˥ワ　˥ナリ　˥キー　˩ソー　シー˥　ナ˩ラ˥ヌ [˩jam˥ma: ˩su:˥wa ˥nari ˥ki: ˩so: ʃi:˥ na˩ra˥nu](病が重篤になってきて心配でたまらない)。

˩-ズー˥ワン [˩-ʤu:˥waŋ] 【接尾】～すぎる。～ひどく～強い。「～強い」の意味派生、転訛したもの。ドゥ˩ク˥ヌ　サ˩キ　ヌミズー˥ワティル　トゥ˩ジン　ピンギラ˥レー˩ダー [du˩ku˥nu sḁ˩ki numiʤu:˥watiru tu˩ʤim piŋgira˥re:˩da:](あまりにも酒を飲みすぎるので妻に逃げられたのだよ)。

˩スーン [˩su:ŋ] 【他動】吸う。息を吸う。水分を吸収する。しみこむ。老年層は、ユ˩ブン [ju˩buŋ](呼吸する。息を吸う) を多用する。˥イキ　˩スーン [˥ʔiki ˩su:ŋ](息をする < 吸う >)。˥イキ　˩ソーヌ [˥ʔiki ˩so:nu](息をしない < 吸わない >)。˥イキ　˩スイティ˥　パキバ [˥ʔiki ˩suiti˥ pḁkiba](息を吸って吐きなさい)。˥イキ　˩スー˥　クトゥ　ナ˩ラ˥ヌ [˥ʔiki ˩su:˥ ku̥to: na˩ra˥nu](息を吸うことは出来ない)。˥イキ　˩スイヤー˥　ミサムヌ [˥ʔiki ˩suija:˥ misamunu](息を吸えばよいのに)。˥イキ　˩スイ˥バ [˥ʔiki ˩sui˥ba](息をしなさいよ < 吸えよ >)。˥ブーキンマー　˩ナン˥ゾー　˥アシェー　˩ソーヌ [˥bu:kimma: ˩nan˥ʤo: ˥ʔaʃe: ˩so:nu](麻着物はあまり汗を吸わない)。

˩スーン [˩su:ŋ] 【自動】風が軟らかく吹く。そよ吹く。風がそよそよと吹く。そよぐ (戦ぐ)。「～稲葉そよぎて秋風の吹く」『古今集　171』の義。「そよぐ (戦ぐ)」の転訛したものか。˥フクン [˥ɸu̥kuŋ] は台風の強風が吹く意味。カ˩ジェー　ソーンダー　スーン˥ケン　˥マティティ　˩スイ˥　クーカー　˩プー˥　ピ˩キ˥バ [ka˩ʤe: so:nda su:ŋ˥kem ˥matiti ˩sui˥ ku:ka: ˩pu:˥ pi̥˩ki˥ba](風が吹かない < そよがない > から、吹くまで待って、吹いてきたら帆を上げなさいよ)。カ˩ジヌ　スー˥　クトー　˩ナー˥ヌ [ka˩ʤinu su:˥ ku̥to: ˩na:˥nu](そよ風が吹くことはない)。カ˩ジヌ　スイヤー˥　ミサムヌ [ka˩ʤinu suija:˥ misamunu](そよ風がふけばいいのに)。˩パー˥ク　˩スイ˥バ [˩pa:˥ku ˩sui˥ba](早く吹けよ)。

˩スー˥ンジ [˩su:˥ʔnʤi] 【名】総出。ミ˩チクサイヤー˥　ム˩ラズー　スー˥ンジ　˩シール　ソーッ˥タ [mi ˩ʧikusaija:˥ mu˩raʤu: su:n˥ʤi ˩ʃi:ru so:t˥ta](道普請は村中の者が総出でされた < なさった >)。

˩スーン˥シル [˩su:ŋ˥ʃiru] 【名】お汁。˩スーン˥シロー　イ˩ズトゥ　アウナー˥　イ˩リティ˥　バ˩カシ˥バ [˩su:ŋ˥ʃiro: ʔi˩ʤutu ʔauna:˥ ʔi˩riti˥ ba˩kaʃi˥ba](お汁は魚と青菜を入れて炊きなさいよ)。

˥スイ [˥sui] 【名】地名。首里。琉球国時代の行政、文化の中心地。首都。王府のあった地。˩バン˥テヌ　ウ˩ヤ˥プソー　パ˩トゥ˥マーラ　スイ˩バー˥キ　˩オーッ˥タンツォー [˩ban˥tenu ʔu˩ja˥pu̥so: pḁ˩tu˥ma:ra sui˩ba:˥ki ˩ʔo:t˥tantso:](私の家の先祖は、鳩間島から首里まで行かれたそうだ)。

˩スイ˥カ [˩sui˥ka] 【名】西瓜。標準語からの借用語。ム˩カ˥シェー　˩スイ˥カン　˥ユー　ス˩ク˥ローッタン [mu˩ka˥ʃe: ˩sui˥kaɲ ˥ju: su̥˩ku˥ro:ttaŋ](昔は西瓜もよく栽培された)。˩スイカ˥ヌ　˥タニ　˥マキティ　˩ナイ˥ヌ　˩ムイ˥ルカー　ウ˩リバ˥　ヤトゥイ　イ˩ビティル˥　ス˩ク˥ローッタ [˩suika˥nu ˥tani ˥makiti ˩nai˥nu ˩mui˥ruka: ʔu˩riba˥ jatui ʔi˩bitiru˥ su̥˩ku˥ro:tta](西瓜の種を蒔いて、苗が生えたらそれを移植して < ぞ > 栽培され < 作られ > た)。

˩スイ˥ギュー [˩sui˥gju:] 【名】(動物) 水牛。西表島の水田耕作に台湾から導入されたという。˩ウイバル˥ナー　˩スイ˥ギュー　シゥ˩カ˥ナイ　˩オーッ˥タン [˩ʔuibaru˥na: ˩sui˥gju: si̥˩ka˥nai ˩ʔo:t˥taŋ](上原では水牛を飼育しておられた)。

˥スイグスク [˥suigusu̥ku] 【名】首里城。ウスンガ˩ナ˥シェーマイヤ　˥スイグスクナール　˩オー˥ル　ティバン˩ナー [ʔusuŋga˩na˥ʃe:maija ˥suigusu̥kuna:ru ˩ʔo:˥ru tiban˩na:](首里の国王様は首里城に < 住んで > いらっしゃるそうですね)。

˥スイクトゥバ [˥suikutuba] 【名】首里言葉。普通は、˥スイムニ [˥suimuni](首里言葉 < もの言い >)、ウ˩キナー˥ムニ [ʔu˩kina:˥muni](沖縄言葉) という。パ˩トゥ˥マプソー　˥スイクトゥバー　シ˩キシェーン˥ドゥ　パ˩ナ˥シェー　˩シーサヌ [pḁ˩tu˥mapu̥so: ˥suiku̥tuba: ʃi̥˩kiʃe:n˥du pa˩na˥ʃe: ˩ʃi:sanu](鳩間の人は、首里言葉は聞くことは出来る < 理解できる > が、話すことは出来ない)。

˩スイザシ [˩suiʤaʃi] 【名】既設の建物に外側へ部屋や軒を増築すること。増築したもの。建て増し。かけだし (掛出し)。張り出し。「添え出し」の義。˩スインザシ [˩sui?nʤaʃi] ともいう。ウ˩ブヤー˥ヌ　˩インター　スイザシティ　トー˥ラ　ス˩ク˥ローッタ [ʔu˩buja:˥nu ˩ʔinta: suiʤaʃi̥ti to:˥ra su̥˩ku˥ro:tta](母屋の西側にかけだし < 掛出し > を作って台所を作られた)。˩ナーラ˥シ　˩スイザシ [˩na:ra˥ʃi ˩suiʤaʃi](軒を張り出して作れ < 添え出せ >)。

˩スイザシコーヤク [˩suiʤaʃiko:jaku] 【名】吸出し膏薬。腫物の膿汁を吸い出すために貼る膏薬。ク˩ヌ˥

ア˞シ˜ボー　˞スイザシコーヤク˜　パ˞リティ　ウー˜ミ　˞スイザシ˜バ [ku˞nu˜ ʔa˞ʃi˜bo: ˞suidʑaʃiko:jaku˜ pa˞riti ʔu:˜mi ˞suidʑaʃi˜ba](この御出来は吸出し膏薬を貼って膿を吸い出しなさいよ)。

˞スイザスン [˞suidʑasuŋ] 【他動】建て増す。張り出す。かけだす (掛出す)。「添え出す」の転訛したもの。˞トー˜ラ　˞スイザスンティ　ベー˜ヌンドゥ　˞タンガ˜シェー　˞スイザサランバ　テー˜ナイ　˞シーッふィーリ [˞to:˜ra ˞suidʑasunti be:˜nundu ˞taŋga˜ʃe: ˞suidʑasaramba te:˜nai ˞ʃi:ffi:ri](炊事部屋 < 台所 > を立て増そう < 張り出そう > としているが、一人では建て増しできない < 張り出されない > から手伝いしてくれ)。˞インタカター　スイザシ˜　ミサカー　˞スイザス˜　クトー　ナ˞ル˜ヌ　˜ナルカー　ニ˞シェーケー　スイザシェー˜　ミサムヌ [˞ʔintakata: suidʑaʃi˜ misaka: ˞suidʑasu˜ kʉto: na˞ru˜nu ˜naruka: ni˞ʃe:ke: suidʑaʃe:˜ misamunu](西側へ建て増してよければ建て増すことは出来るが、出来たら北側へ建て増し < 張出し > すればよいのに)。アー˞イ　イーリケー　スイザシ [ʔa:˞i ʔi:rike: suidʑaʃi](いや、西側へ建て増せ < 張出せ > よ)。

˞スイザスン [˞suidʑasuŋ] 【他動】吸い出す。ア˞シブ˜ヌ　˞ウー˜ミ　˞スイザスンティ　シー　スイザシコーヤク˜　パ˞リ˜シケーンドゥ　˞スイザサラヌ [ʔa˞ʃibu˜nu ˞ʔu:˜mi ˞suidʑasunti ʃi: suidʑaʃiko:jaku˜ pa˞ri˜ʃi̥ke:ndu ˞suidʑasaranu](御出来の膿を吸い出そうと吸い出し膏薬を貼ってあるが、吸い出せない)。˞スイザシ˜　ミサンカヤー [˞suidʑaʃi˜ misaŋkaja:](吸い出してよいかなあ)。˞スイザス˜　クトゥ [˞suidʑasu˜ kʉtu](吸い出すこと)。˞スイザシェー˜　ミサムヌ [˞suidʑaʃe:˜ misamunu](吸い出せばよいのに)。˞スイザシ [˞suidʑaʃi](吸い出せ)。

˜スイプス [˜suipʉsu] 【名】首里人。首里の人。˜スイプソー　ム˞カ˜シェー　サ˞ムライ˜　ヤ˞ロー˜レーンダ　ピ˞ライグリ˜サンツォー [˜suipʉso: mu˞ka˜ʃe: sa˞murai˜ ja˞ro:˜re:nda pi˞raiguri˜santso:](首里人は、昔は侍であられたから、付き合いにくいそうだ)。˜スイプスナー　サ˞ムライン˜　ヒャ˞ク˜ソーン　˞オーッ˜タン [˜suipʉsuna: sa˞muraiŋ˜ çɑ̥˞ku˜so:ŋ ˞ʔo:t˜taŋ](首里人の中には士族も百姓も居られた)。

˞スイブン [˞suibuŋ] 【名】おまけ。若年層の言葉。「添え分」の義。老年層は˞シーブ [˞ʃi:bu](おまけ。添え分) を多用する。˜クベー　˜メー　˞スイブン < ˞シーブ > ゲ˜ラ　ゾー˞ゾー˜　ムティ˞オー˜リバ [˞kube: ˜me: ˞suibuŋ < ˞ʃi:bu > ge˜ra dʑo:˞dʑo:˜ muti˞ʔo:˜riba](これだけは、もう、おまけですよ。さあさあ持っていらっしゃい < 行って下さい >)。

˞スイルン [˞suiruŋ] 【他動】付け加える。ある物に加える。そばに足す。添える。「剣太刀　身に佩き副流 < ソフル >〜。万、2635」の義。ン˞メーマー　スイルンティ˜　ウ˞ムーン˜ドゥ　˜ドゥー　˞カッティ˜シェー　˞スイララヌ [ʔm˞me:ma: suirunti˜ ʔu˞mu:n˜du ˜du: ˞katti˜ʃe: ˞suiraranu](少しは付け加えようと思うが、自分勝手には付け加えられない)。˞スイル˜　クトゥ [˞suiru˜ kʉtu](付け加える < 添える > こと)。˞スイ˜　ミサカー　スイヤー˜　ミサムヌ [˞sui˜ misaka: ˞suija:˜ misamunu](付け加えたければ付け加えればいいのに)。˞スイリ [˞suiri](付け加えなさい < 添えろ >)。

ス˞ガスン [su˞gasuŋ] 【他動】そよ風にあてる。風に当って汗を飛ばす。フカリルンとも言う。˞キン˜マー　カ˞ジ˜ナー　ス˞ガシテーラ˜　タ˞ク˜ミ [˞kim˜ma: ka˞dʑi˜na: su˞gaʃi̥te:ra˜ tɑ̥˞ku˜mi](着物は風に当ててから畳みなさい)。カ˞ジ˜ナ　ス˞ガスンティ˜　ウ˞ムーン˜ドゥ　ア˞ミ˜ヌ　˜フイ　ス˞ガサラヌ [ka˞dʑi˜na: su˞gasunti˜ ʔu˞mu:n˜du ʔa˞mi˜nu ˜ɸui su˞gasaranu](風に当てて乾かそうと思うが、雨が降って風に当てられない)。ス˞ガス˜　クトー　ナ˞ラヌ˜ヌ　ン˞メーマ˜　ヤ˞ラバン˜　ス˞ガシェー˜　ミサムヌ [su˞gasu˜ kʉto: na˞ranu˜nu ʔm˞me:ma˜ ja˞raban˜ su˞gaʃe:˜ misamunu](風に当てて乾かすことは出来ないが、少しでも風に当てればいいのに)。ヤー˞ディン˜　ス˞ガシ [ja:˞din˜ su˞gaʃi](必ず風に当てて乾かせ)。

ス˞ガリ˜ルン [su˞gari˜ruŋ] 【他動】装う。化粧する。着飾る。化粧して着飾る。ブ˞ドゥルシタフ　シー˜　ス˞ガリ˜ルンティ　˞ベー˜ヌンドゥ　ス˞ガリラン˜タンティン　イッ˞ケナ　カイ˜ヤン [bu˞duruʃi̥taɸu ʃi:˜ su˞gari˜runti ˞be:˜nundu su˞gariran˜tantiŋ ʔik˞kena kai˜jaŋ](踊り支度をして美しく化粧をして着飾ろうとしているが、着飾り装わなくても非常に美しい)。˜チニヒージェー　ス˞ガリ˜ル　プ˞ソー˜　ブ˞ラーンバ　プー˜ル　˜キチゴンナーヤ　ス˞ガリ˜リバ [˜ʧiniçi:dʑe: su˞gari˜ru pʉ˞so:˜ bu˞ra:mba pu:˜ru ˜ki̥ʧigonna:ja su˞gari˜riba](常日頃は化粧する人はいないから、豊年祭や結願祭には化粧しなさいよ)。ス˞ガ˜リ　˜ミサン [su˞ga˜ri ˜misaŋ](化粧してもいい)。ス˞ガリ˜レー　˜ミサムヌ [su˞gari˜re: ˜misamunu](化粧すればいいのに)。ス˞ガリ˜ルカー　イッ˞ケン˜　ア˞バ˜レーン [su˞gari˜ruka: ʔik˞keŋ˜

ʔaˈba˥reːŋ](化粧すると非常に美しい)。

スˈガリルン **[suˈgariruŋ]** 【自動】風に当たる。「風に吹かれる」の義。ドゥˈク˥ヌ　˥アツァティ　カˈジン˥　スˈガリルンティ　ベー˥ヌンドゥ　˥クマン　カˈジェー　ソーヌ˥　スˈガリラランバン＜スˈガララランバン＞[duˈku˥nu ˥ʔatsati kaˈʤin˥ suˈgarirunti beː ˥nundu ˥kumaŋ kaˈʤe: soːnu˥ suˈgariraramban＜suˈgararambaŋ＞](あまりにも暑くて、風に当ろうとしているが、此処も風が吹かないので風に当れない＜風に吹かれない＞わい)。カˈジン˥　スˈガリ˥　シˈギ˥ルカー　マˈタ˥　ニˈチ˥ヌ　ンˈジ˥ルンダー　˥ドゥク　カˈジン˥　スˈガリル˥　クトー　スˈナト ヨー [kaˈʤin˥ suˈgari˥ ʃiˈgi˥ruka: maˈta˥ niˈʧi˥nu ʔnˈʤi ˥runda: ˥duku kaˈʤin˥ suˈgariru˥ kʉto: suˈnaɨ-joː](風に当たり過ぎると、また熱が出るので、あまり風に当たる＜吹かれる＞ことはするなよ)。スˈガリリ [suˈgariri](風に当れ＜吹かれろ＞)。

スˈガ˥ル **[suˈga˥ru]** 【名】身支度。装うこと。化粧をすること。美しく着飾ること。衣装を調えること。準備すること。˥アイニ　スˈガ˥レーティ　ˈアーク˥ヌ　ˈマー˥ル　˥パルカヤー [˥ʔaini suˈga˥reːti ˈʔaːku ˥nu ˈmaː˥ru ˥parukajaː](あんなに化粧をして着飾っているが、何処へ＜ぞ＞行くのかなあ)。

スˈガルン **[suˈgaruŋ]** 【自動】風に当たる。「風に吹かれる」の義。「そよぐ (戦ぐ)」の転訛したもの。˥クナーティ　カˈジン˥　スˈガルンティ˥　ウˈムーン˥ドゥ　スˈガリ˥　ミサンカヤー [˥kunaːti kaˈʤin˥ suˈgarunti˥ ʔuˈmuːn˥du suˈgari˥ misaŋkajaː](此処で風に当たろうと思うが、風に当っても良いかねえ)。カˈジン˥　スˈガル˥　クトー　ˈワッ˥サユンダ　ナˈルビ˥コー　カˈジ˥ナー　スˈガランバル˥　マˈシ [kaˈʤin˥ suˈgaru˥ kʉto: ˈwas˥sajunda: naˈrubi˥ko: kaˈʤi ˥na: suˈgarambaru˥ maˈʃi](風に当たることは悪いから、なるべくは風に当らないほうが良い)。ンˈベーマー˥　スˈガレー˥　ミサムヌ [ʔmˈbeːmaː˥ suˈgareː˥ misamunu](少しは風に当れば良いのに)。˥クナーティ　スˈガリ˥バ [˥kunaːti suˈgari˥ba](此処で風に当たれよ)。

スˈガ˥ルン **[suˈga˥ruŋ]** 【自動】おしゃれする。化粧をして着飾る。おめかしをする。ミˈドーン˥ッふァー　トゥˈシ˥グル　˥ナルカー　スˈガ˥ルン [miˈdoːŋ ˥ffa: tuˈʃi˥guru ˥naruka: suˈga˥ruŋ](女の子は年頃になるとおしゃれをする)。ブˈドゥル　スンティ˥　スˈガ˥リ　ˈベー [buˈduru sunti˥ suˈga˥ri ˈbeː](踊りをしようとして化粧をして着飾っている)。

˥スク **[˥sʉku]** 【副助】ぐらい。ほど。ばかり。だけ。体言、活用語の連体形、格助詞などに下接して程度を表す。1体言につく。ˈワー˥スコー　パˈタラキサヌ [ˈwaː˥sʉko: pʉˈtarakisanu](君ぐらい＜ほどは＞働けない)。2ズク (形式名詞)。動詞の連用形に下接して、最適の時期、頃合、の意味を表す。バˈサン˥ナロー　ˈウー˥ミティ　マˈナマ˥ル　ッˈふァイズク [baˈsan˥naro: ˈʔuː˥miti maˈnama˥ru fˈfaiʤuku](バナナは熟れて今が丁度食べごろだ)。3活用語の連体形に下接して程度を表す。ギューˈサ˥　アˈザバン˥　スˈク˥スコー　アˈラ˥ヌ [gjuːˈsa˥ ʔaˈʤaban˥ sʉˈku ˥sʉko: ʔaˈra˥nu](いくら言っても聞かない＜聞くどころではない＞)。シˈグトゥ　スー˥スクン　ˈデー˥カー　˥バー　パˈラ˥ヌ [ʃiˈgutu suː˥sʉkun ˈdeː˥kaː ˥baː paˈra˥nu](仕事をするぐらいなら私は行かない)。ヌˈミ˥プサスコー　ヌˈマ˥シバ [nuˈmi˥pʉsasʉko: nu ˈma˥ʃiba](飲みたいだけ飲ませなさい)。4さらに副助詞ˈ-ナー˥ト [ˈ-naː˥to](～など) が付く (強調)。シˈグトゥ　スー˥スクˈナー˥トー　アˈラ˥ヌ [ʃiˈgutu suː ˥sʉkuˈnaː˥to: ʔaˈra˥nu](仕事をするどころ＜ぐらい＞などではない)。5格助詞ˈ-ヌ [ˈ-nu](～の) に付いて、上接語との所属関係を表す。ˈワー˥　ウˈヌスク˥ル　アˈル [ˈwaː˥ ʔuˈnusʉku˥ru ʔaˈru](君はその程度しかないのか＜そのぐらいぞあるのか＞)。˥バーウˈリヌ˥スコー　ˈウイユーサ˥ヌ [˥baː ʔuˈrinu˥sʉko: ˈʔuiju:sa˥nu](私は彼くらい＜彼のほど＞は泳げない)。6さらに、とりたての係助詞˥-ヤ [˥-ja](は)、係助詞˥-ン [˥-n]、副助詞˥ツァン [˥-tsaŋ](～すら。～さえ。～だに) が付いて強調表現をつくる。ヤˈラビ˥ヌスコーンツァン　ˈカンガイユーサン˥バン [jaˈrabi˥ nu ˥sʉko:ntsaŋ ˈkaŋgaiju:sam˥baŋ](子供のぐらいさえも考えきれないわい)。

˥スク **[˥sʉku]** 【名】(動) 魚の名。ˈアイイズ [ʔaiʔiʤu](あみあいご) の稚魚。体長約 3 センチ、旧暦 6 月の 1 日前後ごろに群れをなして島の西から海岸に寄ってきて東海岸へと移動し、浮いているが、二三日すると海藻を食べるようになり、海底に沈んで捕獲しにくくなって、スクガラスには適しなくなる。海藻を食べる前に捕獲して塩漬けにしたのがスˈクガラ˥ス [sʉˈkugara˥su](スクの塩漬け。塩辛) である。スˈク˥ヌ　ˈユーリ˥　キー　˥ッサ　ッˈふァーン˥ケン　スˈクイティ˥　スˈクガラ˥ス　スˈコーッ˥タ [sʉˈku˥nu ˈjuːri˥ ki: ˥ssa fˈfaːŋ˥ken sʉˈkuiti˥ sʉˈkugara˥su sʉˈkoːt˥ta](スクが寄ってきて海草を食べないうちに掬い獲ってスˈクガラ˥ス＜スクの塩漬

け＞を漬けられた)。

スˈク [sɯˈku] 【名】1底。最下部。谷。カˈミ˥ヌ　スˈク [kaˈmi˥nu sɯˈku](瓶の底)。ナˈビ˥ヌ　スˈク˥ナー　ナˈマシキ˥ヌ　ˈガー˥ガー　˥ナリ　ˈベー [naˈbi˥nu sɯˈku˥na: naˈmaʃiki˥nu ˈga:˥ga: ˥nari ˈbe:](鍋の底にお焦げが赤黒い焦げつき＜ガーガー＞になって付いている)。2山奥。ˈケーダヤマ˥ヌ　スˈク˥ナー　ˈキャーンギキーバ˥　ヤˈマ˥シカ　˥キシ　˥シケーン [ˈke:dajama˥nu sɯˈku˥na: ˈkja:ŋgiki:ba˥ jaˈma˥ʃi̥ka ki̥ʃi ˥ʃi̥ke:ŋ](ケーダ山の山奥に槇の木を沢山伐って置いてある)。

˥ズク [˥ʤuku] 【名】うれること。熟すること。成熟すること。十分に成長する。「熟」の転訛したもの。クˈレー˥　アˈツァブカ˥ラー　˥ズク　ˈスン˥　パジ [kuˈre:˥ ʔaˈtsabuka˥ra: ˥ʤuku ˈsum˥ paʤi](これは明日ごろには熟するはずだ)。クˈヌ˥　ッˈふァー˥　イッˈケナ˥　ズク　ˈシー˥　マˈリ˥ケーン [kuˈnu˥ fˈfa: ˥ʔikˈkena˥ ʤuku ˈʃi:˥ maˈri˥ke:ŋ](この子は非常に成熟＜成長＞して生まれてきた)。

スˈクーン [sɯˈku:ŋ] 【他動】1すくう (掬う)。掬い取る。タˈブ˥シ　˥ザコー　スˈクーンティ　スンドゥ˥　スˈコーラヌ　ワー˥　スˈクイト ミー [taˈbu˥ʃi ˥ʤako: sɯˈku:nti sundu˥ sɯˈko:ranu wa:˥ sɯˈkuiト mi:](たも網でカツオの餌＜雑魚＞を掬おうとするが、掬われない。君が掬ってごらん＜掬ってみろ＞)。スˈクー˥　ピンマー　ˈヨーンナ˥　スˈクイヤー˥　ミサムヌ [sɯˈku:˥ pimma: ˈjo:nna:˥ sɯˈkuija:˥ misamunu](掬う時はゆっくり掬えばよいのに)。ˈパー˥ク　スˈクイ [ˈpa:˥ku sɯˈkui](早く掬え)。2救う。救助する。ˈウッふィ　ベー˥　ッˈふァ˥　スˈクーンティ˥　スˈナ˥カー　ブˈダッカリ˥　ウˈローッ˥タ＜ˈペー˥ローッタ＞[ˈʔuffi be:˥ fˈfa˥ sɯˈku:nti suˈna˥ka: buˈdakkari˥ ʔuˈro:t˥ta＜ˈpe:˥ro:tta＞](溺れている子を救おうと海中へ飛び降りられた)。

スˈクアン [sɯˈkuʔaŋ] 【名】底網。水深の深い所に沈めて雑魚を掬い取るのに用いる網。サˈネー˥ラー　スˈクアン˥シル　トゥˈローッ˥タ [saˈne:˥ra: sɯˈkuʔaŋ˥ʃiru tuˈro:t˥ta](サネーラーはスクアン＜底網＞で掬って漁獲され＜取られ＞た)。

˥スクイ [˥sɯkui] 【名】麻桶。「～麻笥＜ヲケ＞に垂れたる～。万、3243」の義。˥クイ [˥kui] は、「桶、乎計＜ヲケ＞」『和名抄』、「笥、乎介＜ヲケ＞」『霊異記』の「計」、「介」が転訛したものか。からむし＜苧＞の糸や芭蕉糸をう＜績＞んで入れる箱や籠。「そ・け＜麻・笥＞」の転訛したものか。人頭税時代 (明治 37 年頃まで) は、女たちは夜業をして糸を紡ぎ、ˈグイ˥フゾーノー [ˈgui˥ɸuʤo:no:](御用布。平民女性の貢納布) を納めた。ムˈカ˥シェー　˥アッパター　ˈピーズ　ブー˥バ　ˈウー˥ミ　˥スクイ　ミˈツァ˥スンティ　ˈシー　オーッ˥タ [muˈka˥ʃe: ˥ʔappata: ˈpi:ʤu bu:˥ba ˈʔu:˥mi ˥sɯkui miˈtsa˥sunti ˈʃi: ʔo:t˥ta](昔は、お婆さんたちは毎日麻糸を紡いで＜績んで＞麻桶を満たそうとしておられた)。

スˈクイシティルン [sɯˈkuiʃi̥tiruŋ] 【他動】複合動詞。掬いすてる。スˈクイシトゥン [sɯˈkuiʃi̥tuŋ](掬い捨てる) ともいう。ˈアー˥ツメー　ムーˈル˥　スˈクイシティルンティ　スンドゥ˥　スˈクイシティララヌ [ˈʔa:˥tsume: mu:ˈru˥ sɯˈkuiʃi̥tirunti sundu˥ sɯˈkuiʃi̥tiraranu](泡つぶは全部掬い捨てようとするが、掬い捨てられない)。

スˈクイズ [sɯˈkuʔiʤu] 【名】(動) 魚の名。和名、ツバメコノシロ (体長約 50 センチ)。スˈクイゾー˥　ミリ　ミˈラン˥シェン [sɯˈkuʔiʤo:˥ miri miˈraŋ˥ʃeŋ](スクイズは見たことが無かった＜見てみなかった＞)。

スˈクカカ˥ラー [sɯˈkukaka˥ra:] 【連】聞く物すべて。聞くところ全部。ウˈヌ˥　パˈナ˥シェー　スˈクカカ˥ラー　ムーˈル˥　ユˈクシ˥ムニ [ʔuˈnu˥ paˈna˥ʃe: sɯˈkukaka˥ra: mu:ˈru˥ juˈkuʃi˥muni](その話は聞くものすべてが嘘＜よこす (讒)・こと＞だ)。

スˈクガラ˥ス [sɯˈkugara˥su] 【名】˥スク [˥sɯku](アイゴの稚魚) の塩辛。外洋から海岸に寄ってきたスク (アイゴの稚魚) が海草を食べる前に網で掬い獲り、塩漬けにして発酵させ、塩辛に製造したもの。ムˈカ˥シェー　スˈクガラス˥バ　カˈティムヌ˥バ　ˈシール　イー˥ヤ　ンˈコーッ˥タ [muˈka˥ʃe: sɯˈkugarasu˥ba kɑˈtimunu˥ba ˈʃi:ru ʔi:˥ja ʔŋˈko:t˥ta](昔はスクの塩辛をおかず＜副食物＞にして＜ぞ＞ご飯は召し上がられた)。

スˈクスン [sɯˈkusuŋ] 【他動】尽くす。努力する。標準語の「尽くす」の転訛したもの。ウˈブ˥プス　˥ナルカー　˥シマムラヌ　タˈミ˥　スˈクシト ダー＜パˈタラキト ダー＞[ʔuˈbu˥pusu ˥naruka: ˥ʃimamuranu taˈmi˥ sɯˈkuʃiト da:＜suˈkuʃiト da:＞](大人になったら島や村の為に尽くしなさいよ)。

˥スクダイ [˥sɯkudai] 【名】机。「しょくだい (卓台)」の義。ピˈルマ˥サー　ˈキュー˥ヤ　˥スクダイナー　ンˈカイ　ビンキョー　スンティ　ベー˥ヌ　˥アメー　ˈホーン˥　ミサンカヤー [piˈruma˥sa: ˈkju:˥ja ˥sɯkudaina: ʔŋˈkai biŋkjo: sunti be:˥nu ˥ʔame: ˈho:m

˥ misaŋkaja:](ああ珍しい。今日は机に向かって勉強をしようとしているが、雨は降らないかなあ)。

スˈクッチナー˥ン [sɯˈkuttʃina:˥ŋ] 【形】不潔である。汚らしい。淫らである。猥雑である。滑稽である。「粗忽な」の転訛したものか。スˈクッチナー˥ プˈストー˥ シˈグトー˥ シˈララント ダー スˈクッチナー˥ンティ プˈスン˥ アˈザリナ [sɯˈkuttʃina:˥ pɯˈsuto:˥ ʃiˈguto:˥ ʃiˈraranト da: sɯˈkuttʃina:˥nti pɯˈsuŋ˥ ʔaˈʤarina](不潔な人とは仕事は出来ないよ。不潔だと他人に言われるな)。スˈクッチナー ナーン˥センドゥ ˈシンダイ˥ スˈクッチナー˥ ナリクン [sɯˈkuttʃina: na:n˥ʃendu ˈʃindai˥ sɯˈkuttʃina:˥ narikuŋ](不潔ではなかったが、次第に不潔になってくる)。スˈクッチナー˥ヌ ウˈリンマー˥ タˈナマラ˥ヌ [sɯˈkuttʃina:˥nu ʔuˈrimma:˥ taˈnamara˥nu](不潔だから彼には頼まれない)。スˈクッチナー˥ヌ ウˈリトー˥ ブˈララヌ [sɯˈkuttʃina:˥nu ʔuˈrito:˥ buˈraranu](不潔で、汚らしくて彼とは生活できない＜居れない＞)。スˈクッチナー˥ンティ アˈザリシバ˥ スˈクッチナー ナーン˥ヨーニ アˈザケーアザケー˥シ ˈアー˥キバ [sɯˈkuttʃina:˥nti ˥ʔaˈʤar-iʃiba˥ sɯˈkuttʃina: na:ɲ˥jo:ni ʔaˈʤake:ʔaʤake:˥ʃi ˈʔa:˥kiba](不潔で汚らしいと言われるから、不潔でないように、清潔にしていなさい＜あるきなさい＞)。スˈクッチナー˥ プˈス [sɯˈkuttʃina:˥ pɯˈsu](不潔な人。下品な人。滑稽な人)。スˈクッチナー˥カー シゥˈカーヌ [sɯˈkuttʃina:˥ka: sɨˈka:nu](不潔なら＜汚らしければ＞使わない)。

スˈクッチナカー˥チナ [sɯˈkuttʃinaka:˥ʧina] 【副】汚(キタナ)らしくて。汚れて。不潔で。見苦しい恰好で。だらしなくて。重言。プˈスヌ ミー˥バ ヤˈマ˥シ スˈクッチナカー˥チナ ˈシェー˥ティ ˈアーク˥ナ [pɯˈsunu mi:˥ba jaˈma˥ʃi sɯˈkuttʃinaka:˥ʧina ˈʃe:˥ti ˈʔa:ku˥na](人目にも見苦しい。だらしない恰好で＜他人の目を苦しめて＞、汚らしくしているなよ)。

スˈクッチナ ムヌ [sɯˈkuttʃina munu] 【連】冗談好きの人。滑稽な人。不潔な人。猥雑な人。品行不良な人。ウˈレー˥ スˈクッチナムヌ˥ ヤˈルンダ テーファー˥ムニ カーˈニル スートト ツォー [ʔuˈre:˥ sɯˈkuttʃinamunu˥ jaˈrunda te:ɸa:˥muni kaˈniru su:ト tso:](彼は滑稽な人＜不良＞だから、冗談＜滑稽なこと、下卑た話＞ばかり言うんだよ)。

スˈクッチナムヌ [sɯˈkuttʃinamunu] 【連】不潔な者。滑稽な人。下品な人。男女関係にだらしのない者。「粗忽な者」の転訛か。ˈウンザー˥ スˈクッチナムヌ˥ ヤˈルンダ˥ スˈバー パン˥ナˈヨー [ˈʔunʤa:˥ sɯˈkuttʃinamunu˥ jaˈrunda˥ suˈba: pan˥naˈjo:](あいつは不潔な人＜だらしない人＞だから、側に行くなよ)。

スˈクッチルン [sɯˈkuttʃiruŋ] 【自動】粉々に砕ける。タˈカーン˥ トンラ クˈビン˥ヌ ˥ウティティ イˈシ˥ナ アˈタル˥カー スˈクッチルン [tɑˈka:n˥ tonra kuˈbin˥nu ˥ʔutiti ʔiˈʃi˥na ʔaˈtaru˥ka: sɯˈkuttʃiruŋ](高い所から瓶が落ちて石に当たると粉々に砕ける)。スˈクッチラヌ [sɯˈkuttʃiranu](砕けない)。スˈクッチ ナー˥ヌ [sɯˈkuttʃi na:˥nu](砕けてしまった)。スˈクッチル˥ クトー ˈナー˥ヌ [sɯˈkuttʃiru˥ kɯto: ˈna:˥nu](砕けることはない)。スˈクッチレー˥ ミサムヌ [sɯˈkuttʃire:˥ misamunu](砕ければ良いのに)。ウˈタ˥スカー バˈリ˥ スˈクッチルンティ˥ ウˈムータン˥ドゥ スˈクッチランシェン [ʔuˈta˥sɯka: baˈri˥ sɯˈkuttʃirunti˥ ʔuˈmu:tan˥du sɯˈkuttʃiraŋʃeŋ](落としたら割れて粉々に砕けると思ったが、粉粉に砕けなかった)。スˈクッチ˥ パˈヤー˥ン [sɯˈkuttʃi˥ paˈja:˥ŋ](砕けやすい)。スˈクッチル˥ クトー ˈナー˥ヌヌ アˈブ˥ツァ ˥ムノー スˈクッチェー˥ ミサムヌ [sɯˈkuttʃiru˥ kɯto: ˈna:˥nunu ʔaˈbu˥tsa ˥muno: sɯˈkuttʃe:˥ misamunu](砕けることは無いが、あんなものは砕け散ればよいのに)。ˈパー˥ク スˈクッチリ [ˈpa:˥ku sɯˈkuttʃiri](早く砕け散れ)。

スˈクッツァースン [sɯˈkuttsa:suŋ] 【他動】ぶち壊す。ぶっ壊す。粉々に壊す。滅茶苦茶にする。ぶん殴る。スˈクッツァースンティ˥ ウˈムータン˥ドゥ ˈカッティニ˥ スˈクッツァース˥ クトー ナˈラン˥ティ シˈタール˥ スˈクッツァーサンドー˥シ シケーˈダー [sɯˈkuttsa:sunti˥ ʔuˈmu:tan˥du ˈkattini˥ sɯˈkuttsa:su˥ kɯto: naˈran˥ti ʃɨˈta:ru˥ sɯˈkuttsa:sando:˥ʃi ʃɨke:ˈda:](粉々にぶち壊そうと思ったが、勝手にぶち壊すことはまかりならぬというので、ぶち壊さないで置いてあるんだよ)。スˈクッツァーシ˥ プサカー スˈクッツァーシェー˥ ミサムヌ [sɯˈkuttsa:ʃi˥ pɯsaka: sɯˈkuttsa:ʃe:˥ misamunu](粉々にぶち壊したければぶち壊せばよいのに)。スˈクッツァーシ [sɯˈkuttsa:ʃi](粉々にぶち壊せ)。

スˈクッツァーラスン [sɯˈkuttsa:rasuŋ] 【他動】ぶち壊れさす。ぶっ壊れさす。粉々に壊れさせる。台無しにさせる。ˈユー˥ゾー ˈナーン˥ムノー スˈクッツァーラスンティ˥ ウˈムーン˥ドゥ ˥ドゥー ˈカッティ˥シェー スˈクッツァーラサラヌ [ˈju:˥ʤo: ˈna:m˥muno: sɯˈkuttsa:rasunti˥ ʔuˈmu:n˥du ˥du:

˹katti˺ʃe: sṳ˹kuttsa:rasaranu](役に立たないものは、粉々にぶち壊れさせようと思うが、自分勝手にぶち壊れさせられない)。ス˹クッツァーラシ˺　ミサカー　ス˹クッツァーラス˺　クトー　タ˹ヤーッ˺サン [sṳ˹kuttsa:raʃi˺ misaka: sṳ˹kuttsa:rasu˺ kṳto: ta˹ja:s˺saŋ](粉々にぶち壊れさせてよければ、ぶち壊れさせることは簡単だ＜たやすい＞)。ス˹クッツァーラシェー˺　ミサムヌ [sṳ˹kuttsa:raʃe:˺ misamunu](粉々にぶっ壊れさせればよいのに)。ス˹クッツァーラシ [sṳ˹kuttsa:raʃi](粉々にぶっ壊れさせよ)。

ス˹クッツァールン **[sṳ˹kuttsa:ruŋ]**【自動】砕ける。ぶっ壊れる。粉々に壊れる。ばらばらに壊れる。台無しになる。˹ウー˺ケー　˺ティダナ　˺プスカー　ス˹クッツァールンダ˺　ス˹クッツァーラン˺ヨーニ　˺カイナカナー　シ˹キ˺リ [˹ʔu:˺ke: ˺tidana ˺pṳsuka: sṳ˹kuttsa:runda˺ sṳ˹kuttsa:raɲ˺jo:ni ˺kainakana: ʃi̥˹ki˺ri](桶は日に干すとばらばらに壊れるから、ぶっ壊れないように日陰に置け)。ス˹クッツァーリヤッ˺サン [sṳ˹kuttsa:rijas˺saŋ](粉々にぶっ壊れやすい)。ス˹クッツァール　ウー˺ケー　シ˹ティリ [sṳ˹kuttsa:ru ʔu:˺ke: ʃi̥˹tiri](粉々にぶっ壊れる桶は捨てろ)。ス˹クッツァーレー˺　ミサムヌ [sṳ˹kuttsa:re:˺ misamunu](ばらばらにぶっ壊れれば良いのに)。ス˹クッツァーリリ [sṳ˹kuttsa:riri](粉々にぶっ壊れろ)。タ˹カーン˺　トンラ　˺クビン　ウ˹タ˺シティ　イ˹シ˺ナ　ア˹タル˺カー　ス˹クッツァールン [tạ˹ka:n˺ tonra ˺kubiŋ ʔu˹ta˺ʃi̥ti ʔi˹ʃi˺na ʔa˹taru˺ka: sṳ˹kuttsa:ruŋ](高い所から瓶を落として石に当たると粉々に砕け散る)。フ˹タバレーヤ˺　ナ˹ル˺ヌ　ス˹クッツァーラヌ [ɸṳ˹tabare:ja˺ na˹ru˺nu sṳ˹kuttsa:ranu](真っ二つには割れるが、粉々に割れない)。ス˹クッツァーリ　ナー˺ヌ [sṳ˹kuttsa:ri na:˺nu](粉々に砕け壊れてしまった)。バ˹レー˺　ス˹ヌ˺　ス˹クッツァール˺　クトー　˹ナー˺ヌ [ba˹re:˺ su˹nu˺ sṳ˹kuttsa:ru˺ kṳto: ˹na:˺nu](割れはするが、粉々に砕け散ることはない)。

ス˹クッツァスン **[sṳ˹kuttsasuŋ]**【他動】粉々にする。破砕する。タ˹マガラ˺ス　˹ナン˺ギ　イ˹シ˺ナ　ア˹ティ˺　ス˹クッツァスン [ta˹magara˺su ˹naŋ˺gi ʔi˹ʃi˺na ʔa˹ti˺ sṳ˹kuttsasuŋ](ガラスを投げて石に当てて破砕(ハサイ)する＜粉々に割る＞)。ス˹クッツァサヌ [sṳ˹kuttsasanu](粉々に割らない)。ス˹クッツァシ　ナー˺ヌ [sṳ˹kuttsaʃi na:˺nu](粉々に割ってしまった)。ス˹クッツァス˺　クトゥ [sṳ˹kuttsasu˺ kṳtu](粉々に割ること)。ス˹クッツァシェー˺　ミサムヌ [sṳ˹kuttsaʃe:˺ misamunu](粉々に割れば良いのに)。ス˹クッツァシ [sṳ˹kuttsaʃi](粉々に割れ)。

ス˹クッツン **[sṳ˹kuttsuŋ]**【自動】砕け散る。粉粉に砕ける。粉粉に壊れる。ア˹ダ˺カーラ　ウ˹タ˺スカー　ス˹クッツン˺カヤーティ　ウ˹ムータン˺ドゥ　ス˹クッツァンバン˺　ヌヤー [ʔa˹da˺ka:ra ʔu˹ta˺sṳka: sṳ˹kuttsuŋ˺kaja:ti ʔu˹mu:tan˺du sṳ˹kuttsamban˺ nuja:](あんな高い所から落としたら砕け散ると思ったのに、砕けないよ。なあんだ)。ク˹ビン˺マー　イ˹シ˺ナ　ア˹タル˺カー　ス˹クッツン [ku˹bim˺ma: ʔi˹ʃi˺na ʔa˹taru˺ka: sṳ˹kuttsuŋ](瓶は石に当たると割れ砕け散る)。˹ミー˺バレー　˹スンドゥ˺　ス˹クッツァヌ [˹mi:˺bare: ˹sundu˺ sṳ˹kuttsanu](ひび割れはするが、粉々に割れない)。ス˹クッチ　ナー˺ヌ [sṳ˹kuttʃi na:˺nu](砕け散ってしまった)。˺ウビシ　ス˹クッツ˺　クトー　˹ナー˺ヌ [˺ʔubiʃi sṳ˹kuttsu˺ kṳto: ˹na:˺nu](それだけでは砕け散ることはない)。ス˹クッツ˺カー　ス˹クッチ [sṳ˹kuttsu˺ka: sṳ˹kuttʃi](砕け散るなら砕け散れ)。ウ˹タシ˺ター　ス˹クッチ　ナー˺ヌ [ʔu˹taʃi̥˺ta: sṳ˹kuttʃina:˺nu](落としたら砕けてしまった)。シゥ˹カットゥ˺　ブンシ　ス˹クッツ　ムノー˺　シ˹ティリ [sï̥˹kattu˺ buŋʃi sṳ˹kuttsumuno:˺ ʃi̥˹tiri](触るだけで＜分で＞砕けるものは捨てろ)。ス˹クッチェー˺　ミサムヌ [sṳ˹kuttʃe:˺ misamunu](砕ければよいのに)。ムー˹ル˺　ス˹クッチ [mu:˹ru˺ sṳ˹kuttʃi](全部砕け散れ)。

ス˹ク˺ドゥン **[sṳ˹ku˺duŋ]**【名】琉球国時代の位階名。百姓の位階。「築登之」と書く。最下級の位階で、里之子 (サトゥヌシ [satunusi]) の次『沖縄語辞典』。˹アー˺シ [˹ʔa:˺ʃi](赤頭) が、定められた貢納の上にさらに米四十表を納めると与えられた位階。˹ユンチュヤク [˹juntʃujaku](与人役) 待遇を受けた『石垣方言辞典』。˹ベー˺ヌ　ウ˹ブイー˺パイナー　ヌ˹バ˺ルスクドゥンティ　カ˹カ˺リ　˹ブー˺　イ˹ツァビラーマ˺ヌ　˹アッ˺タン˹ダー [˹be:˺nu ʔu˹buʔi:˺paina: nu ˹ba˺rusṳkudunti kạ˹ka˺ri ˹bu:˺ ʔi˹tsabira:ma˺nu ˹ʔat˺tan˹da:](我が家の大位牌に野原築登之と書かれている小板の位牌があったよ)。

ス˹クナール **[sṳ˹kuna:ru]**【名】鈍く鳴る音。鈍く響く音。西瓜などの未熟果を打った時の音や低音で焼いた陶器の音。「底鳴り」の義。カ˹ニナール [ka˹nina:ru](高く響く音。高温で焼き締めた陶磁器の音や西瓜などの完熟果の音) の対義語。ス˹クナール　シー　ブーバ˺　ク˹ヌ　スイ˺カー　マ˹ダ　ウーマン˺　パジ˹ダー [sṳ˹kuna:ru ʃi: bu:ba˺ ku˹nu sui

˺kaː maˈda ʔuːmam˺ paʤiˈdaː](底鳴り＜鈍く鳴る音を＞しているから、この西瓜はまだ熟れていないはずだよ)。

スˈクナウン [sʉˈkunauŋ] 【他動】損なう。傷つける。害する。パˈナン˺ギ ˈスー˺カー ドゥー スˈクナウンダ˺ ドゥー スˈクナーン˺ヨーニ アˈサビ˺バ [paˈnaŋ˺gi ˈsuː˺kaː ˺duː sʉˈkunaunda˺ duː sʉˈkunaːŋ˺joːni ʔaˈsabi˺ba](悪ふざけをすると体を傷つけるから、体を傷つけないように遊べよ)。˺カイブ アˈサベー˺ ドゥー スˈクナイ ヤッ˺サンダ ˺ドゥー スˈクナウ˺ アˈサベー˺ スˈナ˺ヨー [˺kaibu ʔaˈsabeː˺ duː sʉˈkunai jas˺sanda ˺duː sʉˈkunau˺ ʔaˈsabeː˺ suˈna˺joː](こんな遊びは体を傷つけ＜損ない＞易いから、体を傷つける遊びはするなよ)。˺ドゥー スˈクナイヤー˺ラ ˈデー˺ジˈゲ˺ラ [˺duː sʉˈkunaijaː˺ra ˈdeː˺ʤiˈge˺ra](体を傷つけたら大変さ)。ˈカッティニ˺ ドゥー スˈクナイ˺バ [ˈkattini˺ duː sʉˈkunai˺ba](勝手に体を傷つけろよ＜傷つけるな＞)。台無しにする。殺す。老年層の使用語。カˈジフキサーリ˺ ヤˈラビ˺バ ˺イダフネーラ ˈサーリ アー˺クカー ッˈふァ˺ スˈクナウントˈダー [kaˈʤiɸʉkisaːri˺ jaˈrabi˺ba ˺ʔidaɸuneːra ˈsaːri ʔaː˺kukaː fˈfa˺ sʉˈkunaunˈdaː](嵐＜風吹きの中＞で子供をサバニで連れていくと子供を殺すよ＜むちゃするな＞)。

スˈクニルン [sʉˈkuniruŋ] 【他動】そこね (損ね) る。傷つける。怪我する。壊す。老年層の使用語。˺ドゥク ˈガー˺ タティ シˈグトゥ スー˺カー ˺ドゥー スˈクニルン˺ダー [˺duku ˈgaː˺ tʉti ʃiˈgutu suː˺kaː ˺duː sʉˈkunirun˺daː](あまり頑張って＜我を張って＞仕事をすると、体を損ねるよ)。ˈドングペン˺ゴー スˈクニラン˺ヨーニ ˈアシゥカイ˺バ [ˈdoŋgupeŋ˺go: sʉˈkuniraŋ˺ joːni ˈʔasi̥kai˺ba](道具は壊さないように扱いなさいよ)。グˈチ˺ホーニサーギ ˈアシゥカーン˺カー ˈドン˺グ スˈクニル˺ クトー ˈナー˺ヌ [guˈʧi˺hoːnisaːgi ˈʔasi̥kaːŋ˺kaː ˈdoŋ˺gu sʉˈkuniru˺ kʉto: ˈnaː˺nu](むやみに＜無鉄砲に＞さえ扱わなければ道具を損ねる＜破損する＞ことはない)。

スˈク˺ブ [sʉˈku˺bu] 【名】すくも (藻屑)。もみがら (籾殻)。しいな (米比)。稲の枯葉。「sucumo、スクモ (すくも) すなわち、Nuca(糠) 米や小麦の殻」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˈマイヤ˺ サイ ピˈキティ˺ スˈク˺ボー トˈバシ [ˈmaija˺ sai pi̥ˈkiti˺ sʉˈku˺boː tuˈbaʃi](稲＜米＞は扱(シゴ)いて脱穀し、挽き臼で挽いて、スクモを風に飛ばして除去しなさい)。ッˈソーマー˺ナ ˺タトゥカー スˈク˺ブ カブンˈダー˺ カˈマー˺ パリバ [sˈsoːmaː˺na ˺tʉ̥tukaː sʉˈku˺bu kabunˈdaː˺ kaˈmaː˺ pariba](風下に立つと籾殻のスクモを浴びるぞ。あっちへ行けよ)。

スˈクフイ [sʉˈkuɸui] 【名】底冷え。体のしんまで冷えること。ˈダイカン˺ヌ ˺シチ ˈペール˺ター スˈクフイ スン˺ケン ピˈラク˺ヌ ˺キー クˈバ˺リ ˈベー [ˈdaikan˺nu ˺ʃi̥ʧi ˈpeːru˺ta: sʉˈkuɸui suŋ ˺kem piˈraku˺nu ˺ki: kuˈba˺ri ˈbeː](大寒の季節に入ったので底冷えするほどに寒波が押し寄せてきて凍えている)。

スˈクフトゥッチ [sʉˈkuɸututtʃi] 【名】ぶつぶつ不平不満をいうこと。口中でつぶやく (呟く) こと。˺アイニ スˈクフトゥッチ サンドー˺シ ˺ヌーカ ˺ヌーティ シカイˈトゥ˺ アˈジ˺ ッˈサリバル˺ ワˈカ˺ル [˺ʔaini sʉˈkuɸututtʃi sandoː˺ʃi ˺nuːka ˺nuːti ʃi̥kaiˈtu˺ ʔaˈʤi˺ sˈsaribaru˺ waˈka˺ru](そんなにぶつぶつ不平を言わないで、何が何だとしっかり申し上げないと分からない＜申し上げればぞ分かる＞)。

スˈクブン [sʉˈkubuŋ] 【名】責務、任務。仕事。「職分」の転訛。˺ウヤー ッˈふァ˺ スˈダティ˺ル スˈクブン˺ ウˈヤ˺ヌ ˺コーヨーヤ ッˈふァヌ˺ スˈクブン [˺ʔuja: fˈfa˺ suˈdati˺ru sʉˈkubuŋ˺ ʔuˈja˺nu ˺ko:jo:ja fˈfanu˺ sʉˈkubuŋ](親は子供を育てるのが任務＜職分＞で、親の孝養は子供の責務＜職分＞である)。トゥˈロー˺ トゥキ トゥˈル˺ル スˈクブン イン˺マー ˈヤー˺ヌ ˺バン ˈスール˺ スˈクブン [tuˈroː˺ tʉki tuˈru˺ru sʉˈkubuŋ ʔim˺maː ˈjaː˺nu ˺ban ˈsuːru˺ sʉˈkubuŋ](鶏は時を告げるのが任務＜職務＞で、犬は家の番をするのが任務である)。

スˈク˺マ [sʉˈku˺ma] 【名】初穂祭り。「しきよま 麦米の初を云『混効験集 坤・言語』」『沖縄古語大辞典』。鳩間島では、旧暦 5 月の最初の壬に執り行われた。本格的な稲刈りに入る前に、稔った稲の初穂を刈り取り、鳩間島の御嶽の神様や各家の火の神、仏前に供えて豊作を祈願し、無事に刈り取り収穫が出来るよう祈願した祭祀。当日の早朝、水田のある西表島から稲の初穂を載せた数十艘の˺イダフニ [˺ʔidaɸuni](サバニ) が旧オーセの前の浜に接岸し、護岸の上で待機して祈願しているサˈカサ [sʉ̥ˈkasa](司) の前に駆け上り、一束の初穂を捧げ、豊作と無事の収穫を祈願してもらって各家庭に持ち帰り、家の火の神と仏前に稲穂を捧げて豊作を祈願した。その際、戸主の姉妹＜ヲナリ神＞

が火の神に祈願するのが習慣であった。朝靄の中を数十艘のイダフニが待機していたˈマイˉズニ [ˈmaiˉʤuni](前曽根) の内海から一斉にオーセの浜へ接岸してくる様は実に壮観であった。舟の帆形で自家の舟を定めて浜へ駆け下りた。その後、初穂を精米して炊き、イˈバˉチ [ʔiˈbaˉʧi](円錐形のおにぎり)、お握りを押して円形にした、ˈタイラーˉイー [ˈtairaːˉʔiː](平たいお握り。新穀の飯) を作って火の神と仏前に供え、親戚の家にも配った。スクマが済んだら笛や太鼓、銅鑼等の鳴り物を鳴らしてもよいとされ、豊年祭の準備がなされた。スˈクマˉヌ　ˈオーˉリ　シˈマˉソーラバル　ˉピラキン　ˈタイˉクン　ドゥˈラーンユン　ナーリムノー　ナーラソーッˉタ [sɥˈkumaˉnu ˈʔoːˈri ʃiˈmaˉsoːrabaru ˉpirakin ˈtaiˉkun duˈraːɲjun naːrimunoː naːrasoːtˉta](スクマが来られて、それを済まされたらば < ぞ > 笛も太鼓も銅鑼も、鳴り物は始めて鳴らされた)。以後、田の畦の枯れ草を燃やしてˉカマイ [ˉkamai](猪) 対策をすることも出来た。

スˈクˉマルン [sɥˈkuˉmaruŋ] 【自動】縮みこまる。うずくまる (蹲る)。かがむ。小さくなる。しゃがむ。しゃがんで丸くなる。「踞、ウズクマル」『類聚名義抄』、「蹲、ウズクマル」『色葉字類抄』の義。ˈピーˉヤティ　スˈクˉマリ　ˈベー [ˈpiːˉjati sɥˈkuˉmari ˈbeː](寒いので縮みこまって蹲っている)。ˈピーˉヤタンティン　スˈクマラˉヌ [ˈpiːˉjatantin sɥˈkumara ˉnu](寒くても蹲らない)。ヤˈラˉベー　イˈザリˉカー　スˈクˉマルンダ　スˈクマランˉ　ヨーニ　ヤーˈラマˉシ　イˈジˉ　ナˈラーˉシバ [jaˈraˉbeː ʔiˈʤari ˉkaː sɥˈkuˉmarunda sɥˈkumaraɲˉ joːni jaːˈramaˉʃi ʔi ˈʤiˉ naˈraːˉʃiba](子供は叱られると縮みこまるので、縮みこまらないように、優しく柔らかく叱って教えなさいよ)。スˈクˉマル　ˉクトー　ˈナーˉンダ　プˈスムˉシブカラー　スˈクˉマレー　ˉミサムヌ [sɥˈkuˉmaru ˉkɥtoː ˈnaːˉndaː pɥˈsumuˉʃibukaraː sɥˈkuˉmareː ˉmisamunu](うずくまることは無いから、一度ぐらいは蹲(ウズクマ)ればよいのに)。ˉクナーティ　スˈクˉマリ [ˉkunaːti sɥˈkuˉmari](此処で蹲れ)。スˈクマランˉドーシ　ˉキモー　マイˈマイˉシ　ˉムティ　ˈアーˉキ [sɥˈkumaranˉdoːʃi ˉkimoː maiˈmaiˉʃi ˉmuti ˈʔaːˉki](縮みこまらないで、度胸を大きくもって < 肝を大きく持って > いなさい < 歩きなさい >)。

スˈクˉミ [sɥˈkuˉmi] 【名】握り。掴(スク)み。スˈクˉムン [sɥˈkuˉmuŋ](握る) の連用形から転成した名詞形 (助数詞)。プˈススクˉミ [pɥˈsusɥkuˉmi](一握り)。フˈタスクミ [ɸɥˈtasɥkumi](二握り)。ˈミースクミ [ˈmiːsɥkumi](三握り)。ˈマイヌミーˉス　フˈタスクミˉ　スˈブˉリティ　ムˈタˉシバ [ˈmainumiːˉsu ɸɥˈtasɥkumiˉ suˈbuˉriti muˈtaˉʃiba](米味噌を二握り握って < 両手で絞って > 持たせてやりなさい)。

スˈクミ [sɥˈkumi] 【名】 1ˈ仕込み」の義。段取り。予行演習。リハーサル (rehearsal)。2構造。組み立て。若年層には、シˈクミ [ʃiˈkumi] という人もいる。豊年祭や結願祭にはブˈドゥル [buˈduru](踊り)、ˈキョンギン [ˈkjoŋgiŋ](狂言。演劇) の練習をするが、ˈバングˉバリ [ˈbaŋguˉbari](ˈ番配り」の義。番組配置。出演順序。プログラム。入子型演舞配置) に従って総仕上げの練習をすることをいう。西村、東村それぞれ極秘に、出し物が相手方に漏れないように警戒して練習した。昭和 30 年ごろまでは、スクミが近づくと、それぞれに相手方の番組を密かに内偵しあいながら演舞を競いあったものである。ˈプールゾーラキˉヌ　スˈクメーˉ　イˈチˉヤー [ˈpuːruʤoːrakiˉnu sɥˈkumeːˉ ʔiˈʧiˉjaː](豊年祭の奉納舞踊 < 上楽舞踊 > のリハーサル < シクミ > は何時ですか)。

スˈクˉムン [sɥˈkuˉmuŋ] 【他動】握る。握り締める。ˈジンˉバ　ˉティーナ　スˈクˉミティ　ˉタティ　ˈベー [ˈʤimˉba ˉtiːna sɥˈkuˉmiti ˉtati ˈbeː](お金を手に握って立っている)。ヤˈラˉベー　ノーˈンˉ　ティーナ　スˈクˉムンダ　スˈクマサンˉドーシ　ムˈタバˉシバ [jaˈraˉbeː noːˈnˉ tiːna sɥˈkuˉmunda sɥˈkumasan ˉdoːʃi muˈtabaˉʃiba](子供は何でも手に握り締めるから、握らせないでいじらせ < 弄らせ > なさいよ)。スˈクˉム　ˉピンマー　スˈクˉメー　ˉミサムヌ [sɥˈkuˉmu ˉpimmaː sɥˈkuˉmeː ˉmisamunu](手に握るときは握ればいいのに)。スˈクˉミ [sɥˈkuˉmi](握れ)。

スˈクムン [sɥˈkumuŋ] 【他動】仕組む。段取りをつける。組み立てる。構想をたてる。計画する。予行演習をする。ブˈドゥルキョンˉギン　スˈクミティ　キーˉク　ˈスンティ　ベーˉヌンドゥ　ブˈドゥル　シープスヌˉ　タˈラーヌˉ　スˈクマラヌ [buˈdurukjoŋˉgin sɥˈkumiti kiːˉku ˈsunti beːˉnundu buˈduru ʃiːpɥsunuˉ taˈraːnuˉ sɥˈkumaranu](踊り狂言 < 演劇 > を仕組んで稽古しようとしているが、踊りをする人が足りなくて仕組まれない)。スˈクムンティˉ　ウムーカー　ブˈドゥルシンカˉ　アˈツァˉミティ　スˈクメーˉ　ミサムヌ [sɥˈkumunˉti ˉʔumuːkaː buˈduruʃiŋkaˉ ʔaˈtsaˉmiti sɥˈkumeːˉ misamunu](仕組もうと思うなら踊り手を集めて仕組めばいいのに)。ス

ˈクム　プソー　パーˈク　スˈクミ [sṵˈkumu pṵsoː paːˈku suˈkumi](仕組む人は早く仕組め)。

スˈクヤマ [sṵˈkujama] 【名】奥山。ˈパイタˈヌ　スˈクヤマナーˈル　ˈキャーンギキーヤˈ　ヌˈカˈリ　ˈブー [ˈpaitaˈnu sṵˈkujamanaːˈru ˈkjaːŋgikiːjaˈ nuˈkaˈri ˈbuː](西表島の奥山にしか槇の木は残っていない < 山奥にぞ槇の木は残っている >)。

スˈクˈライ [sṵˈkuˈrai] 【名】繕い。拵え。スˈクˈラウン [sṵˈkuˈrauŋ](繕う。拵える) の連用形から転成した名詞。ˈキンˈヌ　スˈクˈライ　ˈスン [ˈkinˈnu sṵˈkuˈrai ˈsuŋ](着物の繕いをする)。ˈタークシˈライ　ˈスン [ˈtaːkuʃiˈrai ˈsuŋ](田拵え < 田の整地 > をする) のクˈシˈライ [kṵˈʃiˈrai] は、スˈクˈライ [sṵˈkuˈrai](繕い) の音位転倒 < メタテーゼ > したもとは関係ない。

スˈクライ [sṵˈkurai] 【名】ふり。ふう。ふりをすること。それらしくよそおうこと。スˈクˈライ [sṵˈkuˈrai](繕い) の意味転訛したもの。ˈビースクˈライ [ˈbiːsṵkuˈrai](酔ったふり)。ニˈビスクライ [niˈbisukurai](寝たふりをすること)。ˈウイプススクˈライ [ˈʔuipususṵkuˈrai](老人のふりをすること)。ウˈブプススクˈライ [ʔuˈbupusṵsuˈkurai](大人のふりをすること。大人ぶること)。プˈリスクライ [pṵˈrisukurai](気違いのふりをすること)。ˈヤンスクˈライ [ˈjansṵkuˈrai](病人のふりをすること < 病み繕い >)。ニˈビスクライバ　シーベーˈティ　ムーˈルˈ　シˈケーンˈダー [niˈbisṵkuraiba ʃiːbeːˈti muːˈruˈ ʃi̥ˈkeːnˈdaː](寝たふりをして全部聞いてあるよ)。

スˈクライˈキン [sṵˈkuraiˈkiŋ] 【名】繕った着物。補修した着物。ぼろ着。ˈクーシˈキン [ˈkuːʃiˈkiŋ](継ぎ接ぎした着物。継ぎ当てをした着物) というのが普通。スˈクライˈキン　ヤˈルヌˈ　アˈライサラシˈ　アˈザケーアザケーˈシ　キˈシェーˈティ　ˈアーˈクン [sṵˈkuraiˈkiɲ jaˈrunuˈ ʔaˈraisaraʃiˈ ʔadʑaˈkeːʔadʑakeːˈʃi ki̥ˈʃeːˈti ˈʔaːˈkuŋ](あちこち継ぎ当てした着物だが、洗い晒して清潔に着ている < 着てあるく > よ)。

スˈクライッˈクル [sṵˈkuraikˈkuru] 【名】拵え糟。拵えた後のくず。本物を選び取った残り屑。-ッˈクル [-kˈkuru](残り屑。殻) は中身のない、価値のないものを表す接尾語。マˈミナーˈヌ　スˈクライッˈクル [maˈminaːˈnu sṵˈkuraikˈkuru](萌やしを拵えた残り屑。繕いくず)。

スˈクˈラウン [sṵˈkuˈrauŋ] 【他動】繕(ツクロ)う。着物の破れを繕う。拵える。網の破れを直す。補修する。「修理・繕・整、ツクロフ『類聚名義抄』」の義。ˈアンˈヌ　ˈヤリ　スˈクˈラウンティ　ˈベーˈヌ　クˈレー　バンˈマー　スˈクラーララヌ [ˈʔanˈnu ˈjari sṵˈkuˈraunti ˈbeːˈnu kuˈreː bamˈmaː sṵˈkuraːraraˈnu](網の破れを繕おうとしているが、これは私には繕えない)。スˈクˈライ　ˈミサカー　ˈパーˈク　スˈクライˈヤー　ˈミサムヌヌ　スˈクˈラウ　プˈスヌˈ　ブˈラーヌ [sṵˈkuˈrai ˈmisakaː ˈpaːˈku sṵˈkuraiˈjaː ˈmisamununu sṵˈkuˈrau pṵˈsunuˈ buˈraːnu](繕ってよければ早く繕えばよいものを、繕う人がいないのだ)。ヤˈリˈアン　スˈクˈライバ [jaˈriˈʔan sṵˈkuˈraiba](破れた網を繕えよ)。ピˈルヌˈ　ピˈニˈ　スˈクˈライティ　ピˈルザキˈ　シˈキˈバ [piˈrunuˈ piˈniˈ sṵˈkuˈraiti piˈrudʑakiˈ ʃi̥ˈkiˈba](大蒜の鬚を取り拵えて大蒜酒に漬けなさい)。

スˈクˈリ [sṵˈkuˈri] 【名】作り。耕作。農耕。マˈナˈマー　スˈクリˈヌ　ˈパンタルˈ　ヤˈルムヌ　マーˈル　パˈラリˈワ [maˈnaˈmaː sṵˈkuriˈnu ˈpantaruˈ jaˈrumunu maːˈru paˈrariˈwa](今は農繁期 < 農耕の繁多な時期 > だのに、一体全体どこへ行けるものか)。ˈマイスクリザイˈル　ˈナル　ビˈチˈヌ　ˈクトー　ˈカンガーラˈヌ [ˈmaisukuridʑaiˈru ˈnaru biˈtʃiˈnu ˈkṵto: ˈkaŋgaːraˈnu](稲作に没頭するだけしかできない。他のことは考えられない)。

スˈクリˈカイ [sṵˈkuriˈkai] 【名】改築。作り変え。クˈヌ　ヤーˈヤ　スˈクリˈカイ　サˈバルˈ　ナルカヤー [kuˈnu jaːˈja sṵˈkuriˈkai saˈbaruˈ narukajaː](この家は改築 < 作り変え > しないといけないのかなあ)。

スˈクリカイˈルン [sṵˈkurikaiˈruŋ] 【他動】作り変える。改築する。ッˈふˈヤー　ˈクーˈシティ　スˈクリカイˈルンティ　ウˈムーンˈドゥ　マˈナˈマー　スˈクリカイララˈヌ [fˈfuˈjaː ˈkuːˈʃi̥ti sṵˈkurikaiˈrunti ʔuˈmuːnˈdu maˈnaˈmaː sṵˈkurikairaˈranu](古い家を壊して作り変えようと思うのだが、今は作り変えられない)。

スˈクリˈカタ [sṵˈkuriˈkata] 【名】作り方。イˈガジーヌˈ　スˈクリˈカタ　ナˈラーˈソーリ [ʔiˈgadʑiːnuˈ sṵˈkuriˈkạta naˈraːˈsoːri](餌木の作り方を教えてください)。

スˈクリカンˈティ [sṵˈkurikanˈti] 【名】作るのに苦労すること。「作り兼ねて」の義。ˈカンˈティ [ˈkanˈti](～かねて。～することが難しい。～することが出来ない) は、他の動詞の連用形に付いて、「不可能、困難、躊躇」などの意味を表す接尾語。「～流るる涙　等騰未可祢都母 < トドミカネツモ >。

万、4160」の義。ウˈリˈ　スˈクˈルカー　イˈザランカヤーティˈ　ウˈムイˈル　スˈクリカンˈティ　ˈシー　ベー [ʔuˈriˈ sɯ̥ˈkuˈruka: ʔiˈʤaraŋkaja:tiˈ ʔuˈmuiˈru sɯ̥ˈkurikanˈti: ˈʃi: be:](それを作ると叱られはせぬかと思って、作りかねて＜作ることが出来ないで＞いる)。

スˈクリˈナキ [sɯ̥ˈkuriˈnaki] 【名】そら泣き。嘘泣き。泣き真似。「作り泣き」の義。ウˈリヌˈ　ナˈケー　ソーナケーˈ　アˈラˈヌ　スˈクリナキˈル　ヤˈリバ　ソースナˈ　シˈティシキˈリ [ʔuˈrinuˈ naˈke: so:nake:ˈ ʔaˈraˈnu sɯ̥ˈkurinakiˈru jaˈriba so:sunaˈ ʃi̥ˈtiʃi̥kiˈri](あの子＜あれ＞の泣きは本当の泣き方ではない。嘘泣き＜作り泣き＞だから心配するな。ほっておきなさい)。

スˈクリˈバキ [sɯ̥ˈkuriˈbaki] 【名】小作の一種。田畑を地主から借りて耕作し、収穫を地主と小作人が折半すること。「作り分け」の義。ˈジーマシˈヌ　ˈナーンˈ　プˈソーˈ　スˈクリˈバキ　ˈシールˈ　ッˈふァーˈ　スˈダˈトーッタ [ˈʤi:maʃiˈnu ˈna:mˈ pɯ̥ˈso:ˈ sɯ̥ˈkuriˈbaki ˈʃi:ruˈ fˈfa:ˈ suˈdaˈto:tta](土地財産のない人は小作＜作り分け＞をして子供を育てられた)。

スˈクリパナˈシ [sɯ̥ˈkuripanaˈʃi] 【名】嘘。虚言。「作り話」の義。スˈクリˈムニ [sɯ̥ˈkuriˈmuni](嘘) ともいう。ウˈレー　ソーパナシェーˈ　アˈラˈヌ　スˈクリパナˈシˈダー [ʔuˈre: so:panaʃe:ˈ ʔaˈraˈnu sɯ̥ˈkuripanaˈʃiˈda:](それは真実ではない。嘘だよ)。

スˈクリˈバライ [sɯ̥ˈkuriˈbarai] 【名】作り笑い。そら笑い。おかしくもないのにわざと笑うこと。ˈクンˈゾー　ウˈクリˈ　ブタンドゥ　ナーˈイˈ　スˈクリバライˈバ　ˈシー　ヌンガーラシˈタ [ˈkunˈʤo: ʔuˈkuriˈ butandu naːˈjiˈ sɯ̥ˈkuriˈbarai ˈʃi: nuŋga:raʃi̥ˈta](怒って＜根性が怒って＞いたが、ただ作り笑いをして許してやった)。

スˈクリパンˈタ [sɯ̥ˈkuripanˈta] 【名】農繁期。「作り繁多」の義。作物の植え付けや収穫の繁忙期。この時期はˈユイマール [ˈjuima:ru](結い回り。共同作業) で乗り切るのが習慣であった。稲作の場合、山裾の田 (山田) や原野の田圃、川べりの田圃のように、所在地によって生育時期が少し異なる。その時間差を利用して植え付けの日をずらしてユイマールの作業を組んだ。スˈクリパンˈタナー　ビˈチˈヌ　ˈユーˈゾー　ナˈラˈヌ [sɯ̥ˈkuripanˈtana: biˈʧiˈnu ˈju:ˈʤo: naˈraˈnu](農繁期には他の行事＜用事＞はできない)。

スˈクリˈプス [sɯ̥ˈkuriˈpɯ̥su] 【名】農夫。百姓。「作り人」の義。農耕に従事する人。パˈトゥˈマプソームーˈルˈ　スˈクリプスˈル　ヤˈローッタˈル [pa̠ˈtuˈ mapɯ̥so: mu:ˈruˈ sɯ̥ˈkuripɯ̥suˈru jaˈro:ttaˈru](鳩間の人は皆百姓で＜ぞ＞あられたよ)。ˈバンˈテヌ　ˈアチャーン　スˈクリˈプス [ˈbanˈtenu ˈʔatʃa:n sɯ̥ˈkuriˈpɯ̥su](我が家の父も農夫です)。

スˈグリプス [suˈguripɯ̥su] 【名】優れた人。傑物。ˈヤイマーˈラー　スˈグリプソーˈ　ギュˈタールˈ　ンˈゾーˈレーワ [ˈjaima:ˈra suˈguripɯ̥so:ˈ gjuˈta:ruˈ ʔnˈʤo:ˈre:wa](八重山から優れた人物は何人出られたか)。

スˈクリˈフチ [sɯ̥ˈkuriˈɸɯ̥ʧi] 【名】畑や田。農作をする所。耕作して生活を支える田畑。「作り口」の義。スˈクリフチˈヌ　アˈローˈル　ˈヤーˈヤ　ˈソーヤ　ナーˈヌ [sɯ̥ˈkuriɸɯ̥ʧiˈnu ʔaˈroːˈru ˈja:ˈja ˈso:ja naːˈnu](農耕をする田畑のあられる家は心配はない)。

スˈクリˈムニ [sɯ̥ˈkuriˈmuni] 【名】いつわり。嘘。虚言。「作りもの言い」の義。無いことをあるかの如くに言うこと。スˈクリˈムニ　アˈズˈカー　シˈベーˈラ　ˈンジ　ˈキーˈスンダ　スˈクリˈムネー　アˈズナ [sɯ̥ˈkuriˈmuni ʔaˈʤuˈka: ʃiˈbe:ˈra ˈʔnʤi ˈki:ˈsunda sɯ̥ˈkuriˈmune: ʔaˈʤuna](虚言＜いつわり＞を言うと後から分かる＜ぼろが出てくる＞から、嘘偽りは言うな)。

スˈクリˈムヌ [sɯ̥ˈkuriˈmunu] 【名】1作物。農作物。作り物。ˈイニ [ʔini](稲)、ˈマイ [ˈmai](米。稲のこと)、ˈムン [ˈmuŋ](麦)、ˈアー [ˈʔa:](粟)、ˈマミ [ˈmami](豆)、アˈガマミ [ʔaˈgamami](小豆、赤豆)、クˈマミ [kuˈmami](緑豆)、ˈトーˈフマミ [ˈto:ˈɸumami](大豆)、ˈウン [ˈʔuŋ](芋) などがある。ムˈヌスクˈル [muˈnusɯ̥kuˈru](作物。作りもの) ともいう。クˈトゥシェーˈ　カˈジヌˈ　フˈカンˈダー　スˈクリˈムノー　イッˈケナ　ナウˈレーン [kɯ̥ˈtuʃe:ˈ kaˈʤinuˈ ɸɯ̥ˈkanˈda: sɯ̥ˈkuriˈmuno: ʔikˈkena nauˈre:ŋ](今年は台風が吹かないから稲＜作物＞は非常によく稔っている)。2にせもの＜偽物＞。贋作。クˈレー　ソームノーˈ　アˈラˈヌ　スˈクリムヌˈル　ヤˈル [kuˈre: so:munoːˈ ʔaˈraˈnu sɯ̥ˈkurimunuˈru jaˈru](これは本物ではない。にせもの＜作り物。贋作＞である)。

スˈグリムヌ [suˈgurimunu] 【名】優れた者。傑物。「優れ者」の義。ˈカイブ　スˈグリムノーˈ　ヨーˈニˈ＜ˈミッˈタニ＞　ンˈジラˈヌ [ˈkaibu suˈgurimunoːˈ jo:ˈniˈ＜ˈmitˈtani＞ ʔnˈʤiraˈnu](こんな傑物はなかなか出ないものだ)。ˈウンˈネナー　スˈグリムヌヌ

オーッˈタンツォー [ˈʔunˈnena: suˈgurimununu ʔo:tˈtantso:](その家に傑物 < 優れた人 > がおられたそうだ)。

スˈクリムヌˈヌ　ˈソーˈジ [sṵˈkurimunuˈnu ˈso:ˈʤi] 【連】作物 (特に稲作) の病虫害駆除の祈願 (精進)。稲の葉腐れ (いもち病) やイナゴなどの虫除けの祈願を、パˈマウリソーˈジナール　スˈクリムヌˈヌ　ˈソーˈジェー　ˈソーッˈタ [paˈmaʔurisoːˈʤina:ru sṵˈkurimunuˈnu ˈso:ˈʤe: ˈso:tˈta](浜下り精進の祭祀で農作物 < 稲作 > の病虫害駆除の祈願は精進潔斎をしてなされたものだ)。

スˈクリムヌˈヌ　パˈチ [sṵˈkurimunuˈnu paˈʧi] 【連】作物の初生(ハツナ)り。神仏に捧げる祀る稲粟麦の初穂、初生り。スˈクˈマナー　ピˈナカンヌˈマイ　スˈクリムヌˈヌ　パˈチバ　オーシタル [sṵˈkuˈmana: piˈnakannuˈmai sṵˈkurimunuˈnu paˈʧiba ʔo:ʃi̥taru](稲の初穂祭に、火の神様に稲の初穂 < 作物の初生り > を奉納したものだ)。ˈオースン [ˈʔo:suŋ](差し上げる)。

スˈクリヤッˈサン [sṵˈkurijasˈsaŋ] 【連】作りやすい。動詞スˈクˈルン [sṵˈkuˈruŋ](作る) の連用形に補助形容詞ˈヤッˈサン [ˈjasˈsaŋ](～易い) が下接して形成された派生形容詞。ˈドーングヌˈサーギ　ˈカナイ　ˈブーカー　ノーˈンˈ　スˈクリヤッˈサン [ˈdo:ŋguˈnusa:giˈkanai ˈbu:ˈka: no:ˈnˈ sṵˈkurijasˈsaŋ](道具がさえ揃って < 適って > いたら何でも作りやすい)。

スˈクリˈヤビ [sṵˈkuriˈjabi] 【名】作り損ない。スˈクリˈヤビ　ˈシェーˈモー　シˈティリ [sṵˈkuriˈjabi ˈʃe:ˈmo: ʃi̥ˈtiri](作り損ねしたもの < 作り損ない > は捨てなさい)。

スˈグリルン [suˈguriruŋ] 【自動】優れる。他より優る。ぬきんでる。ウˈヌˈ　アˈタˈルシ　プˈソーˈラ　スˈグリルンティˈ　ウˈムーˈナ [ʔuˈnuˈ ʔaˈtaˈruʃi pṵˈso:ˈra suˈgurirunti ʔuˈmu:ˈna](この程度で他人より優れるとは思うな)。プˈソーˈラ　スˈグリルˈ　クトー　ˈナーˈヌ [pṵˈso:ˈra suˈguriruˈ kṵto: ˈna:ˈnu](他人より優れることはない)。

スˈクˈルン [sṵˈkuˈruŋ] 【他動】作る。造る。「～讃めて豆久礼留 < ツクレル >～。万、4342」の義。ˈヤー　スˈクˈルンティ　ˈオールンˈドゥ　パˈラーˈヌ　タˈラーヌˈ　スˈクララˈヌ [ˈja: sṵˈkuˈrunti ˈʔo:runˈdu paˈra:ˈnu taˈra:nuˈ sṵˈkurara ˈnu](家を造ろうとしておられるが、柱が足りなくて造られない)。ˈヤー　スˈクリˈ　プサカー　ˈパーˈク　スˈクˈリ [ˈja: sṵˈkuriˈ pṵsaka: ˈpa:ˈku sṵˈkuˈri](家を造りたければ、早く造れ)。ˈヤー　スˈクˈル　プˈソー　パーˈク　スˈクˈレー　ˈミサムヌ [ˈja: sṵˈkuˈru pṵˈso: pa:ˈku sṵˈkuˈre: ˈmisamunu](家を造る人は早く造ればいいのに)。2耕作する。ˈマイˈ　スˈクˈルン [ˈmaiˈ sṵˈkuˈruŋ](稲を作る < 栽培する >)。

ˈスクン [ˈsṵkuŋ] 【他動】1命名する。つける。ˈナーˈスクン [ˈna:ˈ sṵkuŋ](名前をつける)。マˈダ　ナーˈ　シゥˈカˈヌ [maˈda na:ˈ si̥ˈkaˈnu](まだ名前をつけない)。ˈナーˈ　シˈキˈプサン [ˈna:ˈ ʃi̥ˈkiˈ pṵsaŋ](名前をつけたい)。ˈナーˈ　スク　プˈス [ˈna:ˈ sṵku pṵˈsu](名前をつける人)。ˈナーˈ　シケー　ˈミサムヌ [ˈna:ˈ ʃi̥ke: ˈmisamunu](名前をつければ良いのに)。ˈナーˈ　シキバ [ˈna:ˈ ʃi̥kiba](名前をつけなさいよ)。2備える。シゥˈカラˈ　シキ [si̥ˈkaraˈ ʃi̥ki](力をつけなさい)。3ˈキーˈ　シˈキˈリ [ˈki:ˈ ʃi̥ˈkiˈri](気をつけろ)。4点灯する。ˈトゥーˈル　ˈシキバ [ˈtu:ˈru ʃi̥kiba](ランプを点灯しなさい)。5染める。塗る。カˈマブクˈナー　アˈガイルˈ　スクン [kaˈmabukuˈna: ʔaˈgairuˈ sṵkuŋ](蒲鉾に赤色を染める < つける >)。6到着する。ˈフネー　ˈナンˈジナ　スˈクˈワー [ˈɸune: ˈnanˈʤina sṵˈkuˈwa](船は何時に到着する < 着く > か)。

スˈクン [sṵˈkuŋ] 【他動】1漬ける。イˈズバ　マーˈスナ　スˈクタンˈドゥ　マˈダˈ　シゥˈカラヌ [ʔiˈʤuba ma:ˈsuna sṵˈkutanˈdu maˈdaˈ si̥ˈkaranu](魚を塩漬けした < 塩に漬けた > が、まだ漬からない)。シˈキˈ　プサン [ʃi̥ˈkiˈ pṵsaŋ](漬けたい)。ˈマーˈスナ　スˈクン [ˈma:ˈsuna sṵˈkuŋ](塩につける)。ˈマーˈスナ　シˈケーˈ　ミサムヌ [ˈma:ˈsuna ʃi̥ˈke:ˈ misamunu](塩に漬ければ良いのに)。ˈマーˈスナ　シˈキˈバ [ˈma:ˈsuna ʃi̥ˈkiˈba](塩に漬けなさい)。2浸す。ムˈチマイヤーˈ　ミˈジˈナ　シˈキˈバ [muˈʧimaija:ˈ miˈʤiˈna ʃi̥ˈkiˈba](糯米は水に浸けなさい)。

スクン [sṵkuŋ] 【他動】鍋を火にかける。竈に掛ける。

ˈスクン [ˈsṵkuŋ] 【他動】置く。物をそのままの位置にとどめる。「付く」の義か。「～家の妹が着せし衣に　阿加都枳爾迦理 < アカツキニカリ >。万、4388」の「ツキ (都枳)」の転訛したもの。ˈニーˈヤ　ˈウナー　ˈスクンティ　ウˈムータンˈドゥ　シゥˈカランˈシェン [ˈni:ˈja ˈʔuna: ˈsṵkunti ʔuˈmu:tanˈdu si̥ˈkaraŋˈʃeŋ](荷物はそこに置こうと思ったが置かれなかった)。マーˈンˈナーン　ˈシキミサカー　ˈクナーン　ˈスク　ˈクトー　ナˈルˈヌ　ˈカナー　ˈシ

ケー　˥ミサムヌ [maːˈn˥naːŋ ˥ʃi̥ki ˥misakaː ˥kunaːn ˥su̥ku ˥ku̥toː naˈru˥nu ˥kanaː ˥ʃi̥keː ˥misamunu](どこにでも置いてよければ此処にも置くことは出来るが、あそこに置けばよいのに)。ヤーˈディン˥　クナー　˥シキ [jaːˈdiŋ˥ kunaː ˥ʃi̥ki](必ず此処に置け)。

˥スクン [˥su̥kuŋ] 【他動】好く。好む。好きになる。若年層の言葉。老年層は、クˈヌ˥ムン [kuˈnu˥muŋ](好む) という。ウˈモーン˥　プˈスン˥　シゥˈカ˥リティル＜ウˈモー˥リティル＞　ˈピン˥ギ　˥パレール [ʔuˈmoːm˥ pu̥ˈsun˥ si̥ˈka˥ritiru＜ʔuˈmoː˥ritiru＞ ˈpiŋ˥gi ˥pareːru](思わない＜好きになれない＞人に好かれて逃げて行ったのだよ)。タˈバ˥コー　ˈナン˥ゾー　シゥˈカ˥ヌ　サˈキ˥ル　˥シキ [taˈba˥koː ˈnan˥ʤoː si̥ˈka˥nu sḁˈkiru˥ ʃi̥ki](煙草はあまり好まない。酒が好きだ)。˥カイブ　ッˈふァイムヌ˥　スクンカヤー [˥kaibu fˈfaimunu˥ su̥kuŋkajaː](こんな食べ物を好むかねえ)。

˥スクン [˥su̥kuŋ] 【自動】1着く。到着する。˥フネー　イˈチ˥　スˈク˥ワ [˥ɸuneː ʔiˈʧi˥ su̥ˈku˥wa](船はいつ着くか)。˥キュー　˥スクンティ　スˈクタヌ˥　マˈダ˥　シゥˈカ˥ヌ [˥kjuː ˥su̥kunti su̥ˈkutanu˥ maˈda˥ si̥ˈkam˥baŋ](今日到着すると聞いたが、まだ着かないよ)。˥クマー　˥フネー　シˈキヤッ˥サン [˥kumaː˥ ɸuneː ʃi̥ˈkijas˥saŋ](ここは、船は着き＜接岸し＞やすい)。ˈパー˥ク　˥シケー　˥ミサムヌ [ˈpaː˥ku ˥ʃi̥keː ˥misamunu](早く着けたら＜接岸すれば＞良いのに)。˥フネー　˥クナー　シˈキ˥リ [˥ɸuneː ˥kunaːʃi̥ˈki˥ri](船はここに着け＜接岸し＞ろ)。2点く。点火する。ˈピー˥ヤ　˥シケーン [ˈpiː˥ja ˥ʃi̥keːŋ](火は点けた)。3なつく＜懐く＞。クˈヌ˥　ッˈふァー　ピッ˥チン　˥ウヤナー　シゥˈカ˥ヌ [kuˈnu˥ fˈfaː pit˥ʧiŋ ˥ʔujanaː si̥ˈka˥nu](この子はちっとも親に懐かない)。

スˈクン [su̥ˈkuŋ] 【他動】1突く。突き刺す。˥グサン　スˈクン [˥gusan su̥ˈkuŋ](杖をつく)。˥グサン　シゥˈカンドー˥シ　アˈラ˥キ [˥gusan si̥ˈkandoː˥ʃi ʔaˈra˥ki](杖を突かないで歩け)。イˈズ˥　スˈクン [ʔiˈʤu˥ su̥ˈkuŋ](魚を銛で突く)。˥タコー　˥ユクンシ　シˈキティ˥　アナーラ　ンˈザ˥シ [˥takoː ˥jukuŋʃi ʃi̥ˈkiti˥ ʔanaːra ʔnˈʤa˥ʃi](蛸は銛(モリ)で突いて穴から出せ)。˥タク　スˈク˥　ピンマー　˥ガルユクンシ　シˈキ˥バ [˥tą̥ku su̥ˈku˥ pimmaː ˥garujukuŋʃi ʃi̥ˈki˥ba](蛸を突く時は鉤のある銛で突けよ)。˥タク　シˈケー˥　ミサムヌ [˥tą̥ku ʃi̥ˈkeː˥ misamunu](蛸を突けば良いのに)。˥ユクンシ　イˈズ˥　スˈクン [˥jukuŋʃi ʔiˈʤu˥ su̥ˈkuŋ](銛で魚を突く)。イˈゾー˥　シゥˈカンドー˥シ　スˈクイ˥バ [ʔiˈʤoː˥ si̥ˈkandoː˥ʃi su̥ˈkui˥ba](魚は突かないで掬いなさいよ)。˥ユクンシ　シˈキ˥ミサカー　スˈク˥　クトー　˥ナルン [˥jukuŋʃi ʃi̥ˈki˥misaka: su̥ˈku˥ ku̥toː ˥naruŋ](銛で突いてよければ突くことは出来る)。˥ユクンシ　シˈケー˥　ミサムヌ [˥jukuŋʃi ʃi̥ˈkeː˥ misamunu](銛で突けばいいのに)。˥ユクンシ　シˈキ˥バ [˥jukuŋʃi ʃi̥ˈki˥ba](銛で突けよ)。2印鑑を押す。捺印する。型押し器具＜金具＞で銭型を押す。ˈナーヌ˥　アトゥナ　ˈパン˥　シˈキ˥バ [ˈnaːnu˥ ʔatuna ˈpaŋ˥ ʃi̥ˈki˥ba](名前の後に印鑑を押せ＜捺印せ＞よ)。カˈビシキンガニ˥シ　ウˈティン˥ガビ　シˈキ˥バ [kaˈbiʃi̥kiŋgani˥ʃi ʔuˈtiŋ˥gabi ʃi̥ˈki˥ba](紙銭突き金＜金具＞で紙銭の型を押せよ)。

スˈクン [su̥ˈkuŋ] 【他動】髪を梳(ス)く。梳(クシケズ)る。カˈトーシ˥シ　ガˈマ˥ジ　スˈクン [ką̥ˈtoːʃi˥ʃi gaˈma˥ʤi su̥ˈkuŋ](目の細かい櫛で髪を梳る)。

スˈクン [su̥ˈkuŋ] 【他動】鉋で薄くけずる。鉋掛けする。カˈナ˥　シˈキ˥バ [kaˈna˥ ʃi̥ˈki˥ba](鉋を掛けなさい)。カˈナ˥　スˈクンティ　ベー˥ヌンドゥ　ˈコー˥ヌ　シゥˈカラヌ [kaˈna˥ su̥ˈkunti beː˥nundu ˈkoː˥nu si̥ˈkaranu](鉋を掛けようとしているが、堅くて鉋掛け出来ない)。クˈマン˥トン　カˈナ˥シ　シˈキ [kuˈman˥toŋ kaˈna˥ʃi ʃi̥ˈki](此処のところを鉋で削れ)。カˈナ˥シ　スˈク˥　プˈソー˥　シˈケー˥　ミサムヌ [kaˈna˥ʃi su̥ˈku˥ pu̥ˈsoː˥ ʃi̥ˈkeː˥ misamunu](鉋で削る＜鉋かけする＞人は削れば＜鉋掛けすれば＞良いのに)。

˥スクン [˥su̥kuŋ] 【補動】～＜して＞おく。˥カキスクン [˥ką̥kisukuŋ](書いておく)。˥パギスクン [˥pagisukuŋ](剥いでおく)。ˈシー˥スクン [ˈʃiː˥su̥kuŋ](しておく)。˥ユミスクン [˥jumisu̥kuŋ](読んでおく)。˥トゥリスクン [˥turisu̥kuŋ](取っておく)。˥クベー˥トゥリシキバ [˥kubeː ˥turiʃi̥kiba](これだけは取っておきなさいよ)。˥トゥリ　シゥˈカン˥タンティン　˥ミサン [˥turi si̥ˈkan˥tantim ˥misaŋ](取っておかなくても良い)。˥クベー　˥カキ　シˈキ˥リ [˥kubeː˥ ką̥ki ʃi̥ˈki˥ri](これだけは書いておきなさい)。˥カキ　˥スク　˥クトゥ [˥ką̥kisu̥ku ˥ku̥tu](書いておくこと)。˥キュー　カキシゥˈカン˥カー　˥アツァー　カˈカラ˥ヌ [˥kju: ką̥ki ˥si̥ˈkaŋ˥ka: ˥ʔatsa: ką̥ˈkara˥nu](今日書いておかないと明日は書けない)。

スˈクン [su̥ˈkuŋ] 【他動】敷く。物を平にのべ広げる。「～直土に藁解敷而　父母は～『万葉集　892』」

の義。ˈムス　スˈクンティ　ベーˈヌンドゥ　シゥˈカランバˈ　シˈキˈ　プサ　プˈソーˈ　ドゥーシ　シˈキˈバˈヨー [ˈmusu sʉˈkunti beːˈnundu sʲˈkambaˈ ʃʲˈkiˈ pʉsa pʉˈsoːˈ duːʃi ʃʲˈkiˈbaˈjoː](蓆を敷こうとしているが、敷かれないから、敷きたい人は自分で敷けよねえ)。ˈムス　スˈクˈ　プˈソー　パーˈク　シˈケーˈ　ミサムヌ [ˈmusu sʉˈkuˈ pʉˈso: paːˈku ʃʲˈkeːˈ misamunu](蓆を敷く人は、早く敷けばよいのに)。

スˈクン [sʉˈkuŋ]【他動】供える。供物を神仏に供える。ˈグシパナン　ˈシームヌンˈ　スˈクン [ˈguʃipanaŋ ˈʃiːmununˈ sʉˈkuŋ](神酒や花米も吸い物も供える)。

スˈクン [sʉˈkuŋ]【自動】効く。有効に働く。クˈヌˈ　フˈチˈロー　バˈタˈヌヤンナー　スˈクンティˈ　シˈタヌˈ　ギューˈサˈ　ヌˈムˈタンティン　シゥˈカンバˈ　スˈクˈ　フˈチˈル　ˈトゥミ　ˈクー [kuˈnuˈ ɸʉˈʧiˈro: baˈtaˈnujanna: sʉˈkuntiˈ ʃʲˈtanuˈ gjuːˈsaˈ nuˈmuˈtantiŋ sʲˈkambaˈ sʉˈkuˈ ɸʉˈʧiˈru ˈtumi ˈkuː](この薬は腹痛＜腹の病＞に効くといったが、いくら飲んでも効かないから効く薬を探して来なさい)。シˈキ　パヤーˈン [ʃʲˈki pajaːˈŋ](効き早い。即効である)。プˈスˈシジシン　シˈケーˈ　ミサムヌ [pʉˈsuˈʃiʤiʃiŋ ʃʲˈkeːˈ misamunu](一粒で効けばよいのに)。シˈキ [ʃʲˈki](効け)。

スˈクン [sʉˈkuŋ]【他動】1聞く。ˈアッパー　ˈウタ　スˈクンティ　クータンˈドゥ　シゥˈカンドーˈシ　ˈパリ　ˈナーˈヌ [ˈʔappaː ˈʔuta sʉˈkunti kuːtan ˈdu sʲˈkandoːˈʃi ˈpari ˈnaːˈnu](お祖母さんの歌を聞こうとして来たけれども、聞かずに行ってしまった)。ˈウタ　シˈキˈプサカー　スˈク　プスˈ　アˈツァˈミ　ˈキー　マーˈズンˈシ　シˈキˈバ [ˈʔuta ʃʲˈkiˈ pʉsakaː sʉˈku pʉsuˈ ʔaˈtsaˈmi ˈkiː maːˈʤuŋˈʃi ʃʲˈkiˈba](歌を聞きたければ、聞く人を集めてきて一緒に聞けよ)。ˈパーˈク　シˈケーˈ　ミサムヌ [ˈpaːˈku ʃʲˈkeːˈ misamunu](早く聞けばよいのに)。2理解する＜聞ける＞。ウˈラーンタˈムニ　シˈキシェーン [ʔuˈraːntaˈmuni ʃʲˈkiʃeːŋ](英語＜オランダ語＞が理解できるか＜聞けるか＞)。3聞き入れる。承諾する。従う。ˈバー　ˈムネー　スˈクヌˈ　プˈスヌˈ　ムネー　イッˈカˈ　シˈカンバン [ˈbaː ˈmuneː sʉˈkunuˈ pʉˈsunuˈ muneː ʔikˈkaˈ sʲˈkambaŋ](私の言う事は聞く＜従う＞が、他人のいうことは一向に聞かない＜承諾しない。従わない＞)。

スˈクン [sʉˈkuŋ]【他動】網を編む。網状のものを編む。繕(ツクロ)う。「すく(結く)、皇軍、葛＜かずら＞の網を結＜す＞きて『日本書紀　神武即位前』」の義。ˈアンシキˈパルシ　ˈアンˈヌ　ˈヤレーントン　スˈクンティ　ベー [ˈʔaŋʃikiˈparuʃi ˈʔanˈnu ˈjareːnton sʉˈkunti beː](網すき針で網の破れたところを編んでいる)。ˈアン　シˈキ　ッふィーリ [ˈʔaŋ ʃʲˈki ffːri](網の破れを編んで＜繕って＞くれ)。クˈリˈシェー　シゥˈカラヌ [kuˈriˈʃeː sʲˈkaranu](これでは編めない)。ˈアン　スˈク　プス [ˈʔaŋ sʉˈku pusu](網を編む人)。シˈケーˈ　ミサムヌ [ʃʲˈkeːˈ misamunu](編めばよいのに)。ˈアン　シˈキˈバ [ˈʔaŋ ʃʲˈkiˈba](網の破れを編めよ)。

ˈスコー [ˈsʉko:]【助】～ほどは。～ぐらいは。副助詞ˈスク [sʉku](ほど。ぐらい)に取り立ての係助詞ヤ [ja]が付いて音韻変化した形。程度を表す。ˈワーンˈスコー　ˈモーˈキ　ˈサヌ [ˈwaːnˈsʉko: ˈmoːˈki ˈsanu](君ぐらいは儲けきれない)。ターˈン　ワーˈスコー　ˈシーユーサヌ [taːˈŋ waːˈsʉko: ˈʃiːjuːsanu](誰も君ぐらい＜君ほど＞することが出来ない)。

ˈスコー [ˈsʉko:]【名】準備。用意。心構え。心づもり。スˈコール [sʉˈkoːru](準備。用意)の語尾「ル」の脱落した形。ˈキューズーナー　ˈパル　ˈスコー　ˈシーベー [ˈkjuːʤuːna: ˈparu ˈsʉko: ˈʃiːbeː](今日中に行く準備をしている)。

スˈコール [sʉˈko:ru]【名】準備。支度。用意。イˈソーˈ　スˈコール [ʔiˈsoːˈ sʉˈkoːru](出漁準備)。ブˈドゥルˈ　スˈコール [buˈduruˈ sʉˈkoːru](踊り支度)。ウˈキナーˈタベーヌ　スˈコーローˈ　ナレーンカヤー [ʔuˈkinaːˈtabeːnuˈ sʉˈkoːroːˈ nareːŋkajaː](沖縄への旅の支度は出来たかなあ)。

スˈコール　スン [sʉˈko:ru suŋ]【連】準備をする。イˈガメーヌˈ　スˈコール　スンティ　ベー [ʔiˈgamameːnuˈ sʉˈkoːru sunti beː](イカ釣り漁の準備をしようとしている)。

スˈコールン [sʉˈko:ruŋ]【他動】準備する。用意する。拵える。「こしらふ＜拵ふ＞」の音位転倒したもの。ˈニンガイˈムヌ　スˈコールンティ　ベーンˈドゥ　ˈタンガˈシェー　スˈコーララランバ　ワンヌンˈ　キー　スˈコーリ　ッふィーリ [ˈniŋgaiˈmunu sʉˈkoːrunti beːnˈdu ˈtaŋgaˈʃeː sʉˈkoːraramba wannuŋˈ kiː sʉˈkoːri ffːri](祈願用の供物を拵えようとしているが、一人では拵えられないから君も来て拵えてくれ)。ˈニンガイˈムヌ　スˈコールˈ　プˈソー　パーˈク　スˈコーレーˈ　ミサムヌ [ˈniŋgaiˈmunu sʉˈkoːruˈ pʉˈso: paːˈku sʉˈkoːreːˈ misamunu](供物を拵える人は)。ˈワーˈ　スˈコーリˈバ [ˈwaːˈ sʉˈkoːriˈba](君が拵えよ)。

˥スシ [˥suʃi] 【名】すし (鮨)。標準語からの借用語。昔はなかった。戦後になって一般に食されるようになった。戦前、鳩間島で鮨飯を作って島の老人に試食させたところ、「饐(ス)えたご飯を人に食べさせるとは何事か」と叱責されたという笑い話が伝わっている。スˈシ˥バ　スˈク˥リ　ンˈカシタルト ヨー　ˈシーリイー˥バ　プˈスン˥　ッˈふァーシェー˥ティ　ˈアー˥クティ　イˈザリオーッ˥タˈトゥ˥ツォー [suˈʃi˥ ba sụˈku˥ri ʔŋˈkaʃi̥taːruˌ-joː ˈʃiːriʔiː˥ba pụˈsuŋ˥ fˈfaʃeː˥ti ˈʔaː˥kuti ʔiˈʤarioːt˥taˈtu˥tsoː](鮨飯を作って差し上げ＜召し上がらせ＞たらば、饐えたご飯を人に食わせようとしているといって、叱られたそうな)。

スズーˈク [suʤuːˈku] 【副】強く。たくさん。十分に。しっかりと。したたか (強か)。ひどく。「強強と」の義。首里方言のˈcuuzuuku¹(副) たいそう強く。きつく」『沖縄語辞典』の転訛したもの。スズーˈコ [suʤuːˈko](強く。したたか＜強か＞に) ともいう。スズーˈク　イˈザレー˥ン [suʤuːˈku˥ ʔiˈʤareː˥ŋ](ひどく叱られた)。スズーˈク　ファイヤー˥ン [suʤuːˈku faijaː˥ŋ](たくさん食べた)。スズーˈク　ネーシェー˥ン [suʤuːˈku neːʃeː˥ŋ](しっかりと、十分に煮てある＜十分に煮た＞)。

スズーˈコ [suʤuːˈko] 【副】強く。ひどく。きつく。随分と。したたか＜強か＞に。ウˈヌ˥　クトゥシェー　˥ウヤン　スズーˈコ˥　イˈザレーントˈ ダー [ʔuˈnu˥ kụtuʃeː ˥ʔujan suʤuːˈko˥ ʔiˈʤareːnˌ-daː](そのことでは親に随分とひどく叱られたよ)。

スˈズ˥リ [suˈʤu˥ri] 【名】すずり (硯)。標準語からの借用語。「明治 29 年 6 月 16 日、初メテ当村ニオイテモ学校ヲ設立スルコトトナリ～」『波濤を越えて』とあるから、それ以降に学校教育を通して一般化したものであろう。スˈズ˥リナ　ミˈジ˥　イˈリティ˥　シン　˥ッシバ [suˈʤu˥rina: miˈʤi˥ ʔiˈriti˥ ʃiŋ ˥ʃʃiba](硯に水を入れて墨を磨れよ)。スˈズ˥リナ　ミˈジ˥　イˈリティ˥　シン　˥ッスン [suˈʤu˥rina miˈʤi˥ ʔiˈriti˥ ʃin ˥ssuŋ](硯に水を注(サ)して墨を磨る)。

スˈズリ˥バク [suˈʤuri˥baku] 【名】硯箱。標準語からの借用語。スˈズ˥レー　スˈズリ˥バクナー　イˈリティル　シン˥マー　ッスˈダー [suˈʤu˥reː suˈʤuri˥bakunaː ʔiˈritiru ʃim˥maː ssuˈdaː](硯は硯箱に入れて＜ぞ＞墨は磨るものだよ)。スˈズ˥レー　スˈズリ˥バクナ　イˈリティ˥　ッˈサン˥カー　˥キン　ユˈグスン˥ダー [suˈʤu˥reː suˈʤuri˥bakuna ʔiˈriti˥ sˈsaŋ ˥kaː ˥kiŋ juˈgusun˥daː](硯は硯箱の中に入れて磨らないと着物を汚すよ)。

スˈソー [suˈsoː] 【名】そそう (粗相)。粗略なこと。粗略に扱うこと。粗末なこと。ウˈヤ˥バ　スˈソーニ　アシゥカウ˥カー　バˈチ˥カブンˈダー [ʔuˈja˥ba suˈsoːni ʔasi̥kau˥kaː baˈʧi˥kabunˈdaː](親を粗略に扱うと罰が当たる＜罰を被る＞ぞ)。ˈドングペング˥バ　˥アイニ　スˈソーニ　アシゥカウナˌ-ヨー [ˈdoŋgupeŋgu˥ba ˥ʔaini suˈsoːni ʔasi̥kaunaˌ-joː](道具類をあんなに粗略に扱うなよ)。

スˈダ˥ティ [suˈda˥ti] 【名】育ち。成長すること。動詞スˈダ˥トゥン [suˈda˥tuŋ](育つ) の連用形から転成した名詞。˥アブジェー　マˈリヤ　ウイバル˥　スˈダティ˥ヤ　パˈトゥ˥マ　ヤˈローッ˥タツォー [˥ʔabuʤeː maˈrija ʔuibaru˥ suˈdati˥ja pạˈtu˥ma jaˈroːt˥tatsoː](お祖父さんは、生まれは上原で育ちは鳩間島であられたそうだ)。

スˈダティグリ˥サン [suˈdatiguri˥saŋ] 【連】育てにくい。複合形容詞。クˈヌ˥　ッˈふァー　ボーキリ˥ムヌ　˥ナリティ　スˈダティグリ˥サンティ　スˈクタヌ˥　スˈダティグリサー　ナーン˥バンヨー [kuˈnu˥ fˈfaː boːkiri˥munu ˥nariti suˈdatiguri˥santi sụˈkutanu˥ suˈdatigurisaː naːm˥baŋjoː](この子は我儘強情で、育てにくいと聞いたが、育てにくくはないわいよ)。スˈダティグリ˥サ　˥ナルン [suˈdatiguri˥sa ˥naruŋ](育てにくくなる)。

スˈダティゾー˥ジ [suˈdatiʤoː˥ʤi] 【名】育て上手。養育上手な人。野菜の栽培上手。クˈヌ　ミートゥン˥ダー　ッˈふァ˥　スˈダティゾー˥ジ [kuˈnu miːtun˥daː fˈfa˥ suˈdatiʤoː˥ji](この夫婦は子育て上手だ)。˥ヤサイ　スˈダティ　ゾー˥ジ [˥jasai suˈdatiʤoː˥ʤi](野菜の栽培上手)。稲には、マˈイスクリゾー˥ジ [ˈmaisụkuriʤoː˥ʤi](稲作上手) という。

スˈダティ˥ヌ　˥ウヤ [suˈdati˥nu ˥ʔuja] 【連】育ての親。養親。ナˈシ˥ヌ　ウˈヤ˥ヌ　ˈマーラシター˥　ブˈバーマ˥ル　スˈダティ˥ヌ　˥ウヤ　˥ナリ　ˈバン˥ヨー　スˈダ˥ティ　ッˈふォーッ˥タ [naˈʃi˥nu ʔuˈja˥nu ˈmaːraʃi̥taː˥ buˈbaːma˥ru suˈdati˥nu ˥ʔuja ˥nari ˈbaŋ˥joː suˈda˥ti fˈfoːt˥ta](産みの親が亡くなったので、叔母が育ての親になって私を育ててくださった)。

スˈダティ˥ミチ [suˈdati˥miʧi] 【名】育て方。ッˈふァー˥　ナシティ　スˈダティ˥ミチ　ッˈサヌ [fˈfa˥ naʃi̥ti suˈdati˥miʧi sˈsanu](子供は生んで、育て方を知らない)。

スˈダティヤッ˥サン [suˈdatijas˥saŋ] 【形】育てやすい。ミˈドーン˥ッふァー　ビˈコーンッふァー˥ラン　スˈ

ダティヤッˀサンティ　アˈザリ　ブー [miˈdoːŋˀffaː biˈkoːŋffaːˀran suˈdatijasˀsanti ʔaˈʤari buː](女の子は男の子よりも育てやすいといわれている)。スˈダティヤッサ　ナーンˀシェン [suˈdatijassa naːŋˀʃeŋ](育て易く無かった)。スˈダティヤッˀサ　ˀナルン [suˈdatijasˀsa ˀnaruŋ](育て易くなる)。スˈダティヤッˀサ　ˀクトー　ˈナーˀヌ [suˈdatijasˀsa ˀkṵtoːˈ naːˀnu](育て易いことはない)。

スˈダティˀルン [suˈdatiˀruŋ] 【他動】育てる。養育する。成長させる。仕込む。ッˈふァˀ　スˈダティˀルンティ　ˈシッˀパイ　ˈシー　ベーˀンドゥ　ˀウムー　ˀヨーネー　スˈダティララˀヌ [fˈfaˀ suˈdatiˀrunti ˈʃipˀpai ˈʃiːbeːˀndu ˀʔumuː ˀjoːneː suˈdatiraraˀnu](子供を育てようと精一杯頑張っている＜している＞が、思うように育てられない)。ˀドゥーシ　スˈダˀティ　ˀミサカー　スˈダティˀル　ˀクトー　ナˈルˀヌ　ムーˈルˀシ　スˈダティˀレー　ˀミサムヌ [ˀduːʃi suˈdaˀti ˀmisakaː suˈdatiˀru ˀkutoː naˈruˀnu muːˈruˀʃi suˈdatiˀreː ˀmisamunu](自分で育てて良いなら育てることは出来るが、皆で育てれば良いのに)。ˀドゥーシ　スˈダティˀリ [ˀduːʃi suˈdatiˀri](自分で育てろ)。

スˈダˀトゥン [suˈdaˀtuŋ] 【他動】1他動詞。育てる。養い成長させる。「生長・育、ソダツル＜下二段活用＞」『運歩色葉集』の四段活用化したもの。クˈヌˀ　ッˈふァーˀ　スˈダˀティ　ˀミサカー　バˀー　ˈタンガˀシン　スˈダトゥンˀドゥ　ˈタンガˀシェー　スˈダタランˀティバ　ˀバー　ˈタンガˀシ　スˈダˀトゥ　ˀクトー　ナˈラˀヌ [kuˈnuˀ fˈfaːˀ suˈdaˀti ˀmisakaːˀ baː ˈtaŋgaˀʃin suˈdatunˀdu ˈtaŋgaˀʃeː suˈdataranˀtiba ˀbaː ˈtaŋgaˀʃi suˈdaˀtu ˀkṵtoː naˈraˀnu](この子を育ててよいなら一人ででも育てるが、一人では育てられないというから、私一人で育てることは出来ない)。ˈワーˀ　スˈダˀテー　ˀミサムヌ [ˈwaːˀ suˈda ˀteː ˀmisamunu](君が育てればよいのに)。ˈワーˀ　スˈダˀティバ [ˈwaːˀ suˈdaˀtiba](君が育てろよ)。2自動詞。育つ。成長する。ˀウヤー　ブˈラーンˀタンティン　ッˈふァー　ナンクˀル　スˈダˀトゥン [ˀʔujaː buˈraːnˀtantiŋ fˈfaː naŋkuˀru suˈdaˀtuŋ](親がいなくても子は自然に育つ)。クˈヌ　マイヤーˀ　クナー　スˈダタˀヌ [kuˈnu maijaːˀ kunaː suˈdataˀnu](この稲＜米＞は、ここでは育たない)。

ˈスッˀカー [ˈsukˀkaː] 【名】急須。陶製で弓状の取っ手＜把手＞の付いた土瓶。湯茶を入れたり、煎じ薬を入れたりするのに用いる。ウˈブスッˀカー [ʔuˈbusukˀkaː](大きな急須)。スッˈカーˀマ [sukˈkaːˀma](小さな急須。比喩的に乳幼児の睾丸を表す)。ˈサースッˀカー [ˈsaːsukˀkaː](お茶用の急須)。ˀヤコンスッカー [ˀjakonsukkaː](薬缶急須。薬湯用急須)。ヤˈコンˀマー　ウˈティティ　スッˀカーナー　ˈユーˀヤ　ˈサイˀクーバ [jaˈkomˀmaː ʔuˈtiti sukˀkaːnaː ˈjuːˀja ˈsaiˀkuːba](薬缶は竈からはずして急須にお湯を注いできなさいよ)。

ˈズッˀカー　ˈスン [ˈʤukˀkaːˈsuŋ] 【連】(鳥や昆虫が)交尾をする (幼児語)。他の牛、馬、豚、犬、猫、鳥類などの動物の交尾については、ˀズブン [ˀʤubuŋ](交尾する)、ˀカナウン [ˀkanauŋ](交尾する)(老年層の使用語彙) が用いられる。トゥˈルヌ　ズッˀカー　ˈシー　ベー [tuˈrunu ʤukˀkaːˈʃiː beː](鳥が交尾をしている)。

ˈスッカーˀヌ　ˀビー [ˈsukkaːˀnu ˀbiː] 【連】急須の注ぎ口。ˈスッカーˀヌ　ˈビーˀヤ　アˈザケーアザケーˀシ　アˈライˀ　シキ [ˈsukkaːˀnu ˈbiːˀja ʔaˈʤakeːʔaʤakeːˀʃi ʔaˈraiˀ ʃi̥ki](急須の注ぎ口は清潔に洗っておきなさい)。

スッˈカーˀマ [sukˈkaːˀma] 【名】1小さな急須。スッˈカーマˀヌ　ˀグシ　ˈサイˀバ [sukˈkaːmaˀnu ˀguʃi ˈsaiˀba](小さな急須の酒を注ぎなさい)。2転じて乳幼児の睾丸。幼児語。スッˈカーˀマーラ　シˈバルˀヌ　ˀンジ　ˀケーン [sukˈkaːˀmaːra ʃiˈbaruˀnu ˀnʤi ˀkeːŋ](おちんちんからしっこが出てきた)。

ズッˈカーˀマ [ʤukˈkaːˀma] 【名】カツオの心臓。約3センチの三角錐の形をしている。先端部の約1センチほどは白色の腱のようなものからなり、残りは真っ赤な筋肉質から出来ている。カツオの頭を切り落とす際に鰓の下に付いて捨てられるのを、子供達が拾い集めて持ち帰り、煮て食した。カˈツヌˀ　ズッˈカーˀマー　イッˈケナˀ　ンˈマーˀタン [kạˈtsunuˀ ʤukˈkaːˀmaː ʔikˈkenaˀ ʔmˈmaːˀtaŋ](カツオの心臓は非常に美味しかった)。

ˀズッツ [ˀʤuttsu] 【名】ちび。からだの小さい人。こびと。朱儒(シュジュ)の転訛。クˈヌ　ッふァーˀ　ズッツ　ˀナリティ　フˈドゥバンバン [kuˈnu ffaːˀ ʤuttsu ˀnaritiˀ ɸuˈdubambaŋ](この子はちびになって成長しないよ)。

スˈデーˀマ [suˈdeːˀma] 【名】小袖。小さな袖。ˈワー　キンˀマー　ˀドゥク　スˈデーˀマ　ˀナリティ　キˈサラヌ [ˈwaː kimˀmaː ˀduku suˈdeːˀma ˀnariti ki̥ˈsaranu](君の着物はあまりにも小さな袖になって着られない)。

スˈディ **[suˈdi]** 【名】袖。「袖垂而＜ソデたれて＞〜。万、4277」の転訛したもの。ˈキンˀヌ　スˈディヌˀ　ヤリティ　キˈサラヌ [ˈkinˀnu suˈdinuˀ jariti kiˈsaranu](着物の袖が破れて着られない)。

スˈディˀカライ **[suˈdiˀkarai]** 【名】袖まくり。袖をたくしあげること。腕まくり。ˀカライ [ˀkarai] は、「滕、カラグ・ツツム」『類聚名義抄』の転訛したものか。バˈカーˀムノー　ˈキンˀマー　スˈディˀカライ　ˈシェーˀティル　パˈタラクˀ　スˈディバ　ダーラダーラˀシ　タˈラˀシェーティ　ˈアーˀク　ˀムノー　ˀスブットゥ　ˈダー [baˈkaːˀ muno: ˈkimˀma: suˈdiˀ karai ˈʃeːˀtiru paˈtarakuˀ suˈdiba daːradaːraˀʃi ta ˈraˀʃeːti ˈʔaːˀku ˀmuno: ˀsubuttu ˈdaː](若者は、着物は袖まくりしながら＜ぞ＞働くものであって、袖をだらだらと長く垂らしているのは怠け者のすることだ＜怠け者だ＞)。

スˈディキシˀキン **[suˈdikiʃiˀkiŋ]** 【名】袖なし着物。袖の切れた着物。「袖切れ着物」の義。ˀアツァユンダ　スˈディキシˀキン　キˈシティˀ　パˈタˀキ　ˈカイˀシバ [ˀʔatsajunda suˈdikiʃiˀkiŋ kiˈʃitiˀ paˈtaˀki ˈkaiˀʃiba](暑いから袖なし着物を着て畑を耕しなさいよ)。

ˀスディッキラー **[ˀsudikkiraː]** 【名】袖の短い労働着。普段着。ナˈチェーˀ　ブーキン　ˀバサキンヌ　ˀスディッキラーバ　キˈシティルˀ　シˈグトゥ　ソーッˀタ [naˈtʃeːˀ buːim ˀbasakinnu ˀsudikkiraːba kiʃitiruˀ ʃiˈgutu soːtˀta](夏は麻布、芭蕉布の袖の短い着物を着て仕事をされた)。

スˈディˀナ **[suˈdiˀna]** 【名】八重山士族層女性の単衣衣装で、カカンと対を成す。鳩間島では、古典舞踊のパˈトゥˀマナカムリ [paˈtuˀmanakamuri](鳩間中岡。鳩間節) 舞踊で着用される婦人の衣装の名。舞踊の衣装の名。カˈカン [kaˈkaŋ](袴) と対をなして着用され、タˈナシ [taˈnaʃi](ひとえ＜一重＞のうちかけ) を重ねて着る。スˈディˀナー　パˈトゥˀマナカムリヌ　ˀキンティ　ˈシーˀ　カˈザケートゥˀ　ユˈレーˀナール　ˀアル [suˈdiˀna: paˈtuˀmanakamurinu ˀkinti ˈʃiːˀ kaˈʤakeːtuˀ juˈreːˀnaːru ˀʔaru](スディナは古典舞踊鳩間中岡の衣装として加治工家と寄合家にある)。

スˈディパカ **[suˈdipaka]** 【名】きっこうばか (亀甲墓) の本墓の両側にある小さな墓。「袖墓」の義。本墓に未洗骨の遺体がある場合に使用される墓。ウˈブパカˀヌ　プˈスヌˀ　アˈライクサイ　ソーˀルンケンマー　スˈディパカˀナール　カˈザˀミ　スˈコーッˀタ [ʔuˈbupakaˀnu puˈsunuˀ ʔaˈraikusai soːˀruŋkemmaː suˈdipakanaːˀru kaˈʤaˀmi suˈkoːtˀta](本墓の人の洗骨をされるまでは袖墓に葬って＜納めて、隠して＞置かれた)。

ˀスディブッター **[ˀsudibuttaː]** 【名】袖の大きい着物。クˈレーˀ　スディブッター　ˀナリティ　キˈシングリサˀヌ　キˈサラヌ [kuˈreːˀ sudibuttaː ˀnariti kiˈʃiŋgurisaˀnu kiˈsaranu](これは袖の大きい着物になって、着にくくて着られない)。

スˈディユイ **[suˈdijui]** 【名】袖まくり。紐や手拭などを両袖に通し、肩の中央で結んで袖を捲り上げる方法。ムˈカˀシェー　ミˈドゥムンケーˀヤ　スˈディユイバ　シェーˀティル　ˈヤイヤイˀシ　ˈマインˀ　ッサイ　パˈタˀキン　ˈカイˀソーッタル [muˈkaˀʃeː mi ˈdumuŋkeːˀja suˈdijuiba ʃeːˀtiru ˈjaijaiˀʃi ˈmainˀ ssai paˈtaˀkiŋ ˈkaiˀsoːttaru](昔は女性達は袖まくりをしながら、やいやいと精を出して米も精げ、畑も耕されたものだよ)。

スˈテテˀコ **[suˈteteˀko]** 【名】膝下まである男子用の下ばき。標準語からの借用語。サラシ (晒し) の綿布や麻布で縫製されており、吸着性、通気性に富み、ズボン下に着用する。女性が男踊りをする際に着用して踊った。ビˈキドゥモーˀ　スˈテテˀコ　キˈシティルˀ　ズボン　キˈソーッˀタ [biˈkodumoːˀ suˈteteˀko kiˈʃitiruˀ ʤuboŋ kiˈsoːtˀta](男はステテコを佩いてから＜ぞ＞ズボンを佩かれた)。

スˈトゥドーˀゴッコー **[suˈtudoːˀgokkoː]** 【名】 (動) 鳥の名。山鳩。キジバト (幼児語)。山鳩、キジバト＜雉鳩＞の鳴き声から命名されたもの。スˈトゥドーˀゴッコーヌ　ナˈキ　ベーˀン [suˈtudoːˀgokkoːnu naˈki beːˀŋ](山鳩が鳴いている)。スˈトゥドーˀゴッコー　スˈトゥドーˀゴッコー　ˈベントーヌˀ　ヌカルー　ˈタールーˀ　ッふーッふー [suˈtudoːˀgokkoː suˈtudoːˀgokkoː ˈbentoːnuˀ nukaru ˈtaːruˀ ffuːffuː](ストゥドーゴッコー＜山鳩・雉鳩＞よ、弁当の残りは誰が喰うか誰が喰うか) と囃して遊んだ。

スˈナーˀルン **[suˈnawaˀruŋ]** 【自動】備わる。才能や人徳が身に付いている。施設や備品が用意されている。若年層は、スˈナワˀルン [suˈnawaˀruŋ](備わる) ともいう。ˈクンˀネナー　ˀヌーンクイン　ˈドングペンˀグ　スˈナーリ　ブー [ˈkunˀnenaː ˀnuːŋkuin ˈdoŋgupeŋˀgu suˈnaːri buː](この家には、何もかも道具類は備わっている)。ˈマー　ピーˀチ　スˈルイˀルカー　ムーˈルˀ　スˈナーˀルン [ˈmaː piːˀʧi suˈrui ˀrukaː muːˈruˀ suˈnaːˀruŋ](もう一つ揃えると、全部

備わる)。クˈヌˉ　プˈソー　イントゥクヌˉ　スˈナーˉリ　ˈブーˉ　プˈス [kuˈnuˉ pu̥ˈso: ʔintukunuˉ suˈna:ˉri ˈbu:ˉ pu̥ˈsu](この人は、陰徳の備わっている人だ)。

ˉスナイ [ˉsunai] 【名】あえもの (和え物)。酢の物。「酢の和え」の義か。サˈクナンパー [sḁˈkunampa:](長命草の葉)、シˈナヌˉミン [ʃiˈnanuˉmiŋ](ミズナの一種)、ˈイーシˉヌ　ˈコーˉマ [ˈʔi:ʃiˉnu ˈko:ˉma](角又の寒天) を味噌和えにした酢の物。ˈカーヌ　ニンˉガイナーヤ　ヤーˈディンˉ　スナイ　スˈコーリ　ソーッˉタ [ˈka:nu niŋˉgaina:ja ja:ˈdinˉ sunai su̥ˈko:ri so:tˉta](井戸の祈願には必ず和え物を作られた)。ンˈガナˉトゥ　ナˈマシˉバ　フˈナˉブシ　ˈアーˉシティ　ˉスナイ　スˈクˉリ [ʔŋˈganaˉtu naˈmaʃiˉba ɸuˈnaˉbuʃi ˈʔa:ˉʃi̥ti ˉsunai su̥ˈkuˉri](ニガナ＜苦菜＞と刺身をヒラミレモン＜九年母＞で和えて和え物を作れ)。

スˈナイ [suˈnai] 【名】備え。用意。準備。スˈナイヌˉ　アルカー　ˈソーヤ　ナーˉヌ [suˈnainuˉ ʔaruka: ˈso:ja na:ˉnu](備えがあれば心配はない)。

スˈナイルン [suˈnairuŋ] 【他動】備える。準備する。設置する。標準語からの借用語。ˈヤーカーˉジナ　ˈデンワˉキ　スˈナイルン＜スˈコーˉルン＞[ˈja:ka:ˉʤina: ˈdewaˉki suˈnairuŋ＜suˈko:ˉruŋ＞](家毎に電話機を備え付け＜設置す＞る)。ˈダイヌˉ　タˈカーˉヌ　スˈナイララヌ [ˈdainuˉ tḁˈka:ˉnu suˈnairaranu](値段が高くて設置できない)。スˈナイルˉクトー　ナˈラˉヌ [suˈnairuˉ ku̥to: naˈraˉnu](備える＜設置する＞ことは出来ない)。スˈナイˉ　プサカー　スˈナイヤーˉ　ミサムヌ [suˈnaiˉ pu̥saka: suˈnaija:ˉ misamunu](設置したければ設置すればよいのに)。ˉクベー　ヤーˈディンˉ　スˈナイリ [ˉkube: ja:ˈdinˉ suˈnairi](これだけは必ず設置しなさい＜備えろ＞)。

スˈナˉカ [suˈnaˉka] 【名】海。「潮中」の義か。スˈナカˉナーティ　ˉオンダー　ˈシー　ベーˉタ [suˈnakaˉna:ti ˉʔonda: ˈʃi: be:ˉta](海で海水浴をしていた)。スˈナˉカー　ˈクゥンˉヌ　ˈユーˉフルティ　ムˈカˉシプソー　アˈゾーッタˉル [suˈnaˉka: ˈkwanˉnu ˈju:ˉɸuruti muˈkaˉʃipu̥so: ʔaˈʤo:ttaˉru](海は官＜役所＞の風呂＜無料の風呂＞だと昔の人は言われたものだ)。スˈナカˉヌ　イˈキˉムヌ [suˈnakaˉnu ʔiˈkiˉmunu](海の生き物)。スˈナˉカーラ [suˈnaˉka:ra](海から)。スˈナˉカー　ˈペーˉルン [suˈnaˉka: ˈpe:ˉruŋ](海へ入る)。

スˈナカˉヌ　ˉッサ [suˈnakaˉnu ˉssa] 【連】海の草。海草。スˈナカˉヌ　ˉッサ　パˈタˉキナ　イˈリティˉ　カˈブッチヌˉ　シˈキゴイˉ　スˈクˉリバ [suˈnakaˉnu ˉssa pḁˈtaˉkina ʔiˈritiˉ kaˈbuttʃinuˉ ʃi̥ˈkigoiˉ su̥ˈkuˉriba](海草を畑に入れて南瓜の堆肥＜敷き肥え＞を作れよ)。

ˉスニ [ˉsuni] 【名】そね (「曽根」と表記する)。海中の浅瀬。海中の暗礁で好漁場となっているところ。大潮の干潮時にも海面に現れない海中の珊瑚礁。暗礁。良い漁場とされている。ˈマイˉズニ [ˈmaiˉʤuni](鳩間島の前＜南方＞にある干瀬＜暗礁＞で、大潮の干潮時にも海面に現れない浅瀬である)。ˈアーラマイズニ [ˈʔa:ramaiʤuni](東前曽根)、ˈトゥーランˉスニ [ˈtu:ranˉsuni](鰹漁船が通り抜けられない曽根)、ˈイーリマイズニ [ˈʔi:rimaiʤuni](西前曽根) などがある。ˈタイパンˉズニ [ˈtaipanˉʤuni](台湾曽根。カツオの好漁場といわれている)、ナˈカヌˉスニ [naˈkanuˉsuni](中の曽根。台湾曽根と西表島の中間にあるカツオの好漁場) などがある。カˈツシンマー　タイパンˉズニˈバーˉキン　ˈギーˉ　カˈツ　ホーシˉソーッタ [kḁˈtsuʃimma: taipanˉʤuniˈbaːˉkiŋ ˈgi:ˉ kḁˈtsu ho:ʃiˉso:tta](カツオ漁船は台湾曽根まで行ってカツオ釣りをされた)。

スˈノーˉル [suˈno:ˉru] 【名】(植) 海草の名。モズク (海蘊。水雲)。老年層は、ˈシンドーˉラ [ˈʃindo:ˉra](もずく) という。海底の砂に生えている。近年になって酢の物の食材として食されるようになったが、昔は、鳩間島ではそれを食べる人も少なかった。ムˈカˉシェー　スˈノーˉル　ンˈコーˉル　プˈソー　ナンˉゾー　ˈオーランˉシェン [muˈkaˉʃe: suˈno:ˉru ʔŋˈko:ˉru pu̥ˈso: nanˉʤo: ˈʔo:raŋˉʃeŋ](昔はすスノール＜モズク＞を食べられる人は、あまりいらっしゃらなかった)。

ˉスバ [ˉsuba] 【名】側。傍ら。側面。ˈワーˉ　スバナー　シˈキˉリ [ˈwa:ˉ subana: ʃi̥ˈkiˉri](君の側に置け)。スˈバˉヌ　プˈスンナーˉニ　パˈナˉシバ [suˈbaˉnu pu̥ˈsunna:ˉni paˈnaˉʃiba](側の人に話せよ)。ˉバー　ˉスバーラ　ˈウークˉナ [ˉba: ˉsuba:ra ˈʔu:kuˉna](私の側から動くな)。ˉアボー　スˈバˉル　マˈシ [ˉʔabo: suˈbaˉru maˈʃi](お母さんの側がいい)。

ˉスバ [ˉsuba] 【名】そば (蕎麦)。小麦粉で作った黄色い中華そばに似たそば。鳩間島にはそば (蕎麦) はなかった。石垣島へ行く際にˉスバヤー [ˉsubaja:](そば屋) に入ってそばを食べるのが楽しみであった。年に 1,2 回程度食べることができた。そばを御馳走されることは、大変なご馳走を頂いたことを意味

した。˩ドゥン˥ブリ [˩dum˥buri](丼) に中華そばに似た黄色いそば (蕎麦) を入れ、出汁をかけ、その上に豚肉とカマボコを一切れずつ載せ、それにシ˩ビラ [ʃi˩bira](わけぎ < 分葱 >) を刻んで振りかけたもの。イ˩サナキヌ˥　スバー　イッ˩ケナ˥　ン˩マー˥ン [ʔi˩sanaki˥nu ˥suba: ʔik˩kena˥ ʔm˩ma:˥ŋ](石垣のそばは非常に美味しい)。

ス˩バ˥ダリ [su˩ba˥dari] 【名】着物の片方の裾を垂らすこと。˩キン˥バ　ス˩バ˥ダリ　˩シー˥　キ˩ス˥カー　˩ホー˥ロー　˥キシティ　˩ミーヌッ˥サン˩ダー [˩kim˥ba su˩ba˥dari ˩ʃi:˥ kᵢ˩su˥ka: ˩ho:˥ro: ˥kᵢʃiti ˩mi:nus˥san ˩da:](着物を片裾垂らして着ると間が抜けて < 芳慮(ホウリョ) が切れて。思慮分別が失せて > 見苦しいよ)。

ス˩バヌ˥ムヌ [su˩banu˥munu] 【名】成仏できない霊。他人に祟る悪霊。先祖霊でない霊。˩ソーラン˥ヌ　˥ピン　ミ˩ジヌ˥クー　˩パン˥クモー　ス˩バヌムヌ˥ヌ　タ˩マシ˥ツォー [˩so:ran˥nu ˥pim mi˩ʤinu˥ku: ˩paŋ˥kumo: su˩banumunu˥nu ta˩maʃi˥tso:](お盆の時にミジヌクーを戸外へ撥ね飛ばすのは先祖霊以外の霊の受け取り分 < 施餓鬼 > だそうだ)。

ス˩バ˥ピサ [su˩ba˥pisa] 【名】両側。脇。かたわら。「そばひら < 傍平 >、その山のそばひらをめぐれば」『今昔物語集　28-7』の義。ウ˩ブヤー˥ヌ　ス˩バ˥ピサナー　˥カイブ　˥ムノー　ス˩クナ [ʔu˩buja:˥nu su˩ba˥pisana: ˥kaibu ˥muno: sᵤ˩ku˥na](母屋の傍にこんな物を置くな)。ミ˩チ˥ヌ　ス˩バ˥ピサナー　シ˩ミ˥シキバ [mi˩ʧi˥nu su˩ba˥pisana: ʃi˩miʃᵢ˩kiba](道の両側に積んで置けよ)。

ス˩バマー˥ル [su˩bama:˥ru] 【名】外側。外周。外回り。˩ヤー˥ヌ　ス˩バマー˥ロー　ア˩ザケーアザケー˥シ　˥カキポーキ　˩シー˥　シ˩キ˥リ [˩ja:˥nu su˩bama: ˥ro: ʔa˩ʤake:ʔaʤake:˥ʃi ˥kᵩ˩kipo:ki ˩ʃi:˥ ʃᵢ˩ki˥ri](家の外回りは清潔に掃き、掃除をしておけ)。

˥スバマカル [˥subamakaru] 【名】そば (蕎麦) を入れて食べるのに用いる大型の碗。「ソバ・マガリ < 蕎麦・金宛 >」の義。普通の碗より大きく、深い碗である。˥スンカンマカル [˥suŋkammakaru](筍羹碗) ともいう。˥スバマカルヌ　˩ピッ˥チン　˥イー　˩ファイシェー˥ン [˥subamakarunu ˩pit˥ʧiŋ ˥ʔi: ˩faiʃe:˥ŋ](蕎麦碗の一杯も飯を食べることが出来る < 喰らい得る >)。

ス˩バ˥ミー [su˩ba˥mi:] 【名】横目。流し目。顔を前面に向けたまま横を見ること。よそ見。ス˩バ˥ミーは、悪い行儀として厳しく躾けられた。ス˩バミー˥ヤ　ヤ˩ナミーシゥカイ˥ティ　˩シー˥　イッ˩ケナ˥　キ˩ビッ˥サ　ナ˩ラー˥ソーッタン˩ダー [su˩bami:˥ja ja˩nami:sᵢ˩kai˥ti ˩ʃi:˥ ʔik˩kena˥ ki˩bis˥sa na˩ra:˥so:ttan ˩da:](横目 < 流し目で人を見ること > は悪い目つきだといって厳しく教えられたよ)。

ス˩バ˥ミチ [su˩ba˥miʧi] 【名】脇道。小道。ウ˩ブ˥ミチ [ʔu˩bu˥miʧi](大通り) に対する脇道や小道。プ˩ストゥ　ゲーサイヤー˥　ナ˩ラン˥バ　ス˩バ˥ミチェーラ　パリ˩ヨー [pᵤ˩sutu ge:saija:˥ na˩ram˥ba su˩ba˥miʧe:ra pari˩jo:](他人と道中で出会うといけないから脇道から行きなさいよ)。

˥スバヤー [˥subaja:] 【名】そばや (蕎麦屋)。そばを食べさせる食堂。イ˩サンケーヌ˥　スバヤーヌ　˥スバナー　˩オー˥ヌ　˩サンマイニク˥トゥ　カ˩マブクヌ　ペー˥リ　˩ブンダ˥　ン˩マー˥タン [ʔi˩saŋke:nu˥ subaja:nu ˥subana: ˩ʔo:˥nu ˩sammainiku˥tu ka˩mabukunu pe:˥ri ˩bunda˥ ʔm˩ma:˥taŋ](石垣島のそば屋のそばには、豚の三枚肉とカマボコが入っているので美味しかった)。

˥スバン　パ˩タン˥　ミ˩ララ˥ヌ [˥subam pᵩ˩tam˥ mi˩rara˥nu] 【連】自分のことで精いっぱいで周囲のことにまで気が回らない < 余裕がない >。「傍も脇も見ることが出来ない」の義。シ˩グトゥヌ　パンタサ˥ヌ　˥スバン　パ˩タン˥　ミ˩ララ˥ヌ [ʃi˩gutunu pantasa˥nu ˥subam pᵩ˩tam˥ mi˩rara˥nu](仕事が忙しく < 繁多で > 回りのことを気遣う余裕がない < 周囲のことを見ることが出来ない >)。

˥スビ [˥subi] 【名】(動) 魚名。マグロ (鮪) の総称。烏賊釣り漁でよく漁獲された。˥ウシスビ [˥ʔuʃisubi](くろまぐろ。体長約 3 メートルに生長する)、˩キンバニスビ [˩kimbanisubi](きはだ。体長約 2 メートルに生長する)、˩ナーパニスビ [˩na:panisubi](びんなが。体長約 1 メートルに生長する)、˩ミー˥スビ [˩mi:˥subi](めばち。体長約 2 メートルに生長する) などが漁獲された。イ˩ガウメー˥　ン˩ゾー˥ルカー　˥スビン　サ˩バン　ホー˥ソーッタン [ʔi˩gaume:˥ ʔn ˩ʤo:˥ruka: ˥subin sa˩baŋ ho:˥so:ttaŋ](烏賊釣り漁 < 烏賊海 > に出られると、マグロも鱶も釣って帰られた < 釣られた >)。体長 3 メートル、体重 400 キログラムにたっする大型のマグロも漁獲されたが、多くの場合、約 120 キログラムのマグロが釣り上げられていた。イ˩ガメー˥ラ　˥スビ　˩ホー˥ソーレーン [ʔi˩game:˥ra ˥subi ˩ho:˥so:re:ŋ](イカ釣り漁からマグロを釣ってこられた < 釣ってきておられる >)。

ス˩ビ [su˩bi] 【名】終わり。終了。終末。結末。「首

尾」の義。シˈグトゥヌˀ　スˈビˀ　トゥˈズミˀリ [ʃiˈgutunuˀ suˈbiˀ tuˈdʑumiˀri](仕事の終末を完結させよ＜仕事を終えよ＞)。最後の祈願。感謝の祈願。ˈニンガイˀヌ　スˈビ　スンティ　オーˀル [ˈniŋgaiˀnu suˈbi sunti ʔoːˀru](一年間の諸祈願の終わり祈願＜感謝の祈願＞をしようとしておられる)。

スˈビˀナー [suˈbiˀnaː] 【名】マグロ釣り縄。イˈガホーシンテˀナー　スˈビˀナーン　ˀパイティル　ˀスベー　ˈホーˀソーッタル [ʔiˈga hoːʃitennaːˀru suˈbiˀnaːm ˀpaitiru ˀsubeː ˈhoːˀsoːttaru](イカを釣りながらマグロ釣り縄を延えて＜ぞ＞マグロは釣られた)。

スˈビニンガイ [suˈbiniŋgai] 【名】最後の締めくくりの祈願。豊年豊漁祈願、健康祈願その他の諸祈願に対する感謝の祈願。「首尾願い」の義。旧暦 12 月に友利御嶽で行われる。スˈビニンガイヤーˀ　イˈチニンズーヌ　ニンガイˀヌ　スˈビ　ガンプトゥキバˀル　ˈソーˀル [suˈbiniŋgaijaːˀ ʔiˈtʃinindʑuːnu niŋgaiˀnu suˈbi gamputukibaˀru ˈsoːˀru](首尾願いは一年中の祈願の締めくくりの祈願、感謝の祈願、願解きの祈願をなさるのだ)。

スˈブ [suˈbu] 【名】渋。芭蕉の根から採取する渋 (赤黒い液体)。三味線＜三線＞の皮を張る際に用いた。和紙に渋を塗って三味線のˀシガ [ˀʃiga](胴) に張り、何枚も塗り重ねて乾燥させ、三味線の皮とした。高値の蛇皮張りの三味線ほどに高音は出せなかったが、安価で張られる農民の三味線に多く用いられた。バˈサˀヌ　スˈブˀシル　ˈサンシンヌ　カーˀヤ　パˈローッˀタ [baˈsaˀnu suˈbuˀʃiru ˈsaŋʃinnu kaːˀja paˈroːtˀta](芭蕉の渋で三味線＜三線＞の皮＜胴＞は張られた)。

スˈブ [suˈbu] 【名】壺の総称。「壺、和名都保＜つほ＞」『和名抄』の転訛したもの。関連語彙に、ˀミンスブ [ˀminsubu](縄を通すための耳が三つ付いている壺)、ˈマーˀススブ [ˈmaːˀsusubu](塩壺)。アˈバˀスブ [ʔaˈbaˀsubu](油壺。豚のラードを保存しておく壺) などがある。カˈニジンバˀ　スˈブˀナー　イˈリティˀ　タˈブイˀ　スˈコーッˀタツォー [kaˈnidʑimbaˀ suˈbuˀnaː ʔiˈritiˀ taˈbuiˀ sɯˈkoːtˀtatsoː](銭を壺に入れて貯えておかれたそうだ)。

スˈブ [suˈbu] 【名】つぼ。お灸をすえる所 (灸点)。かんどころ。急所。要点。イˈツォーンˀプソー　ガˈマジンˀヤンヌ　スˈブンˀ　バˈタˀヤンヌ　スˈブンˀ　ッˈソーˀレータン [ʔiˈtsoːmˀpɯsoː gaˈmadʑiŋˀjannu suˈbumˀ baˈtaˀjannu suˈbunˀ sˈsoːˀreːtaŋ](糸満漁民は頭痛のつぼも、腹痛のつぼも知っておられた)。スˈブバˀ　アˈティティˀ　ヤツ　ヤˈクˀカー　イッˈケナˀ　スˈクン [suˈbubaˀ ʔaˈtitiˀ jatsu jaˈkuˀkaː ʔikˈkenaˀ sɯˈkuŋ](お灸のつぼを当ててお灸をすえる＜灸を焼く＞と非常に効く)。

ˀスブ [ˀsubu] 【名】粒。ˀシジ [ʃidʑi](粒) というのが普通。「磷、ツブ」『類聚名義抄』の転訛したもの。プˈスˀ　スブ [pɯˈsuˀ subu](一粒)、フˈタ　スブ [ɸɯˈta subu](二粒)、ˈミー　スブ [ˈmiː subu](三粒)。ˈマイスブˀ　プˈスˀスブ　ヤˈラバンˀ　イッˈカˀ　ウˈタˀシェー　ナˈラˀヌ [ˈmaisubuˀ pɯˈsuˀsubu jaˈrabaŋˀ ʔikˈkaˀ ʔuˈtaˀʃeː naˈraˀnu](米粒は一粒でも決して＜一向に＞落としてはならない)。

スˈブザラ [suˈbudʑara] 【名】壷皿。深い皿。お盆や法事に供物を入れて供える器という。現在ではほとんど見られない。スˈブザラˀティ　ˈスーˀ　サラン　ˈアッˀタンティ　ˈスンドゥˀ　マˈナˀマー　ミˈララˀヌ [suˈbudʑaraˀti ˈsuːˀ saraŋ ˈʔatˀtanti ˈsunduˀ maˈnaˀmaː miˈraraˀnu](壷皿という皿もあったそうだが、今は見られない)。

スˈブシ [suˈbuʃi] 【名】ひざ (膝)。膝蓋部 (regio patellaris)、前膝部もふくんでいる『医学沖縄語辞典』。「つぶし (腿)、ウツモモ、モモ、ツフシ」『類聚名義抄』の転訛したもの。「Tçububuxi、ツブブシ (つぶぶし)　膝の皿、ただし、一般庶民は Tçubuxi(つぶし) と言う」『邦訳日葡辞書』。ˈカイˀリティ　スˈブシˀ　バˈリシティ　ナーˀヌ [ˈkaiˀriti suˈbuʃiˀ baˈriʃiti naːˀnu](転んで膝頭を強打して＜割って＞しまった)。

スˈブシヌˀ　サˈラーˀマ [suˈbuʃinuˀ saˈraːˀma] 【連】膝蓋。ˈ膝の小皿」の義。「Tçububuxi、～膝の皿、ただし一般庶民は Tçubuxi という」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。スˈブシヌˀ　サˈラーˀマ　バˈリティˀ　タˈティユーサˀヌ [suˈbuʃinuˀ saˈraːˀma baˈritiˀ tɯˈtijuːsaˀnu](膝蓋＜膝の皿＞を強打して＜割って＞しまって立てない＜立たれない＞)。

スˈブシヌˀ　ッˈふァ [suˈbuʃinuˀ fˈfa] 【連】溺愛している子。「膝の子」の義。特に祖父母が孫を可愛がるさまにいう。祖父母の膝の上から離さないような可愛がりようをいう。ˀアッパー　スˈブシヌ　ッふァˀ　ヤˈルンダˀ　マーˈン　サーリオーリˀス [ˀʔappaː suˈbuʃinu ffaˀ jaˈrundaˀ maːˈn saːriʔoːriˀsu](お祖母さんの溺愛している孫＜子供＞だから、何処へも一緒に連れて行かれる)。

スˈブシピサˀ　ウˈシットースン [suˈbuʃipɯsaˀ ʔuˈʃit-

to:suŋ] 【連】「膝を押し倒す」の義。足を折り曲げ屈して祈願する意。ˈティーˈピサ　ウˈサーシ [ˈti:ˈpi̥sa ʔuˈsa:ʃi](合掌して＜掌を押し合わせて＞)の対語表現。～ˈヌーディマリヌ　ˈトゥーヌ　ティーˈピサ　ウˈサーシˈ　スˈブシピサˈ　ウˈシトーシˈ　ウˈガミトゥーˈシ　アˈギルˈ　ニˈガイˈヤー　ˈミートゥクルヌ　カンヌˈマイ　ウˈキˈトゥリ　タˈブˈローリ [～ˈnu:dimarinu ˈtu:nu ti:ˈpi̥sa ʔuˈsa:ʃiˈ suˈbuʃipisaˈ ʔuˈʃito:ʃiˈ ʔuˈgamitu:ˈʃi ʔaˈgiruˈ niˈgaiˈja: ˈmi:tukurunu kannuˈmai ʔuˈkiˈturi taˈbuˈro:ri](～干支の何年生まれの者が合掌し＜十の掌を合わせ＞、膝を屈し＜押し倒し＞て拝み通し上げる祈願は、三箇所の神様、お受け取りください＜賜れ＞ませ)。

スˈブˈ　スˈクン **[suˈbuˈ su̥ˈkuŋ]** 【連】1つぼ＜体の急所、要所＞を突く＜強く押す＞。頭痛や腹痛、その他の痛みを止めるために体のつぼ＜壷＞を強く押して痛みを消す治療法。スˈブˈ　シˈキˈ　ッˈふィーリ [suˈbuˈ ʃi̥ˈkiˈ fˈf:ri](つぼ＜壷＞を強く押してくれ)。2灸を据える。スˈブルˈヌ　ˈヤムカー　スˈブˈルヤンヌ　スˈブˈナー　スˈブˈ　シˈキバルˈ　マˈシ [suˈburuˈnu ˈjamuka: suˈbuˈrujannu suˈbuˈna: suˈbuˈ ʃi̥ˈkibaruˈ maˈʃi](頭痛がすると＜頭が痛いと＞、頭痛の壷＜灸点＞を強く押した方が良い)。スˈブルˈヌ　ˈヤムカー　スˈブˈルヤンヌ　スˈブˈナー　ˈヤツ　ヤˈキバルˈ　ナル [suˈburuˈnu ˈjamuka: suˈbuˈrujannu suˈbuˈna: ˈjatsu jaˈkibaruˈ naru](頭が痛ければ頭痛の壷にお灸＜やいと＞を据えないといけない＜焼けば良い＞)ともいう。

スˈブˈチダマ **[suˈbuˈtʃidama]** 【名】海花石。菊目石。歌謡語。ˈピー [ˈpi:](干瀬) やˈイノー [ˈʔino:](礁内湖) の海底に棲息する半球形の珊瑚。直径 30～40 センチの球塊状の菊目石を採取して頭頂部を削り、家屋建築のイˈシジ [ʔiˈʃidʑi](礎石) に利用した。/スブチダマ　イシジバシー　ヤーバ　スクリ　アンティスー　ウリユー　ミューナキャームイ/(菊目石を礎石にして家を造ってあるという。それを見なければならない)「アーパーレー (新室寿歌)」『鳩間島古典民謡古謡集』。

スˈブッタラーˈン **[suˈbutˈtara:ŋ]** 【形】濡れて湿っぽい。湿り気があり、じめじめする。「御鼻の色づくまで、潮垂れ～」『源氏物語＜若菜下＞』の転訛か。ˈアミナー　ˈゾッふァーリティˈ　スˈブッタラーˈヌ　ナˈラˈヌ [ˈʔamina: ˈdʑoffa:ritiˈ suˈbuttara:ˈnu naˈraˈnu](雨に濡れてじめじめして湿っぽくてたまらない)。イッˈケナˈ　スˈブッタラーンˈドゥ　スˈブッタラーナーˈン　ˈフージ　シー　ベー [ʔikˈkenaˈ suˈbuttara:nˈdu suˈbuttara:naːˈŋ ˈɸu:dʑi ʃi: be:](非常に湿っぽいが、湿っぽくないふり＜風情＞をしている)。ˈシンダイˈ　スˈブッタラーˈ　ナリ　ˈクーˈバ　スˈブッタラーˈ　プˈソーˈ　キン　ˈカイキシ [ˈʃindaiˈ suˈbuttara:ˈ nari ˈku:ˈba suˈbuttara:ˈ pu̥ˈso:ˈ kiŋ ˈkaikiʃi](次第に湿っぽくなってくるから、湿っぽい人は着物を着替え＜替えて着＞なさい)。

スˈブッˈタラカバッタラ **[suˈbutˈtarakabattara]** 【副】濡れそぼつさま。びしょ濡れになって。じとじとと。ˈアミナー　ダッˈカティ　ゾーリティˈ　スˈブッˈタラカバッタラ　ˈシェーˈティ　ˈアーˈク [ˈʔamina: dakˈkati dʑo:ritiˈ suˈbutˈtarakabattara ˈʃe:ˈti ˈʔa:ˈku](雨にびしょっしょり濡れて、じとじとして水分を垂らしているよ)。

スˈブッˈタルン **[suˈbutˈtaruŋ]** 【自動】湿っぽくなる。滴り垂れる。しっとり濡れて滴が滴る。「潮垂る」の転訛か。ˈアミナー　ˈゾールˈカー　スˈブッˈタルンダ　スˈブッタランˈヨーニ　ˈサナ　ˈカビバ [ˈʔamina: ˈdʑo:ruˈka: suˈbutˈtarunda suˈbuttaraŋˈjo:ni ˈsana ˈkabiba](雨に濡れたら水が滴るから、滴らないように傘をさせ＜被れ＞よ)。ˈアイニ　スˈブッˈタレーティ　ˈアークˈナ [ˈʔaini suˈbutˈtare:ti ˈʔa:kuˈna](あんなにしっとりと濡れたままで＜濡れて＞いるな)。スˈブッˈタルカー　パˈナシキˈ　マˈマルントダー [suˈbutˈtaruka: paˈnaʃi̥kiˈ maˈmarunˈda:](しっとり濡れたら風邪をひくよ)。

スブッˈティ **[subutˈti]** 【副】びっしょり。ぐっしょり。ˈアミン　ˈゾーリˈ　スブッˈティˈ　ナリˈナーˈヌ [ˈʔamin ˈdʑo:riˈ subutˈtiˈ nariˈna:ˈnu](雨にびっしょり濡れてしまった)。スブッˈティ　ゾーリ　ベー [subutˈti dʑo:ri be:](ぐっしょりと濡れている)。

ˈスブットゥ **[ˈsubuttu]** 【名】怠け者。ウˈレーˈ　スブットゥ　ˈナリティ　ˈピッˈチン　パˈタラカヌ [ʔuˈre:ˈ subuttu ˈnariti ˈpitˈtʃim paˈtarakanu](彼は怠け者になって、ちっとも＜ひとつも＞働かない)。ウˈシクラシムヌ [ʔuˈʃikuraʃimunu](牛を屠殺する者)ともいう。

スˈブヌギ **[suˈbunugi]** 【名】渋抜き。アˈダンブラˈヌ　ˈビチン　フˈキンˈヌフキヌ　ˈビチン　ˈネーシティˈ　スˈブヌギ　サンˈカー　ッˈふァーラヌ [ʔaˈdamburaˈnu ˈbitʃiŋ ɸu̥ˈkinˈnuɸukin ˈne:ʃi̥tiˈ suˈbunugi saŋˈka: fˈfa:ranu](あだん＜阿檀＞の茎もおおたにわたり＜大谷渡り＞の茎も煮て渋抜きをし

ないと食べられない)。

スˈブバリ **[suˈbuˈbubari]** 【名】三味線 < 三線 > の渋張り。三味線を張る際に芭蕉の渋を和紙に塗り、三線の胴に張って何枚も塗りかさね、乾燥させる張り方。ザˈヒバリ [ʤaˈçibari](蛇皮張り) が高級であるのに対し、スˈブバリ [suˈbubari](渋張り) は庶民用三味線の張り方であった。音響効果は落ちるし、破れやすい欠点はあるが、手軽に簡単に張り替えることが出来るので庶民の間で重用された。スˈブバレー　ナンˈゾー　ˈナーラヌ [suˈbubare: nanˈʤo: ˈna:ranu](渋張りの三味線はあまり鳴らない)。

スˈブバリサンシン **[suˈbubarisaŋʃiŋ]** 【名】渋張りの三味線 < 三線 >。ムˈカˈシェー　スˈブバリサンシンル　アッタˈル　ザˈヒバリサンシンマー　ナーンˈシェン [muˈkaˈʃe: suˈbubarisaŋʃinru ʔattaˈru ʤaˈçibarisaŋʃimma: na:ŋˈʃeŋ](昔は渋張り三味線 < 三線 > が < ぞ > あった。蛇皮張り三味線 < 三線 > はなかった)。

ズˈブˈマイ **[ʤuˈbuˈmai]** 【名】動物の発情。さかりどき (盛り時)。交尾期。ウˈシヌˈ　ズˈブˈマイ　ˈシティˈ　タˈキˈルカー　ナˈクラーンˈダー [ʔuˈʃinuˈ ʤuˈbuˈmai ˈʃi̥tiˈ tḁˈkiˈruka: naˈkura:nˈda:](牛が発情して哮(タケル) <唸(ウナ)る > と怖いよ)。猫の場合は、ˈフヤー [ˈɸuja:](発情して気味悪く吠える) という。マˈヤˈヌ　ˈフヤー　シˈティˈ　ンˈガマサˈヌ　ナˈラˈヌ [maˈjaˈnu ˈɸuja: ʃi̥ˈtiˈ ʔŋˈgamasaˈnu naˈraˈnu](猫が発情して吠えたてて、うるさくてたまらない < どうにもならない >)。

スˈブミ **[suˈbumi]** 【名】渋み。バˈサンˈナルヌ　ˈウーマˈン　ˈムノー　スˈブミヌ　スーˈワンダ　ッˈふァーラヌ [baˈsanˈnarunu ˈʔu:mamˈ muno: suˈbuminu su:ˈwanda fˈfa:ranu](バナナの未熟なものは渋みが強いから食えない)。

スˈブムン **[suˈbumuŋ]** 【自動】しぼむ (萎む)。しおれる。若年層では、シˈブムン [ʃiˈbumuŋ](萎む) ともいう。ˈパナ　ˈイキティ　ˈユッカ　スーˈカ　スˈブムンドゥˈ　クˈヌˈ　パナー　スˈブマヌ [ˈpana: ˈʔikiti ˈjukka su:ˈka: suˈbumunduˈ kuˈnuˈ pana: suˈbumanu](花は活けて四日経つと萎むが、この花は萎まない)。スˈブミティˈ　サˈリナーˈヌ [suˈbumitiˈ saˈrina:ˈnu](萎んで枯れてしまった)。スˈブムˈ　パナー　トゥˈリカイˈリ [suˈbumuˈ pana: tuˈrikaiˈri](萎む花は取り替えなさい)。ˈマーˈビン　スˈブメーˈ　ミサムヌ [ˈma:ˈbin suˈbumeˈ misamunu](もっと萎めば良いのに)。

スˈブヤー **[suˈbuja:]** 【名】つぼや (壺屋)。首里方言からの新しい借用語。老年層は、ヤˈキˈムヌヤー [jaˈkiˈmunuja:](焼き物屋) という。

スˈブヤヤキ **[suˈbujajaki]** 【名】壷屋焼。那覇の壷屋で焼成された陶器類。イˈサナキヌˈ　スバヤーヌˈスバマカロー　スˈブヤヤキ　ヤッタ [ʔiˈsanakinuˈ subaja:nu ˈsubamakaro: suˈbujajaki jatta](石垣島のそば屋のそばを入れるお椀は壷屋焼だった)。

スˈブリˈガラ **[suˈburiˈgara]** 【名】搾りかす。搾りがら。ˈシンザˈヌ　スˈブリˈガラー　ˈプシティ　タˈムˈヌ　ˈソーッˈタ [ˈʃinʤaˈnu suˈburiˈgara: ˈpu̥ʃiti taˈmuˈnu ˈso:tˈta](砂糖黍の搾り殻を干して薪にされた)。

スˈブリˈヤン **[suˈburiˈjaŋ]** 【名】下痢を伴って腹が絞られるように痛むこと。「絞り病み」の義か。スˈブルˈバタ [suˈburuˈbata](絞り腹。酷い下痢) ともいう。スˈブリヤンˈバ　ˈシーブーヌˈ　ヌーカヤー [suˈburijamˈba ˈʃi:bu:nuˈ nu:kaja:](腹が絞られるように痛むけれど、何だろうか)。

スˈブˈル **[suˈbuˈru]** 【名】1頭。「Tçuburi.　ツブリ (つぶり)Atama(頭) に同じ.」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。スˈブˈルナー　ウˈブアシブˈヌ　ˈンジティ　ˈヤミ　ナˈラˈヌ [suˈbuˈruna: ʔuˈbuʔaʃibuˈnu ˈʔnʤitiˈjami naˈraˈnu](頭に大きなできものが出来て痛くてたまらない)。2思考力。能力。ウˈレーˈ　スˈブˈロー　カˈチˈ　ブー [ʔuˈreːˈ suˈbuˈro: kḁˈʧiˈ bu:](彼は頭がいい < 頭は勝っている。優れている >)。3人数 (頭数)。スˈブルˈカジェー　スˈルイˈヤン [suˈburuˈkaʤe: suˈruiˈjaŋ](人数 < 頭数 > は揃った)。4頭目。指導者。かしら。首領。スˈブルˈヌ　ˈウーカンˈカー　ˈティーパンˈヌン　ˈズーン　ウーˈカヌ [suˈburuˈnu ˈʔu:kaŋˈka: ˈti:panˈnun ˈʤu:ŋ ʔu:kaˈnu](指導者が率先して動かないと部下 < 手足やしっぽ > も動かない)。

スˈブル **[suˈburu]** 【名】(植) ひょうたん (瓢箪)。ゆうがお。未成熟の果実は食用に供されるが、成熟した果実の果肉を除去して乾燥し、ˈペーˈラ [ˈpeːˈra](柄杓) にしたり、水筒に利用したりした。スˈブロー　オーˈシティ　ナˈカˈグロー　ˈクリティルˈペーˈラ　スˈクルˈタ [suˈburo: ʔo:ˈʃi̥ti naˈkaˈguro: ˈkuritiru ˈpeːˈra: su̥ˈkuruˈta](瓢箪の中身 < 果肉 > を取り去ってペーラ <柄杓(ヒシャク)> を作られた)。

スˈブˈル **[suˈbuˈru]** 【名】ちきり (千切)。織機の一部で、縦糸を巻きとってあるもの。パˈトゥムヌˈヌ　スˈブˈルナー　ˈイトー　マˈキティ　ヌーヌˈ　ウˈ

ローッˈタ [pḁˈtumunuˈnu suˈbuˈruna: ˈʔito: maˈkiti nu:nuˈ ʔuˈro:tˈta](織機のちきりに糸を巻いて布を織られた)。

スˈブルˈアティ [ʔsuˈburuˈʔati] 【名】頭割り。「頭宛」の義。グˈサークマイˈヤー ˈヤーカーˈジ ˈヤーチウイヌˈ スˈブルˈアティシ アˈツァˈミバ [guˈsa:kumaiˈja: ˈja:kaːˈʤi ˈja:ʧi ʔuinuˈ suˈburuˈatiʃi ʔaˈtsaˈmiba](五勺米は家ごとに八歳以上の頭割りで集めなさい)。

スˈブルˈイシ [suˈburuˈʔiʃi] 【名】きくめいし (菊目石)。ˈイノー [ˈʔino:](礁内湖) の海底やˈピー [ˈpi:](干瀬) の礁内湖に棲息する珊瑚石のきくめいし (菊目石、海花石)。直径 30 センチ～40 センチ程度の球塊状をなす珊瑚石で、島ではこれを採取して頭頂部を削り、家屋建築の礎石に利用した。これをイˈシジ [ʔiˈʃiʤi](礎石) という。古歌謡ではスˈブˈチダマ [suˈbuˈʧidama](菊目石) という (古歌謡「アーパーレー」参照)。スˈブルˈイシ ˈトゥリキー キˈジティ ヤーˈヌ イˈシジ ソーッˈタ [suˈburuˈʔiʃi ˈturiki: kiˈʤiti ja:ˈnu ʔiˈʃiʤi so:tˈta](菊目石を採ってきて削って礎石にされた)。

スˈブˈル ˈガズン [suˈbuˈru ˈgaʤuŋ] 【連】頭を掻く。ッˈサンˈヌ ˈシディティ ˈビーˈヨーティル スˈブˈル ˈガジ ˈベー [sˈsanˈnu ˈʃiditi ˈbi:ˈjo:tiru suˈbuˈru ˈgaʤi ˈbe:](虱が湧いて＜孵化して＞、痒いので頭を掻いている)。

スˈブˈル カˈトンカˈスン [suˈbuˈru kḁˈtoŋkaˈsuŋ] 【連】頭をかしげる (傾げる)。了承しない。「首を傾ける」の義。ˈアブジェー スˈブˈル カˈトンカˈソーレーラ ˈターˈ ノーンˈティˈ タˈナマˈバン スˈコーラˈヌ [ˈʔabuʤe: suˈbuˈru kḁˈtoŋkaˈso:re:ra: ˈta:ˈ no:nˈtiˈ taˈnamaˈban sṵˈko:raˈnu](お祖父さんが首を傾げられると、誰が頼んでもお聞きにならない＜聞かれない。承知なさらない＞)。

スˈブˈル ˈナーˈヌ [suˈbuˈru ˈna:ˈnu] 【連】賢くない。頭が良くない。「頭がない」の義。スˈブˈロー ˈナーˈムティ フˈチガールˈ カーˈニ スー [suˈbuˈro: ˈna:ˈmuti ɸṵˈʧiga:ruˈ ka:ˈni su:](賢くないくせに＜才能はないのに＞自慢だけする)。

スˈブルˈバタ [suˈburuˈbata] 【名】赤痢 (dysentry)。赤痢菌によっておこる病気。頑固な下痢症状がある『医学沖縄語辞典』。スˈブルバタˈヌ パˈヤーˈリ ブˈリンˈギサバ ナˈマˈミジェー ヌˈマンˈドーシ ヤーˈディンˈ フˈカˈシティ ヌミˈヨー [suˈburubataˈnu paˈja:ˈri buˈriŋˈgisaba naˈmaˈmiʤe: nuˈmanˈdo:ʃi ja:ˈdiŋˈ ɸṵˈkaˈʃi̥ti numiˈjo:](赤痢が流行しているようだから生水は飲まないで、必ず沸かして飲みなさいよ)。

スˈブルˈバナ [suˈburuˈbana] 【名】風邪。はなかぜ (鼻風邪)。流行性感冒。スˈブルˈバナ ˈフシゥˈカリティル スˈブルˈヌ ˈヤミ ˈマーダーッサー ナーンˈバン [suˈburuˈbana ˈɸusi̥ˈkaritiru suˈburuˈnu ˈjami ˈma:da:ssa: na:mˈbaŋ](鼻風邪に罹って＜鼻風邪が取り付いて＞、頭が痛くて＜頭が病み＞、体調がよくない＜正常でない＞)。

スˈブルˈバリ [suˈburuˈbari] 【名】頭数に割り当てること。人数に配当すること。イˈゾーˈ スˈブルˈバリ ˈシーˈ バˈキˈリ [ʔiˈʤo:ˈ suˈburuˈbari ˈʃi:ˈ baˈkiˈri](漁獲物は人数＜頭数＞に均等配分しなさい)。

スˈブˈル バˈリックナー スン [suˈbuˈru baˈrikkuna: suŋ] 【連】極めて密集混雑している。立錐の余地がない。人がたくさんいて、頭をぶっつけ合うほど込み合う。「頭をぶっつけ合いする」の義。ˈヨイシヤーˈヌ プˈソーˈ スˈブˈル バˈリックナー シーˈ タテイン ˈビリン ナˈランˈシェン [ˈjoiʃija:ˈnu pṵˈso:ˈ suˈbuˈru baˈrikkuna: ʃi:ˈ tḁtim ˈbirin naˈraŋˈʃeŋ](祝儀のあった家の人は極めて混雑していて＜ひしめいて。頭をぶっつけ合うほど混み合っていて＞、立つことも座ることも出来なかった)。

スˈブˈル ˈマーラヌ [suˈbuˈru ˈma:ranu] 【連】頭が回らない。正しい思考や判断が出来ない。ユˈヌˈピンナー フˈターチヌˈ キˈザルヌˈ パˈラッカーシティˈ スˈブˈロー ˈマーラヌ [juˈnuˈpinna: ɸṵˈta:ʧinuˈ kiˈʤarunuˈ paˈrakka:ʃi̥tiˈ suˈbuˈro: ˈma:ranu](同じ日に二つの行事がぶつかって＜重なって＞、気転が利かない＜頭が回らない＞)。

スˈブˈル ムˈタイˈルン [suˈbuˈru muˈtaiˈruŋ] 【連】起き上がる。立ち上がる。病床から体を起す。「頭を持ち上げる」の義。スˈブˈル ムˈタイˈルンティ ˈシーバルˈ アˈムサˈヌ ムッˈトゥˈ スˈブˈル ムˈタイララˈヌ (ムˈタイラルˈヌ)[suˈbuˈru muˈtaiˈrunti ˈʃi:baruˈ ʔaˈmusaˈnu mutˈtuˈ suˈbuˈru muˈtairaraˈnu(muˈtairaruˈnu)](起き上がろうとするが気分が悪くて、ちっとも起き上がれない＜頭を持ち上げることが出来ない＞)。

スˈブルˈヤン [suˈburuˈjaŋ] 【名】頭痛。スˈブルˈヤンヌ ウˈクˈリティ ムˈヌカンˈガイ ナˈラˈヌ [suˈburuˈjannu ʔuˈkuˈriti muˈnukaŋˈgai naˈraˈnu](頭痛が起きて、あれこれと考えることが出来ない＜どうにもならない＞)。

スˈブルˈヤン　ムˈティˈプス **[suˈburuˈjam muˈtiˈpu̥su]** 【連】頭痛持ち。「頭痛持ち人」の義。ウˈレーˈ　スˈブルˈヤン　ムˈティˈプス　ヤˈルンダˈ　シˈグトーˈ　タˈナマラˈヌ [ʔuˈreːˈ suˈburuˈjam muˈtiˈpu̥su jaˈrundaˈ ʃiˈgutoːˈ taˈnamaraˈnu](彼は頭痛持ちだから仕事は頼まれない)。

スˈブˈル　ˈワッˈサン **[suˈbuˈru ˈwasˈsaŋ]** 【連】頭が悪い。知恵がない。ˈバー　スˈブルˈヌ　ˈワッˈサンダ　クˈヌˈ　シˈグトーˈ　ナˈラˈヌ [ˈbaː suˈburuˈnu ˈwasˈsanda kuˈnuˈ ʃiˈgutoːˈ naˈraˈnu](私は頭が悪いから、この仕事は出来ない)。

スˈブˈルン **[suˈbuˈruŋ]** 【他動】1絞る。スˈブランˈドーシ　ˈプスカー　ˈカーラキˈ　グˈリˈサバ　ギッˈティˈ　スˈブˈリティ　プシバ [suˈburanˈdoːʃi ˈpu̥sukaː ˈkaːrakiˈ guˈriˈsaba gitˈtiˈ suˈbuˈriti ˈpu̥ʃiba](絞らないで干すと乾きにくいから、ぎゅっと絞って干しなさい)。ギューˈムシンˈ　スˈブルンˈドゥ　スˈブˈルカーˈジˈ　シロー　パˈリˈス [gjuːˈmuʃinˈ suˈburunˈdu suˈbuˈrukaːˈʤiˈ ʃiroː paˈriˈsu](幾度も絞るけれど、絞る毎に汁がでる)。スˈブˈレー　ˈミサムヌ [suˈbuˈreː ˈmisamunu](絞ればいいのに)。シˈグˈ　スˈブˈリ [ʃiˈguˈ suˈbuˈri](すぐ絞れ)。2握る。ˈマイヌˈイー　スˈブˈリ　ムˈタˈシバ [ˈmaiˈnuiː suˈbuˈri muˈtaˈʃiba](米のご飯を握って持たせてやりなさい)。ˈイー　スˈブˈリティ　ムˈタˈシバ [ˈʔiː suˈbuˈriti muˈtaˈʃiba](ご飯を握って持たせてやりなさい)。

スˈブˈレー **[suˈbuˈreː]** 【名】御握り。ˈマイヌˈイー　スˈブˈレー　シˈティˈ　ッˈふァーシˈバ [ˈmainuˈʔiː suˈbuˈreː ʃi̥ˈti fˈfaːʃiˈba](お米のご飯を御握りにして食べさせなさいよ)。

スˈブˈレー **[suˈbuˈreː]** 【名】絞った濡れ手拭。濡れ布巾。「絞り・や＜もの＞」の義。スˈブˈレーシ　ヤˈラビˈヌ　フˈチヌ　マーラーˈ　ッˈスリˈバ [suˈbuˈreːʃi jaˈrabiˈnu ɸu̥ˈʧinu maːraːˈ sˈsuriˈba](絞った濡れ手拭で子供の口の周りを拭きなさいよ)。

ˈズブン **[ˈʤubuŋ]** 【自動】動物が交尾する。つるむ。「交接、ツルム」『運歩色葉集』、「Çurubi、bu、unda. ツルビ、ブ、ンダ～鳥類や獣類が交尾する。あるいは、交わる」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。イˈキムˈシェー　ˈマーンˈナーティン　ˈズブン [ʔiˈkimuˈʃeːˈmaːnˈnaːtin ˈʤubuŋ](動物は何処でも交尾する＜つるむ＞)。マˈナˈマー　ズˈバˈヌ　ズˈブˈマイ　ˈスーバルˈ　ズˈビ　パジミˈル [maˈnaˈmaː ʤuˈbaˈnu ʤuˈbuˈmai ˈsuːbaruˈ ʤuˈbi paʤimiˈru](今は交尾し＜つるま＞ない。発情したら交尾し＜つるみ＞はじめる)。ˈズブ　ˈピンマー　ナˈカヌ [ˈʤubuˈpimmaː naˈkanu](交尾するときは鳴かない)。ˈズベー　ˈミサムヌ [ˈʤubeː ˈmisamunu](交尾すればよいのに)。ˈズビ [ˈʤubi](交尾しろ)。

スˈベーˈルン **[suˈbeːˈruŋ]** 【自動】滑る。「Suberi,u,etta. スネリ, ル, ッタ (滑り, る, った)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。アˈミˈヌ　ˈフーカー　ドゥˈルミチェーˈ　スˈベーˈルンティ　ウˈムータンˈドゥ　スˈベーランˈバン [ʔaˈmiˈnu ˈɸuːkaː duˈrumiʧeːˈ suˈbeːˈrunti ʔuˈmuːtanˈdu suˈbeːramˈbaŋ](雨が降ると泥んこ道は滑ると思ったが、滑らないよ)。ˈクナー　スˈベーˈリミサカー　スˈベーˈル　ˈクトー　ˈナルン [ˈkunaː suˈbeːˈrimisakaː suˈbeːˈru ˈku̥toː ˈnaruŋ](ここで滑ってよければ、滑ることはできる)。ˈスベーˈレー　ˈミサムヌ [suˈbeːˈreː ˈmisamunu](滑れば良いのに)。ˈマーˈビン　スˈベーˈリ [ˈmaːˈbin suˈbeːˈri](もっと滑れ)。

スˈボームン **[suˈboːmuŋ]** 【自動】つぼむ (窄む)。すぼむ。しぼむ。小さくなる。「Tçubomi,u,ôda. ツボミ, ム, ゥダ (窄み, む, うだ)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˈクンˈゾー　ウˈクˈル　ˈピンマー　フˈチェーˈ　スˈボームンドゥˈ　マˈナˈマー　フˈチェーˈ　スˈボーマヌ [ˈkunˈʤoː ʔuˈkuˈru ˈpimmaː ɸu̥ˈʧeːˈ suˈboːmunduˈ maˈnaˈmaː suˈboːmanu](立腹する時は口を窄めるが、今は窄めない)。ˈパナー　スˈボーミ　ナーˈヌ [ˈpanaː suˈboːmi naːˈnu](花はしぼんでしまった)。スˈボームˈ　パナー　シˈグˈ　サˈリス [suˈboːmuˈ panaː ʃiˈguˈ saˈrisu](窄む花はすぐ枯れる)。フˈチェーˈ　スˈボーメーˈ　ミサムヌ [ɸu̥ˈʧeːˈ suˈboːmeːˈ misamunu](口は窄めればいいのに)。ˈマーˈビン　スˈボーミリ [ˈmaːˈbin suˈboːmiri](もっと窄めろ)。

スˈボーˈン **[suˈboːˈŋ]** 【形】渋い。ˈバンˈスル [ˈbanˈsuru](グワバ。バンジロウ＜蕃石榴＞) やバˈサンˈナル [baˈsanˈnaru](バナナ) などの未熟な果実の味を表す。舌の上にザラザラ、カサカサした感じが残る。マˈダ　ウーマˈンダ　スˈボーンˈカヤーティ　ウˈムータンˈドゥ　ˈナンˈゾー　スˈボー　ナーˈヌ [maˈda ʔuːmaˈnda suˈboːŋˈkajaːti ʔuˈmuːtanˈdu ˈnanˈʤoː suˈboːnaːˈnu](まだ熟れてないから渋いだろうと思ったが、それほど渋くない)。スˈボーˈ　ナルン [suˈboːˈ naruŋ](渋くなる)。スˈボーˈヌ　ッˈふァーラヌ [suˈboːˈnu fˈfaːranu](渋くて喰えない)。スˈボーˈムノー　ッˈふーナ [suˈboːˈ munoː fˈfuːna](渋いものは喰うな)。スˈボーˈカー　シˈティリ [suˈboːˈ

ka: ʃi̥ˈtiri](渋ければ捨てろ)。ナˈマバンˉスロー　スˈボーˉンドゥ　ˈウーˉムカー　スˈボー　ナーˉヌ [naˈmabanˉsuro: suˈboːˉndu ˈʔuːˉmuka: suˈboːnaːˉnu](未熟のばんじろう＜蕃石榴＞は渋いが、熟れると渋くない)。シˈンダイˉ　スˈボーˉ　ナルン [ˈʃindaiˉ suˈboːˉ naruŋ](次第に渋くなる)。スˈボーˉ　ムノー　ッˈふァーラヌ [suˈboːˉ muno: fˈfaːranu](渋いのは食べられない)。ˉアイニ　スˈボーˉカー　ッˈふァーン　ブリˉバ [ˉʔaini suˈboːˉka: fˈfaːm buriˉba](あんなに渋かったら食べるな＜食わずにおれ＞よ)。

ˉズボン [ˉʤuboŋ] 【名】ズボン (Jupon＜フランス語からの外来語＞) の転訛したもの。鳩間島では大正末期頃から学校の男性教師がズボンを着用するようになり、昭和の初期頃から国民学校の男生徒の中に半ズボンを着用する者が現れ、昭和 15 年頃からは男生徒は全員半ズボンを着用するようになったという。戦後昭和 25 年ごろからアメリカ流行ファッションの影響により男子中学生が長ズボンを着用するようになった。ˈハンˉズボン [ˈhanˉʤuboŋ](半ズボン)。ナˈガˉズボン [naˈgaˉʤuboŋ](長ズボン)。ˉズボン　キˈスン [ˉʤuboŋ ki̥ˈsuŋ](ズボンを穿く＜着る＞)。

スˈマルン [suˈmaruŋ] 【自動】1染まる。色がしみこむ。「Somari,ru,atta. ソマリ, ル, ッタ (染まり, る, った)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ムˈミンˉマ　ˉアイナー　ˉユー　スˈマルンティˉ　ウˈムーンˉドゥ　ˉバサキンマー　ˈナンˉゾー　スˈマラヌ [muˈmimˉma: ˉʔaina: ˉju: suˈmaruntiˉ ʔuˈmuːnˉdu ˉbasakimma: ˈnanˉʤo: suˈmaranu](綿布は藍によく染まると思うが、芭蕉布はあまり染まらない)。クˈレーˉ　スˈマリ　ヤッˉサン [kuˈreːˉ suˈmari jasˉsaŋ](これは染まりやすい)。スˈマルˉ　クトー　スˈマルンドゥ　マーˉビン　スˈマレーˉ　ミサムヌ [suˈmaruˉ kuto: suˈmarundu maːˉbin suˈmareːˉ misamunu](染まることは染まるが、もっと染まればよいのに)。ˈパーˉク　スˈマリ [ˈpaːˉku suˈmari](早く染まれ)。2影響される。かぶれる。

スˈミカイルン [suˈmikairuŋ] 【他動】染め替える。ˈクンジキンマˉ　イˈルˉヌ　サˈミˉルカー　スˈミカイルン [ˈkunʤikimmaːˉ ʔiˈruˉnu saˈmiˉruka: suˈmikairuŋ](紺地の着物は色が冷めたら＜色があせたら＞、染め替える)。スˈミカイラヌ [suˈmikairanu](染め替えない)。スˈミカイヤッˉサン [suˈmikaijasˉsaŋ](染め替え易い)。スˈミカイル　キンˉマー　ˉヌーヤ [suˈmikairu kimˉmaː ˉnuːja](染め替える着物はどれか＜何か＞)。スˈミカイレー (スˈミカイヤー)ˉミサムヌ [suˈmikareː(suˈmikaijaː)ˉmisamunu](染め替えれば良いのに)。スˈミカイリ [suˈmikairi](染め替えよ)。

スˈミカサニルン [suˈmikasaniruŋ] 【他動】染め重ねる。フˈクンヌˉ　カー　ˉシジティ　スˈミカサニルン [ɸu̥ˈkunnuˉ ka: ˉʃiʤiti suˈmikasaniruŋ](福木の皮を煎じて染め重ねる)。

スˈミカタ [suˈmikata] 【名】染め方。染める方法。ˈクンジヌˉ　スˈミカタˉ　バン　ナˈラーˉシ　ッˈふィーリ [ˈkunʤinuˉ suˈmikataˉ ban naˈraːˉʃi fˈfiːri](紺地の染め方＜染色方＞を私に教えてくれ)。

スˈミムヌ [suˈmimunu] 【名】染物。染めた織物。スˈミムノーˉ　マナー　ˉシケーワ [suˈmimunoːˉ manaːˉ ʃi̥keːwa](染物は何処に置いてあるか)。

スˈミムヌヤー [suˈmimunujaː] 【名】染物屋。スˈミムヌヤーヤˉ　パˈトゥˉマナー　ˈナーンˉシェン [suˈmimunujaːjaˉ pḁˈtuˉmanaː ˈnaːŋˉʃeŋ](染物屋は鳩間島にはなかった)。

スˈミルン [suˈmiruŋ] 【他動】1染める。いろどる。「色深く背なが衣は曾米麻之乎＜ソメマシヲ＞～『万葉集　4424』」の義。ˈプーヤˉ　アˈカˉズミキーヌ　ˉカー　ˉシジティ　スˈミルンティˉ　ウˈムーンˉドゥ　ˈタンガˉシェー　スˈミララヌ [ˈpuːjaˉ ʔaˈkaˉʤumikiːnu ˉkaː ˉʃiʤiti suˈmirountiˉ ʔuˈmuːnˉdu ˈtaŋgaˉʃeː suˈmiraranu](帆はヒルギの皮を煎じて染めようと思うが、一人では染められない)。ˈキールˉ　スˈミルムノーˉ　フˈクンキーヌˉ　カー　ˉシジティ　スˈミレーˉ　ミサムヌ [ˈkiːruˉ suˈmirumunoːˉ ɸu̥ˈkuŋkiːnuˉ kaː ˉʃiʤiti suˈmireːˉ misamunu](黄色に染めるものは福木の皮を煎じて染めればいいのに)。クˈリˉシン　スˈミˉ　ミサン [kuˈriˉʃin suˈmiˉ misaŋ](これでも染めてよい)。2深く心に刻む。ウˈヤˉヌ　ユˈシグトーˉ　キˈムˉナ　スˈミリ [ʔuˈjaˉnu juˈʃiguto:ˉ kiˈmuˉnaː suˈmiri](親の忠告、教訓は心に刻め＜肝に染めよ。銘ぜよ＞)。

スˈム [suˈmu] 【名】1しも (下)。台所。ミˈドゥムンケーˉヤ　スˈムˉナール　ˈイーˉヤ　ンˈコーッˉタ [miˈdumuŋkeːˉja suˈmuˉnaːru ˈʔiːˉja ʔŋˈkoːtˉta](女性＜おんな＞達は台所＜下の方で＞でご飯を食べられた)。2下の家。自分の家より下＜海辺＞にある親戚の家。スˈモー [suˈmoː](海辺の親戚の家) ともいう。スˈムˉナー　ˈギーˉ　アッパー　シゥˈカシˉクー [suˈmuˉnaː ˈgiːˉ ʔappaː si̥ˈkaʃiˉkuː](下の家＜海辺にある親戚の家＞に行ってお祖母さんをお連れして

きなさい)。

スˈムˈクン [suˈmuˈkuŋ] 【自動】そむく (背く)。逆らう。手向かいする。ˈアイブ　ˈクトゥ　ˈスーˈカー　ウˈヤˈヌ　ˈムニナ　スˈムˈクンダ　スˈムカンˈ　ヨーニ　ˈシー [ˈʔaibu ˈkʉ̥tu ˈsuːˈkaː ʔuˈjaˈnu ˈmunina suˈmuˈkunda suˈmukaŋˈjoːni ˈʃiː](あんなことをすると親の言葉＜教え＞に背くから、背かないようにしろ)。スˈムˈキ　ˈミサカー　スˈムˈク　ˈクトー　ナˈルンˈドゥ　スˈムˈケーラ　ˈウヤフコー　ナリˈゲˈラ [suˈmuˈki ˈmisakaː suˈmuˈku ˈkʉ̥toː naˈrun ˈdu suˈmuˈkeːraː ˈʔujaɸʉ̥koː nariˈgeˈra](背いて良ければ背くことは出来るが、背いたら親不幸になるさ)。スˈムˈキバ [suˈmuˈkiba](背けよ)。

スˈムザー [suˈmudʑaː] 【名】下座。カˈミˈザー [kaˈmi ˈdʑaː](上座) の対義語。ˈウヤンケーヤ　カˈミˈザー　シゥˈカシティ　ウシトゥンケーˈヤ　スˈムザーˈナ　ビˈラシˈバ [ˈʔujaŋkeːja kaˈmiˈdʑaː sʉ̥ˈkaʃʉ̥ti ʔuʃʉ̥-tuŋkeːˈja suˈmudʑaːˈna biˈraʃiˈba](親御さん方は上座へお連れ＜ご案内＞して、年下の方々は下座に座らせなさいよ)。

スˈムスク [suˈmusuku] 【名】島の北西の、集落地から最も遠い所。最奥＜底＞の地。「下・底」の転訛したもの。タˈチˈバル [tʉ̥ˈʧiˈbaru](立原) の浜に近い所。スˈムスクヌˈ　パˈタˈケー　ˈウン　ˈカイˈシン　ˈパッˈタ [suˈmusʉ̥kunuˈ pʉ̥ˈtaˈkeː ˈʔuŋ ˈkaiˈʃim ˈpatˈta](立原の最奥の地にある畑へ芋堀りに＜芋耕しに＞行った)。

スˈムˈスム [suˈmuˈsumu] 【接続】そもそも (抑)。いったい。標準語からの借用語。文頭に用いて物事を説き起こす。スˈムˈスム　ˈワーˈラ　シˈダキˈ　ンˈザˈセール　パˈナˈシ　ヤˈリバ　ワーˈシ　シˈマチェーˈ　シˈキˈリ [suˈmuˈsumu ˈwaːˈra ʃiˈdakiˈ ʔnˈdʑaˈʃeːru paˈnaˈʃi jaˈriba waːˈʃi ʃiˈmatʃeːˈ ʃʉ̥ˈkiˈri](そもそも君の方から＜君から＞先に出した話だから、君自身で問題解決しろ＜始末はつけろ＞よ)。

スˈムˈチ [suˈmuˈʧi] 【名】書物。本。スˈムˈチ　ˈユム　ピˈマーヤ　ナーンˈシェン [suˈmuˈʧi ˈjumu pi ˈmaːja naːŋˈʃeŋ](書物を読むひま＜暇＞はなかった)。

スˈムヌˈ　シˈグトゥ [suˈmunuˈ ʃiˈgutu] 【連】下の仕事。台所の仕事。ビˈコーンッふァーˈ　スˈムヌˈ　シˈグトゥ　スーモーˈ　アˈラˈヌティル　ナˈラーˈソーッタ [biˈkoːŋffaːˈ suˈmunuˈ ʃiˈgutu suːmoːˈ ʔaˈraˈnutiru naˈraːˈsoːtta](男の子は台所の仕事をするものではないと教えられた)。

スˈムヌ　フン [suˈmunu ɸuŋ] 【連】石垣島から離島の島々を指して言う。「下の国」の義。イˈサンケーˈラ　ˈパンタ　ˈインタヌˈ　シマジマバ　スˈムヌフンˈティ　アˈゾーッˈタ [ʔiˈsaŋkeːˈra ˈpanta ˈʔintanuˈ ʃimadʑimaba suˈmunu ɸunˈti ʔaˈdʑoːtˈta](石垣島から南、西の島々を下の国といわれた)。

スˈムパタラキ [suˈmupataraki] 【名】台所仕事。ブˈナルヌルˈ　プˈスンˈヤーヌ　スˈムパタラキバ　シェーˈティル　ビˈキルバ　ウイヌ　ガッˈコー　ンˈザˈソーッタ [buˈnarunuˈ pʉ̥ˈsuŋˈjaːnu suˈmupatarak-iba ʃeːˈtiru biˈkiruba ʔuinu gakˈkoː ʔnˈdʑaˈsoːtta](姉＜姉妹＞が余所の家の台所仕事をしながら弟＜兄弟＞を上級学校へ出された)。

スˈムン [suˈmuŋ] 【他動】染める。「染め＜下二段＞。色深く背なが衣は曾米麻之乎～『万葉集　4424』」、「somevaqe、quru、eta。ソメワケ、クル、ケタ『邦訳日葡辞書』」の四段活用に転訛したもの。ˈイル　スˈムン [ˈʔiru suˈmuŋ](色を染める)。クˈレーˈ　スˈマンシェン [kuˈreːˈ suˈmaŋʃeŋ](これは染めなかった)。クˈリンˈ　スˈミˈ　ミサン [kuˈrinˈ suˈmiˈ misaŋ](これも染めていい)。スˈム　ムノー　パーˈク　スˈメーˈ　ミサムヌ [suˈmu munoː paːˈku suˈmeːˈ misamunu](染めるものは早く染めればよいのに)。ˈドゥーシ　スˈミ [ˈduːʃi suˈmi](自分で染めろ)。²心に刻む。心にしみこませる。深く感動する。ウˈヤˈヌ　ˈクイ　キˈムˈナー　スˈミティ　バシキルナ [ʔuˈjaˈnu ˈkui kiˈmuˈnaː suˈmiti baʃʉ̥kiruna](親の言葉＜声＞を肝に深く刻んで＜深く染めて＞忘れるな)。

スˈモー [suˈmoː] 【名】海辺の親戚の家。下の家。スˈム [suˈmu] 参照。スˈム [suˈmu]+[jaː](は)→　スˈモー [suˈmoː] の音韻変化によるもの。スˈモーˈナ　ˈギーˈ　ンˈマーˈムヌ　ッˈふァイˈ　クーˈディー [suˈmoːˈna ˈgiːˈ ʔmˈmaːˈmunu fˈfaiˈ kuːˈdiː](海辺の親戚の家＜下の家＞に行って美味しいものを食べてこようよ)。

ˈスラ [ˈsura] 【名】こずえ (梢)。木のてっぺん。植物の先端。ˈコーンギーˈヌ　ˈスラナー　ˈパトゥグザヌ　トゥˈマリ　ベーˈン [ˈkoːŋgiːˈnu ˈsuranaːˈ pʉ̥tugudʑanu tuˈmari beːˈŋ](桑の木の梢に山鳩が止まっている)。ガˈヤーˈヤ　ˈニースラ　スˈローˈシティ　マˈラキ [gaˈjaːˈja ˈniːsura suˈroːˈʃʉ̥ti maˈraki](茅は根と末を揃えて 1 丸＜三十束＞に束ねろ)。

スラーˈク [suraːˈku] 【副】すっかり。きれいに。綺麗さっぱり。見事に。完璧に。沖縄本島首里方言

の curaaku(きれいに) の転訛したもの。若年層では、チュラーˈク [tʃuraːˈku](きれいに。すっかり) ともいう。多くの場合、迷惑の受身文で用いられる。ˈマイヤーˀ　カマイン　スラーˈクˀ　シˈラリナーˀヌ [ˈmaijaːˀ kamain suraːˈkuˀ ʃiˈrari naːˀnu](稲は猪にすっかりやられてしまった)。

スˈラウルˀシ [suˈraʔuruˀʃi] 【名】進水式。新造船を造船場から下ろして海に浮かべる儀式。カツオ漁船は漁期が終わると砂浜に陸揚げして修理をし、翌年の漁期に進水式をおこなった。スˈラウラˀシ [suˈraurаˀʃi] ともいう。砂浜にˈバンギ [ˈbaŋgi](材木) を敷き、その上にコˈロ [koˈro](ころ＜転＞。丸太) を置き、船体を載せてゆっくりと進水させ、海に浮かべた。カˈツシンマーˀ　ジˈキヌˀ　シギルカー　ˀウカナ　アˈギティˀ　イェントゥシナール　スˈラウルˀシ　ˈソーッˀタ [kạˈtsuʃimmaːˀ ʤiˈkinuˀ ʃiˈgiˀruka: ˀʔukana: ʔaˈgitiˀ jentuʃinaːru suˈraʔuruˀʃi ˈsoːtˀta](カツオ漁船は時期が過ぎるとおか＜陸＞に揚げて、翌年に進水式をされた)。

ˀスラズー [ˀsuraʤuː] 【名】造船所。ˀスラバ [ˀsuraba](造船場) ともいう。スラ [sura] は「修羅、シュラ、大石を引く材木也」『文明本節用集』の転訛したものか。西表島北岸のˀシザバナリ [ˀʃiʤabanari](下離崎) の南側、ナˈダラガーラ [naˈdaragaːra](ナダラ川) 寄りのヤˈドゥルˀガン [jaˈduruˀgaŋ](地名) という所に、船浦湾の方へ向かって作られた昔の造船所跡が大正ごろまで残っていたという。ナˈミノˀウエタンコー [naˈminoˀʔuetaŋkoː](波乃上炭坑) の石炭の積荷はそこを利用していたという (加治工伊佐氏直話)。ˀシザバナリヌ　ˀパンタナー　ムˈカシˀヌ　ˀスラズーヌ　アˈトゥˀヌ　ˈアッˀタンˈダー [ˀʃiʤabanarinu ˀpantanaː muˈkaʃiˀnu ˀsuraʤuːnu ʔaˈtuˀnu ˈʔatˀtanˈdaː](下離崎の南側のヤˈドゥルˀガンに昔の造船所跡があったよ)。

スˈラˀスン [suˈraˀsuŋ] 【他動】そらす (反らす)。曲がったものを伸ばす。クˈシˀ　ヌˈバˀシ　スˈラˀスンティ　ˈスーヌンドゥˀ　クˈシェˀマˈガリティˀ　スˈラサラˀヌ [kụˈʃiˀ nuˈbaˀʃi suˈraˀsunti ˈsuːnunduˀ kuˈʃeːˀ maˈgaritiˀ suˈrasaraˀnu](腰を伸ばして反らせようとするが、腰は曲がって反らされない)。スˈラˀシ　ˈミッタˀヌ　ˀドゥーシ　スˈラˀス　ˀクトー　ナˈラˀヌ [suˈraˀʃi ˈmittaˀnu ˀduːʃi suˈraˀsu ˀkụtoː naˈraˀnu](反らしてみたが、自分では反らすことが出来ない)。クˈシˀ　スˈラˀシェー　ˀミサムヌ [kụˈʃiˀ suˈraˀʃeː ˀmisamunu](腰を反らせばよいのに)。ンˈベーマˀ　スˈラˀシバ [ʔmˈbeːmaˀ suˈraˀʃiba](少し反らせなさい)。

ˀスラナル [ˀsuranaru] 【名】うらなり (末成り)。瓜などの蔓の末になる実。ムˈトゥˀナル [muˈtuˀnaru](根元になる実) の対義語。ˀスラナル　ヤˈルンドゥˀ　イッˈケナˀ　ズコー　ˈシーˀ　ンˈマーˀリバン [ˀsuranaru jaˈrunduˀ ʔikˈkenaˀ ʤukoː ˈʃiːˀ ʔmˈmaːˀ ribaŋ](末成りだが、よく熟はしていて美味しいわい)。

スˈラパンˀタ [suˈrapanˀta] 【名】こずえ (梢)。先端。ˈキーˀヌ　スˈラパンˀタナー　ˈヌーリ　アーˀキ　ˀウマーラ　ˀウティティ　ˀドゥー　ヤˈマˀシ　ˀシケー [ˈkiːˀnu suˈrapanˀtanaː ˈnuːri ʔaːˀki ˀʔumaːra ˀʔutiti ˀduː jaˈmaˀʃi ˀʃi̥keː](木の先端＜梢＞に登っていて、そこから落ちて怪我をして＜体を病まして＞ある)。

スˈラパンターˀマ [suˈrapantaːˀma] 【名】梢の先端。「マ」は「小さいもの、可愛いもの」を表す接尾美称辞。「梢の最先端の細い所」の義。ˈキーˀヌ　スˈラパンターˀマナー　カˈジブタラーマˀヌ　トゥˈマリベー [ˈkiːˀnu suˈrapantaːˀmana: kaˈʤibutaraːmaˀnu tuˈmaribeː](木の梢の先端部に燕が止まっている)。

ˀズリ [ˀʤuri] 【名】女郎。遊女。首里方言からの借用語。普通は、サˈカナヤーミドゥム [sạˈkanaja:midumu](料亭の女) という。イˈサナケーヌˀ　サˈカナヤーヌˀ　ミˈドゥムˀバ　ˀズリティ　アˈゾーッˀタ [ʔiˈsanakeːnuˀ sạˈkanajaːnuˀ miˈdumuˀba ˀʤuriti ʔaˈʤoːtˀta](石垣島の料亭の女をズリーといわれた)。

スˈリースリーˀシ [suˈriːsuriːˀʃi] 【副】元気よく。生き生きとして。ˀヤミティ　ダˈラシˀキ　ˈオーˀルカヤーティ　ウˈムータンˀドゥ　スˈリースリーˀシ　ˈオールˀバン [ˀjamiti daˈraʃi̥ˀki ˈʔoːˀrukajaːti ʔuˈmuːtanˀdu suˈriːsuriːˀʃi ˈʔoːruˀbaŋ](病気で＜病んで＞へたばって動けなくなっていらっしゃるか思ったが、元気で生き生きしていらっしゃるよ)。

ˀズリアサビ [ˀʤuriʔasabi] 【名】女郎遊び。女郎買い。サˈカナヤーアサビバˀ　ズリアサビティ　アˈジ　オーッˀタ [sạˈkanajaːʔasabibaˀ ʤuriʔasabiti ʔaˈʤi ʔoːtˀta](料亭遊びを女郎遊びと言っておられた)。

スˈリトゥム [suˈritumu] 【接続】あるいはまた。それでも。歌謡語。/ワリンダカ　ユニンナル　イヤシングゥヌ　ムチュタル　タカラヤ　ネナヤブリ　ムチュタル　タカラヤ　アリバクリ　スリトゥ

ム　ウヤニヨー　マイラサヌ～/(合計四人の貧しい子供が、所持するお金＜宝＞が無くて、所持するお金＜宝＞は有ればこそ、それでも親＜親の霊前＞に参ろう)「念仏歌 (弟の声)」。

スˈリˀバイ **[suˈriˀbai]** 【名】稲のかりかぶ (刈株)。ススキや茅の刈り株。ˈマイヌˀ　スˈリˀバイナ　マˈイタバルˀ　ウˈサッˀキ [ˈmainuˀ suˈriˀbaina ˈmaitabaruˀ ʔuˈsakˀki](稲の刈り株の上に刈り取った稲束を掛けて＜置いて＞おきなさい)。「剃り芽」の義か。ガˈヤーˀヌ　スˈリˀバイ [gaˈjaːˀnu suˈriˀbai](茅の刈り株)。ˈユシキˀヌ　スˈリˀバイ [ˈjuʃi̥kiˀnu suˈriˀbai](ススキの刈り株)、ガˈヤーˀヌ　スˈリˀバイナー　ˀパン　ˈピッカˀリティ　ˀヤミ　ナˈラˀヌ [gaˈjaːˀnu suˈri ˀbainaː ˀpam ˈpikkaˀriti ˀjami naˈraˀnu](茅の刈り株に足を刺されて痛くて堪らない)。

スˈリˀルン **[suˈriˀruŋ]** 【自動】反る。反り返る。真直ぐに立つ。ˈノーリマイˀヌ　ˈプーˀヤ　フˈビˀブルン　ヤˈブリマイˀヌ　ˈプーˀヤ　フˈビˀ　スˈリˀルン [ˈnoːrimaiˀnu ˈpuːˀja ɸuˈbiˀ buruŋ jaˈburimaiˀnu ˈpuːˀ ja ɸuˈbiˀ suˈriˀruŋ](稔った稲の穂は首を垂れる。イモチ病＜破れた稲＞の稲穂は直立する＜反り返る＞)。イˈツァˀバ　ˀティダナ　ˀプスカー　スˈリˀルン [ʔiˈtsaˀba ˀtidana ˀpu̥suka: suˈriˀruŋ](板を太陽に干すと反り返る)。ˀカイナ　ˀプスカー　スˈリラˀヌ [ˀkaina ˀpu̥suka: suˈiraˀnu](日陰に干すと反らない)。クˈレーˀ　スリティ　シゥˈカーラヌ [kuˈreːˀ suriti si̥ˀkaːranu](これは反っていて使えない)。スˈリˀル　ˀイツァー　シゥˈカーラヌ [suˈriˀru ˀʔitsaː si̥ˀkaːranu](反る板は使えない)。ˈドゥーˀヤ　ンˈベーマˀ　スレー　ˀミサムヌ [ˈduːˀja ʔmˈbeːmaˀ sureː ˀmisamunu](体は少し反り返ればいいのに)。クˈシˀ　ヌˈバˀシティ　スˈリˀリ [ku̥ˈʃiˀ nuˈbaʃi̥ˀti suˈriˀ ri](腰を伸ばして反り返れ＜反れ＞)。

ˀスルーン **[ˀsuruːŋ]** 【自動】1揃う。長さや大きさが等しくなる。一致する。ととのう。調和する。「Soroi、ソロイ、ウ、ウタ (揃ひ、ふ、うた)」『邦訳日葡辞書』の転訛。マˈダˀ　スˈローンˀバ　ˀスルーンケン　ˀマティバ [maˈdaˀ suˈroːmˀba ˀsuruːŋkem ˀmatiba](まだ揃わないので揃うまで待てよ)。2集まる。ˀクマー　スˈルイ　グリˀサー　アˈルンˀドゥ　バˈカーˀムヌンケーヤ　ˀスルー　ˀクトー　ˀスルーンパジ [ˀkumaː suˈrui guriˀsaː ʔaˈrunˀdu baˈkaːˀmunuŋkeːja ˀsuruː ˀku̥toː ˀsuruːmpaʤi](ここは集まりつらくはあるが、若者たちは集まることは集まるはずだ)。ˈパーˀク　スˈルイˀヤー　ˀミサムヌ [ˈpaːˀku suˈruiˀjaː ˀmisamunu](早く集まればよいのに)。ˈパーˀク　ˀスルイバ [ˈpaːˀku ˀsuruiba](早く集まれよ)。

ˀスルイ **[ˀsurui]** 【名】皿。銘々皿。特に中皿をいう。おかずを盛り付けるのに用いた。「おそれい　菜皿之事　それい共云」『混効験集 (乾・器材)』。「砂貼是　suirui」『語音翻訳』の転訛。スˈルイˀバ　ˈミーラ　ユイラˀ　カˈサベーˀティ　ˀムティ　ˀクンケン　ウˈタシˀティ　ムーˈルˀ　バˈリシティナーˀヌ [suˈruiˀba ˈmiːra juiraˀ kḁˈsabeːˀti ˀmutikuŋkeŋ ʔuˈ taˀʃi̥ti muːˈruˀ baˈriʃitinaːˀnu](中皿を三枚、四枚重ねながら持ってきたところ、落として全部割ってしまった)。

ˀスルイ **[ˀsurui]** 【名】集会。会合。常会。村の集会。「揃い」の義。ムˈラズルイ [muˈraʤurui](部落集会。村揃い)。ウˈトゥザズルイ [ʔuˈtuʤaʤurui](親戚の会合。親族会議)。ムˈラヌˀ　キˈザル　ギョーˀジ　キˈミルンティˀ　スルイ　ˈシー　オーˀル [muˈranuˀ kiˈʤaru gjoːˀʤi kiˈmirontiˀ surui ˈʃiː ʔoːˀru](村の祭祀行事を決めようと村集会をしておられる)。

スˈルイˀズ **[suˈruiˀʤu]** 【名】集会所。「揃い所」の義。普通は、ユˈライズ [juˈraiʤu](集会所。寄合所)という。スˈルイˀズ　ユˈライズˀナー　ˈオーリˀル　ムˈラギンメー　ソーッˀタ [suˈruiˀʤu juˈraiʤuˀnaː ˈʔoːriˀru muˈragimmeː soːtˀta](集会所、寄合所にいらっしゃって村吟味はなさった)。

スˈルイˀルン **[suˈruiˀruŋŋ]** 【他動】1そろえる (揃える)。長さや大きさを等しくする。「簸剪、曾呂夫＜そろふ＞下二段活用」『新撰字鏡』の義。ニˈンガイˀヌ　ˈクームチˀ　スˈルイˀルンティ　ˈベーンˀドゥ　ˀドゥーシェー　スˈルイララˀヌ [ˈniŋgaiˀnu ˈkuː-mutʃiˀ suˈruiˀrunti ˈbeːnˀdu ˀduːʃeː suˈruiraraˀnu](祈願用の供物を揃えようとしているが、自分では揃えられない)。ムーˈルˀシ　ˀスルイミサカ　スˈルイˀル　ˀクトー　ナˈルンˀドゥ　ˈタンガˀシン　スˈルイˀヤー　ˀミサムヌ [muːˈruˀʃi ˀsuruimisakaː suˈruiˀru ˀku̥toː naˈruˀnu ˈtaŋgaˀʃin suˈruiˀjaː ˀmisamunu](皆で揃えるなら揃えることは出来るが、一人ででも揃えればよいのに)。ˀクベー　ヤーˈディンˀ　スˈルイˀリ [ˀkubeː jaːˈdinˀ suˈruiˀri](これだけは必ず揃えろ＜れ＞)。2集める。ˈワーˀ　イˈリユーヌˀ　シˈナーˀ　ヌーンクイン　スˈルイˀルン [ˈwaːˀ ʔiˈrijuːnuˀ ʃiˈnaːˀ nuːŋkuin suˈruiˀruŋ](君の必要な品物は、なんでもかんでも＜何でも彼でも＞集める)。

スˈルガー **[suˈrugaː]** 【名】棕櫚の葉柄の付け根に生える茶褐色で網状に生える繊維。これで綯った縄は

風雨に強いとして重宝された。スˈルガーバˀ　パギキー　スˈルガージナˀ　ナイˈヨーッタ [suˈrugaːbaˀ pagikiː suˈrugaːʤinaˀ naiˈjoːtˀta](棕櫚(シュロ)の繊維を剥がしてきて棕櫚縄を綯(ナ)っておられた)。

スˈルˀガニ [suˈruˀgani] 【名】銀。「白金」の義。「銀、シロカネ」『類聚名義抄』の転訛したもの。ˈヤーˀ　スˈルガニˀバ　ティˈブˀク　ˈシー　ヤーˀバ　スˈクˀリ　ˀアンティ　ˀスー [ˈjaːˀ suˈruganiˀba tiˈbuˀku ˈʃiː jaːˀba sɥˈkuˀri ˀʔantiˀ suː](ああ、白銀を手鉾にして家を造ってあるという)「アーパーレー (新室寿歌)。第 12 連」。

スˈルˀキスン [suˈruˀkɨsuŋ] 【自動】船舶などが接近してきて横切る。後から追い越して横切って走り去る。イˈサナキフニヌˀ　カˈツシンマー　ダーブルˀ　ヤˈルンダˀ　シˈベーˀラ　ˈウイˀキー　スˈルˀキシ　ˀパリ　カˈツ　ホーシˀ　シタ [ʔiˈsanakiɸuninuˀ kɐˈtsuʃimmaː daːburuˀ jaˈrundaˀ ʃiˈbeːˀra ˈʔuiˀkiː suˈruˀkiʃi ˀpari kɐˈtsu hoːʃiˀ ʃɨta](石垣船のカツオ漁船は二気筒エンジンだから < 船足が早く >、後から追いかけてきて接近して横切って行ってカツオを釣ることもあった)。

ˈスルスル [ˈsurusuru] 【副】するすると。なめらかに移動するさま。ˈスルスルˀティ　ˈキーˀヌ　スˈラパンˀター　ˈヌーリパッˀタ [ˈsurusuruˀti ˈkiːˀnu suˈrapanˀtaː ˈnuːripatˀta](するすると木のてっぺんへ登っていった)。

スˈルスルーッティ [suˈrusuruːtti] 【副】するりと。するするっと。柔らかいものが滑り落ちるさま。ˈシンドーˀラー　ˈティーヌˀ　マターラ　スˈルスルーッティˀ　ムリパリ　ˈナーˀヌ [ˈʃindoːˀraː ˈtiːˀnu ˈmataːra suˈrusuruːttiˀ muripari ˈnaːˀnu](もずく < 水雲 > はするりと < するするっと > 手の又 < 指の間 > から洩れていってしまった)。

スˈルスルˀシ [suˈrusuruˀʃi] 【副】するすると。すうすうと。ギッˈティˀ　フˈバリˀシケータンドゥ　スˈルスルˀシ　フˈキˀパリ　ˈナーˀヌ [gitˈtiˀ ɸuˈbariˀ ʃɨkeːtandu suˈrusuruˀʃi ɸɥˈkiˀpari ˈnaːˀnu](ぎゅっと縛っておいたのだが、するするとほどけ < すりぬけ > ていってしまった)。スˈルスルˀシ　イˈキˀヌ　フˈキˀパルン [suˈrusuruˀʃi ʔiˈkiˀnu ɸɥˈkiˀparuŋ](すうすうと息が漏れて抜けていく)。

スˈルッカイˀルン [suˈrukkaiˀruŋ] 【自動】反り返る。のけぞる (仰(ノ)け反る)。スリッケールン [suˈrikkeːˀruŋ](反り返る) ともいう。スˈルッカイˀルンケン　ナˈキベー [suˈrukkaiˀruŋken naˈkibeː](仰け反るほど泣いている)。スˈルッカイランˀドーシ　ビˈリˀバ [suˈrukkairanˀdoːʃi biˈriˀba](仰け反らないで座れよ)。ˀシンター　スˈルッカイˀリティ　カˈサナーˀリ　ˈベー [ˀʃintaː suˈrikkaiˀriti kaˈsanaːˀri ˈbeː](後ろへ反り返って背負われている)。ウˈビˀナー　スˈルッカイˀル　ˀクトー　ナˈラˀヌ [kiˈbiˀnaː suˈrukkaiˀru ˀkɥtoː naˈraˀnu](こんなに反り返ることは出来ない)。ンˈンベーマˀ　スˈルッカイˀレー　ˀミサムヌ [ʔmˈbeːmaːˀ suˈrukkaiˀreː ˀmisamunu](少しは反り返ればよいのに)。ˈマーˀビン　スˈルッカイˀリ [ˈmaːˀbin suˈrukkaiˀri](もっと反り返れ)。

スˈルッケーˀルン [suˈrukkeːˀruŋ] 【自動】反り返る。スˈルッカイˀルン [suˈrukkaiˀruŋ](反り返る) ともいう。ˀシンター　スˈルッケーランˀ　ヨーニ　フˈクˀビシ　シゥˈカイˀバ [ˀʃintaː suˈrukkeːraŋˀjoːni ɸɥˈkuˀbiʃi sɨˈkaiˀba](後ろに反り返らないように、帯で支えなさい)。

スˈルッティ [suˈrutti] 【副】そろりと。するりと。そっと。ひそかに。他人に知られないように。カˈサムンティ　スンˀケン　スˈルッティˀ　フˈキˀパリ　ˈナーンˀシェン [kɐˈsamunti suŋˀken suˈruttiˀ ɸɥˈkiˀpari ˈnaːŋˀʃeŋ](捕まえようとしたら、するりと指の間から通り抜けて < 抜け落ちて > いってしまった)。

スルッˈティ [surutˈti] 【副】ずるりと。滑り落ちるさま。そろりと。するっと。滑らかに通り抜けるさま。滑らかに抜け落ちるさま。ダˈキ　ベータンˀドゥ　スˈルッティˀ　ティーラ　フˈキˀパリ　ˈナーˀヌ [daˈki beːtanˀdu suˈruttiˀ tiːra ɸɥˈkiˀpari ˈnaːˀnu](抱いていたが、するりと手から滑り落ちて < 抜け落ちて > いってしまった)。マーˈズンˀシ　パˈナˀシ　ˈベータンˀドゥ　ッˈサンˀケン　スˈルッティˀ　パリ　ˈナーンˀシェン [maːˈʤuŋˀʃi paˈnaˀʃi ˈbeːtanˀdu sˈsaŋˀken suˈruttiˀ pari ˈnaːŋˀʃeŋ](一緒に話し合っていたが、知らぬ間にするっと行ってしまっていた)。

スˈルナージナ [suˈrunaːʤina] 【名】棕櫚縄。「棕櫚綱」の義。歌謡語。シˈルナージナ [ʃiˈrunaːʤina] ともいう。普通は、ˈフーˀカラジナ [ˈɸuːˀkaraʤina](棕櫚綱) という。棕櫚の葉柄の付け根に生える繊維で綯った綱。風雨に強く、長持ちするので垣根やスノコを結わえるのに用いられ、牛の鼻綱、イダフニ (サバニ) のアンカーロープ等に用いられた。スˈルジナーヤˀ　アˈミˀカジナー　ˈスーˀワンダ　ウˈシヌˀ　パˈナジナˀナー　シゥˈカイオーッˀタン [suˈruʤinaːjaˀ

ʔaˈmiˀkadʒinaː ˈsuːˀwanda ʔuˈʃinuˀ paˈnadʒinaˀnaː si̥ˈkaioːtˀtaŋ](棕櫚綱は風雨に強いので牛の花綱に使われた)。

スˈルバン [suˈrubaŋ] 【名】そろばん (算盤)。スˈルバンˀシル ˈサンミンˀマー ˈスー [suˈrubaŋˀʃiru ˈsammimˀmaː ˈsuː](算盤で計算はするものだ)。

スˈルバン [suˈrubaŋ] 【名】(地) 上原村の奥地にある水田地帯の地名。プˈサˀキャー [pu̥ˈsaˀkjaː](冨里家)、ˈカンザトゥˀヤー [ˈkandʒatuˀjaː](慶田城家) の田圃があった。プˈサˀキャーヌ スˈルバンヌ ターˀヤ マˈナˀマン スˈクˀリ ˈオーˀルンカヤー [pu̥ˈsaˀkjaːnu suˈrubannu taːˀja maˈnaˀman su̥ˈkuˀri ˈʔoːˀruŋkajaː](冨里家のスルバンの田圃は今も耕作しておられるのかねえ)。

スˈルバンˀ イˈルン [suˈrubaŋˀ ʔiˈruŋ] 【連】算盤を入れる。算盤で計算する。ˈキューˀヌ カˈツシンヌ モーˀケー ˀギューˀサ ˀナルユー スˈルバンˀ イˈリˀ ミリˈミー [ˈkjuːˀnu kḁˈtsuʃinnu moːˀkeː ˈgjuːˀsa ˀnaruju: suˈrubaŋˀ ʔiˈriˀ miriˈmiː](今日のカツオ漁船の儲けは幾らになるか、算盤を入れて < 計算して > みてごらん)。

スˈルバン パンˀクン [suˈrubam paŋˀkuŋ] 【連】算盤をはじく (弾く)。算盤の珠を弾いて計算する。ウˈレー チャー ドゥーˀヌ ˀマイニール スˈルバン パンˀク [ʔuˈreː tʃaː duːˀnu ˀmainiːru suˈrubam paŋˀku](彼は常に自分の得になるように < ぞ > 算盤を弾く < 計算して行動する >)。

ˀスルン [ˀsuruŋ] 【他動】1剃る。毛髪やひげ (鬚) などを刃物で根元から切る。「〜曾利須豆 < そりすつ >、又、支留 < きる >」『新撰字鏡』、「Camiuo soru< 髪を剃る >」『邦訳日葡辞書』のの転訛。ガˈマˀジ ˀスルンティ ˈダンˀパチヤー ˈパッタンˀドゥ スˈラランˀシェン [gaˈmaˀdʒi ˀsurunti ˈdamˀpatʃija: ˈpattanˀ du suˈraraŋˀʃeŋ](髪を刈ろう < 剃ろう > と理髪店 < 断髪屋 > に行ったが刈れ < 剃れ > なかった)。ピˈニˀ スˈリˀ プサカー ˀアツァ ˀスル ˀクトゥˈナー [piˈniˀ suˈriˀ pu̥saka: ˀʔatsa ˀsuru ˀku̥tuˈnaː](鬚を剃りたければ明日剃ることだなあ)。ピˈネーˀ スレー ˀミサムヌ [piˈneːˀ sureː ˀmisamunu](鬚は剃ればいいのに)。ˈパーˀク ピˈニˀ スリ [ˈpaːˀku piˈniˀ suri](早く鬚(ヒゲ)を剃れ)。2茅を刈る。ˀガヤー ˀスルン [ˀgajaː ˀsuruŋ](茅を刈る)。ˈユシˀキ ˀスルン [ˈjuʃi̥ˀki ˀsuruŋ](ススキを刈る)。

ˀスルン [ˀsuruŋ] 【自動】反る。反り返る。スˈリˀルンとも言う。ˀテダナ ˀプスカー ˀスルン [ˀtidana ˀpusukaː ˀsuruŋ](太陽に干したら反る < 反り返る >)。スˈラˀヌ [suˈraˀnu](反らない)。ˀスリティ [ˀsuriti](反って)。ˀスル ˀムノー [ˀsuru ˀmunoː](反るものは)。ˀスレー ˀミサムヌ [ˀsureː ˀmisamunu](反ればよいのに)。ˀスリ [ˀsuri](反れ)。

スˈローˀスン [suˈroːˀsuŋ] 【他動】揃える。集合させる。集まらせる。キˈスムヌˀ スˈローˀスンティ ˈベーˀンドゥ スˈローサラˀヌ [ki̥ˈsumunuˀ suˈroːˀsunti ˈbeːnˀdu suˈroːsaraˀnu](着るものを揃えようとしているが揃えられない)。スˈローシ ヤッˀサンティバ ˀクナーティ スˈローˀスクトー ナˈルˀヌ ˀナルカー ˀドゥーシ スˈローˀシェー ˀミサムヌ [suˈroːʃi jasˀsantiba ˀkunaːteː suˈroːˀsu ˀku̥toː naˈruˀnu ˀnaruka: ˀduːʃi suˈroːˀʃeː ˀmisamunu](揃え易いというから、此処では揃えることは出来るが、出来るなら自分で揃えればよいのに)。ˈパーˀク スˈローˀシ [ˈpaːˀku suˈroːˀʃi](早く揃えろ)。

スワーˈラ [suwaːˈra] 【副】満腹するほど。腹一杯。たっぷり。若年層は、チュワーˈラ [tʃuwaːˈra](腹一杯。たっぷり) ともいう。首里方言、cuhwaara(腹一杯。満腹) の転訛したもの。スワーˈラˀ ッˈふァイヤˀン [suwaːˈraˀ fˀfaijaˀŋ](腹一杯 < たっぷり > 食べた)。スワーˈラˀ ニˈベーˀン [suwaːˈraˀ niˈbeːˀŋ](たっぷり < 十分に > 寝た)。

ˈスン [ˈsuŋ] (1)【自動】(〜が) する < 聞こえる >。「〜浦まより楫の音須流 < スル > は〜。万、 3641」の転訛したもの。ノーˈンナーカˀヌ ˈパスクリˀル ウˈトゥヌ スン [noːˈnnaːkaˀnu ˈpasu̥kuriˀru ʔuˈtunu suŋ](何かが爆発する < 弾ける > 音がする < 聞こえる >)。ノーˈンヌˀ ウˈトゥンˀ サˈヌ [noːˈnnuˀ uˈtunˀ saˈnu](何の音もしない < 聞こえない >)。アˈシツァˀヌ ウˈトゥヌ スーˀカー ˀンジ ˀクー [ʔaˈʃitsaˀnu ʔuˈtunu suːˀkaː ˀʔndʒi ˀkuː](下駄の音がしたら < 聞こえたら > 出て来い)。 **(2)**【他動】動作を行う。「〜登り立ち国見を為者 < スレバ >〜。万、2」の義。シˈグトゥ スンティ ベー [ʃiˈgutu sunti beː](仕事をしようとしている)。シˈグトー シーˀ ミサンティ アˈズンドゥ ピッˀチン ˈサンバン [ʃiˈgutoː ʃiːˀ misanti ʔaˈdʒundu ˈpitˀtʃin ˈsambaŋ](仕事はしてもよいと言うんだが、ちっともしないよ)。シˈグトゥ スーˀ プˈソーˀ ブˈラーンバ ワー シェーˀ ミサムヌ [ʃiˈgutuː suːˀ pu̥ˈsoːˀ buˈraːmba waː ʃeːˀ misamunu](仕事をする人はいないから、君がすればよいのに)。ヤーˈディンシー [jaːˈdiŋ ʃiː](必ずしなさい)。1動詞の連用形に

係助詞˥ヤー [˥ja:](～は)、副助詞˥ツァン [˥tsaŋ](すら。さえ) を介して補助動詞的に用いられる。˥パレー ˩スン˥カヤー [˥pare: ˩suŋ˥kaja:](行くだろうか＜行きはするだろうか＞)。˥パリンツァン サ˩ヌ [˥parintsan sa˩nu](行きだにも＜すら＞しない)。˥ドゥーシ ˩シール スー [˥du:ʃi ˩ʃi:ru su:](自分でする＜しぞ する＞)。²動詞の連用形に形容詞型助動詞˥プサン [˥pu̥saŋ](～欲しい。～たい) の語幹を介して補助動詞的に用いられる。カ˩キ˥プサ ˩スン [kḁ˩ki˥pu̥sa ˩suŋ](書きたがる。書き欲しさする)。バ˩カ˥ヤムイサ ˩スン [ba˩ka˥jamuisa ˩suŋ](恥ずかしがる。恥ずかしさ思いする)。³動詞の未然形に、名詞˩ン˥パ [˩m˥pa](否) を介して、「～したがらない」の意を表す。カ˩カン˥パー ˩スン [kḁ˩kam˥pa: ˩suŋ](書きたがらない)。

˥スン **[˥suŋ]** 【助動】する。させる。スンの未然形サが動詞の未然形に下接して使役を表す。カ˩リンジー˥ カ˩カ˥サ [ka˩rin ʤi:˥ kḁ˩ka˥sa](彼に字を書かせよう)。カ˩リン˥ ティ˩ガ˥ミ カ˩カ˥シ ˥ミサンカヤー [ka˩rin˥ ti˩ga˥mi kḁ˩ka˥ʃi ˥misaŋkaja:](彼に手紙を書かせてもいいのかね)。˩マー˥ビン カ˩カ˥スンティ ウ˩ムーン˥ドゥ カ˩カ˥スムノー ˩ナー˥ヌ [˩ma:˥biŋ kḁ˩ka˥sunti ʔu˩mu:n˥du kḁ˩ka˥su ˥muno: ˩na:˥nu](もっと書かせようと思うが、書かせるものがない)。カ˩リン˥ カ˩カ˥シェー ˥ミサムヌ [ka˩riŋ˥ kḁ˩ka˥ʃe: ˥misamunu](彼に書かせばいいのに)。ヤー˩ディン˥ カ˩カ˥シ [ja:˩diŋ˥ kḁ˩ka˥ʃi](必ず、きっと書かせろ)。ウ˩リン ジー˥ カ˩カシ˥ター マ˩チ˥ガイ ˩ナー˥ヌ [ʔu˩rin ʤi:˥ kḁ˩kaʃi̥˥ta: ma˩ʧig˥ai ˩na:˥nu](彼に字を書かせたらば、間違えてしまった)。

˥スン **[˥suŋ]** 【名】損。欠損。利を失うこと。そこなうこと。˩ワー˥ ムニ シ˩キティ˥ スン ˩シーナー˥ヌ [˩wa:˥ muni ʃi̥˩kiti˥ suŋ ˩ʃi: na:˥nu](君のいうことを聞いて損してしまった)。˩スン˥マー ˩サーサンバー˥ クビシ ˥バン ˩カーシ˥ ッ˩ふィーララヌ [˩sum˥ma: ˩sa:samba:˥ kubiʃi ˥baŋ ˩ka:ʃi˥ f˩fi:raranu](損はさせないから、これだけで私に売ってくれないか)。

˥スン **[˥suŋ]** 【助数】寸 (約 3,03 センチメートル)。尺貫法の長さの単位。標準語からの借用語。民間では人差し指の第一関節から第二関節までの長さを基準として用いた。˥ブシ [˥buʃi](節) ともいう。˩イッスン˥クギ [˩ʔissuŋ˥kugi](一寸釘。壁板用の釘)、˩サンズン˥クギ [˩sanʤuŋ˥kugi](三寸釘。建築用の釘)、˩ゴッスンクギ [˩gossuŋkugi](五寸釘。建築用の釘) などがある。ク˩ヌ˥ フ˩クン˥ プ˩スム˥トーラ ˩ヨンスンカクヌ˥ パラー ˩ギュームトゥ˥ トゥ˩ラリ˥ワ [ku˩nu˥ ɸu̥˩kum˥ pu̥˩sumu˥to:ra ˩jonsuŋkakunu˥ para: ˩gju:mutu˥ tu˩rari˥wa](この福木 1 本から四寸角の柱が何本取れるか)。

˩ズン **[˩ʤuŋ]** 【名】順序。順番。道筋。˩クン˥ネヌ ˩キョーダイ˥サー トゥ˩シ˥ヌ ˩ズンニル˥ ビ˩ロー˥ルツォー [˩kun˥nenu ˩kjo:dai˥sa: tu̥˩ʃi˥nu ˩ʤunniru˥ bi˩ro:˥rutso:](この家の兄弟たちは年齢の順にお座りになるそうだ)。

˩ズンガ˥チ **[˩ʤuŋga˥ʧi]** 【名】十月。˩ズンガ˥チナー シ˩チ˥トゥ タ˩ナドゥル˥ヌ ˩マーリ˥ クーン [˩ʤuŋga˥ʧina: ʃi̥˩ʧi˥tu ta˩naduru˥nu ˩ma:ri˥ ku:ŋ](十月には節祭りと種取り祭が回ってくる)。

˩ズンガチカジマー˥ル **[˩ʤuŋgaʧikaʤima:˥ru]** 【名】十月の時化。十月に天気が崩れて時化やすいこと。「十月風回り」の義。十月には、風向がにわか＜俄か＞に東南から北に回って雨を伴った強風がたたきつけて時化ること。˩ズンガチカジマー˥ロー ˩アッ˥タニ ˩オシキヌ˥ ヤ˩ビ˥ルンダ ˩キー˥ シ˩キラン˥カー ナ˩ラ˥ヌ [˩ʤuŋgaʧikaʤima:˥ro: ˩ʔat˥tani ˩ʔoʃi̥kinu˥ ja˩bi˥runda ˩ki:˥ ʃi̥˩kiraŋ˥ka: na˩ra˥nu](十月風回りは急に天気が崩れる＜破れる＞から、気をつけないといけない)。

˩ズンガチタイ˥フー **[˩ʤuŋgaʧitai˥ɸu:]** 【名】十月台風。十月に吹く台風は大型台風になることがあるので、恐れられている。˩ズングゥチタイ˥フーとも言う。˩ズンガチタイフー˥ヤ マ˩ギタイ˥フーティ ア˩ザリブーバ˥ ユー ˩キー˥ シ˩キ˥リ [˩ʤuŋgaʧitaiɸu:˥ja ma˩gitai˥ɸu:ti ʔa˩ʤaribu:ba˥ ju: ˩ki:˥ ʃi̥˩ki˥ri](十月台風は大型台風といわれているので、よく気をつけろよ)。

˩ズンガチニン˥ガイ **[˩ʤuŋgaʧiniŋ˥gai]** 【名】十月祈願祭。˩ズンガ˥チナー ˩ウイヌ˥ウガンナーティ ˩ズンガチニン˥ガイ ˩ソーッ˥タン [˩ʤuŋga˥ʧina: ˩ʔuinu˥ʔuganna:ti ˩ʤuŋgaʧiniŋ˥gai ˩so:t˥taŋ](旧暦十月には友利御嶽で十月祈願祭を執り行われた)。

˩スンカブ˥ル **[˩suŋkabu˥ru]** 【名】欠損。損失。「損被り」の義。鳩間方言では、中舌母音 [i̥] → [u] の変化に伴って、[ri̥] が [ru] となる。˩ダイヌ ヤッ˥サンダ マ˩ナ˥マー ˩カース˥カー ˩スンカブ˥ル ˩シースバ˥ ア˩バティ カーサンドー˥シ ˩ダイヌ˥ ムトゥンケン ˥マティバ [˩dainu jas˥sanda ma˩na˥ma: ˩ka:su˥ka: ˩suŋkabu˥ru ˩ʃi:suba˥ ʔa

˞bati kaːsandoː˞ʃi ˞dainu˞ mutuŋkem ˞matiba](値段が安いので、今売ると欠損するから急いで売らないで、値段が持ち直すまで待てよ)。

˞スンカブ˞ル ˞スン [˞suŋkabu˞ru ˞suŋ] 【連】欠損する。「損被りする」の義。˞アイニ シ˞ティカー˞シ ˞スー˞カー ˞スンカブ˞ル ˞スント ダー [˞ʔaini ʃi̥˞tikaː˞ʃi ˞suː˞kaː ˞suŋkabu˞ru ˞sunt˞daː](あんなに捨て売りすると欠損＜損被り＞するぞ)。

˞スンカンマカル [˞suŋkammakaru] 【名】食器の一種。筍干お碗。飯茶碗より大型の焼き物。豚肉や魚肉、野菜のあつもの (羹) を盛るのに用いる器。「汁碗の大振りなもの、丼のやや小振りなものを『しゅんかん』と唱えている。筍羹は唐音で、本来は料理の名から容器の名に転じたものである」『南島論考』という。法事の際には飯を盛る器として用いられる。「筍羹、筍干」の義。˞イー˞バ ˞スンカンマカルナー ム˞リティ˞ マ˞ツォー˞ルン [˞ʔiː˞ba ˞suŋkammakaruna: ʔi˞riti˞ ma˞tsoː˞ruŋ](ご飯＜飯＞を筍干お碗＜まがり＞に入れて供え＜祀＞られる)。

˞スンキンザ˞スン [˞suŋkiʔndʑa˞suŋ] 【他動】引きずり出す。無理に引っ張り出す。˞サンギンザ˞スン [˞saŋgiʔndʑasuŋ](引っ張り出す) ともいう。˞ヤーン˞ ナカナー ク˞マ˞リ ˞ベー˞ムヌバ ˞スンキンザ˞スンティ ˞スンドゥ スンキンザサラ˞ヌ [˞jaːn˞ nakana: ku˞ma˞ri ˞beː˞ munuba ˞suŋkiʔndʑa˞sunti ˞sundu suŋkiʔndʑasara˞nu](家の中に引き籠もっている者を引きずり出そうとするが、引きずり出されない)。˞スンキンザ˞シ ˞ミサカー ˞スンキンザ˞ス ˞クトー ˞ナルン [˞suŋkiʔndʑa˞ʃi ˞misaka: ˞suŋkiʔndʑa˞su ˞kṵto: ˞naruŋ](引きずり出して良ければ、引きずり出すことは出来る)。

˞ズングニ˞チ [˞dʑuŋguni˞ʧi] 【名】十五日。シ˞キダ˞チ ˞ズングニチナー トゥ˞クニトゥ ザートゥク˞ヌ ˞マイヤー ˞サーサー˞ドー カ˞カソーラン˞シェン [ʃi̥˞kida˞ʧi ˞dʑuŋgunitʃina: tṵ˞kunitu dʑaːtuku˞nu ˞maija: ˞saːsaː˞doː kạ˞kasoːraŋ˞ʃeŋ](朔日と十五日には仏壇と床の間の神前には茶湯を欠かされなかった)。

˞ズングニチ˞シキ [˞dʑuŋgunitʃi˞ʃi̥ki] 【名】十五日の月。満月。˞キュー˞ヌ ˞シケー ˞ズングニチ˞シキ ヤ˞レー˞ティル ˞アイニ ˞カイ˞ヤバン˞ナー [˞kjuː˞nu ˞ʃi̥keː ˞dʑuŋgunitʃi˞ʃi̥ki ja˞reː˞tiru ˞ʔaini ˞kai˞jaban˞naː](今日の月は十五日の月＜満月＞だったので＜ぞ＞あんなに美しいのだね)。

˞ズングニチ˞ズー [˞dʑuŋgunitʃi˞dʑuː] 【名】旧暦十五日の大潮。˞ズングニチズー˞ヤ ˞ユー ˞スー˞ヌ ˞ピスンダ ピ˞ザ˞キ ˞バー˞キン タ˞ク˞ トゥリン パ˞ラ˞リン [˞dʑuŋgunitʃidʑuː˞ja ˞juː˞suː˞nu ˞pi̥-sunda pi˞dʑa˞ki ˞baː˞kin tạ˞ku˞ turim pa˞ra˞riŋ](旧暦15日の大潮は、よく潮が引くのでピザキ＜北西の干瀬＞まで蛸獲りに行ける)。

˞ズング˞ヤー [˞dʑuŋgu˞jaː] 【名】十五夜。旧暦八月十五日。˞ユシ˞キ [˞juʃi̥˞ki](すすき) とイ˞ツァン˞パイキー [ʔi˞tsam˞paikiː](マサキ＜正木＞) を活け、˞グシ [˞guʃi](御酒)、˞パナ [˞pana](花米)、フ˞チャ˞ギ [ɸṵ˞ʧa˞gi](煮た小豆を円筒形の餅にまぶ＜塗＞したもの) を供えて月見の祭りをし、家族の健康祈願をして酒宴を開いた。フ˞カン˞ガイ [ɸṵ˞kaŋ˞gai](糊状の餅。碗に入れて食した。「吹き上がり餅」の義か) は、特に女性が夫の品行を中秋の名月の光で写し取る餅として、お碗に入れて食したという。子供達はご馳走を作ってもらい、友人達と遅くまで月見をして遊んだ。˞ズングヤー˞ヤー フ˞チャ˞ギン フ˞カン˞ガイン ˞ウサイン ス˞コーリティ˞ ミ˞ナ˞カナー ム˞ス˞バ シ˞キ˞ グシパナン マ˞チティ˞ シ˞キマチ˞リ ˞ソーッ˞タ [˞dʑzuŋguja:˞ja ɸṵ˞ʧa˞giŋ ɸṵ˞kaŋ˞gaiŋ ˞ʔusain sṵ˞koːriti˞ mi˞na˞kana: mu˞su˞ba ʃi̥˞kiti˞ guʃipanam ma˞ʧiti˞ ʃi̥˞kimatʃi˞ri ˞soːt˞ta](十五夜は、フチャギ餅もフカンガイ餅もご馳走も作り準備して、庭には蓆を敷いて御酒や花米も供え祭って月見の祭りをされた)。

˞ズングヤー˞ムチ [˞dʑuŋguja:˞muʧi] 【名】十五夜の餅。十五夜には、フ˞チャ˞ギ [ɸṵ˞ʧa˞gi](円筒形の餅に小豆を塗したもの) やフ˞カン˞ガイ [ɸṵ˞kaŋ˞gai](糊状の餅) を作って月見をした。

˞スングラリン [˞suŋgurariŋ] 【連】鞭打たれる。鞭などで殴られる。˞スングルン [˞suŋguruŋ](鞭打つ。殴る) の未然形に受身・可能の助動詞˞リン [˞riŋ](れる。られる) が下接して形成された受身動詞、可能動詞。シ˞グトー˞ サ˞ムティ˞ ア˞サビ ベー˞ルカ ˞ウヤン ˞スングラリン˞ダー [ʃi˞guto:˞ sa˞muti˞ ʔa˞sabi be:˞ruka: ˞ʔujan ˞suŋgurarin˞da:](仕事をしないで遊んでいると親に殴られるぞ)。˞バン˞ヌン ˞スングラリン [˞ban˞nun ˞suŋgurariŋ](私も殴られる。私も殴ることが出来る)。

˞スングルン [˞suŋguruŋ] 【他動】むちうつ (鞭打つ)。殴る。鞭打って教える。˞スングルンティ˞ シ˞タンドゥ˞ ウ˞ヤ˞ヌ ブ˞ラーン˞ ッ˞ふァバ スングレー˞ ナ˞ラン˞バティ ˞ウムイ ˞スングランシ

ェン [˞suŋgurunti˜ ʃi̥˞tandu˜ ʔu˞ja˜nu bu˞ra:ŋ˜ f˞faba suŋgure:˜ na˞ram˜bati ˜ʔumui ˞suŋguraŋʃeŋ](鞭打とうとしたが、親のいない子を鞭打ってはいけないと思い、鞭打たなかった)。ヤ˞ナクトゥ　スー˜カー　˞スングラリン˜ダー [ja˞nakutu su:˜ka: ˞suŋgurarin˜ da:](悪いことをしたら鞭打たれるぞ)。シゥ˞カン˜カー　˞スングリ˜　ナ˞ラー˜シ [si̥˞kaŋ˜ka: ˞suŋguri˜ na˞ra:˜ʃi](聞き入れなければ鞭打って教えなさい)。プ˞ス　スングル　プソー˜　ドゥーン　˞スングリ [pu̥˞su suŋguru˜ pu̥˞so:˜ du:n ˞suŋguri](他人を鞭打つ人は、己をも鞭打て)。

˞ズングゥ˜チ [˞ʤuŋgwa˜ʧi]【名】十月。若年層は、˞ズンガ˜チ [˞ʤuŋga˜ʧi](十月) ともいう。˞ズングゥ˜チナーヤ　˞ズングゥチニンガイ˜トゥ　タ˞ナドゥルヌ˜ル　˞オー˜ル [˞ʤuŋgwa˜ʧina:ja ˞ʤuŋgwatʃiniŋgai˜ tu ta˞nadurunu˜ru ˞ʔo:˜ru](旧暦十月には十月祈願と種取祭が来られる)。

˞ズン˜サ [˞ʤun˜sa]【名】巡査。ヤ˞ラ˜ベー　˞ズンサ˜ヨ　イッ˞ケン˜　ウ˞バウタン [ja˞ra˜be: ˞ʤunsa˜jo: ʔik˞keŋ˜ ʔu˞bautaŋ](子供は巡査を非常に怖がった)。

˜スン　˞スン [˜sun ˞suŋ]【連】損する。損をする。失う。ク˞レー˜　マ˞ナ˜マ　˞カーサン˜カー　˜スン　˞スントダー [ku˞re:˜ ma˞na˜ma ˞ka:saŋ˜ka: ˜sun ˞sunˊda:](これは今売らないと損するよ)。˜スンサ˞バン˜　ミサン [˜sun sa˞bam˜ misaŋ](損しても良い)。

˞ズンズン [˞ʤunʤuŋ]【名】(地名) 鳩間島の西北のタ˞チ˜バル [tą˞ʧi˜baru](立原) の海岸と、東北のフ˞カバ˜カ [ɸu̥˞kaba˜ka](そとわか < はか >) の海岸にある、干瀬の頂き部から礁内湖へ移る境界地点で、約 30 センチ程の段差のある珊瑚礁地帯の名。潮が引く時、海水が˞フンシキ [˞ɸuŋʃi̥ki](地名。礁内湖) の方へ落ちるように流れていくところ。東のズンズンの海水は、ミ˞ズヌ˜カン [mi˞ʤunu˜kaŋ] の方へ流れ落ちていくところ。˞インタヌ　ズンズンマー　フンシケーラ˜　ン˞ベーマ˜　タ˞カー˜ンダー　˞スー˜ヌ　˜ピスピンマー　˞スー˜ヤ　ウ˞ティ˜ルカタチニル　˞ナー˜リパル [˞ʔintanu ʤunʤumma: ɸuŋʃi̥ke:ra˜ ʔm˞be:ma˜ tą˞ka:˜nda: ˞su:˜nu ˜pi̥su ˜pimma: ˞su:˜ja ʔu˞ti˜ru ˜kątatʃiniru ˞na:˜ri ˜paru](西のズンズンはフンシキから少し高いので、潮が引くときは海水が落ちるように流れていく)。

˞スントー [˞sunto:]【名】村長。「村頭」の義。明治 30 年、蔵元制度が廃止となり、八重山を一間切りとし、その下に一村、あるいは二、三の村を置いた。間切長を島司 (とうじ) と称した。村の長を村頭と称し、間切長の代理をつとめた『石垣方言辞典』。パ˞トゥ˜マナー　˞スントー　ソー˜レー　プ˞ソー　オーラ˜ヌ [pą˞tu˜mana: ˞sunto: so:˜re: pu̥˞so: ʔo:ra˜nu](鳩間島には村頭をされた人はいらっしゃらない)。

˜スントゥク [˜suntuku]【名】損得。損と得。利害。˜スントゥクヌ　˞ナーン˜ヨーニ　ムー˞ル　マータキナー˜　バキバ [˜suntu̥kunu ˞na:ɲ˜jo:ni mu:˞ru ma:takina:˜ bakiba](損得がないように、みんな同じように均等に分けなさいよ)。

˞ズンニ [˞ʤunni]【副】誠に。本当に。真に。実に。ウ˞リヌ　スー˜クトー　˞ズンニ˜　ピ˞ルマサ˜ヌ　ナ˞ランヌ [ʔu˞rinu su:˜ ku̥to: ˞ʤunni˜ pi˞rumasa˜nu na˞ra˜nu](その人のすることは真に珍しくてならない)。˞ワー　ズンニ˜　ク˞ヌ˜　シ˞グトゥ　スンティ˜　ウ˞ムーン [˞wa: ʤunni˜ ku˞nu˜ ʃi˞gutu sunti˜ ʔu˞mu:ŋ](君は本当にこの仕事をしようと思うか)。

˞ズンバン [˞ʤumbaŋ]【名】順番。パ˞トゥ˜マナーテー　ナ˞チヌ　ペーレーヌ˜　ピンマー　˞カーヌ　ズンバン˜　トゥリシキティ　˞ドゥー˜ヌ　˞バン˜ヌ　˞クーバ˜ル　˞カーヌ˜　ミ˞ジェー˜　フ˞マリタ˜ダー [pą˞tu˜mana:te: na˞ʧinu pe:re:nu˜ pimma: ˞ka:nu ʤumban˜ turiʃi̥kiti ˞du:˜nu ˞ban˜nu ˞ku:ba˜ru ˞ka:nu˜ mi˞ʤe:˜ ɸu˞marita˜da:](鳩間島では、夏の旱魃の時には井戸の順番を取っておいて、自分の番が来たらばこそ < ぞ > 井戸の水は汲めたのだよ)。

˞ズンミチ [˞ʤummiʧi]【名】人間の踏み行うべき正しい道。正道。公道。「じゅんどう (順道)」の義。˞ワー˜　パ˞ナ˜シ　ス˞ク˜カー　ウ˞ヤ˜ヌ　ア˞ゾー˜ル　˞トゥー˜ル　˞スール　ズンミチティ　バン˜マー　ウ˞モー˜リ [˞wa:˜ pa˞na˜ʃi su̥˞ku˜ka: ʔu˞ja˜nu ʔa˞ʤo:˜ru ˞tu:˜ru ˞su:ru ʤummiʧiti bamma˜ ʔu˞mo:˜ri](君の話を聞くと、親のおっしゃる通りにすることが正道だと私には思われる)。

ソ

˥ソー [˥soː] 【名】1正気。意識。自覚。˥ユベー　˥ソー˥　シ˥ティルン˥ケン　サ˥キバ˥　ヌミティ　ノー˥ン˥　ッ˥サントゥ ツォー [˥jubeː ˥soː˥ ʃi̥˥tiruŋ˥ken sḁ˥kiba˥ numiti noː˥n˥ s˥sanꜜtsoː](昨夜は意識＜正気＞を失う＜棄てる＞ほど酒を飲んで、何も覚えていない＜知らない＞そうだ)。ニ˥チ˥ヌ　サ˥マル˥ター　˥ソー˥　シケーン [ni˥tʃi˥nu sa˥maru˥taː ˥soː˥ ʃi̥keːŋ](熱が下がったので意識が戻った＜正気が付いた＞)。2根性。精神が正常であること。気が確かであること。身にしみて感じる。身に応える。˥クンドゥ˥ヌ　˥クトゥシ　˥ソー˥　イ˥リリトゥ ダー [˥kundu˥nu ˥kṵtuʃi ˥soː˥ ʔi˥ririꜜdaː](今度の件＜こと＞で根性を叩きなおせ＜自覚しろ。根性を入れろ＞よ)。3正しい判断力。˥ソーヤ　ナーン˥　ム˥ニ˥バ　イ˥ジアーク˥ナ [˥soːja naːm˥ mu˥ni˥ba ʔi˥ʤi ʔaːku˥na](まともでない＜正しい判断力のない＞話を＜物言い＞をしている＜してあるく＞な)。

˥ソー [˥soː] 【名】1性。たち。先天的な性質。ウ˥ヌ　ソーバ˥　ウ˥キ˥ル　マ˥リ˥ケーユンダ　˥ティー　フコー˥バティ　˥ドゥク　イ˥ズナ˥ヨー [ʔu˥nu soːba˥ ʔu˥ki˥ru ma˥ri˥keːjunda ˥tiːɸṵkoː˥bati ˥duku ʔi˥ʤuna ˥joː](その性を受け継いで生まれてきたのだから、動作が敏捷でない＜手早くない＞からといって、あまり叱るなよ)。2あいしょう (相性)。ウ˥リトー　ソーヌ　アーン˥ティ　˥シール˥　バ˥カル˥タツォー [ʔu˥rito: soːnu ʔaːn˥ti ˥ʃiːru˥ ba˥karu˥tatsoː](彼とは相性が良くない＜性が合わない＞といって別れたそうだ)。

˥ソー [˥soː] 【名】1消息。便り。様子。老年層は˥サウ [˥sau](消息。便り) を多用する。「左右＜音信、たより＞、其の左右を今や今やと待ちける～『太平記』」の転訛。ウ˥キナー˥ヌ　ッ˥ふァンケー˥ヌ　˥ソーヤ (˥サウヤ) シ˥キミッタン [ʔu˥kinaː˥nu ˥faŋkeː˥nu ˥soːja(˥sauja) ʃi̥˥kimittaŋ](沖縄の子供達の消息は聞いてみたか)。2心配。ヤ˥ラ˥ビンケーン　ム˥ル　スー˥タイ　˥ムティ　˥パッ˥ター　ノー˥ン　ソーヤ　ナー˥ヌ [ja˥ra˥biŋkeːm muː˥ru suː˥tai ˥muti ˥pat˥taː noː˥n soːja naː˥nu](子供達も皆所帯をもって独立していったので何も心配はない)。

˥ソー [˥soː] 【接頭】本当の。本物の。立派な。「しょう＜正＞」の義。

˥ソー [˥soː] 【名】心配。ウ˥リヌ˥　クトー　˥ソーヤ　ナー˥ヌ [ʔu˥rinu˥ kṵtoː ˥soːja naː˥nu](彼＜それ＞のことは心配ない)。˥ソー˥　ス˥ナトゥ ヨー [˥soː˥ su˥naꜜjoː](心配するなよ)。˥ソー　シーベー [˥soː ʃiː beː](心配している)。˥ソーバ　シー˥　ニ˥バランシェン [˥soːba ʃiː˥ ni˥baraŋʃeŋ](心配して眠れなかった)。

˥ゾー [˥ʤoː] 【名】門の外の道。˥ゾーナーティ　ア˥サビ [˥ʤoːnaːti ʔa˥sabi](門の外の道で遊べ)。ヤ˥ラ˥ベー　˥ゾーナーティ　ア˥ツァ˥マリ　ドゥ˥シザーン˥ナリ　ア˥サビベー [ja˥ra˥beː ˥ʤoːnaːti ʔa˥tsa˥mari du˥ʃiʤaːn˥nari ʔa˥sabibeː](子供は門の外の路で集まって、友達同士で遊んでいる)。˥ゾー˥ヤ˥ペーラフチ˥ヌ　˥フカンタヌ　ミチ˥ダー [˥ʤoː˥ja ˥peːraɸutʃi˥nu ˥ɸṵkantanu mitʃi˥daː](ゾーは門＜入り口＞の外側の道だよ)。

˥ゾー [˥ʤoː] 【感】さあ。さあさあ。どうぞ。物を差し上げる時や、目上の人を誘ったり、せきたてたりするときに発する語。˥ゾー˥　ン˥コー˥リバ [˥ʤoː˥ ʔŋ˥koː˥riba](さあ、召し上がりなさいまし)。ゾー˥ゾー˥　マー˥ズン　オー˥ラ [ʤoː˥ʤoː˥ maː˥ʤuŋ ʔoː˥ra](さあさあ、一緒に参り＜行くの尊敬語。いらっしゃる。「御座(オハ)し」のラ行四段化したもの。未然形。勧誘＞) ましょう。ゾー˥ゾー˥　ン˥コー˥リ [ʤoː˥ʤoː˥ ʔŋ˥koː˥ri](さあさあ、お召し上がり＜ン˥キ [ʔŋki]＜˥食べる」の尊敬動詞の命令形＞が付いた形。＞ください)。

˥ゾー [˥ʤoː] 【接頭】上の。上等の。上質の。すばらしい。˥ウン˥ネーヤ　メー　˥ゾー˥キナイ˥ゲ˥ラ [˥ʔun ˥neːja ˥meː ˥ʤoː˥kinai˥ge˥ra](その家は、もう資産家＜上流の家庭＞さ)。˥ウビ　˥シーシェー˥カー　˥ゾ

ーパタラ˥キ　˞ナー [˥ʔubi ˞ʃiːʃeː˥kaː ˞ʤoːpatara˥ki ˞naː](これだけ出来たらいい働き＜上働き＞だねえ)。

ゾー˞イ [ʤoː˞i] 【副】陳述副詞。とても～＜ない＞。とうてい～＜ない＞。なかなか～＜ない＞。けっして～＜ない＞。下に照応する形式で否定表現を伴い、その否定表現に先行して強く否定する陳述を誘導する職能を有する。˥バー　ウ˞リン　˥カタチネー　ゾー˞イ˥　カ˞キユーサ˥ヌ [˥baː ʔu˞riŋ˥katatʃineː ʤoː˞i˥ kᵩ˞kijuːsa˥nu](私は彼のようには、とても書けない＜書き得ない＞)。ゾー˞イ˥　カ˞ナー˥ヌ [ʤoː˞i˥ ka˞naː˥nu](とうてい叶わない＜勝てない＞)。

˞ソーイラー [˞soːʔiraː] 【名】利口者。しっかり者。「根性の入った者」の義。老年層は、˞ソーイリムヌ [˞soːʔirimunu](利口者) ともいう。˞ソーイラー˥　ヤ˞ルンダ˥　ウ˞リン˥　タ˞ナ˥ムカー　マ˞チガイ˥ヤー　˞ナー˥ヌ [˞soːʔiraː˥ ja˞runda˥ ʔu˞rin˥ ta˞na˥ muka: ma˞ʧigai˥ja: ˞naː˥nu](しっかり者だから、彼＜それ＞に頼んだら間違いはない)。

˞ソー　イルン [˞soː ʔiruŋ] 【連】1利口になる。根性がしっかりする。「性根 (根性) が入る」の義。ク˞ヌッふァー˥　イッ˞ケナ　ソー　イリ　マイフナー　ユン [ku˞nu ffaː˥ ʔik˞kena soː ʔiri maifunaː juŋ](この子は性根が入ってしっかりしていて立派だ)。2思い知る。悟り知る。身にしみてわかる。˞クンドゥ˥ヌ　˥クトゥシェー　˞ソー　イレーン˥パジ [˞kundu˥nu ˥kᵩtuʃeː ˞soːʔireːm˥paʤi](今度のことで思い知った＜身にしみて分かった＞ことだろう)。

˞ソーウキ [˞soːʔuki] 【名】ぼんやりすること。あっけにとられること。茫然自失になること。˥イロー　˥ッサイ　˞ソーウキティ˥　ナー˞イ˥　タティ　˞ベー [˥ʔiroː ˥ssai ˞soː ʔukiti˥ naː˞i˥ tati ˞beː](顔面蒼白になり、茫然自失の状態でただ立っている)。

˞˞ソーウクン [˞soːʔukuŋ] 【自動】慌てふためく。うろたえる (狼狽える)。茫然自失になる。あっけにとられる。ウ˞ヌサウバ˥　シ˞キティル　ソーウキティ˥　イロー　˥ッサイ　˞ベーン˥ティ [ʔu˞nu sauba˥ ʃᵩ˞kitiru soːʔukiti˥ ʔiroː ˥ssai ˞beːn˥ti](その知らせを聞いてあっけにとられて＜うろたえて＞、顔面蒼白になっているさ)。˞ソーウクン˥カヤーティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　˞ソートー˥<˞サウトー＞ア˞タラン　ソーウク˥　クトー　˞ナーン˥シェン [˞soːʔukuŋ˥kajaːti ʔu˞muːtan˥du ˞soːtoː˥<˞sautoː> ʔa˞taran soːʔuku˥ kᵩtoː ˞naːŋ˥ʃeŋ](慌てふためく＜うろたえる＞と思ったが、心配とはうらはらに慌てふためくことはなかった)。˞ソーウカンドー˥シウ˞ティ˥シキティ　ッ˞ふァヌ˥　ニチ　サ˞マ˥ス　˥クトゥ　˞カンガイ˥リ [˞soːʔukandoː˥ʃi ʔu˞ti˥ʃᵩ˞kiti f˞fanu˥ nitʃi sa˞ma˥su ˥kᵩtu ˞kaŋgai˥ri](うろたえないで、落ち着いて子供の熱を冷ますことを考えなさい)。

˞ソーウヤ [˞soːʔuja] 【名】実の親。˞ウッ˥ツァー　˞ソーウヤヌ　パイ˥サ　˞マーラソーッター˥ル　マ˞マウヤン˥　ス˞ダティラ˥リ　マ˞ナ˥マ　ナレー˞ダー [˞ʔut˥tsaː ˞soːʔujanu pai˥sa ˞maːraso:ttaː˥ru ma˞maʔujan˥ su˞datira˥ri ma˞na˥ma nareː˞daː](彼等は実の親が早くに亡くなられたので、まま親＜継母＞に育てられて今日になったのだよ)。

˞ゾーカイ [˞ʤoːkai] 【名】常会。ブ˞ラクゾーカイ [bu˞rakuʤoːaki](部落常会)。ム˞ラズリー [mu˞raʤuriː](村揃い。集会) の義。˞ジョーカイ [˞ʤoːkai](常会) ともいう。標準語からの転訛。˥ソンガチシキヌ　˞ゾーカイナー˥ル　ム˞ラギョージェー˥　キ˞モーッ˥タ [˥soŋgatʃiʃᵩ˞kinu ˞ʤoːkainaː˥ru mu˞ragjoːʤeː˥ ki˞moːt˥ta](一月＜正月月＞の部落常会において＜ぞ＞村の行事は決められた)。

˞ソーカニズー˥ワン [˞soːkaniʤuː˥waŋ] 【連】記憶力が強い。博覧強記である。「性・勘・強い」の転訛か。ウ˞ヌ　プソー˥　イッ˞ケナ　ソーカニズー˥ワン　ム˞カシ˥ヌ　˥クトゥン　˞ピッ˥チン　˞バッスクヌ [ʔu˞nu pᵩsoː˥ ʔik˞kena soːkaniʤuː˥wam mu˞kanu˥ kutum ˞pit˥ʧim ˞basᵩ˞kunu](彼は非常に記憶力が強い。昔のことも、何も＜一つも＞忘れていない)。

˞ソーカニ　パンツン [˞soːkani pantsuŋ] 【連】耄碌する。老人性痴呆症になる。「性・勘・外れる」の義か。カ˞ニパンツン [ka˞nipantsuŋ](耄碌する。痴呆症になる。勘が外れる) ともいう。˥アブジェー　˞トー˥カキ　˞ソー˥レーラー　ン˞メーマー　ソーカニ　パンチル　オー˥ル [˥ʔabuʤeː ˞toː˥kaki ˞soː˥reːraː ʔm˞meːmaː soːkanipantʃiru ʔoː˥ru](お祖父さんは米寿の祝いをされてからは少し耄碌して＜痴呆症気味で＞おられる)。

˞ソー˥キ [˞soː˥ki] 【名】み (箕)。稲籾や麦、粟などを風に当てて、実と籾殻を選別するのに用いる農具。竹の皮でつくる。餅を作る際の大型の箕を、ム˞チソーキ [mu˞ʧisoːki](餅作り用の箕) という。その中に石臼を据えて小麦を挽くと小麦粉が製造できる。炒った小麦を挽くと、ユ˞ナ˥ク [ju˞na˥ku](麦焦がし) ができる。˞マイ˥　ッサウカー　˞ソー˥キナ

˹ノー˺シ　˹アウ˺リティ　˺ヌカー　トゥ˹バシ˺バ [˹mai˺ ssauka: ˹so:˺kina ˹no:˺ʃi ˹ʔau˺riti ˺nuka: tu˹baʃi˺ba](米を精げたら箕にこぼし移して、箕を上下に煽って糠を飛ばしなさい)。

˹ゾーキ [˹ʤo:ki] 【名】蒸気船。˹ゾーケー˺　マンタヌ　˹トゥーラ˺　ウ˹ランザ˺キ　˹マーリ˺　シ˹ラ˺ハマー　˹ギー˺　シ˹キ˺タン　シ˹ミティ　タイ˺パン　˹パッ˺タ [˹ʤo:ke:˺ mantanu ˹tu:ra˺ ʔu˹randʒa˺ki ˹ma:ri˺ ʃi˹ra˺hama: ˹gi:˺ ʃi̥˹ki˺taŋ ʃi˹miti tai˺pam ˹pat˺ta](大型蒸気船は鳩間島の前の海峡＜渡＞から宇奈利崎を回って白浜港へ行き、石炭を積んで台湾へ行った)。

˹ゾー˺ギ [˹ʤo:˺gi] 【名】定規。標準語からの転訛。老年層は˹ゾン˺ギ [˹ʤoŋ˺gi] ともいう。˹ゾー˺ギシ　パ˹カ˺リバ [˹ʤo:˺giʃi pḁ˹ka˺riba](定規で測りなさいよ)。˺サンカクゾーギン　˺アン [˹saŋkakuʤo:giŋ ʔaŋ](三角定規もある)。

˹ソー˺　キスン [˹so:˺ ki̥suŋ] 【連】憤激のあまり、または恐怖のあまり正気を失う。「性切る」の転訛か。˺ドゥク　ウ˹ダラカサ˺リカー　˹ソー˺　キスン˹ダー [˺duku ʔu˹darakasa˺rika: ˹so:˺ ki̥sun˹da:](ひどく驚かされると正気を失うよ)。

˹ソーキナー [˹so:kina:] 【名】(植) 野菜の名。ふだんそう (不断草)。葉の形が˹ソー˺キ [˹so:˺ki](箕) に似ていることからの命名という『石垣方言辞典』。葉肉が厚く、カツオの頭と一緒に煮ると美味であった。˹ソーキナーヤ˺　ナ˹チ˺ナーン　サ˹カリスンダ˺　カ˹ツヌ˺　ス˹ブル˺トゥ　バ˹カス˺カー　˺ダシ　シ˹キティ˺　ン˹マー˺タン [˹so:kina:ja˺ na˹ʧi˺na:n sḁ˹karisunda˺ kḁ˹tsunu˺ su˹buru˺tu ba˹kasu˺ka: ˺daʃi ʃi̥˹kiti˺ ʔm˹ma:˺taŋ](ふだんそう＜不断草＞は夏にも生い茂るからカツオの頭と炊くと出汁が効いて美味しかった)。

˹ソーキ˺ブニ [˹so:ki˺buni] 【名】家畜の肋骨。特に豚の肋骨。人間の肋骨は、ヤ˹カタ˺ブニ [ja˹kata˺buni](肋骨。「側骨」の義か) という。˹オー˺ヌ　˹ソーキ˺ブニ　˹カイ˺キー　˺シジ　バ˹カシ [˹ʔo:˺nu ˹so:ki˺buni ˹kai˺ki: ˺ʃiʤi ba˹kaʃi](豚の肋骨を買ってきて、煎じてお汁を炊きなさい)。ビ˹キドゥモー　ソーキ˺ブニ　タ˹ラーン˺ティ　ア˹ザリブー [bi˹kidumo: so:ki˺buni ta˹ra:n˺ti ʔa˹ʤaribu:](男は肋骨が一本足りない＜軽率なことをする動物＞といわれている)。

˹ソーキ˺ブニ　タ˹ラーヌ [˹so:ki˺buni ta˹ra:nu] 【連】肋骨が足りない (˹知恵が足りない。間が抜けている。馬鹿である」の意味)。ビ˹キドゥモー˺　ム˹カ˺シェーラ　˹ソーキ˺ブニ　タ˹ラーヌ˺ティ　ア˹ザリ　ブー [bi˹kidumo:˺ mu˹ka˺ʃe:ra ˹so:ki˺buni ta˹ra:nu ˺ti ʔa˹ʤari bu:](男は昔から肋骨が一本足りない、＜女に騙されやすい＞間抜け者といわれている)。

˹ソーキブニ˺ヌ　˺スー [˹so:kibuni˺nu ˺su:] 【連】豚の肋骨のお汁。正月やお盆の時に食することができた。˹ソーキブニ˺ヌ　˺スー　バ˹カシ˺　シケーバッ˹ふァイティ˺　パリバ [˹so:kibuni˺nu ˺su: ba˹kaʃi ˺ʃi̥ke:ba f˹faiti˺ pariba](豚の肋骨のお汁を炊いてあるから、食べて行きなさいよ)。

˹ソーキム [˹so:kimu] 【名】真心。本心。「正肝」の義。˺アブジェー　˹ソーキモーラ　ワーヨー˺　ア˹タラ˺サ　˹シーオー˺ル [˺ʔabuʤe: ˹so:kimo:ra wa:jo: ˺ʔa˹tara˺sa ˹ʃi:ʔo:˺ru](お祖父さんは本心から君を可愛がって＜可惜しく思って＞おられる)。

˹ソーキラー [˹so:kira:] 【名】健忘症の人。耄碌した人。惚(ボケ)けた人。ウ˹レー　ソーキラー˺　ナリティ　ム˹ヌタナ˺ミ　ナ˹ラ˺ヌ [ʔu˹re: so:kira:˺ nariti mu ˹nutana˺mi na˹ra˺nu](あれ＜彼＞は健忘症＜惚けた人＞になって、頼み事ができない)。

˹ソー˺ギリ [˹so:˺giri] 【名】塩漬け乾燥した鱶肉。鱶の肉を細切りにし、塩を塗して天日乾燥したもの。「削ぎ切り」の転訛したものか。鱶の肉は油気がなく、さくさくして美味しくないが、ソーギリにしたものを火に炙って食すると独特の香りと味が出る。保存食用としてソーギリにし、石垣島の業者に売った。サ˹バー　ソー˺ギリ　˹サン˺カー　˹カーサラヌ [sa˹ba: so:˺giri ˹saŋ˺ka: ˹ka:saranu](鱶肉は削ぎ切りにして塩を振って天日乾燥しないと売れ＜売られ＞ない)。イ˹ズヌ　ソー˺ギリ [ʔi˹ʤunu so:˺giri](塩漬け乾燥した魚肉)。サ˹バソーギリ [sa˹baso:giri](塩漬け乾燥した鱶肉)。

˹ソーキリ˺ムヌ [˹so:kiri˺munu] 【名】根性のない者。恥も外聞もない人。ぼけ (惚け) かかった人。˹ソーキリ˺ムヌ　ヤ˹ルンダ˺　イ˹ジ˺　ナ˹ラーシ˺タンティン　˺バシキル　スー [˹so:kiri˺munu ja˹runda˺ ʔi˹ʤi˺ na˹ra:ʃi˺tantim ˹baʃi̥kiru su:](根性のない者＜惚(ボ)けた人＞だから、叱って教えても忘れてしまう)。

˹ソーキン [˹so:kiŋ] 【名】晴れ着。一張羅。「立派な着物」の義。フ˹タ˺キシキン [ɸu̥˹ta˺ki̥ʃikiŋ](普段着) の対義語。˹ソーキンバ˺　キ˹シテー˺　シ˹グトー˺　サ˹ラヌ [˹so:kimba˺ ki̥˹ʃite:˺ ʃi˹guto:˺ sa˹ranu](晴れ着を着ては仕事は出来ない)。

˹ゾー˺キン [˹ʤo:˺kiŋ] 【名】雑巾。標準語からの借

用語。明治生まれの老年層は、ヤ˞リ˜カコー [ja˞ri˜ kako:](ぼろ < 襤褸 >。「○、残帛也、也不礼加々不 < やぶれかかふ >」『新撰字鏡』の転訛) を雑巾に利用した。˞ゾー˜キン　ス˞ブ˜リ　˜キー　˞トゥーシ˜　フ˞カン˜ノーレー [˞ʤo:˜kin su˞bu˜ri ˜ki: ˞tu:ʃi˜ ɸu̥ ˞kan˜no:re:](雑巾を絞ってきて縁側を拭いてくれない < 直れ > か)。

˞**ゾー˜グ [˞ʤo:˜gu]** 【名】1じょうご (漏斗)。ろうと (漏斗)。˜アバン　シ˞タ˜ディン　˞ゾー˜グシ　ウ˞ツァサン˜カー　ク˞バ˜スン˞ダー [˜ʔabaŋ ʃi̥˞ta˜din ˞ʤo:˜guʃi ʔu˞tsasaŋ˜ka: ku˞ba˜sun˞da:](油も醤油も漏斗で移さないとこぼす < 零す > よ)。2上戸。特に酒や飲食物を好む人。サ˞キゾーグ [sa˞kiʤo:gu](酒上戸。酒が特に好きな人)。ム˞チゾーグ [mu˞ʧiʤo:gu](餅上戸。餅が特別好きな人)。サ˞キゾーグンマー˜　サ˞ケー˜　ミ˞シララ˜ヌ　サ˞キ˜　ミシェーラー　ヌ˞マン˜ケンマー　イッ˞カ　ヤー˜　パ˞ラ˜ヌ [sḁ˞kiʤo:gumma:˜ sḁ˞ke:˜ miʃirara˜nu sḁ˞ki˜ miʃe:ra: nu ˞maŋ˜kemma: ʔik˞ka ja:˜ pa˞ra˜nu](酒上戸には酒は見せられない。酒を見せたら飲まない限りは決して < 一向に > 家に帰らない)。

˞**ソークトゥ [˞so:kutu]** 【名】本当のこと。事実。真実。ウ˞レー　ソークトー˜　ア˞ラ˜ヌ [ʔu˞re: so:kuto:˜ ʔa ˞ra˜nu](それは本当のこと < 真実 > ではない)。

˞**ソーグトゥ [˞so:gutu]** 【名】心配事。ク˞ヌ˜　ヤーナー　˞ソーグトー˜　ノー˞ン　ナー˜ヌ [ku˞nu˜ ja:na: ˞so:guto:˜ no:˞ŋ na:˜nu](この家には心配事は何もない)。

˞**ゾー˜サー　˞ナー˜ヌ [˞ʤo:˜sa: ˞na:˜nu]** 【連】造作ない。たやすい。わけはない。難しくない。マ˞ナマ˜ヌ　˞ユーヤ˜　ム˞ヌスク˜ルン　˞ヤースク˜リン　ノー˞ン　ゾー˜サー　˞ナー˜ヌ　ムー˞ル˜　キカイシル　ス˞ク˜ル [ma˞nama˜nu ˞ju:ja˜ mu˞nusu̥ku˜ruŋ ˞ja:su̥ku˜rin no:˞n ʤo:˜sa: ˞na:˜nu mu:˞ru˜ ki̥kaiʃiru su̥ ku˜ru](今の世は農作業も家造りも何も造作ない < 簡単だ >。全部機械で作る)。

˞**ゾーサキ [˞ʤo:saki]** 【名】「上酒」の義。静かに友情を温めあう飲酒。よい酒の飲み方。ン˞マ˜ザキ [ʔm˞ma ˜ʤaki](暴れ酒。馬酒) の対義語。˜ヌムカー　˞ゾーサキル˜　ヌム　ン˞マザ˜キ　˜ヌメー　ナ˞ラ˜ヌ [˜numuka: ˞ʤo:saki˜ru ˜numu ʔm˞maʤa˜ki ˜nume: na ˞ra˜nu](飲むなら静かに友情を温める酒を飲むべきで、暴れる酒を飲んではならない)。

˞**ソージ [˞so:ʤi]** 【名】障子。標準語からの借用語。老年層はア˞カル [ʔa˞karu](明かり障子) という。これは、70 歳以下の人には理解語彙。鳩間島では、障子のある家は少なかった。ム˞カ˜シプソー　˞ソージバ˜　ア˞カルティ˜　ア˞ゾーッ˜タ [mu˞ka˜ʃipu̥so: ˞so:ʤiba˜ ʔa˞karuti˜ ʔa˞ʤo:t˜ta](昔の人は障子をアカルといわれた)。

˞**ソー˜ジ [˞so:˜ʤi]** 【名】お祓い祈願。精進潔斎して祈願すること。「精進」の転訛したもの。パ˞マウリソー˜ジ [pa˞maʔuriso:˜ʤi](旧暦三月の庚に行われる虫祓いの祈願。部落民こぞって桟敷に集り、模擬的な夜籠り祈願をする儀式)。˞プーヌソー˜ジ [˞pu:nuso:˜ʤi](稲穂の害虫祓いの祈願)。ッ˞サバー˜ヌ　˞ソー˜ジ [s˞saba:˜nu ˞so:˜ʤi](稲草葉 < 下葉 > の害虫祓いの祈願) などがある。˞プーヌソー˜ジェー　˞マイヌ˜　プーナ　˜カタンドーレーヌ　ム˞シヌ˜　シゥ˞カン˜ヨー　˞ウイヌ˜ウガンナーティ　サ˞カサ˜　ティ˞ジリ˜ビーンケーヌ　˞ニン˜ガイ　˞オーッ˜タ [˞pu:nuso:˜ʤe: ˞mainu˜ pu:na: ˜kḁtando:re:nu mu˞ʃinu˜ si̥˞kḁŋ˜jo: ˞ʔuinu˜ʔuganna:ti sḁ˞kasa˜ ti˞ʤiri˜bi:ŋke:nu ˞niŋ˜gai ˞ʔo:t˜ta](稲穂のお祓い祈願は、稲穂にバッタ < 飛蝗 > などの害虫が付かぬよう、友利御嶽 < 上のお願 > で司 < 巫女 >、テズリ部 < 男性神職者 > の方々が祈願された)。

˞**ソー˜ジ [˞so:˜ʤi]** 【名】掃除。清掃。標準語からの借用語。˞ソー˜ジカキ [˞so:˜ʤikḁki](掃除)、˜カキソージ [˜kḁkiso:ʤi](掃き掃除) ともいう。ミ˞ナカ˜ヌ　˜カキソージェー　ヤ˞ラビ˜ヌ　ス˞クブン　ヤッタ [mi˞ naka˜nu ˜kḁkiso:ʤe: ja˞rabi˜nu su̥˞kubuŋ jatta](庭の掃き掃除は子供が担当 < 職分 > する仕事であった)。ミ˞ナカ˜ヌ　˞ソー˜ジ　シ˞ティ　ガッ˜コー　˜パリ [mi˞naka˜nu ˞so:˜ʤi ʃi̥˞ti gak˜ko: ˜pari](庭の掃除をしてから学校へ行け)。

˞**ソー˜ジ [˞so:˜ʤi]** 【名】 (地) 西表島の船浦の奥地にある水田地帯の地名。プ˞サ˜キャーヌ　˞ソージ˜ヌ　˞ター˜ヤ　˞タール˜　ス˞ク˜リ　˞ブーワ [pu̥˞sa˜ kja:nu ˞so:ʤi˜nu ˞ta:˜ja ˞ta:ru˜ su̥˞ku˜ri ˞bu:wa](冨里家のソージの田圃は誰が耕作しているのか)。

˞**ゾー˜ジ [˞ʤo:˜ʤi]** 【名】 上手。物事に巧みで優れていること。ブ˞ドゥルゾージ [bu˞duruʤo:ʤi](踊り上手)。˜ウタゾージ [˜ʔutaʤo:ʤi](歌上手)。˜アボー　˜ウタゾージ　ヤ˞ロー˜レーンダル　ッ˞ふァ˜マーン　ムー˞ル˜　ウタゾージ　˜ナレール [˜ʔabo: ˜ʔutaʤo:ʤi ja˞ro:˜re:ndaru f˞fa˜ma:m mu:˞ru˜ ʔutaʤo:ʤi ˜nare:ru](お母さんが歌上手でいらっしゃったから子孫もみんな歌上手になったのだ)。

˞**ソー˜ジカキ [˞so:˜ʤikḁki]** 【名】掃除。掃除の強調

表現。ビ˹キドゥモー　ヤー˺ンナカー　˹ソー˺ジカキン　サ˹ヌ [bi˹kidumo: ja:˺nnaka: ˹so:˺ʤikḁkin sa˹nu](男は家の中を掃除もしない)。

˹ソー˺シキ **[˹so:˺ʃi̥ki]**【名】葬式。標準語からの借用語。老年層は、プ˹スウクリ [pu̥˹suʔukuri](人送り) を用いていた。˹ソー˺シキ　˹シン　パッ˺タ [˹so:˺ʃi̥ki ˹ʃim pat˺ta](葬式しに行った)。˹ソー˺シケーラ　˹カイ˺リ　˺クーカ　ヤー˹ディン˺　ス˹ナカ˺ナー　ウ˹ロー˺リ　˹ティー˺パン　˺シミティル　ヤー˺ヤ　˹オーッ˺タ [˹so:˺ʃi̥ke:ra ˹kai˺ri ˺ku:ka: ja:˹din˺ su˹naka˺na: ʔu˹ro:˺ri ˹ti:˺paŋ ˺ʃimitiru ˹ja:˺ja ˹ʔo:t˺ta](葬式から帰ってくると必ず海に下りて手足を洗って＜澄ませて。清めて＞家に帰られた)。

˹ゾー˺シキ **[˹ʥo:˺ʃi̥ki]**【名】百姓。下女。下働き。「穴云。雑色。謂雑戸、品部也」＜令集解＞の「雑色」『日本国語大辞典』からの転訛。˺アカカラジー [˺ʔakakaraʥi:](民百姓) と対語で用いられる。ウ˹ヌ　プソー˺　バ˹カーン˺ケンマー　プ˹スン˺ヤーヌ　˹ゾーシキ˺バ　˹シー˺　イッ˹ケナ˺　ク˹ロー　ソーッ˺タンツォー [ʔu˹nu pu̥so:˺ ba˹ka:ŋ˺kemma: pu̥˹suŋ˺ja:nu ˹ʥo:ʃi̥ki˺ba ˹ʃi:˺ ʔik˹kena˺ ku˹ro: so:t˺tantso:](あの人は若い頃は余所の家の下女をして大変苦労されたそうだ)。

˹ゾーシキ˺ヌ　˹ニン˺ガイ **[˹ʥo:siki˺nu ˹niŋ˺gai]**【連】˹村役人の祈願」。村役人が一年中の神行事を無事に執り行うことが出来るように祈願すること。˹ニンガチニン˺ガイ [˹niŋgatsiniŋ˺gai](二月願い) の中で祈願される。˹雑色とは、謂ふ、雑戸・品部也」『令集解賦役』、(良民の最下位の品部＜しなべ＞・雑戸＜ざっこ＞をいう)『岩波古語辞典』の転訛したものか。かなり古い時代の祭祀を反映した、注目すべき祭祀語彙と考えられる。

˹ソーシキ˺ムヌ **[˹so:ʃi̥ki˺munu]**【名】気付け薬。酒類。「正気付けるもの」の義。老年層は、˹サウシキ˺ムヌ [˹sauʃi̥ki˺munu](気付け薬) という。気を失った人の顔面に酒を吹きかけたり、飲ませたりして正気付けさせるものである。˹ソーシキ˺ムヌ　ン˹メーマ˺ナー　ヌ˹マ˺スカー　˹ソー˺　シ˹キ˺ルン [˹so:ʃi̥ki˺munu m˹me:ma˺na: nu˹ma˺suka: ˹so:˺ ʃi̥˹ki˺ruŋ](気付け薬を少しずつ飲ませると正気づく)。

˹ソー˺シキヤー **[˹so:˺ʃi̥kija:]**【名】葬式の執り行われる家。パ˹ルミ˺プソー　˹ソー˺シキヤー　˹パン˺ナティ　ム˹カ˺シプソー　ア˹ゾーッ˺タ [pa˹rumi˺pu̥so: ˹so:˺ʃi̥kija: ˹pan˺nati mu˹ka˺ʃipu̥so: ʔa˹ʥo:t˺ta](妊婦は葬式屋へは行くなと昔の人は言われた)。˹ソー˺シキヤーラヌ　˹カイ˺ロー　˹スーヌ˺パナー　˹パン˺キティ　˹ヤー˺　クーカー　シ˹ダキ˺　オンケーナー　˹ギーティル　ヤー˺ン　˺ナカー　˹ペー˺ローッタ [˹so:˺ʃi̥kija:ranu ˹kai˺ro: ˹su:nu˺pana: ˹paŋ˺kiti ˹ja:˺ ku:ka: ʃi˹daki˺ ʔoŋke:na: ˹gi:tiru ja:˺n ˺naka: ˹pe:˺ro:tta](喪家からの帰りには潮の花＜海水＞を身に振り掛け＜弾い＞て、家に来ると先ず＜先に＞豚舎＜便所＞へ行ってから家の中には入られた)。

˹ソー˺　シ˹キ˺ルン **[˹so:˺ ʃi̥˹ki˺ruŋ]**【連】正気づく。正気にかえる。˹ソー˺　スクン [˹so:˺ su̥kun](正気づく) ともいう。ウ˹ダラ˺キティ　ブ˹チ˺クン　˹スー˺　プソー　ミ˹ジ˺　フ˹キ˺カクカー　˹ソー˺　シ˹キ˺ルン [ʔu˹dara˺kiti bu˹ʧi˺kun ˹su:˺ pu̥so: mi˹ʤi˺ ɸu̥˹ki˺kḁkuka: ˹so:˺ ʃi̥˹ki˺ruŋ](驚いて気を失う時＜人事不省になる＞は、水を吹きかけると正気にかえる)。˹サウ˺　シ˹キ˺ルン [˹sau˺ ʃi̥˹ki˺ruŋ](正気づく)＜老年層＞ともいう。ニ˹チ˺ヌ　˺サムカー　˹ソー˺　シ˹キ˺ルンパジ [ni˹ʧi˺nu ˺samuka: ˹so:˺ ʃi̥˹ki˺rumpaʤi](熱が冷めたら正気づくはずだ)。

˹ソーシグトゥ **[˹so:ʃigutu]**【名】心配事。「心配・し・こと」の義。ッ˹ふぁ˺　ス˹ダ˺テー　˹ソーシグトゥヌル　ゴー˺ラー [f˹fasuda˺te: ˹so:ʃigutunuru go:˺ra:](子育てには心配事が多い)。

˹ソー˺　シ˹ティルン **[˹so:˺ ʃi̥˹tiruŋ]**【連】正気を失う。前後不覚に陥る。シ˹ティルン [ʃi̥˹tiruŋ](捨てる) は「捨てる。下一段」の転訛したもの。˹ウンザー˺　サ˹キ˺　ヌムカー　˹ソー˺　シ˹ティルン˺ケン　ヌ˹ミ˺ス [˹ʔunʥa:˺ sḁ˹ki˺ numuka: ˹so:˺ ʃi̥˹tiruŋ˺ken nu˹mi˺su](あいつは酒を飲むと正気を失うまで飲む)。˹サウ˺　シ˹ティルン [˹sau˺ ʃi̥˹tiruŋ](正気を失う)＜老年層＞ともいう。˹ソー˺　シ˹テイルン˺ケン　サ˹キ˺　ヌ˹ム˺タン [˹so:˺ ʃi̥˹tiruŋ˺ken sḁ˹ki˺ nu˹mu˺taŋ](正気を失うほど酒を飲んだ)。˹ソー˺　シ˹トゥン [˹so:˺ ʃi̥˹tuŋ](正気を失う) ともいう。

˹ソー˺　シ˹トゥン **[˹so:˺ ʃi̥˹tuŋ]**【連】正気を失う。前後不覚に陥る。シ˹トゥン [ʃi̥˹tuŋ] は「捨つ。下二段」の転訛したもの。サ˹ケー　ソー˺　シ˹トゥン˺ケン　ヌ˹ム˺ナ [sḁ˹ke: so:˺ ʃi̥˹tuŋ˺ken nu˹mu˺na](酒は正気を失うまで飲むな)。バ˹カー˺タンケンマー　˹ソー˺　シ˹トゥン˺ケン　サ˹キ˺　ヌ˹ム˺タン [ba˹ka:˺tamkemma: ˹so:˺ ʃi̥˹tuŋ˺ken sḁ˹ki˺ nu˹mu˺taŋ](若かった頃は正気を失うほど酒を飲んだ)。

˹ソージヌ˺　サン **[˹so:ʤinu˺ saŋ]**【連】「障子の桟」の義。標準語からの借用語。鳩間島では限られた

家にしか障子は無かった。˺ソンガチマイ　ヤ˹リバ　ソージヌ˺　サン　ア˹ライティ　ソージ˺　パ˹リカイリ˺バ [˺soŋgatʃimai ja˹riba soːʤinu˺ saŋ ʔa˹raiti soːʤi˺ pa˹rikairi˺ba](正月前だから障子の桟を洗って、障子を張替えなさいよ)。

˹ソージヌ˺　プニ **[˹soːʤinu˺ puni]** 【連】障子の桟(障子の骨)。˺ビーティ　˹ソージ˺ナー　˹トー˺リ　˹ソージヌ˺　プニ　˺ブリ　シ˹ティナー˺ヌ [˺biːti ˹soːʤi˺na: ˹toː˺ri ˹soːʤinu˺ puni ˺buri ʃi̥˹tinaː˺nu](酔って障子に倒れて、障子の桟を折ってしまった)。

˹ゾー˺ジ　˺ヒター **[˹ʤoː˺ʤi ˺çi̥taː]** 【連】上手下手。上手と下手。˹ゾー˺ジ　ヒター　ノー˹ン　ヤラバン˺　ミサン　ス˹ク˺リサーギ　˹シー˺　ッ˹ふィール˺カー　˺ウビシー　サ˹ニムヌゲ˺ラ [˹ʤoː˺ʤiçi̥taː noː ˹ɲ jarabam˺ misaŋ sṵ˹ku˺risaːgi ˹ʃiː˺ ˹fi:ru˺kaː ˺ʔubiʃi sa˹nimunuge˺ra](上手下手はどう＜何であっても＞でもよい。作ってさえしてくれれば、それだけで嬉しいことさ)。

˹ソー˺ジマール **[˹soː˺ʤimaːru]** 【名】掃除の検査のために保健所の所員が村々を巡回検査すること。イ˹サナケーラ˺　ヤ˹クニン˺ヌ　˹ソー˺ジマール　˹シン　オー˺ルンツォー [ʔi˹sanakeː˺ra ja˹kunin˺nu ˹soː ˺ʤimaːru ˹ʃiŋ ʔoː˺runtsoː](石垣から役人が掃除や衛生検査をしに来られるそうだ)。

˹ソーズ˺ク **[˹soːʤu˺ku]** 【名】相続。標準語からの転訛。老年層は˺アトゥトゥリ [˺ʔatuturi](跡取り)、˺アトゥシギ [˺ʔatuʃigi](跡継ぎ) を多用した。˹クン˺ネーヤ　˹タール　ソーズ˺コー　˹スーワ＜ヤー　シ˹グワ＞[˹kun˺neːja ˹taːru soːʤu˺koː ˹suːwa ＜jaː ʃi ˹guwa＞](この家は誰が相続をするか)。

˹ゾー˺スク **[˹ʤoː˺sṵku]** 【名】造作。家の内部の仕上げ、取り付け物の総称。天井、床板、階段、棚、敷居、鴨居など。ク˹ヌ　ヤー˺ヤ　ミ˹ジラ˺サ　˹ゾースク˺バ　シ˹ラリティ˺　イッ˹ケナ　カイ˺ヤン [ku ˹nu ja:˺ja mi˹ʤira˺sa ˹ʤoːsṵku˺ba ʃi˹rariti˺ ʔik˹kena kai˺jaŋ](この家は見たことのない珍しい内部造作がなされていて非常に美しい)。

˹ソー˺　スクン **[˹soː˺ sṵkuŋ]** 【連】正気づく。酔いからさめる。意識が回復する。˹サウ˺　スクン [˹sau˺ sṵkuŋ]＜老年層＞ともいう。ブ˹チ˺クン　˹シー　ベーン˺ドゥ　˹フン˺トー　˹ソー˺　スクンカヤー [bu ˹tʃi˺kuŋ ˹ʃiːbeːn˺du ˹ɸun˺toː ˹soː˺ sṵkuŋkajaː](人事不省に陥っている＜気絶している＞が、本当に意識回復する＜正気づく＞でしょうか)。˹ソーシティルン˺ケン　˺ビータリ　˹ベー˺タンティン　ミ˹ジ˺　ヌ˹マ˺スカー　˹ソー˺　スクン [˹soː˺ ʃi̥˹tiruŋ˺kem ˺biːtari ˹beː˺tantim mi˹ʤi˺ nu˹ma˺sṵkaː ˹soː˺ sṵkuŋ](正気を失うほど泥酔していても水を飲ませると正気づく)。ブ˹チ˺クン　˹スー˺　プソーサ˹キ˺　フ˹ク˺ミティ　˺シラナ　フ˹キ˺カクカー　˹ソー˺　スクン [bu˹tʃi˺kun ˹suː˺ pṵso: sạ˹ki˺ ɸṵ˹ku˺miti ˺ʃirana ɸṵ˹ki˺kạkuka: ˹soː˺ sṵkuŋ](気絶する時は、酒を口に含んで顔に吹きかけると正気づく)。

˹ソースン **[˹soːsuŋ]** 【他動】籾(モミ)や麦などを風に当て、籾殻やすくも(藻屑(モクズ))などを飛ばして籾をえり分ける。そよがせる。「そよが＜戦が＞せる」の転訛したものか。˹マイ　アーシティ˺　カ˹ジ˺ナー　˹ソースンティ　ベー˺ンドゥ　カ˹ジヌ　ソーンダ　マイヤー　ソーサラヌ [˹mai ʔaːʃi̥ti˺ ka˹ʤi˺naː ˹soːsunti beː˺ndu ka˹ʤinu soːnda maijaː soːsaranu](稲を脱穀して風に当てて＜吹かせ＞籾殻をえり分けようしているが、風が吹かないので風に当てて選り分けることが出来ない)。カ˹ジ˺ナー　˹ソーシティ˺　プシ [ka˹ʤi˺naː ˹soːʃi̥ti˺ pṵʃi](風に当ててから干せ)。˹ソース˺　トンナーティ　˹ソーシ [˹soːsu˺ tonnaːti ˹soːʃi](風に当てる所で風に当てろ)。˹マー˺ビン　˹ソーシェー˺　ミサムヌ [˹maː˺bin ˹soːʃeː˺ misamunu](もっと風に当てればよいのに)。

˹ソー　スン **[˹soː suŋ]** 【連】心配する。テ˹ガ˺ミカ˹カン˺カー　˺ウヤー　˹ソー　スン＜˹ソー˺ルン＞ト　ダー [ti˹ga˺mi kạ˹kaŋ˺kaː ˺ʔujaː ˹soː sun＜˹soː˺ run＞ト˺daː](手紙を書かないと親は心配する＜心配されるよ＞)。˹ソー　サン˺タンティン　˺ミサン [˹soː san˺tantim ˺misaŋ](心配しなくてもよい)。˹ソー　シー˺　ナ˹ラ˺ヌ [˹soː ʃiː˺ na˹ra˺nu](心配で＜して＞たまらない)。˹ワー　ソー　スー˺　クトー　˹ナー˺ヌ [˹waː soː suː ˺kṵtoː ˹naː˺nu](君が心配することはない)。˹ソー　シェー˺　ミサムヌ [˹soː ʃeː˺ misamunu](心配すればいいのに)。˹ソー　シー˺バ [˹soː ʃiː˺ba](心配しろよ。心配せよ)。

˹ソータマシー **[˹soːtamaʃiː]** 【名】正常な精神活動。真っ当な判断力。正常な魂。心を入れ替えること。「正魂」の義。˹クンドゥ˺ヌ　˺クトゥシ　ウ˹ガン˺ツメーカー　˹ソータマシー˺　イ˹リティ˺　パ˹タラキ˺ダー [˹kundunu˺ kṵtuʃi ʔu˹gan˺tsumeːka: ˹soːtamaʃiː ˺ʔi˹riti˺ pạ˹taraki˺daː](今度の件で反省したならば、正常な判断力を養って＜正魂を入れて＞働けよ)。

˹ソー˺ダン **[˹soː˺daŋ]** 【名】相談。意見を出して話し合う。˺ウチソーダン [˺ʔutʃisoːdaŋ](うち相談) とも

いう。ウ⌜ヤッ⌝ふぁー　⌝ユー　⌜ソーダン⌝バ　⌜シェー⌝ティ　キ⌜ナイヌ⌝　クトー　キ⌜ミリ⌝ヨー [ʔu⌝jaf⌝fa: ⌝ju: ⌜so:dam⌝ba ⌜ʃe:⌝ti ki⌜nainu⌝ ku̥to: ki⌜miri⌝jo:](親子はよく話し合って、相談して家庭のことは決めなさいよ)。

⌜**ソーッふぁ [⌜so:ffa]**　【名】実子。真実の子。正式に結婚して産んだ子。⌜グンボー⌝ッふぁ [⌜gumbo:⌝ffa](庶子)、⌜イーリ⌝ッふぁ [⌜ʔi:ri⌝ffa](貰い子)。カ⌜クシ⌝ッふぁ [kḁ⌜kuʃi⌝ffa](隠し子)、⌜ヨー⌝シ [⌜jo:⌝ʃi](養子)、マ⌜マッふぁ [ma⌜maffa](継子) に対して用いられる。⌜ワー　ソーッふぁー⌝　ギュ⌜タール　ブーワ [⌜wa: so:ffa:⌝ gju⌜ta:ru bu:wa](君の実子は何人いるか)。

⌜**ゾーディ⌝キ [⌜ʥo:di⌝ki]**　【名】上出来。よくできていること。ヤ⌜ラビ⌝ヌ　⌝クビサーギ　⌝ナルカー　⌜ゾーディキ⌝ル　ヤ⌜ル　ボー⌝レー⌜ドー [ja⌜rabi⌝nu ⌝kubisa:gi ⌝naruka: ⌜ʥo:diki⌝ru ja⌜ru bo:⌝re:⌜do:](子供でこれだけ出来れば上出来である。お利巧だ)。

⌜**ゾー⌝ティダイ [⌜ʥo:⌝tidai]**　【名】充分なおごり (奢り)。十分なご馳走。⌜クンドゥ⌝ヌ　ウ⌜ヤ⌝カターラ　⌜シンカ⌝ンナーニヌ　ティ⌜ダイ⌝ヤー　⌜ゾー⌝ティダイ　⌜ヤッタ⌝ツォー [⌜kundu⌝nu ʔu⌜ja⌝kata:ra ⌜ʃiŋka⌝nna:ninu ti⌜dai⌝ja: ⌜ʥo:⌝tidai ⌜jatta⌝ʦo:](今度の親方から組合員へのおごり＜奢り＞は充分なるご馳走＜奢り＞だったそうだ)。

⌜**ソートー [⌜so:to:]**　【副】物事の程度が普通を越えている。標準語からの借用語。ウ⌜レー　ソートー　モー⌝ケーンツォー [ʔu⌜re: so:to: mo:⌝ke:nʦo:](彼は相当儲けたそうだ)。⌜ワー　ソートー　ビー⌝ブーバ　⌝メー　ミ⌜ビ [⌜wa: so:to: bi:⌝bu:ba ⌝me: ni⌜bi](君は相当酔っ払っているから、もう寝ろ)。

⌜**ソードー [⌜so:do:]**　【名】騒動。もめごと。争いごと。標準語からの借用語。老年層は、⌝ウチサウギ [⌝ʔuʧisaugi](うち騒ぎ) という。⌝ウチソードー [⌝ʔuʧiso:do:](うち騒動。大騒動) ともいう。ウ⌜タ⌝ラタンコーナー　タンコー⌜ピンギ⌝ムヌ　カ⌜サムンティ　ソードー　シーブー⌝ティバン [ʔu⌜ta⌝rataŋko:na: taŋko:⌜piŋgi⌝munu kḁ⌜samunti so:do: ʃi:bu:⌝tibaŋ](ウタラ炭坑では炭坑逃亡者を捕まえようと騒動しているそうだよ)。

⌜**ゾー⌝トゥ [⌜ʥo:⌝tu]**【名】上等。立派。ク⌜レーラン⌝　カ⌜リル　ゾー⌝トゥー [ku⌜re:raŋ⌝ ka⌜riru ʥo:⌝tu](これよりもあれが上等だ)。⌜ゾートゥ⌝ヌ　⌝ムノーラ　イ⌜ラ⌝ビ　⌜イー⌝リバ [⌜ʥo:tu⌝nu ⌝muno:ra ʔi⌜ra⌝bi ⌜ʔi:⌝riba](上等の物から選んで貰いなさい)。

⌜**ソー⌝　トゥ⌜ブン [⌜so⌝: tu⌜buŋ]**【連】正気を失う。気絶する。前後不覚に陥る。「正・飛ぶ」の転訛したもの。ク⌜ヌ⌝　ヤ⌜ラ⌝ベー　ウ⌜ダラ⌝クカー　⌜ソー⌝　トゥ⌜ブン＜ブ⌜チ⌝クン　⌜スン＞[ku⌜nu⌝ ja⌜ra⌝be: ʔu⌜dara⌝kuka: ⌜so:⌝ tu⌜buŋ ＜bu⌜ʧi⌝kuŋ ⌜suŋ＞](この子供は驚くと正気を失う＜気絶する＞)。

⌜**ソートン [⌜so:toŋ]**　【名】**1**急所。命に関わる所。「正所」の義。ヨー⌜ヨー　キー⌝　シ⌜キ⌝リ⌜ダー　ソートン⌝　キ⌜ラ⌝レーラー　シ⌜ヌンㇳダー [jo:⌜jo: ki:⌝ ʃi̥⌝ki⌝ri⌜da: so:toŋ⌝ ki⌜ra⌝re:ra: ʃi⌜nun⊦da:](よくよく注意しなさいよ。急所を蹴られたら死ぬぞ)。**2**良い所。⌜ワー　ソートン⌝ナー　⌝ヤー　ス⌜ク⌝レーバン⌜ナー [⌜wa: so:ton⌝na: ⌝ja: su̥⌜ku⌝re:ban⌜na:](君は良い所に家を造ったんだねえ)。

⌜**ソーナー [⌜so:na:]**　【名】本名。戸籍上の名前。ウ⌜レー　ソーナーヤ⌝　ア⌜ラ⌝ヌ　⌜ヤーナー⌝ル　ヤ⌜ル [ʔu⌜re: so:na:ja⌝ ʔa⌜ra⌝nu ⌜ja:na:⌝ru ja⌜ru](それは本名＜学校で呼ばれる戸籍上の名前＞ではない。童名＜家の名。伝統的命名法で付けられた名前＞である)。

⌜**ソー　ナー⌝ヌ [⌜so: na:⌝nu]**　【連】正気がない。正気を失っている。精神状態が正常でない。ウ⌜ダラ⌝キ　⌝キモー　ウ⌜キティ　ソー(ヤ)　ナー⌝ン　⌜シーバ　シーベー⌝バ　⌜ワー⌝シ　ヤ⌜ミシミリ [ʔu⌜dara⌝ki ⌝kimo: ʔu⌜kiti so:(ja) na:⌝ŋ ⌜ʃi:ba ʃi:be:⌝ba ⌜wa:⌝ʃi ja⌜miʃimiri](驚いて、心は上の空＜肝が浮いて＞で、異常な仕方＜正気でない仕方＞をやっているから、君で止めさせてくれ)。ウ⌜レー⌝　ビーティ　⌜ソーヤ　ナー⌝ヌ [ʔu⌜re:⌝ bi:ti ⌜so:ja na:⌝nu](彼は酔っ払って正気でない＜正常な状態でない＞)。⌜サウヤー　ナー⌝ヌ [⌜sauja: na:⌝nu](正気でない) ともいう。

⌜**ソーナーン⌝　ムニ [⌜so:na:m⌝ muni]**　【連】正気でない言葉。たわごと (戯言［ザレゴト］)。⌜ウンザー⌝　サ⌜キ⌝　ヌムカー　⌜ソーナーン⌝　ムニ　イ⌜ズンダ⌝　サ⌜キ⌝　ヌ⌜マス⌝ナ [⌜ʔunʥa:⌝ sḁ⌜ki⌝ numuka: ⌜so:na:m⌝ muni ʔi⌜ʥunda⌝ sḁ⌜ki⌝ nu⌜masu⌝na](あいつは酒を飲むと正気でない＜戯言＞を言うから、酒を飲ますな)。

⌜**ソーナーン⌝ムヌ [⌜so:na:m⌝munu]**　【名】正気のない者。智恵の無い者。うかつもの (迂闊者)。ばか者。⌝アイブー　⌜ソーナーン⌝　ム⌜ヌ⌝ヌ　ア⌜ズ⌝　ムネー　カ⌜タ⌝ミンラ　ス⌜ク⌝カー　カ⌜タ⌝ミンラーン⌜ザ⌝シ　ス⌜クナㇳヨー [ʔaibu: ⌜so:na:m⌝ mu⌜nu⌝nu ʔa⌜ʥu⌝mune: kḁ⌜ta⌝minra su̥⌜ku⌝ka: kḁ⌜ta⌝minra: ʔn⌜ʥa⌝ʃi su̥⌜kuna⊦jo:](あんなばか者の言う言葉は片耳

から聞いたら、片からは出して聞くなよ)。

˹ソーニ˺チ **[˹soːni˺ʧi]** 【名】命日。「正日」の義。ウ˹ヤ˺ヌ ˹ソーニ˺チ ア˹ティティル ニンキソッコー˺ヤ シ˹モーッ˺タ [ʔu˹ja˺nu ˹soːni˺ʧi ʔa˹titiru niŋkisokkoː˺ja ʃi˹moːt˺ta](親の命日に合せて < 当てて > 年忌焼香はさせられた)。

˹ソーニチ **[˹soːniʧi]** 【名】当日。「しょうにち (正日)」の義。˹ピン˺ガン [˹piŋ˺gaŋ](彼岸。春分の日、秋分の日) のように、一週間にわたる祭祀期間の中の正真正銘の彼岸の当日のこと。彼岸だけは、その期間の中の都合の良い日に焼香してよいといわれている。˹ピンガン˺マー シ˹チ˺ヌサーギ ˹ペー˺ルカー ˹ソーニチ˺ ア˹ラン˺タンティン ˹シー˺ミサンティ ア˹ザリ ブー [˹piŋgam˺maː ʃi̥˹ʧi˺nusaːgi ˹peː˺rukaː ˹soːniʧi˺ ʔa˹ran˺tantiŋ ˹ʃiː˺ misanti ʔa˹ʤari buː](彼岸は、祭祀の期間にさえ入ったなら、当日 < 正日 > でなくても実施して < やって > よいといわれている)。

˹ソーニビ **[˹soːnibi]** 【名】熟睡。本眠り < 本格的な眠り >。ッ˹ふァ˺ ニ˹バスンティル˺ ウキニビ ˹シーベー˺ル ˹ソーニベー シーブラーヌ [f˹fa˺ ni˹basuntiru˺ ʔukinibi ˹ʃiːbeː˺ru ˹soːnibeː ʃiːburaːnu](子供を寝かそうとして仮寝 < 目を覚ましたまま横になること > しているのであって、熟睡 < 本眠り > をしているわけではない)。ニ˹ビマービ シーベーン˺ケン ˹ソーニビ シーナーン˺シェン [ni˹bimaːbi ʃiːbeːŋ˺keŋ ˹soːnibi ʃiːnaːŋ˺ʃeŋ](狸寝入り < 寝真似 > しているうちに、熟睡 < 本眠り > してしまっていた)。

˹ソーニヨイ **[˹soːnijoi]** 【名】生年祝い。干支の生まれ年に行われる誕生祝い。十三歳、二十五歳、四十九歳、六十一歳、七十三歳、八十五歳の生年祝い。八十八歳は˹トー˺カキ [˹toː˺kąki](「斗掻き」の義。米寿の祝い)、九十七歳はカ˹ジマー˺ヤー [ka˹ʤimaː˺jaː] という。最近は寿命が延びたので、八十五歳以上の生年祝いを盛大に行うようになった。チ˹カ˺グロー ˹ソーニヨイヌン˺ ハチジュー˹ゴーヌ˺ ヨイラル マギー˹マギー˺シ ˹ソー˺ル˺ヨーニ ˺ナリケーツォー [ʧi̥˹ka˺guroː ˹soːnijoinuŋ˺ hąʧiʤu:˹go:nu˺ joiraru magi:˹magi:˺ʃi ˹soː˺ru ˺joːni˺narikeːtsoː](近頃は生年祝いも八十五歳の斗掻きの生年祝いから大きくなさるようなってきたそうだ)。

˹ソーニンギン **[˹soːniŋgiŋ]** 【名】真人間。まっとう (真っ当) な人。普通のまともな人。「正人間」の義。˹ソープス [˹soːpusu](真っ当な人) ともいう。ヤ˹ラ˺ビ ˹シェーン˺ケンマー ヤ˹ブリ˺ムヌ ˹ヤッタヌ˺ ウ˹ブ˺プス ˹ナッ˺ター ˹ソーニンギン˺ ナレーツバン [ja˹ra˺bi ˹ʃeːŋ˺kemmaː ja˺buri˺munu ˹jattanu˺ ʔu˹bu˺pu̥su ˹nat˺taː ˹soːniŋgin˺ nareːtsubaŋ](子供の時は不良少年だったが、大人になったらば真人間 < 真っ当な人 > になったよ)。

˹ソーヌギ˺ムヌ **[˹soːnugi˺munu]** 【名】性の抜けた者。間抜け。とんま。やることに手抜かりのある物。「性抜け者」の義。若年層は、˹ソーヌガー [˹soːnugaː](間抜け奴) という。˹ウンザー ソーヌギ˺ムヌ ˺ナリティ プ˹スタルガキ シー˺ ナ˹ラ˺ヌ [˹ʔunʤa: soːnugi˺munu ˺nariti pu̥˹sutarugaki ʃiː˺ na˹ra˺nu](あいつは間抜けになってしまって、人間として信頼できない < 頼りにならない。当てにならない >)。

˹ソー˺ ヌ˹ギ˺ルン **[˹soː˺ nu˹gi˺ruŋ]** 【連】驚愕して正気が抜ける。肝をつぶす。ヌ˹ギ˺ルン [nu˹gi˺ruŋ](抜ける) は、「脱げる、下一段」(脱げる) の転訛。ヤ˹ラ˺ベー ˺ドゥク ウ˹バース˺カー ˹ソー˺ ヌ˹ギ˺ルン˹ダー [ja˹ra˺beː ˺duku ʔu˹baːsu˺kaː ˹soː˺ nu˹gi˺run˹daː](子供は、ひどく驚かすと肝を潰して正気が抜けるぞ)。

˹ソー˺ ヌグン **[˹soː˺ nuguŋ]** 【連】驚愕して正気が抜ける。肝を潰す。肝を消す。正常でなくなる。うろたえ (狼狽え) る。˺ヌグン [˺nuguŋ](抜ける) は「ぬける、下一段」の転訛したもの。

˹ソーヌ ナーン˺ ムニ **[˹soːnu naːm˺ muni]** 【連】うわ言。たわごと。高熱にうかされたり、異常事態に気が動転 < 仰天 > して発する言葉。「正気でない言葉 < 物言い >」の義。˹ソーウキムニ [˹soːʔukimuni](うわ言) ともいう。˺ニチン ウ˹カサリティル ソー ナーン˺ ム˹ニ˺バ イ˹ジベー [˺niʧinaː ʔu˹kasaritiru soː naːm˺ mu˹ni˺ba ʔi˹ʤibeː](高熱に浮かされて < ぞ > うわ言を言っている)。マ˹タ ソーヌ ナー˺ン ム˹ニ˺バ ア˹ジ アー˺ク [ma˹ta soːnu naː˺m mu˹ni˺ba ʔa˹ʤiʔaː˺ku](また、たわごとを触れ回って < 言って > いる)。[˹ソーナーン˺ムニ˹˹soːnaːm˺ muni](たわごと。無責任な話) ともいう。

˹ゾー˺ヌヤー **[˹ʤoː˺nujaː]** 【名】屋号。屋敷名。˹ダイ˺ケーヌ ˹インタヌ ヤシ˺ケー ˹ゾー˺ヌヤーティル ア˹ゾーッ˺タ [˹dai˺keːnu ˹ʔintanu jaʃi̥˺keː ˹ʤoː˺nujaːtiru ʔa˹ʤoːt˺ta](大工家の西側の屋敷を˹ゾー˺ヌヤーと言われた)。

˹ゾー˺ノー **[˹ʤoː˺noː]** 【名】租税。税金。「上納」の

義。ムˈカ˞シェー　˞ゾーノーマイ˞ヌ　˞フカナー　˞グイ˞フゾーノー　˞ティン　˞アリ　˞ゾー˞ノー　ウˈサミ˞ルンティ　イッˈケナ　ナン˞ギクロー <ˈナン˞ギアウリ>　˞ソーッ˞タンツォー [muˈka˞ʃe: ˈʤo:no:mai˞nu ˞ɸu̥kana: ˈgui˞ɸuʤo:no:tiŋ ˞ʔari ˈʤo:˞no: ʔuˈsami˞runti ʔikˈkena naŋ˞gikuro: <ˈnaŋ˞giauri> ˈso:t˞tantso:](昔は上納米の他に御用布上納 < 貢納布 > というのがあって、租税を納めるのに大変な難儀苦労をなされたそうだ)。

˞ゾーノー˞マイ **[ˈʤo:no:˞mai]** 【名】租税として納入した米。「上納米」の義。鳩間島の人は西表島北岸一帯に配分されたˈグイ˞フダー [ˈgui˞ɸuda:](貢納田) を耕作するために、˞イダフニ [˞ʔidaɸuni]< 板舟、サバニ > に乗って往き来したのである。古典民謡パˈトゥ˞マナカムリ [pḁˈtu˞manakamuri](鳩間中岡) は、その情景を歌った叙景詩である。ムˈカ˞シプソー　ˈゾーノー˞マイ　ウˈサミ˞ルンティル　ウˈヌ˞スク　ˈアウ˞リナンギ　ˈソーッ˞タツォー [muˈka˞ʃipu̥so: ˈʤo:no:˞mai ʔuˈsami˞runtiru ʔuˈnu˞su̥ku ˈʔau˞rinaŋgi ˈso:t˞tatso:](昔の人は上納米を納めるために < ぞ > あれほど難儀苦労 < 哀れ難儀 > をされたそうだ)。

˞ゾーノー˞ムヌ **[ˈʤo:no:˞munu]** 【名】租税用の物品。パˈトゥ˞マーラヌ　ˈゾーノー˞ムノー　ˈマイトゥ˞　アー　ˈグイ˞フンドーレール　アリˈブレー˞ル [pḁˈtu˞ma:ranu ˈʤo:no:˞muno: ˈmaitu˞ ʔa: ˈgui˞ɸundo:re:ru ʔaribuˈre:˞ru](鳩間島からの上納物 < 租税用の物品 > は米と粟、貢納布があった < 有りおった > だろう)。

˞ゾーパタラ˞キ **[ˈʤo:patara˞ki]** 【名】十分な働き。かなりの評価が得られる労働。「上働き」の義。ウˈビ˞ナー　ˈカイ˞スカー　ˈゾーパタラ˞キル　ヤˈル˞　スˈクリ˞ムヌーン　イッˈケン　ノー˞ルンパジ [ʔuˈbi˞na: ˈkai˞suka: ˈʤo:pataraki˞ru jaˈru˞ suˈkuri˞munu:ŋ ʔikˈken no:˞rum ˞paʤi](これだけ耕したら十分な働きだ。作物もよく実るだろう)。

˞ソーパナシ **[ˈso:panaʃi]** 【名】本当の話。真実の話。ウˈレー　ソーパナシェー˞　アˈラン˞ユンダ　スˈクナ˞ヨー [ʔuˈre: so:panaʃe:˞ ʔaˈraŋ˞junda su̥ˈkuna˞jo:](それは本当の話ではないから聞くなよ)。

˞ソーパナシ **[ˈso:panaʃi]** 【名】事実。真実。うそいつわり (嘘偽り) でない本当の話。実話。ウˈリヌ˞　パˈナ˞シェー　ユˈク˞シェー　アˈラ˞ヌ　ˈソーパナシト ダー [ʔuˈrinu˞ paˈna˞ʃe: juˈku˞ʃe: ʔaˈra˞nu ˈso:panaʃiɨ-da:](彼の話は嘘ではない、真実 < 本当の話 > だよ)。

˞ソーパンタリ **[ˈso:pantari]** 【名】本格的な肥満。ウˈビ˞ナー　ˈパン˞タルカー　ˈソーパンタリト ダー [ʔuˈbi˞na: ˈpan˞taruka: ˈso:pantariɨ-da:](あれだけ太ると本格的な肥満だだよ)。

˞ソーピー **[ˈso:pi:]** 【名】吉日。佳日。よき日。ˈキュー˞ヌ　ユˈカル˞ピー　ˈソーピー˞ナ　˞ドゥーパダニンガイ　ˈシー˞　ッˈサルンティ˞　スˈコーリ　ベー [ˈkju:˞nu juˈkaru˞pi: ˈso:pi:˞na ˞du:padaniŋgai ˈʃi:˞ sˈsarunti˞ su̥ˈko:ri be:](今日の佳き日、吉日に健康祈願を致したい < し・申し上げよう > と準備しています)。

˞ソーフイ **[ˈso:ɸui]** 【名】本降り。雨が本降りになること。ナˈマンダフイ [naˈmandaɸui](「半端な雨降り」の義、しょぼしょぼ降る雨) の対義語。アˈミ˞ヌ　ˈソーフイ　サン˞ケン　ˈヤー˞　パラˈディー [ʔaˈmi˞nu ˈso:ɸui saŋ˞keɲ ˈja:˞ paraˈdi:](雨が本降りにならないうちに家に帰ろうよ)。˞ティダアミカヤーティ　ウˈムータン˞ドゥ　ˈソーフイ˞　ナリ　ˈナー˞ヌ [˞tidaʔamikaja:ti ʔuˈmu:tan˞du ˈso:ɸui˞ nari ˈna:˞nu](通り雨だろうと思ったのに本降りになってしまった)。˞アメー　ナˈマンダフイ˞　カーˈニ　シティ　ソーフイヤー　サンバン [˞ʔame: naˈmandaɸui˞ kaːˈni ʃi̥ti so:ɸuija: sambaŋ](雨は半端な降り方だけして本降りはしないよ)。

˞ゾー˞　フˈカー˞ン **[ˈʤo:˞ ɸu̥ˈka:˞ŋ]** 【連】情が深い。情が厚い。ウˈレー　ゾーヌ˞　フˈカー˞ンダー　ミˈドゥム˞トー　キˈシユーサ˞ヌ [ʔuˈre: ʤo:nu˞ ɸu̥ˈka:˞nda miˈdumu˞to: ki̥ˈʃiju:sa˞nu](彼は情が深いから女性とは関係を切ることができない)。

˞ソー˞フキ **[ˈso:˞ɸu̥ki]** 【名】口笛。古老はˈサウ˞フキ [ˈsau˞ɸu̥ki] ともいう。口笛を吹くと風が吹いてくると信じられている。ˈソー˞フキ　ˈゾー˞ジ [ˈso:˞ɸu̥ki ˈʤo:˞ʤi](口笛が上手)。カˈジヌ˞　トゥˈル˞カー　ˈソー˞フキ　ˈシー˞　カˈジ˞　ヤˈラブタ [kaˈʤinu˞ tuˈru˞ka: ˈso:˞ɸu̥ki ˈʃi:˞ kaˈʤi˞ jaˈrabuta](風が凪ぐと口笛を吹いて風を呼んだ)。稲を脱穀した後や、磨り臼で籾磨りをした後、籾殻を飛ばす際に口笛を吹いて風を呼んだ。無風状態の時にはˈフィーフィーフィー [ˈɸi:ɸi:ɸi::] と口笛を吹き鳴らすと柔らかい風が頬を撫でて流れていった。˞イダフニ [˞ʔidaɸuni](サバニ) で西表島と鳩間島の間を往き来する際も、凪の日は口笛を吹いて風を呼んだ。ただ夜には口笛を吹くことは固く禁じられていた。魔を呼ぶとして忌み嫌われていたからである。ˈユ

ー˥ル　˩ソー˥フキ　˩スー˥カー　ヤ˩ナムヌ˥ヌ　˥クーユンダ　˩ソー˥フキ　˩シェー˥　ナ˩ラントゥダー [˩juː˥ru ˩soː˥ɸu̥ki ˩suː˥kaː jaˬnamunu˥nu ˥kuːjunda ˩soː˥ɸu̥ki ˩ʃeː˥ naˬranˬdaː](夜口笛を吹くと魔を呼ぶ＜魔物が来る＞から口笛を吹いてはならないよ)。

˥ゾーブクル [˥ʤoːbukuru] 【名】封筒。˩状袋」の転訛。若年層は、˥ジョーブクル [˥ʤoːbukuru](封筒)という。ティ˩ガ˥メー　˥ゾーブクルナ　イ˩リティ　キッ˥テー　パ˩リティ˥　ン˩ザ˥シバ [tiˬgaˬmeː ˥ʤoːbukuruna ʔiˬriti kit˥teː paˬriti˥ ʔn˩ʤaˬʃiba](手紙は封筒に入れて、切手を貼って出しなさいよ)。ティ˩ガ˥メー　˥ゾーブクルナー　イ˩リティ˥　ウ˩クリ˥バ˩ヨー [tiˬgaˬmeː ˥ʤoːbukurunaː ʔiˬriti˥ ʔuˬkuri˥ baˬjoː](手紙は封筒に入れて送りなさいね)。

˩ソープス [˩soːpusu] 【名】真人間。まともな人。˩ウンザー　ソープスンコーラ˥シ　パ˩ナ˥シ　˩ベー [˩ʔunʤaː soːpu̥suŋkoːraˬʃi paˬnaˬʃi ˩beː](彼奴はあたかも真人間のふりして＜真人間であるがごとく＞話している)。一人前の人。「正人」の義。ウ˩ビ˥ナーヌ　シ˩グトバ　タンガ˥シ　˩シーシェー˥カー　˥メー　˩ソープス [ʔuˬbiˬnaːnu ʃiˬgutuba taŋgaˬʃi ˩ʃiːʃeː˥kaː ˥meː ˩soːpusu](あれだけの仕事を一人で出来たら＜し得たら＞、もう一人前の人間だ)。

˩ソープスン　コーラ˥シ [˩soːpu̥suŋ koːraˬʃi] 【連】あたかも真っ当な人＜真人間＞のふりして。

˩ソープスンコーラ˥シ [˩soːpusuŋkoːraˬʃi] 【連】真人間のふりして。真人間らしく。まともな人間のように。一人前の人間のふりして。˥アイブ　ク˩トゥ˥バ　シ˩ティ˥　バ˩カ˥ヤン　˩ナー˥ナ　˥ウナンザーン　˩ソープスンコーラ˥シ　プ˩スヌ˥　マイナー　ビ˩リベー [˥ʔaibu ku̥ˬtuˬba ʃi̥ˬti˥ baˬkaˬjan ˩naː˥ na ˥ʔunanʤaːn ˩soːpu̥suŋkoːraˬʃi pu̥ˬsunu˥ mainaː bi ˩ribeː](あんなことをして恥ずかしげもなく、己野郎もあたかも真人間のふりをして＜真人間のつもりで＞人の前に座っているよ)。

˩ソープリムヌ [˩soːpurimunu] 【名】本当の狂人。「正・Foremono. ホレモノ (耄れ者)～分別のなくなった人,」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。普通は、˩マーブリムヌ [˩maːburimunu](真・耄れ者) という。キ˩ムイ˥ツァダラ　ッ˩ふァバ˥　シ˩ナシティ　ソープリムヌ˥　ナリ　˩ベー [kiˬmuiˬtsadara f˩fabaˬ ʃiˬnaʃi̥ti soːpurimunu˥ nari ˩beː](可哀そうに、子供を死なして本当の狂人になっている)。

˩ソーフン˥ト [˩soːɸun˥to] 【名】真実。まことのこと。嘘偽りのない本当のこと。˩ワー　ソーフン˥ト　パ˩ルン [˩waː soːɸun˥to paˬruŋ](君は本当に行くか)。

˩ソーフント˥ー [˩soːɸuntoː] 【名】真実。本当のこと。まことなこと。偽りのないこと。正真正銘のこと。˩ワー　ソーフン˥トー　ウ˩ヤ˥バ　˩タン˥ガ　シ˩マ˥ナ　˥シキティ　ウ˩キ˥ナー　パリ˩シェーン [˩waː soːɸun˥toː ʔuˬjaˬba ˩taŋ˥ga ʃiˬmaˬna ˥ʃi̥kiti ʔuˬkiˬnaː pariˬʃeːŋ](君は本当に親を一人だけ島に置いて、沖縄へ行けるか)。

˩ソーフン˥トー [˩soːɸun˥toː] 【名】本当。真実。「正本当」の義。˩ワー˥　マ˩ナ˥マ　ア˩ズタ˥　クトー　˩ソーフントー˥ヌ　パ˩ナシ [˩waː˥ maˬnaˬma ʔaˬʤuta ˥ku̥toː ˩soːɸuntoː˥nu paˬnaʃi](君が今言ったことは、本当＜真実＞の話か)。

˩ゾー˥ブンニ [˩ʤoː˥bunni] 【副】上手に。十分巧に。手際よく。立派に。「上分に」の転訛したものか。ヤ˩ラ˥ビ　ヤ˩ルンドゥ　ワー　ゾー˥ブンニ　˥イダフニ　˥ムティ　パ˩ラシ˥スバン [jaˬraˬbi jaˬrandu waː ʤoː˥bunni ˥ʔidaɸuni ˥muti paˬraʃi˥subaŋ](子供＜童＞であるけれどねえ、君、十分巧に＜上分に＞サバニを操船して行くわい)。

˩ソー˥ベー [˩soː˥beː] 【名】安物。安くて壊れやすいもの。「商売」の義。昔の製品＜商品＞は模造品が多く、安くて壊れやすいものが多かったことからの命名。ウ˩レー　ソーベー˥ムヌ　ヤ˩ルンダ　カーンモー˥　マ˩シ [ʔuˬreː soːbeː˥munu jaˬrunda kaːmmoː˥ maˬʃi](それは安物で壊れやすいから、買わないほうがよい)。

˩ソー˥マー [˩soː˥maː] 【名】やぶにらみ。斜視。すがめ(眇)。ッ˩ソー˥ミー [sˬsoː˥miː](白目) の転訛したもの。一方、「眇、須加女 (すがめ)」『和名抄』が、[sugame] → [suame] → [soːmi]+[ja→soːmaː] のように転訛したものとも考えられる。マ˩ナ˥マー　˩ソー˥マーン　シュ˩ズ˥ツ　˩スー˥カー　˩ノーサ˥リンティバ　˩パー˥ク　˩ノー˥シ [maˬnaˬmaː ˩soː˥maːŋ ʃuˬʤu˥tsu ˩suː˥kaː ˩noːsaˬrintiba ˩paː˥ku ˩noː˥ʃi](今は斜視も手術を行えば治せるというから、早く治せ)。

˩ソー˥ミ [˩soː˥mi] 【名】正味。実質。外皮や付属部分を除去した中身。ウ˩レー˥ラ　˩フータイ˥　ピ˩ク˥カー　˩ソー˥ミ　˩ギュー˥サ　ナ˩ル˥ワ [ʔuˬreː˥ra ˩ɸuːtai˥ pi̥ˬku˥kaː ˩soː˥mi ˩gjuː˥sa naˬru˥wa](それから風袋＜包装分＞を差し引くと正味はいくらになるか)。プ˩ニ˥トゥ　˩カー˥ヤ　˥トゥリ　シ˩ティティ　ソー˥ミ　カー˩ニ　カイ˥　クーバ [puˬni˥tu ˩kaː˥ja ˥turi ʃi̥ˬtiti soː˥mi kaːˬni kai˥ kuːba](骨と皮は取っ

て棄てて、中身だけ買って来いよ)。

「ソーミチ [「soːmitʃi]【名】1正道。人の踏み行うべき正しい道、生き方。ウ「ヤ˥バ　シ「ティ˥ガラ　「スー˥クトー　「ニンギン˥ヌ　「ソーミチェー˥　ア「ラ˥ヌ [ʔu「ja˥ba ʃi̥「ti˥gara「suː˥ kṵto: 「niŋgin˥nu「soːmitʃeː˥ ʔa「ra˥nu](親を粗略＜粗相＞に扱うことは人間の踏み行うべき正道ではない)。「ソーミチ˥　フ「マシ [「soːmitʃi˥ ɸu「maʃi](正道を歩ませなさい)。2本道。脇道や近道に対していう。˥クマー　シ「カミチ˥ル　ヤ「ル　ソーミチェー˥　ア「ラ˥ヌ [˥kuma: ʃi̥「kamitʃi˥ ru ja「ru soːmitʃeː˥ ʔa「ra˥nu](ここは近道である。本道ではない)。

「ソー˥ミン [「soː˥miŋ]【名】そうめん (素麺)。シ「ラ˥ガーソーミン [ʃi「ra˥gaːsoːmiŋ](白髪素麺) ともいう。「ソーミン˥ヌ　˥シル [「soːmin˥nu ˥ʃiru](素麺のお汁)。ム「カ˥シェー　「ソー˥ミンティ　「スー˥カー　「コッ˥チー　「ヤッタル [mu「ka˥ʃeː 「soː˥minti「suː˥kaː 「kot˥tʃiː 「jattaruː](昔は素麺といえば、ご馳走であったよ)。

「ソー˥ミンチャンプルー [「soː˥mintʃampuruː]【名】茹でた素麺に魚肉やカマボコ、シ「ビラ [ʃi「bira](ネギ＜葱＞) あるいは、˥ビラ [˥bira](ニラ＜韮＞) などを刻み、混ぜ絡めて軽く油炒めにしたもの。栄養価の高い、美味な食品であった。鳩間島では、˥バコー [˥bakoː](共同作業) の際に、3 時の「サー˥フキ [「saː˥ɸṵki](茶請け) として簡単に大量炊飯が出来るので重宝された。「ソー˥ミンチャン˥プロー　ム「カ˥シェー　バ「コーシンカン˥ケーンヌ　「サー˥フキティ　ン「ザ˥ソーッタ [「soːmintʃam˥puroː muˡka˥ʃeː baˡkoːʃiŋkaŋ˥keːnnu「saː˥ɸṵkiti ʔn「ʤa˥soːtta](ソーメンチャンプルーは、昔は共同作業員の御茶請けとして出された)。

「ソーミン˥ヌ　「シームヌ [「soːmin˥nu「ʃiːmunu]【連】素麺の吸い物。祝儀、不祝儀 (ウ「ブソッ˥コー [ʔu「busok˥koː]＜二十五年忌、三十三年忌の焼香＞) の座で二番目に供された吸い物。「ヨイ˥ヌ　「ニーバン　シー˥ムヌン　ウ「ブソッコー˥ヌ　「ニーバンシー˥ムヌン　「ソーミン˥ヌ　「シームヌル˥　ン「ザ˥ソーッタツォー [「joi˥nu「niːbaŋʃiː˥munuŋ ʔu「busokkoː˥nu「niːbaŋʃiː˥munun「soːmin˥nu「ʃiːmunuru˥ ʔn「ʤa˥soːttatsoː](お祝いの二番吸い物も、大法事の二番吸い物もソーメンの吸い物を出されたそうだ)。

「ソー˥ミンブットゥルー [「soː˥mimbutturuː]【名】素麺を茹でて、それだけを軽く油で炒めたもの。主婦たちの夜なべ仕事のヌカーシ夜食や子供たちのお八つなどに好まれた。「ソー˥ミンブットゥルーナー　ノー「ン˥　イ「リランシェン [「soː˥mimbutturuːnaː noː「ŋ˥ ʔi「riraŋʃeŋ](ソーメンの油いためには何も入れなかった)。

「ゾームチ [「ʤoːmutʃi]【名】人情の厚い人。「情持ち」の義。ウ「レー˥　ドゥ「ク˥ヌ　「ゾームチ˥　ヤ「レー˥ティル　ア「キナイ˥ヤー　「シーユーサン˥　ブ「レー˥ル [ʔu「reː˥ du「ku˥nu「ʤoːmutʃi˥ ja「reː˥tiru ʔa「kinai˥ jaː「ʃiːjuːsam˥ bu「reː˥ru](彼はあまりにも人情の厚い人だったので、商売は出来なかった＜出来ずにいた＞のであろうよ)。

「ソームニ [「soːmuni]【名】本当の言葉 (話)。真実の言葉 (話)。うそいつわり (嘘偽り) のない言葉 (話)。ウ「リヌ˥　ア「ズ˥　ムネー　「ソームニテー˥　ウ「モーラ˥ヌ [ʔu「rinu˥ ʔa「ʤu˥ muneː「soːmuniteː˥ ʔu「moːra˥nu](彼のいう言葉＜話＞は本当の言葉＜話＞とは思われない)。ユ「クシ˥ムネー　ア「ザンドー˥シ　「ソームニバ˥　マッ「トーバ˥　ア「ジ˥　ッ「サリリ [ju「kuʃi˥mune: ʔa「ʤando:˥ʃi「soːmuniba˥ mat「toːba˥ ʔa「ʤi˥ s「sariri](嘘＜虚言＞はいわないで、本当の話を正直＜真直ぐ＞に申し上げろ)。

「ソームヌ [「soːmunu]【名】本物。立派な物。本当の物。上質の物。高級品。「ソームノー　ミッ˥タニ　「カーラヌ [「soːmunoː mit˥tani「kaːranu](本物は滅多に買えない)。対義語は、ヤ「ナムヌ [ja「namunu](悪い物。悪質な物。粗悪品)、「ソーベー˥ムヌ [「soːbeː˥munu](商売物。粗悪品。安物)。「カウ˥カー　「ソームヌル　カウ　ソーベー˥ムノー　「カウナ [˥kau˥kaː「soːmunuru kau soːbeː˥munoː「kauna](買うなら上質の本物を買うのであって、粗悪な商売用品は買うな)。˥ミルカー　「ソームヌトゥ˥　ヤ「ナムノー˥　シ「グ˥　ワ「カ˥ルン [˥miruka:「soːmunutu˥ ja「namunoː˥ ʃi「gu˥ wa「ka˥ruŋ](見れば本物と偽物はすぐわかる)。

「ゾー˥ムヌ [「ʤoː˥munu]【名】上質のもの。上等のもの。上物。カ「ツブシェー　ゾー˥ムノー　「ダイヤー˥　ムトゥン [kạ「tsubuʃeː ʤoː˥muno:「daijaː˥ mutuŋ](鰹節は上質のものは値段が高く売れる＜値段は持つ＞)。

「ソーヤンマイ [「soːjammai]【名】仮病でない本当の病気。重篤な病気。ウ「リヌ　ヤンマイ˥ヤー　「ソーヤンマイ˥　ヤ「リン˥ギササー [ʔu「rinu jammai˥ja:「soːjammai˥ ja「riŋ˥gisasaː](彼の病気は重篤な病気であるらしいよ)。

「ソー˥ユ [ー「soː˥juː]【名】醤油。標準語の「醤油」か

ら転訛したもの。老年層は、シ˞タ˜ディ [ʃi̥˞ta˜di](下地 < 醤油 >) という。ム˞カ˜シェー　˞ソー˜ユーン　˜ドゥーシ　˞コージ˜　タティティ　マ˞ラソーッ˜タ [mu˞ka˜ʃe: ˞so:˜ju:n ˜du:ʃi ˞ko:ʤi˜ tạtiti ma˞raso:t˜ta](昔は醤油も自分で麹を立てて醸造され < 生まらされ > た)。

˞ゾーラキ [˞ʤo:raki] 【名】青年団が東村、西村に分かれて豊年祭当日に入子型の棒踊りや舞踊を競って奉納する舞踊団の行列。「常楽会」と関係があるか。奉納芸は西村の弥勒踊りから最初に上演される。福福とした弥勒菩薩の面を被った演者 (大城家出身者) が軍配団扇を右に左に掬い上げるように打ち振りながら 13 人の従者 (乙女) を引き連れて、三味線、笛、太鼓、銅鑼の音楽に合わせながら登場する。地謡達は旗頭の前や横に立って演奏する。従者の内、最前列の 2 名は神酒の入った˞カン˜ビン [˞kam˜biŋ](燗瓶) を一本ずつ持ち、続く 2 名は稲、粟の入った籠を持ち、弥勒の団扇に合わせて右上へ、左上へと額の高さに差し上げて拝みつつ進む。残りの 9 名はパ˞タ [pạ˞ta](黄色い三角旗) を右手にもって右足を半歩出し、旗竿に脚を揃えて膝を折り、次に左脚を半歩出して旗竿に揃え、膝を折って進む。これを繰り返しつつ桟敷の中央で一回りして退出する。奉納芸能の二番目の演目は東村のカ˞ムラー˜マ [ka˞mura:˜ma](かむろ < 禿。幼童の髪を切り揃えたもの。˞神漏美」の転訛か >。子孫繁昌の神の舞い) である。シュロの葉柄の根元に生える茶褐色の網状の繊維を頭に被り、黄色い衣装を纏った翁が右手にクバ (蒲葵) の葉扇を持ち、左手に杖を持って、10 人余の黄色い衣装を着た子供を従えて登場する。翁が先頭になり、カムラーマの歌に合わせて片足を交互に挙げながら扇を打ち振り桟敷の中央まで進む。子供達も歌に合わせて、両手を肩の上から両側へ払い挙げる動作を繰り返しつつ進み、左回りに円陣を作って翁を取り巻く。途中、歌の一節が終わる度に翁が˞ヘイ」と声をかけると、子供達は一目散に翁の足元に駆け寄ってしゃがみ、うずくまる。翁は「ホーイホーイ」と声を掛けながらクバ扇で子供達を撫でる。四連の歌詞が終わるまで四回同じ所作を繰り返して終わる。三番目の演目は西村のタイ˞コー˜マ [tai˞ko:˜ma](小太鼓演舞隊) である。小太鼓を持った五人ずつの二列縦隊と隊列の中間に長刀を持った武者姿の演者が入って一団が構成される。長刀演者は太鼓や銅鑼に合わせて長刀の型を演舞する。小太鼓隊は長刀演者の両側で小太鼓を打ちながら前進したり後退したり、脚を大きく上げ、飛び跳ねて回転したりして勇壮な演舞をする。四番目の演目は西村の棒術である。サク棒、六尺棒、長刀など二人一組で演じる五組ほどの演舞がある。五番目の演目も西村のマ˞ミドー˜マ [ma˞mido:˜ma] が演じられる。六番目の演目は東村のタイコーマ (小太鼓隊)、七番目の演目も東村の棒術が演じられるが、東村の演舞は西村のそれにくらべて勇壮で激しいのが特徴である。八番目の演目は東村の舞踊イニシリ節 (稲の収穫舞踊) である。これらが定番の演目で、西村、東村に分かれ、セットになって入子型様式で納められている。これらを一つ一つ取り出して競演奉納し、豊穣を祈願するのがゾーラキである。

˞ゾーラスン [˞ʤo:rasuŋ] 【他動】濡らす。水で濡れるようにする。潤す。˞ゾーラサヌ [˞ʤo:rasanu](濡らさない)。˞ゾーラシ˜　ミサン [˞ʤo:raʃi˜ misaŋ](濡らしてよい)。˜ウナー　シ˞キ˜ルカー　˞ゾーラスントダー [˜?una: ʃi̥˞ki˜ruka: ˞ʤo:rasunトda](ここに置くと濡らすよ)。˞ゾーラス˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [˞ʤo:rasu˜ku̥to: na˞ra˜nu](濡らすことは罷りならぬ)。ン˞ベーマー　ゾーラシェー˜　ミサムヌ [?m˞be:ma: ʤo:raʃe:˜ misamunu](少しは濡らせばよいのに)。˞ゾーラシ [˞ʤo:raʃi](濡らせ)。

˞ソー˜ラン [˞so:˜raŋ] 【名】盆祭り。「精霊会」の義。旧暦 7 月 13 日は、ン˞カイビー [?ŋ˞kaibi:](迎え日。精霊迎え)、同 14 日は、ナ˞カヌ˜ピー [na˞kanu˜ pi:](中日)、同 15 日は、ウ˞クリヌ　ピン [?u˞kurinu piŋ](送りの日。精霊送り) として先祖の霊を供養する祭祀行事。鳩間島では、旧暦 7 月を˞ソー˜ランシキ [˞so:˜raŋʃi̥ki](精霊月) といって、その月には神事に関する諸々の行事はタブーとされている。旧暦 7 月 7 日を、タ˞ナバタ [ta˞nabata](七夕) と称し、その日には墓地を清掃したり、日頃から延び延びにしていた法事等を、˞ピュール [˞pju:ru](ひより。吉日。「日選り」の義か) に関係なく執り行うことが出来ることになっている。毎年回ってくるソーランには、人々は「あの世」から先祖や死者の霊を各家に迎えて、孝養の限りを尽くすために供物を供え、獅子舞、アンガマ踊りを奉納して˞ニンブ˜ツァー [˞nimbu˜tsa:](念仏歌) をうたうのである。祖霊は、目には定かに見え給わぬが、あたかも眼前に祖霊がましますが如くに語りかけたりして、心をこめて念仏歌を歌い上げるのである。旧暦 7 月 13 日のン˞カイビー [?ŋ˞kaibi:](精霊迎え) には、朝から仏壇を清掃した

り、供え物を飾りつけたりする準備をする。˞イーパイ [˞ʔiːpai](位牌) を洗って拭いたり、˞コー˞ロー [˞koː˞roː](香炉) の灰を取り替えたりする。供え物は普通、˞ソッコー˞ムヌ [˞sokkoː˞munu](「焼香物」の義か。イ˞ツァ˞カウ [ʔi˞tsa˞kau]< 板線香 >3 枚と、ウ˞ティン˞ガビ [ʔu˞tiŋ˞gabi]< 打ち紙。紙銭 >3 枚、イ˞チンゴー˞パナ [ʔ˞itʃiŋgoː˞pana]< 花米一合を重箱にいれたもの >)、ム˞ルムル [mu˞rumuru](「盛る物」の義か。甘蔗 < 砂糖黍 > を 7 寸ほどの長さに切ったものを 10 本ほど束ね、˞サンボー [˞samboː]< 三方 > の台に載せ、果物やキ˞ダ [ki˞da](黒檀。黒木) の実やフ˞ナ˞ブ [ɸu˞na˞bu]< 九年母、ヒラミレモン >、˞バン˞スル [˞ban˞suru]< ばんじろう。蕃石榴 >、˞カニン [˞kaniŋ](野葡萄の実) を挿して飾った供物の一対) などである。それに˞グシ [˞guʃi](御酒) を˞カン˞ビン [˞kam˞biŋ](燗壜) に入れたもの一対を仏壇に供え、ン˞カイズーシ [ʔŋ˞kaidʑuːʃi](精霊迎えの雑炊。五目飯) を供えると祖霊を迎える準備は完了する。毎食を供える際に、ミ˞ジヌ˞クー [mi˞dʑinu˞kuː](「水の子」の義か。砂糖きびの茎、茄子を細かく刻んだ物に米、小豆を加えたもの) を、˞マヤーブー [˞majaːbuː]< メドハギ。精霊箸。˞猫の尾」の義 > で戸外へ三度撥ね飛ばして施餓鬼する。ミジヌクーも仏壇に供える。祖霊を迎えるには、バ˞ラフ˞タ [ba˞raɸu̥˞ta](稲藁) の穂の部分を丸めて縛り、その中にウ˞キル [ʔu˞kiru](熾火(オキビ)) を入れてフ˞チマラ˞シ [ɸu̥˞tʃimara˞ʃi](燻(クスベ)らせ) て、˞ペーラ˞フチ [˞peːra˞ɸu̥tʃi](門。入り口) の右脇に添えて置く。これは、人がその火を跨ぐことがないようにとの意味があるという。祖霊達は藁の煙をたどって家々に降りてくるといわれている。それで藁の煙がたくさん出るように心を配ったものである。祖霊を迎え入れると、戸主を中心に家族一同が仏壇の前に座り、跪いて合掌し、三日間孝養を尽くさせてくださいと祈ってから会食した。その日の夕食は出来るだけ早めにとった。お盆の日、特に初日の精霊迎えの日は、空腹を感じると、その人の魂が肉体から抜けやすいと信じられているからである。夕食が済むと男たちは、˞ニンブ˞ツァー [˞nimbu˞tsaː](念仏歌) を歌ったり、先祖の話をしたり、親戚を回って焼香したりして祖霊を慰めた。夜の 11 時頃になると、ユ˞ナカシー˞ムヌ [ju˞nakaʃiː˞munu](夜中の吸い物) を供えた。食事を供える際は、必ず˞ブー˞ソー [˞buː˞soː](小皿に盛ったご飯。ぶっしょう「仏食向」の義か) を膳の外においた。˞ブー˞ソーは女性しか食べることは出来ないといわれている。お盆の三日間は、仏壇の線香が消えると、˞ピーリボール [˞piːribo:ru](冷え冷え) としているといって、それを嫌った。線香の火を絶やさないために、˞ピーマチカウ [˞piːmatʃikau](「火持ち線香」の義か。直径約 5 ミリ、長さ約 25 センチの大きな線香) を焚いて一日中仏壇から線香の煙を絶やさなかった。ナ˞カヌ˞ピン [na˞kanu˞piŋ](中日) は、朝食にア˞サカイ [ʔa˞sakai](朝粥) を供える。午前 10 時頃、˞サーサー˞フキ [˞saːsaː˞ɸu̥ki](茶請け) を供え、正午には˞アシ [˞ʔaʃi](「朝飯」の義か)、午後 3 時頃に˞サーサー˞フキ [˞saːsaː˞ɸu̥ki]、午後 6 時頃に˞ユー˞ボン [˞juː˞boŋ](夕飯)、午後 11 時頃にユ˞ナカシー˞ムヌを供えた。こうして祖先供養をすることを、˞ソー˞ランマカナイ [˞soː˞rammakanai](精霊賄) と称している。ウ˞ヤ˞プスシゥカナイ [ʔu˞ja˞pu̥susi̥kanai](先祖養い) ともいう。中日の晩には、翌日のウ˞クリ [ʔu˞kuri](精霊送り) の法事に必要な供物の餅やア˞ラシコーシ [ʔa˞raʃikoːʃi](「蒸し菓子」の義) を作るために、女性たちは˞クー˞ピキ [˞kuː˞pi̥ki](「粉挽き」の義。約半日水に浸けた糯米を石臼で挽くこと) をして準備した。男たちは夕方になると˞シー˞シマーシ [˞ʃiː˞ʃimaːʃi](獅子舞) の準備をした。西村の獅子は˞雌獅子」で˞ダイ˞ケー [˞dai˞keː](大工家) が獅子元、東村はク˞メー [ku˞meː](小浜家) が獅子元である。˞シーシ˞ヌ　˞キン [˞ʃiːʃi˞nu ˞kiŋ](獅子の着物。フ˞ク˞ダー [ɸu̥˞ku˞daː]< 襤褸 >) は、西村と東村の子供たちが、お盆の月に入ると同時にバ˞サ˞ヌカー [ba˞sa˞nukaː](芭蕉の皮) を剥いで槌で打ち、乾燥させておいた繊維を使って編み上げた。お盆の中日には、獅子元の人や村のヤ˞ク˞サ [ja˞ku˞sa](村役人) たちが獅子頭の化粧直しをして獅子元の一番座の東の縁側に飾っておく。午後 8 時ごろ村人が獅子元に集まってきて˞シーシマツ˞リ [˞ʃiːʃimatsu˞ri](獅子祭り) をした後、獅子舞に移る。˞ニンブ˞ツァー (念仏歌) のシ˞ザ˞ヌクイ [ʃidʑa˞nukui](兄の声 < 歌 >) と˞ウシトゥ˞ヌクイ [˞ʔuʃi̥tu˞nukui](弟の声 < 歌 >)、ン˞ゾーニンブツァー [ʔn˞dʑoːnimbutsaː](無蔵念仏歌) が歌い終わる頃、どこからともなく˞アン˞ガマ [˞ʔaŋ˞gama](アンガマ踊りの仮装した一団) たちが、˞シー˞シ　˞パー˞ソーリ [˞ʃiː˞ʃi ˞paː˞soːri](獅子を囃したててください) と裏声をつかって催促する。すると、˞ジーシンカ [˞ʤiːʃiŋka](地謡衆) が中庭に敷いた筵に座って、ム˞ヌン˞グイウタ [mu˞nuŋ˞guiʔuta](物乞い歌) をうたう。歌の文句 (歌詞) に

合わせて家の中から、ム˞ソー˞マ [muˠsoː˞ma](小筵) を出し、ウ˞マ˞ツ [ʔuˠma˞tsu](火。煙草盆) を出し、キ˞シ˞ル [kiˠʃi˞ru](煙管)、タ˞バ˞ク [taˠba˞ku](煙草)、ウ˞ミ˞キ [ʔuˠmi˞ki](神酒)、˞ウサイ [˞ʔusai](酒の肴)、˞スナイ [˞sunai](酢の物、和え物) を出して最後にブ˞ドル [buˠduru](踊り) の出番となる。アンガマ踊りはこうして始まるのである。アンガマ達は男装、女装で変装し、手拭で顔を隠し、クバ笠を深く被って翁とおうな (媼) に続いて現れ、仏壇正面の中庭からナ˞カグス˞ク [naˠkagusu˞ku](ヒンプン) の側まで片膝を立てて腰を下ろし、片手に木の枝やクバ扇を持って両手を体の右側に流して待機している。地謡がニンブツァーを歌いだすと立ち上がり、それに合わせて片足を交互に上げ、両手を上げた足の反対側へ振り下ろす動作を繰り返しつつ、ヒヤリクヨイサー　サー　サーと囃し立ててながら左回りに踊る。これが済むと獅子舞いに移り、モーヤーを踊って次の家へと移動する。移動する際は一段と高く、イ˞リクヌ˞ティー [ʔiˠrikunu˞tiː](「入れ子の笛」) の笛の音曲を吹き鳴らしてミ˞チウタ [miˠʧiʔuta](道歌) をうたう。イ˞リクヌティーが次の家に移る合図の笛の音である。こうして夜更けまで各家を回り、祖霊を慰めたものである。7 月 15 日は、ウ˞クリヌピン [ʔuˠkurinupiŋ](祖霊送りの日) である。供え物は、中日のそれとほぼ同じであるが、正午の˞アシ [˞ʔaʃi](昼食) は、ピ˞サシズー˞シ [piˠsaʃiʤuː˞ʃi](五目飯。豚肉、魚肉、カマボコ、人参、昆布などを賽の目に切り醤油で味付けして炊いた強飯。˞コーズー˞シ [˞koːʤuː˞ʃi]< 強雑炊 > ともいう) を供え夕食には、˞カシ˞キ [˞kaʃi̥˞ki](糯米のご飯に小豆を混ぜ、蒸して炊いた強飯) を供える。夜の 11 時頃には、ユ˞ナカソッ˞コー [juˠnakasok˞koː](夜中焼香) をし、カ˞ビヤキ [kaˠbijaki](紙銭を焼くこと) もして祖霊送りをするのである。ユ˞ナカソッ˞コーには分家すじからの˞ソッコー˞ムヌ (焼香の供物) も供える。家族全員が正座し、戸主は正装して焼香するが、その際、コーロ (香炉) も定位置より下ろし、˞サー˞ドーサバン [˞saː˞doːsabaŋ](茶湯茶碗) も下ろして紙銭を焼く。焼き終えたら、グシ (御酒) と茶湯を掛けて火を消し、米を三つかみ入れて˞パイ [˞pai](拝。三拝) をする。そして供えた供物を箸で起こし < パ˞チウク˞シ [paˠʧiʔuku˞ʃi](初起こし)> をし、拝礼をして終える。これが終わると仏壇のムルムルから供物の総てを下げ降ろし、ムルムルの一部を籠に入れ、菓子や餅の一部も千切って入れ、線香を三本抜き取って戸外に出、西の道路の側に˞グソー [˞gusoː](後生) への˞シトゥ [˞ʃi̥tu](お土産。つと) を置いて、無事にあの世へ帰られるよう祈願して祖霊たちを送るのである。こうしてお盆祭りの全過程は終了するが、子供達は籠を持って家々を回り、˞シン˞ザ　˞コー˞ソーリ [˞ʃin˞ʤa ˞koː˞soːri](砂糖黍を恵んでください) と裏声を使って砂糖黍を集めた。˞シン˞ザ　˞クイ˞プス [˞ʃin˞ʤa ˞kui˞pu̥su](砂糖黍を乞う人) が来ると、家の中から砂糖黍を投げて与えた。これは餓鬼に対する施しであるといわれていた。

˞ソー˞ランウヤプス [˞soː˞raŋʔujapu̥su] 【名】お盆に迎える祖霊。「精霊親人」の義か。˞ソー˞ランウヤプス　ン˞カイティ　ソー˞ランマカナイ　˞シー　オースン [˞soː˞raŋʔujapu̥su ʔŋˠkaiti soː˞rammakanai ˞ʃiː ʔoːsuŋ](お盆の祖霊を迎えて祖霊持て成し < 精霊賄い > をして差し上げる)。˞ソー˞ランウヤプス　ウ˞クリ　オーラシ˞タ [˞soː˞raŋ ˞ʔujapu̥su ʔuˠkuri ʔoːraʃi̥˞ta](お盆の祖霊達をお送りして差し上げた)。

˞ソー˞ランシキ [˞soː˞raŋʃi̥ki] 【名】お盆の月。「精霊月」の義。お盆の行われる月間の意で、旧暦 7 月のこと。神事に関する行事はタブーとされている。神事に関する話題をとりあげることすら忌み嫌われたものである。˞ソー˞ランシキ [˞soː˞raŋʃi̥ki] に入ると、˞ニンブ˞ツァー [˞nimbu˞tsaː](念仏歌) を歌うことが許された。˞ソー˞ランシキ　˞ペー˞ルカー　˞ニンブ˞ツァー　イ˞ゾーラリ˞タンツォー [˞soː˞raŋʃi̥ki ˞peː˞rukaː ˞nimbu˞tsaː ʔiˠʤoːrari˞tantsoː](お盆の月に入ると念仏歌を歌われることが出来たそうです)。

˞ソー˞ランパシ [˞soː˞rampḁʃi] 【名】精霊箸。ミ˞ジヌ˞クー [miˠʤinu˞kuː](無縁仏へのお布施の食い物。「水の子」の義) に添える箸。˞マヤーブー [˞majaːbuː](メドハギ) の茎で作る決まりがある。˞ソー˞ランパシェー　˞マヤーブーシル　ス˞ク˞ローッタ [˞soː˞rampaʃeː ˞majaːbuːʃiru su̥˞ku˞roːtta](精霊箸はメドハギで作られた)。

˞ソー˞ランマカナイ [˞soː˞rammakanai] 【名】お盆賄い。祖霊供養。「精霊賄い」の義。お盆祭りに祖霊を迎えて供養をすること。˞ソー˞ランマカナイ　˞スー˞　ス˞コール　スンティ　シッ˞パイ　˞シー　ベー [˞soː˞rammakanai ˞suː˞ su̥˞koːru sunti ʃip˞pai ˞ʃiːbeː](お盆の祖霊供養 < 精霊賄い > の準備をしようとして一所懸命に頑張って < して > いる)。

˞ソー˞ランヤーヌ　˞アッパター [˞soː˞raŋjaːnu ˞ʔap-

pata:]【連】精霊会の家のお祖母さんたち (お盆を迎えた家の祖霊のお祖母さんたち)。/～ソーランヤーヌ　アッパター　ミーザン　マーサン　オーショーリ/(精霊会の家の祖母たちよ、不味くても美味しくてもお召し上がれ)「ミチウタ (道歌)」。

˹ゾーリシタフ **[˹ʤo:riʃi̥taɸu]**【名】あまじたく (雨支度)。外出時に雨に濡れない準備をすること。˹ゾッふィシタフ [˹ʤoffiʃi̥taɸu](濡れ支度) ともいう。ア˹ミ˺ヌ　˹フイン˺ギサバ　ヤー˹ディン　ゾーリシタフ　シー˺　パリ˹ヨー [ʔa˹mi˺nu ˹ɸuiŋ˺gisaba ja:˹din ʤo:riʃi̥taɸu ʃi:˺ pari˹jo:](雨が降りそうだから必ず雨支度をして行きなさいよ)。

˹ゾーリルン **[˹ʤo:riruŋ]**【自動】濡れる。水などがかかってしみこむ。ア˹ミ˺ヌ　˺フーカー　˹ゾーリルンダー　ゾーリラン˺ヨーニ　˺サナ　˺ムティ　˺パリ [ʔa˹mi˺nu ˺ɸu:ka: ˹ʤo:rirunda ʤo:riraŋ˺jo:ni ˺sana ˺muti ˺pari](雨が降ると濡れるから濡れないように傘を持っていけ)。˹ゾーリル˺　クトー　˹ナー˺ヌ [˹ʤo:ri˺ru ˺ku̥to: ˹na:˺nu](濡れることはない)。˹ゾーリレー˺　ミサムヌ [˹ʤo:rire:˺ misamunu](濡れれば良いのに)。˹ゾーリリ [˹ʤo:riri](濡れろ)。

˺ゾールゾール **[˹ʤo:ruʤo:ru]**【副】1ぞろぞろ。人や動物、物などが連なって現れるさま。˺ゾールゾール˺シ　ブ˹ドゥルシンカヌ˺　サンシケー　ア˹ラ˺キ　˹パッ˺タヤー [˺ʤo:ruʤo:ru˺ʃi bu˹duruʃiŋkanu˺ saŋʃi̥ke: ʔa˹ra˺ki ˹pat˺taja:](ぞろぞろと踊り仲間 < 臣下、人衆 > が桟敷の方へ歩いて行ったよ)。˺ゾールゾール˺シ　ム˹シヌ˺　パイ　˺ンジクン [˺ʤo:ruʤo:ru˺ʃi mu˹ʃinu˺ pai ˺ʔnʤikuŋ](ぞろぞろと虫が這い出てくる)2雨にしとど濡れるさま。水が流れるさま。˺ゾールゾール˺シ　˹ゾーレー˺ティ　˹パッ˺タ [˺ʤo:ruʤo:ru˺ʃi ˹ʤo:˺re:ti ˹pat˺ta](雨にしとど濡れながら行った)。3擬音語。ざあざあ。雨が土砂降りになるさま。˺ゾールゾール˺シ　ア˹ミ˺ヌ　˺フーン [˺ʤo:ruʤo:ru˺ʃi ʔa˹mi˺nu ˺ɸu:ŋ](ざあざあと雨が降る)。

˺ゾールゾールズーシ **[˺ʤo:ruʤo:ruʤu:ʃi]**【名】雑炊の一種。野菜と水分が主で、米の少ない雑炊。ゾロゾロ雑炊。終戦後の食糧難の時代によく食した。ゾロゾロと掻き込まれることから命名されたものであろう。下痢をした時にも炊いて食べさせられた。˹キュー˺ユン <˺キューン >　˺ゾールゾールズーシ　バ˹カソー˺ルツォー [˹kju:˺jun <˺kju:n> ˺ʤo:ruʤo:ruʤu:ʃi ba˹kao:˺rutso:](今日も汁の多い雑炊を炊かれるそうだ)。

˹ソールン **[˹so:ruŋ]**【他動】1除草する。根こそぎに取る。へら (箆) で雑草を掘り起こして除草する。削り取る。「さくり < 漱(サクリ) >」『岩波古語辞典』の転訛したもの。˺ッサ　˹ソールンティ　ベー˺ンドゥク˹シヌ˺　ヤミ　˹ソーララヌ [˺ssa ˹so:runti be:˺ndu ku̥˹ʃinu˺ jami ˹so:raranu](草を漱り除草しようとしているが、腰が痛くて除草できない)。˹ソーリ˺　ミサカー　˺ドゥーシ　˹ソーリ˺バ [˹so:ri˺ misaka: ˺du:ʃi ˹so:ri˺ba](浚(サク)って除草してよければ自分で除草しなさいよ)。˺ッサ　˹ソール˺　プソー　˺ピラシ　˹ソーレー˺　ミサムヌ [˺ssa ˹so:ru˺ pu̥so: ˺piraʃi ˹so:re:˺ misamunu](浚って除草するときは、へら < 箆 > で除草すればよいのに)。2肉を削ぎ落とす。さくり落とす。削(ソ)がれる。˺シラー　˹ソーリティ　ヨーガリベー [˺ʃira: ˹so:riti jo:gari be:](頬肉は削ぎ落とされて痩せている)。

˹ソー˺ルン **[˹so:˺ruŋ]**【他動】される。為(ナ)さる。「する」「なす」の尊敬語。「し < 為 >・おわす < 御座す。在す >」の融合変化した形。˺アッパー　シ˹グトゥ　ソー˺ルンティ　ア˹ゾールン˺ドゥ　˹キュー˺ヤ　˹ソーラン˺　パジ [˺ʔappa: ʃi˹gutu so:˺runti ʔa˹ʤo:run˺du ˹kju:˺ja ˹so:ram˺ paʤi](お祖母さんは、仕事をされるとおっしゃるが、今日はなさらないはずだ)。˹キュー˺ヤ　シ˹グトゥ　ソー˺リ　˺ミサン [˹kju:˺ja ʃi˹gutu so:˺ri ˺misaŋ](今日は仕事をなさってよい)。シ˹グトゥ　ソー˺ル　˺プソー　˹アイ˺ジ　˹ソー˺リ [ʃi˹gutu so:˺ru ˺pu̥so: ˹ʔai˺ʤi ˹so:˺ri](仕事をなさるときは合図なさってください < 合図なされ >)。˹パー˺ク　˹ソー˺レー　˺ミサムヌ [˹pa:˺ku ˹so:˺re: ˺misamunu](早くなさればよいのに)。ヤー˹ディン　ワー˺　ドゥーシ　˹ソー˺リ [ja:˹diŋ wa:˺ du:ʃi ˹so:˺ri](必ず貴方自身でなさってください <為(ナ)され >)。

˹ゾールン **[˹ʤo:ruŋ]**【自動】濡れる。ぬる (下二段)「～寄せ来る浪に衣手奴礼奴 < ヌレヌ >。万、3709」に対応。ア˹ミ˺ヌ　˺フーカー　˹ゾールン˺ダー [ʔa˹mi˺nu ˺ɸu:ka: ˹ʤo:run˺da:](雨が降ったら濡れるよ)。˹フー˺バン　˹ゾーラヌ [˹ɸu:˺ban ˹ʤo:ranu](降っても濡れない)。˹ワー　ゾーリ˺　ミサンドゥ　ヤ˹ラ˺ベー　˹ゾール˺　クトー　ナラ˹ラ˺ヌ [˹wa: ʤo:ri˺ misandu ja˹ra˺be: ˹ʤo:ru˺ ku̥to: na˹ra˺nu](君は濡れても良いが子供は濡れることはできない < ならぬ >)。˹マー˺ビン　˹ゾーレー˺　ミサムヌ [˹ma:˺bin ˹ʤo:re:˺ misamunu](もっと濡れればいいのに)。˹ゾーリ˺バ [˹ʤo:ri˺ba](濡れろよ)。

˩ソーン **[˩soːŋ]** 【接尾】～並み。～と同じ程度。～と一緒。プ˩スソーンヤー　ナー˥ムティ　ウ˩ブムニ˥バ　イ˩ジェー˥ティ　˩アー˥ク [pu̥˩susoːɲja naː˥muti ʔu˩bumuni˥ba ʔi˩ʤe:˥ti ˩ʔaː˥ku](人並みでない癖に＜一人前でない癖に＞、大法螺をふいて＜大言壮語して。大きなことを言って＞いるよ)。ノー˩ン˥　プ˩スソーンニ　サン˥カー　ナ˩ラ˥ヌ [noː˩m˥ pu̥ ˩susoːn saŋ˥kaː na˩ra˥nu](何事も人並みにしなければならない)。

˥ゾーンターヤー **[˥ʤoːntaːjaː]** 【名】屋根付きの門。屋根のある門。「門の家」の義か。その昔、鳩間島から首里に公用で上ったウ˩ブバ˥カヤー [ʔu˩buba˥ kajaː](大若家) の者が雨に降られて、とある家の˥ゾーンタヤー [˥ʤoːntajaː] で雨宿りをしていると、内から家主が出てこられ、何処から来たも者かと尋ねられたという。そこで事情を話すと、この家の縁の者であるとのことで家の中へ招き入れられ、歓待されて帰ったという。カ˩ザケーヤ˥　ム˩カ˥シェー　ウ˩ブバ˥カヤーティ　ア˩ゾーッ˥タツォー　ム˩カ˥シ　˥シュリナー　˩オー˥リ　˥ゾーンタヤーナ　˥アミ　パ˩ラ˥スンティ　˩オー˥ルンケン　ウ˩ヌ　ヤー˥ヌ　プ˩スヌ˥　ン˩ゾー˥リ　パ˩ナ˥シ　ス˩コー˥リティル　ウ˩トゥ˥ザティ　˩シー˥　ム˩ティナサ˥リティ　˩オーッ˥タ˩トゥ˥ツォー [ka˩ʤake:ja˥ mu˩ka˥ʃe: ʔu˩buba˥kajaːti ʔa˩ʤoːt˥tatsoː mu˩ka˥ʃi ˥ʃurinaː ˩ʔoː˥ri ˥ʤoːntajaːna ˥ʔami pa˩ra˥sunti ˩ʔoː˥ruŋkeŋ ʔu˩nu jaː˥nu pu̥˩sunu˥ ʔn˩ʤoː˥ri pa˩na˥ʃi su̥˩koː˥ritiru ʔu˩tu ˥ʤati ˩ʃiː˥ mu˩tinasa˥riti ˩ʔoːt˥ta˩tu˥tsoː](加治工家は昔は大若家といったそうだ。昔首里に行かれて、とある屋根のある門で雨宿りをしておられた時、その家の人が出てこられ、話を聞かれて、親戚だといって、持て成されて帰ってこられたそうな＜加治工ムヲシヤ氏。大城サカイ氏、宮良ヲナリ氏＞伝承)。

ソー˩ンドゥ **[soː˩ndu]** 【副】丁度。きっかり。数量、大きさ、時刻などが基準に過不足なく一致するさま。若年層は、チョー˩ンドゥ [ʧo˩ndu](丁度) ともいう。ク˩レーワー˥　ム˩ヌ˥トゥ　ソー˩ンドゥ˥　ユ˩ヌ˥　ムヌ [ku˩reː waː˥ mu˩nu˥tu soː˩ndu˥ ju˩nu˥ munu](これは君の物と丁度＜きっかり＞同じ物だ)。

˩ソッ˥コー **[˩sok˥koː]** 【名】1仏前に香をたくこと。「焼香」の転訛したもの。˥アボー　˩シー˥ネー　˩ソッ˥コー　˩シン　オーッ˥タ [˥ʔabo: ˩ʃiː˥neː ˩sok˥koː ˩ʃiŋ ʔoːt˥ta](お母さんは後ろ隣の家に焼香しに行かれた)。2法事。ウ˩ブソッ˥コー [ʔu˩busok˥koː](大きな法事。二十五年忌、三十三年忌等の法事等)。法事には、ユ˩ノー˥レー [ju˩noː˥reː](一周忌)、˩タンカーソッコー [˩taŋkaːsokkoː](一周忌) 等もある。˩ジュー˥サンニンキヌ　˩ソッコー˥ヤ　イ˩チ　ソーッ˥タカヤー [˩ʤuː˥sanniŋkinu ˩sokkoː˥ja ʔi˩ʧi soːt˥takajaː](十三年忌の法事はいつされたかねえ)。

˩ソッコー˥グトゥ **[˩sokkoː˥gutu]** 【名】法事の行事。「焼香ごと」の義。ム˩チマイ˥　ッサイ　˩オー˥ル　˩ギン˥シェー　˩ウン˥ネーナー　˩ソッコーグトゥヌ˥ル　ア˩ローリン˥ギサバン [mu˩ʧimai˥ ssai ˩ʔoː˥ru ˩giŋ ˥ʃeː ˩ʔun˥nena: ˩sokkoːgutu˥nu ʔa˩roːriŋ˥gisabaŋ](糯米を搗いておられるからには、あの家には法事がおありの＜あられる＞ようだ)。

˩ソッコー˥プス **[˩sokkoː˥pu̥su]** 【名】焼香客。法事に来た人。「焼香人」の義。˩ソッコー˥プソー　ムー˩ル　ソッコー˥ヌ　ム˩チバ˥　シトゥ　ッ˩ス˥ミティ　˩ヤー˥　ム˩トーッ˥タ [˩sokkoː˥pu̥so: muː˩ru sokkoː˥ nu mu˩ʧiba˥ ʃi̥tu s˩su˥miti ˩jaː˥ mu˩toːt˥ta](焼香客はみんな法事に供えた餅を苞＜お土産＞に包んで家に持ち帰られた)。

˩ソッコー˥ムヌ **[˩sokkoː˥munu]** 【名】法事の供物。法事に親戚の者が持参して供える供物。普通、˥グシ [˥gusi](酒) 三合、˩コー˥パナ [˩koː˥pana](板香 5 枚と花米 3 合) と、ウ˩ティン˥ガビ [ʔu˩tiŋ˥gabi](打ち紙。紙銭 5 枚)。ッ˩ス˥ムチ [s˩su˥mutsi](白餅) 一重箱が供えられた。˩ソッコー˥ムノー　ス˩コーリ˥　シケーバ　˥ムティ　˩ギー˥　シ˩キティ˥　クー [˩sokkoː ˥munoː su̥˩koːri˥ ʃi̥keːba ˥muti ˩giː˥ ʃi̥˩kiti˥ kuː](法事の供物は準備してあるから持って行ってお供えしてきなさい)。

˩ソッコー˥ヤー **[˩sokkoː˥jaː]** 【名】法事のある家。「焼香家」の義。ク˩トゥシェー　ユーリシキヌ　マーリ˥　˥クーユンダ　ウ˩サンギソッコー　ソー˥ル　˩ソッコーヤー˥ヌン　アルパジ˩ダー [ku̥˩tuʃe: juːriʃi̥k-inu maːri˥ kuːjunda ʔu˩saŋgisokkoː soː˥ru ˩sokkoːjaː ˥nuŋ ʔarupaʤi˩daː](今年は閏月が回ってくるから、三十三年忌の法事をされる家＜焼香家＞があるはずだよ)。˩ソッコー˥ヤーラヌ　˥アッパー　˥シトゥ [˩sokkoː˥jaːranu ˥ʔappaː ˥ʃi̥tu](法事のある家からの、お祖母さんの苞＜お土産＞)。

˩ゾッふァスン **[˩ʤoffasuŋ]** 【他動】濡らす。「～袖泣き奴良之～『万葉集　4408』」の転訛したものか。˩ゾッふァスンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩ゾッふァサラヌ [˩ʤoffasunti˥ ʔu˩muːn˥du ˩ʤoffasaranu](濡ら

そうと思うが濡らされない)。ク˹レー　ゾッふァシ˺　ミサンドゥ　カ˹レー　ゾッふァス˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [ku˹re: ʤoffaʃi˺ misandu ka˹re: ʤoffasu˺ ku̥to: na˹ra˺nu](これは濡らしても良いが、あれは濡らすことは出来ない)。˹ゾッふァシェー˺　ミサムヌ [˹ʤoffaʃe:˺ misamunu](濡らせば良いのに)。˹マー˺ビン　˹ゾッふァシ [˹ma:˺bin ˹ʤoffaʃi](もっと濡らせ)。

˹ゾッふィシタフ [˹ʤoffiʃi̥taɸu] 【名】雨支度。「濡れ支度」の義。雨天の際に着用する雨合羽、蓑笠の用意をすること。˹ゾッふンとも言う。˹ゾッふィシタフ　シー˺　パ˹ラン˺カー　˺アミン　˹ゾッふァーリントダー [˹ʤoffiʃi̥taɸu ʃi:˺ pa˹raŋ˺ka: ˺ʔamin ˹ʤoffa:rinˈda:](雨支度をして行かないと雨に濡れる＜濡らされる＞ぞ)。

˹ゾッふィルン [˹ʤoffiruŋ] 【自動】濡れる。˺サナム˹タン˺カー　˹ゾッふィルン˺ダー。˹ゾッふィラン˺ヨーニ　カ˹ビ˺ムノー　˺ムティ　˹アー˺キバ [˺sana mu˹taŋ˺ka: ˹ʤoffirun˺da: ˹ʤoffiraŋ˺joni ka˹bi˺muno: ˺muti ˹ʔa:˺kiba](傘を持たないと濡れるよ。濡れないように被り物は持ってあるきなさい)。˹ゾッふィ˺　ミサタンティン　˹ゾッふィル˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [˹ʤoffi˺ misatantin ˹ʤoffiru˺ ku̥to: na˹ra˺nu](濡れてよくても、濡れてはならない＜濡れることは罷りならぬ＞)。˹ゾッふィレー˺　ミサムヌ [˹ʤoffire:˺ misamunu](濡れればよいのに)。˹ゾッふィリ˺バ [˹ʤoffiri˺ba](濡れろよ)。

˹ゾッふン [˹ʤoffuŋ] 【自動】濡れる。˹ゾッふィルン [˹ʤoffiruŋ](濡れる) と同じ。˹ゾッふァンドー˺シ　˺パリバ [˹ʤoffando:˺ʃi ˺pariba](濡れないで行けよ)。˹ゾッふィ˺　ミサカー　˹ゾッふントダー [˹ʤoffi˺ misaka: ˹ʤoffunˈda:](濡れてよければ濡れるよ)。˹ゾッふェー˺　ミサムヌ [˹ʤoffe:˺ misamunu](濡れれば良いのに)。˹パー˺ク　˹ゾッふィ [˹pa:˺ku ˹ʤoffi](早く濡れろ)。

˹ソフクン [˹soɸukuŋ] 【他動】突き刺す。錐や槍などの鋭利な物でぶすっと突き刺す。˹イー˺ルシ　˹ソフクンティ　スヌ　ソフカランバ˺　ク˹リ˺シ　˹ソフキ　ッふィーラン˺ノーレ [˹ʔi:˺ruʃi ˹soɸu̥kunti sunu soɸu̥karamba˺ ku˹ri˺ʃi ˹soɸu̥ki ffi:ran˺no:re:](錐で突き刺そうとするが、突き刺されないので、これで突き刺してくれないか)。˹ソフク˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [˹soɸu̥ku˺ ku̥to: na˹ra˺nu](突き刺すことは出来ない)。˹ソフケー˺　ミサムヌ [˹soɸu̥ke:˺ misamunu](突き刺せばよいのに)。ク˹リ˺シ　˹ソフキ˺バ [ku˹ri˺ʃi ˹soɸu̥ki˺ba](これで突き刺せよ)。

ゾフ˹ティ [ʤoɸu̥˹ti] 【副】ぐさりと。鋭利なもので柔らかいものを突き刺すさま。˺ガルユクンシ　タ˹ク˺バ　ゾフ˹ティ　シ˹キピッ˺キティ　˹サンギ˺　ン˹ザ˺シバ [˺garujukuŋʃi˺ tḁ˹ku˺ba ʤoɸu̥˹ti˺ ʃi̥˹pik˺kiti ˹saŋgi˺ ʔn˹ʤa˺ʃiba](鉤のある銛で蛸をぐさりと突いて、穴から引きずり出せよ)。

˹ソン˺ガー [˹soŋ˺ga:] 【名】(植) ショウガ (生姜)。「生薑、久礼乃波之加三 (くれのはじかみ)」『和名抄』のこと。地下茎が横に伸びて黄色い塊根を形成する。辛味を有し、食用・香辛料として用いられる。ナ˹カミ˺ヌ　˹シームヌ [na˹kami˺nu ˹ʃi:munu](中身の吸い物。豚の臓物を調理する料理) に臭みを消す香辛料として用いられる。また、発熱した場合、特に傷口などから˹ピン˺グル [˹piŋ˺guru](冷え込み。破傷風) が入ったときには、ソンガーを揺ってサ˹キ [sḁ˹ki](酒。泡盛) とヤ˹キマース [ja˹kima:su](焼き塩) を混ぜて手揉みし、病人の傷口に当てて包帯で巻きつけ、頭から足の先まで擦り付けて治療した。医者のいない島で、経験をもとに、古老たちは糸満漁師が伝えた漢方治療をほどこした。ソンガー˺ヤー　パ˹トゥ˺マナーン　ス˹ク˺ローッタン [˹soŋga:˺ja pḁ˹tu˺mana:n su̥˹ku˺ro:ttaŋ](生姜は鳩間島でも栽培された)。

˹ソンガー˺スリ [˹soŋga:˺suri] 【名】生姜揺り。˹ソンガー˺スリシ　˹ソン˺ガー　˺ッシティ　ナ˹マ˺シナカ˹キ˺リバ [˹soŋga:˺suiriʃi ˹soŋ˺ga: ˺ʃʃiti na˹ma˺ʃina kḁ˹ki˺riba](生姜揺りで生姜を揺って刺身にかけなさいよ)。

˺ソンガチ [˺soŋgatʃi] 【名】正月。ヤ˹マトゥ˺ソンガチ [ja˹matu˺soŋgatʃi](新暦の正月。大和正月)。˹キューヌ˺ソンガチ [˹kju:nu˺soŋgatʃi](旧暦の正月。沖縄正月)。ウ˹ブ˺ソンガチ [ʔu˹bu˺soŋgatʃi](新暦の正月)。グ˹マ˺ソンガチ [gu˹ma˺soŋgatʃi](小さい正月・旧暦の正月) などがある。昭和 30 年ごろまでは旧正月であったが、学校教育との兼ね合いで石垣市に倣って新暦の正月に統一されていった。しかし、サ˹カサ [sḁ˹kasa](司) やティ˹ジリ˺ビー [ti˹ʤiri˺bi:](男性神職者) の家では神行事との関係上旧正月も実施した。正月には子供たちが浜の白砂を庭に運んで敷き詰め、門には松竹 (門松) を立てて祝った。しかし、門松は全琉緑化運動に伴い、琉球政府からの通達もあって廃止された。正月元旦の朝は、早朝に井戸からシ˹ディ˺ミジ [ʃi˹di˺miʤi](若水。「孵で水」の義) を汲んでおく。家族がこれで洗面すると

孵で変わって一年中健康で暮らし、長寿延命することが出来ると信じられている。その後、イ˩チバン˥ザー [ʔi˩tʃiban˥ʤaː](一番座) に家族が集まり、床の間に供えてあるク˩ガニマース [ku˩ganimaːsu](健康祈願の黄金塩。シゥ˩カラマース [siˬkaramaːsu]< 力付け塩 >) と˥グシ [˥guʃi](神酒、御酒) を戸主から家族全員に賜り、一年中の健康祈願をしていただく。その後に正月のご馳走˥ソンガチフルマイ [˥soŋgatʃiɸurumai](正月振舞・御馳走)」を頂いて、子供達はピ˩キダマ　トゥバシ [piˬkidama tubaʃi](凧揚げ) 遊びや˩マー˥ル　˥ウティ [˩maː˥ru ˥ʔuti](鞠つき) 遊びに興じた。大人達は親戚や友人の家を˩ニントゥ　シン [˩nintu ʃiŋ](年頭の挨拶をしに) 互いに尋ねまわり、飲酒して楽しんだ。˥ソンガチナーヤ　ビ˩コーンッふァー˥　トゥ˩シン˥ユーナー　ピ˩キダマ˥　パ˩リティ　グゥンタン˥ヌ　シ˩トゥム˥テーラ　ピ˩キダマ˥　トゥ˩バシェー˥ティ　ア˩サブタ˥ヨー [˥soŋgatʃinaːja biˬkoːnffaː˥ tu˩ʃiŋ˥juːnaː piˬkidama˥ pa˩riti gwantan˥nu ʃiˬtmu˥teːra piˬkidama˥ tu˩baʃeː˥ti ʔa˩sabuta˥joː](正月には男の子は、大晦日の夜に凧を張って、元旦の朝から凧を揚げて < 飛ばして > 遊んだものだよ)。

˥ソンガチアサビ [˥soŋgatʃiʔasabi] 【名】正月遊び。男の子はピ˩キダマ [piˬkidama](凧) を作って、ピ˩キダマトゥバシ [piˬkidamatubaʃi](凧揚げ) をして遊んだ。女の子は、˩マー˥ルウティ [˩maː˥ruʔuti](鞠突き) などをして遊んだ。

˥ソンガチアシツァ [˥soŋgatʃiʔaʃitsa] 【名】正月下駄。正月用の新しい下駄。戦後の昭和 40 年頃まで、正月に新品の下駄を履く習慣があった。西表島より ア˩サン˥グルキー [ʔa˩saŋ˥guruki:](樹木の名。和名、フカノキ) を伐り出してきて下駄を作った。˥ソンガチアシツァヌ　˩ブーン˥　˥ドゥーシル　ス˩クル˥タ [˥soŋgatʃiʔaʃitsanu ˩buːn˥ duːʃiru sᵤ˩kuru˥ta](正月用の下駄の緒も自分で < ぞ > 作った)。

˥ソンガチオー [˥soŋgatʃiʔoː] 【名】正月用の豚。˥ソーガチャー [˥soːgatʃaː](正月用豚) ともいう。ほとんどの家では正月の豚肉用として、五月ごろに子豚を購入し、肥育して正月前に屠殺した。˥ソンガチオーヤ　シゥ˩カナイ˥バキ　ヤ˩ラバン　シー˥　フ˩ドバサバル˥　ソンガチ　シゥ˩カイバー˥ヤ　˥ナル [˥soŋgatʃiʔoːja siᵤ˩kani˥baki ja˩rabaŋ ʃiː˥ ɸu˩dubasabaru˥ soŋgatʃi siᵤ˩kaibaː˥ja ˥naru](正月用の豚は子豚を借りて肥育し、屠殺して豚の主と折半する < 養い分け > でもして豚を肥育した方が正月用の豚肉の需要 < 費用 > が賄える)。

˥ソンガチキン [˥soŋgatʃikiŋ] 【名】正月用の着物。普段は着物を新調することはなく、正月と豊年祭の時に新調した。子供は、˥ソンガチキン　ア˩ラキン　カイッふォー˥ルンティ˩ダー [˥soŋgatʃikiŋ ʔa˩rakiŋ kaiffoː˥runti˩daː](正月用の着物、新しい着物を買って下さるそうだよ) といって喜んだものである。

˥ソンガチ　ッ˩ふァヨーン [˥songatʃi f˩fajoːŋ] 【連】旧暦正月の大晦日の夜の暗闇。真っ暗闇。˥ソンガチ　ッ˩ふァヨーンマー˥　パ˩ナ˥　パ˩サマリ˥タンティン　ワ˩カラ˥ヌ [˥soŋgatʃi f˩fajoːmma˥ pa˩na˥ paᵤ˩samari˥tantiŋ wa˩kara˥nu](正月の夜の暗闇は、鼻を摘まれても相手が誰か分からない < ほどの暗闇である >)。

˥ソンガチ　˩ニントゥ [˥songatʃi ˥nintu] 【連】正月の挨拶回り。正月の年頭の挨拶。˥ソンガチヌ　˩グゥンタン˥ヌ　˥ピンマー　ウ˩トゥザン˥ヤー　カ˩ツシンヌ　シンカ˥ヌヤー　˥ソンガチ　˩ニントゥ　シン　オーッ˥タン [˥soŋgatʃinu ˩gwantan˥nu ˥pimmaː ʔu˩tuʤaŋ˥jaː kaᵤ˩tsuʃinnu ʃiŋka˥nujaː ˥soŋgatʃi ˩nintu ʃiŋ ʔoːt˥taŋ](正月の元旦の日には親戚の家やカツオ漁船の乗組員の家に年頭の挨拶をしに行かれた)。

˥ソンガチ　パ˩チニンガイ [˥soŋgatʃi paᵤ˩tʃiniŋgai] 【連】正月の初祈願。「正月初願」の義。鳩間島の人々は、稲作に従事するため西表島の北岸一帯へ四、五日泊まり掛けで、˩マイ˥ヌ　˩トゥー [˩mai˥nu ˩tuː](「前の渡」の義。鳩間水道。鳩間海峡) を渡った。その際に、島人が事故に遭遇せぬよう、健康と安全を祈願した祭祀である。友利御嶽で、ミ˩ジニー [miˬʤiniː](壬) の日を選んで執り行われた。˥ソンガチ　パ˩チニンガイヤー˥　ムトゥナーティル　˩ニン˥ガイ　˩ヨーッ˥タ [˥soŋgatʃi paᵤ˩tʃiniŋgaijaː˥ mutunaːtiru ˩niŋ˥gai ˩joːt˥ta](正月初願いは友利御嶽で祈願された)。

˥ソンガチバライ [˥soŋgatʃibarai] 【名】正月初笑い。「正月笑い」の義。˥ソンガチバライ　˩スー˥カー　フ˩クヌ　˩カン˥ヌ　˩ペー˥ロールンツォー [˥soŋgatʃibarai ˩suː˥kaː ɸᵤ˩ku˥nu ˩kan˥nu ˩peː˥roːruntsoː](正月初笑いをすると福の神が入って来られるそうだ)。

˥ソンガチフルマイ [˥soŋgatʃiɸurumai] 【名】正月のご馳走。「正月振る舞い」の転訛したもの。˥ソンガチフルマイヤー　イッ˩ケン˥　ン˩マー˥タン [˥soŋgatʃiɸurumaija: ʔik˩kem˥ ʔm˩maː˥taŋ](正月振る舞いのご馳走は非常に美味しかった)。

˥ソンカネー [˥soŋkaneː]【名】与那国を代表する 8886 調の歌謡「ションカネ節」の名。歌詞の終わりに付く「ションカーネー」のリフレーンに基く命名という。石垣島のトゥ˩バラー˥マ [tu˩baraː˥ma] と並んで八重山の二大情歌といわれている。与那国島に派遣された役人が任期を終えて帰るに際して、女性から別れの悲しみを余韻嫋嫋と歌いかけたもの。「ションカネー」の語源については、江戸時代中期以前に流行った「しょんがえ節」に由来する『八重山民謡誌』という説がある。ユ˩ノン˥　ソンカネーヤ　トゥ˩バラーマ˥トゥ　˩ナーラブ　ゾーウタ˥ティ　ア˩ザリブー [ju˩nonnu˥ soŋkaneːja tu˩baraːma˥ tu ˩naːrabu ʤoːʔuta˥ti ʔa˩ʤaribuː](与那国のソンカネー節はトゥバラーマと並ぶ情歌だといわれている)。

˩ゾン˥ギ [˩ʤoŋ˥gi]【名】定規。物差し。老年層の言葉。パ˩ラー˥ヤ　˩ゾン˥ギ　ア˩ティティ˥　キ˩サン˥カー　˩イシ˥カー　˩ナー˥ヌ　˥ンジ　˩キー˥ス [pa˩raː˥ja ˩ʤoŋ˥gi ʔa˩titi˥ kiˬ˩saŋ˥kaː ˩ʔisiˬ˥kaː ˩naː˥nu ˥ʔnʤi ˩kiː˥su](柱は定規を当てて切らないと短いのと、長いのが出てくる)。

˩ゾン˥ギ [˩ʤoŋ˥gi]【名】˩ケン˥ツァ [˩ken˥tsa](児童の片足とび遊び。石蹴り遊び) に用いる定規。瓶の破片や瓦の破片で作った直径 8〜9 センチの円盤や四角盤。片足とびをしながら示された区画から円盤の定規を順に送り取って加点していくのに用いる。˩ケン˥ツァ　シ˩ティ　ゾン˥ギ　˥トゥル　˥ピン　˩キン˥ヌ　フ˩クビ˥ヌ　ジーナ　シ˩カットゥ˥カー　マ˩キ　ヤッタ˥ダー [˩ken˥tsa ʃiˬ˩ti ʤoŋ˥gi ˥turu ˥piŋ ˩kin˥nu ɸuˬ˩kubi˥nu ˥ʤiːna ʃiˬ˩kattu˥kaː ma˩ki jatta˥daː](ケンツァ遊びをして片足飛びで定規を取る時、着物の帯が地面に接触し < 触れ > たら負けだったよ)。

˥ソンコーザーテー [˥soŋkoːʤaːteː]【名】屋号。西花孫康氏宅。サ˩キバルテーヌ　アンタナー˥ル　˥ソンコーザーテーヤ　˩アッ˥タ [saˬ˩kibaruteːnu ʔantanaː ˥ru ˥soŋkoːʤaːteːja ˩ʔat˥ta](崎原家の東側に < ぞ > 西花孫康氏宅はあった)。

˩ソンヤクバ [˩soŋjakuba]【名】村役場。ム˩カ˥シェー　タ˩ケ˥トミソンヌ　˩ソンヤクバー˥　タ˩キ˥ドゥンナール　˩アッ˥タツォー [mu˩ka˥ʃeː taˬ˩ke˥tomisonnu ˩soŋjakubaː˥ taˬ˩ki˥dunnaːru ˩ʔat˥tatsoː](昔は竹富村の村役場は竹富島にあったそうだ)。

タ

タ [ta] 【接尾】上接語の方面、場所、方位、方角を表す。「かた＜方＞、朝な朝な筑紫の方乎＜カタヲ＞出で見つつ～『万葉集　3218』」の転訛したものか。˥パンター　˩パッ˥タ [˥panta: ˩pat˥ta](南の方、＜西表島、南風端＞へ行った)。˩インター [˩ʔinta:](西の方角、西側)。˩アンター [˩ʔanta:](東の方角、東側)。ニ˩シンター [ni˩ʃinta:](北の方角、北側)。˥クマンター　˥クーバ [˥kunanta: ˥ku:ba](こちら＜側＞へ来なさいよ)。˥カマンター　˥パリ [˥kamanta: ˥pari](あちら＜側＞へ行け)。

˥タ [ta] 【助動】～た。動作の完了や過去を表す。˩ター˥ル　カ˩ク˥タ [˩ta:ru˥ kḁ˩ku˥ta](誰が書いたか)。˩バー˥ル　カ˩ク˥タ [˩ba:˥ru kḁ˩ku˥ta](私が書いた)。イ˩チ　パッ˥タ [ʔi˩ʧi pat˥ta](いつ行ったか)。˥キノー　˩パッ˥タ [˥kino: ˩pat˥ta](昨日行った)。

˥ター [˥ta:] 【名】田。田圃。「秋の田之＜タノ＞～。万、88」の義。ア˩サダー [ʔa˩sada:](浅い田圃)。ガ˩タダー [ga˩tada:](浅い田圃。「潟田」の義か。田の底が砂地になっていて、水が抜けやすい海岸近くの水田。水田耕作の際、四、五頭の牝牛の角を棒で連結して結わえ、水田に入れて土を踏ませて保水した)。フ˩カ˥ダー [ɸu̥˩ka˥da:](深い田)。ユ˩ビター [ju˩bita:](深い田。牛が動けなくなるほど深い水田。「吸い込む田圃」の義。水田の中に木材を敷き、その上に立って作業をしたという水田)。˥ター　˩カイ˥スン [˥ta: ˩kai˥suŋ](田を耕す＜˩田を返す˩」の義＞)。

˩ター [˩ta:] 【名】二つ。˩ティ˥ー [˩ti˥:](一つ)。˩タ˥ー [˩ta˥:](二つ)。˩ミ˥ー [˩mi˥:](三つ)。˩ユ˥ー [˩ju˥:](四つ)。˩イ˥チ [˩ʔi˥ʧi](五つ)。˩ム˥ー [˩mu˥:](六つ)。˩ナ˥ナ [˩na˥na](七つ)。˩ヤ˥ー [˩ja˥:](八つ)。˩ク˥ヌ [˩ku˥nu](九つ＜ク˩ク˥ヌ [ku̥˩ku˥nu](九つ) ともいう＞)。˩トゥー [˩tu:](十)。

˩ター [˩ta:] 【代】誰＜不定称＞。タ˩ル [ta˩ru](誰) ともいう＜老年層。古謡＞。「～梅の花　多礼可＜タレカ＞浮かべし～。万、840」の転訛したもの。そのままの形で主格 (nominative)、属格 (genitive)、対格 (accusative) を表す。˩ター＜ル＞˥　パ˩ル˥ワ [˩ta:＜ru＞˥ pa˩ru˥wa](誰が行くか)。ク˩レー　ター˥　ムヌヤ [ku˩re: ta:˥ munuja](これは誰の物か)。˩ター˥　パ˩ラス˥ワ [˩ta:˥ pa˩rasu˥wa](誰を行かせるか)。与格 (dative) を表す。ク˩レー　ターン˥　ッ˩ふィールワ [ku˩re: ta:ŋ˥ f˩fi:ruwa](これは誰に遣る＜呉れる＞のか)。奪格 (ablative) を表す。˩ター˥ラ　パ˩ジミルワ [˩ta:˥ra pa˩ʤimiruwa](誰から始めるか)。係助詞がつく。˩タール˥　マ˩シ˥ヤ [˩ta:ru˥ ma˩ʃi˥ja](誰が＜ぞ＞良いか)。ター˩ン　クー˥ヌ [ta:˩ŋ ku:˥nu](誰も来ない)。

˥ター [˥ta:] 【接尾】1複数を表す。たち (達)。ら (等)。人に関してう。˩バン˥ター　パ˩ラ˥ヌ [˩ban˥ta: pa˩ra˥nu](私たち＜聞き手を含まない＞は行かない)。˩ベー˥ター˥　ムー˩ル˥　パ˩トゥ˥マ　˥プス [˩be:ta:˥ mu:˩ru˥ pḁ˩tu˥ma ˥pu̥su](我々＜聞き手を含む＞は皆鳩間島の人間だ)。ア˩ブ˥ター＜ア˩ボー˥ター＞　˩オーラ˥ヌ [ʔa˩bu˥ta:＜ʔa˩bo:˥ta:＞˩ʔo:ra˥nu](お母さんたちはいらっしゃらない)。˩アーヤ˥ター　キサー˩ティ　オー˥レーン [˩ʔa:ja˥ta: ki̥sa:˩ti ʔo:˥re:ŋ](お父さんたちは既にいらっしゃった)。˥アブジター　˥クナー　ビ˩ロー˥リ [˥ʔabuʤita: ˥kuna: bi˩ro:˥ri](おじいさん達は此処にお座りください＜座りおわれ＞)。タ˩ル˥ター　マ˩ツ˥ター　ヤ˩マ˥ター　プ˩スシ˥　プス [ta˩ru˥ta: ma˩tsu˥ta: ja˩ma˥ta: pu̥˩suʃi˥ pu̥su](多呂達、真津達、屋真達は同年＜同じ年＞生だ)。2語末が [i] で終わる指示代名詞に下接すると、口蓋化して、˥ッツァー [˥ttsa:](達) となる。˩クッ˥ツァー [˩kut˥tsa:](これら)。˩ウッ˥ツァー [˩ʔut˥tsa:](それら)。˩カッ˥ツァー [˩kat˥tsa:](かれら、あれら)。ヌッ˩ツァー˥ル [nut˩tsa:˥ru](何たち。如何なる者ら)。

˩ダー [˩da:] 【助動】助動詞。～だぞ。～ぞ。～よ。いろいろな語に付いて強い断定を表す。1名詞に付いて断定の陳述を表す。ク˩レー˥　ウ˩ム˥ジ˩ダー [ku˩re:˥ ʔu˩mu˥ʤi˩da:](これはいいだこ＜飯蛸＞だぞ)。2活用語の終止形に付く。˥カキティ　ア˩ゾー˥ルカ

ー ˈバンˀヌン カクンˈダー [ˈkq̥kiti ʔaˈɕoːˈrukaː ˈbanˀnuŋ kq̥kunˈdaː](書けとおっしゃるなら私も書くよ)。ˈウンˀネヌ ミˈドーンˀッふァー イッˈケナˀ アˈバˀレーンˈダー [ˈʔunˀnenu miˈdoːŋˀffaː ʔikˈkeŋˀ ʔaˈbaˀreːnˈdaː](その家の女の子は大変美しいぞ)。ウˈヌˀ アˈタˀロー ˈバンˀヌン カˈクˀタンˈダー [ʔuˈnuˀ ʔaˈtaˀroː ˈbanˀnuŋ kq̥ˈkuˀtanˈdaː](そのぐらい＜程度＞は私も書いたよ)。³動詞の命令形に付いて強い命令を表す。ウˈヤˀヌ ˀムニ ˀユー シˈキト ダー [ʔuˈjaˀnu ˀmuni ˀjuː ʃi̥ˈkiꜜdaː](親の言うこと＜言葉＞をよく聞けよ)。ˀアツァー ヤーˈディンˀ クーˈダー [ˈʔatsaː jaːˈdiŋˀ kuːˈdaː](明日は必ず来いよ＜来るんだぞ＞)。シˈグトー タンガˀシ ˈシート ダー [ʃiˈguto: taŋgaˀʃi ˈʃiːꜜdaː](仕事は一人でしろよ)。

ˈターˀイビ [ˈtaːˀʔibi] 【名】田植え。ˈマイイビ [ˈmaiʔibi](米植え) ともいう。ˈターˀイベー イˈチˀ シˈマˀソーッタ [ˈtaːˀʔibeː ʔiˈʧiˀ ʃiˈmaˀsoːttaː](田植えは何時済まされましたか)。ˈターイビˀヌ ˀカシ ˈスンティ ウイバローˀラ ˀキー ッˈふィーッターˀ ギサー フˈコーラサ [ˈtaːʔibiˀnu ˀkq̥ʃiː ˈsuntiˀ ʔuibaroːˀra ˀkiː fˈfiːttaːˀ gisaː ɸu̥ˈkoːrasa](田植えの手伝い＜加勢＞をしようと上原から来てくれたのか、善市君。有難う)。

ˈターイビシンˀカ [ˈtaːʔibiʃiŋˀka] 【名】田植え人数。田植えをする人々＜仲間＞。「田植え臣下」の転訛したものか。田植えは5〜10人が共同してˈユイ [ˈjui](結) をして実施した。互いに労力を出し合って、順々に田植えをした。一人の人が受け持つ田植えの範囲を、ˀパカ [ˀpq̥ka](はか。量) という。上手な人は目測で整然と田植えをするが、慣れない人は、ˈケンナー [ˈkennaː](間縄。植え付け間隔の目印をつけた縄) を使って、後退りしながら田植えをした。田植えが済むと、ブˈガリノーˀシ [buˈgarinoːˀsi](骨休め) の飲食をした。ˈターイビンシンˀカ シゥˈカシˀキー ブˈガリノーˀシ ˈソーッˀタツォー [ˈtaːʔibisiŋˀka si̥ˈkaʃiˀkiː buˈgarinoːˀʃi ˈsoːtˀtatsoː](田植え人数＜仲間＞を案内してきて骨休めの飲食をされたそうだ)。

ˈターˀウナイ [ˈtaːˀʔunai] 【名】(動) 田や川などの淡水に棲息するウナギ (鰻)。「田鰻」の義。西表島の湧水のある水田に棲息していた。ˈバンˀテヌ ˈクーラヌˀ バˈケーラマシˀナー ˈターウナイˀヌ ˈベーˀティ ˈマイˀ カˈルˀ ピン ˀユー ˈフンカリタン [ˈbanˀtenu ˈkuːranuˀ baˈkeːramaʃiˀnaː ˈtaːʔunai ˀnu ˈbeːˀti ˈmaiˀ kaˈruˀ piɲ ˀjuː ˈɸuŋkaritaŋ](私の家の、久浦の湧水のある田圃には田鰻がいたので、稲刈りの時にはよく踏みつけられたよ)。

ˈターˀウン [ˈtaːˀʔuŋ] 【名】(植) 和名、サトイモ (里芋)。「田芋」の義。芋は根茎。鳩間島では栽培しない。西表島の船浦や上原で栽培されていた。ˈターウンˀマー イッˈケナˀ ンˈマーˀンドゥ パˈトゥˀマナー スˈクラランˀシェン [ˈtaːʔumˀmaː ʔikˈkenaˀ ʔmˈmaːˀndu pq̥ˈtuˀmanaː sṵˈkuraraŋˀʃeŋ](里芋は非常に美味しいけれど、鳩間島では栽培され＜作られ＞なかった)。

ˈターカイˀシ [ˈtaːkaiˀʃi] 【名】田打ち。「田耕し」の義。「むなしく春覆し夏植うる営み」『方丈記』、「墾、カヘス」『類聚名義抄』の転訛。ˈターカイˀシ [ˈtaːkaiˀʃi](田打ち。田耕し) には、アˈローˀナ [ʔaˈroːˀna](粗打ち。最初に粗く耕すこと。「アラコナシ＜粗熟し＞の転訛。Tcuchiuo conasu＜土をこなす。粘土を捏ねる＞」『邦訳日葡辞書』の転訛)、マˈトーナ [maˈtoːna](又打ち。「又こなし＜熟し＞」の転訛したもの。二度目の耕し)、ˈサンˀトゥ [ˈsanˀtu](三度打ち) があり、働き者の百姓は、ˈユントゥ [ˈjuntu](四度打ち。四度耕し) をすることもあったという。ムˈカˀシェー ウˈシˀシ シゥˈカシティˀ アˈローˀナ ˈスーˀカー マˈトーナーラー キーˀパイシル ˈカイˀソーッタ [muˈkaˀʃeː ʔuˈʃiˀʃi si̥ˈkaʃi̥tiˀ ʔaˈroːˀna ˈsuːˀka: maˈtoːnaːra: kiːˀpaiʃiru ˈkaiˀsoːtta](昔は牛で鋤かして粗打ちをしたら、又打ち＜二度目の耕し＞からは木鍬＜ˀカシンキー [ˀkaʃiŋkiː](樫の木) で作った木製の鍬＞で耕された)。

ˀター ˈカイˀスン [ˀtaː ˈkaiˀsuŋ] 【連】田を耕す。ˀター ˈカイˀスンティ ˈベー [ˀtaː ˈkaiˀsunti ˈbeː](田圃を耕そうとしている)。

ˈダーˀキ [ˈdaːˀki] 【名】煮芋やご飯、餅などを、どろどろになるほど柔らかく、粘っこく炊いたもの。ˈウンヌダーˀキ バˈカシˀ シケーバ ッˈふァイティˀ パリバ [ˈʔunnu daːˀki baˈkaʃiˀ ʃi̥keːba fˈfaitiˀ pariba](芋のダーキ飯を炊いてあるから食べていきなさいよ)。ˈダーˀキ ˀナルンケン ミˈジˀ イˈランˀ ブˈリˀバ [ˈdaːˀki ˀnaruŋkem miˈɕiˀ ʔiˈramˀ buˈriˀba](どろどろになるほど水を入れないでおきなさいよ)。

ˈダーキˀイー [ˈdaːkiˀʔiː] 【名】柔らかすぎるご飯。糯米を入れすぎたり、水加減を誤って炊いたご飯。クˈヌ イーˀヤ ˈダーˀキ ˀナリティ ンˈマーナーˀヌ [kuˈnu ʔiːˀja ˈdaːˀki ˀnariti ʔmˈmaːnaːˀnu](このご

飯はダーキ飯になって美味しくない)。

˹ダーキ˺ムチ [˹da:ki˺mutʃi] 【名】柔らかすぎて、べっとりくっついた餅。˹ダーキ˺ムチェー　ム˹チンダーリ˺　ティーナ　シ˹ビシカリティ˺　パ˹ガサラ˺ヌ [˹da:ki˺mutʃe: mu˹tʃinda:ri˺ ti:na ʃi˹biʃikariti˺ pa˹gasara˺nu](柔らかすぎる餅はねばねば＜粘粘＞して手にくっ付いて剥がされない)。

˹ター˺ク [˹ta:˺ku] 【名】くたくたに疲れたさま。足が立たないほどに疲れること。立てないほどに疲労困憊すること。˺タク [˺tạku](蛸。蛸のようにグニャグニャになること)。シ˹トゥム˺テーラ　ユネン˹バー˺キ　˹ユーコーサ˺ムティ　˹ター˺ク　˺ナルンケン　パ˹タラカサリ˺　ブ˹ガ˺リティ　ニ˹ビベー [ʃi̥˹tumu ˺te:ra junem˹ba:˺ki ˹ju:ko:sa˺muti ˹ta:˺ku ˺naruŋkem pạ˹tarakasari˺ bu˹ga˺riti ni˹bibe:](朝から晩まで休まさずに足が立たなくなるまで働かされて、疲れきって寝ているよ)。

˹ター˺クサイ [˹ta:˺kusai] 【名】田ごしらえ。「田・拵え」の転訛したもの。田を三度耕し、田の畦草を刈り取り、畦を塗り固めて田植えの準備をすること。˹マイイビジブン˺　ナ˹リ˺ブバ　˹ター˺クサイ　˹サン˺カー　ナ˹ラ˺ヌ [˹maiʔibiʤibun˺ na˹ri˺buba ˹ta:˺kusai ˹saŋ˺ka: na˹ra˺nu](田植えの時期になっているので田ごしらえをしないといけない)。

˹ター˺グニ [˹ta:˺guni] 【名】水田のある島。「田国」の義。˹ヌー˺グニ [˹nu:˺guni](水田の無い島。「野国」の義) の対義語。パ˹トゥ˺マー　˹ター˺グニ　ア˹ラ˺ヌ [pạ˹tu˺ma: ˹ta:˺guni ʔa˹ra˺nu](鳩間島は水田のある島＜田国＞ではない)。

˹ター˺クヌ　˹ミー [˹ta:˺kunu ˹mi:] 【連】乳児に対する遊戯の一つ。「蛸の目」の義。˹イージョーミー　イージョーミー　ター˺クヌ　˹ミー　ター˺クヌ　˹ミー [˹ʔi:ʤo:mi: ʔi:ʤo:mi: ta:˺kunu˹mi: ta:˺kunu ˹mi:](魚の目魚の目、蛸の目蛸の目) と唱えながら、握りしめた右手の人差し指で左手の掌(テノヒラ)の真ん中を突き刺すような仕草を繰り返し、次に˹ピー˺ジン˹トー　ピー˺ジン˹トー　ミン˺ミン˹ミー　ミン˺ミン˹ミー　ガーバラガーバラ [˹pi:˺ʤin˹to: pi:˺ʤin˹to: mim˺mim˹mi: mim˺mim˹mi: ga:baraga:bara](肘、肘。耳、耳。あたま＜こうむり。かがふり＞振り振り) といって肘、耳を掴み、頭を揺らして遊ばせる遊戯。

˹ター˺クブ [˹ta:˺kubu] 【名】(植) ミズオオバコ。田の水中に生える。「田昆布」の義『石垣方言辞典』。鳩間島ではこれを食する習慣はなかった。˹ター˺クボー　˹トー˺サ　トゥ˹リン˺テンナー　カ˹キシティ˺ル　˹ソーッ˺タ　ッ˹ふァイヤー　ソーラン˺シェン [˹ta:˺kubo: ˹to:˺sa tu˹rin˺tenna: kạ˹kiʃi̥ti˺ru ˹so:t˺ta f˹faija: so:raŋ˺ʃeŋ](ミズオオバコは田草を取りながら、掻き取って捨てなさったものだ。食べはなさらなかった)。

ダー˹シーダーシー [da:˹ʃi:da:ʃi:] 【副】1それらしく立派に。えらそうに。きちんとして。崩れや乱れがなく、それなりに整然としているさま。ウ˹ブ˺プス　˺ナリ　イ˹チニン˺マイ　˹ナッ˺ター　ダー˹シーダーシー˺シ　˹シェー˺ティ　˹アー˺クン˹ダー [ʔu˹bu˺pụsu ˺nari ʔi˹tʃinim˺mai ˹nat˺ta: da:˹ʃi:da:ʃi:˺ʃi ˹ʃe:˺ti ˹ʔa:˺kun˹da:](大人になって一人前になったので、それらしくきちんとしているよ)。2立派に。シ˹グトー　スー˺カー　ダー˹シーダーシール　スー˺　ヌーヤ　ク˹レー [ʃi˹guto: su:˺ka: da:˹ʃi:da:ʃi:ru su:˺ nu:ja ku˹re:](仕事をするなら、しっかりと立派にするのであって。なんだね、これは)。

˹ターシグ˺トゥ [˹ta:ʃigu˺tu] 【名】水田耕作。田仕事。イ˹ガメーヌ˺　ウ˹ワール˺カー　˹ターシグ˺トゥ　˹サン˺カー　ナ˹ラ˺ヌ [ʔi˹game:nu˺ ʔu˹wa:ru˺ka: ˹ta:ʃigu˺tu ˹saŋ˺ka: na˹ra˺nu](イカ釣り漁が終わると田仕事＜水田耕作＞を始めないといけない)。

˹ターシタガヤー [˹ta:ʃitagaja:] 【感】ままよ (儘よ)。誰が知ったことか。どうなったって誰が知るものか。若年層は、˹ターシタガー [˹ta:ʃitaga:](ままよ) ともいう。「誰が知ったことか」の転訛。自暴自棄になった時に発する言葉。˹ターシタガヤー˺　ドゥー　˺カッティ　˹シー˺バ [˹ta:ʃitagaja:˺ du:katti ˹ʃi:˺ba](ままよ＜誰が知ったことか＞。自分勝手にしろ)。ウビ˹バーキ˺ル　ア˹ザリル˺　バー　˺ムニ　シゥ˹カン˺カー　˹ターシタガヤー [ʔubi˹ba:ki˺ru ʔa˹ʤariru˺ ba: ˺muni si̥˺kaŋ˺ka: ˹ta:ʃi̥tagaja:](ここまでしか言えない＜ここまでぞ言われる＞。私の話を聞かなければ誰が知ったことか＜どうにでもなれ＞)。

˹ター˺スク [˹ta:˺sụku] 【名】水田耕作地。田袋。˹田底˺」の義か。転じて、水田耕作の場所。˹ユシ˺キダーヌ　˹ター˺スクナール　˹オー˺リ　˹ター˺ヤ　ス˹ク˺ローッタ [˹juʃi̥˺kida:nu ˹ta:˺sụkuna:ru ˹ʔo:˺ri ˹ta:˺ja sụ˹ku˺ro:tta](ヨシキダの水田地帯に行かれて水田を耕作された)。

˹タースク˺リ [˹ta:sụku˺ri] 【名】水田耕作。「田作り」の義。˺イダフネーラ　˹パイ˺ター　カ˹ユイヤー˺ティ　˹タースク˺レー　˹ソーッ˺タ [˹ʔidaɸune:ra ˹pai

ˬta: ka˞juijaːˬti ˞taːsu̥kuˬreː ˞soːtˬta](サバニで西表島＜南端＞へ通いながら水田耕作をされた)。

˞タースクリˬプス [˞taːsu̥kuriˬpu̥su] 【名】水田耕作する人。「田作り人」の義。˞タースクリˬプソー　˞ターˬヌ　˞ミーマール　シンˬ　パ˞ランˬカー　ナ˞ラˬヌ [˞taːsu̥kuriˬpu̥soː ˞taːˬnu ˞miːmaːru ʃimˬ pa˞raŋˬkaː na ˞raˬnu](水田を耕作する人は水田の見回りをしに行かなくてはならない)。ム˞カˬシェー　パ˞トゥˬマプソー　ムー˞ル　タースクリˬプス　˞ヤッタ [mu ˞kaˬʃeː pḁ˞tuˬmapu̥soː bi˞kidumoːˬ muː˞ru taːsu̥kuriˬ pu̥su ˞jatta](昔は鳩間の人は、男は皆水田農夫＜田作り人＞だった)。

˞ターˬスン [˞taːˬsuŋ] 【他動】無駄にする。費やす。無益なものに使う。無にする。「絶やす。Tayaxi、su、aita(絶やし、す、いた)『邦訳日葡辞書』」の転訛したもの。˞ジンˬバ　˞ターˬシ　ˬアイブ　ˬムヌバ　˞カウナ [˞ʤimˬba ˞taːˬʃi ˬʔaibu ˬmunuba ˞kauna](お金を無駄に使って、あんな物を買うな)。˞パンタˬサムヌ　ピ˞マーバ　ターˬシ　˞クーンˬタンティン　ˬミサン [˞pantaˬsamunu pi˞maːba taːˬʃi ˞kuːnˬtantim ˬmisaŋ](忙しいんだから、暇＜時間＞を費やして来なくてもよい)。˞ターˬサヌ [˞taːsaˬnu](費やさない)。ˬアイ　˞スーˬカー　ピ˞マー　ターˬスン˞ダー [ˬʔai ˞suːˬkaː pi˞maː taːˬsun˞daː](そんなことをるると、時間をを費やすよ)。˞ジンˬバ　˞ターˬス　ˬクトー　ナ˞ラˬヌ [˞ʤimˬba ˞taːˬsu ˬku̥toː na˞raˬnu](お金を無駄遣いして＜絶やすことは＞はならない)。˞ターˬシェーミサムヌ [˞taːˬʃeː ˬmisamunu](費やせばよいのに)。˞ターˬシバ [˞taːˬʃiba](費やせよ)。

˞ターˬスン [˞taːˬsuŋ] 【他動】悪戯や悪ふざけをして他人を怒らせる。からかう。ふざける。悪戯をしてけしかけ、子供の感情を害する。「Tauabure,uru,eta. タワブレ、ルル、レタ (戯れ、るる、れた) ひやかし、からかう、または、むつまじく遊びたわむれる、など、」『邦訳日葡辞書』の他動詞化したものか。ˬヌースンティ　ヤ˞ラビˬバ　˞ターˬシ　˞ベーˬワ [ˬnuːsunti ja˞rabiˬba ˞taːˬʃi ˞beːˬwa](何故悪ふざけして子供の感情を損ねているのか＜怒らせているのか＞)。˞ターˬスンティ　シ˞タヌ　ターサランˬシェン [˞taːˬsunti ʃi̥˞tanu taːsaraŋˬʃeŋ](悪戯して怒らせようとしたが、怒らされなかった)。ˬヌンティ　プ˞スバ　ターˬス　ˬクトゥ　カー˞ニ　スーワ [ˬnunti pu̥˞suba taːˬsu ˬku̥tu ka˞ni suːwa](どうして、悪戯して他人を怒らせることだけするのか)。˞ターˬシェー　ˬミサムヌ [˞taːˬʃeː misamunu](悪戯して怒らせば良いのに)。˞パーˬク　˞ターˬシ [˞paːˬku ˞taːˬʃi](早く悪戯して怒らせ)。

˞ターター [˞taːtaː] 【代】誰たち。疑問代名詞の複数形。不定称の˞ター [˞taː](誰)、˞～梅の花　多礼可＜タレカ＞浮かべし～。万、　840」の転訛したものに複数の接尾語˞ター [˞taː](達) が下接した形。˞タータール　パーˬレー　˞クーˬワ [˞taːtaːru paːˬreː ˞kuːˬwa](誰たちが爬竜船を漕ぐか)。˞タータールˬキュー　ˬケーワ [˞tataːruˬ kjuː ˬkeːwa](誰らが今日来たのか)。˞タータールˬ　イ˞サナケーˬ　パルカヤー [˞taːtaːruˬ ʔi˞sanakeːˬ parukajaː](誰たちが石垣島へ行くのかなあ)。ク˞レー　タータールˬ　ムヌヤ [ku ˞reː taːtaːˬ munuja](これは誰たちの物か)。˞タータール　ヨイˬ　シン　˞オーッˬター [˞taːtaːru joiˬ ʃiŋ ˞ʔoːtˬtaː](誰々がお祝いをしに行かれたか)。

˞ダˬー˞ダˬー [˞daˬː˞daˬː] 【感】牛や馬を停止させる声。˞ダˬー˞ダˬーティ　ウ˞ヤーˬレーティ　ウ˞シンˬ　ピラ　シゥ˞カシ　ベー [˞daˬː˞daˬːti ʔu˞jaːˬreːti ʔu˞ʃimˬ pira si̥˞kaʃi beː](ダーダーと大声を出しながら、牛に犂(スキ)を鋤(ス)かせている)。

˞タータータティ　ナーˬン [˞taːtaːti naːˬŋ] 【連】誰彼無しに。相手かまわず。「誰誰と無く」の義。˞タータータティ　ナーˬン　˞トゥイˬ　ス˞クンドゥˬ　ターˬンˬ　ッ˞サヌ [˞taːtaːti naːˬn ˞tuiˬ su̥˞kunduˬ taː˞nˬ s˞sanu](相手かまわず問い尋ねる＜問い聞く＞が、誰も知らない)。

˞タータバˬル [˞taːtabaˬru] 【名】水田地帯。田原。田袋。「田墾(タハリ)」の義か。トゥ˞マダヌ　タータバルˬナーヤ　ˬユーゼー、カ˞ザケーˬ、ニ˞シムレー、˞ヨーˬカヤー　ア˞マシェーヌ　ターˬヌ　˞アッˬタン [tu˞madanu taːtabaruˬnaːja ˬjuːʤeː ka˞ʤakeːˬ ni˞ʃimureː ˞joːˬkaja: ʔa˞maʃeːnu taːˬnu ˞ʔatˬtaŋ](トゥマダ＜苫田＞の水田地帯には松竹家、加治工家、米盛家、西原家、小浜家の田圃があった)。˞ケーダˬヌ　˞タータバˬルナーヤ　˞ダイˬケー　ア˞ラブシケーˬ　イ˞ラˬブレー　パ˞ナシケーヌ　ターヌˬル　˞アッˬタ [˞keːdaˬnu ˞taːtabaˬrunaːja ˞daiˬkeː ʔa˞rabuʃikeːˬ ʔi˞raˬ bureː pa˞naʃi̥keːnu taːnuˬru ˞ʔatˬta](ケーダの水田地帯＜田原＞には大工家、東大城家、西原家、花城家の田圃があった)。˞クーラ川から西の方には、ウ˞ボルˬダー [ʔu˞boruˬdaː]、ˬウシダー [˞ʔuʃidaː]、˞クーラ [˞kuːra] の水田地帯が開けており、ˬシザバナリ [˞ʃiʤabanari](下離崎) から船浦湾にかけては、ナ˞ダラ [na˞dara]、ナ˞カˬシ [na˞kaˬʃi]、ニ˞シダ [ni ˞ʃida]、˞ピーラ [˞piːra]、˞マーレー [˞maːreː]、ˬナカ

ジル [˜nakaʤiru]、ナ˞カ˜ダ [na˞ka˜da]、˞ソー˜ジ [˞soː˜ʤi]、のタ˞バ˜ル [ta˞ba˜ru](水田地帯) が開け、ピ˞ナイサキ [pi˞naisaki](ピナイ崎) から˞ウイバル [˞ʔuibaru](上原) までの間には、˜パルダー [˜paruda:]、˞スー˜ダー [˞su:˜da:]、ヌ˞ザキ˜ダー [nu˞ʤaki˜da:]、˞シーヌウチ [˞ʃi:nuʔutʃi]、ス˞ルバン [su˞rubaŋ] の水田地帯が開け、更にその西部に、˞ナー˜タ [˞na:˜ta]、˞ティン˜ダ [˞tin˜da]、˞カーダ [˞ka:da]、フ˞サ˜キ [ɸu̥˞sa˜ki]、ウ˞ボー˜ダ [ʔu˞boː˜da]、ナ˞カ˜ラ [na˞ka˜ra]、ニ˞シ˜ミジ [ni˞ʃi˜miʤi] の水田地帯が開けていた。現在の中野集落一帯であるが、戦後まで炭鉱経営が続いていて、カ˞ナジル [ka˞naʤiru](炭鉱から赤褐色をした金鋳の水。金汁) が水田に流れ出ていて稲の発育を害していた。

˞タータマ˜　ジレー˞タマ [˞taːtama˜ ʤireː˞tama]【連】誰彼のたまし。誰彼の分け前。「誰のたまし (受け取り分)、いづれのたまし (受け取り分)」の転訛したもの。˞タータマ˜　ジレー˞タマティ˜　バキ　シ˞キ˜リ [˞taːtama˜ ʤireː˞tamati˜ baki ʃi̥ ˞ki˜ri](誰彼のたまし＜分け前＞といって、分けておきなさい)。

˜ダーチ [˞daːʧi]【副】～に沿って。線状的に続く長い道や石垣、海岸、川などに添うように移動するさま。˞マイ˜ヌ　˜ミチダーチ　˞アーラー˜　トゥ˞ナギ　パッ˜タ [˞mai˜nu ˜miʧidaːtʧi ˞ʔaːra˜ tu˞nagipat˜ta](前の道路沿いに東の方へ飛び出して駆けて行った)。ク˞ヌ˜　ミチダーチ　˜パルカー　トゥ˞ミラ˜リン [ku˞nu˜ miʧidaːtʧi ˜paruka: tu˞mira˜riŋ](この道沿いに行くと見つけられる＜探される＞)。

˞ダーチ [˞daːʧi]【接尾】～沿い。ク˞ヌ˜　ミ˞チダーチ˜　ア˞ラ˜キ　˜パルカー　˞ウン˜ネヌ　˜マンター　ン˞ジ˜ルン [ku˞nu˜ mi˞ʧidaːʧi˜ ʔa˞ra˜ki ˜paruka: ˞ʔun˜nenu ˜manta: ʔn˞ʤi˜ruŋ](この道沿いに歩いて行くと、あの家の前にでるよ)。

ター˞チー˜ターチー [taː˞ʧiː˜taːʧiː]【名】立つこと。幼児語。ABCDABCD 型の畳語。乳児が立ち始める頃に、立つことを励ます掛け声。˞ハ˜イ˞ハ˜イ　ター˞チー˜ターチー　˞ゾー˜ジ　˞ゾー˜ジ [˞ha˜i˞ha˜i taː˞ʧiː˜taːʧiː ˞ʤoː˜ʤi ˞ʤoː˜ʤi](ほれほれ、お立ちお立ち、上手だ、上手だ)。

ダー˞チダーチ [daː˞ʧidaːʧi]【名】幼児語。立っち。立っち立っち。あんよあんよ。˞ハ˜イ　ダー˞チダーチ　シート ミー [˞ha˜i daː˞ʧidaːʧi ʃiːトmiː](はい、立っち立っち＜あんよあんよ＞、してごらん)。

˞ター˜チュー [˞taː˜ʧuː]【名】ふたご。双生児。同じ母から一回の分娩で生まれた二人の子。パ˞トゥ˜マナーン　˞ターチュー˜ヌ　マ˞ロー˜レータン [pḁ˞tu˜manaːn ˞taːʧuː˜nu ma˞roː˜reːtaŋ](鳩間島にも双子が誕生された＜生まれられた＞ことがある)。

˞ダーッカダーッカ [˞daːkkadaːkka]【副】びしょ濡れになってだらだら歩くさま。˞ダーッカダーッカ˜シ　ア˞ラ˜キ　˜クーム＜˜クームヌ＞　˜ミルカー　˞クンゾー˜ル　ン˞ジ˜ル [˞daːkkadaːkka˜ʃi ʔa˞ra˜ki ˜kuːmu＜˜kuːmunu＞ ˜miruka: ˞kunʤoː˜ru ʔn˞ʤi˜ru](ずぶ濡れになってだらだら歩いて来るのを見ると腹が立つ＜根性が出る＞)。

ダーッ˞カティ [daːk˞kati]【副】びっしょりと。ぐっしょり。びしょ濡れになって。ずぶ濡れになること。ひどく濡れているさま。ダッ˞カティ [dak˞kati](びっしょりと。ぐっしょりと) の強調表現。ダーッ˞カティ　ゾーリティ˜　タティ　˞ベー [daːk˞kati ʤoːriti˜ tḁti ˞beː](びっしょりと濡れて立っている)。

˞ダーッ˜サー　˞ナー˜ヌ [˞daːs˜saː ˞naː˜nu]【連】良くない。信頼できない。ク˞ヌ˜　シ˞ナムノー　ダーッ˜サー　˞ナー˜ヌ [ku˞nu˜ ʃi˞namunoː daːs˜saː ˞naː˜nu](この品物は良くない)。

˞ダーッ˜サン [˞daːs˜saŋ] (1)【形】よい。素晴らしい。優れている。立派である。信頼できる。ク˞レー　ナン˜ゾー　˞ダーッサナーン˜バ　˞ダーッ˜サ　˜ムノーラ　˜ムティパリ [ku˞reː nan˜ʤoː ˞daːssanaːm˜ba ˞daːs˜sa ˜munoːra ˜mutipari](これは余り良くないから、良いものから持って行きなさい)。˞ダーッ˜サンティ　ウ˞ムータン˜ドゥ˞ナー [˞daːs˜santi ʔu˞muːtan˜du˞naː](良い＜信頼できる＞と思ったんだがなあ)。˞シンダイ　ダーッ˜サ　˜ナリ˞キー˜ブ [˞ʃindai daːs˜sa nari˞kiː˜bu](次第に良くなってきている)。シ˞ナムヌヌ　ダーッ˜サカー　˞カイ˜ミサン [ʃi˞namununu daːs˜saka: ˞kai˜misaŋ](品物が良ければ買ってもよい)。 **(2)**【接尾】～らしく見える。～らしい。～いかにも～らしい。～にふさわしく見える。バ˞カー˜ムヌダーッサー　˞ナー˜ヌ [ba˞kaː˜munudaːssa: ˞naː˜nu](若者らしくない)。˞トー˜カキ　シ˞ギ˜リ　˞オールン˜ドゥ　˞ピッ˜チン　˞ウイ˜プスダーッサー　ア˞ローラ˜ヌ [˞toː˜kaki ʃi˞gi˜ri ˞ʔoːrun˜du ˞pit˜ʧiŋ ˞ʔui˜pu̥suda:ssa: ʔa˞roːra˜nu](米寿＜斗掻の祝い＞を過ぎておられるが、ちっとも老人らしくいらっしゃらない)。˞ラーッ˜サン [˞raːs˜saŋ](～らしい) ともいう。

˞ダーッふァダーッふァ [˞daːffadaːffa]【副】ざぶざぶ。ざんぶざんぶ。海や川の渚、水田の中を水を蹴っ

て歩く音。水が大きく揺れて立てる音。ピ˞ザ˜フチェーラ　˞ダーッふァダーッふァ˜シ　ア˞ラ˜キ　˜クー　プ˞ソー　ター˜ヤ [pi˞ʤa˜ɸu̥tʃe:ra ˞da:ffada:ffa˜ʃi ʔa˞ra˜ki ˜ku: pu̥˞so: ta:˜ja](海岸の渚をダーッふァダーッふァ＜ザンブザンブ＞と音を立てて歩いてくるのは誰か)。˞ダーッふァダーッふァ˜シ　˜キン　ア˞ライ　ベー [˞da:ffada:ffa˜ʃi ˜kiŋ ʔa˞rai be:](ざぶざぶと音を立てて着物を洗っている)。

˞ターティ　ナー˜ン [˞ta:ti na:ŋ] 【連】たれかれなしに (誰彼無しに)。相手かまわず。ウ˞レー˜　サ˞キ˜　ヌミティ　˞ターティ　ナー˜ン　イ˞ジッツァーシェー˜ティ　˞アー˜ク [ʔu˞re:˜ sḁ˞ki˜ numiti ˞ta:tina:˜ŋ ʔ˞iʤittsa:ʃe:˜ti ˞ʔa:˜ku](あれ＜彼＞は酒を飲んで、誰彼なしに叱り飛ばしている＜あるく＞)。

˞ター˜ナ [˞ta:˜na] 【副助】1そのまま。そっくり同じ状態で。連体詞ウ˞ヌ [ʔu˞nu](その) に下接して副詞句をつくる。ウ˞ヌター˜ナ　ナー˞イ˜　タティ　˞ベー [ʔu˞nuta:˜na na:˞i˜ tḁti ˞be:](そのまま＜そのままの状態で＞ずうっと立っている)。2過去、完了の助動詞タ [ta](た) に下接して、動作の完了した状態のまま、又は＜～たまま。～たなり。～してそれっきり＞の意を表す。˞パッ˜タ˞ター˜ナ　ウヌッ˞キリクー˜ヌ [˞pat˜ta˞ta:˜na ʔunuk˞kiri ku:˜nu](行ったままそれっきり来ない)。˜キン　˞キスター˜ナ　ス˞ナ˜カー　トゥ˞ビウリナーン˜シェン [˜kiŋ ki̥˞sutata:˜na su˞na˜ka: tu˞biʔurina:ŋ˜ʃeŋ](着物を着たまま海へ飛び降りてしまった)。3(接助)～しながら。～のまま。「ある動作をしたまま同時並行で別の動作をする」の義。˞ンテー˜ナ [˞nte:˜na](～ながら。時間的に前後して) とも言う。˜イー　ッ˞ふァイターナ˜　ナー˞イ˜　プ˞スヌ˜　パ˞ナ˜シ　シ˞キベー˜タ [˜ʔi: f˞faita:na˜ na:˞i˜ pu̥˞sunu˜ pa˞na˜ʃi ʃi̥˞ki be:˜ta](ご飯を食べながら、食べる行動をとりながら、じっと人の話を聞いていた)。

˞ターパタ˜キ [˞ta:pata˜ki] 【名】田畑。土地財産。˞ウン˜ネーヤ　˞ターパタ˜ケー　タ˞カーニ˜　ア˞ロー˜リキー　˞ジーマシ˜ヌ　ア˞ローラン˜　プ˞ソー　ウン˜ネーヌ　ス˞クリバキバ˜ル　˞ソーッ˜タティ˞ダー [˞ʔun˜ne:ja ˞ta:pata˜ke: tḁ˞ka:ni˜ ʔa˞ro:˜riki: ˞ʤi:-maʃi˜nu ʔaro:˞ram˜ pu̥˞so: ʔun˜ne:nu su̥˞kuribakiba˜ru ˞so:t˜tati˞da:](あの家には田畑が沢山あられますので、耕地＜地枡＞の無い＜あられない＞人は、あの家の小作＜作り分け＞をされたってよ)。

˞ター˜ビ [˞ta:˜bi] 【名】足袋。ッ˞スター˜ビ [s˞suta:˜bi](白足袋。女性が祭りや祝いの場で舞踊を奉納する際に履く足袋)。ッ˞ふター˜ビ [f˞futa:˜bi](黒足袋。男性が祝儀の場で履く足袋)。˞ター˜ベー　イ˞チンマー˜　フ˞モーラン˜シェン　˞ヨイ˜ヌ　˜ピントゥ　˞プー˜ル　˜キチゴンヌ　ブ˞ドゥルシンカル˜　フ˞モーッ˜タ [˞ta:˜be: ʔi˞tʃimma:˜ ɸu˞mo:raŋ˜ʃeŋ ˞joi˜nu ˜pintu ˞pu:˜ru ˜ki̥tʃigonnu bu˞duruʃiŋkaru˜ ɸu˞mo:t˜ta](足袋は何時もは履かれなかった。お祝いの時と豊年祭、結願祭の踊り人衆＜踊り臣下＞が履かれた)。

˞ター˜ピル [˞ta:˜piru] 【名】(動) 田圃に棲息するひる (蛭)。黒色で直径約5ミリ、体長約6センチの環形動物。両端に吸盤があり、稲刈りや田草取りで水田に入ると人の足にくっ付いて吸血するので子供達に恐れられている動物である。西表島には山にも、ヤ˞マ˜ピル [ja˞ma˜piru](山蛭) が棲息しており、山に入ると、ぴょんぴょん飛び跳ねてきて人の足に付き血を吸う。ク˞バシター˜ヌ　˜ターナー　˞ターピル˜ヌ　˞ゴー˜ラーティ　˞マイ˜　カ˞ル˜　ピンマー　ナ˞クラー˜タン [ku˞baʃi̥ta:˜nu ˜ta:na: ˞ta:piru˜nu ˞go:˜ra:ti ˞mai˜ ka˞ru˜ pimma: na˞kura:˜taŋ](クバシターの田圃には田蛭が多くて、稲刈りの時には怖かった)。

˞ター˜ブザ [˞ta:˜buʤa] 【名】琉球国時代に農民の耕作を監督する村の下級役人。石垣方言からの借用語。農民の中から納税義務を免れる年代になったものが選ばれた。「田夫作」などと表記される『石垣方言辞典』。˞ターブザ˜ヌ　˞マーリ　オー˜リティ　ム˞ヌスクル˜ヌ　˜トゥリシラビ　˞ソーッ˜タツォー [˞ta:buʤa˜nu ˞ma:riʔo:˜riti mu˞nusukuru˜nu ˜turiʃirabi ˞so:t˜tatso:](田夫作が巡回してこられて作物を取調べられたそうだ)。

˞ター˜フミ [˞ta:˜ɸumi] 【名】田踏み。蹄耕。ガ˞タダー [ga˞tada:](「潟田」の義。浅い水田。保水力の弱い水田) は数頭の牝牛の角を棒に結わえて水田に入れ、引き回しながら水田の土を踏み固めて保水力を増す水田工作法。ム˞カ˜シェー　˜インダヌ　マ˞ケー˜ラ　˞ミー˜ウシ　˞ミッカラ　ユッカラ　サーリ　オー˜リ　˜シノー　フ˞バリ˜　シ˞ナイティ　ター˜ナ　イ˞リ˜　ピ˞キマーシェー˜ティ　˞ター˜フミ　シ˞モーッ˜タツォー [mu˞ka˜ʃe: ˜ʔindanu ma˞ke:˜ra ˞mi:˜ʔuʃi ˞mikkara jukkara sa:riʔo:˜ri ˜ʃino: ɸu˞bari˜ ʃi˞naiti ta:˜na ʔi˞ri˜ pi̥˞kima:ʃe:˜ti ˞ta:˜ɸumi ʃi˞mo:t˜tatso:](昔は伊武田の牧場から牝牛を三、四匹連れてこられて角を縛って繋いで田圃に入れ、引き回しながら田踏みをさせられたそうだ)。

˞ダーブラミチ [˞daːburamitʃi] 【名】泥んこ道。ぬかるんだ道。ア˞ミ˜ヌ　˞フー˜ター　˞ダーブラミチ˜ < ドゥ˞ルミチ˜>　ナリティ　ア˞ラカラ˜ヌ [ʔa˞mi ˜nu ˞ɸuː˜taː ˞daːburamitʃi˜ < du˞rumitʃi˜ > nariti ʔa˞rakara˜nu](雨が降ったので泥んこ道になってしまって歩かれない)。

˞ダーブル [˞daːburu] 【名】二気筒 (二個シリンダー) エンジン。英語の double の訛ったもの。鳩間島には昭和の初期頃に二気筒の焼玉エンジンを搭載したカツオ漁船が導入されたという (加治工伊佐氏直話)。戦前は船主浦崎英行氏を中心にした組合の福吉丸はダーブルエンジン (東村)、船主慶田城勇氏を中心にした組合の建国丸は焼玉式一気筒エンジンであった (西村)。戦後は船主仲伊部正吉氏の正山丸がダーブルエンジン (東村)、船主小浜真吉氏の晃徳丸は焼玉式一気筒エンジン (東村)、船主大工定市 (英祥) 氏の大洋丸はダーブルエンジン (西村) を搭載してカツオ漁業を営業していた。二気筒エンジンの音はドロンドロンと力強く響いた。˞ダーブロー　バー˜ナーシ　ヤ˞キダマー˜　ヤ˞キティ　ホイル　マーシンテーナ　エイヤー˜　フ˞カシ˜ティ　ボン˞ティ˜　ウ˞ク˜ソーッタ [˞daːburoː baː˜naːʃi ja˞kidamaː˜ ja˞kiti hoiru maːʃinteːna ʔeijaː˜ ɸu̥˞ka˜ʃi̥ti bon˞ti˜ ʔu˞ku˜soːtta](二気筒エンジンはバーナーで焼玉を焼いて、ホイル < 車輪、英語の wheel> を手で回して圧縮空気 < エヤー。air> を一気に吹き送ってボンとエンジンを掛けら < 起こさ > れた)。

˞ターマー˜ル [˞taːmaː˜ru] 【名】田圃の見回り。鳩間島から水田の稲の成長、猪の害、鼠の害、田の水加減を調べるために 2、3 日泊まりがけで西表島へ行き、水田を見回ること。˜アチャー　˞ターマー˜ル　˞シン　パイ˜ター　˞オーッ˜タ [˜ʔatʃaː ˞taːmaː˜ru ˞ʃim pai˜taː ˞ʔoːt˜ta](お父さんは田の見回りに西表島 < 南端 > へ行かれた)。

˞ター˜マシ [˞taːma˜ʃi] 【名】一定区画の水田。「田枡」の義。水田は、その位置により、˞カン˜ヌマシ [˞kannu ˜maʃi](上の田 < 枡 >。水源のシ˞キム˜トゥ [ʃi̥˞kimu ˜tu]< 堰元 > に近い水田)、ナ˞カヌ˜マシ [na˞kanu ˜maʃi](中の水田 < 枡 >)、ス˞ムヌ˜マシ [su˞munu˜ maʃi](下流の田 < 枡 >) と呼ばれた。また、水田の深さによって、ユ˞ビター [ju˞bitaː](深い田。「吸い込まれるように足が股や尻まで沈む深い田」の義。深いので牛が落ちて死んだという口伝がある。普通は木を田に沈め、それを踏みながら作業をしたという。フ˞カ˜ダー [ɸu̥˞ka˜daː]< 深い田 > ともいう) とガ˞タダー [ga˞tadaː](浅い田。「潟田」の義か。海岸近くの水田で、保水力がないので牝牛数頭を繋いで田に入れ、田の土を踏ませて田の底を固めたという) がある。バ˞ケーラマシ [ba˞keːramaʃi](湧き水のある田) には˞ター˜ウナイ [˞taː˜ʔunai](田鰻) が棲息していた。ウ˞ブマ˜シ [ʔu˞buma˜ʃi](大きな田 < 枡 >)、マ˞シェー˜マ [ma˞ʃeː˜ma](小さな田 < 枡 >) は田の大小による区別であるし、マ˞ルマシ [ma ˞rumaʃi](丸田 < 枡 >)、˞ナー˜マシ [˞naː˜maʃi](長い田 < 長枡 >)、˜サンカクマシ [˜saŋkakumaʃi](三角田 < 枡 >) は形状による区別。

˞ター˜ミナ [˞taː˜mina] 【名】たにし (田螺)。「田」・「蜷」(「河貝子、美奈 < みな >、俗用蜷字非也」『和名抄』) の義。イ˞クサユー˜ヌ　ピン˞バー˜ケー　˞ター˜ナー　˞リュー˜アンドレーヌ　ヒ˞リョー˜ヤ　イ˞リラン˜　ブ˞レー˜ンダ　˞ター˜ミナン　˜トゥリ　ッ˞ふータント ダー [ʔi˞kusaju˜nu pim˞baː˜keː ˞taː˜naː ˞rjuː˜an ˜doːreːnu çi˞rjoː˜ja ʔi˞riram˜ bu˞reː˜nda ˞taː˜minan ˜turi f˞fuːtanˈdaː](太平洋戦争の頃までは田圃に硫安などの肥料は入れなかったので、田螺を採って食べたよ)。

˞タームー˜ジ [˞taːmuː˜ʤi] 【名】 (植) 水芋。「田芋」の義。˞タームー˜ジェー　パ˞トゥ˜マナー　ス˞クララン˜シェン　フ˞ノー˜ラナール　ス˞ク˜ローッタ [˞taːmuː˜ʤeː pḁ˞tu˜manaː su̥˞kuraraŋ˜ʃeŋ ɸu˞noː˜ranaːru su̥˞ku˜roːtta](水芋は鳩間島では作られなかった。船浦で < ぞ > 作られた)。

˞ター˜ヤ [˞taː˜ja] 【連】誰か。˞ワー　ター˜ヤ [˞waː taː˜ja](君は誰か)。カ˞ヌ˜　プ˞ソー　ター˜ヤ [ka˞nu˜ pu̥˞soː taː˜ja](あの人は誰か)。

˞ター˜ヤー [˞taː˜jaː] 【名】田小屋。西表島へサバニで通い、4・5 日寝泊まりして水田耕作をするために造った小屋。5 坪ほどの小屋。竹を編んで床を張り、炊事用具、寝具類、特に蚊帳も用意してあった。˞プーキ [˞puːki](風土病。「風気」の転訛。マラリア) に罹患することを恐れて、普段は鳩間島から˜イダフニ [˜ʔidaFuni](板舟。サバニ) で通って耕作した。˞スー˜ナビ [˞suː˜nabi](鍋)、˞イー˜ナビ [˞ʔiː˜nabi](釜)、マ˞カ˜ルドング [ma˞ka˜rudoŋgu](お碗類) を用意しておいて、煮炊きが出来るようにしていた。副食物には干潮時に獲ってきた魚や蛸などを当てた。˜イダフネーラ　˞パイ˜ター　˞ギームドゥルバ　シー　ター˜ヤーナーティ　シ˞グニチ˜ナー　トゥ˞マレー˜ティル　˞タース˜クロー　˞

ソーッ⸣タ [⸣ʔidaɸuneːra ⸢pai⸣taː ⸢giːmuduruba ʃiː taː ⸣jaːnaːti ʃi⸢gunitʃi⸣naː tu⸢mareː⸣tiru ⸢taːsu̥ku⸣roː ⸢soːt⸣ ta](サバニから西表島へ往き来をし、田小屋で 4,5 日ずつ泊まりながら＜ぞ＞田作り＜稲作＞はされたものだ)。⸢バン⸣テヌ　⸢ターヤー⸣ヤ　トゥ⸢マダナー⸣ル　⸢アッ⸣タ [⸢ban⸣tenu ⸢taːjaː⸣ja tu⸢madanaː⸣ru ⸢ʔat⸣ta](我が家の田小屋はトゥマダーにあった)。

⸢ター⸣ラ **[⸢taː⸣ra]** 【名】俵。麻で編んだ袋。麻袋。稲や粟などの穀物、ツノマタ等をカ⸢シガーフク⸣ル [ka⸢ʃigaːɸu̥ku⸣ru](南京袋) に詰めたもの。木炭は⸢ユシ⸣キ [⸢juʃi̥⸣ki](ススキ) で作った俵に詰めた。⸢マイダーラ [⸢maidaːra](米俵)。⸢タンダーラ [⸢tandaːra](炭俵)。⸢イー⸣シダーラ [⸢ʔiː⸣ʃidaːra](ツノマタ俵)。ル⸢クトゥダー⸣ラ [ru⸢kutudaː⸣ra](六斗俵)。⸢ユントゥダーラ [⸢juntudaːra](四斗俵) がある。ム⸢ニダー⸣ラ [mu⸢nidaː⸣ra](おしゃべり。「物言い俵」の義) は特殊な表現。⸢マイヤ⸣　カ⸢リ　アーシティ⸣　ル⸢クトゥダー⸣ラナ　⸣シミティル　パ⸢トゥ⸣マー　カ⸢ヨーシタル [⸢maija⸣ ka⸢ri ʔaːʃi̥ti⸣ ru⸢kutudːa⸣rana ⸣ʃimitiru pḁ⸢tu⸣maː ka⸢joːʃi̥taru](稲は刈りて脱穀し、六斗俵に詰めて鳩間島へ運んだ＜通わした＞)。

ダー⸢ラー **[daː⸢raː]** 【感】ああ汚い! 汚いよ! アーダー⸢ラー [ʔaːdaː⸢raː](ああ汚い!) の⸣アー [⸣ʔaː](ああ!) が脱落したもの。ダー⸢リー [daː⸢riː](ああ汚い!) ともいう。ダー⸢ラー　イン⸣ヌ　ッ⸢ス⸣ヌ　マ⸢マリベー [daː⸢raː ʔin⸣nu s⸢su⸣nu ma⸢maribeː](汚い! 犬の糞が付いている＜塗られている＞)。

⸢ターラ⸣グ **[⸢taːra⸣gu]**【名】**1**中身の入ってない俵 (袋)。マニラ麻の袋＜南京袋＞。稲藁、ススキ等で編まれた穀物や塩、炭を入れるための袋 (空の袋)。⸢ユシ⸣キシ　⸢ターラ⸣グ　⸣フムンティ　⸢ベー⸣ダー [⸢juʃi̥⸣kiʃi ⸢taːra⸣gu ⸣ɸumunti ⸢beː](ススキで俵を編んでいるところだ＜編もうとしている＞)。**2**大食漢。ウ⸢レー　ターラ⸣グ　ヤ⸢ルンダ　イー⸣ヤ　ギュー⸢サン　ッ⸢ふン [ʔu⸢reː taːra⸣gu ja⸢runda ʔiː⸣ja gjuː⸢saŋ⸣ f⸢fuŋ](彼は大食漢だから飯はいくらでも食べる)。

⸢ダーラダーラ **[⸢daːradaːra]**【副】だらだら。動作の鈍いさま。⸣アイニ　⸢ダーラダーラ⸣シ　ア⸢ラカン⸣ドーシ　⸢ダンタン⸣シ　ア⸢ラ⸣キバ [⸣ʔaini ⸢daːradaːra ⸣ʃi ʔa⸢rakan⸣doːʃi ⸢dantaŋ⸣ʃi ʔa⸢ra⸣kiba](あんなにだらだら歩かないで、さっさと歩きなさいよ)。

ダー⸢リー **[daː⸢riː]** 【感】汚い! ああ汚い! アーダ⸢リー [ʔaːda⸢riː](ああ汚い! なんと汚いことよ)、イーダ⸢リー [ʔiːda⸢riː](まあ汚い!) ともいう。ダー⸢リー⸣　ヤ⸢ニヤ⸣ヌ　ウ⸢レー⸣　キ⸢サラヌ [daː⸢riː⸣ ja⸢nija⸣nu ʔu⸢reː⸣ ki̥⸢saranu](まあ汚い! 汚くて、これは着られない)。ダー⸢ラー [daː⸢raː] より「やや軽い汚さ」を表す。ダー⸢リー⸣　ユ⸢グリティー⸣シ　カ⸢サムナ [daː⸢riː⸣ ju⸢guritiː⸣ʃi ka⸢samuna](汚い! 汚れた手で掴むな)。

ダーリダー⸢リー **[daːridaː⸢riː]** 【感】子供に対して悪戯を仕掛け、はやしたてて子供の感情をがいすること。ふざけること。やあい! 泣き虫やあい。やあい! おかしいぞ。人差し指を曲げたり伸ばしたりして相手を指し、ふざけてはやしたてる。ダーリダー⸢リー⸣　ナ⸢キブサーヤ⸣　ダーリダー⸢リー [daːridaː⸢riː⸣ na⸢kibusaːja⸣ daːridaː⸢riː](やあいやあい! 泣き虫やあい)。⸣アボーン　カ⸢サナー⸣リティ　⸢フンダヤー⸣　ダーリダーリー [⸣ʔaboːŋ kḁ⸢sanaː⸣riti ⸢ɸundajaː⸣ daːridaː⸢riː](お母さんにおんぶされて、甘えん坊＜したい放題＞、我儘っ子、泣き虫やあい、泣き虫やあい)。

⸢ターリバナ **[⸢taːribana]** 【名】熟睡した頃。熟睡の最中。眠りの最中。⸢タールン [⸢taːruŋ] は「熟睡する」の意。語源は「たはれ＜戯れ＞。常軌を逸し、一途にふける」の義か。ニ⸢ビタールン [ni⸢bitaːruŋ](熟睡する。＜眠り戯れ＞の義か) ともいう。⸢バナ [⸢bana] は、⸢パナ [⸢pana] の連濁現象で、⸢真っ盛り。最盛期」の義。ニ⸢ビバナ [ni⸢bibana](眠りの盛り) ともいう。⸢ターリバナ⸣ナ　⸢ビー⸣プスン　ウ⸢コーサ⸣リティ　⸢オス⸣ク　シ⸢ラリ⸣　ニ⸢バランシェン [⸢taːribana⸣na ⸢biː⸣pu̥suŋ ʔu⸢koːsa⸣riti ⸢ʔosu̥⸣ku ʃi⸢rari⸣ ni⸢baranʃeŋ](熟睡の最中に酔っ払いに起こされて、邪魔されて眠れなかった)。

⸢ターリルン **[⸢taːriruŋ]** 【自動】熟睡する。ぐっすり寝入る。深い眠りに入る。⸢タールン [⸢taːruŋ](熟睡する) と同じ。⸢ターリラン⸣ケン　ウ⸢コーサ⸣リ　⸢ナーン⸣シェン [⸢taːriraŋ⸣keŋ ʔu⸢koːsa⸣ri ⸢naːŋ⸣ʃeŋ](熟睡しないうちに起こされてしまった)。ニ⸢ビ　ターリルン⸣ケン　ナー⸢イ⸣　マティ [ni⸢bi taːriruŋ⸣ken naː⸢i⸣ mati](ぐっすり寝入るまでじっと待て)。ニ⸢ビ　ターリル⸣　クトー　⸢ナー⸣ヌ [ni⸢bi taːriru⸣ ku̥toː ⸢naː⸣nu](熟睡することはない)。ニ⸢ビ　ターリレー⸣　ミサムヌ [ni⸢bi taːrireː⸣ misamunu](熟睡すればいいのに)。ニ⸢ビ　ターリリ [ni⸢bi taːriri](熟睡せよ)。

⸢ダールダール **[⸢daːrudaːru]** 【副】とろとろ。どろどろ。ぐつぐつ。物が煮えて柔らかくとろけるさま。⸢ダールダール⸣シ　⸢ニータリルン⸣ケン　⸢ネーシ⸣バ [⸢daːrudaːru⸣ʃi ⸢niːtariruŋ⸣ken ⸢neːʃi⸣ba](とろとろと

ろける (蕩(トロ)ける < 煮えてとける >) まで煮つけなさい)。

˞ターールン [˞taːruŋ] 【自動】熟睡する。ぐっすり寝入る。深い眠りに入る。ヤ˞ラ˝ベー　˞ターールン˝ケンマー　ダ˞キベー˝リバ [ja˞ra˝beː ˞taːruŋ˝kemmaː da˞kibeː˝riba](子供が熟睡するまでは抱いていなさい)。マ˞ダ　ターラヌ [ma˞da taːranu](まだ熟睡しない)。ダ˞キ　ベーン˝ケン　˞ターリ　ナー˝ヌ [da˞ki beːŋ ˝ken ˞taːri naː˝nu](抱いているうちに熟睡してしまった)。˞オーパ˝ヤー　ニ˞ビ　ターール˝　クトー　˞ナー˝ヌ [˞ʔoːpa˝jaː ni˞bi taːru˝ kṵtoː ˞naː˝nu](こんなに早く熟睡することはない)。˞パー˝ク　˞ターレー˝　ミサムヌ [˞paː˝ku ˞taːreː˝ misamunu](早く熟睡すればいいのに)。˞パー˝ク　˞ターリ˝バ [˞paː˝ku ˞taːri ˝ba](早く熟睡せよ)。

˞ターールン [˞taːruŋ] 【接尾】～ばむ。～色を帯びる。四段活用動詞、ア˞ガムン [ʔa˞gamuŋ](赤らむ)、ッ˞サ˝ムン [s˞sa˝muŋ](白む)、ッ˞ふ˝ムン [f˞fu˝muŋ](黒む)、˞アウムン [˞ʔaumuŋ](青む) の、連用形語尾ン [ŋ](～み) に˞ターールン [˞taːruŋ](～ばむ。～色を帯びる。「戯る」< 一途にふける >『徒然草』の義か) が下接して、ア˞ガンターールン [ʔa˞ganta:ruŋ](赤ばむ。赤らむ)、ッ˞サンター˝ルン [s˞santaː˝ruŋ](白む)、ッ˞ふンター˝ルン [f˞funtaː˝ruŋ](黒ずむ。黒ばむ)、˞アウンター˝ルン [˞ʔauntaː˝ruŋ](青む。青黒くなる) のように派生語が語形成される。˝シラー　ア˞ガンターリティ˝　ニ˞チ˝ヌ　ア˞リン˝ギサバン [˝ʃiraː ʔa ˞ganta:riti˝ ni˞tʃi˝nu ʔa˞riŋ˝gisabaŋ](顔 < つら「面」の義 > が赤らんで、熱があるようだ)。

ター˞ンガサ [taː˞ŋgasa] 【連】代名詞的連語。誰か。誰だか、はっきり特定できない人を指す。石垣方言の借用語か。ター˞ンナー˝カ [taː˞nnaː˝ka](誰か) ともいう。ター˞ンガサヌ˝　ムティパレーパジ [taː˞ŋgasanu˝ mutipareːpaʤi](誰かが持って行ったはずだ)。ク˞レー˝　ター˞ンガサヌ　シーワザ [ku˞reː˝ taː˞ŋgasanu ʃiːwaʤa](これは誰かの仕業だ)。

˞ターング [˞taːŋgu] 【名】炭俵。ススキで編んだ木炭を入れる袋。˞ユシ˝キシル　˞ターンゴー˝　フ˞ムタ˝ル [˞juʃi̥˝kiʃiru ˞taːŋgoː˝ ɸu˞muta˝ru](ススキで < ぞ > 炭俵は編んだものだ)。

ター˞ンターン [taː˞nta:ŋ] 【連】誰にも彼にも。ク˞ヌ˝　シ˞グトー˝　ター˞ンターンマ˝　タ˞ナマラ˝ヌ [ku ˞nu˝ ʃi˞guto:˝ taː˞nta:mma˝ ta˞namara˝nu](この仕事は誰にも彼にも頼まれない)。

˞ダーンターン˝シ [˞da:nta:ŋ˝ʃi] 【副】叩きつける音の形容。だんだん。たんたん。˞ブー˝チシ　˞ダーンターン˝シ　˝ムス　タ˞タッ˝キティ　フ˞クイ˝　ウ˞タ˝シバ [˞buː˝tʃiʃi ˞da:nta:ŋ˝ʃi ˝musu tạ˞tak˝kiti ɸṵ˞kui˝ ʔu˞ta˝ʃi](鞭でたんたんと筵を叩いて埃を落とせ)。

ダーン˞ティ [da:n˞ti] 【副】1どすんと。どうんと。どたんと。重い物体が落ちたり、倒れたりする際にたてる音の形容。ダーン˞ティ　キーヌ˝　ウイラ˝ウティティ　˝ドゥー　ヤ˞マ˝シ　˝シケー [da:n˞ti kiːnu˝ʔuira ˝ʔutiti ˝duː ja˞ma˝ʃi ˝ʃi̥keː](どすんと木の上 < 樹上 > がら落ちて怪我をして < 胴を病ましておいて > ある)。2どっかと。どっかり。ダーン˞ティ˝　ビ˞リティ　ウーカ˝ヌ [da:n˞ti˝ bi˞riti ʔuːka˝nu](どっかと座って動かない)。

ター˞ンナー˝カ [taː˞nnaː˝ka] 【連・代】誰か。某。不定代名詞的。はっきり特定できない人を表す。ター˞ンナー˝カ　˞シーシェー˝　プ˞ソー˝　ブ˞ラーヌー [taː˞nnaː˝ka ˞ʃiːʃeː˝ pṵ˞soː˝ bu˞raːnuː](誰か出来る < 為し得る > 人はいないか)。ター˞ンナーカ˝ヌ　˞オー˝ルカー　シ˞グ　アイ˝ジ　˞シー˝ヨー [taː˞nnaːka ˝nu ˞ʔoː˝rukaː ʃi˞gu ʔai˝ʤi ˞ʃiː˝joː](誰かがいらっしゃったら、すぐ連絡 < 合図 > しなさいよ)。代名詞連語。誰か～か。はっきり特定できない人を指す。文頭に立って文末の疑問の陳述を誘導する職能を果たす。ター˞ンナー˝カ　ク˞リバ˝　カ˞タ˝ミ　˞シェー˝　プ˞ソー˝　ブ˞ラーヌー [taː˞nnaː˝ka ku ˞riba˝ ka˞ta˝mi ˞ʃeː˝ pṵ˞soː˝ bu˞raːnuː](誰かこれを担ぐことの出来る < 担ぎし得る > 人はいないか)。

˝タイ [˝tai] 【名】松明。松のやにの多い部分や竹、ススキなどを束ねて火をつけ、照明用としたもの。ム˞カ˝シェー　˞ユー˝ロー　˞タイ˝ヌ　˞ピー˝バ　˝シケーティル　イ˞ソーシン　マー　オーッタ˝ル [mu˞ka˝ʃeː ˞juː˝roː ˞tai˝nu ˞piː˝ba ˝ʃi̥keːtiru ʔi˞soːʃimmaː ʔoːtta˝ru](昔は、夜は松明に火を点けて潮干がりに行かれたものだ)。

˝タイ [˝tai] 【名】嫉妬(シット)。対抗心。妬(ネタ)み。嫉(ソネ)み。対立。悋気(リンキ)。焼餅を焼くこと。トゥ˞ジェー˝　ドゥ˞シトゥ˝　イッ˞ケナ˝　タイ　˞スン˝ダー [tu˞ʤeː˝ du˞ʃitu ˝ʔik˞kena˝ tai ˞sun˝daː](妻は友達に非常に嫉妬する < 対抗心をもやす >)。˞バン˝トゥ　˞タイ˝バ　˞シール˝　ムッ˞トゥ　バン˝テーン　˞クー˝ヌ [˞ban˝tu ˞tai˝ba ˞ʃiːru˝ mut˞tu ban˝teːŋ ˞kuː˝nu](私と対立して < ぞ > ちっとも私の家にも来ないよ)。˞オーナール [˞ʔoːnaːru](嫉妬。ねたみそねむこと。「妬、ウハナリネタミ」『色葉字類抄』の転訛) ともいうが、˞オーナールには妬む気持ちが強い。

˩ダイ **[˩dai]** 【名】代金。値段。代価。「代」の義。˩ダイヤー　ギュー˥サ　˩スー˥カヤー [˩daija: gjuː˥sa ˩suː˥kaja:](値段はいくらするかなあ)。˩ダイヌ˥　タ˩カー˥ヌ　˩カーラヌ [˩dainu˥ tạ˩kaː˥nu ˩ka:ranu](値段が高くて買えない)。

˥ダイ **[˥dai]** **(1)**【名】台。テーブル。土台。物を載せたり、飾ったりする際に用いる器具。普通は背もたれのないものにいう。ク˩レー　ダイ˥ヌ　˩ウイ˥ナ　˩ヌーシ˥　シ˩キ˥リ [ku˩reː dai˥nu ˩ʔui˥na ˩nuːʃi˥ ʃị˩ki ˥ri](これは台の上に載せておきなさい)。˥スクダイ [˥sụkudai](机)。˩ハン˥ダイ [˩han˥dai](食卓。「飯台」の義)。˥クナー　˥ダイ　ビ˩シルン [˥kuna: ˥dai bi˩ʃiruŋ](此処に台を据え付ける)。 **(2)**【助数】車や機械などを数える語。ク˩ル˥マー　˥ナンダイ　ア˩ル˥ワ [ku˩ru˥maː ˥nandai ʔa˩ru˥wa](車は何台あるか)。

˥ダイ **[˥dai]** **(1)**【名】代。世代。ク˩ヌ　ター˥ヤ　ウ˩ヤ˥ヌ　˥ダイナー　ア˩ラ˥ソーレーヌ　˩ジー˥マシ [ku˩nu taː˥ja ʔu˩ja˥nu ˥daina: ʔa˩ra˥soːreːnu ˩ʤiːmaʃi](この田圃は親の代に求められた＜有らされた＞土地財産だ)。 **(2)**【助数】世代。家の世代を表す語。˩ワッ˥テーヤ　˩ワー　ダイ˥シー　˥ナンダイ　ナ˩ル˥ワ [˩wat˥teːja ˩wa: dai˥ʃiː ˥nandai na˩ru˥wa](君の家は、君の世代で何代になるか)。

˩ダイ- **[˩dai-]** 【接頭】数詞に冠して物の順序を表す語。˩シートゥ˥ヌ　ス˩クブンマー　ダイイチェー　ビンキョー　スー˥クトゥ [˩ʃiːtu˥nu sụ˩kubummaː daiʔitʃe: biŋkjo: suː˥kụtu](生徒の義務＜職分＞は、第一に勉強することだ)。

˩ダイイチ **[˩daiʔitʃi]** 【名】最初。最も大切なこと。一番。何よりも大事なこと。「第一」の転訛したもの。プ˩スニンギン˥マー　˩キンコール　ダイイチ [pụ ˩suniŋgimma: kiŋkoːru daiʔitʃi](人間は健康が第一＜最も大切＞である)。

˩ダイカール **[˩daikaːru]** 【名】1代わり。代理。「代替わり」の派生的意味が転訛したもの。˩キュー˥ヤ　ウ˩ヤ˥ヌ　˩ダイカール˥ティ　˩シール˥　ンジケーバ　˥ヌーンクイン　˩トゥシ˥キ　ナ˩ラー˥シ　ッ˩ふォー˥リ [˩kjuː˥ja ʔu˩ja˥nu ˩daikaːru˥ti ˩ʃiːru˥ ʔnʤike:ba ˥nuːŋkuin ˩tuʃị˥ki na˩raː˥ʃi f˩foː˥ri](今日は親の代理として出て来ましたので、何もかも言い付けて教えてください)。2世代交代。˩ウン˥ネーヤ　˩ダイカール　シェーラル　モーキ　ンザ˥ソーレー˩ダー [˩ʔun˥neːja ˩daikaːru ʃeːraru moːki ʔnʤa˥soːre: ˩daː](あの家は代替わりしてから＜ぞ＞繁昌し始められ＜儲け出された＞たのだよ)。

˩タイ˥ガイ **[˩tai˥gai]** 【名】大概。おおよそ。あらまし。おおむね。おおかた。概略。若年層は、˩タイ˥ゲー [˩tai˥gaː](大概。概略。) という。鳩間方言では連母音 ai は融合しないのが法則的である。シ˩グトー　タイガイ˥ヤー　シ˩マ˥シェーン [ʃi˩guto: taigai ˥jaː ʃi˩ma˥ʃeːŋ](仕事は、大概は終わった＜仕舞った＞)。2大部分。ほとんど。˥イダフネー　˩タイガイ˥ヌ　˥ヤーナー　ア˩リ˥ブタ [˥ʔidaɸune: ˩taigai˥nu ˥jaːna: ʔa˩ri˥buta](板船＜サバニ＞はほとんどの家にあった＜有りおった＞)。3いい加減。˩タイシチ˥ヌ　ク˩トゥ˥バ　˩タイ˥ガイシ　˥ムネー　イ˩ズナ [˩taiʃị˥ʃi˥nu kụ˩tu˥ba ˩tai˥gaiʃi ˥mune: ʔi˩ʤuna](大切なことを、いい加減でものを言うな)。4(副詞的に)たぶん。おそらく。ア˩ツァバー˥キナー　˩タイ˥ガイ　ナ˩リ˥ス　˥パジ [ʔa˩tsabaː˥kina: ˩tai˥gai na˩ri˥su ˥paʤi](明日までには、たぶん出来る＜出来上がる＞はずだ)。

˩ダイ˥カン **[˩dai˥kaŋ]** 【名】大寒。最も寒い時期。二十四節気の一つ。旧暦 1 月 20 日頃。˩ダイカン˥ヌ　˥シチ　˩ペール˥カー　ピ˩ラク˥ヌ　˥クーンダー　˩ターシグ˥トゥ　˩スンティ˥　ク˩バ˥レーティ　˩アーク˥タ [˩daikan˥nu ˥ʃị˥ʃi ˩peː˥ruka: pi˩raku˥nu ˥kuːnda: ˩taːʃigu˥tu ˩sunti˥ ku˩ba˥reːti ˩ʔaːku˥ta](大寒の節に入ると寒気がおし寄せてくるから、田圃仕事をしようとして寒さに凍えていた＜あるいた＞よ)。

˩ダイ˥ギ **[˩dai˥gi]** 【名】物の台にする木材。「台木」の義。標準語からの借用語。˩ジー˥ヌ　˩ウイ˥ナー　ビ˩サンドー˥シ　˩ダイ˥ギー　シ˩キティ˥　ビ˩シ˥バ [˩ʤiː˥nu ˩ʔui˥naː bi˩sandoː˥ʃi ˩dai˥giː ʃị˩kiti˥ bi˩ʃi˥ba](地面の上に据えないで台木を敷いて据付け＜据え＞なさいよ)。

˩タイ˥ク **[˩tai˥ku]** 【名】太鼓。大太鼓。普通は締め太鼓のことをいう。˩ウーダイ˥ク [˩ʔuːdai˥ku](大太鼓)。ウ˩ブタイ˥ク [ʔu˩butai˥ku](大太鼓) ともいう。タイ˩コー˥マ [tai˩koː˥ma](小太鼓)。ス˩ク˥マ　ウ˩チナ˥スカー　˥ピラキン　˥フキ　˩タイ˥クン　˥ウティ　˩ナーラシ˥ミサンティ　ア˩ザリブタ [sụ˩ku˥ma ʔu˩ʧina˥suka: ˥pirakiŋ ˥ɸụki ˩tai˥kuŋ ˥ʔutimisanti ʔa ˩ʤaributa](スクマが済んだら笛も吹き、太鼓打ち鳴らしてよいといわれていた)。

˩タイ˥ク　ウ˩ティ˥プス **[˩tai˥ku ʔu˩ti˥pụsu]** 【連】太鼓を打つ人。太鼓打ち。˩タイ˥ク　ウ˩ティプス˥ヌ　ブ˩ラーン˥カー　˩ヨイ˥ヤー　ウ˩ムッサナー˥ヌ [˩tai˥ku ʔu˩tipụsu˥nu bu˩raːŋ˥kaː ˩joi˥jaː ʔu˩mussanaː

˞nu](太鼓を打つ人がいないと祝いの座は面白くない)。

˞ダイ˞クニ [˞daiˀkuni] 【名】(植) 野菜の名。大根。シ˞マダイ˞クニ [ʃi˞madaiˀkuni](土地産の大根。「島大根」の義)。ウ˞キナーダイ˞クニ [ʔu˞kinaːdaiˀkuni](沖縄本島産の大根)。ヤ˞マトゥダイ˞クニ [ja˞matudaiˀkuni](本土産の大根。「大和大根」の義)。˞ダイ˞クニ　ウ˞ラ˞スン [˞daiˀkuni ʔu˞raˀsuŋ](大根を摩り下ろす)。戦前戦後を通じて最も好まれた野菜の一つ。法事や祝儀の料理として、シ˞ミ˞ムヌ [ʃi˞miˀmunu](煮しめ物料理) で必ず利用された。イ˞ラキ˞ムヌ [ʔi˞rakiˀmunu](煎り物料理) では˞マン˞ズイ [˞manˀʤui](パパイヤ) や˞キンダイクニ [˞kindaikuni](人参) と共に賽の目に切って油で豚肉や魚肉と炒め、味噌で炒った炒り物料理に作られた。˞ダイ˞クネー　パ˞トゥ˞マナーン　イッ˞ケナ˞　ス˞ク˞ローッタン [˞daiˀkuneː pḁ˞tuˀmanaːŋ ʔik˞kenaˀ su̥˞kuˀroːttaŋ](大根は鳩間島でもよく栽培され＜作られ＞た)。

˞ダイクニ˞ヌ　˞パー [˞daikuniˀnu ˞paː] 【連】大根の葉。˞ダイクニ˞ヌ　˞パー˞　ウ˞ラ˞シ　˞ソー˞ミンチャンプルナ　イ˞リ˞バ [˞daikuniˀnu ˞paːˀ ʔu˞raˀʃi ˞soːˀmintʃampuruna ʔi˞riˀba](大根の葉を刻んで素麺チャンプルに入れなさいよ)。

˞ダイ˞クニパン [˞daiˀkunipaŋ] 【名】大根脚。˞ワー　パン˞マー　˞ダイ˞クニパン　˞ナリ　˞ベー [˞waː pamˀmaː ˞daiˀkunipan ˀnari ˞beː](君の足は大根脚になっている)。

˞ダイ˞クビー [˞daiˀkubiː] 【名】(海底地名)。西表島の北岸、久浦、伊武田の北にある干瀬の名。フ˞ツァー˞マ [ɸu̥˞tsaːˀma](イーシビーの小津口) の東側のウ˞ブ˞ビー [ʔu˞buˀbiː](ウブ干瀬＜大干瀬＞) の東角にある干瀬の名。ガ˞バナレーヌ˞　フ˞チ [ga˞banareːnuˀ ɸu̥˞ʧi](赤離の津口) の西側に面する。ここにも鳩間島の漁業組合が角又養殖をした。

˞タイ˞ゲー [˞taiˀgeː] 【名】大概。おおよそ。おおかた。あらまし。若年層が多用する。老年層は、˞タイ˞ガイ [˞taiˀgai](対外。おおよそ) という。˞タイゲー˞ヌ　˞クトー　シ˞キ　ブン [˞taigaːˀnu ˀku̥toː ʃi̥˞kiˀbuŋ](おおよそ＜大概＞のことは聞いている)。

˞ダイ˞ケー [˞daiˀkeː] 【名】屋号。大工定市氏宅。˞カーンパタ˞グゥー [˞kaːmpataˀgwaː](井戸の側の家) ともいう。大工宇慶那氏は大正末期から昭和初期に鳩間村の˞スー˞ダイ [˞suːˀdai](部落会長。「総代」の転訛) の職にあって、宮良當壮氏が鳩間方言調査を実施された際のインフォーマントであったという。˞ダイ˞ケヌ　プ˞スン　タイヨー˞マルティ　˞スー˞　カ˞ツシンバ˞　ムティティ　˞メークヤーヌ˞　マンタナー　˞シーゾー˞ヤー　ス˞ク˞リ　˞オーッ˞タン [˞daiˀkenu pu̥˞sun taijoːˀmaruti ˞suːˀ kḁ˞tsuʃimba˞ mutiti ˞meːkujaːnuˀ mantanaː ˞ʃiːʤoːˀjaː su̥˞kuˀri ˞ʔoːtˀtaŋ](大工家の人も大洋丸というカツオ漁船を持って、˞メークヤー [˞meːkujaː](宮良家＜˞宮古屋」の義＞) の前の屋敷ににカツオ節製造工場を作っておられた)。

˞タイ˞コー [˞taiˀkoː] 【名】沖縄線香で、イ˞ツァ˞カウ [ʔi˞tsaˀkau](板香) の六枚一束になったもの。「束香」の義。ウ˞ブニンガイナー˞ヤ　˞タイ˞コー　シ˞キ˞ソーッタ [ʔu˞buniŋgainaːˀja ˞taiˀkoː ʃi̥˞kiˀsoːtta](大きな祈願にはタイコーを焚か＜点けら＞れた)。

タイ˞コー˞マ [tai˞koːˀma] 【名】 1小太鼓。上の面を2本のばち (桴) で打つ。タイ˞コーマ˞ヌ　ウ˞ティ˞カタン　キ˞マリル　ブート ダー [tai˞koːmaˀnu ʔu˞tiˀkḁtaŋ ki˞mariru buːt̚daː](小太鼓の打ち方も決まっているんだよ)。2小太鼓を打ち鳴らしながら飛び跳ねて踊る太鼓踊り。˞プール˞ヌ　˞ゾーラキヌ　バウ˞ヌ　˞マイナー　タイ˞コー˞マーン　ウ˞トーッ˞タン [˞puːru˞nu ˞ʤoːrakinu bauˀnu ˀmainaː tai˞koːˀmaːŋ ʔu˞toːtˀtaŋ](豊年祭のゾーラキ＜入り子踊り＞の棒踊りの前に太鼓踊りの小太鼓も打たれた)。

˞タイ˞シ [˞taiˀʃi] 【名】(植) イチゴ＜苺＞(ナワシロイチゴ『石垣方言辞典』)。「覆盆子、イチゴ」『類聚名義抄』。若年層には˞タン˞シ [˞taŋˀʃi](苺) という人もいる。野生のイチゴは畑の畦や原野に自生していた。子供達は野良仕事の手伝いをして帰りに、よくイチゴを採って食べたものである。˞ガザフケー [˞gaʤaɸu̥ˀke:](ひばり。若年層は˞チンチン [˞ʧinʧiŋ]＜ひばり。鳴き声より命名＞ともいう) が˞タイ˞シ [˞taiˀʃi](苺) の魅力に惹かれて、天帝からの使いの途中、苺を採って食べているうちに、天帝から預かった不老長寿の妙薬を蛇が零して全身に浴びたため、蛇は毎年脱皮して蘇り、人間は髪の毛と爪先だけにしか不老長寿の妙薬を塗ることが出来なかった。それ故人間は爪と髪の毛だけが生え変わるという口碑が伝わっている。ヤ˞ラ˞ビ　˞シェーン˞ケンマー　˞ユー　˞タイ˞シ　˞トゥリ　ッ˞ふータン [ja˞raˀbi ˞ʃeːŋˀkemmaː ˀjuː ˞taiˀʃi ˀturi f˞fuːtaŋ](子供の頃はよく苺を採ってたべた)。

˞タイ˞シチ [˞taiˀʃi̥ʧi] 【名】大切。重要なこと。「Taixet. タイセッ (大切) 愛.～Taixetuni zonnzuru(大切に存ず

る)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˜ヌチェー　˞タイ˜シチニ　˞サン˜カー　ナ˞ラン˜ダー [˜nutʃe: ˞tai˜ʃi̥tʃini ˞saŋ˜ka: na˞ran˜da:](命は大切にしないといけないよ)。˞サイクドン˜ゴー　ウ˞ヤ˜ヌ　ア˞ラ˜ソーレール　˜ムヌ　ヤ˞リバ　タイ˜シチニ　シゥ˞カイ˜ヨー [˞saikudoŋ˜go: ʔu˞ja˜nu ʔa˞ra˜so:re:ru ˜munu ja˞riba tai˜ʃi̥tʃini si̥˞kai˜jo:](大工道具は親が入手された＜有らされた＞ものだから大切に使いなさいよ)。˞ドン˜ゴー　˞タイ˜シチニ　シゥ˞カイト ヨー [˞doŋ˜go: ˞tai˜ʃi̥tʃini si̥˞kai˜jo:](道具は大切に使いなさいよ)。

˜タイ　˞スン [˜tai ˞suŋ] 【連】嫉妬する。対立する。対抗心を燃やす。ウ˞レー　サッ˜コー　˜タイ　˞スン˜ダー [ʔu˞re: sak˜ko: ˜tai ˞sun˜da:](彼＜あれ＞は非常に嫉妬するよ)。ク˞ヌ˜　フ˞ター˜ロー　˞サッ˜コー　˜タイ　˞シーンドゥ˜　ナ˞ラン˜サー [ku˞nu˜ ɸu̥ ˞ta:˜ro: ˞sak˜ko: ˜tai ˞ʃi:ndu˜ na˞ran˜sa:](この二人はひどく対抗するので困るよ)。

˞タイ˜ソー [˞tai˜so:] 【名】大将。ヤ˞ラビ˜ヌ　˞タイ˜ソー　˜ナリ　シ˞グトゥヌ　テーナイ˜ヤー　サ˞ムティ˜　ナー˞イ˜　プ˞リアサビバ　シェー˜ティ　˞アーク˜ナ [ja˞rabi˜nu ˞tai˜so: ˜nari ʃi˞gutunu te:nai˜ja: sa˞muti˜ na:˞i˜ pu˞ri̥ʔasabiba ʃe:˜ti ˞ʔa:ku˜na](ガキ大将＜童の大将＞になって、仕事の手伝いはせずに、ただ馬鹿遊びをしている＜あるく＞なよ)。

˞ダイ˜タイ [˞dai˜tai] 【名・副】おおよそのところ。大概。あらまし。˞カン˜フチ　ニ˞ガイ˜フチェー　˞ダイタイ˜ヤ　ウ˞ブイ˜ヤン [˞kaŋ˜ɸu̥tʃi ni˞gai˜ɸu̥tʃe: ˞daitai˜ja: ʔu˞bui˜jaŋ](祈願文＜神口・願い口＞は、大概は覚えた)。

˜ダイダイ [˜daidai] 【名】代々。˜ウヤ　˜ダイダイヌ　˜ザイサンマ　イッ˞カ˜　ヤシー˞ヤシー˜シ　˞ティーパナ˜シェー　ナ˞ラン˜ダー [˜ʔuja ˜daidainu ˜ʤaisamma ʔik˞ka˜ jaʃi:˞jaʃi:˜ʃi ˞ti:pana˜ʃe: na˞ran˜da:](先祖代々＜親代々＞の財産は、決して簡単に＜易々と＞手放してはならないよ)。

˞ダイダカ˜ムヌ [˞daidaka˜munu] 【名】値段の高いもの。高値商品。「値高物」の義。˞ピンソー˜ムノー　˞ダイダカ˜ムヌ　˞カーンドー˜シ　ヤ˞シ˜ムヌシ　マ˞ニアー˜シバ [˞pinso:˜muno: ˞daidaka˜munu ˞ka:ndo:˜ʃi ja˞ʃi˜munuʃi ma˞ni̥ʔa:˜ʃiba](貧乏者は高値の物を買わないで安値の物で間に合わせなさいよ)。イ˞タンダ˜ムノー　˞カイ˜テー　˞ダイダカ˜ムヌ [ʔi˞tanda˜muno: ˞kai˜te: ˞daidaka˜munu](ただ物＜いたずらもの。徒物の義＞は却って値段が高くつくものだ)。

˞ダイ˜ダティ [˞dai˜dati] 【名】付け値。言い値。ねつけ (値付け)。値を付けること。ク˞ヌ　オー˜ヤ　˞ギュー˜サシ　˞カーサリ˜ユー　˞ワー˜シ　˞ダイ˜ダティ　˞シート ミー [ku˞nu ʔo:˜ja ˞gju:˜saʃi ˞ka:sari ˜ju: ˞wa:˜ʃi ˞dai˜dati ˞ʃi:˜mi:](この豚はいくらで売れるか、君で付け値をして＜値段をつけて＞みないか)。

˞ダイ˜ダマ [˞dai˜dama] 【名】ダイナマイト。石垣方言の˞ダイ˜ナマの転訛したもの。イ˞クサユー˜ヌ　˜アトゥナー　˞ダイ˜ダマシ　イ˞ズ˜　ク˞ラスンティ　アー˜キ　˞マーラソー˜レー　プ˞スン　オーッ˜タン [ʔi˞kusaju:˜nu ˜ʔatuna: ˞dai˜damaʃi ʔi˞ʤu˜ ku ˞rasunti ʔa:˜ki ˞ma:raso:˜re: pu̥˞suŋ ʔo:t˜taŋ](太平洋戦争の後になってダイナマイトで魚を殺して漁獲しようとして亡くなられた人もおられた)。

˞タイ˜ティー [˞tai˜ti:] 【名】大体。大概。あらまし。˞タイティー˜ヌ＜˞タイガイ˜ヌ＞　˜クトー　˞バン˜ヌン　˜ナルン [˞taiti:˜nu＜˞taigai˜nu＞ ˜ku̥to: ˞ban˜nun ˜naruŋ](大抵のことは私も出来る)。

˞タイトー [˞taito:] 【名】ちぎばかり。ちきり。大きなさおばかり (大桿秤(サオバカリ))。一貫目 (1000 匁 3、75 キログラム) 以上の重い物の目方を量るのに用いる大竿秤 (さおばかり)。˜オー　˞カース˜　ピンマー　˞タイトー˜シ　パ˞カ˜リティル　˞カーシタ [˜ʔo: ˞ka:su˜ pimma: ˞taito:˜ʃi pḁ˞ka˜ritiru ˞ka:ʃi̥ta](豚を売る時はタイトー＜ちぎばかり＞で量って売った)。

˞タイ˜ヌ　˜ピー [˞tai˜nu ˜pi:] 【連】いさりび (漁り火)。˞ユー˜ロー　˞タイ˜ヌ　˞ピー˜バ　˜シケーティ　イ˞ソー　オーッ˜タ [˞ju:˜ro: ˞tai˜nu ˞pi:˜ba ˜ʃi̥ke:ti ʔi˞so: ʔo:t˜ta](夜は漁り火を灯して潮干狩りに行かれた)。

˞ダイ˜パー [˞dai˜pa:] 【名】すりばち (擂鉢)。漏斗状の陶製の鉢で、内側に細い縦じまの刻み目がつけてある。味噌や胡麻を入れて、すりこぎ (擂粉木) で擂り潰すのに用いる鉢。「ライバン＜擂盤＞『物類称呼』」の転訛『石垣方言辞典』という。˞マイヌミー˜ソー　˞ダイ˜パーナ　イ˞リティ˜　シ˞ルング˜チシ　˜ッシ　˜スーナ　イ˞リティ　ミース˜ジル　バ˞カシ˜バ [˞mainumi:˜so: ˞dai˜pa:na ʔi˞riti˜ ʃi˞ruŋgu˜tʃiʃi ˜ʃʃi ˜su:na ʔi˞riti mi:su˜ʤiru ba˞kaʃi˜ba](米の味噌を擂鉢に入れて擂粉木で擂り、お汁に入れて味噌汁を炊きなさい)。

˞ダイパー˜シリ [˞daipa:˜ʃiri] 【名】すりこぎ (擂粉木)。「擂鉢擂り」の義。普通は木質の硬い˞キャ

ーンギキー [˹kja:ŋgiki:](槇) の垂木の余りを利用して作った。シ˹ルング˺チ [ʃi˹ruŋgu˺ʧi](擂粉木) ともいう。ニ˹チ˺ヌ　ン˹ジ˺ル　˺ピンマー　フ˹チン˺パーバ　˹ダイパー˺シリシ　˺ッシティ　ヌ˹マ˺ソールカー　パシッ˹トゥ˺　ナ˹リ˺シタ [ni˹ʧi˺nu ʔn˹ʤi ˺ru ˺pimma: ɸu̥˹ʧim˺pa:ba ˹daipa:˺ʃiriʃi ˺ʃʃiti nu˹ma˺ so:ruka: pḁʃit˹tu˺ na˹ri˺ʃi̥ta](熱が出るときは、蓬(ヨモギ)の葉を擂粉木で擂って飲まされると気分はすっきりとして元気になったよ)。

˹タイ˺パン [˹tai˺paŋ] 【名】台湾。戦前は鳩間島からも台湾へ出稼ぎに行く人がいた。台湾定期航路の大型貨客船は西表島の白浜港で燃料の石炭を積んで出港した。鳩間島の人は白浜港で乗船するのが多かったという。台湾帰りの人を、˹タイパン˺プス [˹taipam˺pu̥su](台湾人) と呼んでいた。ム˹カ˺シェー　˹タイ˺パン　˺パル　˺プソー　シ˹ラ˺ハマー　˹ギーティ˺　フネー　˹ヌールタル [mu˹kaʃe: ˹tai˺pam ˺paru ˺pu̥so: ʃi˹ra˺hama: ˹gi:ti˺ ɸune: ˹nu:rutaru](昔は、台湾へ行くときは白浜へ行って船に乗ったものだ)。

˹ダイ˺バン [˹dai˺baŋ] 【名】大きな物。特にカツオの大型魚 (約 10 キログラム程度) に対していう。「大判」の義。カツオの小型魚はク˹バン [ku˹baŋ](小振りのカツオ。「小判」の義) という。大きな人、肥満の人にも˹ダイ˺バンという。カツオの超大型にはトゥ˹ビダイ [tu˹bidai](飛び大。超大物。15 キロ以上のカツオ。秋カツオに多かった)。˹タイパン˺ズネーラ　˹ダイ˺バン　カー˹ニ　タイロー　シー　オー˺レータン [˹taipan˺ʤune:ra ˹dai˺baŋ ka:˹ni tairo: ʃi: ʔo:˺re:taŋ](台湾曽根からカツオの大判だけを大漁して帰って来られたことがある)。

˹タイパン˺サー [˹taipan˺sa:] 【名】台湾茶。サンピン茶。˹タイパンサー˺ヤ　カ˹ザヌ˺　カ˹バッ˺サン [˹taipansa:˺ja ka˹ʤanu˺ ka˹bas˺saŋ](台湾茶は香り < 匂い > が香ばしい)。

˹タイパン˺ズニ [˹taipan˺ʤuni] 【名】地名。海底地名。台湾曽根。カツオの好漁場。カ˹ツシンマー　タイパン˺ズネーラル　˹ダイ˺バン　˹ホー˺シ　˺ケーティバーヤ [kḁ˹tsuʃimma: taipan˺ʤune:raru ˹dai ˺baŋ ˹ho:˺ʃi ˺ke:tiba:ja](カツオ船は台湾曽根から < ぞ > 大判カツオを釣って来たのだってさ)。

˹タイパンプス˺テー [˹taipampu̥su˺te:] 【名】屋号。花城加那氏宅。「台湾帰りの人の家」の義。敗戦後、台湾から引き揚げてきた花城加那氏の家。˹インタパナシケーヌ　イー˺ネール　˹タイパンプス˺テー　˹ヤッタ [˹ʔintapanaʃi̥ke:nu ʔi:˺ne:ru ˹taipampusu˺te: ˹jatta](花城伊佐氏宅 < 西花城家 > の西隣が花城加那氏宅であった)。

˹ダイ　ビ˹スン [˺dai bi˹suŋ] 【連】台を据える。基礎を築く。˹クン˺ネーヤ　˺アブジェーンドゥ　˹ヤーキナイ˺ヌ　˺ダイ　ビ˹ソー˺レー˹ダー [˹kun˺ne:ja ˺ʔabuʤe:ndu ˹ja:kinai˺nu ˺dai bi˹so:˺re:˹da:](この家はお祖父さんが家庭の基礎を作られた < 土台を据えられた >)。

˹タイビョー [˹taibjo:] 【名】重病。「大病」の義。標準語からの借用語。普通は、ウ˹ブヤン [ʔu˹bujaŋ](大病)、ウ˹ブヤンマイ [ʔu˹bujammai](大病) という。˹タイビョー˺ティ　シ˹キティル　ソーバ　シー　ミー˺マイ　˹シン　ゲー˺タ [˹taibjo:˺ti ʃi̥˹kitiru so:ba ʃi: mi:˺mai ˹ʃiŋ ge:˺ta](重病と聞いて心配してお見舞いをしに行ってきた)。

ダイ˹ブ [dai˹bu] 【副】相当。大分。かなり。標準語から転訛したもの。老年層は、ユ˹カラスコー [ju˹karasu̥ko:](相当。かなりな程度。相当程度) という。˹オーシケー˺　ダイ˹ブ　ノー˺リ　˺ケーン [dai˹bu ʔo:ʃi̥ke: no:˺ri ˺ke:ŋ](大分天気は良くなってきた)。

˹タイ˺フー˹tai˺□u: [˹tai˺ɸu:] 【名】台風。標準語からの借用語。老年層の人は、˹ウーカジ [˹ʔu:kaʤi](大風、台風)、カ˹ジフキ [ka˹ʤiɸuki](˹風吹き」の義。台風。暴風) というのが普通であった。˹ボーフー [˹bo:ɸu:](「暴風」の義。台風) ともいう。ク˹トゥシェー　タイフー˺ヌ　˹ゴー˺ラーティ　ム˹ヌスク˺ルーン　˹ダーッ˺サー　˹ナーン˺シェン [ku̥˹tuʃe: taiɸu: ˺nu ˹go:˺ra:ti mu˹nusu̥ku˺ru:n ˹da:s˺sa: ˹na:ŋ˺ʃeŋ](今年は台風が多くて作物も芳しく < 良く > なかった)。˹タイフー˺ヌ　˺ミー　˹ペー˺ルカー　˹イットゥ˺キ　カ˹ジェー˺　トゥ˹ルンドゥ˺　フ˹キカイシ˺ヌ　˹スー˺リ　フクン˹ダー [˹taiɸu:˺nu ˺mi: ˹pe:˺ruka: ˹ʔittu˺ki ka˹ʤe:˺ tu˹rundu˺ ɸu̥˹kikaʃi˺nu ˹su:˺ri ɸu̥kun ˹da:](台風の目に入ったら一時風は凪ぐが、吹き返しが強まって吹くよ)。

˹タイフー˺ヌ　˺トゥシ [˹taiɸu:˺nu ˺tuʃi] 【連】台風の年。台風の当たり年。台風が例年よりも多く襲来する年。˺クゾー　˹タイフー˺ヌ　˺トゥシ　ヤ˹レー˺ンダ　カ˹ザンガマイ　サン˺カー　ナ˹ラ˺ヌ [˺kuʤo: ˹taiɸu:˺nu ˺tuʃi ja˹re:˺nda ka˹ʤaŋgamai saŋ˺ka: na˹ra ˺nu](去年は台風の当たり年だったから、台風対策 < 風の構え > をしないといけない)。

˹ダイ˺マー [˹dai˺ma:] 【名】 (植) 竹の種類。ダイミョウチク (大名竹)。カンザンチク (寒山竹)。˹ダイ˺マ

ーダキ [˹dai˺ma:daki](大名竹)、ク˹モーマダキ [ku˹mo:madaki](小浜竹) ともいう。˹パイター˺ラ　˹ダイ˺マーダキバ　キ˹ソーリ˺ル　タ˹キフンツァ˺　フ˹モーッ˺タ [˹paita:˺ra ˹dai˺ma:dakiba ki̥˹so:ri˺ru tḁ˹kiɸuntsa:˺ ɸu˹mo:t˺ta](西表島 < 南端 > から大名竹を伐ってこられて、竹の床は編まれた)。

˹ダイ˺マーダキ **[˹dai˺ma:daki]** 【名】ダイミョウチク (大名竹)。ク˹モーマダキ [ku˹mo:madaki](小浜竹) ともいう。

˹ダイヤシ˺ムヌ **[˹daijaʃi˺munu]** 【名】安物。安値もの。値段の安いもの。˹バン˺ター　˹ダイヤシムヌ˺ル　˹カイシェー　ダイダカ˺ムノー　˹カイサヌ [˹ban˺ta: ˹daijaʃimunu˺ru ˹kaiʃe: daidaka˺muno: ˹kaisanu](私たちは安物が買える < 買い得る >、高値の物は買えない)。

˹ダイ　ヤッ˺サン **[˹dai jas˺saŋ]** 【連】値が安い。シ˹ナムヌヌ˺　ア˹リアマ˺リ　˹ブー˺カー　˹ダイ　ヤッ˺サン　˺パジ [ʃi˹namununu˺ ʔa˹riama˺ri ˹bu:˺ka: ˹dai jas˺sam ˺paʤi](品物が有り余っているなら値段は安いはずだ)。

˹タイラー˺イー **[˹taira:˺ʔi:]** 【名】ス˹ク˺マ [sṵ˹ku˺ma](稲の初穂祭り。旧暦 5 月 15 日頃に行われる) に新米を炊いて作ったお握りを平らにしたもの。˹タイラー˺イー　バ˹カシティ˺　ピ˹ナカンヌ˺　˺マイ　ウ˹ヤプス˺ヌ　˺マイ　マ˹チ　オーシ [˹taira: ˺ʔi: ba˹kaʃi̥ti˺ pi˹nakannu˺mai ʔu˹japṵsu˺numai ma˹ʧiʔo:ʃi](タイラー飯を炊いて火の神様の前、先祖様の前にお供えしなさい)。

˹タイラギ˺ルン **[˹tairagi˺ruŋ]** 【他動】平らげる。飲食物を残らず飲食し尽くす。「～韓国をむけ多比良宜て～『万葉集　813』」の義。˹タンガ˺シェー　˹タイラギララ˺ンティ　ウ˹ムータン˺ドゥ　˹タイラ˺ギ　˹ナーン˺バン　ヌヤー [˹taŋga˺ʃe: ˹tairagiraran˺ti ʔu˹mu:tan˺du ˹taira˺gi ˹na:m˺ban ˺nuja:](一人では平らげられないと思ったが、平らげてしまったよ、なんのその)。ウ˹ビ˺ヌ　˺ムヌ　˹タイラギ˺ルンティ　ア˹ズヌ　タイラギ˺ル　˺クトー　ナ˹ラン˺パジ [ʔu˹bi˺nu ˺munu ˹tairagi˺runti ʔa˹ʤunu tairagi˺ru kuto: na˹ram˺paʤi](あれだけのものを平らげるというが、平らげることは出来ないはずだ)。˹パー˺ク　˹タイラギ˺レー　˺ミサムヌ [˹pa:˺ku ˹tairagi˺re: ˺misamunu](早く平らげれば良いのに)。˺ウベー　˹タイラギ˺リ [˺ʔube: ˹tairagi˺ri](それだけは平らげなさい)。

˹タイラ˺グン **[˹taira˺guŋ]** 【他動】平らげる。飲食物を残らず飲食し尽くす。˹タイラガラ˺ヌ [˹tairagara˺nu](平らがれない)。˹タイラギ˺　プサン [˹tairagi˺ pṵsaŋ](平らげたい)。˹タイラ˺グン [˹taira˺guŋ](平らぐ)。˹タイラ˺グ　˺クトゥ [˹taira˺gu ˺kutu](平らぐこと)。˹タイラ˺ゲー　˺ミサムヌ [˹taira˺ge: ˺misamunu](平らげればよいのに)。˹タイラ˺ギバ [˹taira˺giba](平らげよ)。

˹タイワンクバ˺ガサ **[˹taiwaŋkuba˺gasa]** 【名】ちくひ (竹皮) で作った笠。台湾製の笠で、軽くて涼しく農作業に適しているが、八重山地元生産のク˹バガサ [ku˹bagasa](蒲葵笠) に比して壊れやすく、漁業者には不向きであるという弱点があった。˹タイワンクバ˺ガサー　˹タイ˺パンラル　˹ペー˺リ　˹クータン˺ドゥ　マ˹ナ˺マー　ミ˹ラン˺バン [˹taiwaŋkuba˺gasa: ˹tai˺panraru ˹pe:˺ri ˹ku:tan˺du ma˹na˺ma: mi˹raram˺baŋ](台湾蒲葵笠は台湾から輸入され < 入って > てきたが、今は見かけない < 見られない > わい)。

˹タイワン˺ズニ **[˹taiwan˺ʤuni]** 【名】 (地) 台湾曽根。海底地名でカツオのや鮪の好漁場といわれている。˹タイパン˺ズニ [˹taipan˺ʤuni](台湾曽根) と同じ。

˹タイワン˺バサ **[˹taiwam˺basa]** 【名】 (植) タイワンバショウ (台湾芭蕉)。幹の高さが高いのを、˹アウバサ [˹ʔaubasa](青芭蕉)、タ˹カ˺バサ [ta˹ka˺basa](高芭蕉) といい、幹の低いのを、˺サンジャクバサ [˺sanʤakubasa](三尺芭蕉) という。台湾から導入だれた品種改良種と言われていた。˺サンジャクバサンナル [˺sanʤakubasannaru](三尺バナナ) はバナナの房が長く、実も太く、美味で、幹が低いだけに台風被害が少なかった。˹タイワン˺バサー　パ˹トゥ˺マナーン　イ˹ビラリ˺　ブ˹タン˺ダー [˹taiwam˺basa: pḁ˹tu˺mana:ŋ ʔi˹birari˺ bu˹tan˺da:](台湾芭蕉は鳩間島にも植えられていたよ)。

˹タイワン˺ボー **[˹taiwam˺bo:]** 【名】タイワンハゲ (台湾禿)。「円形脱毛症 (alopecia areata)　円形にはげる病気」『医学沖縄語辞典』。˹タイワンボー˺ジ [˹taiwambo:˺ʤi](台湾禿は頭の毛が所々禿げる病気で、日清戦争後、台湾から帰った兵隊が流行させたという)『石垣方言辞典』の転訛したもの。イ˹クサユー˺ヌ　˺アトゥナー　˹イットゥ˺キ　˹タイワンボー˺ヌ　パ˹ヤー˺リ　ブ˹タン˺ダー [ʔi˹kusaju: ˺nu ˺ʔatuna: ˹ittu˺ki ˹taiwambo:˺nu pa˹ja:˺ri bu˹tan˺da:](太平洋戦争の後に、一時タイワンボー < 皮膚病 > が流行っていたよ)。

˹タイワンボー˺ジ **[˹taiwambo:˺ʤi]** 【名】台湾坊主。

東シナ海低気圧。旧暦二月ごろ急に発生して吹きまくる強風。標準語から転訛したもの。˹タイワンボージ˺ヌ　˹アッ˺タニ˺　フ˹キアー˺リ　˺フネー　˹フンナキ˺　ヤッ˹トゥ˺シ　˹パイ˺ター　タ˹ドゥ˺リ　˹パッ˺タ [˹taiwambo:ʤi˺nu ˹ʔat˺tani ɸu̥˹kiʔa:˺ri ˺ɸune: ˹ɸunnaki˺ jat˹tu˺ʃi ˹pai˺ta: ta˹du˺ri ˹pat˺ta](台湾坊主が急に吹き荒れ、イダフニ＜板船＞は沈没して舟はやっとのことで西表＜南端＞へたどりついた＜たどっていった＞)。

˹タウ [˹tau] 【名】窪地。低地。平地。平坦地。カ˹ザケーヌ　タウパタキ [ka˹ʤake:nu taupataki](加治工家の窪地の畑)。ミ˹ジェー　タウ˺　ナリ˹ブン˺　トンニル　˹ナー˺リ　˺パル [mi˹ʤe: tau˺ nari˹bun˺ tonniru ˹na:˺ri ˺paru](水は低い所＜窪地＞に＜ぞ＞流れていくものだ)。

˹タウジー [˹tauʤi:] 【名】窪地。低地。平坦地。˹ウン˺ネーヌ　˹ヤシ˺ケー　˹タウジー˺　ナリ　˹ベー˺ティ　ア˹ミ˺ヌ　˺フーカー　ミ˹ジタマリ˺　ナ˹リ˺ス [˹ʔun˺ne:nu ˹jaʃi̥˺ke: ˹tauʤi:˺ nari ˹be:˺ti ʔa˹mi˺nu ˺ɸu:ka: mi˹ʤitamari˺ na˹ri˺su](あの家の屋敷は窪地になっているから、雨が降ると水溜りになってしまう)。

˹タウマスン [˹taumasuŋ] 【他動】くぼ (窪) ます。へこます。˹タウムン [˹taumuŋ](くぼむ。へこむ) の未然形に、使役の助動詞˹スン [˹suŋ](～す。～せる。～させる) が下接して形成された使役動詞。ク˹マン˺　トンバ　˹フンシキ　タウマスンティ　スンドゥ　タウマサラヌ [ku˹man˺ tomba ˹ɸuŋʃi̥ki taumasunti sundu taumasaranu](ここの所を踏みつけて窪まそうとするが、窪まされない)。˹タウマシ˺　プサカー　˹フンシキティ　タウマス˺　クトゥ [˹taumaʃi˺ pu̥saka: ˹ɸuŋʃikiti taumasu˺ ku̥tu](窪ましたければ踏みつけて窪ませることだ)。˹タウマシェー˺　ミサムヌ [˹taumaʃe:˺ misamunu](窪ませればよいのに)。˺クマー　˹タウマシ [˺kuma: ˹taumaʃi](ここは窪ませよ)。

˹タウミ [˹taumi] 【名】くぼみ (窪み)。˹タウミヌ˺　アルン　˺トンマー　˹ヨーンナ˺　ア˹ラ˺キ˹ヨー [˹tauminu˺ ʔarun ˺tomma: ˹jo:nna˺ ʔa˹ra˺ki˹jo:](窪のある所はゆっくり歩けよ)。

˹タウミルン [˹taumiruŋ] 【他動】窪める。窪ませる。ク˹マン˺　トン　˺プリティ　˹タウミル˺カー　ミ˹ジェー　ナー˺ルン [ku˹man˺ tom ˺puriti ˹taumiru˺ ka: mi˹ʤe: na:˺ruŋ](ここの所を掘って窪めると水が流れる)。

˹タウムン [˹taumuŋ] 【自動】窪む。へこむ。曲がる。「～思ひ多和美手＜タワミテ＞～。万、935」の転訛したものか。ミ˹チ˺ヌ　˹タウムン˺ケン　カ˹ユイ˺　クイケール　ユ˹ミッふァ˺　ア˹タラ˺サ　˹シー˺ヨー [mi˹ʧi˺nu ˹taumuŋ˺keŋ ka˹jui˺ kuike:ru ju˹miffa˺ ʔa ˹tara˺sa ˹ʃi:˺jo:](道が窪むほど通って貰ってきた＜乞い来たる＞嫁子を大事に可愛がれ＜可惜(アタラ)しさせよ＞よ)。˹ニーグルマ˺ヌ　˹トゥー˺レーン　˺トンマー　˺ミチェー　˹タウミ　ブー [˹ni:guruma˺nu ˹tu:˺ re:n ˺tomma: ˺miʧe: ˹taumi bu:](荷車が通った所は、道は窪んでいる)。ユ˹ヌ˺　トン　カー˹ニ　トゥー˺ルカー　˹タウムン˺ティ　ウ˹ムータン˺ドゥ　˹タウマンバン [ju˹nun˺ toŋ ka:˹ni tu:˺ruka: ˹taumunuti ˺ʔu˹mu:tan˺du ˹taumambaŋ](同じ所だけ歩くと窪むと思ったが窪まないよ)。˹タウム˺　トンマー　˹パン˺ナ [˹taumu˺ tomma: ˹pan˺na](窪む所には行くな)。˹マー˺ビン　˹タウメー˺　ミサムヌ [˹ma:˺bin ˹taume:˺ misamunu](もっと窪めば良いのに)。˹パー˺ク　˹タウミ [˹pa:˺ku ˹taumi](早く窪め)。

タ˹カ [tḁ˹ka] 【名】収穫量。生産量。漁獲数。金額。˹ジン˺ダカ　˹ギュー˺サ　カ˹カル˺ワ [˹ʤin˺daka: ˹gju˺ sa kḁ˹karu˺wa](金額はいくらかかるか)。˹マイヌ˺　トゥ˹リダ˺カー　˺クゾーラ　˹ゴーラー˺ル [˹mainu ˺ tu˹ri˺daka: ˺kuʤo:ra ˹go:ra:˺ru](米の収穫量＜取り高＞は去年より多い)。タ˹カヌ　イシゥ˺カー　˹ゴー˺ラーテー　˹ナー˺ヌ　ムー˹ル˺　マー˹タキナー˺ル　˺バキ　˺シケー [tḁ˹kanu ʔisi̥˺ka: ˹go:˺ra:te: ˹na:˺nu mu:˹ru˺ ma:˹takina:ru˺ baki ˺ʃi̥ke:](分量が多い少ないということはない。すべて＜皆＞同じように＜等量に＞分けておいてある)。

タ˹カ [tḁ˹ka] 【名】(動) 鳥の名。たか (鷹)。鳩間島にはあまり見られなかった。˹ティン˺ナー　タ˹カヌ˺　マ˹ヤーリ　ベー˺ン [˹tin˺na: tḁ˹kanu˺ ma˹ja:ri be: ˺ŋ](空に＜天に＞鷹が円を描いて飛んで＜舞って＞いる)。

タ˹カー˺　シ˹ムラリ　ブー [tḁ˹ka:˺ ʃi˹murari bu:] 【連】程度や収量が推定されている。収量の程度が見積もられている。転じて「人物のレベルが知れている」の意にも用いられる。ク˹トゥシヌ　マイヤー˺　タ˹カー˺　シ˹ムラリ　ブー [ku̥˹tuʃinu maija:˺ tḁ˹ka:˺ ʃi˹murari bu:](今年の米の収量は既に計算され、見積もられて＜推定されて＞いる)。

タ˹カータカー˺シ [tḁ˹ka:taka:˺ʃi] 【副】非常に高く。高々と。形容詞タ˹カー˺ン [tḁ˹ka:˺ŋ](高い) の語幹重複形で、副詞的用法。タ˹カータカー˺シ　˺ムタイバ

[tạ˞ka:taka:˥ʃi ˥mutaiba](高々と＜非常に高く＞持ち上げなさいよ)。

タ˞カータカーヌ˥　ヤマ [tạ˞ka:taka:nu˥ jama] 【連】高い山。高山。形容詞タ˞カー˥ン [tạ˞ka:˥ŋ](高い)の語幹を重ねた畳語に同格の助詞ヌ [nu] が付いた形で非常に高いさまを表す。ダ˞ディ˥クダケー　タ˞カータカーヌ˥　ヤマ　ヤ˞ルンダ　ヌーリグリ˥サン [da˞di˥kudake: tạ˞ka:taka:nu˥ jama ja˞runda nu:riguri˥saŋ](ダディク岳は高い山だから登りにくい)。

タ˞カーニ [tạ˞ka:ni] 【副】たくさん。一杯。主として明治生まれの老年層の人が使用した。強調すると、タカー˞ニン [tạka:˞niŋ](たくさん) ともいう。˞イー˥ヤ　タ˞カーニ˥　イ˞リルナ˥ヨー [˞ʔi:˥ja tạ˞ka:ni˥ ʔi˞riruna˥jo:](ご飯は沢山入れるなよ＜たくさん装うなよ＞)。プ˞スヌ˥　タ˞カーニ˥　ア˞ツァ˥マリ　˞ベー˥ヌ　˞ヌー˥ヌ　˞アッ˥タカヤー [pụ˞sunu˥ ta˞ka:ni˥ ʔa˞tsa˥mari ˞be:˥nu ˞nu:˥nu ˞ʔat˥takaja:](人が沢山集まっているが何かあったのかねえ)。

ダ˞カールン [da˞ka:ruŋ] 【自動】物と物が溶け合う。くっ付きあう。粘りつく。絡む。絡みつく。絡み合う。カ˞マブク　シッ˥ク　˥ピンマー　ン˞ベーマ˥　クジ　˥タリ　イ˞ラン˥カー　ダ˞カーラヌ　バックリス [ka˞mabuku ʃik˥ku ˥pimma: ʔm˞be:ma˥ kuʤi ˥tari ʔi˞riraŋ˥ka: da˞ka:ranu](蒲鉾を搗く時は少しくず粉を溶かして入れないと魚肉が絡みあわない。割れて崩れる)。˥クジ　イ˞ル˥カー　ダ˞カールン [˥kuʤi ʔi˞ru˥ka: da˞ka:ruŋ](くず粉を入れると、よく粘り気がでて繋がる。くっ付きあう)。ム˞チンダーリ˥　ダ˞カーリティ　バックラヌ [mu˞ʧinda:ri˥ da˞ka:riti bakkuranu](粘りついてくっ付きあって＜絡み合って＞割れない)。ダ˞カール˥　クトー　˞ナー˥ヌ [da˞ka:ru˥ kụto: ˞na:˥nu](粘り絡みあうことはない)。ダ˞カーレー˥　ミサムヌ [da˞ka:re:˥ misamunu](粘り絡み合えば良いのに)。フ˞ターロー　マー˥ビン　ダ˞カーリ˥バ [ɸụ˞ta:ro: ma:˥bin da˞ka:ri˥ba](二人はもっと抱き合って絡めよ)。サ˞クマイ　˞タンガ˥シェー　サ˞パーリシバ˥　ム˞チマイ˥　マ˞ザー˥シティ　ダ˞カーラシ˥バ [sạ˞ku˥mai ˞taŋga˥ʃe: sạ˞pa:riʃiba˥ mu˞ʧimai˥ ma˞ʤa:˥ʃị̥ti da˞ka:raʃi˥ba](粳米だけではぱさぱさして粘り気がないから、糯米を混ぜて粘りつかせて絡みつかせなさい)。

ダ˞カールン [da˞ka:ruŋ] 【自動】たかる (集る)。寄り集まる。虫や蝿などがむらがる。˥ッサリムヌナー　˞アウバイヌ˥　ダ˞カールンダ˥　ウ˞ズミティ˥　˞パイ˥　ダ˞カーラサン　ブリ˥バ [˥ssarimununa: ˞ʔaubainu˥ da˞ka:runda˥ ʔu˞ʤumiti pai˥ da˞ka:rasam buri˥ba](腐れたものには青蝿が集るから、埋めて蝿を集らすな＜集らさないでおれ＞よ)。ア˞マムヌ˥ナー　˞アールヌ˥　ダ˞カーリ　ヤッ˥サン [ʔa˞mamunu˥na: ˞ʔa:runu˥ da˞ka:ri jas˥saŋ](甘いものには蟻が集りやすい)。˞パイ˥　マキ　˥シケーンダ　˞アウバイヌ˥　ダ˞カール˥　クトー　˞ナー˥ヌ [˞pai˥ maki ˥ʃị̥ke:nda ˞ʔaubainu˥ da˞ka:ru˥ kụto: ˞na:˥nu](灰を撒いてあるから青蝿が集ることはない)。˞アウバイヌ˥　ダ˞カーレー˥ラー　ヤ˞ニヤ˥ヌ　ミ˞ララ˥ヌ [˞ʔaubainu˥ da˞ka:re:˥ra: ja˞nija˥nu mi˞rara˥nu](青蝿が集ると汚くて見られない)。

タ˞カー˥ン [ta˞ka:˥ŋ] 【形】高い。空間的位置、価値、名声、地位、音声、数値などの高いこと。˥クンダケー　タ˞カーン˥ティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　ウ˞ム˥トゥダキン　˥スコー　タ˞カーナー˥ヌ [˥kundake: tạ˞ka:n˥ti ʔu˞mu:tan˥du ʔu˞mu˥tudakin ˥sụko: tạ˞ka:na:˥nu](古見岳は高いと思ったが於茂登山ほど高くない)。˞ダイヌ˥　タ˞カー˥ヌ　˞バン˥マー　˞カーラヌ [˞dainu˥ ta˞ka:˥nu ˞bam˥ma: ˞ka:ranu](値段が高くて私には買えない)。˞シンダイ˥　ウ˞トゥヌ˥　タ˞カー˥　ナリキー　シ˞キングリサ˥ヌ　ナ˞ラ˥ヌ [˞ʃindai˥ ʔu˞tunu˥ ta˞ka:˥ nariki: ʃị̥˞kiŋgurisa˥nu na˞ra˥nu](次第に音が高くなってきて、聞き苦しくて＜聞き辛くて＞たまらない)。˞シーヌ˥　タ˞カー˥　ピンマー　˥ドゥー　˞ユーコー˥シ [˞ʃi:nu˥ tạ˞ka:˥ pimma: ˥du: ˞ju:ko:˥ʃi](血圧が高いときは体を休ませなさい)。˥マー　ン˞ベーマ˥　タ˞キ˥ヌ　タ˞カー˥カー　˥ミサムヌ [˥ma: ʔm˞be:ma˥ tạ˞ki˥nu tạ˞ka:˥ka: ˥misamunu](もう少し背＜身長＞が高ければ良いのに)。

タ˞カアシ˥ツァ [tạ˞kaʔaʃị̥˥tsa] 【名】高下駄。「高足駄」の義。さし下駄。新しく石垣島から導入された若者の下駄。タ˞カ˥ゲタ [ta˞ka˥geta](高下駄)、サ˞シ˥ゲタ [sa˞ʃi˥geta](さし下駄) ともいう。タ˞カアシ˥ツァー　バ˞カー˥ムンドゥ　フ˞ムタル [tạ˞kaʔaʃị̥˥tsa: ba˞ka:˥mundu ɸu˞mutaru](高下駄は若者が＜ぞ＞履いたものだ)。

˥タカアン [˥tạkaʔaŋ] 【名】「高網」の義。高さ約 2 メートル、長さ約 4 メートルの網。フ˞クル˥アン [ɸụ˞kuru˥ʔaŋ](袋網) に繋ぐ背丈の高い網。˥タカアンの上部には、幅約 2 センチ、厚さ約 1、5 センチ、長さ約 20 センチの棒状の浮きを付け、網の脚部にはン˞ボー˥マ [ʔm˞bo:˥ma](宝貝) を付けて重石

とした。フ˩クルアン˥ヌ　ス˩ディ˥ナー　˥タカアン　シ˩ナイ　ウン˥ナー　˥キタアン　シ˩ナイティル　アン˥マー　ウ˩ラ˥ソーッタ [ɸu̥˩kuruʔan˥nu su˩di ˥naː ˥tḁkaʔaŋ ʃi˩nai ʔun˥naː ˥ki̥taʔaŋ ʃi˩naitiru ʔam˥maː ʔu˩ra˥soːtta](袋網の袖に高網を繋ぎ、それに桁網を繋いでシナカキヤーの網を下ろされた)。

タ˩カアン˥ガリ [tḁ˩kaʔaŋ˥gari] 【名】自惚れて身分不相応に上座に座ること。思い上がること。˩イン˥ヌ　ッ˩スˬヌ　タ˩カアン˥ガリ [˩ʔin˥nu s˩su˥nu tḁ˩kaʔaŋ˥gari](犬の糞の高上がり＜諺＞。卑しい者が身分不相応に上座に座ること)。˥ヤコー　タ˩タ˥ムティ　タ˩カアン˥ガリ　˩シーベー [˥jakoː tḁ˩ta˥muti tḁ˩kaʔaŋ˥gari ˩ʃiːbeː](無能な者＜役立たない者＞が身分不相応な上座に座っている)。

タ˩ガイ˥ルン [ta˩gai˥ruŋ] 【他動】たがえる (違える)。約束を破る。そむく (背く)。そむいて裏切る。˩バン˥トゥヌ　ヤ˩クスク˥　タ˩ガイ˥ルンティ　˩ベー˥タ　˩ベー˥ティ　イ˩ズター˥　タ˩ガイラ˥ナ　˩ベーン˥ティ [˩ban˥tunu ja˩kusu̥ku˥ ta˩gai˥runti ˩beː˥ta ˩beː ˥ti ʔi˩ʤutaː˥ ta˩gaira˥na ˩beːn˥ti](私との約束をたがえようとしていたので、叱りつけたから約束を違えないでいるさ)。タ˩ガイ˥ル　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [ta˩gai˥ru ˥ku̥toː na˩ra˥nu](違えることはならぬ)。˥アイブ　ヤ˩クスコー˥　タ˩ガイ˥レー　˥ミサムヌ [˥ʔaibu ja˩kusu̥koː˥ ta˩gai˥reː ˥misamunu](あんな約束は、違えれば良いのに)。タ˩ガイ˥リ [ta˩gai˥ri](違えろ)。

タ˩カウー˥ル [tḁ˩kaʔuː˥ru] 【名】エダサンゴの群落。鳩間島の北西部の干瀬の˩フンシキ [˩ɸuŋʃiki] や南南東部の干瀬のタ˩カ˥ビー [tḁ˩ka˥biː]、ミ˩ズヌ˥カン [mi˩ʤunu˥kaŋ](澪の上) にはエダサンゴの群落がある。また、˩イー˥シビー [˩ʔiː˥ʃibiː](ツノマタを養殖した干瀬) にもエダサンゴの群落がある。˩イー˥シビーヌ　タ˩カウール˥ヌ　ウ˩チンター˥ラ　˩アン˥バ　ウ˩ラ˥シティ　シ˩ヌマー˥ル　ヤ˩マシゥ˥カ　ガ˩ラシ˥タン [˩ʔiː˥ʃibiːnu tḁ˩kaʔuːru˥nu ʔu˩tʃintaː˥ra ˩ʔam˥ba ʔu˩ra˥ʃi̥ti ʃi˩numaː˥ru ja˩masi̥˥ka ga˩raʃi̥˥taŋ](˩イー˥シビー＜ツノマタを養殖した干瀬＞の内側から網を下ろしてテングハギをたくさん漁獲した)。

タ˩カカー˥シ [tḁ˩kakaː˥ʃi] 【名】高く売ること。高値売り。「高売り」の義。ヤ˩シカー˥シ [ja˩ʃikaː˥ʃi](安売り) の対義語。˩バン˥マー　タ˩カカー˥シ　シ˩ティ˥　ヌンティ　˩ワンマー˥　ヤ˩シカー˥シ　˩スー˥　カヤー [˩bam˥maː tḁ˩kakaː˥ʃi ʃi̥˩ti˥ nunti ˩wammaː ˥ jaˬʃikaka:˥ʃi ˩suː˥kajaː](私には高く売って、どうして君には安売りするのかね)。

タ˩カ˥カイ [tḁ˩ka˥kai] 【名】高買い。品物を定価より高く買うこと。˩ソーベームヌ˥バ　˩カシカーサ˥リティ　タ˩カ˥カイ　シ˩ミラリティ˥　キ˩ム˥バ　˥ヤミ　˩ベー˥ツォー [˩soːbeːmunu˥ba ˩kaʃi̥kaːsa˥riti tḁ˩ka˥kai ʃi˩mirari˥ ki˩mu˥ba ˥jami ˩beː˥tsoː](粗悪品を騙されて高買いさせられて残念がって＜心を痛めて＞いるそうだ)。

タ˩カ˥サピクサ [tḁ˩ka˥sapi̥kusa] 【名】高さ低さ。高低。/イヤイヤー　シマヌ　アリサマ　ウフチバナリヌ　アヌタ　カヌタヌ　タカサピクサヤ　トゥナミ　ナランサ〜/(いやいや (囃子) 島の有様は、大地＜西表島＞から離れ小島、こちら側あちら側＜此方・彼方＞均すことはできないよ〜)˩鳩間口説節」。

タ˩カ˥ジン [tḁ˩ka˥ʤiŋ] 【名】脚付きの膳。「高膳」の義。会席膳に高さ約 30 センチの脚の付いた膳。正月や祝儀の際に特別の招待客に用いられた。パ˩トゥ˥マナテー　タ˩カジン˥マー　˥チニヒージェー　シゥ˩カイオーラン˥シェン [pḁ˩tu˥manate: tḁ˩kaʤim˥maː ˥ʧiniçiːʤe: si̥˩kai?oːra˥ʃeŋ](鳩間島では高膳は常日頃は使われなかった)。

タ˩カ˥スク [tḁ˩ka˥suku] 【名】 (地) ティ˩ドゥ˥クヤマ [ti˩du˥kujama](古見岳の西側の連山で、˩インダ [˩ʔinda]＜伊武田＞、˩クーラ [˩kuːra]＜久浦＞あたりまで裾野を張り出している山) からインダ崎へ流れ出した台地の根幹の部分にある原野の窪地を水田に開いたところ。田が深く、牛を入れることができなかったという。所によっては水田に丸太を沈めて、それを踏んで稲を植え付け、刈り取りをしたといわれている。˥ウブシケー [˥ʔubuʃi̥keː](大城家)、˩メー˥ケー [˩meː˥keː](大城家＜宮古屋＞) の水田があった。ヤ˩ラ˥ビ　˩シェーン˥ケン　タ˩カスク˥ヌ　˥ウブシケヌ　˩ター˥ヌ　˩マイ　カリン　ゲー˥タン [ja˩ra˥bi ˩ʃeːŋ˥ken tḁ˩kasuku˥nu ˥ʔubuʃi̥keːnu ˩taː˥nu ˩mai kariŋ geː˥taŋ](子供の頃、タ˩カ˥スク [tḁ˩ka˥suku] にある大城家の田の稲刈りに行ったことがある)。

˥タカソンカー [˥tḁkasoŋkaː] 【名】のっぽ。トゥ˩シ˥グル　ナ˩ル˥ター　˩アッ˥タニ　フ˩ドゥビティ˥　タカソンカー　˥ナリ　˩ベー [tu̥˩ʃi˥guru na˩ru˥taː ˩ʔat ˥tani ɸu˩dubiti˥ tḁkasoŋkaː ˥nari ˩beː](年頃になったので急に成長してのっぽになっている)。

タ˩カダイ [ta˩kadai] 【名】高価。高い値段。ヤ˩シ˥

ダイ [ja˞ʃi˜dai](安値。安い値段) の対義語。ク˞レー˜ タ˞カダイ˜シル ˞カイヤー˜バ シ˞ティ˜ガラ ˞スーナト ヨー [ku˞re:˜ ta˞ka˜daiʃi ˞kaija:˜ba ʃi̥˞ti˜gara ˞su:naꜜjo:](これは高値で買ったから粗略に扱うなよ < 粗末にするなよ >)。

タ˞カ˜ダイ [ta̤˞ka˜dai] 【名】高台。地面が高くて平たいところ。˞ウン˜ネヌ ˞ヤー˜ヤ タ˞カ˜ダイナー ˜アルンダー カ˞ジフキヌ˜ ピンマー カ˞ジェー スー˜ワン [˞ʔun˜nenu ˞ja:˜ja ta̤˞ka˜daina: ˜ʔarunda: ka˞ʤiɸu̥ki˜nu ˜pimma: ka˞ʤe: su:˜waŋ](あのうちの家は高台にあるので、台風の時は風当たりが強い < 風が強い >)。

タ˞カ˜ダイ [ta̤˞ka˜dai] 【名】たかつき (高杯)。盃を載せる脚の付いた台。「高台」の義。約 13 センチ四方の盆に約 10 センチの脚が付いたもの。正月や祝儀の際に神前に供えて神酒を頂くのに用いる。˜ソンガチヌ ˜ピンマー タ˞カ˜ダイナ サ˞カシケー˜ シキティル ˜グシェー カ˞モーッ˜タ [˜soŋgatʃinu ˜pimma: ta̤˞ka˜daina sa̤˞kaʃi̥ke:˜ ʃi̥kitiru ˜guʃe: ka˞mo:t˜ta](正月の時には高台に盃を置いて < ぞ > 神酒は頂かれた)。

タ˞カッ˜ツァ [ta̤˞kat˜tsa] 【名】高所。高地。高台。崖の高いところ。崖っぷち。˜アイブ タ˞カッ˜ツァナー ˞ヤー˜バ ス˞クˇリ ˞ヌー˜スワ [˜ʔaibu ta̤˞kat˜tsana: ˞ja:˜ba su̥˞ku˜ri ˞nu:˜suwa](あんな高い所に家を造ってどうするつもりか)。

タ˞カッ˜ツァミチ [ta̤˞kat˜tsamitʃi] 【名】坂道。˞高所道」の義。ウ˞マン˜ トンマー タ˞カッ˜ツァミチ ˜ナリ ˞ブンダー キー˜ シ˞キラン˜カー ク˞ルブントꜜダー [ʔu˞man˜ tomma: ta̤˞kat˜tsamitʃi ˜nari ˞bunda: ki:˜ ʃi̥˞kiraŋ˜ka: ku˞rubunꜜda:](そこの所は坂道になっているから、気をつけないと転ぶよ)。

タ˞カ˜ディ [ta˞ka˜di] 【名】高い所。˞ウン˜ネーヤー タ˞カ˜ディナール ˜アルンダ カ˞ジアタリヌ スー˜ワツォー [˞ʔun˜ne:ja ta˞ka˜dina:ru ˜ʔarunda ka˞ʤiatarinu su:˜watso:](あの家は高台にあるので風当たりが強いそうだ)。

タ˞カ˜ディ ˞タウ [ta˞ka˜di ˞tau] 【連】高い所と低い所。˜ミチェー タ˞カ˜ディ ˞タウ˜ ナリ シ˞ジキティ サッ˜コー ア˞ラキグリ˜サン [˜mitʃe: ta̤˞ka˜di ˞tau˜ nari ʃi˞ʤikiti sak˜ko: ʔa˞rakiguri˜saŋ](道は高い所低い所と続いて歩きづらい)。

タ˞カ˜ディマ [ta̤˞ka˜dima] 【名】高い賃金。高給。˞高い手間賃」の義。ウ˞レー˜ タ˞カ˜ディマ パ˞ライ˜ル タ˞ナ˜ミケーンダ ア˞サバスナ [ʔu˞re:˜ ta̤˞ka˜dima pa˞rai˜ru ta˞na˜mike:nda ʔa˞sabasuna](彼は高い手間賃を払って頼んできたのだから、遊ばすな)。

タ˞カ˜ディマ トゥ˞リ˜プス [ta̤˞ka˜dima tu˞ri˜pu̥su] 【連】高給を取る人。˞高手間取る人」の義。ウ˞レーデージ˜ナ タ˞カ˜ディマ トゥ˞リ˜プスティ˞ダー [ʔu˞re: de:ʤi˜na ta̤˞ka˜dima tu˞ri˜pu̥suti˞da:](彼は大変な高給を取る人だそうだよ)。

タ˞カ˜トー [ta̤˞ka˜to:] 【名】でこぼこ (凸凹)。起伏があって平らかでないさま。高低があり、不揃いであるさま。タ˞カ˜トー ˜ナリ ˞ブン˜トンマー ア˞ラキングリ˜サン [ta̤˞ka˜to: ˜nari ˞bun˜tomma: ʔa˞rakiŋguri˜saŋ](でこぼこになっている所は歩きずらい)。

タ˞カドーリ [ta̤˞kado:ri] 【名】倒れた樹木が他の樹木にもたれかかっていること。˞タイ˜フーナ タ˞カドーリ シーベー˜ グジキーヤ ユ˞ダ˜ キシティ ウ˞タ˜シバ [˞tai˜ɸu:na ta̤˞kado:ri ʃi:be:˜ guʤiki:ja ju˞da:˜ ki̥ʃiti ʔu˞ta˜ʃiba](台風で折れて他の樹木にもたれかかっているデイゴの木は、枝は切って落としなさいよ)。

タ˞カ˜ナ [ta̤˞ka˜na] 【名】(地) 高那。西表島東北岸に位置する。サ˞キンダ [sa̤˞kinda](崎田) の崎を東に回ったところある。琉球王国時代から現代に至る地名。高那村は、1732 年に立村、明治 42 年 3 戸 6 人が小浜島へ移転し、廃村となった。昭和 2 年銅山 36 万坪が、同 45 年には温泉、ヒスイが発見された。世帯・人口は昭和 52 年 3 月 3 日。『角川日本地名大辞典』。タ˞カ˜ナには˜ウブシケー [˜ʔubuʃi̥ke:](大城家) の田圃があったが太平洋戦争後、耕作しなくなったという。舞踊のタ˞カ˜ナブシ [ta̤˞ka˜nabuʃi](高那節 < ザンザブロウ節 >) は、その歌詞と曲の特異さでも有名である。

タ˞カナキ [ta̤˞kanaki] 【名】˞高泣き」の義。声高に泣くこと。大声で泣く。ウ˞グビ˜ヌ ヤ˞ラビ˜ヌ ˜アイティ バ˞カヤーナー˜ナ タ˞カナキ シーベートꜜツォー [ʔu˞gubi˜nu ja˞rabi˜nu ˜ʔaiti ba˞kaja:na: ˜na ta̤˞kanaki ʃi:be:ꜜtso:](あんな大きな子供が喧嘩して、恥ずかしげもなく、大声を出して泣いているよ)。

タ˞カ˜ナブシ [ta̤˞ka˜nabuʃi] 【名】高那節。ザンザブロー節ともいう。躍動感に溢れた曲調で魅力的な古典民謡であるが、意味不明な歌詞でも有名である。タ˞カ˜ナブシェー ウ˞ムッ˜サンドゥ ウ˞タ˜ヌ イ˞メー˜ ムッ˞トゥ˜ サ˞バカラ˜ヌ [ta̤˞ka˜nabuʃe:

ʔu˞musˀsandu ʔi˞meː˺ mut˞tu˺ sa˞bakaraˀnu](高那節は面白いが、意味はちっとも理解できない)。

タ˞ガ˺ニ [ta˞gaˀni] 【名】たがね (鏨)。「鏨、金工・石工用の鑿」『和名抄』。「Tagane、タガネ (鏨・鑽) 銀を切るのに使う鑿」『邦訳日葡辞書』の転訛。タ˞ガ˺ニシル カ˞ニン˺ イ˞シン˺ キシン ˞シー˺ キ˞ジン ソーッ˺タ [ta˞gaˀniʃiru ka˞niŋ˺ ʔi˞ʃiŋ˺ kiʲʃiŋ ˞ʃiː˺ ki˞ʤin soːtˀta](鏨で＜ぞ＞鉄も石も切りもし、削りもされた)。

タ˞カ˺ニチ [tạ˞kaˀnitʧi] 【名】高熱。˞プーキ˺ カ˞カ˺リティ タ˞カニチ˺ヌ ン˞ジ˺ルカー ˺バサマッふァ シ˞ミティ˺ ス˞ブ˺ロー ヒ˞ヤ˺シティ ˺ウズ カ˞バ˺シ ˞ウシキソーッ˺タ˞ダー [˞puːki˺ kạ˞kaˀriti tạ˞kanitʧiˀnu ʔn˞ʤiˀrukaː ˺basamaffa ʃi˞mitiˀ su˞buˀroː çi˞jaˀʃi̥ti ˺ʔuʤu ka˞baˀʃi ˞ʔuʃi̥kisoːtˀta˞daː](マラリア＜風気＞に罹って高熱が出ると芭蕉枕をさせて頭は冷やして布団を被せて押し付けられたものだよ)。

タ˞カヌズミ [tạ˞kanuʤumi] 【名】高望み。自分の能力や身分を越えたことを望むこと。タ˞カヌズミ サンドー˺シ ˺ドゥーソーンヌ プ˞スバ˺ イ˞ラ˺ビバ [tạ˞kanuʤumi sandoː˺ʃi ˺duːsoːnnu pụ˞subaˀ ʔi˞raˀbi](高望みをしないで、自分にふさわしい＜自分並みの＞人を選びなさい)。

タ˞カバー˺ニーバル [tạ˞kabaː˺niːbaru] 【名】(動) 魚の名。和名、ツチホゼリ (体長約 90 センチ)。鳩間島では、あまり漁獲されなかった。タ˞カバー˺ニーバロー パ˞トゥ˺マナーテー ˞ナン˺ゾー ˞ホーサラン˺シェン [tạ˞kabaː˺niːbaroː pạ˞tuˀmanaːteː ˞nan˺ʤoː ˞hoːsaraŋ˺ʃeŋ](ツチホゼリは、鳩間島ではあまり釣れなかった)。

タ˞カ˺パイ [tạ˞kaˀpai] 【名】˞高這い」の義。乳幼児が尻を高くして這うこと。ヤ˞ラビ˺ヌ タ˞カ˺パイ ˞スー˺カー マナ˞マンチン˺ タ˞ティ˺ス [ja˞rabiˀnu tạ˞kaˀpai ˞suː˺kaː ˺mana˞mantʃin˺ tạ˞tiˀsu](乳幼児＜童＞が高這いすると、間もなく立つよ)。シ˞ビンダティパイ [ʃi˞bindatipai](尻立て這い。尻を高くして這うこと) ともいう。

タ˞カ˺バサ [tạ˞kaˀbasa] 【名】(植) 高芭蕉。˞アウバサ [˞ʔaubasa](台湾芭蕉で幹の背丈の高いもの) ともいう。タ˞カ˺バサー ˞タイワンバサ˺トゥ ユ˞ヌ˺ サニティ˞ダー [tạ˞kaˀbasaː ˞taiwambasaˀtu ju˞nu ˺saniti˞daː](高芭蕉は台湾芭蕉と同種だそうだよ)。

タ˞カパシ˺ル [tạ˞kapaʃiˀru] 【名】高窓。壁の上半分を窓にし、下半分を壁にしたもの。棒で戸を押し上げて開ける方式の窓、繰り戸方式の窓などがあった。タ˞カ˺マドゥ [tạ˞kaˀmadu](高窓) ともいう。鰹節製造工場が建てられるようになって導入された建築様式。タ˞カパシ˺ル ス˞ク˺リ ˺シケーンドゥ カ˞ジヌ ペーラン˺ユンダ キ˞クッツァ˺ヌ ニ˞バラヌ [tạ˞kapaʃiˀru sụ˞kuˀri ˺ʃi̥keːndu ka˞ʤinu peːranˀjunda ki̥˞kuttsaˀnu ni˞baranu](高窓を作ってあるが、風がはいらないので、暑苦しくて眠れない)。

タ˞カ˺バタ [tạ˞kaˀbata] 【名】たかはた (高機)。˞ジーバ˺タ [˞ʤiːbaˀta](地機) の対義語。織機の一つ。改良型の織機で、脚の高い織機。じばた (地機) よりも高く、踏み木を踏んでそうこう (綜糸光) を上下させて織る織機。「大和長機を改造して短く高く作った便利な新しい機で、八重山では明治二十一年、大浜当善が使用しはじめた」『石垣方言辞典』。パ˞トゥ˺マナテー ˞ウイ˺プソー ˞ジーバ˺タナー バ˞カー˺ムノー タ˞カバ˺タナール ˞ヌーノー˺ ウ˞ローッ˺タ [pạ˞tuˀmanateː ˞ʔuiˀpụso: ˞ʤiːbaˀtanaː ba˞kaː˺munoː tạ˞kabaˀtanaːru ˞nuːnoː˺ ʔu˞roːtˀta](鳩間島では年寄り＜老い人＞は地機で、若者は高機で布は織られた)。

タ˞カバ˺タ [tạ˞kabaˀta] 【名】織機 (高機)。ジ˞バ˺タ [ʤi˞baˀta](地機) の対義語。˞バー˺ル ˺マンタヌ ˺インナー タ˞カバ˺タ ˺タティ ˺シケー [˞baː˺ru ˺mantanu ˺ʔinnaː tạ˞kabaˀta ˺tạti ˺ʃi̥keː](私が前の縁側に高機の機織りをたてて＜設置して＞ある)。パ˞トゥ˺ムヌ タ˞ティ˺ルン [pạ˞tuˀmunu tạ˞tiˀruŋ](織機を立てる＜機織を始める＞) ともいう。

タ˞カ˺パナ [tạ˞kaˀpana] 【名】高い鼻。「高鼻」の義。ピ˞タパナ [pi̥˞tapana](平べったい鼻。平鼻) の対義語。ア˞メリカジン˺マー ムー˞ル˺ タ˞カパナ˺ ヤ˞ルンダ カイ˺ヤン [ʔa˞merikaʤimˀmaː muː˞ru˺ tạ˞kapanaˀ ja˞runda kaiˀjaŋ](アメリカ人は皆高鼻だから、美しい)。

タ˞カ˺バライ [tạ˞kaˀbarai] 【名】高笑い。大声で笑うこと。哄笑。ミ˞ドゥ˺モー タ˞カ˺バライ ス˞ナ˺ティル ナ˞ラー˺ソーッタ [mi˞duˀmoː tạ˞kaˀbarai su˞naˀtiru na˞raː˺soːtta](女は高笑いするなと＜ぞ＞教えられた)。˞ヌー˺ヌ ウ˞ムッ˺サ ク˞トゥ˺ヌ ア˞ロー˺ルユー プ˞スヌ˺ ア˞ツァ˺マリティ タ˞カ˺バライ ˞シーオー˺ル [˞nuː˺nu ʔu˞musˀsa kụ˞tuˀnu ʔa˞roː˺ruju: pụ˞sunuˀ ʔa˞tsaˀmariti tạ˞kaˀbarai ˞ʃiːʔoː˺ru](どんな面白いことがありなさるのか、人が集まって高笑いしておられる)。ミ˞ドゥ˺モー プ˞ス

ヌ˥　マイナー　タ˩カ˥バライ　˩サントダー [mi˩du˥ mo: pu̥˩sunu˥ maina: tḁ˩ka˥barai ˩san↓da:](女は人前では高笑いしないものだよ)。

タ˩カバラ˥ビ [tḁ˩kabara˥bi] 【名】(植) ヘゴ。茎は太く直立して 4〜5 メートルに成長する大型のシダ植物。葉は笠状に幹の先端に付く。西表島の湿地帯に多く自生している。タ˩カバラ˥ベー　パ˩トゥ˥マナー　ミ˩ララン˥シェン [tḁ˩kabara˥be: pḁ˩tu˥mana: mi˩raraŋ˥ʃeŋ](へごは鳩間島には見られなかった)。

タ˩カ˥ビ [tḁ˩ka˥bi] 【名】たかべ (崇べ)。のりと (祝詞)。「たかべごと (崇べ言)、神を崇めたてまつり、願意を申し上げる言葉。ノダテゴトともいう。たたえる神の名、祈願をしている神女自身の名を唱え、それから願意をこめた言葉をとなえる」『沖縄古語大辞典』。ヤ˩マタカビ˥ヌ　˩ニン˥ガイ [ja˩matakabi˥nu ˩niŋ˥gai]< 山崇べの祈願 > の義。˩ニンガチニン˥ガイ [˩niŋgatʃiniŋ˥gai]< 二月願い。二月祈願 > で、˥アカカラジヌ　˥ニガイ [˥ʔakakaraʤinu ˥nigai]< 一般百姓の健康祈願 > が執り行われる際の祝詞。雨願い、害虫祓えの祈願のほかに山に出入りする際に毒蛇による危害が人畜に及ばぬよう祈願する祝詞などがある。

タ˩カ˥ビー [tḁ˩ka˥bi:] 【固】「高干瀬」の義。鳩間島を取り巻くリーフ (Coral reef) が˩ナーバレー [˩na:bare:] から南に延びて発達した干瀬。そこには˩シンイシ [˩ʃiŋʔiʃi](積み石) があって、他の干瀬よりも高くなっている。普通の珊瑚礁石とは異なり、海底火山が噴火したときに噴出した石だという。鳩間島の屋敷の石垣は、そこから石を運んで積み上げたものという (加治工伊佐氏談)。˩アールマイズニ [˩ʔa:rumaiʤuni](東前曽根) との間に約 50 メートルの天然の津口が形成されている。そこを、タ˩カビ˥ヌ　フ˩チ [tḁ˩kabi˥nu ɸu̥˩ʧi](高干瀬の津口) という。˩ウンパンシン˥マー　タ˩カビー˥ヌ　フ˩チ　マーリティル˥　イ˩サナケー　パッ˥タ [˩ʔumpaŋʃim˥ma: tḁ˩kabi:˥nu ɸu̥˩ʧi ma:ritiru˥ ʔi˩sanake: pat˥ta](運搬船はタカビの干瀬を回って石垣へ行った)。鳩間島への運搬船は其処を通って入港した。

タ˩カ ビ ー˥ヌ　イ˩ン タ ヌ˥　ス ニ [tḁ˩kabi:˥nu ˩ʔintanu˥ suni] 【連】高干瀬の西側の曽根。高干瀬との間に約 50 メートルの津口が形成されている。海路標識が立てられており、石垣島から鳩間島に入港する定期航海船や船浦、久浦、泊田、慶田、ヨシキラ、崎田あたりの田地耕作のために往来するイダフニ (サバニ) もこの津口から出入りする。

タ˩カ ビ ー˥ヌ　˩イ ン タ ヌ˥　ス ニ [tḁ˩kabi:˥nu ˩ʔintanu˥ suni] 【連】タ˩カ˥ビー [ta˩ka˥bi:](高干瀬) の西側の曽根の義。終戦後までは松の木の海路標識が立っていた。篤志家の寄合三戸氏が建てたものという (加治工伊佐直話)。石垣島から鳩間島へ出入港する船はこの標識を目印にして操船した。タ˩カビー˥ヌ　˩インタヌ˥　スニナーティン　カ˩ツシンマー˥　ザコー　˩トゥッ˥タン [tḁ˩kabi:˥nu ˩ʔintanu˥ sunina:tiŋ kḁ˩tsuʃimma:˥ ʤako: ˩tut˥taŋ](高干瀬の西側の曽根でもカツオ漁船は餌 < 雑魚 > を捕った)。

タ˩カ ビ ー˥ヌ　ウ˩ブ˥イ シ [tḁ˩kabi:˥nu ʔu˩bu˥ʔiʃi] 【連】「高干瀬の大石」の義。高干瀬にある大きな石。タ˩カ˥ビーナ　ウ˩ブイシ˥ヌ　˥アン [tḁ˩ka˥bi:na ʔu˩buʔiʃi˥nu ʔaŋ](高干瀬に大きな岩がある)。

タ˩カビ˥ヌ　ウ˩ブ˥イシ [tḁ˩kabi˥nu ʔu˩bu˥ʔiʃi] 【連】高干瀬にある大石。大石のある所。

タ˩カビ˥ヌ　フ˩チ [tḁ˩kabi˥nu ɸu̥ʧi] 【連】高干瀬の津口。タ˩カ˥ビー [tḁ˩ka˥bi:](高干瀬) の西側、˩アーラマイズニ [˩ʔ:ramaiʤuni](東前曽根) との間にある約 50 メートルの津口。島の代表的な津口。石垣・鳩間・西表祖納・白浜の定期航海船が出入りするである。「冨川親方八重山島諸村公事帳」(同治 14) によると「鳩間津口に諸船が潮懸の時、役人か筆者は早速小舟を出して用を足す。とりわけ天候が悪い時は助船の活動が重要である」『石垣市史叢書 3』とあるから、現在の鳩間港には八反帆、六反帆の地船 (公用船) は接岸出来なかったことになる。島から刳り舟や剥ぎ舟の小舟で高干瀬の津口まで漕ぎ出して用を足した。

タ˩カビン˥フチ [tḁ˩kabiŋ˥ɸu̥ʧi] 【名】高干瀬の津口。タ˩カビ˥ヌ　フ˩チ [tḁ˩kabi˥nu ɸu̥˩ʧi](高干瀬の津口) ともいう。タ˩カ˥ビ [tḁ˩ka˥bi](高干瀬) と˩アーラマイズニ [˩ʔa:ramaiʤuni](東前曽根) との間にある津口。鳩間島の桟橋から南南東約 2 キロの海にある津口で島の二大津口の一つ。石垣、鳩間、西表租納、白浜の定期航海船の出入りした津口である。西表島北岸の、˩クーラ [˩ku:ra](久浦)、トゥ˩マダー [tu˩mada:](トゥマダ。苫田)、˩ケー˥ダ [˩ke:˥da](慶田)、˩ユシ˥キダー [˩juʃi̥˥kida:](ヨシキ田)、サ˩キンダー [sa˩kinda:](崎田) あたりへ水田耕作のために漕ぎ出す˥イダフニ [˥ʔidaɸuni](板船。サバニ) もこの津口から出入りした。˩ウンパンシン˥マー　タ˩カビン˥フチトゥ　˩インタヌ　ウーグ˥チラル　˥ンジペ

ーレー　シ˞タル [˞ʔumpaŋʃim˞ma: tạ˞kabiŋ˞ɸụtʃitu ˞ʔintanu ʔu:gu˞tʃiraru ˞ndʒipe:re: ʃị˞taru](運搬船は、高干瀬の津口と西の大津口がら出入港＜出入り＞はしたものだ)。

タ˞カ˞プス [tạ˞ka˞pụsu] 【名】1背の高い人。のっぽ。カ˞ヌ˞　タ˞カ˞プソー　˞ター˞ヤ [ka˞nu˞ tạ˞ka˞pụso: ˞ta:˞ja](あの背の高い人は誰か)。2大人。成人。˞パー˞ク　ウ˞ブ˞プス　˞タカプス　ナリ˞ヨー [˞pa:˞ku ʔu ˞bu˞pụsu ˞tạkapụsu nari˞jo:](早く大人になりなさいよ)。

タ˞カ˞フダ [ta˞ka˞ɸuda] 【名】こうさつ (高札)。役場からの通知や住民に広く知らせるべき衛生上の厳守事項などを小型の掲示板に貼って約 1,5 メートルの杭に打ちつけて路傍に立てたもの。˞マンタヌ　˞ミチナー　タ˞カフダ˞ヌ　タ˞ティラ˞リ　˞ベー˞ヌ　˞ヌーティル　ア˞ル˞ワ [˞mantanu ˞mitʃina: tạ˞kaɸuda˞nu tạ˞tira˞ri ˞be:˞nu ˞nu:tiru ʔa˞ru˞wa](前の道に高札が立てられているが、何と＜書かれて＞あるか)。

タ˞カ˞フタイ [tạ˞ka˞ɸụtai] 【名】おでこ。額が高く突き出た人。˞ガッ˞パイ [˞gap˞pai](額が高く突き出た人) ともいう。タ˞カフタイ˞ヤ　˞タッ˞テヌ　マ˞リ˞ティ　サ˞バキヤッ˞サン [tạ˞kaɸụtai˞ja: ˞tat˞tenu ma˞ri˞ti sa˞bakijas˞saŋ](おでこは何処の家の血統かをたどりやすい)。˞ガッ˞パイ [˞gap˞pai](おでこ。おでこの大きい人)。ヤ˞ラ˞ビ　˞シェーン˞ケンラ　タ˞カ˞フタイ　˞ヤッタヌ˞　アイ　˞ヤーティ˞ル　ス˞ブ˞ロー　˞カチ　˞ブーバントナー [ja˞ra˞bi ˞ʃe:ŋ˞kenra ta˞ka˞ɸụtai ˞jattanu˞ ʔai ˞ja:ti˞ru su˞bu˞ro: ˞katʃi ˞bu:banl-na:](子供の頃からおでこだったが、それで＜そうだったので＞頭は優れて＜勝って＞いるのだなあ)。

タ˞カ˞ブルン [t˞kạ˞buruŋ] 【自動】威張る。自慢する。奢り高ぶる。高慢な態度をとる。˞高ぶる」の義。標準語からの借用語。ウ˞ヤ˞キ　シ˞ター˞　タ˞カ˞ブリティ　˞バンター˞トー　パ˞ナ˞シン　サ˞ヌ [ʔu˞ja˞ki ʃị˞ta:˞ tạ˞ka˞buriti ˞banta:˞to: pa˞na˞ʃin sa˞nu](金持ちになったので威張って私らとは話もしない)。タ˞カブラン˞ドーシ　ドゥ˞シトゥン˞　ピライバ [tạ˞kaburan˞do:ʃi du˞ʃitum˞ piraiba](威張らないで友人とも付き合いなさい)。イッ˞ケナ˞　タ˞カ˞ブルンティ　ス˞クタンドゥ˞　タ˞カ˞ブル　˞ヨー˞シェー　ノー˞ン˞　ミ˞ララ˞ヌ [ʔik˞kena˞ tạ˞ka˞burunti sụ˞kutandu˞ tạ˞ka˞buru ˞jo:˞ʃe: no:˞m˞ mi˞rara˞nu](非常に威張ると聞いたが、威張る様子はなにも見られない)。ン˞メーマー˞　タ˞カ˞ブレー　˞ミサムヌ [ʔm˞me:ma:˞ tạ˞ka˞bure: ˞misamunu](少しは威張っても良いのに)。˞ワンザーヤ　タ˞カ˞ブリバ [˞wandʒa:ja tạ˞ka˞buriba](お前は威張りやがれ)。

タ˞カマッ˞ふァ [tạ˞kamaf˞fa] 【名】高枕。高く作った木製の枕。タ˞カマッ˞ふァ　˞サン˞カー　ヌ˞ブシティ˞　ニ˞バラヌ [tạ˞kamaf˞fa ˞saŋ˞ka: nu˞buʃị˞ti˞ ni ˞baranu](高枕をしないと頭がのぼせ＜逆上せ＞て眠られない)。

タ˞カ˞マドゥ [tạ˞ka˞madu] 【名】高窓。壁の半分を繰り戸の窓にしたもの。˞ハン˞マドゥ [˞ham˞madu](半窓)、タ˞カパシ˞ル [tạ˞kapaʃi˞ru](高窓) ともいう。タ˞カ˞マドゥ　ア˞キティ˞　カ˞ジ˞　イ˞リリ [tạ˞ka˞madu ʔa˞kiti˞ ka˞dʒi˞ ʔi˞riri](高窓を開けて風を入れなさい)。タ˞カパシ˞ロー　˞タイフー˞ヌ　˞クー˞バン　˞ソーヤ　ナー˞ヌ [tạ˞kapaʃi˞ro: ˞taiɸu:˞nu ˞ku:˞ban ˞so:ja na:˞nu](高窓＜半窓＞は台風が来ても心配はない)。

タ˞カ˞マルン [tạ˞ka˞maruŋ] 【自動】高まる。物事の程度や度合いが高くなる。˞ビンキョー　スンティ　スー˞　キ˞ムチヌ˞　タ˞カ˞マルンティ　ウ˞ムータ˞ヌ　˞ピッ˞チン　タ˞カマラン˞バン [˞biŋkjo: sunti su:˞ ki˞mutʃinu˞ tạ˞ka˞marunti ʔu˞mu:ta˞nu ˞pit˞tʃin tạ˞kamaram˞baŋ](勉強しようという＜する＞気持ちが高まると思ったが、ちっとも高まらないよ)。タ˞カ˞マリ　˞ケーン [tạ˞ka˞mari ˞ke:ŋ](高まってきた)。タ˞カ˞マル　˞クトー　˞ナー˞ヌ [tạ˞ka˞maru ˞kụto: ˞na:˞nu](高まることはない)。タ˞カ˞マレー　˞ミサムヌ [tạ˞ka˞mare: ˞misamunu](高まれば良いのに)。

タ˞カミ˞ルン [tạ˞kami˞ruŋ] 【他動】高める。高くする。カ˞ツブシヌ　ダイヤー˞　ン˞ベーマ˞　タ˞カミ˞ルンティ　シ˞タンドゥ˞　タ˞カミラン˞バン [kạ˞tsubuʃinu daija:˞ ʔm˞be:ma˞ tạ˞kami˞runti ʃị˞tandu˞ tạ˞kamiram˞baŋ](鰹節の値段は少し高めると言ったが高めないわい)。タ˞カミ˞ル　˞クトー　ナ˞ラン˞ツォー [tạ˞kami˞ru ˞kụto: na˞ran˞tso:](高めることは出来ないそうだ)。˞マー˞ビン　タ˞カミ˞レー　˞ミサムヌ [˞ma:˞bin tạ˞kami˞re: ˞misamunu](もっと高めればいいのに)。タ˞カミ˞　プサカー　タ˞カミ˞リバ [tạ˞kami˞ pụsaka: tạ˞kami˞riba](高めたければ高めろよ)。

タ˞カ˞ムヌ [tạ˞ka˞munu] 【名】高い物。高価な品。値段の高い物。˞ジン˞ヌ　˞ナーン˞カー　タ˞カ˞ムノー　˞カウナ [˞dʒin˞nu ˞na:ŋ˞ka: tạ˞ka˞muno: ˞kauna](お

金が無ければ高価な物＜値段の高い物＞は買うな)。

タ˞カ˩ムン [tạ˞ka˩muŋ] 【他動】高める。˞マー˥ビン　˥クイ　タ˞カ˩ムン [˞ma:˩biŋ ˩kui tạ˞ka˩muŋ](もっと声を高める)。˞クイ˥ヤ　タ˞カマン˥ドーシ　˥ウタ　イ˞ジ˥バ [˞kui˩ja tạ˞kaman˩do:ʃi ˩ʔuta ʔi˞ʤi˩ba](声を高めないで歌を歌いなさいよ)。

タ˞カ˥ヤー [tạ˞ka˩ja:] 【名】二階建ての家。「高屋」の義。老年層のことば。若年層は、˥ニカイヤー [˩nikai-ja:](二階家) という。ム˞カ˥シェー　タ˞カ˥ヤーティ　˞スー˥　ム˞ノー˥　˥ミリ　ミ˞ラン˥シェン [mu˞ka˥ʃe: tạ˞ka˩ja:ti ˞su:˥ mu˞no:˥ miri mi˞raŋ˥ʃeŋ](昔は二階建ての家というものは見たことがなかった)。

タ˞カ˥ヤマ [tạ˞ka˩jama] 【名】沖縄相撲の技の一手。自分の腰に相手の体を乗せ、高く持ち上げて投げ飛ばす技。˥ヤマ [˩jama](罠。仕掛け。装置。からくり)。タ˞カ˥ヤマ　カ˞キラ˥リ　˞ナンギラ˥リティ　˥ドゥー　ヤ˞マ˥シ　˥シケー [tạ˞ka˩jama kạ˞kira˥ri ˞naŋgira˩riti ˩du: ja˞ma˥ʃi ˩ʃi̥ke:](腰で高く持ち上げられ＜タカヤマを掛けられ＞投げ飛ばされて体を痛めてある)。

タ˞カ˥ラ [tạ˞ka˩ra] 【名】宝。宝物。˞ノーン˥ラン　ヌ˞チ˥ル　タ˞カ˥ラ [˞no:n˩ran nu˞ʧi˩ru tạ˞ka˩ra](何よりも命が宝＜大切＞だ)。ッ˞ふァタカラティル˥　アル˞ダー˥　カ˞ナ˥サ　˞シー˥　ス˞ダティ˥リ˞ヨー [f˞fatakaratiru˥ ʔaru˞da:˥ ka˞na˥sa ˞ʃi:˥ su˞dati˥ri˞jo:](子宝といわれているんだよ。可愛がって慈しんで育てなさいよ)。˞ウイ˥プソー　タ˞カ˥ラ˞ダー˥　ッ˞ソーンツァー　シェー˥　ナ˞ラン˥ダー [˞ʔui˥ pu̥so: tạ˞ka˩ra˞da:˥ s˞so:ntsa: ʃe:˥ na˞ran˥da:](老人は宝だよ。粗略に扱ってはならないよ)。

タ˞カラ˥ムヌ [tạ˞kara˩munu] 【名】宝物。ニ˞シ˥ドーウガンナー　タ˞カラムヌ˥ヌ　ア˞ローッ˥タンティ　パ˞ナ˥シ　ス˞クタン [ni˞ʃi˥do:ʔuganna: tạ˞kara-munu˥nu ʔa˞ro:t˥tanti pa˞na˥ʃi su̥˞kutaŋ](西堂御嶽には宝物があった＜有られた＞という話を聞いたことがある)。

˥タキ [˥tạki] 【名】1丈。身長。タ˞キ˥ヌ　タ˞カー˥ン [tạ˞ki˥nu tạ˞ka:˥ŋ](身長が高い)。2程度。身の程。地位。能力。身分。ユ˞ヌタキ˥ル　˥アルンダル　˥アウ [ju˞nutaki˥ru ˥ʔarundaru ˥ʔau](同じ程度しかないので＜同じレベルだから＞喧嘩をするのだ)。˥タケー　˞ナー˥ムティ　ウ˞ブ˥ムニ　カー˞ニ˥　イ˞ズ [˥tạke: ˞na:˥muti ʔu˞bu˥muni ka:˞ni˥ ʔi˞ʤu](能力はないのに大言壮語＜大きな言葉＞だけいう)。

タ˞キ [tạ˞ki] 【名】竹。「～吾が苑の多氣乃＜タケノ＞林に～。万、824」の転訛したもの。鳩間島には竹はほとんど植栽されていないが西表島の水田の周辺や山野から伐ってきて利用した。ン˞ガ˥ダキ [ʔŋ˞ga˥daki](和名ホウライチク。篭や竹細工用に利用)、˞マータク [˞ma:taku](和名ダイサンチク、泰山竹。竿、天秤棒、竹細工に利用)、シ˞ブクダキ [ʃi˞bukudaki](和名ホテイチク、布袋竹。釣竿、杖、垣根に利用。˥クサンダキ [˥kụsandaki]＜鼓山竹＞ともいい、˞ポー˥キダキ [˞po:˥kidaki]＜箒竹。竹箒に利用＞ともいう)、˞ダイ˥マー [˞dai˥ma:](和名カンザンチク)。ク˞モーマダキ [ku˞mo:madaki]＜小浜竹＞ともいう。笛材。竹床材、屋根葺きのユ˞チル [ju˞ʧiru](えつり＜桟＞材に利用)『図鑑琉球列島有用樹木誌』などがあった。

˥ダキ [˥daki] 【接尾】高山。山岳。˥タキ [˥taki](嶽。岳)が前接語と複合語を形成する際に連濁を起こしたもの。独立しては用いられず、特定の地名の下に付いて用いられる。˥クンダキ [˥kundaki](古見岳)。ウ˞ム˥トゥダキ [ʔu˞mu˥tudaki](於茂登岳)。

˥ダキ [˥daki] 【副助】～だけ。～のみ。限定、限度、限界、を表す。**(1)** 係助詞˥-ヤ [˥-ja](～は) が付く。(i) 限定。ウ˞リダケー˥＜ウ˞リカーネー˥＞　ヌ˞カ˥シティ　ヌ˞カ˥ロー　ムー˞ル　カーシ [ʔu˞ridake:˥＜ʔu˞rika:ne:˥＞ nu˞ka˥ʃi̥ti nu˞ka˥ro: mu:˞ru ka:ʃi](それだけは残して残りは全部売りなさい)。(ii)　限界点。ム˞タ˥リダケー　˥ムタ [mu˞ta˥ridake: ˥muta](持てるだけは持とうよ)。**(2)** さらに格助詞˥-シ [˥-ʃi](～で) が付く。˥ウビダキシェー　ゾー˞イ˥　ナ˞ラ˥ヌ [˥ʔubidakiʃe: ʤo:˞i˥ na˞ra˥nu](それだけでは決して出来ない＜限定＞)。**(3)** さらに係助詞˥-ル [˥-ru](～ぞ) がつく。ム˞タ˥リダキル　˥ムトゥ　˞マービン˥マー　ム˞タラ˥ヌ [mu˞ta˥ridakiru ˥mutu ˞ma:bim˥ma: mu˞tara˥nu](持てるだけしか持たない＜持てるだけぞ持つ＞、それ以上は持たない＜限界点＞)。**(4)** さらに係助詞˥-ツァン [˥-tsaŋ](～すら。～さえ。だに) がついて最低限の限度を表す。ム˞タ˥リダキンツァン　˥ムティバ [mu˞ta˥ridakintsam ˥mutiba](持てるだけでも持てよ＜最低限の限度、限界点＞)。**(5)** さらに格助詞˥-ヌ [˥-nu](～の) が付く。ム˞タ˥リダキヌ　˞ニー˥ヤ　˥ムティ　˥パリツォー [mu˞ta˥ridakinu ˞ni:˥ja ˥muti ˥paritso:](持てるだけ＜限り＞の荷は持って行けとのことだ＜限界点＞)。**(6)** さらに格助詞˥-シ [˥-ʃi](～で) が付く。ム˞タ˥リダキシ　˥ミサバ　ヌ˞カ˥ロー　シ˞ティリ [mu˞ta˥ridakiʃi

˥misaba nuˬka˥ro: ʃi̥ˬtiri](持てるだけで良いから残りは捨てなさい)。

タˬキアイク [tạˬkiʔaiku] 【名】竹製のおうこ (枂)。竹製の天秤棒。直径約 5 センチ、長さ約 4 メートルの古いカツオ釣竿を利用して作った。この竹竿は九州より輸入されていた。タˬキアイコー˥ カˬロー˥ン ˥アリ ˬスー˥ワンダ シゥˬカイヤッ˥サン [tạˬkiʔaikoː˥ kaˬroː˥ŋ ˥ʔari ˬsuː˥wanda si̥ˬkaijas˥saŋ](竹製のおうこ < 枂 > は軽くもあり、強いから使いやすい)。

ダˬキウコー˥スン [daˬkiukoː˥suŋ] 【他動】抱き起こす。ˬヤミ˥プス ダˬキウコー˥スンティ ˬスンドゥ タン˥ガシェー ダˬキウコーサラ˥ヌ [jaˬmi˥pusu daˬkiʔukoː˥sunti ˬsundu taŋga˥ʃeː daˬkiʔukoːsara˥nu](病人を抱き起こそうとするが、一人では抱き起こされない)。ダˬキウコー˥シ ˥ミサカー ダˬキウコー˥ス ˥クトー ˥ナルン [daˬkiukoː˥ʃi ˥misakaː daˬkiukoː˥su ˥kụtoː ˥naruŋ](抱き起こして良ければ、抱き起こすことは出来る)。ダˬキウコー˥シェー ˥ミサムヌ [daˬkiukoː˥ʃeː ˥misamunu](抱き起こせば良いのに)。ダˬキウコー˥シ [daˬkiukoː˥ʃi](抱き起こせ)。

タˬキウビ [tˬkiubi] 【名】竹の輪。桶のたが (箍)。ˬウーキ˥ヌ タˬキウビ˥ シˬミ˥リ [ˬʔuːki˥nu tạˬkiubi˥ ʃiˬmi˥ri](桶のたが < 箍 > を締めろ)。

タˬキカウ [tạˬkikau] 【名】「竹香」の義。竹ひごで作った線香。イˬツァ˥カウ [ʔiˬtsa˥kau](板香) と共にウˬキナー˥カウ [ʔuˬkinaː˥kau](沖縄線香) といわれている。このタˬキカウ [tạˬkikau](竹香) はˬコー˥ロ [ˬkoː˥ro](香炉) に立てやすい特性はあるが、竹の芯が燃え残るので、法事が済むと燃え残りの部分を取り出さなければならず、不便である。現在はヤˬマトゥ˥カウ [jaˬmatu˥kau](大和線香) を利用することが多い。タˬキカウワー˥ ムˬカ˥シェーラヌ ウˬキナー˥カウ [tạˬkikauwaː˥ muˬka˥ʃeːranu ʔuˬkinaː˥kau](竹香は昔からの沖縄線香だ)。

ダˬキカカイルン [daˬkikakairuŋ] 【他動】抱きかかえる。ッˬふァバ˥ ダˬキカカイルンティ スンドゥ グッふァ˥ヌ ダˬキカカイララヌ [fˬfaba˥ daˬkikakairunti sundu guffa˥nu daˬkikakairaranu](子供を抱きかかえようとするが、重くて抱きかかえられない)。ダˬキカカイル˥ クトー ナˬルン˥ドゥ ダˬキカカイティ˥ パリパル ˥クトー ナˬラ˥ヌ [daˬkikakairu˥ kụtoː naˬrun˥du daˬkikakaiti˥ pariparu˥ kụtoː naˬra˥nu](抱きかかえることは出来るが、抱きかかえて走ることは出来ない)。ダˬキカカイヤー˥ ミサムヌ [daˬkikakaijaː˥ misamunu](抱きかかえればよいのに)。ッˬふァ˥ ダˬキカカイリ [fˬfa˥ daˬkikakairi](子供を抱きかかえなさい)。

ダˬキカカウン [daˬkikakauŋ] 【他動】抱きかかえる。ダˬキカカウンティ˥ ウˬムーン˥ドゥ ˬグッふァ˥ヌ ダˬキカカーラヌ [daˬkikakaunti˥ ʔuˬmuːn˥du ˬguffa˥nu daˬkikakaːranu](抱きかかえようと思うが重くて抱きかかえられない)。ダˬキカカイ˥ ミサカー ˬバン˥ヌン ダˬキカカウ˥ クトー ナˬルン˥ドゥ ˥ドゥーシ ダˬキカカイヤー˥ ミサムヌ [daˬkikakai˥ misakaː ˬban˥nun daˬkikakau˥ kụtoː naˬrun˥du ˥duːʃi daˬkikakaijaː˥ misamunu](抱きかかえてよければ、私も抱きかかえることは出来るが、自分で抱きかかえればよいのに)。˥ドゥーシ ダˬキカカイ˥バ [˥duːʃi daˬkikakai˥ba](自分で抱きかかえなさいよ)。

タˬキグサン [tạˬkigusaŋ] 【名】竹で作った杖。竹杖。「みごしやん」『混効験集 (乾・器材)』。「ゴシャンは杖にする材料である『ほていちく < 布袋竹 >』の別名、『こさんちく < 鼓山竹 >』からきたものである」『図説琉球語辞典』。ムˬカ˥シプソー ˥クサンダキシル グˬサン˥マー スˬク˥ローッタル [muˬka˥ʃipụsoː ˥kụsandakiʃiru guˬsam˥maː sụˬku˥roːttaru](昔の人はクサンダキ < 鼓山竹・琉球竹 > で < ぞ > 杖は作られたものだ)。

タˬキグシ [tạˬkiguʃi] 【名】竹串。ヤˬラ˥ビン タˬキグシ˥ ムˬタス˥ナ [jaˬra˥bin tạˬkiguʃi˥ muˬtasu˥na](子供に竹串を持たせるな)。

タˬキクラ˥ビ [tạˬkikura˥bi] 【名】せいくらべ (背比べ)。せたけ (背丈) を比べること。ˬワーットゥバン˥トゥ ˬタール˥ タˬカー˥ユー タˬキクラ˥ビ ˬシー˥ ミラ [ˬwaːttu ban˥tu ˬtaːru˥ tạˬkaː˥juː tạˬkikura˥bi ˬʃiː˥ mira](君と私と誰が高いか、背比べをしてみよう)。

タˬキサウ [tạˬkisau] 【名】竹竿。ムˬカ˥シェー ˬキン˥マー タˬキサウ˥ナ ヌˬキティル˥ プˬス˥タˬダー [muˬka˥ʃeː ˬkim˥maː tạˬkisau˥na nuˬkitiru˥ pụˬsu˥taˬdaː](昔は、着物は竹竿に抜き通して干したものだよ)。

タˬキシダル [tạˬkiʃidaru] 【名】細い竹を藁縄で編みこんで作った簾。鳩間島ではイˬガヤマ [ʔiˬgajama](烏賊干し用の張り縄) で一日干した烏賊を庭先で、シˬダ˥ル [ʃiˬda˥ru](簾) に並べて片面を午前中日干して乾燥し、午後に裏返して更に日干し乾燥した。こ

れを 2〜3 日繰り返してスルメを製造した。シ˞ダ˜ルナ　イ˞ガ˜　プシバ [ʃi˞da˜runa ʔi˞ga˜ pu̥ʃiba](簾にイカを干しなさいよ)。

タ˞キシブク [tḁ˞kiʃibuku] 【名】竹製の釣り竿。2〜3 メートルのシ˞ブクダキ [ʃi˞bukudaki](布袋竹。竹の種類。釣り竿を作る竹) で作った釣り竿。タ˞キシブク˜シ　ム˞チイズ　ホー˜スカー　ウ˞ムッ˜サン˞ダー [tḁ˞kiʃibuku˜ʃi mu˞tʃiidʑu ho:˜suka: ʔu˞mus˜san˞da:](竹竿でノコギリタイを釣ると楽しい < 面白い > よ)。

ダ˞キシミルン [da˞kiʃimiruŋ] 【他動】抱きしめる。締め付けるように強く抱く。ッ˞ふァ˜　ダ˞キシミルン [f˞fa˜ da˞kiʃimiruŋ](子供を抱きしめる)。ダ˞キシミティ˜　パ˞ナサ˜ヌ [da˞kiʃimiti˜ pa˞nasa˜nu](抱きしめて離さない)。ダ˞キシミラヌ [da˞kiʃimiranu](抱きしめない)。˜アイニ　ダ˞キシミル˜　クトー　ス˞ナ [˜ʔaini da˞kiʃimiru˜ ku̥to: su˞na](あんなに抱き締めることはするな)。˞マー˜ビン　ダ˞キシミレー˜　ミサムヌ [˞ma:˜bin da˞kiʃimire:˜ misamunu](もっと抱き締めれば良いのに)。ダ˞キシミリ [da˞kiʃimiri](抱き締めれ)。

ダ˞キシムン [da˞kiʃimuŋ] 【他動】抱き締める。「抱きしむ (下二段)」の四段活用に転訛したもの。ッ˞ふァ˜　ダ˞キシムン [f˞fa˜ da˞kiʃimuŋ](子供を抱き締める)。ダ˞キシマヌ [da˞kiʃimanu](抱き締めない)。ダ˞キシミ˜　プサン [da˞kiʃi˜mi ˜pu̥saŋ](抱き締めたい)。ダ˞キシム˜　クトー　ナ˞ラ˜ヌ [da˞kiʃimu˜ ku̥to: na˞ra˜nu](抱き締めることはならぬ < いけない >)。ダ˞キシメー˜　ミサムヌ [da˞kiʃime:˜ misamunu](抱き締めれば良いのに)。ダ˞キシミ˜バ [da˞kiʃimi˜ba](抱き締めよ)。

˜タキダカー [˜tḁkidaka:] 【名】身長の高い人。長身の人。˞丈高」の義。˞ウン˜ネヌ　プ˞ソー˜　ムー˞ル˜　タキダカーマリル　˞シーブー [˞ʔun˜nenu pu̥˞so:˜ mu:˞ru˜ tḁkidaka:mariru ˞ʃi:bu:](その家の人は皆長身の生まれ < 丈高の生まれ > をしている)。

タ˞キティブク [tḁ˞kitibuku] 【名】˞竹手矛」の義。ティ˞ブ˜ク [ti˞bu˜ku](手矛) は茅葺の屋根を葺く際に茅を押さえるのに用いる直径約 3、5 センチ、長さ約 4 メートル程度の若木や竹をいう。そのティ˞ブ˜クに竹を利用したもの。タ˞キティブク˜シ　˞ウシキティ˜　シ˞ミ˜ナーシ　タ˞ル˜キナ　˜カキ　˜シメーティル　ガ˞ヤーヤー˜ヤ　フ˞コーッ˜タ [tḁ˞kitibuku˜ʃi ˞ʔuʃi̥kiti˜ ʃi˞mi˜na:ʃi ta˞ru˜kina ˜kḁki ˜ʃime:tiru ga˞ja:ja:˜ja ɸu̥˞ko:t˜ta](竹手矛で押さえて締め縄で垂木に掛け、引き締めながら茅葺き屋根は葺かれた)。

タ˞キ˜ドゥン [tḁ˞ki˜duŋ] 【固】竹富島。石垣島の南西約 6km の海上に浮かぶ島。周囲 9,15km。標高 20,15m の隆起珊瑚礁からなる島。イ˞サンケーヌ˜　パンタナール　タ˞キドゥン˜ヌ　˜シマー　アル˞ダー [ʔi˞saŋke:nu˜ pantana:ru tḁ˞kidun˜nu ˜ʃima: ʔaru˞da:](石垣島の南方に竹富島はあるのだよ)。タ˞キ˜ドゥンプス [tḁ˞ki˜dumpu̥su](竹富島の人)。タ˞キドゥン˜ヌ　マ˞ミドー˜マー　イッ˞ケン˜　ウ˞ムッ˜サン [tḁ˞kidun˜nu ma˞mido:˜ma: ʔik˞keŋ˜ ʔu˞mus˜saŋ](武富のマミドーマ踊りは非常に面白い)。竹富方言では、˞テー˜ドゥン [˞te:˜duŋ] という。古くは、玻座間、仲筋、幸本、久間原、花城、はれはかの 6 か村があったという。乾隆 2 年 (1737) の調査報告では玻座間、仲筋の 2 集落に分かれている。『中山伝信録』には「達奇度奴」、『南島志』には「堂計止美」、ゴーウィルの『琉球覚書』には「タキトゥノン (Ta-ki-tou-non) と見える。隆起サンゴの石灰岩からなる島で、周囲 9,15 ㎞・最高標高 20,5m。島内に 28 もの拝所があり、種子取祭などの民俗芸能が盛んである。石垣島からの海底送水が昭和 51 年に実現し、10 万人の人が訪れる」『角川日本地名大辞典　47　沖縄県』。

タ˞キ˜ドゥンプス [tḁ˞ki˜dumpu̥su] 【名】竹富の人。˞竹富人」の義。˜シュリジョーヌ　イ˞シグスク˜　ス˞ヌ˜ヒャーンウタキヌ　イ˞シグスク˜　シ˞モーッ˜タニ˞シトーヤ˜　タ˞キ˜ドゥンプス　ヤ˞ローッ˜タツォー [˜ʃuriʤo:nu ʔi˞ʃigusu̥ku˜ su˞nu˜ça:ŋʔutakinu ʔi˞ʃigusu̥ku˜ ʃi˞mo:t˜ta ni˞ʃito:ja˜ tḁ˞ki˜dumpu̥su ja˞ro:t˜tatso:](首里城の石積みの城壁、園比屋武御嶽の石垣を積まれた西唐は竹富の人であられたそうだ)。

タ˞キ˜ドゥンムニ [tḁ˞ki˜dummuni] 【名】竹富方言。竹富ことば。「竹富物言い」の転訛したもの。タ˞キ˜ドゥンムネー　イ˞サナキムニトー˜　ヤ˞マシゥ˜カ　˞カウリ　ブー [tḁ˞ki˜dummune: ʔi˞sanakimunito:˜ ja˞masï̥˜ka ˞kauri bu:](竹富方言は石垣方言とはかなり違っている)。タ˞キ˜ドゥンムネー　パ˞ナムニ　スー　ムン˜　アリティ　イッ˞ケナ　カウリ　ブー˜ダー [tḁ˞ki˜dummune: pa˞namuni su: muŋ˜ ʔariti ʔik˞kena kauri bu:˜da:](竹富言葉は、鼻声にするのもあって、非常に変わっているよ)。

タ˞キ˜ナムヌ [tḁ˞ki˜namunu] 【連】これっぽっちの人間。この程度の人間。つまらぬ者。ウ˞ヌタキ˜ヌ　˜ムヌ [ʔu˞nutaki˜nu ˜munu](この程度の者 < 人間 >) ともいう。タ˞キ˜ナムヌヌ　˞スー˜　ワザー　シ˞

ベーニ˺ル　˺パイパル [tạ˞ki˺namununu ˞su:˺ wadʑa: ʃi˞be:ni˺ru ˺paiparu](つまらぬ者のすることは失敗ばかりする＜尻の方へぞ這っていく＞)。

タ˞キヌ˺カー [tạ˞kinu˺ka:] 【名】ちくひ (竹皮)。竹の幹を約 1 センチに割き、内皮を除去した外皮。タ˞キバーキ [tạ˞kiba:ki](竹製の笊) の素材として用いる。タ˞キバーケー˺　タ˞キヌ˺　カーシル　˺フム [tạ˞kiba:ke:˺ tạ˞kinu˺ ka:ʃiru ˺ɸumu](竹笊＜タキバーキ＞は竹の外皮で編む)。

タ˞キヌ˺カー・クバガサ [tạ˞kinu˺ka:-kubagasa] 【名】竹の子の皮で作った笠。軽くて、農作業の際に被って日除け用に利用した。主に台湾辺りから輸入されたが、島産のク˞バガサ [ku˞bagasa](蒲葵の葉で作った笠) よりも破れやすく、漁業者には利用されなかった。タ˞キヌ˺カークバガサー　カ˞ロー˺ンドゥ　ヤ˞リパヤー˺タ [tạ˞kinu˺ka:kubagasa: ka˞ro: ˺ndu ja˞ripaja:˺ta](竹の皮で作った笠は軽いが破れやすかった)。

タ˞キヌ˺ッふァ [tạ˞kinu˺ffa] 【名】(植) タケノコ (筍)。「竹の子」の義。鳩間島では、一般的にあまり食されなかった。西表島の山から採ってきて祝儀や法事の料理に利用する家もあった。タ˞キヌ˺ッふァー　パ˞トゥ˺マプソー　˞ナン˺ゾー　ン˞コーラン˺シェン [tạ˞kinu˺ffa: pạ˞tu˺mapu̥so: ˞nan˺dʑo: ʔŋ˞ko:raŋ ˺ʃeŋ](タケノコは、鳩間の人はあまり召し上がらなかった)。

タ˞キヌ˺　ブシ [tạ˞kinu˺ buʃi] 【連】竹の節。タ˞キヌ˺　ブシ　キ˞ジティ˺　グサン　ス˞ク˺リバ [tạ˞kinu˺ buʃi ki˞ʤiti˺ gusan su̥˞ku˺riba](竹の節を削って杖を作りなさいよ)。

タ˞キバーキ [tạ˞kiba:ki] 【名】竹皮製の笊。基底部を四角に編み、次第に丸く編み上げて作った竹皮製の大きな笊。堅く仕上がるので持ち運びに便利であり、主にイカ釣り漁用のイ˞ガバーキ [ʔi˞gaba:ki](イカ漁用の笊) として、また˞イー˺シトゥリ [˞ʔi:˺ʃituri](角又採集) 用の竹笊として利用された。小型のタ˞キバーキ [tạ˞kiba:ki] は芋を入れる容器として利用されることもあった。タ˞キバーキ˺ナ　˺ウン　イ˞リティ˺　ス˞ナカ˺ナー　ア˞ライ˺クー [tạ˞kiba:ki˺na ˺ʔuŋ ʔi˞riti˺ su˞naka˺na: ʔa˞rai˺ku:](竹製の笊に芋を入れて海で洗ってこい)。

タ˞キパシ [tạ˞kipaʃi] 【名】竹箸。竹製の箸。パ˞トゥ˺マプソー　˺パシェー　タ˞キバ˺　キシティ　˺ドゥーシル　ス˞ク˺ローッタル [pạ˞tu˺mapu̥so: ˺pạʃe: ta ˞kiba˺ ki̥ʃiti ˺du:ʃiru su̥˞ku˺ro:ttaru](鳩間の人は、箸は竹を切って自分で作られたものだよ)。

タ˞キブーチ [tạ˞kibu:ʧi] 【名】竹のむち (鞭)。ヤ˞ナクトゥ　スー˺カー　タ˞キブーチ˺シ　シ˞ビ˺　シ˞トゥ˺ナウン [ja˞nakutu su:˺ka: tạ˞kibu:ʧi˺ʃi ʃi̥˞bi˺ ʃi̥˞tu˺nauŋ](悪いことをすると竹の鞭でお尻を引っぱたく)。

タ˞キフダ [tạ˞kiɸuda] 【名】竹製の札。タ˞キフダ˺　ムティティ　˞ズンバン˺　ナ˞ラビ [tạ˞kiɸuda˺ mutiti ˞dʑumban˺ na˞rabi](竹札を持って順番に並びなさい)。

タ˞キフダル [tạ˞kiɸudaru] 【名】竹で作った柄杓。直径約 10 センチ、高さ約 15 センチの竹の筒に柄を付けて水瓶から水を汲み取るのに用いる道具 (柄杓)。「秀罇＜ホダリ＞取り、堅く取らせ」『古事記歌謡』の転訛したもの。戦後は缶詰缶を利用した˞カニフダル [ka˞niɸudaru](缶柄杓) が多くなった。ミ˞ジカメー˺ラ　フ˞ダ˺ルシ　ミ˞ジ˺　フ˞ミティ˺　ヌミバ [mi˞ʤikame:˺ra ɸu˞da˺ruʃi mi˞ʤi˺ ɸu˞miti˺ numiba](水瓶から柄杓で水を汲んで飲みなさいよ)。

タ˞キフディ [tạ˞kiɸudi] 【名】すみさし (墨刺)。竹筆。竹を割って箆のように作り、先端を細かく裂いて線描用に用い、片方は鉛筆大に尖らせ、先端部を細かく裂いて筆記用に用いるように作った筆。建築大工や船大工が˞シン˺スブ [˞ʃin˺subu](墨壷) からシ˞ミ˺ナー [ʃi˞mi˺na:](墨縄) を引き出し、墨縄を弾いて直線を引く際に用いる。˞サイ˺コー　タ˞キフディ˺シル　ノー˞ン　ジーヤ˺　カ˞コーッ˺タ [˞sai˺ko: tạ˞kiɸudi˺ʃiru no:˞n ʤi:ja˺ kạ˞ko:t˺ta](大工＜細工＞は竹筆でもって何でも、文字は書かれた)。

タ˞キ˺フドゥ [tạ˞ki˺ɸudu] 【名】1体格。身長。タ˞キ˺フドゥン　プ˞スソーン˺　フ˞ドゥビ　キー˺ブバノー˞ン　ソーヤ　ナー˺ヌ [tạ˞ki˺ɸudum pu̥˞suso:ŋ ˺ɸu˞dubi ki:˺buba no:˞n so:ja na:˺nu](体格も人並みに成長してきているので、何の心配もない)。2成人。一人前。˞ワー˺　タ˞キ˺フドゥ　イ˞ルバル˺　ク˞ヌ˺　クトー　パ˞ナサリ˺ル [˞wa:˺ tạ˞ki˺ɸudu ʔi˞rubaru ˺ ku˞nu˺ ku̥to: pa˞nasari˺ru](君が成人してから＜成人してはじめて＞、このことは話すことが出来る＜話される＞)。

タ˞キフン [tạ˞kiɸuŋ] 【名】竹釘。カ˞ツホーシ˺サウ [kạ˞tsuho:ʃi˺sau](カツオ釣竿) を利用し、長さ約 10 センチ、直径約 6 ミリの竹釘に作ったもの。箸の大きさに削って先端を尖らせて作った竹の釘。一旦錐で開けた穴に竹釘を打ち込んで用いる。˺イダ

フニ [˜ʔidaɸuni](板舟。サバニ) に用いる竹製の釘。サバニに金属製の釘を使うと錆びて船体が腐食するので、サバニには竹釘だけ使用する。接合する部分に直径約 5 ミリの錐で 10 センチ間隔に穴を開け、そこに竹釘を打ち込む。それらの間に˞フン˜ドゥ [˞ɸun˜du](ちきりじめ < 滕締め >、両端が広く、中がくびれた木製の一種のカスガイ < 鎹 >) を填め込む。また塗り物 (漆器) や木製の小道具などを接合する際にも小型の錐で穴を開けて竹釘を打ちこんで接合する。˜イダフニナーヤ　カ˞ニフンマー˜　シゥ˞カイ　オーラ˜ヌ　タ˞キフンドゥ˜　シゥ˞カイ　オー˜ル [˜ʔidaɸuninaːja ka˞niɸummaː˜ si̥˞kai ʔoːra˜nu tạ˞kiɸundu˜ si̥˞kai ʔoː˜ru](サバニには金釘は使われない。竹釘を < ぞ > 使われる)。

タ˞キフンツァ [tạ˞kiɸuntsa]【名】竹床。竹で編んだ床。ム˞カ˜シェー　タ˞キフンツァナー˜ル　タ˞タメー˜　ス˞クタル　タ˞タミヌ　ナーン˜　プ˞ソー˜　ニ˞ブク˜バ　シ˞キティ˜　ウ˞ヌ　ウイ˜ナー　˜ムス　ス˞コーッ˜タティ˞ダー [mu˞ka˜ʃeː tạ˞kiɸuntsanaː˜ru tạ˞tameː˜ sụ˞kutaru˜ tạ˞taminu naːm˜ pụ˞soː˜ ni˞buku ˜ba ʃi̥˞kiti˜ ʔu˞nu ʔui˜naː ˜musu sụ˞koːt˜tati˞daː](昔は竹床の上に畳は敷いたものだ。畳みのない人は、ニブク < 稲掃き 筵(イナバキムシロ)。藁で編んだ厚手の筵 > を敷いて、その上に莫蓙筵(ゴザムシロ)を敷いたそうだよ)。

タ˞キポーキ [tạ˞kipoːki]【名】竹箒。˞ポー˜キダキ [˞poː˜kidaki](箒竹)。シ˞ブクダキ [ʃi˞bukudaki](布袋竹。釣竿竹、ク˞サンダキ [kụ˞sandaki]< 鼓山竹 > ともいう) を切ってきて 5,6 本束ね、筆状の庭箒を作って利用した。タ˞キポーキ˜シ　ミ˞ナ˜カ　˞ポー˜キティ　˞ガッ˜コー　˜パリ [tạ˞kipoːki˜ʃi mi˞na˜ka ˞poː˜kiti ˞gak˜koː ˜pari](竹箒で庭を掃いてから学校へ行きなさい)。

タ˞キマミ [tạ˞kimami]【名】心臓。˞オー˜ヌ　タ˞キマミ [˞ʔoː˜nu tạ˞kimami](豚の心臓)。カ˞ツヌ˜　タ˞キマミ [ka˞tsunu˜ tạ˞kimami](カツオの心臓。幼児語では、ズッ˞カー˜マ [ʤuk˞kaː˜ma]< 小さな急須。おちんちん > ともいう)。˞オー˜ヌ　タ˞キマミ　カイ˜キー　イ˞ラキ˜ムヌ　ス˞ク˜リ [˞ʔoː˜nu tạ˞kimami kai˜kiː ʔi˞raki˜munu sụ˞ku˜ri](豚の心臓を買ってきて、炒めものを作れ)。

タ˞キヤシキ [tạ˞kijaʃi̥ki]【名】竹の生えている屋敷。イ˞ラムティナー˜ヤ　タ˞キヤシケー˜　ミ˞チ˜ブタ [ʔi˞ramutinaː˜ja tạ˞kijaʃi̥keː˜ mi˞tʃi˜buta](西表には竹屋敷は沢山あった)。

タ˞キヤマ [tạ˞kijama]【名】竹林。竹藪。˞バン˜テヌ　トゥ˞マダーヌ　ター˜ヌ　˞ウイヤー˜　タ˞キヤマ　ヤッタ [˞ban˜tenu tu˞madaːnu taː˜nu ˞ʔuijaː˜ tạ˞kijama jatta](私の家のトゥマダ田原 < 西表島伊武田地区の水田地帯 > の上は竹林であった)。˜ヤマ [˜jama] は、林、叢林のこと。˞パイタ˜ヌ　タ˞キヤマー˜ラ　ユ˞チルダキ˜　キシ　ン˞ザ˜ソーッタ [˞paita˜nu tạ˞kijamaː˜ra ju˞tʃirudaki˜ ki̥ʃi ʔn˞ʤa˜soːtta](西表の竹林から屋根葺き用のえつりだけ < 桟竹 > を伐り出された)。

タ˞キヤリ [tạ˞kijari]【名】竹槍。標準語からの借用語。太平洋戦争時にタ˞キヤリで訓練された時に定着した言葉。方言では˜フク [˜ɸu̥ku](槍。「矛」の義) という。˜フク [˜ɸu̥ku] は、猪狩りで猪を突き刺したり、烏賊釣り漁の際に鮪や鮫を突き刺すのに用いた。茅葺屋根を葺く際に用いる竹槍は、˞ヤーシキ˜パル [˞jaːʃi̥ki˜paru](家突き針) という。

タ˞キユチル [tạ˞kijutʃiru]【名】えつり (桟)。茅葺屋根のふきしたじ (葺下地) として垂木の上に竹を横に並べて編みこんだえつり。タ˞ルキ˜ヌ　˞ウイ˜ナ　タ˞キユチルバ˜　フミティ　˞ウン˜ナ　˜ガヤー　˞ヌーシティル˜　ガヤヤーヤ　フ˞コーッ˜タ [ta˞ruki˜nu ˞ʔui˜na tạ˞kijutʃiruba˜ ɸumiti ˞ʔun˜na ˜gajaː ˞nuːʃitiru˜ gajajaːja ɸu̥˞koːt˜ta](垂木の上に竹えつりを編んで、それに茅を載せて茅葺屋根は葺かれた)。

タ˞キヨージ [tạ˞kijoːʤi]【名】竹製の楊枝。˞竹楊枝」の義。標準語からの借用語。タ˞キヨージ˜サーリ　˞パー˜ヌ　˜ッス　フ˞ジ˜リ　˜トゥリ [tạ˞kijoːʤi˜saːri ˞paː˜nu ˜ssu ɸu˞ʤi˜ri ˜turi](竹楊枝で歯糞をほじくって < 穿って > 取れ)。普通はカツオの尾びれを砂浜に 2〜3 か月埋めてシ˞ダ˜シ [ʃi˞da˜ʃi](孵化させ。魚肉や軟骨を除去し海水で晒して楊枝に生まれ変わらせ) たものを使った。

タ˞キヨーチ [ta˞kijoːʧi]【名】竹簪。竹製の簪(カンザシ)。忌中の婦人が用いた簪。「竹楊枝」の義。ム˞カ˜シェー　ウ˞トゥザマリヌ˜　プ˞スヌ　マーラス˜カー　タ˞キヨーチ˜　ッ˞ソーッ˜タツォー [mu˞ka˜ʃeː ʔu˞tuʤmarinu˜ pụ˞sunu maːrasu˜kaː tạ˞kijoːʧi˜ s˞soːt ˜tatsoː](昔は親戚が亡くなると竹簪(タケカンザシ)を挿されたそうだ)。

タ˞キリ˜グイ [tạ˞kiri˜gui]【名】唸(ウナリ)り声。うめき声。˜マーラル　ヤ˞ル˜ユー　プ˞スヌ˜　タ˞キリグイ˜ヌ　シゥ˞カリン [˜maːraru ja˞ru˜juː pụ˞sunu˜ tạ˞kirigui˜nu si̥˞kariŋ](何処からか人のうめき声が聞こえる)。

タ˞キ˜ルン **[tạ˞ki˜ruŋ]** 【自動】1吠(ホエ)える。牛が哮(タケ)る。「⊠哮、タケル、サケフ、ホユ」『類聚名義抄』の転訛したもの。ウ˞シェー˜ ズ˞ブ˜マイ ˞スー˜カー タ˞キ˜ルン˞ダー [ʔu˞ʃe:˜ ʤu˞bu˜mai ˞su:˜ka: tạ˞ki˜run˞da:](牛は発情すると吠える＜猛る＞よ)。ビ˞キウシヌ˜ タ˞キ˜リ ˞ベー˜カー タ˞キラサン˜ ヨーニ ˞ミー˜ウシェー ミ˞シル˜ナ [bi˞kiʔuʃinu˜ tạ˞ki˜ri ˞be:˜ka: tạ˞kirasaɲ˜jo:ni ˞mi:˜ʔuʃe: mi˞ʃiru˜na](雄牛が吠えて＜哮って＞いるなら、牝牛を見せるな)。ウ˞シヌ˜ タ˞キ˜ル ˜ピンマー ˞ミー˜ウシ ミ˞シル˜ナ [ʔu˞ʃinu˜ ta˞ki˜ru ˜pimma: ˞mi:˜ʔuʃi mi˞ʃiru˜na](牛が哮る＜猛る＞時は牝牛を見せるな)。ビ˞キウシヌ˜ ズ˞ブ˜マイ シ˞ティ˜ タ˞キ˜ルカー ナ˞クラーン˜ダー [bi˞kiʔuʃinu˜ ʤu˞bu˜mai ʃị˞ti˜ tạ˞ki˜ruka: na˞kura:n˜da:](雄牛が発情して吠える＜哮る＞と怖いよ)。マ˞ナ˜マー タ˞キラ˜ヌ [ma˞na˜ma: tạ˞kira˜nu](今は吠えない)。ウ˞シヌ˜ タ˞キ˜ル ˜ピンマー ズ˞ブ˜マイジブン [ʔu˞ʃinu˜ tạ˞ki˜ru ˜pimma: ʤu˞bu˜maiʤibuŋ](雄牛が吠える時は発情期だ)。˞インヌ˜ タ˞キ˜ルカー ナ˞クラー˜ン [˞ʔinnu ta˞ki˜ruka: na˞kura:˜ŋ](犬が唸(ウナ)る＜猛る。哮(タケル)＞と怖い)。2唸る。キ˞ジヌ˜ ヤムカー タ˞キ˜レー ˜ミサムヌ ナー˞イ˜ ニジ ˞ベー [ki˞ʤinu˜ jamuka: tạ˞ki˜re: ˜misamunu na:˞i˜ niʤi ˞be:](傷が痛むのなら唸れば良いのに、じっと我慢している)。バ˞タ˜ヌ ヤ˞ミ˜ル ˞ユードゥー˜シ タ˞キ˜リ ˞ベー [ba˞ta˜nu ja˞mi˜ru ˞ju:du˜ʃi tạ˞ki˜ri ˞be:](腹痛＜腹が痛いの＞で一晩中＜夜通し＞唸って＜猛って＞いる)。うめく(呻(ウメ)く)。唸(ウナ)る。キ˞ジヌ˜ ヤムンダル タ˞キ˜ル˞ダー [ki˞ʤinu˜ jamundaru tạ˞ki˜ru˞da:](傷が痛むので呻(ウメ)くのだよ)。タ˞キ˜リ ˜ミサカー タ˞キルン˜ドゥ バ˞カ˜ヤンダ タ˞キラ˜ヌ [tạ˞ki˜ri ˜misaka: tạ˞kirun˜du ba˞ka˜janda tạ˞kira˜nu](呻(ウメ)いてよければ呻くが、恥ずかしいから呻かない)。˞マー˜ビン タ˞キ˜レー ˜ミサムヌ [˞ma:˜bin tạ˞ki˜re: ˜misamunu](もっと呻けばいいのに)。タ˞キ˜リバ [tạ˞ki˜riba](呻けよ)。

タ˞キンー˜マ **[tạ˞kiʔm:˜ma]** 【名】竹馬。二本の竹竿に、適当な高さに足がかりを作って、それに乗って遊ぶ遊具。˞キーン˜マ [˞ki:ʔm˜ma](木馬。木の竿に足がかりを作り、それに乗って遊ぶ遊具)ともいう。ヤ˞ラ˜ビ ˞シェーン˜ケンマー ˜ユー タ˞キンー˜マ ス˞ク˜リ ˞ヌーリ˜ ア˞サブタン [ja˞ra˜bi ˞ʃe:ŋ˜kema: ˜ju: tạ˞kiʔm:˜ma sụ˞ku˜ri ˞nu:ri˜ ʔa˞sabutaŋ](子供の頃はよく竹馬を作って乗って遊んだものだ)。

˜タク **[˜tạku]** 【名】(動)タコ(蛸)の総称。マダコ。˞ミートゥ˜ダク [˞mi:tu˜daku](夫婦蛸。つがい＜番いの蛸。マダコ＞)、ウ˞ムˇジ [ʔu˞mu˜ʤi](いいだこ＜飯蛸。腹に飯粒状の卵を持つ＞)。˜サーラダク [˜sa:radaku](手の長い痩せた蛸。島の人はそれを食しない)などが珊瑚礁の穴に生息する。ガ˞シ˜タク [ga˞ʃi˜tạku](燻製蛸)は保存食に、パ˞リタク [pa˞ritaku](蛸の手を裂いて日干し乾燥したもの)は石垣島へ輸出した。˞パームイジブン˜ヌ ヤ˞ラビン˜マー ガ˞シタク˜ヌ ˜ティー シ˞ビラソーッ˜タ [˞pa:muiʤibun˜nu ja˞rabim˜ma: ga˞ʃitaku˜nu ˜ti: ʃi˞biraso:t˜ta](歯が生える頃の乳児には燻製蛸の手を＜皮と吸盤を削り去って＞しゃぶらされた)。

タ˞ク˜アン **[taa˞ku˜ʔaŋ]** 【名】たくあんづけ(沢庵漬)。大根を樽に入れて塩をまぶし、米糠をたっぷり加えて重石を乗せ、漬け込んだもの。昭和35年ごろまで自家製の沢庵漬を作っていた。タ˞クアン˜マー ˞ヤーカー˜ジ ス˞ク˜リ ˞オーッ˜タン [tạ˞kuʔam˜ma: ˞ja:ka:˜ʤi sụ˞ku˜ri ˞ʔo:t˜taŋ](沢庵漬は家ごとに作っておられた)。

タ˞ク˜トゥリ **[tạ˞ku˜turi]** 【名】蛸捕り。鳩間島では干潮時に多くの女性が˜ガルユクン [˜garujukuŋ](先端部に鉤が付いた銛)を持って潮干狩りに行き、蛸を捕った。蛸の棲む穴を捜し、銛を差し込んで探ると蛸は手を伸ばしてくるので、頭部に銛を突き刺して引き出す。銛の先端部には鉤が付いているので蛸は銛から逃げられない。˞スー˜ヌ ˜ピスカー ミ˞ドゥムンケー˜ヤ ˜ガルユクンバ ˜ムティティ タ˞ク˜トゥリン イ˞ソー オーッ˜タ [˞su:˜nu ˜pị̈suka: mi˞dumuŋke:˜ja ˜garujukumba ˜mutiti tạ˞ku˜turiŋ ʔi˞so: ʔo:t˜ta](潮が引くと女性たちはガルユクン＜鉤付きの銛＞を持って蛸捕りに、干瀬へ行かれた＜潮干狩りに行かれた＞)。

˜タク ˜ナルン **[˜tạku ˜naruŋ]** 【連】泥酔してぐにゃぐにゃになる。「蛸になる」の義。˜ビータリティ ˜タク ナリ˞ベー [˜bi:tariti ˜tạku nari˞be:](泥酔して＜酔いつぶれて＞、蛸のようにぐにゃぐにゃになっている)。

タ˞ク˜ヌ ˜アナ **[t˞ku˜nu ˜ʔana]** 【連】蛸の穴。蛸の巣。タ˞ク˜ヌ ˜ヤナ [ta˞ku˜nu ˜jana](蛸の穴)ともいう。タ˞ク˜ヌ ˜アナー イ˞シェー˜マシ フ˞タ˜カ˞バ˜シ ˜スクンダ ˞ミシキグリ˜サン [tạ˞ku˜nu ˜ʔana: ʔi˞ʃe:˜maʃi ɸụ˞ta˜ ka˞ba˜ʃi ˜sụkunda ˞miʃị̈kiguri ˜saŋ](蛸の穴は、小石で穴の蓋をして置く＜穴を被

せておく＞ので見つけにくい)。

タ˞クˀヌ　イ˞ルンガーˀリ [tạ˞kuˀnu ʔi˞ruŋgaː˞ˀri]【連】蛸の色変わり。変わり方の激しいさまをいう。イッ˞ケナˀ　ウ˞バイティˀ　イロー　ˀフキ　イ˞ルˀッサイ　˞ベーンˀカヤーティ　ˀウムーカ　˞アッˀタニ　シ˞ラˀヌ　ア˞ガムンˀケン　˞クンˀゾー　ウ˞クˀリ　ソーン˞ドゥˀ　タ˞クˀヌ　イ˞ルンガーリˀトゥ　ユ˞ヌˀムヌ [ʔik˞kenaˀ ʔu˞baitiˀ ʔiroː ˀɸu̥ki ʔi˞rusˀsai ˞beːŋˀkajaːti ˀʔumuːka ˞ʔatˀtani ʃi˞raˀnu ʔa˞gamuŋˀkeŋ ˞kunˀʤoː ʔu˞kuˀri soːn˞duˀ tạ˞kuˀnu ʔi˞ruŋgaːriˀtu ju˞nuˀmunu](非常に驚いて顔の色は失せ＜色は抜け＞、真っ青になっているかと思うと、急に顔が赤らむほど怒って、まったく＜丁度＞蛸の擬態＜色変わり＞と同じだ)。

タ˞クˀヌ　ス˞ブˀル [tạ˞kuˀnu su˞buˀru]【連】1蛸の頭。˞ウイˀヤーティ　ˀタク　ス˞クˀ　ピンマー　シ˞グˀ　タ˞クˀヌ　ス˞ブˀル　グ˞ルッカイˀスカー　˞ピンギラˀヌ [˞ʔuiˀjaːti ˀtạku sụ˞kuˀpimmaː ʃi˞guˀ tạ˞kuˀnu su˞buˀru gu˞rukkaiˀsụkaː ˞piŋgiraˀnu](泳ぎながら蛸を突いて捕るときは、すぐ蛸の頭をひっくり返すと逃げない)。2つるつる頭。転じて˞禿頭」の義。˞ワーˀ　ス˞ブˀロー　タ˞クˀヌ　ス˞ブˀル　ˀナリ　˞ベー [˞waːˀ su˞buˀroː tạ˞kuˀnu su˞buˀru ˀnari ˞beː](君の頭はつるつるの禿げ頭になっているよ)。

タ˞クˀヌ　ˀティー [tạ˞kuˀnutiː]【連】蛸の足。「蛸の手」の義。タ˞クˀヌ　˞ティーˀヤ　˞ヤーティーˀ　アン [tạ˞kuˀnu ˞tiːˀja ˞jaːtiˀ ʔaŋ](蛸の足＜手＞は八本＜八手＞ある)。タ˞クˀヌティー　シ˞ビラスン [tạ˞kuˀnutiː ʃi˞birasuŋ](蛸の足＜手＞をしゃぶらせる。歯が生え始めた乳児に燻製蛸の手の吸盤や皮を除去してしゃぶらせ、離乳食の準備をした)。

タ˞クˀヌ　フ˞ル [tạ˞kuˀnu ɸu˞ru]【連】蛸の墨袋。「蛸の睾丸」の義。蛸の頭に納まっている鶏卵大の墨袋。美味しくはないが、利尿剤といわれていた。パ˞トゥˀマナテー　タ˞クˀヌ　ˀフロー　˞オーˀヌイーヌ　ˀダシナール　シゥ˞カイ　オーッˀタ [pạ˞tuˀmanate: tạ˞kuˀnu ˀɸuroː ˞ʔoːˀnuʔiːnu ˀdaʃinaːru sị˞kai oːtˀta](鳩間島では蛸の墨袋は豚の餌の出汁に使っておられた)。

タ˞クˀヌ　ˀヤー [tạ˞kuˀnu ˀjaː]【連】1蛸の巣。タ˞クンˀヤー [tạ˞kuɲˀjaː](蛸の巣＜家＞)ともいう。タ˞クˀヌ　˞ヤーˀヤ　イ˞シェーˀマ　カ˞バサˀリ　˞ブンダ　ミシキˀ　グ˞リˀサタン [tạ˞kuˀnu ˞jaːˀja ʔi˞ʃeːˀma ka˞basaˀri ˞bunda miʃị̈kiˀ gu˞riˀsataŋ](蛸の巣＜家＞は小石が被されているので見つけづらかった)。2最小限度の家財道具しかなく、家の中が片付けられているさま。蛸の巣に似ていることから比喩的に用いられる。タ˞クˀヌ　ˀヤートゥ　ビ˞キドゥムダチヌ　ヤーˀヤ　カ˞クˀレー　˞ナーˀヌ [tạ˞kuˀnu ˀjaːtu bi˞kidumudatʃinu jaːˀja kạ˞kuˀreː ˞naːˀnu](蛸の巣＜家＞と男所帯の家は、こざっぱりしているので隠せない。すぐ分かる)。

タ˞クˀマ [tạ˞kuˀma]【名】知恵者。奸計を企む者。悪知恵の働く者。˞ウンザーˀ　タ˞クˀマ　ヤ˞ルンダーˀ　プ˞ス　カシカーˀスン˞ダー　キーˀ　シ˞キˀリ˞ヨー [˞ʔundʑaːˀ tạ˞kuˀma ja˞rundaˀ pụ˞suˀ kạ˞ʃikaːˀsun ˞daː kiːˀ ʃị̈˞kiˀri˞joː](あいつは奸計を企む人だから、人を騙すよ。気を付けなさいよ)。

タ˞クˀムン [tạ˞kuˀmuŋ]【他動】企む。悪事を計画する。˞ヌーˀヌ　ワ˞ザˀバ　タ˞クˀムンティ　˞シー　アークˀワ [˞nuːˀnu wa˞ʤaˀba tạ˞kuˀmunti ˞ʃiː ʔaːkuˀwa](どんな事を企もうとしているのか)。ヤ˞ナクトーˀ　タ˞クマンˀドーシ　˞チャー　イークトゥバˀ　タ˞クˀム　ˀクトゥ [ja˞nakụtoːˀ tạ˞kumanˀdoːʃi ˞tʃaː ʔiːkutubaˀ tạ˞kuˀmu ˀkụtu](悪事は企(タクラ)まないで、いつも良い事を企てることだ)。˞イークトゥˀ　タ˞クˀメー　ˀミサムヌ [˞ʔiːkutuˀ tạ˞kuˀmeː ˀmisamunu](良い事を計画すればよいのに)。タ˞クˀミバ [tạ˞kuˀmiba](企め)。ˀアイブ　ˀムノー　タ˞クミ　ヤッˀサン [ˀʔaibu ˀmunoː tạ˞kumi jasˀsaŋ](あんなことは計画＜くわだて＞しやすい)。

タ˞クˀムン [tạ˞kuˀmuŋ]【他動】1たたむ(畳む)。折り重ねる。ˀキン　タ˞クˀムン [ˀkin tạ˞kuˀmuŋ](着物を畳む)。ˀウズ　タ˞クˀミティ　カ˞タジキˀリ [ˀʔuʤu tạ˞kuˀmiti kạ˞taʤikiˀri](布団を畳んで片付けなさい)。サ˞ミヌ　パーˀ　タ˞クマンˀドーシ　ヌ˞バˀシ [sa˞minu paːˀ tạ˞kumanˀdoːʃi nu˞baˀʃi](月桃の葉は畳まないで延ばせ)。バ˞サンˀパー　タ˞クˀムˀムノー　ア˞ラˀヌ [ba˞samˀpaː tạ˞kuˀmu ˀmunoː ʔa˞raˀnu](芭蕉の葉は畳むものではない)。˞カーラキキンマーˀ　タ˞クˀメー　ˀミサムヌ [˞kaːrakkimmaːˀ tạ˞kuˀmeː ˀmisamunu](乾燥した＜乾いた＞着物は畳めばよいのに)。ˀドゥーシ　タ˞クˀミ [ˀduːʃi tạ˞kuˀmi](自分で畳め)。2殺す。˞ウンザーˀ　アイブ　クトゥˀバ　˞シー　アッˀタル　ッ˞ふァバˀ　タ˞クˀミ　シ˞ティナーˀヌ [˞ʔundʑaːˀ ʔaibu kụ˞tuˀba ˞ʃiː ʔatˀtaru f˞faba tạ˞kuˀmi ʃị̈˞tinaːˀnu](あいつ＜彼奴＞は、あんなことをして、あたら子供を失って＜殺して＞しまったよ)。

タ˞クライ [tạ˞kurai]【名】血統。若年層は˞タックイ [

˞takkui](血統) ともいう。首里方言の [˞takkwi:](血統) からの転訛。「較、タクラブ」『黒本本節用集』の転訛したものか。[takurabi] → [takurawi] → [takurai] → [takkwi:] → [takkui] と音韻変化したものであろう。˞ワッ˜テヌ プ˞ソー˜ ビ˞コーンッふァ˜ カー˞ニ˜ ナ˞ソール˜ヌ タ˞クライ˜ ヤ˞ロー˜ル˞ナー [˞wat˜tenu pu̥˞so:˜ bi˞ko:ŋffa˜ ka:˞ni˜ na˞so:ru˜nu ta̤˞kurai˜ ja˞ro:˜ru˞na:](お宅 < 貴方の家 > の人は男の子だけ産みなさるが、血統であられるでしょうね)。

タ˞グ˜ラザン [ta˞gu˜radʑaŋ] 【名】漁船を陸揚げする際に引き綱のロープを巻き上げる装置 (ウインチ)。巻揚げ機 (老年層の言葉)。˜ビービー [˜bi:bi:](巻き上げ機) ともいう。カ˞ツシンマー˜ ジ˞キヌ˜ ウ˞ワール˜カー ˜マンタヌ パ˞マ˜ナー タ˞グ˜ラザン ˞マーシティ˜ ピ˞キアギ ソーッ˜タ [ka̤˞tsuʃim-ma:˜ dʑi˞kinu˜ ʔu˞wa:ru˜ka: ˜mantanu pa˞ma˜na: ta˞gu˜radʑam ˞ma:ʃi̥ti˜ pi̥˞kiʔagi so:t˜ta](カツオ漁船は漁期が終わると前の浜でタグラザンを回して陸上へ引揚げされた)。

タ˞クラ˜ムン [ta̤˞kura˜muŋ] 【他動】企む。悪事を企む。ヤ˞ナクトゥ˜ タ˞クラ˜ムン [ja˞nakutu˜ ta̤˞kura˜muŋ](悪事を企む)。ヤ˞ナクトー˜ タ˞クラマン˜ドーシ マッ˞トーバ シー [ja˞nakṵto:˜ ta̤˞ku-raman˜do:ʃi mat˞to:ba ʃi:](悪事を企まずに真直ぐ、正直にやれ < せよ >)。ヤ˞ナクトゥバ˜ タ˞クラ˜ミティ イ˞ザリベー [ja˞nakutuba˜ ta̤˞kura˜miti ʔi˞dʑaribe:](悪事を企んで叱られている)。ヤ˞ナクトゥ˜ タ˞クラ˜ム ˜クトー ナ˞ラ˜ヌ [ja˞nakutu˜ ta̤˞kura˜mu ˜kṵto: na˞ra˜nu](悪事を企むことはいけない < ならぬ >)。タ˞クラ˜メー ˜ミサムヌ [ta̤˞kura˜me: ˜misamunu](企めばよいのに)。タ˞クラミ˜ プサカー ˜ドゥーシ タ˞クラ˜ミ [ta̤˞kurami˜ pṵsaka: ˜du:ʃi ta̤˞kura˜mi](企みたければ自分一人で企め)。

タ˞クン [ta̤˞kuŋ] 【他動】 ¹炊く。˞カイ [˞kai](粥)、˞ヌー˜ル [˞nu:˜ru](糊) などを炊く意味に用いる。˜イー [˜ʔi:](ご飯)、˜スー [˜su:](お汁)、˞ズー˜シ [˞dʑu:˜ʃi](雑炊) などを炊く際は、バ˞カスン [ba˞kasuŋ](炊く。< 沸かす > の義か) を用いる。˞カイ˜ タ˞クンティ ベーン˜ドゥ ˞ゾー˜ブンニ タ˞カランバワー˜ タ˞キ ッふィーリ [˞kai˜ ta̤˞kunti be:n˜du ˞dʑo:˜bunni ta̤˞karamba wa:˜ ta̤˞ki ffi:ri](お粥を炊こうとしているが、上手に炊けない < 炊かれない > ので、君が炊いてくれ)。˞カイ˜ タ˞ク˜ ピンマー ˞マー˜ビン ミ˞ジ˜ イ˞リティ˜ タ˞ケー˜ ミサムヌ [˞kai˜ ta̤˞ku˜ pimma: ˞ma:˜bim mi˞dʑi˜ ʔi˞riti˜ ta̤˞ke:˜ misamunu](お粥を炊く時はもっと水を入れて炊けばよいのに)。˞カイ˜ タ˞キ˜バ [˞kai˜ ta̤˞ki˜ba](お粥を炊けよ)。²煎って搾油する。˞オー˜ヌ ˜アバ タ˞クン [˞ʔo:˜nu ˜ʔaba ta̤˞kuŋ](豚の脂を煎って搾油する)。

ダ˞クン [da˞kuŋ] 【他動】抱く。ッ˞ふァ˜ ダ˞クンティ スンドゥ カイナ˜ヌ ˜ヤミ ダ˞カラヌ [f˞fa˜ da˞kunti sundu kaina˜nu ˜jami da˞karanu](子供を抱こうとするが、腕が痛くて抱けない < 抱かれない >)。ダ˞ク˜˜ プ˞スヌ˜ ブ˞ラーンバ˜ ダ˞キ˜ ッ˞ふィーリ [da˞ku˜ pṵ˞sunu˜ bu˞ra:mba˜ da˞ki˜ f˞fi:ri](抱く人がいないので、抱いてくれ)。˜ドゥーシ ダ˞ケー˜ ミサムヌ [˜du:ʃi da˞ke:˜ misamunu](自分で抱けばいいのに)。ヤー˞ディン˜ ダ˞キ [ja:˞din˜ da˞ki](必ず抱け)。

˜-ダケー [˜-dake:] 【接尾】「～する能力」の意を表す。常に文末の打消しの助動詞˞ナー˜ヌ [˞na:˜nu](～ない) と呼応して用いられる。動作動詞、状態動詞の連用形に下接して条件可能を表し、文末の打消しの陳述によって条件可能を婉曲に打ち消す。マ˞ナ˜マー ˞バン˜マー カ˞キダ˜ケー ˞ナー˜ヌ [ma˞na˜ma: ˞bam˜ma: ka̤˞kida˜ke: ˞na:˜nu](今は、私には書くことができない < 書けそうにない >)。˞キュー˜ヤ ˜クナー ブ˞リダケー ナー˜ヌ [˞kju:˜ja ˜kuna: bu˞ridake: na:˜nu](今日はここに居ることができない < 居れそうにない >)。ク˞ヌブン˜シェー ˞バン˜マー プ˞ス˜ バ˞ライダケー ナー˜ヌ [ku˞nubuŋ˜ʃe: ˞bam˜ma: pṵ˞su˜ ba˞raidake: na:˜nu](このままでは、私には他人を笑うことができそうにない < 笑えそうにない >)。

˜タケー ッ˞シ [˜ta̤ke: ʃ˞ʃi] 【連】身の程をわきまえて。「身の丈を知って」の転訛したもの。自分の能力の程度をわきまえて。˞ドウー˜ヌ ˜タケー ッ˞シル˜ ムネー イ˞ズ˧ダー [˞du:˜nu ˜ta̤ke: ʃ˞ʃiru˜mune: ʔi˞dʑu˧da:](己の身の程をわきまえてものを言う < 話をする > のだよ)。

タ˞ケーラ [ta̤˞ke:ra] 【名】豚の脂肉を炒って油分を除去した残滓。豚の油粕。˞オー˜ヌ タ˞ケーラー ミー˜スナ カ˞ケー˜シティ ˞アンダミー˜ス ス˞ク˜ローッタ [˞ʔo:˜nu ta̤˞ke:ra mi:˜suna ka̤˞ke:˜ʃi̥ti ˞ʔandami:˜su sṵ˞ku˜ro:tta](豚の油粕を味噌に混ぜて油味噌を造られた)。

タ˞ゴー˜ムン [ta˞go:˜muŋ] 【自動】叱責されてひね

くれる (捻くれる)。ひがむ (僻む)。心がねじける。くじける (挫ける)。ウ˞リ　タン˞ガ　˞ドゥク　イ˞ズ˞カー　タ˞ゴー˞ムンダ　タ˞ゴーマサン˞ヨーニ　˞ムール˞ニ　イ˞ジ˞　シゥ˞カシ˞バ [ʔu˞ritaŋ˞ga ˞duku ʔi˞ʤu˞ka: ta˞go:˞munda ta˞gao:masaŋ˞jo:ni mu:˞ru˞ni ʔi˞ʤi˞ si̥ka∫i˞ba](あれ一人をあまり叱ると捻(ヒネ)くれるから、捻くれさせないように全員に対して叱って教えなさいよ)。タ˞ゴー˞ミ　˞ナー˞ヌ [ta˞go:˞mi ˞na:˞nu](捻くれてしまった)。ウ˞ビッ˞チンシ　タ˞ゴー˞ム　˞クトー　˞ナー˞ヌ [ʔu˞bit˞ʧiŋ∫i ta˞go:˞mu ˞ku̥to: ˞na:˞nu](これぽっちで捻くれることはない)。タ˞ゴー˞メー　˞ミサムヌ [ta˞go:˞me: ˞misamunu](捻くれたら良いのに)。タ˞ゴー˞ミバ [ta˞go:˞miba](捻くれろ)。

タ˞コー˞ラ [tḁ˞ko:˞ra] 【名】(動) 蛇の一種。サキシマスジオ。宮古群島、八重山群島に棲息する大型の無毒蛇。西表島の伊武田地区、トゥ˞マダ [tu˞mada](トマダ地区) には戦時中に体長約 2 メートルのタ˞コー˞ラが棲息していた。トゥ˞マダヌ　ター˞ヌ　˞アザナー　˞ユー　タ˞コーラ˞ヌ　˞アウ˞タトゥ　ウ˞ヤザ˞バ　˞ヌン˞クミ　ブ˞タン˞ダー [tu˞madanu ta: ˞nu ˞ʔaʤana: ˞ju: ta˞ko:ra˞nu ˞ʔauta˞tu ʔu˞jaʤa˞ba ˞nuŋ˞kumi bu˞tan˞da:](トゥマダ地区の田圃の畦にタコーラがよく蛙と鼠を飲み込んでいたよ)。

タ˞シ [tḁ˞∫i] 【名】補い。不足を足すこと。加えること。たしまえ。イ˞ズン˞　タクーン　ッ˞ふァイティ　ジーシキムヌ˞ヌ　タ˞シ　シー˞バ [ʔi˞ʤun˞ tḁkuŋ f˞faiti ʤi:∫i̥kimunu˞nu tḁ˞∫i ∫i:˞ba](魚も蛸も食べて滋養分の補いにしなさいよ)。

˞ダシ [˞da∫i] 【名】 1だし (出汁)。イ˞ズダシ [ʔi˞ʤu-da∫i](魚出汁)。˞オー˞ヌ　˞ダシ [˞ʔo:˞nu ˞da∫i](豚肉の出汁)。カ˞ツダシ [kḁ˞tsuda∫i](カツオ出汁)。カ˞ツダシヌ˞　シ˞キティ˞　イッ˞ケナ˞　ン˞マー˞ン [kḁ˞tsuda∫inu˞ ∫i̥˞kiti˞ ʔik˞kena˞ ʔm˞ma:˞ŋ](カツオ出汁が効いて非常に美味しい)。2小節(コブシ)。民謡、歌謡の装飾的節回し。情緒纏綿とした節回し。ウ˞リヌ˞　ウター　イッ˞ケナ˞　ダ˞シ˞ヌ　˞アルユンダ　シ˞キグトゥト˞ツォー [ʔu˞rinu˞ ʔuta: ʔik˞kena˞ da˞∫i˞nu ˞ʔarujunda ∫i̥˞kigutu˧˩tso:](彼の歌は非常に情緒纏綿とした節回し < 出汁 > があって、しみじみととした聞き応えのある優れた歌 < 聞きごと > だ)。

˞タシゥカ˞リン [˞tasi̥ka˞riŋ] 【自動】助けられる。救助できる。助かる。マ˞ナ˞マン　˞デー˞カー　˞タシゥカリン˞ドゥ　˞アトーケー　˞タシゥカラン˞ツォー [ma˞na˞man ˞de:˞ka: ˞tasi̥karin˞du ˞ʔato:ke: ˞tasi̥karan˞tso:](今ならば助かるが、後になったら助からないそうだ)。˞ドゥー　˞タン˞ガ　˞タシゥカ˞リ　˞ミサカー　˞タシゥカリ˞ル　˞クトー　˞ナルン [˞du: ˞taŋ˞ga ˞tasi̥ka˞ri ˞misaka: ˞tasi̥kari˞ru ˞ku̥to: ˞naruŋ](己一人助かってよければ助かる < 助けられる > ことは出来る)。˞ワー　タン˞ガーンツァン　˞タシゥカ˞レー　˞ミサムヌ [˞wa: taŋ˞ga:ntsan ˞tasi̥ka˞re: ˞misamunu](君一人でも助かれば良いのに)。

˞タシゥカ˞ルン [˞tasi̥ka˞ruŋ] 【自動】助かる。死やわざわい (禍)、罪などからまぬか < 免 > れる。救われる。若年層は、˞タシカ˞ルン [˞ta∫i̥ka˞ruŋ](助かる) という。ウ˞ブヤン˞　シ˞ティ　タシゥカ˞ルンカヤーティ　˞ソー　シー　ベータ˞ヌ　˞タシゥカラン˞シェン [ʔu˞bujaŋ˞ ∫i̥˞ti tasi̥ka˞ruŋkaja:ti ˞so: ∫i: be:ta ˞nu ˞tasi̥karaŋ˞∫eŋ](大病をして助かるかと心配していたが、助からなかった)。˞タシゥカリ˞　プサン [˞tasi̥kari˞ pu̥saŋ](助かりたい)。˞タシゥカ˞ル　˞ミチェー　˞アン [˞tasi̥ka˞ru ˞mitʃe: ˞ʔaŋ](助かる方法 < 道 > はある)。˞タシゥカ˞レー　˞ミサムヌ [˞tasi̥ka˞re: ˞misamunu](助かれば良いのに)。ヤー˞ディン　タシゥカ˞リ˞ヨー [ja:˞din tasi̥ka˞ri˞jo:](きっと助かりなさいよ)。

˞タシゥカルン [˞tasi̥karuŋ] 【自動】火が燃え出す。点火される。カ˞マチ˞ナ　˞ピー　˞タシキルンティ　スンドゥ˞　タ˞ム˞ノー　シ˞ミッケー˞リティ　˞タシゥカラヌ [ka˞matʃi˞na ˞pi: ˞ta∫i̥kirunti sundu˞ ta ˞mu˞no: ∫i˞mikke:˞riti ˞tasi̥karanu](竈に火を焚きつけよとするが、薪が湿って焚きつけられない)。˞マー　ン˞ベーマ　スー˞カー　˞タシゥカルン˞カヤー [˞ma: ʔm˞be:ma su:˞ka: ˞tasi̥karuŋ˞kaja:](もう少ししたら火が燃え出すか < 焚きつかれるか > なあ)。ウ˞ヌ　シー˞ヨーシェー　˞タシゥカル˞　クトー　˞ナー˞ヌ [ʔu˞nu ∫i:˞jo:∫e: ˞tasi̥karu˞ ku̥to: ˞na: ˞nu](このやり方では点火されることはない)。˞タシゥカリ　ナー˞ヌ [˞tasi̥kari na:˞nu](点火して < 点火されて > しまった)。˞タシゥカレー˞　ミサムヌ [˞tasi̥kare:˞ misamunu](点火すれば < 点火されれば > いいのに)。˞パー˞ク　˞タシゥカリリ [˞pa:˞ku ˞tasi̥kariri](早く燃え出せ < 点火されよ >)。˞タシゥカリ　ヤッ˞サン [˞tasi̥kari jas˞saŋ](焚きつかれ < 点火され > 易い)。

タシ˞カ [ta∫i̥˞ka] 【形動】確かである。しっかりして動かない。間違いない。確実である。「糸周密也、‥纏綿也、太志加爾 < たしかに >、又、牟豆末也加

爾＜むつまやかに＞」『新撰字鏡』。深く切実であるさま。「切々、敬也憂也、多志加爾＜たしかに＞」『新撰字鏡』の義。˥パル　˥クトー　タシ˩カ　ヤン˥ナー˩レー [˥paru ˥kʉto: taʃi̥˩ka jan˥na:˩re:](行くことは確かだろうねえ)。タシ˩カナ˥　クトー　ア˩ザラヌンドゥ˥　ノー˩シン˥　パ˩リ˥ス　˥パジ [taʃi̥˩kana ˥ kʉto: ʔa˩ʤarandu˥ no:˩ʃim˥ pa˩ri˥su ˥paʤi](確かなことは言えないが、きっと＜どうしても＞行くはずだ)。ウ˩ヌ˥　パ˩ナ˥シェー　タシ˩カ˥カヤー　ナ˩レー [ʔu˩nu˥ pa˩na˥ʃe: taʃi̥˩ka˥kaja: na˩re:](その話は確か＜確実な話＞だろうかねえ)。

タシ˩カ [taʃi̥˩ka] 【副】たしか (慥)。断言できないが多分〜。「切々、敬也憂也、多志加尓 (たしかに)」『新撰字鏡』の転訛したもの。ウ˩レー˥　タシ˩カ　ワール˥　パ˩ジミ˥　カケータティ　˥ウムー [ʔu˩re:˥ taʃi̥˩ka wa:ru˥ pa˩ʤimi˥ kʉke:tati ˥ʔumu:](それは確か君が最初に書いたと思う)。˥ウナー　タシ˩カ˥　ア˩リ˥ブタンドゥ　˩ナー˥ヌ　˩ヌー˥シタカヤー [˥ʔuna: taʃi̥˩ka˥ ʔa˩ri˥butandu ˩na:˥nu ˩nu:˥ʃi̥takaja:](そこに確かにあった＜有りおった＞が、無いさ。如何したのだろう)。

˩タシカミ˥ルン [˩taʃi̥kami˥ruŋ] 【他動】確かめる。真偽を確認する。曖昧な点を明確にする。ウ˩レー　ソームヌ˥ユー　˩タシカミ˥ルンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　˥ドゥーシェー　˩タシカミララン˥バ　˩ワー˥シ　˩タシ˥カミ　ッ˩ふィーリ [ʔu˩re: so:munu˥ju: ˩taʃi̥kami˥runti ʔu˩mu:n˥du ˥du:ʃe: ˩taʃikamiraram˥ba ˩wa:˥ʃi ˩taʃi̥˥kami f˩fi:ri](それは本物か＜真贋を＞を確かめようと思うが、自分では確かめられないから、君で確かめてくれ)。˩タシカミ˥ル　˥クトー　ク˩トゥヤッ˥サ　ナ˩リ˥スンドゥ　˥ナルカー　˥ドゥーシ　˩タシカミ˥レー　˥ミサムヌ [˩taʃi̥kami˥ru ˥kʉto: kʉ˩tujas˥sa na˩ri˥sundu ˥naruka: ˥du:ʃi ˩taʃi̥kami˥re: ˥misamunu](確かめることは簡単に出来るが、出来れば自分で確かめればいいのに)。˩パー˥ク　˩タシカミ˥リ [˩pa:˥ku ˩taʃi̥kami˥ri](早く確かめろ)。

˩タシカ˥ムン [˩taʃi̥ka˥muŋ] 【他動】確かめる。真偽を確認する。曖昧な点を明確にする。「たしかむ＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。˥フネー　イ˩チ˥　クーユー　˩タシカ˥ムンティ　˩クータン˥ドゥ　˩バシキティ　タシカマ˥ムティ　˥パリ　˩ナーン˥バ　˩ワー　ギー　タシ˥カミ　˥クー [˥ɸune: ʔi˩ʧi ˥ ku:ju: ˩taʃi̥ka˥munti ˩ku:tan˥du ˩baʃi̥kiti taʃi̥kama˥muti ˥pari ˩na:m˥ba ˩wa: gi: taʃi̥˥kamiti ˥ku:](船はいつ来るのか確かめようと来たが、忘れて確かめずに行ってしまったので、君が行って確かめて来い)。˩キュー˥ヤ　˩タシ˥カム　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˩kju:˥ja ˩taʃi̥˥kamu ˥kʉto: na˩ra˥nu](今日は確かめることは出来ない)。˥ドゥーシ　˩タシカ˥メー　˥ミサムヌ [˥du:ʃi ˩taʃi̥ka˥me: ˥misamunu](自分で確かめれば良いのに)。˩パー˥ク　˩タシカ˥ミ [˩pa:˥ku ˩taʃi̥ka˥mi](早く確かめよ)。

˩タシ˥キ [˩taʃi̥˥ki] 【名】助け。救助。助けること。˩ウイ˥プソー　バ˩カー˥ムヌヌ　˩タシキ˥ヌ　˩ナーン˥カー　イ˩キララ˥ヌ [˩ʔui˥pʉso: ba˩ka:˥mununu ˩taʃi̥ki˥nu ˩na:ŋ˥ka: ʔi˩kirara˥nu](老人は若者の助けがないと生きられない)。

˩タシキ˥ルン [˩taʃi̥ki˥ruŋ] 【他動】助ける。救助する。˩ウッふィプス　タシキ˥ルンティ　˥ウイ　˩パッタン˥ドゥ　˩タシキララン˥シェン [˩ʔuffipusu taʃi̥ki˥runti ˥ʔui ˩pattan˥du ˩taʃi̥kiraraŋ˥ʃeŋ](溺れた人を救助しに泳いでいったが、助けられなかった)。˩タシ˥キ　˥ミサカー　˩タシキ˥ル　˥クトー　˥ナルン [˩taʃi̥˥ki ˥misaka: ˩taʃi̥ki˥ru ˥kʉto: ˥naruŋ](助けて良ければ助けることは出来る)。˩パー˥ク　˩タシキ˥レー　˥ミサムヌ [˩pa:˥ku ˩taʃi̥ki˥re: ˥misamunu](早く助ければ良いのに)。ヤー˩ディン　タシキ˥リ [ja: ˩din taʃi̥ki˥ri](必ず助けなさい)。プ˩ス　タシキ˥ルンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩タンガ˥シェー　˩タシキララ˥ヌ　マー˩ズン˥シ　˩タシ˥キ　ッ˩ふィーリ [pʉ˩su taʃi̥ki˥runti ʔu˩mu:n˥du ˩taŋga˥ʃe: ˩taʃi̥kirara ˥nu ma:˩ʤuŋ˥ʃi ˩taʃi̥˥ki f˩fi:ri](他人を助けようと思うが一人では助けられない。一緒に助けてくれ)。˩タシキ˥ル　˥プソー　マー˩ズン˥シ　˩タシキ˥レー　˥ミサムヌ [˩taʃi̥ki˥ru ˥pʉso: ma:˩ʤuŋ˥ʃi ˩taʃi̥ki˥re: ˥misamunu](助けるときは一緒に助ければよいのに)。˩パー˥ク　˩タシキ˥リ [˩pa:˥ku ˩taʃi̥ki˥ri](早く助けろ)。

˩タシキルン [˩taʃi̥kiruŋ] 【他動】点火する。火を焚きつける。火を起こす。燃やす。シ˩トゥム˥ティ　˩パイ˥サ　カ˩マチ˥ナ　˥ピー　˩タシキルンティ　ベーン˥ドゥ　˩タシキランバ˥　ア˩カ˥シ　˥トゥギ　˩タシキ　ッふィーリ [ʃi̥˩tumu˥ti ˩pai˥sa ka˩matʃi˥na ˥pi: ˩taʃi̥kirunti be:n˥du ˩taʃi̥kiraramba˥ ʔa˩ka˥ʃi ˥tugi ˩taʃi̥ki ffi:ri](朝早く竈に火を焚きつけようとしているが、焚きつけられないからアカシ＜松脂を含む松の幹の欠片＞を持ってきて焚きつけてくれ)。˥ピー　˩タシキル˥　ピンマー　ア˩カ˥シシ　˩タシキレー˥　ミサムヌ [˥pi: ˩taʃi̥kiru˥ pimma: ʔa˩ka˥ʃiʃi ˩taʃi̥kire:˥ misamunu](火を焚きつける時はア

カシで焚きつければ良いのに)。˞パー˜ク　˞タシキリ [˞paː˜ku ˞taʃi̥kiri](早く焚きつけろ)。

タ˞ジナイ˜ルン [ta˞ʤinai˜ruŋ] 【他動】 1訪ねる。ウ˞ヌ˜　プ˞ス˜　タ˞ジナイ˜ルンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　˞タンガ˜シェー　タ˞ジナイララン˜ツォー [ʔu˞nu˜ pu̥˞su˜ ta˞ʤinai˜runti ʔu˞muːn˜du ˞taŋga˜ʃeː ta˞ʤinairaran˜tsoː](その人を訪ねようと思うのだが、一人では訪ねられないそうだ)。タ˞ジ˜ナイ　˜ミサカー　タ˞ジナイ˜ル　˜クトー　˜ナルン [ta˞ʤi˜nai˜ misakaː ta˞ʤinai˜ru ˜ku̥toː ˜naruŋ](訪ねて良ければ訪ねることは出来る)。˞パイ˜サ　タ˞ジナイ˜ヤー　˜ミサムヌ [˞pai˜sa ta˞ʤinai˜jaː ˜misamunu](早く訪ねれば良いのに)。ヤー˞ディン˜　タ˞ジナイ˜リ [jaː˞din˜ ta˞ʒinai˜ri](必ず訪ねなさい)。˜サンギンソーヌ　˜ヤー　タ˞ジナイ˜ルンティ　˞アークン˜ドゥ　タ˞ジナイララ˜ヌ　マー˞ズン˜　タ˞ジ˜ナイ　ッ˞ふィーリ [˜saŋginsoːnu ˜jaː ta˞ʤinai˜runti ˞ʔaːkun˜du ta˞ʤinairara˜nu maː˞ʤuŋ˜ ta˞ʤi˜nai ˞ffiːri](易者 < 三世相 > の家を探し訪ねているが探せない。一緒に探して < 訪ねて > くれ)。˞キュー˜ヤ　タ˞ジナイ˜ル　˜クトー　ナ˞ラン˜バ　˜アツァー　タ˞ジナイ˜ヤー　˜ミサムヌ [˞kjuː˜ja ta˞ʤinai˜ru ˜ku̥toː na˞ram ˜ba ˜ʔatsaː ta˞ʤinai˜jaː ˜misamunu](今日は訪ねることは出来ないから明日訪ねれば良いのに)。ヤー˞ディン˜　タ˞ジナイ˜リ [jaː˞din˜ ta˞ʤinai˜ri](必ず探し訪ねよ)。2尋ねる。問う。ッ˞サン˜カー　プ˞スン˜　タ˞ジナイ˜ル　˜クトゥ [s˞saŋ˜kaː pu̥˞sun˜ ta˞ʤinai˜ru ˜ku̥tu](知らなければ他人に尋ね聞くこと)。

タ˞ジ˜ナウン [ta˞ʤi˜nauŋ] 【他動】 1訪ねる。˞ウン˜ネー　タ˞ジ˜ナイ　˞ゲー˜タン [˞ʔun˜ne: ta˞ʤi˜nai ˞geː˜tan](あの家に訪ねて行ったことがある)。タ˞ジ˜ナウンティ　˜ウムーカー　タ˞ジ˜ナウ　˜クトー　˜ナルン [ta˞ʤi˜naunti ˜ʔumuːka: ta˞ʤi˜nau ˜kutoː ˜naruŋ](訪ねようと思えば訪ねることは出来る)。˞タンガ˜シェー　タ˞ジナーラ˜ヌ [˞taŋga˜ʃeː ta˞ʤinaːra˜nu](一人では訪ねられない)。タ˞ジナイ˜ヤー　˜ミサムヌ [ta˞ʤinai˜jaː ˜misamunu](訪ねれば良いのに)。タ˞ジ˜ナイバ [ta˞ʤi˜naiba](訪ねなさいよ)。

タ˞ジ˜ナウン [ta˞ʤi˜nauŋ] 【他動】尋ねる。問う。質問する。プ˞スンナー˜ニ　タ˞ジ˜ナウンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　タ˞ジ˜ナイ　˜ミサンカヤー [pu̥˞sunnaː˜ni ta˞ʤi˜naunti ʔu˞muːn˜du ta˞ʤi˜nai ˜misaŋkaja:](他人に尋ねようと思うが尋ねてもいいかねえ)。ッ˞サン˜　トンマー　タ˞ジナーン˜カー　ワ˞カラン˜バ　タ˞ジ˜ナウクトゥ [s˞san˜ tommaː ta˞ʤinaːŋ˜kaː wa˞karam˜ba ta˞ʤi˜nau ˜ku̥tu](知らないことは尋ね聞かないと分からないから質問する < 尋ねる > ことだ)。ッ˞サン˜　トンマー　プ˞スンナー˜ニン　タ˞ジ˜ナウン [s˞san˜ tommaː pu̥˞sunnaː˜nin ta˞ʤi˜nauŋ](知らないところは他人にも尋ねる)。タ˞ジナイ˜ヤー　˜ミサムヌ [ta˞ʤinai˜ja ˜misamunu](質問すれば < 尋ねれば > よいのに)。˞パー˜ク　タ˞ジ˜ナイバ [˞paː˜ku ta˞ʤi˜naiba](早く質問し < 尋ね > なさい)。

タ˞シマ [tḁ˞ʃima] 【名】他島。他の島。他の村。タ˞シマヌ˜　キ˞ザルヌ˜　ナ˞ライ˜ヤー　パ˞トゥマ˜トー　˞カウリス [tḁ˞ʃimanu˜ ki˞ʤarunu˜ na˞raji˜jaː pḁ˞tuma˜toː ˞kaurisu](他の島の年中行事は鳩間島とは違う < 変わる >)。

˞タス˜クン [˞tasu̥˜kuŋ] 【他動】助ける。救う。救助する。助力する。「〜すめろきの御霊多須氣弖 (タスケテ)〜。万、4094」の転訛したもの。プ˞ス　タス˜クンティ　˞ベーン˜ケン　˞ウッふィティ˜　プ˞スン　タシゥカ˜リ　˞ベー˜ツォー [pu̥˞su tasu̥˜kunti ˞beːŋ˜keŋ ˞ʔuffiti˜ pu̥˞sun tasi̥˜ka˜ri ˞beː˜tsoː](人を助けようとしている時に溺れて、人に助けられているそうだ)。˞タシ˜キ　˜ミサカー　˞タス˜ク　˜クトー　˜ナルン [˞taʃi˜ki ˜misakaː ˞tasu̥˜ku ˜ku̥toː ˜naruŋ](助けてよければ助けることは出来る)。˞パー˜ク　˞タシ˜ケー　˜ミサムヌ [˞paː˜ku ˞taʃi̥˜keː ˜misamunu](早く助ければ良いのに)。˞タシ˜キバ [˞taʃi̥˜kiba](助けよ)。若年層は、˞タシ˜クン [˞taʃi̥˜kuŋ](助ける) ともいう。プ˞ス　タス˜クンティ　˜ウムーカー　マー˞ズン˜シ　˞タシゥ˜カ˞ディー [pu̥˞su tasu̥˜kunti ˜ʔumuːka: ma:˞ʤuŋ˜ʃi ˞tasi̥˜ka˞diː](他人を助けようと思うなら一緒に助けようよ)。˜バー　˞タシ˜キ　˜ミサカー　˞タス˜ク　˜クトー　ナルン˞ダー [˜baː ˞taʃi̥˜ki ˜misakaː ˞tasu̥˜ku ˜ku̥toː narun˞daː](私が助けてよければ、助けることは出来るよ)。˞パー˜ク　˞タシ˜キ [˞paː˜ku ˞taʃi̥˜ki](早く助けよ)。

˞タスクン [˞tasu̥kuŋ] 【他動】点火する。火を焚きつける。火を起こす。燃やす。「焚きつく」の義。「海人をとめ伊射里多久火能 < イザリ・タク・ヒノ >〜。万、3899」の転訛したもの。˜ピー　˞タスクンティ　スゥンドゥ˜　タ˞ム˜ノー　シ˞ミッケー˜リティ　˞タシゥカランバ　ワー˜シ　˞タシキ　ッふィーリ [˜pi: ˞tasu̥kunti sundu˜ ta˞mu˜no: ʃi˞mikkeː ˜riti ˞tasi̥karamba waː˜ʃi ˞taʃi̥ki ffiːri](火を焚きつけようとするが、薪は湿って焚きつけられないから、

君で焚きつけてくれ)。˥ピー　˩タスク˥　ピンマー　ア˩カ˥シシ　˩タシケー˥　ミサムヌ [˥piː ˩tasu̥ku ˥pimmaː ʔa˩ka˥ʃiʃi ˩taʃi̥keː˥ misamunu](火を焚きつけるときはアカシ＜松脂を多く含む松の幹の欠片＞で焚きつければ良いのに)。˩パー˥ク　˥ピー　˩タシキ˥バ [˩paː˥ku ˥piː ˩taiʃi̥ki˥ba](早く火を焚きつけろよ)。

タ˩ダ **[ta˩da]** 【名】名詞。ただ。無料。報酬の無いこと。標準語からの借用語。普通は、イ˩タン˥ダ [ʔi˩tan˥da](無料。「徒＜いたづら＞」の転訛) という。シ˩バヤー˥　タ˩ダ˥シ　ミ˩サ˥ソールンツォー [ʃi˩bajaː˥ ta˩daʃi mi˩sa˥soːruntsoː](芝居を無料＜ただ＞で見せてくれるそうだ)。タ˩ダムノー　ダイダカムヌ˥ティ　ア˩ザリ　ブー˥ダー [ta˩damunoː daidakamunu˥ti ʔa˩ʤaribuː˥daː](無料のもの＜ただもの＞は値段の高いもの＜値段が高く付く＞と言われているよ)。

タ˩ダーイ **[ta˩daːji]** 【副】どんどん。どしどし。次から次へ。タダー˩イ [tadaː˩ji] は強調表現。˩マー˥ス　タ˩ク˥　ピンマー　タ˩ダーイ˥　タ˩ム˥ノー　イ˩ビ　モーシェー˥ティル　タ˩クタ [˩maː˥su tạ˩ku˥ pimmaː ta˩daːji˥ ta˩mu˥noː ʔi˩bi moːʃe˥tiru tạ˩kuta](塩を焚く時はどんどん薪をくべて燃やしながら焚いた)。ニ˩チ˥ヌ　˥アル　˥ピンマー　タダー˩イ˥　ミ˩ジ˥　ヌ˩マ˥シ [ni˩ʧi˥nu ˥ʔaru ˥pimmaː tadaː˩ji˥ mi˩ʤi˥ nu˩maʃi](熱がある時は、どんどん水を飲ませなさい)。「意識的に、連続的に、ますます～する」の意に多く用いられる。タ˩ダーイ˥　タ˩ム˥ノー　イ˩ベー˥ティ　˥ユー　フ˩カ˥シ [ta˩daːji˥ ta˩mu˥noː ʔi˩beː˥ti ˥juː ɸu̥˩ka˥ʃi](次第に薪をくべて＜焼べて＞湯を沸かせ)。

タ˩タ˥カー **[ta˩ta˥kaː]** 【名】追い込み漁法の一つ。˥タカアン [˥tạkaʔaŋ](高網) や˥キタアン [˥kị̥taʔaŋ](桁網) を 4～5˥キタ [˥kị̥ta](張り＜桁＞) 繋ぎ合わせて魚の通り道に張っておき、数人の人が竹や竿で海面を叩いたり、珊瑚礁を突っついて魚を追い込み、網に引っ掛けて漁獲する漁法。夜は潮時をみて、2～3 人で組んで海岸やピ˩ザ˥フチ [pi˩ʤa˥ɸu̥ʧi](渚) などで魚を巻いて漁獲した。

タ˩タカー˥スン **[tạ˩takaː˥suŋ]** 【他動】戦わせる。争わせる。喧嘩させる。普通は、˩スー˥ブ　シ˩ミルン [˩suː˥bu ʃi˩miruŋ](勝負させる) という。˩インヌムラトゥ　アンヌムラ˥　タ˩タカー˥スン [˩ʔinnumuratu ʔannumura˥ tạ˩takaː˥suŋ](西村と東村を戦わせる)。タ˩タカーサン˥ドーシ　キ˩ミリ [tạ˩takaːsan˥doːʃi ki˩miri](戦わせないで決めろ)。タ˩タカーシ˥　プサン [tạ˩takaːʃi˥ pu̥saŋ](戦わせたい)。タ˩タカー˥ス˥クトゥ [tạ˩takaː˥su ˥ku̥tu](戦わせること)。タ˩タカー˥シェー　˥ミサムヌ [tạtakaː˥ʃeː ˥misamunu](戦わせればよいのに)。˩パー˥ク　タ˩タカー˥シ [˩paː˥ku tạ˩takaː˥ʃi](早く戦わせろ)。「Tatacai,oː,oːta. タタカイ, ゥ, ゥタ」(戦ひ, ふ, うた) 闘争する, 抗争する」『邦訳日葡辞書』の未然形に使役の助動詞˥スン [˥suŋ](～せる) が付いて転訛したもの。ブ˩ラクジョーカイ˥ナ　イ˩キン˥　タ˩タカー˥スンティ　ウ˩ムータ˥ヌ　タ˩タカーサラン˥シェン [bu˩rakuʤoːkai ˥na ʔi˩kin˥ tạ˩takaː˥sunti ʔu˩muːta˥nu tạ˩takaːsaraŋ˥ʃeŋ](部落常会で意見を戦わせようと思ったが、戦わされなかった)。

タ˩タ˥カイ **[tạ˩ta˥kai]** 【名】戦い。戦争。争い。喧嘩。ル˩クジュー˥ニン　˥マイヌ　˩ニッポン˥トゥ　ア˩メリカ˥ヌ　タ˩タ˥カイナー　ク˩ヌ˥　シマナーティ　˩マーラソー˥レー　プ˩ソー˥　ニジューマンニン　˥アマリ　˩オー˥ルンティ˩ダー [ru˩kuʤuː˥nim ˥mainu ˩nippon˥tu ʔa˩merika˥nu tạ˩ta˥kainaː ku˩nu˥ʃimanaːti ˩maːrasoː˥reː pu̥˩soː˥ niʤuːmanniŋ ˥ʔamari ˩ʔoː˥runti˩daː](六十年前の日本とアメリカの戦いで、この島において亡くなられて人は二十万人余りおられるそうだよ)。タ˩タカイ˥ヌ　パ˩ジマルン [tạ˩taki˥nu pa˩ʤimaruŋ](戦いが始まる)。

タ˩タ˥カウン **[tạ˩ta˥kauŋ]** 【自動】戦う。喧嘩する。争う。闘う。プ˩ストゥ˥　タ˩タ˥カウンティ　ウ˩ムー˥ナ　タ˩タカーン˥ドーシ　パ˩ナシアー˥シ [pu̥˩sutu˥ tạ˩ta˥kaunti ʔu˩muː˥na tạ˩takaːn˥doːʃi pa˩naʃiʔaː˥ʃi](他人と戦おうと思うな。戦わないで話し合いなさい)。タ˩タ˥カイ　˥ミサカー　ター˩ントゥン˥　タ˩タ˥カウ　˥クトー　˥ナルン [tạ˩ta˥kai ˥misakaː taː˩ntun˥ tạ˩ta˥kau ˥ku̥toː ˥naruŋ](戦ってよければ誰とでも戦うことが出来る)。タ˩タカイ˥ヤー　ナ˩ラ˥ヌ [tạ˩takai˥jaː na˩ra˥nu](戦ってはならない)。˩タンガ˥シ　タ˩タ˥カイバ [˩taŋga˥ʃi tạ˩ta˥kaiba](一人で戦えよ)。˩ヤンマイ˥トゥ　タ˩タ˥カウンティ　˥ウムーカー　˥ヌチカギリ　タ˩タカーン˥カー　˩ノーサラ˥ヌ [˩jammai ˥tu tạ˩ta˥kaunti ˥ʔumuːkaː ˥nuʃikagiri tạ˩takaːŋ˥kaː˩noːsara˥nu](病気と戦おうと思ったら一所懸命＜命の限り＞戦わないと治されない)。タ˩タ˥カイ　˥ミサン [tạ˩ta˥kai ˥misaŋ](戦ってよい)。タ˩タ˥カウ˥クトゥ [tạ˩ta˥kau ˥ku̥tu](戦うこと)。タ˩タカイ˥ヤー　˥ミサムヌ [tạ˩takai˥jaː ˥misamunu](戦えばいいのに)。ヤー˩ディン˥　タ˩タ˥カイバ [jaː˩din˥ tạ˩ta˥

kaiba](必ず戦えよ)。

タ˞タ˩カウン [tạ˞ta˩kauŋ] 【自動】1戦う。戦争する。サ˞キヌ˩ イ˞ク˩サナー ˞ニッポン˩マー ア˞メリカ˩トゥ タ˞タ˩カイティ マ˞ケー˩ダー [sạ˞kinu˩ ʔi˞ku˩sana: ˞nippom˩ma: ʔa˞merika˩tu tạ˞ta˩kaiti ma ˞ke:˩da:](先の戦争で日本はアメリカと戦って負けたのだよ)。2競技などで競う。勝負する。ク˞トシェー˩ ヤ˞キュー˩ヤ ˞マー˩ヌ ˞ガッコー˩トゥ タ˞タカウ˩ワ [kụ˞tuʃe:˩ ja˞kju:˩ja ˞ma:˩nu ˞gakko:˩tu tạ˞takau˩wa](今年は、野球は何処の学校と戦うか)。カ˞リトー˩ ク˞トゥシン˩ タ˞タ˩カウンティ キ˞マリ ブーヌ˩ ナ˞チバー˩ケー タ˞タカー˩ヌ [ka˞rito:˩ kụ˞tuʃin˩ tạ˞ta˩kaunti ki˞mari bu:nu˩ na˞ʧiba:˩ke: tạ˞taka:˩nu](彼とは今年も戦うと決まっているが、夏までは戦わない)。

タ˞タキ˩バルン [tạ˞taki˩baruŋ] 【他動】叩き割る。たたいて割る。打ち破る。˞クン˩ゾー ウ˞ク˩リティ ˩マカルドング タ˞タキ˩バルンティ シ˞タンドゥ˩ タ˞タキバラン˩シェン [˞kun˩ʤo: ʔu˞ku˩riti ˩makarudoŋgu tạ˞taki˩barunti ʃị˞tandu˩ tạ˞tak-ibararaŋ˩ʃeŋ](怒って食器類「椀、杯也、万利＜まり＞『新撰字鏡』の義」を叩き割ろうとしたが、叩き割られなかった)。タ˞タキ˩バリ ッ˞ふィーリ [tạ˞taki˩bari f˞fi:ri](叩き割ってくれ)。タ˞タキ˩バル ˩ピン [tạ˞taki˩baru ˩piŋ](叩き割る時)。タ˞タキ˩バレー ˩ミサムヌ [tạ˞taki˩bare: ˩misamunu](叩き割ればよいのに)。˩ドゥーシ タ˞タキ˩バリ [˩du:ʃi tạ˞taki˩bari](自分で叩き割れ)。

タ˞ダグトゥ [ta˞dagutu] 【名】尋常なこと。普通のこと。あたりまえのこと。ただごと。下に打消しの語を伴って用いられることが多い。ウ˞レー˩ タ˞ダグトー˩ ア˞ラ˩ヌ [ʔu˞re:˩ ta˞daguto:˩ ʔa˞ra˩nu](それは尋常のこと＜ただごと＞ではないぞ)。

タ˞タ˩スン [tạ˞ta˩suŋ] 【他動】立たす。立たせる。˩タトゥン [˩tạtuŋ](立つ) の未然形に使役の助動詞˩スン [˩suŋ](～す。～さす) が付いて形成された使役動詞。˩クナー ˞タン˩ガ タ˞タ˩スンティ ウ˞ムーン˩ドゥ タ˞タサラ˩ヌ [˩kuna: ˞taŋ˩ga tạ˞ta˩sunti ʔu˞mu:n˩du tạ˞tasara˩nu](ここに一人立たせようと思うが、立たされない)。タ˞タ˩シ ˩ミサカー タ˞タ˩ス ˩クトー ˩ナルン [tạ˞ta˩ʃi ˩misaka: tạ˞ta˩su ˩kụto: ˩naruŋ](立たせて良ければ、立たせることは出来る)。タ˞タ˩シェー ˩ミサムヌ [tạ˞ta˩ʃe: ˩misamunu](立たせば良いに)。ヤー˞ディン˩ クナー タ˞タ˩シ [ja:˞diŋ˩ kuna: tạ˞ta˩ʃi](必ずここに立たせよ)。

タ˞ダ˩ス ン [ta˞da˩suŋ] 【他動】正す。糾す。「Tadaxi,su,aita. タダシ, ス, イタ (正・糾し, し, いた) 取り調べて, 審理する. ある人の血統や家系を取り調べる」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞バン˩テヌ ˞ヤーム˩トゥ タ˞ダ˩スンティ ム˞ヌシリ˩ヌ ˩ヤー ˞ゲータ˩ヌ タ˞ダサラン˩シェン [˞ban˩tenu ˞ja:mu˩tu ta˞da˩sunti mu˞nuʃiri˩nu ˩ja: ˞ge:ta˩nu ta˞dasaraŋ˩ʃeŋ](私の家の元祖を糾そうと三世相＜易者。物知り＞の家に行ったが、糾されなかった)。タ˞ダ˩シ ˩ミサカー タ˞ダ˩ス ˩クトー ˩ナルン [ta˞da˩ʃi ˩misaka: ta˞da˩su ˩kụto: ˩naruŋ](糾してよければ正すことは出来る)。タ˞ダ˩シェー ˩ミサムヌ [ta˞da˩ʃe: ˩misamunu](糾せばいいのに)。タ˞ダ˩シバ [ta˞da˩ʃiba](糾せよ)。正しくする。罪過の有無を追及する。糾(タダ)す。˞タール ワッ˩サユー タ˞ダ˩スンティ ˞スンドゥ˩ タ˞ダサラ˩ヌ [˞ta:ru was ˩saju: ta˞da˩sunti ˞sundu˩ ta˞dasara˩nu](誰が悪いか糾そうとするが、糾されない)。ク˞ヌ ウイ˩ タ˞ダ˩ス ˩クトー ナ˞ラ˩ヌ [ku˞nu ʔui˩ ta˞da˩su ˩kụto: na˞ra˩nu](これ以上糾すことは出来ない)。˞マー˩ビン タ˞ダ˩シェー ˩ミサムヌ [˞ma:˩biŋ ta˞da˩ʃe: ˩misamunu](もっと糾せばいいのに)。タ˞ダ˩シ [ta˞da˩ʃi](糾せ)。

タ˞タッ˩キスン [tạ˞tak˩kisuŋ] 【他動】ぶった切る。「叩き切る」の義。イ˞ズバザイカタナ˩シ カ˞ツヌ˩ ス˞ブル˩バ タ˞タッ˩キスンティ ˞ベー˩ヌ タ˞タッキサン˩ドーシ ヤー˞ラマ˩シ ˩キシバ [ʔi˞ʤubaʤaikatana˩ʃi ka˞tsunu˩ su˞buru ˩ba tạ˞tak˩kị̣sunti ˞be:˩nu tạ˞takkị̣san˩do:ʃi ja:˞rama˩ʃi kị̣ʃiba](魚解体用の包丁でカツオの頭をぶった切ろうとしているが、ぶった切らないで柔らかく丁寧に切りなさい)。タ˞タッキ˩シ ッ˞ふィーリ [tạ˞tak˩kị̣ʃi f˞fi:ri](ぶった切ってくれ)。タ˞タッ˩キス ˩クトゥ [tạ˞tak˩kị̣su ˩kụtu](ぶった切ること)。タ˞タッ˩キシェー ˩ミサムヌ [tạ˞tak˩kị̣ʃe: ˩misamunu](ぶった切ればいいのに)。˞パー˩ク タ˞タッ˩キシ [˞pa: ˩ku tạ˞tak˩kị̣ʃi](早くぶった切れ)。

タ˞タックバ˩スン [tạ˞takkuba˩suŋ] 【他動】ぶちこぼす(零(コボ)す)。ぶっ零す。水や粉を意図的に容器より勢いよく零す。「たたき零す」の義。タ˞タックバ˩スンティ ˞ウムータン˩ドゥ ウ˞ムイ˩ツァー ˩ナリティ タ˞タックバサラン˩シェン [tạ˞takkuba˩sunti ʔu˞mu:-tan˩du ʔu˞mui˩tsa: ˩nariti tạ˞takkubasaraŋ˩ʃeŋ](ぶち零そうと思ったが、惜しく思われてぶち零されな

かった)。タ˩タックバ˥シ　シ˩ティリ [tạ˩takkuba˥ʃi ʃi̥˩tiri](ぶち零し捨てろ)。タ˩タックバ˥ス　˥クトー　ス˩ナ [ta˩takkuba˥su ˥kụto: su˩na](ぶっ零すことはするな)。タ˩タックバ˥シェー　˥ミサムヌ [tạ˩takkuba˥ʃe: ˥misamunu](ぶっ零せばよいのに)。˩パー˥ク　タ˩タックバ˥シ [˩pa:˥ku tạ˩takkuba˥ʃi](早くぶっ零せ)。

タ˩タッ˥クムン [tạ˩tak˥kumuŋ] 【他動】放り込む。˩叩き込む˩の義。˩ユー˥ゾー　˩ナーン˥　ムノー　˩クン˥ナー　タ˩タッ˥クムンティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　˩ピー˥チナー　タ˩タックマラン˥バ　ビ˩チ˥ヌ　˥ムヌナー　タ˩タッ˥クミ　ッ˩ふィーリ [˩ju:˥ʤo: ˩na:m˥ muno: ˩kun˥na: tạ˩tak˥kumunti ʔu˩mu:tan˥du ˩pi: ˥ʧina: tạ˩takkumaram˥ba bi˩ʧi˥nu ˥mununa: tạ˩tak˥kumi f˩fi:ri](役に立たない物は、これに放り込もうと思ったが、一つには放り込めないので別の物に放り込んでくれ)。タ˩タッ˥クム　˥ムヌ [tạ˩tak˥kumu˥munu](放り込むもの)。タ˩タッ˥クメー　˥ミサムヌ [tạ˩tak˥kume: ˥misamunu](放り込めばよいのに)。˥ドゥーシ　タ˩タッ˥クミ [˥du:ʃi tạ˩tak˥kumi](自分で放り込め)。動詞˥クムン [˥kumuŋ](籠める) の頭に強意の接頭語タ˩タキ [tạ˩taki](叩き～<する>。乱暴に～<する>。ぶち～<する>) が付いた形。˩ウーキ˥ン　ナ˩カー˥　タ˩タッ˥クムン [˩ʔu:ki˥n na˩ka:˥ tạ˩tak˥kumuŋ](桶の中にぶち込む)。˥アイニ　タ˩タックマン˥ドーシ　ヤー˩ラマ˥シ　イ˩リリ˥バ [˥ʔaini tạ˩takkuman˥do:ʃi ja:˩rama˥ʃi ʔi˩riri˥ba](あんなにぶち込まないで、優しく柔らかに入れなさい)。

タ˩タックラサ˥リン [tạ˩takkurasa˥riŋ] 【他動】ひどく叩かれる。ぶったたかれる。タ˩タックラ˥スン [tạ˩takkura˥suŋ](ぶっ叩く) の未然形に、受身、可能の˥助動詞˥リン [˥riŋ](れる) が下接して受身動詞、可能動詞として派生したもの。ヤ˩ナクトゥ　スー˥カー　˥ウヤン　タ˩タックラサ˥リン [ja˩nakụtu su:˥ka: ˥ʔujan tạ˩takkurasa˥riŋ](悪事を働く<する>と、親にぶっ叩かれる)。

タ˩タックラ˥スン [tạ˩takkura˥suŋ] 【他動】ぶん殴る。強く殴る。したたかに殴る。˩叩き殺す˩の転訛。ヤ˩ナクトゥ˥　シ˩ター˥　タ˩タックラ˥スンティ　˩ベーン˥ケンマー　˩ピンギラ˥リティ　タ˩タックラサラ˥ヌ　˩サーリ˥　クーカー　タ˩タックラ˥シ　˥ミサン [ja˩nakutu˥ ʃi̥˩ta:˥ tạ˩takkura˥sunti ˩be:ŋ˥kemma: ˩piŋgira˥riti tạ˩takkurasara˥nu ˩sa:ri˥ ku:ka: tạ˩takkura˥ʃi ˥misaŋ](悪い事をしたのでぶん殴ろうとしているうちに逃げられて、ぶん殴られない。連れてきたらぶん殴ってもいい)。タ˩タックラ˥ス　˥クトゥ [tạ˩takkura˥su ˥kụtu](ぶん殴ること)。タ˩タックラ˥シェー　˥ミサムヌ [tạ˩takkura˥ʃe: ˥misamunu](ぶん殴ればいいのに)。ヤー˩ディン˥　タ˩タックラ˥シ [ja:˩din˥ tạ˩takkura˥ʃi](必ずぶん殴れ)。ウ˩ヤ˥ヌ　˥ムニ　シゥ˩カン˥カー　タ˩タックラ˥スン˩ダー [ʔu˩ja˥nu ˥muni si̥˩kaŋ˥ka: tạ˩takkura˥sun˩da:](親のいうことを聞かないとしたたかに殴るぞ)。タ˩タックラサ˥ヌ [tạ˩takkurasa˥nu](ぶん殴らない)。タ˩タックラシ˥　プサン [tạ˩takkuraʃi˥ pụsaŋ](ぶん殴りたい)。

タ˩タッ˥クン [tạ˩tak˥kuŋ] 【他動】1叩く。続けて打つ。˥アブジェー　˥カタ　タ˩タッ˥クンティ　˩ベーン˥ドゥ　˩ティー˥ヌ　˥ヤミ　タ˩タッカラン˥バ　˥バー　˩カール˥　タ˩タッ˥キ　˩オーシ [˥ʔabuʤe: ˥kạta tạ˩tak˥kunti ˩be:n˥du ˩ti:˥nu ˥jami tạ˩takkaram˥ba ˥ba: ˩ka:ru˥ tạ˩tak˥ki ˩ʔo:ʃi](お祖父さんの肩を叩こうとしているが、手が痛くて叩かれないから、私の代わりに叩いて差し上げなさい)。˥カタ　タ˩タッ˥ク　˥クトゥ [˥kạta tạ˩tak˥ku ˥kụtu](肩を叩くこと)。˩マー˥ビン　タ˩タッ˥ケー　˥ミサムヌ [˩ma:˥bin tạ˩tak˥ke: ˥misamunu](もっと叩けばいいのに)。˩パー˥ク　タ˩タッ˥キ [˩pa:˥ku tạ˩tak˥ki](早く叩け)。2ぶつ。殴る。˥アイニ　プ˩ス˥　タ˩タック˥ナ [˥ʔaini pụ˩su˥ tạ˩takku˥na](あんなに他人をぶつなよ)。ブ˩チ˥クン　シ˩ティ˥　イキ　シ˩マ˥ル　˥ピンマ　ク˩シナカ˥　タ˩タッ˥クカー　˥イキ　˩フッカイスン [bu˩ʧi˥kuŋ ʃi̥˩ti˥ ʔiki ʃi˩ma˥ru ˥pimma kụ˩ʃinaka˥ tạ˩tak˥kuka: ˥ʔiki ˩ɸukkaisuŋ](気絶して息が詰まって<止まって>いる時は、背中を叩くと息を吹き返す)。タ˩タッカ˥ヌ [tạ˩takka˥nu](叩かない)。タ˩タッキ˥　プサン [tạ˩takki˥ pụsaŋ](叩きたい)。タ˩タッ˥ク　˥クトゥ [tạ˩tak˥ku ˥kụtu](叩くこと)。タ˩タッ˥ケー　˥ミサムヌ [tạ˩tak˥ke: ˥misamunu](叩けば良いのに)。˩パー˥ク　タ˩タッ˥キ [˩pa:˥ku tạ˩tak˥ki](早く叩け)。

タ˩タッケー˥ルン [tạ˩takke:˥ruŋ] 【他動】ぶっきる(打っ切る)。ぶったぎる (打つ手切る)。たたき切る。荒く切る。山刀や大刀で樹木などを打ち切る。˩キーヌ˥ユダ　タ˩タッケー˥ルンティ　˩スンドゥ˥　タ˩カー˥ヌ　タ˩タッケーラン˥バ　˩ワー˥　タ˩タッケー˥リ　ッ˩ふィーリ [˩ki:nu˥juda tạ˩takke:˥runti ˩sundu˥ tạ˩ka:˥nu tạ˩takke:raram˥ba ˩wa:˥ tạ˩takke:˥ri f˩fi:ri](木の枝を打つ手切ろうとするが、高くてぶ

った切られないから、君がぶったぎってくれ)。タ˞タッケー˺ル　˺クトゥ [tạ˞takke:˺ru ˺kụtu](ぶったぎる＜打つ手切る＞こと)。タ˞タッケー˺レー　˺ミサムヌ [tạ˞takke:˺re: ˺misamunu](ぶったぎればよいのに)。ヤ˞マンガラ˺シシ　タ˞タッケー˺リバ [ja˞maŋgara˺ʃiʃi tạ˞takke:˺riba](山刀でぶったぎれ)。

タ˞タッコー˺スン [tạ˞takko:˺suŋ] 【他動】ぶち壊す。叩き壊す。打ち壊す。台無しにする。めちゃくちゃ＜滅茶苦茶＞にする。˺カイブ　˺ムノー　タ˞タッコー˺スンティ　ウ˞ムータン˺ドゥ　ウ˞ムイツァー˺ヌ　タ˞タッコーサラン˺バ　˞ワー˺シ　タ˞タッコー˺シ　ッ˞ふィーリ [˺kaibu ˺muno: tạ˞takko:˺sunti ʔu˞mu:tan˺du ʔu˞muitsa:˺nu tạ˞takko:saram˺ba ˞wa:˺ʃi tạ˞takko:˺ʃi f˞fi:ri](あんなものはぶち壊そうと思ったが、惜しくてぶち壊されないので、君でぶち壊してくれ)。タ˞タッコー˺ス　˺ムヌ [tạ˞takko:˺su ˺munu](ぶち壊すもの)。タ˞タッコー˺シェー　˺ミサムヌ [tạ˞takko:˺ʃe: ˺misamunu](ぶち壊せばよいのに)。˞パー˺ク　タ˞タッコー˺シ [˞pa:˺ku tạ˞takko:˺ʃi](早くぶち壊せ)。

タ˞タミ [tạ˞tami] 【名】畳。藁を糸で刺し固めた床に、˺ビー [˺bi:](藺) で編んだ表をつけたもの。イ˞ツァフン˺ツァ [ʔi˞tsaɸun˺tsa:](板床) やタ˞キフンツァ [tạ˞kiɸuntsa](竹床) に敷いて用いた。ナ˞チェー˺　アツァンダ　タ˞タメー˺　ウ˞コー˺シティ　イ˞ツァフン˺ツァナー　˺ムス　シ˞キティル˺　ニ˞ボーッ˺タ [na˞tʃe:˺ ʔatsanda tạ˞tame:˺ ʔu˞ko:˺ʃi̥ti ʔi˞tsaɸun˺tsana: ˺musu ʃi̥˞kitiru˺ ni˞bo:t˺ta](夏は暑いから畳は起こして筵を敷いて眠られた)。タ˞タミ˺　ス˞クン [tạ˞tami˺ sụ˞kuŋ](畳を敷く)。タ˞タミ˺　プスン [tạ˞tami˺ pụsuŋ](畳を干す)。

タ˞タミウムティ [tạ˞tamiʔumuti] 【名】畳表。タ˞タミウムテー˺　フ˞ル˺ミ　˞ナーン˺バ　˞カイラン˺カー　ナ˞ラ˺ヌ [tạ˞tamiʔumute:˺ ɸu˞ru˺mi ˞na:m˺ba ˞kairaŋ˺ka: na˞ra˺nu](畳表は古くなってしまったので、取り替えないといけない)。

タ˞タミウム˺ティ [tạ˞tamiʔumu˺ti] 【名】畳表。タ˞タミウム˺ティ　˞カイリ [tạ˞tamiʔumu˺ti ˞kairi](畳表を取替えなさい)。

タ˞タミシキパル [tạ˞tamiʃi̥kiparu] 【名】畳針。「畳突き針」の義。タ˞タミシキパル˺シル　タ˞タミ˺　シ˞キ˺　ス˞ブシバ˺　タテーティ　ピ˞キシミティル˺　タ˞タミウムテー˺　パ˞リカイヨーッ˺タ [tạ˞tamiʃi̥kiparu˺ʃiru tạ˞tami˺ ʃi̥˞ki˺ su˞buʃiba˺ tate:ti pi̥˞kiʃimitiru˺ tạ˞tamiʔumute:˺ pa˞rikaijo:t˺ta](畳針で畳を突き刺し、肘を立てて引き締めて畳表は張替えられた)。

タ˞タミッスル [tạ˞tamissuru] 【名】雑巾。「畳拭き」の義。若年層は、˞ゾー˺キン [˞ʤo:˺kiŋ](雑巾) という。タ˞タミッスル˺　ア˞ライ˺キー　タ˞タミ˺　ッ˞スリ [tạ˞tamissuru˺ ʔa˞rai˺ki: tạ˞tami˺ s˞suri](雑巾を洗ってきて畳を拭け)。

タ˞タミヌ˺　ピル [tạ˞taminu˺ piru] 【連】畳の縁。畳の縁取りとして、絹布や上質の布で飾ったもの。亀甲模様の布や黒色の布などを、巾約 3、5 センチ、長さ 6 尺、又は 3 尺にして畳みの両側を縁取ったもの。タ˞タミヌ˺　ピル　˞フンクナ˺ティル　ナ˞ラー˺ソーッタ [tạ˞taminu˺ piru ˞ɸuŋkuna˺tiru na˞ra:˺so:tta](畳の縁を踏むなと教えられた)。

タ˞タミヤー [tạ˞tamija:] 【名】畳屋。畳店。ム˞カ˺シェーラ　パ˞トゥ˺マナー　タ˞タミヤーヤ　ナー˺ヌ ＜˞ナーン˺シェン＞[mu˞ka˺ʃe:ra pạ˞tu˺mana: tạ˞tamija:ja na:˺nu＜˞na:ŋ˺ʃeŋ＞](昔から、鳩間島には畳屋はない＜なかった＞)。

タ˞タ˺ムン [tạ˞ta˺muŋ] 【他動】たたむ (畳む)。標準語から転訛したもの。若年層のことば。老年層はタ˞ク˺ムン [tạ˞ku˺muŋ](畳む) という。˺キン　タ˞タ˺ムンティ　˞スンドゥ　バン˺マー　タ˞タマラ˺ヌ [˺kin tạ˞ta˺munti ˞sundu bam˺ma: tạ˞tamara˺nu](着物を畳もうとするが、私には畳めない)。タ˞タミ˺　プサカー　˺ドゥーシ　タ˞タ˺ム　˺クトゥ [tạ˞tami˺ pụsaka: ˺du:ʃi tạ˞ta˺mu kụtu](畳みたければ、自分で畳むこと)。タ˞タ˺メー　˺ミサムヌ [tạ˞ta˺me: ˺misamunu](畳めば良いのに)。˞パー˺ク　タ˞タ˺ミ [˞pa:˺ku tạ˞ta˺mi](早く畳め)。

タ˞タ˺ラ [tạ˞ta˺ra] 【名】房。バナナなどの実が一つの茎に群がり生じたもの。バ˞サン˺ナル　プ˞スタタ˺ラ　˺ブリクー [ba˞san˺naru pụ˞sutata˺ra ˺buriku:](バナナを一房もいで＜捥いで＞きなさい)。

タ˞タラー˺サン [tạ˞tara:˺saŋ] 【形】大げさである。派手である。目立たしい。明治生まれの古老までは使用した。大正、昭和初期生まれの人は理解語。ク˞ヌ　キン˺ヌ　˺アヤー　タ˞タラーサ˺ヌ　˞バン˺マー　キ˞サラヌ [ku˞nu kin˺nu ʔaja: tạ˞tara:sa˺nu ˞bam˺ma: ki̥˞saranu](この着物の模様は派手すぎて私には着られない)。

タ˞タ˺リ [ta˞ta˺ri] 【名】祟り。神罰。神仏や・怨霊などが人間に災禍をもたらすこと。「祟、タタルナリ、神祟」『新撰字鏡』の転訛したもの。ウ˞ガン˺ヌ　˺キー　˺キスカー　タ˞タリ˺ヌ　ン˞ジ˺ルンティ˞

ダー [ʔu˹gan˺nu ˺ki: ˺ki̥suka: tḁ˹tari˺nu ʔn˹ʤi˺runti˹da:](お願＜お嶽＞の樹木を伐ると祟りが出るそうだよ)。ウ˹ガン˺ヌ　˺キー　˺キスカー　タ˹タリ˺ヌ　ン˹ジ˺ルンツォー [ʔu˹gan˺nu ˺ki: ˺ki̥suka: tḁ˹tari˺nu ʔn˹ʤi˺runtso:](御嶽の樹木を伐るとたたりが出るそうだ)。

タ˹タリ˺ムヌ [tḁ˹tari˺munu] 【名】人に祟るもの。「祟りもの」の義。神仏や怨霊などによってもたらされる災難。主として成仏できないで浮遊している悪霊が人間に災難をもたらすこと。˹グヮンスグトゥ˺ヌ　ミ˹チ˺　フ˹マン˺カー　タ˹タリムヌ˺ヌ　˺アンツォー [˹gwansugutu˺nu mi˹ʧi˺ ɸu˹maŋ˺ka: tḁ˹tarimunu˺nu ˺ʔantso:](元祖継承＜位牌継承＞が正しい道を踏まないと祟りごとがあるそうだ)。˺カナー　ヌ˹ビ˺バ　˺ガキ　シ˹ネー˺　プ˹スヌ˺　ブ˹タンドゥ˺　ウ˹ヌ˺　プ˹スヌ˺　タ˹タリムン˺ドゥ　˺アルツォー [˺kana: nu˹bi˺ba ˺gaki ʃi˹ne:˺ pu̥˹sunu˺ bu˹tandu˺ ʔu˹nu˺ pu̥˹sunu˺ tḁ˹tarimun˺du ˺ʔarutso:](あそこに首を吊って死んだ人がいたが、その人の祟りがあるそうだ)。

タ˹ダリルン [ta˹dariruŋ] 【自動】ただれる (爛れる)。火傷や炎症で皮膚や肉が腐乱する。ア˹チ˺ユー　ク˹バ˺シ　カ˹キラ˺リティ　˹ティー˺ヤ　タ˹ダリベー [ʔa˹ʧi˺ju: ku˹ba˺ʃi ka˹kira˺riti ˹ti:ja˺ ta˹daribe:](熱湯を零してかけられて、手は爛れている)。ユ˹ダ˺レーン˺トンマー　ナー˹イ˺　シ˹キ˺ルカー　タ˹ダリルンｔダー˺　タ˹ダラサン˺　ヨーニ　˹ミー˺スッ˹ふァーシ [ju˹da˺re:n ˺tomma: na:˹i˺ ʃi̥˹ki˺ruka: ta˹dariruntda:˺ ta˹darasaɲ˺ jo:ni ˹mi:˺su f˹fa:ʃi](熱湯で火傷(ヤケド)した＜茹でられた＞所は放置すると爛(タダ)れるから、爛れさせないように食用味噌をくっ付け＜喰わせ＞なさい)。タ˹ダリ˺ル　˺トンマー　˹パー˺ク　˹ノー˺シ [ta˹dari˺ru ˺tomma: ˹pa:˺ku ˹no:˺ʃi](爛れるところは早く治せ)。タ˹ダリレー˺　ミサムヌ [ta˹darire:˺ misamunu](爛れればよいのに)。タ˹ダリリ [ta˹dariri](爛れろ)。「目蔑、タダレメ」『類聚名義抄』の「タダレ」の転訛したものか。ク˹ヌ　ミー˺ヌ　˺ヤン　カ˹カ˺ルカー　˹ミー˺ヤ　タ˹ダリルン [ku˹nu mi:˺nu ˺jaŋ kḁ˹ka˺ruka: ˹mi:˺ja ta˹dariruŋ](この眼病に罹ると目は爛れる)。フ˹チ˺ル　シ˹キ˺ルカー　タ˹ダリラヌ [ɸu̥˹ʧi˺ru ʃi̥˹ki˺ruka: ta˹dariranu](薬をつけたら爛れない)。˹ミー˺ヤ　タ˹ダリティ˺　パギ　˹ベー [˹mi:˺ja ta˹dariti˺ pagi ˹be:](目は爛れて剥げている)。フ˹チ˺ル　˺ヌムカー　タ˹ダリル˺　クトー　˹ナー˺ヌ [ɸu̥˹ʧi˺ru ˺numika: ta˹dariru˺ ku̥to: ˹na:˺nu](薬を飲んだら爛れることはない)。

タ˹タ˺ルン [tḁ˹ta˺ruŋ] 【自動】祟る。神仏、怨霊などの禍いが身にかかる。神罰、仏罰が与えられる。「祟、タタルナリ、神禍」『新撰字鏡』の転訛したもの。ウ˹ヤ˺プソー　ム˹ティ˺ビキ　ア˹ラン˺カー　タ˹タ˺ルンティ　˹スンダー˺　タ˹タラララン˺ヨーニ　˺シジ　サ˹バカ˺シ [ʔu˹ja˺pu̥so: mu˹tibi˺ki ʔa˹raŋ˺ka: tḁ˹ta˺runti ˹sunda:˺ tḁ˹tararaɲ˺jo:ni ˺ʃiʤi sa˹baka˺ʃi](先祖＜仏壇＞は継ぐべき＜持つべき＞人でないと祟るというから、祟られないよう易者やユタに占ってもらって血筋を正してもらいなさい)。タ˹タ˺リ　ッ˹ふォーン˺ナ [ta˹ta˺ri f˹fo:n˺na](祟ってくださるな)。タ˹タ˺ル　˺クトー　˹ナー˺ヌ [tḁ˹ta˺ru ˺ku̥to: ˹na:˺nu](祟ることはない)。タ˹タ˺レー　˺ミサムヌ [tḁ˹ta˺re: ˺misamunu](祟ればよいのに)。˺バンナー　ア˹ラ˺ヌ　カ˹リ˺ナー　タ˹タ˺リ [˺banna: ʔa˹ra˺nu ka˹ri˺na: tḁ˹ta˺ri](私にではなく、彼＜あれ＞に祟れ)。ウ˹ガン˺ヌ　˺キー　˺キスカー　タ˹タ˺ルンティ˹ダー [ʔu˹gan˺nu ˺ki: ˺ki̥suka: tḁ˹ta˺runti˹da:](御嶽の木を伐るとたたる＜祟る＞そうだよ)。イッ˹カ˺　タ˹タラ˺ヌ [ʔik˹ka˺ tḁ˹tara˺nu](決して祟らない)。カ˹リ˺ナ　タ˹タ˺リ　˹ベー˺ツォー [ka˹ri˺na tḁ˹ta˺ri ˹be:˺tso:](彼に祟っているそうだ)。タ˹タ˺ル　˺クトー　˹ナー˺ヌ [tḁ˹ta˺ru ˺ku̥to: ˹na:˺nu](祟ることはない)。タ˹タ˺レー　˺ミサムヌ [tḁ˹ta˺re: ˺misamunu](祟れば良いのに)。タ˹タ˺リ [tḁ˹ta˺ri](祟れ)。

タ˹ダルン [ta˹daruŋ] 【自動】ただれる (爛れる)。炎症などのために皮膚や皮下組織が破れくずれる。パ˹ダ˺ヌ　タ˹ダルン˺ケン　ユ˹ダ˺リ　˹ナーン˺シェン [pa˹da˺nu ta˹daruŋ˺keɲ ju˹da˺ri ˹na:ŋ˺ʃeŋ](肌が爛れるほどに熱湯で火傷して＜茹でられて＞しまった)。タ˹ダラサヌ [ta˹darasanu](爛れさせない)。タ˹ダリ　ナー˺ヌ [ta˹dari na:˺nu](爛れてしまって)。タ˹ダル˺　トンマー [ta˹daru˺ tomma:](爛れるところは)。タ˹ダレー˺　ミサムヌ [ta˹dare:˺ misamunu](爛れればよいのに)。タ˹ダリ˺バ [ta˹dari˺ba](爛れろ)。タ˹ダリバ˺　ミサムヌ [ta˹dariba˺ ミサムヌ](爛れたらよいのに)。˺ユーナ　ユ˹ダ˺リカー　˹ドゥー˺ヤ　タ˹ダルン˺ダー [˺ju:na ju˹da˺rika: ˹du:˺ja ta˹darun˺da:](熱湯でゆだれる＜茹れる＞と体は爛れるよ)。フ˹チ˺ル　シ˹キ˺ルカー　タ˹ダラヌ [ɸu̥˹ʧi˺ru ʃi̥˹ki˺ruka: ta˹daranu](薬をつけたら爛れない)。タ˹ダリベー [ta˹dari be:](爛れている)。タ˹ダル˺　クトゥン　˺アン [ta˹daru˺ ku̥tuŋ ˺ʔaŋ](爛れることもあ

る)。

タ˞チ [ta˞ʧi] 【名】十二支の第五。辰。タ˞チディプス [tạ˞ʧidipu̥su](辰年生まれの人)。タ˞チヌ　パー [tạ˞ʧinu pa:](東南東。「辰の方」の義)。タ˞チドゥシ [tạ˞ʧiduʃi](辰年)。タ˞チディプス˥　ヤ˞レー˥ティ　タ˞ティドゥー˥シ　ビ˞リティ　スームン˥　ッ˞サヌ [tạ˞ʧidipu̥su˥ ja˞re:˥ti tạ˞tidu:˥ʃi bi˞riti su:mun˥ s˞sanu](辰年生まれであるから、立ち通し＜働き通し＞で座る＜休む＞ということを知らない)。

タ˞チ [tạ˞ʧi] 【名】質。性質。性格。タ˞チヌ　ワッ˥サル　プ˞スト˥ー　ドゥ˞シ　シェー˥　ナ˞ラン˥ダー [tạ˞ʧinu was˥saru pu̥˞suto:˥ du˞ʃi ʃe:˥ na˞ran˥da:](質の悪い人とは友達になっては＜友達しては＞ならないよ)。

タ˞チ˥アイ [tạ˞ʧi˥ʔai] 【名】立ち合い。後日の証拠のために、その場に責任者が臨席すること。標準語からの借用語。ウ˞ヤ˥バ　タ˞チ˥アイ　シ˞ミティ˥　ヤッ˞トゥ˥シ　˞サーリ　クー˥タ [ʔu˞ja˥ba tạ˞ʧi˥ʔai ʃi˞miti˥ jat˞tu˥ʃi ˞sa:ri ku:˥ta](親を立ち合いさせて、やっとのことで連れ帰った)。

タ˞チ˥ウイ [tạ˞ʧi˥ʔui] 【名】立ち泳ぎ。タ˞ティ˥ウイ [tạ˞ti˥ui](立ち泳ぎ) ともいう。˥バー　タ˞チ˥ウイ　˞シーシェー˥ン [˥ba: tạ˞ʧi˥ʔui ˞ʃi:ʃe:˥ŋ](私は立ち泳ぎができる＜し得る＞)。

タ˞チウジ [tạ˞ʧiʔuʤi] 【名】 (動) 魚の名。和名、オナガウツボ (体長約 1、5 メートル)。

タ˞チウトゥシ [tạ˞ʧiʔutuʃi] 【名】三線音楽の曲名。沖縄方言の借用語。「滝落とし」の義か。古典音楽の弦調で弾奏されたり、沖縄芝居の戦いの場面の音響効果音楽として用いられたりした。タ˞チウトゥシ˥　ピ˞キティ˥　ウ˞ブウタ˥ヌ　シ˞ルダミシー˥　ミリバ [tạ˞ʧiʔutuʃi˥ pi̥˞kiti˥ ʔu˞buʔuta˥nu ʃi˞rudami ʃi:˥ miriba](「滝落とし」の曲を弾いて古典楽曲＜大節。「大歌」の義＞の調弦をしてみなさい)。

タ˞チカー˥リ　イ˞リカーリ [tạ˞ʧika:˥ri ʔi˞rika:ri]【連】立ち代り入れ替わり。多くの人が代わる代わる現われるさま。タ˞チカー˥リ　イ˞リカーリ　ヨイシープス˥ヌ　˞ペー˥リ　˞オーッ˥タ [tạ˞ʧika:˥ri ʔi˞rika:ri joiʃi:pu̥su˥nu ˞pe:˥ri ˞ʔo:t˥ta](立ち代り入れ替わり祝儀の客が入って行かれた)。

タ˞チザー˥ク [tạ˞ʧiʤa:˥ku] 【名】立ってする仕事。鰹節製造の仕事。水汲み、炊事など。˥タティ [˥tạti](立ち) に、ッ˞サーク [s˞sa:ku](仕事) が下接して形成された複合語。タ˞チッサー˥ク [tạ˞ʧissa:˥ku](立ち仕事) ともいう。˞シーゾーニン˥ヌ　シ˞グトー˥　タ˞チザー˥ク　ヤ˞ルンダ　タイロー　スー˥　ピンマー　ビ˞ル˥　ピ˞マー　ナー˥ヌ [˞ʃi:ʤo:nin˥nu ʃi˞guto:˥ tạ˞ʧiʤa:˥ku ja˞runda tairo: su:˥ pimma: bi˞ru˥ pi˞ma: na:˥nu](カツオ節製造人の仕事は立ち仕事だから大漁する時は座る暇は無い)。タ˞ティシグ˥トゥ [tạ˞tiʃigu˥tu](立ち仕事) ともいう。

タ˞チザ˥ク [tạ˞ʧiʤa˥ku] 【名】暮らし。生計。生業。˞ヌー˥シル　タ˞チザク˥バ　˞シー　ブー˥ユー　シ˞キ˥　ミリ˞ミー [˞nu:˥ʃiru tạ˞ʧiʤaku˥ba ˞ʃi: bu:˥ju: ʃi̥˞ki˥ miri˞mi:](どんな暮らしをしているか、聞いてごらん)。

タ˞チシグ˥トゥ [tạ˞ʧiʃigu˥tu] 【名】立ち仕事。老年層はタ˞ティシグ˥トゥ [tạ˞tiʃigu˥tu](立ち仕事) という。ビ˞リシグトゥ [bi˞riʃigutu](座業。「座り仕事」の義) の対義語。ビ˞リシグトー˥ラン　タ˞チシグトゥ˥ル　ク˞チ˥サ [bi˞riʃiguto:˥ran tạ˞ʧiʃigutu˥ru ku̥˞ʧi˥sa](座業よりも立ち仕事が＜ぞ＞苦しい＜難儀だ＞)。˥プスイピーズ　タ˞チシグ˥トゥ　˞スンダ˥　ブ˞ガリ˥ス [˥pu̥suipi:ʤu tạ˞ʧiʃigu˥tu ˞sunda˥ bu˞gari˥su](一日中立ち仕事をするから、疲れる)。

タ˞チ˥タル　ビ˞リッタル [tạ˞ʧi˥taru bi˞rittaru] 【連】立ったり座ったり。˞ウイ˥プソー　タ˞チ˥タル　ビ˞リッタルヌドゥ˥　イッ˞チン˥ク˞チ˥サー˞ツォー [˞ʔui˥pu̥so: tạ˞ʧi˥taru bi˞rittarunudu˥ ʔit˞ʧiŋ˥ ku̥˞ʧi˥sa:˞tso:](年寄りは立ったり座ったり＜すること＞が一番きつい＜苦しい＞んだよ)。

タ˞チッカー˥リ　イ˞リッカーリ [tạ˞ʧikka:˥ri ʔi˞rikka:ri] 【連】立ち代り入れ替わり。多くの人が代わる代わる現れる。タ˞チッカー˥リ　イ˞リッカーリ˥　プ˞スヌ˥　ア˞ツァ˥マリ　˞クー˥ヌ　˞ウン˥ネーナ　˞ヌー˥ヌ　˥アルカヤー [tạ˞ʧikka:˥ri ʔi˞rikka:ri˥ pu̥˞sunu˥ ʔa˞tsa˥mari ˞ku:˥nu ˞ʔun˥ne:na ˞nu:˥nu ˥ʔarukaja:](立ち代わり入れ替わり人が集まってくるが、その家には何があるのだろうか)。

タ˞チッサー˥ク [tạ˞ʧissa:˥ku] 【名】立ち仕事。タ˞チザー˥ク [tạ˞ʧiʤa:˥ku](立ち仕事) ともいう。タ˞チッサー˥コー　˞ユーコーラ˥ヌ　ア˞ワリ˥ナ　シ˞ティワザ [tạ˞ʧissa:˥ko: ˞ju:ko:ra˥nu ʔa˞wari˥na ʃi̥˞ti-waʤa:](立ち仕事は休まれない。難儀な最低の仕事＜捨て業＞だ)。

タ˞チディ [tạ˞ʧidi] 【名】辰年。˞ワー˥　タ˞チディプス˥ミー [˞wa:˥ tạ˞ʧidipu̥su˥mi:](君は辰年生まれの人ですね)。

タ˞チディマリ [tạ˞ʧidimari] 【名】辰年生まれ。辰年

生まれの人。˞ワッ˥テナー　タ˞チディマリヌ˥　フ˞タール　ブンティ˥　ス˞クタヌ　タットゥ　ター ル˥　タ˞チディマリ˥ヤー [˞watˀtena: tạ˞ʧidimarinu˥ ɸụ˞ta:ru buntiˀ sụ˞kutanu tattu ta:ruˀ tạ˞ʧidimariˀ ja:](君の家には辰年生まれが二人いると聞いたが、誰と誰が辰年生まれか)。

タ˞チドゥシ [tạ˞ʧiduʃi] 【名】辰年。タ˞チドゥシヌ˥　プ˞ソー　チャー˥　タ˞チドゥー˥シ　ビ˞ル˥　ピ˞マー　ナーン˥ツォー [tạ˞ʧiduʃinuˀ pụ˞soː ʧaːˀ tạ˞ʧiduː˥ʃi bi˞ruˀ pi˞ma: naːnˀtsoː](辰年の人はいつも立ち通しで、座る暇はないそうだ)。

タ˞チニー [tạ˞ʧiniː] 【名】十二支の辰の日。˞キュー˥ヤ　タ˞チニー˥　ヤ˞リ　ワー˥　マ˞リビー˥　ヤ˞リバ˥　パ˞カー˥　パ˞ラン˥　ブ˞リ˥バ [˞kjuːˀja tạ˞ʧiniːˀ ja˞ri waː˥ ma˞ribiː˥ ja˞ribaˀ pạ˞kaːˀ pa˞ramˀ bu˞riˀba](今日は十二支の辰の日で、君の生まれ日であるから、お墓には行くな＜行かないで居れ＞よ)。

タ˞チヌ　パー [tạ˞ʧinu paː] 【連】十二支の辰の方角。東南東。˞キュー˥ヤ　タ˞チヌパーカジヌル　スーバントナー [˞kjuːˀja tạ˞ʧinupaːkaʤinuru suːbanˀnaː](今日は東南東の風が吹く＜そよぐ＞のだね)。

タ˞チノー˥ルン [tạ˞ʧinoːˀruŋ] 【自動】立ち直る。˞ウン˥ネーヤ　イ˞チジ˥キ　サ˞ボーリ˥　ブ˞タンドゥ˥　サ˞クシ˥ヌ　˞カイ˥リケーラ　タ˞チノー˥リ˥ケーン [˞ʔunˀneːja ʔi˞ʧiʤiˀki sa˞boːriˀ bu˞tanduˀ sạ˞kuʃiˀnu ˞kaiˀrikeːra tạ˞ʧinoːˀri ˀkeːŋ](その家は一時期さびれていたが、長男が帰ってきてからは立ち直ってきた)。エン˞バー˥キナー　タ˞チノー˥ルンティ　ウ˞ムーン˥ドゥ　タ˞チノーラン˥カー　˞ヌー˥　スーカヤー [jem˞baːˀkina: tạ˞ʧinoːˀrunti ʔu˞muːnˀdu tạ˞ʧinoːraŋˀka: ˞nuːˀ suːkajaː](来年までには立ち直ると思うが、立ち直らなければどうするのだろうか)。タ˞チノー˥ルクトゥ [tạ˞ʧinoːˀru ˀkụtu](立ち直ること)。タ˞チノー˥レー　˥ミサムヌ [tạ˞ʧinoːˀreː ˀmisamunu](立ち直ればよいのに)。˞パー˥ク　タ˞チノー˥リ [˞paːˀku tạ˞ʧinoːˀri](早く立ち直れ)。

タ˞チ˥バ [tạ˞ʧiˀba] 【名】立場。置かれている状況。観点。˞ナー　メーメーヌ˥　タ˞チ˥バーラ　˞ドゥー˥ヌ　ウ˞ムイ˥バ　˥アジ　ッ˞サリリ [˞naː meːmeːnuˀ tạ˞ʧiˀbaːra ˞duːˀnu ˞ʔumuiˀba ˀaʤi s˞sariri](各自、銘銘の立場から自分の思いを申し上げなさい)。

タ˞チパナ˥シ [tạ˞ʧipana˥ʃi] 【名】立ち話。ミ˞チナカ˥ナー　タ˞チパナシ˥バ　˞シー˥　ピ˞マダーリ　スーナ˥ヨー [mi˞ʧinakaˀnaː tạ˞ʧipanaʃiˀba ˞ʃiːˀ pi˞madaːri suːnaˀjoː](道中＜仕事への途中＞で立ち話をして暇つぶしするなよ)。

タ˞チ˥バル [tạ˞ʧiˀbaru] 【名】(地)˞立原」の義。大前農道を北西に延びた一帯。この農道がヤ˞ラ [ja˞ra](屋良)へ至る分岐点から北西の海岸に至る畑地をタ˞チ˥バル [tạ˞ʧiˀbaru](立原)といい、その道が海岸に通じた所の小さな浜をタ˞チ˥バルパマ [tạ˞ʧiˀbarupama](立原浜)という。西村の人々が潮干狩りに最も多く利用した道である。タ˞チバル˥ヌ　ス˞ムスク˥ナー　˞ミュートゥイシ˥ヌ　タティ˞ベー˥ン [tạ˞ʧibaruˀnu su˞musukuˀnaː ˞mjuːtuʔiʃiˀnu tati˞beːˀŋ](立原の最北＜最奥の所＞に夫婦石が立っている)。

タ˞チ˥バルパマ [tạ˞ʧiˀbarupama] 【名】(地)立原浜。タ˞チ˥バルパマラール　イ˞ンヌムラプソー˥　イ˞ソーシン　オーッ˥タ [tạ˞ʧiˀbarupamaːru ˞ʔinnumu-rapusoːˀ ʔi˞soːʃiŋ ʔoːtˀta](立原浜から＜ぞ＞西村の人は潮干狩りに行かれた)。

タ˞チマー˥リ　˞トゥンマーリ [tạ˞ʧimaːˀri ˞tum-maːri] 【連】しばしば立ち寄るさま。「立ち回り飛び回り」の義。ウ˞キ˥ナー　˞オー˥ルカーヤ˞ラ˥ビンケーン　˥トン　タ˞チマー˥リ　˞トゥンマーリ　ミーマー˥ル　˞シー　ッ˞ふォー˥リ [ʔu˞kiˀnaː ˞ʔoːˀrukaː ja˞raˀbiŋkeːn ˀtom tạ˞ʧimaːˀri ˞tum-maːri miːmaːˀru ˞ʃiːˀ f˞foːˀri](沖縄に行かれたら子供たちの所をしばしば立ち寄り、見回って＜注意して＞ください)。

˥タチムドゥル [˥tatʧimuduru] 【名】出戻り。いったん嫁いだ人が離縁されて実家に戻ってくること。˞ウン˥ネナー　˥タチムドゥルヌ　˞オー˥ルンツォー [˞ʔunˀnena: ˀtạtʧimudurunu ˞ʔoːˀruntsoː](あの家には出戻りがいらっしゃるそうだ)。

タ˞チ˥ワザ [tạ˞ʧiˀwaʤa] 【名】立ち仕事。「立ち業」の義。˞ダンパチ˥ヤーヤ　タ˞チ˥ワザ　ヤ˞ルンダ˥　シ˞トゥム˥テーラ　ユネン˞バー˥キ　ビ˞ル˥　ピ˞マー　ナー˥ヌ [˞dampatʧiˀjaːja tạ˞ʧiˀwaʤa ja˞runda˥ ʃi˞tumuˀteːra junem˞baːˀki bi˞ruˀ pi˞maː naːˀnu](理髪店は立ち仕事だから朝から晩まで座る暇はない)。

タ˞チングリ˥サン [tạ˞ʧiŋguriˀsaŋ] 【形】暮らしにくい。生活するのが難しい。所帯を維持しにくい。˞ウン˥ネーヤ　タ˞チングリ˥サンティ　ス˞クタンドゥ　ナン˥ゾー　タ˞チングリ˥サー　˞ナーン˥ツォー [˞ʔunˀneːja tạ˞ʧiŋguriˀsanti sụ˞kutandu nanˀʤoː taa˞ʧiŋguriˀsaː ˞naːnˀtsoː](あの家は＜嫁が＞所帯を維持しにくい＜暮らしにくい＞と聞いたが、それ

ほど暮らしにくくはないそうだ)。タ˞チングリサ˝ヌ　˝ウナー　ブ˞ララヌ [ta˞tʃiŋgurusa˝nu ˝ʔunaː bu ˞raranu](暮らしにくくて、そこには居れない)。˝アイニ　タ˞チングリ˝サン　˝トンマー　˞ナー˝ヌ [˝ʔaini tạ˞tʃiŋguri˝san ˝tommaː ˞naː˝nu](あんなに暮らしにくいところは無いよ)。

ダッ˞カテイ [dak˞kati] 【副】びっしょりと。ダッ˞カティ　ゾーリナー˝ヌ [dak˞kati ʤoːrinaː˝nu](びっしょり濡れてしまった)。

ダッ˞カ˝ティ [dak˞ka˝ti] 【副】1どっかりと。どかっと座るさま。ダッ˞カ˝ティ　ビ˞リシキティ　ウー˝ク　˝スコー　ア˞ラ˝ヌ [dak˞ka˝ti˝ bi˞riʃi̥kiti ʔuː˝ku ˝su̥koː ʔa˞ra˝nu](どっかりと座って動く気配はない)。2べったりとくっ付くさま。˞ヤー˝ヌ　ク˞ビ˝ナー　ドゥ˞ルバ˝　ダッ˞カティ　ヌーリ˝　ッ˞ふァーシ˝　シケー [˞jaː˝nu ku˞bi˝naː du˞ruba˝ dak˞kati nuːri˝ f˞faːʃi˝ʃi̥keː](家の壁に泥をべったりと塗りたくってある＜塗り喰わしてある＞)。

ダッ˞カティ [dak˞kati] 【副】びっしょり。ぐっしょり。ひどく濡れるさま。˝アミナー　ダッ˞カティ　ゾーリティ　フッツォーリベー [˝ʔaminaː dak˞kati ʤoːriti ɸuttsoːri beː](雨にびっしょり濡れて震えている)。ダーッ˞ふァティ [daːf˞fati](びっしょり) ともいう。

タ˞ツ˝カワ [tạ˞tsu˝kawa] 【名】滝。歌謡語。ピ˞ナイサーラ [pi˞naisaːra](ピナイ＜鬚川＞滝) の対語。/マエニ　ミユルワ　ピナイサラ　ウミニ　ナガユル　タツカワワ　ユユム　カワラン　ウムシルヤ/(前に見えるのはピナイ滝、海に流れる立つ川は、世世＜代代＞に変わらず見事である)「鳩間口説」。

˞タックイ [˞takkui] 【名】血統。血筋。古老は、タ˞クライ [tạ˞kurai](血統) という。ビ˞キッふァナシタッ˝クイ [bi˞kiffanaʃitak˝kui](男児を生む血統)。ミ˞ドゥムタッ˝クイ [mi˞dumutak˝kui](女児を生む血統)。サ˞キヌミタッ˝クイ [sạ˞kinumitak˝kui](大酒飲みの血統)。˞チョーミータックイ [˞tsoːmiːtakkui](長命の血統)。˞ウン˝ネーヤ　˞チョーミタックイ˝　ヤ˞ルンダル˝　ムー˞ル˝　ナ˞ガイキ　ソー˝ル [˞ʔun˝neːja ˞tsoːmitakkui˝ ja˞rundaru˝ muː˞ru˝ na˞gaiki soː˝ru](あの家は長命の血統だから、皆長生きをなさるのだ)。

˞ダックゥー˝スン [˞dakkwaː˝suŋ] 【他動】くっつける。ひっつける。接合する。˝クナー　˞ダックゥー˝スン　˞デー˝カー　˞ダックゥー˝シ　˝ミサヌ　ノー˞シン　ダックゥーサラン˝　パジ [˝kunaː ˞dakkwaː˝sun ˞deː˝kaː ˞dakkwaː˝ʃi ˝misanu noː˞ʃin dakkwaːsaram˝ paʤi](此処にくっ付けるなら、くっつけても良いが、どうせくっつけられないはずだ)。˞ダックゥー˝ス　˝ムノー　˞ダックゥー˝シェー　˝ミサムヌ [˞dakkwaː˝su ˝muno: ˞dakkwaː˝ʃeː ˝misamunu](くっつけるものはくっつければ良いのに)。˝クナー　˞ダックゥー˝シ [˝kunaː ˞dakkwaː˝ʃi](此処にくっつけろ)。

˞ダックゥー˝ルン [˞dakkwaː˝ruŋ] 【自動】1くっつく。ひっつく (引っ付く)。粘着する。ぴったりと付く。˞ダックゥー˝ルンティ　ウ˞ムータン˝ドゥ　˞ダックゥーラン˝バン [˞dakkwaː˝runti ʔu˞muːtan˝du ˞dakkwaːram˝baŋ](くっ付くかと思ったがくっ付かないわい)。ク˞レー　ダックゥーリ　ヤッ˝サン [ku˞reː dakkwaːrijas˝saŋ](これはくっ付きやすい)。˞ダックゥー˝ル　˝ムノー　˞ダックゥー˝シ [˞dakkwaː˝ru ˝muno: ˞dakkwaː˝ʃi](くっ付くものはくっつけろ)。2男女が親しくなる (夫婦になる)。˞ウッ˝ツァー　フ˞ターロー˝　キサー˞ティ　ダックゥー˝リ　˞ベー [˞ʔut˝tsaː ɸu̥˞taːroː˝ ki̥saː˞ti dakkwaː˝ri ˞beː](これら二人はすでにくっ付いている＜夫婦になっている＞)。

˞タックゥイムッ˝クゥイ [˞takkwaimuk˝kwai] 【副】くっつきあうさま。男女がいちゃつくさま。沖縄本島方言からの借用転訛した語。ア˞ガピーローラ　タックゥイムッ˝クゥイ　˞シェー˝ティ　˞ミーヌッサ˝ヌ　ミ˞ララ˝ヌ [ʔa˞gapiːroːra takkwaimuk˝kwai ˞ʃeː˝ti ˞miːnussa˝nu mi˞rara˝nu](真昼間からいちゃついて、見苦しくて見られない＜見ておれない＞)。

˞タッシ [˞taʃʃi] 【名】役場からの通知命令。達し。令達。命令。通達。マ˞ラリ˝ア　ヨ˞ボーヌ˝　タ˞ミ˝ナー　˞ヤーカー˝ジ　˞ディーディー˝ティー　˝マキティ　˞スー　タッシヌ˝　ヤ˞ク˝バーラ　˝ケーツォー [ma˞rari˝ja jo˞boːnu˝ ta˞mi˝naː ˞jaːkaː˝ʤi ˞diːdiː˝tiː ˝makiti ˞suː taʃʃinu˝ ja˞ku˝baːra ˝keːtsoː](マラリア予防のために家毎に DDT を散布せよ＜撒け＞という達しが役場から来たそうだ)。

˞タッター [˞tattaː] 【代】誰たち＜不定称。複数形＞。誰々。誰等。˝-ター [-taː](～達) は名詞、代名詞に下接して複数形をつくる接尾辞。˞タッタール　ワー　テー˝ナイ　˞シー　ッふィールワ [˞tattaːru waː teː˝nai ˞ʃiː ffiːruwa](誰たちが君の手伝いをしてくれるか)。ク˞レー　タッター˝　ムヌヤ [ku˞reː tattaː˝ munuja](これは誰たちのものか)。˞タッターン

シミルワ [˞tattaːŋ˺ ʃi˞miruwa](誰たちにさせるか)。˞タッター˺ラ　˞カウワ [˞tattaː˺ra ˞kauwa](誰たちから買うか)。

タッ˞タン [tat˞taŋ] 【副】次第に。ますます。自然の時の移ろいにしたがって静かに変化するさま。変化の状態が動的に、視覚的に感じられるさまを表す。タ˞ダーイ [ta˞daːi](次第に。ますます。意図的に次から次へ行動し変化させるさま、変化させる意志を表す) とは多少ニュアンスが異なる。˞ヤンマイ˺ヤー　タッ˞タン˺　ミサナリ　˞キー˺ブ [˞jammai˺ jaː tat˞tam˺ misanari ˞kiː˺bu](病気は次第に良くなってきている)。

˞タッ˺チュー [˞tat˺ʧuː] 【名】岩や山が壁のように立ちはだかっているもの。棒立ちになっている岩。˞カー˺レドンドンヌ　˞インタヌ　ガンパラ˺ナー　˞タッチュー˺ヌ　˞アッ˺タン˞ナー [˞kaː˺redondonnu ˞ʔintanu ˞gampara˺naː ˞tattʃuː˺nu ˞ʔat˺tana˞naː](カーレドンドンの西側の岩原に棒立ちの岩があったねえ)。

˞タッ˺テー [˞tat˺teː] 【連】誰の家。どの家。どこの家。˞ワー　タッ˺テーヌ　ッ˞ふァ˺ヤー [˞waː tat˺teːnu f˞fa˺jaː](君はどこの家の子供か)。ク˞レー　タッ˺テヌ　ッ˞ふァ˺ヤー [ku˞reː tat˺tenu f˞fa˺jaː](これはどこの家の子か)。˞タッ˺テーラ　˞クー˺タ [˞tat˺teːra ˞kuː˺ta](どこの家から来たか)。˞タッ˺テー　˞オール˺ワ [˞tat˺teː ˞ʔoːru˺wa](誰の家へ行かれますか)。˞タッ˺テール　マ˞シ˺ヤ [˞tat˺teːru ma˞ʃi˺ja](誰の家が良いか)。

˞タッ˺テー　˞カッ˺テー [˞tat˺teː ˞kat˺teː] 【連】どこの家・彼の家。ABCDEBCD 型の重言。ウ˞レー　タッ˺テー　˞カッ˺テーティ　˞ナー˺ン　˞ターン˺ヤーナーン　ア˞リ˺ブタ [ʔu˞reː tat˺teː ˞kat˺teːti ˞naː˺nta:˞ŋ˺jaːnaːŋ ʔa˞ri˺buta](それはどの家・彼の家となく、どの家＜だれの家＞にもあった＜有りをった＞)。

ダッ˞ティ [dat˞ti] 【副】ぱったり。突然風が止まるさま。ウ˞ヌス˺ク　フ˞クタ　カ˞ジェー˺　ダッ˞ティ˺　トゥ˞ヌマリナー˺ヌ [ʔu˞nusu̥˺ku ɸu̥˞kuta ka˞ʤe˺ dat˞ti˺ tu˞marinaː˺nu](あんなに吹いた風がぴたっと止まってしまった)。

˞タットゥビカッ˺トゥビ [˞tattubikat˺tubi] 【副】崇め敬うさま。こよなく尊ぶさま。ABCDEBCD 型の重言。˞カンヌ˺マイ　˞タットゥビカッ˺トゥビ　ウ˞ガ˺ミ　˞ニン˺ガイ　˞シェー˺ティル　ム˞ヌスクル˺バ　˞シー　パン˺ジョーン　˞シー˺ケー˞ダー [˞kannu ˺mai ˞tattubikat˺tubi ʔu˞ga˺mi ˞niŋ˺gai ˞ʃeː˺tiru mu˞nusu̥kuru˺ba ˞ʃiː panˀʤoːŋ ˞ʃiː˺keː˞daː](神様を崇め敬い、祈願をしながら作物をつくり、子孫繁昌もさせてきたのだよ)。

˞タッ˺トゥブン [˞tat˺tubuŋ] 【他動】崇めうやまう。「尊ぶ」の義。˺ウヤパープジ　˞タッ˺トゥブ　プ˞ソー　カンヌマイ˺ユン　˞タッ˺トゥブン [˺ʔujapaːpuʤi ˞tat˺tubu pu̥˞soː kannumai˺jun ˞tat˺tubuŋ](先祖を崇め敬う人は神様も崇め敬う)。˺ウヤパープジェー˺ドゥーパジミ　˞タットゥバン˺カー　˞タッ˺トゥブ　プ˞ソー˺　ブ˞ラーヌ [˺ʔujapaːpuʤe: ˺duːpaʤimi ˞tattubaŋ˺kaː ˞tat˺tubu pu̥˞soː˺ bu˞raːnu](先祖を自ら崇め敬わないと崇め敬う人はいなくなる)。˞タッ˺トゥベー　˺ミサムヌ [˞tat˺tubeː ˺misamunu](崇め敬えばよいのに)。˞タッ˺トゥビ　˺ミサン [˞tat˺tubi ˺misaŋ](崇め敬ってもよい)。ヤー˞ディン　タッ˺トゥビ [jaː˞din tat˺tubi](必ず崇め敬え)。

˞ダッふァー˺スン [˞daffaː˺suŋ] 【他動】たっぷり塗りつける。塗りたくる。めちゃくちゃに塗る。ぺたっとくっつける。˺シラナー　˺シン　˞ダッふァー˺スンティ　シ˞タンドゥ　ダッふァーサラン˺セン [˞ʃirana: ˺ʃin ˞daffaː˺sunti ʃi̥˞tandu daffaːsaraŋ˺ʃeŋ](顔に墨を塗りたくろうとしたが塗りつけられなかった)。˞ダッふァー˺シ　˺ミサカー　˞ダッふァー˺ス　˺クトー　ヤ˞シ˺ムヌ [˞daffaː˺ʃi ˺misaka: ˞daffaː˺su ˺ku̥to: ja˞ʃi˺munu](塗りたくってよければ、塗りたくることは簡単なことだ)。˞ダッふァー˺シェー˺ミサムヌ [˞daffaː˺ʃeː ˺misamunu](塗りたくればいいのに)。˺シラナー　˞ダッふァー˺シー [˺ʃirana: ˞daffaː˺ʃi](顔に塗りたくれ)。

˞ダッふァダッふァ [˞daffadaffa] 【副】1だぶだぶ。桶の水を揺らして零すさま。擬音語。˞タング˺ヌミ˞ジェー　ダッふァダッふァ˺シ　カ˞タマン˺ドーシ　ウ˞キ˺　イ˞リテイ˺　カ˞タ˺ミバ [˞taŋgu˺nu mi˞ʤeː daffadaffa˺ʃi kḁ˞taman˺doːʃi ʔu˞ki˺ ʔi˞riti˺ kḁ˞ta˺miba](たごおけ＜担桶＞の水はだぶだぶ揺らし零して運ばないで＜担がないで＞、木の葉の浮きを入れて運べ＜担げ＞)。2ざっくざっく。じゃぶじゃぶ。水田を耕すさま。水中を歩くさま。˞ダッふァダッふァ˺シ　˞キー˺パイシ　˺ター　˞カイ˺スン [˞daffadaffa˺ʃi ˞kiː˺paiʃi ˺taː ˞kai˺suŋ](ざっくざっく、じゃぶじゃぶと木鍬で田を耕す)。

ダッ˞ふァティ [daf˞fati] 【副】1どかっと。どさっと。重い物が勢いよくくっ付くさま。大量の物が一気に集まるさま。擬態語。˞カー˺ラヤー　フ˞クンテ

ィ˥　ミツァ　ク˩ナシティ　ナン˥ギ　˩アウタ˥　クトー　ク˩ビ˥ナ　ダッ˩ふァティ　ダックヮー˥リ　˩ナー˥ヌ [˩kaː˥raja: ɸu̥˩kunti˥ mitsa ku˩naʃi̥ti naŋ˥gi ˩ʔauta˥ ku̥to: ku˩bi˥na daf˩fati dakkwaː˥ri ˩naː˥nu](瓦葺の屋根を葺こうと、粘土を捏ねて投げ上げたところ、壁にどばっとくっ付いてしまった)。2どさっと。どばっと。どかっと。液体を一度に零(コボ)すさま。ウ˩ビ˥ヌ　ミ˩ジバ˥　ダッ˩ふァティ　ノー˥シシ˩ティナー˥ヌ [ʔu˩bi˥nu mi˩ʤiba˥ daf˩fati noː˥ʃi ʃi̥˩tinaː˥nu](あれだけの大量の水をどさっと零して捨ててしまった)。

˥タツン [˥tạtsuŋ] 【他動】裁断する。˩裁つ」の義。標準語からの借用語。型紙などに当てて裁断する。カ˩タガミ˥ナー　ア˩ティティ˥　タツンティ　˩スーンドゥ˥　タ˩チユーサ˥ヌ [kạ˩tagami˥naː ʔa˩titi˥ tạtsunti ˩suːndu˥ tạ˩tʃijuːsa˥nu](型紙に当てて裁断しようとするが裁ちきれない＜裁つことができない＞)。タ˩チヤッ˥サ　˥ムノーラ　˥タチェー　˥ミサムヌ [tạ˩tʃijas˥sa ˥munoːra ˥tạtʃeː ˥misamunu](裁ちやすいものから裁てばよいのに)。˥タツムノー　˩パー˥ク　˥タチバ [˥tạtsu ˥munoː ˩paː˥ku ˥tạtʃiba](裁つものは早く裁てよ)。

タ˩デー˥マ [ta˩deː˥ma] 【副】今すぐ。直に。「Tadaima. タダイマ (只今) 副詞. ただ今」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。イ˩ラムテーラヌ˥　フネー　タ˩デー˥マ　シ˩キ˥ス [ʔi˩ramuteːranu˥ ɸuneː ta˩deː˥ma ʃi̥˩ki˥su](西表からの船はもう直ぐ到着するよ)。

タ˩デーマンチン [ta˩deːmanʧiŋ] 【副】直ちに。今すぐに。短時間のうちに。「〜只今参らむと侍るといふ」『源氏物語　帚木』、「Tadaima. タダイマ (只今)」『邦訳日葡辞書』に　˥ンチン [˥ntʃiŋ](の・内に) が付いて、それが転訛したもの。フ˩チン˥パー　˩シッ˥キ　˥シル　ス˩ブ˥リ　ヌ˩マ˥シェーチバ　タ˩デーマンチン˥　ニチェー　サ˩マリ˥ス [ɸu̥˩tʃim˥pa: ˩ʃik˥ki ˥ʃiru su˩bu˥ri nu˩ma˥ʃeːʧiba ta˩deːmanʧin˥ nitʃeː sa˩mari˥su](よもぎ＜蓬＞の葉を搗いて汁を絞って飲ませたから直に熱はさがる＜冷める。解熱する＞よ)。

˥タティ [˥tạti] 【名】たて (縦)。上から下までの長さ。ユ˩ク [ju˩ku](横) の対義語。標準語からの借用語。普通は˥ナイ [˥nai](縦)、シ˩マー [ʃi˩maː](横) という。˥タティン　ユ˩クン˥　パ˩カ˥リティ　˥キスン　˥トン　キ˩ミリ [˥tạtiɲ ju˩kum˥ pạ˩ka˥riti ˥ki̥sun ˥toŋ ki˩miri](縦も横も計って切るところを決めなさい)。

タ˩ティ˥アヤ [tạ˩ti˥ʔaja] 【名】縦模様。ユ˩クアヤ [ju˩kuʔaja](横模様) の対義語。タ˩ティ˥アヤー　ウ˩リヤッ˥サン [tạ˩ti˥ʔajaː ʔu˩rijas˥saŋ](縦模様は織りやすい)。

タ˩ティカイ˥ルン [tạ˩tikai˥ruŋ] 【他動】立て替える。他人に代わって一時代金を支払う。シ˩ナムヌヌ　ダイヤ˥　バー　タ˩ティカイ˥ルンティ　ウ˩ムータ˥ヌ　タ˩ティカイララ˥ヌ [ʃi˩namununu daija˥ baː tạ˩tikai˥runti ʔu˩muːta˥nu tạ˩tikairara˥nu](品物の代金は私が立て替えようと思ったが、立て替えられない)。

タ˩ティ˥カウン [tạ˩ti˥kauŋ] 【他動】立て替える。˩ワー˥　ムノー　˥バー　タ˩ティ˥カウン [˩waː˥ munoː ˥baː tạ˩ti˥kauŋ](君のものは私が立て替える)。タ˩ティカー˥ヌ [tạ˩tikaː˥nu](立て替えない)。タ˩ティカイ˥　プサン [tạ˩tikai˥ pu̥saŋ](立て替えたい)。タ˩ティ˥カウ　˥クトゥ [tạ˩ti˥kau ˥ku̥tu](立て替えること)。タ˩ティカイ˥ヤー　˥ミサムヌ [tạ˩tikai˥jaː ˥misamunu](立て替えれば良いのに)。˩ワー˥　タ˩ティ˥カイバ [˩waː˥ tạ˩ti˥kaiba](君が立替ろ)。

ダ˩ディ˥クダキ [da˩di˥kudaki] 【名】 (植) 竹の一種。西表島北部の伊武田地区の南に聳える山 (古見岳の連山) に産する竹。竹床を編むのに利用した。ダ˩ディ˥クダキシ　タ˩キフンツァ˥　フ˩モッー˥タ [da˩di˥kudakiʃi tạ˩kiɸuntsa˥ ɸu˩moːt˥ta](ダディク竹で竹床を編まれた)。和名不明。西表島北岸のダディク岳に自生するという竹。屋根を葺く際のユ˩チル [ju˩ʧiru](えつり＜桟＞、「桟、瓦乃衣都利」『倭名類聚鈔』) に利用される。˩パイター˥ラ　ダ˩ディ˥クダキバ　キ˩ソーリ˥ル　ユ˩チロー˥　フ˩モーッ˥タツォー [˩paitaː˥ra da˩di˥kudakiba ki̥˩soːri˥ru ju˩ʧiroː ˥ɸu˩moːt˥tatsoː](西表島＜南端＞からダディクダキを伐ってこられて屋根葺き用のエツリ＜桟＞を編まれたそうだ)。

ダ˩ディ˥クヤマ [da˩di˥kujama] 【名】古見岳の連山の一つ。伊武田地区の南に聳える山。この山の北側山麓にウ˩ブ˥ミジ [ʔu˩bu˥miʤi](大見謝川)、˩ケーダガー˥ラ [˩keːdagaː˥ra](ケーダ川)、˩クーラガーラ [˩kuːragaːra](クーラ川) が形成され、北海岸に流出している。ム˩カ˥シェー　ダ˩ディ˥クヤマラール　ユ˩チルダキン˥　キ˩ソーッ˥タティ˩ダー [mu˩ka˥ʃeː da˩di˥kujamaraːru ju˩ʧirudakiŋ˥ ki̥˩soːt˥tati˩daː](昔はダディク山からエツリ竹も伐り出され＜伐られ＞たそうだよ)。

タ˩ティザー˥ク [tạ˩tiʤaː˥ku] 【名】立ち仕事。なりわい (生業)。生活のための職業。すぎわい (生業)。タ

˞ティッサー˜ク [tạ˞tissa:˜ku](立ち仕事) ともいう。˞ワーテ˜　マ˞ナ˜マー　˞ヌー˜シ　˞ブー˜　タ˞ティザーク˜バ　˞シー　ブーワ [˞wa:te˜ ma˞na˜ma: ˞nu:˜ʃi ˞bu:˜ tạ˞tidʑa:ku˜ba ˞ʃi: bu:wa](君は、それで、今はどのようななりわい (生業) をしているのか)。

タ˞ティシグ˜トゥ [tạ˞tiʃigu˜tu] 【名】立ち仕事。立ってする仕事。ビ˞リシグトゥ [bi˞riʃigutu](座業。座り仕事) の対義語。˜プスイピーズ　タ˞ティシグ˜トゥ　˞スンダ　パン˜マー　フ˞クリス [˜pu̥suipi:dʑu tạ˞tiʃigu˜tu ˞sunda pam˜ma: ɸu̥˞kurisu](一日中立ち仕事をするので、脚は腫れる)。˞シーゾーニン˜マー　タ˞ティシグ˜トゥ　ヤ˞ルンダ　タイロー　スー˜ピンマー　ブ˞ガ˜リティ　˞ウーカラ˜ヌ [˞ʃi:dʑo:nim ˜ma: tạ˞tiʃigu˜tu ja˞runda tairo: su:˜ pimma: bu˞ga˜riti ˞ʔu:kara˜nu](カツオ節製造人は立ち仕事だから、大漁する日は疲れて動けない)。

タ˞ティ˜シジ [tạ˞ti˜ʃidʑi] 【名】たてじま (縦縞)。「縦筋」の義。˜バサキンマー　タ˞ティ˜シジキンル　˞ゴー˜ラータ [˜basakimma: tạ˞ti˜ʃidʑikinru ˞go:˜ra:ta](芭蕉の繊維で織った着物 < 芭蕉着 > は縦縞模様が多かった)。

タ˞ティ˜ズク [tạ˞ti˜dʑuku] 【名】暮らし。暮らしを立てること。生計。タ˞ティズク˜ヌ　キ˞ビッ˜サカー　シ˞グトゥ　カイル˜　クトゥン　˞カンガイラン˜カー　ナ˞ラ˜ヌ [tạ˞tidʑuku˜nu ki˞bis˜saka: ʃi˞gutu kairu˜ku̥tuŋ ˞kaŋgairaŋ˜ka: na˞ra˜nu](暮らしが厳しかったら仕事を変えることも考えないといけない)。

タ˞ティトゥー˜スン [tạ˞titu:˜suŋ] 【自動】立ち続ける。「立ち通す」の義。˜プスイピーズ　タ˞ティトゥー˜スン [˜pu̥suipi:dʑu tạ˞titu:˜suŋ](一日中立ち続ける)。タ˞ティトゥーサラ˜ヌ [tạ˞titu:sara˜nu](立ち続けられない)。タ˞ティトゥー˜シ　パ˞タラクン [tạ˞titu:˜ʃi pạ˞tarakuŋ](立ち通しで働く)。タ˞ティトゥー˜シ　˜ミサカー　タ˞ティトゥー˜ス　˜クトー　˜ナルン [tạ˞titu:˜ʃi ˜misaka: tạ˞titu:˜su ˜ku̥to: ˜naruŋ](立ち続けて良ければ、立ち続けることは出来る)。タ˞ティトゥー˜シェー　˜ミサムヌ [tạ˞titu:˜ʃe: ˜misamunu](たち続ければ良いのに)、˜クナーティ　タ˞ティトゥー˜シ [˜kuna:ti tạ˞titu:˜ʃi](立ち続けろ)。

タ˞ティドゥマ˜ルン [tạ˞tiduma˜ruŋ] 【自動】立ち止まる。˞イットゥ˜ケー　タ˞ティドゥマ˜ルンティ　シ˞タンドゥ˜　タ˞ティドゥマラン˜シェン [˞ʔittu˜ke: tạ˞tiduma˜runti ʃi̥˞tandu˜ tạ˞tidumaraŋ˜ʃeŋ](いっとき < 暫時。ちょっと > 立ち止まると言ったが、立ち止まらなかった)。タ˞ティドゥマ˜リ　˜ミサカー　タ˞ティドゥマ˜ル　˜クトー　˜ナルン [tạ˞tiduma˜ri ˜misaka: tạ˞tiduma˜ru ˜ku̥to: ˜naruŋ](立ち止まって良ければ立ち止まることは出来る)。タ˞ティドゥマ˜レー　˜ミサムヌ [tạ˞tiduma˜re: ˜misamunu](立ち止まれば良いのに)。タ˞ティドゥマ˜リ [tạ˞tiduma˜ri](立ち止まれ)。

タ˞ティ˜ナー [tạ˞ti˜na:] 【名】漁法の一種。一本釣り漁法。˞インタヌ　ピーヌ˜クシ [˞ʔintanu pi:nu˜ku̥ʃi](西の干瀬の後ろ < 外洋部 >) やˇスニ [˜suni](曽根) でアンカーを 2 本下ろして舟を揺れないように固定させ、一本の釣り糸を船上から深い海底へ下ろして釣る漁法。˞パイ˜ナー [˞pai˜na:](延縄) の対義語。「立て縄」の義。˞インタヌ　ピーヌ˜クシナー　タ˞ティ˜ナー　˞シー　アーラ˜ニバルン　ア˞カジナーン　ホー˜ソーッタン [˞ʔintanu pi:nu˜ku̥ʃina: tạ˞ti˜na: ˞ʃi: ʔa:ra˜nibaruŋ ʔa˞kadʑina:ŋ ho:˜so:ttaŋ](西の干瀬の外洋 < 干瀬の腰。干瀬の後ろ > で一本釣り < 立て縄 > 漁をして、マハタ <˞アーラ˜ニバル > やニセスジハタ < アカジナー > も釣られた)。

タ˞ティ˜ナライ [tạ˞ti˜narai] 【名】立つことに慣れること。タ˞ティ˜ナライ　˞シー　ブンダ˜　ク˞チ˜サー　˞ナー˜ヌ [tạ˞ti˜narai ˞ʃi: bunda˜ ku̥˞tʃi˜sa: ˞na: ˜nu](立つ事に慣れているから苦しいことはない)。

タ˞ティヌ˜クン [tạ˞tinu˜kuŋ] 【自動】居所を立ち去る。他所へ移る。「立ち退く」の義。˜タティパルン [˜tạti-paruŋ](立ち去る) ともいう。若年層は、タ˞チヌ˜クン [tạ˞tʃinu˜kuŋ](立ち退く) ともいう。ア˞ツァバー˜キナ　˜クマーラ　タ˞ティヌ˜クンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　タ˞ティヌカラ˜ヌ [ʔa˞tsaba:˜kina ˜kuma:ra tạ˞tinu˜kunti ʔu˞mu:n˜du tạ˞tinukara˜nu](明日までに此処から立ち退こうと思うが、立ち退かれない)。ク˞トゥシズー˜ナ　タ˞ティヌ˜キ　˜ミサカー　タ˞ティヌ˜ク　˜クトー　˜ナルン [ku̥˞tuʃidʑu:˜na tạ˞tinu˜ki ˜misaka: tạ˞tinu˜ku ˜ku̥to: ˜naruŋ](今年中に立ち退いて良ければ、立ち退くことは出来る)。˞パー˜ク　タ˞ティヌ˜ケー　˜ミサムヌ [˞pa:˜ku tạ˞tinu˜ke: ˜misamunu](早く立ち退けば良いのに)。タ˞ティヌ˜キバ [tạ˞tinu˜kiba](立ち退けよ)。

タ˞ティノー˜ルン [tạ˞tino:˜ruŋ] 【自動】立ち直る。もとの良い状態に戻る。なおる。若年層は、タ˞チノー˜ルン [tạ˞tʃino:˜ruŋ](立ち直る) ともいう。シ˞ナムヌヌ˜サーギ　˞カーサリ˜カー　マ˞チヤーヤ˜　タ˞ティノー˜ルンティ　ウ˞ムータ˜ヌ　タ˞ティノーラン˜シェン [ʃi˞namununu˜sa:gi ˞ka:sari˜ka: ma˞tʃija:ja˜ tạ˞tino:˜runti ʔu˞mu:ta˜nu tạ˞tino:raŋ˜ʃeŋ](品物がさ

え売れれば店は立ち直ると思ったが、立ち直らなかった)。タ˞ティノー˞ル　˞クトゥン　˞アン [tạ˞tino:˞ru ˞kụtuŋ ˞ʔaŋ](立ち直ることもある)。タ˞ティノー˞レー　˞ミサムヌ [tạ˞tino:˞re: ˞misamunu](立ち直れば良いのに)。˞ヤンマイ˞ヤ　˞イサン　˞ミシェーティ　ヤー˞ディン˞　タ˞ティノー˞リ˞ダー [˞jammai˞ja ˞ʔisam ˞miʃe:ti ja:˞din˞ tạ˞tino:˞ri˞da:](病気は医者に診せてきっと立ち直れよ)。

˞タティパルン [˞tatiparuŋ] 【自動】立ち去る。ノー˞ンティン˞　ア˞ザンドー˞シ　˞タティパルンティ　ウ˞ムーン˞ドゥ　ナー˞イヤー˞　タ˞ティパララン˞バ　˞タティパル　˞マイナー　プ˞ス˞クトゥ(プ˞ス˞クイ)　˞アジ　ッ˞サリリ [no:˞ntiŋ˞ ʔa˞ʤando:˞ʃi ˞tạtiparunti ʔu˞mu:n˞du na:˞ija:˞ tạtipa˞raram ˞ba ˞tạtiparu ˞maina: pụ˞su˞kụtu(pu˞su˞kui)˞ʔaʤi s˞sariri](なんにも言わないで立ち去ろうと思うが、ただ何もしないで黙っては立ち去れないので、立ち去る前に一言申しあげなさい)。˞タティパリ˞ミサカー　˞タティパレー　˞ミサムヌ [˞tạtipari ˞misaka: ˞tạtipare: ˞misamunu](立ち去ってよければ立ち去ればよいのに)。˞パー˞ク　˞タティパリ [˞pa: ˞ku ˞tatipari](早く立ち去れ)。

˞タティビリ [˞tạtibiri] 【名】立ったり、座ったりすること。日常の所作。「たなびく雲の立ちゐ〜」『古今集序』の転訛したもの。˞トゥシ　˞トゥルカー　˞タティビリン　プ˞スン　ティーワチ˞ライ˞　シ˞ミラン˞カー　ナ˞ラ˞ヌ [˞tuʃi ˞turuka: ˞tạtibirim pụ˞sun ti:watʃi˞rai ʃi˞miraŋ˞ka: na˞ra˞nu](年を取ると立ったり座ったりすることも他人の世話にならなければ＜他人に手を煩わさせなければ＞ならない)。

タ˞ティブガ˞リ [tạ˞tibuga˞ri] 【名】立ち続けて疲れること。「立ち疲れ」の義。ビ˞リブガリ [bi˞ribugari](座り続けて疲れること) の対義語。シ˞トゥム˞テーラ　ユ˞ヌ˞トンナ　ナー˞イ˞　タティ　˞ベー˞ティ　タ˞ティブガ˞リ　˞シー　ナー˞ヌ [ʃị˞tumu˞te:ra ju˞nu˞tonna na:˞i˞ tạti ˞be:˞ti tạ˞tibuga˞ri ˞ʃi: na:˞nu](朝から同じ所にずうっと立っているので、立ち疲れしてしまった)。

タ˞ティ˞フダ [tạ˞ti˞ɸuda] 【名】立て札。掲示板。タ˞ティ˞フダナー　˞ヌーティ　カ˞カ˞リ　˞ベー˞ユー　ユミ˞ミー [tạ˞ti˞ɸudana: ˞nu:ti kạ˞ka˞ri ˞be:˞ju: jumi˞mi:](立て札に何と書かれているか、読んでごらん)。

タ˞ティ˞フチ [tạ˞ti˞ɸụtʃi] 【名】立て方。ク˞ヌ˞　パ˞ラー˞ヤ　˞ヌー˞シル　タ˞トーッ˞タユー　タ˞ティ˞フチ　シ˞キ˞　クー [ku˞nu˞ pa˞ra:˞ja ˞nu:˞ʃiru tạ˞to:t˞taju: tạ˞ti˞ɸụtʃi ʃị˞ki˞ ku:](この柱はどうやって立てられたか、立て方を聞いてこい)。

タ˞ティ˞ブニ [tạ˞ti˞buni] 【名】凧の縦骨。凧の縦の竹骨。ピ˞キダマヌ˞　タ˞ティ˞ブネー　ク˞マークマー˞シ　キ˞ジ˞バ [pị˞kidamanu˞ tạ˞ti˞bune: ku˞ma:kuma:˞ʃi ki˞ʤi˞ba](凧の縦の竹骨は細く削れ)。

タ˞ティマー˞リ　˞トゥンマーリ [tạ˞tima:˞ri ˞tummaːri] 【連】よく見回りをすること。気をつけて見回りすること。気をつけて見守ること。「立ち回り飛び回り」の義。ウ˞キ˞ナー　˞パルカー　˞バン˞テヌ　ッ˞ふァン˞ケー　タ˞ティマー˞リ　˞トゥンマーリ　シー˞　ミリ　ッ˞ふィーリ˞ヨー [ʔu˞ki˞na: ˞paruka: ˞ban˞tenu f˞faŋ˞ke: tạ˞tima:˞ri ˞tumma:ri ʃi: ˞ miri f˞fi:ri˞jo:](沖縄に行ったら私の子供たちをよく見回りして＜見守って＞くれよ)。

タ˞ティ˞ムヌ [tạ˞ti˞munu] 【名】建物。建築物。標準語からの借用語。イ˞サンケー˞ナー　˞ニカイヤー　˞サンカイヤーヌ　イ˞ルン˞ナ　タ˞ティムヌ˞ヌ　˞アン [ʔi˞saŋke:˞na: ˞nikaija: ˞saŋkaija:nu ʔi˞run˞na tạ˞timunu˞nu ˞ʔaŋ](石垣島には二階建、三階建ての、いろんな建物がある)。

˞タティユク [˞tạtijuku] 【名】縦横。標準語からの借用語。老年層は、˞ナイシマー [˞naiʃima:](縦横) という。˞タティユク　˞ユー　˞ミレーティ　パ˞カ˞リバ [˞tạtijuku ˞ju: ˞mire:ti pạ˞ka˞riba](縦横をよく見ながら測りなさい)。

タ˞ディヨーゾー [ta˞dijo:ʤo:] 【名】患部を温湿布して治療すること。罨法(アンポウ)。ス˞ブシヌ˞　ヤミテ　タ˞タラン˞シェンドゥ　˞ドゥーシ　タ˞ディヨーゾーバ　シェー˞ティ　˞ノーシ˞タ˞ダー [su˞buʃi˞nu ˞jamiti tạ˞taraŋ˞ʃendu ˞du:ʃi ta˞dijo:ʤo:ba ʃe:˞ti ˞no:ʃị˞ta˞da:](膝が痛くて立てなかったが、自分で患部を温湿布しながら治療して治したよ)。

タ˞ティ˞ルン [tạ˞ti˞ruŋ] 【他動】立てる。建てる。˞パラー　タ˞ティ˞ルンティ　ウ˞ムーン˞ドゥ　˞タンガ˞シェー　タ˞ティララン˞バ　マー˞ズン˞シ　˞タティ　ッ˞ふィーリ [˞para: tạ˞ti˞runti ʔu˞mu:n˞du ˞taŋga˞ʃe: tạ˞tiraram˞ba ma:˞ʤuŋ˞ʃi ˞tạti f˞fi:ri](柱を立てようと思うが、一人では立てられないので一緒に立ててくれ)。タ˞ティ˞ル　˞ムノー　˞パー˞ク　タ˞ティ˞レー　˞ミサムヌ [tạ˞ti˞ru ˞muno: ˞pa:˞ku tạ˞ti˞re: ˞misamunu](立てるものは早く立てればよいのに)。˞ドゥーシ　タ˞ティ˞リ [˞du:ʃi tạ˞ti˞ri](自分

で立てろ)。

タ˞ディルン [ta˞diruŋ] 【他動】 1たでる。いぶす (燻す)。腫物などの痒みや傷むところを温湯で蒸す。温熱湿布する。「Tade,zzur,、eta. タデ, ヅル, デタ。痛みや痒みを鎮め和らげるために、疥癬を洗いながら、ある布ぎれでぴたぴた叩く。また、比喩。船を食う虫を殺すため船を焦がす」『邦訳日葡辞書』。ッ˞サバタヌ˜　ヤミティ　フ˞チン˜パー　˞シッ˜キティ　ウ˞リトゥ˜　ヤ˞キマース˜シ　タ˞ディルンティ　ベーン˜ドゥ　タ˞ディラランバ˜　アッパー　タ˞ディ　ッふォー˜リ [s˞sabatanu˜ jamiti ɸu̥˞tʃim ˜pa: ˞ʃik˜kiti ʔu˞ritu˜ ja˞kima:su˜ʃi ta˞dirunti be:n˜du ta˞diraramba˜ ʔappa: ta˞diffo:˜ri](下腹が痛くて、蓬の葉を搗いて、それと焼き塩で温湿布しようとしているが、温湿布できないので、お婆さん温湿布してください)。タ˞ディル˜　ピンマー　ヤー˞ラマー˜シ　˞ウシケー˜ティ　タ˞ディレー˜　ミサムヌ [ta˞diru˜ pimma: ja:˞rama:˜ʃi ˞ʔuʃi̥ke:˜ti ta˞dire:˜ misamunu](温湿布するときは、軽く押さえて温湿布すればいいのに)。˞パー˜ク　タ˞ディリ [˞pa:˜ ku ta˞diri](早く温湿布しなさい)。2船虫害を防ぐために船底を茅やススキを燃やして焼く。カ˞ツシンマー　シー˜キツ　˞スー˜　ピンマー　フ˞ニ˜ヌ　ス˞ク˜　ガヤー　˞モーシティ˜　タ˞ドーッ˜タン [kḁ˞tsuʃimma: ʃi:˜ki̥tsu ˞su:˜ pimma: ɸu˞ni˜nu su̥˞ku˜ gaja: ˞mo:ʃi̥ti ta˞do:t˜taŋ](カツオ漁船はお祓いの清潔をする際は、茅を燃やして船底を焼かれ＜たで＞た)。

タ˞ティングリ˜サン [ta˞tiŋguri˜saŋ] 【形】立ちにくい。生活しにくい。˜タトゥン [˜tḁtuŋ](立つ。生活する) の連用形に、形容詞型助動詞˞ングリ˜サン [˞ŋguri˜saŋ](～ずらい。～にくい) が付いて形成された派生形容詞。˜クナーテー　シ˞グトゥヌ　ナー˜ンダ　タ˞ティングリ˜サン [˜kuna:te: ʃi˞gutunu na:˜nda tḁ˞tiŋguri˜saŋ](ここでは仕事が無いので生活しにくい＜立ちにくい＞)。

˜タティン　˜ビリン　˞シー˜　ブ˞ララヌ [˜tḁtim ˜biriŋ ˞ʃi:˜ bu˞raranu] 【連】居ても立っても居られない。不安やいらだち、喜びなどでじっとしていられない。「立っても座っても居られない」の義。ウ˞キ˜ナーラ　˞シンシー˜ヌ　˞オー˜ルンティ　シ˞キティ　ヌー˜シ　˜ウトゥルムチ　˞スー˜ユーティ　˞ソーバ　シー˜　タティン　˜ビリン　˞シー˜　ブ˞ララン　シェン [ʔu˞ki˜na:ra ˞ʃiŋʃi:˜nu ˞ʔo:˜runti ʃi̥˞kiti nu:˜ʃi ˜ʔuturumutʃi ˞su:˜ju:ti ˞so:ba ʃi:˜ tḁtim ˜biriŋ ˞ʃi:˜ bu˞raraŋʃeŋ](沖縄から先生が来られると聞いて、どうやってご接待してよいか分らず、居ても立っても居られなかった)。

˜タティン　˜ビリン　ナ˞ラ˜ヌ [˜tḁtim ˜birin na˞ra˜nu] 【連】立錐の余地も無く動けない。混雑して狭苦しく動けない。身動き出来ない。「立ちも座りも出来ない」の義。ク˞ビッチ˜ン　˜ヤーナー　ウ˞ビ˜ヌ　プ˞スヌ˜　ア˞ツァ˜マリティ　˜タティン　˜ビリン　ナ˞ラ˜ヌ [ku˞bittʃi˜ɲ ˜ja:na ʔu˞bi˜nu pu̥˞sunu˜ ʔa˞tsa˜mariti ˜tḁtim ˜birin na˞ra˜nu](これぽっちの小さな家に、あれだけの人が集まって身動き出来ない)。

˜タトゥーン [˜tḁtu:ŋ] 【他動】たとえる (譬える。譬える)。なぞらえる。ある事柄の内容や性質などを他の事物との共通点に対比させて表す。「たとふ＜下二段活用＞。世の中を何に将譬＜たとへむ＞『万葉集　351』」の四段活用化したもの。普通は、イ˞ズ˜カー [ʔi˞ʤu˜ka:](言うなれば。いわば) という。˜ウタナー　˜カキ　˜タトゥイティ　イ˞ズンティ　スンドゥ˜　タ˞トゥイララ˜ヌ [˜ʔutana: ˜kḁki ˜tḁtuiti ʔi˞ʤunti sundu˜ tḁ˞tuirara˜nu](歌に引っ掛けて譬えて歌おうとするが、譬えられない)。ウ˞ヤッふァ˜ヌ　˜ナカナー　˜タトゥー　˜クトゥ [ʔu˞jaffa˜nu ˜nakana: ˜tḁtu: ˜ku̥tu](親子関係に譬えること)。タ˞トゥイ　ヤッ˜サン [tḁ˞tui jas˜saŋ](譬えやすい)。ム˞カ˜シパナシナー　˜タトゥーン [mu˞ka˜ʃipanaʃina: ˜tḁtu:ŋ](故事＜昔話＞に譬える)。ム˞カ˜シパナシナー　タ˞トゥイ˜ヤー　˜ミサムヌ [mu˞ka˜ʃipanaʃina: tḁ˞tui˜ja: ˜misamunu](昔話に譬えればよいのに)。˞クン˜ナー　˜タトゥイバ [˞kun˜na: ˜tḁtuiba](これに譬えなさいよ)。/イヤイーヤー　ウミトゥヤマトゥヤ　ウナジクムヌサミ　タトゥティ　ンチャリバ　トゥジトゥブトゥトゥヤ　ピトゥチドゥヤンティサ (いやいやー＜囃子＞海と山とは同じものだ。譬えてみると、妻と夫は一つ＜一心同体＞というのと同じことだ)/(鳩間口説)。

˜タトゥイ [˜tḁtui] 【名】喩え。事例。故事。例え話。昔から言い伝えられてきた事柄。「喩え。譬え」の転訛したもの。ム˞カ˜シェーラヌ　タ˞トゥイ˜ヌ　˞トゥー˜ル　˞シーバル˜　マ˞シ [mu˞ka˜ʃe:ranu tḁ˞tui˜nu ˞tu:˜ru ˞ʃi:baru˜ ma˞ʃi](昔からある事例の通りした方がよい＜ましだ＞)。

タ˞トゥイ [tḁ˞tui] 【副】たとえ (仮令)～とも。仮に～でも。接続助詞˞バン [˞baŋ](ても＜ばも＞)、˜ティン [˜tiŋ](～ても) がついて、逆接の仮定条件句を導く。

標準語からの転訛か。タ˞トゥイ　ヤッ˥サーラバン　ク˞レー　カーンモー˥　マ˞シ [tạ˞tui jas˥saːrabaŋ ku˞reː kaːmmoː˥ ma˞ʃi](たとえ安くても、これは買わない方が良い＜ましだ＞)。˞マイヤー˥　タ˞トゥイ˥　ス˞クル˥タンティン　˞カーサラヌ [˞maijaː˥ tạ˞tui˥ sụ˞kuru˥tantiŋ ˞kaːsaranu](米は仮令作っても売れない)。

タ˞トゥイバナ˥シ [tạ˞tuibana˥ʃi] 【名】たとえばなし(譬え話)。寓話。˥アイブ　タ˞トゥイバナ˥シン　シ˞キミッ˥タン [˥ʔaibu tạ˞tuibana˥ʃiŋ ʃị˞kimit˥taŋ](そのような譬え話も聞いたことがある＜聞いてみた＞)。

タ˞トゥイ˥ルカー [tạ˞tui˥ruka:] 【連】喩えるならば。例えば。標準語から転訛したもの。老年層は、イ˞ズ˥カー [ʔi˞ʤu˥kaː](言うなれば。いわば) を多用する。ウ˞レー˥　タ˞トゥイ˥ルカー　ウ˞ブプス˥トゥ　ヤ˞ラビ˥ヌ　˞スー˥ブ˞ゲ˥ラ [ʔu˞reː˥ tạ˞tui˥ruka: ʔu ˞bupụsu˥tu ja˞rabi˥nu ˞suː˥bu˞ge˥ra](それは、例えば大人と子供の競争＜勝負＞さ)。

タ˞トゥイ˥ルン [tạ˞tui˥ruŋ] 【他動】たとえる (例える。譬える。喩える)。なぞらえる。˞クン˥ナー　タ˞トゥイ˥ルンティ　ウ˞ムーン˥ドゥ　タ˞トゥイララ˥ヌ [˞kun˥na: tạ˞tui˥runti ʔu˞muːn˥du tạ˞tuirara˥nu](これに例えようと思うが、例えられない)。ノー˞ン˥ナーン　タ˞トゥイ˥ル　˥クトー　ナ˞ラヌ˥ヌ　ノー˞ン　ヤラバン˥　タ˞トゥイ˥ヤー　˥ミサムヌ [noː˞nːnaːn tạ˞tui˥ru ˥kụto: na˞ranu˥nu noː˞ɲ jaraban˥ ta ˞tui˥ja: ˥misamunu](何にも例えることは出来ないが、何かに例えれば良いのに)。タ˞トゥイ˥リ [tạ˞tui˥ri](例えろ)。˥ウタナー　タ˞トゥイ˥ルカー　タ˞トゥイヤッ˥サン [˥ʔutana: tạ˞tui˥ruka: tạ˞tuijas˥saŋ](歌に譬えると例えやすい)。

タ˞ドゥリ˥スクン [ta˞duri˥sụkuŋ] 【自動】辿り着く。道を尋ね求めて行き着く。ヤ˞ラビ˥バ　˞ケー˥ダーラ　イ˞ラムテー˥　シゥ˞カイ˥　パ˞ラシタ˥ヌ　タ˞ドゥリ˥スクンカヤー [ja˞rabi˥ba ˞keː˥daːra ʔi˞ramuteː˥ sị˞kai˥ pa˞raʃịta˥nu ta˞duri˥sụkuŋkajaː](子供を慶田から西表へ使いに遣ったが辿り着く＜だろう＞かね)。マ˞ダ˥　タ˞ドゥリシゥカ˥ヌ [ma˞da˥ ta˞durisịka˥nu](まだ辿り着かない)。タ˞ドゥリシキ˥　プサン [ta˞duriʃịki˥ pusaŋ](辿り着きたい)。˥キューズーナ　タ˞ドゥリ˥スク　˥クトー　˞ナー˥ヌ [˥kjuːʤuːna ta˞duri˥sụku ˥kụto: ˞naː˥nu](今日中に辿り着くことはない)。タ˞ドゥリ˥シケー　˥ミサムヌ [ta˞duri˥ʃịke: ˥misamunu](辿り着けば良いのに)。タ˞ドゥリ˥シキバ [ta˞duri˥ʃịkiba](辿り着けよ)。

タ˞ドゥ˥ルン [ta˞du˥ruŋ] 【他動】1たどる (辿る)。先祖を探る。探り求める。尋ねて求めて行く。˞グゥ˥ンス　タ˞ドゥ˥ルンティ　ウ˞キ˥ナー　˞バー˥キ　˞ゲータン˥ドゥ　タ˞ドゥララン˥シェン [˞gwan˥su ta˞du˥runti ʔu˞ki˥na: ˞baː˥ki ˞geːtan˥du ta˞duraraŋ˥ʃeŋ](元祖を辿ろう＜探り求めよう＞と沖縄本島まで行ったが辿られなかった)。˞グゥン˥ス　タ˞ドゥリ˥　プサカー　マー˞ン　バー˥キン　タ˞ドゥ˥ル　˥クトゥ [˞gwan˥su ta˞duri˥ pụsaka: ma:˞mba:˥kin ta˞du ˥ru ˥kụtu](元祖を辿りたければ、何処までも辿ることだ)。˞マー˥ビン　タ˞ドゥ˥レー　˥ミサムヌ [˞maː ˥bin ta˞du˥reː ˥misamunu](もっと辿ればいいのに)。˞グゥン˥ソー　˥ドゥーシ　タ˞ドゥ˥リバ [˞gwan˥soː ˥duːʃi ta˞du˥riba](元祖は自分で辿れ)。2道を迷いながら尋ね行く。道や川に沿って進む。˥タンコーミチ　タ˞ドゥ˥リ　˞ゲータン˥ドゥ　トゥ˞ミララン˥シェン [˥taŋkoːmitʃi ta˞du˥ri ˞geːtan˥du tu˞miraraŋ˥ʃeŋ](＜廃坑になった＞炭坑道を辿って行ったが捜せなかった)。

˥タトゥン [˥tạtuŋ] 【自動】1立つ。直立する。「見渡しに妹等者立志＜たたし＞〜『万葉集　3299』」の義。˥ドゥーシ　˥タトゥンティ　ウ˞ムーン˥ドゥ　タ˞タラン˥バ　タ˞タ˥シ　ッ˞ふィーリ [˥duːʃi ˥tatunti ʔu ˞muːn˥du tạ˞taram˥ba tạ˞ta˥ʃi f˞fiːri](自力＜自分＞で立とうと思うが、立て＜立たれ＞ないから、立たせてくれ)。˥クナー　˥タティ　˥ミサンカヤー [˥kuna: ˥tạti ˥misaŋkajaː](此処に立っていいかねえ)。˥タトゥ　プ˞ソー˥　タテー　˥ミサムヌ [˥tạtu pụ˞so:˥ tạte: ˥misamunu](立つ人は立てばいいのに)。˞パー˥ク　˥タティ [˞paː˥ku ˥tạti](早く立て)。2新しい月・季節がくる。ウ˞ルズン˥ヌ　シ˞キ˥ヌ　˥タトゥカー　ナ˞ツェー˥　シ˞グ　キー˥ス [ʔu˞ruʤun˥ nu ʃị˞ki˥nu ˥tạtuka: na˞ʧe:˥ ʃi˞gu kiː˥su](ウルズン＜初春の季節＞がくると、夏はすぐ到来する)。3年月、時間が経過する。シ˞キピニチ˥ヌ　˥タトゥ˥ムノー　パ˞ヤー˥ン [ʃị˞kipiniʧi˥nu ˥tạtu ˥muno: pa ˞jaː˥ŋ](月日が経つのは早い)。˥アッパー　˞マーラソー˥レーラー　˞ナン˥ニン　タ˞トゥ˥ワ [˥ʔappa: ˞ma:raso:˥re:ra: ˞nan˥nin tạ˞tu˥wa](お祖母さんが亡くなられて何年経ちますか)。4発つ。出発する。˞ワー　ナン˥ジナ　タ˞トゥ˥ワ [˞wa: nan˥ʤina tạ˞tu˥ wa](君は何時に出発するか)。5生活していく。暮らしていく。自活していく。˥カイブ　˥トンナー　タ˞タラ˥ヌ [˥kaibu ˥tonna: tạ˞tara˥nu](こんな所では暮

らしていけない)。マー˹ン˺ナーン　˺タティ　パ˹ラ˺リン [ma:˹n˺na:n ˺tạti pa˹ra˺riŋ](何処でも生活していける)。他動詞。˺クナー　˺パラー　˺タトゥンティ　ウ˹ムー˺ヌ　˺タティ　˺ミサンカヤー [˺kuna: ˺para: ˺tạtunti ʔu˹mu:˺nu ˺tạti ˺misaŋkaja:](此処に柱を立てようと思うが立てて良いかね)。

タ˹ドゥン [ta˹duŋ] 【他動】 1温湿布する。「たづ＜下二段活用＞。腫物や病気の箇所を温湯で蒸す」の四段活用化したもの。ッ˹サバタ˺　タ˹ドゥン [s˹sabata˺ ta˹duŋ](下腹を温湯で蒸す＜温湿布する＞)。タ˹ダヌ [ta˹danu](温湯で蒸さない)。タ˹ディ˺プサン [ta˹di˺pụsaŋ](温湯で蒸したい)。タ˹ドゥ˺ピン [ta˹du˺ piŋ](温湯で蒸すとき)。タ˹デー˺　ミサムヌ [ta˹de:˺ misamunu](温湯で蒸せばいいのに)。シ˹ガーシェン˺　トンマー　タ˹ディ˺バ [ʃi˹ga:ʃen˺ tomma: ta˹di˺ba](捻挫したところは温湯で蒸せよ)。2船底をいぶし (燻(イブ)し) て船虫を駆除する。カ˹ツシンマー　シー˺キツ　˹スー˺ピンマー　˹ユシキ˺バ　˹モーシェー˺ティル　フ˹ニ˺ヌ　ス˹ク˺　アビ　タ˹ドーッ˺タ [kạ˹tsuʃimma: ʃi:˺kị̈tsu ˹su:˺ pimma: ˹juʃị̈ki˺ba ˹mo:ʃe:˺tiru ɸu˹ni˺nu sụ˹ku˺ ʔabi ta˹do:t˺ta](カツオ漁船は万直しの清潔をする時はススキを燃やしながら船底を焙(アブ)って燻(イブ)された)。

タ˹ナ [ta˹na] 【名】 1舟棚。「棚閣、和名多奈＜たな＞」『和名抄』の義。˺イダフニ [˺ʔidaɸuni](板船。サバニ) の船べりに装着する幅約 20 センチ、長さ約 3 メートルの棚板。約 1、5 メートルの板を填め込み式に繋ぎ合わせて使用した。波頭が船腹に入るのを防ぐのに用いた。「～こぎたみゆきし棚無小舟『万葉集　58』」の「棚」の義。「たなきよら＜棚清ら＞」、船の美称、船棚の清いものの意。対語「いたきよら」。オモロ原注に「はね也」「船の異名なり」とある『沖縄古語大辞典』。˺イダフニナー　˺ニー　シ˹ム˺　ピンマー　タ˹ナ˺　カキティ　パ˹ラ˺ソーッタ [˺ʔidaɸunina: ˺ni: ʃi˹mu˺ pimma: ta˹na˺ kạ̈kiti pa˹ra˺so:tta](板舟＜サバニ＞に荷を積むときは舟棚を掛けて操船された＜走らされた＞)。2棚。タ˹ム˺ヌダナ [ta˹mu˺nudana](薪棚)。3蔓性の植物を棚仕立てにして栽培する装置。˹ゴーヤー˺ダナ [˹go:ja:˺dana](ニガウリの棚)。タ˹ナ˺　カキティ　˹ゴー˺ヤー　˹パー˺スン [ta˹na˺ kạ̈kiti ˹go:˺ja: ˹pa:˺suŋ](棚を架けてニガウリを這わせる)。

タ˹ナシ [ta˹naʃi] 【名】士族女性のひとえ＜一重＞の内掛け。古典舞踊、パ˹トゥ˺マナカムリ [pạ˹tu˺manakamuri](鳩間中岡) の衣装の一つ。カ˹カン [kạ˹kaŋ](女性の礼装用腰巻＜袴＞) とス˹ディ˺ナ [su˹di˺na](脇の長く開いた、ついたけ＜対丈＞の衣。カカンと対をなす) の上から着る衣装で、加治工家と寄合家に伝わる。パ˹トゥ˺マナカムリヌ　ブ˹ドゥルキンヌ˺　タ˹ナシェー˺　カ˹ザケートゥ˺　ユ˹レーヌ˺　ウ˹ブ˺アッパー　キ˹ソー˺レー　˹キンバ˺ル　マ˹ナ˺マン　シゥ˹カイオー˺ル [pạ˹tu˺manakamurinu bu˹durukinnu˺ ta˹naʃe:˺ ka˹ʤake:tu˺ ju˹re:nu˺ ʔu˹bu˺ʔappa: kị̈˹so:˺re:nu ˹kimba˺ru ma˹na˺man sị̈˹kaijo:˺ru](古典舞踊鳩間中岡の衣装＜踊り着物＞のタナシは加治工家と寄合家の曾祖母＜大御祖母さん＞が着用された着物を現在も使っておられる)。

タ˹ナ˺ドゥル [ta˹na˺duru] 【名】稲の種を蒔く行事。「種取り」の義。旧暦 10 月のミズノエ＜壬＞の日から 10 日間に亘って執り行われる。˹ソージイバ˺チ [˹so:ʤiʔiba˺ʧi](精進飯初。直径約 7 センチ、高さ約 10 センチの円錐形の握り飯を作ってお膳の四隅に 1 個ずつ置き、真ん中に大きなイバチを置いて火の神の前に供える供物) を火の神に供え、ブ˹ナル [bu˹naru](おなり神、戸主の姉妹) によって稲の種が順調に発芽し、生育するよう祈願される。そしてイバチは親戚の家にも配られた。種取り祭りには、サ˹カサ [sạ˹kasa](司。女性神職者) やティ˹ジリ˺ビ [ti˹ʤiri˺bi](男性神職者。「手擦り部」の義) 達が神職者の家を回って稲種の順調な発芽と成育を祈願した後、神歌のタ˹ナ˺ドゥルアヨー [ta˹na˺duruʔajo:](種取りアヨー) や˹ユングトゥ [˹juŋgutu](種取りユンゴゥトゥ＜「読みごと」の義か。寿詞。吉言＞) を歌いながら、この時期に島の神歌を口承伝授させたという。種取り祭には鳴り物＜楽器＞は鳴らすことはタブーであった。タ˹ナ˺ドゥルナー　˹カン˺プスンケーヤ　˹ニンガイ˺ヌ　˺アトー　タ˹ナ˺ドゥルアヨー　˹ユングトゥ　カンウタ˺バ　イ˹ゾー˺レーティル　˹カン˺ウター　ウ˹キ˺トゥローッタティ˹ダー [ta˹na˺duruna: ˹kam˺pụsuŋke:ja ˹niŋgai˺nu ˺ʔato: ta˹na˺duruʔajo: ˹juŋgutu kaŋʔuta˺ba ʔi˹ʤo:˺re:tiru ˹kaŋ˺ʔuta: ʔu˹ki˺turo:ttati˹da:](種取り祭りには、神職者たちは祈願の後、種取アヨーやユングトゥ、神歌を歌われながら神歌を伝授された＜受け取られたってよ＞そうだ)。

タ˹ナ˺ドゥルソージ [ta˹na˺duruso:ʤi] 【名】˹種取精進」の義。播種した種籾が順調に発芽し生育するよう、精進潔斎して祈願すること。その期間は茶を飲まない (茶色が出るのは田圃に赤錆た水が出るのでタブー)、鬚を剃らない、髪を刈らない (鬚

を剃ることは、苗の根を刈り取ることに繋がるのでタブー)、畑の畦の草を焼かない、子供が飛び跳ねることを禁じる等のタブーを守った。タ˞ナ˥ドゥルソージナーヤ　ヤ˞ラビ˥ヌ　˞アーリムンマー˥　イ˞バ˥チェー　ッ˞ふァーソーラン˥シェン [ta˞na˥ duruso:ʤina:ja ja˞rabi˥nu ˞ʔa:rimumma:˥ ʔ˞iba˥ʧe: f˞fa:so:raŋ˥ʃeŋ](種取り祭の精進の時には、子供の暴れん坊にはイバチを食べさせられなかった。＜飛び跳ねて暴れると猪害が発生するのでタブー＞)。

タ˞ナバタ [ta˞nabata] 【名】たなばた (七夕)。旧暦 7 月 7 日に墓の掃除をし、先祖にお盆の案内をする習慣がある。また諸般の事情で延期している諸法事を干支のひえり＜日択り＞をすることなく、この日に執り行うことが出きるといわれている。タ˞ナバタ˥ナー　パ˞カヌ　ソージ˥バ　˞シー˥　ヌビヌビー　ナリ˞ブー　ソッ˥コーン　˞ソーッ˥タン [ta˞nabata˥na: pḁ˥kanu so:ʤi˥ba ˞ʃi:˥ nubinubi: nari˞bu: sok˥ko:n ˞so:t˥taŋ](七夕には墓の掃除もし、延期している法事も執り行われた＜された＞)。

タ˞ナ˥ミ [ta˞na˥mi] 【名】頼み。˥バー　タ˞ナ˥ミ　プ˞スケンナー˥ヤ　シ˞キ　ッふィーラン˥ノーレー [˥ba: ta˞na˥mi pu̥˞sukenna:˥ja ʃi̥˞ki ffi:ran˥nore:](私の頼みを一度ぐらいは聞きいれてくれないかねえ)。

タ˞ナミ˥プス [ta˞nami˥pu̥su] 【名】雇い人。雇っている人。「頼み人」の義。タ˞ナミプス˥バ　˞サーリキー˥ル　パ˞タ˥キ　˞カイ˥シモーッタ [ta˞namipu̥su ˥ba ˞sa:ri ki:˥ru pḁ˞ta˥ki ˞kai˥ʃimo:tta](雇い人を連れてきて＜ぞ＞畑を耕作させられた＜耕させられた＞)。

タ˞ナ˥ムン [ta˞na˥muŋ] 【他動】頼む。依頼する。当てにする。老年層が多用する。バ˞コーシン˥カ　タ˞ナ˥ムンティ　˞ゲータン˥ドゥ　タ˞ナマラン˥バ　˞ワー˥　タ˞ナ˥ミ　˥キー　ッ˞ふィーリ [ba˞ko:ʃiŋ ˥ka ta˞na˥munti ˞ge:tan˥du ta˞namaram˥ba ˞wa:˥ ta˞na˥mi ˥ki: f˞fi:ri](共同作業の作業員＜仲間＞を頼もうと思って行ったが、頼まれないので君が頼んできてくれ)。ギュ˞タール˥　タ˞ナミ˥　プサワ [gju˞ta:ru˥ ta˞nami˥ pu̥sawa](何人頼みたいか)。タ˞ナ˥ム　˥ピンマー　ムー˞ル˥　タ˞ナ˥メー　˥ミサムヌ [ta˞na˥mu ˥pimma: mu:˞ru˥ ta˞na˥me: ˥misamunu](頼む時は全員＜みんな＞頼めばいいのに)。˞パー˥ク　タ˞ナ˥ミ [˞pa:˥ku ta˞na˥mi](早く頼め)。

˥タニ [˥tani] 【名】1種子。「種」の義。「〜あげに種蒔き〜『万葉集　2999』」の転訛したもの。「因、ヨシ・タネ」『類聚名義抄』の義。˥サニ [˥sani](種子) ともいう。タ˞ニ˥ムミ [ta˞ni˥mumi](種籾)。˞マイダニ [˞maidani](稲の種)。˞アー˥ダニ [˞ʔa:˥dani](粟の種)。˞ムン˥ヌ　˥タニ [˞mun˥nu ˥tani](麦の種)。タ˞ニ˥オー [ta˞ni˥ʔo:](種付け豚)。ッ˞ふァダニヌ　ナーン˥ツォー [f˞fadaninu na:n˥tso:](子種＜精子＞が無いそうだ)。˥タニ　ウ˞ラ˥スン [˥tani ʔu˞ra˥suŋ](種を蒔く＜下ろす＞)。2男根。タ˞ニ˥ヌ　˥アルカー　ビ˞コーンッふァゲ˥ラ [ta˞ni˥nu ˥ʔaruka: bi˞ko:ŋffage ˥ra](男根があるなら男の子さ)。3リンパ腺のぐりぐり。バ˞キンッサー˥ラナー　タ˞ニ˥ヌ　アル˞サー [ba˞kinssa:˥rana: ta˞ni˥nu ʔaru˞sa:](腋の下にリンパ腺のぐりぐりがあるよ)。

タ˞ニ˥ウシ [ta˞ni˥ʔuʃi] 【名】種牛。繁殖用の種付け牛。タ˞ニシキ˥ウシェー　カ˞リキー˥ル　˥タニ　シ˞キ˥シモーッタ [ta˞niʃi̥ki˥ʔuʃe: ka˞riki:˥ru ˥tani ʃi̥˞ki ˥ʃimo:tta](種付け牛を借りてきて種付けさせられた)。

タ˞ニウラ˥シ [ta˞niʔura˥ʃi] 【名】種おろし。種蒔き。˥ナイ　ウ˞ラ˥スン [˥nai ʔu˞ra˥suŋ](苗をおろす) ともいう。カ˞ブッチェー˥　タ˞ニウラ˥シ　˞シーティナイ˥ヌ　˞スー˥リ　˞クーバ˥ル　˥ヤトゥイ　イ˞ボーッタ˥ル [ka˞buttʃe:˥ ta˞niʔura˥ʃi ˞ʃi:ti nai˥nu ˞su:˥ri ˞ku:ba˥ru ˥jatui ʔi˞bo:tta˥ru](カボチャ＜南瓜＞は種おろしをして、苗が成長してきたら移植されたものだ)。

タ˞ニ˥オー [ta˞ni˥o:] 【名】種豚。種付け用の雄豚。サ˞ニ˥オー [sa˞ni˥o:](種豚) ともいう。ム˞カ˥シェー　イ˞サナキ˥ナー　タ˞ニオー˥バ　˞サーレー˥ティ　˞アー˥ク　プ˞スン˥　ブ˞リブタヌト ナー [mu˞ka˥ʃe: ʔi˞sanaki˥na: ta˞nio:˥ba ˞sa:re:˥ti ˞ʔa:˥ku pu̥˞sum˥ bu˞ributanuɨ-na:](昔は石垣島では種豚を連れてあるく人がいた＜居りおった＞がなあ)。

˥タニ　˥キスン [˥tani ˥ki̥suŋ] 【連】血統が切れる。「種切れる」の義。種が断絶する。種が絶滅する。˞ウン˥ネーヤ　タ˞ニ˥キシ　˞ナー˥ヌ [˞ʔun˥ne:ja ta˞ni˥ki̥ʃi ˞na:˥nu](あの家は血統が断絶して＜切れて＞しまった)。˞ザイレーマイ˥ヤー　˞ショーワーヨンジューネンバー˥ケー　ス˞ク˥リ　ブ˞タンドゥ˥　マ˞ナ˥マー　タ˞ニ˥キシ　˞ナー˥ヌ [˞ʤaire:mai ˥ja: ʃo:wa jonʤu:nemba:˥ke: su̥˞ku˥ri bu˞tandu˥ ma˞na˥ma: ta˞ni˥ki̥ʃi ˞na:˥nu](在来種の米＜赤米＞は昭和四十年までは作付けしていたが、今は絶滅＜種切れ＞してしまった)。

˥タニ　シ˞キ˥ルン [˥tani ʃi̥˞ki˥ruŋ] 【連】種を付ける。交尾させる。交配させる。タ˞ニ˥オー　カ˞リ˥キー

˥タニ　シ˩キ˥ルンティ　˩アー˥ク [ta˩ni˥o: ka˩ri˥ki: ˥tani ʃi̥˩ki˥runti ˩ʔa:˥ku](種豚を借りてきて交配＜種付け＞させようとしている)。カ˩ブッチン˥パ˩ナ˥ヌ　˥サクカー　ビ˩キパナー˥　ブリティ　˩ミー˥パナナー　˥タニ　シ˩キ˥ルンティ　ナ˩ラー˥ソーッタ [ka˩buttʃim˥ pa˩na˥nu ˥sḁkuka: bi˩kipana:˥ buriti ˩mi:˥panana: ˥tani ʃi̥˩ki˥runti nara:so:tta](南瓜も花が咲いたら雄花をもいで雌花に受粉させる＜種付けさせる＞と教えられた)。

˥タニ　˥トゥルン [˥tani ˥turuŋ] 【連】種子を取る。採種する。˩ムン˥ヌ　˥タニ　˥トゥルンティ　˥ズクシ˩ミ˥　シケー [˩mun˥nu ˥tani ˥turunti ˥ʤuku ʃi˩mi˥ ʃi̥ke:](麦の種子を取ろうとして熟させておいてある)。

タ˩ニ˥ヌ　˥サウ [ta˩ni˥nu ˥sau] 【連】陰茎。「男根の竿」の義。˥マラ [˥mara](陰茎) ともいう。タ˩ニ˥ヌ　˥サウ　˩コー˥ルン [ta˩ni˥nu ˥sau ˩ko:˥ruŋ](陰茎が勃起する＜硬くなる＞)。

タ˩ニ˥ヌ　フ˩ル [ta˩ni˥nu ɸu˩ru] 【連】睾丸。陰嚢。フ˩ル [ɸu˩ru](ふぐり) ともいう。「Fuguri. フグリ (陰嚢)」『邦訳日葡辞書』。ビ˩キドゥモー˥　クサ　カ˩カ˥ルカー　タ˩ニ˥ヌ　フ˩ル˥　フ˩クルン [bi˩kidumo:˥ ku̥sa kḁ˩ka˥ruka: ta˩ni˥nu ɸu˩ru˥ ɸu̥˩kuruŋ](男性がフィラリアに罹ると陰嚢が腫れる)。

˥タニ　パ˩タッカリヤラビ [˥tani pḁ˩takkarijarabi] 【連】下半身丸裸の幼児。「ちんちんをはだかる (開る) 童」の転訛したもの。マラタリヤラビとも言う。˥タニ　パ˩タッカリヤラベー˥　ウ˩ム˥クトー　˩ナーン˥ダ　バ˩ラウナ [˥tani pa˩takkarijarabe:˥ ʔu˩mu ˥ku̥to: ˩na:n˥da ba˩rauna](下半身丸裸の子供＜童＞は思慮分別がないから笑うな)。

˥タニ　˩パン˥クルン [˥tani ˩paŋ˥kuruŋ] 【連】陰茎の亀頭の外皮がめくれる。ビ˩コーンッふァー˥トゥ˩シ˥グル　˥ナルカー　˥タニ　˩パン˥クルン [bi˩ko:ŋffa:˥ tu̥˩ʃi˥guru ˥naruka: ˥tani ˩paŋ˥kuruŋ](男の子は年頃になると亀頭の外皮がめくれる)。

タ˩ニピビ˥ザ [ta˩nipibi˥ʤa] 【名】種山羊。種付け用の山羊。フ˩ドゥヌ　マイ˥ヤ　˥ムノーラ　タ˩ニピビ˥ザ　イ˩ラ˥ビバ [ɸu˩dunu mai˥ja ˥muno:ra ta˩nipibi˥ʤa ʔi˩ra˥biba](体格の大きいものから種付け用の山羊を選びなさいよ)。

˥タニブッター [˥tanibutta:] 【名】果物や野菜などの実に種子が多いもの。˥タニブッターフナブ [˥tanibutta:ɸunabu](種子の多い蜜柑)。ク˩ヌ˥　フ˩ナ˥ボー　˥タニブッター　˥ナリティ　ン˩マーナー˥ヌ [ku˩nu˥ ɸu˩na˥bo: ˥tanibutta: ˥nariti ʔm˩ma:na:˥nu](この蜜柑は種子が多く入っていて美味しくない)。

˥タニマイ [˥tanimai] 【名】たねもみ (種籾)。˩種米˥」の義。種用にとっておく籾。˥サニマイ [˥sanimai](種米)、　タ˩ニ˥ムミ [ta˩ni˥mumi](種籾) ともいう。˥タニマイヌ　タ˩ラーン˥　ピンマー　イ˩ラムテー˥ラ　˩カイ　オーッタ˥ル [˥tanamainu ta˩ra:m˥ pimma: ʔi˩ramute:˥ra ˩kai ʔo:tta˥ru](種籾が足りない時は西表から買って来られたよ)。

タ˩ニ˥マキ [ta˩ni˥maki] 【名】種蒔き。サ˩ニ˥マキ [sa˩ni˥maki](種蒔き) ともいう。マ˩ミ˥ヌ　タ˩ニ˥マキ　˩シー˥　シケーン　˥トンナー　˥パトゥザヌ　˥ウリキー　˩ベー˥ティ　˩ウイパラ˥シ [ma˩mi˥nu ta˩ni˥maki ˩ʃi:˥ ʃi̥ke:n ˥tonna: ˥pḁtuʤanu ˥ʔuriki: ˩be:˥ti ˩ʔuipara˥ʃi](豆の種を蒔いてあるところに山鳩が下りてきているので追い払えなさい)。

タ˩ニ˥ムヌ [ta˩ni˥munu] 【名】穀物の種子。種物。タ˩ニ˥ムノー　ウ˩ヤザ˥ヌ　ッ˩ふァーン˥トンナ　カ˩キン˥グ　˩シー˥　シ˩キ˥リ [ta˩ni˥muno: ʔu˩jaʤa˥nu f˩fa:n˥ tonna kḁ˩kiŋ˥gu ˩ʃi:˥ ʃi̥˩ki˥ri](穀物の種子はネズミの食わない所に保管しておけ)。

タ˩ニ˥ムミ [ta˩ni˥mumi] 【名】たねもみ (種籾)。種蒔きに使う籾。˥タニマイ [˥tanimai](種米) ともいう。タ˩ニム˥ミティ　˩シー˥　カ˩キン˥グ　˩シー˥　シケール　˩マイヤー˥　ニ˩キ˥マイラ　˥トゥレール　タ˩ニ˥ムミ　˩ヤッタル [ta˩nimu˥miti ˩ʃi:˥ kḁ˩kiŋ˥gu ˩ʃi:˥ ʃi̥ke:ru ˩maija:˥ ni˩ki˥maira ˥ture:ru ta˩ni˥mumi ˩jattaru](種籾として保管＜格護＞してある米は二期作の米からとった種籾だったよ)。

タ˩ニ˥ユー [ta˩ni˥ju:] 【名】菜種油。たねあぶら。食用油。˩種油˥」の義。天麩羅などの揚げ物に用いる食用油。一度使用した油はガーゼで濾して油壺に保存し、必要に応じて再利用した。菜種油がなかった頃は、豚肉のア˩バッ˥タラ [ʔa˩bat˥tara](脂身。ラード) を煎って搾油した。タ˩ニ˥ユー　˩カイ˥キー　˩ティン˥プラ　ヤ˩キ˥バ [ta˩ni˥ju: ˩kai˥ki: ˩tim˥pura ja˩ki˥ba](菜種油を買ってきてテンプラを揚げ＜焼き＞なさい)。

タ˩ニン [ta˩niŋ] 【名】他人。無縁の人。標準語からの借用語。˩ウン˥ネーヤ　ウ˩トゥ˥ザー　ア˩ラ˥ヌ　タ˩ニンドゥ　ヤル [˩ʔun˥ne:ja ʔu˩tu˥ʤa: ʔa˩ra˥nu ta˩nindu jaru](あの家は親戚ではない。他人だ＜無縁だ＞)。普通は、プ˩ス [pu̥˩su](人。他人) という。プ˩ソー˥ア˩ラ˥ヌ　ウ˩トゥザ˥ル　ヤ˩ル [pu̥˩so:˥ ʔa˩ra˥

nu ʔuˬtuʤa˥ru jaˬru](他人ではない。親戚だよ) という。

タ˩ニンガー˥リ [taˬniŋgaː˥ri] 【名】変種。変り種。突然変異。同じ種の中で一風変わったもの。親兄弟とかけ離れた身体的特性や能力のあるもの。「種変わり」の義。サ˩ニンガー˥リ [saˬniŋgaː˥ri](変種。変り種) ともいう。ウ˩レー˥ ミ˩ジラ˥シ ˩マイフナー˥ ヤ˩ルンドゥ˥ ウヤキョーダイトー ˩ピッ˥チン ˩ニーラヌ˥ タ˩ニンガーリ˥ル ヤ˩ル [ʔuˬreː˥ mi ˬʤira˥ʃi ˬmaiɸunaː˥ jaˬrundu˥ ʔujakjoːdaitoː ˬpit˥ʧin ˬniːranu˥ taˬniŋgaːri˥du jaˬru](彼は素晴らしく賢い子だが、親兄弟とは少しも似てない。突然変異の種変わりである)。

タ˩ニンガーリ˥ムヌ [taˬniŋgaːri˥munu] 【名】変わり者。「種変わり者」の義。風貌や性格、行動等が他の兄弟と変わっている者。ウ˩ヌ˥ ミ˩ドーン˥ッふァー タ˩ニンガーリムヌ˥ル ヤ˩ル˥ユー ˩キョー˥ダインケートー ˩ピッ˥チン ˩ニーラヌ˥ イッ˩ケン˥ ア˩バ˥レーン [ʔuˬnu˥ miˬdoːŋ˥ffaː taˬniŋgaːrimunu˥ru jaˬru˥juː ˬkjoː˥daiŋkeːtoː ˬpit˥ʧin ˬniːranu˥ ʔikˬkeŋ˥ ʔaˬba˥reːŋ](あの女の子は種変わり者 < 突然変異 > なのか、兄弟姉妹たちとはちっとも似ていない。非常に美しい < 美人である >)。

タ˩ニンガー˥ルン [taˬniŋgaː˥ruŋ] 【自動】種子が突然変異する。変異が起きる。「種変わる」の義。サ˩ニ˥ムノー トゥ˩キドゥ˥キ タ˩ニンガー˥ルンティ ス˩クタヌ ミッ˥タニ タ˩ニンガーラ˥ヌ [saˬni˥muno: tu̥ˬkidu˥ki taˬniŋgaː˥runti su̥ˬkutanu mit˥tani taˬninga:ra˥nu](穀物 < 種物 > は時々突然変異すると聞いたが、めったに変異しない)。タ˩ニンガーリ ヤッ˥サ ˥ムノー タ˩ニンガー˥ル ˥クトゥン ˥アン [taˬniŋgaːri jas˥sa ˥muno: taˬniŋgaː˥ru ˥ku̥tuŋ ˥ʔaŋ](突然変異し易いものは変異することもある)。

タ˩ニン˥マ [taˬniʔm˥ma] 【名】種馬。ユ˩ノン˥ナー タ˩ニン˥マ シゥ˩カ˥ナイ ˩オー˥ル プ˩スヌ オー˥ルン [juˬnon˥naː taˬniʔm˥maː siˬka˥nai ˬʔoː˥ru pu̥ˬsunu ʔoː˥ruŋ](与那国には種馬を飼育しておられる人がいらっしゃる)。

タ˩ヌ˥シミ [taˬnu˥ʃimi] 【名】楽しみ。˥シマムニ ア˩ツァ˥ム ク˩トゥ˥ル ˥バー タ˩ヌ˥シミ˩ツォー [˥ʃimamuni ʔaˬtsa˥mu ku̥ˬtu˥ru ˥baː taˬnu˥ʃimiˬtsoː](島の方言 < ことば。「物言い」の義 > を集めることが私の楽しみだって)。

タ˩ヌ˥シムン [taˬnu˥ʃimuŋ] 【自動】楽しむ。楽しく思う。満足して安らぐようにする。「〜梅ををきつつ多努之岐 (タヌシキ) 終へめ。万、815」、「倡、太乃之 (たのし)〜」『新撰字鏡』の転訛したもの。ウ˩タ˥バ イ˩ジ˥ タ˩ヌ˥シムンティ ウ˩ムーン˥ドゥ ˥ドゥー ˩タン˥ガー タ˩ヌシマラ˥ヌ [ʔuˬta˥ba ʔiˬʤi˥ taˬnu˥ʃimunti ʔuˬmuːn˥du ˥duː ˩taŋ˥gaː taˬnuʃimara˥nu](歌を歌って楽しもうと思うが、自分一人は楽しめない)。タ˩ヌ˥シミ ˥ミサカー タ˩ヌ˥シム ˥クトー ˥ナルン [taˬnu˥ʃimi ˥misakaː taˬnu˥ʃimu ˥ku̥toː ˥naruŋ](楽しんでよければ楽しむことはできる)。˩マー˥ビン タ˩ヌ˥シメー ˥ミサムヌ [˩maː˥bin taˬnu˥ʃimeː ˥misamunu](もっと楽しめば良いのに)。タ˩ヌ˥シミバ [taˬnu˥ʃimiba](楽しめよ)。

タ˩ヌマッ˥サン [taˬnumas˥saŋ] 【形】頼もしい。グ˩タイ˥ヌン ˥カナイ ス˩ブ˥ルン カ˩チ˥ブンダ ノー˩ン˥ シ˩ミルバン ゾー˥ジ イッ˩ケナ˥ タ˩ヌマッ˥サーン [guˬtai˥nuŋ ˥kanai suˬbu˥ruŋ kḁˬʧi˥bunda noːˬŋ˥ ʃiˬmiruban ʤoː˥ʤi ʔikˬkena˥ taˬnumas˥saŋ](体格も十分に叶っており、知能も優れているから何をさせても上手だ。非常に頼もしい)。˩ナン˥ゾー ˩タヌマッ˥サー ˩ナー˥ヌ [˩nan˥ʤo: taˬnumas˥saː ˩naː˥nu](あんまり頼もしくはない)。˩シンダイ˥ タ˩ヌマッ˥サー ˥ナリクーン [˩ʃindai˥ taˬnumas˥saː ˥nariku:ŋ](次第に頼もしくなってくる)。タ˩ヌマッ˥サール プ˩ソー˥ ブ˩ラーヌ [taˬnumas˥sa:ru pu̥ˬsoː˥ buˬra:nu](頼もしい人はいない)。˥マー ン˩ベーマ˥ タ˩ヌマッ˥サーカー ˥ミサムヌ [˥ma: ʔmˬbe:ma˥ taˬnumas˥sa:ka: ˥misamunu](もう少し頼もしければいいが)。

タ˩ヌ˥ムン [taˬnu˥muŋ] 【他動】頼む。依頼する。標準語から転訛したもの。若年層が多用する。バ˩カー˥ムヌ タ˩ヌ˥ムンティ ˩ゲータ˥ヌ タ˩ヌマラン˥シェン [baˬka:˥munu taˬnu˥munti ˩ge:ta˥nu taˬnumaraŋ˥ʃeŋ](若者を頼み < 依頼し > に行ったが頼まれなった)。タ˩ヌ˥ミ ッ˩ふィーリ [taˬnu˥mi fˬfi:ri](頼んでくれ)。タ˩ヌ˥ム ˥クトー ˩ナー˥ヌ [taˬnu˥mu ˥ku̥toː ˩naː˥nu](頼むことはない)。タ˩ヌ˥メー ˥ミサムヌ [taˬnu˥me: ˥misamunu](頼めば良いのに)。カ˩リン˥ タ˩ナ˥ミバ [kaˬrin˥ taˬna˥miba](彼に頼めよ)。

˥タヌンザ [˥tanuʤa] 【代】どいつ。不定称の代名詞。なにやつ。どやつ。古老が使用する。大正生まれ以降の若年層は˥タンザ [˥tanʤa](どいつ) と言うことが多い。ク˩レー˥ タヌンザヌ ˩シーワザ˥ヤー [kuˬre:˥ tanuʤanu ˩ʃi:waʤa˥ja:](これはどいつの仕業か)。

ダ˞ネー˥ママイ **[da˞ne:˥mamai]** 【名】(植) 稲の品種名。赤紫色を呈し、香ばしくて美味である。粥に炊くと薄く油分が出る。ア˞ガマイ [ʔa˞gamai](赤米)、˞ザイレー˥マイ [˞ʤaire:˥mai](在来米) ともいう。ダ˞ネー˥ママイヤー　ン˞ギヌ˥　アルンダー　カ˞マイ˥ヤー　ッ˞ふァーンシェン [da˞ne:˥mamaija: ʔŋ˞ginu˥ ʔarunda: ka˞mai˥ja: f˞fa:ŋʃeŋ](赤米はのぎ＜芒＞「芒、乃木＜のぎ＞、禾穂(イナホ)の芒なり『和名抄』」があるので猪は食べなかった)。

タ˞ノー˥ル **[ta˞no:˥ru]** 【名】器用さ。巧みさ。要領がいいこと。うまく処理する手順やこつがあること。手際のよいこと。技量が優れていること。「手馴れ」の転訛したもの。「～吾が背子が多那礼乃＜タナレノ＞み琴～『万葉集　812』」の転訛したもの。˥ウタタノール [˥ʔutatano:ru](歌を上手に歌うこつ)。ブ˞ドゥルタノール [bu˞durutano:ru](うまく踊る要領、こつ)。ノー˞ンヌ˥　シ˞グトゥ˥　シ˞ミリバン˥　タ˞ノールン˥ドゥ　˞ナー˥ンユンダ　プ˞スヌ˥　マイ　ナ˞リユーサ˥ヌ [no:˞nnu˥ ʃi˞gutu˥ ʃi˞miriban˥ ta˞no:ru˥nu ˞na:˥njunda pu̥˞sunu˥ mai na˞rara˥nu](どんな仕事をさせても、仕事の要領＜こつ＞がないから、他人より前に出る＜なる＞ことが出来ない)。

タ˞ノール˥ヌ　˥アン **[ta˞no:ru˥nu ˥ʔaŋ]** 【連】仕事や芸事に手馴れて巧みである。仕事や芸事を器用にこなす。巧みにこなす才能がある。ク˞ヌ　プソー˥　タ˞ノール˥ヌ　˥アンダ　ノー˞ンシェー˥ル　˞ドン˥グン　˞ゾー˥ブンニ　シゥ˞カイス [ku˞nu pu̥so:˥ ta˞noru˥nu ˥ʔanda no:˞ŋʃe:˥ru ˞doŋ˥gun ˞ʤo:˥bunni si̥˞kaisu](この人は巧みにこなす才能があるから、どんな器具＜道具＞も上手に使いこなす)。

˥タバ **[˥taba]** **(1)**【名】稲や茅などの束。一まとめに束ねたもの。タ˞バ˥ル [ta˞ba˥ru](束)、タ˞ブ˥ル [ta˞bu˥ru](束) ともいう。片手に握った分量 (プ˞ス˥シゥカ [pu̥˞su˥si̥ka]＜一束。ひとつか＞) を二つ併せて束ねたもの。**(2)**【助数】束を数える単位。プ˞ス˥タバ [pu̥˞su˥taba](一束)。フ˞タタバ [ɸu̥˞tataba](二束)。˞ミータバ [˞mi:taba](三束)。˞ユータバ [˞ju:taba](四束)。イ˞チ˥タバ [ʔi˞ʧi˥taba](五束)。˞ムータバ [˞mu:taba](六束)。ナ˞ナ˥タバ [na˞na˥taba](七束)。˞ヤータバ [˞ja:taba](八束)。ク˞ヌ˥タバ [ku˞nu˥taba](九束)。˞トゥータバ [˞tu:taba](十束)。˞マイヤ　サンジュー˥タバシル　プ˞スマラ˥キ　˥ナル　˥シジ [˞maija sanʤu:˥tabaʃiru pu̥˞sumara˥ki ˥naru ˥ʃiʤi](稲は 30 束で 1 マルキ <1 丸＞になるわけだ)。

タ˞バ˥ク **[ta˞ba˥ku]** 【名】タバコ (煙草)。ポルトガル語からの借用語の転訛したもの。関連する語彙に˞パータバク [˞pa:tabaku](葉タバコ)、タ˞バク˥ヌ˞パー [ta˞baku˥nu˞pa:](タバコの葉)、タ˞バク˥ヌ　フ˞キ˥ガラ [ta˞baku˥nu ɸu̥˞ki˥gara](タバコの吸殻)。キ˞シル˥ヌ　˥ッス [ki̥˞ʃiru˥nu ˥ssu](煙管のやに)。キ˞ザミタバク [ki˞ʤamitabaku](刻みタバコ)、マ˞キタバク [ma˞kitabaku](巻きタバコ)、タ˞バク˥ブン [ta˞baku˥buŋ](煙草盆)、キ˞シ˥ル [ki̥˞ʃi˥ru](煙管。語源はカンボジア語の説あり)、˞パイフキ [˞paiɸu̥ki](灰取り。竹の筒で作った灰皿) 等がある。タ˞バ˥ク　˥フクン [ta˞ba˥ku ˥ɸu̥kuŋ](タバコを吸う＜吹かす＞)。ム˞カ˥シェー　キ˞ザミタバクバ˥　プゾーナ　イ˞リティ˥　ムティ　˞オーッ˥タ [mu˞ka˥ʃe: ki˞ʤamitabakuba˥ puʤo:na ʔi˞riti˥ muti ˞ʔo:t˥ta](昔は刻み煙草を煙草入れ＜宝蔵＞に入れて持っていかれた)。

タ˞バク˥イリ **[ta˞baku˥ʔiri]** 【名】タバコ入れ。˥プゾー [˥puʤo:](宝蔵。女持ちの煙草入れ) ともいう。タ˞バクイリ˥トゥ　キ˞シ˥ル　˥ムティクー [ta˞bakuiri˥tu ki̥˞ʃi˥ru ˥mutiku:](タバコ入れとキセル＜煙管＞を持ってきなさい)。

タ˞バク˥ダイ **[ta˞baku˥dai]** 【名】タバコ代。タバコの代金。シ˞ルシユータンガー˥ル　ヤ˞レースヌ˥　タ˞バク˥ダインツァン　˞シー　ッふォー˥リバ [ʃi˞ruʃiju:taŋga:˥ru ja˞re:sunu˥ ta˞baku˥daintsaŋ ˞ʃi: ffo:˥riba](ほんのしるしばかりですが、タバコ代にでもしてくださいな)。

タ˞バ˥クフキ **[ta˞ba˥kuɸu̥ki]** 【名】煙草を吸う人。喫煙者。タ˞バ˥ク　フ˞キ˥プス [ta˞ba˥ku ɸu̥˞ki˥pu̥su](煙草を吸う人＜吹く人＞) ともいう。タ˞バ˥クフキトー　マー˞ズンマー˥　ブ˞ララヌ [ta˞ba˥kuɸu̥kito: ma:˞ʤumma:˥ bu˞raranu](喫煙者とは一緒にはおられない)。

タ˞バ˥ク　˥フクン **[ta˞ba˥ku ˥ɸu̥kuŋ]** 【連】煙草を吸う。˥クナー　˞ベー˥　プ˞ソー˥　ムー˞ル˥　タ˞バ˥ク　˥フクン [˥kuna: ˞be:˥ pu̥˞so:˥ mu:˞ru˥ ta˞ba˥ku ˥ɸu̥kuŋ](此処にいる人は皆煙草を吸う)。

タ˞バク˥ブン **[ta˞baku˥buŋ]** 【名】たばこ盆。約 25 センチ正方形に高さ約 10 センチの箱の中に陶製の広口壷型の火入れと、竹筒の˞パイフキ [˞paiɸu̥ki](灰吹き) を備えたもの。竈(カマド)の熾(オキ)を火入れに取り、タバコの火を点けるのに用いた。タバコを吸い終わると煙管(キセル)をパイフキに叩いて吸殻を集めた。タ˞バク˥ブンナー　˥ピー　˥トゥリ　˞クーン˥ノーレー [ta˞baku˥bunna: ˥pi: ˥turi ˞ku:n˥no:re:](たばこ盆に熾火

を取ってきてくれないか)。

タ˞バˬル **[ta˞baˬru]** 【助数】束。稲などの束を数える単位。一まとめに束ねたもの。タ˞ブˬル [ta˞buˬru](束) ともいう。フ˞タシゥカˬシ　プ˞スタバˬルティ　˞スー [ɸu̥˞tasi̥kaˬʃi pu̥˞sutabaˬruti ˞suː](二つか < 束 > で一束という)。30 タバルでプ˞スマラˬキ [pu̥˞sumaraˬki](一丸) となる。プ˞スタバˬル [pu̥˞sutabaˬru](一束)。フ˞タタバル [ɸu̥˞tatabaru](二束)。˞ミータバル [˞miːtabaru](三束)。˞ユータバル [˞juːtabaru](四束)。イ˞チタバˬル [ʔi˞tʃitabaˬru](五束)。˞ムータバル [˞muːtabaru](六束)。ナ˞ナタバˬル [na˞natabaˬru](七束)。˞ヤータバル [˞jaːtabaru](八束)。ク˞ヌタバˬル [ku˞nutabaˬru](九束)。˞トゥータバル [˞tuːtabaru](十束)。˞マイタバルˬ　プ˞スマラˬキ　マ˞ラキˬ　ムティ　ˬクー [˞maitabaruˬ pu̥˞sumaraˬki ma˞rakiˬ mutiˬkuː](稲束を一丸 <30 束 > 束ねて持って来なさい)。

タ˞バˬル **[ta˞baˬru]** 【名】水田地帯。「田原」の義。首里方言の taabuQkwa(田のたくさんあるところ。田袋) のこと。トゥ˞マダタバル [tu˞madatabaru](トゥマダ田原)、˞ケーダタバˬル [˞keːdatabaˬru](ケーダ田原)、˞ユシˬキダタバル [˞juʃi̥ˬkidatabaru](南ヨシキダ田原)、サ˞キンダタバル [sḁ˞kindatabaru](崎田田原) などがある。˞バンˬテヌ　˞ターˬヤ　トゥ˞マダタバルトゥ　ユシˬキダタバルナーン　アン˞ダー [˞banˬtenu ˞taːˬja tu˞madatabarutu juʃi̥ˬki-databaruna:ŋ ʔan˞daː](私の家の田圃はトゥマダ田原とユシダ田原にもあるよ)。

タ˞バˬル　˞スン **[ta˞baˬru ˞suŋ]** 【連】束ねる。「束する」の義。タ˞ブˬル　˞スン [ta˞buˬru ˞suŋ](束ねる) ともいう。˞マイタバルˬ　シ˞ティ　ターˬヌ　ˬアザー　ア˞ギリ [˞maitabaruˬ ʃi̥˞ti taːˬnu ˬʔadʑaː ʔa˞giri](稲を束ねて田の畦に上げなさい)。

タ˞バˬルン **[ta˞baˬruŋ]** 【他動】束ねる。纏める。普通はタ˞バニˬルン [ta˞baniˬruŋ](束ねる) という。30 束を束ねるのは、マ˞ラクン [ma˞rakuŋ](丸く) という。˞マイタブルˬ　タ˞バˬルンティ　ウ˞ムーンˬドゥ　タ˞バララˬヌ [˞maitaburuˬ ta˞baˬrunti ʔu˞muːnˬdu ta˞bararaˬnu](稲束を束ねようと思うが、束ねられない)。カ˞ツシンヌ　シンカˬヌ　ウ˞ムイˬバ　˞ピーˬチナ　タ˞バリマーˬキ　˞ベー [kḁ˞tsuʃinnu ʃiŋkaˬnu ʔu˞muiˬba ˞piːˬtʃina ta˞bari maːˬki ˞beː](カツオ漁船の乗組員の考えを一つに纏めかねている)。˞ユシˬキ　タ˞バˬルンティ　˞スンドゥˬ　タ˞バララˬヌ [˞juʃi̥ˬki ta˞baˬrunti ˞sunduˬ ta˞bararaˬnu](ススキを束ねようとするが、束ねられない)。タ˞バˬリ　ˬミサカー　˞パーˬク　タ˞バˬレー　ˬミサムヌ [ta˞baˬri ˬmisaka: ˞paːˬku ta˞baˬre: ˬmisamunu](縛ってよければ早く縛れば良いのに)。タ˞バˬル　ˬムノー　˞パーˬク　タ˞バˬリ [ta˞baˬru ˬmuno: ˞paːˬku ta˞baˬri](縛るものは早く縛れ)。

タ˞ビ **[ta˞bi]** 【名】旅。˞ウイヌ　フンヌ　タビ [˞ʔuinu ɸunnu tabi](上の国への旅 < 沖縄本島への旅 >。日本本土への旅)。ウ˞キナーˬタビ [ʔu˞kinaːˬtabi](沖縄本島への旅)。イ˞サナキタビ [ʔi˞sanakitabi](石垣島への旅)。˞トーˬタビ [˞toːˬtabi](中国 < 唐 > への旅。死出の旅、あの世への旅立ち)。˞バンˬテーヤ　タ˞ビヌˬ　プ˞スˬヌ　ˬユー　ˬヤドゥ　˞ソーッˬタン [˞banˬteːja ta˞binuˬ pu̥˞suˬnu ˬjuː ˬjadu ˞soːtˬtaŋ](私の家は旅の人がよく宿にされた)。

タ˞ビ **[da˞bi]** 【名】だび (荼毘)。葬式。鳩間島では昭和 30 年ごろまでは土葬や亀甲墓 < 掘り抜き墓 > に納めて墓を密閉する風葬が中心であった。土葬した遺骸や、亀甲墓で風葬した遺骸を三年後にア˞ライクサイ [ʔa˞raikusai](洗骨葬。改葬) する際に、お骨を荼毘に付したり、洗骨して骨壷に納めて亀甲墓に納骨した。その際にお骨を焼くことをダ˞ビ [da˞bi](荼毘) といっていた。ˬアッパー　ˬクツェー　ダ˞ビ　シー　オーシティˬ　クチカミナイ˞リティˬ　ム˞トゥパカˬヌ　ˬナカー　ウ˞サˬモーッタ [ˬʔappaːˬkutʃeː daˬbi ʃiː ʔoːʃi̥tiˬ ku̥tʃikaminaː ʔi˞ritiˬ mu˞tupakaˬnu ˬnakaː ʔu˞saˬmoːta](お祖母さんのお骨は荼毘に付して差し上げて、骨壷に入れて本墓の中へ納められた)。

タ˞ビシタˬフ **[ta˞biʃi̥taˬɸu]** 【名】たびじたく (旅支度)。タ˞ビシゥコーˬル [ta˞bisi̥koːˬru](旅の準備、旅支度) ともいう。タ˞ビシタˬフ　˞シェーˬティ　ス˞ガˬレーティ　˞アークˬヌ　˞マーˬル　パ˞ルˬワ [ta˞biʃi̥taˬɸu ˞ʃeːˬti su˞gaˬreːti ˞ʔaːkuˬnu ˞maːˬru pa˞ruˬwa](旅支度をしてお洒落な装いをしているが何処へ行くのか)。

タ˞ビダˬチ **[ta˞bidaˬtʃi]** 【名】旅立ち。˞オーシキンノーˬリ　ˬキー　˞キューˬヌ　˞カイピューˬル　˞カイピニˬチナー　タ˞ビダˬチン　シ˞ラリˬ　フ˞コーラサˬユー [˞ʔoːʃi̥kin noːˬri ˬkiː ˞kjuːˬnu ˞kaipjuːˬru ˞kaipiniˬtʃinaː taˬbidaˬtʃin ʃi˞rariˬ ɸu̥˞koːrasaˬjuː](天気も回復して < 良くなって > きて、今日の良き日和、嘉日に旅立ちが出来、誠に有難うございます)。

タ˞ビˬニガイ **[ta˞biˬnigai]** 【名】旅の安全祈願。「旅願い」の義。タ˞ビニンˬガイ [ta˞biniŋˬgai](旅願い) と

もいう。タ˞ビヌ˥ウガンナー　タ˞ビ˥ニガイ　˞シー　オーシ˥　シケーバ　˥フネーラ　ウ˞ガン˥ヌ　˞タンカー˥　トゥリ　˞ティー˥ヤ　ウ˞サーシ˥ヨー [ta˞binu˥ʔuganna: ta˞bi˥nigai ˞ʃi: ʔo:ʃi˥ ʃi̥ke:ba ˥ɸune:ra ʔu˞gan˥nu ˞taŋka:˥ turi ˞ti:˥ja ʔu˞sa:ʃi˥jo:](旅の御嶽 < お願 > に旅の安全祈願をして差し上げてあるから、船上から御嶽の方向に向かって手を合わせなさいよ)。

タ˞ビヌ˥ウガン [ta˞binu˥ʔugaŋ]【名】旅のお願。旅の御嶽。˞マイドゥム˥ルウガン [˞maidumu˥ruʔugaŋ](前泊御嶽 < お願 >) ともいう。「旅お願」の義。戦前は出稼ぎや兵役で旅立つ人は、必ずこの御嶽で祈願をして出立し、帰省した時はお礼の祈願をした。石垣島へ行く人も船上から、この御嶽に向かって合掌礼拝をした。出征兵士は船を一時この御嶽の前に停船させて無事を祈った。カツオ漁業が盛んだった頃は、出漁の初めと終わりには、この御嶽で祈願した。終わりの祈願を、ス˞ビニンガイ [su˞biniŋgai](終業祈願。˞首尾願」の義) といっていた。カ˞ツシンヌ˥　ス˞ビニンガイヤー　マイドゥム˥ルウガンナーティル　˞ソーッ˥タ [ka̠˞tsuʃinnu˥ su˞binigaija: maidumu˥ruʔuganna:tiru ˞so:t˥ta](カツオ漁船の終業感謝祈願 < 首尾願い > は前泊御嶽 < 旅のお願 > でなさった)。

タ˞ビマー˥ル [ta˞bima:˥ru]【名】1旅回り。出稼ぎで旅に出ること。島で働くことを嫌って、旅に出て働くこと。ウ˞レー˥　タ˞ビマー˥ル　カー˞ニ　スンダ　ダーッ˥サー　˞ナー˥ヌ [ʔu˞re:˥ ta˞bima:˥ru ka:˞ni sunda da:s˥sa: ˞na:˥nu](彼は旅回りだけするので、あまり良くない)。2郵便物や役人を竹富島まで届ける村役人。運搬船が就航する以前の大正初期頃の鳩間島では、˞スー˥ダイ [˞su:˥dai](総代) が˥フダニン [˥ɸudaniŋ](十五歳以上の男子) 三人に命じて、役人や学校の先生、郵便物を石垣島や竹富島まで送り届けさせた。そのための役割をいう。加治工伊佐も三回任命されたことがあるという (加治工伊佐氏談)。

タ˞ブ [ta˞bu]【名】(植) タブノキ。大高木で高さ約 15 メートルに達する。材は建築材、器具材に利用されるほか、薪炭材に利用される。タ˞ブキー [ta˞buki:] ともいう。タ˞ブキーバ˥　キシ　˥キー　バ˞リティ˥　タ˞ム˥ヌ　˞ソーッ˥タン [ta˞buki:ba˥ ki̥ʃiki: ba˞riti˥ ta˞mu˥nu ˞so:t˥taŋ](タブノキを伐ってきて割って薪にされた)。

タ˞ブ [ta˞bu]【名】たも網 < 攥網 >。直径約 25 センチ、深さ約 15 センチの丸い袋網を竹竿の先端に固定したもの。カツオ漁船の生簀 < イ˞キ˥マ [ʔi˞ki˥ma](餌の雑魚を活けておく水槽 < 生け間 >) の中から雑魚を掬い取るたも網。タ˞ブ˥シ　˥ザコー　ス˞クイ˥　マキティル　カ˞ツヌ˥　ブ˞レー˥　フニナー　シゥ˞カ˥ソーッタ [ta˞bu˥ʃi ˥ʤako: su̠˞kui˥ makitiru ka̠˞tsunu˥ bu˞re:˥ ɸunina: si̠˞ka˥so:tta](たも網で雑魚を掬い、撒いて < ぞ > カツオの群れを漁船に付けさせられた)。

タ˞ブーン [ta˞bu:ŋ]【他動】蓄える。貯蓄する。保存する。「惜、タバフ」、惜しむ。大切にまもる」『類聚名義抄』。「Tabai、タバイ、ウ、ウタ (よく貯えて保存する)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞ザイレーマイ˥ヤー　シ˞ラ˥ナ　シ˞ミティ˥　タ˞ブイ˥　シケー [˞ʤaire:mai˥ja: ʃi˞ra˥na ʃi˞miti˥ ta˞bui˥ ʃi̥ke:](赤米 < 在来米 > は稲叢に積んで貯えてある)。˞マイヤー˥　タ˞ブーンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　タ˞ボーララヌ [˞maija:˥ ta˞bu:nti˥ ʔu˞mu:n˥du ta˞bo:raranu](お米は貯えようと思うが貯えられない)。タ˞ブー　マイヤー　パー˥ク　タ˞ブイヤー˥　ミサムヌ [ta˞bu: mai-ja: pa:˥ku ta˞buija:˥ misamunu](貯える米は早く貯えればよいのに)。ク˞レー˥　タ˞ブイ˥バ [ku˞re:˥ ta˞bui˥ba](これは貯えなさいよ)。

タ˞ブイ [ta˞bui]【名】蓄え。貯蓄。˞ジン˥ヌ　タ˞ブイ [˞ʤin˥nu ta˞bui](お金の貯え < 貯蓄 >)。˞ジンカニ˥ヌ　タ˞ブイヌ　ナーン˥カー　キ˞ナイヤー˥　ム˞タラ˥ヌ [˞ʤiŋkani˥nu ta˞buinu na:ŋ˥ka: ki˞naija:˥ mu˞tara˥nu](お金の貯えが無いと家庭は経営できない < 持っていけない >)。ウ˞レー　ナータブイヤー˥　ナ˞ラ˥ヌ [ʔu˞re: na:tabuija˥ na˞ra˥nu](これは長期保存 < 長蓄え > は出来ない)。

タ˞ブイルン [ta˞buiruŋ]【他動】蓄える。貯蓄する。保存する。若年層はタ˞クワイルン [ta̠˞kuwairuŋ](蓄える) ともいう。˞ジン˥カニ　タ˞ブイルンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　タ˞ブイラランバン [˞ʤiŋ˥kani ta˞buirunti˥ ʔu˞mu:n˥du ta˞buirarambaŋ](お金を貯えようと思うが貯えられないわい)。タ˞ブイ　ヤッ˥サカー　˞パー˥ク　タ˞ブイリ [ta˞bui jas˥saka: ˞pa:˥ku ta˞buiri](貯え易ければ早く貯えなさい)。タ˞ブイル　ジンカニ˥ヌ　˥アルカー　タ˞ブイヤー˥　ミサムヌ [ta˞buiru ʤiŋkani˥nu ˥ʔaruka: ta˞buija:˥ misamunu](貯えるお金があれば貯えれば良いのに)。

˥ダフダフ [˥daɸudaɸu]【副】どきどき。不安や恐怖などで胸の動悸が激しくなるさま。˞アッ˥タニ　˞

ナイ˥ヌ　˩クータ˥ル　ウ˩ダラ˥キティ　˥キモー　˥ダフダフ　˩シーベー [˩ʔat˥tani ˩nai˥nu ˩kuːta˥ru ʔu˩dara˥kiti ˥kimoː ˥daɸudaɸu ˩ʃiːbeː](急に地震がきたので驚いて、胸がどきどきしている)。

ダフッ˩ティ [daɸut˩ti] 【副】 1どきっと。突然の出来事に驚いて心臓が大きく鼓動するさま。キ˩ム˥ヌ　ダフッ˩ティ　スン˥ケン　ウ˩バーサリティ　フッツォーリ　ベー [ki˩mu˥nu daɸu̥t˩ti suŋ˥keŋ ʔu˩baːsariti ɸuttsoːri beː](胸がどきっとするほど驚かされて震えている)。2ざぶんと。水に勢いよくつけるさま。ユ˩グリキンマー˥　ダフッ˩ティ˥　ミ˩ジ˥ナー　シ˩キリ [ju˩gurikimmaː˥ daɸu̥t˩ti˥ mi˩ʤi˥naː ʃi̥˩kiri](汚れた着物はざぶんと水に浸けなさい)。

ダブッ˩ティ [dabut˩ti] 【副】でっぷり。太っているさま。肥満した様子。˩ヌー˥バ　ッ˩ふァイティ˥　アイニ　ダブッ˩ティ　パン˥タリ　˩アーク˥ワ [˩nuː˥ba f˩faiti˥ ʔaini dabut˩ti pan˥tari ˩ʔaːku˥wa](何を食べてあんなに太っているのか)。

ダ˩ブ˥ラ [da˩bu˥ra] 【名】大腿筋。腿の後部の膨らんだ筋肉の部分。ダ˩ブ˥ラナー　ア˩シブ˥ヌ　˥ンジティ　˥ヤミ　ナ˩ラ˥ヌ [da˩bu˥rana: ʔa˩ʃibu˥nu ˥ʔnʤiti ˥jami na˩ra˥nu](大腿二頭筋におできが出来て痛くてたまらない)。ダ˩ブ˥ラナ　ア˩シブ˥ヌ　˥ンジティル　˥ヤムサー [da˩bu˥rana ʔa˩ʃibu˥nu ˥ʔnʤitiru ˥jamusaː](脹脛(フクラハギ)にお出来ができて痛むよ)。

タ˩ブ˥ル [ta˩bu˥ru] (1)【名】たば(束)。タ˩バ˥ル [ta˩ba˥ru](束) ともいう。タ˩ブ˥ル　˩スン [ta˩bu˥ru ˩suŋ](束ねる < 束をする >)。˩マイタブル [˩maitaburu](稲束 < 米束 >)。フ˩タシゥカ˥シル　プ˩スタブ˥ルティ　ア˩ゾーッ˥タ [ɸu̥˩tasi̥ka˥ʃiru pu̥˩sutabu˥ruti ʔa˩ʤoːt˥ta](二つか < 束 > で一束(タバ)といわれた)。 **(2)**【助数】フ˩タタブル [ɸu̥˩tataburu](二束)。˩ミータブル [˩miːtaburu](三束)。

タ˩ブ˥ル　˩スン [ta˩bu˥ru ˩suŋ] 【連】束ねる。「束をする」の義。˩マイヤー˥　カ˩リティ˥　タ˩ブ˥ル　˩サン˥カー　˩アーサラヌ [˩maijaː˥ ka˩riti˥ ta˩bu˥ru ˩saŋ˥kaː ˩ʔaːsaranu](稲は刈って束ねないと < 束にしないと > 脱穀できない)。

タ˩ボー˥ラ　ナー˩ラ [ta˩boː˥ra naː˩ra] 【連】～してくださいませんか。～してください。補助動詞タ˩ボー˥ルン [ta˩boː˥ruŋ](くださる。< 賜る >) の未然形に、ナー˩ラ [naː˩ra](ませんか。<* ン・ネーラ <* ぬ・あらむ、の転訛か) が付いた形。九十歳以上の古老が用いる。˥バー　˥アジ　ッ˩サラバ˥　ドー˩ディン˥　シ˩キ˥　タ˩ボー˥ラ　ナー˩ラ [˥baː ˥ʔaʤi s˩saraba˥ doː˩diŋ˥ ʃi̥˩kitaboː˥ra naː˩ra](私が申し上げますから、どうぞお聞きくださいませんでしょうか < お聞き賜れませぬか >)。

タ˩ボーラリ˥ムヌ [ta˩boːrari˥munu] 【名】賜り物。頂き物。到来物。˩ウイ˥プス　ナ˩ル˥ター　˥クゥンラヌ　タ˩ボーラリム˥ヌン　˩イッ˥パイ　タ˩ボーラ˥リ　˩ミョー˥ガ　˥ナリ　フ˩コーラサ˥ユー [˩ʔui˥pu̥su na˩ru˥ta: ˥kwanranu ta˩baːrari˥munuŋ ˩ʔip˥pai ta˩boːra˥ri ɸu̥˩koːrasa˥juː](年寄り < 老い人 > になったので政府 < 官 > からの賜りもの < 拝領の品々 > も沢山頂いて有難うございます)。

タ˩ボーラ˥リン [ta˩boːra˥riŋ] 【他動】賜られる。頂かれる。頂戴される。タ˩ボー˥ルン [ta˩boː˥ruŋ](賜る) の未然形に受身、可能の助動詞˥リン [˥riŋ](れる) が下接して形成された受身・可能の派生動詞。ニ˩ガイ˥スクカー　˥アメー　タ˩ボーラ˥リンティ　˩スンドゥ˥　アメー　マ˩ダ˥　タ˩ボーララン˥バ　タ˩ボーラ˥リンケン　ニ˩ガイシキ˥リ [ni˩gai˥su̥kuka: ˥ʔameː ta˩boːra˥rinti ˩sundu˥ ʔameː ma˩da˥ta˩boːraram˥ba ta˩boːra˥riŋken ni˩gaiʃi̥ki˥ri](心をこめて祈願すれば雨は頂ける < 賜られる > というが、雨はまだ頂けて < 賜られて > ないから、頂ける < 賜られる > まで祈願しなさい)。タ˩ボーラリ˥ル　˥ムノー　ムー˩ル˥　タ˩ボーラ˥レー　˥ミサムヌ [ta˩boːrari˥ru ˥muno: muː˩ru˥ ta˩boːra˥reː ˥misamunu](頂ける < 賜られる > ものは総て頂ければ < 賜れれば > よいのに)。タ˩ボーラリ˥リ [ta˩boːrari˥ri](頂けよ < 賜れれ >)。/～カムラマーヌ　アマイヤー　ミリクユーバ　タボーラリー (カムラマーの歓びは弥勒菩薩の幸せな豊年満作を頂けることです)/「カムラーマ歌」『鳩間島古典民謡古謡集』。

タ˩ボー˥ルン [ta˩boː˥ruŋ] (1)【他動】頂く。頂戴する(謙譲語)。下位の者が上位の者から頂く意で、くれる人や神を敬う。「足柄のみ坂多麻波里 < たまはり >～『万葉集　4372』」、「Tamauari、ru、atta. タマワリ、ル、ッタ (賜はり、る、った) 尊敬すべき人がほかの下級の人とか同等の人に与える～」『邦訳日葡辞書』の転訛。/ウマンチュヌ　ニガイヤヨー　アカカラジヌ　ニガイヤヨー　ハーリ　アミタボリ　リューガナシ (御真人 < 衆生、民衆 > の願いは、百姓の願いは、はーり < 囃子 >、雨を下さい < 賜れ > 竜神さま)/「雨乞い歌 < ハヤミク >」『鳩間島古典民謡古謡集』。 **(2)**【補動】補助動詞 (～て下さる)。˥ドゥーズーサ　ア˩ラ˥シ　タ˩ボー˥リ [˥duːʤuːsa ʔa˩ra˥ʃi ta˩boː˥ri](健康 < 胴強く > であら

してください)。˥ドゥーズーサ　ア˞ラ˥シ　タ˞ボーラ˥バル　˥ウムー　˥クトゥン　ナ˞サリ˥バ　˥ドゥーズーサ　ア˞ラ˥シ　タ˞ボー˥ル　ク˞トゥ˥バ　ニ˞ガイシキ˥ル˞ユー [˥duːʤuːsa ʔa˞ra˥ʃi ta˞boːraba˥ru ˥ʔumuː ˥kutun na˞sari˥ba ˥duːʤuːsa ʔa˞ra˥ʃi ta˞boː˥ru kʉ˞tuba˥ru ni˞gaiʃi̥ki˥ru˞juː](健康であらして下さったらば＜ぞ＞思うこともなされるから健康であらして下さることをお祈り申し上げます)。

ダ˞ボンガスン [da˞boŋgasuŋ] 【他動】海中や川の水の中に物を投げ込む。大きな水音を立てて投げ入れる。˥フネーラ　ス˞ナ˥カー　ダ˞ボーンガ˥シ　ウ˞タサ˥リティ　˞ウッふィルンティ　アーク˥ター [˥ɸuneːra su˞na˥kaː da˞boːŋga˥ʃi ʔu˞tasa˥riti ˞ʔuffirunti ʔaːku˥taː](船上から海の中へザブンと投げ込まれ、すんでの所で溺れる＜溺れようとする＞ところだった)。ダ˞ボンガサヌ [da˞boŋgasa˥nu](海中へ投げ込まない)。ダ˞ボンガ˥ス　˥ピン [da˞boŋga˥su ˥piŋ](海中へ投げ込むとき)。ダ˞ボンガ˥シェーミサムヌ [da˞boŋga˥ʃeː ˥misamunu](海中へ投げ込めば良いのに)。ダ˞ボンガ˥シ [da˞boŋga˥ʃi](海中へ投げ込め)。

ダボン˞ティ [dabon˞ti] 【副】ざぶんと。水中に飛び込む音の形容。強い勢いで水中に入る音の形容。ダボン˞ティ˥　ス˞ナ˥カー　ナ˞ンギラ˥シ [dabon˞ti˥ su ˞na˥kaː ˞naŋgira˥ʃi](ざぶんと海中に投げ入れろ)。

˥タマ [˥tama] 【名】1玉。˞ミン˥タマ [˞min˥tama](まなこ。目玉。眼球)。˞ミー˥ヌ　˥タマ [˞miː˥nu ˥tama](目の玉)。2弾丸。˞ティップヌ˥　タマ　ク˞ミ˥ルン [˞tippunu˥ tama ku˞mi˥ruŋ](鉄砲の弾をこめる)。3ガラス。タ˞マウー˥キ [ta˞maʔuː˥ki](底をガラスで張った桶。水中眼鏡桶)。タ˞マガラ˥ス [ta˞magara˥su](ガラス)。

タ˞マ [ta˞ma] 【名】配分。漁獲物を配分する際の一人分。割り当てられた分。取り分。タ˞マシ [ta˞maʃi](取り分) のこと。˥バー　タ˞マー˥　ヤ˞ラシ [˥baː ta˞maː˥ ja˞raʃi](私の配分＜取り分＞は寄越せよ)。

タ˞マータマ [ta˞maːtama] 【副】たまたま (偶々)。偶然。タ˞マータマ˥　バー　˥ウナー　˥タティ　˞ベーン˥ケンドゥ　ウ˞ヌ　プソー˥　バー　タ˞ジ˥ナイ　˞オー˥レータル [ta˞maːtama˥ baː ˥ʔunaː ˥tati ˞beːŋ ˥kendu ʔu˞nu pʉ̥soː˥ baː ta˞ʤi˥nai ˞ʔoː˥reːtaru](偶然にも私がそこに立っていたときに、その人は私を訪ねて来られた)。

タ˞マーニ [ta˞maːni] 【副】たまに (偶に)。まれに。タ˞マーニ˥　ア˞サブ˥　クトゥン　˥アン [ta˞maːni˥ ʔa˞sabu˥ kʉ̥tuŋ ˥ʔaŋ](まれに遊ぶこともある)。

タ˞マーニ [ta˞maːni] 【固】固有名詞。成底タマーニ氏。喜舎場永珣氏が鳩間島の古謡を調査した際にインフォーマントとして協力した人。

タ˞マウー˥キ [ta˞maʔuː˥ki] 【名】「玉桶」の義。漁具の一つ。底をガラスで張った桶。直径約 25 センチ、高さ約 35 センチのガラス張りの桶。船べりからこれで海中を覗き見ながら蛸を捕ったり、魚を釣ったりするのに用いる。タ˞マウー˥キシ　タ˞ク˥ヌ　˥ヤー　˞ミシ˥ケーティ　˥ガルユクンシ　˥タクシ˞キ˥　トゥ˞ローッ˥タ [ta˞maʔuː˥kiʃi tą˞ku˥nu ˥jaː˞miʃi̥˥keːti ˥garujukuŋʃi ˥tąku ʃi̥˞ki˥ tu˞roːt˥ta](ガラス張りの桶で蛸の巣＜家＞を探しながら、鉤のある銛で蛸を突いて捕獲された)。

タ˞マ˥ガイ [ta˞ma˥gai] 【名】魂が火の玉となって飛ぶこと。妖火のこと。タ˞マン˥ガイ [ta˞maŋ˥gai]、˞ピー˥ダマ [˞piː˥dama](火の玉＜妖火＞) ともいう。「魂上がり」の義か。人の死の前兆という。死者の出る家の上から上がって飛んで行くという。人によっては、それを見ることが出来るといわれている。タ˞マガイ˥ヌ　ア˞ガル˥カー　プ˞スヌ　マーラスン˥ティ　ア˞ザリブタ [ta˞magai˥nu ʔa˞garu˥kaː pʉ̥˞sunu maːrasun˥ti ʔa˞ʤaributa](火の玉が上がると人が亡くなると言われていた)。

タ˞マガラ˥ス [ta˞magara˥su] 【名】ガラス (硝子)。「玉ガラス」の義。タ˞マガラ˥スシル　ガ˞ラス˥マドー　ス˞ク˥ル [ta˞magara˥suʃiru ga˞rasu˥mado: su˞ku˥ru](ガラスで＜ぞ＞ガラス窓は作る)。タ˞マガラ˥ス　バ˞リティ　ミーカンガン˥ヌ　˥タマ　ス˞ク˥リ [ta˞magara˥su ba˞riti miːkaŋgan˥nu ˥tama sʉ̥˞ku˥ri](ガラスを割って水中眼鏡の玉＜眼鏡のガラス＞を作れ)。

タ˞マ˥クビン [ta˞ma˥kubiŋ] 【名】ガラス瓶。ガラスの小瓶。「玉小瓶」の義。ム˞カ˥シプソー　ガ˞ラ˥スクビンバ　タ˞マ˥クビンティ　ア˞ゾーッ˥タ [mu˞ka˥ʃipʉ̥so: ga˞ra˥sukubimba ta˞ma˥kubinti ʔa˞ʤoːt˥ta](昔の人はガラス瓶を玉小瓶といわれた)。タ˞マクビン˥ヌ　バ˞リ˥シ　ア˞シ˥ブ　バ˞リティ　アーソーッ˥タ [ta˞makubin˥nu ba˞ri˥ʃi ʔa˞ʃi˥bu ba˞riti ʔaːsoːt˥ta](ガラス瓶の破片でお出来を切開して＜割って＞膿を取り除かれた＜お出来を潰された＞)。

タ˞マサカ [ta˞masaka] 【副】たまさか (偶さか)。たまたま。「かいこう、タマサカ」『類聚名義抄』の義。イ˞チンマー　オーラ˥ヌ　タ˞マサカル　オー

˺ルムヌ　˺ユー　˺トゥルムチ　˞シー　オーシリ [ʔi˞ʧimma: ʔo:ra˺nu ta˞masakaru ʔo:˺rumunu ˺ju: ˺turumuʧi ˞ʃi: ʔo:ʃiri](何時もはいらっしゃらない。たまに＜ぞ＞いらっしゃるのだから、よく接待＜お持て成し＞して差し上げなさい)。

タ˞マシ [ta˞maʃi] 【名】配分。取り分。漁獲物を配分する際の一人分の受け取り高。割り当てられた当然の権利と義務。職分。˞ワー˺　タ˞マシェー˺　トゥリシケーバ　ムティパリ˞ヨー [˞wa:˺ ta˞maʃe:˺ turiʃi̥ke:ba mutipari˞jo:](君の取り分は確保してある＜取って置いてある＞から持って行きなさいよ)。ウ˞ヤ˺ヌ　˺アトゥ　˞スーモー˺　サ˞クシ˺ヌ　タ˞マシ [ʔu˞ja˺nu ˺ʔatu ˞su:mo:˺ sḁ˞kuʃi˺nu ta˞maʃi](親の老後＜後＞の面倒をみるのは長男の義務＜職分＞だ)。

タ˞マ˺シ [ta˞ma˺ʃi] 【名】1魂。霊魂。精霊。プ˞スヌ˺　タ˞マシ˺ヌ　ミ˞ラ˺リンツォー [pu̥˞sunu˺ ta˞maʃi˺nu mi˞ra˺rintso:](死者の霊魂が見られるそうだ)。タ˞マ˺シ　˺ヌグンケン　ウ˞ダラ˺キティ　シ˞ルダリシーベー [ta˞ma˺ʃi ˺nuguŋkeŋ ʔu˞dara˺kiti ʃi˞rudari ʃi:be:](魂消るほど＜魂が抜けるほど＞驚いて、すっかり落胆している)2思慮分別。真人間になること。ク˞リ˺シ　タ˞マ˺シ　イ˞リラン˺カー　ナ˞ラン˺ダー [ku˞ri˺ʃi ta˞ma˺ʃi ʔi˞riraŋ˺ka: na˞ran˺da:](これでしっかり反省し自覚して真人間にならないと＜魂を入れないと＞いけないよ)。

タ˞マ˺シ　イ˞リルン [ta˞ma˺ʃi ʔi˞riruŋ] 【連】しっかりと分別のある人間になる。深く思い知らされる。身にしみて分かる。「魂を入れる」の義。ウ˞ビ˺ナー　˺シキン　˞サウガシェー˺ンダ　タ˞マ˺シ　イ˞リルンティ˺　ウ˞モー˺リン [ʔu˞bi˺na: ˺ʃi̥kin ˞saugaʃe:˺ nda ta˞ma˺ʃi ʔi˞rirunti˺ ʔu˞mo:˺riŋ](あれだけ世間を騒がせたから、反省して分別のある人間になるものと思われる)。

タ˞マ˺シ　イ˞ルン [ta˞ma˺ʃi ʔi˞ruŋ] 【連】しっかりと分別のある人間になる。深く思い知らされる。身にしみて感じ、行動する。「魂を入れる」の義。˞クンドゥ˺ヌ　˺クトゥシェー　シカイ˞トゥ˺　タ˞マ˺シ　イ˞レーン˺パジ [˞kundu˺nu ˺ku̥tuʃe: ʃi̥kai˞tu˺ ta˞ma˺ʃi ʔi˞re:m˺paʤi](今度のことでは、深く思い知らされ、しっかりと分別のある人間になったはずだ)。

タ˞マ˺シ　ウ˞タ˺スン [ta˞ma˺ʃi ʔu˞ta˺suŋ] 【連】「魂を落とす」の義。驚いたり、転んだり、事故に遭ったりした時に霊魂が肉体から抜け落ちること。˞キーヌパン˺ターラ　˺ウティティ　タ˞マ˺シ　ウ˞タ˺シティル　˺マサーカサー　˞ナーン˺バ　マ˞ブ˺ル　˺クミ　ッ˞ふォー˺リ [˞ki:nupan˺ta:ra ˺ʔutiti ta˞ma˺ʃi ʔu˞ta˺ʃi̥tiru ˺masa:kasa: ˞na:m˺ba ma˞bu˺ru ˺kumi f˞fo:˺ri](木の上＜木のてっぺん＞から落ちて魂を落としたから気分が優れないので、霊籠め＜霊籠めの祈願、儀礼＞をして下さい)。

タ˞マシダ˺リ [ta˞maʃida˺ri] 【名】玉簾。玉のような立派な簾。タ˞マシダ˺リ　ユ˞チルバ　シー　ヤー˺バ　ス˞ク˺リ　˺アンティ　˺スー [ta˞maʃida˺ri ju˞ʧiruba ʃi: ja:˺ba su̥˞ku˺ri ˺ʔanti ˺su:](玉のような見事な簾をえつり＜枌、屋乃衣豆利・えつり『新撰字鏡』＞にして家を造ってあるという)。

タ˞マ˺シ　˞ナーン˺ムヌ [ta˞ma˺ʃi ˞na:m˺munu] 【連】思慮分別のない者。しっかりした心がけの無い者。˞ウンザー˺　タ˞マ˺シ　˞ナーン˺ムヌ　ヤ˞ルンダ˺　ウ˞ヤ˺ヌ　ウ˞ムイ˺ユン　˞サッシユーサヌ [˞ʔundʑa:˺ ta˞ma˺ʃi ˞na:m˺munu ja˞runda˺ ʔu˞ja˺nu ʔu˞mui˺jun ˞saʃʃiju:sanu](あの野郎は思慮分別のない者だから、親の切実な思いをも察知することができない＜察知し得ない＞)。

タ˞マ˺シ　ヌ˞ガ˺スン [ta˞ma˺ʃi nu˞ga˺suŋ] 【連】びっくり仰天する。「魂を抜かす」の義。タ˞マ˺シ　ヌ˞ガ˺スンケン　ウ˞バーサリティ　フッツォーリ　ベー [ta˞ma˺ʃi nu˞ga˺suŋkeŋ ʔu˞ba:sariti ɸuttso:ri be:](魂が抜けるほど＜びっくり仰天するほど＞驚かされて身震いしている)。

タ˞マ˺シ　ヌ˞ギ˺ルン [ta˞ma˺ʃi nu˞gi˺ruŋ] 【連】びっくり仰天する。ひどく驚く。腰が抜ける。「魂が抜ける」の義。ッ˞ふァヨーン˺ナ　ガフ˞ティ　ゲーサイティ˺　タ˞マ˺シ　ヌ˞ギ˺ルンケン　ウ˞バイベー˺タ [f˞fajo:n˺na gaɸu̥˞ti ge:saiti˺ ta˞ma˺ʃi nu˞gi˺ruŋkeŋ ʔu˞bai be:˺ta](暗闇の中でガバッと顔と顔がぶつかるように出会って魂が抜けるほどびっくり仰天して＜腰を抜かして＞いた)。

タ˞マ˺シ　˺ヌグン [ta˞ma˺ʃi ˺nuguŋ] 【連】びっくり仰天する。ひどく驚く。腰が抜ける。「魂が抜ける」の義。タ˞マ˺シ　ヌ˞ギ˺ルン [ta˞ma˺ʃi nu˞gi˺ruŋ](魂が抜ける) ともいう。ウ˞ヌ˺　パ˞ナ˺シ　ス˞ク˺カー　タ˞マ˺シ　˺ヌグン˞ダー [ʔu˞nu˺ pa˞na˺ʃi su̥˞ku˺ka: ta˞ma˺ʃi nugun˞da:](その話を聞くとびっくり仰天するぞ)。

タ˞マ˺シ　プ˞サウン [ta˞ma˺ʃi pu̥˞sauŋ] 【連】魂を拾う。体から抜け出て遊離した霊魂を拾う。体から遊離した霊魂は、遊離した場所の石や砂に付着

しているので、それを拾って懐に入れ、家に持ち帰えって改めてマ˩ブ˥ルクミ [ma˩bu˥rukumi](霊籠め) の儀式をしてもらった。タ˩マ˥シ　ウ˩タシ˥タ　˥トンナー　˩ギー˥　タ˩マ˥シ　プ˩サウン [ta˩ma˥ʃi ʔu˩taʃi̥˥ta tonna: ˩gi:˥ ta˩ma˥ʃi pu̥˩sauŋ](魂を落とした所に行って魂を拾う)。

ダ˩マスン [da˩masuŋ] 【他動】だます (騙す)。あざむく (欺く)。だまかす。ウ˩リ˥　ダ˩マスンティ　スンドゥ˥　ダ˩マサラヌ [ʔu˩ri˥ da˩masunti sundu˥ da˩masaranu](この人を騙そうとするが、騙されない)。ダ˩マシ˥　ミサカー　ダ˩マス˥　クトー　ク˩トゥヤッ˥サン [da˩maʃi˥ misaka: da˩masu˥ ku̥to: ku̥˩tujas˥saŋ](騙してよければ騙すことはたやすい＜簡単である＞)。˩マー˥ビン　ダ˩マシェー˥　ミサムヌ [˩ma:˥bin ˩damaʃe:˥ misamunu](もっと騙せばいいのに)。ダ˩マシ˥バ [da˩maʃi˥ba](騙せよ)。

タ˩マタマ [ta˩matama] 【副】1偶然に。たまたま。タ˩マタマ　キュー˥ヤ　シ˩グトゥヌ　ナーン˥ベーティル　キ˩ラリタ˥ル [ta˩matama kju:˥ja ʃi˩gutunu na:m˥be:tiru ki˩rarita˥ru](偶然にも今日は仕事が無かったので＜ぞ＞来れたのだ)。2時折り。ウ˩ヌ˥　プ˩ソー˥　タ˩マタマ˥　ミ˩チ˥ナ　ミ˩ラ˥リン˩ダー [ʔu˩nu˥ pu̥˩so:˥ ta˩matama˥ mi˩tʃi˥na mi˩ra˥rin˩da:](その人は、時折り道で見られるよ)。

タ˩マドゥー˥ル [ta˩madu:˥ru] 【名】「玉灯籠」の義。カ˩ク˥ランプ [kḁ˩ku˥rampu](角ランプ) ともいう。板ガラスで四面を囲い、中にローソクや石油ランプを灯す携帯用照明器具。角ランプ。ッ˩ふァー˥バ　タ˩マドゥー˥ル　˥シキティ　˩ヤー˥　パリバ [f˩fa:˥ ba ta˩madu:˥ru ˥ʃi̥kiti ˩ja:˥ pariba](暗いから角ランプ＜玉灯籠＞を点して家へ帰りなさいよ)。

タ˩マ˥ナー [ta˩ma˥na:] 【名】(植) 和名、タマナ (玉菜)。キャベツ (cabbage)。アブラナ科植物で葉が巻き込んで球形を形成する。大きいものは直径約 25 センチに達する。戦後の一時期、大々的に栽培されたが換金できず、島での栽培は失敗した。タ˩マナー˥ヤ　パ˩トゥ˥マナーン　イッ˩ケナ˥　ス˩クロー˥ッタン [ta˩mana:˥ja pḁ˩tu˥mana:ŋ ʔik˩kena˥ su̥˩ku˥ro:ttaŋ](キャベツは鳩間島でもたくさん栽培さ＜作ら＞れた)。

タ˩マ˥ヌ　カ˩キ [ta˩ma˥nu kḁ˩ki] 【連】ガラスの欠片。タ˩マ˥ヌ　バ˩リ [ta˩ma˥nu ba˩ri](ガラスの割れ) ともいう。タ˩マ˥ヌ　カ˩ケー˥　プ˩サイ˥　シ˩ティラン˥カー　˥ドゥー　ヤ˩マ˥スン˩ダー [ta˩ma˥nu kḁ˩ke:˥ pu̥˩sai˥ ʃi̥˩tiraŋ˥ka: ˥du: ja˩ma˥sun˩da:](ガラスの欠片は拾って捨てないと怪我する＜胴を病ます＞ぞ)。

ダ˩マリ˥クムン [da˩mari˥kumuŋ] 【自動】黙ってしまう。一言も言わなくなってしまう。押し黙る。˥ドゥク　イ˩ズ˥カー　ダ˩マリ˥クムンダ　イ˩ズナ˧ツォー [˥duku ʔi˩ʤu˥ka: da˩mari˥kumunda ʔi˩ʤuna˧tso:](ひどく叱ったら黙ってしまうから、叱るなってば)。

タ˩マリミジ [ta˩marimiʤi] 【名】窪地や池に溜まった水。流れずにたまっている水。ウ˩シェー˥　パ˩タキ˥ヌ　ア˩ザ˥ヌ　タ˩マリミジバ˥　ヌミ　˩ベー [ʔu˩ʃe:˥ pḁ˩taki˥nu ʔa˩ʤa˥nu ta˩marimiʤiba˥ numi ˩be:](牛は畑の畦の溜まり水を飲んでいる)。

ダ˩マリ˥ムヌ [da˩mari˥munu] 【名】だまりん坊。黙っている人。ダ˩マリ˥ムヌ　ナ˩ラン˥ドーシ　フ˩チ˥　パ˩タッキ˥　ムニ　イ˩ジ˥バ [da˩mari˥munu na˩ran˥do:ʃi ɸu̥˩tʃi˥ pḁ˩takki˥ muni ʔi˩ʤi˥ba](だまりん坊にならないで、口を開いてものを言いなさいよ)。

タ˩マルン [ta˩maruŋ] 【自動】溜まる。水などが一所にとどまる。集まりとどまる。「〜蓮葉に停有水之＜タマレルミズノ＞〜『万葉集　3289』」の転訛したもの。˩キュー˥ヌ　˥アミナー　ミ˩ジ˥　タ˩マルン˥カヤーティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　タ˩マランバン [˩kju:˥nu ˥ʔamina: mi˩ʤi˥ ta˩maruŋ˥kaja:ti ʔu˩mu:tan˥du ta˩marambaŋ](今日の雨で水が溜まるかなあと思ったが溜まらないわい)。ミ˩ジヌ˥　タ˩マル˥　トンナ　˥シキバ [mi˩ʤinu˥ ta˩maru˥ tonna ˥ʃi̥kiba](水の溜まる所に置きなさいよ)。ミ˩ジヌ˥　タ˩マリヤッ˥サン [mi˩ʤinu˥ ta˩marijas˥saŋ](水が溜まりやすい)。タ˩マル　ジン˥ヌ　˥アルカー　ン˩メーマンツァン˥　タ˩マレー˥　ミサムヌ [ta˩maru ʤin˥nu ˥ʔaruka: ʔm˩me:mantsan˥ ta˩mare:˥ misamunu](溜まるお金が有るならば、少しでも溜まればいいのに)。˩パー˥ク　タ˩マリ [˩pa:˥ku ta˩mari](早く溜まれ)。

タ˩マ˥ルン [ta˩ma˥ruŋ] 【自動】まっすぐになる。狙いが定まる。矯める。「矯、タム」『類聚名義抄』の転訛したもの。マ˩ガリキーヤ˥　ピーナ　˥アベーティ　˩ノー˥スカー　タ˩マ˥ルン [ma˩gariki:ja˥ pi:na ˥ʔabe:ti ˩no:˥suka: ta˩ma˥ruŋ](曲がった木は火に炙りながら直すとまっすぐになる)。タ˩マ˥リ　˩ベー [ta˩ma˥ri ˩be:](まっすぐになっている)。タ˩マラ˥ヌ [ta˩mara˥nu](まっすぐにならない)。タ˩マ˥ル　˥クトー　˩ナー˥ヌ [ta˩ma˥ru ˥ku̥to: ˩na:˥nu](まっすぐになることは無い)。

ダ˩マ˥ルン [da˩ma˥ruŋ] 【自動】黙る。ナー˩イ˥　ダ

˞マ˥ルンティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　ウ˞リバ˥　シ˞キテー˥　ダ˞マララ˥ヌ [naː˞ji˥ da˞ma˥runti ʔu˞muːtan˥ du ʔu˞riba˥ ʃi̥˞kiteː˥ da˞marara˥nu](じっと黙ろうと思ったが、それを聞いては黙られない)。ダ˞マ˥リ　ミサカー　ダ˞マ˥ル　˥クトー　˥ワケー　˞ナーン˥ドゥ　˥マー　ン˞ベーマ˥　ダ˞マ˥レー　˥ミサムヌ [da˞ma˥ri ˥misakaː da˞ma˥ru ˥ku̥toː ˥wakeː ˞naːn˥du ˥maː ʔm˞beːma˥ da˞ma˥reː ˥misamunu](黙ってよければ黙ることは簡単だ＜訳は無い＞が、もう少し黙ればよいのに)。˞ワー˥　ダ˞マ˥リ [˞waː˥ da˞ma˥ri](君は黙れ)。

タ˞マン [ta˞maŋ] 【名】(動) 鯛一種。和名、シモフリフエフキ (体長約 35 センチ)。和名、ハマフエフキ (体長 50〜70 センチ)。和名、フエフキダイの仲間 (体長約 30 センチ)。和名、アマミフエフキ (体長約 70 センチ) などは白身魚の最高級魚。島の西の˞クー˥シビー [˞kuːʃi˥biː](クーシ干瀬) の˞ピーヌ˥クシ [˞piːnu˥kuʃi](外海。＜干瀬の後ろ＞) で、タ˞ティ˥ナー [tḁ˞ti˥naː](一本釣り＜立て縄＞) でよく釣れた。˞マイ˥ズニナー　タ˞ティ˥ナー　˞シー˥　タ˞マン　ホー˥ソーッタン [˞mai˥ʤuninaː tḁ˞ti˥naː ˞ʃiː˥ ta˞maŋ hoː˥soːttaŋ](前曽根で一本釣りをしてタマン＜鯛の一種＞を釣られた)。

ダ˞マンガルン [da˞maŋgaruŋ] 【自動】ひどく驚いて相手を睨みつける。無言で睨む。「Tamagari,ru,atta. タマガリ, ル, ッタ (魂がり, る, った) 驚く.」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˥ドゥク　ウ˞ダラ˥クカー　プ˞ソー˥　ダ˞マンガルン˥ダー [˥duku ʔu˞daraˀkuka: pu̥˞soː˥ da˞maŋgarun˥daː](ひどく驚くと人は無言で目を剥いて睨みつけるよ)。˥ムネー　イ˞ザムティ˥　ダ˞マンガリ　ベー [˥muneː ʔi˞ʤamuti˥ da˞maŋgari beː](ものは言わずに目を剥いて睨みつけている)。ウ˞リヌ˥　ダ˞マンガル˥　ピンマー　ナ˞クラーン˥ダー [ʔu˞rinu˥ da˞maŋgaru˥ pimmaː na˞kuraːn˥daː](彼が無言で睨みつける時は怖いよ)。

タ˞ミ [ta˞mi] 【名】1ため＜為＞。利益。利得。「姫君の御ため＜為＞を思せば〜『源氏物語＜少女＞』」の義。˞ワー˥　タ˞ミバ˥　ウ˞ムイ˥ル　˥シンニン　˞カイ　オー˥レーバ　ウ˞キ˥トゥリバ [˞waː˥ ta˞miba˥ ʔu˞muiˀru ˥ʃinniŋ ˞kai ʔoː˥reːba ʔu˞kiˀturiba](君の為を思ってわざわざ買ってこられたから受け取りなさい)。プ˞スヌ˥　タ˞ミ [pu̥˞sunu˥ ta˞mi](人の為)。2形式名詞。目的を表す。˥ジン　˞モーキシミ˥ル　タ˞ミ˥シ　ウ˞キ˥ナー　パ˞ラシ˥タ [˥ʤim ˞moːkiʃimi˥ru ta˞mi˥ʃi ʔu˞kiˀnaː pa˞raʃi̥˥ta](お金を儲けるために沖縄に行かせた)。3原因、理由を表す。˞ウン˥ネーヤ　イ˞クサ˥ヌ　タ˞ミ˥ナー　ムー˞ル　マーラシ　ヤードー˥リ　˞シーナー˥ヌ [˞ʔun˥neːja ʔi˞kusa˥nu ta˞miˀnaː muː˞ru maːraʃi jaːdoː˥ri ˞ʃiːnaː˥nu](その家は戦争のために皆亡くなって絶家＜家倒れ＞してしまった)。

タ˞ミ˥シ [ta˞miˀʃi] 【名】前例。先例。証拠。道理。理由。ミ˞ドーン˥ッふァヌ　˞グゥン˥ス　シ˞グタンティスー˥　タ˞ミ˥シェー　シ˞キミラ˥ヌ [mi˞doːn˥ffanu ˞gwan˥su ʃi˞gutanti suː˥ ta˞miˀʃeː ʃi̥˞kimira˥nu](女の子が元祖の位牌を継いだという前例は聞いたことがない)。ギッ˞ティ˥　ピ˞キスク˥カー　キ˞シ˥ル　タ˞ミ˥シ [git˞ti˥ pi̥˞kisu̥ku˥ka: ki̥˞ʃi˥ru ta˞miˀʃi](ぎゅっと強く引張ったら切れる＜切断する＞のが道理だ)。道理。わけ。前例。証拠。˞ピーカジ˥ヌ　˥フクカー　ガ˞シスー˥　タ˞ミ˥シ [˞piːkaʤi˥nu ˥ɸu̥kuka: ga˞ʃi suː˥ ta˞miˀʃi](雨の降らない台風が吹き荒れると飢饉になるわけ＜証拠・道理＞だ)。

タ˞ミ˥シ [ta˞miˀʃi] 【名】試すこと。試みること。試験。動詞タ˞ミ˥スン [ta˞miˀsuŋ](試す) の連用形から転成した名詞。˥ナルンユー　ナ˞ラン˥ユー　タ˞ミ˥シ　˞シー˥　ミリバ [˥naruŋju: na˞raŋ˥ju: ta˞miˀʃi ˞ʃiː˥ miriba](出来るか出来ないか試験＜試し＞をしてみなさいよ)。

タ˞ミ˥スン [ta˞miˀsuŋ] 【他動】試す。試みる。実験する。˞ソームヌ˥ユー　˞ネーシムヌ˥ユー　タ˞ミ˥スンティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　タ˞ミサラン˥バ　˞ワー˥　タ˞ミ˥シ　ッ˞ふィーリ [˞soːmunu˥ju: ˞neːʃimunu˥ju: ta˞miˀsunti ʔu˞muːn˥du ta˞misaram˥ba ˞waː˥ ta˞miˀʃi f˞fiːri](本物かにせもの＜贋物＞か試そうと思ったが試されないから、君が試してくれ)。タ˞ミ˥ス　ク˞トゥ˥ヌ　ア˞タロー˥　ドゥーシ　タ˞ミ˥シェー　˥ミサムヌ [ta˞miˀsu ku̥˞tu˥nu ʔa˞taro: ˥duːʃi ta˞miˀʃeː ˥misamunu](試すことぐらいは＜試すことの程度は＞自分で試せばいいのに)。ヤー˞ディン˥　タ˞ミ˥シ˞ダー [jaː˞din˥ ta˞miˀʃi˞daː](必ず試せよ)。

タ˞ミルン [ta˞miruŋ] 【他動】溜める。貯える。貯金する。一杯にしておく。「〜生＜む＞し多米難き〜『万葉集　3227』」の義。˥カミナー　ミ˞ジ˥　タ˞ミルンティ　ベーン˥ドゥ　タ˞ミラランバ˥　マー˞ズン˥シ　タ˞ミ˥　ッ˞ふィーリ [˥kaminaː mi˞ʤi˥ ta˞mirunti beːn˥du ta˞miraramba˥ maː˞ʤuŋ˥ʃi ta˞miˀ f˞fiːri](瓶に水を溜めようとしているが、溜められないから一緒に溜めてくれ)。ミ˞ジ˥　タ˞ミル˥　カミナー　ミ˞ジ˥　タ˞ミレー˥　ミサムヌ [mi˞ʤi˥ ta

˞miru˺ kamina: mi˞ʤi˺ ta˞mire:˺ misamunu](水を溜める瓶に水を溜めればいいのに)。ミ˞ジ˺　タ˞ミリ [mi˞ʤi˺ ta˞miri](水を溜めれ)。˺ジン　タ˞ミルン [˺ʤin ta˞miruŋ](お金をためる)。

タ˞ミ˺ルン **[ta˞mi˺ruŋ]** 【他動】ためる (矯める)。まっすぐにする。直線に狙いを定める。「揉、太無 < たむ >」『和名抄』。「矯、タム」『類聚名義抄』の転訛したもの。マ˞ガリキーヤ˺　タ˞ミラ˺リン　˞ニンギン˺ヌ　マ˞ガレー˺　タ˞ミララ˺ヌ [ma˞gariki:ja˺ ta˞mira˺rin ˞niŋgin˺nu ma˞gare:˺ ta˞mirara˺nu](曲がった木は真直ぐに直せる。曲がった性格の人間は真直ぐに直せない < 諺 >)。タ˞ミ˺ル　˺クトー　タ˞ミ　ヤッ˺サンドゥ　タ˞ミ˺ル　ム˞ヌン˺ドゥ　˞ナー˺ヌ [ta˞mi˺ru ˺kʉto: ta˞mi jas˺sandu ta˞mi˺ru mu˞nun ˺du ˞na:˺nu](矯めることは矯めやすいが矯めるものがない)。タ˞ミ˺ルンティ　˺ウムーカー　˞パー˺ク　˺タ˞ミ˺レー　˺ミサムヌ [ta˞mi˺runti ˺ʔumu:ka: ˞pa:˺ku ˺ta˞mi˺re: ˺misamunu](矯めようと思ったら、早く矯めればよいのに)。˺ドゥーシ　タ˞ミ˺リ [˺du:ʃi ta˞mi˺ri](自分で矯めよ)。

タ˞ム˺ティ **[ta˞mu˺ti]** 【名】保ち。持続すること。持ちこたえること。保存すること。˞ナータムティ [˞na:tamuti](長持ち。長保ち。長期保存)。ク˞リ˺シェー　˞ナータムティ˺　シ˞ララヌ [ku˞ri˺ʃe: ˞na:tamuti˺ ʃi˞raranu](これでは長期保存 < 長保ち > 出来ない)。

タ˞ム˺トゥ **[ta˞mu˺tu]** 【名】たもと (袂)。袖の下の袋状になったところ。ム˞カ˺シプソー　˺チニヒージェー　タ˞ムトゥ˺ヌ　ナ˞ガー˺ル　˞キン˺マー　キ˞ソーラン˺シェン [mu˞kaʃipʉso: ˺tʃiniçi:ʤe: ta˞mutu ˺nu na˞ga:˺ru ˞kim˺ma: kʉ˞so:raŋ˺ʃeŋ](昔の人は、常日頃は袂の長い着物は着られなかった)。

タ˞ム˺トゥン **[ta˞mu˺tuŋ]** **(1)**【他動】保つ。維持する。保持する。守る。˞タンガ˺シ　ウ˞ビ˺ヌ　˞ヤーヤシ˺キ　タ˞ム˺トゥンティ　˞スンドゥ˺　イ˞チンバー˺キン　˺ドゥシェー　タ˞ムタラン˺バ　ムー˞ル˺シ　タ˞ム˺ティ　ッ˞ふィーリ [˞taŋga˺ʃi ʔu˞bi˺nu ˞ja:jaʃʉ˺ki ta˞mu˺tunti ˞sundu˺ ʔi˞tʃimba:˺kin ˺du:ʃe: ta˞mu-taram˺ba mu:˞ru˺ʃi ta˞mu˺ti f˞fi:ri](一人であれだけの家屋敷を維持しよう < 保とう > とするが、何時までも一人では維持出来ないので皆で維持してくれ)。タ˞ム˺トゥ　ク˞トゥ˺バ　˞カン˺ガイ [ta˞mu˺tu kʉ˞tu˺ba ˞kaŋ˺gai](維持する < 保つ > ことを考えよ)。イ˞チンバー˺キン　タ˞ム˺ティ [ʔi˞tʃimba:˺kin ta˞mu˺ti](何時までも維持せよ < 保て >)。**(2)**【自動】2自動詞的用法。イ˞チバー˺キ　˺ヌチェー　タ˞ムタ˺リカヤー [ʔi˞tʃiba:˺ki ˺nutʃe: ta˞muta˺rikaja:](何時まで命は維持できる < 保てる > かなあ)。ヌ˞チ˺ヌ　˞マー˺ビン　タ˞ムタ˺リカー˞ナー [nu˞tʃi˺nu ˞ma:˺bin ta˞muta˺rika˞na:](命がもっと維持できたら < 保てたら > なあ)。

タ˞ム˺ヌ **[ta˞mu˺nu]** 【名】薪。˞マーキ [˞ma:ki](丸太を割って作った薪)。˞キータム˺ヌ [˞ki:tamu˺nu](丸太を割って作った薪)。˞ユシ˺キタムヌ [˞juʃʉ˺kita-munu](枯れたススキを燃料 < 薪 > にしたもの)。ウ˞ジ˺ル [ʔu˞ʤi˺ru](枯れ木の小枝や枯れた柴を燃料 < 薪 > としたもの) 等がある。˞パイター˺ラ　˞キー˺バ　˺キシキー　タ˞ム˺ヌ　˺バキ　˞ブー˺ヌシ　バ˞リティ˺　カ˞マチヌ　ウイヌ˺　タ˞ム˺ヌダナナー　シ˞ミティル˺　タ˞ム˺ノー　˞モーソーッ˺タ [˞paita:˺ra ˞ki:˺ba ˺kʉʃiki: ta˞mu˺nu ˺baki ˞bu:˺nuʃi ba˞riti˺ ka˞matʃinu ʔuinu˺ ta˞mu˺nudanana: ʃi˞mitiru˺ ta˞mu˺no: ˞mo:so:t˺ta](西表島 < 南端 > から木を伐ってきて薪の長さに鋸で切って斧で割り、竈の上の薪棚に積んで乾燥させて薪はもやされたものだ)。

˺タ　˺ムヌ **[˺ta ˺munu]** 【連】～したものを。～たのに。過去の助動詞˺タン [˺taŋ](～た) の連体形に逆接の助詞˺ムヌ [˺munu](～ものを) が付いた形。シゥ˞カシタ˺カー　˞バン˺ヌン　パ˞リ˺シタムヌ　シゥ˞カサンダー˺　パ˞リユーサン˺バン　ウ˞ムイ˺ツァー [sʉ˞kaʃita˺ka: ˞ban˺num pa˞ri˺ʃʉtamunu sʉ˞kasan-da:˺ pa˞riju:sam˺baŋ ʔu˞mui˺tsa:](教えてくれれば < 聞かせて呉れれば > 私も行けたものを、教えないから行くことができないよ。惜しいことよ。)。

タ˞ム˺ヌ　イ˞ブン **[ta˞mu˺nu ʔi˞buŋ]** 【連】薪をくべる。カ˞マチ˺ナ　タ˞ム˺ヌ　˞マー˺ビン　イ˞ビ˺バ [ka˞matʃi˺na ta˞mu˺nu ˞ma:˺biŋ ʔi˞bi˺ba](竈に薪をもっとくべなさいよ)。

タ˞ム˺ヌ　˞カーシプス **[ta˞mu˺nu ˞ka:ʃipʉsu]**【連】たきぎ < 薪 > 売り。薪を売る人。「薪売り人」の義。昭和 37 年頃まではガスコンロが普及していなかったので、薪を束ねて燃料として売っていた。˞ティンマ˺ナ　タ˞ム˺ヌ　シ˞ミティ　イ˞サンケー　カーシン　オー˺ル　タ˞ム˺ヌ　˞カーシプスン　オーッ˺タン [˞timma˺na ta˞mu˺nu ʃi˞miti ʔis˞aŋke: ka:ʃiŋ ʔo:˺ru ta˞mu˺nu ˞ka:ʃipʉsuŋ ʔo:t˺taŋ](てんま船に薪を積んで石垣島へ売りに行かれる薪売り人も居られた)。

タ˞ム˺ヌ　˺キスン **[ta˞mu˺nu ˺kʉsuŋ]** 【連】薪にする丸太を西表島から伐り出してくる。˺アチャー　タ

˞ムˀヌ　ˀキスンティ　˞パイタˀナ　˞オーˀル [ˀʔatʃa: ta˞muˀnu ˀkᵢsunti ˞paitaˀna ˞ʔo:ˀru](お父さんは薪を伐るとて南端＜西表島＞に居られる)。

タ˞ムˀヌダナ [ta˞muˀnudana] 【名】薪棚。˞キーˀダナ [˞ki:ˀdana](薪棚) ともいう。普通は竈の上に設(シツラ)えられている。吊棚式に作った薪棚。バ˞リタムヌ [ba˞ritamunu](割った薪) を薪棚に積み、竈の熱気で乾燥されるように工夫されている。タ˞ムˀヌダナヌ　タ˞ムˀヌ　ˀミルカー　キ˞ナイヌ　スータイˀヤー　ワ˞カˀルンティ　ア˞ザリブー [ta˞muˀnudananu ta˞muˀnu ˀmiruka: ki˞nainu su:taiˀja: wa˞kaˀrunti ʔa˞ʤaribu:](薪棚の薪を見ればその家の家計＜所帯。暮らし向き＞が分かるといわれている)。薪棚の薪が切れないように補給するのが男の仕事とされ、主婦はそれを誇りにしていた。

タ˞ムˀヌ　ˀバクン [ta˞muˀnu ˀbakuŋ] 【連】丸太を鋸で約 30 センチの長さに切る。シ˞マˀナテー　˞バンターˀル　タ˞ムˀヌ　ˀバキティ　バ˞ルタル [ʃi˞ma ˀnate: ˞banta:ˀru ta˞muˀnu ˀbakiti ba˞rutaru](島では私たちが丸太を薪の長さに切って薪に割ったものだ)。

タ˞ムˀヌバリ [ta˞muˀnubari] 【名】薪割り。丸太を斧で割って薪にする仕事。ˀバー　タ˞ムˀヌバリヌ　シ˞グトー　シーミッˀタン [ˀba: ta˞muˀnubarinu ʃi˞guto: ʃi:mitˀtaŋ](私は薪割りの仕事をしたことがある＜仕事をしてみた＞)。

タ˞ムˀヌバリブーヌ [ta˞muˀnubaribu:nu] 【名】薪割り斧。各家庭で薪割りに用いた斧。単に˞ブーˀヌ [˞bu:ˀnu](斧)、˞キーバリブーˀヌ [˞ki:baribu:ˀnu](木割り斧) ともいう。ヤ˞マブーˀヌ [ja˞mabu:ˀnu](山斧。山で材木を削るのに用いる斧) の古くなったものを薪割り斧に利用した。楔形の堅牢な鉄の刃をつけた頭部が山斧よりも大きくて重い。薪割りの際、˞マッˀふァ [˞mafˀfa](枕。当て木。ア˞ティ [ʔa˞ti]＜当て＞ともいう) を置いて斧の刃こぼれが起きないように配慮した。タ˞ムˀヌバリブーヌシ　タ˞ムˀヌ　バ˞リ [ta˞muˀnubaribu:nuʃi ta˞muˀnu ba˞ri](薪割り斧で薪を割れ)。

タ˞ムラ [ta˞mura] 【名】他村。他の村。余所の村。ˀドゥームラ [ˀdu:mura](自分の村) の対義語。タ˞シマ [tᵩ˞ʃima](他の島)、ユ˞スシマ [ju˞suʃima](余所島) ともいう。タ˞ムラヌˀ　プ˞スバˀ　トゥ˞ジ　ソーッˀタ [ta˞muranuˀ pᵩ˞subaˀ tu˞ʤi so:tˀta](他村の人を妻にされた)。

タ˞ムン [ta˞muŋ] 【他動】溜める。貯える。一杯にしておく。「溜め＜下二段活用＞」の転訛＜四段活用化＞したもの。ミ˞ジˀ　タ˞ムンティ　スンドゥˀ　タ˞マランバˀ　タ˞ミ　ッふィーリ [mi˞ʤiˀ ta˞munti sunduˀ ta˞maramba˞ ta˞mi ffi:ri](水を溜めようとするが溜まらないので、溜めてくれ)。タ˞ムˀプソー　ミ˞ジカミˀナー　タ˞メーˀ　ミサムヌ [ta˞muˀ pᵩso: mi˞ʤikamiˀna: ta˞me:ˀ misamunu](溜めるときは瓶に溜めればいいのに)。ˀドゥーシ　タ˞ミˀバ [ˀdu:ʃi ta˞miˀba](自分で溜めなさい)。

ˀタムン [ˀtamuŋ] 【他動】矯める。真直ぐにする。狙いを定める。「矯、タム＜下二段活用＞」『類聚名義抄』の転訛＜四段活用化＞したもの。マ˞ガリタキˀ　ピーナ　ˀアビティ　ˀタムンティ　˞スンドゥˀ　タ˞マランˀバ　ˀタミ　ッ˞ふィーリ [ma˞garitakiˀ pi:na ˀʔabiti ˀtamunti ˞sunduˀ ta˞maramˀba ˀtami f˞fi:ri](曲がった竹を火に炙って矯めようとするが、矯まらないので矯めてくれ)。ˀタム　ˀピンマー　ˀピーナ　ˀアビティ　ˀタメー　ˀミサムヌ [ˀtamu ˀpimma:ˀ pi:na ˀʔabiti ˀtame: ˀmisamunu](矯めるときは火に炙って矯めればよいのに)。ギーッ˞ティˀ　タミバ [gi:t˞tiˀ tamiba](ぎゅっと矯めなさいよ)。マッ˞シングˀ　タミティ　˞ナンˀギバ [maʃ˞ʃiŋguˀ tamiti ˞naŋˀgiba](真直ぐ狙って投げなさい)。

タ˞ヤ [ta˞ja] 【名】力。体力。耐える力。ˀタイ [ˀtaji](耐える力) ともいう。タ˞ヤヌ　ナーˀン　˞ブンˀマー　ア˞サバンドーˀシ　トゥ˞キˀバ　カ˞キˀル　プ˞スウイヌˀ　シ˞グトゥバ　シーˀ　ケー˞ダー [ta˞janu na:ˀm ˞bumˀma: ʔa˞sabando:ˀʃi tᵩ˞kiˀba kᵩ˞kiˀru pᵩ˞suʔuinuˀ ʃi˞gutuba ʃi:ˀke:˞da:](体力が無いぶんは遊ばずに時間を掛けて人並み以上の仕事をしてきたのだよ)。バ˞タˀダイ [ba˞taˀdai](腹持ち。食物の消化が遅く、満腹感が長く保たれること)。ム˞チェーˀ　バ˞タダイˀヌ　ˀアン [mu˞ʧe:ˀ ba˞tadaiˀnu ʔaŋ](餅は腹持ちがいい)。

ˀダヤー [ˀdaja:] 【名】虚弱体質の人。体力のない者。手足の力がなく、何の仕事も出来ない人。役立たず。多少蔑視した表現。ダ˞リˀムヌ [da˞riˀmunu](虚弱体質の人。体力のない者。病的にだらだらしている者) ともいう。ウ˞レーˀ　ダヤー　ヤ˞ルンダˀ　タ˞ルガキララヌ [ʔu˞reˀ daja: ja˞rundaˀ ta˞rugaki-raranu](彼＜それ＞は虚弱体質の人だから当てに＜頼みに＞ならない)。

ˀダヤーッピー [˞daja:ppi:] 【名】人名。動作の鈍い兄さん。ヤ˞ラˀビ　˞シェーンˀケンヌ　ア˞ザナールˀ　ヤ˞タンドゥˀ　マ˞ナˀマ　シ˞キˀティン　ˀダヤーッピ

ーティル　アˈゾー˥ルˈダー [jaˈra˥bi ˈʃeːŋ˥kennu ʔaˈʤanaːru˥ jaˈtandu˥ maˈna˥ma ʃᵢˈki˥tin ˥dajaːppitiru ʔaˈʤoː˥ruˈdaː](幼少時＜子供の頃＞のニックネームだったが、今だに＜今につけても＞ダヤーッピーといわれるのだよ)。

タˈヤシグトゥ [taˈjaʃigutu] 【名】力仕事。体力の要る仕事。若年層が多用する。タˈヤヌ　ナーン˥　プˈスンマー˥　タˈヤシグトー˥　シˈミララヌ [taˈjanu naːm˥ pᵤˈsummaː˥ taˈjaʃiguto:˥ ʃiˈmiraranu](体力のない人には力仕事はさせられない)。

タˈヤッサーク [taˈjassaːku] 【名】力仕事。体力の要る仕事。老年層が多用する言葉。タˈヤシグトゥ [taˈjaʃigutu](力仕事) ともいう。タˈヤヌ　ナーン˥ダ　プˈスン˥　カタチネー　タˈヤッサーコー˥　ナˈラ˥ヌ [taˈjanu naːn˥da pᵤˈsuŋ˥ kᵩtatʃineː taˈjassaːko:˥ naˈra˥nu](体力が無いから他の人のように力仕事は出来ない)。

タˈヤッ˥サン [taˈjas˥saŋ] 【形】たやすい。簡単である。ˈザイロー˥ヌサーギ　˥アルカー　ˈヤースク˥レー　˥ワケー　ˈナー˥ヌ　タˈヤーッ˥サ　スˈクラ˥リン [ˈʤairoː˥nu ˥ʔaruka: ˈjaːsᵤˈku˥reː ˥wakeː ˈnaː˥nu taˈjaːs˥sa sᵤˈkura˥riŋ](材料があれば家作りは、訳はない。容易(タヤス)く造られる)。プˈスヌ˥　アズネー　タˈヤーッサー　ナーヌ˥ヌ　˥カイニ　スˈク˥ルカー　タˈヤーッ˥サン [pᵤˈsunu˥ ʔaʤuneː taˈjaːssa: naːnu˥nu ˥kaini sᵤˈku˥ruka: taˈjaːs˥saŋ](他人が言うほどには容易くないが、こうしたら容易い＜簡単だ＞)。タˈヤーッ˥サ　˥クトー　ˈナーヌ˥ヌ　タˈヤーッ˥サカー　˥ドゥーシ　スˈク˥リバ [taˈjaːs˥sa ˥kᵤto: ˈnaːnu˥nu taˈjaːs˥saka: ˥duːʃi sᵤˈku˥riba](容易いことはないが、容易ければ自分で作れよ)。

タˈヤン˥　ブーン　ˈナー˥ヌ [taˈjam˥buːn ˈnaː˥nu] 【連】体力が無い。「ブー」は「分＜ぶ＞、強さの度合い『読本椿説弓張月』」『日本国語大辞典』の義か。「玉の緒」説『石垣方言辞典』は取らない。ˈビョー˥ザー　˥ナリティ　タˈヤン˥　ブーン　ˈナー˥ヌ [ˈbjoː˥ʤa: ˥nariti taˈjam˥ buːn ˈnaː˥nu](病弱になって肉体的体力も気力もない＜体力も分もない＞)。

タˈユ˥リ [taˈju˥ri] 【名】縁故。頼り。タˈユ˥ル [taˈju˥ru](縁故。便り。音信) とも言う。タˈユリ˥ヌ　アˈラバ˥ル　シˈグトゥン˥　トゥˈミラ˥リティバンˈナー [taˈjuri˥nu ʔaˈraba˥ru ʃiˈgutun˥ tuˈmita˥ritibanˈnaː](縁故があればこそ仕事も探せるってねえ)。

タˈユ˥ル [taˈju˥ru] 【名】 1音信。手紙。老年層が多用する。「便り」の義。ウˈキ˥ナーラヌ　タˈユル˥ヌ　˥ケーンティ　スˈクタヌ　ヌー˥シカヤー [ʔuˈki˥naːranu taˈjuru˥nu ˥keːnti sᵤˈkutanu nuː˥ʃikajaː](沖縄からの音信＜便り＞が来たと聞いたが、どんなだろうか)。2頼り。頼みにするもの、または人。ˈワー　タンガ˥ル　ウˈヤ˥ヌ　タˈユ˥ル　ヤˈリバ　マイフナー˥　マˈリ˥ダー [ˈwaː taŋga˥ru ʔuˈja˥nu taˈju˥ru jaˈriba maiɸunaː˥ maˈri˥daː](君一人が親の頼みだから、賢い立派な人に成長しなさい＜生まれなさい＞よ)。3つて＜伝＞。てずる。縁故。「Tayori. タヨリ (便り) 使いの者、ちょうどよい折. また援助、あるいは、役に立ったり為になったりする事物など.」『邦訳日葡辞書』の義。イˈサナキ˥ナー　タˈユル˥ヌ　ˈオー˥ルカˈナー [ʔiˈsanaki˥naː taˈjuru˥nu ˈʔoː˥rukaˈnaː](石垣にてずるになる人が居られたらなあ＜つてとなる人が居られたら良いのになあ＞)。

タˈユ˥ルピキ [taˈju˥rupᵢki] 【名】縁故。てずる。タˈユ˥ルピキヌ　˥カナイ　ˈオー˥ルンダ　ノーˈン　ソーヤ　ナー˥ヌ [taˈju˥rupᵢkinu ˥kanai ˈʔoː˥runda noːˈn soːja naː˥nu](縁故に恵まれて居られる＜縁故者が叶って居られる＞から、何の心配もない)。

タˈユ˥ルン [taˈju˥ruŋ] 【他動】頼る。よりすがる。たのみとする。ウˈトゥ˥ザ　タˈユ˥ルンティ　ウˈムータン˥ドゥ　タˈユララ˥ヌ　タˈユラ˥リ　プˈスバ˥　トゥミ　タˈユ˥リ　˥パリ [ʔuˈtu˥ʤa taˈju˥runti ʔuˈmuːtan˥du taˈjurara˥nu taˈjura˥ri pᵤˈsuba˥ tumi taˈju˥ri ˥pari](親戚を頼ろうと思ったが頼られない。頼られる人を探して頼って行きなさい)。˥ウヤ　タˈユ˥ル　˥クトー　ナˈラン˥カー　ドゥˈシバ˥　タˈユ˥レー　˥ミサムヌ [˥ʔuja taˈju˥ru ˥kᵤto: naˈraŋ˥ka: duˈʃiba˥ taˈju˥re: ˥misamunu](親を頼ることが出来なければ友人を頼ればよいのに)。ˈパー˥ク　タˈユ˥リ　˥パリ [ˈpaː˥ku taˈju˥ri ˥pari](早く頼って行け)。

˥ダラ [˥dara] 【終助】～だなあ。～だことよ。名詞や形容詞の語幹について、感嘆の意を表す。語形は、[du]　＜ぞ＞・[ara]　＜有ら＞・[mu]　＜む＞　→　[darau]　→　[dara]　＜だなあ＞のような音韻変化を経て形成されたものであろう。˥アイブ　クˈトゥ˥バ　ˈシー˥　イˈナムヌ˥ダラ [˥ʔaibu kᵤˈtu˥ba ˈʃiː˥ ʔiˈnamunu˥dara](あんな事をして誠に残念だなあ)。ˈウイプス˥バ　ˈアウ˥リ　シˈミ˥　キˈムイ˥ツァダラ [ˈʔuipᵤsu˥ba ˈʔau˥ri ʃiˈmi˥ kiˈmui˥tsadara](年寄りを苦労させて気の毒なことよ)。

˥ダラー [˥dara:] 【名】だらけた者。不活発な者。˥ダルン [˥daruŋ](だれる。疲れる) の連用形˥ダリ [˥dari] に接尾辞˥ヤー [˥ja:](～する者) が付いて形成された語。˩ウンザー˥ ダラー ヤ˩ルンダ˥ ギ˩チ サン˥カー パ˩タラカヌ [˩ʔundʑa:˥ dara: ja˩runda˥ gi˩ʧi saŋ˥ka: pḁ˩tarakanu](あいつは怠け者 < だらけた者 > だから、指図しないと働かない)。

タ˩ラーシユースン [ta˩ra:ʃiju:suŋ] 【他動】不足を補うことが出来る。充分に満たす。他人の欠点を補って補強することが出来る。タ˩ラースン [ta˩ra:suŋ](足す。満たす。不足を補う) の連用形に助動詞˩ユー˥スン [˩ju:˥suŋ](～出来る。～し得る) が付いて形成された派生動詞。˥ウビ ˥アルカー ˩ヨイシンカ˥ヌ ˥ウサイ タ˩ラーシユースン˥パジ [˥ʔubi ˥ʔaruka: ˩joiʃiŋka˥nu ˥ʔusai ta˩ra:ʃiju:sum˥ paʤi](これだけあれば祝い客のご馳走を補う < 満たす > ことが出来るはずだ)。タ˩ラーシユーサヌ [ta˩ra:ʃiju:sanu](補えない < 満たせない >)。

タ˩ラースン [ta˩ra:suŋ] 【他動】不足を補う。足す。満たす。足りるようにする。「足らせる」の義。タ˩ラーン˥カー フ˩スクブン˥ タ˩ラーシティ˥ ム˩タシ˥バ [ta˩ra:ŋ˥ka: ɸu̥˩sukubun˥ ta˩ra:ʃi̥ti˥ mu˩taʃiba](足りなければ不足分を補って < 足して > 持たせなさい)。タ˩ラースンティ˥ ウ˩ムータン˥ドゥ タ˩ラーサランバ ワー˥シ タ˩ラーシ˥バ [ta˩ra:sunti˥ ʔu˩mu:tan˥du ta˩ra:saramba wa:˥ʃi ta˩ra:ʃi˥ba](補おうと思ったが補えないから、君で補えよ)。タ˩ラース˥ プソー タ˩ラーシェー˥ ミサムヌ [ta˩ra:su˥ pu̥so: ta˩ra:ʃe:˥ misamunu](補う時は補えばいいのに)。

ダ˩ラー˥ン [da˩ra:˥ŋ] 【形】だるい (怠い)。動作がのろい (鈍い)。動作がとろい。若年層ではダ˩ロー˥ン [da˩ro:˥ŋ](だるい) ともいう。ウ˩レー˥ ダ˩ラー˥ヌ シ˩グトー˥ マイ ˩ユーザヌ [ʔu˩re:˥ da˩ra:˥nu ʃi˩guto:˥ mai ˩ju:ʤanu](彼は動作が鈍くて仕事がはかどら < 捗 > ない < 前進しない >)。イッ˩ケナ˥ ダ˩ラーン˥ティ ス˩クタンドゥ ナン˥ゾー ダ˩ラー ナー˥ヌ [ʔik˩kena˥ da˩ra:n˥ti su̥˩kutandu nan˥ʤo: da˩ra: na:˥nu](非常に動作が鈍いと聞いたが、あんまり鈍くないよ)。˩シンダイ˥ ダ˩ラー˥ ナルン [˩ʃindai˥ da˩ra:˥ naruŋ](次第に鈍くなる)。ダ˩ラー˥ プ˩ソー˥ シゥ˩カウナ [da˩ra:˥ pu̥˩so:˥ si̥˩kauna](動作の鈍い人は使うな)。シ˩グトゥヌ˥ ダ˩ラー˥カー シゥ˩カウナ [ʃi˩gutunu˥ da˩ra:˥ka: si̥˩kauna](仕事が鈍ければ使うな)。

˥タライ [˥tarai] 【名】たらい (盥)。「手洗い」の転訛か。水や湯を入れて手や顔を洗うための器。「盥、多良比 < たらひ >、俗用手洗二字」『和名抄』の転訛したもの。˩ビン˥ダライ [˩bin˥darai](洗面器。「鬢盥」の義)。カ˩ナダライ [ka˩nadarai](金属製の洗面器)。˩キンアライ˥タライ [˩kiŋʔarai˥tarai](洗濯用盥。「衣洗い盥」の義) がある。洗濯用の盥は直径約 60 センチ、高さ約 20 センチの桶。板を並べて円筒形を作り、底をつけ、竹のたがで締めたもの。タ˩ライ˥ヌ ミ˩ジ˥ナー ユ˩グリキン˥ シ˩キティ˥ ア˩ライ˥バ [ta˩rai˥nu mi˩ʤi˥na: ju˩gurikiŋ˥ ʃi̥˩kiti˥ ʔa˩rai˥ba](盥の水に汚れた着物を浸けて洗いなさいよ)。

タ˩ラウン [ta˩rauŋ] 【自動】 1足りる。十分にである。満ち足りる。˥クビシ タ˩ラウンティ˥ ウ˩ムータン˥ドゥ タ˩ラーンバン [˥kubiʃi ta˩raunti˥ ʔu˩mu:tan˥du ta˩ra:mbaŋ](これだけで足りと思ったが足りないわい)。˥ヌーン ˥クイン タ˩ライ ベー˥カー タ˩ラウ˥ ム˩ノー˥ラ ˥バキバ [˥nu:ŋ ˥kuin ta˩rai be:˥ka: ta˩rau˥ mu˩no:˥ra ˥bakiba](何もかも足りているなら、足りる物から分けなさい)。タ˩ライヤー˥ ミサムヌ [ta˩raija:˥ misamunu](足りれば良いのに)。2打ち消し形で、一人前でない、の意味となる。ウ˩ヌ プソー˥ ン˩ベーマ˥ タ˩ラーヌ [ʔu˩nu pu̥so:˥ ʔm˩be:ma˥ ta˩ra:nu](この人は少々足りない < 一人前でない >)。

タ˩ラクジ [ta˩rakuʤi] 【名】古典民謡の「タラクジ節」。鳩間島で伝承されている「たらくじ」は第一連、第二連に石垣島の「赤馬節 (その二)」の歌詞を、第三連に竹富島の「マザカイ節」の歌詞を混ぜたもので、キ˩チゴン [ki̥˩ʧigoŋ](結願祭) などの奉納舞踊として歌い踊られる。/イラサニサ キユヌヒ ドゥキサニサ クガニヒ/バンシディル キユダラ パニムイルタキダラ/マリヤタキドゥン スダティヤ ナカマヌマザカイ/ナユヌユイ イキヤヌシナンドゥ ナカマクイラ/『鳩間島古典民謡古謡集』。

ダ˩ラシ˥キ ビ˩ルン [da˩raʃi̥˥ki bi˩ruŋ] 【連】べったりと座ること。ブ˩ガ˥リティル ˩ジー˥ナー ダ˩ラシ˥キ ビ˩リベー [bu˩ga˥ritiru ˩ʤi:˥na: da˩raʃi̥˥ki bi˩ribe:](疲れきって地べたにべったり座っている)。

ダ˩ラシキ˥ルン [da˩raʃi̥ki˥ruŋ] 【自動】叩きつけられてぐったりする。くたばる。ナ˩チヌ˥ ティダナカナー フ˩カイ˥ルンケン シ˩グトゥバシーティル˥ ダ˩ラシキ˥ルンティ ˩アーク˥タ [na˩ʧinu˥ tidanakana: ɸu̥˩kai˥ruŋkeŋ ʃi˩gutuba ʃi:tiru˥ da

˩raʃi̥ki˥runti ˩ʔaːku˥ta](夏の暑い太陽光線の中で体温が異常に上昇する熱中症になるほど仕事をして、ぐったりする＜くたばる＞ところだった)。

タ˩ラシ˥パナ [ta˩raʃi˥pana] 【名】古典舞踊˩鳩間節」の髪飾り。頭にティジバナ [ti˩ʤibana]、ヨ˩コザ˥シ [jo˩koʤa˥ʃi] の花を挿し、タ˩ラシ˥バナ [ta˩raʃi˥bana](紙をカールさせて作った細長い造花) を頭から背中に垂らす。タ˩ラシ˥バナー　カ˩ビシ˥ルス˩ク˥ローッタミー [ta˩raʃi˥bana: ka˩biʃi˥ru su̥˩ku˥roːttamiː](垂らし花は紙で作られたのでしょう?)。

ダ˩ラス˥クン [da˩rasu̥˥kuŋ] (1)【自動】叩きつけられてぐったりする。くたばる。へたばる。弱って動けなくなる。衰弱して動けなくなる。˥シマ　˥トゥリティ　˩ナンギラ˥リ　ダ˩ラシ˥キ　˩ベー [˥ʃima ˥turiti ˩naŋgira˥ri da˩raʃi̥˥ki ˩beː](相撲をとって投げられてぐったりしている)。˩ナンギラ˥リティ　ダ˩ラ˥スクンカヤーティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　ダ˩ラシゥカン˥バン [˩naŋgira˥riti da˩ra˥su̥kuŋkajaːti ʔu˩muːtan˥du da˩rasi̥kam˥baŋ](投げられてぐったりするかと思ったが、ぐったりしないよ)。ウ˩ヌ˥　ア˩タ˥ルシ　ダ˩ラス˥ク　プ˩ソー˥　ア˩ラ˥ヌ [ʔu˩nu˥ ʔa˩ta˥ruʃi da˩rasu̥˥ku pu̥˩soː˥ ʔa˩ra˥nu](この程度でぐったりする＜へたばる＞ような人ではない)。ダ˩ラシ˥ケーラ　ウ˩キララ˥ヌ [da˩raʃi̥˥keːra ʔu˩kirara˥nu](へたばったら立ち上がれない)。 **(2)**【他動】叩きのめす。ダ˩ラシ˥キ　トゥ˩ラ˥シ [da˩raʃi̥˥ki tu˩ra˥ʃi](やっつけろ。やっつけてやれ。叩きのめせ)。

タ˩ラ˥スン [ta˩ra˥suŋ] 【他動】溶かす。とろかす (蕩かす)。˩オー˥ヌアバ　タ˩キティ˥　アバ　タ˩ラ˥スンティ　˩ベーン˥ドゥ　タ˩ラサラン˥バ　タ˩ラシ　ッ˩ふィーリ [˩ʔoː˥nuʔaba tḁ˩kiti˥ ʔaba ta˩ra˥sunti ˩beːn˥du ta˩rasaram˥ba ta˩ra˥ʃi ˩fiːri](豚の油を焼いて油を溶かそうとしているが溶かされないので、溶かしてくれ)。˥アバ　タ˩ラ˥ス　˥プソー　ア˩バ˥ナビナー　タ˩ラ˥シェー　˥ミサムヌ [˥ʔaba ta˩ra˥su ˥pu̥so: ʔa˩ba˥nabina: ta˩ra˥ʃeː ˥misamunu](脂を溶かす時は油鍋で溶かせば良いのに)。˥アバ　タ˩ラ˥シ [˥ʔaba ta˩ra˥ʃi](油を溶かせ)。

タ˩ラ˥スン [ta˩ra˥suŋ]【他動】垂らす。したたら (滴ら) す。液体を流す。ユ˩ダル˥　タ˩ラ˥スン [ju˩daru˥ ta˩ra˥suŋ](よだれ＜涎＞を垂らす)。ユ˩ダル˥　タ˩ラサン˥ドーシ　ッ˩ふァイ˥バ [ju˩daru˥ ta˩rasan˥doːʃi ˩fai˥ba](涎を垂らさないで食べなさいよ)。タ˩ラ˥シ　˩ベー [ta˩ra˥ʃi ˩beː](垂らしている)。タ˩ラ˥ス　˥クトー　ス˩ナ˥ヨー [ta˩ra˥su ˥ku̥toː su˩na˥joː](垂らすことはするなよ)。˩マー˥ビン　タ˩ラ˥シェー　˥ミサムヌ [˩maː˥bin ta˩ra˥ʃeː ˥misamunu](もっと垂らせばいいのに)。ン˩ベーマ˥　タ˩ラ˥シバ [ʔm˩beːma˥ ta˩ra˥ʃiba](少し垂らしなさいよ)。

ダ˩ラ˥スン [da˩ra˥suŋ]【他動】強く打つ。強く叩く。˥ドゥク　˩ティーパヤー˥ティ　˥ティー　ダ˩ラ˥スンティ　シ˩タンドゥ˥　ダ˩ラサラ˥ヌ [˥duku ˩tiːpajaː ˥ti ˥tiː da˩ra˥sunti ʃi̥˩tandu˥ da˩rasara˥nu](あまりにも喧嘩早い＜手が早い＞ので、手を強く叩こうとしたが叩かれない)。ダ˩ラ˥ス　˥プソー　シ˩グ˥　ダ˩ラ˥シェー　˥ミサムヌ [da˩ra˥su ˥pu̥so: ʃi˩gu˥ da˩ra˥ʃeː ˥misamunu](叩く時はすぐ叩けばいいのに)。˥アウ　˥ピンマー　˥ティー　ダ˩ラ˥シ [˥ʔau ˥pimmaː ˥tiː da˩ra˥ʃi](喧嘩するときは手を強く打ちなさい)。

ダ˩ラ˥スン [da˩ra˥suŋ] 【他動】ゆるませる (弛ませる。垂らす)。˥シナー　ダ˩ラサン˥ドーシ　ピ˩キシキ [˥ʃina: da˩rasan˥doːʃi pi̥˩kiʃiki](綱は弛(ユル)まさないで＜弛めないで＞引張れ)。ン˩ベーマ˥　ダ˩ラ˥スンティ　˥ウムーカー　˥カマンターラ　ダ˩ラ˥シバ [ʔm˩beːma˥ da˩ra˥sunti ˥ʔumuːka: ˥kamantaːra da˩ra˥ʃiba](少し弛ませよう＜弛めよう＞と思うなら、あそこから弛ませなさい)。ダ˩ラ˥シ　˥ミサカー　ダ˩ラ˥ス　˥クトー　ナルン˩ダー [da˩ra˥ʃi ˥misakaː da˩ra˥su ˥ku̥toː narun˩daː](弛ませてよければ弛ませることは出来るよ)。˥シナー　ン˩ベーマ˥　ダ˩ラ˥シェー　˥ミサムヌ [˥ʃina: ʔm˩beːma˥ da˩ra˥ʃeː ˥misamunu](綱は少し弛ませればいいのに)。

ダ˩ラダラ [da˩radara] 【副】だらだら。動作ののろいさま。擬態語。バ˩カー˥ムノー　˩ダラダラ˥シ　ア˩ラク˥ナ [ba˩kaː˥muno: da˩radara˥ʃi ʔa˩raku˥na](若者はだらだらと歩くな)。

˥ダラダラ [˥daradara] 【副】だらだら。動作が鈍く続くさま。怠けて時を過ごすさま。ABAB 型重言。ダ˩ラダラ˥シ　ア˩ラカン˥ドーシ　ア˩シパヤ˥ミ　ア˩ラ˥キ [da˩radara˥ʃi ʔa˩rakan˥doːʃi ʔa˩ʃipaja˥mi ʔa˩ra˥ki](だらだら歩かないで足早に歩け)。

ダ˩ラダラ [da˩radara] 【副】1ぐつぐつ。とろとろ。物を十分に煮え立たせるさま。イ˩ズン˥　タクン　イ˩リティ˥　ダ˩ラダラ˥シ　˩ネーシ˥バ [ʔi˩ʤun˥ takuŋ ʔi˩riti˥ da˩radara˥ʃi ˩neːʃi˥ba](魚も蛸も入れてぐつぐつ煮なさいよ)。ダ˩ラダラ˥シ　˩ネーシ˥　フ˩クローフクロー　スン˥ケン　バ˩カシ˥バ [da˩radara˥ʃi ˩neːʃi˥ ɸu̥˩kuroːɸukuroː suŋ˥kem ba˩kaʃi˥ba](ぐつぐつと煮立てて、ふかふか、ふんわりするまで炊きなさい)。2たらたら。濃度の濃い液体、汗や血液、

油、醤油などが途切れることなく流れるさま。ダ˞ラダラ　スン˥ケン　ア˞シ˥バ　˥パリ　スブッ˞ティ˥　ナリ　˞ナー˥ヌ [da˞radara suŋ˥keŋ ʔa˞ʃi˥ba ˥pari subut˞ti˥ nari ˞na:˥nu](たらたらと流れるほど汗が出て、びっしょりとなってしまった)。

ダ˞ラッカダラッカ [da˞rakkadarakka] 【副】のっそりのっそり。だらりだらりと。擬態語。˞パン˥タリティ　ダ˞ラッカダラッカ˥シ　ア˞ラ˥ク　シ˞ナター　ミーヌッサ˥ヌ　ミ˞ララ˥ヌ [˞pan˥tariti da˞rakkadarakka˥ʃi ʔa˞ra˥ku ʃi˞nata: mi:nussa˥nu mi˞rara˥nu](肥えてのっそりのっそりと歩く姿は見苦しくて見られない)。ABCDABCD 型の重言。バ˞カー˥ムヌヌ　ダ˞ラッカダラッカ˥シ　ア˞ラ˥キ　˞アー˥クモー　˞ミーヌッサ˥ヌ　ナ˞ラ˥ヌ [ba˞ka:˥mununu da˞rakkadarakka˥ʃi ʔa˞ra˥ki ˞ʔa:˥kumo: ˞mi:nussa˥nu na˞ra˥nu](若者がだらしなく、のっそりのっそりと歩いているのは見苦しくてたまらない)。˥カマーラ　ダ˞ラッカダラッカ˥シ　ア˞ラ˥キ　˥クー　˥ムノー　˞ター˥ヤ [˥kama:ra da˞rakkadakka˥ʃi ʔa˞ra˥ki ˥ku: ˥muno: ˞ta:˥ja](向こうからのっそりのっそりと歩いてくる者は誰か)。バ˞カー˥ムヌヌ　ダ˞ラッカダラッカ˥シ　ア˞ラ˥ク　˥ムヌ　˥ミルカー　˞ミーヌッサ˥ヌ　ナ˞ラ˥ヌ [ba˞ka:˥mununu da˞rakkadarakka˥ʃi ʔa˞ra˥ku ˥munu ˥miruka: ˞mi:nussa˥nu na˞ra˥nu](若者がのっそりのっそりと歩くのを見ると見苦しくて堪らない)。

ダラッ˞ティ [darat˞ti] 【副】ぐったりと。体力や気力が失われてへたり込むさま。ダラッ˞テイ　スン˥ケン　ブ˞ガ˥リティ　ウ˞ヌマー˥マ　ニ˞ビベー [darat˞ti suŋ˥kem bu˞ga˥riti ʔu˞numa:˥ma ni˞bibe:](ぐったりするほど疲れて、そのまま寝ている)。ヤ˞ラ˥ベー　ニ˞チ˥ヌ　˥ンジティ　ダラッ˞ティ˥　ナリ　˞ベー [ja˞ra˥be: ni˞ʧi˥nu ˥ʔnʤiti darat˞ti˥ nari ˞be:](子供は熱が出てぐったりしている)。

ダ˞リー [da˞ri:] 【感】まあ汚い。まあ、嫌らしい。アダ˞リー [ʔada˞ri:](まあ汚い) の略語。イダ˞リー [ʔida˞ri:](まあ汚い) は、揶揄する気持ちが含まれる。ダー˞リーとも言う。ダ˞リー˥　ヌーヤ　ウ˞レー [da˞ri:˥ nu:ja ʔu˞re:](まあ汚い! 何だね、それは)。

ダ˞リッサー˥ルン [da˞rissa:˥ruŋ] 【自動】元気が無くなる。疲れて元気が無くなる。しょげかえる (悄気返る)。ひどくしょげる (悄気る)。しょげこむ (悄気(ショゲ)こむ)。しおれる。ア˞ムサ˥ル　˥アルユー　ダ˞リッサー˥リ　˞ベー [ʔa˞musa˥ru ˥ʔaruju: da˞rissa:˥ri ˞be:](風邪気味で気分が悪いのか、元気が無く、しょげ込んでいる)。ニ˞チ˥ヌ　˥ンズカー　ダ˞リッサー˥ルンティ　ス˞クタヌ　ナン˥ゾー　ダ˞リッサーラン˥バン [ni˞ʧi˥nu ˥ʔnʤuka: da˞rissa:˥runti sṵ˞kutanu nan˥ʤo: da˞rissa:ram˥baŋ](熱が出ると元気がなく、しょげ返るときいたが、それほどしょげ返らないわい)。ヤ˞ラビ˥ヌ　ダ˞リッサー˥ル　˥ピンマー　ニ˞チ˥ヌ　˥アル　˞スー˥ク [ja˞rabi˥nu da˞rissa:˥ru ˥pimma: ni˞ʧi˥nu ˥ʔaru ˞su:˥ku](子供が不元気でしょげ返る時は熱がある証拠だ)。ナ˞ガラク˥　ア˞ミ˥ヌ　˞ホーン˥ダー　˞キーヌ˥パーン　ダ˞リッサー˥リ　˞ベー [na˞garaku˥ ʔa˞mi˥nu ˞ho:n˥da: ˞ki:nu˥ pa:n da˞rissa:˥ri ˞be:](長らく雨が降らないので木の葉もしおれ <萎(シオ)れ > ている)。

ダ˞リッサリ˥ムヌ [da˞rissari˥munu] 【名】全く気力のない者。動作が緩慢でだらだらした者。「だれくされ者」の義。卑語として用いられる。ダ˞リッサリ˥ムヌ　ヤ˞ルンダ˥　イカー˞ラ˥　イ˞ズタンティン˥　シ˞グトー˥　マ˞ニアーシ　ユーサ˥ヌ [da˞rissari ˥munu ja˞runda˥ ʔika:˞ra˥ ʔi˞ʤutantiŋ˥ ʃi˞guto:˥ ma˞nija:ʃi ju:sa˥nu](全く気力の無い者だから、いくら叱っても仕事は間に合わせることが出来ない < 間に合わせ得ない >)。

タ˞リ˥マユ [ta˞ri˥maju] 【名】たれまゆ (垂れ眉)。タ˞リマユ˥ヌ　プ˞ソー˥　ユー　マ˞ジムヌ˥　ミルンティ˞ダー [ta˞rimaju˥nu pṵ˞so:˥ ju: ma˞ʤimunu˥ mirunti˞da:](垂れ眉の人は、よく魔物 < 蠱物・マジモノ > を見るそうだよ)。

タ˞リ˥ミー [ta˞ri˥mi:] 【名】垂れ目。目尻が下がっていること。その目。˞ウイ˥プス　˥ナルカー　タ˞リ˥ミー　˥ナリティ　˥ムヌーン　ミ˞リングリ˥サ　ナ˞リ˥ス [˞ʔui˥pṵsu ˥naruka: ta˞ri˥mi: ˥nariti ˥munum mi˞riŋguri˥sa na˞ri˥su](老人になると垂れ目になって、ものも見づらく < 見難く > なってしまう)。

ダ˞リ˥ミー [da˞ri˥mi:] 【名】たれ目。目尻が下がった目。タ˞リミー˥ヌ　プ˞ソー˥　ユー　マ˞ジムヌ˥　ミルンティ˞ダー [ta˞rimi:˥nu pṵ˞so:˥ ju: ma˞ʤimunu˥ mirunti˞da:](たれ目の人は、よく魔物 < まじもの > を見るそうだよ)。

ダ˞リ˥ムヌ [da˞ri˥munu] 【名】虚弱体質の者。手足の力が弱く、何の仕事も出来ない人。ウ˞レー˥　マ˞リットーラヌ˥　ダ˞リ˥ムヌ　ヤ˞リバ˥　イ˞ズナ˥ヨー [ʔu˞re:˥ ma˞ritto:ranu˥ da˞ri˥munu ja˞riba˥ ʔi˞ʤuna˥ jo:](彼 < それ > は生まれつきの虚弱体質だから叱るなよ)。身体に麻痺のある人。ク˞ヌ˥　シ˞グトー˥　カイブ　ダ˞リムヌン˥マー　シ˞ミララヌ [ku˞nu

˥ ʃi˞guto:˥ kaibu da˞rimum˥ma: ʃi˞miraranu](この仕事はこんな元気のない者にはさせられない)。

ダ˞リ˥ヤン [da˞ri˥jaŋ] 【名】体の不自由な病気。ちゅうぶう (中風)。腕や脚に麻痺が生じる病気。ダ˞リ˥ヤン　カ˞カ˥リティル　˥ッスシバルン　プ˞ス˥　タ˞ナミ˥ル　˞シーユース [da˞ri˥jaŋ kạ˞ka˥ritiru ˥ssuʃibarum pụ˞su˥ ta˞nami˥ru ˞ʃi:ju:su](中風に罹って、大便小便も人に手伝ってもらってしか出来ない＜人を頼んでぞし得る＞)。

タ˞リ˥ルン [ta˞ri˥ruŋ]【自動】1溶ける。ミ˞ジ˥ナー　シ˞キ˥　シ˞キ˥ルカー　タ˞リ˥ルンカヤーティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　タ˞リラン˥バン [mi˞ʤi˥na: ʃị˞ki˥ ʃị˞ki˥ ruka: ta˞ri˥ruŋkaja:ti ʔu˞mu:tan˥du ta˞riram˥baŋ](水に浸けて置くと溶ける＜溶解する＞かと思ったが溶けないわい)。ムー˞ル˥　タリパリ　˞ナー˥ヌ [mu: ˞ru˥ taripari ˞na:˥nu](全部溶けてしまった)。タ˞リ˥ル　˥ムノー　シ˞ティリ [ta˞ri˥ru ˥muno: ʃị˞tiri](溶けるものは捨てなさい)。2朽ち果てる。朽ち溶ける。腐食する。フ˞クンキーヤ˥　サ˞リティ˥　クチ　˥タリパリ　˞ナー˥ヌ [ɸụ˞kuŋki:ja˥ sa˞riti˥ kụ̊tʃi ˥taripari ˞na:˥nu](福木は枯れて朽ち果ててしまった)。

タ˞リ˥ルン [ta˞ri˥ruŋ] 【自動】垂れる。重みで下にだらりとさがる。˥タルンとも言う。ピ˞キシゥカン˥カー　˥シナー　タ˞リ˥ルンダ　タ˞リラン˥ヨーニ　ピ˞キシキ [pị˞kisị̊kaŋ˥ka: ˥ʃina: ta˞ri˥runda ta˞riraŋ˥jo:ni pị˞kiʃị̊ki](引っ張らないと綱は垂れ下がるから、垂れないように引っ張れ)。˥クマー　タ˞リン˥ギサン [˥kuma: ta˞riŋ˥gisaŋ](ここは垂れそうだ)。タ˞リ˥ル　˥トンマー　ピ˞キサイ˥バ [ta˞ri˥ru ˥tomma: pị˞kisai˥ba](垂れ下がるところは引っ張り上げなさいよ)。タ˞リ˥レー　˥ミサムヌ [ta˞ri˥re: ˥misamunu](垂れ下がればいいのに)。

ダ˞リ˥ルン [da˞ri˥ruŋ] 【自動】疲れる。疲労困憊する。疲れて気持ちがゆるむ。ウ˞ディ˥ヌ　ダ˞リ˥ルンケン　ッ˞ふァ˥　ダ˞クタン [ʔu˞di˥nu da˞ri˥ruŋkeŋ f˞fa ˥ da˞kutaŋ](腕が疲れるまで＜程＞子供を抱いた)。ギュー˞サ˥　ダ˞カバン˥　ダ˞リラ˥ヌ [gju:˞sa˥ da˞kaban˥ da˞rira˥nu](いくら抱いても疲れない)。˞キュー˥ヤ　ダリ˞ナー˥ヌ [˞kju:˥ja dari˞na:˥nu](今日は疲れてしまった)。ダ˞リ˥ル　˥ピンマー　˞ユー˥クイバ [da˞ri˥ru ˥pimma: ˞ju:˥kuiba](疲れる時は休みなさいよ)。ダ˞リ˥ルカー　˞カーリ˥バ [da˞ri˥ruka: ˞ka:ri˥ba](疲れたら代わりなさいよ)。˞パー˥ク　ダ˞リ˥レー　˥ミサムヌ [˞pa:˥ku da˞ri˥re: ˥misamunu](早く疲れれば良いのに)。ダ˞リ˥リ [da˞ri˥ri](疲れろ)。

˥タル [˥taru] 【名】たる (樽)。標準語からの借用語か。普通は˞ウー˥キ [˞ʔu:˥ki](桶) という。製糖組合が出来て、黒糖輸出用の容器として樽が作られるようになった。˥サタダル [˥sạ̊tadaru](砂糖樽)。˞ユントゥダル [˞juntudaru](4 斗樽)。˞イットゥ˥ダル [˞ʔittu ˥daru](1 斗樽。味噌、醤油用の樽)。サ˞キダル [sạ̊˞kidaru](酒樽)。˥サタダルヌ　˥ウベー　タ˞キ˥　バ˞リティル˥　ス˞ク˥ローッタ [˥sạ̊tadarunu ˥ʔube: tạ̊˞ki˥ ba˞ritiru˥ sụ̊˞ku˥ro:tta](砂糖樽の箍＜たが。帯＞は竹を割って＜ぞ＞作られた)。

˥タル [˥taru] 【名】人名。男の名前。「太郎」の義。昔は「多呂」、「樽」と表記された。˥タルザー [˥taruʤa:](多呂兄さん)。˥タロー　バ˞コーシン˥カ　タ˞ナ˥ミン　˞パッ˥タ [˥taro: ba˞ko:ʃiŋ˥ka ta˞na˥mim ˞pat˥ta](太郎は共同作業の要員を頼みに行った)。

タ˞ル [ta˞ru] 【代】誰。老年層、古謡で用いられる。普通の日常会話では、˞ター [˞ta:](誰) という。/タルトゥユードゥ　ティーユマス　ジリトゥユードゥ　ナートゥラス　カムラマーヌ　アマイヤー　ウヤキユーバ　タボラリ/(誰と一緒に鳴り響かせようか、誰と共に有名にしようか、カムラーマの歓びは豊年満作の年＜御世＞を賜ることです)「かむらーまぬうた」『鳩間島古典民謡古謡集』。

˥ダル [˥daru] 【名】人名。平民女性の名。˥ダローンマ [˥daro:mma:](ダル姉さん)。˞マン˥ダル [˞man˥daru](まんだる)。˞マン˥ダローンマー [˞man˥daro:mma:](マンダル姉さん)。ク˞メー˥ナー　˞マン˥ダルアッパティ　˞スー˥　プ˞スヌ　オーッ˥タン [ku˞me:˥na: ˞man˥daruʔappati ˞su:˥ pụ˞sunu ʔo:t˥taŋ](小浜家にはマンダル祖母さんという人が居られた)。

˥ダル [˥daru] 【名】おり (澱)。おどみ。沈殿物。液体の底に沈んだかす (滓)。シ˞タディ˥ヌ　˥ダル　フ˞ミ˥トゥリ [ʃị˞tadi˥nu ˥daru ɸu˞mi˥turi](醤油＜下地＞の沈殿物を掬い取れ)。˞パイルヌ˥　ダルナー　˞ウンヌ˥　シル　イ˞リティ˥　キ˞サ˥シ [˞pairunu ˥ daruna: ˞ʔunnu˥ʃiru ʔi˞riti˥ kị̊˞sa˥ʃi](酢のおり＜澱＞に芋の煮汁を加えて＜入れて＞醗酵させ酸味を強化させた酢を作らせ＜切らせ＞なさい)。

˥タルウーキ [˥taruʔu:ki] 【名】樽。桶。酒樽や砂糖樽を桶に転用したもの。˥タルウーケー　˞グッ˥ふァンダ　ウ˞リ˥シ　ミ˞ジタン˥グ　ス˞ク˥ルカー　シゥ˞カイグリ˥サン [˥taruʔu:ke: ˞guf˥fanda ʔu˞ri˥ʃi mi ˞ʤitaŋ˥gu sụ̊˞ku˥ruka: sị̊˞kaiguri˥saŋ](樽桶は重いから、それで水担桶を作ると使いづらい)。

タ˞ル˥ガー [ta˞ru˥ga:] 【名】樽を組み立てる板。ク˞リ

ˉタ [kuˉriˉta] ともいう。ムˉカˉシェー　タ˞ルˉガー　スˉクリˉキー　˞パイターˉラ　ˉユー　キˉソーッˉタン [muˉkaˉʃe: taˉruˉga: sṵˉkuriˉki: ˞paita:ˉra ˉju: kḭˉso:tˉtaŋ](昔はタルガー用材＜タルガーを作る木＞を西表島からよく伐り出されたものだ)。

タ˞ルガキ [taˉrugaki] 【名】頼ること。頼りにすること。当てにすること。悪い意味で用いられることが多い。プ˞スバˉ　タ˞ルガキ　シーˉ　ドゥーシェー　ムッ˞トゥˉ　シˉグトゥˉ　サˉヌ [pṵˉsubaˉ taˉrugaki ʃi:ˉ du:ʃe: mutˉtuˉ ʃiˉgutuˉ saˉnu](他人を頼りにして＜当てにして＞自分ではちっとも仕事をしない)。プ˞スˉ　タ˞ルガキ　シーˉナー　ナˉランˉバン [pṵˉsuˉ taˉrugaki ʃi:ˉna: naˉramˉbaŋ](他人を頼りにして困るよ)。

タ˞ルガキルン [taˉrugakiruŋ] 【他動】頼りにする。当てにする。他人の力に頼る。タ˞ルガクンとも言う。プ˞スˉ　タ˞ルガキランドーˉシ　ˉドゥーシ　˞シー [pṵˉsuˉ taˉrugakirandoːˉʃi ˉduːʃi ˞ʃiːˉ](他人を頼らないで自分でしなさい)。タ˞ルガキˉ　ミサカー　タ˞ルガキルンドゥˉ　メー　タ˞ルガキルˉ　クトー　ナˉランˉ　パジ [taˉrugakiˉ misaka: taˉrugakirunduˉ me: taˉrugakiruˉ kṵto: naˉramˉpaʤi](当てにしてよければ当てにするが、もう当てにすることは出来ないはずだ)。˞マーˉビン　タ˞ルガキレーˉ　ミサムヌ [˞maːˉbin taˉrugakireːˉ misamunu](もっと他人を当てにすればいいのに)、タ˞ルガキリ [taˉrugakiri](当てしろ。他人を頼れ)。「頼掛ける」の訛語説『石垣方言辞典』。プ˞スバˉ　タ˞ルガキルˉ　クトー　ナˉランˉバ　タ˞ルガキランドーˉシ　ˉドゥーシ　˞シーˉバ [pṵˉsubaˉ taˉrugakiruˉ kṵto: naˉramˉba taˉrugakirandoːˉʃi ˉduːʃi ˞ʃiːˉba](他人を頼りにすることは出来ないから、頼りにしないで自分でやりなさい＜しなさい＞)。ウˉレーˉ　タ˞ルガキ　ヤッˉサバティ　˞シーˉ　タ˞ルガキルンティ　ベーˉティ　˞ザーˉパイ　˞シー　ナーˉヌ [ʔuˉreːˉ taˉrugaki jasˉsabati ˞ʃiːˉ taˉrugakirunti beːˉti ˞ʤaːˉpai ˞ʃiː naːˉnu](彼は頼りにしやすいからといって、頼りにしようとしていて始末に負えない厄介なことになってしまった)。タ˞ルガケーˉ　ミサムヌ [taˉrugakeːˉ misamunu](頼りにすればよいのに)。タ˞ルガキリ [taˉrugakiri](頼りにしなさい)。

タ˞ルガクン [taˉrugakuŋ] 【他動】他人をたよりにする。頼る。当てにする。タ˞ルガキルンとも言う。プ˞スˉ　タ˞ルガカンドーˉシ　ˉドゥーシ　˞シーˉバ [pṵˉsuˉ taˉrugakandoːˉʃi ˉduːʃi ˞ʃiːˉba](他人を頼らないで自分でやりなさい)。タ˞ルガキˉ　ミサカー　タ˞ルガクンドゥˉ　アイニ　タ˞ルガクˉクトー　ナˉランˉパジ [taˉrugakiˉ misaka: taˉrugakunduˉ ʔaini taˉrugakuˉkṵto: naˉramˉ paʤi](頼ってよければ頼るが、そんなに頼ることは出来ないはずだ)。˞マーˉビン　タ˞ルガケーˉ　ミサムヌ [˞maːˉbin taˉrugakeːˉ misamunu](もっと頼ればいいのに)。タ˞ルガキˉバ [taˉrugakiba](頼れ。当てにしろ)。タ˞ルガカランˉ　プ˞スバˉ　タ˞ルガクンティ　ソーˉラ　タ˞ルガキˉ　ミサンティ　˞スーˉ　プ˞スˉ　タ˞ナムˉル　マˉシ [taˉrugakaramˉ pṵˉsubaˉ taˉrugakunti soːˉra taˉrugakiˉ misanti ˞suːˉ pṵˉsuˉ taˉnamuˉru maˉʃi](当てに出来ない人を頼りにするよりは、当てにしていいという人を頼む方がよい)。

タ˞ルˉキ [taˉruˉki] 【名】垂木。「榱、太流岐 (たるき)」『和名抄』の転訛したもの。家の棟から軒へ渡す木材。直径約 8 センチ、長さ約 4 メートルの丸太。その上に竹のユˉチル [juˉʧiru](えつり＜桟＞) を編んで茅葺屋根を葺いた。瓦葺の場合はえつり＜桟＞の上に粘土を載せて瓦を葺いた。垂木は西表島北岸の山から、シˉターˉマ [ʃḭˉtaːˉma](「えごのき」の一種か)、アˉゴˉチ [ʔaˉgoˉʧi](「もくたちばな」の一種か) などの若木を伐って使っていた。タ˞ルˉケー　˞ゴーラˉヤ　シˉターマバˉル　シュˉカイ　ブタ [taˉruˉke: ˞goːraˉja ʃḭˉtaːmabaˉru sḭˉkaibuta](垂木には、多くはシターマ＜えごのき＞を使っていた)。

タ˞ルˉ　ジリーティ　˞ナーˉヌ [taˉruˉ ʤiriːtte: ˞naːˉnu] 【連】たれかれ (誰彼) となく。相手かまわず。誰彼という区別なく。タ˞ルˉ　ジリティ　˞ナーˉヌ　ムーˉルˉ　ンジェー　˞ペーリペーˉリ　˞シー　ブー [taˉruˉ ʤirite: ˞naːˉnu muːˉruˉ ʔnʤe: ˞peːripeːˉri ˞ʃiːbuː](誰彼と区別することなく、皆出入りしている)。˞ターターティ　ナーˉヌ [˞taːtaːti naːˉnu] ともいう。

タ˞ルタル [taˉrutaru] 【代】誰々。タ˞ル [taˉru](誰) の重言。歌謡語や老年層で使用される。若年層は˞ターター [˞taːtaː](誰々) ともいう。クˉトゥシヌ　パーレーシンˉカー　タ˞ルタルドゥˉ　クˉバラˉレーワ [kṵˉtuʃinu paːreːʃiŋˉka: taˉrutarduˉ kuˉbaraˉreːwa](今年の爬竜船の漕ぎ手＜乗組員＞は誰々が割り当てられたか)。

ダ˞ルˉマ [daˉruˉma] 【名】 1張子の玩具。倒してもまっすぐに立つように造られているので、開運の縁起物として重宝される。ダ˞ルˉマー　ヤˉラビˉヌ　ムˉタビˉムヌ　˞ヤッタ [daˉruˉma: jaˉrabiˉnu muˉ

tabiˉmunu ˞jatta](ダルマは子供の玩具だった)。2だるまのように、ずんぐりと太った人にいう。ク˞ヌˉ　ッ˞ふァー　パンˉタリティ　ダ˞ルˉマ　ˉナリ　˞ベー [ku˞nuˉ f˞fa: panˉtariti da˞ruˉma ˉnari ˞be:](この子は太ってダルマになっている)。

ダ˞ルˉマー [da˞ruˉma:] 【名】(動) 魚名。和名、ヨコシマクロダイ。フエフキダイ科。体長約 50 センチ。白身魚の高級魚。タ˞ティˉナーシ　ダ˞ルˉマー　˞ホーサˉリ　ˉバスーン　˞アッˉタン [tạ˞tiˉna:ʃi da ˞ruˉma:ŋ ˞ho:saˉri ˉbasu:ŋ ˞ʔatˉtaŋ](一本釣りでダルマー＜よこしまくろだい＞が釣れることもあった)。

ˉタルン [ˉtaruŋ] (1)【他動】1溶かす。液体に他の物質を混ぜて均一な液体をつくる。ˉクジ　ミ˞ジˉナー　ˉタルンティ　˞ベーˉンドゥ　タ˞ラランˉバ　˞ワーˉ　ドゥーシ　ˉタリバ [ˉkuʤi mi˞ʤiˉna: ˉtarunti ˞be: ˉndu ta˞raramˉba ˞wa:ˉ du:ʃi ˉtariba](くず粉を水に溶かそうとしているが溶かされないから、君自身で溶かしなさい)。˞オーˉヌ　˞イーˉヤ　ˉウン　ˉタリ　ッ˞ふァーシ [˞ʔo:ˉnu ˞ʔi:ˉja ˉʔun ˉtari f˞fa:ʃi](豚の餌は＜煮た＞芋を＜だし汁に＞溶かして喰わせなさい)。ミ˞ジˉナー　ˉタリ　ˉミサカー　ˉタル　ˉクトー　˞ゾーˉサー　˞ナーˉヌ [mi˞ʤiˉna: ˉtari ˉmisaka: ˉtaru ˉkụto: ˞ʤo:ˉsa: ˞na:ˉnu](水に溶かしてよければ溶かすことは造作無い＜簡単だ＞)。ミ˞ジˉナー　ˉタレー　ˉミサムヌ [mi˞ʤiˉna: ˉtare: ˉmisamunu](水に溶かせばよいのに)。2醸造する。サ˞キˉ　タルン [sạ˞kiˉ taruŋ](酒を醸造する)。3脂肉から脂を抽出する。絞り出す。ア˞バッˉタラ　ˉシジティ　ˉアバ　ˉタルン [ʔa˞batˉtara ˉʃiʤiti ˉʔaba ˉtarun](脂肉を焼き煎じて脂を抽出すつ)。**(2)**【自動】溶ける。湿気で溶解する。˞ナンククˉル　ˉタリ　ˉパルン [˞naŋkukuˉru ˉtari ˉparuŋ](自然に溶けていく)。ア˞ミˉヌ　˞フーˉター　˞マーˉソー　ˉタルンカヤーティ　ウ˞ムータンˉドゥ　タ˞ランˉバン [ʔa˞miˉnu ˞ɸu:ˉta: ˞ma:ˉso: ˉtaruŋkaja:ti ʔu˞mu:tanˉdu ta˞ramˉbaŋ](雨が降ったので塩は溶けるかと思ったが溶けないわい)。

ˉタルン [ˉtaruŋ] 【自動】垂れ下がる。緩む。ˉシナー　タ˞ラサンˉ　ヨーシ　ピ˞キシキ [ˉʃina: ta˞rasaŋ ˉ jo:ʃi pị˞kiʃị̈ki](綱は垂らさないように引張れ)。ˉタリ　ッ˞サーˉリ　˞ベー [ˉtari s˞sa:ˉri ˞be:](垂れてぶらさがっている)。フ˞チˉ　ア˞クˉカー　ユ˞ダルヌˉ　タルンダー　ˉタル　ユ˞ダロー　ヌシˉティバ [ɸụ˞tʃiˉ ʔa˞kuˉka: ju˞daruˉnu ˉtarunda: ˉtaru ju˞daro: ˞nuʃị̈ˉtiba](口を開けると涎が垂れるから、垂れる涎は拭い捨てろよ)。˞マーˉビン　ˉタレー　ˉミサムヌ [˞ma:ˉbin ˉtare: ˉmisamunu](もっと垂れたらいいのに)。

ˉタルン [ˉtaruŋ] 【自動】滴り落ちる。水滴が落ちる。ガ˞マヌˉ　ウ˞コーヤ　ティンˉゾーラ　ミ˞ジヌˉ　タルン [ga˞manuˉ ʔu˞ko:ja tinˉʤo:ra mi˞ʤinuˉ taruŋ](洞窟の奥は天井から水滴が滴り落ちる)。ˉクマー　ミ˞ジェーˉ　タ˞ラˉヌ [ˉkuma: mi˞ʤe:ˉ ta˞raˉnu](此処は水は滴り落ちない)。

ˉダルン [ˉdaruŋ] 【自動】1だれる。疲れる。疲労困憊する。ダ˞リˉルン [da˞riˉruŋ](だれる) ともいう。1ˉダリティ　˞ウーカラˉヌ [ˉdariti ˞ʔu:karaˉnu](疲れて動けない)。ウ˞ビˉナー　パ˞タラケーˉバ　ˉダルンカヤーティ　ウ˞ムータンˉドゥ　ダ˞ランˉバン [ʔu ˞biˉna: pạ˞tarake:ˉba ˉdaruŋkaja:ti ʔu˞mu:tanˉdu da˞ramˉbaŋ](あれだけ働いたのだから疲れるかと思ったが、疲れないわい)。˞ティーパンˉヌ　ˉダルˉプソー　˞ユーˉクイバ [˞ti:panˉnu ˉdaru pụso: ˞juːˉ kuiba](手足が疲れる時は休め)。ン˞ベーマーˉ　ダレー　ˉミサムヌ [ʔm˞be:ma:ˉ dare: ˉmisamunu](少しは疲れればいいのに)。˞マーˉビン　ˉダリバ [˞ma: ˉbin ˉdariba](もっと疲れろ＜だれろ＞)2緩む。たるむ。気持ちがゆるむ。˞ミーˉヌ　ˉカー　ˉダルン [˞mi:ˉnu ˉka: ˉdaruŋ](瞼(マブタ)＜目の皮. 目の蓋(フタ)＞が緩む＜たれる＞)。

タ˞ルンˉ　ジリン [ta˞runˉ ʤiriŋ]【連】誰も彼も。老年層の使用語。若年層は、ターˉンターン [ta:˞nta:ŋ](誰も彼も) という。キ˞ムˉナー　ウ˞モーリˉバティ　˞シー　コーチョーˉヤ　タ˞ルンˉ　ジリン　シ˞トゥミラˉリ　ˉムノー　ア˞ラˉヌ [ki˞muˉna: ʔu˞mo:riˉbati ˞ʃi: ko:tʃo:ˉja ta˞runˉ ʤiriŋ ʃị˞tumiraˉri ˉmuno: ʔa˞raˉnu](心に願うことが出来るからとて、校長職は誰にも彼にも勤められるものではない)。

ダ˞レーˉマ [da˞re:ˉma] 【名】赤米。在来種の稲。ダ˞ネーˉママイ [da˞ne:ˉmamai] の転訛したもの。西表祖納ではダネーマイといっていた。玄米の色は赤く、粳米で芒の長さも長かった。粒の量も多い品種であったという。ム˞カˉシェー　ダ˞レーˉママイバル　ス˞クˉリ　˞オーッˉタツォー [mu˞kaˉʃe: da˞re:ˉ mamaibaru sụ˞kuˉri ˞ʔo:tˉtatso:](昔はダレーマ稲を栽培しておられたそうだ)。

ˉタン [ˉtaŋ]【助動】～した。完了の助動詞「たり」の転訛したもの。動詞の連体形に付く。カ˞クˉタン [kạ˞kuˉ taŋ](書いた)、˞クーˉタン [˞ku:ˉtaŋ](漕いだ)。カ˞ラスタン＜カ˞ラシタン＞[ka˞rasụtaŋ＜ka˞raʃitaŋ＞](貸

した)。パ⌈ズ⌉タン [pa⌈ʥu⌉tan](脱いだ)。ム⌈トゥ⌉タン [mu⌈tu⌉taŋ](持った)。シ⌈ドゥ⌉タン [ʃi⌈du⌉taŋ](孵化した)。カ⌈ツ⌉タン [kḁ⌈ʦu⌉taŋ](勝った)。ユ⌈ム⌉タン [ju⌈mu⌉taŋ](読んだ)。シ⌈ヌタン [ʃi⌈nutaŋ](死んだ)。**(1)**【活用形】。⌈バン⌉ヌン　カ⌈ク⌉タン [⌈ban⌉nuŋ kḁ⌈ku⌉taŋ](私も書いた < 終止形 >)。⌈フン⌉トー　カ⌈ク⌉タカー　⌈スーク⌉ヌ　⌉アルパジ [⌈ɸun⌉toː kḁ⌈ku⌉takaː ⌈suːku⌉nu ⌉ʔaru ⌉paʤi](本当に書いたのなら証拠があるはずだ < 連体形 1>)。⌈バー⌉ル　カ⌈クタ⌉ル　カ⌈レー⌉　カ⌈カン⌉シェン [⌈baː⌉ru kḁ⌈kuta⌉ru ka⌈reː⌉ kḁ⌈kaŋ⌉ʃeŋ](私が < ぞ > 書いた。彼は書かなかった < 係助詞ぞの結び >)。**(2)** さらに接続助詞⌉ティン [⌉tiŋ](〜とも) が付く。ク⌈ヌ⌉　サ⌈ケー⌉　ギュー⌈サ⌉　ヌ⌈ム⌉タンティン　⌈ビュー⌉ヌ (⌈ビーラ⌉ヌ)[ku⌈nu⌉ sḁ⌈keː⌉ gjuː⌈sa⌉ nu⌈mu⌉tantim ⌈bjuː⌉nu](この酒はいくら飲んでも酔わない)。ウ⌈レー⌉　フニティン　ウ⌈モーリ⌉タン [ʔu⌈reː⌉ ɸunitiŋ ʔu⌈moːri⌉taŋ](それは舟 < である > とも思われた)。**(3)** さらに格助詞⌉-ティ [⌉-ti](〜と) に係助詞⌉-ヤ [⌉-ja](〜は) の付いた形、⌉-テー [⌉-teː](〜とは) がついて、引用部を強調する。アイ⌈スン⌉ケン　⌈ピー⌉ヤタンテー　⌈バン⌉マー　ウ⌈モーラ⌉ヌ [ʔai⌈suŋ⌉kem ⌈piː⌉jatanteː ⌈bam⌉maː ʔu⌈moːra⌉nu](それほど寒かったとは、私には思われ < 考えられ > ない)。

⌉タン **[⌉taŋ]** 【名】たん (痰)。風邪を引くと気管から吐き出される黄色い粘液性の物質。老年層は⌉カサヌール [⌉kḁsanuːru](痰) ともいう。ッ⌈サー⌉ク　⌈スー⌉カー　⌈サッ⌉コー　⌈タン⌉ヌ　ン⌈ジ⌉ルサー [s⌈saː⌉ku ⌈suː⌉kaː ⌈sak⌉koː ⌈tan⌉nu ʔn⌈ʤi⌉rusaː](咳をしたら、ひどく痰が出るんだよ)。⌉ドゥガイ　⌉ッシ⌉ヌミティ　⌉タン　キ⌈サ⌉シバ [⌉dugai ⌉ʃʃi ⌉numiti ⌉taŋ ki̥⌈sa⌉ʃiba](アロエ < ⊠薈 > を擂って飲んで痰を切らしなさいよ)。

⌈タン **[⌈taŋ]** 【名】木炭。炭。昭和 28 年ごろまでは、鳩間島では前の砂浜で子供たちが暖房用の炭焼きをしたものである。西表島北岸から雑木を伐って島に運び、浜に深さ約 1 尺程の横穴を掘り、雑木を 3 尺ほどの高さに積み上げ、上に茅を被せて土を盛り、亀甲形に作る。入り口に火を焚きつけ、積み上げた木が燃え始めると入り口を塞ぐ。二、三日で積み上げた木全体が蒸し焼きにされた頃、排煙口も塞いで火を消す。一週間後には炭を取り出すことができた。ム⌈カ⌉シェー　フ⌈ユ⌉　ナルカー　パ⌈マ⌉ナーティ　⌉ユー　⌈タン⌉　ヤ⌈クタン [mu⌈ka⌉ʃeː ɸu⌈ju⌉ narukaː pa⌈ma⌉naːti ⌉juː ⌈taŋ⌉ ja⌈kutaŋ](昔は冬になると浜でよく炭焼きをした)。

⌉タン **[⌉taŋ]**【助数】**1**田畑の大きさを表す単位、反 (300 坪)。**2**布の大きさ表す単位 (並幅で鯨尺 2 丈 6 尺)。標準語からの借用語。**1**⌈イッ⌉タン [⌈ʔit⌉taŋ](1 反)。⌈ニッ⌉タン [nit⌉taŋ](2 反)。⌉サンダン [⌉sandaŋ](3 反)。⌈ヨンタン [⌈jontaŋ](4 反)。ゴ⌈タン [go⌈taŋ](5 反)。ル⌈ク⌉タン [ru⌈ku⌉taŋ](6 反)。シ⌈チ⌉タン [ʃi̥⌈ʧi⌉taŋ](7 反)。ハ⌈チ⌉タン [hḁ⌈ʧi⌉taŋ](8 反)。⌈キュータン [⌈kjuːtaŋ](9 反)。ク⌈ヌ⌉　ウ⌈ブマ⌉シェー　⌈ニッ⌉タン　ゴ⌈シェ⌉　アン [ku⌈nu⌉ ʔu⌈buma⌉ʃeː ⌈nit⌉taŋ go⌈ʃe⌉ ʔaŋ](この大きな田 < 大枡田 > は 2 反 5 畝の広さがある)。**2**ッ⌈スヌー⌉ヌ　⌈イッ⌉タン　⌈カイ⌉　クー [s⌈sunuː⌉nu ⌈ʔit⌉taŋ ⌈kai⌉ kuː](白生地 < 白布 >1 反買って来い)。

⌉ダン **[⌉dan]**【名】**1**段。階段。イ⌈シダンマー⌉　ナンダン　ア⌈ル⌉ワ [ʔi⌈ʃidammaː⌉ nandaŋ ʔa⌈ru⌉wa](石段は何段あるか)。⌈ペーラ⌉フチェー　ウ⌈ブ⌉イシ　キ⌈ジ⌉　ビ⌈シティ⌉　イ⌈シダン⌉　ス⌈ク⌉リ　⌉シケー [⌈peːra⌉ɸu̥ʧeː ʔu⌈bu⌉ʔiʃi ki⌈ʤi⌉bi⌈ʃiti⌉ ʔi⌈ʃidan⌉ su̥⌈ku⌉ri ⌉ʃi̥keː](門 < 入り口 > は大きな石を削って据えて石段を作ってある)。⌉ドゥダン [⌉dudaŋ](土檀の義)。盛り土し、コー⌈シェー⌉マイシ [⌈koːʃeː⌉maʔiʃi]< 砂岩 > で縁取りして土檀を作った所に家を建築した。**2**棚。⌈ウイヌ⌉　ダンナー　ビ⌈シリ [⌈ʔuinu⌉ dannaː bi⌈ʃiri](上の棚に据えなさい)。**3**こと。場合。事態。くだり < 件 >。旨。マ⌈ナ⌉マ　ン⌈ジ⌉ル　⌉ダン　⌉ナリティ　パ⌈ララン⌉ティ　⌈スー⌉　ク⌈トゥ⌉ヌ　ナルン⌈トゥー [ma⌈na⌉ma ʔn⌈ʤi⌉ru ⌉dan ⌉nariti pa⌈raran⌉ti ⌈suː⌉ ku̥⌈tu⌉nu narun⌈tuː](今出発すること < 事態 > になって行けないということができるものか、< 出来はしない >)。

⌈タン⌉ガ **[⌈taŋga]** **(1)**【名】一人。独身。⌈タンガ⌉ムヌ [⌈taŋga⌉munu](一人者。独身者)。⌈タンガ⌉プス [⌈taŋga⌉pu̥su](独身者)。ヤ⌈ラ⌉ベー　⌈タンガ⌉　フ⌈ター⌉ロー　ブ⌈リブ⌉ミー [ja⌈ra⌉beː ⌈taŋga⌉ ɸu̥⌈taː⌉roː bu⌈ribu⌉miː](子供は一人か二人は < 当然 > いるだろうね)。⌈タンガ⌉ッふァ [⌈taŋga⌉ffa](一人っ子)。⌈タンガ⌉ムニ [⌈taŋga⌉muni](独り言。「一人物言い」の義)。⌈タンガ⌉ウヤ [⌈taŋga⌉ʔuja](片親、< 一人親 > の義)。⌈タンガシグ⌉トゥ [⌈taŋgaʃigu⌉tu](一人仕事。一人分の作業 < 仕事 >)。歌謡では「タヌギャ」と歌われている。⌉ドゥー　⌈タンガ⌉ヌ　タ⌈メー⌉　ア⌈ラ⌉ヌ　ケー⌈ラヌ⌉　ク⌈トゥ⌉バ　⌈カンガイ⌉ル　パ⌈タラク⌉ダー [⌉duː ⌈taŋga⌉nu ta⌈meː⌉ ʔa⌈ra⌉nu keː⌈ranu⌉ ku̥⌈tu⌉ba ⌈kaŋgai⌉ru pḁ⌈taraku⌉daː](己一人のためで

はない、皆のことを思って＜ぞ＞働くのだよ)。**(2)**【副助】～だけ。～ばかり。(副助) ニ˞ビタン˞ガー ˞サンドー˞シ ˞ウキティ ウ˞ヤ˞ヌ ˞テー˞ナイン ツァン ˞シー˞バ [ni˞bitaŋ˞ga: ˞sando:˞ʃi ˞ʔukiti ʔu˞ja˞nu ˞te:˞naintsaŋ ˞ʃi:˞ba](寝てばかりいないで＜眠りだけしないで＞、起きて親の手伝いでもしなさいよ)。

˞タンカー **[˞taŋka:]**【名】1真正面。真向かい。˞バン˞テヌ ˞タンカー˞ナール ˞ワッ˞テーヤ ˞アッ˞タ˞ナー [˞ban˞tenu ˞taŋka:˞na:ru ˞wat˞te:ja ˞ʔat˞ta˞na:](私の家の真向かいに君の家はあったよなあ)。2生後一年目の誕生日。˞アツァー ッ˞ふァヌ タンカー˞ ア˞タリ タンカーヨイ シーバ オー˞リッ˞ふォー˞リ [˞ʔatsa: f˞fanu taŋka:˞ ʔa˞tari taŋka:joi ʃi:ba ʔo:˞ri f˞fo:˞ri](明日は子供の誕生日に当っていて、誕生祝をしますのでいらっしゃってください)。満一歳の誕生日。マ˞ダ タンカー クー˞ヌヌ ア˞ラ˞クン˞ダー [ma˞da taŋka: ku:˞nunu ʔa˞ra˞kun˞da:](まだ満一歳の誕生日は来ないが、歩くよ)。3等量。二等分。˞モー˞ケー ˞タンカーバキ サー˞ナー [˞mo:˞ke: ˞taŋka:baki sa:˞na:](儲けた金は二等分にしようねえ。二人で均等に分け＜折半し＞ようねえ)。

˞タン˞カー **[˞taŋ˞ka:]**【名】短気者。卑語。˞タンキムヌ [˞taŋkimunu](短気者) ともいう。˞ウンザー タン˞カー ヤ˞ルンダ˞ ナ˞クラー˞ヌ パ˞ナ˞シン ナ˞ラ˞ヌ [˞ʔundʑa: taŋ˞ka: ja˞runda˞ na˞kura:˞nu pa˞na˞ʃin na˞ra˞nu](あいつは短気者だから怖くて話も出来ない)。

˞ダンカー **[˞daŋka:]**【名】談合。交渉。談判。相談。イ˞サンケー˞ナーティ ˞ダンカーシェー˞ティル ˞イーシ˞ヌ ˞ダイヤー˞ キ˞ムタ [ʔi˞saŋke:˞na:ti ˞daŋka: ʃe:˞tiru ˞ʔi:ʃi˞nu ˞daija:˞ ki˞muta](石垣島で交渉＜談合＞しながらツノマタの値段は決めた)。

˞ダンカー スン **[˞daŋka: suŋ]**【連】談判する。議論する。談合する。話し合う。ク˞トゥシヌ イーシ˞ヌ ˞ダイ˞ キ˞ミルンティ˞ ア˞ツァ˞マリティ ˞ダンカー シー オー˞ル [kṵ˞tuʃinu ʔi:ʃi˞nu ˞dai˞ ki˞mirunti˞ ʔa˞tsa˞mariti ˞daŋka: ʃi: ʔo:˞ru](今年のツノマタの値段を決めようと集まって談判＜話し合って＞しておられる)。

˞タンカーバイ **[˞taŋka:bai]**【名】水と酒を半々に調合して薄めること。半々に混ぜ合わせて薄めること。酒を水と半々に割ること。ク˞ヌ˞ サ˞ケー スー˞ワンダ ˞タンカーバイ サン˞カー ヌ˞マラ˞ヌ [ku˞nu˞ sạ˞ke: su:˞wanda ˞taŋka:bai saŋ˞ka: nu˞mara˞nu](この酒は度数が強いから、水と半々に調合しないと＜割らないと＞飲まれ＜飲め＞ない)。

˞タンカーバキ **[˞taŋka:baki]**【名】山分け。折半。二等分。˞ホー˞シ ˞ケール イ˞ゾー タンカーバキ シー˞バ [˞ho:˞ʃi ˞ke:ru ʔi˞dʑo: taŋka:baki ʃi:˞ba](釣ってきた魚は山分けしなさい)。

˞タンカービリ **[˞taŋka:biri]**【名】対座。差し向かい。向かい合って座ること。ドゥ˞シザーン タンカービリ シェー˞ティ ム˞カ˞シパナシ ˞シー˞ プサワ˞ナー [du˞ʃidʑa:n taŋka:biri ʃe:˞ti mu˞ka˞ʃipanaʃi ˞ʃi:˞ pṵsawa˞na:](友人同士、対座して昔話をしたいなあ)。

˞タンカーマザーシ **[˞taŋka:madʑa:ʃi]**【名】等量配合。同等の量で混ぜ合わせること。パ˞ナザ˞ケー ˞スー˞ワンダ ミ˞ジトゥ タンカーマザーシ シー バイ˞バ [pa˞nadʑa˞ke: ˞su:˞wanda mi˞dʑitu taŋka:-madʑa:ʃi ʃi: bai˞ba](はな酒は度数が強いから水と等量配合して割れ＜薄め＞よ)。

˞タンカーマチ **[˞taŋka:matʃi]**【名】遥拝。遠方の神仏に向かって供物を供えて祈願すること。ジ˞ル˞クンチェー シ˞マー˞ パ˞リユーサン˞バ ˞タンカーマチ シー オーサト ナー [dʑi˞ru˞kuntʃe: ʃi˞ma:˞ pa˞riju:sam˞ba ˞taŋka:matʃi ʃi: ʔo:saɦ-na:](十六日祭には島へ行けないから、島の方向に向かって供物も供えて遥拝しようねえ)。遥拝すること。遠方の御嶽や先祖の位牌に向かって供物を供え、香を焚いて祀ること。ジ˞ル˞クンチェー ˞キーユーサン˞カー ˞タンカーマチ シー˞バ˞ヨー [dʑi˞ru˞kuntʃe: ˞ki:ju:saŋ˞ka: ˞taŋka:matʃi ʃi:˞ba˞jo:](十六日祭に来れなかったら仏壇に向かって遥拝しなさいね)。

˞タンカーマン˞カー **[˞taŋka:maŋ˞ka:]**【副】互いに向き合うさま。相対するさま。「手向ひ真向ひ」の義か。首里方言の taNkaamaNkaa(相対するさま。向かい合うさま) の転訛したもの。˞ビー˞プソー ˞タンカーマン˞カー シ˞キ˞ルカー ˞アトー ˞アイ˞ル ˞スー [˞bi:˞pṵso: ˞taŋka:maŋ˞ka: ʃi̥˞ki˞ruka: ˞ʔato: ˞ʔai˞ru ˞su:](酔っ払いは一対一で相対したまま放置しておくと、後は喧嘩になる＜喧嘩ぞする＞)。

˞タンカーヨイ **[˞taŋka:joi]**【名】誕生日。生後一年目の誕生祝い。昔は、太陽が˞アーリビラティダ [˞ʔa:ribiratida](東天の太陽＜午前十時ごろ＞) のうちに床の間に集まり、供物を˞フン˞ジン [˞ɸun˞dʑiŋ](根神) に供えて子供の健康と順調な発育祈願した。その後、床の間に飾ってある (i) すずり

箱、(ii)　そろばん、(iii)　本、(iv)　三味線、(v)　銭 (男児の場合) 等の前に連れて行き、(i)〜(v)　を取って遊ぶよう話しかけ、子供が最初に選んだ物によって、その子の将来の専門職業を推し量って楽しんだ。ˈクンガˈチェー　ッˈふァヌ　タンカーヨイˈ　アˈタリ　ブー [ˈkuŋgaˈtʃe: fˈfanu taŋka:joiˈ ʔaˈtari bu:](九月は子供の生後一年目の誕生祝に当たっている)。

ˈタンガˈウヤ **[ˈtaŋgaˈʔuja]** 【名】片親。「一人親」の義。ˈタンガˈウヤ　ヤˈルンダˈ　ッˈふァˈ　スˈダティˈルンティ　イッˈケナ　ナンˈギ　ˈソーˈレーン [ˈtaŋgaˈʔuja jaˈrundaˈ fˈfaˈ suˈdatiˈrunti ʔikˈkena naŋˈgi ˈsoːˈreːŋ](片親だから子供を育てようと大変な難儀苦労をされておられる)。

ˈタンガクラˈシ **[ˈtaŋgakuraˈʃi]** 【名】一人暮らし。ッˈふァンケーˈヤ　タˈベーˈ　パˈラˈシティ　ˈタンガクラシˈバ　ˈシーベー [fˈfaŋkeːˈja taˈbeːˈ paˈraˈʃi̥ti ˈtaŋgakuraʃiˈba ˈʃi:be:](子供たちは旅に行かせて一人暮らしをしている)。

ˈダンガˈサ **[ˈdaŋgaˈsa]** 【名】こうもりがさ (蝙蝠傘)。らんがさ (蘭傘。洋傘) の転訛したもの。ˈサナ [ˈsana](日傘。雨傘。からかさ) に対して蝙蝠傘をいう。新しく導入された傘で、鳩間島では一般家庭には普及していなかった。ˈダンガˈサー　ˈナンˈゾー　ˈナーンˈシェン [ˈdaŋgaˈsa: ˈnanˈʤo: ˈna:ŋˈʃeŋ](蝙蝠傘はあまり無かった)。

ˈタンガˈシ **[ˈtaŋgaˈʃi]** 【連】1一人で。ウˈビˈヌ　シˈグトゥバ　ワー　タンガˈシ　シˈター [ʔuˈbiˈnu ʃi ˈgutuba waː taŋgaˈʃi ʃi̥ˈtaː](あれだけの仕事を君一人でしたのか)。2副助詞連語。〜だけで。〜のみで。体言に下接して、それと限る意味を表す。シンˈトゥˈ　プˈスˈルˈタンガˈシ　ウˈビˈヌ　シˈグトゥバ　シーˈシケーˈツォー [ʃinˈtuˈ pu̥ˈsuˈruˈtaŋgaˈʃi ʔuˈbiˈnu ʃiˈgutuba ʃiːˈ ʃi̥keːˈtsoː](たった一人だけであれだけの仕事をしてあるんだよ)。ˈワー　タンガˈシェー　クˈレーˈ　ナˈラˈヌ [ˈwaː taŋgaˈʃeː kuˈreːˈ naˈraˈnu](君だけでは、これは出来ない)。

ˈタンガˈダチ **[ˈtaŋgaˈdatʃi]** 【名】独身者。「独り立ち」の義。イˈチンバーˈキン　ˈタンガˈダチ　ˈシーベーランˈドーシ　ˈパーˈク　トゥˈジˈ　トゥミ [ʔiˈtʃimbaːˈkin ˈtaŋgaˈdatʃi ˈʃiː beːranˈdoːʃi ˈpaːˈku tuˈʤiˈ tumi](いつまでも独身をしていないで、早く妻を娶れ＜妻を探せ＞)。

ˈタンガˈッふァ **[taŋgaffa]** 【名】一人っ子。プˈスルˈッふァ [pu̥ˈsuruˈffa](一人っ子) ともいう。ˈタンガˈッふァ　ヤˈルンダˈ　アˈタラˈサ　ˈシールˈ　スˈダティラリˈタ [ˈtaŋgaˈffa jaˈrundaˈ ʔaˈtaraˈsa ˈʃiːruˈ suˈdatirariˈta](一人っ子だから大事に育てられた)。ウˈレー　タンガˈッふァ　ヤˈルンダ　ティーヌˈ　ウイナ　ˈヌーシルˈ　スˈダティラˈリ　ˈケーツォー [ʔuˈreː taŋgaˈffa jaˈrunda tiːnuˈ ʔuina ˈnuːʃiruˈ suˈdatiraˈri ˈkeːtsoː](彼は一人っ子だから、親の手の上に載せられて大事に育てられてきたそうだ)。

ˈタンガˈナキ **[ˈtaŋgaˈnaki]** 【名】独り泣き。ムˈカシˈヌ　クˈトゥˈバ　ウˈムインザˈシティ　ˈタンガˈナキ　ˈシーベー [muˈkaʃiˈnu ku̥ˈtuˈba ʔuˈmuiʔnʤaˈʃi̥ti ˈtaŋgaˈnaki ˈʃiːbeː](昔の事を思い出して独り泣きをしている)。

ˈタンガˈバライ **[ˈtaŋgaˈbarai]** 【名】独り笑い。思い出し笑い。ひとりえみ。ˈヌーˈヌ　ウˈムッˈサル　クˈトゥˈヌ　アˈローッˈタユー　サˈシンˈバ　ˈミリティ　ˈタンガˈバライ　ˈシーオーˈル [ˈnuːˈnu ʔuˈmus ˈsaru ku̥ˈtuˈnu ʔaˈroːtˈtaju: sḁˈʃimˈba ˈmiriti ˈtaŋgaˈbarai ˈʃiːʔoːˈru](どんな楽しいことがおありだったのか＜有られたのか＞、写真を見て思い出し笑い＜独り笑い＞をしておられる)。

ˈタンガˈプス **[ˈtaŋgaˈpu̥su]** 【名】独身者。独り者。やもめ (寡婦)。やもお (寡男・鰥夫)。ˈタンガˈプソー　ˈガンˈゾー　ウˈチェー　ソーヤ　ナーンˈドゥトゥˈシˈ　トゥリ　ˈヤムカー　ˈミル　プˈスヌˈ　ブˈラーンダˈ　キˈムイˈツァーˈツォー [ˈtaŋgaˈpu̥-soː ˈganˈʤo: ʔuˈtʃeː soːja naːnˈdu tuˈʃiˈ turi ˈjamukaːˈmiru pu̥ˈsunuˈ buˈraːndaˈ kiˈmuiˈtsaːˈtsoː](独り者は健康な＜頑丈な＞うちは心配ないが、年をとって病気になると看る人がいないから気の毒だ)。ウˈレーˈ　カˈカˈルン　ˈサールン　ˈナーˈヌ　ˈタンガˈプス　ヤˈルンダˈ　ノーˈン　ソーヤ　ナーˈヌ [ʔuˈreːˈ kḁˈkaˈrun ˈsaːrun ˈnaːˈnu ˈtaŋgaˈpu̥su jaˈrundaˈ noːˈn soːja naːˈnu](彼は係累のない独り者だから何の心配もない)。

ˈタンガˈマリ **[ˈtaŋgaˈmari]** 【名】一人っ子。「一人生まれ」の義。ˈタンガˈマリ　ヤˈルンダ　フンダヤーˈ　ナリティ　ノーˈン　シーユーサヌ [ˈtaŋgaˈmari jaˈrunda ɸundajaːˈ nariti noːˈɲ ʃiːjuːsanu](一人っ子だから、我儘＜したい放題＞な人に育ってしまい何も出来ない)。

ˈタンガミドーンˈッふァ **[ˈtaŋgamidoːŋˈffa]** 【名】一人っ子娘。ˈタンガミドーンˈッふァ　ヤˈルンダˈ　イˈリムクˈ　トゥˈローˈルツォー [ˈtaŋgamidoːŋˈffa jaˈrundaˈ ʔiˈrimukuˈ tuˈroːˈrutsoː](一人っ子娘だか

ら入り婿を取られるそうだ)。

˹タンガ˺ムニ [˹taŋga˺muni] 【名】独り言。「独りもの言い」の義。˹タンガ˺ムニ　イ˹ジベー [˹taŋga˺muni ʔi˹ʤibeː](独り言をしている)。˺ヌーティル　ア˹ジ　オール˺ユー　シゥ˹カランヌドゥ˺　ッ˹ふァヌ˺　サ˹シン˺バ　˺ミリテー　フ˹チン˺　ナ˹カ˺ナー　˺ヌッツァラカッツァラティ　˹タンガムニ˺バ　イ˹ジ　オー˺ル [˺nuːtiru ʔa˹ʤi ʔoː˺ruju: si̥˹karannudu˺ f˹fanu˺ sa˹ʃim˺ba ˺mirite: ɸu̥˹ʧin˺ na˹ka˺naː ˺nuttsarakattsarati ˹taŋgamuni˺ba ʔi˹ʤi ʔoː˺ru](何といっておられるのか、聞き取れない＜聞かれない＞が、子供の写真を見ては口の中で何やらかんやら独り言をしゃべって＜言って＞おられる)。相手なしに一人でものを言うこと。˹ウン˺ネヌ　˺アッパー　˺アブジェー　˹マーラシター˺　ナー˹イ　タンガムニ˺バ　イ˹ジオー˺ル　˺ムヌ　ミ˹ルバ˺ル　キ˹ムイ˺ツァー˹ツォー [˹ʔun˺nenu ˺ʔappaː ˺ʔabuʤe: ˹maːraʃi̥taː˺ naː˹i taŋgamuni˺ba ʔi˹ʤiʔoː˺ru ˺munu mi ˹ruba˺ru ki˹mui˺tsaː˹tsoː](あの家のお祖母さんはお祖父さんが亡くなられたので、いつも独り言を言って居られるのを見ると可哀そうなんだよ)。

˹タンガ˺ムヌ [˹taŋga˺munu] 【名】独り者。独身者。独身所帯。˹タンガ˺ムノー　˺シキンピライ　˹サン˺タンティン　タ˹タ˺リン [˹taŋga˺munoː ˺ʃi̥kimpirai ˹san˺tantin tą˹ta˺riŋ](独り者は世間付き合いをしなくても生活していける)。ビ˹キドゥムヌ　タンガ˺ムノー　ヤ˹ニヤ˺ヌ　ウ˹ジ˺ヌ　˹バイルン [bi˹kidumunu taŋga˺munoː ja˹nija˺nu ʔu˹ʤi˺nu ˹bairuŋ](男の独身者は汚くて、蛆が湧く)。

˹タンキ [˹taŋki] 【名】短気。標準語からの借用語。普通は、バ˹タッ˺ふァーン [ba˹taf˺faːŋ](怒りっぽい。˹腹黒い」の義) という。ウ˹レー　タンキ˺　ヤ˹ルンダ˺　ムネー　ヤー˹ラマー˺シ　イ˹ジ˺ヨー [ʔu˹reː taŋki ja˹runda˺ muneː jaː˹ramaː˺ʃi ʔi˹ʤi˺joː](彼は短気だから、言葉遣い＜物言い＞は柔らかく話しなさいよ)。ヨー˹ヨー　タン˺キ　ウ˹クス˺ナ˹ダー　タン˺ケー　˹スン˺キティル　ア˹ザリ　ブー˺ダー [joː ˹joː taŋ˺ki ʔu˹kusu˺na˹daː taŋ˺keː ˹suŋ˺kitiru ʔa˹ʤari buː˺daː](よくよく気をつけろよ、短気を起こすなよ。短気は損気といわれているんだよ)。

˹タンキムヌ [˹taŋkimunu] 【名】短気者。˺アイブ　˹タンキムヌ˺テー　ブ˹ラーヌ [˺ʔaibu taŋkimunu˺teː bu˹raːnu](あんな短気者は他にいない)。

˹タン˺グ [˹taŋ˺gu] 【名】たご (担桶)。たごおけ。水や水肥を入れて運ぶ桶。「擔桶、たご、桶也」『和漢通用集』の転訛したもの。ミ˹ジタン˺グ [mi˹ʤitaŋ˺gu](水担桶(タゴ))。˺コイタング [˺koitaŋgu](肥担桶) 等がある。˹インヌカー˺ラ　ミ˹ジタン˺グナー　ミ˹ジ˺プ˹スカタ˺ミ　フ˹ミティ˺　カ˹タ˺ミクー [˹ʔinnukaː ˺ra mi˹ʤitaŋ˺guna: mi˹ʤi˺ pu̥˹sukata˺mi ɸu˹miti˺ ką̥ ˹ta˺mikuː](西村井戸から水担桶に水を一荷、汲んで担いでこい)。

˹タング [˹taŋgu] 【名】炭俵。ススキを編んで作った俵。炭を入れて運ぶススキを編んで作った袋状の容器。グ [gu](籠) は「籠毛與美籠母乳＜コモヨミコモチ＞　ふくしもよ〜。万、1」の「籠」の義か。前接語の語尾の鼻音 N に融合同化して有声化したもの。˹タンゴー　ユシ˺キシル　フ˹モーッ˺タ [˹taŋgoː juʃi̥˺kiʃiru ɸu˹moːt˺ta](炭俵はススキで編まれた)。

˹ダン˺グ [˹daŋ˺gu] 【名】道具。老年層のことば。˹ドン˺グ [˹doŋ˺gu](道具) と同じ。

˹タングンジマ [˹taŋguⁿʤima] 【名】山や川があって水田耕作を主とする島。古成層、第三期層などからなる島。石垣島、西表島、与那国島、小浜島など。ターグニ [taːguni]　→　タングン [taŋguŋ] の変化を経たものであろう。˹ヌングンジマ [˹nuŋguⁿʤma](畑作を主とする島。竹富島、黒島、鳩間島、波照間島、新城島など) の対義語。˹タングンジマ˺ナーヤ　ミ˹ジヌ˺　アンダー　ム˹カ˺シェーラ　˺ター　ス˹ク˺リ　˹オー˺ルン [˹taŋguⁿʤima ˺naːja mi˹ʤinu˺ ʔanda mu˹kaʃeːra ˺taː su̥˹ku˺ri ˹ʔoː˺ruŋ](タングンジマには水があるから昔から水田を作っておられる)。

˺タンコー [˺taŋkoː] 【名】炭坑。西表島には大正期に、ナ˹ミノ˺ウエタンコー [na˹mino˺ʔuetaŋkoː](波之上炭坑。船浦の対岸、˹サーラ˺ミジ [˹saːra˺miʤi]＜ひない滝＞の近くで採炭し、˺シザバナリ [˺ʃiʤabanari]＜下離＞から積み出した) があった。昭和期になって、ウ˹タ˺ラタンコー [ʔu˹ta˺rataŋkoː](宇多良炭坑)、˺ノダタンコー [˺nodataŋkoː](野田炭坑) が浦内地区で開設された。ウ˹タ˺ラ [ʔu˹ta˺ra] や、ウ˹ランザ˺キ [ʔu˹ranʤa˺ki](宇奈利崎)、ニ˹シ˺ミジ [ni ˹ʃi˺miʤi] 辺りの炭坑で採炭した石炭を白浜港へ運び、そこで台湾航路の定期船、˹ゾーキ [˹ʤoːki](蒸気船) に積み込まれた。パ˹トゥ˺マプソー　イ˹ズ˺タク　˹タイロー　スー˺カー　˺タンコー　˹カーシン　オーッ˺タ [pą̥˹tu˺mapu̥so: ʔi˹ʤu˺taku ˹tairo: suː ˺kaː ˺taŋkoː ˹kaːʃiŋ ʔoːt˺ta](鳩間の人は、魚や蛸を大漁すると炭坑へ売りに行かれた)。

˥タンコーマーヤー **[˥taŋko:ma:ja:]** 【名】 (動) 昆虫。かまきり (蟷螂)。若年層、幼児語。大人、老年層は、˩サン˥トゥルサー [˩san˥turusa:](カマキリ < 蟷螂 >) という。子供は蟷螂を捕らえて、˩タンコーマーヤー [˩taŋko:ma:ja](炭坑はどこか) と唱えて遊んだ。蟷螂は前肢の捕獲肢の鎌を振りあげるように動かすので、あたかも子供の呼びかけに応じて方向を指し示しているように思い、それを面白がって遊んだものである。

˥タンザ **[˥tandza]** 【代】どいつ (何奴)。なにやつ。どやつ。不定称 < 単数 > の卑称。˥タンザヌドゥ　˥カイブ　ク˩トゥ˥バ　ア˩ズター [˥tandzanudu ˥kaibu kʉ˩tu˥ba ʔa˩dzuta:](何奴がこんなことを言ったか)。˥タンザヌンドゥ　˥カイブ　パ˩ナシ˥バ　˩ワー˥ニ　ア˩ズター [˥tandzanudu ˥kaibu pa˩naʃi˥ba ˩wa:˥ni ʔa˩dzuta:](どいつ < 何奴 > がこんな話を君に言ったのか)。

˥タンザヌメー **[˥tandzanume:]** 【連】どいつらめ。どやつらめ。˥メー [˥me:](接尾語) は卑称の複数形。「前」の転訛したものか。˥タンザンメー [˥tandzamme:] の丁寧な言い方。

˥タンザンメー **[˥tandzamme:]** 【代】どいつら。どやつら (何奴等)。不定称 < 卑称 > の複数形。ぞんざいな言い方。˥タンザンメーヌドゥ　˥カイブ　ク˩トゥ˥バ　˩シー˥　シケーワ [˥tandzamme:nudu ˥kaibu kʉ˩tu˥ba ˩ʃi:˥ ʃi̥ke:wa](何奴らめがこのような事をし出かしてあるのか)。

˩タン˥シ **[˩taŋ˥ʃi]** 【名】たんす (箪笥)。˥ニービキタンシ [˥ni:bikitaŋʃi](嫁入り箪笥。娘が嫁入りする際に持参させる箪笥)。昔は娘が生まれると、˩シン˥ダンキー [˩ʃin˥daŋki:](梅檀) を植え、20 年後の嫁入りの際にその梅檀を伐って嫁入り箪笥を作らせたという。ム˩カ˥シェー　ミ˩ドーン˥ッふァヌ　マ˩リル˥カー　˥ニービキタンシヌ　˩シン˥ダンキー　イ˩ボーッ˥タツォー [mu˩ka˥ʃe: mi˩do:ŋ˥ffanu ma˩riru ˥ka: ˥ni:bikitaŋʃinu ˩ʃin˥daŋki: ʔi˩bo:t˥tso:](昔は娘が生まれると、嫁入り箪笥用の梅檀の木を植えられたそうだ)。˩タン˥シナー　˥アッパー　キ˩ソーッ˥タ　˩キン˥ヌ　˩イッ˥パイ　ヌ˩カ˥リ　˩ベー˥ン [˩taŋ˥ʃina: ˥ʔappa: ki̥˩so:t˥ta ˩kin˥nu ˩ʔip˥pai nu˩ka˥ri ˩be:˥ŋ](箪笥には御祖母さんが着られた着物が沢山残っている)。

˩ダン˥シ **[˩daŋ˥ʃi]** 【副】はやばやと (早々に)。早く。マ˩ナ˥マ　˥パルカー　マ˩ニアイ˥シバ　˩ダン˥シ　˥パリ [ma˩na˥ma ˥paruka: ma˩niai˥ʃiba ˩daŋ˥ʃi ˥pari](今行けば間に合うから、早く行け)。ム˩ニユマン˥ドーシ　˩ダン˥シ　パ˩タラキ [mu˩nijuman˥do:ʃi ˩daŋ˥ʃi pḁ˩taraki](お喋りしないで < ものを言わないで > 早々と働け)。

˩ダンシキビリ **[˩daŋʃikibiri]** 【名】あぐら (胡坐)。足を組んでどっかと座ること。ミ˩ドゥム˥ヌ　˩ダンシキビリバ　シー˥　ヌーヤ　ウ˩レー　ミーヌッサ˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [mi˩dumu˥nu ˩daŋʃi̥kibiriba ʃi:˥ nu:ja ʔu˩re: mi:nussa˥nu na˩ra˥nu](女が胡坐をかいて座って何だね、それは。見苦しくてたまらない)。

˥ダン　ス˩ク˥ルン **[˥dan sʉ˩ku˥ruŋ]** 【連】段をなす。「段を作る」の義。˩オーバター˥　ダン　ス˩ク˥ルンケン　˩パン˥タリ　˩ベー [˩ʔo:bata:˥ dan sʉ˩ku˥rukem ˩pan˥tari ˩be:](中腹部 < 上腹 > は段を作るほどに肥えている)。

˩タンダーラ **[˩tanda:ra]** 【名】炭俵。˩パイタ˥ナーティ　˩タン˥　ヤ˩キティ˥　ウ˩リバ　タンダーラ˥ナ　˥シミティ　˩シーブ˥ティ　˩シー˥　イ˩サナケー˥　ム˩タ˥ソーッタン [˩paita˥na:ti ˩taŋ˥ ja˩kiti˥ ʔu˩riba tanda:ra˥na ˥ʃimiti ˩ʃi:bu˥ti ˩ʃi:˥ ʔi˩sanake:˥ mu˩ta˥so:ttaŋ](西表島で炭を焼いて、それを炭俵に詰めて、お歳暮として石垣島へ送られた < 持たされた >)。

˩ダン˥ダン **[˩dan˥daŋ]** 【名】いろいろ。さまざま。˥アボー　ム˩カ˥シェーラ　マ˩ナマーキ˥ヌ　˩ダンダン˥ヌ　ク˩トゥ˥バ　パ˩ナ˥ソーッタンドゥ　˩バシキナー˥ヌ [˥ʔabo: mu˩ka˥ʃe:ra ma˩nama:ki˥nu ˩dandan ˥nu kʉ˩tu˥ba pa˩na˥sottandu ˩baʃi̥ki na:˥nu](お母さんは、昔から今までの、いろいろなことを話されたが、私は忘れてしまった)。

˩ダンタン˥シ **[˩dantaŋ˥ʃi]** 【副】足音を高く踏み鳴らすさま。勇ましく。˩ダンタン˥シ　ア˩シフン˥バ　˩シー　クン˥ゾー　˥ンジ　イ˩ゾーッ˥タ [˩dantaŋ˥ʃi ʔa˩ʃiɸum˥ba ˩ʃi: kun˥dzo: ˥ndʒi ʔi˩dzo:t˥ta](勇ましく足を踏み鳴らし、怒って < 根性を出して > 叱られた)。

˩ダンダン˥シ **[˩dandaŋ˥ʃi]** 【副】さっさと。急いで。ぐずぐずしないですばやく。多くの場合文末の命令形と照応する表現形式をとる。ム˩ニ˥ユミ　ア˩サバンドー˥シ　˩ダンダン˥シ　パ˩タ˥ケー　˥パリ [mu˩ni˥jumi ʔa˩sabando:˥ʃi ˩dandaŋ˥ʃi pḁ˩ta˥ke: ˥pari](お喋りして遊ばないで、さっさと畑へ行け)。˩ダンダン˥シ　ア˩ラ˥キ [˩dandaŋ˥ʃi ʔa˩ra˥ki](さっさと歩け)。

˩ダン˥チガイ **[˩dan˥ʧigai]** 【名】段違い。桁違い。桁外

れ。標準語からの借用語。ク˞トゥシヌ　マイヌ˜　ディ˞キ˜レー　イ˞チン˜ラン　マ˞シヌ　ダンチガイ˜ヌ　˞ゾーディ˜キ˞ナー [kṵ˞tuʃinu mainu˜ di˞ki˜reː ʔi˞ʧin˜ram ma˞ʃinu dantʃigai˜nu ˞ʤoːdi˜ki˞naː](今年の稲＜米＞の出来は例年＜いつも＞よりも良い＜増しの＞桁違いの上出来だなあ)。

˞タン˜ディ **[˞tan˜di]** 【副】なにとぞ。どうか。願わくば。ひたすら良い結果を祈る。「頼うで」の転訛したもの。「〜汝＜いまし＞を多能美＜タノミ＞母に違ひぬ。万、3359」の転訛したものか。˞タン˜ディ˜バー　˜ニガイ　シ˞キッふィーリ＜シ˞キッふォー˜リ＞[˞tan˜di ˜baː ˜nigai ʃi̥˞ki ffiːri＜ʃi˞kiffoː˜ri＞](どうか私の願いを聞き届けてくれ)。/タンディトートゥ　マブルシュ　アミブシャヌ　ガラクトートゥ　カミガナシ　アミブシャヌ/(願わくば守り神様よ、尊き神様よ、雨が欲しいです。雨をください)「ア˞マン˜グイ [ʔa˞maŋ˜gui](雨乞い歌。ナガミク。トゥムルウガン)」『鳩間島古典民謡古謡集』。

ダン˞ティ **[dan˞ti]** 【副】1直ちに。すぐ。さっそく。即座に。大至急。コー˞ネー˜　ダン˞ティ˜　ク˞マー˜　キー˞ミー [koː˞neː˜ dan˞ti˜ ku˞maː˜ ki:˞miː](坊や、すぐ＜大至急＞此処へ来てごらん)。2どっかと。どっしりと。ダン˞ティ˜　ビ˞シ˜シキ [dan˞ti˜ bi˞ʃi˜ ʃi̥ki](どっかと据えて置け)。3ぷっつんと。ぷっつりと。きっぱりと。サ˞バナーヤ˜　ダン˞ティ˜　キシ　˞ピンギ˜パリ　˞ナー˜ヌ [sa˞banaːja˜ dan˞ti˜ ki̥ʃi ˞piŋ˜gipari ˞naː˜nu](鱶釣り縄をぷっつんと切って逃げていってしまった)。

˞タン˜ティー **[˞tan˜tiː]** 【名】探偵。密かに他人の事情や秘密、内情を探ること。スパイ。密偵。まわしもの。ウ˞レー　タン˜ティー　ヤ˞ルンダー˜　ウ˞リンナー˜ネー　ウチー˞ウチーヌ˜　パ˞ナ˜シェー　ナ˞ラン˜ダー [ʔu˞reː tan˜tiː ja˞rundaː˜ ʔu˞rinnaː ˜neː ʔutʃiː˞ʔutʃiːnu˜ pa˞na˜ʃeː na˞ran˜daː](この人は密偵だから、この人には内々の話をしてはならないよ)。

˞タン˜ディカンディ **[˞tan˜dikandi]** 【副】どうか、どうか。なにとぞ、なにとぞ。˞タン˜ディの ABCDBC 型の重言。˞タン˜ディカンディ　˞シー˜　ウ˞ガミトー˜シティ　ヤッ˞トゥ˜シ　˞カイ˜　ケール　˜ムヌ　ア˞タラ˜サ　˞シー˜ヨー [˞tan˜dikandi ˞ʃiː˜ ʔu˞gamitoː˜ ʃi̥ti jat˞tu˜ʃi ˞kai˜keːru ˜munu ʔa˞tara˜sa ˞ʃiː˜joː](どうぞ、なにとぞと拝み倒してやっとの思いで買ってきた物だ。大切に＜可惜しさ。惜しんで＞しなさいよ)。

˞タン˜ディ˞トートゥ **[˞tan˜dito:tu]** 【副】恐れ多くも、お願い申し上げます。謹んでお願い致します。願わくば。なにとぞ。神仏や相手にに対し、ひたすらに請い願い、良い結果を齎(モタラ)すよう祈る際に用いる。˞タン˜ディ [˞tan˜di] は「頼みて」の転訛したものか。˞トートゥ [˞toːtu] は「かしこし＜畏し。尊し＞」の転訛したものか。˞タン˜ディトートゥ　˜バー　ニ　˞ガイ˜ユ　シ˞キトゥドゥキ˜　タ˞ボー˜ラ　ナー˞ラ [˞tan˜dito:tu ˜baː ni˞gai˜ju ʃi̥˞kituduki˜ ta˞boː˜ra naː˞ra](願わくば私の願いをお聞き届け賜りますようお願い致します)。/タンディトートゥ　マブルシュ　アミブシャヌ　/ガラクトートゥ　カミガナシ　アミブシャヌ/(雨乞い歌＜ナガミク＞)『鳩間島古典民謡古謡集』。

˞タン˜ディ˞トートゥ˜　ガ˞ラ˜ク˞トートゥ **[˞tan˜di˞to:tu˜ ga˞ra˜kut˞oːtu]** 【連】畏れ多くもお願い申し上げます。謹んでお願い致します。ガ˞ラ˜クトートゥは、˞タン˜ディトートゥ [˞tan˜dito:tu] の対句。

˞タンデイル **[˞tandiru]** 【名】木炭入れ。炭箱。「炭籠」の義。˞タンディル˜ナー　˞タン˜　イ˞リティ˜　カ˞タ˜ミ˜クーバ [˞tandiru˜naː ˞taŋ˜ ʔi˞riti˜ ka˞ta˜mi ˜kuːba](炭籠に木炭を入れて担いで来なさいよ)。山で炭焼きをする際、木炭を籠に入れて運んだものである。また鰹節製造工場には、西表島の炭鉱から運んだ石炭を貯えておく箱、˞タンバク [˞tambaku](貯炭箱) があった。石炭を燃やしてカツオを煮るためのものであった。

˜タンティン **[˜tantiŋ]** 【連】〜たとしても。〜ても。助動詞˜タン [taŋ](た) に接続助詞˜ティン [˜tiŋ](ても) が付いた形。ギュー˞サ˜　バ˞カシタンティン˜　タ˞ラーサラヌ [gjuː˞sa˜ ba˞kaʃi̥tantin˜ ta˞raːsaranu](いくら炊いても満足させられない＜足らされない＞)。

タン˞トゥ **[tan˞tu]** 【副】沢山。たんまり。どっさり。石垣方言からの借用語。ッ˞ふァイムヌン　ジン˜カニン　タン˞トゥ˜　ア˞リ˜　ブーバ　˞ソーヤ　ナー˜ヌ [f˞faimunun ʤiŋ˜kanin tan˞tu˜ ʔa˞ri˜ buːba ˞soːja naː˜nu](食べ物もお金も沢山あるから心配ない)。

˞ダン˜トゥク **[˞dan˜tṵku]** 【名】仏壇の下の押入れ。裏座の方に引き戸があり、それを開閉して祭祀用の什器類、貴重な調度品、その他の家具類を収納していた。˞ダン˜トゥクナーヤ　˞ジン˜ラ　˞シームヌバン　サイクドン˜グ　˞ミース˜カミンドーレーバ　イ˞リ˜　シキティ　ユ˞コー˜ラ　ン˞ザ˜シペーラシ　˞シー˜　カ˞キン˜グ　˞ソーッ˜タ [˞dan

˞tukunaːja ˞ʤinˀra ˞ʃiːmunuban saikudoŋˀgu ˞miːsuˀ kamidoːreːba ʔi˞riˀ ʃi̥kiti juˀkoːˀra ʔn˞ʤaˀʃipeːraʃi ˞ʃiːˀ kḁˀkiŋˀgu ˞soːtˀta](仏壇の下の押入れには膳から吸い物椀、大工道具、黒糖甕、味噌瓶などを入れておいて、裏座から出し入れをして保管＜格護＞された)。

˞ダン˞ドゥリ [˞danˀduri] 【名】段取り。仕事や物事の組み立て。仕事の順序、手順。物事の準備。ノー˞ンヌˀ シ˞グトゥン ダンドゥリˀヌ ˞ワッˀサ ユ˞タˀサナール カ˞カˀルティ ア˞ザリ ブートダー [noː˞nnuˀ ʃi˞gutun danduriˀnu ˞wasˀsa ju˞taˀsanaːru kḁˀkaˀruti ʔa˞ʤari buːˊdaː](どんな仕事も段取りの良し悪しにかかっているといわれている)。˞ヨイˀヌ ˞ダンˀドゥレー ˀナレーンカヤー [˞joiˀnu ˞danˀdureː ˀnareːŋkajaː](お祝いの段取りは出来たかねえ)。

ダン˞ナーˀマ [dan˞naːˀma] 【名】小さな段。-マ [-ma](指小辞)。ある語に付加してその語の示すものより更に小さい観念、親愛の情を示す接辞。鳩間方言では、語末が CVN の場合、指小辞-マ [-ma] が下接すると、連声現象をおこして-ナーマ [-naːma] となる。ダン˞ナーˀマ ス˞クランˀカー ˞ヌーララヌ [dan˞naːˀma su̥˞kuraŋˀkaː ˞nuːraranu](小さな段を作らないと登れない)。

˞タンバク [˞tambaku] 【名】石炭箱。貯炭箱。石炭を貯えておく箱。シ˞キタンˀマー ウ˞ラッˀチェーラ ˞カイオーˀリ ˞シーゾーヤーˀヌ ˞タンバクˀナー イ˞リティルˀ シゥ˞カイオーッˀタ [ʃi̥˞kitamˀmaː ʔu˞ratˀʧeːra ˞kaijoːˀri ˞ʃiːʤoːjaːˀnu ˞tambakuˀnaː ʔi˞ritiruˀ si̥˞kaijoːtˀta](石炭は浦内の野田炭坑から買って来られて、カツオ節製造工場の石炭箱に入れて使われた)。

˞ダンˀパチ [˞damˀpatʃi] 【名】断髪。散髪。調髪。理髪。˞ダンˀパチヤーナ ˞ギー ダンˀパチ シ˞ミˀクー [˞damˀpḁtʃijaːna ˞giː damˀpḁtʃi ʃi˞miˀ kuː](床屋に行って断髪させてきなさい)。ガ˞マˀジ ˀシムン [ga˞maˀʤi ˀʃimuŋ](髪を摘む＜断髪する＞) ともいう。

˞ダンˀパチ シ˞ミルン [˞damˀpḁtʃi ʃi˞miruŋ] 【連】散髪させる。断髪させる。˞ワーˀ ガ˞マˀジェー ˞ムイカビˀ ブーバ ˞パーˀク ˞ダンˀパチ シ˞ミリバˀル マ˞シˀヨー [˞waːˀ ga˞maˀʤeː ˞muikabiˀ buːba ˞paːˀku ˞damˀpḁtʃi ʃi˞miribaˀru ma˞ʃiˀjoː](君の頭髪は伸びすぎて＜生え被って＞いるから、早く散髪させたほうがいいよ)。ガ˞マˀジ ˀシムン [ga˞maˀʤi ˀʃimuŋ](髪を摘む) ともいうが、このˀシムン [˞ʃimuŋ] は、摘むの義。「捻、以 2 指末 1 豆牟＜つむ＞『新撰字鏡』」の転訛。

˞ダンˀパチ シ˞ムン [˞damˀpḁtʃi ʃi˞muŋ] 【連】散髪させる。断髪させる。「断髪摘む」の義。˞ダンˀパチ シ˞ムˀカー パ˞シットゥ スン [˞damˀpatʃi ʃi˞muˀkaː pḁ˞ʃittu suŋ](断髪させたら気分がらさっぱりするよ。気分爽快になる＜さっぱりする＞よ)。

˞ダンˀパチヤー [˞damˀpḁtʃijaː] 【名】床屋。理髪店。「断髪屋」の義。˞シェンゴ イットゥˀケー シ˞ヨˀヒラダンパチヤーヌ ˞アッˀタン [˞ʃeŋgo ʔittuˀke: ʃi˞joˀçira ˀdampatʃijaːnu ˞ʔatˀtaŋ](戦後一時期潮平床屋があった)。パ˞トゥˀマナー ˞ダンˀパチヤーヤ ˞ナーンˀセン ˞ベーˀティ ˀドゥーシル ガ˞マˀジェー ˞フッツァシˀタンダー ガ˞マˀジェー ˀアミツァヌ グ˞ルˀ ナリ ミ˞ラランˀセン [pḁ˞tuˀmanaː ˞damˀpatʃijaːja: ˞naːŋˀʃem ˞beːˀti ˀduːʃiru ga˞maˀʤeː ˞ɸuttsaʃiˀtandaː ga˞maˀʤeː ˀʔamitsanu gu˞ruˀ nari mi˞raraŋˀʃeŋ](鳩間島には床屋はなかったので、各自で＜鋏を使って家人に頼んで＞髪を摘んだのだから、髪の毛はヤドカリの殻のように凸凹になって見られたものでは＜見られ＞なかった)。

˞タンビ [˞tambi] 【名】たび (度)。その時は必ず。その時はいつも。「～ごとに、～たびに」の強調表現。標準語からの借用語か。ˀトゥシ トゥ˞ルˀター ˞ジーˀ カク ˞タンビˀ マ˞チガイˀス [ˀtuʃi tu˞ruˀta: ˞ʤiːˀ kḁku ˞tambiˀ ma˞ʧigaiˀsu](歳を取ったので字を書くたびに間違える)。

˞タンビー [˞tambiː] 【名】炭火。˞ピーˀヤバ ピ˞バˀチナ ˞タンビー タシキティˀ ヌ˞クマˀシバ [˞piːˀjaba pi˞baˀʧina ˞tambiː taʃi̥kitiˀ nu˞kumaˀʃiba](寒いから火鉢に炭火を焚きつけて暖を取らせてあげ＜温まらせ＞なさい)。

ˀダンプ [ˀdampu] 【名】ランプ。老年層の言葉。若年層はランプという。外来語ランプ (Lamp＜洋灯＞) の借用語。ˀランプ [ˀrampu](石油ランプ) は、灯油を燃料とする照明器具。ア˞バˀスブ [ʔa˞baˀsubu](ガラス製の油壺)、フ˞ヤ [ɸu˞ja](ガラス製の火屋)、ˀカサ [ˀkḁsa](セルロイド製の笠) が針金の枠に組み込まれており、桁柱に吊るして用いる照明器具。ˀダンプヌ ˞ソーˀジ ˞シー [ˀdampunu ˞soːˀʤi ˞ʃiː](ランプの掃除をしなさい)。老年層は˞トゥーˀル [˞tuːˀru](ランプ。「灯籠」の義) という。

˞ダンˀブル [˞damˀburu] 【名】漁船の舷側に張り出し

た幅約 30 センチの棚。˞ダン˞バラ [˞dam˞bara](舷側の棚) ともいう。フ˞ニ˞ヌ　˞ダンブル˞ヌ　˞サンスイキ˞バ　˞カケーティ　カ˞ツォー　ホー˞ソーッタ [ɸu˞ni˞nu ˞damburu˞nu ˞sansuiki˞ba ˞kq̥ke:ti kq̥˞tso: ho:˞so:tta](船のダンブルの散水器をかけながらカツオを釣られた)。

˞ダン˞ベー [˞dam˞be:] 【名】1だんべえぶね (団平船)。西表島浦内港や白浜港から石炭を石垣島へ運んだ船。ム˞カ˞シェー　ウ˞ラッ˞チェーラ　シ˞キタン˞バ　˞ダン˞ベーナ　シ˞ミティ˞　イ˞サナケー˞　カ˞ヤーソーッ˞タ [mu˞ka˞ʃe: ʔu˞rat˞ʧe:ra ʃi̥˞kitam˞ba ˞dam˞be:na ʃi˞miti˞ ʔi˞sanake:˞ ka˞ja:so:t˞ta](昔は浦内港から石炭をダンベー船に積んで石垣島へ運ばれた < 通わされた >)。2太った大きな女。でぶ。比喩表現。˞カマーラ　˞クー　˞ダンベー˞ヤ　˞ター˞ヤ [˞kama:ra ˞ku: ˞dambe:˞ja ˞ta:˞ja](向こうから来る太った大女は誰か)。

˞タンミー [˞tammi:] 【名】短命。首里方言からの借用語か。普通は、パ˞ヤ˞ジニ [pa˞ja˞ʤini](早死に) という。˞チョーミー [˞ʧo:mi:](長命) の対義語。˞ウン˞ネーヤ　˞タンミーヌ˞　タ˞クライ˞　ヤ˞リン˞ギサバン˞ナー [˞ʔun˞ne:ja ˞tammi:nu˞ tq̥˞kurai˞ ja˞riŋ˞gisaban˞na:](あの家はどうも短命の家系 < 血統 > であるらしいね)。

˞タンムヌ [˞tammunu] 【名】反物。イ˞サンケーヌ˞　マ˞チヤー˞ラ　˞タンムヌ　カイ　クー˞タ [ʔi˞saŋke:nu˞ ma˞ʧija:˞ra ˞tammunu kai ku:˞ta](石垣の商店から反物を買ってきた)。

˞タン˞メー [˞tam˞me:] 【名】老翁。おじいさん。沖縄本島から鳩間島に移住した人の家庭で話されている言葉。首里方言の taNmee(0)(士族の祖父) からの借用語が転訛したもの。˞ウフタン˞ヤーナ　˞タンメー˞ヌ　˞オーッ˞タン [˞ʔuɸu̥taŋ˞ja:na: ˞tamme:˞nu ˞ʔo:t˞taŋ](太田家にはタンメー < 老翁 > がおられた)。

˞タンヤキ [˞taŋjaki] 【名】炭焼き。˞パイタ˞ナーティ　˞タンヤキ　シー　カーソー˞ル　プ˞スン　オーッ˞タン [˞paita˞na:ti ˞taŋjaki ʃi: ka:so:˞ru pu̥˞suŋ ʔo:t˞taŋ](西表島で炭焼きをして売られる人も居られた)。

˞タンヤキプス [˞taŋjakipu̥su] 【名】炭焼き。炭を焼く人。˞パイタ˞ナー　˞タンヤキプスヌ　オーッ˞タン [˞paita˞na: ˞taŋjakipu̥sunu ʔo:t˞taŋ](西表島 < 南端 > には炭焼き人がおられた)。

チ

˥**チ [˥ʧi]** 【助数】つ (箇。個)。数に下接して数を表す。「～朝獵に伊保都 (いほつ) 鳥立て～。万、4011」のツ＜都＞の義。˩ピー˥チ [˩piː˥ʧi](一つ)。フ˩ターチ [ɸu̥˩taːʧi](二つ)。˩ミーチ [˩miːʧi](三つ)。˩ユーチ [˩juːʧi](四つ)。イ˩チッ˥チ [ʔi˩ʧit˥ʧi](五つ)。˩ムーチ [˩muːʧi](六つ)。ナ˩ナッ˥チ [na˩nat˥ʧi](七つ)。˩ヤーチ [˩jaːʧi](八つ)。ク˩クヌ˥チ [ku̥˩kunu˥ʧi](九つ)。

˩**チェッ [˩ʧeʔ]** 【感】ちえっ。予期に反して残念な時、いまいましい気持ちを表す音声。˩チェッ˩　ヌーツァ˩ムン˥ヤー　ウ˩レー [˩ʧeʔ˩ nuːtsa˩muŋ˥jaː ʔu˩reː](ちえっ、一体何たるものか、これは)。

チ˩ガイ [ʧi˩gai] 【名】違い。相違。差異。ビ˩キムヌトゥ　ミームヌ˥ヌ　チ˩ガイヤー˩　ノー˩ン˥ナーン　ア˩リ˥ル　˥ブー [bi˩kimunutu miːmunu˥nu ʧi˩gaijaː˥ noː˩n˥naːn ʔa˩ri˥ru ˥buː](雄と雌の違いは何にでもある＜ありぞをる＞)。˩ピー˥チェーラ　ク˩ビ˥ナーヌ　チ˩ガイヌ˩　ン˩ジ˥ルカー　˩デー˥ジ˩ゲ˥ラ [˩piː˥ʧeːra ku˩bi˥naːnu ʧi˩gainu˥ ʔn˩ʤi˥ruka: ˩deː˥ʤi˩ge˥ra](一つからこれだけの違いが出ると大変だよ)。

チ˩ガウン [ʧi˩gauŋ] 【自動】1違う。異なる。˩サン˥ミン　˩スー˥カー　チ˩ガウンティ˩　ウ˩ムータン˥ドゥ　˩ピッ˥チン　チ˩ガーンシェン [˩sam˥min ˩suː˥kaː ʧi˩gaunti˥ ʔu˩muːtan˥du ˩pit˥ʧin ʧi˩gaːŋʃeŋ](計算したら違うと思ったが、何一つ違わなかった)。チ˩ガウ˩　クトー　˩ナーン˥ティ　シ˩タヌ˩　チ˩ガイベー˥ムヌ　˩ヌー˥スワ　˥メー [ʧi˩gau˥ ku̥toː ˩naːn˥ti ʃi̥˩tanu˥ ʧi˩gai beː˥munu ˩nuː˥suwa ˥meː](違うことはない言ったが、違っているのだからどうするか、もう)。˩ピー˥チンツァン　チ˩ガイヤー˩　ナ˩ラ˥ヌ [˩piː˥ʧintsan ʧi˩gaijaː˥ na˩ra˥nu](一つでも違ってはならない)。˥クベー　ヤー˩ディン˩　チ˩ガイリ [˥kubeː jaː˩din˥ ʧi˩gairi](これだけは必ず違えろ)。2変わる。おかしくなる。ク˩ヌ　イー˥ヤ　ン˩ベーマ˩　チ˩ガイル　ブー [ku˩nu ʔiː˥ja ʔmbeːma˥ ʧi˩gairu buː](この飯は少し傷んで＜変わって＞いる。ご飯が少し腐敗している)。

チ˩カ˥グル [ʧi̥˩ka˥guru] 【名】近頃。最近。チ˩カ˥グロー　˥シマムニ　パ˩ナ˥シ　˩シェー˩　プ˩スン˥ピ˩ナリナー˥ヌ [ʧi̥˩ka˥guroː ˥ʃimamuni pa˩na˥ʃi ˩ʃeː˥ pu̥˩sum˥ pi˩nari naː˥nu](最近では方言＜島言葉。島もの言い＞を話せる＜し得る＞人も減ってしまった)。

チ˩カ˥ユルン [ʧi̥˩ka˥juruŋ] 【自動】近くへ寄る。近づく。˩マー˥ビン　チ˩カ˥ユルンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　マ˩ナ˥マー　チ˩カユラ˥ヌ [˩maː˥bin ʧi̥˩ka˥jurunti ʔu˩muːn˥du ma˩na˥maː ʧi̥˩kajura˥nu](もっと近寄ろうと思うが、今は近寄らない)。˩ワーン˩　トンマー　チ˩カ˥ユリ　˥ミサカー　チ˩カ˥ユル　˥クトー　˥ナルン [˩waːn˥ tommaː ʧi̥˩ka˥juri ˥misakaː ʧi̥˩ka˥juru ˥ku̥toː ˥naruŋ](君の所には近寄って良ければ近寄ることはできる)。ン˩ベーマー˩　チ˩カ˥ユレー　˥ミサムヌ [ʔm˩beːmaː˥ ʧi̥˩ka˥jureː ˥misamunu](少しは近寄れば良いのに)。˩パー˥ク　チ˩カ˥ユリ [˩paː˥ku ʧi̥˩ka˥juri](早く近寄れ)。

チ˩クサ [ʧi̥˩ku˥sa] 【名】 (植) 野草の一種。この草は三ヶ月の旱魃にも耐えるといわれている。˩トー˥タビ [˩toː˥tabi](唐旅) に行って帰ってくるまで枯れなかったことから、この野草を井戸の祈願の供物にする˥スナイ [˥sunai](和え物) に加えるのだという『石垣方言辞典』。子供の˩タンカーヨイ [˩taŋkaːjoi](誕生祝) や、˩カンヌ˥ヨイ [˩kannu˥joi](神祝い。神事祝い) の際にもこの野草が用いられるという。チ˩クサー　˩ミーシキヌ　ペーレー˥ナーン　サ˩ランシェン˥ツォー [ʧi̥˩ku˥saː ˩miːʃi̥kinu peːreː˥naːn sa˩raŋʃen˥tsoː](チクサは三ヶ月に及ぶ旱魃にも枯れなかったそうだ)。

˥**チサ [˥ʧi̥sa]** 【名】(植) ちしゃ。野菜の一種。戦後に石垣島から種子を購入して作付けしていた。柔らかくて美味しい野菜であったが、鳩間島ではあまり作付けしなかった。˥チサー　˩ナン˥ゾー　ス˩ク˥ローランシェン [˥ʧisaː ˩nan˥ʤoː su̥˩ku˥roːraŋʃeŋ](チシャはあまり作られなかった)。

チ˞ジ [ʧi˞ʤi] 【名】頂き。頂上。老年層は、ティ˞ジ [ti˞ʤi](頂き。頂上) という。ム˞カ˥シェー　ミ˞ドゥ˥モー　ス˞ブル˥ヌ　チ˞ジ˥ナー　˥シケー　ビ˞シティ˥　ノー˞ン˥　カ˞タ˥モーッタ [mu˞ka˥ʃe: mi˞du ˥mo: su˞buru˥nu ʧi˞ʤi˥na: ˥ʃi̥ke: bi˞ʃiti˥ no:˞ŋ˥ kḁ˞ta˥ mo:tta](昔は女性は頭の頂きに揺輪(ユリワ)を据えて何でも担がれた＜頭上運搬された＞)。

チ˞ジクン [ʧi˞ʤikuŋ]【自動】続く。途切れずに繋がる。「針袋帯び都々氣＜ツツケ＞ながら〜。万、4130」の転訛したもの。普通は、シ˞ジクン [ʃi˞ʤikuŋ](続く) という。ア˞ミフイ˥ヤー　チ˞ジクンティ˥　ウ˞ムータ˥ヌ　チ˞ジカンバン˥ナー [ʔa˞miɸui˥ja: ʧi˞ʤikunti˥ ʔu˞mu:ta˥nu ʧi˞ʤikamban˥na:](雨降りは続くと思ったが、続かないんだね)。ア˞ミ˥ヌ　˞フイチジ˥ク　˥クトー　˞ナーヌ˥ヌ　ク˞ヌ˥　シケー　˞フイ　チジキ˥　ブーバン [ʔa˞mi˥nu ˞ɸuiʃiʤi˥ku ˥ku̥to: ˞na:nu˥nu ku˞nu˥ ʃi̥ke: ˞ɸuiʃiʤiki˥ bu:baŋ](雨が降り続くことは無いが、今月は降り続いているわい)。˞フイチジ˥ケー　˥ミサムヌ [˞ɸuiʃiʤi˥ke: ˥misamunu](降り続けば良いのに)。チ˞ジキ˥バ [ʧi˞ʤiki˥ba](続けなさいよ)。

チ˞ジマルン [ʧi˞ʤimaruŋ] 【自動】縮む。縮まる。縮んだ状態になる。˥パリパルカー　˞マイ˥ヌ　プ˞ストゥヌ　サー˥ヤ　チ˞ジマルン [˥pariparuka: ˞mai ˥nu pu̥˞sutunu sa:˥ja ʧi˞ʤimaruŋ](走って行くと前の人との差は縮まる)。イッ˞カ˥　チ˞ジマラヌ [ʔik ˞ka˥ ʧi˞ʤimaranu](一向に縮まらない)。ン˞メーマ˥ナー　チ˞ジマリ˥　クン [ʔm˞me:ma˥na: ʧi˞ʤimari˥ kuŋ](少しずつ縮まってくる)。チ˞ジマル˥　クトー　˞ナー˥ヌ [ʧi˞ʤimaru˥ ku̥to: ˞na:˥nu](縮まることはない)。チ˞ジマレー˥　ミサムヌ [ʧi˞ʤimare:˥ misamunu](縮まれば良いのに)。ン˞メーマ˥　ヤ˞ラバン˥　チ˞ジマリ˥バ [ʔm˞me:ma˥ ja˞raban˥ ʧi˞ʤimari˥ ba](少しでも＜少しであっても＞縮まれよ)。

チ˞ジミルン [ʧi˞ʤimiruŋ] 【他動】縮める。イ˞チバントゥ˥ヌ　˞テンスーヌ˥　サー　チ˞ジミルン [ʔi˞ʧibantu˥nu ˞tensu:˥nu ˥sa: ʧi˞ʤimiruŋ](一番との点数の差を縮める)。チ˞ジミ˥　プサン [ʧi˞ʤimi˥ pu̥saŋ](縮めたい)。チ˞ジミル˥　クトー　ム˞チ˥キサン [ʧi˞ʤimiru˥ kuto: mu˞ʧi˥kisaŋ](縮めることは難しい)。ン˞メーマンツァン˥　チ˞ジミレー˥　ミサムヌ [ʔm˞me:mantsan˥ ʧi˞ʤimire:˥ misamunu](少しでも縮めれば良いのに)。˞パー˥ク　チ˞ジミリ [˞pa: ˥ku ʧi˞ʤimiri](早く縮めろ)。

チ˞ジムン [ʧi˞ʤimuŋ] 【自動】縮む。縮まる。˞マー˥ル　˞ピッ˥クカー　˥イキ　˥ヌギティ　チ˞ジムン [˞ma:˥ru ˞pik˥kuka: ˥ʔiki ˥nugiti ʧi˞ʤimuŋ](鞠に穴をあけると空気が抜けて縮む)。チ˞ジマヌ [ʧi˞ʤimanu](縮まない)。チ˞ジミナーヌ [ʧi˞ʤimina:˥nu](縮んでしまった)。チ˞ヂム˥　クトー　˞ナー˥ヌ [ʧi˞ʤimu˥ ku̥to: na:˥nu](縮むことはない)。チ˞ジメー˥　ミサムヌ [ʧi˞ʤime:˥ misamunu](縮めば良いのに)。

チ˞ジュヤー˥ブシ [ʧi˞ʤuja:˥buʃi] 【名】浜千鳥節。沖縄本島の舞踊の一つ。雑踊り。明治 27 年ごろに那覇の端道演芸時代に上演されたという。紺地の衣装に白足袋、紫のサージのコスチュームで踊られる。鳩間島へは石垣島の芝居小屋から伝わったものであろう。チ˞ジュヤー˥ブシェー　シ˞バヤーブドゥル˥　ヤ˞ルンダ˥　ウ˞ムッ˥サン [ʧi˞ʤuja:˥buʃe: ʃi ˞baja:buduru˥ ja˞runda˥ ʔu˞mus˥saŋ](浜千鳥節は芝居の踊りだから面白い)。

チ˞ジルン [ʧi˞ʤiruŋ] 【自動】ちじれる (縮れる)。細かくくるくる巻きに縮まる。ガ˞マ˥ジ　ヤ˞ク˥カー　チ˞ジルント ダー [ga˞ma˥ʤi ja˞ku˥ka: ʧi˞ʤirunt̪-da:](髪の毛を焼くと縮れるよ)。チ˞ジラヌ [ʧi˞ʤiranu](縮れない)。チ˞ジリ　ヤッ˥サン [ʧi˞ʤirijas˥saŋ](縮れやすい)。チ˞ジリル˥　クトー　˞ナーン˥　パジ [ʧi˞ʤiri˥ru ˥ku̥to: ˞na:m˥ paʤi](縮れることは無いはずだ)。˞マー˥ビン　チ˞ジレー˥　ミサムヌ [˞ma:˥bin ʧi ˞ʤire:˥ misamunu](もっと縮れば良いのに)。

チ˞チシミ [ʧi̥˞ʧiʃimi] 【名】慎むこと。用心すること。自戒すること。フ˞チヌ˥　チ˞チシミヌ　ナーン˥　プ˞ソー　ダーッサーナー˥ヌ [ɸu̥˞ʧinu˥ ʧi̥˞ʧiʃiminu na:m˥ pu̥˞so: da:ssa:na:˥nu](口の慎みのない＜放言癖のある＞人は良くない＜信用出来ない＞)。

チ˞チシムン [ʧi̥˞ʧiʃimuŋ] 【他動】つつしむ (慎む)。用心する。謹慎する。あやまちがないようにする。/ムニイザバ　チチシミ　フチヌ　フカユ　ンザスナヨー　ンザシカラー　マタトゥ　フクミヤ　ナラヌ　デンサー/(ものを言うときは用心して簡単に口外するなよ。一度口外したら、言葉は再度口の中に含みこむことはできない)(デンサー節)。ウ˞レー˥　フ˞チパジェー　ナーン˥ダ　ムッ˞トゥ˥　フ˞チ˥　チ˞チシマヌ [ʔu˞re:˥ ɸu̥˞ʧipaʤe: na:n˥da mut˞tu˥ ɸu˞ʧi˥ ʧi̥˞ʧiʃimanu](彼は放言癖がある＜口恥がない＞からちっとも物言いを慎まない)。チ˞チシミ˥　ッ˞ふィーリ [ʧi̥˞ʧiʃimi˥ f˞fi:ri](慎んでくれ)。チ˞チシム˥　クトゥ [ʧi̥˞ʧiʃimu˥ ku̥tu](慎むこと)。チ˞チシメー˥　ミサムヌ [ʧi̥˞ʧiʃime:˥ misamunu](慎め

ばいいのに)。チ˞チシミ˜バ [ʧi̥˞ʧiʃimi˜ba](慎めよ)。

チ˞ド˜リ [ʧi˞du˜ri] 【名】(動) 鳥の名。千鳥。ウミネコ(海猫) のこと。歌謡語。パ˞マザ˜キ [pa˞maʤa˜ki](浜先浜) の干潟に下りてよく餌をついばむ。また前の海の上を群れ飛んで小魚を捕る。日常会話では、シ˞ドゥ˜リ [ʃi˞du˜ri](千鳥) ともいう。/マイヌパマヨー　チドゥリ　ヨー　トゥリ　トゥブトゥリハーリ　ミルク　ヨーヌヨー　チドゥリ/(前の浜、ヨー＜囃子＞　千鳥　ヨー＜囃子＞　鳥、飛ぶ鳥　ハーリ＜囃子＞　弥勒、ヨーヌヨー＜囃子＞千鳥)「鳩間浜千鳥節」『鳩間島古典民謡古謡集』。

˜チニヒージー [˜ʧiniçi:ʤi:] 【名】常日頃。普段。平常。平生。「常・平常」の転訛したものか。˜チニヒージーヌ　ウ˞クナイル　カンヌマイ˜ヤー　ミシゥ˞カーマ˜シ　ミリ˞オー˜ル˞ダー [˜ʧiniçi:ʤi:nu ʔu˞kunairu kannumai˜ja: misi̥˞ka:ma˜ʃi miri˞ʔo:˜ru˞da:](日頃の行いを神様は間近にちゃんと見ていらっしゃるのだよ)。

チ˞パル [ʧi̥˞paru] 【名】支柱。柱と柱の間に交叉して連結する耐震性の建材。柱と柱の間に対角線に、x 状に渡した耐震構造の強化建材。「突っ張り」の転訛したものか。ヌ˞キ [nu˞ki](貫き) は連結材。チ˞パル˜　イ˞リティ˜　ヤー　˞コー˜ラシ [ʧi̥˞paru˜ ʔi˞riti˜ ja: ˞ko:ra˜ʃi](支柱を x 形に入れて家の柱を固めろ)。

˜チミ [˜ʧimi] 【名】罪。つみとが (罪科)。法律的、道徳的罪科。˞ヌー˜ヌ　チ˞ミ˜ヌ　ア˞ローッ˜タユー　ウ˞キ˜ナーラ　ヒ˞ヤ˜ゴン　˜アンヒツティ　ア˞ゾー˜ル　プ˞スヌ˜　パ˞トゥ˜マー　ナ˞ガサ˜リ　˞オーリ˜ル　˜ウタン　ブ˞ドルン˜　ナ˞ラー˜ソーッタティ　˞スーヌンドゥ˜　イ˞サナケー˜ラ　フ˞ニ˜ヌ　˞ペー˜リクーカ　˜イロー　˜ッサイティ　˞アンヌカーヌ˜　シンタヌ　ヤ˞マ˜ナール　ク˞マ˜ローッタツォー [˞nu:˜nu ʧi˞mi˜nu ʔa˞ro:t˜taju: ʔu˞ki˜ na:ra çi˞ja˜goŋ ʔaŋhitsuti ʔa˞ʤo:˜ru pu̥˞sunu˜ pḁ˞tu˜ ma: na˞gasa˜ri ˞ʔo:ri˜ru ˜ʔutam bu˞durun˜ na˞ra:˜sottati ˞su:nundu˜ ʔi˞sanake:ra˜ ɸu˞ni˜nu ˞pe:˜riku:ka ˜ʔiro: ˜ssaiti ˞ʔannuka:nu˜ ʃintanu ˜jamana:ru ku˞ma ˜ro:tatso:](何の罪がお有りになったのか、沖縄から比屋根安粥とおっしゃる人が鳩間島へ配流されてこられて、歌も踊りも教えられたというが、石垣から舟が入ると顔面蒼白になって東村井戸の後ろの林の中に引籠もられたそうだ)(米盛クヤ氏伝承)。

˜チミトゥンガー [˜ʧimituŋga:] 【名】つみとが (罪科)。ヤ˞ナクトー　シェー　ナーン˜ユンダ　ノー˞ンヌ˜　チミトゥンガーン　˜バンナー　ア˞トーラ˜ヌ [ja˞nakuto: ʃe: na:ɲ˜junda no:˞nnu˜ ʧimituŋga:m ˜banna: ʔa˞to:ra˜nu](悪事はしてないから何の罪科も私にはお与えにはならない＜お当てにならない＞)。

チ˞ム˜エー [ʧi˞mu˜je:] 【連】意味は。訳は。首里方言からの借用語。「つもり＜心算＞」の転訛したもの。[tsumori:] ＋ [ja](は)→ [ʧimuija:] → [ʧimuje:] のように音韻変化したもの。˞ヌー˜ル　˜ヌーユー　ムッ˞トゥ˜　チ˞ム˜エー　ワ˞カラ˜ヌ [˞nu:˜ru ˜nu:ju: mut˞tu˜ ʧi˞mu˜je: wa˞kara˜nu](何が何だかちっとも訳＜意味＞が分からない)。

˞チャー [˞ʧa:] 【副】いつも (何時も)。常に。˜アッパー　˞チャー˜　ブー　˞ウー˜ミ　˞オー˜ル [˜ʔappa: ˞ʧa:˜ bu: ˞ʔu:˜mi ˞ʔo:˜ru](お祖母さんは常に＜何時も＞麻糸を紡いで＜績んで＞おられる)。˞チャー˜ユ˞ヌ　パナ˜シ　カー˞ニル˜　ア˞ゾー˜ル [˞ʧa:˜ ju˞nupana˜ʃi ka:˞niru˜ ʔa˞ʤo:˜ru](いつも同じ話だけおっしゃる)。

˞チャー [˞ʧa:] 【接頭】1いつも～。常に～。2それきり(其限)。それっきり。そのまま。動詞の連用形に上接して、その動詞の意味内容がそのまま継続することを表す合成語を造る。˞パッ˜タ　˞ター˜ナ　˞チャー˜パリ　˞シー　ナー˜ヌ [˞pat˜ta ˞ta:˜na ˞ʧa:˜pari ˞ʃi:na:˜nu](行ったまま、行きっきりになってしまった)。˞チャー˜シー　˞スン [˞ʧa:˜ʃi: ˞suŋ](継続してやる。やり続ける)。

˞チャー˜ウティ [˞ʧa:˜ʔuti] 【名】病気が完治すること。病気が再発しないで健康を維持していること。˞チャー [˞ʧa:](そのまま) は接頭語。˜キナイ　ヌ˞ム˜ター　˞プーケー＜マ˞ラリ˜ア＞　チャー˜ウティ　˞シー　ブー [˜kinai nu˞mu˜ta: ˞pu:ke:＜ma˞rari˜a＞ ʧa:˜ʔuti ˞ʃi: bu:](キニーネを飲んだのでマラリア＜風気＞は完治し＜ずっと落ち＞ている)。

˞チャーガ [˞ʧa:ga] 【感】どうだ。それ見ろ。恐れ入ったか。そうだろう。言ったとおりだろう。「如何か」の転訛したもの。首里方言からの借用語。普通は、˞ヌー˜シヤー [˞nu:˜ʃija:](どうだ。恐れ入ったか)、イ˞カ˜シヤー [ʔi˞ka˜ʃija:](どうか。如何か。如何だ) という。˜チャーガ　˜バー　ア˞ズタ　トゥー˜ルミー [˜ʧa:ga ˜ba: ʔa˞ʤuta tu:˜rumi:](それ見ろ＜どうだ＞、私が言った通りだろう)。

˞チャー　ガン˜ズー [˞ʧa: gan˜ʤu:] 【連】何時も元気だ。首里方言からの借用語か。鳩間方言では、目上に

対して、˜ミサー　アˋロールン [˜misaː ʔaˋroːruŋ](お元気でいらっしゃいますか＜良くておられますか＞) と尋ねると、ミサンˋダー [misanˋdaː](元気だよ) と答える。

˞チャー˜シー [˞ʧaː˜ʃiː] 【名】継続して行うこと。継続続行。ずっと続けてやっている。シˋグトー˜　シˋトゥム˜テーラ　˞チャー˜シー　˞シー　ベー [ʃiˋgutoː˜ ʃi̥ˋtumu˜teːra ˞ʧaː˜ʃiː ˞ʃiːbeː](仕事は朝から継続してやっている)。

˞チャー˜チャー [˞ʧaː˜ʧaː] 【名】父。お父さん。西原家の人が西原真津氏をチャーチャーと呼んでいた。

˞チャー˜トゥリ [˞ʧaː˜turi] 【名】取り続けること。イˋザン˜カー　˜ヌーテー　˞ナー˜ン　˞チャー˜トゥリ　˞スン˜ダー　イˋジト˜バ [ʔiˋʤaŋ˜kaː nuːteːˋnaː˜n ˞ʧaː˜turi ˞sun˜daː ʔiˋʤi˞ba](叱らないと見境も無く＜何をとて無く＞取り続けるよ。叱りなさいよ)。

˞チャー˜ニビ [˞ʧaː˜nibi] 【名】眠り続けること。˜ユベーラ　˞ユー˜ヌ　ガˋリ˜　ティˋダ˜ヌ　プˋスマ˜　ナルンケンˋバー˜キ　˞チャー˜ニビ　˞シー　ベー [˜jubeːra ˞juː˜nu gaˋri˜ tiˋda˜nu pu̥ˋsuma˜ naruŋkemˋbaː˜ki ˞ʧaː˜nibi ˞ʃiː beː](昨夜から夜が明けて、太陽が真昼になるまで眠り続けている)。

˞チャー˜バライ [˞ʧaː˜barai] 【名】笑い続けること。ウˋヌ˜　パˋナ˜シ　シˋキティ˜　ウˋムインザ˜シェー　バˋライバライ　シー　チャー˜バライ　˞シー　ベー [ʔuˋnu˜ paˋna˜ʃi ʃi̥ˋkiti˜ ʔuˋmuinʤa˜ʃeː baˋraibarai ʃiː ʧaː˜barai ˞ʃiː beː](その話を聞いて、思い出しては笑い笑いし、笑い続けている)。

˞チャー˜パリ [˞ʧaː˜pari] 【名】行ったまま、それっきりになること。ヤˋラバン˜カー　˞チャー˜パリ　˞スンダ˜　ヤˋラビ˜　トゥˋミリ [jaˋrabaŋ˜kaː ˞ʧaː˜pari ˞sunda˜ jaˋrabi˜ tuˋmiri](呼ばないと、そのまま行ってしまう＜行きっきり最後になる＞から呼び止めなさい)。

チャˋブ˜ダイ [ʧaˋbu˜dai] 【名】ちゃぶだい (卓袱台)。折り畳み式の四脚の低い食事台。「しっぽく (卓袱)」の唐音より転訛したものという。鳩間方言へは、標準語から借用されたものであろう。新式のハイカラな食台とされていた。˞ワッ˜テヌ　プˋソー˜　イˋチル˜　チャˋブ˜ダイ　˞カイヨーッ˜ター [ˋwat˜tenu pu̥ˋsoː˜ ʔiˋʧiru˜ ʧaˋbu˜dai ˞kaijoːt˜taː](貴方の家の人は、いつチャブダイをお買いになり＜買われ＞ましたか)。

チャンˋトゥ [ʧanˋtu] 【副】ちゃんと。きちんと。間違いなく。シˋナムヌヌ　ダイヤー˜　チャンˋトゥ˜　パˋライヤン [ʃiˋnamununu daijaː˜ ʧanˋtu˜ paˋraijaŋ](品物の代価はきちんと支払ったか)。

˞チャン˜プル [˞ʧam˜puru] 【名】料理名。豆腐や野菜の炒め物。中国の惣菜料理の「炒腐児」から転訛した語という。˞トーフーチャン˜プルー [˞toːɸuːʧam˜puruː](豆腐と野菜の炒め物)。マˋミナーチャン˜プルー [maˋminaːʧam˜puruː](モヤシと肉の炒め物)、˞ゴーヤーチャン˜プルー [˞goːjaːʧam˜puruː](ゴーヤー＜苦瓜＞と豆腐、肉の炒め物) などがある。

˞チャン˜プルー [˞ʧam˜puruː] 【名】炒め物。沖縄本島方言からの借用語。˞トー˜フーチャンプルー [˞toː˜ɸuːʧampuruː](豆腐と豚肉や魚肉、野菜の炒めもの)。˞ソー˜ミンチャンプルー [˞soː˜mintʃampuruː](素麺と魚肉、豚肉、野菜のいためもの。素麺のみ油で炒めたものにもいう)。ムˋカ˜シェー　˞ソー˜ミンチャンプロー　˞クゥッチー˜ル　˞ヤッタル [muˋka˜ʃeː ˞soː˜mintʃampuroː ˞kwattʃiː˜ru ˞jattaru](昔は素麺チャンプルーはご馳走であったよ)。

˞チュー˜ザラ [˞ʧuː˜ʤara] 【名】中皿。中程度の大きさの皿。銘々皿。標準語からの借用語か。おかず等を盛るのに用いる。˞ウー˜ザラ [˞ʔuː˜ʤara](大皿) と˞クー˜ザラ [˞kuː˜ʤara](小皿) の中間の大きさの皿。一般的には、˜スルイ [˜surui](皿) ということが多い。皿の総称として˞カイ˜キ [˞kai˜ki](皿。「貝笥」の義か) ともいう。˞チュー˜ザラナー　˞ダイクニ˜トゥ　カˋマブク˜　イˋリ　ンザ˜シバ [˞ʧuː˜ʤaranaː ˞daikuni˜tu kaˋmabuku˜ ʔiˋri ʔnʤa˜ʃiba](中皿に大根と蒲鉾を入れて出しなさいよ)。

˞チュー˜チュー [˞ʧuː˜ʧuː] 【名】(幼) ちんちん。幼児の男根。チューˋチョー˜マ [ʧuːˋʧoː˜ma](可愛いおちんちん) ともいう。˞チュー˜チュー　プˋスン˜　ミˋラン˜ケン　˞パー˜ク　˜キン　キˋサ˜ナー [˞ʧuː˜ʧu: pu̥ˋsum˜ miˋraraŋ˜kem ˞paː˜ku ˜kiŋ ki̥ˋsa˜naː](おちんちんが他人に見られないうちに早く着物を着ようね)。

˞チューバン [˞ʧuːbaŋ] 【名】中程度の大きさのカツオ。「中判」の義。5〜6 キログラム程度のカツオ。˞チューバンラー˜　ヨˋツ˜ワリ　˞シー　ウー˜ブシ　˞ミー˜ブシ　ナˋソーッ˜タン [˞ʧuːbanraː˜ joˋtsu˜wari ˞ʃiː ʔuː˜buʃi ˞miː˜buʃi naˋsoːt˜taŋ](カツオの中判からは四つ割りにして、雄節、雌節に製造された＜なされた＞ものだ)。

˞チューフー [˞ʧuːɸuː] 【名】中風。「半身不随 [hemiplegia]　脳出血等の疾病にみられる、手足の不自由」『医学沖縄語辞典』(稲福盛輝著)。˞チューフ

ー˥　カ˞カ˥リティル＜ワ˞チライティ＞　˥ドゥー　˞ウーカシカン˥ティ　˞シー　ベー [˞ʧu:ɸu:˥ kạ˞ka ˥ritiru＜watʃiraiti＞˥du: ˞ʔu:kaʃikan˥ti ˞ʃi: be:](中風を患って＜ぞ＞体を＜胴＞を動かしかねているのだ)。

˞チュー˥ムン [˞ʧu:˥muŋ] 【名】注文。標準語からの借用語。普通は、ア˞チ˥ラウン [ʔa˞ʧi˥rauŋ](誂える。注文する) という。ク˞ヌ˥　シ˞ナムノー˥　キシ˞ナーン˥バ　˞チュー˥ムン　˞サン˥カー　˞カーラヌ [ku˞nu˥ ʃi˞namuno:˥ kị̊ʃi ˞na:m˥ba ˞ʧu:˥mun ˞saŋ˥ka: ˞ka:ranu](この品物は切れて＜品切れして＞、今は無いから注文しないと買えない＜買われない＞)。

チュ˞ファーラ [ʧụ˞ɸa:ra] 【副】1腹一杯。満腹するほど。十分に。強調表現では、チュファー˞ラ [ʧụ̊ɸa:˞ra](腹一杯) のように、アクセントが移動する。沖縄本島方言からの借用語。チュ˞ファーラ＜バ˞タ˥ミツンケン＞　クゥッ˥チー　˞シェー˥ン [ʧụ˞ɸa:ra＜ba ˞ta˥mitsuŋkeŋ＞ kwat˥ʧi: ˞ʃe:˥ŋ](腹一杯ご馳走になった。満腹するほど頂いた)。チュ˞フゥーラ˥　ニ˞ベー˥ン [ʧụ˞ɸa:ra˥ ni˞be:˥ŋ](十分寝た)。2飽き飽きするほど。こりごりするほど。ウ˞キ˥ナー　˞ヤイマーヌ˥　フ˞ナ˥タベー　チュファー˞ラ＜イッ˞ケナ＞　シーミッ˥タン [ʔu˞ki˥na: ˞jaima:nu˥ ɸu˞na˥tabe: ʧụ̊ɸa:˞ra＜ik˞kena＞ ʃi:mit˥taŋ](沖縄・八重山間の船旅は飽きるほどしてみた)。

チュ˞ラーク [ʧu˞ra:ku] 【副】綺麗に。見事に。すっかり。首里方言からの借用語。˞ワットゥヌ˥　ヤ˞クスクバ˥　チュ˞ラーク　バシキティル˥　パ˞リユーサン˥シェン˞ダー [˞wattunu˥ ja˞kusụ̊ku˥ ʧu˞ra:ku baʃị̊kitiru˥ pa˞riju:saŋ˥ʃen˞da:](君との約束をすっかり忘れてしまって＜ぞ＞行くことが出来なかったのですよ)。

チュ˞ラカー˥ギ [ʧu˞raka:˥gi] 【名】美人。美女。美貌。沖縄本島方言からの借用語。「清ら」からの転訛。ス˞ラカー˥ギ [su˞raka:˥gi](美人)＜老年層＞ともいう。ア˞バリミドゥ˥ム [ʔa˞barimidu˥mu](美女。「あはれ女」の転訛) というのが伝統的鳩間方言である。ウ˞ヌ　プソー　デージ˥ナ　チュ˞ラカー˥ギツォー [ʔu ˞nu pụ̊so: de:ʤi˥na ʧu˞raka:˥gitso:](あの人は大変な美人だそうだ)。

チュ˞ラ˥ムニ [ʧu˞ra˥muni] 【名】甘い言葉。巧言。チュ˞ラ˥ムニ　˞スー　プソー　キー˥　シ˞キ˥リ [ʧu˞ra˥muni ˞su:˥ pụ̊˞so: ki:˥ ʃị̊˞ki˥ri](甘い言葉を使う人には気をつけなさい)。

˥チョー [˥ʧo:] 【名】ちょう (疔)。皮膚や皮下組織にできる悪性の腫れ物。激痛と急に化膿するのが特徴といわれている。手遅れになると命取りになるという。˥ムムナール　˞チョー˥ヌ　˥ンジティ　˞アガヨーアガヨー˥シ　タ˞キ˥リ　˞ベー [˥mumuna:ru ˞ʧo: ˥nu ˥ʔnʤiti ʔa˞gajo:ʔagajo:˥ʃi tạ˞ki˥ri ˥be:](腿に疔が出来て＜出てきて＞、痛い痛いと唸って＜哮って。「咆哮、タケル、サケフ、ホユ」『類聚名義抄』＞いる)。

˥チョー [˥ʧo:] 【助数】ちょう (挺)。丁。砂糖樽を数える助数詞。ク˞トゥシェー˥　サター　˞ナン˥チョーブカラ　ン˞ジ˥ルカヤー [kụ̊˞tuʃe:˥ sạta: ˞nan˥ ʧo:bukara ʔn˞ʤi˥rukaja:](今年は、砂糖は何丁ほど生産される＜出る＞かなあ)。˞イッ˥チョー [˞ʔit˥ ʧo:](一丁)。˥ニチョー [˥nitʃo:](二丁)。˞サン˥チョー [˞san˥ʧo:](三丁)。˞ヨンチョー [˞jonʧo:](四丁)。グ˞チョー [gu˞ʧo:](五丁)。ル˞ク˥チョー [ru˞ku˥ʧo:](六丁)。ナ˞ナ˥チョー [na˞na˥ʧo:](七丁)。˞ハッ˥チョー [˞hat˥ʧo:](八丁)。˞キューチョー [˞kju:ʧo:](九丁)。˥ジッチョー [˥ʤitʃo:](十丁)。

˞チョーアンザーテー [˞ʧo:anʤa:te:] 【名】屋号。大浜長安氏宅。名前の˞チョーアン [˞ʧo:aŋ](長安) に、˞アー˥ザ [˞ʔa:˥ʤa](兄さん) が下接し、更に接尾語˞テー [˞te:](～の家) が付いた合成語。

˞チョー˥ウティ [˞ʧo:˥ʔuti] 【名】記帳漏れ。記録漏れ。「帳落ち」の義。˞ソー˥ラン　˥シゥカイバー　サ˞ガラ˥シ　˞カーシェー˥ムノー　ムー˞ル　チョー˥ウティ　˞シー˥　シケーティル　˞サンミン˥マー　シ˞ベー　ホー˥ヌ [˞so:˥ran ˥sị̊kaiba: sa˞gara˥ʃi ˞ka:ʃe:˥ muno: mu:˞ru ʧo:˥ʔuti ˞ʃi:˥ ʃị̊ke:tiru ˞sammim˥ma: ʃi ˞be: ho:˥nu](お盆用品の掛売りしたものは全部記帳漏れにして置いてあるので、収支決算が合わない＜計算も帳尻が絞まらない。合わない＞のだ)。

˞チョー˥チン [˞ʧo:˥ʧiŋ] 【名】ちょうちん (提灯)。標準語からの借用語。お盆に仏壇に吊るして祖霊を迎えるのに用いた。日常生活で提灯を用いることはなかった。˞チョーチン˥マー　˞ソー˥ランナール　トゥ˞クニ˥　カ˞ザルンティル　カイヨーッ˥タ [˞ʧo:ʧim˥ma: ˞so:˥ranna:ru tụ̊˞kuni˥ ka˞ʤaruntiru kai-jo:t˥ta](提灯はお盆に仏壇を飾るために買われた)。ウ˞ブチョー˥チン [ʔu˞butʃo:˥ʧiŋ](大きな提灯)。チョーチン˞ナー˥マ [ʧo:ʧin˞na:˥ma](小さな提灯) などがある。˞ソーラン˥ヌ　˥ピンマー　トゥ˞クニ˥ナー　˞チョー˥チン　カ˞ザローッ˥タン [˞so:ran˥nu ˥pimma: tụ̊˞kuni˥na: ˞ʧo:˥ʧiŋ ka˞ʤaro:t˥taŋ](お盆の時には仏壇に提灯を飾られたよ)。

ˈチョーˈナ [ˈtsoːˈna] 【名】ちょうな (手斧)。斧で荒削りしたところを細かく削って平らかにする大工道具。平鑿を大きくした身に、直角に柄をつけた鍬形の斧。ˈブーˈヌシ　アˈラˈキジ　ˈシーティˈ　アトー　ˈチョーˈナシル　クˈマークマーˈ　キゾーッタˈル [ˈbuːˈnuʃi ʔaˈraˈkiʤi ˈʃiːtiˈ ʔatoː ˈʧoːˈnaʃiru ku ˈmakumaːˈ kiˈʤoːttaˈru](斧で荒削りして後に手斧で細かく削られたものだ)。

ˈチョーナン [ˈʧoːnaŋ] 【名】長男。サˈクˈシ [saˈkuˈʃi](嫡子) というのが普通である。ˈチョーナンヌˈ　マˈレーンˈティ　シˈキテルˈ　ウˈヌスˈク　サˈニン　ケーリ　オーˈル [ˈʧoːnannuˈ maˈreːnˈti ʃiˈkitiruˈ ʔu ˈnusuˈku saˈniŋkeːri ʔoːˈru](長男が生まれたと聞いて、あんなに嬉しそうにしておられる)。

ˈチョーヒーキンˈサ [ˈʧoːçiːkinˈsa] 【名】徴兵検査。ムˈカˈシェー　ˈチョヒーキンˈサ　ˈウキティル　ˈピーˈタイ　ˈサーリˈ　パˈラリˈタツォー [muˈkaˈʃeːˈ ʧoːçiːkinˈsa ˈʔukitiru ˈpiːˈtai ˈsaːriˈ paˈrariˈtatsoː](昔は徴兵検査を受けて兵隊に連れて行かれたそうだ)。

ˈチョーミー [ˈʧoːmiː] 【名】長命。長寿。ˈチョーミガフー [ˈʧoːmigaɸuː](長寿の果報、幸運) ともいう。ˈチョーミˈ　シˈキˈルンティ　ˈウムーカー　ˈドゥーアタラサ　ˈシートヨー [ˈʧoːmiːˈ ʃiˈkiˈrunti ˈʔumuːkaːˈduːʔatarasa ˈʃiːꜜjoː](長寿を全うしようと思ったら体を大切に＜胴可惜しさ＞しなさいよ)。

ˈチョーミーˈ　シˈキˈルン [ˈʧoːmiːˈ ʃiˈkiˈruŋ] 【連】長生きする。長寿を全うする。ˈチョーミーˈ　スクン [ˈʧoːmiːˈ sukuŋ](長生きする。長寿を全うする＜長寿付く＞) ともいう。フˈチンˈパーン　サˈクナンˈ　ヌーンクイ　ˈヤサイ　ッˈふァイバル　チョーミーˈ　シˈキラˈリティˈダー [ɸuˈʧimˈpaːn saˈkunanˈ nuːŋkui ˈjasai fˈfaibaru ʧoːmiːˈ ʃiˈkiraˈritiˈdaː](よもぎ＜蓬＞もボタンニンジン＜長命草＞も何もかも野菜を食べたら＜ぞ＞長生きできる＜長寿を全うする。長寿付けられる＞そうだよ)。

ˈチョーミン [ˈʧoːmiŋ] 【名】帳面。ˈバシキランドーˈシ　ˈチョーミンˈナー　カˈキˈトゥミ　シˈキˈリ [ˈbaʃikirandoːˈʃi ˈʧoːminˈnaː kaˈkiˈtumi ʃiˈkiˈri](忘れないで帳面に書き留めておきなさい)。

チョーˈンドゥ [ʧoːˈndu] 【副】1ちょうど (丁度)。ぴったり。かっきり。ソーˈンドゥ [soːˈndu](丁度)＜老年層＞ともいう。チョーˈンドゥˈ　マˈナˈマ　ˈジブンル　イッˈケナ　スーˈヤ　ˈピス [ʧoːˈnduˈ maˈnaˈ ma ˈʤibunru ʔikˈkena suːˈja ˈpisu](丁度今頃が一番潮はひく＜干る＞)。2あたかも。さながら。チョーˈンドゥ　ワーˈ　カタチニ　ピˈニ　モーˈシ　ˈベーˈタ [ʧoːˈndu waːˈ katatʃini piˈni moːˈʃi ˈbeːˈta](丁度＜さながら＞君のように鬚を生やしていた)。

ˈチョンチョンˈシ [ˈʧonʧoŋˈʃi] 【副】ポトポトと。液体が滴るさま。点々と。アˈバˈバ　ˈチョンチョンˈシ　タˈラˈシェーティ　ˈムティ　ˈアーˈク [ʔaˈbaˈba ˈʧonʧoŋˈʃi taˈraˈʃeːti ˈmuti ˈʔaːˈku](油を点々と垂らして持っている＜持ってあるく＞)。

チˈリˈチリー [ʧiˈriˈʧiriː] 【名】豚肉や猪肉、山羊肉のすき焼き。沖縄本島方言からの借用語。マˈルケーティˈナー　ˈオーˈヌ　チˈリˈチリー　ˈシーˈ　ッˈふァーサˈナー [maˈrukeːtiˈnaː ˈʔoːˈnu ʧiˈriˈʧiriː ˈʃiːˈ fˈfaːsaˈnaː](久々に＜偶に。非常に稀に＞豚肉のすき焼きしをして食べさせようね)。

チˈリチリーˈナビ [ʧiˈriʧiriːˈ nabi] 【名】すき焼き鍋のこと。豚肉などをすき焼きにする鍋。鳩間島の一般家庭では普通の汁鍋を利用してチリチリー料理を作っていた。

チˈリナキ [ʧiˈrinaki] 【名】夜明け前に鶏が一斉に鳴くこと。ˈサンバンˈドゥル [ˈsambanˈduru](三番鶏鳴) の次に一斉に鳴く鶏鳴。それが済むと白白と夜が明ける。「連れ鳴き」の転訛したもの。トゥˈルヌˈ　チˈリナキ　スーˈカー　ˈユーˈワ　ガˈリス [tu ˈrunuˈ ʧiˈrinaki suːˈkaː ˈjuːˈwa gaˈrisu](鶏が連れ鳴きすると夜は明ける)。

チˈリブドゥル [ʧiˈribuduru] 【名】連れ舞。二人以上の者が一緒に舞うこと。またその舞。石垣島からの伝承という。鳩間島では祝儀の際に姉妹、兄弟が揃って舞い祝う事を美徳とする風習がある。ブˈナルˈ　ビˈキルˈシ　ˈスーˈ　チˈリブドゥルヌˈ　ウˈムッˈサワˈナー [buˈnaruˈ biˈkiruˈʃi ˈsuːˈ ʧiˈribudurunuˈ ʔuˈmusˈsawaˈnaː](姉弟で踊る連れ舞の面白いことよ＜面白いねえ＞)。

チˈリブニ [ʧiˈribuni] 【名】ともぶね (伴舟)。「連れ舟」の義。イˈガメーフネーˈ　シンタヌ　ˈピーヌˈクシェーラ　グˈルクスーˈナー　チˈリブニバ　シールˈ　イˈガー　ホーˈソーッタ [ʔiˈgameːɸuneːˈ ʃintanu ˈpiːnuˈkuʃeːra guˈrukusuːˈnaː ʧiˈribuniba ʃiːruˈ ʔiˈgaː hoːˈsoːtta](烏賊漁の舟は島の後ろの干瀬の沖の海から五、六艘ずつ伴船＜連れ舟＞をしながら、烏賊を釣られたものである)。

チˈリルン [ʧiˈriruŋ] 【自動】散る。腫れ物が化膿しないで治る。腫れ物が化膿しないで腫れが退く。ドゥˈガイˈヌ　ˈパーˈ　パギティ　アˈシˈブナー　シˈビ

シキ˥　スクカー　ア˞シ˥ボー　チ˞リルンティ˥　シ˞タヌ　フン˥トー　チ˞リナーン˥ボー˥エー [du˞gai˥ nu ˞pa:˥ pagiti ʔa˞ʃi˥buna: ʃi˞biʃi̥ki˥ su̥kuka: ʔa˞ʃi˥bo: ʧi˞rirunti˥ ʃi̥˞tanu ɸun˥to: ʧi˞rina:m˥bo:je:](アロエ＜蘆薈＞の葉を剥いで、あせも＜汗疹＞にくっつけておくと汗疹は腫れが退くといったが、本当に腫れが退いてしまったよ)。ウ˞リカーニ˥シェー　チ˞リランダー˥　ビ˞チ˥ヌ　フ˞チ˥ルン　˞ヌーリティ˥　チ˞ラシェー˥　ミサムヌ [ʔu˞rika:ni˥ʃe: ʧi˞riranda:˥ bi˞ʧi˥nu ɸu̥˞ʧi˥run ˞nu:riti˥ ʧi˞raʃe:˥ misamunu](それだけでは腫れが退かないから、別の薬も塗って腫れを退かせばよいのに)。˥アトーケー　チ˞リル˥　クトー　˞ナー˥ヌ　マ˞ナ˥マ　フ˞チ˥ル　˞ヌーレー˥　チバ　˞パー˥ク　チ˞リレー˥　ミサムヌ [˥ʔato:ke: ʧi˞riru˥ ku̥to: ˞na:˥nu ma˞na˥ma ɸu̥˞ʧi˥ru ˞nu:re:˥ʧiba ˞pa:˥ku ʧi˞rire:˥ misamunu](後になってお出来の腫れが退くことはない。今薬を塗ったから、早く腫れが退けばよいのに)。

チ˞ル [ʧi˞ru] 【名】(動) 鶴。歌謡の中でよく用いられるが日常会話ではあまり使用しない。石垣方言からの借用語か。チ˞ルカミヌ˥　カ˞キジク˥バ　˞ザー˥　トゥクナー　˥カキ　シ˞キ˥ルカー　イッ˞ケナ˥　カ˞ルイ˥ヌ　˥アンツォー [ʧi˞rukaminu˥ kḁ˞kiʤiku˥ba ˞ʤa:˥tukuna: ˥kḁki ʃi̥˞ki˥ruka: ʔik˞kena˥ ka˞rui˥ nu ˥ʔantso:](鶴亀の掛軸を床の間に掛けておくと非常に嘉例＜長寿延命。目出度いこと＞があるそうだ)。

チ˞ルカミブシ [ʧi˞rukamibuʃi] 【名】鶴亀節。祝いの座で歌い踊られる節歌。石垣島の古典民謡で、˞赤馬節、鷲ヌ鳥節」と共に鳩間島にも伝えられた。祝儀の歌謡として、パ˞トゥ˥マナカムリ [pḁ˞tu ˥manakamuri](鳩間中岡。鳩間節) の次に歌い踊られている。チ˞ルカミブシェー　ヨイ˥ヌ　˥ウタティ　ア˞ザリブー [ʧi˞rukamibuʃe: joi˥nu ˥ʔutati ʔa˞ʤari bu:](鶴亀節は祝いの歌といわれている)。

˥チン [˥ʧiŋ] 【名】賃。代金。˞ヤー˥チン [˞ja:˥ʧiŋ](家賃)。˞ウンチン [˞ʔunʧiŋ](運賃)。フ˞ナ˥チン [ɸu˞na˥ʧiŋ](船賃)。ティ˞マ˥チン [ti˞ma˥ʧiŋ](報酬。手間賃)。パ˞トゥ˥マーラ　イ˞サナケーバーキ˥ヌ　フ˞ナチン˥マー　˞ギュー˥サヤー [pḁ˞tu˥ma:ra ʔi˞sanake:ba:ki ˥nu ɸu˞naʧim˥ma: ˞gju:˥saja:](鳩間から石垣までの船賃はいくらか)。

˞チン [˞ʧiŋ] 【接尾】～の内に。一定の時間内を表す。マ˞ナマン˥チンナー　˥パリバ [ma˞naman˥ʧin-na: pariba](今の内に行きなさいよ)。マナ˞マンチン˥　ニ˞チ˥ヌ　˥ンジキー　˞トー˥リ　˞ナー˥ヌ [mana ˞manʧin˥ ni˞ʧi˥nu ˥ʔnʤiki: ˞to:˥ri ˞na:˥nu](急に＜今の内に＞熱が出てきて倒れてしまった)。

˞チン [˞ʧiŋ] 【接尾】粒。個。˞粒」の訛語。˞マイシジ　ピッ˥チン　プ˞サイ˥バ [˞maiʃiʤi pit˥ʧim pu̥˞sai˥ba](米粒を一粒拾え)。フ˞タッチン [ɸu̥˞tatʧiŋ](二粒)。˞ミッチン [˞mittʃiŋ](三粒)。˞ユッティン [˞juttʃiŋ](四粒)。イ˞チッ˥チン [ʔi˞ʧit˥ʧiŋ](五粒)。

˞チン˥チ [˞ʧin˥ʧi] 【名】つば (唾)。唾液。˞液、小児口所⊠出汁也、豆波木 (つはき)」『新撰字鏡』の転訛したものか。˞チン˥チ　˥パクン [˞ʧin˥ʧi ˥pḁkuŋ](唾を吐く)。˞チン˥チ　˞ヌン˥クン [˞ʧin˥ʧi ˞nuŋ˥kuŋ](唾を飲み込む)。

˞チン˥チ　˞ヌン˥ツァー　˞スン [˞ʧin˥ʧi ˞nun˥tsa: ˞suŋ] 【連】唾を呑み込んで喉が詰まって息苦しくなる。噎(ム)せ返る。˞チンチ˥バ　ユ˞クヌドー˥　ウ˞タシ˥ティ　˞チン˥チ　˞ヌン˥ツァー　˞シーベー [˞ʧintʃi ˥ba ju˞kunudo:˥ ʔu˞taʃi̥˥ti ˞ʧin˥ʧi ˞nun˥tsa: ˞ʃi:be:](唾を別の喉＜気管＞に落として、喉を詰まらせてむせかえって＜噎せ返って＞いる)。

˥チンチン [˥ʧintʃiŋ] 【名】 (動) ひばり (雲雀)(若年層)。˥ガザフケー [˥gaʤaɸuke:](ひばり＜雲雀＞)(老年層) というのが普通。˥チンチンマー　˞ウイプスンケー˥ヤー　˥ガザフケーティル　ア˞ゾーッタ˥ル [˥ʧintʃimma: ˞ʔuipu̥suŋke:˥ja: ˥gaʤaɸu̥ke:tiru ʔa˞ʤo:tta˥ru](雲雀は、お年寄りたちは「ガザフケー」とおっしゃったよ)。

˞チン˥ビン [˞ʧim˥biŋ] 【名】˞ウンヌ˥クジ [˞ʔunnu˥kuʤi](芋のくずこ＜葛粉。でんぷん＞やミ˞リキン˥グ [mi˞rikiŋ˥gu](メリケン粉) を水でとき、卵と黒砂糖を混ぜてこねたものを、薄くひいた油で焼き、くるくる巻いて約 15 センチの棒状に整形したもの)。沖縄本島方言からの借用語。˞チンビンバ˥ル　イッ˞ケナ˥　ン˞マー　ソーッ˥タ [˞ʧimbimba˥ru ʔik ˞kena˥ ʔm˞ma: so:t˥ta](チンビンを非常に美味しいといって好まれた＜美味しくされた＞)。

ツ

˥ツァン [˥tsaŋ] 【係助】〜だに、〜だにも、〜さえ。〜さえも。〜すら、〜すらも、の義。可能性のある最小限のものを示し、他のものごとを暗示する意。係助詞の˩-ン [˩-ŋ](も) を介して体言や活用語の連用形に付く際、動詞や名詞の語尾が連母音の場合は、˩ヤンツァン [˩jantsaŋ]、その他の場合は˩ンツァン [˩ntsaŋ] となり、文末の打ち消し表現と呼応して用いられることが多い。ク˩リンツァン˥　ユ˩ミユーサ˥ヌ [ku˩rintsaŋ˥ ju˩miju:sa˥nu](これすらも読めない)。ヤ˩ラ˥ビンツァン　ッ˩シ　ブームヌ˥　ッ˩サン˥　ク˩トゥ˥ヌ　ア˩ル˥ワ [ja˩ra˥bintsaŋ ʃ˩ʃi bu:munu˥ s˩saŋ˥ kṵ˩tu˥nu ʔa˩ru˥wa](子供ですら知っているものを、知らないことがあるものか)。ウ˩レー˥　イッ˩カ˥　バ˩ライヤンツァン˥　サ˩ヌ [ʔu˩re:˥ ʔik˩ka˥ ba˩raijantsan˥ sa˩nu](彼は決して笑いすらもしない)。ウ˩レー˥　キーンツァン　サ˩ヌ [ʔu˩re:˥ ki:ntsan sa˩nu](彼は来すらも＜来もだに＞しない)。˥サーンツァン　˥ヌミティル　シ˩グトー˥　サ˩リル [˥sa:ntsan ˥numitiru ʃi˩guto:˥ sa˩riru](お茶でも＜だにも＞飲んで＜ぞ＞仕事はされる)。˩ワー　タン˥ガーンツァン　˥キー　ッ˩ふィール˥カ˩ツォー [˩wa: taŋ˥ ga:ntsaŋ ˥ki: f˩fi:ru˥ka˩tso:](君だけ＜一人＞でも来てくれたらなあ)。

˩ツォー [˩tso:] 【終助】 1〜だってば。用言の終止形、体言について上昇音調を示す。念押し強調。ク˩レー˥　フニ˩ツォー [ku˩re:˥ ɸuni˩tso:](これは船だってば＜船なんだよ＞)。˩バン˥ヌン　パルン˩ツォー [˩ban˥num parun˩tso:](私も行くってば)。イッ˩ケン　˩カイ˥ヤン˩ツォー [ʔik˩keŋ kai˥jan˩tso:](非常に美しいんだよ)。2〜だそうだ。伝聞。˩トゥ˥ツォー [˩tu˥tso:](〜というそうな。＜丁寧表現＞) の転訛した形。ム˩カ˥シ　˥アルン　˩トン˥ナー　アブ˩ジェーマ˥トゥ　アー˩パーマ˥ヌ　˩オーッ˥タン˩トゥ˥ツォー [mu˩ka˥ʃi ˥ʔarun ˩ton˥na: ʔabu˩ʤe:ma˥tu ʔa:˩pa:ma˥nu ˩ʔo:t˥tan˩tu˥tso:](昔々ある所におじいさんとおばあさんがおられたそうな)。カ˩リン˥　パルンツォー [ka˩rim˥ paruntso:](彼も行くそうだ)。イッ˩ケナ　カイ˥ヤンツォー [ʔik˩kena kai˥jantso:](非常に美しいそうだ)。ク˩ヌ˥　プ˩スル˥　カ˩リヌ˥　シザツォー [ku˩nu˥ pṵ˩suru˥ ka˩rinu˥ ʃiʤatso:](この人が彼の兄さんだそうだ)。

˥ツォー [˥tso:] 【終助】〜そうだ。〜ってさ。文末にあって文を完結させ、伝聞の意を表す。体言および用言の終止形、連体形につく。低平調のアクセント。**(1)** 動詞の終止形につく。シ˩マ˥ナーティ　パ˩タラクン˥ツォー [ʃi˩ma˥na:ti pạ˩tarakun˥tso:](島で働くそうだ。〜働くって)。**(2)** 形容詞の終止形につく。˩ダイヤー˥　イッ˩ケナ˥　タ˩カーン˥ツォー [˩daija:˥ ʔik˩kena˥ tạ˩ka:n˥tso:](値段は非常に高いそうだ)。**(3)** 体言につく。˥カマーナ　ミ˩ラ˥リ　˥ムノー　トゥ˩ルマキ˥ツォー [˥kama:na mi˩ra˥ri ˥muno: tu˩rumaki ˥tso:](あそこに見える＜見られる＞ものはカツオの鳥巻き＜カツオの魚群の目印となるウミネコ鳥の群れ＞だそうだ)。**(4)** 動詞の連体形につく。˩キュー˥ヤ　˩タンガ˥シル　パ˩タラク˥ツォー [˩kju: ˥ja ˩taŋga˥ʃiru pạ˩taraku˥tso:](今日は一人で＜ぞ＞働くそうだ)。**(5)** 形容詞の連体形につく。ク˩レー˥ラン　カ˩リル˥　タ˩カー˥ツォー [ku˩re:˥raŋ ka˩riru ˥ tạ˩ka:˥tso:](これよりもあれが値段は高いそうだ)。**(6)** 動詞の已然形について、過去の事実の伝聞を表す。ウ˩リル˥　˥カケーツォー [ʔu˩riru˥ kake:tso:](彼が書いたそうだ)。7助動詞˥タン [˥-tan](〜た。「たり」の転訛したもの) の終止形、連体形につく。˩ウン˥ネナー　˩ゲー˥タンツォー [˩ʔun˥nena: ˩ge:˥tantso:](あの家に行ったことがあるそうだ)。ウ˩レー˥　ヤ˩ラビ˥ル　シ˩タ˥ツォー [ʔu˩re:˥ ja˩rabi˥ru ʃị˩ta˥tso:](それは子供がしたそうだ)。

˩ツォー [˩tso:] 【終助】〜だよ。〜ってば。〜ですよ。文末にあって文を完結させ、断定、念押し、確認の意を表す。体言および用言の終止形、連体形につく。**(1)**(イ)、高平調アクセント動詞や形容詞の終止形につく際、文末アクセントは二分の一降下する (完

全に降下すると「伝聞」の意味になる) が、(ロ)、低平調アクセント動詞や形容詞の終止形に付く際は、高平調のアクセントになる。˩バン˥ヌン　˩マーズン˥　パ˩タラクン˧ツォー [˩ban˥num ma:˩ʤum˥ pḁ˩tarakun˧tso:](私も一緒に働くよ)。ク˩レー˥　バー　カクン˩ツォー [ku˩re:˥ ba: kḁkun˩tso:](これは私が書くってば)。**(2)** 形容詞の終止形につく。˩クイ˥ユン　タ˩カーン˧ツォー [˩kui˥jun tḁ˩ka:n˧tso:](声も高いよ)。プ˩ソー˥　イッ˩ケナ˥　ミサン˩ツォー [pu̥˩so:˥ ʔik˩kena˥ misan˩tso:](人柄は非常に良いんだよ＜良いってば＞)。**(3)** 名詞につく。˥カナー　ミ˩ラ˥リムノー　フニ˩ツォー˥　トゥ˩ルマケー˥　ア˩ラ˥ヌ [˥kana: mi˩ra˥ri ˥muno: ɸuni˩tso:˥ tu˩rumake:˥ ʔa˩ra˥nu](あそこに見えるのは船だよ＜船だってば＞、カツオの鳥巻きではない)。**(4)** 動詞の連体形につく。アクセントはやや降下する (降下型アクセントの約五割程度。完全に降下すると「伝聞」の意味になる)。˩キュー˥ヤ　˩バー˥ル　パ˩タラク˧ツォー。˩ワーヤ　クーン˥タンティン　ミサン [˩kju:˥ja ˩ba:˥ru pḁ˩tarakuˊtso:。˩wa:ja ku:n˥tanitim ˥misaŋ](今日は私が働くよ＜働くってば＞。君は来なくてもいいよ)。**(5)** 形容詞の連体形につく。˥バーラン　˩ワール˥　タ˩カート˧ツォー [˥ba:raŋ ˩wa:ru˥ tḁ˩ka:˧tso:](私よりも君が背は高いよ＜高いってば＞)。˥シザーラン　˩ウシトゥ˥ル　˩カイ˥ヤ˩ツォー [˥ʃiʤa:raŋ ˩ʔuʃi̥tu˥ru ˩kai˥ja˧tso:(中高ア)](姉よりも妹が美しいよ＜美しいってば＞)。**(6)** 動詞の已然形に付いて、過去の事実の念押し、確認の意を表す。ク˩レー　バー˥ル　カケー˩ツォー [ku˩re: ba:˥ru kake:˩tso:(中高ア)](これは私が書いたんだよ＜書いたってば＞)。

ッ˥クビ [k˥kubi] 【接尾】ちゃく (着)。着物や洋服を数える単位。˥キン　プ˩スッ˥クビ　˩サースン [˥kim pu̥˩suk˥kubi ˩sa:suŋ](着物一着仕立てる)。フ˩タックビ [ɸu̥˩takkubi](二着)。˩ミックビ [˩mikkubi](三着)。˩ユックビ [˩jukkubi](四着)。イ˩チッ˥クビ [ʔi˩ʧik˥kubi](五着)。˩ムックビ [˩mukkubi](六着)。ナ˩ナッ˥クビ [na˩nak˥kubi](七着)。˩ヤックビ [˩jakkubi](八着)。ク˩ヌッ˥クビ [ku˩nuk˥kubi](九着)。˩トゥックビ [˩tukkubi](十着)。˥キン　プ˩スッ˥クビシェー　˩ピーヤ˥ル [kim pu̥˩suk˥kubiʃe: ˩pi:ja˥ru](着物一着では寒い)。

˥ックビ [˥kkubi] 【接尾】着。衣服を数える語。プ˩スッ˥クビ [pu̥˩suk˥kubi](一着)。フ˩タックビ [ɸu̥˩takkubi](二着)。キ˩ス　キン˥マー　シン˩トゥ˥プ˩スックビ˥ル　˥アル [ki̥˩su kim˥ma: ʃin˩tu˥ pu̥˩sukkubi˥ru ˥ʔaru](着る着物はたった一着しかない＜一着ぞある＞)。

˥ッサ [˥ssa] 【名】1草。雑草。「～我が見る小野の久佐な刈りそね。万、4457」の義。[kusa] → [fu̥sa] → [ssa] のように無声化による逆行同化によって音韻変化したもの。˥ッサ　˩ソールン [˥ssa ˩so:ruŋ](草取りをする＜草をさくる。刹(サク)る＞)。2まぐさ。ピ˩ビザヌ˥　ッサ　カ˩リン　パッ˥タ [pi˩biʤanu˥ ssa ka˩rim pat˥ta](山羊の草＜まぐさ＞を刈りに行った)。ウ˩シヌ˥　ッサ [ʔu˩ʃinu˥ ssa](牛の草＜まぐさ＞)。

ッ˩サ [s˩sa] 【接頭】1しら (白)。形容詞「白い」の語幹。ッ˩サ˥ミジ [s˩sa˥miʤi](白水、地名)。˥ッサイ [˥ssai](白髪)。˥ッサブ [˥ssabu](白保村)。2語に冠して程度が小さい、薄い、小馬鹿にする、の意を表す。ッ˩サ˥バライ　˩シー˥　ナー˩イ　バイ˥ヨ　˥ミリ　˩ベー [s˩sa˥barai ˩ʃi:˥ na:˩i bai˥jo ˥miri ˩be:](薄笑いをうかべて＜薄笑いをして＞じっと私を見ている)。

ッ˩サーウイ [s˩sa:ʔui] 【名】逆さま。逆。「下は上」の義。サ˩カバラーウイ [sa˩kabara:ʔui](逆さま) ともいう。˩ワー　ッサーコー˥　ッ˩サーウイ˥　ナリティ　˩ユー˥ゾー　˩ナー˥ヌ [˩wa:˥s˩sa:ko:˥ s˩sa:ui˥ nariti ˩ju:˥ʤo: ˩na:˥nu](君の仕事は逆さまになって駄目だ＜養生できない。役に立たない＞)。

ッ˩サーウイ˥　ナルン [s˩sa:ʔui˥ naruŋ] 【連】逆転する。ひっくり返る。「下は上になる」の義。ウ˩ヤ˥キプス　˩ヤッタヌ　ピン˥ソー　ナ˩ル˥ター　ッ˩サーウイ˥　ナリ　プ˩スン˥　シゥ˩カーリ　ベー [ʔu˩ja˥kipu̥su ˩jattanu pin˥so: na˩ru˥ta: s˩sa:ʔui˥ nari pu̥˩sun˥ si̥˩ka:ri be:](金持ちだったが、貧乏になったら逆転して他人に使われている)。

ッ˩サーキ˥ルン [s˩sa:ki˥ruŋ] 【自動】夜が白白とあける。夜が次第に明けて薄明るくなる＜白む＞。白白と明ける。「白明ける」の義か。ナ˩チェー　ユー˥ヌ　ッ˩サーキ˥ル　ジ˩ブン˥ラ　パ˩タ˥ケー　˩オーリ˥ソーッタ [na˩ʧe: ju:˥nu s˩sa:ki˥ru ʤi˩bun˥ra pḁ˩ta˥ke: ˩ʔo:ri˥so:tta](夏は夜が薄明るくなる時分から畑へ行かれた)。˩サンバンドゥル˥ヌ　ナ˩ク˥カー　˩ユー˥ヤ　ッ˩サーキ˥ルンダ　˩ユー˥ヌ　ッ˩サーキラン˥ケン　パリ˩ヨー [˩sambanduru˥nu na˩ku˥ka: ˩ju:˥ja s˩sa:ki˥runda: ˩ju:˥nu s˩sa:kiraŋ˥kem pari˩jo:](三番鶏が鳴くと夜は薄明るくなるから、夜が薄明るくならないうちに行きなさいねえ)。

ッ˞サー˜ク [s˞saː˜ku] 【名】咳。ッ˞サー˜ク ˞スン [s˞saː˜ku ˞suŋ](咳をする)。プ˞スユー˜ヌ ˜サートゥ ッ˞サーク˜バ ˞シートゥーシ˜ プ˞スミー˜ヤンツァン ニ˞バランシェン˜ツォー [pu̥˞su-juː˜nu ˜saːtu s˞saːku˜ba ˞ʃiːtuːʃi˜ pu̥˞sumiː˜jantsan ni ˞baraŋʃen˜tsoː](一晩中咳をし通して、一睡をだに出来なかった＜一目すらだに眠れなかった＞そうだ)。ヤ˞ナッサー˜ク [ja˞nassaː˜ku](性質の悪い咳。結核性の咳)。「咽、サクリ」『類聚名義抄』の転訛した語であろう。ッ˞サー˜ク ˞スン [s˞saː˜ku ˞suŋ](咳をする)。カ˞ラッサーク [ka˞rassaːku](痰のでない咳)。˞シーラッサー˜ク [˞ʃiːrassaː˜ku](冷え込みからくる咳)、ユ˞ビッサーク [ju˞bissaːku](喘息。ビービー喉を鳴らしながら、あえぎあえぎ咳き込むもの)などがある。

ッ˞サーク [s˞saːku] 【名】仕事。職業。職。˞ワーヌー˜シ ˞ブー˜ ッ˞サークバ＜シ˞グトゥバ＞シーブワ [˞waː nuː˜ʃi ˞buː˜ s˞saːkuba ＜ʃi˞gutuba＞ʃiːbuwa](君はどんな仕事をしているのか)。ッ˞サーフ [s˞saːɸu](仕事)(老年層) ともいう。「支度」の転訛したものか。˞ワー˜ マ˞ナ˜マー ˞ヌー˜ヌ ッ˞サークバ ˞シーブワ [˞waː˜ ma˞na˜maː ˞nuː˜nu s˞saːkuba ʃiːbuwa](君は今どんな仕事をしているか)。

ッ˞サーコー ナー˜ン [s˞saːkoː naː˜ŋ] 【連】余計なこと。「仕事がない」が原義。やるべき仕事がないから「余計なこと」、「差し出がましい」、「でしゃばる」、「さしでる」の意。ッ˞サーコー ナー˜ン ク˞トゥ˜バ ˞シー˜ プ˞スバ ザー˜パイ シ˞ミティ˜ ヌーヤ ウ˞レー [s˞saːkoː naː˜ŋ ku˞tu˜ba ˞ʃiː˜ pu̥˞suba ʤaː˜pai ʃi˞miti˜ nuːja ʔu˞reː](余計なことをして、人さまに迷惑をかけて＜厄介なことさせて＞何だね、これは)。

ッ˞サーッサー [s˞saːssaː] 【副】1しらじら (白々) と。夜が次第に明けて白むさま。[ʃiraʃira](白々)→[ssaːssaː](白々)/CV1rV2/の V1 が狭母音の条件下で逆行同化したもの。ッ˞サーッサー˜シ ˞ユー˜ヤガ˞リ˜ケーン [s˞saːssaː˜ʃi ˞juː˜ja ga˞ri˜keːŋ](白々と夜が明けてきた)。2薄ぼんやりと。あまりはっきりしないさま。˜アッパー シ˞ラカタ˜チェー ッ˞サーッサー˜シ ウ˞ボー˜リン [˜ʔappaː ʃi˞rakata˜ʧeː s˞saːssaː˜ʃi ʔu˞boː˜riŋ](御祖母さんの面影＜顔形＞はぼんやりと思い出される)。

ッサーッ˞サー˜シ [ssaːs˞saː˜ʃi] 【副】かすかに。ぼんやりと。薄薄(ウスウス)。ム˞カシ˜ヌ ˜クトー ッサーッ˞サー˜シ ウ˞ムイザサ˜リン [mu˞kaʃi˜nu ˜ku̥toː ssaːs˞saː˜ʃi ʔu˞muiʤasa˜riŋ](昔のことはぼんやりと思い出される)。

ッ˞サーフ [s˞saːɸu] 【名】仕事。職業。(老年層)。若年層は、ッ˞サーク [s˞saːku](仕事) ともいう。ッ˞サーフン＜ッ˞サークン＞ ナー˜ムティ ˞ヌー˜ル ˞スーテー ナー˜ン ナー˞イ˜ ア˞サビ ベー [s˞saːɸun＜s˞saːkun＞ naː˜muti ˞nuː˜ru ˞suːteː naː˜n naː˞i˜ ʔa˞sabi beː](仕事＜職業＞もなくて何をするとてもなく、ただ遊んでいる)。

ッ˞サーラ [s˞saːra] 【名】下の方。˞キー˜ヌ ッ˞サーラー˜ラー ˞ウイ ヌーリ˜ パルン [˞kiː˜nu s˞saːraː˜raː ˞ʔui nuːri˜ paruŋ](木の下から上に上っていく)。ウ˞レー˜ ッ˞サーラー˜ ウ˞ラ˜シ [ʔu˞reː˜ s˞saːraː˜ʔu˞ra˜ʃi](それは下へ降ろしなさい)。˞キーヌッサー˜ラー ピ˞ラ˜ケーバ ˞キーヌッサーン˜ナーティ ア˞サビ [˞kiːnussaː˜raː piːra˜keːba ˞kiːnussaːn˜naːti ʔa˞sabi](木の下は涼しいから木の下で遊びなさい)。

ッ˞サーラシ˜パン [s˞saːraʃi˜paŋ] 【名】両足をぶら下げて縁側に座ること。「下げ足」の義。農民は余所の家を訪ねても普通は縁側に腰を掛けて話すのが良いとされていた。奥へ上がって話すのは老人か、怠け者がすることと教えられていた。˜アイニ ッ˞サーラシ˜パン ˞サンドー˜シ ウ˞チンター ペー˜リ ˜サー ˜ヌミバ [˜ʔaini s˞saːraʃi˜pan ˞sandoː˜ʃi ʔu˞ʧintaː peː˜ri ˜saː ˜numiba](そんなに両足をぶら下げて座らないで、奥へ上がってゆっくりとお茶を飲みなさいよ)。

ッ˞サーラ˜スン [s˞saːra˜suŋ] 【他動】垂らす。ぶら下げる。吊るす。˜シナ ッ˞サーラ˜シティ カ˞サマスンティ˜ シ˞タンドゥ˜ ッ˞サーラサラン˜シェン [˜ʃina s˞saːra˜ʃi̥ti kḁ˞samasunti˜ ʃi̥˞tandu˜ s˞saːrasaraŋ˜ʃeŋ](綱を垂らして捕まえさせようとしたが、垂らされなかった)。˜シナ ッ˞サーラ˜スンティ ˜ウムーカー ˜クマーラ ッ˞サーラ˜スクトー ナルン [˜ʃina s˞saːra˜sunti ˜ʔumuːkaː ˜kumaːra s˞saːra˜su ˜ku̥toː ˜naruŋ](綱を垂らそうと思うなら、ここから垂らすことは出来る)。˞マー˜ビン ッ˞サーラ˜シェー ˜ミサムヌ [˞maː˜bin s˞saːra˜ʃeː ˜misamunu](もっと垂らせばいいのに)。ッ˞サーラ˜シバ [s˞saːra˜ʃiba](垂らしなさいよ)。

ッ˞サーリカサーリ [s˞saːrikasaːri] 【副】塞ぎ妨げているさま。立ち塞がるさま。プ˞スヌ˜ マンタナー ッ˞サーリカサーリ サンドー˜シ カ˞シーカ

シー˥　ビ˞リティ˥　ミリバ [pu̥˞sunu˥ mantana: s˞sa:rikasa:ri sando:˥ʃi kḁ˞ʃi:kaʃi:˥ bi˞riti˥ miriba](人の前に立ち塞がらないで、しっかり座って観なさいよ)。

ッ˞サー˥ル [s˞sa:˥ru] 【名】 (動) シロアリ (白蟻)。シロアリ目の昆虫の総称。木材の中に巣食って家屋に大被害を与える。薪を竈にくべて煮炊きをしていた時はあまり発生しなかったが、石油コンロ、ガスコンロの時代に入って家屋の柱に発生するシロアリが増えたという。カ˞マチ˥ナ　タ˞ム˥ヌ　˞モーサン　ナッ˥ター　ッ˞サール˥ヌ　シ˞ディ˥ルツォー [ka˞matʃi˥na ta˞mu˥nu ˞mo:san nat˥ta: s˞sa:ru˥nu ʃi˞di˥rutso:](竈に薪を燃やさないようになったのでシロアリが発生するようになったそうだ)。ム˞カ˥シェー　˞ヤーカー˥ジ　カ˞マチ˥ナー　タ˞ム˥ヌ　˞モースンダ˥　ッ˞サー˥ロー　˞ペーラン˥シェンドゥ　マ˞ナ˥マー　˞コンロ˥シル　˞イー˥ユン　バ˞カスンダ˥　ッ˞サール˥ヌ　˞ヌーリ˥　ナ˞ラ˥ヌ [mu˞ka˥ʃe: ˞ja:ka:˥ʤi ka˞matʃi˥na: ta˞mu˥nu ˞mo:sunda˥ s˞sa:˥ro: ˞pe:raŋ˥ʃendu ma˞na˥ma: ˞konro˥ʃi:ru ˞ʔi:˥jum ba˞kasunda˥ s˞sa:ru˥nu ˞nu:ri˥ na˞ra˥nu](昔は家毎に竈で薪を燃やすから白蟻は入らなかったが、今はコンロでご飯も炊くから白蟻が家に上ってたまらない)。

ッ˞サー˥ルン [s˞sa:˥ruŋ] 【自動】ぶら下がる。˞キーヌ˥ユダナー　ッ˞サー˥ルンティ　シ˞タンドゥ˥　ッ˞サーラン˥シェン [˞ki:nu˥judana: s˞sa:˥runti ʃi̥˞tandu˥ s˞sa:raraŋ˥ʃeŋ](木の枝にぶら下がろうとしたが、ぶら下がれなかった)。ッ˞サー˥リ　˥ミサカー　ッ˞サー˥ルクトー　ヤ˞シ˥ムヌ˞ゲ˥ラ [s˞sa:˥ri ˥misaka: s˞sa:ru˥ ku̥to: ja˞ʃi˥munu˞ge˥ra](ぶら下がってよければ、ぶら下がることは簡単＜容易いもの＞さ)。ッ˞サー˥レー　˥ミサムヌ [s˞sa:˥re: ˥misamunu](ぶら下がれば良いのに)。˥クナー　ッ˞サー˥リ [˥kuna: s˞sa:˥ri](ここにぶら下がれ)。˞キーヌ˥ユダナ　ッ˞サー˥ルンティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　ッ˞サーラン˥ドーシ　ウ˞ル˥タ [˞ki:nu˥judana s˞sa:˥runti ʔu˞mu:tan˥du s˞sa:ran˥do:ʃi ʔu˞ru˥ta](木の枝にぶら下がろうと思ったが、ぶら下がらないで下りた)。˥クナー　ッ˞サー˥リ　˥ミサカー　ッ˞サー˥ル　˥クトー　˥ナルン [˥kuna: s˞sa:˥ri ˥misaka: s˞sa:˥ru ˥ku̥to: ˥naruŋ](ここにぶら下がってよければ、ぶら下がることはできる)。ッ˞サー˥リバ [s˞sa:˥riba](ぶら下がれよ)。

ッ˞サールン [s˞sa:ruŋ] 【自動】塞がる。閉じる。「閉、フサガル」『類聚名義抄』の転訛したもの。キ˞ジェー　ミッカ˥シ　フ˞チ˥　ッ˞サールン [ki˞ʤe: mikka˥ʃi ɸu̥˞ʧi˥ s˞sa:ruŋ](傷は三日で口が塞がる)。フ˞チ˥　ッ˞サーリティ˥　ムニ　イ˞ザヌ [ɸu̥˞ʧi˥ s˞sa:riti˥ muni ʔi˞ʤanu](口を閉じてものを言わない)。フ˞チ˥　ッ˞サーランドー˥シ　˥ムニン　イ˞ジ˥バ [ɸu̥˞ʧi˥ s˞sa:rando:˥ʃi ˥muniŋ ʔi˞ʤiba](口を閉じないでものも言いなさいよ)。キ˞ジェー˥　フ˞チ˥　ッ˞サーリ　ナー˥ヌ [ki˞ʤe:˥ ɸu̥˞ʧi˥ s˞sa:ri na:˥nu](傷は口を閉じてしまった)。キ˞ジフチヌ˥　ッ˞サール˥クトー　˞ナー˥ヌ [ki˞ʤiɸutʃinu˥ s˞sa:ru˥ ku̥to: ˞na:˥nu](傷口が塞がることはない)。˞パー˥ク　ッ˞サーレー˥　ミサムヌ [˞pa:˥ku s˞sa:re:˥ misamunu](早く塞がればいいのに)。˞パー˥ク　ッ˞サーリ [˞pa:˥ku s˞sa:ri](早く塞がれ)。フ˞チェー˥　ッ˞サールンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　˞ウー˥ミティ　ッ˞サーラヌ [ɸu̥˞ʧe:˥ s˞sa:runti˥ ʔu˞mu:n˥du ˞ʔu:˥miti s˞sa:ranu](傷口は塞がると思うが、化膿して塞がらない)。ッ˞サーリ　ヤッ˥サン [s˞sa:ri jas˥saŋ](塞がりやすい)。˞ナンク˥ル　ッ˞サール˥クトー　˞ナー˥ヌ [˞naŋku˥ru s˞sa:ru˥ ku̥to: ˞na:˥nu](自然に口が塞がることはない)。˞マー˥ビン　フ˞チ˥　ッ˞サーレー˥　ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ɸu̥˞ʧi˥ s˞sa:re:˥ misamunu](もっと口が塞がればいいのに)。˞パー˥ク　ッ˞サーリ [˞pa:˥ku s˞sa:ri](早く塞がれ)。

ッ˞サー˥ン [s˞sa:˥ŋ] 【形】臭(クサ)い。カ˞ザヌ˥　ッ˞サー˥ン [ka˞ʤanu˥ s˞sa:˥ŋ](匂いが臭い)。ッ˞サー　ナー˥ヌ [s˞sa: na:˥nu](臭くない)。カ˞ザヌ˥　ッ˞サー˥ヌ　ン˞カーラヌ [ka˞ʤanu˥ s˞sa:˥nu ʔŋ˞ka:ranu](匂(ニオイ)が臭くてたまらない)。シ˞ンダイ˥　ッ˞サー˥　ナルン [˞ʃindai˥ s˞sa:˥naruŋ](次第に臭くなる)。ッ˞サー˥　ムノー　シ˞ティリ [s˞sa:˥ muno: ʃi̥˞tiri](臭い物は捨てれ)。˞マー˥ビン　ッ˞サー˥カー　˥ミサムヌ [˞ma:˥bin s˞sa:˥ka: ˥misamunu](もっと臭ければいいのに)。

˥ッサイ [˥ssai] 【名】白髪。「しらげ (白毛)」の転訛したもの。バ˞カ˥ッサイ [ba˞ka˥ssai](˞若白髪」) の義。ヤ˞ラ˥ビ　˞ヤッタンティン˥　ッ˞サイ˥ヌ　˞ムイ˥ル　プ˞スン　ブン˥ダー [ja˞ra˥bi ˞jattantin˥ s˞sai˥nu ˞mui˥ru pu̥˞sum bun˥da:](子供でも白髪の生える人がいるよ)。

˥ッサイクサイ [˥ssaikusai] 【名】米など穀物を精げて糠やあら＜粗＞を除去すること。精米すること。「精げ拵(コサ)え」の転訛。ム˞チマイヤー˥　ッサイクサイ　˞シー˥　シ˞キ˥リバ [mu˞ʧimaija:˥ ssaikusai ˞ʃi: ˥ʃi̥˞ki˥riba](糯米は精米しておきなさいよ)。

˥ッサイマイ [˥ssaimai] 【名】白米。精白米。精白した

米。˩精米、ジャウマイ、精、シラゲ、共ニ白米」『文明本節用集』の義。˥ッサイマイヤー　ッ˩ふァイキシ　ナーン˥バ　マ˩タ˥　パ˩マイ˥　ッサイ　シ˩キ˥リ˩ヨー [˥ssaimaija f˩faikiʃi naːm˥ba ma˩ta˥ pa˩mai˥ ssai ʃi̥˩ki˥ri˩joː](精白米は食べ尽くした＜食べきって、もう無い＞から食糧＜飯米＞用に精米して＜搗き精げて＞おきなさいねえ)。

ッ˩サイ˥ルン [s˩sai˥ruŋ] 【他動】精げる。精米する。˩マイ˥　ッ˩サイ˥ルンティ　˩ベー˥ヌ　˩タンガ˥シェー　ッ˩サイララ˥ヌ [˩mai˥ s˩sai˥runti ˩beː˥nu ˩taŋga ˥ʃeː s˩sairara˥nu](米を精げようとしているが、一人では精げられない)。

ッ˩サイルン [s˩sairuŋ] 【他動】塞ぐ。「塞げる」の義。˥アナ　ッ˩サイルンティ　スンドゥ˥　ムッ˩トゥ˥　ッ˩サイララヌ [˥ʔana s˩sairunti sundu˥ mut˩tu˥ s˩sairaranu](穴を塞ごうとするが、ちっとも塞がれない)。ッ˩サイル˥　トンラ　シ˩ダキ˥　ッ˩サイリ [s˩sairu˥ tonra ʃi˩daki˥ s˩sairi](塞ぐところから先に塞げ)。ッ˩サイ　ヤッ˥サー　˥トンラ　˩パー˥ク　ッ˩サイレー˥＜ッ˩サイ˥ヤー＞　ミサムヌ [s˩sai jas˥saː ˥tonra ˩paː˥ku s˩saireː˥＜s˩sai˥jaː＞ misamunu](塞ぎやすい所から早く塞げばよいのに)。ク˩ヌ˥　アナー　ッ˩サイリ [ku˩nu˥ ʔanaː s˩sairi](この穴は塞げ)。

ッ˩サイ˥ルン [s˩sai˥ruŋ] 【自動】血の気が失せて顔面蒼白になる。ウ˩ダラカ˥スカー　˥イロー　ッ˩サイ˥ルンティ　ス˩クタヌ　ナン˥ゾー　˥イロー　ッ˩サイラン˥シェン [ʔu˩darakaˀsuka ˥ʔiroː s˩sai˥runti su̥˩kutanu nan˥ʥoː ˥ʔiroː s˩sairaŋ˥ʃeŋ](驚かしたら顔面蒼白になる＜色は白む＞と聞いたが、あまり顔面蒼白にならな＜色は白まな＞かった)。˥イル　ッ˩サイ˥ル　˥クトー　˩ナーヌ˥ヌ　プ˩スケン˥マー＜プ˩スケンナー＞　˥イル　ッ˩サイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˥ʔiru s˩sai˥ru ˥kutoː ˩naːnu˥nu pu̥˩sukem˥ maː＜pu̥˩sukennaː＞ ˥ʔiru s˩sai˥jaː ˥misamunu](顔面蒼白になることはないが、一度ぐらいは顔面蒼白になればいいのに)。

˥ッサウン [˥ssauŋ] 【他動】米を搗く。精げる。精米する。「精、シラグ」『類聚名義抄』の転訛したもの。シ˩キ˥ウシ [ʃi˩ki˥ʔuʃi](搗き臼) に米を入れて、イ˩ナシ˥キ [ʔi˩naʃi̥˥ki](杵) で搗いて精米した。˩ソー˥ラン　˥シゥカイバー　˩マイ˥　ッサウンティ　˩ベー˥ヌンドゥ　˩タンガ˥シェー　ッ˩サーラン˥バ　˩ワンヌン˥　ッサイ　ッ˩ふィーリ [˩soː˥ran ˥si̥kaiba: ˩mai˥ ssaunti ˩beː˥nundu ˩taŋga˥ʃe: s˩saːram˥ba ˩wannun˥ ssai ˩ffiːri](お盆用のお米を精米しようとしているが、一人では精米できないので君も精米し＜精げ＞てくれ)。˩マイ˥　ッサウ　ピンマー　ナ˩カ˥シケー　シゥ˩カシティ˥　ッ˩サイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˩mai˥ ssau ˥pimmaː na˩ka˥ʃi̥ke: si̥˩kaʃiti s˩sai˥jaː ˥misamunu](米を搗く＜精げる＞時は、臼の内側に揺輪を付けて米が飛散しないようにして搗け＜精げれ＞ば良いのに)。キュー˩ズー˥ナ　˥ッサイ [kjuː ˩ʥuː˥na ˥ssai](今日中に精米せよ＜精げろ＞)。

˥ッサウン [˥ssauŋ] 【自動】血の気が失せて顔面蒼白になる。「白む」の義。ウ˩ダラ˥キティ　˥イロー　˥ッサイ　˩フッツォーリベー [ʔu˩dara˥kiti ˥ʔiroː ˥ssai ˩ɸuttsoːri beː](驚いて顔面蒼白になり、震えている)。˥イル　˥ッサウ　˥ピンマー　˩ミー˥ヤ　トゥ˩ビス [˥ʔiru ˥ssau ˥pimmaː ˩miː˥ja tu˩bisu](顔面蒼白になるときは、目が空(ウツロ)になる＜目が飛ぶ＞)。˩ナン˥ゾー　˥イロー　ッ˩サー˥ヌ [˩nan˥ʥoː ˥ʔiroː s˩saː ˥nu](あまり顔色は蒼白にならない)。

ッ˩サウン [s˩sauŋ] 【他動】塞(フサ)ぐ。閉じる。˥アナ　ッ˩サウンティ　スヌ˥　ッ˩サーラヌ [˥ʔana s˩saunti sunu˥ s˩saːranu](穴を塞ごうとするが、塞がれない)。ッ˩サイ　ヤッ˥サ　˥ムノーラ　ッ˩サイ˥バ [s˩sai jas ˥sa ˥munoːra s˩sai˥ba](塞ぎやすいものから塞げよ)。ッ˩サウ　ムノー　パー˥ク　ッ˩サイヤー˥　ミサムヌ [s˩sau munoː paː˥ku s˩saijaː˥ misamunu](塞ぐものは早く塞げばよいのに)。フ˩チェー˥　ッ˩サイティ˥　ムネー　イ˩ザヌ [ɸu̥˩ʧe:˥ s˩saiti˥ mune: ʔi˩ʥanu](口を閉じて＜塞いで＞ものをいわない)。

ッ˩サカクチ [s˩sakakuʧi] 【名】下顎。ッ˩サカクチヌ　トゥン˥ガリティ　ソー˩ンドゥ˥　ビ˩キドゥムヌ˥　シ˩ラカタ˥チ　˩ニーブ [s˩sakakuʧinu tuŋ˥gariti soː˩ndu˥ bi˩kidumunu˥ ʃi˩rakata˥ʧi ˩niːbu](下顎が尖(トガ)って、ちょうど男の顔貌に似ている)。

ッ˩サ˥ガリ [s˩sa˥gari] 【名】薄明るいさま。夜が明けて辺りが薄明るくなること。˩ユー˥ワ　キサー˩ティ˥　ッ˩サ˥ガリ　˩シェー˥チバ　˩パー˥ク　ウ˩キ˥リ [˩juː˥wa ki̥sa:˩ti˥ s˩sa˥gari ˩ʃeː˥ʧiba ˩paː˥ku ʔu˩ki˥ri](夜はすでに白々と明けている＜白明かりしている＞から早く起きなさい)。

˥ッサ　カ˩ルン [˥ssa ka˩runŋ] 【連】まぐさ (秣) を刈る。牛や山羊のかいば (飼葉) を刈る。ウ˩シヌ˥　ッサ　カ˩ルンティ　ベー [ʔu˩ʃinu˥ ssa ka˩runti beː](牛の秣(マグサ)を刈っている＜刈ろうとしている＞)。ピ˩ビザヌ˥　ッサ　カ˩ル　モー˥　ヤ˩ラビ˥ヌ　シ˩グトゥ　ヤッタ [pi˩biʥanu˥ ssa ka˩ru moː˥ ja˩rabi˥nu ʃi

ˈguru jatta](山羊の草＜秣＞を刈るのは子供の仕事だった)。˥ガヤー　˥スルン [ˈgaja: ˥suruŋ](茅を刈る＜剃る＞) というが、˥ガヤー　カˈルン [ˈgaja: kaˈruŋ](茅を刈る) とは言わない。

ッˈサクイ [sˈsakui] 【名】しわがれ声。ッˈサクイ˥シムˈニ˥バ　イˈゾー˥ルンダ　ナˈクラー˥ヌ　スˈバー˥　パˈララ˥ヌ [sˈsakui˥ʃi muˈni˥ba ʔiˈʤo:˥runda naˈkura:˥nu suˈba:˥ paˈrara˥nu](しわがれ声で話される＜ものを言われる＞から怖くて傍へ行くことが出来ない＜行かれない＞)。

ッˈサクサイ [sˈsakusai] 【名】下ごしらえ (下拵え)。事前準備。料理や農作業などの下ごしらえ。ˈナーッス˥ヌ　ッˈサクサイヤー　シーシキ˥リˈヨー [ˈna:ssu˥nu sˈsakusaija: ʃi:ʃi̥ki˥riˈjo:](苗代の下ごしらえ＜下準備＞はしておきなさいよ)。

ッˈサザラ˥スン [sˈsaʤara˥suŋ] 【他動】風雨に晒す。フˈルドン˥グ　ヤˈリバ˥ティ　ˈシー˥　ッˈサザラ˥シ˥シケーンドゥ　˥アイニ　ッˈサザラサン˥ドーシ˥トゥリシキバ [ɸuˈrudoŋ˥gu jaˈriba˥ti ˈʃi:˥ sˈsaʤara˥ʃi ˥ʃike:ndu ˥ʔaini sˈsaʤarasan˥do:ʃi ˥turiʃi̥kiba](古道具だからとて雨晒しにしてあるが、あんなに雨晒しにしないで、取っておきなさいよ)。

ッˈサ˥ザリ [sˈsa˥ʤari] 【名】1真っ白。真っ白な歯を出して笑うこと。「白晒し」の転訛したものか。ミˈルコー˥　ッˈサ˥ザリ　ˈシール˥　バˈライ　ヨー˥ル [ミˈルコー˥ sˈsa˥ʤari ˈʃi:ru˥ baˈraijo:˥ru](弥勒様は真っ白な歯を出して笑っていらっしゃる)。2衣類が風雨に晒されてくたびれ＜草臥れ＞ること。桶などが日に晒されてからからに乾くこと。ˈワータン˥ゴー　ッˈサ˥ザリ　ˈシー　ベー˥バ　ウˈリ˥シェー　ミˈジ˥　カˈタマラ˥ヌ [ˈwa: taŋ˥go: sˈsa˥ʤari ˈʃi:be:˥ba ʔuˈri˥ʃe: miˈʤi˥ kạˈtamara˥nu](君のたご＜担桶＞は日晒しているので、これでは水は担がれない)。ッˈサ˥ザリ　ˈスン˥ケン　ˈキン˥バ　キˈシェー˥ティ　ˈアーキ˥バ　キˈムイ˥ツァーˈツォー [sˈsa˥ʤari ˈsuŋ˥keŋ ˈkim˥ba kiˈʃe:˥ti ˈʔa:ki˥ba kiˈmui˥tsa:ˈtso:](風雨に晒されて草臥れるまで着物を着ているのを見ると気の毒だよ)。

ッˈサシゥカイ [sˈsasi̥kai] 【名】雑用に使う子供。手伝い人。走り使い。小間使い。「下使い」の義。ヤˈラ˥ビ　ˈシェーン˥ケンラ　ナーˈイ　ウン˥ネヌ　ッˈサシゥカイ　シール　ガッ˥コーン　ンˈズタ˥ル [jaˈra˥bi ˈʃe:ŋ˥kenra na:ˈi ʔun˥nenu sˈsasi̥kai si:ru gak˥ko:n ʔnˈʤuta˥ru](子供の頃からあの家の走り使いをしながら学校もでたよ)。

ッˈサシキ [sˈsaʃiki] 【名】下敷き。ッˈサシキ˥　シˈカバル　ジーヤ˥　カˈキヤッ˥サ [sˈsaʃiki˥ ʃi̥ˈkabaru ʤi:ja˥ kạˈkijas˥sa](下敷きを敷いた方が字は書きやすい)。下敷き。下に敷くもの。˥イダフニヌ　スˈク˥ナータˈム˥ヌ　ッˈサシケー˥　シˈミティ˥　ウˈヌ　ウイラ　マイダーラー˥　シˈミ˥バ [˥ʔidaɸuninu sụˈku˥na: taˈmu˥nu sˈsaʃi̥ke:˥ ʃiˈmiti˥ ʔuˈnu ʔuira maida:ra:˥ ʃiˈmi˥ba](板舟＜サバニ＞の底に薪を下敷きに積んで、その上から米俵を積みなさいよ)。ˈウン˥バ　バˈタナカ˥ラ　ッˈサシケー　シーティ˥　イーッˈふァーン˥カー　˥バター　ミˈツァサラ˥ヌ [ˈʔum˥ba baˈtanaka˥ra sˈsaʃi̥ke: ʃi:ti˥ ʔi: fˈfa:ŋ˥ka: ˥bata: miˈtsasara˥nu](イモを腹半分食べて下敷きにして、お米のご飯を食べないと腹は満たされない)。

ッˈサ˥ジナー [sˈsa˥ʤina:] 【名】魚脅しの綱。「草綱」の義。藁綱にバˈラフ˥タ [baˈraɸụ˥ta](稲藁) や茅を結んで垂らし、海中で動かして魚を脅しながら袋網の方へ誘導する綱。˥キタアン [˥ki̥taʔaŋ](桁網) に繋いで片方は干瀬の頂の方へ張り、片方は海岸の浜の方へ張って、時々引き動かして魚を脅す。ッˈサ˥ジナー　イˈズ˥　ウˈドーシムヌゲ˥ラ [sˈsa˥ʤina: ʔiˈʤu˥ ʔuˈdo:ʃimunuge˥ra](草綱は魚脅しの綱＜魚脅しもの＞さ)。

ッˈサシバ [sˈsaʃiba] 【名】下唇。ˈオーシバ [ˈʔo:ʃiba](上唇) の対義語。ッˈサシバー　フイッ˥ツァメーティ　プˈスバ˥　イˈズンティル　オー˥ル [sˈsaʃiba: ɸuit˥tsame:ti pụˈsuba˥ ʔiˈʤuntiru ʔo:˥ru](下唇を噛みしめて人を叱りつけようとしておられる)。ッˈサシバヌ˥　ピˈサー˥　ミˈドゥ˥モー　ˈゾー˥　アˈサーン˥ツォー [sˈsaʃibanu˥ piˈsa:˥ miˈdu˥mo: ˈʤo:˥ ʔaˈsa:n˥tso:](下唇の薄い女は情が浅いそうだ)。

ッˈサスクリ˥ムヌ [sˈsasukuri˥munu] 【名】穀物類。米、麦、粟、豆等の穀類を収穫する作物。「草作物」の義か。ッˈサスクリ˥ムノー　イッˈケン　ノー˥レーン [sˈsasukuri˥muno: ʔikˈken no:ˈre:ŋ](穀類の作物は非常に豊作になって＜稔って＞いる)。

ッˈサスン [sˈsasuŋ] 【他動】知らせる。シゥˈカスン (聞かせる) とも言う。ターˈンナー˥カン　ッˈサスンティ˥　ウˈムータン˥ドゥ　ッˈササランシェン [taːˈnna:˥kan sˈsasunti˥ ʔuˈmu:tan˥du sˈsasaraŋʃeŋ](誰かに知らせようと思ったが知らされなかった)。ッˈサシ˥　ミサン [sˈsaʃi˥ misaŋ](知らせてよい)。プˈスンナー˥ニ　ッˈサス˥　クトー　ナˈラ˥ヌ [pụˈsunna: ˥ni sˈsasu˥ kuto: naˈra˥nu](他人に知らることな罷りならぬ)。ウˈヤン˥ナーネー　ッˈサシェー˥　ミサム

ヌ [ʔuˤjan˩naːneː sˤsaʃeː˩ misamunu](親には知らせればよいのに)。ヤー˞ディン˩　ッ˞サシ [jaːˤdin˩ sˤsaʃi](必ず知らせよ)。

ッ˞サソー˩リ [sˤsasoː˩ri] 【名】除草。草掻き。「草さくり <抉(サク)り。刳(サク)り >」の転訛。[sakuri] → [saɸuri] → [sauri] → [soːri] の音韻変化を経て形成された語であろう。普通は、˩ピラ [˩pira](篦(ヘラ)) やカ˞ノーシ [kaˤnoːʃi](金串状の篦) で畑や庭の草を根こそぎに取ることにいう。˞ウイ˩プソー　ッ˞サソーリ˩ル　ッ˞サーク˩ティ　ム˞カ˩シプソー　ア˞ゾーッタ˩ル [˞ʔuipu̥˩soː sˤsasoːri˩ru sˤsaːku˩ti ʔaˤʤoːtta˩ru](老人は草取りが仕事だ、と昔の人は言われたものだ)。

˩ッサ　˞ソールン [˩ssa ˞soːruŋ] 【連】篦などで除草する。「草さくる (抉(サク)る。刳(サク)る)」の転訛したもの。雑草などを篦で根こそぎにして除草すること。˩アッパー　˩ピラシル　パ˞タキ˩ヌ　˩ッサー　˞ソールンティ　オー˩ル [˩ʔappaː ˩piraʃi pḁˤtaki˩nu ˩ssa ˞soːrunti ʔoː˩ru](お祖父さんは篦で畑の除草を < 草をさくり取ろうと > しておられる)。

ッ˞サダン [sˤsadaŋ] 【名】下の段。積み重ねたものの下のもの。「下段」の義。ピ˞キウシヌ˩　ッ˞サダンヌ˩　パー　タ˞ティ˩ルン [pi̥ˤkiuʃinu˩ sˤsadannu˩ paː tḁˤti˩ruŋ](籾磨臼の下段の臼の歯をたてる < 歯を尖らせる >)。˞カンガンムチ˩ヌ　ッ˞サダンマー˩　マイ˞マイ˩シ　ス˞ク˩リ [˞kaŋgammutʃi˩nu sˤsadammaː˩ maiˤmaiʃi su̥ˤku˩ri](鏡餅の下段は大きく)。

ッ˞サディー [sˤsadiː] 【名】賄賂。袖の下。「下手」の義。ッ˞サディーバ˩　シュ˞カイヤー˩ティ　˞バー˩ケー　˞ペーリ˩　プサー　˞ナー˩ヌ [sˤsadiːba˩ si̥ˤkaijaː˩ti ˞baː˩keː ˞peːri˩ pu̥saː ˞naː˩nu](賄賂を使ってまで入りたくはない)。

ッ˞サ˩ディー　˞ナールン [sˤsa˩diː ˞naːruŋ] 【連】賄賂を請求する。「下手を伸ばす」の義。ム˞カシ˩ヌ　ヤ˞クニン˩マー　ッ˞サ˩ディ　˞ナール˩　プ˞スヌル　ゴー˩ラータツォー [muˤkaʃi˩nu jaˤkunim˩maː sˤsa˩di ˞naːru˩ pu̥ˤsunuru goː˩raːtsoː](昔の役人は賄賂を請求する人が多かったそうだ)。

ッ˞サ˩ナーパダ [sˤsa˩naːpada] 【名】生後三、四ヶ月頃の赤ちゃんの赤い肌の色が白みを帯びた色に変わる頃。ッ˞サ˩ナーパダヌ　ア˞ガッふァー˩マー　イッ˞ケナ˩　ア˞タラ˩サン [sˤsa˩naːpadanu ʔaˤgaffaː˩ma: ʔikˤkena˩ ʔaˤtara˩saŋ](生後三、四ヶ月の赤ちゃんの肌の色が変わる頃は非常に可愛い)。

ッ˞サ˩ナチ [sˤsa˩natʃi] 【名】秋。「白夏」の義。ス˞ムナチ [suˤmunatʃi](下夏) ともいう。ッ˞サナチ˩ヌ　˞オー˩ルカー　ピ˞ラキカジヌ　スイヨー˩ルン [sˤsanatʃi˩nu ˞ʔoː˩ruka: piˤrakikaʤinu suijoː˩ruŋ](秋 < 白夏 > の季節がいらっしゃると涼しい風が吹かれる < そよがれる >)。

ッ˞サ˩ナン [sˤsa˩naŋ] 【名】白波。しぶき < 飛沫 > を上げている波。ヤ˞ダン˩ブレービーヤ　ッ˞サナン˩ヌ　˩タティ　˞ブンダ˩　カ˞ジヌ˩　フ˞キン˩ギササー [jaˤdam˩bureːbiːja sˤsanan˩nu ˩tati ˞bunda˩ kaˤʤinu˩ ɸu̥ˤkiŋ˩gisaˤsaː](上原のヤダンブレ干瀬は白波を立てているから台風 < 風 > が吹きそうだよ)。

ッ˞サニー [sˤsaniː] 【名】船の底に積む貨物。船底に積む荷。フ˞ニ˩ヌ　ッ˞サニーヌ　ヨー˩カー　˩フネー　˞オングロー˩　ナリティ　ム˞ティグリ˩サン [ɸu ˞ni˩nu sˤsaniːnu joː˩kaː ˩ɸuneː ˞ʔoŋguroː˩ nariti muˤtiguri˩saŋ](船底に積む荷が少ない < 弱い > と船体は横揺れで不安定になり、操船しにくい)。

ッ˞サ˩ヌ　˩ミー [sˤsa˩nu ˩miː] 【連】草むら。雑草が生い茂るところ。プ˞スヌ˩　ブ˞ラーン　ナッ˩ター　˞ヤシ˩ケー　ッ˞サ˩ヌミー　˩ナリ　˞ナー˩ヌ [pu̥ˤsunu˩ buˤraːn nat˩taː ˞jaʃi̥˩keː sˤsa˩nu ˩miː ˩nari ˞naː˩nu](人がいなくなったので、屋敷は雑草が生い茂る草むらとなってしまった)。

ッ˞サヌレー [sˤsanureː] 【感】知らないねえ。「知らぬ、それは」の義。目下の者に対する応答詞。ウ˞ヌ　ッふァー　ヌー˩シ　˞ナッ˩タユー　˞ワー˩　ッ˞ソーレン?。ッ˞サヌレー　ヌー˩シ　˞ナッ˩タカヤー [ʔuˤnu ffaː nuː˩ʃi ˞nat˩tajuː ˞waː˩ sˤsoːreŋʔ。sˤsanureː nuː˩ʃi ˞nat˩takajaː](その子はどうなったか、貴方はご存知ですか。さあ、知らないねえ。どうなっただろうか)。

ッ˞サ˩バー [sˤsa˩baː] 【名】植物 (稲) の葉。「草葉」の義。ッ˞サバー˩ヌ　˞ニン˩ガイ　˞ソー˩ルン [sˤsabaː˩nu ˞niŋ˩gai ˞soː˩ruŋ](稲の葉が順調に成長することを祈る祈願をなさる)。稲や粟、野菜の葉っぱ。ッ˞サバー˩ヌ　˞ニンガイ˩ヤー　˞ユーニンガイナー˩ル　˞ソーッ˩タ˞ナー [sˤsabaː˩nu ˞niŋgai˩jaː ˞juːniŋgainaː˩ru ˞soːt˩taˤnaː](稲の草葉 < 下葉 > の祈願は旧暦三月の世願いの際になされたねえ)。

ッ˞サバー [sˤsabaː] 【名】下葉。野菜類の古い葉。ッ˞サパー [sˤsapaː](下葉) ともいう。ッ˞サバーヤ˩　カ˞カイティ　オーパー˩　カー˞ニ˩　ヌ˞カ˩シ [sˤsabaːja˩ kḁˤkaiti ʔoːpaː˩ kaːˤni˩ nuˤka˩ʃi](下葉は落として < 捥ぎ取って > 上葉だけ残せ)。

ッ˞サパー [sˠsapaː] 【名】下葉。植物の下の枯葉。ッ˞サバー [sˠsabaː](下葉) ともいう。˞オーパー [˞ʔoː-paː](上の葉。植物の上の若い葉) の対義語。˞ダイクニ˺ヌ　ッ˞サパーヤ˺　カ˞カイシティリ [˞daikuni˺nu sˠsapaːja˺ kạ˞kaiʃitiri](大根の下葉 < 枯葉 > は、もいで < 捥いで > 捨てろ)。

ッ˞サパー [sˠsapaː] 【名】下歯。˞オーパー [˞ʔoːpaː](上歯) の対義語。ッ˞サパー˺ナ　フ˞トゥッチパー˺ヌ　˺フ˞ターチ˺　アン [sˠsapaː˺na ɸụ˞tuttʃipaː˺nu ɸụ˞taːtʃi˺ ʔaŋ](下歯には虫歯 < 朽ち歯 > が二つある)。

ッ˞サバー˺ヌ　˞ソー˺ジ [sˠsabaː˺nu ˞soː˺ʤi] 【連】稲の下葉が枯れる病気に罹らないよう精進潔斎して祈願すること。ッ˞サバー˺ヌ　˞ニン˺ガイ [sˠsabaː˺nu ˞niŋ˺gai](稲の下葉の祈願) ともいう。

ッ˞サバー˺ヌ　˞ニン˺ガイ [sˠsabaː˺nu niŋ˺gai] 【連】下葉の祈願。稲や麦の葉が枯れる病気に罹らないように祈願する祭祀。旧暦三月の˞ユーニンガイ [˞juːniŋgai](世願い。< 壬(ミズノエ) >) の一連の祈願として、ム˞シヌニン˺ガイ [mu˞ʃinuniŋ˺gai](虫除けの祈願。< 丙(ヒノエ) >)、˞プーヌソー˺ジ [˞puːnusoː˺ʤi](稲穂の祈願 < 精進 >。< 庚(カノエ) >) と共に祈願された。稲や麦が順調に生育して実をはらむよう、暴風や害虫に遭わぬように、と豊作を祈願する村の祭祀。˞マイスクリプス˺ヌ　˞オーラ˺ン　˞ナッ˺ター　ッ˞サバー˺ヌ　˞ニン˺ガイン　˞ソーラン˺シェン [˞maisụkuripusu˺nu ˞ʔoːra˺n ˞nat˺taː sˠsaba˺nu ˞niŋ˺gain ˞soːraŋ˺ʃeŋ](稲作農家がいらっしゃらなくなったので、稲の草葉の祈願もなさらなかった)。

ッ˞サバタ [sˠsabata] 【名】下腹。下っ腹。ッ˞サバタヌ˺　ヤミ　ナ˞ラ˺ヌ [sˠsabatanu˺ jami na˞ra˺nu](下っ腹が痛んで堪らない)。

ッ˞サパタラキ [sˠsapataraki] 【名】1下働き。台所仕事。ミ˞ドーン˺ッふァヌ　˞ゴー˺ラーンダ　ッ˞サパタラケー　ソーヤ　ナー˺ヌ [mi˞doːŋ˺ffanu ˞goː˺raːnda sˠsapatarake: soːja naː˺nu](女の子が多いから台所仕事は心配ない)。2下男、下女働き。ウ˞ヤ˺キヤーナー　ッ˞サパタラキ　シープソー˺　ブ˞タン˺ダー [ʔu˞ja˺kijaːna: sˠsapatataraki ʃiːpusoː˺ bu˞tan˺daː](金持ちの家には下働きをする下男、下女がいたよ)。

ッ˞サ˺バヤー [sˠsa˺bajaː] 【名】皮膚病の一つ。丸く白い粉をふいたような症状を呈する。顔面白癬 (tinea of face)。俗にいう「はたけ」で、白癬により顔面にできる。小児に多く発生する『医学沖縄語辞典』。「白這い・もの」の義。

ッ˞サ˺バライ [sˠsa˺barai] 【名】薄笑い。冷笑。嗤(ワラ)うこと (嘲(アザケ)り笑う)。「白笑い」の義。口を開けて笑うのでなく、冷ややかに笑うこと。カ˞タフチピケー˺シ [kạ˞taɸutʃipikeː˺ʃi](微笑。ほほえみ。「片口引き」の義。温かみのある薄ら笑い。にっこり笑うこと) の対義語。プ˞スヌ　シーヨー˺バ　˺ミリティ　ナー˞イ˺　ッ˞サ˺バライ　˞シー　ベー [pụ˞sunu ʃiːjoː˺ba˺miriti naː˞i˺ sˠsa˺barai ˞ʃiː beː](他人のする様子を見て、ただ軽蔑の意を含んだ薄笑いをしている)。「白笑い」の転訛したもの。プ˞スバ˺　ウ˞サイ˺　ナー˞イ˺　ッ˞サ˺バライ　˞シー　ベー [pụ˞suba˺ ʔu˞sai˺naː˞i˺ sˠsa˺barai ˞ʃiː beː](人を小ばかにして、せせら笑って < 白笑いして > いるよ)。

ッ˞サビ [sˠsabi] 【名】楔。「轄、鍵也、久佐比 (くさび)」『新撰字鏡』の転訛したもの。枘(ホゾ)穴に貫き材を貫いて、その間に枘穴の両側から楔を打ち込んで柱の骨格を固定し、強化するもの。鋭三角形の長さ約 20 センチ程の楔。建築用材の切れ端を利用して作った。[sˠsabi] の促音は無声子音に挟まれた奥舌狭母音 [u] が無声化し、[kụsabi] → [ɸụsabi] → [ssabi] のような逆行同化による融合変化によって形成された語。ク˞マン˺　トンラ　ッ˞サビ　ホー˺シティ　カ˞タミリ [ku˞man˺ tonra sˠsabi hoː˺ʃi̥ti ka˞tamiri](ここの所から楔を打っ < かませ > て固めろ)。

ッ˞サピニ [sˠsapini] 【名】あごひげ (顎鬚)。したひげ (下鬚) の義。˞オーピニ [˞ʔoːpini](上髭) の対義語。ッ˞サピネー˺　ナー˞ナー˺シ　˞モー˺シ　˞ベー [sˠsapineː˺ naː˞naː˺ʃi ˞moː˺ʃi ˞beː](顎鬚を長く生やしている)。

˺ッサブ [˺ssabu] 【名】地名。白保村。siraho(白保) のように、CV1rV2～の音声環境で V1= 狭母音 i、u の場合、法則的に [r] → [s] の音韻変化を起こして、[ssa～] となる。ム˞カ˺シナール　˺ッサボーラ　カ˞ザケーヌ˺　ユ˞ミ˺ティ　˞シー˺　ッサブプスヌ　˞オーッ˺タティ　˞スー˺　パ˞ナ˺シェー　ス˞クタン [mu˞ka˺ʃinaːru ˺ssaboːra ka˞ʤakeːnu˺ ju˞mi˺ti ˞ʃiː˺ ssabupusunu ˞ʔoːt˺tati ˞suː˺ pa˞na˺ʃeː sụ˞kutaŋ](その昔、白保村から加治工家へ嫁として白保の人が来られたという話は聞いた < 聞いたことがある >)。

˺ッサブプス [˺ssabupụsu] 【名】白保人。白保の人。˺ッサブプソー　ム˞カシ˺ヌ　ツ˞ナミ˺ヌ　˺アトゥナー　パ˞ティルマー˺ラ　バ˞カリ˺ル　˞オー˺レーティバン˞ナー [˺ssabupụsoː mu˞kaʃi˺nu tsu˞nami˺nu ˺ʔatu-

na: paˈtirumaː˥ra baˈkari˥ru ˈʔoː˥reːtibanˈnaː](白保の人は、昔の大津波の後に波照間島から分かれてこられたんだってねえ)。

˥ッサベー [˥ssaeː] 【名】(動) 魚の名。和名、キュウセンの仲間 (体長約 6 センチ)。和名、ゴイシベラ (体長約 15 センチ)。和名、セナスジベラ (体長約 20 センチ)。和名、シロタスキベラの仲間 (体長約 20 センチ)。和名、キヌベラ (体長約 20 センチ)。和名、ギチベラ (体長約 25 センチ)。和名、クギベラ (体長約 25 センチ) などの総称。鳩間島では、キヌベラが˥ッサベーの代表で、子供たちはキヌベラを磯釣りして楽しんだ。˥ッサベーヤ ˈムン˥ダニ ッˈふァイムヌ ヤッタ [˥ssabeːja ˈmun˥dani fˈfaimunu jatta](キヌベラは餌を横取りするのが上手 < 餌食いもの > だった)。

ッˈサ˥ミー [sˈsa˥miː] 【名】睨むこと。下目に見ること。見下げた目つき。ッˈサミー˥ シゥˈカイ˥ プˈスバ˥ ミレー ナˈラ˥ヌ [sˈsamiː˥ si̥ˈkai˥ pu̥ˈsuba˥ mireː naˈra˥nu](下目を使って < 見下げた目つき > で他人を見てはならない)。

ッˈサムー˥ジ [sˈsamuː˥ʤi] 【名】はすいも (蓮芋、白芋)。サトイモ科の多年草。芋は小さく硬くて食用にならなかった。鳩間島では産しない。ッˈサムー˥ジェー パˈトゥ˥マナー ˈナーン˥シェン [sˈsamuː˥ʤeː pḁˈtu˥manaː ˈnaːŋ˥ʃeŋ](ハス芋は鳩間島にはなかった)。

ッˈサ˥ムニ [sˈsa˥muni] 【名】汚い言い草。他人の感情を害するような言葉。口汚い物言い。「腐れ物言い」の義。˥バタッサリムニ [˥batassarimuni](腹立たしいことば < もの言い >。「腹腐れもの言い」の義) ともいう。ウˈリヌ˥ ッサリムニ スˈク˥カー ターˈン クン˥ゾー ウˈクリ˥ス [ʔuˈrinu˥ ssarimuni su̥ˈku˥kaː taːˈŋ kun˥ʤoː ʔuˈkuri˥su](彼の汚い言い草を聞くと、誰でも立腹する)。

ッˈサムラ˥シ [sˈsamura˥ʃi] 【名】草むら。雑草の群生しているもの。畑の中で塊をなして密生する雑草。ッˈサムラ˥シ スˈクン˥ケン パˈタキ˥バ シˈティ˥ シケーバンˈナー [sˈsamura˥ʃi su̥ˈkuŋ˥kem pḁˈtaki ˥ba ʃi̥ˈti˥ ʃi̥keːbanˈnaː](雑草が草むらをなすまで、手入れもせず、放置し < 捨て置い > てあるんだねえ)。

ッˈサ˥ムン [sˈsa˥muŋ] 【自動】 1白くなる。白む。「クンジキンヌ˥ イロー ˥パギティ ッˈサ˥ミ ˈナー˥ヌ [ˈkunʤikinnu˥ ʔiroː ˥pagiti sˈsa˥mi ˈnaː˥nu](紺地染の着物の色が落ちて < 剥げて > 白くなってしまった)。2夜が白々と明ける。「ユー˥ヌ シˈラーシラー˥シ ッˈサ˥ムンケン ˥ウキ ˈベー˥ルンティ アˈズタンドゥ˥ ッˈサマン˥ケン ニˈビナーン˥シェン [ˈjuː˥nu ʃiˈraːʃiraː˥ʃi sˈsa˥muŋkeŋ ˥ʔuki ˈbeː˥runti ʔaˈʤutandu˥ sˈsamaŋ˥ken niˈbinaːŋ˥ʃeŋ](夜が白々と明けるまで < 白むまで > 起きていると言ったが、夜が白まないうちに寝てしまった)。「ユー˥ヤ ッˈサ˥ミ ˥パルン [ˈjuː˥ja sˈsa˥mi ˥paruŋ](夜は白々と明けて < 白んで > いく)。˥ビータリティ ˈユー˥ヌ ッˈサ˥ム ˥クトゥン ッˈサンシェン [˥biːtariti ˈjuː˥nu sˈsa˥mu ˥kutun sˈsaŋʃeŋ](酔い潰れて夜が白々と明けるのも知らなかった)。

ッˈサヤク [sˈsajaku] 【名】下役。ita〜が i 母音の無声化に伴って進行同化の音韻変化を起こしたもの。ッˈサヤコー ウイヤクヌ˥ アˈゾー˥ル ˈトゥー˥ルニル ˈウーカ˥リ ˥ドゥー ˈカッティ˥シェー ˈウーカラ˥ヌ [sˈsajakoː ʔuijakunu˥ ʔaˈʤoː˥ru ˈtuː˥runiru ˈʔuːka˥ri ˥duː ˈkatti˥ʃeː ˈʔuːkara˥nu](下役は上役の言われる通りにしか < ぞ > 動けない < 動かれる >。自分勝手には動かれない)。

ッˈサユダ [sˈsajuda] 【名】下枝。樹木の下枝。ッˈサユダヌ˥ タリ ッˈサー˥リ ˈベー˥ ムノー ˥キシ ウˈタ˥シバ [sˈsajudanu˥ tari sˈsaː˥ri ˈbeː˥ muno: ˥ki̥ʃi ʔuˈta˥ʃiba](下枝の垂れ下がっているものは切り落としなさいよ)。

˥ッサラスン [˥ssarasuŋ] 【他動】腐らせる。腐敗させる。˥ウナー シˈティシキ˥ルカー ッサラスンˈダー [˥ʔunaː ʃi̥ˈtiʃi̥ki˥rukaː ssarasunˈdaː](ここに放置しておくと腐らせるよ)。˥ッサラシ ˈナー˥ヌ [˥ssaraʃi ˈnaː˥nu](腐らせてしまった)。ウˈムイツァー˥ヌ ˥ッサラサラヌ [ʔuˈmuitsaː˥nu ˥ssarasaranu](勿体無くて腐らされない)。˥ッサラス ˥クトー ナˈラ˥ヌ [˥ssarasu ˥ku̥toː naˈra˥nu](腐らしてはならない < 腐らすことはならぬ >)。˥ッサラシェー ミサムヌ [˥ssaraʃeː ˥misamunu](腐らせば良いのに)。「パー˥ク ˥ッサラシ [ˈpaː˥ku ˥ssaraʃi](早く腐らせ)。

˥ッサリカーリ [˥ssarikaːri] 【名】腐れること。腐敗しきっていること。˥ッサリカーリ ˈシー ブー˥< ベー˥> ムˈヌ˥バ ミˈラ˥ムティ シˈティ˥ シケーティ ˥ッサリカザヌ ˈスン [˥ssarikaːri ˈʃiː buː˥< beː˥> muˈnu˥ba miˈra˥muti ʃi̥ˈti˥ʃi̥keːti ˥ssarikaʤanu ˈsuŋ](腐れ切っている物を見ないで放置して < 捨て置いて > あるので、腐った匂いがする)。

˥ッサリカザ [˥ssarikaʤa] 【名】腐った匂い。腐臭。カˈツシンヌ シーゾーヤー˥ヌ ˥マーラー ˥ユー イˈ

ズヌ˥　ッサリカザヌ　シ˩タン [kạ˩tsuʃinnu ʃiːʤoː-jaː˥nu ˥maːraː ˥juː ʔi˩ʤunu˥ ssarikaʤanu ʃị˩taŋ](カツオ漁船の鰹節製造工場＜製造屋＞の辺りは、よく魚の腐れた匂いがしたものだ)。

˥ッサリムヌ [˥ssarimunu] 【名】腐れたもの。腐敗物。饐えたもの。「腐り物」の義。˥ッサリムヌ　ッ˩ふー˥カー　˥バタ　ヤ˩ブ˥ルン [˥ssarimunu f˩fuː˥kaː ˥bata ja˩bu˥ruŋ](腐敗した＜饐えた＞ものを食べるとお腹を壊(コワ)す)。˥ッサリムノー　パ˩タ˥ケー　˥ムティ　˩ギー˥　パ˩タキ˥ヌ　˥コイ　˩シー [˥ssarimunoː pạ˩ta˥keː ˥muti ˩giː˥ pạ˩taki˥nu ˥koi ˩ʃiː](腐れたものは畑に持っていって畑の肥料にしなさい)。

˥ッサリルン [˥ssariruŋ] 【自動】腐れる。腐敗する。下一段系の動詞「腐れる」が四段活用化したもの。[kusareru] → [ɸụsariruŋ] → [ssariruŋ] のように逆行同化して形成された語。˥ッサルンとも言う。˥ッサリルンティ　˥ウムーカー　˩パー˥ク　˥ッサリランヨーニ　˥ガシ　シ˩キ˥リバ [˥ssarirunti ˥ʔumuːkaː ˩paː˥ku ˥ssariraŋjoːni ˥gaʃi ʃị˩ki ˥riba](腐れると思うなら腐れないように早く燻製にしておきなさいよ)。˥ッサリ　˩ヤッ˥サンティ　ア˩ズヌ˥　ッサリル　˥クトー　˩ナーン˥パジ [˥ssari ˩jas˥santi ʔa˩ʤunu˥ ssariru ˥kụtoː ˩naːm˥ paʤi](腐れ易いというが、腐れることは無いはずだ)。˥ッサリレー　˥ミサムヌ [˥ssarireː ˥misamunu](腐れればよいのに)。˩パー˥ク　˥ッサリリ [˩paː˥ku ˥ssariri](早く腐れろ)。

ッ˩サリルン [s˩sariruŋ] 【他動】申し上げる (謙譲語)。「知られる」の義。「おしられ　物を申上る事」『混効験集　乾・言語』の義。[sirare] → [ssaru] のように進行同化の音韻変化を起こしたもの。ッ˩サルンとも言う。˩シンシン˥ナーニ　ッ˩サリルンティ˥　ウ˩ムータン˥ドゥ　˥ッ˩サリラランシェン [˩ʃiŋʃin ˥nani s˩sarirunti˥ ʔu˩muːtan˥du s˩sariraraŋʃeŋ](先生に申し上げようと思ったが、申し上げられなかった)。ッ˩サリ˥ミサカー　˥バーラ　ッ˩サリル˥　クトー　ナルン˩ダー [s˩sari˥ misakaː ˥baːra s˩sariru˥ kụtoː narun˩daː](申し上げてよければ、私から申し上げてもいいよ)。˩ワー˥ラ　ア˩ジッサリレー˥　ミサムヌ [˩waː˥ra ʔa˩ʤissarireː˥ misamunu](君から申し上げればよいのに)。˩パー˥ク　ッ˩サリリ [˩paː˥ku s˩sariri](早く申し上げれ)。

ッ˩サリン [s˩sariŋ] 【自動】知れる。知られる。プ˩スン˥　ッ˩サラン　ヨーン˥バシ　˥ンジパリ [pụ˩sun˥ s˩saraŋ joːm˥baʃi ˥ʔnʤi ˥pari](他人に知られないように出て行け)。

ッ˩サルン [s˩saruŋ] 【他動】 1(謙譲語)。申し上げる。「知られる」の転訛したもの。ッ˩サリルンとも言う。˥バーラ　ッ˩サルン [˥baːra s˩saruŋ](私から申し上げる)。˩ワー˥ラン　ッ˩サリ˥バ [˩waː˥ran s˩sari˥ ba](君からも申し上げなさい)。˥クヌヨーニ　ッ˩サリ˥　ミサカー　ッ˩サル˥　クトー　˩ゾー˥サー　˩ナー˥ヌ [˥kunujoːni s˩sari˥ misakaː s˩saru˥kụtoː ˩ʤoː˥saː ˩naː˥nu](このように申し上げてよければ、申し上げることは問題はない＜造作ない＞)。˩ワー˥ラ　ッ˩サラバル˥　マ˩シ˥ヨー [˩waː˥ra s˩sarabaru˥ ma ˩ʃi˥joː](君から申し上げた方がよい＜ましだ＞よ)。 2補助動詞。申す、致す＜知られる＞(謙譲語)。˩言う、読む、する」などの動詞の連用形に付いて用いられる。˥バー　ア˩ジッサルン [˥baː ʔa˩ʤissaruŋ](私が申します＜言って・知らせます＞)。˥バー　˩シーッサラバ˥　ミリ　タ˩ボー˥リ [˥baː ˩ʃiː ssaraba˥ miri ta˩boː˥ri](私が致します＜し知られ＞ますから見てください)。

˥ッサルン [˥ssaruŋ] 【自動】腐る。腐敗する。下二段系の動詞「腐る」が四段活用化したもの。˥ッサリルンとも言う。˥アツァンダ　˩イー˥ヤ　˥ッサルンカヤーティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　˩ティー˥グナイ˩リティ˥　サイ　˥シケーター　˥ッサランシェン [˥ʔatsanda ˩ʔiː˥ja ˥ssarunti ʔu˩muːtan˥du ˩tiː˥guna ʔi ˩riti˥ sai ˥ʃị˩keːta: ˥ssaraŋʃeŋ](暑いから飯は腐れるかと思ったが、手篭(テカゴ)に入れて吊るしておいたら腐れなかった)。˥ッサル　˥クトー　˩ナーヌ˥ヌ　˥ッサリ　˩ヤッ˥サ　˥ムノー　タ˩ボーララヌ [˥ssaru ˥kutoː ˩naːnu˥nu ˥ssari ˩jas˥sa ˥munoː ta˩boːraranu](腐れることはないが腐れ易いものは保存＜貯えられ＞できない)。˥ッサレー　˥ミサムヌ [˥ssareː ˥misamunu](腐れれば良いのに)。˥ッサリリ [˥ssariri](腐れれ)。

˥ッサレー [˥ssareː] 【名】 1知らせごと。申し上げごと。旧暦三月の庚(カノエ)の日の夜、ヤ˩クˢサ [ja˩kuˢsa](村役人) によって執り行われる、明日の行事の際の各家庭の火の用心に関する注意喚起のための˩知らせごと」を裏声を使って実施すること。パ˩マウリソー˥ジヌ　˩マイ˥ヌ　˩ユー˥ロー　ヤ˩クˢサンケーヌ　˩ヤーカー˥ジ　˩マーレー˥ティ　˥ッサレー　ッ˩サローリ˥バ　バ˩カ˥ヤティ　ウ˩ヌス˥ク　バ˩ライバ　ウシキニジルンティル　オーッ˥タティ　˥ムカーヤ [pa˩maʔurisoːʤi˥nu ˩mai˥nu ˩juː˥roː ja˩ku ˥saŋkeːnu ˩jaːkaː˥ʤi ˩maːreː˥ti ˥ssareː s˩saroːri˥ba ba

ˈka˥jati ʔuˈnu˥su̥ku baˈraiba ʔuʃi̥kinicʤiruntiru ʔoːt˥tati ˥mukaːja](浜下り精進の前の夜は、村役人方が各家を回って「知らせごと」を申されるが、その模様が可笑しいので、家中の者が一所懸命笑いを堪(コラ)えようとしておられたものだよ)。2もうしもうし (申し申し)。知らせごと。「申し上げます」の義。ふれごと＜お触れ＞。パˈマウリソー˥ジ [paˈmaʔurisoː˥ʤi](浜下り精進) の前々日の夜、村のヤˈク˥サ [jaˈku˥sa] が西村と東村に手分けして、各家を回り、声色を使って˥ッサレー [˥ssareː](知られごと。お触れ) をする。人々はそれを神の声と信じているが、声色の可笑しさに口を押さえて堪え、ッサレーの立ち去った後に爆笑した。ッˈサレー˥ ッˈサレー アシ˥トー パˈマウリソー˥ジ ヤˈローッ˥タ シˈキン˥ヌ カˈマチヌ˥ アˈガムノーマ˥ヌ カˈキン˥グ ウˈクタローラン˥ヨーニ ˈミーマー˥ルン ˈソーリ˥ カˈマチヌ バン˥ヌ ミˈジェー˥マン スˈコーロー˥リˈヨー˥ ッサレー [sˈsareː˥ sˈsareː ʔasi̥˥toː paˈmaʔurisoː˥ʤi jaˈroːt˥ta ʃi̥ˈkin˥nu kaˈmatʃinu˥ ʔaˈgamunoːma˥nu kḁˈkiŋ˥gu ʔuˈkutaroːraŋ˥joːni ˈmiːmaː˥run ˈsoː˥ri kaˈmatʃinu ban˥nu miˈʤeː˥man su̥ˈkoːroː˥riˈjoː˥ ssareː](申し上げます。明後日は浜下り精進ですので竈の火＜赤いもの＞の格護を怠りなく、見回りもなされ、竈の番の水もご準備くださいませ。ッサレー)。

˥ッサン [˥ssaŋ] 【名】アタマジラミ。頭髪のシラミ(虱)。「虱、志良彌」『新撰字鏡』の転訛。イˈクサユー˥ヌ ˥アトゥナー ムーˈル˥ スˈブ˥ルナー ッˈサン˥ヌ ˥シディッサリ ˈベー˥ティ アˈメリカ˥ヌ ˈオー˥リ スˈブ˥ローラ ˥ディーディーティーバ マˈコーッ˥タヨー [ʔiˈkusajuː˥nu ˥ʔatunaː muːˈru˥ suˈbu˥runaː sˈsan˥nu ˥ʃidissari ˈbeː˥ti ʔaˈmerika˥nu ˈʔoː˥ri suˈbu˥roːra ˥diːdiːtiːba maˈkoːt˥tajoːˈ](戦後にはみんなの頭に虱がさんざんに湧いて発生していたので、アメリカ人が来られて頭から DDT を散布されたよ)。

ッサンˈコーラ [ssaŋˈkoːra] 【名】知らぬふり。そ知らぬ顔。ムーˈルˈシ ˥ヨイ ˈシー オースンティ ベー˥ムヌ ワˈター˥ ッサンˈコーラ˥シェー ブˈラン˥パジˈダー [muːˈruˈʃi ˥joi ˈʃiː ʔoːsunti beː˥munu waˈtaː˥ ssaŋˈkoːra˥ʃe: buˈraram˥ paʤiˈdaː](皆でお祝いをして差し上げようとしているのだから、君たちは知らぬふりは出来ないはずだよ)。

ッˈサンコーラー˥ン [sˈsaŋkoːraː˥ŋ] 【形】知らぬふりをして冷たい。人間関係に冷淡である。人間関係にあっさりしすぎる。ウˈヌプソー˥ アˈチウトゥザ˥ ヤˈルンドゥ˥ ッˈサンコー˥ラーンˈダー [ʔuˈnu pu̥soː˥ ʔaˈʧiʔutuʤa˥ jaˈrundu˥ sˈsaŋkoː˥raːnˈdaː](その人は非常に近しい親戚だが知らぬふりをして冷たいよ)。ミˈチェー˥ラ ˈゲーサウバン˥ ッˈサンコーラ˥ シール ˈオー˥ル [miˈʧeː˥ra ˈgeːsauban˥ sˈsaŋkoːra˥ ʃiru ˈʔoː˥ru](道で出会っても知らないふりをしておられる)。˥アイニ ッˈサンコーラー˥ル プˈソー˥ ブˈラーヌ [˥ʔaini sˈsaŋkoːraː˥ru pu̥ˈsoː˥ buˈraːnu](あんあに知らぬふりをして冷たい人はいない)。

˥ッサンス [˥ssansu] 【名】秋の季節風。「しらにし(白北風)」の義。˥ッサンスヌ スˈゴー˥レーチバ マˈナマンチン˥ パˈダム˥チン ˈカウリ˥ フˈユヌ˥ シチ ンˈカイソー˥ル [˥ssansunu suˈgoː˥reːʧiba maˈnamanʧiŋ˥ paˈdamu˥ʧiŋ ˈkauri˥ ɸuˈjunu˥ ʃi̥ʧi ʔŋˈkaisoː˥ru](秋の北風が吹いた＜そよがれた＞ので、すぐに肌心地＜気候が与える肌感触＞も変わって、冬の季節をお迎えになるよ)。

ッˈサンタ [sˈsanta] 【名】下の方。下方。「下の所」の義。ッˈサーラー [sˈsaːraː](下の方) ともいう。ˈキー˥ヌ ッˈサンタ˥ナー ニˈビベー [ˈkiː˥nu sˈsanta˥naː niˈbibeː](木の下に寝ている)。ˈワー˥ ッˈサンタ˥ナー ˥シケーティ シカイˈトゥ˥ ナˈラー˥シ ッˈふィーリ [ˈwaː˥ sˈsanta˥naː ˥ʃi̥keːti ʃi̥kaiˈtu˥ naˈraː˥ʃi fˈfiːri](君の下に置いて、しっかりと仕込んで＜教えて＞くれ)。

ッˈサンター˥ルン [sˈsantaː˥ruŋ] 【自動】白む。白くなる。白白ととと夜が明ける。ˈサンバンドゥル˥ヌ ナˈク˥カー ˈアンタヌ ティンマー˥ ッˈサンター˥ルン [ˈsambanduru˥nu naˈku˥kaː ˈʔantanu timmaː˥ sˈsantaː˥ruŋ](三番鶏が鳴いたら東の空は白む＜白白と夜が明ける＞)。ッˈサンターラ˥ヌ [sˈsantaːra˥nu](白まない)。ッˈサンター˥リ ˥ケーン [sˈsantaː˥ri ˥keːŋ](白んできた)。ˈティンヌ˥ ッˈサンター˥ル ジˈブン˥ナー ウˈコー˥シ [ˈtinnu˥ sˈsantaː˥ru ʤiˈbun˥naː ʔuˈkoː˥ʃi](空が白む頃に起しなさい)。

˥ッサン ッサルン [˥ssan ssaruŋ] 【連】虱が湧く＜虱がくされる＞。ガˈマ˥ジ アˈラーン˥カー ˥ッサン ッサルンˈダー [gaˈma˥ʤi ʔaˈraːŋ˥kaː ˥ssan ssarunˈdaː](髪を洗わないと虱が湧くよ)。

ッˈサンニビ [sˈsannibi] 【名】うたたね (転寝)。寝るつもりはないのに、いつの間にか眠ってしまうこと。「知らぬ眠り」の義。ッˈふァン シー ッふァー˥スンティ ユˈクターリ ベーン˥ケンマー ッˈ

サンニビ　シー˥　シ˩グトー˥　ウ˩クリナーン˥バン [fˢfaŋ ʃiː ffaː˥sunti ju˩kutaːri beːŋ˥kemmaː sˢsan˥nibi ˩ʃiː˥ ʃi˩gutoː˥ ʔu˩kurinaː˥nu](子供に授乳しようとして横になっていたところ、知らぬ間に寝て＜知らぬ眠りして＞しまって仕事に遅れてしまったわい)。

˥ッシェーマイ **[˥ʃʃeːmai]** 【名】1うしろまえ (後ろ前)。前後の位置が反対になっていること。˩キン˥バ　˥ッシェーマイ　˥ナシ　キ˩シ　アー˥ク [˩kim˥ba ˥ʃʃeːmai ˥naʃi kᵢ̥˩ʃiʔaː˥ku](着物を後ろ前にして着ている)。2あとさき (後先)。前後。フ˩タールヌ˥バ˩カー˥ムノー　ミ˩ジタング˥　カ˩タ˥ミティ　˥ッシェーマイ　˥ナリ　˩キッ˥ス　˩シー˥　パリ　˩パッ˥タヤー [ɸᵤ˩taːrunu˥ ba˩kaː˥munoː miˢ˩ʤitaŋgu˥ kᵃ̥˩ta˥miti ˥ʃʃeːmai ˥nari ˩kis˥su ˩ʃiː˥ pari ˩pat˥tajaː](二人の若者は水担桶を担いで後先になりつつ競争して走って行ったよ)。フ˩タールヌ˥　プ˩スヌ˥　ッシェーマイ　˥ナレーティ　˩キッ˥ス　˩シェー˥ティ　ア˩ラ˥キ　˩パッ˥タヤー [ɸᵤ˩taːrunu˥ pᵤ˩sunu˥ ʃʃeːmai ˥nareːti ˩kis˥su ˩ʃeː˥ti ʔa˩ra˥ki ˩pat˥tajaː](二人の人が前になり、後ろになりして、競争して歩いて行ったさ)。

ッ˩シェー˥ン **[ʃ˩ʃeː˥ŋ]** 【自動】知っている。認識する。分かる。「知り・有り」の転訛したものか。ク˩ヌジーヤ˥　バー　ッ˩シェー˥ン [ku˩nu ʤiːja˥ baː ʃ˩ʃeː˥ŋ](この字は私は知っている＜分かる＞)。˥キサーラ　ッ˩シブリティ˥　ッ˩サヌ˥ティ　ア˩ジェー˥ティ　˩アー˥ク [˥kᵢ̥saːra ʃ˩ʃiburiti˥ sˢsanu˥ti ʔa˩ʤeː˥ti ˩ʔaː˥ku](以前から知っていながら知らないと言っているよ)。˩ワー˥　ッ˩シェー˥　クトー　ムー˩ル˥　パ˩ナ˥シバ [˩waː˥ ʃ˩ʃeː˥ kᵤ̥toː muː˩ru˥ pa˩na˥ʃiba](君が知っていることは全部話しなさいよ)。ウ˩ヌ˥　ア˩タ˥ロー　˩ワンヌン˥　ッ˩シェー˥＜ッ˩シブレー˥＞　ミサムヌ [ʔu˩nu˥ ʔa˩ta˥roː ˩wannuŋ˥ ʃ˩ʃeː˥＜ʃ˩ʃibureː˥＞ misamunu](それぐらいは君でも知れば＜知っておれば＞よいのに)。˩ワンヌン˥　ッ˩シ [˩wannuŋ˥ ʃ˩ʃi](君も知れ)。

ッ˩シ˥クムン **[ʃ˩ʃi˥kumuŋ]** 【他動】差し込む。ッ˩シナ˥クン [ʃ˩ʃina˥kuŋ](差し込む) ともいう。イ˩ツァ˥ヌ　サ˩キ˥ミーナ　ボ˩ロ˥　ッ˩シ˥クムンティ　˩スンドゥ˥　ッ˩シクマラ˥ヌ [ʔiˢ˩tsa˥nu sᵃ̥˩ki˥miːna bo˩ro˥ ʃ˩ʃ˥ikumunti ˩sundu˥ ʃ˩ʃikumara˥nu](板の裂け目にボロ＜襤褸＞を差し込もうとするが、差し込めない)。

ッ˩シッツァー˥スン **[ʃ˩ʃittsaː˥suŋ]** 【他動】すりつぶす (擂り潰す)。擦り散らす。むやみにすりつける。やたらに摩りこむ。フ˩チ˥ロー　ッ˩シッツァー˥シ　˥ミサカー　ッ˩シッツァー˥スンティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　ッ˩シッツァー˥ス　˥クトー　ナ˩ラン˥ティ　シ˩タール˥　ッ˩シッツァーサン˥ドーシ　フ˩チ˥ル　˩ヌールタ [ɸᵤ˩ʧi˥roː ʃ˩ʃittsaː˥ʃi ˥misakaː ʃ˩ʃittsaː˥sunti ʔu˩muːtan˥du ʃ˩ʃittsaː˥su ˥kᵤ̥toː na˩ran˥ti ʃᵢ̥˩taːru˥ ʃ˩ʃittsaːsan˥doːʃi ɸᵤ˩ʧi˥ru ˩nuːruta](薬は、擦り付けてよければ擦りつけようと思ったが、擦り散らすことはいけないと言ったので擦り散らさないで薬を塗ったよ)。ッ˩シッツァー˥シェー　˥ミサムヌ [ʃ˩ʃittsaː˥ʃeː ˥misamuu](擦り散らせばいいのに)。ッ˩シッツァー˥シ [ʃ˩ʃittsaː˥ʃi](擦り散らせ＜摩り付けろ＞)。

ッ˩シットー˥スン **[ʃ˩ʃittoː˥suŋ]** 【他動】擦り込む。擦りとおす。ピ˩ルザキバ˥　ス˩ブ˥ローラ　˩パン˥ヌ　サ˩キバー˥キ　ッ˩シットー˥シ [pi˩ruʤakiba˥ su˩bu˥ roːra ˩pan˥nu sᵃ̥˩kibaː˥ki ʃ˩ʃittoː˥ʃi](大蒜酒(ニンニクザケ)を頭から足の先まで擦り込みなさい)。ッ˩シットー˥スンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　ッ˩シットーサラン˥バ　˩ワー˥　ッ˩シットー˥シ　ッ˩ふィーリ [ʃ˩ʃittoː˥sunti ʔu˩muːn˥du ʃ˩ʃittoːsaram˥ba ˩waː˥ ʃ˩ʃittoː˥ʃi fˢfiːri](擦り込もうと思うが擦り込まれないので、君が擦り込んでくれ)。ッ˩シットー˥ス　˥ムノー　˩パー˥ク　ッ˩シットー˥シェー　˥ミサムヌ [ʃ˩ʃittoː˥su ˥munoː ˩paː˥ku ʃ˩ʃittoː˥ʃeː ˥misamunu](擦り込むものは早く擦りこめばいいのに)。

ッ˩シナ˥クン **[ʃ˩ʃina˥kuŋ]** 【他動】差しこむ。強く差し込む。˩ウン˥バ　ティ˩ルン˥　ナカー　ッ˩シナ˥クンティ　ス˩ヌ˥　ッ˩シナカラ˥ヌ [˩ʔum˥ba ti˩run˥ naka: ʃ˩ʃina˥kunti su˩nu˥ ʃ˩ʃinakara˥nu](イモを笊の中に強く差し込もうとするが差しこまれない)。ッ˩シナキ　ヤッ˥サ　˥トンラ　ッ˩シナ˥ケー　˥ミサムヌ [ʃ˩ʃinaki jas˥sa ˥tonra ʃ˩ʃina˥keː ˥misamunu](差し込みやすい所から差し込めばよいのに)。ッ˩シナキ　ヤッ˥サ　˥ムノー　ムー˩ル˥　ッ˩シナ˥キ [ʃ˩ʃinaki jas˥sa ˥munoː muː˩ru˥ ʃ˩ʃina˥ki](差し込みやすいものは全部差し込め)。ガ˩ヤー˥バ　˩ヤー˥ヌ　ピ˩サ˥ナー　ッ˩シナ˥クンティ　˩スンドゥ˥　ッ˩シナカラ˥ヌ [gaˢ˩jaː˥ba ˩jaː˥nu pᵢ̥˩saˢ˥naː ʃ˩ʃina˥kunti ˩sundu˥ ʃ˩ʃinakara˥nu](茅を屋根に差し込もうとするが、差し込まれない)。ッ˩シナ˥キ　˥ミサカー　˥バー　ッ˩シナ˥ク　˥クトー　˥ナルン [ʃ˩ʃina˥ki ˥misakaː ˥baː ʃ˩ʃina˥ku ˥kᵤ̥toː ˥naruŋ](差し込んでよければ、私は差し込むことはできる)。˩パー˥ク　ッ˩シナ˥ケー

˜ミサムヌ [˞paː˜ku ʃ˞ʃina˜keː ˜misamunu](早く差し込めばいいのに)。ッ˞シナ˜キ [ʃ˞ʃina˜ki](差し込め)。

ッ˞シフカスン [ʃ˞ʃiɸu̥kasuŋ] 【他動】知り尽くす。知りつくして見通す。洞察する。˜ヌーンクイン　ッ˞シフカシティル˜　アイ　ア˞ゾール [˜nuːŋkuiŋ ʃ˞ʃiɸu̥kaʃitiru˜ ʔai ʔa˞ʤoː˜ru](何もかも知り尽くして、そうおっしゃるのだ)。˜ヌーンクイン　ッ˞シフカスンティ˜　ウ˞ムー˜タンティン　ッ˞シフカサランバ˜　ッ˞シフカス˜　クトー　˞カンガウ˜ナ [˜nuːŋkuiŋ ʃ˞ʃiɸukasunti˜ ʔu˞muː˜tantiŋ ʃ˞ʃiɸukasaramba˜ ʃ˞ʃiɸukasu˜ ku̥toː ˞kaŋgauna](何もかも知り尽くそうと思っても知り尽くされないから、知り尽くすことは考えるな)。

ッ˞シ˜ムヌヤー [ʃ˞ʃi˜munujaː] 【名】指物屋。指物店。板を組み立てて家具や器具を作る家 (店)。イ˞サンケー˜ナ　ッ˞シ˜ムヌヤーヌ　˞アッ˜タン [ʔi˞saŋkeː˜na ʃ˞ʃi˜munujaːnu ˞ʔat˜taŋ](石垣島には指物屋があった)。

˜ッス [˜ssu] 【名】糞。「〜屎遠麻礼〜『万葉集　3832』」、˞送糞、倶蘇摩屢『日本書紀神代上』」の転訛したもの。[ku̥so] → [ku̥su] → [fu̥su] → [ssu] と音韻変化。˜ッス　˜マルン [˜ssu ˜maruŋ](排便する。糞をまる)。˜ッス　フ˞カスン [˜ssu ɸu̥˞kasuŋ](便を漏らす。粗相する)。˞ミー˜ヌ　˜ッス [˞miː˜nu ˜ssu](目くそ。めやに < 目脂 >)。˞ミン˜ヌ　˜ッス [˞min˜nu ˜ssu](みみあか < 耳垢 >。みみくそ < 耳糞 >。˞耳の糞」の義)。

ッ˞ス [s˞su] 【名】裾。着物の裾。「〜一云　須蘓漬く河を『万葉集　2655』」の義。˞キン˜ヌ　ッ˞ス　ゾーラスン [˞kin˜nu s˞su ʤoːrasuŋ](着物の裾を濡らす)。

ッ˞ス [s˞su] 【接頭】白。形容詞ッ˞ソー˜ン [s˞soː˜ŋ](白い) の語幹。名詞に上接して続く名詞を修飾し、名詞の指し示す内容が白いことを表す。ッ˞ス˜キン [s˞su˜kiŋ](白い着物。白衣)。ッ˞ス˜パナ [s˞su˜pana](白い花)。ッ˞ス˜イル [s˞su˜ʔiru](白色)。

ッ˞スイー˜パイ [s˞suʔiː˜pai] 【名】白位牌。四十九日忌が済むまで仏壇に安置する白い位牌。˜シンズクナール　˞カイ˜ジン　˞ソー˜リティ　ッ˞スイーパイ˜ヤー　ア˞ギ　オーソーッ˜タ [˜ʃinʤukunaːru ˞kai˜ʤin ˞soː˜riti s˞suʔiːpai˜ja ʔa˞gi ʔoːsoː˜ta](四十九日忌に開眼供養をされて、白位牌は焼いて差し上げられた)。

ッ˞ス˜イカ [s˞su˜ʔika] 【名】(動) あおりいか。「白烏賊」の義。白烏賊は昔から利尿剤としてよく食されている。鳩間島では餌木に約 20 メートルの縄をつけて海岸より海へ投げこみ、手繰り寄せながら漁獲した。若年層はシ˞ル˜イカ [ʃi˞ru˜ʔika] ともいう。ッ˞ス˜イカー　サ˞ギフチ˜ルティ　˞シー˜　シジ　ン˞コーッ˜タン˞ダー [ʃi˞ru˜ʔikaː sa˞giɸutʃi˜ruti ˞ʃiː˜ ʃiʤi ʔŋ˞koːt˜tan˞daː](白烏賊はのぼせ < 逆上 > を下げる薬として煎じて召し上がられたよ)。

ッ˞スイキー [s˞suikiː] 【名】(植) モンパノキ。海岸の砂地や岩石地に群落をなして産することが多い。材は軽く柔らかで水中眼鏡のフレーム (枠) を作るのに用いる。˞スイキー [˞suikiː] という人もいるが、明治生まれの人はッ˞スイキー [s˞suikiː] といっていた。カ˞ザケヌ˜　ウスマイヤー　ッ˞スイキー˜シ　˜ユー　˞ミーカン˜ガン　ス˞ク˜ローッタン [ka˞ʤakenu˜ ʔusumaija: s˞suiki:˜ʃi ˜ju: ˞mi:kaŋ˜gan su̥˞ku˜roːttaŋ](加治工のウスマイ < 伊佐 > はモンパノキでよく水中眼鏡を作られた)。

ッ˞ス˜イズ [s˞su˜ʔiʤu] 【名】(動) 魚の名。和名、ギンダイ (体長約 35 センチ)。和名、シロダイ (体長約 50 センチ)。和名、サザナミダイ (体長約 60 センチ) などのシロダイの仲間。白身魚の高級魚。ッ˞ス˜イゾー　˞カーサバン　ダイ˜　ムトゥン [s˞su˜ʔiʤoː ˞kaːsaban dai˜ mutuŋ](シロダイの仲間は売っても値段が張る < 値段を持つ。高値がつく >)。

ッ˞ス˜イル [s˞su˜ʔiru] 【名】白色。ッ˞ス˜イルナー　ア˞ガイル˜　マ˞ザー˜シバ [s˞su˜ʔiruna: ʔa˞gaʔiru ma˞ʤaː˜ʃiba](白色に赤色を混ぜなさいよ)。

ッ˞スウー˜ル [s˞suʔuː˜ru] 【名】(植) シロウリ (白瓜)。ッ˞スウー˜ロー　パ˞トゥ˜マナーテー　˞ナン˜ゾー　ス˞ク˜ローランシェン [s˞suʔuː˜roː pḁ˞tu˜manate: ˞nan˜ʤoː su̥˞ku˜roːraŋʃeŋ](シロウリは鳩間島ではあまり栽培さ < 作ら > れなかった)。

˜ッスカザ [˜ssukaʤa] 【名】糞の臭い。ク˞ヌ˜　ヤ˞ラ˜ベー　˜ッスカザヌ　˞スントダー　ミリ˞ミー [ku˞nu˜ ja˞ra˜beː ˜ssukaʤanu ˞sunt̚da: miri˞mi:](この子は糞の臭いがするぞ、見てごらん)。

˜ッスカシ [˜ssukaʃi] 【名】役に立たない者。無能な者。「くそかす (糞粕)」の義。ウ˞レー˜　ノー˞ン˜ヤコー　タ˞タ˜ヌ　˜ッスカシル　ヤ˞ル [ʔu˞reː˜ noː ˞ɲ˜ jakoː tḁ˞ta˜nu ˜ssukaʃiru ja˞ru](あいつは何にも役に立たない。無能な者だ)。

ッ˞ス˜カビ [s˞su˜kabi] 【名】白紙。ッ˞ス˜カビナ˜シンシ　˞ジー˜　カクン [s˞su˜kabina ˜ʃiŋʃi ˞ʤiː˜ kḁkuŋ](白紙に墨で字を書く)。ッ˞スカビ˜バ　˜ブリ

ティ　カˈザリクビンヌˈ　ザウ　スˈクˈリバ [sˈsukabiˈba ˈburiti kaˈʤarikubinnuˈ ʤau sɯˈkuˈriba](白紙を折って神前に供えるへいじ＜瓶子。とくり＞の栓を作りなさいよ)。

ˈッス　クˈミˈルン [ˈssu kuˈmiˈruŋ] 【連】排便を我慢する。「糞をこめる」の義。ˈドゥク　ˈッス　クˈミルˈナˈヨーˈ　シˈビコーˈル　フˈシˈ　ナルンティˈダー [ˈduku ˈssu kuˈmiruˈnaˈjoːˈ ʃiˈbi koːˈru ɸɯˈʃiˈ narountiˈdaː](あんまり排便を我慢するなよ。便秘する＜尻強る＞癖になるそうだよ)。

ˈッスゴーダー [ˈssugoːdaː] 【名】糞まみれ＜塗れ＞。ヤˈラビˈヌ　シˈベーˈ　ッスゴーダー　ˈシー　ベー [jaˈrabiˈnu ʃiˈbeːˈ ssugoːdaː ˈʃiː beː](子供のお尻は糞塗れになっている)。

ッˈスˈサー [sˈsuˈsaː] 【名】薄茶。出涸らしの茶。「白茶」の義。ッˈスˈサー　ˈナルンケン　ˈサー　カーˈニˈ　ヌミ　ˈベー [sˈsuˈsaː ˈnaruŋken ˈsaː kaːˈniˈ numi ˈbeː](出涸らしの茶になるまで、お茶だけ飲んでいる)。

ッˈスˈサタ [sˈsuˈsata] 【名】白砂糖。ッˈスˈサター　ッˈふˈサターラル　スˈクˈロール [sˈsuˈsataː ˈfuˈsataːraru sɯˈkuˈroːru](白砂糖は黒砂糖から＜ぞ＞作られる)。

ッˈスˈジー [sˈsuˈʤiː] 【名】白地。麻布や芭蕉布、綿布などの生地。染色してない布。ッˈスˈジーキン [sˈsuˈʤiːkiŋ](白地の着物。染色してない麻布や芭蕉布)。サˈカサンケーˈヤ　ˈウガン　ˈオーˈル　ˈピンマー　ˈキンˈヌ　ˈウイラˈ　ッˈスˈジーキン　キˈシティル　オーッˈタ [sɑˈkasaŋkeːˈja ˈʔugaŋ ˈʔoːˈru ˈpimmaː ˈkinˈnu ˈʔuiraˈ sˈsuˈʤiːkiŋ kiˈʃitiru ʔoːtˈta](司の方々はお嶽へ行かれるときは、着物の上から白地のきものを着て＜ぞ＞行かれた)。

ッˈスシーˈソー [sˈsuʃiːˈsoː] 【名】(植) 白紫蘇。ˈアウシーソー [ˈʔauʃiːsoː](青紫蘇) ともいう。アˈカシーソー [ʔaˈkaʃiːsoː](赤紫蘇) の対義語。刺身のˈオンガキ [ˈʔoŋgaki](薬味。「上かけ」の義) として利用される。パˈダˈラナマシヌ　ˈオンガケーˈ　アˈガシースˈ　ッˈスシースˈバ　キˈザミティルˈ　イˈローッタˈル [paˈdaˈranamaʃinu ˈʔoŋgakeːˈ ʔaˈgaʃiːsuˈ sˈsuʃiːsuˈba kiˈʤamaitiruˈ ʔiˈroːttaˈru](トウゴロイワシの刺身には白紫蘇を刻んで薬味として入れたものだ)。

ˈッス　シゥˈカˈムン [ˈssu sɯˈkaˈmuŋ] 【連】ひどい目に遭う。最悪の結果をもたらす。台無しにされる。「糞つかむ (掴む)」の義。ˈイー　パナシˈティ　ウˈムータンˈドゥ　ウˈリンマーˈ　ッス　シゥˈカマサˈリ　ˈザーˈパイ　ˈシー　ナーˈヌ [ˈʔiː panaʃitiˈ ʔuˈmuːtanˈdu ʔuˈrimmaːˈ ssu sɯˈkamasaˈri ˈʤaːˈpai ˈʃiː naːˈnu](いい話だと思ったが、彼にはひどい目に遭わさ＜糞を掴まさ＞れて滅茶苦＜台無し＞になってしまった)。

ッˈスシキˈル [sˈsuʃikiˈru] 【名】(動) しろなまこ (白海鼠)。ˈイノー [ˈʔinoː](礁内湖) の浅海の砂の上に多く棲息している。燻製・乾燥させて中華料理の食材として輸出されていた。ッˈスシキˈロー　ˈガシティ　ˈカーソーッˈタ [sˈsuʃikiˈroː ˈgaʃiti ˈkaːsoːtˈta](しろなまこは燻製にして売られた)。

ッˈスジルカーˈジル [sˈsuʤirukaːˈʤiru] 【副】うんこ塗れになっているさま。糞塗れ。ッˈスジルカーˈジル　ˈスンˈケン　シˈビシˈケーン　ˈカームティˈ　ヌーヤ　ウˈレー [sˈsuʤirukaːˈʤiru ˈsuŋˈkeŋ ʃiˈbiʃɨˈ keːŋ ˈkaːmutiˈ nuːja ʔuˈreː](うんこ塗れになるまでおむつ＜御襁褓＞を取り替えないで、何としたことか、これは)。

ッˈスˈタマ [sˈsuˈtama] 【名】白目。眼球の白い部分。ッˈスミンˈタマ [sˈsuminˈtama](白目玉) ともいう。「白珠」の義。ˈミーˈヌ　ッˈスタマˈバ　ヤˈマˈシティ　イˈサンˈヤー　ˈパッˈタ [ˈmiːˈnu sˈsutamaˈba jaˈmaˈʃɨti ʔiˈsaŋˈja: ˈpatˈta](眼球の白い部分＜白珠＞を怪我して＜病まして＞病院へ行った)。

ッˈスッサーˈン [sˈsussaːˈŋ] 【形】糞の臭いがする。「糞臭い」の義。ヤˈラˈベー　シˈビシˈケー　ˈカイランˈカー　ッˈスッサーˈン　ˈダー [jaˈraˈbeː ʃiˈbiʃɨˈkeː ˈkairaŋˈkaː sˈsussaːˈn ˈdaː](子供はおむつ＜御襁褓＞を取り替えないと糞臭いよ)。ˈナンˈゾー　ッˈスッサー　ナーˈヌ [ˈnanˈʤoː sˈsussaː naːˈnu](あまり糞臭くないよ)。ッˈスッサーˈヌ　ナˈラˈヌ [sˈsussaːˈnu naˈraˈnu](糞臭くて堪らない)。ッˈスッサーˈ　ナリ　ˈナーˈヌ [sˈsussaːˈ nari ˈnaːˈnu](糞臭くなってしまった)。ッˈスッサーˈ　ッˈふァーˈ　シˈビシˈケー　ˈカイリ [sˈsussaːˈ ˈfaːˈ ʃiˈbiʃɨˈkeː ˈkairi](糞臭い＜糞の臭いのする＞子はおむつを替えなさい)。

ッˈスッサラシˈムニ [sˈsussaraʃiˈmuni] 【名】他人の感情を害するような汚いことば (物言い)。ˈウンザーˈ　サˈキˈ　ヌムカー　ッˈスッサラシˈムニ　カーˈニルˈ　イˈズ [ˈʔunʤaːˈ sɑˈkiˈ numukaː sˈsussaraʃiˈ muni kaːˈniruˈ ʔiˈʤu](そいつは酒を飲むと人の感情を害するような言葉＜物言い＞だけを言う)。

ッˈスッふァイ [sˈsufˈfai] 【感】くそくらえ。ばか言え。「Cusocurai. クソクライ (糞喰ひ)　相手を侮辱

する無礼な言葉」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。くしゃみ (嚏) をした時にいう呪文のク˞スッ˩クレー [kṵ˞suk˩kure:](糞食らえ) の再転訛したもの。ッ˞スッ˩ふァイヒャー ˞ター˩ ワンザヌ ˩クトゥ ˞ナー˩ト ˞スーワ [s˞suf˩faiça: ˞ta:ru˩wandʑanu ˩kṵtu ˞na:˩to ˞su:wa](糞食らえ! 誰がお前のことなどするものか)。

ッ˞スッ˩ふァイヒャー [s˞suf˩faiça:] 【感】1糞喰らえ。相手を卑しめ、罵(ノノシ)りかえして言う言葉。「Cusocurai. クソクライ (糞凌らい) 相手を侮辱する無礼な言葉」『邦訳日葡辞書』。ッ˞スッ˩ふァイヒャー ˩ワンザヌ ムニ˞ナー˩ト ス˞クント トゥー [s˞suf˩faiça: ˩wandʑanu muni˞na:˩to sṵ˞kunt̚tu:](糞喰らえ、お前の言うことなど聞くものか)。2くしゃみをした時に、魂が飛び出すのを防ぐという呪いの言葉。パ˞ナ˩プス ˩ピンマー ッ˞スッ˩ふァイヒャーティ ア˞ズ˩カー マ˞ブ˩ロー ˞ピンギラン˩ツォー [pa˞na˩pṵsu ˩pimma: s˞suf˩faiça:ti ʔa˞dʑu˩ka: ma˞bu˩ro: ˞piŋgiran˩tso:](くしゃみをする時は「糞喰らえ」と唱えると、マブル < 魂 > は逃げないそうだ < 伝聞 >)。

ッ˞スッふァイムヌ [s˞suffai˩munu] 【名】役に立たない者。無能の者。いぐい (居食い) の徒。座食の徒。「糞喰らい者」の義。˞ウンザー˩ スブットゥ ッ˞スッふァイ˩ムヌ ヤ˞ルンダ˩ シ˞グトゥン˩ タ˞ナマラ˩ヌ [˞ʔundʑa:˩ subuttu s˞suffai˩munu ja˞runda˩ ʃi˞gutun˩ ta˞namara˩nu](あいつは怠け者で無能な者だから仕事も頼めない)。

ッ˞スティンアウ˩ティン [s˞sutiŋʔau˩tiŋ] 【連】青空、蒼天。ABCDEFCD 型の重言。青空を強調した表現。「白天青天」の義。ク˞ヌ˩ ッ˞スティンアウティン˩ヌ ッ˞サーン˩ナーティ ˩カイブ ク˞トゥ˩ヌ ナ˞リ˩バ ピ˞ルマ˩サ [ku˞nu˩ s˞sutiŋʔautin˩nu s˞sa:n˩na:ti ˩kaibu kṵ˞tu˩nu na˞ri˩ba pi˞ruma˩sa](この晴天 < 蒼天 > のもとで、こんなことの出来るのが珍しい。よくもこんなことができたものだ。それが不思議だ < 珍しい >)。

ッ˞ストー˩フ [s˞suto:˩ɸu] 【名】木綿豆腐。揚げ豆腐にたいする、揚げてない豆腐のこと。「白豆腐」の義。˞アギトーフラン˩ ッ˞ストーフ˩ル ˞ヤー˩ラーンダ ッ˞ふァイヤッ˩サン ˩アリ ン˞マー˩ン ˩アル [ʔa˞gito:ɸuran˩ s˞suto:ɸu˩ru ˞ja:˩ra:nda f˞faijas˩saŋ ˩ʔari ʔm˞ma:˩ŋ ˩ʔaru](揚げ豆腐よりも揚げない豆腐が柔らかくもあり、美味しくもある)。

ッ˞ス˩ナミ [s˞su˩nami] 【名】白波。干瀬に砕け散る白波。ッ˞ス˩ナン [s˞su˩naŋ](白波) ともいう。˞ウイバルヌ˩ ヤ˞ダン˩ブレピーナ ッ˞スナミ˩ヌ (ッ˞スナン˩ヌ)˩タトゥカー ˞オシケー˩ ヤ˞ビ˩ス [˞ʔuibarunu˩ ja˞dam˩burepi:na s˞sunami˩nu(s˞sunan˩nu) ˩tạtuka: ˞ʔoʃi̥ke:˩ ja˞bi˩su](上原のヤダンブレ干瀬に白波が立つと、天気は崩れる < 破れる >)。

ッ˞スバラー [s˞subara:] 【名】家屋の最も外周にある柱。「裾柱」の義。ハ˞ギバラー [ha˞gibara:](庇柱。軒柱) ともいう。˩ムヤーバラー [˩muja:bara:](母屋柱。家屋本体の柱) の対語。˞バン˩テヌ ウ˞ブヤー˩ヌ ッ˞スバラー˩ ムー˞ル キャーンギ˩シ ス˞クラ˩リ ˞ブー [˞ban˩tenu ʔu˞buja:˩nu s˞subara:˩ mu:˞ru kja:ŋgi˩ʃi sṵ˞kura˩ri ˞bu:](わが家の母屋の裾柱はみんな槇の木で作られている)。

ッ˞ス˩パルン [s˞su˩paruŋ] 【名】カツオの白いすじこ。˞キンパルン [˞kimparuŋ](黄色いすじこ) とともに塩漬けにした。ッ˞スパルン˩マー ˞ナン˩ゾーン˞マーナーン˩シェン [s˞suparum˩ma: ˞nan˩dʑo: ʔm˞ma:na:ŋ˩ʃeŋ](白いすじこはあまり美味しくなかった)。

ッ˞ス˩パン [s˞su˩paŋ] 【名】白い斑点。白斑。老化にともなって皮膚に現れる白い斑点。˞ウイ˩プス ˩ナルカー トゥ˞シ˩トゥ アー˞シ˩ パダナー ッ˞スパン˩ヌ ˩ンジクン [˞ʔui˩pṵsu ˩naruka: tu˞ʃi˩tu ʔa:˞ʃi˩ padana: s˞supan˩nu ˩ʔndʑikuŋ](老人になると年齢とともに肌に白い斑点が出てくる)。ッ˞スパン˩マー ˞チョーミーヌ˩ シ˞ルシ˩ティバーヤ [s˞supam˩ma: ˞ʧo:mi:nu˩ ʃi˞ruʃi˩tiba:ja](肌にでる白い斑点は長命の印しだってば)。

ッ˞スパン˩タリ [s˞supan˩tari] 【名】白太り。色白で丸々と太っていること。˞ヌー˩バ ッ˞ふァイル˩ アイニ ッ˞スパン˩タリ ˞シー アーク˩ワ [˞nu:˩ba f˞fairu˩ ʔaini s˞supan˩tari ˞ʃi: ʔa:ku˩wa](何を食べて < ぞ > あんなに白太りしているのか)。

ッ˞スビー [s˞subi:] 【名】いそべ (磯辺)。礒のほとり。いそばた (礒端)。海岸端。「潮早み礒廻 < イソミ > に居れば〜。万、1234」の転訛したものか。˞スー˩ヌ ˩ピスカー ッ˞スベーラ˩ ア˞ラ˩キ イ˞ソー パッ˩タ [˞su:˩nu ˩pi̥suka: s˞sube:ra˩ ʔa˞ra˩ki ʔi˞so: pat˩ta](潮が引いたら海岸べりから歩いて潮干狩りに行った)。˞スー˩ヌ ˩ピスカー ヤ˞ラヌ˩ ッ˞スベーラ マーリ˩ イ˞ソーシン パッ˩タン [˞su:˩nu ˩pi̥suka: ja˞ranu˩ s˞sube:ra ma:ri˩ ʔi˞so:ʃim pat˩taŋ](潮が引くと屋良の浜から礒伝いに < 磯辺から > 歩いて潮干狩りに行ったよ)。

˺ッスピー **[˺ssupiː]** 【名】非常に臭いおなら＜屁＞。「糞屁」の義。˹タール˺　ッスピーバ　プ˹ス˺タユー　˺ウマー　ッ˹サー˺ヌ　ン˹カーラヌ [˹taːru˺ ssupiːba pu̥˹su˺taju: ˺ʔuma: s˹saː˺nu ʔŋ˹kaːranu](誰が糞屁を放ったのか、臭くてそこへは顔を向けることが出来ない＜向かわれない＞)。

ッ˹ス˺ピニ **[s˹su˺pini]** 【名】白い鬚。「しろひげ＜白鬚＞」の義。˺アブジェー　ッ˹スピニ˺バ　˹モー˺シ　˹オー˺ル [˺ʔabudʒeː s˹supini˺ba ˹moː˺ʃi ˹ʔoː˺ru](お祖父さんは白い鬚＜白鬚＞を生やしておられる)。

˺ッスヒャー **[˺ssuça:]** 【感】くそ! 聞くものか。嫌だ! ˺ッスヒャー　˺ワンザヌ　ムニ˹ナー˺ト　シゥ˹カヌ [˺ssuça: ˺wandʒanu muni˹naː˺to si̥˹kanu](くそっ! 嫌だ。お前などの言うことなど聞くものか＜聞かない＞)。

˺ッスフカー **[˺ssuɸu̥ka:]** 【名】糞を漏らす者。うんこたれ。「糞垂れ」の義。イ˹チンバー˺キン　˺アイニ　˺ッスフカー　˺ナリ　˹アーカン˺ドーシ　˹パー˺ク　ウ˹ブ˺プス　˺ナリ˹ヨー [ʔi˹tʃimbaː˺kiŋ ˺ʔaini ˺ssuɸuka: ˺nari ˹ʔaːkan˺doːʃi ˹paː˺ku ʔu˹bu˺pu̥su nari ˹joː](何時までもそんなにうんこたれ＜糞を漏らす者＞になっていないで、早く大人になりなさいよ)。

˺ッス　フ˹カスン **[˺ssu ɸu̥˹kasuŋ]** 【連】1糞を垂らす＜糞放下す＞。堪えきれずに脱糞する。˺オンケー　˹サーリ˺　パ˹リマー˺キ　˹ベーン˺ケンマー　˺ッス　フ˹カシ　ナー˺ヌ [˺ʔoŋke: ˹saːri˺ pa˹rima: ˺ki ˹beːŋ˺kemma: ˺ssu ɸu̥˹kaʃi naː˺nu](便所へ連れて行きかねているうちに、糞を漏らして＜垂らして＞しまった)。2ひどく苦労する。ウ˹ビ˺ヌ　シ˹グトゥバ　タンガ˺シ　˹スンティ˺　ッ˹ス˺フキ　˹ミッ˺タン [ʔu˹bi˺nu ʃi˹gutuba taŋga˺ʃi ˹sunti˺ s˹su˺ ɸu̥ki ˹mit˺taŋ](あれだけの仕事を一人でしようとして苦労した＜脱糞した＞よ)。

ッ˹ス˺フム **[s˹su˺ɸumu]** 【名】しらくも (白雲)。ッ˹ス˺クム [s˹su˺kumu](白雲) ともいう。ナ˹チヌ˺　ッ˹ス˺フモー　˹ゾーティン˺キ [na˹tʃinu˺ s˹su˺ɸumoː ˹dʒoːtiŋ˺ki](夏の白雲は上天気＜の徴候＞だ)。歌謡ではシ˹ラ˺クム [ʃi˹ra˺kumu](白雲) とも歌われている。

ッ˹スマー˺ス **[s˹sumaː˺su]** 【名】白い塩。盛り塩。健康祈願の塩。カ˹ニマース [ka˹nimaːsu](黄金の塩)、シゥ˹カラマース [si̥˹karamaːsu](長寿延命の肖り塩) ともいう。ッ˹スマー˺ス　カ˹ザリ˺　シ˹キ˺バ [s˹sumaː˺su ka˹dʒari˺ ʃi̥kiba](盛り塩を供えておきなさいよ)。

ッ˹ス˺マイ **[s˹su˺mai]** 【名】白米。精米。老年層は、˺ッサイマイ [˺ssaimai](精げ米。精米) という。˺カーマイ [˺kaːmai](玄米。˹皮米」の義) の対義語。パ˹トゥ˺マナテー　˺ウシナー　˹マイバ˺　イ˹リティ˺　イ˹ナシ˺キシ　ッ˹サイ˺ヤーティル　ッ˹ス˺マイ　ナ˹ソーッ˺タ [pḁ˹tu˺manate: ˺ʔuʃinaː ˹maiba˺ ʔi˹riti˺ ʔi˹naʃi̥˺kiʃi s˹sai˺jaːtiru s˹su˺mai na˹soːt˺ta](鳩間島では臼に米を入れて杵で搗きながら精米＜白米＞にされた)。

ッ˹スマ˺スン **[s˹suma˺suŋ]** 【他動】潜らせる。自動詞ッ˹ス˺ムン [s˹su˺muŋ](潜る) の未然形ッ˹スマ [s˹suma] に使役の助動詞˺スン [˺suŋ](～せる) が下接して合成された使役動詞。バ˹カー˺ムンケー　ッ˹スマ˺スンティ　ウ˹ムーン˺ドゥ　カ˹ジヌ　スーヤ˺ヌ＜˹スーワ˺ヌ＞　ッ˹スマサラ˺ヌ [ba˹kaː˺muŋke: s˹suma˺sunti ʔu˹muːn˺du ka˹dʒinu suːja˺nu＜˹suːwa˺nu＞ s˹sumasara˺nu](若者たちを潜らせようと思うが、風が強いので潜らされない)。

ッ˹ス˺マミ **[s˹su˺mami]** 【名】白い豆。「隠元豆のこと」『沖縄語辞典』とある。プ˹ス˺パナー　パ˹トゥ˺マナーン　ッ˹ス˺マメー　ス˹ク˺リ　ブ˹タント ナー [pu̥˹su˺pana: pḁ˹tu˺manaːn s˹su˺mame: su̥˹ku˺ri bu˹tanト naː](一頃＜一時期＞は、鳩間島にも白い豆を栽培し＜作って＞ていたよねえ)。

ッ˹スマリコー˺マ **[s˹sumarikoː˺ma]** 【名】よく下痢をする人。よく糞をたらす子ども。ッ˹スマリコー˺マー　マ˹タ˺　ッス　フ˹カシ˺　シケーバン [s˹sumarikoː˺ma: ma˹ta˺ ssu ɸu̥˹kaʃi˺ ʃi̥keːbaŋ](糞放りっ子は、またも糞をたらしてあるよ)。

ッ˹ス˺　マルン **[s˹su˺ maruŋ]** 【連】大便をする。糞をたれる。脱糞する。「送糞、此をば倶蘇摩婁＜くそまる＞といふ」『古事記＜神代　上＞』。˹ウンヌ˺イー　ッ˹ふー˺カー　イッ˹ケナ˺　ッ˹ス˺　マルン [˹ʔunnu˺ʔiː fˢfuː˺kaː ʔik˹kena˺ ssu ˺maruŋ](芋ご飯を食べると沢山大便をする＜糞を放る＞)。

ッ˹ス˺ミ **[s˹su˺mi]** 【名】包み。包んだもの。˺ッスン [ssuŋ](包み)(老年層の使用語)。ウ˹ヌ˺　フ˹ルシ˺ケーッスンヌ　ナ˹カ˺ナー　˹ヌー˺ヌ　ア˹ル˺ワ [ʔu˹nu˺ ɸu˹ru˺ʃi̥keːssunnu na˹ka˺naː ˹nuː˺nu ʔa˹ru˺wa](その風呂敷包みの中に何があるか)。ッ˹ス˺ミ＜フ˹ルシ˺ケーッスン＞　パ˹タッキティ˺　ン˹ザ˺シバ [s˹su˺mi＜ɸu˹ruʃi˺keːssum＞ pḁ˹takkiti˺ ʔn˹dʒa˺ʃiba](包みを開いて出しなさいよ)。

ッˈスˀミー [sˈsuˀmiː] 【名】1白目。しろまなこ。しろめだま。ヤˈラˀベー　パˈナンˀギ　ˈシー　ベーˀティ　ˈグイˀシ　ッˈスˀミー　ˈピッˀクンダ　ˈサフケーˀマ　ムˈタスˀナ [jaˈraˀbeː paˈnaŋˀgi ˈʃiː beːˀti ˈguiˀʃi sˈsuˀmiː ˈpikˀkunda ˈsaɸu̥keːˀma muˈtasuˀna](幼児は悪戯をしていて、箸などの先の尖ったもので白目を突き刺すことがあるので、先の尖った物を持たせるな)。2眼病の一種。強度の斜視で、瞳が隠れた状態の目。ˈミーˀヌヤン　カˈカˀリティ　ッˈスˀミー　ˀナリ　ˈベー [ˈmiːˀnu ˀjaŋ kḁˈkaˀriti sˈsuˀmiː ˀnari ˈbeː](眼病に罹って白目になっている)。

ッˈスˀミー [sˈsuˀmiː] 【名】白身。魚などの白い肉。鶏卵などの卵白。シˈヌマールˀヌ　ッˈスˀミー　ナˈマˀシ　ˀキスカー　ンˈマーˀン [ʃiˈnumaːruˀnu sˈsuˀmiː naˈmaˀʃi ˀki̥sukaː ʔmˈmaːˀŋ](テングハギの白身を刺身に切ると美味しい)。

ッˈスミスーˀブ [sˈsumisuːˀbu] 【名】潜水競争。「潜り勝負」の義。ˀナンピル　ッˈスˀムユー　ッˈスミスーˀブ　ˈサーˀディー [ˀnampiru sˈsuˀmuju: sˈsumisuːˀbu ˈsaːˀdiː](何尋潜るのか、潜り競争＜潜り勝負＞しようよ)。

ッˈスミ　マーˀスン [sˈsumi maːˀsuŋ] 【連】包みまわす。取り囲む。イˈゾーˀ　アンシ　ッˈスミマーシˀル＜カˈクイマーシルˀ＞　トゥˈローッタˀル [ʔiˈʤoːˀ ʔaŋʃi sˈsumimaːʃiˀru＜kaˈkuimaːʃiruˀ＞ tuˈroːttaˀru](魚は網で取り囲んで漁獲されたものだよ)。

ッˈスミˀムヌ [sˈsumimuˀnu] 【名】包むもの。包装紙。ッˈスミˀムヌシ　ッˈスˀミティ　ˈオーシˀバ [sˈsumi ˀmunuʃi sˈsuˀmiti ˈʔoːʃiˀba](包み物で包んで差し上げなさいよ)。

ッˈスミンˀタマ [sˈsuminˀtama] 【名】目の白い部分。白目。ˈユーˀキ　ˈシーティルˀ　ッˈスミンˀタマー　アˈガンターリ　ベー [ˈjuːˀki ˈʃiːtiruˀ sˈsuminˀtamaː ʔaˈganta:ri beː](夜更かしをしたので白目が赤らんでいる)。

ッˈスˀムチ [sˈsuˀmuʧi] 【名】白餅。神事や法事に用いる餅は白餅で、中に餡を入れないのが一般である。ˈヨイˀヌ　ムˈチ [ˈjoiˀnu muˈʧi](祝いの餅) は、多くはバˈタˀムチ [baˈtaˀmuʧi](餡餅) で、アˈガムチ [ʔaˈgamuʧi](赤い餅) などが作られた。ˈソッコーˀヌ　ムˈチェーˀ　ッˈスムチˀバ　ジˈブˀクナー　イˈリティˀ　マˈツォーッタ [ˈsokkoːˀnu muˈʧeːˀ sˈsumuʧiˀba ʤiˈbuˀkuna: ʔiˈritiˀ maˈtsoːtˀta](法事＜焼香＞の餅は白餅を重箱に詰めて供えられた)。

ッˈスˀムン [sˈsuˀmuŋ] 【他動】もぐる (潜る)。ˀバー　ッˈスˀミ　ˈシェーントダー [ˀbaː sˈsuˀmi ˈʃeːnt̪-daː](私は潜れるよ)。ッˈスˀムンティ　シˈタンドゥˀ　スˈナˀカー　ユˈヌンゴーˀリティ＜ヤˈナンゴーˀリティ＞　ッˈスマラˀヌ [sˈsuˀmunti ʃi̥ˈtanduˀ suˈnaˀka: juˈnuŋgoːˀriti＜jaˈnaŋgoːˀriti＞ sˈsumaraˀnu](潜ろうとしたが、海は濁って潜れない)。ッˈスˀムˀピンマー　ˈタンガˀシ　ッˈスˀメー　ˀミサムヌ [sˈsuˀmu ˀpimmaː ˈtaŋgaˀʃi sˈsuˀmeː ˀmisamunu](潜るときは一人で潜ればいいのに)。ˈパーˀク　ˈワーˀラ　ッˈスˀミバ [ˈpaːˀku ˈwaːˀra sˈsuˀmiba](早く君から潜れよ)。

ッˈスˀムン [sˈsuˀmuŋ] 【他動】包む。取り巻く。くるむ。「白玉を都々美氐夜良婆～『万葉集　4102』」、「坡阪、以⊠土壅⊠水也。豆豆牟 (つつむ)『新撰字鏡』」の転訛。フˈルシˀケーッスン [ɸuˈruʃi̥ˀkeːssuŋ](風呂敷包み)。フˈルシˀケーナ　ッˈスˀムンティ　シˈタンドゥˀ　ッˈスマラˀヌ [ɸuˈruʃi̥ˀkeːna sˈsuˀmunti ʃi̥ˈtanduˀ sˈsumaraŋˀʃeŋ](風呂敷に包もうとしたが包まれなかった)。ッˈスˀミ　ˈシェーˀカー　ˀドゥーシ　ッˈスˀミバ [sˈsuˀmi ˈʃeːˀkaː ˀduːʃi sˈsuˀmiba](包めるなら自分で包めよ)。ッˈスˀム　ˀムノー　ムーˈルˀフˈルシˀケーナ　ッˈスˀメー　ˀミサムヌ [sˈsuˀmu ˀmunoː muːˈruˀ ɸuˈruʃi̥ˀkeːna sˈsuˀmeː misamunu](包むものは全部風呂敷に包めばいいのに)。

ッˈスリムヌ [sˈsurimunu] 【名】雑巾。拭き取るもの。足拭き。「こすり＜擦り＞」の転訛したもの。ッˈスリムヌˀ<ˈゾーˀキン＞　スˈブˀリティ　ˈトゥーシˀ　ッˈスリ [sˈsurimunuˀ＜ʤoːˀkiŋ＞ suˈbuˀriti ˈtuːʃiˀ sˈsuri](雑巾を絞って縁側を拭きなさい)。

ッˈスル [sˈsuru] 【名】ふきん (布巾)。ッˈスルン [sˈsuruŋ](拭く) の連用転成名詞。マˈカˀル　アˈライティˀ　ッˈスルˀシ　ッˈスリˀ　シキバ [maˈkaˀru ʔaˈraitiˀ sˈsuruˀʃi sˈsuriˀ ʃi̥kiba](お椀は洗って布巾で拭いておきなさいよ)。

ッˈスルン [sˈsuruŋ] 【他動】拭く。ぬぐう。紙や布巾で汚れをとる。「こする (擦る)」の転訛したもの。[kosuru] → [ɸusuru] → [ssuruŋ] のように音韻変化したもの。布巾で軽く拭くのもッˈスルン [sˈsuruŋ] という。ˀマカルドング　アˈライティˀ　ッˈスルンティ　ベーンˀドゥ　ムッˈトゥˀ　ッˈスララヌ [ˀmakarudoŋgu ʔaˈraitiˀ sˈsurunti beːnˀdu mutˈtuˀ sˈsuraranu](お椀類を洗って拭こうと思うがちっとも拭かれない)。ッˈスリˀ　ミサカー　ˀドゥーシ　ッˈスルˀクトー　ˀナルン [sˈsuriˀ misakaː

˺du:ʃi s˹suru˺ ku̥to: ˺naruŋ](拭いてよければ自分で拭くことはできる)。ッ˹スレー˺　ミサムヌ [s˹sure: ˺ misamunu](拭けばいいのに)。˺ドゥーシ　ッ˹スリ　[˺du:ʃi s˹suri](自分で拭け)。˺アシ　ッ˹スリ [˺ʔaʃi s˹suri](汗を拭け)。タ˹マガラ˺ス　ッ˹スリ [ta˹magara˺su s˹suri](ガラスを拭け)。˹トゥーシ　ゾー˺キンシ　ッ˹スリ [˹tu:ʃi ʥo:˺kiŋʃi s˹suri](縁側を雑巾で拭け)。

˺ッスン **[˺ssuŋ]** 【他動】切る。絶つ。老年層の言葉。若年層は、˺キスン [˺ki̥suŋ](切る) という。ク˹ヌ˺　イトゥ　ピ˹キシキ˺　ッスンティ　˹スンドゥ˺　ッ˹サラ˺ヌ [ku˹nu˺ ʔitu pi̥˹kiʃi̥ki˺ ssunti ˹sundu˺ s˹sara˺nu](この糸を引っ張って切ろうとするが、切られない)。˺ッシ　˺ミサカー　˺ッス　˺クトー　˺ナルン [˺ʃʃi ˺misaka: ˺ssu ˺ku̥to: ˺naruŋ](切って良ければ、切ることはできる)。˹パー˺ク　˺ッシェー　˺ミサムヌ [˹pa:˺ku ˺ʃʃe: ˺misamunu](早く切れば良いのに)。ク˹リ˺シ　˺ッシバ [ku˹ri˺ʃi ˺ʃʃiba](これで切りなさい)。

˺ッスン **[˺ssuŋ]** 【他動】**1**刺す。差す。˹ピッ˺クンとも言う。˺ッふパジンマー　プ˹ス　ウイ˺　ッスン˹ダー [˺ffupaʤimma: pu̥˹su ʔui˺ ssun˹da:](黒蜂 < 土蜂 > は人を襲って刺すよ)。パ˹ジン˺　ッ˹サ˺リティ　˺ヤミ　ナ˹ラ˺ヌ [pa˹ʤin˺ s˹sa˺riti ˺jami na˹ra˺nu](蜂に刺されて痛くてたまらない)。プ˹ス˺　ッス　パ˹ジンマー˺　ブ˹ラーヌ [pu̥˹su˺ ssu pa˹ʤimma:˺ bu˹ra:nu](人を刺す蜂はいない)。ク˹リ˺シ　˺ッシ　˺ミサカー　˹パー˺ク　˺ッシェー　˺ミサムヌ [ku˹ri˺ʃi ˺ʃʃimisaka: ˹pa:˺ku ˺ʃʃe: ˺misamunu](これで刺してよければ、早く刺せばいいのに)。**2**挿(サ)す。˹ヨー˺チシ　˺ッシバ [˹jo:˺ʧiʃi ˺ʃʃiba](簪で刺せよ)。サ˹カサー　ヨー˺チ　˺ッシティル　˹ニン˺ガイ　˹ソーッ˺タ [sḁ˹kasa: jo:˺ʧi ˺ʃʃitiru ˹niŋ˺gai ˹so:t˺ta](司は簪(カンザシ)を髪に挿して神への祈願をされた)。**3**指す。指差す。˹ウイ˺ビシ　パ˹カヌ　タンカー˺　ッス　˺ムノー　ア˹ラ˺ヌティ　ム˹カ˺シプソー　ア˹ゾーッ˺タ [˹ʔui˺biʃi pḁ˹kanu taŋka:˺ ssu ˺muno: ʔa˹ra˺nuti mu˹ka˺ʃi ˺pu̥so: ʔa˹ʥo:t˺ta](指でお墓の方向を指差すものではないと古老は言われた)。指す時は、指を握って、中指と人差し指の間に親指を入れて指した。

˺ッスン **[˺ssuŋ]** 【他動】つぐ (注ぐ)。そそぐ。「～から塩を灌知布 < ソソクチフ > が如く～。万、897」の転訛したものか。˹サウンとも言う。˺ユー　˺ッスンティ　˹ベーーン˺ドゥ　ウ˹ディー˺ヌ　˺ヤミ　ッ˹サラン˺バ　˹ワー˺　キー　˺ッシ　ッ˹ふィーリ [˺ju: ˺ssunti ˹be:n˺du ʔu˹di˺nu ˺jami s˹saram˺ba ˹wa:˺ ki: ˺ʃʃi f˹fi:ri](お湯を注ごうとしているが、腕が痛くて注げない < 注がれない > から、君が来て注いでくれ)。˺ユー　˺ッス　˺クトー　ナ˹ルン˺ドゥ　˺ナルカー　˹ワー˺　ドゥーシ　˺ッシェー　˺ミサムヌ [˺ju: ˺ssu ˺ku̥to: na˹run˺du ˺naruka: ˹wa:˺ du:ʃi ˺ʃʃe: ˺misamunu](お湯を注ぐことは出来るが、出来れば君自身で注げばいいのに)、˹ユー˺ヤ　˺ドゥーシ　˺ッシバ [˹ju:˺ja ˺du:ʃi ˺ʃʃiba](お湯は自分で注げよ)。˺サー　˺ッシ　ヌ˹マ˺シバ [˺sa: ˺ʃʃi nu˹ma˺ʃiba](お茶を注いで飲ませなさい)。

˺ッスン **[˺ssuŋ]** 【他動】こする (擦る)。する。˹ゾーリサジ˺シ　ク˹シナカ˺　ッシティ　˺ガバー　ウ˹タ˺スンティ　ス˹ヌ˺　ッ˹サラ˺ヌ [˹ʥo:risaʤi˺ʃi ku̥˹ʃinaka˺ ʃʃiti ˺gaba: ʔu˹ta˺sunti su˹nu˺ s˹sara˺nu](濡れ手拭で背中を擦(コス)って垢を落とそうとするが擦(コス)られない)。ヤー˹ディン˺　ドゥーシ　˺ッスンティ　˺ウムーカー　˺ッシバ [ja:˹din˺ du:ʃi ˺ssunti ˺ʔumu:ka: ˺ʃʃiba](何としても < かならず > 自分で擦ろうと思うなら擦りなさい)。˺ッス　˺ピンマー　˺サジェー　˹ゾーラシティ˺　ッシェー　˺ミサムヌ [˺ssu ˺pimma: ˺saʤe: ˹ʥo:raʃiti˺ ʃʃe: ˺misamunu](擦るときは手拭を濡らして擦れば良いのに)。

ッ˹スン **[s˹suŋ]** 【他動】知る。分かる。理解する。わきまえる。「～空しきものと志流等伎子～『万葉集793』」の義。ワ˹カ˺ルンとも言う。˺バー　ノー˹ン˺　ッ˹サヌ [˺ba: no:˹n˺ s˹sanu](私は何も知らない)。ッ˹シプサー　ナーン˺ドゥ　˹ナンクク˺ル　ッ˹スンティル˺　ウ˹モー˺リ [ʃ˹ʃi pusa: na:n˺du ˹naŋkuku˺ru s˹suntiru˺ ʔu˹mo:˺ri](知りたくはないが、自然に分かる < 知る > と < ぞ > 思われる)。ヤ˹ラビ˺ヌ　ク˹リ˺　ッ˹ス˺　クトー　˹ナーン˺　パジ [ja˹rabi˺nu ku˹ri˺ s˹su˺ ku̥to: ˹na:m˺ paʤi](子供がこれを知ることは無いはずだ)。ウ˹ヌ˺　ア˹タ˺ロー　ッ˹シェー˺　ミサムヌ [ʔu˹nu˺ ʔa˹ta˺ro: ʃ˹ʃe:˺ misamunu](それぐらいは分かれば良いのに)。˹ワンヌン˺　ッ˹シ˺バ [˹wannuŋ˺ ʃ˹ʃi˺ba](君も分かれよ)。

ッ˹スン **[s˹suŋ]** 【他動】すする (啜る)。液状のものを少量ずつ口中に吸い込む。ユ˹ブンとも言う。˹スー˺ヤ　イ˹ツァー˺バ　ッ˹スラン˺カー　ヌ˹マラ˺ヌ [˹su:˺ja ʔi˹tsa:˺ba s˹suraŋ˺ka: nu˹mara˺nu](お汁は熱いから啜(スス)らないと飲めない)。ッ˹シ˺　ヌミバ [ʃ˹ʃi˺ numiba](啜って飲めよ)。ン˹マーン˺ギサバ　ッ˹スン˺　パジ [ʔm˹ma:ŋ˺gisaba s˹sum˺ paʤi](美味しそうだから、啜るはずだよ)。ア˹チスー˺ヤ　ウ˹ブ˺フ

チシ　ッ˞ス˩　クトー　ナ˞ラ˩ヌ [ʔa˞ʧisuː˩ja ʔu˞bu˩ ɸu̥ʧiʃi s˞su˩ ku̥to: na˞ra˩nu](熱いお汁は大口で啜ることは出来ない)。ン˞メーマ˩ナー　ッ˞シェー˩　ミサムヌ [ʔm˞meːma˩naː ʃ˞ʃeː˩ misamunu](少しずつ啜ればいいのに)。マ˞カル˩ヌ　パ˞ター˩ラ　ッ˞シ＜シ˞シ˩バ＞[ma˞karu˩nu pḁ˞taː˩ra ʃ˞ʃi＜ʃi˞ʃi˩ba＞](お椀の端から啜れ)。

ッ˞スン [s˞suŋ] 【名】包み。動詞ッ˞ス˩ムン [s˞su˩muŋ](包む) の連用形ッ˞ス˩ミ [s˞su˩mi] から転成した名詞。ク˞ヌ˩　ッ˞スン˩ヌ　ナ˞カ˩ナー　˞ヌー˩ヌ　˩アルカヤー [ku˞nu˩ s˞sun˩nu na˞ka˩naː ˞nuː˩nu ˩ʔarukajaː](この包みの中には何があるのかねえ)。カ˞ビッスン [ka˞bissuŋ](紙包み)。バ˞サン˩パーッスン [ba˞sam˩paːssuŋ](芭蕉の葉包み)。フ˞ルシ˩ケーッスン [ɸu˞ruʃi̥˩keːssunŋ](風呂敷包み)。バ˞ラ˩フタッスン [ba˞ra˩ɸu̥tassuŋ](稲藁の包み)。

ッ˞スン˩クン [s˞suŋ˩kuŋ] 【自動】すさる (退る)。しさる。前を向いたまま退く。神仏の前や役人の前から後ずさりする。˩グシェー　˩カミティ　ッ˞スン˩キ　˞パッ˩タ [˩guʃeː ˩kamiti s˞suŋ˩ki ˞pat˩ta](神酒を頂いてすさって＜退って＞いった)。˩グシ　˩カムカー　シ˞グ˩　ッ˞スンカン˩ドーシ　カ˞ラマースン˩　カミテーラ　ッ˞スン˩ケー　˩ミサムヌ [˩guʃi ˩kamuka: ʃi˞gu˩ s˞suŋkan˩doːʃi ka˞ramaːsuŋ˩ kamiteːra s˞suŋ˩keː ˩misamunu](神酒を頂いたら、すぐ退(スサ)らないで、力塩も頂いてから退けばいいのに)。˞カンヌ˩マイラ　ッ˞スン˩クンティ　˞スン˩ケンドゥ　˞ペンスクミティ˩　ク˞ルビナーン˩シェン [˞kannu ˩maira s˞suŋ˩kunti ˞suŋ˩kendu ˞pensukumiti˩ ku˞rubinaːŋ˩ʃeŋ](神前から後ずさりしようとしたら、足が痺れて転んでしまった)。

ッ˞スン˩クン [s˞suŋ˩kuŋ] 【他動】引きずる。引っ張り出す。そびく。˞ズン˩サン　ッ˞スンカリ　パッ˩タヤー [˞ʤun˩san s˞suŋkari pat˩tajaː](巡査に引張られていったよ)。ヤ˞ナクトゥ　スー˩カー　˞キーシチェー˩　ッ˞スンキ˩　パルンティ˞ダー [ja˞nakutu suː˩kaː ˞kiːʃi̥ʧeː suŋki˩ parunti˞daː](悪い事をすると警察へ引張っていくそうだよ)。ム˞カ˩シェー　˞グイ˩フゾーノー　ン˞ザシユーサ˩ン　ミ˞ドゥ˩モー　パ˞マウリソー˩ジナー　˩サンシケー　ッ˞スンクン˩ティ　ア˞ゾーッ˩タティ˞ダー [mu˞ka˩ʃeː ˞gui˩ɸuʤoːno: ʔn˞ʤaʃijuːsa˩m mi˞du˩mo: pa˞maʔurisoː˩ʤina: ˩saŋʃikeː s˞suŋkun˩ti ʔa˞ʤoːt˩tati˞daː](昔は、貢納布＜御庸布＞を期限内に出せない女は浜下りソージの祭りに桟敷へ引きずり出すといわれたそうだよ)。ッ˞スン˩ク　プ˞ス [s˞suŋ˩ku pu̥˞su](引張り出す人)。ッ˞スン˩ケー　˩ミサムヌ [s˞suŋ˩keː ˩misamunu](引張り出せばいいのに)。ウ˞リバ˩　ッ˞スン˩キ [ʔu˞riba˩ s˞suŋ˩ki](あいつを引っ張り出せ)。

ッ˞スンター˩ルン [s˞suntaː˩ruŋ] 【自動】白む。白ばむ。白く色あせ＜色褪せ＞る。白みを帯びる。ッ˞サンター˩ルン [s˞santaː˩ruŋ](白ばむ) ともいう。˩アブジェー　キ˞ソー˩レー　˞クンジキンマー˩　ッ˞スンター˩リ　˞ナー˩ヌ [˩ʔabuʤeː ki˞soː˩reː ˞kunʤikimmaː˩ s˞suntaː˩ri ˞naː˩nu](お祖父さんが着られた紺地の着物は白く色あせてしまった)。ス˞ミノーシター˩　ッ˞スンターラン˩バン [su˞minoːʃi̥taː˩ s˞sunntaːram˩baŋ](染め直したので白く色褪せないよ)。ッ˞スンター˩ルンティ　ウ˞ムータ˩ヌ　マ˞ナマー˩ケー　ッ˞スンター˩ル　˩クトー　˞ナーン˩バン [s˞suntaː˩runti ʔu˞muːtan˩du ma˞namaː˩keː s˞suntaː˩ru ˩ku̥to: ˞naːm ˩baŋ](白く色褪せると思ったが、今までは白く色褪せることは無いわい)。ッ˞スンター˩レーラー　ス˞ミグリ˩サン [s˞suntaː˩reːraː su˞miguri˩saŋ](白く色褪せたら染めにくい)。

ッスン˞ナー˩マ [ssun˞naː˩ma] 【名】小さな包み。小包。˞ナー˩マ [˞naː˩ma] は接尾指小辞。ある語 (名詞) に付加し、その語の示す意味概念よりも更に小さい概念を表す。あるいは親愛の情を示す接辞形態素マ [ma] の異形態。上接語の末尾子音が n の場合に起きる一種の連声現象。

ッソーッ˞ソー [ssoːs˞soː] 【名】しろじろ (白々)。真っ白。目だって白いさま。ABCABC 型の重言。ッソーッ˞ソーヌ˩　イ˞ルバ　˞ヌーリ˩シキ [ssoːs˞soːnu˩ ʔi˞ru˩ba ˞nuːri˩ʃi̥ki](真っ白の色を塗っておけ)。

ッ˞ソーマー [s˞soːmaː] 【名】風下。˞オーラー [˞ʔoːraː](風上、˞上はら」の義) の対義語。˩イダフニ [˩ʔidaɸuni](板船、サバニ) を帆走させる際、大波を避けて風下へ操船する時などに用いる。˩フネー　˞マー˩ビン　ッ˞ソーマー˩　パ˞ラ˩シ [˩ɸuneː ˞maː ˩bin s˞soːmaː˩ pa˞ra˩ʃi](舟はもっと風下の方へ操船＜走ら＞せよ)。˞マイ˩　トゥ˞バシバ˩　ッ˞ソーマー˩ナー　˞ベー˩ルカー　˞マイヌ˩　ス˞ク˩ブ　カブン˞ダー˩　マ˞ダ˩キバ [˞mai˩ tu˞baʃiba˩ s˞soːma˩naː ˞beː ˩ruka: ˞mainu˩ su̥˞ku˩bu kabun˞daː ma˞da˩kiba](脱穀した米のすくも＜藻屑＞を風で吹き飛ばせるから、風下に居ると、すくも＜藻屑＞を被るよ。退けよ)。

ッ˞ソーママール [s˞soːmamaːru] 【名】風下回り。˞オーラーマール [˞ʔoːraːmaːru](風上に向かって帆船

を転回すること < 風上回り >) の対義語。˥イダフニ [˥ʔidaɸuni](板舟。サバニ) を方向転換させる際に、風下側に向けて方向転換すること。˥イダフネー　ッ˞ソーママール　スー˥カー　˞フンナクン˥ダー [˥ʔidaɸune: s˞soːmamaːru suː˥kaː ˞ɸunnakun˥daː](板舟 < サバニ > は風下回りにすると沈没するよ)。

ッ˞ソー˥ン [s˞soː˥ŋ] 【形】白い。イ˞ル˥ヌ　ッ˞ソー˥ン [ʔi˞ru˥nu s˞soː˥ŋ](色が白い)。˞ナン˥ゾー　ッ˞ソー　ナー˥ヌ [˞nan˥ʤoː s˞soː naː˥nu](あまり白くない)。˥ドゥク　ッ˞ソー˥ヌ　ウ˞レー˥　シゥ˞カーラヌ [˥duku s˞soː˥nu ʔu˞reː˥ si̥˞kaːranu](あまりにも白くて、これは使えない)。˞シンダイ˥　ッ˞ソー˥　ナルン [˞ʃindai˥ s˞soː˥ naruŋ](次第に白くなる)。ッ˞ソー˥ムノー　ッ˞ふァーラヌ [s˞soː˥ munoː](白い物は食べられない)。˥マー　ン˞ベーマ˥　ッ˞ソー˥カー　˥ミサムヌ [˥maː ʔm˞beːma˥ s˞soː˥kaː ˥misamunu](もう少し白ければいいのだが)。

ッ˞ソーンツァー [s˞soːntsaː] 【名】粗末に扱うこと。粗略に扱うこと。粗相に扱うこと。˥マナール　ウ˞ヤ˥バ　ッ˞ソーンツァー　スー˥　ッ˞ふァヌ˥　ブ˞ラー (ブー˞ワ)[˥manaːru ʔu˞ja˥ba s˞soːntsaː suː˥ f˞fanu˥ bu˞raː(buː˞wa)](どこに < ぞ > 親を粗略に扱う子供がいるものか)。

ッ˞ソーンツァー　スン [s˞soːntsaː suŋ] 【連】粗略にする。粗略に扱う。ないがしろ (蔑ろ) にする。侮り軽んずる。˥ウヤ　ッ˞ソーンツァー　スー˥　ッ˞ふァー　ドゥー˥ヌ　ッ˞ふァン˥　ッ˞ソーンツァー˥サ˞リントダー [˥ʔuja s˞soːntsaː suː˥ f˞faː duː˥nu f˞fan˥ s˞sontsaː˥ sa˞rinˈdaː](親を粗略に扱う子は、己の子に粗略に扱われるぞ)。

˞-ッツァースン [˞-ttsaːsuŋ] 【接尾】さんざんに～する。やたら～する。「～ちらす」の義。˞～捲る」の義。これは、/cvrvcv/の音節構造の第一拍の/v/が狭母音/i、u/の場合、母音に挟まれた r が融合同化現象を起こして法則的に となったもの。第一音節が破擦音 (～ちらす) の場合は、[r]　→　[ts]、摩擦音 s の場合 (～しらす) は、[r]　→　[s]　となる。˞ッツァースン [˞ttsaːsuŋ] は「ちらす。捲る」が動詞の連用形に下接して「やたら～するさま」(他動詞化) を表す接尾語となる際に融合同化を起こしたもの。カ˞キッツァー˥スン [ka̪˞kittsaː˥suŋ](書きちらす)。パ˞ギッツァー˥スン [pa˞gittsaː˥suŋ](剥ぎちらす)。˞シッツァースン [˞ʃittsaːsuŋ](したい放題にする)。˞バッツァースン [˞battsaːsuŋ](粉々に割る)。˞フンツァースン [˞ɸuntsaːsuŋ](踏み散らす。踏み荒らす)。˞ポッツァースン [˞pottsaːsuŋ](撒き散らす。< 放り散らかす > の義)。

˞ッツァールン [˞ttsaːruŋ] 【接尾】粉々になる。散乱する。散々になる。ちりじりばらばらになる。「散れる」の融合同化した形。動詞の連用形に付いて自動詞化し、意味を強める。˞バッツァールン [˞battsaːruŋ](粉々に割れる)。ス˞クッツァールン [su̪˞kuttsaːruŋ](粉々に砕ける)。˞クッツァールン [˞kuttsaːruŋ](積み上げたものがばらばらに崩れる)。

˥ッツァーン [˥ttsaːŋ] 【接尾】～したい。よく～したがる。よく～しがち < 仕勝ち > である。形容詞型活用。「たさ・あり」の [ta] が上接語の末尾母音 [i] により口蓋化され、更に融合変化した形。排尿や排便の生理現象を表す語について、˞生理現象を催す」の意味をあらわす。シ˞バ˥ル　˞シッ˥ツァーン [ʃi˞ba˥ru ˞ʃit˥tsaːŋ](小便をしたい)。˥ッス　マ˞リッ˥ツァーンドゥ　ナー˞イ˥　ニジ　˞ベー [˥ssu ma˞rit˥tsaːndu naː˞i˥ niʤi ˞beː](大便 < 糞 > をしたい < まり (放り) たい > が、じっと我慢 < 念じ > している)。シ˞バ˥ル　˞シッツァー　ナー˥ヌ [ʃi˞ba˥ru ˞ʃittsaː naː˥nu](小便したくない)。シ˞バ˥ル　˞シッツァー˥ヌ　ナ˞ラ˥ヌ [ʃi˞ba˥ru ˞ʃittsaː˥nu na˞ra˥nu](小便をしたくて堪らない)。シ˞バ˥ル　˞シッ˥ツァー　プ˞ソー　ター˥ヤ [ʃi˞ba˥ru ˞ʃit˥tsaː pu̪˞soː taː˥ja](小便したい人は誰か)。

˞ッツァー˥ン [˞ttsaː˥ŋ] 【接尾】～したい。「～したさ・あり」の融合変化したもの。シ˞バ˥ル　˞スン [ʃi˞ba˥ru ˞suŋ](小便をする)、˥ッス　˥マルン [˥ssu ˥maruŋ](糞まる < 放る >) などの限られた生理現象を表す語の連用形に付いて、排泄したいこと < 願望 >、排泄現象が差し迫っていることを表す (自動詞化する)。シ˞バ˥ル　˞シッ˥ツァーン [ʃi˞ba˥ru ˞ʃit˥tsaːŋ](小便したい)。シ˞バ˥ル　˞シッツァー　ナー˥ヌ [ʃi˞ba˥ru ˞ʃittsaː naː˥nu](小便したくない)。シ˞バ˥ル　˞シッツァー˥ヌ　˞ナ˥ラヌ [ʃi˞ba˥ru ˞ʃittsaː˥nu na˞ra˥nu](小便したくて堪らない)。シ˞バ˥ル　˞シッ˥ツァー　˥ピンマー　ニ˞ズ˥ナ [ʃi˞ba˥ru ˞ʃit˥tsaː ˥pimma: ni˞ʤu˥na](小便したい時は我慢するな)。シ˞バ˥ル　˞シッツァー˥ヌ　ニ˞ジララ˥ヌ [ʃi˞ba˥ru ˞ʃittsaː˥nu ni˞ʤirara˥nu](小便したくて我慢できない)。˥ドゥク　˥ッス　マ˞リッ˥ツァーティル　˥オンケー　˥パリ　˞パッ˥タ [˥duku ˥ssu ma˞rit˥tsaːtiru ˥ʔoŋkeː ˥pari ˞pat˥ta](非常に大便したかったので便所へ走って行った)。

˞-ッツォー˥ルン [˞-ttsoː˞ruŋ] 【接尾】～にっこりす

る。〜莞爾とほほえむ。〜にこやかに〜する。˥バライッツォールン [ba˥raittsoːruŋ](にこやかに笑う。微笑(ホホエ)む)。

˥ツブ [˥tsubu] 【名】坪。土地、建物の面積を表す単位。一間 (3、3) 平方メートル。標準語からの借用語。ク˥ヌ　ヤシ˥ケー　˥ナンツブ　ア˥ル˥ワ [ku˥nu ja˥ʃi̥˥ keː ˥nantsubu ʔa˥ru˥wa](この屋敷は何坪あるか)。

ツ˥ブ [tsu˥bu] 【助数】土地面積の単位。坪。六尺四方の面積。助数詞として用いられる。プ˥ス˥ツブ [pu̥˥su˥tsubu](一坪)。フ˥タツブ [ɸu̥˥tatsubu](二坪)、˥ミーツブ [˥miːtsubu](三坪) と数える。˥ワッ˥テヌ　˥ヤー˥ヌ　カ˥コー　ギューツブ˥　ア˥ル˥ワ [˥wat˥tenu ˥jaː˥nu kḁ˥koː gjuːtubu˥ ʔa˥ru˥wa](貴方の家の屋敷は何坪あるか)。

ッ˥ふァ [f˥fa] 【名】子。子供。[kora] → [kura] → [fura] → [ffa] と音韻変化したもの。「〜荒磯松　我を待つ兒等 < こら > は〜。万、2751」の転訛したもの。ビ˥コーンッふァ [bi˥koːŋffa](男の子)。ミ˥ドーン˥ッふァ [mi˥doːŋ˥ffa](女の子)。˥ムクッふァ [˥mukuffa](婿 < 婿子 >)。ユ˥ミッふァ [ju˥miffa](嫁 < 嫁子 >)。˥イーリ˥ッふァ [˥ʔiːri˥ffa](貰い子)。ッ˥ふァナシ˥プス [f˥fanaʃi˥pu̥su](産婦 < 子産み人 >)。ッ˥ふァ˥ムレー [f˥fa˥mureː](子守)。ッ˥ふァー˥　ギュ˥タール˥　ナシェーワ [f˥faː˥ gju˥taːru˥ naʃeːwa](子供は何人産んだか)。

˥ッふァ [˥ffa] 【名】くら < 鞍 >。ウ˥シヌ˥　ッふァ [ʔu˥ʃi˥nu ffa](牛の鞍)。ウ˥シェー˥　ッふァ　˥カキティル　˥ターン　パ˥タ˥キン　シゥ˥カソーッタ [ʔu˥ʃeː˥ ffa ˥kḁkitiru ˥taːm pḁ˥ta˥kin si̥˥kasoːt˥ta](牛は鞍をかけて < ぞ > 田も畑も鋤かせられた)。˥ンーマ˥ヌ　˥ッふァ [˥ʔmːma˥nu ˥ffa](馬の鞍)。

ッ˥ふァースン [f˥faːsuŋ] 【他動】1食わせる。食べさせる。食らわせる。「Cuuaxe,suru,eta.* クワセル, スル, セタ (食わせ、する、せた)、また比喩.bouo cuuasuru(棒を食わする) 殴りつける.〜」『邦訳日葡辞書』。˥イー　ッ˥ふァースンティ˥　ス˥コーリ　ベーン˥ドゥ　ナ˥マ˥ニー　シ˥ティ˥　ッ˥ふァーサラヌ [˥ʔiː f˥faːsunti˥ su̥˥koːri beːn˥du na˥ma˥niː ʃi̥˥ti˥ f˥faːsaranu](ご飯を食べさせようと準備しているが、生煮えして食べさせられない)。˥イー˥ヤンツァン　ッ˥ふァーシティ˥　パ˥ラ˥シバ [˥ʔiː˥jantsaŋ f˥faːʃi̥ti˥ pa˥ra˥ʃiba](ご飯だけでも食べさせて行かせなさいよ)。ッ˥ふァース˥　クトー　ナ˥ラン˥タンティン　ン˥メーマー˥　ッ˥ふァーシェー˥　ミサムヌ [f˥faːsu˥ ku̥to: na˥ran˥tantiŋ ʔm˥meːmaː˥ f˥faːʃeː˥ misamunu](食べさせることは出来なくても、少しは食べさせればいいのに)。˥クベー　ッ˥ふァーシ˥バ [˥kubeː f˥faːʃi˥ba](これだけは食べさせなさいよ)。˥ティー˥スクン　ッ˥ふァースン [˥tiː˥su̥kuŋ f˥faːsuŋ](拳骨を食らわせる)。2塗りつける。まぶす < 塗す >。塩漬けにする。食らわす。イ˥ズン˥　タクン　˥マー˥ス　ッ˥ふァーシティ˥　プシバ [ʔi˥dzun˥ tḁkum ˥maː˥su f˥faːʃiti˥ pu̥ʃiba](魚も蛸も塩を塗して < 食らわして > 干しなさいよ)。

ッ˥ふァーッふァー˥シ [f˥faːffaː˥ʃi] 【副】真っ暗に。暗く。「くらくら < 暗暗 > と」の転訛したもの。ABCABCD 型の重言。ミ˥ナ˥カー　ッ˥ふァーッふァー˥シ　˥ブンダ˥　ノー˥ン˥　ミ˥ララ˥ヌ [mi˥na˥kaː f˥faːffaː˥ʃi ˥bunda˥ noː˥m˥ mi˥rara˥nu](外は真っ暗だから何も見えない < 見られない >)。

ッ˥ふァー˥マ [f˥faː˥ma] 【名】子供。幼児。乳幼児から七、八歳ごろまでの子供。名詞、ッ˥ふァ [f˥fa](子) に指小辞˥マ [˥ma](小さいもの、親愛の情を表す) が下接した形。˥ウン˥ネナー　イッ˥ケナ˥　ア˥タラ˥サル　ッ˥ふァーマ˥ヌ　マ˥レーン˥ツォー [˥ʔun˥nenaː ʔik˥kena˥ ʔa˥tara˥saru f˥faːma˥nu ma˥reːn˥tsoː](あの家に非常に可愛い子供が生まれたそうだ)。

ッ˥ふァームン [f˥faːmuŋ] 【自動】1暗くなる。暗む。ッ˥ふァムン [f˥famuŋ] ともいう。ッ˥ふァシゥカナイ˥プソー　ッ˥ふァームン˥ケン　パ˥タ˥キナー　˥ベーン˥ナ [f˥fasi̥˥kanai˥pu̥so: f˥faːmuŋ˥kem pḁ˥ta˥kinaː ˥beːn˥na](子持ち < 子供を養うひと > は暗くなるまで畑に居るな)。ッ˥ふァーマン˥ケン　˥ヤー˥　パリ [f˥faːmaŋ˥kem ˥jaː˥ pari](暗くならないうちに家に帰れ)。˥オーパ˥ヤー　ッ˥ふァーミ　ナー˥ヌ [˥ʔoːpa˥jaː f˥faːmi naː˥nu](こんなに早く暗くなってしまった)。˥オーパ˥ヤー　ッ˥ふァーム˥　クトー　˥ナー˥ヌ [˥ʔoːpa˥jaː f˥faːmu˥ ku̥toː ˥naː˥nu](こんなに早く暗くなることはない)。˥パー˥ク　ッ˥ふァーメー˥ミサムヌ [˥paː˥ku f˥faːmeː˥ misamunu](早く暗くなればいいのに)。ッ˥ふァーム˥カー　ッ˥ふァーミ [f˥faːmu˥ka: f˥faːmi](暗くなるなら暗くなれ)。2曇る。ッ˥ふァーミ　ブタンドゥ　ティンマー　アッ˥タニ　ガ˥レー˥ツバン　ヌヤー [f˥faːmi butandu timmaː ʔat˥tani ga˥reː˥tsuban nujaː](曇っていたが空が急に晴れちゃったよ、なんの < なんのこともない。心配にはおよばない >)。

ッ˥ふァーランふァイ [f˥faːranffai] 【連】食べ飽きたような食べ方。いやいや (嫌嫌) 食べること。「食えない食い」の義。ナ˥マンダッふァイ [na˥mandaf-

fai](中途半端な食べ方) ともいう。˩ミー˥ザバティ˩シー˥　ッ˩ふァーランふァイ　サンドー˥シ　カシー˩カシ˥　ッ˩ふァイ˥バ [˩miː˥ʤabati ˩ʃiː˥ ᶠfaːraŋfai sandoː˥ʃi kaʃiː˩kaʃi˥ ᶠfai˥ba](不味いからといって食い飽きた食い方をしないで、しっかり食べなさいよ)。

ッ˩ふァーリン [ᶠfaːriŋ] 【自動】 1食われる。食べられる (可能)。シ˩トゥッチ˥ヌ　˩ナロー　ミ˩ジ˥ナー　シ˩グニ˥チ　シ˩キティ˥　ア˩フヌギ˥　シ˩ティ˥　ティダナー　˥プスカー　ッ˩ふァーリンドゥ　ア˩サン˥カー　ッ˩ふァーラヌ [ʧi̥˩tuttʃi˥nu ˩naroː mi˩ʤiːnaː ʃi˩guni˥ʧi ʃi̥˩kiti˥ ʔa˩ɸu˥nugi ʃi̥˩ti˥ tidanaː ˥pu̥-sukaː ᶠfaːrindu˥ ʔa˩saŋ˥kaː ᶠfaːranu](蘇鉄の実は水に四、五日漬けて灰汁脱ぎをして太陽に干したら食べられるが、そうしないと食べられない)。ヤ˩ラ˥ビン　ッ˩ふァーリル　ムノー˥　ナー˩ヌ [ja˩ra˥biŋ ᶠfaːriru˥ mu˩noː˥ naː˩nuː](子供に食べられる物はないか)。ン˩メーマンツァン˥　ッ˩ふァーレー˥　ミサムヌ [ʔm˩meːmantsaŋ˥ ᶠfaːreː˥ misamunu](少しでも食べられればいいのに)。2食べられる。食われる (受身)。毒蛇に咬まれることは、˩ホー˥リン [˩hoː˥riŋ](咬まれる) という。˥ガザン　ッ˩ふァーリティ˥　プ˩ス˥ミーン　ニ˩バランシェン [˥gaʤaŋ ᶠfaːriti˥ pu̥˩su˥miːn ni˩baraŋʃeŋ](蚊に食われて < 咬まれて > 一睡も出来なかった < 一目も眠れなかった >)。3負ける。〜まぎれ (紛れ) に。˩クン˥ゾーン　ッ˩ふァーリ　ヤー˥バリ　ス˩ナ˥ヨー [˩kun˥ʤoːŋ ᶠfaːri jaː˥bari su˩na˥joː](腹立ち紛れに < 根性に負けて、食われて > 家財道具を壊して暴れる < 家割り > するなよ)。4歯、刃が磨耗、摩滅する。ウ˩シ˥ヌ　˩パー˥ヤ　ッ˩ふァーリブバ˥　パー　タ˩ティラン˥カー　˩ムイラヌ [ʔu˩ʃi˥nu ˩paː˥ja ᶠfaːribuba˥ paː tḁ˩tiraŋ˥kaː ˩muiranu](臼の刃は摩滅して < 食われて > いるから、刃を立てないと籾殻(モミガラ)< 粗糠 > が落ちない)。

ッ˩ふァー˥ン [ᶠfaː˥ŋ] 【形】暗い。ッ˩ふァヨーン [ᶠfa-joːŋ](暗闇)。ガ˩ル˥　シ˩キラン˥カー　ッ˩ふァー˥ヌ　ア˩ラカラ˥ヌ [ga˩ru˥ ʃi̥˩kiraŋ˥kaː ᶠfaː˥nu ʔa˩rakara˥nu](明かりを灯さないと暗くて歩けない)。イッ˩ケナ˥　ッ˩ふァー˥ンティ　ウ˩ムータ˥ヌ　˩ナン˥ゾー　ッ˩ふァーナー˥ヌ [ʔik˩kena˥ ᶠfaː˥nti ʔu˩muːta˥nu ˩nan˥ʤoː ᶠfaːna˩ːnu](非常に暗いと思ったが、あまり暗くなかった)。ティ˩ダ˥ヌ　ウ˩ティ˥ルカー　ッ˩ふァー˥　ナルン [ti˩da˥nu ʔu˩ti˥ruka: ᶠfaː˥naruŋ](太陽が落ちると暗くなる)。ッ˩ふァー˥　ユーヤ　ミ˩チェー˥　ン˩ジル˥ナ [ᶠfaː˥ juːja mi˩ʧeː˥ ʔn˩ʤiru˥na](暗い夜は道に出るな)。ッ˩ふァー˥カー　ミサムヌ [ᶠfaː˥kaː ˥misamunu](暗ければよいのに)。

ッ˩ふァイアキリ [ᶠfaiʔakiri] 【名】食べ飽きること。「食い飽きれ」の義。˩ウンヌダー˥キ　カー˩ニ˥　ッ˩ふァーサリティ˥　ッ˩ふァイアキリ　シー　ナーン˥バンメー [˩ʔunnudaː˥ki kaː˩ni˥ ᶠfaːsariti˥ ᶠfaiʔakiri ʃiː naːm˥bammeː](芋を炊いて捏ねた芋ご飯だけ食べさせられて、食べ飽きてしまったよ、もう)。

ッ˩ふァイアキルン [ᶠfaiʔakiruŋ] 【自動】食い飽きる。˩ピーンピーン˥　ユ˩ヌ˥イー　˩タン˥ガー　ッ˩ふァーサリ˥カー　ッ˩ふァイアキルント ダー [˩piːmpiːn˥ju˩nu˥ʔiː ˩taŋ˥gaː ᶠfaːsari˥kaː ᶠfaiʔakirunˈ-daː](毎日同じご飯だけ < 一つ > 食べさせられると食い飽きるよ)。ギュー˩サ˥　ッ˩ふータンティン˥　ッ˩ふァイアキラヌ [gjuː˩sa˥ ᶠfuːtantiŋ˥ ᶠfaiʔakiranu](いくら食べても食い飽きない)。˥メー　ッ˩ふァイアキリナー˥ヌ [˥meː ᶠfaiʔakirinaː˥nu](もう、食い飽きてしまった)。ッ˩ふァイアキル˥　クトー　˩ナー˥ヌ [ᶠfaiʔakiru˥ ku̥toː ˩naː˥nu](食い飽きることはない)。ッ˩ふァイアキレー˥　ミサムヌ [ᶠfaiʔakireː˥ misamunu](食い飽きればいいのに)。

ッ˩ふァイアマスン [ᶠfaiʔamasuŋ] 【他動】食い残す。食い余す。ッ˩ふァイヌカ˥スンとも言う。˩マイヤー˥　クビサーギ　˥アルカー　ッ˩ふァイアマスンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩ヤーニンズー˥ヌ　˩ゴー˥ラーンダ　ッ˩ふァイアマサンドー˥シ　ムー˩ル˥　ッ˩ふァイキシス˥　パジ [˩maija˥ kubisa:gi ˥ʔaruka: ᶠfaiʔamasunti˥ ʔu˩muːn˥du ˩jaːnin̊ʤuː˥nu ˩goː˥raːnda ᶠfaiʔamasandoː˥ʃi muː˩ruˈ ᶠfaiki̥ʃisu˥ paʤi](米はこれだけさえあれば食い余すと思うが、家族が多いので食い残さないで全部食い尽くすはずだ)。ン˩メーマ˥　ッ˩ふァイアマシ　ナーヌ˥ヌ　˩フン˥トーイ˩ズ˥カー　ッ˩ふァイアマス˥　クトー　˩ナー˥ヌ [ʔm˩meːma˥ ᶠfaiamaʃi naːnu˥nu ˩ɸun˥to: ʔi˩ʤu˥ka: ˩fai?amasu˥ ku̥toː ˩naː˥nu](少し食い残してしまったが、本当なら食い残すことはない)。ッ˩ふァイアマシェー˥　ミサムヌ [ᶠfaiʔamaʃeː˥ misamunu](食い残せばいいのに)。˥クベー　ッ˩ふァイアマシ [˥kube: ᶠfaiʔamaʃi](これだけは食い残せ)。

ッ˩ふァイアマラ˥スン [ᶠfaiʔamara˥suŋ] 【他動】食い残す。食い余す。食い余るようにする。ッ˩ふァイヌカ˥スンとも言う。ン˩メーマー˥　ッ˩ふァイアマラ˥スン [ʔm˩meːmaː˥ ᶠfaiʔamara˥suŋ](少しは食い残す)。ク˩ビッ˥チンツァン　ッ˩ふァイアマラサ

˥ヌ [ku˩bit˥ʧintsaŋ f˩fai?amarasa˥nu](これぽっちも食い残さない)。ッ˩ふァイアマラ˥シティ　˥バキ　ッ˩ふァーシ [f˩fai?amara˥ʃi̥ti ˥baki f˩fa:ʃi](食い残して、分けて食べさせなさい)。ッ˩ふァイアマラス˥　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [f˩fai?amarasu˥ pu̥˩so:˥ bu˩ra:nu](食い残す人はいない)。ッ˩ふァイアマラシェー˥　ミサムヌ [f˩fai?amaraʃe:˥ misamunu](食い残せばいいのに)。ヤー˩ディン˥　ッ˩ふァイアマラシ [ja:˩diŋ˥ f˩faiamaraʃi](必ず食い残せよ)。

ッ˩ふァイ　カイ˥ヤン [f˩fai kai˥jaŋ] 【連】食べることについて欲がない。自分の食べ物を気持ちよく他人に分け与える。「食べることが美しい」の義。ッ˩ふァイ˥　ヤ˩ニ˥ヤン [f˩fai˥ ja˩ni˥jaŋ](食い意地が汚い) の対義語表現。ウ˩レー˥　イッ˩ケナ˥　ッ˩ふァイ　カイ˥ヤンダ　ウ˩リヌ˥　スバナー　˩ベー˥ルカー　˩クヮッ˥チ　˩スン˥ダー [ʔu˩re:˥ ʔik˩kena˥ f˩fai kai˥janda ʔu˩rinu˥ subana: ˩be:˥ruka: ˩kwat˥ʧi ˩sun˥da:](彼 < あれ > は非常に気持ちよく自分の食べ物を他人に分け与える < 食べることが美しい > から、あれの側にいるとご馳走になるよ)。

ッ˩ふァイカタ [f˩faikata] 【名】食べ方。食べる方法。ッ˩ふァイミチ [f˩faimiʧi](食べ方。食べる方法) ともいう。ン˩マー˥　ムノー　ア˩リ˥ブンドゥ　˩ヌー˥シ　˩シー˥　ッ˩ふー˥ユー　ッ˩ふァイカタル˥　ワ˩カラン˥バン [ʔm˩ma:˥ muno: ʔa˩ri˥bundu ˩nu:˥ʃi ˩ʃi:˥ f˩fu:˥ju: f˩faikataru˥ wa˩karam˥baŋ](美味しいものはあるが、どのようにして食べるか、食べ方が分からないわい)。

ッ˩ふァイ˥カタ [f˩fai˥kata] 【名】生活手段。生業。食べて生きていくための手だて、すべ。「食べ方」の義。イ˩ツォーン˥プソー　イ˩ズ˥トゥリ　プ˩ス˥カタシ　ッ˩ふァイ˥カタ　˩ソール˥ヌ　パ˩トゥ˥マプソー　ム˩ヌスクル˥トゥ　イ˩ズトゥリ˥バ　ッ˩ふァイ˥カタ　˩シー　オー˥ル [ʔi˩tso:m˥pu̥so: ʔi˩ʤu˥turi pu̥˩su˥kataʃi f˩fai˥kḁta ˩so:ru˥nu pḁ˩tu˥mapu̥so: mu˩nusu̥kuru˥tu ʔi˩ʤuturi˥ba f˩fai˥kḁta ˩ʃi: ʔo:˥ru](糸満の人は漁業を専業と < 漁業一方で生活手段と > されるが、鳩間の人は農業 < 物作り。作物 > と漁業 < 魚獲り > を生業にしておられる)。

ッ˩ふァイキシルン [f˩faiki̥ʃiruŋ] 【自動】食べ尽くす (食べ切れる)。食べ尽きる。食料が底を突く。食糧が払底する。パ˩マイヤー˥　ア˩ツァバー˥キナー　ッ˩ふァイキシルン [pa˩maija:˥ ʔa˩tsaba:˥kina: f˩faiki̥ʃiruŋ](飯米は明日までには食べ尽くす。食糧が底を突く)。ク˩ヌ˥　シキズーヤ　ッ˩ふァイキシラン˥パジ [ku˩nu˥ ʃi̥kiʤu:ja f˩faikiʃiram˥paʤi](今月中は食べ尽きないはずだ)。キサー˩ティ˥　ッ˩ふァイキシ　ナー˥ヌ [ki̥sa:˩ti˥ f˩faikiʃi na:˥nu](既に食べつくしてしまった)。˩オーパ˥ヤー　ッ˩ふァイキシル˥　クトー　˩ナー˥ヌ [˩?o:pa˥ja: f˩faikiʃiru˥ ku̥to: ˩na:˥nu](こんなに早く食べ尽くすことはない)。

ッ˩ふァイキスン [f˩faiki̥suŋ] 【他動】食い尽くす。「食い切る」の義。˩マイヤー˥　ク˩トゥシズー˥ナー　ッ˩ふァイキスンティ˥　ウ˩モー˥リンダー　ッ˩ふァイキサン˥ケンナー　˩カイ˥クー [˩maija:˥ ku̥˩tuʃiʤu:˥na: f˩faiki̥sunti˥ ʔu˩mo:˥rinda: f˩faiki̥saŋ˥kenna: ˩kai˥ku:](米は今年中に食い尽くすと思われるので、食い尽くさないうちに買ってこい)。キサー˩ティ˥　ッ˩ふァイキシ　ナー˥ヌ [ki̥sa:˩ti˥ f˩faiki̥ʃi na:˥nu](すでに食い尽くしてしまった)。˩オーパ˥ヤー　ッ˩ふァイキス˥　クトー　˩ナー˥ヌ [˩?o:pa˥ja: f˩faikisu˥ ku̥to: ˩na:˥nu](そんなに早く食い尽くすことはない)。ッ˩ふァイキシェー˥　ミサムヌ [f˩faiki̥ʃe:˥ misamunu](食い尽くせばいいのに)。ッ˩ふァイキシ˥バ [f˩faikiʃi˥ba](食い尽くせよ)。

ッ˩ふァイクラスン [f˩faikurasuŋ] 【他動】食い殺す。˩ウン˥マー　プ˩ス˥　ッ˩ふァイクラスン [˩?um˥ma: pu̥˩su˥ f˩faikurasuŋ](鬼は人を食い殺す)。ッ˩ふァイクラサリン [f˩faikurasariŋ](食い殺される)。ッ˩ふァイクラシ　ナー˥ヌ [f˩faikuraʃi na:˥nu](食い殺してしまった)。ッ˩ふァイクラス˥　クトー　サ˩ヌ [f˩faikurasu˥ ku̥to: sa˩nu](食い殺すことはしない)。ッ˩ふァイクラシェー˥　ミサムヌ [f˩faikuraʃe:˥ misamunu](食い殺せば良いのに)。ッ˩ふァイクラシ [f˩faikuraʃi](食い殺せ)。

ッ˩ふァイザイ [f˩faiʤai] 【名】ただ食べまくること。食うことにかまける (感ける)。食べることに心を奪われる。転成名詞のッ˩ふァイ [f˩fai](食べること) に、接尾辞˩-ザイ [˩-ʤai](～に専念する。～に感(カマ)ける) が付いた形。ウ˩ビヌ　ッ˩ふァン˥ケー　シゥ˩カ˥ナイ　フ˩ドゥバスンティ˥　ッ˩ふァイザイ　タンガ˥ル　˥ナル　˩モーキ˥　シ˩グ˥トー　ナ˩ラ˥ヌ [ʔu˩bi˥nu f˩faŋ˥ke: si̥˩ka˥nai ɸu˩dubasunti˥ f˩faiʤai taŋga˥ru ˥naru ˩mo:kiʃigu˥to: na˩ra˥nu](あれだけの子供達を養って成長させようとして、食べることに専念することしかできない。儲け仕事は出来ない)。

ッ˩ふァイザク [f˩faiʤaku] 【名】食べごろ。食べるのに丁度適した状態。果物や野菜などが成熟して食べるのに良い状態。旬のもの。魚介類の一等美味な時期。バ˩サン˥ナルン　˩バン˥スルン　˩ウー˥ミティ

マ˩ナマ˥ル　ッ˩ふァイザク [ba˩san˥narum ˩ban˥ suruŋ ˩ʔuː˥miti ma˩nama˥ru ˩faidʑaku](バナナも番石榴＜グワバ＞も熟れて、今が丁度食べごろだ)。

ッ˩ふァイジブン [˩faidʑibuŋ] 【名】1食べごろ。食べる時刻。バ˩サン˥ナロー　˩ウー˥ミティ　ッ˩ふァイジブン˥　ナ˩リ˥ブーバン˩ナー [ba˩san˥naro: ˩ʔuː˥miti ˩faidʑibun˥ na˩ri˥buːban˩naː](バナナは熟れて、食べごろになっているわいね)。˥アシ　ッ˩ふァイジブン˥　ナ˩リ˥ブーバ　˩パー˥ク　˥アシ　ッ˩ふァーシ˥バ [˥ʔaʃi ˩faidʑibun˥ na˩ri˥buːba ˩paː˥ku˥ʔaʃi ˩faːʃi˥ba](昼食＜朝飯＞を食べる時刻になっているから、早く昼食を食べさせなさいよ)。2食べ盛り。よく食べる年頃。ム˩ヌ　ッふァイジブン˥ヌ　ヤ˩ラ˥ベー　ギュー˩サ˥　ッ˩ふァーサバン˥　タ˩ラーヌ [mu˩nu ffaidʑibun˥nu ja˩ra˥beː gjuː˩sa˥ ˩faːsaban˥ ta˩raːnu](食べ盛りの子供は、いくら食べさせても足りない)。

ッ˩ふァイダマ [˩faidama] 【名】いやしんぼう＜卑しん坊＞。食いしん坊。食いしん坊の子は祖母や母にくっ付いて祝いや法事の家に行き、縁側から手を伸ばして祖母や母の着物を引っ張り、ご馳走をねだっていた。ッ˩ふァイダマー˥　バ˩カ˥ヤ　ッ˩サヌ [˩faidamaː˥ ba˩ka˥ja s˩sanu](食いしん坊は恥ずかしさを知らない)。ウ˩ヌ˥　ッ˩ふァー　サッ˥コー　ッ˩ふァイダマ˥　ヤ˩ルンダ˥　ナー˩イ˥　ウ˩ヤ˥ビ　˩フッ˥ツァミ　˩ベー [ʔu˩nu˥ ˩faː sak˥koː ˩faidama˥ ja˩runda˥ naː˩i˥ ʔu˩ja˥bi ˩ɸut˥tsami ˩beː](あの子はひどい食いしん坊だから、じっと指をくわえているよ)。

ッ˩ふァイダマー˥ン [˩faidamaː˥ŋ] 【形】卑しいん坊である。食いしん坊である。ウ˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　ッ˩ふァイダマー˥ンダー　ッ˩ふァイムノー˥　ミ˩シララ˥ヌ [ʔu˩nu˥ ˩faː ˩faidamaː˥nda: ˩faimunoː˥ mi˩ʃirara˥nu](この子は食いしん坊だから、食い物は見せられない)。ッ˩ふァイダマー　ナー˥ヌ [˩faidamaː naː˥nu](食いしん坊ではない)。ッ˩ふァイダマー˥　ナリティ　˩ヨー˥ゾー　ナ˩ラ˥ヌ [˩faidamaː˥ nariti ˩joː˥dʑoː naː˩ra˥nu](食いしん坊になって手が付けられない)。ッ˩ふァイダマー˥　プ˩ソー˥　ノー˩ン˥　ッ˩ふン [˩faidamaː˥ pu̥˩soː˥ noː˩ŋ˥ ˩fuŋ](食いしん坊の人は何でも食べる)。˥ドゥク　ッ˩ふァイダマー˥ヌ　˩サーリ˥　キ˩ララ˥ヌ [˥duku ˩faidamaː˥nu ˩saːri˥ ki˩rara˥nu](あまりにも食いしん坊で連れて来れない)。

ッ˩ふァイックナー [˩faikkunaː] 【名】食い競漕。「食いくら＜競＞」の義。競漕して食べること。我先に、他人を押しのけて食べること。˩ヤー˥サカチリーバ　˩シー　ブタ˥ユー　˩イー　ッふァイ˥クナー　˩シー˥　ッ˩ふァイ　ベー [˩jaː˥sakatʃiriba ˩ʃiː buta˥juː ˩ʔiː˥ ˩faiˡ˥kunaː ˩ʃiː beː](飢え餓(カツ)えていたのか、他人を押しのけて我先にたべている)。

ッ˩ふァイックル [˩faikkuru] 【名】1食べ殻。食べ滓。若年層は、ッ˩ふァイグル [˩faiguru](食べ滓) ともいう。˩シンザ˥ヌ　ッ˩ふァイックロー˥　シ˩ズ˥ミティ　˥パリ [˩ʃindʑa˥nu ˩faikuuroː ʃi˩dʑu˥miti ˥pari](砂糖黍の食べ殻は片付けてから行きなさい)。2食べ残し。˩ナーヌパー˥ヤ　ムー˩ル˥　シ˩ダメー˥ヌ　ッ˩ふァイックル˥　ナリティ　˩ユーゾーナー˥ヌ [˩naːnupaː˥ja muː˩ru˥ ʃi˩dameː˥nu ˩faikkuru˥ nariti ˩juːdʑoː naː˥nu](菜っ葉は全部蝸牛の食べ残しになって台無しだ＜養生できない。使い物にならない＞)。

ッ˩ふァイッツァースン [˩faitsaːsuŋ] 【他動】粗野に食べ荒らす。散々に食べまくる。「食い散らかす」の転訛。ナ˩ラーサン˥カー　˩イー˥ユン　ッ˩ふァイッツァースンダ˥　ッ˩ふァイッツァーサン˥ヨーニ　˩シシキリ [na˩raːsaŋ˥kaː ˩ʔiː˥juŋ ˩faittsaːsunda˥ ˩faittsaːsaŋ˥joːni ˩ʃiʃi̥kiri](教えないとご飯をも食い散らかすから、食い散らかさないように躾けなさい)。ッ˩ふァイッツァーシティ˥　パリ　˩ナー˥ヌ [˩faittsaːʃi̥ti˥ pari ˩naː˥nu](食い散らかして行ってしまった)。ア˩ジ˥　シゥ˩カス˥カー　ッ˩ふァイッツァース˥　クトー　˩ナー˥ヌ [ʔa˩dʑi˥ si̥˩kasu˥kaː ˩faittsaːsu˥ ku̥toː ˩naː˥nu](言って聞かせたら食い散らかすことはない)。ッ˩ふァイッツァーシェー˥　ミサムヌ [˩faittsaːʃeː˥ misamunu](食い散らかせばいいのに)。ッ˩ふァイッツァーシ˥バ [˩faittsaːʃi˥ba](食い散らかせよ)。

ッ˩ふァイトースン [˩faitoːsuŋ] 【他動】すっかり食べ尽くす。食いつぶす。「食い倒す」の義。ウ˩ビ˥ヌ　˥ザイサンバ　ッ˩ふァイトーシティ　ピン˥ソー　˥ナリ　˩ベー [ʔu˩bi˥nu ˥dʑaisamba ˩faitoːʃi̥ti pin˥soː ˥nari ˩beː](あれだけの財産を食いつぶして貧乏になっている)。˩マイフナー˥　マ˩ラン˥カー　ウ˩ヤ˥ヌ　˥ザイサン　ッ˩ふァイトースンダ˥　ッ˩ふァイトーサン˥ヨーニ　イ˩ジ˥ンジ　パ˩タラキ [˩maiɸunaː˥ ma˩raŋ˥ka: ʔu˩ja˥nu ˥dʑaisaŋ ˩faitoːsunda˥ ˩faitoːsaŋ˥joːni ʔi˩dʑi˥ʔndʑi pḁ˩taraki](立派な人にならないと親の財産を食いつぶすから、食いつぶさないようにしっかり＜意地を出して＞働け)。˩

タンガ˥シ　ッ˩ふァイトース˥　クトー　˩ナー˥ヌ [˩taŋga˥ʃi ˩faito:su˥ kṵto: ˩na:˥nu](一人で食いつぶすことはない)。ッ˩ふァイトーシェー˥　ミサムヌ [˩faito:ʃe:˥ misamunu](食いつぶせばいいのに)。ッ˩ふァイトーシ [˩faito:ʃi](食いつぶせ)。

ッ˩ふァイドーリ [˩faido:ri] 【名】食い倒れ。˩モーキ˥ル　˥ブン　サ˩カナヤーッふァイ　スームヌ˥シェー　ッ˩ふァイドーリ　シース [˩mo:ki˥ru ˥bun sạ˩kanaja:ffai su:munu˥ʃe: ˩faido:ri ʃi:su](儲けるだけ＜分＞料亭食いをするんだもの、食い倒れするさ)。

ッ˩ふァイナクン [˩fainakuŋ] 【他動】かきこむ (掻き込む)。飯を大口で急いで食べる。カ˩キナ˥クン [kạ˩kina˥kuŋ](掻き込む)、˩ホイナ˥クン [˩hoina˥kuŋ](かきこむ＜掻き込む＞) ということが多い。˩パー˥ク　ッ˩ふァイナ˥キティ　˥パリバ [˩pa:˥ku ˩faina˥kiti ˥pariba](早く掻きこんできけよ)。

ッ˩ふァイヌカシ [˩fainukaʃi] 【名】残飯。食べ残し。ドゥ˩ク˥ヌ　˩ヤー˥サティ　プ˩スヌ˥　ッ˩ふァイヌカシン　ホイナ˥キ　ッ˩ふァイシタ [du˩ku˥nu ˩ja:˥sati pṵ˩sunu˥ ˩fainukaʃiŋ hoina˥ki ˩faiʃita](あまりのひもじさで＜あまりのひだるさ、空腹で＞、他人の食べ残しをも掻き込んで食べた)。

ッ˩ふァイヌカ˥スン [˩fainuka˥suŋ] 【他動】食い残す。ッ˩ふァイアマラ˥スンとも言う。˩ミー˥ザ　˥ムノー　ッ˩ふァイヌカスンドゥ˥　ン˩マー˥　ムノー　ッ˩ふァイヌカサヌ [˩mi:˥ʤa ˥muno: ˩fainukasundu˥ ʔm˩ma:˥ muno: ˩fainukasanu](不味いものは食い残すが、美味しいものは食い残さない)。˩ユーボン˥ヌン　ッ˩ふァイヌカシ˥　シケー [˩ju:bon˥nuŋ ˩fainukaʃi˥ ʃi̥ke:](夕飯も食い残してある)。ム˩カ˥シェー　ッ˩ふァイヌカス˥　プ˩ソー˥　ブ˩ラーンシェン [mu˩ka˥ʃe: ˩fainukasu˥ pṵ˩so:˥ bu˩ra:ŋʃeŋ](昔は食い残す人はいなかった)。ッ˩ふァーラン˥カー　ッ˩ふァイヌカシェー˥　ミサムヌ [˩fa:raŋ˥ka: ˩fainukaʃe:˥ misamunu](食べられなかったら食い残せばいいのに)。˥クベー　ッ˩ふァイヌカシ [˥kube: ˩fainukaʃi](これだけは食い残せ)。

ッ˩ふァイヌカル [˩fainukaru] 【名】食べ残り。食べ残したもの。プ˩スヌ˥　ッ˩ふァイヌカルン˥　ムー˩ル˥　ッ˩ふァイス [pṵ˩sunu˥ ˩fainukarum˥ mu:˩ru˥ ˩faisu](人の食べ残しも全部食べる)。ッ˩ふァイヌカルヌ　イー˥ヤ　˩ズー˥シ　バ˩カシ˥バ [˩fainukarunu ʔi:˥ja ˩ʤu:˥ʃi ba˩kaʃi˥ba](食べ残しのご飯は雑炊に炊きなさい)。

ッ˩ふァイパザキルン [˩faipaʤakiruŋ] 【他動】食い損ねる。食い外す。食べる機会を逃す。ア˩サ˥ニビ　˩スー˥カー　ン˩マー˥ムヌ　ッ˩ふァイパザキルンダ˥　ッ˩ふァイパザキラン˥ヨーニ　パ˩ヤ˥ウキ　˩シー˥バ [ʔa˩sa˥nibi ˩su:˥ka: ʔm˩ma:˥munu ˩faipaʤakirunda˥ ˩faipaʤakiraŋ˥jo:ni pa˩ja˥ʔuki ˩ʃi:˥ba](朝寝坊をすると美味しいものを食い損ねるから、食い損ねないように早起きしなさいよ)。˩キュー˥ヤ　ッ˩ふァイパザキ　ナー˥ヌ [˩kju:˥ja ˩faipaʤaki na:˥nu](今日は食べ損ねてしまった)。ッ˩ふァイパザキル˥　クトー　˩ナー˥ヌ [˩faipaʤakiru˥ kṵto: ˩na:˥nu](食い損ねることはない)。ッ˩ふァイパザキレー˥　ミサムヌ [˩faipaʤakire:˥ misamunu](食い損ねればいいのに)。ア˩サビ　ベー˥ティ　ッ˩ふァイパザキリ˥バ [ʔa˩sabi be:˥ti ˩faipaʤakiri˥ba](遊んでいて食い損ねろよ)。

ッ˩ふァイパザクン [˩faipaʤakuŋ] 【他動】食い損ねる。食い外す。食べる機会を逃す。ア˩サ˥ニビ　˩スー˥カー　ッ˩ふァイパザクン [ʔa˩sa˥nibi ˩su:˥ka: ˩faipaʤakuŋ](朝寝坊をすると食い損ねる)。˩フー˥ヌ　˥アルカー　ッ˩ふァイパザカヌ [˩ɸu:˥nu ˥ʔaruka: ˩faipaʤakanu](運がよければ＜果報があれば＞食いはぐれない)。ッ˩ふァイパザキ　ナー˥ヌ [˩faipaʤaki na:˥nu](食い損ねてしまった)。ッ˩ふァイパザク˥　クトー　˩ナー˥ヌ [˩faipaʤaku˥ kṵto: ˩na:˥nu](食い損ねることはない)。ッ˩ふァイパザケー˥　ミサムヌ [˩faipaʤake:˥ misamunu](食い損ねればいいのに)。ッ˩ふァイパザキ˥バ [˩faipaʤaki˥ba](食い損ねろ)。

ッ˩ふァイパジ　ナー˥ヌ [˩faipaʤi na:˥nu] 【連】食い意地が汚い。食うことに恥ずかしいことを感じない。食いしん坊である。「食い恥がない」の義。ウ˩レー˥　ッ˩ふァイパジェー　ナーン˥ユンダ　ヤー˩ディン˥　ッ˩ふァイティル˥　パル [ʔu˩re:˥ ˩faipaʤe: na:n˥junda ja:˩diŋ˥ ˩faitiru˥ paru](彼は食い意地が汚いから、食べないと帰らない＜必ず食べてぞ行く＞)。

ッ˩ふァイバナ [˩faibana] 【名】食べ盛り。食欲旺盛の年頃 (時期)。ビ˩コーンッふァヌ˥　ッ˩ふァイバナー　イー　ッふァー˥シ　イッ˩ケナ˥　ウ˩ムッ˥サン [bi˩ko:ffanu˥ ˩faibana: ʔi: ffa:˥ʃi ʔik˩kena˥ ʔu˩mus˥saŋ](男の子の食べ盛りはご飯を食べさせて非常に楽しい)。

ッ˩ふァイパンツァスン [˩faipantsasuŋ] 【他動】食い外す。食い損ねる。ジ˩カン˥　ウ˩クリル˥カー　ッ˩

ふァイパンツァスントダー [ʤiˀkaŋ˥ ʔuˀkuriruˀkaː fˀfaipantsasunˊdaː](時間に遅れたら食い外すよ)。˥バー　イッ˞カ˥　ッ˞ふァイパンツァサヌ [˥baː ʔikˀka˥ fˀfaipantsasanu](私は決して食い外さない)。ッ˞ふァイパンツァシ　ナー˥ヌ [fˀfaipantsaʃi naː˥nu](食い外してしまった)。ッ˞ふァイパンツァス˥　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [fˀfaipantsasu˥ pu̥ˀsoː˥ buˀraːnu](食い外す人はいない)。ッ˞ふァイパンツァシェー˥　ミサムヌ [fˀfaipantsaʃeː˥ misamunu](食い外せばいいのに)。ッ˞ふァイパンツァシ [fˀfaipantsaʃi](食い外せ)。

ッ˞ふァイふー [fˀfaiɸuː] 【名】食べる幸運。食にありつく幸運。「食い果報」の義。˞ワー˥　イッ˞ケナ˥　ッ˞ふァイフーヤ˥　ア˞リ˥ブーバン　マ˞ナ˥マーン˞マー˥ムヌ　ッ˞ふンティ　ベー˥バ　マー˞ズン˥　キー　ッ˞ふァイ [˞waː˥ ʔikˀkena˥ fˀfaiɸuːja˥ ʔaˀri˥ buːbam maˀna˥maː ʔmˀmaː˥munu fˀfunti beː˥ba maːˀʤuŋ˥ kiː fˀfai](君には非常に食い運があるわい。丁度今、美味しいものを食べようとしているから、君も来て一緒に食べなさい)。

ッ˞ふァイフクリ [fˀfaiɸu̥kuri] 【名】飽食。食い飽きること。口が肥えること。食物に対する嗜好が贅沢になること。「くちおごり (口奢り)」の義。ウ˞ヤ˥キヤーナ　ッ˞ふァイフクリ　スン˥ケン　ッ˞ふァイ　ブンダ˥　ノー˞ン˥　ッ˞ふァーサバン˥　ン˞マーン˥ティ　ア˞ザヌ [ʔuˀjaˀkijaːna fˀfaiɸu̥kuri suŋ˥keŋ fˀfai bunda˥ noː˞ŋ˥ fˀfaːsabaŋ˥ ʔmˀmaːn˥ti ʔaˀʤanu](金持ちの家で口が肥えるほど食べているから、何を食べさせても美味しいと言わない)。ッ˞ふァイフクリ˥　シ˞ティ˥　ノー˞ン˥　ッ˞ふァイプサー　ナー˥ヌ [fˀfaiɸu̥kuri˥ ʃi̥ˀti˥ noː˞ŋ˥ fˀfaipusaː naː˥nu](食い飽きて、何も食べたくない)。

ッ˞ふァイフチ [fˀfaiɸu̥ʧi] 【名】¹食費。くいしろ (食い代)。「くいぶち (食扶持)」の義。˞ドゥー˥ヌ　ッ˞ふァイフチェー˥　ドゥーシ　˞モーキラン˥カーナ˞ラ˥ヌ [˞duː˥nu fˀfaiɸu̥ʧeː˥ duːʃi ˞moːkiraŋ˥kaː naˀra˥nu](自分の食い扶持は自分で儲けないとならない)²食べ方。ッ˞ふァイミチ [fˀfaimiʧi](食べ方) ともいう。ク˞レー　ヌー˥シ　ッ˞ふー˥ユー　ッ˞ふァイフチェー˥　ッ˞サヌ [kuˀreː nuː˥ʃi fˀfuː˥juː fˀfaiɸu̥ʧeː˥ sˀsanu](これはどうやって食べるのか、食べ方は知らない)。

ッ˞ふァイミチ [fˀfaimiʧi] 【名】食べ方。食べる方法。「食い道」の義。ウ˞キ˥ナーラヌ　シ˞トゥ˥バ　˥ムティケーンドゥ　ッ˞ふァイミチル˥　ッ˞サントツォー [ʔuˀki˥naːranu ʃi̥ˀtu˥ba ˥mutikeːndu fˀfaimiʧiru˥ sˀsanˊtsoː](沖縄からのお土産 < つと。苞 > を持ってきているが、食べ方が分からないんだよ)。

ッ˞ふァイムヌ [fˀfaimunu] 【名】飲食物。食べ物。主食となるもの。「食い物」の義。˞マイ [˞mai](米)、˥ウン [˥ʔuŋ](芋) 等。ヌ˞ミ˥ムヌ [nuˀmi˥munu](水や酒類の飲み物)、カ˞ティ˥ムヌ [kḁˀti˥munu](おかず。かてもの < 糅物 > の義) の対義語。ウ˞ビ˥ヌ　˞ヤーニンズー˥ヌ　ッ˞ふァイムノー　タンガ˥シェー　カ˞ラカーラヌ [ʔuˀbi˥nu ˞jaːniʤuː˥nu fˀfaimnoː taŋga˥ʃeː kaˀrakaːranu](あれだけの家族 < 家人数 > の食べ物は、一人では対応できない。カ˞ラカウン [kaˀrakauŋ] は <Caracai, カラカイ, ウ, ウタ。からかひ, ふ, うた。口論する、または喧嘩する >『邦訳日葡辞書』の転訛したもの)。

-ッ˞ふァイ˥ムヌ [-fˀfai˥munu] 【接尾】～よく手間のかかるもの。～よく～を必要とするもの。「～食い物」の義。˞ティーッふァイシグ˥トゥ [˞tiːffaiʃigu˥tu](手間のかかる仕事)。ウ˞ヌ˥　シ˞グトー　ティーッふァイ˥ムヌ˞ダー [ʔuˀnu˥ ʃiˀguto: tiːffai˥munuˀdaː](その仕事は手間のかかる仕事だよ)。イ˞ガガラソー　マー˥ス　ッふァイムヌ [ʔiˀgagaraso: maː˥suffaimunu](烏賊の塩漬けは、よく塩を必要とするもの < 塩を食うもの > だ)。

ッ˞ふァイヤニ˥ヤン [fˀfaijani˥jaŋ] 【形】食い意地が汚い。食い意地が張って見苦しい。意地汚い。プ˞スヌ˥　トゥリ　ッ˞ふン˥ダラーッティ　˞シー˥　カ˞キナ˥キ　ッ˞ふァイ　ベー˥ムヌ　ミルカー　˞フン˥トー　ッ˞ふァイ˥　ヤ˞ニヤ˥ルバンシェー [pu̥ˀsunu˥ turi fˀfun˥daraːtti ˞ʃiː˥ kḁˀkina˥ki fˀfai beː˥munu ˥mirukaː ˞ɸun˥to: fˀfai˥ jaˀnija˥rubaŋʃeː](人が取って食うだおうかと思って < して >、掻き込んでいるのを見ると、まことに < 本当に > 食い意地が汚いわいな)。ッ˞ふァイヤニヤナー˥ヌ [fˀfaijanijanaː˥nu](意地汚くない)。ッ˞ふァイヤニヤ˥ヌ　˥ミリ　ブ˞ララヌ [fˀfaijanija˥nu ˥miri buˀraranu](意地汚くて見ておれない)。˞シンダイ˥　ッ˞ふァイヤニ˥ヤ　˥ナリケーン [˞ʃindai˥ fˀfaijani˥ja narikeːŋ](次第に意地汚くなってきた)。ウ˞リン˥　スコー　ッ˞ふァイヤニ˥ヤ (ル)　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [ʔuˀrin˥ su̥ko: fˀfaijani˥ja(ru) pu̥ˀsoː˥ buˀraːnu](彼ほど意地汚い人はいない)。

ッ˞ふァイヤビ [fˀfaijabi] 【名】同じものを食べ過ぎて嫌になること。食傷気味。「食い破れ」の義。˞ウンヌ˥イー　カー˞ニ˥　ッ˞ふァーサリティ˥　ッ˞ふァイヤビバ˥　シ˞タムヌ˥ユー　ムッ˞トゥ˥　ッ˞ふ

ァーラヌ [˹ʔunnu˺ʔiː kaː˹ni˺ f˹faːsariti˺ f˹faijabiba˺ ʃi̥ ˹tamunu˺juː mut˹tu˺ f˹faːranu](芋のご飯だけ食べさせられて食傷気味になったのか、一向に＜ちっとも＞食べられないよ)。

ッ˹ふァイヤン **[f˹faijaŋ]** 【名】いくら食べても満腹しない病気。「食い病み」の義。糖尿病。ッ˹ふァイヤンドゥ˺　ヤ˹ル˺ユー　ギュー˹サ˺　ッ˹ふァーバン˺　ッ˹ふァイプサ˺　カー˹ニル˺　アル [f˹faijandu˺ ja˹ru˺juː gjuː˹sa˺ f˹faːbaŋ˺ f˹fai˺pu̥sa kaː˹niru˺ ʔaru](食べる病気にでもなったのか、いくら食べても満腹しない＜食べたいだけである＞)。

ッ˹ふァイユー **[f˹faijuː]** 【名】食べる分。食用。食用に充当するもの。ッ˹ふァイユーヤ˺　ヌ˹カ˺シティ　ヌ˹カ˺ロー　˹カーシ˺　ミサン [f˹faijuːja˺ nu˹ka˺ʃi̥ti nu˹ka˺roː ˹kaːʃi˺ misaŋ](食べる分＜食用＞は残して、残りは売ってもよい)。˹ドゥー˺ヌ　ッ˹ふァイユーヤンツァン˺　ヌ˹カサ˺ムティ　ムー˹ル　カーシ　ナー˺ヌ [˹duː˺nu f˹faijuːjantsan˺ nu˹kasa˺muti muː˹ru kaːʃi naː˺nu](自家用＜自分の食べる分＞すらも残さないで、全部売ってしまった)。

ッ˹ふァイユク **[f˹faijuku]** 【名】食欲。食い意地。「食い欲」の義。ッ˹ふァイユクヌ˺　ンジケーチバ　˹ヤン˺マー　マナ˹マンチン˺　パ˹シットゥ˺　ナ˹リ˺スヨー [f˹faijukunu˺ ʔnʤikeːʧiba ˹jam˺maː mana˹manʧim˺ pḁ˹ʃittu˺ na˹ri˺sujoː](食欲が出てきたから病気は間もなく＜すぐ＞治る＜気分爽快となる＞よ)。

ッ˹ふァイユコー˺ン **[f˹faijukoː˺ŋ]** 【形】いじきたない(意地汚い)。飲食物に対する欲が強い。「食い欲張りである」の義。ウ˹レー˺　イ˹チンマー　サッ˺コー　ッ˹ふァイユコー˺ンドゥター　ッ˹ふァイユコーナーン˺　ピンヌン　˺アン [ʔu˹reː˺ ʔi˹ʧimmaː sak˺koː f˹faijukoː˺nduta: f˹faijukoːnaːm˺ pinnuŋ ˺ʔaŋ](彼はいつもは非常に意地汚いが、また意地汚くない時もある)。ッ˹ふァイユコー˺　ナリティ　プ˹スンマー˺　ッ˹ふァーサヌ [f˹faijukoː˺ nariti pu̥˹summaː˺ f˹faːsanu](意地汚くなって、人には食べさせない)。˺アイニ　ッ˹ふァイユコー˺　プ˹ソー˺　ブ˹ラーヌ [˺ʔaini f˹faijukoː˺ pu̥˹soː˺ bu˹raːnu](あんなに意地汚い人はいない)。˺アイニ　ッ˹ふァイユコー˺カー　˹ウン˺ネー　パ˹ララ˺ヌ [˺ʔaini f˹faijukoː˺kaː ˹ʔun˺neː pa˹rara˺nu](あんなに意地汚ければ、あの家には行かれない)。

ッ˹ふァイヨーガリ **[f˹faijoːgari]** 【名】食べ過ぎて痩せること。「食い痩せ」の義。ウ˹レー˺　ウ˹ヌス˺ク　˹イー˺ヤ　ッ˹ふァイスンドゥ˺　ッ˹ふァイヨーガリ　シーブー˺ツォー [ʔu˹reː˺ ʔu˹nusu̥˺ku ˹ʔiː˺ja f˹faisundu˺ f˹faijoːgari ʃiːbuː˺tsoː](彼は、あれほど飯を食うのに、食べ過ぎて痩せて＜食い痩せして＞いるそうだ)。

ッ˹ふァインザリ **[f˹faindʑari]** 【名】食い散らし。食いちぎり。ア˹ダカ˺ナ　˹スー　ムヌバ　カイ˺　ッ˹ふァーシタ˺　クトー　カ˹シーカシー˺　ッ˹ふァームティ˺　ッ˹ふァインザリ　シー˺　シケー˹ドー˺ティバーヤ [ʔa˹daka˺na ˹suː munuba kai˺ f˹faːʃi̥ta˺ ku̥toː ka˹ʃiːkaʃiː˺ f˹faːmuti˺ f˹faindʑari ʃiː˺ ʃi̥keː˹doː˺tibaːja](あんなに高価なものを買って食べさせたらば、しっかり食べないで、食い散らかしてあるんだってばよ＜もったいない＞)。

ッ˹ふァインザルン **[f˹faindʑaruŋ]** 【他動】食い散らかす。乱雑に食べる。˹イー˺ヌ　˹ミー˺ザカー　ッ˹ふァインザルンダ˺　ッ˹ふァインザラサン˺ヨーニ　ン˹マーンマー˺シ　バ˹カシ [˹ʔiː˺nu ˹miː˺dʑakaː f˹faindʑarunda˺ f˹faindʑarasaɲ˺joːni ʔm˹maːmmaː˺ʃi ba˹kaʃi](ご飯が不味いと食い散らかすから、食い散らかさないように美味しく炊きなさい)。ッ˹ふァインザリ˺　シケーバン [f˹faindʑari˺ ʃi̥keːbaŋ](食い散らかしてあるよ)。˹イー˺バ　˺アイニ　ッ˹ふァインザリ˺　ヌーヤ　ウ˹レー [˹ʔiː˺ba ˺ʔaini f˹faindʑari˺ nuːja ʔu˹reː](ご飯をあのように食い散らかして、何事だよ、それは)。ッ˹ふァインザル˺　クトー　˹ナー˺ヌ [f˹faindʑaru˺ ku̥toː ˹naː˺nu](食い散らかすことはない)。ッ˹ふァインザレー˺　ミサムヌ [f˹faindʑareː˺ misamunu](食い散らかせばいいのに)。ッ˹ふァインザリ˺バ [f˹faindʑari˺ba](食い散らかせよ)。

ッ˹ふァウヤキ **[f˹faʔujaki]** 【名】子宝に恵まれること。また、その人。「子富貴」の義。ッ˹ふァウヤキル　マーウヤ˺キ [f˹faʔujakiru maːʔuja˺ki](子宝に恵まれることこそが真の富貴である＜諺＞)。˹ジン˺マー　˺アル　˺ウビシ　˺ミサン　ッ˹ふァウヤキル˺　プサ [˹ʤim˺maː ˺ʔaru ˺ʔubiʃi ˺misaŋ f˹faʔujakiru˺ pu̥sa](金はあるだけでよい。子宝が欲しい)。

ッ˹ふァ˺　ウ˹ラ˺スン **[f˹fa˺ ʔu˹ra˺suŋ]** 【連】堕胎する。「子を下ろす＜堕ろす＞」の義。ム˹カ˺シェー　˹グイ˺フゾーノーヌ　˹スー˺ワティ　ユ˹ノン˺ナーテー　パ˹ルミプス˺バ　ク˹ブ˺ラバレーラ　トゥ˹バシル˺　ッ˹ふァ˺　ウ˹ラ˺シモーッタティ˹ダー [mu˹ka˺ʃeː ˹gui˺ɸudʑoːnoːnu ˹suː˺wati ju˹non˺naːteː pa˹rumi-pusu˺ba ku˹bu˺rabareːra tu˹baʃiru˺ f˹fa˺ ʔu˹ra˺ʃimoːt-tati˹daː](昔は人頭税＜御庸布上納＞が厳しかった

ので、与那国では妊婦をクブラバリから飛ばせて堕胎させられた＜子を下ろさせられた＞そうだ)。

ッ˩ふァオーン [fˢfaʔoːŋ] 【名】親御嶽 (親お願) から分かれた子格の御嶽。「末社」に相当する。「子御嶽」の義。イ˩サナキナー˥ル　˩メー˥トゥルオーンヌ　ッ˩ふァオーンティ　アッ˥タ˩ナー [ʔiˢsanakinaː˥ru ˩meː˥turuʔoːnnu fˢfaʔoːnti ʔat˥ta˩naː](石垣島にが＜ぞ＞宮鳥御嶽の子御嶽というのが＜とて＞あったねえ)。

ッ˩ふァカサナイ˥キン [fˢfakasanai˥kiŋ] 【名】子守用の着物。「子負い衣」の義。袖なしの短い着物。これを着て子供を背負い、着物の左前裾の先を腰に回して左手で握り、子供がずれ落ちないように負ぶった。ッ˩ふァ˥ムレーキン [fˢfa˥mureːkiŋ](子守着) ともいう。ム˩カ˥シェー　ミ˩ドーン˥ッふァー　ッ˩ふァカサナイキン˥バ　キ˩シティル˥　ッ˩ふァ˥ムレー　シ˩タル [mu˩ka˥ʃeː miˢdoːŋ˥ffaː fˢfakasanaikim˥ba ki̥˩ʃitiru˥ fˢfa˥mureː ʃi̥˩taru](昔は女の子は子守用の着物を着て＜ぞ＞子守をしたものだ)。

ッ˩ふァガマラスン [fˢfagamarasuŋ] 【他動】暗ます。暗くする。ユ˩ネン˥マー　˩ヤー˥ンナカー　ッ˩ふァガマラサンドー˥シ　˩トゥー˥ル　˥シキ　ガ˩ラシ [ju˩nem˥maː ˩jaːn˥naka: fˢfagamarasandoː˥ʃi ˩tuː˥ru ˥ʃi̥ki ga˩raʃi](夜は家の中を暗くしないで＜暗まさないで＞ランプ＜灯籠＞を点けて明るくしなさい)。˩トゥー˥ル　シ˩キラン˥カー　˥ヤー　ッ˩ふァガマラスン˧ダー [˩tuː˥ru ʃi̥˩kiraŋ˥ka: ˥ja: fˢfagamarasun˧daː](ランプを点けないと、部屋を暗くするよ)。ッ˩ふァガマラシ˥　ミサン [fˢfagamaraʃi˥ misaŋ](暗くしてもよい)。ッ˩ふァガマラシェー˥　ミサムヌ [fˢfagamaraʃeː˥ misamunu](暗くすればいいのに)。ッ˩ふァガマラス˥　クトー　ナ˩ラ˥ヌ [fˢfagamarasu˥ ku̥to: na˩ra˥nu](暗くすることは出来ない)。˩マー˥ビン　ッ˩ふァガマラシ [˩maː˥bin fˢfagamaraʃi](もっと暗くせよ)。

ッ˩ふァガマリ [fˢfagamari] 【名】暗がり。陰。˥カナー　ッ˩ふァガマリヌ˥　ナ˩カ˥ナー　シ˩ラーシラー˥シ　ム˩ヌ˥ヌ　ミ˩ラ˥リン [˥kana: fˢfagamarinu˥ na˩ka˥na: ʃi˩raːʃiraː˥ʃi mu˩nu˥nu mi˩ra˥riŋ](あそこに、暗がりの中にうっすらとものが見える)。

ッ˩ふァガマルン [fˢfagamaruŋ] 【自動】暗くなる。暗がる。ッ˩ふァガマラン˥ケン　˩ギーッティ˥　クーバ [fˢfagamaraŋ˥keŋ ˩giːtti˥ kuː](暗くならないうちに行って来い)。パ˩リマー˥キ　˩ベーン˥ケン　ッ˩ふァガマリ　ナー˥ヌ [pa˩rimaː˥ki ˩beːŋ˥ken fˢfagamari naː˥nu](行きかねているうちに暗くなってしまった)。ナー˩イ　ベーン˥ケン　ッ˩ふァガマルン˧ダー [naː˩i beːŋ˥ken fˢfagamarun˧daː](じっとしている間に暗くなるよ)。ッ˩ふァガマル˥　クトー　˩ナー˥ヌ [fˢfagamaru˥ ku̥to: ˩naː˥nu](暗がることはない)。ッ˩ふァガマレー˥　ミサムヌ [fˢfagamareː˥ misamunu](暗くなればいいのに)。ッ˩ふァガマル˥カー　ッ˩ふァガマリ　ターシタガヤ [fˢfagamaru˥kaː fˢfagamari taːʃi̥tagaja](暗くなるなら暗くなれ、誰が知ったことか)。

ッ˩ふァ˥　ク˩バー˥ン [fˢfa˥ ku˩baː˥ŋ] 【連】子供に縁がない。流産したり、生まれた子供が早死にしたりして母親と子供の縁が薄いこと。ク˩バー˥ン [ku˩baː˥ŋ](仲が悪い) の原義は、「強し」の義で、「なかなか～できない」の意を表す。「磽、己波志＜こはし＞」『新撰字鏡』の転訛したもの。ヤ˩バー˥ン [ja˩baː˥ŋ](やはし＜和＞の義で、「よく～する」の意。「和、ヤハシヌ」『類聚名義抄』) の対義語。ッ˩ふァ˥　ク˩バー˥ル　ミ˩ドゥ˥モー　プ˩スヌ˥　バタ　カ˩リティ˥　ッ˩ふァ˥　ナ˩サ˥ソーッタ [fˢfa˥ ku˩baː˥ru mi˩du˥mo: pu̥˩sunu˥ bata ka˩ritiru˥ fˢfa˥ na˩sa˥soːtta](子に縁の薄い女は、お産の軽い、相性の人を仮親に頼んで＜他人の腹を借りて＞出産させなされ＜子を産ませられ＞た)。

ッ˩ふァシゥカ˥ナイ [fˢfasi̥˩ka˥nai] 【名】子育て。「子養い」の義。ッ˩ふァシゥカナイ˥ヤー　ウ˩ヤ˥ヌ　ス˩クブン˥　ヤ˩ルンダ˥　シゥカイ˩トゥ˥　シゥ˩カ˥ナイ　˩マイフナー˥　マ˩ラシ˥ヨー [fˢfasi̥˩kanai˥ja: ʔu˩ja˥nu su̥˩kubuɲ˥ ja˩runda˥ si̥˩kai˩tu˥ si̥˩ka˥nai ˩maiɸunaː˥ ma˩raʃi˥joː](子育ては親の義務＜職分＞だから、しっかり養育して立派な人に育て＜産み育て＞なさいよ)。

ッ˩ふァジマ [fˢfaʤima] 【名】主島から分かれた島。「子島」の義。パ˩トゥ˥マー　フ˩シ˥マラヌ　バ˩カ˥リティ　ア˩ザリ　ブーユンダ˥　パ˩トゥ˥マー　フ˩シマ˥ヌ　ッ˩ふァジマ˥　ナルシジ [pa˩tu˥ma: ɸu̥˩ʃi˥maranu ba˩ka˥riti ʔa˩ʤari buːjunda˥ pḁ˩tu˥ma: ɸu̥˩ʃima˥nu fˢfaʤima˥ naruʃiʤi](鳩間は黒島からの分かれといわれているから、鳩間は黒島の子島になるわけだ)。

ッ˩ふァスダティ [fˢfasudati] 【名】子育て。ッ˩ふァシゥカ˥ナイ [fˢfasi̥˩ka˥nai](子養い) ともいう。ッ˩ふァスダティゾー˥ジ [fˢfasudatiʤoː˥ʤi](子育て上手)。˩ウン˥ネヌ　ッ˩ふァスダ˥テー　イッ˩ケナ˥　キ˩ビ

ッ˥サ　ア˞ローッ˥タン [˞ʔun˥nenu fˢfasuda˥teː ʔik˞kena˥ ki˞bis˥sa ʔa˞roːt˥taŋ](あの家の子育ては非常に厳しくあられた)。

ッ˞ふァダニ [fˢfadani] 【名】精子。「子種」の義。ブ˞トゥ˥ナー　ッ˞ふァダニヌ　ナーン˥ベーティル　ッ˞ふァー˥　ナ˞サン˥ツォー [bu˞tu˥naː fˢfadaninu naːm˥beːtiru fˢfaː˥ na˞san˥tsoː](夫に精子 < 子種 > がないので、子供は産まないそうだ)。

ッ˞ふァチクショー [fˢfatʃikuʃoː] 【名】親心を理解し得ない子供。親心を理解できない子供は畜生と同じの意味。「子畜生」の義。ウ˞ヤ˥バ　˞タン˥ガ　シ˞ティ˥シキティ　˞ピン˥ギパル　ス˞ク˥ヌ　ッ˞ふァチクショーティン˥　ブ˞リル　ブー [ʔu˞ja˥ba ˞taŋ˥ga ʃi̥˞ti˥ʃi̥kiti ˞piŋ˥giparu su̥˞ku˥nu fˢfatʃikuʃoːtim˥ bu ˞riru buː](親を一人をほったらかして < 捨て置いて > 逃げ去るほどの子畜生とているものだ)。

ッ˞ふァッ˥ツァーン [fˢfat˥tsaːŋ] 【形】子煩悩である。並外れて子供を愛し慈しむさま。ッ˞ふァ [fˢfa](子。子等) に接尾語˥ッツァーン [˥ttsaːŋ](生理的に～たがる。<～したさ・あり > の転訛したもの) が下接して形成された語。ウ˞レー　サッ˥コー　ッ˞ふァッ˥ツァーンダ　ッ˞ふァヌ˥　ミ˞ララン˥カー　ッ˞ふァ˥　トゥ˞ミ˥ルンティ　˞アーリス [ʔu˞reː sak˥koː fˢfat˥tsaːnda fˢfanu˥ mi˞raraŋ˥ka: fˢfa˥ tu˞mi˥runti ˞ʔaːrisu](彼 < あれ > は非常に子煩悩だから、子供が見えないと子供を捜そうと慌て騒ぐ)。ウ˞リヌ˥スコー　ッ˞ふァッツァー　ナー˥ヌ [ʔu˞rinu˥ su̥koː fˢfattsaː naː˥nu](彼 < あれ > ほどに子煩悩でない)。˥アイニ　ッ˞ふァッ˥ツァー　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [˥ʔaini fˢfat˥tsaː pu̥˞soː˥ bu˞raːnu](あのように子煩悩な人はいない)。

˥ッふァドゥル [˥ffaduru] 【名】(動) 鳥の名。和名、オオクイナ。うずら (鶉) に似るが、鶉より少し大きい。クイナの一種といわれている。˥ッふァドゥル [˥ffaduru] は、非常にッ˞ふァッツァー˥ン [fˢfattsaː˥ŋ](子煩悩である) といわれている。夜、コーイコーイと鳴くが、それは親鳥が雛鳥を呼ぶ鳴き声だといわれ、その名も「子を思う鳥」から命名されたといわれている。転じて、母親が子供のことを心配して、よく子供の名を呼んで探し回る人に対しても˥ッふァドゥル [˥ffaduru] と卑しめていう。昔、˥ッふァドゥルの雛を捕獲したある人が雛を家に持ち帰り、籠に入れて飼育しようと考えた。ところが、その晩遅く、その人が寝ている家へ、ッふァドゥルの母鳥が訪ねてきてトントンと戸を叩いて家の主を起こしたと言う。子を思う親鳥の心に打たれた家主は、以後ッふァドゥルを捕獲してはならないと家人に伝えたという昔話が伝承されている。˥ッふァドゥロー　マ˞タ˥　ウ˞ヤー˥リ　ッ˞ふァ˥トゥ˞ミ˥ルンティ　˞アーリ　ベー [˥ffaduroː ma˞ta˥ ʔu˞ja:˥ri fˢfa˥ tu˞mi˥runti ˞ʔaːri beː](あのッふァドゥル < 鶉(ウヅラ) > は、また子供を捜そうと叫んで騒いでいる)。

ッ˞ふァナ˥サー [fˢfana˥saː] 【名】子供をよく産む人。多産の人。子だくさんの人。多少卑下した表現。ッ˞ふァナサー˥ヤ　˥パジェー　˞ナーントゥ ダー [fˢfanasaː˥ja ˥paʤe: ˞naːnt̪-daː](子だくさんの女には恥はないよ < 子育てで恥や外聞に構っておれない。何でもやるよ >)。

ッ˞ふァナサシ˥プス [fˢfanasaʃi˥pu̥su] 【名】子供を産ませる人。とりあげばば (取上げ婆)。カ˞ティ [kḁ˞ti](経験。ものごとの様子。具合) ともいう。「Catte. カッテ (勝手)、格好、あるいは形態.Iyeno cattega yoi」(家の勝手がよい)『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。˞サンバ˥カティ [˞samba˥kati](産婆勝手、産婆の経験)。˞サイク˥カティ [˞saiku˥kati](大工、細工の経験)。˞サンバ˥ヌ　˞オーラン˥　シマ　ヤ˞ルンダ˥　ッ˞ふァナサシ˥プソー　カ˞ティヌ˥　アル　プ˞スバ˥　タ˞ナミ˥ル　ッ˞ふァー˥　ナ˞サ˥シモーッタ [˞samba˥nu ˞ʔoːraŋ˥ ʃima ja˞runda˥ fˢfanasaʃi˥ pu̥so: kḁ˞tinu˥ ʔaru pu̥˞suba˥ ta˞nami˥ru fˢfaː˥ na˞sa˥ ʃimoːtta](産婆のいない島だから、取り上げ経験のある人を頼んで < ぞ > 子供を産ませられた)。

ッ˞ふァナシ˥パダ [fˢfanaʃi˥pada] 【名】子供を産める時期。出産可能な時期。ミ˞ドゥ˥モー　ッ˞ふァナシ˥パダティン　ア˞リ˥ブンダ　ウ˞ヌ˥　パダナー˥ナシ　ス˞ダティ˥リ [mi˞du˥mo: fˢfanaʃi˥padatiŋ ʔa˞ri˥bunda ʔu˞nu˥ padana: ˥naʃi su˞dati˥ri](女には出産可能な時期というのがあるから、その時期に生んで育てなさい)。

ッ˞ふァナシ˥プス [fˢfanaʃi˥pu̥su] 【名】産婦。出産した人。「子産み人」の義。ッ˞ふァナシプス˥ヌ　˞ドゥー˥ヤ　˞ザーリドゥー˥ティ　ア˞ザリ　ブーユンダ　ピーリ˥ミジ　シゥ˞カウナ˥ヨー [fˢfanaʃipu̥su˥nu ˞duː˥ja ˞ʤaːridu:˥ti ʔa˞ʤari buːjunda piːri˥miʤi si̥˞kauna˥joː](産婦の体は朽ち木のような弱った体といわれているから、冷たい水を使うなよ)。

ッ˞ふァフクル [fˢfaɸukuru] 【名】胎児や胎盤を包む器官。羊膜。「子袋」の義。バ˞タ˥ヌ　ナ˞カヌ˥　ッ˞ふァー˥　ッ˞ふァフクル˥ナール　ッ˞スマ˥リ　˞ブ

ー [ba˞ta˺nu ˺nakanu fˇfa:˺ fˇfaɸukuru˺na:ru s˞suma˺ri ˞bu:](腹の中の子は羊膜 < 子袋 > に包まれている)。

ッ˞ふァ˺マー [fˇfa˺ma:] 【名】こまご (子孫)。子孫。ッ˞ふァマー˺ヌ　サ˞カリバル˺　キ˞ナイヤー　パン˺ゾー　˞スー [fˇfama:˺nu sa˺karibaru˺ ki˞naija: ˞pan˺ʤo: ˞su:](子孫が栄えたらばこそ一家 < 家内 > は繁盛するものだ)。

ッ˞ふァムイ˺サン [fˇfamui˺saŋ] 【形】子煩悩であるさま。子供を可愛がるさま。名詞に形容詞型活用の接尾語˞-ムイ˺サン [˞-mui˺saŋ](〜煩悩である。よく〜を思う。<〜思いさあり > の転訛) の付いた形容詞型接尾語。ウ˞トゥザムイ˺サン [fˇfamui˺saŋ](親戚思いである)。シザ˞ムイ˺サン [[ʃiʤa˞mui˺saŋ](兄、姉思いである)。˞キョー˺ダイムイサン [˞kjo:dai˺muisaŋ](兄弟思いである)。ビ˞ケーヤ˺　ッ˞ふァムイ˺サンドゥ　ブ˞ネーヤ˺　ッ˞ふァムイサー　ナー˺ヌ [bi˞ke:ja˺ fˇfamui˺sandu bu˞ne:ja˺ fˇfamuisa: na:˺nu](父親は子煩悩であるが母親は子煩悩でない)。˞ビケーヤ˺　ア˞マ˺ヌ　ッ˞ふァムイ˺サティ　ムー˞ル˺　ビ˞ケーナー˺ル　˺シキ　˞ブー [bi˞ke:ja˺ ʔa˞ma˺nu fˇfamui˺sati mu:˞ru˺ bi˞ke:na:˺ru ˺ʃi̥ki ˞bu:](父親があまりにも子煩悩だから、皆父親についているよ)。ウ˞リヌ˺　スコー　ッ˞ふァムイ˺サル　プ˞ソー˺　ブ˞ラーヌ [ʔu˞rinu˺ su̥ko: fˇfamui˺saru pu̥˞so:˺ bu˞ra:nu](彼ほど子煩悩な人はいない)。

ッ˞ふァムチ [fˇfamutʃi] 【名】子だくさん。子福者。「子持ち」の義。˺カイブ　˞ナンギシグ˺トー　ッ˞ふァムチンナー˺ネー　タ˞ナム˺ナ˞ヨー [˺kaibu ˞naŋgiʃigu˺to: fˇfamutʃinna:˺ne: ta˞namu˺na˞jo:](こんな難儀な仕事は子だくさんの人には頼むなよ)。

ッ˞ふァ˺ムレー [fˇfa˺mure:] 【名】子守。トゥ˞ナルヌ˺　ミ˞ドーン˺ッふァバ　ッ˞ふァ˺ムレー　タ˞ナ˺ミ　˞サーリクー˺タ [tu˞narunu˺ mi˞do:ŋ˺ffaba fˇfa˺mure: ta˞na˺mi ˞sa:ri ku:˺ta](隣の女の子を子守に頼んで連れてきた)。

ッ˞ふァ˺ムレーウタ [fˇfa˺mure:ʔuta] 【名】子守唄。ミ˞ドーン˺ッふァンケーヤ　ッ˞ふァ˺　カ˞サ˺ナイティ　ッ˞ふァ˺ムレーウタバ　イ˞ジェー˺ティル　ッ˞ふァ˺ムレー　シ˞タル [mi˞do:ŋ˺ffaŋke:ja fˇfa˺kḁ˞sa˺naiti fˇfa˺mure:ʔutaba ʔi˞ʤe:˺tiru fˇfa˺mure: ʃi̥˞taru](女の子達は、子供を負ぶって子守唄を歌いながら子守をしたものだ)。

ッ˞ふァ˺ムレーキン [fˇfa˺mure:kiŋ] 【名】子守用の着物。普通は、ッ˞ふァカサナイ˺キン [fˇfakasanai˺kiŋ](子供負ぶい衣) という。ッ˞ふァ˺ムレーキンマー　プ˞スッ˺クビ　カー˞ニル˺　ヌ˞カ˺リ　˞ベー˺ル [fˇfa˺mure:kimma: pu̥˞suk˺kubi ka:˞niru˺ nu˞ka˺ri˞be:˺ru](子守用の着物は一着だけしか残っていない < 一着だけが残っている >)。

ッ˞ふァムン [fˇfamuŋ] 【自動】暗くなる。暗む。ッ˞ふァームン [fˇfa:muŋ](暗む) と同じ。ティ˞ダ˺ヌウ˞ティ˺ルカー　ッ˞ふァムンダ˺　ッ˞ふァマン˺ケン　˞ヤー˺　パラ [ti˞da˺nu ʔu˞ti˺ruka: fˇfamunda˺ fˇfamaŋ˺keɲ ˞ja:˺para](太陽が落ちると暗くなる < 暗むから >、暗くならない < 暗まない > うちに家に帰ろう < 行こう >)。キサー˞ティ˺　ッ˞ふァミナー˺ヌ [kisa:˞ti˺ fˇfami na:˺nu](すでに暗くなってしまった)。˞オーパ˺ヤー　ッ˞ふァム˺　パジェー　˞ナーヌ˺ヌ　ッ˞ふァメー˺カー　ミ˞サ˺ルメー [˞ʔo:pa˺ja: fˇfamu˺ paʤe: ˞na:nu˺nu fˇfame:˺ka: mi˞sa˺rume:](こんなに早く暗くなることはないが、暗くなったのであれば仕方ないさ)。˞パー˺ク　ッ˞ふァミ [˞pa:˺ku fˇfami](早く暗くなれ)。

ッ˞ふァヨーン [fˇfajo:ŋ] 【名】真っ暗闇。暗闇の夜。ッ˞ふァヨーンサーリ˺　˞ティーサドゥル˺バ　˞シェー˺ティル　ヤッ˞トゥ˺シ　キ˞ラリタ˺ル [fˇfajo:nsa:ri ti:saduru˺ba ˞ʃe:˺tiru jat˞tu˺ʃi ki˞rarita˺ru](暗闇の夜で、手探りをしながらやっとのことで来られたのだよ)。

ッ˞ふィールン [fˇfi:ruŋ] 【他動】1くれる (呉れる)。やる。くれてやる。「〜みな人童 (わらは) までに呉れたれば〜」『土佐日記』の転訛したもの。[kure] → [ɸuri] → [ffi] の様に音韻変化したもの。ク˞レー　ワン˺　ッ˞ふィールンティ˺　ウ˞ムータン˺ドゥ　マ˞ナ˺マー　ッ˞ふィーラヌ [ku˞re: wan˺ fˇfi:runti˺ ʔu˞mu:tan˺du ma˞na˺ma: fˇfi:ranu](これは君に呉れようと思ったが、今は呉れない)。˺バーラ　ッ˞ふィー (リ)˺　ミサカー　ッ˞ふィール˺　クトー　˺ナルン [˺ba:ra fˇfi:(ri)˺ misaka: fˇfi:ru˺ ku̥to:˺naruŋ](私から呉れて良ければ、呉れ < てや > ることはできる)。ウ˞リン˺　ッ˞ふィーレー˺　ミサムヌ [ʔu˞riŋ˺ fˇfi:re:˺ misamunu](それも呉れれば良いのに)。ウ˞レー˺　カ˞リン˺　ッ˞ふィーリ˺バ [ʔu˞re:˺ ka˞riŋ˺ fˇfi:ri˺ba](それは彼に呉れ < やり > なさいよ)。2補助動詞。動詞の連用形に下接して˞〜てやる」の意味を表す。˞ワン˺ニン　ジー˺　カキッ˞ふィールン˺ツォー [˞wan˺nin ʤi:˺ kḁki fˇfi:run˺tso:](君にも字を書いてやるそうだ)。

ッ˞ふアー˺ル [fˇfuʔa:˺ru] 【名】(動) 黒蟻。黒い蟻。ッ

˩ふアー˥ルン　˩ホー˥リカー　ヤムン˩ダー [fˢfuʔa:˥ruŋ ˥ho:˥rika: jamun˩da:](黒蟻に咬まれたら痛いよ)。

ッ˩ふアタ˥ル [fˢfuʔata˥ru] 【名】不浄負け。死者の死毒にあたること。「黒当り」の義。キ˩ジヌ˥　アルプ˩ソー˥　ッ˩ふアタ˥ル　˩スン˥ティバ　シ˩ニプスヌヤー˥ヤ　˩パン˥ナ˩ヨー [ki˩ʤinu˥ ʔaru pu̥˩so:˥ fˢfuʔata˥ru ˩sun˥tiba ʃi˩nipusunu˥ja: ˩pan˥na˩jo:](傷のある人は死毒にあたるというから、死人の家には行くなよ)。

˥ッふイ [˥ffui] 【名】陰毛。「黒毛」の義。腋毛。[kuroke](黒毛)→ [huruki:] → [ffuçi:] → [ffui] のように音韻変化したもの。ッ˩ふイ˥ヌ　˩ムイ˥ルカー　˥メー　ウ˩ブ˥プス˩ダー [fˢfui˥nu ˩mui˥ruka: ˥me: ʔu˩bu˥pu̥su˩da:](陰毛が生えたら、もう大人だよ)。

ッ˩ふイラ˥ブチ [fˢfuʔira˥butʃi] 【名】(動) 魚の名。ブダイの仲間。体長 20〜25 センチの成魚がよく漁獲された。蒲鉾の材料として重宝された。

ッ˩ふ˥イル [fˢfu˥ʔiru] 【名】黒色。ッ˩ふふイル˥バ　˩ヌーリ˥シケー [fˢfuʔiru˥ba ˩nu:ri˥ʃi̥ke:](黒色を塗ってある)。ッ˩ふイル˥トゥ　ッ˩スイル˥トー　ム˩カ˥シェーラヌ　˥イルティ　ウ˩モー˥リ [fˢfuʔiru˥tu s˩suʔiru˥to: mu˩ka˥ʃe:ranu ˥ʔiruti ʔu˩mo:˥ri](黒色と白色は昔からの色と思われる)。サ˩カサ [sḁ˩kasa](司) は白の神衣装を着けて神前で祈り、ティ˩ジリ˥ビ [ti˩ʤiri˥bi](男性神職者) は紺染め < 黒色 > の神衣装を着けて神前に額づき祈ることから民族の基本的な色彩と考えられる。

ッ˩ふ˥カー [fˢfu˥ka:] 【名】非常に古い着物。着古して破れた着物。つづれ。˥カー [˥ka:](皮) は、˥キンカー [˥kiŋka:](着物類。衣類) の˥カー [˥ka:] のこと。「皮、賀波 (かは)、被 v 体也」『和名抄』の義。ク˩レー˥　ッ˩ふ˥カー　˥ナリティ　キ˩サラヌ [ku˩re:˥ fˢfu˥ka: ˥nariti ki̥˩saranu](これは非常に古い着物 < つづれ > になって着られない)。

ッ˩ふ˥カビ [fˢfu˥kabi] 【名】黒い紙。[kuro](黒)→ [kuru] → [ffu] と音韻変化したものに、カ˩ビ [ka˩bi](紙) が下接して形成された合成語。ッ˩ふ˥カベー　˩ナン˥ゾー　˩ナーン˥シェン [fˢfu˥kabe: ˩nan˥ʤo: ˩na:ŋ˥ʃeŋ](黒い紙はあまりなかった)。

ッ˩ふカビ˥ムヌ [fˢfukabi˥munu] 【名】服喪中の人。˩不浄を被っている人 (黒被り者)」の義。ッ˩ふカビ˥ムノー　プ˩スン˥ヤー　˥パル　˥ムノー　ア˩ラ˥ヌ [f˩fukabi˥muno: pu̥˩suŋ˥ja: ˥paru ˥muno: ʔa˩ra˥nu](服喪中の人は余所の家に行くものではない)。

ッ˩ふ˥キジ [fˢfu˥kiʤi] 【名】古傷。ビ˩トゥラー˥　ムヌ　ッ˩ふータール˥　ヤ˩ル˥ユー　ッ˩ふキジ˥ヌン˩バイティ˥　バ˩カンゲー˥リ　˥キー　˩ナー˥ヌ [bi˩tura:˥ munu fˢfu:ta:ru˥ ja˩ru˥ju: fˢfukiʤi˥nu ʔm˩baiti˥ ba˩kaŋge:˥ri ˥ki: ˩na:˥nu](脂っこい物を食べたせいか、古傷が化膿して、悪化し < 若がえって > てしまったよ)。

ッ˩ふ˥キン [fˢfu˥kiŋ] 【名】古着。ム˩カ˥シェー　ッ˩ふキン˥バ　˩トー˥シティル　シ˩ビシ˥ケー　˩サーソーッ˥タ [mu˩ka˥ʃe: fˢfukim˥ba ˩to:˥ʃi̥tiru ʃi˩biʃi̥˥ke: ˩sa:so:t˥ta](昔は古着をつぶして < たおして > おむつ < 御襁褓 > を作られた)。

ッ˩ふコー˥ジ [fˢfuko:˥ʤi] 【名】黒かび。黒麹。ッ˩ふコー˥ジ　˥タティティル　˩マイヌミー˥ソー　マ˩ラソーッ˥タ [fˢfuko:˥ʤi ˥tḁtitiru ˩mainumi:˥so: ma˩raso:t˥ta](黒麹をたてて < ぞ > 米味噌は製造さ < 産ませ > られた)。

ッ˩ふ˥サタ [fˢfu˥sata] 【名】黒砂糖。砂糖黍を搾って汁液を煮詰め、石灰を少量加えて凝固させた砂糖。戦前には鳩間島でも黒糖を製造していた。˩ウイ˥プソー　ッ˩ふサタ˥バ　フ˩ク˥メーティル　˥サーン　ヌ˩モーッタ˥ル [˩ʔui˥puso: fˢfusata˥ba ɸu̥˩ku˥me:tiru ˥sa:n nu˩mo:tta˥ru](お年寄りは黒砂糖を口に含みながらお茶も飲まれたものだ)。

ッ˩ふ˥シー [fˢfu˥ʃi:] 【名】梅毒。「黒血 < 腐って黒みをおびた血 >」の義。ム˩カ˥シェー　サ˩カナヤーミドゥムナー˥ル　ッ˩ふ˥シー　カ˩カリ˥プソー　˩ゴー˥ラータツォー [mu˩ka˥ʃe: sa˩kanaja:midumuna:˥ru fˢfu˥ʃi: kḁ˩kari˥pu̥so: ˩go:˥ra:tatso:](昔は料亭の女性に梅毒患者が多かったそうだ)。

ッ˩ふシキ˥ル [fˢfuʃi̥ki˥ru] 【名】(動) クロナマコ (黒海鼠)。体長約 30 センチ。乾燥して中華料理の食材として沖縄に輸出したが、よく売れた。ッ˩ふシキ˥ロー　˥ガシティル　˩カーシタル [fˢfuʃi̥ki˥ro: ˥gaʃitiru ˩ka:ʃi̥taru](黒ナマコは焙乾して < ぞ > 売ったものだ)。

ッ˩ふシタ˥ダル [fˢfuʃi̥ta˥daru] 【名】黒ずんで不潔なさま。黒々と汚れて不潔なさま。薄汚れして不潔なさま。ッ˩ふシタ˥ダル　˩スン˥ケン　ナー˩イ˥　ユ˩ヌキン˥バ　キ˩シアー˥ク [fˢfuʃi̥ta˥daru ˩suŋ˥ken na:˩i˥ ju˩nukim˥ba ki̥˩ʃi ʔa:˥ku](黒々と汚れて不潔になるまで、すっと同じ着物を着ている < 着てあるく >)。

ッ˩ふジルカー˥ジル [fˢfuʤiruka:˥ʤiru] 【副】黒色を

おびているさま。黒ずんで汚れたもの。薄汚れしているさま。ABCDEFCD 型の重言。ッˈふジルカーˈジル ˈシーブ キンˈバ キˈシェーˈティ ˈアークˈナˈヨー [fˈfuʤirukaːˈʤiru ˈʃiːbu kimˈba kiˈʃeːˈti ˈʔaːkuˈnaˈjoː](黒ずんで汚れた着物を着ているなよ)。ミˈドーンˈッふァー ッˈふジルカーˈジル ˈシーブˈ キン キˈササンドーˈシ アˈガラパタラ シーブˈ キン キˈサシˈヨー [miˈdoːnˈffa: fˈfuʤirukaːˈʤiru ˈʃiːbuˈ kiŋ kiˈsasandoːˈʃi ʔaˈgarapatara ʃiːbuˈ kiŋ kiˈsaʃiˈjoː](女の子は黒ずんだがら < 柄 > の着物は着せないで、明るい華やかな柄の着物を着せなさいよ)。

ッˈふˈシル ˈカビ [fˈfuˈʃiru ˈkabi] 【連】喪に服して。「黒っぽいものを被って」の義。ッˈふˈシル ˈカビ ˈヨイシˈヤーヤ パˈララˈヌ [fˈfuˈʃiru ˈkabi ˈjoiʃiˈ jaːja paˈraraˈnu](喪中なので、慶事の家 < 祝いをする家 > には行けない)。

ッˈふˈタリキン [fˈfuˈtarikiŋ] 【名】古着。襤褸。ッˈふˈタリキンバ スˈクˈライティ シˈグトゥキン スンティ ベー [fˈfuˈtarikimba sɥˈkuˈraiti ʃiˈgutukin sunti beː](古着を繕って仕事着にしようとしている)。

ッˈふタリルˈン [fˈfutariˈruŋ] 【自動】古びる。襤褸になる。古くなって朽ち果てる。ッˈふタリˈルンケン ナーˈイˈ ユˈヌキンˈバ キˈシ ベー [fˈfutari ˈruŋken naːˈiˈ juˈnu kimˈba kiˈʃi beː](古くなって襤褸になるまで、ただ同じ着物を着ている)。ˈティーˈリ ˈスーˈカー ッˈふウタリラˈヌ [ˈtiːˈri ˈsuːˈkaː f ˈfutariraˈnu](手入れをすると襤褸にならない)。クˈレーˈ ッˈふˈタリティ キˈサラヌ [kuˈreːˈ fˈfuˈtariti kiˈsaranu](これは古びて襤褸になって着られない)。ˈオーパˈヤー ッˈふタリˈル ˈムノー キˈサラヌ [ˈʔoːpaˈjaː fˈfutariˈru ˈmunoː kiˈsaranu](そんなに早く襤褸になるものは着られない)。ˈマーˈビン ッˈふタリˈレー ˈミサムヌ [ˈmaːˈbin fˈfutariˈreːˈ misamunu](もっと古びて朽ち果てればいいのに)。

ッˈふドーンˈグ [fˈfudoːŋˈgu] 【名】古道具。フˈルドーンˈグ [ɸuˈrudoːŋˈgu] とも。クˈレーˈ ウˈヤˈヌ シゥˈカイヨーˈレール ッˈふドーンˈグ ヤˈルンダˈ ウˈムイツァーˈヌ シˈティララヌ [kuˈreːˈ ʔuˈ jaˈnu siˈkaijoːˈreːru fˈfudoːŋˈgu jaˈrundaˈ ʔuˈmuitsaːˈnu ʃiˈtiraranu](これは親が使っておられた古道具だから、惜しくて捨てられない)。

ッˈふˈトゥジ [fˈfuˈtuʤi] 【名】先妻。古女房。「ふるとじ (古刀自)」の転訛。トゥˈジ [tuˈʤi](妻) は「〜吾が子の刀自を〜。万 723」の「刀自」の義。サˈキトゥジ [saˈkituʤi](先妻) より語感が落ちる。ˈミートゥジェーˈ アˈラˈヌ プˈスヌˈ ッˈふトゥジˈバ トゥˈジティ シー サーリˈ ケーツォー [ˈmiːtuʤeːˈ ʔaˈraˈnu pɥˈsunuˈ fˈfutuʤiˈba tuˈʤiti ʃiː saːriˈ keːtsoː](新妻ではなく、他人の古女房を妻として連れてきたそうだ)。

ッˈふヌーˈル [fˈfunuːˈru] 【名】黒雲。雨雲。入道雲。「黒塗り」の義。ニˈシクベーˈ ッˈふヌーˈル カˈカˈリティ マナˈマンチンˈ アˈミˈヌ ˈフインˈギサˈサー [niˈʃikubeːˈ fˈfunuːˈru kaˈkaˈriti manaˈmantʃinˈ ʔaˈmiˈnu ˈɸuiŋˈgisaˈsaː](北の空 < 北壁 > には真っ黒の雨雲がかかって、今にも雨が降りそうだよ)。

ッˈふˈパカ [fˈfuˈpaka] 【名】古墓。昔の墓。鳩間島の古墓の様式は、原野にカˈソーライシ [kaˈsoːraʔiʃi](テーブル珊瑚) で四角の石室を作り、周囲に石垣を積んで円墳形に仕上げたものであったという。ユˈナˈデヌ ッˈふˈパカー カˈソーライシˈシ スˈクラˈリティ ˈグスˈク シˈマリブタˈダー [juˈnaˈdenu fˈfuˈpaka: kaˈsoːraʔiʃiˈʃi sɥˈkuraˈriti ˈgusɥˈkuʃiˈmaributaˈdaː](与那田家の古墓は、テーブル珊瑚で石室が作られていて、周囲を石垣で積まれていたよ)。

ˈッふパジン [ˈffupaʤiŋ] 【名】 (動) 蜂の一種。「黒蜂」の義。「ユスルバチ (土蜂)」『八重山語彙』とある。ˈッふパジンマー ドゥˈルˈシ ˈシー スˈクˈリ ˈブーヌˈ ウˈリンˈ ッˈサˈリカー ニˈチˈヌ ンˈジˈルンˈダー [ˈffupaʤimmaː duˈruˈʃi ˈʃiː sɥˈkuˈri ˈbuːnuˈ ʔuˈrinˈ sˈsaˈrikaː ˈnitʃi ʔnˈʤiˈrunˈdaː](黒蜂は泥で巣を作っているが、あれ < それ > に刺されると熱がでるよ)。

ッˈふピジˈル [fˈfupiʤiˈru] 【名】やけぼっくい (焼け棒杭)。ッˈふピジˈロー ˈピー ˈタシキ ヤッˈサン [fˈfupiʤiˈroː ˈpiː ˈtaʃiki jasˈsaŋ](焼け棒杭は火を焚きつけやすい)。

ッˈふˈプー [fˈfuˈpuː] 【名】[1]黒い穂。ˈザイレーマイˈヌ ˈプーˈヤー ッˈふˈプー < アˈガプー > ˈヤッタ [ˈʤaireːmaiˈnu ˈpuːˈja fˈfuˈpuː < ʔaˈgapuː > ˈjatta](在来種の稲の穂は黒い穂であった)。[2]黒穂。イモチ病にかかった稲穂。ˈマイヤー ムイˈフクン ˈシーティルˈ ッˈふˈプー ナリˈベー [ˈmaijaː muiˈɸɥkuŋ ˈʃiːtiruˈ fˈfuˈpuː nariˈbeː](稲 < 米 > はイモチ病にかかって黒穂になっている)。

ッˈふˈプス [fˈfuˈpɥsu] 【名】梅毒患者。イˈクサユー

˜ヌ　˜アトー　フ˞チル˜ヌ　˜カナイキー　ッ˞ふ˜プスン　ブ˞ラーン˜　ナレーンティ˞ダー [ʔi˞kusajuː ˜nu ˜ʔatoː ɸu̥˞tʃiru˜nu ˜kanaikiː f˞fu˜pu̥sum bu˞raːn˜ nareːnti˞daː](戦後は薬がよく効くようになったので＜適うので＞梅毒患者もいなくなったそうだよ)。

ッ˞ふ˜ムー [f˞fu˜muː] 【名】喪に服すること。「黒喪」の義。ッ˞ふ˜ムー　カ˞カリ˜ブバ　˞ヨイシ˜ヤー　˞パン˜ナ [f˞fu˜muː kḁ˞kari˜buba ˞joiʃi˜jaː ˞pan˜na](服喪中だから＜黒い喪にかかっているから＞お祝いの家には行くな)。

ッ˞ふ˜ムヌ [f˞fu˜munu] 【名】古物。ッ˞ふ˜ムノー　シゥ˞カーランバ˜　シ˞ティリ˜バメー [f˞fu˜munoː si̥˞kaːramba˜ ʃi̥˞tiri˜ba ˜meː](古物は使えないから捨てなさいよ、もう)。

ッ˞ふ˜ムン [f˞fu˜muŋ] 【自動】黒ずむ。黒くなる。「黒む」の義。ユ˞グシタンティン˜　ッ˞ふマ˜ヌ [ju˞guʃi̥-tantin˜ f˞fuma˜nu](汚しても黒ずまない)、˞シンダイ˜　ッ˞ふ˜ミ　˜クン [˞ʃindai˜ f˞fu˜mi ˜kuŋ](次第に黒ずんでくる)。ドゥ˞ルミジ˜ナー　ア˞ラウ˜カー　ッ˞ふ˜ムン˞ダー [du˞rumiʤi˜naː ʔa˞rau˜kaː f˞fu˜mun ˞daː](泥水で洗うと黒ずむよ)。ドゥ˞ルミジ˜ナー　ア˞ラウバン˜　ッ˞ふ˜ム　˜クトー　˞ナー˜ヌ [du˞rumiʤi˜naː ʔa˞rauban˜ f˞fu˜mu ˜ku̥toː ˞naː˜nu](泥水で洗っても黒ずむことはない)。ッ˞ふ˜メーラー　シゥ˞カーラヌ [f˞fu˜meːraː si̥˞kaːranu](黒ずんだら使えない)。

ッ˞ふ˜ヤー [f˞fu˜jaː] 【名】古い家。「古屋」の義。ッ˞ふ˜ヤー　ヤ˞ルンダ　カー˜ラン　タ˞ル˜キン　˞ヨーリ˜ティ　フ˞キガイ　サン˜カー　ナ˞ラ˜ヌ [f˞fu˜jaː ja˞runda kaː˜ran ta˞ru˜kiɲ ˞joː˜riti ˞ɸu̥˞kigai saŋ˜kaː na˞ra˜nu](古い家だから、瓦も垂木も弱っていて、葺き換えしないといけない)。

ッ˞ふン [f˞fuŋ] 【他動】食う。食べる。「食らひ」『土佐日記』、「Curai,,ta. クライ、ゥ、ゥタ (飡ひ、ふ、うた) 食う、下賤の者とか獣とかについていう」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞イー˜ヤ　ン˞マー˜カー　ッ˞ふンドゥ　ミー˜ザカー　ッ˞ふァーヌ [˞ʔiː ˜ja ʔm˞maː˜kaː f˞fundu miː˜ʤaka: f˞faːnu](ご飯は美味しかったら食うが、不味かったら食わない)。ッ˞ふァイ˜プサタンティン　ク˞レー˜　ッ˞ふー˜　クトー　ナ˞ラ˜ヌ [f˞fai˜pu̥satantiŋ ku˞reː˜ f˞fuː˜ ku̥toː na˞ra˜nu](食いたくても、これは食うことはできない)。˞マー˜ビン　ッ˞ふァイヤー˜　ミサムヌ [˞maː˜biŋ f˞faija:˜ misamunu](もっと食えばいいのに)。˞ドゥー˜ヌ　˞イー˜ヤ　˞パー˜ク　ッ˞ふァイ [˞duː˜nu ˞ʔiː˜ja ˞paː˜ku f˞fai](自分のご飯は早く食え)。「〜上つ瀬の鮎を令咋＜クワシメ＞〜。万、3330」、「波夜具比＜ハヤグヒ＞〜。古事記、雄略歌謡 98」の転訛したもの。˜イー　ッ˞ふン [˜ʔiː f˞fuŋ](飯を食う)。マ˞ナ˜マー　ッ˞ふァーヌ [ma˞na˜maː f˞faːnu](今は食わない)。ン˞マー˜ムヌ　ッ˞ふァイ˜プサン [ʔm˞maː ˜munu f˞fai˜pu̥saŋ](美味いものを食いたい)。ノー˞ン˜　ッ˞ふー　ムノー　ナー˜ヌ [noː˞ŋ˜ f˞fuː munoː naː˜nu](何も食うものはない)。˞マー˜ビン　ッ˞ふァイヤー˜　ミサムヌ [˞maː˜biŋ f˞faija:˜ misamunu](もっと食えばいいのに)。˜クベー　˞パー˜ク　ッ˞ふァイ˜バ [˜kubeː ˞paː˜ku f˞fai˜ba](これだけは早く食えよ)。

ッ˞ふンター˜ルン [f˞funtaː˜ruŋ] 【自動】黒ずむ。黒ばむ。黒味を帯びる。ク˞ルビティ˜　シラー　バ˞リティ　オーシバー˜　ッ˞ふンター˜リ　ベー [ku˞rubiti˜ ʃiraː ba˞riti ʔoːʃibaː˜ f˞funtaː˜ri ˞beː](転んで顔を打って上唇は黒ずんでいる)。カ˞ニン˜マー　ッ˞ふンター˜ルンケン　˞ウー˜ミ　˞ベー [ka˞nim˜maː f˞funtaː˜ruŋkeŋ ˞ʔuː˜mi ˞beː](野葡萄は黒ずむほど熟れている)。カ˞ニン˜マー　ッ˞ふンターラン˜ケン　˜ブルカー　ン˞マーナー˜ヌ [ka˞nim˜maː f˞funtaːraŋ ˜kem ˜buruka: ʔm˞maːnaː˜nu](野葡萄は黒ずまないうちに捥(モ)ぐと美味しくない)。ッ˞ふンター˜ル　˜クトー　˞ナー˜ヌ [f˞funtaː˜ru ˜ku̥toː ˞naː˜nu](黒ずむことはない)。

˜ッふェー [˜ffeː] 【名】烏賊墨(イカスミ)。イカや蛸の墨。「涅、唐韻云、水中黒土也・・・久利＜くり＞」『和名抄』の転訛したもの。[kuri] → [ɸuri] → [ffi] → [ffeː] の音韻変化による。シ˞ルイカ˜ヌ　ッ˞ふェー˜ヤ　サ˞ギフチ˜ルティ　ア˞ザリ　ブー [ʃi˞ruika˜nu f˞feː˜ja sa˞giɸu̥tʃi˜ruti ʔa˞ʤari buː](スルメイカの黒墨は下げ薬＜利尿剤。のぼせに効く薬＞といわれている)。タ˞ク˜ヌ　ッふェー [tḁ˞ku ˜nuffeː](蛸の黒墨) は頭部にある鶏卵大の嚢に蓄えられている。蛸の墨は豚の飼料に利用されるだけだった。˜キンナー　イ˞ガヌ˜　ッふェー　マ˞マリ　ベー [˜kinnaː ʔi˞ganu˜ ffeː ma˞mari beː](着物に烏賊の黒墨がついている)。

ッ˞ふォーッふォー˜シ [f˞foːffoː˜ʃi] 【副】黒々と。真っ黒に。˜シンシ　ッ˞ふォーッふォー˜シ　˞ヌーリ [˜ʃiŋʃi f˞foːffoː˜ʃi ˞nuːri](墨で黒々と＜真っ黒に＞塗れ)。

ッ˞ふォーッふォーヌ [f˞foːffoːnu] 【連】真っ黒の。「黒

々の」の義。ッ˞ふォーッふォーヌ˥　ムヌ　˥トゥリ　ヤ˞ラシ [fᶠfoːffoːnu˥ munu ˥turi ja˞raʃi](真っ黒いものを取ってよこせ＜遣らせ＞)。

ッ˞ふォー˥ン [fᶠfoː˥ŋ] 【形】黒い。「〜黒有之＜クロカリシ＞髪も白けぬ〜。万、1740」の転訛したもの。「Curoi. クロイ (黒い) 黒いもの」『邦訳日葡辞書』の転訛。˥イロー　ッ˞ふォーン˥ティ　ア˞ズヌ　ナン˥ゾー　ッ˞ふォー　ナー˥ヌ [˥ʔiroː fᶠfoːn˥ti ʔa˞ʥunu nan˥ʥoː fᶠfoː naː˥nu](色は黒いと云うが、あまり黒くない)。イ˞ガヌ˥　ッ˞ふェー˥ヌ　˞スー˥ヤ　˥ドゥク　ッ˞ふォー˥ヌ　˥パーナン　ス˞マリス [ʔi˞ganu˥ fᶠfeː˥nu ˞suː˥ja ˥duku fᶠfoː˥nu ˥paːnan su˞marisu](烏賊墨のお汁はあまりにも黒くて歯にも染まってしまう)。シ˞ンダイ˥　ッ˞ふォー˥　ナルン [˞ʃindai˥ fᶠfoː˥ naruŋ](次第に黒くなる)。ッ˞ふォー˥　ムノー　シ˞ティリ [fᶠfoː˥ muno: ʃi̥˞tiri](黒いものは捨てろ＜れ＞)。˥アイニ　ッ˞ふォー˥カー　シゥ˞カーラヌ [˥ʔaini fᶠfoː˥ka: si̥˞kaːranu](あんなに黒かったら使えない)。

ッ˞ふォー˥ン [fᶠfoː˥ŋ] 【形】黒い。「黒・有り」の融合変化したもの。˞マー˥ビン　ッ˞ふォーン˥ティウ˞ムータ˥ヌ　˞ナン˥ゾー　ッ˞ふォー　ナーン˥バン [˞maː˥bin fᶠfoːn˥ti ʔu˞muːta˥nu ˞nan˥ʥoː fᶠfoːnam˥baŋ](もっと黒いと思ったが、あまり黒くないわい)。˥ティダン　プ˞サ˥リティ　˞シンダイ˥　ッ˞ふォー˥　ナリ˞ナー˥ヌ [˥tidam pu̥˞sa˥riti ˞ʃindai˥ fᶠfoː˥ nari˞naː˥nu](太陽に干されて次第に黒くなってしまった)。ッ˞ふォー˥　ムノーラ　イ˞ラ˥ビ　˥トゥリ [fᶠfoː˥ muno:ra ʔi˞ra˥bi ˥turi](黒いものから選んで取れ)。ク˞レー˥ラン　ッ˞ふォー˥レーラ　˞カーサラヌ　イ˞ナムヌ˥ダラ [ku˞reː˥ran fᶠfoː˥reːraː ˞kaːsaranu](此れよりも黒かったら売れない)。˞マー˥ビン　ッ˞ふォー˥レーバー　˥ミサタムヌ　イ˞ナムヌ˥ダラ [˞maː˥biŋ fᶠfoː˥reːba ˥misatamunu ʔi˞namunu˥dara](もっと黒かったら良かったのに、残念だよ)。ク˞リル˥　ッ˞ふォー [ku˞riru˥ fᶠfoː](これが＜ぞ＞黒い)。

テ

˥テー [˥teː] 【接尾】～の家。˩バン˥テー [˩ban˥teː](私の家。我が家)。˩ワッ˥テー [˩wat˥teː](君の家)。˩タッ˥テー [˩tat˥teː](誰の家)。˥クマー ˩バン˥テヌ パ˩タ˥キ [˥kuma: ˩ban˥tenu pḁ˩ta˥ki](ここは私の家の畑だ)。

˩デー˥カー [˩deː˥kaː] 【接助】～であるなら。～なら。後件を導くための仮定条件を表す。係助詞˥-ドゥ [˥-du] に、断定の助動詞˩-ヤン [˩-jaŋ](である) の連体形が付いて融合変化した形に接続助詞˥-カー [˥-kaː](～なら) が付いたもの。˩ワー˥ ドゥーシカクン˩デー˥カー ˩ワーン˥ タ˩ナマ˥バン ˥ミサン [˩waː˥ duːʃi kḁkun˩deː˥kaː ˩waːn˥ ta˩nama˥bam ˥misaŋ](君自身で書くなら、君に頼んでもいい)。˥クヌブン ˩デー˥カー ˥アツァン ˥アメー ˩ホー˥ヌ [˥kunubun ˩deː˥kaː ˥ʔatsaŋ ˥ʔameː ˩hoː˥nu](此の分なら明日も雨は降らない)。˥クマーラン ˩デー˥カー ˥ユー ミ˩ラ˥リン ˥パジ [˥kumaːran ˩deː˥kaː ˥juː mi˩ra˥rim ˥paʤi](ここからならよく見える＜見られる＞はずだ)。

˩デー˥ジ [˩deː˥ʤi] 【名】 ¹大変。一大事。重大なこと。カ˩ジヌ˥ フクカー ˩デー˥ジ ˩ダー [ka˩ʤinu˥ ɸu̥kuka: ˩deː˥ʤi˩daː](台風が吹いたら大変だよ)。アン˩デー˥カー ˩デー˥ジ ˩ゲ˥ラ [ʔan˩deː˥ka: ˩deː˥ʤi ˩ge˥ra](それなら大変だよ)。²˩形動」的用法。大変であること。ゆゆしいこと。はなはだしいこと。˩トーホクチホー˥ナ ˩デージ˥ナ ˩ウーナンヌ＜ツ˩ナミ˥ヌ＞ ユーシ˥キーティ ˥ナンマンティ ˩スー˥プ˩スヌ マーラソー˥リ ˩ナー˥ヌ [˩toːhokutʃiho: ˥na ˩deːʤi˥na ˩ʔuːnannu＜tsu˩nami˥nu＞ juːʃi˥kiːti ˥nammanti ˩suː˥ pu̥˩sunu maːrasoː˥ri ˩naː˥nu](東北地方に大変な大津波が押し寄せてきて、何万という人が亡くなられてしまった)。

˩デー˥ジ [˩deː˥ʤi] (1)【名】大変なこと。一大事。ウ˩ガン˥ヌ ˩キー˥ヤ ˥キシェー ナ˩ラントダー ˥キスカー ˩デー˥ジ˩ダー [ʔu˩gan˥nu ˩kiː˥ja ˥kiʃeː na ˩ranˊda: ˥ki̥suka: ˩deː˥ʤi˩daː](御嶽の木は伐ってはならないよ。伐ったら大変＜一大事＞だよ)。 (2)【形動】事が重大である。˩デージ˥ナ ˥クトゥ ˥ナリ ˩ナー˥ヌ [deː˩ʤi˥na ˥ku̥tu ˥nari ˩naː˥nu](大変なことになってしまった)。

˩デー˥ジ ˩ゲ˥ラ [˩deː˥ʤi ˩ge˥ra] 【連】大変だよ。大変さ。˥アイブ ク˩トゥ˥バ ˩シー ワー˥ メー˩デー˥ジ ˩ゲ˥ラ [˥ʔaibu ku̥˩tu˥ba ˩ʃiː waː˥ meː ˩deː˥ʤi ˩ge˥ra](あんなことをしでかして、君はもう大変さ)。

˩デー˥ジ ˩スン [˩deː˥ʤi ˩suŋ] 【連】大変なことになる。ヤ˩ラビ˥ヌ ス˩ナカ˥ナー ˩ウッふィティ˥ マン˩ベー˥スカー ˩デー˥ジ ˩スンティ アーク˥タ [ja˩rabi˥nu su˩naka˥naː ˩ʔuffiti˥ mam˩beː˥su̥ka: ˩deː˥ʤi ˩sunti ʔaːku˥ta](子供が海で溺れて、すんでのことで＜もう少しのことで＞大変なことになるところだった)。

˩デージ˥ナ [˩deːʤi˥na] 【連体】たいへんな。非常な。ク˩ヌ ッふァー デージ˥ナ ˩マイフナー [ku˩nu ffa: deːʤi˥na ˩maiɸunaː](この子はたいへんなしっかり者＜利口者＞だ)。˩デージ˥ナ ヤ˩マン˥グ [˩deːʤi˥na ja˩maŋ˥gu](大変な腕白者)。

˩デー˥ジムイサン [˩deː˥ʤimuisaŋ] 【形】心配性である。些細(ササイ)なことでも怖がりがちな性質である。˩デー˥ジ [˩deː˥ʤi](大変) に接尾語˥ムイサン [˥muisaŋ](～がる。～がりである) が下接して形成された合成語。˩デー˥ジムイサ プ˩ス˥ ヤ˩ルンダ˥ ウ˩ビッチン˥ヌ ˥クトゥシン ˩チャー デー˥ジ ˩デー˥ジティル ˩アール [˩deː˥ʤimusa pu̥˩su˥ ja˩runda˥ ʔu˩bittʃin˥nu ku̥tuʃin ˩tʃa: deː˥ʤi ˩deː˥ʤitiru ˩ʔaːru](心配性の人だから、これぽっちのことでも、常に大変大変といって騒ぐ)。

˩テー˥ナ [˩teː˥na] 【接助】～ながら。～がてら。同時進行。異なる行動を同時に、また、一つの行動を行うことを表す。動詞の連用形に付く。˩カイムヌ シンテーナ˥ イ˩サナキ˥ナー ˩ギー˥ イサン ミ˩ラ˥シティ ク˩ディー [˥kaimunu ʃinteːna˥ ʔi˩sanaki

˜na: ˞gi:˜ ʔisam mi˞ra˜ʃi̥ti ˜ku: ˞di:](買い物をしながら石垣島に行ってお医者さんに診察させて＜見させて＞来ようよ)。˜イー　˞ファインテーナー　シンブン˜マー　ユ˞ム˜ナ [˜ʔi: ˞fainte:na: ʃimbum˜ma: ju˞mu˜na](ご飯を食べながら新聞を読むな)。˞ジー˜　カ˞キンテー˜ナー　ム˞ニ˜　ユムカー　マ˞チガイ˜ス [˞ʤi:˜ kḁ˞kinte:˜na: mu˞ni˜ jumuka: ma˞ʧigai˜su](字を書きながら喋る＜ものをいう＞と間違える)。ニ˞ビンテーナ˜　ム˞カ˜シパナシ　˜ユーパ˞ナ˜シ　シゥ˞カソーッ˜タン [ni˞binte:na˜ mu˞ka˜ʃipanaʃi ˜ju: pa˞na˜ʃi si̥˞kaso:t˜taŋ](寝ながら昔話をよく話して聞かされた)。

˞テー˜ナイ [˞te:˜nai] 【名】手伝い。沖縄方言の˞tigane:(手伝い。加勢) の転訛したもの。[tinganai] → [tiganai(tigane:)] → [tianai] → [te:nai] の音韻変化を経たもの。˞ワー˜　バー　パ˞タキシグトゥ˜ヌ　˞テー˜ナイ　˞シー˜ヨー [˞wa:˜ ba: pḁ˞takiʃigutu˜nu ˞te:˜nai ˞ʃi:˜jo:](君は私の畑仕事の手伝いをしなさいね)。手伝い。˞マイカリヌ　テー˜ナイ　˞シン　パッ˜タ [˞maikarinu te:˜nai ˞ʃim pat˜ta](稲刈りの手伝いをしに行った)。ウ˞ヤ˜ヌ　˞テーナイ˜ユン　˞シー˜バ [ʔu˞ja˜nu ˞te:nai˜juŋ ˞ʃi:˜ba](親の手伝いもしなさいよ)。沖縄方言の˞ティガネー [˞tigane:](手伝い) の転訛したもの。「手叶い」の意 (『八重山語彙』)。

˞テー˜ナイ [˞te:˜nai] 【名】かじづか (舵柄)。船の舵棒。舵(カジ)の頭部に付ける棒。舵のとって (取手)。˞テー˜ナイ　˞ニーレー　ウーカ˜スカー　˜フネー　˞オーラー　マールン [˞te:˜nai ˞ni:re: ʔu:ka˜su̥ka: ˜ɸune: ˞ʔo:ra: ma:ruŋ](舵棒を右の方へ動かすと船は風上＜左方＞へ回る)。

˞テー˜ヌ　˜アヤ [˞ti:˜nu ˜ʔaja] 【連】手相。手のひらの手筋。「手の文＜綾＞」の義。手のひらの手筋に運勢が現れるという。˞ティー˜ヌ　ア˞ヤ˜バ　˜ミレーティ　プ˞スヌ　ウンキバ˜　クルンティ˞ダー [˞ti:˜nu ʔa˞ja˜ba ˜mire:ti pu̥˞sunu ʔuŋkiba˜ kurunti˞da:](手のひらの手筋を見て、人の運気を占う＜繰る＞そうだ)。

˞テーパタッ˜カリ [˞ti:pḁtak˜kari] 【名】忙しくて手が回らず、てんてこ舞いする。「お手上げ」状態。「手はだかり」の義。˞アッ˜タニ　プ˞スヌ˜　ア˞ツァ˜マリ　˞オー˜リ　ウ˞リ˜　トゥ˞リ˜ムトゥンティ　˞ティー　パタッ˜カリ　˞シー　ベー [˞ʔat˜tani pu̥˞sunu˜ ʔa˞tsa˜mari ˞ʔo:˜ri ʔu˞ri˜ tu˞rimu˜tunti ˞ti:patak˜kari ˞ʃi: be:](急に人が集まってこられて、それを接待＜持て成し＞しようと、てんてこ舞いしている)。

˞テー˜ファ [˞te:˜ɸa] 【名】冗談。ふざけて言う話。滑稽話。おどけ (戯け)。ウ˞リヌ˜　パ˞ナ˜シェー　ムー˞ル　テー˜ファ　ノー˞ン　ミーヤ　ナー˜ヌ [ʔu˞rinu˜ pa˞na˜ʃe: mu:˞ru te:˜ɸa no:˞m mi:ja na:˜nu](彼の話は全部冗談だ、何にも中身＜内容＞が無い)。

˞テー˜ファー [˞te:˜ɸa:] 【名】おどけ者。道化者。冗談口をたたく者。冗談持ち。ウ˞レー　テー˜ファー　ヤ˞ルンダ˜　ウ˞リヌ　ブー˜　トンマー　バ˞ライヌ˜　キシェー　˞ナー˜ヌ [ʔu˞re: te:˜ɸa: ja˞runda˜ ʔu˞rinu bu:˜ tomma: ba˞rainu˜ ki̥ʃe: ˞na:˜nu](彼は冗談の旨い人＜おどけ者＞だから、彼のいる所には笑いが切れることはない)。沖縄方言からの借用語。老年層は、プ˞スバラーシムニ [pu̥˞subara:ʃimuni](人を笑わせることば。冗談)、プ˞スバラーシムヌ [pu̥˞subara:ʃimunu](滑稽者。人笑わせ者) という。ウ˞レー　サッ˜コー　˞テー˜ファー˞ダー [ʔu˞re: sak˜ko: ˞te:˜ɸa:˞da:](彼は非常に滑稽者だよ)。

˞テーファー˜ムヌ [˞te:ɸa:˜munu] 【名】冗談持ち。滑稽者。冗談をいう者。˞テーファームヌ˜ヌ　パ˞ナ˜シ　ス˞ク˜カー　˜メー　˜ドゥク　バ˞カヤ˜ヌ　バ˞タ˜ヌ　˞コー˜ルンケン　バ˞ライス [˞te:ɸa:munu˜nu pa˞na˜ʃi su̥˞ku˜ka: ˜me: ˜duku ba˞kaja˜nu ba˞ta˜nu ˞ko: ˜ruŋkem ba˞raisu](滑稽者のいうことを聞くと、もう余りにも可笑しくて、お腹が硬くなるほど笑うよ＜笑いする＞)。

˜テーラ [te:ra] 【接助】～てから。動詞の連用形に付く。上接語の指し示す動作内容の終了後という時間的順序を表す。ティ＜て＞・ラ＜から＞の融合変化した形。˞ドゥー˜ヌ　シ˞グトー　シーテーラ˜ル　ア˞サブ˜ダー [˞du:˜nu ʃi˞guto: ʃi:te:ra˜ru ʔa˞sabu˜da:](自分の仕事はしてから＜ぞ＞遊ぶのだよ)。

˜ティ [˜ti] 【格助】～と。動作・作用・状態の内容を表す (引用)。カ˞リン˜　パルンティ　アシ˞タン＜ア˞ズタン＞[ka˞rim˜ parunti ʔaʃi̥˞taŋ＜ʔa˞ʤutaŋ＞](彼も行くと言った)。˞バン˜ヌン　ウ˞リ˜シ˜　ミサンティ˜ウムーン [˞ban˜nuŋ ʔu˞ri˜ʃi ˜misanti ˜ʔumu:ŋ](私もそれで良いと思う)。**(1)** さらに係助詞˜-ル [˜-ru](～ぞ) が付いてとりたて強調の係り結びとなる。ユ˞ガフ˜　タ˞ボー˜リティル　ニ˞ガウタ˜ル [ju˞gaɸu˜ ta˞bo:˜ritiru ni˞gauta˜ru](豊穣を賜れと祈願した＜願った＞よ)。プ˞スム˜シ　フ˞タムシ˜ティル　ナ˞ラーサリ˜ル　˞ギュームシン˜　ナ˞ラーサラ˜ヌ [pu̥˞sumu˜ʃi ɸu̥˞tamuʃi˜tiru na˞ra:sari˜ru ˞gju:muʃin˜ na˞ra:sara˜nu](一度二度とが教えられる＜習わされる

>、何度も教えられない)。**(2)** さらに係助詞˥-ヤ [˥-ja](～は) がついてとりたての˥-テー [˥-teː](～とは < 強調 >) がついて終止形で結ぶ。ユˈナカー˥ラˈドーントン˥シ　˥ヤドゥ　ˈシッ˥ク < タˈタッ˥ク >　ムˈヌ˥ヌ　ブˈタンティル˥　スˈクタル˥　アイˈベータ˥タテー　ッˈサンシェン [juˈnakaː˥ra ˈdoːntoŋ˥ʃi ˥jadu ˈʃik˥ku < taˈtak˥ku > muˈnu˥nu buˈtantiru˥ su̥ˈkutaru˥ ʔaiˈbeː˥tate: sˈsaŋʃeŋ](夜中からドントンと戸を叩く者がいたとぞ < 伝聞 > 聞いたのだ。喧嘩していたとは知らなかった)。**(3)** さらに係助詞˥-ン [˥-ŋ](～も) が付いた˥ティン [˥-tiŋ](～とも < 強調 >) がつき、終止形の陳述と呼応して係り結びとなる。ˈバン˥ヨー　プˈスティン˥　ウˈモー˥ヌ [ˈbaɲ˥joː pu̥ˈsutiŋ˥ ʔuˈmoː˥nu](私を人間とも思わない < 人間として扱ってくれない >)。

˥ティ [˥ti] 【接助】～て。1動詞の連用形に下接して順態接続表現となり、動作、状態の時間的継起の意を表す。パˈナ˥ヌ　˥サキティ　ナˈル˥ヌ　˥ナルカー　ユˈドゥマ˥ナー　ˈウーミ˥スヨー [paˈna˥nu ˥sḁkiti naˈru˥nu ˥naruka: juˈduma˥na: ˈʔuːmi˥sujoː](花が咲いて実が付く < 生る > と間もなく熟するよ)。アˈサカイヌ˥　ウˈチ˥ナー　ダンˈティ˥　パˈタ˥ケー　ˈギーティ˥　クーˈナー [ʔaˈsakainu˥ ʔuˈtʃi˥naː danˈti˥ paˈta˥keː ˈgiːti˥ kuːˈnaː](午前中 < 朝陰の内 > に急いで畑へ行って来ようねえ)。ヤˈドゥ˥ヌ　ギャンˈティ˥　シˈマ˥リティ　アˈキララヌ [jaˈdu˥nu gjanˈti˥ ʃiˈma˥riti ʔaˈkiraranu](戸がぎゅっと強く締まっていて開けられない)。2動詞の連用形に付いて、逆接関係を表す。˥クナー　˥アリティ　ˈナーン˥ティ　アˈジアー˥ク [˥kunaː ˥ʔariti ˈnaːn˥ti ʔaˈʤiʔaː˥ku](ここにあるのに無いといっている)。**(1)** さらに係助詞˥-ル [˥-ru](～ぞ) が付いて係り結びとなる。ˈキュー˥ヤ　アˈラ˥キティル　ˈヤー˥ヤ　˥パル　クˈル˥マナー　ˈヌーラヌ [ˈkjuː˥ja ʔaˈra˥kitiru ˈjaː˥ja ˥paru kuˈru˥manaː ˈnuːranu](今日は歩いて < ぞ > 家に帰る。車には乗らない)。ガˈマジ˥ヌ < スˈブル˥ヌ >　˥ヤミティル　ノーˈン˥　ナˈラ˥ヌ [gaˈmaʤi˥nu < suˈburu˥nu > ˥jamitiru noːˈn˥ naˈra˥nu](頭痛がして < 頭が病みてぞ > 何にも出来ないのだ)。**(2)** さらに係助詞˥-ヤ [˥-ja](～は) が付いて、～˥-テー [˥-teː](～ては) となり、「～ては～(動詞連用形の重複形)」のような、動作が連続的に起きる < 継起 > ことを表す。ウˈレー˥　ナーˈイ˥　タティテー　ビˈリビリシー　ベー˥タ [ʔuˈreː˥ naːˈji˥ tḁtite: biˈribiri ʃiː beː˥ta](彼は、ただずうっと立っては座り座りしていた)。**(3)** さらに係助詞˥-ン [˥-ŋ](も) が付く。ウˈヌヤー˥ヤ　シˈバー˥ヌ　˥タティティン　ブˈラーラヌ [ʔuˈnu jaː˥ja ʃiˈbaː˥nu ˥tḁtitim buˈraːranu](その家は狭くて、立ってもおられない)。3形容詞の連用形に下接して、原因. 理由の因果関係を表す。ドゥˈク˥ヌ　ˈカイ˥ヤティル　ナーˈイ　ミーブラー˥リ　ˈシー　ベー˥タˈドー˥スカーヤ [duˈku˥nu ˈkai˥jatiru naːˈi miːburaː˥ri ˈʃiː beː˥taˈdoː˥su̥kaːja](あまりにも美しいので、じっと見惚れていたんだってば)。[ˈkai˥jati～](美しいので～)、[saˈni˥jati～](嬉しいので～)、[ʃiˈbaː˥ti～](狭いので～) は、続く用言で表される内容との論理的な原因、理由を理論的、客観的に表す。これに対して、タˈカー˥ヌ　ˈヌーララヌ [taˈkaː˥nu ˈnuːraranu](高くて登れない) の接続助詞˥ヌ [˥nu](～て、～ので) の意味 < 原因. 理由 > には「余りにも～で」、「～過ぎて～出来ない」という感情的意味が伴う。

˥ティ [˥ti] 【接尾】(数) 年を数える単位。プˈス˥ティ [pu̥ˈsu˥ti](一年)、フˈタティ [ɸu̥ˈtati](二年)、ˈミーティ [ˈmiːti](三年)、ˈユーティ [ˈjuːti](四年)、イˈチ˥ティ [ʔiˈtʃi˥ti](五年)、ˈムーティ [ˈmuːti](六年)、ナˈナ˥ティ [naˈna˥ti](七年)、ˈヤーティ [ˈjaːti](八年)、クˈクヌ˥ティ [ku̥ˈkunu˥ti](九年)。ˈミーティナ˥ティ [ˈmiːtina˥ti](三年前)。ˈユーティナ˥ティ [ˈjuːtina˥ti](四年前)。ˈギューティ [ˈgjuːti](何年)。

˥ディ [˥di] 【接尾】とし (年)。ˈニー˥ディマリ [ˈniː˥di-mari](子年生まれ)。ˈニー˥ディプス [ˈniː˥dipu̥su](子年生まれの人)。ウˈシディマリ [ʔuˈʃidimari](丑年生まれ)。ウˈシディプス [ʔuˈʃidipusu](丑年生まれの人)。トゥˈラディマリ [tuˈradimari](寅年生まれ)。トゥˈラディプス [tuˈradipusu](寅年生まれの人)。˥ウディマリ [˥ʔudimari](卯年生まれ)。˥ウディプス [˥ʔudipu̥su](卯年生まれの人)。タˈチディマリ [taˈtʃidi-mari](辰年生まれ)。タˈチディプス [taˈtʃidipu̥su](辰年生まれの人)。ˈミーディマリ [ˈmiːdimari](巳年生まれ)。ˈミーディプス [ˈmiːdipu̥su](巳年生まれの人)。ンˈマ˥ディマリ [ʔmˈma˥dimari](午年生まれ)。ンˈマ˥ディプス [ʔmˈma˥dipu̥su](午年生まれの人)。ピˈチディマリ [pi̥ˈtʃidimari](未年生まれ)。ピˈチディプス [pi̥ˈtʃidipu̥su](未年生まれの人)。˥サディマリ [˥sadimari](申年生まれ)、˥サディプス [˥sadipu̥su](申年生まれの人)。ˈトゥンディマリ [ˈtundimari](酉年生まれ)。ˈトゥンディプス [ˈtundipu̥su](酉年生まれの人)。ˈイン˥ディマリ [ˈʔin˥dimari](戌年生まれ)。ˈイン˥ディプス [ˈʔin˥dipu̥su](戌年生まれの人)。ˈビ

ーディマリ [˩biːdimari](亥年生まれ)。˩ビーディプス [˩biːdipu̥su](亥年生まれの人)。

˥ティー [˥tiː] 【名】1手。ピ˩ダリ˥ティー [pi˩dari˥tiː](左手)。˩ニーリティー [˩niːritiː](右手)。˩ドゥー˥ヌ　˥ティーシ　˥トゥリバ [˩duː˥nu ˥tiːʃi ˥turiba](自分の手で取れよ)。2方法。技術。技。流儀。˥バー　パ˩トゥ˥マナカムリヌ　ブ˩ドゥルヌ　ティー˥ヤ　˥アッパー　˩ティーバ˥ル　ウ˩キ˥トゥレー˩ダー [˥baː pḁ˩tu˥manakamurinu bu˩durunu tiː˥ja ˥ʔappaː ˩tiːba˥ru ʔu˩ki˥tureː˩daː](私の鳩間中岡節の踊りの手＜技法＞はお祖母さんの手＜技法＞を受け継いだものだよ)。3取っ手＜把手＞。柄。器具の握って持つところ。˩スッカー˥ヌ　˥ティー [˩sukkaː˥nu ˥tiː](急須の取っ手)。˩スーナビ˥ヌ　˥ティー [˩suːnabi˥nu ˥tiː](汁鍋の取っ手)。4人手。˩タイロー˥　シ˩ター　シーゾーヤー˥ヤ　˩パンタサ˥ヌ　˩ティー˥ヤ　タ˩ラーサラヌ [˩tairoː˥ ʃi̥˩taː ʃiːʤoːjaː˥ja ˩pantasa˥nu ˩tiː˥ja ta˩raːsaranu](大漁したので、製造屋では忙しくて人手が足りない)。5種類。程度。ナ˩カディ˥ムノーラ　イ˩ラ˥ビ　˥トゥリ [na˩kadi˥munoːra ʔi˩ra˥bi turi](中程度のものから選んで取りなさい)。6空手。˥ティーシゥ˩カウン [˥tiː si̥˩kauŋ](空手を使う)。7すじ (筋)。ア˩シブ˥ヌ　˩ウー˥ミティ　˥ティー　˥ッシ　˥ヤミ　ナ˩ラ˥ヌ [ʔa˩ʃibu˥nu ˩ʔuː˥miti ˥tiː ˥ʃʃi ˥jami na˩ra˥nu](おできが化膿して、筋をひいて＜差すように広がって＞痛くて堪らない)。

˩テイー [˩tiː] 【名】一つ。˩ティー [˩tiː](一)、˩ター [˩taː](二)、˩ミー [˩miː](三)、˩ユー [juː](四)、˩イ˥チ [˩ʔi˥ʧi](五)、˩ムー [˩muː](六)、˥ナナ [˥nana](七)、˩ヤー [˩jaː](八)、˥クヌ [˥kunu](九)、˩トゥー [˩tuː](十)。

˩ディー [˩diː] 【感】さあ。人を誘う時にいう語。˩ディー　マー˩ズン˥シ　˩シー˥ミラ [˩diː maː˩ʤuŋ˥ʃi ˩ʃiː˥mira](さあ、一緒にしてみよう)。

˩ディー [˩diː] 【終助】動詞の未然形に付いて、勧誘、念押しの意を表す。˩バン˥トゥ　˩マーズン˥パラ˩ディー [˩ban˥tu ˩maːʤum˥ para˩diː](私と一緒に行こうよ)。カカ˩ディー [kaka˩diː](書こうよ)。ユマ˩ディー [juma˩diː](読もうよ)。ミラ˩ディー [mira˩diː](見ようよ)。˩カート ディー [˩kaːɻdiː](買おうよ)。コー˩ディー [koː˩diː](漕ごうよ)。˩サート ディー [˩saːɻdiː](しようよ)。クー˩ディー [kuː˩diː](来ようよ)。˥ウナー　ブ˩ラト ディー [˥ʔunaː bu˩raɻdiː](そこに居ようよ)。

˥ティー　˩アー˥スン [˥tiː ˩ʔaː˥suŋ] 【連】1手を合わせる。手のひらを合わせて神仏を拝む。˥ティー　˩アー˥シ＜ウ˩サーシ˥＞　ウ˩ガ˥ミバ [˥tiː ˩ʔaː˥ʃi＜ʔu˩saːʃi˥＞ ʔu˩ga˥miba](手を合わせて拝みなさいよ)。2二人の踊りの型を三味線に合わせる。ブ˩ドゥルヌ　˥ティー　˩アー˥スンティ　˩ベー [bu˩durunu˥ ˥tiː ˩ʔaː˥sunti ˩beː](踊りの手＜型＞を音楽に合わせようとしている)。

˥ティー　˩アウヌン [˥tiː ˩ʔaunuŋ] 【連】手が空く。手があく。˥シンピーズ　シ˩グトゥン　オーリティ˥ティー　˩アウヌンティ　スー˥　クトー　˩ナー˥ヌ [˥ʃimpiːʤu ʃi˩gutuŋ ʔoːriti˥ tiː ˩ʔaununti suː˥ kutoː ˩naː˥nu](毎日＜常日頃＞仕事に追われて手が空くことはない)。

˩ティーアザナー˥ン [˩tiːʔaʤanaː˥ŋ] 【形】手にまつわり付いて煩雑である。手に絡まりついて煩わしい。˩ティンナー˥ヤ　カ˩タ˥ティーシ　˥ムトゥンダ　˩ティーアザナー˥ン [˩tinnaː˥ja kḁ˩ta˥tiːʃi ˥mutunda ˩tiːʔaʤanaː˥ŋ](手縄は片手で持つから手に絡まって煩わしい)。˩ティーアザナー　ナー˥ヌ [˩tiːʔaʤanaːnaː˥nu](手に煩わしくない)。˩ティーアザナー˥ヌ　カ˩ジ˥　トゥ˩ララ˥ヌ [˩tiːʔaʤanaː˥nu ka˩ʤi˥ tu˩rara˥nu](手縄が手に煩わしいので舵が取れない)。

˩ティー˥アティ [˩tiː˥ʔati] 【名】手当て。病気や怪我などに対する処置。˩ティーアティ˥ヌ　パ˩ヤー˥タール　˥ヌチェー　˩ムイ˥ヤーツォー [˩tiːʔati˥nu pa˩jaː˥taːru ˥nutʃeː ˩mui˥jaːtsoː](手当てが早かったので命は助かった＜命は萌えた。「萌、キザス・モユ」『類聚名義抄』の転訛＞そうだ)。

˩ティー˥アバ [˩tiː˥ʔaba] 【名】料理を念入りに作ること。おふくろの味。「手の油」の義。料理上手の母親の手からは油が出て美味な味をつけるという。ウ˩ヤ˥ヌ　˩ティーアバ˥バ　ッ˩ふァイル˥　ウ˩ブ˥プス　˥ナリ　˥ケール [ʔu˩ja˥nu ˩tiːʔaba˥ba f˩fairu˥ ʔu˩bu˥pu̥su ˥nari ˥keːru](親が入念に作った料理＜おふくろの味。手の油＞を食べて大人になってきたのだ)。

˩ティーアラー˥ン [˩tiːʔaraː˥ŋ] 【形】手が荒 (粗) い。仕事が粗雑である。手作業が粗削りである。扱い方が乱暴である。˩ティークマー˥ン [˩tiːkumaː˥ŋ](手作業が緻密である。＜手が細かい＞) の対義語。˩ティーアラー˥ンダ　ク˩マシグトー˥　ウ˩リンマー˥　シ˩ミララヌ [˩tiːʔaraː˥nda ku˩maʃiguto:˥ ʔu˩rimmaː˥ ʃi˩miraranu](手が粗い＜手作業が粗雑だ＞から、彼には細かな仕事はさせられない)。˥キサー　˩ティーアラ˥ー　˩ナーン˥シェン˩ダー˥。マ˩ナ˥マ　ヤ˩ラバ

ン　ティーアラー˺　クトー　˹ナーン˺パジ [˺kᵢsa: ˹ti:ʔara˺: na:ŋ˺ʃen˹da:˺。ma˹na˺ma ja˹raban ti:ʔara:˺ kᵤto: ˹na:m˺ paʤi](以前は、仕事に粗雑な＜手が荒い＞ことは無かったよ。今でも仕事に粗雑なことは無いはずだ)。

˹ティー˺アライ [˹ti:˺ʔarai] 【名】1手洗い。手を洗うこと。古老は、˹ティー˺シミ [˹ti:˺ʃimi](手洗い) ともいう。˺ティー　ア˹ライ　イー˺ヤ　ッ˹ふー˺ダー [˺ti: ʔa˹rai ʃᵢ˹tiru ʔi:˺ja f˹fu:˺da:](手洗いをして＜ぞ＞御飯は食べるのだよ)。2洗濯物を手で揉み荒いすること。ム˹カ˺シェー　˹キン˺マー　ム一˹ル　ティー˺アライ　˹ソーッタ˺ル [mu˹ka˺ʃe: ˹kim˺ma: mu:˹ru ti:˺ʔarai ˹so:tta˺ru](昔は着物はみんな手洗いをされたものだ)。

˹ティーイナ˺シキ [˹ti:ʔina˺ʃᵢki] 【名】てぎね (手杵)。たて杵。単に、イ˹ナ˺シキ [ʔi˹na˺ʃᵢki](杵、「稲舂」の義) ともいう。直径約 10 センチ、長さ約 90 センチの樫の円柱で作った杵。中央部を削って握りやすいように作ってある。普通は家庭の婦女子が一人で必要に応じて、必要な分だけ米を搗いた。˹アイダ˺チ [˹ʔaida˺ʧi](横杵。˹相槌」＜『日葡辞書』＞の転訛か) は複数の女性が一緒に米を搗く際に用いた杵である。家屋建築や祝儀、法事の際には庭に搗き臼を並べて、それぞれの臼に 2〜3 人の婦人が向き合いながら米を搗くのが普通であった。昭和 40 年ごろから石垣島の精米所に依頼して米を送って精米してもらうようになった。精米賃は精米した米から差し引いて依頼者へ届けられた。ム˹カ˺シェー　シ˹キ˺ウシナー　˹マイ˺　イ˹リティ˺　イ˹ナシ˺キシル　˹マイヤー˺　ッ˹サウタ˺ル [mu˹ka˺ʃe: ʃᵢ˹ki˺ʔuʃina: ˹mai˺ ʔi˹riti˺ ʔi˹na˺ʃᵢkiʃiru ˹maija:˺ s˹sauta ˺ru](昔は搗き臼に米を入れて杵で＜ぞ＞米は精げたものだ)。

˹ティー˺イリ [˹ti:˺ʔiri] 【名】手入れ。世話をして良い状態にすること。ヤ˹サイ˺ヤー　˹ティー˺リ　˹サン˺カー　サ˹カラヌ [ja˹sai˺ja: ˹ti:˺iri ˹saŋ˺ka: sᵩ˹karanu](野菜は手入れをしないと茂らない＜盛らない＞)。

˹ティーウク˺リ [˹ti:ʔuku˺ri] 【名】手遅れ。手当てや処置が遅れること。˹ヤン˺バ　˺イサン　ミ˹シラ˺ナ　ナー˹イ˺　ナ˹マ˺ジリ　˹ベー˺ティ　˹ティーウク˺リ　˺ナシ　˹ナー˺ヌ [˹jam˺ba ˺ʔisam mi˹ʃira˺na na: ˹i˺ na˹ma˺ʤiri ˹be:˺ti ˹ti:ʔuku˺ri ˺nairi ˹na:˺nu](病を医者に診せずに手当てもせず、ただぐずぐずして病気を長引かしているうちに手遅れになってしまった)。ヨー˹ヨー˺　ヤン˹ナー˺ト　˹ティーウク˺リシ˹メー˺　ナ˹ラント ダー [jo:˹jo:˺ jan˹na:˺to ˹ti:ʔuku˺ri ʃi˹me:˺ na˹ranト da:](よくよく注意して、病気なんぞ手遅れにしてはならないぞ)。

˹ティーウサー˺シ [˹ti:ʔusa:˺ʃi] 【名】合掌。手を合わせること。ウ˹ヤプスン˺マイ　˹ティーウサー˺シンツァン　˹シーティル˺　パ˹ラリ˺ル [ʔu˹japusum˺mai ˹ti:ʔusa:˺ʃintsaŋ ˹ʃi:tiru˺ pa˹rari˺ru](先祖の前＜仏前＞に合掌でもしてから行こう＜行かれる＞)。

˺ティー　ウ˹サースン [˺ti: ʔu˹sa:suŋ] 【連】手を合わせる。老年層は˺ティー　ウ˹サースン [˺ti: ʔu˹sa:suŋ]（合掌する）という。

˺ティー　ウ˹サースン [˺ti: ʔu˹sa:suŋ] 【連】合掌する。手を合わせる。「手を押し合わせる」の義。神前、仏前に手を合わせて祈願する。ウ˹ヤプス˺ヌ　˺マイ　˺ティー　ウ˹サースンティ　クー˺タ [ʔu˹japusu˺nu ˺mai ˺ti: ʔu˹sa:sunti ku:˺ta](仏前＜ご先祖様の前＞に合掌するために来ました)。˺ティー　ウ˹サーシ˺バ [˺ti: ʔu˹sa:ʃi˺ba](手を合わせなさい)。

˹ティーカイ˺ヤン [˹ti:kai˺jaŋ] 【形】1手先が器用で作品が美しい。仕事の出来栄えがいい。手仕事が美しい。仕事が上手である。ウ˹レー˺　ノー˹ン˺　シ˹ムバン　ティーカイ˺ヤン [ʔu˹re:˺ no:˹ŋ˺ ʃi˹muban ti:kai˺jaŋ](彼は何をさせても仕事の出来栄えがいい＜手仕事が美しい＞)。2踊りの型が美しい。˺アッパター　ブ˹ドゥロー　ティーカイ˺ヤンティ　ウ˹トゥ˺ンジ　˹オーッタティ˹ダー [˺ʔappata: bu˹duro: ti:kai˺janti ʔu˹tu˺nʤi ˹ʔo:t˺tati˹da:](お祖母さんたちの踊りは踊りの型が美しいと大評判であられた＜音に出ておられた＞そうだよ)。

˹ティーカカ˺ジ [˹ti:kaka˺ʤi] 【名】慌てふためくこと。大慌てすること。「手掻き合わせ」の義か。マ˹ナ˺マ　フ˹ニ˺ヌ　ン˹ジ˺ルンティ　シ˹タール　ティーカカ˺ジェー　˹シール˺　ヤッ˹トゥ˺シ　˹ニー˺ヤ　˺フナイ　˺シケー˹ダー [ma˹na˺ma ɸu˹ni˺nu ʔn˹ʤi˺runti ʃᵢ˹ta:ru ti:kaka˺ʤe: ˹ʃi:ru˺ jat˹tu˺ʃi ˹ni:˺ja ˺ɸunai ˺ʃike:˹da:](今船が出るというので大慌てをして、やっとのことで荷物を詰め込んでおいてあるんだよ)。

˺ティー　カ˹カ˺ルン [˺ti: kᵩ˺ka˺ruŋ] 【連】手がかかる。世話がやける。ヤ˹ラ˺ベー　シ˹ナーン˺　ケンドゥ　˺ティー　カ˹カ˺ル　フ˹ドゥブ˺カー　˺ティー　カ˹カラ˺ヌ [ja˹ra˺be: ʃi˹na:ŋ˺ kendu ˺ti: kᵩ˺ka˺ru ɸu˹dubu˺ka: ˺ti: kᵩ˺kara˺nu](子供は幼少の時にこそ手がかかる＜世話がやける＞、成長したら手はか

からない)。

˩ティーカキ˥ルン [˩ti:kaki˥ruŋ]【他動】1手がける。取り掛かる。仕事に着手する。シ˩グトー˥　イ˩チェー˥ラ　˩ティーカキル˥ワ [ʃi˩guto:˥ ʔi˩tʃe:˥ra ˩ti:kakiru˥wa](仕事は何時から手がけるか)。ア˩ツァー˥ラ　˩ティーカキ˥ルンティ　˥ウムイ　˩ベー [ʔa˩tsa:˥ra ˩ti:kaki˥runti ˥ʔumui ˩be:](明日から手がけようと思っている)。˥クヌ　˩ブン˥シェー　˩ティーカキララ˥ヌ [˥kunu ˩buŋ˥ʃe: ˩ti:kakirara˥nu](この分＜この様子＞では手がけられない)。˩ティーカキ˥ル　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˩ti:kaki˥ru ˥kṵto: na˩ra˥nu](手がけることは出来ない)。˩ティーカキ˥プサカー　˩パー˥ク　ティーカキ˥レー　˥ミサムヌ [˩ti:kaki˥ pṵsaka: ˩pa:˥ku ˩ti:kaki˥re: ˥misamunu](手がけたければ早く手がければ良いのに)。˩パイ˥サ　˩ティーカキ˥リ [˩pai˥sa ˩ti:kaki˥ri](早く手がけなさい＜手がけれ＞)。2暴力を振るう。手を出す。ヤ˩ラビン˥ナーネー　˩ティーカキル˥ナ [ja˩rabin˥na:ne: ˩ti:kakiru˥na](子供には暴力を振るうな)。

˩ティー˥カギン [˩ti:˥kagiŋ]【名】手で調節すること。手で握ったり、触ったりして量や程度を調節すること。目分量で塩梅すること。「手加減」の義。˩ティー˥カギン　˩シェー˥ティル　ア˩ジェー˥　シ˩キ˥ル [˩ti:˥kagiŋ ˩ʃe:˥tiru ʔa˩ʤe:˥ ʃi̥˩ki˥ru](手加減＜目分量で調節すること＞で調節しながら料理の味付けはするものだ)。

˩ティー˥カクン [˩ti:˥kạkuŋ]【他動】1手がける。取り掛かる。着手する。マ˩ナ˥マー　˩ティーカカン˥ドーシ　˥マティ [ma˩na˥ma: ˩ti:kakan˥do:ʃi ˥mati](今は手がけないで待て)。˩パー˥ク　シ˩グトゥ　ティーカキ˥　プサン [˩pa:˥ku ʃi˩gutu ti:kaki˥ pṵsaŋ](早く仕事を手がけたい)。ア˩ツァー˥ラ　˩ティー˥カクンカヤー [ʔa˩tsa:˥ra ˩ti:˥kạkuŋkaja:](明日から手がけるかなあ)。˩ティー˥カク　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˩ti:˥kạku ˥kuto: na˩ra˥nu](手がけることはならぬ)。˩パー˥ク　˩ティー˥カケー　˥ミサムヌ [˩pa:˥ku ˩ti:˥kạke: ˥misamunu](早く手がければよいのに)。˩ワー˥ラ　˩ティー˥カキ [˩wa:˥ra ˩ti:˥kạki](君から手がけなさい)。2手を出す。手を下す。暴力を振るう。˥マナール　トゥ˩ジッふァンナー˥ニ　˩ティー˥カク　プ˩スヌ　ブワー [˥mana:ru tu˩ʤiffanna:˥ni ˩ti:˥kạku pṵ˩sunu buwa:](一体どこに妻子に手をかける＜暴力を振るう＞人がいるものか)。

˩ティー˥カジ [˩ti:˥kaʤi]【名】1人手の数。働き手。働く人。「手数」の義。ク˩ヌ　シチェー　パンタサ˥ヌ　˩ティーカジ˥ヌ　タ˩ラーサランバン [ku˩nu ʃi̥˩tʃe: pantasa˥nu ˩ti:kaʤi˥nu ta˩ra:sarmbaŋ](此の頃＜この節＞は忙しくて人手＜働き手＞が頼めない＜足されない。不足を補えない＞)。ク˩ヌ　シ˩グトー　ティーカジ˥ヌ　˩ゴー˥ラーバル　˥マイヤー＜˥マイネー＞　˩ユーズ [ku˩nu˥ ʃi˩guto: ti:aʤi˥nu ˩go:˥ ra:baru ˥maija:＜˥maine:＞ ˩ju:ʤu](この仕事は人手が多いほど＜多ければぞ＞捗る＜前には進む。寄せる＞)。2技量。技芸の数。てすう (手数)。ク˩ヌ　ブ˩ドゥロー　ティーカジ˥ヌ　˩ゴー˥ラーンダム˩チ˥カサン˩ダー [ku˩nu˥ bu˩duro: ti:kaʤi˥nu ˩go:˥ ra:nda mu˩tʃi˥kasan˩da:](この踊りは技の手数が多いから難しいよ)。

˩ティー˥カタ [˩ti:˥kata]【名】形見。形見となる作品。生前に作っておいた品々。「手形」の義。˥アチャー　ウ˩ナー　ティー˥カタティ　˩シー　サンシンバ˥　ス˩ク˥リ　ブ˩イッふァン˥ケン　ッ˩ふィー˥　ス˩コー˥レーンドゥ　˩バン˥マー　ウ˩ブサンシン˥トゥ　˩ミーカンガン˥バ　ヌ˩カ˥シ　ス˩コー˥レー [˥ʔatʃa: ʔu˩na: ti:˥kạtati ˩ʃi: saŋʃimba˥ sṵ˩ku˥ri ˩buiffaŋ˥keŋ f˩fi:˥ sṵ˩ko:˥re:ndu ˩bam˥ma: ʔu˩busaŋʃin˥tu ˩mi:kaŋgam˥ba nu˩ka˥ʃi sṵ˩ko:˥re:](お父さんは、自分の形見として三線を作って甥子たちに与えておかれてあるが、私には先祖伝来の大三線と水中眼鏡を残しておかれてある)。ク˩ヌ　サンシンマー˥　ウ˩ヤ˥ヌ　˩ティー˥カタ　ヤ˩リバ　タイ˥シチニ　˩シー˥ヨー [ku˩nu saŋʃimma:˥ ʔu˩ja˥nu ˩ti:˥kạta ja˩riba tai˥ʃi̥tʃini ˩ʃi:˥jo:](この三味線は親の遺作だから、大事にしなさいよ)。

˩ティー　カバッ˥サン [˩ti:kabas˥saŋ]【形】料理が上手である。美味しい。「手香ばしい」の義。˥アボー　イッ˩ケナ　ティーカバッ˥サ　˥ウサイ　シゥ˩コーロー˥ルン [˥ʔabo: ʔik˩kena ti:kabas˥sa ˥ʔusai si̥˩ko:ro:˥ruŋ](お母さんは非常に美味しく料理＜お菜。副食物＞を作られる)。ユ˩ミヌ˥　ス˩ク˥ル　ウ˩サイ˥ヤー　˩ティーカバッ˥サン [ju˩minu˥ sṵ˩ku˥ru ʔu˩sai˥ja: ˩ti:kabas˥saŋ](嫁が作る料理は美味しい)。

˩ティーガン˥バリ [˩ti:gam˥bari]【名】手の悪戯。手で物事をいじくって遊ぶ＜悪戯する＞こと。˩ティーガン˥バリ　˩スン [˩ti:gam˥bari ˩suŋ](手の悪戯をする)。˩ミー˥ヌ　˩ガン˥バレー　サ˩バン　ティー˥ヌ　˩ガン˥バレー　˩シェー˥　ナ˩ラ˥ヌ [˩mi:˥nu ˩gam˥bare: sa˩ban ti:˥nu ˩gam˥bare: ˩ʃe:˥ na˩ra˥nu](見るだけの悪戯＜目の悪戯＞はしても、手の悪戯をしてはならない)。

˥ティー　キ˩シ˥ルン [˥ti: kᵢ̥˩ʃi˥ruŋ] 【連】1手が切れる。手が切れたように仕事が出来なくなる。˥ドゥー　˥ムトゥカー　カ˩タ˥ティ　˥キシー　˥ナスカー　ム˩ルテイー˥　キ˩シ˥ルン [˥du: ˥mutuka: kᵃ̥˩ta˥ti: ˥kᵢ̥ʃi: ˥nasuka: mu˩ruti:˥ kᵢ̥suŋ](妊娠したら片手を切られたように仕事が半分しか出来なくなり、出産したら諸手を切られたように仕事が出来なくなる＜慣用句＞)。2関係が切れる。縁が切れる。無関係になる。˥カイ　˥ナレーラ　ドゥ˩シトゥン˥　ティー　キ˩シ˥ルンティ　ウ˩モーン˥カー　ナ˩ラ˥ヌ [˥kai ˥nareːra: du˩ʃitun˥ ti: kᵢ̥˩ʃi˥runti ʔu˩moːŋ˥ka: na˩ra˥nu](こうなった以上は友人とも縁が切れる＜手が切れる＞と思わなければならないね)。

˥ティー　˥キスン [˥ti: ˥kisuŋ] 【連】1手を切る。˩ニーブル　スー˥カー　˩パー˥ムヌシ　˥ティー　キスン˩ダー [˩niːburu suː˥ka: ˩paː˥munuʃi ˥ti: kᵢ̥sun˩daː](居眠りすると刃物で手を切るぞ)。2縁を切る。˥アイブ　プ˩ストー　パー˥ク　˥ティー　˥キスンティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　˥ティー　キ˩サラン˥シェン [˥ʔaibu pᵤ̥˩suto: paː˥ku ˥ti: ˥kisunti ʔu˩muːtan˥du ˥ti: kᵢ̥˩saraŋ˥ʃeŋ](あんな人とは早く手を切ろう＜縁を切ろう＞と思ったが、切れなかった)。

˩ティー˥グ [˩tiː˥gu] 【名】柄の付いた丸い竹籠。「手籠」の転訛したもの。直径約60センチ、深さ約12センチの箕状に竹ひごで編み上げた蓋付きの籠で、半円形の柄＜吊り手＞が付いている。サ˩ギティー˥グ [sa˩gitiː˥gu](吊り手付きの手籠。下げ手籠)、サ˩ギソー˥キ [sa˩gisoː˥ki](吊るしそうき＜笊器＞)ともいう。冷蔵庫のなかった時代には揚げ物や蒲鉾、豆腐、煮物などをこれに入れて通風の良い場所に吊るして保存した。台所の梁や桁などにも吊るして保存した。蓋をして蝿が付かぬように気を配った。カ˩マブクトゥ　トー˥ホー　˩ティー˥グナ　イ˩リティ˥　サイ　シ˩キ˥リバ [ka˩mabukutu toː˥hoː ˩tiː˥guna ʔi˩riti˥ sai ʃᵢ̥˩ki˥riba](蒲鉾と豆腐は柄＜弦＞付きの竹籠に入れて吊るして＜下げて＞おきなさいよ)。

˩ティー˥　ク˩バー˥ン [˩tiː˥ ku˩baː˥ŋ] 【連】不器用である。手仕事に不慣れで下手である。「手・こはし(「磽、己波志＜こはし＞」『新撰字鏡』)」の転訛したものか。˩ティー˥　ク˩バー˥ユンダ　˥ヌー　シ˩ミラバン　ゾー˥ブンニ　˩シーユーサヌ [˩tiː˥ ku˩baː˥junda ˥nu: ʃi˩mirabam ʤoː˥bunni ˩ʃiːjuːsanu](不器用だから何をさせても上手に出来ない)。

˩ティークバ˥リ [˩tiːkuba˥ri] 【名】手配り。手分け。ティ˩ク˥バリ [tᵢ̥˩ku˥bari](手配り)、˩ティー˥バキ [˩tiː˥baki](手分け)ともいう。˩ティークバ˥リ　˩シェー˥ティ　˩インタ　アンタヌ　ピーヌ˥クシナー　˩アン˥バ　ウ˩ラ˥シ　イ˩ズ˥　ガ˩ラ˥シ　˥ケーツォー [˩tiːkuba˥ri ˩ʃeː˥ti ˥ʔinnta ʔantanu piːnu˥kuʃina: ˩ʔam˥ba ʔu˩ra˥ʃi ʔi˩ʤu˥ ga˩ra˥ʃi ˥keːtsoː](手配り＜手分け＞して西と東の干瀬の後ろに網をを入れて＜下ろして＞、魚を引っ掛けて漁獲してきたそうだ)。

˩ティークマー˥ン [˩tiːkumaː˥ŋ] 【形】手業＜手仕事＞が精巧である。技量が精密・精緻である。器用である。「手が細かい」の義。シ˩グトー　ニー˥バンドゥ　イッ˩ケナ　ティークマー˥ン [ʃi˩guto: niː˥bandu ʔik˩kena tiːkumaː˥ŋ](仕事は遅いが、手業が非常に精巧である)。

˩ティー˥　クムン [˩tiː˥ kumuŋ] 【連】手を組む。ある目的のために他人と協力する。˩ワー˥　カ˩リトゥ　ティー˥　クムンティ　ス˩クタヌ˥　フン˩トー [˩waː˥ ka˩ritu tiː˥ kumunti sᵤ̥˩kutanu˥ ɸun˩toː](君は彼と手を組むと聞いたが、本当か)。

˩ティーザー˥ク [˩tiːʤaː˥ku] 【名】手仕事。手業。手細工。手工。˩ティー [˩tiː](手)と、ッ˩サーク」[s˩saːku](仕事)の複合語 [˩tiːssaː˥ku](手仕事)が形成された際に後接語の頭子音が濁音化して転訛したもの。˩ミーカン˥ガン　ス˩ク˥リ　˩サンシン˥　ス˩クル　˩ティーザー˥コー　カ˩ザケヌ˥　ウスマイ　˩クイル˥　プ˩ソー　オーラン˥シェン [˩miːkaŋgan sᵤ̥˩ku ˥ri ˩saŋʃin˥ sᵤ̥˩ku˥ru ˩tiːʤaː˥koː ka˩ʤakenu˥ ʔusumai ˩kuiru˥ pᵤ̥˩soː ʔoːraŋ˥ʃeŋ](水中眼鏡を作り、三線を作る手仕事では、加治工のウスマイを越える人はいらっしゃらなかった)。˥ウスマイヤー　ア˩ミ˥ヌ　˥フーカー　ア˩ミフイ˥ヌ　˩ティーザーク˥バ　カ˩ジヌ˥　フクカー　カ˩ジフキヌ　˩ティーザーク˥バ　カ˩ニテー˥ラ　ス˩コーリ˥　シキティ　˩ピッ˥チン　ア˩サボーラン˥シェン [˥ʔusumaija: ʔa˩mi˥nu ˥ɸuːka: ʔa˩miɸui˥nu ˩tiːʤaːku˥ba ka˩ʤinu˥ ɸᵤ̥kuka: ka˩ʤiɸukinu tiːʤaːku˥ba ka˩niteː˥ra sᵤ̥˩koːri˥ ʃᵢ̥kiti ˩pit˥ʧiŋ ʔa˩saboːraŋ˥ʃeŋ](ウスマイは雨が降ると雨降りの手仕事を、風が吹くと嵐の日の手仕事を予てから用意しておいて、ちっとも＜一つも。何一つ。決して＞遊ばれなかった)。

˩ティーサドゥ˥ル [˩tiːsadu˥ru] 【名】手探り。ッ˩ふァヨーンヌ˥　ミーラ　˩ティーサドゥ˥ル　˩シェー˥ティル　˩ヤー　カイ˥リ　˩クータ˥ル [fᵊfajoːnnu˥ miːra ˩tiːsadu˥ru ˩ʃeː˥tiru ˩jaː kai˥ri ˩kuːta˥ru](暗闇の中を手探りして＜ぞ＞家に帰ってきたものだ)。ッ

˞ふァヨーンヌ˜　ミーラ　˞ティーサドゥ˜ル　˞シェー˜ティル　ヤッ˞トゥ˜シ　ア˞ラ˜キ　˞クータ˜ル [f˞fajo:nnu˜ mi:ra ˞ti:sadu˜ru ˞ʃe:˜tiru jat˞tu˜ʃi ʔa˞ra˜ki ˞ku:ta˜ru](暗闇の中を手探りをしながらやっとのことで歩いて来たのだよ)。

˞ティー˜　サ˞ラー˜ン [˞ti:˜ sa˞ra:˜ŋ] 【連】手際よい。上手に仕事をする。手早く仕事をする。ウ˞レー　ティー˜　サ˞ラー˜ンダ　ウ˞リンナー˜ニ　タ˞ナ˜ミバ　˞ンー˜バテー　ア˞ザン˜パジ [ʔu˞re: ti:˜ sa˞ra:˜nda ʔu˞rinna:˜ni ta˞na˜miba ˞ʔm:˜bate: ʔa˞ʤam˜paʤi](彼は上手に仕事をするから、彼に頼みなさいよ。否とは言わないはずだよ)。

˞ティーサン˜ミン [˞ti:sam˜miŋ] 【名】指折り計算すること。「手計算」の義。˞ティーサン˜ミン　ヤ˞ルヌ˜　ガッ˞ツリ˜　ア˞タリ　ブー [˞ti:sam˜miŋ ja˞runu˜ gat˞tsuri˜ ʔa˞tari bu:](指折り数えての計算だが、ぴったり合致して＜当たって＞いる)。

˜ティー　シゥ˞カウン [˜ti: si̥˞kauŋ] 【連】空手を使う。空手を演舞する。˜アブジェー　ン˞ベーマ˜　サ˞キ˜　ヌ˞モー˜ルカー　˜ティー　シゥ˞カイ˜　ミ˞ラ˜ソーッタン [˜ʔabuʤe: ʔm˞be:ma˜ sḁ˞ki˜ nu˞mo:˜ ruka: ˜ti: si̥˞kai˜ mi˞ra˜so:ttaŋ](お祖父さんは多少酒が入ると＜飲まれると＞空手の演舞して＜空手を使って＞見せられた)。

˞ティーシゥカ˜ミ [˞ti:si˜kami] 【名】手掴み。箸を使わないで手で直接に食物を取って食うこと。若年層が多用する。˞ティーシゥカ˜ミ　˞サンドー˜シ　˜パシシ　パ˞サ˜ミ　ッ˞ふァイ˜バ [˞ti:si̥ka˜mi ˞sando: ˜ʃi ˜paʃiʃi pḁ˞sa˜mi f˞fai˜ba](手掴みしないで、箸で挟んで食べなさいよ)。

˞ティーシゥカ˜ラ [˞ti:si̥ka˜ra] 【名】手の力。腕力。握力。ウ˞レー　ティーシカラ˜ヌ　˞スー˜ワン [ʔu˞re: ti:si̥kara˜nu ˞su:˜waŋ](彼は腕力が強い)。

˞ティー˜シゥカン [˞ti:˜sï̥kaŋ] 【名】手掴み。箸を用いないで、手で食物を取って食べること。老年層が多用する。˞ティー˜シゥカンシ　ム˞ヌ˜バ　ッ˞ふァイ　ミーヌッ˜サワレー [˞ti:˜sï̥kaŋʃi mu˞nu˜ba f˞fai mi:nus˜saware:](手掴みで食べ物を取って食って、見苦しい＜みっともない＞ことよ)。

˞ティー˜シゥカン　˞スン [˞ti:˜si̥kan ˞suŋ] 【連】手掴みする。ヤ˞ラビ˜トゥ　ユ˞ヌ˜ムヌ　˞ティー˜シゥカン　˞シー˜　イー　ッ˞ふァイ　ベー [ja˞rabi˜tu ju˞nu˜munu ˞ti:˜si̥kaŋ ˞ʃi:˜ ʔi: f˞fai be:](子供と同じ、手掴みして御飯を食べている)。

˞ティーシキ˜ヨー　ナ˞ラ˜ヌ [˞ti:ʃi̥ki˜jo: na˞ra˜nu]【連】手の施しようがない。始末に負えない。˞ウン˜ネヌ　プ˞ソー　キョーダイ˜サザーン　˜アウカー　˞ティーシキ˜ヨー　ナ˞ラ˜ヌ [˞ʔun˜nenu pu̥˞so: kjo:dai ˜saʤa:ŋ ˜ʔauka: ˞ti:ʃi̥ki˜jo: na˞ra˜nu](その家の人は、兄弟同士喧嘩すると手の施しようがない＜始末に負えない＞)。

˞ティーシキ˜ルン [˞ti:ʃi̥ki˜ruŋ] 【他動】手がける。仕事に着手する。手をつける。「手付ける」の転訛したもの。シ˞グトー　キョー˜ラ　˞ティーシキ˜ルンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　ア˞ミ˜ヌ　˜フイ　˞ティーシキララ˜ヌ [ʃi˞guto: kjo:˜ra ˞ti:ʃi̥ki˜runti ʔu˞mu:n ˜du ʔa˞mi˜nu ˜ɸui ˞ti:ʃi̥kirara˜nu](仕事は今日から着手しようと思うが、雨が降って着手できない)。˞ティーシキ˜ル　ク˞トゥ˜ヌ　˜ナルカー　˞ティーシキ˜レー　˜ミサムヌ [˞ti:ʃi̥ki˜ru ku̥˞tu˜nu ˜naruka: ˞ti:ʃi̥ki˜re: ˜misamunu](手がけることが出来れば手がければ良いのに)。˞ティーシキ˜リ [˞ti:ʃi̥ki˜ri](手がけろ)。

˞ティーシグ˜トゥ [˞ti:ʃigu˜tu] 【名】手仕事。手先でする仕事。手わざ。˞ティーシグトゥ˜ヌ　˜アルカー　˞マーン˜ナーティン　˜タティ　パ˞ラ˜リン [˞ti:ʃigutu˜nu ˜ʔaruka: ˞ma:n˜na:tin ˜tḁti pa˞ra˜riŋ](手仕事があれば何処でも生活して＜立って＞いける)。

˜ティー　シ˞ナイルン [˜ti: ʃi˞nairuŋ] 【連】手を繋ぐ。˜ティー　シ˞ナウン [˜ti: ʃi˞nauŋ](手を繋ぐ) と同じ。

˜ティー　シ˞ナウン [˜ti: ʃi˞nauŋ] 【連】1手を繋ぐ。ミ˞ドゥム˜トゥ　ビ˞キドゥムトゥ˜　ティー　シ˞ナウン [mi˞dumu˜tu bi˞kidumutu˜ ti: ʃi˞nauŋ](男と女が手を繋ぐ)。˜ティー　シ˞ナーンシェン [˜ti: ʃi˞na:ŋʃeŋ](手を繋がなかった)。2協力を約束する。˞クッ˜ツァー　ティ˞キドゥーシ˜　ヤ˞ルヌ˜　ティー　シ˞ナウ˜　クトゥン　˜アン [˞kut˜tsa: ti̥˞kidu:ʃi˜ ja ˞runu˜ ti: ʃi˞nau˜ ku̥tuŋ ˜ʔaŋ](これらは敵同士だが、手を繋ぐ＜同盟する＞こともある)。

˞ティー˜シミガクムン [˞ti:˜ʃimigakumuŋ] 【名】読み書きソロバンの教育。「手墨学問」の義。パ˞トゥ˜マナティヌ　˞ティー˜シミガクムンヌ　パ˞ジマレー　メイジ˜　ニジュー　ハ˞チ˜ネンティル　キ˞ルコー˜　カ˞キトゥミラ˜リ　˞ブー˜ダー [pḁ˞tu˜manatinu ˞ti:˜ʃimigakumunnu pa˞ʤimare: meiʤi˜ niʤu: hḁ˞ʧi ˜nentiru ki˞ruko:˜ kḁ˞kitumira˜ri ˞bu:˜da:](鳩間島での読み書きソロバンの教育＜手墨学問＞の始まりは、明治 28 年だと記録は書き留められているのだ

よ)。

˥ティー　˥シムン [˥tiː ˥ʃimuŋ] 【連】手を洗う。「手を澄ませる」の義か。˥ティー　˥シミテーラ　˩イー˥ヤ　˩ファイ [˥tiː ˥ʃimiteːra ˩ʔiː˥ja ˩fˈfai](手を洗ってから飯を食べなさい)。

˩ティージリゴー˥サー [˩tiːʤirigoː˥saː] 【名】手をすり合わせて合掌祈願すること。恐れかしこみ＜畏み＞、手をすり祈願すること。「ゴーサ」は「怖さ」の義。転じて「畏む」の意。˩ティージリゴー˥サー　˩シール　カンヌ˥マイ　ウ˩ヤミ˥サ　ッ˩サローッ˥タ [˩tiːʤirigoː˥saː ˩ʃiːru kannu˥mai ʔu˩jami˥sa s˩saroːt˥ta](恐れ畏(カシコ)み、手をすり合わせて＜ぞ＞神様にお詫びを申し上げた)。

˩ティー˥ジル [˩tiː˥ʤiru] 【名】手塩。手塩にかけること。世話をすること。親の愛情を受けること。「手汁」の義。ウ˩リヌ˥　スク　ウ˩ヤ˥ヌ　˩ティー˥ジル　˩ファイ˥　ス˩ダタ˥レー　ッ˩ふァー˥　ブ˩ラーヌ [ʔu˩rinu˥ su̥ku ʔu˩ja˥nu ˩tiː˥ʤiru ˩fˈfai˥ su˩data˥reː ˩fˈfaː˥ bu˩raːnu](彼ほど親の愛情を受けて＜世話になって＞育った子供はいない)。

˥ティー　˩スー˥ルン [˥tiː ˩suː˥ruŋ] 【連】技能、技量が向上する。「腕前が強くなる」の義。グ˩ニン　ミー˥ナライ　˩スー˥カー　イッ˩ケナ˥　ティー　˩スー˥ルンツォー [gu˩nim miː˥narai ˩suː˥kaː ʔik˩kena˥ tiː ˩suː˥runtsoː](五年間丁稚奉公＜見習い＞すると、非常に技量が向上するそうだ)。

˥ティー　ス˩ク˥ムン [˥tiː su̥˩ku˥muŋ] 【連】手を握る。手を握り締める。「手をすくむ＜竦む＞」の転訛したもの。ヤ˩ラ˥ベー　ニ˩チ˥ヌ　˥アルカー　˥ティー　ス˩ク˥ムン [ja˩ra˥beː ni˩ʧi˥nu ˥ʔaruka: ˥tiː su̥˩ku˥muŋ](子供は熱があると手を握る＜すくむ。竦む。竦める＞)。

˩ティー˥　スクン [˩tiː˥ su̥kuŋ] 【連】手を付ける。手がける。開始する。˩ティー˥　シ˩キ˥ルン [˩tiː˥ ʃi̥˩ki˥ruŋ](手を付ける) ともいう。˩アツァー˥ラ　シ˩グトー　ティー˥　スクンティ　˥ウムイ　˩ベー [ʔa˩tsaː˥ra ʃi˩guto: tiː˥ su̥kunti ˥ʔumui ˩beː](明日から仕事は手をつけよう＜手がけよう＞と思っている)。

˩ティー˥ソー [˩tiː˥soː] 【名】手相。˩ティー˥ヌ　˥アヤ [˩tiː˥nu ˥ʔaja](手の綾、手の襞) ともいう。˩ティー˥ソー　ミ˩リ˥プスン　˩ティー˥ソー　˥ミシティ　˩ウンキ˥　ク˩ラ˥シバ [˩tiː˥so: mi˩ri˥pu̥sun ˩tiː˥so: ˥miʃi̥ti ˩ʔuŋki˥ ku˩ra˥ʃiba](手相を見る人に手相を見せて運気を判断させ＜繰らせ＞もらいなさい)。

˩ティーソー˥リ [˩tiːso˥ri] 【名】手探り。暗闇の中で手探りして探すこと。「手さわり＜触り＞」の転訛したもの。ッ˩ふァガマリヌ˥　ナ˩カー˥ラ　˩ティーソー˥リ ＜˩ティーサグ˥リ＞　˩シェー˥ティ　ヤッ˩トゥ˥シ　˥トゥミ　˩クー˥タ [fˈfagamarinu˥ na˩kaː˥ra ˩tiːso˥ri＜˩tiːsagu˥ri＞ ˩ʃeː˥ti jat˩tu˥ʃi ˥tumi ˩kuː˥ta](暗がりの中から手探りで、やっとのことで探してきた)。

˥ティー　ダ˩クン [˥tiː da˩kuŋ] 【連】拱手傍観する。手をこまぬく。無為に過ごす。手の怪我をして仕事が出来なくなり困る。手が不自由になる。「手を抱く」の義。˩ティー˥バ　ヤ˩マ˥シティ　˥ティー　ダ˩キル　オー˥ル [˩tiː˥ba ja˩ma˥ʃi̥ti ˥tiː da˩kiru ʔoː˥ru](手を傷めて、拱手傍観して＜仕事が出来なくなり、弱って＞おられる)。

˩ティーダラー˥ン [˩tiːdaraː˥ŋ] 【形】手に力の入らないさま。握力が無いさま。握力が弱く、掴んでいる物をよく落とす状態である。ウ˩レー　ティーダラー˥ンダ　˥ユー　˥マカルドング　ウ˩タ˥シ　バ˩ルタヌ˥　マ˩ナ˥マー　˩ティーダラ˥ー　˩ナーン˥ツォー [ʔu˩reː tiːdaraː˥nda ˥juː ˥makarudoŋgu ʔu˩ta˥ʃi ba ˩rutanu˥ ma˩na˥maː ˩tiːdaraː˥ ˩naːn˥tsoː](彼は手に力が入らないので、よくお椀など食器類を落として割ったが、今は手に力が入らない状態では無いそうだ)。ウ˩レー　サッ˥コー　˩ティーダラー˥ンダ　カ˩シーカシー˥　シ˩グトゥ　シーユーサヌ [ʔu˩reː sak˥koː ˩tiːdaraːn˥da ka˩ʃiːkaʃiː˥ ʃi˩gutu ʃiːjuːsanu](彼は非常に手がだるいから、きちんと仕事をすることが出来ない)。アイ˩スン˥ケン　˩ティーダラー　ナー˥ヌ [ʔai˩suŋ˥ken ˩tiːdaraː naː˥nu](それほど手がだるくない)。

˩ティーダラ˥スン [˩tiːdara˥suŋ] 【他動】手をたたいて諌める。ヤ˩ナクトゥ　スー˥カー　˩ティーダラ˥スン [ja˩nakutu suː˥ka: ˩tiːdara˥suŋ](悪いことをしたら手をたたいて諌(イサ)める)。˩ティーダラ˥シ　シ˩キ˥リ [˩tiːdara˥ʃi ʃi̥˩ki˥ri](手をたたいて諌めておけ)。˩ティーダラ˥シ　˥ミサカー　˩ティーダラ˥ス　˥クトー　˥ナルン [˩tiːdara˥ʃi ˥misakaː ˩tiːdara˥su ˥ku̥toː ˥naruŋ](手をたたいて諌めて良ければ諌めることは出来る)。˥アイブ　˥ムノー　˩ティーダラ˥シェー　˥ミサムヌ [˥ʔaibu ˥munoː ˩tiːdara˥ʃeː ˥misamunu](あんな奴は手をたたいて諌めれば良いのに)。˩ティーダラ˥シ [˩tiːdara˥ʃi](手をたたいて諌めよ)。˩ガン˥マリ　˩スー˥カー　˩ティーダラ˥スン [˩gam˥mari ˩suː˥kaː ˩tiːdara˥suŋ](悪戯したら手を打ち据える)。˩ティーダラサン˥カー　ヤ˩ミラヌ [˩tiːdarasaŋ˥kaː ja˩

miranu](手を打ち据えないと止めない)。˞ティーダラ˜シ　˜ミサン [˞tiːdara˜ʃi ˜misaŋ](手を打ち据えて良い)。ヤ˞ナクトゥ　スー˜カー　˞ティーダラ˜スクトゥ [ja˞nakutu suː˜kaː ˞tiːdara˜su ˜kʷtu](悪いことをしたら手を打ち据えること)。˞ティーダラ˜シェー　˜ミサムヌ [˞tiːdara˜ʃeː ˜misamunu](手を打ち据えればいいのに)。˞ティーダラ˜シ [˞tiːdara˜ʃi](手を打ち据えろ)。

˞ティー˜ダリ [˞tiː˜dari] 【名】手が疲れてだるくなること。手に力が入らないこと。「手垂れ」の義か。˞ティー˜ダリ　˞スン˜ケン　ッ˞ふァバ˜　ダ˞キ　カイナ˜ヌ　˜ヤムンケン　ッ˞ふァバ˜　ダ˞キル˜　シゥ˞カ˜ナイ　フ˞ドゥバシェー˜ダー [˞tiː˜dari ˞suŋ˜ken f˞faba˜ da˞ki kaina˜nu ˜jamuŋken f˞faba˜ da˞kiru˜ sʲ˞ka˜nai ɸu˞dubaʃeː˜daː](手が疲れてだるくなるほど子供を抱き、腕が痛むほど子供を抱いて成長させたのだよ)。

˞ティーダリ˜ムヌ [˞tiːdari˜munu] 【名】手に力の入らない者。手の力がなく、動作の鈍い者。相手を罵っていう語。˞ティーダリクン˜キャー [˞tiːdarikuŋ˜kjaː](のろま＜鈍間＞。愚鈍) ともいう。˞ティーダリムヌ˜ヌ　˞シーワザー˜　ムー˞ル˜　シ˞ルッ˜コー　˜ナシ　˞ナー˜ヌ [˞tiːdarimunu˜nu ˞ʃiːwadʑaː˜ muː˞ru˜ʃi˞ruk˜koː naʃi ˞naː˜nu](手に力の入らない鈍麻(トンマ)のやる＜仕業だから＞ことは、すべてを台無し＜ぶち壊し＞にしてしまったよ)。

˞ティーッサー˜ク [˞tiːssaː˜ku] 【名】手仕事。手細工の仕事。手工。˞ティーザー˜ク [˞tiːdʑaː˜ku](手仕事) 参照。イ˞ル˜ジナ　˞ティーッサーク˜バ　˞シェー˜ティル　˞ジンモー˜キ　˞ソーッ˜タ [ʔi˞ruˆdʑina ˞tiːssaːku ˜ba ˞ʃeː˜tiru ˞dʑimmoː˜ki ˞soːt˜ta](いろいろな手仕事をしながら金儲けをされた)。

˞ティーッサー˜ル [˞tiːssaː˜ru] 【名】仕事で手が塞(フサ)がること。仕事で手が一杯になる。手不足になる。繁忙を極める。「手塞がり」の義。ウ˞ビ˜ヌ　シ˞グトゥバ　タンガ˜シ　˞スンティ　シー　ティーッサー˜ル　˞シー˜　ビ˞チ˜ヌ　クトー　ノー˞ン˜　ウ˞モーラ˜ヌ [ʔu˞bi˜nu ʃi˞gutuba taŋga˜ʃi ˞sunti ʃiː tiːssaː˜ru ˞ʃiː˜ bi˞tʃi˜nu ˜kʷtoː noː˞n˜ ʔu˞moːra˜nu](あれだけの仕事を一人でしようとして、仕事で手が一杯になって＜手が塞がって＞繁忙を極めて、別のことは何も考えられない)。

˞ティー˜　ッ˞サイ˜ルン [˞tiː˜ s˞sai˜ruŋ] 【連】手を揺り合わせて祈る。手を揺り合わせて念ずる。「手・揺り合わせる」の転訛したもの。ウ˞ヤプスヌ˜マイ　˞ティー˜　ッ˞サイ˜ルン [ʔu˞japusu˜numai ˞tiː˜ s˞sai˜ruŋ](ご先祖さまに手を揺り合わせて祈る)。

˞ティー˜　ッサウン [˞tiː˜ ssauŋ] 【連】手をすり合う。手を揺り合い祈る。[te・suri・au]　→　[tiː-ssauŋ](手・揺り合う) のように音韻変化して再転訛したもの。˞ティー˜　ッ˞サイ˜ルン [˞tiː˜ s˞sai˜ruŋ](手を揺り合わせる。合掌する) ともいう。ウ˞ヤプス˜ヌマイ　˞ティー˜　ッサイティ　˜パリ [ʔu˞japusu˜numai ˞tiː˜ ssaiti ˜pari](ご先祖さまに手を揺り合わせて＜合掌して＞から行きなさい)。˞ティー　ッサーン˜カー　˞パン˜ナ [˞tiː ssaːŋ˜kaː ˞pan˜na](手を合わせなければ行くな)。˞ティー˜　ッサウンティ　˞ベー [˞tiː˜ ssaunti ˞beː](手を揺り合わせようとしている)。˞テイー˜　ッサウ　プ˞ソー　パー˜ク　˞ティー　ッサイ˜ヤー　˜ミサムヌ [˞tiː˜ ssau pʷ˞soː paː˜ku ˞tiː ssai˜jaː ˜misamunu](手を揺り合う＜合掌する＞人は早く合掌すればいいのに)。˞ワンヌン　ティー˜　ッサイバ [˞wannun tiː˜ ssaiba](君も手を揺り合い＜合掌し＞なさいよ)。

˞ティー˜ッシ [˞tiː˜ʃʃi] 【名】1手をすり合せること。合掌してすり合わせること。合掌して祈ること。˞ティー˜バ　˜ッシ　˞ニン˜ガイ　˞オーッ˜タ [˞tiː˜ba ˜ʃʃi ˞niŋ˜gai ˞ʔoːt˜ta](手をすり合わせて祈願された)2手で肌をさすること。ウ˞ヤ˜ヌ　˞ティー˜ピサー　フ˞チ˜ルティ　˞シー˜　ヤ˞ラビ˜ヌ　˜バターラ　ク˞シェーラ　ティー˜ッシ　˞シェー˜ティル　ニ˞バソーッ˜タ [ʔu˞ja˜nu ˞tiː˜pisaː ɸʷ˞tʃi˜ruti ˞ʃiː˜ ja˞rabi˜nu ˜bataːra kʷ˞ʃeːra tiː˜ʃʃi ˞ʃeː˜tiru ni˞basoːt˜ta](親の掌は薬といって、子供の腹から、背中から手でさすって＜手すりして＞寝かされた)。

˞ティー˜　ッシ　˜ヤムン [˞tiː˜ ʃʃi ˜jamuŋ] 【連】化膿したお出来や傷が熱をもって放射状に痛みがはしる。刺し込むように痛みが放射状に広がる。ア˞シブ˜ヌ　˞ウー˜ミティ　˞ティー˜　ッシ　˜ヤミ　フ˞シガラ˜ヌ [ʔa˞ʃibu˜nu ˞ʔuː˜miti ˞tiː˜ ʃʃi ˜jami ɸu˞ʃigara˜nu](お出来が化膿して痛みが放射状にはしって、痛くてたまらない)。

˞ティーッス˜ル [˞tiːssu˜ru] 【名】てぬぐい (手拭)。手拭き。明治生まれの老年層の使用語彙。˜サジ [˞sadʑi](手拭。タオル) ともいう。˞ティーッス˜ルシウ˞ム˜ティ　ッ˞スリ˜バ [˞tiːssu˜ruʃi ʔu˞mu˜ti s˞suri˜ba](手拭で顔＜おもて。面＞を拭きなさい)。

˞ティー˜　ッスン [˞tiː˜ ssuŋ] 【連】手を擦る。両手のひらをすり合わせる。手を擦って祈る。˞ティー˜　ッサウン [˞tiː˜ ssauŋ](合掌する) ともいう。˞ソー

スー˺ ピンマー ˹カンヌ˺マイナ ˹ティー˺ ッスン [˹soː suː˺ pimmaː ˹kannu˺maina ˹tiː˺ ssuŋ](心配する時は、神様の前に手を擦る＜手をすり合わせて祈る＞)。

˹ティーッふァイ˺ムヌ **[˹tiːffai˺munu]** 【名】手間ひまのかかるもの。手間取るもの。「手食いもの」の義。˹アンスクライ˺ヤー ˹サッ˺コー ˹ティーッふァイ˺ムヌ [˹ʔansu̥kurai˺jaː ˹sak˺koː ˹tiːffai˺munu](網の補修＜網繕い＞は、非常に手間のかかるものだ)。

˺ティー ッ˹ふン **[˺tiː f˹fuŋ]** 【連】1手間がかかる。「手を食う」の義。ウ˹ヌ˺ シ˹グトー˺ イッ˹ケナ˺ ティー ッ˹ふン [ʔu˹nu˺ ʃi˹gutoː˺ ʔik˹kena˺ tiː f˹fuŋ](この仕事は非常に手間がかかる＜手を食う＞)。2養育される。世話になる。˺トゥシ トゥ˹ル˺ター パ˹タラキユーサヌ˺ ナー˹イ˺ ッ˹ふァヌ˺ ティー ッ˹ふァイ ベー [˺tuʃi tu˹ru˺taː pḁ˹taraki-juːsanu˺ naː˹i˺ f˹fanu˺ tiː f˹fai beː](年を取ったので働くことが出来ない。ただ子供の世話になって＜子供の手を食べて＞いる)。

˹ティー˺トー **[˹tiː˺toː]** 【名】抵当。担保。ウ˹カ˺ヌ ˹ティー˺トーティ ˹シー ヤーヤシ˺キ ˹ギン˺コーナー フ˹バラリ ベー˺ツォー [ʔu˹ka˺nu ˹tiː˺toːti ˹ʃiː jaːjaʃi̥˺ki ˹giŋ˺koːnaː ɸu˹barari beː˺tsoː](借金の抵当として、家や屋敷を銀行に押さえられて＜縛られて＞いるそうだ)。

˹ティー˺トゥリ **[˹tiː˺turi]** 【名】仲直りをすること。仲良くすること。手を結ぶこと。「手取り」の転訛したもの。マ˹ナ˺マーラ ˺アトー ˹ティー˺トゥリ ˹シェー˺ティ トゥ˹ジブトゥ アーン˺ドーシル タティパル˹ダー [ma˹na˺maːra ˺ʔatoː ˹tiː˺turi ˹ʃeː˺ti tu˹ʤibutu ʔaːn˺doːʃiru tḁtiparu˹daː](今後＜今から後＞は仲直りをして、夫婦喧嘩しないで生活していくんだよ)。

˹ティー˺ドゥリ **[˹tiː˺duri]** 【名】手取り。手に入る金高。現金収入。ク˹トゥシヌ イー˺シェー ˹ダイ˺ ム˹タン˺ベーティ ˹ティー˺ドゥリーン ˹イシゥカー˺ル [ku̥˹tuʃinu ʔiː˺ʃeː ˹dai˺ mu˹tam˺beːti ˹tiː˺duriːŋ ˹ʔisi̥˺kaː˺ru](今年のツノマタは値段が安い＜値をもたない＞ので、手取りも少ない)。

˹ティーナー˺リ ˺パンナーリ **[˹tiːnaː˺ri ˺pannaːri]** 【連】手を出し、足を出しして喧嘩すること。じゃれて喧嘩を仕掛けるさま。˹ティーナー˺リ ˺ピサナーリ [˹tiːnaː˺ri ˺pisanaːri](手を出し、足を出し。じゃれて喧嘩する) ともいう。ヤ˹ラ˺ベー ナー˹イ ティーナー˺リ ˺パンナーリ ˹シーベー˺ティル アウ˹ダー [ja˹ra˺beː naː˹i tiːnaː˺ri ˺pannaːri ˹ʃiːbeː˺tiru ʔau˹daː](子供はじゃれて、ただ手を出し、足を出ししていて喧嘩するんだよ)。

˺ティー ˹ナールン **[˺tiː ˹naːruŋ]** 【連】1手を出して喧嘩する。手出しをする。ヤ˹ラ˺ベー フ˹チ˺シ イ˹ジックナー シーベー˺ティ ˺アトー ˹フン˺トー ˺ティー ˹ナールン˺ダー [ja˹ra˺beː ɸu̥˹ʧi˺ʃi ʔi˹ʤikkunaːba ʃiːbeː˺ti ˺ʔatoː ˹ɸun˺toː ˺tiː ˹naːrun˺daː](子供は口喧嘩していて、後には本当に手を出して喧嘩するよ)。2手を差し出す。ク˹マー˺ ティー ˹ナーリ [ku˹maː˺ tiː ˹naːri](ここへ手を差し出しなさい)。

˹ティー ナー˺ン **[˹tiː naː˺ŋ]** 【連】手癖が悪い。盗癖がある。「手が長い」の義。ク˹ヌ˺ ヤ˹ラ˺ベー ˹ティーナー˺ンダ ˺ユー ˹キー˺ シ˹キ˺リ˹ヨー [ku˹nu˺ ja˹ra˺beː ˹tiːnaː˺nda ˺juː ˹kiː˺ ʃi̥˹ki˺ri˹joː](この子供は手癖が悪い＜盗癖がある＞から、よく気をつけなさいよ)。

˺ティーナガー **[˺tiːnagaː]** 【名】盗癖のある人。てくせ (手癖) の悪いこと。˺ティーナガーヤ ˹ノーシグリ˺サン˹ダー [˺tiːnagaːja ˹noːʃiguri˺san˹daː](盗癖のある人は直しづらいよ)。

˹ティー˺ナビ **[˹tiː˺nabi]** 【名】つるなべ (弦鍋)。鍋の耳に付いている弦＜柄。手＞を掴んで持ち運ぶ鍋。「手鍋」の義。˹スーン˺シロー ˹ティー˺ナビナール バ˹カス [˹suːŋ˺ʃiroː ˹tiː˺nabinaːru ba˹kasu](お汁は汁鍋で＜ぞ＞炊く＜沸かす＞のだ)。˹ティー˺ナベー ウ˹ティティ パンガマ˺ シ˹キリ [˹tiː˺nabeː ʔu˹titi pamgama˺ ʃi̥˹kiri](弦鍋は竈から外して羽釜を竈に据えなさい)。ア˹バ˺ナベー ˹ティーナビバ˺ル シゥ˹カイヨーッタ˺ル [ʔa˹ba˺nabeː ˹tiːnabiba˺ru si̥˹kaijoːtta˺ru](揚げ物用の油鍋には弦鍋＜手鍋＞を使われたよ)。

˺ティー ナ˹ブッタラー˺ン **[˹tiː˺ na˹buttaraː˺ŋ]** 【連】手が滑らかですべすべしている。˺ティーナ ア˹バ˺ヌ マ˹マリティ ティー˺ ナ˹ブッタラー˺ヌ ギッ˹ティ˺ カ˹サマラヌ [˺tiːna ʔa˹ba˺nu ma˹mariti tiː˺ na˹buttaraː˺nu git˹ti˺ ka˹samaranu](手に油が付着して＜塗られていて＞、手がすべっこくてギュット力強く握れ＜掴まれ＞ない)。

˹ティー˺ナライ **[˹tiː˺narai]** 【名】大工仕事の見習い。仕事を師匠から直接に習うこと。師匠から手をとって教えられること。「手習い」の義。半農半漁の島だったから、習字や芸事については用いなかった。シ˹グトー˺ ウ˹ヤ˺カターラ ˹ティー˺ナライ ˹シ

ェー˜ティル　イ˞チニン˜マイ　˜ナレーツォー [ʃi˞guto:˜ ʔu˞ja˜kata:ra ˞ti:˜narai ˞ʃe:˜tiru ʔi˞ʧinim˜mai ˜nare:tso:](仕事は親方から手習いをしながら一人前になったそうだ)。

˞ティーナラ˜ビ [˞ti:nara˜bi] 【名】人並み。世間並み。˜ユヌ　˞ニンギン˜ドゥ　ヤ˞ル˜　˞ティーナラ˜ビ　˜プスナラビ　ノー˞ン˜　シ˞グトー　サン˜カー　ナ˞ラ˜ヌ [˜junu ˞niŋgin˜du ja˞ru˜ ˞ti:nara˜bi ˜pu̥sunarabi no:˞ŋ˜ ʃi˞guto: saŋ˜ka: na˞ra˜nu](同じ人間＜ぞ＞である。人並みに＜手並び、人並び＞何でも仕事はしないといけない)。

˞ティーニー [˞ti:ni:] 【名】丁寧。「丁寧」の転訛したもの。伝統的表現では、˜キモー　イ˞リ˜　シ˞グトゥ　シー [˜kimo: ʔi˞ri˜ ʃi˞gutu ʃi:](心＜肝＞をこめて仕事をしなさい) のようにいう。ノー˞ンヌ˜　シ˞グトゥン　ティーニーニ　サン˜カー　ナ˞ラン˜ダー　˞ティーニーニ　サーバル˜　シ˞キン˜ヌ　プ˞スン˜　ミ˞トゥミラ˜リ˞ダー [no:˞nnu˜ ʃi˞gutun ti:ni:ni saŋ˜ka: na˞ran˜da: ˞ti:ni:ni sa:baru˜ ʃi̥˞kin˜nu pu̥˞sum ˜ mi˞tumira˜ri˞da:](何事＜どんな仕事＞も丁寧にしないといけないよ。丁寧にすればこそ＜ぞ＞世間の人に認められるのだぞ)。

˞ティーニー˜バン [˞ti:ni:˜baŋ] 【形】仕事の手が遅い。仕事の手がのろい＜鈍い＞。ウ˞レー　ティーニー˜バンティ　ア˞ズタンドゥ　ナン˜ゾー　ティーニー˜バー　˞ナー˜ヌ [ʔu˞re: ti:ni:˜banti ʔa˞ʤutandu nan˜ʤo: ˞ti:ni:˜ba: ˞na:˜nu](彼は手が鈍いと言ったが、それほど手は遅くない)。˜ドク　˞ティーニーバ˜ヌ　シュ˞カーラヌ [˜duku ˞ti:ni:ba˜nu si̥˞ka:ranu](あまりにも手が鈍くて使えない)。˞ティーニー˜バ (ル)　プ˞ソー˜　ヤ˞トゥー˜ナ [˞ti:ni:˜ba(ru) pu̥˞so:˜ ja˞tu:˜na](手が遅い人は雇うな)。ウ˞レー　ティーニー˜バンダ　˜キューズーナ　シ˞グトゥ˜　トゥ˞ズミユーサヌ [ʔu˞re: ti:ni:˜banda ˜kju:ʤu:na ʃi˞gutu˜ tu˞ʤumiju:sanu](彼は仕事の手仕事が遅いから、今日中に仕事を完結できない)。

˞ティー˜ヌ　ウ˞チ [˞ti:˜nu ʔu˞ʧi] 【連】手の内。手並み。腕前。奥の手。心の中の計画。˞ドゥー˜ヌ　˞ティー˜ヌ　˜ウチェー　プ˞スンマー˜　ミ˞シル˜ナ [˞du:˜nu ˞ti:˜nu ˜ʔuʧe: pu̥˞summa:˜ mi˞ʃiru˜na](自分の手の内＜内心の計画＞は、他人には見せるな)。

˞ティー˜ヌ　カ˞ナー˜ヌ [˞ti:˜nu ka˞na:˜nu] 【連】手が不自由である。手が叶わない。手が健全でない。˞ティー˜ヌ　カ˞ナー˜ンダ　プ˞スナミヌ˜　シ˞グトゥ　シーサヌ [˞ti:˜nu ka˞na:˜nda pu̥˞sunami˜ ʃi˞gutu ʃi:sanu](手が不自由だから人並みに仕事をすることができない)。

˞ティー˜ヌ　˞ガン˜マリ [˞ti:˜nu ˞gam˜mari] 【連】悪戯。手でする悪戯。˞ティー˜ヌ　˞ガン˜バリ [˞ti:˜nu ˞gam˜bari](手の悪戯) ともいう。˞ミー˜ヌ　˞ガン˜マレー　サ˞バン　ティーヌ　ガン˜マレー　˞シェー˜　ナ˞ラ˜ヌ [˞mi:nu gam˜mare: sa˞bam ti:˜nu ˞gam˜mare: ˞ʃe:˜ na˞ra˜nu](目の悪戯はしても、手の悪戯はしてはならない＜諺＞)。

˞ティー˜ヌ　ク˞シ [˞ti:˜nu ku̥˞ʃi] 【連】手の甲。「手の後ろ」の義。˞ティーヌ˜バタ [˞ti:nu˜bata](手のひら。＜手の腹＞) の対義語。手の表。˞ティーヌ˜クシシ　ム˞チクー　シッ˜キ　˞ニー˜リティ　ム˞チェー˜　ス˞クル˜タ [˞ti:nu˜ku̥ʃiʃi mu˞ʧiku: ʃik˜ki ˞ni:˜re:ti mu˞ʧe:˜ su̥˞kuru˜ta](水で混ぜた餅の粉を、手の甲で搗き捏ねたたり握ったりして、餅の形を成形＜作った＞した)。˞ティーヌ˜ピサナー　ウ˞キラン˜バ　˞ティーヌ˜クシナー　˞ヌーシティ˜　ア˞ジミーシー˜バ [˞ti:nu˜pi̥sana˜ ʔu˞kiraram˜ba ˞ti:nu˜ku̥ʃina: ˞nu:ʃi̥ti˜ ʔa˞ʤimi: ʃi:˜ba](手のひらに受けられないから、手の甲に載せて味見しなさいよ)。

˞ティー˜ヌ　˜シー [˞ti:˜nu ˜ʃi:] 【連】手袋。˜シー [˜ʃi:] は「物を入れて仕舞っておく袋や箱」の意。「鞘」の転訛したものか。[saja]　→　[saia]　→　[ʃe:]　→　[ʃi:]　の音韻変化が考えられる。「手の袋＜巣＞」の義。カ˞タナ˜ヌ　˜シー [kḁ˞tana˜nu ˜ʃi:](刀の鞘)。˞ティー˜ヌ　˜シー　ヌ˞ケー˜テー　パ˞タキシグ˜トー　ナ˞ラ˜ヌ [˞ti:˜nu ˜ʃi: nu˞ke:˜te: pḁ˞takiʃigu˜to: na˞ra˜nu](手袋をはめて畑仕事は出来ない)。˞ティー˜ヌ˜シー　ヌ˞カン˜カー　˞イー˜シトゥレー　ナ˞ラ˜ヌ [˞ti:˜nu ˜ʃi: nu˞kaŋ˜ka: ˞ʔi:˜ʃiture: na˞ra˜nu](手袋をはめないとツノマタ採取は出来ない)。

˞ティー˜ヌ　˜シミ [˞ti:˜nu ˜ʃimi] 【連】手の爪。˞ティーン˜シミ [˞ti:ŋ˜ʃimi](手の爪＜名詞＞) ともいう。ム˞カ˜シェー　˜パサンシル　˞ティー˜ヌ　˜シメー　˞フッツァシ˜タ [mu˞ka˜ʃe: ˜pasaŋʃiru ˞ti:˜nu ˜ʃime: ˞ɸuttsaʃi̥˜ta](昔は鋏で手の爪を剪＜ハサミ＞切った)。

˞ティーヌ˜　シル [˞ti:nu˜ ʃiru] 【連】手塩にかけて育てること。心をこめて手ずから養育すること。「手の汁」の義。˞ティー˜ジル [˞ti:˜ʤiru](手塩) と同じ。˞バン˜ターヤ　ウ˞ヤ˜ヌ　˞ティーヌシル˜バ　イッ˞ケナ˜　ッ˞ふァイル˜　フ˞ドゥビ˜ケーティ　˜ムカーヤ [˞ban˜ta:ja ʔu˞ja˜nu ˞ti:nuʃiru˜ba ʔik˞kena˜ f˞

fairu˜ ɸu˞dubi˜ke:ti ˜muka:ja](僕ら＜聞き手は含まない＞は、親が手塩にかけて育ててくれた＜親の手の汁をたくさん食べて成長してきた＞のだよ)。

˜ティー　ヌ˞バ˜スン [˜ti: nu˞ba˜suŋ] 【連】1手を伸ばす。˞ワーン˜トン　˜ティー　ヌ˞バ˜スンティ　˞スンドゥ˜　ヤミティ　ヌバ˞サラ˜ヌ [˞wa:n˜ton ˜ti: nu ˞ba˜sunti ˞sundu˜ nu˞basara˜nu](君の所へ手を伸ばそうとするが、痛くて伸ばされない)。2手を広げる。事業を拡大する。˜ドゥク　˜ティー　ヌ˞バ˜スカー　˜スッパイ＜ス˞クジリ＞　˞スントダー [˜duku ˜ti: nu˞ba˜suka: ˜suppai＜su˞kuʤiri＞ ˞sunˈda:](あまり＜事業の＞手を広げると失敗するぞ)。

˞ティーヌ˜バタ [˞ti:nu˜bata] 【名】手のひら。たなごころ (掌)。「掌、和名太奈古々呂＜たなごころ＞」『和名抄』。「手の腹」の義。ウ˞ヤ˜ヌ　˞ティーヌ˜バタナー　ウ˞キラ˜レーティ　ス˞ダティラ˜レール　キ˞ムヌ˜　ッ˞ふァ [ʔu˞ja˜nu ˞ti:nu˜batana: ʔu˞kira ˜re:ti su˞datira˜re:ru ki˞munu˜ ffa](親の手のひらに載せられて＜置かれて＞、大切に育てられたところの最愛の＜肝の＞子)。

˞ティーヌ˜ピサ [˞ti:nu˜pi̥sa] 【名】手のひら。たなごころ (掌)。手首から先の、内側の面。˞ティーヌ˜ピサナー　シゥ˞カラー˜　イ˞レー˜ティ　バ˞ラフ˜ター　˞ニー˜リ　ピ˞ニラン˜カー　˜シナー　˞ゾー˜ブンニ　˞ノーラ˜ヌ [˞ti:nu˜pi̥sana: si̥˜kara:˜ ʔi˞re:˜ti ba ˞raɸu̥˜ta: ˞ni:˜ri pi˞niraŋ˜ka: ˜ʃina: ˞ʤo:˜bunni ˞no:ra˜nu](手のひらに力を入れて藁を縒(ヨ)り合わせ、ひねら (捻ら) ないと、綱は立派に綯(ナ)えない)。

˞ティーヌ˜ブシ [˞ti:nu˜buʃi] 【名】指の節。指の関節。「手の節」の義。˞ティーヌ˜ブシェー　˞イッ˜スン　ヤ˞リバ　ティーヌ˜ブシシ　パ˞カ˜リ˞ミー　ナン˜ズン　ア˞ル˜ワ [˞ti:nu˜buʃe: ˞ʔis˜suŋ ja˞riba ti:nu ˜buʃiʃi pḁ˞ka˜ri˞mi: nan˜ʤuŋ ʔa˞ru˜wa](指の一節は一寸だから、指の節で測ってごらん。何寸あるか)。

˞ティーヌ˜フビ [˞ti:nu˜ɸubi] 【名】手首。腕と手のひらの繋がるところ。うでくび。˜ヤドゥナー　˜ティー　˞フッカーサ˜リティ　˞ティーヌ˜フビ　ヤ˞マ˜シ　˞ナー˜ヌ [˜jaduna: ˜ti: ˞ɸukka:sa˜riti ˞ti:nu˜ɸubi ja˞ma˜ʃi ˞na:˜nu](戸に手を挟まれて手首を痛めてしまった)。

˞ティー˜ヌマタ [˞ti:˜numata] 【連】手の股。指の間。

˞ティーヌ˜ユリー [˞ti:nu˜juri:] 【名】神職引退の儀式。「手のお許し」の義。自分の勤めていた、サ˞カサ [sḁ˞kasa](司) やティ˞ジリ˜ビー [ti˞ʤiri˜bi:](男性神職者) の神職を、神に願い出て引退する儀式のこと。˞インクニガイ [˞ʔiŋkunigai](隠居願い。引退願い) ともいう。ク˞シヌ˜　タ˞タン˜　ナ˞ローッ˜ター　˞カンヌ˜マイン　˞ティーヌ˜ユリー　ッ˞サリティ˜　ティー　ピ˞コーッ˜タ [ku̥˞ʃinu˜ tḁ˞tan˜ na˞ro:t ˜ta: ˞kannu˜main ˞ti:nu˜juri: s˞sariti˜ ti: pi̥˞ko:t˜ta](足腰が立たなくなられてので、神様に神職引退を願い出て＜申し上げて＞、引退され＜手を引かれ＞た)。

˞ティーヌ˜　ワザ [˞ti:nu˜ waʤa] 【連】手仕事。細工仕事。「手の技」の義。バ˞カーン˜ケン　ウ˞ブイ˜ヤール　˞ティーヌ˜　ワザシール　マ˞ナ˜マー　ム˞ヌファイ˜ザク　˞シー　ブー [ba˞ka:ŋ˜keŋ ʔu˞bui ˜ja:ru ˞ti:nu˜waʤaʃi:ru ma˞na˜ma: mu˞nufai˜ʤaku ˞ʃi: bu:](若かった頃に見様見真似で覚えた手仕事＜技術＞でもって＜ぞ＞、今では職業＜生活の糧。もの食い仕事＞にしているよ)。

˞ティー˜バキ [˞ti:˜baki] 【名】手分け。˞ティー˜バキ　˞シー˜　カシー　˞シー˜バ [˞ti:˜baki ˞ʃi:˜ kaʃi: ˞ʃi:˜ ba](手分けして手伝い＜加勢＞をしなさい)。

˞ティーパシ˜キ [˞ti:paʃi̥˜ki] 【名】指はじき。爪弾き。曲げた中指の爪先を親指の腹にかけて力を溜め、強くはじくこと。「手はじき」の義。ヤ˞ラ˜ビ　˞シェーン˜ケン　˜ドゥクナリ　パ˞ナン˜ギ　˞シー˜　アウカー　˜アブジェー　˞バン˜ター　パ˞ナバ　ティーパシ˜キ　˞ソーッ˜タ [ja˞ra˜bi ˞ʃe:ŋ˜ken ˜dukunari pa˞naŋ ˜gi ˞ʃi:˜ ʔauka: ˜ʔabuʤe: ˞ban˜ta: pa˞naba ti:paʃi̥˜ki ˞so:t˜ta](子供の頃、あまりにも悪戯をして喧嘩をすると、お祖父さんは私たちの鼻を爪弾きされた)。

˞ティーバタ˜シ [˞ti:bata˜ʃi] 【名】手渡し。手から手に渡すこと。˞プスンナー˜ニ　˞アシキラン˜ドーシ　˞ワー˜ラ　ウ˞ヌ　プスン　ティーバタ˜シ　˞シー　ッふィーリト ヨー [pu̥˞sunna:˜ni ˞ʔaʃi̥kiran˜do:ʃi ˞wa:˜ra ʔu˞nu pu̥sun ti:bata˜ʃi ˞ʃi: ffi:riˈjo:](他人に頼まないで、貴方からその人に直接手渡ししてくれよね)。

˜ティー　パ˞タッカルン [˜ti: pḁ˞takkaruŋ] 【連】手を開き広げる。両手を広げて阻止する。「手はだかる」の義。ミ˞チナカ˜ナー　˜ティー　パ˞タッカリティ˜　タティ　˞ベー [mi˞tʃinaka˜na: ˜ti: pḁ˞takkariti˜ tḁti ˞be:](道中に手を広げて立っている)。

˞ティーバッ˜パイ [˞ti:bap˜pai] 【名】手違い。手順や手法を間違えること。˞トー˜フ　マ˞ラスンティ˜　シ˞タンドゥ　バックラシ　ナー˜ヌ　ウ˞レー˜バー　˞ティーバッパイ˜ル　ヤ˞レー˜ル [˞to:˜ɸu ma˞

rasunti˜ ʃi̥˞tandu bakkuraʃi naː˜nu ʔu˞reː˜ baː ˞tiːbap-pai˜ru ja˞reː˜ru](豆腐を製造しよう＜生まれさせよう＞としたが、固まらずに砕けてしまった。それは私の製造法の手違いによるものだったのだろう)。

˞ティーパナ˜スン [˞**tiːpana˜suŋ**] 【他動】 1掴んでいるものを手許から放す。手放す。掴んでいる手を緩める。˞ワー˜ カ˞サミベー ティー˜ヤ ˞ティーパナ˜シバ [˞waː˜ ka˞sami beː tiː˜ja ˞tiːpana˜ʃiba](君が掴んでいる手は手放しなさいよ)。˜ザイサン ˞ティーパナ˜スン [˜ʤaisan ˞tiːpana˜suŋ](財産を手放す)。ウ˞ムイ˜ツァー ˜タンティン ˞ティーパナシバ˜ル ＜˞ティーパナサバ˜ル＞ ˜ナル [ʔu˞mui˜tsaː ˜tantin ˞tiːpanaʃiba˜ru＜˞tiːpanasaba˜ru＞ ˜naru](惜しくても手放さなくてはならない＜手放せばぞ解決はなる＞)。˞ティーパナシ ヤッ˜サン [˞tiːpanaʃi jas˜saŋ](手放しやすい)。ク˞リ˜カー˞ネー ティーパナ˜ス ˜クトー ナ˞ラ˜ヌ [ku˞ri˜ ka:˞neː tiːpana˜su ˜kṵtoː na˞ra˜nu](これだけは手放すことは出来ない＜ならない＞)。˞ティーパナ˜シェー ˜ミサムヌ [˞tiːpana˜ʃeː ˜misamunu](手放せばよいのに)。2している仕事を中止する。中断する。放置する。マ˞ナ˜マー ˞ティーパナサラ˜ヌ [ma˞na˜maː ˞tiːpanasara ˜nu](今は手放せない。仕事を中断できない)。

˞ティーパヤー˜ン [˞**tiːpajaː˜ŋ**] 【形】 1手早い。仕事が早い。˞ティーパヤー˜ンダ ˞タンガ˜シ ニ˞ニンガキ˜ヌ シ˞グトゥ スン [˞tiːpajaː˜nda ˞taŋga˜ʃi ni ˞niŋgaki˜nu ʃi˞gutu suŋ](手が早いから、一人で二人前の仕事をする)。2すぐ手が出る。すぐ暴力を振るう。˞ウンザー ティーパヤー˜ンダ ウ˞リンナー˜ネー ウ˞カットゥ˜シ ˜ムネー イ˞ザラヌ [˞ʔunʤaː tiːpajaː˜nda ʔu˞rinnaː˜neː ʔu˞kattu˜ʃi ˜muneː ʔi˞ʤaranu](あいつは手が早い＜すぐ暴力をふるう＞から、彼にはうっかり＜迂闊に＞ものは言えない)。

˞ティー˜パン [˞**tiː˜paŋ**] 【名】手足。手と足。˞ティー˜パン ˞ウーカサバ˜ル ˜ドゥーガンゾーティ ア˞ザリ ブー [˞tiː˜paŋ ˞ʔuːkasaba˜ru ˜duːganʤoːti ʔa˞ʤari buː](手足を動かした＜手足を動かして働いた＞ほうが健康＜胴頑丈＞だといわれている)。

˞ティーパン˜キ [˞**tiːpaŋ˜ki**] 【名】手はじき。˞ティーパシ˜キ [˞tiːpaʃi̥˜ki](指はじき) と同じ。可愛い孫などの過度の悪戯をたしなめ＜嗜め＞たり、とがめ＜咎め＞たりする際に、片手の指で相手の手の甲を弾くこと。˞ボー˜レー ˞ボー˜レー ク˞ヌ ティー˜ル ˞ワッ˜サ˞ドー [˞boː˜reː ˞boː˜reː ku˞nu tiː˜ru ˞was ˜sa˞doː](お利口さんお利口さん、この手が悪いのだね) と言いながら祖母が軽く手を弾いて教えた。

˞ティー˜ピキ [˞**tiː˜pi̥ki**] 【名】蚕のまゆ (繭) を湯で煮沸し、˜ユナキー [˜junakiː](オオハマボウ) の葉を湯に浸して引き揚げて、繭から糸口を手繰り出し、数本まとめて糸を撚り始めること。「手引き」の義。˞シューセンゴバー˜キ ˞カイ˜コーン シゥ˞カ˜ナイ ˞カイコー˜ヌ ˞コー˜マー ˞シンマイ˜ナビナー ˞ネーシェー˜ティ ˞ティー˜ピキ ˞シー˜ イトートゥ˞ローッ˜タン˞ダー [˞ʃuːʃeŋgoːba:˜ki ˞kai˜koːn si̥˞ka˜nai ˞kaikoː˜nu ˞koː˜maː ˞ʃimmai˜nabinaː ˞neːʃeː˜ti ˞tiː˜pi̥ki ˞ʃiː˜ ʔitoː tu˞roːt˜tan˞daː](終戦後まで蚕も飼って、繭＜蚕の卵＞を大鍋＜四枚鍋＞に煮沸しながら手引きをして絹糸を績まれた＜取られた＞よ)。

˜ティー ピ˞クン [˜**tiː pi̥˞kuŋ**] 【連】1手を引く。˜マーッふァヌ ˜ティー ピ˞ケー˜ティ ˞サーリオーッ˜タ [˜maːffanu ˜tiː pi̥˞keː˜ti ˞saːriʔoːt˜ta](孫の手を引いて連れていかれた)。2関係を断つ。˞パー˜ク ˜ティー ピ˞カン˜カー ウ˞ル˜キ ˜ウカ ˜カブン˞ダー [˞paː˜ku ˜tiː pi̥˞kaŋ˜kaː ʔu˞ru˜ki ˜ʔuka kabun˞daː](早く手を引かないと欠損して借金を被るぞ)。3激情＜怒り＞を抑え、直接行動を抑制する。感情を抑えて手出ししないようにする。イ˞ジヌ˜ ン˞ジ˜ルカー ˜ティー ピ˞キ ティー˜ヌ ン˞ジ˜ルカー イ˞ジ ピキ [ʔi˞ʤinu˜ ʔn˞ʤi˜ruka: ˜tiː pi̥˞ki tiː˜nu ʔn ˞ʤi˜ruka: ʔi˞ʤi piki](感情が激したら手を抑制＜押さえ＞せよ、手が出かけたら感情を抑え＜理性を働かせ＞よ) 沖縄の諺からの転訛。

˞ティー˜ピサ [˞**tiː˜pi̥sa**] 【名】手のひら (掌)。C1V1C2V2 の音節構造で、C2=r、V1=i の場合、[pira] → [pisa] のように法則的に音韻変化する。˞ティー˜ピサ [˞tiːnu˜pi̥sa](掌) ともいう。ウ˞ヤ˜ヌ ˞ティーヌ˜ピサナー ウ˞キラ˜リティ ス˞ダティラ˜レール ッ˞ふァ˜ダー [ʔu˞ja˜nu ˞tiː˜pi̥sanaː ʔu˞kira˜riti su˞datira˜reːru f˞fa˜daː](親の掌に載せられて大切に育てられた子供だよ)。˞ティー˜ピサナー ウ˞キ˜トゥリ [˞tiː˜pi̥sanaː ʔu˞ki˜turi](掌に受け取りなさい＜恭しく頂戴しなさい＞)。

˞ティー˜ピサ ウ˞サースン [˞**tiː˜pi̥sa ʔu˞saːsuŋ**] 【連】合掌する。「掌を合わせる」の義。˞トゥーヌ˜ ウ˞ヤビ˜ヌ ˞ティー˜ピサ ウ˞サーシ ニン˜ガイ ア˞ギルン [˞tuːnu˜ ʔu˞jabi˜nu ˞tiː˜pi̥sa ʔu˞saːʃi niŋ˜gai ʔa˞giruŋ](十本の指の掌をおし合わせて祈願申し上げます＜願いあげる＞)。

˞ティー˜ピサ　˞カイ˜スン **[˞tiː˜pi̥sa ˞kai˜suŋ]** 【連】手のひらを返す。態度を急変させる。裏切る。˞ティー˜ピサ　˞カイ˜ス　˜カタチニ　˞アッ˜タニ　˞カーリ˜　アイブ　ク˞トゥ˜ヌ　シ˞ラリラー [˞tiː˜pi̥sa ˞kai˜su ˜kḁtatʃini ˞ʔat˜tani ˞kaːri˜ ʔaibu ku̥˞tu˜nu ʃi˞rari-raː](掌を返すように急に変わって、あんなことがよくも出来るものだ)。

˜ティー　˞フイッ˜ツァムン **[˜tiː ˞ɸuit˜tsamuŋ]** 【連】指をくわえ <銜(クワ)え > る。物欲しそうに < ものほしげに > 指を銜える。ッ˞ふァイダマー˜　ティー　˞フイッ˜ツァミティ　ッ˞ふァイムヌ˜　ミリ　˞ベー [f˞faidamaː˜ tiː ˞fuit˜tsamiti f˞faimunu˜ miri ˞beː](食いしん坊は指を銜えて物欲しそうに食い物を見つめている)。

˜ティー　˞フイルン **[˜tiː ˞ɸuiruŋ]** 【連】手が震える。サ˞キカク˜　ナリティル　ナー˞イ˜　ティー　˞フイル　ブー [sḁ˞kikaku˜ naritiru naː˞i˜ tiː ˞ɸuiru buː](アルコール中毒になって、ずっと手が震えている)。

˞ティー˜フキ **[˞tiː˜ɸu̥ki]** 【名】指笛。「手吹き」の義。火事や非常事態の場合、指笛を吹き鳴らして緊急の合図に用いる。豊年祭の余興、演舞競技、綱引き、爬龍船競漕、結願祭の余興などで応援したり、感激したりするときに吹き鳴らす。˞ヨイ˜ヤー　イ˞カムス˜ク　ウ˞ムッ˜サユー　ウ˞ヌス˜ク　˞テイー˜フキ　˞ナーラシ　オー˜ル [˞joi˜jaː ʔi˞kamusu̥˜ku ʔu˞mus˜saju: ʔu˞nusu̥˜ku ˞tiː˜ɸu̥ki ˞naːraʃi ʔoː˜ru](祝いはどんなに < 如何ほどに > 面白いのか、あんなに手 < 指 > を吹き鳴らしておられる)。

˞ティーフク˜ザー **[˞tiːɸu̥ku˜ʤaː]** 【名】手仕事の鈍いもの。のろま (鈍間)。愚鈍である。˞ティーフク˜ザー　ヤ˞ルンダ˜　ウ˞リンマー˜　シ˞グトー˜　シ˞ミララヌ [˞tiːɸu̥ku˜ʤaː ja˞runda˜ ʔu˞rimmaː˜ ʃi˞guto:˜ ʃi˞miraranu](鈍感だから彼には仕事はさせられない)。˞ティーフク˜ザー　˜ナリティ　˜ヤコー　タ˞タ˜ヌ [˞tiːɸu̥ku˜ʤaː ˜nariti ˜jako: tḁ˞ta˜nu](のろま < 鈍間 > になって役に立たない < 使い物にならない >)。

˞ティー　フクロー˜ン **[˞tiː ɸu̥kuroː˜ŋ]** 【連】手が柔らかい。柔らかい手触りである。手触りが柔らかい。˞ティー　フクロー˜ンダー　˜カタ　˞ムーマサバン˜　イッ˞ケナ˜　キ˞モーッ˜サ　˞ムームン [˞tiːɸu̥kuro:˜nda: ˜kḁta ˞muːmasabaŋ˜ ʔik˞kena˜ ki˞moːs˜sa ˞muːmuŋ](手が柔らかいから、肩を揉ませても非常に気持ちよく揉む)。˞ティー　フクロー˜　ベーティ　マ˞タ˜　タ˞ナミ˜　プサン [˞tiːɸu̥kuro:˜ beːti ma˞ta˜ ta˞nami˜ pu̥saŋ](手が柔らかいから、また頼みたい)。

˞ティーフコー˜ン **[˞tiːɸu̥koː˜ŋ]** 【形】手が遅い。手仕事が鈍い。不器用である。「手鈍さあり」の義。˞ティーフコー˜ンダー　ウ˞リンマー˜　カイブ　シ˞グトー˜　タ˞ナマラ˜ヌ [˞tiːɸu̥koː˜nda: ʔu˞rimmaː˜ kaibu ʃi˞gutoː˜ ta˞namara˜nu](手仕事が鈍くて不器用だから、彼にはこんな仕事は頼まれない < 頼めない >)。˞ナン˜ゾー　˞ティーフコー　ナー˜ヌ [˞nan˜ʤo: ˞tiːɸu̥koː naː˜nu](それほど不器用ではない)。˞ティーフコー˜ヌ　ナ˞ラ˜ヌ [˞tiːɸu̥koː˜nu na˞ra˜nu](不器用で堪らない)。˜アイニ　˞ティーフコー˜　プ˞ソー˜　ブ˞ラーヌ [˜ʔaini ˞tiːɸu̥koː˜ pu̥˞soː˜ bu˞raːnu](あんなに不器用な人はいない)。˞ティーフコー˜ンダ　˞キン˜マーンツァン　˜ドゥーシェー　˜クー　˞シーユーサヌ [˞tiːɸu̥koː˜nda ˞kim˜maːntsan ˜duːʃe: ˜ku: ˞ʃiːjuːsanu](手が不器用だから着物さえも自分では繕うことが出来ない < 繕えない >)。˞シンダイ　ティーフコー˜　ナリ　˞ナー˜ヌ [ʃindai tiːɸu̥koː˜ nari ˞naː˜nu](次第に不器用になってしまった)。˞ティーフコー˜ヌ　ウ˞リンマー˜　タ˞ナマラヌ [˞tiːɸu̥koː˜nu ʔu˞rimmaː˜ ta˞namara˜nu](手が不器用なので、彼には頼まれない)。

˞ティー˜フシ **[˞tiː˜ɸu̥ʃi]** 【名】手癖。盗癖。˞ティーフシ˜ヌ　˜アル　プ˞ス˜　ヤ˞ルンダ˜　ウ˞リヌ˜　クーカー　˞キー˜　シ˞キ˜リ˞ヨー [˞tiːɸu̥ʃi˜nu ˜ʔaru pu̥˞su˜ ja˞runda˜ ʔu˞rinu˜ kuːka: ˞kiː˜ ʃi̥˞ki˜ri˞joː](手癖 < 盗癖 > のある人だから、あれが来たら気をつけなさいよ)。

˞ティーフス˜ク **[˞tiːɸusu̥˜ku]** 【名】手不足。手が塞がって人手が足りない。他の事をする余裕がない。˞タイロー　スー˜ピンマー　˞シーゾーヤー˜ヤ　˞ティーフス˜ク　ヤ˞ルンダ˜　プ˞ス˜　ヤ˞トーン˜カー　ナ˞ラ˜ヌ [˞tairo: suː˜ pimmaː ˞ʃiːʤoːja:˜ja ˞tiːɸusu̥˜ku ja˞runda˜ pu̥˞su˜ ja˞toːŋ˜kaː na˞ra˜nu](大漁する時は製造屋 < 鰹節製造工場 > は手不足だから、人を雇わないといけない)。˞ヤースクリヤー˜ヤ　˞ティーフス˜ク　ヤ˞ル˜パジ　˞ダー˜バ　˞ギー　テー˜ナイ　˞シー˜　クーバ˞ヨー [˞jaːsu̥kurija:˜ja ˞tiːɸusu̥˜ku ja˞ru˜paʤi ˞daː˜ba ˞giː teː˜nai ˞ʃiː˜ kuːba˞joː](家屋新築の家は人手不足だろうから、行って手伝いしてきなさいねえ)。

˞ティーブドゥ˜ル **[˞tiːbudu˜ru]** 【名】簡単な手踊り。簡単な歩き舞い。本格的な儀式の舞踊でない踊り。˞モー˜ヤー [˞moː˜jaː](手踊り。< モーユン [moojuŋ]> の転訛か) ともいう。シ˞マ˜ナーテー　˞ヤースク˜

リ　˞ソーニヨイン˜ドーレーナー　ムー˞ル　トゥンタティティ　ティーブドゥ˜ル　˞モーヤー˜バ　˞シール　ヨイ˜ヤー　ソーッタ˜ル [ʃi˞ma˜naːteː ˞jaː-sɸku˜ri ˞soːnijoin˜doːreːnaː muː˞ru tuntatiti tiːbudu˜ru ˞moːja˜ba ˞ʃiːru joi˜jaː ˞soːtta˜ru](鳩間島では家屋建築や誕生祝い＜生年祝い＞などに、皆が立ち上がって手踊りやモーヤー踊りをしてお祝いをされたものだ)。

˜ティー　フ˞バラリン [˜tiː ɸu˞barariŋ] 【連】1手を縛られる。足手まといとなって身動きができなくなる。ヤ˞ラビ˜ヌ　˞ゴー˜ラー　˞ウイ˜ナー　˞シーヌミッふァ˜ヌ　˞ブンダ˜　ティー　フ˞バラリティ˜　ノー˞ン˜　ナ˞ラ˜ヌ [ja˞rabi˜nu ˞goː˜raː ˞ʔui˜naː ˞ʃiːnumiffa˜nu ˞bunda˜ tiː ɸu˞barariti˜ noː˞n˜ na˞ra˜nu](子供が多い上に、乳飲み子がいるので、手が縛られて何にも出来ない)。2逮捕される＜手を縛られる＞。˜タンコー　˞ピンギ˜ムノー　˜テイー　フ˞バラリティ　サンガリ　パッ˜タ [˜taŋkoː ˞piŋgi˜munoː ˜tiː ɸu˞barariti saŋgari pat˜ta](炭坑脱走者＜炭坑から逃げ者＞は逮捕されて＜手を縛られて＞引きずられて行った)。

˞ティーフバリ˜ムヌ [˞tiːɸubari˜munu] 【名】あしてまとい (足手纏い)。特に乳飲み子。「手縛りもの」の義。˞ティーフバリムヌ˜ヌ　˞ゴー˜ラーンダ　ウ˞リ˜　ミルンティ　˜イキン　˜ヌビン　ナ˞ラ˜ヌ [˞tiːɸubarimunu˜nu ˞goː˜raːnda ʔu˞ri˜ mirunti ˜ʔikin ˜nubin na˞ra˜nu](足手まといが多いので、一息つく＜休む＞ことも、欠伸をすることも出来ない)。

˜ティー　フ˞バルン [˜tiː ɸu˞baruŋ] 【連】手を縛る。シ˞グトゥ˜　ピ˞ルギル˜カー　˜ドゥーシ　˞ドゥー˜ヌ　˜ティー　フ˞バルン˜ダー [ʃi˞gutu˜ pi˞rugiru˜kaː ˜duːʃ ˞duːnu˜ tiː ɸu˞barun˜daː](仕事を広げると自分で自分の手を縛るよ)。

˞ティー˜ブリ [˞tiː˜buri] 【名】手振り。踊りの手振り。ブ˞ドゥルヌ　ティーブリ˜ヌ　˞カイ˜ヤ　ウ˞ムッ˜サー　パ˞トゥ˜マナカムリ˞ナー [bu˞durunu tiː˜nu ˞kai˜ja ʔu˞mus˜saː pḁ˞tu˜manakamuri˞naː](踊りの手振りの美しさ、面白さは鳩間節＜が一番＞だね)。

˞ティーポー˜キ [˞tiːpoː˜ki] 【名】てぼうき (手箒)。片手で持って使用する柄の短い小さな箒。バ˞ラフ˜タポーキ [ba˞raɸu̥˜tapoːki](稲藁で作った藁箒)、˞ユシ˜キポーキ [˞juʃi̥˜kipoːki](ススキの尾花で作った箒)、シ˞トゥッチ˜ヌパーポーキ [ʃi̥˞tuttʃi˜nupaːpoːki](蘇鉄の葉箒) などが作られ、使用されていた。˞ティーポー˜ケー　˜シタニ　ナ˞カ˜ザナーティル　シゥ˞カイヨーッ˜タ [˞tiːpoː˜keː ˜ʃi̥tani na˞ka˜ɖanaːtiru si̥˞kaijoːt˜ta](手箒はもっぱら台所の土間で使用された)。

˞ティー　˞ホー˜スン [˜tiː ˞hoː˜suŋ] 【連】ドアや圧搾機等に手を挟む。「手・喰わせる」の義。カ˞ジヌ　スー˜ワ　˜ピンマー　˞キーシキラン˜カー　˞マーシヤドゥ˜ナ　˜ティー　˞ホー˜スン＜˞ホーサ˜リン＞˞ダー [ka˞ʤinu suː˜wa ˜pimmaː ˞kiːʃikiraŋ˜kaː ˞maːʃijadu˜na ˜tiː ˞hoː˜sun＜˞hoːsa˜rin＞˞daː](風の強い日には気をつけないとドア＜回し戸＞に手を挟むよ)。

˞ティーマー˜ビ [˞tiːmaː˜bi] 【名】てまね (手真似)。手で動作や状態を真似すること。ヤ˞ラ˜ビン　ブ˞ドゥルヌ　˞ティーマー˜ビ　シ˞ミリバ　ゾー˜ブンニ　˞ティーマー˜ビ　˞スント ツォー [ja˞ra˜bim bu˞durunu tiːmaː˜bi ʃi˞miriba ɖoː˜bunni ˞tiːmaː˜bi ˞sunトtsoː](子供に踊りの手真似をさせると上手に手真似をするんですよ)。

˞ティーマー˜マー [˞tiːmaː˜maː] 【名】てんてこ舞いすること。うろたえ騒ぐこと。周章狼狽すること。あわてふためくこと。˞アッ˜タニ　˞ウイヌ˜　ヤ˞クバ˜ヌ　プ˞スヌ　コッふァシ　オー˜リ　トゥ˞リム˜チ　˞スンティ　ティーマー˜マー　˞シーベータ˜ル [˞ʔat˜tani ˞ʔuinu˜ ja˞kuba˜nu pu̥˞sunu koffaʃi ʔoː˜ri tu˞rimu˜ʧi ˞sunti tiːmaː˜maː ˞ʃiː beːta˜ru](急に上の役場の人々が大挙してこられて、それを接待するのに周章狼狽して＜てんてこ舞いして＞いたよ)。

˜ティー　˞マーラヌ [˜tiː ˞maːranu] 【連】手が回らない。手配りが十分に行き届かない。ッ˞ふァトゥ˜　オー˞バーキ˜ル　˞タンガ˜シェー　シゥ˞カナーリ˜ル　ピ˞ビザ˜　シゥ˞カ˜ナウ　クトゥ˞バー˜ケー　˞ティー˜ヤ　˞マーラヌ [f˞fatu˜ ʔoː˞baːki˜ru ˞taŋga˜ʃeː si̥˞kanaːri˜ru pi˞biɖza˜ si̥˞ka˜nau ˜ku̥tu˞baː˜keː ˞tiː˜ja ˞maːranu](子供と豚までが＜ぞ＞一人では養える＜飼育できる＞のであって、山羊を飼育することまでは手は回らない)。

˞ティーマイ˜フナー [˞tiːmai˜ɸunaː] 【名】手の器用な人。「手技の優秀な人」の義。ク˞ヌ　ッふァー　ティーマイ˜フナー　ヤ˞ルンダ˜　ブー　˞ウー˜ミン　˞ゾー˜ジ　˞ヌーヌ　ウリン˜　イッ˞ケナ　ゾー˜ジ [ku˞nu ffaː tiːmai˜ɸunaː ja˞runda˜ buː ˞ʔuː˜min ˞ɖoː˜ʤi ˞nuːnu ʔuriŋ˜ ʔik˞kena ɖoː˜ʤi](この子は手先の器用な人だから、苧を紡ぐ＜績む＞のも上手、布織りも非常に上手である)。

˞ティーマサー˜ン [˞tiːmasaː˜ŋ] 【形】巫女の祈祷が霊

験あらたかである。祈願に対する霊妙な効験がある。「手正し」の義。˜アッパー　˞ティーマサー˜　ア˞ローˇルンダ　˜アッパー　˞ニン˜ガイ　˞ヨーˇル　˜ムノー　ムー˞ル　トゥーˇルン [˜ʔappaː ˞tiːmasaː˜ ʔa˞roːˇrunda ˜ʔappaː ˞niŋˇgai ˞joːˇru ˜munoː muː˞ru tuːˇruŋ](お祖母さんの祈祷、祈願に対する霊妙な効験があるから、御婆さんが祈願されるのは全部神前に通じる)。

˞ティーマサˇル **[˞tiːmasaˇru]** 【名】手勝り。技量の優れた人。腕利き。敏腕家。腕前の優れた者。イ˞カスクˇヌ　˞ティーマサルˇヌル　クˇヌ˜　アヤー　ウ˞リソー˜レーカヤー [ʔi˞kasu̥ku˜nu ˞tiːmasarunu˜ru kuˇnu˜ ʔajaː ʔu˞risoːˇreːkajaː](いかほどの技量の優れた人がこの文様を織りことが出来るのかなあ)。

˞ティーマチˇガイ **[˞tiːmatʃiˇgai]** 【名】手過ち。過失。誤って相手に怪我を負わせること。ワザッ˞トゥヤー˜　アˇラˇヌ　˞ティーマチガイˇル　ヤ˞リバ˜　ユ˞ラˇシ　ッ˞ふィーリˇバ˞ヨー [wadʑat˞tuja˜ ʔa˞raˇnu ˞tiːmatʃigaiˇru ja˞ribaˇ ju˞raˇʃi f˞fiːriˇba˞joː](わざと＜意図的＞ではないよ。誤って怪我させたこと＜手過ち＞だから許してあげなさいね)。

˞ティーマチˇブリ **[˞tiːmatʃiˇburi]** 【名】足手まとい。手足に纏いつかれる。手足にまとわりつかれる。くっ付いて離れない。「手まつわり＜手纏わり＞」の義。子供などに纏いつかれること。ッ˞ふァン　ティーマチˇブリ　シ˞ラリテ˜　パ˞タˇケーユン　パ˞ララˇヌ　シ˞グトゥン˜　シ˞ララヌ˜　ア˞ブネーム　シーブ [f˞fan tiːmatʃiˇburi ʃi˞rariti˜ pḁ˞taˇkeːjum pa˞raraˇnu ʃi˞gutuŋ˜ ʃi˞raranu˜ ʔa˞buneːmu ʃiːbu](子供に纏いつかれて＜足手まといされて＞畑にも行けない。仕事も出来ない。大変なことになった)。

˞ティーマッˇふァ **[˞tiːmaf˞fa]** 【名】手枕。腕を枕にすること。˞ヤラビˇバ　˞ティーマッˇふァ　˞シー˜　ニ˞バスン [ja˞rabiˇba ˞tiːmaf˞fa ˞ʃiː˜ niˇbasuŋ](子供を手枕して寝かせる)。

˞ティーマニˇキ **[˞tiːmaniˇki]** 【名】手招き。˞ティーマニˇキ　˞シー　ベー　ギンˇシェー　タ˞ナミグトゥヌˇル　˜アルパジ [˞tiːmaniˇki ˞ʃiː beː giŋˇʃeː ta ˞namigutunuˇru ˜ʔarupadʑi](手招きをしているからには、頼みごとがあるのだろう＜あるはずだ＞)。

˞ティーミーˇザン **[˞tiːmiːˇdʑaŋ]** 【形】料理が下手である。「手不味しさあり」の義。ウ˞リヌ˜　バ˞カスˇ　ムノー　˞ティーミーザˇヌ　プ˞スˇフチンツァン　ッ˞ふァーラヌ [ʔu˞rinu˜ ba˞kasuˇ munoː ˞tiːmiːdʑa ˜nu pu̥˞suˇɸu̥tʃintsan f˞faːranu](彼が料理する＜炊く＞ものは不味くて一口さえも食べられない)。

˞ティーˇミジ **[˞tiːˇmidʑi]** 【名】掌で掬って飲ませる水。手で掬った水。「手水」の転訛したもの。˞ティーˇミジ　ヌ˞マˇスカー　˜キモー　˞ピーˇチティ　˜ムカーヤ [˞tiːˇmidʑi nu˞maˇsukaː ˜kimoː ˞piːˇtʃiti ˜mukaːja](手で掬った水を飲ませたら、心は一つというもの＜相思相愛の仲＞だよ)。

˞ティームタˇビ **[˞tiːmutaˇbi]** 【名】手でいたずらすること。いじくること。ヤ˞ラˇベー　˞イーˇヤ　ッ˞ふァームティ˜　ナー˞イ　ティームタˇビ　˞シー　ベー [ja˞raˇbeː ˞ʔiːˇja f˞faːmutiˇ naː˞i tiːmutaˇbi ˞ʃiːbeː](子供は、ご飯は食べないで、ただ手でいじくっている)。

ティー˞ヤーˇマ **[tiː˞jaːˇma]** 【名】小さな手。ヤ˞ラビˇヌ　ティー˞ヤーマˇヌ　ア˞タラˇサ˞ヨー [ja˞rabiˇnu tiː˞jaːmaˇnu ʔa˞taraˇsa˞joː](子供の小さな手の可愛いことよ)。

˜ティー　˞ヤーˇラーン **[˜tiː ˞jaːˇraːŋ]** 【連】踊りの手付きがしなやかで美しい。「手が柔らかである」の義。ミ˞ドゥムˇヌ　ブ˞ドゥロー˜　ティー　˞ヤーˇラーンダ　イッ˞ケナ　カイˇヤン　˜アリ　ウ˞ムッˇサンドゥ　ビ˞キドゥムヌ˜　ブ˞ドゥロー　ティー　コーˇヌ　ウ˞ムッサナーˇヌ [mi˞dumuˇnu bu˞duroː˜ tiː ˞jaːˇraːnda ʔik˞kena kaiˇjaŋ ˜ʔari ʔu˞musˇsandu bi˞kidumunu˜ bu˞duroː tiːkoːˇnu ʔu˞mussanaːˇnu](女の踊りは手付きがしなやかで非常に美しくもあり面白いが、男の踊りは手付きが硬くて面白くない)。

˞ティーˇヤ　˜カナイティ **[˞tiːˇja ˜kanaiti]** 【連】腕が優れて。腕が立って。優れた腕前＜技量＞を持っていて。腕が適って。˜アブジェー　˞ヤーザイクˇヌ　˞ティーˇヤ　カ˞ナイˇル　˞オーッタ [˜ʔabudʑeː ˞jaːdʑaikuˇnu ˞tiːˇja ka˞naiˇru ˞ʔoːtˇta](お祖父さんは家作りの腕は優れて＜適って＞おられた)。

˞ティーˇヤ　ク˞サーˇナリ **[˞tiːˇja ku̥˞saː˜ nari]** 【連】1零落するさま。落ちぶれるさま。˞スーカカˇラー　˞イッソーˇラ　˜スッパイ　˞シーティル　ティーˇヤ　ク˞サーˇナリ　˞ガンドーˇリ　˞オーˇル [˞suːkakaˇra: ˞ʔissoːˇra ˜suppai ˞ʃiːtiru tiːˇja ku̥˞saːˇnari ˞gandoːˇri ˞ʔoːˇru](やることすべて＜悉く＞失敗して、すっかり落ちぶれて気力を失っておられる)。2悪事を働いて逮捕されるさま。「手を後ろにされて」の義。ヤ˞ナクトゥバ　シール　ティーˇヤ　ク˞サーˇナリ　˞サンガリ　パッˇタ [ja˞nakutuba ʃiːru tiːˇja ku̥˞saːˇnari ˞saŋgari patˇta](悪事を働いて＜して＞、

手を後ろにされて＜逮捕されて＞引張られていった)。

˩ティーヤニ˥ヤン [˩ti:jani˥jaŋ] 【形】手が汚い。「手汚し」の義。˩ティーヤニヤ˥ヌ　ウ˩ヌ　マー˥マシェー　カ˩サマラヌ [˩ti:janija˥nu ʔu˩nu ma:˥maʃe: ka̯˩samaranu](手が汚くて、そのままでは掴まれない)。˩ティーヤニ˥ヤンテー　ア˩ザラヌ [˩ti:jani˥jante: ʔa˩ʤaranu](手が汚いとはいえない)。˥アイ　˩バー˥ケー　˩ティーヤニ˥ヤー　˩ナー˥ヌ [˥ʔai ˩ba:˥ke: ˩ti:jani˥ja: ˩na:˥nu](そんなにまで手が汚くはない)。2手業が拙い。手業が下手である。不器用である。˩ティーヤニ˥ヤー　プ˩スンマー˥　タ˩ナマラ˥ヌ [˩ti:jani˥ja: pu̯˩summa:˥ ta˩namara˥nu](不器用な人には頼めない)。

˥ティー　ヤ˩バー˥ン [˥ti: ja˩ba:˥ŋ] 【連】手先が器用である。巧みである。巧くこなす。上手である。「手が柔らかい」の義。ウ˩ビッチン˥ヌ　ヤ˩ラビ˥ヌカー˥ティー　ヤ˩バーヤバー˥シ　ブ˩ドゥル　スート ツォー [ʔu˩bittʃin˥nu ja˩rabi˥nuka: ˥ti: ja˩ba:jaba:˥ʃi bu˩duru su:ˊtso:](こんな小さな子供が、あなた、巧みに踊るんですよ)。ブ˩ドゥル˥　シ˩ミバ˥　イッ˩ケナ˥　ティー　ヤ˩バー˥ン [bu˩duru˥ ʃi˩miba˥ ʔik˩kena˥ ti: ja˩ba:˥ŋ](踊りをさせたらば非常に巧みに踊る)。˥アインドゥ　˥ティー　ヤ˩バー˥カー　ウ˩リン˥シ˩ミロー˥＜シ˩ミルワ˥＞　マ˩シ [˥ʔaindu ˥ti: ja˩ba:˥ka: ʔu˩riŋ˥ ʃi˩miro:˥＜ʃi˩miruwa˥＞ ma˩ʃi](そんなに巧みである＜上手＞なら、彼にさせた方がいい)。

˩ティー　ユーコー˥スン [˩ti: juko:˥suŋ] 【連】手を休ませる。一息入れさせる。「手憩わせる」の義。ア˩ガティダヌ˥　ナ˩カ˥ナーテー　トゥ˩キドゥ˥ケー　˩ティー　ユーコー˥シェーティル　シ˩グトー　スー˥ダー [ʔa˩gatidanu˥ na˩ka˥na:te: tu̯˩kidu˥ke: ˩ti: ju:ko:˥ʃe:tiru ʃi˩guto: su:˥da:](炎天下では、時々は一息入れさせて手を休ませて＜ぞ＞仕事はするんだよ)。

˩ティー˥ユクイ [˩ti:˥jukui] 【名】手休め。仕事の途中で手を休めること。中休み。「手憩い」の義。˩ティー˥ユクイ　˩シー　サー˥ユン　˥ヌミテーラ　マ˩タ　ギーバリ　フィーラン˥ノーレー [˩ti:˥jukui ˩ʃi: sa:˥jun ˥numite:ra ma˩ta gi:bari fi:ran˥no:re:](手休めをして、お茶でも飲んでから、また頑張ってくれないか)。

˩ティー˥ヨー [˩ti:˥jo:] 【名】1手真似。身振り。˩トゥーサヌ˥　プ˩ストゥ　ティー˥ヨー　˩シー˥　パ˩ナ˥シ　˩ベー [˩tusanu˥ pu̯˩sutu ti:˥jo: ˩ʃi:˥ pa˩na˥ʃi ˩be:](遠くの人と手真似、身振りで話している)。2手振り。手招き。˥フネーラ　ウ˩ヌス˥ク　˩ティー˥ヨー　˩シー　ベー˥ワ　˥ヌーカヤー [˥ɸune:ra ʔu˩nusu̯˥ku ˩ti: ˥jo: ˩ʃi: be:˥wa ˥nu:kaja:](船からあのように、しきりに手招きしているが何だろうか)。

˩ティーヨー˥ゾー [˩ti:jo:˥ʤo:] 【名】自己療法。鍼灸治療や瀉血治療などを施して、自分で自己流に治療すること。「手養生」の義。˥バー　˩ヤン˥マー　˥イサ　カ˩カリ˥バン　˩ノーサラン˥ベーティ　˩ティーヨー˥ゾー　˩シール　ノーシタ˥ル [˥ba: ˩jam˥ma: ˥ʔisa ka̯˩kari˥ban ˩no:saram˥be:ti ˩ti:jo:˥ʤo: ˩ʃi:ru no:ʃi̯˥ta˥ru](私の病気は医者に掛かっても治せないので自己療法で治したよ)。

˩ティーヨーピサ˥ヨー [˩ti:jo:pi̯sa˥jo:] 【名】身振り手振り。「手真似足真似」の義。˩ティーヨーピサ˥ヨーシ　パ˩ナ˥シ　˩ベーン˥ドゥ　˩ゾー˥ブンニ　パ˩ナ˥シェー　ナ˩リ˥ブバン　ミ˩ジラ˥サー [˩ti:jo:pi̯sa˥jo:ʃi pa˩na˥ʃi ˩be:n˥du ˩ʤo:˥bunni pa˩na˥ʃe: na˩ri˥bubaŋ mi˩ʤira˥sa](手真似足真似で話しているが、十分に話は成立しているわい。不思議だ＜珍しい＞ねえ)。

˩ティーヨームイ˥ヨー [˩ti:jo:mui˥jo:] 【名】手振り身振り。手付き目付き。「手様・目様」の転訛したもの。˩ティーヨームイ˥ヨーシ　パ˩ナスン˥ドゥ　ムッ˩トゥ　˥　カン　シ˩キユーサン˥バン (カントゥリユーサヌ)[˩ti:jo:mui˥jo:ʃi pa˩nasun˥du mut˩tu˥ kaŋ ʃi̯˩kiju:sam˥baŋ(˩kanturiju:sa˥nu)](手振り身振りで話すのだが、ちっとも＜一向に＞気付き得ないわい＜勘付くことができないわい＞)。

˩ティー˥ワザ [˩ti:˥waʤa] 【名】1手仕事。˩ソー˥キ˥フミ　˩バー˥キ　ス˩クリ　˩ティーヌ˥ワザシル˥ムノー　ッ˩ふァイ　ブー [˩so:˥ki ˥ɸumi ˩ba:˥ki su̯˩ku˥ri ˩ti:nu˥waʤaʃiru ˥muno: f˩fai bu:](箕を編んだり、竹製の笊を造ったり、手仕事でものを食べて＜生活して＞いる)。2手で犯した悪いこと。手口。˥アイブ　˩ティー˥ワザ　ウ˩クシ˥ル　˩トゥン˥ガー　ア˩ティラレー˥ル [˥ʔaibu ˩ti:˥waʤa ʔu˩kuʃi˥ru ˩tuŋ˥ga: ʔa˩tirare:˥ru](あんな手口の犯行を起こしたから＜ぞ＞罪科を当てられたのだろう)。

˩ティーワチ˥ライ [˩ti:watʃi˥rai] 【名】手こずること。手を煩わすこと。手を奪われること。「手煩い」の義。パ˩トゥ˥ムヌ　˥タティティル　˩ウン˥ナー　˩ティーワチ˥ライ　シ˩ラリティ˥　パ˩タキシグ˥トー　ノー˥ン˥　ナ˩ラ˥ヌ [pa̯˩tu˥munu ˥ta̯titiru ˩ʔun˥na: ˩ti:watʃi˥rai ʃi˩rariti˥ pa̯˩takiʃigu˥to: no:˩n˥ na˩ra˥nu](織機を仕立てて、それにすっかり手を煩わさ

れて、畑仕事は何にも出来ない)。

˹ティーン˺カイ **[˹tiːʔŋ˺kai]** 【名】手向かい。抵抗すること。反抗。ヤ˹ラビ˺ヌ　ウ˹ヤン˺ナーニ　˹ティーン˺カイ　˹シ　ベー [ja˹rabi˺nu ʔu˹jan˺naːni ˹tiːʔŋ ˺kai ˹ʃiː beː](子供が親に手向かい < 反抗 > している)。

˹ティーンザー˺リ **[˹tiːndʑaː˺ri]** 【名】手を煩わし、手こずること。煩雑になって手がもつれ < 縺 > ること。「手あざり」の転訛か。˺ヌーラ　クイラ　プ˹ス˺ケンナー　˹シー　ティーンザー˺リ　˹シーベー [˺nuːra ˺kuira pu̥˹su˺kenna ˹ʃiː tiːndʑaː˺ri ˹ʃiːbeː](何もかも一度にやって、手を煩わせて手こずっている < 面倒なことになっている >)。˹カイ˺コ　シゥ˹カ˺ナイティ　˹フン˺トー　˹ティーンザー˺リ　˹シー˺　パ˹タキシグ˺トー　ノー˹ン˺　ナ˹ラ˺ヌ [˹kai˺ko si̥ ˹ka˺naiti ˹ɸun˺toː ˹tiːndʑaː˺ri ˹ʃiː˺ pḁ˹takiʃigu˺toː noː˹n˺ na˹ra˺nu](蚕を飼って、ほんとに持て余して、畑仕事は何にも出来ない)。

˺ティー　ン˹ザ˺スン **[˺tiː ʔn˹dʑa˺suŋ]** 【連】手を出す。暴力を振るう。フ˹チ˺シェー　イコー˹ラ˺　イ˹ザバン˺　ミサヌ　˺ティー　ン˹ザ˺シェー　ナ˹ラン˺ダー [ɸu̥˹tʃi˺ʃeː ʔikoː˹ra˺ ʔi˹dʑabam˺ misanu ˺tiː ʔn˹dʑa˺ʃeː na˹ran˺daː](口ではいくら叱ってもよいが、手を出しては < 暴力を振るっては > ならないよ)。

˹ティーンザ˺スン **[˹tiːʔndʑa˺suŋ]** 【他動】殴る。殴りかかる。手出しする。˺アウカー　シ˹グ　ティーンザ˺スン [˺ʔaukaː ʃi˹gu tiːʔndʑa˺suŋ](喧嘩したらすぐ殴る)。ウ˹レー　アウ˺タンティン　˺ティーン˹ザサ˺ヌ [ʔu˹reː ʔau˺tantin ˺tiː ʔn˹dʑasa˺nu](彼は喧嘩しても殴らない)。˹ティーンザ˺シ　˺ミサカー　˹ティーンザ˺ス　˺クトゥン　˹スン [˹tiːʔndʑa˺ʃi ˺misakaː ˹tiːʔndʑa˺su ˺ku̥tun ˹suŋ](殴って < 手だしして > よければ、殴る < 手出しする > こともする)。˹ティーンザ˺シェー　˺ミサムヌ [˹tiːʔndʑa˺ʃeː ˺misamunu](殴れば良いのに)。˹ティーンザ˺シバ [˹tiːʔndʑa˺ʃiba](殴れよ)。

ディ˹カ **[di˹ka]** 【感】さあ。勧誘の意味を表す。気取った、high collar な表現。青年、壮年層の男性が多用した。首里方言からの借用語。普通は˹ディ˺ー [˹di˺ː](< さあ～よう > よ) という。シ˹トゥ˺キー　ナ˹リ˺ブバ　ディ˹カ˺　イ˹ソー　シン˺　パラ [ʃi̥˹tu˺kiː na˹ri˺buba di˹ka˺ ʔi˹soː ʃim˺ para](潮時 < 干潮時 > になっているから潮干狩り < 漁 > に行こうよ)。

ティ˹ガキ˺ルン **[ti˹gaki˺ruŋ]** 【他動】手掛ける。仕事を始める。シ˹グトー˺　ア˹ツァー˺ラ　ティ˹ガキ˺ルンティ　ウ˹ムーン˺ドゥ　˹ドング˺ヌ　ス˹ロー˺ンダ　ティ˹ガキララ˺ヌ [ʃi˹gutoː˺ ʔa˹tsaː˺ra ti˹gaki ˺runti ʔu˹muːn˺du ˹doŋgu˺nu su˹roː˺nda ti˹gakirara˺nu](仕事は明日から手掛けようと思うが、道具が揃わないので手掛けられない)。シ˹グトゥ˺　ティ˹ガキ˺ル　˺ピンマー　˹バン˺ヌン　ヤ˹ラビ˺ヨー [ʃi ˹gutu˺ ti˹gaki˺ru ˺pimmaː ˹ban˺nuŋ ja˹rabi˺joː](仕事を手掛けるときは私も呼べよ)。˹パー˺ク　ティ˹ガキ˺リ [˹paː˺ku ti˹gaki˺ri](早く手掛けろ)。

ディ˹カ˺シェーン **[di˹ka˺ʃeːŋ]** 【感】でかした。うまくやった。よくやったぞ。˺ユー　ディ˹カ˺シェーン [˺juː di˹ka˺ʃeːŋ](よくやった)。パ˹リスー˺ブナー　イ˹チ˺バン　˺ナリ　ディ˹カ˺シェーツバン [pa˹risuː˺ bunaː ʔi˹tʃi˺ban ˺nari di˹ka˺ʃeːtsubaŋ](駆けっこで一番になって、でかしたよ)。

ティ˹ガ˺ミ **[ti˹ga˺mi]** 【名】手紙。ウ˹キ˺ナーラヌ　ティ˹ガ˺メー　マ˹ダ˺　トゥ˹ドゥカ˺ヌ [ʔu˹ki˺naːranu ti˹ga˺meː ma˹da˺ tu˹duka˺nu](沖縄からの手紙は、まだ届かない)。

ティ˹ガ˺ラ **[ti˹ga˺ra]** 【名】**1**手柄。ノー˹ン˺　ティ˹ガ˺ラー　ア˹ギユーサン　ベー˺ティル　ヤ˹ミシミラリタ˺ツォー [noː˹n˺ ti˹ga˺raː ʔa˹gijuːsam beː˺tiru ja˹miʃimirarita˺tsoː](何も手柄をあげることができないので < ぞ > やめさせられたそうだ)。**2**獲物。イ˹ガウメーラヌ˺　ティ˹ガ˺ラー　˹ダイ˺スビ　フ˹タッカラトゥ˺　ヒ˹ラ˺クサー　プ˹スッ˺カラ　˹ヤッタ [ʔi˹gameːranu˺ ti˹ga˺raː ˹dai˺subi ɸu̥˹takkaratu˺ çi ˹ra˺ku̥saː pu̥˹suk˺kara ˹jatta](烏賊(イカツ)釣り漁 < 烏賊海 > からの獲物は大鮪二匹とめかじき一匹だった)。

ティ˹キ **[ti̥˹ki]** 【名】敵。仇。˹ジントー˺レー　ティ˹キ　ミカ˺タ　バ˹カ˺リティル　カ˹サミックナー˺　シ˹タルト ナー [˹dʑintoː˺reː ti̥˹ki mika˺ta ba˹ka˺reːtiru ka˹samikkunaː˺ ʃi̥˹taru꜔naː](陣取り競争は敵味方に分かれて掴み競べをしたものだよねえ)。˹ウッ˺ツァー　フ˹ターロー˺　ティ˹キ˺　ヤ˹リバ　マーズンマー˺　ビ˹シララヌ [˹ʔut˺tsaː ɸu̥˹taːroː˺ ti̥˹ki˺ ja˹riba maːdʑummaː˺ bi˹ʃiraranu](彼ら二人は敵同士だから、一緒には座らされない)。

ティ˹キウチ **[ti̥kiʔutʃi]** 【名】敵討ち。仇討ち。イ˹サナキヌ˺　シ˹バヤー˺ナー　ティ˹キウチヌ˺　シ˹バヤーヌ　アッタ˺ヌ　イッ˹ケナ˺　ウ˹ムッ˺サタン [ʔi ˹sanakinu˺ ʃi˹bajaː˺naː ti̥˹kiʔutʃinu˺ ʃi˹bajaːnu ʔatta˺nu ʔik˹kena˺ ʔu˹mus˺sataŋ](石垣の芝居小屋に敵討ちものの芝居があったが、非常に面白かった)。

ディ˹キ˺ブツ **[di˹ki˺butsu]** 【名】優れた人物。秀才。

標準語「できぶつ (出来物)」から転訛したもの。˩ウン˥ネヌ　アˬブ˥ジェー　˩デージ˥ヌ　ディ˩キ˥ブツ　ヤˬロー˥ッタツォー [˩ʔun˥nenu ʔaˬbu˥ʤe: ˩de:ʤi˥nu diˬki˥butu jaˬro:t˥tatso:](その家のお祖父さんは大変な秀才 < 大変優れた人物 > であられたそうだ)。

ディ˩キ˥ヤー [di˩ki˥ja:] 【名】秀才。出来物。よく出来る人。沖縄方言からの借用語。ウ˩レー˥　ヤ˩ラ˥ビ　˩シェーン˥ケンラ　ディ˩キ˥ヤー　˩ヤッタ [ʔu˩re:˥ jaˬra˥bi ˩ʃe:ŋ˥kenra di˩ki˥ja: jatta](彼は子供の頃から秀才 < 出来物 > であった)。

ディ˩キラ˥スン [di˩kira˥suŋ] 【他動】1稔らせる。˩ホーライ˥マイ　スˬク˥リ　ディ˩キラ˥スンティ　˩ベー [˩ho:rai˥mai su̥ˬku˥ri di˩kira˥sunti ˩be:](蓬莱米を作付けして稔らせようとしている)。スˬク˥リ　ディ˩キラ˥シ　ミリ [su̥ˬku˥ri di˩kiraˬʃi ˥miri](作付けして稔らせてごらん)。スˬク˥リ　ディ˩キラ˥スプˬソー　ター˥カヤー [su̥ˬku˥ri di˩kira˥su pu̥ˬso: ta:˥kaja:](作付けして稔らせる人は誰だろうか)。ディ˩キラ˥シェー　˥ミサムヌ [di˩kira˥ʃe: ˥misamunu](作物を稔らせれば良いのに)。˩マイ˥　スˬク˥リ　ディ˩キラ˥シ [˩mai˥ su̥ˬku˥ri di˩kira˥ʃi](稲を作って稔らせ)。2成功させる。シˬグトー˥　ディ˩キラ˥シ　ケーンティˬダー [ʃiˬguto:˥ di˩kira˥ʃi ke:nti˩da:](仕事を成功させてきたそうだよ)。

ディ˩キ˥ルン [di˩ki˥ruŋ] 【自動】1出来る。作物が実る。豊作である。クˬトシヌ　マイヤー˥　ユー　デ˩キ˥レーン <˩ノー˥レーン >[ku̥ˬtuʃinu maija:˥ ju: di˩ki˥re:ŋ <˩no:˥re:ŋ >](今年の稲はよく実っている)。˩ナン˥ゾー　ディ˩キラン˥バン [˩nan˥ʤo: di˩kiram˥baŋ](あんまり実らないわい)。˥アイニ　ディ˩キ˥ル　˥クトー　˩ナーン˥　パジ [˥ʔaini di˩ki˥ru ˥ku̥to: ˩na:m˥paʤi](あんなに実ることはないはずだ)。˩マー˥ビン　ディ˩キ˥レー　˥ミサムヌ [˩ma:˥bin di˩ki˥re: ˥misamunu](もっと稔ればよいのに)。2勉強がよくできる。クˬヌ˥　ッˬふァー˥　イッˬケン˥　ディ˩キ˥ルン [kuˬnu˥ fˬfa:˥ ʔikˬken˥ di˩ki˥ruŋ](この子は非常に出来る < 勉強がよく出来る >)。ウˬヌ˥　ッˬふァー˥　ディ˩キン˥ギサン [ʔuˬnu˥ fˬfa:˥ di˩kiŋ˥gisaŋ](この子は出来そうだ)。

ディ˩クッ˥チ [di˩kut˥ʧi] 【名】理屈っぽい人。聡明な人。悪智恵の働く人。利得に聡(サト)い人。リˬクッ˥チ [riˬkut˥ʧi](聡明な人。利得に聡い人) ともいう。ウˬレー˥　ディ˩クッ˥チ　ヤˬルンダ˥　スン　˩スー˥　シˬグトー˥　サˬヌ [ʔuˬre:˥ di˩kut˥ʧi jaˬrunda˥ sun ˩su: ˥ʃiˬguto:˥ saˬnu](彼は利得に聡い人だから、損をする仕事はしない)。

ディ˩クッ˥ツァー [di˩kut˥tsa:] 【名】悪智恵の働く人。理屈を捏(コ)ね回す人。相手を貶(オトシ)めた表現。若年層は、リˬクッ˥ツァー [riˬkut˥tsa:] ともいう。˩ウンザー˥　ディ˩クッ˥ツァー　ヤˬルンダ　ドゥー˥ヌ　˥トゥク　˩スー˥　クトゥˬカーニル　カンガイ˥ル [˩ʔunʤa:˥ di˩kut˥tsa: jaˬrunda du:˥nu ˥tuku ˩su:˥ ku̥tuˬka:niru kaŋgai˥ru](あいつは悪智恵の働く人だから、自分が得することだけを考える)。

ティ˩ク˥バリ [ti˩ku˥bari] 【名】手配り。手配。˩ヤー˥フキ　˩スー˥　ピンマー　˥ガヤー　スˬリ˥プス　˥ヤー　フˬキプス˥　ユー　ティ˩ク˥バリ　˩サン˥カー　ナˬラントˬダー [˩ja:˥ɸu̥ki ˩su:˥ pimma: ˥gaja: suˬri˥pu̥su ˥ja: ɸu̥ˬkipusu˥ ju: ti˩ku˥bari ˩saŋ˥ka: naˬranˬda:](屋根葺きする時は茅を刈る人、屋根を葺く人をよく手配りしないといけないよ)。

ティ˩グ˥ル [ti˩gu˥ru] 【名】手頃。その人に相応しいもの。それに適しているもの。テˬグル˥ヌ　˩ダイ˥　ヤˬルンダ˥　マˬナ˥マ　˩カウバ˥　マˬシ [ti˩guru˥nu ˩dai˥ jaˬrunda˥ maˬna˥ma ˩kauba˥ maˬʃi](手頃の値段だから今買った方がいいよ)。ティˬグル˥ヌ　ムˬヌ˥ヌ　˩ナーン˥バン [ti˩guru˥nu muˬnu˥nu ˩na:m˥baŋ](手頃の物がないよ)。

ティˬジ [ti˩ʤi] 【名】頂上。頂き。てっぺん。ヤˬマ˥ヌ　ティˬジ [jaˬma˥nu ti˩ʤi](山の頂上)。˩ヤー˥ヌ　ティˬジ [˩ja:˥nu ti˩ʤi](屋根の頂き)。˩ヤー˥ヌ　ティˬジ˥ナー　˥パトゥザヌ　トゥˬマリ　ベー˥タン [˩ja:˥nu ti˩ʤi˥na: ˥pḁtuʤanu tuˬmari be:˥taŋ](屋根の頂上に山鳩が止まっていた)。/カイサムイタル　ムニンヌクバ　タカサムイタル　ティジヌクバ/(美しく生えた中岡の蒲葵(クバ)、高く生えた揃った頂上の蒲葵)(<鳩間中岡(バトゥマナカムリ)> 第二連)。

ティˬシー [ti˩ʃi:] 【連】～として。～とて。活用語の終止形を受けて、～ということで、～という理由で、の意味を表す。˥ティ [˥ti] は格助詞で、引用を表す。˩シー [˩ʃi:](して) はˬスン [˩suŋ](する) の接続形。˩バン˥ヌン　˩マーズン˥　パルンティˬシー˥　スˬコーリ　ベー [˩ban˥nun ˩ma:ʤum˥ parunti˩ʃi:˥ su̥ˬko:ri be:](私も一緒に行くといって < ということで > 準備している)。

ティˬジバナ [ti˩ʤibana] 【名】頂花。女踊りの際、˩カン˥プー [˩kam˥pu:](女の頭頂の結い髪) に挿(サ)す花のかんざし (簪)。ウˬブブドゥ˥ル　˩ソー˥ル　˥ピンマー　ティˬジバナン˥　ガˬマ˥ジナ　ッˬシ˥ソーッタ [ʔu

˞bubuduˀru ˞soːˀru ˀpimmaː tiˀʤibananˀ gaˀmaˀʤina ʃˀʃiˀsoːtta](古典踊り＜大踊り＞をされる時は頂花も髪に挿された)。

ティ˞ジリˀビー [tiˀʤiriˀbiː] 【名】男性神職者。「手擦り部」の義。各御嶽にはサ˞カサ [sạˀkasa](司。女性神職者) とティ˞ジリˀビー [tiˀʤiriˀbiː](男性神職者。˞カンˀプス [˞kamˀpụsu]＜神人＞ともいう) が一人ずつ所属している。ティ˞ジリˀビーはシ˞キダˀチズングニチ [ʃị˞kidaˀʧi ˀʤuŋgunitʃi](朔日(ツイタチ)、十五日) の朝、御嶽に参拝して清掃するのが慣わしであった。ティ˞ジリビーˀヤ　シ˞キダˀチ　ˀズングニチナーヤ　ˀウガン　˞オーˀリ　˞ニンガイˀヤー　˞ソーˀリティ　ˀカキソージ　˞ソーッˀタ [tiˀʤiribiːˀja ʃị˞kidaˀʧi ˀʤuŋgunitʃinaːja ˀʔugaŋ ˞ʔoːˀri ˞niŋgaiˀjaː ˞soːˀriti ˀkạkisoːʤi ˞soːtˀta](男性神職者は朔日、十五日には御嶽に行かれ、祈願をされて清掃をされた)。友利御嶽のティ˞ジリˀビーは米盛富太郎氏、ピナイ＜鬚川＞御嶽は加治工伊佐氏、アラカー御嶽は東里清光氏、ニシドー御嶽は鳩間真吉氏がティ˞ジリˀビー [tiˀʤiriˀbiː] であった。

˞ティスˀクン [˞tisụˀkuŋ] 【名】げんこつ (拳骨)。握りこぶし (拳)。「手つくみ」の義。ˀドゥクナリ　˞ブーˀカー　˞ティスˀクン　ッ˞ふァーシˀバ [ˀdukunari ˞buːˀka: ˞tisụˀkun f˞faːʃiˀba](あまりひどい＜酷い＞ようだったら、拳骨を食わしてやれよ)。

˞ティスクンˀドゥル [˞tisụkunˀduru] 【名】拳骨を床に打ちつけて激しく怒るさま。ˀアボー　˞クンˀゾーウ˞クˀリティ　˞ティスクンˀドゥル　˞シェーˀティ　イ˞ゾーッˀタ [ˀʔabo: ˞kunˀʤo: ʔu˞kuˀriti ˞tisụkun ˀduru ˞ʃeːˀti ʔiˀʤoːtˀta](お母さんは怒って、拳骨を床に打ちつけながら激しく叱られた)。

ˀティ　ス˞ヌ [ˀti su˞nu] 【連】～というが。「ˀ-ティアˀズヌ [-ti ʔaˀʤunu](～というが)」の転訛したもの。ウ˞リンˀ　パルンティ　ス˞ヌ　ヌーˀシカヤナ˞レー [ʔu˞rimˀ parunti su˞nu nuːˀʃikaja na˞reː](彼も行くというが、どうなんだろうかな、それは)。

ˀティダ [ˀtida] 【名】1太陽。ティ˞ダˀヌ　˞アーローˀルン [tiˀdaˀnu ˞ʔaːroːˀruŋ](太陽が昇られる)。2ひなた＜日向＞。ク˞マーˀ　キー　ˀティダ　ヌ˞クミンテーˀナ　パ˞ナˀシバ [ku˞maːˀ kiː ˀtida nu˞kuminteː ˀna pa˞naˀʃiba](ここへ来て日光に当たりながら＜日光浴をしながら＞話しなさいよ)。3日光。太陽光。ピ˞ルキーヌ　スーˀワバ　ヤ˞ラˀベー　ˀティダナカー　ン˞ザスˀナ˞ヨー [pi˞ruiːnu suːˀwaba ja˞raˀbeː ˀtidanakaː ʔn˞ʤasuˀna˞joː](陽光の熱気＜陽光の息＞が強いから子供は日向(ヒナタ)に＜炎天下＞に出させるなよ)。

ˀティダアミ [ˀtidaʔami] 【名】そばえ。わたくし雨。日照雨。日光がさしているのに降る雨。むらしぐれ。通り雨。狐の嫁入り。限られた小地域に降るにわか雨。お天気雨。「太陽雨」の義。ナ˞チヌˀ　ティダアメー　ウ˞シヌˀ　カ˞タˀシヌ　˞ゾーラスン [na˞ʧinuˀ tidaʔameː ʔu˞ʃinuˀ kạ˞taˀʃinu ˞ʤoːrasuŋ](真夏の通り雨＜そばえ＞は牛の片角を濡らす)。ナ˞チヌˀ　ティダアメー　カ˞タˀブイ　˞スン [na˞ʧinuˀ tidaʔameː kạ˞taˀbui ˞suŋ](夏の日照り雨は限られた片方だけを濡らして降る＜片降りする＞)。

ˀティダイ [ˀtidai] 【名】おごり (奢)。他人にご馳走を振舞うこと。˞キューˀヌ　ス˞バーˀヤ　ˀバー　ティダイ [˞kjuːˀnu su˞baːˀja ˀbaː ˀtidai](今日のおそばは私の奢りだ)。

ˀティダイキ [ˀtidaʔiki] 【名】太陽の熱気。ティ˞ダˀヌ　ˀイキ [tiˀdaˀnu ˀʔiki](太陽の息、熱気) ともいう。「太陽の息」の義。ˀティダイキヌ　˞スーワˀヌ　˞ヨーコイˀ　ナルンケンマー　ˀフカー　ン˞ジララˀヌ [ˀtidaʔikinu ˞suːwaˀnu ˞joːkoiˀ naruŋkemmaː ˀɸụkaː ʔn˞ʤiraraˀnu](太陽の熱気＜息＞が強くて、夕方＜夕陰＞になるまでは外へは出られない)。

ティ˞ダイˀムヌ [tiˀdaiˀmunu] 【名】金を出して人にふるまうもの。奢るもの。˞ワーˀ　ティ˞ダイˀムノー　˞ヌーˀバ　ム˞トーッˀター [˞waːˀ tiˀdaiˀmunoː ˞nuːˀba mu˞toːtˀtaː](貴方の振る舞い物＜奢るもの＞としては何を持って行かれ＜来られ＞ましたか)。

ティ˞ダイˀルン [tiˀdaiˀruŋ] 【他動】奢る。他人にご馳走を振舞う。ウ˞リˀ　ティ˞ダイˀルンティ　˞アーˀキ　˞スンカブˀル　˞シェーˀチバン [ʔu˞riˀ tiˀdaiˀrunti ˞ʔaːˀki ˞suŋkabuˀru ˞ʃeːˀʃibaŋ](彼を奢ろうとして損したよ)。ティ˞ダイˀ　プサンドゥ　ティ˞ダイララˀヌ [tiˀdaiˀ pụsandu tiˀdairaraˀnu](奢りたいが奢られない)。ティ˞ダイˀル　プ˞ソーˀ　˞パーˀク　ティ˞ダイˀヤー　ˀミサムヌ [tiˀdaiˀru pụ˞soː paːˀku tiˀdaiˀjaː ˀmisamunu](奢る人は早く奢ればいいのに)。˞ワーˀラン　ティ˞ダイˀリ [˞waːˀran tiˀdaiˀri](君からも奢れ)。

ˀティダウン [ˀtidauŋ] 【他動】おごる (奢る)。他人にご馳走を振舞う。ˀスバー　ˀティダイ　ッ˞ふァースン [ˀsubaː ˀtidai f˞faːsuŋ](ソバを奢って食べさせる)。プ˞ソーˀ　ティ˞ダーˀバン　カ˞リノーˀ　イッ˞カˀ　ティダウ　ˀクトー　˞ナーˀヌ [pụ˞soːˀ tiˀdaː

˥ban kaˈrinoː˩ ʔikˈka˩ tidau ˥kʉto: ˈnaː˥nu](他の人が奢っても彼が奢ることはない)。ンˈベーマ˥ナー ティˈダイ˥ヤー ˥ミサムヌ [ʔmˈbeːma˥naː tiˈdai˥jaː misamunu](少しずつは奢ればよいのに)。ˈキュー˥ワ ˈワー˥ ティダイバ [ˈkjuː˥wa ˈwaː˥ tidaiba](今日は君が奢れよ)。˥アツァー ˥バー ˥ティダウン [˥ʔatsaː ˥baː ˥tidauŋ](明日は私が奢る)。

ティˈダガナ˥シ [tiˈdagana˥ʃi] 【名】お天道様。ティˈダガナシ˥ヌ ˈアンターラ アーロー˥ルン [tiˈdaganaʃi˥nu ˈʔantaːra ʔaːroː˥ruŋ](お天道様が東から上られる)。

˥ティダナカ [˥tidanaka] 【名】ひなた (日向)。日光の差し込んでいる所。日光のあたる所。「太陽中」の転訛したもの。ナˈチヌ˥ ティダナカナー アˈガティダン˥ プˈサ˥レーティ ˈイー˥シ ˈカイ˥スンティ ˈベー [naˈtʃinu˥ tidanakanaː ʔaˈgatidam˥ pʉˈsa˥reːti ˈʔiː˥ʃi ˈkai˥sunti ˈbeː](夏の太陽のもとで灼熱の太陽に干されて角又を裏返そうと < 裏返して日干ししようと > している)。

˥ティダ ナˈマ˥ルン [˥tida naˈma˥ruŋ] 【連】灼熱の陽光が弱まる。陽光がなまる (鈍(ナマ)る)。夏の太陽は午後 3 時頃から日差しが弱くなり始めるので、その時刻を見計らって野良仕事に出かけ、日没頃まで働き、ゆうずつ (夕星。宵の明星) を見ながら帰宅した。˥アツァンダ ティˈダ˥ヌ ナˈマラバ˥ル パˈタ˥ケーヤ パˈラリ˥ル [˥ʔatsanda tiˈda˥nu naˈmaraba˥ru pʉˈta˥keːja paˈrari˥ru](暑いから日差しが弱まってからしか畑へは行けない < 陽光が鈍らばぞ畑へは行かれる >)。

ティˈダ˥ヌ ˈアーリジブン [tiˈda˥nu ˈʔaːriʤibuŋ] 【連】日の出時分。太陽が上る時分。ナˈチェー˥ ティˈダ˥ヌ ˈアーリジブンラ˥ ムˈカ˥シプソー アˈサシューバ˥ フˈメー˥ティル パˈタ˥ケーユン ˈオーッタ˥ル [naˈtʃeː˥ tiˈda˥nu ˈʔaːriʤibunra˥ muˈka˥ʃipʉso: ʔaˈsaʃuːba˥ ɸuˈmeː˥tiru pʉˈta˥keːjuŋ ˈʔoːtta˥ru](夏は日の出の時分から、昔の人は朝露を踏みながら < ぞ > 畑にも行かれたのだよ)。

ティˈダ˥ヌ ˈイーリジブン [tiˈda˥nu ˈʔiːriʤibuŋ] 【連】日暮れ時。日没時。太陽の入る時分。ティˈダ˥ヌ ˈイーリジブンバー˥キ ˥ダンプヌˈソー˥ジン サˈムティ˥ アˈサビブリバ シー˥ ヌーヤ ウˈレー [tiˈda˥nu ˈʔiːriʤibumbaː˥ki ˥dampunu ˈsoː˥ʤin saˈmuti˥ ʔaˈsabiburiba ʃiː˥ nuːja ʔuˈreː](日暮れ時分までランプの掃除もしないで遊び惚(ホウ)けて、何だこれは)。ティˈダ˥ヌ ˈイーリジブンバー˥キ パˈタ˥キ ˈカイ˥ソーッタ [tiˈda˥nu ˈʔiːriʤibumbaː˥ki pʉˈta˥ki ˈkai˥soːtta](日没時まで畑を耕された)。

ティˈダ˥ヌ カˈタ [tiˈda˥nu kʉˈta] 【連】太陽の絵。太陽の形。歌謡語。ˈヤー˥ クˈヌ ヤー˥ヌ ウˈチ˥ナカー ティˈダ˥ヌ カˈタ˥ アンティ ˥スー [ˈjaː˥ kuˈnu jaː˥nu ʔuˈʧi˥naka: tiˈda˥nu kʉˈta˥ ʔanti ˥suː](ああ、この家の中に太陽の絵があるという)(アーパーレ歌)。

ティˈダ˥ヌ カˈタ˥カ [tiˈda˥nu kʉˈta˥ka] 【連】日除け。「太陽の影」の義。˥クマー ˈイーリティダヌ スーワン (スー˥ヤン) ダ ˈユシ˥キシダル ˥タティティ ティˈダ˥ヌ カˈタ˥カ ˈシー˥ シˈキ˥リ [˥kumaː ˈʔiːritidanu suːwan(suː˥jan)da ˈjuʃi˥kiʃidaru ˥tʉtiti tiˈda˥nu kʉˈta˥ka ˈʃiː˥ ʃi˥kiˈri](ここは西日が強いから、ススキ簾を立てかけて日除け < 太陽の影 > にして置きなさい)。

˥ティダ ヌˈク˥ムン [˥tida nuˈku˥muŋ] 【連】日向(ヒナタ)ぼっこをする。陽に当たって温まる。「太陽を温む」の義。˥アッパー ˥マンタヌ ˈトゥーシ˥ナビˈリティ˥ ティダ ヌˈク˥ミ ˈヨー˥ル (オール)[˥ʔappaː ˥mantanu ˈtuːʃi˥na biˈriti˥ tida nuˈku˥mi ˈjoː˥ru(ˈʔoː˥ru)](お祖母さんは前の縁側に座って日向ぼっこして < 太陽に当って暖を取って > おられる)。

ティˈダ˥ヌヤフ [tiˈda˥nujaɸu] 【名】日食。「太陽の厄」の義。ティˈダ˥ヌヤフ カˈカリ˥ル (ドゥ) ˈオー˥ル [tiˈda˥nujaɸu kʉˈkari˥ru ˈʔoː˥ru](日食になっている。太陽は食がかかっている)。

˥ティダビー [˥tidabiː] 【名】日射病。熱中症か。「太陽酔い」の義。夏の強い直射日光に長時間曝(サラ)されると起きる症状。倒れたり、体温が上昇して激しい倦怠感(ケンタイカン)をおぼえたりする。熱くて気だるくなり、何も出来なくなる状態。ドゥˈクヌ ˥アツァティ ˥ティダビーバ ˈシー˥ ダˈラシ˥キティ シˈグトゥン˥ ノーˈン˥ ナˈラ˥ヌ [duˈku˥nu ˥ʔatsati ˥tidabiːba ˈʃiː˥ daˈraʃi˥kiti ʃiˈgutun˥ noːˈn˥ naˈra˥nu](あまりにも熱いので体調を崩して < 太陽酔いをして >、気だるくなって座り込んで仕事も何にも出来ない)。

ティˈダプス˥マ [tiˈdapusu˥ma] 【名】日中。白昼。昼日中。「太陽昼間」の義。ティˈダプス˥マーラ サˈキバ˥ ヌメーティ バˈカヤーナーヌ [tiˈdapʉsu˥maːra sʉˈkiba˥ numeːti baˈkajaː naːnu](白昼 < 昼日中 > から酒を飲んで恥ずかしくないのか)。

˥ティダマキ [˥tidamaki] 【名】夏の強い直射日光に長時間晒(サラ)されて体調に異常をきたすこと。˥ティダビ

ー [˥tidabiː] の重い症状。発熱したり、気分が悪くなったり、頭痛・めまい・意識消失などを起こす。熱中症。一種の日射病か。「太陽負け」の義。ヤ˩ラ˥ベー　˥ティダナ　プ˩サ˥リ　ア˩サビティル˥　ティダマキバ　˩シー˥　フカイティ　ニ˩ビマーキ　ベー˥バ　ス˩ブ˥ル　ヒ˩ヤ˥シバ [ja˩ra˥be: ˥tidana pu̥ ˩sa˥ri ʔa˩sabitiru˥ tidamakiba ˩ʃiː˥ ɸu̥kaiti ni˩bimaːki beː˥ba su˩bu˥ru çi˩ja˥ʃiba](子供は太陽に干されて遊んで体調を崩して、体温が急に上昇して眠れなくなって＜眠りかねて＞いるから、頭を冷しなさいよ)。

ティ˩ツ [ti̥˩tsu] 【名】鉄。新しく借用された語。「鉄」の転訛したもの。普通は、カ˩ニ [ka˩ni](鉄) という。ティ˩ツナビ [ti̥˩tsunabi](鉄鍋)、ティ˩ツ˥ヤッコン [ti̥˩tsu˥jakkoŋ](鉄製の薬缶) などというが、カ˩ニ˥ヤッコン [ka˩ni˥jakkoŋ](鉄製の薬缶) が普通の言い方。カ˩ニ˥ヤッコンが普及する以前は、˥ブラヤッコン [˥burajakkoŋ](法螺貝の薬缶＜湯沸し＞) で湯を沸かした。

˩ティッ˥ツァー [˩tit˥tsaː] 【名】拍手。手を打つこと。「手打ち合い」の転訛したもの。「手打ち手打ち」『虎寛本狂言・鬼の継子』の転訛か。ムー˩ル˥シ　˩ティッ˥ツァー　˩シー˥　ウタ　イ˩ジ　ベー [muː˩ru˥ʃi ˩tit˥tsaː ˩ʃiː˥ ʔuta ʔi˩ʤi beː](皆で手を打って＜拍手をして＞歌を歌っている)。カ˩タ˥ティーシェー　˩ティッ˥ツァー　サ˩ラヌ [kḁ˩ta˥tiːʃeː ˩tit˥tsaː sa ˩ranu](片手では拍手は出来ない)。

˩ティッ˥ツァー　˩スン [˩tit˥tsaː ˩suŋ] 【連】拍手する。ウ˩タ˥ヌ　ウ˩ムッ˥サカー　ム˩ル　ティッ˥ツァー　˩スン [ʔu˩ta˥nu ʔu˩mus˥saka: mu:˩ru tit˥tsaː ˩suŋ](歌が面白かったら、皆拍手するよ)。

˩ティットー˥マキ [˩titto:˥maki] 【名】糸を親指と小指に掛けて、8 の字形に巻き取ること。ク˩ヌ　ユー˥ロー　˩ティットー˥マキ　˩シー˥　シケーバ　ア˩ザーラ˥ヌ [ku˩nu juː˥ro: ˩titto:˥maki ˩ʃiː˥ ʃi̥ke:ba ʔa ˩ʤa:ra˥nu](この糸は 8 字形の巻取りをしてあるから絡みつかない＜からまらない。縺(モツ)れない＞よ)。

˩ティップー [˩tippuː] 【名】鉄砲。˩ティップー˥シ˥カマイ　イ˩ルン [˩tippuː˥ʃi ˥kamai ʔi˩ruŋ](鉄砲で猪を撃つ＜射る＞)。

˩ティップーヌ˥　タマ [˩tippuːnu˥ tama] 【連】1鉄砲の弾。ウ˩ヌ˥　プ˩ソー　ティップーヌ˥　タマナ　ア˩タリル　マーラソー˥レーツォー [ʔu˩nu˥ pu̥˩so: tippuː˥nu ˥tamana ʔa˩tariru maːraso:˥reːtsoː](その人は鉄砲の弾に当たって＜ぞ＞亡くなられたそうだ)。2鉄砲の弾のように行ったきり戻らないこと。˩ウンザー　ティップーヌ˥　タマ　ヤ˩ルンダ˥　ウ˩リンマー˥　ムヌ　タ˩ナマラ˥ヌ [˩ʔunʤa: tippuː˥nu ˥tama ja˩runda˥ ʔu˩rimmaː˥ munu ta˩namara˥nu](あの野郎は鉄砲玉＜行ったきり戻らない人＞だから、彼には物事を頼め＜頼まれ＞ない)。

˩ティップスディ [˩tippusudi] 【名】筒袖。シ˩グトゥキンマー˥　ムー˩ル　ティップスディ˥　ナリ˩ブー [ʃi˩gutukimmaː˥ muː˩ru tippusudi˥ nari˩buː](仕事着は皆筒袖になっている)。

ティ˩ツ˥ヤッコン [ti̥˩tsu˥jakkoŋ] 【名】鉄製の薬缶。鉄瓶。カ˩ニ˥ヤッコン [ka˩ni˥jakkoŋ](鉄瓶) ともいう。ム˩カ˥シェー　ティ˩ツ˥ヤッコンナール　˩シンジフチ˥ロー　シ˩ゾーッ˥タ [mu˩ka˥ʃeː ti̥˩tsu˥jakkonnaːru ˩ʃinʤiɸu̥tʃi˥roː ʃi˩ʤoːt˥ta](昔は鉄瓶で煎じ薬は煎じられたものだ)。

ティ˩ドゥ˥ク [ti˩du˥ku] 【名】山の名。西表北岸の˩クーラ [˩kuːra](久浦)、トゥ˩マダー [tu˩madaː](泊田)、˩ケー˥ダ [˩keː˥da](慶田) の南に聳える古見の連山。この山からウ˩ブ˥ミジ [ʔu˩bu˥miʤi](大見謝川)、˩ケーダガー˥ラ [˩keːdagaː˥ra](ケーダ川)、˩クーラガーラ [˩kuːragaːra](久浦川)、ナ˩ダラガーラ [na ˩daragaːra](ナダラ川) などが流出する。

˥ティヌ [˥tinu] 【助】助詞連語。～との。動作・作用・状態の内容、伝聞を表す格助詞˩トゥ [˩tu](と) に、格助詞˩ヌ [˩nu](の) が付いた形。活用語の終止形、命令形につく。˩パー˥ク　˥クーティヌ　ティ˩ガミ˥ヌ　˥ケーツォー [˩paː˥ku ˥kuːtinu ti˩gami˥nu ˥keːtsoː](早く来いとの手紙が来たそうだ)。

˥-ティバ [˥-tiba] 【並立】～とか。～やら。～や。**(1)** 名詞類に付いて同類のものごとを列挙して示す。˥カナー　ヤ˩ラ˥ビティバ　˩ウイ˥プスティバ　ヤ˩マシ˥カ　ア˩ツァ˥マリ　˩ベー˥ンツォー [˥kana: ja ˩ra˥bitiba ˩ʔui˥pu̥sutiba ja˩maʃi̥˥ka ʔa˩tsa˥mari ˩beːn˥tsoː](あそこには子供やら老人やら大勢集まっているそうだ)。˩ウン˥ネーヤ　˥ヌーティバ　˩クイ˥ティバ　˩ユーズ˥ヌ　˩ゴー˥ラーン [˩ʔun˥neːja ˥nuːtiba ˩kui˥tiba ˩juːʤuː˥nu ˩goː˥raːŋ](あの家は何だの＜何や＞かんだの＜かや＞と祭祀が多い)。**(2)** 用言の終止形に付いて同類の物事を列挙して示す。˥カクンティバ　カ˩カン˥ナティバ　ウ˩リヌ˥　ア˩ズ˥　ムネー　ムッ˩トゥ˥　チ˩ム˥エー　ワ˩カラ˥ヌ [˥kḁkuntiba kḁ˩kan˥tiba ʔu˩rinu˥ ʔa˩ʤu˥ mune: mut˩tu˥ ʧi˩mu˥jeː wa˩kara˥nu](書くとか、書かないとか、あれの言うことはちっとも訳が分らない＜肝・和

え分からない >)。

˥ティバーヤ **[˥tiba:ja]** 【終助】〜ってば。〜ったら。1動詞の命令形について、軽い命令を表す。˩ダンダン˥シ　˥パリッティ˥バーヤ　イ˩チンバー˥キン　˥ウナー　˩ベーン˥ナ [˩dandaŋ˥ʃi ˥parittiba:ja ʔi˩ʧimba: ˥kiŋ ˥ʔuna: ˩be:n˥na](さっさと行ってば。いつまでもそこにいるな)。2形容詞の終止形について、確認強調を表す。イッ˩ケン　カイ˥ヤンティバーヤ [ʔik˩keŋ kai˥jantiba:ja](非常に美しいってば)。

ティ˩バ˥フ **[ti˩ba˥ɸu]** 【名】かせ (綛) を巻き取る道具。糸枠。カ˩シ˥カキ [kạ˩ʃi˥kaki](綛掛け踊り) の小道具にも用いる。鳩間島の古典舞踊、カ˩ナ˥カキ [ka˩na ˥kạki](綛掛け踊り) の小道具として用いられる。演舞者の左手に持つ工字形の糸枠。右手に持つ六角柱形の糸巻きは、イ˩トゥ˥マキ [ʔi˩tu˥maki](糸巻き) という (大城學氏伝承)。また、人によっては、右手に持つ糸巻きを、ティ˩バ˥フ [ti˩ba˥ɸu]、左手に持つ工字形の糸枠を、ワ˩ク [wa˩ku](枠) という (大城初氏、仲本ユキ氏伝承) こともある。

ティ˩ブ˥ク **[ti˩bu˥ku]** 【名】「手矛」の義。茅葺き屋根を葺く際に、茅を押さえるのに用いる、直径約 3 センチ、長さ約 3 メートルの若木叉は竹。根の先端を削って矛状にし、それを差し込みながら継ぎ足していく。屋根葺きは屋内からパ˩ルシキ˥プス [pa ˩ruʃi̥ki˥pụsu](針突き人) が˩ヤーシキ˥パル [˩ja:ʃi̥ki˥paru](竹槍の家葺き針。屋根突き針) を突き出すと、それに屋根葺きがシ˩ミ˥ナー [ʃi˩mi˥na:](締め縄) を貫き通し、針突きが一旦屋内に引き込んで垂木を跨(マタガ)らせて再び屋根の上に突き出す。屋根葺きはそれを受け取って、ティ˩ブ˥ク [ti˩bu˥ku] に掛け、縄を二重に強く巻き締めて葺き茅を抑え、順々に屋根を葺きあげていく。足でトントンと踏み固めて締めつけ、葺き進める。葺き手とパルシキプスが声を掛け合いながら竹槍の針を突き出すタイミングを計って屋根葺きをした。シ˩ミナー˥ヤ　タ˩ルキ˥トゥ　ティ˩ブ˥クナー　˥カキティル　シ˩ミ˥シキ　˥ヤー　フ˩コーッ˥タ [ʃi˩mina:˥ja ta˩ruki˥tu ti˩bu˥kuna: ˥kakitiru ʃi˩mi˥ʃi̥ki ˥ja: ɸụ˩ko:t˥ta](屋根葺き用の締め縄は垂木と茅を押さえる手矛に掛けて < ぞ > 強く引き締めて屋根は葺かれた)。

˥ティフン **[tiɸuŋ]** 【名】手本。模範。˩マイフナー˥　マ˩リ˥　プ˩スヌ˥　ティフン　ナ˩ラン˥カー　ナ˩ラン˥ダー [˩maiɸuna:˥ ma˩ri˥ pụ˩sunu˥ ti̥ɸun na˩raŋ ˥ka: na˩ran˥da:](立派な人間になって、人の手本 < 鑑、模範 > とならなければならないよ)。

˥ティマ **[˥tima]** 【名】1手間。手数。ク˩ヌ˥　シ˩グトー˥　イッ˩ケナ˥　ティマー　ッ˩ふン [ku˩nu˥ ʃi˩guto:˥ ʔik˩kena˥ tima: f˩fuŋ](この仕事は非常に手間がかかる < 手間を食う >)。˥ティマ　ッ˩ふァイシグトー˥　ナ˩ラ˥ヌ [˥tima f˩faiʃiguto:˥ na˩ra˥nu](手間のかかる仕事は出来ない)。2手間賃。˥ティマー　˥トゥレーティ　ア˩ラン˥カー　˥カイブ　シ˩グトー˥　ナ˩ラ˥ヌ [˥tima: ˥ture:ti ʔa˩raŋ˥ka: ˥kaibu ʃi˩guto:˥ na˩ra ˥nu](手間賃をとってでないと、こんな仕事は出来ない)。

˥ティマー　カ˩カ˥ルン **[˥tima: kạ˩ka˥ruŋ]** 【連】手間隙が < は > 掛かる。手数が掛かる。時間がかかる。ク˩リ　ノー˥スモー　˥ティマー　カ˩カ˥ルン [ku˩ri no:˥sumo: ˥tima: kạ˩ka˥ruŋ](これを治すのは手間隙(ヒマ) < 時間 > が掛かる)。

˥ティマー　カ˩キ˥ルン **[˥tima: kạ˩ki˥ruŋ]** 【連】手間隙を掛ける。手数を掛ける。世話を掛ける。˥カイブ　˥クトゥナ　˩バー˥キ　˩ワーン˥　ティマー　カ˩キ˥シミ　˥クナイ　ッ˩ふィーリ˥ヨー [˥kaibu ˥kụtuna˩ ba:˥ki ˩wa:n˥ tima: kạ˩ki˥ʃimi ˥kunai f˩fi:ri˥jo:](こんな事にまで君に手間隙を掛けさせて < 手数を掛けさせて >、堪えてくれよ)。

˥ティマー　˥カクン **[˥tima: ˥kạkuŋ]** 【連】手間隙をかける。手数を掛ける。˥ティマー　カ˩キ˥ルン [˥tima: kạ˩ki˥ruŋ](手間を掛ける) と同じ。プ˩スン˥　ティマー　カ˩ク˥ナ [pụ˩sun˥ tima: kạ˩ku˥na](他人に手間を掛けるな)。

ティマー˩ピマー **[tima:˩pima:]** 【名】手間隙。ティマー˩ピマー　ッふァイ˥　シ˩グトー˥　シ˩ナッ˥ふァ　シゥ˩カナイ˥プソー　˩シーユーサヌ [tima:˩pima: ffai ˥ʃi˩guto:˥ ʃi˩naf˥fa si̥˩kanai˥puso: ˩ʃi:ju:sanu](手間隙を食う仕事は、幼い子供を養育する人には出来ない < し得ない >)。

ティ˩マシグ˥トゥ **[ti˩maʃigu˥tu]** 【名】手間仕事。一定の手間賃を貰ってする仕事。プ˩スン˥ヤヌ　ティ˩マシグ˥トゥ　˩シンティル　パッタ˥ル [pụ˩suŋ˥ janu ti˩maʃigu˥tu ˩ʃintiru patta˥ru](余所の家の手間仕事をしにと < ぞ > 行ったのだ)。

ティマッ˩ふァイムヌ **[timaf˩faimunu]** 【名】手間を食うもの。手間のかかるもの。時間のかかるもの。ク˩ヌ˥　シ˩グトー˥　ティマッ˩ふァイムヌ˥　ヤ˩ルンダ　バン˥マー　ナ˩ラ˥ヌ [ku˩nu˥ ʃi˩guto:˥ timaf ˩faimunu˥ ja˩runda bam˥ma: na˩ra˥nu](この仕事は手間のかかるものだから < 手間を食うものだから > 私には出来ない)。

ティ˩マ˥トー　ア˩タラヌ [tiˬmaˬto: ʔaˬtaranu] 【連】仕事が割りに合わない。引き合わない。ティ˩マ˥トー　ア˩タラン˥　シ˩グトゥ　ヤラバン　サン˥カー　˥ムノー　ッ˩ふァイ˥　パ˩ララ˥ヌ [tiˬmaˬto: ʔaˬtaraŋ˥ ʃiˬgutu jaraban saŋ˥kaː ˥muno: fˬfai˥ paˬraraˬnu](割りに合わない＜手間とは合わない＞仕事でも、＜仕事を＞しなければものを食べて行かれない)。

ティ˩ラ [tiˬra] 【名】寺。ウ˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　ティ˩ラヌ　ゾー˥ヌ　˥ニヨープトゥキ　ウ˩ガマシター˥ル　パ˩シットゥ　ナッ˥タツォー [ʔuˬnu˥ fˬfaː˥ tiˬranu ʤoː˥nu ˥nijoːpu̥tuki ʔuˬgamaʃi̥taː˥ru pḁˬʃittu natˬtatsoː](その子は寺の門の仁王仏を拝ませたので＜ぞ＞すっかり元気になった＜気分爽快になった＞そうだ)。

ティ˩ラ˥スン [tiˬraˬsuŋ] 【他動】照らす。˩トゥー˥ル　˥シキ　ティ˩ラ˥シバ [ˬtuː˥ru ˥ʃi̥ki tiˬraˬʃiba](ランプ＜灯籠＞を点けて照らしなさい)。ティ˩ラ˥スンティ　˩スンドゥ˥　ティ˩ラサラ˥ヌ [tiˬraˬsunti ˩sundu˥ tiˬrasaraˬnu](照らそうとするが照らされない)。˩マー˥ビン　ティ˩ラシ˥　プサカー　ティ˩ラ˥シェー　˥ミサムヌ [ˬmaːˬbin tiˬraʃi˥ pu̥saka: tiˬraˬʃe: ˥misamunu](もっと照らしたければ照らせば良いのに)。ティ˩ラ˥ス　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [tiˬraˬsu ˥ku̥to: naˬraˬnu](照らすことは出来ない)。˥アールカーラ　˩アーリ˥オール　ウ˩ブシキンガー˥ナ˩シー˥　ウ˩キ˥ナーン　˩ヤイ˥マーン　ティ˩ラショ˥ー˩リー [˥ʔaːrukaːra ˩ʔaːriˬoːru ʔuˬbuʃi̥kiŋgaː˥naˬʃiː˥ ʔuˬki˥naːɲ ˩jaiˬmaːn tiˬraʃoˬː˩riː](東の空から上がって来られるお月様、沖縄も八重山も照らしてください [童謡])。

ティ˩ラテー [tiˬrateː] 【名】屋号。大城伊佐氏宅。旧鳩間小学校の西隣にある。同家の前の道で、豊年祭の綱引きや˩プールゾーラ˥キ [˩puruzoːraˬki](豊年祭りの奉納舞踊) が行われた。イ˩ラカザケーヌ　アー˥ネール　ティ˩ラテー　ヤッタ [ʔiˬrakaʤakeːnu ʔaː˥neːru tiˬrateː jatta](西加治工家の東隣が大城伊佐氏宅だった)。

ティ˩ラヌ˥　ウニプトゥキ [tiˬranu˥ ʔunipu̥tuki] 【連】寺の仁王仏。「寺の鬼仏」の義。桃林寺門の仏像。鳩間島では、病弱な子供を石垣島へつれて行き、桃林寺の仁王仏を拝観させると邪気が祓われて健康になると伝えられていた。˩ビョー˥ザール　ヤ˩ラ˥ベー　ティ˩ラヌ˥　ウニプトゥキ　ウ˩ガマス˥カー　パ˩シットゥ˥　ナルンティ　ア˩ゾーッ˥タ [˩bjoː˥ʤaːru jaˬraˬbeː tiˬranu˥ ʔunipu̥tuki ʔuˬgamaˬsuka: pḁˬʃittu˥ narunti ʔaˬʤoːtˬta](病弱な子供は寺＜桃林寺＞の仁王仏を拝ませると元気＜気分爽快＞になるといわれたものだ)。

ティ˩ラヌボー˥ジ [tiˬranuboː˥ʤi] 【名】僧侶。坊主。和尚さん。「寺の坊主」の義。テ˩ラヌボー˥ジ　タ˩ナ˥ミ　˥キー　キ˩トー˥　シ˩ミリ˥バ [tiˬranu boː˥ʤi taˬnaˬmi ˥kiː ki̥ˬtoː˥ ʃiˬmiri˥ba](寺の僧侶＜坊主＞を頼んできて、祈祷させなさいよ)。

ティ˩リユーナー [tiˬrijuːnaː] 【連】照り合い。ティ˩ダ˥ヌ　カ˩タ˥　ミ˩リ˥バ　ティ˩リユーナー˥ドゥ　˩シーユール [tiˬdaˬnu kḁˬta˥ miˬri˥ba tiˬrijuːnaː˥du ˩ʃiːjuːru](太陽の絵を見ると、照り輝いている＜照り輝き合いをぞしている＞)(アーパーレー歌)。

˥ティル [˥tiru] 【助】1助詞連語。～とぞ。引用の格助詞˥ティ [˥ti](と) に強意の係助詞˥ル (ドゥ)[ru(du)](ぞ) が付いた形。˥ドゥーシ　˩カン˥ガイティル　ア˩ゾーッタ˥ル　プ˩ス˥ニ　タ˩ナ˥ミテー　ア˩ゾーラン˥シェン [˥duːʃi ˩kaŋ˥gaitiru ʔaˬʤoːtˬtaru pu̥ˬsuˬni ta ˩naˬmiteː ʔaˬʤoːraŋ˥ʃeŋ](自分で考えよと言われたのであって、他人に頼めとはおっしゃらなかった)。2～という。～とした。˩ニン˥ギンティル　ム˩ヌ˥ヌ　˥カイブ　ク˩トゥ˥バ　˩シー˥　ミサンティ　ウ˩モーリン [˩niŋ˥gitiru muˬnuˬnu ˥kaibu ku̥ˬtuˬba ˩ʃiː˥ misanti ʔuˬmoːriŋ](人間たる＜とした＞ものが、こんなことをして良いと思われるのか)。

˥ティル [˥tiru] 【名】笊(ザル)。笊の総称。普通は˩ウン˥ディル [˩ʔun˥diru](芋を入れる笊) をさす。˩クー˥ジ [˩kuː˥ʤi](トウズルモドキ) の皮を使って編み上げた笊。フ˩タディル [ɸu̥ˬtadiru](竹の皮で編んだ蓋付きの弁当籠) には弁当を入れて畑へ持参したり、台所に吊るしておいたりした。クージは西表島に豊富に産する。皮は柔らかく扱いやすい。長いものは 20 メートル以上に達するので、大小さまざまな笊を編むことができる。˩クー˥ジ [˩kuː˥ʤi] は小屋を造ったりする際にも藁縄の代用に使用された。パ˩トゥ˥マプソー　˩クー˥ジシル　˥ティロー　フ˩モーッタ˥ル [pḁˬtuˬmapu̥soː ˩kuː˥ʤiʃiru ˥tiroː ɸuˬmoːtta˥ru](鳩間の人はトウズルモドキで＜ぞ＞笊は編まれたものだ)。

˥ティル [˥tiru] 【名】漁獲用の籠 (笊)。直径約 1 メートル、高さ約 20 センチの円形の枠に網を張って作った漁獲用の籠。中央部の垂れ下がった丸い入り口から魚が中の餌にひかれて籠の中に入る仕組みで、一度中に入ったら出られない仕掛けになっ

ている。糸満漁師が鳩間島に導入したもの。˩オン˥デー　˩ピー˥カーンドーレーヤ　˥ティルシン　トゥ˩ローッ˥タン [˩ʔon˥deː ˩piː˥kaːndoːreːja ˥tiruʃin tu ˩roːt˥taŋ](ハナアイゴやブチアイゴなどはティルでも漁獲されたものだ)。

˥**ティルン [˥tiruŋ]** 【自動】照る。ティ˩ダ˥ヌ　˥ティルン [ti˩da˥nu ˥tiruŋ](太陽が照る)。シ˩キ˥ヌ　ティ˩ラン˥カー　ア˩ラカラ˥ヌ [ʃi̥˩ki˥nu ti˩raŋ˥kaː ʔa˩rakara˥nu](月が照らないと歩かれない)。˥シケー　˥ティリ　ッ˩ふィーリバル˥　イ˩ソーン˥　パ˩ラ˥リ [˥ʃi̥ke: ˥tiri f˩fiːribaru˥ ʔi˩soːm˥ pa˩ra˥ri](月が照ってくれたらばこそ、潮干狩りにも行けるのだ)。˥ティル　シ˩キ˥ヌ　˩イーラー˥　カ˩トン˥クンケン　˥マティ　˩ベー˥リ [˥tiru ʃi̥˩ki˥nu ˩ʔiːraː˥ kḁ˩toŋ˥kuŋkem ˥mati ˩beː˥ri](照る月が西に傾くまで待っておれ)。˩パー˥ク　˥ティレー　˥ミサムヌ [˩paː˥ku ˥tireː ˥misamunu](早く照れば良いのに)。˥クナーティ　˥ティリ [˥kunaːti ˥tiri](ここで照れ)。

ティ˩ロー˥マ [ti˩roː˥ma] 【名】小さな笊。潮干狩りで漁獲物を入れるのに用いる小さな笊。びく (魚籠) の一種。トウズルモドキの皮や竹の皮で編んで作った。アダンの気根の繊維で綯った縄で作った魚籠は˩アン˥スク [˩ʔan˥su̥ku](箱型網袋の運搬具。一種の野外用ハンドバッグ) という。ティ˩ローマ˥ヌ　˩ピッ˥チン　˥タクン　˥ミナン　トゥ˩ロー˥レーン [ti˩roːma˥nu ˩pit˥ʧin ˥tḁkum ˥minan tu˩roː˥reːŋ](小さな笊 < 魚籠 > のいっぱい蛸も蜷(ニナ)も獲ってきておられる)。

˩**ティン [˩tiŋ]** 【名】1天。天空。空。蒼穹。˩アウティン [˩ʔautiŋ](青空)。˩ティンラ˥　タ˩カヌ˥　パ˩ヤー˥　トゥ˩ビ　パッ˥タ [˩tinra˥ ta˩kanu˥ pa˩jaː˥ tu˩bi pat˥ta](天から < 大空を > 鷹が南の方へと飛んで行った)。˩ティンラ˥　ウリクン [˩tinra˥ ʔurikuŋ](天から降りてくる)。˩ティンバー˥キン　˩ヌールン [˩timbaː˥kin ˩nuːruŋ](天までも登る)。˩ティンヌ˥　ブ˩リブシ [˩tinnu˥ bu˩ribuʃi](天の群れ星。すばるぼし < 昴星 >)。2天の神様。天帝。˩ティンマー˥　ミシゥ˩カーマシ˥ル　˩オー˥ル [˩timmaː˥ misi̥˩kaːmaʃi˥ru ˩ʔoː˥ru](天の神様は何でも見通してお出でだ < 天網恢恢疎にして漏らさず >)。

˥**ティン [˥tiŋ]** 【接助】1～とも。格助詞˥ティ [˥ti](～と、< 引用 >) に係助詞˥ン [˥ŋ](～も) の付いた形。活用語の終止形、体言、体言相当語に付く。˥カクンティン　カ˩カン˥ティン　ノー˩ンティン　ナーン˥シェン [˥kḁkuntiŋ kḁ˩kan˥tin noː˩ntin naːŋ˥ʃeŋ](書くとも書かないとも、何ともなかった)。˥パルンティン　パ˩ラン˥ティン　ノー˩ンティン˥　ア˩ザヌ [˥paruntim pa˩ran˥tin noː˩ntiŋ˥ ʔa˩ʤanu](行くとも行かないとも、何とも言わない)。˥ウヤティン　˩キョー˥ダイティン　ブ˩ラーヌ [˥ʔujatiŋ ˩kjoː˥daitim bu ˩raːnu](親とても兄弟とてもいない)。2たとい～ても。たとい～とも。たとい～たとしても。たとい～とて。過去の助動詞˥タン [tan](～た) の終止形につく。仮定の条件をあげて後件が前件に拘束されない意を強く表す。ギュー˩サ˥　アジ　シゥ˩カシタンティン˥　バー　ム˩ニ˥ヨー　イッ˩カ˥　シゥ˩カヌ [gjuː˩sa˥ ʔaʤi si̥˩kaʃitantim˥ baː mu˩ni˥joː ʔik˩ka˥ si̥˩kanu](いくら説いて教えても < 言って聞かせても > 私の話をいっこうに聞かない)。マ˩ナ˥マンドーレーラ　˩パッ˥タンティン　マ˩ニアー˥ヌ [ma˩na˥mandoːreːra ˩pat˥tantim ma˩niʔaː˥nu](今頃から行っても間に合わない)。

˩**ティンガーラ [˩tiŋgaːra]** 【名】天の川。タ˩ナバタヌ　マーラー　ティンガーラン˥　ユー　ミ˩ラ˥リン [ta˩nabatanu maːraː tiŋgaːraŋ˥ juː mi˩ra˥riŋ](七夕の頃には天の川もよく見られる)。

˩**ティンガイ [˩tiŋgai]** 【名】葬具の一つ。朱塗りの槇棒の頂に竜頭 < たつがしら > を付けてある。「天蓋 (てんがい)」の義。葬列の、˩ガンダラゴー [˩gandarago:](龕 < がん >。棺を納めて担ぎ運ぶ葬具) の前をティンガイを持った人が歩く。死者を守るといわれている。ム˩カ˥シェー　˩ガンダラゴーヌ˥　マンタナール　˩ティンガイ˥　ム˩ティ˥プソー　ア˩ラ˥コーッタ [mu˩ka˥ʃeː ˩gandaragoːnu˥ mantanaːru ˩tiŋgai˥ mu˩ti˥pu̥soː ʔa˩ra˥koːtta](昔は棺を納めて担ぎ運ぶ龕の前を天蓋を持つ人が歩かれた)。

˩**ティン˥ガマー [˩tiŋ˥gamaː]** 【名】悪戯小僧。腕白坊主。悪戯坊主。あくたれ (悪たれ)。˩テン˥ガマー [˩teŋ˥gamaː](悪戯小僧) ともいう。ク˩ヌ　ッふァー　サッ˥コー　˩ティン˥ガマー　ヤ˩ルンダ˥　ウ˩リンマー˥　ムヌ　ミ˩シル˥ナ [ku˩nu ffaː sak˥koː ˩tiŋ˥gamaː ja˩runda˥ ʔu˩rimmaː˥ munu mi˩ʃiru˥na](この子は大変な悪戯小僧 < 腕白坊主 > だから、彼には物を見せるな)。

˩**ティン˥ガマーン [˩tiŋ˥gamaːŋ]**【形】腕白である。悪戯っぽい。若年層は、˩テン˥ガマーン [˩teŋ˥gamaːŋ](腕白である。悪戯坊主である) ともいう。ク˩ヌ˥　ヤ˩ラ˥ベー　˩ティン˥ガマーン [ku˩nu˥ ja˩ra˥beː ˩tiŋ˥gamaːŋ](この子供は腕白である < 悪戯っぽい >)。˥ドゥク　˩ティンガマー˥ヌ　ウ˩リンマー˥

ムヌ　ム˹タサラ˺ヌ [˺duku ˹tiŋgama:˺nu ʔu˹rimma:˺ munu mu˹tasara˺nu](あまりにも悪戯っぽいから、あれには物を持たされない)。˹ティン˺ガマー　ッ˹ふァトー˺　ア˹サバサラヌ [˹tiŋ˺gama: f˹fato:˺ ʔa˹sabasaranu](悪戯っぽい子供とは遊ばされない)。

˹ティン˺ガラ [˹tiŋ˺gara] 【名】かなてこ (鉄梃)。鉄製のてこ。石ころ道や岩盤の多い屋敷の整地作業に用いられる道具。長さ約 1.8 メートル、直径約 4 センチの八角形の鉄棒。先端の片方は鑿(ノミ)の刃のように平たく、片方は丸く尖っている。石工の道具。˹ティン˺ガラシル　ク˹ヌ˺　イ˹シガンパラー　コーサリル [˹tiŋ˺garaʃiru ku˹nu˺ ʔi˹ʃigampara: ko:sariru](かなてこ＜鉄梃＞で＜ぞ＞この岩盤は崩して掘り起こされる＜鉄梃でないと岩盤は掘り起こせない＞)。

˹ティンガラー˺マ [˹tiŋgara:˺ma] 【名】小さなかなてこ (鉄梃(カナテコ))。金串の一種。直径約 1、5 センチ、長さ約 30 センチの鉄棒の金串(カナグシ)で、先端が細く尖っている漁具。これで珊瑚礁の岩の中にいる、イ˹シギラ [ʔi˹ʃigira](イシシャコ貝。岩の中に棲息するシャコ貝) をほじくり＜穿り＞出して漁獲した。イ˹ソー˺　パル　˺ピンマー　˹ティンガラー˺マー　ク˹シ˺ナ　˹クシキ˺　パリバ [ʔi˹so:˺ paru ˺pimma: ˹tiŋgara:˺ ma: ku˹ʃi˺na ˹kuʃi̥ki˺ pariba](潮干狩りに行く時は小さな鉄梃を腰に差して行きなさいよ)。

˹ティンキ [˹tiŋki] 【名】天気。標準語からの借用語。普通は、˹オーシキ [˹ʔo:ʃi̥ki](天気、「上つ気」の義か) という。˹ティンキ＜オーシキ＞ヌ　ノー˺ルカー　˺フネー　ン˹ザサ˺リン [˹tiŋki＜ʔo:ʃiki＞nu no:˺ruka: ˺ɸune: ʔn˹ʤasa˺riŋ](天気が直ると船は出される＜出港できる＞)。

˹ティンキヤブ˺リ [˹tiŋkijabu˺ri] 【名】天気くずれ。普通は˹オーシキヤブ˺リ [˹ʔo:ʃikijabu˺ri](天気くずれ) という。˹ティンキヤブ˺リ　˹シー˺　イ˹ソーン˺　パ˹ララ˺ヌ [˹tiŋkijabu˺ri ˹ʃi:˺ ʔi˹so:m˺ pa˹rara˺nu](天気崩れして漁にも出られない)。

˹ティング˺ス [˹tiŋgu˺su] 【名】てぐす (天蚕糸)。釣り針用の糸。石垣島の釣具店から購入してきて利用した。普通は、˹ティングス˺ル [˹tiŋgusu˺ru](てぐす) という。˹ティング˺スシ　˹シー˺　シ˹ナイ˺バ [˹tiŋgu˺suʃi ˹ʃi:˺ ʃi˹nai˺ba](てぐすで釣り針を繋ぎなさいよ)。

˹ティングス˺ル [˹tiŋgusu˺ru] 【名】てぐす (天蚕糸)。˹ティング˺ス [˹tiŋgu˺su](てぐす) ともいう。釣り針用の糸。楓蚕＜ふうさん＞・樟蚕＜くすさん＞の幼虫の体内から絹糸腺を取りだし、酸に浸して引き伸ばし、精製した白色透明の糸。約 50 センチの長さで、一方を釣り針に直接結わえる部分に用い、他方を釣り糸に繋いで用いた。˹ティングス˺ルシ　˹シー˺　シ˹ナーン˺カー　イ˹ズヌ˺　パーシ　˺イトー　˹フッ˺チ　キ˹シ˺ス [˹tiŋgusu˺ruʃi ˹ʃi:˺ ʃi˹na:ŋ˺ ka: ʔi˹ʤunu˺ pa:ʃi ˺ʔito: ˹ɸut˺ʧi ki̥˹ʃi˺su](てぐす＜天蚕糸＞で釣り針を繋がないと魚の歯で糸を噛み切ってしまう)。

˹ティングトゥ [˹tiŋgutu] 【名】天災。自然現象の災害。「天ごと」の義。カ˹ジフキ　ペーレーヤ　ティングトゥ˺　ヤ˹ルンダ˺　プ˹スニンギン˺ヌ　シゥ˹カラ˺シェー　ノー˹ン˺　ナ˹ラ˺ヌ [ka˹ʤiɸu̥ki pe:re:ja tiŋgutu˺ ja˹runda˺ pu̥˹suniŋgin˺nu si̥˹kara˺ʃe: no:˹n˺ na˹ra˺nu](風吹き＜台風＞、旱魃は天災だから、人間の力では何にも出来ない)。

˹ディン˺グン [˹diŋ˺guŋ] 【名】伝言。ことづて。石垣方言からの借用語。普通は、˺イイェイ [˺ʔijei](伝言。「言い遣り」の義) という。プ˹スクイ˺ヌ　˹ディングン˺マーンツァン　˹ナーン˺シェン [pu̥˹sukui ˺nu ˹diŋgum˺ma:ntsan ˹na:ŋ˺ʃeŋ](一言の伝言すらもなかった)。

˹ティンシー [˹tiŋʃi:] 【名】天水。雨水。若年者は、˹ティンスイ [˹tinsui](天水) ともいう。昔は天水を溜めて湯茶の用水に使用した。井戸水は石灰分が多く、湯茶には適しなかった。˹ティンシー˺シ　˺サーフ˹カサバ˺ル＜バ˹カサバル˺＞　ン˹マー˺タ [˹tiŋʃi:˺ ʃi ˺sa: ɸu̥˹kasaba˺ru＜ba˹kasabaru˺＞ ʔm˹ma:˺ta](天水でお茶を立てたらばこそ＜沸かした＞ほうが美味しかった)。

˹ティンジ˺ルン [˹tinʤi˺ruŋ] 【自動】突き出る。老年層は、普通、˹ピンジ˺ルン [˹pinʤi˺ruŋ](突き出る。露出する)、˹トゥンジルン [˹tunʤiruŋ](飛び出る。突き出る) という。タ˹キグシェー˺　フ˹ク˺ローラ　˹ティン˺ジルンダ　˹ティンジラン˺ヨーニ　˺ブリ　シ˹キ˺リ [tḁ˹kiguʃe:˺ ɸu̥˹ku˺ro:ra ˹tinʤi˺runda ˹tinʤiraŋ˺jo:ni ˺buri ʃi̥˹ki˺ri](竹串は袋から突き出るから、突き出ないように折っておきなさい)。˹ティンジ˺ル　˺ムノー　˹ナー˺ヌ [˹tinʤi˺ru ˺muno: ˹na:˺nu](突き出るものはない)。

˹ティンスー [˹tinsu:] 【名】天命。運命。天寿。自然の命数。天から授けられた運命。˹ミースー [˹mi:su:](命数。天命。天寿) ともいう。˺アブジーン　˹チョーミー˺　シキ　˹オー˺リ　ブ˹レー˺ンダ　˹ティンスー˺　ヤ˹ロー˺レール [˺ʔabuʤi:n ˹ʧo:mi˺ ʃi̥ki ˹ʔo:˺ri bu˹re:˺nda ˹tinsu:˺ ja˹ro:˺re:ru](お祖父さんも長寿であ

られた < 天寿付いておられた > から、もう天命であられたのでしょうよ)。

˞ティン˜ゾー [˞tin˜ʤoː] 【名】天井。「Teov. テンジヤゥ (天井)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞ティンゾー˜ヤ ˜イツァシル パ˞ラリ ブー [˞tinʤoː˜ja ˜ʔitsaʃiru pa˞rari buː](天井は板で張られている)。˞ティンゾー˜ヌ ˜ウラー ドゥ˞ルヌ˜ タ˞マリバ˜ ドゥ˞ル˜ カキ ウ˞ラ˜シ [˞tinʤoː˜nu ˜ʔuraː du˞runu˜ ta˞mariba˜ du˞ru˜ kaki ʔu˞raʃi](天井裏には泥が溜まるから、泥を掻き降ろしなさい)。瓦葺の家は瓦を留める粘土が風化して天井裏に落ちて溜まったものである。

˞ティンゾー˜イツァ [˞tinʤoː˜ʔitsa] 【名】天井板。天井を張る板。˞ティンゾー˜イツァー ピ˞シーピシーヌ サンブイツァ˜ル シゥ˞カイヨー˜ル [˞tinʤoː˜ʔitsaː pi̥˞ʃiːpiʃinu sambuʔitsa˜ru si̥˞kaijoː˜ru](天井板は薄い三分板を使われる)。

˞ティンゾー˜ヌ ˜サン [˞tinʤoː˜nu ˜saŋ] 【連】天井の桟。˞ティンゾー˜ヌ ˞サン˜マー シ˞ギザイ˜シル ス˞クラ˜リ ˞ブー [˞tinʤoː˜nu ˞sam˜maː ʃi˞giʤai˜ʃiru su̥˞kura˜ri ˞buː](天井の桟は杉材で作られられている)。

˞ティンゾー˜ブチ [˞tinʤoː˜butʃi] 【名】板張り天井の板を支え、化粧するために取り付けた細長い桟。四隅を桟で縁取ってあるもの。竿縁。˞ティンゾー˜ブチシル ˞ティンゾー˜ヤ シゥ˞カイル [˞tinʤoː˜butʃiʃiru ˞tinʤoː˜ja si̥˞kairu](竿縁で < ぞ > 天井は支えるのだ)。

˞ティンダ˜ティ [˞tinda˜ti] 【名】起工式。家屋新築の着工式。建築着手の儀礼。吉日を選んで着工する。「手だて」の義から意味派生したものか。イ˞チバンザイ˜ク [ʔi˞tʃibanʤai˜ku](棟梁。一番大工) が家主 < 建築主 > や手伝いの村人らと一緒に安全祈願をした後、材木にシ˞ミ˜ナー [ʃi˞mi˜naː](墨縄) を打ったり、ほぞあな (枘穴) を掘ったり、枘を作ったりして建築工事を開始する。˞ウン˜ネヌ ˞ヤー˜ヤ ˞ティンダ˜テー ˞ソー˜レーンカヤー [˞ʔun˜nenu ˞jaː˜ja ˞tinda˜teː ˞soː˜reːŋkajaː](あの家の新築の起工式はすまされたかねえ)。

˞ティントーガナシ [˞tintoːganaʃi] 【名】お天道様。太陽神。˞ティントーガナシェー˜ ミカー˞ミカーシ˜ル ˞オー˜ル˞ダー [˞tintoːganaʃe˜ mika˞mika˜ʃiru ˞ʔoː˜ru˞daː](お天道様はどこまでも見通しておられるのだよ)。

˞ティントゥ˜ ジー [˞tintu˜ ʤiː] 【連】天神地祇 < てんじんちぎ >。神々。「天と地」の義。˞ティントゥ ジー˜ヤ プ˞スヌ スー˜ クトー ˞ミーフカシ˜ル ˞オー˜ル [˞tintu ʤiː˜ja pu̥˞sunu suː˜ku̥toː ˞miːɸukaʃi˜ru ˞ʔoː˜ru](天神地祇は人間のすることを見通しておられる)。

˞ティン˜ナー [˞tin˜naː] 【名】帆を操作するため、帆桁の端から引いた細い縄。「手綱」の転訛したもの。˜ティー [˜tiː](手) に、una(綱)→ina→ina→nna と音韻変化した語が下接して生成された合成語。サバニの帆には 5〜6 本の˞ティン˜ナー [˞tin˜naː](手綱) が船頭の所に伸びている。船頭は左手でティンナーを握り、右手で˞ト˞ム˜ヤク [tu˞mu˜jaku](艫櫂) を握って梶となし、それでサバニを操船した。˞ティンナー˜ヤ ˞プーザンナー˜ル シ˞キラ˜リ ˞ブー [˞tinnaː˜ja ˞puːʤannaː˜ru ʃi̥˞kira˜ri ˞buː](手綱は帆の桟 < 帆桁 > に取り付けられている)。

˞ティンヌ˜ ア˞ブジェーマ˜ヌ シ˞バ˜ル [˞tinnu˜ ʔa˞buʤeːma˜nu ʃi˞ba˜ru] 【連】お天気雨。日照り雨。日が照っていながら降る雨。˜ティダアミ [˜tidaʔami](そばえ。日照り雨。狐の嫁入り) というのが普通。「天の百姓じいさんの小便」の義。˜ティダアメー ˞ティンヌ˜ アブ˞ジェーマ˜ヌ シ˞バ˜ルティル ム˞カ˜シプソー シゥ˞カソーッタ˜ル [˜tidaʔameː ˞tinnu˜ ʔabu˞ʤeːma˜nu ʃi˞ba˜rutiru mu˞ka˜ʃipu̥soː si̥˞kasoːtta˜ru](お天気雨は天の百姓じいさんの小便だと、昔の人はお話になった < 話して聞かされた >)。

˞ティンヌ˜ ッ˞サーンタ [˞tinnu˜ s˞saːnta] 【連】天の下。あめがした。世界。˞ティンヌ˜ ッ˞サーンター˜ シキン カ˞クシ˜グトー ナ˞ラ˜ヌ [˞tinnu˜ s˞saːnta˜ ʃi̥kiŋ kḁ˞kuʃi˜guto: na˞ra˜nu](天の下は < あめがした > は世間だ。隠し事は出来ない)。

˞ティンヌ˜ ッ˞サーン˜ナー [˞tinnu˜ s˞saːn˜naː] 【連】天が下で。天の下で。天下で。世の中で。˞ティンヌ˜ ッ˞サーン˜ナーテー ˜アイブ ˜クトー ナ˞ラ˜ヌ [˞tinnu˜ s˞saːn˜naːteː ˜ʔaibu ˜ku̥toː na˞ra˜nu](天が下では < 天の下においては >、あのようなことは出来ない)。

˞ティンヌ˜ ナイ [˞tin˜nu ˜nai] 【連】天ほど。量や長さが天体ほど無限大であるさま。「天の長さ」の義。˞ティンヌ˜ ナイ カ˞リ˜ シ˞ミ˜ シケーツォー [˞tinnu˜nai ka˞ri˜ ʃi˞mi˜ ʃi̥keːtsoː](天の長さほど、どこまでも刈って積んでおいてあるそうだ)。

˞ティンヌ˜ ナ˞カ˜シタ [˞tinnu˜ na˞ka˜ʃi̥ta] 【連】なかぞら (中空)。中天。「天の中下」の義。˞ティンヌ˜ ナ

˞カシタ˜ヌ　ム˞チマイダーラー˜　ヌーヤ。˞マンズイ˜ヌ　˜ナル [˞tinnu˜ na˞kaʃi̥ta˜nu mu˞ʧimaida:ra:˜nu:ja ˞mandʑui˜nu ˜naru](中天 < 中空 > の糯米俵は何か。答え。パパイア < 蕃瓜樹 > の実。< なぞなぞ (謎々) 遊戯 >)。˞ティンヌ˜　ナ˞カシタ˜ヌ　˞パイルカメー˜　ヌーヤ。˞シークァー˜サー　フ˞ナ˜ブ [˞tinnu˜ na˞kaʃi̥ta˜nu ˞pairukame:˜ nu:ja ˞ʃi:kwa:˜sa: ɸu˞na˜bu](中天の酢の瓶は何か。酢を含んだ九年母 < 酸っぱいヒラミレモン >)。

˞ティンヌ˜　ナ˞ダ˜カ [˞tinnu˜ na˞da˜ka] 【連】天の高さほど。天くらい。ウ˞ヌ　ヤー˜ヤ　˞ティンヌ˜　ナ˞ダ˜カ　ア˞リ˜ブタ [ʔu˞nu ja:˜ja ˞tinnu˜ na˞da˜ka ʔa˞ri˜buta](その家 < の高さ > は、天の高さほどもあった < あり居った >)。

˞ティンヌ˜　ニー [˞tinnu˜ ni:] 【連】天の果て。天空の果て。「天の根」の義。˞ティンヌ˜ニー　˞バー˜キン　マー˞ンバー˜キン　˞ウイマーシ˜　トゥミ　˞サー˜ク (˞サーリ˜クー)[˞tinnu˜ni: ˞ba:˜kim ma:˞mba:˜kiŋ ˞ʔuima:ʃi˜ tumi ˞sa:˜ku:(˞sa:ri˜ku:)](天の果てまでも、どこまでも追い回し、探して連れて来い)。

˞ティンヌ˜　ヤ˞キルン [˞tinnu˜ ja˞kiruŋ] 【連】夕焼けする。朝焼けする。「天が焼ける」の義。˞インタヌ　ティンヌ˜　ウ˞ヌス˜ク　˞カイ˜ヤ　ヤ˞キベー˜ワ　ミリ˞ミー˜　アツァン　˞オーシケー　ノーリ˜ス [˞ʔintanu tinnu˜ ʔu˞nusu̥˜ku ˞kai˜ja ja˞ki be:˜wa miri˞mi:˜ ʔatsaŋ ˞ʔo:ʃi̥ke: no:ri˜su](西の空があんなに美しく夕焼けしている < 美しく焼いているわい > よ。見てごらんよ。明日もきっと天気がよくなるよ)。

˞ティンバチ [˞timbaʧi] 【名】天罰。天の下す罰。悪事のむくい。˜ガザフケーヤ　シ˞ディ˜ミジ　ク˞バ˜シティ　˞ティンバチバ˜　ウ˞キ˜ル　˞パン˜マー　シ˞ミラ˜リ　˞ブー˜ツォー [˜gadʑaɸu̥ke:ja ʃi˞di˜miʤi ku˞ba˜ʃi̥ti ˞timbaʧiba˜ ʔu˞ki˜ru ˞pam˜ma: ʃi˞mira˜ri ˞bu:˜tso:](ひばりは不老長寿の薬 < 孵で水 > を零して天罰を受け、足は細く締められているそうだ)。

˞ティンブッツ [˞timbuttsu] 【名】でべそ (出臍)。突き出ている臍。昔は家庭で出産をした。村々には経験豊かな取り上げ婆が産婆の役割を果たした。出臍は取り上げ婆が臍の尾を長く切ったことによるといわれていた。マ˞ナ˜マー　˞ティンブッツヌ˜　ヤ˞ラ˜ベー　ミ˞ララン˜バン˞ナー [ma˞na˜ma: ˞timbuttsunu˜ ja˞ra˜be: mi˞raram˜ban˞na:](今は出べその子供も見られないねえ)。

˞ティン˜プラ [˞tim˜pura] 【名】てんぷら (天麩羅)。魚介・野菜類を芯に、小麦粉を溶かしたものに˞コー˜マ [˞ko:˜ma](卵の黄身) を掻き混ぜ、それをころもにして油で揚げた料理。˞ティン˜プラ　ヤ˞クン [˞tim˜pura ja˞kuŋ](テンプラを揚げる < 焼く >)。˞ヨイ˜ヌ　ウ˞サイ˜ヤー　イ˞ズティンプラ˜　ヤ˞クバル˜　マ˞シト ナー [˞joi˜nu ʔu˞sai˜ja: ʔi˞dʑutimpura˜ ja ˞kubaru˜ ma˞ʃi˞na:](お祝いのご馳走 < お菜 > には魚芯テンプラを揚げた < 焼いた > 方がいいねえ)。イ˞ズシンティンプラ [ʔi˞dʑuʃintimpura](魚芯天麩羅)、˜タクティンプラ [˜tḁkutimpura](蛸芯てんぷら)。˜ウンティンプラ [˜ʔuntimpura](芋芯天麩羅)、˜ヤサイティンプラ [˜jasaitimpura](野菜芯天麩羅) などがある。芯を入れないで、掌サイズに揚げる天麩羅を˞パン˜ビン [˞pam˜biŋ](はんぺん < 半片 >) といっている。˜サタティンプラ [˜sḁtatimpura](砂糖天麩羅。鶏卵大の球形に揚げた天麩羅) もある。

˞ディン˜ポー [˞dim˜po:] 【名】電報。戦後、昭和 23 年に鳩間郵便局に初めて電信電報の施設が整備された。イ˞サンケーラ　ディンポー˜ヌ　˜ケーティ　˞ウンパン˜シンラ　イ˞サンケー　パッ˜タ [ʔi˞saŋke:ra dimpo:˜nu ˜ke:ti ˞ʔumpaŋ˜ʃinra ʔi˞saŋke: pat˜ta](石垣から電報が来たので運搬船 < 定期航海船 > で石垣島に行った)。

˞ティンマ [˞timma] 【名】伝馬船。昔の上納米や御用布等の貢納物を運んだ六反帆や七反帆の地舟。「伝馬」の義。ム˞カ˜シェー　˞ティンマーラ˜ル　イ˞サナケーヤ　オーッ˜タティ˞ダー [mu˞ka˜ʃe:ja ˞timma:raru˜ ʔi˞sanake:ja ʔo:t˜tati˞da:](昔は伝馬船で石垣島へ行かれたそうだよ)。

˜ティンマー [˜timma:] 【連】～ときには。～際には。˜パルンティンマー　プ˞スンマー˜　シゥ˞カサムティ˜　ッ˞サンコーラ˜シ　˜パリ　˞ナー˜ヌ [˜paruntimma: pu̥˞summa:˜ si̥˞kasamuti˜ s˞saŋko:ra˜ʃi ˜pari ˞na: ˜nu](行くときには人には知らさないで < 聞かさないで > 黙って < 知らないふりして > 行ってしまった)。

˞ティンマク [˞timmaku] 【名】天幕。古語ではフ˞タカツァ [ɸu̥takatsa](天幕。「蓋蚊張」の義) という。キ˞チゴンマー　ウイ˜ヌウガンナー　˞ティンマクバ˜　パ˞リティル˜　ブ˞ドゥル　キョンギン　ソーッタ˜ル [ki̥˞ʧigomma: ʔuinu˜ʔuganna: ˞timmakuba˜ pa˞ritiru˜ bu˞duru kjoŋgin so:tta˜ru](結願祭は友利お嶽 < 上の御願 > で天幕を張って踊り狂言 < 演劇 > はなさったものだ)。

˞ティン˜マ˞グゥー [˞timma˜gwa:] 【名】小伝馬舟。沖

縄本島糸満方言からの借用語。鰹漁船の餌捕りに用いる小舟。幅約 1 メートル、長さ約 4 メートルの小舟で餌捕りの際、本船と小伝馬舟の間に掬い網を下ろして˜ザコー [˜ʤako:](雑魚、カツオの餌)を掬い捕るのに用いる小舟。港では砂浜と本船の間のはしけ舟 < 艀舟 > として使用された。沿岸では本船に曳航され、港では備え付けの˞リュー [˞rju:](櫓) と˜サウ [˜sau](竿) で操船して、漁獲したカツオや船員を浜辺へ運んで陸揚げした。˞ティンマ˜グゥーシル　˞フン˜シンラ　カ˞ツォー˜　パ˞マー˜　カ˞ヨーシタル [˞timma˜gwa:ʃiru ˞ɸuŋ˜ʃinra kạ˞tso:˜ pa˞ma:˜ ka˞jo:ʃi̥taru](小伝馬船で < ぞ > 本船から漁獲したカツオは浜辺へ運搬した < 通わせた > ものだ)。

˞ティンマムチ [˞timmamuʧi] 【名】小伝馬の係り。「小伝馬持ち」の転訛したもの。カツオ漁船の小伝馬係りは中学卒業したての、15 歳前後の男の子が漁師見習いとして担当させられた。カツオの生餌取りがすんで、˞フン˜シン [˞ɸuŋ˜ʃiŋ](本船) が外洋へ出漁した後、ティンマムチ (小伝馬舟係) は本船から放され、˞リュー [˞rju:](艪) を漕いで海岸に接岸し、ム˞ジ˜アン [mu˞ʤi˜ʔaŋ](生餌取り用の網) を浜辺に干したり、漁船の飲料水を井戸から汲んでドラム缶一本の水タンクを満杯にし、漁船の飯炊き、湯沸し用の薪割りの作業を一人で行った。˞ティンマムチェー　˞フンシン˜ヌ　ミ˞ジ˜　カ˞タ˜ムンティ　˞アウ˜リ　シ˞タント ダー [˞timmamuʧe: ɸuŋʃin˜nu mi˞ʤi˜ kạ˞ta˜munti ˞ʔau˜ri ʃi̥˞tanト-da:](小伝馬舟係りは本船の飲料水を井戸から汲み担ぐのに苦労をしたよ)。

˞テン˜ガマー [˞teŋ˜gama:] 【名】悪戯小僧。悪ふざけをする者。不義を働く者。˞ティン˜ガマー [˞tiŋ˜gama:](悪戯小僧) ともいう。ウ˞ヌ　ッふァー　サッ˜コー　˞テン˜ガマー　ヤ˞ルンダ˜　ア˞タラ˜サル　˜ムノー　ミ˞シル˜ナ˞ヨー [ʔu˞nu ffa: sak˜ko: ˞teŋ˜gama: ja˞runda˜ ʔa˞tara˜saru ˜muno: mi˞ʃiru˜na˞jo:](あの子は悪戯小僧だから、大事な <可惜(アタラ)し。勿体無い > 物は見せるなよ)。

˞テン˜ガマーン [˞teŋ˜gama:ŋ] 【形】悪戯っぽい。じっとして居れず、悪い戯れをしがちである。ク˞ヌ˜　ッ˞ふァー　サッ˜コー　˞テン˜ガマーンダ　˞パー˜ムノー　ム˞タス˜ナ˞ヨー [ku˞nu˜ f˞fa: sak˜ko: ˞teŋ˜gama:nda ˞pa:˜muno: mu˞tasu˜na˞jo:](この子は非常に悪戯っぽいから、刃物は持たせるなよ)。ア˞ス˜カー　ユ˞クン <˞マー˜ビン >　テンガ˜マー　ナ˞リ˜ス [ʔa˞su˜ka: ju˞kun < ˞ma:˜bin > teŋga˜ma: na˞ri˜su](そうしたら、かえって悪戯っぽくなるよ)。˜アイブ　˞テンガ˜マー　˜ムヌトー　ア˞サバスナ [˜ʔaibu ˞teŋga˜ma: ˜munuto: ʔa˞sabasuna](あんな悪戯っぽい者とは遊ばせるな)。

˞デンサー˜ブシ [˞densa:˜buʃi] 【名】歌謡名。デンサー節。八重山を代表する上原村の教訓歌謡で、儒教道徳を中心的内容とした歌謡。˞デンサー˜ブシナー　プ˞ソー　ミーブシヌ˜　シタシル　グ˞フ˜ドー　ッ˞ふァイシティル˜ティル　アル˞ダー [˞densa:˜buʃina: pụ˞so: mi:buʃinu˜ ʃi̥taʃiru gu˞ɸu˜do: f˞faiʃi̥tiru˜tiru ʔaru˞da:](デンサー節には、人は三寸 < 三節 > の舌先で五体を食いつぶすのだと歌われているよ)。

˞テンテン˜シ [˞tenteŋ˜ʃi] 【副】点々と。点を打ったように散在しているさま。˞マイガ˜キ　キ˞シブンドゥ　シーゾーニン˜ヌ　˜キンナー　˞テンテン˜シ　カ˞ツヌ　シーヌ˜　シキ　˞ベー [˞maiga˜ki ki̥˞ʃibundu ʃi:ʤo:nin˜nu ˜kinna: ˞tenteŋ˜ʃi kạ˞tsunu ʃi:nu˜ ʃi̥ki ˞be:](前掛け < エプロン > を着ているが製造人の着物に点々とカツオの血が付いている)。

˞デン˜トゥンテン [˞den˜tunteŋ] (1)【副】三線の音の形容。˞デン˜トゥン˞テン˜シ　ピ˞キ　オー˜ル　˞サンシンヌ˜　ウ˞ムッ˜サワ˞ナー˜　ユー　˞ナール　サンシンユン [˞den˜tun˞teŋ˜ʃi pi̥˞ki ʔo:˜ru ˞saŋʃinnu˜ ʔu˞mus˜sawa˞na:˜ ju: ˞na:ru saŋʃiŋjuŋ](テントゥンテンと弾いておられる三線の面白いことよねえ。よく鳴る三線だことよ)。**(2)**【名】幼児語。三線。ク˞バヌパーヌ˜　ウディシ　˞デン˜トゥンテン　ス˞ク˜リ　ッ˞ふォー˜リ [ku˞banupa:˜nu ˜ʔudiʃi ˞den˜tunten sụ˞ku˜ri f˞fo:˜ri](蒲葵 < びろう > の葉柄で三線を作ってください)。

˞テンブッツ [˞tembuttsu] 【名】でべそ (出臍)。˞ブッツヌ˜　キ˞シカタ˜ヌ　˞ワッ˜サカー　˞テンブッツ˜　ナルンティ˞ダー [˞buttsunu˜ ki̥˞ʃikata˜nu ˞was˜saka: ˞tembuttsu˜ narunti˞da:](臍の緒の切り方が悪いと出臍になるそうだよ)。

ト

˥トー [˥to:] 【固】(地) 唐。中国。˥トータビ [˥to:tabi](唐旅。中国への旅)。˥トープス [˥to:pu̥su](唐人。中国人)。˩トゥー˥ジェヌ　ウ˩ヤ˥プソー　˥トータビヌ　˩トゥー˥ジ　˩ソー˥レータティ　ア˩ズ˥　パ˩ナ˥シス˩クタン [˩tu:˥ʤenu ʔu˩ja˥pu̥so: ˥to:tabinu ˩tu:˥ʤi ˩so:˥re:tati ʔa˩ʣu˥ pa˩na˥ʃi su̥˩kutaŋ](通事家のご先祖は唐旅の通事＜通訳＞をされたという話を聞いたことがある)。

˩-トー [˩-to:] 【接尾】仕方、基準、方法を表す。動詞の連用形に付いて、守るべき基準や仕方、方法を表す。˥ムネー　イ˩ジットーヌ˥　ア˩リ˥ブ　˥ヌーヤ　˩ワー˥　ムネー [˥mune: ʔi˩ʤitto:nu˥ ʔa˩ri˥bu ˥nu:ja ˩wa:˥ mune:](言葉＜物言い＞には言い様があるものだ。何だね、君の物言いは)。イ˩ジットーヌ˥　アルカー　シ˩キットーン˥　アン [ʔi˩ʤitto:nu ˥ʔaruka: ʃi̥˩kitt:ŋ˥ ʔaŋ](ものごとには言い様があれば、聞き様もある)。

˩ト˥ー [˩to˥:] **(1)**【副】もう。さあ。もはや。それまで。˩ト˥ー　˥ウビシー　˥ミサン　˥メー [˩to˥: ˥ʔubiʃi ˥misam ˥me:](それまで。それだけでいいよ、もう)。**(2)**【感】はい、それまで。それでよい。˩トーティ˥　ア˩ズン˥ケンマー　ナー˩イ˥　カ˩サミ　ベー˥リ [˩to:ti˥ ʔa˩ʣuŋ˥kemma: na:˩i˥ ka˩sami be:˥ri](それまで＜終わり＞、と言うまでじっと＜そのまま＞掴(ツカ)んでおれ)。˥バー　ムー˩ル　シェー˥ン　˩ト˥ー　˩クン˥ドー　˩ワー　シー˥バ [˥ba: mu:˩ru ʃe:˥ŋ ˩to˥: ˩kun˥do: ˩wa: ʃi:˥ba](私は全部やった。さあ今度は君がやれよ)。

˩トー [˩to:] 【助】助詞連語。格助詞トゥ [tu](と＜相手＞) に係助詞ヤ [ja](は) が付いて、[tu] ＋ [ja] → [to:] のように融合変化した形。相手や対象となることばを取り上げて、その意味や発言意図を述べる。˩ワットー˥　マー˩ズンマー˥　パ˩ララ˥ヌ [˩watto:˥ ma:˩ʣumma:˥ pa˩rara˥nu](君とは一緒には行けない)。

˩トー [˩to:] **(1)**【名】終わり。終了。最期。˩トー˥ティ　ス˩ヌ˥　シゥ˩カンバン [˩to:˥ti su˩nu˥ si̥˩kambaŋ](終わり＜終了＞といっても聞かないよ)。˩キュー˥ヤ　˥ウビシ　˩トー˥　メー [˩kju:˥ja ˥ʔubiʃi ˩to:˥ me:](今日はこれで終わりだ、もう)。˩ウン˥ネヌ　˥アブジェー　˥メー　˩トー˥　ナ˩リ˥ル　˩オー˥ル [˩ʔun˥nenu ˥ʔabuʤe: ˥me: ˩to:˥ na˩ri˥ru ˩ʔo:˥ru](あの家のお祖父さんは、もう最期＜いまわ。死にぎわ＞になっておられる)。**(2)**【副】もう。もはや。˩トー˥　ウビシ　˥ミサン [˩to:˥ ʔubisi ˥misaŋ](もう、これでよい)。

˩ドー [˩do:] 【終助】～するよ。～するぞ。～だぞ。動詞の終止形に付いて、断定、強調の意味と言外に、聞き手からの許諾を得る意味を表す。˥バー　ニ˩ブント ドー [˥ba: ni˩bunト do:](私は寝るぞ＜良いですね?>)。ウ˩リウリ˥ー　アミ˩ドー　パー˥ク　˩ヤーン˥　ナカー　˩ペー˥リ [˩ʔuriʔuri˥: ʔami˩do: pa:˥ku ˩ja:n˥naka: ˩pe:˥ri](それ! 雨だぞ＜大変だぞ＞。早く家の中に入れ!)。˥バーラ　シ˩ダキ˥　パルン˩ドー [˥ba:ra ʃi˩daki˥ parun˩do:](私から先に行くぞ＜良いね＞)。

˩トー˥カキ [˩to:˥kaki] 【名】とかき (斗掻き)。枡をきるのに用いるが、こめさし＜米刺＞にも用いた。先を尖らせた長さ約 30 センチの竹筒。斜めに削いだ面を朱色に染めて米寿の祝いに飾る。˩トー˥カケー　˩マイバ˥　ム˩レー˥ル　˩バーキ˥ヌ　˥マイナー　˥タティ　カ˩ザリティル　トーカキ˥ヌ　˩ヨイ˥ヤー　˩ソーッ˥タ [˩to:˥kake: ˩maiba˥ mu˩re:˥ru ˩ba:ki˥nu ˥maina: ˥tḁti ka˩ʤaritiru to:kaki˥nu ˩joi˥ja: ˩so:t˥ta](斗掻きは、白米を盛った竹笊の前に並べ立てて飾って、米寿＜斗掻き＞の祝いはなされたものだ)。

˩トーカキ˥ヌ　˥ヨイ [˩to:kaki˥nu ˥joi] 【連】米寿の祝い。「斗掻きの祝い」の義。˩エン˥マー　˥アッパー　˩トーカキ˥ヌ　˥ヨイ　˩シー　オース˥　ス˩コール　シーベー [˩jem˥ma: ˥ʔappa: ˩to:kaki˥nu ˥joi ˩ʃi: ʔo:su˥ su̥˩ko:ru ʃi:be:](来年はおばあさんの米寿のお祝いをして差し上げる準備をしている)。

˹ドー˺ギ **[˹doː˺gi]** 【名】 (動)1シャモ (軍鶏)。背丈が高く精悍(セイカン)な大型の雄鶏。鳩間島では闘鶏はいなかった。˹ウン˺ネヌ ˹ドーギ˺ヌ パ˹ニ˺シ ハ˹ニビキヌ˺ サ˹ビ˺キ ス˹クリ˺ プサワ˹ナー [˹ʔun˺nenu ˹doːgi˺nu pa˹ni˺ʃi ha˹nibikinu˺ sa˹bi˺ki sʉ˹kuri˺ pʉsawa˹naː](あの家の大きな雄鶏の羽でさびき釣りの擬餌針(ギジバリ)を作ってみたいなあ)2転じて体格が大きく、動作の鈍い人。怠慢な若者。ウ˹レー ドー˺ギ ˺ナリティ ˹ウーキ ユーサ˺ヌ [ʔu˹reː doː˺gi˺nariti ˹ʔuːki juːsa˺nu](彼は図体が大きくなって、なかなか動くことが出来ない＜動き得ない＞)。プ˹リドーギ [pu˹ridoːgi](馬鹿でかい図体。体だけが大きくて何も出来ない人。うど (独活) の大木)。

˹トー˺サ **[˹toː˺sa]**【名】田草。田に生える雑草。[takusa] → [taɸusa] → [tausa] → [toːsa] のように音韻変化したもの。˹トーサ˺ トゥリン ˹パッ˺タ [˹toːsa˺ turim ˹pat˺ta](田草を取りに行った)。田草は引き抜いて茎を泥の中へ突っ込んで埋めた。畑の除草は、˺ッサ ˹ソールン [˺ssa ˹soːruŋ](草をさくる＜刹(サク)る＞。草を根こそぎ取る) のようにいう。

˹トーサ˺トゥリ **[˹toːsa˺turi]** 【名】田草取り。稲の除草。˹ヤーニン˺ズーシル ˹トゥーサ˺トゥレー ˹ソーッ˺タ [˹jaːnin˺ʤuːʃiru ˹toːsa˺tureː ˹soːt˺ta](家族で田草取りをされた)。

˹ドー˺シ **[˹doː˺ʃi]** 【接助】～＜ずに。～＜ないで。打消しの助動詞˹ン [˹n](ない) に付いて、次に繋ぐ働きをしめす。ヨー˹ヨー バシキランドー˺シ ˺アジ ッ˹サリト ダー [joː˹joː baʃi̥kirandoː˺ʃi ˺ʔaʤi s˹sari˺daː](よく気をつけて、忘れないで＜忘れずに＞申し上げなさいよ)。ナ˹カンドー˺シ パル˹ダー˺ マイフナー [na˹kandoː˺ʃi paru˹daː˺ maiɸunaː](泣かないで行くんだよ、お利口さん)。シ˹グトー サンドー˺シ ˺マナール カ˹タマー˺リ ˹ゲー˺ター [ʃi˹guto: sandoː˺ʃi ˺manaːru kḁ˹tamaː˺ri ˹geː˺taː](仕事はしないで、どこをほっつき歩いて＜ほっつき回って＞いたのか)。˹キュー˺ヤ ˹クーン˺ドーシ ˺アツァー ˺クー [˹kjuː˺ja ˹kuːn˺doːʃi̥ ˺ʔatsaː ˺kuː](今日は来ないで明日来い)。

˹トーシン˺バイ **[˹toːʃim˺bai]** 【名】流行性耳下腺炎 (mumps)。俗に、おたふくかぜ『医学沖縄語辞典』。˹トーシン˺バイ カ˹カ˺リティ ˹ミン˺ヌ ッ˹サーラー˺ フ˹クリ ベー˺バ プ˹スン˺ ウ˹ツァス˺ナ˹ヨー [˹toːʃim˺bai kḁ˹ka˺riti ˹min˺nu s˹saːra˺ ɸʉ˹kuri beː˺ba pʉ˹suŋ˺ ʔu˹tsasu˺na˹joː](おたふくかぜに罹って耳の下が腫れているから、他人に感染させるな＜移すな＞よ)。

˹トー˺スン **[˹toː˺suŋ]** 【他動】 1倒す。伐り倒す。˹トー˺シ ˺ミサカー ˹トー˺スンティ ウ˹ムーン˺ドゥ ˹バン˺マー ˹トーサラ˺ヌ [˹toː˺ʃi ˺misakaː ˹toː˺sunti ʔu˹muːn˺du ˹bam˺maː ˹toːsara˺nu](倒してよければ倒そうと思うが、私には倒されない)。˹トー˺ス ˺ムノー ˹パー˺ク ˹トー˺シェー ˺ミサムヌ [˹toː˺su ˺munoː ˹paː˺ku ˹toː˺ʃeː ˺misamunu](倒すものは早く倒せば良いのに)。ヨー˹ンナー トー˺シ [joː˹nnaː toː˺ʃi](ゆっくり倒せ)。˺キー ˹トー˺スン [˺kiː ˹toː˺suŋ](木を伐り倒す)。˹シン˺ザ ˹トー˺スン [˹ʃin˺ʤa ˹toː˺suŋ](砂糖黍を刈り取る＜伐り倒す＞)。2つぶす。絶家にする。イッ˹カナ˺シ ˺ヤー ˹トー˺シェー ナ˹ラ˺ヌ [ʔik˹kana˺ʃi ˺jaː ˹toː˺ʃeː na˹ra˺nu](決して家を倒しては＜絶家にしては＞ならない)。

˹トー˺スン **[˹toː˺suŋ]** 【他動】着物をつぶす。ム˹カ˺シェー ッ˹ふキン˺バ ˹トー˺シティ シ˹ビシ˺ケー ˹サーソーッ˺タ [mu˹ka˺ʃeː fˢfukim˺ba ˹toː˺ʃi̥ti ʃi ˹biʃi̥˺keː ˹saːsoːt˺ta](昔は古着をつぶして＜倒して＞おしめを作られた)。

˹トー˺スン **[˹toː˺suŋ]** 【他動】補助動詞。～し尽くす。他動詞の連用形に付いて、動詞の意味を強調する。意味的には達成される動作に粗削りで力強い感じを与える。˺ウタ イ˹ジットースン [˺ʔuta ʔi˹ʤitto:suŋ](歌を歌いつくす)。ウ˹ムイットー˺スン [ʔu˹muitto:˺suŋ](思い尽くす。愛し尽くす)。˹ウイットースン [˹ʔuitto:suŋ](どこまでも追っ払う。追っ払い尽くす)。カ˹リットースン [ka˹ritto:suŋ](刈りつくす)。キ˹シットー˺スン [ki̥˹ʃitto:˺suŋ](伐り尽くす)。ッ˹ふァイトースン [fˢfaito:suŋ](食い尽くす)。

˺トータビ **[˺toːtabi]** 【名】 1唐旅。中国への旅行。˹クン˺ネヌ ウ˹ヤ˺プスナー ˺トータビ ˹ソー˺レー プ˹スヌ オーッ˺タンツォー [˹kun˺nenu ʔu˹ja˺pusunaː ˺toːtabi ˹soː˺reː pʉ˹sunu ʔoːt˺tantsoː](この家のご先祖に唐旅をされた人がおられたそうだ)。2冥土への旅。˹ナーワチライ シー オーッタ˺ヌ ˺トータビ ˹ソー˺リ ˹ナー˺ヌ [˹naːwatʃirai ʃiː ʔoːtta˺nu ˺toːtabi ˹soː˺ri ˹naː˺nu](長患いをしておられたが、冥土へ旅立たれて＜唐旅をされて＞しまった)。

˹トーティ スー˺カー **[˹toːti suː˺kaː]** 【連】いざという時に。さあと言う時になって。結局は。あげくの果て。終には。とどのつまり。「最後と言うと」の義。˺パルン ˺パルンティ ˹シー˺ プ˹スバ˺ ア˹ティ˺ シ˹ミ ベー˺ティ ˹トーティ スー˺カー パ˹ラ

ン˺ティバーヤ [˺parum ˺parunti ˹ʃiː˺ pu̥˹suba˺ ʔa˹ti ˺ʃi˹mi beː˺ti ˹toːti suː˺kaː pa˹ran˺tibaːja](行く、行くといって、すっかり人を当てにさせておきながら、挙句の果てには＜いざという時になって＞行かないんだってよ)。

ドー˹ディン **[doː˹diŋ]** 【副】どうぞ。どうか。何卒。相手に強く依頼、勧誘、嘆願、祈願する意を表す。「どうでも＜どうしても、どうあっても＞」の転訛したもの。ドー˹ディン˺　バー　ニ˹ガイ˺ユ　シ˹キトゥドゥキ˺　タ˹ボー˺リ [doː˹dim˺ baː ni˹gai˺ju ʃi̥˹kituduki˺ ta˹boː˺ri](どうか私の願いをお聞き届けくださいませ＜お聞き届け賜れ＞)。

ドー˹ディンカー˺ディン **[doː˹diŋkaː˺diŋ]** 【副】なにとぞ。どうぞ、どうぞと懇願するさま。ABCDEFCD型の重言。タ˹ナ˺ム　˺ピンマー　ドー˹ディンカー˺ディン　˹シェー˺ティ　˹アー˺キティ　ナ˹ル˺タ　˺クトー　イ˹カシタ˺ティ　˹ナー˺ヌ [ta˹na˺mu ˺pimmaː doː˹diŋkaː˺diŋ ˹ʃeː˺ti ˹ʔaː˺kiti na˹ru˺ta ˺ku̥toː ʔi˹kaʃi̥ta˺ti ˹naː˺nu](頼む時は、なにとぞと懇願していて、希望が叶った後は見向きもしない＜如何(イカガ)かともない＞)。

˹ト˺ー˹ト˺ー **[˹toˀː˹toˀː]** 【感】よしよし。もうよい、もうよい。˹ト˺ー˹ト˺ーティ　ア˹ザバン˺　タ˹ダーイ˺　イ˹リス　ムヌ˺　ウ˹ビ˺ナー　ヌ˹マラ˺ヌ [˹toˀː˹toˀːti ʔa˹ʤaban˺ ta˹daːi˺ ʔi˹risu munu˺ ʔu˹bi˺naː nu˹mara˺nu](もうよい、もうよいと言ってもどんどん入れるんだもの、あんなには飲めない＜飲まれない＞)。

˹トートゥ **[˹toːtu]** 【感】あなたうと。尊い神様、仏様。神様、仏様なにとぞ～。神様、仏様どうぞ～。畏敬する神仏への祈願の冒頭に、神仏へ呼びかけることば。「父母を見れば多布斗斯＜タフトシ＞～。万、800」の転訛したものか。/～˹タン˺ディ˹トートゥ˺　マ˹ブ˺ルシュ　アミブ˹シャ˺ヌ　ガ˹ラ˺ク˹トートゥ˺　カミガ˹ナ˺シ　アミブ˹シャ˺ヌ/(尊い神様、なにとぞ守護神様、雨が欲しいです。願わくば尊い神様　雨が欲しいです) ア˹マン˺グイ [ʔa˹maŋ˺gui](雨乞い神歌。ナガミク)『鳩間島古典民謡古謡集』。

˹トートゥガナシ **[˹toːtuganaʃi]** 【名】お月様。首里方言からの借用語か。十五夜の月見の祈願の際に用いる語。˹ユシキ˺ヌ　パ˹ナ˺トゥ　ミ˹キン˺　パ˹ナン˺グミン　シ˹キティ　トートゥガナ˺シ　ウ˹ガ˺ミバ [ju˹ʃi̥ki˺nu pa˹na˺tu mi˹kim˺ pa˹naŋ˺gumiŋ ʃi̥˹kiti toːtugana˺ʃi ʔu˹ga˺miba](ススキの花とお神酒も、花米も供えてお月様を拝みなさい)。

˹トー˺ニ **[˹toː˺ni]** 【名】1田 舟。[taɸune] → [tawune] → [tauni] → [toːni] と音韻変化したもの。フ˹ノー˺ル [ɸu˹noː˺ru](田船) ともいう。ユ˹ビター [ju˹bitaː](深い田圃) で作業をする際に使う小さな舟。赤木などを刳り貫いて、幅約 30 センチ、長さ約 150 センチの長方形に作った小舟。田均しをしたり、苗を運んだりするのに用いた。ユ˹ビターナー˺ヤ　˹トー˺ニー　シゥ˹カイル˺　シ˹グトー　ソーッタ˺ル [ju˹bitaːna˺ja ˹toː˺niː si̥˹kairu˺ ʃi ˹guto: soːtta˺ru](深い田圃には田舟を使って仕事をされたものだ)。2豚のかいばおけ (飼葉桶)。幅約 30 センチ、長さ約 50 センチの箱型の田舟。ア˹カンキー [ʔa˹kaŋkiː](赤木) の幹を刳り貫いて飼料を入れることが出来るように作ってある。˹トー˺ニナー　˹オー˺ヌイー　イ˹リティ˺　ッ˹ふァーシバ˺　キ˹モーッ˺サ　ッ˹ふント ツォー [˹toː˺niːna ˹ʔoː˺nuʔiː ʔi ˹riti˺ f˹faːʃiba˺ ki˹moːs˺sa ˹funt-tsoː](飼葉桶に豚の飼料＜飯＞を入れて食わせると、気持ちよく食べるんだよ)。

˹トー˺ヌ　˹ハッ˺シン **[˹toː˺nu ˹haʃ˺ʃiŋ]** 【連】唐の八臣。唐の皇帝の身を守護する八柱の臣下の義か。屋敷の祈願で唱える祝詞のことば。˹トー˺ヌ　˹ハッ˺シン　ヤ˹マトゥ˺ヌ　ク˹カル˺　ウ˹キナー˺ヌ　˺サンシクゥン　˹ヤイマヌ˺　カサ　˹ミートゥクル～[˹toː˺nu ˹haʃʃiŋ ja˹matu˺nu ku̥˹karu˺ ʔu˹kinaː˺nu ˺saŋʃikwŋ～˹jaimanu˺ kasa ˹miːtukuru～](唐の八神、大和の九家老、沖縄の三司官、八重山の頭＜カシラ＞お三方～)。

˹トー˺ヌユー **[˹toː˺nujuː]** 【名】琉球が中国の冊封体制下にあり、中国を宗主国としていた時代。明代から清朝ごろまで。「唐の世」の義。ウ˹キナー˺ヤ　˹トー˺ヌユー　ヤ˹マトゥ˺ユー　ア˹メリカ˺ユーティ　˺ナリ　マ˹タ˺　ヤ˹マトゥ˺ユー　˺ナレー˹ダー [ʔu˹kinaː˺ja ˹toː˺nujuː ja˹matu˺juː ʔa˹merika˺juːti ˺nari ma˹ta˺ ja˹matu˺juː nareː˹daː](沖縄は唐の世、大和世、アメリカ世となって、また大和世になったのだよ)。

˹トーバ˺サ **[˹toːba˺sa]** 【名】(植) 実のなる芭蕉。ナ˹リバ˺サ [na˹riba˺sa](実のなる芭蕉) ともいう。˹ヤーカー˺ジナー　˹トーバ˺サー　イ˹ビラリ　ブタン [˹jaːka˺ʤinaː ˹toːba˺saː ʔi˹birari butaŋ](家毎に実のなる芭蕉が植えられていた)。

˹トーバン **[˹toːbaŋ]** 【名】交替でする仕事の番に当たること。明治 29 年の学校教育の始まりと共に標準語から転訛したことば。˹キュー˺ヌ　˹ソージ

˥ヌ　˞トーバンマー　ター˥ヤ [˞kjuː˥nu ˞soːʤi˥nu ˞toːbammaː taː˥ja](今日の掃除当番は誰か)。

˞トーヒャー [˞toːça:] 【感】さあさあ。それそれ。一大事になった。何らかの失敗により、大変な事態に至った時に発することば。次に、「大変だ」、「困った」などの表現を誘導する。˞トーヒャー　デー˥ジ˞ギャ˥ー　˥アブジェーン　イ˞ザリ˥ギャー [˞toːça: deː˥ʤi ˞gja˥: ʔa˞buʤeːŋ˥ ʔi˞ʤari˥gjaː](さあさあ大変さ、お祖父さんに叱られるさ)。

トービ˞ラー˥マ [toːbi˞raː˥ma] 【名】蝶。胡蝶。蛾。˞ダイクニ˥ヌ　パ˞ナ˥ヌ　˥サクカー　トービ˞ラーマ˥ヌ　ア˞ツァ˥マリ　˥クン [˞daikuni˥nu pa˞na˥nu ˥sḁkuka: toːbi˞raːma˥nu ʔa˞tsa˥mari ˥kuŋ](大根の花が咲くと胡蝶が集まってくる)。

˥トーピン [˥toːpiŋ] 【名】当日。祭りの当日。豊年祭や結願祭などの大きな祭りの前夜は˞ユーングム˥ル [˞juːŋgumu˥ru](夜籠り。夜籠りで祈願すること) で、祭りの当日に˞ブドゥルキョンギン [bu˞durukjoŋgiŋ](踊り狂言) の余興が行われる。˞プー˥ル　キチゴンヌ　˥トーピンナール　˞ブドゥルキョンギンマー　ソーッタ˥ル [˞puː˥ru ˥kitʃigonnu ˥toːpinnaːru bu˞duru kjoŋgimmaː soːtta˥ru](豊年祭、結願祭の当日に踊り、狂言 < 演劇 > はなさったものだ)。

˞トー˥フ [˞toːɸu] 【名】豆腐。約 12 時間水に浸けた˞トー˥フマミ [˞toː˥ɸumami](大豆) を桶の上のア˞ジ˥マー [ʔa˞ʤi˥maː](十字に交差した支柱) の上に据えて石臼で挽き、豆汁 (ごじる) を布漉(ヌノゴシ)にして豆乳と˞トーフ˥ヌカシ [˞toːɸu˥nukaʃi](おから) に分け、豆乳を煮て苦汁(ニガリ)を加え、凝固させた食品。˞トー˥フマミバ　プ˞ス˥ユー　ミ˞ジ˥ナー　シ˞キティ˥　イ˞ソーシ˥シ　ピ˞キ˥　シロー　フ˞ク˥ルシ　ク˞シティ˥　カシェー　˥トゥリ　シ˞ル˥バ　˞ネーシ˥　ン˞ガ˥リ　イ˞リ˥　カ˞タマラシティル˥　パ˞ク˥ナー　イ˞リ˥　ウ˞ムシ˥シ　˞ウシキティ˥　˞トー˥フ　ス˞クローッタ [˞toː˥ɸumamiba pu̥˞su˥juː miʤi˥naː ʃi̥˞kiti˥ ʔi˞soːʃi˥ʃi pi̥˞ki˥ ʃiroː ɸu̥˞ku˥ruʃi ku̥˞ʃiti˥ kḁʃeː ˥turi ʃi˞ru˥ba ˞neːʃi̥ti˥ ŋ˞ga˥ri ʔi˞ri˥ kḁ˞tamaraʃi̥tiru˥ pḁ˞ku˥naː ʔi˞ri˥ ʔu˞muʃi˥ʃi ˞ʔuʃi̥kiti˥ ˞toː˥ɸu su̥˞ku˥roːtta](大豆を一晩水に浸けて、石臼で挽き、汁は袋で漉しておから < 豆腐の殻 (糟)> は除き、汁を煮てニガリを入れ、凝固させてから木箱に入れて重石で押して、固まらせて豆腐を造られた)。

˥トープス [˥toːpu̥su] 【名】唐人。中国人。˥トープソー　パ˞ナ˥シナール　シ˞キミッタ˥ル　˥ミリ　ミ˞ラン˥シェン [˥toːpu̥soː pa˞na˥ʃinaːru ʃi̥˞kimit˥taru ˥miri mi˞raŋ˥ʃeŋ](唐人は話しの上で < ぞ > 聞いてみたのだ。見たことはない)。

˞トー˥フチャンプルー [˞toː˥ɸutʃampuruː] 【名】料理名。豆腐、野菜などを主にして肉などを取りまぜ、油で炒めた料理。˞ゴーヤーチャン˥プルー [˞goːjaːtʃam˥puruː](にがうりの炒めもの) にも豆腐をいれるし、マ˞ミナーチャン˥プルー [ma˞minaːtʃam˥puruː](もやしの炒めもの) にも豆腐をいれた。˞トー˥フチャンプロー　˥ユー　ッ˞ふァーソーッ˥タンウ˞リル　クゥッ˥チー　˞ヤッタル [˞toː˥ɸutʃampuroː ˥juː f˞faːsoːt˥taŋ ʔu˞riru kwat˥tʃiː ˞jattaru](豆腐チャンプルーはよく食べさせられた。それがご馳走であったよ)。

˞トー˥フナビ [˞toː˥ɸunabi] 【名】豆腐を造るのに用いる大鍋。大豆を挽いた汁を入れて煮立てる鍋。˞トー˥フナビ　シ˞キティ　トーフ˥ヌ　˥シル　˞ネーシティ　トー˥フ　マ˞ラシ˥バ [˞toː˥ɸunabi ʃi̥˞kiti toːɸu˥nu ˥ʃiru ˞neːʃi̥ti toː˥ɸu ma˞raʃi˥ba](豆腐を造る鍋を竈に据えつけて豆腐の汁 <豆汁(ゴジル)> を煮て豆腐を製造し < 生ませ > なさいよ)。

˞トーフ˥ヌ　イ˞ラキ˥ムヌ [˞toːɸu˥nu ʔirakiˀmunu] 【連】豆腐の炒め物。豆腐のチャンプルー。豆腐と野菜、豚肉、あるいはカマボコ等を油で炒めたもの。˞トーフ˥ヌ　イ˞ラキ˥ムノー　イッ˞ケン˥　ン˞マー˥タン [˞toːɸu˥nu ʔi˞raki˥muno: ʔi˞kkem˥ ʔm˞maː˥taŋ](豆腐の炒め物 < チャンプルー > は非常に美味しかった)。

˞トーフ˥ヌカシ [˞toːɸu˥nukaʃi] 【名】おから。豆腐殻。「豆腐の糟」の転訛したもの。おからを魚肉や豚肉、野菜類とチャンプルーにして食することが多かった。˞トーフ˥ヌカシシ　˞ズー˥シ　バ˞カス˥カー　イッ˞ケン˥　ン˞マー˥タン [˞toːɸu˥nukąʃiʃi ˞ʤuː˥ʃi ba˞kasu˥ka: ʔik˥kem˥ ʔm˞maː˥taŋ](おからで雑炊を炊くと非常に美味しかった)。

˞トーフ˥ヌカシヌ　イ˞ラキ˥ムヌ [˞toːɸu˥nukąʃinu ʔi˞raki˥munu] 【連】おから炒め。おからの炒め物。おからを油で炒めたもの。おからにネギ、人参、大根、カマボコ、または豚肉などを混ぜて油で炒めたもの。˞トーフ˥ヌカシヌ　イ˞ラキ˥ムノー　ン˞マー˥タン [˞toːɸu˥nukąʃinu ʔi˞raki˥muno: ʔm˞maː˥taŋ](おからの炒め物は美味しかった)。

˞トーフ˥ヌ　˥スー [˞toːɸu˥nu ˥suː] 【連】豆腐を具にして入れたお汁。日常食では、豆腐を賽の目に切ることなく、手で割っていれた。˞トーフ˥ヌ　˥スー

バ˞カシティ˞　ッ˞ふァース˞カー　˞クンキ˞　シ˞キ˞ルン [˞toːɸu˞nu ˞suː ba˞kaʃi˞ f˞faːsu˞kaː ˞kuŋki˞ ʃi̥˞ki˞ruŋ](豆腐のお汁を炊いて食べさせると根気＜元気＞がつく)。

˞トーフ˞ヌ　˞スナイ **[˞toːɸu˞nu ˞sunai]** 【連】豆腐の和え物。サ˞クナ [sḁ˞kuna](ボタンニンジン。俗称は長命草) を豆腐で和えたもので、健康に良いといわれている。˞トーフ˞ヌ　ス˞ナイ˞ヤー　ナ˞ガイキヌ˞　フ˞チ˞ルティ　ア˞ザリ　ブー [˞toːɸu˞nu su˞nai˞jaː na˞gaikinu˞ ɸu̥˞ʧi˞ruti ʔa˞ʤari buː](長命草の豆腐和えは長命の薬といわれている)。

˞トーフ˞ヌ　ン˞ブシ˞ムヌ **[˞toːɸu˞nu ʔm˞buʃi˞munu]** 【連】豆腐の煮しめもの。豆腐に野菜を刻んで混ぜ、魚肉と一緒に煮しめた料理。法事の供物には大根を角切りにしたものと煮しめたものを重詰めにして供えた。˞トーフ˞ヌ　ン˞ブシ˞ムノー　イ˞ズヌ˞　ダシ　シ˞キティ˞　ン˞マー˞ン [˞toːɸu˞nu ʔm˞buʃi˞munoː ʔi˞ʤunu˞ daʃi ʃi̥˞kiti˞ ʔm˞maː˞ŋ](豆腐の煮しめものは魚の出汁が効いて＜付いて＞美味しい)。

˞トー˞フパク **[˞toː˞ɸupḁku]** 【名】「豆腐箱」の義。豆腐鍋で煮立てられ凝固してきた豆腐を木箱に流し込んで入れ、重石を掛けて水切りをし、四角い豆腐に仕上げる箱。˞トー˞フパクナー　ユ˞シドーフ˞　イ˞リティ˞　イ˞ソーシ˞シ　˞ウシキティ　トー˞フ　カ˞タマラシ [˞toː˞ɸupakunaː ju˞ʃidoːɸu˞ ʔi˞riti˞ ʔi˞soːʃi˞ʃi ˞ʔuʃi̥kiti toː˞ɸu kḁ˞tamaraʃi](豆腐箱に凝固しかけた豆腐を入れて、石臼の重石で押して木綿豆腐に固めなさい)。

˞トー˞フマミ **[˞toː˞ɸumami]** 【名】(植) 大豆。「豆腐豆」の義。昭和 30 年代までは鳩間島でも大豆や小豆(アズキ)、緑豆を自家用に作っていた。子供は豆を食い荒らす土鳩を捕獲するために、˞ヤマ [˞jama](鳩捕獲用の仕掛け。罠) を畑に仕掛けた。˞トー˞フマミ　イ˞ビティ˞　ア˞トゥ˞ヌ　パ˞タ˞ケーヤ　˞ウン˞マー　イッ˞ケン　ミールタン [˞toː˞ɸumami ʔi˞biti˞ ʔa˞tu˞nu pḁ˞ta˞keːja ˞ʔum˞maː ʔik˞kem miːrutaŋ](大豆を植えた後の畑は、芋が非常によく稔ったものである)。

˞トー˞フマミヌ　˞スー **[˞toː˞ɸumaminu ˞suː]** 【連】大豆のお汁。「豆腐豆の汁」の義。大豆を水に浸してふやかし、˞ダイ˞パー [˞daiˀpaː](擂鉢) に入れてシ˞ルング˞チ [ʃi˞ruŋgu˞ʧi](擂り粉木) で擂り潰してお汁に炊いたもの。豆腐を造る時間的余裕がない時に造った。マ˞ブ˞ル [ma˞bu˞ru](遊離魂。転倒したり、極度に驚いたりした時に肉体から抜け出るという魂) の大好物といわれ、魂籠めの祈願をする際には必ず造られる。マブルを呼び寄せる必需食品という。˞トー˞フマミヌ　˞スー　バ˞カシティ˞　マ˞ブ˞ル　˞クミバ [˞toː˞Fumaminu ˞suː ba˞kaʃi̥ti˞ ma˞bu˞ru ˞kumiba](大豆のお汁を炊いて魂籠めをしなさいよ)。

˞トー˞フヤー **[˞toː˞ɸujaː]** 【名】豆腐屋。豆腐店。豆腐を造って売る家。パ˞トゥ˞マナー　˞トー˞フヤーヤ　˞ナーン˞シェン　˞ナーメーメーヌ˞　ヤーナーティル　˞トー˞ホー　ス˞クル˞タ [pḁ˞tu˞manaː ˞toː˞ɸujaːja ˞naːŋ˞ʃeŋ ˞naːmeːmeːnu˞ jaːnaːtiru ˞toː˞hoː su̥˞kuru˞ta](鳩間島では豆腐屋はなかった。各自＜銘銘＞の家で豆腐は造った)。

˞トー˞ブン **[˞toː˞buŋ]** 【名】当分。暫くの間。当座。標準語からの借用語。˞マイカリジブン˞ナリ　˞トーブン˞マー　˞パンタサ˞ヌ　イ˞サナケー˞　パ˞リユーサ˞ヌ [˞maikariʤibun˞ nari ˞toːbum˞maː ˞pantasa˞nu ʔi˞sanakeː˞ pa˞rijuːsa˞nu](稲刈りの時期になり、当分は忙しくて＜繁多さで＞石垣島へは行けない＜行き得ない＞)。

˞トームニ **[˞toːmuni]** 【名】唐言葉。中国語。「唐物言い」の義。˞トームネー　˞ヌーティル　ア˞ジ　ブー˞ユー　ムッ˞トゥ˞　ア˞ティンガーラヌ [˞toːmuneː ˞nuːtiru ʔa˞ʤi buː˞juː mut˞tu˞ ʔa˞tiŋgaːranu](中国語＜唐言葉＞は何と言っているのか全く＜ちっとも＞分からない＜見当がつかない＞)。˞トゥー˞ジェヌ　ウ˞ヤ˞プソー　˞トームネー　ッ˞シオー˞レール˞ナー [˞tuː˞ʤenu ʔu˞ja˞pu̥soː ˞toːmuneː ʃ˞ʃiʔoː˞reːru˞naː](通事家のご先祖は唐言葉＜中国語＞はきっと知っておられたのだろうよねえ)。

˞トーヤマトゥ **[˞toːjamatu]** 【名】唐大和。中国や日本本土。ク˞ヌ˞　シ˞ナムノー˞　トーヤ˞マ˞トーラ　˞ケー　˞シ˞ナムヌ˞　ヤ˞ルンダ˞　マー˞ンマーン˞ナーン　˞カーリ　ムノー˞　ア˞ラ˞ヌ [ku˞nu˞ ʃi˞namunoː˞ toːja˞ma˞toːra ˞keː ʃi˞namunu˞ ja˞runda˞ maː˞mmaːn˞naːŋ ˞kaːrimunoː˞ ʔa˞ra˞nu](この品物は唐大和からきた品物だから、どこにもそこにも買える＜買われる＞ものではない)。

˞トー˞ラ **[˞toː˞ra]** 【名】炊事小屋。台所。母屋の側にある炊事をする小屋。母屋がヌ˞キヤー [nu˞kijaː](貫き家建築) であるのに対し、˞トー˞ラはア˞ナ˞プリヤー [ʔa˞na˞purijaː](穴堀家。掘っ立て小屋)、˞ガヤヤー [˞gajajaː](茅葺家) もあった。大中小の竈を備えて火の神を安置し、室外には水瓶を置き。薪棚を竈

の上に作って薪を乾燥させ、炊事作業をする台所と室内作業場、農具置き場を兼ねた多機能の小屋である。「とのぐら」の転訛したもの『沖縄今帰仁方言辞典』。または、「トゥン (殿)」と「倉」の熟合形『図説琉球語辞典』ともいわれる。˞トーラ˞ナー　ウ˞ブカマ˞チ　ナ˞カカマ˞チ　カ˞マチェー˞マン　ス˞クˀ˞リ　カ˞マチヌ　ウイ˞ナー　タ˞ムˀ˞ヌダナン　ス˞クˀ˞リティ　˞ウンˀ˞ユン　˞イー˞ユン　バ˞カシ˞　ユーン　フ˞カˀ˞シティ　ア˞ミˀ˞ヌ　˞フー　˞ピンマー　˞ウナーティル　シ˞グトゥン　ソーッタˀ˞ル [˞toː rana: ʔu˞bukama˞ʧi na˞kakama˞ʧi ka˞matʃeː˞man sʊ˞kuˀ˞riti ka˞matʃinu ʔui˞na: ta˞muˀ˞nudanan sʊ˞kuˀ˞riti ˞ʔuŋ˞juŋ ˞ʔiː˞jum ba˞kaʃi˞ juːŋ ɸʊ˞kaˀ˞ʃi̥ti ʔa˞miˀ˞nu ˞ɸu: ˞pimma: ˞ʔunaːtiru ʃi˞gutun soːtta˞ru](トーラには大竈、中竈、小竈も造り、竈の上には薪棚の作って、芋もご飯も炊き、お湯も沸かして、雨が降る時はそこで＜ぞ＞仕事もされたものだ)。

˞トーラリˀ˞ムヌ **[˞toːrari˞munu]**【名】到来物。お祝いや新築の際に贈られてくる物品。お中元やお歳暮として贈られてくる物品。「賜り者」が [tabo:rarimunu] → [taworarimunu] → [to:rarimunu] と音韻変化したもの。˞トーラリˀ˞ムヌ　˞バキティ　ムティ˞ギー˞　ヤ˞ラˀ˞ビンケーン　ン˞マー˞ムヌ　ス˞クˀ˞リ　ッ˞ふァーシˀ˞バ [˞toːrari˞munu ˞baki muti˞giː˞ ja˞ra˞biŋkeːm ʔm˞maː˞munu sʊ˞kuˀ˞ri f˞faːʃi ˞ba](到来物を分けて持っていって子供たちに美味しいものを作って食べさせてやりなさいよ)。

˞ドーˀ˞リ **[˞doː˞ri]**【名】道理。人の行うべき正しい道。ことわり。標準語からの借用語。˞アイブ　˞ドー˞レー　˞ナー˞ヌ [˞ʔaibu doː˞reː ˞naː˞nu](そのような道理＜理屈＞はない)。

˞トーリˀ˞カー **[˞toːri˞kaː]**【名】とりかじ (取舵)。船首＜舳先＞を左の方へ向けるよう舵を取れと叫ぶこと。ウ˞ムˀ˞カー [ʔu˞muˀ˞kaː](面舵) の対義語。トゥ˞リˀ˞カジ [tu˞riˀ˞kaʤi](取舵) ともいう。大正期に海軍の退役軍人が海軍航海用語をカツオ漁船の操船の際に使用し、流行させたものという。伝統方言では、˞オーラー [˞ʔoːraː](風上の方向)、ッ˞ソーマー [s˞soːmaː](風下の方向) のようにいう。˞トーリˀ˞カー　˞トーリˀ˞カー　˞ヨー˞ソロー　˞ヨー˞ソロー [˞toːri ˞kaː ˞toːri˞kaː ˞joː˞soroː ˞joː˞soroː](取舵! 取舵! 微速前進! 微速前進!)。

˞トー˞リョー **[˞toː˞rjoː]**【名】棟梁。大工の頭。標準語からの借用語。˞アブジェー　˞トー˞リョー　˞シー˞　ス˞クˀ˞ローレー　˞ヤー˞ヤ　˞ウブシケートゥ　パ˞ナシケー˞　ユージェーカー˞ニル˞　ヌ˞カˀ˞リ　˞ブー [˞ʔabuʤeː ˞toː˞rjoː ˞ʃiː˞ sʊ˞kuˀ˞roːreː ˞jaː˞ ja ˞ʔubuʃikeːtu pa˞naʃi̥keː˞ juːʤeː ka:˞niru˞ nu˞kaˀ˞ri ˞buː](お祖父さんが棟梁として造られた家は大城家と花城家、松竹家だけが残っている)。

˞トーリˀ˞ルン **[˞toːri˞ruŋ]**【自動】倒れる。滅びる。「倒れる (下一段)」の転訛したもの。˞トー˞ルンとも言う。˞ヤー˞ヤ　˞タイˀ˞フーナ　˞トーリˀ˞ルンティ　ウ˞ムータンˀ˞ドゥ　˞トーリランˀ˞シェン [˞jaː˞ja ˞taiˀ˞ɸuːna ˞toːriˀ˞runti ʔu˞muːtanˀ˞du ˞toːriraŋˀ˞ʃeŋ](家は台風で倒れるかと思ったが倒れなかった)。ク˞ヌ˞　カ˞ジˀ˞ナ　˞トーリˀ˞ル　˞ヤー˞ヤ　˞トーリヤッ˞サ　˞ヨーニル　ス˞クラˀ˞リ　˞ブー˞ヨー [ku˞nu˞ ka ˞ʤiˀ˞naː ˞toːriˀ˞ru ˞jaː˞ja ˞toːri jas˞sa ˞joːniru sʊ˞kura˞ri ˞buː˞joː](この風で倒れる家は倒れ易いようにが＜ぞ＞造られているよ)。˞トーリˀ˞レー　˞ミサムヌ [˞toːriˀ˞reː ˞misamunu](倒れればよいのに)。˞パー˞ク　˞トーリˀ˞リ [˞paː˞ku ˞toːriˀ˞ri](早く倒れろ)。˞ウンˀ˞ネヌ　˞ヤームˀ˞トー　˞トー˞リ　˞ナー˞ヌ [˞ʔunˀ˞nenu ˞jaːmu˞toː ˞toː˞ri ˞naː˞nu](あの家の本家は滅んで＜絶家になって＞しまった)。

˞トーリンˀ˞ギサン **[˞toːriŋˀ˞gisaŋ]**【形】倒れそうである。˞ビーティ　˞ヨーッタビーティ　˞トーリンˀ˞ギサンドゥ　˞トーラˀ˞ンシェン [˞biːti ˞joːttabiːti toːriŋ ˞gisandu ˞toːraŋˀ˞ʃen](酔っ払って、ふらついて今にも倒れそうだが、倒れなかった)。˞トーリンˀ˞ギサー　˞ナー˞ヌ [˞toːriŋˀ˞gisaː ˞naː˞nu](倒れそうではない＜倒れる様子はない＞)。

˞ドールドール **[˞doːrudoːru]**【副】ざあざあ。どうどう。雨が激しく降るさま。川の水が激しく流れるさま。˞ドールドールˀ˞シ　ア˞ミˀ˞ヌ　˞フーン [˞doːrudoːruˀ˞ʃi ʔa˞miˀ˞nu ˞ɸuːŋ](ざあざあと雨が降る)。**/(5)** ニ˞カˀ˞ヌ　˞ユーヌ　ユ˞ナカˀ˞ニヨー　ユ˞サˀ˞ヌ　˞ユーヌ　ユ˞ナカˀ˞ニヨー　ハーリ　˞アミ　タ˞ボー˞リ　˞リュー˞ガナシ (今夜の、夜の、夜中に＜囃子＞ヨー、夜さり夜の、夜中に＜囃子＞ヨー、ハーリ　雨を賜れ龍神さま)　**(6)**˞ドールドールˀ˞シ　タ˞ボーラˀ˞リヨー　˞ザールザールˀ˞シ　タ˞ボーラˀ˞リヨー　˞ハーリ　˞アミ　タ˞ボー˞リ　˞リュー˞ガナシ (ドードーと雨を降らして下さい＜賜れよ＞、ザーザーと雨を降らして下さい＜賜れ＞竜神さま) アˀ˞マンˀ˞グイ [ʔa˞maŋˀ˞gui](雨乞い歌。ハヤミク)『鳩間島古典民謡古謡集』。

˞トー˞ルン **[˞toː˞ruŋ]**【自動】倒る。倒れる。滅ぶ。「たふる (倒る) 下二段」の転訛したものか。『源氏

物語 (蛍)』の転訛したもの。⌈トー⌉ルンティ　ウ⌈モーン⌉シェンドゥ　⌈トー⌉リ　⌈ナー⌉ヌ [⌈toː⌉runti ʔu⌈moːŋ⌉ʃendu ⌈toː⌉ri ⌈naː⌉nu](倒れると思わなかったが倒れてしまった)。⌈トーラン⌉　クトー　⌈ナーヌ⌉ヌ　⌈トー⌉ル　⌈ヤー⌉ヤ　パ⌈ラーン⌉ドゥ　⌈ヨー⌉パジ [⌈toːraŋ⌉ ku̥toː ⌈naːnu⌉nu ⌈toː⌉ru ⌈jaː⌉ja pa⌈raːn⌉du ⌈joː⌉padʑi](倒れないことはないが、倒れる家は柱が弱いはずだ)。⌈トー⌉レー　⌉ミサムヌ [⌈toː⌉reː ⌉misamunu](倒れればよいのに)。⌉アイブ　⌉ムノー⌈パー⌉ク　⌈トー⌉リ [⌉ʔaibu ⌉munoː ⌈paː⌉ku ⌈toː⌉ri](あんなものは早く倒れろ)。

⌈トー⌉ルン [⌈toː⌉ruŋ] 【他動】たぐる (手繰る)。綱などを両手で交互に引き寄せる。パ⌈マー⌉ラ　イ⌈ガジバ　ナン⌉ゲー　⌈トーリ　トー⌉リ　⌈シェー⌉ティル　ク⌈ル⌉スメーン　イ⌈ガン　ホー⌉シタ [pa⌈maː⌉ra ʔi⌈gadʑiba naŋ⌉geː ⌈toːri toː⌉ri ⌈ʃeː⌉tiru ku⌈ru⌉sumeːŋ ʔi⌈gaŋ hoː⌉ʃi̥ta](浜から疑似餌を投げては手繰り手繰りしてコブシメ < 紋甲烏賊 > や烏賊も釣られた)。⌉ナー　⌈トー⌉ルンティ　⌈ベー⌉ンドゥ　⌈トーララ⌉ヌ [⌉naː ⌈toː⌉runti ⌈beː⌉ndu ⌈toːrara⌉nu](縄を手繰ろうとしているが、手繰られない)。⌉ナー　⌈トー⌉ル　⌉ピンマー　⌈ヨーンナー　トー⌉レー　⌉ミサムヌ [⌉naː ⌈toː⌉ru ⌉pimmaː ⌈joːnnaː toː⌉reː ⌉misamunu](縄を手繰るときはゆっくり手繰れば良いのに)。⌈トー⌉リ　⌉ミサカー　⌈パー⌉ク　⌈トー⌉リ [⌈toː⌉ri ⌉misakaː ⌈paː⌉ku ⌈toː⌉ri](手繰ってよければ早く手繰れ)。

⌉ドーレー [⌉doːreː] 【副助】**1**など。ある語に添えて、類似のものが他にもあることを示す。⌈サー⌉フキンドーレー　ノー⌈ン　ヤラバン⌉　ン⌈ザ⌉シバ [⌈saː⌉ɸu̥kindoːreː noː⌈ɲ jaraban⌉ ʔn⌈dʑa⌉ʃiba](茶請けなどを、何でも良いから出しなさいよ)。**2**〜なんか。その価値を低めていう。ウ⌈キ⌉ナーンドーレー　⌈ギー⌉　ミ⌈リ⌉　プサワ⌈ナー [ʔu⌈ki⌉naːndoreː ⌈giː⌉ mi⌈ri⌉ pu̥sawa⌈naː](沖縄などへ行ってみたいものだなあ)。**3**遅れた時刻 < 現在、過去 > について、その価値を低めて否定的にいう。マ⌈ナ⌉マンドーレーラ　⌉キーティ　⌈ヌー⌉スワ [ma⌈na⌉mandoːreː ⌉kiːti ⌈nuː⌉suwa](今頃に来てどうするのか)。⌈ウンドーレー⌉ラ　⌉キーティ　ム⌈ニ⌉ユミ　⌈アー⌉ク [⌈ʔundoːreː⌉ kiːti mu⌈ni⌉jumi ⌈ʔaː⌉ku](あんな時刻などに遅れて来て、文句をいっているよ。今さら文句の言えた義理化か)。

トー⌈ンカーン　ナー⌉ヌ [toː⌈ŋkaːn naː⌉nu] 【連】うんともすんとも感じない。平気である。気にしない。「等閑無し」『三体詩絶句抄』の意とする説あり。ウ⌈ヌ　ッふァー⌉　ギュー⌈サ⌉　イ⌈ザリタンティン⌉　トー⌈ンカーン　ナー⌉ヌ [ʔu⌈nu ffaː⌉ gjuː⌈sa⌉ ʔi⌈dʑaritantin⌉ toː⌈ŋkaːn naː⌉nu](あの子は、どんなに叱られても平気である < うんともすんとも感じない >)。

⌈ドーン⌉グ [⌈doːŋ⌉gu] 【名】道具。イ⌈ガメードーング [ʔi⌈gameːdo(ː)ŋgu](烏賊釣り漁の漁具)。⌈ヤームティドーン⌉グ [⌈jaːmutido(ː)ŋ⌉gu](所帯道具)。⌈サイクド (ー) ン⌉グ [⌈saikudo(ː)ŋ⌉gu](大工道具)。⌈サイ⌉コー　⌈ド (ー) ングマサ⌉ルティ　ア⌈ザリ　ブー [⌈sai⌉koː ⌈do(ː)gumasa⌉ruti ʔa⌈dʑari buː](「大工は道具勝り」と言われている)。⌈サイクドン⌉ゴー　⌈ティーリ⌉ル　ヌチ⌈ダー [⌈saikudoŋ⌉goː ⌈tiːri⌉ru nutʃi⌈daː](大工道具は手入れが命 < 大切 > だよ)。

⌈ドーング⌉ブン [⌈doːŋgu⌉buŋ]【名】霊供。「霊供盆」の義。「Regu. レヤゥグ (霊供)Tamaxij,sonayuru.(たましひ、供ゆる) すなはち、ゼンチョ (異教徒) が死者の霊に供える食物」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ウ⌈サンギソッコーヌ　ドーングブン⌉マー　ス⌈コーラレーン⌉カヤー [ʔu⌈saŋgisokkoːnu doːŋgubum⌉maː su̥⌈koːrareːŋ⌉kajaː](三十三年忌 < 仕舞い焼香。法事 > の供物のお膳は準備できたかねえ)。

⌈ドーングペーン⌉グ [⌈doːŋgupeːŋ⌉gu] 【名】道具類。いろいろの道具。ABCDEBCD 型の重言。⌈ドングペン⌉グ [⌈doŋgupeŋ⌉gu](道具類) ともいう。⌈ドーングペーン⌉ゴー　シゥ⌈カウ　プスヌ⌉　ク⌈ク⌉ル　ウ⌈ツァ⌉スンダー　⌉ユー　⌈ティー⌉リ　⌈シー⌉ヨー [⌈doːŋgupeːŋ⌉goː si̥⌈kau pu̥sunu⌉ ku̥⌈ku⌉ru ʔu⌈tsa⌉sundaː ⌉juː ⌈tiː⌉ri ⌈ʃiː⌉joː](道具類は使う人の心を映すから、よく手入れをしなさいよ)。

⌈ドーングマサ⌉ル [⌈doːŋgumasa⌉ru] 【名】道具勝り。道具が良ければ腕も < 技術 > も上達するということ。ノー⌈ンヌ⌉　シ⌈グトゥン　ドーングマサ⌉ルティ　ア⌈ザリ　ブーユンダ　ティー⌉リ　ウ⌈クタレー⌉　ナ⌈ラン⌉ダー [noː⌈nnu⌉ ʃi⌈gutun doːŋgumasa⌉ruti ʔa⌈dʑari buːjunda tiː⌉ri ʔu⌈kutareː⌉ na⌈ran⌉daː](どんな仕事も道具勝りと言われているから、手入れを怠ってはいけない < ならない > よ)。

⌈ドーング⌉ヤビ [⌈doːŋgu⌉jabi] 【名】帆船の帆や帆柱、手縄 (帆桁から引いた縄) などの操船用具が破損すること。⌈ドング⌉ヤビ [⌈doŋgu⌉jabi] ともいう。フ⌈クルプー⌉ヤ　マ⌈ギ⌉フニ　⌈スー⌉　ピン　⌈ドーング⌉ヤビ　⌈スー⌉　クトゥン　⌈アッ⌉タン [ɸu̥⌈kurupuː⌉ja ma⌈gi⌉ɸuni ⌈suː⌉ pin ⌈doːŋgu⌉jabi ⌈suː⌉ku̥tuŋ ⌈ʔat⌉taŋ](帆桁のない帆 < 袋帆 > はジグザグ走行 < 曲

げ船 > する時に帆柱や帆桁、手縄などの操船具が破損することもあった)。

ドーン˩ティ [doːn˩ti] 【副】どすんと。どーんと。ものが勢いよく落ちるさま。ヤ˩ラ˥ベー ˩キーヌ パン˥ターラ ドーン˩ティ˥ ウティティ ブ˩チ˥クン ˩シー ベー˥タ [ja˩ra˥beː ˩kiːnu pan˥taːra doːn˩ti˥ ʔutiti bu˩ʧi˥kuŋ ˩ʃiː beː˥ta](子供は木の先端からどすんと落ちて人事不省 < 意識不明。気絶。気を失う > になっていた < していた >)。

˩ドーントーン [˩doːntoːŋ] 【副】どんとん。どんどん。どたんどたん。壁や太鼓、床などを勢いよく叩いて鳴らすさま。˩タール˥ ヤ˩ル˥ユー ユ˩ナカサナ˥カーラ ˩ドーントーン˥シ ヤ˩ドゥ˥バ ˥ウティ ˩ナーラシ <˩シッ˥キ > ベー [˩taːru˥ ja˩ru˥juː ju˩nakasana˥kaːra ˩doːntoːŋ˥ʃi ja˩du˥ba ˥ʔuti < ˩ʃik˥ki > ˩naːraʃi beː](誰なのか、夜の真夜中からどんどんと戸を叩いて鳴らしている)。

˩ドーンドーン [˩doːndoːŋ] 【副】1足音を鳴り轟かせるさま。ヤ˩マン˥ゴー ˥ドゥク カ˩サマ˥サティ ˩ドーンドーン˥シ ˩オーリパッ˥タヤー [ja˩maŋ˥goː ˥duku ka˩sama˥sati ˩doːndoːŋ˥ʃi ˩ʔoːri pat˥tajaː](腕白坊主はひどくうるさい < 煩い > ので、どんどんと足を踏み鳴らされて追われていったよ)。2どんどん。太鼓の鳴るさま。˩ドーンドーン˥シ ˩タイク˥ヌ ˩ナーリベー [˩doːndoːŋ˥ʃi ˩taiku˥nu ˩naːri beː](どんどんと太鼓が鳴っている)。

˩ドーンパターン [˩doːmpataːŋ] 【副】どたんばたん。ドンドンと音が鳴り響くさま。˥ビーティ ˩ドーンパターン˥シ ˩ヤー˥バリ シーベー [˥biːti ˩doːmpataːŋ˥ʃi ˩jaː˥bari ˩ʃiːbeː](酒に酔って、どたんばたんと家具を打ち割って暴れている)。

˥トゥ [˥tu] 【接尾】斗。容量の単位。一升の 10 倍。˩イッ˥トゥ [˩ʔit˥tu](1 斗)、˥ニトゥ [˥nitu](2 斗)、˩サン˥トゥ [˩san˥tu](3 斗)、˩ユントゥ [˩juntu](4 斗)、グ˩トゥ [gu˩tu](5 斗)、ル˩ク˥トゥ [ru˩ku˥tu](6 斗)、ナ˩ナ˥トゥ [na˩na˥tu](7 斗)、˩ハッ˥トゥ [˩hat˥tu](8 斗)、˩キュートゥ [˩kjuːtu](9 斗)。˩マイヤー ナン˥トゥ ア˩ル˥ワ [˩maijaː nan˥tu ʔa˩ru˥wa](米は何斗あるか)。˩イッククク サン˥トゥ ヌ˩カ˥リ ˩ベー˥ン [˩ʔikkuku san˥tu nu˩ka˥ri ˩beː˥ŋ](1 石 3 斗残っている)。

˥トゥ [˥tu] 【格助】動作の相手を表す。˩バン˥トゥ ˩マーズン˥ パラ [˩ban˥tu ˩maːʤum˥ para](私と一緒に行こう)。トゥ˩シ˥トゥルカー ヤ˩ラビ˥トゥ ユ˩ヌ˥ムヌ [tu̥˩ʃi˥ turukaː ja˩rabi˥tu ju˩nu˥munu](年をとると子供と同じだ)。˩キュー˥ヤ ˩ターットゥ˥ パ˩タ˥ケー ˩パッ˥ター [˩kjuː˥ja ˩taːttu˥ pḁ˩ta˥keː ˩pat˥taː](今日は、誰と一緒に畑へ行ったのか)。**(1)** ˩トゥヌ [˩tunu](との)< トゥ [tu](と)+ ヌ [nu](の < 属格 >)。˩バントゥ˥ヌ ヤ˩クスコー˥ マ˩ム˥リ [˩bantu˥nu ja˩kusu̥koː˥ ma˩mu˥ri](私との約束は守れ)。**(2)**˩トゥン [˩tuŋ](とも)< トゥ [tu](と)+˩ン [ŋ](も < 係助詞 >)。ウ˩レー バン˥トゥン ˥ムネー イ˩ザヌ˥ ター˩ントゥン˥ ムネー イ˩ザヌ [ʔu˩reː ban˥tum ˥mune: ʔi˩ʤanu˥ taː˩ntum˥ mune: ʔi˩ʤanu](彼は私とものを言わない。誰とものを言わない)。**(3)**˩トー [˩toː](とは)< トゥ [tu](と)+ ヤ [ja](は < 係助詞 >。取立て強調) のように係助詞がつく。˩ワーットー˥ パ˩ナ˥スンカヤー [˩waːttoː˥ pa˩na˥ suŋkajaː](君とは話すだろうか)。

˥ドゥ [˥du] 【係助】ぞ。強意を表す。歌謡語で多く用いられる。丁寧に話す場合はドゥ [du] と発音されるが、ぞんざいに発音する時や、普通の会話では˥ル [˥ru](ぞ) と発音されることが多い。ドゥ [du] とル [ru] は自由変異の関係にあるが、上接語彙の末尾音が撥音の場合はドゥ [du] となり、条件異音となる。活用語の連用形、名詞、名詞相当語句等に付いて、続く用言に係り、連体形で結ぶ。カ˩キ˥ドゥ (ル) ˩スー [kḁ˩ki˥du(ru) ˩suː](書きぞする)。˥イダフニドゥ (ル) ˩パウ [˥ʔidaunidu(ru) ˩pau](板舟 < サバニ > ぞ作る < 接ぐ >)。˩イー クトゥル ˩スー˥ アイブ ˥クトー ˩サン˥ダー [˩ʔiːku̥turu suː˥ ʔaibu ˥ku̥toː ˩san˥daː](良いことを < ぞ > するのであって、あんなことはするでないぞ < しないよ >)。マ˩ナマ˥ドゥ (ル) キ˩ラリタ˥ル [ma˩nama ˥du(ru) ki˩rarita˥ru](今しか来れなかった < 今ぞ来られた >)。

˩トゥー [˩tuː] 【終助】疑問、反語の意味を表す。〜だって。って。〜ものか。動詞、助動詞、形容詞の終止形、名詞に下接して疑問反語の意を表す。˥ウヌ ˥ヨーヌ ヤ˩ラビ˥ヌ ウ˩ブプス˥ン ˥カタチニ パ˩タラキ シェーント˩トゥー [˥ʔunu ˥joːnu ja˩rabi˥nu ʔu˩bupusu˥ŋ ˥kḁtatʃini pḁ˩taraki ʃieːnト˩tuː](あのような子供が大人のように働けるって?< 働けるものか、働けはしない >)。˥アイブ ˥スブットゥヌ ˩テー˥ナイ ˩スントトゥー [˥ʔaibu ˥subuttunu ˩teː˥nai ˩sunト˩tuː](あんな怠け者が手伝いするものか)。˥アイブ トン˩ナー˥ト ˩マー˥ プ˩スム˥シ パルン˩トゥー [˥ʔaibu ton˩naː˥to ˩maː˥ pu̥˩sumu˥ʃi parun ˩tuː](あんな所へなど二度と < もう一度 > 行くも

のか)。˥アイブ　ム˩ヌ˥バ＜ム˩ヌ˥ヌ＞　˩カイ˥ヤン˩トゥー [˥ʔaibu mu˩nu˥ba＜mu˩nu˥nu＞ ˩kai˥jan˩tuː](あんなものが美しいものか)。ウ˩レー˥　ウ˩トゥ˥ザ˩トゥー [ʔu˩reː˥ ʔu˩tu˥ʤa˩tuː](あいつは親戚なものか＜親戚なんかではない＞)。

˩トゥー [˩tuː] 【名】1数量名詞。数の名。10。十(トォ)の転訛したもの。˩トゥームトゥ　ブカラ　˥ヌイクー [˩tuːmutu bukara˥ nuikuː](十本ほど抜き取って来い)。˩トゥーヌ　ウイ˥ベー　˩マータケー　ナー˥ヌ [˩tuːnu ʔui˥beː ˩maːtakeː naː˥nu](十本の指は同じ高さではない。同じ兄弟でも同じ能力ではなく、それぞれに個性があるの意＜諺＞)。2十歳。˥トゥシェー　˩トゥー˥　ナリティン　ブ˩ネーヌ˥　シ˩ビ　ウイ˥ナー　ナ˩ラ˥ヌ [˥tu̥ʃeː ˩tuː˥ naritim bu˩neːnu˥ ʃi˩bi ʔui˥naː na˩ra˥nu](年は十歳にもなって、どこまでも母親の後をついて追いまわす＜尻追いをする＞ので困る＜困ってたまらない＞)。

˩トゥー [˩tuː] 【名】1沖。沖合。海洋。イ˩ガン˥　カ˩ツン˥　シンタヌ　˩トゥーラ˥ル　˩ホー˥シ　˩オーッ˥タ [ʔi˩gaŋ˥ kḁ˩tsuŋ˥ ʃintanu ˩tuːra˥ru ˩hoː˥ʃi ˩ʔoːt˥ta](烏賊もカツオも島の後ろの沖合い＜大海＞から釣ってこられた)。2海峡。出入り口。鳩間島と西表島の間を流れる海。˩マイ˥ヌ　˩トゥーユ˥　ミ˩ワタシ˥バ　イ˩クフニ˥　ク˩ル˥フニ　ウ˩ム˥シルヨー [˩mai˥nu ˩tuːju˥ mi˩wataʃi˥ba ʔi˩kuɸuni˥ ku˩ru˥ɸuni ʔu˩mu˥ʃirujoː](前の渡＜海峡＞を見渡すと行く舟、来る舟の眺めが見事である＜鳩間中岡。鳩間節＞)。˩トゥーナカー˥　ウイパリ [˩tuːnakaː˥ ʔuipari](沖＜海岸より遠く離れた海中。「門中」記歌謡 74＞の方へ泳いで行け)。˩マイ˥ヌ˩トゥー [˩mai˥nu ˩tuː](前の渡＜海峡＞)。˥シンタヌ　˩トゥー [˥ʃintanu ˩tuː](島の後ろの大海＜深海＞)。

˥ドゥー [˥duː] 【名】1名詞。身。体。「胴」の義。˥ドゥーズーヤ　ア˩リバ˥ル　˥ウムー　˥クトゥーンノー˩ン˥　ナル [˥duːʤuːja ʔa˩riba˥ru ˥ʔumuː ˥ku̥tuːn noː˩n˥ naru](健康であればこそ＜体が強ければこそ＞思うことも何でも出切るのだ)。2代名詞。己。自分自身。自称、対称にも用いる。˩ドゥー˥ヌ　˥クトー　˥ドゥーシ　˥ナルン [˩duː˥nu ˥ku̥toː ˥duːʃi ˥naruŋ](己＜自分＞のことは自分で出来る)。ク˩レー　ワー˥　ドゥーシ　˩シー [ku˩reː waː˥ duːʃi ˩ʃiː](これは君自身＜己自身＞でやれ)。3所帯。ミ˩ドーン˥ッふァー　キサー˩ティ˥　ドゥー　˥ムティ　˥パレーン [mi˩doːn˥ffaː ki̥saː˩ti˥ duː ˥muti ˥pareːŋ](女の子はすでに所帯を持っていった＜結婚していった＞)。

˥ドゥー　˩アールン [˥duː ˩ʔaːruŋ] 【連】体全体の皮膚が痒(カユ)くなる。体温が上昇して肌がむず痒くなる。˥ドゥク　˥アツァナリ　˩プーマクタール˥　ドゥー　˩アーリティ˥　ヤ˩ラ˥ベー　キ˩ム˥シル　˩シーベー [˥duku ˥ʔatsanari ˩puːmakutaːru˥ duː ˩ʔaːriti˥ ja˩ra˥beː ki˩mu˥ʃiru ˩ʃiːbeː](あまりにも暑く、蒸し暑くなって体温が上昇し、肌がむず痒くなったので、子供は不機嫌になり、むずかって＜肝摺りして＞いる)。

˥ドゥーアガミ [˥duːʔagami] 【名】自分で自分を敬うこと。自己尊敬。「自己崇め」の義。ム˩ニイジホール˥ヌ　˩ナー˥ンダ　˩ウイ˥プスンケーニン　˥ドゥーアガミムニバ　イ˩ジェー˥ティ　˩アー˥ク [mu˩niʔiʤiho:ru˥nu ˩naː˥nda ˩ʔui˥pu̥suŋkeːnin ˥duːʔagamimuniba ʔi˩ʤeː˥ti ˩ʔaː˥ku](会話上の思慮分別が無い＜会話上の礼儀作法を知らない＞から年上の人に対して、自分で自分を崇める＜自己尊敬の＞物言いをしているよ)。

˥ドゥーアサビ [˥duːʔasabi] 【名】ひとり遊び。幼児が一人で遊ぶこと。「胴＜自分＞遊び」の義。ヤ˩ラ˥ビン　ウ˩ム˥クトー　˥ンジティ　ム˩タビ˥ムヌシ　˥ドゥーアサビ　˩スント ダー [ja˩ra˥biŋ ʔu˩mu˥ku̥toː ˥ʔnʤiti mu˩tabi˥munuʃi ˥duːʔasabi ˩sunt-daː](子供も智恵が出てきて、玩具＜弄(モテアソ)び物＞で一人遊びするようになったよ)。

˩トゥーアラキ [˩tuːʔaraki] 【名】遠歩き。遠出。˩パン˥ヌ　˥ヤミティ　˩トゥーアラケー　バン˥マーナ˩リ˥ダケー　˩ナー˥ヌ [˩pan˥nu ˥jamiti ˩tuːʔarakeː bam˥maː na˩ri˥dakeː ˩naː˥nu](足が痛くて、遠歩きは私には出来そうもない)。

˩ドゥーアン˥ガリ [˩duːʔaŋ˥gari] 【名】自らおごり高ぶること。尊大ぶること。思い上がること。横柄にふるまうこと。プ˩スバカヤン　ナー˥ナ　˩ドゥーアンガリ˥バ　˩シー　シン˥シーラン　˩ウイ˥ナー　ビ˩リベー [pu̥˩subakajan naː˥na ˩duːʔaŋgari˥ba ˩ʃiː ʃiŋ˥ʃiːraŋ ˩ʔui˥naː bi˩ri beː](恥ずかしげもなく＜他人に対して恥ずかしく思うこともないのか＞、自ら驕り高ぶって先生よりも上座に座っているよ)。

˥ドゥーウチ [˥duːʔutʃi] 【名】身内。血族および姻族。˥ドゥーウチヌ　プ˩スタンガ˥シル　˩ヨイ˥ヤー　˩ソーッ˥タ [˥duːʔutʃinu pu̥˩sutaŋga˥ʃiru ˩joi˥jaː ˩soːt˥ta](身内の人だけで＜ぞ＞お祝いはなさった)。

˩ドゥーウヤ˥マイ [˩duːʔuja˥mai] 【名】自分で自分を敬うこと。自己尊敬。尊大語表現をすること。話し

手が自分を上位におき、聞き手や第三者を下位においた言語表現をすること。バ˹カー˺ムヌ　˺シマムネー　˹ドゥーウヤ˺マイ　˹スーユンダ˺　バ˹カヤ˺ルバン [ba˹ka:˺mununu ˺ʃimamune: ˹du:ʔuja˺mai ˹su:junda˺ ba˹kaja˺rubaŋ](若者の島言葉遣いは、自分で自分を敬う表現をするから可笑しいよ)。

˺ドゥー　˹カウ˺ワン **[˺du: kau˺waŋ]** 【連】こそばゆい。くすぐったい。「胴痒(カユ)い」の義。ウ˹ヌ　ウトゥ˺　ス˹ク˺カー　˺ドゥー　カウ˺ワヌ　ビ˹リ　ベーララ˺ヌ [ʔu˹nu ʔutu˺ sʊ̥˹ku˺ka: ˺du: kau˺wanu bi˹ri be:rara˺nu](その音を聞くとこそばゆくて座っておれない)。

˹ドゥー˺カザ **[˹du:˺kadza]** 【名】体臭。˹バカー˺ムノー　˹ドゥーカザ˺ヌ　ッ˹サー˺ヌ　ス˹バ˺ナー　ブ˹ララヌ [ba˹ka:˺muno: ˹du:kadza˺nu s˹sa:˺nu su˹ba˺na: bu˹raranu](若者は体臭が臭くて側にはおられない)。

˺ドゥーカタ **[˺du:kata]** 【名】身内。親戚。味方。「胴方」の義。˹ヨイ˺ヌ　ブ˹ドゥルシープソー˺　ドゥーカターラ　ギュ˹タール˺　ン˹ジル˺ワ [˹joi˺nu bu˹duʃi:pʊ̥so:˺ du:kata:ra gju˹ta:ru˺ ʔn˹ʤiru˺wa](お祝いの踊り手 < 踊りする人 > は身内から何人出るか)。

˹トゥーカタミ **[˹tu:katami]** 【名】天秤棒の両端に満杯の水担桶をかけて肩に担う分量の十回分。「十担ぎ」の転訛したもの。バ˹コーシン˺カ　シゥ˹カ˺ナウンダ　ミ˹ジェー　トゥーカタミブカラ˺　カ˹タマン˺カー　タ˹ラーサラヌ [ba˹ko:ʃiŋ˺ka sʊ̥˹ka˺naunda mi˹ʤe: tu:katamibukara˺ kʊ̥˹tamaŋ˺ka: ta˹ra:saranu](共同作業の作業員を賄うのだから水は水担桶の十回分担いで運ばないと必要量を満たされない < 足らされない >)。

˺ドゥーカッティ **[˺du:katti]** 【名】自分勝手。わがまま。身勝手。「胴勝手」の転訛したもの。ウ˹レー˺　ノー˹ン˺　ドゥーカッティティ　ウ˹ムイ˺ル　˹スー˺　プ˹スヌ˺　ムニ˹ナー˺ト　ス˹ク˺スコー　ア˹ラ˺ヌ [ʔu˹re:˺ no:˹n˺ du:kattiti ʔu˹mui˺ru ˹su:˺ pʊ̥˹sunu˺ munu˹na:˺to sʊ̥˹ku˺sʊ̥ko: ʔa˹ra˺nu](彼は何でも自分勝手と思ってするのであって、他人の言うこと < 話、言葉 > など聞くどころではない)。

˺ドゥーガッティン **[˺du:gattiŋ]** 【名】自分で勝手に判断すること。自分の都合の良いように判断すること。自分で勝手に思い込むこと。ム˹チ˺キサール　˺クトー　˺ドゥーガッティン　˹サンドー˺シ˺ウヤキョーダイトゥン　˺ウチソーダン　˹シェー˺ティル　キ˹ミル˺ダー [mu˹ʧi˺kisa:ru ˺kʊ̥to: ˺du:gattin ˹sando:˺ʃi ˺ʔujakjo:daituŋ ˺ʔutʃiso:daŋ ˹ʃe:˺tiru ki˹miru˺da:](難しいことは自己判断 < 自己合点 > しないで、親兄弟とも相談して決めるんだよ)。

˺ドゥーカナミ **[˺du:kanami]** 【名】自愛。自分の体をいたわり、大切にすること。タ˹ビ˺ナーテー　ッ˹サン˺　プ˹スカーニ˺　ヤ˹ルンダ˺　ドゥーカナミ　˹シェー˺ティ　ア˹ラ˺キ˹ヨー [ta˹bi˺na:te: s˹sam˺ pʊ̥˹suka:ni˺ ja˹runda˺ du:kanami ˹ʃe:˺ti ʔa˹ra˺ki˹jo:](旅先では知らない人ばかりだから、自分で体を大事にして < 自分を要にして > あるけよ)。

˹ドゥーカロー˺ン **[˹du:karo:˺ŋ]** 【形】気分爽快で体も軽快である。体調がよく、身軽い感じである。「身 < 胴 > 軽い」の義。古老は、˹ドゥーカラー˺ン [˹du:kara:˺ŋ](体が軽い。気分爽快で体も軽快である) ともいう。パ˹ナシキヌ　ノール˺ター　パ˹シットゥ˺　ナリ　˹ドゥーカロー˺ン　ナ˹リ˺ブバン [pa˹naʃʊ̥kinu no:ru˺ta: pʊ̥˹ʃittu˺ nari ˹du:karo:˺n na˹ri˺bubaŋ](風邪が治ったので気分もさっぱりして < 気分爽快で > 体調もよく、身軽い感じであるよ)。

˺ドゥーカンガイ **[˺du:kaŋgai]** 【名】自分の考え。自己判断。自分の推量。独断。一人よがり。˹自分考え˺の義。プ˹スヌ˺　ムネー　シゥ˹カムティ˺　ノー˹ン˺　ドゥーカンガイシル　˹スー [pʊ̥˹sunu˺ mune: sʊ̥˹kamuti˺ no:˹n˺ du:kaŋgaiʃiru ˹su:](他人の意見 < 話 > は聞かないで、何事でも自分の考え通りに < 独断で > する)。

˹ドゥーガン˺ゾーン **[˹du:gan˺ʤo:ŋ]** 【形】健康である。「胴頑丈さあり」の義。˺トゥシェー　トゥ˹リ˺ル　˹オールン˺ドゥ　イッ˹ケナ˺　ドゥーガンゾー　ア˹ロー˺ルン [˺tʊ̥ʃe: tu˹ri˺ru ˹ʔo:run˺du ʔik˹kena˺ du:ganʤo: ʔa˹ro:˺ruŋ](年はとっておられるが、非常に健康 < 胴頑丈 > でいらっしゃる)。˺ドゥーガンゾーラバドゥ　˺ウムー　˺クトゥーン　ノー˹ン˺　ナル [˺du:ganʤo:rabadu ˺ʔumu: ˺kʊ̥tu:n no:˹n˺ naru](健康であればこそ思うことも何もかも出来る)。

˹ドゥーキクッ˺ツァン **[˹du:kʊ̥i̥kut˺tsaŋ]** 【形】蒸し暑い。暑苦しい。蒸し暑くて息苦しい。˹ドゥーキクッツァ˺ヌ　ニ˹バラヌ [˹du:kʊ̥i̥kuttsa˺nu ni˹baranu](暑苦しくて眠られない)。ユ˹ドゥン˺ヌ　˹ユール˺シチェー　キ˹クッ˺ツァン˹ダー [ju˹dun˺nu ˹ju:ru˺ʃʊ̥i̥ʧe: kʊ̥i̥˹kut˺tsan˹da:](赤潮の寄る梅雨の季節は暑苦しいよ)。

˹トゥーギチナー **[˹tu:giʧina:]** 【名】(動) 魚の名。和名、ナメモンガラ。体長約 40 センチ。˹トゥーギチ

ナーヌ　ミーヤ˥　ン˩マー˥タン˩ダー [˩tuːgitʃinaːnu miːja˥ ʔm˩maː˥tan˩daː](ナメモンガラの身＜魚肉＞は美味しかったよ)。

˥ドゥーキママ **[˥duːkimama]** 【名】勝手気まま。自分勝手。自由奔放。「身勝手」の義。バ˩カーン˥ケンラ　˥ドゥーキママニ　˩シー˥　ケール　プ˩ス˥　ヤ˩ルムヌ˥　プ˩スヌ˥　クトゥ˩ナー˥ト　˩カンガー˥ヌ [ba˩kaːŋ˥kenra ˥duːkimamani ˩ʃiː˥ keːru pu̥˩su˥ ja˩rumunu˥ pu̥˩sunu˥ ku̥tu˩naː˥to ˩kaŋgaː˥nu](若い頃から勝手気ままにして来た人だのに、他人のことなど考えないよ)。

˩ドゥーキム˥シル **[˩duːkimu˥ʃiru]** 【名】自らふさぎ込むこと。自分の所為でうまく＜巧く＞ことがらが進捗せず、気分がむしゃくしゃすること。自分で自分を怒り、むずかること。不機嫌になて周囲に当り散らすこと。˩ヌーン˥ドゥ　˥キム　フ˩ゴーラン˥タユー　˩ドゥーキム˥シル　˩シーヨー˥ル [˩nuːn˥du ˥kimu ɸu˩goːran˥taju: ˩duːkimu˥ʃiru ˩ʃiːjoː˥ru](何がお気に召されなかったのか、むしゃくしゃして周辺に当り散らしておられる)。

˩ドゥークサマ˥キ **[˩duːkusama˥ki]** 【名】一人で憤慨する。自分自身に怒り拗(ス)ねること。自分自身に怒って塞(フサキ)ぎこむ。˥ウヤン　イ˩ザリティ　ドゥークサマ˥キ　˩シー˥　ピン　˩シー　ベー [˥ʔujaŋ ʔi˩ʤariti ˩duːkusama˥ki ˩ʃiː˥ piŋ ˩ʃiː beː](親に叱られて、一人で憤慨してすね＜拗ね＞ている)。

˩ドゥーグッ˥ふァン **[˩duːguf˥faŋ]** 【形】体がだるくて重い。疲労や風邪気味で体調が悪く、体が重く感じるさま。不元気である。˩ドゥーカロー˥ン [˩duːkaroː˥ŋ](体が軽い。快調である) の対義語。˥ヌンティル　ヤ˩ル˥ユー　˩キュー˥ヤ　˩ドゥーグッふァ˥ヌ　ムッ˥トゥ˥　ドゥー　˩ウーカサラ˥ヌ [˥nuntiru ja˩ru˥ju: ˩kjuː˥ja ˩duːguffa˥nu mut˩tu˥ duː ˩ʔuːkasara˥nu](どうしてなのか、今日は体がだるく重くて、ちっとも体を動かすことが出来ない＜動かせない＞)。

˩ドゥー˥クナイ **[˩duː˥kunai]** 【名】こらえる (堪える) こと。耐え忍ぶ。我慢する。˩ドゥー [˩duː](自分。胴) に˥クナイ [˥kunai](堪え。「Coraye.uru,eta. コラエ, ユル, エタ＜堪へ, ゆる, へた＞堪え忍ぶ」『邦訳日葡辞書』からの転訛か) が下接して形成された合成語。プ˩スヌ˥　ノー˩ンティ˥　イ˩ゾーラ˥バン　˩ドゥー˥クナイ　˩シー＜リ＞ト　ダー [pu̥˩sunu˥ noː˩nti ˥ʔi˩ʤoːra˥ban ˩duː˥kunai ˩ʃiː＜ri＞ɟdaː](人様が何とお叱りなさっても己で堪えろよ)。

˩ドゥーグリ˥サン **[˩duːguri˥saŋ]** 【形】心苦しい。恐縮である。気の毒である。片身が狭い思いである。「身＜胴＞苦しい」の義。˥ヌーンクイン　˩ワーヤッ˥カイ　カ˩カ˥リ　˩ドゥーグリサ˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [˥nuːŋkuiŋ ˩waː jak˥kai kḁ˩ka˥ri ˩duːgurisa˥nu na˩ra˥nu](何もかも貴方の世話＜厄介＞になって心苦しい＜恐縮で申し訳ない＞)。˩ドゥーグリ˥サンテー　ウ˩モーン˥ナ [˩duːguri˥sante: ʔu˩moːn˥na](心苦しいなどとは思われますな)。˩ドゥーグリ˥サー　˥ピンマー　˩ドゥーグリ˥サー　˩ナー˥ヌティ　ア˩ゾー˥リバ [˩duːguri˥saː ˥pimma: ˩duːguri˥saː ˩naː˥nuti ʔa˩ʤoː˥riba](心苦しいときは、心苦しくないとおっしゃいなさいよ)。

˩ドゥークン˥ゾー **[˩duːkun˥ʤoː]** 【名】自分自身に怒ること。問題を処理できない己に対して立腹すること。「自分根性」の義。˩ヌー˥ル　˥ヌーテー　˩ナー˥ムティ　˩ドゥークン˥ゾー　ウ˩ク˥リ　˩ベー [˩nuː˥ru ˥nuːte: ˩naː˥muti ˩duːkun˥ʤoː ʔu˩ku˥ri ˩beː](何が何だということもなく＜理由もなく＞、己に対して腹を立てている＜自分ひとりで怒っている＞)。

˩トゥーサ **[˩tuːsa]** 【名】遠さ。遠方。˩トゥーサヌ˥　ウ˩トゥ˥ザーラン　トゥ˩ナルヌ˥　タ˩ニン [˩tuːsanu˥ ʔu˩tu˥ʤaːran tu˩narunu˥ ta˩niŋ](遠くの親戚よりも近く＜隣＞の他人)。

˥ドゥーザーン **[˥duːʤaːŋ]** 【名】身内同士。親戚同士。仲間同士。˩ヨイ˥ヤー　˥ドゥーザーンシ　˩スー˥　ス˩コールル　シーベー [˩joi˥jaː ˥duːʤaːŋʃi ˩suː˥ su̥˩koːruru ʃiːbeː](お祝いは身内でやる準備をしている)。ウ˩ナーター˥　ドゥーザーンシル　ノー˩ン˥　キ˩ミティ˥　ニービキーン　˩シェー˥ル　ウ˩ヤ˥ヌ　˩ティー˥ヤ　カ˩ランシェン [ʔu˩naːta:˥ duːʤaːŋʃiru noː˩ŋ˥ ki˩miti˥ niːbikiːŋ ˩ʃeː˥ru ʔu˩ja˥nu ˩tiː˥ja ka˩raŋʃeŋ](自分たち＜己たち。夫婦二人だけで＞同志で何でも決めて、結婚もしたのであって、親の世話にはならなかった＜親の手は一切借りなかった＞)。

˥ドゥーザイ **[˥duːʤai]** 【名】自己本位にすること。自分のことにかまける。自分のことだけをすること。自分のことだけにこだわ＜拘＞る。ッ˩ふァ˥　シュ˩カナイ˥ヌ　˩パンター˥　ドゥーザイ˩バーキ˥ル　˥ナル　プ˩スヌ˥　クトゥ˩バー˥ケー　ナ˩ラ˥ヌ [f˩fa ˥si̥˩kanai˥nu ˩panta:˥ duːʤai˩baːki˥ru ˥naru pu̥˩sunu ˥ku̥tu˩baː˥keː na˩ra˥nu](子育て繁多の時期は自分本位にすることしかできない＜自分のことだけをするしかできない＞。他人のことまでは考えられな

い＜出来ない＞)。

˩トゥーサカルイ　ナーサカルイ **[˩tuːsakarui naːsakarui]** 【連】遠くから念願し、守護を祈願すること。遠方から幸福を祈願すること。「遠方嘉例、長さ嘉例」の義。˩トゥーサカルイ　ナーサカルイ　ニン˥ガイ　ッ˩サルバ˥　カ˩リユ˥シ　˩シー˥　パリ˩ヨー [˩tuːsakarui naːsakarui niŋ˥gai s˩saruba˥ ka˩riju˥ʃi ˩ʃiː˥ pari˩joː](遠くから安全を念願し、守護し、遠方から守護することを神仏に祈願致し＜申し＞ますから海上安全の旅をして行きなさいよ)。

˩トゥーサナー˥サ **[˩tuːsanaː˥sa]** 【名】遠方。「遠さ長さ」の義で、文語的表現。ABCDBC 型の重言。「遠さ」の強調表現。同義で異語形容詞の語幹部を重ねて形成された重言。˩トゥーサナー˥サーラン　˩イッ˥パイ　˩ヨイシプス˥ヌ　˩オー˥レーンツォー [˩tuːsanaː˥saːraŋ ˩ʔip˥pai ˩joiʃipusu˥nu ˩ʔoː˥reːntsoː](遠方からもたくさんの祝い客が来られたそうだ)。˩トゥーサナーサヌ˥　プ˩ス [˩tuːsanaːsan˥u pu̥˩su](遠方の人)。

˩トゥーサピライ **[˩tuːsapirai]** 【名】遠く離れて交際すること。敬遠すること。˩ゴーサ˥ヌ　˩ウイヌ˥　プ˩スンケー˥トー　ウ˩チーウチーヌ˥　ピ˩ライ˥ヤー　ナ˩ラ˥ヌ　˩トゥーサピライル˥　ナル [˩goːsa˥nu ˩ʔuinu˥ pu̥˩suŋkeː˥toː ʔu˩tʃiːʔutʃiːnu˥ pi˩rai˥jaː na˩ra˥nu ˩tuːsapirairu˥ naru](畏れ多くて、上流の方々とは親密な交際は出来ない。遠くから離れての表面的な交際しか出来ない＜表面的な交際が出来る＞)。

˩トゥーシ **[˩tuːʃi]** 【名】家の前面の縁側。家の南側の縁側。家の南側の細長い板敷き。板張りの縁側。˥イン [˥ʔiŋ](縁) ともいう。杉板の無かった時代には、フ˩クン [ɸu̥˩kuŋ](福木) の角材を厚さ 7 分の板に挽いて˩フンツァ˥イツァ [˩ɸuntsa˥ʔitsa](床板) を製材し、ユ˩カフンツァ [ju˩kaɸuntsa](床板張り) の縁側に作った。そのための製材を、˥イツァ　˥バクン [˥ʔitsa ˥bakuŋ](板に分く＜鋸で材木を縦に切り分けて板にするる＞) という。ナ˩チェー˥　アツァユンダ　˥ユネン　˥ナルカー　˩トゥーシナー˥ル　ニ˩ビ˥　ピ˩ラ˥ケー　シ˩タル [na˩tʃeː˥ ʔatsajunda ˥junen ˥naruka: ˩tuːʃinaː˥ru ni˩bi˥ pi˩ra˥keː ʃi̥˩taru](夏は暑いから夜になると前の縁側に＜ぞ＞寝て涼を取った＜涼しくした＞ものだよ)。夏は戸を解放したままトゥーシに寝ると潮騒の音が枕元に届き、天然の音楽を楽しみながら眠りにつくことができた。

˩トゥー˥シ **[˩tuː˥ʃi]** 【副】常に。いつも。ずっと。継続して。「通して」の義。˥アブジェー　ウ˩ヌ　クトゥバ˥ル　˩トゥー˥シ　パ˩ナ˥シ　˩オーッタ˥ル [˥ʔabuʤeː ʔu˩nukutuba˥ru ˩tuː˥ʃi pa˩na˥ʃi ˩ʔoːtta˥ru](お祖父さんはそのことを常に話しておられたよ)。˥クナー　˩トゥー˥シ　パ˩タラカリン˥カヤー [˥kunaː ˩tuː˥ʃi pḁ˩tarakariŋ˥kajaː](ここでずっと＜通して＞働ける＜働かれる＞かねえ)。

˩トゥー˥シ **[˩tuː˥ʃi]** 【名】遥拝。友利御嶽から各御嶽へ向かって、通して祈願すること。「通し」の転訛したものか。˩プール˥ナーヤ　˩ウイヌ˥ウガンラ　˩ナー　ヤマカー˥ジェーニ　˩トゥーシ˥ル　˩ニン˥ガイ　˩ヨーッ˥タ [˩puːru˥naːja ˩ʔuinu˥ʔuganra ˩naːjamakaː˥ʤeːni ˩tuːʃi˥ru ˩niŋ˥gai ˩joːt˥ta](豊年祭には友利御嶽から各御嶽＜各山＞へ通しで祈願された)。

˩トゥー˥ジ **[˩tuː˥ʤi]** 【名】冬至。˩トゥンジー [˩tunʤiː](冬至) は沖縄方言からの借用語で普通は使用しない。˩トゥー˥ジナ　ピ˩サシズー˥シ　バ˩カス˥　ナ˩ライ˥ヤー　パ˩トゥ˥マナー　˩ナーン˥シェン　˩ピン˥ガンズーシール　バ˩カソーッタ˥ル [˩tuː˥ʤina pi̥˩saʃiʤu˥ʃi ba˩kasu˥ na˩rai˥jaː: pḁ˩tu˥manaː ˩naːŋ˥ʃem ˩piŋ˥ganʤuːʃiru ba˩kasoːtta˥ru](冬至に五目飯を炊く風習は鳩間島にはなかった。彼岸の五目飯＜彼岸雑炊＞を＜ぞ＞炊かれたものだ)。

˥ドゥーシ **[˥duːʃi]** 【連】自分で。己自身で。˩ドゥー˥ヌ　˥クトー　˥ドゥーシ　˩シー [˩duːnu˥ ku̥toː ˥duːʃi ˩ʃiː](自分のことは自分でしなさい)。

˥ドゥーシゥカラ **[˥duːsi̥kara]** 【名】自力。自分の力。˥ドゥーシゥカラシル　ウ˩ビ˥ヌ　˥ザイサンバ　ア˩ラ˥シェール　プ˩スヌ˥　シゥ˩カラー˥　カ˩レー　ナー˥ヌ [˥duːsi̥karaʃiru ʔu˩bi˥nu ˥ʤaisamba ʔa˩ra˥ʃeːru pu̥˩sunu˥ si̥˩karaː˥ ka˩reː naː˥nu](自力で＜ぞ＞あれだけの財産を作ってあるのであって、他人の力は借りてはいない)。

˩トゥー˥ジェー **[˩tuː˥ʤeː]** 【名】屋号。通事家。通事隆氏の家。鳩間村の四班のユ˩ナ˥デー [ju˩na˥deː](与那田家の前隣の家)。先祖は唐船の通訳＜通事＞であった伝えられている。ピ˩ナイ˥ウガン [pi˩nai˥ʔugaŋ](鬚川御嶽) の創建時に加治工家の先祖と一緒に船浦のピ˩ナイ˥ウガン [pi˩nai˥ʔugaŋ] から香炉の灰を分けて持ち帰り、鳩間島のピ˩ナイ˥ウガン [pi˩nai˥ʔugaŋ](鬚川御嶽) を建てたという伝承がある。それでピナイ御嶽のサ˩カサ [sḁ˩kasa](司) は通事家の血を引く子女の中から生まれるという。˩トゥー˥ジェーヌ　ウ˩ヤ˥プソー　˩トー˥ヌ　˩ツー˥ジ

ヤ˹ローッ˺タティ˹ダー [˹tuː˺ʤenu ʔu˹ja˺pu̥so: ˹to: ˺nu ˹tsuː˺ʤi ja˹roːt˺tati˹daː](通事家の先祖は唐の通訳＜通事＞であられたそうだよ)。

˹トゥー˺ジェーヌ　サ˹ブ˺ロザーテー [˹tuː˺ʤeːnu sa˹bu˺roːʤaːteː] 【連】屋号。通事三郎氏宅。名前のサ˹ブ˺ロー [sa˹bu˺roː](三郎) に˹アー˺ザ [˹ʔaː˺ʤa](兄さん) が下接し、接尾語˺テー [˺teː](～の家) が付いて生成された合成語。

˹トゥーシキ [˹tuːʃi̥ki] 【名】十月＜トッキ＞。プ˹スヌ˺　ッ˹ふァー　トゥーシキ˺シル　マ˹リル˺ツォー [pu̥˹sunu˺ f˹fa: tuːʃi̥ki˺ʃiru ma˹riru˺tsoː](人間の子は十月で生まれるそうだ)。

˹トゥーシジ [˹tuːʃiʤi] 【名】 (動) 魚の名。和名、ハマダツ (体長約 1 メートル)。主に沖で釣れるが、鳩間島では礒釣りで釣れることがある。

˺ドゥーシジマリ [˺duːʃiʤimari] 【名】自重すること。謙遜すること。「自身鎮まり」の義か。˺ドゥーシジマリ　˹シェー˺ティ　シ˹キン˺ユ　ウ˹ヤマイ　アーカバ˺ル　シ˹キン˺ヌ　プ˹ソーラン˺　ウ˹ヤマイラリ˺ダー [˺duːʃiʤimari ˹ʃeː˺ti ʃi̥˹kiɲ˺ju ʔu˹jamai ʔaːkaba ˺ru ʃi̥˹kin˺nu pu̥˹soːra˺ ʔu˹jamaːri˺daː](自重して、謙遜しつつ世間を敬っておれば＜あるけば＞＜ぞ＞、世間の人からも敬われるのだぞ)。

˺ドゥー　シ˹ダースン [˺duː ʃi˹daːsuŋ] 【連】化粧する。おめかしする。装飾して飾る。「胴・為出＜シィダ＞す」の転訛か。ブ˹ドゥルシンカー˺　イッ˹ケナ　カイ˺ヤ　˺ドゥー　シ˹ダーシティ˺　ス˹クミ　ベー [bu˹duruʃiŋka:˺ ʔik˹kena kai˺ja ˺duː ʃi˹daːʃi̥ti ˺ su̥˹kumi beː](踊り人衆は非常にきれいに化粧して予行演習＜リハサール＞をしている)。˹パーレー˺フニン　カ˹シ˺ラン　˹カイ˺ヤ　シ˹ダーサレー˺ン [˹paːreː˺ɸuniŋ ka˹ʃi˺raŋ ˹kai˺ja ʃi˹daːsareː˺ŋ](爬龍船も旗頭も綺麗に化粧された)。

˺ドゥー　シ˹トゥ˺ナウン [˺duː ʃi̥˹tu˺nauŋ] 【連】体を打ちのめす。体をしたたかに打つ。˹キーヌ　パン˺ターラ　˺ウティティル　シ˹タ˺タカ　˺ドゥー　シ˹トゥ˺ナイ　ヤ˹マ˺シ　˺シケーバン [˹kiːnu pan˺taːra ˺ʔutitiru ʃi̥˹ta˺taka ˺duː ʃi̥˹tu˺nai ja˹ma˺ʃi ˺ʃi̥keːbaŋ](木のてっぺんから落ちて＜ぞ＞体をしたたかに打って痛めてあるわいな)。

˹トゥーシニンガイ [˹tuːʃiniŋgai] 【名】遥拝。「通し願い」の義。普通は、ウ˹トゥー˺シ [ʔu˹tuː˺ʃi](お通し) という。ム˹トゥ˺ウガン [mu˹tu˺ʔugaŋ](友利御嶽。「本御願」の義) から、ピ˹ナイ˺ウガン [pinai˺ʔugaŋ](鬚川御嶽。˹マイ˺ヌウガン [˹mai˺nuʔugaŋ]＜前の御願＞ともいう)、ア˹ラ˺カーウガン [ʔa˹ra˺kaːʔugaŋ](あら川御嶽)、ニ˹シ˺ドーウガン [ni˹ʃi˺doːʔugaŋ](西堂御嶽) などの方向に向かって通して祈願すること。マ˹ナ˺マー　˹ウイヌ˺ウガンラ　˺ヤマヤマー　ン˹カイティ　トゥーシニンガイ˺ル　˹ソー˺ル [ma˹na ˺ma: ˹ʔuinu˺uganra ˺jamajama: ʔŋ˹kaiti tuːʃiniŋgai˺ru ˹soː˺ru](今は友利御嶽＜本御願＞から各御嶽御嶽へ向かって遥拝の祈願をなされるのだ)。

˹トゥージ˺ヌ　˺シチ [˹tuːʤi˺nu ˺ʃi̥tʃi] 【連】冬至。「冬至の季節」の義。˹トゥージ˺ヌ　˺シチ　イ˹ル˺カー　˹アーシ˺キン　キ˹サン˺カー　˹ピー˺ヤー　ニ˹ジララ˺ヌ [˹tuːʤi˺nu ˺ʃi̥tʃi ʔi˹ru˺ka: ˹ʔaːʃi˺kiŋ ki̥˹saŋ˺kaː ˹piː˺ja: ni˹ʤirara˺nu](冬至の季節に入ると、袷の着物を着ないと寒さは我慢できない)。

˹トゥーシヌマー˺ル [˹tuːʃinumaː˺ru] 【名】 (動) 魚の名。和名、ツマリテング。体色は灰黒色で頭部の角が異常に長い。体長 70 センチに達するものがいるという。鳩間島では 30～40 センチのものが漁獲されていた。和名、トサカハギにも˹トゥーシヌマー˺ルというが、それには頭の角はない。

˹ドゥー˺シマプス [˹duː˺ʃimapu̥su] 【名】同郷の人。郷里の人。「自分の島人」の義。タ˹ビ˺ナーティ　˹ドゥー˺シマプスヌ　˹オー˺ルカー　イッ˹ケナ˺　イ˹ジズー˺ワン˹ダー [ta˹bi˺naːti ˹duː˺ʃimapu̥sunu ˹ʔoː˺ruka: ʔik˹kena˺ ʔi˹ʤiʤuː˺wan˹daː](旅で同郷の人がいらっしゃると非常に心強いよ)。

˺ドゥーシマル [˺duːʃimaru] 【名】厳しく身を処すること。身を律すること。˺ドゥーシマルバ　˹シェー˺ティ　˹アーカン˺カー　シ˹キン˺マー　バ˹タララン˺ダー [˺duːʃimaruba ˹ʃeː˺ti ˹ʔaːkaŋ˺kaː ʃi̥˹kim˺ma: ba ˹tararan˺daː](身を律していないと世間はわたれないよ)。

˹ドゥー˺ジル [˹duː˺ʤiru] 【名】加熱すると食材自体から出る汁液。ヘチマなどには˹ドゥー˺ジルが多いので水を加えなくても美味しく炊ける。冬瓜は、ほんの少し水を加えた鍋をウ˹キル [ʔu˹kiru](熾火) かけて暫く炊くと、˹ドゥー˺ジルが出てくるので、それに˹ラフ˺テー [˹raɸu˺teː](豚の三枚肉を煮たもの) などを載せて、さらに炊くと˹ドウー˺ジルに˹ラフ˺テーの美味な味付けが出来るという。˹ウン˺マー　˹ドゥー˺ジルシェー　˹ネーサラヌヌ˺　ナ˹ベー˺ラー　˹ミース˺トゥ　˹ドゥー˺ジルシン　ン˹マーンマー˺シ　˹ネーサリン [˹ʔum˺ma: ˹duː˺ʤiruʃeː ˹neːsaranunu˺ na˹beː˺raː ˹miːsu˺tu ˹duː˺ʤiruʃim ʔm˹maːʔmma:˺ʃi ˹neːsariŋ](芋は食材自体の汁では炊け

ないが、ヘチマは味噌と食材自体の汁でも美味しく炊ける)。

˞トゥー˜ジン [˞tuː˜ʤiŋ] 【名】灯心。˞トゥー˜ル [˞tuː˜ru](ランプ。「灯籠」の転訛)、˞ローˇスク [˞roː˜su̥ku](ろうそく＜蝋燭＞)、˞トゥイ˜ミョー [˞tui˜mjoː](灯明)などの、火を灯す芯。ランプの灯心は綿糸で巾約2センチ、厚さ約1、5ミリ、長さ約15センチに織った厚手の布で、片方を灯油に浸して油を浸みこませ、他方から火を灯す仕掛けになっていた。灯心の巾の大きさによって、ゴ˞ブトゥージン [go˞bu-tuːʤiŋ](五分灯心)、ハ˞チブトゥー˜ジン [ha˞ʧibutuː˜ʤiŋ](八分灯心)と区別されていた。˜ランプヌ　˞トゥージン˜マー　˞マー˜ビン　ン˞ザ˜シバ [˜rampunu ˞tuːʤim˜maː ˞maː˜bin ʔn˞ʤa˜ʃiba](ランプの灯心はもっと出しなさいよ)。˞トゥージン˜マー　ン˞ジダー˜ル　ン˞メーマ˜　シ˞ミ˜リ [˞tuːʤim˜maː ʔn˞ʤidaː˜ru ʔm˞meːma˜ ʃi˞mi˜ri](灯心は出し過ぎている、少し詰めろ)。

˞トゥーシン˜ミー [˞tuːʃim˜miː] 【名】豚小屋便所で排便して豚に便を食わせる穴。便所の穴。「とうす(東司の穴)」の義か。ム˞カ˜シェー　˜オンケーヌ　˞トゥーシン˜ミーナ　ビ˞リティル˜　ッソー　˜マリティ　˜オーン　ッ˞ふァーソーッタ˜ル [mu˞ka˜ʃeː˜ ʔoŋkeːnu ˞tuːʃim˜miːna bi˞ritiru˜ ssoː ˜mariti ˜ʔoːn f˞faːsoːtta˜ru](昔は豚小屋便所の便所の穴に座って＜ぞ＞糞をまって＜放って＞豚に食わされたものだ)。

˜ドゥーズームヌ [˜duːʤuːmunu] 【名】頑健な者。「胴・強・者」の転訛したもの。ウ˞レー˜　ドゥーズームヌ　ヤ˞ルンダ˜　パ˞ナシキ˜　カ˞カラ˜ヌ [ʔu˞reː˜ duːʤuːmunu ja˞runda˜ pa˞naʃi̥ki˜ kḁ˞kara˜nu](あれは頑健な者だから風邪を引かない)。

˜ドゥー　˞スー˜ルン [˜duː ˞suː˜ruŋ] 【連】身長が伸びる。成長する。ビ˞コーンッふァー　ジュー˜ゴ　˜ナルカー　˞アッ˜タニ　˜ドゥー　˞スー˜ルン(フ˞ドゥブン)[bi˞koːŋffaː ʤuː˜goː ˜naruka: ˞ʔat˜tani ˜duː ˞suː˜ruŋ(ɸu˞dubuŋ)](男の子は十五歳になったら急に身長が伸びる＜成長する＞)。

˞ドゥーズー˜ワン [˞duːʤuː˜waŋ] 【形】健康である。体が強い。「胴強さあり」の義。˞ドゥーズー˜ワンティ　ア˞ザリブタンドゥ　ナン˜ゾー　˞ドゥーズーワ　ナー˜ヌ [˞duːʤuː˜wanti ʔa˞ʤaributandu nan˜ʤoː ˞duːʤuːwa naː˜nu](健康だ＜体が強い＞と言われていたが、あまり健康で＜体が強くない＞ない)。˞ドゥーズー˜ワ　˜ナリ　˜クン [˞duːʤuː˜wa ˜nari ˜kuŋ](体が強くなってくる)。˞ドゥーズー˜ワ　プ˞ソー˜　ウ˞ラーミ˜サン [˞duːʤuː˜wa pu̥˞soː˜ ʔu˞raːmi˜saŋ](健康な人、体の強い人は羨ましい)。

˞ドゥースク˜ナイ [˞duːsu̥ku˜nai] 【名】自分で自分の体を痛めること。自損行為。「自分損ない」の義。˜アイニ　タ˞カーン˜　トンラ　トゥ˞ビ˜　ウリティ　˞ドゥースク˜ナイ　˞シー˜　シケーバン [˜ʔaini tḁ˞kaːn˜ tonra tu˞bi˜ ʔuriti ˞duːsuku˜nai ˞ʃiː˜ ʃi̥ʃkeːbaŋjoː](あんなに高い所から飛び降りて自分で自分の体を損ねて＜痛めて＞あるんだよ)。

˞ドゥースクリ˜ヨー [˞duːsu̥kuri˜joː] 【名】体付き。体格。身体の恰好。「体作り様」の義。ウ˞リヌ　ドゥースクリヨー˜ヤ　ビ˞ケーヌ˜　ウ˞ヤ˜トゥ　マー˞ン　カウラヌ˜　ビッ˞ツティ　ニール　ブー [ʔu˞rinu duːsu̥kurijoː˜ja bi˞keːnu˜ ʔu˞ja˜tu maː˞ŋ kauranu˜ bit˞tsuti niːru buː](彼の体付き＜体格＞は父親と変わらない。そっくりだ＜ピッタリと似ている＞)。

˞トゥー˜スン [˞tuː˜suŋ] 【他動】 ¹通す。通過させる。貫き通す。突きぬく。パ˞ル˜ヌ　˜ミーラ　˜イトゥ　˞トゥー˜スンティ＜ヌ˞クンティ＞　˞スンドゥ　トゥーサラ˜ヌ＜ヌ˞カラヌ＞[pa˞ru˜nu ˜miːra˜ʔitu ˞tuː˜sunti＜nu˞kunti＞ ˞sundu tuːsara˜nu＜nu˞karanu＞](針の穴から糸を通そうとするが通されない)。˞トゥーシ　ヤッ˜サン [˞tuːʃi jas˜saŋ](通しやすい)。˞トゥー˜ス　ク˞トゥ˜ヌ　˜ナルカー　˞トゥー˜シェー　˜ミサムヌ [˞tuː˜su ku̥˞tu˜nu ˜naruka: ˞tuː˜ʃeː ˜misamunu](通すことが出来たら通せばよいのに)。˜ドゥーシ　˞トゥー˜シ [˜duːʃi ˞tuː˜ʃi](自分で通せ)。²補助動詞。連用形に付いて、「～つづける」の意を表す。終わりまで続ける。～し通す。˜プスイピーズ　シ˞グトゥ　シートゥーシ　ベーン˜ドゥ　ムッ˞トゥ˜　シ˞マイララヌ＜トゥ˞ズミララ˜ヌ＞[˜pu̥suipiːʤu ʃi˞gutu ʃiːtuːʃi beːn˜du mut˞tu˜ ʃi˞mairaranu＜tu˞ʤumirara˜nu＞](一日中仕事をし続けているが、いっこうに終えられ＜仕舞われ＞ない)。

˞ドゥー˜ズン [˞duː˜ʤuŋ] 【名】自損。自損行為。˜アイブ　˜クトゥ　˞スー˜カー　˞ドゥー˜ズン˞ゲ˜ラ [˜ʔaibu ˜ku̥tu ˞suː˜kaː ˞duː˜ʤuŋ˞ge˜ra](そんなことをすると自損行為さ)。

˜ドゥーゾーミーゾー [˜duːʤoːmiːʤoː] 【副】体健康で。身体頑健で。「胴強く・身強く」の義。ABCB型の重言。祝詞や呪詞の中でよく用いられる。キ˞ナイ　タイ˜ソー　パ˞ジミ˜　ッ˞ふァ˜マー　ケー˞ラ˜　ドゥーゾー　˞ミーゾー　キンコー˜　ス˞クサ

イヌ　ウイ˥ラ　˥メー　˥クズマサルヌ　˥トゥク　˥クズマサルヌ　ユ˩ルクビ˥ユ　タン˩トゥ˥　ウ˩キ˥シミ　タ˩ブ˥ローリ [ki˩nai tai˥so: pa˩ʤimi˥ ɸfa˥ma: ke:˩ra˥ du:ʤo:˩mi:ʤo: kiŋko:˥ sɥ˩kusainu ʔui˥ra ˥me: ˥kuʤumasarunu ˥tɥku ˥kuʤumasarunu ju˩rukubi˥ju tan˩tu˥ ʔu˩ki˥ʃimi ta˩bu˥ro:ri](一家の家長＜大将＞始め、子孫全員が身体頑健で健康息災の上に、さらに＜もう＞、去年以上の徳を、去年以上の喜びを、たくさん＜たんと＞受けさせてください＜賜れ＞)。

˥ドゥーソーン **[˥du:so:ŋ]** 【名】自分と同じ程度。同じレベル。トゥ˩ジ˥　トゥムカー　˥ドゥーソーンヌ　プ˩ソーラ˥　イ˩ラ˥ビティ　ム˩カ˥シプソー　ア˩ゾーッ˥タ [tu˩ʤi˥ tumuka: ˥du:so:nnu pɥ˩so:ra˥ ʔi˩ra ˥biti mu˩ka˥ʃipɥso: ʔa˩ʤo:t˥ta](妻を娶るならば自分と同じ程度の人の中から選べ、と昔の人は言われた)。

˩ドゥー˥タイ **[˩du:˥tai]** 【名】からだ。身体。体格。たいく (体躯)。「胴体」の転訛したもの。˩ドゥータイ˥ヌ　˩マイ˥ヤ　プ˩ス [˩du:tai˥nu ˩mai˥ja pɥ˩su](体の大きい人。体格の大きい人)。˩ドゥータイ˥ヌ　˥カナイ　˩ブンダ˥　ブ˩ガラ˥サティン　ッ˩サヌ˥　ユー　パ˩タラクン [˩du:tai˥nu ˥kanai ˩bunda˥ bu˩gara ˥satin s˩sanu˥ ju: pa̧˩tarakuŋ](体格が立派である＜叶っている＞から疲れることを知らない。よく働く)。

˥ドゥー　タ˩ブイルン **[˥du: ta˩buiruŋ]** 【連】体力を蓄える。体力をつける。精力を温存する。プ˩ス˥ケンシ　ウ˩ビ˥ヌ　シ˩グトー˥　ナ˩ラン˥ユンダ　˩ユー˥クイティ　˥ドゥー　タ˩ブイヤー˥ティ　シ˩グトー　シー˥ヨー [pɥ˩su˥keŋʃi ʔu˩bi˥nu ʃi˩guto:˥ na˩raŋ ˥junda ˩ju:˥kuiti ˥du: ta˩buija:˥ti ʃi˩guto: ʃi:˥jo:](一度にあれだけの仕事は出来ないから、休憩して、体力を蓄えながら仕事をしなさいよ)。˩ユー˥クイティ　˥ドゥー　タ˩ブイルン [˩ju:˥kuiti ˥du: ta˩buiruŋ](休憩して体力を蓄える)。

˩ドゥータルガ˥キ **[˩du:taruga˥ki]** 【名】自分を頼りにすること。自力を頼りにして他人の力を借りないこと。自分を過信すること。˩ドゥータルガ˥キ　˩タン˥ガー　˩サンドー˥シ　ン˩メーマー˥　プ˩スン˥　タ˩ナマン˥カー　˥ドゥー　ス˩クナウン˥ダー [˩du:taruga˥ki ˩taŋ˥ga: ˩sando:˥ʃi ʔm˩me:ma:˥ pɥ˩sun ˥ ta˩namaŋ˥ka: ˥du: sɥ˩kunaun˥da:](自力を頼むことだけしないで、少しは他人をも頼まないと体を壊す＜損なう＞ぞ)。

˥ドゥー　˩タン˥ガ **[˥du: ˩taŋ˥ga]** 【連】自分一人。己一人。ク˩レー˥　ドゥー　˩タンガ˥シ　˥ナル　シ˩グトー˥　ア˩ラ˥ヌ [ku˩re:˥ du: ˩taŋga˥ʃi ˥naru ʃi˩guto:˥ ʔa˩ra˥nu](これは自分一人で出来る仕事ではない)。

˩ドゥーッふァイ˥ムニ **[˩du:ffai˥muni]** 【名】自らを陥れる言葉。自縄自縛する失言。「自分＜胴＞食い物言い」の義。˩ドゥーッふァイムニ˥バ　イ˩ジアー˥クンケン　フ˩バラリ　ナーン˥ワー˩ン˥ノー [˩du:ffaimuni˥ba ʔi˩ʤi ʔa:˥kuŋkeŋ ɸu˩barari na:n˥wa: ˩n˥no:](自らを陥れるような言葉をしゃべっているうちに、逮捕されて＜縛られて＞しまったではないか)。

˩ドゥーッふァイ˥ワザ **[˩du:ffai˥waʤa]** 【名】危険な仕事。厳しい肉体労働。「胴・喰い・業」の転訛したもの。ヤ˩マシグ˥トー　˩ドゥーッふァイ˥ワザ　˩ダー˥　ウ˩レー [ja˩maʃigu˥to: ˩du:ffai˥waʤa˩da:˥ ʔu ˩re:](山仕事は厳しい肉体労働だよ、それは)。

˥ドゥーティダイ **[˥du:tidai]** 【名】自己負担で接待すること。自弁(ジベン)で自分自身を饗応(キョウオウ)すること。自腹を切って食事をすること。˥ドゥーティダイシン　ヤ˩ク˥ニン　ムー˩ル˥　ム˩ティナサン˥カー　ナ˩ラ˥ヌ [˥du:tidaiʃiŋ ja˩ku˥nim mu:˩ru˥ mu˩tinasaŋ˥ka: na˩ra˥nu](自己負担ででも役人を全員接待しないといけないよ)。˩ジン˥マー　˩ナーン˥バ　˩キュー˥ヤー　˩ドゥー˥テダイ˩ダー˥　メー [˩ʤim˥ma: ˩na:m˥ba ˩kju:˥ja ˩du:˥tidai˩da:˥ me:](お金が無いから、今日は自己負担＜の食事＞だよ、もう)。

˩ドゥードゥ **[˩du:du]** 【副】誠に。本当に。実に。優れて見事なさま。沖縄本島方言からの借用語。「堂堂」の転訛したものか。〜˩サティ˥　ワッ˩ター˥　チ˩クテール　カンダファー　ドゥードゥ˥　ミグ˩トゥヤ˥ッサ [〜˩sati˥ wat˩ta:˥ ʧɥ̧˩kute:ru kandaɸa: du:du ˥ migu˩tuja˥ssa](〜さても私どもが耕作した＜作ってある＞芋蔓は誠に見事な出来栄えである)。狂言˥ピラ [˥pira](箆)『鳩間島古典民謡古謡集』。

˩トゥートゥートゥー **[tu:tu:tu:]** 【感】鶏を呼ぶ声。˩トゥートゥートゥー˥ティ　トゥ˩ル˥　ヤ˩ラビティ˥　ア˩ラム˥トゥ　˩ファーシ˥バ [˩tu:tu:tu:˥ti tu˩ru˥ ja ˩rabiti˥ ʔa˩ramu˥tu ˩fa:ʃi˥ba](˩トゥートゥートゥー˥と鶏を呼んで籾を食わせてやれ＜食わせよ＞)。

˥ドゥートゥンザク **[˥du:tunʤaku]** 【名】自分で養生すること。自分自身で自分の病気を管理し、看護すること。「胴・頓着」の転訛したもの。˥イサン　ミ˩シラ˥ムティ　˥ドゥートンザク　˩シェー˥　ナ˩ラン

˥ダー [˥ʔisam miˈʃira˥muti ˥duːtundʑaku ˈʃeː˥ naˈran ˥daː](医者に診せないで、自分勝手に養生してはいけないよ)。

˩ドゥー˥ナイ [˩duː˥nai] 【名】寝返り。身動き。身じろぎ。「更に例のどうなきに (動無し)」『源氏物語 (明石)』の転訛したものか。˥ドゥーブニ ˩コー˥リ ˥ヤミティ ˩ドゥー˥ナイ シˈララヌ [˥duːbuni ˩koː˥ri ˥jamiti ˩duː˥nai ʃiˈraranu](体の骨が凝って < 固まって >、痛くなって身動きできない)。ニˈブタター˥ナ ˩ピッ˥チンツァン ˩ドゥー˥ナイ サˈヌ [niˈbutataː˥na ˩pit˥tʃintsan ˩duː˥nai saˈnu](寝たっきり身動き一つしない)。クˈシ˥ ヤˈマ˥シティ ニˈビッタルニビバ シー ドゥーナイ˥ユンツァン ˩シーユーサヌ [kuˈʃi˥ jaˈma˥ʃi̥ti niˈbittaru nibiba ʃiː duːnai ˥juntsaŋ ˩ʃiːjuːsanu](腰を痛めて寝たっきりで < 寝たままにして >、身動きすらもすることが出来ない < し得ない >)。ニˈビターリティ ピッ˥チン ˩ドゥー˥ナイ ˩サンバン [niˈbitaːriti pit˥tʃin ˩duː˥nai ˩sambaŋ](熟睡して < 寝・たわる (戯(タハ)れ) 万、1738 の転訛か >、全く < ひとつも > 身動きしない)。

˩ドゥー˥ナイ ˩スン [˩duː˥nai ˩suŋ] 【連】寝たまま体の向きを変える。寝返りをする。ナˈチェー˥ アツァティ ニˈバランドゥ˥ アルユー ˥ユー ˩ドゥー˥ナイ ˩スン [naˈtʃeː˥ ʔatsati niˈbarandu˥ ʔaruju˥ juː ˩duː˥nai ˩suŋ](夏は暑くて眠れないのだろうか、よく寝返りをする < 寝返りをうつ >)。

˩トゥーナカ [˩tuːnaka] 【名】沖合い。大海上。洋上。鳩間島と西表島の間の海峡をさすこともある。「渡中」の義。ニˈシカジヌ˥ ウティ ˩アールター トゥーナカ˥ナー ˥フネー ˩フンナキティ˥ ヤッˈトゥ˥シ シˈマー˥ タˈドゥ˥ローッタツォー [niˈʃikadʑinu˥ ʔuti ˩ʔaːruta: tuːnaka˥naː ˥ɸuneː ˩ɸunnakiti˥ jatˈtu˥ʃi ʃiˈmaː˥ taˈdu˥roːttatsoː](北風が急に強く吹いて < 落ちて > 荒れたので、沖合いで舟を沈没させてしまい、やっとのことで島へ辿(タド)り着かれたそうだ)。˩トゥーナカー ナーラサ˥リ ˥パリ ˩ナー˥ヌ [˩tuːnakaː naːrasa˥ri ˥pari ˩naː˥nu](沖の大海原へ流されていってしまった)。˥シンタヌ ˩トゥーナカ˥ナール イˈガメー˥ ンˈゾーッタ˥ル [˥ʃintanu ˩tuːnakanaːru˥ ʔiˈgaː ʔnˈdʑoːtta˥ru](島の後ろの大海原に < ぞ > 烏賊釣り漁は出られたものだ)。

˩トゥーナナ˥チ [˩tuːnana˥tʃi] 【名】十七つ。十七歳。ムˈカ˥シェー ミˈドーン˥ッふァー ˩トゥーナナ˥チェーラ ˥ドゥームティ ˥パル プˈスン˥ ブˈタン˥ダー [muˈka˥ʃeː miˈdoːŋ˥ffaː ˩tuːnana˥tʃeːra ˥duːmuti ˥paru pu̥ˈsum˥ buˈtan˥daː](昔は、女の子は十七歳から嫁入りしていく人もいたよ)。

˥ドゥーナマラシ [˥duːnamaraʃi] 【名】自分で自分を貶めること。恥をかく。プˈスバ˥ ナˈマラ˥スンティ ˩アー˥キティ ˥ドゥーナマラシ ˩シー アー˥ク [pu̥ˈsuba˥ naˈmara˥sunti ʔaː˥kiti ˥duːnamaraʃi ˩ʃiː ʔaː˥ku](人を貶めようとして、自分自身を貶めて < 恥をかいて > いるよ)。

˥ドゥーナマリ [˥duːnamari] 【名】自分で自分の名誉を傷つけること。自分の行為で恥をかくこと。「胴・鈍り」の転訛したものか。アˈザン˥ ブˈレー˥ ミサムヌバ アˈジティル˥ ドゥーナマリ ˩シェー˥ティ ˩アー˥クンティ [ʔaˈdʑam˥ buˈreː˥ misamunuba ʔaˈdʑitiru˥ duːnamari ˩ʃeː˥ti ˩ʔaː˥kunti](言わなければ良いものを、言ってしまって < ぞ > 自分の名誉を傷つけているよ)。

˩トゥーナミ [˩tuːnami] 【名】沖の大波。「となみ < 門波 >、万 1207」は「瀬戸に立つ波、海峡の波」の意味であるが、鳩間方言では大海の大波、沖の大波、の意味である。˩トゥーナミヌ˥ ブリクーカ ˥フネー マˈギ˥ パˈラ˥シ [˩tuːnaminu˥ buriku:ka: ˥ɸuneː maˈgi˥ paˈra˥ʃi](沖の大波が群れて寄せ来たら舟は進路を変えて < 曲げて > 走行させなさい)。

˩トゥー˥ ナˈラ˥スン [˩tuː˥ naˈra˥suŋ] 【連】海のようになす。子供が寝小便をして寝具をびしょ濡れにさせることを婉曲に表現したもの。˥コーネー ˥ユベー イˈソー˥ナ ˩ゲー˥タユー ニˈビシキネー˥ ムーˈル トゥー˥ ナˈラ˥シ ˥シケーバンヌヤー [˥koːneː ˥jubeː ʔiˈsoː˥na ˩geː˥taju: niˈbiʃi̥kineː˥ muː ˩ru tuː˥ naˈra˥ʃi ˥ʃi̥kebannuja:](男の子は、昨夜は潮干狩りにいったのか、寝床は全部海になしてあるワイ、何の)。

˥ドゥーニチ [˥duːnitʃi] 【名】体温。自己の身体から発する熱。「胴熱」の義。˥アミン ˩ホー˥リティ ダッˈカティ ゾーリ ベータン˥ドゥ ˥ドゥーニチシ ˩カーラキ ナーン˥バン [˥ʔamiŋ ˩hoː˥riti dakˈkati dʑoːri beːtan˥du ˥duːnitʃiʃi ˩kaːraki naːm˥baŋ](雨に降られてびっしょりと濡れていたが、自分の体温で乾いてしまったよ)。

˩ドゥー˥ヌ ˥アナ [˩duː˥nu ˥ʔana] 【連】自分の墓穴。「胴の穴」の義。自分が招く災い。プˈスバ ッふンティ アー˥キ ˩ドゥー˥ヌ ˥アナ ˥プレーティ ˩アー˥ク [pu̥ˈsuba˥ fˈfunti ʔaː˥ki ˩duː˥nu ˥ʔana ˥

pureːti ˞ʔaː˥ku](他人を騙そう＜食おう＞として、己の墓穴を掘っているよ)。

˞ドゥー˥ヌ　˥キムシ [˞duː˥nu ˥kimuʃi] 【連】自分の気持ちで。自分の心で。自分の考えで。ウ˞レー　ドゥー˥ヌ　˥キムシル　キ˞メー˥ル　˥クトゥ　ヤ˞リバ˥　ドゥーシル　シ˞キニン˥マー　˥トゥル [ʔu˞reː duː˥nu ˥kimuʃiru ki˞meː˥ru ˥kʉtu ja˞riba˥ duːʃiru ʃi̥˞kinim˥maː turu](それは自分で決めたことだから自分で責任はとる)。

˞トゥーヌキルン [˞tuːnukiruŋ] 【他動】遠退ける。遠ざける。遠くへ隔てる。ウ˞マ˥ヌ　˥トンマー　ナ˞クラー˥バ　カ˞マー　トゥーヌキルンティ　ベーン˥ドゥ　˞トゥーヌキララヌ [ʔu˞ma˥nu ˥tommaː na˞kuraː˥ba ka˞maː tuːnukirunti beːn˥du ˞tuːnukiraranu](そこのところは怖いから、あそこへ遠退けようとしているが遠のけられない)。˞トゥーヌキル˥　クトー　ナ˞ラ˥ヌ [˞tuːnukiru˥ kʉtoː na˞ra˥nu](遠退けることは出来ない)。˥ウマーラ　˞トゥーヌキレー˥　ミサムヌ [˥ʔumaːra ˞tuːnukireː˥ misamunu](そこから遠退ければよいのに)。˞パー˥ク　˞トゥーヌキリ [˞paː˥ku ˞tuːnukiri](早く遠のけろ)。

˞トゥーヌクン [˞tuːnukuŋ] 【自動】1遠退く。遠ざかる。隔たる。˥フネー　シ˞マー˥ラ　˞シンダイ　トゥーヌクン [˥ɸuneː ʃi˞maː˥ra ˞ʃindai tuːnukuŋ](舟は島から次第に遠退く)。˞トゥーヌキ˥　パルン [˞tuːnuki˥ paruŋ](遠退いて行く)。˞トゥーヌカン˥タンティン　˥ミサン [˞tuːnukan˥tantim ˥misaŋ](遠退かなくてもよい)。˞トゥーヌク˥　フネー　ブ˞ラーヌ [˞tuːnuku˥ ɸuneː bu˞raːnu](遠退く舟はいない)。˞マー˥ビン　˞トゥーヌケー˥　ミサムヌ [˞maː˥bin ˞tuːnukeː˥ misamunu](もっと遠退けばいいのに)。˞パー˥ク　˞トゥーヌキ [˞paː˥ku ˞tuːnuki](早く遠退け)。2疎遠になる。˞ウン˥ネート　シ˞カイトゥ　トゥーヌキ　ナーン˥バン [˞ʔun˥neːtoː ʃi̥˞kaitu tuːnuki naːm˥baŋ](あの家とはすっかり疎遠になってしまったよ)。

˞ドゥー˥ヌ　˥パダ [˞duː˥nu ˥pada] 【連】自分の皮膚。「己の肌」の義。˥ドゥーパダ [˥duːpada](皮膚。はだ。体の表皮)。˞イー˥シ　˥トゥル　˥ピンマー　˞ドゥー˥ヌカー　パ˞ギ˥ルンケン　˥ティダナー　ヤ˞カリタン [˞ʔiː˥ʃi ˥turu ˥pimmaː ˞duː˥nu ˥pada pa˞giruŋken ˥tidanaː ja˞karitaŋ](ツノマタ採種の時は皮膚が焼けて剥げるほど太陽に焼かれた)。

˞ドゥー˥ヌ　˞パンシ [˞duː˥nu ˞paŋʃi] 【連】自分の分。自分のもの。自分の配分。˞ドゥー˥ヌ　˞パンシル　シーユースー˥　プ˞スヌ˥　ムヌ˞バー˥ケー　ナ˞ラ˥ヌ [˞duː˥nu ˞paŋʃiru ʃiːjuːsu˥ pʉ˞sunu˥ munu˞baː˥keː na˞ra˥nu](自分の分しかなし得ない＜自分に配分されたもの、責任だけぞなし得る＞。他人のものまでは出来ない)。

˞ドゥー˥ヌ　˥マイ [˞duː˥nu ˥mai] 【連】自分の方向。自分のこと。「自分の前」の義。ウ˞レー　ドゥー˥ヌ　˥マイ　カー˞ニル˥　ス˞ルバン　パン˥ク [ʔu˞reː duːnu˥mai ka:˞niru˥ su˞rubam paŋ˥ku](彼は自分の方向＜自分のためになることにだけ＞ソロバンを弾く＜計算をする＞)。

˞ドゥー˥ヌ　˥ヤー [˞duː˥nu ˥jaː] 【連】自分の家。˞ワー˥　メー　˞ドゥー˥ヌ　˥ヤーン　ス˞ク˥リ　˥ウヤンケーン　サ˞ニヤ˥　シ˞ミオーラ˥シ　˞マイフナーユン [˞waː˥ meː ˞duː˥nu ˥jaːn sʉ˞ku˥ri ˥ʔujaŋkeːn sa˞nija˥ ʃi˞miʔoːra˥ʃi ˞maiɸunaːjuŋ](君は、もう自分の家も作って両親＜親たち＞にも嬉しくさせて差し上げて、立派な男だよ)。

˥ドゥーパカライ [˥duːpakarai] 【名】自殺。自害。パ˞トゥ˥マナー　˥ドゥーパカライ　˞スー˥　プ˞ソー˥　ム˞カ˥シェーラ　ブ˞ラーンシェン [pḁ˞tu˥manaː ˥duːpakarai ˞suː˥ pʉ˞soː˥ mu˞ka˥ʃeːra bu˞raːŋʃeŋ](鳩間島では自殺する人は昔からいなかった)。

˥ドゥーパダ [˥duːpada] 【名】身体。体全体。「胴肌」の義。˥ドゥーパダニンガイ [˥duːpadaniŋgai](健康祈願)。˥ドゥーパダ　˞キンコー˥　ア˞ラ˥シ　タ˞ボー˥リティル　ニ˞ガイシキラリ˥ル [˥duːpada ˞kiŋkoː˥ ʔa˞ra˥ʃi ta˞boː˥ritiru ni˞gaiʃi̥kirari˥ru](体を健康にしてくださいとお祈り申し上げようと思う＜願いつけられる＞)。

˥ドゥーパダニンガイ [˥duːpadaniŋgai] 【名】健康祈願。「胴肌願い」の義。旧暦一月と八月の当該人物の干支の日に、˞ナー˥　ピ˞キピキヌ˥　サ˞カサ [˞naː˥ pi̥˞kipikinu˥ sḁ˞kasa](各ヒキ＜血統＞の御嶽の司)にお願いして祈願をしてもらった。家長のマ˞リビー [ma˞ribiː](干支の日) に合わせて家族全員の健康祈願をしてもらった。˥ソンガチ　パ˞チニンガイトゥ˥　パ˞チンガチニン˥ガイナー　˞ヤーニンズー˥ヌ　˥ドゥーパダニンガイ　˞ソーッ˥タン [˥soŋgatʃi pḁ˞tʃiniŋgaitu˥ pḁ˞tʃiŋgatʃiniŋ˥gainaː ˞jaːnindʑuː˥nu ˥duːpadaniŋgai ˞soːt˥taŋ](正月初祈願と八月祈願＜八月願い＞には家族の健康祈願をなさった＜された＞)。

˥ドゥーパタラキ [˥duːpataraki] 【名】自活すること。

自分で自分自身のことをすること。˥ドゥーパタラキ ˩シェー˥ティル ˩ガッ˥コーン ンジェー˩ダー [˥du:pataraki ˩ʃe:˥tiru ˩gak˥ko:n ˥ʔnʤe:˩da:](自分で働きながら学校も出たのだよ)。

˩ドゥーパン˥マイ **[˩du:pam˥mai]** 【名】自分で自分の食事を賄うこと。弁当持参。˩ドゥーパン˥マイシル ˥バコー ˩シン パッタ˥ル バ˩コーシンカ˥ヌ ˥アシ マ˩カナイ ユーサン˥シェン [˩du:pam˥maiʃiru ˥bako: ˩ʃim patta˥ru ba˩ko:ʃiŋka˥nu ˥ʔaʃi ma˩kanai ju:saŋ˥ʃeŋ](弁当持参で共同作業に行ったのだよ。共同作業人の昼食を賄い得なかった)。

˩トゥーピー˥チ **[˩tu:pi:˥ʧi]** 【名】1十一。十以上の物を数える数詞。˩トゥーフター˥チ [˩tu:ɸu̥ta:˥ʧi](十二)。˩トゥーミー˥チ [˩tu:mi:˥ʧi](十三)。2十分の一。˥ザイサンマー ˩キョウダイ˥サ ˩ジュー˥ニン マー˩タキ トゥーピーチ˥ナー バ˩ク˥タ [˥ʤaisam-ma: ˩kjo:dai˥sa ˩ʤu:˥nim ma:˩taki tu:pi:ʧi˥na: ba˩ku˥ta](財産は兄弟 10 人、同じく十分の一ずつ分けた)。

˥ドゥー ˩ビー˥ヨーン **[˥du: ˩bi:˥jo:ŋ]** 【連】体が痒い。˩ユー˥フル ア˩マンタール˥ ヤ˩ル˥ユー ドゥー ˩ビーヨー˥ヌ ナ˩ラ˥ヌ [˩ju:˥ɸuru ʔa˩manta:ru˥ ja˩ru˥ju: ˥du: ˩bi:jo:˥nu na˩ra˥nu](お風呂に入らなかった＜湯風呂を浴びなかった＞からだろうか、体が痒くてたまらない＜どうにもならない＞)。

˩ドゥー˥ピキ **[˩du:˥pi̥ki]** 【名】辞退すること。遠慮すること。ムー˩ル˥ラ イ˩ラバ˥リティル ム˩ラヌ スー˥ダイ ˥ナレータンドゥ ˩ドゥー˥ピキ ˩シー ナー˥ヌ [mu:˩ru˥ra ʔi˩raba˥riti mu˩ranu su:˥dai ˥nare:tandu ˩du:˥pi̥ki ˩ʃi: na:˥nu](みんなから選ばれて村の総代＜部落会長＞になったのだが、自ら辞退してしまったよ)。

˥ドゥー ビ˩ナー˥ン **[˥du: bi˩na:˥ŋ]** 【連】1体が不潔である。˩ユー˥フルン ア˩マンユンダ˥ ドゥー ビ˩ナー˥ティ ˩ゴー˥サ ˥カキ ˩ベー [˩ju:˥ɸuruŋ ʔa˩maŋjunda˥ du: bi˩na:˥ti ˩go:˥sa ˥kaki˩be:](風呂も浴びないから、体が不潔になって疥癬(カイセン)にかかって＜疥癬を掻(カ)いて＞いる)。2病気がちである。体が弱い。ヤ˩ラ˥ビ ˩シェーン˥ケンラ ˥ドゥー ビ˩ナー˥タン [ja˩ra˥bi ˩ʃe:ŋ˥kenra ˥du: bi˩na:˥taŋ](子供の頃から病気がちであった＜体が弱かった＞)。

˩ドゥーフター˥チ ˥ナルン **[˩du:ɸu̥ta:˥ʧi ˥naruŋ]** 【連】妊婦が出産して親子の体が別々になる。身二つになる。パ˩ルミ˥プソー ˩ドゥーフター˥チ ˥ナルンケンマー キ˩ムユラ˥シ ス˩ナ˥ヨー [pa˩rumi˥pu̥so: ˩du:ɸu̥ta:˥ʧi ˥naruŋkemma: ki˩mujura˥ʃi su˩na˥jo:](妊婦は身二つになるまでは安心＜肝許し＞するなよ)。

˥ドゥーブニ **[˥du:buni]** 【名】骨格。体の骨。「胴骨」の義。ヤ˩マー˥ラ ˩ザイ˥ギー カ˩タ˥ミ ウ˩ラ˥スンティ ˩アー˥キ ˥ドゥーブニ ヤ˩マ˥シ ˥シケー [ja˩ma:˥ra ˩ʤai˥gi: kḁ˩ta˥mi ʔu˩ra˥sunti ˩ʔa:˥ki ˥du:buni ja˩ma˥ʃi ˥ʃi̥ke:](山から材木を担いで下ろそうとして体の骨を痛め＜病まし＞てある)。

˥ドゥーブニ ˩ヤーラクン **[˥du:buni ˩ja:rakuŋ]** 【連】労働で疲れた体を酒を飲んで癒す。「胴骨・和らげる」の義。˥ドウーブニ ˩ヤーラカスン [˥du:buni ˩ja:rakasuŋ](骨休めする) ともいう。˩マイイビン˥ウ˩チナ˥シティ サ˩キバ˥ ヌミ ˥ドゥーブニ ˩ヤーラクンティ ベー˥ダー [˩mai?ibiŋ˥ ʔu˩ʧina˥ʃi̥ti sḁ˩kiba˥ numi ˥du:buni ˩ja:rakunti be:˥da:](田植えも済ませて、酒を飲んで骨休めよう＜体を癒そう＞としているんだよ)。

˥ドゥーフミ **[˥du:ɸumi]** 【名】自分で自分を誉めること。自画自賛すること。自慢すること。フ˩チガール [ɸu̥ʧiga:ru](自慢) ともいう。イ˩カムスク˥ヌ ˩ゾー˥ジ ヤ˩ロー˥ルユー ˩サンシン˥ ピ˩キティ˥ アトー ウ˩ヌ˥スク ˥ドゥーフミバル ˩ソー˥ル˩ツォー [ʔi˩kamusu̥ku˥nu ˩ʤo:˥ʤi ja˩ro:˥ruju: ˩saŋʃim˥ pi̥˩kiti˥ ʔato: ʔu˩nusu̥˥ku ˥du:ɸumibaru ˩so:˥ru˩tso:](如何程の上手であられるのか、三線を弾いて後は、あのようにたいそう自画自賛をされるのだ＜だってば＞よ)。

˥ドゥー フ˩ミ˥ルン **[˥du: ɸu˩mi˥ruŋ]** 【連】自分を褒める。自慢する。ウ˩レー˥ ドゥー フ˩ミ˥ル フ˩シヌル˥ アル˩ツォー [ʔu˩re:˥ du: ɸu˩mi˥ru ɸu̥˩ʃinuru˥ ʔaru˩tso:](彼には自分を褒める癖があるんだよ)。

˥ドゥー ˥フムン **[˥du: ˥ɸumuŋ]** 【連】自分を褒める。自慢する。サ˩キ˥ ヌムカー ˩サッ˥コー ˥ドゥー ˥フムン [sḁ˩ki˥ numuka: ˩sak˥ko: ˥du: ˥ɸumuŋ](酒を飲むとひどく自分を褒める)。

˥ドゥーマーラー **[˥du:ma:ra:]** 【名】身内。親戚。「自分の回り」の義。˥ドゥーマーラヌ プ˩ス˥ナー ˩ウイヌ ガッ˥コー ˥ンジェー プ˩ソー˥ ギュ˩タール ブーワ˥メー [˥du:ma:ranu pu̥˩su˥na: ˩ʔuinu gak˥ko: ˥ʔnʤe: pu̥˩so:˥ gju˩ta:ru bu:wa˥me:](身内＜親戚＞の者に上級学校を卒業した＜出た＞人が何人いるのかねえ)。˥ドゥーマーラー ムー˩ル サンシンピキゾージ ヤ˩ルンダ ヨイ˥ヤー ˩ソ

ーヤ　ナー˥ヌ [˥du:ma:ra: mu:ˈru saŋʃimpikiʤo:ʤi ˥ jaˈrunda joi˥ja: ˈso:ja na:˥nu](身内はみんな三味線演奏家＜三味線弾き上手＞だから、祝儀の際は心配ない)。

ˈトゥーマール **[ˈtu:ma:ru]** 【名】遠回り。回り道。ˈトゥーマール　サンドー˥シ　チˈカ˥ミチ　ˈシー˥　パリバ [ˈtu:ma:ru sando:˥ʃi ʧi̥ˈka˥miʧi ˈʃi:˥ pariba](遠回りしないで、近道をして行けよ)。

˥ドゥーマール **[˥du:ma:ru]** 【名】身内。家族。親類。親戚内。˥ドゥーマーラー [˥du:ma:ra:˥](身内) ともいう。ドゥーマールナー　ウˈヤ˥キプスヌ　ˈブンダ　ソーヤナー˥ヌ [˥du:ma:runa ʔuˈja˥kipu̥sunu ˈbunda so:ja na:˥nu](親戚内に金持ちがいるから心配はない)。

˥ドゥーマカナイ **[˥du:makanai]** 【名】自炊。「自分賄い」の義。ˈパイタ˥ナーテー　シˈグニチ˥ナー　˥ドゥーマカナイバ　ˈシェー˥ティル　ˈターシグ˥トー　ˈソーッ˥タ [ˈpaita˥na:te: ʃiˈgunitʃi˥na: ˥du:makanaiba ˈʃe:˥tiru ˈta:ʃigu˥to: ˈso:t˥ta](西表＜南端＞では、4,5日ずつ自炊をしながら田仕事はなさったものだ)。

ˈトゥーミー **[ˈtu:mi:]** 【名】遠見。手をかざして遠くを見ること。ˈトゥーミーバ˥　シゥˈカイル˥　カˈツヌ˥　トゥˈルマケー　ミシ˥キティ　ˈカツォー　ホー˥ソーッタ [ˈtu:mi:ba˥ si̥ˈkairu˥ kḁˈtsunu˥ tuˈrumake: miʃi̥˥kiti kḁˈtso: ho:˥so:tta](手をかざして遠くを見てカツオの鳥巻きを見つけて、カツオを釣られた)。

˥ドゥーミー **[˥du:mi:]** 【名】自分の体。自分の肉体。自分自身。イˈクサユー˥ヌ　˥バソー　˥ドゥーミール　アˈタラ˥サータンダー　ˈヤーニン˥ズ　マーˈズン　ピンギ˥ル　クˈトゥバ˥ル　ˈソーシタル [ʔiˈkusaju:˥nu ˥baso: ˥du:mi:ru ʔaˈtara˥sa:tanda: ˈja:nin˥ʤu ma:ˈʤum piŋgi˥ru ku̥ˈtuba˥ru ˈso:ʃi̥taru](戦争の時は自分の体が大事だった＜可惜しかった＞から、家族が一緒に逃げることを心配したものだ)。

˥ドゥーミー　シˈティルン **[˥du:mi: ʃi̥ˈtiruŋ]** 【連】わが身を犠牲にする。体を犠牲にする。˥ドゥーミー　シˈティルン˥ケン　パˈタラキル˥　キˈナイ˥　タˈティノー˥シェーˈダー [˥du:mi: ʃi̥ˈtiruŋ˥kem pḁˈtarakiru˥ kiˈnai˥ tḁˈtino:˥ʃe:ˈda:](わが身を犠牲にするほど働いて、家庭を立て直したのだよ)。

ˈトゥーミーチ **[ˈtu:mi:ʧi]** 【名】数詞。十三。十三歳。ミˈドーン˥ッふァー　ˈトゥーミーチ˥　ナルカー　マˈリドゥシヌ˥ヨイ　ˈシー˥　ッˈふォーッ˥タン [miˈdo:ŋ˥ffa: ˈtu:mi:ʧi˥ naruka: maˈriduʃinu˥joi ˈʃi:˥ fˈfo:t˥taŋ](女の子は十三歳になったら生年祝い＜生まれ年の祝い＞をしてくださった)。

ˈトゥーミチ **[ˈtu:miʧi]** 【名】とおみち (遠道)。遠回りの道。遠くて長い道。ワザッˈトゥ　トゥーミチバ˥　イˈラ˥ビ　ˈマーリ　パッ˥タヤー [waʤatˈtu tu:miʧiba˥ ʔiˈra˥bi ˈma:ri pat˥taja:](わざわざ遠回りの道を選んで回って行ったよ)。

ˈドゥームチ˥ナリ **[ˈdu:muʧi˥nari]** 【名】寝所を移動すること。座席を移動する (移す)。ˈワー˥　カマンタカター　ˈドゥームチ˥ナリ　ˈシー˥　ニˈビ˥バ [ˈwa:˥ kamantakata: ˈdu:muʧi˥nari ˈʃi:˥ niˈbi˥ba](君は向こう側へ寝所を移して寝なさいよ)。

ˈドゥームティ˥ザク **[ˈdu:muti˥ʤaku]** 【名】身の振り方。生計の立て方。家計の遣り繰り。「身の持ち方」の義。ˈドゥームティ˥ザク　ッˈサン˥カー　タˈベー˥　パˈラサラ˥ヌ [ˈdu:muti˥ʤaku sˈsaŋ˥ka: taˈbe:˥ paˈrasara˥nu](生計の立て方を知らなければ旅へは遣れ＜行かされ＞ない)。

ˈドゥームティ˥ジブン **[ˈdu:muti˥ʤibuŋ]** 【名】結婚適齢期。所帯を持つ時期。ˈドゥームティ˥ジブン　ナˈリ˥ブバ　˥メー　ˈパー˥ク　˥ドゥー　ムˈタ˥シ [ˈdu:muti˥ʤibun naˈri˥buba ˥me: ˈpa:˥ku ˥du: muˈta˥ʃi](結婚適齢期になっているから早く結婚させなさい)。

ˈドゥームティドン˥グ **[ˈdu:mutidoŋ˥gu]** 【名】所帯道具。生活用品。家庭用品。家具類。寝具類。ˈイー˥ナビ　ˈスー˥ナビ　ˈパンガマ　˥ガイ　マˈカ˥ル　˥パシ　カˈタ˥ナ　アˈシ˥ツァ　˥ムス　˥ウズ　カˈビ˥ムヌンドーレーヤ　ˈドゥームティドン˥グ [ˈʔi:˥nabi ˈsu:˥nabi ˈpaŋgama ˥gai maˈka˥ru ˥paʃi kḁˈta˥na ʔaˈʃi˥tsa ˥musu ˥ʔuʤu kaˈbi˥munun ˥do:re:ja ˈdu:mutidoŋ˥gu](飯鍋、汁鍋、羽釜、杓文字、杓子、お椀、箸、包丁、下駄、筵、布団、掛ける物＜被りもの＞、などは所帯道具である)。

˥ドゥームティ　˥パルン **[˥du:muti ˥paruŋ]** 【連】嫁いでいく。嫁入りする。嫁する。ˈホンマ˥トゥ　˥ナカンマー　キサーˈティ˥　ドゥームティ　˥パレーン [ˈhomma˥tu ˥nakamma: ki̥saˈti˥ du:muti ˥pare:ŋ](長女と二女は既に嫁いでいった)。

ˈドゥームティ˥ヨー **[ˈdu:muti˥jo:]** 【名】1家庭経営術 (方法)。生計の立て方技術。家計の遣り繰り術。ミˈドーン˥ッふァー　ˈヤー˥ナ　ˈベーン˥ケンナー　ˈドゥームティ˥ヨー　˥ユー　˥ナライ [miˈdo:n˥ffa: ˈja:˥na ˈbe:ŋ˥kenna: ˈdu:muti˥jo: ˥ju: ˥narai](女の子は家にいるときに家庭経営術をよく習い、学びなさ

い)。2健康を保持する方法。健康管理法。˹ドゥームティヨー˺ヤ　ッ˹サムティ˺　グ˹チ˺ホーニ　パ˹タラク˺カー　˺ドゥー　ヤ˹マ˺スン˹ダー [˹du:mutijo:˺ ja s˹samuti˺ gu˹ʧi˺ho:ni pḁ˹taraku˺ka: ˺du: ja˹ma˺sun ˹da:](健康を管理維持する方法は知らないで、向こう見ず＜無鉄砲＞に働くと体を痛める＜病ます＞ぞ)。

˺ドゥー　ムトゥン [˺du: ˺mutuŋ] 【連】結婚する。所帯を持つ。˹身持ち (胴持ち) する (子を孕む)」の義。「Mimochi. ミモチ (身持) 妊娠.Cano vonna mimochini natta(あの女は妊娠している)」『邦訳日葡辞書』の転訛か。ミ˹ドーン˺ッふァー　˺ドゥー　ム˹タ˺シ　パ˹ラ˺シティル　ウミ˹ナーク　シーベー [mi˹do:ŋ˺ ffa: ˺du: mu˹ta˺ʃi pa˹ra˺ʃi̥tiru ʔumi˹na:ku ʃi:be:](女の子を結婚させて行かせて＜所帯を持たせてやって＞すっかり安心＜ほっと＞している)。

˺ドゥームラ [˺du:mura] 【名】自分の村。故郷。同郷。タ˹ビ˺ナーテー　˺ドゥームラヌ　プ˹スヌ　オー˺ルカー　イッ˹ケナ˺　キ˹ムズー˺ワン [ta˹bi˺na:te: ˺du:muranu pu̥˹sunu ʔo:˺ruka: ʔik˹kena˺ ki˹mudʑu:˺ waŋ](旅先では同郷の人がおられると非常に心強い)。

˹ドゥー˺ムリ [˹du:˺muri] 【名】一人遊び。子供が自分一人で遊ぶこと。子守りなしで、一人で遊ぶこと。「自分＜胴＞守り」の義。ヤ˹ラ˺ベー　ム˹タビ˺ムヌ　トゥ˹ラ˺スカー　˹ドゥー˺ムリ　˹シー˺　ア˹サブン [ja˹ra˺be: mu˹tabi˺munu tu˹ra˺suka: ˹du:˺muri ˹ʃi: ˺ʔa˹sabuŋ](子供は玩具＜弄びもの＞を与えると一人遊びする)。

˺ドゥームンダニ [˺du:mundani] 【名】魚の身を切って魚釣りの餌にしたもの。「己餌」の義。魚釣り用の餌は、普通やヤドカリを使って釣るが、ヤドカリ餌が無い時は、釣った魚の身を切り、餌にして釣った。˺ドゥームンダネーラン　˺アミツァヌ　˹ムン˺ダニシル　イ˹ゾー　ゴー˺ラー　˹ホーサリ˺タ [˺du:mundane:raŋ ˺ʔamitsanu ˹mun˺daniʃiru ʔi˹dʑo: go:˺ra: ˹ho:sari˺ta](魚の身の餌よりもヤドカリの餌で＜ぞ＞魚は多く釣れたものだ)。

˹ドゥーヤー˺ラーン [˹du:ja:˺ra:ŋ] 【形】1体が柔らかい。ウ˹レー˺　タ˹ク˺ヌ　˺カタチニ　˹ドゥーヤー˺ラーン [ʔu˹re:˺ tḁ˹ku˺nu ˺kḁtatsini ˹du:ja:˺ra:ŋ](彼＜あれ＞は蛸のように体が柔軟である＜体が柔らかい＞)。2病弱である。マ˹リットーラ　ドゥーヤー˺ラー　プ˹ソー　カンダカー˺ンティ　ア˹ザリ　ブー [ma˹ritto:ra du:ja:˺ra: pu̥˹so: kandaka:˺nti ʔa ˹dʑari bu:](生まれつき病弱の人は霊感が高いといわれている)。

˹ドゥーヤッ˺サン [˹du:jas˺saŋ] 【形】たやすい (容易い)。易(ヤサ)しい。簡単である。付き合いやすい。「身＜胴＞易い」の義か。˹ドゥーグリ˺サン [˹du:guri˺saŋ](心苦しい。気の毒である。恐縮である) の対義語。ク˹ヌ˺　ア˹タル˺ヌ　シ˹グトー　バン˺タン　˹ドゥーヤッ˺サ　シ˹ラリン [ku˹nu˺ ʔa˹taru˺nu ʃi˹guto: ban˺tan ˹du:jas˺sa ʃi˹rariŋ](この程度の仕事は私達にも容易く＜簡単に＞出来る)。˹ドゥーヤッ˺サール　シ˹グトゥバ˺　トゥミ　˺クー [˹du:jas˺sa:ru ʃi˹gutuba˺ tumi ˺ku:](容易い仕事を探して来い)。ウ˹ヌ˺　プ˹ソー　ドゥーヤッ˺サン [ʔu˹nu˺ pu̥˹so: du:jas˺saŋ](その人は付き合い易い)。

˺ドゥーヤマ　˹アイルン [˺du:jama ˹ʔairuŋ] 【連】墓穴を掘る。己を罠にかける。「自分罠上げる」の義。シ˹ビフチ˺　ッ˹サン˺　ム˹ニ˺バ　˺ユミティ　˺ドゥーヤマ　˹アイルン˻ダー [ʃi˹biɸu̥ʧi˺ s˹sam˺ mu˹ni˺ ba ˺jumiti ˺du:jama ˹ʔairun˻da:](筋の通らない無責任な＜後先を知らない＞話をしゃべって墓穴を掘ることになるぞ＜己を罠にかけることになるぞ＞)。

˹ドゥーヤマシ˺プス [˹du:jamaʃi˺pu̥su] 【名】怪我人。˹ドゥーヤマシ˺プソー　ギュ˹タール　ブーワ [˹du:jamaʃi˺pu̥so: gju˹ta:ru bu:wa](怪我人は何人いるか)。

˺ドゥー　ヤ˹マ˺スン [˺du: ja˹ma˺suŋ] 【連】怪我をする。体を傷つける。「胴病ます」の義。カ˹タマラ˺ン　˹ニー˺バ　カ˹タ˺ムンティ　˹アーキ˺ル　˺ドゥー　ヤ˹マ˺シ　˺シケーバン [kḁ˹tamara˺n ˹ni:˺ba kḁ˹ta ˺munti ˹ʔa:ki˺ru ˺du: ja˹ma˺ʃi ˺ʃi̥ke:baŋ](担ぐことのできない荷を担ごうとして、怪我を＜胴を病ま＞してあるよ)。

˹ドゥー˺ユー [˹du:˺ju:] 【名】土用。˹ドゥーユー˺ヌ　˺シチェー　˹ペーリ˺ル　˺アイニ　アツァバン˹ナー [˹du:ju:˺nu ʃi̥ʧe: ˹pe:ri˺ru ˺ʔaini ʔatsaban˹na:](土用の節気(セッキ)に＜へ＞入ったので、それ故にあのように暑いのだねえ)。

˺ドゥー　˹ユーコー˺スン [˺du: ˹ju:ko:˺suŋ] 【連】体を休ませる。休憩を取らせる。「体＜胴＞憩わせる」の義。˺ドゥー　ユ˹コー˺スン [˺du: ju˹ko:˺suŋ](体を休める) ともいう。ウ˹シン˺マー　ア˹ラン˺ダ　ン　˹メーマー˺　ドゥー　˹ユーコー˺ス　˺クトゥ　˹カンガイ˺リ [ʔu˹ʃiʔm˺ma: ʔa˹ran˺da: ʔm˹me:ma:˺ du: ˹ju:ko:˺su ˺ku̥tu ˹kaŋgai˺ri](牛馬ではないから、少し

は体を休ませることを考えなさい)。

˥ドゥーユクイ [˥du:jukui] 【名】骨休み。休憩。休養。「体＜胴＞憩い」の義。ン˩メーマ˥ナー ˥ドゥーユクイヤ ˩シェー˥ティル ウ˩ビ˥ナーヌ シ˩グトー˥ シ˩ラリル [ʔm˩me:ma˥na: ˥du:jukuija: ˩ʃe:˥tiru ʔu˩bi˥na:nu ʃi˩guto:˥ ʃi˩rariru](少しずつは休憩をしながら＜ぞ＞、あれだけの仕事は出来る)。

˥ドゥー ユ˩グルン [˥du: ju˩guruŋ] 【連】体が汚れる。月経で不浄の身となる。˥ドゥー ユ˩グリプソー ゴーサ˥ヌ ˩カンヌマイ˥ヌ ˥ムノー ˥ティー ˩ナーララヌ [˥du: ju˩guripuso: go:sa˥nu ˩kannumai˥nu ˥muno: ˥ti: ˩na:raranu](月経で身が汚れた人＜不浄の身＞は畏れ多くて神を祭る儀礼行事＜神事のもの＞には触れられ＜手が出され＞ない)。

˥ドゥーヨーゾー [˥du:jo:ʤo:] 【名】自ら摂生(セッセイ)すること。自分で養生し、健康増進を図ること。自分の体に気を付けて健康増進のためにいろいろと工夫すること。「胴・養生」の転訛したもの。イ˩サ˥ヌ ˩オーラン˥ シマ ヤ˩ルンダ˥ ヤ˩ブバ˥ タ˩ユリ˥ル ˥ドゥーヨーゾー ˩シェー˥ティ ˥ヌチェー ˥ムイケール [ʔi˩sa˥nu ˩ʔo:raŋ˥ ʃima ja˩runda˥ ja˩buba˥ ta˩juri˥ru ˥du:jo:ʤo: ˩ʃe:˥ti ˥nutʃe: ˥muike:ru](医者のいらっしゃらない島だから、ヤブ＜漢方の心得のある人＞を頼って自分流に養生をしながら命を永らえて来たのだ)。

˩ドゥーヨー˥ン [˩du:jo:˥ŋ] 【形】体が弱い。病弱である。「胴・弱い」の義。マ˩ナ˥マー ˩ドゥーヨー˥ンティ ア˩ザリブーヌ˥ バ˩カー˥タン ˥ケンマー ˩ドゥーヨ˥ー ˩ナーン˥シェン [ma˩na˥ma: ˩du:jo: ˥nti ʔa˩ʤaribu:nu˥ ba˩ka:˥taŋ ˥kemma: ˩du:jo˥: ˩na:ŋ˥ʃeŋ](今は体が弱い＜病弱だ＞といわれているが、若かった頃は病弱ではなかった)。

˩トゥーラン˥フチ [˩tu:raŋ˥ɸu̥tʃi] 【名】海底地名。鳩間島の南、約 1 キロメートルの海底に発達した˩イーリマイズニ [˩ʔi:rimaiʤuni](西前曽根) の中にある通り抜け不可能の曽根。干潮時にも海底に没した曽根で、˥イダフニ [˥ʔidaɸuni](サバニ) でも用心しながら通過した。そこはム˩チイズ [mu˩tʃiiʤu](のこぎりだい) の巣である。ムチイズを釣って、それを生きたまま釣り針にかけて生餌にし、ア˩ラ˥ニーバル [ʔa˩ra˥ni:baru](まはた) やア˩カジナー [ʔa˩kaʤina:](にせすじはた) などの大きな魚を釣り上げた。˩トゥーラン˥フチェー ˩イーリマイズニ˥ナール アル˩ダー [˩tu:raŋ˥ɸu̥tʃe: ˩ʔi:rimaiʤuni˥na:ru ʔaru˩da:](˩トゥーラン˥フチ＜通過できない津口＞は鳩間島の南方の西前曽根にあるのだよ)。

˩トゥー˥リ [˩tu:˥ri] 【名】通り道。通路。ヤ˩ラ˥ビンケーヤ ˥マンタヌ ˩トゥー˥リナ＜˥ミチナー＞ ア˩サビ ベー [ja˩ra˥biŋke:ja ˥mantanu ˩tu:˥rina＜˥mitʃina:＞ ʔa˩sabi be:](子供たちは前の通りで遊んでいる)。

˩トゥー˥ル [˩tu:˥ru] 【名】ランプ。灯火。明かり。明治生まれの古老の言葉。「内典云燈炉、唐式云燈籠、本朝式云燈楼」『和名抄』、「とうろう (灯籠)」の義。「Tôro. タゥロ (灯籠)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。タ˩マドゥー˥ル [ta˩madu:˥ru](ガラス火屋の付いたランプ。四面ガラス張りの角型ランプ)。昭和 58 年に海底送電施設が完成し、各家庭に電灯が点灯した。それまでは日常的に˩トゥー˥ル [˩tu:˥ru](ランプ) を灯していた。˩トゥール˥ヌ フ˩ヤ˥ッ˩スレー˥ ヤ˩ラビ˥ヌ シ˩グトゥ ヤッタ [˩tu:ru˥nu ɸu˩ja˥ s˩sure:˥ ja˩rabi˥nu ʃi˩gutu jatta](ランプの火屋の拭き掃除は子供の仕事であった)。˥ティダー ˩イーリティ ヤーン˥ナカー ッ˩ふァガマリ ブーバ トゥー˥ル シ˩キ˥リ [˥tida: ˩ʔi:riti ja:n˥naka: f˩fagamari bu:ba tu:˥ru ʃi̥˩ki˥ri](太陽は没して＜入って＞家の中は暗くなっているからランプ＜灯籠＞を点灯し＜点け＞なさい)。

˩トゥー˥ル [˩tu:˥ru] 【名】通り。そのまま。それと同様なこと。「Tçucaino touoriuo y.(使の通りを言ふ)」『邦訳日葡辞書』。ム˩カ˥シェーラ ˩シー˥ ケー ˩トゥー˥ル ˩サン˥カー ナ˩ラ˥ヌ [mu˩ka˥ʃe:ra ˩ʃi:˥ke: ˩tu:˥ru ˩saŋ˥ka: na˩ra˥nu](昔からして来た通りにしないといけない＜昔のままにするべきだ＞)。ウ˩レー ワー˥ ア˩ズ トゥー˥ル [ʔu˩re: wa:˥ ʔa˩ʤu tu:˥ru](それは君が言う通りだ)。

˩トゥー˥ルン [˩tu:˥ruŋ] 【自動】通る。通用する。ク˩ヌ˥ ミチェーラ ˩トゥー˥ルン [ku˩nu˥ mitʃe:ra ˩tu:˥ruŋ](この道から通る)。ク˩ヌ˥ ミチェー ˩トゥーララン˥ティ ア˩ズンドゥ トゥーリ˥ プサンダ ヤー˩ディン トゥー˥ル ˥クトゥティル キ˩ミ˥ シケー [ku˩nu˥ mitʃe: ˩tu:raran˥ti ʔa˩ʤundu tu:ri˥ pu̥sanda ja:˩din tu:˥ru ˥ku̥tutiru ki˩mi˥ ʃi̥ke:](この道は通られないというが、通りたいから、必ず通ることと決めておいてある)。˩トゥー˥ルンティ ˥ウムーカー ˩パー˥ク ˩トゥー˥レー ˥ミサムヌ [˩tu:˥runti ˥ʔumu:ka: ˩pa:˥ku ˩tu:˥re: ˥misamunu](通ると思うなら早く通ればよいのに)。˩トゥー˥リ [˩tu:˥ri](通れ)。

˩トゥー˥ワン [˩tu:˥waŋ] 【形】遠い。ア˩ラ˥クカー

˹トゥー˺ワンドゥ　ク˹ル˺マーラ　˺パルカー　˹トゥーワナー˺ヌ [ʔa˹ra˺kuka: ˹tu:˺wandu ku˹ru˺ma:ra ˺paruka: ˹tu:wana:˺nu](歩いたら遠いが、車で行ったら遠くない)。˹シンダイ　トゥー˺ワ　˺ナルン [˹ʃindai tu:˺wa ˺naruŋ](次第に遠くなる)。˺ドゥク　˹トゥーワ˺ヌ　ア˹ラ˺キテー　パ˹ララ˺ヌ [˺duku ˹tu:wa˺nu ʔa˹ra˺kite: pa˹rara˺nu](あまりにも遠くて歩いては行けない＜行かれない＞)。˹トゥー˺ワ　˺トンマー　˹パン˺ナ [˹tu:˺wa ˺tomma: ˹pan˺na](遠い所は行くな)。˹マー˺ビン　˹トゥー˺ワレー　˺ミサムヌ [˹ma:˺bin ˹tu:˺ware: ˺misamunu](もっと遠ければ良いのに)。

˺トゥーン [˺tu:ŋ] 【他動】研(ト)ぐ。研磨する。刃物を砥石で研ぐ。「剣太刀いよよ刀具倍之 (トグベシ)〜。万、4467」の転訛したもの。カ˹タ˺ナ　˺トゥーンティ　ウ˹ムーン˺ドゥ　ク˹ヌ˺　トゥシシェー＜˺トゥシナー＞　˹トーラ˺ヌ [kḁ˹ta˺na ˺tu:nti ʔu˹mu:n˺du ku˹nu˺ tu̥ʃiʃe:＜˺tuʃina:＞ ˹to:ra˺nu](包丁を研ごうと思うが、この砥石では研がれない)。˹トゥイ˺　プサカー　˹トゥイ˺ヤー　˺ミサムヌ [˹tui˺ pu̥saka: ˹tui˺ja: ˺misamunu](研ぎたければ研げば良いのに)。˺トゥー　˺ムノー　˹パー˺ク　˺トゥイバ [˺tu: ˺muno: ˹pa: ˺ku ˺tuiba](研ぐものは早く研げよ)。˹トーン˺カー　ナ˹マ˺リティ　キ˹シラ˺ヌ [˹to:ŋ˺ka: na˹ma˺riti ki̥˹ʃira˺nu](研がないと鈍って切れない)。

˹トゥーン [˹tu:ŋ] 【他動】問う。聞きただす。尋ねる。尋問する。「〜何の故ぞと問人毛＜トフヒトモ＞無し。万、2969」の転訛したもの。ウ˹ヌ˺　クトー　˹トゥイ˺　シ˹キ˺　プサタンティン　マ˹ナ˺マー　˹トーラヌ [ʔu˹nu˺ ku̥to: ˹tui˺ ʃi̥˹ki˺ pu̥satantim ma˹na ˺ma: ˹to:ranu](そのことは問い尋ねたくても、今は問えない＜問われない＞)。˹トゥーンティ˺　ウムイ　˹ベー˺カー　˹パー˺ク　˹トゥイヤー˺　ミサムヌ [˹tu:nti˺ ʔumui ˹be:˺ka: ˹pa:˺ku ˹tuija:˺ misamunu](問おうと思っているのなら早く問えば良いのに)。˺バーラ　˹トゥー˺　クトー　˹ナーン˺バ　˹ワー　トゥイ˺バ [˺ba:ra ˹tu:˺ ku̥to: ˹na:m˺ba ˹wa: tui˺ba](私から問うことはないから、君が問いなさい)。

˹ドゥーンガイ˺リ [˹du:ŋgai˺ri] 【名】寝返り。身返り。裏返すこと。寝ている子供がひっくり返ること。「胴返り」の義。˹ミーシキ˺　タ˹トゥ˺ター　ヤ˹ラ˺ベー＜アガッ˹ふァー˺マー＞　˹ドゥーンガイ˺リ　˹シースバン [˹mi:ʃi̥˺ tḁ˹tu˺ta: ja˹ra˺be:＜agaf ˹fa:˺ma:＞ ˹du:ŋgai˺ri ˹ʃi:subaŋ](誕生後三月経ったので、子供＜赤子＞は寝返りをすることが出来るよ＜するわい＞)。

˹ドゥーン˺ヤー [˹du:ɲ˺ja:] 【名】自分の家 (ぞんざいな表現)。˹ドゥー˺ヌヤー [˹du:˺nuja:](自分の家。＜丁寧な表現＞) ともいう。˹ドゥーン˺ヤーヌ　プ˹ス [˹du:ɲ˺ja:nu pu̥˹su](家族。自分の家の人)。˹ドゥーン˺ヤーヌ　プ˹スンマー˺　ティマー　パ˹ラー˺ムティ　プ˹スン˺ヤーヌ　プ˹スカーニ˺　ティマー　パ˹ラウ˺タ [˹du:ɲ˺ja:nu pu̥˹summa:˺ tima: pa˹ra:˺muti pu̥˹suɲ˺ja:nu pu̥˹suka:ni˺ tima: pa˹rau˺ta](自分の家の人には手間賃は払わないで余所の家の人にだけ手間賃を払った)。

˹トゥイ [˹tui] 【名】樋。かけひ (懸樋)。標準語から新しく借用された語。明治生まれの古老は、˺ビー [˺bi:](樋) という。これは、「水やりたる樋＜ヒ＞の上に〜」『かげろふ日記』の転訛したものか。屋根を流れる雨水を受けて水タンクや水瓶に流す装置。竹筒を半分に割ったものを使用していた。˹タイフー˺ヌ　˺フクンダ　˹トゥイヤー (˹ビー˺ヤ)　パンツァシ˺　シ˹キ˺リ [˹taiɸu:˺nu ˺ɸu̥kunda ˹tui˺ja:(˹bi:˺ja) ˹pantsaʃi˺ ʃi̥˹ki˺ri](台風が吹くから樋は外しておきなさい)。

˹トゥイシミルン [˹tuiʃimiruŋ] 【他動】問い詰める。˺アイニ　˹トゥイシミランドー˺シ　ヤー˹ラマ˺シ　˹トゥイ˺バ [˺ʔaini ˹tuiʃimirando:˺ʃi ja:˹rama˺ʃi ˹tui˺ba](あんなに問い詰めないで、やんわりと問いなさい)。˹トゥイシミルンティ˺　ウムーカー　˹トゥイシミル˺　クトー　ナ˹ルン˺ドゥ　˹トゥイシミ˺　プサー　˹ナー˺ヌ [˹tuiʃimirunti˺ ʔumu:ka: ˹tuiʃimiru˺ ku̥to: na˹run˺du ˹tuiʃimi˺ pu̥sa: ˹na:˺nu](問い詰めようと思えば問い詰めることは出来るが、問い詰めたくはない)。˹マー˺ビン　˹トゥイシミレー˺　ミサムヌ [˹ma:˺bin ˹tuiʃimire:˺ misamunu](もっと問い詰めればよいのに)。˹パー˺ク　˹トゥイシミリ [˹pa: ˺ku ˹tuiʃimiri](早く問い詰めなさい)。

˹トゥイスクン [˹tuisu̥kuŋ] 【他動】問い聞く。問い尋ねる。尋問する。ッ˹サン˺カー　˹トゥイシキ˺バ [s˹saŋ˺ka: ˹tuiʃi̥ki˺ba](知らなければ問い尋ねよ)。˹トゥイシキ˺　プサタンドゥ　˹トゥイシゥカランシェン [˹tuiʃi̥ki˺ pu̥satandu ˹tuisi̥karaŋʃeŋ](問い尋ねたかったが、問い尋ねられなかった)。˹トゥイスクンティ˺　ウムーカー　シ˹グ　トゥイスク˺クトゥ [˹tuisu̥kunti˺ ʔumu:ka: ʃi˹gu tuisu̥ku˺ ku̥tu](問い尋ねたかったら、すぐ問い尋ねることだ)。カ˹リン　トゥシケー˺　ミサムヌ [ka˹rin tuiʃi̥ke:˺ misamunu](彼に問い尋ねればよいのに)。

˹トゥイタジニルン **[˹tuitaʤiniruŋ]** 【他動】問い尋ねる。手掛かりをたどって行方を捜し求める。ウ˹キ˺ナーナ　ッ˹ふァヌ˺　ヤ˹ドゥ˺ヤー　ト˹ミ˺ルンティ　ウ˹マー˺カマー　˹トゥイタジニルンドゥ˺　ムッ˹トゥ˺　サ˹バカラ˺ヌ [ʔu˹ki˺naːna f˹fanu˺ ja˹du˺jaː tu˹mi˺runti ʔu˹maː˺kamaː ˹tuitaʤinirundu˺ mut˹tu˺ sa˹bakara˺nu](沖縄で子供の宿屋を探そうとして、あちらこちら問い訪ねるが、ちっとも探し当てられない)。

˹トゥイ˺ヌ **[˹tui˺nu]** 【名】ちょうな (手斧)。大工道具の一つ。幅約 8 センチ、長さ約 10 センチ程のひらのみ (平鑿) に直角に曲がった枝の柄を付けた鍬形の斧。斧で粗削りした後、これで丁寧に平らにけずった。˹ブー˺ヌシ　ア˹ラキジ　シェーン˺　トンバ　˹トゥイ˺ヌシ　キ˹ジティ˺　カ˹ナ˺　カ˹コーッ˺タ [˹buː˺nuʃi ʔa˹rakiʤi ʃeːn˺ tomba ˹tui˺nuʃi ki˹ʤiti˺ ka˹na˺ kḁ˹koːt˺ta](斧で粗削りしたところを手斧で削って鉋を掛けられた)。

˹トゥイ˺ミョー **[˹tui˺mjoː]** 【名】灯明。大きな神事の際に神前に灯明を供えて祈願する祭具。殻長 6〜7 センチ程の二枚貝のキ˹ザ˺ク [ki˹ʤa˺ku](シレナシジミ) の殻を二枚ずつ並べて菜種油をいれ、こより (紙縒り) の˹トゥー˺ジン [˹tuː˺ʤiŋ](灯心) を差して灯した。˹トゥイミョー˺ヤ　ウ˹ブニンガイ˺ヌ　˺ピンナール　˺シケーティ　˹ニン˺ガイ　˹ヨーッタ˺ル [˹tuimjoː˺ja ʔu˹buningai˺nu ˺pinnaːru ˺ʃi̥keːti ˹niŋ˺gai ˹joːtta˺ru](灯明は大きな神事の時に < ぞ >、それを灯しながら祈願されたものだ)。

˺トゥカ **[˺tu̥ka]** 【接助】〜とか。〜やら。活用語の終止形、連体形 (< ぞ > の結び) に接続する。石垣方言からの借用語か。˺パルントゥカ <˺パルンティバ >　パ˹ラントゥ˺カ < パ˹ランティバ >　イ˹ジマーシ　ユンマー˺リ　˹ベー˺ン　˹ギン˺シェー　ア˹テー˺　ナ˹ラ˺ヌ [˺paruntu̥ka <˺paruntiba > pa˹ran˺tu̥ka < pa˹ran˺tiba > ʔi˹ʤimaːʃi jummaː˺ri ˹beː˺ŋ ˹giŋ˺ʃeː ʔa˹teː˺ na˹ra˺nu](行くとか、行かないとか言い回して婉曲に断っているようでは、当てにならない)。

˺ドゥガイ **[˺dugai]** 【名】 (植) 多肉植物の一種。アロエ。ろかい (蘆薈)。皮膚の傷や腫れ物、打撲傷に効く。リュウゼツラン (竜舌蘭) にもいう。ドゥ˹ガイ˺ヌ　˹パー˺　サキティ　キ˹ジ˺ナー　シ˹ビシキ˺　パ˹リ˺　シ˹キ˺ルカー　˺ユー　ス˹クタン [du˹gai˺nu ˹paː˺ sḁkiti ki˹ʤi˺naː ʃi˹biʃiki˺ pa˹ri˺ ʃi̥˹ki˺ruka: ˺ju: su̥˹kutaŋ](アロエの葉を裂いて傷にくっつけて、貼り付けておくと良く効いた)。

トゥ˹カ˺キン **[tu̥˹ka˺kiŋ]** 【名】(動) 魚の名。和名、イソマグロ。体長約 90 センチ。カ˹ツシンラ˺　ハ˹ニビキ　シー　アー˺キティ　˺ユー　トゥ˹カ˺キン　˹ホー˺ソーッタン [kḁ˹tsuʃinra˺ ha˹nibiki ʃi: ʔaː˺kiti ˺ju: tu̥˹ka˺kiŋ ˹hoː˺soːttaŋ](カツオ漁船から引縄釣りをしていて < 疑似餌を引いて > いそまぐろをよく釣られたものだ)。

トゥ˹カグシ **[tu̥˹kaguʃi]** 【名】十日おきに。十日ごと。接尾語の「〜越し」は、「時間の長さを示す語に付けて、その間中続いてきたことを表す」が、鳩間方言では、「その時間の長さをおいて、同じことが繰り返される < 間隔を置いて繰り返す >」ことの意味を表す。/〜イヤイヤー　ユタカナルユヌ　シルシ　サミエー　アミヤ　トゥカグシ　カジヤ　シジカニ〜/(いやいや < 弥弥 >、豊年満作の前兆であろう、雨は十日おきに降って、風は静かに吹いて〜)(「鳩間口説」『鳩間島古典民謡古謡集』)。

トゥ˹カ˺ザー **[tu̥˹ka˺ʤaː]** 【名】 (動) 魚の名。ニザダイ科。かんらんはぎ。くろはぎの仲間。体長約 30 センチ。トゥ˹カ˺ジャー [tu̥˹ka˺ʤaː](かんらんはぎ)、フ˹プラーイズ [ɸu̥˹puraːʔiʤu] ともいう。和名、クロハギの仲間にもトゥ˹カ˺ザー [tu̥˹ka˺ʤaː](フ˹プラーイズ) という。鳩間島の西南西にある˹クー˺シビー [˹kuːʃi˺biː](干瀬の名) でよく獲れた。この魚は匂いが臭く、調理したり、煮て食したりした後はなかなか匂いが消えなかったので、女性からは嫌われていた。トゥ˹カザー˺ヤ　ン˹マー˺ヤ　ア˹ルン˺ドゥ　カ˹ザヌ˺　タ˹カー˺ンダ　˹ナン˺ゾー　ッ˹ふァーンシェン [tu̥˹kaʤaː˺ja ʔm˹maː˺ja ʔa˹run˺du ka˹ʤanu˺ ta˹kaː˺nda ˹nan˺ʤo: f˹faːŋʃeŋ](かんらんはぎは美味しくはあるが匂いが強い (臭い) ので、あんまり食べなかった)。

トゥ˹カ˺スン **[tu̥˹ka˺suŋ]** 【他動】溶かす。˺ユーナ˺サタ　トゥ˹カ˺スンティ　˹ベーン˺ドゥ　トゥ˹カサラ˺ヌ [˺juːna ˺sata tu̥˹ka˺sunti ˹beːn˺du tu̥˹kasara˺nu](お湯に砂糖を溶かそうとしているが、溶かされない)。トゥ˹カシ˺　プサカー　˺ドゥーシ　トゥ˹カ˺シバ [tu̥˹kaʃi˺ pu̥saka: ˺duːʃi tu̥˹ka˺ʃiba](溶かしたければ自分で溶かせよ)。トゥ˹カ˺ス　˺ムノー　ムー˹ル˺　トゥ˹カ˺シェー　˺ミサムヌ [tu̥˹ka˺su ˺muno: muː˹ru˺ tu̥˹ka˺ʃe: ˺misamunu](溶かすものは全部溶かせばよいのに)。

トゥ˹ガ˺ニン **[tu˹ga˺niŋ]** 【名】とがにん (咎人)。罪人。ム˹カ˺シ　パ˹トゥ˺マナー　ウ˹キ˺ナーラ　˹ナーラ

サ˥リ　˩オー˥レール　トゥ˩ガニン˥ヌ　˩オーッ˥タンツォー [mu˩ka˥ʃi pa̠˩tu˥mana: ʔu˩ki˥na:ra ˩na:rasa˥ri ˩ʔo:˥re:ru tu˩ganin˥nu ˩ʔo:t˥tantso:](昔、鳩間島に沖縄から流されてこられた咎人＜罪人＞がおられたそうだ)。

トゥ˩カミーカ [tu˩kami:ka] 【名】数詞。十三夜。十三日。「十日・三日」の転訛したもの。˩キュー˥ヌ　˥シケー　トゥ˩カミーカヌ˥　シ˩キ˥ユン˩ナー [˩kju:˥nu ˥ʃi̥ke: tu̠˩kami:kanu˥ ʃi̥˩ki˥jun˩na:](今日の月は十三夜の月だねえ)。˥シキヌ　˩カイ˥シャー　トゥ˩カミーカー˥　ミ˩ヤ˥ラビ　˩カイ˥シャー　˩トゥー˥ナナツー　˩ホーオ˥ー˩イー　チョーオ˥ーガー [˥ʃi̥kinu ˩kai˥ʃa: tu̠˩kami:ka:˥ mi˩ja˥rabi ˩kai˥ʃa: ˩tu:˥ nanatu: ˩ho:ʔo˥:˩i: ʧo: ʔo˥:ga:](月が綺麗なのは十三夜の月、乙女の美しいのは十七八歳だ、ホーイーチョーガー＜囃子＞)。歌謡語。

トゥ˩ガミ˥ルン [tu˩gami˥ruŋ] 【他動】1咎(トガ)める。なじる。責める。叱責(シッセキ)する。注意する。「～吾がするわざを害目賜名＜とがめたまふな＞『万、721』」の転訛。ウ˩リバ˥　トゥ˩ガミ˥ルンティ　˩アー˥キ　˩カイ˥テー　ウ˩リン˥　トゥ˩ガミラ˥レーティ　˩アー˥ク [ʔu˩riba˥ tu˩gami˥runti ˩ʔa:˥ki ˩kai˥te: ʔu˩rin˥ tu˩gamira˥re:ti ˩ʔa:˥ku](彼を注意しようとして、却って彼に注意されて＜叱られて＞あるく)。ト˩ガミ˥　グ˩リ˥サタンティン　トゥ˩ガミ˥ル　プ˩スヌ˥　ブ˩ラーン˥カー　ナ˩ラ˥ヌ [tu˩gami˥ gu˩ri˥satantin tu˩gami˥ru pu̠˩sunu˥ bu˩ra:ŋ˥ka: na˩ra˥nu](注意しずらくても注意する人がいないといけない)。˩パー˥ク　トゥ˩ガミ˥レー　˥ミサムヌ [˩pa:˥ku tu˩gami˥re: misamunu](早く注意すれば良いのに)。ト˩ガミ˥リ [tu˩gami˥ri](注意しろ)。2罰する。ヤ˩ナクトゥ　スー˥カー　トゥ˩ガミラ˥リン [ja˩nakutu su:˥ka: tu˩gamira˥riŋ](悪事を働くと罰される)。

トゥ˩ガラ˥スン [tu˩gara˥suŋ] 【他動】とがら (尖) す。尖らせる。物の先端を尖るようにする。老年層は˩トゥンガラ˥スン [˩ruŋgara˥suŋ](尖らす) という。トゥ˩ガラサン˥カー　シゥ˩カーランバ　マー˥ビン　トゥ˩ガラ˥シバ [tu˩garasaŋ˥ka: si̥˩ka:ramba ma:˥bin tu˩gara˥ʃiba](尖らさないと使えないから、もっと尖らせよ)。トゥ˩ガラ˥スンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　トゥ˩ガラ˥ス　ム˩ヌ˥ヌ　˩ナー˥ヌ [tu˩gara˥sunti ʔu˩mu:n˥du tu˩gara˥su mu˩nu˥nu ˩na:˥nu](尖らせようと思うが、尖らす物がない)。トゥ˩ガラシ˥　プサカー　˩パー˥ク　トゥ˩ガラ˥シェー　˥ミサムヌ [tu˩garaʃi˥ pu̠saka: ˩pa:˥ku tu˩gara˥ʃe: ˥misamunu](尖らしたければ早く尖らせばよいのに)。

トゥ˩ガ˥ル [tu˩ga˥ru] 【名】とがり (尖り)。物の尖った先端。ユ˩クン˥ヌ　トゥ˩ガ˥ルナー　˥ミー　˩ピッカ˥リティル　カ˩タ˥ミー　ナリ　˩ベー [ju˩kun˥nu tu˩ga˥runa: ˩mi: pikka˥ritiru ka̠˩ta˥mi: ˥nari ˩be:](銛の先端の尖りに目が突き刺されて片目になっている)。

トゥ˩ガ˥ルン [tu˩ga˥ruŋ] 【自動】とが (尖) る。物の先端が細く鋭くなる。老年層は˩トゥン˥ガルン [˩tuŋ˥garuŋ](尖る) という。ユ˩クン˥ヌ　サ˩ケー˥　トゥシナー　˥トゥーカー　˩トゥン˥ガルン [ju˩kun˥nu sa̠˩ke:˥ tu̠ʃina: ˥tu:ka: ˩tuŋ˥garuŋ](銛の先は砥石で研ぐと尖る)。トゥ˩ガラン˥ティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　˩ウシキティ　トゥー˥ター　トゥ˩ガ˥リ　˩ベー [tu˩garan˥ti ʔu˩mu:tan˥du ˩ʔuʃi̥kiti tu:˥ta: tu˩ga˥ri ˩be:](尖らないと思ったが、押し付けて研いだら咎っている)。トゥ˩ガ˥ル　˥ムノー　˩マー˥ビン　トゥ˩ガ˥レー　˥ミサムヌ [tu˩ga˥ru ˥muno: ˩ma:˥bin tu˩ga˥re: ˥misamunu](尖るものはもっと尖ればよいが)。ト˩ガ˥リ [tu˩ga˥ri](尖れ)。

˥トゥキ [˥tu̠ki] 【名】時計。ム˩カ˥シェー　ター˩ン˥ネーナーン　˥トゥケー　˥アル　˥ムノー　ア˩ラン˥シェン [mu˩ka˥ʃe: ta:˩n˥ne:na:n ˥tu̠ke: ˥ʔaru ˥muno: ʔa˩raŋ˥ʃeŋ](昔は、どこの家にも時計はあるものではなかった)。

˥トゥキ [˥tu̠ki] 【名】1時。時刻。マ˩ナ˥マー　ナンドゥキヤ [ma˩na˥ma: ˥nandukija](今は何時＜何時＞か)。「～したとき、～するとき」を意味する場合は、～˥バス [～˥basu](場合)、～˥ピン [～˥piŋ](～とき) のようにいう。2時期。時節。トゥ˩キ˥ヌ　˥クーカー　˩ナンクク˥ル　ア˩ラキ˥スバ　マ˩ナ˥マー　˩ソー　サン˥タンティン　˥ミサン [tu̠˩ki˥nu ˥ku:ka: ˩naŋkuku˥ru ʔa˩raki˥suba ma˩na˥ma: ˩so: san˥tantim ˥misaŋ](時＜時期＞が来ればおのずと＜自然に＞歩くから心配しないでもよい)。˥トゥキン　˥アリ　˥シチン　ア˩リ˥ル　˥ムノー　シ˩ラリル [˥tu̠kiŋ ˥ʔari ˥ʃi̥ʧiŋ ʔa˩ri˥ru ˥muno: ʃi˩rariru](時もあり、時節もあって初めて＜時節があってぞ＞ものごとは成し遂げられる＜なされる＞ものだ)。

トゥ˩キイラ˥ナー [tu̠˩kiʔira˥na:] 【副】すぐさま。間もなく。即刻。あっという間に。「時を要せず。時を移さず」の義。˥パレーンティ　˥ウムーカー　トゥ˩キイラ˥ナー　˩カイ˥リ　˥キー　˩ベー˥バン [˥pare:nti ˥ʔumu:ka: tu̠˩kiʔira˥na: ˩kai˥ri ˥ki: ˩be:˥baŋ](行ったと思ったら、間もなく＜時を移さず＞帰ってきて

いるわいな)。

トゥ˞キドゥ˜キ [tu̥˞kidu˜ki] (1)【名】時節時節。˞ウンヌ˜　トゥキドゥキヌ　˜パーブジンケーヌ　ア˞ラ˜ソーレール　˞ジー˜マシ [˞ʔunnu˜ tu̥kidukinu ˜ʔujapa:buʤiŋke:nu ʔa˞ra˜so:re:ru ˞ʤi:˜maʃi](その時代時代＜時々＞の先祖達が買い求められた＜有らされた＞土地財産)。 **(2)**【副】時々。偶に。おりおり。ト˞キドゥ˜ケー　ア˞サビン˜　クーバ˞ヨー [tu̥˞kidu˜ke: ʔa˞sabiŋ˜ ku:ba˞jo:](時々は＜たまには＞遊びに来なさいね)。

˜トゥキ　˜トゥルン [˜tu̥ki ˜turuŋ]【連】時刻を告げる。トゥ˞ロー˜　トゥキ　˜トゥルン [tu˞ro:˜ tu̥ki ˜turuŋ](鶏は時刻を告げる)。/トゥルヤ　トゥキトル　シュクブン　インヤ　ヤーヌバン　シュクブン　ピトゥヌ　イタジラ　ウルソヤ　シキンヌ　ユーシティ　/(鶏は時刻を告げるのが職分、犬は家の番をするのが職分、人として徒に過ごすのは世捨て人だ)「デンサー節」。

ドゥ˞キナ˜スン [du˞kina˜suŋ]【他動】のける (退ける)。退かせる。人や物を他の場所へ移す。除く。よける。脇へ寄せる。ミ˞チッサーリ˜ムノー　ドゥ˞キナ˜スンティ　シ˞タヌ˜　マ˞ダ˜　ドゥ˞キナサ˜ヌ [mi˞ʧissa:ri˜ muno: du˞kina˜sunti ʃi̥˞tanu˜ ma˞da˜ du˞kinasa˜nu](道の障壁物＜道塞がり物＞は退けると言ったのに、まだ退けない)。ドゥ˞キナ˜シ　˜ミサカー　ドゥ˞キナ˜ス　˜クトー　˜ナルン [du˞kina˜ʃi ˜misaka: du˞kina˜su ˜ku̥to: ˜naruŋ](退けてよければ、退けることは出来る)。˞パー˜ク　ドゥ˞キナ˜シェー　˜ミサムヌ [˞pa:˜ku du˞kina˜ʃe: ˜misamunu](早く退ければ良いのに)。ウ˞レー˜　ドゥ˞キナ˜シバ [ʔu˞re:˜ du˞kina˜ʃiba](それは退けろよ)。

トゥ˞キ˜ユタ [tu̥˞ki˜juta]【名】よた (与太)。巫女。神事や法事の日を占い、選定したり、祈願してくれることを生業とする巫女。トゥ˞キユタ˜ヌ　˜ヤーナ　˞ギー　ソッコー˜ヌ　˞ピュール˜　ク˞ラ˜シ　˜クー [tu̥˞kijuta˜nu ˜ja:na ˞gi: sokko:˜nu ˞pju:ru˜ ku˞ra˜ʃi ˜ku:](ユタの家に行って法事の日＜日和＞を選定して＜繰らして＞きなさい)。

トゥ˞キユドマ˜ナー [tu̥˞kijuduma˜na:]【副】すぐに。間もなく。即刻。時を移さず。「時淀まず」の義。˜キサ　˞パッタ˜ヌ　トゥ˞キユマ˜ナー　˞ギーティ˜　ケーツバン [˜ki̥sa ˞patta˜nu tu̥˞kijuduma˜na: ˞gi:ti ˜ke:tsubaŋ](さっき発った＜行った＞ばかりだが、間もなく＜時を移さず。時淀まず＞行って帰ってきているよ)。ヤ˞ラビ˜ヌ　フ˞ドゥベー˜　トゥ˞キユドゥマ˜ヌ [ja˞rabi˜nu ɸu˞dube:˜ tu˞kijuduma˜nu](子供の成長は時を要しない＜時淀まない。時が停滞しない＞)。

トゥ˞キ˜ルン [tu̥˞ki˜ruŋ]【自動】溶ける。˜サター　ミ˞ジ˜ナ　イ˞ル˜カー　トゥ˞キルン˜ドゥ　ク˞レー˜　トゥ˞キラ˜ヌ [˜sḁta: mi˞ʤi˜na ʔi˞ru˜ka: tu̥˞kirun˜du ku˞re:˜ tu̥˞kira˜nu](砂糖は水に入れると溶けるが、これは溶けない)。トゥ˞キ˜ル　˜ムノー　ムー˞ル˜　トゥ˞キ˜レー　˜ミサムヌ [tu̥˞ki˜ru ˜muno: mu:˞ru˜ tu̥˞ki˜re: ˜misamunu](溶ける物は全部溶ければ良いのに)。ムー˞ル˜　トゥ˞キ˜リ [mu:˞ru˜ tu̥˞ki˜ri](全部溶けろ)。

ドゥ˞キ˜ルン [du˞ki˜ruŋ] (1)【他動】どける (退ける)。他の場所へ移す。ミ˞チッサーリ˜ムヌ　ス˞バー˜　ドゥ˞キ˜ルンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　ドゥ˞キララ˜ヌ [mi˞ʧissa:ri˜munu su˞ba:˜ du˞ki˜runti ʔu˞mu:n˜du du˞kirara˜nu](障害物＜道塞がり物＞を側に退けようと思おうが、退けられない)。˞タン˜ガシェー　ドゥ˞キ˜ル　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [˞taŋga˜ʃe: du˞ki˜ru ˜ku̥to: na˞ra˜nu](一人では退けることは出来ない)。ドゥ˞キ˜レー　˜ミサムヌ [du˞ki˜re: ˜misamunu](退ければ良いのに)。˞パー˜ク　ドゥ˞キ˜リ [˞pa:˜ku du˞ki˜ri](早く退けろ)。 **(2)**【自動】のく (退く)。他の場所へ移る。ク˞ルマ˜ヌ　˞クー˜ター　ドゥ˞キ˜ルンティ　シ˞タヌ˜　ドゥ˞キララン˜シェン [ku˞ruma˜nu ˞ku:˜ta: du˞ki˜runti ʃi̥˞tandu˜ du˞kiraraŋ˜ʃeŋ](車が来たので退けようとしたが、退けられなかった)。

˜トゥク [˜tu̥ku]【名】1徳。道を悟った立派な行為。˞イークトゥ　スー˜カー　˜トゥク　トゥ˞ラ˜リンツォー＜˞イーラ˜リンツォー＞[˞ʔi:ku̥tu su:˜ka: ˜tu̥ku tu˞ra˜rintso:＜˞ʔi:ra˜rintso:＞](良い事をすると徳が得られるそうだ)。˞ワー˜　ウヤコーコー　ヤ˞リバ˜　ヤー˞ディン　イントゥク　イーラ˜リンヨー [˞wa:˜ ʔujako:ko: ja˞riba˜ ja:˞din ʔintuku ʔi:ra˜riŋjo:](君は親孝行者だからきっと陰徳が得られるよ)。2得。利益。有利になること。˜ナイニ　˜バクカー　˞ワーヤ˜　トゥク　˞シー˜　バーヤ　˞スン˜ル　˞スーヌ˜　シ˞マー˜ニ　˜バクカー　˞バー˜ル　˜トゥク　˞スー [˜naini ˜bakuka: ˞wa:ja˜ tu̥ku ˞ʃi:˜ ba:ja ˞sun˜ru ˞su:nu˜ ʃi˞ma:˜ni ˜bakuka: ˞ba:˜ru ˜tu̥ku ˞su:](縦に分けると君は得をし、私は損をするが、横に分けると私が得をする)。

トゥ˞ク [tu̥˞ku]【名】床の間。「車箱、車乃度古 (くるまのとこ)、一云車輿」『和名抄』の転訛したものか。˞ザー˜トゥク [˞ʤa:˜tu̥ku](床の間) とも云う。

トゥ˩クヌ˥　カ˩キジ˥ク　˥サイティ　˥パナン　˥イキバ [tu̥˩kunu˥ kḁ˩kiʤi˥ku ˥saiti ˥panan ˥ʔikiba](床の掛け軸を吊るし掛けて＜下げて＞花も活けなさい)。

˥トゥク [˥tu̥ku] 【名】鎌の柄の頭部に填める鉄製の輪。「床」の転訛したものか。˩ガッケ˥ヌ　˩ユイヌ˥　トゥク　パ˩ミラン˥カー　˩ヌイ˥ス [˩gakke˥nu ˩juinu˥ tu̥ku pa˩miraŋ˥ka: ˩nui˥su](鎌の柄の床＜鉄製の輪＞を填めないと刃が抜ける)。

˥ドゥク [˥duku] 【名】毒。パ˩ブヌ˥　ドゥコー　˩スー˥ワン [pa˩bunu˥ duko: ˩su:˥waŋ](蛇の毒は強い)。˥アバイズヌ　˥ドゥク [˥ʔabaiʤunu ˥duku](おにだるまおこぜの毒)。シ˩トゥチ˥ヌ　˥ナロー　バ˩リティ˥　ミ˩ジ˥ナー　シ˩キティ˥　ドクヌギ　˩サン˥カー　˩ビー˥ルン˩ダー [ʃi̥˩tuttʃi˥nu ˥naro: ba˩riti˥ mi˩ʤi˥na: ʃi̥˩kiti˥ dukunugi ˩saŋ˥ka: ˩bi:˥run˩da:](蘇鉄の実は割って水に浸けて毒抜きをしないと食中毒するよ)。

˥ドゥク [˥duku] 【副】あまりに。甚だ。ひどく。過度に。「酷く＜非道く」の転訛したものか。ヤ˩ラ˥ベー　˥ドク　˩フンダイ˥　シ˩ムーンドー˥シ　ン˩メーマ˥ナー　˩シシキ˥　ナ˩ラーサン˥カー　˩マイフナー˥　マ˩ラントゥ ダー [ja˩ra˥be: ˥duku ˩ɸundai˥ ʃi˩mundo:˥ʃi ʔm˩me:ma˥na: ˩ʃiʃi̥ki˥ na˩ra:saŋ˥ka: ˩maiɸuna:˥ ma˩ran˥tu̥da:](子供はあまり我儘放題にさせないで少しずつは仕付け＜躾＞て教えないと立派な子＜利口な子＞には育たないよ)。˥ドゥク　ア˩サブナ [˥duku ʔa˩sabuna](あまり遊ぶな)。

ドゥ˩クードゥク [du˩ku:duku] 【副】よくもまあ～か。相手の行動を強く非難する。よもや～まいね。まさか～まいね。普通では考えられないことをしでかした時などに、驚き呆れて相手を非難していう。主文の文頭に用いられ、文末に疑問・反語の表現を伴って、期待しないことを強調して表す。˩ワッ˥サンティ　ッ˩シブリティ˥　ドゥ˩クードゥク　ワー˥　アイル　˩スーテー [˩was˥santi ʃ˩ʃi buriti˥ du˩ku:duku wa:˥ ʔairu ˩su:te:](悪いと知りながら＜知っていて＞、君はよくもまあ　そのようにすることが出来るものだね＜そのようにぞするのか＞)。ド˩クードゥク˥　アイブ　ク˩トゥ˥ヌ　シ˩ラリワ [du˩ku:duku˥ ʔaibu ku̥˩tu˥nu ʃi˩rariwa](まさかあんなことが出来るものか＜よくもまあ　あんなことが出来るものだ＞)。まさか～か。よもや～まいね。いくらなんでも～か。みすみす (見す見す)～か。下に疑問、反語の語を伴って期待しないことを表す。ドゥ˩クードゥク˥　アイブー　ク˩トゥ˥ヌ　ナルン˩トゥー [du˩ku:duku˥ ʔaibu: ku̥˩tu˥nu ˥narun ˩tu:](まさかあんなことが出来るものか、出来やしない)。ウ˩ヤ˥バ　˩タン˥ガ　ヌ˩カ˥シティ　˩ワー˥　ドゥ˩クードゥク˥　ンジ　パ˩ラリン [ʔu˩ja˥ba ˩taŋ˥ga nu˩ka˥ʃi̥ti ˩wa:˥ du˩ku:duku˥ ʔnʤi pa˩rariŋ:](親を一人残して、君はまさか出て行けるのか)。

ドゥ˩クガイ˥シ [du˩kugai˥ʃi] 【名】毒消し。解毒。「毒返し」の義。パ˩ブヌ˥　ドゥ˩クガイ˥シェー　˥ヌーカヤー [pa˩bunu˥ du˩kugai˥ʃe: ˥nu:kaja:](蛇毒の毒消し＜毒返し＞は何かねえ)。ナ˩チヌ˥　アツァ　˥ピンマー　ドゥ˩クガイ˥シティ　˩シー　ウイ˥プスンケーヤ　ア˩チサー˥バ　ヌ˩モーッタ˥ル [na˩ʧinu˥ ʔatsa ˥pimma: du˩kugai˥ʃiti ˩ʃi: ʔui˥pu̥suŋke:ja ʔa˩ʧisa:˥ba nu˩mo:tta˥ru](夏の暑い時には、毒消し＜毒返し＞といって、老人たちは熱いお茶を飲まれた)。

トゥ˩クガマチ [tu̥˩kugamatʃi] 【名】とこぶち。とこがまち (床框)。「車箱、車乃度古 (くるまのとこ)」『和名抄』の「度古」に˩鬚髻、加末智乃比偈 (かまちのひげ)」『華厳音義私記』の「加末智」が下接した合成語が転訛したものか。床の間の鴨居と敷居には、ク˩ル˥キー [ku˩ru˥ki:](琉球黒檀。黒木) が用いられた。トゥ˩クガマチ˥　ピ˩カラ˥シ　カ˩ザリバル　ヤー˥ユン　˩カイ˥ヤル [tu̥˩kugamatʃi˥ pi̥˩kara˥ʃi ka˩ʤaribaru ja:˥juŋ ˩kai˥jaru](床框を光らして飾ってこそ家も美しいものだ)。

˥トゥク　˩スン [˥tu̥ku ˩suŋ] 【連】得をする。利益になる。イ˩ズヌ　ダイヌ˥　イチエン　ア˩ガル˥カー　˩ギュー˥サブカラ　˥トゥク　˩スン˥カヤー＜˩スー˥カヤー＞[ʔi˩ʤunu dainu˥ ʔitʃijeŋ ʔa˩garu˥ka: ˩gju:˥sabukara ˥tu̥ku ˩suŋ˥kaja:＜˩su:˥kaja:＞](魚の値段が一円値上がりすると、いくらほど得をするだろうかねえ)。

˥トゥク　タ˩ボーラ˥リン [˥tu̥ku ta˩bo:ra˥riŋ] 【連】1懐胎(カイタイ)する。妊娠する。「得を賜る」の義。ユ˩メー˥　キサー˩ティ˥　トゥク　タ˩ボーラリ˥　ブー [ju˩me:˥ ki̥sa:˩ti˥ tu̥ku ta˩bo:rari˥ bu:](嫁はすでに妊娠して＜徳を賜って＞いる)。2得をする＜得を頂く＞。ク˩ビ˥ナー　˩カウ˥カー　ノー˩シン˥　トゥコー　タ˩ボーラリ˥ス　˥パジ [ku˩bi˥na: ˩kau˥ka: no:˩ʃin˥ tu̥ko: ta˩bo:rari˥su ˥paʤi](こんなに買ったらきっと得は頂けるはずだ)。

トゥ˩クットー˥ン [tu̥˩kutto:˥ŋ] 【形】のんびりしている。うっかりしている。迂闊者である。ものご

とにこだわらない。ウ˞レー　サッ˜コー　トゥ˞クットー˜ンダ　ア˞ギマーシェー˜ティ　シ˞グトゥ˜　シ˞ミラン˜カー　ア˞ツァーバー˜キン　カ˞カ˜ルン˞ダー [ʔu˞reː sak˜koː ʔu˞katto:˜nda ʔa˞gimaːʃeː˜ti ʃi˞gutu˜ ʃi˞miraŋ˜kaː ʔa˞tsaːbaː˜kiŋ kạ˞ka˜run˞daː](彼はのんびりしているから、催促し急き立てながら追い立てて仕事をさせないと明日までも仕事を引きずる＜かかる＞よ)。

トゥ˞クットゥ [tụ˞kuttu] 【名・形動】落ち着くこと。穏やかな。おっとりした。何の心配もしない静かなさま。平穏な。ウ˞レー˜　トゥ˞クットゥヌ˜　プ˞ス˜[ʔu˞reː˜ tụ˞kuttunu˜ pụ˞su](彼はおっとりした＜物静かな＞人物だ)。˞ヨイ˜ヌン　シ˞マ˜シ　トゥ˞クットゥ˜　ナレーン [˞joi˜nuŋ ʃi˞ma˜ʃi tụ˞kuttu˜ nareːŋ](お祝いも済ませて平穏になった＜ほっとした＞)。トゥ˞クットゥ˜シ　˞ベー˜リ [tụ˞kuttu˜ʃi ˞beː˜ri](静かにしていなさい)。

トゥ˞クットゥ˜シ [tụ˞kuttu˜ʃi] 【副】静かに。穏やかに。ゆっくりと。ヤ˞ラ˜ベー　プ˞スン˜トンナー　トゥ˞クットゥ˜シ　˞ベーリ　ユーサ˜ヌ [ja˞ra˜beː pụ˞sun˜tonnaː tụ˞kuttu˜ʃi ˞beːri juːsa˜nu](子供は一箇所に静かにしていることが出来ない＜静かにしておれない＞)。

トゥ˞クトゥ [tụ˞kutu] 【副】とくと(篤と)。しっかりと。とっくりと。じっくりと。ウ˞ヌ˜　クトー　トゥ˞クトゥ＜イッ˞ケナ＞　カンガイ˜リ˞ダー [ʔu˞nu˜ kụto: tụ˞kutu＜ʔik˞kena＞ kaŋgai˜ri˞daː](そのことはじっくり＜篤と＞考えなさいよ)。

˜ドゥクナバ [˜dukunaba] 【名】毒キノコ。˜ドゥクナバー　ッ˞ふァーラヌ˜　ウ˞リ˜　ッ˞ふー˜カー　˞ビー˜ルン˞ダー [˜dukunaba: f˞faːranu˜ ʔu˞ri˜ f˞fuː˜kaː ˞biː˜run˞daː](毒キノコは食べられない。それを食べると食中毒するよ)。

˜ドゥクナリ [˜dukunari] 【副】あまりにもひど(酷)くなって。ひどく(酷く)。˞ウンザー˜　ドゥクナリ　˞フンダイ　シーブンダ　シーシキ˜　トゥ˞ラ˜シバ [˞ʔundʑaː˜ dukunari ˞ɸundai ʃiːbunda ʃiːʃi̥ki˜ tu˞ra˜ʃiba](こいつはあまりにも酷く我儘のし放題だから＜我儘しているから＞仕付け＜尻を叩いて躾ける＞をしてやれ＜とらせ＞よ)。˜ドゥクナリ　˞ブー˜カー　イ˞ジ˜　トゥ˞ラ˜シバ [˜dukunari ˞buː˜kaː ʔi˞ʤi˜ tu˞ra˜ʃiba](度を過ごして酷いようだったら＜酷くなっているなら＞叱ってやりなさいよ)。

トゥ˞クニ [tụ˞kuni] 【名】仏壇。作り付けの仏壇は、奥行き3尺、間口6尺の大きさに作られている。高さ約70センチの位置から段を3段に作り、最上段に˞イーパイ [˞ʔiːpai](位牌)を安置し、両側にパ˞ナ˜イキ [pa˞na˜ʔiki](花瓶)を置く。その下段には˞コー˜ロ [˞koː˜ro](香炉)を置く。下段には、シ˞キムヌ [ʃi̥˞kimunu](供物)を供える構造になっている。˞ヤームトゥ˜ヤー　ヤ˞ルンダ˜　トゥ˞クニ˜ナー　ウ˞ブイーパイ˜ヌ　˞アッ˜タン [˞jaːmutu˜jaː ja˞runda˜ tụ˞kuni˜naː ʔu˞buʔiːpai˜nu ˞ʔat˜taŋ](本家だから仏壇には大きな位牌があった)。トゥ˞クネー　ニーバン˜ザナール　˞アッタ˜ル [tụ˞kuneː niːban˜ʤanaːru ˞ʔatta˜ru](仏壇は二番座にあったものだ)。トゥ˞クニ˜ナ　˞ティー˜　ッサイティ　˜パリバ [tụ˞kuni˜na ˞tiː˜ssaiti ˜pariba](仏壇に手を合わせてから行きなさいよ)。

˜ドゥクヌギ [˜dukunugi] 【名】毒抜き。毒消し。シ˞トゥッチ˜ヌ　˜ナロー　バ˞リティ　ミーヤ˜　ヌイ　ミ˞ジ˜ナ　シ˞キティ˜　ティダナ　˜プシ　サ˞ラシティル˜　ドゥクヌギ　˞ソーッ˜タ [ʃi̥˞tuttʃi˜nu ˜naro: ba˞riti miːja˜ nui mi˞ʤi˜na ʃi̥˞kiti˜ tidana ˜pụʃi sa˞raʃi̥tiru˜ dukunugi ˞soːt˜ta](蘇鉄の実は切り割って中身を抜き、水に浸けて太陽に干し、晒して＜ぞ＞毒抜きはされたものだ)。

トゥ˞クヌ˜　パナ [tụ˞kunu˜ pana] 【連】床の間の活花。トラノオ(虎の尾)を好んで活けた。シ˞キダ˜チ　˜ズングニチェー　˞ザートゥク˜ヌ　パ˞ナ˜イキナー　トゥ˞ラヌズーバ˜　トゥ˞クヌ˜パナティ　˞シー˜　パナ　イ˞コーッ˜タ [ʃi̥˞kida˜ʧi ˜ʤuŋgunitʃeː ˞ʤaːtuku˜nu pa˞na˜ikinaː tu˞ranuʤuːba˜ tụ˞kunu˜panati ˞ʃiː˜ pana ʔi˞koːt˜ta](朔日十五日には床の間の花活け＜花瓶＞にトラノオを床の間の活花として活けられた)。

トゥ˞クバラー [tụ˞kubaraː] 【名】床柱。床の間の脇の化粧柱。トゥ˞クバラー　キャーンギ˜シ　ス˞ク˜リシケーンダ　イッ˞ケナ　カイ˜ヤン [tụ˞kubaraː kjaːŋgi˜ʃi sụ˞ku˜ri ˜ʃi̥keːnda ʔik˞kena kai˜jaŋ](床の間の化粧柱は槇で作ってあるから非常に美しい)。

トゥ˞クビチ [tụ˞kubiʧi] 【名】特別。ウ˞レー˜　トゥ˞クビチヌ˜　プ˞ス˜　ヤ˞ルンダル˜　ユ˞ルサ˜レーヨー [ʔu˞reː˜ tụ˞kubiʧinu˜ pụ˞su˜ ja˞rundaru˜ ju˞rusa˜reːjoː](彼は特別の人だから許されたのだよ)。

トゥ˞クブチ [tụ˞kubuʧi] 【名】床縁。とこがまち(床框)。床の間の前端の化粧横木。琉球黒檀を使うのを常とした。トゥ˞クガマチ [tụ˞kugamaʧi](床框)ともいう。黒檀がない場合は、˞キャーンギ [˞kjaːŋgi](槇。イヌマキ)などを化粧木に使った。˞

バン˥テヌ ˞ザートゥク˥ヌ トゥ˞クブチェー˥ ク˞ル˥キーシ ス˞クラ˥リ ブ˞タンドゥ˥ ウ˞リ˥シ ˞サンシン˥ ス˞ク˥ローッタツォー [˩ban˥tenu ˞ʤa:-tuku˥nu tu̥˞kubutʃe:˥ ku˞ru˥ki:ʃi su̥˞kura˥ri bu˞tandu˥ ʔu˞ri˥ʃi ˞saŋʃin˥ su̥˞ku˥ro:ttatso:](私の家の床の間の床縁は黒檀の木で作られていたが、それで三線を作られたそうだ)。

˥ドゥクフチル **[˥dukuɸu̥tʃiru]** 【名】毒薬。明治生まれの話者は˥ドゥクフシル [˥dukuɸu̥ʃiru](毒薬) という。フ˞チル˥トゥ ˥ドゥクフチルバ マ˞チ˥ガイ ˥ヌミティル ˞マーラシェー˥ティ˞ダー [ɸu̥˞tʃiru ˥tu ˥dukuɸu̥tʃiruba ma˞tʃi˥gai ˥numitiru ˞ma:raʃe:˥ti˞da:](薬と毒薬を間違えてのんで＜ぞ＞亡くなられたそうだよ)。

˥トゥクムチ **[˥tu̥kumutʃi]** 【名】徳のある人。有徳者。善行を積んだ人。ウ˞ヌ プ˞ソー˥ イッ˞ケナ˥ トゥクムチ ヤ˞ローッ˥タツォー [ʔu˞nu˥ pu̥˞so:˥ ʔi˞kkena˥ tu̥kumutʃi ja˞ro:t˥tatso:](その人は非常に徳のある人であられたそうだ)。

トゥ˞クル˥ガ **[tu˞kuru˥ga]** 【接助】逆態接続。～ところで。～しても。仮定の事態を述べた前件の文や語句の過去形に付き、それに反する後件の文や語句が続く事を表す。˞ワー˥ イ˞コーラ˥ アジ シゥ˞カシタトゥクル˥ガ ウ˞レー˥ シゥ˞ク˥ スコー ア˞ラ˥ヌ [˞wa:˥ ʔi˞ko:ra˥ ʔaʤi si̥˞kaʃitatukuru˥ga su̥˞ku˥ su̥ko: ʔa˞ra˥nu](君がいくら説いてやって＜言って聞かせて＞も聞き入れるどころではない)。

トゥ˞クルドゥク˥ル **[tu̥˞kuruduku˥ru]** 【名】所々。あちらこちら。ここかしこ。トゥ˞クルドゥク˥ルナー プ˞スヌ˥ タティ ˞ベー˥ ムヌヌ ミ˞ラ˥リン [tu̥˞kuruduku˥runa: pu̥˞sunu˥ tḁti ˞be:˥mununu mi˞ra˥riŋ](所々に人の立っているのが見える＜見られる＞)。

˥トゥクン **[˥tu̥kuŋ]** **(1)**【自動】溶ける。融解する。˞マー˥ソー ˥トゥクンカヤーティ ウ˞ムータ˥ヌ トゥ˞カン˥バン [˞ma:˥so: ˥tu̥kuŋkaja:ti ʔu˞mu:ta˥nu tu̥˞kam˥baŋ](塩は溶けるかなあと思ったが溶けないよ)。トゥ˞キ パジミ˥ルン [tu̥˞ki paʤimi˥ruŋ](溶け始める)。˥トゥク ˥クトー ˞ナー˥ヌ [˥tu̥ku ˥ku̥to: ˞na:˥nu](溶けることはない)。˞マー˥ビン ˥トゥケー ˥ミサムヌ [˞ma:˥bin ˥tu̥ke: ˥misamunu](もっと溶ければ良いのに)。**(2)**【他動】溶く。溶かす。ミ˞リキン˥グ ミ˞ジ˥ナ ˥トゥクンティ ˞スンドゥ˥ トゥ˞カサラ˥ヌ [mi˞rikiŋ˥gu mi˞ʤi˥na ˥tu̥kunti ˞sundu˥ tu̥˞kasara˥nu](メリケン粉を水に溶こうとするが溶かされない)。˥トゥキ ˥ミサカー ˥トゥク ˥クトー ˥ナルン [˥tu̥ki ˥misaka: ˥tu̥ku ˥ku̥to: ˥naruŋ](溶いて良ければ溶くことは出来る)。˥ドゥーシ ˥トゥケー ˥ミサムヌ [˥du:ʃi ˥tu̥ke: ˥misamunu](自分で溶けば良いのに)。˞パー˥ク ˥トゥキバ [˞pa:˥ku ˥tu̥kiba](早く溶きなさいよ)。

˥トゥグン **[˥tuguŋ]** 【他動】取ってくる。持ってくる。˥アイブ ˥ムノー ˞ヤー˥ トゥ˞グ˥ナ˞ヨー [˥ʔaibu ˥muno: ˞ja:˥ tu˞gu˥na˞jo:](あんなものは家に持ってくるなよ)。ウ˞レー˥ ク˞マー˥ トゥグ [ʔu˞re:˥ ku˞ma:˥ tugu](それはこっちへ持って来い)。˥アイブム˞ヌ˥バ ˥トゥギティ ˞ヌー˥スワ [˥ʔaibu mu˞nu ˥ba ˥tugiti ˞nu:˥ suwa](あんな物を持ってきてどうするのか)。トゥ˞ギ˥ プサタンティン ウ˞レー˥ トゥグ ˥ムノー ア˞ラ˥ヌ [tu˞gi˥ pu̥satantiŋ ʔu˞re:˥ tugu ˥muno: ʔa˞ra˥nu](持ってきたくても、それは持ってくるものではない)。˞バン˥マー トゥ˞ギララ˥ヌ [˞bam˥ma: tu˞girara˥nu](私には持って来られない)。トゥ˞ガラ˥ヌ [tu˞gara˥nu](持ってこられない)。˞マー˥ビン ˥トゥゲー ミサムヌ [˞ma:˥bin ˥tuge: ˥misamunu](もっと持って来れば良いのに)。

ドゥ˞ゲールン **[du˞ge:ruŋ]** 【自動】大声を上げる。怒鳴る。叫ぶ。わめく。石垣方言からの借用語か。普通は、ウ˞ヤー˥ルン [ʔu˞ja:˥ruŋ](大声を上げる。叫ぶ) という。サ˞キバ˥ ヌミティ ドゥ˞ゲー˥リ ˞ベー˥モー ˞ター˥ヤ [sḁ˞kiba˥ numiti du˞ge:˥ri ˞be:˥mo: ˞ta:˥ja](酒を飲んで怒鳴っているのは誰か)。

˥トゥシ **[˥tu̥ʃi]** 【名】**1**年。˥エンドゥシ [˥jenduʃi](来年)。ユ˞ガフドゥシ [ju˞gaɸuduʃi](豊年。豊作の年)。ガ˞シドゥシ [ga˞ʃiduʃi](飢饉の年)。**2**年齢。˥トゥシ トゥ˞ル˥ター ˞ドゥー˥ヌ ˥トゥシン ˞バシキ ナー˥ヌ [˥tuʃi tu˞ru˥ta: ˞du:˥nu ˥tuʃim ˞baʃi̥ki na:˥nu](年をとったので自分の年＜年齢＞をも忘れてしまった)。˥トゥシェー ˞ギューチ˥ヤー [˥tuʃe: ˞gju:tʃi˥ja:](年＜年齢＞は幾つ＜何歳＞か)。

˥トゥシ **[˥tu̥ʃi]** 【名】といし (砥石)。刃物を研ぎ磨く石。ア˞ラトゥ [ʔa˞ratu](目の粗い砥石。斧や包丁、鎌など農具を研ぐ砥石) とク˞マ˥トゥ [ku˞ma˥tu](目の細かい砥石。鉋や剃刀などを研ぐのに用いる砥石) がある。˞サイ˥コー ク˞マトゥナー˥ル カ˞ナー˥ トゥイ˞ヨーッ˥タ [˞sai˥ko: ku˞matuna:˥ru ka˞na:˥ tui˞jo:t˥ta](大工さんはクマトゥ＜目の細かい砥石＞で＜ぞ＞鉋の刃は研がれた)。

トゥ˞ジ **[tu˞ʤi]** 【名】妻。「とじ (刀自)」の転訛したもの。「～吾が子の刀自緒～。万、723」。トゥ˞ジ˥ ト

ゥムン [tu˩ʤi˥ tumuŋ](妻を娶る＜探す＞)。トゥ˩ジ　サールン [tu˩ʤi saːruŋ](妻を連れる＜妻帯する＞)。サ˩キトゥジ [sḁ˥kituʤi](先妻)。˥アトゥトゥジ [˥ʔatutuʤi](後妻)。トゥ˩ジブトゥ [tu˩ʤibutu](夫婦。「刀自・夫」の転訛)。

ドゥ˩シ [du˩ʃi] 【名】友達。「どち＜仲間＞。～今盛りなり　意母布度知＜思ふどち＞～。万、820」の義。イ˩チバン˥ドゥシ [ʔi˩ʧiban˥duʃi](一番の友達。親友)。ア˩サビドゥシ [ʔa˩sabiduʃi](遊び友達)。ドゥ˩シピライ [du˩ʃipirai](友達交際)。バ˩カーン˥ケンマー　ドゥ˩シンケ˥トゥ　˥ユー　サ˩キ˥　ヌミ　ア˩サブタン [ba˩kaːŋ˥kemmaː du˩ʃiŋkeː˥tu ˥juː sḁ˥ki˥ numi ʔa˩sabutaŋ](若い頃は友人たちとよく酒を飲んで遊んだ)。

トゥ˩シ˥ウイ [tu̥˩ʃi˥ʔui] 【名】年上。年長。としかさのひと。トゥ˩シッサー˥ラ [tu˩ʃissaː˥ra](年下) の対義語。トゥ˩シ˥ウイラ　˩ウイヌ˥　ザーナ　ビ˩リ　オーラ˥シバ [tu̥˩ʃi˥ʔuira ˩ʔuinu˥ ʤaːna bi˩riʔoːra˥ʃiba](年上から順に上座にお座りいただきなさい＜座り御座(オワ)させませ＞)。˥バーラン　˩ワール　ピー˥チェー　トゥ˩シ˥ウイ　ヤ˩ロー˥ル [˥baːraŋ ˩waːru piː˥ʧeː tu̥˩ʃi˥ʔui ja˩roː˥ru](私よりも貴方が一つ＜一歳＞は年上でいらっしゃる＜年上であられる＞)。

トゥ˩シ˥ウチ [tu̥˩ʃi˥ʔutʃi] 【名】年内。˩ヨイ˥ヤー　トゥ˩シ˥ウチナー　シ˩マ˥シティ　˩ソーッコー˥ヤ　˥ヌビ　˩オーサ˥　ム˩カ˥シェーラ　ヌ˩ビ˥ヌ　˩ソッ˥コーティル　ア˩ザリ　ブンダ [˩joi˥jaː tu̥˩ʃi˥ʔutʃinaː ʃi˩ma˥ʃi̥ti ˩sokkoː˥ja ˥nubi ˩ʔoːsa˥ mu˩ka˥ʃeːra nu˩bi˥nu ˩sok˥koːtiru ʔa˩ʤaribunda](お祝いは年内に済ませて法事は日延べして差し上げよう。昔から、「日延べの焼香＜法事＞」と言われているから)。

˩-トゥ˥シェー [˩-tu˥ʃeː] 【終助】～ですよ。～ともさ。˩ツ˥シェー [˩tsu˥ʃeː] ともいう。トゥ [tu]～ツ [tsu4] は自由変異。活用語の終止形に付いて、言い忘れていた過去の事柄を指摘されて想起し、確認し、念を押しの意を表す。˥アイ　˩トゥ˥シェー˥　アツァー　˩バン˥ヌン　パルン˩トゥ˥シェー [˥ʔai ˩tu˥ʃeː ˥ʔatsaː ˩ban˥num parun˩tu˥ʃeː](そうなんですよ。明日は私も行くんですよ)。ウ˩ヌ˥　ミ˩ドゥ˥モー　イッ˩ケン　カイ˥ヤタン　˩トゥ˥シェー [˥ʔai ˩tu˥ʃeː ʔu˩nu˥ mi ˩du˥moː ʔik˩keŋ kai˥jatan ˩tu˥ʃeː](そうなんですよ。その女は非常に美しかったんですよ)。

トゥ˩シガ˥タ [tu˩ʃiga˥ta] 【名】年長者。˥シザガタ [˥ʃiʤagata](年長者) ともいう。トゥ˩シガ˥タンケーヤ　˩ウイヌ˥　ザー　ナ˩ロー˥リ [tu˩ʃiga˥taŋkeːja ˩ʔuinu˥ ʤaː na˩roː˥ri](年長者の方々は上座にお移り＜おなり＞下さい)。

˩トゥシ˥キ [˩tu̥ʃi̥˥ki] 【名】言いつけ。訓戒。忠告。ウ˩ヤ˥ヌ　˩トゥシ˥ケー　˥ユー　シ˩キ˧ダー [ʔu˩ja˥nu ˩tu̥ʃi̥˥keː ˥juː ʃi̥˩ki˧daː](親の忠告＜言いつけ＞はよく聞けよ)。

˩トゥシキラ˥リン [˩tu̥ʃi̥kira˥riŋ] 【自動】申し付けられる。言いつけられる。忠告される。˩トゥシキ˥ルン [˩tu̥ʃi̥ki˥ruŋ](申し付ける。忠告する) の未然形に、受身・可能の助動詞˥リン [˥riŋ](れる。られる) が下接して形成された受身動詞。˥ウヤン　シ˩グトゥ　トゥシキラ˥リティ　パ˩タ˥ケー　˩パッ˥タ [˥ʔujaŋ ʃi˩gutu tu̥ʃi̥kira˥riti pḁ˩ta˥keː ˩pat˥ta](親に仕事を言いつけられて畑へ行った)。

˩トゥシキ˥ルン [˩tu̥ʃi̥ki˥ruŋ] 【他動】申し付ける。言い付ける。厳重注意する。訓戒する。ウ˩ヌス˥ク　˩トゥシ˥キ　シゥ˩カスンドゥ　バシキ　スバン [ʔu˩nusu̥˥ku ˩tu̥ʃi̥˥ki si̥˩kasunndu baʃi̥ki subaŋ](あれほど強く申し付けて教える＜聞かせる＞が忘れてしまう)。˩トシキラ˥レー　˩トゥー˥ル　˩シー˥バ [˩tu̥ʃi̥kira˥reː ˩tuː˥ru ˩ʃiː˥ba](注意された＜言い付けられた＞とおりにしなさいよ)。˩トゥシキ˥ル　˥ピンマー　ス˩クン [˩tu̥ʃi̥ki˥ru ˥pimmaː su̥˩kuŋ](厳重注意するときは聞く)。˩トゥシキ˥レー　˥ミサムヌ [˩tu̥ʃi̥ki˥reː ˥misamunu](厳重注意すれば良いのに)。˩ワー˥シ　ス˩ズーコ　トゥシキ˥リバ [˩waː˥ʃi su˩ʤuːko tu̥ʃi̥ki˥riba](君で厳重注意＜言い付け＞しなさいよ)。

トゥ˩ジ˥　クーン [tu˩ʤi˥ kuːŋ] 【連】妻を娶る。嫁を貰う。「戸自＜を＞乞ふ」の転訛したもの。˩タール　ワー　トゥジ˥　クイ　ッ˩ふォーッ˥ター [˩taːru waː tuʤi˥ kui f˩foːt˥taː](誰が君の妻を貰って下さったのか)。

トゥ˩ジクマルン [tu˩ʤikumaruŋ] 【自動】閉じこもる。普通は、˩ヤーグマ˥リ　˩スン [˩jaːguma˥ri ˩suŋ](引き籠もる。＜家籠もりする＞) という。ミ˩ドーン˥ッふァー　˥ドゥク　イ˩ズ˥カー　トゥ˩ジクマルンダ˥　トゥ˩ジクマラサン˥ヨーニル　ナ˩ラー˥ス˩ダー [mi˩doːŋ˥ffaː ˥duku ʔi˩ʤu˥kaː tu˩ʤikumarunda˥ tu˩ʤikumarasaŋ˥joːniru na˩raː˥su˩daː](女の子はあまり厳しく叱ると家の中に閉じこもるから、引き籠もらないように＜ぞ＞教えるのだよ)。

トゥ˩シ˥グル [tu˩ʃi˥guru] 【名】年頃。結婚適齢期。トゥ˩シ˥グル　ナ˩リ˥ブバ　ト˩ジ˥　クイ　ッ˩ふィーラン˥カー　ナ˩ラン˥ヌンド　マー˩ン˥ナーカー　˩

コー˞リ　ッ˞ふァー˞　ブ˞ラーン˞カヤー [tu˞ʤi˞ kui f˞fi:raŋ˞ka: na˞ran˞nundu ma:˞nna:˞kana: ˞ko:˞ri f˞fa:˞ bu˞ra:ŋ˞kaja:](結婚適齢期になっているので、妻を貰って＜乞うて＞やらないといけないのだが、何処ぞに妻に貰われて＜乞われて＞くれる子はいないかなあ)。

トゥ˞ジ　サールン [tu˞ʤi sa:ruŋ] 【連】妻を娶る。「妻を連れる」の義。ウ˞レー˞　キサー˞ティ˞　トゥ˞ジ　サーレー˞ティ　˞アー˞ク [ʔu˞re:˞ kᵢsa:˞ti˞ tu˞ʤi sa:re:˞ti ˞ʔa:˞ku](彼はすでに妻を娶っている＜妻を連れてあるく＞)。

トゥ˞シ˞シザ [tu˞ʃi˞ʃiʤa] 【名】年上。年長。「年兄者」の義。˞バー˞ル　カ˞レー˞ラ　フ˞ターチェー˞　トゥ˞シ˞シザユン　˞ヌー˞ヌヤー [˞ba:˞ru ka˞re:˞ra ɸᵤ˞ta:ʧe:˞ tu˞ʃi˞ʃiʤajun ˞nuja:](私が彼より 2 歳は年上だわい、なあんだ＜予想に反して。何だよ＞!)。

トゥ˞シ˞　スクン [tᵤ˞ʃi˞ sᵤkuŋ] 【連】寿命が尽きる。高齢者が死亡された際に用いるお悔やみ言葉。トゥ˞シ˞　ス˞コーリ˞ル　˞マーラソー˞レーバ　˞リッ˞パニ　ウ˞クリ　オーラ˞ソーリバ˞ヨー [tᵤ˞ʃi˞ sᵤ˞ko:ri˞ru ˞ma:raso:˞re:ba ˞rip˞pani ʔu˞kuri ʔo:ra ˞so:riba˞jo:](寿命が尽かれて逝去されたのですから立派にお送りなさってくださいね)。

トゥ˞ジ　スン [tu˞ʤi suŋ] 【連】妻にする。˞ウン˞ネヌ　サ˞ク˞シェー　ウ˞キナーミドゥム˞バ　トゥ˞ジ　スンティ　サーリ˞　ケーンドゥ　ウ˞ヤ˞ヌ　˞キム　フ˞ゴーラン˞ツォー [˞ʔun˞nenu sᵤ˞ku˞ʃe: ʔu˞kina:midumu˞ba tu˞ʤi sunti sa:ri˞ ke:ndu ʔu˞ja˞nu ˞kimu ɸu˞go:ran˞tso:](あの家の長男は沖縄の女を妻にするといって連れて来たが、親が納得されない＜喜ばない。快く思わない＞そうだ)。

トゥ˞シッサー˞ラ [tᵤ˞ʃissa:˞ra] 【名】年下。˞ワー˞　バーラ　フ˞ターチェー˞　トゥ˞シッサーラ˞＜˞ウシ˞トゥ＞ユン˞ナー [˞wa:˞ ba:ra ɸᵤ˞ta:ʧe:˞ tᵤ˞ʃissa:ra˞ ＜˞ʔuʃi˞tu＞jun˞na:](君は私より二つ年下だねえ)。

トゥ˞ジッふァ [tu˞ʤiffa] 【名】妻子。妻と子。トゥ˞ジッふァ˞　シゥ˞カ˞ナウンティル　˞アウ˞リナンギヌ　シ˞グトゥン　スー˞　ア˞ラン˞カー　˞ナン˞ゲー　サ˞ヌ [tu˞ʤiffa˞ sᵢ˞ka˞nauntiru ˞ʔau˞rinaŋginu ʃi˞gutun su:˞ ʔa˞raŋ˞ka: ˞naŋ˞ge: sa˞nu](妻子を養うために難儀苦労の仕事もする。そうでなければ難儀苦労はしない)。トゥ˞ジッふァ˞　シゥ˞カ˞ナウンティ　˞ギーバリ　ベー [tu˞ʤiffa˞ sᵢ˞ka˞naunti ˞gi:bari be:](妻子を養おうと一生懸命頑張っている)。

˞トゥ　˞シテー [˞tu ʃᵢ˞te:] 【連】～としては。新しく標準語から借用語された表現。˞バントゥ　シ˞テー˞　アイヌ　˞キモー　ア˞ラン˞シェンドゥ˞ナー [˞bantu ʃᵢ˞te:˞ ʔainu ˞kimo: ʔa˞raŋ˞ʃendu˞na:](私としては、そういうつもり＜肝。気持ち＞ではなかったけどなあ)。˞バントゥ　シテー　ノー˞ンティン˞　ア˞ザラヌ [˞bantu ˞ʃᵢte: no:˞ntiŋ˞ ʔa˞ʤaranu](私としては何とも言えない)。

˞トゥシドゥシ [˞tuʃiduʃi] 【名】年々。毎年。普通は、˞ニン˞ニン [˞nin˞niŋ](年々。毎年) という。˞トゥシドゥシヌ　˞ドゥーパダニンガイヤ　˞バシキランドー˞シ　˞シートゥ ダー [˞tuʃiduʃinu ˞du:padaniŋgaija ˞baʃᵢkirando:˞ʃi ˞ʃi:ɪ-da:](毎年の健康祈願は忘れずにしなさいよ)。˞トゥシドゥシヌ　キ˞ザルヌ˞　ン˞ジマイ˞ヤー　˞バシキランドー˞シ　ウ˞サミ˞リ [˞tuʃiduʃinu ki˞ʤarunu˞ ʔn˞ʤaʃimai˞ja: ˞baʃᵢkirando:˞ʃi ʔu˞sami˞ri](年々＜毎年＞の神行事の出し前は忘れずに納めなさい)。

トゥ˞ジ˞　トゥ˞ミ˞ルン [tu˞ʤi˞ tu˞mi˞ruŋ] 【連】妻を娶る (妻を求める。妻を探す)。トゥ˞ジ˞　トゥムン [tu˞ʤi˞ tumuŋ](妻を娶る＜妻を求める。妻を探す＞) ともいう。トゥ˞シ˞グル　ナ˞ル˞ター　˞ドゥーシ　トゥ˞ジ˞　トゥ˞ミ˞ルンティ　˞カン˞ガイ　˞ベー [tᵤ˞ʃi˞guru na˞ru˞ta: ˞du:ʃi tu˞ʤi˞ tu˞mi˞runti ˞kaŋ˞gai ˞be:](年頃になったので、自分で妻を探そう＜娶ろう＞と考えている)。

トゥ˞ジ˞　トゥムン [tu˞ʤi˞ tumuŋ] 【連】妻を娶る。妻を探す (捜し求める)。結婚する。ウ˞レー˞　マ˞ダ˞　トゥ˞ジ˞　トゥ˞マ˞ヌ [ʔu˞re:˞ ma˞da˞ tu˞ʤi˞ tu˞ma˞nu](彼はまだ妻を娶らない)。トゥ˞ジ˞　トゥミ　˞ミサカー　トゥ˞ジ˞　トゥム　˞クトー　ナルン [tu˞ʤi˞ tumi ˞misaka: tu˞ʤi˞ tumu ˞kᵤto: ˞naruŋ](妻を娶ってよければ、妻を娶ることは出来る)。「刀自求める」の義。ウ˞レー˞　トゥ˞ジ˞　トゥメーンカヤー [ʔu˞re:˞ tu˞ʤi˞ tume:ŋkaja:](彼は妻を娶ったかなあ)。

トゥ˞シ˞トゥリ [tu˞ʃi˞turi] 【名】年越し。年をとること。加齢。「年取り」の義。ム˞カ˞シェー　トゥ˞シンユー˞ヤー　ビ˞コーンッふァー˞　ピ˞キダマ˞　パ˞リンテーナル˞　トゥ˞シ˞トゥレー　シ˞タ˞ル [mu˞ka˞ʃe: tᵤ˞ʃiŋju:˞ja bi˞ko:ŋffa:˞ pᵢ˞kidama˞ pa˞rinte:naru˞ tᵤ˞ʃi˞ture: ʃᵢ˞taru](昔は大晦日＜年の夜＞には、男の子は凧を張りながら年越しはしたものだ)。

トゥ˞シトゥリフル˞マイ [tᵤ˞ʃituriɸuru˞mai] 【名】年越しのご馳走。「年取り振舞」の義。大晦日の夜に食べる年越しのご馳走。ご馳走のメニューは、˞ユーチ

ング [˞juːtʃiŋgu](四つ組) で、ア˞ガイー [ʔa˞gaʔiː](赤飯)1 椀、˞シームヌ [˞ʃiːmunu](魚肉の吸い物)1 椀、シ˞ミ˺ムヌ [ʃi˞mi˺munu](蒲鉾や魚肉、豚肉、昆布の煮しめもの)、˞ティン˺プラ [˞tim˺pura](魚芯テンプラ) など 1 皿、イ˞ズナマシ [ʔi˞ʤunamaʃi](イラブチやシヌマールなどの刺身)1 皿の四つ組が定番の料理であった。ム˞カシ˺ヌ　トゥ˞シトゥリフルマイ˺ヤー　ア˞ガイーヌ　コーイー˺トゥ　イ˞ズヌ˺スー　シ˞ミ˺ムヌ　˞ウン˺ナー　ナ˞マシ˺ヌ　シ˞キ˺ル　˞ユーチング　ヤッタ [mu˞kaʃi˺nu tu̥˞ʃituriɸurumai˺ja: ʔa˞gaʔiːnu koːʔiː˺tu ʔi˞ʤunu˺suː ʃi˞mi˺munu ˞ʔun˺naː na˞maʃi˺nu ʃi̥˞ki˺ru ˞juːtʃigu jatta](昔の年越しのご馳走 < 振舞 > は赤飯のこわいい < 強飯 >、魚のお汁、煮しめもの、それに刺身が付く四つ組料理であったよ)。

トゥ˞シ˺　トゥルン [tu̥˞ʃi˺ turuŋ] 【連】1年を重ねる。年寄りになる。加齢する。「年取る」の義。グイ˞ユー　ワー　ピッ˺チン　˺トゥシ　トゥ˞ローラン˺バン　˞ナー [gui˞juː waː pit˺ʧin tu̥ʃi tu˞roːram˺baŋ˞naː](あらまあ、貴方はちっとも年を取られませんわいねえ)。2年を越す。ムー˞ル˺　ス˞ルイ˺ヤーカー　トゥ˞シ˺　トゥル　ス˞コール　シー˺ヨー [muː˞ru˺ su˞rui ˺jaːkaː tu˞ʃi˺ turu su̥˞koːru ʃiː˺joː](皆揃ったら年越しの < 年をとる > 準備をしなさいよ)。

トゥ˞シナカ˺バ [tu̥˞ʃinaka˺ba] 【名】年半ば。ク˞トゥシン˺　キサー˞ティ˺　トゥ˞シナカ˺バ　ナリ˞ナーヌ˺ヌ　˞ヌー˺スワメー　マ˞ニアーサ˺リンカヤー [ku̥˞tuʃiŋ˺ ki̥saː˞ti˺ tu˞ʃinaka˺ba nari˞naːnu˺nu ˞nuː˺ suwameː ma˞niʔaːsa˺riŋkajaː](今年もすでに年半ばになってしまったが、どうしようかねえ、間に合わされるかねえ)。

トゥ˞シ˺ヌ　˺クー [tu̥˞ʃi˺nu ˺kuː] 【連】年の功。年をとって多くの経験を積んだ力。シゥ˞カラー　ナーン˺タンティン　トゥ˞シ˺ヌクー　˺ティル　˺アル　ウ˞ヤン˺ナーニ　シ˞キ˺ミリバ [si̥˞karaː naːn˺tantin tu̥˞ʃi˺ kuːtiru ˺ʔaru ʔu˞jan˺naːni ʃi̥˞ki˺miriba](力はなくても、年の功といわれている。親に聞いてみなさいよ)。トゥ˞シ˺ヌ　˺クーティル　˺アル　ッ˞サン˺　クトゥ　ア˞ティンガーラン˺　ク˞トゥ˺ヌ　˺アル　カー　˺シザウヤンケーン˞ナー˺ニ　˞トゥイ˺　シ˞キ˺バ [tu̥˞ʃi˺nu ˺kuːtiru ˺ʔaru s˞saŋ˺ ku̥tu ʔa˞tiŋgaːraŋ˺ ku̥˞tu˺nu ˺ʔarukaː ˺ʃiʤaʔujaŋkeːn˞naː˺ni ˞tui˺ ʃi̥˞ki˺ba](年の功という < とぞある >。知らないこと、見当 < 判断 > のつかないことがあれば、年長者の方に問い尋ねてみなさい < 問い聞け >)。

トゥ˞シ˺ヌ　˺サタ [tu̥˞ʃi˺nu ˺sḁta] 【連】年のせい。年のなせるしわざ。「年の沙汰」の義。ク˞ヌ˺グロー　˺ミーン　ミ˞リグリ˺サ　˞ミン˺ヌン　シ˞キグリサ˺　ナリ　˞ナーヌ˺ヌ　ウ˞リン˺　トゥ˞シ˺ヌ　˺サタカヤー [ku˞nu˺guroː ˺miːm mi˞riguri˺sa ˞miŋ˺nuŋ ʃi̥˞kigurisa˺ nari ˞naːnu˺nu ʔu˞rin˺ tu̥˞ʃi˺nu ˺sḁ-takajaː](この頃は目も見辛く、耳も聞き辛くなってしまったが、それも年のせい < 沙汰だろう > かねえ)。

トゥ˞シ˺ヌ　˺シザガタ [tu̥˞ʃi˺nu ˺ʃiʤagata] 【連】年長者。長者。「年の兄者方」の義か。/クリヤ　クヌムラ　トゥシヌ　シザガタ　ワンドゥダヤビル/(罷り出でたる < これ > は、この村の年長者、私でございます)、ザーピラキ (開演狂言)『鳩間島古典民謡古謡集』。この狂言は沖縄本島の˞長者の大主」の構造と酷似しており、台詞も沖縄本島方言によって唱えられていて、鳩間方言による狂言ではない。おそらく 1865 年に首里から鳩間島に配流の身となったとされる比屋根安弼が在島 14 年間にこの狂言を作成し、島人に教えたものと考えられる。

トゥ˞シ˺ヌ　パ˞ジミ [tu̥˞ʃi˺nu pa˞ʤimi] 【連】年の初め。元旦。トゥ˞シ˺ヌ　パ˞ジミヌ˺　シ˞トゥ˺ムテー　シ˞ディ˺ミジシル　ウ˞ム˺テー　シ˞モーッ˺タ [tu̥˞ʃi˺nu pa˞ʤiminu˺ ʃi̥˞tumu˺teː ʃi˞di˺miʤiʃiru ʔu˞mu˺teː ʃi˞moːt˺ta](年の初めの朝 < 元旦 > には若水で洗面された < 顔を洗われた >)。

トゥ˞シ˺ヌ　˞マール [tu̥˞ʃi˺nu ˞maːru] 【連】年回り。まわりくる年齢によって吉凶があるように、年によって豊年や凶作が回ってくること。ク˞トゥシェー　ナウリユー˺ヌ　トゥ˞シ˺　˞マー˺ル [ku̥˞tuʃeː nauriju:˺nu tu̥˞ʃi˺nu ˞maː˺ru](今年は豊年 < 稔り > の年回りだ)。˞ユーリシキヌ˺　トゥ˞シマー˺ル [˞juːriʃi̥kinu˺ tu̥˞ʃimaː˺ru](閏月の年回り。閏月のある年)。トゥ˞シマー˺ル [tu˞ʃimaː˺ru](年廻り) ともいうふ。

トゥ˞シヌ˺ユー [tu̥˞ʃinu˺juː] 【名】大晦日の夜。年の夜。トゥ˞シン˺ユー [tu̥˞ʃiŋ˺juː](大晦日の夜) ともいう。ト˞シヌユー˺ヤ　˞ヤーニン˺ズ　ア˞ツァ˺マリティ　フ˞ルマイ˺　ン˞コーッ˺タ [tu˞ʃinuju:˺ja ˞jaːnin˺ʤu ʔa˞tsa˺mariti ɸu˞rumai˺ ʔŋ˞koːt˺ta](大晦日の夜は家族揃ってご馳走 < 振る舞い御馳走 > を召し上がった)。

ドゥ˞シパジリ [du˞ʃipaʤiri] 【名】仲間はずれ。バ˞カー˺タン　˺ケンマー　ドゥ˞シパジリ˺　シ˞ラリル˺　ク˞トゥ˺ル　イッ˞チン˺　ナ˞クラー˺タ [ba˞kaː

˺taŋ ˺kemmaː duˤʃipaʤiri˺ ʃiˤrariru˺ kʉ̥ˤtu˺ru ʔitˤʧin˺ naˤkuraː˺ta](若かった頃は、仲間はずれされることが一番怖かった)。

トゥˤシ˺パダ [tʉ̥ˤʃi˺pada] 【名】年頃。結婚適齢期の娘。十七八歳の娘。トˤシパダ˺ヌ　ヤˤラ˺ベー　˞キーヌパー˺トゥン　バˤラウン [tʉ̥ˤʃipada˺nu jaˤra˺beː˞ki:nupaː˺tum baˤrauŋ](年頃の娘は木の葉とも笑う＜よく笑う＞)。

トゥˤシ˺ビー [tʉ̥ˤʃi˺biː] 【名】生まれた年のえと＜干支＞と同じ干支の日。誕生日。「年日」の義。˞ドゥー˺ヌ　トゥˤシ˺ビーナ　˞ソーシキ˺ヌ　˺アル　˞ヤー˺ヤ　パˤラ˺ソーランシェン [˞duː˺nu tʉ̥ˤʃi˺biːna˞soːʃi̥ki˺nu ˺ʔaru ˞jaː˺ja paˤra˺soːraŋʃeŋ](自分の生まれた年日に葬式のある家には行かされなかった)。

トゥˤシ˺ビーニンガイ [tʉ̥ˤʃi˺biːniŋgai] 【名】健康祈願。毎年、旧暦の正月と八月の、本人の生まれた干支の日に健康と幸福を祈願する家庭の祭事。サˤカサ [sḁˤkasa](司。女性神職者) やブˤナルンガン [buˤnaruŋgaŋ](をなり神。戸主の姉妹)、またはブˤバマン˺ガン [buˤbamaŋ˺gaŋ](ヲバマ＜伯叔母＞神。戸主の伯叔母) に頼んで祈願してもらった。13、25、37、49、61、73、85 歳等の生まれ年に当たる人のマˤリビー [maˤribiː](干支の生まれ日) に健康祈願を実施した。˞ニン˺ニン　˺ソンガチシキヌ　マˤリビートゥ˺　パˤチングチ˺ヌ　マˤリビーナー˺ル　トゥˤシ˺ビーニンガイヤ　˞ソーッ˺タ [˞nin˺nin ˺soŋgatʃiʃi̥kinu maˤribiːtu˺ pḁˤʧiŋgutʃi˺nu maˤribiːnaː˺ru tʉ̥ˤʃi˺biːniŋgaija ˞soːt˺ta](毎年の正月月の生まれ日と八月の生まれ日に＜ぞ＞健康祈願はなされた)。

ドゥˤシビライ [duˤʃibirai] 【名】友人との交際。友達付き合い。交友。バˤカーン˺ケンマー　ドゥˤシビライ　スンティ˺　ユー　サˤキ˺　ヌˤム˺タン [baˤkaːŋ ˺kemma: duˤʃibirai sunti˺ ju: sḁˤki˺ nuˤmu˺taŋ](若い頃は友達付き合いしようとして、よく酒を飲んだ)。

トゥˤジフー [tuˤʤiɸuː] 【名】良妻に恵まれる果報。良妻に恵まれる幸運。ウˤヌ˺　プˤソー˺　イッˤケナ˺　トゥˤジフー˺ヌ　アˤリ˺ル　˞ヤー˺キナイ　サˤカラシェー˺ダー [ʔuˤnu˺ pʉ̥ˤsoː˺ ʔikˤkena˺ tuˤʤiɸuːnu˺ ʔaˤri˺ru ˞jaː˺kinai sḁˤkaraʃeː˺daː](その人は非常に良妻の幸運に恵まれて＜ぞ＞家庭を繁昌させたのだ)。

トゥˤジフカシムヌ [tuˤʤiɸʉ̥kaʃimunu] 【名】他人の女と姦通する者＜夫＞。「刀自ほかし＜放下し＞者」の義。˞タール　ワー˺　アイ˺ブー　トゥˤジフカシムヌティ˺　ウˤムー˺タワ　ミˤジラ˺シ　ビˤキドゥムン˺　ッˤふァバ˺　ッˤふィーティ˺　キˤム˺ヤミ　ナˤラ˺ヌ [˞taːru waː˺ ʔaibuː tuˤʤiɸʉ̥kaʃimunuti ˺ʔuˤmuː˺tawa miˤʤira˺ʃi biˤkidumuŋ˺ fˤfaba˺ fˤfiːti˺ kiˤmu˺jami naˤra˺nu](誰があなた、あんな女誑(オンナタラシ)＜刀自ほかし＞と思ったものかね、見たことのない妙な男に娘をやって、残念で、心が痛くてたまらないよ)。

トゥˤジ˺　フˤカスン [tuˤʤi˺ ɸʉ̥ˤkasuŋ] 【連】妻を裏切って他の女と通ずる。妻を捨てる。「刀自ほかす＜放下す＞」の義。˞ウンザー˺　トゥˤジ˺　フˤカシ˺　トゥˤジヌ˺　キˤム˺バ　ヤˤキ˺シケーティ　˞シーバ　ヌンガーラサ˺ヌ [˞ʔundʑaː˺ tuˤʤi˺ ɸʉ̥ˤkaʃi ˺ tuˤʤinu˺ kiˤmu˺ba jaˤki˺ ʃi̥keːti ˞ʃiːba nuŋgaːrasa˺nu](あの野郎は妻を裏切って他の女と通じ、妻に心痛を掛けているというから、決して許さない)。

トゥˤジブトゥ [tuˤʤibutu] 【名】夫婦。めおと (夫婦)。「刀自夫」の義。トゥˤジブトー˺　ナカ　˞カイ˺ヤン [tuˤʤibutoː˺ naka ˞kai˺jaŋ](夫婦は仲が良い＜美しい＞)。トゥˤジブトー　ティンラ˺　サˤダマリ˺ル　マˤリ˺クーツォー [tuˤʤibuto: tinra˺ saˤdamari˺ru maˤri˺kuːtsoː](夫婦は天から定められて生まれてくるものだそうだ)。

トゥˤジブトゥ˺アイ [tuˤʤibutu˺ʔai] 【名】夫婦喧嘩。˞ミートゥンダ˺アイ [˞miːtunda˺ʔai](夫婦喧嘩) ともいう。トゥˤジブトゥアイ˺ヤー　マー˞ン˺ナーン　アˤリ˺ル　˺ブー　ノー˞ン˺　ミˤジラ˺サー　˞ナー˺ヌ [tuˤʤibutuʔai˺jaː maː˞n˺naːŋ ʔaˤri˺ru ˺buː miˤʤira˺saː ˞naː˺nu](夫婦喧嘩は何処にでもある。珍しくはない)。

トゥˤジブトゥバカ˺リ [tuˤʤibutubaka˺ri] 【名】離婚。夫婦別れ。˞ミートゥンダバカ˺リ [˞miːtundabaka˺ri](夫婦別れ。離婚) ともいう。ブˤトゥヌ˺　ビチナー　ミˤドゥム˺バ　カˤサミ　ベー˺ティル　˞ウッ˺ツァー　トゥˤジブトゥバカ˺リ　˞シェー˺ティˤダー [buˤtunu˺ biʧina: miˤdumu˺ba kḁˤsami beː˺tiru ˞ʔut˺tsa: tuˤʤibutubaka˺ri ˞ʃeː˺tiˤdaː](夫が別の所に女を囲って＜掴んで＞いるので、彼らは夫婦別れ＜離婚＞したそうだよ)。

トゥˤシマー˺ル [tuˤʃimaː˺ru] 【名】 1何年かの周期で同じような災害が回ってくること。干支の組み合わせによる、その年の運勢。「年回り」の義。家屋建築や墓造りの際に˺サンギンソー [˺saŋginsoː](易者) に運勢を占ってもらった。クˤトゥシェー˺　トゥ

˞シマール˞ヌ　˞ワッ˞サン [kʉ˞tuʃeː˞ tʉ˞ʃimaːru˞nu ˞was˞saŋ](今年は年回りが悪い)。ク˞トゥシェー˞トゥ˞シマール˞ヌ　ピ˞ラ˞ク　˞ティバーヤ [kʉ˞tuʃeː˞ tʉ˞ʃimaːru˞nu pi˞ra˞ku ˞tibaːja](今年は何年かの周期で回ってくる寒波だそうだよ)。2年恰好。年齢の程合い。～がらみ。˞グン˞ズ　˞ブカラヌ　トゥ˞シマール˞ヌ　プ˞スヌ˞　タ˞ジ˞ナイ　˞オー˞レータン [˞gun˞ʤu ˞bukaranu tʉ˞ʃimaːru˞nu pʉ˞sunu˞ ta˞ʤi˞nai ˞ʔoː˞reːtaŋ](五十がらみの年恰好の人が尋ねて来られたよ)。

トゥ˞ジマリ [tu˞ʤimari] 【名】戸締り。標準語から転訛したもの。普通は、ヤ˞ドゥ˞フジ [ja˞du˞ɸuʤi](戸締り) という。ギャン˞ティ˞　トゥ˞ジマリ˞　シ˞ティル˞　ニ˞ブト ダー [gjan˞ti˞ tu˞ʤimari˞ ʃi̥˞tiru˞ ni˞bu˞da:](きちんと戸締りして＜ぞ＞寝るんだよ)。

ドゥ˞シムチリ [du˞ʃimutʃiri] 【名】深い友達付き合い。友人交際に夢中になること。交友から離れられないさま。「どち＜仲間＞縺(モツ)れ」の転訛か。ドゥ˞シムチリ　シー　ヤー˞ヌ　˞アンティン　ッ˞サヌ [du˞ʃimutʃiri ʃi: ja:˞nu ˞ʔantin s˞sanu](友達付き合いに夢中になって家の事をも＜家がある事をも＞忘れている)。

トゥ˞シ˞ユリ [tu˞ʃi˞juri] 【名】年寄り。老人。歌謡語として使われる。日常会話では˞ウイ˞プス [˞ʔui˞ pʉsu](老人＜老い人＞) という。/ギニヤ　ユタカヌ　パトゥマムラ　シマヌ　ナガリユ　ミワタシバ　ルクヌ　イチジニ　チカクアリ/(実に豊かな鳩間村、島の流れ＜高低の傾斜＞を見渡すと六の一字に近く見える＜ある＞)＜囃子＞/イヤイーヤ　ウスーメーデー　ガルマキ　ウラリティ　ウヤクチョーデー　トゥジックゥ　ヤシナティ　ムラトゥン　ワブクニ　ワルビ　トゥシユリ　カンカクドゥクヌ　ムジキナムヌサミ　ンゾサ　ソーリバ　ティンヌ　ミグミヌ　ウヤキパンジョー　アラシミセユサ　ナマヌパヤシニ　クドゥキユミユミ/(いやいや、王府の公務＜御親内裏＞を務めることが出来て、親子兄弟、妻子を養って村とも和睦にし、子供と年寄りにとっては、鰥寡孤独(カンカコドク)で無食なものだが、可愛がってやるので天が恵みの富貴繁盛を与えて下さるものだ。今の囃子に載せて口説を歌い上げます)「鳩間口説節」『鳩間島古典民謡古謡集』。

˞ドゥジン [˞duʤiŋ] 【名】胴衣。沖縄本島方言からの借用語。着物の上に着る打掛。古典舞踊のコスチュームとして、カ˞カン [kạ˞kaŋ](ひだスカートに似た腰巻) と併せて着用する。˞ドゥジン　カ˞カンマー˞　ブ˞ドルキンドゥ　ヤッタ˞　チニヒージェー　キ˞ソーラン˞シェン [˞duʤiŋ ˞kạkamma: bu˞durukindu jatta˞ ʧiniçi:ʤe: ki̥˞so:raŋ˞ʃeŋ](胴衣とカカンは踊り衣装であった。常日頃は着られなかった)。

ドゥ˞シン˞ケー [du˞ʃiŋ˞keː] 【名】友人達。友人方。˞ケー [˞keː](達。方) は複数の接尾辞で、敬意を含む。ドゥ˞シンケー˞ヤ　タ˞カーニン　オー˞ルンカヤー [du˞ʃiŋke:˞ja tạ˞ka:niŋ ʔo:˞ruŋkaja:](友人方＜友人の方々＞はたくさんいらっしゃるだろうかねえ)。

˞トゥス˞クン [˞tusʉ˞kuŋ] 【他動】申しつける。言い聞かせる。厳重注意する。訓戒する。ヤ˞ラ˞ビ　˞トゥス˞クンティ　ウ˞ムーン˞ドゥ　˞バン˞マー　˞トゥシキララ˞ヌ [ja˞ra˞bi ˞tusʉ˞kunti ʔu˞mu:n˞du ˞bam˞ma: ˞tuʃi̥kirara˞nu](子供に言い聞かせよう＜注意しよう＞と思うが私には言い聞かせられ＜注意でき＞ない)。˞トゥス˞ク　プ˞スヌ˞　ブ˞ラーンダ　ワー˞シ　˞トゥシ˞キ　ッ˞ふィーリ [˞tusʉ˞ku pʉ˞sunu˞ bu˞ra:nda wa:˞ʃi ˞tuʃi̥˞ki f˞fi:ri](注意する人がいないので、君で注意してくれ)。˞パー˞ク　˞トゥシ˞ケー　˞ミサムヌ [˞pa:˞ku ˞tuʃi̥˞keː ˞misamunu](早く注意すればいいのに)。˞ドゥーシ　˞トゥシ˞キ [˞du:ʃi ˞tuʃi̥˞ki](自分で注意しなさい)。

ドゥ˞ス˞ヌ [du˞su˞nu] 【名】(植) 和名、オガタマノキ。材質が硬く、辺材は帯黄灰色、心材は帯褐色で光沢がある。反張割裂がすくなく、工作は容易である。貴重な建築用材で、その他の造作用に使用される『図鑑琉球列島有用樹木誌』。ドゥ˞ス˞ヌキー [du˞su˞nuki:](オガタマノキ) ともいう。ドゥ˞ス˞ヌキーシル　˞ヤー˞ヌ　パ˞ラー˞ユン　˞イダフニヌ　˞ヤクン　カ˞ナパイヌ　ユイン˞　ス˞ク˞ローッタル [du˞su˞nuki:ʃiru ˞ja:˞nu pa˞ra:˞juŋ ˞ʔidaɸuninu ˞jakuŋ ka˞napainu juin˞ sʉ˞ku˞ro:ttaru](オガタマノキで＜ぞ＞家の柱をもサバニの櫂も鍬の柄も作られたものだ)。

ドゥ˞スマ˞クン [du˞suma˞kuŋ] 【自動】大騒ぎする。三線太鼓を鳴らして騒ぐ。騒ぎたてる。「どしめく (騒ぎたてる)」『天草本伊曾保物語』の義。˞ウン˞ネーヤ　˞ヨイ˞スンティ　ドゥ˞スマ˞キ　˞ベー [˞ʔun˞ne:ja ˞joi˞sunti du˞suma˞ki ˞be:](あの家はお祝いをするといって大騒ぎしている)。˞ユール˞ヌ　˞カージ　ドゥ˞スマ˞クンテー　ス˞クタンドゥ˞アイニ　ドゥ˞スマ˞ク　˞ヤー˞ヤ　˞ミリ　ミ˞ラ˞ヌ [˞ju:ru˞nu ˞ka:ʤi du˞suma˞kunte: sʉ˞kutandu˞ ʔaini

du˩suma˥ku ˩ja:˥ja ˥miri mi˩ra˥nu](夜毎に鳴りもの入りで大騒ぎするとは聞いたが、あんなに大騒ぎする家は見たことがない)。ドゥ˩スマカン˥ドーシ　˥ウタ　イ˩ジ˥バ [du˩sumakan˥do:ʃi ˥ʔuta ʔi˩ʤi ˥ba](大騒ぎしないで歌いなさいよ)。˩マー˥ビン　ドゥ˩スマ˥ケー　ミサムヌ [˩ma:˥bin du˩suma˥ke: ˥misamunu](もっと騒ぎ立てれば良いのに)、ドゥ˩スマ˥キ [du˩suma˥ki](大騒ぎしろ)。

トゥ˩ズ˥マルン [tu˩ʤu˥maruŋ] 【自動】終わる。しまう。仕上がる。完了する。シ˩グトー˥　キューズーナ　トゥ˩ズ˥マルンティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　ク˩ヌ　ブン˥シェー　シ˩グトー˥　トゥ˩ズマラ˥ヌ [ʃi˩guto:˥ kju:ʤu:na tu˩ʤu˥marunti ʔu˩mu:tan˥du ku˩nu buŋ˥ʃe: ʃi˩guto:˥ tu˩ʤumara˥nu](仕事は今日中に仕上がると思ったが、この分＜様子＞では仕事は仕上がらない)。˥キューズーナ　トゥ˩ズ˥マルクトー　˩ナーン˥パジ　˩ダー˥ヌ　トゥ˩ズ˥マリ　ッ˩ふィール˥カー　˥ミサンドゥ [˥kju:ʤu:na tu˩ʤu˥maru ˥kʉto: ˩na:m˥paʤi ˩da:˥nu tu˩ʤu˥mari f˩fi:ru˥ka: ˥misandu](今日中に仕上がることはないはずだろうが、仕上がってくれると良いのだがなあ)。˥キューズーナ　トゥ˩ズ˥マレー　˥ミサムヌ [˥kju:ʤu:na tu˩ʤu˥mare: ˥misamunu](今日中に仕上がれば良いのに)。˩パー˥ク　トゥ˩ズ˥マリ [˩pa:˥ku tu˩ʤu˥mari](早く終われ)。

トゥ˩ズミ [tu˩ʤumi] 【名】1終わり。仕上げ。終結。完結。完成。「とぢめ＜閉ぢめ＞『源氏物語　賢木』」の転訛したものか。シ˩グトー˥　トゥ˩ズミヌ　カイヤ　ナーン˥カー　˩ダーッ˥サー　˩ナー˥ヌ [ʃi˩guto:˥ tu˩ʤuminu kaijana:ŋ˥ka: ˩da:s˥sa: ˩na:˥nu](仕事は仕上がりが美しくないと良くない＜立派でない＞ね)。2祭祀行事の後の打ち上げ会。豊年祭や結願祭などで、奉納芸を練習し、二三日前にはス˩クミ [sʉ˩kumi](仕組み。舞台総稽古。リハーサル) をし、˥トーピン [˥to:piŋ](当日) に上演し、翌日後片付けを完了した後、トゥ˩ズミ [tu˩ʤumi](打ち上げ。完了祝い) をした。

ドゥ˩スミカ˥スン [du˩sumika˥suŋ] 【他動】どよめかす (響動めかす)。大声で騒いで轟かせる。大騒ぎする。˩サンシン˥　ピ˩キ　タイ˥ク　˥ウテーティ　ドゥ˩スミカ˥スンティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　ドゥ˩スミカサラン˥シェン [˩saŋʃim˥ pʉ˩ki tai˥ku ˥ʔute:ti du˩sumika˥sunti ʔu˩mu:tan˥du du˩sumikasaraŋ˥ʃeŋ](三味線を弾き太鼓を打って大騒ぎしよう＜響動(ドヨ)めかそう＞と思ったが、大騒ぎ出着なかった)。ドゥ˩スミカ˥シ　˥ミサカー　ドゥ˩スミカ˥ス　˥クトー　˥ナルン [du˩sumika˥ʃi ˥misaka: du˩sumika˥su ˥kʉto: ˥naruŋ](どよめかして良ければどよめかすことは出来る)。ドゥ˩スミカ˥シェー　˥ミサムヌ [du˩sumika˥ʃe: ˥misamunu](大騒ぎすれば良いのに)。ドゥ˩スミカ˥シバ [du˩sumika˥ʃiba](どよめかせよ)。

トゥ˩ズミ˥ルン [tu˩ʤumi˥ruŋ] 【他動】仕事を完結させる。完成させる。し終える。成し遂げる。仕上げる。ク˩ヌ˥　シ˩グトー˥　キューズーナ　トゥ˩ズミ˥ルンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　トゥ˩ズミラ˥リンカヤー [ku˩nu˥ ʃi˩guto:˥ kju:ʤu:na tu˩ʤumi˥runti ʔu˩mu:n˥du tu˩ʤumira˥riŋkaja:](この仕事は今日中に仕上げようと思うが、仕上げられるかねえ)。トゥ˩ズミル˥　ク˩トゥ˥ヌ　˥ナルカー　˥キューズーナ　トゥ˩ズ˥ミ　ッ˩ふィーリ [tu˩ʤumiru˥ kʉ˩tu˥nu ˥naruka: ˥kju:ʤu:na tu˩ʤu˥mi f˩fi:ri](仕上げることが出来るなら今日中に仕上げてくれ)。˩パー˥ク　トゥ˩ズミレー˥　ミサムヌ [˩pa:˥ku tu˩ʤumire:˥ misamunu](早く仕上げれば良いのに)。ア˩ツァバー˥キナ　トゥ˩ズミリ [ʔa˩tsaba:˥kina: tu˩ʤumiri](明日までに仕上げなさい)。

トゥ˩ズムン [tu˩ʤumuŋ] 【他動】終える。仕上げる。完成させる。トゥ˩ズミ˥　ッ˩ふィーリ [tu˩ʤumi˥ f˩fi:ri](仕上げてくれ)。˥キューズーナ　トゥ˩ズムンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　トゥ˩ズマラヌ [˥kju:ʤu:na tu˩ʤumunti˥ ʔu˩mu:n˥du tu˩ʤumaranu](今日中に仕上げようと思うが、仕上げられない)。˥キューズーナ　トゥ˩ズム˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˥kju:ʤu:na tu˩ʤumu˥ kʉto: na˩ra˥nu](今日中に仕上げることは出来ない)。ア˩ツァバー˥キナ　トゥ˩ズメー˥　ミサムヌ [ʔa˩tsaba:˥kina tu˩ʤume:˥ misamunu](明日までに仕上げれば良いのに)。キサー˩ティ˥　トゥ˩ズメー˥ン [kisa:˩ti˥ tu˩ʤume:˥ŋ](すでに完了した)。˩パー˥ク　トゥ˩ズミ [˩pa:˥ku tu˩ʤumi](早く仕上げよ)。

˥ドゥダイ [˥dudai] 【名】土台。基礎。構造物の最下部をなす部分。礎。標準語から転訛したもの。ドゥ˩ダイ˥ヌ　˩ヨー˥カー　˩ヤー˥ヤ　˩クーリ˥ス [du˩dai˥nu ˩jo:˥ka: ˩ja:˥ja ˩ku:ri˥su](土台が弱いと家は崩れる)。

トゥ˩ダ˥ナ [tu˩da˥na] 【名】戸棚。作り付けの戸棚。二番座の押入れの下半分に引き戸を入れて、神事用、仏事用の酒器や什器類(ジュウキルイ)を収納する戸棚があった。サ˩キクビン [sʉ˩kikubiŋ](酒瓶)、サ˩キスッカー [sʉ˩kisukka:](酒急須)、サ˩カシキ [sʉ˩kaʃiki](盃)、˩カン˥ビン [˩kam˥biŋ](燗瓶)、カ˩ザリクビン [ka˩

ʥarikubiŋ](˹飾瓶」の義か。白磁製の大型の燗瓶。錫製の大型燗瓶もある) などが収納されていた。台所の戸棚には食器類が収納されていた。トゥ˹ダ˺ナナー　マ˹カ˺ルドング　シ˹ズ˺ミ　シ˹キ˺リバ [tu˹da˺nana: ma˹ka˺rudoŋgu ʃi˹ʥu˺mi ʃi̥˹ki˺riba](戸棚にお椀類を片付けておきなさいよ)。

˹**-トゥ˺ツォー [˹-tu˺tso:]**【助】助詞連語。～だってさ。～とさ。～だそうだ。ム˹カ˺シ　˺アルントンナー　ア˹ブジェーマ˺トゥ　アー˹パマ˺ヌ　˹オー˺タン˹トゥ˺ツォー [mu˹ka˺ʃi ˺ʔaruntonna: ʔa˹buʤe:ma˺tu ʔa:˹pama˺nu ˹ʔo:t˺tan˹tu˺tso:](昔ある所におじいさんとおばあさんがおられたそうな＜居られたとさ＞)。

˹**トゥッカ [˹tukka]** 【名】数詞。十日。˹マー　トゥッカ　スー˺カー　˹マイヤー˺　カ˹ラリン [˹ma: tukka su:˺ka: ˹maija:˺ ka˹rariŋ](もう十日も経て＜すれ＞ば稲＜米＞は刈られる)。

˹**トゥッカジラ [˹tukkaʤira]** 【名】産婦が出産後十日目に新生児と共に産褥(サンジョク)の˺ジルー [˺ʤiru:](地炉) から出て普通の寝室へ移る日。地炉の神にお礼の祈願をし、産屋に張り巡らしてあったシ˹ビナージナ [ʃi˹bina:ʤina](注連縄(シメナワ)) も取り外した。この˹トゥッカジラを無事に過ごせたら母子ともに安心とされていた。この日に産婦も新生児も始めて産屋から屋外へ出ることが出来た。そして、祖母が新生児を抱いてウ˹ブッ˺カル　ウ˹ガマ˺シ [ʔu˹buk˺karu ʔu˹gama˺ʃi](太陽拝ませ) の儀式を執り行った。˹トゥッカジラ˺　ウ˹チナ˺シェーチバ　˺ウヤン　ッ˹ふァン　ソーヤ　ナー˺ヌ [˹tukkaʤira˺ ʔu˹ʧina˺ʃe:ʧiba ˺ʔujan f˹fan so:ja na:˺nu](産後十日目＜十日お産＞を無事に過ごせたから親も子も心配はない)。

˹**トゥッカソージ [˹tukkaso:ʤi]** 【名】出産後十日目の日に産褥を清め、母子の健康について地炉の神に感謝し、産婦の肥立(ヒダチ)ちと、新生児の今後の順調な成長を祈願する神事。神酒とパ˹ナン˺グミ [pa˹naŋ˺gumi](白米。花米) を供えて祖母や司が祈願した。「十日精進」の義。˹トゥッカジラヌ˺　ピンナー　˹トゥッカソージェー˺　シ˹マ˺シティル　˺ジロー　シ˹ズ˺モーッタル [˹tukkaʤiranu˺ pinna: ˹tukkaso:ʤe:˺ ʃi˹ma˺ʃi̥tiru ˺ʤiro: ʃi˹ʥu˺mo:ttaru](産後十日目の日に産褥十日目の感謝と健康祈願、＜十日精進＞をされてから産屋の地炉は片付けられた)。

˹**トゥッカラ [˹tukkara]** 【名】数詞。十匹。動物 (牛、馬、犬、山羊、豚、鶏、鳩、猫、鼠、虫類、蝶、蛇、魚類) を数えるのに用いる。˹ミー˺ドゥル　˹トゥッカラ˺　シゥ˹カ˺ナイティ　˹コー˺マ　ナ˹サ˺シ　˹ベー [˹mi:˺duru ˹tukkara˺ si̥˹ka˺naiti ˹ko:˺ma na˹sa˺ʃi ˹be:](雌鳥を十羽養って卵を産ませている)。

˹**トゥッ˺キカーキ [˹tuk˺kika:ki]** 【副】天井や床があちこち落下しているさま。あちらこちら穴が開いているさま。あちこち落ち込んださま。ア˹ミ˺ヌ　˺ムリティ　˹ティン˺ゾーン　イ˹ツァフン˺ツァーン　˹トゥッ˺キカーキ　˹シーベー [ʔa˹mi˺nu ˺muriti ˹tin˺ʥo:ŋ ʔi˹tsaɸun˺tsa:n ˹tuk˺kika:ki ˹ʃi:be:](雨が洩れ＜雨漏りし＞て天井も板床もあちこち落ち込んだ状態である)。ッ˹ふ˺ヤー　ヤ˹ルンダ˺　ウマン　˺カマン　˹トゥッ˺キカーキ　˹シーブ [f˹fu˺ja: ja˹runda˺ ʔumaŋ ˺kaman ˹tuk˺kika:ki ˹ʃi:bu](古い家だから、あちらこちら朽ちて落ち込んでいる)。

˹**トゥッキ˺ルン [˹tukki˺ruŋ]**【自動】穴があく。陥没(カンボツ)する。˹トゥッ˺クン [˹tuk˺kuŋ](穴があく。陥没する) ともいう。˹ティン˺ゾーナ　プ˹スヌ　ヌール˺カー　˹トゥッキ˺ルン˹ダー [˹tin˺ʥo:na pu̥˹sunu nu:ru˺ka: ˹tuk˺kirun˹da:](天井に人が上がると陥没するよ)。

˹**トゥック [˹tukku]** 【名】数詞。十個。果物、菓子、卵、瓶、茶碗などを数える際に、その十個の数を表す。プ˹スッ˺ク [pu̥˹suk˺ku](一個)、フ˹タック [ɸu̥˹takku](二個)、˹ミック [˹mikku](三個)、˹ユック [˹jukku](四個)、イ˹チッ˺ク [ʔi˹ʧik˺ku](五個)、˹ムック [˹mukku](六個)、ナ˹ナッ˺ク [na˹nak˺ku](七個)、˹ヤック [˹jakku](八個)、ク˹ヌッ˺ク [ku˹nuk˺ku](九個)、˹トゥック [˹tukku](十個)。˹トゥー˺　プ˹スッ˺ク [˹tu:˺ pu̥˹suk˺ku](十一個)。˹トゥー˺　フ˹タック [˹tu:˺ ɸu̥˹takku](十二個)。

˹**トゥッ˺クン [˹tuk˺kuŋ]** 【自動】穴があく。陥没する。ウ˹ビッ˺チンシェー　˹トゥッ˺ク　˺クトー　˹ナーヌ˺ヌ　˹トゥッ˺ケー　˺ミサムヌ [ʔu˹bit˺ʧiŋʃe: ˹tuk˺ku ˺ku̥to: ˹na:nu˺nu ˹tuk˺ke: ˺misamunu](これぽちでは陥没することはないが、陥没すればいいのに)。˺カイブ　˺アナー　˹パー˺ク　˹トゥッ˺キ [˺kaibu ˺ʔana: ˹pa:˺ku ˹tuk˺ki](こんな穴は早く陥没しろ)。

˹**トゥッチン [˹tutʧiŋ]** 【名】数詞。十粒。十個。粒状のもの、丸薬や果実の種などを数える際に用いる。˹ピッ˺チン [˹pit˺ʧiŋ](一粒)、フ˹タッチン [ɸu̥˹tatʧiŋ](二粒)、˹ミッチン [˹mitʧiŋ](三粒)、˹ユッチン [˹jut˺ʧiŋ](四粒)、イ˹チッ˺チン [ʔi˹ʧit˺ʧiŋ](五粒)、˹ムッチン [˹mutʧiŋ](六粒)、ナ˹ナッ˺チン [na˹nat˺ʧiŋ](七粒)、˹ヤッチン [˹jatʧiŋ](八粒)、ク˹ヌッ˺チン [ku˹nut˺ʧiŋ](九粒)。フ˹チ˺ロー　プ˹ス˺フチシ　˹トゥッチン˺ナー　ヌ˹マラ˺ヌ [ɸu̥˹ʧi˺ro: pu̥˹su˺ɸu̥ʧiʃi ˹tutʧinna:˺ nu˹mara˺nu](薬は一口で十粒ずつは飲め

ない)。

ドゥッ˞トゥ [dut˞tu] 【副】誠に。甚だ。極めて。大変。非常に。「堂堂」から転訛した˞ドゥードゥ [˞du:du] が再転訛したものであろう。˺アイブ　˺クトゥン　アˋリ˺ル　˞ブーヌ˺　ドゥッ˞トゥ˺　ミˋジラサ˺ヌ　ナˋラン˺サー [˺ʔaibu ˺kʷtuŋ ʔa˞ri˺ru ˞bu:nu˺ dut˞tu˺ mi˞ʤirasa˺nu na˞ran˺sa:](あんなこともあるが、誠に珍しくてたまらないよ)。プˋスニンギン˺ヌ　˺アイブ　˺クトゥンティン　シˋラリ˺　ドゥッ˞トゥ˺　ピˋルマサ˺ヌ　ナˋラ˺ヌ [pʷ˞suniŋgin˺nu ˺ʔaibu ˺kʷtutiŋ ʃi˞rari˺ dut˞tu˺ pi˞rumasa˺nu na˞ra˺nu](人間が、あんなことも出来るなんて誠に＜極めて＞不思議で＜珍しくて＞たまらない)。ブˋドゥロー˺　ドゥッ˞トゥ˺　ミˋグトゥ　ユン [bu˞duro:˺ dut˞tu˺ mi˞gutu juŋ](踊りは実に＜極めて＞見事であるよ)。

˺ドゥットゥ [˺duttu] 【名】 1幼児語。鶏。˺ドゥットゥヌ　クンˋドー [˺duttunu kun˞do:](鶏が来るよ)。2鶏を呼ぶ声。˞ドゥットゥー　ドゥットゥー˺ティ　ウˋヤー˺ルカー　トゥˋロー˺　アˋツァ˺マルンˋダー [˞duttu: duttu:˺ti ʔu˞ja:˺ruka: tu˞ro:˺ ʔa˞tsa˺marun˞da:](ドゥットゥー　ドゥットゥーと叫んだら鶏が集まるよ)。

˞トゥッ˺ピニ [˞tup˺pini] 【副】突飛に。突然に。急に。標準語からの借用語。普通は˞アッ˺タニ [˞ʔat˺tani](突然に、急に) という。˞ワー˺　アイニ　˞トゥッ˺ピニ　アˋズユンダー　バン˺マー　˞ピントー˺　サˋラヌ [˞wa:˺ ʔaini ˞tup˺pini ʔa˞ʤujunda: bam˺ma: ˞pinto:˺ sa˞ranu](君があんなに突然に言うので、私には返答が出来ないよ)。

トゥッˋフェー [tuɸ˞ɸe:] 【名】擬声語。勢いよく唾をペッと吐いて悪霊祓いをすること。悪霊などの気配がするときに、トゥッˋフェー˺　トゥッˋフェー [tuɸ˞ɸe:˺ tuɸ˞ɸe:] といって唾を吐き、悪霊を祓(ハラ)った。ヤˋナムヌ˺ヌ　ブˋリン˺ギサ　˺トンマー　トゥッˋフェー˺　トゥッˋフェー　シー˺　パリˋヨー [ja ˞namunu˺nu bu˞riŋ˺gisa ˺tomma: tuɸ˞ɸe:˺tuɸ˞ɸe: ʃi:˺ pari˞jo:](悪霊のいそうな所はトゥッˋふェー˺　トゥッˋふェーと唱えながら唾を吐いて行きなさいよ)。

トゥˋドゥ˺キ [tu˞du˺ki] 【名】届け。届出。ッˋふァヌ˺　マˋル˺カー　ヤˋク˺バーヌ　トゥˋドゥキ˺ヌ　アンˋダー [f˞fanu˺ ma˞ru˺ka: ja˞ku˺ba:nu tu˞duki˺nu ʔan˞da:](子供が生まれると役場への届出があるよ)。トゥˋドゥ˺ケー　ンˋザ˺シェーンカヤー [tu˞du˺ke: ʔn˞ʤa˺ʃe:ŋkaja:](届出は出した＜提出した＞かねえ)。

トゥˋドゥキ˺ルン [tu˞duki˺ruŋ] 【他動】届ける。先方へ持って行く。送る。ウˋキ˺ナーヌ　ニˋム˺チ　トゥˋドゥキ˺ルンティ　˞ベーン˺ドゥ　˞ビンヌ　ナー˺ンダ　トゥˋドゥキララ˺ヌ [ʔu˞ki˺na:nu ni˞mu˺ʧi tu˞duki˺runti ˞be:n˺du ˞binnu na:˺nda tu˞dukirara ˺nu](沖縄への荷物を届けようとしているが、船便がないので届けられない)。トゥˋドゥキ˺ル　˺ムノー　˞パー˺ク　トゥˋドゥキ˺リ [tu˞duki˺ru ˺muno: ˞pa:˺ku tu˞duki˺ri](届けるものは早く届けよ)。トゥˋドゥキ˺　プサカー　˞パー˺ク　トゥˋドゥ˺ケー　˺ミサムヌ [tu˞duki˺ pʷsaka: ˞pa:˺ku tu˞du˺ke: ˺misamunu](届けたかったら早く届ければ良いのに)。

トゥˋドゥクー˺ルン [tu˞duku:˺ruŋ] 【自動】滞(トドコオ)る。標準語の転訛したもの。若年層の使用語。老年層は、タˋマルン [ta˞maruŋ](溜まる) を多用する。ウˋカ˺ヌ　パˋライミー˺ヌ　トゥˋドゥクー˺ルン [ʔu ˞ka˺nu pa˞raimi:˺nu tu˞duku:˺ruŋ](借金の支払いが滞る)。トゥˋドゥクーラ˺ヌ [tu˞duku:ra˺nu](滞らない)。トゥˋドゥクー˺リ　˞ナー˺ヌ [tu˞duku:˺ri ˞na:˺nu](滞ってしまった)。トゥˋドゥクー˺ル　˺クトゥン　˺アン [tu˞duku:˺ru ˺kʷtuŋ ˺ʔaŋ](滞ることもある)。

トゥˋドゥ˺クン [tu˞du˺kuŋ] (1) 【自動】届く。アˋチ˺ライ　˺シケータ　シˋナムノー˺　キュー　トゥˋドゥ˺クンティ　シˋタヌ˺　マˋダ˺　トゥˋドゥカン˺バン [ʔa˞ʧi˺rai ˺ʃʲke:ta ʃi˞namuno:˺ kju: tu˞du˺kunti ʃʲ ˞tanu˺ ma˞da˺ tu˞dukam˺baŋ](注文して＜誂えて＞おいた品物は今日届くと言ったが、まだ届かないよ)。カˋマーバー˺キ　トゥˋドゥ˺ク　˺クトー　˞ナーヌ˺ヌ　トゥˋドゥ˺ケー　˺ミサムヌ [ka˞ma:ba:˺ki tu ˞du˺ku ˺kʷto: ˞na:nu˺nu tu˞du˺ke: ˺misamunu](あそこまで届くことはないが、届けば良いのに)。˞ティー˺ヤ　トゥˋドゥ˺キ　˞ベー˺ン [˞ti:˺ja tu˞du˺ki ˞be:˺ŋ](手は届いている)。˞パー˺ク　トゥˋドゥ˺キ [˞pa:˺ ku tu˞du˺ki](早く届け)。**(2)** 【他動】届ける。トゥˋドゥ˺キ　˺ミサカー　クˋレー˺　バー　トゥˋドゥ˺クン [tu˞du˺ki ˺misaka: ku˞re:˺ ba: tu˞du˺kuŋ](届けてよければ、これは私が届ける)。˞ワー˺　トゥˋドゥカン˺カー　トゥˋドゥ˺ク　プˋソー˺　ブˋラーヌ [˞wa:˺ tu˞dukaŋ˺ka: tu˞du˺ku pʷ˞so:˺ bu˞ra:nu](君が届けないと、届ける人はいない)。˺ドゥーシ　トゥˋドゥ˺ケー　˺ミサムヌ [˺du:ʃi tu˞du˺ke: ˺misamunu](自分

で届ければ良いのに)。ク˞リン˺　トン　トゥ˞ドゥ˺キ [ku˞rin˺ton tu˞du˺ki](彼の所に届けろ)。

トゥ˞トゥ˺ヌーン [tu̥˞tu˺nu:ŋ] 【他動】整える。整理する。調整する。揃える。「諧・剪・飾・整、トトノフ」『類聚名義抄』の転訛したもの。˺キンカーン　トゥ˞トゥノーム˺ティ　プ˞スヌ˺　マイナー　ウ˞タ˺ヌ　イ˞ザリラー [˺kiŋka:n tu̥˞tuno:˺muti pu̥˞sunu˺ maina: ʔu˞ta˺nu ʔi˞ʤarira:](衣類も揃えないで人前で歌が歌えるものか)。トゥ˞トゥヌイ˺　プサンドゥ　˺バー　トゥ˞トゥ˺ヌーンティ　˞スー˺カー　˞マーズン˺　トゥ˞トゥ˺ヌー　プ˞スヌ˺　ブ˞ラーン˺　ナルツォー [tu̥tunui˺ pu̥sandu ˺ba: tu̥˞tu˺nu:nti ˞su:˺ka: ˞ma:ʤun˺ tu̥˞tu˺nu: pu̥˞sunu˺ bu˞ra:n˺narutso:](整えたいが、私が整えようとすると、一緒に整える人がいなくなるそうだ)。トゥ˞トゥヌイ˺ヤー　˺ミサムヌ [tu̥˞tunui˺ja: ˺misamunu](整えればよいのに)。˞パー˺ク　トゥ˞トゥ˺ヌイバ [˞pa:˺ku tu̥˞tu˺nuiba](早く整えなさいよ)。

トゥ˞トゥヌイ˺ルン [tu˞tunui˺ruŋ] 【他動】整える。整理する。整頓する。「〜止止乃布＜ととのふ＞、又、伊佐奈布＜いさなふ＞」『新撰字鏡』の転訛したもの。トゥ˞トゥヌイ˺ルンティ　˞スンドゥバン˺マー　トゥ˞トゥヌイララ˺ヌ [tu̥˞tunui˺runti ˞sundu bamm˺ma: tu̥˞tunuirara˺nu](整えようとするが、私には整えられない)。トゥ˞トゥ˺ヌイ　ッ˞フィーリ [tu̥˞tu˺nui f˞fi:ri](整えてくれ)。トゥ˞トゥヌイ˺ル　プ˞ソー˺　˞ブラーヌ [tu̥˞tunui˺ru pu̥˞so:˺ bu˞ra:nu](整える人はいない)。トゥ˞トゥヌイ˺ヤー　˺ミサムヌ [tu̥˞tunui˺ja: ˺misamunu](整えれば良いのに)。˺ドゥーシ　トゥ˞トゥヌイ˺リ [tutunui˺ri](自分で整えろ)。

トゥ˞ドゥマララ˺ヌ [tu˞dumarara˺nu] 【自動】留まることができない。トゥ˞ドゥマ˺ルン [tu˞duma˺ruŋ](留まる) の未然形。

トゥ˞ドゥマ˺ルン [tu˞duma˺ruŋ] 【自動】とどまる(留まる)。もとと同じ所にあって動かない。滞在する。ア˞ツァーバー˺ケー　˺クナー　トゥ˞ドゥ˺マルンティ　シ˞タンドゥ˺　トゥ˞ドゥマララン˺ツォー [ʔa˞tsa:ba:˺ke: ˺kuna: tu˞du˺marunti ʃi̥˞tandu˺ tu˞dumaran˺tso:](明日までそこに留まる＜滞在する＞といったが、留まらないそうだ)。トゥ˞ドゥ˺マリ˺ミサカー　トゥ˞ドゥ˺マル　˺クトー　˺ナルン [tu˞du˺mari ˺misaka: tu˞du˺maru ˺ku̥to: ˺naruŋ](留まって良ければ留まることは出来る)。˺クナー　トゥ˞ドゥマレー˺　ミサムヌ [˺kuna: tu˞dumare:˺ misamunu](此処に留まれば良いのに)。˞ワー˺　クナー　トゥ˞ドゥマリ˺バ [˞wa:˺ kuna: tu˞dumari˺ba](君は此処に留まれよ)。

トゥ˞ドゥミルン [tu˞dumiruŋ] 【他動】とどめる(留める)。˞ウッ˺ツァ　˺クナー　トゥ˞ドゥミルンティ˺　ウ˞ムータン˺ドゥ　トゥ˞ドゥミララン˺ツォー [˞ʔut˺tsa: ˺kuna: tu˞dumirunti˺ ʔu˞mu:tan˺du tu˞dumiraran˺tso:](彼らは此処に留めようと思ったが、留められないそうだ)。トゥ˞ドゥミル˺　クトー　ナ˞ラ˺ヌ [tu˞dumiru˺ ku̥to: na˞ra˺nu](留めることは出来ない)。トゥ˞ドゥミ˺レー　˺ミサムヌ [tu˞dumi˺re: ˺misamunu](留めれば良いのに)。ウ˞レー˺　トゥ˞ドゥミ˺リ [ʔu˞re:˺ tu˞dumi˺ri](彼は留めろ)。

トゥ˞ドゥル˺クン [tu˞duru˺kuŋ] 【自動】 1とどろく(轟く)。響き渡る。鳴り響く。˞カンナール˺ヌ　ウ˞トゥヌ˺　トゥ˞ドゥル˺クン [˞kanna:ru˺nu ʔu˞tunu˺ tu˞duru˺kuŋ](雷の音が鳴りとどろく)。˞ラッパ˺ヌ　ウ˞トー　パイ˺ター　˞バー˺キン　トゥ˞ドゥル˺クンティ　シ˞タヌ˺　トゥ˞ドゥルカン˺シェン [˞rappa ˺nu ʔu˞to: pai˺ta: ˞ba:˺kin tu˞duru˺kunti ʃi̥˞tanu˺ tu˞durukaŋ˺ʃeŋ](ラッパの音は西表まで響きわたるといったが、響き渡らなかった)。ク˞マーバー˺キン　トゥ˞ドゥルキ˺　ブー [ku˞ma:ba:˺kin tu˞duruki˺ bu:](ここまでも鳴り響いている)。トゥ˞ドゥル˺ク　˺クトー　˞ナー˺ヌ [tu˞duru˺ku ˺ku̥to: ˞na:˺nu](鳴り響くことはない)。トゥ˞ドゥル˺ケー　˺ミサムヌ [tu˞duru˺ke: ˺misamunu](鳴り響けば良いのに)。トゥ˞ドゥル˺キ [tu˞duru˺ki](鳴り響け)。2有名になる。ウ˞リヌ　ナーヤ　ヤイマズー˺　トゥ˞ドゥルキ˺　ブー [ʔu˞rinu na:ja jaimaʤu:˺ tu˞duruki˺ bu:](彼の名は八重山中に響き渡っている)。

トゥ˞ナガスン [tu˞nagasuŋ] 【他動】飛び出させる。疾走(シッソウ)させる。逃がす。˺アイニ　フ˞ニ˺バ　トゥ˞ナガシェー˺ティ　˞アーク˺ヌ　˞ヌーシ˺カヤー　トゥ˞ナガサンモー˺　マ˞シー˺　ヤ˞ルヌ [˺ʔaini ɸu˞ni˺ba tu˞nagaʃe:˺ti ˞ʔa:ku˺nu ˞nu:˺ʃikaja tu˞nagasammo:˺ ma˞ʃi:˺ ja˞runu](あんなに舟を疾走させているが如何なものだろうか。疾走させないのがいいのだが)。トゥ˞ナガス˺　ピンマー　トゥ˞ナガスン [tu˞nagasu˺ pimma: tu˞nagasuŋ](疾走させる時は疾走させる)。˞マー˺ビン　トゥ˞ナガシェー˺　ミサムヌ [˞ma:˺bin tu˞nagaʃe:˺ misamunu](もっと疾走させればいいのに)。トゥ˞ルマケー˺　ミ˞ラリ˺　ブーバ　ト˞ナガシ [tu˞rumake:˺ mi˞rari˺ bu:ba tu˞nagaʃi](鳥巻き＜カツオの魚群を知らせるカツオドリの群れ＞は見え

て＜見られて＞いるから、舟は全速で疾走せよ＜全速疾走で魚群を追え＞)。

トゥ˞ナグン [tu˞naguŋ] 【自動】逃げる。飛び出す。遁走(トンソウ)する。疾走する。ピー˞ドーッ˜ティ　ス˞クター˜　トゥ˞ナギ˜　パリ　˞ナー˜ヌ [piː˞doːt˜ti su̥kutaː˜ tu˞nagi˜ pari ˞naː˜nu](火事だ! と聞いたので飛び出して行ってしまった)。トゥ˞ナグ˜　ス˞コール　シーベー˜バ　トゥ˞ナグンティ˜　ウムーカー　イ˞チン˜　ヤ˞ラバン˜　トゥ˞ナガリン [tu˞nagu˜ su̥˞koːru ʃiːbeː˜ba tu˞nagunti˜ ʔumuːkaː ʔi˞tʃiŋ jaraban˜ tu˞nagariŋ](飛び出す準備をしているから、飛び出そうと思えば何時でも飛び出される)。˞パー˜ク　トゥ˞ナゲー˜　ミサムヌ [˞paː˜ku tu˞nageː˜ misamunu](早く飛び出せば良いのに)。プ˞スシダキ˜　トゥ˞ナギ˜バ [pu̥˞suʃidaki˜ tu˞nagi˜ba](人先に＜他人に先んじて＞飛び出せ)。

トゥ˞ナ˜ミ [tu˞na˜mi] 【名】均(ナラ)すこと。トゥ˞ナミ˜ルン [tu˞nami˜ruŋ](均す。平らにする) の連用形から転成した名詞。首里方言の tunamijuN(ならす) からの転訛。/ア˞レニ˜　ミ˞ユル˜ワ　ウ˞ムトゥダキ　ヤ˞ラ˜ブ　タ˞キドゥン˜　ク˞バマ˜ダキ　ク˞ミヌ　ヤ˜イダキ　パ˞トゥバナ˜リ/(あちらに見えるのは於茂登岳、屋良部崎、竹富島、小浜岳、古見の八重岳、鳩離島)＜囃子＞/イヤイーヤー　シ˞マヌ　アリ˜サマ　ウ˞フ˜チ　˞バナリヌ˜　ア˞ヌ˜タ　カ˞ヌ˜タヌ　タ˞カ˜サ　ピ˞ク˜サヤ　トゥ˞ナ˜ミ　ナ˞ランサ˜　シ˞ジク˜　ワ˞シ˜マニ　ス˞ダ˜チ　ン˞チャ˜リバ　˞シントゥ˜　タ˞ヌマ˜シ　ム˞ヌサミ˜　ナマヌ　パ˞ヤ˜シニ　ク˞ドゥ˜キ　ユ˞ミユミ/(いやいや、誠に素晴らしい。島の情景＜有様は＞、大地＜西表島＞から離れたあちらこちらの島々は起伏に富んで美しい＜高さ低さは均すことが出来ない＞。つくづく我が島に育ってみると誠に楽しいものだ。今の囃子に口説を歌えよ)『鳩間島古典民謡古謡集』　。

トゥ˞ナミ˜ルン [tu˞nami˜ruŋ] 【他動】平らにする。均す。˞ターマ˜シェー　タ˞カ˜ディ　˞タウ˜　ナ˞サン˜ドーシ　ク˞ルバ˜サーシ　トゥ˞ナミ˜リ [˞taːma˜ʃeː ta˞ka˜di ˞tau˜ na˞san˜doːʃi ku˞ruba˜saːʃi tu˞nami˜ri](水田は高い所、低い所の凸凹にしないで、クルバサー＜馬鍬＞を牛に引かせて均しなさい)。トゥ˞ナミ˜ルンティ　˞スンドゥ˜　プ˞スム˜シシェー　トゥ˞ナミラ˜ヌ [tu˞nami˜runti ˞sundu˜ pu̥˞sumu˜ʃiʃeː tu˞namira˜ranu](均そうとするが、一回では均されない)。トゥ˞ナミ˜ル　˜クトー　タ˞ヤーッ˜サー　˞ナーヌ˜ヌ　˞パー˜ク　トゥ˞ナ˜メー　˜ミサムヌ [tu˞nami˜ru ˜ku̥toː ta˞jaːs˜saː ˞naːnu˜nu ˞paː˜ku tu˞na˜meː ˜misamunu](均すことは容易くはないが、早く均せばよいのに)。˜クマー　トゥ˞ナミ　ヤッ˜サン [˜kumaː tu˞nami jas˜saŋ](ここは均し易い)。˞グスク˜ヌ　タ˞カ˜サ　トゥ˞ナミ˜ルン [˞gusu̥ku˜nu tḁ˞ka˜sa tu˞nami˜ruŋ](石垣の高さを均(ナラ)す)。トゥ˞ナミ˜ル　˜クトゥ [tu˞mami˜ru ˜ku̥tu](均すこと)。トゥ˞ナミ˜リ [tu˞nami˜ri](均せ)。歌謡語に、/～イヤイヤ　シマヌ　アリサマ　ウフチバナリヌ　アヌタカヌタヤ　トゥナミ　ナランサ　シジク　ワシマニ　スダティ　ンチャリバ　シントゥ　タヌマシムヌサミ～/(～いやいや＜弥弥＞、島の有り様＜様子＞はというと、大地＜西表島＞の離れ島のあちらこちらは均すことはできない。つづくわが島に育ってみれば誠に楽しいものだ。～『鳩間口説』) とある。

トゥ˞ナル [tu˞naru] 【名】隣。トゥ˞ナル˜ナー　˞ヤーウチ˜リ　˞シー˜　ケーン [tu˞naru˜naː ˞jaːʔutʃi˜ri ˞ʃiː˜ keːŋ](隣に引っ越して＜家移りして＞きた)。ト˞ナルヌ˜　プ˞ストー˜　ユー　ピ˞ライ˜リ˞ダー [tu˞narunu˜ pu̥˞stoː˜ juː pi˞rai˜ri˞daː](隣の人とはよく付き合いなさいよ)。

トゥ˞ナルキンズ [tu˞narukindʑu] 【名】隣近所。トゥ˞ナルキンズヌ˜　プ˞ソー˜　イッ˞ケン˜　ミサー　ア˞ロー˜ルン [tu˞naru kindʑunu˜ pu̥˞soː˜ ʔik˞kem˜ misaː ʔa˞roː˜ruŋ](隣近所の人は非常に親切でいらっしゃる＜良い人でいらっしゃる＞)。

トゥ˞ナルピライ [tu˞narupirai] 【名】近所付き合い。近所交際。トゥ˞ナルピライヤー　ゾー˜ブンニ　˞サン˜カー　ナ˞ラントゥ ダー [tu˞narupiraija: dʑoː˜bunni ˞saŋ˜kaː na˞ranɦ-daː](近所付き合いは上手に＜しっかりと＞しないといけないよ)。

トゥ˞ナルプス [tu˞narupu̥su] 【名】隣人。隣の人。トゥ˞ナルプストー˜　ユー　ピ˞ライ˜リ˞ヨー [tu˞narupu̥sutoː˜ juː pi˞rai˜ri˞joː](隣人とはよく交際し＜付き合い＞なさいね)。

トゥ˞ナルマール [tu˞naruma:ru] 【名】近隣。近所一帯。トゥ˞ナルマール˜ナー　˞ギューキブル　カー˜ラヤーヤ　ア˞ル˜ワ [tu˞naruma:ru˜naː ˞gjuːkiburu kaː˜rajaːja ʔa˞ru˜wa](隣近所には瓦葺の家が何軒あるか)。

トゥ˞ナルムラ [tu˞narumura] 【名】隣村。˞ウイバロー˜　パ˞トゥマ˜ヌ　トゥ˞ナルムラ˜　ヤ˞レー˜ティ　˜ウマーラ　ユ˞ミン　サーローッ˜タツォー [˞ʔuibaroː˜ pḁ˞tuma˜nu tu˞narumura˜ ja˞reː˜ti ˜

ʔumːara juˠmin saːroːtˀtatsoː](上原村は鳩間の隣村だから、そこから嫁も連れてこられたそうだ)。

トゥ˞ニムトゥ [tuˠnimutu] 【名】村のそうけ＜宗家＞。「根元」の義か。豊年祭の旗頭を納め、保管している家。東村は、トゥ˞ムレー [tuˠmureː](友利家)。西村はア˞ザテー [ʔaˠʤateː](東里家。ヨーカヤーからの分家) で、ア˞ラ˥カーウガン [ʔaˠra˥kaːʔugaŋ](アラカー御嶽のピキ) を氏神として祀っている。伝承によると、もともと西村の˞ヨー˥カヤー [˞joː˥kajaː](西原家) の人がミ˞ジムトゥ [miˠʤimutu](水源) の神としてア˞ラ˥カーウガン [ʔaˠra˥kaːʔugaŋ](新川御嶽) を信仰して豊作続きとなったことから、同家に保管されていた雌雄の旗頭の中、雄の旗頭を東村の友利家の懇請により譲られた結果、村全体が豊作になったという故事により、豊年祭を村全体の神行事にされたという。

トゥ˞ニムトゥヌ˥ ウタ [tuˠnimutunu˥ ʔuta] 【連】豊年祭の歌。神歌の一種。旗頭をトゥニムトゥに納める際に歌われる。/˞ヘイヤー ク˞ヌ トゥンチ˥ヌ ホー マ˞ブ˥ルシュ ˥ヘイヤー トゥ˞ニムトゥヌ˥ ホー ˥ウヤガミ ˥ヘイヤー ウ˞ユミ˥サ ˥ホー ア˞ラ˥バン ˥ヘイヤー ナ˞ユミ˥サ ˥ホー ア˞ラ˥バン ˥ヘイヤー ウ˞ス˥バユティ ˥ホー ウ˞ガ˥マディ ˥ヘイヤー チ˞カ˥クユティ ˥ホー ウ˞ガ˥マディ/(へいやー＜囃子＞、この殿内の ほー＜囃子＞、守り神、へいやー 村の宗家の、ほう 親神、へいやー 畏れ多くはあっても、へいやー 有難くもったいないことではあっても、へいやー お傍に寄って拝もうよ、へいやー お近くによって拝みましようよ)『鳩間島古典民謡古謡集』。

トゥ˞ヌサ˥マブシ [tuˠnusa˥mabuʃi] 【名】西表租納村の歌謡。/ウキユニ ナトゥタル クイヌ ウジガミ スナイヌ トゥヌサマ バンドゥ ヤユル カマドマクトゥ ウムイドゥ フナウキニ イクバヨ/(浮世に名を立てた恋のの氏神とは私でござる。カマドマのことを思って＜恋い忍んで＞船浮村に行くところだ) と歌われる。

˥トゥヌスク [˥tunusu̥ku] 【名】(地) 登野城。石垣市旧四個村の最も東の村。かつては沖縄県の支庁、石垣市役所などがあり、行政の中心地であった。˥トヌスクナー ウ˞トゥザ˥ヌ ˞オー˥ルン [˥tunusu̥kunaː ʔuˠtuʤa˥nu ˞ʔoː˥ruŋ](登野城には親戚がいらっしゃる)。

˥トゥヌスクヌ ˥アジャー [˥tunusu̥kunu ˥ʔaʤaː] 【連】人名。登野城村の兄さん。˥トヌスクヌ ˥アジャー ˞デージ˥ナ ˞ギー˥ムチ ヤ˞ロー˥ルティバン˞ナー [˥tunusu̥kunu ˥ʔaʤaː ˞deːʤi˥na ˞giː˥mutʃi ja ˞roː˥rutibanˠnaː](登野城の兄さんは大変な芸持ちであられるそうだねえ)。

トゥ˞ヌマー˥ルー [tuˠnumaː˥ruː] 【名】うろたえる＜狼狽(ウロタ)える＞こと。あわてふためく＜慌(アワ)てふためく＞こと。沖縄本島方言からの借用語。ア˞タヤンバ シール˥ プ˞スバ˥ トゥ˞ヌマー˥ル シ˞ミ˥ シケータ [ʔaˠtajamba ʃiːru˥ pu̥ˠsuba˥ tuˠnumaː˥ru ʃiˠmi˥ʃi̥keːta](急病をして、回りの者＜他人＞をうろたえさせていた)。˞アッ˥タニ イ˞ザリティ ヌー˥ル ˥ヌーティン ア˞ティンガーラヌ˥ トゥ˞ヌマー˥ル ˞シー ベー˥タ [˞ʔatˀtani ʔiˠʤariti nuː˥ runuːtiŋ ʔaˠtiŋgaːranu˥ tuˠnumaː˥ru ˞ʃiː beː˥ta](急に叱られて、何が何だか見当がつかず、うろたえていた)。

トゥ˞バシ˥ パルン [tuˠbaʃi˥ paruŋ] 【連】飛ばして行く。飛んでいく。大急ぎで走って行く。ウ˞ヌ˥ パ˞ナ˥シ シ˞キティ˥ トゥ˞バシ パッ˥タヤー [ʔuˠnu˥ paˠna˥ʃi ʃi̥ˠkiti˥ tuˠbaʃi patˀtajaː](その話を聞いて飛んで行った＜大急ぎで走っていった＞よ)。

トゥ˞バシプー [tuˠbaʃipuː] 【名】帆桟の無い帆。和船の帆。˞プーザンプー [˞puːʤampuː](桟のある帆) 導入以前の帆の形。この形式の帆では、船を風上の方向へ旋回させることが出着なかったという。風の力で、˞ドング˥ヤビ [˞doŋgu˥jabi](道具破損。帆や帆柱などの船具を破損すること) が多かったという。帆の形は長方形。帆の最上段と最下段には˞プーギタ [˞puːgita](帆桁。帆の桁材。強い木材を利用した) があり、中間には帆桁が無い。上段と下段の帆桁にはウ˞チ˥マー [ʔuˠʧi˥maː] という縄が張られており、これで帆桁を帆柱から離さない仕掛けになっている。下段の˞プーギタ (帆桁) の両端に˞ジー˥ヨー [˞ʤiːjoː] という縄が結ばれており、帆を操作する際に使った。帆の左側を˥カタ [˥kḁta](肩) といい、右側をッ˞ス [sˠsu](裾) という。帆の左側中央部と、その下に 2 本の˞ジー˥ヨー [˞ʤiː˥joː](縄) が結ばれていた。

トゥ˞バスン [tuˠbasuŋ] 【他動】1飛ばす。空に上げる。ピ˞キダマ˥ トゥ˞バスンティ ベーン˥ドゥ カ˞ジヌ ナーン˥ダ トゥ˞バサラヌ [pi̥ˠkidama˥ tuˠbasunti beːn˥du kaˠʤinu naːn˥da tuˠbasaranu](凧を揚げようとしているが、風がないので揚げられない)。˥クナーテー ピ˞キダマ˥ トゥ˞バシ˥ ミサ

ン [˺kuna:te: pi̥˞kidama˺ tu˞baʃi˺ misaŋ](ここでは凧を揚げてもよい)。˺クナーテー　トゥ˞バス˺　クトー　ナ˞ラ˺ヌ [˺kuna:te: tu˞basu˺ ku̥to: na˞ra˺nu](ここで飛ばす＜揚げる＞ことは出来ない)。˺カナーティ　トゥ˞バシェー˺　ミサムヌ [˺kana:ti tu˞baʃe:˺ misamunu](あそこで飛ばせば＜揚げれば＞良いのに)。2自然の風で籾殻を飛ばしたり、み＜箕＞であおり振って穀物などの屑や籾殻を飛ばして除き去る。ム˞ミ˺　トゥ˞バシ [mu˞mi˺ tu˞baʃi](籾殻を風で飛ばせ)。3補助動詞。動詞の連用形に付いて、動作を強めたり、勢いを強めたりする。バ˞ライ　トゥバスン [ba˞rai tuasuŋ](笑い飛ばす)。

トゥ˞バラー˺マ [tu˞bara:˺ma] 【名】トゥバラーマ節。八重山を代表する情歌の一つ。「トゥバラ」は「とのばら＜殿原＞」の転訛で「高貴な方々、または男子の尊称」という『八重山民謡誌』。-マ [-ma] は愛称の指小辞。ム˞カ˺シェー　シ˞キヌ˺ユーナーヤ　バ˞カー˺ムンケー　ア˞ツァ˺マリティ　トゥ˞バラー˺マ　イ˞ゾーリ˺バ　イッ˞ケナ˺　ウ˞ムッ˺サタン˞ダー [mu˞kaʃe: ʃi̥˞kinu˺ju:na:ja ba˞ka:˺muŋke: ʔa˞tsa˺mariti tu˞bara:˺ma ʔi˞ʤo:ri˺ba ʔik˞kena˺ ʔu˞mus˺sa˺tan˞da:](昔は、月夜には若者達が集まってトゥバラーマ節を歌われるので、非常に面白かったよ)。

ドゥ˞バ˺ルン [du˞ba˺ruŋ] 【自動】疲労困憊する。ひどく疲れる。キ˞ノー˺ヤ　ドゥ˞バ˺ルンケン　シ˞グトゥ˺　シ˞タンドゥ　キュー˺ヤ　ドゥ˞バラン˺シェン [ki˞no:˺ja du˞ba˺ruŋkeŋ ʃi˞gutu˺ ʃi̥tandu kju:˺ja du˞baraŋ˺ʃeŋ](昨日は疲労困憊するほど仕事をしたが、今日はひどく疲れなかった)。ドゥ˞バ˺リ　˞ナー˺ヌ [du˞ba˺ri ˞na:˺nu](疲労困憊してしまった)。ウ˞ビッチン˺ヌ　シ˞グトゥ˺シ　ドゥ˞バ˺ル　˺クトー　˞ナー˺ヌ [ʔu˞bittʃin˺nu ʃi˞gutu˺ʃi du˞ba˺ru ˺ku̥to: ˞na:˺nu](これぽっちの仕事で疲労困憊することはない)。

トゥ˞ビアガルン [tu˞biʔagaruŋ] 【自動】飛び上がる。ク˞ヌ˺　ッ˞ふァー˺　ウ˞ダラカ˺スカー　トゥ˞ビアガルント ダー [ku˞nu˺ f˞fa:˺ ʔu˞daraka˺su̥ka: tu˞biʔagarunt-da:](この子は驚かすと飛び上がるよ)。

トゥ˞ビイカ [tu˞biʔika] 【名】(動) スルメイカ。標準語からの借用語か。鳩間島ではア˞ガイガ [ʔa˞gaʔiga](赤烏賊) ともいう。胴長約 30 センチ。旧暦 8,9 月頃鳩間島の北 4〜20km の沖でイ˞ガメー [ʔi˞game:](集魚灯による烏賊釣り漁) で漁獲される。するめの原料となる。大型のトゥ˞ビイカは、˞アンマー˺イカ [˞ʔamma:˺ʔika](母さん烏賊) という。イ˞ガメーラ　ホー˺ソール　イ˞ガー˺　ムー˞ル˺　トゥ˞ビイカ　ヤッタル [ʔi˞game:ra ho:˺so:ru ʔi˞ga:˺ mu:˞ru˺ tu˞biʔika jattaru](烏賊釣り漁で漁獲される＜釣られる＞烏賊はみんなトゥビイカであった)。

トゥ˞ビイズ [tu˞biʔiʤu] 【名】(動) 魚の名。和名、ツマリトビウオ (飛魚。体長約 17 センチ)。老年層は、トゥ˞ブ [tu˞bu](飛魚) という。和名、アヤトビウオ (体長約 25 センチ)。和名、アカトビの仲間 (体長約 30 センチ)。和名、オオメナットビ (体長約 35 センチ) の総称。パ˞トゥ˺マナー　トゥ˞ビイズ˺　トゥル　プ˞ソー　オーラン˺シェン [pḁ˞tu˺mana: tu˞biʔiʤu˺ turu pu̥˞so: ʔo:raŋ˺ʃeŋ](鳩間島では飛魚を漁獲する人は居られなかった)。体長約 30 センチのトゥビイズは胸びれが極めて大きく、一度に百メートル以上も空中飛行をすることができる。

トゥ˞ビウキ˺ルン [tu˞biʔuki˺ruŋ] 【自動】飛び起きる。跳ね起きる。急に起き上がる。ウ˞ヤー˺リ　ウ˞コー˺スカー　トゥ˞ビウキルン [ʔu˞ja:˺ri ʔu˞ko:˺su̥ka: tu˞biukiruŋ](大声を出して起すと飛び起きる)。トゥ˞ビウキル˺　ピンマー　˺イロー　ッ˞サイ˺ス [tu˞biukiru˺ pimma: ˺ʔiro: s˞sai˺su](飛び起きる時は顔面蒼白になる＜顔色は白む＞)。トゥ˞ビウキラヌ [tu˞biukiranu](飛び起きない)。˞アイ˺ジ　˞スー˺カー　トゥ˞ビウキリ [˞ʔai˺ʤi ˞su:˺ka: tu˞biukiri](合図したら飛び起きろ)。

トゥ˞ビウクン [tu˞biukuŋ] 【自動】飛び起きる。「飛び・起く＜上ニ段＞」の転訛したもの。ヤ˞ラ˺ベー　ニ˞チ˺ヌ　タ˞カー˺　ナルカー　トゥ˞ビウクント ダー [ja˞ra˺be: ni˞ʧi˺nu tḁ˞ka:˺ naruka: tu˞biʔukunt-da:](子供は熱が高くなると飛び起きるよ)。˞ナイ˺ヌ　シ˞ター˺　ト˞ビウキティ˺　ミ˞ナ˺カー　˞トゥンジ　パッ˺タ [˞nai˺nu ʃi̥˞ta:˺ tu˞biukiti˺ mi˞na˺ka: ˞tunʤi pat˺ta](地震がしたので飛び起きて庭へ飛び出していった)。

トゥ˞ビオーブ [tu˞biʔo:bu] 【名】病気の名。˞オーブ [˞ʔo:bu](筋炎、myositis。筋肉内に化膿菌によっておこる炎症)『医学沖縄語辞典』が飛び飛びに発症する腫れ物。トゥ˞ビオーブヌ˺　ウマーカ˞マー˺ナー　˺ンジティ　˺ヤミ　ナ˞ラ˺ヌ　˞デー˺ジ　˞シー　ナー˺ヌ [tu˞biʔo:bunu˺ ʔuma:ka˞ma:˺na: ˺ʔnʤiti˺ jami na˞ra˺nu ˞de:˺ʤi ˞ʃi: na:˺nu](トゥビオーブがあっちこち発症して痛くて堪らない。大変なことになってしまった)。

トゥ˞ビキン [tu˞bikiŋ] 【名】死者を上から覆う白い

衣。「飛び衣」の義。きょうかたびら (経帷子)。芭蕉布、麻布などで作ったが、現在は白の綿布で作っている。横にして被(カブ)せる。死者はこれを羽にして昇天するといわれている。プ˞スヌ　マーラス˺カー　トゥ˞ビキンバ˺　カ˞バ˺ソーッタツォー [pu̥˞sunu ma:rasu˺ka: tu˞bikimba˺ ka˞ba˺so:ttatso:](人が亡くなると飛び衣を被せられたそうだ)。

トゥ˞ビダイ [tu˞bidai] 【名】 (動)˞飛び大判」の義。特大のカツオ。秋カツオに多かった。10〜15 キログラムの大判のカツオのことをいう。トゥ˞ビダイヤー　タンガ˺シェー　ア˞ギユーソーラン˺センティ˞ダー [tu˞bidaija: taŋga˺ʃe: ʔa˞giju:so:raŋ˺ʃenti˞da:](超大判のカツオ < 飛び大判のカツオ > は一人では釣り上げることは出来なかったそうだよ)。

トゥ˞ビックムン [tu˞bikkumuŋ] 【自動】飛び込む。ミ˞チ˺スー　˺ナルカー　ビ˞コーンッふァー　サンバ˺シェーラ　トゥ˞ビックミシタ [mi˞ʧi˺su: ˺naruka: bi˞ko:ŋffa: samba˺ʃe:ra tu˞bikkumiʃi̥ta](満潮になると男の子は桟橋から飛び込んだ)。

トゥ˞ビヌールン [tu˞binu:ruŋ] 【自動】飛び乗る。進行中の乗り物に飛びついて乗る。˺フニナ　ヤッ˞トゥ˺シ　トゥ˞ビヌーリティ　クー˺タ [˺ɸunina jat˞tu˺ʃi tu˞binu:riti ku:˺ta](船にやっとのことで飛び乗ってきたよ)。

トゥ˞ビ˺　パルン [tu˞bi˺ paruŋ] 【連】1飛んでいく。˺パトゥザヌ　˞パイ˺ター　トゥ˞ビパッ˺タ　˺ムーミ˞ル˺タン [˺pḁtudzanu ˞pai˺ta: tu˞bipat˺ta ˺mu: mi˞ru˺taŋ](鳩が南端 < 西表島 > へ飛んでいったのを見た)。2走って行く。大急ぎで行く。ウ˞キ˺ナーラフ˞ニ˺ヌ　˺ケーンティ　シ˞キティ˺　ドゥ˞シ˺　ン˞カイン˺　トゥ˞ビ　パッ˺タ [ʔu˞ki˺na:ra ɸu˞ni˺nu ˺ke:nti ʃi̥˞kiti˺ du˞ʃi˺ ʔŋ˞kain˺ tu˞bipat˺ta](沖縄から船が来たと聞いて、友人を迎えに飛んで < 走って > 行った)。

トゥ˞ビムニ [tu˞bimuni] 【名】流言。蜚語(ヒゴ)< 飛語 >。噂。デマ。「飛び言葉 < 物言い >」の義。˺アイブ　トゥ˞ビムニバ　マームニ˺ティ　シ˞ケー˺　ナ˞ラ˺ヌ [˺ʔaibu tu˞bimuniba ma:muni˺ti ʃi̥˞ke:˺ na˞ra˺nu](あんな流言蜚語を本当のことばだと思っては < 聞いては > いけないよ)。

トゥ˞ビヤツ [tu˞bijatsu] 【名】病気の名。幼児が感染する伝染性の皮膚病。とびひ。トゥ˞ビヤツヌ˺ンジティル　ヤ˞ミ˺スティ　ナ˞キ　ベー˺ンドゥ˞ヌー˺ル　フ˞チ˺ルカヤー [tu˞bijatsunu˺ ʔnʤitiru ja˞mi˺suti na˞ki be:˺ndu ˞nu:˺ru ɸu̥˞ʧi˺rukaja:](とびひが出て < とびひに罹患(リカン)して > 痛いといって泣いているが、何が薬かねえ)。

トゥ˞ビ˺ラー [tu˞bi˺ra:] 【名】蝶。蛾。ヤ˞マトゥクマ˺シェー　トゥ˞ビ˺ラーテー　ア˞ザンシェン˺ナー [ja˞matukuma˺ʃe: tu˞bi˺ra:te: ʔa˞dzaŋʃen˺na:](ゴキブリにはトゥビラーとは言わなかったねえ)。

トゥ˞ビラー˺マ [tu˞bira:˺ma] 【名】胡蝶(コチョウ)。小さな蝶。マ [ma] は愛称の指小辞。˞ダイクニ˺ヌ　˺パナナー　トゥ˞ビラーマ˺ヌ　トゥ˞マリ　ベー [˞daikuni˺nu ˺panama: tu˞bira:ma˺nu tu˞mari be:](大根の花に胡蝶がとまっている)。

トゥ˞ビリ [tu˞biri] 【名】 (地名) ナカムリと友利御嶽のムリ (岡、盛り) を北に下った所からシマナカまでの一帯の畑地「巡見統計誌」(1885 年) には、「トヒリ原」とあり、「本村ノ北ニ在リ地目五コヲジ程長二百間横二百間其所ニ盛在ヲ嶽アル」とある。トゥ˞ビリヌ˺　パ˞タ˺キナー　カ˞ブッチバ˺　イ˞ビ˺　シケー [tu˞birinu˺ pḁ˞ta˺kina: ka˞buttʃiba˺ ʔi˞bi˺ ʃi̥ke:](中岡(ナカモリ)のトゥビリの畑にカボチャを植えてある)。

トゥ˞ブ˺シ [tu˞bu˺ʃi] 【名】たいまつ (松明)。松の幹を鉛筆大に削って「ともし < 灯し >」にしたもの。ア˞カ˺シ [ʔa˞ka˺ʃi](松明) ともいう。「炬、トモシビ」『類聚名義抄』の転訛したもの。˞パイタ˺ナテー　˞トゥール˺ヌ　˞カール˺　トゥ˞ブシ˺バ　˺シケーティル　ガ˞ル˺　トゥ˞ロー˺タ [˞paita˺nate: ˞tu:ru˺nu ˞ka:ru˺ tu˞buʃi˺ba ˺ʃike:tiru ga˞ro:˺ tu˞ro:t˺ta](南端 < 西表島 > ではランプ < 灯籠 > の代わりにトゥブシ < ともし。松明 > を灯して明かりをとられたものだ)。

トゥ˞ブフニ [tu˞buɸuni] 【名】飛行機。飛行艇。水上飛行機。「飛び舟」の義。イ˞クサ˺ヌ　˺マイナ　パ˞トゥ˺マナー　トゥ˞ブフニヌ˺　ウレータン [ʔi˞kusa ˺nu ˺maina: pḁ˞tu˺mana: tu˞buɸuninu˺ ʔure:taŋ](戦前 < 戦争の前に > 鳩間島に飛行艇が下りたことがあった)。

トゥ˞ブン [tu˞buŋ] 【自動】飛ぶ。跳ぶ。高く舞い上がる。「〜山等妣 < トビ > 越ゆる〜。万、3687」の転訛したもの。˺パトゥザヌ　トゥ˞ビ　ベー [˺pḁtudzanu tu˞bi be:](鳩が飛んでいる)。トゥ˞ロー˺　パトゥザヌ　˺カタチニ　トゥ˞ブンティ˺　ウ˞ムータン˺ドゥ　˺アイネー　ト˞バンバン [tu˞ro:˺ pḁ-tudzanu ˺kḁtatʃini tu˞bunti˺ ʔu˞mu:tan˺du ˺ʔaine: tu˞bambaŋ](鶏は鳩のように飛ぶと思ったが、あのようには飛ばないわい)。˺パトゥザヌ　トゥ˞ブ˺トンナー　ヤー˞ディン　シー˺ヌ　˺アン [˺pḁtudzanu tu

˞buˀ tonnaː jaː˞diŋ ʃiːˀnu ˀʔaŋ](鳩が飛ぶところには必ず巣がある)。ˀカナーティ　トゥ˞ベーˀ　ミサムヌ [ˀkanaːti tu˞beːˀ misamunu](あそこで跳べば良いのに)。˞パーˀク　トゥ˞ビ [˞paːˀku tu˞bi](早く飛べ)。トゥ˞ビˀ　プサン [tu˞biˀ pu̥saŋ](飛びたい)。

トゥ˞マー [tu˞maː] 【名】とま (苫)。藁や茅を編んで薦 < こも > につくり、小屋の屋根やシ˞ラ [ʃi˞ra](稲叢(イナムラ)) に被せて葺きあげ、雨風を防ぐもの。「苫、度万 < とま >、編ニ菅茅一以覆レ屋根也『和名抄』」の転訛したもの。ˀガヤーシ　トゥ˞マーˀ　フミティ　シ˞ラヌ　ウイˀ　フ˞キˀ　カ˞バˀシバ [ˀgajaːʃi tu˞maːˀ ɸumiti ʃi˞ranu ʔuiˀ ɸu̥˞kiˀ ka˞baˀʃi](茅で苫を編んで稲叢の上を葺いて被せなさい)。

ˀトゥマイクルー [ˀtumaikuruː] 【名】 (植) サツマイモの品種名。芋の中身が紫色を呈しており、煮ると甘味が出て美味しい。「泊黒 < とまりくろ >」の義。紫色をˀクルー [ˀkuruː](黒) と表現しているのは紫を黒と認識していて、緑色、青色、紫色、黒色など、波長の違いによる色の分割をしていないことを示している。ˀトゥマイクルーヤ　バ˞カスˀカー　サ˞タˀヌ　ˀカタチニ　アマーア˞マーˀ　シティ　イッ˞ケナˀ　ン˞マーˀタン [ˀtumaikuruːja ba˞kasuˀkaː sḁ˞taˀnu ˀkḁtatʃini ʔamaːʔa˞maːˀʃi̥ti ʔik˞kenaˀ ʔm˞maːˀtaŋ](トゥマイクルー <藷(イモ)> は煮ると砂糖のように甘くて大変美味しかった)。

トゥ˞マダー [tu˞madaː] 【名】 (地)。トゥ˞マダー [tumadaː]。タ˞カˀスク [tḁ˞kaˀsu̥ku](˞高底」の義か。地名) や、ブ˞ナージマヌー [bu˞naːʤimanuː](ブナージマの原野) の下流に開けた水田地帯。˞ケーˀダー [ˀkeːˀdaː](慶田) の西にある。トゥ˞マダーヌˀ　シ˞キˀムトゥ [tu˞madanuˀ ʃi̥˞kiˀmutu](トマダの水源 <堰(セキ)元(モト)>) から水を引く水田地帯。西側には、キ˞ダバナ [ki˞dabana](崖。断崖。「切り落ち端」の転訛か) があり、その崖下にはトゥ˞マダー [tu˞madaː](トマ田)、˞ケーˀダー [˞keːˀdaː](慶田) 一帯の苗代があった。ˀユージェー [ˀjuːʤeː](松竹家。ˀユザヤー [ˀjuʤajaː]<˞寄合家」の転訛した語。「松竹家」のこと > ともいう)、カ˞ザケー [ka˞ʤakeː](加治工家) の水田があった。

トゥ˞マヤー [tu˞majaː] 【名】とまや (苫屋)。苫で屋根を葺いた簡単な小屋。畑の側に建てた休憩用の小屋。ˀアブジェー　シ˞マナカヌˀ　パ˞タキˀヌ　ˀアザナー　トゥ˞マヤーバˀ　ス˞クˀリティ　ˀウナーティル　ˀアシン　ン˞コーッタˀル [ˀʔabuʤeː ʃi˞manaknuˀ pḁ˞takiˀnu ˀʔaʤanaː tu˞majaːbaˀ su̥˞ku ˀriti ˀʔunaːtiru ˀʔaʃiŋ ʔŋ˞koːttaˀru](お祖父さんは島中の畑の畦に苫屋を作って、そこで昼食も召し上がられたよ)。

トゥ˞マラスン [tu˞marasuŋ] 【他動】泊める。泊まらせる。カ˞レーˀ　トゥ˞マラスンティˀ　ウムイ　トゥ˞マラスˀ　ス˞コール　シー　ベーンˀケン　˞キューˀヤ　トゥ˞マラサラヌˀティ　ウ˞ヤˀヌ　ア˞ゾーˀリキー < ア˞ゾーッˀタ˞ベーˀティ >　˞カイˀシ　パ˞ラシˀタ [ka˞reːˀ tu˞marasuntiˀ ʔumui tu˞marasuˀ su̥˞koːru ʃiː beːŋˀkeŋ ˞kjuːˀja tu˞marasaranuˀti ʔu˞jaˀnu ʔa˞ʤoːˀrikiː < ʔa˞ʤoːtˀta˞beːˀti > ˞kaiˀʃi pa˞raʃi̥ˀta](彼は泊めよう < 泊まらせよう > と思って、泊める < 泊まらせる > 準備をしている時に、今日は泊められない < 泊まらされない > と親が言われるので、断って < 帰して > いかせた)。トゥ˞マラシˀ　ミサカー　トゥ˞マラシェーˀ　ミサムヌ [tu˞maraʃiˀ misakaː tu˞maraʃeːˀ misamunu](泊めてよければ、泊めれば良いのに)、トゥ˞マラシ [tu˞maraʃi](泊めよ < 泊まらせ >)。

トゥ˞マリ [tu˞mari] 【名】宿泊すること。動詞トゥ˞マルン [tu˞maruŋ](止まる。泊まる) の連用形から転成した名詞。プ˞スインドゥマˀリ [pu̥˞suinudumaˀri](一泊。一日泊まり)。˞フシゥカドゥマリ [˞ɸusi̥kadumari](二泊。二日泊まり)。プ˞スインドゥマˀリシ　˞ユーˀズ　˞シンˀ　イ˞サナケーˀ　マー˞ズン　ギーッティˀ　クー˞ディー [pu̥˞suinudumaˀriʃi ˞juːˀʤu ˞ʃiŋˀ ʔi˞sanakeːˀ maː˞ʤuŋ giːttiˀ kuː˞diː](一泊 < 一日泊まり > で用事をしに石垣へ一緒に行って来ようよ)。

トゥ˞マルン [tu˞maruŋ] 【自動】1止まる。留まる。ˀフネー　トゥ˞マラヌ [ˀɸuneː tu˞maranu](舟は止まらない)。ˀクマー　トゥ˞マリˀ　グ˞リˀサン [ˀkumaː tu˞mariˀ gu˞riˀsaŋ](ここは止まりにくい)。˞ヨーンナーˀ　パ˞ラˀスカー　トゥ˞マルンダˀ　トゥ˞マルˀ　トンバ　˞ミシˀキ　シ˞キˀリ [˞joːnnaːˀ pa˞raˀsu̥kaː tu˞marundaˀ tu˞maruˀ tomba ˞miʃi̥ˀki ʃi̥˞kiˀri](ゆっくり走らせると止まるから、止まる所を探しておけ)。ˀクナー　トゥ˞マレーˀ　ミサムヌ [ˀkunaː tu˞mareːˀ misamunu](ここに止まれば良いのに)。˞ワーˀ　フネー　ˀクナー　トゥ˞マリ [˞waːˀ ɸuneː ˀkunaː tu˞mari](君の舟はここで止まれ)。2泊まる。宿泊する。˞パイタˀヌ　˞ターˀヤーナー　トゥ˞マリティル　ˀター　カイˀソーッタ [˞paitaˀnu ˞taːˀjaːna tu˞maritiruˀta: ˞kaiˀsoːtta](西表の田小屋に泊まって田を耕された)。

ドゥ˩マングラ˥スン [du˩maŋgura˥suŋ] 【他動】ふらつかせる。うろたえさせる。心理的平衡感覚を失わせる。プ˩スマティダー˥　アツァユンダ　˩プーマキティ˥　プ˩ス˥　ドゥ˩マングラ˥スン [pu̥˩sumatidaː˥ ʔatsajunda ˩puːmakiti˥ pu̥˩su˥ du˩maŋgura˥suŋ](真昼の灼熱の太陽は暑いから、体が熱気をおびて、体温を急上昇させてふらつかせる)。˥ドゥク　˥アツァカー　プ˩ス˥　ドゥ˩マングラ˥スン [˥duku ˥ʔatsakaː pu̥˩su˥ du˩maŋgura˥suŋ](余りにも暑いと人をふらつかせる)。

ドゥ˩マン˥グルン [du˩maŋ˥guruŋ] 【自動】気分が悪くなってふらふらする。正気を失ってふらつく。うろたえる。心理的平衡感覚をうしなう。ドゥ˩ク˥ヌ　˥アツァティ　ドゥ˩マン˥グリティ　ノー˩ン˥　ナ˩ラ˥ヌ [du˩ku˥nu ˥ʔatsati du˩maŋ˥guriti noː˩n˥ na˩ra˥nu](あまりにも暑くて気分が悪くなり、ふらついて何も出来ない)。˥アイニ　˥アツァカー　ター˩ン˥　ドゥ˩マン˥グルンダー　ドゥ˩マングラン˥　スコーニ　˥カイナカナー　˩ベー˥ティ　シ˩ダミ˥リ [˥ʔaini ˥ʔatsakaː taː˩n˥ du˩maŋ˥gurundaː du˩maŋguran˥ su̥koːni ˥kainakana: ˩beː˥ti ʃi˩dami˥ri](あんなに暑かったら誰でも気分が悪くなってふらつくから、ふらつかないように日陰にいて涼みなさい)。ドゥ˩マン˥グル　˥ピンマー　˥カイナカー　˩サーリ˥キー　ミ˩ジ˥　ヌ˩マ˥シ [du˩maŋ˥guru ˥pimmaː ˥kainaka: ˩saːri˥ ki: mi˩ʤi˥ nu˩ma˥ʃi](気分が悪くなってふらついたら日陰に連れて来て水を飲ませなさい)。ドゥ˩マン˥グレーラ　˩デー˥ジ [du˩maŋ˥gureːra ˩deː˥ʤi](ふらついたら大変だ)。˥ティダン　プ˩サ˥リ　˩ベー˥ティ　ドゥ˩マン˥グリバヒャー [˥tidam pu̥˩sa˥ri ˩beː˥ti du˩maŋ˥guribaça](太陽に照らされていて、ふらつけよ、知らんぞ!)。

トゥ˩ミパン˥クルン [tu˩mipaŋ˥kuruŋ] 【自動】探しあぐねる。探しても見つけ出せない。˩ウン˥ネヌ˥ヤー　トゥ˩ミパン˥クリ　ム˩ドゥ˥リ　˩クー˥タ [˩ʔun˥nenu ˥jaː tu˩mipaŋ˥kuri mu˩du˥ri ˩kuː˥ta](あの家を探しあぐねて戻ってきた)。

トゥ˩ミ˥ムヌ [tu˩mi˥munu] 【名】拾物。˩ミシキ˥ムヌ [˩miʃi̥˥munu](拾物。< 見つけ物 >) ともいう。トゥ˩ミ˥ムノー　ヤー˩ディン˥　ヌ˩シン˥ナーニ　˩カイ˥シ　トゥ˩ドゥキ˥リティル　ナ˩ラー˥ス˩ダー [tu˩mi˥munoː jaː˩din˥ nu˩ʃin˥naːni tu˩duki˥ritiru na˩raː˥su˩daː](拾物は必ず持ち主に返し届けなさいと教えるのだよ)。

トゥ˩ミルン [tu˩miruŋ] 【他動】1止める。留める。泊める。トゥ˩ムン [tu˩muŋ](止める) ともいう。˥フネー˥クナー　トゥ˩ミルンティ˥　ウ˩ムー˥ヌ　トゥ˩ミ˥　ミサンカヤー [˥ɸune: ˥kuna: tu˩mirunti˥ ʔu˩muː˥nu tu˩mi˥misaŋkajaː](舟をここに止めめようと思うが、止めて良いかねえ)。˥クナーヤ　トゥ˩ミラランバ˥　カナー　トゥ˩ミリ˥バ [˥kuna: tu˩miraramba˥ kana: tu˩miri˥ba](ここでは泊め < 止め > られないから、あそこで泊め < 止め > なさいよ)。トゥ˩ミル˥　フネー　˩パー˥ク　トゥ˩ミレー˥　ミサムヌ [tu˩miru˥ ɸune: ˩paː˥ku tu˩mireː˥ misamunu](止める舟は早く止めれば良いのに)。2筆記する。記録する。˩チョーミン˥ナー　トゥ˩ミルンティ˥　シ˩タンドゥ˥　トゥ˩ミラランシェン [˩ʧoːmin˥naː tu˩mirunti˥ ʃi̥˩tandu˥ tu˩miraraŋʃeŋ](帳面に記録しようとしたが、記録でき < 書き留められ > なかった)。

トゥ˩ミ˥ルン [tu˩mi˥ruŋ] 【他動】1探す。見つける。˥トゥムン [˥tumuŋ](探す) ともいう。「〜河瀬尋 < トメ > 情もしのに〜。万、4146」の転訛か。˥ウマーン　˥カマーン　トゥ˩ミルン˥ドゥ　ムッ˩トゥ˥　トゥ˩ミララ˥ヌ [˥ʔumaːŋ ˥kamaːn tu˩mirun˥du mut˩tu˥ tu˩mirara˥nu](あっちこっち探すけれど、まったく探されない)。ウ˩リ˥　トゥ˩ミ˥ル　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌヌ˥　ター˩ンナー˥カ　˥トゥミ　ッ˩ふィーリ [ʔu˩ri˥ tu˩mi˥ru pu̥˩soː˥ bu˩raːnunu˥ taː˩nna:˥ka˥tumi f˩fiːri](それを探す人はいないが、誰か探してくれ)。˥ドゥーシ　˥トゥメー　˥ミサムヌ [˥duːʃi ˥tume: ˥misamunu](自分で探せば良いのに)。˥ドゥーシ　トゥ˩ミ˥リ [˥duːʃi tu˩mi˥ri](自分で探せ)。2妻を探す。妻を娶る。トゥ˩ジ˥　トゥ˩ミ˥ルンティ　˩ベーン˥ドゥ　ムッ˩トゥ˥　トゥ˩ミララン˥ツォー [tu˩ʤi˥ tu˩mi˥runti ˩beːn˥du mut˩tu˥ tu˩miraran˥tso](妻を娶ろうとしているが、一向に娶られないそうだ)。

ドゥ˩ミンカ˥スン [du˩miŋka˥suŋ] 【他動】1鳴りとどろかす。轟かす。どよめかす (響動めかす)。鳴り響かせる。˩サンシン　タイ˥ク　ドゥ˩ミンカ˥シティ　˩ヨイ˥バ　˩シーヨー˥ル [˩saŋʃin tai˥ku du˩miŋka˥ʃi̥ti ˩joi˥ba ˩ʃiːjoː˥ru](三線、太鼓を打ち鳴らし、どよめかしてお祝いをしておられる)。ドゥ˩ミンカ˥スンティ　シ˩タンティン˥　アイニ　ドゥ˩ミンカサン˥　ブ˩リ˥バ [du˩miŋka˥sunti ʃi̥˩tantiŋ˥ ʔaini du˩miŋkasam˥ bu˩ri˥ba](轟かすといっても、あんなに轟かせるなよ)。˥クナーテー　ドゥ˩ミンカ˥ス　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˥kunaːte: du˩miŋka˥su ˥ku̥to: na˩ra˥nu](ここでは鳴り轟かせることは出来ない)。ドゥ˩ミンカ˥シェ

ー　˥ミサムヌ [du˞miŋka˥ʃe: ˥misamunu](鳴り轟かせれば良いのに)。˞マー˥ビン　ドゥ˞ミンカ˥シ [˞ma: ˥bin du˞miŋka˥ʃi](もっと鳴轟かせろ)。2ぶん殴る。˞ウンザー˥　ドゥ˞ミンカ˥シ　トゥ˞ラ˥シ [˞ʔundʑa: ˥du˞miŋka˥ʃi tu˞ra˥ʃi](あいつはぶん殴ってやれ)。ドゥ˞ミンカ˥スンティ　ウ˞ムーン˥ドゥ　ドゥ˞ミンカ˥ス　˥クトゥン　ナ˞ラ˥ヌ [du˞miŋka˥sunti ʔu˞mu:n ˥du du˞miŋka˥su ˥kʷtun na˞ra˥nu](ぶん殴ろうと思うが、ぶん殴ることもできない)。

˥トゥム [˥tumu] 【名】とも (艫)。船尾。船の後方。「船後頭謂ニ之艫一、度毛 < とも >『和名抄』」の転訛したもの。パ˞ナイ [pa˞nai](舳先) の対義語。フ˞ニ˥ヌ　˥トゥムナーン　ヤマ˞シ˥カ　プ˞ソー　ヌーリブタン [ɸu˞ni˥nu ˥tumuna:ɲ ja˞maʃi̥˥ka pʷ˞so: nu:ri butaŋ](船の艫(トモ)にもたくさん人が乗っていた)。

トゥ˞ム [tu˞mu] 【名】供。従者。連れ。同伴者。ッ˞ふァヨーン˥　ヤ˞リバ　ワー˥　アブジェー　トゥ˞ムバ　シー˥　シゥ˞カシ˥　パリ [f˞fajo:ɲ˥ ja˞riba wa:˥ ʔabudʒe: tu˞muba ʃi:˥ si̥˞kaʃi˥ pari](暗闇の夜だから、君はお祖父さんのお供をしてご案内して < お連れして > 行きなさい)。

トゥ˞ムシェー [tu˞muʃe:] 【名】屋号。宮良石戸氏宅。トゥ˞ムシェーヌ　イシ˥トーザーテー [tu˞muʃe:nu ʔiʃi˥to:dza:te:](宮良家 <˞友寄家」の転訛したものか > 石戸氏宅) ともいう。ム˞ルスメーヌ　アー˥ネール　トゥ˞ムシェー　ヤッタ [mu˞rusume:nu ʔa:˥ne:ru tu˞muʃe: jatta](盛島家の東隣の家が宮良家 < 友寄家 > であった)。

トゥ˞ム˥ジナ [tu˞mu˥dʑina] 【名】ともづな (艫綱)。船の艫にある、船を繋ぎとめる綱。マ˞ナ˥マ　フ˞ニ˥ヌン˞ジリ˥バ　トゥ˞ム˥ジナー　˞パンツァシ [ma˞na ˥ma ɸu˞ni˥nu ʔn˞dʑiri˥ba tu˞mu˥dʑina: ˞pantsaʃi](今、船が出港する < 出る > から艫綱をはずせ)。

トゥ˞ム˥ジラ [tu˞mu˥dʑira] 【名】イダフニ (サバニ) の艫の三角面。「ともづら (艫面)」の転訛したものか。˥イダフニヌ　トゥ˞ムジラ˥バ　フ˞タウディ˥シ　˥ムタイティル　˞アンギルタト ダー <˞アングタ˥ダー >[˥ʔidaɸuninu tu˞mudʑira˥ba ɸʷ˞taʔudi˥ʃi ˥mutaitiru ˞ʔaŋgiruta-da:(˞ʔaŋguta˥da: < 揚げた >)](サバニ < 板舟 > の艫面を両腕で持ち上げて < ぞ > 舟を陸揚げした < 揚げた > のだよ)。

トゥ˞ムズルイ [tu˞mudzurui] 【名】伴揃え。従者を揃えること。ミ˞ルクゾーラケー˥　ミ˞キムティ˥プス　イ˞ニ˥アー　ム˞ティ˥プス　˥サンカクパタ　ム˞ティプス˥バ　トゥ˞ムズルイ　シー　サーレー˥ティル　ブ˞ドゥル　ソーッ˥タ [mi˞rukudzo:rake:˥ mi˞kimuti˥pʷsu ʔi˞ni˥ʔa: mu˞ti˥pʷsu ˥saŋkakupʷata mu˞tipʷsu˥ba tu˞mudzurui ʃi: sa:re:˥tiru bu˞duru so:t˥ta](弥勒踊り < 常楽我浄の行列舞 > は、神酒を捧げ持つ人、稲粟を捧げ持つ人、三角旗を持つ人約十人を伴揃えに従えて行列舞をされた)。

トゥ˞ム　スン [tu˞mu suŋ] 【連】1供をする。˥アブジェー　˞タンガ˥シェー　˞オーラサラン˥バ　˥バー　トゥ˞ム　シー　オースン [˥ʔabudʑe: ˞taŋga˥ʃe: ˞ʔo:rasaram˥ba ˥ba: tu˞mu ʃi: ʔo:suŋ](お祖父さん一人では御出させられませんから、私がお供をしてさしあげます)。2案内する。˞ウン˥ネーヤ　サ˞バキグリ˥サバ　˞ワー˥　トゥ˞ム　シー˥　パリバ [˞ʔun ˥ne:ja sa˞bakiguri˥saba ˞wa:˥ tu˞mu ʃi:˥ pariba](あの家は道が分かりにくい < 探しにくい > から、君が道案内して行けよ)。

トゥ˞ム˥ニー [tu˞mu˥ni:] 【名】船の後部 < 艫 > に荷物を積み過ぎる状態。「艫荷(トモニ)」の義。積荷が片寄ると操船に支障をきたすので、均等に積載した。˞マイ˥ニー [˞mai˥ni:](前荷。船の前部に荷物を積み過ぎる状態) の対義語。˥イダフネー　トゥ˞ム˥ニー　シ˞キダー˥ルバ　˞ニー˥ヤ　˥マンター　ク˞バ˥リ [˥ʔidaɸune: tu˞mu˥ni: ʃi˞kida:˥ruba ˞ni:˥ja ˥manta: ku˞ba˥ri](サバニは艫の方に荷を積み過ぎているから、荷物は前の方に配分せ < 配れ > よ)。

トゥ˞ムビキ [tu˞mubiki] 【名】暦注(レキチュウ)の六輝(ロッキ)(先勝、友引、先負 < せんぶ >、仏滅、大安、赤口 < しゃっこう >) の一つ。あいびき < 相引 > で勝負しないという日。俗信で、友を引くとして、この日に葬式を営むことを忌む。トゥ˞ムビキナー˥ヤ　˞ソー˥シケー　ン˞ザ˥ス　˥ムノー　ア˞ラ˥ヌティル　ア˞ザリブー [tu˞mubikina:˥ja ˞so:˥ʃi̥ke: ʔn˞dʑa˥su ˥muno: ʔa ˞ra˥nutiru ʔa˞dʑari bu:](友引の日には、葬式は出すものではないと < ぞ > いわれている)。

トゥ˞ム˥ヤク [tu˞mu˥jaku] 【名】船頭の櫂(カイ)。舵取りの櫂。「艫櫂(トモカイ)」の義。舵取りの用いる櫂は、普通の櫂の約倍ほどの大きさがある。巾約 15 センチ、長さ約 150 センチで、ずっしりと重い。これで船尾をはねたり、外側から内側へ漕ぎ寄せることによって舟の進行方向を変える。転じて、その櫂を使う人 (船頭) にもいう。操船に熟達した人がトゥ˞ム˥ヤク [tu˞mu˥jaku](船頭) になる。ク˞トゥシヌ　パーレー˥ヌ　トゥ˞ム˥ヤコー　˞ター˥ヤ [kʷ˞tuʃinu pa:re:˥nu tu˞mu˥jako: ˞ta:˥ja](今年のは爬竜船の船頭 < 艫櫂 > は誰か)。

トゥ˞ムユッ˺カ [tu˞mujuk˺ka] 【名】艫床板。台形の形態をした床板。船頭が座る艫の床板の直前の床板。˞ハイ˺グヮー [˞hai˺gwa:](艫の小梁) の直前にある床板。˺トゥムナー　˺アル　˞ユッカバル˺　トゥ˞ムユッ˺カティ　ア˞ズト ダー [˺tumuna: ˺ʔaru ˞jukkabaru˺ tu˞mujuk˺kati ʔa˞ʤuɨ-da:](艫にある床板を艫床板というのだよ)。

トゥ˞ムユッカー˺マ [tu˞mujukka:˺ma] 【名】艫の小さな床板。船頭が座る床板。鋭三角形をした艫の床板。トゥ˞ムユッカー˺マナール　˞シン˺ドー　ビ˞ロー˺ル [tu˞mujukka:˺mana:ru ˞ʃin˺do: bi˞ro:˺ru](艫の小さな床板に＜ぞ＞船頭は座られる)。

トゥ˞ムルマキ [tu˞murumaki] 【名】上原のトゥムルヤマ [tu˞murujama](友利山にあった牧場)。˞アンタヌ˺　フ˞ク˺ヌマキナ　マ˞ルタ˺　ウ˞シェー˺　トゥ˞ムルマキ˺ナー　ス˞ダティララン˺シェン　ヤー˞ディン˺　フ˞ク˺ヌマケー　˞ピン˺ギ　パ˞リ˺シタ [˞ʔantanu˺ ɸu̥˞ku˺numakina ma˞ruta˺ ʔu˞ʃe:˺ tu˞mu-rumaki˺na: su˞datirara˺ŋʃeŋ ja:˞diŋ˺ ɸu̥˞ku˺numake: ˞piŋ˺gi pa˞ri˺ʃi̥ta](東の伊武田の福の牧で生まれた牛は、西の友利山の牧場では育たなかった。必ず福の牧へ逃げ帰った)。

トゥ˞ムルヤマ [tu˞murujama] 【固】地名。上原の友利山。鳩間島の杣山 (そまやま) だったところ。

トゥ˞ムレー [tu˞mure:] 【名】屋号。友利盛喜氏宅。東村の旗頭を保管しているトゥ˞ニムトゥヤー [tu˞nimutuja:](根家)。カツオ節製造業、篤農家として知られた友利盛喜氏は昭和初期に竹富村会議員を務めた。長男の友利三益氏は、鳩間島の最後の稲作農家になるまで稲作を続けられた。次男の故友利繁氏は、戦後初の鳩間島出身竹富町議会議員となり、竹富町の発展に尽力した。三男の友利武雄氏は (現屋嘉武雄氏) は鳩間島出身で初めて八重山税務署に勤務した。˞アンヌムラヌ˺　カ˞シ˺ラー　トゥ˞ムレー˺ナール　カ˞キン˺グ　˞シー　オー˺ル [˞ʔannumuranu˺ ka˞ʃi˺ra: tu˞mure:˺na:ru kḁ˞kiŋ˺gu ˞ʃi: ʔo:˺ru](東村の旗頭は友利家で保管＜格護＞しておられる)。

トゥ˞ムレーヌ˺　イサザーテー [tu˞mure:nu˺ ʔisaʤa:te:] 【連】屋号。友利正安氏宅。ア˞ラヤーヌ　シー˺ネール　トゥ˞ムレーヌ˺　イサザーテー　˞ヤッタ [ʔa˞raja:nu ʃi:˺ne:ru tu˞mure:nu˺ ʔisaʤa:te: ˞jatta](吉川米三氏宅の後隣が友利正安氏宅だった)。

トゥ˞ムレーヌ　イシ˺トーザーテー [tu˞mure:nu ʔiʃi̥˺to:ʤa:te:] 【固】「友利家の石戸兄の家 (田代＜旧姓、友利＞浩氏の家)」の義。住宅を兼ねた郵便局。「イシト」(石戸) は田代浩氏の童名。氏は鳩間島出身で最初に沖縄水産学校に進学し、昭和 13 年に竹富村役場に勤務した。昭和 16 年に鳩間島出身で初めて鳩間郵便局長に就任した。以来 17 年間鳩間島郵便局長を勤めた後、八重山中央郵便局貯金課長、大浜郵便局長を勤めて島の発展に尽力した。トゥ˞ムレーヌ　イシ˺トーザール　パ˞トゥ˺マプスナー　パ˞ジミティ　ユービンキョク˺チョー　˞ソー˺レー˞ダー [tu˞mure:nu ˞ʔiʃi̥˺to:ʤa:ru pḁ˞tu˺mapu̥sunaː pa˞ʤimiti ju:biŋkjoku˺ʧo: ˞so:˺re:˞da:](田代浩＜友利家の石戸＞氏が鳩間島の人で最初に郵便局長をなさったのだよ)。

トゥ˞ムレーヌ˺　カボザーテー [tu˞mure:nu˺ kabaʤa:te:] 【連】屋号。友利実氏宅。˺カボザーは、˺カブ [˺kabu](嘉部)・˞アー˺ザ [˞ʔa:˺ʤa](兄)・˺テー [te:](～の家)→　[˺kabu・ʔa:ʤ・te:]　→　[˺kabo:ʤate:]　のように音韻変化して生成された合成語。友利実氏は昭和 30 年ごろに上原へ移住された。

トゥ˞ムレーヌ˺　シ˞ゲルザーテー [tu˞mure:nu˺ ʃi˞geruʤa:te:] 【連】屋号。友利繁氏宅。トゥ˞ムレーヌ˺　シ˞ゲルザーテーヤ˺　ム˞レーマヌ　イー˺ネ　˞ヤッタ [tu˞mure:nu˺ ʃi˞geruʤa:te:ja˺ mu˞re:manu ʔi:˺ne: ˞jatta](友利繁氏宅は、通事栄氏宅の西隣の家であった)。

トゥ˞ムレーヌ˺　フ˞ク˺レーザーテー [tu˞mure:nu˺ ɸu̥˞ku˺re:ʤa:te:] 【連】屋号。友利武雄氏宅。˞ウン˺ネーヤ　ヌ˞バ˺ルブザマーテーヌ　˺マンタヌ　カ˞ク˺ナール　˞アッ˺タ [˞ʔun˺ne:ja nu˞ba˺rubuʤamate:nu˺mantanu kḁ˞ku˺na:ru ˞ʔat˺ta](その家は寄合徹氏宅の前の屋敷にあった)。

トゥ˞ムン [tu˞muŋ] 【他動】 1止める。止めさせる。引き止める。˺フニ　ピ˞キシキ˺　トゥ˞ムンティ˺　シ˞タンドゥ˺　トゥ˞ミサンシェン [˺ɸuni pi̥˞kiʃiki˺ tu˞munti˺ ʃi̥˞tandu˺ tu˞misaŋʃeŋ](舟を引っ張って止めようとしたが、止めることが出来なかった)。トゥ˞ミ˺　ミサカー　トゥ˞ム˺　クトー　˺ナルン [tu˞mi˺ misaka: tu˞mu˺ ku̥to: ˺narun](止めてよければ止めることは出来る)。˞パー˺ク　トゥ˞メー˺　ミサムヌ [˞pa:˺ku tu˞me:˺ misamunu](早く止めれば良いのに)。2記録する。筆記する。˞チョーミン˺ナー　トゥ˞ミ˺バ [˞ʧo:minna: tu˞mi˺ba](帳面に記録しなさい)。

˺トゥムン **[˺tumuŋ]** 【他動】1探す。見つける。トゥ˹ミ˺ルンとも言う。ク˹ヌ˺　シ˹ナムヌバ˺　トゥミ　ッ˹ふィーリ [ku˹nu˺ ʃi˹namunuba˺ tumi ˢfi:ri](この品物を探してくれ)。˺ドゥーシ　˺トゥムンティ　˺ウムーカー　トゥ˹マリ˺スンドゥ　˺トゥム　˺クトー　˹サンバン [˺du:ʃi ˺tumunti ˺ʔumu:ka: tu˹mari˺sundu ˺tumu ˺kuto: ˹sambaŋ](自分で探そうと思えば探されるのだが、探すことをしないわい)。˺ドゥーシ　˺トゥメー　˺ミサムヌ [˺du:ʃi ˺tume: ˺misamunu](自分で探せばいいのに)。˹パー˺ク　˺ドゥーシ　˺トゥミバ [˹pa:˺ku ˺du:ʃi ˺tumiba](早く自分で探せよ)。2娶る。˹パー˺ク　トゥ˹ジ˺　トゥミ [˹pa:˺ku tu˹ʤi˺ tumi](早く妻を娶れ＜妻を捜せ＞)。

トゥ˹ヤーシフチ˺ル **[tu˹ja:ʃiɸu̥ʧi˺ru]** 【名】漢方薬。いろいろな薬草を調合して煎じた薬。トゥ˹ヤーシフシ˺ル [tu˹ja:ʃiɸu̥ʃi˺ru](漢方薬) ともいう。イ˹サ˺ヌ　フ˹チ˺ルシン　˹ノーサラン˺ベーティ　トゥ˹ヤーシフチル˺バ　˺ヌミティル　˹ノーシタ˺ル [ʔi˹sa˺nu ɸu̥ ˹ʧi˺ruʃin ˹no:saram˺be:ti tu˹ja:ʃiɸu̥ʧiru˺ba ˺numitiru ˹no:ʃita˺ru](医者の薬でも治せないので、漢方薬を煎じて飲んで＜ぞ＞治したよ)。

トゥ˹ヤー˺スン **[tu˹ja:˺suŋ]** 【他動】調合する。漢方薬を調合する。「取り合わせる」の義か。フ˹チ˺ル　トゥ˹ヤー˺シティ　˺シジ　ヌ˹マ˺シ [ɸu̥˹ʧi˺ru tu˹ja:˺ʃi̥ti ˺ʃiʤi nu˹ma˺ʃi](薬を調合して煎じて飲ませなさい)。トゥ˹ヤー˺スンティ　ウ˹ムーン˺ドゥ　˹バン˺マー　トゥ˹ヤーサラ˺ヌ [tu˹ja:˺sunti ʔu˹mu:n˺du ˹bam˺ma: tu˹ja:sara˺nu](調合しようと思うが私には調合できない)。トゥ˹ヤー˺ス　˺ムノー　˹ヌー˺トゥ　˺ヌーヤ [tu˹ja:˺su ˺muno: ˹nu:˺tu ˺nu:ja](調合するものは何と何か)。トゥ˹ヤー˺シェー　˺ミサムヌ [tu˹ja:˺ʃe: ˺misamunu](調合すればよいのに)。˹カンボー˺ヌ　フ˹チ˺ロー　˺ドゥーシ　トゥ˹ヤー˺シ [˹kambo:˺nu ɸu̥˹ʧi˺ro: ˺du:ʃi tu˹ja:˺ʃi](感冒の薬は自分で調合しなさい)。

トゥ˹ユマ˺スン **[tu˹juma˺suŋ]** 【他動】とよます (響動(トヨ)ます)。鳴り響かせる。名高くする。有名にする。褒め称える。多くは歌謡で用いられる。˹ナートゥラ˺ス [˹na:tura˺su](名取らせる。名を揚げる。名を高める) と対語、対句で用いられる。豊年祭の歌で、˹神に祈願して、豊年を迎えたら」という場面で、「タルトゥユードゥ　ティユマス、ジリトゥユードゥ　ナトゥラス」のように歌われる。/ヘイヤー　パトゥマユーヌ　ホー　ナウラバ　ヘイヤー　トゥムリユーヌ　ホー　ミキラバ　ヘイヤー　タルトゥユードゥ　ホー　ティユマス　ヘイヤー　ジリトゥユードゥ　ホー　ナトゥラス　ヘイヤー　マブルシュードゥ　ホー　ティユマス　ヘイヤー　ウヤガミドゥ　ナトゥラス～/(ヘイヤー＜囃子＞、鳩間世＜鳩間村＞が、ホー、豊年になると＜稔ると＞、ヘイヤー、友利御嶽の守護する村が稔ると、ヘイヤー、誰とともに、ホー　響動まそうか、ヘイヤー、誰＜いずれ＞と共に、ホー、名を轟かせようか、ヘイヤー　守り神を　ホー　響動ます＜讃える＞、ヘイヤー　祖神の名を　ホー響動ます＜名を轟かせる＞)。「みちうた＜道歌＞」『鳩間島古典民謡古謡集』。トゥ˹ユマサラ˺ヌ [tu˹jumasara˺nu](とよまされない)。トゥ˹ユマシ˺　プサン [tu˹jumaʃi˺ pu̥saŋ](とよましたい、鳴り響かせたい)。ト˹ユマ˺スン [tu˹juma˺suŋ](とよます)。トゥ˹ユマ˺シェー　˺ミサムヌ [tu˹juma˺ʃe: ˺misamunu](とよませばよいのに)、トゥ˹ユマ˺シ [tu˹juma˺ʃi](とよませ＜響動ませ＞。鳴り響かせよ)。

トゥ˹ユマリ˺ルン **[tu˹jumari˺ruŋ]** 【自動】とよむ (響動む)。世に鳴り響く。轟かせる。有名になる。ウ˹キ˺ナー　˹バー˺キン　˹ナー˺　トゥ˹ユマリ˺ルン [ʔu˹ki ˺na: ˹ba:˺kin ˹na:˺ tu˹jumari˺ruŋ](沖縄までも名声が鳴り響く)。トゥ˹ユマラ˺ヌ [tu˹jumara˺nu](轟かない、鳴り響かない)。トゥ˹ユマ˺リ　ッ˹ふォーリ [tu ˹juma˺ri ˢfo:ri](轟いてください、名声が鳴り響いてください)。トゥ˹ユマ˺ル　˺クトー　˹ナー˺ヌ [tu˹ juma˺ru ˺kuto: ˹na:˺nu](轟くことはない)。トゥ˹ユマ˺レー　˺ミサムヌ [tu˹juma˺re: ˺misamunu](轟けばよいのに)、ウ˹キ˺ナー　˹バー˺キン　トゥ˹ユマ˺リ [ʔu˹ki˺na: ˹ba:˺kin tu˹juma˺ri](沖縄まで鳴り轟け)。

トゥ˹ユ˺ムン **[tu˹ju˺muŋ]** 【自動】鳴り響く。響き渡る。名高くなる。有名になる。古老は、ドゥユムン [dujumuŋ](響動(ドヨ)む) ともいう。˹˹ナーヤ˺　ウ˹キ˺ナー˹バー˺キン　トゥ˹ユ˺ムン [˹na:ja˺ ʔu˹ki˺na: ˹ba: ˺kin tu˹ju˺muŋ](名前は沖縄まで鳴り響く＜有名になる＞)。

トゥ˹ラ **[tu˹ra]** 【名】1(動) 虎。トゥ˹ラヌ˺　カ˹キジ˺コー　˹ヤー˺ヌ　˺カルイティ　ア˹ザリ　ブー [tu ˹ranu˺ kḁ˹kiʤi˺ko: ˹ja:˺nu ˺karuiti ʔa˹ʤari bu:](虎の掛軸はその家の守護神＜嘉例。縁起物＞といわれている)。2十二支の第三番目。とら (寅)。トゥ˹ラディプス [tu˹radipu̥su](寅年生まれの人)。トゥ˹ラディマリ [tu˹radimari](寅年生まれ)。トゥ˹ランパー [tu˹rampa:](寅の方向、東北の方向)。トゥ˹ラニー [tu˹rani:](寅の日)。トゥ˹ラディプスヌ˺　キ˹ナイ˺ナ

ー　ミ˩ツァール˥　スルーカー　キ˩ナイヤー　スー˥ワンツォー [tu˩radipusunu˥ ki˩nai˥na: mi˩tsa:ru˥ suru:ka: ki˩naija: su:˥wantso:](寅年生まれの人が一家に三人揃うと一家の家運は強い＜強運で悪霊が来ない＞そうだ)。

トゥ˩ラー˥マ [tu˩ra:˥ma] 【名】 (動) 小鳥。ひな。ひよこ (雛)。トゥ˩ルヌ˥　ッ˩ふァ˥＜˩コー˥マ＞　シ˩ダ˥シティ　トゥ˩ラー˥マ　˩トゥッカラ　サーレー˥ティ　˩アー˥クン˩ダー [tu˩runu˥ f˩fa˥＜˩ko:˥ma＞ʃi˩da˥ʃi̥ti tu˩ra:˥ma ˩tukkara sa:re:˥ti ˩ʔa:˥kun˩da:](鶏がひな＜卵＞を孵(カエ)して、ひよこを十羽＜十匹＞連れてあるくよ)。

ドゥ˩ラーン [du˩ra:ŋ] 【名】どら (銅鑼)。ドゥ˩ラーンガニ [du˩ra:ŋgani](銅鑼鐘) ともいう。豊年祭やお盆の獅子舞、祝い事で打ち鳴らし邪気祓いと祝意の高揚を表した。また非常時などに打ちならして緊急事態を知らせた。˩プール˥ヌ　˩ゾーラキヌ˥　パ˩ジミトゥ　パーレー˥ヌ　˥ピン　シ˩ナピキ˥ヌ　˥ピン　˩シー˥シ　˩マーソー˥ル　˥ピンナーン　ドゥ˩ラーンマ˥　ウ˩トーッ˥タン [˩pu:ru˥nu ˩ʤo:rakinu˥ pa˩ʤimitu pa:re:˥nu ˥piŋ ʃi˩napiki˥nu ˥piŋ ˩ʃi:˥ʃi ˩ma:so:˥ru ˥pinna:n du˩ra:mma˥ ʔu˩to:t˥taŋ](豊年祭のゾーラキ＜常楽我浄(ジョーラクガジョウ)の入子踊り＞の初めと爬龍船競漕の時、綱引きの時、お盆の獅子を舞わされる時に銅鑼は打ち鳴らされた)。

ドゥ˩ラーンガニ [du˩ra:ŋgani] 【名】銅鑼。「銅鑼鐘」の転訛したもの。ドゥ˩ラーンガニ˥　ウティ　˩ナーラスン [du˩ra:ŋgani˥ ʔuti ˩na:rasuŋ](銅鑼を打ち鳴らす)。

ドゥ˩ラーングイ [du˩ra:ŋgui] 【名】銅鑼声。大きな声で話す人。ドゥ˩ラーングイ˥シ　˥ムニ　イ˩ズユンダ˥　マッ˩タキ˥　アイ　˩ブー˥　カタチニル　シゥ˩カリトツォー [du˩ra:ŋgui˥ʃi ˥muni ʔi˩ʤujunda˥ mat˩taki˥ ʔai ˩bu:˥ kạtatʃiniru si̥˩kari⊢tso:](銅鑼のような大声で話すものだから、まったく喧嘩しているように聞こえるんだよ)。ドゥ˩ラーングイヤ˥　ミシゥ˩カーマ˥シ　˥ムニ　イ˩ジ　サヌ [du˩ra:ŋguija˥ misi̥˩ka:ma˥ʃi ˥muni ʔi˩ʤisanu](大声＜銅鑼声＞の人だから、密(ミソ)かに小声で話すことが出来ない)。

トゥ˩ラ˥スン [tu˩ra˥suŋ] 【他動】与える。遣る。取らせる。ウ˩リ˥　トゥルンティ　˥クーカー　トゥ˩ラ˥シ˩ヨー [ʔu˩ri˥ turunti ˥ku:ka: tu˩ra˥ʃi˩jo:](それを貰い＜取り＞に来たら、与え＜取らせ＞なさいねえ)。ウ˩リンマー˥　トゥ˩ラサン˥ドーシ　カ˩ヌプスン˥　トゥ˩ラ˥シ　ッ˩ふィーリ˥ヨー [ʔu˩rimma:˥ tu˩rasan˥do:ʃi ka˩nu pu̥sun˥ tu˩ra˥ʃi f˩fi:ri˥jo:](その人には与えないで、あの人に与えて＜取らせて＞くれよねえ)。カ˩リン˥　トゥ˩ラ˥ス　˥ムノー　˥ヌーヤ [ka˩rin˥ tu˩ra˥su ˥muno: nu:ja](彼に与えるものは何か)。˩パー˥ク　トゥ˩ラ˥シェー　˥ミサムヌ [˩pa:˥ku tu˩ra˥ʃe: ˥misamunu](早く与えればよいのに)。ウ˩リン˥　トゥ˩ラ˥スンティ　˥シケー [ʔu˩rin˥ tu˩ra˥sunti ˥ʃi̥ke:](これも与えようと置いてある)。

トゥ˩ラ˥スン [tu˩ra˥suŋ] 【補動】～してやる。～してとらす。悪い意味に用いる。マ˩ラバシ˥　トゥ˩ラ˥スン [ma˩rabaʃi˥ tu˩ra˥suŋ](ぶん殴ってやる)。イ˩ジ˥　トゥ˩ラ˥シ [ʔi˩ʤi˥ tu˩ra˥ʃi](叱ってやれ)。˩シシキ˥　トゥ˩ラ˥サ [˩ʃiʃi̥ki˥ tu˩ra˥sa](仕付け＜厳しく躾け＞てやろう。懲らしめてやろう。制裁してやろう)。

トゥ˩ラディマリ [tu˩radimari] 【名】寅年生まれ。˩バン˥テナー　トゥ˩ラディマリヌ˥　ミ˩ツァール　ブント ダー [˩ban˥tena: tu˩radimarinu˥ mi˩tsa:ru bun⊢da:](我が家に寅年生まれが三人いるよ)。

トゥ˩ラドゥシ [tu˩raduʃi] 【名】寅年。トゥ˩ラドゥシヌ˥　プ˩ソー˥　ギュ˩タール　ブーワ [tu˩raduʃinu˥ pu̥˩so:˥ gju˩ta:ru bu:wa](寅年＜生まれ＞の人は何人いるか)。

トゥ˩ラ˥トゥラ　˩スン [tu˩ra˥tura ˩suŋ] 【連】今にも取ろうとするさま。「取ろう・取ろうとする」の義。ン˩マー˥　ムヌヌ　˥トン　˩ティー˥バ　˩ナーリ˥　トゥ˩ラ˥トゥラ　˩シー　ベー [ʔm˩ma:˥ munu˥nu ˥ton ˩ti:˥ba ˩na:ri˥ tu˩ra˥tura ˩ʃi: be:](美味しいものの所に手を伸ばして、今にも取ろう＜取ろう取ろう＞としている)。

トゥ˩ラニ [tu˩rani] 【名】十二支の寅の日。トゥ˩ラディプスヌ˥　ドゥーパダニンガイヤー　トゥ˩ラニ˥ナール　˩ソー˥ルツォー [tu˩radipusunu˥ du:padaniŋ-gaija: tu˩rani˥na:ru ˩so:˥rutso:](寅年生まれの人の健康祈願は寅の日にされるそうだ)。

トゥ˩ラヌ˥　カ˩キ˥ジク [tu˩ranu˥ kạ˩ki˥ʤiku] 【連】虎の掛け軸。トゥ˩ラヌ˥　カ˩キ˥ジコー　カ˩ルイ˥ヌ　˥ムヌティ　ア˩ザリ　ブー [tu˩ranu˥ kạ˩ki˥ʤiko: ka˩rui˥nu ˥munuti ʔa˩ʤari bu:](虎の掛け軸は嘉例＜縁起の良い。目出度い＞物と云われている)。

トゥ˩ラ˥ヌ　˩クゥン˥ニン [tu˩ra˥nu ˩kwan˥niŋ] 【連】役人のように良い身なりをしている人。見掛け倒し。「取らぬ官人」の義。イ˩サナキナー˥ル　トゥ˩ラ˥ヌ　˩クゥンニン˥マー　˩オーッタ˥ル　˩ベー˥　シマナー　˩オーラン˥シェン [ʔi˩sanakina:˥ru tu˩

ra˩nu ˞kwannim˩ma: ˞ʔo:tta˩ru ˞be:˩ ʃimana: ˞ʔo:raŋ ˩ʃeŋ](石垣島にが＜ぞ＞役人のような良い身なりをした˞給料を取らぬ官人」は居られたのであって、我が島にはいらっしゃらなかったよ)。

トゥ˞ラヌズー [tu˞ranudʑu:] 【名】(植) 虎の尾。和名、ルリトラノオなどの略称。羽状の葉に横縞模様があり、虎の尾に似ることから命名されたのであろう。鳩間島では、虎は魔除けとして神聖視されている。その家に寅年生まれの人が三人揃うと運勢は磐石の備えといわれている。寅年生まれの人がいない時は、好んで虎の掛け軸を掛け、虎の刺繍を額縁に入れて飾り、虎の尾を生け花に活けた。トゥ˞ラヌズーヤ˩　カ˞ルイ˩ヌ　˩ムヌ [tu˞ranudʑu:ja˩ ka ˞rui˩nu ˩munu](虎の尾は嘉例＜縁起のよい＞ものだ)。

トゥ˞ラリ˩ルン [tu˞rari˩ruŋ] 【自動】1可能動詞。取れる。取られる。˩トゥルン [˩turuŋ](取る) の未然形に、受身、可能の助動詞˞リ˩ルン [˞ri˩ruŋ](られる) が付いて形成された派生動詞。ウ˞ヌ˩　ア˞タ˩ロー　˞バン˩ターン　トゥ˞ラリ˩ルンティ　˩ウムーン [ʔu˞nu˩ ʔa˞ta˩ro: ˞ban˩ta:n tu˞rari˩runti ˩ʔumu:ŋ](その程度は私たちにも取れる＜取られる＞と思う)。2受身動詞。取られる。盗まれる。˞アッ˩タルムヌバ　プ˞スン˩　トゥ˞ラリ˩ルンティ　ウ˞ムー˩タカー　˩ウナー　シ˞キラン˩タムヌ [˞ʔat˩taru ˩munuba pu̥˞sun˩ tu˞rari˩runti ʔu˞mu:˩taka: ˩ʔuna: ʃi̥˞kiran˩ta ˩munu](あたらもの＜可惜物(アタラモノ)＞を、他人に取られる＜盗まれる＞と思ったらばそこには置かなかったものを＜ああ残念だ＞)。

トゥ˞ラ˩リン [tu˞ra˩riŋ] 【自動】1可能動詞。取れる。取ることが出来る。˩トゥルン [˩turuŋ](取る) の未然形に、受身、可能の助動詞˩リン [˩riŋ](れる) が付いて形成された派生動詞。ク˞レー　バン˩ヌン　トゥ˞ラ˩リン [ku˞re: ban˩nun tu˞ra˩riŋ](これは私にも取れる)。2受身動詞。取られる。盗まれる。˞ジン˩バ　˩ウナー　˩スクカー　プ˞スン˩　トゥ˞ラ˩リン˞ダー [˞dʑim˩ba ˩ʔuna: ˩su̥kuka: pu̥˞sun˩ tu˞ra˩rin˞da:](お金をそこに置くと他人に盗まれる＜取られる＞よ)。

トゥ˞ランパー [tu˞rampa:] 【名】寅の方向。東北の方向。トゥ˞ランパー˩ラ　˩フキクー　カ˞ジェー　スー˩ワンティ˞ダー [tu˞rampa:˩ra ˩ɸu̥kiku: ka˞dʑe: su: ˩wanti˞da:](東北の方向＜寅の方向＞から吹いてくる台風は強いそうだぞ)。ト˞ランパーシヌヌ˩　パラー [tu˞rampa:ʃinunu˩ para:](寅の方の角(カド)の柱)。

トゥ˞ランパーカジ [tu˞rampakadʑi] 【名】東北 (寅の方角) から吹く台風 (風)。多くの場合、熱帯低気圧による台風は石垣島や宮古島を通過して北上するので、鳩間島では寅の方角から強風が吹くのである。通常のトゥ˞ランパーカジ [tu˞rampa:kadʑi](寅の方角の風) は涼風であった。トゥ˞ランパーカジ˩　ヤ˞リバ　プー˩　ピ˞キティ　パイ˩ター　パラ˞ディー [tu˞rampa:kadʑi˩ ja˞riba pu:˩ pi̥˞kiti pai˩ta: para ˞di:](寅の方角の風だから帆を張って＜引き上げて＞南端＜西表島＞へ行こうよ)。

トゥ˞ランパーヌ˩　ティ˞ラテー [tu˞rampa:nu˩ ti˞rate:] 【連】屋号。大城武雄氏宅 (昭和 30 年頃)。長男の大城公男氏は鳩間島出身で最初に沖縄県立首里高等学校長を努められた。大城公男氏の長男は鳩間島出身で最初の医師であり、琉球大学医学部附属病院に勤務された。トゥ˞ランパーヌ˩　ティ˞ラテーヤ　ウイカナケーヌ　エイキツァザーテーヌ˩　シンタナル　˞アッ˩ター [tu˞rampa:nu ˩ti˞rate:ja ʔuikanake:nu ʔeikitsadʑa:te:nu˩ ʃintana:ru ˞ʔat˩ta:](大城武雄氏宅は兼久英吉氏宅の後ろに＜ぞ＞あった)。

トゥ˞リ [tu˞ri] 【名】なぎ (凪)。無風状態。トゥ˞ルン [tu˞ruŋ](凪ぐ) の連用形から転成した名詞。ア˞サ˩ドリ [ʔa˞sa˩duri](朝凪)、˞ユー˩ドゥリ [˞ju:˩duri](夕凪)。˞ウー˩トゥリ [˞ʔu:˩turi](大凪ぎ。べた凪ぎ)。ア˞サ˩ドゥリ　˞ユー˩ドゥリ　˞スー˩カー　ニ˞シェー˩　パ˞ヤー˩ヌ　˩イダフネー　˩クイ　パ˞ラン˩カー　ナ˞ラン˩シェン [ʔa˞sa˩duri ˞ju:˩duri ˞su:˩ka: ni˞ʃe:˩ pa˞ja:˩nu ˩ʔidaɸune: ˩kui pa˞raŋ˩ka: na˞raŋ˩ʃeŋ](朝凪、夕凪すると、鳩間から南へ渡り、西表から北へ帰る耕作のためのサバニ＜イダフニ＞は漕いで行かなければならなかった)。

トゥ˞リー [tu˞ri:] 【名】鳥居。˩ウガン [˩ʔugaŋ](お願。御嶽) の入り口に立っている、神域を示す一種の門。ウ˞ガン˩ヌ　トゥ˞リー˩ナ　シ˞ビナージナ˩　ピ˞キ˩　ス˞コー˩レーン [ʔu˞gan˩nu tu˞ri:˩na: ʃi˞bina:dʑina˩ pi̥˞ki˩ su̥˞ko:˩re:ŋ](お願＜御嶽＞の鳥居に注連縄を張って＜引いて＞おかれてある)。

トゥリー˞トゥリー˩シ [turi:˞turi:˩ʃi] 【副】1ぼんやりと。しょんぼりと。˩ムニーン　イ˞ザムティ˩　トゥ˞リートゥリー˩シ　˞シェー˩ティ　˞アー˩ク　˩ムヌ　˩ミルカー　キ˞ムイ˩ツァー˞ツォー [˩muni:ŋ ʔi ˞dʑamuti˩ tu˞ri:turi:˩ʃi ˞ʃe:˩ti ˞ʔa:˩ku ˩munu ˩miruka: ki˞mui˩tsa:˞tso:](ものも言わずに、しょんぼりしているのを見ると可哀相＜不憫＞なんだよ)。2物静

かに。穏やかに。イ˩チンマー　アーリティ˥　ン˩ガマ˥サールムヌ　˩キュー˥ヤ　トゥ˩リートゥリー˥シ　˩ベー˥　モー　˥ヌーカヤー [ʔi˩imma: ʔa:riti˥ ʔŋ˩gama˥sa:ru ˥munu ˩kju:˥ja turi:˩turi:˥ʃi ˩be:˥mo: ˥nu:kaja](いつもは暴れてうるさい＜煩い＞のに今日は物静かにしょんぼりしているのは何だろうか)。

トゥ˩リアー˥シ [tu˩riʔa:˥ʃi] 【名】組み合わせ。取り合わせ。トゥ˩ジブトゥヌ˥　トゥ˩リアーシ˥ヌ　˩ワッ˥サティル　˥アイニ　アウ˩ナー [tu˩ʤibutunu˥ tu˩riʔa:ʃi˥nu ˩was˥satiru ˥ʔaini ʔau˩na:](夫婦の組み合わせが悪いので、あのように喧嘩するのだねえ)。

トゥ˩リアギ˥ルン [tu˩riʔagi˥ruŋ] 【他動】取り上げる。˩ビンキョー　サン˥カー　ム˩タビ˥ムヌ　トゥ˩リアギ˥ルン˩ダー [˩biŋkjo: saŋ˥ka: mu˩tabi˥munu tu˩riʔagi˥run˩da:](勉強しないと玩具を取り上げるよ)。

トゥ˩リ˥アグン [tu˩ri˥ʔaguŋ] 【他動】取り上げる。ム˩タビ˥ムヌ　トゥ˩リ˥アグン [mu˩tabi˥munu tu˩ri˥ʔaguŋ](玩具を取り上げる)。トゥ˩リアガ˥ヌ [tu˩riʔaga˥nu](取り上げない)。トゥ˩リ˥アギ　˥ミサカー　トゥ˩リ˥アグ　˥クトー　˥ナルン [tu˩ri˥ʔagi ˥misaka: tu˩ri˥ʔagu ˥kuto: ˥naruŋ](取り上げて良ければ取り上げることはできる)。トゥ˩リ˥アゲー　˥ミサムヌ [tu˩ri˥ʔage: ˥misamunu](取り上げれば良いのに)。˩パー˥ク　トゥ˩リ˥アギバ [˩pa:˥ku tu˩ri˥ʔagiba](早く取り上げよ)。

トゥ˩リアシゥ˥カイ [tu˩riʔasi̥˥kai] 【名】取り扱い。ク˩リヌ˥　トゥ˩リアシゥカイ˥ヤー　˩キー˥　シ˩キ˥リ [ku˩rinu˥ tu˩riʔasi̥kai˥ja: ˩ki:˥ ʃi̥˥ki˥ri](これの取り扱いは気をつけなさい)。タ˩マガラ˥スンドーレーヌ　トゥ˩リアシゥカイ˥ヤー　イッ˩ケナ˥　ム˩チ˥キサン˩ダー [ta˩magara˥sundo:re:nu tu˩riʔasi̥kai˥ja: ʔik˩kena˥ mu˩ʧi˥ki̥san˩da:](ガラス等の取り扱いは非常に難しいよ)。

トゥ˩リアシゥ˥カウン [tu˩riʔasi̥˥kauŋ] 【他動】取り扱う。扱う。˩イー˥シェー　˩スイサンガイ˥シャナール　˥トゥリアシゥカイ　˩シーブタンドゥ˥　ク˩トゥシェー˥　トゥ˩リアシゥカーン˥ツォー [˩ʔi:˥ʃe: ˩suisaŋkai˥ʃana:ru ˥turiasi̥kai ˩ʃi:butandu˥ ku̥˩tuʃe:˥ tu˩riʔasi̥ka:n˥tso:](ツノマタは水産会社で取り扱っていたが、今年は取り扱わないそうだ)。˥クナー　トゥ˩リアシゥ˥カイミサカー　˩バン˥ヌン　トゥ˩リアシゥ˥カウン [˥kuna: tu˩riʔasi̥˥kai ˥misaka: ˩ban˥nun tu˩riʔasi̥˥kauŋ](此処で取り扱って良ければ私も取り扱う)。トゥ˩リアシゥカイ˥ヤー　˥ミサムヌ [tu˩riʔasi̥kai˥ja: ˥misamunu](取り扱えば良いのに)。˥クナー　トゥ˩リアシゥ˥カウンカヤー [˥kuna: tu˩riʔasi̥˥kauŋkaja:](此処で取り扱うだろうかなあ)。トゥ˩リアシゥ˥カウ　˥ムヌ [tu˩riʔasi̥˥kau ˥munu](取り扱うもの)。トゥ˩リアシゥカイ˥ヤー　˥ミサムヌ [tu˩riʔasi̥kai˥ja: ˥misamunu](取り扱えば良いのに)。トゥ˩リアシゥ˥カイバ [tu˩riʔasi̥˥kaiba](取り扱えよ)。

トゥ˩リアツァミ˥ルン [tu˩riʔatsami˥ruŋ] 【他動】取り集める。ヤ˩ラビ˥ヌ　˩ポッツァーシ˥　シケー　ム˩タビ˥ムヌ　トゥ˩リアツァミ˥ルンティ　˩ベー [ja˩rabi˥nu ˩pottsa:ʃi˥ ʃi̥ke: mu˩tabi˥munu tu˩riʔatsami˥runti ˩be:](子供が散らかしてある玩具を取り集めようとしている)。

トゥ˩リアツァ˥ムン [tu˩riʔatsa˥muŋ] 【他動】取り集める。˥ドゥーシ　トゥ˩リアツァ˥ムンティ　˩スンドゥ˥　トゥ˩リアツァマラ˥ヌ [˥du:ʃi tu˩riatsa˥munti ˩sundu˥ tu˩riatsamara˥nu](自分で取り集めようとするが、取り集められない)。

トゥ˩リ˥イリ [tu˩ri˥ʔiri] 【名】取り入れ。収穫。˩ムン˥ヌ　トゥ˩リ˥イレー　シ˩マ˥シェーン [˩mun˥nu tu˩ri˥ʔire: ʃi˩ma˥ʃe:ŋ](麦の収穫＜取り入れ＞は済ませた)。

トゥ˩リイリ˥ジブン [tu˩riʔiri˥ʤibuŋ] 【名】収穫時期。取り入れ時期。˩アー˥ヌ　トゥ˩リイリジブン˥マー　イ˩チ˥ヤ [˩ʔa:˥nu tu˩riʔiriʤibum˥ma: ʔi˩ʧi˥ja](粟の収穫時期は何時か)。

トゥ˩リイリ˥ルン [tu˩riʔiri˥ruŋ] 【他動】取り入れる。˥ヌーンクイン　˩ソームノー˥　トゥ˩リイリ˥ルンティ　˩スンドゥ˥　トゥ˩リイリラ˥ヌ [˥nu:ŋkuin ˩so:muno:˥ tu˩riʔiri˥runti ˩sundu˥ tu˩riʔirirara˥nu](何もかも良いことは取り入れようとするが、取り入れられない)。

˥トゥリウクナイ [˥turiʔukunai] 【名】虐待。「執り行い」の義か。ム˩カ˥シェー　˥タンコー　˩ピンギ˥ムノー　˩ズン˥サン　カ˩サマリティ˥　タンコー　˩サンガリ˥　シ˩タ˥タカ　˥トゥリウクナイ　シ˩ラリタ˥ティ˩ダー [mu˩ka˥ʃe: ˥taŋko: ˩piŋgi˥muno: ˩ʤun˥saŋ kḁ˩samariti˥ taŋko: ˩saŋgari˥ ʃi̥˩ta˥taka ˥turiʔukunai ʃi˩rarita˥ti˩da:](昔は炭坑逃亡者は巡査に捕まれて炭坑へ引張られて行き、したたかに虐待を受けたそうだよ)。

˥トゥリウサイ [˥turiʔusai] 【名】差し押さえ。「取り押さえ」の義。カ˩レー˥　ウカ　パ˩ライユーサ

ン˥タ ˩ベー˥ティ ˩ウン˥ネヌ ˥ザイサンマー ˥トゥリウサイ シ˩ラリ ナー˥ヌ [ka˩re:˥ ʔuka pa˩raiju:san˥ta ˩be:˥ti ˩ʔun˥nenu ˥ʤaisamma: ˥turiusai ʃi˩rari na:˥nu](彼は負債を支払い出来なかったので、彼の家の財産は差し押さえられてしまった)。

トゥ˩リウタ˥シ [tu˩riʔuta˥ʃi] 【名】取り落とし。見落とし。取り残すこと。知らずにもらすこと。うっかりもらすこと。トゥ˩リウタシ˥ヌ ˩ナーン˥ユー ˥ユー シ˩ラ˥ビティ ˥ムティパリバ [tu˩riʔutaʃi˥nu˩na:ŋ˥ju: ˥ju: ʃi˩ra˥biti ˥mutipariba](見落としがないか、良く調べて持って行きなさい)。

トゥ˩リウタ˥スン [tu˩riʔuta˥suŋ] 【他動】取り落とす。失う。˩ニーブル スー˥カー グ˩マー˥ ムノー トゥ˩リウタ˥スンダ トゥ˩リウタサン˥ヨーニ ˩キー˥ シ˩キ˥リ [˩ni:buru su:˥ka: gu˩ma:˥ muno: tu˩riʔuta˥sunda tu˩riutasaŋ˥jo:ni ˩ki:˥ ʃi̥˩ki˥ri](居眠りすると小さいものは取り落とすから、取り落とさないように気をつけなさい)。

トゥ˩リカー˥スン [tu˩rika:˥suŋ] 【他動】取り交わす。交換する。標準語から転訛したもの。˥ザイサンヌ ˥クトゥシ ヤ˩クスク˥ トゥ˩リカー˥スンティ ˩スンドゥ˥ トゥ˩リカーサラン˥バン [˥ʤaisannu ˥kṵtuʃi ja˩kusṵku˥ tu˩rika:˥sunti ˩sundu˥ tu˩rika:sara˥nu](財産のことで約束を取り交わそうとするが、取り交わされない)。

トゥ˩リカイ˥スン [tu˩rikai˥suŋ] 【他動】取り返す。取り戻す。トゥ˩リッカイ˥スン [tu˩rikkai˥suŋ](取り返す) ともいう。˥スン ˩シェー˥ ブン トゥ˩リカイ˥スンティ ˩ベー˥ンドゥ トゥ˩リカイサラン˥バン [˥suŋ ˩ʃe:˥ bun tu˩rikai˥sunti ˩be:˥ndu tu˩rikaisaram˥baŋ](損をしたぶん取り返そうとしているが、取り返されないわい)。トゥ˩リカイシ˥ プサカー トゥ˩リカイ˥シェー ˥ミサムヌ [tu˩rikaiʃi˥ pṵsaka: tu˩rikai˥ʃe: ˥misamunu](取り返したければ、取り返せば良いのに)。トゥ˩リカイ˥ス ˥ムノー ˩パー˥ク トゥ˩リカイ˥シバ [tu˩rikai˥su ˥muno: ˩pa:˥ku tu˩rikai˥ʃiba](取り返すものは早く取り返しなさいよ)。

トゥ˩リカイ˥ルン [tu˩rikai˥ruŋ] 【他動】取り替える。トゥ˩リッカイ˥ルン [tu˩rikkai˥ruŋ](取り替える) ともいう。ク˩リトゥ˥ トゥ˩リカイ˥ラ˩ディー [ku˩ritu˥ tu˩rikai˥ra˩di:](これと取り替えようよ)。アー˩イ˥ トゥ˩リカイラ˥ヌ [ʔa:˩ji˥ tu˩rikaira˥nu](否だ、取り替えない)。トゥ˩リ˥カイ ˥ミサカー トゥ˩リカイ˥ルンティン ウ˩ムータン˥ドゥ トゥ˩リカイ˥ル ム˩ヌ˥バ シ˩ティ ナーン˥ティバーヤ [tu˩ri˥kai ˥misaka: tu˩rikai˥runtiŋ ʔu˩mu:tan˥du tu˩rikai˥ru mu˩nu˥ba ʃi̥˩ti na:n˥tiba:ja](取り替えてよければ取り替えようとも思ったが、取り替える物を無くしてしまったそうだよ)。トゥ˩リカイ˥ヤー ˥ミサムヌ [tu˩rikai˥ja: ˥misamunu](取り替えれば良いのに)。˩パー˥ク トゥ˩リカイ˥リ [˩pa:˥ku tu˩rikai˥ri](早く取り替えなさい)。

トゥ˩リ˥カウン [tu˩ri˥kauŋ] 【他動】取り替える。交換する。ッ˩ふ˥ムノー ˩ミームヌトゥ˥ トゥ˩リ˥カウンティ ス˩クタヌ˥ マ˩ナ˥マー トゥ˩リカーン˥ツォー [f˥fu˥muno: ˩mi:munutu˥ tu˩ri˥kaunti sṵ˩kutanu˥ ma˩na˥ma: tu˩rika:n˥tso:](古いものは新しいものと取り替えると聞いたが、今は取り替えないそうだ)。トゥ˩リ˥カイ ˥ミサカー トゥ˩リ˥カウ ˥クトー ˥ナルン [tu˩ri˥kai ˥misaka: tu˩ri˥kau ˥kṵto: ˥naruŋ](取り替えて良ければ取り替えることは出来る)。トゥ˩リカイ˥ヤー ˥ミサムヌ [tu˩rikai˥ja: ˥misamunu](取り替えれば良いのに)。˥ドゥーシ トゥ˩リ˥カイバ [˥du:ʃi tu˩ri˥kaiba](自分で取り替えなさいよ)。

トゥ˩リカカ˥ルン [tu˩rikaka˥ruŋ] 【自動】取り掛かる。着手する。しはじめる。ア˩ツァー˥ラ シ˩グトゥ˥ トゥ˩リカカ˥ルンティ ス˩コーリ ベー [ʔa˩tsa:˥ra ʃi˩gutu˥ tu˩rikaka˥runti sṵ˩ko:ri be:](明日から仕事に取り掛かろうと準備している)。

トゥ˩リカク˥ムン [tu˩rikaku˥muŋ] 【他動】取り囲む。周りを囲む。「トゥ˩リ」(取り) は強意の接頭語。˥ティー シ˩ナイティ マンナカヌ˥ プ˩スバ˥ トゥ˩リカク˥ムンティ ˩スンドゥ˥ トゥ˩リカクマラ˥ヌ [˥ti: ʃi˩naiti mannakanu˥ pṵ˩suba˥ tu˩rikaku˥munti ˩sundu˥ tu˩rikakumara˥nu](手を繋いで真中の人を取り囲もうとするが、取り囲まれない)。トゥ˩リカク˥ミ ˥ミサカー ク˩レー˥ トゥ˩リカク˥ム ˥クトー ˥ナルン [tu˩rikaku˥mi ˥misaka: ku˩re:˥ tu˩rikaku˥mu ˥kṵto: ˥naruŋ](取り囲んで良ければ、これは取り囲むことはできる)。トゥ˩リカク˥ミバ [tu˩rikaku˥miba](取り囲めよ)。

トゥ˩リカサ˥ムン [tu˩rikasa˥muŋ] 【他動】 1取りつかむ。しっかりと掴む。「トゥ˩リ」(取り) は強意の接頭語。ア˩チ˥ナビ ウ˩トゥンティ˥ トゥ˩リカサ˥ムンティ ˩スンドゥ˥ イ˩ツァー˥ヌ トゥ˩リカサ˥ミ ナ˩ラ˥ヌ [ʔa˩ʧi˥nabi ʔu˩tunti˥ tu˩rikasa˥munti ˩sundu˥ ʔi˩tsa:˥nu tu˩rikasa˥mi na˩ra˥nu](熱い鍋を竈から移そうとして、取りつかもうとするが、熱く

てしっかり掴むことができない)。2捕縛する。˩ヌシ˥トゥル　トゥ˩リカサ˥ムンティ　˩アー˥キ　˥ドゥー　ヤ˩マ˥シ　˥シケー [˩nuʃi˥turu tu˩rikasa˥munti ˩ʔa:˥ki ˥du: ja˩ma˥ʃi ˥ʃi̥ke:](盗人を捕まえようとして怪我して＜体を病まして＞ある)。

トゥ˩リカザ˥リ [tu˩rikaʤa˥ri] 【名】供物を供えて(接続形)。物を取り付けて美しく立派にして。歌謡語。動詞トゥ˩リカザ˥ルン [tu˩rikaʤa˥ruŋ](供物を供える)の接続形。/˩キー˥ヌナル　パ˩チパチバ˥　トゥ˩リカザ˥リ～[˩ki ー˥nunaru pḁ˩ʧipatʃiba˥ tu˩rikaʤa˥ri～](木の実の初生りを取り供えて～)「念仏歌の＜シザヌクイ＞(兄の声＜歌＞)」。

トゥ˩リ˥カジ [tu˩ri˥kaʤi] 【名】取り舵。船首を左に向ける時の舵の使い方。本来の鳩間方言では、オーラー [˩ʔo:raa:](風上側。左)という。ウ˩ム˥カジ [ʔu˩mu˥kaʤi](面舵。船首を右に向けること)の対義語。左風の場合、ウムカジは、鳩間方言では、ッ˩ソーマー [sso:ma:](風下。右)をいう。標準語からの借用語の転訛したもの。日露戦争で海軍に従軍した兵士によってもたらされたものという。発動機船導入によるカツオ漁業の発展に伴って一般化したことばである。

トゥ˩リキミ˥ルン [tu˩rikimi˥ruŋ] 【他動】取り決める。相談して決定する。契約する。˩イー˥シ　˥トゥリヌ　ピ˩ニチ˥　トゥ˩リキミ˥ルンティ　˩スンドゥ˥　トゥ˩リキミラ˥ヌ [˩ʔi:˥ʃi ˥turinu pi˩nitʃi˥ tu˩rikimi ˥runti ˩sundu˥ tu˩rikimirara˥nu](ツノマタ採種の日を取り決めようとするが、取り決められない)。

トゥ˩リ˥クムン [tu˩ri˥kumuŋ] 【他動】取り組む。取り掛かる。着手する。ア˩ツァー˥ラ　ク˩ヌ˥　シ˩グトゥ˥ナ　トゥ˩リ˥クムンティ　ス˩コーリ　ベー [ʔa˩tsa: ˥ra ku˩nu˥ ʃi˩gutu˥na tu˩ri˥kumunti su̥ko:ri be:](明日からこの仕事に取り掛かろうと準備している)。トゥ˩リクマ˥ヌ [tu˩rikuma˥nu](取り組まない)。トゥ˩リ˥クミ　˥ミサカー　トゥ˩リ˥クム　˥クトー　˥ナルン [tu˩ri˥kumi ˥misaka: tu˩ri˥kumu ˥ku̥to: ˥naruŋ](取り組んで良ければ取り組むことは出来る)。

トゥ˩リサギ˥ルン [tu˩risagi˥ruŋ] 【他動】取り下げる。˩ニンガイ˥ヌ　ウ˩ワール˥カー　マ˩チ˥シケール　˥グシパナー　トゥ˩リサギ˥ルン [˩niŋgai˥nu ʔu˩wa:ru˥ka: ma˩ʧi˥ʃi̥ke:ru ˥guʃipana: tu˩risagi˥ruŋ](神司の祈願が終わると、供えてある供物の神酒・花米は取り下げる)。

トゥ˩リ˥サグン [tu˩ri˥saguŋ] 【他動】取り下げる。ク˩ヌ　ギンヌ˥　バー　ニ˩ガイ˥ヤー　トゥ˩リ˥サグン [ku˩nu ginnu˥ ba: ni˩gai˥ja: tu˩ri˥saguŋ](この件についての私の願いは取り下げます)。

トゥ˩リ˥シギ [tu˩ri˥ʃigi] 【名】取り次ぎ。石垣方言の˩トゥリゥチゥギゥ [˩turïtsïgï](取り次ぎ)が借用され、転訛したもの。日常生活では「取り次ぎ」をする場面はほとんどない。˩タール˥　トゥ˩リ˥シギ　˩シー　ッふォーッ˥ター [˩ta:ru˥ tu˩ri˥ʃigi ˩ʃi:ffo:t˥ ta:](誰が取り継をして下さったのか)。

トゥ˩リシキ˥ルン [tu˩riʃi̥ki˥ruŋ] 【他動】取り付ける。据(ス)え付ける。器具や機器類を据え付ける。設置する。˥イダフニナー　˩モー˥ター　トゥ˩リシキ˥ルンティ　ア˩ズヌ˥　マ˩ナ˥マー　トゥ˩リシキララ˥ヌ [˥ʔidaɸunina: ˩mo:˥ta: tu˩riʃi̥ki˥runti ʔa˩ʤunu˥ ma˩na ˥ma: tu˩riʃi̥kirara˥nu](板舟＜サバニ＞にモーター＜ガソリンエンジン。発動機＞を据え付けるというが、今はす据えつけられない)。トゥ˩リシキ˥ル　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [tu˩riʃi̥ki˥ru ˥ku̥to: na˩ra˥nu](取り付けることは出来ない)。トゥ˩リシキ˥レー　˥ミサムヌ [tu˩riʃi̥ki˥re: ˥misamunu](取り付ければいいのに)。ヤー˩ディン˥　トゥ˩リシキ˥リ [ja:˩din˥ tu˩riʃi̥ki ˥ri](必ず取り付けなさい)。

˥トゥリシズミ [˥turiʃiʤumi] 【名】鎮(シズ)めること。取り押さえること。˩ウッ˥ツァー　サ˩キ˥　ヌメーラ　˥トゥリシズミ　ナ˩ラン˥　スコー　˩アイ˥ス [˩ʔut˥tsa: sḁ˩ki˥ nume:ra ˥turiʃiʤumi na˩ran˥ su̥ko: ˩ʔai˥su](彼らは酒を飲むと鎮める＜取り押さえる＞ことが出来ないほど喧嘩する)。

˥トゥリ　シ˩ティルン [˥turi ʃi̥˩tiruŋ] 【連】取って捨てる。取り除く。ア˩ラム˥トー　˥トゥリ　シ˩ティルン [ʔa˩ramu˥to: ˥turi ʃi̥˩tiruŋ](あらもと＜玄米の中に混じっている籾(モミ)。「粡(アラモト)」『倭名類聚鈔』＞は取って捨てる)。˥ッサリムノー　プ˩サイティ˥　トゥリ　シ˩ティリ [˥ssarimuno: pu̥˩saiti˥ turi ʃi̥˩tiri](腐ったものは拾って取り除きなさい)。

˥トゥリ　シ˩トゥン [˥turi ʃi̥˩tuŋ] 【連】取って捨てる。取り除く。「取り捨つ＜下二段＞」の転訛したもの。フ˩トゥッチ˥ムヌ　プ˩サイ˥　トゥリ　シ˩トゥンティ　ベー [ɸu̥˩tuttʃi˥munu pu̥˩sai˥ turi ʃi̥˩tunti be:](腐れたもの＜腐食したもの＞を拾って取り捨てよう＜取り除こう＞としている)。˥ドゥーシ　˥トゥリ　シ˩ティ˥　ミサカー　˥トゥリ　シ˩トゥ˥クトー　˥ナルン [˥du:ʃi ˥turi ʃi̥˩ti˥ misaka: ˥turi ʃi̥˩tu ˥ku̥to: ˥naruŋ](自分で取って捨ててよければ、取って捨てることはできる)。

トゥ˩リシナー˥スン [tu˩riʃina:˥suŋ] 【他動】取り揃

える。過不足なく揃える。「トゥリ」(取り) は強意の接頭語。シ˞ナー˜スン [ʃi˞naː˜suŋ](揃える) には、「組み合わせる」、「調合する」、「対になるように揃える」の意味がある。˜ニービキヨイヌ　シ˞ナ˜ヌーンクイン　トゥ˞リシナー˜スンティ　˞ベー˜ダー [˜niːbikijoinu ʃi˞na˜ nuːŋkuin tu˞riʃinaː˜sunti ˞beː˜daː](結婚祝いの品を何もかも取り揃えようとしているのだよ)。

˜トゥリシマリ [˜turiʃimari] 【名】取り締まり。イ˞クサユー˜ヌ　˜アトー　˜トゥリシマリヌ　˞ヨー˜ティヤ˞ミフニヌ　タイ˜パンラ　˜ユー　˞クー˜タン [ʔi˞kusajuː˜nu ˜ʔatoː ˜turiʃimarinu ˞joː˜ti ja˞miɸuninu tai ˜panra ˜juː ˞kuː˜taŋ](終戦直後 < 戦世の後 > は取締りが弱いので闇貿易船が台湾からよく来ていた)。

トゥ˞リシマ˜ルン [tu˞riʃima˜ruŋ] 【他動】取り締まる。ヤ˞マカンスル˜ヌ　トゥ˞リシマ˜ルンティス˞クタンドゥ˜　マ˞ナ˜マー　トゥ˞リシマラン˜ツォー [ja˞makansuru˜nu tu˞riʃima˜runti sʉ˞kutandu˜ ma˞na˜maː tu˞riʃimaran˜tsoː](山看守が取り締まると聞いたが、今は取り締まらないそうだ)。ト˞リシマリ˜　プサタンティン　トゥ˞リシマ˜ル　プ˞スヌ˜　ブ˞ラーヌ [tu˞riʃimari˜ pʉsatantin tu˞riʃima˜ru pʉ ˞sunu˜ bu˞raːnu](取り締まりたくても取り締まる人がいない)。トゥ˞リシマ˜レー　˜ミサムヌ [tu˞riʃima ˜reː misamunu](取り締まれば良いのに)。トゥ˞リシマ˜リ [tu˞riʃima˜ri](取り締まれ)。

˜トゥリシミ [˜turiʃimi] 【名】取り締まり。不正や違反のないように管理・監督すること。チ˞カ˜グローヤ˞マカンスル˜ヌ　˜トゥリシミヌ　˞スー˜ワンダユ˞リー˜ヌ　˞ナーン˜カー　ヤ˞マ˜ヌ　˞キー˜ヤ　キ˞サラ˜ヌ [tʃi˞ka˜guroː ja˞makansuru˜nu ˜turiʃiminu ˞suː˜wanda ju˞riː˜nu ˞naːŋ˜kaː ja˞ma˜nu ˞kiː˜ja kʉ˞sara ˜nu](近頃は営林署の監督官 < 山看守 > の取締りが厳しいから、許可がない山の木は伐採できない)。

˜トゥリシラビ [˜turiʃirabi] 【名】取調べ。調べ。調査。検査。˞ヌー˜バ　˞シール˜　トゥリシラビ　シ˞ラリター [˞nuː˜ba ˞ʃiːru˜ turiʃirabi ʃi˞rarita:](何をして取調べをされたのか)。イ˞クサ˜ユーナ　マ˞ラリ˜ヤシ　˞マーラシェー˜　プ˞スヌ˜　トゥリシラビヌ　˞アッ˜タン [ʔi˞kusa˜juːna ma˞rari˜jaʃi ˞maːraʃeː˜ pʉ˞sunu˜ turiʃirabinu ˞ʔat˜taŋ](戦争中 < 戦世に >、マラリアで亡くなった人の調査があった)。

トゥ˞リシラビ˜ルン [tu˞riʃirabi˜ruŋ] 【他動】取り調べる。検査する。調査する。ヤ˞マカンスル˜ヌ　˞パイタ˜ヌ　ヤ˞マ˜ヌ　˜キー　トゥ˞リシラビ˜ルンティ　パ˞トゥ˜マーン　˞オー˜ルンツォー [ja˞makasuru˜nu ˞paita˜nu ja˞ma˜nu ˜kiː tu˞riʃirabi˜runti pʉ˞tu˜maːŋ ˞ʔoː˜runtsoː](山看守 < 営林署の監督官 > が西表島の山林を調べるために鳩間島にも来られるそうだ)。キ˞ビッ˜サ　トゥ˞リシラビラン˜シェン [ki˞bis˜sa tu˞riʃirabiraŋ˜ʃeŋ](厳しく取り調べなかった)。

トゥ˞リシラ˜ブン [tu˞riʃira˜buŋ] 【他動】取り調べる。˞ジン˜マー　˞タール　トゥッ˜タユー　トゥ˞リシラビ˜　プサンドゥ　˞キュー˜ヤ　トゥ˞リシラバ˜ヌ < トゥ˞リシラビラ˜ヌ >[˞ʤim˜maː ˞taːru tut ˜taju: tu˞riʃirabi˜pʉsandu ˞kjuː˜ja tu˞riʃiraba˜nu < tu ˞riʃirabira˜nu >](お金は誰が取ったのか、取り調べたいが、今日は取り調べない)。トゥ˞リシラ˜ブンティ　˜ウムーカ　トゥ˞リシラ˜ブ　˜クトー　˜ナルン [tu˞riʃira˜bunti ˜ʔumuːka tu˞riʃira˜bu ˜kʉtoː˜ naruŋ](取り調べようと思えば取り調べることは出来る)。

トゥ˞リスー˜ブ [tu˞risuː˜bu] 【名】取り競争。競争して取ること。取り合い。「取り勝負」の転訛したもの。カ˞ツヌ˜　ス˞ブ˜ロー　˜キシ　ウ˞タ˜ソーリバ　ウ˞レー˜　トゥ˞リスー˜ブ　˞ヤッタ˜ダー [kʉ˞ tsunu˜ su˞bu˜roː ˜kʉʃi ʔu˞ta˜soːriba ʔu˞reː˜ tu˞risuː˜bu ˞jatta˜daː](カツオの頭は切って落とされるので、それは取り合いっこ < 取り競争 > だったよ)。

˜トゥリスクライ [˜turisʉkurai] 【名】取り繕い。繕うこと。野菜など枯葉を除去して調理の準備をすること。田畑を整地すること。˞キン˜ヌ　˜ヤレーン　˜トンマー　˜トゥリスクライ　˞シェー˜ティ　キ˞シ˜バ [˞kin˜nu ˜jareːn ˜tommaː ˜turisʉkurai ˞ʃeː˜ti kʉ˞ ʃi˜ba](着物の破れた所は繕って着なさいよ)。

˜トゥリスクン [˜turisʉkuŋ] 【他動】後日の用意に取っておく。保管する。ク˞ヌ˜　イ˞ガガラソー˜フ˞ユヌ˜　カ˞ティ˜ムヌティ　˜トゥリスクンティ　ウ˞ムー˜ヌ　˞ヌー˜シカヤー [ku˞nu˜ ʔi˞gagarasoː˜ ɸu˞junu˜ kʉ˞ti˜munuti ˜turisʉkunti ʔu˞muː˜nu ˞nuː˜ ʃikajaː](このイカの塩漬けは冬のおかず < 御数。副食物 > として保管しておこうと思うが、どう < 如何 > だろうか)。

トゥ˞リダ˜カ [tu˞rida˜ka] 【名】取り高。手取り高。俸給または秩禄 < ちつろく > の額。カ˞ツシンヌ　モーキ˜ヌ　トゥ˞リダ˜カー　˞ギュー˜サ　˞アッ˜ター [kʉ˞tsuʃinnu moːki˜nu tu˞rida˜kaː ˞gjuː˜sa ˞ʔat˜taː](カツオ船の儲けの取り高 < 手取り金額 > はいくらあったか)。

トゥ˞リタティ˜ルン [tu˞ritati˜ruŋ] 【他動】取り立てる。催促して徴収する。ム˞カ˜シェー ˞ニングゾー˜ノー トゥ˞リタティ˜ルンティ ヤ˞クニン˜ヌ ˞オー˜リ ムー˞ル˜ トゥ˞リタティラ˜リティ ˞ドゥー˜ヤ ˞ウン˜ドゥ ン˞コーッ˜タツォー [mu˞ka˜ʃe: ˞niŋguʤo:˜no: tu˞ritati˜runti ja˞kunin˜nu ˞ʔo:˜ri mu:˞ru˜ tu˞ritatira˜riti ˞du:˜ja ˞ʔun˜du ʔŋ˞ko:t˜tatso:](昔は年貢上納を取り立てようと役人が来られて、みんな取り立てられて、自分達は芋を食べられた＜召し上がった＞そうだ)。トゥ˞リ˜タティミサン [tu˞ri˜tạ̥ti ˜misaŋ](取り立ててよい)。トゥ˞リタティ˜ル ˜クトゥ [tu˞rita˜tiru ˜kṵtu](取り立てること)。トゥ˞リタティ˜レーー ˜ミサムヌ [tu˞ritati˜re: ˜misamunu](取り立てればよいのに)。ク˞トゥシェー˜ ヤー˞ディン˜ トゥ˞リタティ˜リ [kṵ˞tuʃe:˜ ja:˞din˜ tu˞ritati˜ri](今年は必ず取り立てよ)。

トゥ˞リチガイ˜ルン [tu˞ritʃigai˜ruŋ] 【他動】取り違える。誤って他の物を取る。誤解する。プ˞スヌ˜ミーナーテー ˞ドゥー˜ヌ ア˞シツァ˜トゥ プ˞スヌ˜ ア˞シ˜ツァ トゥ˞リチガイ˜ルン [pṵ˞sunu˜mi:-na:te: ˞du:˜nu ʔa˞ʃitsa˜tu pṵ˞sunu˜ ʔa˞ʃi˜tsa tu˞ritʃigai˜ruŋ](大勢の人の中では自分の下駄と他人の下駄を取り違える)。

トゥ˞リッ˜クムン [tu˞rik˜kumuŋ] 【他動】取り込む。取って自分のものとする。˞モー˜ケー ˜ドゥーシ トゥ˞リッ˜クミティ プ˞スンナー˜ネー トゥ˞リックマ˜ヌティ ア˞ジ アー˜ク [˞mo:˜ke: ˜du:ʃi tu˞rik˜kumiti pṵ˞sunna:˜ne: tu˞rikkuma˜nuti ʔa˞ʤi ʔa:˜ku](儲けは自分で取り込んで、他人には取り込まないと言っている＜あるく＞)。ト˞リッ˜クムンティ ˜ウムーカー トゥ˞リッ˜クメー ˜ミサムヌ [tu˞rik˜kumunti ˜ʔumu:ka: tu˞rik˜kume: ˜misamunu](取り込むと思うなら取り込めばいいのに)。トゥ˞リッ˜クム ˜ムノー ˞ナー˜ヌ [tu˞rik˜kumu ˜muno: ˞na:˜nu](取り込むものはない)。˞パー˜ク トゥ˞リッ˜クミバ [˞pa:˜ku tu˞rik˜kumiba](早く取り込めよ)。

トゥ˞リドゥク˜ル [tu˞riduku˜ru] 【名】とりえ (取り柄)。長所。「なにがしを取りどころにおぼしける御心は～。」『源氏物語＜東屋＞』の転訛したもの。˞ピー˜チンツァン トゥ˞リドゥクル˜ヌ ˞ナーン˜ プ˞ソー˜ ブ˞ラーヌ [˞pi:˜ʧintsan tu˞ridukuru˜nu ˞na:m˜ pṵ˞so:˜ bu˞ra:nu](一つでも取り柄のない人はいない)。

トゥ˞リナ˜スン [tu˞rina˜suŋ] 【他動】仲裁する。仲直りさせる。なだめて機嫌をよくさせる。˞ウッ˜ツァー フ˞ター˜ル˜ トゥ˞リナ˜スンティ ˞スンドゥ˜ ムッ˞トゥ˜ トゥ˞リナサラ˜ヌ [˞ʔut˜tsa: ɸṵ˞ta:ru˜ tu˞rina˜sunti ˞sundu˜ mut˞tu˜ tu˞rinasara˜nu](彼ら二人の仲を仲裁しようとするが、一向に仲裁できない)。

トゥ˞リヌカ˜スン [tu˞rinuka˜suŋ] 【他動】取り残す。放置する。˞ウイプス˜バ ˞タン˜ガ シ˞マ˜ナ トゥ˞リヌカ˜スンティ シ˞タンティン˜ トゥ˞リヌカ˜ス ˜クトン ナ˞ラ˜ンダ ˞ンー˜バティ ア˞ゾー˜ル ˜ムヌバ シー˞ティ˜ ウ˞キ˜ナー シゥ˞カシ ˞クー˜タ [˞ʔuipṵsu˜ba ˞taŋ˜ga ʃi˞ma˜na tu˞rinuka˜sunti ʃị˞tantin˜ tu˞rinuka˜su ˜kṵtun na˞ran˜da ˞ʔm:˜bati ʔa˞ʤo:˜ru ˜munuba ʃi:˞ti˜ ʔu˞ki˜na: sị˞kaʃi ku:˜ta](老人を一人島に取り残すとしても、取り残すこともできないから、嫌だと言われるのを無理に＜強いて＞沖縄へお連れしてきた)。

トゥ˞リノー˜スン [tu˞rino:˜suŋ] 【他動】見直す。再検討する。再吟味する。改める。もとに戻す。「取り直す」の義。トゥ˞リノー˜シ シ˞キノーシ [tu˞rino:˜ʃi ʃị˞kino:ʃi](見直し、再検討して＜取り直し、聞き直しして＞) のように重言として用いられることがある。ドー˞ディン˜ トゥ˞リノー˜シ シ˞キノーシ シー˜ シゥ˞カイ˜ ッ˞ふォー˜リ [do:˞din˜ tu˞rino:˜ʃi ʃị˞kino:ʃi ʃi:˜ sị˞kai˜ f˞fo:˜ri](どうぞ見直し、再検討して使ってください)。˜カイ ˜ナレーラ トゥ˞リノー˜スンティ シ˞タンティン˜ トゥ˞リノーサラ˜ヌ [˜kai ˜nare:ra tu˞rino:˜sunti ʃị˞tantin˜ tu˞rino:sara˜nu](こうなったら、見直そうとしても見直されない)。トゥ˞リノー˜ス ˜クトー ナ˞ラ˜ヌ [tu˞rino:˜su ˜kṵto: na˞ra˜nu](見直すことは出来ない)。トゥ˞リノー˜シェー ˜ミサムヌ [tu˞rino:˜ʃe: ˜misamunu](見直せばいいのに)。トゥ˞リノー˜シ [tu˞rino:˜ʃi](見直せ)。

˜トゥリパカライ [˜turipạ̥karai] 【名】取り計らい。巧く処理すること。˞ワー˜ アズニ ˜トゥリパカライヤー ナ˞ラ˜ヌ [˞wa:˜ ʔaʤuni ˜turipạ̥karaija: na˞ra˜nu](君が言うようには取り計らい＜巧く処理すること＞はできない)。

トゥ˞リパカ˜ラウン [tu˞ripaka˜rauŋ] 【他動】取り計らう。巧く処理する。石垣方言からの借用語が転訛したものか。ウ˞ヌ˜ クトー ˜ミサール ˜ヨーニ トゥ˞リパカ˜ライ ッ˞ふォー˜リ [ʔu˞nu˜ kṵto: ˜misa:ru ˜jo:ni tu˞ripạ̥ka˜rai f˞fo:˜ri](そのことは宜しく＜良いように＞取り計らってください)。トゥ˞リパカ˜ラウンティ シ˞タンティン˜ ドゥー ˞カッ

ティ˺シェー　トゥ˞リパカ˺ラウ　˺クトー　ナ˞ラ˺ヌ [tu˞ripḁka˺raunti ʃi̥˞tantin˺ du: ˞katti˺ʃe: tu˞ripḁka˺rau ˺ku̥to: na˞ra˺nu](取り計らうとは言っても、自分勝手に取り計らうことは出来ない)。˞バン˺マー　トゥ˞リパカラーラ˺ヌ [˞bam˺ma: tu˞ripḁkara:ra˺nu](私には取り計らえない)。トゥ˞リパカライ˺ヤー　˺ミサムヌ [tu˞ripḁkarai˺ja: ˺misamunu](取り計らえばよいのに)。˞ワー˺シ　トゥ˞リパカ˺ライバ [˞wa:˺ʃi tu˞ripḁka˺raiba](君で取り計らえよ)。

トゥ˞リパン˺タ [tu˞ripan˺ta] 【名】農繁期。「取り繁多」の転訛したもの。収穫の繁忙期。収穫時期は各農家の家内労働力のみで行われ、ユイマールはあまり見られなかった。トゥ˞リパンタ˺ヌ　イ˞スガ˺サー <˞パンタ˺サー>　˺ミーラ　˞ピー˺ヌ　ン˞ジ˺シタ [tu˞ripanta˺nu ʔi˞suga˺sa:<˞panta˺sa:> ˺mi:ra ˞pi:˺nu ʔn˞ʤi˺ʃi̥ta](収穫期の忙しさは、目から火が出たものだった)。

トゥ˞リパンツァ˺スン [tu˞ripantsa˺suŋ] 【他動】取り外す。ア˞カルン˺　プ˞スマン˺　トゥ˞リパンツァ˺スンティ　˞ベー˺ンドゥ　トゥ˞リパンツァサラ˺ヌ [ʔa˞karum˺ pu̥˞suman˺ tu˞ripantsa˺sunti ˞be:˺ndu tu˞ripantsasara˺nu](障子も襖も取り外そうとしているが、取り外されない)。ク˞レー˺　トゥ˞リパンツァ˺シ　˺ミサカー　トゥ˞リパンツァスン˺ドゥ　トゥ˞リパンツァ˺ス　プ˞スヌ˺　ブ˞ラーヌ [ku˞re:˺ tu˞ripantsa˺ʃi ˺misaka: tu˞ripantsasun˺du tu˞ripantsa˺su pu̥˞sunu˺ bu˞ra:nu](これは取り外してよければ取り外すが、取り外す人がいない)。トゥ˞リパンツァ˺シェー　˺ミサムヌ [tu˞ripantsa˺ʃe: ˺misamunu](取り外せばよいのに)。ヤー˞デン˺　トゥ˞リパンツァ˺シ [ja:˞din˺ tu˞ripantsa˺ʃi](必ず取り外せ)。

トゥ˞リピンガ˺スン [tu˞ripiŋga˺suŋ] 【他動】取り逃がす。ク˞ル˺スメー　˞ホー˺シェータンドゥ　トゥ˞リピンガ˺シ　˞ナーン˺バン [ku˞ru˺sume: ˞ho: ˺ʃe:tandu tu˞ripiŋga˺ʃi ˞na:m˺baŋ](コブシメ <もんごういか。紋甲烏賊> を釣ったが取り逃がしてしまった)。˺アイニ　カ˞サム˺カー　トゥ˞リピンガ˺スン˞ダー˺　トゥ˞リピンガサン˺ヨーニ　˞ミン˺タマ　˞ピッツァ˺シ [˺ʔaini ka˞samu˺ka: tu˞ripiŋga˺sun˞da:˺ tu˞ripiŋgasaŋ˺jo:ni ˞min˺tama ˞pittsa˺ʃi](あんなに掴んだら取り逃がすよ。取り逃がさないように目玉を潰せ)。トゥ˞リピンガ˺ス　イ˞ゾー　チャー˺　マ˞ギ˺　イズ [˺turipiŋgasu ʔi˞ʤo: ʧa:˺ ma˞gi ˺ʔiʤu](取り逃がす魚は何時も大魚である)。プ˞スム˺シ　トゥ˞リピンガ˺シェーラ　˞ホーサラ˺ヌ [pu̥˞sumu˺ʃi tu˞ripiŋga˺ʃe:ra ˞ho:sara˺nu](一度取り逃がしたら二度と釣れない)。グ˞マー˺バ　トゥ˞リピンガ˺シ [gu˞ma:˺ba tu˞ripiŋga˺ʃi](小さいから取り逃がしなさい)。

トゥ˞リ˺ブン [tu˞ri˺buŋ] 【名】取り分。取り前。わけまえ。バ˞キ˺ダマ [ba˞ki˺dama](分け前。権利として分与された財産や獲物) で示された取り分。˺バー　トゥ˞リブン˺マー　˺ヌーヤ [˺ba: tu˞ribum˺ma: ˺nu:ja](私の取り分 < 分け前 > は何か)。

トゥ˞リ˺マイ [tu˞ri˺mai] 【名】1取り前。取り分。カ˞ツシンヌ˺　トゥ˞リマイ˺ヤー　˞ギューサ˺ナー　˞アッ˺ターカヤー [kḁ˞tsuʃinnu˺ tu˞rimai˺ja: ˞gju:sa˺na: ˞ʔat˺takaja:](カツオ漁船の儲けの取り高はいくらずつあったかねえ)。2頼母子講で落札せず、取り前が残っていること。ウ˞クリマイ [ʔu˞kurimai](送り前) の対義語。ム˞エーヌ˺　トゥ˞リマイ˺ヤー　˞ナー˺ヌ　ウ˞クリマイル˺　アル [mu˞je:nu˺ tu˞rimai˺ja ˞na: ˺nu ʔu˞kurimairu˺ ʔaru](頼母子講の取りは分ない。送り分 < 支払い > がある)。

トゥ˞リ˺ミー [tu˞ri˺mi:] 【名】取り分。配当。シゥ˞カイクゥーシ < シゥ˞カイコーシ >　ブンダ　ワー˺　トゥ˞リミー˺ヤ　˞ナーン˺パジ˞ダー [si̥˞kaikwa:ʃi < si̥˞kaiko:ʃi > bunda wa:˺ tu˞rimi:˺ja ˞na:m˺paʤi˞da:](使い過ぎているから君の取り分 < 配当 > はないはずだよ)。

˺トゥリミー　カ˞ビ˺ミー [˺turimi: ka˞bi˺mi:] 【連】手に取って眺め回す。「取っては見、嗅いで見」の義。イッ˞ケナ˺　プサンギサーリ　˺トゥリミー　カ˞ビ˺ミー　˞シー　ベー [ʔik˞kena˺ pu̥sanʒisa:ri ˺turimi: ka˞bi˺mi: ˞ʃi: be:](非常に欲しいようで、何度も手に取って眺め回している)。

˺トゥリムシゥカイ [˺turimusi̥kai] 【名】1酷い取り扱い。˺タンコー　˞ピンギ˺ムノー　カ˞サマレー˺ラ　˞サンガリ　ギー˺　ス˞ズーコ˺　トゥリムシゥカイ　シ˞ラリタン˺ティ˞ダー [˺taŋko: ˞piŋgi˺muno: kḁ˞samare:˺ra ˞saŋgari gi:˺ su˞ʤu:ko˺ turimusi̥kai ʃi˞raritan˺ti˞da:](炭坑逃亡者は捕まれると、引張られて行って非常に酷い取り扱いをされたそうだよ)。2動物を屠殺解体すること。˺オーン　ピ˞ビザン˺バ˞ザイ˺　トゥリムシゥカイ　˞シー˺　ミ˞ラン˺シェン [˺ʔo:m pi˞biʤan˺ ba˞ʤai˺ turimusi̥kai ˞ʃi:˺ mi˞raŋ˺ʃeŋ](豚も山羊も屠殺解体したことがなかった)。˺トゥルムシゥカイ [˺turumusi̥kai] ともいう。

トゥ˞リム˺ツン [tu˞rimu˺tsuŋ] 【他動】接待する。持て成す。「取り持つ」の義。˞ウイヌ　プス˺　ト

ゥ˞リムˉツンティ　˞シーッˉパイ　˞シー　ベー [˞ʔuinu pu̥suˉ tu˞rimuˉtsunti ˞ʃiːpˉpai ˞ʃiː beː](上司 < 上の人 > を持て成そうとして一生懸命頑張っている)。イッ˞ケナˉ　トゥ˞リムツァˉリティ　ˉケーティ　˞ワンヌンˉ　トゥ˞リムチˉ　プサン [ʔik˞kenaˉ tu˞rimutsaˉriti ˉkeːti ˞wanˉnun tu˞rimutʃiˉ pu̥saŋ](非常に持て成されてきたので君も持て成したい)。トゥ˞リムˉツ　プ˞ソー　ニンˉイリ　トゥ˞リムˉツェー　ˉミサムヌ [tu˞rimuˉtsu pu̥˞soː niŋˉ ʔiri tu˞rimuˉtʃeː ˉmisamunu](持て成す人は心をこめて接待すれば良いのに)。˞ヨイシーˉプソー　ムー˞ルˉシ　トゥ˞リムˉチ [˞joiʃiːˉpu̥soː muː˞ruˉʃi tu˞rimuˉtʃi](祝い客は皆で持て成せ)。

トゥ˞リムドゥˉスン [tu˞rimuduˉsuŋ] 【他動】取り戻す。取り返す。ˉスン　˞シェー　ブンˉマー　トゥ˞リムドゥサンˉカー　ナ˞ラˉヌ [ˉsuŋ ˞ʃeː bumˉmaː tu˞rimudusaŋˉkaː na˞raˉnu](損をした分は取り戻さないといけない)。トゥ˞リムドゥˉスンティ　ˉウムーカー　ヤー˞ディンˉ　トゥ˞リムドゥˉシ [tu˞rimuduˉsunti ˉʔumuːkaː jaː˞dinˉ tu˞rimuduˉʃi](取り戻そうと思うなら必ず取り戻せ)。トゥ˞リムドゥシˉ　プサカー　トゥ˞リムドゥˉシェー　ˉミサムヌ [tu˞rimuduʃiˉ pu̥sakaː tu˞rimuduˉʃeː ˉmisamunu](取り戻したければ取り戻せば良いのに)。˞ワーˉ　トゥ˞リムドゥˉス　ˉムノー　ˉヌーヤ [˞waːˉ tu˞rimuduˉsu ˉmunoː ˉnuːja](君が取り戻すものは何か)。

トゥ˞リヤミˉルン [tu˞rijamiˉruŋ] 【他動】取りやめる。予定していたことを中止する。˞タイフーˉヌ　˞クーˉター　シ˞ナˉピケー　トゥ˞リヤミˉルンティ　キ˞モーッˉタツォー [˞taiɸuːˉnu ˞kuːˉta ʃi˞naˉpi̥keː tu˞rijamiˉrunti ki˞moːtˉtatsoː](台風が来たので綱引きは取りやめると決められたそうだ)。

トゥ˞リユシˉルン [tu˞rijuʃiˉruŋ] 【他動】取り寄せる。ク˞ヌˉ　シ˞ナーˉ　トゥ˞リユシラランˉカヤー [ku˞nuˉ ʃi˞naːˉ tu˞rijuʃiraraŋˉkajaː](この品を取り寄せられないかねえ)。トゥ˞リユシˉルンティ　˞カンˉガイ　˞ベー [tu˞rijuʃiˉrunti ˞kaŋˉgai ˞beː](取り寄せようと考えている)。トゥ˞リユシˉル　ˉムノー　˞パーˉク　トゥ˞リユシˉレー　ˉミサムヌ [tu˞rijuʃiˉrumunoː ˞paːˉku tu˞rijuʃiˉreː ˉmisamunu](取り寄せるものは早く取り寄せれば良いのに)。トゥ˞リユシˉ　プサカー　ˉドゥーシ　トゥ˞リユシˉリ [tu˞rijuʃiˉ pu̥sakaː ˉduːʃi tu˞rijuʃiˉri](取り寄せたかったら自分で取り寄せなさい < 取り寄せれ >)。

トゥ˞リルン [tu˞riruŋ] 【自動】凪ぐ。風が静まる。風が止まる。カ˞ジェーˉ　トゥ˞リルンティˉ　ウ˞ムータンˉドゥ　マ˞ダˉ　トゥ˞リランバン [ka˞ʤeːˉ tu˞rirountiˉ ʔu˞muːtanˉdu ma˞daˉ tu˞rirambaŋ](風は静まる <凪ぐ > と思ったが、まだ静まらない)。カ˞ジェーˉ　トゥ˞リティˉ　ウ˞ヌスˉク　ア˞ミˉヌ　˞フーˉバン [ka˞ʤeːˉ tu˞ritiˉ ʔu˞nusu̥ˉku ʔa˞miˉnu ˞ɸuːˉbaŋ](風は凪いでひどく雨が降るよ)。ˉキューズーナ　トゥ˞リルˉ　クトー　˞ナーンˉダーヌ　˞パーˉク　トゥ˞レーˉ　ミサムヌ [ˉkjuːʤuːna tu˞riruˉ ku̥ːto: ˞naːnˉdaːnu ˞paːˉku tu˞reːˉ misamunu](今日中に静 < 凪ぐ > まることはないだろうが、早く凪いだらいいのに)。˞パーˉク　ト˞リリ [˞paːˉku tu˞riri](早く静まれ)。

トゥ˞リンザˉスン [tu˞riʔnʤaˉsuŋ] 【他動】取り出す。˞ダンˉトゥコーラ　˞シームヌバンˉ　トゥ˞リンザˉスンティ　˞ベーˉヌンドゥ　トゥ˞リンザサラˉヌ [˞danˉtu̥ːkoːra ˞ʃiːmunubanˉ tu˞rinʤaˉsunti ˞beːˉnundu tu˞rinʤasaraˉnu](仏壇の下の押入れから吸い物椀を取り出そうとしているが、取り出されない)。トゥ˞リンザˉシ　ッ˞ふィーリ [tu˞riʔnʤaˉʃi f˞fiːri](取り出してくれ)。トゥ˞リンザˉス　ˉムノー　˞パーˉク　トゥ˞リンザˉシェー　ˉミサムヌ [tu˞riʔnʤaˉsu ˉmunoː ˞paːˉku tu˞rinʤaˉʃeː ˉmisamunu](取り出すものは早く取り出せば良いのに)、トゥ˞リンザˉシ [tu˞riʔnʤaˉʃi](取り出せ)。

トゥ˞ル [tu˞ru] 【名】1動物。鶏。「〜我が心浦渚 < うらす > の登理 < トリ > ぞ〜」『古事記』の転訛したもの。トゥ˞ルヌ　コーˉマ　ˉナスン [tu˞runu koːˉma ˉnasuŋ](鶏が卵を産む)。トゥ˞ルンˉヤー [tu˞ruŋˉ jaː](鶏舎。鶏小屋)。トゥ˞ルンˉヤー　˞ペーˉルカー　トゥ˞ルフシキˉ　カ˞カˉルンティ˞ダー [tu˞ruŋˉ jaː ˞peːˉruka: tu˞ruɸuʃi̥kiˉ kḁ˞kaˉrunti˞daː](鶏小屋に入るとしらくも < 白雲 > に罹るそうだよ)。2鳥類の総称。/マイヌパマヨー　チドゥリ　ヨー　ドゥリ　トゥブ　トゥリ　ハリ　ミルク　ヨーヌヨー　チドゥリ/(前の浜にヨー　千鳥、飛ぶ鳥、ハリ弥勒世の　ヨー　千鳥だ)(鳩間浜千鳥節)。3十二支の酉。トゥ˞ルヌˉ　トゥシ [tu˞runuˉ tu̥ʃi](酉の年)。˞トゥンディマリ [˞tundimari](酉年生まれ)。˞トゥンディプス [˞tundipu̥su](酉年の人)。

ドゥ˞ル [du˞ru] 【名】泥。ドゥ˞ルゴーˉダー　˞シーベー [du˞rugoːˉda: ˞ʃiːbeː](泥まみれになっている < 泥んこになっている >)。ドゥ˞ルˉ　ク˞ナスン [du˞ruˉ ku˞nasuŋ](泥を捏ねる)。ˉキンナー　ドゥ˞ルヌˉ　マ˞マリベー [ˉkinnaː du˞runuˉ ma˞mari beː](着物

に泥が付いている＜塗られている＞)。

トゥ˞ルイキムˀシ [tu˞ruʔikimuˀʃi] 【名】鳥獣。「鳥獣＜生き虫＞」の義。イ˞キムˀシ [ʔi˞kimuˀʃi](動物) は動物の総称。トゥ˞ルイキムˀシンツァン　ッ˞ふァˀ　ス˞ダティミˀチェー　ッ˞シル　ブー　ニンˀギンタル　ˀムヌ　ˀヌーヤ　ク˞レー [tu˞ruʔikimuˀʃintsan f˞faˀ su˞datimiˀtʃe: ʃ˞ʃiru bu: niŋˀgintaru ˀmunu ˀnu:ja ku˞re:](鳥獣でさえも子育ての道は知っている。人間たるものが何だ、これは)。

トゥ˞ルˀクビ [tu˞ruˀkubi] 【名】草戸。茅で葺いて作った取り外し式の粗末な戸。「取壁」の転訛したものか。炊事小屋の戸。入り口に立てて戸や窓を閉め、取り外して戸を開けた。˞トーラˀヌ　ˀヤドー　トゥ˞ルˀクビシ　ス˞クラˀリ　ブ˞タ˧ダー [˞to:raˀnu ˀjado: tu˞ruˀkubiʃi sṵ˞kuraˀri bu˞ta˧da:](炊事小屋の戸は茅で作った取り外し式の戸であったよ)。茅をススキや竹のえつり (桟) で挟(ハサ)んで作った取り外し式の戸。「取り壁」の義。トゥ˞ルッˀクビ [tu˞rukˀkubi](取り外し式の草戸) ともいう。竹やススキを網代(アジロ)に編んだものの上に茅を約 5 センチの厚さに敷き詰め竹やススキの網代網で挟んで桟をわたし、両側から強く引き締めて戸の形にしあげたもの。茅葺小屋の戸。両手で持ち上げて開閉した。˞トーラˀヌ　ˀヤドー　トゥ˞ルˀクビ　ス˞クˀリティル　タ˞トゥˀタ [˞to:raˀnu ˀjado: tu˞ruˀkubi sṵ˞kuriˀru tạ˞tuˀta](炊事小屋の戸は草戸＜トゥルクビ＞を作って＜ぞ＞立てた)。

ドゥ˞ルゴーˀダー [du˞rugo:ˀda:] 【名】泥だらけ。泥まみれ。泥がべっとりくっついているさま。˞ワー　キンˀマー　ムー˞ルˀ　ドゥ˞ルゴーˀダー　ˀナリ　˞ベー [˞wa: kimˀma: mu:˞ruˀ du˞rugo:ˀda: ˀnari ˞be:](君の着物はみんな泥だらけになっている)。

ドゥ˞ルˀジル [du˞ruˀʤiru] 【名】泥だらけ。泥まみれ。泥が染み付いているさま。ドゥ˞ルˀ　ク˞ナスンティ　アーˀクンケン　˞キンˀマー　ドゥ˞ルˀジル　˞シー　ナーˀヌ [du˞ruˀ ku˞nasunti ʔa:ˀkuŋkeŋ ˞kimˀma: du˞ruˀʤiru ˞ʃi: na:ˀnu](泥を捏ねようとしているうちに着物は泥だらけになってしまった)。ク˞ルビティルˀ　ドゥ˞ルˀジル　˞シー　アーˀク [ku˞rubitiruˀ du˞ruˀʤiru ˞ʃi: ʔa:ˀku](転んで泥だらけになっている)。

ドゥ˞ルズミ [du˞ruʤumi] 【名】泥染め。ム˞カˀシェー　˞ターˀナール　ドゥ˞ルズミン　ソーッˀタンティ˞ダー [mu˞kaˀʃe: ˞ta:ˀna:ru du˞ruʤumin so:tˀtanti˞da:](昔は田圃で泥染めもされたそうだよ)。

トゥ˞ルッサイˀルン [tu˞russaiˀruŋ] 【自動】よく聞こうとして注意する。耳を澄ませる。謹聴する。トゥ˞ルッˀサウン [tu˞rusˀsauŋ] と同じ。トゥ˞ルッサイˀルンティ　˞スンドゥˀ　ムッ˞トゥˀ　トゥ˞ルッサイララˀヌ [tu˞russaiˀrunti ˞sunduˀ mut˞tuˀ tu˞russairaraˀnu](耳を澄ませようとするが、ちっとも耳を澄まされない)。トゥ˞ルッサイˀルピンマー　ˀユー　シゥ˞カリン [tu˞russaiˀru ˀpimma: ˀju: sṵ˞kariŋ](耳を澄ませる時はよく聞こえる)。パ˞ナˀシ　シゥ˞クˀ　ピンマー　˞ミンˀマー　トゥ˞ルッサイˀリ [pa˞naˀʃi sṵ˞kuˀ pimma: ˞mimˀma: tu˞russaiˀri](話を聞く時は耳は済ませなさい)。ˀミン　トゥ˞ルッˀサイ　シ˞キˀプサカー　シカイ˞トゥˀ　トゥ˞ルッサイˀヤー　ˀミサムヌ [ˀmin tu˞rusˀsai ʃṵ˞kiˀpṵsaka: ʃṵkai˞tuˀ tu˞russaiˀja: ˀmisamunu](耳を澄ませて聞きたければしっかりと耳を澄ませればいいのに)。˞ミンˀバ　トゥ˞ルッサイˀルンティ　˞スンドゥˀ　ムッ˞トゥˀ　トゥ˞ルッサイララˀヌ [˞mimˀba tu˞russaiˀrunti ˞sunduˀ mut˞tuˀ tu˞russairaraˀnu](謹聴しようとするが、一向に謹聴できない)。トゥ˞ルッサイˀル　ˀクトー　ˀナルン [tu˞russaiˀru ˀkṵto: ˀnaruŋ](耳を澄まして聞くことはできる)。ˀミン　トゥ˞ルッサイˀリ [ˀmin tu˞russaiˀri](耳を澄ませて聞け＜謹聴しろ＞)。

トゥ˞ルッˀサウン [tu˞rusˀsauŋ] 【自動】耳を澄ます。注意して聞く。謹聴する。トゥ˞ルッサイˀルンとも言う。˞ミンˀバ　トゥ˞ルッˀサイ　シ˞キ [˞mimˀba tu˞rusˀsai ʃṵ˞ki](耳を取り澄ませてよく聞け)。トゥ˞ルッˀサウンティ　˞スーヌンドゥˀ　トゥ˞ルッサーラˀヌ [tu˞rusˀsaunti ˞su:nduˀ tu˞russa:raˀnu](耳を済ませようとするが、耳を澄まされない)。トゥ˞ルッˀサウ　ˀピンマー　シゥ˞カリン [tu˞rusˀsau ˀpimma: sṵ˞kariŋ](耳を澄ませる時は聞かれる)。トゥ˞ルッサイˀヤー　ˀミサムヌ [tu˞russaiˀja: ˀmisamunu](耳を澄ませればよいのに)。˞マーˀビン　˞ミンˀバ　トゥ˞ルッˀサイ [˞ma:ˀbim ˞mimˀba tu˞rusˀsai](もっと耳を澄ませろ。謹聴せよ)。˞ミンˀマー　トゥ˞ルッˀサイティ　プ˞スヌˀ　パ˞ナˀシ　ス˞クン [˞mimˀma: tu˞rusˀsaiti pṵ˞sunuˀ pa˞naˀʃi sṵ˞kuŋ](耳を澄まして他人の話を聞く)。ˀミン　トゥ˞ルッˀサウンティ　ˀウムーカー　トゥ˞ルッˀサウ　ˀクトー　ˀナルン [ˀmin tu˞rusˀsaunti ˀʔumu:ka: tu˞rusˀsau ˀkṵto: ˀnaruŋ](耳を澄まそうと思えば耳を澄ますことはできる)。˞マーˀビン　トゥ˞ルッサイˀヤー　ˀミサムヌ [˞ma:ˀbin tu˞russaiˀja: ˀmisamunu](もっと耳を澄ませばいいのに)。

˥ドゥルドゥル **[˥duruduru]** 【副】1粘液状に溶けたさま。擬態語。アˈミフイ˥ヌ　˥ミチェー　ドゥˈルミツァヌ˥　ドゥルドゥル　˥ナリティ　アˈラカラ˥ヌ [ʔaˈmiɸui˥nu ˥mitʃe: duˈrumitsanu˥ duruduru ˥nariti ʔaˈrakara˥nu](雨降りの道は粘土がどろどろになって歩けない)。˥ドゥルドゥル　˥ナルンケン　トゥˈカ˥シ [˥duruduru ˥naruŋken tu̥ˈka˥ʃi](どろどろになるまで溶かせ)。2雷鳴や車馬の走る響き、足音を鳴り響かせて走るさま。ヤˈラ˥ビンケーヌ　ドゥˈルドゥル˥シ　パリˈパッ˥タ [jaˈra˥biŋke:nu duˈruduru ˥ʃi pariˈpat˥ta](子供たちがドロドロと足音を響かせて走って行った)。

トゥˈルヌ˥　シー **[tuˈrunu˥ ʃi:]** 【連】1鶏の巣。鳥の巣。ガˈジマル˥ヌ　ユˈダ˥ナー　トゥˈルヌ˥　シー　スˈク˥リ　˥シケー [gaˈʤimaru˥nu juˈda˥na: tuˈrunu˥ ʃi: su̥ˈku˥ri ˥ʃi̥ke:](ガジマル＜榕樹＞の枝に鳥＜鶏＞が巣を作ってある)。鶏は昼中は放し飼いにして、夜は小さな鶏小屋＜鶏舎＞にいれた。トゥˈルヌ˥　シーナ　ˈコー˥マ　イˈチッ˥ク　˥ナシ　˥シケー [tuˈrunu˥ ʃi:na ˈko:˥ma ʔiˈʧik˥ku ˥naʃi ˥ʃi̥ke:](鶏が巣に卵を五個産卵してある)。2鳥の巣のように乱れた髪。ˈワー˥　ガˈマ˥ジェー　トˈルヌ˥　シー　˥ナリ　ˈベー [ˈwa:˥ gaˈma˥ʤe: tuˈrunu˥ ʃi: ˥nari ˈbe:](君の髪は鳥＜鶏＞の巣のようにになっている)。

トゥˈルヌ˥　チˈリジブン **[tuˈrunu˥ ʧiˈriʤibuŋ]** 【連】三番鳥が鳴いてから夜が明け始める時分。鶏が一斉に鳴く＜連れ鳴きする＞時分。夜明けごろ。トゥˈルヌ˥　チˈリジブンナー˥ヤ　キサーˈティ˥　ウキティ　アˈサキ˥ヌ　スˈコール　シーブタ [tuˈrunu˥ ʧiˈriʤibunna:˥ja ki̥sa:ˈti˥ ʔukiti ʔaˈsaki˥nu su̥ˈko:ru ʃi:buta](夜明け頃＜鶏の連れ鳴きする時分＞には既に起きて朝餉(アサゲ)の準備をしていた)。イˈチバン˥ドゥル [ʔiˈʧiban˥duru](一番鶏鳴)、ˈニーバン˥ドル [ˈni:ban˥duru](二番鶏鳴)、ˈサンバン˥ドゥル [ˈsamban˥duru](三番鶏鳴) の次に、夜明け頃に一斉に鶏が鳴いた。

トゥˈルヌ˥　ッス **[tuˈrunu˥ ssu]** 【連】鶏の糞。鶏糞。トˈルヌ˥　ッソー　ˈバー˥キナ　イˈリ˥　カˈタ˥ミ　パˈタ˥ケー　˥ムティ　ˈパッ˥タ [tuˈrunu˥ sso: ˈba:˥ kina ʔiˈri˥ kḁˈta˥mi pḁˈta˥ke: ˥muti ˈpat˥ta](鶏糞は竹笊に入れて担いで畑に持って行った)。

トゥˈルヌッふァヌ˥　カタチニ **[tuˈrunuffanu˥ kḁtatʃini]** 【連】鶏の子＜ひよこ＞のように。元気な赤子の形容。ひよこは卵から孵化してすぐ歩くので、ひよこのように元気な赤子であるという意。ˈハー˥　イッˈケナ　スーリ˥　ブバン　トゥˈルヌッふァ˥ヌ　˥カタチニル　ブˈリッテー [ˈha:˥ ʔikˈkena su:ri˥bauban tuˈrunuffa˥nu ˥kḁtatʃiniru buˈritte:](おお! よく成長しているわい。ひよこのように元気でいるではないか)。

トゥˈルヌ˥ヤー **[tuˈrunu˥ja:]** 【名】鶏舎。鶏小屋。「鶏の家」の義。トゥˈルン˥ヤー [tuˈruŋ˥ja:](鶏舎) ともいう。鶏は、普通放し飼いにされていたが、鶏の容姿からどこの家の鶏か判断できた。鶏舎は屋敷の南西の角に作られていた。鶏舎のない家の鶏は屋敷の樹上に止まって寝るので、その下は鶏糞が溜まって不潔であった。子供が知らずにその樹下を通ると、ˈタイワン˥ボー [ˈtaiwam˥bo:](頭髪の毛根部に白癬のように発症する皮膚病) に罹るといわれていた。鶏舎は巾約 3 尺、長さ約 6 尺、高さ約 5 尺に作り、内部には 2 段、3 段に止まり木を設置した。藁で巣を作って入れておくと産卵してくれた。トゥˈルン˥ヤー [tuˈruŋ˥ja:](鶏小屋) ともいう。トゥˈロー　ピーロー　ポッツァーリ　ブーヌ˥　ユネンナルカー　ムーˈル˥　トゥˈルヌ˥ヤー　ムˈド˥リキー　トゥˈルン˥ヤーナール　ニˈブタ˥ダー [tuˈro: pi:ro: pottsa:ri bu:nu˥ junen ˥naruka: mu:ˈru˥ tuˈrunu˥ja: muˈdu˥riki: tuˈruŋ˥ja:na:ru niˈbuta˥da:](鶏は昼は散らばっているが、夕方になるとみんな鶏小屋に戻ってきて鶏小屋で寝たよ)。

トゥˈルバイ **[tuˈrubai]** 【名】ぼんやり者。利発でない子供。愚鈍な人。のろま。トゥˈルバヤー [tuˈrubaja:](ぼんやり者。のろま) ともいう。動詞トゥˈルバウン [tuˈrubauŋ](ぼんやりする) の連用形から転成した名詞。トゥˈルバヤーヤ˥　シˈグトゥン˥　ギˈチ　サン˥カー　˥ドゥーシェーˈシーユーサヌ [tuˈrubaja:ja˥ ʃiˈgutuŋ˥ giˈʧi saŋ˥ka: ˥du:ʃe: ˈʃi:ju:sanu](ぼんやり者は仕事も指示、命令＜下知＞しないと自分ではやれない)。

トゥˈルバイカー˥バイ **[tuˈrubaika:˥bai]** 【副】ぼんやりしているさま。呆然(ボウゼン)としたさま。あっけにとられて、我を忘れたさま。ABCDEFCD 型の重言。ˈヌーンティル　アイニ˥　トゥˈルバイカー˥バイˈシー　ベー˥ワ [ˈnu:ntiru ʔaini˥ tuˈrubaika:˥bai ˈʃi: be:˥wa](どうして＜何故に＞あんなにぼんやりして立っているのか)。ヌーˈスンティ˥　アイニ　トゥˈルバイカー˥バイ　ˈシーベー˥ワ [nu:ˈsunti˥ ʔaini tuˈrubaika:˥bai ˈʃi:be:˥wa](どうして＜何故に＞あのように呆然としているのか)。ウˈヤ˥ヌ　アˈタマーラシ　ソーッ˥タ　ˈベー˥ティル　˥アイニ　ト

ゥ˞バイカー˥バイ　˞シーベー˥　ダ˞レー [ʔu˞jaˮnu ʔa˞tamaːraʃi soːtˮta ˞beːˮtiru ˥ʔaini tu˞rubaikaːˮbai ˞ʃiːbeːˮ da˞reː](親が急逝されたので、あのように茫然としているのだよ)。

トゥ˞ルバイムヌ [tu˞rubaimunu] 【名】ぼんやり者。気が利かない者。気配りの出来ない者。ウ˞レー˥　トゥ˞ルバイムヌ˥　ヤ˞ルンダ˥　ムシ˞トゥ˥　タ˞ルガキララヌ [ʔu˞reːˮ tu˞rubaimunuˮ ja˞rundaˮ muʃi̥˞tuˮ ta˞rugakiraranu](彼はぼんやり者だから、ちっとも当てになたない)。

トゥ˞ルバウン [tu˞rubauŋ] 【自動】ぼんやりする。意識がかすんで何もせずにじっとする。気が利かない。呆然とする。トゥ˞ジヌ　マーラシター˥　トゥ˞ルバイティ˥　ノー˞ン　シーユーサヌ [tu˞ʤinu maːraʃi̥taːˮ tu˞rubaitiˮ noː˞ŋ ʃiːjuːsanu](妻が亡くなられたので、ぼんやりして何もする事が出来ない)。トゥ˞ルバウン˥カヤーティ　ウ˞ムータ˥ヌ　トゥ˞ルバーンシェン [tu˞rubauŋˮkajaːti ʔu˞muːtaˮnu tu˞rubaːŋʃeŋ](ぼんやりするかと思ったがぼんやりしなかった)。トゥ˞ルバウ˥　クトゥン　˥アン [tu˞rubauˮ kṵtuŋ ˥ʔaŋ](ぼんやりすることもある)。トゥ˞ルバイヤー˥　ミサムヌ [tu˞rubaijaːˮ misamunu](ぼんやりすれば良いのに)。トゥ˞ルバイ˥バ [tu˞rubai˥ba](ぼんやりしなさい)。˥ヌー　サ˞バル˥　マ˞シ˥ユー　ア˞ティンガーラムティ˥　ナー˞イ˥　トゥ˞ルバイ　ベーン˥ケンドゥ　トゥ˞ルバイランドー˥シ　シ˞グトゥ　シー˥ティ　イ˞ザリ　ナーン˥シェン [˥nuː sa˞baruˮ ma˞ʃiˮjuː ʔa˞tiŋgaːramutiˮ naː˞iˮ tu˞ru˞bai beːŋˮkendu tu˞rubairandoːˮʃi ʃi˞gutu ʃiːˮti ʔi˞arinaːŋˮʃeŋ](何をしたら良いか見当が付かなくてぼんやりしていると、ぼんやりしないで仕事をしろと、叱られてしまった)。ウ˞ダラ˥クカー　ター˞ン˥　トゥ˞ルバウンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　マ˞ナ˥マー　トゥ˞ルバウ˥　クトー　ナ˞ラ˥ヌ [ʔu˞daraˮkukaːtaːˮn tu˞rubauntiˮ ʔu˞muːnˮdu ma˞naˮmaː tu˞rubauˮ kṵtoː na˞raˮnu](驚いたら誰もがぼんやりすると思うが、今はぼんやりすることはできない)。ン˞メーマー˥　トゥ˞ルバイヤー˥　ミサムヌ [ʔm˞meːmaːˮ tu˞rubaijaːˮ misamunu](少しはぼんやりすればいいのに)。トゥ˞ルバイ˥バヒャー [tu˞rubaiˮbaça:](ぼんやりしろよ、こいつ＜ぼんやりしやがれ！＞)。

˥ドゥ˞ルパジン [˥durupaʤiŋ] 【名】 (動) 蜂の種類。ドロバチ。黒色で腹部に黄色の縞、または黄色、赤色の斑紋がある。攻撃的な性格の蜂で、刺されると毒が強く発熱する。˥ッふパジン [˥ffupaʤiŋ](黒蜂)ともいう。˥ドルパジン　ッ˞サ˥リカー　˥ニチ　ン˞ジ˥ルン˞ダー [˥durupaʤin s˞saˮrikaː ˥nitʃi ʔn˞ʤiˮrun ˞daː](ツチバチに刺されると熱が出るよ)。

トゥ˞ルパニ [tu˞rupani] 【名】鳥の羽。羽毛。歌謡語。トゥ˞ルパニバ˥　ガ˞ヤー˥バ　˞シー　ヤー˥バ　ス˞ク˥リ　˥アンティ　˥スー [tu˞rupanibaˮ ga˞jaːˮba ˞ʃiːjaːˮba sṵ˞kuˮri ˥ʔanti ˥suː](鳥の羽を茅にして家を造ってあるという)「アーパーレー歌」。

トゥ˞ルバヤー [tu˞rubajaː]【名】ぼんやり。気の利かない者。のろま。トゥ˞ルバイムヌ [tu˞rubaimunu](ぼんやり者) ともいう。ウ˞レー˥　トゥ˞ルバヤー˥　ヤ˞ルンダ˥　ノー˞ン˥　ヤコー　タ˞タ˥ヌ [ʔu˞reːˮ tu˞rubajaːˮ ja˞rundaˮ noː˞ŋˮ jakoː tạ˞taˮnu](彼はぼんやり者だから何にも役に立たない)。

ドゥ˞ルパン [du˞rupaŋ] 【名】泥足。田畑の土で汚れた足。ドゥ˞ルパン˥シ　˞ヤーン˥　ナカー　˞ペーラン˥ドーシ　ス˞ナカˮナー　˞ティー˥パン　˥シミティ　˥クーバ [du˞rupaŋˮʃi ˞jaːnˮnakaː ˞peːranˮdoːʃi su˞nakaˮnaː ˞tiːˮpaŋ ˥ʃimiti ˥kuːba](泥足で家の中に入らないで、海で手足を洗って来いよ)。

トゥ˞ルフシキ [tu˞ruɸuʃi̥ki] 【名】頭の皮膚病気の名。頭髪の生える部分に発症する。しらくも。はくせん＜白癬＞。「鳥毛羽立(ケバタチ)」の義。鶏糞より伝染するといわれ、鶏舎に入ったり、鶏がとまる木の下を通ると伝染すると言われていた。毛根の辺りに灰白色で粉末状の鱗片が円形に広がって発症する皮膚病。マ˞ナ˥マー　トゥ˞ルフシキ˥　カ˞カ˥ル　ヤ˞ラ˥ベー　ミ˞ララン˥バン˞ナー [ma˞naˮmaː tu˞ruɸuʃi̥kiˮ kạ˞kaˮru ja˞raˮbeː mi˞raramˮban˞naː](今はしらくも＜白癬＞に罹る子供もいない＜見られない＞ねえ)。

ドゥ˞ルブッター [du˞rubuttaː] 【名】泥がべっとりくっ付いているさま。粘土が一面にくっ付いているさま。ウ˞レー˥　ドゥ˞ルブッター˥　ナリティ　シゥ˞カーラヌ [ʔu˞reːˮ du˞rubuttaːˮ nariti si̥˞kaːranu](これは粘土がべっとりくっ付いて使えない＜使われない＞)。

ドゥ˞ルプトゥキ [du˞rupṵtuki] 【名】感情を表さない無能な人。鈍感な人。泥人形。「泥仏」の義。ウ˞レー˥　ドゥ˞ルプトゥキトゥ˥　ユ˞ヌ˥ムヌ　˥ムニーン　イ˞ザヌ˥　パ˞ナン˥　プ˞サ˥ヌ　プ˞スヌ˥　カ˞タチ˥　カー˞ニル　シーブ [ʔu˞reːˮ du˞rupṵtukituˮ juˮnuˮmunu ˥muniːŋ ʔi˞ʤanuˮ paˮnamˮ pṵ˞saˮnu pṵ˞sunuˮ kạ˞tatʃiˮ kaː˞niru ʃiːbu](彼は泥人形と同じだ。ものも言わないし、鼻嘘りもしない。人の姿恰好

＜人の形＞を＜ぞ＞しているだけである)。

トゥ˞ルマキ [tu˞rumaki] 【名】カツオ鳥の群れ。カツオの魚群を追って飛ぶカツオドリの群れ。カツオが海中深く遊泳する場合は高く飛び、カツオが海面に浮き上がる時は海面すれすれに飛んで小魚を捕食する。カツオ漁船はその鳥巻きを探すことによってカツオの魚群を探知するのであった。「鳥巻き」の義。カ˞ツシンマー˥　トゥ˞ルマキバ　ミシ˥ケーティル　カ˞ツォー　ウイ˥　ザコー　˥マキティ　˞ホー˥ソッタル [ka̠˞tsuʃimma:˥ tu˞rumakiba miʃi̥˥ ke:tiru ka̠˞tso: ʔui˥ ʤako: ˥makiti ˞ho:˥so:ttaru](カツオ船はカツオドリの鳥巻きを探しながらカツオの魚群を追い、餌(エ)付(ツ)けをして釣られた)。

ドゥ˞ルマキ [du˞rumaki] 【名】泥にかぶれること。泥の中や泥水の中で長時間仕事をすると手足の指の股が爛(タダ)れる症状。ドゥ˞ルマキ˥　シ˞ティ　パン˥ヌ　ウ˞ヤビ˥ヌ　˥マター　タ˞ダリナー˥ヌ [du˞rumaki˥ ʃi̥˞ti pan˥nu ʔu˞jabi˥nu ˥mata: ta˞darina:˥nu](泥にかぶれて足の指の股が爛れてしまった)。

ドゥ˞ルミジ [du˞rumiʤi] 【名】泥水。ナ˞チヌ　ペーレーヌ˥　シ˞ジク˥カー　˞カーヌ˥　ドゥ˞ルミジバ˥　フ˞ミ˥　キー　シ˞マ˥シェーティル　シゥ˞カウタル [na˞ʧinu pe:re:nu˥ ʃi˞ʤiku˥ka: ˞ka:nu˥ du˞rumiʤiba˥ ɸu˞mi˥ ki: ʃi˞ma˥ʃe:tiru si̥˞kautaru](夏の早魃(カンバツ)が続くと井戸の泥水を汲んできて澄ませて＜ぞ＞使ったものだ)。

ドゥ˞ルミチ [du˞rumiʧi] 【名】泥道。泥んこ道。ドゥ˞ルミチェーラ˥　ア˞ラ˥キ　˞クー˥ター　˞キン˥マー　ドゥ˞ルゴーダー　シー　ナー˥ヌ [du˞rumiʧe:ra˥ ʔa˞ra˥ki ˞ku:˥ta: ˞kim˥ma: du˞rugo:da: ʃi: na:˥nu](泥んこ道を歩いて来たところ、着物は泥だらけになって＜泥がべっとりくっ付いて＞しまった)。

ドゥ˞ルムタ˥ビ [du˞rumuta˥bi] 【名】泥いじり。泥遊び。ドゥ˞ルムタ˥ビ　˞スン [du˞rumuta˥bi ˞suŋ](泥いじりをする)。

トゥ˞ルム˥チ [tu˞rumu˥ʧi] 【名】接待。世話。タ˞ビヌ˥　プス　トゥ˞ルム˥チ　˞スンティ　ベー [ta˞binu˥ pu̥su tu˞rumu˥ʧi ˞sunti be:](旅の人＜客＞を接待しようとしている)。

トゥ˞ルム˥ツン [tu˞rumu˥tsuŋ] 【他動】接待する。世話する。取り持つ。「Torimochi,tçu,otta. トリモチ, ツ, ッタ (～馳走する) 手厚いもてなしをする」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。イ˞サナケーラヌ˥　プ˞ス˥　トゥ˞ルム˥ツンティ　˞シッ˥パイ　˞シーオー˥ル [ʔi˞sanakeːranu˥ pu̥˞su tu˞rumu˥tsunti ˞ʃip˥pai ˞ʃi: ʔo:˥ru](石垣島からの客＜人＞を接待するとて一生懸命にやっておられる)。

トゥ˞ルン [tu˞ruŋ] 【自動】凪ぐ。風が静まる。風波が穏やかになる。˞キュー˥ヤ　カ˞ジェー˥　トゥ˞ルンティ˥　ス˞クタンドゥ˥　マ˞ダ˥　トゥ˞ランバン [˞kju:˥ja ka˞ʤe:˥ tu˞runti˥ su̥˞kutandu˥ ma˞da˥ tu˞rambaŋ](今日は風は凪ぐと聞いたのだが、まだ静まらない)。˥キューズーナ　トゥ˞リ　パリ˥スヨー [˥kju:ʤu:na tu˞ri pari˥sujo:](今日中に凪いでいくよ)。˞キュー˥ヤ　カ˞ジヌ˥　トゥ˞ル˥クトー　˞ナーン˥ダーヌ　˞パー˥ク　トゥ˞レー˥　ミサムヌ [˥kju:˥ja ka˞ʤinu˥ tu˞ru˥ku̥to: ˞na:n˥da:nu ˞pa:˥ku tu˞re:˥ misamunu](今日は風が凪ぐことはないだろうが、早く凪げば良いのに)。˞パー˥ク　トゥ˞リ [˞pa:˥ku tu˞ri](早く凪げ＜静まれ＞)。

˥トゥルン [˥turuŋ] 【他動】1取る。手に持つ。˥ドウーシ　˥トゥルンティ　ウ˞ムー˥ヌ　˞バン˥マー　トゥ˞ララ˥ヌ [˥du:ʃi ˥turunti ʔu˞mu:˥nu ˞bam˥ma: tu˞rara˥nu](自分で取ろうと思うが、私には取られない)。ウ˞リ˥　トリ　ッ˞ふィーリ [ʔu˞ri˥ turi f˞fi:ri](それを取ってくれ)。˥トゥル　プ˞ソー　パー˥ク　˥トゥリ [˥turu pu̥˞so: pa:˥ku ˥turi](取る人は早く取れ)。˞マー˥ビン　˥トゥレー　˥ミサムヌ [˞ma:˥bin ˥ture: ˥misamunu](もっと取れば良いのに)。2捕まえる。捕らえる。ウ˞ヌ˥　マヤー　ウ˞ヤ˥ザ　˥トゥリ　˞シェー˥ン [ʔu˞nu˥ maja: ʔu˞jaʤa ˥turi ˞ʃe:˥ŋ](この猫は鼠を捕ることが出来る)。3操作する。「～漕ぐ船の可治等流＜カヂトル＞間無く～。万、4027」の転訛したもの。カ˞ジ˥　トゥリティ　˞オーラー˥　パ˞ラー˥イ [ka˞ʤi˥ turiti ˞ʔo:ra:˥ pa˞ra:˥i](舵を取って＜操作して＞風上の方へ走らせよ)。4取り除く。フ˞ニ˥ヌ　˥アカ　˥トゥリ [ɸu˞ni˥nu ˥ʔaka ˥turi](船のあか＜淦＞を取れ)。5盗む。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　プ˞スヌ˥　ムヌ　˥トゥル　フ˞シヌ˥　アルツォー [ku˞nu˥ f˞fa:˥ pu̥˞sunu˥ munu ˥turu ɸu̥˞ʃinu˥ ʔarutso:](この子は他人の物を盗む癖があるそうだ)。6殺す。˥ヌチ　˥トゥルン [˥nuʧi ˥turuŋ](殺す。＜命をとる＞)。

トゥ˞ルンコー˥マ [tu˞ruŋko:˥ma] 【名】鶏卵。「鶏の卵」の義。丁寧に話すと、トゥ˞ルヌコー˥マ [tu˞runuko:˥ma](鶏卵) という。トゥ˞ルンコー˥マー　˞ジーシキ˥ムヌ˞ダー [tu˞ruŋko:˥ma: ˞ʤi:ʃi̥˞ki˥munu˞da:](鶏卵は滋養食物だよ)。

˞-トゥレー [˞-ture:] 【終助】～ものか。いろいろな語に付いて反語の意を表す。トゥ・ウレーの融合変化したもの。1名詞に付く。ウ˞レー˥　タク˞トゥレー

˥ ウ˩ム˥ジティムカーヤ [ʔu˩reː˥ tạku˩tureː˥ ʔu˩mu˥ ʤitimukaːja](それは蛸なものか。イイダコ＜飯蛸＞というものだよ)。2活用語の終止形に付く。語末のアクセントの下がり目は、上接語が高平アクセントの場合、やや下がるだけで、十分に下がらない。上接語が下平板アクセントの場合は高平アクセントとなる。ウ˩リヌ˥ プ˩スヌ˥ ムニ ス˩クン˧トゥレー [ʔu˩rinu˥ pụ˩sunu˥ muni sụ˩kun˧tureː](あいつが他人の忠告＜言葉＞を聞くものか＜決して聞かないよ＞)。˥アイブ ˥ムヌ ˩カイ˥ヤン˩トゥレー [˥ʔai ˥bumunu ˩kai˥jan˩tureː](あんなのが美しいものか＜ちっとも美しくない＞)。動詞、助動詞の連体形に付く。ウ˩レー ワール スー˧トゥレー カ˩リル シービキティ˥ムカーヤ [ʔu˩reː waːru suː˧t˥ureː ka˩riru ʃiːbikiti˥mukaːja](それは君がするものか、＜否、当然＞彼がすべきものだよ)。

トゥ˩レー˥スン [tu˩reː˥suŋ] 【自動】共に遊び耽る。連れ添って遊ぶ。「連れ合う」の義か。ドゥ˩シザーン˥ トゥ˩レー˥シ ア˩サブン [du˩ʃiʤaːn˥ tu˩reː˥ ʃi ʔa˩sabuŋ](友達同士連れ添って遊び耽(フケ)る)。トゥ˩レーサン˥ドーシ ˩ヤー˥ヌ ˩テーナイ˥ユン ˩シー˥バ [tu˩reːsan˥doːʃi ˩jaː˥nu ˩teːnai˥juŋ ˩ʃiː˥ba](遊び耽らないで家の手伝いをもしなさいよ)。˥キューン トゥ˩レー˥スンティ ウ˩ムイ˥ル ケータ˩ダー˥ヌ トゥ˩レー˥ス ドゥ˩シェー クーン˥シェンツォー [˥kjuːn tu˩reː˥sunti ʔu˩mui˥ru ˥keːta˩daː˥nu tu˩reː˥su du˩ʃeː kuːŋ˥ʃentsoː](今日も遊び耽ろうと思って来ただろうが、連れ立って遊ぶ友達が来なかったそうだ)。トゥ˩レー˥シェー ˥ミサムヌ [tu˩reː˥ʃeː ˥misamunu](連れ立って遊び耽れば良いのに)。ドゥ˩シザーン˥ トゥ˩レー˥シバ [du˩ʃiʤaːn˥ tu˩reː˥ʃiba](友達同士で遊び耽りなさい)。

トゥ˩ロー˥マ [tu˩roː˥ma] 【名】小鳥。ひよこ(雛(ヒナ))。マ [ma] は「小さい観念」や「親愛」の情を表す接尾指小辞。トゥ˩ローマ˥ヌ ˩トゥッカラ˥ シデーン [tu˩roːma˥nu ˩tukkara˥ ʃideːŋ](ひよこ＜雛＞が十匹かえった＜孵った＞)。

˥-トゥワー [˥-tuwaː] 【終助】～まい。～ものか(反語)。ドゥ˩クドゥク ピー˥チ カー˩ニ˥テー ˩カーリ˥トゥワー [du˩kuduku piː˥ʧi kaː˩ni˥teː ˩kaːri˥tuwaː](まさか一つだけとは買われ＜買え＞まい)。˩オーシケー˥ ヤ˩ビ˥ ブームヌ ˩キュー˥ワー パ˩ラ˥リトゥワー [˩ʔoːʃi̥keː˥ ja˩bi˥ buːmunu ˩kjuː˥wa pa˩ra˥rituwaː](天気は荒れ＜破れ＞ているのだから、今日は行け＜行かれ＞まい)。

˩トゥン [tuŋ] 【助】とも。助詞連語。引用の格助詞「と」に、とりたて強調の係助詞「も」が付いて形成されたもの。˩ワー˥ ア˩ズ ムヌトゥン˥ ア˩タラン ピッ˥チン ˩モーキララン˥ワーンノー [˩waː˥ ʔa˩ʤu munutun˥ ʔa˩taram pit˥ʧim ˩moːkiraraŋ˥waːnnoː](君が言うのとは逆に＜言うのとは当らないで＞、全く＜一つも＞儲からないではないか)。ウ˩ヌス˥ク ˩モーキル˥トゥン ア˩タラン ピンソー˥ムヌ ˩ヤッタ˥ツォー [ʔu˩nusụ˥ku ˩moːkiru˥tuŋ ʔa˩taram pinsoː˥munu ˩jatta˥tsoː](あれほど儲けるのに＜儲けることとも＞似合わず貧乏者だったそうだ)。

˩トゥン˥ガー [˩tuŋ˥gaː] 【名】罰。とが(咎)。「～悪しかる登我毛＜トガモ＞～。万、3391」の転訛したもの。ヤ˩ナクトゥ˥ シ˩タール˥ ウヤン ˩トゥン˥ガー ア˩ティラリ ベー [ja˩nakutu˥ ʃi̥˩taːru˥ ʔujan ˩tuŋ˥gaː ʔa˩tirari beː](悪い事をしたので、親に罰＜咎＞を与えられて＜当てられて＞いる)。˩カントゥン˥ガー イッ˩ケン˥ ナ˩クラーン˥ティ˩ダー [˩kantuŋ˥gaː ʔik˩ken˥ na˩kuraːn˥ti˩daː](神罰は非常に怖いそうだよ)。

˩トゥン˥ガー ッ˩ふァースン [˩tuŋ˥gaː f˩faːsuŋ] 【連】罰する。咎を負わせる。「咎を食わせる」の義。プ˩スヌ˥ ムニン シゥ˩カムティ˥ ドゥーカッティカー˩ニ シェー˥ティ ˩アー˥クンケンマー ˩ズン˥サン カ˩サマリティ トゥン˥ガー ッ˩ふァーサリベーン˥ティ [pụ˩sunu˥ munin si̥˩kamuti˥ duːkattikaː˩ni ʃeː˥ti ˩ʔaː˥kuŋkemmaː ˩ʤun˥saŋ ka˩samariti tuŋ˥ga: f˩faːsari beːn˥ti](他人の話も聞かないで自分勝手ばかりしているうちに、巡査に逮捕されて罰されて＜咎を食わされて＞いるさ)。

˩トゥンガー˥ユリ [˩tuŋgaː˥juri] 【名】免罪されること。赦免(シャメン)されること。罪を許されること。トゥ˩ガニン˥マー ˩トゥンガー˥ユリ サ˩リティ カイ˥ローッタツォー [tu˩ganim˥maː ˩tuŋgaː˥juri sa˩riti kai˥roːttatsoː](罪人は罪を許されて帰られたそうだ)。

˩トゥンガラ˥スン [˩tuŋgara˥suŋ] 【他動】尖らす。尖らせる。フ˩チ トゥンガラ˥スン [ɸụ˩ʧi tuŋgara˥suŋ](口をとんがらせる。口を突き出す)。フ˩チェー トゥンガラサン˥ ブリバ [ɸụ˩ʧeː tuŋgarasam˥ buriba](口は尖らすな＜尖らさないでおれ＞よ)。ユ˩クン˥ヌ サ˩ケー˥ トゥイティ ˩トゥンガラシ˥ プサンドゥ ˩トゥンガラ˥ス トゥ˩シ˥ヌ ˩ナー˥ヌ [ju˩kun˥nu sạ˩keː˥ tuiti ˩tuŋgaraʃi˥ pụsandu ˩tuŋgara˥su tu˩ʃi˥nu ˩naː˥nu](銛(モリ)の先は尖らせたい

が、尖らせる砥石(トイシ)がない)。˹マー˺ビン　˹トゥンガラ˺シェー　˺ミサムヌ [˹maː˺bin ˹tuŋgara˺ʃeː ˺misamunu](もっと尖らせばよいのに)。˹パー˺ク　˹トンガラ˺シ [˹paː˺ku ˹tuŋgara˺ʃi](早く尖らせよ)。

˹トゥン˺ガルン [˹tuŋ˺garuŋ] 【自動】尖る。先端が細く鋭くなる (老年層)。「尖、スルドナリ・トガル」『類聚名義抄』の転訛したもの。˺トゥシナー　˺トゥーカー　˹トゥン˺ガルン [˺tuʃinaː ˺tuːkaː ˹tuŋ˺garuŋ](砥石に研ぐと尖る)。フ˹ツェー　トゥン˺ガリティ　ウ˹シダマリ　ベー [ɸu̥˹ʧeː tuŋ˺gariti ʔu˹ʃidamari beː](口は尖って、押し黙っている)。ク˹レー　トゥー˺タンティン　˹トゥンガラ˺ヌ [ku˹reː tuː˺tantin ˹tuŋgara˺nu](これは研いでも尖らない)。イ˹ザリティ˺　フ˹チ　トゥン˺ガル　ヤ˹ラ˺ベー　シゥ˹カーラヌ [ʔi˹ʤariti˺ ɸu̥˹ʧi tuŋ˺garu ja˹ra˺beː si̥˹kaːranu](叱られて口が尖るような子供は使えない)。˹トゥン˺ガレー　˺ミサムヌ [˹tuŋ˺gareː ˺misamunu](尖ればよいのに)。˹トゥン˺ガリ [˹tuŋ˺gari](尖れ)。

˹トゥンクイ　トゥンクイ [˹tuŋkui tuŋkui] (1)【名】所々。とびとび。そこここ。あちらこちら。飛び地。˹トゥンクイトゥンクイ˺ナー　˹カー˺ラヤーヌ　ミ˹ラ˺リン [˹tuŋkituŋkui˺naː ˹kaː˺rajaːnu mi˹ra˺riŋ](点在した所 < とびとびの所 > に瓦葺の家が見える)。 **(2)**【副】跳び越え、跳び越え。ニ˹ビベー˺　プ˹スヌ　ウイバ　トゥンクイ　トゥンクイ　シー˺　パル　˺ムノー　ア˹ラ˺ヌ [ni˹bi beː˺ pu̥˹sunu ʔuiba tuŋkui tuŋkui ʃiː˺ paru ˺munoː ʔa˹ra˺nu](寝ている人の上を飛び越え飛び越えして行くものではないよ)。

˹トゥンクイトゥンクイ [˹tuŋkituŋkui] 【連】あちらこちら。所々。そこここ。「跳び越え跳び越え」の義。˹トゥンクイ　トゥンクイ˺ナー　˹キー˺ヌ　˺ムイ　˹ベー˺ン [˹tuŋkui tuŋkui˺naː ˹kiː˺nu ˺mui ˹beː˺ŋ](所々に樹木が生えている)。

˹トゥンクイルン [˹tuŋkuiruŋ] 【他動】跳び越える。飛び越す。カ˹マイ˺ヤー　カ˹キ　トゥンクイ˺　パルン [ka˹mai˺jaː kḁ˹ki tuŋkui˺ paruŋ](猪は猪垣を跳び越えていく)。カ˹マイ˺ヤー　˹トゥンクイルンティ˺　ウムーンダ　˹トゥンクイララン˺　カ˹キ˺　ス˹ク˺リバ [ka˹mai˺jaː ˹tuŋkuirunti˺ ʔumuːnda ˹tuŋkuiraraŋ˺ kḁ˹kib˺ su̥˹ku˺riba](猪は跳び越えると思うから、跳び越えられない猪垣を作れよ)。ク˹ヌ˺　カ˹キバ　トゥンクイル˺　カ˹マイ˺ヤー　ブ˹ラーヌ˺　カ˹キ　トゥンクイヤー˺ラ　˹デー˺ジ˹ゲ˺ラ　˺メー [ku˹nu˺ kḁ˹kiba tuŋkuiru˺ ka˹mai˺jaː bu˹raːnu˺ kḁ˹ki tuŋkuija˺ra ˹deː˺ʤi˹ge˺ra ˺meː](この垣を跳び越える猪はいない。猪垣を飛び越えたら大変さ、もう)。˹トゥンクイリ [˹tuŋkuiri](跳び越えろ)。

˹トゥン˺グゥー [˹tuŋ˺gwaː] 【名】 (海底地名) 鳩間島を取り巻く環礁の北西部に干瀬が少し湾入した所がある。その先端部。ア˹マシェヌ˺　フ˹チマチル [ʔa˹maʃenu˺ ɸu̥˹ʧimatʃiru](小浜家の先祖がフチマチル漁をした所) がある。

˹トゥンケーリ　トゥンケーリ [˹tuŋkeːri tuŋkeːri] 【連】振り返り振り返り。振り向き振り向き。˺シンター　˹トゥンケーリトゥンケーリ　シー˺　ナ˹ケー˺ティ　˹カイ˺リ　パッ˺タ [˺ʃintaː ˹tuŋkeːrituŋkeːri ʃiː˺ na˹keː˺ti ˹kai˺ri pat˺ta](後を振り返り振り返りして泣きながら帰って行った)。

˹トゥンケールン [˹tuŋkeːruŋ] 【自動】振り返る。背後を振り向く。過去を顧みる。老年層は˹トゥンカイルン [˹tuŋkairuŋ](振り返る。振り向く) ともいう。˺パル　˺ピンマー　˹トゥンケーランドー˺シ　パ˹ラバ˺ル　ウ˹ムイキシ　ヤッ˺サ [˺paru ˺pimmaː ˹tuŋkeːrandoː˺ʃi pa˹raba˺ru ʔu˹muikiʃijas˺sa](別れていく時は背後を振り返らないで行った方 < 行がばぞ > が諦めやすい < 思い切りやすい >)。˹トゥンケーリ˺　ミサカー　˹トゥンケールンドゥ　トゥンケールナ˺ティ　ア˹ゾー˺ル˹ツォー [˹tuŋkeːri˺ misakaː ˹tuŋkeːrundu tuŋkeːruna˺ti ʔa˹ʤoː˺ru˹tsoː](振り返ってよければ振り返るのだが、振り返るなと言われるんですよ)。˹トゥンケーレー˺　ミサムヌ [˹tuŋkeːreː˺ misamunu](振り返ればいいのに)。˺クナーティ　˹トゥンケーリ [˺kunaːti ˹tuŋkeːri](ここで振り返れ)。

˹トゥンザ˺ク [˹tunʤa˺ku] 【名】看病。病人の世話。養生。あれこれと漢方薬を煎じて投与し、看病すること。病人の手当てをすること。「とんじゃく(頓着)」の転訛したものか。ウ˹ヤ˺ヌ　˹トゥンザ˺クン　シカイ˹トゥ　シー　オーシタン [ʔu˹ja˺nu ˹tunʤa˺kuŋ ʃi̥kai˹tu ʃiː ʔoːʃitaŋ](親の看病もしっかりして差し上げた)。タ˹リム˺チ　˺ナレーラー　˺メー　˹トゥンザ˺コー　ナ˹ラ˺ヌ [ta˹rimu˺ʧi ˺nareːraː ˺meː ˹tunʤa˺koː na˹ra˺nu](柔らか過ぎて、だらりと垂れ崩れた餅は手当てが出来ない)。

˹トゥンジルン [˹tunʤiruŋ] 【自動】飛び出る。˺クナー　˹フン˺　ウトゥカー　˹トゥンジルンダ　トゥンジラン˺　トンナー　˺ウティバ [˺kunaː ˹ɸuŋ˺ ʔutukaː ˹tunʤirunda tunʤiran˺ tonnaː ˺ʔutiba](こ

こに釘を打つと飛び出るから、飛び出ない所に打てよ)。「サンシン˺　ピ˺クター　トゥンジ˺　ンジ　ブ˺ドゥル　シーベー [˺saŋʃim˺ pi̥˺kuta: tunʤi˺ ʔnʤi bu˺duru ʃi:be:](三線を弾いたらば飛び出して踊っている)。「トゥンジル˺　トンマー　マ˺ダ˺キティ　˺ウティ [˺tunʤiru˺ tomma: ma˺da˺kiti ˺ʔuti](飛び出るところは避け＜よけ＞て打て)。「トゥンジレー˺　ミサムヌ [˺tunʤire:˺ misamunu](飛び出れば良いのに)。マ˺ナ˺マ　トゥ˺ンジリ [ma˺na˺ma ˺tunʤiri](今飛び出ろ)。

「**トゥンズン [˺tunʤuŋ]** 【自動】飛び出る。突き出る。「飛び出づ＜下二段＞」の四段活用に転訛したもの。˺クナー　カ˺ニフン˺　ウトゥカー　「トゥンズン˺ティ　ウ˺ムータ˺ヌ　「トゥンザンバン [˺kuna: ka˺niɸuŋ˺ ʔutuka: ˺tunʤun˺ti ʔu˺mu:ta˺nu ˺tunʤambaŋ](ここに鉄釘を打つと突き出る＜飛び出る＞と思ったが、突き出ない＜飛び出ない＞よ)。トゥ˺ンジ˺　クン [˺tunʤi˺ kuŋ](突き出てくる＜飛び出てくる＞)。「トゥンズ˺　トンナー　「フン˺　ウ˺トゥ˺ナ [˺tunʤu˺ tona: ˺ɸuŋ˺ ʔu˺tu˺na](突き出る＜飛び出る＞所には釘を打つな)。マ˺ナ˺マ　「トゥンジェー˺　ミサムヌ [ma˺na˺ma ˺tunʤe:˺ misamunu](今突き出れば＜飛び出せば＞良いのに)。「トゥンジ [˺tunʤi](突き出よ＜飛び出よ＞)。

「**トゥンタティビリ [˺tuntatibiri]** 【名】そんきょ(蹲踞)。尻を地面につけずに腰を下ろし、両足で体を支えて座る姿勢。ム˺カ˺シェー　「パンタ˺サール　˺プソー　「トゥンタティビリ　シェー˺ティル　「イー˺ユン　ン˺コーッタ˺ル [mu˺ka˺ʃe: ˺panta˺sa:ru ˺pu̥so: ˺tuntatibiri ʃe:˺tiru ˺ʔi:˺jun ʔŋ˺ko:tta˺ru](昔は忙しい＜繁多な＞時は蹲踞をしながら御飯も召し上がられたものだ)。

「**トゥンタトゥン [˺tuntatuŋ]** 【自動】跳び立つ。席を蹴って立つ。さっと立つ。怒って席を立ち去る。「跳び立つ」の転訛したもの。マ˺ナ˺マ　「トゥンタトゥンティ　シー　ベー˺　ムヌバ　「トゥンタタン˺　ヨーニ　ウ˺ティシゥカシ˺タ [ma˺na˺ma ˺tuntatunti ʃi: be:˺ munuba ˺tuntataŋ˺ jo:ni ʔu˺tisi̥kaʃi̥˺ta](今まさに席を蹴って立とうとしているのを、席を立たないように落ち着かせた)。「トゥンタティ　パッタン˺ドゥ　「トゥンタトゥ˺　ピン　「フッツォーリ　ベー˺タ [˺tuntati pattan˺du ˺tuntatu˺ piŋ ˺ɸuttso:ri be:˺ta](席を蹴って行ったが、席を立つとき震えていた)。「トゥンタテー˺　ミサムヌ [˺tuntate:˺ misamunu](席を蹴って立てば良いのに)。「トゥンタティ˺バ [˺tuntati˺ba](席を蹴って立てよ)。

「**ドゥン˺チ [˺dun˺ʧi]** 【名】殿内。旧琉球国時代、間切の長であった˺カサ [˺kḁsa](頭)の家柄の邸宅。八重山では、˺メーラドゥンチ [˺me:radunʧi](宮良殿内)、イ˺サナキドゥンチ [ʔi˺sanakidunʧi](石垣殿内)などがある。˺メーラドゥンチ˺ナーヤ　˺ゾーンタヤーン　˺アン [˺me:radunʧi˺na:ja ˺ʤo:ntaja:ŋ ˺ʔaŋ](宮良殿内には屋根付きの門もあるよ)。

「**トゥンティカン˺ティ [˺tuntikan˺ti]** 【名】でこぼこ(凸凹)。跳び出たり窪んだり。跳び出たり引っ込んだりするさま。突きでたり引っ込んだり。「トゥンティカン˺ティ　「シー　ブー˺　ミチェー　ア˺ラキグリ˺サン [˺tuntikan˺ti ˺ʃi: bu:˺ mitʃe: ʔa˺rakiguri ˺saŋ](でこぼこしている道は歩きにくい)。「トゥンティカン˺ティ　「シー　ブー˺　ヌ˺キル˺ヌ　「パー˺ヤ　ヤ˺シ˺ルシル　˺トゥイティ　˺パー　タ˺トゥ˺タ [˺tuntikan˺ti ˺ʃi:bu:˺ nu˺kiru˺nu ˺pa:˺ja ja˺ʃi˺ruʃiru ˺tuiti ˺pa: tḁ˺to:t˺ta](でこぼこしている鋸(ノコ)の刃は鑢(ヤスリ)で＜ぞ＞研いで刃を尖らせ＜立て＞られた)。

「**トゥンティパー [˺tuntipa:]** 【名】出っ歯。そっぱ。マ˺ナ˺マー　「トゥンティパーン　ノーサ˺リンティバン˺ナー [ma˺na˺ma: ˺tuntipa:n no:sa˺rintiban˺na:](今は出っ歯も治されるそうだってねえ)。

「**トゥンディプス [˺tundipusu]** 【名】酉年生まれの人。「トゥンディプソー˺　トゥ˺ルヌ˺　カタチニ　イッ˺ケナ˺　パ˺タラクン˺ツォー [˺tundipu̥so:˺ tu˺runu˺ kḁtatʃini ʔik˺kena˺ pḁ˺tarakun˺tso:](酉年生まれの人は鳥のように非常によく働くそうだ)。

「**トゥンティフタイ [˺tuntiɸu̥tai]** 【名】おでこ。高く突き出た額。「飛び出額」の義。ヤ˺ラ˺ビ　「シェーン˺　ケンマー　「トゥンティフタイ˺　ヤ˺タンドゥ˺　ウ˺ブ˺プス　「ナッ˺ター　ア˺テーナーン˺　ナリ　「ナーン˺ワー˺ヌー [ja˺ra˺bi ˺ʃe:ŋ˺ kemma: ˺tuntiɸutai ˺ja˺tandu˺ ʔu˺bu˺pu̥su ˺nat˺ta: ʔa˺te:na:n˺ nari ˺na:ŋ ˺wa:˺nu:](子供のころはおでこであったが、大人になったら気付かなくなってしまったではないか)。

「**トゥンディマリ [˺tundimari]** 【名】酉年生まれ。酉年生まれの人。˺バン˺テナー　「トゥンディマリヌ˺　フ˺タール　ブン˺ダー [˺ban˺tena: ˺tundimarinu˺ ɸu̥˺ta:ru bun˺da:](私の家には酉年生まれが二人いるよ)。

「**トゥンティミー [˺tuntimi:]** 【名】出目。「飛び出目」の義。˺ヨーガルター　トゥンティミー˺　ナリティ　シ˺ラカタ˺チーン　「カウリ　ナー˺ヌ [˺jo:garuta: tuntimi:˺ nariti ʃi˺rakata˺ʧi:ŋ ˺kauri na:˺nu](痩せた

ので出目になって、容貌＜顔形＞も変わってしまった)。

ˈトゥンˈナ [ˈtunˈna] 【名】(植) あきののげし (秋の野芥子)。キク科の越年生野草。葉は羽裂、長楕円形。切ると白汁を出す。旱魃が続く夏季の野菜の取れない時期にも休耕畑で自生し、高さ約 60〜100 センチに成長し、繁茂する。葉は多少の苦味を伴うが、をカツオの頭のだし汁と煮込むとカツオのだし汁と苦味が調和して消夏食となった。魚の和え物や酢の物などの和え物にして生食すると消夏剤の効能があるといわれていた。ˈトゥンナーンˈ ˈパーバ カˈカイティˈ カˈツヌˈ スˈブルˈトゥ ˈネーシティˈ ンˈコーッˈタ [ˈtunnaːmˈ ˈpaːba kạˈkaitiˈ kạˈtsunuˈ suˈburuˈtu ˈneːʃi̥tiˈ ʔŋˈkoːtˈta](あきののげしは葉を捥(モ)いでカツオの頭と煮て召し上がられた)。

ˈドゥンˈナーン [ˈdunˈnaːŋ] 【形】動作が鈍い。鈍感である。ウˈレー サッˈコー ˈドゥンˈナーン [ʔuˈreː sakˈkoː ˈdunˈnaːŋ](その人は動作が非常に鈍い＜鈍感である＞)。ˈドゥク ˈドゥンナーˈヌ ウˈレーˈ タˈルンガキララヌ [ˈduku ˈdunnaːˈnu ʔuˈreːˈ taˈruŋgakiraranu](あまりにも鈍くて＜鈍感で＞、その人は頼りにならない)。ˈドゥク ˈドゥンˈナー プˈソーˈ タˈルガキララヌ [ˈduku ˈdunˈnaː pụˈsoːˈ taˈrugakiraranu](あまりにも鈍い＜鈍感な＞人は、頼りにならない)。ˈパンタリˈプソー ˈドゥンˈナーン [ˈpantariˈpụsoː ˈdunˈnaːŋ](太った人は動作が鈍い)。ウˈレーˈ ドゥク ˈドゥンナーˈヌ シゥˈカーラヌ [ʔuˈreːˈ duku ˈdunnaːˈnu si̥ˈkaːranu](彼はあまりにも鈍いので使えない)。ˈパンタルˈター ˈドゥンˈナー ˈナリ ˈナーˈヌ [ˈpantaruˈtaː ˈdunˈnaː ˈnari ˈnaːˈnu](太ったので動作が鈍くなってしまった)。

ˈトゥンナキン [ˈtunnakiŋ] 【名】鶏鳴の時刻。鶏の鳴く時刻。明け方。イˈチバンˈドゥル [ʔiˈtʃibanˈduru](一番どり) は丑の刻＜午前 2〜3 時＞頃から鳴き始め、ˈニーバンˈドゥル [ˈniːbanˈduru](二番どり) は寅の刻＜午前 3〜4 時＞頃から鳴き始め、ˈサンバンˈドゥル [ˈsambanˈduru](三番どり) は午前 4〜5 時頃から鳴き始める。夜明け間近になると、チˈリドゥル [tʃiˈriduru](一斉に鳴く鶏。ˈ連れ鶏」の義) になり、白々と夜があけ始める。一番鶏が鳴くと、悪霊や魑魅魍魎(チミモウリョウ)の類は活動を停止すると信じられていた。子供が夜中に目覚めると、暗闇の恐怖から逃れるために、一番鶏鳴の声を待ち続けた。一番鶏鳴の後は夜中に使いに出されても怖いことはなかった。ˈトゥンナキンヌ サンバンドルˈヌ ˈアトゥ チˈリドゥルヌˈ ナˈクˈカー シˈラーシラーˈシ ˈユーˈヤ ガˈリス [ˈtunnakinnu sambanduruˈnu ˈʔatu tʃiˈriduruˈ naˈkuˈkaː ʃiˈraːʃiraːˈʃi ˈjuːˈja gaˈrisu](鶏鳴の時刻の三番どりの後に連れどりが鳴くと、白々と夜が明けるよ)。

ˈトゥンˈバー [ˈtumˈbaː] 【名】おてんば (お転婆)。でしゃばり女。クˈヌ ッふァーˈ ドゥク ˈトゥンˈバー ˈナリティ ビˈコーンッふァンˈ カタチニル ˈブー [kuˈnu ffaːˈ duku ˈtumˈbaː ˈnariti biˈkoːnffaŋˈ kạtatʃiniru ˈbuː](この子は、あまりにもお転婆で＜お転婆になって＞、男の子のようだ＜ようにいる＞)。

ˈトゥンバーミドゥˈム [ˈtumbaːmiduˈmu] 【名】お転婆娘。ˈお転婆女」の義。ˈトゥンバーミドゥˈモー ビˈコーンッふァトゥˈ マーˈン カウランバン [ˈtumbaːmiduˈmoː biˈkoːnfftuˈ maːˈŋ kaurambaŋ](お転婆娘は男の子と全然＜どこも＞変わらないよ)。

ˈドゥンˈブリ [ˈdumˈburi] 【名】どんぶり (丼)。どんぶりばち。深くて厚手の陶器の鉢。ソバなどを盛るのに用いる大きな碗。イˈサナケーˈ パル ˈピンマー ˈドゥンˈブリナール ˈスバー イˈリˈ ッˈふァーソーッˈタ [ʔiˈsanakeːˈ paru ˈpimmaːˈdum ˈburinaːru ˈsubaː ʔiˈriˈ fˈfaːsoːtˈta](石垣島へ行く時は、どんぶり鉢にそばを入れて食べさせてくださった)。

ˈトゥンマールン [ˈtummaːruŋ] 【他動】田畑を見回る。あちらこちらを歩き回る。立ち回る。奔走する。ˈ飛び回る」の転訛したもの。パˈタˈキ ˈトゥンマールンティ ゲータˈヌ アˈミˈヌ ˈフイ ˈトゥンマーラランシェン [pạˈtaˈki ˈtummaːrunti geːta ˈnu ʔaˈmiˈnu ˈɸui ˈtummaːraraŋʃeŋ](畑を見回ろうと行ったが、雨が降って見回られなかった)。ˈトゥンマーˈリ ミリˈヨー [ˈtummaːriˈ miriˈjoː](＜畑＞を見回ってみなさいよ)。ˈワッˈテヌ パˈタˈキ ˈバーˈケー ˈトゥンマールˈ クトー ナˈランˈシェン [ˈwatˈtenu pạˈtaˈki ˈbaːˈkeː ˈtummaːˈru ˈkụtoː naˈraŋˈʃeŋ](貴方の家の畑までは見回ることは出来なかった)。ˈトゥンマーレーˈ ミサムヌ [ˈtummaːreːˈ misamunu](見回ればいいのに)。ˈピーンピンˈ ヤーˈディンˈ パˈタˈキ ˈトゥンマーリ [ˈpiːmpiŋˈ jaːˈdimˈ pạˈtaˈki ˈtummaːri](毎日必ず畑を見回れ)。

トˈクˈル [tụˈkuˈru] 【名】所。場所。特殊な用法。普

通はˈトン [ˈtoŋ](所) という。トゥˈクルˈヌ < シˈマˈヌ > ˈカールˈカー ˈムニン ˈカールン [tu̥ˈkuruˈnu < ʃiˈmaˈnu > ˈkaːruˈkaː ˈmuniŋ ˈkaːruŋ](所が変われば言葉 < 品・物 > も変わる。< 諺 >)。

トˈシヌˈシー **[tu̥ˈʃinuˈʃiː]** 【名】年末。年の暮。「年の瀬」の義。石垣方言からの借用語か。クˈトゥシンˈ ユˈドゥマˈナー トゥˈシヌˈシー ンˈカイヨーˈリ ˈシーブヌˈ スˈコールン サンˈカー ナˈラˈヌ [ku̥ˈtuʃiŋˈ juˈdumaˈnaː tu̥ˈʃinuˈʃiː ʔŋˈkaijoːˈri ˈʃiːbunuˈ su̥ˈkoːrun saŋˈkaː naˈraˈnu](今年もはや < よどまず > 年の瀬を迎えられ、お歳暮の準備もしなければならないよ)。

ˈトヌスクヌ ˈヤンˈマー **[ˈtunusu̥kunu ˈjamˈmaː]** 【名】人名。登野城の姉さん (嫂(アニヨメ))。兄嫁)。ˈトヌスクヌ ˈヤンˈマーン ブˈドゥル ゾーˈジ ヤˈローッˈタ [ˈtunusu̥kunu ˈjamˈmaːm buˈduru ʤoːˈʤi jaˈrotˈta](登野城の姉さんも踊りが上手であられた)。

ˈドブ **[ˈdobu]** 【名】汚水が溜まっているところ。台所の流しの水が溜まっている溝。排水溝などに下水が溜まっているところ。ˈドブナー ˈアウバイヌˈ シディティ ンˈカーラ [dobunaː ˈʔaubainuˈ ʃiditi ʔŋˈkaːranu](ドブに青蝿が発生して近寄れない)。

ˈドンカー **[ˈdoŋkaː]** 【名】びっこ (跛)。ˈシトンカー [ˈʃi̥toŋkaː](びっこ) ともいう。イˈクˈサナ ˈティップˈシ ˈパン イˈラリティルˈ ドンカー ナレーˈダー [ʔiˈkuˈsana ˈtippuˈʃi ˈpaŋ ʔiˈraritiruˈ doŋkaː nareː ˈdaː](戦争中に鉄砲で足を撃たれ < 射られ > て < ぞ > びっこになったのだ)。

ˈドングペンˈグ **[ˈdoŋgupeŋˈgu]** 【名】道具類。

ˈドントン **[ˈdontoŋ]** 【副】どきどき。どきんどきん。運動や興奮、恐怖などで激しく動悸(ドウキ)するさま。胸がどきどきするさま。ˈンーニˈ ドントン ˈシーˈミリ ˈベーララˈヌ [ˈnːniˈ dontoŋ ˈʃiːˈ miri ˈbeːrara ˈnu](胸が高鳴って < どきんどきんして > 見ておれない)。

ˈドントン **[ˈdontoŋ]** 【名】幼児語。発動機船。焼玉エンジンの音の形容から派生したもの。ˈドントン ˈミリン パラˈナー [ˈdontom ˈmirim paraˈnaː](お船を見に行こうねえ)。

ˈドンˈナイ **[ˈdonˈnai]** 【副】次次と。どんどん。次から次へと。ˈジンˈマー ミˈチˈ ブーバ ˈドンˈナイ シゥˈカイˈ ミサン [ˈʤimˈmaː miˈʧiˈ buːba ˈdonˈnai si̥ˈkaiˈ misaŋ](お金はたくさんある < 満ちている > から、どんどん使っていいよ)。

ナ

˥-ナ [˥-na] 【終助】～な。動詞の連体形に下接して、禁止を表す。˩ワー　ジー˥　カ˩ク˥ナ [˩waː ʤiː˥ kạ ˩ku˥na](君は字を書くな)。トゥ˩ブナ [tu˩buna](飛ぶな)。マ˩トゥ˥ナ [ma˩tu˥na](待つな)。ユ˩ム˥ナ [ju ˩mu˥na](読むな)。ス˩ナ˥ヨー [su˩na˥joː](するなよ)。シ˩ヌナ [ʃi˩nuna](死ぬな)。トゥ˩ル˥ナ [tu˩ru˥na](取るな)。バ˩ラウナ [ba˩rauna](笑うな)。˩クーナ [˩kuːna](越えるな)。˩クー˥ナ [˩kuː˥na](来るな)。˩クー˥ナ [˩kuː˥na](漕ぐな)。˩クーナ [˩kuːna](越えるな)。ウ˩キル˥ナ [ʔu˩kiru˥na](起きるな)。˩カンガウ˥ナ [˩kaŋgau˥na](考えるな)。ヤ˩ミ˥プソー　シ˩グトー˥　ス˩ナ [ja˩mi˥pụso: ʃi˩guto:˥ su˩na](病人は、仕事はするな)。カイ˩ブ˥　トンナー　ブ˩ナ˥ヨー [˥kaibu˥ tonna: bu˩na˥joː](こんな所には居るなよ)。

˥ナー [˥naː] 【名】縄。イ˩ガナー [ʔi˩ganaː](烏賊釣り縄、直径約 1、5 ミリの縄)、サ˩バナー [sa˩banaː](鱶釣り用の、直径約 4～5 ミリの縄)、イ˩ズホーシ˥ナー [ʔi˩ʤuhoːʃi˥naː](魚釣り用の直径約 1 ミリ～1、5 ミリの縄)、シ˩ミ˥ナー [ʃi˩mi˥naː](墨縄。墨壷の糸車に巻いてある、直径約 1 ミリの細い縄) などのように、˥シナ [˥ʃina](綱、直径約 10 ミリ以上) よりは細く、˥イトゥ [˥ʔitu](糸、直径約 0、5 ミリ以下) より太い、直径約 1 ミリから 5 ミリの太さに綯ったもの。サバナーには豚の血を繰り返し染めて乾燥させ、蒸してあるので黒光りしており、ナイロン縄のように硬くて強く、手繰っても縺(モツ)れないようになっている。˩ナー˥マ [˩naː˥ma](小さな縄)。˥ナー　˩トー˥ルン [˥naː ˩toː˥ruŋ](縄を手繰る)。˥ナー　˥パウン [˥naː ˥pauŋ](縄を這わせる < 長く延ばせる。張る >)。˥ナー　˥ナウン [˥naː ˥nauŋ](縄を綯(ナ)う)。

˥ナー [˥naː] 【名】(植) なっぱ。˩菜」の義。葉菜一般にいう。˩アウナー [˩ʔauna:](青野菜)、ッ˩ス˥ナー [s ˩su˥na:](白菜)、˩ナーン˥パー [˩na:m˥pa:](菜っ葉) ともいう。シ˩マ˥ナー [ʃi˩ma˥na:](島産の野菜。島菜)。ヤ˩マトゥ˥ナー [ja˩matu˥na:](やまと菜。本土産の野菜。品種改良された野菜)。シ˩マナー˥ヤ　ン˩メー˥マ　ン˩ガー˥ン　˥アリ　˩パーン　コー˥ル　˩アッタ˥ル [ʃi˩mana:˥ja ʔm˩me:ma˥ ŋ˩ga:˥ŋ ˥ʔari ˩pa:ŋ ko: ˥ru ˩ʔatta˥ru](島産の菜っ葉 < 島菜 > は少し苦くもあり、葉も硬かった < 硬くぞあった >)。

˩ナー [˩naː] 【名】名。名前。ヤ˩ラビ˥ナー [ja˩rabi˥ na:](童名。家で呼ぶ名。長男は父方の祖父の名を、長女は父方の祖母の名を、次男は母方の祖父の名を、次女は母方の祖母の名を受け継いだ)。˩ヤー˥ナー [˩ja:˥na:](家の名。ヤ˩ラビ˥ナー < 童名 > ともいう)。˩ガッコー˥ナー [˩gakko:˥na:](学校で呼ばれる名前。戸籍上の正式の名前。ヤ˩マトゥ˥ナー [ja˩matu˥na:]< 大和式の名前 > ともいう)。˩ワー˥　ヤ˩ラビナー˥ヤ　˥ヌーティル　ア˩ル˥ワ [˩waː˥ ja˩ rabina:˥ja ˥nu:tiru ʔa˩ru˥wa](君の童名は何というか < 何とぞあるか >)。

˩ナー [˩naː] 【名】各自。おのおの。˩ナー　メーメー [˩na: me:me:](各自銘銘。各自それぞれ)。シ˩グトー　ナーナー　メーメー˥シ　ト˩ミ˥リ [ʃi˩guto: na:na: me:me:˥ʃi tu˩mi˥ri](仕事は、おのおの各自で探せ)。˩ナー　ブンブンヌ˥　キ˩ナイヌ˥　ク˩トゥ˥ル　˥ナル　プ˩スヌ　ソーバー˥ケー　ナ˩ラ˥ヌ [˩na: bumbunnu˥ ki˩nainu˥ kụ˩tu˥ru ˥naru pụ˩sunu so:ba: ˥ke: na˩ra˥nu](各自銘銘の家庭のことしか出来ない < ことが出来る >、他人の心配までは出来ない) のように、重言 (畳語) に上接して用いられる。

˥ナー [˥naː] 【助動】打消しの助動詞˥ヌ [˥nu](～ない) の連用形。動詞の未然形につく。「～ずに」。˩～ないで」の意。明治生まれの古老が使う。ハ行四段系動詞につくときは、アクセントは高平になる。ッ˩ふァーナー˥　ア˩ラ˥ヌ　ッ˩ふァイル　スーンドゥ˥　マ˩ナ˥マー　ッ˩ふァーヌ [f˩fa:na:˥ ʔa˩ra˥nu f˩ fairu su:ndu˥ ma˩na˥ma: f˩fa:nu](食べないではない < 食べなくはない >、食べるんだが、今は食べない)。ノー˩ン˥　ッ˩サナー˥　パリ　˩ナー˥ヌ [no:˩n ˥ s˩sana:˥ pari ˩na:˥nu](何にも知らずに行ってしまった)。カ˩カ˥ナー　ア˩ラ˥ヌ　カ˩キ˥ル　˩スンドゥ˥

イ˩ザリティル˥　カ˩カ˥ナー　˩ベー˥ル [kạ˩ka˥na: ʔa˩ra˥nu kạ˩ki˥ru ˩sundu˥ ʔi˩ʤaritiru˥ kạ˩ka˥na: ˩be:˥ru](書かないではない、書くが＜書きぞするが＞叱られて＜ぞ＞書かずにいるのだよ)。

˥ナー [˥na:] 【格助】～に。～で。1名詞について場所を表す。ス˩ム˥チェー　˥スクダイヌ　˩ウイ˥ナー　シ˩キ˥リ [su˩mu˥ʧe: ˥sụkudainu ˩ʔui˥na: ʃị˩ki˥ri](書物は机の上に置きなさい)。˥マナー　˥シケーワ [˥mana: ˥ʃị̊ke:wa](何処に置いてあるか)。˥クナーン　˥シキ˥ミサン [˥kuna:ŋ ˥ʃị̊kimisaŋ](ここにも置いてよい)。˥クナール　シ˩キ˥ル [˥kuna:ru ʃị̊˩ki˥ru](ここにが＜ぞ＞置く)。ス˩ナカナー˥ル　˥ユー　ア˩サブタ [su˩nakana:˥ru ˥ju: ʔa˩sabuta](海で＜ぞ＞よく遊んだ)。2数詞や時を表す名詞について動作・作用の起きる時間を表す。ヤー˩ディン˥　ゴ˩ジ˥ナー　クー˩ヨー [ja:˩diŋ˥ go˩ʤi˥na: ku:˩jo:](きっと＜必ず＞五時に来なさいよ)。ア˩カ˥シキンナー　˥フネー　˥ンジ　˥パレーン [ʔa˩ka˥ʃị̊kinna: ˥ɸune: ˥ʔnʤi ˥pare:ŋ](暁に船は出港していった)。ワ˩ザットゥ　パンタ˥サル　˥ピンナー　˩キー˥ル　˩オス˥ク　シ˩ラリ　ベー˥ツォー [wa˩ʤattu panta˥saru ˥pinna: ˩ki:˥ru ˩ʔosụ˥ku ʃi˩rari be:˥tso:](故意に忙しい時に来て＜ぞ＞迷惑かけられている＜困らされている＞そうだ)。3動作、作用の原因、理由となる名詞について原因・理由を表す。ク˩ヌ　キー˥ヤ　˩クンデー˥ヌ　カ˩ジ˥ナール　˩トー˥レーツォー [ku˩nu˥ ˩ki:˥ja ˩kunde:˥nu ka˩ʤi˥na:ru ˩to:˥re:tso:](この木は、このあだ＜此の間＞の台風で＜ぞ＞倒れたそうだ)。˩クンドゥ˥ヌ　パ˩ナシキナー˥ル　シ˩ラレー˥ツォー [˩kundu˥nu pa˩naʃị̊kina:˥ru ʃi˩rare:˥tso:](今度の流行病＜風邪＞で＜ぞ＞やられたのだそうだ)。

˥ナー [˥na:] 【格助】～にして。～しては～。連用形に下接して、「同じ動作を繰り返し、しきりに～する」の意を表す。古老の使用語。˩クイ˥ナー　˥クイ [˩kui˥na: ˥kui](漕ぎに漕いで、しきりに漕いで)。˩トゥイナー　トゥイ　シェー˥ティル　ヤッ˩トゥ˥シ　サ˩バ˥キ　˩クー˥タ [˩tuina: tui ʃe:˥tiru jat˩tu˥ʃi sa˩ba˥ki ˩ku:˥ta](尋ね尋ねて＜あっちこっち尋ね回って＞やっとのことで捌(サバ)いて＜探し当てて＞きたのだよ)。

˥ナー [˥na:] 【副助】1～ずつ。分量を表す語＜数詞＞に付いて、一定量を均等配分する意を表す。˩タンガ˥シ　フ˩ターチナー˥　トゥルカー　˩ムールン　アーラサ˥リン [˩taŋga˥ʃi ɸụ˩ta:ʧina:˥ turuka: mu:˩ruŋ ʔa:rasa˥riŋ](一人で二つずつ取ったら皆に配分できる＜配られる＞)。2体言＜助数詞＞に付いて、程度や分量の許容の基準を示す。～ぐらい。プ˩スケンナー˥ヤ　ア˩サビン˥　ケー　˥ミサムヌ [pụ˩sukenna:˥ ja ʔa˩sabiŋ˥ ke: ˥misamunu](一度ぐらいは遊びに来ればいいのに)。

˩ナー [˩na:] 【終助】～なあ。～ねえ。文末で活用語の終止形や終助詞˥サー [˥sa:](さ) に付いて、念押しや、感動、相手との共感を表す。1動詞の終止形につく。˩クン˥ドー　ノー˩シン˥　パ˩タラクントナー [˩kun˥do: no:˩ʃim˥ pạ˩tarakunt̪-na:](今度はきっと働くね)。ア˩ミ˥ヌ　˥フーカー　パ˩タ˥キ　˩カイ˥スン˩ナー [ʔa˩mi˥nu ˥ɸu:ka: pạ˩ta˥ki ˩kai˥sun˩na:](雨が降ったら＜きっと＞畑を耕す＜よ＞ねえ)。2助動詞の終止形に付く。˩サッ˥コー　˩ガン˥ゾー　プ˩スユントナー [˩sak˥ko: ˩gan˥ʤo: pụ˩su junt̪-na:](非常に頑丈な人だ＜である＞ねえ)。3終助詞˥-サ [˥-sa](～さ。～よ) に付いて念押し、感動を表す。˩キュー˥ヤ　˩サッ˥コー　˥アツァンサ˩ナー [˩kju:˥ja ˩sak˥ko: ʔatsansa˩na:](今日は非常に暑いさ＜よ＞ねえ)。ウ˩ヌ˥　ミ˩ドゥ˥モー　サッ˥コー　ア˩バ˥レーサ˩ナー [ʔu˩nu˥ mi˩du˥mo: ˩sak˥ko: ʔa˩ba˥re:sa˩na:](この女は非常に美しいさ＜よ＞ねえ)。

˩ナー [˩na:] 【感】ねえ。ほらねえ。でしょう?。文頭、文末に立ち、注意を促し、同意、確認の意味を表す語。˩ナー˥　バー　ア˩ズタ　トゥー˥ルミ˩ツォー [˩na:˥ ba: ʔa˩ʤuta tu:˥rumi˩tso:](ほらねえ、私が言った通りでしょう)。˩ナー˥　ヤー˩ディン　マーズン˥　パラ˩ナー [˩na:˥ ja:˩dim ma:ʤum˥ para˩na:](ねえ、必ず一緒に行こうね)。

˥ナー [˥na:] 【終助】～か。終止形につく。疑問の意を表す。九十歳以上の古老が使用する。˥パルンナー　パ˩ラン˥ナー　˩ヌー˥シヤー　˩パー˥ク　˩ピントー　シリ [˥parunna: pa˩ran˥na: ˩nu:˥ʃija: ˩pa:˥ku ˩pinto: ʃiri](行くのか、行かないのか、どうかね。早く返答しろよ)。

˥ナー [˥na:] 【助】助詞連語。～には。格助詞ナ [na](～に) に取り立ての係助詞ヤ [ja:](～は) が下接して、ナー [˥na:](～には) と音韻変化したもの。˥クナー　ノー˩ン　ナー˥ヌ [˥kuna: no:˩n na:˥nu](此処には何もない)。

˩ナー [˩na:] 【接頭】長～。˩ナー˥ン [˩na:˥ŋ](長い) の語幹。˩ナー˥ティー [˩na:˥ti:](長い手)。˩ナーパマ [˩na:pama](伊武田の浜の地名。長い浜)。˩ナーシビ [˩na:ʃibi](長尻。長座)。˩ナーナキ [˩na:naki](長泣き)。˩ナーヤン [˩na:jaŋ](長患い。長病み)。ミ˩ドゥム˥ヌ

プ˞スン˜ヤーナー　˞ナーシビ　スー˜カー　˞ムンドー˜ヌ　˜ムトゥティ　ア˞ゾーッ˜タ [mi˞dumu˜nu pu̥˞sun˜ja:na: ˞na:ʃibi su:˜ka: ˞mundo:˜nu ˜mututi ʔa˞ʤo:t˜ta](女が余所の家で長座すると家庭騒動の本と言われた)。

˞ナーアミ [˞naːʔami] 【名】長雨。若年層は、ナ˞ガアミ [na˞gaʔami](長雨) ともいう。˞ナーアミヌ˜　フイティ　˞ウー˜キカーキ　ナ˞ラ˜ヌ [˞naːʔaminu˜ ɸuiti ˞ʔuː˜kikaːki na˞ra˜nu](長雨が降って身動き＜動き回ること＞が出来ない)。˜プスイ　ナ˞ク˜　ッ˞ふァー˜　ブ˞ラーヌ˜　プスイ　˜フー　˞ナーアミン　ナー˜ヌティル　ム˞カ˜シムネー　˜アル [˜pu̥sui na˞ku˜ f˞faː˜ bu˞raːnu˜ pu̥sui ˜ɸu: ˞naːʔamin naː˜nutiru mu˞ka˜ʃimuneː ˜ʔaru](一日中泣く子はいない。一日中降る長雨もないと昔の人の言葉にある)。

ナー˞イ [naː˞ji] 【副】1ただ。もっぱら。ひたすら。そのままずっと。何もしないでじっと。シ˞グトー˜　サ˞ムティ˜　ナー˞イ˜　ア˞サビ　ベー [ʃi˞guto:˜ sa˞muti˜ na:˞i˜ ʔa˞sabi beː](仕事はしないで、ひたすら＜ずっと＞遊んでいる)。ナー˞イ　ベーラン˜ドーシ　˞パー˜ク　˞シー [naː˞i beːran˜doːʃi ˞paː˜ku ˞ʃiː](何もせずにじっとしていないで早く仕事をせよ)。2本気でなく、形だけ。ただたんに。仮に。˞フントー˜ヤ　ア˞ラ˜ヌ　ナー˞イティル˜　ア˞ジ　ミッタ˜ル [˞ɸunto:˜ja ʔa˞ra˜nu naː˞i tiru˜ ʔa˞ʤimitta˜ru](本気ではない。ただ仮に、ということで言ってみただけだ)。

ナー˞イ˜　スクン [naː˞ji˜ su̥kuŋ] 【連】放置しておく。そのままにしておく。ヤ˞ラビ˜ヌ　ギュー˞サ˜　ナ˞カバン˜　ウ˞レー˜　ナー˞イ˜　スクン˞ダレー [ja˞rabi˜nu gjuː˞sa˜ na˞kabaŋ˜ ʔu˞reː˜naː˞ji˜ su̥kun˞dareː](子供がいくら泣いても彼は放置しておくんですよ)。

ナー˞イヌ [naː˞jinu] 【連体】ただの。並みの。普通の。ウ˞ヌ˜　プ˞ソー˜　ナー˞イヌ˜　プ˞ソー˜　ア˞ラ˜ヌ　˞デージ˜ヌ　˞シン˜シー　ヤ˞ロー˜ル˞ダー [ʔu˞nu˜ pu̥˞soː˜ naː˞jinu˜ pu̥˞soː˜ ʔa˞ra˜nu ˞deːʤi˜nu ˞ʃiŋ˜ʃiː ja˞roː˜ru˞daː](この人はただの＜普通の＞人ではない。大変偉大な先生でいらっしゃる＜であられる＞ぞ)。

˞ナーウティ˜プス [˞naːʔuti˜pu̥su] 【名】有名な人。高名な人。名高い人。「名うて人」の義。ウ˞レー˜　ウ˞ヤ˜キプスティ　ア˞ザリ　ブー　ヤイマズーヌ　ナーウティ˜プス˞ゲ˜ラ [ʔu˞reː˜ ʔu˞ja˜kikipu̥suti ʔa˞ʤari buː jaimaʤuːnu naːuti˜pu̥su˞ge˜ra](彼は金持ちといわれているところの八重山中の有名な人さ)。

˞ナー˜　ウトゥン [˞naː˜ ʔutuŋ] 【連】有名になる。名前が鳴り響く。名前が響き渡る。イ˞チ˜バン　˜ナルカー　˜シキン　トゥ˞ユマ˜シ　˞ナー˜　ウトゥン [ʔi˞ʧi˜ban ˜naruka: ˜ʃi̥kin tu˞juma˜ʃi ˞naː˜ ʔutuŋ](一番になると世間に響き渡って有名になる)。

˞-ナー˜カ [˞-naː˜ka] 【副助】～やら。～か。1疑問を表す語について、はっきりと特定しない、不確かなものごとを表す。ター˞ンナー˜カ　˜キー　ッ˞ふィーララ˞ヌー [taː˞nnaː˜ka ˜ki: f˞fiːrara˞nuː](誰か来てもらえ＜呉れられ＞ないか)。ノー˞ンナー˜カ　ッ˞ふァーリムノー　ナーン˜カヤー [noː˞nnaː˜ka f˞faːrimuno: naːŋ˜kajaː](何か食べられる＜喰える＞ものはないかねえ)。2さらに格助詞˜-ナー [˜-naː](～に) が付く。ウ˞ヌアタ˜ロー　マー˞ンナー˜カナー　ア˞リ˜スパジ [ʔu˞nuʔata˜ro: maː˞nnaː˜kana: ʔa˞ri˜su˜paʤi](それぐらい＜そのくらい＞は何処かにあるはずだ)。3さらに格助詞˜-ラ [˜-ra](～から) に係助詞˜-ン [˜-ŋ](～も) の付いた助詞連語が付いて強調表現をつくる。ウ˞ヌアタ˜ロー　マー˞ンナー˜カーラン　カ˞ラリス˜ミー [ʔu˞nuʔata˜ro: maː˞nnaː˜kaːraŋ ka˞rarisu˜miː](その程度＜それぐらい＞は何処ぞから＜何処やらから＞でも借りられますよね)。

˞ナー˜カウ [˞naː˜kau] 【名】長い線香。˞ピーマチカウ [˞piːmatʃikau](日待ち香。長時間焚く線香) とタ˞キカウ [tḁ˞kikau](竹ひごで作った線香) がある。˞ナー˜カウ　˜シキ　タ˞ティ˜リバ [˞naː˜kau ˜ʃi̥ki tḁ˞ti˜riba](長い線香を焚いて＜点けて＞立てなさいよ)。

˞ナー˜サ [˞naː˜sa] 【名】長さ。若年層は、ナ˞ガ˜サ [na˞ga˜sa](長さ) ともいう。˞トゥーサ　ナーサ˜ラーン　タカー˞ニン　オー˜レーン [˞tuːsa naːsa˜raːŋ takaː˞niŋ ʔoː˜reːŋ](遠方からも遠い所からもたくさんいらっしゃっている)。˞ナー˜サ　パ˞カ˜リ　˜ミリ [˞naː˜sa pḁ˞ka˜ri ˜miri](長さを測ってみなさい)。

˞ナー　シーシ [˞naː ʃiːʃi] 【連】各自でしながら。銘銘のやり方。それぞれの仕方。キ˞ナイヌ˜　ム˞ティ˜ヨーン　˞ナー　シーシ　シー˜ヨーン　ア˞リ˜ブ [ki˞nai˜ mu˞ti˜joːn ˞naːʃiːʃi ʃiː˜joːŋ ʔa˞ri˜bu](家庭の運営方法＜持ち方＞にも銘銘の仕方がある)。

˞ナーシカ˜ク [˞naːʃi̥ka˜ku] 【名】長方形。「長四角」の義。˜ヤドゥン　˞ソージン　ナーシカ˜クニル　ス˞クラ˜リ　˞ブー˜ティムカーヤ [˜jaduŋ ˞soːʤin naːʃi̥ka˜kuniru su̥˞kura˜ri ˞buː˜timukaːja](戸も障子も長方形に＜ぞ＞造られているというもんだよ)。

˹ナーシキ˺ウヤ **[˹naːʃi̥ki˺ʔuja]** 【名】名付け親。˹ワー　ナーシキ˺ウヤー　˹タール˺　ヤ˹ロール˺ワ [˹waː naːʃi̥ki˺ʔujaː ˹taːru ˺ ja˹roːru˺wa](君の名付け親はどなたで＜あられます＞すか)。

˹ナーシキ˺ヨイ **[˹naːʃi̥ki˺joi]** 【名】名付け祝い。命名祝い。生後十日前後に命名して仏前、神前に報告し、内祝(ウチイワ)いをした。ッ˹ふァヌ˺　マ˹リティ　トゥッカブカラ˺ナー　˹ナー˺　シキティ　ウ˹ヤプス˺ヌ　マイ　˹カンヌ˺マイン　ッ˹サリティ˺　ヨイ　˹ソーッ˺タ [f˹fanu˺ ma˹riti tukkabukara˺naː ˹naː˺ ʃi̥kiti ʔu ˹japusu˺nu ˺mai ˹kannu˺ mai s˹sariti˺ joi ˹soːt˺ta](子供が生まれて十日ごろに名前を付けて、先祖の前や神様の前にお知らせして＜申し上げて＞お祝いをされた)。

˹ナー˺　シ˹キ˺ルン **[˹naː˺ ʃi̥˹ki˺ruŋ]** 【連】命名する。名前を付ける。サ˹クシ˺ヌ　ビ˹コーンッふァ˺ナーヤ　˺アブジェー　˹ナー˺　シ˹キ˺ルン [sḁ˹kuʃi˺nu bi˹koːŋffa˺naːja ˺ʔabuʤeː ˹naː˺ ʃi̥˹ki˺ruŋ](嫡子(チャクシ)の男の子には祖父の名前をつける)。ジ˹ナンヌ　ナーヤ˺　ブ˹ネーカタヌ˺　アブジェー　˹ナーバ　イール˺タ [ʤi˹nannu naːja˺ b˹neːkatanu˺ ʔabuʤeː ˹naːba ʔiːru˺ ta](次男は母方の祖父の名前をもらった)。

˹ナーシジキ **[˹naːʃiʤiki]** 【名】長続き。ヤ˹ラビ˺ヌ　ム˹タビ˺ムノー　˹ナーシジキ˺　サ˹ヌ [ja˹rabi˺nu mu ˹tabi˺muno: ˹naːʃiʤiki˺ sa˹nu](子供の玩具(ガング)は長続きしない)。

˹ナーシニ **[˹naːʃini]** 【名】ながすね (長脛)。足の長い人。身長の高い人。˹アッ˺タニ　フ˹ドゥビティ　ナーシニ˺　ナリ　˹ベー [˹ʔat˺tani ɸu˹dubiti naːʃini ˺ nari˹beː](急に成長して身長の高い人＜長脛＞になっているよ)。

˹ナーシビ **[˹naːʃibi]** 【名】長座(チョーザ)。長居。他人の家を訪ねて長くいること。「長尻」の義。酒飲みの長座は、ナ˹マシ˺キ　˹スン [na˹maʃi̥˺ki ˹suŋ](焦げ付く) という。女性が他家で長居することは嫌われた。ミ˹ドゥ˺モー　プ˹スン˺ヤーナ　˹ナーシビ　スーモー˺　ア˹ラ˺ヌティ　ナ˹ラー˺ソーッタル [mi˹du˺moː pu̥˹suŋ˺ ja:na ˹naːʃibi suːmoː˺ ʔa˹ra˺nuti na˹raː˺soːttaru](女は他家で長居するものではないと教えられたものだ)。

˹ナーシビー **[˹naːʃibiː]** 【名】海底地名。干瀬の名。西表島伊武田の北にある干瀬の˹ダイ˺クビー [˹dai˺ kubiː] の東側にある干瀬の名。鳩間島漁業組合の˹イー˺シ [˹ʔiː˺ʃi](角又) の養殖地であった。˹ナーシビヌ˺　カドゥ˹バー˺キン　˹イー˺シ　˺トゥリン　パ˹リ˺シタ [˹naːʃibinu˺ kadu˹baː˺kiŋ ˹ʔiː˺ʃi ˺turim pa˹ri˺ ʃi̥ta](ナーシビ干瀬の角まで角マタを採取しに行ったものだ)。

˹ナー˺シラ **[˹naː˺ʃira]** 【名】面長。うまずら (馬面)。長い顔。「ながつら＜長面＞」の義。˹ウン˺ネヌ　˹タックイヤー　ナー˺シラティ　ア˹ザリ　ブー [˹ʔun˺nenu ˹takkuija: naː˺ʃirati ʔa˹ʤari buː](あの家の血統は面長の顔と言われている)。

˹ナーズー **[˹naːʤuː]** 【名】たこ (凧) の尾の長い方。ブ˹ネーズー [bu˹neːʤuː](「母親尾」の義) ともいう。短い尾は、ッ˹ふァズー [f˹faʤuː](「子供尾」の義) という。˹ナーズーヤ˺　ン˹メーマ˺　シ˹ミ˺リ [˹naːʤuːja˺ ʔm˹meːma˺ ʃi˹mi˺ri](凧(タコ)の長い尾は少々短くせ＜詰め＞よ)。

˹ナー˺スン **[˹naː˺suŋ]** 【他動】なえ (萎え) させる。萎ナやす。ぐったりさせる。柔らかくする。˹ナイ˺ルン [˹nai˺ruŋ](萎える＜自動＞) ともいう。ヤ˹サイ˺ヤー　˹ナーサン˺ヨーニ　ミ˹ジ˺ナ　シ˹キ˺バ [ja ˹sai˺ja: ˹naːsaɲ˺joːni mi˹ʤi˺naː ʃi̥˹ki˺ba](野菜は萎えさせないように水に浸けなさいよ)。ミ˹ジ˺ナ　シゥ˹カン˺カー　˹ナー˺スン˹ダー [mi˹ʤi˺naː si̥˹kaŋ˺kaː ˹naː˺sun˹daː](水に浸けないと萎えさせるよ)。˹ナー˺ス　˺クトー　ナ˹ラ˺ヌ [˹naː˺su ˺ku̥toː na˹ra˺nu](萎えさせてはならない。萎えさせることは出来ない)。˹ナー˺シェー　˺ミサムヌ [˹naː˺ʃeː ˺misamunu](萎えさせれば良いのに)。˹マー˺ビン　˹ナー˺シ [˹maː˺bin ˹naː˺ʃi](もっと萎えさせなさい)。

˹ナー˺ダニ **[˹naː˺dani]** 【名】菜種。パ˹タ˺キナー　˹ナー˺ダニ　ウ˹ラ˺シティ　イ˹ブ˺　ス˹コール　シート　ヨー [pḁ˹ta˺kina: ˹naː˺dani ʔu˹ra˺ʃi̥ti ʔi˹bu˺ su̥˹koːru ʃiːトjoː](畑に菜種を蒔いて＜下ろして＞植える準備をしなさいね)。

˹ナー˺タフージ **[˹naː˺taɸuːʤi]** 【固】人名。長田大主。16 世紀初め頃、石垣島に割拠した英雄。ア˹カハチ [ʔa˹kahatʃi] 征討の功績により、八重山の役人に任命されたという長栄氏の始祖。˹ナー˺タフージル　ア˹カハチ˺　フ˹ルブシタティ　スー˺　パ˹ナ˺シェー　ス˹クタン [˹naː˺taɸuːʤiru ʔa˹kahatʃi˺ ɸu˹rubuʃi̥tati suː˺ pa˹na˺ʃeː su̥˹kutaŋ](長田大主がアカハチを滅ぼしたという話は聞いたことがある)。

˹ナータブイ **[˹naːtabui]** 【名】長期保存すること。長く蓄えること。パ˹リタコー　ナータブイ˺　シ˹ラリント　ダー [pa˹ritakoː naːtabui˺ ʃi˹rarinトdaː](裂いて日干しした干し蛸＜張り蛸＞は長期保存できるよ)。

˞ナー　タマシ [˞naː tamaʃi] 【連】各自の受け取り分。それぞれの分け前。各自の配分。˞ナー　タマシヌ˥　ザイサンマー　˥ドゥーシル　カ˞キン˥ゴー　˞スー [˞naː tamaʃinu˥ ʤaisammaː ˥duːʃiru kạ˞kiŋ˥ goː ˞suː](各自の分け前の財産は自分で保管、管理をするものだ)。

˞ナーツァ [˞naːtsa] 【名】翌日。過去や未来における、ある時点の翌日の意を表す。˞ワー˥　ウ˞キ˥ナーラ　˞ヤイマー　クー˥タ　˥ピンヌ　˞ナーツァナー˥ル　˥バー　ヤ˞マトー˥ラ　˞カイ˥リ　˥ケータル [˞waː˥ ʔu˞ki˥naːra ˞jaimaː kuː˥ta ˥pinnu ˞naːtsana˥ːru ˥baː ja˞matoː˥ra ˞kai˥ri ˥keːtaru](君が沖縄から八重山へ来た日の翌日に＜ぞ＞私は本土＜大和＞から帰ってきたのだよ)。˞エン˥ヌ　˞プール˥ヌ　˞ナーツァル　バン˥ター　ヨイ˞ダー　[˞jen˥nu ˞puːru˥nu ˞naːtsaru ban˥taː joi˞daː](来年の豊年祭の翌日が私達のお祝いだよ)。

˞ナーツァヌ　ナーツァ [˞naːtsanu naːtsa] 【連】翌々日。「翌日の翌日」の義。ク˞ズ˥ヌ　˞プール˥ヌ　˞ナーツァヌ　ナーツァナー˥ル　˞タイフー˥ヤ　˥キー　ブ˞レー˥バン [ku˞ʤu˥nu ˞puːru˥nu ˞naːtsanu naːtsana˥ːru ˞taiɸuː˥ja ˥kiː bu˞reː˥baŋ](去年の豊年祭の翌々日にが＜ぞ＞台風は襲来して＜来て＞いたのだよ)。

˞ナーッ˥ス [˞naːs˥su] 【名】1苗代。稲の苗床。稲の苗を育てあげるまでの田。「奈波之呂乃＜ナハシロノ＞小なぎが花を～。万、3576」の転訛したもの。˞ナーッス˥ダー [˞naːssu˥daː](苗代田) ともいう。˞ナーッ˥スナー　˥サニ　ウ˞ラ˥スン [˞naːs˥suna˥ː ˥sani ʔu ˞ra˥suŋ](苗代に種を下ろす＜播種(ハシュ)する＞)。苗作りは次のようにして行われた。先ず籾を一昼夜水に浸けて取り出し、藁で作った俵に˞ムージ˥ヌ　˞パー [˞muːʤi˥nu ˞paː](里芋の葉) を敷き、それに種籾を入れて発芽させる。その間、俵の回りにはシ˞ビナージナ [ʃi˞binaːʤina](注連縄(シメナワ)) を張り巡らしておく。種籾が順調に発芽するよう、祓い清めるためである。発芽した籾を苗代に運び播種する。その間にいろいろなタブーが行われた。それを˞ソー˥ジ [˞soː ˥ʤi](精進) という。例1苗代に種籾を運ぶ間、˥ッス　˥マレー　ナ˞ラ˥ヌ [˥ssu ˥mareː na˞ra˥nu](大便をしてはならない)。これは、播種した籾が固まるのを避けるためという。2播種した後は、ミ˞ジ　ノース˥ナ [mi˞ʤi noːsu˥na](容器の水をドローッと流すな)。これは大雨で種籾が流されるのを避けるためである。3˥サー　˥ヌメー　ナ˞ラ˥ヌ [˥saː ˥numeː na˞ra˥nu](お茶を飲んではいけない)。これは、苗代田に金属錆色の水が出るのを避けるためという。4ピ˞ネー˥　ス˞ラ˥ヌ [pi˞neː˥ su˞ra˥nu](鬚は剃らない)。これは、種籾の毛根を切ることを避けるためという。パ˞モー˥ルンドーレー　˥アサルゴーンドーレーヤ　バ˞カシ˥　ッ˞ふァイ˥ミサンティ　ア˞ゾーッ˥タ [pa˞moː˥rundoːreː ˥ʔasarugoːndoːreːja ba˞kaʃi˥ f˞fai˥ misanti ʔa˞ʤoːt˥ta](蛤など、あさりなどは炊いて食べてもよいといわれた)。これは、蛤やアサリは炊くとパッと口を開けるから、種籾の発芽に繋(ツナ)がるという。このような願いを込めて、男達は一ヶ月間鬚(ヒゲ)を剃らず、ひたすらタブーを守って稲の発芽を祈り苗代を守った。

˥ナーティ [˥naːti] 【格助】1格助詞。～にて。～で。動作の行われた場所を強調して表す。˞ワーター˥　マナーティ　ア˞サブター [˞waːtaː˥ manaːti ʔa˞sabu-taː](君たちは何処で遊んだのか)。˥クマナーティ　˥アイブ　˥クトゥ　˞シェー˥　ナ˞ラ˥ヌ [˥kumanaːti ˥ʔaibu ˥kụtu ˞ʃeː˥ na˞ra˥nu](此処であんなことをしてはならない)。2さらに連帯助詞˥-ヌ [˥-nu](の) が付いて、「～での」の意味を表す。˞ヤー˥ナーティヌ　パ˞ナ˥シェー　プ˞スンナー˥ニ　パ˞ナス˥ナ [˞jaː˥naːtinu pa˞na˥ʃeː pụ˞sunnaː˥ni pa˞nasu˥na](家庭での話は他人に話すな)。3さらに、とりたて強調の係助詞˞-ヤ [˞-ja](～は) が付いて、「～では」の意味を表す。˞ヤー˥ナーテー　ッ˞ふァーバン˥　ミサン [˞jaː˥naːteː f˞faːbam˥ misaŋ](家庭では食べてもいい)。˞バン˥ター　ス˞ナカ˥ナーテー　ア˞サバンシェン [˞ban˥taː su˞naka˥naːteː ʔa˞sabaŋʃeŋ](僕たちは海では遊ばなかった)。ヤ˞ラ˥ベー　˥クマナーテー　ア˞サブナ [ja˞ra˥beː ˥kumanaːteː ʔa˞sabuna](子供は、ここでは遊ぶな)。4さらに、係助詞˥-ル [˥-ru](ぞ) が付いて、「～てぞ」の意味を表す。ナ˞チェー˥　ス˞ナカ˥ナーティル　ア˞サブタ [na˞ʧeː˥ su˞naka˥naːtiru ʔa˞sabuta](夏は海でが＜ぞ＞遊んだ)。5さらに、係助詞˥-ン [˥-ŋ](も) が付いて「～でも」の意味を表す。˥クマナーティン　˞ピッ˥チン　˞モーキララン˥シェン [˥kumanaːtim ˞pit˥ʧim ˞moːkiraraŋ˥ʃeŋ](ここでも、ちっとも＜ひとつも＞儲からなかった)。

˞ナー˥ティー [naː˥tiː] 【名】盗癖。盗み癖のある人。「長手」の義。˞ティー　ナー˥ン [˞tiː naː˥ŋ](手が長い) ともいう。ウ˞レー˥　ム˞カ˥シェーラ　˞ナー˥ティー　˞ヤッタヌ˥　マ˞ダ　ノーラン˥バン˞ナー [ʔu˞reː˥ mu˞ka˥ʃeːra ˞naː˥tiː ˞jattanu˥ ma˞da noːram˥ban˞naː](彼は昔から盗癖が＜盗癖のある人で＞あった

が、まだ直らないねえ)。

˩ナー˥ト **[˩naː˥to]** 【副助】～など。ある語に添えて類似のものが外にあることを示す。˥アメー　˩ホーン˥ユンダ　カサ˩ナー˥ト　シゥ˩カイユーゾー　ナー˥ヌ [˥ʔameː ˩hoːn˥junda kạsa˩naː˥to sị̈˩kaijuːʤoː naː˥nu](雨は降らないから傘などは使う必要がない＜利用価値がない＞)。ウ˩マー˥ヤ　˩マー˥　プ˩スム˥シティ　˩ナー˥ト　˥パル　˩カンガイ˥ヤー　˩ナー˥ヌ [ʔu˩maː˥ja ˩maː˥ pụ˩sumu˥ʃị̈ti ˩naː˥to ˥paru ˩kaŋgai˥jaː ˩naː˥nu](そこへは、もう一度と＜二度と＞など行く考えはない)。˥アイニ　ク˩ルマ˥バ　トゥ˩バシェー˥ティ　˩アー˥キティ　˩ズン˥サン˩ナー˥トン　˩ミシゥカ˥リカー　˩デー˥ジ˩ゲ˥ラ [˥ʔaini ku˩ruma˥ba tu˩baʃeː˥ti ˩ʔaː˥kiti ˩ʤun˥san˩naː˥to ˩misị̈ka˥rikaː ˩deː˥ʤi˩ge˥ra](あんなに車を飛ばして運転していて巡査などに見付かったら大変さ)。˥クマーラ˩ナー˥ト　イッ˩カ˥　ンジ　˥パレー　ナ˩ラ˥ヌ [˥kumaːra˩naː˥to ʔik˩ka˥ ʔnʤi ˥pareː na˩ra˥nu](ここからなど決して出て行ってはならない)。ク˩リ˥シ˩ナー˥ト　プ˩スバ˥　ク˩ラシェー˥　ナ˩ラン˥ダー [ku˩ri˥ʃi˩naː˥to pụ˩suba˥ ku˩raʃeː˥ na˩ran˥daː](これでなんぞ人を叩いてはならないぞ)。

˩ナードー **[˩naːdoː]** 【名】(地)「長堂」と表記されている。「長い窪地」の義。イ˩ラ˥カマイの南側、西村の村はずれの西側からヤ˩ラ [ja˩ra](屋良) までの間の窪地をいう。˩ナードーヌ˥　パ˩タキ˥ヌ　˥アザナー　˥ヤンズメヌ　ッ˩ふォーッふォー˥シ　ナリ˩ベー˥タン [˩naːdoːnu˥ pạ˩taki˥nu ˥ʔaʤana: ˥janʤumenu f˩foːffoː˥ʃi nari˩beː˥taŋ](長堂の畑の畦にヤンズメ＜和名、シマヤマヒハツ＞の実が真っ黒に熟れて実って＜生って＞いた)。

˩ナードーリキー **[˩naːdoːrikiː]** 【名】薙ぎ倒された立ち木。横様に倒された樹木。「長倒れ木」の義。ミ˩ジラ˥シ　˩ウーカジヌ˥　フキティ　˥ウマー　カ˩マー˥ナ　˩ナードーリキーヌ˥　ミ˩チ˥バ　ッ˩サイベー [mi˩ʤira˥ʃi ˩ʔuːkaʤinu˥ ɸụkiti ˥ʔumaː ka˩maː˥na ˩naːdoːrikiːnu˥ mi˩ʧi˥ba s˩sai beː](近来稀な台風＜珍しい大風＞が吹いてあっちこっちに薙ぎ倒された樹木が道を塞いでいる)。

˩ナードーリ　スン **[˩naːdoːri suŋ]** 【連】横様に薙ぎ倒される。長々とぶっ倒れる。「長倒れする」の義。カ˩ジヌ　スー˥ヤカー　˩ニー˥ヌ　˩イシゥ˥カー　˩キー˥ヤ　˩ナードーリ　スン [ka˩ʤinu suː˥jaka: ˩niː˥nu ˩ʔisị̈˩kaː ˩kiː˥ja ˩naːdoːri suŋ](風が強いと根の短い樹木は長々と薙ぎ倒される)。˥ビータリティ　˩ナードーリ　シーベー [˥biːtariti ˩naːdoːri ʃiːbeː](酔いつぶれて長々とぶっ倒れている)。

˩ナー˥　ドゥードゥー **[˩naː˥ duːduː]** 【連】各自。めいめい (銘銘)。おのおの。「各胴胴＜自分自分＞」の義。˩ナー˥　ドゥードゥーヌ　ク˩トゥ˥ル　˥ナル　プ˩スヌ˥　クトゥ˩バー˥ケー　ナ˩ラ˥ヌ [˩naː˥ duːduːnu kụ˩tu˥ru ˥naru pụ˩sunu˥ kụtu˩baː˥keː na˩ra˥nu](各自のことしか出来ない＜各自のことぞできる＞、他人のことまでは出来ない)。

˩ナー˥　トゥルン **[˩naː˥ turuŋ]** 【連】名誉を獲得する。高名になる。有名になる。「名取る」の義。˩マイフナー˥　マ˩リティ˥　シキンナー　˩ナー˥　トゥ˩ラリ˥リ˩ヨー˥　コッコーーマー [˩maiɸunaː˥ ma˩riti˥ ʃị̈kinnaː ˩naː˥ tu˩ra˥ri˩joː˥ kokkoːmaː](立派な人＜真男＞になって世間に名前を轟かせて有名になりなさいよ、お利巧さん)。/2、タ˩ル˥トゥユードゥ　ティ˩ユマ˥ス　ジ˩リ˥トゥユードゥ　ナー˩トゥラ˥ス　カ˩ムラーマ˥ヌ　ア˩マイ˥ヤー　ウ˩ヤ˥キユーバ　タ˩ボーラ˥リー/(誰と共にとよまそう＜響動まそう。讃えよう＞、どなたと共に有名になろうか。カムラーマの歓びは豊年満作を頂く＜賜る＞ことです)。カムラーマヌウタ＜かむらーまの歌＞『鳩間島古典民謡古謡集』。

˩ナーナー **[˩naːnaː]** 【名】各自。めいめい (銘銘)。˩ナーナーヌ　ヤー˥ヌ　˥クトー　˩ナーナー˥シ　キ˩ミティ　シー˥バ [˩naːnaːnu jaː˥nu ˥kụtoː ˩naːnaː˥ʃi ki˩miti ʃiː˥ba](各自の家のことは各自で決めてやりなさいよ)。˩ナーナーヌ˥　ム˩ヌ˥ル　˥トゥル　プ˩スヌ˥　ムノー　トゥ˩ル˥ナ [˩naːnaːnu˥ mu˩nu˥ru ˥turu pụ˩sunu˥ munoː tu˩ru˥na](銘銘のものを＜ぞ＞取るのであって、他人のものは取るな)。

ナー˩ナー˥シ **[naː˩naː˥ʃi]** 【副】長く。「長々と」の強調表現。強調しない、ニュートラルな表現では、アクセントは第一モーラから高く始まる。˩ナーナー˥シ [˩naːnaː˥ʃi](長々と) という。若年層はナガー˩ナガー˥シ [nagaː˩nagaː˥ʃi](長々と) という。˩ワー˥　ムノー　˩マー˥ビン　ナー˩ナー˥シ　ス˩クリバ [˩waː˥munoː ˩maː˥bin naː˩naː˥ʃi sụ˩ku˥riba](君のものは、もっと長く作れよ)。˥シナー　ナー˩ナー˥シ　˥パイバ [˥ʃinaː naː˩naː˥ʃi ˥paiba](綱は長く延ばし＜延え＞なさい)。

˩ナーナーンウイ˥ビ **[˩naːnaːŋʔui˥bi]** 【名】薬指。名無し。無名指。「名無し指」の義。フ˩シ˥ルッシ　˩ウイ˥ビ [ɸụ˩ʃi˥ruʃʃi˩ʔui˥bi](薬さし指) ともいう。˩ナーナーンウイ˥ビシ　ピ˩サビ˥バ　ヤ˩ラビ˥ヌ　フ˩タイ

˥ナー　˥シキティル　˩ユー˥ロー　ミ˩チェー˥　ン　˩ザ˥ソーッタ [˩naːnaːŋʔuiˬbiʃi pi̥˩sabiˬba ja˩rabiˬnu ɸu̥˩taiˬnaː ʃi̥kitiru ˩juː˥roː miˬʧeː˥ ʔn˩ʤaˬsoːtta](薬指で鍋墨を子供の額に付けて＜ぞ＞夜は道へ出された)。

˩ナーナキ **[˩naːnaki]** 【名】長泣き。若年層は、ナ˩ガナキ [na˩ganaki](長泣き) ともいう。˩ナーナキ　スー˥　ヤ˩ラ˥ベー　マー˩ンナーカ˥ヌ　˥ヤム　パジ˩ダー˥バ　˥ユー　˩キー˥　シ˩キ˥リ˩ヨー [˩naːnaki suː˥ ja˩raˬbeː maː˩nnaːkaˬnu ˬjamu paʤi˩daːˬba ˬjuː ˩kiː˥ ʃi̥˩kiˬri˩joː](長泣きする子はどこかが痛むはずだから良く気をつけなさいよ)。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー　ナーナキ　シー˥ナー　ナ˩ラ˥ヌ [ku˩nu˥ fˬfa: naːnaki ʃiː˥naː na˩raˬnu](この子は長泣きするのでこまる)。

˩ナー˥ニ **[˩naː˥ni]** 【名】人の背骨の両側にある長い筋肉。牛や豚のロース。首里方言の nagani(背中) の g 音脱落による転訛。ピ˩ダリ˥ヌ　˩ナー˥ニナ　ア˩シブ˥ヌ　˥ンジティ　˥ヤミ　ナ˩ラ˥ヌ [pi˩dariˬnu ˩naːˬnina ʔa˩ʃibuˬnu ˬʔnʤiti ˬjami na˩raˬnu](背中の左側の長い筋肉にお出来が出て痛くてたまらない)。˩オー˥ヌ　˩ナー˥ニ　˩カイ˥　クーバ [˩ʔoːˬnu ˩naːˬni ˩kai˥ kuːba](豚のロースを買って来いよ)。

˩ナー˥ニ **[˩naː˥ni]** 【格助】～に (動作作用の及ぶ相手。～に対して) の強調表現。プ˩ス [pu̥˩su](人) や、˥ウヤ [˥ʔuja](親) 等に格助詞ン [ŋ](～に) が付く際には、˩ナー˥ニ [˩naː˥ni](～に対して) という強調表現をとることが多い。ウ˩ヤン˥ナーニ　˥アイブ　˥ムニ　イ˩ジェー˥　ナ˩ラ˥ヌ [ʔu˩janˬnaːni ˥ʔaibu ˬmuni ʔi˩ʤeː˥ na˩raˬnu](親に対してあのような言葉を言ってはならない)。ッ˩サン˥カー　プ˩スンナー˥ニ　˩トゥイ　シキ˥バ [s˩saŋˬkaː pu̥˩sunnaːˬni ˩tui ʃi̥kiˬba](知らなければ他人に問い尋ねて聞きなさい)。

˩ナーニビ **[˩naːnibi]** 【名】長く眠ること。朝寝坊すること。「長寝」の義。˩ウンザー˥　サ˩キ˥　ヌミティ　˩ナーニビ　シーベーン˥ティ [˥ʔunʤaː˥ sḁ˩ki˥ numiti ˩naːnibi ʃiːbeːnˬti](こいつ＜此奴＞は酒を飲んで朝寝坊＜長寝＞しているよ)。ム˩カ˥シェー　ミ˩ドゥ˥モー　˩ナーニビ˥　シ˩モーラン˥シェン [muˬkaˬʃeː miˬduˬmoː ˩naːnibi˥ ʃi˩moːraŋˬʃeŋ](昔は、女は朝寝坊＜長寝＞をさせられなかった)。

˩ナー˥ヌ **[˩naː˥nu]** 【形】特殊変化。ない (無い)。人、動物以外のものが存在しない。今帰仁方言のネー˩ヌのネーは、古代語の「なふ」の連用形「なひ」の転訛したものという『沖縄今帰仁方言辞典』。「～国をさ遠み安波奈波婆＜アハナハバ＞～。万、3426」。ノー˩ン　ナーン˥バ　˩ワーン˥　ッ˩ふィーラリムノー　ナー˥ヌ [noː˩n naːmˬba ˩waːŋ˥ fˬfiːrarimunoː naː˥nu](何も無いので君に上げられるものは無い)。˥ウナー　ノー˩ン　ナー˥ヌ [˥ʔunaː noː˩n naː˥nu](そこには何もない)。˩ジン˥マー　シゥ˩カウ˥カー　˩ナーン˥　ナルン [˩ʤimˬmaː si̥˩kauˬkaː ˩naːn˥ naruŋ](お金は使ったら無くなる)。˩ジン˥ヌ　˩ナー˥ナー　ア˩ラ˥ヌ　ア˩リ˥ブンドゥ　カ˩ラサヌ [˩ʤinˬnu ˩naːˬnaː ʔa˩raˬnu ʔa˩riˬbundu ka˩rasanu](お金が無くてではない、あるけれども貸さないのだ)。˩ジン˥ヌ　˩ナーン˥　プソー　˩カーラヌ [˩ʤinˬnu ˩naːm˥ pu̥soː ˩kaːranu](お金が無い時は買えない)。˩ジン˥ヌ　˩ナーン˥カー　˩カーラヌ [˩ʤinˬnu ˩naːŋˬkaː ˩kaːranu](お金が無ければ買えない)。˥クゾー　˥ウナー　˩ヤー˥ヤ　˩ナーン˥シェン [˥kuʤoː ˥ʔunaː ˩jaː ˬja ˩naːŋˬʃeŋ](去年は、そこに家は無かった)。

˩ナー˥ヌ **[˩naː˥nu]** 【助動】 1動詞の連用形に付いて、「～てない＜～てしまった＞」、「完了した」、の意を表す。˩ジー˥　カキ　˩ナー˥ヌ [˩ʤiː˥ kaki ˩naːˬnu](字を書いてしまった)。ブ˩ガ˥リ　˩ナー˥ヌ [bu˩gaˬri ˩naːˬnu](疲れてしまった)。2形容詞の連用形に付いて、打消しの意味を表す。タ˩カーナー˥ヌ [tḁ˩kaːnaːˬnu](高くない)。ウ˩レー　ナン˥ゾー　˩カイヤーナー˥ヌ [ʔu˩reː nanˬʤoː ˩kaijaːnaːˬnu](それはあまり美しくない)。

˩ナーヌキ **[˩naːnuki]** 【名】長く貫くこと。˥タクン　イ˩ガン　ナーヌキ　シー˥　ヤマナー　˥サイティ　˥プシバ [˥tḁkuŋ ʔi˩gan naːnuki ʃiː˥ jamanaː saiti ˥pu̥ʃiba](蛸も烏賊も長く貫き通して、烏賊干し縄に吊るして＜下げて＞干しなさいよ)。

˩ナーヌチ **[˩naːnuʧi]** 【名】長命。長寿。ナ˩ガヌチ [na˩ganuʧi](長命。長寿) ともいう。˩チョーミー [˩ʧoːmiː](長寿。長命) ともいい、˩チョーミー˥　シ˩キ˥シミ　タ˩ボー˥リ [˩ʧoːmiː˥ ʃi̥˩kiˬʃimi ta˩boːˬri](長寿をつけてください) のように、よい意味に用いる。˩ナーヌチ [˩naːnuʧi](長生き。長命) は、˩ナーヌチヌ˥　ア˩リ˥ル　˥カイブ　ア˩ワ˥リナンギーン　˩スー [˩naːnuʧinu˥ ʔa˩riˬru ˬkaibu ʔa˩waˬrinaŋgiːn ˩suː](長生きしているから＜ぞ＞このような難儀苦労＜哀れ難儀＞もするのだ) のように、悪い意味にも用いられる。

˩ナーパイ **[˩naːpai]** 【名】 1だらし無く寝そべること。˥ドゥク　˥アッツァティ　˩トゥーシ˥ナー　˩ナーパイ　シー˥　ニ˩ビ　ベー [˥duku ˥ʔattsati tuːʃiˬnaː ˩naːpai ʃiː˥ ni˩bi beː](あまりにも暑いので縁側に長

々と横這いになって寝ている＜寝そべっている＞よ)。²長々と這うこと。パ˩ブヌ　ナーパイ　シーベー [pa˩bunu na:pai ʃi:be:](へび＜蛇＞が長々と地面に這っている)。

˩ナーハイバイ **[˩na:haibai]** 【名】各自勝手に行動すること。好き勝手にすること。めいめい (銘銘) ばらばらになること。首里方言からの借用語。˩ウン˥ネヌ　˩キョーダイ˥ヤ　˩タシキアー˥スンテー　サ˩ムティ　ナーハイバイ　シーブー [˩ʔun˥nenu ˩kjo:dai ˥ja ˩taʃi̥kiʔa:˥sunte: sa˩muti na:ha:bai ʃi:bu:](あの家の兄弟は助け合おうとはしないで、各自好き勝手に行動している＜したい放題にしている＞)。

˩ナーパニスビ **[˩na:panisubi]** 【名】 (動) 魚の名。和名、ビンナガ (体長約 1 メートル)。胸鰭(ムナビレ)の長いマグロ。

˩ナーパマ **[˩na:pama]** 【固】長浜。西表島伊武田の浜の名の一つ。˥インダヌ　˩ナーパマヌ　ウイ˥ナール　˥インダガマー　ア˩ル˥ワ˩ナー [˥ʔundanu ˩na:pa-mamnu ʔui˥na:ru ˥ʔindagama: ʔa˩ru˥wa˩na:](伊武田のナーパマ＜長浜＞の上にインダガマ＜伊武田洞窟＞はあるさねえ)。

˩ナーバレー **[˩na:bare:]** 【名】 (海底地名)。鳩間島を取り巻く環礁の、島の東にある干瀬の窪んだ所。ナ˩ラ˥リパマ [na˩ra˥ripama](ナラリ浜) から東に延びる干瀬で、タ˩カ˥ビー [tą̥˩ka˥bi:](高干瀬) に続く干瀬であるが、その部分は細長く窪んだ所で、満潮時にはイカ釣り舟を外洋へ通過させることができる。カツオ漁船も大潮の満潮時にはそこを通って帰港していた。満ち潮は外洋からこの部分を通って礁池部に流れ込む。その流れが早いので、歩いてタ˩カ˥ビー [tą̥˩ka˥bi:](高干瀬) へ潮干狩りに行く時は、この溝を越えることに気を配った。遅くなると、女性はこの溝を渡ることが難しくなる。

˩ナーバレーヌ˥　ウ˩ブ˥イシ **[˩na:bare:nu˥ ʔu˩bu˥ʔiʃi]** 【連】 (海底地名)。˩ナーバレーにある大石。その大石のある一帯の地名。

˩ナー˥パン **[˩na:˥paŋ]** 【名】長足。歩幅の大きいこと。大股。「長はぎ＜脛＞」の義。˩ナーパン˥シ　ア˩ラ˥クンダー　ウ˩リヌ˥　シ˩ベー　オーラヌ [˩na:paŋ ˥ʃi ʔa˩ra˥kunda: ʔu˩rinu˥ ʃi˩be: ʔo:ranu](大股で歩くから彼の後は追いついて行けない＜行かれない＞)。ウ˩レー　ナーパン˥シ　ア˩ラ˥クンダー　シ˩ベー　オーラヌ [ʔu˩re: na:paŋ˥ʃi ʔa˩ra˥kunda ʃi˩be: ʔo:ranu](彼は大きな歩幅＜大股＞で歩くから後から追いかけることが＜後追い＞できない)。

˩ナーピキダールン **[˩na:pikida:ruŋ]** 【自動】だらりと長引く。引きずる。˩ナーピキダーリ　ブー　キン˥マー　キ˩スナ [˩na:pikida:ri bu: kim˥ma: ki̥˩suna](長すぎて引き摺っている着物は着るな)。˩ナーピキダーラサンドー˥シ　キ˩シ˥バ [˩na:pikida:rasando:˥ʃi ki̥˩ʃi˥ba](だらりと長引かさないように着なさいよ)。タ˩キ˥ヌ　ピ˩コー˥ンダー　ク˩ヌ　キン˥マー　˩ナーピキダールンティ˥　ウ˩モー˥リ [tą̥˩ki˥nu pi̥˩ko:˥nda: ku˩nu kim˥ma:˩na:pikida:runti˥ ʔu˩mo:˥ri](背が低いから、此の着物はだらりと引き摺ると思う)。˩ナーピキダール　キン˥マー　キ˩スナ [˩na:pikida:ru kim˥ma: ki̥˩suna](だらりと長引く＜引きずる＞着物は着るな)。˩キン˥ヌ　ナーピキダーレー˥ラー　キ˩サラヌ [˩kin˥nu ˩na:pikida:re:˥ra: ki̥˩saranu](着物がだらりと長引く＜引きずる＞ようだったら着られない)。

˩ナーブイ **[˩na:bui]** 【名】長吠え。遠吠え。犬の長鳴き。「長吠え」の転訛したもの。不吉なことが起きる前兆といわれている。˩クン˥デーラ　˩ウン˥ネナー　˩イン˥ヌ　˩ナーブイ　シー　ブーヌ˥　ヌーカヤー [˩kun˥de:ra ˩ʔun˥ne:na ˩ʔin˥nu ˩na:bui ʃi:bu:nu ˥nu:kaja](先日からあの家で犬が遠吠えしているが何だろうか＜心配だ＞)。

˩ナーブ˥ク **[˩na:bu˥ku]** 【名】縄箱。˩ナーバ˥ク [˩na:ba ˥ku](縄箱) ともいう。漁師が出漁するに際して、釣り針や釣り糸などの漁具の必要な物と、その予備を揃えて縄箱の中蓋に整然と並べておき、箱の底にはマッチやタバコ類、その他の貴重品を入れて持参する収納箱。大型の縄箱は縦約 50 センチ、横約 40 センチ、高さ約 40 センチの木製の箱で、衣類まで収納できる箱。小型の縄箱は縦約 25 センチ、横約 20 センチ、高さ約 15 センチの木箱。これらは水漏れしないように精密に造られており、舟が転覆しても浮いて中のものが濡れないようになっている。ウ˩ブナーブク˥ヌ　ス˩ク˥ナー　˥キンカーラ　フ˩チ˥ル　シ˩キダ˥キ　˥ナードングバ　イ˩リ˥　ナ˩カ˥フタナーヤ　˩シー˥ラ　イ˩ズホーシドン˥グ　ス˩ロー˥シティ　ム˩トーッタ˥ル [ʔu˩buna:buku˥nu su̥˩ku˥na: ˥kiŋka:ra ɸu̥˩ʧi˥ru ʃi̥˩kida˥ki ˥na:doŋguba ʔi˩ri˥ na˩ka˥ɸu̥tana:ja ˩ʃi:˥ra ʔi˩ʤuho:ʃidoŋ˥gu su˩ro:˥ʃi̥ti mu˩to:tta˥ru](大縄箱の底には衣類から薬、マッチ、縄類を入れ、中蓋には釣り針や魚釣り道具類を揃えて漁に持って行かれたものだよ)。

˩ナーフク˥ビ **[˩na:ɸu̥ku˥bi]** 【名】長帯。長い帯。ム˩カ˥

シェー ˞ナーフク˞ビシル ッ˞ふァー˞ カ˞サナウ˞タ [mu˞ka˞ʃe: ˞na:ɸu̥ku˞biʃiru f˞fa˞ kḁ˞sanau˞ta](昔は長い帯で子供を負ぶった)。

˞ナーフダ **[˞na:ɸuda]** 【名】名札。˞ナーフダ˞ シ˞キラン˞カー ˞タール ター˞ティ ワ˞カラン˞ダ ムー˞ル ナーフダ˞ シ˞キ˞リ [˞na:ɸuda˞ ʃi̥˞kiraŋ˞ka: ˞ta:ru ta:˞ti wa˞karan˞da: mu:˞ru na:ɸuda˞ ʃi̥˞ki˞ri](名札を付けないと誰が誰だか分からないから、皆名札を付けなさい)。

˞ナーブンブン **[˞na:bumbuŋ]**【名】各自。おのおの。めいめい (銘銘)。˞ナーブン [˞na:buŋ](各自) ともいう。˞ナーブンブン ドゥー˞ヌ ˞カン˞ガイシル シ˞グトー スー˞、 プ˞スン˞ ギ˞チ サリ˞ パ˞ナウタ˞レーティ ˞スー ムノー˞ ア˞ラ˞ヌ [˞na:bumbun du:˞nu ˞kaŋ˞gaiʃiru ʃi˞guto: su:˞, pu̥suŋ˞ gi˞tʃi sari˞ pa ˞naʔuta˞re:ti ˞su: muno:˞ ʔa˞ra˞nu](各自、自分の考えで仕事はするものであって、他人に下知 < 命令 > され、右や左と指図されてするものではない)。

˞ナーポー˞キ **[˞na:po:˞ki]** 【名】ながほうき (長箒)。長さ約 1、8 メートルの竹を数本結わえた箒。柄の付いた竹箒で庭の掃除に使用する箒 (外箒)。室内用の˞ナーポー˞キ [˞na:po:˞ki](長箒) は藁しべや麦藁などを Y 字形に編み組んで、それに長い柄を付けた上品な箒。新しく導入されたもの。多くは石垣島の店から購入した。旧来の室内箒は藁しべを扇型に編みこんだバ˞ラフ˞タポーキー [ba˞raɸu˞tapo:ki:](ワラシベ箒) で、屈(カガ)みながら使用した。˞ナーポーキー˞シ ˞ポー˞クカー ク˞シェー˞ マ˞ガランドー˞シ ˞ポーカ˞リン [˞na:po:ki˞ʃi ˞po:˞kuka: ku̥˞ʃe:˞ ma ˞garando:˞ʃi ˞po:ka˞riŋ](長箒で掃くと腰は曲がらないで掃くことが出来る < 掃かれる >)。

˞ナー ポッチポッチ **[˞na: pottʃipottʃi]** 【連】各自ばらばらに。各自散らばって。˞イー˞シ ˞トゥル ˞ピンマー ˞ナー ポッチポッチ ポッツァーレー˞ティル トゥ˞ル˞タ [˞ʔi:˞ʃi ˞turu ˞pimma: ˞na: pottʃipottʃi pottsa:re:˞tiru tu˞ru˞ta](ツノマタ < 角叉 > を採取するときは各自ばらばらに散らばって採取した < 取った >)。

˞ナー˞マ **[˞na:˞ma]** 【接尾】小さいもの、可愛いもの、などの意を表す接尾語˞マ [˞ma] の異形態。上接語の音節構造により、次のような異形態が生成される。**(1)** 上接語の音節構造が CVCV(v=a) の場合、CVCV + [ma] → [～:ma]。ヤ˞マー˞マ [ja˞ma:˞ma](小山)。シ˞マー˞マ [ʃi˞ma:˞ma](小島)。**(2)**CVN の場合、CVN + [ma] → [～nna:ma]。ジン˞ナー˞マ [ʤin˞na:˞ma](小銭)。アン˞ナー˞マ [ʔan˞na:˞ma](小さな網)。**(3)**CVV(v=i) の場合、CVCVV + [ma] → [～ja:ma]。ガイ˞ヤー˞マ [gai˞ja:˞ma](小匙)。パイ˞ヤー˞マ [pai˞ja:˞ma](小蝿)。**(4)**CVCVV(v=u) の場合、CVCVV + [ma]→ [～wa:ma]、[～a:ma]。サウ˞ワー˞マ [sau ˞wa:˞ma](小さな竿)。バウ˞ワー˞マ [bau˞wa:˞ma](小さな棒) となる。

˞-ナー˞マ **[˞-na:˞ma]** 【接尾】指小辞。～っこ。名詞の語末が [ŋ] で終わる際、指小辞の-マ [-ma](～っこ) が付くと連声現象を起こし、～ンナーマ [～˞na:˞ma](～っこ) となる。例、イン˞ナー˞マ [ʔin˞na:˞ma](子犬)。パン˞ナー˞マ [pan˞na:˞ma](小さな足)。語末が [i] で終わる語に指小辞 [-ma] が付くと母音の融合現象をおこして～˞エー˞マ [～˞e:˞ma](～っこ) となる。例、フ˞ネー˞マ [ɸu˞ne:˞ma](小船)。タ˞ネー˞マ [ta˞ne:˞ma](小さな種)。語末が [u] で終わる語に指小辞 [-ma] が付くと、融合現象を起こして～˞オー˞マ [～˞o:˞ma](～っこ) となる。例、パ˞コー˞マ [pḁ˞ko:˞ma](小箱)。トゥ˞ロー˞マ [tu˞ro:˞ma](小鳥)。語末が連母音 ai で終わる語に指小辞 [-ma] が付くと、融合現象を起こして～˞ヤー˞マ [～˞ja:˞ma](～っこ) となる。例、ガイ˞ヤー˞マ [gai˞ja:˞ma](小匙)。パイ˞ヤー˞マ [pai˞ja:˞ma](小ばえ)。ナイ˞ヤー˞マ [nai˞ja:˞ma](小さな苗)。ダイ˞ヤー˞マ [dai˞ja:˞ma](小さな台)。語末が連母音 au で終わる語に指小辞 [-ma](っこ) が付くと融合現象を起こして～˞ワー˞マ [～˞wa:˞ma](～っこ) となる。例、バウ˞ワー˞マ [bau˞wa:˞ma](小さな棒)。サウ˞ワー˞マ [sau˞wa:˞ma](小さな竿)。カウ˞ワー˞マ [kau˞wa:˞ma](小さな線香)。キン˞ナー˞マ キ˞サシ˞バ [kin˞na:˞ma ki̥˞saʃi˞ba](小さな着物を着させてやりなさいよ)。

˞ナー˞ マイマイ **[˞na:˞ maimai]** 【連】各自の利益のために。「各自の前前」の義。˞ナー˞ マイマイニ カー˞ニル˞ ス˞ルバンマー パン˞キ ブ˞リン˞ギサバン [˞na:˞ maimaini ka:˞niru˞ su˞rubamma: paŋ˞ki bu˞riŋ˞gisabaŋ](各自銘銘の利益のためだけに < 各自の前だけにぞ > ソロバンは弾いているようだよ)。

˞ナーマタ **[˞na:mata]** 【名】大股。大股で歩くこと。「ながまた (長股)」の義。ウ˞ブ˞マタ [ʔu˞bu˞mata](大股) ともいう。ウ˞レー ナーマタ˞シ ア˞ラ˞クンダー ムッ˞トゥ ウイシキララヌ [ʔu˞re: na:mata ˞ʃi ʔa˞ra˞kuda: mut˞tu ʔui̥ʃi̥kiraranu](彼は大股で歩くので、一向に追いつかれない)。

˥ナーマヤー [˥naːmajaː] 【名】長間家。民間伝承上で語られる家。鳩間島のパ˩カヤマ [pa̠˩kajama](墓山)の頂上に、˥ナーマヤーヌ ˩ヤシ˥キ [˥naːmajaːnu ˩jaʃi̥˥ki](長間家の屋敷) と伝えられる屋敷跡がある。昔から鳩間島には˩ヨーラ˥サー [˩joːra˥saː](夕烏 < ホシゴイ >) が鳴くのを不吉として忌(イ)み嫌(キラ)い、˥ナーマヤーヌ ッ˩ふァー˥マ˩ドー [˥naːmajaːnu ˩fa˥ma˩doː](長間家の子孫だよ!) と叫んで、カ˩ラウシ [ka˩raʔuʃi](空の臼) を叩く習俗がある。伝承によると、誰も助けなかった旅の者が長間家の人に助けられた恩返しとして、自分たちは˩ピー˥ヌカン [˩piː˥nukaŋ](火の神) であると告げ、火事が起きたときは、˥ナーマヤーヌ ッ˩ふァー˥マ˩ドーといって空の臼を叩いて知らせなさい。そうしたら、そこだけは災厄から逃れることが出来ると教えて立ち去ったという。以後、島では˩ヨー˥ラサーが鳴くと、˥ナーマヤーヌ ッ˩ふァー˥マ˩ドーと叫びながら空の臼を叩くようになったという。

˩ナーミチ [˩naːmiʧi] 【名】長道。˩トゥーミチ [˩tuːmiʧi](遠道)(老年層) ともいう。˩ウイバロー˥ラ トゥ˩マダーバーキ˥ヌ ˩ナーミチ˥ ア˩ラ˥キ ˩クー˥ター ブ˩ガ˥リ ˩ナー˥ヌ [˩ʔuibaroː˥ra tu ˩madaːbaːki˥nu ˩naːmiʧi˥ ʔa˩ra˥ki ˩kuː˥taː buˬga˥ri ˩naː˥nu](上原からトゥマダー (苫田) までの長道を歩いて来たので疲れてしまった)。ア˩ドゥ˥ヌ ˩ナーミチェー˥ ヤ˩ラ˥ビ ˩タン˥ガー パ˩ラサラ˥ヌ [ʔa˩du˥nu ˩naːmiʧeː˥ ja˩ra˥bi ˩taŋ˥gaː pa˩rasara˥nu](あんなに遠い道 < 長い道 > は子供一人では行かされない)。

˩ナー˥ ム˩キムキ [˩naː˥ mu˩kimuki] 【連】各自の向き向き。各自の適性。各自の性格に適したもの。˩ナー˥ ム˩キムキヌ˥ シ˩グトゥバ˥ トゥミ パ˩タラキ˥ヨー [˩naː˥ mu˩kimukinu˥ ʃi˩gutuba˥ tumi pa̠˩taraki˥joː](各自の向き向き < 適性 > の仕事を探して働きなさいね)。

˩ナー˥ムス [˩naː˥musu] 【名】ながむしろ (長筵)。長さ約 9 尺の筵で、あまり利用しなかった。普通は長さ約 6 尺の筵を多用した。若年層はナ˩ガ˥ムス [na˩ga˥musu](長筵) ともいう。ナ˩チェー トゥーシ˥ナー ˩ナー˥ムス シ˩キティ˥ ニ˩ブ˥カー ピ˩ラ˥ケータン [na˩ʧeː tuːʃi˥naː ˩naː˥musu ʃi̥˩kiti˥ ni˩bu˥kaː pi˩ra˥keːtaŋ](夏は長筵を縁側に敷いて寝ると涼しかった)。

˩ナームティ [˩naːmuti] 【名】1長持ち。長持ちすること。長く維持すること。長く使えること。若年層では˩ナームチ [˩naːmuʧi](長持ち) ともいう。ク˩レー˥ シゥ˩カイヤッ˥サンドゥ ˩ナン˥ゾー ˩ナームティ サヌ [ku˩reː˥ si̥˩kaijas˥sandu ˩nan˥ʤoː ˩naːmuti sanu](これは使いやすいが、あんまり長持ちしない)。2長く生きること。長命すること。ク˩ヌ ブン˥シェー ˩ナームテー サン˥ パジ [ku˩nu buŋ˥ʃeː ˩naːmuteː samˬpaʤi](この分 < 様子 > では長く生きられないだろう)。

˩ナー˥ムティ [˩naː˥muti] 【連】1無いのに。無いくせに。˩ジン˥マー ˩ナー˥ムティ ˩ダイヌ˥ タ˩カー˥ ムヌバ ˩カイー ベー [˩ʤim˥maː ˩naː˥muti ˩dainu˥ ta̠˩kaː˥ munuba ˩kai beː](金は無いのに高価な < 値段の高い > 物を買っている)。2無いなりに。˩ナーン˥カー ˩ナーン˥ムティヌ ク˩ラシカター˥ ナルン [˩naːŋ˥kaː ˩naːm˥mutinu ku˩raʃikataː˥ naruŋ](無ければ無いなりの暮らしは出来る)。

˩ナームティムティ [˩naːmutimuti] 【名】各自の分担。各自の持分。˩ナームティムティヌ˥ シ˩グトー パー˥ク シ˩マ˥シティ ア˩サビ˥バ [˩naːmutimutinu˥ ʃi˩guto: pa:˥ku ʃi˩ma˥ʃi̥ti ʔa˩sabi˥ba](各自分担の仕事を早く済ませてから遊べよ)。

˩ナー˥ムヌ [˩naː˥munu] 【名】 (動) 蛇。毒蛇。「ながもの (長物)」の義。呪言や祝詞で、蛇を直接的に表出するのを避けて、「ながもの」と間接的に表出し、連想によって「蛇」を指し示す表現法。パ˩ブ [pa˩bu](蛇) という語はタブーの一種である。˩ナー˥ムヌン ミ˩ラ˥シ タ˩ボーン˥ナ [˩naː˥munum mi˩ra˥ʃi ta˩boːn˥na](長物 < 蛇 > も見せて下さるな)。

˩ナー メーメー [˩naː meːmeː] 【連】各自。各自銘銘。˩ナー メーメーヌ˥ クトゥサーギ シゥカイ˩トゥ シーシェー˥カー ビ˩チ˥ヌ ˥クトー ˩シーサン˥タンティン ˥ミサン [˩naː meːmeːnu˥ kṵtusaːgi si̥˩kai˩tu ʃiːʃeː˥kaː bi˩ʧi˥nu ˥kṵtoː ˩ʃiːsan˥ tantim ˥misaŋ](各自分担のことさえしっかりと出来 < し得 > たら他のことは出来なくてもよい)。

˥ナーヤ [˥naːja] 【助】助詞連語。〜には。格助詞˥ナ (—)[na(ː)](〜に) に取り立ての係助詞˥ヤ [ja](は) が下接した形。動作、作用、存在する場所や時を限定強調する意味を表す。˥クナーヤ ブ˩ラーヌ [˥kunaːja bu˩raːnu](此処にはいない)。˥カナーヤ ˥アン [˥kanaːja ˥ʔaŋ](あそこにはある)。˥キューズーナーヤ トゥ˩ズミラ˥リン [˥kjuːʤuːnaːja ʔtu˩ʤumira˥riŋ](今日中には終えられる < 完了できる >)。

˩ナー˥ ヤーヤー [˩naː˥ jaːjaː] 【連】各自の家。銘銘の家。˩ナー˥ ヤーヤーヌ ナ˩ライ˥ヤー ッ˩ふ

ァ˺マーン　ナ˹ラー˺シ　ウ˹キトゥラシミ˺リ [˹naː˺ jaːjaːnu na˹rai˺jaː fˈfa˺maːn na˹raː˺ʃi ʔu˹kituraʃimi˺ri](各自の家々伝来の慣わしは子孫に教えて受け継がせよ)。

˹ナーヤン [˹naːjaŋ]【名】長患い。「長病み」の義。˹ナーヤンバ　シー˺　ニ˹ビ　オー˺ルティ　シ˹キティル　ミー˺マイ　˹スンティ　クータ˺ル [˹naːjamba ʃiː˺ ni˹bi ʔoː˺ruti ʃi̥˹kitiru miː˺mai ˹sunti kuːta˺ru](長患いをして寝ていらっしゃると聞いて、お見舞いをしに＜するとて＞来ましたよ)。

ナー˹ラ [naː˹ra]【終助】～ください＜尊敬＞。～くださいませんか。動詞の未然形に下接し、希望の意味の尊敬表現を形成する。語源は、*ni+owaram<御座す・む＞　→　[naːram]　→　[naːra]　のように音韻変化したものと考えられる。九十歳以上の古老が石垣島から来られる役人や校長先生などの人物に対して使用していた。八十歳以下では理解語である。˹コー˺チョウーシンシー　ア˹サ˺ボン　˹オーソー˺ラナー˹ラ [˹koː˺tʃoːʃiŋʃiː ʔa˹sa˺boŋ ˹ʔoːsoː˺ranaː˹ra](校長先生、朝食をお召し上がり下さい)。

˹ナーラ˺イシ [˹naːra˺ʔiʃi]【名】えださんご (枝珊瑚) の死骸が浜辺に打ち上げられたもの。枝珊瑚の砂利。˺ザラ [˺ʤara](砂利) ともいう。「流れ石」の転訛したものか。浜辺から枝珊瑚の砂利を運び庭に敷いて家運隆盛を願ったものである。正月が近づくと、子供達が浜砂を運んで庭に敷き、新年を祝う習慣もあった。˹ナーラ˺イシ　カ˹タ˺ミ　˺キーミ˹ナカ˺ナー　シ˹キ˺バ [˹naːra˺ʔiʃi kḁ˹ta˺mi ˺kiː mi˹na˺kanaː ʃi̥˹ki˺ba](枝珊瑚の砂利を浜から運んできて庭に敷きなさい)。

˹ナーラ˺シ [˹naːra˺ʃi]【名】ならし (均し)。ならし竹。かけ竿。作業用の衣類を掛けるために、軒や土間の壁にそって設置したり、吊るしたりして置く竿。「Naraxi. ナラシ (ならし) または、caqezauo(掛竿) 衣類をかける竹、あるいは、木」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˹キン˺マー　˹ナーラ˺シナー　˺カキ　シ˹キ˺リバ [˹kim˺maː ˹naːra˺ʃinaː ˺kḁki ʃi̥˹ki˺ribaː](着物は軒のならし竹に掛けて置きなさいよ)。

˹ナーラ˺スン [˹naːra˺suŋ]【他動】流す。ス˹ナカー˺ラ　˹ナーラ˺スンティ　˹ベーン˺ドゥ　ン˹カイカジヌ˺　フキティ　˹ナーラサラ˺ヌ [su˹naka:˺ra ˹naːra˺sunti ˹beːn˺du ʔŋ˹kaikaʤinu˺ ɸu̥kiti ˹naːrasara ˺nu](海から流そうとしているが、逆風＜迎え風＞が吹いて流されない)。˹ナーラシ˺　プサカー　˹ナーラ˺ス　˺ムヌ　˹パー˺ク　˹トゥーナカー　サンギ　ギーティ　ナーラ˺シバ [˹naːraʃi˺ pu̥saka: ˹naːra˺su ˺munu ˹paː˺ku ˹tuːnaka: saŋgi giːti naːra˺ʃiba](流したければ流すものを、早く沖の方まで引張っていって流せよ)。˹ナーラ˺シェー　˺ミサムヌ [˹naːra˺ʃeː ˺misamunu](流せばいいのに)。シ˹マッサル˺ヌ　˺ピン　˹イソーパーレー　˹シーティ˺　ヤ˹ナ˺ムヌ　フ˹ネー˺マナ　˹ヌーシティ˺　ス˹ナカー˺ラ　˹ナーラ˺スンティ　ス˹コーリ　オーッ˺タ [ʃi˹massaru ˺nu ˺piŋ ˺ʔisoːpaːreː ˹ʃiːti˺ ja˹na˺munu ɸu˹neː˺mana ˹nuːʃiti˺ su˹nakaː˺ra ˹naːra˺sunti su̥˹koːri ʔoːt˺ta](島くさらしの祭りにはイソーパーレーの祓いをして悪霊を小船に乗せて海から流そうと準備をいておられた)。ク˹レー　ナーラサラ˺ヌ [ku˹reː naːrasara˺nu](これは流されない)。˹ナーラ˺シ　˺ミサカー　˹ナーラ˺ス　˺クトー　˺ナルン [˹naːra˺ʃi ˺misakaː ˹naːra˺su ˺ku̥toː ˺naruŋ](流してよければ流すことは出来る)。˺クマーラ　˹ナーラ˺シェー　˺ミサムヌ [˺kumaːra ˹naːra˺ʃeː ˺misamunu](ここから流せばいいのに)。˹ナーラ˺シバ [˹naːra˺ʃiba](流せよ)。

˹ナーラスン [˹naːrasuŋ]【他動】鳴らす。ドゥ˹ラーン˺　ウティ　˹ナーラスン [du˹raːŋ˺ ʔuti ˹naːrasuŋ](銅鑼を打って鳴らす)。フ˹チェー　ナーラサンドー˺シ　˹イー˺ヤ　ッ˹ふァイ˺バ [ɸu̥˹tʃeː naːrasandoː˺ʃi ˹ʔiː˺ja fˈfai˺ba](口は鳴らさないでご飯は食べなさいよ)。ス˹ク˺マ　˹ソー˺ルカー　˹ナーリムノー　ナーラシ˺ミサンツォー [su̥˹ku˺ma ˹soː˺ruka: ˹naːrimunoː naːraʃi˺ misantsoː](スクマ＜稲の初穂祭り＞をされたら鳴り物＜楽器＞は鳴らしてもよいそうだ)。ス˹ク˺マウチェー　˹ナーリムヌ　ナーラス˺　クトー　ナ˹ラン˺シェン [su̥˹ku˺maʔutʃe: ˹naːrimunoː naːrasu˺ ku̥toː na˹raŋ˺ʃeŋ](稲の初穂祭りの内＜祭りが終わるまで＞は鳴り物を鳴らすことは出来なかった)。˹ナーラシェー˺　ミサムヌ [˹naːraʃeː˺ misamunu](鳴らせば良いのに)。˹マー˺ビン　˹ナーラシ˺バ [˹maː˺bin ˹naːraʃi˺ba](もっと鳴らせよ)。

˹ナーラブン [˹naːrabuŋ]【自動】並ぶ。老年層の使用語。若年層は、ナ˹ラブン [na˹rabuŋ](並ぶ) ともいう。˺クナー　˹ナーラブンティ　スンドゥ˺　シ˹バー˺ティ　˹ナーラバラヌ [˺kunaː ˹naːrabunti sundu˺ ʃi˹baː ˺ti ˹naːrabaranu](此処に並ぼうとするが、狭くて並ばれない)。˹ナーラビ˺　ミサカー　˹ノー˺シン　˹ナーラブ˺　クトー　ナ˹リ˺ス [˹naːrabi˺ misakaː ˹noː˺ʃin ˹naːrabu˺ ku̥toː na˹ri˺su](並んで良ければ、何と

かして並ぶことは出来るものだ)。ˈクナー ˈナーラベーˈ ミサムヌ [ˈkunaːˈnaːrabeːˈ misamunu](此処に並べば良いのに)。ˈパーˈク ˈナーラビ [ˈpaːˈku ˈnaːrabi](早く並べ)。

ˈナーˈリ [ˈnaːˈri] 【名】流れ。動詞ˈナーˈルン [ˈnaːˈruŋ](流れる) の連用形から転成した名詞。クˈヌ カーラーˈ ミˈジヌ ナーリˈヌ パˈヤーˈティ バˈタララヌ [kuˈnu kaːraːˈ miˈʤinu naːriˈnu paˈjaːˈti baˈtararanu](この川は水の流れが早いので渡れない < 渡られない >)。

ˈナーリˈキー [ˈnaːriˈkiː] 【名】流木。「流れ木」の義。普通は、ˈユーリキー [ˈjuːrikiː](寄り木。流木) という。カˈジフキヌˈ アトー パˈマˈナー ˈナーリキーˈヌ ウˈチアンギラˈリ ˈブン [kaˈʤiɸukinuˈ ʔatoː paˈmaˈnaː ˈnaːrikiːˈnu ʔuˈʧiʔaŋgiraˈri ˈbuŋ](台風の後には浜に流木が打ち上げられているよ)。

ˈナーリˈプシ [ˈnaːriˈpu̥ʃi] 【名】流れ星。若年層の使用語。老年層はˈユーˈベープシ [ˈjuːˈbeːpu̥ʃi](よばいぼし < 夜這星 >) という。ˈナーリˈプシ ˈミルカー ヤˈナクトゥヌˈ ウˈクˈルンツォー [ˈnaːriˈpu̥ʃi ˈmirukaː jaˈnaku̥tunuˈ ʔuˈkuˈruntsoː](流れ星を見ると不吉なこと < 悪いこと > が起きるそうだ)。

ˈナーリˈプス [ˈnaːriˈpu̥su] 【名】漂流者。「流れ人」の義。ˈトーラヌ ˈナーリプスˈバ ˈタシˈキティ ウˈキˈナー ˈサーローッˈタツォー [ˈtoːranu ˈnaːripu̥suˈba ˈtaʃi̥ˈkiti ʔuˈkiˈnaː ˈsaːroːtˈtatsoː](唐からの漂流者を救助して沖縄へ連れて行かれたそうだ)。

ˈナーリˈフニ [ˈnaːriˈɸuni] 【名】流れ舟。漂流船。カˈジフキˈナー ˈナーリフニˈヌ ˈナーˈリ ˈケータンˈダー [kaˈʤiɸu̥kiˈnaː ˈnaːriɸuniˈnu ˈnaːˈri keːtanˈdaː](台風で流れ舟が流れてき < 漂着し > たことがあるよ)。

ˈナーリˈミジ [ˈnaːriˈmiʤi] 【名】流水。流れ水。老年層は、ミˈジピキ [miˈʤipiki](流水。< 水引 >) ともいう。ˈウーアミヌˈ フー ˈピンマー ウˈブˈミジェー ミˈジヌˈ ウˈクˈリティ ˈナーリミジˈヌ ˈスーˈワンダ ナˈクラーˈヌ バˈタララランシェン [ˈʔuːʔaminuˈ ɸuː ˈpimmaː ʔuˈbuˈmiʤeː miˈʤinuˈ ʔuˈkuˈriti ˈnaːrimiʤiˈnu ˈsuːˈwanda naˈkuraːˈnu baˈtararaŋʃeŋ](大雨が降る時は、大見謝川は洪水が起きて、流水が激しい < 強い > ので、怖くて渡られなかった)。

ˈナーリˈムヌ [ˈnaːriˈmunu] 【名】1漂流物。「流れ物」の義。老年層は、普通、ˈˈユーリムヌ [ˈjuːrimunu](寄り物) という。ˈナーリˈムヌナー トゥˈクˈヌ ˈアンティ ムˈカˈシェーラ アˈザリ ブー [ˈnaːriˈmununa: tu̥ˈkuˈnu ˈʔanti muˈkaˈʃeːra ʔaˈʤari buː](漂流物 < 流れ物 > には徳があると、昔からいわれている)。カˈジフキヌˈ アトー ˈナーリˈムヌ プˈサインˈ パˈマー パッˈタ [kaˈʤiɸu̥kinuˈ ʔatoː ˈnaːri ˈmunu pu̥ˈsaimˈ paˈmaː patˈta](台風の後は漂流物を拾いに浜へ行った)。2放浪する人。さすらいびと。流浪人。流れ者。ウˈレーˈ マーラヌ ˈナーリˈムヌヤ [ʔuˈreːˈ maːranu ˈnaːriˈmunuja](彼は何処からの流れ者か)。

ˈナーリムヌ [ˈnaːrimunu] 【名】楽器。三線や笛、鉦、銅鑼、太鼓など。「なりもの (鳴り物)」の義。スˈクˈマ シˈマˈソールカー ˈナーリムノー ナーラシェーˈティ ˈプールˈヌ スˈコール ソーッˈタ [su̥ˈkuˈma ʃiˈmaˈsoːruka: ˈnaːrimunoː naːraʃeːˈti ˈpuːruˈnu su̥ˈkoːru soːtˈta](スクマ < 稲の初穂祭 > を済まされると鳴り物を鳴らして豊年祭の準備をされた)。

ˈナーリˈルン [ˈnaːriˈruŋ] 【自動】流れる。「流れる < 下一段活用 >」の転訛したもの。ˈウーカジヌˈ フクカー ˈフネー ˈシナー ˈキシティ ˈナーリˈルンティ ウˈムータンˈドゥ ˈナーリランˈシェン [ˈʔuːkaʤinuˈ ɸu̥kuka: ˈɸuneːˈʃina: ˈki̥ʃiti ˈnaːriˈrunti ʔuˈmuːtanˈdu ˈnaːriraŋˈʃeŋ](台風が吹くと船は綱が切れて流れると思ったが流れなかった)。ˈクマー ˈスーˈヌ ピˈクンダˈ フネー ˈナーリ ヤッˈサン [ˈkumaː ˈsuːˈnu pi̥ˈkundaˈ ɸuneː ˈnaːri jasˈsaŋ](ここは潮の流れが速い < 潮が流れる > から舟が流れやすい)。ˈナーリˈル ˈフネー パˈヤーˈケー ˈナーリˈレー ニサムヌˈナー [ˈnaːriˈru ˈɸuneː paˈjaːˈkeː ˈnaːriˈreː misamunuˈnaː](流れる舟は南の方向へ流れればいいのだがなあ)。ˈパーˈク ˈナーリˈリ [ˈpaːˈku ˈnaːriˈri](早く流れろ)。クˈヌˈ アミシェー ムーˈル ナーリˈルンティ ウˈムータンˈドゥ ˈナンˈゾー ˈナーリランˈシェン [kuˈnuˈ ʔamiʃeː muːˈru naːriˈrunti ʔuˈmuːtanˈdu ˈnanˈʤoː ˈnaːriraŋˈʃeŋ](この雨では全部流れると思ったが、あまり流れなかった)。ˈナーリヤッˈサンティ シˈタンティンˈ シˈグ ナーリˈル ˈクトー ˈナーンˈパジ [ˈnaːrijas ˈsanti ʃi̥ˈtantiŋˈ ʃiˈgu naːriˈru ˈku̥toː ˈnaːmˈpaʤi](流れやすいといっても、すぐに流れることはないはずだ)。ˈタイˈフーナー ムーˈルバーˈキ ˈナーリˈレー ˈミサタムヌ [ˈtaiˈɸuːnaː muːˈrubaːˈki ˈnaːriˈreː ˈmisatamunu](台風で全部流れればよかったのに)。ˈナーリˈリ [ˈnaːriˈri](流れろ)。

˩ナール [˩naːru] 【名】鳴り。鳴ること。音響。物音。ムˬヌ˥ヌ ˩ナーリ˥ ブˬリン˥ギサヌ ˩ヌー˥ヌ ˩ナール˥ カヤー [muˬnu˥nu ˩naːri˥ buˬriŋ˥gisanu ˩nuː˥nu ˩naːru˥kajaː](物が鳴り響いているようだが、何の音＜鳴り＞だろうか)。

˥ナールミナ [˥naːrumina] 【名】 (動) 貝の名。ムカデガイ科、和名フタモチヘビガイ。˥ナーラミナ [˥naːramina] ともいう。殻は直径約 1、5 センチの丸いパイプ状で、長さ約 5 センチ。珊瑚礁の表面や岩礁の表面に蛇状に付着している。キチン質の蓋を有する。採取する時は平釘の先端を研いだ釘篦(クギベラ)を管の入り口に差し込んで身を取り出す。身はカ˩ラ˥ス [kaˬra˥su](塩漬け) にして酢で和えるとサクサクとした食感がある。甘味もあって美味であり、琉球料理店などで高値で売れた。鳩間島の珍味料理の一つである。鳩間島で 2、3 ヶ月の間イカ釣り漁をした糸満漁師は島人が製造したナールミナのカ˩ラ˥ス [kaˬra˥su](塩辛) を買い付けて沖縄へ持参し、那覇市の料亭などに売りさばいたという。˥ナールミナー ˩コーシ˥ キー カ˩ラ˥ス ˥シキティ ˩カーソーッ˥タ [˥naːrumina: ˩koːʃi˥ ki: kaˬra˥su ˥ʃi̥kiti ˩kaːsoːt˥ta](ナールミナは釘篦で掘り起こして採取してきて塩漬けにして売られた)。

˩ナー˥ルン [˩naː˥ruŋ] 【自動】流れる。「流る＜下二段＞」の四段活用化したもの。「〜たぎち流留＜ナガルル＞〜。万、991」の転訛したもの。˩カーラヌ˥ ミˬジェー ナー˥ルンティ ウˬムータン˥ドゥ ˩ナーラン˥バン [˩kaːranu˥ miˬʤe: naː˥runti ʔuˬmuːtan˥du ˩naːram˥baŋ](川の水は流れると思ったが流れないよ)。˥フネー ˩ナー˥リ ˥パリˬナー˥ヌ [˥ɸune: ˩naː˥ri pariˬnaː˥nu](舟は流れていってしまった)。˩アッ˥タニ ˩ナー˥ル ˥クトー ˩ナーン˥ パジ [˩ʔat˥tani ˩naː˥ru ˥kṵto: ˩naːm˥ paʤi](急に流れることはないはずだ)。˩パー˥ク ˩ナー˥レー ˥ミサムヌ [˩paː˥ku ˩naː˥re: ˥misamunu](早く流れれば良いのに)。˩ナー˥リバ [˩naː˥riba](流れろ)。ミˬジェー˥ クˬマー˥ニ ˩ナー˥ルンティ シˬタヌ ナーラン˥バン [miˬʤe:˥ kuˬmaː˥ni ˩naː˥runti ʃi̥ˬtanu naːram˥baŋ](水はここへ流れるといったが流れないよ)。˩ナー˥リ ˥パレーン [˩naː˥ri ˥pareːŋ](流れていってしまった)。˥クマーラ ˩ナー˥ル ˥クトー ˩ナーヌ˥ヌ ˩パー˥ク ˩ナー˥レー ˥ミサムヌ [˥kumaːra ˩naː˥ru ˥kṵto: ˩naːnu˥nu ˩paː˥ku ˩naː˥re: ˥misamunu](ここから流れることはないが、早く流れればいいのに)。˩ナー˥リ [˩naː˥ri](流れろ)。

˩ナールン [˩naːruŋ] 【自動】鳴る。響く。「〜そよと奈流麻涅＜ナルマデ＞〜。万、4398」の転訛したもの。クˬヌ サンシンマー˥ イッˬケナ ナールンティ スンドゥ˥ バー ˩サンシンヌ˥ スコー ˩ナーラヌ [kuˬnu saŋʃimmaː˥ ʔikˬkena naːrunti sundu˥ ba: ˩saŋʃinnu˥ sṵko: ˩naːranu](この三線は非常に鳴るというが、私の三線ほどは鳴らない)。˩ナーリベー [˩naːri beː](鳴っている)。クˬリヌ˥ スコー ˩ナール サンシンマー ナー˥ヌ [kuˬrinu˥ sṵko: ˩naːru saŋʃimma: naː˥nu](これぐらい鳴る三線はない)。˩マー˥ビン ˩ナーレー˥ ミサムヌ [˩maː˥bin ˩naːreː˥ misamunu](もっと鳴ればいいのに)。˩ナーリ [˩naːri](鳴れ)。

˩ナールン [˩naːruŋ] 【他動】手を長く突き出す。長く差し延べる。手を出す。˩マー˥ビン ˥ティー ˩ナールンティ スンドゥ ナーララヌ [˩maː˥bin ˥tiː ˩naːrunti sundu naːraranu](もっと手を差し出そうとするが、差し出されない)。˩ティー˥バ ˩ナーリ˥ ミサカー カˬサマリンドゥ ナール˥ プˬソー˥ ブˬラーヌ [˩tiː˥ba ˩naːri˥ misakaː kaˬsamarindu naːru˥ pṵˬsoː˥ buˬraːnu](手を差し出してよければ掴(ツカ)まれるが、手を出す人がいない)。ナー˩ナー˥シ ˥ティー ˩ナーレー˥ ミサムヌ [naːˬnaː˥ʃi ˥tiː ˩naːreː˥ misamunu](長く＜長々と＞手を差し出せばいいのに)。˩パー˥ク ˥ティー ˩ナーリ [˩paː˥ku ˥tiː ˩naːri](早く手を差し出せ)。

˩ナーレ˥ー [˩naːreː˥:] 【助】助詞連語。〜だろうねえ。˩ナー [naː](〜ね)・ウˬレー [ʔuˬreː](それは) の融合同化した形。1動詞の終止形について動作作用の確認を表す。˩キュー˥ヤ パルンˬナーレ˥ー [˩kjuː˥ja ˥parunˬnaːreː˥:](今日はきっと行くだろうね)。2疑問の終助詞に付いて、事柄に対する疑問、不確かであやふやな気持ちを表す。˩キュー˥ヤ イˬサナケー˥ パルンカヤーˬナーレ˥ー [˩kjuː˥ja ʔiˬsanakeː˥ paruŋkajaːˬnaːreː˥:](今日は石垣島へ行くだろうかねえ＜どうも怪しい＞)。ウˬレー˥ ヌーカヤーˬナーレ˥ー [ʔuˬreː˥ nuːkajaːˬnaːreː](それは何だろうかねえ＜不確か＞)。

˩ナー˥ン [˩naː˥ŋ] 【形】長い。八十歳以上の古老が使用する。ナˬガー˥ン [naˬgaː˥ŋ](長い)< 七十歳台以下の使用語＞ともいう。パˬナシ˥ヌ ˩ナー˥ティ アˬキリ ナー˥ヌ [paˬnaʃi˥nu ˩naː˥ti ʔaˬkiri naː˥nu](話が長いので飽きてしまった)。˥アイヤー ˩ナーナーン˥シェンドゥ イッˬケナ ナーン˥ティ ˥ウムイ ブˬレー˥ナー [˥ʔaijaː ˩naː naːŋ˥ʃendu ʔik

˞kena naːn˞ti ˞ʔumui bu˞reː˞naː](そんなに長くはなかったが、非常に長いと思っていたのであろうなあ)。ウ˞レー　ナー˞ヌ　シゥ˞カーラヌ [ʔu˞reː naː˞nu sɨ̥˞kaːranu](それは長いから使えない)。˞ナー˞ムノー　シゥ˞カーリン [˞naː˞ munoː sɨ̥˞kaːriŋ](長いものは使える)。˞マー　ン˞ベーマ　ナー˞カー　˞ミサンドゥ [˞maː ʔm˞beːma naː˞kaː ˞misandu](もう少し長ければいいのだが)。ナー˞ナーヌ˞　ムヌ [naː˞naːnu˞ munu](長い物)。

˞ナーン [˞naːŋ] 【助】助詞連語。〜にも。格助詞˞ナー [naː](〜に。場所) に係助詞˞ン [ŋ](も) の付いた形。サ˞キ˞　ヌムカー　˞ウナーン　˞カナーン　マー˞ン˞ナーン　ニ˞ビス [sḁ˞ki˞ numukaː ˞ʔunaːŋ ˞kanaːm maː˞n˞naːn ni˞bisu](酒を飲んだらここにも、あそこにも何処にも寝る＜寝てしまう＞よ)。

˞ナーン˞カー　˞ナーン˞　ク˞ラシ [˞naːŋ˞kaː ˞naːŋ˞ ku˞raʃi] 【連】無ければ無いなりの暮らし。˞金が無ければ無いなりに慎ましやかに暮らせる」の意。＜諺＞。

˞ナーン˞クトゥ [˞naːŋ˞kṵtu] 【連】無いこと。嘘。実在しないこと。˞ナーン˞　クトゥバ　アルン˞コーラ˞シ　パ˞ナ˞シ　˞ベー [˞naːŋ˞ kṵtuba ʔaruŋ˞koːra˞ʃi pa˞na˞ʃi ˞beː](無いこと＜嘘＞をあるかのごとく＜実在するふりして＞話す)。

˞ナーン˞ナスン [˞naːn˞nasuŋ] 【他動】無くなす。なくす。なくならせる。失う。˞アイニ　˞ムティ　˞アー˞クカー　˞ナーン˞ナスンダー　˞ナーンナサン˞ヨーニ　カ˞ザ˞ミシキ [˞ʔaini ˞muti ˞ʔaː˞kukaː ˞naːn˞nasundaː ˞naːnnasaŋ˞joːni ka˞ʤa˞mi ˞ʃi̥ki](あんなに持ち歩くと無くなすので、無くなさないように隠しておけ)。ウ˞ヤ˞ヌ　˞ティー˞カター　˞ナーン˞ナシ　˞ナー˞ヌ [ʔu˞ja˞nu ˞tiː˞kataː ˞naːn˞naʃi ˞naː˞nu](親の形見を無くしてしまった)。˞ナーン˞　ナス　プ˞スンヌドゥ　ワッ˞サル [˞naːn˞nasu pṵ˞sundu was˞saru](無くする人が悪いのだ)。˞ナーン˞ナシェー　˞ミサムヌ [˞naːn˞naʃeː ˞misamunu](無くせばいいのに)。˞アイブ　˞ムノー　˞ナーン˞ナシ＜シ˞ティリ＞[˞ʔaibu ˞munoː ˞naːn˞naʃi＜ʃi˞tiri＞](あんなものは無くせ＜捨てろ＞)。

˞ナーン˞ナルン [˞naːn˞naruŋ] 【自動】無くなる。無いようになる。消失する。紛失する。˞アイニ　シゥ˞カウ˞カー　タ˞デー˞マンチン　˞ジン˞マー　˞ナーン˞ナルンダ　˞ナーンナラン˞ヨーニ　ク˞バ˞メーティ　シゥ˞カイ˞バ [˞ʔaini sɨ̥˞kau˞kaː ta˞deː˞mantʃin ˞ʤim ˞maː ˞naːn˞narunda ˞naːnnaraŋ˞joːni ku˞ba˞meːti sɨ̥˞kai˞ba](あのように使うと、今すぐに＜唯今のうちに＞お金は無くなるから、無くならないように節約して＜小出しにして＞使いなさい)。˞ジン˞マー　˞ナーン˞ナリ　˞ナーヌ˞ヌ　˞ヌー˞スワメー [˞ʤim˞maː ˞naːn˞nari ˞naːnu˞nu ˞nuː˞suwa ˞meː](お金は無くなってしまったが、如何しようか、もう)。˞オーパ˞ヤー　˞ナーン˞ナル　˞クトー　˞ナー˞ヌ [˞ʔoːpa˞jaː ˞naːn˞naru ˞kṵtoː ˞naː˞nu](そんなに早く無くなることはない)。˞ナーン˞ナレー　˞ミサムヌ [˞naːn˞nareː ˞misamunu](無くなればいいのに)。˞パー˞ク　˞ナーン˞ナリ [˞paː˞ku ˞naːn˞nari](早く無くなれ)。

˞ナーン˞パー [˞naːm˞paː] 【名】(植) 菜っ葉。˞ナーン˞パー　カ˞カイ˞キー　˞スー　バカ˞シ [˞naːm˞paː kḁ˞kai˞kiː ˞suː baka˞ʃi](菜っ葉をもいできてお汁に炊きなさい)。

˞ナーン　˞リー˞ヤ　タ˞ティル˞ナ [˞naː˞n ˞riː˞ja tḁ˞tiru˞na] 【連】無い例＜前例の無いこと＞は立てる＜新設する＞な。＜諺＞。

˞ナイ [˞nai] 【名】苗。「〜佐野田の奈倍能＜ナヘノ＞〜。万、3418」の転訛したもの。˞ナイ˞ヤー　˞トゥリティ　˞アウ˞ダナ　イ˞リティ˞　カ˞タ˞ミ　カ˞ヨーシェー˞ティ　イ˞ビシミタ [˞nai˞jaː ˞turiti ˞ʔau˞dana ʔi˞riti˞ kḁ˞ta˞mi ka˞joːʃeː˞ti ʔi˞biʃimita](稲の苗は苗代から取って畚(モッコ)に入れて、担いで通わせながら田植えをさせた)。カ˞ブッチヌ˞　ナイ [ka˞buttʃinu˞ nai](南瓜の苗)。˞ウール˞ヌ　˞ナイ [˞ʔuːru˞nu ˞nai](瓜の苗)。˞マイヌ˞　ナイ　ウ˞ラ˞スン [˞mainu˞ nai ʔu˞ra˞suŋ](稲の苗を下ろす＜苗を作るために播種する＞)。

˞ナイ [˞nai] 【名】1長さ。空間的、時間的な長さ。→ [naga] → [nagi] → [nai] のように音韻変化したもの。対語は　シ˞マー [ʃi˞maː](横)。パ˞ラー˞ヌ　˞ナイ　パ˞カ˞ルン [pa˞raː˞nu ˞nai pḁ˞ka˞ruŋ](柱の長さを測る)。˞ウンヌ˞　ナイ　ナー˞イ˞　マティ　˞ベー˞タ [˞ʔunnu˞ nai naː˞i˞ mati ˞beː˞ta](その間、ずっと待っていた)。2縦。パ˞タキ˞ヌ　˞ナイ　˞シマー　パ˞カ˞リティ　˞マー˞ル　˞マイ˞ヤユー　ア˞ティ˞ミリバ [pḁ˞taki˞nu ˞nai ˞ʃimaː pḁ˞ka˞riti ˞maː˞ru ˞mai˞jaju: ʔa˞ti˞ miriba](畑の縦横を測って、何処が大きいか比べて＜当てて＞みなさい)。˞ナイ˞ヌ　ナ˞ガー˞モーラ (˞ナー˞モーラ)　イ˞ラ˞ビ　˞トゥリバ [˞nai˞nu na˞gaː˞moːra(˞naː˞moːra)ʔi˞ra˞bi ˞turiba](長さの長いものから選んで取りなさいよ)。˞ナイ˞ヤー　˞ヌー˞ル　ナ˞ガー˞ワ (˞ナー˞ワ)[˞

nai˥ja: ˩nu:˥ru na˩ga:˥wa(˩na:˥wa)](長さは何が長いか)。˩ナー˥ワ [˩na:˥wa](長いか) 老年層の使用語彙。

˥ナイ [˥nai] 【名】地震。「地震、ナヰ」『類聚名義抄』の転訛。˩ナイ˥ヌ ˥クーカー ム˩カ˥シプソー ˩クゥー˥ヌ ˥シチャ ˩クゥー˥ヌ ˥シチャティ ア˩ゾーッタ˥ル [˩nai˥nu ˥ku:ka: mu˩ka˥ʃipu̥so: ˩kwa:˥nu ˥ʃi̥ʧa ˩kwa:˥nu ˥ʃi̥ʧati ʔa˩ʤo:tta˥ru](地震がおこると昔の人は、桑の下桑の下と唱えられ＜言われ＞たよ)。

˥ナイ ウ˩ラ˥スン [˥nai ʔu˩ra˥suŋ] 【連】苗を下ろす＜種蒔きをする＞。タ˩ナ˥ドゥルナーヤ ム˩ラズー˥ ムー˩ル˥ ナイ ウ˩ラ˥スン [ta˩na˥duruna:ja mu˩raʤu:˥ mu:˩ru˥ nai ʔu˩ra˥suŋ](種取り祭には村中の皆が稲の苗を下ろす＜種蒔きをする＞)。

˥ナイシマー [˥naiʃima:] 【名】めちゃくちゃになるさま。「縦が横になる」の義。˥ナイシマー ˥ナリ ˩ヨー˥ゾー シ˩キララ˥ヌ [˥naiʃima ˥nari ˩jo:˥ʤo: ʃi̥˩kirara˥nu](めちゃくちゃになって手が付けられない＜施す手だてがない。˩養生できない」の義＞)。˩ナイ˥ヤー シ˩マー˥ ナリ ˩ナー˥ヌ [˩nai˥ja: ʃi˩ma:˥ nari ˩na:˥nu](あべこべになってしまった。＜縦は横になってしまった。黒が白になった＞)。

˥ナイシマー [˥naiʃima:] 【名】縦横。˥ナイシマー ッ˩サン˥ スコー ˩パン˥タリティ ア˩ラキマー˥キ ˩アー˥クンティ [˥naiʃima: s˩saŋ˥ su̥ko: ˩pan˥tariti ʔa˩rakima:˥ki ˩ʔa:˥kunti](縦横が分からない＜知らない＞ほど太って、歩きかねているさ)。

˥ナイシマー ˥ナリ [˥naiʃima: ˥nari] 【連】縦は横になり。正常でなくなる様。ごちゃごちゃになる様。混雑するさま。˥ナイシマー ˥ナリ ˩ヌー˥ル ˥ヌーティ ッ˩サヌ [˥naiʃima: ˥nari ˩nu:˥ru ˥nu:ti s˩sanu](縦が横になって＜ごちゃごちゃになって＞何が何だか分らない)。

˥ナイダーチ [˥naida:ʧi] 【副】長さに沿って。道の長さが続いて。長さのかぎりずっと。道沿いに。ミ˩チ˥ヌ ˥ナイダーチ ウ˩ヤー˥レーティ ア˩ラ˥キ ˩アー˥ク [mi˩ʧi˥nu ˥naida:ʧi ʔu˩ja:˥re:ti ˩ʔa:˥ku](道の長さに続いて＜道沿いに＞大声で叫んで歩いている)。

˩ナイ˥チ [˩nai˥ʧi] 【名】内地。日本本土のこと。「外地」の対義語。新しく標準語から借用された語。イ˩クサユー˥ヌ ˥アトゥナー ˩ナイチユミ˥バ ˩サーリ˥ ケータツォー [ʔi˩kusaju:˥nu ˥ʔatuna: ˩naiʧijumi˥ ba ˩sa:ri˥ ke:tatso:](戦後に本土出身の嫁＜内地嫁＞を連れてきたそうだ)。

˩ナイチ˥プス [˩naiʧi˥pu̥su] 【名】内地人。本土の人。˩タイ˥パンナーテー ˩ナイチプス˥ン ˥ヤーナール ジョ˩チュー˥バ ˩シール˥ パ˩タラキ˥ ブ˩タ˥ツォー [˩tai˥panna:te: ˩naiʧipu̥su˥ŋ ˥ja:na:ru ʤo˩ʧu: ˥ba ˩ʃi:ru˥ pḁ˩taraki˥ bu˩ta˥tso:](台湾では内地人の家で女中をして働いていたそうだ)。

˩ナイ˥チャー [˩nai˥ʧa:] 【名】内知人に対する卑称。ウ˩ヌ˥ プ˩ソー ナイ˥チャー ヤ˩ルンドゥ˥ イッ˩ケナ˥ ウ˩キナー˥ヌ ˥クトゥ ˥ウムイ ッ˩ふォーッ˥タン [ʔu˩nu˥ pu̥˩so: nai˥ʧa: ja˩rundu˥ ʔik˩kena˥ ʔu˩kina:˥nu ˥ku̥tu ˥ʔumui f˩fo:t˥taŋ](その人は内地人だが非常に沖縄のことを思ってくださった)。

˩ナイトー˥スン [˩naito:˥suŋ] 【他動】薙ぎ倒す。雑草を横ざまに刈り払う。˩ユシ˥キムトゥ ˩ナイトー˥スンティ ˩スンドゥ ナイトーサラ˥ヌ [˩juʃi̥˥kimutu ˩naito:˥sunti ˩sundu naito:sara˥nu](ススキの株を刈り払おうとするが刈り払われない)。˩タイフー˥ヌ ˥フキティ ˩シン˥ザー ˩ナイトー˥シ ˩ナー˥ヌ [˩taiɸu:˥nu ˥ɸu̥kiti ˩ʃin˥ʤa: ˩naito:˥ʃi ˩na:˥nu](台風が吹いて砂糖黍を薙ぎ倒してしまった)。˩キーム˥トゥーン ˩ナイトー˥ス ˩ウーカジ [˩ki:mu˥tu:n ˩naito:˥su ˩ʔu:kaʤi](木々をも薙ぎ倒す台風)。˩ナイトー˥シェー ˥ミサムヌ [˩naito:˥ʃe: ˥misamunu](薙ぎ倒せばいいのに)。˩ナイトー˥シ [˩naito:˥ʃi](薙ぎ倒せ)。ッ˩サ˥バー ˩ナイトー˥スンティ ˩ベー˥ンドゥ ˩タンガ˥シェー ˩ナイトーサラ˥ヌ [s˩sa˥ba: ˩naito:˥sunti ˩be:n˥du ˩taŋga˥ʃe: ˩naito:sara˥nu](草を薙ぎ倒すように刈り取ろうとするが、一人では刈り取られない)。˩ナイトー˥シ ˥ミサカー ˩ナイトー˥ス ˥クトー ナルン˩ダー [˩naito:˥ʃi ˥misaka: ˩naito:˥su ˥kuto: narun˩da:](薙ぎ倒してよければ、薙ぎ倒すことはできるよ)。˥アイブ ˥ムノー ムー˩ル ナイトー˥シェー ˥ミサムヌ [˥ʔaibu ˥muno: mu:˩ru naito:˥ʃe: ˥misamunu](あんなものは全部薙ぎ倒せばいいのに)。ムー˩ル ナイトー˥シ [mu:˩ru naito:˥ʃi](全部薙ぎ倒せ)。

˥ナイトゥリ [˥naituri] 【名】苗取り。苗代から苗を取ること。˩ナーッ˥ソーラ ˥ナイトゥリ ˩シェー˥ティル ˩マイヤー˥ イ˩ブタ˥ダー [˩na:s˥so:ra ˥naituri ˩ʃe:˥tiru ˩maija:˥ ʔi˩buta˥da:](苗代から苗取りしながら稲は植えた＜田植えした＞のだよ)。

˥ナイナガー [˥nainaga:] 【名】縦長。長さの長いもの。縦の長いもの。長方形。˥ナギナガー [˥naginaga:](長さの長いもの) ともいう。ク˩ヌ ター˥ヤ ˥ナイナ

ガー　˥ナリティ　˥ター　˩カイシ　グリ˥サン [ku˩nu taː˥ja ˥nainagaː ˥nariti ˥taː ˩kaiʃi guri˥saŋ](この田圃は縦長になっていて、田は耕し辛い)。

˩ナイラ˥スン [˩nairaˌsuŋ] 【他動】萎えさせる。しおれさせる。˩ナイ˥ルン [˩naiˌruŋ](萎える) の未然形に使役の助動詞˥スン [˥suŋ](～せる。～させる) が下接して形成された使役動詞 (派生動詞)。˩ナーンパー˥ヤ　ミ˩ジ˥　カ˩カン˥カー　˩ナイラ˥スン˩ダー [˩naːmpaː˥ja mi˩ʤi˥ kạ˩kaŋ˥kaː ˩nairaˌsun˩daː](菜っ葉は水をやらないと＜掛けないと＞しおれさせるよ)。

˩ナイ˥ルン [˩naiˌruŋ] 【自動】萎える。しおれる。しぼむ。野菜などの鮮度が失われてしなびる。気力、体力が抜けてぐったりする。˩ナーンパー˥ヤ　ミ˩ジ˥ナー　シ˩キラン˥カー　˩ナイ˥ルン˩ダー [˩naːmpaː˥ja mi˩ʤi˥naː ʃị˩kiraŋ˥kaː ˩naiˌrun˩daː](菜っ葉は水につけておかないと萎えるよ)。ミ˩ジ˥ナー　シ˩キル˥カー　˩ナイラ˥ヌ [mi˩ʤi˥naː ʃị˩kiru˥kaː ˩nairaˌnu](水に浸けると萎えない)。˥ナイ　˥パリ　˩ナー˥ヌ [˥nai ˥pari ˩naː˥nu](萎えてしまった)。˩ナイ˥ル　˥クトー　˩ナー˥ヌ [˩naiˌru ˥kụto: ˩naː˥nu](萎えることはない)。ン˩メーマ　ナイ˥ヤー　˥ミサムヌ [ʔm˩meːma: naiˌja: ˥misamunu](少しは萎えれば良いのに)。˩パー˥ク　˩ナイ˥リ [˩paː˥ku ˩naiˌri](早く萎えろ)。

˩ナウ˥スン [˩nauˌsuŋ] 【他動】1治す。治療する。若年層は˩ノー˥スン [˩noːˌsuŋ](治す。直す。元通りにする) ともいう。˩ヤン˥マイ　˩ナウ˥スンティ　ウ˩キ˥ナー　˩パッタン˥ドゥ　˩ナウサラン˥シェンツォー [˩jam˥mai ˩nau˥sunti ʔu˩kiˌnaː ˩pattan˥du ˩nausaraŋ˥ʃentsoː](病気を治しに沖縄へ行ったが治されなかったそうだ)。ク˩レー　ナウシヤッ˥サン [ku˩reː nauʃijas˥saŋ](これは治しやすい)。マ˩ナ˥マン˩デー˥カー　˩ナウ˥ス　˥クトー　ナ˩リ˥シバ　˩ナウ˥シェー　˥ミサムヌ [ma˩na˥man˩deː˥ka: ˩nau˥su ˥kụto: na˩riˌʃiba ˩nau˥ʃe: ˥misamunu](今なら治すことはできるから、治せばいいのに)。ク˩レー˥　ヤー˩ディン　ナウ˥シ [ku˩reː˥ jaː˩din nau˥ʃi](これは必ず治せ)。2直す。元通りにする。˩ドング˥ヌ　ヤ˩ブ˥リ　˩ベーン˥　トンマー　˩ナウ˥シ　シ˩キ˥リ [˩doŋgu˥nu ja˩buˌri ˩beːn˥ tomma: ˩nau˥ʃi ʃị˩kiˌri](道具の壊れたところは直しておきなさい)。

˩ナウリ˥ユー [˩nauriˌjuː] 【名】豊年。稔りの年。˩ナウリ˥ユー　ユ˩ガフユー˥　ニガイ　˩オー˥ラ [˩nauri˥ juː ju˩gaɸujuː˥ nigai ˩ʔoː˥ra](実りの年を、豊年を祈願致しましょう)。

˩ナウルン [˩nau˥ruŋ] 【自動】1治る。治癒する。元通りになる。老年層のことば。若年層は、˩ノー˥ルン [˩noːˌruŋ](治る。治癒する) ともいう。˩ヤン˥マー　˩ナウ˥ルンティ　˥ウムイ　˩ヨー˥ゾー　˩サン˥カー　˩ナウラ˥ヌ [˩jam˥ma: ˩nau˥runti ˥ʔumui ˩joː˥ʤo: ˩saŋ˥ka: ˩naura˥nu](病気は治ると思って養生しないと治らない)。ク˩リ˥　ヌムカー　˩ナウリ˥　パ˩ヤー˥ン [ku˩riˌ numuka: ˩nauri˥ pa˩jaː˥ŋ](これを飲むと治りやすい)。˩ヤン˥ヌ ＜˩ヤンマイ˥ヌ＞　˩ナウ˥ル　ク˩トゥバ˥ル　ニ˩ガイシキ˥ル [˩jan˥nu＜˩jammai˥nu＞ ˩nau˥ru kụ˩tuba˥ru ni˩gaiʃị˩kiˌru](病気が治ることを祈願する)。˩パー˥ク　˩ナウ˥レー　˥ミサムヌ [˩paː˥ku ˩nau˥reː ˥misamunu](早く治ればいいのに)。ン˩マー˥ムヌ　ッ˩ふァイティ　パー˥ク　˩ナウ˥リバ [ʔm˩ma:˥munu f˩faiti paː˥ku ˩nau˥riba](美味しいものを食べて早く治りなさいよ)。2作物が実る。豊作になる。カ˩ジヌ˥　フ˩カン˥カー　ス˩クリ˥ムノー　˩ナウ˥ルン [ka˩ʤinu˥ ɸụ˩kaŋ˥kaː sụ˩kuriˌmuno: ˩nau˥ruŋ](台風が吹かなければ作物は実る＜豊作になる＞)。

˩ナウ˥レ [˩nau˥re] 【自動】˩ナウ˥ル (稔る)(古謡語) の命令形、˩ナウ˥レ [˩nau˥re]、˩ナウ˥リ [˩nau˥ri](稔れ)。日常の方言では˩ナウ˥ルン [˩nau˥ruŋ](稔る) と言い、その命令形は˩ナウ˥リ [˩nau˥ri](稔れ＜老年層＞)、若年層は˩ノー˥リ [˩noː˥ri](稔れ) という。古謡「カムラーマ歌」では/パトゥマユーヌ　ナウラバ　トゥムルユーヌミギラバ～/(鳩間村＜世＞が稔ったら、友利御嶽の守護する村＜世＞が豊作になったら～) のように対句仕立てで歌われている。古謡「ユークイジラマ」では、/パトゥマユーヌ　＜囃子＞ヨーホ　トゥムリユーヌ　ナウラバ＜囃子＞ヨーホ　スイ　ナウレ～/(鳩間村＜世＞が＜囃子＞ヨーホ　友利御嶽の守護する村が稔ったならば＜囃子＞すい稔れ) と歌われている。

˥ナウン [˥nauŋ] 【他動】なう (綯う)。「搓・索、ナフ」『類聚名義抄』の転訛。縄を綯う。若年層は˥ヌーン [˥nuːŋ](綯う) ともいう。バ˩ラフ˥タジナ　˥ナウンティ　˩ベーン˥ドゥ　バ˩ラフタ˥ヌ　タ˩ラーンダ˥　シナー　˩ナーラ˥ヌ (˩ノーラ˥ヌ老年層)[ba˩raɸụ˥taʤina ˥naunti ˩beːn˥du ba˩raɸụta˥nu ta˩raːnda˥ ʃi-na: ˩naːra˥nu(˩noːra˥nu) 老年層](藁縄を綯おうとしているが、藁が足らないので綱は綯え＜綯われ＞ない)。˥シナ　˩ナイ˥　プサカー　˥ドゥーシ　˥ナイバ [˥ʃina ˩naiˌpụsaka: ˥duːʃi ˥naiba](綱を綯いたけれ

ば自分で綯え)。˥シナ　˥ナウ　プ˩ソー　マー˥ビン　˩ナイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˥ʃina ˥nau pu̥˩so: ma:˥bin ˩nai˥ja: ˥misamunu](綱を綯う人はもっと綯えば良いのに)。

˥ナカ [˥naka] 【名】仲。人間関係。間柄。トゥ˩ジブトゥヌ˥　ナカー　イッ˩ケン　カイ˥ヤン [tu˩ʤibutunu˥ naka: ʔik˩keŋ kai˥jaŋ](夫婦の仲は睦まじい < 仲は美しい。綺麗である >)。˩ウッ˥ツァー　フ˩ターロー˥　ナカー　ヤ˩ニ˥ヤン [˩ʔut˥tsa: ɸu̥˩ta:ro:˥ naka ja˩ni˥jaŋ](彼ら二人の仲は悪い < 汚い >)。ウ˩ヤッふァ˥ヌ　˥ナカー　キ˩サラ˥ヌ [ʔu˩jaffa˥nu ˥naka: ki̥˩sara˥nu](親子の仲は切れない)。

ナ˩カ [na˩ka] 【名】中。内。心の中。胸中。˩ヤーン˥　ナカー　˩ペー˥リバ [˩ja:n˥ naka: ˩pe:˥riba](家の中へ入りなさいよ)。ウ˩ヌ˥　クトー　˩ワー　タンガ˥ヌ　バ˩タ˥ヌ　ナ˩カ˥ナー　ウ˩サ˥ミ　シ˩キ˥リ [ʔu˩nu˥ ku̥to: ˩wa: taŋga˥nu ba˩ta˥nu ˥na˩ka˥na: ʔu˩sa˥mi ʃi̥˩ki˥ri](そのことは君一人の胸中 < 腹の中 > に納めておきなさい)。ウ˩リヌ˥　ン˩ニヌ <˩ンーニヌ˥>　ナカヌ˥　ウ˩ムイ˥ヤー　ター˩ン　サッシユーサヌ [ʔu˩rinu˥ n˩ninu <˩n:ninu˥> nakanu˥ ʔu˩mui˥ja: ta:˩n saʃʃiju:sanu](彼の胸中の思いは誰も察知することが出来ない < 察し得ない >)。

ナ˩ガ [na˩ga] 【接頭】長い。˩ナー [˩na:](長い) ともいう。ナ˩ガヌチ [na˩ganutʃi](長い命、長命)。ナ˩ガナキ [na˩ganaki](長泣き)。ナ˩ガヤン [na˩gajaŋ](長患い。˩長病み」の義)。ナ˩ガワチライ [na˩gawatʃirai](長患い)。ナ˩ガニンヌ˥　フ˩シェー　ノーサラ˥ヌ [na˩ganinnu˥ ɸu̥˩ʃe: no:sara˥nu](長年の癖は直されない)。

˥ナガー [˥naga:] 【名】長いもの。ナ˩ガー˥ヤ　˥バン　ッ˩ふィーリ [na˩ga:˥ja ˥baŋ f˩fi:ri](長いものは私に呉れ)。

˥ナカーッパ [˥naka:ppa] 【名】祖父母の二番目の姉。「中祖母。中お祖母さん」の義。名称、呼称にいう。単に˥アッパ [˥ʔappa](お祖母さん) ともいう。˥ナカーッパー　˩ギューチ˥　ナ˩ロール˥ワ [˥naka:ppa: ˩gju:tʃi˥ na˩ro:ru˥wa](中お祖母さんは何歳になられますか)。

ナガー˩ナガー˥シ [naga:˩naga:˥ʃi] 【副】長く。長々と (強調表現)。ニュートラルな表現では、ナ˩ガーナガー˥シ [na˩ga:naga:˥ʃi](長々と。長く) のアクセント型を示す。˩ティー˥ヤ　ナガー˩ナガー˥シ　ヌ˩バ˥シティ　˥トゥリバ [˩ti:˥ja naga:˩naga:˥ʃi nu˩ba˥ ʃi̥ti ˥turiba](手は長々と延ばして取りなさいよ)。

ナ˩ガー˥ン [na˩ga:˥ŋ] 【形】長い。老年層は˩ナー˥ン [˩na:˥ŋ](長い) ともいう。「～今は長跡 < ナガシト > たけといへど～。万、124」の転訛したもの。パ˩ナ˥シェー　ナ˩ガーン˥ティ　ス˩クタンドゥ　ナン˥ゾー　ナ˩ガー　ナーン˥シェン [pa˩na˥ʃe: na˩ga:n˥ti su̥˩kutandu nan˥ʤo: na˩ga: na:˥nu](話は長いと聞いていたが、あまり長くはなかった)。˥ドゥク　ナ˩ガー˥ヌ　シゥ˩カーラヌ [˥duku na˩ga:˥nu si̥˩ka:ranu](あまりにも長くて使えない)。ナ˩ガー˥　ムノー　˥ヌーヤ [na˩ga:˥ muno: ˥nu:ja](長いものは何か)。ナ˩ガー˥　ナリ˩ナー˥ヌ [na˩ga:˥ nari ˩na:˥nu](長くなってしまった)。マーン˩ベーマ˥　ナ˩ガー˥レー　˥ミサムヌ [ma:ʔm˩be:ma˥ na˩ga:˥re: ˥misamunu](もう少し長ければ良いのに)。ナ˩ガタビ [na˩gatabi](長旅)。

ナ˩ガアサビ [na˩gaʔasabi] 【名】長遊び。長時間遊びふけること。˩ナーアサビ [˩na:ʔasabi](長遊び。遊びふけること) ともいう。ナ˩ガアサビバ　シーベー˥ティ　シ˩グトゥ　バシキティ˥　ウヤン　イ˩ザリ　ベー [na˩gaʔasabiba ʃi:be:˥ti ʃi˩gutu baʃi̥kiti˥ ʔujaŋ ʔi˩ʤari be:](長遊びをして < 遊びふけって > いて、仕事を忘れて親に叱られている)。

ナ˩ガアミ [na˩gaʔami] 【名】 1長雨。ナ˩ガアミヌ˥　フイ　パ˩タ˥ケーン　パ˩ララ˥ヌ　˩ヌー˥　スワ˥メー [na˩gaʔaminu˥ ɸui pḁ˩ta˥ke:m pa˩rara˥nu ˩nu:˥ suwa˥me:](長雨が降って畑にも出かけられない < 行かれない >。どうしようか、もう)。2梅雨の季節。ナ˩ガアミヌ˥　シチェー　˩ペー˥リ　ブ˩リン˥ギサバン˩ナー [na˩ga?aminu˥ ʃi̥tʃe: ˩pe:˥ri bu˩riŋ˥gisaban ˩na:](梅雨の季節に入っているようだなあ)。

ナ˩ガイキ [na˩gaʔiki] 【名】長生き。長命。˩ウン˥ネーヤ　ナ˩ガイキヌ　タックイ˥　ヤ˩ルンダ˥　ムー˩ル˥　ナ˩ガイキ　シー　オー˥ルンティ　˩ナー [˩ʔun˥ne:ja na˩gaʔikinu takkui˥ ja˩runda˥ mu:˩ru˥ na˩gaʔiki ʃi: ʔo:˥runti ˩na:](あの家は長命の血統だから、みんな長生きしておられるさ、ほらねえ)。

ナ˩ガ˥イズ [na˩ga˥ʔiʤu] 【名】(動) 魚の名。和名、クサヤムロ (体長約 25 センチ)。糸満方言で、オオシマナガイユ、という。

ナ˩カ˥イリ [na˩ka˥jiri] 【名】おくみ (衽)。˩キン˥ヌ　ナ˩カ˥イリ　˥ヌーンティ　˩ベーン˥ドゥ　˩ヌイユーサ˥ヌ [˩kin˥nu na˩ka˥jiri ˥nu:nti ˩be:n˥du ˩nuiju:sa˥nu](着物の衽(オクミ)を縫おうとしているが、縫うことが出来ない < 縫えない >)。

ナ˩カウー˥ル [na˩kaʔu:˥ru] 【名】海底地名。中間の枝珊瑚地帯。タ˩チ˥バルパマ [tḁ˩ʧi˥barupama](立原

浜) と˞ピーン˜ティジ [˞piːn˜tiʤi](干瀬の頂上) の間に˞ズンズン [˞ʤunʤuŋ](引き潮になると海水が干瀬の頂上部から˞フンシキ [˞ɸuŋʃi̥ki] の方へ小さな滝のように流れ落ちるところ) があり、その西側に礁池部へ続く窪地がある。その一帯は˞フンシキ [˞ɸuŋʃi̥ki] といわれ、そこから更に北西部の˞ピーヌ˜クシ [˞piːnu˜ku̥ʃi](干瀬の頂上) に至る部分には、タ˞カウー˜ル [tḁ˞kaʔuː˜ru](枝サンゴ) が密生している。その一帯の地名をいう。潮干狩りをする島の女性たちは、ナ˞カウー˜ル一帯でタコやフ˞クラ˜ベー [ɸu̥˞kura˜beː](タスキモンガラ) 類、イ˞ラブ˜チ [ʔi˞rabu˜tʃi](ブダイの仲間)、˜ギラ [˜gira](シャコ貝) 等を漁獲した。

ナ˞カ˜ウビ [na˞ka˜ʔubi] 【名】中指。ナ˞カ˜イビ [na˞ka˜ʔibi](中指) ともいう。˞ティー˜ヌ ˞ウイ˜ベー < ウ˞ヤ˜ベー > ナ˞カウビ˜ル イッ˞チン˜ タ˞カー [˞tiː˜nu ˞ʔui˜beː < ʔu˞ja˜beː > na˞kaʔubi˜ru ʔit˞tʃin˜ ta ˞kaː](手の指は中指が一番高い)。

ナ˞カ˜ガイ [na˞ka˜gai] 【名】仲買。仲買人。ブローカー。˞イー˜シェー ナ˞カ˜ガイ ˞スー˜ プ˞スヌ˜ ブ˞ラーンベー˜ティ ˞カーサラヌ [˞ʔiː˜ʃeː na˞ka˜gai ˞suː˜ pu̥˞sunu˜ bu˞raːmbeː˜ti ˞kaːsaranu](ツノマタは仲買する人がいないので売れない)。ナ˞カガイニン˜ヌ ブ˞ラーバル˜ シ˞ナムノー カーサリ˜ツォー [na˞kagainin˜nu bu˞raːbaru˜ ʃi˞namunoː kaːsari˜tsoː](仲買人がいてはじめて < 居ればぞ > 品物は売れる < 買わされる > そうだ)。

˜ナカ ˞カイ˜ヤン [˜naka ˞kai˜jaŋ] 【連】親しい。仲が良い。仲睦まじい。˞ウン˜ネヌ ˞キョーダイ˜サー イッ˞ケン˜ ナカ ˞カイ˜ヤン [˞ʔun˜nenu ˞kjoːdai˜saː ʔik˞ken˜ naka ˞kai˜jaŋ](その家の兄弟たちは非常に仲が良い < 仲睦まじい >)。

ナ˞カカマ˜チ [na˞kakama˜tʃi] 【名】中の竈(カマド)。˞パンガマ [˞paŋgama](羽釜) や˞スー˜ナビ [˞suː˜nabi](汁鍋) を据える竈。˞パンガマン スー˜ナビン ナ˞カカマ˜チナール ビ˞シル [˞paŋgaman suː˜nabin na ˞kakama˜tʃinaːru bi˞ʃiru](羽釜も汁鍋も中の竈に据える)。

ナ˞カ˜グー [na˞ka˜guː] 【名】1なかご (中子)。瓜や南瓜、パパイヤ等果実の種子を含んだ部分。2石垣を積む際に表の石積みと裏の石積みの間に入れる小石。フ˞タイグスク˜ シ˞ム˜ ピンマー ナ˞カ˜グー イ˞リティ˜ シ˞モーッ˜タ [ɸu̥˞taigusuku˜ ʃi˞mu˜ pimmaː na˞ka˜guː ʔi˞riti˜ ʃi˞moːt˜ta](二重石垣を積むときは中子を入れて積まれた)。˞マンズイ˜ヌ ナ˞カ˜ゴー ˜ガジ ˜トゥリバ [˞manʤui˜nu na˞ka˜goː ˜gaʤi ˜turiba](パパイヤの実の中子を掻き取りなさいよ)。

ナ˞カグス˜ク [na˞kagusu̥˜ku] 【名】目隠しの石塀 < 石垣 >。首里では、hwinpuN。門と母屋の間にある、高さ約 6 尺、長さ約 9 尺の石塀。防風と目隠し、悪霊の進入を防ぐ等の機能があるという。鳩間島ではナ˞カグス˜ク [na˞kagusu̥˜ku] と母屋の軒との距離は葬儀の際に必要な、最低でも˞ガンダラゴー [˞gandaragoː](龕) の長さを必要とされていた。神事に関する客はナ˞カグス˜クの右 < 東 > 側を通って入室し、普段の客や不祝儀の客は、ナカグスクの左 < 西 > 側を通って入室した。ナ˞カグス˜クの内側にはパ˞ナ˜ギ [pa˞na˜gi](活花用の花卉類、イ˞ツァン˜パイキー [ʔi˞tsam˜paikiː] < 榊。サカキ >、クロトン、トゥ˞ラヌズー [tu˞ranuʤuː] < 虎の尾 > など) を植栽した。また、鑑賞用に薔薇をうえたり、生活に実用の˞クース [˞kuːsu](唐辛子。「胡椒」の義) を植栽する家もあった。ナ˞カグスク˜ヌ ウ˞チンタ˜ナー パ˞ナギ˜ イ˞ビティ˜ シ˞キダ˜チ ˜ズングニチナー ˞ザートゥク˜トゥ トゥ˞クニヌ˜ パ˞ナ˜イキナー イ˞コーッ˜タ [na˞kagusu̥ku˜nu ʔu ˞tʃinta˜naː pa˞na˜gi ʔi˞biti˜ ʃi̥˞kida˜tʃi ˜ʤuŋgunitʃinaː ˞ʤaːtuku˜tu tu̥˞kuninu˜ pa˞na˜ikinaː ʔi˞koːt˜ta](目隠し用の石垣の内側に花卉類を植えて朔日(ツイタチ)、十五日には床の間と仏壇の花活けに活けられた)。

ナ˞カ˜グル [na˞ka˜guru] 【名】1中ごろ。時間的に用いる。シ˞キ˜ヌ ナ˞カ˜グルナー イッ˞ケナ スー˜ヤ ˜ピスンダ ˜ユー イ˞ソー シン パッ˜タン [ʃi̥˞ki˜nu na˞ka˜guruna: ʔik˞kena suː˜ja ˜pi̥sunda ˜juː ʔi˞soːsim pat˜taŋ](月の中ごろには、非常に潮が退くので、よく潮干刈りに行ったものだ)。˞ジューゴー˜ヌ ナ˞カ˜グルラール イッ˞ケナ˜ フ˞ドゥベート ナー [˞ʤuːgoː˜nu na˞ka˜gururaːru ʔik˞kena˜ ɸu˞dubeːt-naː](十五歳の中ごろからが非常に成長したのだねえ)。2果実の中身。瓢箪の中身。ス˞ブルヌ˜ ナ˞カ˜グル ˜クリバ [su˞burunu˜ na˞ka˜guru ˜kuriba](瓢箪の中身を刳り貫きなさいよ)。

ナ˞カ˜グルン [na˞ka˜guruŋ] 【他動】道の途中に荷物を一度集積し、休憩して運び出す。中継ぎする。「中繰る」の転訛か。ドゥ˞ク˜ヌ ˞グッ˜ふァティ ナ˞カ˜グリ ˞シェーティ˜ル カ˞タ˜ミ キ˞ラリ˜タ [du˞ku˜nu ˞guf˞fati na˞ka˜guri ˞ʃeːti˜ru kḁ˞ta˜mi ki ˞rari˜ta](あまりにも重いので途中に下ろし、中継をして < ぞ > 担いで来れた)。ク˞レー˜ ナ˞カグ

ラン˥カー　カ˩タマラン˥バ　ナ˩カ˥グリ　˩シェー˥ティ　カ˩タ˥ミ [ku˩re:˥ na˩kaguraŋ˥ka: ka˩tamaram˥ba na˩ka˥guri ˩ʃe:˥ti kḁ˩ta˥mi](これは中途で中継ぎして運ばないと担げないから、中継ぎしながら担げ)。˥バーヤ　ナ˩カ˥グルンティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　ナ˩カ˥グル　プ˩ソー˥　ブ˩ラーンシェン [˥ba:ja na˩ka˥gurunti ʔu˩mu:tan˥du na˩ka˥guru pu̥˩so:˥ bu˩ra:ŋʃeŋ](私は中継ぎしようと思ったが、中継ぎする人はいなかった)。˩グッ˥ふァカー　ナ˩カ˥グレー　˥ミサムヌ [˩guf˥faka: na˩ka˥gure: ˥misamunu](重かったら中継ぎして運べば良いのに)。

ナ˩カ˥ザ [na˩ka˥dza] 【名】台所の土間。母屋の西側に約 1 間巾に 3 間の張出を作り、炊事場とした。西壁に沿って土の竈を設置し、三番座との間に土間を作った。その土間をナ˩カ˥ザ [na˩ka˥dza](土間 < 中座 >) という。農家では畑から帰って着替える間もなく台所仕事に取り掛からなければならないので、土間は便利であった。シ˩トゥッチ˥ヌパー　ポーキシ　ナ˩カ˥ザー　˩ポー˥キバ [ʃi̥˩tuttʃi˥nupa: po:kiʃi na˩ka˥dza: ˩po:˥kiba](蘇鉄葉の箒で台所の土間を掃きなさいよ)。ナ˩カ˥ザナール　˥マカルダナン　ナ˩ガ˥シン　ス˩クラリ˥　ブタ [na˩ka˥dzana:ru ˥makaru-danan na˩ga˥ʃin su̥˩kurari˥buta](台所の土間に < ぞ > お椀棚も流し台も作られていた)。

˥ナカザー [˥nakadza:] 【名】次兄。二番目の兄。ナ˩カ・アー˥ザ [na˩ka・ʔa:dza](中の兄) の約まったもの。˩ワッ˥テヌ　˥ナカザー　˩ギューチ˥　ナ˩ロール˥ワ [˩wat˥tenu ˥nakadza: ˩gju:tʃi˥ na˩ro:ru˥wa](お宅の二番目の兄さんは何歳 < いくつ > になられますか)。

ナ˩ガ˥サナイ [na˩ga˥sanai] 【名】長い褌。˩ナー˥サナイ [˩na:˥sanai](長褌) ともいう。鳩間島では鮫避けに六尺の赤い褌を着用したといわれている。ナ˩ガ˥サナイ　キ˩ス˥カー　サ˩バー˥　プ˩ス˥　ウ˩ソーン˥ツォー [na˩ga˥sanai ki̥˩su˥ka: sa˩ba:˥ pu̥˩su˥ ʔu˩so:n˥tso:](長褌を着用すると鮫は人を襲わないそうだ)。

ナ˩カ˥ザポーキ [na˩ka˥dzapo:ki] 【名】台所の土間用の箒。普通はソテツの葉で作った。シ˩トゥッチ˥ヌ　˩パー˥シル　ナ˩カ˥ザポーケー　ス˩クル˥タ [ʃi̥˩tuttʃi˥nu ˩pa:˥ʃiru na˩ka˥dzapo:ke: su̥˩kuru˥ta](ソテツの葉で土間箒を作った)。

ナ˩カ˥ザラ [na˩ka˥dzara] 【名】中くらいの大きさの皿。中皿。˩チュー˥ザラ [˩tʃu:˥dzara](中皿) ともいう。˩ウー˥ザラ [˩ʔu:˥dzara](大皿)、˩クー˥ザラ [˩ku:˥dzara](小皿) の対語。ナ˩カ˥ザラナ　カ˩マブク˥イ˩リティ˥　ン˩ザ˥シバ [na˩ka˥dzarana ka˩mabuku˥ ʔi˩riti˥ ʔn˩dza˥ʃiba](中皿に蒲鉾を入れて出しなさいよ)。

ナ˩カ˥シ [na˩ka˥ʃi] 【固】(地) 西表島北岸浦内湾に流れ入るナ˩ダラガーラ [na˩daraga:ra](ナダラ川) の南岸とニ˩シダガーラ [ni˩ʃidaga:ra] の北岸一帯にに開けた水田地帯。ナ˩カシ˥ヌ　˩タータバル˥ヌ　˩ターマー˥ル　˩シー˥　クー [na˩kaʃi˥nu ˩ta:tabaru˥nu ˩ta:ma:˥ru ˩ʃi:˥ ku:](ナカシの水田地帯の田圃を見回って < 田圃見回りをして > 来い)。ナ˩カ˥シナー　プ˩サ˥キャーヌ　˩ター˥ヌ　˩アッ˥タン [na˩ka˥ʃina: pu̥˩sa˥kja:nu ˩ta:˥nu ˩ʔat˥taŋ](ナカシに冨里家の水田があった)。

ナ˩カ˥シー [na˩ka˥ʃi:] 【名】なかぶた (中蓋)。内蓋。二重に取り付けた容器の内側の蓋。容器の中を上下に仕切る蓋。深さ約 5 センチの軽くて浅い箱状の蓋が容器の中に填(ハ)め込まれている。その上から蓋を被せるように作られている。「中巣」の義か。ウ˩レー　カイヌ˥　ナ˩カ˥シーナ　イ˩リ　シキ˥リバ [ʔu˩re: kainu˥ na˩ka˥ʃi:na ʔi˩ri ʃi̥˩ki˥riba](それは長持ちの中蓋に入れて置きなさいよ)。

ナ˩カ˥シゥカイ [na˩ka˥si̥kai] 【名】代理人。人と人の間に立って両方の用を果たす人。「中使い」の義。˩マイ˥シゥカイ [˩mai˥si̥kai](前使い。小間使い。走り使い) とは異なる。˥ウチソーダンマー　ナ˩カシゥカイ˥ル　˩カンユーティ˥　ア˩ザリブー [˥ʔutʃiso:damma: na˩kasi̥kai˥ru ˩kaŋju:ti˥ ʔa˩dzari bu:](交渉ごとは代理人 < 中使い > が肝要といわれている)。

ナ˩カシ˥ケー [na˩kaʃi̥˥ke:] 【名】屋号。仲底家。仲底真那氏宅。竹富町の除籍原本によると、宮良間切鳩間村三十七番地、前戸主仲底眞祢。亡夫妻仲底ヨホシ。天保十年十二月五日生。安政五年三月二十日同間切同村、亡加治工屋眞二女入籍。明治七年七月二十日相続。明治三十六年三月十五日死亡。同月十八日届出。明治二十三年六月二十日、同間切同村、鳩間慶佐長男入籍ス。養子、眞阿禰。明治十五年十一月八日生。明治三十七年九月十二日家督相続届出受付、とある。従って現在の仲底真那氏は鳩間家血統の養子眞阿禰の子孫ということになる。伝承によると、古典民謡˩鳩間中岡」の原歌は仲底家のマンナ主であるという (鳩間真吉氏伝承)。それが「前戸主仲底眞祢」を指すのかどうか、検討する必要がある。ナ˩カシ˥ケーヌ　˩マー˥ナザー　ニ˩シ˥ドーウガンヌ　ティ˩ジリ˥ビー　ヤ˩ローッ˥タ˩ダー [na˩kaʃi̥˥ke:nu ˩ma:˥nadza: ni˩ʃi˥do:ʔugannu ti˩

ʤiri˜bi: ja˞rot˜ta˞da:](仲底家の真那お父さんは西堂御嶽の男性神職者 < ティジリビー > でいらっしゃった < あられた > よ)。

ナ˞カ˜シケー [na˞ka˜ʃi̥ke:] 【名】搗き臼の口縁部に嵌めるゆりわ (揺輪)。杵で米搗きをする際に、米粒が飛散するのを防ぐ道具。「中揺輪」の義。単に˜シケー [˜ʃi̥ke:](揺輪) ともいう。シ˞キ˜ウシナー　˜シケー　シ˞キティ˜　イ˞ニ˜ッサイバ [ʃi̥˞ki˜ʔuʃina: ˜ʃi̥ke: ʃi̥˞kiti˜ ʔi˞ni˜ ssaiba](搗き臼に揺輪を嵌めて米を搗きなさいよ)。

˜ナカシザ [˜nakaʃiʤa] 【名】中堅の年上。年輩。「中兄者」の義。村落社会を構成する中堅層 (三十歳代〜四十歳代) で村の年中行事や生活習慣、その他の諸々のことに通じた実行力のある指導層の人々。˜シザウヤ [˜ʃiʤaʔuja](五十歳代以上) とバ˞カー˜ムヌ [ba˞ka:˜munu](若者。二十歳代以下) の中間にあって、社会的に両者の橋渡しをする。˜ナカシザンケーヌ　˞オー˜レーティ　バ˞カー˜ムヌ　ナ˞ラー˜ソールンダ　ノー˞ン　ソーヤ　ナー˜ヌ [˜nakaʃiʤaŋke:nu ˞ʔo:˜re:ti ba˞ka:˜munu na˞ra:˜so:runda no:˞n so:ja na:˜nu](中堅の年輩方がいらっしゃって若者を教えて下さるので何も心配はない)。

ナ˞ガシジキ [na˞gaʃiʤiki] 【名】長続き。古老は、˞ナーシジキ [˞na:ʃiʤiki](長続き) という。ク˞ヌ˜シ˞グトー˜　ナ˞ガシジキ　スン˜カヤー [ku˞nu˜ ʃi˞guto:˜ na˞gaʃiʤiki suŋ˜kaja:](この仕事は長続きするだろうかね)。

ナ˞ガシビ [na˞gaʃibi] 【名】ちょうざ (長座)。ながい (長居)。「長尻」の義。˞ナーシビ [˞na:ʃibi](長座。長尻) ともいう。特に、酒席で長座することを、ナ˞マ˜シキ　˞スン [na˞ma˜ʃi̥ki ˞suŋ](焦げ付く) という。プ˞スン˜ヤーナー　˞ナーシビ　サンドー˜シ　˞パー˜ク　˞ヤー˜　クー˞ヨー [pu̥˞suŋ˜ja:na: ˞na:ʃibi sando:˜ʃi ˞pa:˜ku ˞ja:˜ ku:˞jo:](余所の家に長居しないで早く家に帰って来いよ)。

˜ナカジル [˜nakaʤiru] 【名】 (地)。西表島の船浦湾の奥 < 南 > に流入する˞マーレーガーラ [˞ma:re:-ga:ra](マーレ川) の西側、ヤシ川の川上一帯のナ˞カ˜ダ [na˞ka˜da](仲田) の東に位置する水田地帯。河口一帯はヒルギが群生しているので、1955 年頃は満潮時を利用して˜イダフニ [˜ʔidaɸuni](サバニ) で田圃へ行き来した。ユ˞レーヌ˜　ター　ム˞レーマヌ˜　ター　フ˞サ˜キャーヌ　˞ター˜ヤ　˜ナカジルナー　˞アッ˜タンツォー [ju˞re:nu˜ ta: mu˞re:manu˜ ta: ɸu̥˞sa˜kja:nu ˞ta:˜ja ˜nakaʤiruna: ˞ʔat˜tantso:](寄合家の田、通事家の田、富里家の田はナカジルにあったそうだよ)。

ナ˞カ˜ジル [na˞ka˜ʤiru] 【名】三線の中の弦。第二弦。˞ウー˜ジル [˞ʔu:˜ʤiru](雄弦) と˞ミー˜ジル [˞mi:˜ʤiru](女弦。小弦) の中間の弦。˞サンシンヌ˜　ナ˞カ˜ジロー　˞ナン˜ゾー　キ˞シラ˜ヌ [˞saŋʃinnu˜ na˞ka˜ʤiro: ˞nan˜ʤo: ki̥˞ʃira˜nu](三線の中の弦はあまり切れない < 断線しない >)。

ナ˞カ˜スー [na˞ka˜su:] 【名】中潮。干満の差が中ぐらいの時の潮時。大潮と小潮の中間の潮時。ナ˞カスー˜ヌ　˜ピンマー　˞ナン˜ゾー　˞スー˜ヤ　ピ˞サ˜ヌ [na˞kasu:˜nu ˜pimma: ˞nan˜ʤo: ˞su:˜ja pi̥˞sa˜nu](中潮の時は、潮はあまり引か < 干 > ない)。

ナ˞ガ˜スディ [na˞ga˜sudi] 【名】長袖。˞ハン˜スディ [˞han˜sudi](半袖) の対義語。˞キュー˜ヤ　˞ピー˜ヤバ　ナ˞ガ˜スディ　キ˞シ˜バ [˞kju:˜ja ˞pi:˜jaba na˞ga˜sudi ki̥˞ʃi˜ba](今日は寒いから長袖を着なさい)。

ナ˞カスン [na˞kasuŋ] 【他動】泣かす。˞ゾー˜ブンニ　ダ˞カン˜カー　ッ˞ふァ˜　ナ˞カスント ダー [˞ʤo:˜bunni da˞kaŋ˜ka: f˞fa˜ na˞kasunt-da:](上手に抱かないと子供が泣くよ < 子供を泣かすよ >)。ウ˞ヤ˜ヌ　パ˞ナ˜シ　シゥ˞カシ˜　ナ˞カスンティ˜　ウ˞ムータン˜ドゥ　ナ˞カサランシェン [ʔu˞ja˜nu pa˞na˜ʃi si̥˞kaʃi˜ na˞kasunti˜ ʔu˞mu:tan˜du na˞kasaraŋʃeŋ](親の話を聞かして泣かそうと思ったが、泣かされなかった)。ナ˞カシ˜　ミサカー　ナ˞カス˜　クトー　ヤ˞シ˜ムヌ˞ゲ˜ラ [na˞kaʃi˜ misaka: na˞kasu˜ ku̥to: ja˞ʃi˜munu˞ge˜ra](泣かして良ければ泣かすことは簡単さ < 易いものだよ >)。ナ˞カシェー˜　ミサムヌ [na˞kaʃe:˜ misamunu](泣かせば良いのに)。ナ˞カシ˜バ [na˞kaʃi˜ba](泣かせよ)。

ナ˞ガ˜スン [na˞ga˜suŋ] 【他動】 1流す。液体を流す。普通は、˞ナーラ˜スン [˞na:ra˜suŋ](流す) という。˞ニッふァ˜サー　˞ニッタ˜サー　ドー˞ディン˜　ミ˞ジ˜ナー　ナ˞ガ˜シティ　ナ˞ラー˜シ　ッ˞ふォー˜リ [˞niffa˜sa: ˞nitta˜sa: do:˞dim˜ mi˞ʤi˜na na˞ga˜ʃi̥ti na˞ra:˜ʃi f˞fo:˜ri](憎さ、妬ましさは水に流して、どうぞ教えてください)。ヤ˞ナキモー˜　ミ˞ジ˜ナ　ナ˞ガ˜スンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　ナ˞ガサラン˜ワー˞ン˜ノー [ja˞nakimo:˜ mi˞ʤi˜na ma˞ga˜sunti ʔu˞mu:n˜du na˞gasaran˜wa:˞n˜no:](悪い気持ち < 肝 > は水に流そうと思うが、流されないではないか)。ミ˞ジ˜ナ　ナ˞ガ˜ス　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [mi˞ʤji˜na na˞ga˜su ˜ku̥to: na˞ra˜nu](水に流すことは出来ない)。ミ˞ジ˜ナ　ナ˞ガ˜シェー　˜ミサムヌ [mi˞ʤi˜na na˞ga˜

ʃeː ˥misamunu](水に流せば良いのに)。ヤ˩ナキモー˥ ムー˩ル˥ ミ˩ジ˥ナ ナ˩ガ˥シ [ja˩nakimoː˥ muː˩ru˥ mi˩ʤi˥na na˩ga˥ʃi](悪い気持ち＜心。肝＞は全部水に流せ)。²散水機を掛けてカツオを釣る際に、スクリューを止めて船を潮の流れに浮かべて流すこと。カ˩ツシンバ˥ カ˩ツヌ˥ ブ˩リ˥ナ シ˩キ˥ルカー ザ˩コー˥ヤ イ˩レー˥ティル ˥フネー ナ˩ガシ˥タ [ka̠˩tsuʃimba˥ ka̠˩tsunu˥ bu˩ri˥na ʃi̥˩ki˥ruka: ʤa˩koː˥ja ʔi˩reː˥tiru ˥ɸune: na˩gaʃi̥˥ta](カツオ漁船をカツオの群れに付けたら餌＜雑魚＞を入れながら船を流した)。

ナ˩カ˥ダ [na˩ka˥da] 【名】地名。船浦湾底のやや西寄りに流入する船浦川の上流、˩ソー˥ジ [˩soː˥ʤi] の南に開けた水田地帯。美田地帯であったが、戦後米軍の伐採隊が水源地帯にブルトーザーを入れて伐採したのため、大雨で流出した赤土がシ˩キム˥トゥ [ʃi̥˩kimu˥tu](堰元。水源に近い所) のカ˩ザケー [ka˩ʤake:](加治工家) の水田を全部埋めてしまった。その後、被害のなかったフ˩ク˥マレー [ɸu̠˩ku˥mare:](友利家)、トゥ˩ムシェー [tu˩muse:](宮良家)、シ˩マフ˥ケー [ʃi˩maɸu̠˥ke:](島袋家) の水田も耕作されなくななり、放置されたままになっている。

ナ˩カタガ˥イ [na˩kataga˥i] 【名】仲たがい。なかちがい。仲が悪くなること。˩ウッ˥ツァー ˩キョー˥ダイザーン ˥ナリ ナ˩カタガ˥イ ˩シー ブー [˩ʔutˈtsa: ˩kjoː˥daiʤa:n ˥nari na˩kataga˥i ˩ʃi: bu:](彼らは兄弟同士で仲違いしている)。

ナ˩カダ˥チ [na˩kada˥ʧi] 【名】仲立ち。仲介人。仲介すること。媒酌人。古老はナ˩カダ˥ティ [na˩kada˥ti](仲介人。媒酌人) ともいう。ク˩ヌ˥ プ˩スル˥ ニービキヌ ナ˩カダ˥チ ˩シー ッふォーッ˥タ [ku˩nu˥ pu̠˩suru˥ ni:bikinu na˩kada˥ʧi ˩ʃi: ffoːt˥ta](この人が結婚の媒酌人＜仲立ち＞をして下さった)。

ナ˩カダ˥ティ [na˩kada˥ti] 【名】仲立ち。仲人。仲介人。媒酌人。ナ˩カダ˥チ [na˩kada˥ʧi](仲介人) に同じ。ナ˩カダ˥ティプス ˥タテーティル ˥ニービケー ˩ソーッ˥タツォー [na˩kada˥tipu̠su ˥ta̠te:tiru ˥ni:bike: ˩soːt˥tatsoː](仲人を立てながら結婚式はされたそうだ)。

ナ˩ガタビ [na˩gatabi] 【名】長旅。長期旅行。˩クン˥ドー ˩ユーズ˥ヌ ˩ゴー˥ラーティ ナ˩ガタビ˥ ナリ ˩ナー˥ヌ [˩kun˥do: ˩juːʤu˥nu ˩goː˥raːti na˩gatabi˥ nari ˩naː˥nu](今回は用事が多くて長旅になってしまった)。

ナ˩カ˥ディ [na˩ka˥di] 【名】中間程度の大きさ。手頃な大きさ。大きくもなく、小さくもない中程度の大きさ。「中手」の転訛したもの。˥ドゥク ˩マイ˥ヤ ˥ムノー ア˩ラン˥ドーシ ナ˩カディ˥ ムノーラ ッ˩ふィーリ˥バ [˥duku ˩mai˥ja ˥muno: ʔa˩ran˥doːʃi na˩kadi˥ muno:ra ˩fi:ri˥ba](あんまり大きいものではなくて、手頃＜中手＞の物をあげ＜呉れ＞なさい)。˩ウン˥マー ナ˩カディ˥ムノーラ イ˩ラ˥ビ バ˩カシ˥バ [˩ʔum˥ma: na˩kadi˥muno:ra ʔi˩ra˥bi ba˩kaʃi˥ba](芋は手ごろなもの＜中程度のもの＞から選んで炊きなさい)。

ナ˩カディ˥プス [na˩kadi˥pu̠su] 【名】中堅の人。壮年の人。˩ウイ˥プス [˩ʔui˥pu̠su](老人) とバ˩カー˥ムヌ [ba˩kaː˥munu](若者) の中間の人。バ˩カー˥ムノー カ˩ティヌ ナーン˥バ ナ˩カディ˥プソーラ イ˩ラ˥ビ ˩サー˥リ ˥クーバ [ba˩kaː˥muno: ka̠˩tinu naːm˥ba na˩kadi˥pu̠soːra ʔi˩ra˥bi ˥kuːba](若者は仕事の経験、要領＜勝手＞がないから経験豊かな中堅＜壮年＞の人から選んで連れて来いよ)。

ナ˩カディ˥ムヌ [na˩kadi˥munu] 【名】手頃の物。中程のもの。大きさの大中小、質の上中下のうちの中程度のもの。˥マギー グ˩マー˥ヤ ˥ミサン ナ˩カディ˥ムノーラ ˥ムティ ˥クーバ [˥magi: gu˩maː˥ja ˥misan na˩kadi˥muno:ra ˥muti ˥kuː](大きいもの、小さいものはいい＜要らない＞。手頃の物＜中程の物＞から持っ来なさいよ)。ナ˩カディ˥ウンラ ˩カーシ˥バ [na˩kadi˥ʔunra ˩kaːʃi˥ba](中程度の大きさの芋から売りなさいよ)。

ナ˩カドー˥ミチ [na˩kadoː˥miʧi] 【名】地名。石垣市の登野城から平得、真栄里へ通ずる大きな道。大きなアコウの大木が生えており、民謡トゥバラーマ節にも歌われている古道。ナ˩カドー˥ミチェー ム˩カ˥シウタナーン イ˩ザリ ブン [na˩kadoː˥miʧe: mu˩ka˥ʃiʔutanaːŋ ʔi˩ʤari buŋ](ナカドー道は昔の歌にも歌われている)。

ナ˩カ˥トゥ [na˩ka˥tu] 【名】砥石(トイシ)の中で中間の荒さのもの。ア˩ラトゥ [ʔa˩ratu](荒い砥石。斧や山刀を研ぐ砥石) とク˩マトゥ [ku˩matu](細かい砥石。鑿や鉋、剃刀などの刃を研いで仕上げる砥石) との中間の砥石。包丁などを研ぐのに用いる砥石。パ˩ジメー˥ ア˩ラトゥ˥ナー ˥トゥイティ ナ˩カ˥トゥシ シ˩アギリ˥バ [pa˩ʤime:˥ ʔa˩ratu˥na: ˥tuiti na˩ka˥tuʃi ʃi˩jagiri˥ba](初めは荒い砥石で研いで、中間の砥石で仕上げなさいよ)。

˥ナカ ˥トゥルン [˥naka ˥turuŋ] 【連】仲裁する。仲直りさせる。仲を取り持つ。和解させる。˩ワー˥シ

フ˩タールヌ˥　ナカ　˥トゥリ　ッ˩ふィーリ [˩waː˥ ʃi ɸu̥˩taːrunu˥ naka ˥turi f˩fiːri](君で二人の仲直りさせて＜中を取り持って＞くれ)。˥ナカ　˥トゥルンティ　˩スンドゥ˥　バー　˥ムネー　シゥ˩カンバン [˥naka ˥turunti ˩sundu˥ baː ˥muneː si̥˩kambaŋ](仲裁しようとするが、私の話を聞かないよ)。

ナ˩カ˥　トゥルン [na˩ka˥ turuŋ] 【連】中間を取る。双方にとって公平になるようにする。「中を取る」の義。フ˩タールヌ˥　イ˩ジ˥ブン　シ˩キティ˥　ナ˩カ˥　トゥルンティ　˩カン˥ガイ　˩オー˥ル [ɸu̥˩taːrunu˥ ʔi˩ʤi˥buŋ ʃi̥˩kiti˥ na˩ka ˥turunti ˩kaŋ˥gai ˩ʔoː˥ru](二人の言い分を聞いて公平になるようにしようと考えておられる)。

ナ˩カナウ˥リ [na˩kanau˥ri] 【名】仲直り。和睦。喧嘩の後仲良くなること。ドゥ˩シザーン　アイッツァー˥シ　˩ベータン˥ドゥ　マ˩ナ˥マー　ナ˩カナウ˥リ　˩シー　ベーン˥ティ [du˩ʃiʤaːn ʔaittsaː˥ʃi ˩beːtan˥ du ma˩na˥maː na˩kanau˥ri ˩ʃiː beːn˥ti](友達同士ひどく喧嘩していたが、今は仲直りしているさ、ほら、ごらんよ)。

ナ˩カナカ [na˩kanaka] 【副】泣かんばかりに。泣きそう。泣きべそかいて。「泣こう泣こうして」の義。キ˩ムイ˥ツァー　˩ティーフコーン˥ティ　ナ˩カナカ　スン˥ケン　ビ˩ケーン˥　イ˩ザリティ˥　シ˩グトゥ　シーベー [ki˩mui˥tsaː ˩tiːɸukoːn˥ti na˩kanaka suŋ ˥keŋ bi˩keːŋ˥ ʔi˩ʤariti˥ ʃi˩gutu ʃiːbeː](可哀相に、仕事が鈍い＜手がのろい＞と泣きそうになるほど父親に叱られて仕事をしている)。ナ˩カナカ˥シ　パ˩ナ˥シ　˩ベー˥タ [na˩kanaka˥ʃi pa˩na˥ʃi ˩beː˥ta](泣きべそかいて話していた)。

ナ˩カナカー　スン [na˩kanakaː suŋ] 【連】今にも泣き出そうとする。泣きそうになる。泣きべそをかく。「泣こう泣こう・する」の義。ブ˩ネーヌ˥　ミ˩ララン˥カー　ヤ˩ラ˥ベー　ナ˩カナカー　スン˩ダー [bu˩neːnu˥ mi˩raraŋ˥kaː ja˩ra˥beː na˩kanakaː sun˩daː](母親が見えないと子供は泣きべそをかく)。

ナ˩ガナキ [na˩ganaki] 【名】長泣き。長時間泣くこと。普通は˩ナーナキ [˩naːnaki](長泣き) という。ヤ˩ラビ˥ヌ　˩ナガナキ　スー˥カー　˩マーンナー˥カ　˩ワッ˥サン　˥トンヌ　ア˩リ˥バ　˩キー˥　シ˩キ˥リ˩ダー [ja˩rabi˥nu na˩ganaki suː˥ka: ˩maːnnaː˥ka ˩was˥san ˥tonnu ʔa˩ri˥ba ˩kiː˥ ʃi̥˩ki˥ri˩daː](子供が長泣きすると、どこか悪いところがあるから気をつけなさいよ)。

ナ˩カヌ˥　スニ [na˩kanu˥ suni] 【連】海底地名。˩中の曽根」の義。˩マイ˥ズニ [˩mai˥ʤuni](前曽根) の中の中央部の曽根。鳩間桟橋と、真南に位置するパ˩トゥ˥マレー [pḁ˩tu˥mareː](鳩離島) を結ぶ線上に位置する。その西側の˩イーリマイズニ [˩ʔiːrimaiʤuni](西前曽根) との間にある曽根の切れ目が˩ウイバル (上原) やフ˩ノー˥ラ (船浦) へ往来する˥イダフニ [˩ʔidaɸuni](サバニ) 等の小船以外通行出来ない˩トゥーラン˥フチ [˩tuːraŋ˥ɸu̥˩tʃi](通りぬけられない津口) である。

ナ˩ガヌチ [na˩ganutʃi] 【名】長命。長生き。「ながいのち (長命)」の転訛したもの。ドゥ˩ク˥ヌ　ナ˩ガヌチェー˥　ヌ˩ズマヌ˥　プ˩スナミヌ˥　ナ˩ガヌチ˥　タ˩ボーラ˥リカ　カ˩フー˥ル　ヤ˩ル [du˩ku˥nu na ˩ganutʃeː˥ nu˩ʤumanu˥ pu̥˩sunaminu˥ na˩ganutʃi˥ ta ˩boːra˥rikaː kḁ˩ɸuː˥ru ja˩ru](あんまりの長命は望まない。人並みの長命が賜れば幸い＜果報＞である)。ヌ˩チ˥ル　タ˩カ˥ラ [nu˩tʃi˥ru ta˩ka˥ra](命が宝だ)。

ナ˩カノー˥リ [na˩kanoː˥ri] 【名】仲直り。古老は、ナ˩カナウ˥リ [na˩kanau˥ri](仲直り) という。˩ウッ˥ツァー　ナ˩カ˥ヌ　ク˩バー˥ティ　ナ˩カノー˥リ　シ˩ミルンティ˥　イ˩カス˥ク　˩ナン˥ギ　˩シェー˥ワ˩ツォー [˩ʔut˥tsaː na˩ka˥nu ku˩baː˥ti na˩kanoː˥ri ʃi˩mirunti ˥ʔi˩kasu̥˥ku ˩naŋ˥gi ˩ʃeː˥wa˩tsoː](彼らは仲が悪い＜強い＞ので、仲直りさせようとしてどんなに難儀したことかよ)。

ナ˩カノー˥リ [na˩kanoː˥ri] 【名】一時快方にむかうこと。病気の一時的治癒。ナ˩ガヤンマー˥　ナ˩カノー˥リ　˩シー˥　ブ˩タンドゥ　アッ˥タニ　˩フッカイシ　ナー˥ヌ [na˩gajammaː˥ na˩kanoː˥ri ˩ʃiː˥ bu˩tandu ʔat˥tani ˩ɸukkaiʃi naː˥nu](長病みは一時快方に向かっていたが、急にぶり返して＜再発して＞しまった)。

ナ˩カ˥バ [na˩ka˥ba] 【名】半ば。中途。中ごろ。シ˩キ˥ヌ　ナ˩カ˥バーラ　˩オシキヌ˥　ヤビティ　イ˩ソー˥　パ˩ラ˥ヌ [ʃi̥˩ki˥nu na˩ka˥baːra ˩ʔoʃi̥kinu˥ jabiti ʔi˩soː˥ pa˩rara˥nu](月の半ばから天気がくずれて＜破れて＞漁に出られ＜行かれ＞ない)。

ナ˩ガパタラキ [na˩gapataraki] 【名】長働き。長く働くこと。長時間労働。˩ターシグ˥トー　ナ˩ガパタラキ　スー˥カー　ク˩シヌ˥　ヤム [˩taːʃigu˥to: na ˩gapataraki suː˥ka: ku̥˩ʃinu˥ jamu](田圃仕事は長働きすると腰が痛む＜病む＞)。

ナ˩ガパナシ [na˩gapanaʃi] 【名】長話。˩ナーパナシ [˩naːpanaʃi](長話) ともいう。プ˩スン˥ヤーナーティ　ナ˩ガパナシ　サンドー˥シ　˩ブンブン˥シ　シ˩グ

トゥ　シー [pu̥˞suŋ˺ ja:na:ti na˞gapanaʃi sando:˺ʃi ˞bumbum˺ʃi ʃi˞gutu ʃi:](余所の家で長話をしないで、さっさと仕事をしなさい)。

ナ˞ガ˺ハマ [na˞ga˺hama] 【名】(植) サツマイモの品種名。白色で皮が薄く、甘味がすくない。ぽろぽろした食感があった。四、五年で作付けされなくなったようである。ナ˞ガ˺ハマ　˺ウンマー　˞ナン˺ゾー　ン˞マー　ナーン˺シェン　ヒャ˞クゴー˺ル　˞クー˺　フキティ　ン˞マー˺タ [na˞ga˺hama ˺ʔumma: ˞nan˺ʤo: ʔm˞ma: na:ŋ˺ʃeŋ ça˞kugo:˺ru ˞ku:˺ ɸu̥kiti ʔm˞ma:˺ta](ナガハマ品種の芋はあんまり美味しくなかった。百号種の芋が澱粉が吹き出て＜粉吹き芋になって＞美味しかった)。

ナ˞カバ˺ヤビ [na˞kaba˺jabi] 【名】中年になって身を持ち崩すこと。半ば破れ。ヤ˞ラ˺ベー　ナ˞カバ˺ヤビ　˞シェー˺ラ　˞ノーシ　グリ˺サン [ja˞ra˺be: na˞kaba˺jabi ˞ʃe:˺ra ˞no:ʃiguri˺saŋ](子供は中年になって一旦身を持ち崩す＜半ば破れする＞と矯正し＜治し＞にくい)。

ナ˞カバヤブ˺リ [na˞kabajabu˺ri] 【名】青年期に不良になること。青年期にぐれること。「中途破れ」の義。ッ˞ふァヌ˺　ナ˞カバヤブ˺リ　˞スー˺カー　˞ノーサラ˺ンティル　ア˞ザリブー [f˞fanu˺ na˞kabajabu˺ri ˞su:˺ka: ˞no:sara˺ntiru ʔa˞ʤari bu:](子供が青年期にぐれると直されないと＜ぞ＞いわれている)。

ナ˞カ˺バラー [na˞ka˺bara:] 【名】大黒柱。「中柱」の義。家の中心部にある柱。棟の方に達する一本柱。イ˞チバン˺ザー [ʔi˞ʧiban˺ʤa:](一番座) と˞ニーバン˺ザー [˞ni:ban˺ʤa:](二番座) の中間に立つ柱。普通は˞キャーンギ [˞kja:ŋgi](槙。イヌマキ)、˺イゾイキー [˺ʔiʤoiki:](モクコク) の大木を使用した。家の祈願はこの柱に向かってなされる。家の構造体の中心となる柱。サ˞クシ˺ッふァー　˞ヤー˺ヌ　ナ˞カ˺バラー　ヤ˞リバ　マイフナー˺　マ˞リリ˺ダー [sḁ˞kuʃi˺ffa: ˞ja:˺nu na˞ka˺bara: ja˞riba maiɸuna:˺ ma˞riri˺da:](長男は一家の大黒柱だから、立派な人になり＜成長し＞なさいよ)。

ナ˞カ˺バリ [na˞ka˺bari] 【名】一つの物を二分すること。真二つに割ること。「中割り」の義。ク˞ヌ　コー˺シェー　ナ˞カ˺バリ　˞シー˺　トゥ˞ラ˺シバ [ku˞nu ko:˺ʃe: na˞ka˺bari ˞ʃi:˺ tu˞ra˺ʃiba](この菓子は真っ二つに割ってあげなさいよ)。

ナ˞カ˺ビ [na˞ka˺bi] 【名】なかぞら (中空)。中天。「中辺」の義という『石垣方言辞典』。˞ティンヌ˺　ナ˞カ˺ベーラ　トゥ˞ルヌ˺　トゥ˞ビ˺　パルン [˞tinnu ˺na˞ka˺be:ra tu˞runu˺ tu˞bi˺ paruŋ](天の中空から鳥が飛んでいく)。

ナ˞ガビクン [na˞gabikuŋ] 【自動】長引く。˞クンドゥ˺ヌ　パ˞ナシケー˺　ナ˞ガビクンティ˺　ウ˞ムータン˺ドゥ　ナ˞ガビカサンドー˺シ　˞ノー˺シェーン [˞kundu˺nu pa˞naʃi̥ke:˺ na˞gabikunti˺ ʔu˞mu:tan˺du na˞gabikasando:˺ʃi ˞no:˺ʃe:ŋ](今度の風邪は長引くと思ったが長引かせないで治した)。˞ピン˺グルカー　パ˞ナシケー˺　ナ˞ガビキ　ヤッ˺サバ　ナ˞ガビク˺　ピンマー　ピ˞ルザキ˺　ヌ˞マ˺シバ [˞piŋ˺guruka: pa˞naʃike:˺ na˞gabiki jas˺saba na˞gabiku˺ pimma: pi˞ruʤaki˺ nu˞ma˺ʃi](冷え込んだら風邪は長引きやすいから、長引く時は大蒜酒(ニンニクザケ)を飲ませなさいよ)。ナ˞ガビケー˺　ミサムヌ [na˞gabike:˺ misamunu](長引けば良いのに)。ナ˞ガビキ [na˞gabiki](長引けよ)。˞クン˺ドー　ナ˞ガビカヌ [˞kun˺do: na˞gabikanu](今度は長引かない)。

ナ˞ガビリ [na˞gabiri] 【名】1長居。長座。「長座り」の義。ナ˞ガシビ [na˞gaʃibi](長尻) ともいう。パ˞ナシ˺ヌ　ウ˞ムッ˺サティ　ナ˞ガビリ　シー　ナーン˺バン　˺トー　パ˞ライ˺メー [pa˞naʃi˺nu ʔu˞mus˺sati na˞gabiri ʃi:na:m˺bam ˺to: pa˞rai˺me:](話が面白くて、つい長居してしまったわい。そろそろ失礼します＜行くからねえ。さようなら＞)。ナ˞ガビレー˺　プ˞スン˺　キ˞ラーリント ダー [na˞gabire:˺ pu̥˞suŋ˺ ki˞ra:rinト da:](長居は他人に嫌われるよ)。2トイレの長いこと。ナ˞マバン˺スル　ッ˞ふー˺カー　シ˞ビ　コー˺リティ　ナ˞ガビリ　スン˺ダー [na˞maban˺suru f˞fu:˺ka: ʃi˞bi ko:˺riti na˞gabiri sun˺da:](未熟の蕃石榴(バンザクロ)＜グアバ＞を食べると便秘して長便所になる＜長座りする＞よ)。

ナ˞カ˺プー [na˞ka˺pu:] 【名】中帆。本帆と弥帆(ヤホ)の間に立つ柱に張る帆。三本マストの中間の帆柱に張る帆。本帆より一回り小型の帆。カ˞ジヌ　スー˺ワンダ　˞フンプー˺ヤ　ウ˞ラ˺シティ　ナ˞カ˺プー　˞タンガ˺シ　˺フニ　パ˞ラ˺シバ [ka˞ʤinu su:˺wanda ˞ɸumpu:˺ja ʔu˞ra˺ʃi̥ti na˞ka˺pu: ˞taŋga˺ʃi ˺ɸuni pa˞ra˺ʃiba](風が強いので本帆は降ろして中帆だけで船を操船し＜走行させ＞なさい)。

ナ˞カフク˺ル [na˞kaɸu̥ku˺ru] 【名】山の中腹。山腹。˞マーレーヤマヌ˺　ナ˞カフク˺ルナー　ヤ˞マ˺フメー　˞シーティ˺　バコーン　˺ウナール　˞ソーッ˺タ [˞ma:re:jamanu˺ na˞kaɸuku˺runa: ja˞ma˺ɸume: ˞ʃi:ti˺ bako:ŋ ˺ʔuna:ru ˞so:t˺ta](マーレー山の中腹に山踏み＜下見＞をして、木材伐り出しの共同作業も

そこでなされた)。中央部。「中袋」の転訛したものか。パ˞タキ˜ヌ　ナ˞カフク˜ルナー　ウ˞ブイシ˜ヌ　˜アン [pḁ˞taki˜nu na˞kaɸu̥ku˜runaː ʔu˞buʔiʃi˜nu ˜ʔaŋ](畑の中央部に大きな石がある)。

ナ˞カ˜フタ [na˞ka˜ɸuta] 【名】おとしぶた (落し蓋)。鍋の中の食材と蓋の間に置くもの。「中蓋」の義。多くの場合、芭蕉の葉を鍋の中の食材に直接かぶせて中蓋とし、更に本蓋をして煮た。˞プール˜ムチ　˞ネース˜　ピンマー　バ˞サンパー˜バ　ナ˞カ˜フタ　シ˞ティ　ネーソーッ˜タ [˞puːru˜mutʃi ˞neːsu˜pimmaː ba˞sampaː˜ba na˞ka˜ɸu̥ta ʃi̥˞ti neːsoːt˜ta](豊年祭の餅を煮るときは芭蕉の葉を落し蓋にして蒸かした)。

ナ˞カ˜ブニ [na˞ka˜buni] 【名】動物の脊椎。背骨。「中骨」の義。カツオのナ˞カ˜ブニ [na˞ka˜buni] や˞ズーブニ [˞ʤuːbuni](尾びれ) は出汁を取るのに用いたり、畑の肥料にしたりした。鰹節製造工場からは多量のカツオの脊椎や尾びれが廃棄された。カ˞ツヌ˜　ナ˞カ˜ブニ　˞ネーシティ˜　ダシ　˜トゥリバ [kḁ˞tsunu˜ na˞ka˜buni ˞neːʃi̥ti˜ daʃi ˜turiba](カツオの背骨を煮て出汁を取りなさい)。

ナ˞カマガー˜ラ [na˞kamagaː˜ra] 【名】川の名。仲間川。西表島東部の大原集落と大富集落の間に河口を有する川。河口の汽水地帯にヒルギの大群落がある。

ナ˞カ˜マミツケー [na˞ka˜mamitsukeː] 【名】人物名。仲間満慶。十五世紀頃に活躍した川平村の豪傑。豪族オヤケアカハチによって殺されたと伝えられている。

ナ˞カ˜マムラ [na˞ka˜mamura] 【名】村落名。仲間村。琉球王国時代から明治 41 年に存在した村の名。1737 年 (元文 2 年)、竹富島から西表島の仲間村へ移民させられた。明治 37 年に廃村。戦後、沖縄本島北部の大宜味村と竹富町からの移民によって大冨となった。

ナ˞ガ˜ミ [na˞ga˜mi] 【名】眺め。見わたすこと。眺望。景色を見わたすこと。遠くをのぞむこと。ナ˞ガ˜ムン [na˞ga˜muŋ](眺める) の連用形から転成した名詞。ナ˞カン˜ブレーラーヌ　ナ˞ガ˜メー　イッ˞ケン　カイ˜ヤン [na˞kam˜bureːranu na˞ga˜meː ʔik˞keŋ kai˜jaŋ](中岡(ナカモリ)からの眺めは非常に美しい)。

ナ˞カ˜ミー [na˞ka˜miː] 【名】1中身。内容。ウ˞リヌ˜　パ˞ナ˜シェー　ナ˞カミーヤ <˞ミーヤ>　˞ナー˜ヌ [ʔu˞rinu˜ pa˞na˜ʃeː na˞kamiːja<˞miːja> ˞naː˜nu](彼の話は中身はない。つまらない)。2吸い物などのたね < 種。汁の実 >。豚の内臓の吸い物。ナ˞カミー˜ヌ　˞シームヌ˜　ン˞ザ˜シバ [na˞kamiː˜nu ˞ʃiːmunu˜ ʔn˞ʤa˜ʃiba](豚の内臓の吸い物を出しなさい)。

ナ˞カミー˜ヌ　˞シームヌ [na˞kamiː˜nu ˞ʃiːmunu] 【連】豚の内臓の吸い物。沖縄本島方言からの借用語。ナ˞カミー˜ヌ　˞シームヌ˜ナー　ピ˞バツ˜ン　イ˞ル˜カー　ン˞マー˜ン [na˞kamiː˜nu ˞ʃiːmunu˜naː pi˞ba˜tsuŋ ʔi˞ru˜kaː ʔm˞maː˜ŋ](中身の吸い物にヒハツ < 胡椒 > を入れると美味しい)。

ナ˞ガミ˜ク [na˞gami˜ku] 【名】長め句。アーパーレー歌等の歌謡で前半部を「ゆったりした調子で歌う句」の意。˜アーパーレーナー　ナ˞ガミク˜トゥハ˞ヤミク˜ヌ　アン˞ダー [˜ʔaːpaːreːnaː na˞gamiku˜tu ha˞jamiku˜nu ʔan˞daː](アーパーレー歌には、ゆったりした調子の長め句とテンポの速い早め句があるよ)。

ナ˞ガミ˜クー [na˞gami˜kuː] 【名】古謡アーパーレー (新室寿歌) のメメロディーの一つ。前半のゆったりした歌い方。˜アーパーレーヤ　パ˞ジメー˜　ナ˞ガミ˜クーシ　イ˞ゾー˜リティ　˜アトーケー　パ˞ヤミ˜クシル　イ˞ゾー˜ル [˜ʔaːpaːreːja pa˞ʤimeː˜ na˞gami˜kuːʃi ʔi˞ʤoː˜riti ˜ʔatoːkeː pa˞jami˜kuːʃiru ʔi˞ʤoː˜ru](新室寿歌アーパレーは、初めはナガミクで歌われて、後になるとハヤミクで歌われる)。

ナ˞カ˜ミチ [na˞ka˜mitʃi] 【名】真ん中の道。「中道」の義。旧鳩間郵便局の前を東西に走る道。この道を境に、上の方を˞ウイヌムラ [˞ʔuinumura](上の村) といい、下の方を、ス˞モー [su˞moː](下の方) といっていた。ナ˞カ˜ミチェーラ　˞ウイヤー　ウイヌムラ˜ティル　ア˞ゾーッ˜タル [na˞ka˜mitʃeːra ˞ʔuijaː ʔuinumura˜tiru ʔa˞ʤoːtta˜ru](中道から上の方を上の村といわれたよ)。˞ウイヌムラ　プス [˞ʔuinumura pu̥su](上の村人)。

ナ˞ガミ˜ルン [na˞gami˜ruŋ] 【他動】眺める。見渡す。˜マンター　ナ˞ガミ˜ルンティ　˞スンドゥ　キー˜ヌ　˞ムイカバ˜シティ　ナ˞ガミララ˜ヌ [˜mantaː na˞gami˜runti ˞sundu kiː˜nu ˞muikaba˜ʃi̥ti na˞gamirara˜nu](前方を眺めようとするが、木々が生い茂って眺められない)。˜クマーラー　ナ˞ガミ　ヤッ˜サン [˜kumaːraː na˞gamijas˜saŋ](ここからは眺めやすい)。ナ˞ガミ˜ル　プ˞ソー　パー˜ク　ナ˞ガミ˜リ [na˞gami˜ru pu̥˞soː paː˜ku na˞gami˜ri](眺める人は早く眺めなさい)。ナ˞ガミ˜レー　˜ミサムヌ [na˞gami˜reː ˜misamunu](眺めれば良いのに)。/パ˞トゥ˜マナカムリ　パ˞リヌブ˜リ　ユ˞ム˜ヌ　˞キシキユ˜　ナ˞ガム

リ˺バ　イ˞ヌチ˺　ナ˞ガカル˺　ク˞バヌシタ＜囃子省略＞/(鳩間なかもり＜中岡＞を駆け登って、四方の景色を眺めると命が長くなるように素晴らしい蒲葵の下の眺めだ)『鳩間島古典民謡古謡集』。

ナ˞カムカ˺シ [na˞kamuka˺ʃi] 【名】中昔。˞ウームカシ [˞ʔu:mukaʃi](大昔) とマ˞ナ˺マ [ma˞na˺ma](今。現在) の中間。曾祖父母の世代。ナ˞カムカ˺シェーラル　˞ウン˺ネーヤ　サ˞カレー˺ティ˞ダー [na˞kamuka˺ʃe:raru ˞ʔun˺ne:ja sḁ˞kare:˺ti˞da:](曾祖父母の世代からがあの家は繁昌したそうだよ)。

ナ˞ガムティ [na˞gamuti] 【名】1長持ち。長く維持、保存されること。古老は、˞ナームティ [˞na:muti](長持ち) という。˞ダイヤー˺　タ˞カー˺タンティン　ナ˞ガムティ　スー˺　ム˞ヌ˺バ　˞カウワー˺　マ˞シ [˞dai-ja:˺ ta˞ka:˺tantin na˞gamuti su:˺ mu˞nu˺ba ˞kauwa:˺ ma˞ʃi](値段は高くても長持ちするのを買った方がよい)。ナ˞ガムテー　シーユーサヌ [na˞gamute:ʃi:ju:sanu](長持ちはし得ない)。2長命すること。長く生きること。ク˞ヌ　ヤン˺マイ　カ˞カ˺ルカー　ナ˞ガムティ (ナームティ) サン˺ツォー [ku˞nu jam ˺mai kḁ˞ka˺ruka: na˞gamuti(˞na:muti)san˺tso:](この病気に罹ると長生きできないそうだ)。

ナ˞ガ˺ムヌ [na˞ga˺munu] 【名】ハブ (毒蛇) の隠語。「長もの」の義。˞カン˺フチ [˞kaŋ˺ɸu̥tʃi](祝詞。神口) で、直接にハブを表出することはタブーたされ、それを避けて言う語。

ナ˞カ˺ムル [na˞ka˺muru] 【名】一合枡。イ˞チンゴーナカ˺ムルシ　サ˞キ˺　パ˞カ˺リ　˞カーシタ [ʔi˞tʃiŋ-go:naka˺muruʃi sḁ˞ki˺ pḁ˞ka˺ri ˞ka:ʃita](一合枡で酒を計って売った)。˞イッス˺サー [˞ʔissu˺sa:](一升枡)。˞グンゴーナカ˺ムルティン　˞アッ˺タン [˞guŋgo:-naka˺murutiŋ ˞ʔat˺taŋ](五合枡というのもあった)。

ナ˞ガ˺ムン [na˞ga˺muŋ] 【他動】眺める。「眺む＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。˺クマーラ　ナ˞ガ˺ムンティ　ウ˞ムーン˺ドゥ　ナ˞ガマラ˺ヌ [˞kuma:ra na˞ga˺munti ʔu˞mu:n˺du na˞gamara˺nu](ここから眺めようと思うが眺められない)。ナ˞ガミ˺　プサカー　ナ˞ガ˺ミバ [na˞gami˺ pu̥saka: na˞ga˺miba](眺めたければ眺めなさいよ)。ナ˞ガ˺ムプ˞ソー˺　ナ˞ガ˺メー　˺ミサムヌ [na˞ga˺mu pu̥˞so:˺ na˞ga˺me: ˺misamunu](眺める人は眺めればいいのに)。

˺ナカヤー [˺nakaja:] 【名】真中の家。˞中家」の義。ウ˞ブ˺ヤー [ʔu˞bu˺ja:](母屋) と˞トー˺ラ [˞to:˺ra](炊事後屋) の間にあった小屋。ム˞カ˺シェー　ウ˞ブヤー˺トゥ　˞トーラ˺ヌ　˺アイナー　˺ナカヤーヌ　˞アッ˺タン [mu˞ka˺ʃe: ʔu˞buja:˺tu ˞to:ra˺nu ˺ʔaina: ˺nakaja:nu ˞ʔat˺taŋ](昔は母屋と炊事小屋の間に中家があった)。

ナ˞カ˺ヤドゥ [na˞ka˺jadu] 【名】座敷を区切る板張りの戸。「中戸」の義。古い家には一番座と二番座の間に板戸を立てて、ナ˞カ˺ヤドゥ [na˞ka˺jadu](中戸) と称していた。ク˞ヌ　ナ˞カ˺ヤドー　˞キャーンギイツァ˺シル　パ˞ラリ　ブー [ku˞nu˺ na˞ka˺jado: ˞kja:ŋgiʔitsa˺ʃiru pa˞rari bu:](この中戸はイヌマキ＜槇＞の板で＜ぞ＞張られている)。

˺ナカ　ヤ˞ニ˺ヤン [˺naka ja˞ni˺jaŋ] 【連】仲が悪い。˞ウッ˺ツァー　フ˞ターロー˺　ナカ　ヤ˞ニヤ˺ヌ　˺ミリ　ブ˞ララヌ [˞ʔut˺tsa: ɸu̥˞ta:ro:˺ naka ja˞nija˺nu ˺miri bu˞raranu](彼ら二人は仲が悪くて見ておられない)。

ナ˞カ˺ヤビ [na˞ka˺jabi] 【名】中年になって身を持ち崩すこと。青年後期に素行がみだれること。ナ˞カヤブ˺リ [na˞kajabu˺ri](中破れ) ともいう。ヤ˞ラビ˺ヌ　ヤ˞ビ˺ムノー　˞ノーサリ˺ヌ　ナ˞カ˺ヤビ　˞スー˺　プ˞ソー　ノーサラン˺ティ　ア˞ザリ　ブー [ja˞rabi˺nu ja˞bi˺muno: ˞no:sari˺nu na˞ka˺jabi ˞su:˺ pu̥˞so: no:saran˺ti ʔa˞ʤari bu:](子供のぐれた者は矯正できる＜直される＞が中年になって身を持ち崩したものは矯正出来ないといわれている)。

ナ˞ガヤブリ [na˞gajaburi] 【名】長期悪天候。長期間天候が悪くなること。「長破れ」の義。˞オーシキヌ˺　ナ˞ガヤブリシティ˺　カ˞ツシンマー˺　イ˞ソー˺　ン˞ジララ˺ヌ [˞ʔo:ʃi̥kinu˺ na˞gajaburi˺ ʃi̥˞ti˺ kḁ˞tsuʃimma:˺ ʔi˞so:˺ ʔn˞ʤirara˺nu](天候が長期悪天候になって＜長敗れして＞、カツオ漁船は出漁できない)。

ナ˞ガヤン [na˞gajaŋ] 【名】長患い。˞長病み」の義。普通は˞ナーヤン [˞na:jaŋ](長患い。長病み) という。ナ˞ガヤン˺　シ˞ティル˺　ドゥーヨーリ　˞シー˺　ア˞ラキユーサ˺ヌ [na˞gajaŋ˺ ʃi̥˞tiru˺ du:jo:ri ˞ʃi:˺ ʔa˞rakiju:sa˺nu](長患いをして＜ぞ＞すっかり衰弱＜体弱りして＞し、歩くことが出来ない＜歩き得ない)。

ナ˞カ˺ユー [na˞ka˺ju:] 【名】「なかよ (中世)」の義。˞ウームカシ [˞ʔu:mukaʃi](大昔。鼻祖の世代) とイ˞マ˺ユー [ʔi˞ma˺ju:](現代＜今世＞) との中間の時代。ほぼ曾祖父の時代に相当する世代。˞ウン˺ネーヤ　ナ˞カ˺ユーナ　˞キー˺ル　サ˞カレー˺ダー [˞ʔun

˥ne:ja na˞ka˥ju:na ˞ki:˥ru sḁ˞kare:˥da:](あの家は中世の時代に栄えたのだよ)。

ナ˞ガユー [na˞gaju:] 【名】長寿。長い寿命。長生きすること。「長い世」の義。˥アッパー　イッ˞ケナ˥　ナ˞ガユー˥　シ˞キ˥ル　˞オー˥ル [˥ʔappa: ʔik˞kena˥ na˞gaju:˥ ʃi̥˞ki˥ru ˞ʔo:˥ru](お祖母さんは非常に長寿になっておられる＜長寿がついておられる＞)。

ナ˞カユー˥クイ [na˞kaju:˥kui] 【名】中休み。途中休憩。「中憩い」の義。˞サー˥ヤンツァン　˥ヌミ　ナ˞カユー˥クイ　シ˞ティ˥　マ˞タ　カイ˥サ˞ディー [˞sa:˥jantsan ˥numi na˞kaju:˥kui ʃi̥˞ti˥ ma˞ta kai˥sa˞di:](お茶でも飲んで中休みをとって、また耕そうよ)。

ナ˞カユッ˥カ [na˞kajuk˥ka] 【名】中床板。ナ˞カユッ˥カー　ピ˞ソー˥ンダ　ミ˞ツァール˥　ビ˞ラリン [na˞kajuk˥ka: pi̥˞so:˥nda mi˞tsa:ru˥ bi˞rariŋ](中床は広いから三人座れる)。˥イダフニ [˥ʔidaɸuni](板舟。サバニ) の中央部の床板。ナ˞カユッ˥カー　˞パンツァシティ˥　フ˞ニ˥ヌ　ナ˞カフク˥ルナー　˥ニー　シ˞ミ˥バ [na˞kajuk˥ka: ˞pantsaʃi̥ti˥ ɸu˞ni˥nu na˞kaɸuku˥runa: ˥ni: ʃi˞mi˥ba](中床板を外して、舟の中央部に荷物を積みなさい)。

ナ˞カ˥ラ [na˞ka˥ra] 【名】半分。なかば。途中。「Nacara. ナカラ (半ら) どんな物にもせよ、その半分の量」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ウ˞ブナカラ [ʔu˞bunakara](七割程度。大半。「大なから」の義)。イ˞ミナカ˥ラ [ʔi˞minaka˥ra](半分以下。三分の一程度。イ˞ミ [ʔi˞mi] は「少ない」の義)。ナ˞カラ˥バタ [na˞kara˥bata](腹半分。軽く食事をすること)。ナ˞カラ˥ニー [na˞kara˥ni:](船の半分荷を積むこと)。ミ˞チナカ˥ラ [mi˞ʧinaka˥ra](道の途中)。ミ˞ジカメー˥　ナ˞カ˥ラ　˥ナリ　˞ナーン˥バ　ミ˞ジ˥　フ˞ミ˥　クー [mi˞ʤikame:˥ na˞ka˥ra ˥nari ˞na:m˥ba mi˞ʤi˥ ɸu˞mi˥ku:](水甕は半分になってしまったので水を汲んでこい)。

˞-ナガラ [˞-nagara] 【接助】～ながらも。～つつも。上接語動詞の同時進行を表しつつ、前件と後件が逆の結果となる逆接の意味を表す。˥アイ　˞スー˥カー＜ア˞ス˥カー＞　˞ワッ˥サンティ　ッ˞シナガラ˥＜ッ˞シブリティ˥＞　ヌンティ　˥ウヌヨーナク˞トゥ˥バ　˞スーワ [˥ʔai su:˥ka:＜ʔa˞su˥ka:＞ was˥santi ʃ˞ʃinagara˥＜ʃ˞ʃiburiti˥＞ nunti ˥ʔunujo:na ku̥˞tu˥ba ˞su:wa](そうすれば悪いと知りながら、何故あのようなことをするのか)。

ナ˞ガライルン [na˞garairuŋ] 【自動】生き永らえる。長生きする。イ˞クサ˥ユーナ　シ˞トゥッチ˥ヌナル　ッ˞ふァイヤー˥ティン　˥ヌチ　ナ˞ガライルンティ˥　シ˞タンドゥ˥　ナ˞ガライラランシェン˥ツォー [ʔi˞kusa˥ju:na: ʃi̥˞tuttʃi˥nunaru f˞faija:˥tin ˥nutʃi na˞garairunti˥ ʃi̥˞tandu˥ na˞garairaraŋʃen˥tso:](戦争中、蘇鉄の実を食べてでも生きながらえようとしたが、生き永らえられなかったそうだ)。˥バーヤ˞ラバン˥　ヌチ　ナ˞ガライ˥　ミサカー　ナ˞ガライル˥　クトー　˥ナルン [˥ba: ja˞raban˥ nutʃi na˞garai˥ misaka: na˞garairu˥ ku̥to: ˥naruŋ](私でも生き永らえてよければ、生き永らえることは出来る)。˞トー˥カキ　˞バー˥ケー　˥ヌチ　ナ˞ガライヤー˥　ミサムヌ [˞to:˥kaki ˞ba:˥ke: ˥nutʃi na˞garaija:˥misamunu](米寿＜斗掻＞までは生き永らえればいいのに)。ヤー˞ディン˥　ヌチ　ナ˞ガライリ [ja:˞din˥ nutʃi na˞garairi](必ず命を生き永らえよ)。

ナ˞カラウイ˥プス [na˞karaʔui˥pu̥su] 【名】初老。「半ば老人」の義。˞グン˥ズー　˞クイルター˥　ドゥーン　˞ヨー˥リティ　˥メー　ナ˞カラウイ˥プス　˥ナリ　˞ナー˥ヌ [˞gun˥ʤu: ˞kuiruta:˥ du:ɲ ˞jo:˥riti na˞karaʔui˥pu̥su ˥nairi ˞na:˥nu](五十歳を越えたので体も弱って初老＜半ば老人＞になってしまった)。

ナ˞ガラウン [na˞garauŋ] 【自動】生き永らえる。長生きする。「永らふ＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。ナ˞ガラウンティ　スンドゥ˥　ナ˞ガラーラヌ [na˞garaunti sundu˥ na˞gara:ranu](永らえようとするが、永らえられない)。˞ドゥー˥ヌサーギ　ナ˞ガライ˥　プサカー　ナ˞ガラウ˥　クトー　ナ˞リ˥シバ　イ˞ジン˥ジ　ナ˞ガライ˥ヨー [˞du:˥nusa:gi na˞garai˥ pu̥saka: na˞garau˥ ku̥to: na˞ri˥ʃiba ʔi˞ʤin˥ʤi na˞garai˥jo:](自分がさえ長生きしたいなら、長生きすることは出来るから、しっかり長生きしなさいよ)。

ナ˞ガラク [na˞garaku] 【副】長らく。長期に。老年層は˞ナー˥サ [˞na:˥sa](長らく。長く) ともいう。˥ヌンティ　ナ˞ガラク˥　ミ˞ラン˥シェンワ [˥nunti na˞garaku˥ mi˞raraŋ˥ʃeŋwa](何故に長らく姿を見せなかった＜見えなかった＞のか)。˥カイブ　ミ˞ジラシ˥　ムノー　ナ˞ガラク˥　ミリ　ミ˞ラン˥シェン [˥kaibu mi˞ʤira˥ʃi ˥muno: na˞garaku˥ miri mi˞raŋ˥ʃeŋ](こんなに珍しいものは長らく見てみなかった)。

ナ˞カラ˥タティ [na˞kara˥tḁti] 【名】中腰。「半ら立ち」の義。˞パンタ˥サール　˥バソー　ナ˞カラ˥タティ　˞シェー˥ティル　˥ムヌーン　ン˞コーッタ˥ル　ビ˞ル˥　ピ˞マーナー˥ト　˞ナーン˥シェン [˞panta˥saru

˥baso: na˩kara˥tat̚i ˩ʃe:˥tiru ˥munu:ŋ ʔŋ˩ko:tta˥ru bi˩ru˥ pi˩ma:na:˥to ˩na:ŋ˥ʃeŋ](忙しい＜繁多さある＞時は中腰＜半ら立ち＞しながら食事＜もの＞も召し上がられたものだ。座る暇などなかったよ)。

ナ˩カラ˥ニー [na˩kara˥ni:] 【名】半分荷。船に積載量の半分しか積載しないこと。˩マン˥シン [˩maŋ˥ʃiŋ](満船) の反義語。˩ウンパンシン˥マー　ナ˩カラ˥ニー　˩シェー˥テー　˩モーカラ˥ヌ [˩ʔumpaŋʃim˥ma: na˩kara˥ni: ˩ʃe:˥te: ˩mo:kara˥nu](運搬船は半分荷＜積載量の半分を積載すること＞をして運行しては儲からない)。

ナ˩カラ˥バタ [na˩kara˥bata] 【名】腹半分。腹五分。半分満ちたお腹。「半分腹」の義。ナ˩カラ˥バタシェー　˩ターシグ˥トー　ナ˩ラ˥ヌ　バ˩タ˥ミチ　ッ˩ふァーシ [na˩kara˥bataʃe: ˩ta:ʃigu˥to: na˩ra˥nu ba˩ta˥mit̚ʃi ˩fa:ʃi](腹半分食べては田圃仕事は出来ない。満腹＜腹満ち＞食べさせなさい)。˩イー˥ヤ　バ˩タ˥ミツンケン　ッ˩ふァームティ˥　ナ˩カラ˥バタ　ッ˩ふァイヤー˥テー　˩ターシグ˥トー　ナ˩ラ˥ヌ [˩ʔi:˥ja ba˩ta˥mitsuŋkeŋ ˩fa:muti˥ na˩kara˥ba ˩faija:˥te: ˩ta:ʃigu˥to: na˩ra˥nu](ご飯は満腹するまで食べないで、腹半分に食べては田圃仕事は出来ない)。

ナ˩カラ˥フニ [na˩kara˥ɸuni] 【名】積載量の半分しか積んでない船。˩パイター˥ラー　カ˩ラ˥フニシェー　˩オーラン˥シェン　ナ˩カラ˥フニ　ヤ˩ラバン˥　ヤー˩ディン˥　タ˩ム˥ノー　˥キシティル　˩ヌーシ　オーッタ˥ル [˩paita:˥ra: ka˩ra˥ɸuniʃe: ˩ʔo:raŋ˥ʃeŋ na˩kara˥ɸuni ja˩raban˥ ja:˩din˥ ta˩mu˥no: ˥ki̥ʃitiru ˩nu:ʃi ʔo:tta˥ru](西表＜南端＞からは空船では帰ってこられなかった。半分荷を積んだ船であっても、必ず薪になる木を伐って積載して来られた)。

ナ˩カラ˥ミチ [na˩kara˥mit̚ʃi] 【名】半分道。道半ば。ク˩マーバー˥キ　˥クーカー　ナ˩カラ˥ミチェー　˩キー˥ブ　˥パジ [ku˩ma:ba:˥ki ˥ku:ka: na˩kara˥mit̚ʃe: ˩ki:˥bu ˥pa⫽i](こっこまで来れば、半分道は来ているはずだ)。

ナ˩カラ˥ムヌ [na˩kara˥munu] 【名】感情の激しやすい人。粗暴な性格の人。度量の狭い者。「半分程度の人」の義。ウ˩レー˥　ナ˩カラ˥ムヌ　ヤ˩ルンダ　クン˥ゾー　ウ˩クラス˥ナ˩ヨー [ʔu˩re:˥ na˩kara˥munu ja˩runda kun˥⫽o: ʔu˩kurasu˥na˩jo:](彼は粗暴な性格の人だから、怒らすなよ)。

ナ˩カラ˥ヤビ [na˩kara˥jabi] 【名】中途半端に身を持ち崩すこと。中途半端な不良。˩ソーヤビ　シェー˥　ブ˩ラーヌ˥　ナ˩カラヤビ˥ル　ヤ˩リバ˥　マ˩ナ˥マン˩デー˥カー　˩ノーサ˥リン [˩so:jabi ʃe:˥bu˩ra:nu˥ na˩karajabi˥ru ja˩riba˥ ma˩na˥man˩de:˥ka: ˩no:sa˥riŋ](完全に不良になってはいない。中途半端な不良だから、今ならば矯正できる)。

ナ˩ガ˥リ [na˩ga˥ri] 【名】流れ。˩ナー˥リ [˩na:˥ri](流れ) ともいう。˩カーラヌ˥　ミ˩ジヌ˥　ナ˩ガリ˥ヌ　˩スー˥ワー　ウ˩ブ˥ミジェーラン　˩ケーダガーラ˥ル　˩スー˥ワツォー [˩ka:ranu˥ mi˩⫽inu˥ na˩gari˥nu ˩su:˥wa: ʔu˩bu˥mi⫽e:raŋ ˩ke:daga:ra˥ru ˩su:˥watso:](川の水の流れの強いのは大見謝川よりもケーダ川が強いそうだ)。

ナ˩ガワチライ [na˩gawat̚ʃirai] 【名】長患い。長期間病気になること。「長患い」の転訛したもの。˥アッパー　マ˩ナマー˥キン　ッ˩サーク˥バ　ナ˩ガワチライ　シー　オー˥ル [˥ʔappa: ma˩nama:˥kin s˩sa:ku˥ba na˩gawat̚ʃirai ʃi: ʔo:˥ru](お祖母さんは、今まで咳を長患いしておられる)。˩ウン˥ネヌ　˥アブジェー　バ˩タ˥ヌヤンシ　ナ˩ガワチライ　シーオーッタン˥ドゥ　˩ヤータ˥シ　˩マーラソー˥リ　˩ナーン˥シェン [˩ʔun˥nenu ˥ʔabu⫽e: ba˩ta˥nujaŋʃi na˩gawat̚ʃirai ʃi: ʔo:ttan˥du ˩ja:ta˥ʃi ˩ma:raso:˥ri ˩na:ŋ˥ʃeŋ](あの家のお祖父さんはお腹の病気で長患いをしておられたが、その後、間もなくして亡くなってしまわれた)。

ナ˩カ˥ワリ [na˩ka˥wari] 【名】鰹節製造過程で、生のカツオを三枚おろしにして、その上身と下身を更に半分に切り分けること。カ˩ツォー˥　ク˩バンマー˥　ナ˩カ˥ワリ　サ˩ランダ˥　カ˩ミブ˥シ　ナ˩ソーッタ [kḁ˩tso:˥ ku˩bamma:˥ na˩ka˥wari sa˩randa˥ ka˩mibu˥ʃi na˩so:t˥ta](カツオは、小判は中割りできないからカメブシ＜亀節＞にされた)。

ナ˩カングシ˥チ [na˩kaŋguʃi̥˥t̚ʃi] 【名】屋号。久しく空屋敷となっていたが、1957 年ごろの一時期、そこに鳩間青年団が会館を建築し、青年団研修の場所として利用され、部落常会などにも使用されていた所。

ナ˩カン˥テー [na˩kan˥te:] 【名】屋号。仲本長栄氏宅。仲本家。フ˩シ˥マヤー [ɸu̥˩ʃi˥maja:](黒島家) ともいう。ナ˩カン˥テー [na˩kan˥te:] は、ナ˩カン˥トゥ [na˩kan˥tu](仲本) に接尾辞˥テー [˥te:](＜～の家＞。接尾語˥～ヤー [˥～ja:] が前接語の末尾母音と音韻の融合変化を起こして、˥～テー [˥～te:] となったもの) が付い生成された合成語。屋号の語構成法から、黒島系統の古い移住者の屋号と考えられる。˩インヌカーヤ˥　ナ˩カン˥テーヌ　プ˩スヌル　カーヌ

ニンガイ˜ヤー　˞シー　オーッ˜タ [˞ʔinnukaːja˜ na˞kan˜teːnu pu̥˞sunuru kaːnu niŋgai˜jaː ˞ʃiː ʔoːt˜ta](インヌカー＜西の村井戸＞は仲本家の人が井戸の祈願をしておられた)。ナ˞カン˜テーヌ　˞ヤシ˜ケーフ˞シ˜マヤーティル　アル˞ダー [na˞kan˜teːnu ˞jaʃi̥˜keː ɸu̥˞ʃi˜majaːru ʔaru˞daː](仲本家の屋敷名は黒島家と＜ぞ＞あるのだよ)。

ナ˞カン˜テーヌ　˞ヤシ˜キ [na˞kan˜teːnu ˞jaʃi̥˜ki]【連】屋敷名。空き屋敷。ア˞ラブシケーヌ˜　シンタヌ　˞ヤシキバ˜ル　ナ˞カン˜テヌ　˞ヤシ˜キティ　ア˞ゾー˜ル [ʔa˞rabuʃi̥keː˜nu ˜ʃintanu ˞jaʃikiba˜ru na˞kan˜tenu ˞jaʃi̥˜kiti ʔa˞ʤoː˜ru](大工家＜東大城家＞の後ろの屋敷を仲本家の屋敷とおっしゃる)。

ナ˞カン˜ブレ [na˞kam˜bure]【名】地名。なかもり (中岡)。明治期に作成された古地図では「仲盛」と表記されている。従来は「中森」の表記が通用している。しかし、鳩間方言では、ム˞ル [mu˞ru](岡) は「土地の盛り上がった所」の意味である。「森」を意味する鳩間方言は、˜ウガンヤマ [˜ʔugaŋjama](御嶽の森＜山＞)、パ˞カヤマ [pḁ˞kajama](墓の森＜山＞) などのように、˜ヤマ [˜jama](山。林) といっている。従って、島の中央部が盛り上がっている意味のナ˞カン˜ブレ [na˞kam˜bure] は、「中岡」と表記することが正しい。マ˞ナ˜マー　ナ˞カン˜ブレナー　˞トーダイ˜ヌ　ア˞ルン˜ドゥ　ム˞カ˜シェー　˜ウマー　ク˞バヤマ　ヤッタ˜ツォー [ma˞na˜maː na˞kam˜burenaː ˞toːdai˜nu ʔa˞run˜du mu˞ka˜ʃeː ˜ʔumaː ku˞bajama jatta˜tsoː](今は中岡には灯台があるが、昔は、そこはクバ＜蒲葵＞林だったそうだ)。

˜ナカンマ [˜nakamma]【名】中の姉。˜ナカアンマ [˜naka?amma](中の姉) の転訛＜約言＞したもの。˜ナカンマーヤ　˞ホン˜マー　˞ウシ˜トゥ　˜ナルシジ [˜nakammaːja ˞hom˜maː ˞ʔuʃi̥˜tu ˜naru ˜ʃiʤi](中の姉は長姉の妹になるわけだ)。

ナ˞キアカスン [na˞kiakasuŋ]【自動】泣き明かす。一晩中泣き続けて夜を明かす。ッ˞ふァヌ˜　ク˞トゥ˜バ　˜ウムイ　ナー˞イ˜　ナ˞キアカスン˜ツォー [f˞fanu˜ ku̥˞tu˜ba ˜ʔumui naː˞i˜ na˞kiʔakasun˜tsoː](子供のことをおもって、ずっと泣き明かすそうだ)。イ˞チンマー˜　ナ˞キアカス˜　クトー　˞ナー˜ヌヌ　˜ユベー　ナ˞キアカシ　ナーン˜シェン [ʔi˞ʧimmaː˜ na˞kiʔakasu˜ku̥toː ˞naː˜nunu ˜jubeː na˞kiʔakaʃi naːŋ˜ʃeŋ](日頃＜いつも＞は泣き明かすことはないが、昨夜は泣き明かしてしまった)。ナ˞キアカシ˜バ [na˞kiʔakaʃi˜ba](泣き明かせよ)。˞ピーズ˜　ナ˞キアカシ　ベー [˞piːʤu˜ na˞kiʔakaʃi beː](毎日泣き明かしている)。ナ˞キアカシェー˜　ミサムヌ [na˞kiʔakaʃeː˜ misamunu](泣き明かせばいいのに)。

ナ˞キアザ [na˞kiaʤa]【名】泣きぼくろ。目にあるほくろ。ウ˞ヌ　ッふァー˜　ナ˞キアザヌ˜　アンダ　ノー˞シン˜　ナ˞キブサー˜　ヤ˞ル˜　パジ [ʔu˞nu ffaː˜ na˞kiʔaʤanu˜ ʔanda noː˞ʃin˜ na˞kibusaː˜ ja˞ru˜ paʤi](あの子は泣きぼくろがあるから、きっと泣き虫だろう＜泣き虫であるはず＞)。

ナ˞キカカルン [na˞kikakaruŋ]【自動】泣きかかる。泣きつく。˜ウヤ　˜ミルカー　ナ˞キカカルンティ　スンダ˜　ミ˞ラサン˜センドゥ　ッ˞ふァ˜ムレーナ　ナ˞ラウター˜ル　ヤ˞ル˜ユー　ナ˞キカカランシェン [˜ʔuja ˜miruka: na˞kikakarunti sunda˜ mi˞rasaŋ˜ʃendu f˞fa˜mureːna na˞rautaː˜ru ja˞ru˜juː na˞kikakaraŋʃeŋ](親を見ると泣きつくというので見せなかったが、子守に馴れたからだろうか、泣きつかなかった)。ナ˞キカカリティ　フッサー˜リ　ナ˞ラン˜シェンド　イ˞チンマー˜　ナ˞キカカル˜　クトー　˞ナー˜ヌ [na˞kikakariti ɸussaː˜ri na˞raŋ˜ʃendu ʔi˞ʧimmaː˜ na˞kikakaru˜ ku̥toː ˞naː˜nu](泣きつき、しがみ付いてどうにもならなかったが、日頃＜いつも＞は泣きつくことはない)。ナ˞キカカレー˜　ミサムヌ [na˞kikakareː˜ misamunu](泣きつけばいいのに)。ナ˞キカカリ [na˞kikakari](泣きつけ)。

ナ˞キグイ [na˞kigui]【名】泣き声。動物の鳴き声。老年層は、ナ˞キングイ [na˞kiŋgui](鳴き声。泣き声) ともいう。˞イン˜ヌ　ナ˞キグイヌ˜　シゥ˞カリン [˞ʔin˜nu na˞kiguinu˜ si̥˞˜kariŋ](犬の泣き声が聞こえる)。

ナ˞キクガルン [na˞kikugaruŋ]【自動】泣き焦がれる。思い焦がれて泣く。プ˞スルッふァ˜バ　シ˞ナシティ˜　ナ˞キクガリ　オー˜ル [pu̥˞suruffa˜ba ʃi˞naʃi̥˜ti˜ na˞kikugari ʔoː˞ru](一人っ子を失って＜死なせて＞泣き焦がれて居られる)。ナ˞キクガルン˜カヤーティ　ウ˞ムータ˜ヌ　ナ˞キクガランシェン [na˞kikugaruŋ˜kajaːti ʔu˞muː˜ta˜nu na˞kikugaraŋʃeŋ](泣き焦がれるかと思ったが、泣き焦がれなかった)。ナ˞キクガル˜　スコー　ウ˞ムイ˜ル　˞オー˜レール [na˞kikugaru˜su̥koː ʔu˞mui˜ru ˞ʔoː˜reːru](泣き焦がれるほど思っておられたのだ)。ナ˞キクガリ˜バ [na˞kikugari˜ba](泣き焦がれなさいよ)。ナ˞キクガレー˜　ミサムヌ [na˞kikugareː˜ misamunu](泣き焦がれたらいいのに)。

ナ˞キクラスン [na˞kikurasuŋ]【自動】泣き暮らす。泣

いて日々を過ごす。ッ˞ふァ˥　シ˞ナシティ˥　ナ˞キクラシ　オー˥ル　˥ムヌ　ミ˞リバ˥ル　キ˞ムイ˥ツァー˞ツォー [fˀfa˥ ʃi˞naʃiti˥ ʔo:˥ru ˥munu mi˞riba˥ru ki˞muiˀtsa:˞tso:](子供を失って < 死なせて > 泣き暮らして居られるのを見ると気の毒 < 肝痛し > なんだよ)。˞ピーズ˥　ナ˞キクラスンティ　アーカン˥ドーシ　プ˞ストゥン˥　ム˞ヌパナ˥シン　˞スー˥カー　ナ˞キクラス˥　クトー　˞ナー˥ヌ [˞pi:ʤu˥ na˞kikurasunti ʔa:kan˥do:ʃi pu̥˞sutum˥ mu˞nupana˥ʃin ˞su:˥ka: na˞kikurasu˥ ku̥to: ˞na:˥nu](毎日泣き暮らすということをしないで、他人とも話し合いもすれが泣き暮らすことはない)。ナ˞キクラシェー˥　ミサムヌ [na˞kikuraʃe:˥ misamunu](泣き暮らせばいいのに)。ナ˞キクラシ [na˞kikuraʃi](泣き暮らせ)。

ナ˞キ˥　ザ˞マン˥ドゥルン [na˞ki˥ ʤa˞man˥duruŋ] 【連】泣いて戸惑う。泣きすぎて途方にくれる。˞アッ˥タニ　ウ˞ヤ˥ヌ　˞マーラソーッター˥ル　˥アイニ　ナ˞キ˥　ザ˞マン˥ドゥリ　˞ベー˥ティムカーヤ [˞ʔat˥tani ʔu˞ja˥nu ˞ma:raso:tta:˥ru ˥ʔaini na˞ki˥ ʤa˞man˥duri ˞be:˥timuka:ja](急に親が亡くなられたので泣いて戸惑っているのだよ)。

ナ˞キジラ [na˞kiʤira] 【名】泣き顔。泣き出しそうな顔つき。「泣き面」の転訛したもの。˞シン˥シーン　イ˞ザリティ˥　ナ˞キジラー˥　ナリ　˞ベー˥タ [˞ʃiŋ˥ʃi:ŋ ʔi˞ʤariti˥ na˞kiʤira:˥ nari ˞be:˥ta](先生に叱られて泣き顔になっていた)。

ナ˞キニビ [na˞kinibi] 【名】泣き寝。泣き寝入り。泣きながら寝入ること。˥ウヤン　イ˞ザリティ　イー˥ユン　ッ˞ふァーンドー˥シ　ナ˞キベータン˥ドゥ　ナ˞キニビ　シーナーン˥ワー˞ン˥ノー [˥ʔujaŋ ʔi˞ʤariti ʔi:˥juŋ fˀfa:ndo:˥ʃi na˞kibe:tan˥du na˞kinibi ʃi:na:ŋ˥wa:˞n˥no:](親に叱られて、ご飯も食べないで泣いていたが、泣き寝入りしてしまったではないか)。

ナ˞キバカリ [na˞kibakari] 【名】泣き別れ。ウ˞キ˥ナー　˥パルンティ　˞シー˥　ウ˞ヤッ˥ふァ　ナ˞キバカレー　シー　オーッ˥タツォー [ʔu˞ki˥na: ˥parunti ˞ʃi:˥ ʔu˞jafˀfa na˞kibakare: ʃi:ru ʔo:t˥tatso:](沖縄へ行くといって、親子が泣き別れをしてこられたそうだよ)。

ナ˞キバライ [na˞kibarai] 【名】泣いたり笑ったり。パ˞ナシ˥ヌ　˥ドゥク　ウ˞ムッ˥サティ　ナ˞キバライシーベー [pa˞naʃi˥nu ˥duku ʔu˞mus˥sati na˞kibarai ʃi:be:](話があまりにも面白いので、感動して泣き笑いしている)。ル˞クニン˥ヌ　ッ˞ふァン˥ケー　ナ˞キバライバ　シェー˥ティル　シゥ˞カ˥ナイ　フ˞ドゥバシタル [ru˞kunin˥nu fˀfaŋ˥ke: na˞kibaraiba ʃe:˥tiru si̥˞ka˥nai ɸu˞dubaʃi̥taru](六人の子供たちを、苦しい時は泣き、嬉しい時は笑いながら養育し成長させたものだよ)。

ナ˞キブー [na˞kibu:] 【名】泣き虫。ナ˞キブサー [na˞kibusa:](泣き虫) の卑しめた言い方。˞ウンザー˥　ナ˞キブー˥　ナリティ　˞ヨー˥ゾー　ナ˞ラ˥ヌ [˞ʔunʤa:˥ na˞kaibu:˥ nariti ˞jo:˥ʤo: na˞ra˥nu](あいつは泣き虫になって始末に負えない < 養生できない >)。

ナ˞キブガリ [na˞kibugari] 【名】泣き疲れること。ナ˞キブガリル˥　シ˞タ˥ユー　ニ˞ビナーン˥ワー˞ン˥ノー [na˞kibugariru˥ ʃi̥˞ta˥ju: ni˞bina:ŋ˥wa:˞n˥no:](泣き疲れたのか、寝てしまったではないか)。ヤ˞ラ˥ベー˞ナーナキ　シー　ベータン˥ドゥ　ナ˞キブガリシー˥　ニ˞ビナー˥ヌ [ja˞ra˥be: ˞na:naki ʃi: be:tan˥du na˞kibugari ʃi:˥ ni˞bina:˥nu](子供は長泣きしていたが、泣き疲れて寝てしまった)。

ナ˞キブガリ˥ルン [na˞kibugari˥ruŋ] 【自動】泣き疲れる。ヤ˞ラ˥ベー　˞ナーナキ　スー˥カー　ナ˞キブガリ˥ルンダ　˥アトーケー　ニ˞ビス [ja˞ra˥be: ˞na:-naki su:˥ka: na˞kibugari˥runda ˥ʔato:ke: ni˞bisu](子供は長泣きすると、泣き疲れするから後になっては眠るものだよ)。ヤ˞ラ˥ベー　ナ˞キブガリル˥　シ˞タ˥ユー　ニ˞ビナー˥ヌ [ja˞ra˥be: na˞kibugariru˥ ʃi̥˞ta˥ju: ni˞bina:˥nu](子供は泣き疲れをしたのか、眠ってしまった)。

ナ˞キブサー [na˞kibusa:] 【名】泣き虫。ナ˞キフチ [na˞kiɸu̥tʃi](泣き虫) の卑称。相手を卑(イヤ)しめた言い方。˞ウンザー˥　ナ˞キブサー˥　ナリティ　ン˞メーマ˥　イ˞ズ˥カー　シ˞グ˥　ナ˞キス [˞ʔunʤa:˥ na˞kibusa:˥ nariti ʔm˞me:ma˥ ʔi˞ʤu˥ka: ʃi˞gu˥ na˞kisu](あいつ < 彼奴 > は泣き虫野郎になって、少し叱ると、すぐ泣く)。ナ˞キ・ムシ・ヤー [naki・muʃi・ja:] → [na˞kibusa:] のように形成された語。ウ˞レー　サッ˥コー　ナ˞キブサー˥　ヤ˞ルンダ˥　イ˞ズ˥カー　シ˞グ˥　ナ˞キス [ʔu˞re: sak˥ko: na˞kibusa:˥ ja˞runda˥ ʔi˞ʤu˥ka: ʃi˞gu˥ na˞kisu](あれは非常に泣き虫だから、叱るとすぐ泣くよ)。ナ˞キブサー　キュー˥ユン　マ˞タ˥　ナ˞キ　ベー˥バン [na˞kibusa: kju:˥jum ma˞ta˥ na˞ki be:˥baŋ](泣き虫は、今日もまた泣いているわい)。

ナ˞キフチ [na˞kiɸu̥tʃi] 【名】泣き虫。泣き味噌。ちょ

っとしたことにもよく泣く子。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　ナ˞キフチ˥　ヤ˞ルンダ˥　ン˞メーマヌ˥　クトゥシン　シ˞グ˥　ナ˞キス [ku˞nu˥ f˞fa:˥ na˞kiɸu̥tʃi˥ ja˞runda˥ ʔm˞me:manu˥ ku̥tuʃiŋ ʃi˞gu˥ na˞kisu](この子は泣き虫だから、ちょっとのことでもすぐ泣く)。

ナ˞キマービ [na˞kima:bi] 【名】泣き真似。プ˞スヌ˥　ナ˞キマービバ　シー˥　ヤ˞ラ˥ビ　˞タース˥ナ˞ツォー [pu̥˞sunu˥ na˞kima:biba ʃi:˥ ja˞ra˥bi ˞ta:su˥na ˞tso:](他人の泣き真似をして、悪ふざけをして子供の気分を損ねる <戯(タワ)ける > なってば)。

ナ˞キムニ [na˞kimuni] 【名】泣きながら喋る言葉。泣きながら不平不満を述べること。泣きわめく < 喚く > こと。「泣き物言い」の義。˥アイニ　ナ˞キムニ˥　ア˞ザンドー˥シ　トゥ˞クットゥ˥シ　パ˞ナ˥シバ [˥ʔaini na˞kimuni˥ ʔa˞ʤando:˥ʃi tu̥˞kuttu˥ʃi pa˞na˥ʃiba](そんなに泣きながら話すこと < 泣き物言い > をしないで、落ち着いてゆっくり話しなさいよ)。

ナ˞キヤムン [na˞kijamuŋ] 【自動】泣き止む。ン˞マー˥ム　ッ˞ふァース˥カー　ナ˞キヤムン˥カヤーティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　イッ˞カ˥　ナ˞キヤマヌ [ʔm˞ma:˥mu f˞fa:su˥ka: na˞kijamuŋ˥kaja:ti ʔu˞mu:tan˥du ʔik˞ka˥ na˞kijamanu](美味しいものを食べさせたら泣き止むだろうかと思ったが、一向に泣き止まない)。ナ˞キヤミ　ベー˥ン [na˞kijami be:˥ŋ](泣き止んでいる)。˞パー˥ク　ナ˞キヤム˥　クトゥ [˞pa:˥ku na˞kija˥mu ˥ku̥tu](早く泣き止むことだ)。ナ˞キヤメー˥　ミサムヌ [na˞kijame:˥ misamunu](泣き止めばいいのに)。ナ˞キヤミ˥バ [na˞kijami˥ba](泣き止めよ)。

ナ˞キングイ [na˞kiŋgui] 【名】泣き声。ナ˞キグイ [na˞kigui](泣き声。動物の鳴き声) ともいう。ヤ˞ラビ˥ヌ　ナ˞キングイヌ˥　シゥ˞カリター˥　フ˞タケ˥ナ˞カイ˥リ　˞クー˥タ [ja˞rabi˥nu na˞kiŋguinu˥ si̥˞kari-ta:˥ ɸu̥˞take˥na ˞kai˥ri ˞ku:˥ta](子供の泣き声が聞こえたので、すぐ帰ってきた)。

ナ˞グイ [na˞gui] 【名】うねり。風がおさまってのちも、なお暫く立っている波。「なごり (余波)」「なごろ (余波)、〜潮干の奈疑 < なごり >〜。万、976」、「波、ナゴロ」『類聚名義抄』の転訛したもの。ウ˞ブ˥ナン [ʔu˞bu˥naŋ](大波) ともいう。ヨー˞ヨー　オーラーラ˥　ナ˞グイヌ　ユーシ˥　クン˞ドー˥　フネー　ッ˞ソーマー　マーシ [jo:˞jo: ʔo:ra:ra˥ na˞guinu ju:ʃi˥ kun˞do:˥ ɸune: s˞soma: ma:ʃi](それそれ、よく気を付けろよ。風上の方から大波が寄せてくるぞ。船は風下の方へ回せ)。

ナ˞グサミ [na˞gusami] 【名】慰め。気晴らし。ブ˞トゥヌ　マーラシティ　タンガ˥プス　ナ˞ル˥ター　ブ˞ドゥルバ˥　ナ˞ラーシ˥ル　ナ˞グサミ　シーオー˥ル [bu˞tunu ma:raʃi̥ti taŋga˥pu̥su na˞ru˥ta: bu˞duruba˥ na˞ra:ʃi˥ru na˞gusami ʃi: ʔo:˥ru](夫が亡くなられて独身者になったので、踊りを教えて慰めにしておられる)。

ナ˞グサミルン [na˞gusamiruŋ] 【他動】慰める。気をまぎらす。˞ワー˥　ナ˞グサミルンティ　クータン˥ドゥ　˞バン˥マー　ナ˞グサミララヌ [˞wa:˥ na˞gusamirunti ku:tan˥du ˞bam˥ma: na˞gusami-raranu](君を慰めようと来たが、私には慰められない)。ナ˞グサミシェー˥カー　ナ˞グサミル˥　クトー　ター˞ン˥　ナ˞リ˥ス [na˞gusamiʃe:˥ka: na˞gusami˥ru ˥ku̥to: ta:˞n˥ na˞ri˥su](慰めきれれば < し得るなら >、慰めることは誰にでもできる)。ナ˞グサミレー˥　ミサムヌ [na˞gusamire:˥ misamunu](慰めればいいのに)。ヤー˞ディン˥　ナ˞グサミリ [ja:˞din˥ na˞gusamiri](必ず慰めなさい < 慰めれ >)。

ナ˞グサムン [na˞gusamuŋ] 【他動】慰める。˞フン˥トー　ナ˞グサムンティ˥　ウムーカー　フ˞チカーニ˥シ　ナ˞グサマンドー˥シ　ノー˞ン　ヤラバン˥　ムティ　˞ギー˥　ナ˞グサミ˥バ [˞ɸun˥to: na˞gusamunti˥ ʔumu:ka: ɸu̥˞tʃika:ni˥ʃi na˞gusamando:˥ʃi no:˞ɲ jarabam˥ muti ˞gi:˥ na˞gusami˥ba](本当に慰めようと思うならば、口先だけで慰めないで、何でもいいから持っていって慰めなさいよ)。ナ˞グサミ　ッふィーリ [na˞gusami ffi:ri](慰めてくれ)。ナ˞グサム˥　クトー　˥ナルン [na˞gusamu˥ ku̥to: ˥naruŋ](慰めることは出来る)。˞パー˥ク　ナ˞グサメー˥　ミサムヌ [˞pa:˥ku ˞gusame:˥ misamunu](早く慰めたらいいのに)。

ナ˞クラー˥スコー [na˞kura:˥su̥ko:] 【副】恐ろしいほど。恐ろしく。非常に多く。ウ˞ヌ˥　シ˞ケン˥マー　ナ˞クラー˥スコー　ム˞チ˥カサンツォー [ʔu˞nu˥ ʃi̥˞kem˥ma: na˞kura:˥su̥ko: mu˞tʃi˥kasantso:](その試験は恐ろしく難しいそうだ)。ナ˞クラー˥スコー　˞ウーカジヌ˥　フクンツォー [na˞kura:˥su̥ko: ˞ʔu:kaʤinu˥ ɸu̥kuntso:](恐ろしいほどの台風 < 大風 > が吹くそうだ)。

ナ˞クラー˥ン [na˞kura:˥ŋ] 【形】1恐ろしい。怖い。ユ˞ナ˥カー　ナ˞クラー˥ヌ　ミ˞チェー˥　ン˞ジララン˥シェンドゥ　イ˞チバンドゥル˥ヌ　ナ˞ク˥カー　ナ˞クラーナーン˥シェン [ju˞na˥ka: na˞kura:˥nu mi˞tʃe:˥ n˞ʤiraraŋ˥ʃendu ʔi˞tʃibanduru˥nu na˞ku˥ka: na˞

kura: naːŋ˜ʃeŋ](夜中は怖くて道に出られなかったが、一番鶏が鳴いたら怖くなかった)。ウ˞ヌ˜　プ˞ソー˜　ナ˞クラー˜ン [ʔu˞nu˜ pu̥˞soː˜ na˞kuraː˜ŋ](あの人は怖い)。イッ˞チン˜　ナ˞クラー˜　プ˞ソーター˜ヤ [ʔit˞ʧin˜ na˞kuraː˜ pu̥˞soː taː˜ja](一番怖い人は誰か)。ナ˞クラー˜カー　パ˞ラン˜　ブ˞リ˜バ [na˞kuraː˜kaː pa˞ram˜ bu˞ri˜ba](怖かったら行くなよ＜行かずに居れよ＞)。2危険である。危ない。˞ヤンマイ˜ヤー　ナ˞クラー˜リンギサバ　ウ˞ヌ˜　シ˞ムル　シー˜ヨー [˞jammai˜jaː na˞kuraː˜riŋgisaba ʔu˞nu˜ ʃi˞muru ʃiː˜joː](˜病気は危ないようだから、その心積もりをしなさいね)。

ナ˞グラワン [na˞gurawaŋ] 【固】地名。名蔵湾。石垣島南西部、富崎と屋良部半島の間に形成された半円状の湾。ナ˞グラワン˜ナー　シ˞ナカジゴーカジ˜ヌ　イ˞キムヌ˜ヌ　˞ブン˜ツォー [na˞gurawan˜naː ʃi˞nakaʤigoːkaʤi˜nu ʔi˞kimunu˜nu ˞bunn˜tsoː](名蔵湾にはいろいろな種類の動物＜生き物＞が生息しているそうだ)。

ナ˞クン [na˞kuŋ] 【自動】泣く。鳴く。「～吾が那久那美多＜ナクナミダ＞～。万、798」の転訛したもの。˜ドゥク　イ˞ズ˜カー　ナ˞クンティ˜　ス˞クタヌ˜　ナ˞カンワーン˜ノー [˜duku ʔi˞ʤu˜kaː na˞kunti˜ su̥˞kutanu˜ na˞kaŋwaːn˜noː](あんまり強く叱ったら泣くと聞いていたが、泣かないではないか)。ナ˞キ˜　ミサカー　ナ˞ク˜　クトー　˜ナルン [na˞ki˜ misakaː na˞ku˜ ku̥toː ˜naruŋ](泣いてよければ泣くことはできる)。ン˞メーマー˜　ナ˞ケー˜　ミサムヌ [ʔm˞meːmaː˜ na˞keː˜ misamunu](少しは泣けばいいのに)。ナ˞キ˜バ [na˞ki˜ba](泣けよ)。ナ˞キ　ベー [na˞ki beː](泣いている)。

˞-ナ˜クン [˞-na˜kuŋ] 【接尾】～こむ。動詞の末尾に付いて強意を表す。カ˞キナ˜クン [kḁ˞kina˜kuŋ](掻き込む。飯を急いで食べる)。ッ˞シナ˜クン [ʃ˞ʃina˜kuŋ](差し込む)。シ˞ンナ˜クン [˞ʃinna˜kuŋ](布団などにもぐりこむ)。˞フンナクン [˞ɸunnakuŋ](沈没する)。

˜ナケー [˜nakeː] 【名】1泣き虫。よく泣く子。ナ˞キブサー [na˞kibusaː](泣き虫) ともいう。ク˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　ナケー　ヤ˞ルンダ˜　ナ˞カスナ˜ヨー [ku˞nu˜ f˞faː˜ nakeː ja˞runda˜ na˞kasuna˜ joː](この子は泣き虫だから、泣かすなよ)。naki＜泣き＞・jaː＜～奴。～人＞(接尾語)→　˜ナケー [˜nakeː](泣き虫) のように形成された語。固有名詞の˜ナケンマー [˜nakemmaː](ナケー姉さん) は、˜ナケーが接頭語化して形成された語であろう。2女の名。˞カン˜ネヌ　˜ナケーンマー　˞タッ˜テーラ　˞オーッ˜タカヤー [˞kan˜nenu ˜nakeːmmaː ˞tat˜teːra ˞ʔoːt˜takajaː](あの家のナケー姉さんはどの家から嫁に来られたのかね)。

˜ナサー [˜nasaː] 【名】1多産の女性。子供を多く生む女。ム˞カ˜シェー　ッ˞ふァ　ジュー˜ニン　ナ˞ソー˜レール　プ˞ソー˜　ナサーティ　ア˞ザリ˜　ブ˞タ˜ナー [mu˞ka˜ʃeː f˞fa ʤu˜nin na˞soː˜reː pu̥˞soː˜ nasaːti ʔa˞ʤari˜ bu˞ta˜naː](昔は子供を十人生んだ人は多産の人といわれていたねえ)。2繁殖用母豚。˜ナサーオー [˜nasaːʔoː](繁殖用母豚)。˜アヒャーオー [˜ʔaça:ʔoː](繁殖用母豚) ともいう。

ナ˞サガスン [na˞sagasuŋ] 【他動】けなす (貶(ケナ)す)。くさす。そしる (謗る)。名誉を傷つける。プ˞スバ˜　ナ˞サガスンティ　アー˜キ　˞ドゥー˜ヌ　ナ˞サガサレー˜　クトゥン　ッ˞サヌ˜　プ˞リムヌ [pu̥˞suba˜ na˞sagasunti ʔaː˜ki ˞duː˜nu na˞sagasareː˜ ku̥tun s˞sanu˜ pu˞rimunu](他人を貶(オト)そうとして、自分が貶されたことも知らない馬鹿者だ)。プ˞ス˜　ナ˞サガシアーク˜ヌ　プ˞ス˜　ナ˞サガス˜クトー　˞シェー˜　ナ˞ラ˜ヌ [pu̥˞su˜ na˞sagaʃi ʔaːku˜nu pu̥˞su˜ na˞sagasu˜ ku̥toː ˞ʃeː˜ na˞ra˜nu](他人を貶しているが、他人を貶(ケナ)すことをしてはならない)。ナ˞サガシェー˜　ミサムヌ [na˞sagaʃeː˜ misamunu](貶(オト)せばいいのに)。˞ウンザー˜　ナ˞サガシ˜バ [˞ʔunʤaː˜ na˞sagaʃi˜ba](彼奴は貶せよ)。

ナ˞サ˜キ [na˞sa˜ki] 【名】情け。愛情。人情。「Nasaqe. ナサケ (情)　あわれみの情、または愛情」『邦訳日葡辞書』の義。˜アッパー　イッ˞ケナ˜　ナ˞サキ˜ヌ　ア˞ロー˜ル　プ˞ス˜　ヤ˞ローッ˜タ [˜ʔappaː ʔik˞kena˜ na˞saki˜nu ʔa˞roː˜ru pu̥˞su˜ ja˞roːt˜ta](お祖母さんは非常に情け深い方でいらっしゃった)。˜アイブ　ム˞ヌ˜ナー　ナ˞サ˜キ　カ˞キ˜ル　˜ムノー　ア˞ラ˜ヌ [˜ʔaibu mu˞nu˜naː na˞sa˜ki kḁ˞ki˜ru ˜munoː ʔa˞ra˜nu](あんな者に情けをかけるものではない)。

ナ˞サ˜スン [na˞sa˜suŋ] 【他動】産ませる。他動詞˜ナスン [˜nasuŋ](産む) の未然形に使役の助動詞˜-スン [˜-suŋ](～せる。～させる) が付いて形成された使役動詞。ビ˞コーンッふァ˜　ナ˞サ˜スンティ　˞ヨー˜ゾーン　シ˞ミタンドゥ˜　ウ˞リンマー˜　マ˞ナ˜マー　ナ˞ササラン˜ツォー [bi˞koːnffa˜ na˞sa˜sunti ˞joː˜ʤoːŋ ʃi˞mitandu˜ ʔu˞rimmaː˜ ma˞na˜maː na˞sasaran˜tsoː](男児を産ませようと養生＜治療＞もさせたが、あれ＜彼女＞には今は産ませられないそうだ)。

ナ˞サ˩ビ [na˞sa˩bi] 【名】(植) 野菜の一種。ナスビ (茄子)。「茄子、奈須比 (なすび)」『和名抄』、「Nasubi. ナスビ (茄子)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。御盆 < 盂蘭盆 > に歌われる˞ニンブ˩ツァー [˞nimbu˩tsa:](念仏歌。˞ウシトゥ˩ヌ　˩クイ [˞ʔuʃi̥tu˩nu ˩kui]< 弟の声 >) には、「〜ウギヌスラ　ウリナスビ〜(〜甘蔗の茎にウリ、ナスビ〜)」とあるが、口語ではナ˞サ˩ビ [na˞sa˩bi](ナスビ) という。ナ˞サ˩ベー　イ˞ラキ˩ムヌン　˞シー　ティン˩プラン　˞ソー˩ルン [na˞sa˩be: ʔi˞raki˩munuŋ ˞ʃi: tim˩puran ˞so:˩ruŋ](茄子は炒め物料理にもしたり、テンプラ料理にもされる)。ナ˞サ˩ベー　ク˞マークマー˩シ　キ˞ザミティ　ソーラン˩ヌ　ミ˞ジヌ˩クーナーン　シゥ˞カイヨー˩ルン [na˞sa˩be: ku˞ma:kuma:˩ʃi ki˞ʤamiti so:ran ˩nu mi˞ʤinu˩ku:na:n si̥˞kaijo:˩ruŋ](茄子は細かく刻んで、お盆のミジヌクー < 水の子 > にも使われる)。

ナ˞サラカサ˩ラ [na˞sarakasa˩ra] 【名】種々。さまざま。いろいろ。様々な下手物(ゲテモノ)。バ˞タ　ヨー˩ン　プ˞スンマー˩　ナ˞サラカサラ˩ヌ　ッ˞ふァイムノー˩　ッ˞ふァーサラヌ [ba˞tajo:˩m pu̥˞summa:˩ na˞sarakasara˩nu f˞faimuno:˩ f˞fa:saranu](腹 < 胃腸 > の弱い人には、さまざまな食い物 < 下手物 > は食べさせられない)。

ナ˞サ˩リカー [na˞sa˩rika:] 【副】できたら。できるなら。可能なら。なるべく。「成されるなら」の義。ナ˞サ˩リカー　ニ˞サンニ˩チェー < プ˞スイ　フシゥ˩カー >　˩ヌビ　ッ˞ふォーラン˩カヤー [na˞sa˩rika: ni˞sanni˩ʧe: < pu˞sui ɸusï˩ka: > ˩nubi f˞fo:raraŋ ˩kaja:](出来ましたら二三日ほど延ばして下さいませんか)。

ナ˞サ˩リン [na˞sa˩riŋ] 【自動】できる。「成される」の義。ウ˞ヌ˩　ア˞タ˩ロー　˞バン˩ヌン　ナ˞サ˩リンカヤーティ　ウ˞ムータン˩ドゥ　ナ˞サラン˩バン [ʔu˞nu˩ ʔa˞ta˩ro: ˞ban˩nun na˞sa˩riŋkaja:ti ʔu˞mu:tan˩du na˞saram˩baŋ](あの程度なら私にも出来るかなあと思ったが、出来ないわい)。˩ドゥーシ　ナ˞サリ˩ル　˩クトー　ノー˞ン　ヤラバン˩　ナ˞シバ˩ル　˩マイヤー　˞ユーザリ [˩du:ʃi na˞sari˩ru ˩ku̥to: no:˞ɲ jaraban˩ na˞ʃiba˩ru ˩maija: ˞ju:ʤari](自分で出来ることは何であってもやってこそ < 成せばぞ > 前へは進める < 寄られる > ものだ)。

ナ˞サン˩ウヤ [na˞saŋ˩ʔuja] 【名】生さぬ親。マ˞マウヤ [ma˞maʔuja](ままおや < 継親 >) ともいう。ナ˞シ˩ヌウヤ [na˞ʃi˩nuʔuja](産みの親。実の親) の対義語。ナ˞サ˩ヌ　˩ナカー　ナ˞サン˩ウヤティン　ア˞ジ˩マ˞マウヤ˩ティン　ア˞ズン [na˞sa˩nu ˩naka: na˞saŋ ˩ʔujatiŋ ʔa˞ʤi˩ ma˞maʔuja˩tiŋ ʔa˞ʤuŋ](産まない間柄 < 産まぬ仲 > は「生さぬ親」ともいい、ままおや < 継親 > ともいう)。

ナ˞サン˩ッふァ [na˞saŋ˩ffa] 【名】生さぬ子。ままこ < 継子 >。ナ˞シヌ˩ッふァ [na˞ʃinu˩ffa](実子。生みの子) の対義語。ナ˞シヌ˩ッふァ　ア˞ラン˩バティ　˞シー˩　ナ˞サン˩ッふァヨー　ウ˞ムイナ˩シ　˞アシゥカイヤー˩　クトー　プ˞スム˩シェーンツァン　˞シー˩　ミ˞ラ˩ヌ [na˞ʃinu˩ffa ʔa˞ram˩bati ˞ʃi:˩ na˞saŋ˩ffajo: ʔu˞muina˩ʃi ˞ʔasi̥˞kaija:˩ ku̥to: pu̥˞sumu˩ ʃe:ntsaŋ ˞ʃi:˩ mi˞ra˩nu](実子でないからといって、生さぬ子をばいじめて扱ったことは、たったの一度もない)。

ナ˞シアガ˩ルン [na˞ʃiʔaga˩ruŋ] 【自動】産みあがる。出産可能な時期が過ぎる。˞グン˩ズー　シ˞ギ˩ルカー　ナ˞シアガ˩ルンティ　ス˞クタヌ˩　マ˞ダ˩　ナ˞シアガラン˩バン [˞gun˩ʤu: ʃi˞gi˩ruka: na˞ʃiʔaga ˩runti su̥˞kutanu˩ ma˞da˩ na˞ʃiʔagaram˩baŋ](五十歳を過ぎたら産みあがると聞いたが、まだ産みあがらないよ)。ナ˞シアガ˩リ　˞ナー˩ヌ [na˞ʃiʔaga˩ri ˞na:˩nu](産みあがってしまった)。˞シン˩ジューラ　ナ˞シアガ˩ル　プ˞ソー˩　ブ˞ラーヌ [˞ʃin˩ʤu:ra na˞ʃiʔaga˩ru pu̥˞so:˩ bu˞ra:nu](四十歳から産みあがる人はいない)。˞パー˩ク　ナ˞シアガ˩レー　˩ミサムヌ [˞pa:˩ku na˞ʃiʔaga˩re: ˩misamunu](早く生みあがればいいのに)。

ナ˞シ˩アトゥ [na˞ʃi˩ʔatu] 【名】産後。˩シラプソー　ナ˞シアトゥ˩ヌ　˞ヨーゾー˩ル　˞ダイイチ˩ダー [˞ʃirapu̥so: na˞ʃiatu˩nu ˞jo:ʤo:˩ru ˞daiʔitʃi˩da:](産婦は産後 < 生し後 > の養生が第一だよ)。

˞ナシゥカ˩サ　˞スン [˞nasi̥ka˩sa ˞suŋ] 【連】懐かしく思う。懐かしがる。恋しがる。慕う。˞ワーバ˩　ミリティ　イッ˞ケナ　ナシゥカ˩サ　˞シー　オーッ˩タ [˞wa:ba˩ miriti ʔik˞kena nasi̥ka˩sa ˞ʃi: ʔo:t˩ta](君を見て非常に懐かしがっておられた)。

˞ナシゥカ˩サン [˞nasi̥ka˩saŋ] 【形】1なつかしい (懐かしい)。「〜今見れば山夏香思母 < なつかしも >〜。万、1333」の転訛。ウ˞ヤ˩ヌ　˩クトゥ　˩ウムーカー　˞ナシゥカサ˩ヌ　ナ˞ラ˩ヌ [ʔu˞ja˩nu ˩ku̥tu ˩ʔumu:ka: ˞nasi̥kasa˩nu na˞ra˩nu](親のことを思うと懐かしくてたまらない)。˩キサー　˞ナシゥカ˩サンテー　ウ˞ムータン˩ド　マ˞ナ˩マー　˞ナシゥカサ

ー　ナー˺ヌ [˺kiʻsa: ˹nasiʻka˺santte: ʔu˹mu:tan˺du ma ˹na˺ma: ˹nasiʻka˺sa: ˹na:˺nu](以前は懐かしかったが、今は懐かしくない)。˹ナシゥカ˺サー　プ˹スン　ブン [˹nasiʻka˺sa: pu˹sum buŋ](懐かしい人もいる)。パ˹ナ˺シ　ス˹ク˺カー　˹ナシゥカ˺サー　˺ナルン [pa˹na˺ʃi su˹ku˺ka: ˹nasiʻka˺sa: ˺naruŋ](話を聞いたら懐かしくなる)。2悲しい。˺アッパー　シ˹バヤーキョンギンバ˺　ミリティ　˹ナシゥカ˺サティ　ナ˹キ　オー˺ル [˺ʔappa: ʃi˹baja:kjoŋgimba˺ miriti ˹nasiʻka˺sati na˹ki ʔo:˺ru](お祖母さんは芝居の劇＜狂言＞を観て懐かしく＜悲しく＞なって泣いておられる)。

˹ナシキ [˹naʃiʻki]　【名】口実。かこつけること。こと寄せること。「名付け」の義。˹ミーマイ　ナシ˺キ　˹シール˺　サー　˺ヌミン　˹ゲータ˺ル [˹mi:mai naʃi˺ki ˹ʃi:ru˺ sa: ˺numiŋ ˹ge:ta˺ru](お見舞いを口実にして＜名付けて＞お茶を飲みに行ったよ)。パ˹タ˺ケー　パ˹リナシ˺キ　˹シー˺　イ˹ソー　パッ˺タ [pa˹ta˺ke: pa˹rinaʃi˺ki ˹ʃi:˺ ʔi˹so: pat˺ta](畑へ行く事を口実にして潮干狩りに行った)。

˹ナシキカシ˺キ [˹naʃikikaʃi˺ki]　【名】かこつけ (託け) ること。「名付け託(カコツケ)」の義か。他の事を口実にすること。他のことにことよせること。ッ˹ふァイダマ˺　ヤ˹ルンダ　テー˺ナイ　˹ナシキカシ˺キ　˹シー　ヨイ˺ヌムヌ　ッ˹ふンティル˺　ケー˹ダー [f˹faidama˺ ja˹runda te:˺nai ˹naʃikikaʃi˺ki ˹ʃi: joi˺ numunu f˹funtiru˺ ke:˹da:](食いしん坊だから、手伝いに託けてお祝いのご馳走を食べに来たのだよ)。ABCDBC 型の重言。˹ヨイ˺ヌ　˹テーナイ˺バ　˹ナシキカシ˺キ　˹シー˺　サ˹キ˺　ヌミン　˺キー　˹ベー [˹joi˺nu ˹te:nai˺ba ˹naʃikikaʃi˺ki ˹ʃi:˺ sa˹ki˺ numiŋ ˺ki: ˹be:](お祝いの手伝いを口実にして酒飲みに来ているよ)。

˹ナシキムニ [˹naʃikimuni]　【名】他の事にかこつけ＜託(カコツ)け＞てする言い訳や申し訳。弁解。ナ˹シキムニヌ　ゾー˺ジ　ヤ˹ルンダ˺　マー˹ン˺　パ˹リ˺ス　ッ˹ふァイパジェー　ナー˺ヌ [˹naʃikimuninu ʤo:˺ʤi ja ˹runda˺ ma:˹m˺ pa˹ri˺su f˹faipaʤe: na:˺nu](他のことに託(カコツケ)た弁解が上手だから、どこへでも行く。食べることに恥がない)。言い訳。「名付け物言い」の義。˹ナシキムネー˺　ア˹ザンドー˺シ　ン˹マー˺ムヌ　タ˹ボーラ˺リンティ　˹クー˺タティ　˹マン˺カ　ア˹ジ˺　ッ˹サリリ˺バ [˹naʃikimune:˺ ʔa˹ʤando:˺ʃi ʔm˹ma:˺munu ta˹bo:ra˺rinti ˹ku:˺tati ˹maŋ˺ka ʔa˹ʤi˺ s˹sariri˺ba](口実をつけないで、美味しいものを頂にきましたと直接に申し上げなさいよ)。

˹ナシキルン [˹naʃiʻkiruŋ]　【他動】口実にする。言い訳にする。事寄せる。かこつける。「名付ける」の義。˹フン˺トー　˺プサカー　˹ナシキルンティ　サンドー˺シ　˹ナシキランドー˺シ　˹マン˺カ　ア˹ジ˺　ッ˹サリ˺バ [˹ɸun˺to: ˺pusaka: ˹naʃikirunti sando: ˺ʃi ˹naʃiʻkirando:˺ʃi ˹maŋ˺ka ʔa˹ʤi˺ s˹sari˺ba](本当に欲しければ口実などつけようとしないで、口実つけないで、直接申し上げなさいよ)。˹ナシキティ˺　パ˹リ˺　プサンドゥ　˹クン˺ナー　˹ナシキル˺クトー　ナ˹ラ˺ヌ [˹naʃiʻkiti˺ pa˹ri˺ pusandu ˹kun˺na: ˹naʃiʻkiru˺ ku:to: na˹ra˺nu](口実にして行きたいが、これを＜これに＞口実にすることはできない)。˹ナシキレー˺　ミサムヌ [˹naʃiʻkire:˺ misamunu](口実にすればいいのに)。˹クン˺ナー　˹ナシキリ [˹kun˺na: ˹naʃiʻkiri](これを口実にしろ＜かこつけろ＞)。

ナ˹シクン [˹naʃiʻkuŋ]　【他動】事寄せる。かこつけ (託け) る。口実にする。パ˹ナシキ˺ナ　˹ナシキティ˺　シ˹グトゥ　サンバン [pa˹naʃiʻki˺na ˹naʃiʻkiti˺ ʃi˹gutu sambaŋ](風邪にかこつけて＜口実にして＞仕事をしないよ)。パ˹ナシキ˺ナ　˹ナシゥカンドー˺シ　˹フントー˺ヌ　˺クトゥ　パ˹ナ˺シ [pa˹naʃiʻki˺na ˹naʃiʻkando:˺ʃi ˹ɸunto:˺nu ˺kutu pa˹na˺ʃi](風邪に託けないで本当のことを話せよ)。

ナ˹シ˺シキ [na˹ʃi˺ʃiʻki]　【名】臨月。産み月。「生し月」の義。˹ワー˺　ナ˹シ˺シケー　イ˹チ˺ヤー　˺クー　˺シケー　ナ˹シ˺シキ　ア˹タリ　ブーバ˺　イ˹サナキ˺ナーティ　˺ナス　ス˹コール　シーベー [˹wa:˺ na ˹ʃi˺ʃiʻke: ʔi˹ʧi˺ja: ˺ku: ˺ʃiʻke: na˹ʃi˺ʃiʻki ʔa˹tari bu:ba˺ ʔi ˹sanaki˺na:ti ˺nasu su˹ko:ru ʃi:be:](君の産み月はいつか。来月＜来る月＞は産み月に当っているので石垣島で産む支度をしている)。

ナ˹シゾー˺ジ [na˹ʃiʤo:˺ʤi]　【名】産み上手。安産の人。お産の軽い人。ユ˹メー˺　ナ˹シゾー˺ジ　ヤ˹ルンダ　ウン˺ネーヤ　˹パン˺ゾー　˹シーブー [ju˹me: ˺na˹ʃiʤo:˺ʤi ja˹runda ʔun˺ne:ja ˹pan˺ʤo: ˹ʃi:bu:](嫁は産み上手＜安産の人＞だから、あの家は繁昌している)。

˺ナシッキラー [˺naʃikkira:]　【名】一人っ子。ウ˹レー˺　ナシッキラー　ヤ˹ルンダ　フンダイ　シーブー [ʔu˹re:˺ naʃikkira: ja˹runda ɸundai ʃi:bu:](彼は一人っ子だから我がままになって＜やりたい放題にして＞いる)。

ナ˹シッ˺クル [na˹ʃik˺kuru]　【名】末っ子。「生し殻」の義。先に生まれた者に中身の良いものがすっかり取られてしまい、末っ子は残り殻だけだという意味。

ク˞リル　バン˜テヌ　ナ˞シッ˜クル　ヤ˞ルンドゥ˜　ウ˞リル˜　イッ˞ケナ　フー˜ヤ　˜アリ　ブ˞レー˜　バン　˞ソーユミ˜　ア˞タリ˜　マ˞リパンジョー　シーベー˜　シザマリンケーヤ　イ˞ク˜サナー　シ˞ニナー˜ヌ [ku˞riru ban˜tenu na˞ʃik˜kuru ja˞rundu˜ ʔu˞riru˜ ʔik˞kena ɸu:˜ja ˜ʔari bu˞re:˜ban ˞so:jumi˜ ʔa˞tari˜ ma˞ripandʒo: ʃi:be:˜ ʃidʑamariŋke:ja ʔi˞ku˜sana: ʃi˞nina:˜nu](これが私の家の末っ子ですが、彼が非常に幸運＜嘉報＞があった＜幸運に恵まれた＞ようだ。いい嫁に当って子孫繁盛しているよ。兄達＜兄生まれ達＞は戦争で死んでしまったよ)。

ナ˞シ˜ッふァ [na˞ʃi˜ffa] 【名】生みの子。実子。「生し子」の義。˞イーリ˜ッふァ [˞ʔi:ri˜ffa](貫い子) の対義語。˞ドゥー˜ヌ　ナ˞シ˜ッふァテー　ミ˞ドーン˜ッふァ　˞タンガ˜ル　˞ブー [˞du:˜nu na˞ʃi˜ffate: mi˞do:n˜ffa ˞taŋga˜ru ˞bu:](自分の実子＜生みのこ＞としては女の子だけしかいない＜女の子だけがいる＞)。

ナ˞シ˜ヌ　˜ウヤ [na˞ʃi˜nu ˜ʔuja] 【連】生みの親。

ナ˞シ˜ヌウヤ [na˞ʃi˜nuʔuja] 【名】生みの親。実の親。˞ソーウヤ [˞so:ʔuja](真の親。本当の親) ともいう。˜バー　ナ˞シ˜ヌウヤー　ク˞ヌ　プス˜ダー [˜ba: na˞ʃi˜nuʔuja: ku˞nu pu̥su˜da:](私の生みの親はこの人だよ)。

ナ˞シヌ˜ッふァ [na˞ʃinu˜ffa] 【名】実子。自分の産んだ子。「産みの子」の義。「〜授け給へる宇美乃古能＜ウミノコノ＞〜。万、4465」の転訛したもの。「〜おのが生さぬ子なれば〜」『竹取物語』参照。˞バン˜ター　ナ˞シヌ˜ッふァティン　タ˞ボーラリ˜　ブーバ　ノー˞ン　ソーヤ　ナー˜ヌ [˞ban˜ta: na˞ʃinu˜ffatin ta˞bo:rari˜ bu:ba no:˞n so:ja na:˜nu](私どもは産みの子とても神から授かって＜賜って＞いるので、何も心配はない)。

˜ナシパンジョー [˜naʃipandʒo:] 【名】子孫繁盛。子孫繁栄。子宝に恵まれること。「生し繁盛」の義。˜ナシパンジョウ　マ˞リパンジョウ˜　ア˞ラ˜シタ˞ボー˜リティル　˜ニガイ　˞ヨー˜ル [˜naʃipandʒo: ma˞ripandʒo:˜ ʔa˞ra˜ʃi ta˞bo:˞ritiru ˜naigai ˞jo:˞ru](生し繁盛、生まれ繁盛させて＜有らしめて＞下さいと祈られる)。

ナ˞シ˜マイ [na˞ʃi˜mai] 【名】産前。出産の直前。ム˞カ˜シェー　パ˞ルミ˜プソー　ナ˞シ˜マイ　˜ナルンケン　バー˜キン　パ˞タ˜キ　˞カイ˜シン　パ˞リ˜シタ˞ダー [mu˞kaʃe: pa˞rumi˜pu̥so: na˞ʃi˜mai ˜naruŋkem ˞ba:˞kim pḁ˞ta˜ki ˞kai˜ʃim pa˞ri˜ʃi̥ta˞da:](昔は、妊婦は出産直前になるまで畑を耕しに行ったものだよ)。

ナ˞シユー˜スン [na˞ʃiju:˞suŋ] 【自動】出産できる。マ˞ナマー˜ケー　ッ˞ふァ˜　ナ˞シユー˜スン [ma˞nama:˜ke: f˞fa:˜ na˞sʃiju:˞suŋ](今までは子供を産むことが出来る)。

ナ˞シン˜ガタ [na˞ʃiŋ˜gata] 【名】産む頃。臨月。ク˞ヌ˜　パ˞ルミ˜プソー　ナ˞シン˜ガタ　ナ˞リ˜ブー˞ナー [ku˞nu˜ pa˞rumi˜pu̥so: na˞ʃiŋ˜gata na˞ri˜bu˞na:](この妊婦＜孕み人＞は臨月になっているねえ)。

˞ナスクン [˞nasu̥kuŋ] 【他動】かこつけ＜託け＞る。口実にする。言い訳にする。言寄せる。˞ヨイ˜ヤーナー　˞テー˜ナイ　ナ˞シキ　シー　ヨイヌ˜ムヌ　ウ˞ヤーン˜ツンティ　ウ˞ムー˜ヌ　˞ナスク　ムヌン˜　トゥ˞ミララ˜ヌ [˞joi˜ja:na: ˞te:˜nai ˞naʃi̥ki ʃi: joinu˜munu ʔu˞ja:n˜tsunti ʔu˞mu:n˜du ˞nasu̥ku munun˜ tu˞mirara˜nu](祝儀の家に手伝いを口実にして祝儀の引き出物＜心づけ＞を頂くべく念願しようと思うが、口実にするものも見つからない)。˞ウン˜ナー　ナ˞スクンティ˜　ス˞ナ˜ヨー [˞ʔun˜na: ˞nasu̥kunti˜ su˞na˜jo:](それに託けようとするなよ)。プ˞スヌスー˜　クトゥナー　˞ナシゥカンドー˜シ　˞ドゥー˜ヌ　パ˞ナ˜シ　˞シー [pu̥˞sunu su:˜ ku̥tuna: ˞nasi̥kan-do:˜ʃi ˞du:˜nu pa˞na˜ʃi ˞ʃi:](他人のすることに託けないで、自分の話をしなさい)。˞ナシケー˜　ミサムヌ [˞naʃi̥ke:˜ misamunu](言い訳にすればいいのに)。˞ウン˜ナ　˞ナシキ˜バ [˞ʔun˜na ˞naʃi̥ki˜ba](それに託けなさい＜口実にしなさい＞よ)。˞ウン˜ナー　˞ナスクンティ˜　ウ˞ムータン˜ドゥ　˞ナシゥカンセン [˞ʔun˜na: ˞nasu̥kunti˜ ʔu˞mu:tan˜du ˞nasi̥kaŋʃeŋ](それにかこつけようと思ったがかこつけなかった)。˞クン˜ナー　˞ナシキティ˜　パ˞リ˜　プサンド　˞ナスク˜　クトー　ナ˞ラ˜ヌ [˞kun˜na: ˞naʃi̥kiti˜ pa˞ri˜ pu̥sandu ˞nasu̥ku˜ ku̥to: na˞ra˜nu](これにかこつけて行きたいが、かこつけることはできない)。˞ナシケー˜　ミサムヌ [˞naʃike:˜ misamunu](かこつければいいのに)。˞クン˜ナー　˞ナシキ˜バ [˞kun˜na: ˞naʃi̥ki˜ba](これにかこつけろよ)。

ナ˞ス˜ビ [na˞su˜bi] 【名】 (植) 野菜の一種。なす (茄子)。歌謡語。日常会話では、ナ˞サ˜ビ [na˞sa˜bi](茄子) という。「茄子、奈須比 (なすび)」『和名抄』の転訛したもの。/ウギヌ　スラ　ウリ　ナスビ　キザンムヌ　シースヌ　ウハンキヌ　ミジスイティ〜/(砂糖黍の茎、ウリ　ナスビの刻んだもの、メドハギ＜蓍萩。マヤーブー＞の束で戸外へ撒き撥ねて無縁仏に布施をするミジヌクーに水を添えて)「念

仏歌 (ウシトゥヌクイ < 弟の声 >)」『鳩間島古典民謡古謡集』。

ˀナスン [ˀnasuŋ] 【他動】産む。「生す。おのが生さぬ子なれば〜。『竹取物語』」の義。マ˞ナˀマー ˞グンˀズ ˞バーˀキ ッ˞ふァˀ ナスンティ ス˞クタヌˀ ムー˞ローˀ ナ˞サンˀパジ [ma˞naˀma: ˞gunˀ ʤu: ˞ba:ˀki f˞faˀ nasunti sṵ˞kutanuˀ mu:˞roːˀ na˞samˀ paʤi](今は五十歳まで子供を産むと聞いたが、皆は産まないはずだ)。ˀナシ ˀミサカー ギュター˞ルンˀ ナス ˀクトー ナ˞ルˀヌ ˀアイヤー ナ˞サランˀパジ [ˀnaʃi ˀmisaka: gjuta:˞runˀ nasu ˀkṵto: na ˞ruˀnu ˀʔaija: na˞saramˀpaʤi](産んでよければ何人でも産むことはできるが、そうは産めないはずだ)。ミ˞ツァーローˀ ナシェー ˀミサムヌ [mi˞tsa:roːˀ naʃe: ˀmisamunu](三人は産めばよいのに)。ビ˞コーンッふァˀ ナシバ [bi˞ko:ŋffaˀ naʃiba](男児を産めよ)。

ˀナスン [ˀnasuŋ] 【他動】なす (為す)。〜にする。自動詞ˀナルン [ˀnaruŋ](なる) の対語。サ˞クˀシェー ˞シンˀシー ˀナスンティ ウ˞ムーンˀドゥˀ ˞ウイヌ ガッˀコー ン˞ザサンˀカー ˞シンˀシェー ナ˞サラˀヌ [sạ˞kuˀʃe: ˞ʃiŋˀʃi: ˀnasunti ʔu˞mu:nˀdu ˞ʔuinu gakˀko: ʔn˞ʤasaŋˀka: ˞ʃiŋˀʃe: na˞saraˀnu](長男は先生にしようと思うが、上の学校 < 上級学校 > へ出さないと先生には為せない)。˞シンˀシー ˀナシ ˀミサン [˞ʃiŋˀʃi: ˀnaʃi ˀmisaŋ](先生にしても < 為しても > よい)。˞シンˀシー ˀナス ˀクトー ム˞チˀキサン [˞ʃiŋˀʃi: ˀnasu ˀkṵto: mu˞ʧiˀkị̥saŋ](先生にする < 為す > ことは難しい)。˞シンˀシー ˀナシェー ˀミサムヌ [˞ʃiŋˀʃi: ˀnaʃe: ˀmisamunu](先生にすれば < 為せば > いいのに)。ヤー˞ディン シンˀシー ˀナシバ˞ヨー [ja:˞diŋ ʃiŋˀʃi: ˀnaʃiba˞jo:](きっと < 必ず > 先生にしなさい < 為しなさい > ね)。

ˀナダ [ˀnada] 【名】涙。「ま袖持ち奈美太 < なみだ > をのごひ〜。万、4398」の転訛。ˀナダ パ˞ラˀスン [ˀnada pa˞raˀsuŋ](涙を流す)。ナ˞ダˀヌ ˀパルンケン バ˞ラーサリ ミッˀタン [na˞daˀnu ˀparuŋkem ba ˞ra:sari mitˀtaŋ](涙が落ちる < 流れる > ほど笑わされてみたよ)。ウ˞ヤˀヌ パ˞ナˀシ シ˞キティˀ ナダグルグルー ˞シー ベー [ʔu˞jaˀnu pa˞naˀʃi ʃị̥ ˞kitiˀ nadaguruguru: ˞ʃi:be:](親の話を聞いて涙ぐんで < 目を潤ませて > いる)。

ナ˞ダˀカ [na˞daˀka] 【名】物の高さ。たけ (丈)。イ˞チチˀヌ ウ˞ヤˀベー ユ˞ヌˀ ナ˞ダˀカー ˞ナーˀヌ [ʔi˞ʧitʃiˀnu ʔu˞jaˀbe: ju˞nuˀ na˞daˀka: ˞na:ˀnu](五本の指は同じ高さではない < 同じ高さはない >)。ウ˞ヌˀ ナカーラ ユ˞ヌˀ ナ˞ダカˀヌ ˀムヌバ イ˞ラˀビ ˀクー [ʔu˞nuˀ naka:ra ju˞nuˀ na˞dakaˀnu ˀmunuba ʔi˞raˀbi ˀku:](その中から同じ高さの物を選んでこい)。

ˀナダグルグルー [ˀnadaguruguru:] 【副】涙ぐむさま。目を潤ませるさま。ビ˞ケーンˀウヤン イ˞ザリティˀ ナダグルグル ˞シェーˀティ パ˞タラキ ベー [bi˞ke:ŋˀʔujaŋ ʔi˞ariti˞ nadaguruguru ˞ʃeːˀti pạ˞taraki be:](父親に叱られて涙ぐんで働いている)。ニ˞シムレーˀヌ ˀアチャー キ˞チゴンヌ キョンˀギン ミ˞ローˀルカー ˞チャーˀ ナダグルグルー ˞シー オーッˀタ [ni˞ʃimure:ˀnu ˀʔatʃa: kị̥˞ʧigonnu kjoŋˀgim mi˞ro:ˀruka: ˞ʧa:ˀ nadaguruguru: ˞ʃi: ʔo:tˀta](米盛家のお父さんは結願祭の奉納劇 < 狂言 > をご覧になると、いつも涙ぐんでおられた)。

ナ˞ダシトゥルンケーˀリ [na˞daʃị̥turuŋke:ˀri] 【副】涙ぐむさま。涙がじわっとにじみ出るさま。涙がしっとりとにじみ出るさま。˞ヌーˀバ ウ˞ムインザˀ ソーッタユー ˀアボー ナ˞ダシトゥルンケーˀリ ˞オーッˀタ [˞nu:ˀba ʔu˞muinʤaˀso:ttaju: ˀʔabo: na ˞daʃị̥turuŋke:ˀri ˞ʔo:tˀta](何を思い出されたのか、お母さんはしっとりと涙ぐんでおられた)。

ナ˞ダズーˀワン [na˞daʤu:ˀwaŋ] 【形】なかなか涙を見せないさま。強く涙を堪えることが出来るさま。ク˞ヌˀ ッ˞ふァーˀ ナ˞ダズーˀワンダ イ˞ザリタンティンˀ ナ˞カヌ [ku˞nuˀ f˞fa:ˀ na˞daʤu:ˀwanda ʔi˞ʤaritantinˀ na˞kanu](この子は、強く涙を堪えるから、叱られても泣かない)。

ˀナダ ˞ホーˀスン [ˀnada ˞ho:ˀsuŋ] 【連】涙を落とす。涙を流す。「涙降らす」の義。ク˞ヌˀ ッ˞ふァーˀ ナ˞クˀカー ス˞ディヌˀ ダッ˞カティ ゾールンˀケン ˀナダ ˞ホーˀスン < パ˞ラˀスン >[ku˞nuˀ f˞fa:ˀ na˞kuˀka: su˞dinuˀ dak˞kati ʤo:ruŋˀken ˀnada ˞ho:ˀsuŋ < pa˞raˀsuŋ >](この子は泣いたら袖がぐっしょり濡れるほど涙を流す)。

ナ˞ダマーˀルン [na˞dama:ˀruŋ] 【自動】涙ぐむ。目が潤む。ッ˞ふァヌˀ パ˞ナˀシ シ˞キティˀ ナ˞ダマーˀリ ˞オーˀル [f˞fanuˀ pa˞naˀʃi ʃị̥˞kitiˀ na˞dama:ˀri ˞ʔo:ˀru](子供の話を聞いて涙ぐんでおられる)。ウ˞ヌˀ パ˞ナˀシ ス˞クˀカー ター˞ンˀ ナ˞ダマーˀルンティ ウ˞ムータンˀドゥ ナ˞ダマーランˀ プ˞スン ブン [ʔu˞nuˀ pa˞naˀʃi sṵ˞kuˀka: ta:˞nˀ na˞dama: ˀrunti ʔu˞mu:tanˀdu na˞dama:ramˀ pṵ˞sum buŋ](そ

の話を聞いたら誰でも涙ぐむと思ったが、涙ぐまない人もいる)。ナ˹ダマー˺ル　プ˹ソー˺　ナ˹ダヨー˺シジ [na˹dama:˺ru pu̥˹so:˺ na˹dajo:˺ ʃiʤi](涙ぐむ人は涙もろいわけだ)。ン˹メーマー˺　ナ˹ダマー˺レー　˺ミサムヌ [ʔm˹me:ma:˺ na˹dama:˺re: ˺misamunu](少しは涙ぐめばいいのに)。

ナ˹ダミ˺ルン [na˹dami˺ruŋ] 【他動】なだめる (宥める)。穏やかにする。機嫌をとる。しずめる。怒りや悲しみの感情を和らげる。ウ˹ヌ˺　ッ˹ふァ˺　ナ˹ダミ˺ルンティ　シ˹タンドゥ　バン˺マー　ナ˹ダミララ˺ヌ [ʔu˹nu˺ f˹fa˺ na˹dami˺runti ʃi̥˹tandu bam˺ma: na˹damirara˺nu](あの子を宥めようとしたが、私には宥められない)。ナ˹ダ˺ミ　ッ˹ふィーリ [na˹da˺mi f˹fi:ri](宥めてくれ)。ナ˹ダミ˺ル　プ˹ソー　パー˺ク　ナ˹ダミ˺レー　˺ミサムヌ [na˹dami˺ru pu̥˹so: pa:˺ku na˹dami˺re: ˺misamunu](宥める人は早く宥めればいいのに)。ヤー˹ディン　ワー˺シ　ナ˹ダミ˺リ [ja:˹diŋ wa:˺ʃi na˹dami˺ri](必ず君の方で宥めろ＜宥めれ＞)。

ナ˹ダ˺ムン [na˹da˺muŋ] 【他動】宥める。機嫌をとる。しずめる。怒りや悲しみの感情を和らげる。「なだむ (宥む) 下二段活用」の四段活用化したもの。「寛、ナダム・ユルス」『類聚名義抄』の転訛。ナ˹キベー˺　ッ˹ふァヨー˺　ナ˹ダ˺ムンティ　˹スンドゥ　バン˺マー　ナ˹ダマラ˺ヌ [na˹ki be:˺ f˹fajo:˺ na˹da˺munti ˹sundu bam˺ma: na˹damara˺nu](泣いている子を宥めようとするが、私には宥められない)。ナ˹ダミ˺　プサカー　˹パー˺ク　ナ˹ダ˺メー　˺ミサムヌ [na˹dami˺ pu̥saka: ˹pa:˺ku na˹da˺me: ˺misamunu](宥めたければ早く宥めればいいのに)。ナ˹ダ˺ム　˺クトー　ム˹チ˺カサラバン　ヤー˹ディン˺　ナ˹ダ˺ミ [na˹da˺mu ˺ku̥to: mu˹ʧi˺kasarabaɲ ja:˹din˺ na˹da˺mi](宥めることは難しくても、必ず宥めよ)。˹ヤー　ペーリマー˺キ　˹ベー˺ムヌ　ナ˹ダ˺ミ　˹サーリ˺　クーバ [˹ja: pe:rima:˺ki ˹be:˺munu na˹da˺mi ˹sa:ri˺ ku:ba](家の中に入りかねているから、宥めて連れてきなさいよ)。

ナ˹ダヤシー [na˹dajaʃi:] 【連体】簡単な。易しい。˺アイブ　˺クトー　ク˹リ˺　シ˹キ˺ルカー　ナ˹ダヤシー˺＜ナ˹ダヤッ˺サル＞　ク˹トゥ˺ル　ヤ˹ル [˺ʔaibu ˺ku̥to: ku˹ri˺ ʃi̥˹ki˺ruka: na˹dajaʃi:˺＜na˹dajas˺saru＞ ku̥˹tu˺ru ja˹ru](あんなことは、これに較べると簡単なことである)。

ナ˹ダヤッ˺サン [na˹dajas˺saŋ] 【形】おとなしい (大人しい)。優しい。性格が穏やかである。ビ˹コーンッふァ˺　ヤ˹ルンドゥ˺　イッ˹ケナ˺　ナ˹ダヤッ˺サン [bi˹ko:nffa˺ ja˹rundu˺ ʔik˹kena˺ na˹dajas˺saŋ](男の子だが非常におとなしい)。˺キサー　シ˹キ˺ルカー　イッ˹ケナ˺　ナ˹ダヤッ˺サ　ナ˹リ˺ブー [˺ki̥sa: ʃi̥˹ki˺ruka: ʔik˹kena˺ na˹dajas˺sa na˹ri˺ bu:](以前に較べたら非常におとなしくなっている)。サ˹ク˺シ　シ˹キ˺ルカー　˹ナン˺ゾー　ナ˹ダヤッサー　ナー˺ヌ [sḁ˹ku˺ʃi ʃi̥˹ki˺ruka: ˹nan˺ʣo: na˹dajassa: na:˺nu](長男に較べると、あまり大人しくない)。˺クナーテー　ナ˹ダヤッ˺サー　プ˹ソー˺　タティ　パ˹ララ˺ヌ [˺kuna:te: na˹dajas˺sa: pu̥˹so:˺ tḁti pa˹rara˺nu](ここでは、大人しい人は暮らしていけない)。˺マー　ン˹ベーマ˺　ナ˹ダヤッ˺サカ˹ナー [˺ma: ʔm˹be:ma˺ na˹dajas˺saka˹na:](もう少し優しければ良いのになあ)。

ナ˹ダヨー˺ン [na˹dajo:˺ŋ] 【形】涙もろい。「涙弱い」の義。ミ˹ドーン˺ッふァー　ナ˹ダヨー˺ン [mi˹do:n˺ffa: na˹dajo:˺ŋ](女の子は涙もろい)。ナ˹ダヨーナー˺ヌ [na˹dajo:na:˺nu](涙もろくない)。ナ˹ダヨー˺　プ˹ス [na˹dajo:˺ pu̥˹su](涙もろい人)。˺アブジェー　ナ˹ダヨー˺ンダ　˹キョン˺ギン　˺ミリティン　ナ˹キル　ソー˺ル [˺ʔabuʤe: na˹dajo:˺nda ˹kjoŋ˺gim ˺miritin na˹kiru so:˺ru](お祖父さんは涙もろいから、村芝居＜狂言＞を見ても泣きなさる＜泣きぞされる＞)。˺トゥシ　トゥ˹ル˺ター　ナ˹ダヨー˺　ナリ˹ナー˺ヌ [˺tuʃi tu˹ru˺ta: na˹dajo:˺ nari ˹na:˺nu](年を取ったので涙もろくなってしまった)。イッ˹カ˺　ナ˹ダヨー　ナー˺ヌ [ʔik˹ka˺ na˹dajo: na:˺nu](決して涙もろくない)。ナ˹ダヨー˺　プ˹スンマー˺　ミ˹シララ˺ヌ [na˹dajo:˺ pu̥˹summa:˺ mi˹ʃirara˺nu](涙もろい人には見せられない)。ウ˹レー˺　ドゥク　ナ˹ダヨー˺ヌ　ウ˹リンマー˺　ミ˹シララ˺ヌ [ʔu˹re:˺ duku na˹dajo:˺nu ʔu˹rimma:˺ mi˹ʃirara˺nu](彼はあまりにも涙もろいので、彼には見せられない)。

ナ˹ダラ˺カ [na˹dara˺ka]【名】平ら。勾配のゆるいさま。平らかなさま。ク˹ヌ˺　ミチェー　ナ˹ダラカミチ˺　ヤ˹ルンダ˺　ア˹ラキヤッ˺サン [ku˹nu˺ miʧe: na˹darakamiʧi˺ ja˹runda˺ ʔa˹rakijas˺saŋ](この道は平坦な道だから歩きやすい)。

ナ˹ダラカスン [na˹darakasuŋ] 【他動】平坦にする。均す。平らかにする。˹タウミ　ブン˺　トンマー　ナ˹ダラカスンティ　スンドゥ˺　ナ˹ダダラカサランバン [˹taumi bun˺ tomma: na˹darakasunti sundu˺ na˹darakasarambaŋ](窪(クボ)んでいる所は均そうとするが、均(ナラ)されないわい)。ナ˹ダラカ˺シ　˺ミ

サカー　ナ˞ダラカス˥　クトー　˥ワケー　˞ナー˥ヌ [na˞darakaʃi˥ misaka: na˞darakasu˥ kṵto: ˥wake: ˞na:˥nu](均してよければ、均すことは簡単だ＜訳はない＞)。ナ˞ダラカシェー˥　ミサムヌ [na˞darakaʃe:˥ misamunu](均せばいいのに)。ク˞マン˥　トンマー　˞マー˥ビン　ナ˞ダラカシ [ku˞man˥ tomma: ˞ma:˥ bin na˞darakaʃi](ここの所はもっと均せ)。

ナ˞ダラカミチ [na˞darakamitʃi] 【名】平坦な道。˥クマー　ナ˞ダラカミチヌ˥　シ˞ジキ　ブー [˥kuma: na˞darakamitʃinu˥ ʃi˞ʤiki bu:](ここは平坦な道が続いている)。

ナ˞ダラクン [na˞darakuŋ] 【他動】なだらかにする。平らかにする。タ˞カ˥トー　˥ナリ　˞ブー　ジー˥ヤ　ナ˞ダラキティ˥　イ˞ビ˥バ [ta˞ka˥to: ˥nari ˞bu: ʤi: ˥ja na˞darakiti˥ ʔi˞bi˥ba](凸凹になっている土地は平らかにして植え付けなさいよ)。ナ˞ダラクンティ˥　シ˞タンドゥ˥　ナ˞ダラカン˥タンティン　˥ミサンティ　ア˞ゾーッター˥ル　ナー˞イ˥　シケー [na˞darakunti˥ ʃi̥˞tandu˥ na˞darakan˥tantim ˥misanti ʔa˞ʤo:tta:˥ru na:˞i˥ ʃi̥ke:](平らかにしようとしたが、平らかにしなくてもいいと言われたので放置してある)。ナ˞ダラク˥　ク˞トゥ˥ヌ　˥ナルカー　˞パー˥ク　ナ˞ダラケー˥　ミサムヌ [na˞daraku˥ kṵ˞tu˥nu ˥naruka: ˞pa:˥ku na˞darake:˥ misamunu](平らかにすることが出来れば、早く平らかにすればいいのに)。˥クマーラ　ナ˞ダラキ˥バ [˥kuma:ra na˞daraki˥ba](ここから平らかにしろよ)。

ナ˞チ [na˞itʃi] 【名】夏。「〜鮎走る　奈都能左加利等＜ナツノサカリト＞〜。万、4011」の転訛。ナ˞チェー˥　ア˞サカイヌ˥　アルンケンナール　パ˞タキシグ˥トー　˥ナル [na˞tʃe:˥ ʔa˞sakainu˥ ʔaruŋkenna:ru pḁ˞takiʃigu˥to: ˥naru](夏は朝の涼しいうち＜朝陰の内＞にしか畑仕事は出来ない＜朝陰の内にぞ畑仕事はできるものだ＞)。ナ˞チ˥ヌ　˥ティダナー　ノー˞ン˥　ン˞ブリ˥ス [na˞tʃinu˥ tidana: no:˞m˥ ʔm˞buri ˥su](夏の太陽の暑さには総てのものが＜何でも＞蒸れてしまう＜蒸される＞)。

ナ˞チアシブ [na˞tʃiʔaʃibu] 【名】あせぼ (汗疹)。「夏あせぼ」の義。「Axebo. アセボ (熱沸瘡・汗瘡)　あせも、または水疱」『邦訳日葡辞書』。ナ˞チアシブヌ　アーリティ˥　ム˞ヌ　ウモーラ˥ヌ [na˞tʃiʔaʃibunu ʔa:riti˥ mu˞nu ʔumo:ra˥nu](夏あせぼが痒くて＜暴れて＞たまらない＜ものを考えることができない＞)。

ナ˞チアミ [na˞tʃiami] 【名】夏の通り雨。そばえ。ナ˞チアメー˥　ウ˞シヌ˥　カ˞タ˥シヌ　˞ゾーラスン [na˞tʃiʔame:˥ ʔu˞ʃini˥ kḁ˞ta˥ʃinu ˞ʤo:rasuŋ](夏の通り雨＜そばえ。わたくしあめ。日照り雨＞は牛の片角を濡らす)。

ナ˞チアモーリ [na˞tʃiʔamo:ri] 【名】夏の雨。夕立。にわか雨。「夏あまぐれ」の義。ナ˞チアモーリル˥　ヤ˞リバ˥　タ˞デー˥マンチン　パ˞リ˥ルンパジ [na˞tʃiʔamo:riru˥ ja˞riba˥ ta˞de:˥mantʃim pa˞ri˥rum ˥paʤi](夏の夕立だからすぐに晴れるだろうよ)。

ナ˞チ˥キン [na˞tʃi˥kiŋ] 【名】夏着。夏用衣服。「夏衣 (素、キヌ。『類聚名義抄』)」の転訛。˥バサキンマー　ナ˞チキン˥ドゥ　シ˞ラリル˥　フ˞ヨー　ピーヤ˥ヌ　キ˞サラヌ [˥basakimma: na˞tʃikin˥du ʃi˞rariru˥ ɸu˞jo: pi:ja˥nu ki̥˞saranu](芭蕉布の着物は夏着にしかできない＜夏着にぞせられる＞。冬は寒くて着られない)。

ナ˞チマキ [na˞tʃimaki] 【名】夏ばて。暑気あたり。夏負け。夏の暑さのために体が衰弱すること。ヤ˞ラ˥ベー　ナ˞チマキバ　シー˥　ムヌーン　ッ˞ふァイユーサムティ　ヨーガリ　ベー [ja˞ra˥be: na˞tʃimakiba ʃi:˥ munu:ŋ f˞faiju:samuti jo:gari be:](子供は夏負けして食べ物も食べられないで＜ものも食べきれなくて＞痩せている)。

ナ˞チ˥ムヌ [na˞tʃi˥munu] 【名】夏物。夏の着物。˥バサキン [˥basakiŋ](芭蕉布の着物) や˥ブーキン [˥bu:kiŋ](麻布の着物) をいう。マ˞ナマー˥ケー　ナ˞チ˥ムヌ　プ˞スッ˥クビシン　˞トゥーサリ˥スンドゥ　フ˞ユ˥　ナルカー　ナ˞チ˥ムヌシェー　ク˞ラサラヌ [ma˞nama:˥ke: na˞tʃi˥munu pṵ˞suk˥ku-biʃin ˞tu:sari˥sundu ɸu˞ju˥ naruka: na˞tʃi˥munuʃe: ku˞rasaranu](今までは夏物一着でも通されるが、冬になったら夏着では暮らされない)。

ナ˞ツァー˥ラ [na˞tsa:˥ra] 【名】 (植) 海草の名。かいにんそう (海人草)。回虫駆除薬として重用された。鳩間島の海岸や西表島北岸の海岸で採集された。これを乾燥して石垣島へ輸出した。島の学校では、毎年夏に回虫駆除のため、全校生徒にナツァーラを煎じて飲ませた。ム˞カ˥シェー　˞ガッ˥コーナーティ　ナ˞ツァーラ˥バ　˥シジティ　˞シー˥トゥンケー　ム˞ールン˥　ヌ˞マ˥ソーッタン [mu˞ka˥ʃe: ˞gak ˥ko:na:ti na˞tsa:ra˥ba ˥ʃiʤiti ˞ʃi:˥tuŋke: mu:˞run˥ nu˞ma˥so:ttaŋ](昔は学校で海人草を煎じて生徒たち全員に飲まされたものだ)。

ナ˞ツァガスン [na˞tsagasuŋ] 【他動】はかどらせる (捗らせる)。シ˞グトゥ˥　ナ˞ツァガスンティ　ス

ンドゥ˥　ナ˞ツァガサラヌ [ʃi˞gutu˥ na˞tsagasunti sundu˥ na˞tsagasaranu](仕事を捗らせようとするが、捗らされない)。ナ˞ツァガシ˥　プサン [na˞tsagaʃi˥ pu̥saŋ](捗らせたい)。ナ˞ツァガス˥　クトーム˞チカサ˥ル [na˞tsagasu˥ ku̥to: mu˞tʃikasa˥ru](捗らせることは難しい)。ナ˞ツァガシェー˥　ミサムヌ [na˞tsagaʃe:˥ misamunu](捗らせたらいいのに)。ナ˞ツァガシ [na˞tsagaʃi](捗らせよ)。

ナ˞ツァグン [na˞tsaguŋ] 【自動】はかどる (捗る)。らちがあく (埒が明く)。˞イー˥　パ˞ダム˥チ　˥ナレーチバ　シ˞グトー˥　ナ˞ツァグン [˞ʔi:˥ pa˞damu˥tʃi ˥nare:tʃiba ʃi˞guto:˥ na˞tsaguŋ](よい肌心地の気候になったので仕事は捗(ハカド)るよ)。タ˞ンガ˥シェー　ナ˞ツァガヌ [˞taŋga˥ʃe: na˞tsaganu](一人では仕事は捗らない)。ナ˞ツァギン˥　ギサン [na˞tsagiŋ˥ gisaŋ](捗りそうだ)。ク˞ヌ　シー˥ヨーシェー　ナ˞ツァグ˥　クトー　˞ナー˥ヌ [ku˞nu ʃi:˥jo:ʃe: na˞tsagu˥ ku̥to: ˞na:˥nu](この仕方では捗ることはない)。˞マー˥ビン　ナ˞ツァゲー˥　ミサムヌ [˞ma:˥bin na˞tsage:˥ misamunu](もっと捗ればいいのに)。

ナ˞ツァラカツァ˥ラ [na˞tsarakatsa˥ra] 【副】色々様々。あれやこれや。つまらないことども。マ˞ナマー˥キ　シ˞グトー˥　ナ˞ツァラカツァ˥ラ　˞シー　ミッタ˥ヌ　˥カイブ　シ˞グトー　クン˥ドゥ　パ˞ジミティ [ma˞nama:˥ki ʃi˞guto:˥ na˞tsarakatsa˥ra ˞ʃi: mitta˥nu ˥kaibu ʃi˞guto: kun˥du pa˞ʤimiti](今まで仕事はいろいろと＜様々に＞やってみたが、こんな仕事は今度が始めてだ)。ナ˞ツァラカツァ˥ラ　ア˞ツァ˥ミ　˞キー˥ル　ヤッ˥トゥ˥シ　タ˞ラーシタ [na˞tsarakatsa˥ra ʔa˞tsa˥mi ˞ki:˥ru jat˞tu˥ʃi ta˞ra:ʃita](種々様々に集めてきて、やっとのことで充足させた＜足らした＞)。

ナ˞ツァ˥ラカツァラ [na˞tsa˥rakatsara] 【名】いろいろ。さまざま。ABCDBC 型の重言。ナ˞ツァ˥ラカツァラヌ　シ˞ジフチル˥バ　トゥ˞ヤー˥シ　˥シジ　˥ヌミティル　ウ˞ヌ　ヤン˥マー　˞ノーシ˥タ˞ダー [na˞tsa˥rakatsaranu ʃi˞ʤiɸu̥tʃiru˥ba tu˞ja:˥ʃi ˥ʃiʤi ˥numitiru ʔu˞nu jam˥ma: ˞no:ʃi̥˥ta˞da:](いろいろの煎じ薬を混ぜて＜取り合わせて＞、煎じて飲んで＜ぞ＞、あの病気は治したのだよ)。

˞ナッ˥チン [˞nat˥tʃiŋ] 【名】1同じ小ささ。ユ˞ヌ　ナッチン˥ヌ　ム˞ヌ˥バ　˥トゥグ [ju˞nunattʃin˥nu mu˞nu ˥ba ˥tugu](同じ程度の小さい物を取って来い)。2小さいものを表す。ウ˞ヌナッチン˥ドゥ　˥アル [ʔu˞nu nattʃin˥du ˥ʔaru](その細かい程度の大きさしかない＜その細かささぞある＞)。

˞ナットゥ˥ク [˞nattu˥ku] 【名】納得。承知すること。認めること。標準語からの転訛。老年層は、キ˞ム˥フグン [ki˞mu˥ ɸuguŋ](満足する。納得する) という。ウ˞ヌ　パ˞ナ˥シェー　˞バン˥マー　˞ナットゥ˥ク　サ˞ラヌ＜シ˞ララヌ＞[ʔu˞nu˥ pa˞na˥ʃe: ˞bam˥ ma: ˞nattu˥ku sa˞ranu＜ʃi˞raranu＞](その話は私には納得できない)。

˞ナ˥ティ [˞na˥ti] 【接尾】日、年を表す語に付いて、˞～日 (年) 前」の意味を表す。何日前、何年前。1˥キノー [˥kino:](昨日)、˞ブシ˥トゥイ [˞buʃi̥˥tui](一昨日)、˞ミーカナ˥ティ [˞mi:kana˥ti](三日前の日)、˞ユーカナ˥ティ [˞ju:kana˥ti](四日前の日)。˞ヨイ˥ヤー　˞ユーカナ˥ティ　˞ヤッタ˥ナー [˞joi˥ja: ˞ju:kana ˥ti ˞jatta˥na:](お祝いは四日前だったねえ)。2˥クズ [˥kuʤu](去年)、˞ミーティナ˥ティ [˞mi:tina˥ti](三年前)、˞ユーティナ˥ティ [˞ju:tina˥ti](四年前)。˞ウッ˥ツァー　˞ミーティナ˥ティナー　ウ˞キ˥ナー　˞クーシ˥　パレーン [˞ʔut˥tsa: ˞mi:tina˥tina: ʔu˞ki˥na: ˞ku:ʃi˥ pare:ŋ](彼らは三年前に沖縄へ引っ越して行った)。

ナ˞ディマー˥スン [na˞dima:˥suŋ] 【他動】撫で回す。手のひらで撫でる。ア˞タラ˥サティ　ヤ˞ラビ˥ヌ　ス˞ブ˥ル　ナ˞ディマー˥スンティ　シ˞タンドゥ˥　ウ˞バイティ˥　ナ˞クター˥　ナ˞ディマーサン˥シェン [ʔa˞tara˥sati ja˞rabi˥nu su˞bu˥ru na˞dima:˥sunti ʃi̥˞tandu˥ ʔu˞dara˥kiti na˞kuta:˥ na˞dima:saŋ˥ʃeŋ](可愛いので子供の頭を撫で回そうとしたが、驚いて泣いたので撫で回さなかった)。ナ˞ディマーシ˥ミサカー　ナ˞ディマー˥ス　˥クトー　˥ナルン [na˞dima:˥ʃi ˥misaka: na˞dima:˥su ˥ku̥to: ˥naruŋ](撫で回してよければ撫で回すことはできる)。ナ˞ディマー˥シェー　˥ミサムヌ [na˞dima:˥ʃe: ˥misamunu](撫で回せばいいのに)。ヤー˞ラマ˥シ　ナ˞ディマー˥シバ [ja:˞rama˥ʃi na˞dima:˥ʃiba](丁寧に優しく、軽く撫で回しなさいよ)。

ナ˞ディ˥ルン [na˞di˥ruŋ] 【他動】撫でる。優しくさする。˥ナドゥン [˥naduŋ](なづ＜撫づ＞) ともいう。˞～袖もち奈弖氐＜ナデテ＞わがからに～。万､4356˞の転訛したもの。ス˞ブ˥ル　ナ˞ディ˥ルン [su˞bu˥ru na ˞di˥ruŋ](頭を撫でる)。ナ˞ディラ˥ヌ [na˞dira˥nu](撫でない)。ナ˞ディ˥プサン [na˞di˥pusaŋ](撫でたい)。ナ˞ディ˥ル　˥クトゥ [na˞di˥ru ˥ku̥tu](撫でること)、ナ˞ディ˥レー　˥ミサムヌ [na˞di˥re: ˥misamunu](撫でればいいのに)。ナ˞ディ˥リ [na˞di˥ri](撫でろ)。

˥ナドゥ **[˥nadu]**【名】1空間的長さ。カ˩マ˥トゥ　ユ˩ヌ˥　ナ˩ドゥ˥ヌ　˥ミチ　ア˩ラ˥キ　˩クー˥タ [ka˩ma˥tu ju˩nu˥ na˩du˥nu ˥mitʃi ʔa˩ra˥ki ˩ku:˥ta](あそこと同じ長さの道を歩いてきた)。2時間的長さ。˩オー˥ヤ　イ˩チニン˥　シゥ˩カ˥ナイ　フ˩ドゥバシェー˥ンドゥ　ピ˩ビザン˥　ユ˩ヌ˥　ナドゥ　カ˩カリ˥ル　フ˩ドゥバサリ˥　パジ [˩ʔo:˥ja ʔi˩tʃinin˥ si̥˩ka˥nai ɸu˩dubaʃe:˥ndu pi˩bidʑaɲ˥ ju˩nu˥ nadu kḁ˩kari˥ru ɸu˩dubasari˥ padʑi](豚は一年飼育して成長させたが、山羊も同じ期間＜長さ＞かかって＜ぞ＞成長させられるだろう)。

˥ナドゥン **[˥naduŋ]**【他動】撫でる。「なづ (撫づ) 下二段活用」の四段活用化したもの。「梳、ナヅ」『類聚名義抄』。「我が母の袖もちなでて〜。万、4356」の転訛。ス˩ブ˥ル　˥ナドゥン [su˩bu˥ru ˥naduŋ](頭を撫でる)。˥バー　ナ˩ダン˥シェン [˥ba: na˩daŋʃeŋ](私は撫でなかった)。˥ナディ　ッ˩ふィーリ [˥nadi f˩fi:ri](撫でてくれ)。˥ナドゥ　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [˥nadu pu̥˩so:˥ bu˩ra:nu](撫でる人はいない)。˥ナデー　˥ミサムヌ [˥nade: ˥misamunu](撫でればいいのに)。˩パー˥ク　˥ナディバ [˩pa:˥ku ˥nadiba](早く撫でよ)。

˥ナナ **[˥nana]**【名】(数) 数の名。なな (七)。しち。˩ティー [˩ti:](ひとつ)、˩ター [˩ta:](二つ)、˩ミー [˩mi:](みっつ)、˩ユー [˩ju:](四つ)、˥イチ [˥ʔitʃi](五つ)、˩ムー [˩mu:](六つ)、˥ナナ [˥nana](七つ)、˩ヤー [˩ja:](八つ)、ク˩ク˥ヌ [ku̥˩ku˥nu](九つ)、˩トゥー [˩tu:](十)の˩七つ」の意。ッ˩ふァーン˥　ッ˩ふァアーン˥　ナ˩ナマカ˥ル [f˩fa:n˥ f˩fa:n˥ na˩namaka˥ru](食べない食べないと言いながら七杯もお代わりして食うほどの大食漢だ)。ナ˩ナケー˥ラ　カ˩ユーンドゥ　ソーダン˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [na˩nake:˥ra ka˩ju:ndu so:dan˥nu na˩ra˥nu](七回も通うけれど相談がまとまらない)。ナ˩ナ˥ティー [na˩na˥ti:](七年)。ナ˩ナ˥ユー　˥クミー　˩ニン˥ガイ　˩ヨーッ˥タ [na˩na˥ju: ˥kumi: ˩niŋ˥gai ˩jo:t˥ta](七夜を籠めて祈願された)。

ナ˩ナイ˥ラ **[na˩nai˥ra]**【名】七枚。七平。˩イラ˥　[˩ira˥]　は皿や紙などを数える数詞。プ˩スイ˥ラ [pu̥˩sui˥ra](一枚)。フ˩タイラ [ɸu̥˩taira](二枚)。˩ミーラ [˩mi:ra](三枚)。˩ユイラ [˩juira](四枚)。イ˩チ˥イラ [ʔi˩tʃi˥ira](五枚)。˩ムイラ [˩muira](六枚)。ナ˩ナイ˥ラ [na˩nai˥ra](七枚)。˩ヤイラ [˩jaira](八枚)。ク˩ヌイ˥ラ [ku˩nui˥ra](九枚)。

ナ˩ナカサ˥ビ **[na˩nakasa˥bi]**【名】七重。七重ね。七枚重ねること。衣類の場合は、普通ナ˩ナッ˥クビ [na˩nak˥kubi](七重) という。ナ˩ナカサ˥ビ　˩ヤーカサビ　シー˥　シケー [na˩nakasa˥bi ˩ja:kasabi ʃi:˥ ʃi̥ke:](七重ね、八重ねにしてある)。˩キン˥バ　ナ˩ナッ˥クビ　カ˩サビ˥　キ˩ソー˥ル　プ˩スン　オーッ˥タンツォー [˩kim˥ba na˩nak˥kubi ka˩sabi˥ ki̥˩so:˥ru pu̥˩suŋ ʔo:t˥tantso:](着物を七着重ねて着られる人もおられたそうです)。

ナ˩ナクル˥ビ　˩ヤーウキ **[na˩nakuru˥bi ˩ja:ʔuki]**【連】七転び八起。ナ˩ナクル˥ビ　˩ヤーウキ˥ティル　ム˩カ˥シムネー　˥アル　˩ギーバリ˥ヨー [na˩nakuru ˥bi ˩ja:ʔuki˥tiru mu˩ka˥ʃimune: ˥ʔaru ˩gi:bari˥jo:](七転び八起きと昔の言葉＜諺＞にはある。頑張りなさいよ)。

ナ˩ナサイ˥ヌ　˥パナ **[na˩nasai˥nu ˥pana]**【連】七咲きの波の花。渚(ナギサ)に寄せてくる波の花を七回汲み取って家に持ち帰り、家を清めるために撒いた海水。お祓いのために用いる海水。波打ちぎわから砂を七回掴みとって撒くこともある。ナ˩ナサイ˥ヌ　˥パナシ　˥ヤー　キ˩ユ˥ミ　シ˩キ˥リ [na˩nasai˥nu ˥panaʃi ˥ja: ki˩ju˥mi ʃi̥˩ki˥ri](七咲きの波の花で家を清めておきなさい)。

ナ˩ナ˥シキ **[na˩na˥ʃi̥ki]**【名】七ヶ月。妊娠七ヶ月。ク˩ヌ˥　パ˩ルミ˥プソー　ナ˩ナ˥シキ　ナ˩リ˥ブツォー [ku˩nu˥ pa˩rumi˥pu̥so: na˩na˥ʃi̥ki na˩ri˥butso:](この妊婦は妊娠七ヶ月になっているそうだ)。

ナ˩ナシキ˥ッふァ **[na˩naʃi̥ki˥ffa]**【名】妊娠七ヶ月で生まれる子。「七月子」の義。ナ˩ナシキ˥ッふァー　ム˩カ˥シェーラ　トゥ˩ラ˥リンティ　ア˩ザリブー [na˩naʃi̥ki˥ffa: mu˩ka˥ʃe:ra tu˩ra˥rinti ʔa˩dʑari bu:](妊娠七ヶ月の早産で生まれる子は昔から育てることができる＜親の手に取ることが出来る＞といわれている)。

ナ˩ナスー˥ヌ　ナ˩ナ˥スク **[na˩nasu:˥nu na˩na˥su̥ku]**【連】海の底。深海底。「七潮の七底」の義。浜の砂は深海底より湧き出てきたものと考えられている。波打ち際の人の足跡の付いてない砂は聖なるものといわれ、その砂を運んで屋敷内に撒き、祓い清めた。ナ˩ナスー˥ヌ　ナ˩ナ˥スコーラ　フ˩キ˥タテール　イ˩ノンヌ˥　パ˩チェー˥　ヤー˩ディン˥　トゥリキー　ピ˩ナカンヌ　コー˥ローナ　イ˩ローッ˥タ [na˩nasu: ˥nu na˩na˥su̥ko:ra ɸu̥˩ki˥tate:ru ʔi˩nonnu˥ pḁ˩tʃe:˥ ja: ˩din˥ turiki: pi˩nakannu ko:˥ro:na ʔi˩ro:t˥ta](七潮の七底から湧き出た砂のお初＜花＞を必ず取ってきて、火の神の香炉に入れた)。イ˩ノンヌ˥　パナー　ム˩ヌヌキ˥ムヌ　ヤ˩リバ˥　ウ˩リ˥　マキティ

˩ヤー˥ザライ　˩シー [ʔi˩nonnu˥ pana: mu˩nunuki ˥munu ja˩riba˥ ʔu˩ri˥ makiti ˩ja:˥ʤarai ˩ʃi:](砂の花 < 人の足跡のない砂 > は魔除けだから、それを撒いて屋敷を祓い清め < 家さらえ (浚え) し > なさい)。

ナ˩ナタン˥ブー [na˩natam˥bu:] 【名】七反の布で作った帆。七反帆。七反帆帆船 (伝馬船)。伝馬船の大きさを表す語。ム˩カ˥シェー　ナ˩ナタンブー˥ヌ　˩ティンマ˥ナール　˩マイヤー　ヌーシティ　グイ˥フゾーノー　ウ˩サ˥モーッタツォー [mu˩ka˥ʃe: na˩natambu:˥nu ˩timma˥na:ru ˩maija nu:ʃi̥ti gui˥ɸuʤo:no: ʔu˩sa˥mo:ttatso:](昔は七反帆の伝馬船に米を積んで < 載せて > 御用布、上納米を納められたそうだ)。

ナ˩ナ˥チ [na˩na˥ʧi] 【名】七つ。七歳。ナ˩ナッ˥チ [na˩nat˥ʧi](七つ。七歳) ともいう。ナ˩ナチ˥ナー　˥バキ　˥トゥリバ [na˩natʃi˥na: ˥baki ˥turiba](七つずつ分けて取りなさい)。ナ˩ナ˥チ　˥ナルカー　˩ガッ˥コー　ン˩ジ˥ルン [na˩na˥ʧi ˥naruka: ˩gak˥ko: ʔn˩ʤi˥ruŋ](七歳になったら学校にあがる < 出る >)。

ナ˩ナチン˥ブシ [na˩natʃim˥buʃi] 【名】七つ星。北斗七星。ナ˩ナチンブシ˥バ　ミ˩ヤティ˥バ　˩シー˥　パリバ [na˩natʃimbuʃi˥ba mi˩jati˥ba ˩ʃi:˥ pariba](北斗七星を目当てにして行けよ)。

ナ˩ナッ˥ク [na˩nak˥ku] 【名】七個。卵や丸い小石、瓶や水瓶等を数える単位。トゥ˩ルヌ　コー˥マ　ナ˩ナッ˥ク　˥ナシシケー [tu˩runu ko:˥ma na˩nak˥ku ˥naʃiʃi̥ke:](鶏が卵を七個生んである)。

ナ˩ナッ˥チ [na˩nat˥ʧi] 【名】1七つ。˥クナー　˩シーヤ˥　ナ˩ナッ˥チ　˥アン [˥kuna: ˩ʃi:ja˥ na˩nat˥ʧi ʔaŋ](ここには釣り針が七つある)。2七歳。˥トゥシェー　ナ˩ナッ˥チ　˥ナル　ッ˩ふァヌ　ブン [˥tu̥ʃe: na˩nat˥ʧi ˥naru f˩fanu buŋ](年は七歳になる子がいる)。

ナ˩ナ˥ティ [na˩na˥ti] 【名】七年。七年目。˩タンカー [˩taŋka:](一年の誕生日。一周忌)。ユ˩ノー˥レー [ju˩no:˥re:](死後ニ年目の法事、一周忌)。˩ミーティ [˩mi:ti](～から三年め)。˩ユーティ [˩ju:ti](～から四年め)。イ˩チ˥ティ [ʔi˩ʧi˥ti](～から五年)。˩ムーティ [˩mu:ti](～から六年)。ナ˩ナ˥ティ [na˩na˥ti](～から七年)。˩ヤーティ [˩ja:ti](～から八年)。ク˩クヌ˥ティ [ku̥˩kunu˥ti](～から九年)。

ナ˩ナティ˥ヌ　˩ソッ˥コー [na˩nati˥nu ˩sok˥ko:] 【連】七年忌。七回忌。「七年の焼香」の義。若年層は、シ˩チニン˥キ [ʃi̥˩ʧiniŋ˥ki](七年忌) ともいう。三年忌から十三年忌までの焼香 < 法事 > をバ˩カソッ˥コー [ba˩kasok˥ko:](若焼香) という。ク˩トゥシェー˥アボー　ナ˩ナティ˥ヌ　˩ソッ˥コー　ア˩タリ　ブーバ˥　ウ˩ヌ˥　ス˩コール　シー˥ヨー [ku̥˩tuʃe:˥ ʔabo: na˩nati˥nu ˩sok˥ko: ʔa˩tari bu:ba˥ ʔu˩nu˥ su̥˩ko:ru ʃi:˥jo:](今年はお母さんの七年忌に当っているので、その準備をしなさいね)。

ナ˩ナ˥トゥ [na˩na˥tu] 【名】(数) 七斗。˩マイヌ˥　ナ˩ナ˥トゥ　˩ペー˥ル　カ˩シガーフク˥ロー　ナ˩ナトゥダー˥ラティ　ア˩ゾーッ˥タ [˩mainu˥ na˩na˥tu ˩pe:˥ru kḁ˩ʃiga:ɸu̥ku˥ro: na˩natuda:˥rati ʔa˩ʤo:t˥ta](米が七斗入る南京袋を七斗俵といわれた)。

ナニッ˩クラ [nanik˩kura] 【副】突然。だしぬけに。ノー˩ンティン　ナー˥ムティ　ナニッ˩クラ　ペー˥リ　˥キー　ウ˩ヤー˥リ　プ˩スバ˥　ウ˩バーシ˥　シケー [no:˩ntin na:˥muti nanik˩kura pe:ri˥ ki: ʔu˩ja:˥ri pu̥˩suba˥ ʔu˩ba:ʃi˥ ʃi̥ke:](何の合図もしないで < 何ともないで >、突然入ってきて大声を出して、人を驚かせている)。ナニッ˩クラ˥　カ˩タ˥ミ　˥パレーン [nanik˩kura˥ kḁ˩ta˥mi ˥pare:ŋ](突然担いで行った)。

˥ナハ [˥naha] 【名】(地) 那覇市。ナ˩ハ˥ヌ　˥マチナーヤ　ノー˩ン˥　アンツォー　˩ナーン˥ムノー　˩ナーン˥ティバーヤ [na˩ha˥nu ˥matʃina:ja no:˩ŋ˥ ʔantso: ˩na:m˥ muno: ˩na:n˥tiba:ja](那覇の市場 < 町 > には、何でもあるそうだ。無いものは無いんだってよ)。

˥ナバ [˥naba] 【名】しいたけ (椎茸)。キノコ類。パ˩トゥ˥マナー　˥ナバー　˩ナンゾー　˩ムイラン˥シェン [pḁ˩tu˥mana: ˥naba: ˩nan˥ʤo: ˩muiraŋ˥ʃeŋ](鳩間島ではキノコ類はあまり生えなかった)。ガ˩ジマル˥ヌ　˥ナバー　ッ˩ふァーリンドゥ˥　ウシキーヌ　˥ナバー　ッ˩ふァーラヌティ˥　ア˩ゾーッ˥タ [ga˩ʤimaru˥nu ˥naba: f˩fa:rindu˥ ʔuʃi̥ki:nu ˥naba: f˩fa:ranuti˥ ʔa˩ʤo:t˥ta](ガジマルの木耳(キクラゲ)は食べられるがハスノハギリに生える木耳は食べられないと言われた)。˥ドゥクナバー　ッ˩ふァーランバ˥　シ˩ティリ [˥dukunaba: f˩fa:ramba˥ ʃi̥˩tiri](毒キノコ < 毒きくらげ > は食べられないから捨てなさい)。

ナ˩バン˥ドー [na˩ban˥do:] 【名】(地)˥カンドー [˥kando:] の北側奥にある窪地。ナ˩ビン˥ドー [na˩bin˥do:] ともいう。ナ˩バン˥ドーナー　˩タッ˥テヌ　パ˩タキ˥ヌ　ア˩ル˥ワ [na˩ban˥do:na: ˩tat˥tenu pḁ˩taki˥nu ʔa˩ru˥wa](ナバンドーには何処の家の畑があるのか)。

˥ナビ [˥nabi] 【名】なべ (鍋)。˩イー˥ナビ [˩ʔi:˥nabi](ご飯を炊く鍋)。˩スー˥ナビ [˩su:˥nabi](汁鍋)。˥ビーナ

ビ [˥biːnabi](注ぎ口のある鍋)。˩ティー˥ナビ [˩tiː˥nabi](鍋づるの付いた鍋)。ア˩ギナビ [ʔa˩ginabi](揚げ物用の鍋)。ウ˩ブ˥ナビ [ʔu˩bu˥nabi](大鍋)。˩シンマイ˥ナビ [˩ʃimmai˥nabi](四枚鍋。大鍋) などがある。「さし名倍＜ナベ＞に　湯沸かせ〜。万、3824」の転訛したもの。ナ˩ビ˥ヌ　ピ˩サ˥ベー　ヌ˩キ˥ムヌ　ヤ˩リバ˥　ヤ˩ラビ˥ヌ　フ˩タイ˥ナー　˥シキ　ッ˩ふィーリ˥バ [na˩bi˥nu pi̥˩sa˥beː nu˩ki˥munu ja˩riba˩ ja˩rabi˥nu ɸu̥˩tai˥naː ˥ʃi̥ki f˩fiːri˥ba](鍋の鍋墨は魔除け＜護符＞だから幼児の額に付けてやりなさいよ)。

ナ˩ビウティ˥フチ [na˩biʔuti˩ɸu̥tʃi] 【名】鍋取。「鍋取り草履＜靴＞」の転訛したもの。つる＜鉉＞のない鍋を竈からおろす際、鍋に当てて持つ藁製の道具。幅約 5 センチ、長さ約 10 センチのわらじ (草鞋) 形に編んだもの二枚を藁縄で繋(ツナ)いで一式としたもの。ナ˩ビウティ˥フチシ　ウ˩タン˥カー　イ˩ツァー˥ヌ　カ˩サマラン˥ダー [na˩biʔuti˩ɸu̥tʃiʃi ʔu˩taŋ˥kaː ʔi˩tsaː˥nu kḁ˩samaran˥daː](鍋取で鍋を竈から下ろさないと熱くて掴めないぞ)。ナ˩ビウティ˥フチェー　˥マナー　˥シケーワ [na˩biʔuti˩ɸu̥tʃeː ˥manaː ˥ʃi̥keːwa](鍋取り＜鍋を下ろす際の鍋取靴＞は何処に置いてあるか)。

˥ナビカマ [˥nabikama] 【名】鍋釜。炊事道具。˥ナビカマー　ス˩ロー˥シティ　˩ヤーバカ˥リ　˩シー˥バ [˥nabikamaː su˩roː˥ʃi̥ti ˩jaːbaka˥ri ˩ʃiː˥ba](鍋釜を揃えて分家しなさい)。

˥ナビクーサー [˥nabikuːsaː] 【名】鋳掛屋。鍋の壊れたところを修理する人。˥ナビ　˩クーシ˥プス [˥nabi ˩kuːʃi˥pu̥su](鋳掛屋。鍋の破損を修復する人) ともいう。ム˩カ˥シェー　˥ナビクーサーバ　˩シェー˥ティン　ク˩ラシ˥　パ˩ラリ˥タン [mu˩ka˩ʃeː ˥nabikuːsaːba ˩ʃeː˥tiŋ ku˩raʃi˥ pa˩rari˥taŋ](昔は鋳掛屋をしても暮らしていけた)。

˥ナビシケー [˥nabiʃi̥keː] 【名】鍋敷(ナベシ)き。釜敷(カマシ)き。˥ナビシキ [˥nabiʃi̥ki] ともいう。竈から鍋を下ろした時に丸底の鍋を安定させるために敷くもの。「鍋敷き」の義。直径約 2 センチの太さに藁や藁縄を巻き締めて、直径約 12 センチの輪に作ったもの。カ˩マチェーラ˥　ナビ　ウ˩トゥ˥カー　˥ナビシケーナ　ビ˩シ˥バ [ka˩matʃeːra˥ nabi ʔu˩tu˥kaː ˥nabiʃi̥keːnabi˩ʃi˥ba](竈から鍋を降ろしたら＜移したら＞鍋敷きに据えなさい＜座らせ＞よ)。

ナ˩ビッ˥ツ [na˩bit˥tsu] 【名】(人) 女性の名前。ナ˩ビッ˥ツン　ミ˩ドゥム˥ヌ　˩ナー　ヤッタ [na˩bit˥tsum mi˩dumu˥nu ˩naː jatta](ナビッツも女性の名前であった)。

ナ˩ビッ˥ツォンマー [na˩bit˥tsommaː] 【固】ナビツ姉さん。ナビツお母さん。ナ˩カシ˥ケヌ　˥アンマー　˩ナーヤ˥　ナ˩ビッ˥ツォンマーティ　ア˩ゾーッ˥タ [na˩kaʃi̥˥kenu ˥ʔammaː na˩bit˥tsommaːti ʔa˩ʤoːt˥ta](仲底家のお母さんの名前はナビッツォンマーといわれた)。

ナ˩ビ˥ヌ　˥クー [na˩bi˥nu ˥kuː] 【連】いかけ (鋳掛)。鍋の壊れた部分を修理すること。鍋の穴を塞(フサ)ぐこと。˥クー [˥kuː] は、漢語の「金固」の義か。ナ˩ビ˥ヌ　˥クー　˩シープソー˥　パ˩トゥ˥マナー　˩オーラン˥　ベーティ　イ˩サンケー˥　ムティ　˩ギール˥　クー　シ˩ミター [na˩bi˥nu ˥kuː ˩ʃiːpu̥soː˥ pḁ˩tu ˥manaː ˩ʔoːram˥ beːti ʔi˩sanakeː˥ muti ˩giːru˥ kuː ʃi˩mitaː](鋳掛屋(イカケヤ)は鳩間島にはおられないから、石垣島へ持っていって修理をさせた)。

ナ˩ビ˥ヌ　˥ティー [na˩bi˥nu ˥tiː] 【連】鍋づる (鍋弦)。鍋に取り付けたつる。「鍋の手」の義。ナ˩ビ˥ヌ　˩ティー˥ヤ　˥アチティ　イ˩ツァー˥ヌ　カ˩サマラヌ [na˩bi˥nu ˩tiː˥ja ˥ʔatʃiti ʔi˩tsaː˥nu ka˩samaranu](鍋づるは熱せられていて、熱くて掴め＜掴まれ＞ない)。

ナ˩ビ˥ヌ　ピ˩サ˥ビ [na˩bi˥nu pi̥˩sa˥bi] 【連】鍋墨。鍋の墨。鍋墨は魔除けとされ、乳児が外出する際には鍋墨を眉間に付けた。ナ˩ビ˥ヌ　ピ˩サ˥ベー　ヌ˩キ˥ムヌティ　ア˩ザリ　ブー [na˩bi˥nu pi̥˩sa˥beː nu˩ki˥munuti ʔa˩ʤari buː](鍋墨は魔除けといわれている)。

ナ˩ビ˥ヌ　˩ピング [na˩bi˥nu ˩piŋgu] 【連】鍋墨。鍋の煤。˩ピング [˩piŋgu](鍋墨) は「竈・黒＜へ・クロ＞」の転訛したものか。ナ˩ビ˥ヌ　ピ˩サ˥ビ [na˩bi˥nu pi˩sa˥bi](鍋墨。˩鍋の竈・錆」の転訛したものか) ともいう。ヤ˩ラビ˥ヌ　フ˩タイ˥ナー　ナ˩ビ˥ヌ　˩ピング˥　シキバ [ja˩rabi˥nu ɸu̥˩tai˥naː na˩bi˥nu ˩piŋgu˥ ʃi̥kiba](子供の額に鍋墨をつけなさい)。

ナ˩ビン˥フタ [na˩biŋ˥ɸu̥ta] 【名】鍋蓋。「鍋の蓋」の転訛したもの。茅で円錐形に編み上げて作った鍋蓋。˩マーガヤ [˩maːgaja](˩真茅」の義。約 1 メートル 50 センチの茅) を根元から刈り取り、2〜3 日陰干しにし、柔らかくなったところを直径約 1、5 センチの太さに束ね、˩クー˥ジ [˩kuː˥ʤi](籐蔓もどき) の皮や˩マー˥ニ [˩maː˥ni](くろつぐ＜桄榔＞) の皮で強く締め付けて、直径約 60 センチ、高さ約 30 センチの円錐形に編み上げて作った鍋蓋。˩シンマ

イ˥ナビ [˞ʃimmai˥nabi](四枚鍋。芋を煮る大鍋) の鍋蓋に用いた。ナ˞ビン˥フター　˥ガヤーシル　フ˞モーッ˥タ [na˞biŋ˥ɸu̥ta: ˥gaja:ʃiru ɸu˞mo:t˥ta](鍋蓋は茅で＜ぞ＞編まれた)。

ナ˞ブッター˥ルン [na˞butta:˥ruŋ] 【自動】腹ばう。横になる。縁側にべったりと腹ばう。プ˞スヌ˥　マンタナー　ナ˞ブッター˥ルンティ　˞ベー˥タ　˞ベー˥ティ　イ˞ズター˥　˥ウナー　ナ˞ブッターラン˥ドーシ　˥パレーン [pu̥˞sunu˥ mantana: na˞butta:˥runti ˞be:˥ta ˞be:˥ti ʔi˞ʤuta:˥ ʔuna: na˞butta:ran˥do:ʃi˥pare:ŋ](他人の前で腹ばおうとしていたので、叱ったらばそこには腹ばいにならないで＜腹ばわないで＞行ってしまった)。˥ウナー　ナ˞ブッター˥リ　˞ベーン˥ティ [˥ʔuna: na˞butta:˥ri ˞be:n˥ti](そこに腹ばっているさ)。ナ˞ブッター˥ル　˥クトー　ナ˞ラ˥ヌ [na˞butta:˥ru ˥ku̥to: na˞ra˥nu](腹ばうことは出来ない＜ならない＞)。˞ワンヌン˥　ナ˞ブッター˥レー　˥ミサムヌ [˞wannun˥ na˞butta:˥re: ˥misamunu](君も腹ばえばいいのに)。˥クナー　ナ˞ブッター˥リ [˥kuna: na˞butta:˥ri](ここに腹ばいなさい)。

ナ˞ブッ˥ツァーン [na˞but˥tsa:ŋ] 【形】滑らかである。すべりやすい。すべっこい。ナ˞ブラーッ˥ツァンとも言う。˥クマー　イッ˞ケナ˥　ナ˞ブッ˥ツァーンダ　ナ˞ブッツァーナーン˥　トンラ　ア˞ラ˥キ [˥kuma: ʔik˞kena˥ na˞but˥tsa:nda na˞buttsa: na:n˥ tonra ʔa˞ra˥ki](ここは非常にすべっこいから、すべっこくない所から歩け)。ナ˞ブッツァー˥ヌ　ア˞ラカラ˥ヌ [na˞buttsa:˥nu ʔa˞rakara˥nu](すべっこくて歩けない)。ナ˞ブッ˥ツァー　˥ナリ　˥ケーン [na˞but˥tsa: ˥narike:ŋ](すべっこくなってきた)。ナ˞ブッ˥ツァー　˥トンマー　パ˞ル˥ナ [na˞but˥tsa: ˥tomma: pa˞ru˥na](すべっこい所へは行くな)。

ナ˞ブラーッ˥ツァン [na˞bura:t˥tsaŋ] 【形】すべっこい(滑っこい)。すべすべしている。ク˞マ˥ヌ　˥トンマー　ナ˞ブラーッ˥ツァンダー　ナ˞ブラーッツァー　ナーン˥　トンバ　˞ミシ˥キ　˥パリバ [ku˞ma˥nu ˥tomma: na˞bura:t˥tsanda na˞bura:ttsa: na:n˥ tomba ˞miʃi̥˥ki ˥pariba](ここの所はすべっこいから、すべっこくない所を探して行きなさい)。˞シンダイ˥　ナ˞ブラーッ˥ツァー　˥ナルン [˞ʃindai˥ na˞bura:t˥tsa: ˥naruŋ](次第にすべっこくなる)。ナ˞ブラーッツァ˥ヌ　ア˞ラカラ˥ヌ [na˞bura:ttsa˥nu ʔa˞rakara˥nu](すべっこくて歩けない)。ナ˞ブラーッ˥ツァー　˥クトー　˞ナー˥ヌ [na˞bura:t˥tsa: ˥ku̥to: ˞na:˥nu](すべっこいことはない)。

ナブ˞ラーナブラー˥シ [nabu˞ra:nabura:˥ʃi] 【副】すべすべして。なめらかで。つるつるして。ア˞ミ˥ヌ　˞フー˥ター　ア˞ガミツァミツェー˥　ナブ˞ラーナブラー˥　シティ　ア˞ラカラ˥ヌ [ʔa˞mi˥nu ˞ɸu:˥ta: ʔa˞gamitsamitʃe:˥ nabu˞ra:nabura:˥ ʃi̥ti ʔa˞rakara˥nu](雨が降ったので、赤土＜赤粘土＞の道はつるつるして、すべっこくて歩け＜歩かれ＞ない)。

˥ナベー [˥nabe:] 【名】平民女子の名前。˥ナベーヤミ˞ドーン˥ッふァヌ　˞ナート ダー [˥nabe:ja mi˞do:ŋ˥ffanu ˞na:ɫda:](ナベーは女の子の名前だよ)。

ナ˞ベー˥マ [na˞be:˥ma] 【名】小さな鍋。小鍋。˥ナビ [˥nabi](鍋) に指小辞の-マ [-ma](小) が付いて形成された合成語。ナ˞ベー˥マナ　˞シンジ˥ムヌ　イ˞リティ˥　シジバ [na˞be:˥mana ˞ʃinʤi˥munu ʔi˞riti˥ʃiʤiba](小鍋に煎じ薬を入れて煎じなさいよ)。

ナ˞ベー˥ラ [na˞be:˥ra] 【名】(植) 和名、ヘチマ (糸瓜)。果実は円柱状で若いうちは食用、完熟すると繊維組織が網目状に生じるので、晒して垢すりに使われた。普通は食用として利用される。イ˞ズヌ˥　スーナー　ナ˞ベー˥ラ　イ˞ルバン˥　タ˞ク˥ヌ　イ˞ラキ˥ムヌ　サ˞バン˥　イッ˞ケナ˥　ン˞マー˥ン [ʔi˞ʤunu˥ su:na na˞be:˥ra ʔi˞ruban˥ tḁ˞ku˥nu ʔi˞raki˥munu sa˞baŋ˥ ʔik˞kena˥ ʔm˞ma:˥ŋ](魚の汁にヘチマを入れても、蛸の炒めものにしても非常に美味しい)。

ナ˞ベー˥ラシー [na˞be:˥raʃi:] 【名】ヘチマ乳房。ヘチマのように長く垂れ下がった乳房。ム˞カ˥シ　˥アッパター　ナ˞ベー˥ラシール　˞ゴー˥ラー　ア˞ローッ˥タティ˞ダー＜ヤ˞ローッ˥タティダー＞[mu˞ka˥ʃi˥ʔappata: na˞be:˥raʃi:ru ˞go:˥ra: ʔa˞ro:t˥tati˞da:＜ya˞ro:t˥tatida:＞](昔のお婆さんたちはヘチマ乳房が多かった＜多くおられた＞そうですよ)。

ナ˞ベー˥ラダナ [na˞be:˥radana] 【名】ヘチマ棚。ヘチマを栽培するために竹などで作った棚。˞ナベー˥ラダナ　ス˞ク˥リティ　ナ˞ベー˥ラ　˞パー˥シバ [na˞be:˥radana su̥˞ku˥riti na˞be:˥ra ˞pa:˥ʃiba](ヘチマ棚を作ってヘチマを這わせなさいよ)。

˥ナベンマー [˥nabemma:] 【名】ナベ姉さん。ナビ・アンマ [nabi・ʔamma](ナビ・姉さん) の義。

˥ナベンマテー [˥nabemmate:] 【名】屋号。大浜トミ氏宅。˞クシケーヌ　サン˥ドーザーテーヌ　˞アンタル˥　ナベンマテー　˞ヤッタ [˞kuʃi̥ke:nu san˥do:ʤa:te:nu ˞ʔantaru˥ nabemmate: ˞jatta](小底三戸氏宅の東が＜ぞ＞大浜トミ氏宅だった)。

ナマ- [nama-] (1) 【名】なま (生)。煮たり、焼いたり、干したりしていないもの。ク˞レー˥　ナ˞マ˥

ヌ ˩マーマ˥シ < ナ˩マシケー˥ナ > ッ˩ふァーリン [ku˩re:˥ na˩ma˥nu ˩ma:ma˥ʃi < na˩maʃike:˥na > f˩fa:riŋ](これは生のままで食べられる)。 **(2)**【接頭】ナ˩マ˥ムヌ [na˩ma˥munu](生もの)。ナ˩マ˥イズ [na˩ma˥ʔidʑu](生魚)。ナ˩マ˥ミジ [na˩ma˥miʥi](生水。煮沸してない水)。ナ˩マコー˥マ [na˩mako:˥ma](生卵)。ナ˩マ˥キジ [na˩ma˥kiʥi](生傷)。ヤ˩ラビン˥マー ナ˩マ˥ムヌ ッ˩ふァースナ˥ヨー [ja˩rabim˥ma: na˩ma˥munu f˩fa:suna˥jo:](子供には生ものを食べさせるなよ)。

ナマー˩ナマ˥シ [nama:˩nama˥ʃi]【副】ふてぶてしく。生意気に。ナマー˩ナマー˥シ ˩シェー˥ティ ˩アー˥ク ˩シー˥ヨー ミ˩リバ˥ル ˩ニッ˥ふァー˩ツォー [nama:˩nama:˥ʃi ˩ʃe:˥ti ˩ʔa:˥ku ˩ʃi:˥jo: mi˩riba˥ru ˩nif˩fa:˩tso:](生意気に振舞っている様子を見ると憎らしいんだよ)。

ナ˩マ˥アシ [na˩ma˥ʔaʃi]【名】冷や汗。緊張したり、ひどく恥ずかしい思いをする時に出る冷たい汗。プ˩スヌ˥ マイナーティ イ˩ザリティ˥ ダッ˩カティ ゾーリルン˥ケン ナ˩マ˥アシ ˥パリ ˩ベー˥タ [pu̥˩sunu˥ maina:ti ʔi˩ʥariti˥ dak˩kati ʥo:riruŋ˥keŋ na˩ma˥aʃi ˥pari ˩be:˥ta](人前で叱られて、びっしょり濡れるほど冷や汗をかいていた)。

ナ˩マ˥イー [na˩ma˥ʔi:]【名】1生煮えのご飯。「生飯」の義。˩ワー イー˥ヤ ナ˩マ˥イー ˥ナリティ ッ˩ふァーラヌ [˩wa: ʔi:˥ja na˩ma˥ʔi: ˥nariti f˩fa:ranu](君のご飯は、生煮えのご飯 < 生飯 > になって、食えない)。2其の他、ナ˩マ [na˩ma](生) が接頭語となって形成される合成語に、ナ˩マ˥イズ [na˩ma˥ʔidʑu](生魚)、ナ˩マ˥ウン [na˩ma˥ʔuŋ](生芋)、ナ˩マコー˥マ [na˩mako:˥ma](生卵)、ナ˩マ˥キー [na˩ma˥ki:](生木)、ナ˩マ˥タキ [na˩ma˥taki](生竹)、ナ˩マ˥カザ [na˩ma˥kaʥa](生蔓)、ナ˩マ˥ッス [na˩ma˥ssu](生糞。脱糞したばかりの糞) など多い。

ナ˩マ˥イズ [na˩mai˥ʥu]【名】生魚。ナ˩チェー˥ ナ˩マ˥イゾー ˩ヨーリパヤー˥ンダ ˩パー˥ク バ˩ザイ˥ プシバ [na˩tʃe:˥ na˩ma˥ʔiʥo: ˩jo:ripaja:˥nda ˩pa:˥ku ba˩ʥai˥ pu̥ʃiba](夏は生魚は痛みやすい < 弱り速い > から、早く捌(サバ)いて干しなさいよ)。ナ˩マ˥イゾー ナ˩マ˥シ ˩シーバル˥ ン˩マー [na˩ma˥ʔiʥo: na˩ma˥ʃi ˩ʃi:baru˥ ʔm˩ma:](生魚は刺身 < 膾・なます > にした方が美味しい)。

ナ˩マ˥ウン [na˩ma˥ʔuŋ]【名】生芋。生のサツマイモ。˩ネーシウン [˩ne:ʃiʔuŋ](煮芋)、プ˩シ˥ウン [pu̥˩ʃi˥uŋ](干し芋。切り干し芋) の対義語。パ˩タ˥キナーテー ˩ヤー˥サ ˥ピンマー ナ˩マウン˥ユン キ˩ジッふァイシタ [pḁ˩ta˥kina:te: ˩ja:˥sa ˥pimma: na˩mauŋ˥juŋ ki˩ʥiffai ʃi̥ta](畑では、ひもじい時は生芋をも皮を削って食べたものだ)。ア˩ガウン [ʔa˩gaʔuŋ](中身の赤色、紫色の芋)、ッ˩ス˥ウン [s˩suʔuŋ](中身の白い芋)。˩キールウン [˩ki:ruʔuŋ](中身の黄色い芋) などがあった。ム˩カ˥シプソー ナ˩マ˥ウン ッ˩ふー˥カー ム˩シ˥ シ˩ディ˥ルンティ ア˩ゾーッ˥タ [mu˩ka˥ʃipu̥so: na˩ma˥ʔuŋ f˩fu:˥ka: mu˩ʃi˥ ʃi˩di˥runti ʔa˩ʥo:t˥ta](昔の人は、生芋を食べたらお腹に回虫 < 虫 > が発生する < すでる。孵化する > と言われた)。

ナ˩マ˥カー [na˩ma˥ka:]【名】生皮。生の皮膚。ク˩ルビティ˥ フ˩タイヌ˥ ナ˩マ˥カー ˥パギ ˥シケー [ku˩rubiti˥ ɸu̥˩tainu˥ na˩ma˥ka: ˥pagi ˥ʃi̥ke:](転んで額の生皮を剥いてある)。

ナ˩マ˥カザ [na˩ma˥kaʥa]【名】生臭い臭い。特に魚類の生臭さについていう。生の臭い。˩アウカザ [˩ʔaukaʥa](魚類の生臭い臭い)、˩アウッサリ˥カザ [˩ʔaussari˥kaʥa](生臭い匂い) ともいう。˩ワー キン˥マー ナ˩マカザ˥ヌ ˩シーバ˥ ア˩ライ˥プシバ [˩wa: kim˥ma: na˩makaʥa˥nu ˩ʃi:ba˥ ʔa˩rai˥ pu̥ʃiba](君の着物は魚の生臭い臭いがするので洗って干しなさいよ)。˩アウッサリ˥カザ [˩ʔaussari˥kaʥa](魚の生臭い臭い。生臭さ。腐臭) ともいう。

ナ˩マ˥キー [na˩ma˥ki:]【名】生木。サ˩リキー [sa˩riki:](枯れ木) の対義語。ナ˩マキー˥バ ˥キシ バ˩リティ˥ タ˩キタブル˥ シ˩ティル カーシタ [na˩maki:˥ba ˥ki̥ʃi ba˩riti˥ tḁ˩kitaburu˥ ʃi˩tiru ka:ʃi̥ta](生木を切って割って、竹の皮で束ねて売った)。

ナ˩マ˥キジ [na˩ma˥kiʥi]【名】生傷。生々しい傷。新しい傷。擦ったり、切ったり、打ったりしてできた傷。ッ˩ふ˥キジ [f˩fu˥kiʥi](古傷) の対義語。ビ˩コーンッふァー˥ パ˩ナン˥ギ ˩スンダ˥ ナ˩マキジ˥ヌ ˥キシテー ˩ナー˥ヌ [bi˩ko:ŋffa:˥ pa˩naŋ˥gi ˩sunda˥ na˩makiʥi˥nu ˥ki̥ʃite: ˩na:˥nu](男の子は、悪戯や悪ふざけをするから生傷のなくなることは無い)。

ナ˩マキ˥ムヌ [na˩maki˥munu]【名】怠け者。標準語からの借用語。普通は˥スブットゥ [˥subuttu](怠け者)、ウ˩シクラシムヌ [ʔu˩ʃikuraʃimunu](怠け者。< 牛屠殺者 >) という。˥アイブ ナ˩マキ˥ムノー ˥ミリ ミ˩ラ˥ヌ [˥ʔaibu na˩maki˥muno: ˥miri mi˩ra˥nu](あんな怠け者は見たことがない)。

ナ˩マキ˥ルン [na˩maki˥ruŋ]【自動】怠ける。労を惜しんで精を出さない。老年層は˥フユー ス˩ン [˥ɸuju:

˩suŋ](怠ける) という。プ˩スヌ˥　ミ˩ラン˥カー　ナ˩マキ˥ルンダ　ナ˩マキラン˥ヨーニ　˩マーリ˥　ミリバ [pu̥˩sunu˥ mi˩raŋ˥ka: na˩maki˥runda na˩makiraŋ˥jo:ni ˩ma:ri˥miriba](人が見ないと怠けるので、怠けないように回って見なさいよ)。

ナ˩マ˥グミ [na˩ma˥gumi] 【名】生米。炊いたり炒ったりしてない米。ナ˩マ˥マイ [na˩ma˥mai](生米) ともいう。ミ˩ドゥム˥ヌ　ナ˩マ˥グミ　˩カン˥ザリ　ッ˩ふー˥カー　パ˩ル˥ミ　˩プー　スー˥ク [mi˩dumu˥nu na˩ma˥gumi ˩kan˥ʤari f˩fu:˥ka: pa˩ru˥mi ˩bu: su:˥ku](女が生米をかじって食うと妊娠している証拠だ)。

ナ˩マクラ˥シ [na˩makura˥ʃi] 【名】生殺し。半殺し。若年層は˩ハングルシ [˩haŋguruʃi](半殺し) ともいう。パ˩ボー˥　ク˩ラス˥カー　カ˩シーカシール˥　ク˩ラス˥　ナ˩マクラ˥シェー　ス˩ナ˥ヨー [pa˩bo:˥ ku˩rasu˥ka: ka˩ʃi:kaʃi:ru˥ ku˩rasu˥ na˩maku˥raʃe: su˩na˥jo:](蛇は殺すならしっかり殺すものだ、生殺しはするなよ)。

ナ˩マ˥クン [na˩ma˥kuŋ] 【他動・自動】怠ける。労を惜しんで精を出さない。ア˩サブンとも言う。ウ˩レー˥　ギ˩チ　サン˥カー　ナ˩マ˥クンダ　ナ˩マカサン˥ヨーニ　˩トゥシキ˥リ [ʔu˩re:˥ gi˩ʧi saŋ˥ka: na˩ma˥kunda na˩makasaŋ˥jo:ni ˩tuʃi̥ki˥ri](彼は下知 < 命令 > しないと怠けるから、怠けさせないように言いつけ < 命令し > なさい)。

ナ˩マコー˥マ [na˩mako:˥ma] 【名】生卵。ナ˩マコー˥マ　˩ピッツァ˥シティ　ピ˩ルザキ˥ナー　カ˩ケー˥シティ　˥ヌムカー　パ˩ナシケー˥　カ˩カラ˥ヌ [na˩mako:˥ma ˩pittsa˥ʃi̥ti pi˩ruʤaki˥na: kḁ˩ke:˥ʃi̥ti ˥nu-muka: pa˩naʃi̥ke:˥ kḁ˩kara˥nu](生卵を大蒜酒(ニンニクザケ)に掻き混ぜて飲むと風邪をひかない < 風邪に罹(カカ)らない >)。ナ˩マコー˥マ　˩ピッツァ˥シティ　ピ˩ルザキ˥ナー　カ˩ケー˥シ　˥ヌミティ　˩クンキ˥　シ˩キ˥リバ [na˩mako:˥ma ˩pittsa˥ʃiti pi˩ruʤaki˥na: kḁ˩ke:˥ʃi ˥numiti ˩kuŋki˥ ʃi̥˩ki˥riba](生卵を潰して大蒜酒に掻き混ぜて飲んで精をつけなさいよ)。

ナ˩マ˥ザリ [na˩ma˥ʤari] 【名】生枯れ。半枯れ。半ば枯れかかっていること。ク˩レー˥　ナ˩マ˥ザリ　˩シー　ブンダ　ナン˥ゾー　˩ムイラヌ [ku˩re:˥ na˩ma˥ʤarji ˩ʃi: buda nan˥ʤo: ˩muiranu](これは生枯れしているから、あまり燃えない)。

ナ˩マ˥ザリキー [na˩ma˥ʤariki:] 【名】生枯れの木。半枯れの木。「生枯れ木」の義。ナ˩マ˥ザリキー　ヤ˩ルンダ　モーヌ [na˩ma˥ʤariki: ja˩runda mo:nu](半枯れの木だから燃えない)。ナ˩マ˥ザリ　˩シーブー　キー˥ヤ　˩ムイランバ˥　ティダナー　˥プシバ [na˩ma˥ʤari ˩ʃi: bu: ki:˥ja ˩muiramba˥ tidana: ˥pu̥ʃiba](生枯れしている木は燃えないから日光に干せよ)。

ナ˩マ˥シ [na˩ma˥ʃi] 【名】刺身。生魚の肉などを細かく切って作った食品。「〜吾宍者 < ヮガシシハ > 御奈麻須 < ミナマス > はやし〜。万、3885」の転訛したもの。カ˩ツナマシ [kḁ˩tsunamaʃi](カツオの刺身)。イ˩ラブ˥チナマシ [ʔi˩rabu˥ʧinamaʃi](ブダイの刺身)。シ˩ヌマー˥ルナマシ [ʃi˩numa:˥runamaʃi](テングハギの刺身) がよく食べられた。刺身は水に味噌を濃く溶かし、フ˩ナ˥ブ [ɸu˩na˥bu](九年母。シークヮーサー) の汁をたっぷりかけ、˩クース [˩ku:su](唐辛子) を入れた垂(タレ)に付けて食べるのが普通であった。カツオ漁船での刺身は、ザ˩コーバ˥チ [ʤa˩ko:ba˥ʧi](撒き餌をする雑魚 < カツオの餌 > を入れる木製の枡形の箱) に味噌を溶かし、釣りたてのカツオを切り込んで食べる豪快な食べ方であった。イ˩ラブ˥チや˩ボー˥ダ [˩bo:˥da](キツネブダイ) の刺身はイラブチの肝を潰し、垂れに混ぜて食べると実に美味であった。シ˩ヌマー˥ル [ʃi˩numa:˥ru](テングハギ) の刺身は魚肉に脂がのっていて垂れの味と調和して実に美味であった。イ˩ガヌナマシン˥　イッ˩ケナ˥　ン˩マー˥タン [ʔi˩ganamaʃiŋ˥ ʔik˩kena˥ ʔm˩ma:˥taŋ](烏賊の刺身も非常に美味しかった)。

ナ˩マ˥シー [na˩ma˥ʃi:] 【名】生血。サ˩バナーヤ　オー˥ヌ　ナ˩マ˥シーナ　シ˩キティ˥　ン˩ブ˥シティル　シゥ˩カイヨーッ˥タ [sa˩bana:ja ʔo:˥nu na˩ma˥ʃi:na ʃi̥˩kiti˥ ʔm˩bu˥ʃi̥tiru si̥˩kaijo:t˥ta](鱶釣り縄は豚の生血に浸けて蒸してから使われた)。˩カイ˥リティ　フ˩タイ˥　パギティ　ナ˩マ˥シー　パ˩ラ˥シ　˩ベー [˩kai˥riti ɸu̥˩tai˥ pagiti na˩ma˥ʃi: pa˩ra˥ʃi ˩be:](転んで額を擦り剥いて鮮血を流している)。

ナ˩マ˥シキ [na˩ma˥ʃi̥ki] 【名】おこげ (お焦げ)。鍋や釜などの底に焦げ付いたもの。子供はそれを˩ガー˥ガー [˩ga:˥ga:](おこげ) といって好んで食した。˩マイヌイー˥ヌ　ナ˩マシ˥ケー　ヤ˩ラビ˥ヌ　˩ミーコー˥ヤー　˩ヤッタル [˩mainuʔi:˥nu na˩maʃi̥˥ke: ja˩rabi˥nu ˩mi:ko:˥ja: ˩jattaru](お米のご飯のお焦げは子供のお目覚めだったよ)。

ナ˩マ˥シキ [na˩ma˥ʃiki] 【名】ながじり (長尻) して立ち去らないこと。長座すること。特に、酒席で長居をすることに嫌味の意味をこめていう。ウ˩レー

˥ サ˩キ˥ ヌムカー ナ˩マ˥シキ ˩スンダ パー˥ク ˩サーリ˥ パリ [ʔu˩reː˥ sa˩ki˥ numukaː na˩ma˥ʃi̥ki ˩sunda paː˥ku ˩saːri˥ pari](彼は酒を飲むと長尻＜長座＞するから、早く連れて行け)。

ナ˩マシキ˥カザ [na˩maʃi̥ki˥kaʤa]【名】おこげの匂い。焦げつきの匂い。焦げ臭い匂い。ナ˩マシキカザ˥ヌ ˩シーブーバ ピー˥ヤ ピ˩キ˥バ [na˩maʃi̥kikaʤa˥nu ˩ʃiː buːba piː˥ja pi̥˩ki˥ba](焦げ臭い匂いがしているから、火を引きなさい＜火を止めなさい＞)。

ナ˩マシケー˥ナ [na˩maʃi̥keː˥na]【副】生のままで。生の状態で。加工せずに。調理せずに。ウ˩シヌ˥ ニク ナ˩マシケー˥ナ ッ˩ふー˥ プ˩スン ブン˥ティ˩ダー [ʔu˩ʃinu˥ niku na˩maʃi̥keː˥na f˩fuː˥ pu̥˩sum bun˥ti˩daː](牛の肉を生のままで食う人もいるそうだよ)。

ナ˩マ˥シミ [na˩ma˥ʃimi]【名】生爪。イ˩シヌ˥ ウティ ˥キー ˩パン˥ヌ ˥シミナー ア˩タリ˥ ナ˩マ˥シミ ˥パギ ˥シケー [ʔi˩ʃinu˥ ʔuti ˥kiː ˩pan˥nu ˥ʃimina: ʔa˩tari na˩ma˥ʃimi ˥pagi ˥ʃi̥keː](石が落ちてきて足の爪に当って、生爪を剥いである)。

ナ˩マ˥ジラー [na˩ma˥ʤiraː]【名】生意気な面構えの者。卑下した言い方。「生面」の転訛。˩ウンザー˥ ナ˩マ˥ジラー ヤ˩ルンダル˥ プ˩スン˥ イ˩ザリ˧ツォー [˩ʔunʤaː˥ na˩ma˥ʤiraː ja˩rundaru˥ pu̥˩suŋ˥ ʔi˩ari˧tsoː](奴は生意気な面構えだから他人から叱られるんだよ)。

ナ˩マジラ˥スン [na˩maʤira˥suŋ]【他動】1こじらす(拗(コジ)らす)。パ˩ナシキ˥ ナ˩マジラ˥スン [pa˩naʃi̥ki˥na˩maʤira˥suŋ](風邪を拗(コジ)らす)。パ˩ナシキ˥ ナ˩マジラサン˥ ヨーニ ˥ドゥー ˩ヌフタミ˥リ [pa˩naʃi̥ki˥ na˩maʤirasaŋ˥ joːni ˥duː ˩nuɸu̥tami˥ri](風邪を拗らさないように体を温めなさい)。パ˩ナシキ˥ ナ˩マジラ˥シティ ビ˩スンカーリベー [pa˩naʃi̥ki˥na˩maʤira˥ʃi̥ti bi˩suŋkaːri beː](風邪を拗らして酷く打ち据えられて＜衰弱して＞いる)。ナ˩マジラ˥スˬクトー ˩ナー˥ヌ [na˩maʤira˥su ˥ku̥toː ˩naː˥nu](拗らすことはない)。ナ˩マジラ˥シェー ˥ミサムヌ [na˩maʤira˥ʃeː ˥misamunu](拗らせばいいのに)。ナ˩マジラ˥シバ [na˩maʤira˥ʃiba](拗らせよ)。2じらす(焦らす)。じれさせる。いらいらさせる。˥アイニ ˩スー˥カー プ˩スバ˥ マ˩タ˥シ ナ˩マジラ˥スンダ ナ˩マジラサン˥ドーシ ˩ヌー˥スーティ ˩パー˥ク キ˩ミリ˥バ [˥ʔaini ˩suː˥kaː pu̥˩suba˥ ma˩taʃi na˩maʤira˥sunda na˩maʤirasan˥doːʃi ˩nuː˥suːti ˩paː˥ku ki˩miri˥ba](そうやったら、人を待たせることになって焦らすから、焦らさないで、如何すると早く決めなさい)。ナ˩マジラ˥シ ˩ナー˥ヌ [na˩maʤira˥ʃi ˩naː˥nu](焦(ジ)らせてしまった)。ナ˩マジラ˥ス プ˩スル ワッ˥サ [na˩maʤira˥su pu̥˩suru was˥sa](焦らせる人が悪い)。ナ˩マジラ˥シェー ˥ミサムヌ [na˩maʤira˥ʃeː ˥misamunu](焦らせばいいのに)。ナ˩マジラ˥シバ [na˩maʤira˥ʃiba](焦らせよ)。3病気を完治させないで長引かせる。˩ヤン˥マイ ナ˩マジラス˥ナ [˩jam˥mai na˩maʤirasu˥na](病気を長引かせるな)。

ナ˩マジリ˥ッふァイ [na˩maʤiri˥ffai]【名】嫌々ながら食べること。食傷気味の食い方。食いあきたような食べ方。ッ˩ふァイアキリバ シー˥ ナ˩マジリ˥ッふァイ ˩シー˥ シケー [f˩fai?akiriba ʃiː˥ na˩maʤiri˥ffai ˩ʃiː˥ʃi̥keː](食い厭きて食傷気味な食い方をしてある)。

ナ˩マジリ˥フイ [na˩maʤiri˥ɸui]【名】しょぼしょぼと降ること。本降りにならないでだらだら降ること。カシー˩カシー フイ˥ヤー サ˩ムティ˥ キューン ナ˩マジリ˥フイ ˩スンダ ピッ˥チンツァン ウ˩ロイ˥ヤー ˩サンバン [kaʃiː˩kaʃiː ɸui˥ja: sa˩muti˥ kjuːn na˩maʤiri˥ɸui ˩sunda pit˥ʧintsaŋ ʔu˩roi˥jaː ˩sambaŋ](ちゃんと＜本格的に＞降りはしないで、今日もしょぼしょぼ降りをするから、畑にはちっとも潤いがしないよ)。

ナ˩マ˥ジルン [na˩ma˥ʤiruŋ]【自動】ぐずつく(愚図つく)。のろのろする。優柔不断になる。キ˩ミラムティ˥ ナ˩マ˥ジリ ˩ベーン˥ケンマー ウ˩クリ ナー˥ヌ [ki˩miramuti˥ na˩ma˥ʤiri ˩beːŋ˥kemmaː ʔu˩kuri naː˥nu](決めないでぐずぐずしているうちに遅れてしまった)。ナ˩マジラン˥ドーシ ˩パー˥ク キ˩ミリ [na˩maʤiran˥doːʃi ˩paː˥ku ki˩miri](ぐずぐずしないで早く決めろ)。ウ˩リン˥ シ˩ミル˥カー ナ˩マ˥ジルンダー シ˩ミルナ [ʔu˩riŋ˥ ʃi˩miru˥kaː na˩ma˥ʤirunda ʃi˩miruna](彼にさせると愚図つくからさせるな)。ナ˩マ˥ジル ˥クトー ˩ナーン˥パジ [na˩ma˥ʤiru ˥kutoː ˩naːm˥ paʤi](愚図つくことはないはずだ)。ナ˩マ˥ジレー ˥ミサムヌ [na˩ma˥ʤireː ˥misamunu](愚図つけばいいのに)。˩マー˥ビン ナ˩マ˥ジリバ [˩maː˥bin na˩ma˥ʤiriba](もっと愚図つけよ)。シ˩グトゥ˥ ナ˩マ˥ジリ ˩ベー [ʃi˩gutu˥ na˩ma˥ʤiri ˩beː](仕事をのろのろとやっている)。

ナ˩マスブ˥ル [na˩masubu˥ru]【名】生首。「生頭」の義。サ˩リスブル [sa˩risuburu](しゃれこうべ＜髑髏＞)の対義語。カ˩ツヌ˥ ナ˩マスブ˥ル ˩イー˥リ ˥

キーティ　˞オー˞ヌ　˞ダシ　˞シー˞バ [kạ˞tsunu˞ na ˞masubu˞ru ˞ʔiː˞ri ˞kiːti ˞ʔoː˞nu ˞daʃi ˞ʃiː˞ba](カツオの頭を貰ってきて豚の餌の出汁にしなさいよ)。

ナ˞マスブル˞ヤン [na˞masuburu˞jaŋ] 【名】少々の頭痛。何となしに痛むような頭痛。二日酔いのような鈍痛。シ˞トゥム˞テーラ　ナ˞マスブル˞ヤンバ　˞シー　ベータ˞ヌ　ニ˞チ˞ヌ　ン˞ジ˞ルンティル　˞アイ　ブ˞レー˞ル [ʃị˞tumu˞teːra na˞masuburu˞jamba ˞ʃiː beːta˞nu ni˞ʧi˞nu ʔn˞ʤi˞runtiru ˞ʔai bu˞reː˞ru](今朝から少々の頭痛がしていたが、熱が出る前兆で＜熱が出ようとして＞そうだったのであろう)。

ナ˞マ˞タキ [na˞ma˞taki] 【名】生竹。サ˞リタキ [sa˞ritaki](枯れた竹) の対義語。青竹。ナ˞マ˞タキ　˞キシ　˞クーバ [na˞ma˞tạki ˞kị̥ʃi ˞kuːba](青竹を切ってこいよ)。ナ˞マタキ˞ヌ　˞カーシル　˞バー˞キ　フ˞ム˞タ [na˞mataki˞nu ˞kaːʃiru ˞baː˞ki ɸu˞mu˞ta](生竹の皮でバーキ＜竹笊＞を編んだ)。

ナ˞マタム˞ヌ [na˞matamu˞nu] 【名】生の薪。生木を切って割った薪。「生焚き物」の転訛したものか。ナ˞マタム˞ノー　˞プシティ　タ˞ム˞ヌダナナ　シ˞ミティル　モーシタ [na˞matamu˞no: ˞puʃị̥ti ta˞mu ˞nudanana: ʃi˞mitiru moːʃita](生の薪は日に干して、竈の上の薪棚に積んで＜ぞ＞燃やしたものだ)。サ˞リタムヌ [sa˞ritamunu](乾燥した薪。枯れ木の薪) の対義語。ナ˞マタム˞ノー　˞プシティ　サ˞ラサン˞カー　˞ムイラヌ [na˞matamu˞no: ˞pụʃiti sa˞rasaŋ˞ka: ˞muiranu](生木の薪は干して枯らさないと燃えない)。

ナ˞マ˞ッサ [na˞ma˞ssa] 【名】生の草。青々とした草。サ˞リッサ [sa˞rissa](枯れ草) の対義語。ピ˞ビザー˞　ナ˞マッサ˞ル　ッ˞ふー˞ダー　サ˞リッサー˞　ッ˞ふァーヌ [pi˞biʤaː˞ na˞massa˞ru f˞fuː˞daː sa˞rissaː˞ f˞faːnu](山羊は生の草を食べるのだよ。枯れ草は食べない)。

ナ˞マッサリ˞カザ [na˞massari˞kaʤa] 【名】生臭い臭い。魚類の腐臭。˞アウッサリ˞カザ [˞ʔaussari˞kaʤa](生臭い臭い。魚類の腐臭) ともいう。ミ˞ジンダラ˞ヌ　ミ˞ジバ˞　ナー˞イ˞　タ˞ミ˞　シケーティル　ナ˞マッサリカザ˞ヌ　˞スート ナー [mi˞ʤindara ˞nu mi˞ʤiba˞ naː˞i˞ ta˞mi˞ ʃị̥keːtiru na˞massarikaʤa˞nu ˞suːトnaː](台所の流しの水を溜めて放置してあるので生臭い臭いがするのだなあ)。

ナ˞マ˞ッス [na˞ma˞ssusu] 【名】なまぐそ (生糞)。排便後間のない、生の状態の糞。乾燥していない糞便。ミ˞チ˞ナー　˞イン˞ヌ　ッ˞ス˞バ　˞マリシケー　˞ムヌ　ナ˞マ˞ッス　˞フンキティ˞　スズー˞コ　オス˞ク　シ˞ラリ　ナーン˞シェン [mi˞ʧi˞naː ˞ʔin˞nu s ˞su˞ba ˞mariʃị̥keː ˞munu na˞ma˞ssu ˞ɸuŋkiti˞ suʤuː˞ko ʔosụ˞ku ʃi˞rari naːŋ˞ʃeŋ](道中に犬が糞をしてあるものを、生糞を踏みつけて、したたかに迷惑を＜難儀を＞かけられてしまった＜ひどい目にあわされた＞)。

ナ˞マトー˞フ [na˞matoː˞ɸu] 【名】生豆腐。加熱してない豆腐。煮る、焼く、揚げる等の調理をしてない豆腐。イ˞サナキヌ˞　マチナーヤ　ナ˞マトー˞フン　˞カーシブン˞ツォー [ʔi˞sanakinu˞ matʃinaːja na ˞matoː˞ɸuŋ ˞kaːʃibun˞tsoː](石垣の市場では生豆腐も売っているそうだ)。

ナ˞マ˞ドゥー [na˞ma˞duː] 【名】生身。生身の体。ナ˞マ˞ドゥー　ム˞ティムヌ˞ヌ　˞ヌンティ　˞アイブ　ク˞ト˞バ　シ˞ラリラー＜シ˞ラリワ＞[na˞ma˞duː mu˞timunu˞nu ˞nunti ˞ʔaibu kụ˞tu˞ba ʃi˞rarira:＜ʃi˞rariwa＞](生身の体を持つ者が、どうしてあんなことが出来ようか)。ナ˞マ˞ドゥー　キ˞サ˞リスコー　˞ンーニ˞　ヤ˞ミ˞シタ [na˞ma˞duː kị̥˞sa˞risụko: ˞nːni ˞ja˞mi˞ʃị̥ta](生身を切られるほど胸が痛んだ)。ア˞シブ˞ヌ　˞ウー˞ミティ　ヤ˞ム˞バティ　˞シー˞　バー　ナ˞マ˞ドゥーナ　˞カン˞スル　˞カキ　バ˞ル˞クトー　˞シー　ユーサヌ [ʔa˞ʃibu˞nu ˞ʔuː˞miti ja˞mu˞bati ˞ʃiː˞ baː na˞ma˞duːna ˞kan˞suru ˞kạki ba˞ru˞ kụto: ˞ʃiː juːsanu](おでき＜御出来＞が化膿して痛むからといって、私は生の体に剃刀をかけて切開することは出来ない＜なし得ない＞)。

ナ˞マ˞ニー [na˞ma˞niː] 【名】生煮え。ク˞ヌ　イー˞ヤ　ナ˞マ˞ニー　˞シーベー　ニー˞　ブ˞ラーヌ [ku ˞nu ʔiː˞ja na˞ma˞niː ˞ʃiːbeː niː˞ bu˞raːnu](このご飯は生煮えしている。十分に煮えていない)。˞ピー˞バ　カ˞タモー˞シ　シ˞ター˞ル　ユー　˞イー˞ヤ　ナ˞マ˞ニー　˞シーブー [˞piː˞ba kạ˞tamoː˞ʃi ʃị̥˞taːru˞juː ˞ʔiː˞ja na˞ma˞niː ˞ʃiːbuː](火を竈の片側に燃やしたからか、ご飯は生煮えしているのだ)。˞ワー　イー˞ヤ　ナ˞マ˞ニー　˞シー　ベー˞バ　ッ˞ふァーラヌ [˞waː ʔiː˞ja na˞ma˞niː ˞ʃiː beː˞ba f˞faːranu](君の炊いたご飯は半煮え＜生煮え＞しているから食べられない)。

ナ˞マ˞ニク [na˞ma˞niku] 【名】生肉。なまの肉。調理してない肉。˞オー˞ヌ　ナ˞マ˞ニコー　ッ˞ふァーヌヌ　ンーマ˞ヌ　ナ˞マ˞ニコー　ッ˞ふー˞　プ˞スンブン˞ツォー [˞ʔoː˞nu na˞ma˞niko: f˞faːnunu ʔmːma˞nu na˞ma˞niko: f˞fuː˞ pụ˞sum bun˞tsoː](豚の生肉は

食べないが、馬の生肉は食べる人もいるそうだ)。

ナ˹マ˺パー [na˹ma˺pa:]【名】生の葉っぱ。青葉。サ˹リパー [sa˹ripa:](枯れ葉) の対義語。˹タイ˺フーナー ˹キー˺ヌ　ナ˹マ˺パー　ムー˹ル　アイ˺ウティ　˹ナー˺ヌ [˹tai˺ɸu:na: ˹ki:˺nu na˹ma˺pa: mu:˹ru ʔai˺ʔuti ˹na:˺nu](台風で樹木の青葉が全部ちぎれ落ちて <毟(ムシ)られ、捥(モガ)がれるように散り落ちて > しまった)。

ナ˹マ˺パー [na˹ma˺pa:]【名】虫歯になっていない健康な歯。˹生歯」の義。フ˹トゥッチ˺パー [ɸu̥˹tuttʃi ˺pa:](虫歯。朽ち歯) の対義語。ナ˹マパー˺ヌ　ブ˹リ˺ルンケン　˹ティー˺スクン　ッ˹ふァーサリベー [na˹mapa:˺nu bu˹ri˺ruŋken ˹ti:˺su̥kuŋ f˹fa:sari be:](生歯が折れるほどに拳骨を食わされている)。

ナ˹マパティ˺ムヌ [na˹mapati˺munu]【名】生意気な者。横着な者。「生果て者」の義。˹ウンザー˺　ナ˹マパティ˺ムヌ　ヤ˹ルンダ˺　ノー˹ン˺　ウ˹バーヌ [˹ʔundza:˺ na˹mapati˺munu ja˹runda no:˹ŋ˺ ʔu˹ba:nu](あいつ < 彼奴 > は横着者だから何も恐れない)。

ナ˹マ˺バライ [na˹ma˺barai]【名】生意気な笑い。人を食った笑い。人を馬鹿にした笑い。ふてぶてしい < 不敵不適しい > 笑い。ナ˹マ˺バライ　˹シー˺　ナー˹イ˺　プ˹スヌ˺　パ˹ナシ˺バ　シ˹キベー [na˹ma ˺barai ˹ʃi:˺ na:˹i˺ pu̥˹sunu˺ pa˹naʃi˺ba ʃi̥˹ki be:](人を小馬鹿にしたような笑いを顔に浮かべて、ただ人の話をきいている)。

ナ˹マ˺プニ [na˹ma˺puni]【名】生の骨。サ˹リプニ [sa ˹ripuni](枯れた骨。死後何年も経つた骨) の対義語。カ˹ツヌ˺　ナ˹マ˺プニ　パ˹タ˺ケー　カ˹タ˺ミ　˺パリ [kḁ˹tsunu˺ na˹ma˺puni pḁ˹ta˺ke: kḁ˹ta˺mi ˺pari](カツオの生の骨を畑に担いでいけ)。

ナ˹マプリ˺ムヌ [na˹mapuri˺munu]【名】半気違い。うすばか。「生狂れ者」の義。ナ˹マンダプリムヌ [na˹mandapurimunu](半気違い。< 生狂れ者 >) ともいう。プ˹リル˺カー　カ˹シーカシール˺　プ˹リル˺　ナ˹マプリ˺ムヌ　˺ナリティ　プ˹スバ　オス˺ク　˹シーベー [pu˹riru˺ka: ka˹ʃi:kaʃi:ru˺ pu˹riru˺ na ˹mapuri˺munu ˺nariti pu̥˹suba ʔosu̥˺ku ˹ʃi:be:](狂うならいっそのこと完全に狂えばよいのに、半気違いになって人に迷惑をかけている)。

ナ˹マ˺マイ [na˹ma˺mai]【名】生米。玄米。ナ˹マ˺マイ　˹カン˺ザリ　ッ˹ふー˺　ッ˹ふァー˺　ム˹シヌ　ブー˺ティ　ム˹カ˺シプソー　ア˹ゾーッ˺タ [na˹ma˺mai ˹kan˺dzari f˹fu:˺ f˹fa:˺ mu˹ʃinu bu:˺ti mu˹ka˺ʃipu̥so: ʔa ˹dzo:t˺ta](生米を咬んで食べる子供は、御腹に虫がいると昔の人は言われた)。

ナ˹マミー˺ス [na˹mami:˺su]【名】生味噌。料理してない味噌。˹アンダミー˺ス [˹ʔandami:˺su](脂味噌) の対義語。ナ˹マミース˺バ　ミ˹ジ˺ナ　˺タリティ　˹クースン˺　イ˹リティル˺　ナ˹マ˺シェー　ン˹コーッ˺タ [na˹mami:su˺ba mi˹dʑi˺na: ˺tariti ˹ku:suŋ˺ ʔi ˹ritiru˺ na˹ma˺ʃe: ʔŋ˹ko:t˺ta](生味噌を水に溶かして唐辛子も入れて < ぞ > 刺身は召し上がられたものだ)。

ナ˹マ˺ミジ [na˹ma˺midʑi]【名】生水。ナ˹マ˺ミジェー　ヌ˹マサン˺ドーシ　ヤー˹ディン˺　フ˹カ˺シティ　ヌ˹マ˺シ [na˹ma˺midʑe: nu˹masan˺do:ʃi ja:˹diŋ˺ ɸu̥˹ka˺ʃi̥ti ˺numi](生水は飲まさないで、必ず沸かして飲ませなさい)。ナ˹マ˺ミジ　˺ヌムカー　˺バター　ヤ˹ビ˺シバ　ヤー˹ディン˺　ユー　フ˹カシ˺ティ　ヌミ˹ヨー [na˹ma˺midʑi ˺numuka: ˺bata: ja˹bi˺ʃiba ja:˹diŋ˺ ju: ɸu̥˹ka˺ʃi̥ti numi˹jo:](生水を飲むと御腹をこわすから、必ずお湯を沸かして飲みなさいよ)。

ナ˹マ˺ムヌ [na˹ma˺munu]【名】生もの。加熱調理して無いもの。˺ドゥク　ナ˹マ˺ムヌ　ッ˹ふァイティル˺　バタ　˹ピーラシ˺ティ　˺バタ　ヤ˹ブ˺リシケー [˺duku na˹ma˺munu f˹faitiru˺ bata ˹pi:raʃi̥˺ti ˺bata ja˹bu˺riʃi̥ke:](過度に生ものを食べてお腹を冷して、お腹を壊して < 下痢して > あるよ)。ナ˹マ˺ムノー　˺ナルダケー　ヤ˹ラビン˺マー　ッ˹ふァースナ˫ ヨー [na˹ma˺muno: ˺narudake: ja˹rabim˺ma: f ˹fa:suna˫jo:](生ものは、出来るだけ子供には食べさせるなよ)。ナ˹マ˺ムノー　˹ナームテー　サンバ　パー˺ク　ッ˹ふァイ˺ヨー [na˹ma˺muno: ˹na:mute: samba pa:˺ku f˹fai˺jo:](生物は長持ちしないので早く食べなさいよ)。

ナ˹マラ˺スン [na˹mara˺suŋ]【他動】**1**刃物を切れないようにする。カ˹タナ˺ヌ　˺パー　ナ˹マラ˺スン [kḁ˹tana˺nu ˺pa: n˹amara˺suŋ](刀の刃を鈍(ナマ)らす)。**2**不名誉にする。人の名をおとしめ (貶め) る。ヤ˹ラビ˺ヌ　サ˹キバ˺　ヌミティ　˺ウヤ　ナ˹マラ˺スンティ　˺クトー　ス˹ナ˺　ウヤ　ナ˹マラサン˺ドーシ　パ˹タラキ [ja˹rabi˺nu sḁ˹kiba˺ numiti ˺ʔuja na˹mara˺sunti ˺ku̥to: su˹na˺ ʔuja na˹marasan˺do:ʃi pḁ˹taraki](子供が酒を飲んで親の名を貶(オトシ)めようとすることはするな。親を貶めないで働きなさい)。˺ウヤ　ナ˹マラ˺シ　˹ナーヌ˺ヌ　マ˹ナ˺マーラ　˺アトー　˺ウヤ　ナ˹マラ˺ス　˺クトー　サ˹ヌ [˺ʔuja na˹mara˺ʃi ˹na:nu ˺nu ma˹na˺ma:ra ˺ʔato: ˺ʔuja na˹mara˺su ˺ku̥to: sa˹nu](親の名を貶めてしまったが、今後は親を貶め

ることはしない)。ナ˞マラ˥シェー　˥ミサムヌ [na˞mara˥ʃe: ˥misamunu](貶めればいいのに)。˞マー˥ビン　ナ˞マラ˥シ [˞ma:˥bin na˞mara˥ʃi](もっと貶めよ)。

ナ˞マ˥リ [na˞ma˥ri] 【名】鉛。ウ˞ツァン˥ヌ　˥アシェー　ナ˞マ˥リシル　ス˞クラ˥リ　˞ブー [ʔu˞tsan˥nu ˥ʔaʃe: na˞ma˥riʃiru sɥ˞kura˥ri ˞bu:](投網のおもり < 錘 > は鉛で作られている)。サ˞ビ˥ケー　ナ˞マリ˥トゥ　トゥ˞ルンパニ˥シル　ス˞ク˥ローッタ [sa˞bi˥ke: na˞mari˥tu tu˞rumpani˥ʃiru sɥ˞ku˥ro:tta](さびき釣りの疑似餌は鉛と鶏の羽で作られた)。

ナ˞マ˥ルン [na˞ma˥ruŋ] 【自動】不名誉になる。恥をかく。˥ウヤ　ナ˞マラ˥スン [˥ʔuja na˞mara˥suŋ](親に恥をかかせる) ともいう。˞ホール˥キシムニ　イ˞ズ˥カー　ナ˞マ˥ルンダ　ナ˞マラン˥スコーシ　˥ムネー　イ˞ジ˥ヨー [˞ho:ru˥kiʃimuni ʔi˞ʤu˥ka: na˞ma˥runda na˞maran˥sɥko:ʃi ˥mune: ʔi˞ʤi˥jo:](思慮分別のない < 常識外れの > ことを言うと恥をかくから、恥をかかないようにものは言いなさいよ)。キサー˞ティ˥　ナ˞マ˥リ　˞ナー˥ヌ [kisa:˞ti˥ na˞ma˥ri ˞na:˥nu](すでに恥をかいてしまった)。ウ˞ビッチン˥ヌ　˥クトゥシ　ナ˞マ˥ル　˥クトー　˞ナー˥ヌ [ʔu˞bittʃin˥nu ˥kɥtuʃi na˞ma˥ru ˥kɥto: ˞na:˥nu](これぽちのことで恥をかくことはない)。ナ˞マ˥レー　˥ミサムヌ [na˞ma˥re: ˥misamunu](恥をかけばいいのに)。ナ˞マ˥リバ [na˞ma˥riba](恥をかけ)。

ナ˞マ˥ルン [na˞ma˥ruŋ] 【自動】なまる (鈍る)。切れ味が鈍くなる。技量や力が落ちてくる。ユ˞ヌ˥　カ˞タ˥ナ　カー˞ニ˥　シゥ˞カウ˥カー　ナ˞マ˥ルンダ　ビ˞チ˥ヌ　カ˞タ˥ナン　シゥ˞カウ˥カー　ナ˞マラ˥ヌ [ju˞nu˥ ka˞ta˥na ka:˞ni˥ sɨ˞kau˥ka: na˞ma˥runda bi˞ʧi˥nu kɑ˞ta˥nan sɨ˞kau˥ka: na˞mara˥nu](同じ包丁だけ使うと鈍るので、別の包丁も使ったら鈍らない)。ナ˞マ˥リティ　キ˞シラン˥バン [na˞ma˥riti kɨ˞ʃiram˥baŋ](鈍って切れないよ)。˞オーパ˥ヤー　ナ˞マ˥ル　˥クトー　˞ナー˥ヌ [˞ʔo:pa˥ja: na˞ma˥ru ˥kɥto: ˞na:˥nu](そんなに早く鈍ることはない)。ナ˞マ˥レー　˥ミサムヌ [na˞ma˥re: ˥misamunu](鈍ればいいのに)。˞パー˥ク　ナ˞マ˥リバ [˞pa:˥ku na˞ma˥riba](早く鈍れ)。

ナ˞マ˥ルン [na˞ma˥ruŋ] 【自動】小潮になる。潮の干満の差が小さくなる。˞訛る」の意味派生したもの。シ˞キ˥ヌ　ン˞ジラン˥　ピンマー　˞スー˥ヤ　ナ˞マ˥ルン [ʃɨ˞ki˥nu ʔn˞ʤiram˥ pimma: ˞su:˥ja na˞ma˥ruŋ](月の出ない時は潮は小潮になる < 余り潮が引かない >)。

ナ˞マンダ- [na˞manda-] 【接頭】中途半端。生半可。名詞、動詞の連用形 (転成名詞) に上接してそれを修飾し、未熟なもの、不十分なこと、完全に～しない状態の意を表す。ヤ˞ラ˥ベー　ナ˞マンダニビ˥　シ˞ティル˥　キ˞ム˥シル　˞シー　ベー˥ナー [ja˞ra˥be: na˞mandanibi˥ ʃɨ˞tiru˥ ki˞mu˥ʃiru ˞ʃi: be:˥na:](子供は熟睡できなくて < 中途半端に寝て >、愚図ついて < ぐずって > いるのだなあ)。

ナ˞マンダアクビ [na˞manda?akubi] 【名】なまあくび (生欠伸)。中途半端な欠伸。ヤ˞ラ˥ベー　ナ˞マンダアクビ　シーベー˥バ　˞ニフター˥ル　˥パジ　˞パー˥ク　ニ˞バシ [ja˞ra˥be: na˞manda?akubi ʃi:be:˥ba ˞niɸɥta:˥ru ˥paʤi ˞pa:˥ku ni˞baʃi](子供は生欠伸をしているから眠たいのだろう、早く寝かせなさい)。

ナ˞マンダイキ [na˞manda?iki] 【名】絶え絶えの息。やっとで呼吸しているような息遣い。カ˞ライキ [ka˞raiki](絶え絶えの息遣い) ともいう。ナ˞マンダイキル　ソーリ˥バ　˞ソーサン˥カー　ナ˞ラント ナー [na˞manda?ikiru so:ri˥ba ˞so: saŋ˥ka: na˞ranト na:](絶え絶えの息遣いをしておられるから、今後の心配をしないとけないねえ)。

ナ˞マンダイビ [na˞manda?ibi] 【名】不十分な植え方。粗雑な植え方。整然としない半端な植え方。手入れの悪い植え方。ヤ˞サイ˥ヤー　ナ˞マンダイビ　シー˥　シケーティ　ガ˞ギリ　ベー [ja˞sai˥ja: na˞manda?ibi ʃi:˥ ʃɨke:ti ga˞giri be:](野菜は粗雑に植えてあるので発育不良になっている)。

ナ˞マンダウーミ [na˞manda?u:mi] 【名】 1半熟すること。中途半端に熟れること。未熟。「生熟れ」の義。˞バン˥スロー　ナ˞マンダウーミ　シー　ベー˥テイ　ン˞マーナー˥ヌ [˞ban˥suro: na˞manda?u:mi ʃi: be:˥ti ʔm˞ma: na:˥nu](番石榴 < グワバ > は中途半端に熟れて < 半熟して > いるから美味しくない)。2中途半端に化膿すること。ア˞シ˥ボー　ナ˞マンダウーミ　シーベー˥ティ　ヤ˞ミ˥ス [ʔa˞ʃi˥bo: na˞manda?u:mi ʃi: be:˥ti ja˞mi˥su](御出来は半分化膿しているので痛むよ)。

ナ˞マンダウブイ [na˞manda?ubui] 【名】なまおぼえ (生覚え)。疎(ウロ)覚え。中途半端な記憶。˞ウンマー˥　ヤ˞ラ˥ビ　ヤ˞レー˥ティ˞ヨー˥　イ˞クサユー˥ヌ　˥クトー　ナ˞マンダウブイル　シー　ブー˥サー [˞ʔumma:˥ ja˞ra˥bi ja˞re:˥ti˞jo:˥ ʔi˞kusaju:˥nu ˥kɥto: na˞manda?ubuiru ʃi: bu:˥sa:](あの頃は子供だったからねえ、戦争の頃の < 戦世の > ことはうろ覚えして

いるさ)。

ナ˞マンダカーラキ [na˞mandakaːraki] 【名】生乾き。半乾き。十分に乾いていないこと。「生乾き」の転訛したもの。ク˞ヌ　キン˥マー　ナ˞マンダカーラキ　シー　ベー˥バ　˞マー˥ビン　˥プシバ [ku˞nu kim˥maː na˞manda kaːraki ʃiː beː˥ba ˞maː˥bim ˥pu̥ʃiba](この着物は半乾きしているから、もっと干しなさいよ)。

ナ˞マンダカイシ [na˞mandakaiʃi] 【名】中途半端な耕し方。じっくり耕さないこと。念入りに耕さないこと。˥スブットーヤ　ナ˞マンダカイシ　シティ˥　ウン　イ˞ビ˥　シケーティ　ウ˞リヌ˥　パ˞タ˥ケー　ッ˞サ˥ヌ　˞ムイカバ˥シティ　˞ウン˥マー　˞ミーラヌ [˥subutto:ja na˞mandakaʃi ʃi̥ti˥ ʔuŋ ʔi˞bi˥ ʃi̥keːti ʔu˞rinu˥ pḁ˞ta˥keː s˞sa˥nu ˞muiaba˥ʃi̥ti ˞ʔum˥maː ˞miːranu](怠け者は中途半端に耕して芋を植えてあるので、彼の畑は雑草が繁茂して芋はちっとも実らない)。

ナ˞マンダカマン˥ダ [na˞mandakaman˥da] 【副】不十分に。中途半端に。ABCDEBCD 型の重言。シ˞グトー˥　ナ˞マンダカマン˥ダ　˞スー˥カー　˥ティマー　˞イーララ˥ヌ [ʃi˞guto:˥ na˞mandakaman˥da ˞suː˥kaː ˥timaː ˞ʔiːrara˥nu](仕事は中途半端にすると、手間賃は貰えない)。

ナ˞マンダカンザリ [na˞mandakandʑari] 【名】充分に咀嚼(ソシャク)しないこと。中途半端に噛むこと。生半可な噛み方。ッ˞ふァイムノー˥　ナ˞マンダカンザリ　サンドー˥シ　イッ˞ケン　カン˥ザリティ　ッ˞ふァイトヨー [f˞faimuno:˥ na˞mandakandʑari sando:˥ʃi ʔik˞keŋ kan˥dʑariti f˞faiɨ-jo:](食べ物は生半可に噛まないで、充分に＜たくさん＞噛んで食べなさいよ)。

ナ˞マンダクラシ [na˞mandakuraʃi] 【名】半殺し。生殺し。ナ˞マンダクラシ　シー˥　シケータ　パ˞ボー˥　ヌ˞チ˥　ムイ　˞ピン˥ギ　˥パリ　˞ナー˥ヌ [na˞mandakuraʃi ʃiː˥ ʃi̥keːta pa˞pabo:˥ nu˞tʃi˥mui ˞piŋ˥gi˥pari ˞naː˥nu](半殺しにしてあった蛇は生き返って逃げていってしまった)。

ナ˞マンダシー [na˞mandaʃiː] 【名】中途半端にすること。好い加減にすること。ナ˞マンダシー　サンドー˥シ　˞スー˥カー　カ˞シーカシー　シー˥バ [na˞mandaʃi: sando:˥ʃi ˞suː˥kaː kḁ˞ʃiːkaʃiː ʃiː˥ba](中途半端な仕方はしないで、するならしっかりと最後までやりなさい)。

ナ˞マンダシキ [na˞mandaʃi̥ki] 【名】なまぎき (生聞き)。十分に聞き取らないこと。中途半端な聞き方。ちょっと聞いて知ったふりをすること。プ˞スヌ˥　ア˞ズ˥ムニ　ナ˞マンダシキ　スンダル˥　マ˞チガイ˥ル˞ダー [pu̥˞sunu˥ muni na˞mandaʃi̥ki sundaru˥ ma˞tʃigai˥ru˞daː](人の言うことを生聞きするから間違えるのだよ)。ナ˞マンダシキ　サンドー˥シ　˞ミン˥バ　サ˞ライ˥＜トゥ˞ルッ˥サイ＞　シ˞キ˥バ [na˞mandaʃi̥ki sando:˥ʃi ˞mim˥ba sa˞rai˥＜tu˞rus˥sai＞ ʃi̥˞ki˥ba](生聞きしないで耳を澄まして＜耳を浚えて＞聞きなさい)。

ナ˞マンダシキ [na˞mandaʃi̥ki] 【名】不十分な漬け方。塩分不足の不完全な浸け方。˞ダイ˥クネー　ナ˞マンダシキ　シー˥　シケーティ　˥ッサリ　˞ナー˥ヌ [˞daiˉkune: na˞mandaʃi̥ki ʃiː˥ ʃi̥keːti ˥ssari ˞naː˥nu](大根は塩分不足の漬け方をしてあったので腐れてしまった)。

ナ˞マンダシグトゥ [na˞mandaʃigutu] 【名】中途半端な仕事。いい加減な仕事。ナ˞マンダシグトゥ　スー˥カー　マ˞タザークル　シーバ　ニン˥バ　˥イリ　シ˞グトゥ　シー˥ヨー [na˞mandaʃigutu suː˥kaː ma˞tadʑaːɸuru ʃiːba nim˥ba ˥ʔiri ʃi˞gutu ʃiː˥joː](中途半端な仕事をしたら、やり直し＜二度手間。二度仕事＞をするから、念入りに仕事をしなさいよ)。

ナ˞マンダシニ [na˞mandaʃini] 【名】半死半生。「半端死に」の義。生殺しの状態。半殺しの状態。ク˞ヌ˥　パ˞ボー˥　ナ˞マンダシニ　シー　ベー [ku˞nu˥ pa˞bo:˥ na˞mandaʃini ʃiː beː](この蛇は完全に死んでいない＜中途半端に死んでいる＞)。

ナ˞マンダ˥スーピサール [na˞manda˥suːpisaːru] 【名】小潮。大潮でないときの潮干。˞スー˥チズー [˞suː˥tʃidʑuː](大潮の時の潮干) の対義語。ク˞ヌ˥　シケー　ナ˞マンダ˥スーピサール　˥ナリティ　イ˞ソー˥　パ˞ラ˥バン　˥タクン　トゥ˞ララ˥ヌ　パ˞ギ˥ス [ku˞nu˥ ʃi̥keː na˞manda˥suːpi̥saːru ˥nariti ʔi˞soː˥ pa˞ra˥ban ˥tḁkun tu˞rara˥nu pa˞gi˥su](今月は小潮になって、潮干狩りに行っても蛸も獲れない。まるはげ＜不漁＞になる)。

ナ˞マンダスクリ [na˞mandasu̥kuri] 【名】中途半端な作り方。いい加減な作り方。イ˞ガジー˥　ス˞クラシ˥ター　ナ˞マンダスクリ˥　シ˞ティ˥　シ˞ティシ˥ケー [ʔi˞gadʑiː˥ su̥˞kuraʃi̥˥ta: na˞mandasu̥kuri˥ ʃi̥˞ti˥ ʃi̥˞tiʃi̥˥keː](烏賊釣り用の餌木を作らせたら中途半端に作ってほったらかしにしてある)。

ナ˞マンダスリ [na˞mandasuri] 【名】1中途半端な茅の刈り方。ガ˞ヤー˥バ　ナ˞マンダスリ　シー˥　シ

ケーティ　シゥ˞カイミチェー　ナー˥ヌ [ga˞ja:˥ba na˞mandasuri ʃi:˥ ʃi̥ke:ti si̥˞kaimitʃe: na:˥nu](茅を中途半端な刈り方をしてあるので使い道＜用途＞がない)。²中途半端な髭剃り。ピ˞ニバ˥　ナ˞マンダスリ　シー˥　シケーティ　ホー˞ガーホーガー˥シ　˞ベー [pi˞niba˥ na˞mandasuri ʃi:˥ ʃi̥ke:ti ho:˞ga:ho:ga:˥ʃi ˞be:](鬚を中途半端に剃ってあるので間抜け面＜とんまな顔＞をしているよ)。

ナ˞マンダソーリ [na˞mandaso:ri] 【名】中途半端な草取り。不徹底な草取り。ウ˞リン˥　パ˞タキ˥ヌ　˥ッサ　˞ソーラシタール˥　ナ˞マンダソーリ　シー˥　シケーバン [ʔu˞rim˥ pḁ˞taki˥nu ˥ssa ˞so:raʃi̥ta:ru˥ na˞mandaso:ri ʃi:˥ ʃi̥ke:baŋ](彼に畑の草取りをさせたらば中途半端な草取りをしてあるよ)。

ナ˞マンダッサーク [na˞mandassa:ku] 【名】中途半端な仕事。ナ˞マンダッサーク　スー˥カー　˥ティマー　˞イーララ˥ヌ [na˞mandassa:ku su:˥ka: ˥tima: ˞ʔi:rara˥nu](中途半端な仕事をすると手間賃はもらえない)。

ナ˞マンダッシ [na˞mandaʃʃi] 【名】中途半端な理解をすること。一知半解すること。なまかじり。なまわかり。「なま＜生＞知り」の義。ナ˞マンダッシバ　シーティ˥　ッ˞シェー˥ン　˞コーラ˥シ　ム˞ヌ˥バ　イ˞ジ　アー˥ク [na˞mandaʃʃiba ʃi:ti˥ ʃ˞ʃe:˥ŋ ˞ko:ra˥ʃi mu˞nu˥ba ʔi˞ɕi ʔa:˥ku](中途半端な理解をして、知ったかぶりをしてものを言っている)。

ナ˞マンダッふァイ [na˞mandaffai] 【名】中途半端な食べ方。しっかり食べないこと。食い散らすこと。˥アシェー　ナ˞マンダッふァイ　シーティル　ヤー˥サティ　˞ユー˥ボン˞バー˥キ　マ˞ティユーサン˥ツォー [˥ʔaʃe: na˞mandaffai ʃi:tiru ja:˥sati ˞ju:˥bom˞ba:˥ki ma˞tiju:san˥tso:](昼食は中途半端にすこしだけ食べたので、ひもじくて夕飯まで待てないそうだ)。

ナ˞マンダニー [na˞mandani:] 【名】生煮え。全体的に十分に煮えないこと。よく煮えていないこと。カ˞マチヌ˥　ピー　カ˞タモー˥シ　˞スー˥カー　˞イー˥ヤ　ナ˞マンダニー　スントダー [ka˞matʃinu˥ pi: kḁ˞tamo:˥ʃi ˞su:˥ka: ˞ʔi:˥ja na˞mandani: sunt̚da:](竈の火を偏って燃やすとご飯は生煮えするぞ)。

ナ˞マンダニビ [na˞mandanibi] 【名】なまね (生寝)。十分に眠らないこと。熟睡してないこと。˥ユベー　ヤ˞ミプス˥ヌ　˞トゥンザ˥ク　˞スンティ˥　ナ˞マンダニビ　シェー˥ティ　˞ニフター˥ヌ　ナ˞ラ˥ヌ [˥jube: ja˞mipusu˥nu ˞tunɕza˥ku ˞sunti˥ na˞mandanibi ʃe:˥ti ˞niɸuta:˥nu na˞ra˥nu](昨夜は病人の看病＜頓着＞をしようとして熟睡してないから＜生寝したから＞眠たくてたまらない)。

ナ˞マンダネーシ [na˞mandane:ʃi] 【名】生煮えにすること。ナ˞マンダネーシ　サンドー˥シ　シゥカイ˞トゥ　ネーシ˥ヨー [na˞mandane:ʃi sando:˥ʃi si̥˞kai˞tu ne:ʃi˥jo:](生煮えにしないで、しっかり＜しかと＞煮なさいよ)。

ナ˞マンダノーシ [na˞mandano:ʃi] 【名】不完全な治療。中途半端な治療。「生治し」の義。˞ヤンマイ˥ヤー　ナ˞マンダノーシ　スー˥カー　˞フッカイスンダ˥　マ˞ナマ˥ヌ　ウ˞チ˥ナー　シカイ˞トゥ　ノー˥シ [˞jammai˥ja: na˞mandano:ʃi su:˥ka: ˞ɸukkaisunda˥ ma˞nama˥nu ʔu˞tʃi˥na: si̥˞kai˞tu no:˥ʃi](病気は中途半端な治療をしたら再発するから、今のうちに完全に＜しっかりと。しかと＞治せ)。

ナ˞マンダノーリ [na˞mandano:ri] 【名】なまいえ (生癒え)。病気や傷が、まだ治りきっていないこと。半分治り。「生治り」の義。˞ソーノーレー˥<˞ソーナウレー˥>　ア˞ラ˥ヌ　ナ˞マンダノーリル˥　ヤ˞ルンダ˥　アイニ　˞ウー˥キカーキ　˞シェー˥　ナ˞ラ˥ヌ [˞so:no:re:˥ <˞so:naure:˥> ʔa˞ra˥nu na˞mandano:riru˥ ja˞runda˥ ʔaini ˞ʔu:˥kika:ki ˞ʃe:˥ na˞ra˥nu](完治ではなく生癒えだから、あんなに動き回ってはいけないよ)。

ナ˞マンダバライ [na˞mandabarai] 【名】苦笑い。作り笑い。そら笑い。ウ˞リヌ˥　パ˞ナ˥シェー　˞ナン˥ゾー　ウ˞ムッサナー˥ユンダ　ムー˞ル˥　ナ˞マンダバライ　シー　ベー [ʔu˞rinu˥ pa˞na˥ʃe: ˞nan˥ɕo: ʔu˞mussana:˥junda mu:˞ru˥ na˞mandabarai ʃi: be:](彼の話はあまり面白くないので、みんな作り笑いをしている)。

ナ˞マンダビー [na˞mandabi:] 【名】生酔い。ほろ酔い。酒に少し酔うこと。ウ˞レー˥　ナ˞マンダビー　スー˥カー　シ˞グ˥　ウ˞ブムニ˥バ　イ˞ズンダル˥　プ˞ストゥ˥　アウ˞ツォー [ʔu˞re:˥ na˞mandabi: su:˥ka: ʃi˞gu˥ ʔu˞bumuni˥ba ʔi˞ɕundaru˥ pu̥˞sutu˥ ʔau˞tso:](彼はほろ酔いすると、すぐ大言壮語するので人と喧嘩するのだよ)。

ナ˞マンダピーリ [na˞mandapi:ri] 【名】十分に冷えないこと。中ほどに冷めること。「生冷え」の義。ア˞チユー˥ヤ　ナ˞マンダピーリ　シー　ベー˥バ　˞ピーリキサン˥ケン　˥ヌミバ [ʔa˞tʃiju:˥ja na˞mandapi:ri ʃi: be:˥ba ˞pi:riki̥saŋ˥ken ˥numiba](熱湯は半分ほど冷めているから、すっかり冷め切らないうちに飲

みなさいよ)。

ナ˞マンダフイ [na˞mandaɸui] 【名】小雨が陰気に降り続くさま。中途半端な降り方。本降りにならないで、小雨がしょぼしょぼ降ること。そぼ降り。しとしと降り。ナ˞マンダフイヤ˥　ウロイ　サ˞ヌ [na˞mandaɸuijaː˥ ʔuroi sa˞nu](そぼ降りは畑に潤いを与えない)。ウ˞ブフイ [ʔu˞buɸui](大降り)、˞ザー˥カフイ [˞ʤaː˥kaɸui](ザーザー降り) の対義語。˥アメー　カシー˞カシー　ホー˥ムティ　ナ˞マンダフイ　シーベー [˥ʔameː kaʃiː˞kaʃiː hoː˥muti na˞mandaɸui ʃiːbeː](雨は本降りにならない < しっかりと降らない > で、しょぼしょぼと降っている)。

ナ˞マンダプシ [na˞mandapuʃi] 【名】半乾燥。中途半端な乾燥。「生干し」の義。˥タクン　イ˞ガン˥　ナ˞マンダプシ　スー˥カー　ッサルン˞ダー [˥takuŋ ʔi˞gan˥ na˞mandapuʃi suː˥kaː ssarun˞daː](蛸も烏賊も半乾燥にすると腐れるよ)。

ナ˞マンダミリ [na˞mandamiri] 【名】中途半端に見ること。しっかり見ないこと。注意して見ないこと。˞キシ˥キミリ [˞kiʃi̥˥kimiri](注視すること。凝視すること) の対義語。˞ワーン˥　カタチニ　ナ˞マンダミリ　スー˥カー　トゥ˞ルマケー　ミシキユーサ˥ヌ [˞waːŋ˥ kḁtatʃini na˞mandamiri suː˥kaː tu˞rumakeː miʃi̥kijuːsa˥nu](君のように中途半端に見るとカツオ鳥の鳥巻きは見つけることができない)。

ナ˞マンダムーミ [na˞mandamuːmi] 【名】中途半端な揉み方。心無い揉みかた。ア˞キリティ˥　ナ˞マンダムーミ　スー˥カー　シ˞グ˥　ワ˞カ˥ルン˞ダー　ニン˥イリ　˞ムーミ　オーシ˥バ [ʔa˞kiriti˥ na˞mandamuːmi suː˥kaː ʃi˞gu˥ wa˞ka˥run˞daː niŋ˥ ʔiri ˞muːmi ʔoːʃi˥ba](厭きて心無い中途半端な揉み方をするとすぐ分かるよ。入念に揉んで差し上げなさいよ)。

ナ˞マンダムニ [na˞mandamuni] 【名】中途半端な言い方。煮え切らない言い方。不明瞭な言い回し。なまへんじ (生返事)。ナ˞マンダムニ˥ル　ア˞ゾー˥ルンダ　˞クンドゥ˥ヌ　パ˞ナ˥シェー　˞ナン˥ゾー　ミ˞ク˥メー　˞ナー˥ヌ [na˞mandamuni˥ru ʔa˞ʤoː˥runda ˞kundu˥nu pa˞na˥ʃeː ˞nan˥ʤoː mi˞ku˥meː ˞naː˥nu](生返事 < 中途半端な言い方 > をなさるから、今度の話はあまり見込みはないよ)。

ナ˞マンダリ˥ムヌ [na˞mandari˥munu] 【名】怠け者。だらだらして仕事をしない者。ウ˞シクラシムヌ [ʔu˞ʃikuraʃimunu](怠け者) ともいう。ナ˞マンダリ˥ムヌ　ヤ˞ルンダ˥　プ˞スヌ　パンブン˥ドゥ　シ˞グトゥン　シーユース [na˞mandari˥munu ja˞runda˥ pu̥˞sunu pambun˥du ʃi˞gutuŋ ʃiːjuːsu](怠け者だから人の半分しか仕事もできない <〜半分ぞ仕事もし得る >)。

ナ˞ミ [na˞mi] 【名】普通。平均的。特によくも悪くもないこと。ウ˞レー˥　ナ˞ミヌ˥　プ˞ソー˥　ア˞ラ˥ヌ [ʔu˞reː˥ na˞minu˥ pu̥˞soː˥ ʔa˞ra˥nu](彼は並の人ではない)。˞キュー˥ヌ　˞ダイバン˥マー　ナ˞ミダイユン˥ナー　トゥ˞ビダイヤー　マー˥ビン　˞マイ˥ヤン [˞kjuː˥nu ˞daibam˥maː na˞midai jun˥naː tu˞bidai-jaː maː˥bim ˞mai˥jaŋ](今日のカツオの大判 < 大型のカツオ > は並の大判だねえ。超大型のカツオ < 飛び大判 > はもっと大きいよ)。

ナ˞ミ [na˞mi] 【名】波。˥ナン [˥naŋ](大波) ともいう。「〜寄する奈弥見尓 < ナミミニ >。万、3954」の転訛。ナ˞ミヌ　ユーシ˥　クーン [na˞minu juːʃi˥ kuːŋ](波が寄せてくる)。ナ˞ミヌ˥　パ˞ナ˥ヌ　˥ンズン [na˞minu˥ pa˞na˥nu ˥ʔnʤuŋ](波の花 < 白波 > が出る)。ヤ˞ダン˥ブレピーヌ　ナ˞ミヌ˥　パ˞ナ˥ヌ　˥サクカー　˞オシキ˥　ヤ˞ブ˥ルンツォー [˞jadam˥burepiːnu na˞minu˥ pa˞na˥nu ˥sḁkuka: ˞ʔoʃi̥ki˥ ja˞bu˥runtsoː](上原北岸のヤダンブレ干瀬の波の花が咲くと天気が崩れるそうだ)。

ナ˞ミ˥カジ [na˞mi˥kaʤi] 【名】波風。風波。ナ˞ミカジ˥ヌ　˞スー˥ワンダ　˥フネー　ン˞ザサラ˥ヌ [na˞mikaʤi˥nu ˞suː˥wanda ˥ɸuneː ʔn˞ʤasara˥nu](波風が強いので船は出されない)。˞ヤー˥キナイナー　ナ˞ミ˥カジ　タ˞ティル˥ナ [˞jaː˥kinaina: na˞mi˥kaʤi ta˞tiru˥na](家庭に波風を立てるな)。

ナ˞ミナミートゥ [na˞minami:tu] 【副】満々と。溢れるほどに満ちたさま。サ˞カシキ˥ナー　ナ˞ミナミートゥ˥　サ˞ケー˥　シ˞ギ　オーシ˥バ [sḁ˞kaʃi̥ki˥ na: na˞minami:tu˥ sḁ˞keː˥ ʃi˞gi ʔoːʃi˥ba](さかずき < 杯 > に溢れるほどに酒を注いで差し上げなさい)。

ナ˞ミヌ˥　パナ [na˞minu˥ pana] 【連】白波。「波の花」の義。白波を花に譬えていう語。ヤ˞ダン˥ブレビーナ　ナ˞ミヌ˥　パ˞ナ˥ヌ　˥サクカー　˞オシケー˥　ヤ˞ブ˥ルン [ja˞dam˥burebiːna: na˞minu˥ pa˞na˥nu ˥sḁkuka: ˞ʔoʃi̥keː˥ ja˞bu˥ruŋ](西表島字上原北岸の干瀬 < ヤダンブレ干瀬 > に白波が立つ < 波の花が咲く > と天気が崩れる < 破れる >)。

ナ˞ミルン [na˞miruŋ] 【他動】並べる。平均にする。ならす (均す)。比較する。老年層のことば。プ˞ストゥ˥　ナ˞ミルンティ　サンドー˥シ　プ˞ストゥ˥

ナ˞ミラン˥タンティン　˞ドゥー˥ヌ　˞シー˥プサ˥ヨーニ　˞スー˥カ　˥ミサン [pu̥˞sutu˥ na˞mirunti sando:˥ʃi pu̥˞sutu˥ na˞miran˥tantin ˞du:˥nu ˞ʃi:˥pu̥sa˥jo:ni ˞su:˥ka ˥misaŋ](自分を他人と並べようとしないで、他人と並べなくても自分のしたいようにすればいい)。ク˞リトー˥　ナ˞ミ　ヤッ˥サン [ku˞rito:˥ na˞mi jas˥saŋ](これとは並べやすい)。ク˞リトゥ˥　ナ˞ミル˥　クトー　ム˞チキサ˥ル [ku˞ritu˥ na˞miru˥ ku̥to: mu˞tʃikisa˥ru](これと並べることは難しい)。ク˞リトゥ˥　ナ˞ミレー˥　ミサムヌ [ku˞ritu˥ na˞mire:˥ misamunu](これと並べれば良いのに)。ヤー˞ディン˥　ナ˞ミリ [ja:˞din˥ na˞miri](必ず並べろ)。ナ˞ミルンティ˥　サ˞バン˥　ナ˞ミララヌ [na˞mirunti˥ sa˞ban˥ na˞miraranu](並べようとしても並べられない)。

ナ˞ミ˥ルン [na˞mi˥ruŋ] 【他動】なめる (嘗める)。ねぶる。舌先でなでる。老年層は、ヌ˞ベー˥ルン [nu˞be:˥ruŋ](嘗める) という。˥サタ　ナ˞ミ˥ルンティ˞スンドゥ˥　サ˞バン˥ヌ　フ˞カー˥ティ　ナ˞ミララ˥ヌ [˥sḁta na˞mi˥runti ˞sundu˥ sa˞ban˥nu ɸu̥˞ka:˥ti na˞mirara˥nu](砂糖を嘗めようとするが、茶碗が深いので嘗められない)。˥ナミ　˥ミサカー　ナ˞ミ˥ルクトー　˥ナルン [˥nami ˥misaka: na˞mi˥ru ˥ku̥to: ˥naruŋ](嘗めて良ければ嘗めることは出来る)。プ˞ス˥フチ　ナ˞ミ˥レー　˥ミサムヌ [pu̥˞su˥ɸu̥tʃi na˞mi˥re: ˥misamunu](一口嘗めれば良いのに)。˞パー˥ク　ナ˞ミ˥リ [˞pa:˥ku na˞mi˥ri](早く嘗めろ)。

ナ˞ヤ [na˞ja] 【名】納屋。カツオ漁業でカツオ節を製造する建物をいう。カツオ漁業の導入と共に沖縄の本部や慶良間島から借用された語であろう。魚網や漁具を収納し保管する小屋に対してもいう。カツオ節製造工場全体を、˞シーゾー˥ヤー [˞si:ʤo:˥ja:](製造屋) といい、その中の燻製室を、˞バイカン˥ヤー [˞baikaŋ˥ja:](焙乾屋) という。

ナ˞ユ [na˞ju] 【副】なぜ (何故)。古語。歌謡などで用いられる。イ˞カ˥シャル [ʔi˞ka˥ʃaru](如何なる) と対語で用いられる。鳩間方言の口語では、˥ヌー [˥nu:](何)、˞ヌー˥シ [˞nu:˥ʃi](如何に)、ヌー˞シェー˥ル [nu:˞ʃe:˥ru](どのような) の意味に用いられている。/ナユシャル　フニヌドゥ　カヨーダ　イカシャル　フニヌドゥ　カシャラクガ/(如何なる船が通うたのか、如何なる船が走っている＜徒歩く。「〜多摩の横山　加志由加也良牟＜カシユカ　ヤラム＞。万、4417」の転訛したものか)「鳩間節」『宮良当壮全集 12』。

ナ˞ラー˥シ [na˞ra:˥ʃi] 【名】1しつけ (躾け)。教育。˞ヤー˥ヌ　ナ˞ラーシ˥ヌ　˞ワッサ˥カー　シ˞キン˥ヌ　バ˞ライムヌ˥　シ˞ラリントダー [˞ja:˥nu na˞ra:ʃi˥nu ˞was˥saka: ʃi̥˞kin˥nu ba˞raimunu˥ ʃi˞rarinˈda:](家庭の仕付け＜躾＞が悪いと世間の笑いものにされるぞ)。教育。躾け。教え。若年層は、ナ˞ラワ˥シ [na˞rawa˥ʃi](慣習) ともいう。ッ˞ふァー˥　ナ˞ラーシ˥ヌ　˞ワッ˥サカー　ナ˞カヤブ˥リ　˞スン˥ダー [f˞fa:˥ na˞ra:ʃi˥nu ˞was˥saka: na˞kajabu˥ri ˞sun˥da:](子供は教育＜躾け。教え＞が悪いと中途でぐれる＜中破れ＞するぞ)。2習わし。習慣。ウ˞レー˥　ム˞カ˥シェーラヌ　シ˞マ˥ヌ　ナ˞ラー˥シ　ヤ˞ルンダノーサラ˥ヌ [ʔu˞re:˥ mu˞ka˥ʃe:ranu ʃi˞ma˥nu na˞ra:˥ʃi ja˞runda no:sara˥nu](それは昔からの、島の習わしだから直されない)。ヤ˞ナナラーシ˥　ス˞ナ˥ヨー [ja˞nanara:ʃi˥ su˞na˥jo:](悪い習慣をつけるなよ)。慣習。習慣。習わし。シ˞マ˥ヌ　ナ˞ラー˥シェーマ˞ダ　バシキランバン [ʃi˞ma˥nu na˞ra:˥ʃe: ma˞da baʃi̥kirambaŋ](島の慣習は、まだ忘れていないわい)。

ナ˞ラーシグリ˥サン [na˞ra:ʃiguri˥saŋ] 【形】教えにくい。ナ˞ラーシヤッ˥サン [na˞ra:ʃijas˥saŋ](教えやすい) の対義語。ク˞ヌ˥　ブ˞ドゥロー˥　イッ˞ケン˥　ナ˞ラーシグリ˥サン [ku˞nu˥ bu˞duro:˥ ʔik˞ken˥ na˞ra:ʃiguri˥saŋ](この踊りは非常に教えにくい)。ナ˞ラーシグリサナー˥ヌ [na˞ra:ʃigurisana:˥nu](教えにくくない)。ナ˞ラーシグリ˥サ　ッ˞ふァ [na˞ra:ʃiguri˥sa f˞fa](教えにくい子供)。

ナ˞ラーシゾー˥ジ [na˞ra:ʃiʤo:˥ʤi] 【名】教え上手。ブ˞ク [bu˞ku](不得手。下手)、ナ˞ラーシ˥ピタ [na˞ra:ʃi˥pi̥ta](教え方が下手) の対義語。ブ˞ドゥロー˥　ナ˞ラーシゾージ˥ヌ　ナ˞ラー˥スカー　ウブイヤッサン [bu˞duro:˥ na˞ra:ʃiʤo:ʤi˥nu na˞ra:˥suka: ʔu˞buijas˥saŋ](踊りは教え上手が教えると覚えやすい)。

ナ˞ラーシ˥ナ　˥ムヌ [na˞ra:ʃi˥na ˥munu] 【連】教え方次第。教え方の問題。躾け方次第で如何様にも変わるということ。ヤ˞ラ˥ベー　ナ˞ラーシ˥ナ　˥ムヌティル　˥アル [ja˞ra˥be: na˞ra:ʃi˥na ˥munutiru˥ʔaru](子供は躾け次第といわれている＜教え方次第では立派に成長するの意＞)。

ナ˞ラーシ˥ミチ [na˞ra:ʃi˥mitʃi] 【名】教え方。教える方法。躾け方。教育方法。ウ˞レー˥　プ˞ス˥　ナ˞ラーシ˥ミチェー　ッ˞シブンドゥ˥　プ˞ソー˥ラヌ　ナ˞ライ˥ミチェー　ッ˞サヌ [ʔu˞re:˥ pu̥˞su˥ na˞ra:ʃi˥mitʃe: ʃ˞

ʃibundu˥ pu̥˩soː˥ranu na˩rai˥mitʃeː s˩sanu](彼は人を教え導く方法＜他人の教え方＞は知っているが、他人からの学び方は知らない)。

ナ˩ラーシ˥ヨー [na˩raːʃi˥joː] 【名】教え方。ナ˩ラーシ˥カタ [na˩raːʃi˥kḁta](教え方) ともいう。ナ˩ラーシヨー˥ヌ ˩ワッ˥サカー ウ˩ヌ˥ フ˩シェー˥ イッ˩カ ノーラ˥ヌ [na˩raːʃijoː˥nu ˩was˥saka: ʔu˩nu˥ ɸu̥˩ʃeː˥ ʔik˩ka noːra˥nu](教え方が悪いと、その癖は決して＜一向に＞直らない)。˩ワー˥ ブ˩ドゥル˥ ナ˩ラーシヨー˥ヤ ア˩タラヌ˥ ム˩カ˥シプスヌ ˩ティー˥トゥ ˩カウリ ブー [˩waː˥ bu˩duru˥ na˩raːʃijoː˥ja ʔa˩taranu˥ mu˩ka˥ʃipu̥sunu ˩tiː˥tu ˩kauri buː](君の踊りの教え方間違っている＜当たらない＞。昔の人の手＜踊りの手。踊りの型＞と変わっている)。

ナ˩ラー˥スン [na˩raː˥suŋ] 【他動】教える。˩習わせる」の義。バ˩カー˥ムン ˥バー ブ˩ドゥルヌ˥ ティー ナ˩ラー˥スンティ ˩スンドゥ バン˥マー ナ˩ラーサラ˥ヌ [ba˩kaː˥mum ˥baː bu˩durunu˥ tiː na˩raː˥sunti ˩sundu bam˥maː na˩raːsara˥nu](若者に私の踊りの技を教えようとするが、私には教えられない)。˥バーヤ ナ˩ラーシ˥ プサンドゥ ˩ワンマー˥ ナ˩ラー˥ス ˥クトー ナ˩ラン˥ツォー [˥baːja na˩raːʃi˥ pu̥sandu ˩wammaː˥ na˩raː˥su ˥ku̥toː na˩ran˥tsoː](私は教えたいが、君には教えることは罷り成らぬ＜いけない＞そうだ)。ナ˩ラー˥シェー ˥ミサムヌ [na˩raː˥ʃeː ˥misamunu](教えればいいのに)。ナ˩ラー˥シバ [na˩raː˥ʃiba](教えなさいよ)。「習わす」の転訛したもの。˩ジー˥ ナ˩ラー˥スン [˩ʤiː˥ na˩raː˥suŋ](文字を教える)。ナ˩ラーシ˥プサン [na˩raːʃi˥pusaŋ](教えたい)。イッ˩カ˥ ナ˩ラーサ˥ヌ [ʔik˩ka˥ na˩raːsa˥nu](決して教えない)。ナ˩ラー˥ス ˥ムノー ˩ナー˥ヌ [na˩raː˥su ˥muno: ˩naː˥nu](教えるものはない)。ナ˩ラー˥シェー ˥ミサムヌ [na˩raː˥ʃeː ˥misamunu](教えれば良いのに)。カ˩リン ジー˥ ナ˩ラー˥シ [ka˩rin ʤiː˥ na˩raː˥ʃi](彼に文字を教えろ)。

ナ˩ラー˥スン [na˩raː˥suŋ] 【他動】慣らす。馴らす。慣れるようにする。馴れさせる。˩イン˥マー ˥ユー プ˩スン˥ ナ˩ラー˥シ シ˩キ˥リ [˩ʔim˥maː ˥juː pu̥˩sun˥ na˩raː˥ʃi ʃi̥˩ki˥ri](犬はよく人馴れさせておけ)。ナ˩ラー˥スンティ ˩スンドゥ˥ ナ˩ラーサラ˥ヌ [na˩raː˥sunti ˩sundu˥ na˩raːsara˥nu](人馴れさせようとするが、馴れさせられない)。ナ˩ラー˥シ ˥ミサカー ナ˩ラー˥ス ˥クトー ˥ナルン [na˩raː˥ʃi ˥misakaː na˩raː˥su ˥ku̥toː ˥naruŋ](人馴れさせて良ければ馴れさせることはできる)。˩マー˥ビン プ˩スン˥ ナ˩ラー˥シェー ˥ミサムヌ [˩maː˥bim pu̥˩sun˥ na˩raː˥ʃeː ˥misamunu](もっと人に馴れさせれば良いのに)。

ナ˩ラー˥リン [na˩raː˥riŋ] 【自動】習える。習うことが出来る。動詞˥ナラウン [˥narauŋ](習う) の未然形に、可能の助動詞˥リン [˥riŋ](れる) が付いて形成された可能の派生動詞。˩ジン˥ヌ ˥アルカー ノー˩ン˥ ナ˩ラー˥リン [˩ʤin˥nu ˥ʔaruka: noː˩n˥ na˩raː˥riŋ](お金があれば何でも習える)。バ˩カヤ˥ヌ ˩ワーラ˥ル ナ˩ラーリ˥ル プ˩ソー˥ラー ナ˩ラーラ˥ヌ [ba˩kaja˥nu ˩waːra˥ru na˩raːri˥ru pu̥˩soː˥raː na˩raːra˥nu](恥ずかしくて、君からが＜ぞ＞習える。他人からは習えない)。

˥ナライ [˥narai] 【名】1習慣。慣習。しきたり。癖。動詞˥ナラウン [˥narauŋ](習う。学ぶ) の連用形が名詞化したもの。˩ヤー˥ナライ [˩jaː˥narai](家庭の習慣、仕付け)。˩ヤーナライ˥ル ˥フカナライ [˩jaːnarai˥ru ˥ɸu̥kanarai](家庭内の生活習慣＜悪癖＞が世間に出ても無意識に出てくるものだ)。ム˩カ˥シェーラヌ ˥ナライ [mu˩ka˥ʃeːranu ˥narai](昔からの習慣)。ウ˩ヌ˥ ナライ [ʔu˩nu˥ narai](そういう習慣。その風習)。シ˩マ˥ヌ ˥ナライ [ʃi˩ma˥nu ˥narai](島の習慣。風習)。2馴れること。動物が飼い主に馴れること。ク˩ヌ イン˥マー プ˩スナライ シー˥ ブ˩ラーヌ [ku˩nu ʔim˥maː pu̥˩sunarai ʃiː˥ bu˩raːnu](この犬は人馴れしていない)。

˥ナラウン [˥narauŋ] 【他動】1習う。学ぶ。˩ワー˥ラ ˩ジー˥ ナラウンティ ウ˩ムーン˥ドゥ マ˩ナ˥マー ナ˩ラーラ˥ヌ [˩waː˥ra ˩ʤiː˥ naraunti ʔu˩muːn˥du ma˩na˥maː na˩raːra˥nu](君から字を習おうと思うが、今は習え＜習われ＞ない)。ナ˩ライ˥ プサカー ナ˩ライ˥ヤー ˥ミサムヌ [na˩rai˥ pu̥sakaː na˩rai˥jaː ˥misamunu](習いたければ習えばいいのに)。ク˩レー˥ キサー˩ティ˥ ナ˩ライ˥ヤン [ku˩reː˥ kisaː˩ti˥ na˩rai˥jaŋ](これは既に習った)。マ˩ナ˥マー ˩ジン˥ヌ ˩ナーン˥ベーティ ˥ナラウクトー ナ˩ラ˥ヌ [ma˩na˥maː ˩ʤin˥nu ˩naːm˥beːti ˥narau ˥ku̥toː na˩ra˥nu](今はお金がないので習うことは出来ない)。ヤー˩ディン˥ ナライバ [jaː˩din˥ naraiba](必ず習いなさいよ)。2慣れる。馴れる。動物が人間になつく。ナ˩リ˥ルン [na˩ri˥ruŋ](慣れる。馴れる) ともいう。シ˩グトー˥ ナ˩ライ˥ヤン [ʃi˩guto:˥ na˩rai˥jaŋ](仕事は慣れたよ)。ク˩ヌ イン˥マー イッ˩ケン˥ プ˩ス˥ナ ナ˩ライ˥ ブー [ku˩nu ʔim˥maː ʔik˩kena˥ pu̥˩su˥na: na˩rai˥ buː](この犬は非常に人に馴れている)。

˥ナラシケー [˥naraʃi̥keː] 【名】1屋号。成底家 (本家)。鳩間西村七班の成底伊久津氏宅。˥ナラシケーヤ　˩インタプサッ˥キャーヌ　˩アー˥ネー　˩ヤッタ [˥naraʃi̥keːja ˩ʔintapu̥sak˥kjaːnu ʔaː˥neː ˩jatta](成底家は西富里家の東隣の家だった)。2成底家の空き屋敷。˩キー˥ヤザーテー [˩kiː˥jaʤaːteː](木屋兄さんの家) ともいう。元々空き屋敷であったが、小浜木屋氏が戦後与那国からそこへ引っ越してこられた。˥ウマー　˥キサー　ア˩キカク <˩ンーナカク>　ヤッタ [˥ʔumaː ˥ki̥saː ʔa˩kikaku <˩nːnakaku> jatta](そこは、以前は空き屋敷であった)。

ナ˩ラ˥スン [na˩ra˥suŋ] 【他動】1作り上げる。実らせる。結実させる。「成らせる」の義。バ˩サン˥ナル　ナ˩ラ˥スンティ　シ˩キゴイ˥　イ˩リ˥シケータンドゥ　カ˩ジヌ˥　フキ　ナ˩ラサラ˥ヌ [ba˩san˥naru na˩ra˥sunti ʃi̥˩kigoi˥ ʔi˩ri˥ʃi̥keːtandu ka˩ʤinu˥ ɸu̥ki na˩rasara˥nu](バナナを実らせようと堆肥を入れてあったが、台風が吹いて実らせない)。ナ˩ラシ˥プサカー　カ˩タ˥カナ　イ˩ビティ˥　ナ˩ラ˥ス　˥クトー　˥ナルン [na˩raʃi˥pu̥saka: kḁ˩ta˥kana: ʔi˩biti˥ na˩ra˥su ˥ku̥to: ˥naruŋ](実らせたかったら風除けの側に植えて実らすことはできる)。˩マー˥ビン　ナ˩ラ˥シェー　˥ミサムヌ [˩maː˥bin na˩ra˥ʃeː ˥misamunu](もっと実らせばいいのに)。ヤー˩ディン˥　ナ˩ラ˥シ [jaː˩din˥ na˩ra˥ʃi](必ず実らせなさい)。2～に成す。成長させる。ウ˩ブ˥プス　ナ˩ラ˥スン [ʔu˩bu˥pu̥su na˩ra˥suŋ](大人に成長させる)。˩マイ˥ヤー　ナ˩ラ˥スン [˩mai˥jaː na˩ra˥suŋ](大きくなす)。

ナ˩ラ˥スン [na˩ra˥suŋ] 【他動】均す。平らにする。平坦にする。˩ヤシキ˥バ　ピ˩サーピサー˥シ　ナ˩ラ˥スンティ　˩ベー˥ンドゥ　ナ˩ラサラ˥ヌ [˩jaʃi̥ki˥ba pi̥˩sa:pisaː˥ʃi na˩ra˥sunti ˩beː˥ndu na˩rasara˥nu](屋敷を平らに均そうとしているが、均されない)。˥ドゥーシ　ナ˩ラ˥シ　˥ミサカー　ナ˩ラ˥ス　˥クトー　ナルン˩ダー [˥duːʃi na˩ra˥ʃi ˥misakaː na˩ra˥su ˥ku̥to: narun˩daː](自分で均して良ければ均すことは出来るよ)。˥カマン　ナ˩ラ˥シェー　˥ミサムヌ [˥kaman na˩ra˥ʃeː ˥misamunu](あそこも均せば良いのに)。ムー˩ル˥　ナ˩ラ˥シ [muː˩ru˥ na˩ra˥ʃi](全部均せ)。

ナ˩ラ˥ヌ [na˩ra˥nu] 【連】1～堪(タマ)らない。～てならない。感覚や感情が抑えられない意味を表す。バ˩カヤ˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [ba˩kaja˥nu na˩ra˥nu](恥ずかしくて堪らない)。˥ヤミ　ナ˩ラ˥ヌ [˥jami na˩ra˥nu](痛くて堪らない)。2義務、当然、必要を表す。ク˩レー˥　キューズーナ　カ˩カン˥カー　ナ˩ラ˥ヌ [ku˩reː˥ kjuːʤuːna kḁ˩kaŋ˥kaː na˩ra˥nu](これは今日中に書かないといけない)。3禁止の意味を表す。ヤ˩ラ˥ベー　サ˩キ˥　ヌメー　ナ˩ラ˥ヌ [ja˩ra˥beː sḁ˩ki˥ numeː na˩ra˥nu](子供は酒を飲んではならない < 禁止 >)。

ナ˩ラバスン [na˩rabasuŋ] 【他動】並ばせる。ナ˩ラブン [na˩rabuŋ](並ぶ) の未然形に使役の助動詞˩スン [˩suŋ](す。せる。させる) が付いて派生した使役動詞。シ˩ナムヌ˥　ナ˩ラバスン [ʃi˩namunu˥ na˩rabasuŋ](品物を並ばせる)。ナ˩ラバシティ˥　ユー　˥ミリバ [na˩rabaʃi̥ti˥ juː ˥miriba](並ばせてよく見ろよ)。˥クナー　ナ˩ラバス˥　クトー　スナ [˥kunaː na˩rabasu˥ ku̥to: su˩na](此処に並ばせることはするな)。

ナ˩ラビ [na˩rabi] 【名】並び。並ぶこと。れつ。沿道。老年層は、˥ナン [˥naŋ](並び。沿道 <˩並(ナミ)」の転訛したもの >) という。ア˩ラヤートゥ　ユービン˥キョコー　ユ˩ヌ˥　ナ˩ラ˥ビナル　˩アッ˥タ [ʔa˩rajaːtu juːbiŋ˥kjokoː ju˩nu˥ na˩ra˥binaːru ˩ʔat˥ta](吉川家と郵便局は同じ道沿い < 同じ並び > にあった)。

ナ˩ラビルン [na˩rabiruŋ] 【他動】並べる。「～那良敝弖 < ナラベテ > 見れば～。万、3450」の転訛したもの。ユ˩ヌ (ン)˥　トンナー　ナ˩ラビルンティ　スンドゥ˥　ナ˩ラビララヌ [ju˩nu(n)˥tonnaː na˩rabirunti sundu˥ na˩rabiraranu](同じ所に並べようとするが、並べられない)。ナ˩ラビ˥　ミサカー　ナ˩ラビル˥クトー　˥ナルン [na˩rabi˥ misakaː na˩rabiru˥ ku̥to: ˥naruŋ](並べてよければ並べることは出来る)。ナ˩ラビレー˥　ミサムヌ [na˩rabireː˥ misamunu](並べればいいのに)。˩パー˥ク　ナ˩ラビリ [˩paː˥ku na˩rabiri](早く並べろ)。

ナ˩ラブン [na˩rabuŋ] 【自動】並ぶ。「比・雙・駢・方、ナラブ」『類聚名義抄』、「～二人那良田比 < ナラビ > 居～。万 794」の転訛。マー˩ズン˥　ナ˩ラブンティ˥　シ˩タンドゥ˥　ナ˩ラバンシェン [maː˩ʤun˥ na˩rabunti˥ ʃi̥˩tandu˥ na˩rabaŋʃeŋ](一緒に並ぼうとしたが並ばなかった)。ナ˩ラビ˥　プサープ˩ソー˥　ナ˩ラベー˥　ミサムヌ [na˩rabi˥ pu̥saː pu̥˩soː˥ na˩rabeː˥ misamunu](並びたい人は並べばいいのに)。˥クナー　ナ˩ラブ˥　クトゥ [˥kunaː na˩rabu˥ ku̥tu](ここに並ぶこと)。˩パー˥ク　ナ˩ラビ˥バ [˩paː˥ku na˩rabi˥ba](早く並べよ)。

ナ˩ラ˥リパマ [na˩ra˥ripama] 【名】(地) 浜の名。現在の鳩間小中学校の祈念運動場の東南一帯の浜の名。海岸にはア˩ダン˥ブラ [ʔa˩dam˥bura](アダン。タコノキ科の熱帯性常緑低木) や˥ユナキー [˥junakiː](は

まぼう＜黄槿＞。島はまぼう)、シ˹ダフ˺カ [ʃi˹daɸu̥ ˺ka](はまゆう＜浜木綿＞。ハマオモト＜浜万年青＞) が密生していた。

ナ˹リウ˺チ [na˹riʔu˺ʧi] 【名】事情。内情。キ˹ナイヌ˺　ナ˹リウ˺チェー　˹ヌー˺シ　˺ナリ　˹ブーワ [ki˹nainu˺ na˹riʔu˺ʧe: ˹nu:˺ʃi ˺nari ˹bu:wa](家庭の事情＜家族や家計の様子＞は如何(ドウ)なっているのか)。

˺ナリウン [˺nariʔuŋ] 【名】(植) 芋の一種。ジャガイモに似て、皮が固く、凸凹になっている。「生り芋」の義か。「むかご」の生る山芋のこと。西表島の船浦や上原辺りで栽培されていた。パ˹トゥ˺マナテー　˺ナリウンマー　ス˹ク˺ロー˹ラン˺シェン [pḁ˹tu˺manate: ˺nariʔumma: su̥˹ku˺ro:˹raŋ˺ʃeŋ](鳩間島ではナリウンは作られなかった)。

ナ˹リカー˺ルン [na˹rika:˺ruŋ] 【自動】なりかわる (為り変わる)。生まれ変わる。ナ˹リカー˺リ　マ˹リカーリ　スン [na˹rika:˺ri ma˹rika:ri suŋ](為り代わり、生まれ変わりする)。プ˹スン˺　ナ˹リカー˺ルンテー　ウ˹ムー˺ナ　˹ドゥー˺ヤ　˺ドゥーンドゥ　ナ˹リカー˺ル　プ˹ス˺ネー　ナ˹リカーラ˺ヌ [pu̥˹sun˺ na˹rika:˺runte: ʔu˹mu:˺na ˹du:˺ja ˺du:ndu na˹rika:˺ru pu̥˹su˺ne: na˹rika:ra˺nu](他人に為り変わろうと思うな、自分は自分にしか＜ぞ＞為り変われない＜為り変わる＞。他人には為り変われないものだ)。ナ˹リカー˺レー　˺ミサムヌ [na˹rika:˺re: ˺misamunu](為り変わればいいのに)。ナ˹リカー˺リ [na˹rika:˺ri](為り変われ)。

ナ˹リ˺ヌ　˺ムヌ [na˹ri˺nu ˺munu] 【連】要するに慣れることだ。慣れることが大事だ。「慣れのものだ」の義。シ˹グトー˺　ナ˹リ˺ヌ　˺ムヌ˹ゲ˺ラ　パ˹ジメー˺　ム˹チ˺キサンドゥ　ナ˹リ˺ルカー　˺ワケー　˹ナー˺ヌ [ʃi˹guto:˺ na˹ri˺nu ˺munu˹ge˺ra pa˹ʤime:˺ mu˹ʧi˺kisandu na˹ri˺ruka: ˺wake: ˹na:˺nu](仕事は慣れることが大事だ。はじめは難しいが、なれると造作ない＜訳(ワケ)なしだ＞よ)。

ナ˹リ˺バサ [na˹ri˺basa] 【名】実の生るバショウ。˹生り芭蕉」の義。˹ヤーン˺　カ˹クヌ˺　ナ˹リ˺バサー　˹タイ˺フーナー　ムー˹ル　トー˺リ　バ˹サン˺ナロー　トゥ˹ララ˺ヌ [˹ja:ŋ˺ kḁ˹kunu˺ na˹ri˺basa: ˹tai˺ɸu:na: mu:˹ru to:˺ri ba˹san˺naro: tu˹rara˺nu](屋敷内の生り芭蕉は台風で全部倒れてしまい、バナナは収穫出来＜取れ＞ない)。

ナ˹リ˺ムヌ [na˹ri˺munu] 【名】生り物。食用となる果実。果物。ク˹トゥシェー　タイフー˺ヌ　˹クーン˺ベーティ　ナ˹リ˺ムノー　イッ˹ケナ˺　ナレーンツォー [ku̥˹tuʃe: taiɸu:˺nu ˹ku:m˺be:ti na˹ri˺muno: ʔik˹kena˺ nare:ntso:](今年は台風が来ないので生り物が非常によく実っているそうだ)。˹ヤー˺ヌ　カ˹ク˺ナー　ナ˹リ˺ムヌ　イ˹ビバル˺　マ˹シ˺ツォー [˹ja:˺nu kḁ˹ku˺na: na˹ri˺munu ʔi˹bibaru˺ ma˹ʃi˺tso:](屋敷内には果樹＜生り物＞を植えた方がいいそうだ)。

ナ˹リ˺ムヌヤサイ [na˹ri˺munujasai] 【名】実を食べる野菜。「生り物野菜」の義。ナ˹サ˺ビ [na˹sa˺bi](ナスビ＜茄子＞)、カ˹ブッチ [ka˹butʧi](カボチャ＜南瓜＞)、シ˹ブル [ʃi˹buru](トウガン＜冬瓜＞)、˹ウー˺ル [˹ʔu:˺ru](キュウリ＜胡瓜＞)、ナ˹ベー˺ラ [na˹be:˺ra](ヘチマ＜糸瓜＞) など。˹パーヤサイ [˹pa:jasai](葉野菜) の対義語。カ˹ジフキヌ˺　アトー　ナ˹リ˺ムヌヤサイ　˹タンガ˺ル　˺アル　˹パーヤサイヤー　ナー˺ヌ [ka˹ʤiɸukinu˺ ʔato: na˹ri˺munujasai ˹taga˺ru ˺ʔaru ˹pa:jasaija: na:˺nu](台風の後は生り物野菜しかない＜生り物野菜だけがある＞、葉野菜はない)。

ナ˹リ˺ルン [na˹ri˺ruŋ] 【自動】1慣れる。˹キューバー˺キシェー　シ˹グトゥ˺ナー　ナ˹リ˺ルンカヤーティ　ウ˹ムータ˺ヌ　マ˹ダ˺　ナ˹リラン˺バン [˹kju:ba:˺kiʃe: ʃi˹gutu˺na: na˹ri˺ruŋkaja:ti ʔu˹mu:ta˺nu ma˹da˺ na˹riram˺baŋ](今日までには仕事に慣れるだろうと思ったが、まだ慣れないよ)。˹パー˺ク　シ˹グトゥ˺ナー　ナ˹リ˺プサンドゥ　ナ˹リ˺ル　˺クトー　˺アンカヤー [˹pa:˺ku ʃi˹gutu˺na: na˹ri˺ pusandu na˹ri˺ru ˺ku̥to: ˺ʔaŋkaja:](早く仕事に慣れたいが、慣れることはあるかなあ)。ナ˹リ˺レー　˺ミサムヌ [na˹ri˺re: ˺misamunu](慣れれば良いのに)。シ˹グトゥ˺ナー　ナ˹リ˺リ [ʃi˹gutu˺na: na˹ri˺ri](仕事に慣れろ)。2馴れる。ク˹ヌ　イン˺マー　プ˹ス˺ナー　ナ˹リ˺ルンカヤー [ku˹nu ʔim˺ma: pu̥˹su˺na: na˹ri˺ruŋkaja:](この犬は人に馴れるかなあ)。

˺ナリン　ナ˹ラ˺ナーン [˺narin na˹ra˺na:ŋ] 【連】どのみち。いずれにしても。「出来るにせよ、出来ないにせよ」の義。˺ナリン　ナ˹ラ˺ナーン　˹シール˺　シ˹ラリル [˺narin na˹ra˺na:ŋ ˹ʃi:ru˺ ʃi˹rariru](出来るにせよ、出来ないにせよ、是非ともしなければならない＜〜しぞせられる＞)。

˺ナル [˺naru] 【名】果実。草木の実。生り物。なりくだもの。「生り」の転訛したもの。ク˹トゥシェー˺　ナ˹リムヌ˺ヌ　イッ˹ケナ˺　ナレーンツォー [ku̥˹tuʃe:˺ na˹rimunu˺nu ʔik˹kena˺ nare:ntso:](今年は果物が＜生り物＞が豊作だ＜沢山生った＞そうだ)。˹キー

˥ヌ　˥ナル [˩kiː˥nu ˥naru](木の実)。キ˩ダヌ˥　ナル [ki˩danu˥ naru](黒檀 < 黒木 > の実)、フ˩ナブ˥ヌ　˥ナル [ɸu˩nabu˥nu ˥naru](みかん < 九年母 > の実)。

˥ナルカー [˥naruka:] 【連】できたら。なるべく。可能なら。˥ナルン [˥naruŋ](成る。出来る) の仮定条件の意味を表す。˥ナルカー　˩ワンヌン˥　シ˩ミルンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩クン˥ドー　シ˩ミララン˥ティバーヤ [˥naruka: ˩wannuŋ˥ ʃi˩mirunti˥ ʔu˩muːn ˥du ˩kun˥do: ʃi˩miraran˥tiba:ja](出来たら君にもさせようと思うが、今度はさせられないんだってよ)。˥ナルカー　˩ワー　シーッふィーリ [˥naruka: ˩waː ʃiːffiːri](出来たら君がしてくれ)。

˥ナルカギリ [˥narukagiri] 【副】できるだけ。なりたけ。なるたけ (成る丈)。なるべく。可能な限り。˥ナルカギリ　˩パイ˥サ　クー˩ヨー [˥narukagiri ˩pai ˥sa kuː˩joː](成る丈早く来いよ)。

˥ナルスクン　˩デー˥カー [˥narusu̥kun ˩deː˥kaː] 【連】出来ることならば。出来るかぎり。可能ならば。˥ナルスクンドゥ　ヤ˩ル˥カー [˥narusu̥kundu ja˩ru ˥kaː](出来ることならば) の縮約融合した形。˥ナルスクン　˩デー˥カー　˩ワー˥　キー　ッ˩ふィーラン˥ノ-レー [˥narusu̥kun ˩deː˥kaː ˩waː˥ kiː ˩ffiːran˥ noːreː](出来ることならば、君が来てくれないかね)。

˥ナルスコー　ア˩ラ˥ヌ [˩narusu̥koː ʔa˩ra˥nu] 【連】1手に負えない。如何にもならない。「成る程度ではない」の義。ウ˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　ヤ˩マン˥グ　˥ナリティ　˥ナルスコー　ア˩ラ˥ヌ [ʔu˩nu˥ ˩ffaː˥ ja˩maŋ˥gu ˥nariti ˥narusu̥koː ʔa˩ra˥nu](あの子は腕白坊主になって手に負えない)。2我慢できない。˩キュー˥ヌ　˩ピー˥ヤー　˥ナルスコー　ア˩ラン˥バン [˩kjuː˥nu ˩piː˥jaː ˥narusu̥koː ʔa˩ram˥baŋ](今日の寒さは我慢できないよ)。

˥ナルダキ [˥narudaki] 【副】なるたけ (成る丈)。可能なかぎり。力の及ぶかぎり。キ˩ラ˥リカー　˥ナルダケー　˩ワー˥　クーバ [ki˩ra˥rika: ˥narudake: ˩waː˥ kuːba](来れるなら成る丈君が来いよ)。˩カーリ˥カー　˥ナルダケー　˩ゴー˥ラー　˩カイ　ッふィーリ [˩kaːri˥kaː ˥narudake: ˩goː˥raː ˩kai ffiːri](買えるなら成る丈多く買ってくれ)。

˥ナルニ [˥naruni] 【副】成るように。自然に推移するままに。老年層の言葉。若年層は、˥ナルヨーニ [˥narujoːni](なるように) という。˩バン˥マー　ウ˩ビ˥ル　˥ナル　˥アトー　˥ナルニル　˥ナル [˩bam˥maː ʔu˩bi˥ru ˥naru ˥ʔatoː ˥naruniru ˥naru](私にはこれだけしか出来ない。後は成るようにしかならない < 成るようにぞなる >)。

ナ˩ルビ˥ク [na˩rubi˥ku] 【副】できるだけ。なるべく (成るべく)。なるたけ。ナ˩ルビ˥ク　˩ソームノーラ˥　イ˩ラ˥ビ　˥トゥグバ [na˩rubi˥ku ˩soːmunoːra˥ ʔi˩ra˥bi ˥tuguba](なるべく良い物から選んで持ってきなさい)。

˥ナル　˥フーナー [˥naru ˥ɸuːnaː] 【連】出来るふり。出来る素振り。パ˩ナ˥シ　ス˩ク˥カー　˥ナル　˥フーナー <˥フージー >　˩シー　ベーン˥ドゥ　ノー˥ン　シーサン˥ダ˩レー [pa˩na˥ʃi su̥˩ku˥kaː ˥naru ˥ɸuːnaː < ˥ɸuːʥiː > ˩ʃiː beːn˥du noː˩ŋ ʃiːsan˥da˩reː](話しを聞くと出来るふりしているが、何も出来ないんだよ、そいつ < それ > は)。

˥ナルフドゥ [˥naruhudu] 【副】なるほど。いかにも。˥アイヌシェーとも言う。˥ナルフドゥ　˩ワー˥　アズ　˩トゥール˥　ユン [˥naruɸudu ˩waː˥ ʔaʥu ˩tuːru ˥juŋ](なるほど、君が言うとおりだよ)。˥ナルフドゥ　˥アイヌ　˥シジ　ヤ˩レー˥バン˩ナー [˥naruɸudu ˥ʔainu ˥ʃiʥi ja˩reː˥ban˩naː](なるほど、そういう訳だったんだねえ)。

˥ナルヨーニ [˥narujoːni] 【連】なるように。出来るように。イ˩コーラ˥　イ˩スガ˥バン　˥ナルヨウニル　˥ナル　˥ドゥク　ア˩バトゥナ [ʔi˩koːra˥ ʔi˩suga˥ban ˥narujoːniru ˥naru ˥duku ʔa˩batuna](いくら急いでも出来るようにしか出来ない < なるようにがなる。なるようにぞ　なる >。あまり急ぐな。あわて < 慌て > るな。)。

˥ナルン [˥naruŋ] 【自動】1成る。～になる。成長して～になる。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　ウ˩ブ˥プス　˥ナルカー　˩シン˥シー　˥ナルンティ　˩ビンキョー　シー　ベー [ku˩nu˥ ˩ffaː˥ ʔu˩bu˥pusu ˥naruka: ˩ʃiŋ˥ʃiː ˥narunti ˩biŋkjoː ʃiː beː](この子は大人になったら先生になるといって勉強している)。˥バー　˩シン˥シー　ナ˩ラ˥ヌ [˥baː ˩ʃiŋ˥ʃiː na˩ra˥nu](私は先生にならない)。˩シン˥シー　ナ˩リ˥　プサカー　˥ナレー　˥ミサムヌ [˩ʃiŋ˥ʃiː na˩ri˥ pu̥saka: ˥nareː ˥misamunu](先生になりたければなればいいのに)。˩シン˥シー　˥ナル　プ˩ソー　ター˥ヤ [˩ʃiŋ˥ʃiː naru pu̥˩soː taː˥ja](先生になる人は誰か)。˩ワー　シン˥シー　˥ナリ [˩waː ʃiŋ˥ʃiː ˥nari](君は先生になれ)。2出来る。ク˩レー　バン˥ヌン　˥ナルン [ku˩reː ban˥nun ˥naruŋ](これは私にも出来る)。ク˩レー　バン˥マー　ナ˩ラ˥ヌ [ku˩reː bam˥maː na˩ra˥nu](これは私には出来ない)。

クˈレー　バン˥ヌン　ナˈリン˥ギサン [kuˈreː ban˥ nun naˈriŋ˥gisaŋ](これは私にも出来そうだ)。ミˈドゥ˥ムンツァン　˥ナルムヌ　ビˈキドゥヌ˥　ナˈラン˥　クトー　ˈナー˥ヌ [miˈdu˥muntsan ˥narumunu bi ˈkidumunu˥ naˈraŋ˥ kʉto: ˈnaː˥nu](女でさえ出来るのに、男が出来ないことはない)。3草木の実が生る。実る。ナˈチ˥　ナルカー　フˈナブ˥ヌ　˥ナルン [na ˈtʃi˥ naruka: ɸuˈnabu˥nu ˥naruŋ](夏になったらみかん＜九年母＞が生る)。フˈナ˥ボー　マˈダ˥　ナˈラ˥ヌ [ɸuˈna˥boː maˈda˥ naˈra˥nu](みかん＜九年母＞は、まだ生らない)。4以前と違ったある状態・内容になる。ˈヤン˥マー　ˈシンダイ˥　マˈシ˥　ナルンツォー [ˈjam˥maː ˈʃindai˥ maˈʃi˥ naruntsoː](病気は次第に良くなるそうだ)。マˈシ˥　ナレーン [maˈʃi˥ nareːŋ](良くなった)。

˥ナン [ˈnaŋ] 【名】1大波。ˈナン˥ヌ　˥ブリクーン [ˈnan˥nu ˥buri ˥kuːŋ](大波が群れ寄せてくる)。2津波。ˈナン˥ヌ　ˈユーシ　クー˥タ　˥ピン　ˈカンヌマイ˥ヌ　パˈトゥマ˥バ　˥ティーシ　˥ムタイ　ˈヨー˥レーティ　ˈナン˥マー　フˈタマター˥ニ　バˈカ˥リ　ˈパッ˥タティル　ムˈカ˥シパナシェー　アルˈダー [ˈnan˥nu ˈjuːʃikuː˥ta ˥piŋ ˈkannumai˥nu pḁˈtuma˥ba ˥tiːʃi ˥mutai ˈjoː˥reːti ˈnam˥maː ɸu̥ˈtamataː˥ni baˈka˥ri ˈpat˥tatiru muˈka˥ʃipanaʃeː ʔaruˈdaː](津波が寄せてきた時、神様が鳩間島を手で持ち上げられたので、津波は二股に分かれていったと＜ぞ＞昔話にはあるのだよ)。

˥ナン [˥naŋ] 【名】並。程度。クˈリトゥ˥　ユˈヌ　ナン˥ヌ　˥ムヌ　˥ムティ　˥クー [kuˈritu˥ juˈnu nan˥nu ˥munu ˥muti ˥kuː](これと同じ程度の物を持ってこい)。

˥ナン [˥naŋ] 【接尾】1～に沿って。～沿いに。「並み」の義か。老年層が多用する。若年層が多用する接尾語ˈダー˥チ [ˈdaː˥tʃi](～に沿って。～伝い)と同じ。ウˈヌ　ヤー˥ナン＜ˈヤーダー˥チ＞　アˈラ˥キ　˥パルカー　トゥˈミラ˥リンヨー [ʔuˈnu jaː˥naŋ＜ˈjaːdaː˥ tʃi＞ ʔaˈra˥ki ˥paruka: tuˈmira˥riŋjoː](あの家並み沿いに歩いて行くと探せるよ)。2並び。「並み」の転訛したもの。˥マンタヌ　ミˈチ˥ナン　ˈアーラー˥　アˈラ˥キ　˥パリバ [˥mantanu miˈtʃi˥naŋ ˈʔaːraː˥ ʔaˈra˥ki ˥pariba](前の道沿いに東の方へ歩いて行けよ)。

˥ナン [˥nan] 【代】1疑問代名詞ナニ [nani](何)の音便形。2接頭語。どれくらい。どういう。マˈナ˥マー　˥ナンドゥキヤー [maˈna˥maː ˥nandukijaː](今は何時か)。˥キューシ　ˈナンニ˥チ　ナˈル˥ワ [˥kjuːʃi ˈnanni˥tʃi naˈru˥wa](今日で何日になるか)。ˈヨイ˥ヤー　ˈナンガ˥チナー　ˈソール˥ワ [ˈjoi˥jaː ˈnaŋga˥ tʃinaː ˈsoːru˥wa](お祝いは何月になさいますか)。

ˈナン˥カ [ˈnaŋ˥ka] 【名】なぬか(七日)。˥プスイ [ˈpu̥sui](一日)。ˈフシゥカ [ˈɸusi̥ka](二日)。ˈミーカ [ˈmiːka](三日)。ˈユーカ [ˈjuːka](四日)。ˈイシゥ˥カ [ˈʔisi̥˥ka](五日)。ˈムイカ [ˈmuika](六日)。ˈナン˥カ [ˈnaŋ˥ka](七日)。ˈヨーカ [ˈjoːka](八日)。クˈクヌ˥カ [ku̥ˈkunu˥ka](九日)。ˈトゥッカ [ˈtukka](十日)。トゥˈカ [tu̥ˈka](十日)ともいう。七日忌。死後、七日毎に四十九日まで執り行う法事。プˈスナン˥カ [pu̥ˈsunaŋ˥ka](一七日)。フˈタナンカ [ɸu̥ˈtanaŋka](二七日)。ˈミーナンカ [ˈmiːnaŋka](三七日)。ˈユーナンカ [ˈjuːnaŋka](四七日)。イˈチナン˥カ [ʔiˈtʃinaŋ˥ka](五七日)。ˈムーナンカ [ˈmuːnaŋka](六七日)。˥シンズク [˥ʃindʑuku](四十九日)のように執り行われる。

ˈナンカソー˥ラン [ˈnaŋkasoː˥raŋ] 【名】旧暦七月七日。「七日精霊」の義。タˈナバタ [taˈnabata](七夕)ともいう。この日に墓の掃除をし、また仏前を清め、パˈナ˥イキ [paˈna˥ʔiki](花生け)、ˈサー˥ドー [ˈsaː˥doː](茶湯)、ぶっしょう(仏餉)、お茶請けなどを供える。ˈナンカソー˥ラン　ンˈカイ　ヨー˥レーチバ　ウˈヤ˥プスンケーヌ　˥コーヨー　ˈシー　オーシラ [ˈnaŋkasoː˥raŋ ʔŋ˥kai joː˥reːtʃiba ʔuˈjapusu˥ŋke: ˥koːjoː ˈʃiː ʔoːʃira](七日精霊をお迎えしたから、先祖さまの孝養そして差し上げよう)。

ˈナンカソッ˥コー [ˈnaŋkasok˥koː] 【名】旧暦七月七日のタˈナバタ [taˈnabata](七夕)に執り行う法事(焼香)。七日焼香。この日には法事のためのˈピール [ˈpiːru](ひえり＜日択り＞)をせずに執り行うことができるという。都合によって延び延びになっている法事はタˈナバタ [taˈnabata](七夕)に執り行った。ˈナンカソッコー˥ヤ　ˈピューロー˥　トゥˈラン˥ドーシ　˥ナルンツォー [ˈnaŋkasokko:˥ja ˈpjuroː˥ tuˈran˥doːʃi ˥naruntsoː](七夕に執り行う法事＜七日焼香＞は日択りしないで出来るそうだ)。

ˈナン˥カナンカ [ˈnaŋ˥kanaŋka] 【名】人の死後の初七日からしちしちき(七七忌)までの法事。各七日忌。ˈシー˥ネヌ　˥アッパー　ˈナン˥カナンカー　ˈバスクンドー˥シ　˥ティー　ウˈサーシ˥　クーˈヨー [ˈʃiː˥nenu ˥ʔappaː ˈnaŋ˥kanaŋkaː ˈbasu̥kundoː˥ʃi ˥tiː ʔuˈsaːʃi˥ kuːˈjoː](後隣の家のお祖母さんの初七日から四十九日の法事は忘れないで手を合わせてきなさいよ)。

ˈナンカマー˥シ [ˈnaŋkamaː˥ʃi] 【連】七日続けて。ア

ー˹パーレー　ナンカ˺マーシ　イ˹ワ˺イ　˹スー [ʔa: ˹pa:re: naŋkama:˺ʃi ʔi˹wa˺i ˹su:](ああ、素晴らしい。七日続けて祝いをしよう)(アーパーレー歌)。

˹ナン˺ギ [˹naŋ˺gi] 【名】難儀。苦労。˹ナンギ˺ヌ　˺アトー　ラ˹ク˺ヌ　˺クーティ　ア˹ザリ　ブー [˹naŋgi ˺nu ˺ʔato: ra˹ku˺nu ˺ku:ti ʔa˹ʤari bu:](難儀の後には楽が来るといわれている)。ウ˹ヌ˺　クトゥシ　˺ドゥク　˹ナン˺ギ　ス˹ナ˺ヨー [ʔu˹nu˺ kṵtuʃi ˺duku ˹naŋ˺gi su˹na˺jo:](そのことであまり難儀＜苦労＞するなよ)。

˹ナン˺ギアワリ [˹naŋ˺giʔawari] 【名】難儀苦労。˹ナン˺ギアウリ [˹naŋ˺giʔauri](難儀苦労)、ア˹ワ˺リナンギ [ʔa˹wa˺rinaŋgi](難儀苦労。「哀れ難儀」の義) ともいう。˺ウヤー　˹ナン˺ギアワリバ　˹シール˺　ッ˹ふァヨー　ウイヌ　ガッ˺コー　ン˹ザ˺ソーッタ [˺ʔuja: ˹naŋ˺giʔawariba ˹ʃi:ru˺ f˹fajo: ʔuinu gak˺ko: ʔn˹ʤa˺so:tta](親は難儀苦労をして子供を上級学校へ進学させられた＜出された＞)。

˹ナン˺ギクチサ [˹naŋ˺gikṵʧisa] 【名】難儀苦労。肉体的苦労と精神的苦しみ。ウ˹ヌ　ナン˺ギクチサー　ア˹タレー˺　プ˹スンドゥ˺　ッ˹シェー˺　プ˹スノー˺　ッ˹サヌ [ʔu˹nu naŋ˺gikṵʧisa: ʔa˹tare:˺ pṵ˹sundu˺ ʃ˹ʃe:˺ pṵ˹suno:˺ s˹sanu](その難儀苦労は経験した人＜当った人＞が分かる。他人がは知らない)。

˹ナンギシティ˺ルン [˹naŋgiʃi̥ti˺ruŋ] 【他動】投げ捨てる。惜しげもなく捨てる。シゥ˹カーランムノー　ナンギシティ˺ルンティ　˹スンドゥ˺　ウ˹ムイツァー˺ヌ　シ˹ティララヌ [si̥˹ka:rammuno: naŋgiʃi̥ti˺ runti ˹sundu˺ ʔu˹muitsa:˺nu ʃi̥˹tiraranu](使えない物は投げ捨てようとするのだが、惜しいので捨てられない)。

˹ナン˺ギ　シ˹トゥン [˹naŋ˺gi ʃi̥˹tuŋ]【連】投げ捨てる。投げて捨てる。˺アイ　˺ブムノー　ノー˹ン˺　シゥ˹カイユーゾー　ナー˺ヌ　˹ナン˺ギ　シ˹トゥンティ˺　ウムイ　˹ベー [˺ʔaibu ˺muno: no:˹n˺ si̥˹kaiju:ʤo: na:˺nu ˹naŋ˺gi ʃi̥˹tunti˺ ʔumui ˹be:](あんなものは何も価値が＜使い道。用途＞ない。投げ捨てようと思っている)。

˹ナンギッツァー˺スン [˹naŋgittsa:˺suŋ] 【他動】投げ散らす。動詞˹ナン˺グン [˹naŋguŋ](投げる) の連用形に、˹ッツァー˺スン [˹ttsa:˺suŋ](散らす。「～鶯の木傳落＜ちらす＞～。万、1873」) が複合して形成された合成語。˹クン˺ゾー　ウ˹ク˺ルカー　˺ヌーン　˺クイン　˹ナンギッツァー˺スンダ　˹ナンギッツァーサン˺ヨーニ　ウ˹ティシゥカ˺シ [˹kun˺ʤo: ʔu˹ku ˺ruka: ˺nu:ŋ ˺kuin ˹naŋgittsa:˺sunda: ˹naŋgittsa:saŋ˺ jo:ni ʔu˹tisi̥ka˺ʃi](怒ったら何もかも投げ散らすから、投げ散らさないように落ち着かせなさい)。˹ナンギッツァー˺シ　˹ベー [˹naŋgittsa:˺ʃi ˹be:](投げ散らしている)。˹ナンギッツァー˺ス　˺クトー　ナ˹ラ˺ヌ [˹naŋgittsa:˺su ˺kṵto: na˹ra˺nu](投げ散らすことは出来ない)。˹ナンギッツァー˺シェー　˺ミサムヌ [˹naŋgittsa:˺ʃe: ˺misamunu](投げ散らせばいいのに)。˹ナンギッツァー˺シ [˹naŋgittsa:˺ʃi](投げ散らかせ)。

˹ナンギ˺ルン [˹naŋgi˺ruŋ] 【他動】投げる。˹ナン˺グンとも言う。ムー˹ル˺シ　イ˹シ　ナンギ˺ルンティ　˹ベー˺ンドゥ　˺バー　˹タン˺ガー　˹ナンギラ˺ヌ [mu:˹ru˺ʃi ʔi˹ʃi naŋgi˺runti ˹be:˺ndu ˺ba: ˹taŋ˺ga: ˹naŋgira˺nu](皆で石を投げようとしているが、私一人は投げない)。˹ナン˺ギ　˺ミサカー　˹ナンギ˺ル　˺クトー　ナ˹リ˺スンダ　˹ナンギ˺レー　˺ミサムヌ [˹naŋ˺gi ˺misaka: ˹naŋgi˺ru ˺kṵto: na˹ri˺sunda ˹naŋ˺gire: ˺misamunu](投げてよければ、投げることは出来るから投げれば良いのに)。˺クマーラ　˹ナンギ˺リバ [˺kuma:ra ˹naŋgi˺riba](ここから投げよ)。

˺ナンギン [˺naŋgiŋ] 【名】何斤。ク˹ヌ˺　イ˹ゾー˺　プ˹スッ˺カラシ　˺ナンギン　カ˹カル˺ワ [ku˹nu˺ ʔi˹ʤo:˺ pṵ˹suk˺karaʃi ˺naŋgiŋ kḁ˹karu˺wa](この魚は一匹で何斤かかるか＜何斤になるか＞)。

˹ナンギン˺グイ [˹naŋgiŋ˺gui] 【名】捨てぜりふ。逃げ吠え。暴言を吐くこと。「投げ声」の義。サ˹キバ˺　ヌミティ　ミ˹チェー˺ラ　˹ナンギングイ˺バ　˹シェー˺ティ　˹パッ˺タヤー [sḁ˹kiba˺ numiti mi˹ʧe: ˺ra ˹naŋgiŋgui˺ba ˹ʃe:˺ti ˹pat˺taja:](酒を飲んで道から捨てぜりふを吐きながら去って行ったよ)。

˹ナンククル [˹naŋkuku˺ru] 【副】自然に。ひとりでに。おのずと。若年層は、˹ナンク˺ル [˹nakku˺ru](自然に) ともいう。シ˹ティシキ˺リ　ナ˹キブガリ　スー˺カー　˹ナンククル　ナ˹キヤムン [ʃi̥˹tiʃi̥ki˺ri na˹kibugari su:˺ka: ˹naŋkuku˺ru na˹kijamuŋ](ほって＜捨てて＞おけ。泣き疲れたら自然に泣き止むよ)。ウ˹ビッチン˺ヌ　ア˹シ˺ボー　ガ˹ジマル˺ヌ　˺シル　˹ヌーリ˺　スクカー　˹ナンククル　シ˹ビリ˺パルン [ʔu˹bitʃin˺nu ʔa˹ʃi˺bo: ga˹ʤimaru˺nu ˺ʃiru ˹nu:ri˺ sṵkuka: ˹naŋkuku˺ru ʃibiri˺ paruŋ](それぽっちのおできはガジマルの白い樹液を塗っておくと自然に萎(シボ)んで枯れていくよ)。

˹ナン˺グン [˹naŋ˺guŋ] 【他動】投げる。下二段活用「なぐ、～鮎を惜しみ投左乃＜ナグルサノ＞～。万、

3330」の四段活用化したもの。˩バン˥ヌン　˩ナン˥グン [˩ban˥nun ˩naŋ˥guŋ](私も投げる)。マ˩ナ˥マー　˩ナンガ˥ヌ [ma˩na˥ma: ˩naŋga˥nu](今は投げない)。˩ワー　ナン˥ギ　˥ミサン [˩wa: naŋ˥gi ˥misaŋ](君は投げても良い)。˩ナン˥ギ　シ˩ティルン [˩naŋ˥gi ʃi̥ ˩tiruŋ](投げて捨てる)。˩ナン˥グ　プ˩ソー　ター˥ヤ [˩naŋ˥gu pu̥˩so: ta:˥ja](投げる人は誰か)。˩ワンヌン　ナン˥ゲー　˥ミサムヌ [˩wannun naŋ˥ge: ˥misamunu](君も投げればいいのに)。˥クマーラ　˩ナン˥ギバ [˥kuma:ra ˩naŋ˥giba](ここから投げよ)。

˩ナン˥グン **[˩naŋ˥guŋ]** 【自動】びっこ (跛) をひく。「なえ＜蹇＞ぐ」の義。「跛、那閇久＜なへく＞」『和名抄』の転訛。イ˩ク˥サナー　˥パン　イ˩ラリティル　ナン˥ゲーティ　˩アー˥ク˩ダー [ʔi˩ku˥sana: ˥paŋ ʔi˩raritiru naŋ˥ge:tei ˩ʔa:˥ku˩da:](戦争で足を撃たれてびっこをひいているんだよ)。マ˩ナ˥マー　˩ナングン˥ドゥ　˥キサー　˩ナンガン˥シェン [ma˩na˥ma: ˩naŋgun˥du ˥ki̥sa: ˩naŋgaŋ˥ʃeŋ](今はびっこをひく＜蹇ぐ＞が、以前はびっこをひかなかった)。イ˩ク˥サー　パ˩ラン˥シェーカー　˥パン　˩ナン˥グ　˥クトゥン　˩ナーン˥シェー　˥パジ [ʔi˩ku˥sa: pa˩raŋ˥ʃe:ka: ˥pan ˩naŋ˥gu ˥ku̥tun ˩na:ŋ˥ʃe: ˥paʤi](戦争に行かなかったら足をびっこひくこと＜なえぐこと＞もなかったはず)。

˥ナンゲー **[˥naŋge:]** 【名】びっこ (跛)。びっこをひくこと。˩跛、那閇久 (なへぐ)」『和名抄』の転訛したもの。ウ˩レー˥　ナンゲー　ヤ˩ルンダ˥　プ˩スヌ˥　カタチニ　カ˩キッツァー˥シ　パ˩リユーサ˥ヌ [ʔu˩re:˥ naŋge: ja˩runda˥ pu̥˩sunu˥ kḁtatʃini kḁ˩kittsa:˥ʃi pa˩riju:sa˥nu](彼はびっこだから、他人のように駆け出して行けない)。

˥ナンゲー　˥ナルン **[˥naŋge: ˥naruŋ]**【連】びっこ (跛) になる。ウ˩リヌ˥　クヌヨーナ　˥ナンゲー　˥ナレーモー　イ˩ク˥サ　ユイ˩ダー [ʔu˩rinu˥ kunujo:na: ˥naŋge: ˥nare:mo: ʔi˩ku˥sa jui˩da:](彼がこのようなびっこになったのも戦ゆえだよ)。

˩ナンザン **[˩nanʤaŋ]** 【名】難産。˩ナンザン˥シ　マ˩レー˥ル　ッ˩ふァ˥　ヤ˩ルンドゥ˥　カイニ　˩スー˥リ　フ˩ドゥビ　ベートツォー [˩nanʤaŋ˥ʃi ma˩re:˥ru f˩fa˥ ja˩rundu˥ kaini ˩su:˥ri ɸu˩dubi be:ˊtso:](難産で生まれた子供だが、こんなに発育して成長しているんだよ)。

˥ナンズー **[˥nanʤu:]** 【名】何艘。船の数が分からない時に用いる。イ˩ガメーフネー˥　ナンズー　ン˩ズ˥ター　[ʔi˩game:ɸune:˥ nanʤu: ʔn˩ʤu˥ta:](烏賊釣り船は何艘出漁した＜出た＞か)。

˩ナン˥ゾー **[˩nan˥ʤo:]** 【副】それほど～ない。あまり～ない。否定の陳述と呼応してもちいられる陳述副詞。ク˩トゥシヌ˥　カ˩ジフケー　ナン˥ゾー　˩スーヤ　ナー˥ヌ [ku̥˩tuʃinu˥ ka˩ʤiɸu̥ke: nan˥ʤo: ˩su:ja na:˥nu](今年の台風はあまり強くない)。˩ナン˥ゾー　ッ˩ふァーラヌ [˩nan˥ʤo: f˩fa:ranu](あまり食べられない)。˩ナン˥ゾー　ウ˩ムッサー　ナー˥ヌ [˩nan˥ʤo: ʔu˩mussa: na:˥nu](あまり面白くない)。

˩ナン˥ツァ **[˩nan˥tsa]** 【名】銀。「なんりょう (南鐐)」の転訛したもの。˩ナンツァ˥ピー　ク˩ガニピーバ˥　ム˩トゥ˥バ　˩シー [˩nantsa˥pi: ku˩ganipi:ba˥ mu˩tu˥ba ˩ʃi:](銀のような良き日、黄金のような立派な日をもとにして)。˩ナンツァヨー˥チ　ク˩ガニヨーチ [˩nantsajo:˥ʧi ku˩ganijo:ʧi](銀の簪、黄金の簪)。˩ナンツァマー˥ス　ク˩ガニマース˥　タ˩ボーラ˥リバ [˩nantsama:˥su ku˩ganima:su˥ ta˩bo:ra˥riba](銀の塩、黄金の塩を頂きなさい＜賜られなさい＞)。

˩ナンツァ˥ガニ **[˩nantsa˥gani]** 【名】銀の鋼材。「銀のような優れた鋼材」の義。歌謡語。˩ナンツァガニ˥バ　ウ˩ダ˥ティ　˥シー～[˩nantsakugani˥ba ʔu˩da˥ti ˥ʃi:～](銀の鋼材を桝＜うだち。梁の上に立て、棟木を支える小さな柱＞にして～)(アーパーレー歌)。

˩ナンツァピュー˥ル　ク˩ガニピュール **[˩nantsapju:˥ru ku˩ganipju:ru]** 【連】銀の日和、黄金の日和。金銀のような素晴らしい日和。

˩ナンツァヨー˥チ **[˩nantsajo:˥ʧi]** 【名】銀の簪。銀簪。˩ナンツァヨーチ˥バ　˩マーリ˥ザ　˩シー　ヤー˥バ　ス˩ク˥リ　˥アンティ　˥スー [˩nantsajo:ʧi˥ba ˩ma:ri˥ʤa ˩ʃi: ja:˥ba su̥˩ku˥ri ˥ʔanti ˥su:](銀簪をマーリザ＜甍どめ＞にして家を造ってあるという)(アーパーレー歌)。

˥ナントゥキン **[˥nantukiŋ]** 【名】何時。何時。普通に話すと [n] の後ろでは連濁して、˥ナンドゥキン [˩nandukiŋ](何時) となり、[t]、[d] は自由変異。マ˩ナ˥マー　˥ナンドゥキンヤー [ma˩na˥ma: ˥nanduk-iŋja:](今は何時＜何時＞か)。˥ナンドゥキン　ヤ˩ラバン˥　ミサバ　マ˩リン˥ギサカー　˩サーリン˥　クーバ˩ヨー [˥nandukiŋ ja˩rabam˥ misaba ma˩riŋ ˥gisaka: ˩sa:riŋ˥ ku:ba˩jo:](何時でも良いから、生まれそうになったら呼び＜連れ＞に来なさいよ)。

ナン˩ドゥキン **[nan˩dukiŋ]** 【名】いつでも。何時でも。「何時も」の義。ヤ˩ラ˥ベー　ニ˩チ˥ヌ　ン˩ジ˥ルカー　ナン˩ドゥキン˥　イ˩サン˥ヤー　˩サーリ˥

パリ [jaˈraˀbeː niˈtʃiˀnu ʔnˈʤiˀrukaː nanˈdukiŋˀ ʔiˈsaŋˀjaː ˈsaːriˀ pari](子供は発熱したら＜熱が出たら＞何時でも病院＜医者の家＞へ連れて行け)。

ˈナントゥˀムチ **[ˈnantuˀmutʃi]** 【名】もち米の粉に味噌、黒糖、胡椒などを入れて月桃の葉に包んで蒸し上げた餅。ハチジューˈゴーヌ　ソーニヨイ [hatʃiʤuːˈgoːnu soːnijoi](八十五の生年祝い) やウˈブソッˀコー [ʔuˈbusokˀkoː](二十五年忌以上の大法事) に作られた。ウˈブソッˀコーナー　アˈローˀル　プˈソー　ナントゥˀムチン　スˈクˀローッタン [ʔuˈbusokˀkoːnaː ʔaˈroːˀru pu̥ˈsoː nantuˀmutʃin su̥ˈkuˀroːttaŋ](二十五年忌以上の大法事には、余裕のある家では＜人は＞ナントゥムチも作られた)。

ˈナンニˀチ **[ˈnanniˀtʃi]** 【名】何日。日数が不明なときに用いる。クˈヌˀ　シˈグトー　ナンニˀチシ　ナˈルˀワ [kuˈnuˀ ʃiˈguto: nanniˀtʃiʃi naˈruˀwa](この仕事は何日でできるか)。ˈナンニˀチ　カˈカラˀバン　ˈサンˀカー　ナˈラˀヌ [ˈnanniˀtʃi kḁˈkaraˀban ˈsaŋˀkaː naˈraˀnu](何日かかってもしなければならない)。

ˈナンˀニン **[ˈnanˀniŋ]** 【名】何人。標準語からの借用語の転訛。人数が不明の時に用いる。普通は、ギュˈタール [gjuˈtaːru](何人。「幾たり」の義) という。フˈナˀカコー　ˈナンˀニンブカラ　ˈブーワ [ɸuˈnaˀkḁkoː ˈnanˀnimbukara ˈbuːwa](船員は何人ほどいるか)。バˈコーシンˀカー　ˈナンˀニン　タˈナムˀワ [baˈkoːʃiŋˀkaː ˈnanˀn taˈnamuˀwa](共同作業の仲間＜人衆＞は何人頼むか)。

ˈナンˀニン **[ˈnanˀniŋ]** 【名】何年。標準語からの借用語が転訛したもの。老年層はˈギュートゥシ [ˈgjuːtuʃi](幾年。何年) という。ˈワーッテˀ　ウˈキˀナー　ˀパレーラ　ˈナンˀニン　ナˈルˀワ [ˈwaːtteˀ ʔuˈkiˀnaː ˀpareːra ˈnanˀnin naˈruˀwa](君は、それで、沖縄へ行って何年になるか)。シˈグトー　ナンニンˀヌ　ヤˈクスクˀヤー [ʃiˈguto: nanninˀnu jaˈkusu̥kuˀjaː](仕事は何年の約束か)。

ˈナンˀバ **[ˈnamˀba]** 【名】滑車。軸を中心に回転する円板で、周囲に溝があり、これに綱をかけて回転させ、重い物を持ち上げる際に使用する道具。鰹漁船を陸揚げする際に滑車をˀビービー [ˀbiːbiː](巻上げ機) に装着して利用した。ˀビービーナ　ˈナンˀバーフˈターチミーチˀ　シˈキランˀカー　カˈツシンマー　グッふァˀヌ　アˈギラランシェン [ˀbiːbiːna ˈnamˀbaː ɸu̥ˈtaːtʃimiːtʃiˀ ʃi̥ˈkiraŋˀkaː kḁˈtsuʃimmaː guffaˀnu ʔaˈgiraranʃeŋ](巻上げ機に滑車を二、三個付けないと鰹漁船は重くて陸揚げできなかった)。

ˈナンバンガミ **[ˈnambaŋgami]** 【名】なんばんがめ(南蛮甕)。南方渡来の甕で、酒を入れるのに用いた。陶質が蜜で上質の甕といわれていた。ウˈヤˀキヤーナー　ˈナンバンガミンˀ　アˈローッˀタンツォー [ʔuˈjaˀkijaːnaː ˈnambaŋgamiŋˀ ʔaˈroːtˀtantsoː](金持ちの家には南蛮甕もあられた＜おありなさった＞そうだ)。

ニ

˥-ニ [˥-ni] 【格助】 1〜に。場所を表す。/パトゥマナカムリ　パリヌブリ　クバヌシタニ　パリヌブリ　ハイヤヨーティバ　カイダキ　ティトゥルトゥ　テンヨー　マサティミグトゥ/(鳩間中岡を駆け上って、クバ＜蒲葵＞の下に駆け上って、南の方はと云えば、美しい古見岳が手に取るように、実に美しく見事である)(鳩間中岡＜節＞)。2動作作用の結果の状態を表す。/〜シマヌナガリユ　ミワタシバ　ルクヌ　イチジニ　チカクアリ〜/(〜島の流れ＜島の形。傾斜＞を見渡すと、禄の一字に字画がある＜字画に意味がこめられている＞)(鳩間口説)『新本家文書　家訓歌語並萬口説集』(咸豊九年<1859 年＞書)。3動作・作用の相手を表す。ぞんざいに発音する時は、˩-ン [˩-ŋ](〜に) となる。˩ターニ˥ル　アˬズター [˩taːni˥ru ʔaˬʤutaː](誰に＜ぞ＞云ったのか)。˩ターン˥　スˬクワ [˩taːn˥ sɥˬkuwa](誰に聞くか)。˩ターニ˥ル　タˬナム˥ター [˩taːni˥ru taˬnamu˥taː](誰に＜ぞ＞頼んだのか)。˩ワー　ターンドゥ˥　タˬナム˥ワ [˩waː taːndu˥ taˬnamu˥wa](君は誰に＜ぞ＞頼むか)。ムー˩ル˥ニン　パˬナ˥シ　˥シケーバ　˩カン˥ガイ　ッˬふィーリ [muːˬru˥nim paˬna˥ʃi˥ʃɥke:ba ˩kaŋ˥gai fˬfiːri](皆にも話してあるから、考えてくれ)。4取立ての助詞˩ヤ [˩ja](は) が下接すると、[ni](に)・[ja](は)→　ネー [neː](には) となる。˩ワー˥ネー　アˬザンシェン [˩waː˥neː ʔaˬʤaŋʃeŋ](君には言わなかった)。

˥ニー [˥niː] 【名】二。˩ニー˥バン　˥ナレーン [˩niː˥ban ˥nareːŋ](二番になった)。˩ニーバン˥ザ [˩niːban˥ʤa](二番座)。˩ニッ˥キン [˩nik˥kiŋ](二斤)。˩ニン˥ゴー [˩niŋ˥goː](二合)。˥ニス [˥nisu](二升)。˩ニッ˥タン [˩nit˥taŋ](二反)。

˥ニー [˥niː] 【名】植物の根。ニˬバ˥ル [niˬba˥ru](大木の根) ともいう。˩キー˥ヌ　˥ニー [˩kiː˥nu ˥niː](木の根)。˥ニー　˩コースン [˥niː ˩koːsuŋ](根を掘り起こす)。アˬシブ˥ヌ　˥ニー　˥トゥリ [ʔaˬʃibu˥nu ˥niː ˥turi](お出来の根＜芯＞を取りされ)。

˥ニー [˥niː] 【名】荷。荷物。˥イダフネーラル　˩ニー˥ヤ　カˬヨーシタ [˥ʔidaɸuneːraru ˩niː˥ja kaˬjoːʃita](板船＜サバニ＞から＜ぞ＞荷物は運んだ＜通わした＞)。˩ヌー˥ル　˩ワー˥　ニーヤ [˩nuː˥ru ˩waː˥ niːja](何が君の荷物か)。イˬサナケーラヌ　ニー˥ヤ　マˬダ˥　トゥˬドゥカ˥ヌ [ʔiˬsanakeːranu niː˥ja maˬda˥ tuˬduka˥nu](石垣島からの荷物はまだ届かない)。

˥ニー [˥niː] 【名】 1ね (子)。十二支の一つで、第一番目に位するもの。2方角を示す、北。˩ニーヌ˥パー [˩niːnu˥paː](子の方向。北)。˩ニーヌ˥パーカジヌ　˥フクン [˩niːnu˥paːkaʤinu ˥ɸukuŋ](北風が吹く)。3時＜年＞を表す。˩ニー˥ディマリ [˩niː˥dimari](子年の生まれ)。˥クナー　˩ニー˥ディプソー　ギュˬター˥ル　ブˬワ [˥kunaː ˩niː˥dipu̥soː gjuˬtaːru˥ buˬwa](ここに、子年生まれの人は何人いるか)。˩ニー˥ディマリプソー　˩ネーランケー˥ンツォー [˩niː˥dimaripu̥soː ˩neːraŋkeː˥ntsoː](子年生まれの人は粘り強い＜緻密な性格だ＞そうだ)。

˩ニーアー˥リ [˩niːʔaː˥ri] 【名】植物の根が地上に出ること。「根上がり」の義。カˬブッチヌ　ニー˥ヌ　˩ニーアー˥リ　˩シー　ベー˥バ　˥ジー　カˬバ˥シティ　˥ニー　ウˬスイ˥バ [kaˬbuttʃinu niː˥nu ˩niːʔaː˥ri ˩ʃiː beː˥ba ˥ʤiː kaˬba˥ʃi̥ti ˥niː ʔuˬsui˥ba](南瓜の根が地上に出ているので、土を被せて根を覆いなさいよ)。

˩ニー˥アギ [˩niː˥ʔagi] 【名】二上がり。三線のナˬカ˥ジル [naˬka˥ʤiru](中弦) を本調子より高く音程を上げること。二の弦を上げること。クˬヌ˥　ウター　˩ニー˥アギシ　ピˬカン˥カー　˩クンクンシー˥トゥ　アˬタラヌ [kuˬnu˥ ʔutaː ˩niː˥ʔagiʃi pi̥ˬkaŋ˥kaː ˩kuŋkuŋʃiː˥tu ʔaˬtaranu](この歌は二上がりで弾かないと工工四＜三線楽譜＞の譜面と合わない)。

˥ニー　ウˬスイ [˥niː ʔuˬsui] 【連】地上に出ている根を除草の際に土を被せて覆うこと。˩ニーアー˥リ　˩シー　ベー˥モー　˥ッサ　トゥˬリンテー˥ナー　˥ピラシ　˥ジー　˥カキ　カˬバ˥シ　˥ニー　ウˬスイ˥

バ [˩ni:ʔa:˥ri ˩ʃi: be:˥mo: ˥ssa tu˩rinte:˥na: ˥piraʃi ˥ʤi: ˥kạki ka˩ba˥ʃi ˥ni: ʔu˩sui˥ba](根が出ている＜根上がりしている＞ものは除草しながら箆で土を掻き被せて根を覆いなさいよ)。

˥ニー　ウ˩ラ˥スン **[˥ni: ʔu˩ra˥suŋ]** 【連】荷を降ろす。積荷を降ろす。˩アー˥ヤー　˩パイター˥ラヌ　˥ニー　ウ˩ラ˥スンティル　˩オー˥ル [˩ʔa:˥ja: ˩paita:˥ranu ˥ni: ʔu˩ra˥suntiru ˩ʔo:˥ru](お父さんは南端＜西表島＞からの荷を降ろそうとして居られる)。

˥ニー　ウ˩ラ˥スン **[˥ni: ʔu˩ra˥suŋ]** 【連】根を下ろす。植物が根付く。ク˩ヌ˥　ウロイナー　カ˩ブッチン˥　ニー　ウ˩ラ˥スン　˥パジ [ku˩nu˥ ʔuroina: ka˩buttʃin˥ ni: ʔu˩ra˥sum ˥paʤi](この雨＜潤い＞で南瓜も根付く＜根を下ろす＞でしょう＜はずだ＞)。

˥ニー　ウ˩リ˥ルン **[˥ni: ʔu˩ri˥ruŋ]** 【連】根が下りる。根付く。活着する。ク˩ヌ˥　ウロイナー　ヤ˩トゥイ˥ヤール　ス˩クリ˥ムノー　ムー˩ル˥　ニー　ウ˩リ˥ルン　パジ [ku˩nu˥ ʔuroina: ja˩tui˥ja:ru sụ˩kuri˥muno: mu:˩ru˥ ni: ʔu˩ri˥rum ˥paʤi](この雨＜潤い＞で移植した作物は全部活着する＜根が下りる＞だろう＜はずだ＞)。

˩ニー˥ウレー **[˩ni:˥ʔure:]** 【名】船着場。「荷下し所」の義。˥イダフニ [˥ʔidaɸuni](サバニ) の荷を降ろしたり、積荷をしたりする浜。トゥ˩マダヌ　ニー˥ウレー [tu˩madanu ni:˥ʔure:](トゥマダ田袋の船着場)。˩ケーダ˥ヌ　˩ニー˥ウレー [˩ke:da˥nu ˩ni:˥ʔure:](ケーダ田袋の船着場)。˩ユシ˥キダーヌ　˩ニー˥ウレー [˩juʃị˥kida:nu ˩ni:˥ʔure:](ユシキダ田袋の船着場)。˩パイター˥ラ　タ˩ム˥ヌキーバ　˥キシ　˥キー　˩ニー˥ウレーナー　シ˩ミ˥　シケー [˩paita:˥ra ta˩mu˥nuki:ba ˥kịʃi ˥ki: ˩ni:˥ʔure:na ʃi˩mi˥ ʃị˥ke:](南端＜西表島北岸＞から薪にする木を伐ってきて、荷下ろしをする浜に積んである)。

˩ニーカタ˥ミ **[˩ni:kata˥mi]** 【名】荷担ぎ。荷物を担ぐこと。荷物を担いで運ぶこと。˩ニーカタ˥ミ　˩テー˥ナイ　˩スンティル　クー˥タ [˩ni:kata˥mi ˩te:˥nai ˩suntiru ku:˥ta](荷担ぎ手伝いをしようと＜ぞ＞来た)。

˩ニーカタミ˥プス **[˩ni:katami˥pụsu]** 【名】仲仕。土木人夫。荷物を担いで運ぶ人。シ˩グトゥヌ　ナーン˥ベーティ　˩ニーカタミプス˥バ　˩シール˥　ムノー　ッ˩ふァイ　ブー˥ダー [ʃi˩gutunu na:m˥be:ti ˩ni:katamipụsu˥ba ˩ʃi:ru˥ munu f˩fai bu:˥da:](仕事がないので仲仕をして生活して＜物を食べて＞いるよ)。

˥ニー　カ˩タ˥ムン **[˥ni: kạ˩ta˥muŋ]** 【連】荷物を担いで運ぶ。荷を担ぐ。˥ニー　カ˩タ˥ムンティ　˩スンドゥ˥　カ˩タマラ˥ヌ [˥ni: kạ˩ta˥munti ˩sundu˥ kạ˩tamara˥nu](荷物を担ごうとするが、担がれない)。

˩ニーキシ˥ルン **[˩ni:kị̥ʃi˥ruŋ]** 【自動】根絶やしになる。すっかりなくなる。絶滅する。「根切れる」の義。˥ガンボーシェー　˩ニーキシ˥ルンカヤーティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　˩ニーキシラン˥バン [˥bamboʃe: ˩ni:kị̥ʃi ˥ruŋkaja:ti ʔu˩mu:tan˥du ˩ni:kị̥ʃiram˥baŋ](ガンボーシ＜雑草の名＞は絶滅するかと思ったが、絶滅しないよ)。˩ニー˥キシ　˩ナー˥ヌ [˩ni:˥kị̥ʃi ˩na:˥nu](絶滅してしまった)。˩ニーキシ˥ル　˥クトー　˩ナー˥ヌ [˩ni:kị̥ʃi˥ru ˥kụto: ˩na:˥nu](絶滅することはない)。˩ニーキシ˥レー　˥ミサムヌ [˩ni:kị̥ʃi˥re: ˥misamunu](絶滅すればいいのに)。˩パー˥ク　˩ニーキシ˥リ [˩pa:˥ku ˩ni:kị̥ʃi˥ri](早く絶滅しろ)。˩ヤン˥マー　˩ニーキサ˥シ [˩jam˥ma: ˩ni:kị̥sa˥ʃi](病気は根絶＜完治＞させなさい)。

˩ニー˥キスン **[˩ni:˥kisuŋ]** 【自動】絶滅する。すっかりなくなる。根絶やす。「根切る」の義。˥ガンボーシェー　˩ニー˥キシ　˩ナー˥ヌ [˥gamboʃe: ˩ni:˥kị̥ʃi ˩na:˥nu](ガンボーシ＜雑草の名＞は絶滅してしまった)。˩ニーキサン˥ドーシ　˥ムイ　˩ベー [˩ni:kị̥san˥do:ʃi ˥mui ˩be:](絶滅しないで生えている)。フ˩チ˥ル　˥マケーンダ　˩ニー˥キスンティ　ウ˩ムータ˥ヌ　˩ニー˥キス　˥クトー　˩ナー˥ヌ [ɸụ˩ʧi˥ru ˥make:nda ˩ni:˥kị̥sunti ʔu˩mu:ta˥nu ˩ni:˥kị̥su ˥kụto: ˩na:m˥baŋ](農薬を撒いたから絶滅すると思ったが絶滅することはないよ)。˩ニー˥キシェー　˥ミサムヌ [˩ni:˥kị̥ʃe: ˥misamunu](絶滅すればいいのに)。˩パー˥ク　˩ニー˥キシ [˩pa:˥ku ˩ni:˥kị̥ʃi](早く絶滅しろ)。

˩ニー˥クサイ **[˩ni:˥kusai]** 【名】作物の根元の枯れ葉等を取り払って成長させること。野菜等の根元の古い皮を除去して調理すること。こしらえ (拵え) ること。「誘、古之良布 (こしらふ)」『華厳音義私記』と関係ある語か。˩シン˥ザー　ッ˩サバー˥　トゥリティ　˩ニー˥クサイ　˩シー˥バ [˩ʃin˥ʤa: s˩saba:˥ turiti ˩ni:˥kusai ˩ʃi:˥ba](砂糖黍は枯れ葉＜下葉＞を剥ぎ取って根元を綺麗にしなさいよ)。シ˩ビラー　ニー˥クサイ　シ˩ティ˥　キ˩ザミ˥　ウ˩ラ˥シバ [ʃi˩bira: ni:˥kusai ʃị˥ti˥ ki˩ʤami˥ ʔu˩ra˥ʃiba](葱(ネギ)は根元の枯れ葉を除去して細かく刻んで下ろしなさいよ)。

˹ニークミルン [˹ni:kumiruŋ] 【他動】煮込む。カツオ節製造工場で、四つ割りにしたカツオを円形の蒸籠(セイロウ)に並べ、それを 8〜10 段重ね、大釜に入れて煮込むこと。カ˹ツォー　ニークミルンティ　ベーン˺ドゥ　タ˹ムヌ˺ヌ　タ˹ラーンダ　ニークミララヌ [kạ˹tso: ni:kumirunti be:n˺du ta˹munu˺nu ta˹ra:nda ni:kumiraranu](カツオを煮込もうとしているが、燃料の薪が足りないもので煮込められない)。˹ニークミル˺　クトー　˺ナルン [˹ni:kumiru˺ kụto: ˺naruŋ](煮込むことは出来る)。˹ニークミヤッ˺サン [˹ni:kumi jas˺saŋ](煮込みやすい)。˹ニークミレー˺　ミサムヌ [˹ni:kumire:˺ misamunu](煮込めば良いのに)。˹パー˺ク　˹ニークミリ [˹pa:˺ku˹ ni:kumiri](早く煮込めろ)。

˹ニーグル˺マ [˹ni:guru˺ma] 【名】荷車。人や牛馬が荷物を運搬する車。ウ˹キ˺ナーラ　フ˹ニ˺ヌ　˹ペー˺ルカー　イ˹サンケヌ˺　サンバシナー　˹ニーグルマ˺ヌ　ア˹ツァ˺マリ　˹キー˺ル　マ˹チヤーカージヌ˺　ニー　ハ˹クブタル＜カ˹ヨーシタル＞[ʔu˹ki˺na:ra ɸu˹ni˺nu ˹pe:˺ruka: ʔi˹saŋkenu˺ sambaʃina: ˹ni:guruma˺nu ʔa˹tsa˺mari ˹ki:˺ru ma˹ʧija:ka:ʤinu˺ ni: ha˹kubutaru＜ka˹jo:ʃidaru＞](沖縄から船が入ると石垣島の桟橋には荷車が集まってきて＜ぞ＞お店ごとの荷物を運んだものだ)。

˹ニーザマ [˹ni:ʤama] 【名】寝言。˹ニーザマ　シー˺　ウ˹ヤー˺リティ　プ˹スバ˺　ウ˹バーシ˺　ヌーヤ　ウ˹レー [˹ni:ʤama ʃi:˺ ʔu˹ja:˺riti pụ˹suba˺ ʔu˹ba:ʃi˺ nu:ja ʔu˹re:](寝言をして、大声を出して他人を驚かせて、何だよ、これは)。

˹ニー˺ザラコーザラ [˹ni:˺ʤarako:ʤara] 【副】根掘り葉掘りして。しつこく。残さず。「根浚え」の畳語化したもの。˹ニー˺ザコーザ [˹ni:˺ʤako:ʤa](しつこく) ともいう。ヤー˹ディン　ニー˺ザラコーザラ　˹トゥイシゥカン˺カー　˺キモー　フ˹ガン˺　ブ˹リン˺ギサバン [ja:˹din ni:˺ʤarako:ʤara ˹tuisị̈kaŋ˺ka: ˺kimo: ɸu˹gaŋ˺ bu˹riŋ˺gisabaŋ](必ず根掘り葉掘り問い尋ねないと＜聞かない＞と納得＜満足＞しないようだ)。

ニー˹シー˺キー　˹シー [ni:˹ʃi:˺ki: ˹ʃi:] 【連】もとにして。基礎にして。基盤にして。歌謡語。日常会話では、˹ニー˺シキ　˹シー [˹ni:˺ʃị̈ki ˹ʃi:] という。「根付きにして」の義。アー˹パーレー　キューヌ　ピー˺バ　ニー˹シー˺キー　˹シー [ʔa:˹pa:re: kju:nu pi:˺ba ni:˹ʃi:˺ki:ʃi](ああ、すばらしい。今日の日を基＜根付き＞にして)(アーパーレー歌)。

˹ニー˺シェー [˹ni:˺ʃe:] 【名】若者。青年。「二才」の転訛したもの。沖縄首里方言からの借用語であろう。八重山舞踊勤王流の鼻祖といわれる比屋根安弼 (ひやごんあんひつ) は尚泰王 7 年 (1854 年) に首里城納殿筆者となり、若里之子に叙されたが、尚泰王 18 年 (1865 年)、30 歳の時にある罪で鳩間島へ配流となり、廃藩置県の年 (明治 12 年) に流罪放免となるまでの 14 年間を鳩間島で過ごした「八重山舞踊勤王流伝承略譜」當山善堂『八重山舞踊勤王流関係論考・資料集』という。その間に比屋根安弼が琉球古典芸能を鳩間島の人に伝えたという伝承がある＜米盛クヤ氏伝承＞。また「鳩間口説」の第 6 連の囃子には、/イヤイヤー　ユタカナルユヌ　シルシサミエイー　アミヤトゥカグシ　カジヤシジカニ　シクリムジクイ　マンサクソーリバ　イヒンカタトゥキ　ユダンヤナランサ　キットゥキバリヨ　ニセタ　ウムシルムヌサミ　ナマヌパヤシニ　クドゥキユミユミ/(いやいやー豊かなる御世の前兆だというものだ。雨は十日ごしに降り、風は静かに吹く。作物は豊年満作しているから、一時も片時も油断はできないよ。しっかり頑張れよ、若者達よ。ずばらしく楽しいものだ。今の囃子で口説きを歌えよ、歌えよ) とあるように、歌詞が沖縄方言で表出されていること、田代安定の「鳩間島巡検統計誌」(明治 18 年) によると、当時の鳩間島の人口は 161 人で、うち寄留者は 5 人おり、丸木舟の所有者も 1 人は糸満出身であったということから、鳩間島における沖縄方言の受容過程が推定される。鳩間方言の˹ニー˺シェー [˹ni:˺ʃe:](青年。若者) は、以上の理由から首里方言の˹ニー˺セー [˹ni:˺se:](二才。青年) の転訛したものであると考えるのが普通であろう。

˹ニーシェー˺ター [˹ni:ʃe:˺ta:] 【名】若者たち。青年たち。首里方言より転訛したもの。歌謡語。「〜キットゥ　キバリヨ　ニシェタ [˹kittu kibarijo niʃeta](しっかり頑張れよ、若者たちよ)」(鳩間口説)。

˹ニーシキ˺イシ [˹ni:ʃị̈ki˺ʔiʃi] 【名】地中に深く根を下ろした石。地中の岩盤に繋がる石。「根付き石」の義。ウ˹リヌ˺　キー　ビ˹レーラー　ニーシキイシ˺ヌ　˺カタチニ　˹ウー˺キ　˺パルンティ　˺クトゥッ˹サヌ [ʔu˹rinu˺ ki: bi˹re:ra: ni:ʃị̈kiʔiʃi˺nu ˺kạtatʃini ˹ʔu:˺ki ˺parunti ˺kụtu s˹sanu](彼が来て一旦座ったら、根付き石のように動いて立ち去ることを知らない)。

˹ニーシキ˺ルン [˹ni:ʃị̈ki˺ruŋ] 【自動】根付く。根を下

ろす。作物の根がおりて成長する。˩ニー˥スクン [˩niː˥su̥kuŋ](根付く) ともいう。イ˩ビ˥シケール　˩ウン˥マー　ウ˩ロイ˥ヌ　˥アルユンダ (˩アンダ)　シ˩グ　ニーシキ˥ルンパジ [ʔi˩bi˥ʃi̥ke:ru ˩ʔum˥ma: ʔu˩roi˥nu ˥ʔarujunda(˥ʔanda) ʃi˩gu ni:ʃi̥ki˥rumpaʤi](植えつけた芋は潤い < 湿り気 > があるから、すぐ根付くはずだ)。

˩ニージマ˥ルン **[˩niːʤima˥ruŋ]** 【自動】その土地に定着する。定住する。根付く。根を下ろす。ジ˩ナン　サンナン˥マー　タ˩ビ˥ナー　˩ニージマ˥ルン [ʤi˩nan sannam˥ma: ta˩bi˥na: ˩ni:ʤima˥ruŋ](次男三男は旅で定着する)。シ˩グトゥヌ˥　アル　˥トンナール　˩ニージマ˥ル　˩ナーン˥　トンナー　˩ニージマラ˥ヌ [ʃi˩gutunu˥ ʔaru ˥tonna:ru ˩ni:ʤima˥ru ˩na:n˥tonna: ˩ni:ʤimara˥nu](仕事のある所に < ぞ > 定住する。無いところには定住しない)。˩ニージマ˥リ　˩ベー [˩ni:ʤima˥ri ˩be:](定住している)。˩パー˥ク　˩ニージマ˥レー　˥ミサムヌ [˩pa:˥ku ˩ni:ʤima˥re: ˥misamunu](早く定住すれば良いのに)。˥クナー　˩ニージマ˥リバ [˥kuna: ˩ni:ʤima˥riba](ここで定住しなさいよ)。˩ニージマリ˥　プサンドゥ　˩ニージマ˥ル　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˩ni:ʤimari˥ pu̥sandu ˩ni:ʤima˥ru ˥ku̥to: na˩ra˥nu](住み着きたいが、住み着くことができない)。˥クナー　˩ニージマ˥レー　˥ミサムヌ [˥kuna: ˩ni:ʤima˥re: ˥misamunu](ここに住み着けばいいのに)。˩パー˥ク　˩ニージマ˥リ [˩pa:˥ku ˩ni:ʤima˥ri](早く住み着け)。

˥ニー　シ˩ムン **[˥ni: ʃi˩muŋ]** 【連】荷を積む。荷を積み込む。˩ウンパンシン˥マー　˩サンバ˥シナーティ　˥ニー　シ˩ムンティ　スンドゥ˥　ドゥク　˩スー˥ヌ　˥ピシティ　˥ニー　シ˩マラヌ [˩ʔumpaŋʃim˥ma: ˩samba˥ʃina:ti ˥ni: ʃi˩munti sundu˥ duku ˩su:˥nu ˥pi̥ʃiti ˥ni: ʃi˩maranu](運搬船は桟橋で荷物を積もうとするが、あまりにも潮が引いて荷が積まれ < 積め > ない)。

˩ニージル **[˩niːʤiru]** 【名】おもゆ (重湯)。物を煮た汁。「煮汁」の義。ブ˩ネーヌ　シー˥ヌ　ン˩ジラン˥　ベーティ　˩カイバ˥　タ˩キティ　カイヌ　ニージルバ˥< オージルバ˥>　ヌ˩マシ˥ル　シゥ˩カ˥ナイ　˩クー˥タ [bu˩ne:nu ʃi:˥nu ʔn˩ʤiram˥ be:ti ˩kaiba˥ tḁ˩kiti kainu ni:ʤiruba˥ < ʔo:ʤiruba˥ > nu˩maʃi˥ru si̥˩ka˥nai ˩ku:˥ta](母親の乳が出ないので、お粥を炊いて粥の重湯 < 煮汁 > を飲ませて < ぞ > 養育した)。˩ウン˥ヌ　˩ニージル˥ナー　˩ウン˥バ　˥タリティ　˩オーヌ˥イー　ス˩コーリ˥バ [˩ʔun˥nu ˩ni:ʤiru˥na: ˩ʔum˥ba ˥tariti ˩ʔo:nu˥ʔi: su̥˩ko:ri˥ba](サツマイモの煮汁に煮芋を潰して溶かし、豚の飼料 < 豚の飯 > の準備をしなさいよ)。

˩ニーズー˥ワン **[˩niːʤu:˥waŋ]** 【形】荷が重い。「荷強し」の義。˩ニーカロー˥ン [˩ni:karo:˥ŋ](荷が軽い)、カ˩ラ˥ニー [ka˩ra˥ni:](軽い荷) の対義語。ウ˩ビ˥ナー　˩ヌース˥カー　˩ニーズー˥ワンダ　˥バキティ　˩ヌーシ [ʔu˩bi˥na: ˩nu:su˥ka: ˩ni:ʤu:˥wanda ˥bakiti ˩nu:ʃi˥ba](あんなに多く積む < 載せる > と荷が重いから、分けて積み < 載せ > なさい)。˩オシケー　カイ˥ヤーバ　˩ニーズーワ　ナー˥ヌ [˩ʔoʃi̥ke: kai˥ja:ba ˩ni:ʤu:wa: na:˥nu](天気が良いから荷は重くない)。˩ニーズーワ˥ヌ　˥フネー　ン˩ザサラ˥ヌ [˩ni:ʤu:wa˥nu ˥ɸune: ʔn˩ʤasara˥nu](荷が重くて船は出されない)。˩ニーズー˥ワ　˥フネー　ナ˩クラー˥ン [˩niʤu:˥wa ˥ɸune: na˩kura:˥ŋ](荷を積みすぎた < 荷の重い > 船は怖い)。˩ニーズー˥ワ　˥ナリ　˩キー˥ブンダ　˥メー　シ˩ムナ [˩ni:ʤu:˥wa ˥nari ˩ki:˥bunda ˥me: ʃi˩muna](積載過重 < 荷が重く > になってきているから、もう積むな)。

˩ニースク˥ライ **[˩ni:su̥ku˥rai]** 【名】根ごしらえ。料理する際に野菜の根をきれいに整えること。「根拵(ネコシラエ)」の [k] と [s] のメタテーゼ (音位転換)。˥アボー　シ˩ビラトゥ　ラッキョー˥ヌ　˩ニースク˥ライ　˩シー　オー˥ル [˥ʔabo: ʃi˩biratu rakkjo:˥nu ˩ni:su̥ku˥rai ˩ʃi: ʔo:˥ru](お母さんはわけぎ < 分葱 > とラッキョウの根ごしらえをしておられる)。

˩ニー˥スクン **[˩niː˥su̥kuŋ]** 【自動】 1根付く。根をおろす。˩ウンヌ˥カザー　ク˩ヌ˥　アミナー　˩ニー˥スクンパジ [˩ʔunnu˥kaʤa: ku˩nu˥ ʔamina: ˩ni:˥su̥kumpaʤi](芋葛は、この雨で根付くはずだ < でしょう >)。ク˩ヌ˥　ウロイナー　ナ˩イ˥ヤー　˩ニー˥スクン　˥パジ [ku˩nu˥ ʔuroina: ˩nai˥ja: ˩ni:˥su̥kum˥paʤi](この雨 < 潤い > で苗は根付くはだろう < はず >)。マ˩ダ　ニーシゥカ˥ヌ [ma˩da ni:si̥˩ka˥nu](まだ根付か < 活着し > ない)。キ˩サーティ　ニー˥シキ　˩ベー [ki̥˩sa:ti ni:˥ʃi̥ki ˩be:](すでに根付いている)。˩ペーレーサーリ˥　ヤ˩トゥー˥タンティン　˩ニー˥スク　˥クトー　˩ナー˥ヌ [˩pe:re:sa:ri˥ ja˩tu:˥tantin ˩ni:˥su̥ku ˥ku̥to: ˩na:˥nu](旱魃で、< 旱魃の時に > 移植しても根付くことはない)。˩パンブン˥マーンツァン　˩ニー˥シケー　˥ミサムヌ [˩pambum˥ma:ntsan ˩ni:˥ʃi̥ke: ˥misamunu](半分だけでも根付けばいいのに)。˩パー˥ク　˩ニー˥シキ [˩pa:˥ku ˩ni:˥ʃi̥ki](早く根付け)。 2住みつく。定住する。˥ウナー

˹ニー˺スクンカヤーティ　ウ˹ムータ˺ヌ　マ˹タ　ヤーウチ˺リ　˹シー　ナー˺ヌ [˺ʔuna: ˹ni:˺sṵkuŋkaja:ti ʔu˹mu:ta˺nu ma˹ta ja:utʃi˺ri ˹ʃi: na:˺nu](そこに根付く＜定住する＞かと思ったが、また引っ越し＜家移り＞してしまった)。

˺ニースラ [˺ni:sura] 【名】根と梢。根元と先端。根本と末梢(コズエ)。˺ニースラ　バ˹カ˺シティ　シゥ˹カイ˺バ [˺ni:sura ba˹ka˺ʃi̥ti si̥˺kai˺ba](根元と先端を区別して使いなさいよ)。ム˹ヌ˺ヌ　˺ニースラ　バ˹カラン˺ムヌ＜ッ˹サンムヌ＞[mu˹nu˺nu ˺ni:sura ba˹karam˺munu＜s˹sammunu＞](ものごとの順序＜根本と枝葉末節＞をわきまえない者)。

˹ニーター˺グー [˹ni:ta:˺gu:] 【名】似た者同士。似たもの同士の夫婦。程度の低い者に対する卑下の意味合いが加わる。˹ウッ˺ツァー　トゥ˹ジブトー　ニーター˺グー [˹ʔut˺tsa: tu˹ʤibuto: ni:ta:˺gu:](彼ら夫婦は似た者同士だ)。

˹ニー˺ディプス [˹ni:˺dipṵsu] 【名】子年生まれの人。˹ニー˺ディプソー　ニ˹ジズー˺ワンツォー [˹ni:˺dipṵ-so: ni˹ʤiʤu:˺wantso:](子年生まれの人は我慢強いそうだ)。

˹ニー˺ディマリ [˹ni:˺dimari] 【名】ねどし (子年) 生まれ。˹ニー˺ディマリプソー　˹クン˺ネーナー　フ˹タール　オー˺ルン [˹ni:˺dimaripṵso: ˹kun˺ne:na: ɸṵ˹ta:ru ʔo:˺ruŋ](子年生まれの人は、この家には二人いらっしゃる)。

˺ニーナル [˺ni:naru] 【名】もとなり (本生り)。植物のつるや幹の元のほうに実がなるもの。˺スラナル [˺suranaru](うらなり) の対義語。ム˹トゥ˺ナル [mu˹tu˺naru](本生り) ともいう。カ˹ブッチェー˺　ニーナルンドゥ　ン˹マー˺ティバン˹ナー [ka˹butʃe:˺ ni:-narundu(mu˹tu˺narundu) ʔm˹ma:˺tiban˹na:](カボチャ＜南瓜＞はもとなりが美味しいんだってねえ)。˺ニーナローラー　カ˹カイ˺　クーバ [˺ni:naro:ra kạ˹kai˺ ku:ba](もとなりの方から挽(モ)いでこいよ)。

˺ニーニ [˺ni:ni] 【名】ね (子) の日。ウ˹シニー [ʔu˹ʃini:](丑の日)。トゥ˹ラニー [tu˹rani:](寅の日)。˺ウニー [˺ʔuni:](卯の日)。タ˹チニー [tạ˹tʃini:](辰の日)。˹ミーニ [˹mi:ni](巳の日)。ン˹マ˺ニー [ʔm˹ma˺ni:](午の日)。ピ˹チニー [pi̥˹tʃini:](未の日)。˺サニー [˺sani:](申の日)。トゥ˹ニー [tu˹ni:](酉の日)。˹イン˺ニー [˹ʔin˺ni:](戌の日)。˹ビーニー [˹bi:ni:](亥の日)。˹キュー˺ヤ　˺ヌーニーヤ [˹kju:˺ja ˺nu:ni:ja](今日は十二支の何の日か)。˹キュー˺ヤ　˺ニーニール　˺ナリ　˹ブー [˹kju:˺ja ˺ni:ni:ru ˺nari ˹bu:](今日は十二支の子の日になっています)。

˹ニー˺ヌ　˺ジン [˹ni:˺nu ˺ʤiŋi] 【連】二の膳。大きな神事、祈願等に神前に供える供物で、二番目に出す供物の膳。ピ˹カイ [pi̥˹kai](控えの膳) ともいう。˹ニー˺ヌ　˺ジン　ス˹コーラレー˺カー　シ˹キル˺　ス˹コール　シー˺ヨー [˹ni:˺nu ˺ʤin sṵ˹ko:rare:˺ka: ʃi̥˹kiru˺ sṵ˹ko:ru ʃi:˺jo:](二の膳の用意が出来たのなら、神前に供える準備をしなさいよ)。

˹ニー˺ヌ　˹スーリバ˺ル　ユ˹ダパーン　スー˺ル [˹ni:˺nu ˹su:riba˺ru ju˹dapa:n su:˺ru] 【連】(根＜本家＞が強くなって＜繁昌して＞こそ枝葉＜分家＞も強くなる＜繁昌する＞)＜諺＞。

˹ニーヌ˺パー [˹ni:nu˺pa:] 【名】北。ね (子) の方向。˹ニーヌ˺パーカジヌ　˺ウティクン [˹ni:nu˺pa:kaʤinu ˺ʔutikuŋ](北風＜子の方から吹く強風＞が強く吹き出す＜落ちてくる＞)。カ˹ジェー　マーリ　ニーヌ˺パー　˺ナリ　˹ナー˺ヌ [ka˹ʤe: ma:ri ni:nu˺pa: ˺nari ˹na:˺nu](風は回って北風＜子の方の風＞になってしまった)。

˹ニーヌ˺パーカジ [˹ni:nu˺pa:kaʤi] 【名】北風。強い北風。「子の方の風」の義。冬季の季節風。この北風が吹くと時化になるので、西表島への通耕は難儀を極めた。˹パイター˺ラ　˺クー　˺ピン　˹ニーヌ˺パーカジヌ　˺フクカー　マ˹ギフニ˺バ　˹シェー˺ティル　˹クー˺タ˹ダー [˹paita:˺ra ˺ku: ˺pin ˹ni:nu˺pa:kaʤinu ˺ɸṵkuka: ma˹giɸuni˺ba ˹ʃe:˺tiru ˹ku:˺ta˹da:](西表島＜南端＞から帰って来る時に北風が吹くとジグサグ航法＜曲げ舟＞して帰ってきたのだよ)。

˹ニーヌ˺パーシヌ [˹ni:nu˺pa:ʃinu] 【名】北。北の方角。「子の方角」の転訛したもの。カ˹ジェー　ニーヌ˺パーシノーラ　フ˹キッツァー˺シ　˺ケーン [ka˹ʤe: ni:nu˺pa:ʃino:ra ɸṵ˹kittsa:˺ʃi ˺ke:ŋ](風は北＜子の方角＞から吹きまくって＜吹き散らして＞きた)。

˹ニーヌ˺パープシ [˹ni:nu˺pa:puʃi] 【名】北極星。「子の方の星」の義。˹ユー˺ル　パ˹ラ˺ス　˺フネー　˹ニーヌ˺パー　˺プシル　˹ミーヤ˺ティ [˹ju:˺ru pa˹ra˺su ˺ɸune: ˹ni:nu˺pa: ˺pṵʃiru ˹mi:ja˺ti](夜間航行する＜夜走らせる＞船は北極星が目当てだ)。

˹ニーヌブル [˹ni:nuburu] 【名】居眠り。若年層は˹ニーブル [˹ni:buru](居眠り) という。パ˹ナ˺シ　シ˹キンテーナ　ゴッふァゴッふァ˺シ　˹ニーヌブルバ　シー　ベー [pa˹na˺ʃi ʃi̥˹kinte:na goffagoffa˺ʃi ˹ni:nuburuba ʃi:be:](話を聞きながらコックリコックリと居眠りをしている)。

˞ニー˺バキ **[˞niː˺baki]** 【名】根分け。株分け。「根分け」の転訛したもの。ニラ、ワケギ等の根を分けて移植すること。シ˞ビラー　ニー˺バキ　˞シー˺イ˞ビバル＜イ˞ブバル＞　サ˞カル˺ツォー [ʃi˞biraː niː˺baki ˞ʃiː˺ ʔi˞bibaru＜ʔi˞bubaru＞ sḁ˞karu˺tsoː](ワケギ＜分葱＞は根分けした方が繁茂する＜盛る＞そうだ)。

˞ニー˺バパヤー **[˞niː˺bapajaː]** 【副】早晩。遅かれ早かれ。「遅い速い」の義。˞ニー˺バパヤール　˺アル˺アトゥフー　シ˞キ˺ルンヨー [˞niː˺bapajaːru ˺ʔaru˺ʔatuɸu: ʃi̥˞ki˺ruŋjoː](遅かれ早かれの問題だから＜遅いか早いかぞある＞、きっと後の幸運＜嘉報＞がつくよ)。

˺ニーバル **[˺niːbaru]** 【名】(動) 魚の名。ハタの仲間の総称。老年層は、˺ニバル [˺nibaru] という。和名、サラサハタ (体長約 50 センチ。薄灰色の体色に黒の斑点が体全体につく)。和名、ユカタハタの仲間 (体長約 35 センチ、灰黒色)。和名、アオノメハタ (体長約 35 センチ、灰黒色)。和名、アズキハタ (体長約 40 センチ、薄茶色に茶色の斑点が筋状に並ぶ)。和名、カンモンハタ (体長約 20 センチ、薄い黄色に灰色の丸い斑点が体表全体、背びれ、尾びれに付く。島の子供たちが礒釣りでよく釣り上げた)。和名、ナミハタ (体長約 30 センチ、薄い灰色に黒色の斑点が体表全体に付く。˞マイ˺ズニ [˞mai ˺ʤuni]＜前曽根＞や˞クー˺シビー [˞kuː˺ʃibiː]＜島の西の干瀬＞で˞タ˞ティ˺ナー [tḁ˞ti˺naː]＜一本釣り＞でよく釣れた)。和名、セダカハタ (体長約 40 センチ。薄い黄色に淡い赤色がかった体色)。和名、オオモンハタ (体長約 50 センチ。薄い灰色に薄く青みがかった体色に灰色の斑点が体表全体にまばらに付く)。和名、シロブチハタ (体長約 50 センチ。薄い灰色に黒褐色の丸いはんてんが体表全体に付く)。和名、ホオキハタ (体長約 80 センチ、薄い灰色に黒い筋が斜めに、不規則に走る)、などの総称。などが釣れる。

˺ニーバルイズ **[˺niːbaruʔiʤu]** 【名】(動) 魚の名。ハタの仲間の総称。「ハタ魚」の義。˺ニーバルイゾー　˞ミーヤ˺　ッソーッ˞ソー˺シティ　イッ˞ケナ˺　ン˞マー˺ン [˺niːbaruʔiʤoː ˞miːja˺ ssoːs˞soː˺ʃi̥ti ʔik˞kena˺ ʔm˞maː˺ŋ](ハタの仲間は身は真っ白で、非常に美味しい)。

˞ニー˺バン **[˞niː˺baŋ]** 【形】遅い。˞ワー˺　パルムヌ　˞ニー˺バンダル　˞カーラヌ　ニーバ　ナーン˺カー　˞カーリン [˞waː˺ parumunu ˞niː˺bandaru ˞kaːranu niːbanaːŋ˺kaː ˞kaːriŋ](君が行くのが遅いから買えないのだ。遅くなかったら買える)。˺ドゥク　˞ニーバ˺ヌ　マ˞ニアーヌ [˺duku ˞niːba˺nu ma˞niʔaː˺nu](あまりにも遅いから間に合わない)。˞ニー˺バ　ナリ　˞ナー˺ヌ [˞niː˺ba ˺nari ˞naː˺nu](遅くなってしまった)。˞ニー˺バ　プ˞ソー˺　フニナー　˞ヌーララヌ [˞niː˺ba pu̥˞soː˺ ɸunina: ˞nuːraranu](遅い人は船に乗られない)。˺アイニ　ニー˺バレーラ　˞ヌーララン˺ヨー [˺ʔaini ˞niː˺bareːra ˞nuːraraɲ˺joː](あんなに遅かったら船に乗られないよ)。

˞ニーバンウラ˺ザ **[˞niːbaŋʔura˺ʤa]** 【名】二番裏座。仏間 (二番座) の裏座。通常は味噌瓶や米櫃(コメビツ)、南瓜、冬瓜、炊事道具等が保管されている。主婦の出産に際しては床を切り落として地炉をつくり、標縄(シメナワ)を張り巡らして産屋(ウブヤ)を作った所。˞ニーバンウラ˺ザナーティル　˺ジロー　ビ˞シティ˺　シラー　ス˞ク˺ローッタ [˞niːbaŋʔura˺ʤanaːtiru ˺ʤiroː biˢʃiti˺ ʃiraː su̥˞ku˺roːtta](二番裏座に地炉を据えて産屋を作られた)。

˞ニーバン˺ザー **[˞niːban˺ʤaː]** 【名】二番座。戸主夫婦のニ˞ビシキニ [ni˞biʃi̥kini](寝室、寝所) となる部屋。この部屋の北面にトゥ˞クニ [tu̥˞kuni](仏壇) が設置された。一番座や二番座とはナ˞カ˺ヤドゥ [na˞ka˺jadu](中戸) で仕切られている。仏事に関する行事はこの部屋から西の座敷が使用された。トゥ˞クニ [tu̥˞kuni](仏壇) の下の空間を利用した押入れを、˞ダン˺トゥク [˞dan˺tuku] という。˞ニーバン˺ザーナール　トゥ˞クネー˺　ス˞クラ˺リ　˞ブー [˞niːban˺ʤaːnaːru tu̥˞kuneː˺ su̥˞kura˺ri ˞buː](二番座に＜ぞ＞仏壇は作られている)。

˞ニーバンシー˺ムヌ **[˞niːbaŋʃiː˺munu]** 【名】料理の名。二番吸い物。主として肉類の吸い物。法事に供える二番吸い物には、˺サリ [˺sari](白豆腐。巾約 2 センチ、厚さ約 1 センチ、長さ約 10 センチに切ったもの 3 本を 1 皿に入れたものの一対。「舎利」の義か) を添える。神前に供える二番吸い物は、特にフ˞ク˺サ [ɸu̥˞ku˺sa](「袱紗料理」の義か) という。˞カンヌ˺マイナー　マ˞ツォー˺ル　˞ニーバンシー˺ムノー　フ˞ク˺サティル　ア˞ゾー˺ル [˞kannu˺maina: ma˞tsoː ˺ru ˞niːbaŋʃiː˺munoː ɸu̥˞ku˺satiru ʔa˞ʤoː˺ru](神前に供えられる二番吸い物はフクサといわれる)。˞ニーバンシー˺ムノー　˞オー˺ヌ　ナ˞カミー˺ヌ　˞シームヌバ˺　シ˞キ　オーシタ [˞niːbaŋʃiː˺munoː ˞ʔoː ˺nu na˞kamiː˺nu ˞ʃiːmunuba˺ ʃi̥˞kioːʃi̥ta](二番吸い物は豚の中身＜内臓＞の吸い物をお供えして差し上

げた)。

˩ニーバン˥ドゥル [˩ni:ban˥duru] 【名】二番鶏。夜明けを告げて二番目に鳴く鶏。午前 3〜4 時頃の鶏鳴。˩タイパン˥ズニ　カ˩キ˥ル　˥ピンマー　˩ニーバンドゥル˥ヌ　ナ˩ク˥カー　˩ティンマムチェー˥　カ˩ツシンシンカー˥　ウ˩コー˥シン　˩パッ˥タ [˩taipan ˥ʤuni kạ˩ki˥ru ˥pimma: ˩ni:banduru˥nu na˩ku˥ka: ˩timmamutʃe:˥ kạ˩tsuʃiŋʃiŋka:˥ ʔu˩ko:˥ʃim ˩pat˥ta](台湾曽根を掛けて出漁する際は、小伝馬持ちの人はカツオ魚船の船員を起こしに行った)。

˥ニービキ [˥ni:biki] 【名】結婚。結婚式。˥ニービキ　˩スン [˥ni:biki ˩suŋ](結婚する)。˩ワター˥　ニービキヌ　˩ピューロー˥　トゥレーンカヤー [˩wata:˥ ni:bikinu ˩pju:ro:˥ ture:ŋkaja:](君達は結婚式の日取りは取ったかなあ)。

˥ニービキヨイ [˥ni:bikijoi] 【名】結婚祝い。ア˩ボー˥トゥ　˩アー˥ヤー　˩シー˥ネヌ　˥ニービキヨイ　˩シン　オーッ˥タ [ʔa˩bo:˥tu ˩ʔa:˥ja: ˩ʃi:˥nenu ˥ni:bikijoi ˩ʃiŋ ʔo:t˥ta](お母さんとお父さんは後ろ隣りの家の結婚祝いをしに行かれた)。

˩ニーブイカー˥ブイ [˩ni:buika:˥bui] 【名】こくりこくりと居眠りすること。ねぼける (寝惚ける)。ぼんやりする。ABCDEBCD 型の重言。強調表現。˩ニーブイカー˥ブイ　˩サンドー˥シ　˩ダンダン˥シ　シ˩グトゥ　シー˥バ [˩ni:buika:˥bui ˩sando:˥ʃi ˩dandaŋ ˥ʃi ʃi˩gutu ˩ʃi:˥ba](居眠りしないで、さっさと急いで仕事をしなさいよ)。

˩ニー˥フダ [˩ni:˥ɸuda] 【名】荷札。˩ニー˥フダ　シ˩キラン˥カー　トゥ˩ドゥカ˥ヌ [˩ni:˥ɸuda ʃị˩kiraŋ˥ka: tu˩duka˥nu](荷札を付けないと届かない)。

˥ニーブター [˥ni:buta:] 【名】悪性の腫れ物 (おでき)。˩膿瘍 (abscess)、細菌性または非細菌性でおこる化膿性の病気。小児に多い」『医学沖縄語辞典』。大腿部、臀部などの脂肪の多い部分に生ずる腫れ物。「Nebuto. ネブト (根太) 癤瘍 (せつよう)〜」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。イ˩サ˥ヌ　˩オーラン˥　ユンダ　カ˩ティヌ˥　アル　プ˩スヌル˥　ク˩ビン˥ヌ　バ˩リ˥シ　˥ニーブター　バ˩リティ　アーソーッ˥タ [ʔi˩sa˥nu ˩ʔo:raŋ˥ junda kạ˩tinu˥ ʔaru pụ˩sunuru˥ ku˩bin˥nu ba˩ri˥ʃi ˥ni:buta: ba˩riti ʔa:so:t˥ta](医者がおられないので、経験のある人 < 勝手の分かる人 > が瓶の鋭利な破片でお出来 < 根太 > を切開して膿みを出された)。ム˩ムッ˥タラナー　˥ニーブターヌ　˥ンジティ　˥ヤミ　ナ˩ラ˥ヌ [mu˩mut˥tarana: ˥ni:buta:nu ˥ʔnʤiti ˥jami na˩ra˥nu](腿にねぶと < 根太 > ができて、痛くて堪らない)。

˥ニーブター [˥ni:buta:] 【名】(動) 魚の名。ヨコシマタマガシラ (体長約 20 センチ。糸満方言では、ヒシムチグヮー) という。ム˩チイズ [mu˩tʃiiʤu] に似ている。

˥ニーブター　˩アースン [˥ni:buta: ˩ʔa:suŋ] 【連】おでき < 膿腫 > を切開して膿を出す。悪性の腫物を切開して膿を出す。

˩ニーブヤー [˩ni:buja:] 【名】よく居眠りするひと。寝坊。˩ニーブヤーヤー　キュー˥ユン　˩ニーヌブルタン˥ガー　˩シーティ˥　パ˩タラカンバン [˩ni:buja:ja kju:˥jun ˩ni:nuburutaŋ˥ga: ˩ʃi:ti˥ pạ˩tarakambaŋ](居眠り野郎は今日も居眠りだけして働かないよ)。寝坊助。˩ニーブヤーヤ˥　キューンタ　ア˩サ˥ニビ　˩シー　ベー˥バン˩ナー [˩ni:buja:ja˥ kju:nta ʔa˩sa˥nibi ˩ʃi: be:˥ban˩na:](寝坊助は今日もまた朝寝坊をしているんだねえ)。

˩ニー˥プリ　˥パープリ [˩ni:˥puri ˥pa:puri] 【副】根掘り葉掘りして。˩ニー˥プリ　˥パープリ　プ˩スン˥ヤヌ　˥クトー　ス˩ク˥　ム˩ノー˥　ア˩ラ˥ヌ [˩ni:˥puri ˥pa:puri pụ˩suŋ˥janu ˥kụto: sụ˩ku˥ mu˩no:˥ ʔa˩ra˥nu](根掘り葉掘り他所の家のことを聞くものでない)。

˩ニーブル [˩ni:buru] 【名】居眠り。若年層が多く用いる。老年層は˩ニーヌブル [˩ni:nuburu](居眠り) という。バ˩カー˥ムノー　˩ユー˥キ　˩スンダル　ニーブル　スー [ba˩ka:˥muno: ˩ju:˥ki ˩sundaru ni:buru su:](若者は夜更かしするから居眠りするのだ)。

˩ニーブルカー˥ブル [˩ni:buruka:˥buru] 【名】しきりに居眠りすること。コクリコクリ居眠りすること。しきりに眠気がさすこと。˩ニーブル [˩ni:buru](居眠り) を強調した、ABCDEBCD 形の重言。若年層は˩ニーブイカー˥ブイ [˩ni:buika:˥bui](しきりに居眠りすること) ともいうが、これは首里方言からの借用語。˩カー˥ブル [˩ka:˥buru] は「かぶり < 頭 >」の義とする説あり『石垣方言辞典』。˩ニーブルカー˥ブル　˩シェー˥テー　シ˩グトー˥　マイ　˩ユーザヌ [˩ni:buruka:˥buru ˩ʃe:˥te: ʃi˩guto:˥ mai ˩ju:ʤanu](居眠りたらたらしては仕事は前に進まない)。

˩ニーブル　スン [˩ni:buru suŋ] 【連】居眠りする。˥バタ　˥ミツカー　˩ニーブル　スン [˥bata ˥mitsuka: ˩ni:buru suŋ](満腹すると < 腹満つと > 居眠りする)。

˩ニーブルナキ [˩ni:burunaki] 【名】乳幼児が寝たがって泣くこと。「眠り泣き」の義。ヤ˩ラ˥ベー　˩ニ

ーブルナキ　シーベー˥バ　˞パー˥ク　ニ˞バシ [ja˞ra˥be: ˞ni:burunaki ʃi:be:˥ba ˞pa:˥ku ni˞baʃi](子供は居眠り泣きしているから、早く寝かせなさい)。

˞ニーブルミー [˞ni:burumi:] 【名】眠たそうな目つき。「居眠り目」の義。眠気を催した目つき。今にも眠りそうな目付き。ダ˞リ˥ミー [da˞ri˥mi:](だれ目。疲れた目つき) ともいう。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー　ニーブルミー　シーベー˥バン　ニ˞バシ˥バ [ku˞nu˥ f˞fa: ni:burumi: ʃi:be:˥ban ni˞baʃi˥ba](この子は眠たそうな目付きをしているよ。寝かせなさいよ)。

˥ニー　˥プルン [˥ni: ˥puruŋ] 【連】さらけだす (曝(サラ)け出す)。「根を掘る」の義。よからぬ事をして、親や先祖の失敗や悪い事までも世間にさらけ出すこと。サ˞キバ˥　ヌミ　プ˞ストゥ˥　アイティ　ウ˞ヤ˥ヌ　ッ˞ふァティ˥　ア˞ザリ˥　ウ˞ヤ˥ヌ　˥ニー　˥プリ　˞アー˥ク [sḁ˞kiba˥ numi pu̥˞sutu˥ ʔaiti ʔu˞ja˥nu f˞fa˥ti ʔa˞ʤari˥ ʔu˞ja˥nu ˥ni: ˥puri ˞ʔa:˥ku](酒を飲んで他人と喧嘩し、親の子だなあといわれ、親の旧悪まで曝(サラ)け出して＜根を掘って＞いるよ)。

˞ニーム˥チ [˞ni:mu˥ʧi] 【名】荷物。˞ニームチ˥ヌ　˞ゴー˥ラーンダ　˞タンガ˥シェー　ム˞タラ˥ヌ [˞ni:mutʃi˥nu ˞go:˥ra:nda ˞taŋga˥ʃe: mu˞tara˥nu](荷物が多いから一人では持てない)。˞ワー　ニーム˥チェー　˞ヌー˥トゥ　˥ヌーヤ [˞wa: ni:mu˥ʧe: ˞nu:˥tu nu:ja](君の荷物はどれとどれ＜何と何＞か)。˞ニーム˥チェー　˞パー˥ク　˥フネー　˞ヌーシ [˞ni:mu˥ʧe: ˞pa:˥ku ˥ɸune: ˞nu:ʃi](荷物は早く船に載せなさい)。タ˞ベーラヌ　ニーム˥チ [ta˞be:ranu ni:mu˥ʧi](旅からの荷物)。

˞ニー˥ムトゥ [˞ni:˥mutu] 【名】1根本。根っこ。パ˞タキ˥ヌ　˥ッサー　˞ニー˥ムトーラ　˞コーシ＜˞ソーリ＞[pḁ˞taki˥nu ˥ssa: ˞ni:˥muto:ra ˞ko:ʃi˥ba＜˞so:ri＞](畑の雑草は根っこから引き抜け＜引き起こせ＞)2基本となるところ。血統関係における本家。ム˞トゥ˥ヌ　サ˞カリバル˥　ユ˞ダパニン˥　サ˞カル [mu˞tu˥nu sḁ˞karibaru˥ ju˞dapanin˥ sḁ˞karu](根本＜本家＞が栄えたらば＜栄えて＞こそ分家＜枝＞も栄える)。

˞ニーム˥トゥ [˞ni:mu˥tu] 【名】根元。根源。˞キー˥ヌ　˞ニー˥ムトーラ　˞バイ˥ヌ　˥ンジケーン [˞ki:˥nu ˞ni:˥muto:ra ˞bai˥nu ˥ʔnʤike:ŋ](木の根元から芽が出てきた)。フ˞クンキーヤ　スー˥ワンダ　˞タイ˥フーナーン　ユ˞ダー˥　ブ˞ル˥バン　˞ニーム˥トー　ブ˞リラ˥ヌ [ɸu̥˞kuŋki:ja su:˥wanda ˞tai˥ɸu:na:ɲ ju˞da:˥ bu˞ru˥ban ˞ni:mu˥to: bu˞rira˥nu](福木は強いから、台風で枝は折れても根元は折れない)。

ニー˞ヤーニーヤー˥シ [ni:˞ja:ni:ja:ʃi] 【副】どことなく似ているさま。˞ワター˥　ニー˞ヤーニーヤー˥シ　˞ブーヌ˥　ウ˞トゥザ?。˞クイ˥ユン　ニー˞ヤーニーヤー˥シル　˞ブーバン [˞wata:˥ ni:˞ja:ni:ja:˥ʃi ˞bu:nu˥ ʔu˞tuʤa。kui˥jun ni:˞ja:ni:ja:˥ʃiru ˞bu:baŋ](君達はどことなく似ているが親戚か。声もどことなく似ているよ)。

˞ニーヤー˥ン [˞ni:ja:˥ŋ] 【形】似ている。似ているさま。ウ˞ヤッ˥ふァ　フ˞ターロー˥　イッ˞ケナ　ニーヤー˥ン [ʔu˞jaf˥fa ɸu̥˞ta:ro:˥ ʔik˞kena ni:ja:˥ŋ](親子二人は非常に似ている)。˞ナン˥ゾー　˞ニーヤー　ナー˥ヌ [˞nan˥ʤo: ˞ni:ja: na:˥nu](あまり似ていない)。˥ドゥク　˞ニーヤー˥ティ　˞バッ˥パイ　˞ナーン˥シェン [˥duku ˞ni:ja:˥ti ˞bap˥pai ˞na:ŋ˥ʃeŋ](あまりにも似ているので取り違えてしまった)。˥アイニ　˞ニーヤー˥ル　˥ムヌティン　ア˞リ˥ブバン [˥ʔaini ˞ni:ja:˥ru munutiŋ ʔa˞ri˥bubaŋ](あんなに似ているものとてもあるものだ)。˥アイニ　˞ニーヤー˥カー　ター˞ン　バッパイ˥スヨー [˥ʔaini ˞ni:ja:˥ka: ta:˞m bappai ˥sujo:](あんなに似ているのなら誰でも取り違えるよ)。

˥ニーラ [˥ni:ra] 【副】1根っから。もとから。全くの。生来の。ウ˞レー˥　ニーラヌ　ピ˞ジガンク [ʔu˞re:˥ ni:ranu pi˞ʤiganku](彼は根っから＜生来＞のけちんぼだ)。2下に打消しの陳述を伴って、「決して～ない」。「一向に～ない」の意を表す。ウ˞リトー˥　ニーラ　シ˞グトー　シープサー　ナー˥ヌ [ʔu˞rito: ˥ ni:ra ʃi˞guto: ʃi:pusa: na:˥nu](彼とは全く＜根っから＞仕事をしたくない)。

˞ニー˥ラコーラ [˞ni:˥rako:ra] 【副】一生懸命。しつこく。隅々まで入念に。根掘り葉掘り。˞ニー˥ラコーラ　ミ˞ナカ˥ヌ　˥ッサ　˞ソールンティ　ベー [˞ni:˥rako:ra mi˞naka˥nu ˥ssa ˞so:runti be:](隅々まで入念に庭の草を根こそぎに取ろう＜さくろう。刹(サク)ろう＞としている)。˞ニー˥ラコーラ　フ˞ジ˥リ　ス˞クン˥ツォー [˞ni:ra˥ko:ra ɸu˞ʤi˥ri su̥˞kun˥tso:](根堀り葉堀りほじくり＜穿り＞かえして聞くそうだ)。˞ネーランケー˥リ [˞ne:raŋke:˥ri](入念に) ともいう。

˥ニーラスク [˥ni:rasu̥ku] 【名】幽界。根の国。地の底。「根の底」の義。˞ニー˥レースク [˞ni:˥re:su̥ku](根の底) ともいう。遙か彼方。地底に幽界があると考えられている。˥シチ [˥ʃi̥ʧi](節祭り) の夜、井戸の側で鍋蓋を被ってうずくまっていると、井戸の底からあの世の生活情報が聞こえてくるという。そ

の音を聞いて、どの家にどんなことが起きるか判断できたという。シ˩チ˥ヌ　˩ユー˥ル　˩カーヌ˥　パ˩タ˥ナー　ナ˩ビ˥ヌフタ　˥カビティ　ス˩ク˥マリ　˩ベー˥ルカー　グ˩ソー˥ヌ　ウ˩トゥヌ˥　シゥ˩カリタン˥ツォー [ʃi̥˩tʃi˥nu ˩ju:˥ru ˩ka:nu˥ pḁ˩ta˥na: na˩bi˥nuɸu̥ta ˥kabiti su̥˩ku˥mari ˩be:˥ruka: gu˩so:˥nu ʔu˩tunu˥ si̥˩karitan˥tso:](節祭りの夜、井戸端で鍋蓋を被ってうずくまっていると後生の世界の音が聞こえたそうだ)。

˥ニーラ　˥スラー　˩バー˥キ [˥ni:ra ˥sura: ˩ba:˥ki]【連】全部。総て。「根から梢まで」の義。˩ワー˥クトー　˥ニーラ　˥スラー　˩バー˥キ　ッ˩シフカシル　ブー [˩wa:˥ ku̥to: ˥ni:ra ˥sura: ˩ba:˥ki ʃ˩ʃiɸukaʃiru bu:](君のことは頭のてっぺんから足の先＜根から梢＞まで、総て知り尽くしている)。

˩ニーラブ˥チ [˩ni:rabu˥tʃi]【名】(動) ガ˩バ˥ラ [ga˩ba˥ra](スズメダイ) の仲間。珊瑚礁の中に住む熱帯魚。˩ニーラブ˥チーン　バ˩カス˥カー　ン˩マーン˥ダー [˩ni:rabu˥tʃi:m ba˩kasu̥˥ka: ʔm˩ma:n˥da:](ニーラブチ魚も煮たら美味しいよ)。

˩ニーリ [˩ni:ri]【名】右。「みぎり＜右＞」の転訛。「左みぎりに着座して」『謡曲・＜草子洗＞』。˩ニーリヌ˥　ティーシ　˥ムティバ [˩ni:rinu˥ ti:ʃi ˥mutiba](右の手で　持てよ)。˩ニーレー˥　ン˩カイ˥バ [˩ni:re:˥ ʔŋ˩kai˥ba](右へ向きなさいよ)。ピ˩ダリ˥トゥ　˩ニーリヌ˥　ティーシ　ギッ˩ティ˥　カ˩サミ˥バ [pi˩dari ˥tu ˩ni:rinu˥ ti:ʃi git˩ti˥ ka˩sami˥ba](左と右の手でぎゅっとつかめ＜掴め＞よ)。

˩ニーリ˥ッふァイ [˩ni:ri˥ffai]【名】飽き飽きした食べ方。嫌嫌ながら食べること。˥アイニ　˩ニーリ˥ッふァイ　˩サンドー˥シ　˩ミー˥ザタンティン　ウ˩ヤ˥ヌ　バ˩カソー˥レー　˩イー˥ヤ　ンマー˩ンマー˥シ　ッ˩ふァイ˥バ [˥ʔaini ˩ni:ri˥ffai ˩sando:˥ʃi ˩mi:˥ʤatantiŋ ʔu˩ja˥nu ba˩kaso:˥re: ˩ʔi:˥ja ʔmma:˩ʔmma:˥ʃi f˩fai˥ba](そんなに飽き飽きした食べ方をしないで、不味くても親が炊かれたご飯は美味しく＜˩～味母不在～。ウマクモアラズ。万、3857」の義＞食べなさい)。

˩ニーリティー [˩ni:riti:]【名】右手。ピ˩ダリ˥ティー [pi˩dari˥ti:](左手) の対義語。˩ニーリティー˥シル　˥パシェー　˥ムトゥ　ピ˩ダリ˥ティーシェー　ム˩タ˥ヌ [˩ni:riti:˥ʃiru ˥paʃe: ˥mutu pi˩dari˥ti:ʃe: mu˩ta˥nu](右手でぞ箸は持つ＜のであって＞、左手では待たない)。

˩ニールン [˩ni:ruŋ]【自動】似る。「～猿二鴨似＜ニム＞」(万、344) の転訛したもの。˩キョーダイ˥サー　˩ニールンティ˥　ア˩ザリ　ブーンドゥ　ウッ˥ツァー　˩ナン˥ゾー　˩ニーランバン [˩kjo:dai˥sa: ˩ni:runti˥ ʔa˩ʤari bu:ndu ʔut˥tsa: ˩nan˥ʤo: ˩ni:rambaŋ](兄弟は似るといわれているが、彼らはあまり似ないよ)。古老は、˩ピッ˥チン　˩ニューヌ [˩pit˥tʃin ˩nu:nu](ちっとも似ない) ともいう。˥アイニ　˩ニーベーン˥ティ　˩ゲ˥ラ [˥ʔaini ˩ni:be:n˥ti ˩ge˥ra](あんなによく似ているさ)。˩ニール˥　ワケー　˩ナー˥ヌ [˩ni:ru˥ wake: ˩na:˥nu](似るわけがない)。ビ˩ケー˥ラン　ブ˩ネーン　ニーヤー˥　ミサムヌ [bi˩ke:˥ram bu˩ne:n ni:ja:˥ misamunu](父親よりも母親に似ればいいのに)。˩ニーレー˥　ミサムヌ [˩ni:re:˥ misamunu](似たら良いのに)。˥ウヤン　˩ニー˥バ [˥ʔujan ˩ni:˥ba](親に似よ)。˥ウヤン　˩ニーリ˥バ [˥ʔujan ˩ni:ri˥ba](親に似れよ)。

˩ニールン [˩ni:ruŋ]【自動】煮える。˩イー˥ヤ　プ˩スマバー˥キナ　˩ニールンティ˥　ウ˩ムータン˥ドゥ　マ˩ダ　ニーランバン [˩ʔi:˥ja pu̥˩sumaba:˥kina ˩ni:runti˥ ʔu˩mu:tan˥du ma˩da ni:rambaŋ](ご飯は正午までには煮えると思ったが、まだ煮えないよ)。キサー˩ティ　ニーヤー˥ン [kisa:˩ti ni:ja:˥ŋ](すでに煮えたよ)。˩ニーキシル　ブー [˩ni:kiʃiru bu:](すっかり煮えている)。˩オーパ˥ヤー　˩ニール˥　ワケー　˩ナー˥ヌ [˩ʔo:pa˥ja: ˩ni:ru˥ wake: ˩na:˥nu](こんなに早く煮える訳がない)。˩パー˥ク　˩ニーヤー˥　ミサムヌ [˩pa:˥ku ˩ni:ja:˥ misamunu](早く煮えればいいのに)。˩パー˥ク　˩ニーレー˥　ミサムヌ [˩pa:˥ku ˩ni:re:˥ misamunu](早く煮えればいいのに) ともいう。˩パー˥ク　˩ニーリ [˩pa:˥ku ˩ni:ri](早く煮えよ)。

˩ニー˥ルン [˩ni:˥ruŋ]【他動】握る。˥バー　˩ティー˥バ　ギッ˩ティ　ニー˥リティ　パ˩ナサ˥ヌ [˥ba: ˩ti:˥ba git˩ti ni:˥riti pa˩nasa˥nu](私の手をぎゅっと握って放さない)。˩ニーリティー˥シ　˩ニー˥ルンティ　˩スンドゥ　ニーラ˥ラヌ [˩ni:riti:˥ʃi ˩ni:˥runti ˩sundu ni:rara˥nu](右手で握ろうとするが、握られない)。˩ニーリティーヤ˥　ヤミティ　˩ニー˥ル　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˩ni:riti:ja˥ jamiti ˩ni:˥ru ˥ku̥to: na˩ra˥nu](右手は痛くて握ることは出来ない)。ピ˩ダリ˥ティーシ　˩ニー˥レー　˥ミサムヌ [pi˩dari˥ti:ʃi ˩ni:˥re: ˥misamunu](左手で握ればいいのに)。˩パー˥ク　˩ニー˥リ [˩pa:˥ku ˩ni:˥ri](早く握れ)。

˩ニー˥ルン [˩ni:˥ruŋ]【他動】1こねる (捏ねる)。ひねる (捻る)。シゥ˩カラ˥　ンジ　˩ニー˥リ　˥ミリバ [si̥

˞kara˞ʔnʤi ˞niː˞ri ˞miriba](力を出してひねて＜捻て＞みなさい)。²つねる (抓る)。シ˞ビッタラ　ニー˞リ　トゥ˞ラ˞シ [ʃi˞bittara niː˞ri tu˞ra˞ʃi](臀部をつねって＜抓って＞やれ)。

˞ニー˞ルン [˞niː˞ruŋ] 【自動】 飽(アキ)る。うんざりする。ア˞キルンとも言う。˞ウン˞マー　˞ニールンケンッ˞ふァーサリタンドゥ˞　バー　˞ニーラン˞シェン [˞ʔum˞maː ˞niː˞ruŋkeŋ f˞faːsaritandu˞ baː ˞niːraŋ˞ʃeŋ](サツマイモは飽きるほど食べさせられたが、私は飽きなかった)。˞ウン˞マー　˞ニー˞リ　˞ナー˞ヌ [˞ʔum˞maː ˞niː˞ri ˞naː˞nu](サツマイモは飽きてしまった)。ギュー˞サ˞　ッ˞ふァーバン　ニー˞ル　˞クトー　˞ナー˞ヌ [gjuː˞sa˞ f˞faːban niː˞ru ˞kʉto: ˞naː˞nu](いくら食べても飽きることはない)。˞ニー˞レーラー　ミ˞リ˞プサン　˞ナー˞ヌ [˞niː˞reːraː mi˞ri˞pusan ˞naː˞nu](飽きたら見たくもない)。˞パー˞ク　˞ニー˞リバ [˞paː˞ku ˞niː˞riba](早く飽きよ)。

˞ニーレーヌ　コン˞チェン˞マ [˞niːreːnu kon˞ʧem˞ma] 【連】(動) 昆虫の名。けら (螻)『八重山語彙』。湿った土の中から出てくるという。死語化しつつある。˞ニーレーヌ　コン˞チェン˞マティ　˞スー˞　ム˞シェー˞　ミリ　ミ˞ラ˞ヌ [˞niːreːnu kon˞ʧem˞mati ˞suː˞ mu˞ʃeː˞ miri mi˞ra˞nu](けら＜螻＞という虫は見たことがない)。

˞ニー˞レンツー [˞niː˞rentsuː] 【名】みりん (味醂)。「味醂酒」の義。石垣方言からの転訛。滅多に作らなかった。ン˞ブシ˞ムヌナー　˞ニー˞レンツー　˞カクカー　ン˞マーン˞ダー [ʔm˞buʃi˞mununa: ˞niː˞rentsu: ˞kʉkuka: ʔm˞maːn˞daː](蒸し物に味醂をかけると美味しいよ)。ウ˞ヤ˞キヤーナーテー　˞ニー˞レンツーン　ス˞ク˞リ　ン˞コーッ˞タンツォー [ʔu˞ja˞kijaːnaːte: ˞niː˞rentsuːn sʉ˞ku˞ri ʔŋ˞koːt˞tantsoː](金持ちの家では味醂も造って召し上がられたそうだ)。

˞ニー˞レンツォー [˞niː˞rentsoː] 【名】地底の人。根の国の人。後生の人。あの世の人。ム˞カ˞シプソー　グ˞ソーンプス˞バ　˞ニー˞レンツォーティ　ア˞ゾーッ˞タ [mu˞ka˞ʃipʉso: gu˞soːmpusu˞ba ˞niː˞rentsoːti ʔa˞ʤoːt˞ta](昔の人は後生の人をニーレンツォーと言われた)。

˞ニカ [˞nika] 【名】今夜。今晩。プ˞スマー˞　イ˞スガサ˞ヌ　キ˞ララ˞ヌ　ニ˞カ˞ル　キ˞ラ˞リ [pʉ˞sumaː˞ ʔi ˞sugasa˞nu ki˞rara˞nu ni˞ka˞ru ki˞ra˞ri](昼間は忙しくて来られない。今晩が＜ぞ＞来られる)。

˞ニガイ [˞nigai] 【名】¹願い。願い事。歌謡語。/ウマンチュヌ　ニガイヤヨー　アカカラジヌ　ニガイヤヨー　ハーリ　アミタバリ　リューガナシ/(庶民の願いは、百姓の願いは、はーり、雨をお恵み下さい竜神さま)(アマングイウタ＜雨乞い歌＞)。神事に関する祈願は、日常会話では、˞ニン˞ガイ [˞niŋ˞gai](祈願) というのが普通である。「～なほし祢我比都千歳の命を。万、4470」の義。若年層はこれを˞ニガイ [˞nigai](祈願) というようになっている。˞ウンキヌニン˞ガイ [˞ʔuŋkinu niŋ˞gai](運気の祈願)、˞ヤシキ˞ヌ　˞ニン˞ガイ [˞jaʃi̥ki˞nu ˞niŋ˞gai](屋敷の祈願) のようにいうのが普通。²˞ニガイ [˞nigai](願い) は、発話者の希望や願望を表す。/ウマンチュヌ　ニガイヤヨー　アカカラジヌ　ニガイヤヨー　ハーリ　アミタボリ　リューガナシ/(御万人＜人民＞の願いは、百姓の願いは、ああ雨を賜れ、竜神さま)(雨乞い歌。＜ハヤミク＞)『鳩間島古典民謡古謡集』。

ニ˞ガイ˞グトゥ [ni˞gai˞gutu] 【名】願い事。ム˞ラヌ˞ニ˞ガイグトゥ˞バ　シ˞キトゥドゥキ˞　タ˞ボー˞リ　フ˞コーラサ [mu˞ranu˞ ni˞gaigutu˞ba ʃi̥˞kituduki˞ ta˞boː˞ri ɸʉ˞koːrasa](村の願い事を聞き届けてくださり、有難うございます)。

ニ˞ガイシキ˞ルン [ni˞gaiʃi̥ki˞ruŋ] 【他動】深く祈る。深く祈願する。一所懸命に祈る。˞ヤーニンズ˞ヌ　˞ドゥーパダニガイ　ニ˞ガイシキ˞ルンティ　˞ベー [˞jaːninʤuː˞nu ˞duːpadanigai ni˞gaiʃi̥ki˞runti ˞beː](家族の健康祈願を深く祈ろうとしている)。˞カンヌ˞マイ　ニ˞ガイシキル˞バ　˞ドゥーパダ　˞ガン˞ズーシ　パ˞タラキ˞ヨー [˞kan˞numai ni˞gaiʃi̥kiru˞ba ˞duːpada ˞gan˞ʤuːʃi pḁ˞taraki˞joː](神様に深く祈願するから、からだ健康＜頑丈＞で働きなさいよ)。ニ˞ガイ˞シキ　ッ˞ふィーリ [ni˞gai˞ʃi̥ki f˞fiːri](深く祈ってくれ)。ニ˞ガイシキ˞レー　˞ミサムヌ [ni˞gaiʃi̥ki ˞reː ˞misamunu](深く祈ればいいのに)。˞カンヌ˞マイ　ニ˞ガイシキ˞リ [˞kannu˞mai ni˞gaiʃi̥ki˞ri](神様の前に一所懸命祈りなさい)。

ニ˞ガイ˞スクン [ni˞gai˞sʉkuŋ] 【他動】深く祈る。深く祈願する。一所懸命に祈る。˞ドゥーパダ　˞キンコー˞　ニ˞ガイ˞スクン [˞duːpada ˞kiŋkoː˞ ni˞gai˞sʉkuŋ](健康を深く祈願する)。ク˞トシェー˞　マ˞ダ˞　ニ˞ガイシゥカ˞ヌ [kʉ˞tuʃeː˞ ma˞da˞ ni˞gaisï̥ka˞nu](今年はまだ祈らない)。ニ˞ガイ˞シキ　ッ˞ふィーリ [ni˞gai˞ʃi̥ki f˞fiːri](深く祈ってくれ)。ニ˞ガイ˞スク　˞クトゥ [ni˞gai˞sʉku ˞kʉtu](深く祈ること)。ニ˞ガイスク˞バ　カ˞リユ˞シ　˞シー　オー˞リ [ni˞gaisʉku˞ba ka˞riju˞ʃi ˞ʃiː ʔoː˞ri](一生懸命祈願しま

すから航海安全＜嘉例吉＞の旅行をしてください)。ニ˩ガイ˥シケー　˥ミサムヌ [ni˩gai˥ʃi̥ke: ˥misamunu](深く祈ればいいのに)。ヤー˩ディン˥　ニ˩ガイシ˥キ [ja:˩din˥ ni˩gai˥ʃi̥ki](必ず深く祈れ)。

ニ˩ガイ˥プス [ni˩gai˥pu̥su] 【名】祈願者。˩ニンガイ˥プス [˩niŋgai˥pu̥su](祈願する人) ともいう。普通はサ˩カサ [sḁ˩kasa](司) が担当するが、司に準じて神仏に祈願することの出来る親戚縁者の老婆が担当することもある。神仏に祈願することを職能とする人。祈願する人。ニ˩ガイ˥プス　タ˩ナ˥ミ　ヤ˩ミプス˥ヌ　マ˩ブ˥ル　˥クミ　ッ˩ふィーリ˥バ [ni˩gai ˥pu̥su ta˩na˥mi ja˩mipusu˥nu ma˩bu˥ru ˥kumi f˩fi:ri˥ ba](祈願する人を頼んで病人のマブル＜遊離魂＞を呼び戻して肉体内に籠めてやりなさいよ)。

ニ˩ガイブス˥ク [ni˩gaibusu̥˥ku] 【名】祈願不足。老年層は、˩ニンガイブス˥ク [˩niŋgaibusu̥˥ku](祈願不足) という。˩ウン˥ネナー　ニ˩ガイブスク˥ヌ　˥アルティル　˩キーラ˥　ンジェーティ　˩ニン˥ガイ　˩ソー˥ルツォー [˩ʔun˥nena: ˩nigaibusu̥ku˥nu ˥ʔarutiru ˩ki:ra˥ ʔnʤe:ti ˩niŋ˥gai ˩so:˥rutso:](その家には祈願不足があるとて易者＜三世相＞の占い＜卦＞からその判断が出たので、祈願をされるそうだ)。

ニ˩ガイ˥フチ [ni˩gai˥ɸu̥ʧi] 【名】のりと (祝詞)。˩ニンガイ˥フチ [˩niŋgai˥ɸu̥ʧi](祝詞) ともいう。˩カン˥プスンケーヤ　˩カン˥フチ　ニ˩ガイ˥フチ　ウ˩キ˥トゥルンティ　˥ユー　ア˩ツァ˥マローッタン [˩kam˥pu̥suŋke:ja ˩kaŋ˥ɸu̥ʧi ni˩gai˥ɸu̥ʧi ʔu˩ki˥turunti ˥ju: ʔa˩tsa˥marao:ttaŋ](神職者＜司や手摺り部＞たちは呪詞＜神口＞や祝詞を伝授する＜受け取る＞ためによく集まられた)。

˥ニカイヤー [˥nikaija:] 【名】二階建。「二階家」の義。鳩間島に二階建の家はなかった。鰹節製造工場の˩バイカン˥ヤー [˩baikaŋ˥ja:](焙乾屋) は切妻屋根の構造で、中二階、屋根裏部屋の三段に仕切られていた。最上段まで上げて焙乾し、燻製にした鰹節を˥ピギテイ [˥pigiti](表面を削って＜剥いで＞) 製品化して出荷した。イ˩サナケー˥　パ˩ラバ˥ル　˥ニカイヤーヤ　ミ˩ラリ˥タ [ʔi˩sanake:˥ pa˩raba˥ru ˥nikaija:ja mi˩rari˥ta](石垣島へ行ったらばこそ二階建の家は見られたものだ＜行かないと見られない＞)。二階屋。パ˩トゥ˥マナー　˥ニカイヤーヤ　˩ナーン˥シェン [pḁ˩tu˥mana:ja ˥nikaija:ja ˩na:ŋ˥ʃeŋ](鳩間島には二階屋はなかった)。

ニ˩ガイ˥ルン [ni˩gai˥ruŋ] 【他動】願う。祈る。祈願する。˥バーラ　パ˩ジミ˥　ニ˩ガイ˥ルン [˥ba:ra pa ˩ʤimi˥ ni˩gai˥ruŋ](私から最初に祈願する)。ニ˩ガイラ˥ヌ [ni˩gaira˥nu](祈願しない)。ニ˩ガイ˥ル　˥クトー　˩ナー˥ヌ [ni˩gai˥ru ˥ku̥to: ˩na:˥nu](祈願することはない)。˩パー˥ク　ニ˩ガイ˥リ [˩pa:˥ku ni˩gai˥ ri](早く祈願しなさい)。

˥ニガウン [˥nigauŋ] 【他動】 1祈願する。神仏に祈る。˩ヤーニンズー˥ヌ　˥ドゥーパダ　˩キンコーバ˥　ニガウンティ　˩ベー [˩ja:ninʤu:˥nu ˥du:pada ˩kiŋko:ba˥ nigaunti ˩be:](家族の体の健康を祈願しようとしている)。願う。祈る。祈願する。˥バーラ　˥ニガウン [˥ba:ra ˥nigauŋ](私から願う＜祈る＞)。˩ピーチピー˥チ　ニ˩ガーン˥ドーシ　マ˩トゥミティ˥　ニガイバ [˩pi:ʧipi:˥ʧi ni˩ga:n˥do:ʃi ma˩tu-miti˥ nigaiba](一つ一つ願わない＜祈らない＞で纏めて願いなさい)。˥ニガイ　ッ˩ふィーリ [˥nigai f˩fi:ri](願ってくれ。祈ってくれ。祈願してくれ)。˥ニガウ　プ˩ソー　ター˥ヤ [˥nigau pu̥˩so: ta:˥ja](願う人は誰か)。ニ˩ガイ˥ヤー　˥ミサムヌ [ni˩gai˥ja: ˥misamunu](願えば良いのに)。˥ドゥーシ　˥ニガイバ [˥du:ʃi ˥nigaiba](自分で願い＜祈り＞なさいよ)。2お願いする。˩コー˥チョーシンシン˩ナー˥ニ　ウ˩ヌ˥　クトゥ　˥ニガイ　ッ˩サリ˥バ [˩ko:˥ʧo:ʃiŋʃin˩na: ˥ni ʔu˩nu˥ ku̥tu ˥nigai s˩sari˥ba](校長先生にそのことをお願い申し上げなさいよ)。

ニ˩カ˥ヌ　˥ユー [ni˩ka˥nu ˥ju:] 【連】今夜。「今夜の夜」の義。ニ˩カ˥ヌ　˩ユー˥ヤ　˩マーズン˥シ　˥ヨイ˩ソー˥ラ [ni˩ka˥nu ˥ju:˥ja ˩ma:ʤuŋ˥ʃi ˥joi ˩so:˥ra](今夜は一緒にお祝いをしましょうよ)。ニ˩カ˥ヌ　˩ユー˥ヤ　˩プール˥ヌ　˩ユードゥー˥シ [ni˩ka˥nu ˩ju:˥ja ˩pu:ru˥nu ˩ju:du:˥ʃi](今夜は豊年祭の夜通し＜夜を籠めて祈願する祭り＞だ)。

ニ˩キ˥マイ [ni˩ki˥mai] 【名】二期作のお米。一期作の稲を収穫した後、田を耕し播種植え付けをして10月頃に稲刈り収穫する稲。蓬莱米が作付けされるようになって水稲の二期作が広まった。ニ˩キ˥マイ　ス˩ク˥ルカー　˩ジー˥ヤ　パ˩ギ˥ルンダ　˥ヒリョー　イ˩リラン˥カー　ナ˩ラン˥シェン [ni˩ki˥mai su˩ku˥ruka: ˩ʤi:˥ja pa˩gi˥runda ˥çirjo: ʔi˩riraŋ˥ka: na ˩raŋ˥ʃeŋ](二期作を作ると土地が痩せるので肥料を入れないといけなかった)。

˥ニク [˥niku] 【名】 1肉。豚や牛、猪、山羊の肉等にいう。˩オー˥ヌ　˥ニク　˩カイ˥　クー [˩ʔo:˥nu ˥niku ˩kai˥ ku:](豚肉を買ってこい)。ム˩ムッタラ˥ヌ　˥ニク [mu˩muttara˥nu ˥niku](腿の肉)。2人の筋肉や豚肉や牛肉、猪の肉には˩シー˥シ [˩ʃi:˥ʃi](肉) という。

「肉、之之 (しし)、肌膚之肉也」『和名抄』の転訛。ドゥ˩クˬヌ　˩ピーˬヤティ　˩シーˬシフイ　˩シーベー [du˩kuˬnu ˩piːˬjati ˩ʃiːˬʃiɸui ˩ʃiː beː](余りにも寒いので身震いしている)。

ニ˩クシキˬヨー [ni˩kuʃi̥kiˬjoː] 【名】肉付き。筋肉の付き方。ク˩ヌˬ　ッ˩ふァヌˬ　ニ˩クシキヨーˬヤ　ミ˩グトゥ　ユン [ku˩nuˬ f˩fanuˬ ni˩kuʃi̥kijoːˬja mi˩gutu juŋ](この子の肉付きは見事だ)。

ニ˩コミ [ni˩komi] 【名】煮込み。標準語からの借用語か。カツオ漁業の導入によって借用された語であろう。伝統方言では、イ˩ズネーシ [ʔi˩ʤuneːʃi](魚煮) という。鰹節製造工場には直径約 1、2 メートル、深さ約 1、5 メートルの大釜が三基設置されており、そのイ˩ズネーシガマ [ʔi˩ʤuneːʃigama](魚を煮る釜) の中にナカワリ (三枚卸) やヨツワリ (四つ割。雄節 < 背肉部 >、雌節 < 腹肉 > に分けること) にしたカツオを、直径約 90 センチ、高さ約 10 センチの丸いカ˩グ [ka˩gu](煮籠) に詰め並べ、その上に新鮮なˬガヤー [ˬgajaː](茅) で薄く被い、その煮籠を 12〜13 枚重ねて大きな板の蓋をし、重石を乗せて煮込むこと。煮込んだカツオは大釜の上の滑車にロープをかけて引き上げた。

ニ˩ザマ [ni˩ʤama] 【名】寝相。「寝様」の義。ミ˩ドゥムˬヌ　ニ˩ザマヌ　ワッサˬヌ　˥マジ　ウ˩レーˬラ　˩ノーˬシ [mi˩dumuˬnu ni˩ʤamanu wassaˬnu ˥maʤi ʔu˩reːˬra ˩noːˬʃi](女のくせに寝相がわるくて大変だ。先ずは、それから直せ)。

ニ˩シ [ni˩ʃi] 【名】北。「子・し < 風 > の方」の義か。ニ˩シカジ [ni˩ʃikaʤi](北風)。ニ˩シンタ [ni˩ʃinta](北の方)。ニ˩シェーキ [ni˩ʃeːki](北側)。ミ˩チˬヌ　ニ˩シェーキˬナー　˩バンˬテヌ　パ˩タキˬヌ　˥アン [mi˩ʧiˬnu ni˩ʃeːkiˬna ˩banˬtenu pḁ˩takiˬnu ˥ʔaŋ](道の北側に私の家の畑がある)。

˥ニジ [˥niʤi] 【名】ねじ (螺子)。ニ˩ジˬヌ　˩ヨーˬリ　˩ベーˬバ　˥シミ　˥シキ [ni˩ʤiˬnu ˩joːˬri ˩beːˬba ˥ʃimi ˥ʃi̥ki](螺子が緩んでいるので締めておきなさい)。

˥ニジ [˥niʤi] 【名】我慢。堪えること。˥ニズン [˥niʤuŋ](我慢する) の連用形から転成した名詞。˩ヤーサˬニジ [˩jaːsaˬniʤi](空複を我慢すること)。ニ˩ジˬヌ　タ˩ラーヌ [ni˩ʤiˬnu ta˩raːnu](我慢がたりない)。

ニ˩シェーキ [ni˩ʃeːki] 【名】北側。北の方。基準となる地点から連続した北側の地点。ニ˩シドーˬヌ　パ˩タキˬヌ　ニ˩シェーキナーˬル　パ˩チンガカーヤ˥　アル [ni˩ʃidoːˬnu pḁ˩takiˬnu ni˩ʃeːkinaːˬru pḁ˩ʧiŋgakaːjaˬ ʔaru](西堂の畑の北側にパチンガカー < 初の洞穴井戸 > はある)。パ˩ヤーˬキ [pa˩jaːˬki](南側) の対語。˩イーリキ [˩ʔiːriki](西側)、˩アーリキ [˩ʔaːriki](東側) 参照。

ニ˩シェーパヤー [ni˩ʃeːpajaː] 【名】南北。「北・南」の義。パ˩トゥˬマプソー　˥イダフネーラ　ニ˩シェーパヤー˥　カ˩ユイヤーˬティル　˩タースクˬル　˩ソーッˬタ [pḁ˩tuˬmapusoː ˥ʔidaɸuneːra ni˩ʃeːpajaː˥ ka˩juijaːˬtiru ˩taːsu̥kuˬru ˩soːtˬta](鳩間の人は板舟で < サバニから > 鳩間島と西表島の間を北へ南へと通いながら稲作 < 田作り > をされた)。

ニ˩シカジ [ni˩ʃikaʤi] 【名】北風。ニ˩シカジヌ˥　フクカー　˩オーシケー˥　ヤ˩ビˬス [ni˩ʃikaʤinuˬ ɸu̥kukaː ˩ʔoːʃi̥keː˥ ja˩biˬsu](北風が吹くと天気は崩れ < 破れ > る)。

ニ˩ジカンˬティ [ni˩ʤikanˬti] 【名】こらえ (堪え) 兼ねること。動詞の連用形に˩〜カンˬティ [˩〜kanˬti](〜出来ない < 不可能 >) が付いた形。「〜流るる涙等騰未可祢都母 < とどみかねつも >。万、4160」の転訛。˥ユベー　バ˩タˬヌ　カ˩ミラˬリ　˥ヤミティ　ニ˩ジカンˬティ　˩シー　ベーˬタ [˥jubeː ba˩taˬnu ka˩miraˬri ˥jamiti ni˩ʤikanˬti ˩ʃiː beːˬta](昨夜はお腹が差し込むように痛んで、我慢しかねていた)。

ニ˩シクビ [ni˩ʃikubi] 【名】 1北壁。家の北壁。˩ヤーˬヌ　ニ˩シクビヌ˥　ヤドー　ス˩ギイツァˬシ　ス˩クˬリ　˥シケー [˩jaːˬnu ni˩ʃikubinuˬ jadoː su˩giʔitsa ˥ʃi su̥˩kuˬri ˥ʃi̥keː](家の北壁の戸は杉板で作ってある)。ニ˩シクベー˥　ティ˩ダˬヌ　ア˩タランダ　ヨーリˬパヤーン [ni˩ʃikubeː˥ ti˩daˬnu ʔa˩taranda joːriˬ pajaːŋ](北壁は太陽が当たらないので、弱くなりやすい < 弱り早い >)。2北の空。四周を取り巻く壁のような大空の北側。北壁。カ˩ジェー　マーリティ˥　ニ˩シクベーラ˥　ア˩ミカジˬヌ　タ˩タˬキ　˥ウティクーン [ka˩ʤeː maːritiˬ ni˩ʃikubeːraˬ ʔa˩mikaʤiˬnu tḁ˩taˬki ˥ʔutikuːŋ](風が北へ回って、北壁の空から雨風が叩きつけて吹き降ろしてくる)。

˥ニジッピル [˥niʤippiru] 【名】二十尋。˥ピル [˥piru] は、10 未満の数に付く際はˬヒル [˥çiru] といい、両手を左右に広げた時の両手先の間の距離を表して、プ˩スˬヒル [pu̥˩suˬçiru](一尋)、フ˩タヒル [ɸu̥˩taçiru](二尋) と数える。10 以上を数える際、10、11、13、14、16、18、20 の数に˥ピルを用いる。縄の長さや水深などを計る際の単位として用いられる。ク˩マˬヌ　˩トゥーヌ˥　フ˩カˬサー　˥ニジッピル　˥タトゥン [ku˩maˬnu ˩tuːnuˬ ɸu̥˩kaˬsaː ˥niʤippiru ˥

tạtuŋ](ここの深海の深さは二十尋たつ＜深い＞)。

ニ˩シ˥ドー [ni˩ʃi˥doː] 【固】(地) 西堂と表記されているが、語源は、ニ˩シ [ni˩ʃi](北)・˩タウ [˩tau](窪地、平地) であろう。「北窪地」の義である。ナ˩カン˥ブレ [na˩kam˥bure](中岡) の北部の麓から˩ウイヌカー [˩ʔuinukaː](上の井戸) に至る一帯の平坦な窪地を指す。ニ˩シドー˥ヌ　パ˩タ˥キナー　ア˩ガマミ˥　イ˩ビ˥シケーンドゥ　˥パトゥザン　ッ˩ふァーリティ　ダーッ˥サー　˩ナー˥ヌ [ni˩ʃidoː˥nu pạ˩ta˥kinaː ʔa˩gamami˥ ʔi˩bi˥ʃị̈keːndu ˥pạtudʑaŋ ɸ˩faːriti daːs˥saː ˩naː˥nu](ニシドーの畑に小豆を植えてあるが、鳩に食べられて＜収穫は＞よくない)。ナ˩カン˥ブレー [na˩kam˥bureː](中岡＜森＞) の北側の平坦地。ナ˩カン˥ブレートゥ　パ˩カヤマヌ˥　ニ˩シンタヌ　タウ˥　ナリ　˩ブン˥トンル　ニ˩シ˥ドーティ　ア˩ズ˥ダー [na˩kam˥bureːtu pạ˩kajamanu˥ ni˩ʃintanu tau˥ nari ˩bun˥tonru ni˩ʃi˥doːti ʔa˩dʑu˥daː](中岡と墓山の北側の平坦地＜窪地＞になっている所がニシドーと言うのだよ)。

ニ˩シ˥ドーウガン [ni˩ʃi˥doːʔugaŋ] 【固】西堂御嶽。ナ˩カン˥ブレ [na˩kam˥bure](鳩間中岡) の西にあるパ˩カヤマ [pạ˩kajama](墓山) の北東斜面に位置する˥ウガン [˥ʔugaŋ](御嶽)。東北に向いた墓を御嶽にしたもの。伝承によると、宮古島の方に向けて作られているという。島の創建者となった人が宮古島から与那国のウニトゥラ征伐に行く途中、一旦鳩間島で休んで力をつけ、与那国征伐を成功させたという。その人が与那国から宮古島へ凱旋の途中鳩間島に残り、そこで一生を終えたという。その人を葬った墓が現在のニ˩シ˥ドーウガンであり、そこに˥サヤンガタナ [˥sajaŋgatana](鞘刀) と杯が副葬品として埋葬されていたという。明治期に入り、糸満から来島したイ˩ガピキプス [ʔi˩gapị̈kipusu](烏賊漁師) と妻の˥ミサーバーチー [˥misaːbaːtʃiː](ミサー叔母さん) がキ˩ダシケー [ki˩daʃị̈keː](石嶺家) に宿っていた。そのミサーバーチーがスズー˩コ˥フ˩ダマリティ [sudʑuː˩ko˥ ɸu˩damariti](重篤な神懸り) をしてウ˩ブナクラーローッ˥タンツォー [ʔu˩bunakuraːroːt˥tantsoː](大変怖かったそうだ)。その方の˩カンダー˥リ [˩kandaː˥ri](神懸りして神のお告げをすること) に基づいて墓が御嶽に建立され、初代のサ˩カサ [sạ˩kasa](司) にはパ˩トゥ˥メーヌ　˥アッパ [pạ˩tu˥meːnu ˥ʔappa](鳩間家のお祖母さん) が就任され、二代目の司にはニ˩シムレーヌ˥　アンマー [ni˩ʃimureː˥nu ˥ʔamma](米盛クヤ氏) が後を継がれた。˩カンダー˥リ [˩kandaː˥ri](神懸り) に基き、その墓をニ˩シ˥ドーウガン [ni˩ʃi˥doːʔugaŋ](御嶽) として創建した際、仲底家、鳩間家の方々によって墓が開けられたが、その時には金の杯と刀剣が発掘されたという。そこで村人と共に、その杯で酒を酌み交わそうとしたが、その際に杯が音をたてて割れたので人々は神慮を感じ、それらをもとの場所に戻して墓を密閉し、神域として祭るようになったという。以後、同御嶽は代々仲底家と鳩間家の血統による神司によって司祭されてきたが、墓の宝物は盗掘にあって今は伝わらないという (鳩間真吉氏伝承)。

ニ˩シバネー [ni˩ʃibaneː] 【名】屋号。鳩間村六班の、ナ˩カン˥テーヌ　˩ヤシ˥キ [na˩kan˥teːnu ˩jaʃị̈˥ki](仲本家の屋敷) の西隣の空き屋敷の名。

ニ˩シマッふァ [ni˩ʃimaffa] 【名】北枕。ニ˩ブ˥　ピンマー　ニ˩シマッふァー˥　シ˩ミルナ˥ヨー [ni˩bu˥ pimmaː ni˩ʃimaffaː˥ ʃi˩miruna˥joː](寝る時は、北枕はさせるなよ)。

ニ˩シ˥ミジ [ni˩ʃi˥midʑi] 【名】 (地) 現在の中野集落と住吉集落の中間の水田地帯。ウ˩ランザ˥キ [ʔu˩randʑa˥ki](宇奈利崎) の東部一帯の湿地帯を開拓して水田にした所。ッ˩サンタヌ˥　イ˩ラ˥ブレー [s˩santanu˥ ʔi˩ra˥bureː](下の西原家)、˩ヨー˥カヤー [˩joː˥kajaː](西原家)、トゥ˩ムレー [tu˩mureː](友利家。田代家) などの水田があった。

ニ˩シムレー [ni˩ʃimureː] 【名】屋号。米盛松氏宅。若年層は、ユ˩ニムレー [ju˩nimureː](米盛家) ともいう。米盛松氏の妻、米盛クヤ氏は鳩間家の出身で、ニ˩シ˥ドーウガン [ni˩ʃi˥doːʔugaŋ](西堂御嶽) のサ˩カサ [sạ˩kasa](司。女性神職者) であった。クヤ氏は大工ヨボシ氏 (大正 12 年 8 月現在、友利御嶽のサ˩カサ [sạ˩kasa]＜神司＞であった) から鳩間島の古謡や神歌、ニ˩ガイ˥フチ [ni˩gai˥ɸụtʃi](のりと＜祝詞＞) を習い覚えたと言う。米盛正雄氏は、戦後鳩間島から友利武雄氏と共に最初に竹富町役場に就職された。ニ˩シムレーヌ˥　アンマー　ニ˩シ˥ドーウガンヌ　サ˩カサ˥　ヤ˩ロー˥リ　キ˩モ˥ネーザーヤ　˩ウイヌウガン˥ヌ　ティ˩ジリ˥ビー　ヤ˩ロー˥タ [ni˩ʃimureː˥nu ˥ʔamma: ni˩ʃi˥doː ˥ugannu sạ˩kasa˥ ja˩roː˥ri ki˩mo˥nedʑaːja ˩ʔuinuʔugan˥nu ti˩dʑiri˥bi: ja˩roːt˥ta](米盛家のお母さんは西堂御嶽の司であられ、冨太郎氏は友利御嶽のティジリビー＜男性神職者＞であられた)。

ニ˩シムレーヌ˥　ギサザーテー [ni˩ʃimureːnu˥

gisazaːteː] 【連】屋号。米盛敏夫氏宅。ニ˞シムレー [niˀʃimureː](米盛家) の分家で、本家の西側の屋敷にあった。

˩ニジュー **[˩niʤuː]** 【名】二十。標準語からの借用語。老年層は、普通˞ニン˩ズ [˞ninˀʤu](二十) という。トゥ˞シ˩ヌ　˩ニジュー　˩ナレーラー　˩ドゥームティ　˩ミサンティ　ア˞ザリブー [tu̥ˀʃiˀnu ˩niʤuː ˩nareːraː ˩duːmuti ˩misanti ʔa˞ʤari buː](二十歳 < 年が二十 > になったら結婚して < 嫁いでも > もよいといわれている)。

ニジューグ˞ニンキ **[˩niʤuːgu˞niŋki]** 【名】二十五年忌。法事で始めて赤い色を料理や仏具に用いることができる。祝いに準じる法事。˩アブジェー　ニジューグ˞ニンキ　シー　オースンティ˩　ス˞コーリベー [˩ʔabuʤeː niʤuːgu˞niŋki ʃiː ʔoːsuntiˀ su̥˞koːri beː](お祖父さんの二十五年忌の法事をして差し上げようと準備している)。

ニ˞ジ˩ルン **[ni˞ʤiˀruŋ]** 【他動】我慢する。堪える。「念ずる」の転訛したもの。˩ニズン [˩niʤuŋ](我慢する) のラ行四段化したもの。バ˞タ˩ヤンバ　ニ˞ジ˩ルンティ　˞ベー˩ヌンドゥ　ニ˞ジララ˩ヌ [ba˞taˀjamba ni˞ʤiˀrunti ˞beː˩nundu ni˞ʤirara˩nu](腹痛を我慢しようとしているが、我慢できない)。˞マー˩ビン　ニ˞ジ˩ル　˩クトゥ [˞maː˩bin ni˞ʤiˀrukutu](もっと我慢すること)。˞マー˩ビン　ニ˞ジ˩レー　˩ミサムヌ [˞maː˩bin ni˞ʤiˀreː ˩misamunu](もっと我慢すればいいのに)。

ニ˞シンタ **[ni˞ʃinta]** 【名】北側。北の方。基準点と連続していなくてもよい北側。˞バン˩テヌ　˞クーラヌ˩　バ˞ケーラマシヌ˩　ニ˞シンタナー˩ル　˩ユージェヌ　˞ター˩ヤ　˞アッ˩タ [˞banˀtenu ˞kuːranu ˩ba˞keːramaʃinuˀ ni˞ʃintanaː˩ru ˩juːʤenu ˞taː˩ja ˞ʔat ˩ta](私の家の久浦のバケーラマシ < 湧き水の田圃 > の北側に松竹家の田圃はあった)。

˩ニス **[˩nisu]** 【名】二升 < 数詞 >。ク˞ヌ　パンガマ˩ナー　サ˞ク˩マイ　˩ニス　イ˞リティ˩　バ˞カシ˩バ [ku˞nu pamgamaˀna: sḁ˞kuˀmai ˩nisu ʔi˞ritiˀ ba˞kaʃi ˩ba](この羽釜に粳米を二升入れて < ご飯を > 炊きなさい)。

ニ˞ス˩ダキ **[ni˞suˀdaki]** 【名】二升炊き用の釜。˞ヤーニンズー˩ヌ　˞ゴー˩ラーンダ　˞イー˩ヤ　ニ˞ス˩ダキナ　バ˞カシ˩バ [˞jaːninʤuː˩nu ˞goː˩raːnda ˞ʔiː˩ja ni˞suˀdakina ba˞kaʃiˀba](家族が多いので、御飯は二升炊き釜で炊きなさいよ)。

˩ニズン **[˩niuŋ]** 【自動】我慢する。こらえる (堪える)。辛抱する。「～念じ過ぐし給ひつつ～」『源氏物語、幻』。ウ˞ヌ˩　ア˞タ˩ロー　˩ニズンティ　ウ˞ムーン˩ドゥ　˞バン˩マー　ニ˞ザラ˩ヌ [ʔu˞nuˀ ʔa˞taˀroː ˩niʤunti ʔu˞muːnˀdu ˞bamˀmaː ni˞ʤaraˀnu](この程度は我慢しようと思うが、私には我慢できない)。˩ニジ　ッ˞ふィーリ [˩niʤi f˞fiːri](我慢してくれ)。˩ニズ　ク˞トゥ˩ヌ　˩ナルカー　˩ニジェー　˩ミサムヌ [˩niʤu ku̥˞tuˀnu ˩naruka: ˩niʤeː ˩misamunu](我慢することができたら我慢すればいいのに)。˩ニジバ [˩niʤiba](我慢せよ)。

ニ˞ターニター˩シ **[ni˞taːnitaː˩ʃi]** 【副】ねたましい < 妬ましい > そうに。憎らしいそうに。ニッ˞ターニッター˩シ [nit˞taːnittaː˩ʃi](妬ましいそうに) ともいう。˞ワー˩　ヌンティ　プ˞スバ˩　ニ˞ターニター˩シ　˩ミリ　˞ベー˩ワ [˞waː˩ nunti pu̥˞subaˀ ni˞taːnitaː˩ʃi ˩miri ˞beː˩wa](君はどうして人を妬ましそうに見ているか)。

ニ˞タカマ **[ni˞takama]** 【名】似た者同士。同類。˞ウッ˩ツァー　トゥ˞ジブトー˩　ニ˞タカマ˩　プ˞スピライ　シーユーサヌ [˞ʔutˀtsa: tu˞ʤibutoː˩ ni˞takamaˀ pu̥˞supirai ʃiːjuːsanu](彼ら夫婦は似た者同士だ。世間との交際 < 他人付き合い > ができない)。

ニ˞タムヌ **[ni˞tamunu]** 【名】似た者。似通った者。標準語から転訛。˞ウッ˩ツァー　フ˞ターロー˩　ニ˞タムヌ˩　ヤ˞ルンダ˩　ギュー˞サ˩　パ˞ナ˩シ　シゥ˞カサバン˩　ワ˞カラ˩ヌ [˞ʔutˀtsa: ɸu̥˞taːro: ni˞tamunuˀ ja ˞rundaˀ gjuː˞saˀ pa˞naˀʃi si̥˞kasabaŋˀ wa˞karaˀnu](彼ら < それら > 二人は似た者同士だから、いくら話して聞かせても分からない < 理解出来ない >)。

ニ˞タ˩ムン **[ni˞taˀmuŋ]** 【他動】ねたむ (妬む)。恨む。標準語から転訛したもの。普通は、˞ニッ˩ター　˞スン [˞nitˀtaː ˞suŋ](妬む。< 妬さ・する > の義) という。イ˞ザリ　イットゥ˞ケー　イ˞ズ　プスヨー˩　ニ˞タムン˩ドゥ　˞フントー˩ヤ　ニ˞タマン˩ドーシ　˩ユー　ス˞クバル　ドゥー˩ヌ　タ˞ミト ダー [ʔi˞ʤari ʔittu ˩keː ʔi˞ʤu pu̥sujoː˩ ni˞tamunˀdu ˞ɸuntoː˩ja ni˞tamanˀdoːʃi ˩juː su̥˞kubaru duː˩nu ta˞miɨdaː](叱られる一時は叱る人を妬むが、本当は妬まないでよく聞いた方が自分のためだよ)。˞バイ˩ヨー　ニ˞タミ˩プサカー　ニ˞タ˩ミバ [˞baiˀjoː ni˞tamiˀ pu̥saka: ni˞taˀmiba](私を妬みたかったら妬みなさい)。プ˞スヨー˩　ニ˞タ˩ム　˩クトー　ナ˞ラ˩ヌ [pu̥˞sujoː˩ ni˞taˀmu ˩ku̥to: na˞raˀnu](他人を妬むことはしてはならない)。ニ˞タ˩メー　˩ミサムヌ [ni˞taˀmeː ˩misamunu](妬めばいいのに)。

ニ˞ダン [niˀdaŋ] 【名】値段。標準語の「値段」から転訛。普通は、˞ダイ [˞dai](値段。代価) という。ニ˞ダンヌ˺ タ˞カー˺ヌ ˞カーラヌ [niˀdannu˺ tạ˞ka:˺nu ˞ka:ranu](値段が高くて買えない)。カ˞ツブシヌ˺ ニ˞ダンマー ギュー˺サヤー [kạ˞tsubuʃinu˺ niˀdamma: gju:˺saja:](鰹節の値段はいくらかね)。ニ˞ダンヌ˺ タ˞カー˺ ムノー ˞カーラヌ˺ ニ˞ダンヌ ヤッ˺サ ˺ムヌバ イ˞ラ˺ビ [niˀdannu˺ tạ˞ka:˺ muno: ˞ka:ranu˺ niˀdannu jas˺sa ˺munuba ʔi˞ra˺bi](値段の高いものは買われ＜買え＞ない。値段の安いものを選べ)。

˺ニチ [˺nitʃi] 【名】1熱。暑さ。ティ˞ダ˺ヌ ニ˞チ˺ヌ ˞スーワ˺ヌ ミ˞チェー˺ラ ア˞ラカラ˺ヌ [ti˞da˺nu ni˞tʃi˺nu ˞su:wa˺nu mi˞tʃe:˺ra ʔa˞rakara˺nu](太陽の熱＜熱気＞が強くて道から歩かれない)。2体温。病気などによる発熱。パ˞ナシキヌ˺ ニ˞チ˺ヌ ン˞ジ˺ルカー フ˞チ˺ル ヌ˞マ˺シバ˞ヨー [pa˞naʃi̥kinu˺ ni˞tʃi˺nu ʔn˞ʤi˺ruka: ɸu̥˞tʃi˺ru nu˞ma˺ʃiba˞jo:](風邪の熱が出たら薬を飲ませなさいねえ)。ウ˞チニチェー˺ フ˞チン˺パー ˞シッ˺キ ヌ˞マ˺シティ パッサン シ˞ミリ [ʔu˞tʃinitʃe:˺ ɸu̥˞tʃim˺pa: ˞ʃik˺ki nu˞ma˺ʃi̥ti ˺passaŋ ʃi˞miri](体内に籠もる熱は蓬の葉を搗いて汁を搾って飲ませて発散させなさい)。

˺ニチ [˺nitʃi] 【助数】日。日数を数える単位。イ˞チニ˺チ [ʔi˞tʃini˺tʃi](1 日)。ニ˞ニ˺チ [ni˞ni˺tʃi](2 日)、˞サンニチ [˞sannitʃi](3 日)、ユ˞ニチ [ju˞nitʃi](4 日)、グ˞ニチ [gu˞nitʃi](5 日)。˞キュー˺ヤ ˞ナンニ˺チヤ [˞kju:˺ja ˞nanni˺tʃija](今日は何日か)。パ˞チングチ˺ヌ ˞ジューグニ˺チ＜˞ズングニ˺チ＞[pạ˞tʃiŋgutʃi˺nu ˞ʤu:guni˺tʃi＜˞ʤuŋguni˺tʃi＞](八月の十五日だ)。˞クンガ˺チ ˺クニチ [˞kuŋga˺tʃi ˺kunitʃi](九月九日)。

ニチー˞ニチー [nitʃi:˞nitʃi:] 【副】粘り強いさま。しつっこいさま。執念深いさま。「ねちねち」の訛言か。ウ˞リヌ˺ シ˞グトゥ˺ パ˞ジメーラ˺ ニチー˞ニチー˺シ イ˞チンバー˺キン ˞シース [ʔu˞rinu˺ ʃi˞gutu˺ pa˞ʤime:ra˺ nitʃi:˞nitʃi:˺ʃi ʔi˞tʃimba:˺kiŋ ˞ʃi:su](彼が仕事を始めたら、粘り強く＜ねちねちと＞何時までもやる)。

ニ˞チサマ˺シ [ni˞tʃisama˺ʃi] 【名】解熱剤。熱冷まし。イ˞サ˺ヌ ˞オーラン˺ シマ ヤ˞ルンダ˺ ニ˞チ˺ヌ ン˞ジ˺ルカー フ˞チン˺パーバ ニ˞チサマ˺シティ ˞シー シッ˺キティ ウ˞ヌ˺ シ˞ル˺バ ヌ˞マ˺ソーッタ [ʔi˞sa˺nu ˞ʔo:raŋ˺ ʃima ja˞runda˺ ni˞tʃi˺nu ʔn˞ʤi˺ruka: ɸu̥˞tʃim˺pa:ba ni˞tʃisama˺ʃiti ˞ʃi: ʃik˺kiti ʔu˞nu˺ ʃi˞ru˺ba nu˞ma˺so:tta](医者の居られないしまだから、熱が出ると蓬の葉を熱冷ましといって、それを搗いて、その汁を飲まされた)。

˺ニチ サ˞マ˺ルン [˺nitʃi sa˞ma˺ruŋ] 【連】解熱する。熱が冷める。熱が下がる。フ˞チン˺パーヌ ˺シル ヌ˞マ˺スカー ˺ニチェー サ˞マ˺ルン [ɸu̥˞tʃim˺pa:nu ˺ʃiru nu˞ma˺sụka: ˺nitʃe: sa˞ma˺ruŋ](蓬の葉の汁を飲ますと熱が下がる)。

˺ニチパンパン [˺nitʃipampaŋ] 【副】高熱が出てほめくさま。熱で火照るさま。˺ニチパンパン シ˞ティ˺ ˺フカイティ ˺シラー ア˞ガミ ベー [˺nitʃipampaŋ˺ ʃi̥˞ti˺ ˺ɸu̥kaiti ˺ʃira: ʔa˞bami be:](高熱が出て火照って顔は赤らんでいる)。

˺ニチ ˞ポーポー [˺nitʃi ˞po:po:] 【連】熱が高いさま。発熱しているさま。「ねつほうほう (熱蓬蓬)」の義か。ク˞ヌ˺ ッ˞ふァー˺ ニチ ˞ポーポー˺シ ˞ベー˺バ ˞パー˺ク ˺イサン ミ˞サ˺シ ˺クー [ku˞nu˺ f˞fa:˺ nitʃi ˞po:po:˺ʃi ˞be:˺ba ˞pa:˺ku ˺ʔisam mi˞sa˺ʃi ˺ku:](この子は発熱しているから、早く医者に診てもらってきなさい)。

ニ˞チョー˺ルー [ni˞tʃo:˺ru:] 【名】似たもの同士。似たり寄ったり。大同小異の者同士。変りばえのしない者同士。ニ˞タカマ [ni˞takama](似た者同士) と同じ。沖縄方言からの借用語か。˞ウッ˺ツァー ニ˞チョー˺ルー [˞ʔut˺tsa: ni˞tʃo:˺ru:](彼らは似たもの同士だ)。

ニッ˞カ [nik˞ka] 【名】1遅い時刻。夜更け。ニッ˞カ スン˺ケン パ˞タラキ ベー˺タ [nik˞ka suŋ˺kem pạ˞taraki be:˺ta](夜遅くまで働いていた)。ニッ˞カ シェーラ˺ プ˞スン˺ヤー ˺パルモー ア˞ラ˺ヌ [nik˞ka ʃe:ra˺ pụ˞suŋ˺ja: ˺parumo: ʔa˞ra˺nu](夜更けに余所の家に行くものではない)。2遅い時期。長期間経つこと。サ˞ク˺シ ˺ナシティ ニッ˞カ シェーラル ウシ˺トー ˺ナシェー˞ダー [sạ˞ku˺ʃi ˺naʃi̥ti nik˞kaʃe:raru ʔuʃi̥˺to: naʃe:˞da:](長男を産んでから、だいぶ経ってから弟を産んだのだよ)。ニッ˞カバー˺キ ˞ヨイ˺ スンティ ˞ウン˺ネナー ˞アーク˺タ [nik˞kaba:˺ki ˞joi˺ sunti ˞ʔun˺nena: ˞ʔa:ku˺ta](夜遅くまでお祝いをいようとして、あの家にいた)。

˞ニッ˺ター ˞スン [˞nit˺ta: ˞suŋ] 【連】妬ましく思う。ねたむ (妬む)。恨む。「妬ましさ・する」の義。イ˞ジナラー˺スカー イ˞ズ プスヨー ニッ˺ター ˞スンダ˺ イ˞ザンモー˺ マ˞シ [ʔi˞ʤinara:˺sụka: ʔi˞ʤu pụsujo: nit˺ta: ˞sunda˺ ʔi˞ʤammo:˺ ma˞ʃi](叱って教えたら叱る人を恨む＜妬ましく思う＞ので、叱らない方がいい)。

˩ニッ˥ターン **[˩nit˥taːŋ]** 【形】ねたましい (妬ましい)。恨めしい。憎らしい。イ˩ザリティ　ニッ˥ターンティ　ウ˩ムー˥ナ˩ダー [ʔi˩ʤariti nit˥taːnti ʔu˩muː˥na˩daː](叱られて妬ましいと思うなよ)。ノー˩ン　ニッター　ナー˥ヌ [noː˩n nittaː naː˥nu](ちっとも妬ましくない)。ウ˩リン˥　スズー˩コ˥　イ˩ザリティ　ニッター˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [ʔu˩rin˥ suʤuː˩ko˥ ʔi˩ʤariti nittaː˥nu na˩ra˥nu](彼にしたたか叱られて憎らしくてたまらない)。˥アイニ　イ˩ザリ˥カー　˩ニッターナ˩リ˥ス [˥ʔaini ʔi˩ʤari˥kaː ˩nit˥taː na˩ri˥su](あんなに叱られたら憎らしくなる)。˩ニッター　˥クトー　˩ナー˥ヌ [˩nit˥taː kṵtoː ˩naː˥nu](妬ましいことはない)。˥アイニ　˩ニッ˥ターレーラー　ター˩ン　クン˥ゾーン　ン˩ジ˥ス [˥ʔaini ˩nit˥taːreːraː taː˩ŋ kun˥ʤoːn ʔn˩ʤi˥su](あんなに妬ましいのなら誰でも立腹するよ)。

˩ニッタ˥サガマラサ **[˩nitta˥sagamarasa]** 【名】恨めしく悲しく思うこと。「憎らしさ悲しさ」の義。˥アイブ　˩ニッタ˥サガマラサテー　˩ナー˥ヌ [˥ʔaibu ˩nitta˥sagamarasateː ˩naː˥nu](あんなに恨めしく悲しく思うことはない)。˩ニッタ˥サガマラサン　˩サンドー˥シ　イ˩ジ˥ンジ　パ˩タラキ˥ヨー [˩nitta˥sagamarasan ˩sandoː˥ʃi ʔi˩ʤi˥nʤi pḁ˩taraki˥joː](恨めしく悲しく思うことをしないで、一所懸命に働きなさいね)。

˩ニッタンツル˥ギ **[˩nittantsuru˥gi]** 【名】二反続きの反物。「二反繋ぎ」の転訛。一疋 (布帛二反)。˩ニッタンツルギ˥ヌ　˩ヌーヌバ˥　フ˩ター˥ル˥シ　バ˩ク˥タ [˩nittantsurugi˥nu ˩nuːnuba˥ ɸṵ˩taːru˥ʃi ba˩ku˥ta](二反続きの反物を二人で分けた)。

˩ニットー **[˩nittoː]** 【名】日当。日給。標準語から転訛。˩ワー　ニットー <˩ピー˥ヨー>　ギューサ˥ナーシ　タ˩ナマ˥リ　˩アーク˥ワ [˩waː nittoː<˩piː˥joː> gjuːsa˥naːʃi ta˩nama˥ri ˩ʔaːku˥wa](君は日当 < 日雇 > いくらで頼まれているのか)。

˩ニッ˥ふァー　˩スン **[˩nif˥faː ˩suŋ]** 【連】憎む。「憎く・する」の義。˩ワー　トゥス˥ク　˥ムニ　シゥ˩カンバ˥ティ　˩シー˥　ウ˩リヨー　ニッ˥ふァー　ス˩ナ˥ヨー [˩waː tusṵ˥ku ˥muni si̥˩kamba˥ti ˩ʃiː˥ ʔu˩rijoː nif˥faː su˩na˥joː](君が言い付けること < 訓戒。命令 > を聞かないからといって彼を憎く思うな < 憎くするな > よ)。

˩ニッ˥ふァーン **[˩nif˥faːŋ]** 【形】憎らしい。憎い。イ˩ザリタ˥　ピンマー　˩ニッ˥ふァーンティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　マ˩ナ˥マー　˩ニッふァー　ナー˥ヌ [ʔi˩ʤarita˥ pimmaː ˩nif˥faːnti ʔu˩muːtan˥du ma˩na˥maː ˩niffaː naː˥nu](叱られた時は憎いと思ったが、今は憎くない)。˩ニッふァー˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [˩niffaː˥nu na˩ra˥nu](憎くてたまらない)。バー˩バー˥キ　˩ニッ˥ふァー　˥ナリ　˩ナー˥ヌ [baː˩baː˥ki ˩nif˥faː ˥nairi ˩naː˥nu](私まで憎くなってしまった)。˩ニッ˥ふァー˥クトー　˩ナー˥ヌ [˩nif˥faː ˥kṵtoː ˩naː˥nu](憎いことはない)。˥アイニ　˩ニッ˥ふァーレーラー　パ˩ナ˥シェー　ナ˩ラ˥ヌ [˥ʔaini ˩nif˥faːreːraː pa˩na˥ʃeː na˩ra˥nu](あんなに憎かったら話は出来ない)。

˩ニッふァイジ **[˩niffaʔiʤi]** 【名】憎らしげに叱ること。口汚く叱ること。憎さにまかせて叱ること。「憎さ・叱り」の義。˩マイフナー˥　マ˩ラスンティル　ワイヨー˥　イ˩ゾー˥ル　˩ニッふァイジェー˥　ア˩ラン˥ダー [˩maiɸunaː˥ ma˩rasuntiru waijoː˥ ʔi˩ʤoː˥ru ˩niffaʔiʤeː˥ ʔa˩ran˥daː](立派な人に育てようと君を叱られるのだ。憎らしくて叱るのではないよ)。˩ニッふァイジ˥　ス˩ナ [˩niffaʔiʤi˥ su˩na](憎らしげに叱るな)。

˩ニッふァマリ **[˩niffamari]** 【名】憎まれっ子。皆から嫌われる、可愛げのない子。人に好かれない性格。シ˩ラカタ˥チ　˥ミルカー　˥アイニ　˩ニッふァマリ　シー　ブンドゥ˥　イッ˩ケナ˥　キ˩ムカイ˥ヤンダ˩レー [ʃi˩rakata˥tʃi ˥miruka: ˥ʔaini ˩niffamari ʃiːbundu˥ ʔik˩kena˥ ki˩mukai˥janda˩reː](顔立ち < 面形 > を見ると、あんなに憎まれっ子に生まれついているが、心は非常に美しい < 肝美しい。心優しい > のだよ)。

˩ニッふァムー **[˩niffamuː]** 【名】憎まれもの。嫌われ者。憎らしく思う者。憎い者。憎く思う対象。˩ニッふァムヌ [˩niffamunu](嫌われ者) のぞんざいな発音。ウ˩リバ　サッ˥コー　˩ニッふァ˥ムー　シーオー˥ル [ʔu˩riba sak˥koː ˩niffa˥muː ʃiː ʔoː˥ru](彼を非常に憎く思って < 憎まれものにして > おられる)。

˩ニッふァムニ **[˩niffamuni]** 【名】憎まれ口。憎憎しい物言い。˩ワー˥　ヌンティ　ワ˩ザットゥ　ニッふァムニバ˥　カー˩ニ˥　イ˩ジ　アーク˥ワ [˩waː˥ nunti wa˩ʤattu niffamuniba˥ ka:˩ni˥ ʔi˩ʤi ʔaːku˥wa](君は何故、わざと憎まれ口だけをたたいているのか)。

˩ニッふァムヌ **[˩niffamunu]** 【名】憎まれもの。憎らしく思う者。憎らしく思われている者。嫌われている者。ウ˩ヤ˥ヌ　˥ムニ　シゥ˩カムティ　アー˥クンダル　˩ニッふァムヌ˥　シ˩ラリ　ブー˥ツォー [ʔu˩ja˥nu ˥muni si̥˩kamuti ʔa:˥kundaru ˩niffamunu˥

ʃi˩rari buː˥tsoː](親の言うことを聞かないでいるから、親の憎まれ者になっているそうだ)。

ニ˩ニ˥チ [ni˩ni˥ʧi] 【名】二日。標準語からの借用語。ク˩レー˥ イ˩チニ˥チ ニ˩ニ˥チシェー ナ˩ラ˥ヌ [ku˩reː˥ ʔi˩ʧini˥ʧi ni˩ni˥ʧiʃeː na˩ra˥nu](これは一日二日では出来ない)。老年層は、˩フシゥカ [˩ɸusɨ̥ka](二日) という。˩ユーニガイヤー シンガチ˥ヌ ˩フシゥカ˥ナー ˩ソー˥ルツォー [˩juːnigaija: ʃiŋgatʃi˥nu ˩ɸusɨ̥ka˥na: ˩soː˥rutsoː](世願いは四月の二日に執り行われる＜なさる＞そうだ)。

ニ˩ヌブーヤー [ni˩nubuːjaː] 【名】鋼材で造った家。歌謡語。カ˩ニブーヤー [ka˩nibuːjaː](鋼材で造った家) の対語。ウ˩クダ˥カ ˩エンヤー˥ ニ˩ヌブーヤー˥ヌ ˩サイ˥ ヤ˩リ [ʔu˩kuda˥ka ˩ʔeŋjaː˥ ni˩nubuːjaː˥ nu ˩sai˥ ja˩ri](これだけの数のものが鋼材で造った家の支え＜守護神＞である)。

ニ˩バスン [ni˩basuŋ] 【他動】 1寝かせる。ヤ˩ラ˥ベー ˩パー˥ク ニ˩バスンティ スンドゥ˥ ニ˩バサランバン [ja˩ra˥be: ˩paː˥ku ni˩basunti sundu˥ ni˩basarambaŋ](子供は早く寝かせようとするが寝かされないよ)。ニ˩バシ˥ ミサカー ニ˩バス˥クトー ˥ナルン [ni˩baʃi˥ misaka: ni˩basu˥ kṵtoː ˥naruŋ](寝かせてよければ寝かせることは出来る)。˥クナー ニ˩バシェー˥ ミサムヌ [˥kuna: ni˩baʃeː˥ misamunu](ここに寝かせればいいのに)。˩パー˥ク ニ˩バシ [˩paː˥ku ni˩baʃi](早く寝かせよ)2米、麦、粟などを蒸して、むろ＜室＞に入れ、麹になるようにする。˩コージ˥ ニ˩バスン [˩koːʤi˥ ni˩basuŋ](麹を寝かせる)。

ニ˩バ˥ル [ni˩ba˥ru] 【名】 1木の根っこ。木の根元。˩キー˥ヌ ニ˩バ˥ル ˩コーシティ˥ ア˩ラシ˥ ア˩クタ [˩kiː˥nu ni˩ba˥ru ˩koːʃi̥ti˥ ʔa˩raʃi˥ ʔa˩kuta](木の根っこを掘り起こして開墾した＜新しい仕明地を開けた＞)。˩シンザ˥ヌ ニ˩バ˥ル ˩コーシ [˩ʃinʤa˥nu ni˩ba˥ru ˩koːʃi](砂糖黍の根っこを掘り起こせ)。2根が地表に這っている部分。「根張り」の義か。ガ˩ジマル˥ヌ ニ˩バル˥ヌ ナー˩ナー˥シ ˥パイ ˩ベー [ga˩ʤimaru˥nu ni˩baru˥nu naː˩naː˥ʃi ˥pai ˩beː](ガジマルの根＜根張り＞が地表に長々と這っている)。

˥ニバル [˥nibaru] 【名】(動) 魚の名。ハタの仲間の総称。若年層では、˥ニーバル [˥niːbaru](ハタの仲間) ともいう。˩イーリマイズニ [˩ʔiːrimaiʤuni](西前曽根) 辺りでは、サラサハタがよく釣れた。ミーグチグゥー [˩miːguʧi˥gwaː](「新小津口」の義) では、ユ˩ダヤー˥ニバル [ju˩dajaː˥nibaru](マダラハタ) や˩アーラ˥ニバル [˩ʔaːra˥nibaru](マハタ) などが、ム˩チイズ [mu˩ʧiʔiʤu](のこぎりだい) を生餌にするとよく釣れた。˩イーリマイズニ˥ナーテー ˥ニバルン ˥ユー ˩ホーサリ˥タン [˩ʔiːrimaiʤuni˥naːteː˥nibaruɲ ˥juː ˩hoːsari˥taŋ](西前曽根ではハタがよく釣れた)。

˥ニバル [˥nibaru] 【名】(動) 魚の名。和名、サラサハタ。明治生まれの老年層のことば。若年層は˥ニーバル [˥niːbaru](サラサハタの仲間) という。˥ニーバル [˥niːbaru] の項参照。

ニ˩バ˥ルブッター [ni˩ba˥rubuttaː] 【名】根っこが膨らんでいるもの。ク˩ヌ キー˥ヤ ニ˩バ˥ルブッター ˥ナリティ シゥ˩カーラヌ [ku˩nu kiː˥ja ni˩ba˥rubuttaː ˥naritti sɨ̥˩kaːranu](この木は根っこが膨らんでいて使われない)。

ニ˩ビアウ [ni˩biʔau] 【名】添い寝をする人。そいぶし(添い臥し) する友。花嫁と一緒に添い寝をする友。ニ˩ビアグ [ni˩biʔagu](寝仲間) の転訛したものか。古くは結婚式の夜、花嫁が寂しがらないようにと、友達が一緒に寝てやる習慣があったという。マ˩ナ˥マ ˩カンガイ˥ルカー ニ˩ビアウ˥ティ ˩スー ムノー˥ ミ˩ジラ˥シ ˥ナライル ヤ˩レー˥バン˩ナー [ma˩na˥ma ˩kaŋgai˥ruka: ni˩biʔau˥ti ˩suː munoː˥ mi˩ʤira˥ʃi ˥narairu ja˩reː˥ban˩naː](今考えたら「添い寝をする友だち」というのは珍しい風習であったのだねえ)。

ニ˩ビアシ [ni˩biaʃi] 【名】寝汗。ダッ˩カティ˥ ニ˩ビアシ˥ パリ˩ベー [dak˩kati˥ ni˩biaʃi˥ pari˩beː](びっしょり寝汗をかいている)。

ニ˩ビウイ [ni˩biʔui] 【名】背泳。「寝泳ぎ」の義。˩ワー˥ ニ˩ビウイ シーシェー˩ン [˩waː˥ ni˩biʔui ʃiːʃeː˩ŋ](君は寝泳が出来る＜し得る＞か)。˥バー ニ˩ビウイヤー˥ ター˩ン˥ラン マ˩キラヌ [˥baː ni˩biʔuija: ˥taː˩n˥ram ma˩kiranu](私は、寝泳は誰にも＜誰からも＞負けない)。

ニ˩ビカイ˥ヤン [ni˩bikai˥jaŋ] 【形】寝相(ネゾウ)がよい＜美しい＞。ウ˩ヌ ッ˩ふァー˥ イッ˩ケナ˥ ニ˩ビカイ˥ヤン [ʔu˩nu˥ f˩faː˥ ʔik˩kena˥ ni˩bikai˥jaŋ](あの子は非常に寝相が美しい)。

ニ˩ビキン [ni˩bikiŋ] 【名】寝間着。ム˩カ˥シェー ニ˩ビキンテー ナーン˥シェン フ˩タ˥キシキンバキ˩シティル˥ ニ˩ブタル [mu˩ka˥ʃeː ni˩bikinteː naːŋ˥ʃeŋ ɸu˩taki̥ʃikim˥ba ki̥˩ʃitiru˥ ni˩butaru](昔は寝間着というのは無かった。普段着を着て＜ぞ＞寝た

ものだ)。

ニ˞ビククチ [ni˞bikukutʃi] 【名】寝心地。タ˞キフンツァヌ ˞ウイ˩ラン タ˞タミヌ ウイル˩ ニ˞ビククチェー˩ マ˞シ [tạ˞kiɸuntsanu ʔui˩ran tạ˞taminu ʔuiru˩ ni˞bikụkutʃe:˩ ma˞ʃi](竹床の上よりも畳の上の方が寝心地はいい)。ナ˞チェー トゥーシヌ˩ イ˞ツァフンツァ˩ヌ ˞ウイル˩ ピ˞ラ˩ケーユンダ ニ˞ビククチェー˩ マ˞シヤッタ [na˞tʃe: tu:ʃinu˩ ʔi˞tsaɸuntsa˩nu ˞ʔuiru˩ pi˞ra˩ke:junda ni˞bikukutʃe:˩ ma˞ʃijatta](夏は縁側の板床の上が涼しいから寝心地はよかった)。

ニ˞ビザマ [ni˞bidʑama] 【名】寝相(ネゾウ)。ねざま。寝ている時の格好。ウ˞レー サッ˩コー ニビ˞ザマヌ ワッ˩サン [ʔu˞re: sak˩ko: ni˞bidʑamanu was˩saŋ](彼は非常に寝相が悪い)。

ニ˞ビシガーシ [ni˞biʃiga:ʃi] 【名】寝違え。筋違いスジチガィ。寝方が悪かったため、首などが筋ちがいをして痛むこと。ニ˞ビシガーシ シーナー˩ヌ [ni˞biʃiga:ʃi ʃi:na:˩nu](寝違えをして首筋を痛めてしまった)。ニ˞ビシガーシ シー˩ ヌビ ˞マーサラヌ [ni˞biʃiga:ʃi ʃi:˩ nubi ˞ma:saranu](寝違えをして首を回すことができない)。

ニ˞ビシキニ [ni˞biʃị̥kini] 【名】寝床。寝室。座敷。「寝・敷き寝」の義か。シ˞キ˩ニ [ʃị̥˞ki˩ni](寝床。座る場所。敷き寝) ともいう。˞ドゥー˩ヌ ニ˞ビシキニ˩ナー ˞ギー˩ ニ˞ビ˩バ [˞du:˩nu ni˞biʃị̥kini˩na: ˞gi:˩ ni˞bi˩ba](自分の寝床に行って寝なさいよ)。ニ˞ビシキニ˩ナーテー ˩ムノー ッ˞ふーナ [ni˞biʃị̥kini˩na:te:˩ muno: f˞fu:na](寝床ではものを食べるな)。

ニ˞ビシギルン [ni˞biʃigiruŋ] 【自動】寝過ごす。度を超して寝る。若年層は、ニ˞ビスギルン [ni˞bisugiruŋ](寝過ごす) という。˞ユー˩キ ˞スー˩カー ニ˞ビシギルンダ˩ ニ˞ビシギラン˩ヨーニ ˞パイ˩サ ニ˞ビ [˞ju:˩ki ˞su:˩ka: ni˞biʃigirunda˩ ni˞biʃigiraŋ˩jo:ni ˞pai˩sa ni˞bi](夜更かしすると寝過ごすから、寝過ごさないように早く寝なさい)。

ニ˞ビスーブ [ni˞bisu:bu] 【名】眠り競争。寝付きの早いのを競うこと。ヤ˞ラ˩ビンケーヤ ˞タール パイ˩サ ニ˞ブ˩ユーティ ニ˞ビスーブ シーベー˩タ [ja˞ra˩biŋke:ja ˞ta:ru pai˩sa ni˞bu˩ju:ti ni˞bisu:bu ʃi:be:˩ta](子供達は誰が早く寝るかといって寝付き勝負 < 眠り勝負 > をしていた)。

ニ˞ビズク [ni˞bidʑuku] 【名】寝る頃合い。寝るのに丁度良い時刻。ヤ˞ラ˩ベー ニ˞ビズク˩ ナ˞リ˩ブーバ ˞パー˩ク ニ˞バシ˩バ [ja˞ra˩be: ni˞bidʑuku˩ na˞ri˩bu:ba ˞pa:˩ku ni˞baʃi˩ba](子供は寝るのに丁度良い時刻になっているから、早く寝かせなさいよ)。

ニ˞ビスグシ [ni˞bisuguʃi] 【名】寝過ごし。朝寝坊。若年層の言葉。老年層は、ア˞サ˩ニビ [ʔa˞sa˩nibi](朝寝) という。˞ユー˩キ シ˞ティ˩ ニ˞ビスグシ シー ナー˩ヌ [˞ju:˩ki ʃị̥˞ti˩ ni˞bisuguʃi ʃi: na:˩nu](夜更かしして、寝過ごし < 朝寝坊 > してしまった)。

ニ˞ビスクライ [ni˞bisụkurai] 【名】寝たふり。「寝繕い」の義か。若年層は、ニ˞ビマービ [ni˞bima:bi](眠り真似) ともいう。ニ˞ビスクライバ シーベー˩ティ ムー˞ルヌ˩ ア˞ズ˩ ムネー シ˞キル ブー [ni˞bisụkuraiba ʃi:be:˩ti mu:˞runu˩ ʔa˞dʑu˩ mune: ʃị̥˞kiru bu:](寝たふりをしていて、皆の言うことを聞いている)。

ニ˞ビスコール [ni˞bisụko:ru] 【名】寝る準備。寝支度。˞ウイ˩プソー ˩ユネン ˩ナルカー ニ˞ビスコール シーソーッ˩タ [˞ʔui˩pụso: ˩junen ˩naruka: ni˞bisụko:ru ʃi:so:t˩ta](年寄りは宵の口になると寝支度をされた < しなさった > ものだ)。

ニ˞ビタールン [ni˞bittaruŋ] 【自動】寝入る。眠りふける。熟睡する。ぐっすり寝る。「ね・たはれ(寝・戯れ)」の転訛したものか。「戯れ」は「〜容 < かほ > よきによりてぞ妹は多波礼弖 < タハレテ > ありける。万葉、1783」の転訛したものか。ブ˞ガ˩リティ ニ˞ビターリ˩ ウ˞キ˩ルスコー <˞ウー˩クスコー > ア˞ラ˩ヌ [bu˞ga˩riti ni˞bita:ri˩ ʔu˞ki˩ rusụko: <˞ʔu:˩kusuko: > ʔa˞ra˩nu](疲れ果て眠り耽り、起きるどころではない)。ブ˞ガ˩ルカー イ˞チンマー˩ ニ˞ビタールンドゥ キュー˩ヤ ニ˞ビターラヌ [bu˞ga˩ruka: ʔi˞tʃimma:˩ ni˞bitarundu kju:˩ja ni˞bitaranu](疲れたら、いつもは熟睡するが、今日は熟睡しない)。ウ˞レー˩ ニ˞ビター˩ル ˩クトー ˞ナー˩ンダ ˞ワーンツァン パー˩ク ニ˞ビターレー˩ ミサムヌ [ʔu˞re:˩ ni˞bita:ru˩ kụto: ˞na:˩nda ˞wa:ntsan pa:˩ku ni˞bita:re:˩ misamunu](彼は熟睡することはないから、君だけでも早く熟睡すればいいのに)。˞パー˩ク ニ˞ビターリ˩バ [˞pa:˩ku ni˞bita:ri˩ba](早く熟睡しなさいよ)。

ニ˞ビッタル˩ ウ˞キッ˩タル [ni˞bittaru˩ ʔu˞kit˩taru] 【連】寝たり起きたり。起き伏しすること。不元気な状態でいること。パ˞ナシキ˩ マ˞マリティ˩ マサーカサー ˞ナー˩ムティ ニ˞ビッタリ˩ ウ˞キタリ ˞シーベー [pa˞naʃị̥ki˩ ma˞mariti˩ masa:kasa:˞na:˩muti ni˞bittari˩ ʔu˞kit˩tari ˞ʃi:be:](風邪をひいて < 塗られて > 不元気で、寝たり起きたりの生活を

している)。

ニ˞ビバナ [ni˞bibana] 【名】寝入りばな。熟睡した頃。深く寝入ったころ。「ねばな (寝端)」の義。「Neiribana, ネイリバナ (寝入り端)　人が眠りについた初めの深い眠り」『邦訳日葡辞書』の転訛か。マ˞ナ˺マー　ニ˞ビバナ˺　ヤ˞ルムヌ˺　ウ˞コース˺ナ [ma˞na˺ ma: ni˞bibana˺ ja˞rumunu˺ ʔu˞ko:su˺na](今は寝入りばな < 熟睡中 > だから起こすな)。バ˞カー˺ムヌヌ　ニ˞ビバナー˺　ドゥ˞ラーンガニ˺　ウティティン　ウ˞コーサラ˺ヌ [ba˞ka:˺mununu ni˞bibana:˺ du˞ra:ŋgani˺ ʔutitiŋ ʔu˞ko:sara˺nu](若者の寝入りばなは銅鑼鐘を打っても起こされない)。

ニ˞ビパナシ [ni˞bipanaʃi] 【名】寝物語。夫婦、兄弟、友人等が寝ながら話をすること。˺ユベー　トゥ˞ジブトゥザーン˺ナリ　ナー˞イ˺　ニ˞ビパナシバ　シーベー˺ティ　ニ˞バランシェン [˺jube: tu˞ʤibutuʤa:n˺nari na:˞i˺ ni˞bipanaʃiba ʃi:be:˺ti ni˞baraŋʃeŋ](昨夜は夫婦で寝物語をして寝られなかった)。

ニ˞ビパンツァスン [ni˞bipantsasuŋ] 【自動】寝そびれる。眠り損ねる。ねはぐれる。「眠り外す」の義。˺ユベー　˞ビープス˺ヌ　˞ペー˺リケーティ　ニ˞ビパンツァシ　ナーン˺シェン [˺jube: ˞bi:pusu˺nu ˞pe:˺rike:ti ni˞bipantsaʃi na:ŋ˺ʃeŋ](昨夜は酔っ払いが入ってきたので寝そびれてしまった)。˞ビープス˺ヌ　˞ペー˺リ　˺クーカ　ニ˞ビパンツァスンダ˺　ニ˞ビパンツァサン˺ヨーニ　˞ピン˺ギ　˺パリバ [˞bi:pusu˺nu ˞pe:˺ri ˺ku:ka: ni˞bipantsasunda˺ ni˞bipantsasaŋ˺jo:ni ˞piŋ˺gi ˺pariba](酔っ払いが入ってきたら寝そびれるから、寝そびれないように逃げていきなさい)。ニ˞ビパンツァス˺　ピンマー　ア˞サ˺ニビ　˞シート ツォー [ni˞bipantsasu˺ pimma: ʔa˞sa˺nibi ˞ʃi:ɪtso:](寝そびれる時は朝寝坊をしなさいよ)。˞ワンヌン˺　ニ˞ビパンツァシェー˺　ミサムヌ [˞wannun˺ ni˞bipantsaʃe:˺ misamunu](君も寝そびれたらいいのに)。ニ˞ビパンツァシ˺バ [ni˞bipantsaʃi˺ba](眠り損ねろよ)。

ニ˞ビフカスン [ni˞biɸukasuŋ] 【自動】寝過ごす。深く寝入る。マー　ン˞ベー˺スカー　ニ˞ビフカスンティ　アーク˺タ [ma: ʔm˞be:˺su̥ka: ni˞biɸu̥kasunti ʔa:ku˺ta](もうじき寝過ごすところだった)。サ˞ケー˺　ヌ˞ム˺タンティン　ニ˞ビフカサヌ [sḁ˞ke:˺ nu˞mu˺tantin ni˞biɸukasanu](酒は飲んでも寝過ごさない)。ニ˞ビフカシ　ナー˺ヌ [ni˞biɸukaʃi na:˺nu](寝過ごしてしまった)。ニ˞ビフカス˺　クトー　˞ナーン˺シェン [ni˞biɸu̥kasu˺ ku̥to: na:ŋ˺ʃeŋ](寝過ごすことはなかった)。ニ˞ビフカシェー˺　ミサムヌ [ni˞biɸu̥kaʃe:˺ misamunu](寝過ごせばいいのに)。˞キューヤ　ニ˞ビフカシ˺バ [˞kju:˺ja ni˞biɸu̥kaʃi˺ba](今日は寝過ごしなさいよ)。

ニ˞ビブガリ [ni˞bibugari] 【名】寝疲れ。寝過ぎたためにかえってだるく感じること。˺ユベー　ニ˞ビシギティル˺　ニ˞ビブガリ　シーベー˺バン [˺jube: ni˞biʃigitiru˺ ni˞bibugari ʃi:be:˺baŋ](昨夜は寝過ぎて、寝疲れしているわい)。

ニ˞ビブスク [ni˞bibusuku] 【名】寝不足。睡眠不足。ニ˞ビタラーヌ [ni˞bitara:nu](眠り足りない。寝不足) ともいう。ク˞ヌ˺グロー　˞ユーキ˺ヌ　シ˞ジクンダ˺　ニ˞ビブスク　ユン˺ナー [ku˞nu˺guro: ˞ju:ki˺nu ʃi˞ʤikunda˺ ni˞bibusukujun˺na:](此の頃は徹夜 < 夜起き > が続くので寝不足だなあ)。

ニ˞ビフチ [ni˞biɸuʧi] 【名】ねいりばな (寝入り端)。どうやって、いつ寝たかということ。ねむること。睡眠の仕方。˺ユベー　ブ˞ガ˺リティ　˞ヌー˺シ　ニ˞ブタ˺ユー　ニ˞ビフチ˺　ッ˞サヌ [˺jube: bu˞ga˺riti˞nu:˺ʃi ni˞buta˺ju: ni˞biɸuʧi˺ s˞sanu](昨夜は疲れて、何時どうやって寝たのか、睡眠の仕方 < 寝入り方 > が分らない)。

ニ˞ビフチル [ni˞biɸu̥ʧiru] 【名】眠り薬。˞ミーコー˺リティ　ニ˞バランベー˺ティ　ニ˞ビフチル˺　ヌ˞ム˺タ [˞mi:ko:˺riti ni˞barambe:˺ti ni˞biɸu̥ʧiru˺ nu˞mu˺ta](目が冴えて眠れないので眠り薬 < 睡眠薬 > を飲んだ)。

ニ˞ビマービ [ni˞bima:bi] 【名】寝たふり。寝る真似。˞ソーニベー˺　ア˞ラ˺ヌ　ニ˞ビマービル　シーベー [˞so:nibe:˺ ʔa˞ra˺nu ni˞bima:biru ʃi:be:](本眠りではなくて、寝たふりをしているのだ)。

ニ˞ビヤッ˺サン [ni˞bijas˺saŋ] 【形】寝やすい。寝入りやすい。寝つきやすい。ピ˞ラ˺ケーンダ˺　ニ˞ビヤッ˺サン [pi˞ra˺ke:nda ni˞bijas˺saŋ](涼しいから寝つきやすい)。

ニ˞ビヤニ˺ヤン [ni˞bijani˺jaŋ] 【形】寝相が悪い。ウ˞レー˺　イッ˞ケナ˺　ニ˞ビヤニ˺ヤンティ　ス˞クタヌ　ナン˺ゾー　ニ˞ビヤニヤー　ナー˺ヌ [ʔu˞re:˺ ʔik˞kena˺ ni˞bijani˺janti su̥˞kutanu nan˺ʤo: ni˞bijanija: na:˺nu](彼は非常に寝相が悪いと聞いたが、あまり寝相は悪くない)。˺ドク　ニ˞ビヤニヤ˺ヌ　プ˞スン˺ヤーナー　ニ˞バサラヌ [˺duku ni˞bijanija˺nu pu̥˞su̥ŋ˺ja:na: ni˞basaranu](あまりにも寝相が悪くて余所の家では寝かされない)。ニ˞ビヤニ˺ヤー　プ˞ソー˺　ウ˞リバーキ˺ル　ヤ˞ル [ni˞bijani˺ja: pu̥˞so:˺ ʔu

˹riba:ki˺ru ja˹ru](寝相の悪いのは彼までだ)。

ニ˹ビングリ˺サン [ni˹biŋguri˺saŋ]【形】寝苦しい。タ˹キフンツァー˺　ニ˹ビングリ˺サンティ　ア˹ズヌ˺　ニ˹ビングリサー　˹ナー˺ヌ [tḁ˹kiɸuntsa:˺ ni˹biŋguri˺santi ʔa˹ʥunu˺ ni˹biŋgurisa: na:˺nu](竹床は寝苦しいというが、寝苦しくはない)。ニ˹ビングリサ˺ヌ　˺クナーヤ　ニ˹バラヌ [ni˹biŋgurisa˺nu ˺kuna:ja ni˹baranu](寝苦しくて、ここには寝られない)。˹シンダイ˺　ニ˹ビングリ˺サ　˺ナリ　˺ケーン [˹ʃindai˺ ni˹biŋguri˺sa ˺narike:ŋ](次第に寝苦しくなってきた)。ニ˹ビングリ˺サ　˺トンナー　ニ˹ブナ [ni˹biŋguri˺sa ˺tonna: ni˹buna](寝苦しい所には寝るな)。

ニ˹ビントン [ni˹bintoŋ]【名】寝る所。寝所。˺クマー　˺バー　ニ˹ビントン＜ニ˹ビシキニ＞[˺kuma: ˺ba: ni˹bintoŋ＜ni˹biʃikini＞](ここは私の寝る所＜寝所＞です)。

ニ˹ブ˺ク [ni˹bu˺ku]【名】いなばきむしろ(稲掃筵)。藁で絨毯(ジュータン)のように精巧に編み上げた筵。縦横六尺と九尺の大きさに編んだ二種類のニ˹ブ˺ク [ni˹bu˺ku] があった。石垣ではニ˹カフク [ni˹kaɸuku] という。その上に籾を干したり、ピ˹キウシ [pi̥˹kiʔuʃi](碾き臼。磨臼)を据え置いてイ˹ニ˺ピキ [ʔi˹ni˺pi̥ki](籾摺り。籾殻を取り去る)の作業をしたり、シ˹キ˺ウシ [ʃi̥˹ki˺ʔuʃi](搗き臼)を据えて米搗きをしたりした。畳が導入される前は、これをタ˹キフン˺ツァ [tḁ˹kiɸun˺tsa](竹床)の上に敷き、更にその上にアダンバ筵を敷いて寝たという。ミ˹ナカ˺ナー　ニ˹ブ˺ク　シ˹キティ˺　ウ˹ヌ　ウイナー˺ル　˹マイユン˺　プ˹ソーッ˺タ [mi˹naka˺na: ni˹bu˺ku ʃi̥˹kiti˺ ʔu˹nu ʔuina:˺ru ˹maijun˺ pu̥˹so:t˺ta](庭にニブクを敷いて、その上に籾をも干された)。

˹ニフ˺ターン [˹niɸu̥˺ta:ŋ]【形】眠たい。「ねぶたし(眠たし)」『源氏・若紫』の転訛したもの。˹ニフ˺ターンドゥ　˹ニフターナーン˺ティ　ア˹ジ　アー˺ク [˹niɸu̥˺ta:ndu ˹niɸu̥ta:na:n˺ti ʔa˹ʤi ʔa:˺ku](眠たいが、眠たくないといっている)。˹ニフター˺ヌ　ナ˹ラ˺ヌ [˹niɸuta:˺nu na˹ra˺nu](眠たくてたまらない)。˹シンダイ　ニフ˺ター　˺ナリ　˺クーン [˹ʃindai niɸu˺ta: ˺nari ˺ku:ŋ](次第に眠たくなってくる)。˹ニフ˺タープ˹ソー˺　ニ˹ビ˺バ [˹niɸu̥˺ta: pu̥˹so:˺ ni˹bi˺ba](眠たい人は寝なさい)。˺アイニ　˹ニフ˺ターレーラー　ウ˹キララ˺ヌ [˺ʔaini ˹niɸu̥˺ta:re:ra: ʔu˹kirara˺nu](あんなに眠たかったら起きられない)。

˹ニフターン˺ギサン [˹niɸu̥ta:ŋ˺gisaŋ]【形】眠たげ。眠たそうである。ヤ˹ラ˺ベー　˹ニフターン˺　ギサンダ　˹パー˺ク　ニ˹バシ˺バ [ja˹ra˺be: ˹niɸuta:ŋ˺gisanda ˹pa:˺ku ni˹baʃi](子供は眠たそうだから、早く寝かせなさい)。˹-ン˺ギサン [˹-ŋ˺gisaŋ](～気。～様子～そうだ)は、1動詞、動詞型助動詞の連用形に付いて、パ˹リン˺ギサン [pa˹riŋ˺gisaŋ](行きそうだ＜行き気＞)、カ˹カリン˺ギサン [kḁ˹kariŋ˺gisaŋ](書け＜書かれ＞そうだ)2形容詞、形容詞型助動詞の語幹に接尾語「˹-ン˺ギサン [˹-ŋ˺gisan](～気。～そうだ)」が下接して、˺プサンギサシ [˺pu̥saŋgisaʃi](欲しそうに＜欲しげに。欲しそうに＞)、カ˹キ˺プサンギサシ　ミリ˹ベー [kḁ˹ki˺pu̥saŋgisaʃi miri˹be:](書きた気に＜そうに＞見ている)のように用いられる。

ニ˹ブタター˺ナ [ni˹butata:˺na]【連】寝たまま。寝たっきり。ドゥ˹ク˺ヌ　ア˹ム˺サティ　ニ˹ブタター˺ナ　˹チャー˺ニビ˹シーベー [du˹ku˺nu ʔa˹mu˺sati ni˹butata:˺na ˹ʧa:˺nibi ˹ʃi:be:](あまりにも頭痛がしたので＜風邪気味で気分が悪くて＞寝たまま眠り続けているよ)。

ニ˹ブ˺マドゥ [ni˹bu˺madu]【連】寝る暇。寝るべき時間。睡眠時間。トゥ˹リパン˺タナー　ス˹クリ˺プソー　ニ˹ブ˺マドゥ　˹ナーン˺シェン [tu˹ripan˺tana: su̥˹kuri˺pu̥so: ni˹bu˺madu ˹na:ŋ˺ʃeŋ](農繁期には、百姓は寝る時間はなかった)。

ニ˹ブ˺ミーン　ニ˹バヌ [ni˹bu˺mi:n ni˹banu]【連】眠る目も眠らないで。寝るべき時間にも寝ずに。休む暇もなく。˹ユール˺ヌ　ニ˹ブ˺ミーン　ニ˹バンドー˺シ　ヤ˹ミプス˺ヌ　˹トゥンザ˺ク　˹シー　オーシタ [˹ju:ru˺nu ni˹bu˺mi:n ni˹bando:˺ʃi ja˹mipusu˺nu ˹tunʥa˺ku ˹ʃi: ʔo:ʃi̥ta](夜の寝る時間も寝ないで病人の看病をしてさしあげた)。

ニ˹ブン [ni˹buŋ]【自動】眠る。寝る。「Nemuri、u、utta. ネムリ、ル、ッタ(眠り、る、った)」『邦訳日葡辞書』の転訛。˹パー˺ク　ニ˹ブンティ˺　ウ˹ムーン˺ドゥ　カ˹サマサ˺ヌ　ニ˹バラヌ [˹pa:˺ku ni˹bunti˺ ʔu˹mu:n˺du ka˹samasa˺nu ni˹baranu](早く寝ようと思うがうるさくて寝られない)。ニ˹ビ˺　ミサカー　˹パー˺ク　ニ˹ビ˺バ [ni˹bi˺ misaka: ˹pa:˺ku ni˹bi˺ba](寝てよければ早く寝なさい)。ニ˹ブ　プソーパー˺ク　ニ˹ベー˺　ミサムヌ [ni˹bu pu̥so: pa:˺ku ni˹be:˺ misamunu](寝る人は早く寝ればいいのに)。

ニ˹ボシ [ni˹boʃi]【名】煮干し。標準語からの借用語。˹シー˺ラ [˹ʃi:˺ra](カツオの餌となる小魚)、ガ˹サガ˺サー [gasagasa:](カツオの餌となる小魚)、サ˹ネー˺ラ [sa˹ne:˺ra](カツオの餌となる小魚)、˺ザコー [˺ʥako:](雑魚。カツオの餌となる小魚)、バ˹カザ˺コ

ー [ba˩kaʤa˥koː](カツオの餌になる小魚) などを煮て天日乾燥したもの。出汁用に売っていた。ニ˩ボシェー˥ タ˩ブイ˥ シキティ フ˩ユ˥ ナルカー ˩スー˥ヌダシ ˩ソーッ˥タ [ni˩boʃeː˥ ta˩bui˥ ʃi̥kiti ɸu ˩ju˥ naruka: ˩suː˥nudaʃi ˩soːt˥ta](煮干しは保存しておいて、冬になると出汁にされた)。

˥ニヤー [˥nijaː] 【名】琉球国時代の新参士族。先島の士族が元服後最初に付ける称号。役職に付いた百姓も称するという。「仁屋」と書く。『石垣方言辞典』。パ˩トゥマ˥ヌ ˩イーパイ˥ナーン ˥ニヤーティ カ˩カ˥リ ˩ブー ジーヌ˥ ミ˩ラ˥リン [pḁ˩tuma˥nu ˩ʔiːpai˥naːn ˥nijaːti kḁ˩ka˥ri ˩buː ʤiːnu˥ mi˩ra˥riŋ](鳩間島の位牌にも「仁屋」と書かれた文字が見られる)。

˩ニューカン [ɲuːkan] 【名】入棺。最後の別れをしてから、死者を棺に納めること。標準語からの借用語。タ˩ベーラヌ˥ ッ˩ふァンケー˥ヌ ˩クーバ˥ル ˩ニューカンマー˥ シ˩ラリル [ta˩beːranu˥ f˩faŋkeː˥nu ˩kuːba˥ru ˩ɲuːkammaː˥ ʃi˩rariru](旅からの子供達が来たら < 来ればぞ > 入棺することができる)。

˥ニヨープトゥキ [nioːpu̥tuki] 【名】仁王仏。石垣島の桃林寺の山門に安置されている「仁王仏像」。鳩間島では、幼児期に病弱な子供は、この仁王仏像を拝ませると健康になると信じられていた。病弱な子供は年に一度仁王仏像を拝ませに桃林寺へ連れて行った。仁王像の法力によって幼児に取り憑いている病気の神が祓われると信じられていたからである。˥ニヨープトゥキ ウ˩ガマ˥スカー ヤ˩ラ˥ベー ˩ガン˥ゾー ˥ナルンツォー [˥nijoːpu̥tuki ʔu˩gama˥su̥kaː ja˩ra˥beː ˩gan˥ʤoː ˥naruntsoː](仁王物を拝ませると、子供は頑丈になるそうだ)。ティ˩ラヌ˥ ニヨープトゥキ ウ˩ガマ˥シ クー˩ディー [ti ˩ranu˥ nijoːpu̥tuki ʔu˩gama˥ʃi kuː˩diː](寺の仁王仏を拝まして来ようよ)。

˥ニン [˥niŋ] 【名】 1念。入念。心をこめること。シ˩グトー ニン˥バ イ˩リ シート ヨー [ʃi˩gutoː nim ˥ba ʔi˩ri ʃiːトjoː](仕事は念を入れて < 入念に > しなさいよ)。2熱意。執念。ク˩ヌ˥ シ˩グトゥ˥ナー ムッ˩トゥ ニン˥ヌ ˩ナー˥ヌ [ku˩nu˥ ʃi˩gutu˥naː mut ˩tu nin˥nu ˩naː˥nu](この仕事にちっとも熱意 < 執念 > がない)。

˥ニン [˥niŋ] 【助数】人。人数を数える単位。1 から 4 までの数にはル [ru](人) が付き、それ以上はニン [niŋ](人) が付く。標準語からの借用語。˩ヨイシー˥プソー ˩ナン˥ニンブカラ ˩オール˥ワ [˩joiʃiː ˥pu̥soː ˩nan˥nimbukara ˩ʔoːru˥wa](お祝いの参加者 < 祝いする人 > は何人ほどおられるか)。マ˩ナ˥マー ˩ジュー˥ニン ˩オー˥ルン [ma˩na˥maː ˩ʤuː˥niŋ ˩ʔoː˥ruŋ](今は十人おられる)。

˥ニン [˥nin] 【助数】ねん (年)。年を数える単位。ウ˩キ˥ナー ˥パレーラー ˩ナン˥ニン ナ˩ル˥ワ [ʔu˩ki˥naː ˥pareːraː ˩nan˥nin na˩ru˥wa](沖縄へ行ってから何年になるか)。グ˩ニン˥ ナルン˩ダー [gu˩nin˥ narun˩daː](五年になるよ)。

˥ニンイラー [˥niŋʔiraː] 【名】入念な人。熱心な人。念を入れて仕事をする人。ウ˩レー˥ ニンイラー ヤ˩ルンダ˥ ノー˩ンシグトゥ˥ シ˩ミルバン˥ マ˩チガイ˥ヤー ˩ナー˥ヌ [ʔu˩reː˥ niŋʔiraː ja˩runda˥ noː˩ŋ ʃigutu˥ ʃi˩mirubam˥ ma˩ʧigai˥jaː ˩naː˥nu](彼は入念な人だから、どんな仕事をさせても間違いは犯さない < 間違いはない >)。

˩ニン˥イリ [˩niŋ˥ʔiri] 【副】念入りに。注意深く丁寧に。熱心に。几帳面に。ウ˩レー˥ ノー˩ンヌ˥ シ˩グトゥ˥ナーン ˩ニン˥イリ ˩スン [ʔu˩reː˥ noː˩nnu ˥ʃi˩gutu˥naːn ˩niŋ˥ʔiri ˩suŋ](彼はどんな仕事にも入念に < 熱心に > する)。

˥ニン イ˩ルン [˥niŋ ʔi˩ruŋ] 【連】思いを籠める。念を入れる。入念にする。一所懸命にする。マ˩ナ˥マーラー ˩ビンキョー˥ナーン ˥ニン イ˩ルンティ カン˥ガイ ˩ベー [ma˩na˥maːra ˩biŋkjoːn˥ niŋ ʔi˩runti kaŋ˥gai ˩beː](今からは勉強にも念を入れようと考えている)。˩ニン˥ イリ ˩ビンキョー シー [˩niŋ˥ ʔiri ˩biŋkjoː ʃiː](一生懸命に勉強しなさい)。

˩ニン˥ガイ [˩niŋ˥gai] 【名】祈願。願いごと。˩ヤシキ˥ヌ ˩ニン˥ガイ [˩jaʃi̥ki˥nu ˩niŋ˥gai](屋敷の祈願)、˩ウンキヌ ニン˥ガイ [˩ʔuŋkinu niŋ˥gai](運気の祈願。健康祈願) 等がある。˩ヤーニンズ˥ヌ ˩ウンキヌ ニンガイ˥ヤー パ˩チンガ˥チシキナー ˩シー オーラ˥スンティ ス˩コーリ ベー [˩jaːninʤu˥nu ˩ʔuŋkinu niŋgai˥jaː pḁ˩ʧiŋga˥ʧi ˥ʃi̥kinaː ˥ʃiː ʔoːra˥ sunti su̥˩koːri beː](家族の運気 < 健康 > の祈願は八月にして差し上げようと準備している)。˥ドゥーパダニンガイ [˥duːpadaniŋgai](健康祈願)。˩ヤシキ˥ヌ ˩ニン˥ガイ [˩jaʃi̥ki˥nu ˩niŋ˥gai](屋敷の祈願)。

˩ニンガイ˥グトゥ [˩niŋgai˥gutu] 【名】神事祈願。仏事祈願。˩ウン˥ネーナー ˩ニンガイグトゥ˥ヌ ˥アルツォー [˩ʔun˥neːnaː ˩niŋgaigutu˥nu ˥ʔarutsoː](あの家には祈願不足の神事祈願があるそうだ)。˩ニンガイグトゥ˥ヌ ˥アルテイ ア˩ゾール˥ヌ ˩ヌー˥ヌ ˥クトゥカヤー [˩niŋgaigutu˥nu ˥ʔaruti ʔa˩ʤoːru˥

nu ˞nuː˜nu ˜kʉtukajaː](神仏への祈願ごとがあるといわれるが、何の事だろうか)。

˞ニンガイ˜プス [˞niŋgai˜pʉsu] 【名】祈願する人。サ˞カサ [sḁ˞kasa](司。女性神職者) やティ˞ジリ˜ビー [ti˞ʤiri˜biː](男性神職者。手擦り部) などの神職者。˞ニンガイ˜プス　タ˞ナ˜ミ　シゥ˞カシ˜　キーティル　˞ヤシキ˜ヌ　˞ニンガイ˜ヤー　シ˞ミ　オーサリル [˞niŋgai˜pʉsu ta˞na˜mi si̥˞kaʃi˜ kiːtiru ˞jaʃiki˜nu ˞niŋgai˜jaː ʃi˞mi ʔoːsariru](祈願する人 < 司 > を頼んでお連れしてきて < ぞ > 屋敷の祈願はさせられる)。

˞ニンガイ˜フチ [˞niŋgai˜ɸʉʧi] 【名】祝詞。祈りの詞。「願い口」の義。˞ニンガイ˜フチェー　サ˞カサヌ˜　アッパターラ　˜ナライ　ウ˞キ˜トゥリティル　˞ニンガイ˜ヤー　˞ソーッ˜タ [˞niŋgai˜ɸʉʧe: sḁ˞kasa˜nu ˜ʔappta:ra ˜narai ʔu˞ki˜turitiru ˞niŋgai˜jaː ˞soːt˜ta](願い口は司のお婆さん達から習い、伝授して < ぞ > 祈願はされた)。

˞ニンガイ˜ムヌ [˞niŋgai˜munu] 【名】神への供え物。供物。神仏への供物のお下がりのご馳走は、˜ウサンダイ [˜ʔusandai](供物のお下がり) という。˞ニンガイ˜ムノー　˞ヌー˜ル　ス˞コール˜ワ [˞nigai˜munoː ˞nuː˜ru sʉ˞koːru˜wa](祈願の供物は何を供えられますか)。

˞ニンガイ˜ルン [˞niŋgai˜ruŋ] 【他動】祈る。祈願する < 老年層 >。ニ˞ガイ˜ルン [ni˞gai˜ruŋ](願う。祈る。祈願する)< 若年層 > ともいう。˜ドゥーシ　˞ニンガイ˜ルンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　˞バン˜マー　˞ニンガイラ˜ヌ [˜duːʃi ˞niŋgai˜runti ʔu˞muːn˜du ˞bam˜maː ˞niŋgairara˜nu](自分自身で祈願しようと思うが私には祈願できない)。˞ニンガイ˜ル　˜ピンマー　˞マーズン˜シ　˞ニンガイ˜レー <˞ニンガイリ˜バ >　˜ミサムヌ [˞niŋgai˜ru ˜pimmaː ˞maːʤuŋ˜ʃi ˞niŋgai˜reː<˞niŋgairi˜ba> misamunu](祈願する時は一緒に祈願すればいいのに)。

˞ニン˜ガウン [˞niŋ˜gauŋ] 【自動】願う。祈願する。祈る。˜ニガウン [˜nigauŋ](祈願する。願う) ともいう。˞カンヌ˜マイ　˞ニン˜ガウンティ　˞ウムーン˜ドゥ　˞ニン˜ガウ　プ˞スヌ˜　ブ˞ラーヌ [˞kannu˜mai ˞niŋ˜gaunti ʔu˞muːn˜du ˞niŋ˜gau pʉ˞sunu˜ bu˞raːnu](神様に祈願しようと思うが祈願する人がいない)。˞バン˜マー　˞ニンガーラン˜バ　˞ワー　ニン˜ガイ　ッ˞ふォー˜リ [˞bam˜maː ˞niŋgaːram˜ba ˞waː niŋ˜gai f˞foː˜ri](私には祈願できないから、貴方が祈願してください)。˜ドゥーシ　˞ニンガイ˜ヤー　˜ミサムヌ [˜duːʃi ˞niŋgai˜jaː ˜misamunu](自分で祈願すればいいのに)。˞ニン˜ガイバ [˞niŋ˜gaiba](祈願せよ)。

˞ニンガ˜チ [˞niŋga˜ʧi] 【名】二月。若年層のことば。˞キューヌ　ニンガ˜チナール　˞ニンガチニンガイ˜ヤー　˞ソーッ˜タ [˞kjuːnu niŋga˜ʧinaːru ˞niŋgatʃiniŋ-gai˜jaː ˞soːt˜ta](旧暦二月に < ぞ > 二月祈願祭はなさった)。

˞ニンガラニンズー [˞niŋgaraninʤuː] 【連】年から年中。一年中。˞ニンガニンズー [niŋganinʤuː](年中) ともいう。˞ニンガラニンズー˜　ユ˞ヌ˜　キン　カー˞ニ˜　キ˞シ　ベー˜バ　キ˞ムイツァー˜ヌ　˜キン　˞カイ˜　キ˞サシ [˞niŋgaraninʤuː˜ ju˞nu˜ kiŋ ka:˞ni˜ ki̥˞ʃibeː˜ba ki˞muitsaː˜nu ˜kiŋ ˞kai˜ ki̥˞saʃi](一年中同じ着物だけ着ているから、可哀相でたまらない。着物を買って着せなさい)。

˞ニンキソッ˜コー [˞niŋkisok˜koː] 【名】年忌の法事。命日に行う法事。「年忌焼香」の義。ユ˞ノー˜レー [ju˞noː˜reː](一年忌)、˞サンニン˜キ [sanniŋ˜ki](三年忌)、シ˞チニン˜キ [ʃi̥˞ʧiniŋ˜ki](七年忌)、˞ジュー˜サンニンキ [˞ʤuː˜sanniŋki](十三年忌)、˜ニジューグ˞ニンキ [˜niʤuːgu˞niŋki](二十五年忌)、˜サンジュー˞サンニン˜キ [˜sanʤuː˞sanniŋ˜ki](三十三年忌)、ウ˞サンギソッコー [ʔu˞saŋgisokkoː](押し上げ焼香。三十三年忌) ともいう。ウ˞ヤ˜ヌ　˞ニンキソッ˜コーナーヤ　ウ˞キ˜ナーラン　ムー˞ル˜　ア˞ツァ˜マリ　˜クーン [ʔu˞ja˜nu ˞niŋkisok˜koːnaːja ʔu˞ki˜naːram muː˞ru˜ ʔa˞tsa˜mari ˜kuːŋ](親の年忌焼香には沖縄からも皆集まって来る)。

˞ニンキフー˜クー [˞niŋkiɸuː˜kuː] 【名】ねんきぼうこう (年季奉公)。イ˞サナキヌ˜　ウ˞ヤカタ˜ヌ　˜ヤーナー　˞ニンキフー˜クー　˞シーベー [ʔi˞sanakinu˜ ʔu˞jakata˜nu ˜jaːna: ˞niŋkiɸuː˜ku: ˞ʃiː beː](石垣島の親方の家で年季奉公をしている)。

˞ニン˜ギョー [˞niŋ˜gjoː] 【名】人形。標準語からの借用語。˞ニンギョー˜ヤ　ミ˞ドーン˜ッふァヌ　ム˞タビ˜ムヌ [˞niŋgjoː˜ja mi˞doːŋ˜ffanu mu˞tabi˜munu](人形は女の子の玩具だ)。

˞ニン˜ギン [˞niŋ˜giŋ] 【名】人間。プ˞スニンギン [pʉ˞suniŋgiŋ](人間。ひと人間) ともいう。˜アイ　˜ブー　シ˞グトー　ニンギン˜ヌ　˞スー˜　ワザー　ア˞ラ˜ヌ [˜ʔai ˜buː ʃi˞gutoː niŋgin˜nu ˞suː˜ waʤaː ʔa˞ra˜nu](あんな仕事は人間のする業ではない)。

˞ニング [˞niŋgu] 【名】年貢。ク˞トゥシェー˜　カ˞ジヌ˜　フキ　˞ニング˜　ウ˞サミユーサ˜ヌ [kʉ˞tuʃe:˜ ka˞ʤinu˜ ɸʉki ˞niŋgu˜ ʔu˞samiju:sa˜nu](今年は台風が

吹いて年貢を納めることができない)。

˹ニングゾーノー [˹niŋguʤo:no:] 【名】年貢上納。˹ニングゾーノーン˺ ウ˹サ˺ミ ウ˹ミナーク シェー˺ン [˹niŋguʤo:no:ŋ˺ ʔu˹sa˺mi ʔu˹mina:ku ʃe:˺ŋ](年貢上納も納めてほっと＜安心＞した)。˹ニングゾーノー˺ ウ˹サ˺ムンティル ˹アウ˺リナンゲー ˹ソーッ˺タツォー [˹niŋguʤo:no:˺ ʔu˹sa˺muntiru ˹ʔau˺rinaŋge: ˹so:t˺tatso:](年貢上納を納めるのに難儀苦労＜難儀哀れ＞はされたそうだ)。

˹ニングマイ [˹niŋgumai] 【名】年貢米。˹ゾーノー˺マイ [˹ʤo:no:˺mai](上納米) ともいう。ム˹カ˺シェー ˹ニングマイ˺ ウ˹サ˺ミティヌ ア˹マリ˺ル ˹ドゥー˺ヤ ˹マイヌ˺イー ッ˹ふァーリタ˺ツォー [mu˹ka˺ʃe: ˹niŋgumai˺ ʔu˹sa˺mitinu ʔa˹mari˺ru ˹du:˺ja ˹mainu˺ʔi: f˹fa:rita˺tso:](昔は年貢米を納めて、その余りをもって自分は米飯を食べることが出来たそうだ)。

˹ニングゥ˺チ [˹niŋgwa˺ʧi] 【名】二月。若年層は˹ニンガ˺チ [˹niŋga˺ʧi] という。˹ニングゥ˺チ ˺シキン＜シキヌ＞ ˺タテーン [˹niŋgwa˺ʧi ʃi̥kin＜ʃikinu＞ ˺tạte:ŋ](二月の月も立った)。˹ニングゥ˺チナール ˹ニングゥチニンガイ˺トゥ ヤ˹マタカビ˺ヌ ˹ニンガイ˺ヤー ˹ソーッ˺タ [˹niŋgwa˺ʧina:ru ˹niŋgwatʃiniŋgai˺tu ja˹matakabi˺nu ˹niŋgai˺ja: ˹so:t˺ta](旧暦二月に＜ぞ＞二月願いとヤマタカビ＜山崇べ＞の願いはなされた)。

˹ニングゥチウー˺アミ [˹niŋgwatʃiʔu:˺ʔami] 【名】旧暦二月に降る大雨。˹ニンガチウー˺アミ [˹niŋgatʃiʔu:˺ʔami] ともいう。˹ニングゥチカジマー˺ル [˹niŋgwatʃikaʤima:˺ru](旧暦二月に急に吹く強い北風。台湾坊主。東シナ海に発生する低気圧) とともにやってくる。˹ニングゥチカジマー˺ルナール ˹ニングゥチウー˺アミン ˺フー [˹niŋgwatʃikaʤima:˺runa:ru ˹niŋgwatʃiʔu:˺ʔamiŋ ˺ɸu:](二月風回り＜台湾坊主＞のときに大雨も降るものだ)。

˹ニングゥチカジマー˺ル [˹niŋgwatʃikaʤima:˺ru] 【名】二月風回り。若年層は˹ニンガチカジマー˺ル [˹niŋgatʃikaʤima:˺ru] ともいう。旧暦二月に急に吹く強風。台湾坊主＜東シナ海低気圧＞の一種。東シナ海に発生する低気圧。˹ニングゥチカジマール˺ヌ ˺シチェー ˹アッ˺タニ カ˹ジェー マーリティ˺ ニ˹シカジヌ˺ ウティ カ˹バ˺シ ˺クーユンダ ナ˹クラーント˺ダー [˹niŋgwatʃikaʤima:ru˺nu ˺ʃi̥ʧe: ˹ʔat˺tani ni˹ʃikaʤinu˺ ʔuti ka˹ba˺ʃi ˺ku:junda na˹kura:nt˺da:](二月風回りの季節には、急に台湾坊主が発生して＜風が北へ回って＞北風が強く落ちてきて吹き荒れ、吹き被せてくるから怖いよ)。

˹ニングゥチタカ˺ビ [˹niŋgwatʃitaka˺bi] 【名】˹ニンガチタカ˺ビ [˹niŋgatʃitaka˺bi] ともいう。この祭祀において、˹ニングゥチニン˺ガイ [˹niŋgwatʃiniŋ˺gai](二月願い) とヤ˹マタカビ˺ヌ ˹ニン˺ガイ [ja˹matakabi˺nu ˹niŋŋ˺gai](山崇べの祈願。虫払いの祈願) が行われた。˹ニングゥチタカ˺ベー ˹ウイヌ˺ウガンナーティ イ˹チヤマ˺ヌ ウ˹ガン˺ヌ ˹ニン˺ガイ ˹ソーッ˺タ [˹niŋgwatʃitaka˺be: ˹ʔuinu˺ʔugan-na:ti ʔi˹ʧijama˺nu ʔu˹gan˺nu ˹niŋ˺gai ˹so:t˺ta](二月たかべの祈願は友利お嶽＜上のお願＞で、五箇所＜五山＞のお嶽の祈願をされた)。

˹ニングゥチニン˺ガイ [˹niŋgwatʃiniŋ˺gai] 【名】「二月願い」の義。˹ニンガチニン˺ガイ [˹niŋgatʃiniŋ˺gai] ともいう。旧暦二月のミ˹ジニー [mi˹ʤini:](壬) の日に執り行われる祭祀。この祭祀には (i) ˹ゾーシキ˺ヌ ˹ニン˺ガイ [˹ʤo:ʃi̥ki˺nu ˹niŋ˺gai](雑色＜村役人＞の健康と、村の祭祀がスムースに執り行えるように祈願するもの)、(ii) ˺アカカラジヌ ˺ニガイ [˺ʔakakaraʤinu ˺nigai](一般百姓のための健康祈願)、(iii) イ˹ニアー˺ヌ ˺ニガイ [ʔi˹niʔa:˺nu ˺nigai](˹稲粟の祈願」。豊作祈願)、(iv) ア˹ミニン˺ガイ [ʔa˹miniŋ˺gai](「雨願い」の義。農作物のために、十日超し、十五日超しの夜雨の降ることを祈願すること)、(v) マ˹ミ˺ヌ ˺ニガイ [ma˹mi˺nu ˺nigai](豆の豊作祈願)、(vi) ˹ミー˺シキパナシキヌ ˺ニガイ [˹mi:˺ʃi̥kipanaʃi̥kinu ˺nigai](流行病＜風邪＞予防の祈願)、(vii) ˹マイムン˺ヌ ッ˹サバー˺ヌ ˺ニガイ [˹maimun˺nu s˹saba:˺nu ˺nigai](稲、麦の下葉の願い＜稲、麦の成長祈願＞)、(viii) ム˹シヌ ニン˺ガイ [mu˹ʃinu niŋ˺gai](害虫駆除の祈願) などが執り行われていたが、大部分の祈願が省略された。˹ニンガチニンガイ˺ヤー ウ˹ブ˺ニガイ ヤ˹ロー˺レーティ マ˹ナ˺マー ダイ˹ブ˺ キ˹サリ˺ル ˹オー˺ル [˹niŋgatsiniŋgai˺ja: ʔu˹bu˺nigai ja˹ro:˺re:ti ma˹na˺ma: dai˹bu˺ ki̥˹sari˺ru ˹ʔo:˺ru](二月願は大きな祈願祭であられるから、今は大分省略＜切られて＞あられる)。昭和 30 年代に祭祀の省略が実施された。

˹ニングゥチピラ˺ク [˹niŋgwatʃipira˺ku] 【名】旧暦二月頃の厳しい寒さ。若年層は、˹ニンガチピラ˺ク [˹niŋgatʃipira˺ku] ともいう。その時期は田植え仕事と重なるので、鳩間島の人は西表島北岸の田圃小屋で一週間ずつ寝泊りしながら、厳しい寒

さの中で田仕事をした。そんな時にピ˞ラ˜クイズ [pi˞ra˜kuʔiʤu](凍死寸前の魚。沿岸に浮いている) を拾って食したものである。˞ニングゥチピラ˜クナー　ピ˞ラ˜クイズン　ウ˞ケーリ˜　クースク　ピ˞ラ˜コー　˞スー˜ワタン [˞niŋgwatʃipira˜kuna: pi˞ra˜kuʔiʤuŋ ʔu˞ke:ri˜ ku:sɥku pi˞ra˜ko: ˞su:˜wataŋ](旧暦二月の寒さに凍死する魚が浮いてくるほど寒さは厳し＜強＞かった)。

˞ニングゥン [˞niŋgwaŋ] 【名】念願。心にかけて願うこと。˞ユールピー˜ル　˞ニングゥン　シー　トゥーシ　アーキ˜バ　カ˞リユ˜シ　˞シー˜　パリ˞ヨー [˞ju:rupi:˜ru ˞niŋgwaŋ ʃi:tu:ʃi ʔa:ki˜ba ka˞riju˜ʃi ˞ʃi:˜ pari˞jo:](夜昼かけて念願しているから航海安全＜嘉例吉＞に旅をして行きなさいね)。

˞ニン˜ゴー [˞niŋ˜go:] 【名】酒、醤油や米、麦、粟、豆などを計量する単位。二合。サ˞キ　ニン˜ゴー　˞カイ˜クーバ [sa̠˞ki niŋ˜go: ˞kai˜ku:ba](酒を二合買ってきなさいよ)。シ˞タ˜ディーン　˞ニン˜ゴーブカラー　˞カイ˜クーバ [ʃi˞ta˜di:n ˞niŋ˜go:bukara ˞kai˜ku:ba](醤油も二合ほど買って来なさいよ　)。

˞ニンゴー˜イー [˞niŋgo:˜ʔi:] 【名】白米二合を炊いたもの。バ˞カー˜ンダ　˞ニンゴー˜イーン　プ˞ス˜キ　˜ブンドゥ　˜アル [ba˞ka:˜nda ˞niŋgo:˜ʔi:m pɥ˞su˜ki ˜bundu ˜ʔaru](若いから二合炊いたご飯も一食ぶんしかない＜一食ぶんぞある＞)。˞ニンゴー˜イー　˜フナイ　ム˞タ˜シバ [˞niŋgo:˜ʔi: ˜ɸunai mu˞ta˜ʃiba](二合飯を＜弁当箱に＞いっぱい詰め込んで持たせなさいよ)。

˞ニンゴー˜パナ [˞niŋgo:] 【名】二合のパ˞ナン˜グミ [pa˞naŋ˜gumi](花米。神仏に供える米)。1960 年ごろまでは、親戚の家に法事があると、香典は包まず、小さな重箱に二合の米を入れ、イ˞ツァ˜カウ [ʔi˞tsa˜kau](板線香) 三枚を入れて届けた。緊急に神仏へ祈願する必要がある場合は、˞ニンゴー˜パナ [˞niŋgo:˜pana](二合花米) と˜グシ [˜guʃi](酒) を用意して祈願した。˞ニンゴー˜パナー　ス˞コーリティ　ニン˜ガイ　シ˞ミ　オーシリ [˞niŋgo:˜pana sɥ˞ko:riti niŋ˜gai ʃi˞mi ʔo:ʃiri](二合花米を準備して祈願をさせてさしあげなさい)。

˞ニンゴー˜ビン [˞niŋgo:˜biŋ] 【名】二合瓶。二合入りの酒瓶。˞ニンゴー˜クビン [˞niŋgo:˜kubiŋ](二合瓶) ともいう。˞ニンゴー˜ビン　プ˞スッ˜ク　˞カーニ˜テー　˜ムティ　パ˞ララ˜ヌ [˞niŋgo:˜bim pɥ˞suk˜ku ˞ka:ni˜te: ˜muti pa˞rara˜nu](二合瓶一個だけとは持っていかれない)。

˞ニン˜ジュー [˞nin˜ʤu:] 【名】二十。二十歳。˜トゥシェー　˞ニン˜ジュ＜˞ニン˜ズ＞　ナ˞リ˜ブンドゥ　マ˞ダ˜　ドゥー　ム˞タ˜ヌ [˜tuʃe: ˞ninʃʤu＜˞nin˜ʤu＞ na˞ri˜bundu ma˞da˜ du: mu˞ta˜nu](歳は二十歳になっているが、まだ結婚して＜身持ちして＞いない)。

˞ニンジョー [˞ninʤo:] 【名】人情。標準語からの借用語。なさけ (情け)。普通は、キ˞ムアツァー˜ン [ki˞muʔatsa:˜ŋ](肝＜人情＞が篤い) という。ウ˞リヌ˜　スコー　˞ニンジョーヌ˜　ア˞ツァー˜　プ˞ソー˜　ブ˞ラーヌ [ʔu˞rinu˜ sɥko: ˞ninʤo:nu˜ ʔa˞tsa:˜ pɥ˞so:˜ bu˞ra:nu](彼ほど人情の篤い人はいない)。

˞ニンジョームチ [˞ninʤo:mutʃi] 【名】人情に篤い人。愛情深い人。愛情のこまやかな人。「人情持ち」の義。˞ジョームチ [˞ʤo:mutʃi](人情持ち＜人情に厚い＞) ともいう。ウ˞レー　ニンジョームチ˜　ヤ˞ルンダ˜　ユー　プ˞スヌ˜　クトゥ　˞シーフィールン [ʔu˞re: ninʤo:mutʃi˜ ja˞runda˜ ju: pɥ˞sunu˜ kɥtu ˞ʃi: fi:ruŋ](彼は人情に篤いから、よく他人のことをしてくれる)。

˞ニン˜ジンキョー [˞nin˜ʤiŋkjo:] 【名】(植) 薬草の名。ウイキョウ (茴香)。全体的に芳香がある。山羊汁や鶏汁、魚汁に入れ、健胃薬として食された。˞ニン˜ジンキョーヤ　バ˞タ˜ヌ　フ˞チ˜ルティ　˞シー˜　イ˞ズヌ˜スー　ピ˞ビザヌ˜スー　トゥ˞ルヌ˜スーナ　イ˞リティ˜　ン˞コーッ˜タ [˞nin˜ʤiŋkjo:ja ba˞ta˜nu ɸɥ˞tʃi˜ruti ˞ʃi:˜ ʔi˞ʤunu˜su: pi˞biʤanu˜su: tu˞runu˜su:na ʔi˞riti˜ ʔŋ˞ko:t˜ta](茴香は腹薬として魚の汁、山羊汁、鶏汁に入れて食べられた)。˞ニン˜ジンキョーヤ　パ˞トゥ˜マナーテー　˞ナン˜ゾー　ス˞ク˜ローランシェン [˞nin˜ʤiŋkjo:ja pa̠˞tu˜manate: ˞nan˜ʤo: sɥ˞ku˜ro:raŋseŋ](ウイキョウは鳩間島ではあまり作付けされなかった)。

˞ニン˜ズ [˞nin˜ʤu] 【名】数詞。二十。若年層は˞ニン˜ジュ [˞nin˜ʤu](二十) ともいう。˞マイタブル　ニンズタブ˜ルシェー　プ˞スマラ˜キ　ナ˞ラ˜ヌ [˞maitaburu ninʤutabu˜ruʃe: pɥ˞sumara˜ki na˞ra˜nu](稲束二十束では一丸 <30 束で一丸ぎ＞にはならない)。

˞ニンスー [˞ninsu:] 【名】年数。ウ˞ビ˜ヌ　˞ニンスーヌ˜　タトゥカー　˜ヤーン　˞ヨー˜ミー　イ˞リス [ʔu˞bi˜nu ˞ninsu:nu˜ ta̠tuka: ˜ja:ɲ ˞jo:˜mi: ʔi˞risu](あれだけの年数が経つと家も弱くなる＜弱みが入る＞よ)。

˞ニンズー [˞ninʤu:] 【名】年中。一年の間。パ˞トゥ˜マナー　˞ニンズーヌ　ユーズピー˜ゾー　˞ギュー

チ　アロールワ [pḁtumanaː ninʤuːnu juːʤupiː ʤoː gjuːʧi ʔaroːruwa](鳩間島には年中の神行事はいくつございます＜有られます＞か)。ニンズーヌ　ッふァイフチェー　トゥリシキティ　ヌカロー　カーシバ [ninʤuːnu ffaiɸu̥ʧeː turiʃi̥kiti nukaroː kaːʃiba](一年中＜一年間の＞の食い扶持は取っておいて、残りは売りなさい)。

ニンズー [ninʤuː] 【名】1仲間。バンヌン　ニンズー　イリ　ッふォーリ [banun ninʤuː ʔi riffoːri](私も仲間に入れてください)。ヤーニンズー [jaːninʤuː](家族)。2人数。ニンズー　ユミミー [ninʤuː jumimiː](人数を数えてごらん)。ニンズーヌ　ゴーラーン [ninʤuːnu goːraːŋ](人数が多い)。

ニンズダー [ninʤudaː] 【名】約二百坪の田。20マラキ [marakiː](丸ぎ) の稲を収穫できる田の意。ニンズダーヤ　イッタンナ　タラーヌ [ninʤudaːja ʔittanna taraːnu](ニンズダーの面積は一反に足りない)。

ニンソー [ninsoː] 【名】人相。人の顔つき。ウヌ　プスヌ　ニンソーヤ　ナクラーンダ　スバー　パララヌ [ʔunu pu̥sunu ninsoːja nakuraːnda subaː parananu](あの人の人相は怖いから側へは行かれない)。ニンソーヌ　ワッサン [ninsoːnu waːsaŋ](人相が悪い)。

ニントゥー [nintuː] 【名】年頭の挨拶。「年頭」の義。年賀。年始。カミニントゥ [kaminuntu](神様への年始)。元旦の朝、シディミジ [ʃidimiʤi](若水。「孵化水(スデ)」の義) で顔を洗い、家族全員がイチバンザー [ʔiʧibanʤaː](一番座。床の間) に集まって、ザートゥク [ʤaːtuku](床の神) に供えてあるグシ [guʃi](酒。御酒) とカラマース [karamaːsu](力塩) を家長から頂き、旧年中の神の加護に感謝し、新年度も神の加護のもと健康で働くことができるようにという祝詞を受ける。妻子も家長に対して返杯し、同様の祝詞を述べる。その後、フルマイ [ɸurumai](正月のご馳走。「振る舞い」の義) をいただく。祝詞の大略は次の通り。クトゥシン　ミードゥシ　ンカイヨーラリ　フコーラサカンヌマイヌ　マムリスコーッタ　ウカギシヤーニンズ　ドゥーパダ　キンコーシ　パタラカリタ　ウカギ　ヤルタ　シキンドゥ　カンヌマイニン　シゥカイトゥ　フコーラサ　アジ　ッサリ　ニガイ　オーサバ　クズ　マサルヌ　イートゥシ　ナラシミン　タボーレーティ　ケーラ　ドゥーパダ　キンコー　アラシ　タボーレーティ　エンヌ　ユー　ンカイル　ユーヤ　マサルヌ　ユー　アラシ　タボーローリヨー [ku̥tuʃim miːduʃi ʔŋkaijoːraːri ɸu̥koːrasa kannumainu maːmuriːsu̥koːtta ʔukaːgiʃi jaːninʤu duːpada kiŋkoːʃi pḁtarakaritaː ʔukaːgi jaːrutaː ʃi̥kinʤu kannumainin si̥kaitu ɸu̥koːrasa ʔaʤissariː nigai ʔoːsabaː kuʤu maːsarunu ʔiːtuʃi naraʃimin taboːreːti keːraː duːpada kiŋkoː ʔaraʃi taboːreːti jennu juː ʔŋkairu juːjaː maːsaru juː ʔaraʃimi taboːroːriːjoː](今年も新年を迎えることができておめでとう＜有難う＞ございます。神様がお守りくださったお陰で、家族一同、体も健康で働くことができたお陰でありますので、神様にもしっかりお礼を申し上げ祈願致しますから、去年以上の良い年になしてくださって、皆の体も健康にして下さって、来る年は、迎える年は今年以上の豊年にしてくださいよ)。

ニントゥマール [nintumaːru] 【名】年頭の回礼。年始回り。「年頭回り」の義。グゥンタンヌ　ピンマー　ビキドゥモー　ニントゥマールバ　シー　サキ　ヌモーッタ [gwantannu pimmaː biːkidumoː nintumaːruba ʃiː sḁkiː numoːtta](元旦に日には男は年始回りをして酒を飲まれた)。

ニンニン [ninniŋ] 【名】年年。毎年。ニンニン　ユチクニ　ナリ　キーブンドゥ　クラシグリサン　ナリ　キー　ブー [ninniŋ juʧiːkuni nari kiːbundu kuraʃigurisan nari kiːbuː](年々豊かになってきているが、暮らしにくくもなってきている)。クヌグロー　ニンニン　アツァー　ナリキー　ナーヌ [kunuguroː ninniŋ ʔatsaː nariki naːnu](この頃は、年々暑くなってきてしまった)。ニンニン　キン　カイ　カイルン [ninniŋ kiŋ kai kairuŋ](年々着物を買い換える)。

ニンヌ　シー [ninnu ʃiː] 【連】年末。「年の末」の義。ニンヌ　シー　ナルカー　パンタサンダ　マナマヌ　アイナー　シー　シキリ [ninnu ʃiː naruka pantasanda mamanu ʔainaː ʃiː ʃi̥kiri](年末になると忙しいから、今のうちにしておきなさい)。

ニンヌ　タミシ [ninnu tamiʃi] 【連】念のため。確認のため。用心して。ニンヌ　タミシ　マープスケン　シラビ　ミリバ [ninnu tamiʃi maːpu̥sukeŋ ʃiraːbi miriba](念のため、もう一度調べてみなさいよ)。

˩ニンプ **[˩nimpu]** 【名】にんぷ (人夫)。標準語からの借用語。˩ニンポー˥ ギュ˩ターール ブカラ˥ タ˩ナマバ˥ル ˥ナルカヤー [˩nimpoː˥ gju˩taːru bukara˥ ta˩namaba˥ru ˥narukajaː](人夫は何人ほど頼んだら < 頼まばぞ > 良い < 出来る > のかなあ)。

˩ニンブ˥ツァー **[˩nimbu˥tsaː]** 【名】「念仏歌」の義。˩ソー˥ラン [˩soː˥raŋ](お盆) に先祖供養の歌として仏前で歌われる歌。沖縄本島の「念仏歌」が八重山地方へ流布してきたものといわれている。「念仏者」が原義で、「念仏者が歌う歌」の意に転訛し、今日のように「念仏歌」そのものをさすようになったと考えられる。鳩間島では、(i) ム˩ヌン˥グイウタ [mu˩nuŋ˥guiʔuta](物乞い歌)、(ii) シ˩ザ˥ヌクイ [ʃi˩ʥa˥nukui](兄の声)、(iii) ˩ウシトゥ˥ヌクイ [˩ʔuʃi̥tu˥nukui](弟の声) などは鳩間島の特徴的な念仏歌であるが、(iv) ン˩ゾーニンブツァー [ʔn˩ʥoːnimbutsaː](無蔵念仏歌。「無常念仏歌」の義) は八重山地方一円に流布伝承されている (『沖縄文化』36・37 参照)。ン˩ゾーニンブツァーヤ˥ シマジマ ˩ニーブンドゥ˥ シ˩ザ˥ヌ ˩クイ˥トゥ ˩ウシトゥ˥ヌ ˩クイ˥ヤー ˩ベー˥シマナール アルダ˩ナー [ʔn˩ʥoːnimbutsaːja˥ ʃimaʥima ˩niːbundu˥ ʃi˩ʥa˥nu ˩kui˥tu ˩ʔuʃi̥tu˥nu ˩kui˥jaː ˩beː˥ʃimanaːru ʔaruda˩naː](無蔵 < 常 > 念仏歌は島々のものが似ているが、「兄の声」と「弟の声」は我々の島にが < ぞ > あるんだよねえ)。

˩ニンマイ˥ナビ **[˩nimmai˥nabi]** 【名】三升炊きの鍋。ウ˩ブ˥ナビ [ʔu˩bu˥nabi](大鍋) の中で最も小さい鍋。˩サンス˥ダキ [˩sansu˥daki](三升炊き) ともいう。˩ニンマイ˥ナビシ ˩アラン˥カー ウ˩ビ˥ヌ バ˩コーシンカ˥ヌ ˩イー˥ヤ バ˩カサラヌ [˩nimmai ˥nabiʃi ʔa˩raŋ˥kaː ʔu˩bi˥nu ba˩koːʃiŋka˥nu ˩ʔiː˥ja ba˩kasaranu](三升炊きの鍋でないとあれだけの共同作業の人々のご飯は炊かれない)。

ヌ

˥-ヌ [˥-nu] 【助動】否定、打消しの意を表す。用言の未然形に接続する。ター˩ン˥　マ˩ダ˥　カ˩カ˥ヌ [taː˩m˥ ma˩da˥ カ˩カ˥ヌ](誰もまだ書かない)。˥バー　カ˩カ˥ナー　ア˩ラ˥ヌ　カ˩キ˥スンドゥ　マ˩ナ˥マー　カ˩キプサ　ナー˥ヌ [˥baː kạ˩ka˥naː ʔa˩ra˥nu kạ˩ki˥sundu ma˩na˥maː kạ˩kipusa naː˥nu](私は書かないではない。書きはするが、今は書きたくない)。˩ワー˥　カ˩カン˥ドーシ　カ˩リン˥　カ˩カ˥シ [˩waː˥ kạ˩kan˥doːʃi ka˩riŋ˥ kạ˩ka˥ʃi](君は書かないで彼に書かせなさい)。カ˩カン˥　プ˩ソー　クー˥ナ [kạ˩kam˥ pụ˩soː kuː˥na](書かない人は来るな)。˩ワー˥　ヤー˩ディン˥　カ˩カン˥カー　ナ˩ラ˥ヌ [˩waː˥ jaː˩diŋ˥ kạ˩kaŋ˥kaː na˩ra˥nu](君は必ず書かなければならない)。˩ワー˥　カ˩カン˥ミサン [˩waː˥ kạ˩kam˥misaŋ](君は書かなくても良い)。˥ヌンティ　カ˩カン˥ワ [˥nunti kạ˩kaŋ˥wa](何故書かないか)。

˥-ヌ [˥-nu] 【格助】**(1)** 主格を表す。ア˩ミ˥ヌ　˥フーン [ʔa˩mi˥nu ˥ɸuːŋ](雨が降る)。パ˩ナ˥ヌ　˥サクン [pa˩na˥nu ˥sạ̊kuŋ](花が咲く)。ティ˩ガミ˥ヌ　ウ˩クラリ˥　ケーン [ti˩gami˥nu ʔu˩kurari˥ keːŋ](手紙が送られてきた)。ウ˩ヤ˥ヌ　ア˩ゾー˥ル　˥ムニ　シ˩キ˥バ [ʔu˩ja˥nu ʔa˩ʤoː˥ru ˥muni ʃị̊˩ki˥ba](親のおっしゃることを聞きなさいよ)。ス˩ブル˥ヌ　˥ヤミティ　ウ˩キララ˥ヌ [su˩buru˥nu ˥jamiti ʔu˩kirara˥nu](頭が痛くて起きられない)。**1**取り立て強調のドゥ [du](ぞ) が付いて˥-ヌドゥ [˥-nudu](〜がぞ) となる。˩カンザヌドゥ˥　シゥ˩カン˥ッふー [˩kanʤanudu˥ sị̊˩kaŋ˥ffuː](あの野郎が < ぞ > うち食らう)。˩ワーンドゥ˥　アイ　ア˩ゾー˥ルカー　˥ミサシジ [˩waːndu˥ ʔai ʔa˩ʤoː˥ruka: ˥misa ˥ʃiʤi](貴方がそうおっしゃるのなら、それで良いわけです)。**2**代名詞がはだかのままで主格を表す。˥バー　シ˩キ˥ナ　˥ムノー　ク˩リ [˥baː ʃị̊˩ki˥na ˥muno: ku˩ri](私が好きなものはこれだ)。˥バー　ア˩ズタ˥　クトゥ　イッ˩カ　バシキルナ < ˩バスクナ >[˥baː ʔa˩ʤuta˥ kụtu ʔik˩ka baʃị̊kiruna < ˩basukuna >](私が言ったことを決して忘れるな)。**3**とりたての係助詞「は」が付いて、˩-ノー [˩-noː](〜がは) となり、主格のとりたて限定表現となる。ウ˩リノー　スン˥ユー　ワ˩カラント ダー [ʔu˩rinoː suŋ˥ juː wa˩karanト-daː](彼がはするかもしれないよ)。**4**とりたての係助詞「も」がついて、˩-ヌン [˩-nuŋ](がも) となり、文末の肯定陳述と呼応して、主格の強調表現となる。ウ˩ヌ˥　ア˩タ˥ロー　カ˩リヌン˥　ナルン [ʔu˩nu˥ ʔa˩ta˥roː ka˩rinun˥ naruŋ](それくらい < 程度 > は彼がもできる)。**5**副助詞˥-サーギ [˥-saːgi](〜さえ) が付き限定表現を表す。˩ガッコー˥ヌサーギ　˥アルカー　˥シマー　˩トーリラ˥ヌ <˩トーラ˥ヌ >[˩gakkoː˥nusaːgi ˥ʔarukaː ˥ʃimaː ˩toːrira˥nu < ˩toːra˥nu >](学校がさえあれば島 < 村 > は廃村になら < 島は倒れ > ない)。プ˩スヌサーギ　ブー˥カー　˩ノー˥シン　ナ˩リ˥ス [pụ˩sunusaːgi buː˥kaː ˩noː˥ʃin na˩ri˥su](人がさえおれば何とかできる)。**64**の形にさらに副助詞˩ツァン [˩tsaŋ](〜すら) がついて限定強調の意味を表す。˩クンザヌンツァン˥　パ˩タラキシェー˥カー˩ツォー˥　ン˩メーマ˥ナーンツァン　˩オーサリスンドゥ [˩kunʤanuntsam˥ pạ̊˩tarakiʃeː˥kaː˩tsoː˥ ʔm˩meːma˥naːntsaŋ ˩ʔoːsarisundu](こいつがさえも働くことがたらなあ、少しずつでも費用を負担することができて手助けになるんだが)**(2)**˥-ヌ [-nu](の) 属格を表す連体助詞。ウ˩ヤ˥ヌ　˥ザイサンマー　サ˩クシ˥ル　シ˩グタ [ʔu˩ja˥nu ˥ʤaisammaː sạ̊˩kuʃi˥ru ʃi˩guta](親の財産は長男が継いだ)。シ˩マ˥ヌ　ナ˩ガリ˥ユ　ミ˩ワタシ˥バ　ル˩ク˥ヌ　イ˩チ˥ジニ　チ˩カク˥アリ [ʃi˩ma˥nu na˩gari˥ju mi˩wataʃi˥ba ru˩ku˥nu ʔi˩ʧi˥ʤini ʧị̊˩kaku˥ ʔari](島の流れを見渡すと六 < 禄 > の一字 < 字画の意味に > に近くみえる)(鳩間口説)。˩パイ˥ヌ　カ˩タ˥ナー　シ˩マ˥ヌ　˥アン [˩pai˥nu kạ̊˩ta˥naː ʃi˩ma˥nu ˥ʔaŋ](南の方に島がある)。プ˩スン˥ヤヌ　パ˩タ˥ケー　˩ペール˥ナ [pụ˩suŋ˥janu pạ̊˩ta˥ke: ˩peːru˥na](余所の家の畑に入るな)。**1**格助詞˩トゥ [˩tu](〜と。相手格) に付いて、˩-トゥヌ [˩-tunu](〜との) となる。ドゥ˩シトゥ

ヌ˥　ヤ˩クスク　バシキルナ [du˩ʃitunu˥ ja˩kusu̥ku baʃi̥kiruna](友達との約束を忘れるな)。˩バントゥ˥ヌ　パ˩ナ˥シェー　˩ヌー˥スワ [˩bantu˥nu pa˩na˥ʃe: ˩nu:˥suwa](私との話はどうするか)。2格助詞˥-ラー [˥-ra:](～から) に付いて、˥-ラヌ [˥-ranu](～からの。空間的、時間的˩離脱˪の意味を表す) となる。˩ガッ˥コーラヌ　˩カイ˥ルナー　ドゥ˩シトゥ˥　ア˩サブタ [˩gak˥ko:ranu ˩kai˥runa: du˩ʃitu˥ ʔa˩sabuta](学校からの帰りに友達と遊んだ)。ヤ˩マトー˥ラヌ　˩シンシー˥ヌ　˩オー˥レーン [ja˩mato:˥ranu ˩ʃiŋʃi:˥nu ˩ʔo: ˥re:ŋ](本土 < 大和 > からの先生が来られた)。3格助詞˥-ナーティ [˥-na:ti](～に。～にて。場所格) に付いて、˥-ナーティヌ [˥-na:tinu](～での。場所格) となる。ヤ˩マトゥ˥ナーティヌ　シ˩グトー　ヌー˥シ˩ヤッター [ja˩matu˥na:tinu ʃi˩guto: nu:˥ʃi ˩jatta:](本土での仕事はどうだったか)。4格助詞˥シ [˥ʃi](～で。手段格) に付いて、˥-シヌ [˥-ʃinu](～での。手段格) となる。˩タンガ˥シヌ　シ˩グトー˥　ク˩チ˥サン [˩taŋga˥ʃinu ʃi˩guto:˥ ku̥˩tʃi˥saŋ](一人での仕事 < 一人でする仕事 > は苦しい)。5引用の格助詞˥ティ [˥-ti](～と) に付いて、˥ティヌ [˥-tinu](～との。引用格。伝聞) となる。˩パイ˥サ　˥クーティヌ　イ˩エイ˥ヌ　キー　˩ベー [˩pai˥sa ˥ku:tinu ʔi˩jei˥nu ˥ki: ˩be:](早く来いとの伝言がきている)。6副助詞˥ブカラ [˥bukara](～ぐらい) に付いて、程度を表す˥ブカラヌ [˥bukaranu](～ぐらいの。事物の大きさ、分量、程度を表す) となる。˥クビブカラヌ　ウ˩ブ˥イズ　˩ホー˥シタン [˥kubibukaranu ʔu˩bu˥ʔidʑu ˩ho:˥ʃi̥taŋ](これぐらいの大きな魚を釣った)。˥イチジカンブカラヌ　ウ˩クレー˥　ミサン [˥ʔitʃidʑikambukaranu ʔu˩kure:˥ misaŋ](一時間ぐらいの遅れはいいよ)。7副助詞カー˩ニ [ka:˩ni](～だけ) に付いて、カー˩ニヌ [ka:˩nunu](～だけの) となり、限定表現となる。˩ワー˥　カー˩ニヌ˥　ウヤー　ア˩ラ˥ヌ [˩wa:˥ ka:˩ninu˥ ʔuja: ʔa˩ra˥nu](君だけの親ではない)。8副助詞˩バー˥キ [˩ba:˥ki](～まで) に付いて、˩バーキ˥ヌ [˩ba:ki˥nu](～までの。動作作用の継続が時間的、空間的、状態的到達点を表す) となる。˩キューバーキ˥ヌ　ヌ˩チ˥ミー　ヤ˩レート ナー [˩kju:baki˥nu nu˩tʃi˥mi: ja˩re:ɨ-na:](今日までの命であったんだなあ)。9副助詞˥スク [˥su̥ku](～ほど。程度) に付いて、ス˩ク˥ヌ [su̥˩ku˥nu](～ほどの。物事の程度、数量の度合) となる。ウ˩ヌ˥　ス˩ク˥ヌ　プ˩スヌ˥　ヌンティ　˥アイブ　˥クトゥ　シ˩ター [ʔu˩nu˥ su̥˩ku˥nu pu̥˩sunu˥ nunti ˥ʔaibu ˥ku̥tu ʃi̥˩ta:](あれほどの人がどうしてあんなことをしたのか)。10副助詞ア˩タ˥ル [ʔa˩ta˥ru](低い程度) に付いて、ア˩タル˥ヌ [ʔa˩taru˥nu](～程度の。< 下の程度、分量 > を表す) となる。ウ˩ヌ˥　ア˩タル˥ヌ　シ˩グトゥバ˥　ク˩チ˥サンティ　ア˩ジ　アー˥ク [ʔu˩nu˥ ʔa˩taru˥nu ʃi˩gutuba˥ ku̥˩tʃi˥santi ʔa˩dʑi ʔa:˥ku](その程度の仕事を苦しいなどと言っている < あるく > よ)。11自称の代名詞˥バー [˥ba:](私)、対称の代名詞˩ワー [˩wa:](あなた)、不定称代名詞˩ター [˩ta:](誰) がはだかのままで属格を表す。ク˩レー　バー˥　ムヌ [ku˩re: ba:˥ munu](これは私のものだ)。ク˩レー　ワー˥　ムヌ [ku˩re: wa:˥ munu](これは貴方のものだ)。ク˩レー　ター˥　ムヌヤ [ku˩re: ta:˥ munuja](これは誰のものか)**(3)**˥-ヌ [˥-nu](～の) 同格を表す。˩ウン˥ネーヤ　サ˩クシ˥ヌ　マ˩ツァー˥ル　˥アトー　˥ミル [˩ʔun˥ne:ja sḁ˩ku̥ʃi˥nu ma˩tsa:˥ru ˥ʔato: ˥miru](あの家は長男の松氏が後を継ぐ < 見る >)。

˥-ヌ [˥-nu] 【接助】逆接。～が。～けれど。～だが。動詞の連体形に付いて逆接の条件節をつくる。˥バー　パ˩ル˥ヌ　˩ワー　ヌー˥　スー　˩カン˥ガイヤ [˥ba: pa˩ru˥nu ˩wa: nu:˥ su: ˩kaŋ˥gaija](私は行くが、君はどうするつもりが)。ス˩ク˥ル　˥クトー　ス˩クル˥ヌ　˩カーサラヌ [su̥˩ku˥ru ˥ku̥to: su̥˩kuru˥nu ˩ka:saranu](作ることは作るが、売れない)。˩カイ˥ヤ　˥クトー　˩カイ˥ヤヌ (ンドゥ)　シゥ˩カーラヌ [˩kai˥ja ˥ku̥to: ˩kai˥janu(ndu) si̥˩ka:ranu](美しいことは美しいが < がぞ >、使えない)。

˥-ヌ [˥-nu] 【接助】～ので。～だから。形容詞の連用形に付き、原因、理由の感情を表す。ク˩ヌ　キン˥マー　タ˩カー˥ヌ　˩カーラヌ [ku˩nu kim˥ma: tḁ˩ka:˥nu ˩ka:ranu](この着物は値段が高くて買えない)。ヤ˩ラビ˥ヌ　ナ˩キティ˥　ン˩ガマサ˥ヌ　ムッ˩トゥ˥　プ˩スヌ˥　パ˩ナ˥シ　シゥ˩カラヌ [ja˩rabi˥nu na˩kiti˥ ʔŋ˩gamasa˥nu mut˩tu˥ pu̥˩sunu˥ pa˩na˥ʃi si̥˩karanu](子供が泣いて、うるさく < 煩く > て、ちっとも他人の話が聞き取れ < 聞かれ > ない)。ユ˩ム　ニッふァー˥ヌ　ウ˩リヌ˥　シラー　ミ˩リ˥プサン　˩ナー˥ヌ [ju˩mu niffa:˥nu ʔu˩rinu˥ ʃira: mi˩ri˥ pu̥santsan ˩na:˥nu](小憎らしくて、あいつの顔は見たく < すら > もない)。

˥ヌー [˥nu:] 【名】野。野原。˩ヌーシグ˥トゥ [˩nu:ʃigu˥tu](野良仕事)。ブ˩ナージマヌーラ˥　キー　˥キシ　ウ˩ラ˥ソーッタ [bu˩na:dʑimanu:ra˥ ki: ˥ki̥ʃi ʔu˩ra˥ so:tta](トゥマダーの上のブナージマ野原から木を伐って下ろされた)。

˥ヌー **[˥nu:]** 【代】何。「なお (オモロ、組踊り、古謡)」『沖縄古語大辞典』の転訛したもの。疑問を表す。˩ワー　ヌー˥ル　マ˩シ˥ヤー [˩wa: nu:˥ru ma˩ʃi˥ja:](君は何が良いか)。ク˩レー˥　ヌーヤ [ku˩re:˥ nu:ja](これは何か?)。ウ˩レー˥　ヌーカヤー [ʔu˩re:˥ nu:kaja:](それは何かなあ)。˥ヌーティル　ア˩ジブーワレー [˥nu:tiru ʔa˩ʤi bu:ware:](何と言っているのか)。˩キュー˥ヤ　˩ヌー˥ル　˩スーワ [˩kju:˥ja ˩nu:˥ru ˩su:wa](今日は何を＜何ぞ＞するか)。˩ヌー˥ル　ッ˩ふァイ˥　プサワ [˩nu:˥ru f˩fai˥ pu̥sawa](何が＜ぞ＞食べたいか)。

ヌ˩ー **[nu˩:]** 【感】何? 何だって? 反問したり、問いかけたりする言葉。ヌ˩ー　ワール˥　シ˩タ˥ー˩ー [nu˩: wa:ru˥ ʃi̥˩ta˥:˩:](何だって? 君がしたって?)。ヌ˩ー　キュー˥ヤ　パ˩ララ˥ヌ˩ー [nu˩: kju:˥ja pa˩rara˥nu˩:](何だって? 今日は行けないって?)。

˩ヌー˥アー **[˩nu:˥ʔa:]** 【名】搗いてない粟。未精米の粟。˩ヌー˥マイ [˩nu:˥mai](搗いてない米。玄米)。˩フイ˥バナー　イ˩リ˥　シケー　˥ムノー　˩ヌー˥アーダ˩レー˥　マ˩ダ˥　ッ˩サー˥リ　ブ˩ラーヌ [˩ɸui˥bana: ʔi˩ri˥ ʃi̥ke: ˥muno: ˩nu:˥ʔa:da˩re:˥ ma˩da˥ s˩sa:˥ri bu˩ra:nu](茅籠＜ガイジゥバラ＞に入れてあるのは未精米の粟だよ。まだ精米され＜搗かれ＞てない)。

˥ヌーカヤー　˩クイ˥カヤー **[˥nu:kaja: ˩kui˥kaja:]** 【連】何だろうか。「何かな、かく＜斯＞にかな」の義。イ˩ミ˥バ　˥ミリティ　˥ヌーカヤー　˩クイ˥カヤーティ　˩ソーバ　シーベータン˥ドゥ　イ˩ミ˥ヌ　プ˩リムヌ˥　ヤ˩リ˥　ブ˩レー˥バン [ʔi˩mi˥ba ˥miriti ˥nu:kaja: ˩kui˥kaja:ti ˩so:ba ʃi:be:tan˥du ʔi˩mi˥nu pu ˩rimunu˥ ja˩ri˥ bu˩re:˥baŋ](夢をみて、何だろうか、こうだろうかと心配していたが、夢はふれ＜狂れ＞ものだったようだよ)。

˩ヌー˥キシキン **[˩nu:˥ki̥ʃikiŋ]** 【名】野良着。「野着衣」の義。パ˩タキ˥キン [pḁ˩taki˥kiŋ](畑着)、シ˩グトゥキン [ʃi˩gutukiŋ](仕事着) ともいう。ク˩レー　ヌー˥キシキン　˩バーキ˥ル　˥ナル [ku˩re: nu:˥ki̥ʃikim ˩ba:ki˥ru ˥naru](これは野良着にしかできない＜野良着までぞなる (できる)>)。

˩ヌー˥キン **[˩nu:˥kiŋ]** 【名】精白してないキビ (黍)。「のきび＜野黍＞」の義。ク˩レー　ヌー˥キン　ヤ˩ルンダ˥　ッ˩サーン˥カー　バ˩カサラヌ [ku˩re: nu:˥kiŋ ja˩runda˥ s˩sa:ŋ˥ka: ba˩kasaranu](これは精白してない黍だから、精げないと炊け＜炊かれ＞ない)。

˥ヌークイ **[˥nu:kui]** 【名】何だこれだ。あれだこれだ。何と何。何くれ。「何これ」の転訛したもの。˥ヌークイテー　˩ナー˥ヌ　ムー˩ル˥　ウ˩リヌ˥　ウ˩カ˥ギシル　フ˩ドゥビ˥　ケール [˥nu:kuite: ˩na:˥nu mu:˩ru˥ ʔu˩rinu˥ ʔu˩ka˥giʃiru ɸu˩dubi˥ ke:ru](どれと此れ、＜何とこれ＞と限定できない。総ては彼のお陰で成長してきたのだ)。

˩ヌーグトゥ **[˩nu:gutu]** 【名】何事。どんなこと。ク˩ヌ˥　ヤーナー　˩ヌーグトゥーン˥　ア˩ラ˥シ　˩タボーン˥ナ [ku˩nu˥ ja:na: ˩nu:gutu:ŋ˥ ʔa˩ra˥ʃi ta˩bo:n˥na](この家には何事も起こして＜あらしめて＞くださいますな。「平穏無事をお祈り致します」の意)。

ヌー˩サラ **[nu:˩sara]** 【副】しばしば。たびたび。なおさら (猶更)。˩ワール˥　ヌー˩サラ˥　ヤ˩ラビ˥バ　˩カシゥカー˥シ　˩ブー˥ティバン˩ナー [˩wa:ru˥ nu:˩sara˥ ja˩rabi˥ba ˩kaʃi̥ka:˩ʃi ˩bu:˥tiban˩na:](君がしばしば＜何かと＞子供を嫌(スカ)しているそうだなあ)。

˩ヌーザラ˥シ **[˩nu:ʤara˥ʃi]** 【名】野原に放置して風雨に晒(サラ)すこと。「野晒し」の転訛したもの。˩アッ˥タル　˩キン˥バ　ガ˩ラサ˥ヌ　ヌ˩キ˥ムヌ　˥ナシティ　˩ヌーザラ˥シ　˩シー˥　シケー [˩ʔat˥taru ˩kim˥ba ga˩rasa˥nu nu˩ki˥munu ˥naʃi̥ti ˩nu:ʤara˥ʃi ˩ʃi:˥ ʃi̥ke:](勿体無いことに着物を烏威(カラスオドシ)＜烏を追い払う案山子に着せるもの＞にして、野晒しにしてあるよ)。

ヌー˩サン **[nu:˩saŋ]** 【副】しばしば。たびたび。幾度と無く。なおさら。話し手の意に反したことをしている意を表す。怒りの意が内包されている語。ノー˩サン [no:˩saŋ](しばしば) ともいう。˩ワー˥　ヌー˩サン　バン˥テヌ　˩ドン˥グ　˩カッティニ˥　シゥ˩カイブー˥　ティバン˩ナー [˩wa:˥ no:˩sam ban˥tenu ˩doŋ˥gu ˩kattini˥ si̥˩kai bu:˥ tiban˩na:](君は幾度となく私の家の道具を勝手に使っているそうだねえ)。

˩ヌー˥シ **[˩nu:˥ʃi]** 【副】1いかに。どのように。どう。様子や方法を尋ねる。ク˩レー　ヌー˥シ　˩スーワ [ku˩re: nu:˥ʃi ˩su:wa](これはどのようにするのか)。˩プール˥ヌ　˩ゾーラキヌ˥　ス˩クメー　ヌー˥シ　˥ナリ　˩ブーワ [˩pu:ru˥nu ˩ʤo:rakinu˥ su̥˩kume: nu:˥ʃi ˥nari ˩bu:wa](豊年祭の常楽舞踊＜入子踊り＞の仕込み＜リハーサル＞はどうなっているか)。方法を問う。いかが。どんなに。どう。˩クン˥ドー　カ˩リン　ヌー˥シ　シ˩ミルワ˥　マ˩シ˥カヤー [˩kun˥do: ka˩rin nu:˥ʃi ʃi˩miruwa˥ ma˩ʃi˥kaja:](今度は彼にどうさせたらよいでしょうか)。2相手の気持ちを確かめる。˩ワー　スー˥カー　˩ヌー˥シヤー [˩wa: su:˥ka: ˩nu:˥ʃija:](君がやったら＜すれば＞どうか)。ク

˞レー　ヌー˞シ　˞スーワ [ku˞re: nuː˞ʃi ˞suːwa](これは、どのようにするのか)。3感動詞。呼びかけとして用いる。イ˞ソーヤ　ヌー˞シヤー [ʔi˞soːja nuː˞ʃijaː](漁はどうですか)。˞スー˞ヤ　˞ヌー˞シヤー [˞suː˞ja ˞nuː˞ʃijaː](潮の流れはどうか)。˞ター˞ヤ　˞ヌー˞シヤー [˞taː˞ja ˞nuː˞ʃijaː](稲作 < 水田 > の具合はどうか)。

˞ヌー˞ジ [˞nuː˞ʤi] 【名】虹。雨上がりなどの空にかかる七色の円弧状の帯。「〜夜左可の井堤に立つ努自能 < ノジの >〜。万、3414」の転訛したもの。˞イツァフクビ [˞ʔitsaɸu̥kubi](板帯) ともいう。シ˞トゥムティ˞ヌ　ア˞ミ˞ヌ　˞アールター　インタヌティン˞ナー　˞ヌージ˞ヌ　˞パイ　˞ベー [ʃi̥˞tumuti˞nu ʔa˞mi˞nu ˞ʔaːruta: ʔintanu tin˞naː ˞nuːʤi˞nu ˞pai ˞beː](朝の雨が上がったので西空に虹が這っている)。

˞ヌー˞シ　˞オール˞ワ [˞nuː˞ʃi ˞ʔoːru˞wa] 【連】1ご機嫌いかがでいらっしゃいますか。お元気ですか。「如何していらっしゃいますか」の義。アッ˞パー　ヌー˞シ　˞オール˞ワ　˞ミサーレーティ　˞オールン [ʔap˞paː nuː˞ʃi ˞ʔoːru˞wa ˞misaːreːti ˞ʔoːruŋ](お祖母さん、ご機嫌いかがですか。お元気でいらっしゃいますか)。2日中に用いられると、こんにちは、夕方に用いられると、こんばんは、の挨拶言葉として用いられる。

˞ヌー˞シカーシ [˞nuː˞ʃi̥kaːʃi] 【副】如何様に。どのように。˞ヌー˞シ [˞nuː˞ʃi](どんなに) の強調表現で、ABCDBC 型の重言。˞ヌー˞シカーシ　˞シェー˞ティ　ク˞ヌ　オーシキ˞ナー　キ˞ラリ˞ター [˞nuː˞ʃikaːʃi ˞ʃeː˞ti ku˞nu ʔoːʃi̥ki˞naː ki˞rari˞taː](一体、どうやってこんな天気の悪い日に来ることができたのか)。

˞ヌー˞シキー [˞nuː˞ʃi̥kiː] 【副】何故に。どうして。どういう訳で。˞ヌー˞・シー・キー [˞nuː˞・ʃiː・kiː](何を・した・ので。) の縮約形。˞ヌー˞シ　˞キー˞ル　˞カイ　˞ナッ˞タティ　ク˞マークマー˞　パ˞ナ˞シ　シゥ˞カサン˞カー　˞ガッ˞ティン　ナ˞ラ˞ヌ [˞nuː˞ʃi ˞kiː˞ru ˞kai ˞nat˞tati ku˞maːkuma: ˞pa˞na˞ʃi si̥˞kasaŋ˞ka: ˞gat˞tin na˞ra˞nu](どういう訳でこうなったと細かく説明し < 話して聞かさ > ないと合点できない)。

˞ヌーシタ [˞nuːʃita] 【連体】1いかなる。何たる。多少卑下した表現で、˞一体いかなる〜」の意味を内包する。˞ワー˞　ムティ　˞ベー˞　ムノー　˞ヌーシタ　˞ムン˞ヤ [˞waː˞ muti ˞beː˞ muno: ˞nuːʃi̥ta ˞muŋ˞ja](君が持っているのは、一体どんなものか)。˞カマーラ　˞クームノー　˞ヌーシタ　˞ムン˞ヤー [˞kamaːra ˞kuː ˞muno: ˞nuːʃi̥ta ˞muŋ˞jaː](向こう < あそこ > から来る者は一体いかなる者か)。2「どうして〜か。何だとて〜ないことがあるものか」(疑問反語) の意味を有する形。˞ヌーシター　パ˞ララン˞ワ [˞nuːʃi̥taː pa˞raraŋ˞wa](何故に行かれないのか < 行かれないことはあるまい >)。˞ヌーシター　˞アイブ　ク˞トゥ˞ヌ　ア˞ル˞ワ [˞nuːʃi̥taː ˞ʔaibu ku̥˞tu˞nu ʔa˞ru˞wa](どうしてそんなことが起こりえようか < あり得ようか >、あり得まい)。

˞ヌーシター [˞nuːʃi̥taː] 【副】何故に〜か。どうして〜ものか。一体全体何故に〜か。「何したから」の義。疑問反語。˞オーシケー　ノーリ˞ブームヌ　˞ヌーシター　イ˞ソー˞　ン˞ジララン˞ワ [˞ʔoːʃi̥keː noːri ˞buːmunu ˞nuːʃi̥taː ʔi˞soː˞ ʔn˞ʤiraraŋ˞wa](天気はよくなっているのに、何故に漁に出られないことがあろうか < あるはずがない >)。

˞ヌーシタ　イ˞カ˞シタ [˞nuːʃi̥ta ʔi˞ka˞ʃi̥ta] 【連】どうした、如何した。「どうした」を強調した畳語表現。形式名詞を伴って反語的に用いられる強調表現。˞ヌーシタ　イ˞カ˞シタ　ク˞トゥ˞ヌ　˞カイ　ナ˞ル˞ワ [˞nuːʃi̥ta ʔi˞ka˞ʃi̥ta ku̥˞tu˞nu ˞kai na˞ru˞wa](いったい如何(ドウ)したことが < あって >、こうなるのか。< こうなるはずがないのに >)。

˞ヌーシタ　˞ムン [˞nuːʃi̥ta ˞muŋ] 【連】如何したものか。一体如何したものか。ウ˞ヤ˞ヌ　˞ムネー　シゥ˞カムティ˞　ドゥーカッティ　˞シー　アーク˞ヌ　ク˞レー˞　ヌーシタ　˞ムンヤ [ʔu˞ja˞nu ˞mune: si̥˞kamuti˞ duːkatti ˞ʃiː ʔaːku˞nu ku˞reː˞ nuːʃi̥ta ˞muŋja](親のいうことは聞かないで自分勝手をしているが、これは一体どうしたことか)。

˞ヌー˞シ　˞ブー [˞nuː˞ʃi ˞buː] 【連】どうしている。何をしている。ウ˞レー˞　マ˞ナ˞マー　˞ヌー˞シ　˞ブーワ [ʔu˞reː˞ ma˞na˞maː ˞nuː˞ʃi ˞buːwa](彼は、今は何をしているか)。

˞ヌー˞シヤー [˞nuː˞ʃijaː] 【連】どうか。いかが (如何) か。˞ワー˞　パ˞ナシケー　ヌー˞シヤー　˞ミサー　ナ˞レーン [˞waː˞ pa˞naʃi̥keː nuː˞ʃijaː ˞misaː na˞reːŋ](君の風邪はどうか。良くなったか)。˞ワンヌン˞　マー˞ズン˞　パルカー　˞ヌー˞シヤー [˞wannum ˞maː˞ʤum˞ paruka: ˞nuː˞ʃijaː](君も一緒に行ったらどうか)。ク˞ヌ˞グロー　シ˞グトー　ヌー˞シヤー [ku˞nu˞guro: ʃi˞guto: nuː˞ʃijaː](最近は、仕事はどうか)。

˞ヌー˞シル [˞nuː˞ʃiru] 【連体】どんな。どのような。

「何・しある」の転訛したもの。⸢ヌー⸣シル　ク⸢トゥ⸣ヌ　⸣ンジクーユー　ワ⸢カラ⸣ヌ [⸢nu:⸣ʃiru ku̥⸢tu⸣nu ⸣ʔnʤiku:ju: wa⸢kara⸣nu](どのようなことが出来(シュッタイ)するか＜出てくるか＞わからない)。

⸢**ヌー⸣シル [⸢nu:⸣ʃiru]**【副】どうして＜ぞ＞。何故に＜ぞ＞。「何をして」の義。一体どうして＜ぞ＞の強調表現。⸢ヌー⸣シル [⸢nu:⸣ʃi-ru](如何にして・ぞ)の縮約形。⸢ヌー⸣シル　⸣カイ　⸢ナッ⸣ター [⸢nu:⸣ʃiru ⸣kai ⸢nat⸣ta:](一体何故にこうなったのか)。

⸢**ヌーシルン [⸢nu:ʃiruŋ]**【他動】載せる。乗せる。積む。⸢ニー⸣ヤ　⸣フニナー　⸢ヌーシルンティ⸣　ウ⸢ムーン⸣ドゥ　⸢ヌーシラララヌ [⸢ni:⸣ja ⸣ɸunina: ⸢nu:ʃirunti⸣ ʔu⸢mu:n⸣du ⸢nu:ʃiraranu](荷物は船に載せようと思うのだが、積まれない)。ク⸢ヌ⸣　フニナー　⸢ヌーシ⸣プサカー　⸢ヌーシル⸣　クトー　⸣ナルン [ku⸢nu⸣ ɸunina: ⸢nu:ʃi⸣ pu̥saka: ⸢nu:ʃiru⸣ ku̥to: ⸣naruŋ](この船に載せたければ載せることは出来る)。⸢クン⸣ナー　⸢ヌーシレー⸣　ミサムヌ [⸢kun⸣na: ⸢nu:ʃire:⸣ misamunu](これに載せればいいのに)。ヤー⸢ディン　ヌーシリ [ja:⸢din nu:ʃiri](必ず載せろ)。

⸢**ヌー⸣スワ [⸢nu:⸣suwa]**【連】どうするか。どうしようか。アン⸢デー⸣カ　⸢ワー　ヌー⸣スワ [ʔan⸢de:⸣ka ⸢wa: nu:⸣suwa](そんなら、君はどうするのか)。⸢ヌー⸣スワ　⸣メー [⸢nu:⸣suwa ⸣me:](どうしようか、もう)。

⸢**ヌースン [⸢nu:suŋ]**【他動】**1**乗せる。人や物を運搬するものの上に積む。⸣フニナー　⸣ニー　⸢ヌースンティ　スンドゥ　ヌーサラヌ [⸣ɸunina: ⸣ni: ⸢nu:sunti sundu nu:saranu](船に荷を乗せよ＜積載し＞うとするが、乗せられ＜積載でき＞ない)。⸢マー⸣ビン　⸢ヌーシ⸣　ミサン [⸢ma:⸣bin ⸢nu:ʃi⸣ misaŋ](もっと乗せても良い)。⸢ヌース⸣　クトー　ナ⸢ラ⸣ヌ [⸢nu:su⸣ ku̥to: na⸢ra⸣nu](乗せる＜積む＞ことは出来ない)。⸢ヌーシェー⸣　ミサムヌ [⸢nu:ʃe:⸣ misamunu](乗せればいいのに)。ヤー⸢ディン　ヌーシ [ja:⸢din nu:ʃi](必ず乗せよ)。**2**載せる。紙面に掲載する。⸢ホン⸣ナー　⸢ヌースン [⸢hon⸣na: ⸢nu:suŋ](本に載せる)。ピ⸢ビザバ⸣　イダフニナー　⸢ヌースンティ　スンドゥ　ヌーサラヌ [pi⸢biʥaba⸣ ʔidaɸunina: ⸢nu:sunti sundu nu:saranu](山羊をサバニに乗せようとするが、乗せられない)。⸢ヌーシ⸣　ミサカー　⸣バー　⸢ヌース⸣　クトー　ナルン⸢ダー [⸢nu:ʃi⸣ misaka: ⸣ba: ⸢nu:⸣su ⸣ku̥to: narun⸢da:](乗せて良ければ、私は、乗せることは出来るよ)。⸢パー⸣ク　⸢ヌーシェー⸣　ミサムヌ [⸢pa:⸣ku ⸢nu:ʃe:⸣ misamunu](早く乗せればいいのに)。ヤー⸢ディン⸣　ク⸢ヌ　ビン⸣ナー　⸢ヌーシ [ja:⸢diŋ⸣ ku⸢nu bin⸣na: ⸢nu:ʃi](必ずこの便＜船便＞に乗せなさい)。**3**はめる。計略にかける。プ⸢スヌ⸣　パ⸢ナ⸣シナ　⸢ヌーサリティル⸣　ウ⸢ドゥ⸣ケール [pu̥⸢sunu⸣ pa⸢na⸣ʃina ⸢nu:saritiru⸣ ʔu⸢du⸣ke:ru](他人の話に乗せられて＜はめられて＞欠損したのだよ)。

ヌー⸢スンティ [nu:⸢sunti]【副】何故。どうして＜詰問＞。「何するとて」の転訛したもの。重く尋問する雰囲気を漂わせる。更に縮約して、⸣ヌンティ [⸣nunti](何故。軽い質問) ともいう。⸣ヌー・⸢スンティ⸣　アイブ　⸣トンナー　⸢アーク⸣ワ [⸣nu:-⸢sunti⸣ ʔaibu ⸣tonna: ⸢ʔa:ku⸣wa](何故にあんな所にうろついているのか)。⸢ワー⸣　ヌー⸢スンティ⸣　パ⸢ラン⸣ワ [⸢wa:⸣ nu:⸢sunti⸣ pa⸢raŋ⸣wa](君はどうして行かないのか＜詰問＞)。⸣ヌンティ　ナ⸢キベー⸣ワ [⸣nunti na⸢kibe:⸣wa](どうして泣いているのか)。

⸢**ヌー⸣ター [⸢nu:⸣ta:]**【名】原野の中の田。「野田」の義。⸢ベー⸣ヌ　ク⸢バシター⸣ヌ　⸣ター　⸣ウブシケーヌ　タ⸢カスク⸣ヌ　⸣ター　⸢ヨー⸣カヤーヌ　⸢シーヌウチヌ⸣　ターン　ムー⸢ル　ヌー⸣ター⸢ダー [⸢be:⸣nu ku⸢baʃi̥ta:⸣nu ⸣ta: ⸣ʔubuʃi̥ke:nu tḁ⸢kasu̥ku⸣nu ⸣ta: ⸢jo:⸣kaja:nu ⸢ʃi:nuʔutʃinu⸣ ta:m mu:⸢ru nu:⸣ta:⸢da:](我が家のクバシタの田も、大城家のタカスクの田も、西原家のシーヌウチ＜垣の内＞の田も、みんな野原の中の田圃だよ)。

⸣**ヌーダー　⸢クイ⸣ダー [⸣nu:da: ⸢kui⸣da:]**【連】なんだかんだ。何だ彼だ。なにやかや。⸢グヮンス⸣ヌ　ク⸢トゥ⸣バ　⸣ヌーダー　⸢クイ⸣ダーティ　ア⸢ジアーク⸣ヌ　カ⸢サマサ⸣ヌ　ナ⸢ラ⸣ヌ [⸢gwansu⸣nu ku̥⸢tu⸣ba ⸣nu:da: ⸢kui⸣da:ti ʔa⸢ʤiʔa:ku⸣nu ka⸢samasa⸣nu na⸢ra⸣nu](元祖のことを何だかんだと言っているが、うるさくて＜煩くて＞たまらない)。

ヌーッ⸢シェー⸣ル [nu:ʃ⸢ʃe:⸣ru]【連体】どんな (奴)。いかなる (奴)。対象を悪しざまにいう、一種の卑語。「何・したる」の転訛したもの。ヌーッ⸢シェー⸣ル　⸣ムヌヌ　⸢シーワザ⸣ヤー [nu:ʃ⸢ʃe:⸣ru ⸣mununu ⸢ʃi:waʥa⸣ja](何奴の仕業かね)。ク⸢レー⸣　ヌーッ⸢シェー⸣ル　ム⸢ヌ⸣ヌ　⸢シーワザ⸣ヤー [ku⸢re:⸣ nu:ʃ⸢ʃe:⸣ru mu⸢nu⸣nu ⸢ʃi:waʥa⸣ja:](これは一体如何なる者＜如何なる奴＞の仕業か)。

⸣**ヌーテー　⸢ナー⸣ムティ [⸣nu:te: ⸢na:⸣muti]**【連】訳も無く。何故ということも無く。取り立てて理由も無く。⸣ヌーテー　⸢ナー⸣ムティ　ン⸢カイジララ⸣　プ⸢スバ⸣　イ⸢ジ　アー⸣ク [⸣nu:te: ⸢na:⸣muti ʔŋ⸢kaiʤira:ra⸣ pu̥⸢suba⸣ ʔi⸢ʤi ʔa:⸣ku](訳もわからず＜

理由もなくて＞顔を合わせるなり＜迎え面から。対面するなり＞、ひと＜他人。私＞を叱りつけている)。˥ヌーテー ˩ナー˥ナー ˩プスカーニ˥ イ˩ズ [˥nu:te: ˩na:˥na: pu̥˩sukaːni˥ ʔi˩ʤu](訳も無く他人＜私＞だけ叱る)。

˥ヌーテー ˩ナー˥ン **[˥nu:te: ˩na:˥ŋ]** 【連】片っ端から。何だからというわけもなく。何でも。「何とて無く」の義。˥ヌーテー ˩ナー˥ヌ [˥nu:te: ˩na:˥nu](片っ端から＜何が何だからという理由もなく＞) ともいう。˥アル ˥ムノー ˥ヌーテー ˩ナー˥ン ムー˩ル˥ ッ˩ふァイス [˥ʔaru ˥muno: ˥nu:te: ˩na:˥m mu:˩ru˥ f˩faisu](ある物は何でも食べる)。

˥ヌーティ **[˥nu:ti]** 【連】何と。何とて。何たる。ク˩レー˥ ヌーティ ˩スー ジー˥ヤ [ku˩re:˥ nu:ti ˩su: ʤi:˥ja](これは何という文字か)。˥クナー ˥ヌーティ カ˩カ˥リ ˩ベー˥ワ [˥kuna: ˥nu:ti kḁ˩ka˥ri ˩be:˥wa](ここには何と書かれたいるか)。

ヌーティ˩ー **[nu:ti˩:]** 【感】何だと? 何だって? 強く反問するときに用いる。ヌーティ˩ー˥ カイ ˥ブー ˩オーシキ˥ナー フ˩ニ˥バ ン˩ザ˥ス˩ー [nu:ti˩:˥ kai ˥bu: ˩ʔo:ʃi̥ki˥na: ɸu˩ni˥ba ʔn˩ʤa˥su˩:](何だって?、こんな悪天気に船を出すって?)。ヌーティヌーティ˩ー マー˥ プスム˥シ ア˩ズ˥カー ˩ヌンガーラサントダー [nu:tinu:ti˩: ma:˥ pu̥˩sumu˥ʃi ʔa˩ʤu˥ka: ˩nuŋga:rasanˈda:](何だとう! もう一度言ったら許さないぞ!)。ヌーティ˩ー˥ アン˩デー˥カー イ˩チデージ˥ ア˩ラン˥ノー [nu:ti˩:˥ ʔan˩de:˥ka: ʔi˩ʧide:ʧi˥ ʔa˩ran˥no:](何だって?、それなら一大事ではないか)。

˥ヌーティ ア˩ズ˥カー **[˥nu:ti ʔa˩ʤu˥ka:]** 【連】なぜなら。なぜかと言うと。何となれば。˥ヌーティ˩スー˥カー [˥nu:ti ˩su:˥ka:](なぜなら。何となれば) ともいう。˥バー ク˩ヌ˥ シ˩グトー シープサー ナー˥ヌ ˥ヌーティ ア˩ズ˥カー ˩モーキララン˥ ベーティ [˥ba: ku˩nu˥ ʃi˩guto: ʃi:pusa: na:˥nu ˥nu:ti ʔa˩ʤu˥ka: ˩mo:kiraram˥ be:ti](私は、この仕事はしたくない。なぜなら儲けられないから)。

˥ヌーティ ˩スー˥ユー **[˥nu:ti ˩su:˥ju:]** 【連】何というのか。不確実、不確定のものを言う際に用いる。ウ˩レー˥ ヌーティ ˩スー˥ユー ッ˩サン˥サー [ʔu ˩re:˥ nu:ti ˩su:˥ju: s˩san˥sa:](それは何というのか、知らないよ)。

ヌーティヌーティ˩ー **[nu:tinu:ti˩:]** 【感】なんだと? なんてなんてえ? ヌーティヌーティ˩ー˥ アイヤ˩ナー˥ト イッ˩カ˥ シ˩ミランバン˥ヨー [nu:tinu:ti ˩:˥ ʔaija˩na:˥to ʔik˩ka˥ ʃi˩mirambaŋ˥jo:](なんてなんてえ?、そんなになんぞは決してさせないからなあ)。

˥ヌーティバ ˩クイティバ **[˥nu:tiba ˩kuitiba]** 【連】何やかや。何の彼の。何とかかんとか。何とかこれとか。˥ヌーティバ ˩クイティバ˥ ワ˩キ˥ヌ ワ˩カラ˥ン ム˩ニ˥バ イ˩ジアー˥ク [˥nu:tiba ˩kuitiba˥ wa˩ki˥nu wa˩kara˥m mu˩ni˥ba ʔi˩ʤiʔa:˥ku](何のかんの訳の分からないことを言っている)。

˥ヌーディマリ **[˥nu:dimari]** 【名】˩何年生まれ˥の義。˩ニー˥ディマリ [˩ni:˥dimari](子年生まれ)、ウ˩シディマリ [ʔu˩ʃidimari](丑年生まれ)、トゥ˩ラディマリ [tu˩radimari](寅年生まれ)、˥ウディマリ [˥ʔudimari](卯年生まれ)、タ˩チディマリ [tḁ˩ʧidimari](辰年生まれ)、˩ミーディマリ [˩mi:dimari](巳年生まれ)、ン˩マ˥ディマリ [ʔm˩ma˥dimari](午年生まれ)、ピ˩チディマリ [pi̥˩ʧidimari](未年生まれ)、˥サディマリ [˥sadimari](申年生まれ)、˩トゥンディマリ [˩tundimari](酉年生まれ)、˩イン˥ディマリ [˩ʔin˥dimari](戌年生まれ)、˩ビーディマリ [˩bi:dimari](亥年生まれ)。マ˩ブ˥ルクミ [ma˩bu˥rukumi](魂籠め) の際には、祈願文＜願い口＞の中に˩魂籠め˥をする本人の生まれ年と実名を入れて祈願する。トゥ˩ラディマリヌ˥ カ˩ザケーヌ シンイチ [tu˩radimarinu˥ ka˩ʤake:nu ʃiŋʔitʃi](寅年生まれの加治工家の真市) の魂籠めであることを示す。

˥ヌーナー ˩クイ˥ナー **[˥nu:na: ˩kui˥na:]** 【連】何か、これか。こんなか、あんなか。どんなか、あんなか。態度のはっきりしない相手を尋問する際に用いる語。˥ヌーナー ˩クイ˥ナーティ ˩ミー˥ミカーミ ˩トゥイ˥ シ˩キソー˥ル [˥nu:na: ˩kui˥na:ti ˩mi: ˥mika:mi ˩tui˥ ʃi̥˩kiso:˥ru](こんなか、あんなかと微に入り細をうがって＜細かい処まで＞問い尋ねなさる)。

˩ヌー˥ ナ˩ル˥ワ **[˩nu:˥ na˩ru˥wa]** 【連】何になるものか＜何にもなりはしない＞。パ˩タラクタンティン˥ ティ˩マ˥ヌ トゥ˩ララン˥カー ˩ヌー˥ ナ˩ル˥ワ [pḁ˩tarakutantin˥ ti˩ma˥nu tu˩raraŋ˥ka: ˩nu:˥ na˩ru˥wa](働いても手間賃が取れなければ何になるものか)。

˩ヌーヌ **[˩nu:nu]** 【名】布。「布、沼能＜ぬの＞、織ニ麻及紵一為レ帛也」『和名抄』。˩ヌーヌ˥ ウ˩ルン [˩nu:nu˥ ʔu˩ruŋ](布を織る)。˩ヌーヌ˥ サ˩ラスン [˩nu:nu˥ sa˩rasuŋ](布を晒す)。

˩ヌー˥ヌ **[˩nu:˥nu]** 【副】どうして～ものか。「何の～も

のか」の義。文末に疑問の終助詞˥ワ [wa](〜か) を伴って反語をあらわす。˩ヌー˥ヌ　˥アイブ　ク˩トゥ˥ヌ　ア˩ル˥ワ [˩nu:˥nu ˥ʔaibu kṵ˩tu˥nu ʔa˩ru˥wa](どうしてそんなことがあるものか < 何の〜あるものか >、そんなことはない)。

˥ヌーヌー **[˥nu:nu:]** 【代】何々。˥ヌー [˥nu:](何) の重言。˩キュー˥ヤ　˥ヌーヌール　˩カーシヌカ˥レーワ [˩kju:˥ja ˥nu:nu:ru ˩ka:ʃinuka˥re:wa](今日は何々が売れ残ったのか)。˥ヌーヌール　˥プサワ [˥nu:nu:ru ˥pṵsawa](何々が欲しいか)。

˩ヌーヌウリ **[˩nu:nuʔuri]** 【名】布織り。機織。˩ヌーヌウリプス [˩nu:nuuripusu](機織をする人)。˩ヌーヌウリゾージ [˩nu:nuʔuridʑo:ʤi](布織り上手)。˩ウン˥ネヌ　˥アッパー　˩ヌーヌウリヌ˥　ウ˩トゥンジ˥プス　ヤ˩ローッ˥タツォー [˩ʔun˥nenu ˥ʔappa: ˩nu:nuʔurinu˥ ʔu˩tuʔnʤi˥pṵsu ja˩ro:t˥tatso:](あの家のお祖母さんは布織りの名手 < 音に聞こえた織り手。有名な織り手 > であられたそうだ)。

˩ヌーヌウリプス **[˩nu:nuʔuripusu]** 【名】布織職人。「布織り人」の義。˩ヌーヌウリプソー　マー˥ル　˩パッ˥ターカヤー [˩nu:nuʔuripuso: ma:˥ru ˩pat˥takaja:](布織り人はどこへ行ったのかねえ)。

˩ヌーヌサラシ **[˩nu:nusaraʃi]** 【名】布晒し。ム˩カ˥シェー　ス˩ナカ˥ナー　˩ヌーノー˥　ア˩ライ˥　プシティール　˩ヌーヌサラシ　ソーッ˥タツォー [mu˩ka˥ʃe: su˩naka˥na: ˩nu:no:˥ ʔa˩rai˥ pṵʃiti:ru ˩nu:nusaraʃi so:t˥tatso:](昔は海で布を洗って干して < ぞ > 布晒しをされたそうだ)。

˩ヌーヌヌ˥　ピダ **[˩nu:nunu˥ pida]** 【連】布のひだ (襞)。布の皺。˩ヌーヌヌ˥　ピダ　ヌ˩バ˥スン [˩nu:-nunu˥ pida nu˩ba˥su](布の皺 <襞(ヒダ)> を伸ばす。布をきぬた < 砧 > で打ってのばす)。

˩ヌーヌヌ˥　ミン **[˩nu:nunu˥ miŋ]** 【連】布幅の両端。「布の耳」の義。˩ヌーヌヌ　ミン˥マー　ヤ˩ゴーマサンドー˥シ　˩ミン˥パルシ　ス˩ロー˥シ　˥タメーティ　ウ˩リ˥ヨー [˩nu:nunu mim˥ma: ja˩go:masando:˥ ʃi ˩mim˥paruʃi su˩ro:ʃi ˥tame:ti ʔu˩ri˥jo:](布の両端 < 布の耳 > は歪ませないで揃えて、伸子(シンシ)< 耳張り > で真直ぐにしながら織りなさいよ)。

˩ヌーヌピカシ **[˩nu:nupi̥kaʃi]** 【名】˩グイ˥フ [˩gui˥ɸu](御用布。貢納布) の貢納を済ませること。「布引かし」の義。˩ヌーヌピカシン˥　シ˩マ˥シ　ウミ˩ナーク　ソー˥レーン [˩nu:nupikaʃiŋ ʃi˩ma˥ʃi ʔumi ˩na:ku so:˥re:ŋ](貢納布の貢納も済ませてほっとされた)。

˩ヌーヌピカシヨイ **[˩nu:nupikaʃijoi]** 【名】貢納布完納祝い。貢納布 < 御用布 > の検査に合格して貢納を済ませると百姓の娘達は喜びのあまり歌い踊って祝ったという。˩グイ˥フ　ウ˩サ˥モールカー　ム˩ル˥　サ˩ニ˥ヤティ　˩サンシンバ˥　ピ˩キル˥　ヨイ　˩ソーッ˥タツォー [˩gui˥ɸu ʔu˩sa˥mo:ruka: mu:˩ru˥ sa˩ni˥jati ˩saŋʃimba˥ pi̥˩kiru˥ joi ˩so:t˥tatso:](御用布を納め終わると皆嬉しいので、三線を弾いてお祝いをされたそうだ)。

˩ヌーヌ˥　ピ˩ダーマスン **[˩nu:nu˥ pi˩da:masuŋ]** 【連】布をきぬた < 砧 > で打って平らにする。˩ヌーヌ˥　ウ˩リティ˥　イ˩ナシケー˥マシ　˩シッ˥キティ　ピ˩ダーマソーッ˥タ [˩nu:nu˥ ʔu˩riti˥ ʔi˩naʃi̥ke:˥maʃi ˩ʃik˥kiti pi˩da:maso:t˥ta](布を織って砧で叩いて平に延ばされた)。

˩ヌーヌフクビ **[˩nu:nuɸṵkubi]** 【名】布の帯。田仕事や畑仕事などの場合は、˥シナフクビ [˥ʃinaɸṵkubi](綱の帯)、バ˩ラフ˥タフクビ [ba˩raɸṵ˥taɸṵkubi](稲藁を結んで作った帯) をして作業をした。˩カーフク˥ビ [˩ka:ɸṵku˥bi](革製の帯。ベルト) は新しく入ってきたもの。˩ヌーヌフクベー˥　キ˩ザルキザルトゥ　ヨイ˥ヌ　˥ピンナードゥ　˩ソーッ˥タ [˩nu:nuɸṵkube:˥ ki˩dʑarukidʑarutu joi˥nu ˥pindu ˩so:t˥ta](布の帯は行事行事と祝儀の時に締められた)。

˩ヌーヌマッふァ **[˩nu:numaffa]** 【名】布製の枕。「布枕」の義。布袋に籾殻を入れたり、小豆を入れたりして作った枕。ハイカラな枕として男女に好まれたが、一般の家庭では木枕が多用されていた。˩ヌーヌマッふァー˥　バ˩カー˥ムンドゥ　シ˩タル　ウイ˥プソー　˩ソーラン˥シェン [˩nu:numaffa:˥ ba˩ka: ˥mundu ʃi̥˩taru ʔui˥pṵso: ˩so:raŋ˥ʃeŋ](布枕は若者がしたのであって、老人はしなかった)。

˩ヌー˥ヌヤー **[˩nu:˥nuja:]** 【連】何の事もない。何ほどのこともない。何のその。意外にも。˩キュー˥ヤ　˩バー˥ル　イ˩チ˥バンティ　˥ウムイ　˥パルンケン　˩ヌー˥ヌヤー　キ˩サーティ˥　プ˩ソー　キー˥　ブタル [˩kju:˥ja ˩ba:˥ru ʔi˩ʧi˥banti ˥ʔumui ˥paruŋken ˩nu:˥nuja: ki̥˩sa:ti˥ pṵ˩so: ki:˥ butaru](今日は、私が一番だと思って行くと、何の事もない < 意外にも > 既に他人が来ていたよ)。

˩ヌー˥ピー **[˩nu:˥pi:]** 【名】野火。原野を焼く火。˩ヌーピー˥ヤ　カ˩ジヌ˥　ッ˩ソーマーラル˥　ヤ˩ク [˩nu:pi:˥ja ka˩ʤinu˥ s˩so:mararu˥ ja˩ku](野焼きの野火は風下から風上へと焼くものだ)。˩タール　ヌー˥ピー　ス˩ク˥タカヤー [˩ta:ru nu:˥pi: sṵ˩ku˥takaja:](誰

が野火を点けたのかなあ)。

˜ヌーピー [˜nu:pi:] 【名】何の日。「干支の何れの日」の意。老年層は、˜ヌーニー [˜nu:ni:](何の干支) という。˞キュー˜ヤ　˜ヌーピーヤ [˞kju:˜ja ˜nu:pi:ja](今日は < 干支の > 何の日か)。

˞ヌー˜マイ [˞nu:˜mai] 【名】玄米。搗いてない米。「能米(ノウマイ)、黒米、玄米」の義『文明本節用集』の転訛。鎌倉時代の語。˜ッサイマイ [˜ssaimai](精米) の対義語。グ˞サークマイ˜ヤー　˞ヌー˜マイシェー　ア˞ラ˜ヌ　˜ッサイマイシル　ン˞ザ˜ソーッタ [gu˞sa:kumai˜ja: ˞nu:˜maiʃe: ʔa˞ra˜nu ˜ssaimaiʃiru ʔn˞ʤa˜so:tta](村行事に拠出する五勺米は玄米ではなく、精米で出された)。

˞ヌー˜ミチ [˞nu:˜mitʃi] 【名】野道。ク˞バシター˜ヌ　˞ター˜ヤー　˞ヌー˜ミチ　ヤ˞マシュ˜カ　ア˞ラキ˜ル　˞パッ˜タ [ku˞baʃi̥ta:˜nu ˞ta:˜ja: ˞nu:˜mitʃi ja˞masï ˜ka ʔa˞raki˜ru ˞pat˜ta](クバシターの田圃へは野道をかなり歩いて < ぞ > 行ったものだ)。

˜ヌーヤ [˜nu:ja] 【連】何か。何であるか。何なのか。疑問代名詞˜ヌー [nu:](何) に、常に疑問詞と呼応して用いられる疑問の終助詞˜ヤ [ja](か) の付いたもの。ク˞レー˜　ヌーヤ [ku˞re:˜ nu:ja](これは何か)。˞ギューチ˜ヤ [˞gju:tʃi˜ja](幾つか < 何歳か >)。

˞ヌー˜ヤーカ　˜ヌー [˞nu:˜ja:ka ˜nu:] 【連】何だから何だ。何なら何だ。これこれしかじか。˞ヌー˜ヤーカ　˜ヌーティ　ア˞ザバル˜　ッ˞シェー˜ル [˞nu:˜ja:ka ˜nu:ti ʔa˞ʤabaru˜ ʃ˞ʃe:˜ru](何だから何だと言わばこそ < ぞ他人は > 始めてわかる < 理解できる > ものだ)。

˞ヌー˜ヤークイヤー [˞nu:˜ja:kuija:] 【連】なにやかや(何や彼や)。あれやこれや。なんだのかんだの。˞ヌー˜ヤークイヤー　ムー˞ル˜　バーントンル　タ˞ナ˜ミン　˜クー [˞nu:˜ja: ˜kuija: mu:˞ru˜ ba:ntonru ta ˞na˜miŋ ˜ku:](何やかや全部私のところに < ぞ > 頼みに来る)。

ヌーヤ˞ツォー [nu:ja˞tso:] 【連】何かってば。何だってば。ヌーヤ˞ツォー　ヌー˜ル　˜ヌーテー　˞ナー˜ムティ　プ˞スカーニ˜　ヤ˞ラブワト ツォー [nu:ja˞tso: nu:˜ru ˜nu:te: ˞na:˜muti pu̥˞suka:ni˜ ja˞rabuwa-tso:](何だってば、訳もなく < 何が何だということもなく >、他人だけを呼ぶのか)。

˜ヌー　ヤ˞ラバン [˜nu: ja˞rabaŋ] 【連】何であっても。何でも。キ˞サリ　ムノー˜　ヌー　ヤ˞ラバン˜　ミサン　キ˞スン˜ダー [ki̥˞sari muno:˜ nu: ja˞rabam ˜ misaŋ ki̥˞sun˜da:](着られるものは何でも良い。着るよ)。ッ˞ふァーリ　ムノー˜　ヌー　ヤ˞ラバン˜　ッ˞ふン [f˞fa:ri muno:˜ nu: ja˞rabaŋ˜ f˞fuŋ](食べられるものは何でも食べる)。

˞ヌー˜　ヤリバル [˞nu:˜ jaribaru] 【連】何様だから。「何だからぞ」の義。˞ワー　ヌー˜　ヤリバル　プ˞スンナー˜ニ　ギ˞チバ　シー　アーク˜ワ [˞wa: nu: ˜ jaribaru pu̥˞sunna:˜ni gi˞ʧiba ʃi: ʔa:ku˜wa](君は何様だから他人に指図 < 下知 > しているのか)。

˜ヌー　ヤ˞ル˜ユー [˜nu: ja˞ru˜ju:] 【連】何なのか。何であるのか。ウ˞レー˜　ヌー　ヤ˞ル˜ユー　˞トゥイ˜　シ˞キ˜ミリバ [ʔu˞re:˜ nu: ja˞ru˜ju: ˞tui˜ ʃi̥˞ki˜ miriba](それは何なのか、問い尋ねてみなさい)。˜ヌー　ヤ˞ル˜ユー　ッ˞サヌ [˜nu: ja˞ru˜ju: s˞sanu](何なのか分から < 知ら > ない)。

˜ヌーユイ [˜nu:jui] 【名】何故。何のため。ウ˞ヤ˜ヌ　˞アウ˜リナンギ　˞ソー˜ル　˜ムノー　˜ヌーユイヤ [ʔu˞ja˜nu ˞ʔau˜rinaŋgi ˞so:˜ru ˜muno: ˜nu:juija](親が難儀苦労をされるのは何故か < 何のためか >)。

˞ヌー˜ユンサー [˞nu:˜junsa:] 【連】なにゆえか。どうしてか。何なのか。「何故なのか」の義。˞ヌー˜ユンサー　ッ˞サンヌドゥ　クン˜ゾー　ウ˞ク˜リ　˞オー˜ル [˞nu:˜junsa: s˞sannudu kun˜ʤo: ʔu˞ku˜ri ˞ʔo: ˜ru](何故か分からないが怒っておられる)。

˞ヌーラスン [˞nu:rasuŋ] 【他動】乗せる。乗船させる (乗組員にする)。˞ヌースン [˞nu:suŋ](乗せる) ともいう。カ˞ツシン　ヌーラスンティ˜　シ˞タンドゥ　ヌーラサランシェン [kḁ˞tsuʃin nu:rasunti˜ ʃi̥˞tandu nu:rasaraŋʃeŋ](カツオ漁船に乗せようとしたが、乗せられなかった)。˞ヌーラシ˜　ミサン [˞nu:raʃi˜ misaŋ](乗船させてもも良い)。ミ˞ドゥ˜モー　カ˞ツシン　ヌーラス˜　クトー　ナ˞ラン˜シェン [mi˞du˜mo: kḁ˞tsuʃin nu:rasu˜ku̥to: na˞raŋ˜ʃeŋ](女性はカツオ漁船に乗せることは出来なかった)。˞パー˜ク　˞ヌーラシェー˜　ミサムヌ [˞pa:˜ku ˞nu:raʃe: ˜ misamunu](早く乗船させれば良いのに)。ヤー˞ディン　ヌーラシ [ja:˞din nu:raʃi](必ず乗船させなさい)。

˞ヌーリ˜ウリ [˞nu:ri˜ʔuri] 【名】上り下り。˜トゥシ　トゥ˞ル˜ター　フ˞ニ˜ヌ　˞ヌーリ˜ウリン　˞タンガ˜シェー　˞シーユーサヌ [˜tu̥ʃi tu˞ru˜ta: ɸu˞ni˜nu ˞nu:ri˜ʔurin ˞taŋga˜ʃe: ˞ʃi:ju:sanu](年をとったので船の乗り降りも出来ない < し得ない >)。

˞ヌーリカイルン [˞nu:rikairuŋ] 【自動】乗り換える。イ˞サンケー　ギーティ˜　ウ˞キ˜ナーヌ　˜フニナ　˞ヌーリカイルンティ˜　シ˞タンドゥ　ヌーリカ

イラランシェン [ʔiˬsaŋkeː giːti˥ ʔuˬki˥naːnu ˥ɸunina ˬnuːrikairunti˥ ʃiˬtandu nuːrikairaraŋʃeŋ](石垣へ行って、沖縄への船に乗り換えようとしたが、乗り換えられなかった)。「ヌーリカイ˥　ミサカー˥キューズーナ　「ヌーリカイル˥　クトー　˥ナルン [ˬnuːrikai˥ misakaː ˥kjuːʤuːna ˬnuːrikairu˥ kʊtoː˥ naruŋ](乗り換えてよければ、今日中に乗り換えることは出来る)。「ヌーリカイヤー˥　ミサムヌ [ˬnuːrikaija:˥ misamunu](乗り換えればいいのに)。ヤー「ディン　ヌーリカイリ [jaːˬdin nuːrikairi](必ず乗り換えよ)。

「ヌーリククチ **[ˬnuːrikʊ̥kutʃi]** 【名】乗り心地。標準語からの借用語の転訛したもの。「ワー　ミークルマヌ　ヌーリククチェー　ヌー˥シヤー [ˬwaː miːkurumanu nuːrikʊ̥kutʃeː nuː˥ʃijaː](君の新車の乗り心地はいかがですか)。

「ヌーリザカ **[ˬnuːriʤaka]** 【名】上り坂。ヤ「マ˥ミチェー　「ヌーリザカヌ　ゴー˥ラーン [jaˬmami˥ʧeː ˬnuːriʤakanu goː˥raːŋ](山道は上り坂が多い)。

「ヌーリッツァースン **[ˬnuːrittsaːsuŋ]** 【他動】塗りたくる。めちゃくちゃに塗る。塗り散らす。˥シン　「ヌーリッツァーシ˥　シケー [˥ʃiŋ ˬnuːrittsaːʃi˥ ʃi̥keː](墨を塗りたくってある)。˥アイニ　「ヌーリッツァーサン　ブリ˥バ [˥ʔaini ˬnuːrittsaːsam buri˥ba](あんなに塗りたくるなよ＜塗りちらかすな＞)。アˬザン˥カー　「ヌーリッツァースン˥ダー [ʔaˬʤaŋ˥kaː ˬnuːrittsaːsun˥daː](言ってやらないと塗りたくるよ)。「ヌーリッツァース˥　プˬソー˥　ブˬラーヌ˥　ナルカー　「ヌーリッツァーシェー˥　ミサムヌ [ˬnuːrittsaːsu˥ pʊ̥ˬsoː˥ buˬraːnunu˥ narukaː ˬnuːrittsaːʃeː˥ misamunu](塗りたくる人はいないが、可能なら塗りたくればいいのに)。ムーˬル　ヌーリッツァーシ˥バ [muːˬru ˬnuːrittsaːʃi˥ba](全部塗りたくれよ)。

「ヌーリ　パンツァスン **[ˬnuːri pantsasuŋ]** 【連】乗り損ねる。乗り遅れる。「Norifazzuxi,su,zzuita. ノリハヅシ, ス, イタ (乗り外し、す、いた) 乗るはずであった船に乗りそこなう、～」『邦訳日葡辞書』の転訛。「ウンパンシン˥ヌ　ウˬクリテイ　キュー˥ヌ　ウˬキ˥ナーヌ　「ビン　ヌーリ　パンツァシ　ナー˥ヌ [ˬʔumpaŋʃin˥nu ʔuˬkuriti kjuː˥nu ʔuˬki˥naːnu ˬbin nuːri pantsaʃi naː˥nu](運搬船が遅れて、今日の沖縄への便に乗り損ねてしまった)。

「ヌーリフチ **[ˬnuːriɸʊ̥ʧi]** 【名】上り口。山に入る入り口。ヤˬマ˥ヌ　「ヌーリフチ˥ナー　ウˬブイシ˥ヌ　˥アン [jaˬma˥nu ˬnuːriɸʊ̥ʧi˥naː ʔuˬbuʔiʃi˥nu ˥ʔaŋ](山の入り口に大きな石＜岩＞がある)。

「ヌーリフチ **[ˬnuːriɸʊ̥ʧi]** 【名】登り方。「ヌー˥シル　「ヌール˥ユー　「ヌーリフチェー˥　ッˬサヌ [ˬnuː˥ʃiru ˬnuːru˥juː ˬnuːriɸʊ̥ʧeː˥ sˬsanu](どうやって登るか、登り方は知らない)。

「ヌーリミチ **[ˬnuːrimiʧi]** 【名】登り方。「キー˥ヌ　「ヌーリミチェー˥　ッˬシティ˥　ウˬリ˥ミチェー　ッˬサヌ [ˬkiː˥nu ˬnuːrimiʧeː˥ ˬʃiti˥ ʔuˬri˥miʧeː sˬsanu](木の登り方は知っているが、降り方は知らない)。

「ヌーリムヌ **[ˬnuːrimunu]** 【名】乗り物。船や車。交通機関。「ヌーリムヌ˥ナー　「ヌーレー˥ティル　ニ　ˬシェーパヤー˥ヌ　「ギームドゥロー　ソーッ˥タ [ˬnuːrimunu˥naː ˬnuːreː˥tiru niˬʃeːpajaː˥nu ˬgiːmuduroː soːt˥ta](乗り物＜イダフニ＞に乗って、西表へ鳩間への＜北へ南へ＞の往来＜行き戻り＞はなさったのだ)。

「ヌーリンーマ **[ˬnuːriʔmːma]** 【名】乗り馬。乗馬用の馬。鳩間島には馬はいなかったが、石垣島や西表島には荷馬車用の馬や乗馬用の馬が飼育されていた。イˬサンケー˥ナーヤ　「ヌーリンーマン˥　ミツンケン　ブˬリブタ [ʔiˬsaŋkeː˥naːja ˬnuːriʔmːmam˥ mitsuŋkem buˬributa](石垣島には乗馬用の馬も沢山いた＜居り居った＞)。

「ヌー˥ル **[ˬnuː˥ru]** 【名】のり (糊)。「ウンヌ˥クジシ　「ヌー˥ル　タˬキティ　ソージ˥　パˬリ˥バ [ˬʔunnu˥ kuʤiʃi ˬnuː˥ru tʊ̥ˬkiti soːʤi˥ paˬri˥ba](芋の澱粉で糊を炊いて障子を張りなさい)。

「ヌー˥ル **[ˬnuː˥ru]** 【名】漆(ウルシ)。ペンキ。ジˬブ˥クナー　「ヌー˥ル　ッˬふァースン [ʤiˬbu˥kuna: ˬnuː˥ru fˬfaː-suŋ](重箱に漆を塗る＜食わせる＞)。ッˬふヌー˥ル [fˬfunuː˥ru](黒塗り)。アˬガヌール [ʔaˬganuːru](朱塗り)。カˬツシン˥ナー　「ヌー˥ル　ッˬふァースン [kʊ̥ˬtsuʃin˥naː ˬnuː˥ru fˬfaːsuŋ](カツオ漁船にペンキを塗る＜食わせる＞)。

「ヌー˥ル **[ˬnuː˥ru]** 【名】(植) 海藻。トゥˬキドゥ˥ケー　˥フネー　アˬギティ˥　ヤˬカン˥カー　「ヌー˥ル　ˬフイ˥ス [tʊ̥ˬkidu˥keː ˥ɸuneː ʔaˬgiti˥ jaˬkaŋ˥kaː ˬnuː˥ru ˬɸui˥su](時々は船を陸揚げして船底を焼かないと苔(コケ)＜海藻＞が生える)。

「ヌー˥ル　˥カブン **[ˬnuː˥ru ˥kabuŋ]** 【連】顔にしみ (染み) が出る。ウˬム˥テー　「ヌー˥ル　˥カビティ　キˬムイツァー˥ヌ　ミˬララ˥ヌ [ʔuˬmu˥teː ˬnuː˥ru ˥kabiti kiˬmuitsaː˥nu miˬraraˬnu](顔には染みがたくさん出て可哀相で見られない)。

˹ヌー˺ル　˹シーオール˺ワ **[˹nuː˺ru ˹ʃiːoːru˺wa]** 【連】何をしておられますか。マ˹ナ˺マー　˹ヌー˺ル＜˹ヌー˺バ＞　˹シーオール˺ワ [ma˹na˺maː ˹nuː˺ru＜˹nuː˺ba＞ ˹ʃiːoːru˺wa](今は何をしておられますか)。

˹ヌール˺シキ **[˹nuːru˺ʃi̥ki]** 【名】衣類にのり付けをすること。ナ˹チキン˺マー　˹ヌール˺シキ　˹シェー˺ティ　キ˹サシ˺バ [na˹tʃikim˺maː ˹nuːru˺ʃi̥ki ˹ʃeː˺ti ki̥ ˹saʃi˺ba](夏着はのり付けして着せてやり＜着させ＞なさい)。

˹ヌー˺ル　シ˹ラリワ **[˹nuː˺ru ʃi˹rariwa]** 【連】どうしようもない。どうにもならない。「何ができようか～出来ない」の義。˹ミートゥンダバカ˺リ　˹シーナーン˺ムヌ　マ˹ナ˺マーラ　˹ヌー˺ル　シ˹ラリワ [˹miːtundabaka˺ri ˹ʃiːnaːm˺munu ma˹na˺maːra ˹nuː˺ru ʃi˹rariwa](夫婦分かれしてしまったのに、今からどうしようもない＜何ができできようか＞)。

˹ヌー˺ル　˺ヌーティ　˹ナー˺ムティ **[˹nuː˺ru ˺nuːti ˹naː˺muti]** 【連】何の理由もなく。訳も無く。「何が何だからとてもなく」の義。˹ヌー˺ル　˺ヌーテー　˹ナー˺ムティ　ウ˹ブ˺バライ　˹シー　ベー˺ヌ　˺ヌーカヤー [˹nuː˺ru ˺nuːteː ˹naː˺muti ʔu˹bu˺barai ˹ʃiː beː˺nu ˺nuːkajaː](訳も無く大笑いしているが、一体どうしたのだろう)。

˹ヌー˺ル　˺フーン **[˹nuː˺ru ˺ɸuːŋ]** 【連】苔むす。海苔(ノリ)が生える。汚れる。˹ヤー˺ヤ　プ˹スヌ˺　シ˹マン˺カー　˹ヌー˺ル　フーン˹ダー [˹jaː˺ja pu̥˹sunu˺ ʃi˹maŋ˺ka: ˹nuː˺ru ɸuːn˹daː](家は人が住まないと苔が生えるよ)。

˹ヌー˺ルフム **[˹nuː˺ruɸumu]** 【名】入道雲。積乱雲。ヌ˹リクム [nu˹rikumu](入道雲。黒雲) ともいう。˹ヌー˺ルフムヌ　˺ンジティ　ッ˹ふァガマーリ　ブンダ˺　ア˹ミ˺ヌ　˺フーパジ [˹nuː˺ruɸumunu ˺ʔndʑiti f ˹fagamaːri bunda˺ ʔa˹mi˺nu ˺ɸuːpadʑi](入道雲が出て辺りが暗がってきたから雨が降るはずだ)。

˹ヌール˺ムヌ **[˹nuːru˺munu]** 【名】塗り物。漆を塗った器具類。重箱、膳、吸い物椀など。ヌ˹リ˺ムヌ [nu˹ri˺munu](塗りもの) ともいう。ジ˹ブ˺ク　˹ジン　シームヌバン˺ドレーヌ　˹ヌール˺ムノー　˹ヨイ˺トゥ　キ˹ザル　ソッ˺コーナール　シゥ˹カイヨーッ˺タ [dʑi˹bu˺ku ˹dʑiŋ ʃiːmunuban˺doːreːnu ˹nuːru˺muno: ˹joi˺tu ki˹dʑaru sok˺koːnaːru s̥i̥˹kaijoːt˺ta](重箱、お膳、吸い物椀などの塗り物は祝儀や年中行事、法事などで使われた)。

˹ヌールン **[˹nuːruŋ]** 【自動】乗る。˺フニナー　˹ヌールンティ˺　シ˹タンドゥ˺　ムー˹ロー　ヌーラランシェン [˺ɸunina: ˹nuːrunti˺ ʃi̥˹tandu˺ muː˹roː nuːraraŋʃeŋ](船に乗ろうとしたが、皆＜全員＞は乗られなかった)。˹ヌーリ˺　ミサカー　˹バン˺ヌン　˹ヌール˺　クトー　˺ナルン [˹nuːri˺ misakaː ˹ban˺nun ˹nuːru˺ ku̥toː ˺naruŋ](乗ってよければ私も乗ることは出来る)。˹ワンヌン　ヌーレー˺　ミサムヌ [˹wannun nuːreː˺ misamunu](君も乗ればいいのに)。˹パー˺ク　˺フニナー　˹ヌーリ˺バ [˹paː˺ku ˺ɸunina: ˹nuːri˺ba](早く船に乗れよ)。

˹ヌールン **[˹nuːruŋ]** 【自動】上がる。登る。˹ウンター　ヌールン [˹ʔunta: nuːruŋ](上位に上る。位が上がる)。˹キー˺ヌ　˺ウイ　˹ヌールン [˹kiː˺nu ˺ʔui ˹nuːruŋ](木の上に登る)。˹ヌーラヌ [˹nuːranu](登らない。上がらない)。˹ヌーリ˺プサン [˹nuːri˺pusaŋ](登りたい)。˹ヌール˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [˹nuːru˺ ku̥toː na˹ra˺nu](登ることはできない)。˹ヌーレー˺　ミサムヌ [˹nuːreː˺ misamunu](登ればいいのに)。˹パー˺ク　˹ヌーリ [˹paː˺ku ˹nuːri](早く登れ)。

˹ヌールン **[˹nuːruŋ]** 【他動】塗る。塗布する。˺フニナー　˹ペン˺キ　˹ヌールンティ　スンドゥ　ヌーララヌ [˺ɸunina: ˹peŋ˺ki ˹nuːrunti sundu nuːraranu](船にペンキを塗ろうとするが、塗られない)。˹ペン˺キ　˹ヌーリ˺　プサンドゥ　˹ヌール˺　プ˹スヌ˺　ブ˹ラーヌ [˹peŋ˺ki ˹nuːri˺ pu̥sandu ˹nuːru˺ pu̥˹sunu˺ bu˹raːnu](ペンキを塗りたいが、塗る人がいない)。ア˹ガペンキ　ヌーレー˺　ミサムヌ [ʔa˹gapeŋki nuːreː˺ misamunu](赤ペンキを塗れば良いのに)。˺クマー　˹ペン˺キ　˹ヌーリ˺バ [˺kuma: ˹peŋ˺ki ˹nuːri ˺ba](ここはペンキを塗れよ)。˺イル　˹ヌールン [˺ʔiru ˹nuːruŋ](色を塗る)。

˺ヌーン **[˺nuːŋ]** 【他動】抜き取る。抜く。抜ける。「脱・祖、ヌグ」『類聚名義抄』。「～直に逢ふまでは吾將脱八方＜ヌガメヤモ＞。万、747」の転訛。˹フン˺　ヌーンティ　˹スンドゥ　ノーラン˺バン [˹ɸun ˺ nuːnti ˹sundu noːram˺baŋ](釘を抜こうとするが、抜かれないよ)。カ˹ナパイヌ　ユイ˺　ヌイ˹シティ　ナー˺ヌ [ka˹napainu jui˺ nui˹ʃi̥ti naː˺nu](鍬の柄を抜き取ってしまった)。ク˹ヌ　ユイヤー　ヌイ˺ス [ku˹nu juija: nui˺su](この柄は抜けるよ)。ク˹ヌ　ユイヤー˺　ヌー　˺クトー　˹ナー˺ヌ [ku˹nu juijaː˺ nuː ˺ku̥toː ˹naː˺nu](この柄が抜けることはない)。カ˹ナパイヌ　ユイヤー　ヌイ˺ヤー　˺ミサムヌ [ka˹napainu juija: nui˺ja: ˺misamunu](鍬の柄は抜けばいいのに)。˺ドゥーシ　˺ヌイバ [˺duːʃi ˺nuiba](自分で抜けよ)。

˥ヌーン [˥nuːŋ] 【他動】縫う。「～晒さず縫之 < ヌヒシ > 吾が下衣。万、1315」。クˬリ˥シ ˥キン ˥ヌーン [kuˬri˥ʃi ˥kin ˥nuːŋ](これで着物を縫う)。クˬリ˥シェー ˬノーラ˥ヌ [kuˬri˥ʃeː ˬnoːra˥nu](これでは縫われない)。˥ドゥーシ ˬヌイ˥ プサンドゥ ˥ヌークˬトゥヌ˥ル ナˬラ˥ヌ [˥duːʃi ˬnui˥ pu̥sandu ˥nuː ku̥ˬtunu˥ru naˬra˥nu](自分で縫いたいが、縫うことができない)。プˬスバ˥ タˬルガカンドー˥シ ˥ドゥーシ ˬヌイ˥ヤー ˥ミサムヌ [pu̥ˬsuba˥ ta ˬrugakandoː˥ʃi ˥duːʃi ˬnui˥jaː ˥misamunu](人を当てにしないで自分で縫えば良いのに)。ˬパー˥ク ˥ドゥーシ ˥ヌイバ [ˬpaː˥ku ˥duːʃi ˥nuiba](早く自分で縫えよ)。

˥ヌーン [˥nuːŋ] 【他動】綯(ナ)う。縄を綯う。古老は、˥ナウン [˥nauŋ](綯う) という。˥シナ ˥ヌーンティ ˬスンドゥ˥ クˬリ˥シェー ˬノーラ˥ヌ [˥ʃina ˥nuːnti ˬsundu˥ kuˬri˥ʃeː ˬnoːra˥nu](縄 < 綱 > を綯おうとするが、これでは綯えない)。˥シナ ˬヌイ˥プサカー ˥ヌークトー ナルンˬダー [˥ʃina ˬnui˥pu̥sakaː ˥nuː ˥ku̥toː narunˬdaː](縄を綯いたければ綯うことはできるよ)。˥シナ ˬヌイ˥ヤー ˥ミサムヌ [˥ʃina ˬnui˥jaː ˥misamunu](縄を綯えばいいのに)。ˬパー˥ク ˥ヌイバ [ˬpaː˥ku ˥nuiba](早く綯えよ)。

ˬヌーンガ˥ナ [ˬnuːʔŋga˥na] 【名】(植) ノニガナ。「のにがな (野苦菜)」の義。野原や畑に自生している。苦味が強く、胃腸病に効くといわれ、昔から刺身や魚のお汁に入れて食されてきた。カツオの頭の重厚なだし汁にはノニガナの苦味が調和した。刺身には細かく刻んで刺身の妻として重用された。シˬヌマール˥ヌ ナˬマ˥シ ˬボー˥ダナマシナーヤ ˬチャー˥ ンˬガ˥ナ キˬザミティ˥ イˬローッ˥タン [ʃiˬnumaːru˥nu naˬma˥ʃi ˬbo:˥danamaʃinaːja ˬtʃaː˥ ʔŋ ˬga˥na kiˬʤamiti˥ ʔiˬroːt˥taŋ](テングハギの刺身やキツネブダイの刺身には常にニガナ < 苦菜 > を刻んで入れられたものだ)。

˥ヌーンクイン [˥nuːŋkuiŋ] 【副】何もかも。何事も。すべて。˥ヌーンクイン ˬゾー˥トゥニ スˬクˬリ ˥シケー [˥nuːŋkin ˬʤoː˥tuni su̥ˬku˥ri ˥ʃi̥keː](何もかも立派 < 上等 > に作ってある)。˥ヌーンクイン スˬルイ˥ル ˥ブー フˬスコー ナー˥ヌ [˥nuːŋkuin su ˬrui˥ru ˥buː ɸu̥ˬsukoː naː˥nu](何もかも揃っている。不足はない)。

ˬヌーン˥ブカラ [ˬnuːm˥bukara] 【副】いかほど (如何程)。どれほど。どのくらい。˥イダフニナー ˬニー˥ヤ ˬヌーン˥ブカラ シˬマリワ [˥ʔidaɸunina: ˬniː˥ ja ˬnuːm˥bukara ʃiˬmariwa](サバニ < 板舟 > には荷がどれほど積めるか)。

˥ヌイ [˥nui] 【感】何。何か。何かね。目上の者から目下の者に対する返事。˥ヌイ ヌイˬツォー˥ ヌーテーˬナー˥ムティ プˬスバ˥ ヤˬラブワレー [˥nui nui ˬtsoː˥ nuːteː ˬnaː˥muti pu̥ˬsuba˥ jaˬrabuwareː](何、何だってば、用もないのに < 何だからともないのに > 人を呼ぶのかよ)。

ˬヌイ˥イトゥ [ˬnui˥ʔitu] 【名】縫い糸。裁縫糸。ˬキンヌイ˥イトゥ ˬカイ˥ クー [ˬkinnui˥ʔitu ˬkai˥ kuː](着物を縫う糸 < 縫い糸 > を買ってこい)。ムˬカ˥シェー ˥ブーイトゥバル ˬキンヌイ˥イトゥ ˬソーッタ˥ル [muˬka˥ʃeː ˥buːʔitubaru ˬkinnui˥ʔitu ˬsoːtta˥ru](昔は麻糸を裁縫糸 < 縫い糸 > に使用されたものだ)。

ˬヌイ˥クムン [ˬnui˥kumuŋ] 【他動】縫い込む。縫い付ける。バˬキンッサー˥ラー マˬチ˥ アˬティティ ヌイ˥クミ ˥シケー [baˬkinssaː˥raː maˬtʃi˥ ʔaˬtiti nui˥kumi ˥ʃi̥keː](腋の下はマチをあてて縫い込んである)。

ˬヌイ˥フチ [ˬnui˥ɸu̥tʃi] 【名】1縫い初め。縫い口。ˬヌイ˥フチェー クˬマークマー˥シ ˥ヌイバ [ˬnui˥ ɸu̥tʃeː kuˬmaːkumaː˥ʃi ˥nuiba](縫い始め < 縫い口 > は細かく縫いなさい)。2縫い方。ˬキン˥ヌ ˬヌイ˥フチ ッˬサンベー˥ティ ˥キン ヌイˬサヌ [ˬkin˥nu ˬnui˥ɸu̥tʃi sˬsambeː˥ti ˥kin nuiˬsanu](着物の縫い方を知らないので、着物を縫うことが出来ない)。

ˬヌイ˥ミー [ˬnui˥miː] 【名】縫い目。ˬヌイミー˥ヌ アˬラー˥ユンダ ˬタール ヌイ˥ヤーティ ワˬカ˥ルン [ˬnuimiː˥nu ʔaˬraː˥junda ˬtaːru nui˥jaːti waˬka˥ ruŋ](縫い目が粗いから誰が縫ったかがわかる)。

ˬヌイ˥ミチ [ˬnui˥mitʃi] 【名】縫い方。ˬキン˥ヌ ˬヌイ˥ミチ ッˬサン˥カー ˬシン˥シェーラ ˥ナライ ˥クーバ [ˬkin˥nu ˬnui˥mitʃi sˬsaŋ˥ka: ˬʃiŋ˥ʃeːra ˥narai ˥kuːba](着物の縫い方を知らなければ先生から習ってきなさいよ)。

ˬヌイ˥ムヌ [ˬnui˥munu] 【名】縫い物。裁縫。ˬヌイ˥ムヌ ˬシール˥ ウˬビ˥ヌ ッˬふァー˥ シゥˬカナウタ˥ル [ˬnui˥munu ˬʃiːru˥ ʔuˬbi˥nu fˬfaː˥ si̥ˬkanauta˥ru](縫い物をして < ぞ > あれだけの子供を養育したのだ)。

ˬヌイ˥ルン [ˬnui˥ruŋ] 【自動】抜ける。「ぬげ < 脱げ > る」の転訛したもの。ウˬブヤン スー˥カーガˬマ˥ジェー ˬヌイ˥ルンティ スˬクタヌ ヌイラン˥シェン [ʔuˬbujan suː˥ka: gaˬma˥ʤeː ˬnui˥runti su̥

˞kutanu nuiraŋ˞ʃeŋ](大病をすると頭髪が抜けると聞いたが、抜けなかった)。ガ˞マ˞ジェー　˞ヌイパリ　˞ナー˞ヌ [ga˞ma˞ʤe: ˞nuipari ˞na:˞nu](頭髪は抜けていってしまった)。ガ˞マジ˞ヌ　˞ヌイ˞ル　˞ピンマー　˞キー˞　シ˞キ˞リ [ga˞maʤi˞nu ˞nui˞ru ˞pimma: ˞ki:˞ ʃi̥˞ki˞ri](頭髪が抜けるときは気をつけなさい)。

˞ヌカ [˞nuka] 【名】ぬか (糠)。「糠、沼賀 (ぬか)、米皮也」『和名抄』の転訛。˞マイヌ˞　ヌカシ　˞ダイ˞クニ　シ˞キ˞バ [˞mainu˞ nukaʃi ˞dai˞kuni ʃi̥˞ki˞ba](米糠で大根を漬けなさい)。˞マイヌ˞　ヌカシ　˞マカルドング　ア˞ラウ˞カー　ユ˞グリムノー˞　イッ˞ケン˞　ウ˞ティ˞ルンティ˞ダー [˞mainu˞ nukaʃi ˞makarudoŋgu ʔa˞rau˞ka: ju˞gurimuno:˞ ʔik˞keŋ˞ ʔu˞ti˞runti˞da:](米糠でお椀類を洗うと、汚れは非常によく落ちるそうだよ)。

ヌ˞カー˞シ [nu˞ka:˞ʃi] 【名】主婦たちが共同の夜業をする際、小金を出し合ってソーメンを買いや食を調理して食すること。

ヌ˞カー˞スン [nu˞ka:˞suŋ] 【他動】金を出し合う。金を募りあつめて一定の目的に使う。˞ニカー　ヒャ˞クエン˞ナー　ヌ˞カー˞シティ　˞ソーミ˞ンチャンプルー　˞シー˞　ッ˞ふァー˞ディー [˞nika: ça˞kujen ˞na: nu˞ka:˞ʃi̥ti ˞so:mintʃam˞puru: ˞ʃi:˞ f˞fa:˞di:](今夜は百円ずつ出し合って素麺チャンプルーをして食べようよ)。ヌ˞カー˞スンティ　シ˞タンドゥ　アッ˞タニ　シ˞グトゥヌ˞　ン˞ズ˞ター　ヌ˞カーサン˞シェン [nu˞ka:˞sunti ʃi̥˞tandu ʔat˞tani ʃi˞gutunu˞ ʔn˞ʤu˞ta: nu˞ka:saŋ˞ʃeŋ](金を出し合おうとしたが、急に仕事が出てきたので金を出し合わなかった)。マ˞ナ˞マー　ヌ˞カー˞ス　˞クトー　サ˞ヌ [ma˞na˞ma: nu˞ka:˞su ˞ku̥to: sa˞nu](今は金を出し合うことはしない)。フ˞タール˞シ　ヌ˞カー˞シェー　˞ミサムヌ [ɸu̥˞ta:ru˞ʃi nu˞ka:˞ʃe: ˞misamunu](二人で金を出し合えばいいのに)。ワ˞ター˞シ　ヌ˞カー˞シバ [wa˞ta: ˞ʃi nu˞ka:˞ʃiba](君達でお金を出し合いなさいよ)。

˞ヌカアミ [˞nukaʔami] 【名】糠雨。こぬかあめ。霧雨。˞ヌカアミ　ヤ˞ルンダ　ゾーラヌ [˞nukaʔami ja ˞runda ʤo:ranu](糠雨 < 霧雨 > だから濡れないよ)。

ヌ˞カ˞スン [nu˞ka˞suŋ] 【他動】残す。ン˞メーマー˞　ヌ˞カ˞スンティ　シ˞タヌ˞　ノー˞ン˞　ヌ˞カサン˞シェン [ʔm˞me:ma:˞ nu˞ka˞sunti ʃi̥˞tanu˞ no:˞n˞ nu˞kasaŋ˞ʃeŋ](少しは残すといったが何も残さなかった)。ク˞レー˞　ヌ˞カシ˞　プサンドゥ　ヌ˞カ˞ス˞クトー　ナ˞ラン˞ツォー [ku˞re:˞ nu˞kaʃi˞ pu̥sandu nu˞ka˞su ˞ku̥to: na˞ran˞tso:](これは残したいが、残すことは出来ないそうだ)。ク˞レー˞　ヌ˞カ˞シェー　˞ミサムヌ [ku˞re:˞ nu˞ka˞ʃe: ˞misamunu](これは残せばいいのに)。˞クベー　ヌ˞カ˞シ [˞kube: ni˞ka˞ʃi](これだけは残せ)。

ヌ˞カリ˞ムヌ [nu˞kari˞munu] 【名】残り物。˞ヨイ˞ヌ　ヌ˞カリ˞ムノー　ムー˞ル˞　バキ　ッ˞ふァーシ˞バ [˞joi˞nu nu˞kari˞muno: mu:˞ru˞ baki f˞fa:ʃi˞ba](お祝いの残り物は全部分けてあげなさい < 食べさせなさい > よ)。ヌ˞カリ˞ムノー　シ˞ティランドー˞シ　タ˞ブイ˞　シ˞キ˞リ [nu˞kari˞muno: ʃi̥˞tirando:˞ ʃi ta˞bui˞ ʃi̥˞ki˞ri](残り物は捨てないで貯えておきなさい)。

ヌ˞ガリン [nu˞gariŋ] 【自動】だまし取られる。出し抜かれる。ヌ˞グン [nu˞guŋ](だまし取る) の未然形に、受け身・可能の助動詞˞リン [˞riŋ](れる、られる) が下接した形。受け身動詞・可能動詞。

ヌ˞カ˞ル [nu˞ka˞ru] 【名】残り。ッ˞ふァイヌカル [f˞fainukaru](食い残り)。イ˞ラビヌカ˞ル [ʔi˞rabinuka ˞ru](選び残り)。シゥ˞カイヌカル [si̥˞kainukaru](使い残り)。ヌ˞カ˞ロー　˞ヌー˞　スーワメー [nu˞ka˞ro: ˞nu:˞ su:wa ˞me:](残りは如何しようかなあ、もう)。

ヌ˞カ˞ルン [nu˞ka˞ruŋ] 【自動】残る。˞ジン˞マー　ヤ˞マシゥ˞カ　ヌ˞カ˞ルンティ　シ˞タヌ˞　ク˞ヌブン˞シェー　ヌ˞カラ˞ヌ [˞ʤim˞ma: ja˞masi̥˞ka nu ˞ka˞runti ʃi̥˞tanu˞ ku˞nu buŋ˞ʃe: nu˞kara˞nu](お金は沢山残るといったが、この分では残らない)。˞クナー　ヌ˞カリ˞　プサカー　ヌ˞カ˞ル　˞クトー　˞ナルン [˞kuna: nu˞kari˞ pu̥saka: nu˞ka˞ru ˞ku̥to: ˞naruŋ](ここに残りたければ残ることは出来る)。˞タン˞ガー　ヌ˞カ˞レー　˞ミサムヌ [˞taŋ˞ga: nu˞ka˞re: ˞misamunu](一人は残ればいいのに)。˞ワー　タン˞ガー　ヌ˞カ˞リ [˞wa: taŋ˞ga: nu˞ka˞ri](君一人は残れ)。

ヌ˞キ [nu˞ki] 【名】ぬき (貫き)。柱と柱を横に貫いて連結し、構造体の柱を固める建材。厚さ約 2 センチ、巾約 9 センチ、長さ約一間半の板状の建材。貫(ヌキ)孔(アナ)の両方からッ˞サビ [s˞sabi](楔) を打ち込んで柱の骨格を固める。ヌ˞キヤー [nu˞kija:](貫木造りの家) のイ˞ツァ˞クビ [ʔi˞tsa˞kubi](板壁) はヌ˞キ [nu˞ki](貫き) に直接に釘を打ち込んだ。ク˞レー˞　ヌ˞キ˞ナ　シゥ˞カイ˞バ [ku˞re:˞ nu˞ki˞na: si̥˞kai˞ba](これは貫き材に使いなさいよ)。

ヌ˞キ [nu˞ki] 【名】ぬき (緯)。織物の横糸。˺カシ [˺kaʃi](経糸) の対義語。˺ムミンヌキ [˺muminnuki](木綿の横糸)。˺ブーヌキ [˺buːnuki](苧麻の横糸)。˺バサヌキ [˺basanuki](芭蕉の横糸) などがある。ム˞カ˺シェーラ　˞ヌーヌヌ　カイ˺ヤー　ヌ˞キ˺ラティル　ア˞ザリ　ブー [mu˞ka˺ʃeːra ˞nuːnunu kai˺jaː nu˞ki˺ratiru ʔa˞ʤari buː](昔から布の美しいのは横糸のでき次第＜横糸から＞といわれている)。

ヌ˞キ [nu˞ki] 【名】˞ミー˺ス [˞miː˺su](味噌) を作ったり、サ˞キ [sḁ˞ki](酒) を醸造したりする際に、補助材として用いる穀物。元になる材料を˺カシ [˺kaʃi] といい、補助材をヌ˞キ [nu˞ki] という。ただし味噌作りの際は、麹(コウジ)を˺カシ [˺kaʃi] といい、大豆やおこわの米飯をヌ˞キ [nu˞ki] という。ク˞ヌ　ミース˺ヌ　ヌ˞ケー　トー˺フマミトゥ　シ˞トゥッチ˺ヌ　˺ナル˞ダー [ku˞nu miːsu˺nu nu˞keː toː˺ɸumamitu ʃi̥˞tuttʃi˺nu ˺naru˞daː](この味噌の補助材は大豆と蘇鉄の実だよ)。

ヌ˞ギッふァイ [nu˞giffai] 【名】人目を盗んで公金を横領すること。ウ˞レー˺　ヌ˞ギッふァイ　シーティル˺　ヤ˞ミシミラリタ˺ツォー [ʔu˞reː˺ nu˞giffai ʃiːtiru˺ ja˞miʃimirarita˺tsoː](彼は公金を横領して辞めさせられたそうだ)。

ヌ˞ギ˺パー [nu˞gi˺paː] 【名】死者の霊が落命した地に残らぬよう、祈願する行事。一種の成仏祈願。葬式後、日を選んで、寝室や最期の病室、事故死した所などで行う。「抜き方」の転訛したものか。˞マーラソーッ˺タ　プ˞スヌ˺　ヌ˞ギパー˺ヤ　˞パイ˺サ　˞シーオーサバル˺　ヤ˞ルヌー [˞maːrasoːt˺ta pu̥˞sunu˺ nu˞gipaː˺ja ˞pai˺sa ˞ʃiːʔoːsabaru˺ ja˞runuː](亡くなられた人の成仏祈願は早くして差し上げた方が良いのだが)。ウ˞キ˺ナー　˞オー˺ル　プ˞ソー　グゥンス˺ヌ　ヌ˞ギ˺パー　˞サン˺カー　ナ˞ラン˺ツォー [ʔu˞ki˺naː ˞ʔoː˺ru pu̥˞soː gwansu˺nu nu˞gi˺paː ˞saŋ˺kaː na˞ran˺tsoː](沖縄へ引っ越される人は元祖の霊を抜く「抜き方」祈願を島の天神地祇に対してしなければならないそうだ)。

ヌ˞ギバイ [nu˞gibai] 【名】逃走すること。逃げること。沖縄方言からの借用語か。ウ˞レー˺　キサー˞ティ˺　ヌ˞ギバイ　シーナー˺ヌ [ʔu˞reː˺ ki̥saː˞ti˺ nu˞gibai ʃiːnaː˺nu](彼はすでに逃走してしまった)。

ヌ˞キバナ [nu˞kibana] 【名】1貫き花。花を糸で貫き並べたもの。女の子たちがレイ (花輪) のように花を貫いて首にかけて遊んだもの。ヤ˞ラ˺ビ　˞シェーン˺ケンマー　ミ˞ドーン˺ッふァー　˺ユー　ヌ˞キバナ˺　ス˞ク˺リ　ア˞サブタンドゥト ナー [ja˞ra˺bi ˞ʃeːŋ˺kemmaː mi˞doːŋ˺ffaː ˺juː nu˞kibana˺ su̥˞ku˺ri ʔa˞sabutanduɨ-naː](子供の頃は、女の子はよく貫き花を作って遊んだものだがなあ)。2古典舞踊で用いる小道具の貫き花。その舞踊名。パ˞トゥ˺マナーン　ヌ˞キバナブドゥロー˺　アンカヤー [pḁ˞tu˺manaːn nu˞kibanabuduroː˺ ʔaŋkajaː](鳩間島にも「貫き花踊」はあるかなあ)。

ヌ˞キ˺ムヌ [nu˞ki˺munu] 【名】1魔除けの護符。魔除け。「除け物」の義。ヤ˞ダン˺ブレ [ja˞dam˺bure](和名、フシデサソリガイ。サソリガイ) や˺ギラ [˺gira](しゃこ貝) は形態的に女性の性器に似ているということから、魔除けの力があるという。˺フル [˺ɸuru](豚便所)、˺オンケー [˺ʔoŋkeː](豚舎) に吊るしておいて魔除けとした。ヤ˞ダンブレー˺(ヤ˞ドゥン˺ブレーともいう) ヤ　˺サイティ　ヌ˞キ˺ムヌ　˞シー˺バ [ja˞dambureː˺ja ˺saiti nu˞ki˺munu ˞ʃiː˺ba](フシデサソリガイを吊るして魔除けにしなさい)。2除け者。仲間はずれ。世間から相手にされない者。ドゥ˞シン˺ケー　ムー˞ローラ˺　ヌ˞キ˺ムヌ　シ˞ラリ˺　イ˞ナムヌ˺ダラ [du˞ʃiŋ˺keː muː˞roːra˺ nu˞ki˺munu ʃi˞rari˺ ʔi˞namunu˺dara](友人達皆から除け者にされて残念無念なことよ)。

ヌ˞キヤー [nu˞kijaː] 【名】角材の柱に孔を開け、貫材を貫木を貫き通して組み合わせ、ッ˞サビ [s˞sabi](楔) を打ち込んで骨格を固め、イ˞シジ [ʔi˞ʃʤiʤi](礎石) の上に建てる本格的建築の家。本建築。「貫き家」の義。ア˞ナ˺プリヤー [ʔa˞na˺purijaː](穴堀家。掘建て小屋) の対義語。˺アーパーレー [˺ʔaːpaːreː](新室寿ぎ歌) はヌ˞キヤー [nu˞kijaː](貫き家) を建築したときに歌う「室寿ぎ歌」である。˞マイフナー˺　マ˞リ　オーパ˺ヤー　ヌ˞キヤーン˺　ス˞クラ˺リ　˺ウヤコーコー　˞シー　ボー˺レー˞ドー [˞maiɸunaː˺ ma˞ri ʔoːpa˺jaː nu˞kijaːn˺ su̥˞kura˺ri ˺ʔujakoːkoː ˞ʃiː boː˺reː˞doː](成功して＜立派な男に成長して＞、こんなに早く本建築の家屋＜貫き家＞を建てることができて、親孝行もし、本当に素晴しい＜お利口さんだ＞よ)。˞バン˺テヌ　˺アブジェー　パ˞トゥ˺マナティ　ヌ˞キヤー˺　ス˞ク˺ル　パ˞ジミティヌ　ヤーザイ˺ク　ヤ˞ローッ˺タツォー [˺ban˺tenu ˺ʔabuʤeː pḁ˞tu ˺manati nu˞kijaː˺ su̥˞ku˺ru pa˞ʤimitinu jaːʤai˺ku ja˞roːt˺tatsoː](加治工津久利は、鳩間島で貫き屋＜本建築＞を造る最初の家大工＜建築の棟梁＞だったそうだ)。

ヌ˞キ˺ル [nu˞ki˺ru] 【名】鋸。「鋸、ノコギリ」『類

聚名義抄』の転訛したもの。˞キーバキヌキ˩ル [˞ki:bakinuki˩ru](木材を縦に切り裂く鋸)。ヤ˞マヌキ˩ル [ja˞manuki˩ru](山仕事用の鋸)。˞サイクヌキ˩ル [˞saikunuki˩ru](細工用の鋸)。タ˞ティビ˩キ [ta˞tibi˩ki](たてびきのこ < 縦挽鋸 >)。˞リョーバーヌキル [˞rjo:ba:nukiru](両刃鋸)。カ˞タパーヌキ˩ル [kḁ˞tapa:nuki˩ru](片刃鋸)。ユ˞クビキ [ju˞kubiki](よこびき < 横挽鋸 >)。˞マーシヌキル [˞ma:ʃinukiru](回し挽鋸) などがある。ヤ˞シ˩ルシ　ヌ˞キル˩ヌ　˩パー　˩タトゥンティ　˞ベー [ja˞ʃi˩ruʃi nu˞kiru˩nu ˩pa: ˩tḁtunti ˞be:](やすり < 鑢 > で鋸の歯を立てようとしている)。

ヌ˞キルン [nu˞kiruŋ] 【他動】ヌ˞クン [nu˞kuŋ](退ける。除ける。取り除く) のラ行四段化したもの。のける (除ける。退ける)。他の場所へ行かせる。取り除く。˞フシゥ˩カリ　˞ベー˩　ヤ˞ナ˩ムヌ　ヌ˞キルンティ˩　ウムーカー　˞マー˩ス　˞パン˩キバ [˞ɸusi̥˩kari ˞be:˩ ja˞na˩munu nu˞kirunti˩ ʔumu:ka: ˞ma:˩su ˞paŋ˩kiba](取り付いている魔物取り除こうと思うなら塩をふりかけ < 弾け。指先でつまんで振りかけ > なさい)。ヌ˞キララヌ [nu˞kiraranu](取り除けられない)。ヌ˞キラリン [nu˞kirariŋ](取り除けられる)。ヤ˞ナ˩ムヌ　ヌ˞キル˩クトゥ [ja˞na˩munu nu˞kiru˩ ku̥tu](魔物を取り除けること)。ヌ˞キレー˩　ミサムヌ [nu˞kire:˩ misamunu](取り除けばいいのに)。ヌ˞キリ [nu˞kiri](取り除け)。

ヌ˞ギルン [nu˞giruŋ] 【自動】ぬける。脱退する。逃げる。逃れる。ク˞ヌ˩　シ˞グトー˩ラ　ヌ˞ギルンティ　スンドゥ˩　イッ˞カ˩　ヌ˞ギララヌ [ku˞nu˩ ʃi˞guto:ra˩ nu˞girunti sundu˩ ʔik˞ka˩ nu˞giraranu](この仕事から逃れようとするが、一向に逃れられない)。キサー˞ティ˩　ヌ˞ギ˩パリ　˞ナー˩ヌ [ki̥sa:˞ti˩ nu˞gi˩pari ˞na:˩nu](すでに逃げていってしまった)。˩クマーラ　ヌ˞ギル˩　クトー　ナ˞ラ˩ヌ [˩kuma:ra nu˞gi˩ru ˩ku̥to: na˞ra˩nu](ここから逃れることは出来ない)。ヌ˞ギレー˩　ミサムヌ [nu˞gire:˩ misamunu](逃げればいいのに)。カ˞タ˩トゥキン　˞パー˩ク　ヌ˞ギリ [kḁ˞ta˩tukim ˞pa:˩ku nu˞giri](一刻も早く逃げろ < 逃れろ >)。

ヌ˞キンジ˩ルン [nu˞kiʔnʤi˩ruŋ] 【自動】抜け出る。ぬきんでる。他より優れる。ひいでる (秀でる)。ウ˞ヌ˩　ッ˞ふァー˩　ノー˞ン˩　シ˞ミラバン˩　ヌ˞キンジルンティ˩　ア˞ザリ　ブンドゥ　クン˩ドー　ヌ˞キンジラン˩バン [ku˞nu˩ f˞fa:˩ no:˞ŋ˩ ʃi˞miraban˩ nu˞kiʔnʤirunti˩ ʔa˞ʤari bundu kun˩do: nu˞kiʔnʤiram˩baŋ](この子は何をさせても抜きん出るといわれているが、今度は抜きん出ないなあ)。ウ˞リル˩　ヌ˞キンジ˩　ブー [ʔu˞riru˩ nu˞kiʔnʤi˩ bu:](彼が抜きん出ている)。˩アイニ　ヌ˞キンジ˩ル　˩クトー　˞ナー˩ヌ [˩ʔaini nu˞kiʔnʤi˩ru ˩ku̥to: ˞na:˩nu](あのように抜きん出ることはない)。ヌ˞キンジ˩レー　˩ミサムヌ [nu˞kiʔnʤi˩re: ˩misamunu](抜きん出ればいいのに)。ヌ˞キンジ˩リ [nu˞kiʔnʤi˩ri](抜きん出ろ)。

ヌ˞キン˩ズン [nu˞kin˩ʤuŋ] 【自動】抜きん出る。他より優れる。秀でる。「抜き出づ」の転訛か。プ˞ソーラ˩　ヌ˞キン˩ズンティ　ウ˞ムー˩ナ [pu̥˞so:ra˩ nu˞kin˩ʤunti ʔu˞mu:˩na](他人より抜きん出ようと思うな)。ヌ˞キンジ˩　ブー [nu˞kinʤi˩ bu:](抜きん出ている)。プ˞ソーラ˩　ヌ˞キン˩ズ　˩クトゥティン　˩アンカヤー [pu̥˞so:ra˩ nu˞kin˩ʤu ˩ku̥tutiŋ ˩ʔaŋkaja:](他人より秀でたこととてもあるのかなあ)。ユ˞ヌ˩シリンケーラン　ヌ˞キン˩ジェー　˩ミサムヌ [ju˞nu˩ʃiriŋke:ran nu˞kin˩ʤe: ˩misamunu](同級生からも抜きん出れば良いのに)。ヌ˞キ˩ンジバ [nu˞ki˩nʤiba](抜きん出ろよ)。

ヌ˞クッタマ˩ルン [nukuttamarun] 【自動】温まる。˞ヌフタマ˩ルンとも言う。˞ピー˩ヤンダ　˞キン˩バ　カ˞サビ˩　キ˞シティ˩　ドゥーシ　ヌ˞クッタマ˩ルンティ　˞ベー [˞pi:˩janda ˞kim˩ba kḁ˞sabi˩ ki̥˞ʃiti˩ du:ʃi nu˞kuttama˩runti ˞be:](寒いから着物を重ね着て自分で温まろうとしている)。

ヌ˞クミ˩ルン [nu˞kumi˩ruŋ] 【他動】温める。体を温める。˞アーシ˩キン　カ˞サビ˩　キ˞シティ˩　ドゥー　ヌ˞クミ˩ルンティ　˞スンドゥ˩　ヌ˞クミララ˩ヌ [˞ʔa:ʃikiŋ ki̥˞ʃiti˩ du: nu˞kumi˩runti ˞sundu˩ nu˞kumirara˩nu](袷の着物を重ね着して体を温めようとするが、温められない)。˞タン˩ジン　キ˞ス˩カー　˩ドゥー　ヌ˞クミ˩ル　˩クトー　˩ナルン [˞tan˩ʤiŋ ki̥˞su˩ka: ˩du: nu˞kumi˩ru ˩ku̥to: ˩naruŋ](丹前を着たら体を温めることができる)。˩ドゥー　ヌ˞クミ˩レー　˩ミサムヌ [˩du: nu˞kumi˩re: ˩misamunu](体を温めれば良いのに)。˞パー˩ク　˩ドゥー　ヌ˞クミ˩リ [˞pa:˩ku ˩du: nu˞kumi˩ri](早く体を温めろ)。

ヌ˞ク˩ムン [nu˞ku˩muŋ] 【自動】ぬくむ (温む)。暖をとる。あたたまる。˩ピー　ヌ˞ク˩ムンティ　˞スンドゥ˩　ムッ˞トゥ˩　ヌ˞クマラ˩ヌ [˩pi: nu˞ku˩munti ˞sundu˩ mut˞tu˩ nu˞kumara˩nu](火に当って体を温めようとするが、ちっとも温まれない)。˞ピー˩ヤ　ヌ˞クマ˩ヌ [˞pi:˩ja nu˞kuma˩nu](火には当らない < 温まない >)。˩ピー　ヌ˞クミ˩　プサン [˩pi: nu

˞kumiˬ pusaŋ](火に当って温まりたい＜温みたい＞)。マ˞ナˬマー　ˬピー　ヌ˞クˬム　プ˞ソーˬ　ブ˞ラーヌ [ma˞naˬma: ˬpi: nu˞kuˬmu pu̥˞soːˬ bu˞ra:nu](今は火に当って暖をとる＜温まる＞人はいない)。ヌ˞クˬメー　ˬミサムヌ [nu˞kuˬme: ˬmisamunu](火に当って温まればいいのに)。ク˞マーˬ　キー　ˬピー　ヌ˞クˬミ [ku˞maːˬ ki: ˬpi: nu˞kuˬmi](ここへ来て温まれ＜火に当って温まれ。火を温め＞)。

ヌ˞クン [nu˞kuŋ] 【他動】 1貫く。貫き通す。パ˞ルˬヌ　ˬミーナ　ˬイトゥ　ヌ˞クンティ　スンドゥˬ　ヌ˞カラヌ [pa˞ruˬnu ˬmi:na ˬʔitu nu˞kunti sunduˬ nu˞karanu](針の穴に糸を貫こうと＜通そうと＞するが、貫かれ＜通され＞ない)。ˬイトゥ　ヌ˞キ　ッふィーリ [ˬʔitu nu˞ki ffi:ri](糸を貫いて＜通して＞くれ)。ˬイトゥ　ヌ˞ク　プソーˬ　ブ˞ラーヌ [ˬʔitu nu˞kuˬ pu̥˞soːˬ bu˞ra:nu](糸を貫く人はいない)。˞パーˬク　ヌ˞ケーˬ　ミサムヌ [˞paːˬku nu˞keːˬ misamunu](早く貫けば良いのに)。ˬドゥーシ　ヌ˞キˬバ [ˬduːʃi nu˞kiˬba](自分で貫けよ)。ウ˞ビンˬガニ　ヌ˞クン [ʔu˞biŋˬgani nu˞kuŋ](指輪を貫く)。2刺す。刺し通す。˞フンˬナー　ˬパン　ヌ˞キˬ＜˞ピッˬキ＞　シケー [˞ɸunˬna: ˬpan nu˞kiˬ＜˞pikˬki＞ ʃi̥keː](釘で足を突いてた＜突いて怪我してある＞)。

ヌ˞クン [nu˞kuŋ] 【自動】 1退く。避けて離れる。除去する。˞ミートゥンダバカˬリ　˞シーティルˬ　ウ˞ヤンˬヤートー　ヌ˞キブーバン [˞miːtundabakaˬri ˞ʃiːtiruˬ ʔu˞jaŋˬjaːto: nu˞kibu:baŋ](離婚＜夫婦別れ＞して親の家とは遠ざかっているよ)。2追い越す。˞マイˬヌ　プ˞スˬ　ヌ˞キˬパレーン [˞maiˬnu pu̥˞suˬ nu˞kiˬpareːŋ](先頭の人を追い越して行った)。

ˬヌグン [ˬnuguŋ] 【他動】抜く。除去する。あく(灰汁)や渋を抜く。「抄、ヌク・ヌキヅ」『類聚名義抄』の転訛。ˬドゥク　ˬヌグン [ˬduku ˬnuguŋ](毒を抜く)。ア˞フˬ　ヌ˞ガンˬカー　ッ˞ふァーラヌ [ʔa˞ɸuˬ nu˞gaŋˬka: f˞fa:ranu](灰汁を抜かないと食べられない)。˞スーシキˬイゾー　ˬスー　ˬヌギティ　バ˞カシˬバ [˞su:ʃi̥kiˬʔidʑo ˬsu: ˬnugiti ba˞kaʃiˬba](塩漬け魚は塩分＜塩＞を抜いて炊きなさい)。シ˞トゥッチˬヌ　ˬナロー　ミ˞ジˬナ　シ˞キティˬ　ドゥク　ˬヌグ　ˬクトゥ　˞バシキルナ [ʃi̥˞tuttʃiˬnu ˬnaro: mi˞dʑiˬna ʃi̥˞kitiˬ duku ˬnugu ˬku̥tu ˞baʃi̥kiruna](蘇鉄の実は水に浸けて毒を抜くことを忘れるな)。ˬドゥク　ˬヌゲー　ˬミサムヌ [ˬduku ˬnuge: ˬmisamunu](毒を抜けばいいのに)。ˬドゥク　ˬヌギバ [ˬduku ˬnugiba](毒を抜きなさいよ)。

ヌ˞グン [nu˞guŋ] 【他動】だます(騙す)。欺く。ごまかす(誤魔化す)。「抜く」の義。「抜かれはせまいぞ」『虎明本狂言・鏡男』の転訛か。ウ˞レーˬ　プ˞スˬ　ヌ˞グンˬティ　˞スンダˬ　ヌ˞ガランˬヨーニ　˞キーˬ　シ˞キˬリ [ʔu˞reːˬ pu̥˞suˬ nu˞gunˬti ˞sundaˬ nu˞garaŋˬ joːni ˞kiːˬ ʃi̥˞kiˬri](彼は人を騙すというから、騙されないように気をつけなさい)。プ˞スˬ　ヌ˞ギˬ　ミサクトー　˞ナーˬヌ。ヌ˞グˬ　プ˞スンドゥ　ワッˬサル [pu̥˞suˬ nu˞giˬ misaku̥to: ˞naːˬnu。nu˞guˬ pu̥˞sundu wasˬsaru](人を騙してよいことはない。騙す人が悪い)。ヌ˞ゲーˬ　ミサムヌ [nu˞geːˬ misamunu](騙せばいいのに)。ヌ˞ギˬバ [nu˞giˬba](騙せよ)。

ヌ˞ザˬキ [nu˞dʑaˬki] 【名】(植)雑草の名。ハイキビ、『石垣方言辞典』という。根の切れ端からでも生えだすほどの生命力の強い雑草。主に砂地などに生えている。最も嫌われている雑草の一種。ヌ˞ザキˬヌ　˞ニーˬヤ　ギュー˞サˬ　トゥリ　シ˞トゥバンˬ　ムイ　˞キーˬス [nu˞dʑakiˬnu ˞niːˬja gjuː˞saˬ turi ʃi̥˞tubamˬ mui ˞kiːˬsu](ハイキビの根はいくら取って捨てても生えてくる)。ヌ˞ザキˬヌ　˞ムイˬルカー　パ˞タˬケー　ス˞クララˬヌ [nu˞dʑakiˬnu ˞muiˬruka: pḁ˞taˬke: su̥˞kuraraˬnu](雑草のヌザキが生えると畑の作物は作られない)。鳩間島の祈念運動場(現鳩間小中学校のグラウンド)に繁茂していた。ヌ˞ザキˬヌ　ス˞リˬバイナー　ˬパン　˞ピッカˬリティ　ヤ˞ミˬス [nu˞dʑakiˬnu su˞riˬbaina: ˬpam ˞pikkaˬriti ja˞miˬsu](ヌザキの刈り株に足を刺されて痛む)。

ヌ˞ザキˬダー [nu˞dʑakiˬdaː] 【固】(地)西表島船浦の北部、ピ˞ナイサキ [pi˞naisaki](鬚川崎)を西へ約200メートル回った原野の中に開けた水田地帯。ア˞ラヤー [ʔa˞rajaː](吉川家)、ウ˞チˬネー [ʔu˞tʃiˬneː](仲伊部家)、トゥ˞ムレー [tu˞mureː](友利家、田代家)等の水田があった。

ˬヌシ [ˬnuʃi] 【名】主。持ち主。土地や家、荷物などの所有者。ク˞ヌ　ヤーˬヌ　ˬヌシェー　˞ターヤ [ku˞nu jaːˬnu ˬnuʃe: ˞taːˬja](この家の主は誰か)。ヌ˞シˬヌ　ブ˞ラーンˬ　ヤー [nu˞ʃiˬnu bu˞raːŋˬ jaː](主の居ない家)。˞ニーˬヌ　ヌ˞シˬトゥ　パ˞ナˬシ [˞niːˬnu nu˞ʃiˬtu pa˞naˬʃi](荷の持ち主と話せ)。ヌ˞シˬヌ　˞オーˬルカー　ˬヌシン　˞カイˬシ　˞オースルˬ　ミ˞チ [nu˞ʃiˬnu ˞ʔoːˬruka: ˬnuʃiŋ ˞kaiˬʃi ˞ʔoːsuruˬ mi˞tʃi](主がおられるなら、主に返してさしあげるの道理＜筋道＞だ)。

ヌ˞シキルン [˞nuʃi̥kiruŋ] 【他動】 1のしかける(伸し掛ける。挑みかかる)。顔を突き出して挑みかかる

ように覗く。˞ヌシキルンティ　スンド˥　イ˞ツァー˥ヌ　˞ヌシキララヌ [˞nuʃi̥kirunti sundu˥ ʔi˞tsa:˞nu ˞nuʃi̥kiraranu](覗こう＜顔を突き出して挑みかかるように覗こう＞とするが、熱気が熱くて覗かれない)。ン˞ベーマ　ヌシキ˥　ミリバ [ʔm˞be:ma nuʃi̥ki˥ miriba](ちょっと伸しかかるように覗いてごらんよ)。²仕掛ける。挑む。喧嘩を吹っかける。かさにかかる。˥クマーラ　˞ヌシキル˥　クトー　ス˞ナ˥ヨー [˥kuma:ra ˞nuʃi̥kiru˥ kʉ̥to: su˞na˥jo:](こちらから喧嘩を仕掛けることはするなよ)。˞ヌシキレー˥　ミサムヌ [˞nuʃi̥kire:˥ misamunu](仕掛ければいいのに)。˥クマーラ　˞ヌシキリ [˥kuma:ra ˞nuʃi̥kiri](ここから仕掛けろ)。

˞ヌシ˥トゥル **[˞nuʃi̥˥turu]** 【名】盗人。ぬすっと。泥棒。˞ヌシ˥トゥロー　˞ピン˥ギ　˥パリ　˞ナー˥ヌ [˞nuʃi̥˥turo: ˞piŋ˥gi ˥pari ˞na:˞nu](盗人は逃げていってしまった)。˞ヌシトゥル˥ヌ　ブ˞ラーン˥　シマ [˞nuʃi̥turu˥nu bu˞ra:ŋ ʃima](泥棒のいない島)。

˞ヌシ˥トゥル **[˞nuʃi̥˥turu]** 【名】竹床を編む際に根太に固定する竹竿。「乗せ取り」の義か。タ˞キフンツァ [tɐ̥˞kiɸuntsa:](竹床) や屋根のユ˞チル [ju˞ʧiru](えつり) を締縄(シメナワ)で絞めて固定するために根太や垂木に渡して縛る竹の棒。タ˞キフンツァン˥　ユ˞チルン　ヌシ˥トゥルナー　フ˞バリ˥　ス˞コー˥ルンダル　˞ウーカン˥　シジ [tɐ̥˞kiɸuntsaɲ˥ ju˞ʧirun nuʃi̥˥turuna: ɸu˞bari˥ sʉ̥˞ko:˥rundaru ˞ʔu:kaŋ˥ ʃiʤi](竹床も、屋根のえつり＜桟＞もヌシトゥルに縛っておくから動かない訳だ)。

˞ヌシ˥トゥルン **[˞nuʃi̥˥turuŋ]** 【他動】盗む。ヤ˞ラ˥ベー　˞ドゥー˥ヌ　˥プサー　˥ムヌ　˞ヌシ˥トゥルンダ　˞ヌシトゥラン˥ヨーニ　ナ˞ラー˥シ [ja˞ra˥be: ˞du:˥nu ˥pʉ̥samunu ˞nuʃi̥˥turunda ˞nuʃi̥turaŋ˥jo:ni na ˞ra:˥ʃi](子供は自分の欲しいものを盗むから、盗まないように教えなさい)。˞ヌシトゥリ˥　プサン [˞nuʃi̥turi˥ pʉ̥saŋ](盗みたい)。˞ヌシ˥トゥル　˥ピン [˞nuʃi̥˥turu ˥piŋ](盗むとき)。˞ヌシ˥トゥレー　˥ミサムヌ [˞nuʃi̥˥ture: ˥misamunu](盗めば良いのに)。˞ヌシ˥トゥリバ [˞nuʃi̥˥turiba](盗めよ)。ウ˞レー˥　シ˞ナムヌ　ヌシ˥トゥルンティ　˞スン˥ケン　プ˞スン˥　ミ˞ラリ˥ター　˞ヌシトゥラン˥シェンツォー [ʔu˞re: ˥ʃi˞namunu nuʃi̥˥turunti ˞suŋ˥kem pʉ̥˞sum˥ mi˞rari˥ta: ˞nuʃi̥turaŋ˥ʃentso:](彼は品物を盗もうとしたところ、人に見られたので盗まなかったそうだ)。キサー˞ティ　ヌシ˥トゥリ　˞ナー˥ヌ [kisa:˞ti nuʃi̥˥turi ˞na:˥nu](すでに盗んでしまった)。˞ヌシ˥トゥル　˥クトー　サ˞ヌ [˞nuʃi̥˥turu ˥kʉ̥to: sa˞nu](盗むことはしない)。˞ヌシ˥トゥレー　˥ミサムヌ [˞nuʃi̥˥ture: ˥misamunu](盗めばいいのに)。˥ワンザー　˞ヌシ˥トゥリバ [˥wanʤa: ˞nuʃi̥˥turiba](お前が盗めよ)。

˞ヌシ˥トゥン **[˞nuʃi̥˥tuŋ]** 【他動】尻をぬぐう (拭う)。拭き取る。ム˞カ˥シェー　˥ユナキーヌ　˞パー˥シル　シ˞ベー　ヌシトゥ˥タ [mu˞ka˥ʃe: ˥junaki:nu ˞pa:˥ʃiru ʃi˞be: nuʃi̥tu˥ta](昔はオオハマボウの葉で尻を拭(ヌグ)った)。パ˞ナ　ヌシ˥トゥン [pa˞na nuʃi̥˥tuŋ](洟(ハナ)を拭う)。ミ˞ドーン˥ッふァヌ　シ˞ベー˥　ク˞シェーニ˥ル　˞ヌシ˥トゥ　˥マイネー　˞ヌシタ˥ヌティ　ナ˞ラー˥ソッタ [mi˞do:n˥ffanu ʃi˞be:˥ kʉ̥˞ʃe:ni˥ru ˞nuʃi̥˥tu ˥maine: ˞nuʃi̥ta˥nuti na˞ra:˥so:tta](女の子のお尻は後ろ＜腰＞の方へと拭うもので、前方へは拭わないと教えられた)。˞ヌシ˥ティ　˥ミサン [˞nuʃi̥˥ti ˥misaŋ](拭ってよい)。マ˞ナ˥マー　ヤ˞ラビ˥ヌ　パ˞ナバ˥　フ˞チ˥シ　ユ˞ビ　ヌシ˥トゥ　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [ma˞na˥ma: ja˞rabi˥nu pa˞naba˥ ɸʉ̥˞ʧi˥ʃi ju˞bi nuʃi̥˥tu pʉ̥˞so:˥ bu˞ra:nu](今は、子供の洟を口で吸って拭う人はいない)。パ˞ナ　ヌシ˥テー　˥ミサムヌ [pa˞na nuʃi̥˥te: ˥misamunu](洟を拭えばいいのに)。˥ドゥーシ　シ˞ビ　ヌシ˥ティバ [˥du:ʃi ʃi˞bi nuʃi̥˥tiba](自分でお尻を拭けよ。＜メタファー。失敗の責任を取れ＞)。

˞ヌスクン **[˞nusʉ̥kuŋ]** 【他動】覗く (顔を突き出して覗き見る)。ヤ˞ラ˥ベー　˞ヌー˥シ　˞ブー˥ユーティ　˞ヌシキティ　クー˥タ [ja˞ra˥be: ˞nu:˥ʃi ˞bu:˥ju:ti ˞nuʃi̥kiti ku:˥ta](子供はどうしているかのと思って覗いてきた)。˞ヌシキ˥　ミルン [˞nuʃi̥ki˥ miruŋ](覗いてみる)。˥ヌビ　˞ナーリ　ヌスクンティ˥　ウ˞ムータ˥ヌ　˞ヌスカンドー˥シ　˞クータ˥ル [˥nubi ˞na:ri nusʉ̥kunti˥ ʔu˞mu:ta˥nu ˞nusi̥kando:˥ʃi ˞ku:ta˥ru](ちょっと顔をだして＜首を伸ばして＞覗こうと思ったが、覗かないで来てしまったよ)。˥ヌビ　˞ナールン [˥nubi ˞na:ruŋ](首を伸ばして除く) ともいう。

˞ヌスクン **[˞nusʉ̥kuŋ]** 【他動】仕掛ける。喧嘩を挑む。ぶつかっていく。ウ˞レー˥　サ˞キ˥　ヌムカー　プ˞スンナー˥ニ　˞ヌスクンドゥ　キュー˥ヤ　˞ヌシゥカンバン [ʔu˞re:˥ sɐ̥˞ki˥ numuka: pʉ̥˞sunna:˥ni ˞nusʉ̥kundu kju:˥ja ˞nusi̥kambaŋ](彼は酒を飲むと人に喧嘩を挑(イド)むが今日は挑まないよ)。˞ターティナー˥ン　˞ヌシキ　ベー [˞ta:ti na:˥n ˞nuʃi̥ki be:](誰彼となく喧嘩を挑んでいる)。˞ヌスク˥　クトー　ス˞ナ [˞nusʉ̥ku˥ kʉ̥to: su˞na](喧嘩を挑むことはする

な)。ˈヌシケーˀ　ミサムヌ [ˈnuʃi̥keːˀ misamunu](喧嘩を挑めばいいのに)。ˈヌシキ [ˈnuʃi̥ki](喧嘩を挑め)。

ヌˈスˀビラ [nuˈsuˀbira] 【名】(植) ノビル。ニラに似て食用に供する野草。「のびる (野蒜)」の訛語か。ネギに似た臭気があり、魚の臭みや肉の臭みを消して甘味を出す食材として重宝される。ヌˈスˀビラ　キˈザミティˀ　イˈズヌ　スーˀヌ　ˈオンガキ　シーˀバ [nuˈsuˀbira kiˈʤamitiˀ ʔiˈʤunu suːˀnu ˈʔoŋgaki ʃiːˀba](ノビルを刻んで魚のお汁のあしらい＜妻＞にしなさいよ)。

ヌˈスマリˀルン [nuˈsumariˀruŋ]【他動】盗まれる。ˀウナー　シˈキˀルカー　ヌˈスマリˀルンティ　スˈクタヌ　フンˀトーカヤー [ˀʔunaː ʃiˈkiˀrukaː nuˈsumariˀrunti su̥ˈkutanu ɸunˀtoːkajaː](そこに置くと盗まれると聞いたが、本当かね)。

ヌˈスマˀリン [nuˈsumaˀriŋ] 【他動】盗まれる。ヌˈスˀムン [nuˈsuˀmuŋ](盗む) の未然形に、受け身、可能の助動詞リン [riŋ](れる、られる) が下接して形成された受け身・可能動詞。ˀウナー　シˈキˀルカー　ヌˈスマˀリンˈダー [ˀʔunaː ʃi̥ˈkiˀrukaː nuˈsumaˀrinˈdaː](そこに置くと盗まれるよ)。

ヌˈズミ [nuˈʤumi] 【名】望み。希望。ˈナー　メーメーヌˀ　ヌˈズミバ　カンヌˀマイ　ˀニガイ　アˈギリˀバ＜ッˈサリˀバ＞[ˈnaː meːmeːnuˀ nuˈʤumiba kannuˀmai ˀnigai ʔaˈgiriˀba＜sˈsariˀba＞](各自、銘銘の望みを神様の前にお祈り＜願い＞申し上げなさい)。ˈワーˀ　ヌˈズミヌˀ　ムノーラ　イˈラˀビ　ˀトゥリバ [ˈwaːˀ nuˈʤuminuˀ munoːra ʔiˈraˀbi ˀturiba](君の希望＜望み＞のものから選んで取りなさいよ)。

ヌˈズミプス [nuˈʤumipusu] 【名】望む人。求婚者。ヌˈズミプスヌ　オーˀルンティ　シˈバˀ　パˈナˀシ　ウˈキˀラˈナー [nuˈʤumipusunu ʔoːˀrunti ʃiˈbaˀ paˈnaˀʃi ʔuˈkiˀraˈnaː](求婚者＜望む人＞がいらっしゃるというから、話を受けようね)。

ヌˈスˀムン [nuˈsuˀmuŋ]【他動】盗む。ウˈリˀ　ヌˈスˀムンティ　ˈベーンˀケン　ˀウヤン　イˈザリティˀ　ヌˈスマンˀシェン [ʔuˈriˀ nuˈsuˀmunti ˈbeːŋˀkeŋ ˀʔujaŋ ʔiˈʤariti nuˈsumaŋˀʃeŋ](それを盗もうとしていたところ、親に叱られて盗まなかった)。ヌˈスˀミ　ˈナーˀヌ [nuˈsuˀmi ˈnaːˀnu](盗んでしまった)。ヌˈスˀメー　ˀミサムヌ [nuˈsuˀmeːˀmisamunu](盗めばいいのに)。ヌˈスˀミ [nuˈsuˀmi](盗め)。

ヌˈズムン [nuˈʤumuŋ] 【他動】所望する。切望する。欲する。期待する。「望む」の転訛。ˈ〜御後見望み給ふ人人は〜」『源氏物語＜若紫上＞』。ヌˈズマリ　ブンˀケン　パˈルˀル　マˈシˀ　ヌˈズマランˀ　ナレーラー　マーˈンˀ　パˈララˀヌ [nuˈʤumari buŋˀkem paˈruˀru maˈʃiˀ nuˈʤumaranˀ nareːraː maːˈmˀ paˈraraˀnu](望まれているうちに行ったほうがいい。望まれなくなったら何処にもいけない)。イッˈケナˀ　ヌˈズミ　ブンドゥ　バンˀマー　ウˈユバランˀ　パジ [ʔikˈkenaˀ nuˈʤumi bundu bamˀmaː ʔuˈjubaramˀ paʤi](非常に欲して＜切望して＞いるが、私には手が届か＜及ばれない＞ないはずだ)。ヌˈズムˀ　ムˈノーˀラ　イˈラˀビ　ˀトゥリバ [nuˈʤumuˀ muˈnoːˀra ʔiˈraˀbi ˀturiba](欲しい＜望む＞ものから選んで取れ)。ˈマーˀビン　ヌˈズメーˀ　ミサムヌ [ˈmaːˀbin nuˈʤumeːˀ misamunu](もっと欲すれば＜望めば＞いいのに)。ˈワーˀラ　ヌˈズミˀバ [ˈwaːˀra nuˈʤumiˀba](君から所望し＜望み＞なさいよ)。

ˀヌチ [ˀnutʃi] 【名】命。生命。ヌˈチˀル　タˈカˀラ [nuˈtʃiˀru tḁˈkaˀra](命こそ宝だ)。ヌˈチˀヌ　アˈリバˀル　ˀウムー　ˀクトゥーン　カˈナーˀリˈダー [nuˈtʃiˀnu ʔaˈribaˀru ˀʔumuː ˀku̥tuːŋ kaˈnaːˀriˈdaː](命があればこそ心に思うことも叶えられるのだ)。ˀヌチ　ˈムイˀルン [ˀnutʃi ˈmuiˀruŋ](生き返る。蘇生する＜命萌える＞)。ˀヌチ　シˈティルン [ˀnutʃi ʃi̥ˈtiruŋ](死ぬ。命を失う＜命を捨てる＞)。

ˀヌチェー　ˀアン [ˀnutʃeːˀʔaŋ] 【連】生きている。「命がある」の義。ウˈヌ　インˀマー　マˈダˀ　ヌチェー　ˀアンダー　ミˈジˀ　ヌˈマˀシ　ミリˈミー [ʔuˈnu ʔimˀmaː maˈdaˀ nutʃeːˀʔandaː miˈʤiˀ nuˈmaˀʃi miriˈmi](この犬はまだ生きている＜命がある＞よ。水を飲ませてごらんよ)。ˀヌチェー　アˈリˀブー [ˀnutʃeː ʔaˈriˀbu](生きている＜命は有り居る＞)。

ˀヌチ　ˈカウン [ˀnutʃi ˈkauŋ] 【連】命が助かる。「命を買う」の義。クˈヌˀ　フˈチˀル　ˀヌミティ　ˀヌチ　ˈカイˀヨー [kuˈnuˀ ɸu̥ˈtʃiˀru ˀnumiti ˀnutʃi ˈkaiˀjoː](この薬を飲んで助かりなさい＜命を買いなさい＞よ)。

ˀヌチカギリ [ˀnutʃikagiri] 【副】死力を尽くして。全力を奮って。一生懸命。「命の限り」の義。ˀカギリ [ˀkagiri] は「時間的限界点」の意を表す。ˈウイヌˀ　シキン　ウˈキˀルンティ　ˀヌチガギリ　ˈビンキョー　シーミッˀタン [ˈʔuinuˀ ʃi̥kiŋ ʔuˈkiˀrunti ˀnutʃikagiri ˈbiŋkjoː ʃiː mitˀtaŋ](上級学校の試験を受けようと死力を尽くして勉強したことがある)。ˀヌチカギリ　パˈタラキˀ　ッˈふァˀ　スˈダティˀリ [

˥nutʃikagiri pḁˬtaraki˥ fˬfa˥ suˬdati˥ri](一生懸命働いて子供を育てろ)。

ヌˬチガ˥フー [nuˬtʃiga˥ɸu:] 【名】天寿。生命の運の強いこと。「命果報」の転訛。ヌˬチガ˥フー　アˬラ˥シ　タˬボー˥リティル　˥ニガイ　ッˬサルト ダー [nuˬtʃiga˥ɸu: ʔaˬra˥ʃi taˬbo:˥ritiru ˥nigai sˬsaruˬda:](天寿を授け＜有らしめ＞くださるようにとお祈り申し上げるんだよ)。

ヌˬチキシ˥ムヌ [nuˬtʃiki̥ʃi˥munu] 【名】死者。死んだもの。「命切れ者」の義。˥ヌーンティ　˥アイニ　ヌˬチキシムヌ˥ヌ　˥カタチニ　˥イロー　˥ッサイ　ˬソーバ　シー　アーク˥ワ [˥nu:nti ˥ʔaini nuˬtʃiki̥ʃimunu˥nu ˥kḁtatʃini ˥ʔiro: ˥ssai ˬso:ba ʃi: ʔa:ku˥wa](どうしてあんなに死んだ者のように顔面蒼白になって＜顔色が白んで＞心配しいるのか)。

˥ヌチ　キˬシ˥ルン [˥nutʃi ki̥ˬʃi˥ruŋ] 【連】死ぬ。絶命する。こときれる (事切れる)。「命切れる」の義。˥カイ　˥ナレーラ　˥ヌチェー　ˬモー˥ヌ　イˬカス˥ク　ˬソーフチル˥　シゥˬカウバン˥　ヌチ　キˬシ˥ルンティル　ウˬモー˥リ [˥kai ˥nare:ra ˥nutʃe: ˬmo:˥nu ʔiˬkasu̥˥ku ˬso:ɸu̥tʃiru˥ si̥˥kauban˥ nutʃi ki̥ˬʃi˥runtiru ʔuˬmo:˥ri](こうなったら命は蘇生し＜命は萌え＞ない。どんな良薬を使っても死ぬ＜命が切れる＞と思われる)。

˥ヌチ　˥キスン [˥nutʃi ˥ki̥suŋ] 【連】死ぬ。絶命する。「命切れる」の義。˥ヌチ [˥nutʃi](命) に˥キスン [˥ki̥suŋ](切る) がついた形。ˬヨー˥ゾーン　サˬムティ˥　ナーˬイ　ベー˥ルカー　˥ヌチ　キスンˬダー [ˬjo:˥ʤo:n saˬmuti˥ naːˬji beːˬruka: ˥nutʃi ki̥sunˬda:](養生もしないで、ただ放置しておくと死ぬぞ＜命切れるぞ＞)。

ヌˬチキリ˥バイ [nuˬtʃikiri˥bai] 【名】命がけの走り。死に物狂いで懸命に走ること。疾走。沖縄本島方言からの借用語であろう。ヌˬチキリ˥バイ　ˬシー˥　パˬラン˥カー　マˬニアー˥ヌ [nuˬtʃikiri˥bai ˬʃi:˥ paˬraŋ˥ka: maˬniʔa:˥nu](死に物狂いで走って行かないと間に合わない)。

ヌˬチグス˥イ [nuˬtʃigusu˥i] 【名】1妙薬。不思議なほどの効能がある薬。長寿延命の妙薬。「命薬」の義。沖縄本島方言からの借用語か。クˬレー˥　ヌˬチグス˥イ　ヤˬリバ　ワー˥　ヤーˬディン˥　ヌミ [kuˬre:˥ nuˬtʃigusu˥i jaˬriba wa:˥ ja:ˬdin˥ numi](これは長寿延命の妙薬＜命薬＞だから、君は必ず飲め)。2滋養分の多い美味しいもの。ミˬジラ˥シ　˥ムヌバ　ˬタボーラ˥リ　ヌˬチグス˥イ　ˬシェー˥チバン [miˬʤira˥ʃi ˥munuba taˬbo:ra˥ri nuˬtʃigusu˥i ˬʃe:˥tʃibaŋ](珍しい物を頂いて体の滋養＜長寿の妙薬＞になりましたよ)。

ヌˬチシティ˥ワザ [nuˬtʃiʃi̥ti˥waʤa] 【名】命を失う危険な仕事。「命捨て業」の義。˥カイブ　ヌˬチシティ˥ワザー　˥ティマー　タˬカー˥タンティン　ˬスームノー˥　アˬラ˥ヌ [˥kaibu nuˬtʃiʃi̥ti˥waʤa: tima: tḁˬka:˥tantin ˬsu: muno:˥ ʔaˬra˥nu](このような命を失う危険な仕事は手間賃は高くてもすべきではない＜するものではない＞)。

˥ヌチズー [˥nutʃiʤu:] 【名】1一生涯。終生。ウˬリ　ピーチ˥ル　˥ヌチズーヌ　ウˬムイ˥ムヌ [ʔuˬri pi:tʃi˥ru ˥nutʃiʤu:nu ʔuˬmui˥munu](それだけ＜それ一つ＞が生涯の心残り＜悩み＞だ)。2(副) 命の限り。一生。イˬクサユー˥ヌ　˥クトー　˥ヌチズー　ˬバシキララヌ [ʔiˬkusaju:˥nu ˥ku̥to: ˥nutʃiʤu: ˬbaʃi̥kiraranu](戦争時代＜戦世＞のことは生涯＜命のある限り＞忘れられない)。

ヌˬチズー˥ワン [nuˬtʃiʤu:˥waŋ] 【形】生命力が強い。長生きする。「命強い」の義。ˬヨーガリプソー˥　ヌˬチズー˥ワンティ　スˬクタヌ˥　ウˬレー˥　ヌˬチズーワ　ナーン˥シェン [ˬjo:garipu̥so:˥ nuˬtʃiʤu:˥wanti su̥ˬkutanu˥ ʔuˬre:˥ nuˬtʃiʤu:wa na:ŋ˥ʃeŋ](痩せた人は長生きする＜生命力が強い＞というが、彼は生命力が強くなかった)。ウˬリヌ˥　スコー　ヌˬチズー˥ワル　プˬソー˥　ブˬラーヌ [ʔuˬrinu˥ su̥ko: nuˬtʃiʤu:˥waru pu̥ˬso:˥ buˬra:nu](彼くらい長生きする＜生命力の強い＞人はいない)。

ヌˬチドゥク˥ル [nuˬtʃiduku˥ru] 【名】急所。ウˬトゥ˥シ [ʔuˬtu˥ʃi](みぞおち＜鳩尾＞) など。体の中で、そこを害すると生命にかかわる大事なところ。ウˬトゥ˥シェー　ヌˬチドゥク˥ル　ヤˬルンダ˥　ウマ　ˬナー˥ト　シˬケー˥　ナˬラン˥ダー [ʔuˬtu˥ʃe: nuˬtʃiduku˥ru jaˬrunda˥ ʔuma ˬna:˥to ʃi̥ˬke:˥ naˬran˥da:](みぞおち＜鳩尾＞は急所だから、そこをなぞ突いてはいけないぞ)。

ヌˬチ˥ドゥ　タˬカ˥ラ [nuˬtʃi˥du tḁˬka˥ra] 【連】命こそ宝。命は何ものにも代えがたい宝である。ヌˬチ˥ドゥ　タˬカ˥ラティ　ムˬカ˥シェーラ　アˬザリブー [nuˬtʃi˥du tḁˬka˥rati muˬka˥ʃe:ra ʔaˬʤari bu:](命こそ宝と昔からいわれている)。

ヌˬチ˥ヌ　˥ウヤ [nuˬtʃi˥nu ˥ʔuja] 【連】命の恩人。命を危機から救ってくれた人。「命の親」の義。危険な状況から命を救ってもらった時に用いる。クˬヌ˥プˬスル˥　バー　ヌˬチ˥バ　ˬモー˥シ　ッˬふォー˥レ

ール　ヌˈチˈヌ　ˈウヤ　ヤˈローˈル [kuˈnuˈ pu̥ˈsuruˈ ba: nuˈʧiˈba ˈmoːˈʃi fˈfoːˈreːru nuˈʧiˈnu ˈʔuja jaˈroːˈru](この人が私の命を救って＜命を萌やして＞下さった命の恩人でいらっしゃる＜～であられる＞)。クˈヌˈ　イサー　ˈバー　ヌˈチˈヌ　ˈウヤ　ヤˈローˈル [kuˈnuˈ ʔisaːˈba: nuˈʧiˈnu ˈʔuja jaˈroːˈru](このお医者さんは私の命の恩人であられる)。

ヌˈチパティˈムヌ [nuˈʧipatiˈmunu] 【名】命知らず。向こう見ず。乱暴者。「命果て者」の義。ウˈレーˈ　ヌˈチパティˈムヌ　ヤˈルンダ　クンˈゾー　ウˈクˈルカー　ˈヌーˈル　ˈスーˈユー　ッˈサントダー [ʔuˈreːˈ nuˈʧipatiˈmunu jaˈrunda kunˈʤo: ʔuˈkuˈruka: ˈnuːˈru ˈsuːˈju: sˈsanˊda:](彼は命知らずだから、怒ったら何をするかわからないよ)。

ヌˈチˈフキ [nuˈʧiˈɸu̥ki] 【副】死に物狂いに。必死に。一生懸命に。「命ふけるほど」の義。ヌˈチˈフキ　パˈタラカンˈカー　マˈニヤーサラˈヌ [nuˈʧiˈɸu̥ki pḁˈtarakaŋˈka: maˈnija:saraˈnu](死に物狂いで働かないと間に合わされない)。

ヌˈチˈ　フクン [nuˈʧiˈ ɸu̥kuŋ] 【連】死にそうな状態になる。死に追い込まれるほど。「命ふける＜命抜ける＞」の義。ˈヌチ [ˈnutʃi](命) にフˈクン [ɸu̥ˈkuŋ](ふける。抜け落ちる) のついた合成語。イˈフーナˈ＜イˈフナˈ＞　シˈグトゥバ　オーサˈリティ　ヌˈチˈ　フクンティ　ˈアークˈタ [ʔiˈɸu:naˈ＜ʔiˈɸunaˈ＞ ʃiˈgutuba ʔo:saˈriti nuˈʧiˈ ɸu̥kunti ˈʔa:kuˈta](妙な仕事をさせられて＜負わされて＞、すんでのところで死ぬところだった)。

ヌˈチˈミー [nuˈʧiˈmi:] 【名】命。生命と身体。身命。「命(ヌチ)・身(ミ)」の義。プˈスヌˈ　ヌˈチˈミーナ　カˈカˈル　ˈクトゥ　ヤˈリバˈ　ウˈカットゥˈシ　ˈカンガイˈヤー　ナˈラˈヌ [pu̥ˈsunuˈ nuˈʧiˈmin:na kḁˈkaˈru ˈku̥tu jaˈribaˈ ʔuˈkattuˈʃi ˈkaŋgaiˈja: naˈraˈnu](人の身命にかかわることだから、迂闊(ウカツ)に考えてはならない)。

ˈヌチ　ˈムーン [ˈnutʃi ˈmu:ŋ] 【連】蘇生する。生き返る。蘇(ヨミガエ)る。「命・萌ゆ＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。ˈヌチェー　ˈムーンティ　アˈゾーッタˈヌ　マˈダˈ　ヌチェー　ˈモーˈヌ [ˈnutʃeːˈmu:nti ʔaˈʤo:ttaˈnu maˈdaˈ nutʃeːˈmoːˈnu](生き返る＜命は蘇生する＞と言われたが、まだ生き返らない)。ˈヌチェー　ˈムイ　ˈパレーン [ˈnutʃeːˈmui ˈpareːŋ](生き返って、帰って行ったよ＜命は蘇生して行ったよ＞)。ˈヌチ　ˈムー　ˈクトゥーン　ˈアン [ˈnutʃi ˈmuːˈku̥tu:ŋ ˈʔaŋ](生き返ることもある)。ˈヌチ　ˈムイˈヤー　ˈミサムヌ [ˈnutʃi ˈmuiˈja: ˈmisamunu](生き返ればいいのに)。ˈヌチ　ˈムイˈリ [ˈnutʃi ˈmuiˈri](生き返れ＜命・萌えろ＞)。

ヌˈチムイˈムヌ [nuˈʧimuiˈmunu] 【名】生き物。「命を持っているもの＜命萌えるもの＞」の義。ヌˈチムイˈムノー　ッˈふァイルˈ　シゥˈカラˈ　ヤˈルンダˈ　イˈジンˈジ　ˈクンキシキˈムヌ　ッˈふァイ [nuˈʧimuiˈmuno: fˈfairuˈ sɨ̞ˈkaraˈ jaˈrundaˈ ʔiˈʤinˈʤi ˈkuŋkiʃi̥ˈmunu fˈfai](生き物は皆食べることが生きる力だから、頑張って＜意地を出して＞滋養分のあるもの＜根気をつけるもの＞を食べなさい)。

ˈヌチ　ˈムイˈルン [ˈnutʃi ˈmuiˈruŋ] 【連】蘇生する。生き返る。「命萌える」の義。ˈアイブ　ウˈブヤンバˈ　シˈティˈ　ヌチ　ˈムイˈルンティ　ウˈモーランˈセンドゥ　ˈカイニ　ˈヌチ　ˈムイラˈリˈナー [ˈʔaibu ʔuˈbujambaˈ ʃi̥ˈtiˈ nutʃi ˈmuiˈrunti ʔuˈmoːraŋˈ ʃendu ˈkaini ˈnutʃi ˈmuiraˈriˈnaː](あのような大病をして生き返るとは思えなかったが、こうして生き返えられて＜命が萌えられて＞ねえ)。

ヌˈチモーシフチˈル [nuˈʧimoːʃiɸu̥ʧiˈru] 【名】気付け薬。蘇生させる薬。酒類。「命萌やす薬」の義。気絶したり、意識不明になったりした時に酒を口に含んで気絶した人の顔面に強く吹きかけて蘇生させた。サˈケーˈ　ヌˈチモーシフチˈルティ　アˈザリ　ブー [sḁˈkeːˈ nuˈʧimoːʃiɸu̥ʧiˈruti ʔaˈʤari buː](酒は気付け薬といわれている)。

ˈヌチ　ˈモーˈスン [ˈnutʃi ˈmoːˈsuŋ] 【連】命を蘇らせる。生き返らせる。長生きさせる。クˈヌˈ　イˈサˈヌ　ˈシンシーˈル　ˈバー　ˈヌチ　ˈモーˈシ　ッˈふォーッˈタ [kuˈnuˈ ʔiˈsaˈnu ˈʃiŋʃiːˈru ˈbaːˈnutʃi ˈmoːˈʃi fˈfoːtˈta](このお医者さん＜医者の先生＞が私の命を救って＜命を萌やして。生き返らせて＞下さった)。

ˈヌチ　ˈヨーˈン [ˈnutʃi ˈjoːˈŋ] 【連】短命である。薄命である。「命が弱い」の義。ˈウンˈネーヤ　ˈヌチ　ˈヨーˈル　タˈクライティˈ　アˈザリブー [ˈʔunˈneːja ˈnutʃi ˈjoːˈru tḁˈkuraitiˈ ʔaˈʤari buː](あの家は短命な血統だといわれている)。

ヌˈチンガˈキ [nuˈʧiŋgaˈki] 【名】命懸け。命に懸けること。ヌˈチンガˈキシ　スˈダˈティ　フˈドゥバシェーˈル　ˈタンガッふァˈバ　ミˈシーミシー　ピーˈタイ　トゥˈラˈリ　シˈナシ　ナーˈヌ　イナˈムヌˈダラ [nuˈʧiŋgaˈkiʃi suˈdaˈti ɸuˈdubaʃeːˈru ˈtaŋgaffaˈba miˈʃiːmiʃiː piːˈtai tuˈraˈri ʃiˈnaʃi naːˈnu ʔiˈnamunu ˈdara](命懸けで育て成長させた一人っ子を、みす

みす兵隊に採られて死なして＜殺して＞しまった。残念でたまらない)。

˞ヌッ˺サン [˞nus˺saŋ] 【形】暖かい。温い。老年層は˞ヌッ˺ふァン [˞nuf˞faŋ](温い) という。「Nucui. ヌクイ (温い)　暖かな (こと)、または、暖かである (こと).」『邦訳日葡辞書』の語幹 nuku に接尾語 sa が付き、更に?a＜有り＞が付いて形成された形容詞。語幹末尾子音の k が続く u 母音の無声化により摩擦音化して となり、続く s に融合同化したもの。˞キュー˺ヤ　イッ˞ケン　ヌッ˺サン [˞kjuː˺ja ʔik˞ken nus˺saŋ](今日は非常に暖かい)。˞ナン˺ゾー　˞ヌッサー　ナー˺ヌ [˞nan˺ʤoː ˞nussaː naː˺nu](あまり暖かくない)。˞シンダイ　ヌッ˺サー　˺ナリ　˺ケーン [˞ʃindai nus˺saː ˺nari ˺keːŋ](次第に暖かくなってきた)。˞ヌッ˺サー　˺ピンマー　イ˞ズ˺　シ˞キンドゥ˺　パル [˞nus˺saː ˺pimmaː ʔi˞ʤu˺ ʃi̥˞kindu˺ paru](暖かい日は魚を突きに行く)。

˞ヌッツァースン [˞nuttsaːsuŋ] 【他動】塗りたくる。˞ヌーリッツァースン [˞nuːrittsaːsuŋ](塗りたくる) ともいう。ヤ˞ラ˺ビン　フ˞ディ˺　ム˞タ˺スカー˺シン　˞ヌッツァースンダ　ヌッツァーサン˺ヨーニ　カ˞タジキ˺リ [ja˞ra˺biŋ ɸu˞di˺ mu˞ta˺sukaː ˺ʃin ˞nuttsaːsunda nuttsaːsaɲ˺joːni kḁ˞taʤiki˺ri](子供に筆を持たせると墨を塗りたくるから、塗りたくらないように片付けよ)。˞ヌッツァーシ˺　シケー [˞nuttsaːʃi˺ ʃi̥keː](塗りたくってある)。˞ヌッツァース　ムノー˺　ムー˞ル　ヌッツァーシェー˺　ミサムヌ [˞nuttsaːsu munoː˺ muː˞ru nuttsaːʃeː˺ misamunu](塗りたくる物は全部塗りたくればいいのに)。

ヌッ˞ツァー˺ル　˺ムヌ [nut˞tsaː˺ru ˺munu] 【連】如何なるもの。「何たるもの」の転訛。相手を卑しめて言う場合に用いる。ク˞レー˺　ヌッ˞ツァー˺ル　˺ムヌヌ　˞シェー˺　ワザヤ [ku˞reː˺ nut˞tsaː˺ru ˺munu˞nu ˞ʃeː˺ waʤaja](これは如何なる者のなせるわざか)。

˞ヌッ˺ツァラカッツァラ [˞nut˺tsarakattsara] 【連】なんだかだ (何だ彼だ)。なんやかんや。「なにたらかにたら」の転訛。卑しめた言い方。˞ヌッ˺ツァラカッツァラ　シゥ˞カーラン˺　ムヌ　カー˞ニ˺　ア˞ツァ˺ミ　˺シケー [˞nut˺tsarakattsara si̥˺kaːram˺ munu kaː˞ni˺ ʔa˞tsa˺mi ˺ʃi̥keː](あれやこれや＜何やかんや＞使えない物だけ集めてある)。˞ヌッ˺ツァラカッツァラ　イ˞ファナムニ˺　イ˞ズナ [˞nut˺tsarakattsara ʔi˞ɸanamuni˺ ʔi˞ʤuna](何たらかんたら、へんてこりん＜変梃りん＞なことを言うな)。

˞ヌッ˺ふァン [˞nuf˞faŋ] 【形】温い。温かい。老年層のことば。若年層は、˞ヌッ˺サン [˞nus˺saŋ](温い) という。ク˞トゥシヌ˺　フ˞ヨー˺　クゾーラ　˞ヌッ˺ふァンツォー [ku̥˞tuʃinu˺ ɸu˞joː˺ kuʤuːra ˞nuf˞fantsoː](今年の冬は去年より温いそうだ)。˞ナン˺ゾー　˞ヌッふァナー˺ヌ [˞nan˺ʤoː ˞nuffanaː˺nu](あまり温くない)。˞シンダイ　ヌッ˺ふァ　˺ナルン [˞ʃindai nuf˞fa ˺naruŋ](次第に温くなる)。˞ヌッ˺ふァ　˺ピンマー　˺オンダー　˞シー˺バ [˞nuf˞fa ˺pimmaː ˺ʔondaː ˞ʃiː ˺ba](温い時は海水浴をしなさいよ)。˺ドゥク　˞ヌッ˺ふァレーティル　パ˞ダ˺カ　˺ナレーヨー [˺duku ˞nuf˞fareːtiru pa˞da˺ka ˺nareːjoː](あまりにも温かったので裸になったのだようよ)。

˞ヌッふィルン [˞nuffiruŋ] 【他動】差し入れて水に浸ける。水に浸す。ミ˞ジヌ˺　ナ˞カー˺　ティー　˞ヌッふィルンティ　スンドゥ˺　ナ˞クラー˺ティ　˞ヌッふィララヌ [mi˞ʤinu˺ na˞kaː˺ ti: ˞nuffirunti sundu˺ na˞kuraː˺ti ˞nuffiraranu](水の中へ手を差し入れて濡らそう＜浸そう＞とするが、怖いので水に浸けられない)。˞ヌッふィ˺　ミサカー　˞ヌッふィル˺　クトー　˺ナルン [˞nuffi˺ misakaː ˞nuffiru˺ ku̥to: ˺naruŋ](水に浸けてよければ浸けることは出来る)。˞マー˺ビン　˞ヌッふィレー˺　ミサムヌ [˞maː˺bin ˞nuffireː˺ misamunu](もっと水に浸せばいいのに)。ミ˞ジ˺ナー　˺ティー　˞ヌッふィリ [mi˞ʤi ˺naː ˺tiː ˞nuffiri](水に手を浸せ＜濡らせ＞)。

˞ヌッふン [˞nuffuŋ] 【他動】水に突っ込む。水に浸す。˺サジェー　ミ˞ジ˺ナ　˞ヌッふィティ˺　ッ˞スリ˺バ [˺saʤeː mi˞ʤi˺na ˞nuffiti˺ s˞suri˺ba](タオルを水に突っ込んで＜浸して＞拭きなさい)。˞ヌッふァヌ [˞nuffanu](浸さない)。˞ヌッふ˺　クトゥ [˞nuffu˺ ku̥ru](水に浸すこと)。˞ヌッふィ˺バ [˞nuffi˺ba](水に浸せよ)。

˞ヌッふン [˞nuffuŋ] 【他動】差し入れて水に浸ける。中に入れて濡らす。ユ˞グレーン˺　トンマー　ミ˞ジ˺ナー　˞ヌッふィティ˺　ア˞ライ˺バ [ju˞gureːn˺ tommaː mi˞ʤi˺naː ˞nuffiti˺ ʔa˞rai˺ba](汚れたところは水に浸けて洗いなさい)。˞ヌッふン˺ティ　˞スンドゥ˺　ピ˞キシゥカリティ　ヌッふァラヌ [˞nuffun˺ti ˞sundu˺ pi̥˞kisi̥kariti nuffaranu](差し入れて水に浸けようとするが、引張られているので水に浸けられない)。ク˞レー˺　ミ˞ジ˺ナー　˞ヌッふ˺　クトー　ナ˞ラ˺ヌ [ku˞reː˺ mi˞ʤi˺naː ˞nuffu˺ ku̥to: na˞ra˺nu](これは水に浸ける＜濡らす＞ことはできない)。˞ヌッふェー˺　ミサムヌ [˞nuffeː˺ misamunu](水に浸けれ＜

濡らせば＞ばいいのに)。ンˈベーマ　ヌッふィˀバ [ʔmˈbeːma nuffiˀba](少し水に浸け＜濡らし＞なさい)。

ˀヌドゥ [ˀnudu]【名】のど (喉)。ウˈリヌˀ　クトゥ　ˀウムーカー　ッˈふー　ムヌンˀ　ヌドー　ウˈティラˀヌ [ʔuˈrinuˀ ku̥tu ˀʔumuːkaː fˈfuː mununˀ nudoː ʔuˈtiraˀnu](彼のことを思うと、食べるものも喉を通らない＜喉から落ちない＞)。イˈズヌˀ　プニ　ˀヌドゥナー　カˈカラサンˀ　ヨーニ　ˈヨーンナー　スーˀヤ　ˀヌミバ [ʔiˈʤunuˀ puni ˀnudunaː kḁˈkarasanˀ joːni ˈjoːnnaː suːˀja ˀnumiba](魚の骨を喉に掛からさないように、ゆっくりとお汁(ツユ)は飲みなさいよ)。

ヌˈドゥカーˀキ [nuˈdukaːˀki]【名】喉が渇くこと。「喉乾き」の義。「燥、保須＜ほす＞又、可和久＜かわく＞」『新撰字鏡』の転訛したもの。ミˈジカーキ [miˈʤikaaːki](喉が渇く＜水渇き＞) ともいう。ヌˈドゥカーˀキ　ˈシーˀ　ミˈジˀ　ヌˈミ　プサˀヌ　ナˈラˀヌ [nuˈdukaːˀki ˈʃiːˀ miˈʤiˀ nuˈmi pu̥saˀnu naˈraˀnu](喉渇きして、水が飲みたくてたまらない)。ミˈジカーキ [miˈʤikaːki](水渇き。喉が渇いて水が欲しいこと) ともいう。

ヌˈドゥクンˀツァー [nuˈdukunˀtsaː]【名】喉を詰まらせて、むせかえる＜噎(ム)せ返る＞こと。むせぶ＜咽ぶ＞こと。激しく咳き込むこと。ミˈジバˀ　ユˈクヌドーˀ　ウˈタシˀティ　ヌˈドゥクンˀツァー　ˈシーベー [miˈʤibaˀ juˈkunudoːˀ ʔuˈtaʃi̥ˀti nuˈdukunˀtsaː ˈʃiːbeː](水を気管支＜別喉＞に落として喉を詰まらせて噎(ム)せ返っている)。

ヌˈドゥˀヌ　シˈターˀマ [nuˈduˀnu ʃi̥ˈtaːˀma]【連】のどびこ (喉彦)。口蓋垂。「喉の小舌」の義。ウˈブˀフチ　パˈタックカー　ヌˈドゥˀヌ　ウˈクˀナー　ヌˈドゥˀヌ　シˈターマˀヌ　ッˈサーˀリ　ˈベーˀムヌ　ミˈラˀリン [ʔuˈbuˀɸu̥tʃi pḁˈtakkuˀkaː nuˈduˀnu ʔuˈkuˀnaː nuˈduˀnu ʃi̥ˈtaːmaˀnu sˈsaːˀri ˈbeːˀmunu miˈraˀriŋ](大口を開くと喉の奥に喉彦が下がっているのが見える)。

ˀヌドゥ　バˈルン [ˀnudu baˈruŋ]【連】1大声を出して稽古をする。「喉を割る」の義。ヌˈドゥˀヌ　バˈリルンˀケン　ウˈブˀクイ　ンˈザˀシ　ˀウター　イˈジˀ　ナライ [nuˈduˀnu baˈriruŋˀkeŋ ʔuˈbuˀkui ʔnˈʤaˀʃi ˀʔutaː ʔiˈʤiˀ narai](喉が割れるまで大声を出して歌を歌って稽古しなさい＜習いなさい＞)。2喉が裂ける。ヌˈドゥˀヌ　バˈルンˀケン　ウˈヤーˀルン [nuˈduˀnu baˈruŋˀkeŋ ʔuˈjaːˀruŋ](喉が裂けるほど大声をだす)。

ヌˈドゥプトゥˀキ [nuˈduputuˀki]【名】のどぼとけ (喉仏)。喉頭隆起。ビˈキドゥムナーˀル　ヌˈドゥプトゥˀケー　ンˈジˀル [biˈkidumunaːˀru nuˈduputuˀkeː ʔnˈʤiˀru](男にが喉仏は出るのだ)。

ヌˈドゥˀマキ [nuˈduˀmaki]【名】ジフテリア。のど (喉) の病気。「ジフテリア (diphtheria) ジフテリア菌による飛沫感染で小児に多かった伝染病。1中国の"馬鼻風" の訛と思われる。2咽頭に義膜が生じ、これで喉を巻くことから生じた言葉と思われる」『医学沖縄語辞典』。呼吸困難をきたして死にいたる小児の病気。ピˈル [piˈru](大蒜) を擂(ス)り潰(ツブ)して、その絞り汁を二、三滴飲ませたり、絞り粕を喉の周囲に擦りつけてタオルで巻いておくとよいといわれていた。ヌˈドマˀキナーヤ　ピˈルルˀ　イッˈチンˀ　フˈチˀルティ　アˈゾーッˀタ [nuˈduˀmakinaːja piˈruruˀ ʔitˈʧiŋˀ ɸu̥ˈʧiˀruti ʔaˈʤoːtˀta](ジフテリアには大蒜が一番の薬といわれた)。

ヌˈバˀスン [nuˈbaˀsuŋ]【他動】1伸ばす。ˈティーˀパン　ヌˈバˀスンティ　ˈスンドゥˀ　ドゥク　シˈバーˀヌ　ヌˈバサラˀヌ [ˈtiːˀpan nuˈbaˀsunti ˈsunduˀ dukuʃiˈbaːˀnu nuˈbasaraˀnu](手足を伸ばそうとするが、あまりにも狭くて伸ばされない)。ヌˈバシˀ　プサカー　ヌˈバˀス　ˀクトー　ˀナルン [nuˈbaʃiˀ pu̥sakaː nuˈbaˀsu ˀku̥toː ˀnaruŋ](伸ばしたければ伸ばすことはできる)。ˈマーˀビン　ヌˈバˀシェー　ˀミサムヌ [ˈmaːˀbin nuˈbaˀʃeː ˀmisamunu](もっと伸ばせばいいのに)。クˈシェー　スーˀリ　ヌˈバˀシ [ku̥ˈʃeː suːˀri nuˈbaˀʃi](背中は反り返って伸ばせ)。2延ばす。延期する。フˈチˀルダイヌ　ˀウカー　ヌˈバˀシ　ッˈふォーˀリ [ɸu̥ˈʧiˀrudainu ˀʔukaː nuˈbaˀʃi fˈfoːˀri](薬代の借金支払いは延期させて＜延ばして＞下さい)。ˈソッˀコー　ヌˈバˀスン [ˈsokˀkoː nuˈbaˀsuŋ](法事を延期する)。

ヌˈバˀルブザマテー [nuˈbaˀrubuʤamateː]【名】屋号。寄合徹氏宅。ˈウンˀネーヤ　ˈユービンキュクˀヌ　ˈアーˀネー　ˈヤッタヌˀ　アˈミリカˀヌ　バˈクˀダン　ˀウˈタサˀリティ　ˈクーサˀリ　ˈナーンˀシェン [ˈʔunˀneːja ˈjuːbiŋkjukuˀnu ˈʔaːˀneː ˈjattanuˀ ʔaˈmi-tikaˀnu baˈkuˀdaŋ ʔuˈtasaˀriti ˈkuːsaˀri ˈnaːŋˀʃeŋ](その家は郵便局の東隣だったがアメリカ軍の爆弾を落とされて破壊されてしまった)。ヌˈバˀルブザマー　カˈザケーヌˀ　ウˈヤプスˀヌ　ˈナールˀ　シˈキラˀリ　ˈオーˀルツォー [nuˈbaˀrubuʤamaː kaˈʤakeːnuˀ ʔuˈjapusuˀnu ˈnaːruˀ ʃi̥ˈkiraˀri ˈʔoːˀrutsoː](野原おじさんは、加治工家の先祖の名前が付けられておら

れるそうだ)。

˥ヌバン **[nubaŋ]** 【名】(植) 草の名。カワラニンジン。カワラヨモギ。カ˞ナ˥サル　˥ナカー　ヌ˞バン˥ヌ　ユ˞ダ˥シ　ピ˞キスングリ [ka˞na˥saru ˥naka: nu˞ban ˥nnu ju˞da˥ʃi pi̥˞kisuŋguri](可愛い子供は、カワラヨモギの枝で打ち据えて教えなさい)。

˥ヌビ **[˥nubi]** 【名】首。˥ヌドゥ [˥nudu](喉) とフ˞ビ [ɸu˞bi](首。頸部) の混交により、上接語の [du] と下接語の [ɸu] が脱落して形成されたもの。˥ヌビ　˥キスン [˥nubi ˥ki̥suŋ](首を切る)。˥ヌビ　˥キシティ　シ˞ナイ˥　シケー　˥カタチニ　ビッ˞ツティ　ニーブ [˥nubi ˥ki̥ʃiti ʃi˞nai˥ ʃi̥ke: ˥kḁtatʃini bit˞tsuti ni:bu](首を切って挿(ス)げ替(カ)えた < 繋いである > ように、そっくり似ている)。

˥ヌビ **[˥nubi]** 【名】あくび (欠伸)。˞ニフ˥タータル　ム˞ヌ˥ユー　˞ティー˥パン　ヌ˞バ˥シティ　˥ヌビ　˞シーベー [˞niɸu̥˥ta:taru mu˞nu˥ju: ˞ti:˥pan nu˞ba˥ʃi̥ti ˥nubi ˞ʃi:be:](眠たかったのか、手足を伸ばして欠伸をしている)。

˥ヌビ **[˥nubi]** 【名】両手を伸ばして後ろに反り返ること。背伸びすること。深呼吸をすること。ブ˞ガ˥リ　ブ˞リン˥ギサバ　˥ヌベー　˞シーティ˥　マ˞タ˥　パ˞ジミリ˥バ [bu˞ga˥ri bu˞riŋ˥gisaba ˥nube: ˞ʃi:ti˥ ma˞ta˥ pḁ˞ʤimiri˥ba](疲れているようだから、深呼吸をして体を伸ばして、また始めなさいよ)。ヤ˞ラ˥ベー　˥ヌビ　˞シーベー˥バ　マ˞ナ˥マ　ウ˞キ˥ルン　˞ドー [ja˞ra˥be: ˥nubi ˞ʃi: be:˥ba ma˞na˥ma ʔu˞ki˥run ˞do:](子供は欠伸(アクビ)をして背伸びをしているから、今起きるぞ)。˥ヌビ　˞スン [˥nubi ˞suŋ](手足を伸ばして大きく反り返り、深呼吸をする)。

˥ヌビーカーミー **[˥nubi:ka:mi:]** 【名】伸び縮み。サ˞ルマ˥ター　˥グム　˥シキティ　˥ヌビーカーミー　˞スー˥　カタチニ　˞ヌイバ˥ル　キ˞シヤッ˥サ [sa ˞ruma˥ta: ˥gumu ˥ʃi̥kiti ˥nubi:ka:mi: ˞su:˥ kḁtatʃini ˞nui˥baru ki̥˞ʃijas˥sa](猿股はゴムを付けて伸び縮みするように縫った方が着易い)。

˥ヌビカーミ **[˥nubika:mi]** 【名】伸縮。伸び縮み。ク˞ヌ　キン˥マー　ア˞ラウ˥カー　˥ヌビカーミ　˞スン˥ダー [ku˞nu kim˥ma: ʔa˞rau˥ka: ˥nubika:mi ˞sun˥ da:](この着物は洗濯したら < 洗ったら > 伸び縮みするよ)。

˥ヌビ　ガ˞キ˥ルン **[˥nubi ga˞ki˥ruŋ]** 【連】首を吊る。首を引っ掛ける。˞キー˥ヌ　˞ウイ˥ラー　シゥ˞カン　トー˥リティ　˥マー　ン˞ベー˥スカー　˥ヌビ　ガ˞キ˥ルンティ　˞アーク˥タ [˞ki:˥nu ˞ʔui˥ra: si̥˞kanto:˥ riti ˥ma: ʔm˞be:˥su̥ka: ˥nubi ga˞ki˥runti ˞ʔa:ku˥ta](木の上から落っこちて、すんでのところ < 既の所 > で首を吊るところだった)。

˥ヌビ　˥ガクン **[˥nubi ˥gakuŋ]** 【連】首を吊る < 引っ掛ける >。˥ヌベー　˥ガキティ　シ˞ニナーン˥シェンツォー [˥nube: ˥gakiti ʃi˞nina:ŋ˥ʃentso:](首を吊って死んでしまったそうだ)。

ヌ˞ビ˥カジ **[nu˞bi˥kaʤi]** 【名】うなじ (項、頸後也、宇奈自 < うなじ >『新撰字鏡』)。首すじ。くび (頸) のうしろ側。ヌ˞ビカジ˥ヌ　˞コー˥リティ　˥ヤミ　˥ヌビ　˞マーサラヌ [nu˞bikaʤi˥nu ˞ko:˥riti ˥jami ˥nubi ˞ma:saranu](首筋が凝って痛くて、首が回わされない)。

ヌ˞ビカジ˥ヌ　˞コー˥ルンケン **[nu˞bikaʤi˥nu ˞ko:˥ruŋkeŋ]** 【連】項(ウナジ)が凝るほど。待ち焦がれるさま。ヌ˞ビカジ˥ヌ　˞コー˥ルンケン　˞ウンザン˥マ˞タサ˥リティ　˞ザー˥パイ　˞シー　ナー˥ヌ [nu˞bikaʤi˥nu ˞ko:˥ruŋkeŋ ˞ʔunʤam˥ ma˞tasa˥riti ˞ʤa:˥pai ˞ʃi: na:˥nu](項が凝るほどに、あいつ < 彼奴 > に待たされて、ひどい目に遭った)。

ヌ˞ビ˥シジ **[nu˞bi˥ʃiʤi]** 【名】くびすじ (首筋)。えりくび。首の後部。ヌ˞ビシジ˥ヌ　˞コー˥リ　˥ヤミティ　˥ヌビ　˞マーサラヌ [nu˞biʃiʤi˥nu ˞ko:˥ri ˥jamiti ˥nubi ˞ma:saranu](首筋がこって痛むので < 痛んで > 首を回されない)。

ヌ˞ビソッ˥コー **[nu˞bisok˥ko:]** 【名】延べ焼香。法事を延期すること。ヌ˞ビ˥ヌ　˞ソッ˥コーティル　˥アル　˞ソッコー˥ヌ　˥ヌベー　バ˞ラ˥サー　˞ナー˥ヌティル　ム˞カ˥シプソー　ア˞ゾーッタ˥ル [nu˞bi˥nu ˞sok˥ko:tiru ˥ʔaru ˞sokko:˥nu ˥nube: ba˞ra˥sa: ˞na:˥nutiru mu˞ka˥ʃipu̥so: ʔa˞ʤo:tta˥ru](延期法事といわれている。法事が延びることは悪くはないと < ぞ > 昔の人は言われたものだよ)。

˥ヌビチジミ **[˥nubitʃiʤimi]** 【名】伸び縮み。˥ブーキンマー　ア˞ラシトゥ˥カー　˥ヌビチヂミ　˞スント ダー [˥bu:kimma: ʔa˞raʃi̥tu˥ka: ˥nubitʃiʤimi ˞sunˊda:](麻の着物は洗濯したら伸び縮みするよ)。

ヌ˞ビッター˥ルン **[nu˞bitta:˥ruŋ]** 【自動】長々と横たわる。長く腹ばう。シ˞グトー˥　サ˞ムティ˥　ヌ˞ビッター˥リ　ニ˞ビ　ベー [ʃi˞guto:˥ sa˞muti˥ nu˞ bitta:˥ri ni˞bi be:](仕事はしないで長々と横たわっている)。ヌ˞ビッターラン˥ドーシ　パ˞タラキ˥バ [nu˞bitta:ran˥do:ʃi pḁ˞taraki˥ba](長々と横たわらないで働けよ)。イ˞ザン˥カー　イ˞チンバー˥キン　ヌ

˞ビッター˜ルン [ʔi˞ʤaŋ˜ka: ʔi˞ʧimba:˜kin nu˞bitta:˜ruŋ](叱らないと何時までも長く腹ばう)。˜クナー ヌ˞ビッター˜レー ˜ミサムヌ [˜kuna: nu˞bitta:˜re: ˜misamunu](ここで腹ばえばいいのに)。˞パー˜ク ヌ˞ビッター˜リバ [˞pa:˜ku nu˞bitta:˜riba](早く腹ばいなさい)。

ヌ˞ビ˜ヌビ [nu˞bi˜nubi] 【副】延び延び。延ばし延ばし。延期するさま。ヌ˞ビ˜ヌビ ˞シー˜ シケール ˞ソッコー˜ヤ ク˞トゥシ シー オーサ [nu˞bi˜nubi ˞ʃi:˜ ʃi̥ke:ru ˞sokko:˜ja ku̥˞tuʃi ʃi: ʔo:sa](延び延びにしてある法事＜焼香＞は今年やって差し上げようよ)。

ヌ˞ビ˜パダ [nu˞bi˜pada] 【名】成長期。伸び盛り。思春期。マ˞ナ˜マー ヤ˞ラビ˜ヌ ヌ˞ビ˜パダ ヤ˞ルンダ˜ ˞アッ˜タニル フ˞ドゥビ˜ クー˞ダー [ma˞na˜ma: ja˞rabi˜nu nu˞bi˜pada ja˞runda ʔat˜taniru ɸu˞dubi˜ ku:˞da:](今は子供の成長期＜伸び盛り＞だから、子供は急に＜ぞ＞成長してくるものだよ)。

ヌ˞ビ˜ルン [nu˞bi˜ruŋ] 【自動】伸びる。延びる。延期する。˞キン˜マー ピ˞キスク˜カー ヌ˞ビ˜ルンダ ヌ˞ビラン˜ヨーニ キ˞シ˜バ [˞kim˜ma: pi̥˞kisu̥ku˜ka: nu˞bi˜runda nu˞biraŋ˜jo:ni ki̥˞ʃi˜ba](着物は引張ると伸びるから、伸びないように着なさいよ)。ヌ˞ビ˜キシ ˞ナー˜ヌ [nu˞bi˜ki̥ʃi ˞na:˜nu](伸びきってしまった)。ヌ˞ビ˜ル ˜クトー ˞ナー˜ヌ [nu˞bi˜ru ˜ku̥to: ˞na:˜nu](伸びることはない)。˞マー˜ビン ヌ˞ビ˜レー ˜ミサムヌ [˞ma:˜bin nu˞bi˜re: ˜misamunu](もっと伸びれば良いのに)。˞パー˜ク ヌ˞ビ˜リ [˞pa:˜ku nu˞bi˜ri](早く伸びろ)。˞オシキヌ˜ ヤ˞ビ˜ルカー ピ˞ニチェー˜ ヌ˞ビ˜ルン ˜パジ [˞ʔoʃi̥kinu˜ ja˞bi˜ruka: pi˞nitʃe:˜ nu˞bi˜rum ˜paʤi](天気が崩れたら日程は延期する＜延びる＞はずだ)。

ヌ˞ビ˜ルン [nu˞bi˜ruŋ] 【自動】堪忍する。我慢する。˜キム ヌ˞ビ˜ルン [˜kimu nu˞bi˜ruŋ](堪忍する。我慢する)。˞クン˜ゾー ウ˞クラン˜ドーシ ˜キム ヌ˞ビ˜リ [˞kun˜ʤo: ʔu˞kuran˜do:ʃi ˜kimo: nu˞bi˜ri](立腹しないで堪忍しろよ＜肝は伸びよ。我慢せよ＞)。

˜ヌビン ˜ピキン ナ˞ラ˜ヌ [˜nubim ˜pi̥kin na˞ra˜nu] 【連】1身動きできない。2堪忍ならない。即座にしなければならない。我慢することも抑えることも出来ない。「伸ばしも引きもできない」の義。˜タティン ˜ビリン ナ˞ラ˜ヌ [˜tą̥tim ˜birin na˞ra˜nu](身動き出来ない。˞立つことも坐ることも出来ない」の義) と同じ表現。˞ヤー˜ヌ ナ˞カ˜ナー ウ˞ビ˜ヌ プ˞スヌ˜ フ˞ジナカリティ˜ ヌビン ˜ピキン ナ˞ラ˜ヌ [˞ja:˜nu na˞ka˜na: ʔu˞bi˜nu pu̥˞sunu˜ ɸu˞ʤinakariti˜ nubim ˜pi̥kin na˞ra˜nu](家の中に、あれだけの大人数の人が押し込め＜閉じ込め＞られて身動き出来ない)。

ヌ˞ブシ [nu˞buʃi] 【名】のぼせ (逆上せ)。上気。血が頭に上って顔がほてること。ヌ˞ブシミー [nu˞buʃimi:](のぼせて目が充血すること)。ヌ˞ブシル ブー˜ユー ス˞ブ˜ル ˞グッふァ˜ヌ ナ˞ラン˜バン [nu˞buʃiru bu:˜ju: su˞bu˜ru ˞guffa˜nu na˞ram˜baŋ](のぼせて＜逆上せて＞いるのか、頭が重くてたまらないよ)。

ヌ˞ブシフチル [nu˞buʃiɸu̥ʧiru] 【名】のぼせの薬。のぼせに効く薬。˞ミー˜ヌ ア˞ガミベー˜ティ ヌ˞ブシフチル˜ ヌミ˞ベートダー [˞mi:˜nu ʔa˞gamibe:˜ti nu˞buʃiɸu̥ʧiru˜ numi˞be:ɦda:](目が赤らんでいるので、のぼせの薬を飲んでいるよ)。

ヌ˞ブシミー [nu˞buʃimi:] 【名】充血した目。「のぼせめ＜逆上目＞」の義。˞ワー ミー˜ヤ ア˞ガンターリティ˜ ヌ˞ブシミー˜ ヤ˞リン˜ギサバ ˜ギランドーレー サ˞ギフチ˜ル ˜シジ ッ˞ふァイ˜バ [˞wa: mi:˜ja ʔa˞ganta:riti˜ nu˞buʃimi:˜ ja˞riŋ˜gisaba ˜girando:re: sa˞giɸuʧi˜ru ˜ʃiʤi f˞fai˜ba](君の目は赤らんで、のぼせめ＜逆上目＞のようだから、シャコ貝など利尿剤＜下げ薬＞を煎じて食べなさいよ)。

ヌ˞ブシムヌ [nu˞buʃimunu] 【名】のぼせもの (逆上(ノボセ)もの)。飲食すると逆上せる食品。鶏肉、落花生など滋養分の多い食品。ウ˞ブアシ˜ブ ン˞ジ˜ プスン ヌ˞ブシムヌ˜ ッ˞ふァース˜カー ン˞バイルン˜ティ ア˞ゾーッ˜タ [ʔu˞buʔaʃi˜bu ʔn˞ʤi˜ pu̥sun nu˞buʃimunu˜ f˞fa:su˜ka: ʔm˞bairun˜ti ʔa˞ʤo:t˜ta](大きなお出来がでた人に逆上せる食物をあげると、お出来が化膿するといわれたものだ)。

ヌ˞ブシヤン [nu˞buʃijaŋ] 【名】逆上せる病気。血が頭へのぼる病気。ウ˞レー˜ ヌ˞ブシヤン˜ ム˞ティ˜ムヌ ヤ˞ルンダ˜ アツァサーレー ˜ドゥク シゥ˞カーラヌ [ʔu˞re:˜ nu˞buʃijam˜ mu˞ti˜munu ja˞runda˜ ʔatsasa:re: ˜duku si̥˞ka:ranu](彼は逆上せる病気 (高血圧など) を持病を持つ人だから、暑い時はあまり使われない)。

ヌ˞ブスン [nu˞busuŋ] 【自動】上気する。のぼせる (逆上せる)。頭に血がのぼる。ナー˞イ˜ ウ˞スンフキ ビンキョー スー˜カー ヌ˞ブスンダ˜ ヌ˞ブサン˜ヨーニ ˞ユー˜クイバ [na:˞ji˜ ʔu˞suŋɸu̥ki biŋkjo: su:˜ka: nu˞busunda˜ nu˞busaŋ˜jo:ni ˞ju:˜kuiba](ずっ

と俯いて勉強すると逆上せるから、逆上せないように休みなさいよ)。パ˞ナジーヌ˜　ン˞ジ˜ルンケン　ヌ˞ブシ　ナー˜ヌ [pa˞nadʑi:nu˜ ʔn˞dʑi˜ruŋken nu˞buʃi na:˜nu](鼻血が出るほど逆上せてしまった)。イ˞ラ˜ブー　ッ˞ふァーバン˜　ヌ˞ブス˜　クトー　˞ナー˜ヌ [ʔi˞ra˜bu: f˞fa:ban˜ nu˞busu˜ kʉto: ˞na:˜nu](イラブー料理を食べてものぼせる (逆上せる) ことはない)。ヌ˞ブシェー˜　ミサムヌ [nu˞buʃe:˜ misamunu](逆上せばいいのに)。ヌ˞ブシ˜バ [nu˞buʃi˜ ba](逆上せよ)。

˞ヌフタマ˜ルン [˞nuɸʉtama˜ruŋ] 【自動】暖まる。首里方言の nukutamajuN(暖まる。暖をとる) の転訛したもの。カ˞マチヌ˜　ピーナー　˞ヌフタマ˜ルンティ　˞スンドゥ˜　ムッ˞トゥ　ヌフタマラ˜ヌ [ka˞matʃinu˜ pi:na ˞nuɸʉtama˜runti ˞sundu˜ mut˞tu nuɸʉtamara˜nu](竈の火に当って暖まろうとするが、ちっとも暖まらない)。˞ヌフタマ˜リ　˜ミサカー　˜クナーティン　˞ヌフタマ˜ル　˜クトー　˜ナルン [˞nuɸʉtama˜ri ˜misaka: ˜kuna:tin ˞nuɸʉtama˜ru ˜kʉto: ˜naruŋ](暖まってよければ、ここでも暖まることは出来る)。˞ヌフタマ˜レー　˜ミサムヌ [˞nuɸʉtama˜re: ˜misamunu](暖まればいいのに)。ク˞マー˜　キー　˞ヌフタマ˜リ [ku˞ma:˜ ki: ˞nuɸʉtama˜ri](ここへ来て暖まりなさい)。

˞ヌフタミ˜ルン [˞nuɸʉtami˜ruŋ] 【他動】温める。暖める。首里方言の nukutamijuN(暖める。体を温める) の転訛したもの。ピ˞バ˜チナー　˞タン　タシキティ˜　ザー　˞ヌフタミ˜ルンティ　˞ベー˜ンドゥ　ムッ˞トゥ　ヌフタミラ˜ヌ [pi˞ba˜tʃina: ˞tan taʃʉkiti˜ dʑa: ˞nuɸʉtami˜runti ˞be:˜ndu mut˞tu nuɸʉtamirara˜nu](火鉢に炭を焚きつけて座敷を暖めようとしているが、ちっとも暖められない)。˞ヌフタ˜ミ　˜ミサカー　シ˞グ　ヌフタミ˜ル　˜クトゥン　˜ナルン [˞nuɸʉta˜mi ˜misaka: ʃi˞gu nuɸutami˜ru ˜kʉtun ˜naruŋ](暖めてよければ、すぐ暖めることもできる)。˞ヌフタミ˜レー　˜ミサムヌ [˞nuɸʉtami˜re: ˜misamunu](暖めればいいのに)。˞パー˜ク　˞ヌフタミ˜リ [˞pa:˜ku ˞nuɸʉtami˜ri](早く暖めよ)。

ヌ˞ブリクドゥキ [nu˞burikuduki] 【名】歌謡、舞踊の名称。「上り口説」。那覇を出て薩摩に至るまでの叙景歌謡。石垣方言からの借用語。ヌ˞ブリクドゥキヌ˜。

ヌ˞ブルン [nu˞buruŋ] 【他動】登る。上る。歌謡語。石垣方言からの借用語か。普通は˞ヌールン [˞nu:ruŋ](登る。上る) という。/パトゥマナカムリ　パリヌブリ　クバヌ　シタニ　パリヌブリ　ハイヤヨーティバ　カイダキ　ティトゥユル　テンヨー　マサティ　ミグトゥ/(鳩間中岡駆け上り、蒲葵の下に駆け上り、南の方を眺めると美しい古見の山々が手に取るようで、誠に見事な眺望である) 鳩間中岡。『鳩間島古典民謡古謡集』。

˜ヌブン [˜nubuŋ] 【自動】伸びる。「伸び < 上二段 >」の四段活用化したもの。˜グモー　ピ˞キスク˜カー　˜ヌブン [˜gumo: pi̥˞kisʉku˜ka: ˜nubuŋ](ゴムは引張ったら伸びる)。ク˞レー˜　ヌ˞バ˜ヌ [ku˞re:˜ nu˞ba ˜nu](これは伸びない)。˜ヌビ　˞ナー˜ヌ [˜nubi ˞na:˜ nu](伸びてしまった)。˜ヌブ　˜クトー　˞ナー˜ヌ [˜nubu ˜kʉto: ˞na:˜nu](伸びることはない)。˜ヌベー˜ミサムヌ [˜nube: ˜misamunu](伸びればいいのに)。˞マー˜ビン　˜ヌビバ [˞ma:˜bin ˜nubiba](もっと伸びろ)。

˜ヌブン [˜nubuŋ] 【自動】堪忍する。堪える。イッ˞ケナ˜　キ˞ム˜　ヌブン [ʔik˞kena˜ ki˞mu˜ nubuŋ](非常に我慢する <堪(タ)える >)。˞クン˜ゾー　ン˞ザン˜ドーシ　˜キモー　ヌビ˞ダー [˞kun˜dʑo: ʔn˞dʑan˜do:ʃi ˜kimo: nubi˞da:](立腹しないで堪えろ < 肝を伸べ > よ)。

˜ヌベーカベー [˜nube:kabe:] 【副】延ばし延ばし。ABCDBC 型の重言。繰り返し引き延ばすこと。延期することの強調表現。˞ヨイ˜ヤー　ナー˞イ˜　ヌベーカベー　シ˞ミ˜　シ˞キラン˜ドーシ　˞パイ˜サ　シ˞ミルワ (バ)˜　マ˞シ [˞joi˜ja: na:˞ji˜ nube:kabe: ʃi˞mi˜ ʃi̥˞kiran˜do:ʃi ˞pai˜sa ʃi˞miruwa(ba)˜ ma˞ʃi](お祝いはだだ延ばし延ばしにしておかないで、早くさせる方が良い)。

ヌ˞ベーリッ˜ツァーン [nu˞be:rit˜tsa:ŋ] 【形】すべっこい (滑っこい)。ぬるぬるして滑っこい。ア˞ガミツァミチェー˜　ア˞ミ˜ヌ　˜フーカー　ヌ˞ベーリッ˜ツァーンドゥ　イ˞ノン˜　マクカー　˞ナン˜ゾー　ヌ˞ベーリッツァー　ナー˜ヌ [ʔa˞gamitsamitʃe:˜ ʔa˞mi ˜nu ˜ɸu:ka: nu˞be:rit˜tsa:ndu ʔi˞nom˜ makuka: ˞nan˜ dʑo: nu˞be:rittsa: na:˜nu](赤粘土の道は雨が降ると滑っこいが、砂を撒くと、あまり滑っこくない)。˜カマー　ヌ˞ベーリッツァー˜ヌ　ア˞ラカラン˜バ　ヌ˞ベーリッ˜ツァー　˜トン　パ˞ル˜ナ [˜kama: nu˞be:rittsa:˜nu ʔa˞rakaram˜ba nu˞be:rit˜tsa: ˜tom pa˞ru ˜na](あそこは滑っこくて歩けないから、滑っこい所へは行くな)。

ヌ˞ベー˜ルン [nu˞be:˜ruŋ] 【他動】なめる (嘗)。ねぶる。舌で嘗め回す。食べ物や食器を嘗める < 下品

な行為 >。˜ドゥク　ン˞マー˜カー　˞カイ˜キ　˞バー˜キ　ヌ˞ベー˜ルンティ　˞スンダ˜　ヌ˞ベーラサン˜ドーシ　ッ˞ふァーシ˜バ [˜duku ʔm˞ma:˜ka: ˞kai˜ki ˞ba:˜ki nu˞be:˜runti ˞sunda˜ nu˞be:rasan˜do:ʃi f˞fa:ʃi˜ba](あまりにも美味しいとお皿まで嘗めるというから、嘗めさせないで食べさせなさい)。イ˞カス˜ク　˞ヤー˜サタユー　マ˞カ˜ル　ヌ˞ベー˜リ　˞ベー [ʔi˞kasu̥˜ku ˞ja:˜sataju: ma˞ka˜ru nu˞be:˜ri ˞be:](どんなにひだるかったのか、お椀を嘗めている)。ヌ˞ベー˜ル　˜クトー　ス˞ナト ヨー [nu˞be:˜ru ˜ku̥to: su ˞naɦ-jo:](嘗めることはするなよ)。˜シタシ　ヌ˞ベー˜レー　˜ミサムヌ [˜ʃi̥taʃi nu˞be:˜re: ˜misamunu](舌で嘗めればいいのに)。˞パー˜ク　ヌ˞ベー˜リ [˞pa:˜ku nu˞be:˜ri](早く嘗めよ)。

˜ヌミ　ウ˞タ˜スン [˜numi ʔu˞ta˜suŋ] 【連】飲み込む。喉にかかった魚の小骨などを、白湯を入れた茶碗に箸で十文字を作って乗せ、その箸の間から白湯を飲んで落とすこと。˜サー　˜ヌミティ　ン˞ギ˜ヌミ　ウ˞タ˜シ [˜sa: ˜numiti ʔŋ˞gi˜ numi ʔu˞ta˜ʃi](茶 < 白湯 > を飲んで、とげ < 刺 > を飲み込め < 飲み落とせ >)。

˜ヌミ　ウ˞ラ˜スン [˜numi ʔu˞ra˜suŋ] 【連】飲みおろす。呑み込む。イ˞ズン˜プニ　˜ヌドゥナー　カ˞カラ˜シティ　ヌ˞ドゥカーカー˜シ　˞ブー˜　ピンマー　˜サバンナー　ミ˞ジェー　サイティ˜　パ˞シ˜バ　ヤ˞ラザイティ˜　ヌムカー　˜ヌミ　ウ˞ラサ˜リンツォー [ʔi˞ʤumpuni˜ba ˜nuduna: kḁ˞kara˜ʃi̥ti nu ˞duka:ka:˜ʃi ˞bu:˜ pimma: ˜sabanna: mi˞ʤe: saiti˜ pḁ ˞ʃi˜ba ja˞raʤaiti˜ numuka: ˜numi ʔu˞rasa˜rintso:](魚の骨を喉に引っかけている時は、茶碗に水を注いで、箸で十字に組んで、その間から飲むと骨は呑み下ろされるそうだ)。

ヌ˞ミ˜キスン [nu˞mi˜ki̥suŋ] 【他動】飲みきる。飲みつくす。ヌ˞ミ˜キスンティ　˞スンドゥ　タンガ˜シェー　ヌ˞ミキサラ˜ヌ [nu˞mi˜ki̥sunti ˞sundu taŋga ˜ʃe: nu˞mikisara˜nu](飲みつくそうとするが、一人では飲み尽くされない)。ヌ˞ミ˜キシ　˞ナー˜ヌ [nu ˞mi˜ki̥ʃi ˞na:˜nu](飲みつくしてしまった)。˞タンガ˜シ　ヌ˞ミ˜キス　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [˞taŋga˜ʃi nu˞mi˜ki̥su ˜ku̥to: na˞ra˜nu](一人で飲みつくすことは出来ない)。ヌ˞ミ˜キシェー　˜ミサムヌ [nu˞mi˜ki̥ʃe: ˜misamunu](飲み尽くせば良いのに)。ヌ˞ミ˜キシバ [nu˞mi˜ki̥ʃiba](飲み尽くせよ)。

ヌ˞ミ˜グル [nu˞mi˜guru] 【名】飲み残し。液体の沈殿物。˞ワー˜　ヌ˞ミ˜グロー　ヤ˞ニヤ˜ヌ　ヌ˞マラ˜ヌ [˞wa:˜ nu˞mi˜guro: ja˞nija˜nu nu˞mara˜nu](君の飲み残しは汚くて飲めない)。

ヌ˞ミスク˜ライ [nu˞misu̥ku˜rai] 【名】飲み下ろす口の動きを装うこと。生唾を飲み込むようにすること。「飲みつくろい」の義。フ˞チックナー [ɸu̥˞ʧikkuna:](飲食するように口を動かすこと) ともいう。ウ˞ヌ˜スコー　サ˞キ˜　ヌ˞ミ　プサ˜ル　˜アルユー　ヌ˞ミスク˜ライ　˞シーベー [ʔu˞nusu̥˜ku sḁ˞ki˜ nu˞mi pu̥sa˜ru ˜ʔaruju: nu˞misu̥ku˜rai ˞ʃi: be:](それほど酒が飲みたいのか、生唾を飲み込むようにしている)。

ヌ˞ミッ˜クムン [nu˞mik˜kumuŋ] 【他動】1飲み込む。嚥下(エンゲ)する。˞チン˜チ　ヌ˞ミッ˜クムンティ　˞スンドゥ˜　ヌ˞ミックマラ˜ヌ [˞ʧin˜ʧi nu˞mik˜kumunti ˞sundu˜ nu˞mikkumara˜nu](唾を飲み込もうとするが、飲み込めない)。ヌ˞ミッ˜クミ　˜ミサカー　ヌ˞ミッ˜クム　˜クトー　˜ナルン [nu˞mik˜kumi ˜misaka: nu˞mik˜kumu ˜ku̥to: ˜naruŋ](飲み込んでよければ飲み込むことはできる)。ヌ˞ミッ˜クメー　˜ミサムヌ [nu˞mik˜kume: ˜misamunu](飲み込めばいいのに)。ムー˞ル˜　ヌ˞ミッ˜クミバ [mu:˞ru˜ nu˞mik˜kumiba](全部飲み込めよ)。プ˞ス˜フチシ　ヌ˞ミッ˜クムン [pu̥˞su˜ɸu̥ʧiʃi nu˞mik˜kumuŋ](一口で飲み込む)。2見下す。見くびる。ウ˞レー˜　プ˞スバ˜　ヌ˞ミッ˜クミティ　˞ピッ˜チン　ウ˞バイル˜　スコーア˞ラ˜ヌ [ʔu˞re:˜ pu̥˞suba˜ nu˞mik˜kumiti ˞pit˜ʧiŋ ʔu ˞bairu˜ su̥ko: ʔa˞ra˜nu](彼は人を見下して < 見くびって > ちっとも怖がらない < 怖がるどころではない >)。

ヌ˞ミッ˜クル [nu˞mik˜kuru] 【名】飲み残り。飲み残したもの。˞ワー˜　ヌ˞ミックル˜バ　プ˞スン˜　ヌ˞マ˜スンティ　˞スー [˞wa:˜ nu˞mikkuru˜ba pu̥˞sun˜ nu˞ma˜sunti ˞su:](君の飲み残りを他人に飲まそうというのか <～とするのか >)。

ヌ˞ミッタル˜　ッ˞ふァイッ˜タル [nu˞mittaru˜ f˞fait˜taru] 【連】飲んだり食ったり。˞タイロー　スー˜カー　サ˞カナヤー˜ナーティ　ヌ˞ミッタル˜　ッ˞ふァイッ˜タル　˞シー˜　ア˞サボーッ˜タツォー [˞tairo: su:˜ka: sḁ˞kanaja:˜na:ti nu˞mittaru˜ f˞fait˜taru ˞ʃi:˜ ʔa˞sabo:t˜tatso:](大漁したら料亭で飲んだり食ったりして遊ばれたそうだ)。

ヌ˞ミ˜ドゥシ [nu˞mi˜duʃi] 【名】飲み友達。ヌ˞ミ˜ドゥシザーン　ム˞チ˜レーティ　˞ヤー˜ヌ　˜アンティ　˜クトゥ　˞バシキ　ブー [nu˞mi˜duʃiʤa:m mu˞ʧi ˜re:ti ˞ja:˜nu ˜ʔanti ˜ku̥tu ˞baʃi̥ki bu:](飲み友達同士

で遊び惚(ホウ)け＜睦れ＞て、家があることを忘れている)。

ヌ˞ミヌカ˜スン [nu˞minuka˜suŋ] 【他動】飲み残す。ヌ˞ミヌカ˜スンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　ウ˞ビッチン˜ドゥ　ア˞リ˜バ　ヌ˞ミヌカサン˜ドーシ　ムー˞ル˜　ヌミバ [nu˞minuka˜sunti ʔu˞mu:n˜du ʔu˞bittʃin˜du ʔa˞ri˜ba nu˞minukasan˜do:ʃi mu:˞ru˜ numiba](飲み残そうと思うが、これぽっちしかないので、飲み残さないで全部のみなさいよ)。ヌ˞ミヌカ˜シ　˜ミサカー　ヌ˞ミヌカ˜ス　˜クトー　˜ナルン [nu˞minuka˜ʃi ˜misaka: nu˞minuka˜su ˜kṵto: ˜naruŋ](飲み残してよければ、飲み残すことはできる)。ヌ˞ミヌカ˜シェー　˜ミサムヌ [nu˞minuka˜ʃe: ˜misamunu](飲み残せばいいのに)。˜クベー　ヤー˞ディン˜　ヌ˞ミヌカ˜シ [˜kube: ja:˞din˜ nu˞minuka˜ʃi](これだけは必ず飲み残しなさい)。

ヌ˞ミヌカ˜ル [nu˞minuka˜ru] 【名】飲み残り。飲み残し。ヌ˞ミヌカル˜バ　プ˞スン˜　ヌ˞マス˜ナ [nu˞minukaru˜ba pṵ˞sun˜ nu˞masu˜na](飲み残りを他人に飲ませるな)。

ヌ˞ミフチ˜ル [nu˞miɸṵtʃi˜ru] 【名】飲み薬。ヌ˞ミフシ˜ル [nu˞miɸṵʃi˜ru](飲み薬) ともいう。シ˞キフチ˜ル [ʃi̥˞kiɸṵtʃi˜ru](付け薬。塗り薬) の対義語。イ˞サン˜ヤーナ　˞ギー˜　ッ˞サーク˜ヌ　ヌ˞ミフチ˜ル　˞イー˜リ　˜クー [ʔi˞saɲ˜ja:na ˞gi:˜ s˞sa:ku˜nu nu˞miɸṵtʃi˜ru ˞ʔi:˜ri ˜ku:](病院へ行って咳の飲み薬をもらってきなさい)。

ヌ˞ミ˜ミジ [nu˞mi˜miʤi] 【名】飲み水。飲料水。ム˞カ˜シェー　パ˞トゥ˜マプソー　˞カーヌ˜　ミ˞ジバ˜　フ˞ミル˜　ヌ˞ミ˜ミジ　˞ソーッ˜タ [mu˞ka˜ʃe: pạ˞tu˜mapṵso: ˞ka:nu˜ mi˞ʤiba˜ ɸu˞miru˜ nu˞mi˜miʤi ˞so:t˜ta](昔は、鳩間の人は井戸の水を汲んで飲み水にされた)。˞ウイヌカーヌ˜　ヌ˞ミ˜ミジェー　イッ˞ケン˜　ン˞マー˜タン [˞ʔuinuka:nu˜ nu˞mi˜miʤe: ʔik˞kem˜ ʔm˞ma:˜taŋ](上の井戸＜シ˞マナカ [ʃi˞manaka] にある井戸＞の飲料水は非常に美味しかった)。

ヌ˞ミ˜ムヌ [nu˞mi˜munu] 【名】飲み物。水、茶、酒など。ヌ˞ドゥカー˜キ　˞シー˜　ナ˞ラン˜バ　ノー˞ンヤラバン˜　ヌ˞ミ˜ムヌ　ヌ˞マ˜シ　ッ˞ふィーラン˜ノーレー [nu˞duka:˜ki ˞ʃi:˜ na˞ram˜ba no:˞ɲ jaraban˜ nu˞mi˜munu nu˞ma˜ʃi f˞fi:ran˜no:re:](喉が渇いて＜喉渇きして＞堪らないから、何でも飲み物を飲ましてくれないかねえ)。

˜ヌムン [˜numuŋ] 【他動】飲む。「〜乃牟美豆尓＜ノムミズニ＞〜。万、4322」の転訛。ミ˞ジ˜　ヌムンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　ムッ˞トゥ˜　ヌ˞マラ˜ヌ [mi˞ʤi˜ numunti ʔu˞mu:n˜du mut˞tu˜ nu˞mara˜nu](水を飲もうと思うが、ちっとも飲めない＜飲まれない＞)。ヌ˞ミ˜　プサカー　˜ヌミバ [nu˞mi˜ pṵsaka: ˜numiba](飲みたければ飲みなさい)。˜ヌム　プ˞ソー˜　アトーラ　˜ヌメー　˜ミサムヌ [˜numu pṵ˞so: ˜ʔato:ra ˜nume: ˜misamunu](飲む人は後から飲めばいいのに)。˞ワー˜　サ˞キ˜　ヌミバ [˞wa:˜ sạ˞ki˜ numiba](君は酒を飲めよ)。ク˞レー˜　ヌ˞ミングリ˜サン [ku˞re:˜ nu˞miŋguri˜saŋ](これは飲みづらい)。

˞-ヌ˜メー [˞-nu˜me:] 【接尾】〜たち (達)。〜ども (共)。〜ら (等)。複数を表す。ぞんざいに話すと、˞-ンメー [˞-mme:](〜たち。〜ども。〜ら) という。目下の者や卑下すべき対象、卑語などにつく。˞クンザヌメーヤ　スングリ˜　トゥ˞ラ˜シ [˞kunʤanume:ja suŋguri˜ tu˞ra˜ʃi](こいつ等は引っぱたいてやれ)。˜ワンザンメーヤ　ウ˞ヤ˜ヌ　バ˞チカビ˜ムヌ [˜wanʤamme:ja ʔu˞ja˜nu ba˞ʧikabi˜munu](お前等は親の罰当り＜罰被り＞だ)。

˜-ヌヤー [˜-nuja:] 【並立】並立助詞。〜やら。〜だの。〜や。名詞類に付いて同類のものを並べたてて表す。˞ヌー˜ヌヤー　˞クイヌ˜ヤーティ　˞シー˜　プ˞スヌ˜　フ˞シバ˜　トゥルンティ　カー˞ニ　シーアー˜ク [˞nu:˜nuja: ˞kuinu˜ja:ti ˞ʃi:˜ pṵ˞sunu˜ ɸṵ˞ʃiba˜ turunti ka:˞ni ʃi: ʔa:˜ku](あれやこれや＜何だの此れだの＞と他人の欠点＜難癖＞をあげつらおうと＜取ろうと＞だけしている)。˞イー˜ヌヤー　˞スー˜ヌヤー　ナ˞マシ˜ヌヤーティ　˞シー˜　カ˞ティ˜ムヌ　ス˞コールンティ　シー　シッ˜パイ　˞シーオー˜ル [˞ʔi:˜nuja: ˞su:˜nuja: na˞maʃi˜nuja:ti ˞ʃi:˜ kạ˞ti˜munu sṵ˞ko:runti ʃi: ʃip˜pai ˞ʃi:ʔo:˜ru](ご飯やらお汁やら刺身やらなどといって御数＜副食物。「糅(カ)て物」の義。「雑、マジフ・カサヌ・カツ」『類聚名義抄』の転訛＞を作ろうとして頑張っておられる)。

ヌ˞リカブン [nu˞rikabuŋ] 【自動】1ことばで激しく襲いかかる。反撃する。ウ˞レー˜　イ˞ジナラース˜カー　ヌ˞リカブンダ˜　ナ˞ラーサラ˜ヌ [ʔu˞re:˜ ʔi˞ʤinara:su˜ka: nu˞rikabunda˜ na˞ra:sara˜nu](彼は叱って教えると逆に言葉で襲い掛かるから、教えられない)。˞キュー˜ヤ　ヌ˞リカバンバ˜　ピ˞ルマ˜サ [˞kju:˜ja nu˞rikabamba˜ pi˞ruma˜sa](今日は逆襲しないから珍しいよ)。ヌ˞リカビ　キー˜スンダ　ナ˞クラー˜ン [nu˞rikabi ki:˜sunda na˞kura:˜ŋ](反撃してくるから怖い)。プ˞スンナー˜ニ　ヌ˞リカブ˜　ク

トー　ス˞ナ˥ヨー [pu̥˞sunnaːˀni nu˞rikabu˥ ku̥toː su˞naˀjoː](他人に言葉で襲い掛かることはするなよ)。ヌ˞リカベー˥　ミサムヌ [nu˞rikabeː˥ misamunu](言葉で反撃すればいいのに)。ヌ˞リカビ˥バ [nu˞rikabi˥ba](激しく反論しなさいよ)。²かぶりつく。喰らいつく。ク˞ヌ　イン˥マー　プ˞スンナー˥ニ　ヌ˞リカビ˥　クン [ku˞nu ʔimˀma: pu̥˞sunnaːˀni nu˞rikabi˥ kuŋ](この犬は人に向かって吠えて襲ってくる)。

ヌ˞リクム [nu˞rikumu] 【名】入道雲。積乱雲。歌謡で用いられる語。ヌ˞リクムヌ˥　ン˞ジ˥ルカー　ア˞ミ˥ヌ　˥フー [nu˞rikumunu˥ ʔn˞ʤiˀruka: ʔa˞miˀnu˥ ɸuː](入道雲が出ると雨が降る)。竹富島の˞マザカイ節」に/竹富ヌ仲嵩ヌ　真上ナガ　白雲ヌ　乗雲ヌ　立チュラバ　白雲デ　乗雲デ　思イヨンナ　女童デ　カヌシャマデ　思イブリ/『八重山民謡誌』とある。

ヌ˞リ˥バン [nu˞riˀbaŋ] 【名】黒板。「塗り板」の義。明治 29 年 6 月、鳩間島に大川尋常小学校の鳩間分校が設置された。ヌ˞リ˥バン [nu˞riˀbaŋ](黒板) はそれ以後に借用された語であろう。ヌ˞リ˥バンナール　˞ジーヤ˥　カキティ　ナ˞ラー˥ソーッタ [nu˞riˀbanna:ru ˞ʤi:jaˀ kḁkiti na˞raːˀsoːtta](黒板に < ぞ > 文字を書いて教えられた < 習わされた >)。

ヌ˞ルーヌルー˥シ [nu˞ru:nuruːˀʃi] 【副】ぬるく (温く)。生暖かく。ア˞チユー˥ヤ　ヌ˞ルーヌルー˥シ　サ˞マ˥シティ　ヌ˞マ˥シバ [ʔa˞ʧijuːˀja nu˞ru:nuruːˀʃi sa˞maˀʃi̥ti nu˞maˀʃiba](熱湯は温く冷まして飲ましなさい)。

ヌ˞ルマ˥スン [nu˞rumaˀsuŋ] 【他動】ぬるめる。ぬるくする。ア˞チユー˥バ　ヌ˞ルマ˥スンティ　˥シケーンドゥ　˞パー˥クティ　ヌ˞ルマサラン˥バン [ʔa˞ʧijuːˀja nu˞rumaˀsunti˥ ʃi̥keːndu ˞paːˀkuti nu˞rumasaram˥baŋ](熱湯をぬるめようとしてあるが、急には温められないよ)。ヌ˞ルマ˥シ　˥ミサカー　シ˞グ˥　ヌ˞ルマ˥ス　˥クトー　˥ナルン [nu˞rumaˀʃi˥ misakaːʃi˞guˀ nu˞rumaˀsu˥ ku̥toː ˥naruŋ](温めてよければ温めることはできる)。˞マー˥ビン　ヌ˞ルマ˥シェー　˥ミサムヌ [˞maːˀbin nu˞rumaˀʃeː ˥misamunu](もっとぬるめればいいのに)。ヌ˞ルマ˥シバ [nu˞rumaˀʃiba](温めよ)。

ヌ˞ルミ˥ルン [nu˞rumiˀruŋ] 【他動】ぬるめる (温める)。ア˞チ˥ユー　ヌ˞ルミ˥ルンティ　˞スンドゥ　パー˥ク　ヌ˞ルミララ˥ヌ [ʔa˞ʧiˀjuː nu˞rumiˀrunti ˞sundu paːˀku nu˞rumirara˥nu](熱湯を温めようとするが、急には < 早く > 温められない)。˞ユー˥ヤ　キ˞サーティ˥　ヌ˞ル˥ミ　˞ナー˥ヌ [˞juːˀja ki̥˞saːtiˀ nu˞ruˀmi ˞naːˀnu](お湯は既に温めてしまった)。˞オーパ˥ヤー　ヌ˞ルミ˥ル　˥ワケー　˞ナー˥ヌ [˞ʔoːpaˀja: nu˞rumiˀru ˥wake: ˞naːˀnu](そんなに早く温める訳がない)。ン˞ベーマ˥　ヌ˞ルミ˥レー　˥ミサムヌ [ʔm˞beːmaˀ nu˞rumiˀre: ˥misamunu](少しは温めればいいのに)。ヤー˞ディン˥　ヌ˞ルミ˥リ [ja:˞dinˀ nu˞rumiˀri](必ず温めろ)。

ヌ˞ル˥ムン [nu˞ruˀmuŋ] 【自動】ぬるむ。微温(ヌル)くなる。˥サムン [˥samuŋ](冷(サ)める) ともいう。˞ユー˥フルガマヌ　フ˞ター˥　ア˞ク˥カー　˞ユー˥ヤ　ヌ˞ル˥ムンダ　ヌ˞ルマン˥ケン　˞パー˥ク　ア˞ミ˥バ [˞juːˀɸu-rugamanu ɸu̥˞taːˀ ʔa˞kuˀka: ˞juːˀja nu˞ruˀmunda nu˞rumaŋˀkem ˞paːˀku ʔa˞miˀba](風呂釜の蓋を開けるとお湯が微温(ヌル)むから、微温まないうちに早くお湯を浴びなさい)。˞ユー˥ヤ　ヌ˞ル˥ミ　˞ナー˥ヌ [˞juːˀja nu˞ruˀmi ˞naːˀnu](お湯は微温んでしまった)。˞ユー˥ヌ　ヌ˞ル˥ム　˥クトー　˞ナー˥ヌ [˞juːˀnu nu˞ruˀmu˥ ku̥toː ˞naːˀnu](お湯が微温むことはない)。˞マー˥ビン　ヌ˞ル˥メー　˥ミサムヌ [˞maːˀbin nu˞ruˀmeː˥ misamunu](もっと微温めばいいのに)。

˥ヌルントゥルンシ [˥nurunturuŋʃi] 【副】のろりとろりと。のろのろと。だらだらと。ぼんやりして。シ˞グトゥン˥　ヌルントゥルンシ　˞ピッ˥チン　˥マイ　˞ユーザヌ [ʃi˞gutunˀ nurunturuŋʃi ˞pitˀʧim˥mai ˞juːʤanu](仕事ものろのろとして、ちっとも前に進まない)。

ヌ˞ロー˥ン [nu˞roːˀŋ] 【形】ぬるい (温い)。˞ユー˥ヤ　ヌ˞ロー˥ンダ　フ˞カ˥シ　ア˞ツァ˥シバ [˞juːˀja nu˞roːˀnda ɸu̥˞kaˀʃiti ˞saiˀba](お湯は温いから沸騰させて注ぎなさいよ)。ヌ˞ロー　ナー˥ヌ [nu˞ro: naːˀnu](温(ヌル)くない)。˞サー˥ヤ　ヌ˞ロー˥ヌ　ヌ˞マラ˥ヌ [˞saːˀja nu˞roːˀnu nu˞maraˀnu](お茶は温(ヌル)くて飲めない)。ヌ˞ロ˥ー　˞サー˥ヤ　˥ユー　フ˞カ˥シ　˞サイ˥バ [nu˞roˀ: ˞saːˀja ˥juː ɸu̥˞kaˀʃi ˞saiˀba](温(ヌル)いお茶はお湯を沸かして注(ツ)ぎなさいよ)。ヌ˞ロー˥カー　ヌ˞ム˥ナ [nu˞roːˀka: nu˞muˀna](温かったら飲むな)。

˥ヌン [˥nuŋ] 【名】のみ (鑿)。木材や石材に穴をうがつのに用いる工具。「鑿、乃未 < のみ >」『日本霊異記　上』の転訛。シ˞キヌン [ʃi̥˞kinuŋ](突き鑿)、ピ˞サヌン [pi̥˞sanuŋ](平鑿。厚さが薄く、巾の広い鑿)。マ˞ルヌン [ma˞runuŋ](丸鑿)、˞サンブ˥ヌン [˞sambu˥nuŋ](三分鑿)、ゴ˞ブヌン [go˞bunuŋ](五分鑿)、シ˞チブ˥ヌン [ʃi̥˞ʧibuˀnuŋ](七分鑿) 等の種類があった。˥ヌンシ　パ˞ラー˥ヌ　˥ミー　˞ピッ˥キバ [˥nuŋʃi pa

ˈraː˺nu ˺miː ˈpik˺kiba](鑿で柱のほぞあな < 枘穴 > を堀りなさい < 枘穴をほがせ >)。ˈヌン˺トゥ　カˈナートゥ˺　ヌˈキル˺ヌ　˺アルカー　ˈタイゲー˺ヌ　˺ムノー　スˈクラ˺リン [ˈnun˺tu kaˈnatu˺ nuˈkiru˺ nu ˺ʔaruka: ˈtaigeː˺nu ˺muno: sɥˈkura˺riŋ](鑿と鉋と鋸があれば、大概のものは作れる)。

˺ヌン [ˈnuŋ] 【名】 (動) ノミ (蚤)。「蚤、乃美 < のみ >」『新撰字鏡』の転訛。イˈクサユー˺ヌ　˺アトゥナー　˺キンナーン　ˈヤーン˺ナカナーン　ˈヌン˺ヌ　˺シディッサリティ　フˈシガラン˺ベーティ　ˈディーディー˺ティーティ　ˈスー˺　フˈチル˺バ　マˈコーッ˺タツォー [ʔiˈkusajuː˺nu ˺ʔatunaː ˺kinnaːɲ ˈjaːn ˺nakanaːn ˈnun˺nu ˺ʃidissariti ɸɥˈʃigaraŋ˺beːti ˈdiːdiː ˺tiːti ˈsuː˺ ɸɥˈʧiru˺ba maˈkoːt˺tatsoː](戦後、着物にも家にも蚤が異常に発生して耐えられなかったので、DDT という薬を散布された < 撒かれた > そうだ)。

ˈヌン [ˈnuŋ] 【係助】～も。係助詞ン [ŋ](も) が撥音 N で終わる語に付くと、連声ををおこして、ヌン [nuŋ](も) となる。どれか一つに限定せず、同種のものを並列列挙する際に用いる助詞。ˈウン˺ネーナー　ウˈシン　イン˺ヌン　シゥˈカ˺ナイ　ˈブントゥダー [ˈʔun˺neːnaː ʔuˈʃiŋ ʔin˺nun sɨˈka˺nai ˈbunˈdaː](その家には牛も犬も飼っているよ)。

ˈヌンガーラ˺スン [ˈnuŋgaːra˺suŋ] 【他動】許す。免れさせる。「逃れさす」の転訛。「～老いは、え逃れぬわざなり」『源氏物語 < 若菜下 >』とも関係する語か。クˈトゥワ˺キ　イˈリル˺カー　ˈヌンガーラ˺スンティ　シˈタヌ　クン˺ドー　ˈヌンガラサ˺ヌ [kɥˈtuwa˺ki ʔiˈriru˺ka: ˈnuŋgaːra˺sunti ʃɨˈtanu kun˺doː ˈnuŋgaːrasa˺nu](侘びを入れたら許すといったが、今度は許さない)。ˈヌンガーラ˺シ　˺ミサカー　ˈヌンガーラ˺ス　˺クトー　˺ナルン [ˈnuŋgaːra˺ʃi ˺misakaː ˈnuŋgaːra˺su ˺kɥtoː ˺naruŋ](許してよければ許すことはできる)。ウˈビッチン˺ヌ　˺クトー　ˈヌンガーラ˺シェー　˺ミサムヌバ。ˈパー˺ク　ˈヌンガーラ˺シ [ʔuˈbittʃin˺nu ˺kɥtoː ˈnuŋgaːra˺ʃeː ˺misamunuba。ˈpaː˺ku ˈnuŋgaːra˺ʃi](あれぽっちのことは許せば良いものを、早く許しなさい < 免れさせよ >)。ˈクン˺ドー　ˈヌンガーラサラ˺ヌ [ˈkun˺doː ˈnuŋgaːrasara ˺nu](今度は許されない)。

ˈヌンガーリ˺ムニ [ˈnuŋgaːri˺muni] 【名】逃げ口上。言訳(イイワケ)。弁解。ナーˈイ　ヌンガーリ˺ムニ　カーˈニ˺　アˈジ　ベー [naːˈji nuŋgari˺muni kaːˈni˺ ʔaˈʧibeː](ただ逃げ口上 < 弁解 > だけ言っている)。

ˈヌンガー˺リン [ˈnuŋgaː˺riŋ] 【自動】許される。赦免される。負担や義務を免除される。˺エンラーンˈジマイ˺ヤー　ˈヌンガー˺リンツォー [˺jenraː ʔnˈʧimai˺jaː ˈnuŋgaː˺rintsoː](来年からは出し前 < 割り当て金 > は免除されるそうだ)。

ˈヌンガー˺ルン [ˈnuŋgaː˺ruŋ] 【自動】免れる。許される。˺ウビシ　ˈヌンガー˺ルンカヤーティ　ウˈムータン˺ドゥ　ˈヌンガーラン˺シェン [˺ʔubiʃi ˈnuŋgaː˺ruŋkajaːti ʔuˈmuːtan˺du ˈnuŋgaːraraŋ˺ʃeŋ](これで許されると思ったが、許されなかった)。ˈヌンガー˺リ　˺ケーン [ˈnuŋgaː˺ri keːŋ](許され < 免れて > てきた)。ˈヌンガー˺ル　˺クトー　ˈナー˺ヌ [ˈnuŋgaː˺ru ˺kɥtoː ˈnaː˺nu](許される < 免れる > ことはない)。ˈトゥンガー˺ヤ　˺ウビシ　ˈヌンガー˺レー　˺ミサムヌ [ˈtuŋgaː˺ja ˺ʔubiʃi ˈnuŋgaː˺reː ˺misamunu](罪科はこれで許されれば < 免れれば > いいのに)。ˈパー˺ク　ˈヌンガーリ˺リ [ˈpaː˺ku ˈnuŋgaːri˺ri](早く許されなさい < 免れろ >)。

ˈヌングンジマ [ˈnuŋgunʤima] 【名】山や川、水田などのない島。隆起珊瑚礁からなる島。ˈヌーグニジマ [ˈnuːgunicʤima](野国島) の転化した語。対義語はˈタングンジマ [ˈtaŋgunʤima](山や川、水田のある大きな島)。パˈトゥ˺マ　フˈシ˺マ　タˈキ˺ドゥン　パˈナ˺リンドーレーヤ　ˈヌングンジマ˺ティ　アˈザリ　ブー [paˈtu˺ma ɸuˈʃi˺ma tɨˈki˺dum paˈna ˺rindoːreːja ˈnuŋgunʤima˺ti ʔaˈʤari buː](鳩間、黒島、竹富、新城 < パナリ > などはヌングンジマ < 隆起珊瑚礁からなる島 > といわれている)。

ˈヌン˺ツァー [ˈnun˺tsaː] 【名】唾や水を誤飲して激しく咳き込むこと。ˈサー˺バ　ユˈクヌドー˺　ウˈタ˺シティ　ˈヌン˺ツァー　ˈシー　ベー [ˈsaː˺ba juˈkunudoː ʔuˈta˺ʃɨti ˈnun˺tsaː ˈʃiː beː](お茶を気管 < 別喉 > に落として激しく咳き込んでいる)。

ˈヌンツァー˺スン [ˈnuntsaː˺suŋ] 【他動】なまつば < 生唾 > を飲む。ンˈマー˺　ムヌバ　˺ミリティ　ナーˈイ　ヌン˺ツァー　ˈシー　ベー [ʔmˈmaː˺ munuba ˺miriti naːˈji nun˺tsaː ˈʃiːbeː](美味しいものを見て、ただ生唾を飲んでいる)。ンˈマー˺ムヌ　˺ミルカー　ˈチン˺チ　ˈヌンツァー　ˈスン˺ダー [ʔmˈmaː˺munu ˺miruka: ˈʧin˺ʧi ˈnun˺tsaː ˈsun˺daː](美味しいものを見ると生唾を飲むよ)。ˈヌンツァーサ˺ヌ [ˈnuntsaːsa ˺nu](生唾を飲まない)。ˈヌンツァー˺ス　˺クトー　ˈナー˺ヌ [ˈnuntsaː˺su ˺kɥtoː ˈnaː˺nu](生唾を飲むことはない)。

˺ヌンティ [˺nunti] 【副】なぜ (何故)。どうして。原因・

理由について不審、不満、疑問、詰問の意を表し、終助詞ワ [wa](か) と係り結ぶ。ヌー˩スンティ [nu:˩sunti](なぜ。どうして) ともいう。「〜何とて我が身消え残りけむ」『源氏物語　橋姫』、「Nanitote. ナニトテ (何とて) なぜ、あるいは、どうして」『邦訳日葡辞書』の転訛。˥ヌンティ　パ˩ラン˥ワ [˥nunti pa˩raŋ˥wa](何故行かないのか)。˥アイブー　ム˩ヌ˥バ　˥ヌンティ　˩カウワ [˥ʔaibu: mu˩nu˥ba ˥nunti ˩kauwa](あんな物を何故買うのか)。

˥ヌンティユー [nuntiju:] 【連】何故なのか。どういう訳か。˩キュー˥ヤ　˥ヌンティユー　ムッ˩トゥ˥　キモー　ガ˩ランバン [˩kju:˥ja ˥nuntiju: mut˩tu˥ kimo: ga˩rambaŋ](今日は何故なのか、ちっとも心が晴れないわい < 気分がすぐれない >)。

˥ヌンティル [˥nuntiru] 【連】どういう訳で < ぞ >。何故に < ぞ >。「何とて・ぞ」の転訛。ウ˩レー˥ヌンティル　˩クーン˥ユー　ワ˩カラン˥サー [ʔu˩re:˥ nuntiru ˩ku:ŋ˥ju: wa˩karan˥sa:](彼は何故に来ないのか分からないよ)。

ネ

ネーガー [ne:˥ga:] 【名】びっこ (跛)。足の怪我で歩行の釣合いがとれないこと。また、その人。「跛、那閇久 (なへぐ)」『和名抄』の連用形に接尾語ヤー [ja:](～する) が下接して形成された語。ナンゲー [naŋge:](びっこ。< 那閉久 > の転訛)、˥グーナー [˥gu:na:](びっこ) ともいう。˩キー˥ヌ ˩ウイ˥ラ ˥ウティティ ˥パン ˥ブリティ ˩ネー˥ガー ˥ナリ ˩ベー [˩ki:˥nu ˩ʔui˥ra ˥ʔutiti ˥pam ˥buriti ˩ne:˥ga: ˥nari ˩be:](木の上から落ちて脚を折って < 骨折して >、びっこになっている)。

ネーザラコーザラ [˩ne:˥ʤarako:ʤara] 【副】根掘り葉堀り。しつこく。「根浚え孔浚え」の転訛か。˩ミー˥ミカーミ [˩mi:˥mika:mi] ともいう。˩ネー˥ザラコーザラ ˩フ˩ジ˥リ ˩トゥイシキ ˩ベー [˩ne:˥ʤarako:ʤara ɸu˩ʤi˥ri ˩tuiʃi̥ki be:](根堀り葉堀りほじくって < 穿って > 問い尋ねている)。

ネーシウン [˩ne:ʃiuŋ] 【名】煮芋。煮た芋。ふかしいも (蒸かし芋)。ナ˩マ˥ウン [na˩ma˥ʔuŋ](生芋) の対義語。˩ネーシウンバ˥ イ˩ビ˥ラシ ˩ピッツァ˥シ ク˩ニティ ウンヌ˥イー ム˩ローッ˥タ [˩ne:ʃiʔumba˥ ʔi˩bi˥raʃi ˩pittsa˥ʃi ku˩niti ʔunnu˥ʔi: mu˩ro:t˥ta](煮芋を大型杓文字で潰(ツブ)し捏(コネ)て、芋団子を握られた)。

ネーシジル [˩ne:ʃiʤiru] 【名】煮汁。煮出し汁。イ˩ズヌ ネーシジルバ˥ トゥリシキティ ウ˩リ˥シ ˩ダイ˥クニ ˩ネーシ˥バ [ʔi˩ʤunu ne:ʃiʤiruba˥ turiʃi̥kiti ʔu˩ri˥ʃi ˩dai˥kuni ˩ne:ʃi˥ba](魚の煮汁を取っておいて、それで大根を煮なさい)。

ネーシムヌ [˩ne:ʃimunu] 【名】にせもの (偽物(ニセモノ)、贋物(ガンブツ))。似せて作ったもの。贋作。偽造物。˩ソームノー˥ ア˩ラ˥ムティ ˩ネーシムヌバ カーシ アー˥クケン ˩ズン˥サン カ˩サマリナー˥ヌ [˩so:muno:˥ ʔa˩ra˥muti ˩ne:ʃimunuba ka:ʃi ʔa:˥kuŋken ˩ʤun˥saŋ kḁ˩samarina:˥nu](本物ではなくて贋物を売り歩いていると巡査に捕まってしまった)。

ネースン [˩ne:suŋ] 【他動】似せる。似させる。まねる。˩ワー˥ ム˩ニ˥バ ˩ネースンティ スンドゥ˥ ムッ˩トゥ ネーサラヌ [˩wa:˥ mu˩ni˥ba ˩ne:sunti sundu˥ mut˩tu ne:saranu](君の言葉に似せよう < 言葉を真似よう > とするが、ちっとも似せ < まね > られない)。˥バー ˩ジー ネーシ˥ カキバ [˥ba: ˩ʤi: ne:ʃi˥ kḁkiba](私の字に似せて < 字を真似て > 書きなさいよ)。˩ワー ジー ネース˥クトー ム˩チ˥キサンドゥ ˩ネーサン˥カー ナ˩ラ˥ヌ [˩wa: ʤi: ne:su˥ ku̥to: mu˩ʧi˥kisandu ˩ne:saŋ˥ka: na˩ra˥nu](君の字を似せる < 真似る > ことは難しいが、似せ < 真似 > ないといけない)。シカイ˩トゥ ネーシェー˥ ミサムヌ [ʃi̥kai˩tu ne:ʃe:˥ misamunu](きちんと < しっかり > 似せれ < 真似れ > ばいいのに)。ク˩レー˥ ヤー˩ディン ネーシ [ku˩re:˥ ja:˩din ne:ʃi](これは必ず似せ < 真似 > ろ)。

ネースン [˩ne:suŋ] 【他動】煮る。魚や蛸、芋等を鍋に入れて水から沸騰させて煮る。「熟、ニユル・カシク」『類聚名義抄』の転訛。「にえ・す < 煮え・す >」の変化を経たものか。「～あをな煮持ち来～。万、3825」と関係ある語か。イ˩ズ ネースン [ʔi˩ʤu ne:suŋ](魚を煮る)。˥ウン ˩ネースン [˥ʔun ˩ne:suŋ](芋を煮る)。ク˩ヌ˥ ナビナー ˩ネーサラヌ [ku˩nu˥ nabina: ˩ne:saranu](この鍋では煮られない)。˩イー˥ヤ ˩タール ネーシタ [˩ʔi:˥ja ˩ta:ru ne:ʃi̥ta](ご飯は誰が煮た < 炊いた > か)。˩ネース˥プ˩スヌ˥ ブ˩ラーヌ [˩ne:su˥ pu̥˩sunu˥ bu˩ra:nu](煮る人がいない)。˩マー˥ビン ˩ネーシェー˥ ミサムヌ [˩ma:˥bin ˩ne:ʃe:˥ misamunu](もっと煮ればいいのに)。˩パー˥ク ˩ネーシ [˩pa:˥ku ˩ne:ʃi](早く煮ろ)。˥イー バ˩カスン [˥ʔi: ba˩kasuŋ](ご飯を炊く)。˥スー バ˩カスン [˥su: ba˩kasuŋ](お汁を炊く)。˩カイ˥ タ˩クン [˩kai˥ tḁ˩kuŋ](お粥を炊く)。˩カシ˥キ ˩アーラスン [˩kaʃi̥˥ki ˩ʔa:rasuŋ](甑でこわめし < 強飯 > を蒸し煮する < ふかす >) ともいう。

ネーラ [˩ne:ra] 【名】右。右側。「みぎり」の転訛か。「左みぎりに着座して～」『謡曲・草子洗い』。˩ネーラー マーリ˥バ [˩ne:ra: ma:ri˥ba](右側へ回りなさ

いよ)。

ネー˞ラ [neː˞ra] 【終助】尊敬の終助詞。疑問、尋ねを表す。明治生まれの古老が用いる。〜ですか。〜ますか。〜でございますか。1尊敬動詞の終止形に付く。˞コー˥チョーシンシー˞ワンヌン˥ カ˞コー˥ルンネー˞ラ [˞koː˥ʧoːʃiŋʃiː ˞wannuŋ˥ kạ˞koː˥run neː˞ra](校長先生、貴方もお書きになられますか)。2係り結びの場合は連体形に付く。˞タール˥ カ˞コー˥ル ネー˞ラ [˞taːru˥ kạ˞koː˥ru neː˞ra](誰がお書きになられますか)。3疑問代名詞や指示代名詞などに付く。˞ワー˥ ア˞ゾーッ˥タ ˥ムノー ˥ヌー ネー˞ラ [˞waː˥ ʔa˞ʤoːt˥ta ˥muno: ˥nu: neː˞ra](貴方がおっしゃったものは何でございますか)。ク˞リ˥ ネー˞ラ [ku˞ri˥ neː˞ra](これでございますか)。

˞ネーラー˥ル ウ˞ヤ˥キ [˞neːraː˥ru ʔu˞ja˥ki] 【連】粘り強いことこそが金持ち。＜諺＞「何事も粘り強く続けることが成功の秘訣である」の意味。˞アールヌ˥ ムティン ピ˞ナルンティル˥ アル˞ダー ネーラー˥ル ウ˞ヤ˥キ ヤ˞リバ˥ ヤ˞ミルナ˥ヨー [˞ʔaːrunu˥ mutim pi˞naruntiru˥ ʔaru˞daː neːraː˥ru ʔu˞ja˥ki ja˞riba˥ ja˞miruna˥joː](蟻が持っても減る＜塵も積もれば山となる＞というよ。粘り強いことが金持ちだから、止めるなよ)。

˞ネー˥ラーン [˞neː˥raːŋ] 【形】熱心なさま。勤勉なさま。入念に行うさま。細心に行うさま。綿密に行うさま。細部に気を配って仕事をするさま。しつこいさま。ウ˞レー˥ シ˞グトゥ˥ナー ˞ネー˥ラーンダ イッ˞カ˥ ア˞サバヌ [ʔu˞reː˥ ʃi˞gutu˥naː ˞neː˥raːnda ʔik˞ka˥ ʔa˞sabanu](彼は仕事には熱心＜入念＞であるから、決して遊ばない)。˥アッパー イ˞ソーフジリ ネー˥ラー ア˞ロー˥ルンダ ˥ユー ˥タク トゥ˞ロー˥ルン [˥ʔappa: ʔi˞soːɸuʤiri neː˥raː ʔa˞roː˥runda ˥juː ˥tạku tu˞roː˥ruŋ](お祖母さんは潮干狩りが入念で熱心であられるから、よく蛸を獲られる)。˥アイニ ˞ネー˥ラー プ˞ソー˥ ブ˞ラーヌ [˥ʔaini ˞neː˥raː pụ˞soː˥ bu˞raːnu](あんなに仕事に入念で熱心な人はいない)。ア˞マ˥ヌ ˞ネー˥ラーティ シ˞グトー ˞ニーバー˥タ [ʔa˞ma˥nu ˞neː˥raːti ʃi˞guto: niːbaː˥ta](あまりにも入念過ぎる＜細かく仕事をする＞ので仕事は遅かった)。

˞ネーランケー˥リ [˞neːraŋkeː˥ri] 【副】熱心に。入念に。細やかに。まめまめしく。一生懸命。精根をこめて。˥アッパー ˞ネーランケー˥リ パ˞タキ˥ヌ ˥ッサ ˞ソールンティル オー˥ル [˥ʔappaː ˞neːraŋkeː˥ri pạ˞taki˥nu ˥ssa ˞soːruntiru ʔoː˥ru](お祖母さんは熱心に畑の草を取ろう＜さくる、刹(サク)り取ろう＞としておられる)。

ノ

˞ノー **[˞noː]** 【名】脳。脳髄。ニ˞チ˞ヌ ˞ノー˞ ア˞ガル˞カー ˞デー˞ジ˞ダー [ni˞ʧi˞nu ˞noː˞ ʔa˞garu˞kaː ˞deː˞ʤi˞daː](熱が脳に上がると大変だぞ)。

˞**-ノー [˞-noː]** 【終助】〜< ない > か。打消しの助動詞 ˞-ヌ [˞-nu](〜ない) の終止形に付いて反語確認の意味を表す。˞メー ˞ウビ イ˞ズ˞カー ˞ミサー ˞ナーン˞ノー [˞meː ˞ʔubi ʔi˞ʤu˞kaː ˞misaː ˞naːn˞noː](もう、これだけ叱ったらば良いのではないか)。˞ピッ˞チン カ˞ラー ナーン˞ワー ˞ナーン˞ノー [˞pit˞ʧiŋ ka˞raː naːŋ˞waː ˞naːn˞noː](ちっとも辛くないではないか)。

˞ノー ˞**サバン [˞noː ˞sabaŋ]** 【連】何をしようと。何をしても。ノー (何を)+˞為(ス)る」の未然形 + 逆接の接続助詞バン (〜ても)。˞キュー˞ヤ ˞ノー ˞サバン˞ ミサン ˞ワー カッティ [˞kjuː˞ja ˞noː ˞sabam˞ misaŋ ˞waː katti](今日は何をしてもよい。君の勝手だ)。

ノー˞**サン [noː˞saŋ]** 【副】しばしば〜。たびたび〜。幾度も〜。動詞を修飾して、くり返す悪い動作内容を予告する。˞ワー˞ ノー˞サン カッティニ バン˞テヌ ˞ドン˞グ シゥ˞カイ ブー˞ティバン˞ナー [˞waː˞ noː˞saŋ kattini ban˞tenu ˞doŋ˞gu si̥˞kai buː˞tiban˞naː](君は、しばしば勝手に我が家の道具を使っているんだってなあ)。

ノー˞**サンクイサン [noː˞saŋkuisaŋ]** 【副】しばしば〜。良くないことを予告して、詰問の意を表す。ABCDE-FCD 型の重言。強調表現。˞ワー˞ ノー˞サン クイサン˞ シ˞グトー˞ サ˞ムティ˞ ア˞サビ ブー˞ティバン˞ナー [˞waː˞ noː˞saŋkuisaŋ˞ ʃi˞guto:˞ sa˞muti˞ ʔa˞sabi buː˞tiban˞naː](君は、しばしば仕事はしないで遊んでいるんだってなあ)。

˞ノー˞**ジ [˞noː˞ʤi]** 【名】名字。その家に伝わる家の名前。姓名。首里方言の noozi(名字) からの借用語。˞ワッ˞テヌ ˞ノー˞ジェー ˞ヌーティ ア˞ル˞ワ [˞wat˞tenu ˞noː˞ʤe: ˞nuːti ʔa˞ru˞wa](貴方の家の名字は何という < ある > か)。

ノー˞シ˞シン **[noː˞ʃi˞ʃiŋ]** 【副】何としても。どうしても。どのような手段を尽くしても。絶対に。義務や任務の必要性が断定的に述語に係って強意の陳述を表す。ク˞ヌ˞ クトー ノー˞シ˞シン ˞サン˞カー ナ˞ラ˞ヌ [ku˞nu˞ ku̥to: noː˞ʃi˞ʃin ˞saŋ˞kaː na˞ra˞nu](このことは、何としてもしなければならない)。

˞ノー˞**シタンティン [˞noː˞ʃi̥tantiŋ]** 【副】何といったって。どうしても。誰が何と言おうと。ある事柄を強調する際に用いる表現。˞ノー˞シタンティン ウ˞ビ˞ヌ ウ˞ヤ˞キプスル ヤ˞ルムヌ˞ ウ˞ヌ˞ ア˞タ˞ロー ナ˞リ˞ス [˞noː˞ʃi̥tantiŋ ʔu˞bi˞nu ʔu˞ja˞kipu̥suru ja˞rumunu˞ ʔu˞nu˞ ʔa˞ta˞roː na˞ri˞su](何といったってあれだけの大金持ちだもの、それぐらいのことはできるよ)。˞ノー˞シタンティン ウ˞リヌ˞ スコー ˞シーユーサヌ [˞noː˞ʃi̥tantiŋ ʔu˞rinu˞ su̥ko: ˞ʃiːjuːsanu](どうしたって彼のようにはできない < 成しえない >)。

˞ノーシ˞**ムヌ [˞noːʃi˞munu]** 【名】修理品。修理すべき物。˞ノーシ˞ムノー ˞ノー˞シティル シ˞グトー スー [˞noːʃi˞muno: ˞noː˞ʃi̥tiru ʃi˞guto: suː](修理品は修理してから仕事はするものだ)。

ノー˞**シン [noː˞ʃiŋ]** 【副】いずれにしても。いずれにせよ。どの道。どっちみち。どうせ。ある事態を決め込んで投げやりな気持ちを表す語。ノー˞シン˞ バー ˞ムネー ス˞コーラ˞ンダ ア˞ザンモー˞マ˞シ [noː˞ʃim˞ baː ˞muneː su̥˞koːra˞nda ʔa˞ʤammoː˞ ma˞ʃi](どうせ私の言うことはお聞きにならないから、言わない方がましだ)。ウ˞ヤ˞ヌ ˞クトー ノー˞シン˞ サ˞クシ˞ヌ ˞サン˞カー ナ˞ラン˞パジ [ʔu˞ja˞nu ˞ku̥to: noː˞ʃin˞ sḁ˞kuʃi˞nu ˞saŋ˞kaː na˞ram˞paʤi](親のことは、いずれにしても長男がしないといけないだろう)。ギュー˞サ˞ ア˞ザバン˞ ウ˞リノー˞ ノー˞シン˞ シゥ˞カン˞パジ [gjuː˞sa˞ ʔa˞ʤaban˞ ʔu˞rinoː˞ noː˞ʃin˞ si̥˞kam˞paʤi](いくら言っても、どの道彼がは聞かない < はず > だろう)。

ノー˞シンクイシン [noː˞ʃiŋkuiʃiŋ] 【副】いずれにしても。どの道。結局。「何しても、これしても」の義。ノー˞シン [noː˞ʃiŋ](何しても) の強調表現で、ABCDEFCD 型の重言。ク˞レー˩ ノー˞シンクイシン サン˩カー ナ˞ラ˩ン シ˞グトゥ˩ ヤ˞ルンデー˩カー ˞ダンダン˩シ カ˞タジキリバ˩ル マ˞シ [ku˞reː˩ noː˞ʃiŋkuiʃin saŋ˩kaː na˞ra˩ŋ ʃi˞gutu˩ ja˞rundeː˩kaː ˞dandaŋ˩ʃi ka̠˞tadʑikiriba˩ru ma˞ʃi](これはいずれにせよ、< 結局 > やらなければならない仕事であるなら、さっさと片付けたほうが良い)。

˞ノー˩スン **[˞noː˩suŋ]** 【他動】液体を一気に零(コボ)す。器物の中のものを一気に他へ移す。˞タング˩ヌ ミ˞ジェー ノー˩スンティ ˞スンドゥ グッふァ˩ヌ ˞ノーサラヌ [˞taŋgu˩nu mi˞dʑeː noː˩sunti ˞sundu guffa˩nu ˞noːsara˩nu](担桶の水は一気に零そうとするが、重くて零されない)。˞ノー˩シ シ˞ティ˩ ミサカー ˞ノー˩ス ˩クトー ˩ナルンン [˞noː˩ʃi ʃi̥˞ti˩ misakaː ˞noː˩su ˩ku̥toː ˩naruŋ](零して捨ててよければ、零すことはできる)。˞ノー˩シェー ˩ミサムヌ [˞noː˩ʃeː ˩misamunu](零せばいいのに)。˩クナー ˞ノー˩シ [˩kunaː ˞noː˩ʃi](ここに零せ)。˞ウーキ˩ヌ ミ˞ジ ノー˩スンティ ˞スンドゥ ノーサラ˩ヌ [˞ʔuːki˩nu mi˞dʑi noː˩sunti ˞sundu noːsara˩nu](桶の水を零そうとするが、零されない)。˩クナー ˞ノー˩シ ˩ミサン [˩kunaː ˞noː˩ʃi ˩misaŋ](ここに零してもいい)。˩クナー ˞ノー˩ス ˩クトー ナ˞ラ˩ヌ [˩kunaː ˞noː˩su ˩ku̥toː na˞ra˩nu](ここに零すことはできない)。˞ノー˩シェー ˩ミサムヌ [˞noː˩ʃeː ˩misamunu](零せばいいのに)。˞パーク ˞ノー˩シ [˞paː˩ku ˞noː˩ʃi](早く零せ)。

˞ノー˩スン **[˞noː˩suŋ]** 【他動】1治(ナオ)す。癒(イヤ)す。古老は˞ナウ˩スン [˞nau˩suŋ](治す) という。˞ヤン˩マー ˞パー˩ク ˞ノー˩スンティ ウ˞ムーン˩ドゥ マ˞ナ˩マー ˞ノーサラ˩ヌ [˞jam˩maː ˞paː˩ku ˞noː˩sunti ʔu˞muːn˩du ma˞na˩maː ˞noːsara˩nu](病気は早く治そうと思うが、今は治されない)。ク˞レー ノーシ ヤッ˩サン [ku˞reː noːʃijas˩saŋ](これは治しやすい)。˩クナーテー ˞ノー˩ス ˩クトー ナ˞ラ˩ヌ [˩kunaːteː ˞noː˩su ˩ku̥toː na˞ra˩nu](ここでは治すことはできない)。˞ヤン˩マー ˞ノー˩シェー ˩ミサムヌ [˞jam˩maː ˞noː˩ʃeː ˩misamunu](病気は治せばいいのに)。ヤー˞ディン ノー˩シ [jaː˞din noː˩ʃi](きっと < 必ず > 治せ)。2直す。修理する。カ˞ナパイヌ ユイヤー ノー˩シ シ˞キ˩リ [ka˞napainu juijaː noː˩ʃi ʃi̥˩ki˩ri](鍬の柄は直して < 修理して > おきなさい)。3複合動詞をつくる。動詞の連用形に付いて、˞〜し直す」の意を表す。カ˞キ˩ヤビ ˩シケー ˩ムノー ムー˞ル˩ カ˞キノー˩シ [ka̠˞ki˩jabi ˩ʃi̥ke: ˩muno: muː˞ru˩ ka̠˞ki noː˩ʃi](書き損じてあるものは総て書き直せ)。

˞ノーラ˩シ ˞ミーラシ **[˞noːra˩ʃi ˞miːraʃi]** 【連】豊年満作にして。稲の穂を完熟させ、芋類の実 < 地下茎 > を太らせる。˞稔らせ、実入らせる」の義。

˞ノーラ˩スン **[˞noːra˩suŋ]** 【他動】稔らせる。˞ノー˩ルン [˞noː˩ruŋ](稔る) の未然形に使役の助動詞˩スン [˩suŋ](〜せる。〜させる) が下接して形成された使役動詞。ク˞ヌ˩ ターナ ˞マイバ˩ ス˞ク˩リ ˞ノーラ˩スンティ ˞ベー [ku˞nu˩ taːna ˞maiba˩ su̥˞ku˩ri˞noːra˩sunti ˞beː](この田圃で稲を作って稔らせようとしている)。

˞ノーリオシ˩キ **[˞noːriʔoʃi̥˩ki]** 【名】晴天。良い天気。˞ノーリオシ˩キ [˞noːriʔoʃi̥˩ki](直り・天気) の義。ヤ˞ブリオシ˩キ [ja˞buriʔoʃi̥˩ki](悪天候) の対義語。˞ノーリオシ˩キ ˩ナリケーン [˞noːriʔoʃi̥˩ki ˩narikeːŋ](晴天 < 良い天気 > になってきた)。

˞ノーリパヤー˩ン **[˞noːripajaː˩ŋ]** 【形】治り易い。「治り早い」の義。˞ノー˩ルン [˞noː˩ruŋ](治る) の連用形に、形容詞パ˞ヤー˩ン [pa˞jaː˩ŋ](早い) が下接して形成された派生形容詞。˩ドゥガイ サキティ キ˞ジ˩ ッ˞ス˩ミ ˩スクカー ˞ノーリパヤー˩ン [˩dugai ˩sa̠kiti ki˞dʑi˩ s˞su˩mi ˩su̥kukaː ˞noːripajaː˩ŋ](アロエ <蘆(ロ)かい > を割いて傷を包んでおくと治り早い)。

˞ノーリ˩ユー **[˞noːri˩juː]** 【名】豊年。豊作。「稔り世」の義。マ˞サルユー [ma˞saruju:](勝る世。今年以上の豊年)。˞ノー˩ルン [˞noː˩ruŋ](稔る) の連用形に名詞˞ユー [juː](世) が付いて形成された複合名詞。呪言や古謡で多く用いられる。˞エン˩マー ク˞トゥシ˩ マ˞サルヌ ノーリ˩ユー ン˞カイヨー˩ラ [˞jem˩maː ku̥˞tuʃi˩ ma˞sarunu noːri˩juː ʔŋ˞kaijoː˩ra](来年は今年以上の豊年を迎えましょう)。

˞ノーリユーサ˩ナ **[˞noːrijuːsa˩na]** 【連】治りえずに。病気や怪我が治りえないで。˞ノーリユー˩スン [˞noːrijuː˩suŋ](治ることができる。治り得る) の未然形に打消しの助動詞ヌ [nu](ず。ない) の連用形ナ [na](ずに。ないで) の付いた形。˞ヤン˩マイ ˞ノーリユーサ˩ナ ˞ベーン˩ドゥ ˩イサン ミ˞シユーサン˩ツォー [˞jam˩mai ˞noːrijuːsa˩na ˞beːn˩du ˩ʔisam mi˞ʃijuːsa˩nu](病気が治りえないでいるのに、医者に見せることができない)。

˞ノー˩ル **[˞noː˩ru]** 【名】屋根の桁材と˩キチ [˩ki̥tʃi] を固定するために使われるもの。桁と桁の間に横に

渡してキチを結わえ、固定するもの。キチの直ぐなものを選んで使った。

˞ノー˞ル　˞マイル˞　フ˞ベー˞　ブル **[˞noː˞ru ˞mairu˞ ɸu˞beː˞ buru]** 【連】実る稲は頭を垂れる。˞稔る稲が首を折る」の義。中身の充実した人は頭を低くして謙遜する。＜諺＞。

˞ノー˞ルン **[˞noː˞ruŋ]** 【自動】治る。治癒する。(直る)。壊れたものが直る。元通りに回復する。古老は、˞ナウ˞ルン [˞nau˞ruŋ](治る。実る。稔る) という。イ˞サ˞ヌ　フ˞チ˞ル　˞ヌムカー　˞ヤン˞マー　˞ノー˞ルンティ　˞スンドゥ˞　マ˞ダ　ノーラン˞サー [ʔi˞sa˞nu ɸu̥˞ʧi˞ru ˞numukaː ˞jam˞maː ˞noː˞runti ˞sundu˞ ma˞da noːran˞saː](医者の薬を飲むと病気は治るというが、まだ治らないよ)。キ˞ジェー　ノーリ˞　パ˞ヤー˞ン [ki˞ʤeː noːri˞ pa˞jaː˞ŋ](傷は治り易い＜直り早い＞)。シゥカイ˞トゥ　ノー˞ル　˞クトー　˞ナーヌ˞ヌ　ン˞メーマンツァン　ノー˞レー　˞ミサムヌ [si̥kai˞tu noː˞ru ku̥toː ˞naːnu˞nu ʔm˞meːmantsan noː˞reː ˞misamunu](完全に＜しかと＞治ることはないが、少しでも治ればいいのに)。フ˞チ˞ル　˞ヌミティ　˞パー˞ク　˞ノー˞リバ [ɸu̥˞ʧi˞ru ˞numiti ˞paː˞ku ˞noː˞riba](薬を飲んで早く治りなさいよ)。

˞ノー˞ルン **[˞noː˞ruŋ]** 【自動】作物が実る。豊作になる。˞マイヤー˞　イッ˞ケナ　˞ノー˞レーン [˞maijaː˞ ʔik˞kena noː˞reːŋ](米＜稲＞は非常によく実っている)。ク˞トゥシン　マイヤー　ノー˞ルンパジ [ku̥˞tuʃim maijaː noː˞rumpaʤi](今年も米＜稲＞は稔るだろう)。

ノー˞ン **[noː˞ŋ]** 【副】何も。何でも。みな。下にくる打消しの語と呼応して、「少しも～ない。全く～ない」の意を表す。˞クナー　ノー˞ン　ナー˞ヌ [˞kunaː noː˞n naː˞nu](ここには何も無い)。ノー˞ン　カイ˞ヤー　˞ナー˞ヌ [noː˞ŋ kai˞jaː ˞naː˞nu](ちっとも＜何も＞美しくない)。ウ˞リヌ˞　ケーラー　ノー˞ン˞　ヌ˞カラ˞ヌ [ʔu˞rinu˞ keːraː noː˞n˞ nu˞kara˞nu](彼が来たら何も残らない)。˞バー　ノー˞ン˞　ア˞ザヌ [˞baː noː˞ŋ˞ ʔa˞ʤanu](私は何も言わない)。

ノー˞ンガサ **[noː˞ŋgasa]** 【連】何か。何らか。何かしら。内容や実態が特定できない物事、未知の物事を指す。ノー˞ンガサ˞　ッ˞ふァーリ　ムノー˞　ナー˞ヌー [noː˞ŋgasa˞ f˞faːri munoː˞ naː˞nuː](何か食えるものはないか)。ノー˞ンガサ　ミシ˞キ　˞クーバ [noː˞ŋgasa miʃi̥˞ki ˞kuːba](何かを探してこいよ)。

˞ノーンコーレー **[˞noːŋkoːreː]** 【名】なにもかも (何も彼も)。何事も。総て。˞ノーンコーレー　ス˞コーレー˞ティ　˞ソッ˞コーン　シ˞ミ　オーラ˞シバ [˞noːŋkoːreːn su̥˞koːreː˞ti ˞sok˞koːŋ ʃi˞mi ʔoːra˞ʃiba](何もかも、総て準備して法事＜焼香＞をさせて差し上げなさいよ)。

˞ノーン˞シタンティン **[˞noːŋ˞ʃi̥tantiŋ]** 【副】いずれにしても。どうしても。どの道。結局。「何としても」の義。ク˞レー　ノーン˞シタンティン　˞ワーサン˞カー　ナ˞ラ˞ヌ [ku˞reː noːŋ˞ʃi̥tantiŋ ˞waː saŋ˞ kaː na˞ra˞nu](これは、どうしても君がしなければならない)。

ノー˞ンティ **[naoː˞nti]** 【副】何と～＜とも＞～、どのように～＜とも＞～、いかように (如何様に)～＜とも＞～の形で下に程度を強調する逆接の条件句を続け、文末の打ち消し表現と呼応した強調表現を作る。˞ワー˞　ノー˞ンティ˞　ア˞ゾーラ˞バン　˞バー　パ˞ラ˞ヌ [˞waː˞ noː˞nti˞ ʔa˞ʤoːra˞bam ˞baː pa˞ra˞nu](貴方が何と言われても私は行かない)。

ノー˞ンティン **[noː˞ntiŋ]** 【副】なんとも。なにごとも。文末に打ち消しの語を伴って、「何とも＜全く＞～ない」の意を表す。イ˞コーラ˞　イ˞ゾーッ˞タンティン　˞バー　ノー˞ンティン˞　ウ˞モー˞ヌ [ʔi˞koːra˞ ʔi˞ʤoːt˞tantim ˞baː noː˞ntiŋ˞ ʔu˞moː˞nu](いくらお叱りになっても、私はなんとも思わない)。

ノー˞ンティン˞　ア˞ザラン˞スコー **[noː˞ntiŋ˞ ʔa˞ʤaran˞su̥koː]** 【連】何とも言えないほど。ウ˞リバ˞　シ˞キティ˞　ノー˞ンティン˞　ア˞ザラン˞スコー　サ˞ニ˞ヤタンツォー [ʔu˞riba˞ ʃi̥˞kiti˞ noː˞ntiŋ˞ ʔa˞ʤaran˞su̥koː sa˞ni˞jatantsoː](それを聞いて何とも言えないほどれしかったそうだ)。

ノー˞ンティン　クイティン **[noː˞ntiŋ kuitiŋ]** 【連】うんともすんとも～ない。ほんの一言も～ない。文末に打消しの語を伴う。ノー˞ンティン　クイティン　ナー˞ヌ [noː˞ntiŋ kuitin naː˞nu](うんともすんともない)。ウ˞ヌ˞　スク　˞トゥイ˞　ス˞クバン˞　ノー˞ンティン　クイティン　ピントーン　サヌ [ʔu˞nu˞ su̥ku ˞tui˞ su̥˞kuban˞ noː˞ntiŋ kuitim pintoːn sanu](あれほど問い尋ねても、うんともすんとも、返答もしない)。

ノー˞ンナー˞カ **[noː˞nnaː˞ka]** 【連】何か。何らか。代名詞に特定できない事物や出来事を表す語、˞ナー˞カ [˞naː˞ka](など) が付いて形成された語。ノー˞ンナー˞カ　ッ˞ふァイムノー　ナー˞ヌー [noː˞nnaː˞ka f˞faimunoː naː˞nuː](何か食い物はないか)。ノー˞ンナー˞カ　˞バシキ　ブラー˞ヌー [noː˞nnaː˞ka ˞baʃi̥ki

bu˩raːnuː](何か忘れていないか)。

ノー˩ン　ナー˥ヌ **[noː˩n naː˥nu]** 【連】何も無い。˩ジン˥マー　ノー˩ン　ナー˥ヌ [˩ʤim˥maː noː˩n naː˥nu](お金は何もない)。

˩ノン˥カー **[˩noŋ˥kaː]** 【名】のんき者 (呑気者)。標準語の「呑気」に接尾語˥ヤー [˥jaː](～者) が下接して形成された語。ウ˩レー　サッ˥コー　˩ノン˥カー　ヤ˩ルンダ˥　ノー˩ン　ソーヤナーン˥　パジ˩ダー [˩ʔureː sak˥koː ˩noŋ˥kaː ja˩runda˥ noː˩n soːjanaːm˥ paʤi˩daː](彼は非常に呑気者だから、何の心配も無いはずだよ)。

ハ

˥バ [˥ba] 【接助】 1〜ば。〜たら。未然形に接続して仮定条件を表す。˥ムニ　イ˩ザバ˥　チ˩チシミ˥　フ˩チヌ˥　フカー　ン˩ザス˥ナ˩ヨー [˥muni ʔi˩ʤaba˥ ʧi̥˩ʧiʃimi˥ ɸu̥˩ʧinu˥ ɸu̥ka: ʔn˩ʤasu˥na˩joː](ものを言う時は慎み深く慎重に、むやみやたらと口外するではないよ)。ア˩ミ˥ヌ　˩ホーバ˥ル　˥カザン　イ˩ビラリル [ʔa˩mi˥nu ˩hoːba˥ru ˥kaʤaŋ ʔi˩biraririu](雨が降らないと＜降らばぞ＞芋蔓も植えられない＜植えられる＞)。˩ワー˥　サ˩バ　マービ　スンティ˥　マティ　˩ブー˥　プ˩スン　ブン˥ダー [˩waː˥ sa˩ba maːbi sunti˥ mati ˩buː˥ pu̥˩sum bun˥daː](君がしたら真似しようと待っている人もいるよ)。2〜ので。〜から。已然形に接続して確定条件を表す。˥クマー　˥バー　˩カイ˥シェーバ　˩ワー˥　カマ　˩カイ˥シバ [˥kuma: ˥ba: ˩kai˥ʃeːba ˩waː˥ kama ˩kai˥ʃiba](ここは私が耕したから、君はあそこを耕しなさい)。ク˩モマティル˥　シ˩マ˥ヤ　カ˩フ˥ヌ　˥シマ　ヤ˩リバ˥　ウ˩フダキ˥バ　ク˩サティ˥　シ˩ルパマ˥バ　˥マイナシ [ku˩momatiru˥ ʃi˩ma˥ja kḁ˩ɸu˥nu ˥ʃima ja˩riba˥ ʔu˩ɸudaki˥ba ku̥˩sati˥ ʃi˩rupama˥ba ˥mainaʃi](小浜という島は果報の島であるから、大岳を腰当にして白浜を前にして)(小浜節)。

˥バ [˥ba] 【終助】〜よ。動詞の命令形に下接して話者の強い意志をあらわす。˥クマー　˩ワー　カイ˥シバ [˥kuma: ˩wa: kai˥ʃiba](ここは君が耕しなさいよ)。˩パー˥ク　˥パリバ [˩paː˥ku ˥pariba](早く行けよ)。˥マー　ン˩ベーマ　ヨーンナ˥　ッ˩ふァイ˥バ [˥ma: ʔm˩beːma joːnna˥ f˩fai˥ba](もう少しゆっくり食べなさいよ)。˩キュー˥ヤ　˩マーズン˥　クーバ [˩kjuː˥ja ˩maːʤuŋ˥ kuːba](今日は一緒に来なさいよ)。˩ワー˥　カキバ [˩waː˥ kḁkiba](君が書けよ)。˥カー　˥パギバ [˥kaː ˥pagiba](皮を剥げよ)。˥クマーラ　トゥ˩ビ˥バ [˥kumaːra tu˩bi˥ba](ここから飛べよ)。ン˩ベーマ˥　マティバ [ʔm˩beːma˥ matiba](少し待てよ)。˩コー˥マ　シ˩ダ˥シバ [˩koː˥ma ʃi˩da˥ʃiba](卵を孵化さ＜産ま＞せよ)。˥ドゥーシ　˩シー˥バ [˥duːʃi ˩ʃiː˥ba](自分でしなさいよ)。˩クン˥ドー　˩ワー˥　カチバ [˩kun˥doː ˩waː˥ kḁʧiba](今度は君が勝ちなさいよ)。ミ˩ジ˥ナー　˩ヌッふィ˥バ [mi˩ʤi˥naː ˩nuffi˥ba](水に浸しなさいよ)。ティ˩ガ˥ミ　˥ユミバ [ti˩ga˥mi ˥jumiba](手紙を読みなさいよ)。シ˩ニ˥バ [ʃi˩ni˥ba](死ねよ)。˥ドゥーシ　˥トゥリバ [˥duːʃi ˥turiba](自分で取れよ)。˥キン　ア˩ライ˥バ [˥kiŋ ʔa˩rai˥ba](着物を洗えよ)。˩マー˥ビン　˩カイ˥バ [˩maː ˥biŋ ˩kai˥ba](もっと買えよ)。˥ヤク　˥クイバ [˥jaku ˥kuiba](櫂を漕げよ)。˩ワー˥　ナー˩イ˥　ウナー　˩ベー˥リバ [˩waː˥ naː˩i˥ ʔunaː ˩beː˥riba](君はずっとここに居れよ)。

˥バ [˥ba] 【格助】 1〜を。対格 (目的格)。体言またはそれに準ずる語に付く。他動詞と対応して対格をあらわす。イ˩ズバ　ホー˥シ　˥キー　ナ˩マ˥シ　˥キシ [ʔi˩ʤuba hoː˥ʃi ˥kiː na˩ma˥ʃi ˥ki̥ʃi](魚を釣ってきて刺身にしなさい＜刺身を切れ＞)。˩ヌー˥バ　˩カウター [˩nuː˥ba ˩kautaː](何を買ったのか)。˩ティー˥バ　˥ウティ　サ˩ニ˥ヤ　˩シーベー＜ティッツァー　シーベー＞[˩tiː˥ba ˥ʔuti sa˩ni˥ja ˩ʃiːbeː＜tittsaː ʃiːbeː＞](手を打って喜んでいる)。ス˩ムチ˥バ　˩カイ˥キー　˥ユミバ [su˩mutʃi˥ba ˩kai˥kiː ˥jumiba](書物を買ってきて読めよ)。2はだか格。他動詞が述語となる際、多くの場合、名詞がはだかのままで対格を表す。イ˩ズ　ホー˥スン [ʔi˩ʤu hoː˥suŋ](魚を釣る)。パ˩タ˥キ　˩カイ˥スン [pḁ˩ta˥ki ˩kai˥suŋ](畑を耕す)。˩ジー˥　カクン [˩ʤiː˥ kḁkuŋ](字を書く)。ス˩ム˥チ　˥ユムン [su˩mu˥ʧi ˥jumuŋ](書物を読む)。

˥バー [˥baː] 【代】わたし。自分。一人称。単数。「吾・我、〜和我多知久礼婆＜吾が立ち来れば＞〜和波漕ぎ出ぬと〜。万、4408」の転訛。「我　昴哇」『使琉球録。1534』、「我　瓦奴」『音韻字海。1572 頃』、「我　昴哇」、「我酔了　昴哇由的」『琉球館訳語。16 世紀半ば』とあり、アン系の音韻を写したもの『図説琉球語辞典』(中本正智著) といわれている。老年層は、˥バン [˥baŋ](私) ともいう。そのままの形で

主格、属格を表す。˥バー　˥パルン [˥baː ˥paruŋ](私は＜が＞行く)。クˈレー　バー˥　ムヌ [kuˈreː baː˥ munu](これは私の物だ)。˥バン　ッˈふィーリ [˥baŋ fˈfiːri](私に呉れ)。ˈバー˥バ　イˈジ　ベー [ˈbaː˥ba ʔiˈʤi beː](私を叱っている)。クˈレー　バー˥ル　カˈク˥タ [kuˈreː baː˥ru kąˈku˥ta](これは私が＜ぞ＞書いた)。˥バーラ　パˈジミラ˥ナー [˥baːra paˈʤimira˥ naː](私から始めようね)。˥バーラン　タˈカー˥ル　プˈス [˥baːran taˈkaː˥ru pu̥ˈsu](私よりも高い人)。クˈレー　バン˥トゥ　ˈマーズン˥シ　スˈク˥レー　ムヌ [kuˈreː ban˥tu ˈmaːʤuŋ˥ʃi su̥ˈkuˈreː ˥munu](これは私と一緒に作ったものだ)。

ˈバー [ˈbaː] 【終助】～できたらなあ。～したいなあ。動詞の未然形に下接して希望、願望の意を表す「ばや」(～たいなあ＜希望、願望＞) の転訛したもの。「～取り替えて著者也＜着なばや＞～。万、2829」の「ばや」が転訛。ˈクン˥ドー　ˈバン˥ヌン　ウˈキ˥ナー　パラˈバー˥ティ　˥ウムイ　ˈベー [ˈkun˥doː ˈban˥nuŋ ʔuˈki˥naː paraˈbaː˥ti ˥ʔumui ˈbeː](今度は私も沖縄へ行きたいなあと思っている)。˥アイ　ヤˈラバー˥ティン　ウˈモー˥リン [˥ʔai jaˈrabaː˥tiŋ ʔuˈmoː˥riŋ](そうであったらなあ＜そうであって欲しい＞とも思われる)。˥ドゥーシ　トゥラˈバー˥ティ　ウˈムーン˥ドゥ　イˈジヌ　ナー˥ンダ　トゥˈリユーサ˥ヌ [˥duːʃi turaˈbaː˥ti ʔuˈmuːn˥du ʔiˈʤinu naː˥nda tu ˈrijuːsa˥nu](自分で取ろうかと思うんだが意気地が無いので取れない)。

˥パー [˥paː] 【名】歯。「歯、波＜は＞」『和名抄』の義。˥パー　ˈムイ˥ヤン [˥paː ˈmui˥jaŋ](歯が生えた)。ˈパー˥ヌ　˥ヤミティ　ニˈザラ˥ヌ [ˈpaː˥nu ˥jamiti niˈʤara˥nu](歯が痛くて我慢でき＜念じられ＞ない)。ˈギーバーヌ˥　ムイ　ˈベー [ˈgiːbaːnu˥ mui ˈbeː](八重歯＜牙＞が生えている)。ウˈクバーヌ˥　フˈトゥッチ˥パー　˥ナリティ　˥ヤミ　フˈシガラ˥ヌ＜ナˈラ˥ヌ＞[ʔuˈkubaːnu˥ ɸu̥ˈtuttʃi˥paː ˥nariti ˥jami ɸu̥ˈʃigara˥nu＜naˈra˥nu＞](奥歯が虫歯＜朽ち歯＞になって痛くて堪(タマ)らない)。˥ウシパー　カˈカイヤン [˥ʔuʃi̥paː kąˈkaijaŋ](臼歯＜奥歯＞を抜い＜欠い＞た)。ˈパー˥ヌ　˥ッス　˥トゥルン [ˈpaː˥nu ˥ssu ˥turuŋ](歯糞＜はかす。歯垢＞を取る)。

˥パー [˥paː] 【名】刃。カˈタナ˥ヌ　˥パー　˥トゥイバ [kąˈtana˥nu ˥paː ˥tuiba](包丁の刃を研ぎなさいよ)。ヌˈキル˥ヌ　˥パー　˥タトゥン [nuˈkiru˥nu ˥paː ˥tątuŋ](鋸の目＜刃＞を立てる)。カˈタナ˥ヌ　˥パー　ナˈマ˥リティ　キˈシラ˥ヌ [kąˈtana˥nu ˥paː naˈma˥riti ki̥ˈʃira˥nu](包丁の刃が鈍って切れない)。

˥パー [˥paː] 【名】祖母の名称。˥アッパー [˥ʔappaː](祖母) ともいう。˥アッパーは、名称、呼称に用いられる。˥パー [˥paː] は呼称には用いない。ブˈネーヌ　マーラシター　パー˥ル　ウˈヌ˥　ッˈふァヨー˥　スˈダ˥ティ　フˈドゥバソー˥レール [buˈneːnu maːraʃitaː paː˥ru ʔuˈnu˥ fˈfajoː˥ suˈda˥ti ɸuˈdubasoː˥ reːru](母親が亡くなったので、祖母がその子を養育された＜育て成長させられた＞のだ)。

ˈパー [ˈpaː] 【名】葉。ˈキーヌ˥　パー [ˈkiːnu˥ paː](木の葉)。ˈアウパー [ˈʔaupaː](青葉)。サˈリパー [saˈripaː](枯れ葉)。カˈサン˥パー [kąˈsam˥paː](樹木の大きな葉。餅を包んだり、お握りを包んだり出来る木の葉)。バˈサン˥パー [baˈsam˥paː](芭蕉の葉)。ˈパーヌ　アイ˥　ウˈティ˥ルン [ˈpaːnu ʔai˥ ʔuˈti˥ruŋ](木の葉＜木の葉の葉柄＞が剥離(ハクリ)して落ちる)。カˈジフキヌ˥　アトー　ˈキーヌ˥パー　アˈツァ˥ミティ　パˈタ˥ケー　カˈタ˥ミ　ˈパッ˥タ [kaˈʤiɸu̥kinu˥ ʔatoːˈki:nu˥paː ʔaˈtsa˥miti pḁˈta˥keː kąˈta˥mi ˈpat˥ta](台風＜風吹き＞の後は落ち葉＜木の葉＞を集めて畑へ運んだ＜担いで行った＞)。

˥パー [˥paː] 【助数】機織りの用語。数詞の下に添えて数量を表す。おさ (筬) の一目の中に入れる二本の経糸を表す単位。プˈドゥキ˥ヌ　プˈス˥ミーナーヌˈキトゥー˥ス　˥カシ　フˈタムトゥ˥シル　プˈス˥パーティ　アˈゾーッタ˥ル [puˈduki˥nu pu̥ˈsu˥miːna nuˈkituːsu˥ kaʃi ɸu̥ˈtamutu˥ʃiru pu̥ˈsu˥paːti ʔaˈʤoːtta˥ru](おさ＜筬＞の一目に貫き通す経糸＜かせ糸＞二本で一パーと言われたものだ)。

˥パー [˥paː] 【名】方角。方向。方位。方。「Fogacu. ハゥガク (方角) 方向, または, 側 (がわ)」『邦訳日葡辞書』を、トゥˈランパーカドゥ [tuˈrampaːkadu](寅の方角) のように、ˈパーカドゥ [ˈpaːkadu](方角。方向) という。ˈニーヌ˥パー [ˈniːnu˥paː](北。＜子の方＞)。トゥˈラヌパー [tuˈranupaː](東北方。＜寅の方＞)。ンˈマヌ˥パー [ʔmˈmanu˥paː](南。＜午の方＞)。ˈサン˥ヌパー [ˈsan˥nupaː](南西。＜申の方＞)。カˈジェー　ニーヌ˥パーラ　˥フキクンツォー [kaˈʤeː niːnu˥paːra ˥ɸu̥kikuntsoː](風は北から吹いてくるそうだ)。

˥パー　ˈアーラスン [˥paː ˈʔaːrasuŋ] 【連】碾き臼 (籾磨り臼) の歯を立てる。臼の歯が擦り減ると鑿(ノミ)で削って歯を立てた。ピˈキウシヌ˥　パー　ˈアーラシ˥　シケーンダ　イッˈケナ˥　パー　˥フイティ　アˈラム˥トー　ンˈジラ˥ヌ [pi̥ˈkiʔuʃinu˥ paː ˈʔaːraʃi

˥ ʃi̥keːnda ʔik˩kena˥ paː ˥ɸuiti ʔa˩ramu˥toː ʔn˩ʤira˥ nu](碾き臼の歯を立ててあるので、非常によく歯がかみ合ってアラムトゥ <粗糠(アラヌカ)、籾殻付きの米 > が出ない)。ウ˩シ˥ヌ ˥パー ˥タトゥン [ʔu˩ʃi˥nu ˥paː˥tatuŋ](臼の歯をたてる) ともいう。

˩ハー˥ガイ [haː˥gai] 【名】浅瀬。暗礁。˥ウマー ˩ハーガイ˥ヌ ˩ゴー˥ラーンダ ˩キー˥シケーティ ˥フネー ˩マーシ˥ パリ [˥ʔumaː ˩haːgai˥nu ˩goː˥raːnda ˩kiː˥ʃi̥keːti ˥ɸuneː ˩maːʃi˥ pari](そこは浅瀬 < 暗礁 > が多いから気をつけながら暗礁を避けて操船して行きなさい)。˩ハー˥ガイナ ˥フニ ˩ハーガラ˥シ ˩ナー˥ヌ [˩haː˥gaina ˥ɸuni ˩haːgara˥ʃi ˩naː˥nu](海底の暗礁に船を乗り上げて <座礁(ザショウ)させて > しまった)。

˩パーカウ˥ワン [˩paːkau˥waŋ] 【形】1金属のきしむ (軋む) 音を聞いた時に感じる不快な気持ちの形容。歯が浮くような悪い気持ちになることの形容。ぞっとして身の毛がよだつ不快な気持ち。不快な金属の軋(キシ)む音を聞いて総毛立ってむず痒い感じ。「歯痒し」の義。ヤ˩シ˥ルシ ヌ˩キル˥ヌ ˥パー ˥タティ ˩アーラス˥ ウ˩トゥ˥ ス˩ク˥カー ˩パーカウワ˥ヌ ナ˩ラ˥ヌ [ja˩ʃi˥ruʃi nu˩kiru˥nu ˥paː ˥tḁti ˩ʔaːrasu ˥ʔu˩tu˥ su̥˩ku˥kaː ˩paːkauwa˥nu na˩ra˥nu](やすり < 鑢 > で鋸の歯を立てる音を聞くと総毛立ち、むず痒くて堪らない)。˩ナン˥ゾー ˩パーカウワ ナー˥ヌ [˩nan˥ʤoː ˩paːkauwa naː˥nu](あまりむず痒くない)。ドゥ˩ク˥ヌ ˩パーカウ˥ワティ ˩ミン˥マー ッ˩サイ ベー˥タ [du˩ku˥nu ˩paːkau˥wati ˩mim˥maː s˩sai beː˥ta](あまりにもむず痒いので、耳を塞いでいたよ)。˩シンダイ パーカウ˥ワ ˥ナリ ˥ケーン [˩ʃindai paːkau˥wa ˥nari ˥keːŋ](次第に総毛立ちむず痒くなってきた)。˩パーカウ˥ワ ˥ピンマー ˩ミン˥マー ッ˩サイティ˥ ス˩クナ [˩paːkau˥wa ˥pimmaː ˩mim˥maː s˩saiti˥ su̥˩kuna](総毛立ちむず痒い時は耳を塞いで聞くな)。2歯痒い。じれったい。˥スブットゥヌ シ˩グトゥ スー˥ シ˩ナタ˥ ミルカー ˩パーカウワ˥ヌ ˥ミリ ブ˩ララヌ [˥subuttunu ʃi˩gutu suː˥ ʃi˩nata˥ miruka: ˩paːkauwa˥nu ˥miri bu˩raranu](怠け者が仕事をする姿を見ると、歯痒くて見てはおられない)。

˥パーカカー [˥paːkakaː] 【名】歯のない人。「歯欠け者」の義。卑語。˩パーカキ˥ムヌ [˩paːkaki˥munu](歯欠け者) よりも更に卑しめた言い方。˩パー˥モー [˩paː˥moː](歯の無い者) は沖縄本島 (首里) 方言からの借用語の転訛。˥トゥシ トゥ˩ル˥ター ˥パーカカー ˥ナリティ バ˩カヤ˥ヌ ˥ムニン イ˩ザラヌ [˥tu̥ʃi tu˩ru˥taː ˥paːkaka: ˥nariti ba˩kaja˥nu ˥muniŋ ʔi˩ʤaranu](年をとったので歯欠け者になって、恥ずかしくて話もできない)。

˩パーカキ˥ムヌ [˩paːkaki˥munu] 【名】歯欠け者。歯の欠けた人。˩パーカキムヌ˥ヌ ˥カタチニ ˥ムニン シカイ˩トー˥ イ˩ジユーサヌ [˩paːkakimunu˥nu ˥kḁtatʃini ˥munin si̥˩kai˩toː˥ ʔi˩ʤiju:sanu](歯欠け者のように言葉もしっかりと言えない < 言い得ない >)。

˥パー ˥カムン [˥paː ˥kamuŋ] 【連】1歯を噛む。睡眠中に歯軋りする。歯軋りする。「齢歯、波賀美 (はがみ)」『和名抄』の転訛。ク˩ヌ ッふァー˥ ニ˩ビベー˥ティ ˥パー˥カム フ˩シヌ˥ アルサー [ku˩nu ffaː˥ ni˩bibeː˥ti ˥paː ˥kamu ɸu̥˩ʃinu˥ ʔarusaː](この子は睡眠中に < 寝ていて > 歯を噛む癖があるよ)。2激怒する。悔しさや怒りを堪える。怒る。ウ˩ヌ パ˩ナ˥シェー シ˩キティ˥ アブジェー ˥パー カ˩ミ˥ル ˩オー˥ル [ʔu˩nu˥ pa˩na˥ʃeː ʃi̥˩kiti˥ ʔabuʤeː ˥paː ka˩mi˥ru ˩ʔoː˥ru](その話を聞いてお祖父さんは激怒しておられる)。

˩ハーガラ˥スン [˩haːgara˥suŋ] 【他動】暗礁や浅瀬に船を乗り上げる。首里方言の hjaagajuN(干上がる) が転訛して他動詞化したものか。˥スーピサールサーリ ˥ウマーラ ˥フニ ˥ムティ ˥パルカー ˩ハーガラ˥スンダー ˩ハーガラサン˥ スコー ˥スーミツァールサーリ パリバ [˥suːpisaːrusaːri ˥ʔumaːra ˥ɸuni ˥muti ˥paruka: ˩haːgara˥sunda: ˩haː-garasan˥ su̥ko: ˥suːmitsaːrusaːri ˥pariba](干潮時にそこから操船して < 舟を持って > いくと浅瀬に乗り上げるから、浅瀬に乗り上げないよう、満潮時に行けよ)。˩ハーガラ˥ス ˥クトー ˩ナーン˥センドゥ ˩クン˥ドー ˩ハーガラ˥シ ˩ナー˥ヌ [˩haːgara˥su ˥ku̥to: ˩naːŋ˥ʃendu ˥kun˥do: ˩haːgara˥ʃi ˩naː˥nu](浅瀬に乗り上げることは無かったが、今度は乗り上げてしまった)。˩ハーガラ˥シェー ˥ミサムヌ [˩haːgara˥ʃeː ˥misamunu](浅瀬に乗り上げれば良いのに)。パ˩ララン˥カー ˥クナーティ ˩ハーガラ˥シ [pa˩raraŋ˥kaː ˥kunaːti ˩haːgara˥ʃi](通り抜け出来なければ、ここで浅瀬に乗り上げよ)。ミ˩チ˥スーナ パ˩ラン˥カー ˥フニ ˩ハーガラ˥スンダ ˩ハーガラサン˥ヨーニ ミ˩チ˥スー ˥マティ [mi˩ʧi˥suːna pa˩raŋ˥ka: ˥ɸuni ˩haːgara˥sunda ˩haːgarasaŋ˥joːni mi˩ʧi˥suː˥mati](満潮時に行かないと船を座礁させるから、座礁させないように満潮を待て)。˥フニ ˩ハーガ

ラ˥シティ　˩ウー˥キ　サ˩ヌ [˥ɸuni ˩haːgara˥ʃi̥ti ˩ʔuː ˥ki sa˩nu](船を座礁させて動けない)。˩ニー˥バ　˩マン˥シン　˩シーブンダ　ハーガラ˥ス　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˩niː˥ba ˩maŋ˥ʃiŋ ˩ʃiːbunda ˥haːgara˥su ˥kṵtoː na˩ra˥nu](荷を満載しているから座礁させることはできない)。˩ハーガラ˥シェー　˥ミサムヌ [˩haːgara˥ʃeː ˥misamunu](座礁させれば良いのに)。˩ハーガラ˥シ [˩haːgara˥ʃi](座礁させろ)。

˩ハー˥ガルン [˩haː˥garuŋ] 【自動】座礁する。浅瀬に乗り上げる。マ˩ナ˥マ　˥パルカー　˩ハー˥ガルンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩ハーガラン˥　シジン˩デー˥カー　˥パリバ [ma˩na˥ma ˥paruka: ˩haː˥garunti ʔu˩muːn˥du ˩haːgaraŋ˥ ʃiʤin˩deː˥kaː ˥pariba](今行くと座礁すると思うが、座礁しないつもりであれば行きなさい)。マ˩ナ (マ) バー˥ケー　˩ハー˥ガル　˥クトー　˩ナーン˥　パジ˩ダー˥ヌ　˩ハー˥ガリ　˩ナーン˥ツォー [ma˩na(ma)baː˥keː ˩haː˥garu ˥kṵtoː ˩naːm˥ paʤi˩daː˥nu ˩haː˥gari ˩naːm˥tsoː](今の時刻までは座礁することはないはずだが。座礁してしまったそうだ)。˩ハー˥ガレー　˥ミサムヌ [˩haː˥gareː ˥misamunu](座礁すれば良いのに)。˩ハー˥ガリバ [˩haː˥gariba](座礁しろ)。

˩バー˥キ [˩baː˥ki] 【名】1竹製の笊(ザル)の総称。竹の薄い皮で編み上げて造った容器。芋や烏賊、魚を入れるのに用いる。農業用の笊は、˥ティル [˥tiru](笊) といい、˩クー˥ジ [˩kuː˥ʤi](トウズルモドキ) の皮で製作されるのが普通であったが、稀に夕˩キバーキ [tạ˩kibaːki](竹製の笊) を使用することもあった。イ˩ガバーキ [ʔi˩gabaːki](烏賊釣り漁の竹笊) は漁業用の笊である。˩バー˥キナ　˥ウン　イ˩リティ˥　ス˩ナカ˥ナー　˥ムティ　˩ギー˥　ア˩ライ˥クー [˩baː˥kina ˥ʔuŋ ʔi˩riti˥ su˩naka˥naː ˥muti ˩giː˥ ʔa˩rai˥kuː](竹製の笊に芋を入れて海へ持って行って洗ってきなさい)。˩ウン˥マー　˩バー˥キナ　イ˩リティ˥　カミパリ [˩ʔum˥maː ˩baː˥kina ʔi˩riti˥ kamipari](芋は竹笊に入れて頭に載せて担いで行け)。2大食漢。大食い。˩ウンザー　バー˥キ　ヤ˩ルンダ˥　ギュー˩サ˥　ッ˩ふァーサバン˥　タ˩ラーヌ [˩ʔunʤaː baː˥ki ja˩runda˥ gju:˩sa˥ f˩fasaban˥ ta˩raːnu](あいつは大食漢だから、いくら食べさせても足りない)。

˩バー˥キ [˩baː˥ki] 【副助】～まで。動作・作用の到達するところ、範囲、極端な程度を表す。上接語の末尾子音が鼻音、または長母音の場合、˩マー˥キ [˩maː˥ki](まで) となる傾向にあり、[b] と [m] は条件異音の関係にある場合もあり、また自由変異の場合も認められる。1場所の限界点。ミ˩ナトゥバー˥ケー　カ˩サ˥ナイ　˥パリバ [mi˩natubaː˥keː kạ˩sa˥nai ˥pariba](港までは負ぶっていきなさい)。2時間的限界点。˩サン˥ジ　˩バー˥キ　˥マティ [˩san˥ʤi ˩baː˥ki ˥mati](三時まで待て < 待つ時間の限界点が 3 時 >)。˩サン˥ジ　˩バー˥キナー　キ˩ラ˥リンカヤー [˩san˥ʤi ˩baː˥kinaː ki˩ra˥riŋkajaː](3 時までには帰って来られるかなあ < 帰着点が三時きっかり。待ち時間は 3 時以前 >)。**(1)** さらに格助詞˥-ヌ [˥-nu](～の < 所属 >) が付く。ウ˩キ˥ナー˩バーキ˥ヌ　˩キッ˥ポー　˩カイヤー˥ン [ʔu˩ki˥naː ˩baːki˥nu ˩kip˥poː ˩kaijaː˥ŋ](沖縄までの切符は買った)。**(2)** さらに格助詞˥ン [˥-ŋ](～に < 時間的限界点 >) が付く。˩サン˥ジ　˩バー˥キン　˩デー˥カー　˩バン˥ヌン　˥ウナー　ブ˩ラリン [˩san˥ʤi ˩baː˥kin ˩deː˥kaː ˩ban˥nuŋ ˥ʔunaː bu˩rariŋ](3 時までになら < であれば > 私もそこに居られる)。**(3)** さらに副助詞˥-ン [˥-ŋ](～も) 同類のものを付け加える。˩ワー　バー˥キン　˥アイル　˩スー [˩waː baː˥kiŋ ˥ʔairu ˩suː](君までもそんなにするのか)。**(4)** さらに格助詞˥-ナー [˥-naː](に) を介して係助詞˥ン [˥-ŋ]、副助詞˥-ツァン [˥-tsaŋ](すら。さえ。だに) が付く (限界点の強調)。˥ユネン　˩バー˥キナー (マーキナ) ンツァン　ム˩ドゥラ˥リカー　ミサムヌ˩ナー [˥junem ˩baː˥kinaː(˩maː˥kinaː)ntsam mu˩dura˥rikaː misamunu˩naː](夕方までにでも戻られたらいいのになあ)。**(5)** さらに係助詞˥-ル [˥-ru](～ぞ) が付く (限定強調)。イ˩ジ˥　シゥ˩カシ　バーキ˥ル　˥ナル　˩ティー˥　カケー　ナ˩ラ˥ヌ [ʔi˩ʤi˥ si̥˩kaʃi baːki˥ru ˥naru ˩tiː˥ kạkeː na˩ra˥nu](叱って教えることまでがしかできない <～までぞ出来る >。手をかけて教えることは出来ない)。˥ウビ　˩バーキ˥ル　˥ナル　˩マービン˥マー　ナ˩ラ˥ヌ [˥ʔubi ˩baːki˥ru ˥naru, ˩maːbim˥maː na˩ra˥nu](これくらいしか出来ない < これぐらいまでぞ出来る >、それ以上 < 更に。もっと > は出来ない)。**(6)** さらに格助詞˥-シ [˥-ʃi](～で) が付く (区切り点。限度)。˩キュー˥ヌ　シ˩ケン˥マー　˩ワーバー˥キシ　シ˩マイ [˩kjuː˥nu ʃi̥˩kem˥maː ˩waːbaː˥kiʃi ʃi˩mai](今日の試験は君までで終わり < 仕舞い > だ)。**(7)** 更にとりたて強調の係助詞˥-ヤ [˥-ja](～は) が付く。カ˩ジフキサーリ˥　イノーダーチ　˥フニ　˩マーシ˥　クン˩バー˥ケー　ヤッ˩トゥ˥シ　タ˩ドゥ˥リ　˩ゲー˥タン [ka˩ʤiɸukisaːri˥ ʔinoːdaːtʃi ˥ɸuni ˩maːʃi˥ kum˩baː˥ki jat˩tu˥ʃi ta˩du˥ri ˩geː˥taŋ](嵐で < 風吹きで >、沿岸沿いに舟を漕いで < 回して >、古見まではやっとのことで辿って

行ったことがある)。

「パーギシ¬ミ **[ˈpaːgiʃiˀmi]** 【名】1はぎしり (歯軋り)。せっし (切歯)。はまみ。ウ「レー¬ ニ「ビティ パーギシ¬ミ 「スンダ¬ ナ「クラーント ダー [ʔuˈreːˀ niˈbiti paːgiʃiˀmi ˈsundaˀ naˈkuraːnt̚daː](彼は寝て歯軋りするから怖いよ)。2怒りや悔しさで歯軋りすること。残念がって歯軋りすること。¬アブジェー シ「ティムヌ¬バ ダ「マサリ¬ タ「カガイ¬ シ「ミラリティ パーギシ¬ミ 「シー オー¬ル [ˀʔabudʒeːʃi̥ˈtimunuˀba daˈmasariˀ ta̠ˈkagaiˀ ʃiˈmirariti paːgiʃiˀmi ˈʃiː ʔoːˀru](お祖父さんは、捨て値の安物を騙されて高値で買わされて歯軋りして憤慨(フンガイ)しておられる)。

「パー¬ク **[ˈpaːˀku]** 【副】早く。速く。*[paiaku] → *[pajaku] → [paːku] と音韻変化したものか。¬パルシジン 「デー¬カー 「パー¬ク ¬パリバ [ˈparuʃidʒin ˈdeːˀkaː ˈpaːˀku ˀpariba](行くのなら < 行くつもりであれば > 早く行けよ)。

「パー¬クティ **[ˈpaːˀkuti]** 【副】急いで。早々と。「パー¬クティ 「クーン¬カー 「ソームノー¬ ア「タラン¬ダー [ˈpaːˀkuti ˈkuːŋˀkaː ˈsoːmunoːˀ ʔaˈtaranˀdaː](急いで来ないと良いものには当たらないぞ)。

「パークブ **[ˈpaːkubu]** 【名】葉昆布。普通の昆布。ウ「ラシ¬クブ [ʔuˈraʃiˀkubu](卸し昆布。刻み昆布) の対義語。「パークブ¬シ イ「ズン¬ タクン マ「キティ ネーシバ¬ イッ「ケン¬ ン「マー¬ン [ˈpaːkubuˀʃi ʔiˈdʒunˀ ta̠kum maˈkiti neːʃibaˀ ʔikˈkemˀ ʔmˈmaːˀŋ](葉昆布で魚も蛸も巻いて煮るから非常に美味しい)。

「バー¬クラウン **[ˈbaːˀkurauŋ]** 【他動】からかう。揶揄する。ひやかす。なぶる。「バイ¬ヨー ¬ムノー ワ「カラン¬ティ ウ「ムイ¬ル 「バー¬クラウンダ 「バークラーサン¬ヨーニ ¬アジ シュ「カシ [ˈbaiˀjoː ˀmunoː waˈkaranˀti ʔuˈmuiˀru ˈbaːˀkuraunda ˈbaːkuraːsaŋˀjoːni ˀʔadʒi si̥ˈkaʃi](私を物知らずと思って < ぞ > からかうのだから、ひやかさないように言ってやりなさい)。「ウンザー¬ プ「スバ バーク¬ライ 「ベー¬ヌ 「バー¬クラウ プ「ソー マーパカラサー ナー¬ンダ シ「ティ シキ¬リ [ˈʔundʒaːˀ pu̥ˈsuba baːˀkurai ˈbeːˀnu ˈbaːˀkurau pu̥ˈsoː maːpakarasaː naːˀnda ʃi̥ˈtiʃi̥kiˀri](あいつは人をからかっているが、からかう人はまとも < 真面 > な人間ではないからほっておけ)。「バークライ¬ヤー ¬ミサムヌ [ˈbaːkuraiˀjaː ˀmisamunu](からかってやればば良いのに)。「マー¬ビン 「バー¬クライ [ˈmaːˀbim ˈbaːˀkurai](もっとからかえ < ひやかせ >)。

「パーサ¬リン **[ˈpaːsaˀriŋ]** 【自動】おだてられる。「嘲(ハヤ)される」の義。「パーサリ¬ルン [ˈpaːsariˀruŋ](おだてられる。嘲される) ともいう。「パー¬スン [ˈpaːˀsuŋ](嘲す) の未然形に受け身・可能の助動詞¬リン [ˈriŋ](れる)、「リ¬ルン [ˈriˀruŋ](られる) が下接して形成された受け身・可能の派生動詞。プ「スン パーサ¬リティ プ「リープリー¬シ 「モー¬ヤー 「シーベー [pu̥ˈsum paːsaˀriti puˈriːpuriːˀʃi ˈmoːˀjaː ˈʃiː beː](他人におだてられて、馬鹿みたいに歩き舞をしているよ)。

「パー¬スン **[ˈpaːˀsuŋ]** 【他動】1嘲し立てる。けしかける。「〜七重花咲く 八重花咲くと白賞尼 < マヲシハヤサネ > 万、3885」の転訛か。「シー¬シ 「パー¬スン [ˈʃiːˀʃi ˈpaːˀsuŋ](獅子舞の獅子を嘲し立てて盛んに舞わせる)。ブ「ドゥル パー¬シ シ「ミルンティ スンドゥ サンシンヌ¬ シ「ルヌ¬ キシティ 「パーサラ¬ヌ [buˈduru paːˀʃi ʃiˈmirunti sundu saŋʃinnuˀ ʃiˈrunuˀ ki̥ʃiti ˈpaːsaraˀnu](踊りを嘲し立てて踊らせようするが、三線の弦が切れて嘲されない)。「シー¬シ 「パー¬ス プ「ソー マー¬ル ¬ムテーティ 「パー¬シェー ¬ミサムヌ [ˈʃiːˀʃi ˈpaːˀsu pu̥ˈsoː maːˀru ˀmuteːti ˈpaːˀʃeː ˀmisamunu](獅子舞を嘲す人は鞠を持って嘲せばいいのに)。¬マンターラ 「パー¬シ [ˀmantaːra ˈpaːˀʃi](前方から嘲し立てろ)。2そそのかす。おだてる。プ「スン パーサ¬リティ 「シーミラ¬ヌ ア「キ¬ナイ 「スンティ アー¬キ ウ「ル¬キ シ「ルッ¬コー ¬ナリ 「ベーン¬ティ [pu̥ˈsum paːsaˀriti ˈʃiːiraˀnu ʔaˈkiˀnai ˈsunti ʔaːˀki ʔuˈruˀki ʃiˈrukˀkoː ˀnari ˈbeːnˀti](人におだてられて、したことのない商売をしようとして欠損して、破産している < 何もかもがぶち壊しになっている > さ、ほら見てごらん)。

「パー¬スン **[ˈpaːˀsuŋ]** 【他動】1這わせる。ッ「ふァー¬ タ「タミヌ ウイ¬ナー 「パー¬スンティ 「スンドゥ パーサラ¬ヌ [fˈfaːˀ ta̠ˈtaminu ʔuiˀnaː ˈpaːˀsunti ˈsundu paːsaraˀnu](子供を畳の上に這わせようとするが、這わされない)。¬ウナー 「イットゥ¬キ 「パー¬シティ ア「サバスンティ¬ ウ「ムーン¬ドゥ 「パー¬ス プ「ソー¬ ター「ン¬ ブ「ラーンバン [ˀʔunaːˈ ʔittuˀki ˈpaːˀʃi̥ti ʔaˈsabasuntiˀ ʔuˈmuːnˀdu paːˀsu pu̥ˈsoːˀ taːˈmˀ buˈraːmbaŋ](そこに一時這わせて遊ばせようと思うが、這わせる人は他に誰もいないわい)。「パー¬シェー ¬ミサムヌ [ˈpaːˀʃeː ˀmisamunu](這わせれば良いのに)。ヤー「ディン¬ ¬クナー 「パー¬

シ [jaːˬdiŋ˥kunaː ˬpaː˥ʃi](必ずここに這わせなさい)。²広げる。伸ばす。˩ウー˥ロー　˩ジー˥ナー　˩パー˥シ [˩ʔuː˥roː ˩ʤiː˥naː ˬpaː˥ʃi](瓜は地面に這わせ広げよ＜露地栽培せよ＞)。

˩パータキ [˩paːtaki] 【名】葉の付いた竹。˩パータキバ˥　フˬバリティ˥　タˬキポーキ˥　スˬク˥リ　˥シケー [˩paːtakiba˥ ɸuˬbariti˥ tạˬkipoːki˥ sụˬku˥ri ˥ʃịke:](葉の付いた竹を束ねて竹箒を作ってある)。

˥パー　˥タトゥン [˥paː ˥tatuŋ] 【連】鋸の歯を立てる。ヤˬシ˥ルシ　ヌˬキル˥ヌ　˥パー　˥タトゥン [jaˬʃi˥ ruʃi nuˬki˥ru ˥paː ˥tatuŋ](鑢(ヤスリ)で鋸(ノコギリ)の歯を立てる)。磨臼(スリウス)の歯をたてる。ピˬキウシヌ˥　パー　˥タティティ　˩マイ˥　ピˬキ˥バ [pị˩ˬki˩ʔuʃinu˥ paː ˥tạtiti ˩mai˥ pị˩ˬki˥ba](磨り臼＜碾き臼＞の歯を立てて籾を磨りなさいよ)。

˩パータバク [˩paːtabaku] 【名】葉タバコ。刻み下ろしてない煙草の葉。イˬクサユー˥ヌ　˥アトータˬバク˥ヌ　˩パーバ　カン˥ソー　シˬティ˥　ナˬカヌ　シン˥マー　˥トゥリティ　クˬマークマー˥シ　ウˬラ˥シティ　キˬシ˥ルシル　フˬコーッタ˥ル [ʔiˬkusajuː˥nu ˥ʔatoː taˬbaku˥nu ˩paːba kan˥soː ʃị˩ˬti˥ na ˩kanu ʃim˥maː ˥turiti kuˬmaːkumaː˥ʃi ʔuˬra˥ʃị˩ti kị˩ˬʃi˥ ruʃiru ɸụˬkoːtta˥ru](終戦後は、タバコの葉を乾燥させて中の芯は取り、細かく下ろして煙管で煙草を吸われたものだ)。

˩パーダリ˥ムヌ [˩paːdari˥munu] 【名】だらしない者。締まりのない者。着物の帯をしめず、前を開けたままだらだらしている者。イˬコーラ　ヤーン˥ナカヤˬラバン˥　アイニ　˩パーダリ˥ムヌ　˥ナリ　˩ベーン˥ナ [ʔiˬkoːra jaːn˥naka jaˬrabaŋ˥ ʔaini ˩paːdari˥munu ˥nari ˩beːn˥na](いくら家の中であっても、あんなにだらしない者の恰好をしているなよ)。

˩バーッ˥クラウン [˩baːk˥kurauŋ] 【他動】からかう。揶揄する。冗談をいってひやかす。冗談をいって他人をばかにする。首里方言の'wacakujuN(からかう)の転訛したもの。˩バー˥クラウン [˩baː˥kuraun](からかう。揶揄する。ひやかす) ともいう。イˬファナムニバ˥　イˬジ˥　プˬスバ　バーッ˥クライ　˩ベー˥バ　˩バーッククラン˥　スˬコール　シー　ベー˥リ [ʔiˬɸanamuniba˥ ʔiˬʤi˥ pụˬsuba baːk˥kurai ˩beː˥ba ˩baːkkuraran˥ sụˬkoːru ʃiːbeː˥ri](妙なことを言って他人をからかっているから、からかわれないように準備をしておきなさい)。プˬス　バーッ˥クライ　˥ミサカー　˩バン˥ヌン　˩バーッ˥クラウンˬダー [pụˬsu baːk˥kurai ˥misakaː ˩ban˥num ˩baːk˥kurauˬda:](他人をからかってよければ、私もからかうよ)。˩マー˥ビン　˩バーッククライ˥ヤー　˥ミサムヌ [˩maː˥bim ˩baːkkurai˥jaː ˥misamunu](もっとからかえば良いのに)。˩パー˥ク　˩バーッ˥クライバ [˩paː˥ku ˩baːk˥kuraiba](早くからかえよ)。

˥パー　ッˬサザラ˥スン [˥paː sˬsaʤara˥suŋ] 【連】白い歯をみせる。「歯・白々す」の義。iraira(白々) が音韻の融合同化現象を起こして [sˬsaʤara](白々) となり、それに助動詞˥スン [˥suŋ](～させる＜使役＞) が付いたもの。マˬジムヌヌ˥　パー　ッˬサザラ˥シ　˥クーカー　˩ガイスンティ˥　アˬザリ　ブーユンダ　サン˥マー　˥ムティ　˩アー˥キ [maˬʤimununu˥ paː sˬsaʤara˥ʃi ˥kuːkaː ˩gai sunti˥ ʔaˬʤari buːjunda sam˥maː ˥muti ˩ʔaː˥ki](まじもの＜蠱物、魔物、お化け＞が白い歯を見せてやって来ると人に害を与えると言われているから、サン＜魔除けの結び紐＞を持っていなさい＜持ってあるけ＞)。

パーッˬティ [paːtˬti] 【副】ぱあっと。急に明るくなるさま。˩トゥール˥ヌ　˩ユー˥ラ　˩デントー˥ヌ　˩ユー˥　ナˬル˥ター　パーッˬティ˥　ガˬリティ˥　カˬジヌ˥　フˬカ˥バン　˩キーラヌ [˩tuːru˥nu ˩juː˥ra ˩dentoː˥nu ˩juː˥ naˬru˥taː paːtˬti˥ gaˬriti˥ kaˬʤinu˥ ɸụˬka˥baŋ ˩kiːranu](ランプ＜灯籠＞の時代から電灯の時代になったので、ぱあっと明るくなって風が吹いても消えない)。

˩パートゥン˥ター [˩paːtun˥taː] 【名】出っ歯の人。八重歯の人。「歯の突き出た者」の義。˩パートゥンティ˥ムヌ [˩paːtunti˥munu](出っ歯の者) ともいう。˩パートゥン˥ター　アˬラン˥カー　シˬラカタ˥チェー　˩カイ˥ヤンドゥˬナー [˩paːtun˥taː ʔaˬraŋ˥kaː ʃiˬrakata˥ʧeː ˩kai˥janduˬnaː](出っ歯でなければ容貌＜顔形＞はきれいんだがなあ)。

˩パートゥンティ˥ムヌ [˩paːtunti˥munu] 【名】出っ歯の人。˩パートゥンティ˥ムヌ　ヤˬルンダ˥　バˬラウ˥カー　˩ギーパーヌ　トゥンジティ˥　ナˬクラー˥ン [˩paːtunti˥munu jaˬrunda˥ baˬrau˥kaː ˩giːpaːnu tunʤiti˥ naˬkuraː˥ŋ](出っ歯だから、笑うと犬歯が飛び出して怖い)。

˥パーナライ [˥paːnarai] 【名】ばあさんっ子育ち。身勝手、甘ったれの生活習慣。「祖母習い」の義。祖母は孫を可愛がりすぎるあまり、我儘で身勝手な性癖の孫に育てがちであるといわれている。ウˬレー˥　パーナライ　˩シール˥　アイニ　˩フンダヤー˥　ナリ　˩ブートダー [ʔuˬreː˥ paːnarai ˩ʃiːru˥ ʔaini ˩ɸundajaː˥ nari ˩buːtdaː](彼はばあさんっ子育ちを

したので、あんなに我儘で身勝手で、やりたい放題性癖の子供になっているのだよ)。˥パー　˥ナライヤー　アˈマナラーシティル˥　アˈザリブー [˥paː ˥naraijaː ʔaˈmanaraːʃitiru˥ ʔaˈʤaribuː](祖母の躾 < 仕付け > は甘やかす躾 < 甘い躾、甘い習わし > であるといわれている)。

ˈパー˥ヌ　˥ッス [ˈpaː˥nu ˥ssu] 【連】歯くそ。はかす。「歯の糞」の義。ˈヨー˥ジシ　ˈパー˥ヌ　˥ッス　フˈジ˥リ　˥トゥルン [ˈjoː˥ʤiʃi ˈpaː˥nu ˥ssu ɸuˈʤi˥ri ˥turuŋ](楊枝で歯の糞 < はかす > をほじくって < 穿(コジ)って。抉って > 取る)。

ˈバー˥バ [ˈbaː˥ba] 【名】(動) 魚の名。和名、テンジクイサギ (体長 25〜30 センチ、薄い青みがかった灰色の体色)。満潮時に鳩間島の裏海岸に群れて寄るところを網で巻き取って漁獲していた。

ˈハーハー [ˈhaːhaː] 【副】はあはあ。あえぐ < 喘ぐ > 様子。カˈキッツァー˥シ　ˈクー˥ター　ˈハーハー˥シ　イˈキ˥フキ　ˈベー [kạˈkittsaː˥ʃi ˈkuː˥taː ˈhaːhaː˥ʃi ʔiˈki˥ɸu̥ki ˈbeː](走ってきたので、はあはあと息をついている)。カˈキッツァー˥シ　ˈクー˥ター　ˈハーハー˥シ　ˈアーフキ　ベー [kạˈkittsaː˥ʃi ˈkuː˥taː ˈhaːhaː˥ʃi ˈʔaːɸuki beː](走って来たので、はあはあとあえいで < 喘いで > いる)。

ˈバーバー [ˈbaːbaː] 【副】1風が強く吹くさま。びゅうびゅう。擬音語。カˈジェー　バーバー˥シ　˥フキ　ˈブームヌ　ヌー˥シ　˥フニ　ンˈザサリ˥ワ [kaˈʤeː baːbaː˥ʃi ˥ɸu̥ki ˈbuːmunu nuː˥ʃi ˥ɸuni ʔnˈʤasari˥wa](風はびゅうびゅうと吹いているのに、どうして船を出されようか)。カˈジバーバースン [kaˈʤibaːbaːsuŋ](時化る。風が強く吹く)。2ぼうぼう。火が勢いよく燃えるさま。カˈマチ˥ナー　ˈピー˥ヤ　ˈバーバー˥シ　ˈモーシェー˥ティ　˥イー　バˈカシ˥バ [kaˈmatʃi˥naː ˈpiː˥ja ˈbaːbaː˥ʃi ˈmoːʃeː˥ti ˥ʔiː baˈkaʃi˥ba](竈には火をぼうぼう燃やしてご飯を炊きなさいよ)。ヤˈラビ˥ヌ　キサーˈティ　バーバー˥シ　タˈバ˥ク　˥フキ　ˈアー˥ク [jaˈrabi˥nu kị̥saːˈti baːbaː˥ʃi taˈba˥ku ˥ɸu̥ki ˈʔaː˥ku](子供のくせに、すでにプカプカと盛んにタバコをふかしている < あるく >)。

ˈバーブー [ˈbaːbuː] 【名】幼児語。虫。˥ウリウリ　ˈバーブーヌ˥　パイ　クンˈドー [˥ʔuriʔuri ˈbaːbuːnu˥ pai kunˈdoː](ほらほら、虫が這ってくるぞ)。

˥パー　˥フーン [˥paː ˥ɸuːŋ] 【連】1歯を噛む。歯ぎしり < 歯軋(ハガ)り > する。歯を食い縛る。怒る。˥パー　˥カムン [˥paː ˥kamuŋ](歯を噛む) ともいう。ウˈレー˥　サˈキ˥　ヌムカー　˥パー　˥フー　フˈシヌル˥　アルˈツォー [ʔuˈreː˥ sạˈki˥ numukaː ˥paː ˥ɸuː ɸu̥ˈʃinuru˥ ʔaruˈtsoː](彼は酒を飲むと歯軋りする癖があるんだよ)。2寒さで歯をがくがくさせて震える。ˈピー˥ヤサーリ　˥アミン　ˈゾッふァーリティ˥　パーフイ　ˈベー [ˈpiː˥jasaːri ˥ʔamin ˈʤoffaːriti˥ paːɸui ˈbeː](寒い上に雨に濡れて、がくがく歯噛(ハガ)みして震えている)。

ˈパー˥フイ [ˈpaː˥ɸui] 【名】寒さで歯をガチガチさせて震えること。歯噛(ハガ)みすること。寒さで震えること。ドゥˈク˥ヌ　ˈピー˥ヤティ　ˈパー˥フイ　ˈベー [duˈku˥nu ˈpiː˥jati ˈpaː˥ɸui ˈbeː](あまりにも寒いので < 余りの寒さに > 歯をガチガチ歯噛みさせて震えている)。

˥パー　ˈフイッカー˥スン [˥paː ˈɸuikkaː˥suŋ] 【連】歯をかみ合わせる。歯をくいしばる。˥パー　ˈフイッカー˥シティ　ギーッˈティ˥　ニジ　ˈベー [˥paː ˈɸuikkaː˥ʃị̥ti giːtˈti˥ niʤi ˈbeː](歯を食い縛って、ぐっと我慢している)。

˥パーフカー [˥paːɸu̥kaː] 【名】ほらふき (法螺吹き)。大言をする人。ウˈレー˥　パーフカー　ヤˈルンダ˥　ウˈリヌ˥　ムネー　アˈテー˥　ナˈラ˥ヌ [ʔuˈreː˥ paːɸu̥kaː jaˈrunda˥ ʔuˈrinu˥ muneː ʔaˈteː˥ naˈra˥nu](彼は法螺吹きだから、彼の言葉 < 物言い > は信用できない < 当てにならない >)。

˥パープジ [˥paːpuʤi] 【名】祖父母。「˥パー [˥paː](祖母) にアˈブ˥ジ [ʔaˈbu˥ʤi](大爺)」付いた複合名詞。˥ウヤパープジヌ　カナイˈヨー˥ル　キˈナイ˥　ヤˈルンダ　スー˥ワンˈダー [˥ʔujapaːpuʤinu kanaiˈjoː˥ru kiˈnai˥ jaˈrunda suː˥wanˈdaː](父母、祖父母が健在でしっかりしておられる家庭であるから、家庭のしつけや家庭経営方針は厳しいよ)。˥パープジヌ　アˈラ˥ソーレール　˥ザイサン [˥paːpuʤinu ʔaˈra˥soːreːru ˥ʤaisaŋ](祖父母が築かれた財産)。

˥パー　ˈフッカー˥スン [˥paː ˈɸukkaː˥suŋ] 【連】歯を器物で挿(ハサ)む。歯を両側から固定する。˥マイバー　ˈフッカー˥シティ　カˈカイ˥バ [˥maibaː ˈɸukkaː˥ʃị̥ti kạˈkai˥ba](前歯を挿んで < 固定して > 抜き取り < 欠き取り > なさい)。

ˈパーミガキ˥クー [ˈpaːmigaki˥kuː] 【名】歯磨き粉。若年層は、ハˈミガキ˥クー [haˈmigaki˥kuː](歯磨き粉) という。ムˈカエィ˥シェー　ˈパーミガキ˥クーティ　ˈスーモー　ナーン˥シェン。ˈマー˥スシル　ミˈガクタル [muˈka˥ʃeː ˈpaːmigaki˥kuːti ˈsuːmoː naːŋ˥ʃeŋ。ˈmaː˥suʃiru miˈgakutaru](昔は、歯磨き粉とい

うのはなかった。塩で磨いたものだ)。

˩パームイ˥ジブン [˩paːmui˥ʤibuŋ] 【名】歯の生える時分。歯が生える頃。˩パームイジブン˥マー　ヤ˩ラ˥ベー　˥ユー　プ˩ス˥　フーン˩ダー [˩paːmuiʤibum˥maː ja˩ra˥beː ˥juː pu̥˩su˥ ɸuːn˩daː](歯が生え始める頃は、乳児はよく人を噛むよ)。

˩パームイ˥　パ˩ヤー˥ン [˩paːmui˥ pa˩jaː˥ŋ] 【連】歯の生えるのが早い。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー　パームイ˥　パ˩ヤー˥ンティ　ア˩ザリ　ブンドゥ˥　シザー˩マービン˥ドゥ　パ˩ヤー˥タル [ku˩nu˥ f˩faː paːmui˥ pa˩jaː˥nti ʔa˩ʤari bundu˥ ʃiʤaː ˩maːbin˥du pa˩jaː˥taru](この子は歯の生えるのが早いといわれているが、上の子＜兄者＞はもっと早かったよ)。

˩パー˥ムヌ [˩paː˥munu] 【名】1刃物。山刀や包丁、鑿、鎌、剃刀など。ヤ˩マー　ペー˥ル　˥プソー　˩パー˥ムノー　ク˩シ˥ナー　ク˩シケー˥ティ　ヌ˩キ˥ルン　˥ムティティル　˩オーッ˥タル [ja˩maː peː˥ru ˥pu̥soː ˩paː˥munoː ku̥˩ʃi˥naː ˩kuʃi̥keː˥ti nu˩ki˥rum ˥mutitiru ˩ʔoːtta˥ru](山へ入る時は刃物＜山刀＞を腰に差して、鋸も持って行かれたものだ)。˩パー˥ムノー　ヤ˩ラビ˥ヌ　˩ティー˥ヌ　トゥ˩ドゥ˥クントンナー　ス˩ク˥ナ [˩paː˥munoː ja˩rabi˥nu ˩tiː˥nu tu˩du˥kun ˥tonnaː su̥˩ku˥na](刃物は幼児の手の届く所には置くな)。2酒癖の悪い人。ウ˩レー　パー˥ムヌ　ヤ˩リバ˥　ウ˩リンマー˥　サ˩キ˥　ヌ˩マス˥ナ˩ヨー [ʔu˩reː paː˥munu ja˩riba˥ ʔu˩rimmaː˥ sḁ˩ki˥ nu˩masu˥na˩joː](あれは酒癖の悪い人だから、彼には酒を飲ませるなよ)。

˥パーメー [˥paːmeː] 【名】ばばあ (婆)。老女の卑語。沖縄本島方言からの借用語。ヤ˩ナ˥　パーメー　カ˩マー˥　パリ [ja˩na˥ paːmeː ka˩maː˥ pari](嫌な婆、あっちへ行け)。

˩パー˥モー [˩paː˥moː] 【名】歯のない者。歯欠け者。首里方言からの借用語が転訛したもの。若年層は、˩ハー˥モー [˩haː˥moː](歯のない者。歯欠け者) ともいう。˥トゥシ　トゥ˩ル˥ター　˩パー˥モー　˥ナリティ　˩コー˥ムノー　ノー˩ン˥　ッ˩ふァーラヌ [˥tuʃi tu˩ru˥ta: ˩paː˥moː ˥nariti ˩koː˥munoː noː˩n˥ f˩faːranu](年をとったので歯のない者になって、硬い物は何も食べられない)。

˥バー　˥ヤー [˥baː ˥jaː] 【連】私の家。˥バー　˥ヤーナ　˩カッティニ　ペール˥ナ [˥baː ˥jaːna ˩kattini ˩peːru˥na](私の家に勝手に入るな)。

˩パーヤサイ [˩paːjasai] 【名】葉野菜。葉菜。主に葉を食用とする野菜。対義語は、ナ˩リ˥ムヌヤサイ [na˩ri˥munujasai](果菜)。˩パーヤサイヤー　ナーンパー˥トゥ　タ˩マナー˥ル　ス˩ク˥リ　ブ˩タ˥ナー [˩paːjasaija: naːmpaː˥tu ta˩manaː˥ru su̥˩ku˥ri bu˩ta˥naː](葉野菜は菜っ葉とキャベツ＜玉菜＞を栽培して＜作って＞いたなあ)。˩パーヤサイヤー　ナン˥ゾー　ス˩クラン˥シェン [˩paːjasaija: nan˥ʤoː su̥˩kuraŋ˥ʃeŋ](葉野菜はあんまり作らなかった)。

˩パー˥ヤミ [˩paː˥jami] 【名】歯痛。「歯病み」の転訛したもの。˩パーヤミ˥ヌ　˩スー˥ワティ　˥ムヌン　ッ˩ふァーラヌ [˩paːjami˥nu ˩suː˥wati ˥munuŋ f˩faːranu](歯痛が激しい＜強い＞ので、物も食えない)。

˩パーユシキ [˩paːjuʃi̥ki] 【名】葉ススキ。葉のついたままのススキ。マ˩ミ˥　マキティ　˥アトー　˩パーユシキヌ˥　フキシ　˥サン　˩ユイティ˥　パ˩タキ˥ヌ　˥シノーラ　ウ˩チェー　ミーペー　ユーシティ˥　ッ˩ソーッ˥タ [ma˩mi˥ makiti ˥ʔato: ˩paːjuʃi̥kinu˥ ɸu̥kiʃi ˥saŋ ˩juiti˥ pḁ˩taki˥nu ˥ʃinoːra ʔu˩tʃeː miːpeː juːʃiti˥ s˩soːt˥ta](豆を播いた後、葉ススキの茎でサン＜藁(ワラ)やススキの葉で輪を作るように結んだ魔除けの呪符＞を結んで、畑の角から内側へ三足ほど寄せて挿した)。˩ユシキ˥ヌ　˩パーヤ　スー˥リティ　シ˩ダ˥ル　˥フミティル　˩ウン˥ナー　イ˩ガー˥プ˩スタ [˩juʃi̥ki˥nu ˩paːja suː˥riti ʃi˩da˥ru ˥ɸumitiru ˩ʔun˥naː ʔi˩gaː˥ pu̥˩su˥ta](ススキの葉を扱(シゴ)いて削ぎ、簾(スダ)に編んで、それに烏賊(イカ)を干した)。

˩パーヨー˥ジ [˩paːjoː˥ʤi] 【名】楊枝。歯の間にはさまっているものを除去して清潔にするのに用いる具。˩パーヨー˥ジシ　˩パー˥ヌ　˥ッス　˥トゥリバ [˩paːjoː˥ʤiʃi ˩paː˥nu ˥ssu ˥turiba](楊枝で歯に付着したかす＜歯くそ。はかす＞を取れよ)。

˥パー　˩ヨー˥ン [˥paː ˩joː˥ŋ] 【連】歯が弱い。˥パー　˩ヨー˥ンダ　˩コー˥ムノー　カ˩マラ˥ヌ [˥paː ˩joː˥nda ˩koː˥ muno: ka˩mara˥nu](歯が弱いので固いものは噛めない)。

˩パーラパーラ [˩paːrapaːra] 【副】1ひらひら。風に吹かれてひらひら揺れるさま。カ˩ジバナ˥ナー　˩キン˥バ　˥プシ˥シケーター　カ˩ジヌ　スイティ　パーラパーラ˥シ　トゥ˩バサリ　ベー [ka˩ʤibana˥na: ˩kim˥ba ˥pu̥ʃi ˥ʃi̥keːta: ka˩ʤinu suiti paːrapaːra˥ tu˩basaribeː](風の通り道＜風端＞に着物を干しておいたら、風が吹いてひらひら揺れている＜ひらひらと飛ばされている＞)。カ˩ベー　パーラパーラ˥シ　カ˩ジン˥　トゥ˩バサリ　ナー˥ヌ [ka˩beː paːrapaːra˥ʃi ka˩ʤin˥ tu˩basari naː˥nu](紙はひらひ

らと風に飛ばされてしまった)。2ぺらぺら。プ˞スヌ˜　マイナー　ヤ˞マトゥムニ˜バ　˞パーラパーラ˜シ　パ˞ナ˜シ　˞ベー [pu̥˞sunu˜ maina: ja˞matumuni ˜ba ˞pa:rapa:ra˜ʃi pa˞na˜ʃi ˞be:](人前で標準語 < 大和言葉 > をぺらぺらとしゃべっているよ)。

˞パー˜レー [˞pa:˜re:] 【名】爬龍船競漕の行事。旧暦六月のミ˞ジニー [mi˞ʤini:](壬) の日を選んで執り行われる˞プー˜ル [˞pu:˜ru](豊年祭) の初日、˞ゾーラキ [˞ʤo:raki](西村、東村対抗の伝統的入子型奉納舞踊) の最終演目の終了と同時に、イ˞リクヌ˜ティー [ʔi˞rikunu˜ti:](入子の笛) が一段と高く吹き鳴らされると、ドゥ˞ラーン [du˞ra:ŋ](銅鑼) が強打され、カシラ持ちが旗頭を持ち上げ、棒踊りの曲に合わせながら東回りでカシラ [ka˞ʃi˜ra](旗頭) を˜サンシキ [˜saŋʃiki](桟敷) の浜に移動させる。浜には東西に二本のポール (旗頭の支柱) が立っており、カシラを支柱に結わえて立てておく。ポールの前には、東西の˞パーレー˜フニ [˞pa:re:˜ɸuni](爬龍船) が並べてある。サ˞カサ [sḁ˞kasa](司。女性神職者) やティ˞ジリ˜ビー [ti˞ʤiri˜bi:](男性神職者) 達が所定の座に着かれると、二艘の˞パーレー˜フニは漕ぎ手達によって、手で下げ持つようにして勢いよく進水され、漕ぎ手たちが一斉に乗船する。漕ぎ手が乗船すると、舳先が揃えられる。同時に˞ユークイジラ˜マ [˞ju:kuiʤira˜ma](世乞い歌 < 豊年を引き寄せる神歌。世乞いジラマ >) が神職者、漕ぎ手、村人達によって厳かに歌い出される。漕ぎ手達は神歌ジラマのフレーズに合わせてゆっくりと一櫂漕いで櫂を高く持ち上げ、一節歌い終えて櫂を海に入れ、一漕ぎして船を進める。東西の爬龍船はトゥ˞ムヌー˜ル [tu˞munu:˜ru](船頭。艫乗り) によって直径約 30 メートルの円形に漕ぎ回されて舳先を揃え、出発の銅鑼の音を合図にスタートする。爬龍船は沖合い約 200 メートルに浮かべた折り返し点を目指して漕ぎ進む。折り返し点には˞ブイ [˞bui](浮標。うき。英語からの借用語) に小旗が立ててあるので、そこで U ターンして桟敷の方へ漕ぎ帰る。ブイは桟敷から鳩離島のパンガマイシ [˞pagamaiʃi](羽釜石) とピ˞ナイサキ [pi˞naisaki](ピナイ崎) のマ˞ニ˜ツァイシ [ma˞ni˜tsaiʃi](俎板石) の方向にあわせることになっている。パーレーフニがターンする際に船頭が小旗を櫂で倒す。これがルールであるが、出発の時点で、神歌の歌詞に東と西で違いがある。東の神歌の歌詞が一節だけ長い。従ってスタート時点において西村の爬龍船が一櫂入れる分だけ早めにスタートすることになるので、常に西村の爬龍船が勝つ仕組みになっている。これは西村 < 女性 > が勝てば豊年が約束されるという伝承に基いている。若い人達はこの仕組みを知らないから、喧嘩沙汰を引き起こしたこともあった。両爬龍船がスタートした浜に到着すると、イ˞チバン˜ヤク [ʔi˞ʧibaɲ ˜jaku](一番漕ぎ手) が船から飛び降り、サ˞カサ達の座っているところへ駆け上り、先着順に跪(ヒザマズ)いて神酒を頂く。その間、浜では老若男女銅鑼や太鼓を乱打して˞ガー˜リ [˞ga:˜ri](応援。「自慢合戦」の義) をする。それが済むと、漕ぎ手を先頭に、˞ユーアギジラ˜マ [˞ju:agiʤira˜ma](世揚げジラマ < 豊年を迎える神歌 >) と˞パイミジラ˜マ [˞paimiʤira˜ma] を応援参加者も共に歌いながら、東西それぞれの爬龍船の回りを廻る。漕ぎ手は櫂を立てて囃子の「サーユイユイ」と「ハイヨーシュラヨー」の部分を歌いながら進み、立てた櫂を左右に振る。爬龍船に海水が沢山入るとユ˞ガフー [ju˞gaɸu:](世果報) が齎(モタラ)されたといって喜ぶ。船のあか (淦) を方言で˜ユー [˜ju:](湯) ともいうが、それを˞ユー [˞ju:](世。世果報) に掛けたものである。歌い終わると、東村を先頭にして桟敷へ戻る。サカサ達が所定の場所に座ると、旗頭をサカサ達の前に立てて、˜サンシキヌウタ [˜saŋʃikinuʔuta](桟敷の歌) を歌う。それが済むと旗頭を˞アイ˜ザムトゥ [˞ʔai˜ʤamutu](旗頭出迎えの座) へ進め、˞アイ˜ザムトゥヌ　˜ウタ [˞ʔai˜ʤamutunu ˜ʔuta](旗頭出迎えの座の歌) を歌い、各トゥ˞ニムトゥ [tu˞nimutu](村の宗家。旗頭を保存する家) へ別れて帰り、トゥ˞ニムトゥの門前でトゥ˞ニムトゥヌ˜　ウタ [tu˞nimutunu˜ ʔuta](村の宗家の歌) を歌いながら家の中へ入る。旗頭は一番座の東の所定の場所に立てて置きく。ピ˞キ [pi˞ki](血筋) の人、漕ぎ手、ティジリビー等が参加するが漕ぎ手は庭で、他の者は座敷に上がって酒肴の持て成しを受け、˞サンバーレ [˞samba:re:] 歌を歌う。その後漕ぎ手達は˞パーレー˜フニ [˞pa:ra:˜ɸuni](爬龍船) のフ˞ナム˜トゥ [ɸu˞namu˜tu](船主) の家へ、爬竜船の淦を瓶に入れて持参する。船主の家では酒肴の持て成しを受け、フ˞ナム˜トゥ [ɸu˞namu˜tu](船元) の歌を歌って解散する。

˞パー˜レー　˜クーン [˞pa:˜re: ˜ku:ŋ] 【連】爬竜船を漕ぐ。˞プー˜ルナーヤ　˞パー˜レー　˜クーンティ　˞シー˜　アイ˞ヨーッ˜タン [˞pu:˜ru:na:ja ˞pa:˜re: ˜ku:nti ˞ʃi:˜ ʔai˞jo:t˜taŋ](豊年祭には爬竜船を漕ぐとて喧嘩もされたものだ)。

˞パーレーシン˜カ [˞paːreːiŋ˜ka]【名】爬竜船の漕ぎ手。「爬竜船臣下」の義。トゥ˞ム˜ヤク [tu˞mu˜jaku](船頭。˞艫櫂」の義)、イ˞チバン˜ヤク [ʔi˞ʧibaŋ˜jaku](一番櫂。一番漕ぎ手)、˞ピーヌル [˞piːnuːru](˞舳乗り」の義。二人)、˞マイヌー˜ル [˞mainuː˜ru](「前乗り」の義。二人)、ナ˞カヌー˜ル [na˞kanuː˜ru](「中乗り」の義。二人)、トゥ˞ムヌー˜ル [tu˞munuː˜ru](「艫乗り」の義。二人) の計 10 人の漕ぎ手のこと。トウムヤク (艫櫂。舵取り) とイチバンヤク (一番漕ぎ手) の出来が勝負を左右するといわれ、最も重視される。˞パーレーシン˜カー　イ˞チバンヤク˜ヌ　ヤ˞グイ˜ナー　˞アーシ˜ル　˜ヤコー　˜クーンダ　˜アトー　トゥ˞ムヤク˜ヌ　˜フニ　マ˞ギカタ˜シル　˜カチマケー　キ˞マル [˞paːreː ʃiŋ˜kaː ʔi˞ʧibaŋjaku˜nu ja˞gui˜naː ˞ʔaːʃi˜ru ˜jakoː ˜kuːnda ˜ʔatoː tu˞mujaku˜nu ˜ɸuni ma˞gikataʃi˜ru ˜katʃimakeː ki˞maru](爬竜船の漕ぎ手達は一番漕ぎ手の掛け声に合わせて櫂を漕ぐから、後は舵取り＜艫櫂＞が船を旋回させる曲げ方によって勝ち負けは決まる)。

˞パーレー˜フニ [˞paːreː˜ɸuni]【名】爬竜船。爬竜船競漕に使用する˜イダフニ [˜ʔidaɸuni](サバニ)。東村、西村それぞれ一艘ずつ選び出す。各家は一艘のイダフニを所有していたから、青年たちがそれらのイダフニを漕ぎ比べて船足の速いイダフニを選出し、爬竜船に決めて豊年祭の当日に青と白のペンキで船側を波形模様に装飾した。みよし (舳先) も水切りの工夫を凝らして大きな目玉をペンキで描き入れた。櫂は中心から左右に白いペンキで羽模様の斜線を描き入れて装飾をほどこした。爬竜船が一斉に漕ぎ出すと、櫂の上下する様があたかも鶏が羽ばたくように見えた。ク˞トゥシェー　タッ˜テヌ　フ˞ニ˜バ　˞パーレー˜フニティ　キ˞モー˜ッ˜ター [kṵ˞tuʃeː tat˜tenu ɸu˞ni˜ba ˞paːreː˜ɸuniti ki˞moːt˜taː](今年はどこの家のイダフニを爬竜船に決められたのか)。

˞パーレー˜ヤク [˞paːreː˜jaku]【名】爬竜船漕ぎに用いる櫂。ヤ˞コー˜マ [ja˞koː˜ma](小型の櫂) の中央部から白いペンキで斜線を描いて装飾していた。˞パーレー˜ヤクーン　˞ペン˜キ　˞ヌーリティ˜　シ˞ダーシ　ソーッ˜タ [˞paːreː˜jakuːŋ ˞peŋ˜ki ˞nuːriti˜ ʃi ˞daːʃi soːt˜ta](爬竜船漕ぎの櫂もペンキを塗って装飾された)。

˜パーンケー [˜paːŋkeː]【名】お祖母さん方。祖母たち。˜パーンケーヤ　˞ガン˜ゾー　ア˞ロールン [˞paːŋkeːja ˞gan˜ʤo: ʔa˞roːruŋ](お祖母さん方は元気でいらっしゃいますか)。

˞ハ˜イ [˞ha˜i]【感】ほれ。そら。軽く呼びかける時に発する語。自分と同等以下の者に対して、促すときに用いる。˞ハ˜イ　ク˞レー　ワー˜　タ˞マシ˜　ムティパリバ [˞ha˜i ku˞reː waː˜ ta˞maʃi˜ muti ˜pariba](ほれ、これは君の受け取り分だ。持って行きなさい)。˞ハ˜イ　ク˞リ˜　ッ˞ふァイ˜バ [˞ha˜i ku˞ri˜ f˞fai˜ba](はい、これを食べなさいよ)。

˜バイ [˜bai]【名】芽。新芽。萌芽。「〜伐れば伴要須礼＜ハエスレ＞〜、万、3491」の名詞化したものか。˞キー˜ヌ　˜バイ　ン˞ジ˜ルン [˞kiː˜nu ˜bai ʔn˞ʤi ˜ruŋ](木の芽がでる。萌え出る)。カ˞ブッチヌ˜　サニ　ウ˞ラ˜シ　˜シケータ　˜バイ　˜ンジ　˞ベー [ka ˞buttʃinu˜ sani ʔu˞ra˜ʃi ˜ʃi̥keːta: ˜bai ˜ʔnʤi ˞beː](カボチャ＜南瓜＞の種を播いて＜下ろして＞おいたら芽が出ている)。˞バインジ˜ルン [˞baiʔnʤi˜ruŋ](芽生える) ともいう。

˜バイ [˜bai]【名】二倍。同じ数を二つ合わせること。プ˞スヌ˜　バイ　パ˞タラカン˜カー　ウ˞ビ˜ヌ　ッ˞ふァー˜　シゥ˞カナイヨーサ˜ヌ [pṵ˞sunu˜ bai pḁ ˞tarakaŋ˜kaː ʔu˞bi˜nu f˞faː˜ si̥˞kanaijoːsa˜nu](他人の二倍働かないとあれだけ＜多数＞の子供を養育できない)。

˜パイ [˜pai]【名】南。南方。˞パイ˜カジ [˞pai˜kaʤi](南風。穏やかな順風)。˞パイ˜タ [˞pai˜ta](南方。西表島)。カ˞ジェー˜　パイラン　ニ˞シェー˜ラン　˜フキ　˞クー˜タン [ka˞ʤeː˜ pairan ni˞ʃeː˜raŋ ˜ɸṵki ˞kuː ˜taŋ](風は南からも北からも吹いてきた)。

˜パイ [˜pai]【名】拝。礼拝。神仏に祈願をする際の礼拝の仕方。男女の区別がある。神前で大きな祈願が行われるとき、サ˞カサ [sa˞kasa](司。女性神職者) は膝をついて前屈みに座り、まず両手を胸の位置で深く合掌(ガッショウ)した後、合掌したまま七回ほど畳を軽くたたいて祈願する。この祈願を五回ほど繰り返す。ティ˞ジリ˜ビ [ti˞ʤiri˜bi](手擦り部。男性神職者) は、四立五屈 (よんりゅうごくつ) といい、跪(ヒザマズ)いて合掌したのち頭を下げたまま立ち上がり、また座って合掌する。四回立ち上がって五回の合掌を繰り返したのち、立ったまま両手を帯の位置で前方へ出し、手首を上下に振り動かして、サカサの祈願が終わるまでこれを続ける。最後は跪き、合掌して祈願を終える。サ˞カサン˜ケー　ティ˞ジリ˜ビーンケーヤ　˜ウガンナーティ　˜パイ　ア˞ギティル　ニン˜ガイ　˞ソーッ˜タ [sḁ˞kasaŋ˜keː ti˞ʤiri˜biːŋkeːja ˜ʔuganna:ti ˜pai ʔa˞gitiru niŋ˜gai ˞soːt

˥ta](サカサ < 司。女性神職者 > 方やティジリビー < 手磨り部。男性神職者 > 方は四立五屈の拝をあげて祈願をされた)。

˩パイ **[˩pai]** 【名】灰。きばい (木灰)。灰燼(カイジン)。「〜灰指物曾 < ハヒサスモノゾ >〜。万、3101」、「Fai ハイ (灰)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。カ˩ラパイヌ˥ カ˩ジン˥ トゥ˩バサリティ ミー˥ヌ ˥ナカー ˩ペー˥リ ミ˩ツ˥ム ˥ナリ ˩ベー [ka˩rapainu˥ ka˩ʤin˥ tu˩basariti mi:˥nu ˥naka: ˩pe:˥ri mi˩tsu˥mu ˥nari ˩be:](乾燥した灰が風に飛ばされて目の中に入り、目の芥(アクタ) <目潰(メツブシ)> になっている)。カ˩マチヌ パイヤー˥ ア˩ツァ˥ミティ パ˩タ˥ケー ˥ムティパリ [ka˩matʃinu paija˥ ʔa˩tsa˥miti pḁ˩ta˥ke: ˥mutipari](竈(カマド)の灰は集めて畑に持って行け)。ヤ˩カリティ˥ ムー˩ル パイ˥ ナリ ˩ナー˥ヌ [ja˩kariti˥ mu:˩ru pai˥ nari ˩na:˥nu](焼かれて皆灰になってしまった)。

˩パイ **[˩pai]** 【名】 (動) はえ (蝿)。「蝿、波閉 < はへ >」『和名抄』。「Fai ハイ (蝿).Voifarai」『邦訳日葡辞書』。˩アウバイ [˩ʔaubai](青蝿)。˩ギンバイ [˩bimbai](銀蝿)。˥ウシパイ [˥ʔuʃi̥pai](牛蝿。牛にたかる大きな蝿)、˩シー˥バイ [˩ʃi:˥bai](˩饐え蝿」の義。饐えたものにたかる小さな蛾のような昆虫) などがいる。サ˩バン˥ヌ フ˩チ˥ナー ˩パイヌ˥ トゥ˩マリティ˥ ヤ˩ニ˥ヤバ ア˩ライ˥ クー [sa˩ban˥nu ɸu˩ʧi˥na: ˩painu˥ tu˩mariti˥ ja˩ni˥jaba ʔa˩rai˥ku:](茶碗の縁に蝿が止まって汚いから洗ってこい)。˩ドゥー˥ヌ ス˩ブル˥ヌ ˩パイユンツァン ウイユーサムティ˥ プ˩スヌ ソー サン ブリ˥バ [˩du:˥nu su˩buru˥nu ˩paijuntsaŋ ʔuiju:samuti˥ pu̥˩sunu so: samburi˥ba](自分の頭の蝿すらも追えないくせに、他人の心配をするなよ)。

˩パイ˥カジ **[˩pai˥kaʤi]** 【名】南風。˩パイカジ˥ヌ ヤー˩ラヤーラ˥シ ˩スイ˥クーン [˩paikaʤi˥nu ja:˩raja:ra˥ʃi ˩sui˥ku:ŋ](南風がそよそよと < やわやわと。柔柔 > 吹いてくる)。

˩パイ˥カブン **[˩pai˥kabuŋ]** 【自動】はびこる (蔓延る)。蔓草が延び拡がりすぎる。蔓草が増殖し蔓延(マンエン)する。「這い被る」の義。˥カザー ˩ヤー˥ヌ ティ˩ジバー˥キ ˩パイ˥カビ ˩ナー˥ヌ [˥kaʤa: ˩ja:˥nu ti˩ʤiba:˥ki ˩pai˥kabi ˩na:˥nu](蔓は屋根の頂まではびこって < 蔓延って > しまった)。ナー˩イ˥ シ˩キ˥ルカー ˩パイ˥カブンダ ˩パイカバン˥ヨーニ ˥スリ シ˩ティリ [na:˩i˥ ʃi̥˩ki˥ruka: ˩pai˥kabunda ˩paikabaŋ˥jo:ni ˥suri ʃi̥˩tiri](放置しておくと蔓草が蔓延するから蔓延しないように刈り取れ < 刈り捨てろ >)。˥カザー ˩ムイ˥カビ ˩パイカビ˥ パ˩ヤー˥ンダ ˩パイ˥カブ ˥ピンマー ˥ニーラ ˥スリバ˩ヨー [˥kaʤa: ˩mui˥kabi ˩paikabi˥ pa˩ja:˥nda ˩mui˥kabu ˥pimma: ˥ni:ra suriba˩jo:](蔓は増殖し、蔓延(ハビコリ)やすいから、蔓延する時は根っこから刈り取りなさいね)。ウ˩ビ˥ナー ˩パイ˥カベーラ ˩ヨー˥ゾー ナ˩ラ˥ヌ [ʔu˩bi˥na: ˩pai˥kabe:ra: ˩jo:˥ʤo: na˩ra˥nu](これほど蔓延したら手がつけられない < 養生できない >)。˩パイ˥カビ [˩pai˥kabi](蔓延しろ)。

˩ハイ˥カラー **[˩hai˥kara:]** 【名】おしゃれ (お洒落)。お洒落な人。現代風な人。「high collar(たけの高い襟)。英語」からの借用語が和語化したものが、更に鳩間方言に借用され、転訛したもの。バ˩カー˥ムノー ˩ハイ˥カラー ヤ˩ルンダ ピーズンマー (ピーゾー)˥ ズ˩ボン˥ル キ˩スタ [ba˩ka:˥muno: ˩hai˥kara: ja˩runda pi:ʤumma:(pi:ʤo:)˥ ʤu˩bon˥ru ki̥˩suta](若者はお洒落だから、日頃 < いつも > はズボンを穿いた < 着た >)。

˩バイ˥カン **[˩bai˥kaŋ]** 【名】焙乾(バイカン)。鰹節製造の際、ヨ˩ツワリ [jo˩tsuwari](四つ割り) にしたカツオをニ˩コミ [ni˩komi](煮込み) した後、バ˩ラ˥ヌギ [ba˩ra˥nugi](ピンセットで骨を抜くこと) をし、シ˩ル˥ク [ʃi˩ru˥ku](鰹節補修用に煮た魚肉を搗き練ったもの) を付けて乾燥部屋に移し、薪を焚いて燻製にすること。カ˩ツブシェー バイカン˥ヤーナーティ ッ˩サンター˥ラ ˩ウンター˥ニ ˥サンダン ム˩チナ˥シェーティ ˩バイカン˥マー カ˩キル˥タ [kḁ˩tsubuʃe: baikaŋ˥ja:na:ti s˩santa:˥ra ˩ʔunta:˥ni˥ sandam mu˩ʧina˥ʃe:ti ˩baikam˥ma: kḁ˩kiru˥ta](鰹節は焙乾屋で下から上の段へと三段に移しながら焙乾をかけた)。

˩バイカン˥ガマ **[˩baikaŋ˥gama]** 【名】焙乾窯。バ˩ラ˥ヌギ [ba˩ra˥nugi] して、シ˩ル˥ク [ʃi˩ru˥ku] を塗って補修したカツオ節の素材を幅約 60 センチ、長さ約 1、5 メートルの˩シェイローカグ [ʃeiro:kaku](蒸籠) に並べて、それを 4、5 枚重ね、窯に薪を燃やし、その熱と煙で半乾燥する窯。総ての蒸籠が下段に来るように時間を約 2 時間おきに下から上へと順に重ね替えた。そこで半乾燥した鰹節を˩バイカン˥ヤー [˩baikaŋ˥ja:](焙乾屋) に移して完成した。

˩バイカン˥ヤー **[˩baikaŋ˥ja:]** 【名】焙乾屋。˩バイカン˥ガマ [˩baikaŋ˥gama](焙乾窯) で半乾燥したカツオ節を更に焙乾して鰹節を完成する小屋。一階の土間には数箇所に薪を焚くため、壁には粘土を漆

喰のように厚めに塗ってある。二階と中二階、三階の床は竹床にし、そこにカツオ節を並べて本格的に焙乾した。˞シーゾー˞ヤーナー　˞バイカン˞ヤーン　ス˞クラリ˞　ブタ [˞ʃiːʤoː˞jaːnaː ˞baikaɲ˞jaːn su̥˞kurari˞ buta](鰹節製造工場 < 製造屋 > には焙乾屋も作られていた)。

˞ハイ˞グゥー [˞hai˞gwaː] 【名】小さな梁。「小梁」の義。糸満方言からの借用語。˞イダフニ [˞ʔidaɸuni](板舟。サバニ) の艫の梁(ハリ)。直径約 5 センチ、長さ約 70 センチの棒を両舷側にわたし、舷側を固定したもの。その下に銅線のワイヤーで舷側を引き締め、ハイグゥーにしっかり巻き締めてある。ウ˞シカキの梁とハイグゥーの梁で˞イダフニ [˞ʔidaɸuni] の船腹は固められている。

˞パイ˞サ [˞pai˞sa] 【副】早く。シ˞グトゥ˞　トゥ˞ズ˞メーカー　˞パイ˞サ　˞カイ˞リ　˞クー˞ヨー [ʃi˞gutu˞ tu˞ʤu˞meːka: ˞pai˞sa ˞kai˞ri kuː˞joː](仕事を片付け < 終え > たのなら、早く帰って来なさいよ)。

˞パイ˞ザイ [˞pai˞ʤai] 【名】蒲鉾(カマボコ)を作る際に、魚肉の擂り身に加える澱粉。つなぎ (繋ぎ) となる澱粉。適切に配分して加えるもの。「配剤」の義。カ˞マブクヌ　パイザイ˞ヤー　˞ウンヌ˞クジ　˞タリ　イ˞リリ˞バ [ka˞mabukunu paiʤai˞jaː ˞ʔunnu˞kuʤi ˞tari ʔi˞riri˞ba](蒲鉾の配剤には芋の葛粉 < 澱粉 > を溶いて入れなさいよ)。

˞ハイジョー [˞haiʤoː] 【名】˞張り竿」の義。フ˞クル˞プー [ɸu̥˞kuru˞puː](袋帆) の˞カタ [˞kḁta](左半分。「肩」の義か) の中間部にある˞ジー˞ヨー [˞ʤiː˞joː](前方へ張る縄。帆をバタつかせないために張る縄。前方へ張る˞ティン˞ナー [˞tin˞naː]< 手縄 >) に結んで˞プーザンプーをバタつかせないように固定する竿。

˞パイ˞ジン [˞pai˞ʤiŋ] 【名】配膳。神事や法事の供物を供えること。普通は˞ジンバイ [˞ʤimbai](膳配り) という。「Faijen. ハイゼン (配膳)　Ienuo cubaru(膳を配る)」『邦訳日葡辞書』。˞パイ˞ジン　˞シェー˞カー　˞アッパター　シゥ˞カシ˞キー　˞パイ　シ˞ミオーラ˞シ [˞pai˞ʤiŋ ˞ʃeː˞kaː ˞ʔappataː si̥˞kaʃi˞kiː ˞pai ʃi˞mi ʔoːra˞ʃi](供物の配膳をしたのなら、お婆さん < 司の神女 > 達を案内してきて拝 < 祈願の儀式 > をして頂きなさい)。˞ジンバイ [˞ʤimbai](配膳係) は村行事に従事する最下級の村役人　。

˞パイ˞タ [˞pai˞ta] 【名】南。南方。西表島北岸一帯の水田地帯。˞パンター [˞pantaː](南。南方。西表) ともいう。˞バン˞ヌン　˞パイ˞ター　˞トーサ˞　トゥリン　˞パルン [˞ban˞num ˞pai˞taː ˞toːsa˞ turim ˞paruŋ](私も西表島 < 南方 > へ田草を取りに行く)。˞パイタ˞ナー　˞ター˞ヤー　ス˞ク˞リティ　˞ウナー　トゥ˞マレー˞ティル　˞マイヤー˞　ス˞ク˞ローッタ [˞paita˞naː ˞taː˞jaː su̥˞ku˞riti ˞ʔunaː tu˞mareː˞tiru ˞maija:˞ su̥˞ku˞roːtta](西表島北岸一帯 < 南方 > に田小屋を作って、そこに宿泊し < 泊り > ながら稲作され < 米を作られ > た)。

˞パイ˞ディン [˞pai˞diŋ] 【名】˞拝殿」の義。˞ウボー [˞ʔuboː](威部。杜の中の神の坐す神聖な所) へ通ずる道の入り口にある小屋付きの門。そこには˞コー˞ロ [˞koː˞ro](香炉) が据えられてあり、男性はそこより中へは入れないといわれている。普通はそこで香を焚き、祈願を行う。パイディン (拝殿) とウ˞ブ˞ヤー [ʔu˞bu˞jaː](母屋) の間の空間を、˞メー [˞meː](庭。広場) という。キ˞チゴン [ki̥˞ʧigoŋ](結願祭) には、パイディンの前にサカサ (司) やティジリビー (手擦り部。男性神職者)、バ˞キサカ˞サ [ba˞kisaka˞sa](脇司) らが座り、左右の見物席には村人達が筵を敷いて座る。ウブヤー (母屋) の南側にバンコ (舞台) を作ってブドゥ˞ルキョンギン [bu˞durukjoŋgiŋ](踊り狂言) が奉納された。その際、ウブヤー (母屋) は楽屋の機能を果たした。余興は総てバンコの舞台で上演され、西村と東村が合同でなされた。˞ジーシンカ [˞ʤiːʃiŋka](地謡方 < 臣下 >)、ブ˞ドゥルシンカ [bu˞duruʃiŋka](舞い方 < 臣下 >。踊り方 < 臣下 >) が豊年祭のように東村、西村が対抗して競演することはなかった。

˞パイ˞ナー [˞pai˞naː] 【名】延縄。釣漁法(チョウギョホウ)の一つ。釣具(ツリグ)の一つ。一条の長いム˞トゥ˞ナー [mu˞tu˞naː](本縄) に一定間隔にユ˞ダナー [ju˞danaː](枝縄) を取り付け、それぞれに釣り針をつけて釣る漁法、または漁具。鳩間島では本格的な延縄漁はなく、簡単な˞イノーパイナー [˞ʔinoːpainaː](沿岸での延縄漁) が行われていた。˞パイ˞ナー　˞シン˞　パル　˞ピンマー　カ˞ツヌ˞　ハ˞ラ˞ゴー　˞キシティ　ウ˞リバ　ムン˞ダニ　シ˞ティ　ホーシ˞タ [˞pai˞naː ˞ʃim˞ paru˞pimmaː kḁ˞tsunu˞ ha˞ra˞goː ˞ki̥ʃiti ʔu˞riba mun˞dani ʃi̥˞ti hoːʃi̥˞ta](延縄漁をしに行く時は、カツオの腹皮を切って、それを餌にして釣った)。

˞パイ˞ニー [˞pai˞niː] 【名】支根。主根から分かれた小さい根。「這い根」の義。ム˞トゥ˞ニー [mu˞tu˞niː](主根) の対義語。˞ウン˞マー　ム˞トゥ˞ニーナーン　˞パイ˞ニーナーン　イッ˞ケナ　ミーレー˞ン [˞ʔum˞maː mu˞tu˞niːnaːm ˞pai˞niːnaːŋ ʔik˞kena miːreː˞ŋ](芋は主根にも支根にも沢山実っている)。

ˈパイヌˈ　ッス [ˈpainuˈ ssu] 【連】はえ (蝿) の糞。「そばかす」の義はない。ˈパイヌˈ　ッˈふァイムヌˈナー　トゥˈマルˈカー　ˈッス　ˈマルンダ　イッˈケナˈ　ヤˈニˈヤン [ˈpainuˈ fˈfaimunuˈna: tuˈmaruˈka: ˈssu ˈmarunda ʔikˈkenaˈ jaˈniˈjaŋ](蝿が食べ物に止まると糞をまる < 放る > ので非常にきたない)。

ˈパイヌ　ボーンケーˈルン [ˈpainu boːŋkeːˈruŋ] 【連】蝿がたかる。ˈタールˈ　シˈトゥタˈユー　ˈッサリイズナー　ˈパイヌ　ボーンケーˈリティ　ンˈカーラヌ [ˈtaːruˈ ʃi̥ˈtutaˈjuː ˈssariʔidʑunaː ˈpainu boːŋkeː ˈriti ʔŋˈkaːranu](誰が捨てたのか、腐れた魚にわっと蝿がたかって近寄れない)。

ˈパイˈネー [ˈpaiˈneː] 【名】屋号。友利家の東にある小浜家の屋敷の古い名称。

ˈパイノーˈラ [ˈpainoːˈra] 【名】伝承上、遠い南方に存在すると想念された島。ˈパイノーラˈヌ　ˈシマーラ　ˈノーリユーˈバ　ˈユーシ　オーˈリ [ˈpainoːraˈ nu ˈʃimaːra ˈnoːrijuːˈba ˈjuːʃi ʔoːˈri](遠い南方の島から豊　年を引き寄せてきてください)。

ˈパイバˈタ [ˈpaibaˈta] 【名】南。南方。西表北岸一帯の水田地帯。「南端」の義。/ˈマンカ　パイバタˈ　ミˈワタシˈバ　パˈマヌˈ　ミˈルˈスヤ　クˈラˈヌ　ˈパマ/[ˈmaŋka paibataˈ miˈwataʃiˈba paˈmanuˈ miˈ ruˈsuja kuˈraˈnu ˈpama](真直ぐ南方を見渡すと浜が見えるのは久浦の浜)。鳩間中岡 (鳩間節)『鳩間島古典民謡古謡集』。

ˈパイフキ [ˈpaiɸuki] 【名】灰吹き。煙草の吸殻を叩き入れるための竹筒。煙草盆に備え付けてある。「Faibuqi. ハイブキ (灰吹)」『邦訳日葡辞書』。ムˈカˈシェー　キˈシルˈバ　ˈパイフキˈナー　ˈシッˈキティル　タˈバクˈヌ　ˈスイガラーˈ　ウˈタˈソーッタ [muˈkaˈʃeː ki̥ˈʃiruˈba ˈpaiɸu̥ˈkiˈna: ˈʃikˈkitiru taˈbaku ˈnu ˈsuigaraːˈ ʔuˈtaˈsoːtta](昔は煙管を灰吹きに叩いて < ぞ > 煙草の吸殻をおとされた)。

ˈパイマーˈル [ˈpaimaːˈru] 【名】先回り。他人を出し抜くこと。抜け駆けすること。「早回り」の義。ˈカッˈツァー　ˈスーˈヌ　ˈピスムバ　マˈティˈル　パˈリˈバ　ˈワー　ウイヌˈ　ミチェーラ　ˈパイマーˈル　ˈシー　ギー　ベーˈリ [ˈkatˈtsaː ˈsuːˈnu ˈpi̥su ˈmuba maˈtiˈru paˈriˈba ˈwaː ʔuinuˈ mitʃeːra ˈpaimaːˈru ˈʃiː giːbeːˈri](彼らは潮の退くのを待って行くから、君は上の道から先回りして行って居れ)。

ˈパイˈマルン [ˈpaiˈmaruŋ] 【自動】1早まる。速さが増す。ˈプールˈヌ　ˈピューロー　ˈパイˈマルンカヤーティ　ウˈムータˈヌ　ˈパイマランˈツォー [ˈpuːruˈ nu ˈpjuːroː paiˈmaruŋkajaːti ʔuˈmuːtaˈnu ˈpaimaran ˈtsoː](豊年祭の日程 < 日選り > は早まるだろうとかとも思ったが、早まらないそうだ)。ˈピューロー　パイˈマリ　ˈナーンˈドゥ　ˈパイˈマル　ˈクトー　カˈニテーˈラ　ッˈシ　ブタ [ˈpjuːroː paiˈmari ˈnaːnˈdu ˈpaiˈmaru ˈkutoː kaˈniteːˈra ʃˈʃibuta](日程は早まってしまったが、早まることは予てから分かっていた)。ンˈベーマー　パイˈマレー　ˈミサムヌ [ʔmˈbeːmaː paiˈmareː ˈmisamunu](少しは早まれば良いのに)。ˈパイˈマリ [ˈpaiˈmari](早まれ。急げ)。早まる。早くなる。ˈヨイˈヤー　ˈパイˈマルンティ　シˈバ　ワー　パイˈマリ　ˈパリバ [ˈjoiˈjaːˈ paiˈmarunti ˈʃiba waː paiˈmari ˈpariba](お祝いは日程が早まるというから、君は早めに行きなさいよ)。2急ぎすぎて判断を誤る。ヨーˈヨー　パイマルˈナˈダー [joːˈjoː paimaruˈnaˈdaː](よく注意して判断を早まるなよ)。

ˈパイˈミ [ˈpaiˈmi] 【名】地名。南風見 (西表島東部の豊原 < 大原、大富 > 地区)。竹富住民の移住によって開拓された。ˈパイˈメー　タˈキˈドゥンプスヌ　イˈジューˈ　シˈティルˈ　スˈクラˈレーツォー [ˈpaiˈmeː tą̊ˈkiˈdumpu̥sunu ʔiˈʤuːˈ ʃi̥ˈtiruˈ su̥ˈkuraˈ reːtsoː](南風見集落は竹富人が移住して作られたそうだ)。

ˈパイˈミジラマ [ˈpaiˈmiʤirama] 【名】豊年祭の歌の一つ。ˈパーˈレー (爬竜船競漕) の後、ˈユーアギジラˈマ (世揚げジラマ) の後に歌われる神歌。ˈプールˈウタ [ˈpuːruˈʔuta](豊年祭の歌) 参照。

ˈパイミˈルン [ˈpaimiˈruŋ] 【他動】早める。早くする。若年層は、パˈヤミˈルン [paˈjamiˈruŋ](早める) という。シˈグトゥ　パイミˈルンティ　ˈウムーカˈティマ　アˈギリˈバ [ʃiˈgutu paimiˈrunti ˈʔumuːkaˈtima ʔaˈgiriˈba](仕事を早めようと思うなら手間賃を上げなさいよ)。

ˈパイˈムキ [ˈpaiˈmuki] 【名】南向き。ニˈシムキ [niˈʃimuki](北向き) の対義語。パˈトゥマˈヌ　ˈヤーˈヤ　ムーˈル　パイˈムキニル　スˈクラˈリ　ˈブー [pą̊ˈtumaˈnu ˈjaːˈja muːˈru paiˈmukiniru su̥ˈkuraˈri ˈbuː](鳩間島の家は全部南向きに作られている)。

バイˈヤーˈマ [baiˈjaːˈma] 【名】わかめ (若芽)。しんめ (新芽)。バˈカˈバイ [baˈkaˈbai](若芽) ともいう。ウˈルˈズン　ˈナルカー　ˈキーˈヌ　バイˈヤーˈマン　バˈカˈパー　ˈナリ　ˈクン [ʔuˈruˈʤun ˈnarukaː ˈkiːˈ nu baiˈjaːˈmam baˈkaˈpaː ˈnari ˈkuŋ](初夏になると木の新芽も若葉になってくる)。

˞パイヤキガマ [˞paijakigama] 【名】石灰焼き窯。˞ウールパイ [˞ʔuːrupai](石灰) を作る窯。˞ウールイシ [˞ʔuːruiʃi](枝珊瑚) を焼いて石灰を作るために砂浜で急ごしらえの窯を作っていた。˞パイヤキガマ˥ナー ˞ウールイシバ˥ イ˞リ˥ ヤ˞キティ ウールパイ˥ ス˞クル˥タ [˞paijakigama˥naː ˞ʔuːruiʃiba˥ ʔi˞ri˥ ja˞kiti ʔuːrupai˥ sɯ̥˞kuru˥ta](石灰焼き窯に珊瑚石を入れ、焼いて石灰を作った)。

˞パイル [˞pairu] 【名】酢。明治・大正生まれの老年層が用いる。サ˞キカシパイル [sḁ˞kikaipairu](酒かすで醸造した酢)。˞ウンヌ˥シルパイル [˞ʔunnu˥ ʃirupairu](芋の煮汁で醸造した酢)。お盆の「獅子舞」の歌の「道歌」に/〜パダラヤ ナマシ ナマシヤ パイル パイルヤ フナブ〜(トウゴロウイワシは刺身にし、刺身はパイル < 酢 > をかけ、酢には九年母の実を〜)/と歌われている。ク˞ヌ パイロー˥ イッ˞ケン˥ キ˞シ˥ルン [ku˞nu pairoː˥ ʔik ˞keŋ˥ ki̥˞ʃi˥ruŋ](この酢は熟成して非常に酸味がつよい)。˞パイル˥ ニ˞バシティ˥ キ˞サ˥スン [˞pairu˥ ni˞baʃi̥ti˥ ki̥˞sa˥suŋ](酢を寝かせて熟成させる)。

˞パイルヌ ッふァ [˞pairunu ffa] 【連】酢の素。「酢の子」の義。酢を入れた瓶の底に溜まるどろどろとした粘液状の物質。新しく酢を作る際に、これを入れると酢の素になって早く酢を醸造することができるので, 各家庭で大事に保存されていた。˞パイルヌ ッふァー ヤーカー˥ジ タ˞ブイヨーッ˥タン [˞pairunu ffaː jaːka˥ʤi ta˞buijoːt˥taŋ](酢の素は家毎に保存されていた)。

˞バイルン [˞bairuŋ] 【他動】酒などに他の液体を混ぜて薄める。水で割る。˞バウン [˞bauŋ](水で薄める) ともいう。パ˞ナザ˥ケー ˞バイラン˥カー ˞スーワ˥ヌ ヌ˞マラン˥ダー ミ˞ジ˥シ ˞バイリ [pa˞naʤa˥ke: ˞bairaŋ˥kaː nu˞maran˥daː ˞bairi](はなざけ < 最初に出る蒸留酒 > はアルコール度数が強くて水で割らないと飲めないから水で割れ)。˞バイティ˥ ヌミ ˥ミサカー ˞バイル˥ クトゥン ˥ナルン [˞baiti˥ numi ˥misakaː ˞bairu˥ kɯ̥tun ˥naruŋ](水で割って飲んでよければ、割ることもできる)。˥バー ミ˞ジ˥シ ˞バイルン [˥baː mi˞ʤi˥ʃi ˞bairuŋ](私は水で割る)。˞ワンヌン バイレー (˞バイリバ)˥ ミサムヌ [˞wannum baireː(˞bairiba)˥ misamunu](君も水で割れば良いのに)。ミ˞ジ˥シ ˞バイリ [mi˞ʤi˥ʃi ˞bairi](水で割れ)。

˞パイ˥ルン [˞pai˥ruŋ] 【他動】縄や綱を引き延ばす。地面や海面に這わせて延ばす。網を延べる。這わせる。˥ナー ˞パイ˥ルンティ ˞ベーン˥ドゥ カ˞ジヌ スーワ˥ヌ ˞パイララ˥ヌ [˥naː ˞pai˥runti ˞beːn˥du ka˞ʤinu suːwa˥nu ˞pairara˥nu](縄を引き延ばそうとしているが、風が強くて引き延ばされない)。˥ナー ˥パイ ˥ミサカー ˞パイ˥ル ˥クトー ˥ナルン [˥naː ˥pai ˥misakaː ˞pai˥ru ˥kɯ̥toː ˥naruŋ](縄を引き延ばしてよければ、引き延ばすことはできる)。ナー˞ナー˥シ ˞パイ˥ヤー ˥ミサムヌ [naː˞naː˥ʃi ˞pai˥ jaː ˥misamunu](長く引き延ばせばいいのに)。サ˞バナーヤ˥ クナーティ ˞パイ˥リ [sa˞banaːja˥ kunaːti ˞pai˥ri](鱶 < 鮫 > 釣り縄はここにひっぱって延ばしなさい。砂浜から沖合いへ鱶釣り縄を這わせておけ)。

˞バウ [˞bau] 【名】1棒。手に持てる細長い木や竹。老年層の言葉。若年層は、˥ボー [˥boː](棒) という。[au] → [oː] の音韻変化によるもの。˥タンコー ˞ピンギ˥ムノー ˥バウシ シ˞トゥナー˥リ ˞ベー˥タ [˥taŋkoː ˞piŋgi˥munoː ˥bauʃi ʃi̥˞tunaː˥ri ˞beː ˥ta](炭坑逃亡者は棒で叩かれていた)。2棒術。棒踊り。豊年祭には棒踊りが上演された。˞プール˥ナー ˥バウ ウ˞トゥ˥タン [˞puːru˥naː ˥bau ʔu˞tu˥ taŋ](豊年祭には棒を打った < 棒踊りをした >)。

˥バウ ˥ウトゥン [˥bau ˥ʔutuŋ] 【連】棒を打つ (棒踊りをする)。豊年祭りには奉納舞踊として、伝統的「棒踊り」が上演された。西村、東村対抗で競演された。サ˞ク˥ボー [sḁ˞ku˥boː](木刀踊り)、ル˞クサク˥ボー [ru˞kusaku˥boː](六尺棒踊り)、ナ˞ギナタ [na˞ginata](長刀踊り) が演じられたが、東村の棒踊りは一般的に力強く、激しい動きが特徴であり、西村の棒踊りは動きが柔らかで、型を重視するものであった。˞インヌムラヌ バウ˥ワー ガ˞マ˥ク イ˞リティ˥ ウティティ ナ˞ラー˥ソーッタ [˞ʔinnumuranu bau˥waː ga˞ma˥ku ʔi˞riti˥ ʔutiti na˞raː ˥soːtta](西村の棒踊りは腰 <waist> を入れて打て < 踊れ > と教えられた)。

˞パウル [˞pauru] 【名】羽織。一般の人は着用しなかった。˞パウル˥ キ˞ソー˥ル プ˞ソー˥ シ˞マ˥ナー ギュ˞タール オーッ˥タカヤー [˞pauru˥ ki̥˞soː˥ ru pɯ̥˞soː˥ ʃi˞maːna: gju˞taːru ʔoːt˥takajaː](羽織を着られる人は、島では何人おられたかねえ)。

˞バウン [˞bauŋ] 【他動】酒を水で割る。薄める。˞バイルンとも言う。ミ˞ジ˥シ ˞バウンティ˥ ウ˞ムーン˥ドゥ ˞バーラヌ [mi˞ʤi˥ʃi ˞baunti˥ ʔu˞muːn˥du ˞baːranu](水で割ろうと思うが割れない)。ミ˞ジ˥シ ˞バイ˥ミサカー ˞バウ˥ クトー ˥ナルン [mi˞ʤi˥

ʃi ˩bai˥ misaka: ˩bau˥ kṵto: ˥naruŋ](水で割ってよければ、割ることはできる)。ン˩ベーマー　バイヤー˥　ミサムヌ [ʔm˩be:ma: baija:˥ misamunu](少しは水で薄めたら＜割ったら＞いいのに)。ミ˩ドゥムンケー˥ヌ　ヌ˩モー˥ル　サ˩ケー　コー˥ラーシ　˩バイ˥バ [mi˩dumuŋke:˥nu nu˩mo:˥ru sạ˩ke: ko:˥ra:ʃi ˩bai˥ba](ご婦人＜女性＞方の飲まれる酒はコカコーラーで割れよ)。サ˩ケー　ミ˩ジ˥シ　˩バイ˥　シキ [sạ˩ke:˥ mi˩ʤi˥ʃi bai˥ ʃi̥ki](酒は水で割っておけ)。

˩パウン [˩pauŋ] 【他動】配る。配布する。˩ヤーカー˥ジ　˩パウンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩タンガ˥シェー　˩パーラヌ [˩ja:ka:˥ʤi ˩paunti˥ ʔu˩mu:n˥du ˩taŋga˥ʃe: ˩pa:ranu](家毎に＜家の数＞配ろうと思うが、一人では配られない)。フ˩ター˥ル˥シ　˩パイ˥　ミサカー　ア˩ツァバー˥キナ　ムー˩ル　パウ˥　クトー　˥ナルン [ɸṵ˩ta:ru˥ʃi ˩pai˥ misaka: ʔa˩tsaba:˥kina mu:˩ru pau ˥kṵto: ˥naruŋ](二人で配ってよければ、明日までに全部配ることはできる)。˩マー˥ビン　˩パイヤー˥　ミサムヌ [˩ma:˥bim ˩paija:˥ misamunu](もっと配ればいいのに)。˩ワー　タンガ˥シ　˩パイ [˩wa: tanga˥ʃi ˩pai](君一人で配れ)。

˥パウン [˥pauŋ] (1)【自動】這う。腹這う。動物が腹部を物の表面につけて、伝うように移動する。蔓草などがものに絡み付いて伝わっていく。˥アツァティ　˩トゥーシ˥ナ　˥パウンティ　シ˩タンドゥ　˩パーラン˥シェン [˥ʔatsati ˩tu:ʃi˥na ˥paunti ʃi̥˩tandu pa:raŋ˥ʃeŋ](暑いので縁側に這おうとしたが、這われなかった)。˥パイミサタンティン　˥クナー　˥パウ　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˥paimisatanitiŋ ˥kuna: ˥pau ˥kṵto: na˩ra˥nu](這ってよくても、ここでは這うことはできない)。˩トゥーシ˥ナ　˩パイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˩tu:ʃi˥na ˩pai˥ja: ˥misamunu](縁側に這えば良いのに)。˥クナー　˥パイバ [˥kuna: ˥paiba](ここで這えよ)。ヤ˩ラ˥ベー　キ˩サ　パイ˥　ブー [ja˩ra˥be: ki ˩sa pai˥bu:](乳児はすでに這っているよ)。 (2)【他動】縄などを長く延ばす。サ˩バナー˥　パイ　˥クー [sa˩bana:˥ pai ˥ku:](鱶＜鮫＞釣り用の縄を引き延べて＜這わせて＞きなさい)。

˩パウン [˩pauŋ] 【他動】船を造る。造船する。「Fagu, i, u, aida. ハギ, グ, イダ (矧・接ぎ, ぐ, いだ)〜. Itauo fagu.(板を接ぐ) 戸・扉などを作る時に板を接着する」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。「接ぐ」の連用形が音便化して g 音脱落し (Faida『邦訳日葡辞書』)、それに「居り」が下接して形成された語。˥フニ　˩パウン [˥ɸuni ˩pauŋ](船を造る＜接ぐ＞)。イ˩クサユー˥ヌ　˥アトゥナー　カ˩ザケヌ˥　ミ˩ナ˥カナーティ　˩ティンマ　パウンティ˥　ス˩コーリティ˥　ドゥーシ　˩フンユン˥　ス˩ク˥リティ　˥ウスマイヤー　˩ティンマ　パイヨーッ˥タ [ʔi˩kusaju:˥nu ˥ʔatuna: ka˩ʤakenu˥ mi˩na˥kana:ti ˩timma paunti˥ sṵ ˩ko:riti˥ du:ʃi ˩ɸuŋjun˥ sṵ˩ku˥riti ˥ʔusumaija: ˩timma paijo:t˥ta](戦後に加治工家の庭で伝馬船を作る＜接ぐ＞といって準備して、自分で平釘も作ってウスマイ＜伊佐＞氏は伝馬船を作られた＜接ぎなさった＞)。˩バン˥マー　˥フネー　˩パーラヌ [˩bam ˥ma: ˥ɸune: ˩pa:ranu](私には船は造れ＜接がれ＞ない)。˥フニ　˩パウ　プソー˥　ブ˩ラーヌ [˥ɸuni ˩pau puso:˥ bu˩ra:nu](船を作る＜接ぐ＞人はいない)。シ˩マ˥ナーティ　˥フニ　˩パイヤー˥　ミサムヌ [ʃi˩ma˥na:ti ˥ɸuni ˩paija:˥ misamunu](島で船を造れ＜接げ＞ばいいのに)。˩ワー　タンガ˥シ　˥フニ　˩パイ˥バ [˩wa: taŋga˥ʃi ˥ɸuni ˩pai˥ba](君一人で船を造れ＜接げ＞よ)。

˥バカ- [˥baka-] 【接頭】形容詞の語幹で、名詞に冠して˩若い」「新しい」の意を表す接頭語となる。バ˩カ˥シキ [ba˩ka˥ʃi̥ki](新月)。バ˩カ˥キジ [ba˩ka˥kiʤi](生傷。新しい傷)。バ˩カ˥バイ [ba˩ka˥bai](若芽。新芽)。バ˩カ˥フキ [ba˩ka˥ɸṵki](若い茎)。バ˩カ˥マチ [ba˩ka ˥matʃi](松の幼木)。˥バカブジ [˥bakabuʤi](祖父母の三番目の兄。バカアブジからの転訛)。˥バカバー [˥bakaba:](祖父母の三番目の姉。バカアッパからの転訛)。バ˩カー˥ムヌ [ba˩ka:˥munu](若者)。ウ˩ル˥ズン　ナ˩ル˥ター　ヤ˩マ˥ヌ　˥キーン　バ˩カ˥バイ　˥ンジ　˥ケーン [ʔu˩ru˥ʤun na˩ru˥ta: ja˩ma˥nu ˥ki:n ba˩ka˥bai ˥nʤi ˥ke:ŋ](初夏になったので山野木も若芽が出てきた)。

パ˩カ [pạ˩ka] 【名】墓。亀甲墓。明治中期以降、糸満系寄留民 (金城二郎氏) 等の手で砂岩を掘り抜いて作られた、いわゆる˩フインチ˥バカ [˩ɸuintʃi˥baka](掘り抜き墓) が、現在のパ˩カヤマ [pạ˩kajama](墓山) 南面から西面一体に建造されたという。古い時代には、フ˩ジマレーパカ [ɸu˩ʤimare:paka](テーブルサンゴで四角く囲って郭を作り、テーブルサンゴで蓋をして土で被(オオ)い、その周囲を丸く石積みにした墓) があった。柔らかい砂岩を刳り貫いて建造した本墓には、本墓の両脇に小さな袖墓が作られている。˩ニンブ˥ツァー [˩nimbu˥tsa:](念仏歌) では、墓のことを˥フカヤー [˥ɸṵkaja:](外の家) と歌われている。ナ˩カンブレー˥ヌ　˩イーリキーヌ˥　パ˩カヤマ˥ナール　パ˩カー˥　ス˩クラ˥リ　˩ブー [na˩

kambureː˥nu ˩ʔiːrikiːnu˥ pḁ˩kajama˥naːru pḁ˩kaː˥ su̥˩kura˥ri ˩buː](鳩間島のなかもり＜中岡＞の西側の墓山に＜ぞ＞墓は作られている)。

˥パカ [˥pḁka] 【名】区切り。畑や宅地などの区切り。稲を植えたり、刈ったり、畑や田を耕す際に受け持つ区切り。「秋の田の吾が刈婆可＜カリバカ＞の～。万、2133」の転訛したもの。プ˩ス˥パカ　˩カイ˥スカー　˩ユー˥クイバ [pu̥˩su˥pḁka ˩kai˥su̥ka: ˩juː˥kuiba](一ハカ＜一区切り＞耕したら休みなさいよ)。˩インタヌ˥　パカー　˥バー　˩カイス˥バ　˩アンタ˥ヌ　˥パカー　˩ワー　カイ˥シバ [˩ʔintanu˥ pḁka: ˥baː ˩kaisu˥ba ˩ʔantanu˥ pḁka: ˩wa: kai˥ʃiba](畑の西側の区切りは私が耕すから、東側の区切りは君が耕しなさい)。

˥パガー [˥pagaː] 【名】禿げ頭。頭の禿げた人。卑称。ウ˩レー˥　バ˩カー˥ムヌヌ　˩オーパ˥ヤーラ　˥パガー　˥ナリティ　キ˩ムイツァー˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [ʔu˩reː˥ ba˩kaː˥mununu ˩ʔoːpa˥jaːra ˥pagaː ˥nariti ki˩muitsaː˥nu na˩ra˥nu](彼は若い者のに、こんなに早くから禿げ頭になってしまって可哀相＜気の毒＞でたまらない)。˥スブルパガー [˥suburupagaː](はげ頭＜禿頭＞) には軽蔑のニュアンスがある。

バ˩カーバカー˥シ [ba˩kaːbakaː˥ʃi] 【副】細かく。非常に細く。˩ブー˥ヤ　バ˩カーバカー˥シ　˩ウー˥ミ [˩buː˥ja ba˩kaːbakaː˥ʃi ˩ʔuː˥mi](麻糸は細かく績(ウ)みなさい)。

バ˩カー˥　ミ˩ドゥ˥ム [ba˩kaː˥ mi˩du˥mu] 【連】若い女。シ˩マ˥ナー　バ˩カー˥　ミ˩ドゥ˥モー　ブ˩ラーヌ [ʃi˩ma˥naː ba˩kaː˥ mi˩du˥moː bu˩raːnu](島には若い女はいない)。

バ˩カー˥ムヌ [ba˩kaː˥munu] 【名】若者。青年男女。バ˩カー˥ムンケー　ア˩ツァ˥ミ　˩クーン˥カー　ク˩ビ˥ヌ　シ˩グトー˥　ナ˩ラ˥ヌ [ba˩kaː˥muŋkeː ʔa˩tsa˥mi ˩kuːŋ˥kaː ku˥bi˥nu ʃi˩gutoː˥ na˩ra˥nu](若者達を集めてこないと、これだけの大きな仕事はできない)。˩バカー˥ムノー　グ˩タイ˥ヌ　˥カナイ　˩ブンダ˥　シゥ˩カイル˥　マ˩キル [ba˩kaː˥muno: gu˩tai˥nu ˥kanai ˩bunda˥ si̥˩kairu˥ ma˩kiru](若者は体力＜五体＞が叶って＜優れて＞いるから、いくら使っても仕事が負けるほどだ)。

バ˩カー˥ムンケー [ba˩kaː˥muŋkeː] 【連】若者たち。バ˩カー˥ムンケーヌ　ア˩ツァ˥マリティ　˩パーレー˥フニ　シ˩ダーシ　ベー [ba˩kaː˥muŋkeːnu ʔa˩tsa˥mariti ˩paːreː˥ɸuni ʃi˩daːʃi beː](若者たちが集まって爬竜船漕ぎの舟を飾り立て＜為出だして＞いる)。

バ˩カー˥ン [ba˩kaː˥ŋ] 【形】若い。幼年である。青年期である。「和可家礼婆＜ワカケレバ＞～。万、905」の転訛したもの。˥ドゥーシェー　バ˩カー˥ンティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　˩ワーン˥スコー　バ˩カーナーン˥バン [˥duːʃeː ba˩kaːn˥ti ʔu˩muːtan˥du ˩waːn˥ su̥ko: ba˩kaːnaːm˥baŋ](自分では若いと思ったが、君ほど若くないよ)。˩シンダイ˥　バ˩カー˥　ナルン [˩ʃindai˥ ba˩kaː˥naruŋ](次第に若くなる)。バ˩カー˥　プ˩ソー˥ラ　ヤ˩トゥイバ˥ル　シ˩グトー˥　ナ˩ツァグ [ba˩kaː˥ pu̥˩soː˥ra ja˩tuiba˥ru ʃi˩gutoː˥ na˩tsagu](若い人から雇った方が仕事ははかどる＜捗る＞)。˩マー˥ビン　バ˩カー˥レー　˥ミサムヌ [˩maː˥bim ba˩kaː˥reː ˥misamunu](もっと若ければいいのに)。

バ˩カー˥ン [ba˩kaː˥ŋ] 【形】細い。細かい。糸、髪の毛、などの細いものについていう。ア˩ラー˥ン [ʔa˩raː˥](粗い) の対義語。˥アボー　˩ウー˥モール　˩ブー˥ヤ　イッ˩ケナ˥　バ˩カー˥ン [˥ʔaboː ˩ʔuː˥moːru ˩buː˥ja ʔik˩kena˥ ba˩kaː˥ŋ](お母さんが績まれる麻糸は非常に細かい)。バ˩カ˥キー [ba˩ka˥kiː](細かい毛)。バカー˩バカー˥シ　˥ブー　˩ウー˥ムン [bakaː˩bakaː˥ʃi ˥buː ˩ʔuː˥muŋ](細く麻糸を績む)。

˩バカーン˥ケン [ba˩kaːŋ˥keŋ] 【連】若い時。若かりし時。バ˩カーン˥ケンマー　イッ˩ケン˥　ア˩バ˥レータン [ba˩kaːŋ˥kemmaː ʔik˩keŋ˥ ʔa˩ba˥reːtaŋ](若い時は非常に美しかった)。

バ˩カイッ˥クナー [ba˩kaik˥kunaː] 【名】奪い合い。ヤ˩ラ˥ベー　ム˩タビムヌ˥バ　バ˩カイッ˥クナー　シ˩ティ˥　アイティ　ナ˩キ　ベー [ja˩ra˥beː mu˩tabimunu˥ba ba˩kaik˥kunaː ʃi̥˩ti˥ ʔaiti na˩kibeː](子供は玩具を奪い合いし、喧嘩して泣いている)。

˥バカイトゥルン [˥bakaituruŋ] 【他動】奪い取る。ひったくる。掠(カス)め取る。プ˩スヌ˥　ム˩ヌ˥バ　˥バカイトゥルンティ　シ˩タンドゥ˥　バカイトゥ˩ララン˥シェンツォー [pu̥˩sunu˥ mu˩nu˥ba ˥bakaiturunti ʃi̥˩tandu˥ bakaitu˩raraŋ˥ʃentsoː](他人のものを奪い取ろうとしたが、奪い取れなかったそうだ)。˥バカイトゥリ　˥ミサカー　˥バカイトゥレー　˥ミサムヌ [˥bakaituri ˥misakaː ˥bakaitureː ˥misamunu](奪い取ってよければ奪い取ればいいのに)。˥バカイトゥル　プ˩ソー˥　バカイトゥリバ [˥bakaituru pu̥˩soː˥ bakaituriba](奪い取る人は奪い取れよ)。

˥バカウン [˥bakauŋ] 【他動】奪う。取り上げる。無理に取る。プ˩スヌ˥　ムノー　˥バカウンティ　シ˩タンティン˥　バ˩カーラ˥ヌ [pu̥˩sunu˥ munoː ˥bakaunti

ʃi̥ˈtantim˥ baˈkaːra˥nu](他人の物は奪おう＜奪う＞としても奪われない)。˥バカイ　˥ミサカー　˥バカイバ [˥bakai ˥misakaː ˥bakaiba](奪ってよければ奪えよ)。˥バカウ　プˈソー˥　バˈカイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˥bakau pu̥ˈsoː˥ baˈkai˥jaː ˥misamunu](奪う人は奪えば良いのに)。ˈワー˥　バカウカー　ˈバン˥ヌン　˥バカウン [ˈwaː˥ bakaukaː ˈban˥num ˥bakauŋ](君が奪ったら私も奪う)。プˈスヌ˥　ムヌ　バˈカウ˥ナ [pu̥ˈsu˥nu ˥munu baˈkau˥na](他人の物を奪うな)。

バˈカ˥キー [baˈka˥kiː] 【名】若木。幼木。ˈキャーンギキーヤ˥　バˈカ˥キーラ　スˈダ˥ティティ　ウˈブ˥キー　ナˈス˥タ [ˈkjaːŋgikiːja˥ baˈka˥kiːra suˈda˥titi ʔuˈbu˥kiː naˈsu˥ta](いぬまき＜犬槇＞は幼木から育てて大木になした)。

バˈカ˥ギー [baˈka˥giː] 【名】うぶげ (産毛)。ˈオーシバ˥ナー　バˈカギー˥ヌ　˥ムイ　ˈベー [ˈʔoːʃiba˥naː baˈkagiː˥nu ˥mui ˈbeː](上唇に産毛が生えている)。

バˈカ˥サ [baˈka˥sa] 【名】若さ。若い年代。マˈナマ˥ヌ　バˈカ˥サー　イˈチンバー˥キン　タˈムタ˥リ　˥ムノー　アˈラ˥ヌ [maˈnama˥nu baˈka˥saː ʔiˈtʃimbaː ˥kin taˈmuta˥ri ˥munoː ʔaˈra˥nu](今の若さは何時までも保たれるものではない)。

バˈカザ˥コー [baˈkadʑa˥koː] 【名】カツオの撒き餌にする小魚。体長 3〜4 センチ、幅 2〜3 ミリ、銀白色の小魚。キビナゴの稚魚といわれている。ザˈコー˥ヤ　ˈゴー˥ラー　バˈカザコー˥ル　トゥˈローッ˥タ [dʑaˈkoː˥ja ˈgoː˥raː baˈkadʑakoː˥ru tuˈroːt˥ta](カツオの餌には、多くはバカザコー＜キビナゴの稚魚か＞を漁獲された)。

バˈカ˥シ [baˈka˥ʃi] 【名】区別。バˈカ˥スン [baˈka˥suŋ](分ける) の連用形から転成した名詞。˥シザ　ˈウシトゥ˥ヌ　バˈカシ˥　ッˈサン˥　ムˈニ˥バ　イˈジ　ホー˥ル　キˈシ˥ムヌ　˥ナリ　ˈベー [˥ʃidʑa ˈʔuʃi̥tu˥nu baˈka˥ʃi sˈsam˥ muˈni˥ba ʔiˈdʑi hoː˥ru ki̥ˈʃi ˥munu ˥nari ˈbeː](年上、年下の区別を知らない話し＜物言い＞をして礼儀作法をわきまえない＜思慮分別の切れた、〜の欠けた＞者になっているよ)。ティˈマチン˥ヌ　バˈカ˥シェー　アˈリバ˥ル　ヤˈル [tiˈmatʃin˥nu baˈka˥ʃeː ʔaˈriba˥ru jaˈru](手間賃の区別はあって当然である)。

バˈカ˥シ [baˈka˥ʃi] 【名】酒瓶の名。口の小さい黒茶色の陶器の一升入りの瓶。サˈケー˥　バˈカ˥シナー　イˈリティ˥　パˈカ˥リバ [sḁˈkeː˥ baˈka˥ʃina: ʔiˈriti˥ pḁˈka˥riba](酒はバカシ＜陶器の瓶＞に入れて量れよ)。

バˈカ˥シキ [baˈka˥ʃi̥ki] 【名】新月。三日月。「若月」の義。「ふりさけて若月見者＜ミカヅキミレバ＞〜。万、994。若月の　さやにも見えず〜。万、2464」の転訛。月の始めから三日目の月。ミˈチ˥シキ [miˈtʃi ˥ʃi̥ki](満月。満ち月)、ˈウイ˥シキ [ˈʔui˥ʃi̥ki](老い月。下弦の月) の対義語。キサーˈテイ˥　バˈカシキ˥ヌ　ˈアーリ　オール˥　バン　ミリˈミー [ki̥saːˈti˥ baˈkaʃi̥ki˥nu ˈʔaːri ʔoːru˥bam miriˈmiː](すでに三日月＜若月＞があがっておられるよ、見てごらん)。

パˈカシキ [pḁˈkaʃiki] 【名】墓所。墓地。墓の敷地。墓の地相。「墓敷」の義。ˈバン˥テヌ　パˈカシケー˥　イッˈケナ　フン˥シ　ˈカイ˥ヤンティˈダー [ˈban˥tenu pḁˈkaʃi̥keː˥ ʔikˈkena ɸuŋ˥ʃi ˈkai˥jantiˈdaː](私の家の墓所は非常に風水が良いそうだよ)。

バˈカ˥ジニ [baˈka˥dʑini] 【名】若死。イˈク˥サナ　ˈサンガリ　ギーティ˥　バˈカ˥ジニ　ˈシェー˥　プˈソー˥　ヤˈマシゥ˥カ　ˈブントダー [ʔiˈku˥sana ˈsaŋgari giːti˥ baˈka˥dʑini ˈʃeː˥ pu̥ˈsoː˥ jaˈmasi̥˥ka ˈbunt-daː](戦争に引っ張り出されて若死した人は相当たくさんいるよ)。

バˈカ˥ジラプス [baˈka˥dʑirapu̥su] 【名】出産して間もない産婦。産屋＜地炉＞から出て間もない産婦。「若・地炉・人」の義。バˈカ˥ジラムヌ [baˈka˥dʑiramunu] ともいう。バˈカ˥ジラプソー　ˈピーリ˥ミジ　シゥˈカウナト ヨー [baˈka˥dʑirapusoː ˈpiːri˥midʑi si̥ˈkaunat-joː](出産して間もない産婦は冷たい水を使うなよ)。

バˈカ˥ジラムヌ [baˈka˥dʑiramunu] 【名】出産して間もない者 (産婦)。バˈカ˥ジラ　˥ムヌヌ　ˈドゥー˥ヤ　ˈザーリグジトゥ˥　ユˈヌ˥ムヌティ　アˈザリブー˥ダー [baˈka˥dʑira ˥mununu ˈduː˥ja ˈdʑaːrigudʑitu˥ ju ˈnu˥munuti ʔaˈdʑaribuː˥daː](産後間もない時期の産婦の体は芯が中空になったデイゴの木のように脆(モロ)いといわれているんだよ)。

バˈカ˥スー [baˈka˥suː] 【名】干満の差の小さい潮干。「若潮」の義。カˈラスー [kaˈrasuː](あまりひかない時期の引き潮＜干潮＞) ともいう。ˈウー˥スー [ˈʔuː ˥suː](大潮) の対義語。

バˈカスー˥チ [baˈkasuː˥tʃi] 【名】干満の差の小さい潮干。「若潮干」の義。「難波方　潮干＜シホヒノ＞〜。万、976」の義。ˈウー˥スー [ˈʔuː˥suː](大潮)、ˈスー˥チズー [ˈsuː˥tʃidʑuː](大潮干) の対義語。バˈカスー˥チナー　イˈソー　パッ˥タンティン　ˈナン˥ゾー　トゥˈララ˥ヌ [baˈkasuː˥tʃina: ʔiˈso: pat˥tantin ˈnan˥dʑo: tuˈrara˥nu](干満の差の小さい＜若潮干＞

潮干に潮干狩りに行ってもあまり獲物は獲れない)。

バ˞カスク˥リ [ba˞kasu̥Ku˥ri] 【名】若作り。年齢よりも若く見える面立ち。若い顔立ち。˞ワッ˥テヌ　˥アボー　バ˞カスク˥リ　サ˞リオー˥ルンダ　˥トゥシェー　ア˞ティンガーラヌ [˞wat˥tenu ˥ʔabo: ba˞kasu̥ku˥ri sa˞ri ʔo:˥runda ˥tuʃe: ʔa˞tiŋga:ranu](君の家＜お宅＞のお母さんは若作りされておられるから実年齢は見当がつけられない)。

バ˞カスン [ba˞kasuŋ] 【他動】炊く。「沸かし」の義。「和可須 (わかす)」『新撰字鏡』の転訛。˞スー　バ˞カスン [˥su: ba˞kasuŋ](お汁を炊く)。˥イー　バ˞カスン [˥ʔi: ba˞kasuŋ](ご飯を炊く)。芋や魚は˞ネースン [˞ne:suŋ](煮る) ともいう。˥ウン　˞ネースン [˥ʔun ˞ne:suŋ](芋を煮る)。イ˞ズ　ネースン [ʔi˞ʤu ne:suŋ](魚を煮る)。˥イー　バ˞カスンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　タ˞ムヌ˥ヌ　˞ナーン˥ダ　バ˞カサラヌ [˥ʔi: ba˞kasunti˥ ʔu˞mu:n˥du ta˞munu˥nu ˞na:n˥da ba˞kasaranu](ご飯を炊こうと思うが、薪が無いので炊かれない)。バ˞カシ˥　プサカー　˥ドゥーシ　バ˞カシ˥バ [ba˞kaʃi˥ pu̥saka: ˥du:ʃi ba˞kaʃi˥ba](炊きたかったら自分で炊きなさいよ)。˥イー　バ˞カス˥　プ˞ソー　パー˥ク　バ˞カシェー˥　ミサムヌ [˥ʔi: ba˞kasu˥ pu̥˞so: pa:˥ku ba˞kaʃe:˥ misamunu](ご飯を炊く人は早く炊けばいいのに)。

バ˞カ˥スン [ba˞ka˥suŋ] 【他動】分けて離す。区別する。分類する。分ける。グ˞マー˥ムヌトゥ　マ˞ギ˥ムノー　バ˞カ˥シ　シ˞キ˥リ [gu˞ma:˥munutu ma˞gi˥muno: ba˞ka˥ʃi ʃi̥˞ki˥ri](小さいものと大きいものを分けておきなさい)。バ˞カ˥スンティ　˞スンドゥ˥　バ˞カサラ˥ヌ [ba˞ka˥sunti ˞sundu˥ ba˞kasara˥nu](分けようとするが分けられない)。バ˞カシ˥　プサカー　˞パー˥ク　バ˞カ˥シェー　˥ミサムヌ [ba˞kaʃi˥ pu̥saka: ˞pa:˥ku ba˞ka˥ʃe: ˥misamunu](分けたければ早く分ければいいのに)。バ˞カ˥ス　˥クトー　ナ˞ラ˥ヌ [ba˞ka˥su ˥ku̥to: na˞ra˥nu](分けることは出来ない)。

パ˞カ˥スン [pḁ˞ka˥suŋ] 【他動】吐かせる。嘔吐させる。ク˞シナカ˥　タ˞タッ˥ケーティ　パ˞カ˥スンティ　˞ベーン˥ドゥ　パ˞カサラ˥ヌ [ku̥˞ʃinaka˥ tḁ˞tak˥ ke:ti pḁ˞ka˥sunti ˞be:n˥du pḁ˞kasara˥nu](背中を叩いて吐かそうとしているが、吐かされない)。パ˞カ˥シ　˥ミサカー　˞パー˥ク　パ˞カ˥シ [pḁ˞ka˥ʃi ˥misaka: ˞pa:˥ku pḁ˞ka˥ʃi](吐かせてよければ早く吐かせなさい)。パ˞カ˥ス　˥プソー　ウ˞スンフカシティ˥　パ˞カ˥シェー　˥ミサムヌ [pḁ˞ka˥su ˥pu̥so: ʔu˞suŋɸu̥kaʃi̥ti˥ pḁ˞ka˥ʃe: ˥misamunu](吐かせる時は俯(ウツム)かせて吐かせればいいのに)。

パ˞カスン [pḁ˞kasuŋ] 【他動】1首に掛けさせる。首に穿(ハ)かせる。ピ˞ルバ˥　イトゥシ　ヌ˞キティ˥　ヌビナー　パ˞カスンティ　スンドゥ˥　パ˞カサラヌ [pi˞ruba˥ ʔituʃi nu˞kiti˥ nubina: pḁ˞kasunti sundu˥ pḁ˞kasaranu](にんにく＜大蒜＞を糸に貫いて首に穿かせようとするが、穿かされない)。パ˞カシ　ヤッ˥サ　˥ムノーラ　パ˞カシ˥バ [pḁ˞kaʃi jas˥sa ˥muno:ra pḁ˞kaʃi˥ba](穿かせ易いものから穿かせなさい)。パ˞カス˥　ピンマー　˥ヌビナー　パ˞カシェー˥　ミサムヌ [pḁ˞kasu˥ pimma: ˥nubina: pḁ˞kaʃe:˥ misamunu](穿かせる時は首はかせればいいのに)。2弁償させる。負わせる。˞ダイヤー˥　ウ˞リン˥　パ˞カシ [˞daija:˥ ʔu˞rim˥ pḁ˞kaʃi](代金は彼に弁償させ＜負わせ＞なさい)。

パ˞ガ˥スン [pa˞ga˥suŋ] 【他動】剥がす。はぎ取らせる。引き剥く。˥カー　パ˞ガ˥スン [˥ka: pa˞ga˥suŋ](皮を剥がす)。バ˞サン˥パームチ　パ˞ガシ˥ティ　ッ˞ふァイ˥バ [ba˞sam˥pa:mutʃi pa˞gaʃi̥˥ti f˞fai˥ba](芭蕉の葉餅を剥がして食べなさいよ)。シ˞ビシゥカリティ˥　パ˞ガサラ˥ヌ [ʃi˞bisi̥kariti˥ pa˞gasara˥nu](くっ付いて剥がされない)。パ˞ガ˥ス　˥ムノー　カシー˞カシ˥　パ˞ガ˥シェー　˥ミサムヌ [pa˞ga˥su ˥muno: kaʃi:˞kaʃi:˥ pa˞ga˥ʃe: ˥misamunu](剥がすものは、しっかりと剥がせばいいのに)。˥クマーラ　パ˞ガ˥シ [˥kuma:ra pa˞ga˥ʃi](ここから剥がせ)。

パ˞カソー˥ジ [pḁ˞kaso:˥ʤi] 【名】墓掃除。ジ˞ル˥クンチ [ʤi˞ru˥kuntʃi](旧暦十六日祭) の当日や˞ソー˥ラン [˞so:˥raŋ](お盆＜精霊会＞) の一週間前のタ˞ナバタ [ta˞nabata](旧暦の 7 月 7 日) に墓の清掃をすること。˥アツァー　タ˞ナバタ˥　ヤ˞リバ　ベー˥ヌ　パ˞カソー˥ジ　˞シン˥　パラ˞ナー [˥ʔatsa: ta˞nabata˥ ja˞riba be:˥nu pḁ˞kaso:˥ʤi ˞ʃim˥ para˞na:](明日は七夕だから、我が家の墓の掃除をしに行こうねえ)。

バ˞カソッ˥コー [ba˞kasok˥ko:] 【名】死後間もない時期の法事。一周忌の法事から十三年忌までの法事。「若・焼香」の義。これらの法事には蒲鉾、餅などの供物や道具類に朱色の色物は一切使用しない。バ˞カソッ˥コーナーヤ　イ˞ル˥ムノー　シゥ˞カイヨーラ˥ヌ [ba˞kasok˥ko:na:ja ʔi˞ru˥muno: si̥˞kaijo:ra˥nu](三年忌までの法事＜若焼香＞には色ものはお使いにならない)。

バ˞カ˥ッサ [ba˞ka˥ssa] 【名】若草。若い雑草。ウ˞ルズン˥ヌ　˥シチ　˞ペール˥ター　パ˞タキ˥ヌ　バ˞カ˥ッ

サン　グ˞ダランケー˥リ　˥ムイケーン [ʔu˞rudʑun˥ nu ˥ʃi̥tʃi ˞peːru˥taː pḁ˞taki˥nu ba˞ka˥ssaŋ gu˞daraŋkeː˥ri ˥muikeːŋ](春＜若夏＞の季節に入ったので畑の若草も青々と瑞々しく生えてきた)。パ˞タキ˥ヌ　バ˞カッ˥サ　˞パー˥ク　˞ソーラン˥カー　˞ムイ˥カビクン˞ダー [pḁ˞taki˥nu ba˞ka˥ssaː ˞paː˥ku ˞soːraŋ˥kaː ˞mui˥kabi ˥kun˞daː](畑の若草は早く除草しないと繁茂してくる＜生え被(カブ)さってくる＞ぞ)。バ˞カ˥ッサ　˞ソールン [ba˞ka˥ssa ˞soːruŋ](若草を篦(ヘラ)で除草する＜刹(サク)るように＞)。

バ˞カ˥ッサイ [ba˞ka˥ssai] 【名】若白髪。バ˞カームヌ˥ヌ　バ˞カ˥ッサイ　˥ムイティ　キ˞ムイ˥ツァー˞ツォー [ba˞kaːmunu˥nu ba˞ka˥ssai ˥muiti ki˞mui˥tsaː˞tsoː](若者だのに若白髪が生えて気の毒＜可哀そう＞なんだよ)。

バ˞カドゥー˥ムティ [ba˞kduː˥muti] 【名】早婚。「若身持ち」の義。「Mimochi. ミモチ (身持)　妊娠. Cano vonna mimochini natta,」『邦訳日葡辞書』の義。早く結婚して所帯を持つことの意。˞ウン˥ネヌ　ッ˞ふァン˥ケーヤ　ムー˞ル˥　バ˞カ˥ドゥームティ　˞シェー˥ルバン [˞ʔun˥nenu f˞faŋ˥keːja muː˞ru˥ ba˞ka˥duːmuti ˞ʃeː˥rubaŋ](あの家の子供達は、みんな早婚＜若身持ち＞しているよ)。

パ˞カ˥ドゥルン [pḁ˞ka˥duruŋ] 【自動】はかどる (捗る)。仕事が進捗(シンチョク)する。フ˞ター˥ル˥シ　˞スー˥カー　パ˞カドゥルン˥ドゥ　˞タンガ˥シェー　パ˞カドゥラ˥ヌ [ɸu̥˞taːru˥ʃi ˞suː˥ka: pḁ˞kadurun˥du ˞taŋga˥ʃeː pḁ˞kadura˥nu](二人でしたら捗るが、一人では捗らない)。˥アイニ　パ˞カ˥ドゥル　˥クトー　˞ナーン˥シェン [˥ʔaini pḁ˞ka˥duru ˥ku̥to: ˞naːŋ˥ʃeŋ](あのように捗ることはなかった)。

パ˞ガ˥ナーン [pa˞ga˥naːŋ] 【形】おんなたらし (女誑し) である。好色な人である。利口でよく女を騙す。ウ˞レー˥　イッ˞ケナ˥　パ˞ガ˥ナーンティス˞クタヌ˥　パ˞ガナー　ナー˥ヌ [ʔu˞reː˥ ʔik˞kena˥ pa˞ga˥naːnti su̥˞kutanu˥ pa˞gana: naː˥nu](彼は大変な女誑(オンナタラシ)＜好色＞だと聞いたが、女誑しではない)。ウ˞レー　サッ˥コー　パ˞ガ˥ナー　˥ナリティ˞ヨー˥ゾー　シ˞キララ˥ヌ [ʔu˞reː sak˥koː pa˞ga˥naː˥ nariti ˞joː˥dʑo: ʃi̥˞kirara˥nu](彼は大変な女誑しになって手がつけられ＜養生できっない)。パ˞ガ˥ナー　プ˞ソー˥　タ˞ナム˥ナ [pa˞ga˥naː pu̥˞soː˥ ta˞namu˥na](女を誑す人は頼むな)。

バ˞カ˥ナイ [ba˞ka˥nai] 【名】若苗。早苗。若い苗木。バ˞カナイ˥ヤー　˞ニーシキラ˥ヌ　サ˞リス [ba˞kanai ˥ja: ˞ni:ʃi̥kira˥nu sa˞risu](若苗は根づかない。枯れる)。

バ˞カ˥ナシ [ba˞ka˥naʃi] 【名】歳若くして出産すること。「若生し」の義。バ˞カ˥ナシ　˞シェー˥　プ˞ソー˥　アトー　˥ケー　˥ラク　˞スン [ba˞ka˥naʃi ˞ʃeː˥ pu̥˞soː˥ ʔato: ˥keː ˥raku ˞suŋ](歳若くして出産したひとは、後になっては楽をする)。

バ˞カ˥ナチ [ba˞ka˥natʃi] 【名】初夏。若夏。旧暦四、五月ごろ。ウ˞ル˥ズン [ʔu˞ru˥dʑuŋ](旧暦二、三月ごろ)の対語。バ˞カナチ˥ヌ　シ˞チ˥ヌ　˥タトゥカー　˞カーチーバイ˥ヌ　˥フクン [ba˞kanatʃi˥nu ʃi̥˞tʃi˥nu ˥tḁtuka: ˞ka:tʃi:bai˥nu ˥ɸu̥kuŋ](初夏＜若夏＞の季節になるとカーチーバイ＜夏至の頃に吹く南風＞が吹く)。

パ˞ガ˥ニ [pa˞ga˥ni] 【名】 1はがね (鋼)。鋼鉄。カ˞タ˥ナー　パ˞ガニ˥ヌ　カ˞カウター˥　キ˞シラン˥　ナリ˞ナー˥ヌ [kḁ˞ta˥naː pa˞gani˥nu kḁ˞kautaː˥ ki̥˞ʃiran˥ nari˞naː˥nu](包丁は鋼が欠けたので切れなくなってしまった)。2切れ者。達者な人。利口者。フ˞ターバー˥キ　フ˞チェー˥　パ˞ガ˥ニ　˥ナリティル　˞アウ˥タツォー [ɸu̥˞taːruba˥ki ɸu̥˞tʃeː˥ pa˞ga˥ni ˥naritiru ˞ʔauta˥tsoː](二人とも口＜弁＞は達者＜切れ者＞になって喧嘩したそうだ)。

パ˞ガニ˥ムヌ [pa˞gani˥munu] 【名】才知にたけて女を騙す者。女誑(オンナタラシ)。ウ˞レー˥　ウ˞トゥンジ˥　パ˞ガニ˥ムヌティ˞ダー [ʔu˞reː˥ ʔu˞tuʔndʑi˥ pa˞gani˥munuti˞daː](彼は有名な女誑しだそうだ)。

パ˞カヌ˥　ゾー [pḁ˞kanu˥ dʑoː] 【連】墓の庭。ジ˞ル˥クンチナー　ムー˞ル˥　パ˞カヌ˥　ゾー　˞ソー˥ジ　˞シン˥　パ˞リ˥シタ [dʑi˞ruˈkuntʃinaː muː˞ru˥ pa˞nanu˥ dʑoː ˞soː˥dʑi ˞ʃim˥ pa˞ri˥ʃi̥ta](十六日祭には、みんな墓の庭の掃除をしに行った)。

パ˞カヌ˥　ヨイ [pḁ˞kanu˥ joi] 【連】墓の落成祝い。パ˞カ˥　ス˞ク˥リティ　パ˞カヌ˥　ヨイ　˞スンティ　オー˥ル [pḁ˞ka˥ su̥˞ku˥riti pḁ˞kanu˥ joi ˞sunti ʔoː˥ ru](墓を作って、墓の祝いをしようとしておられる)。

˥バカバー [˥bakabaː] 【名】祖父母の三番目の姉や妹。名称、呼称にもいう。バカ˞バー　マー˥ティ　˞オール˥ワ [baka˞baː maː˥ti ˞ʔoːru˥wa](お祖母さん、何処へいらっしゃいますか)。

バ˞カ˥パー [ba˞ka˥paː] 【名】若葉。˞パーヤサイヤー˥　バ˞カ˥パー　カ˞カイ˥　キー　バ˞カシ˥バ [˞paːja-saija:˥ ba˞ka˥paː: kḁ˞kai˥ ki: ba˞kaʃi˥ba](葉野菜は若葉をもいで＜捥いで＞きて炊きなさい)。˞ウイ˥パ

ー [˩ʔui˥paː](古い葉。「老い葉」の義) の対義語。

バ˩カ˥バイ **[ba˩ka˥bai]**【名】若芽。バイ˩ヤー˥マ [bai˩jaː˥ma](小さい若芽、新芽)、バ˩カ˥フキ [ba˩ka˥ɸu̥ki](若い茎、新芽) ともいう。˩ゴーナキー˥ヌ　ユ˩ダー˥ラ　バ˩カバイ˥ヌ　˥ンジケーン [˩goːnakiː˥nu ju˩daː˥ra ba˩kabai˥nu ˥ndʒikeːŋ](桑の木の枝から若芽が出てきた)。

パ˩カ˥バリ **[pḁ˩ka˥bari]**【名】うねたて (畝立て)。「はか < 量 > 割」の義。稲を植えたり、刈ったり、畑を耕したりする時の分担する範囲を決めること。˥パカバレー　˩シーティ　ウン˥マー　イ˩ビ˥バ [˥pḁkabareː ˩ʃiːti ʔum˥maː ʔi˩bi˥ba](畝立てをして芋を植えなさいよ)。

˥パカ　バ˩ルン **[˥pḁka ba˩ruŋ]**【連】畝を立てる。耕す範囲を決める。˥パカー　バ˩リティ˥　パ˩タ˥ケー　˩カイ˥シバ [˥pḁkaː ba˩riti˥ pḁ˩ta˥keː ˩kai˥ʃiba](畝を立てて < 耕す範囲を決めて > 畑を耕しなさいよ)。

バ˩カビキ˥ドゥム **[ba˩kabiki˥dumu]**【名】若い男。バ˩カビキドゥム˥ヌ　˥スルーカー　シ˩グトー　シーヤッ˥サン [ba˩kabikidumu˥nu ˥suruːkaː ʃi˩gutoː ʃiːjas˥saŋ](若い男が揃うと仕事はしやすい)。

バ˩カ˥ピル **[ba˩ka˥piru]**【名】まだ鱗形が形成されていない若いニンニク (大蒜)。若大蒜。イ˩サナキプソー˥　バ˩カピル˥バ　ピ˩キ˥キー　ッ˩スニー˥バ　˥キシティ　˩マース˥トゥ　˩マーズン˥　ソンガチヌ　フ˩ルマイ˥ナー　ン˩ザ˥ソールンツォー [ʔi˩sanakipusoː˥ ba˩kapiru˥ba pi̥˩ki˥ki: s˩suniː˥ba ˥ki̥ʃiti ˩maːsu˥tu ˩maːdʒun˥ soŋgatʃi ɸu˩rumai˥naː ʔn˩dʒa˥soːruntsoː](石垣島の人は、若大蒜を引き抜いてきて、白根を切って塩と一緒に正月の振舞ご馳走にだされるそうだ)。

バ˩カ˥フキ **[ba˩ka˥ɸu̥ki]**【名】新芽。若芽。「若茎」の義。˩ユシキ˥ヌ　バ˩カ˥フキ　˥スリキー　˥サン　˩ユイティ˥　パ˩タキ˥　シヌナー　˥ッシバ [˩juʃi̥ki˥nu ba˩ka˥ɸu̥ki ˥suriki: ˥san ˩juiti˥ pḁ˩taki˥nu ˥ʃinunaː ˥ʃʃiba](ススキの若芽 < 茎 > を刈ってきて魔除けのサンを結んで畑の角に差しなさいよ)。

バ˩カプス˥マ **[ba˩kapusu˥ma]**【名】午前十時〜十一時ごろ。「若昼間」の義。˩マープスマ [˩maːpusuma](真昼間。現在の正午頃。九つ時分) の前で、あまり暑くならないころ。「わかひるま　九つ時分。ひるまとは八つ時分也「混効験集」」『おもろ語辞書』。ア˩サカイ [ʔa˩sakai](午前六時〜十時ごろ。朝陰時) の直後ごろ。夏場はア˩サカイの内に畑仕事を終えて帰り、˥アシスコール [˥ʔaʃisu̥koːru](昼食準備) をし、一息入れて午後は˩ヨーコイ [˩joːkoi](午後三時〜四時ごろ。夕陰時) になったら畑仕事に出たものである。夕方は六時〜七時ごろに帰宅し、˩ユー˥ボンスコール [˩juː˥bonsu̥koːru](夕飯支度) をした。バ˩カプス˥マ　˥ナルンケン　パ˩タ˥キナー　シ˩グトゥ　シーベー [ba˩kapusu˥ma ˥naruŋkem pa˩ta˥kinaː ʃi˩gutu ʃiːbeː](若昼間時になるまで畑に仕事をしている)。

パ˩カマ **[pḁ˩kama]**【名】袴。シ˩マ˥ナー　パ˩カマ˥　キ˩ソー˥ル　プ˩ソー　ナン˥ゾー　˩オーラン˥シェン [ʃi˩ma˥naː pḁ˩kama˥ ki̥˩soː˥ru pu̥˩soː nan˥dʒoː ˩ʔoːraŋ˥ʃeŋ](島では袴を着られる人は、あまりいらっしゃらなかった)。

パ˩カマイ˥ル **[pḁ˩kamai˥ru]**【名】墓参り。旧暦の一月十六日祭とお盆の七夕には墓参りをして墓の掃除をし、茶湯をした。また、死後一週間は朝早く墓参りをした。三十三年忌までの法事の前日に墓参をして掃除をしたが、それ以外の日に墓参りをする習慣はほとんどなかった。˩ニン˥ニン　ジ˩ル˥クンチトゥ　˩ソーラン˥ヌ　タ˩ナバタナー˥ル　パ˩カマイ˥ロー　˩ソーッ˥タ [˩nin˥nin dʒi˩ru˥kuntʃitu ˩soːran˥nu ta˩nabatanaː˥ru pḁ˩kamai˥roː ˩soːt˥ta](毎年、十六日祭とお盆の七夕に < ぞ > 墓参りはされた)。

バ˩カ˥マチ **[ba˩ka˥matʃi]**【名】若松。松の若木。常緑樹の松と竹は長寿、若返りの縁起物として門松に使用されたが、1950 年代に緑化推進のために廃止された。マ˩ナ˥マー　バ˩カ˥マチ　カ˩ザル˥　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [ma˩na˥maː ba˩ka˥matʃi ka˩dʒaru˥ pu̥˩soː˥ bu˩raːnu](今は若松を飾る他人はいない)。

バ˩カ˥マリ **[ba˩ka˥mari]**【名】早産の子。月足らずで生まれた子。「若生まれ」の義。˥シキ　タ˩ラーン　マリ [˥ʃi̥ki ta˩raːmmari](月足らずのうまれ。月足らず) ともいう。バ˩カ˥マリ　ヤ˩レー˥ティル　フ˩ドー˥　グ˩マー˥ル　˥ズコー　˩シーブタ [ba˩ka˥mari ja˩reː˥tiru ɸu˩doː˥ gu˩maː˥ru ˥dʒukoː ˩ʃiːbuta](早産の子であったから < ぞ > 体は小さいのであって、成熟はしていたよ)。

バ˩カミー˥ス **[ba˩kamiː˥su]**【名】作り立ての味噌。新味噌。「若味噌」の義。˩ミーミース [˩miːmiːsu](新味噌) ともいう。ッ˩ふミー˥ス [f˩fumiː˥su](古い味噌) の対義語。ク˩ヌ˥　バ˩カミー˥ソー　˩トー˥フマミバ　ヌ˩キバ　シー˥　タテーンダ　イッ˩ケナ˥　ン˩マー˥ン [ku˩nu˥ ba˩kamiː˥soː ˩toː˥ɸumamiba nu˩kiba ʃiː˥ tḁte:nda ʔi˩kkena˥ ʔm˩maː˥ŋ](この新味噌 < 若味噌 > は大豆をヌキ < 補助材 > にして製造した <

たてた＞から非常に美味しいよ)。

バ˞カミー˥トゥ [ba˞kami:˥tu] 【名】若夫婦。「わかめおと＜若夫婦＞」の義。バ˞カミートゥ˥ヌ　˥ヤーナ　ニッ˞カバー˥キ　˞ベーン˥ナ˞ヨー [ba˞kami:tu˥nu ˥ja:na nik˞kaba:˥ki ˞be:n˥na˞jo](若夫婦の家に夜遅くまでいるなよ)。

バ˞カム˥ティ [ba˞kamu˥ti] 【名】早婚。若身持ち。「若持ち」の義。˞ウッ˥ツァー　バ˞カム˥ティ　ヤ˞レー˥ティ　キッ˞サ˥　ナ˞シアガ˥レーンティ　ウ˞ラーミ˥サ [˞ʔut˥tsa: ba˞kamu˥ti ja˞re:˥ti kis˞sa˥ na˞ʃiʔaga˥ re:nti ʔu˞ra:mi˥sa](彼らは早婚だったから、すでに生み育ては終了している＜生みあがっている＞さ、羨ましいことよ)。

バ˞カ˥ヤ　˥クトゥ [ba˞ka˥ja ˥kṵtu] 【連】恥ずかしいこと。˥アイブー　バ˞カ˥ヤ　˥クトー　˞サンブリ˥バ [˥ʔaibu: ba˞ka˥ja: ˥kṵto: ˞samburi˥ba](あんな恥ずかしいことはするなよ)。

バ˞カ˥ヤ　シ˞ミルン [ba˞ka˥ja ʃi˞miruŋ] 【連】恥ずかしがらせる。恥をかかせる。ン˞メーマー˥　バ˞カ˥ヤ　シ˞ミラン˥カー　ヤ˞ナフシェー　ノーラ˥ヌ [ʔm˞me:ma:˥ ba˞ka˥ja ʃi˞miraŋ˥ka: ja˞naɸṵʃe: no:ra˥nu](少しは恥ずかしがらせないと悪い癖は治らない)。

バ˞カ˥ヤ　˞スン [ba˞ka˥ja ˞suŋ] 【連】1可笑しがる。ムー˞ルヌ˥　バ˞カ˥ヤ　˞スンダ　マービン˥ドゥ　プ˞ス˥　バ˞ラース˥ツォー [mu:˞runu˥ ba˞ka˥ja ˞sunda ma:bin˥du pṵ˞su˥ ba˞ra:su˥tso:](皆が可笑しがるから、余計に他人を笑わせるんだよ)。2恥ずかしがる。「恥ずかしくする」の義。ミ˞ドーン˥ッふァー　バ˞カ˥ヤ　˞スンダ˥　ムッ˞トゥ˥　プ˞ス˥ヌ　˥マイナー　ブ˞ドゥル˥　シ˞ミララヌ [mi˞do:n˥ffa: ba˞ka˥ja ˞sunda˥ mut˞tu˥ pṵ˞sunu˥ maina: bu˞duru˥ ʃi˞miraranu](女の子は恥ずかしがるので、ちっとも人前で踊らされない＜踊りをさせられない＞)。

パ˞カヤマ [pạ˞kajama] 【名】墓地のある岡の森。「墓山」の義。ナ˞カン˥ブレー [na˞kam˥bure:](ナカモリ＜中岡＞) の西側にある岡の森で、フ˞クンキー [ɸṵ˞kuŋki:](福木) やガ˞ジ˥マル [ga˞ʤi˥maru](ガジマル＜榕樹＞)、ヤ˞ラブ [ja˞rabu](テリハボク)、キ˞ダ [ki˞da](リュウキュウコクタン。黒檀。「烏木」『中山伝信録』)、˞マー˥ニ [˞ma:˥ni](クロツグ)、˞バン˥スル [˞ban˥suru](バンジロウ)、その他雑木が密生している。岡の南斜面の砂岩を利用して横穴を掘り抜いて造った亀甲墓群がある。各家の本墓が約三十基ほどある。ジ˞ル˥クンチ [ʤi˞ru˥kuntʃi](十六日祭) は各家の墓前でご馳走を供え、親戚一同が集まって祈願が行われた。パカヤマの頂上部は˥ナーマヤーヌ　˞ヤシ˥キ [˥na:maja:nu ˞jaʃị˥ki](長間屋の屋敷) といわれており、石垣積みの跡が残っている。

バ˞カ˥ヤン [ba˞ka˥jaŋ] 【形】おかしい (可笑しい)。こっけいである。「わが心しぞ　いや袁許＜ヲコ＞にして～『古事記　中・歌謡』」、「～可笑し＜をかし＞と思ひて～」『今昔物語』の転訛したもの。ウ˞リヌ˥　パ˞ナ˥シェー　バ˞カヤ˥ヌ　バ˞ライル˥　シ˞ラリ [ʔu˞rinu˥ pa˞na˥ʃe: ba˞kaja˥nu ba˞rairu˥ ʃi˞rari](彼の話は可笑しくて笑わずにはおれない＜笑いぞされる＞)。ク˞トゥシヌ　キョンギン˥マー　バ˞カ˥ヤンティ　ス˞クタヌ　ナン˥ゾー　バ˞カヤー　ナーン˥ワー˞ヌー [kṵ˞tuʃinu kjoŋgim˥ma: ba˞ka˥janti sṵ˞kutanu nan˥ʤo: ba˞kaja: na:ŋ˥wa:˞nu:](今年の狂言は可笑しい＜笑が止まらない＞と聞いたが、あまりおかしくないではないか)。シ˞キベーン˥ケンマー　バ˞カ˥ヤ　˥ナリキー　ウ˞ブバライ　シー　ナーン˥シェン [ʃị˞ki be:ŋ˥kemma: ba˞ka˥ja ˥nariki: ʔu˞bubarai ʃi: na:ŋ˥ʃeŋ](聞いているうちに可笑しくなってきて、大笑してしまった)。˥アイニ　バ˞カ˥ヤ　ブ˞ドゥロー˥　ミリ　ミ˞ラ˥ヌ [˥ʔaini ba˞ka˥ja bu˞duro:˥ miri mi˞ra˥nu](あんなに可笑しな踊りは見たことが無い)。

バ˞カ˥ヤン [ba˞ka˥jaŋ] 【形】恥ずかしい。ク˞レー˥　バ˞カヤ˥ヌ　キ˞シ˥　パ˞ララ˥ヌ [ku˞re:˥ ba˞kaja˥nu kị˞ʃi˥ pa˞rara˥nu](これは恥ずかしくて着て行かれない)。ミ˞ドゥム˥ヌ　˥マイ　ン˞ジ˥ルカー　バ˞カ˥ヤン [mi˞dumu˥nu ˥mai ʔn˞ʤi˥ruka: ba˞ka˥jaŋ](女性の前に出ると恥ずかしい)。プ˞スバカヤヌ˥　シキンラ　˥シラ　˥ムテーティ　ア˞ラカラ˥ヌ [pṵ˞subakaja ˥nu ˥ʃị̊kinra ˥ʃira ˥mute:ti ʔa˞rakara˥nu](外聞が悪くて＜恥ずかしくて＞世間から顔＜面＞を持ってあるけない)。ノー˞ン˥　バ˞カ˥ヤ　˥クトー　˞ナー˥ヌ [no:˞m˥ ba˞ka˥ja ˥kṵto: ˞na:˥nu](何にも恥ずかしいことはない)。

˥-バカラ [˥-bakara] 【副助】ばかり。ぐらい。ほど。体言に下接して分量、程度など、おおよその見積りを表す。普通は˥-ブカラー [˥-bukara:](ばかり。ぐらい。ほど) という。˥クビバカラ　˥バキ　ッ˞ふィーリ [˥kubibakara ˥baki f˞fi:ri](これくらい分けてくれ)。

パ˞カラー˥サン [pạ˞kara:˥saŋ] 【形】しっかりして信頼できる。思慮分別があり、きちんとしている。まともである。˞計＜ハカ＞らさあり」の義。普

通は˞マーパカラー˺サン [˞ma:pakara:˺saŋ](全く信頼できる。真っ当である) という。ウ˞ヌ˺　ッ˞ふァー˺　イッ˞ケナ˺　パ˞カラー˺サンティ　ス˞クタンドゥ　ナン˺ゾー　パ˞カラーサ　ナー˺ヌ [ʔu˞nu˺ f˞fa:˺ ʔik˞kena˺ pa̠˞kara:˺santi su̠˞kutandu nan˺ʤo: pa̠˞kara:sa na:˺nu](その子は非常にしっかりして信頼できると聞いたが、あんまり信頼できない < 思慮分別がない >)。パ˞カラー˺サル　プ˞スンドゥ˺　タ˞ナマリ˺ル [pa̠˞kara:˺saru pu̠˞sundu˺ ta˞namari˺ru](まともな、信頼できる人にしか頼まれない < 信頼出来る人にぞ頼まれる >)。パ˞カラー˺サリバル　タ˞ナマ˺リ [pa̠˞kara:˺saribaru ta˞nama˺ri](しっかりして信頼出来ればこそ頼める)。˞マーパカラー˺サン [˞ma:pakara:˺saŋ](まともで、本当に信頼出来る。正道で、しっかりしている)。˞マーパカラサナー˺ヌ [˞ma:pakarasana:˺nu](本当に信頼できない。邪道で、しっかりしてなく、まともでない) ともいう。

パ˞カライ˺グトゥ [pa̠˞karai˺gutu] 【名】悪巧み。奸計。計略。「計らいごと」の転訛。マ˞ナ˺マー　˞ヌー˺ヌ　パ˞カライグトゥ˺バ　˞スンティ˺　ア˞ツァ˺マリ　˞ベー˺ワ [ma˞na˺ma: ˞nu:˺nu pa̠˞karaigutu˺ba ˞sunti˺ ʔa˞tsa˺mari ˞be:˺wa](今はどんな悪巧みをしようと集まっているのか)。

パ˞カ˺ラウン [pa̠˞ka˺rauŋ] 【他動】塩梅する。相談する。協議する。手加減する。配慮する。調整する。適当に処置する。「計らう」の転訛。シ˞グトゥヌ˺　クトゥン　˺ヌーンクイ　パ˞カ˺ライ　ッ˞ふィーリ [ʃi˞gutu˺nu ˺ku̠tun ˺nu:ŋkui pa̠˞ka˺rai f˞fi:ri](仕事のこともいろいろと配慮してくれ)。˞イーシ˺ヌ　˞ダイヤー˺　パ˞カ˺ラウンティ　˺シケータンドゥ　イ˞シヌ　ゴー˺ラーティ　パ˞カラーラン˺シェン [˞ʔi:ʃi˺nu ˞daija:˺ pa̠˞ka˺raunti ˺ʃi̠ke:tandu ʔi˞ʃinu go: ˺ra:ti pa̠˞kara:raŋ˺ʃeŋ](ツノマタの値段は配慮しようとしていたが、小石ガ多く混入していたので配慮できなかった)。パ˞カ˺ラウ　ク˞トゥ˺ヌ　˺ナルカー　パ˞カライ˺ヤー　˺ミサムヌ [pa̠˞ka˺rau ku̠˞tu ˺nu ˺naruka: pa̠˞karai˺ja: ˺misamunu](配慮することが出来たら配慮してくれればいいのに)。˞ワー˺シ　˺ミサヨーニ　パ˞カ˺ライバ [˞wa:˺ʃi ˺misajo:ni pa̠˞ka˺rai ba](君で良いように塩梅しろよ。調整せよ。)。

バ˞カ˺リ [ba˞ka˺ri] 【名】1分かれ。分岐。分家。ユ˞レーヤ˺　カ˞ザケーラヌ˺　バ˞カ˺リティ˞ダー [ju˞re:ja˺ ka˞ʤake:ranu˺ ba˞ka˺riti˞da:](寄合家は加治工家からの分かれだそうだよ)。2別れ。離別。離婚。ウ˞ヤッふァ˺　バ˞カ˺レー　ク˞チ˺サン˞ダー [ʔu˞jaffa˺ ba˞ka˺re: ku̠˞ʧi˺san˞da:](親子の離別は苦しいよ)。ト˞ジブトゥバカ˺リ　˞スンティ˺　アイ　˞ベー [tu˞ʤibutubaka˺ri ˞sunti˺ ʔai ˞be:](離婚 < 夫婦別れ > しようとして喧嘩している)。

バ˞カリカン˺ティ [ba˞karikan˺ti] 【名】別れかねること。「別れかねて」の転訛したもの。ッ˞ふァバ˺　ウ˞キ˺ナー　パ˞ラ˺スンティ　˞スンドゥ˺　ウ˞ヤッ˺ふァ　バ˞カリカン˺ティ　˞シーベー [f˞faba˺ ʔu˞ki˺na: pa˞ra˺sunti ˞sundu˺ ʔu˞jaf˞fa ba˞karikan˺ti ˞ʃi:be:](子供を沖縄へ行かせようとするが、親子が別れづらく < 別れかねて > している)。

バ˞カリ˺キナイ [ba˞kari˺kinai] 【名】分家。「分かれ家内」の義。キ˞ナイバカリ [ki˞naibakari](分家。「家内分かれ」の義)、˞ヤーバカ˺リ [˞ja:baka˺ri](家別れ。分家) というのが普通。˞ウン˺ネーヤ　˞バン˺テーラヌ　バ˞カリ˺キナイ [˞ʔun˺ne:ja ˞ban˺te:ranu ba˞kari˺kinai](あの家は私の家からの分家だ)。

バ˞カリグリ˺サン [ba˞kariguri˺saŋ] 【形】別れづらい。別れることが辛い。バ˞カ˺ルン [ba˞ka˺ruŋ](別れる) の連用形に、形容詞型助動詞のグ˞リサン [gu˞ri˺saŋ](～辛い。～にくい) が下接して形成された派生形容詞。ヤ˞マトゥ˺タベー　˞トゥー˺ワンダ　ウ˞ヤッ˺ふァー　バ˞カリグリ˺サン [ja˞matu˺tabe: ˞tu:˺wanda ʔu˞jaf˞fa: ba˞kariguri˺saŋ](大和旅 < 本土への旅 > は遠いから、親子は別れづらい)。

バ˞カリ˺ナチ [ba˞kari˺naʧi] 【名】残暑。「別れ夏」の義。秋口に一段と暑さが増して、それが最後の暑さとなること。バ˞カリナチ˺ヌ　˺アツァー　ヤ˞レーティ˺ル　˺カイニ　アツァール˞ナー [ba˞karinaʧi˺nu ˺ʔatsa: ja˞re:ti˺ru ˺kaini ʔatsa:ru˞na:](残暑 < 別れ夏 > の暑さだら < ぞ > あんなに暑いのだなあ)。

バ˞カリピー˺サ [ba˞karipi:˺sa] 【名】寒の戻り。「別れ寒さ」の義。春先に一時的に寒波が押し寄せて寒さがぶり返し、最後の寒さとなること。沖縄方言からの借用語か。˞キュー˺ヌ　˞ピー˺ヤー　˺ヌーカヤー　バ˞カリピー˺サティ　ア˞ズムヌ˺　ヤ˞ル˺ユー　˺カイニ　˞ピー˺ヤワレー [˞kju:˺nu ˞pi:˺ja: ˺nu:kaja: ba˞karipi:˺sati ʔa˞ʤumunu˺ ja˞ru˺ju: ˺kaini ˞pi:˺jaware:](今日の寒さはいったい何だろうか。寒の戻り < 分かれ寒さ > というものだろうか。こんなにも寒いことよ)。

バ˞カリピラ˺ク [ba˞karipira˺ku] 【名】寒の戻り。「別れ寒さ」の義。春先に一時的に寒波が押し寄せて

寒さがぶり返し、最後の寒さとなること。バ˩カ˥リ [ba˩ka˥ri](別れ) に、ピ˩ラ˥ク [pi˩ra˥ku](寒波) が付いて合成された「最後の寒波」の意の複合名詞。バ˩カリピラ˥クナー　イ˩ズン˥　ウ˩ケーリ　キー˥シタ [ba˩karipira˥kuna: ʔi˩ʤuŋ˥ ʔu˩ke:ri ki:˥ʃi̥ta](寒の戻りには魚も浮いてきたものだよ)。

パ˩カリ˥ビリ [pa˩kari˥biri] 【名】計り減り。枡や秤で計量して売買するうちに、量りこんで全体として減量すること。また穀類などを干しているうちに量が減ること。˩イットゥ˥ヌ　˩マイ˥　パ˩カリカー˥シ　˩スー˥カー　ノー˩シン˥　パ˩カリ˥ビレー　˩シース [˩ʔittu˥nu ˩mai˥ pḁ˩karika:˥ʃi ˩su:˥ka: no:˩ʃim˥ pḁ˩kari˥bire: ˩ʃi:su](一斗のお米を量り売りすると、どうしても計り減りが生ずる < 計り減りする >)。生魚や生の海草類を乾燥したときに減る斤量は、˩キンビリ [˩kimbiri](斤減り) という。

バ˩カリ˥ミチ [ba˩kari˥miʧi] 【名】分かれ道。岐路。ウ˩ブ˥マイラ　タ˩チ˥バロー　˥パル　˥ミチェーラ　ピ˩ダ˥レーニ　バ˩カリミチ˥ヌ　ア˩リ˥バ　ウ˩マー˥　パルカー　ヤ˩ラヌ˥　パマー　ン˩ジ˥ルン [ʔu ˩bu˥maira ta˩ʧi˥baro: ˥paru ˥miʧe:ra pi˩da˥re:ni ba˩karimiʧi˥nu ʔa˩ri˥ba ʔu˩ma:˥ paruka: ja˩ranu˥ pama: ʔn˩ʤi˥ruŋ](大前から立原の浜へと通じる道から左の方へ分かれ道があるから、そこへ行くと屋良の浜へ出る)。

バ˩カリ˥ムラ [ba˩kari˥mura] 【名】分村。「分かれ村」の義。普通は、ム˩ラバカリ [mu˩rabakari](村分かれ) という。サ˩キ˥ヤマー　パ˩ティルマー˥ラヌ　バ˩カリ˥ムラ　˩メーラー˥　ク˩モーマラヌ˥　バ˩カリ˥ムラ　パ˩トゥ˥マー　ク˩ル˥シマラーヌ　バ˩カリ˥ムラティ　ア˩ザリ　ブー [sḁ˩ki˥jama: pḁ˩tiruma: ˥ranu ba˩kari˥mura ˩me:ra:˥ ku˩mo:maranu˥ ba˩kari˥mura pḁ˩tu˥ma: ku˩ru˥ʃima:ranu ba˩kari˥murati ʔa˩ʤari bu:](崎山村は波照間島からの分村、宮良村は小浜島からの分村、鳩間村は黒島からの分村といわれている)。

バ˩カリ˥ヤー [ba˩kari˥ja:] 【名】分家。本家から分家した次男以下の所帯。普通は、˩ヤーバカ˥リ [˩ja:baka ˥ri](分家。< 家分かれ >) という。˩ヤーム˥トーラヌ　バ˩カリ˥ヤーナーン　マ˩リサカレー　ゴー˥ラーン [˩ja:mu˥to:ranu ba˩kari˥ja:na:m ma˩risakare: go:˥ ra:ŋ](本家からの分家にも子孫繁昌 < 生まれ盛り > は多い)。

バ˩カリ˥ルン [ba˩kari˥ruŋ] 【自動】1分かれる。分離される。動詞˥バクン [˥bakuŋ](分ける) の未然形に助動詞˩リ˥ルン [˩ri˥ruŋ](られる) が下接して形成された形。˥ミチェー　˥クマーラ　フ˩タマター˥　バ˩カリ˥ルンティ　ス˩クタヌ　ミーマター˥ニ　バ˩カリ˥　ブーバン [˥miʧe: ˥kuma:ra ɸu̥˩tamata:˥ ba˩kari ˥runti su̥˩kutanu mi:mata:ni˥ ba˩kari˥ bu:baŋ](道は二股に分かれると聞いたが三叉路 < 三叉 > に分かれているよ)。バ˩カリ˥ル　˥トンナー　シ˩ルシ˥　タティシケーバ　˥ウマーラ　フ˩タテー˥ニ　バ˩カリ˥リバ [ba˩kari˥ru ˥tonna: ʃi˩ruʃi˥ tḁti ˥ʃi̥ke:ba ˥ʔu-ma:ra ɸu̥˩tate:˥ni ba˩kari˥riba](別れるところに目印を立てて置いてあるから、そこから二手に分かれなさい < 別れれ > よ)。˥ウマーラ　バ˩カリ˥レー　˥ミサムヌ [˥ʔuma:ra ba˩kari˥re: ˥misamunu](そこから別れればいいのに)。2別れる。離別する。˩ウッ˥ツァー　フ˩ターロー˥　バ˩カリ˥ルンティ　ス˩クタヌ˥　マ˩ナ˥マー　バ˩カリラ˥ヌ [˩ʔut˥tsa: ɸu̥˩ta:aro:˥ ba˩kari˥runti su̥˩kutanu˥ ma˩na˥ma: ba˩karira˥nu](彼ら二人は別れる < 離別する > と聞いたが、今は別れないよ)。

パ˩ガリ˥ルン [pa˩gari˥ruŋ] 【自動】剥がれる。剥ぐことができる。˥ティダナ　˥プスカー　˩ペン˥キ　パ˩ガリ˥ルンティ　ス˩クタヌ˥　パ˩ガリラン˥バン˩ナー [˥tidana ˥pu̥suka: ˩peŋ˥ki pa˩gari˥runti su̥˩kutanu˥ pa˩gariram˥ban˩na:](太陽に干すとペンキがはがれると聞いたが、剥がれないのだねえ)。

バ˩カ˥リン [ba˩ka˥riŋ] 【自動】分けられる。分けることが出来る。バ˩キラ˥リン [ba˩kira˥riŋ](分けられる) ともいう。˥バクン [˥bakuŋ](分ける) の未然形に助動詞˥リン [˥riŋ](れる) が下接して形成された可能動詞。フ˩ターチェー˥ニ　バ˩カ˥リンティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　バ˩カラン˥サー [ɸu̥˩ta:ʧe:˥ni ba˩ka˥ rinti ʔu˩mu:tan˥du ba˩karan˥sa:](二つに分けられると思ったが分けられないさ)。˥ウナー　バ˩カ˥リ　˩ベー˥　ムノー　ヌーヤ [˥ʔuna: ba˩ka˥ri ˩be:˥ muno: ˥nu:ja](そこに分けられているのは何か)。˩マー˥ビン　バ˩カ˥リ　˥ムノー　˩ナーヌ [˩ma:˥bim ba˩ka˥ri ˥muno: ˩na:nu](もっと分けられるものはないか)。

パ˩ガ˥リン [pa˩ga˥riŋ] 【自動】剥がれる。剥げる。剥ぐことができる。˥パグン [˥paguŋ](剥ぐ) の未然形に助動詞˥-リン [˥-riŋ](れる) が下接して形成された受け身・可能動詞。バ˩サ˥ヌ　˩カー˥ヤ　˩タンガ˥シ　パ˩ガ˥リンティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　パ˩ガラン˥バン [ba˩sa˥nu ˩ka:˥ja ˩taŋga˥ʃi pa˩ga˥rinti ʔu˩mu:tan˥ du pa˩garam˥baŋ](芭蕉の皮は一人で剥がれる < 剥ぐことができる > と思ったが、剥がれないわい)。

パ˞ガ˜リ　˞ベー˜ン [pa˞ga˜ri ˞be:˜ŋ](剥がれている＜受身＞)。パ˞ガリ˜ル　˜ムノー　ア˞ラ˜ヌ [pa˞gari˜ru ˜muno: ʔa˞ra˜nu](剥がれるものではない＜可能＞)。

バ˞カ˜ルン **[ba˞ka˜ruŋ]** 【自動】1分かる。別々になる。離れる。「派、水出流也、美奈万太和加留＜みなまたわかる＞也」『新撰字鏡』。「天地と別之時從＜わかれしときに＞〜。万、2092」の義。˜アイティ　トゥ˞ジブトゥ˜　バ˞カ˜ルンティ　˞ベータン˜ドゥ　バ˞カラン˜トゥワー˞ヌ [˜ʔaiti tu˞ʤibutu˜ ba˞ka˜runti ˞be:tan˜du ba˞karan˜tuwa:˞nu](喧嘩して夫婦分かれると言っていたが、別れないそうだよ)。バ˞カ˜リ　˜ミサカー　バ˞カ˜レー　˜ミサムヌ [ba˞ka˜ri ˜misaka: ba˞ka˜re: ˜misamunu](別れてよければ別れれば良いのに)。イッ˞カ˜　バ˞カ˜ル　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [ʔik˞ka˜ ba˞ka˜ru ˜kṵto: na˞ra˜nu](決して分かれることは許さない＜ならない＞)。バ˞カ˜リバ [ba˞ka˜riba](別れろ)。2分かる。理解する。了解する。合点が行く。筋道がはっきりする。˞ワー˜　ア˞ズ˜　クトー　バ˞カラ˜ヌテー　ア˞ラ˜ヌ　バ˞カルン˜ドゥ　マ˞ナマ˜ヌ　˞シー˜ヨーシェー　ミ˞トゥミララ˜ヌ [˞wa:˜ ʔa˞ʤu˜kṵto: ba˞karan˜te: ʔa˞ra˜nu ba˞karun˜du ma˞nama˜nu ˞ʃi:˜jo:ʃe: mi˞tumirara˜nu](君の言うことは分からないということではない。分かるが、今のやり方では認められない)。

パ˞カ˜ルン **[pạ˞ka˜ruŋ]** 【他動】1測る。量る。計測する。物差しや秤、枡などで距離、重量、体積、形態などを計量する。「計、ハカル・ハカリミル」『類聚名義抄』の転訛。˜グシン　˜アバン　シタディン　ムー˞ル˜　パ˞カ˜リティル　˞カーシタ [˜guʃiŋ ˜ʔabaŋ ʃị˞ta ˜dim mu:˞ru˜ pạ˞ka˜ritiru ˞ka:ʃị̈ta](酒＜御酒＞も油も醤油＜下地＞も皆量って＜ぞ＞売った)。˜グシ　パ˞カ˜ルンティ　˞ベーン˜ケン　ク˞バシ˜ティ　パ˞カラン˜シェン [˜guʃi pạ˞ka˜runti ˞be:ŋkeŋ ku˞ba˜ʃị̈ti pạ˞kararaŋ˜ʃeŋ](酒を量ろうとしてこぼしてしまい、量れなかった)。パ˞カ˜ル　˜ピンマー　ク˞メーキ˜　パ˞カ˜レー　˜ミサムヌ [pạ˞ka˜ru ˜pimma: ku˞me:ki˜ pạ˞ka˜re: ˜misamunu](量る時は注意深く＜細やかに＞量ればいいのに)。˞ワー˜　ドゥーシ　パ˞カ˜リ [˞wa:˜ du:ʃi pạ˞ka˜ri](君は自分で量れ)。2謀(ハカ)る。他人を陥れようと企(タクラ)む。プ˞スバ˜　パ˞カ˜ルンティ　˞アー˜キ　˜ドゥー　パ˞カラ˜リ　˞ベーン˜ティ [pṵ˞suba˜ pạ˞ka˜runti ˞ʔa:˜ki ˜du: pạ˞kara˜ri ˞be:n˜ti](人を陥れようと企んでいて、自分が謀られているよ)。

バ˞カンガイ˜ルン **[ba˞kaŋgai˜ruŋ]** 【自動】若返る。若年層は、バ˞カンゲー˜ルン [ba˞kaŋge:˜ruŋ](若返る) ともいう。˜アッパー　˞トーカキ˜ヌヨイ　˞シー　オーシター˜　バ˞カンガイ˜リ　˞オール˜バン [˜ʔappa: ˞to:kaki˜nujoi ˞ʃi: ʔo:ʃita:˜ ba˞kaŋgai˜ri ˞ʔo:ru ˜baŋ](お祖母さんは米寿＜トカキの祝い＞をして差し上げたら若返っておられるわい)。ア˞ミ˜ヌ　˞フー˜ター　˞ナーンパー˜ヤ　バ˞カンガイ˜ルンティ　ウ˞ムータン˜ドゥ　˞ピッ˜チン　バ˞カンガイラン˜バン [ʔa˞mi˜nu ˞ɸu:˜ta: ˞na:mpa:˜ja ba˞kaŋgai˜runti ʔu˞mu:tan˜du ˞pit˜ʧim ba˞kaŋgairam˜baŋ](雨が降ったので菜っ葉は若返ると思ったが、ちっとも若返らないわい)。バ˞カンガイ˜ル　プ˞ソー˜　ク˞リ˜　ヌミティ　˞マー˜ビン　バ˞カンガイ˜レー　˜ミサムヌ [ba˞kaŋgai˜ru pṵ˞so:˜ ku˞ri˜ numiti ˞ma:˜ biŋ ba˞kaŋgai˜re: ˜misamunu](若返る人は、これを飲んでもっと若返れば良いのに)。シ˞ディ˜ミジ　˜ヌミティ　バ˞カンガイ˜リバ [ʃi˞di˜miʤi ˜numiti ba˞kaŋgai˜riba](若水を飲んで若返れよ)。

ハ˞ギ **[ha˞gi]** 【名】軒。ひさし (庇)。母屋の縁側から更に軒を出したところ。そこは天井を張らない。「接ぎ」の転訛か。ピ˞サシ [pị̈˞saʃi](庇) とも、パ˞ギ [pa˞gi](庇) ともいう。シ˞ティパギ [ʃị̈˞tipagi](軒の下、土間の部分) は防風、灼熱の太陽光を防ぐ機能を果たした。ハ˞ギヌ　ナーン˜カー　ナ˞チェー　イーリティダヌ　スーワ˜ヌ　˞ヤー˜ヌ　ナ˞カ˜ナー　ブ˞ララヌ [ha˞ginu na:ŋ˜ka: na˞ʧe: ʔi:ritidanu su:wa˜nu ˞ja:˜nu na˞ka˜na: bu˞raranu](庇がないと夏は西日が強くて家の中には居られない)。

˜バキ **[˜baki]** 【名】脇。腋。˜バキナー　˞キーヌ　ムイ˜ルカー　イ˞チニン˜マイ˞ダー [˜bakina: ˞ki:nu mui˜ruka: ʔi˞ʧinim˜mai˞da:](腋に毛が生えたら一人前だよ)。˞キン˜ヌ　バ˞キ˜ヌ　シ˞バー˜ヌ　キ˞サラヌ [˞kin˜nu ba˞ki˜nu ʃi˞ba:˜nu kị̈˞saranu](着物の腋が狭くて着られない)。

˜パギ **[˜pagi]** 【名】1はげ (禿げ)。禿頭。「⊠、ハゲ、無⊠髪也」『文明本節用集』の転訛したもの。˞ウン˜ネーヤ　パ˞ギ˜ヌ　˞タックイ [˞ʔun˜ne:ja pa˞gi˜nu ˞takkui](あの家は禿頭の血統だよ)。2不漁。カ˞ツシンマー˜　イ˞ソー　ゲータ˜ヌ　˜パギ　˞ヤッタ˜ツォー [kạ˞tsuʃimma:˜ ʔi˞so: ge:ta˜nu ˜pagi ˞jatta˜tso:](カツオ漁船は漁に行ったがハゲ＜不漁＞だったそうだ)。

パ˞ギ˜カクン **[pa˞gi˜kakuŋ]** 【自動】脱色しはじめる。色が落ち始める。剥げかける。剥げ始める。˜ドゥ

ク　ッ˩シットーシ˥　ア˩ラウター˥　イロー　パ˩ギ˥カキ　˩ナー˥ヌ [˥duku ʃ˩ʃitto:˥ʃi ʔa˩rauta:˥ ʔiro: pa˩gi˥kąki ˩na:˥nu](あまりにも擦(コス)りすぎて洗ったので脱色しかけて＜剥げかけて＞しまった)。˩ゾーラス˥カー　˩ヌー˥ロー　パ˩ギ˥カクンダ　パ˩ギカカン˥ヨーニ　˩ゾーラサン˥　ブ˩リ˥バ [˩ʤo:rasu˥ka: ˩nu: ˥ro: pa˩gi˥kąkunda pa˩gikąkaŋ˥jo:ni ˩ʤo:rasam˥ bu˩ri˥ba](濡らすと糊は剥げかけるから、剥げかけないように濡らすなよ)。パ˩ギ˥カケーラ　トゥ˩マラヌ [pa˩gi˥kąke:ra tu˩maranu](剥げかけたら止まらない)。

パ˩ギ˥クジ **[pa˩gi˥kuʤi]** 【名】からくじ (空籤)。しらくじ。当らない籤。「剥げ籤」の義。ク˩ジコー˥ンダ　ギュー˩ムシ˥　ピ˩クバン˥　パ˩ギ˥クジ　カー˩ニル˥　ア˩タル [ku˩ʤiko:˥nda gju:˩muʃi˥ pi̥˩kubam˥ pa˩gi˥kuʤi ka:˩niru˥ ʔa˩taru](籤運が悪い＜籤硬い＞ので何度引いても空籤しか当らない＜空籤だけぞ当る＞)。

バ˩キサカ˥サ **[ba˩kisaka˥sa]** 【名】神女＜巫女＞の一人。˩脇司」の義。サ˩カサ [są˩kasa](司。巫女) の側で祈願に必要な祭具類を揃えたり、˩コー˥パナ [˩ko: ˥pana](線香や花米) の準備をし、ア˩ライパナ [ʔa˩raipana](花米を洗って供えるもの) の準備をしたりする巫女で、サカサの脇で手を合わせて拝礼する。それぞれのピ˩キ [pi̥˩ki](ひき。血統) の中から˥サーダカマリ [˥sa:dakamari](セヂ高い生まれの人) の女性がそれになる。ピ˩キピキヌ˥　ウガンナー　バ˩キサカサ˥ヌ　˩オー˥ルン [pi̥˩kipikinu˥ ʔuganna: ba˩kisakasa˥nu ˩ʔo:˥ruŋ](各ヒキの御嶽にはバキサカサ＜脇司＞がおられる)。

パ˩ギ˥ジー **[pa˩gi˥ʤi:]** 【名】痩せ地。地味が痩せて作物があまり生長しない土地。フ˩キ˥ジー [ɸu̥˩ki˥ʤi:](沃土(ヨクド)) の対義語。「剥げ地」の義。˩キー˥ウン　イ˩ビル˥カー　パ˩ギ˥ジー　˥ナリティ　ム˩ヌスク˥ロー　ナ˩ラ˥ヌ [˩ki:ʔuŋ ʔi˩biru˥ka: pa˩gi˥ʤi: ˥nariti mu˩nusu̥ku˥ro: na˩ra˥nu](キャッサバを植えると痩せ地になって他の作物は実らない)。

パ˩ギスブ˥ル **[pa˩gisubu˥ru]** 【名】剥げ頭。禿頭。ウ˩レー˥　バ˩カー˥ムヌヌ　パ˩ギスブ˥ル　˥ナリティ　バ˩カ˥ヤワレー [ʔu˩re:˥ ba˩ka:˥mununu pa˩gisubu ˥ru ˥nariti ba˩ka˥jaware:](彼は若者のくせに剥げ頭になって可笑しいねえ)。

パ˩ギ˥ター **[pa˩gi˥ta:]** 【名】痩せた田圃。地味の痩せた田。「はげ田」の義。パ˩ギ˥ターナーヤ　マ˩タバイン　キーヌ˥パーン　シ˩キックミティ˥　コイ　ナ˩サン˥カー　˩マイヤー　ノーラ˥ヌ [pa˩gi˥ta:-na:ja ma˩tabaiŋ ki:nu˥pa:ŋ ʃi̥˩kikkumiti˥ koi na˩saŋ˥ka: ˩maija: no:ra˥nu](痩せた田圃には、ひこばえ＜又生え＞も木の葉も鋤き込んで肥料にしないと稲は実らない)。

バ˩キ˥ダマ **[ba˩ki˥dama]** 【名】分け前。分与された財産。権利として配分されたもの。追い込み漁等で漁獲物を能力に応じて配分した分量。ジ˩ナン　サンナン˥ヌ　バ˩キ˥ダマー　カ˩キマカル˥ティ　ア˩ザリブー [ʤi˩nan sannan˥nu ba˩ki˥dama: ką˩kimakaru˥ti ʔa˩ʤaribu:](次男三男への財産分与は欠けたお碗のみと言われている)。

バ˩キ˥チ **[ba˩ki˥ʧi]** 【名】バケツ (bucket)。外来語 (英語) の転訛したもの。アルミ板や鉄板製の水桶。逆円錐形の桶で半円形の柄が付いており、天秤棒で担いで水を運んだ。バ˩キ˥チナー　ア˩バッカイルン˥ケン　ミ˩ジ˥　イ˩リティ˥　ムティクー [ba˩ki˥ʧina: ʔa˩bakkairuŋ˥kem mi˩ʤi˥ ʔi˩riti˥ mutiku:](バケツに溢(アフレ)るほど水を入れて持ってこい)。

パ˩キッツァー˥スン **[pą˩kittsa:˥suŋ]** 【他動】吐き散らす。散々に吐く。˩ビーバ˥キ　シ˩ティ˥　マーカマーティ　˩ナー˥ン　˥ムヌ　パ˩キッツァー˥シ　˥シケー [˩bi:ba˥kiti ˥ma:kama:ti ˩na:˥m ˥munu pą˩kittsa:˥ʃi ˥ʃi̥ke:](嘔吐して＜上げて。吐いて＞所構わず＜どこそことなく＞吐き散らしてある)。

パ˩ギッツァー˥スン **[pa˩gittsa:˥suŋ]** 【他動】剥ぎ散らす。散々に剥ぐ。˩クン˥ゾー　ウ˩ク˥リティ　パ˩ギッツァー˥スンティ　˩スンドゥ˥　ギャン˩ティ˥　シ˩ビシゥカリティ˥　パ˩ギッツァーサラ˥ヌ [˩kun˥ʤo: ʔu˩ku˥riti pa˩gittsa:˥sunti ˩sundu˥ gjan˩ti˥ ʃi˩bisi̥kar-iti˥ pa˩gittsa:sara˥nu](腹が立って剥ぎ散らそうとするが、強くくっ付いていて剥ぎ散らされない)。パ˩ギッツァー˥シ　˥ミサカー　パ˩ギッツァー˥ス˥クトー　ナ˩リ˥シバ　˥カイニ　パ˩ギッツァー˥シェー　˥ミサムヌ [pa˩gittsa:˥ʃi ˥misaka: pa˩gittsa:˥su ˥ku̥to: na˩ri˥ʃiba ˥kaini pa˩gittsa:˥ʃe: ˥misamunu](剥ぎ散らしてよければ剥ぎ散らすことは出来るから、このように剥ぎ散らさばいいのに)。パ˩ギッツァー˥シ [pa˩gittsa:˥ʃi](剥ぎ散らせよ)。

パ˩キッ˥ツァーン **[pą˩kit˥tsa:ŋ]** 【形】嘔吐しそうである。嘔吐をもよおす。船酔いしてもどしそうである。「吐きたさ・あり」の転訛したもの。˥フナイ　シ˩ティ˥　ム˩ヌ　パキッ˥ツァーン [˥ɸunai ʃi̥˩ti ˥ mu˩nu pakit˥tsa:ŋ](船酔をして、ものを吐きそうである)。ム˩ヌ　パキッ˥ツァー　˩ナー˥ヌ [mu˩

nu pakitˈtsa: ˈnaːˈnu](嘔吐しそうでない < 吐きたくない >)。ムˈヌ　パキッˈツァー　ˈナルン [muˈnu pakitˈtsa: ˈnaruŋ](嘔吐しそうになる)。ムˈヌパキッˈツァー　ˈピンマー　フˈナブˈヌ　カˈザˈ　カˈビˈバ [muˈnu pakitˈtsa: ˈpimma: ɸuˈnabuˈnu kaˈʤaˈ kaˈbiˈba](嘔吐しそうな時はミカン < 九年母 > の香を嗅ぎなさい)。

バˈキトゥルˈブン [baˈkituruˈbuŋ] 【名】「脇取り盆」の義。かよいぼん (通盆)。給仕に使う盆。幅約 33 センチ、高さ約 6 センチ、長さ約 70 センチの長方形の盆。餅を作る際、脇取り盆に餅粉をふって餅を並べておいたり、供物の料理を並べて持ち運びするのに用いる。イˈキˈパナ [ʔiˈkiˈpana](活花)、アˈライパナ [ʔaˈraipana](洗い花米)、ˈサーˈドー [ˈsaːˈdoː](茶湯)、ˈトゥイˈミョー [ˈtuiˈmjoː](灯明)、ウˈツァナˈク [ʔuˈtsanaˈku](白餅、団子。「御茶の子」の転訛したものか)、ミˈキ [miˈki](神酒)、クバン [ˈkubaŋ](燻製魚肉の角切り) などの供物を各一対、バキトゥリブンに並べて供えられた。ムˈチェーˈ　バˈキトゥルˈブンナー　ナˈラビ　シキˈリ [muˈʧeːˈ baˈkituru ˈbunna: naˈrabi ʃi̥kiˈri](餅は通盆に並べておきなさい)。ˈヤマヤマヌ　ˈグシパナトゥ　ˈクームチェーˈ　バˈキトゥルˈブンナー　イˈリティ　ナーˈ　ピˈキピキヌˈ　ウガン　ˈカミパリバ [ˈjamajamanu ˈguʃipanatu ˈkuːmutʃeːˈ baˈkituruˈbunna: ʔiˈritiˈ ˈnaːˈ pi̥ˈkipikinuˈ ʔugaŋ ˈkamipariba](嶽々への神酒、花米と供物は通盆に入れて各自のヒキ < 氏子組織 > の御嶽へ、頭上に載せて運んで行きなさい)。

ˈバキトゥルン [ˈbakituruŋ] 【他動】分けて取る。分割する。他動詞ˈバクン [ˈbakuŋ] の連用形に、他動詞ˈトゥルン [ˈturuŋ](取る) が下接して形成された複合動詞。ウˈヤˈヌ　ˈザイサン　ˈバキトゥルンティ　ウˈムーˈナ [ʔuˈjaˈnu ˈʤaisam ˈbakiturunti ʔu ˈmuːˈna](親の財産を分けて取ろう < 分割しよう > と思うな)。

ˈパギトゥルン [ˈpagituruŋ] 【他動】剥ぎ取る。ナˈマˈシキ　ˈパギトゥルンティ　ˈスンドゥˈ　パギトゥˈララˈヌ [naˈmaˈʃi̥ki ˈpagiturunti ˈsunduˈ pagituˈ raraˈnu](お焦げを剥ぎ取ろうとするが、剥ぎ取られない)。ˈパギトゥリ　ˈミサカー　ˈパギトゥル　ˈクトー　ˈワケー　ˈナーˈヌ [ˈpagituri ˈmisakaːˈ pagituru ˈku̥toː ˈwakeː ˈnaːˈnu](剥ぎ取ってよければ、剥ぎ取ることは簡単だ < 訳は無い >)。イˈズヌ　カーˈヤ　ˈパギトゥレー　ˈミサムヌ [ʔiˈʤunu kaːˈja ˈpagitureː ˈmisamunu](魚の皮は剥ぎ取れば良いのに)。シˈヌマールˈヌ　ˈカーˈヤ　ˈパギトゥリバ [ʃiˈnumaːruˈnu ˈkaːˈja ˈpagituriba](テングハギ < チヌマン > の皮は剥ぎ取りなさいよ)。

パˈギˈヌー [paˈgiˈnuː] 【名】地滑りを起こして山肌が露出したところ。「剥げ野」の義。樹木が生えていない原野。ˈウマー　パˈギˈヌー　ˈナリティ　ノーˈンˈ　ナˈラˈヌ [ˈʔumaː paˈgiˈnuː ˈnariti noːˈnˈ naˈraˈnu](そこは剥げ野になっていて、何にも利用できない)。

バˈキˈパカ [baˈkiˈpaka] 【名】脇墓。本墓の両脇にある小さな墓。スˈディパカ [suˈdipaka](袖墓) ともいう。本葬 < 洗骨して本墓に納めること > にする前に仮に棺を納めておく墓。出戻りの人や分家筋の人のお骨を納める墓。バˈキˈパカー　ˈアウニブーバˈ　ウナー　ウˈサミˈリバ [baˈkiˈpakaː ˈʔauni buːbaˈ ʔunaː ʔuˈsamiˈriba](脇墓は、今は空いているから、そこに納めなさいよ)。

ハˈギバラー [haˈgibaraː] 【名】軒下の柱。「脛(ハギ)・柱」の転訛か。ヌˈキヤー [nuˈkijaː](本建築。< 貫き家 >) の最外側の柱列をいう。南面の軒を更に外側へ三尺延ばした軒の柱を、シˈティハギ [ʃiˈtihagi](「外脛」の転訛したものか) という。ハˈギバラー　ゴーˈラー　フˈクントゥ　キャーンギバルˈ　シゥˈカイヨーッˈタ [haˈgibaraː goːˈraː ɸu̥ˈkuntu kjaːŋgibaruˈ si̥ˈkaijoːtˈta](脛柱は、多くは福木と槙 < イヌマキ > を使われた)。

パˈギˈフタイ [paˈgiˈɸu̥tai] 【名】禿げ上がった額。「剥げ額」の義。ウˈレーˈ　パˈギˈフタイ　ˈナリティスˈブルˈヌ　ティˈジˈナー　ˈキーヤˈ　プˈスムˈトゥン　ˈナーˈヌ [ʔuˈreːˈ paˈgiˈɸu̥tai ˈnariti suˈburuˈnu tiˈʤiˈnaː ˈkiːjaˈ pu̥ˈsumuˈtun ˈnaːˈnu](彼は額が禿げ上がって < 剥げ額になって >、頭の頂上には毛が一本も生えてない)。

パˈギˈミー [paˈgiˈmiː] 【名】ただれ目。眼瞼湿疹。「⊠、タダレメ」『類聚名義抄』の義。ˈミーパガー [ˈmiːpagaː](剥げ目の人) ともいう。ˈスイドーヌ　ナーンˈタ　ˈケンマー　パˈギミーˈヌ　ˈゴーˈラータル [ˈsuidoːnu naːŋˈta ˈkemmaː paˈgimiːˈnu ˈgoːˈraːtaru](水道がなかった頃はただれ目が多かったものだ)。

バˈキミジ [baˈkimiʤi] 【名】湧き水。バˈキミジェーˈ　イッˈケナˈ　ピˈラˈケーン [baˈkimiʤeːˈ ʔikˈkenaˈ piˈraˈkeːŋ](湧き水は非常に涼しい)。バˈキミジンˈ　アˈラˈナー　ˈアイニ　ˈジンˈバ　シゥˈカイバ　ヌーˈシル　タˈラースワレー　[baˈkimiʤiŋˈ ʔaˈraˈnaː

˺ʔaini ˞ʤim˺ba si̥˺kaiba nuː˺ʃiru ta˞raːsuwareː](湧き水でもないのに、あんなにお金を使ったらどうやって埋め合わされよう＜足す＞か)。

バ˞キ˺ムヌ [ba˞ki˺munu] 【名】分配物。分配すべき物。「分け物」の義。ク˞レー　ワー　タンガ˺ヌ　˺ムノー　ア˞ラ˺ヌ　ムー˞ルヌ˺　バ˞キ˺ムヌ [ku˞reː waː taŋga˺nu ˺munoː ʔa˞ra˺nu muː˞runu˺ ba˞ki˺munu](これは君一人の物ではない。皆への分配物だ)。

ハ˞ギヤー [ha˞gijaː] 【名】母屋に接ぎ足して作った小家。˞ヤーバカ˺リ　˞スン˺ケンマー　˞ウシ˺トー　˺シンタナ　ハ˞ギヤー˺　ス˞ク˺リティ　˺ウナール　˞ベータ˺ル [˞jaːbaka˺ri ˞suŋ˺kemmaː ˞ʔuʃi̥˺toː ˺ʃintana ha˞gijaː˺ su̥˞ku˺riti ˺ʔunaːru ˞beːta˺ru](分家するまでは、弟は家の後ろに母屋に接ぎ足した小屋を作って、そこに＜ぞ＞いたのだ)。

パ˞ギ˺ヤマ [pa˞gi˺jama] 【名】はげやま (禿山)。草ばかり生えて、樹木の生えてない山。ク˞ヌ˺　パ˞ギ˺ヤマナー　ム˞カ˺シェー　フ˞クンキーン　キャーンギキーン˺　ムイ　˞ブタン [ku˞nu˺ pa˞gi˺jamanaː mu˞ka˺ʃeː ɸu̥˞kuŋkiːŋ kjaːŋgikiːm˺ mui ˞butaŋ](この禿山には、昔は福木も槇の木＜イヌマキ＞も生えていた)。

バ˞キラ˺リン [ba˞kira˺riŋ] 【自動】分けられる。他動詞バ˞キ˺ルン [ba˞ki˺ruŋ](分ける) の未然形に受け身・可能の助動詞˺リン [˺riŋ](れる) が下接して形成された受身・可能の派生動詞。˺バー　˞ジン˺マー　˞ミーチェー˺ニ　バ˞キラ˺リ　˞ナー˺ヌ [˺baː ˞ʤim˺maː ˞miːʧeː˺ni ba˞kira˺ri ˞naː˺nu](私のお金は三つに分けられてしまった。受身)。フ˞ターチェー˺ニ　バ˞キラ˺リン [ɸu̥˞taːʧeː˺ni ba˞kira˺riŋ](二つに分けられる＜分けることが出来る＞。可能)。

バ˞キ˺ルン [ba˞ki˺ruŋ] 【他動】分ける。分配する。分割する。˞モー˺ケー　˞マータキナー˺　バ˞キ˺ルンティ　シ˞タンドゥ˺　バ˞キラ˺ヌ [˞moː˺keː ˞maːtakinaː˺ ba˞ki˺runti ʃi̥˞tandu˺ ba˞kira˺nu](儲けは等しく分けると言ったのに分けないよ)。バ˞キ˺　プサンドゥ　バ˞キ˺ル　ム˞ヌ˺ヌ　˞ナー˺ヌ [ba˞ki˺ pu̥sandu ba˞ki˺ru mu˞nu˺nu ˞naː˺nu](分けたいが、分けるものがない)。˞マー˺ビン　バ˞キ˺レー　˺ミサムヌ [˞maː˺bim ba˞ki˺reː ˺misamunu](もっと分ければ良いのに)。˺クベー　ヤー˞ディン˺　バ˞キ˺リ [˺kubeː jaː˞dim˺ ba˞ki˺ri](これだけは必ず分けろ)。

パ˞ギ˺ルン [pa˞gi˺ruŋ] 【自動】1はげる (禿げる)。毛がなくなる。剥げる。「はぐ＜剥ぐ＞、下一・二段」のラ行四段活用化したもの。ス˞ブ˺ル　パ˞ギ˺ルンカヤーティ　˞ソー　シー　ベータン˺ドゥ　パ˞ギラン˺バン [su˞bu˺ru pa˞gi˺ruŋkajaːti ˞soː ʃiː beːtan˺du pa˞giram˺baŋ](頭が禿げるかと心配していたが、禿げないよ)。2土地が痩せる。˞ジー˺ヤ　˺パギティ　˞ウン˺マー　˞ミーラヌ [˞ʤiː˺ja ˺pagiti ˞ʔum˺maː ˞miːranu](土地が痩せて、芋は実らない)。3色が褪せる。˺ティダナー　プ˞サリ˺タンティン　イ˞ル˺ヌ　パ˞ギ˺ル　˺クトー　˞ナー˺ヌ [˺tidanaː pu̥˞sari˺tantiŋ ʔi˞ru˺nu pa˞gi˺ru ˺ku̥toː ˞naː˺nu](太陽光に晒され＜干され＞ても色が褪せる＜禿げる＞ことはない)。4籤が外れる。籤が当らない。ム˞エーヌ˺　クジェー　パ˞ギ˺レー　˺ミサムヌ [mu˞jeːnu˺ kuʤeː pa˞gi˺reː ˺misamunu](頼母子講の籤は当たらなけれ＜外れれ＞ば良いのに)。5失敗する。外れる。シ˞キン˺マー　ク˞トゥシン˺　パギ　˞ナー˺ヌ [ʃi̥˞kim˺maː ku̥˞tuʃim˺ pagi ˞naː˺nu](試験は今年も落ち＜外れて＞てしまった)。

バ˞キンッサー˺ラ [ba˞kinssaː˺ra] 【名】腋。腕のつけ根の下部。「腋の下」の義。バ˞キンッサー˺ラナー　ッ˞ふァバ˺　ユ˞クサンダキバ　シー˺　パリ　˞パッ˺タヤー [ba˞kinssaː˺rana: ˞faba˺ ju˞kusandakiba ʃiː˺ pari ˞pat˺tajaː](脇に子供を横ざまに抱き抱えて走って行ったよ)。バ˞キンッサー˺ラナ　˺グリグリヌ　˺タニ　ス˞ク˺リティ　ヤ˞ミ˺スバン [ba˞kinssaː˺rana ˺gurigurinu ˺tani su̥˞ku˺riti ja˞mi˺subaŋ](腋の下にぐりぐりの種ができて＜ぐりぐりが丸い種を作って＞痛むよ)。

パ˞ク [pḁ˞ku] 【名】箱。˞キー˺パク [˞kiː˺paku](木箱)。カ˞ビパク [ka˞bipaku](紙箱)。˞トー˺フパク [˞toː˺ɸu-pḁku](豆腐箱)。˞ナーブ˺ク [˞naːbu˺ku](縄箱)。˞コーブ˺ク [˞koːbu˺ku](香箱。線香を入れる箱) などがある。シ˞ギイツァ˺シル　パ˞コー˺　ス˞ク˺ル [ʃi˞gi?itsa˺ʃiru pḁ˞koː˺ su̥˞ku˺ru](杉板で＜ぞ＞箱は作る)。パ˞ク˺　ス˞ク˺ラ˞ディー [pḁ˞ku˺ su̥˞ku˺ra˞diː](箱をつくろうよ)。

ハ˞ク˺サイ [hḁ˞ku˺sai] 【名】白菜。標準語からの借用語か。石垣島の商店から種子を購入して栽培していた。ハ˞クサイ˺ヌ　˺タネー　イ˞サナケー˺ラール　˞カイヨーッ˺タ [hḁ˞kusai˺nu ˺tane: ʔi˞sanakeː˺raːru ˞kaijoːt˺ta](白菜の種子は石垣島から＜ぞ＞買われた)。

パ˞ク˺ジミ [pḁ˞ku˺ʤimi] 【名】箱詰め。箱の中に物を詰め込むこと。貴重品は箱に入れて保管したり輸送したりした。˞カン˺ネヌ　プ˞ソー　ヤーウチ

˥リ　˩スンティ　ニームˬチ　˥ナビカマ　マ˩カˬルドングン　ムー˩ルˬ　パ˩クˬジミ　˩シー˥　ス˩コー˥レー [˩kanˬnenu pu̥˩so: ja:ʔutʃiˬri ˩sunti ni:muˬtʃi ˥nabikama ma˩kaˬrudoŋgum mu:˩ruˬ pḁ˩kuˬʥimi ˩ʃi:˥ su̥˩ko:ˬre:](あの家の人は家移り＜引越し＞しようとして、荷物、鍋釜やお椀類も全部箱詰めにされて置いてある)。

ハ˩クジョー [hḁ˩kuʥo:] 【名】薄情。人情の薄いこと。標準語からの借用語。˥アイブー　ハ˩クジョーヌ　ニンˬギンテー　˩バンˬマー　ウ˩モーランˬシェン [˥ʔaibu: ha˩kuʥo:nu niŋˬginte: ˩bamˬma: ʔu˩mo:raŋˬʃeŋ](あのような薄情な人間だとは私には思われなかった)。

ハ˩クジョー　スン [hakuʥo: suŋ] 【連】隠し事を打ち明ける。自分の犯した罪を申し立てる。白状する。標準語からの借用語が転訛したもの。˩ドゥー˥ヌ　˩シェー˥　クトゥ　ムー˩ルˬ　ハ˩クジョー　スンˬツォー [˩du:ˬnu ˩ʃe:˥ ku̥tu mu:˩ruˬ hḁ˩kuʥo: sunˬtso:](自分のしたことはすべて白状するそうだ)。

ハ˩クブン [hḁ˩kubuŋ] 【他動】運ぶ。荷物を運送する。「Facobi, u, ôda. ハコビ, ブ, ウダ (運び, ぶ, だ) 運搬する」『邦訳日葡辞書』。˩パイターˬラ　パ˩トゥˬマー　˩マイ˥　ハ˩クブン＜カ˩ヨースン＞[˩paita:ˬra pḁ˩tuˬma: ˩mai˥ hḁ˩kubuŋ＜ka˩jo:suŋ＞](西表島＜南端＞から鳩間島へ米を運ぶ)。˩キューˬヤ　ハ˩クバヌ [˩kju:ˬja hḁ˩kubanu](今日は運ばない)。ハ˩クビ˥　プサン [hḁ˩kubi˥ pu̥saŋ](運びたい)。ハ˩クブ˥　プ˩ソー　ターˬヤ [hḁ˩kubuˬ pu̥˩so: ta:ˬja](運ぶ人は誰か)。˩パーˬク　ハ˩クベー˥　ミサムヌ [˩pa:ˬku hḁ˩kube:˥ misamunu](早く運べば良いのに)。˩ワー˥　ドゥーシ　ハ˩クビ [˩wa:˥ du:ʃi hḁ˩kubi](君は自分で運べ)。

パ˩クマッふァ [pḁ˩kumaffa] 【名】箱枕。板で箱形に作った枕。縦約 12 センチ、横約 18 センチ、高さ約 7 センチの箱を作って枕としたもの。軽くて扱いやすく、老人たちに重宝された。パ˩クマッふァー˥　カ˩ニフン　ピッˬチン　シゥ˩カーンドーˬシ　ス˩クラˬリ　ブ˩タト ダー [pḁ˩kumaffa:˥ ka˩niɸum pitˬtʃin si̥˩ka:ndo:ˬʃi su̥˩kuraˬri bu˩taɺ-da:](箱形枕は鉄釘一本も使わないで作られていたよ)。

バ˩クˬヨー [ba˩kuˬjo:] 【名】牛馬などの家畜を仲介、周旋(シュウセン)する人。西表の山から貴重な建築材を伐り出したり、その仲介、周旋をする人。建材の仲買人。「ばくろう (博労)」の転訛したものか。ウ˩レー˥　バ˩クヨーˬバ　˩シールˬ　ムノー　ッ˩ふァイ　ブーˬティバン˩ナー [ʔu˩re:ˬ ba˩kujo:ˬba ˩ʃi:ruˬ muno: f˩faibu:ˬtiban˩na:](彼は博労をして生活して＜飯を食って＞いるってねえ)。

˥ハクラン [˥hḁkuraŋ] 【名】病気の名。コレラ (cholera)。コレラ菌による、米のとぎ汁状の激しい下痢を伴う疾患『医学沖縄語辞典』。「かくらん＜霍乱＞」の転訛したもの『石垣方言辞典』。˥ハクラン　カ˩カˬリティ　ユ˩ナカーˬラ　˥マリ　˥パキ　˩シー˥ベーˬタ [˥hakuraŋ kḁ˩kaˬriti ju˩nakaːˬra ˥mari ˥pḁki ˩ʃi: be:ˬta](コレラ＜霍乱＞に罹って、夜中から下痢や嘔吐していた)。

˥バクン [˥bakuŋ] 【他動】わかつ。区別する。弁別する。配分する。「〜布由奈都登　和久許等＜ワクコト＞母奈久〜。万、4003」の転訛。イ˩ゾー　ミーキブルˬニ　˥バクンティ　ウ˩ムーンˬドゥ　バ˩カランˬサー [ʔi˩ʥo: mi:kiburuˬni ˥bakunti ʔu˩mu:nˬdu ba˩karanˬsa:](魚は三軒分に分けようと思うが、分けられないさ)。˩カッティニ˥　バキ　˥ミサカー　˥バク˥　クトー　˥ナルン [˩kattini˥ baki ˥misaka: ˥baku ˥ku̥to: ˥naruŋ](勝手に分けてよければ、分けることは出来る)。フ˩ターチェーˬニ　˥バケー　˥ミサムヌ [ɸu̥˩ta:tʃeːˬni ˥bake: ˥misamunu](二つに分ければ良いのに)。ヤー˩ディン　ミーチェーˬニ　˥バキ [ja:˩dim mi:tʃeːˬni ˥baki](必ず三つに分けよ)。

˥バクン [˥bakuŋ] 【他動】木をひく＜挽(ヒ)く＞。切り割る。鋸を挽いて木を縦に切り裂く。「わく＜分く＞」の義。˩キー˥バ　˥バキティ　˥イツァ　ス˩クˬルンティ　ウ˩ムーンˬドゥ　˩タンガˬシェー　バ˩カラˬヌ [˩ki:ˬba ˥bakiti ˥ʔitsa su̥˩kuˬrunti ʔu˩mu:nˬdu ˩taŋgaˬʃe: ba˩karaˬnu](木を挽いて板を作ろうと思うが、一人では挽かれない)。バ˩キ　ヤッˬサル　˥キーラ　˥バク　˥クトゥ [ba˩ki jasˬsaru ˥ki:ra ˥baku ˥kutu](挽きやすい木から挽くこと)。˩コーˬキーン　˥バケー　˥ミサムヌ [˩koːˬ ki:m ˥bake: ˥misamunu](硬い木材も挽けばいいのに)。˩キーバキヌキˬルシ　˥キー˥バキバ [˩ki:bakinukiˬruʃi ˥ki: ˥bakiba](木挽き鋸で木を挽けよ)。

バ˩クン [ba˩kuŋ] 【自動】1湧く。湧出する。「〜又、水之泡、和久 (わく)」『新撰字鏡』の転訛。˩カーヌ˥　ミ˩ジヌ˥　バ˩クンˬケン　ニ˩ビ˥　マティ　˩ベーンˬドゥ　マ˩ナˬマート　バ˩カンバン [˩kaːnuˬ mi˩ʥinuˬ ba˩kuŋˬken ni˩biˬ mati ˩be:nˬdu ma˩naˬma:to: ba˩kambaŋ](井戸の水が湧くまで寝て待っているが、まだまだ湧かないよ)。˩ターヌ　˩カンˬヌ　˥アザーラ　ミ˩ジヌ˥　バ˩キˬンジ　˩ベー [˩taːˬnu ˩kanˬ

nu ˥ʔadʑaːra miˬdʑinu˥ baˬki˥ ʔndʑi ˬbeː](田圃の上の畦から水が湧き出ている)。ミˬジヌ˥　バˬク　ター˥ヤ　バˬケーラマシティル˥　アˬズ [miˬdʑinu˥ baˬku taː˥ja baˬkeːramaʃitiru˥ ʔaˬdʑu](水が湧く田圃はバケーラマシという)。ミˬジェー　パー˥ク　バˬケー˥ミサムヌ [miˬdʑeː paː˥ku baˬkeː˥ misamunu](水は早く湧けばいいのに)。2醗酵する。熟成する。ˬミー˥ソー　ンマーˬンマー˥シ　バˬケー˥ン [ˬmiː˥soː ʔmmaːˬ ʔmmaː˥ʃi baˬkeː˥ŋ](味噌は美味しく熟成した＜醗酵した＞)。

˥パクン [˥pa̧kuŋ] 【他動】吐く。嘔吐する。˥フナイシˬティ˥　ムヌ　˥パクンティ　シˬタンドゥ˥　パˬカラン˥シェン [˥ɸunai ʃi̥ˬti˥ munu ˥pa̧kunti ʃi̥ˬtandu˥ pa̧ˬkaraŋ˥ʃeŋ](船酔いして吐こうとしたが吐かれなかった)。˥クナー　˥パキ　˥ミサン [˥kunaː ˥pa̧ki ˥misaŋ](ここに吐いていい)。˥パク　プˬソー˥　ブˬラーヌ [˥pa̧ku pu̥ˬsoː˥ buˬraːnu](吐く人はいない)。ˬパー˥ク　˥パキ [ˬpaː˥ku ˥pa̧ki](早く吐け)。

パˬクン [pa̧ˬkuŋ] 【他動】首にかける。数珠やネックレスなどを首に貫きかける。ˬ穿く、佩く」と同源か。マˬブ˥ル　˥クミティ　ˬブー˥ダマ　˥ヌビナー　パˬクンティ　スンドゥ˥　パˬカラヌ [maˬbu ˥ru ˥kumiti ˬbuː˥dama ˥nubinaː pa̧ˬkunti sundu˥ pa̧ˬkaranu](霊籠めをして麻玉を首にかけようとするが、首にかけられない)。パˬキ˥　ミサカー　パˬク˥　クトー　˥ナルン [pa̧ˬki˥ misakaː pa̧ˬku˥ ku̥toː ˥naruŋ](首にかけてよければ、かけることは出来る)。˥ヌビナー　パˬケー˥　ミサムヌ [˥nubinaː pa̧ˬkeː˥ misamunu](首にかければいいのに)。クˬレー˥　ヌビナー　パˬキ˥バ [kuˬreː˥ nubinaː paˬki˥ba](これは首にかけなさいよ)。

パˬクン [pa̧ˬkuŋ] 【他動】被る。背負う。背負い込む。償う。弁償する。クˬヌ˥　ウカー　˥バー　パˬクンダ　ワー˥　パˬカン˥タンティン　˥ミサン [kuˬnu˥ ʔukaː ˥baː pa̧ˬkunda waː˥ pa̧ˬkan˥tantim ˥misaŋ](この借金は私が被るから、君は被らなくてもいい)。˥ウカー　ムーˬル˥　バー　パˬキ˥ミサンドゥ　パˬク　プソー˥　ビチナーン　ブˬリブンダー˥　ウˬリンヌン˥　パˬカシェー˥　ミサムヌ [˥ʔukaː muːˬru˥ baː paˬki˥ misandu pa̧ˬku pu̥soː˥ bitʃinaːm buˬribundaː˥ ʔuˬrinnum˥ pa̧ˬkaʃeː˥ misamunu](借金は全部私が被ってもよいが、被る＜背負い込む＞人は他にもいるから、彼にも被らせれば＜背負わせれば＞いいのに)。˥クベー　ˬワー˥　パˬキ˥バ [˥kubeː ˬwaː˥ pa̧ˬki˥ba](これだけは君が被り＜弁償＞なさいよ)。

˥パグン [˥paguŋ] 【他動】剥ぐ。はがす。へがす。ˬ〜もむ楡を五百枝波伎＜ハギ＞垂れ〜。万、3886」の転訛したもの。シˬヌマール˥ヌ　˥カー　˥パグンティ　ˬベーン˥ドゥ　ˬバン˥マー　パˬガラ˥ヌ [ʃiˬnumaːru ˥nu ˥kaː ˥pagunti ˬbeːn˥du ˬbam˥maː paˬgara˥nu](テングハギの皮を剥ごうとしているが、私には剥がれない)。˥パギ　ミサカー　ˬパー˥ク　˥パゲー　˥ミサムヌ [˥pagi misakaː ˬpaː˥ku ˥pageː ˥misamunu](剥いでよければ早く剥げば良いのに)。ˬカー˥ヤ　˥ドゥーシ　˥パグ　˥クトゥ [ˬkaː˥ja ˥duːʃi ˥pagu ˥ku̥tu](皮は自分で剥ぐこと)。˥パギバ [˥pagiba](剥げよ)。

˥パグン [˥paguŋ] 【自動】1禿げる。ˬ禿ぐ＜下二活用＞」の四段活用化したもの。パˬギ˥ルン [paˬgi˥ruŋ](禿げる) ともいう。スˬブ˥ル　˥パグン [suˬbu˥ru ˥paguŋ](頭が禿げる)。パˬガ˥ヌ [paˬga˥nu](禿げない)。˥パギ　ˬナー˥ヌ [˥pagi ˬnaː˥nu](剥げてしまった)。˥パグ　˥クトー　ˬナー˥ヌ [˥pagu ˥ku̥toː ˬnaː˥nu](禿げることは無い)。˥パゲー　˥ミサムヌ [˥pageː ˥misamunu](禿げれば良いのに)。˥パギ [˥pagi](禿げろ)。2脱色する。˥テダナー　˥プスカー　˥イローパグンˬダー [˥tidanaː ˥pu̥sukaː ˥ʔiroː pagunˬdaː](太陽に干すと色が褪せる＜禿ぐ。禿げる＞よ)。

バˬケーラ [baˬkeːra] 【名】湧泉。ˬ湧き川原」の転訛したものか。バˬケーラヌ˥　アン　˥トンマー　ミˬジェー˥　キˬシラ˥ヌ [baˬkeːranu˥ ʔan ˥tomma: miˬdʑeː˥ ki̥ˬʃira˥nu](湧水のある所は、水は切れない)。

バˬケーラマシ [baˬkeːramaʃi] 【名】湧水のある田圃。ˬ湧水田」の義。ˬクーラ˥ナー　バˬケーラマシティ　スー˥　カˬザケーヌ　ター˥ヌ　˥アン [ˬkuːra˥naː baˬkeːramaʃiti suː˥ kaˬdʑakeːnu taː˥nu ˥ʔaŋ](久浦にバケーラマシ＜湧水田＞という加治工家の田圃がある)。

˥バコー [˥bakoː] 【名】結いによる共同作業。村人が相互に労働提供の義務を負う共同作業。ˬばくろう (博労、バクラウ)『文明本節用集』(室町)」→ [bakurau] → [bakuroː] → [bakkoː] → [bakoː]＜物と物を交易すること＞と音韻変化し、意味も「結いによる共同作業」へと派生変化したものと考えられる。ヤˬマ˥バコー [jaˬma˥bakoː](建築用材伐り出しの共同作業)。ˬヤースクリ˥バコー [ˬjaːsukuri˥bakoː](家作りの共同作業) などがある。バˬコーシン˥カ　タˬナ˥ミティ　ˬマーレー˥ヌ　˥ヤマーラ　ˬザイ˥ギ　˥キシ　ウˬラ˥ソーッタ [baˬkoːʃiŋ˥ka taˬna˥miti ˬmaːreː˥nu ˥jamaːra ˬdʑai˥gi ˥ki̥ʃi ʔuˬra˥soːtta](共同作業の人員＜仲間、ˬ臣下」

の義か＞を頼んで、西表島のマーレー山から建築用材を切って下ろされた)。˥バコー　˩シェー˥ティル　˩ヤー˥ヤ　ス˩クˬル [˥bako: ˩ʃe:˥tiru ˩ja:˥ja sɯ̥˩kuˬru](共同作業をして家は建てる)。

パ˩ゴー˥サン **[pa˩go:˥saŋ]** 【形】パ˩ゴー˥ン [pa˩go:˥ŋ] ともいう。1汚い。嫌らしい。˩ヤー˥ヌ　˥カキソージン　˩サンユンダ　ウン˥ネーヤ　パ˩ゴー˥サン˩ダー [˩ja:˥nu ˥kąkiso:ʤin ˩saŋjunda ʔun˥ne:ja pa˩go:˥san˩da:](家の掃除もしないから、あの家は汚いよ)。パ˩ゴーサ˥ヌ　˥パン　イ˩リララヌ [pa˩go:sa˥nu ˥paŋ ʔi˩riraranu](汚くて足も入れられない)。パ˩ゴーサナー˥ヌ [pa˩go:sa na:˥nu](汚くない)、パ˩ゴー˥サ˥トン　˩パン˥ナ [pa˩go:˥sa ˥tom ˩pan˥na](汚い所へ行くな)。2くすぐったい。グ˩ズラ˥リティ　パ˩ゴーサ˥ヌ　˩カウワ˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [gu˩ʤura˥riti pa˩go:sa˥nu ˩kauwa˥nu na˩ra˥nu](くすぐられ＜擽＞て、くすぐったくて堪らない)。3畏れ多い。シ˩タ˥フカ˩キラン˥カー　パ˩ゴーサ˥ヌ　˩カンヌ˥マイ　ン˩ジララ˥ヌ [ʃi̥˩ta˥ɸu kąkiraŋ˥ka: pa˩go:sa˥nu˩kannu˥mai ʔn˩ʤirara˥nu](神衣装を着ないと畏れ多くて神様の前には出られない)。

バ˩コーシン˥カ **[ba˩ko:ʃiŋ˥ka]** 【名】共同作業の人員。共同作業仲間。バ˩コーシン˥カ　タ˩ナ˥ミティ　˥イダフニ　˥ニスーラ　˩ザイ˥ギ　˥キシン　˩パイ˥ター　˩オー˥ッタ [ba˩ko:ʃiŋ˥ka ta˩na˥miti ˥ʔidaɸuni ˥nisu:ra ˩ʤai˥gi ˥kiʃim ˩pai˥ta: ˩ʔo:t˥ta](共同作業の人員を頼んで、サバニ2隻から、建築用材木を伐り出しに西表＜南端＞へ行かれた)。

バ˩コー˥プス **[ba˩ko:˥pu̥su]** 【名】共同作業をする人。˩ヤースクリヤー˥ヌ　バ˩コー˥プス　シゥ˩カ˥ナウンティ　˩キッ˥ス　˩シーベー [˩ja:sɯ̥kurija:˥nu ba˩ko:˥pu̥su si̥˥ka˥naunti ˩kis˥su ˩ʃi:be:](新築をする家の共同作業人を接待する＜養う＞のに一生懸命やっている)。

パ˩コー˥マ **[pḁ˩ko:˥ma]** 【名】小箱。˩コーブ˥ク [˩ko:bu˥ku](香箱) や˩ジン˥パク [˩ʤim˥pḁku](銭箱) などは、パ˩コー˥マ [pḁ˩ko:˥ma](小箱) であった。ウ˩ブ˥パコーラ　パ˩コー˥マー　ン˩ベーマ˥ナー　˥バキ　イ˩リ˥バ [ʔu˩bu˥pḁko:ra pḁ˩ko:˥ma: ʔm˩be:ma˥na: ˥baki ʔi˩ri˥ba](大きな箱から小箱へ少しずつ分けて入れなさいよ)。

パ˩ゴー˥ムニ **[pa˩go:˥muni]** 【名】汚い言葉。いやらしい言葉。畏れ多い言葉。神仏にたいする失礼な言葉。˥アイブ　パ˩ゴームニ˥バ　プ˩スンナー˥ニ　ア˩ズムノー˥　ア˩ラ˥ヌ [˥ʔaibu pa˩go:muni˥ba pu̥˩sunna: ˥ni ʔa˩ʤumuno:˥ ʔa˩ra˥nu](あんな汚い言葉を他人に言うものではない)。

パ˩ゴー˥ムヌ **[pa˩go:˥munu]** 【名】汚いもの。不潔なもの。˥アイブ　パ˩ゴー˥ムノー　カ˩サムナ [˥ʔaibu pa˩go:˥muno: kḁ˩samuna](あんな汚いものはつかむな)。

バ˩コー˥ヤー **[ba˩ko:˥ja:]** 【名】˥バコー [˥bako:](共同作業) を行う家。共同作業をするために人手を集めている家。バ˩コー˥ヤーナ　˩ギー˥　ノー˩ン˥　ヤ˩ラバン　テー˥ナイ　˩シー˥　クー˩ディー [ba˩ko:˥ja:na ˩gi:˥ no:˩ɲ˥ ja˩raban te:˥nai ˩ʃi:˥ ku:˩di:](共同作業をする家に行って、何か＜何であっても＞手伝いをしてこようよ)。

˥バサ **[˥basa]** 【名】(植) 芭蕉。˩トー˥バサ [˩to:˥basa](実芭蕉、唐芭蕉)、シ˩マ˥バサ [ʃi˩ma˥basa](繊維を採る芭蕉、島芭蕉、実の小さい在来種の芭蕉)、˩マーバサ [˩ma:basa](実のなる芭蕉)。˩タイワン˥バサ [˩taiwam˥basa](台湾渡来の実の大きい芭蕉) などがある。ム˩カ˥シェー　ニ˩チ˥ヌ　ン˩ジ˥ルカー　バ˩サ˥ムトゥ　˩トー˥シキー　˥キシ　˩マンナカー　シッ˥キティ　˩マッ˥ふァ　シ˩ミティ˥　ウ˩リシ˥ル　˥ニチェー　サ˩マシタ˥ル [mu˩ka˥ʃe: ni˩ʧi˥nu ʔn˩ʤi˥ruka: ba˩samu˥tu ˩to:˥ʃiki: ˥kiʃi ˩mannaka: ʃik˥kiti ˩maf˥fa ʃi˩miti˥ ʔu˩riʃi˥ru ˥nitʃe: sa˩maʃi̥˥ta˥ru](昔は熱が出ると芭蕉の木を切り倒してきて、適当に切って真ん中を叩いて枕にさせて、それで＜ぞ＞熱を冷ま＜解熱＞させたものだ)。

バ˩サ **[ba˩sa]** 【名】馬車。若年層は、バ˩シャ [ba˩ʃa](馬車) という。貨物運搬用の荷馬車。鳩間島にはなかった。昭和40年頃まで、石垣島の桟橋には、沖縄からの貨物を各商店へ運ぶ荷馬車が多数待機していた。ム˩カ˥シェー　イ˩サナキヌ　サンバ˥シェーラ　マ˩チヤーバー˥ケー　バ˩サ˥シル　˩ニー˥ヤー　カ˩ヨーシタ [mu˩ka˥ʃe: ʔi˩sanakinu samba˥ʃe:ra ma˩ʧija:ba:˥ke: ba˩sa˥ʃiru ˩ni:˥ja ka˩jo:ʃi̥˥ta](昔は、石垣の桟橋から商店までは馬車で荷を運んだ＜通わせた＞)。

˥バサーギ **[˥basa:gi]** 【助】助詞連語。～をさえ。対格の格助詞˥バ [˥ba](を) に副助詞˥サーギ [˥sa:gi](さえ) が付いた形。ウ˩ヤ˥バサーギ　ウ˩キ˥ナー　シゥ˩カシ˥　キ˩ラ˥リカー　˩ソーヤ　ナー˥ヌドゥ [ʔu˩ja˥basa:gi ʔu˩ki˥na: si̥˥kaʃi˥ ki˩ra˥rika: ˩so:ja na:˥nudu](親をさえ沖縄へお連れして来れたら心配はないのだが)。

˥バサーギル **[˥basa:giru]** 【助】助詞連語。～をさえ＜

ぞ＞。ティ˩ガミ˥バサーギル　˥カク　ス˩ム˥チ　ユ˩マン˥クトー　˩ナー˥ヌ [ti˩gami˥basa:giru ˥kąku su˩mu˥ʧi ju˩maŋ˥ ku̥to: ˩na:˥nu](手紙をさえ＜ぞ＞書くのだから、書物を読まないことはない)。

バ˩ザールン **[ba˩ʤa:ruŋ]** 【自動】勢いづく。勢いが強くなり、暴れまくる。パ˩ジンヌ˥　シー　˩コー˥スカー　パ˩ジンマー˥　バ˩ザールンダ˥　バ˩ザーラサン˥ヨーニ　キ˩ボーシ˥　フ˩チマラ˥シ [pa˩ʤinnu˥ ʃi: ˩ko:su˥ka: pa˩ʤimma:˥ ba˩ʤa:runda˥ ba˩ʤa:rasaŋ˥jo:ni ki˩bo:ʃi˥ ɸu̥˩ʧimara˥ʃi](蜂の巣を取り潰(ツブ)す＜壊す＞と蜂は猛烈に暴れまくるから暴れないように煙を燻(クスブ)らせなさい)。パ˩ジンヌ˥　バ˩ザーリティ˥　ン˩カーラヌ [pa˩ʤinnu˥ ba˩ʤa:riti˥ ʔŋ˩ka:ranu](蜂が暴れて近寄れない)。バ˩ラフ˥タ˩モーシティ˥　キ˩ボーシ˥　フ˩チマラ˥スカー　バ˩ザール˥　クトー　˩ナー˥ヌ [ba˩raɸu̥˥ta ˩mo:ʃi̥ti˥ ki˩bo:ʃi˥ ɸu̥˩ʧimara˥suka: ba˩ʤa:ru˥ ku̥to: ˩na:˥nu](稲藁を燃やして燻らせると蜂が暴れることはない)。パ˩ジンヌ˥　バ˩ザーレー˥ラー　˩デー˥ジ˩ダー [pa˩ʤinnu˥ ba˩ʤa:re:˥ra: ˩de:˥ʤi˩da:](蜂が暴れたら大変だよ)。カ˩タ˥ヌ　バ˩ザーリティ　マイヌパー˥　ッ˩ふァイキサリ　ナー˥ヌ [ką̥˩ta˥nu ba˩ʤa:riti main-upa:ja˥ ˩faikisari na:˥nu](バッタ＜飛蝗(ヒコウ)。イナゴ＞が異常発生して暴れまくり、稲の葉は食い尽くされてしまった)。

バ˩ザウン **[ba˩ʤauŋ]**【他動】さばく (捌く)。解体する。魚や鶏、豚などを切り開いて肉・骨などに分ける。イ˩ズ˥　バ˩ザイティ˥　バタ　˥トゥリバ [ʔi˩ʤu˥ ba˩ʤaiti˥ bata ˥turiba](魚を捌(サバ)いてはらわた＜腸＞を取りなさいよ)。バ˩ザイ　シェー˥カー　˥ドゥーシ　バ˩ザウンドゥ　バン˥マー　バ˩ザーラヌ [ba˩ʤai ʃe:˥ka: ˥du:ʃi ba˩ʤaundu bam˥ma: ba˩ʤa:ranu](捌き得たら自分で捌くが、私には捌かれない)。バ˩ザウ˥　イ˩ゾー　パー˥ク　バ˩ザイヤー˥　ミサムヌ [ba˩ʤau˥ ʔi˩ʤo: pa:˥ku ba˩ʤaija:˥misamunu](捌く魚は早く捌けばいいのに)。イ˩ゾー˥　ドゥーシ　バ˩ザイ˥バ [ʔi˩ʤo:˥ du:ʃi ba˩ʤai˥ba](魚は自分で捌きなさいよ)。

パ˩ザキルン **[pa˩ʤakiruŋ]** 【他動】機会を逸する。幸運を取り逃がす。パ˩ザクン [pa˩ʤakuŋ](機会を逸する。幸運を逸する) ともいう。補助動詞となって動詞の連用形に下接し、～損ねる、～する機会を逸する、～チャンスを逸する、の意味を表す。˩ヨーンナー　スー˥カー　˩コッ˥チー　ッ˩ふァイ˥　パ˩ザキルンダ˥　ッ˩ふァイ˥　パ˩ザキラン˥　ヨーニ　˩パー˥ク　カ˩タジキ˥リバ [˩jo:nna: su:˥ka: ˩kot˥ʧi: ˩fai˥ pa˩ʤakirunda˥ ˩fai˥ pa˩ʤakiraŋ˥ jo:ni ˩pa:˥ku ka˩taʤiki˥riba](ゆっくりするとご馳走にありつける機会を逸するから、機会を逸しないように早く片付けなさいよ)。ッ˩ふァイ˥　パ˩ザキル˥クトー　˩ナーヌ˥ヌ　ッ˩ふァイ˥　パ˩ザキ　ナーン˥カー　シ˩カター＜˩シー˥ヨー＞　ナー˥ヌ [˩fai˥ pa˩ʤakiru˥ku̥to: ˩na:nu˥nu ˩fai˥ pa˩ʤaki na:ŋ˥ka: ʃi̥˩kata:＜˩ʃi:˥jo:＞ na:˥nu](食べる幸運を逸することはないが、逸してしまったのなら仕方が無い)。ッ˩ふァイ˥　パ˩ザキレー˥　ナラヌ [˩fai˥ pa˩ʤakire:˥ na˩ra˥nu](食べる好機を逸してはならぬ)。ナー˩イベー˥ティ　ッ˩ふァイ˥　パ˩ザキリ˥バ [na:˩i be:˥ti ˩fai˥ pa˩ʤakiri˥ba](何もしないでいて、食べる好機を逸しろよ)。

˥バサキン **[˥basakiŋ]** 【名】芭蕉布で作った着。「芭蕉着」の義。˥バサキンマー　ピ˩ラ˥ケーンダー　ナ˩チェー˥　ウ˩リシ˥ル　˩キン˥マー　˩サーソーッ˥タ [˥basakimma: pi˩ra˥ke:nda: na˩ʧe:˥ ʔu˩riʃi˥ru ˩kim˥ma: ˩sa:so:t˥ta](芭蕉着は涼しいので、夏はそれで＜ぞ＞着物は新調された)。ナ˩チェー˥　バサキン　キ˩ス˥カー　イッ˩ケン˥　ピ˩ラ˥ケータン [na˩ʧe:˥ basakiŋ ki̥˩su˥ka: ʔik˩kem˥ pi˩ra˥ke:taŋ](夏は芭蕉着を着ると非常に涼しかった)。

パ˩ザクン **[pa˩ʤakuŋ]** 【他動】 1(他動)。機会を逸する。幸運を取り逃がす。˩クン˥ドー　シ˩キン˥マー　パ˩ザキナー˥ヌ [˩kun˥do: ʃi̥˩kim˥ma: pa˩ʤakina:˥nu](今度は、試験は失敗してしまった)。2補助動詞。動詞の連用形に下接して、～損ねる、～する機会を逸する、～チャンスを逸する、の意味を表す。ッ˩ふァイパザクン [˩faipaʤakuŋ](食べ損ねる。食べる機会を逸する)。ミ˩リパザ˥クン [mi˩ripaʤa˥kuŋ](見損ねる。見る機会を逸する)。˩シーパザクン [˩ʃi:paʤakuŋ](し損ねる。する機会を逸する)。˩コッ˥チー　ッ˩ふァイ　パザキナー˥ヌ [˩kot˥ʧi: ˩fai paʤakina:˥nu](ご馳走を食べ損ねてしまった)。ウ˩クリル˥カー　ッ˩ふァイパザクン [ʔu˩kuriru˥ka: ˩faipaʤakuŋ](遅れたら食い損ねる)。イッ˩カ˥　ッ˩ふァイパザカヌ [ʔik˩ka˥ ˩faipaʤakanu](決して食い損ねない)。˩パイ˥サ　˥パルカー　ッ˩ふァイパザク˥　クトー　˩ナー˥ヌ [˩pai˥sa ˥paruka: ˩faipaʤaku˥ ku̥to: ˩na:˥nu](早く行ったら食い損ねることはない)。ッ˩ふァイパザケー˥　ミサムヌ [˩faipaʤake:˥ misamunu](食い損ねたらいいのに)。ッ˩ふァイパザキ˥バ [˩faipaʤaki˥ba](食い損ねろ)。

パ˞サ˥シ [pa̠˞sa˥ʃi] 【名】しゃこ貝の貝柱。ギ˞ラ˥ヌ　パ˞サ˥シェー　ナ˞マ˥シ　˞スー˥カー　イッ˞ケナ˥ン˞マー˥ン [gi˞ra˥nu pa̠˞sa˥ʃe: na˞ma˥ʃi ˞su:˥ka: ʔik˞kena˥ ʔm˞ma:˥ŋ](しゃこ貝の貝柱は刺身にすると非常に美味しい)。

パ˞ザ˥スン [pa˞ʤa˥suŋ] 【他動】着物を脱がせる。脱衣させる。使役動詞。ヤ˞ラビ˥ヌ　˥キン　パ˞ザ˥スン [ja˞rabi˥nu ˥kim pa˞ʤa˥suŋ](子供の着物を脱がせる)。˥キン　パ˞ザサラ˥ヌ [˥kim pa˞ʤasara˥nu](着物を脱がされない)。パ˞ザシ˥　グ˞リ˥サン [pa˞ʤaʃi˥ gu˞ri˥saŋ](脱がせにくい。脱がせることが難しい)。˥キン　パ˞ザ˥ス　˥クトー　ナ˞ラ˥ヌ [˥kim pa˞ʤa˥su ˥ku̠to: na˞ra˥nu](着物を脱がせることは出来ない)。パ˞ザ˥シェー　˥ミサムヌ [pa˞ʤa˥ʃe: ˥misamunu](脱がせれば良いのに)。パ˞ザ˥シバ [pa˞ʤa˥ʃiba](脱がせろ)。

バ˞サ˥ヌ　˥ウディ [ba˞sa˥nu ˥ʔudi] 【連】芭蕉の葉柄。「芭蕉の腕」の義。長さ約 30 センチの芭蕉の葉柄 2 本を約 20 センチのススキの幹 2 本で井の字型のカ˞ビヤキムヌ [ka˞bijakimunu](紙銭焼き台)を作った。バ˞サ˥ヌ　˥ウディシ　カ˞ビヤキムヌ˥　ス˞ク˥リティ　˞ウンナー˥ル　ウ˞ティン˥ガベー　ア˞ボーッ˥タ [ba˞sa˥nu ˥ʔudiʃi ka˞bijakimunu˥ su̠˞ku˥riti ˞ʔunna:˥ru ʔu˞tiŋga˥be: ʔa˞bo:t˥ta](芭蕉の葉柄で紙銭焼き台を作って、その上に紙銭 < 打ち紙 > を焼かれた < 炙られた。老年層の言葉 >)。

バ˞サ˥ヌ　˥カー [ba˞sa˥nu ˥ka:] 【連】芭蕉の皮。バ˞サ˥ヌ　˥カー　˥パギティ　˥ナビナ　˞ネーシティ˥　バター　˥パギ　˥トゥリティル　˥イトー　トゥ˞ローッ˥タ [ba˞sa˥nu ˥ka: ˥pagiti ˥nabina: ˞ne:ʃi̠ti˥ bata: ˥pagi ˥turitiru ˥ʔito: tu˞ro:t˥ta](芭蕉の皮を剥いで、鍋に煮て肉質部 < 腸 > を剥ぎ取って糸を取られた)。

バ˞サ˥ヌ　ス˞ブ [ba˞sa˥nu su˞bu] 【連】芭蕉の渋。ス˞ブバリサンシンマー˥　バ˞サ˥ヌ　ス˞ブ˥シ　カ˞ビ˥　パ˞リティ˥　ス˞クル˥タ [su˞bubarisaŋʃimma:˥ ba˞sa˥nu su˞bu˥ʃi ka˞bi˥ pa˞riti˥ su̠˞kuru˥ta](渋張り三線は芭蕉の渋で和紙を張って作った)。

パ˞サパサ　スン [pa̠˞sapasa suŋ] 【連】さくさくする。粘り気がなく、さくさくする。サ˞バソーギレー˥　ピーナ　ヤ˞ク˥カー　パ˞サパサ˥　シ˞ティ˥ン˞マーント ダー [sa˞baso:gire:˥ pi:na ja˞ku˥ka: pa̠˞sapasa˥ ʃi̠˞ti˥ ʔm˞ma:nɨ-da:](日干し乾燥した鱶 < 鮫 > 肉は火で焼くとさくさくして美味しいよ)。

バ˞サムチ [ba˞samutʃi] 【名】荷馬車で貨物を運搬する人。荷馬車の運送業者。「馬車持ち」の義。ク˞ルマ˥ヌ　˞ユー˥　ナ˞ル˥ター　バ˞サムチーン˥　ブ˞ラーン˥　ナリ　˞ナー˥ヌ [ku˞ruma˥nu ˞ju:˥ na˞ru˥ta: ba˞samutʃi:m˥ bu˞ra:n˥ nari ˞na:˥nu](車の時代になったので、馬車持ち < 馬車で貨物を運送する人 > もいなくなってしまった)。

パ˞サ˥ムン [pa̠˞sa˥muŋ] 【他動】挟む。箸などで挟む。「間、ハサマル」『類聚名義抄』。˥パシシ　パ˞サ˥ミ　˥トゥルン [˥pa̠ʃiʃi pa̠˞sa˥mi ˥turuŋ](箸で挟んで取る)。パ˞サ˥ムンティ　˞スンドゥ˥　パ˞サマラ˥ヌ [pa̠˞sa˥munti ˞sundu˥ pa̠˞samara˥nu](挟もうとするが、挟まれない)。パ˞サ˥ム　˥ムノー　パ˞サ˥メー　˥ミサムヌ [pa̠˞sa˥mu ˥muno: pa̠˞sa˥me: ˥misamunu](挟むものは挟めばいいのに)。ク˞リ˥シ　パ˞サ˥ミ [ku˞ri˥ʃi pa̠˞sa˥mi](これで挟め)。カ˞ジフキヌ˥　ピンマー　˥ヤドー　˥サウシ　ウ˞チ˥フカーラ　パ˞サ˥ミティ　フ˞バローッ˥タ [ka˞ʤiɸukinu˥ pimma: ˥jado: ˥sauʃi ʔu˞tʃi˥ɸu̠ka:ra pa̠˞sa˥miti ɸu˞baro:t˥ta](暴風の時は戸は竿で内外から挟んで縛られた)。

バザ˞ラー [baʤa˞ra:] 【副】さっと。迅速に。敏速に。˞スンティ˥　ウムーッカー　˞ウッ˥カイムッカイ　˞サンドー˥シ　バザ˞ラーッティ　シー˥　シ˞マ˥シバ [˞sunti˥ ʔumu:kka: ˞ʔuk˥kaimukkai ˞sando:˥ʃi baʤa˞ra:tti ʃi:˥ ʃi˞ma˥ʃiba](しようと決心したら < 思うなら >、ためらわずに、さっとやって済ませ < やり遂げ > なさいよ)。

バ˞ザラバザラ [ba˞ʤarabaʤara] 【副】 1さっさと。手早く。˞ダーラダーラ˥シ　シ˞グトー　サンドー˥シ　バ˞ザラバザラ˥シ　˞シー˥バ [˞da:rada:ra˥ʃi ʃi˞guto: sando:˥ʃi ba˞ʤarabaʤara˥ʃi ˞ʃi:˥ba](ぐずぐず < だらだら > 仕事をしないで、仕事はさっさとしなさいよ)。2蛆(ウジ)などが群がるさま。うようよ。ウ˞ジ˥ヌ　˥シディティ　バ˞ザラバザラ˥シ　パイ˞ベー [ʔu˞ʤi˥nu ˥ʃiditi ba˞ʤabaʤara˥ʃi pai˞be:](蛆が孵化してバザラバザラ < うようよ > と群がって這い出している)。

˥パサン [˥pasaŋ] 【名】はさみ (鋏)。「Fasami. ハサミ (鋏)、また、蟹の手、すなわち、蟹の鋏」『邦訳日葡辞書』。˥パサンシ　ガ˞マ˥ジ　˞フッツァシ˥ター　ス˞ブ˥ロー　˥アミツァヌ　グ˞ル˥　ナリ　˞ベー [˥pa̠sanʃi ga˞ma˥ʤi ˞ɸuttsaʃi̠˥ta: su˞bu˥ro: ˥ʔamitsanu gu˞ru˥ nari ˞be:](鋏で髪の毛を切ったので < 切ったところ >、頭はヤドカリの殻のよにでこぼこになっている)。

バ˞サン˥ナル [ba˞san˥naru] 【名】芭蕉の実。バナ

ナ。シ˞マバサン˥ナル [ʃi˞mabasan˥naru](島芭蕉の実。モンキーバナナ)。˥サンジャクバサンナル [˞sandʒakubasannaru](三尺芭蕉の実。台湾バナナ。幹が三尺程度の高さで実をつけることからの命名)。バ˞サン˥ナル　プ˞スタタラ˥ナー　˥シトゥ　˞シー˥バ [ba˞san˥naru pu̥˞sutatara˥na: ˥ʃi̥tu ˞ʃi:˥ba](バナナを一房ずつお土産 <苞(ツト)> にしなさいよ)。

バ˞サン˥パームチ [ba˞sam˥pa:mutʃi] 【名】芭蕉の葉餅。芭蕉の葉で包んで蒸し上げた餅。˞プール˥ムチ [˞pu:ru˥mutʃi](豊年祭の餅) ともいう。豊年祭の時に月桃の葉で包んだ餅と芭蕉の葉で包んだ餅を作って食べた。バ˞サン˥パームチは芭蕉の葉を、幅約 20 センチ、長さ約 25 センチに裂いて、それに餅のたねを置き、その上に芭蕉の葉を幅約 10 センチほどの大きさに裂いたものを載せて包み、蒸し煮して作ったもの。バ˞サン˥パームチェー　˞カー˥ヤ　パ˞ギヤッ˥サン [ba˞sam˥pa:mutʃe: ˞ka:˥ja pa˞gijas˥saŋ](芭蕉の葉餅は包み皮は剥(ム)きやすい)。

˥パシ [˥paʃi] 【名】箸。「Faxi. ハシ (箸) 日本人が物を食べるのに使う、二本の小さな棒」『邦訳日葡辞書』とある。タ˞キパシ [tḁ˞kipaʃi](竹箸)。˞キー˥パシ [˞ki:˥paʃi](木箸)。˞ヌール˥パシ [˞nu:ru˥paʃi](漆塗りの箸)。キ˞ダパシ [ki˞dapaʃi](黒檀の木で作った箸)。˞ユシ˥キパシ [˞juʃi̥˥kipḁʃi](ススキで作った箸。ウ˞ティン˥ガビ [ʔu˞tiŋ˥gabi]< 紙銭 > を焼く際に用いる箸) などがある。˞ティー˥シゥカン　˞サンドー˥シ˥パシシ　パ˞サ˥メーティ　ッ˞ふァイ˥バ [˞ti:˥si̥kan ˞sando:˥ʃi ˥pḁʃiʃi pḁ˞sa˥me:ti f˞fai˥ba](手掴みしないで箸で挟んで < 鋏みながら > 食べなさい)。

パ˞シ [pa˞ʃi] 【名】1橋。「安麻能我波　々志和多世良波〜。万、4126」の義。パ˞シ˥　カ˞キ˥ルン [pḁ˞ʃi˥ kḁ˞ki˥ruŋ](橋を架ける)。ウ˞ラッチガー˥ラナー　ム˞カ˥シェー　パ˞シェー　ナーン˥ベーティ　˥フニシル　バ˞タシ　ブタ [ʔu˞rattʃiga:˥rana: mu˞kaʃe: pa˞ʃinu na:m˥be:ti ˥ɸuniʃiru ba˞taʃi buta](浦内川には、昔は橋がなかったので舟で渡していた)。2はしご(梯子)。パ˞シ˥カキティ　˞ヤー˥ヌ　˞ウイ　ヌーリ˥バ [pḁ˞ʃi˥ kḁkiti ˞ja:˥nu ˞ʔui nu:ri˥ba](梯子をかけて屋根に登りなさい)。

パ˞シ [pḁ˞ʃi] 【名】1端。へり。縁。端っこ。先端。切れ端。「短きものを端伎流等 < ハシキルト >〜。万、892」の「端」の義。˞キン˥ヌ　パ˞シ [˞kin˥nu pa˞ʃi](着物の端)。2はしばし (端々)。ちょっとした部分。ム˞ニ˥ヌ　パ˞シ˥ナー　イ˞バリムヌヌ˥　ウ˞ムイアンガリ˥ヌ　ミ˞ラ˥リン [mu˞ni˥nu pḁ˞ʃi˥na: ʔi˞barimununu˥ ʔu˞mui?aŋgari˥nu mi˞ra˥riŋ](言葉の端々に驕り者の思い上がりが見られる)。

˥パジ [˥padʒi] 【名】1恥。「〜標結い立てて　結之辱爲都。万、401」の義。˞ジー˥　ユミ˞サン˥カー　プ˞スヌ˥　マイナーティ　˥パジ　˥カクン˞ダー [˞dʒi:˥jumi˞saŋ˥ka: pu̥˞sunu˥ maina:ti ˥padʒi kḁkun˞da:](字を読めなかったら人前で辱をかくよ)。ア˞ガパジ˥　カクン [ʔa˞gapadʒi˥ kḁkuŋ](大恥をかく)。ア˞ガパジ˥　カ˞カサ˥リン [ʔa˞gapadʒi˥ kḁ˞kasa˥riŋ](赤っ恥をかかされる)。2陰部。˥パジ　ウ˞スイリ [˥padʒi ʔu˞suiri](陰部を隠せ < 覆え > よ)。

˥パジ [˥padʒi] 【名】1˞はず (道理)」、「すること (〜わけ。可能性)」を表す形式名詞。活用語の連体形に付く。マ˞ナ˥マ　˥クーパジェー　˞ナーヌ˥ヌ　˥ヌンティ　˞クー˥タカヤー [ma˞na˥ma ˥ku:padʒe: ˞na:nu˥nu ˥nunti ˞ku:˥takaja:](今来るはずはないのだが、どうして来たのかなあ)。2文末に用いられて確率の高い推量 <〜するはずだ。〜だろう > の意を表す形式名詞。ア˞ツァー˥ラー　ア˞ミ˥ヌ　˥フーパジ [ʔa˞tsa:˥ra: ʔa˞mi˥nu ˥ɸu:padʒi](明日からは雨が降るはずだ < 降るだろう >)。˥アイヤー　ア˞ラン˥パジ [˥ʔaija: ʔa˞ram˥padʒi](そうでは無いはずだ <〜無いだろうよ >)。〜そうなる予定 (見込み)。転じて、˞〜だろう」の意を表す。˥アイニ　˥ナル　˥パジェー　˞ナー˥ヌ [˥ʔaini ˥naru ˥padʒe: ˞na:˥nu](そのようになるはずがない)。ウ˞レー˥　アツァー　ウ˞キ˥ナー　˥パルパジ [ʔu˞re:˥ ʔatsa: ʔu˞ki˥na: ˥parupadʒi](彼は明日沖縄へ行くはずだ)。

パ˞ジアーラ˥スン [pa˞dʒi?a:ra˥suŋ]【他動】品物を等しく分配する。ウ˞キ˥ナーラヌ　˥シトゥ　ムー˞ルン˥　パ˞ジアーラ˥スンティ　˞スンドゥ˥　パ˞ジアーラサラン˥バン [ʔu˞ki˥na:ranu ˥ʃi̥tu mu:˞rum˥ pa˞dʒia:ra˥sunti ˞sundu˥ pa˞dʒi?a:rasaram˥baŋ](沖縄からのお土産 < 苞 > を皆に分配しようとするが、分配出来ないよ)。パ˞ジアーラ˥シティ [pa˞dʒi?a:ra˥ʃi̥ti](分配して)。パ˞ジアーラ˥ス　˥クトゥ [pa˞dʒi?a:ra˥su ˥ku̥tu](分配すること)。パ˞ジアーラ˥シェー　˥ミサムヌ [pa˞dʒi?a:ra˥ʃe: ˥misamunu](分配すればいいのに)。パ˞ジアーラ˥シ [pa˞dʒi?a:ra˥ʃi](分配せよ)。

˞パシゥカ [˞pasi̥ka]【名】(数詞) 廿日。˞パシゥカユーヤ˥　ッ˞ふァー˥ヌ　˥ムヌ　˞ミララン˥ダー　ミ˞チェー˥　ン˞ジララ˥ヌ [˞pasi̥kaju:ja˥ f˞fa:˥nu ˥munu mi˞raran˥da: mi˞tʃe:˥ ʔn˞dʒirara˥nu](廿日夜は暗くて、ものが見えないから道には出られない)。

˞パシゥカソージ [˞pasi̥kaso:dʒi] 【名】˞廿日精進」の

義。産後廿日に行う行事。産後廿日めに、産褥中無事に経過することが出来たことに対する感謝の祈願を行い、産褥に張り巡らした注連縄を取り払って産屋を片付けること。˩パシゥカソー˥ジン　シ˩マ˥シ　˥ジルーン　カ˩タジ˥ケーチバ　シカイ˩トゥ˥　ドゥーヨーゾー　˩シー˥ヨー [˩pasi̥kasoːʤiŋ˥ ʃi˩ma˥ʃi ˥ʤiruːŋ ka˩taʤi˥keːʧiba ʃi̥kai˩tu˥ duːjoːʤoː ˩ʃiː˥joː](廿日精進も済ませ、地炉も片付けたので、しっかり体の養生をしなさいよ)。

˩パシゥカヨーン [˩pasi̥kajoːŋ] 【名】廿日宵闇。˩パシゥカヨーンヌ˥　ッ˩ふァ˥ー　プ˩スヌ˥　パ˩ナ˥　カ˩サムンティン˥　ッ˩サヌ [˩pasi̥kajoːnnu˥ ɸ˩fa˥ː pu̥˩sunu˥ pa˩na˥ kḁ˩samuntin˥ s˩sanu](廿日宵闇の暗さは、他人が鼻を摘むのも分からない < 知らない >)。

˩パシ˥カ [˩paʃi̥˥ka] 【名】病気の名。はしか (麻疹)。麻疹ウイルスによる急性伝染病。5〜6 歳までの幼児に多く、一度の罹患でほとんど一生免疫を得る。˩イリガサー [˩ʔirigasaː](はしか。measles)『医学沖縄語辞典』。ハシカの転訛したもの。鳩間島では、ア˩ガニチ [ʔa˩ganiʧi](赤熱) ともいう。˩パシカ˥ヌ　パ˩ヤー˥リ　ブ˩リン˥ギサバ　˩キー˥　シ˩キ˥リ˩ヨー [˩paʃi̥˥ka˥nu pa˩jaː˥ri bu˩riŋ˥gisaba ˩kiː˥ ʃi̥˩ki˥ri˩joː](ハシカが流行っているようだから気を付けなさいよ)。

˥パジ　カ˩カ˥スン [˥paʤi kḁ˩ka˥suŋ] 【連】恥をかかせる。ヤ˩ナクトゥ　スー˥カー　˥ウヤン　˥パジ　カ˩カ˥スン [ja˩nakutu suː˥kaː ˥ʔujam ˥paʤi kḁ˩ka˥suŋ](悪いことをすると親に恥をかかせる)。

パ˩シ˥　カ˩キ˥ルン [pḁ˩ʃi˥ kḁ˩ki˥ruŋ] 【連】1橋を架け渡す。˩メーラガーラ˥ナ　パ˩シカキ˥ルンティ　イッ˩ケン˥　ク˩ロー　ソーッ˥タンツォー [˩meːragaːra˥na pḁ˩ʃikaki˥runti ʔik˩keŋ˥ ku˩roː soːt˥tantsoː](宮良川に橋を架けようとして非常に苦労されたそうだ)。2男女の仲に橋を架ける (男女が情を通ずる)。フ˩タールヌ˥　ナカナー　パ˩シカキ˥ルンティ　カ˩ユイオー˥ルツォー [ɸu̥˩taːrunu˥ nakanaː pḁ˩ʃikaki˥runti ka˩juiʔoː˥rutsoː](二人の仲に橋を架けようと通っておられるそうだ)。

˥パジ　˥カクン [˥paʤi ˥kḁkuŋ] 【連】恥をかく。ウ˩ヌ˥　ア˩タル˥ヌ　˥クトゥンツァン　ッ˩サン˥カー　˥パジ　カクン˩ダー [ʔu˩nu˥ ʔa˩taru˥nu ˥ku̥tuntsan s˩saŋ˥kaː ˥paʤi kḁkun˩daː](その程度のことをさえ知らないと恥をかくぞ)。˥アイブ　ク˩トゥ˥バ　˩シー˥　パジ　カクン˩ダー [˥ʔaibu ku̥˩tu˥ba ˩ʃiː˥ paʤi kḁkun˩daː](あんなことをして、恥をかくぞ)。˩パシゥカシキヌ　アール˥カー　˩マーユナカ [˩pasi̥kaʃi̥kinu ʔaːru˥kaː ˩maːjunaka](旧暦二十日 < ふけまちづき > の月が上がると、真夜中の時刻である。< 諺 >)。終戦後のイカ釣り漁の遭難事故の際、この諺を覚えていた加治工伊佐は真夜中に風が北風から南風に変わったことを知った。それを知らない人々が前日と同じ北風と思い込み、風を帆に孕ませて島とは逆の方向へ帆走したのである。加治工伊佐は小型のコンパスを信頼して近くのイカ釣り舟三隻を説得し、南風に向かってジグザグ帆走してその日の午前中に石垣島の川平に到着することができ、事故を通報したという。

˩パシカ˥ヌ　ピ˩キッ˥クミ [˩pḁʃika˥nu pi̥˩kik˥kumi] 【連】「はしか (麻疹) の引っ込み」の義。麻疹(ハシカ)の熱が一旦下がった状態。その後再発して高熱を発する。この種の病状をピ˩キッ˥クムン [pi̥˩kik˥kumuŋ](引っ込む) といい、悪質な麻疹の病状で、重病になることがある。麻疹に罹患して体を冷やすことによって発病するといわれている。˩パシカ˥ヌ　ピ˩キックメー˥ラ　˩デー˥ジ　ヤ˩リバ　˩ピングラス˥ナ˩ヨー [˩pḁʃika˥nu pi̥˩kikkumeː˥ra ˩deː˥ʤi ja˩riba pigurasu˥na˩joː](麻疹が引っ込んだら大変だから、体を冷やすなよ)。

˩バシキカールン [˩baʃikikaːruŋ] 【自動】すっかり忘れ去る。シ˩ラカタ˥チ　˩バシキカールン˥ケン　˥ミリ　ミ˩ラ˥ヌ [ʃi˩rakata˥ʧi ˩baʃi̥kikaːruŋ˥kem ˥miri mi˩ra˥nu](顔貌をすっかり忘れ去るまで会って < 見て > いない)。˩バシキカーラン˥ケン　ミリクー˩ディー [˩baʃi̥kikaːraŋ˥kem miriku˩diː](忘れ去らないうちに見て来ようよ)。シ˩ラカタ˥チ　ン　˩バシキカーリ　ナー˥ヌ [ʃi˩rakata˥ʧim ˩baʃi̥kikaːri naː˥nu](顔貌も忘れ去ってしまった)。˩バシキカール˥クトー　˩ナー˥ヌ [˩baʃi̥kikaːru˥ ku̥toː ˩naː˥nu](忘れ去ることはない)。˩オーパ˥ヤー　˩バシキカーレー˥　ナ˩ラ˥ヌ [˩ʔoːpa˥jaː ˩baʃi̥kikaːreː˥ na˩ra˥nu](こんなに早く忘れ去ってはいけない)。

˩バシキグリ˥サン [˩baʃi̥kiguri˥saŋ] 【連】忘れることが難しい。忘れにくい。動詞バ˩シゥクン [ba˩ʃi̥kuŋ](忘れる) の連用形に、形容詞型助動詞の-グ˩リ˥サン [-gu˩ri˥saŋ](〜がたい。〜にくい) が下接して形成された派生形容詞。イ˩クサユー˥ヌ　˥クトー　˩バシキグリ˥サン [ʔi˩kusaju˥nu ˥ku̥toː ˩baʃikiguri˥saŋ](戦争の時代のことは忘れることが難しい < 忘れにくい >)。

˥パジキサー [˥padʑikḭsaː] 【名】恥知らず。「恥切れ者」の義。イ˥コーラ˥　パジ　カ˥カリ˥タンティン　˥パジキサー　ヤ˥ルンダ˥　バ˥カ˥ヤティン　ッ˥サヌ [ʔi˥koːra˥ padʑi kḁ˥kari˥tantim ˥padʑikisaː ja˥runda˥ ba˥ka˥jatin s˥sanu](いくら恥をかかれても、恥知らずだから、恥ずかしいということも知らない)。

パ˥ジキシ˥ムヌ [pa˥dʑikiʃi˥munu] 【名】恥知らず。厚顔無恥の者。鉄面皮の者。「恥切れ者」の義。˥パジキラー [˥padʑikiraː](恥知らず。厚顔無恥の者。恥切れ者)< 卑語 > ともいう。パ˥ジキシ˥ムヌ　˥ナリティ　˥シキンラ　˥シラ　˥ムティ　ア˥ラカラ˥ヌ [pa˥dʑikiʃi˥munu ˥nariti ˥ʃikinra ˥ʃira ˥muti ʔa˥rakara˥nu](恥知らずになって、世間に顔向けできない < 世間からから顔を引っさげて (顔を持って) 歩けない >)。

˥バシキパヤー˥ン [˥baʃḭkipajaː˥ŋ] 【連】忘れやすい。「忘れ早い」の義。˥バシキヤッ˥サン [˥baʃḭkijas˥saŋ](忘れやすい) ともいう。˥ウイ˥プソー　˥バシキパヤー˥ン˥ダー [˥ʔui˥pṵsoː ˥baʃḭkipajaː˥n˥daː](年寄りは忘れやすい < 忘れ早い > よ)。

˥バシキムヌ [˥baʃḭkimunu] 【名】忘れ物。˥ウンパンシン˥ヌ　˥クー˥ター　ア˥バティティ　ヌールタ˥　クトー　˥バシキムヌ　シー˥　キー˥ナー˥ヌ [˥ʔumpaŋʃin˥nu ˥kuː˥taː ʔa˥batiti nuːrutaː˥ kṵtoː ˥baʃḭkimunu ʃiː˥ kiː˥naː˥nu](運搬船が来たので慌てて乗ったところ､忘れ物をしてきてしまった)。˥バシキムヌ˥　トゥ˥ドゥ˥キ　ッ˥ふィーリ [˥baʃḭkimunu˥ tu˥du˥ki f˥fiːri](忘れ物を届けてくれ)。˥バシキムヌ˥　トゥ˥ドゥ˥キン　˥ゲー˥タ [˥baʃikimunu˥ tu˥du˥kiŋ ˥geː˥ta](忘れ物を届けに行ってきた)。

˥バシキルン [˥baʃḭkiruŋ] 【他動】忘れる。˥ワー˥　ア˥ザン˥カー　˥バシキルンダ　バシキラン˥ヨーニ　˥パル　˥マイナー　˥トゥシキ˥リ [˥waː˥ ʔa˥dʑaŋ˥kaː ˥baʃḭkirunda baʃḭkiraɲ˥joni ˥paru ˥mainaː ˥tuʃḭki˥ri](君が言わないと忘れるから、忘れないように、行く前に忠告し < 言い聞かせ > なさい)。キサー˥ティ　バシキナー˥ヌ [kḭsaː˥ti baʃḭki naː˥nu](既に忘れてしまった)。˥バシキル˥　クトゥン　アン˥ダー˥ヌ　ク˥ヌ˥　クトー　˥バシケー˥　ナ˥ラ˥ヌ [˥baʃḭkiru˥ kṵtuŋ ʔan˥daː˥nu ku˥nu˥ kṵtoː ˥baʃḭkeː˥ na˥ra˥nu](忘れることもあるだろうが、このことは忘れてはならない)。˥パー˥ク　˥バシキリ [˥paː˥ku ˥baʃḭkiri](早く忘れろ)。ッ˥ふァヌ˥　シ˥ラカタ˥チ　˥バシキルン˥ケン　ミリミ˥ラ˥ヌ [f˥fanu˥ ʃi˥rakata˥tʃi ˥baʃikiruŋ˥kem mirimi˥ra˥nu](子供の顔かたちを忘れるほど見ていない)。˥ワ　ブン˥ゲー　バ˥シキラヌ [˥waː buŋ˥geː ˥baʃḭkiranu](君の恩義は忘れない)。˥バシキル˥　クトー　˥ナー˥ヌ [˥baʃḭkiru˥ kṵtoː ˥naː˥nu](忘れることはない)。˥パー˥ク　˥バシキリ [˥paː˥ku ba˥ʃikiri](早く忘れろ)。

パ˥シ˥グ [pḁ˥ʃi˥gu] 【名】はしご (梯子)。「天端文 < アマハシモ > ながくもがも～。万、3245」の義。二本の垂木の間に幾段もの横木を渡し、それを踏んで高い所に上る道具。屋根葺きなどの際に使用した。使用後はユ˥クンツァ˥メー [ju˥kuntsa˥meː](床下の孔) に納めて保管した。パ˥シ˥グ　˥カキティ　˥ヤー˥ヌウイ　˥ヌールン [pḁ˥ʃi˥gu ˥kḁkiti ˥jaː˥nuʔui ˥nuːruŋ](梯子を掛けて屋根に上る)。

˥パシケー [˥paʃḭkeː] 【名】破水。羊膜が破れて出る羊水。˥パシケーヌ˥　ン˥ジ˥ルカー　ッ˥ふァー˥　シ˥グ˥　マ˥リルン˥ツォー [˥paʃḭkeːnu˥ ʔn˥dʑi˥rukaː f˥faː˥ ʃi˥gu˥ ma˥rirun˥tsoː](破水が出たら、子供はすぐ生まれるそうだ)。

パ˥シ˥シ [pa˥ʃi˥ʃi] 【名】歯茎。「齗、波之々 < はじし >、歯之肉也」『和名抄』の転訛。パ˥シ˥シェーラ　˥シーヌ˥　パリ　˥ベー [pa˥ʃi˥ʃeːra ˥ʃiːnu˥ pari ˥beː](歯茎から血が流れて < 出血して > いる)。

パ˥シットゥ [pḁ˥ʃittu] 【副】すっきりと。気分が爽快になるさま。病気が全快して元気になるさま。˥ニチン　サ˥マ˥リティ　パ˥シットゥ˥　ナレーン [˥nitʃin sa˥ma˥riti pa˥ʃittu˥ nareːŋ](熱も下がって < 冷めて > 気分がすっきりした)。パ˥ナシキ˥　マ˥マリティ˥　ナ˥マジラ˥シティ　˥マサーカサー　˥ナー˥ナ　˥アークタン˥ドゥ　˥キョー˥ラ　パ˥シットゥ˥　ナリ　˥アー˥クンティ [pa˥naʃḭki˥ ma˥mariti˥ na˥madʑira˥ʃḭti ˥masaːkasaː ˥naː˥na ˥ʔaːkutan˥du ˥kjoː˥ra pḁ˥ʃittu˥ nari ˥ʔaː˥kunti](風邪をひいて長くこじらせて不元気でいたが、今日から全快して元気になり、気分爽快になっているさ)。

パ˥シ˥ナー [pa˥ʃi˥naː]【名】(動) 魚の名。和名、イットウダイの仲間 (体長 20～25 センチ)。若年層は、パ˥チ˥ナー [pḁ˥tʃi˥naː] ともいう。鳩間島では、夜の大潮の日に十四、五歳の子供たちが島の後ろの干瀬のヤ˥トゥ [ja˥tu](干瀬の割れ目。「やと (谷戸) 関東方言」の転訛か) でよく釣った。パ˥シナー˥ヤ　˥ユー˥チズーナー　˥シンタヌ　˥ピー˥ヌ　ヤ˥トゥ˥ナーティル　˥ホーシ˥タ [pḁ˥ʃinaː˥ja ˥juː˥tʃidʑuːna ˥ʃintanu ˥piː˥nu ja˥tu˥naːtiru ˥hoːʃḭ˥ta](パシナーは、夜の大潮の日に、後ろの干瀬ヤトゥ < 干瀬の割れ目。谷 > で釣った)。パ˥シ˥ナーには、ビ˥キパシナー [bi˥

kipaʃinaː](和名、スミツキエビス。パシナーの雄)、˞ミーパシ˝ナー [˞miːpaʃi˝naː](和名、トガリエビス。パシナーの雌) がいる。

バ˞シヌ˝トゥル **[ba˞ʃinu˝turu]** 【名】歌謡の「鷲の鳥節」。イ˞サナキプソー　ヨイ˝ヌ　パ˞ジメー˝　サンビンティ　˞シー˝　アカンマー　バ˞シヌ˝トゥル　ツ˞ルカミブシバル　ザーピラ˝キティ　˞シー˝　ウ˞レーラ˝ル　˝ウター　イ˞ゾー˝ル [ʔi˞sanakipu̥soː joi ˝nu pa˞ʤimeː˝ sambinti ˞ʃiː˝ ʔakammaː ba˞ʃinu˝turu tsu˞rukamibuʃibaru ʤaːpira˝kiti ˞ʃiː˝ ʔu˞reːra˝ru ˝ʔu-taː ʔi˞ʤoː˝ru](石垣島の人は、祝いの初めに三品といって、赤馬節、鷲の鳥節、鶴亀節を祝宴開演 < 座開き > の歌として、それらから歌を歌われる)。

パ˞ジマキ **[pa˞ʤimaki]** 【名】はぜまけ (櫨負)。はぜ <黄櫨(コウロ)> にかぶれること。漆かぶれ。パ˞ジンキー˝ナ　˞サウルター˝　パ˞ジマキ˝　シ˞ティー˝　シラー　ア˞ガーアガー˝シ　フ˞クリ　ベー [pa˞ʤiŋki˝na ˞sauruta˝ pa˞ʤimaki˝ ʃi̥˞ti˝ ʃiraː ʔa˞gaːʔagaː˝ʃi ɸu̥ ˞kuri beː](はぜ <黄櫨(ハゼ)> の木に触ったので、黄櫨にかぶれ < 黄櫨負けし > て、顔は真っ赤に < 赤赤と > なって腫れている)。パ˞ジマキ˝　シ˞ティル˝　シラー　ア˞ガミティ　ビー˝ヨーティ　ガジ˞ベー [pa˞ʤimaki˝ ʃi̥˞tiru˝ ʃiraː ʔa˞gamiti biː˝joːti gaʤi˞beː](漆かぶれして、顔は赤らんで、痒いので掻いている)。

パ˞ジマリ **[pa˞ʤimari]** 【名】始まり。パ˞トゥ˝マナテー　˞ヨイヤー˝ヌ　ウ˞タ˝ヌ　パ˞ジマレー˝　パ˞トゥ˝マナカムリラティ　キ˞マリ　ブー [pḁ˞tu˝ manateː ˞joijaː˝nu ʔu˞ta˝nu pa˞ʤimareː˝ pḁ˞tu˝man-akamurirati ki˞mari buː](鳩間島では祝いの座の歌の始まりは鳩間中岡 < 鳩間節 > からと決まっている)。

パ˞ジマルン **[pa˞ʤimaruŋ]** 【自動】始まる。˞ガッコー˝ヤ　˞シンガ˝チェーラ　パ˞ジマルンドゥ˝　ク˞トゥシェー˝　マ˞ダ˝　パ˞ジマラヌ [˞gakkoː˝ja ˞ʃiŋga˝tʃeːra pa˞ʤimarundu˝ ku̥˞tuʃeː˝ ma˞da˝ pa˞ʤi-maranu](学校は四月から始まるが、今年は未だ始まらない)。ブ˞ドゥロー˝　マ˞ダ˝　パ˞ジマリ　ブラーンドゥ˝　ナー˞イ˝　パ˞ジマルムバ˝　マティ˞ベー [bu˞duroː˝ ma˞da˝ pa˞ʤimari buraːndu˝ naː˞ji ˝ pa˞ʤimarumuba˝ mati ˞beː](踊りはまだ始まっていないが、じっと始まるのを待っている)。˞パー˝ク　パ˞ジマレー˝　ミサムヌ [˞paː˝ku pa˞ʤimareː˝ misamunu](早く始まればいいのに)。パ˞ジマリ˝バ [pa˞ʤimari˝ba](始まれよ)。

パ˞ジミ **[pa˞ʤimi]** 【名】初め。最初。パ˞ジミヌ˝　パ˞ナシ˝トー　˞カウリ　ブー [pa˞ʤiminu˝ pa˞naʃi˝toː ˞kauri buː](最初の話しとは違っている)。パ˞ジメー　ヤッ˝サ　˝ムノーラ　ナ˞ラー˝シティ　˞シンダイ˝　ム˞チキ˝サ　˝ムヌ　ナ˞ラー˝シバ [pa˞ʤiimeː jas˝sa ˝munoːra na˞raː˝ʃi̥ti ˞ʃindai˝ mu˞tʃiki˝sa ˝munu na ˞raː˝ʃiba](初めは易しいものから教えて次第に難しいものを教えなさいよ)。

パ˞ジミティ **[pa˞ʤimiti]** **(1)**【副】初めて。ッ˞ふァ˝ナシティ　パ˞ジミティ˝　ウ˞ヤ˝ヌ　ク˞ローヤ˝ワ˞カ˝ル [f˞fa˝ naʃi̥ti pa˞ʤimiti˝ ʔu˞ja˝nu ku˞roːja˝ wa˞ka˝ru](子供を産んで初めて親の苦労はわかる)。**(2)**【名】最初。パ˞ジミティヌ˝　タ˞ビ˝　ヤ˞ルンダ˝マナール　トゥ˞マル˝ユー　˞ソー　シー˝　ナ˞ラ˝ヌ [pa˞ʤimitinu˝ ta˞bi˝ ja˞runda˝ manaːru tu˞maru˝ juː ˞soː ʃiː˝ na˞ra˝nu](初めての旅なので、何処に泊まるのか心配でならない)。

パ˞ジミルン **[pa˞ʤimiruŋ]** **(1)**【他動】始める。˞キョー˝ラ　シ˞グトゥ˝　パ˞ジミルンティ˝　ウ˞ムーン˝ドゥ　パ˞ジミララン˝　ナリ　˞ナー˝ヌ [˞kjoː˝ra ʃi˞gutu˝ pa˞ʤimirunti˝ ʔu˞muːn˝du pa˞ʤimiraran˝ nari ˞naː˝nu](今日から仕事を始めよと思うが、始められなくなってしまった)。ノー˞ン　ヤラバン˝　パ˞ジミ˝　ミ˞リバ˝ル　ワ˞カ˝ルンダ　パ˞ジミル˝　ク˞トゥ˝ル　˞カンユー [noː˞ɲ jarabam˝ pa˞ʤimi˝ mi˞riba˝ru wa˞ka˝runda pa˞ʤimiru˝ ku̥˞tu˝ru ˞kaŋjuː](何でも始めてみないと分からない < 始めてみればぞ分る > から、始めることが肝要だ)。˞パー˝ク　パ˞ジミレー˝　ミサムヌ [˞paː˝ku pa˞ʤimireː˝ misamunu](早く始めればいいのに)。˞ワー˝ラ　パ˞ジミリ˝バ [˞waː˝ra pa˞ʤimiri˝ba](君から始めなさいよ)。 **(2)**【補動】連用形に下接してアスペクト動詞をかたちづくる。アクセントが中高アクセントに変わる。ク˞レー˝ラ　カ˞キパジミ˝ルン [ku˞reː˝ra kḁ˞kipaʤimi˝ruŋ](これから書き始める)。

パ˞ジムン **[pa˞ʤimuŋ]** 【他動】始める。「始む < 下二段活用 >」の四段活用化したもの。シ˞グトゥ˝　パ˞ジムンティ˝　ウムーカー　パ˞ジマリンドゥ˝　マ˞ナ˝マー　パ˞ジム˝　クトー　ナ˞ラ˝ヌ [ʃi˞gutu˝ pa˞ʤimunti˝ ʔumuːka: pa˞ʤimarindu˝ ma˞na˝ma: pa˞ʤimu˝ ku̥to: na˞ra˝nu](仕事を始めようと思えば始められるが、今は始めることは出来ない)。シ˞グトゥ˝　パ˞ジミ˝　ミサカー　˞パー˝ク　パ˞ジミ˝バ [ʃi˞gutu˝ pa˞ʤimi˝ misaka: ˞paː˝ku pa˞ʤimi˝ba](仕事を始めてよければ早く始めなさいよ)。パ˞ジメー˝　ミ

サムヌ [pa˞ʤime:˺ misamunu](始めればいいのに)。

バ˞シャ **[ba˞ʃa]** 【名】馬車。標準語からの借用語。荷車。鳩間島には馬車はなかったが、石垣島の桟橋では荷役に従事する人が馬車や荷車で貨物を運搬していた。パ˞トゥ˺マナー　バ˞シャー　ナーン˺シェンドゥ　イ˞サナキナー˺ヤ　バ˞シャー˺ラ　˺ニー　カ˞ヨース˺　プ˞スン˺　ブ˞タン˺ダー [pa̠˞tu˺mana: ba˞ʃa: na:ŋ˺ʃendu ʔi˞sanakina:˺ja ba˞ʃa:˺ra ˺ni: ka˞jo:su˺ pu̠˞sum˺ bu˞tan˺da:](鳩間島には馬車はなかったが、石垣島では馬車で荷物を運ぶ＜通わせる＞人もいたよ)。

バ˞シャムチ **[ba˞ʃamutʃi]** 【名】馬車引き。「馬車持ち」の義。馬車で貨物を運ぶことを生業とする人。バ˞シャムチェー˺　シゥ˞カラヌ　ナーン˺カー　ナ˞ラン˺ダー　バ˞カー˺ムンドゥ　˺ナル [ba˞ʃamutʃe:˺ si̠˞karanu na:ŋ˺ka: na˞ran˺da: ba˞ka:˺mundu ˺naru](馬車引きは力がないと出来ないから、若者にしか出来ない＜若者にぞできる＞)。

バ˞シャンーマ **[ba˞ʃaʔm:ma]** 【名】荷車を引く馬。遮二無二働く人。バ˞シャンーマヌ˺　カタチニ　˺ミーラ　˞ピー˺ヌ　ン˞ジ˺ルンケン　パ˞タラクバン　モーカラ˺ヌ [ba˞ʃaʔm:manu˺ kạtatʃini ˺mi:ra ˞pi:˺nu ʔn˞ʤi˺ruŋkem pạ˞tarakubam mo:kara˺nu](荷車を引く馬のように遮二無二働いても儲からない)。

ハ˞ショーフー **[ha˞ʃo:ɸu:]** 【名】破傷風。破傷風菌によって咬筋が強直し、開口不全、顔面筋その他の随意筋強直性痙攣(ケイレン)となって高熱を発し、重症のものは一日以内で死亡するといわれる。古釘を踏んで発症することが多かったという。ッ˞ふ˺フン　˞フンク˺カー　ハ˞ショーフー˺　カ˞カ˺ルンユー　ッ˞サンベー˺ティ　˞ゲン˺ノーシ　キ˞ジフチ　シッ˺キティ　˞シー˺　パ˞ラシ˺ティ　ピ˞ルザキ˺シ　トゥ˞イットー˺シティ　˞マー˺スシ　ッ˞ス˺モーッタツォー [f˞fuˀɸuŋ ˞ɸuŋku˺ka: ha˞ʃo:ɸu:˺ kạ˞ka˺ruŋju: s˞sambe:˺ti ˞gen˺no:ʃi ki˞ʤiɸu̠tʃi ʃik˺kiti ˞ʃi:˺ pa˞ra˺ʃi̠ti pi˞ruʤaki˺ʃi ˞tuitto:˺ʃi̠ti ˞ma:˺suʃi s˞su˺mo:ttatso:](古釘を踏むと破傷風に罹るかもしれないので、金槌で傷口を叩いて血を流して、ニンニク酒で洗い流し＜消毒し＞て塩で傷口を包まれたそうだ)。

パ˞シ˺ル **[pa˞ʃi˺ru]** 【名】戸。雨戸。ヤ˞ドゥパシ˺ル [ja˞dupaʃi˺ru](戸) ともいう。老年層の言葉。パ˞シル˺ヌ　˺カナイ　˞ブンダ˺　カ˞ジヌ˺　フ˞カ˺バン　˞ソーヤ　ナー˺ヌ [pa˞ʃiru˺nu ˺kanai ˞bundda˺ ka˞ʤinu ˺ ɸu̠˞ka˺ban ˞so:ja na:˺nu](戸が頑丈だ＜叶っている＞から台風が吹いても心配はない)。

パ˞ジン **[pa˞ʤiŋ]** 【名】(昆) 蜂。˺アガパジン [˺ʔaga-paʤiŋ](赤蜂)。˺ガーパジン [˺ga:paʤiŋ](茅蜂。茅の中に巣をつくる蜂) ともいう。˺ッふパジン [˺ffupaʤiŋ](黒蜂。獰猛な蜂) などがいる。˺ガヤー˺スルンティ　˞ベーン˺ケン　パ˞ジン˺　ッ˞サ˺リティ　ア˞ガフクリ　シー　ベー [˺gaja: ˺surunti ˞be:ŋ ˺kem pa˞ʤin˺ s˞sa˺riti ʔa˞gaɸukuri ʃi: be:](茅を刈りているうちに、蜂に刺されて赤く腫れあがっている)。

パ˞ジンキー **[pa˞ʤiŋki:]** 【名】(植) 木の名。はぜ。はぜのき (黄櫨の木)。パ˞ジンキーヌ˺　ッ˞サーラー　パン˺ナ˞ヨー˺　パ˞ジマキ　スント ダー [pa˞ʤiŋki:nu˺ s˞sa:ra: pan˺na˞jo:˺ pa˞ʤimaki sunト da:](黄櫨(ハゼ)の木の下に行くなよ。かぶれる＜黄櫨負けする＞よ)。

パ˞ジンヌ˺　シー **[pa˞ʤinnu˺ ʃi:]** 【連】蜂の巣。ガ˞ヤーン˺ミーナ　パ˞ジンヌ　シーヌ˺　アン [ga˞ja:m ˺mi:na pa˞ʤinnu ʃi:˺nu ˺ʔaŋ](茅野＜原野＞の中に蜂の巣がある)。

˺バス **[˺basu]** 【名】時。場合。実質的意味を欠いた形式名詞。˞ワー　イーバス˺　キー　ッ˞ふィーレー˺ティ　˞タシゥカ˺レーン [˞wa: ʔi:basu˺ ki: f˞fi:re: ˺ti ˞tasi̠ka˺re:ŋ](君がいい時に来てくれたので助かった)。イ˞クサユー˺ヌ　˺アトゥナー　˞ダイ˺ダマ　˞パスクラ˺シティ　イ˞ズ˺　トゥ˞ロー˺ル　˺バスン　˞アッ˺タン [ʔi˞kusaju:˺nu ˺ʔatuna ˞dai˺dama ˞pa-su̠kura˺ʃi̠ti ʔi˞ʤu˺ tu˞ro:˺ru ˺basuŋ ˞ʔat˺taŋ](戦後にはダイナマイトを爆発させて魚を捕られる時もあった)。

˞パスクリ˺ルン **[˞pasu̠kuri˺ruŋ]** 【自動】はじける (弾ける)。破裂する。爆発する。カ˞マチヌ˺　パ˞タ˺ナー　˞ピャーシング˺　シ˞キ˺ルカー　˞パスクリ˺ルンティ　˞スンダ˺　パ˞スクリラン˺ヨーニ　シ˞ズミ˺リ [ka˞matʃinu˺ pa̠˞ta˺na: ˞pja:ʃiŋgu˺ ʃi̠˞ki˺ruka: ˞pasu̠kuri˺runti ˞sunda pasu̠kuriraŋ˺jo:ni ʃi˞ʤu˺mi ʃi̠˞ki˺ri](竈の側に爆竹を置いておくと弾ける＜破裂する＞というから、弾けないように片付けなさい)。˺グムプーカー　フ˞クラシター　パス˺クリ　˞ナー˺ヌ [˺gumupu:ka: ɸu̠˞kuraʃi̠ta: pasu̠˺kuri ˞na: ˺nu](ゴム風船を膨らませたら弾けてしまった)。˞パスクリ˺ル　˺ムノー　˞ヤー˺　トゥ˞グ˺ナ [˞pasu̠kuri ˺ru ˺muno: ˞ja:˺ tu˞gu˺na](弾ける物は家に持ってくるな)。˞パスクリ˺レー　˺ミサムヌ [˞pasu̠kuri˺re: ˺misamunu](弾ければいいのに)。˞パスクリ˺リ [˞pasu̠kuri˺ri](弾けろ)。

˩パス˥クルン [˩pasu̥˥kuruŋ] 【自動】破裂する。弾ける。爆発する。「はじく＜下二段活用＞」の四段活化したもの。˩ピャーシンゴー　パス˥クルンユー　ッ˩サンバ˥　マ˩ダカ˥シ [˩pja:ʃiŋgo: passu̥kuri˥ ruŋju: s˩sassamba˥ ma˩daka˥ʃi](爆竹は破裂する＜弾ける＞かも知れないから、どかし＜退かし＞なさい)。シ˩ミッケー˥リ　˩ブンダ　パスクラ˥ヌ [ʃi˩mikke:˥ri ˩bunda pasu̥kura˥nu](湿っているので破裂しない＜弾けない＞)。˥ウナー　˥シケーンケン　˩パス˥クリ　˩ナーヌ˥ヌ　˩パス˥クル　ウ˩トー˥　シゥ˩カランシェン [˥ʔuna: ˥ʃi̥ke:ŋkem ˩pasu̥˥kuri ˩na:nu˥nu ˩pasu̥˥kuru ʔu˩to:˥ si̥˩karaŋʃeŋ](そこに置いておいたところ破裂してしまったが、破裂する音は聞かれなかった＜聞こえなかった＞)。˩マー˥ビン　˩パス˥クレー　˥ミサムヌ [˩ma:˥bim˩pasu̥˥kure: ˥misamunu](もっと破裂すればいいのに)。˩パス˥クリ [˩pasu̥˥kuri](破裂しろ＜はじけろ＞)。ア˩ガマメー　ウー˥ミ　˩パス˥クリ　˩ナーヌ [ʔa˩gamame: ʔu:˥mi ˩pasu̥˥kuri ˩na:˥nu](小豆は完熟して弾けていまった)。

˩バスクン [˩basu̥kuŋ] 【他動】忘れる。「忘る＜下二段活用＞、～飯炊く事も和須礼提～。万、892」の四段活用化したもの。˩ジーヤ˥　カ˩カン˥カー　˩バスクンダ　バシゥカン˥ヨーニ　カ˩キトゥミ˥リ [˩ʤi:ja˥ kḁ˩kaŋ˥ka: ˩basu̥kunda basi̥kaŋ˥jo:ni kḁ˩kitumi˥ri](文字は書かないと忘れるから、忘れないように書きとめよ)。˩バシキ˥　ミサタンティン　˩バスク˥　クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˩baʃi̥ki˥ misatantim ˩basu̥ku˥ ku̥to: na ˩ra˥nu](忘れてよくても、忘れることは出来ない)。˩バシケー˥　ミサムヌ [˩baʃi̥ke:˥ misamunu](忘れればよいのに)。˩バシキ [˩baʃi̥ki](忘れろ)。

˩パス˥クン [˩pasu̥˥kuŋ] 【他動】弾く。指や竹、小枝などを曲げて、そのはね返る力で打つ。タ˩キバ˥　マ˩ギティ˥　プ˩スバ　パス˥クンティ　˩ベー˥ヌ　プ˩ス　パシゥカン˥ドーシ　ア˩サビ˥バ [tḁ˩kiba˥ ma˩giti˥ pu̥˩su pasu̥˥kunti ˩be:˥nu pu̥˩su pasi̥kan˥do:ʃi ʔa ˩sabi˥ba](竹を曲げて他人を弾こうとしているが、人を弾かないで遊べよ)。ウブシ˩ケー˥マ　˩パシ˥キティ　ア˩サブタヌ　パス˥ク　˥ピンマー　˩ナン˥ゾー　ア˩タランシェン [ʔubuʃi̥˩ke:˥ma ˩paʃi̥˥kiti ʔa˩ sabutanu pasu̥˥ku ˥pimma: ˩nan˥ʤo: ʔa˩taraŋʃeŋ](おはじきを弾いて遊んだが、弾く時はあまり当らなかった)。˩ワー　パシ˥ケー　˥ミサムヌ [˩wa: paʃi̥˥ke: ˥misamunu](君が弾けばいいのに)。˥クマーラ　˩パシ˥キ [˥kuma:ra ˩paʃi̥˥ki](ここから弾け)。

˩パス˥コーン [˩pasu̥˥ko:ŋ] 【形】はしかし。こそばゆい。むずがゆい。ちくちくと痛痒い。稲や麦などの芒＜のぎ＞が皮膚に浅くちくちく刺すような、痛くて痒い感じがするさま。「苛、ハシカシ」『類聚名義抄』の転訛したもの。˩パスコー˥ン [˩pasu̥ko: ˥ŋ](はしかし＜強調＞)ともいう。˩マイ　アーシティ˥　ス˩ク˥ブ　カ˩ブ˥ター　˩パスコー˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [˩mai ʔa:ʃi̥ti˥ su̥˩ku˥bu ka˩bu˥ta: ˩pasu̥ko:˥nu na˩ ra˥nu](稲を脱穀機にかけて脱穀してスクモ＜塵埃、藻屑＞を浴びたので、ちくちく刺されて痒くてたまらない)。˥バー　˩ナン˥ゾー　˩パスーコー　ナー˥ヌ [˥ba: ˩nan˥ʤo: ˩pasu̥ko: na:˥nu](私はあまり痒くない＜はしかしくない＞)。ス˩ク˥ブ　˥カブカー　˩パスコー˥ンダー　˩パスコー˥　プソー　˥オンダー　˩シー˥バ [su̥˩ku˥bu ˥kabuka: ˩pasu̥ko:˥nda: ˩pasu̥ko:˥ pu̥so: ˥ʔonda: ˩ʃi:˥ba](塵埃を浴びると、ちくちく痛痒い＜はしかしい＞から、痛痒い＜はしかし＞時は海水浴をしなさい)。˩シンダイ　パス˥コー　˥ナルン [˩ʃindai pasu̥˥ko: ˥naruŋ](次第に肌がちくちく痛痒く＜はしかしく＞なる)。

˥バスバス [˥basubasu] **(1)**【名】時々。折々。キ˩ザルヌ˥　バスバスヌ　˩クームチェー˥　ス˩コーリ˥　マ˩チオーシリ˥ヨー [ki˩ʤarunu˥ basubasunu ku:˩mutʃe:˥ su̥˩ko:ri˥ ma˩tʃi ʔo:ʃiri˥jo:](祭祀行事の折々の供物は作って供えて差し上げなさいよ)。 **(2)**【副】時としては。時には。折々には。˥バスバソー　ッ˩ふァン˥ケー　イ˩ジ˥　ナ˩ラー˥シバ [˥basubaso: f˩faŋ˥ke: ʔi ˩ʤi˥ na˩ra:˥ʃiba](時々は子供たちを叱って教えなさいよ)。

˥パズン [˥paʤuŋ] 【他動】 **1**脱ぐ。脱衣する。˥キン　˥パズンティ　˩スンドゥ˥　ムッ˩トゥ˥　パ˩ザラ˥ヌ [˥kim ˥paʤunti ˩sundu˥ mut˩tu˥ pa˩ʤara˥nu](着物を脱ごうとするが、ちっとも脱がれない)。˥キン　˥パズ　プ˩ソー˥　カーナーティ　˥パジェー˥ミサムヌ [˥kim ˥paʤu pu̥˩so:˥ kana:ti ˥paʤe: ˥mis-amunu](着物を脱ぐ人はあそこで脱げばいいのに)。˩キン˥マー　˥パジ　˥ミサカー　˩パー˥ク　˥パジ [˩ kim˥ma: ˥paʤi ˥misaka: ˩pa:˥ku ˥paʤi](着物は、脱いでよければ早く脱げ)。**2**外す。ほどく(解く)。祈願を解く。フ˩バリ˥　シケー　˥シナー　˩パー˥ク　˥パジ [ɸu˩bari˥ ʃike: ˥ʃina: ˩pa:˥ku ˥paʤi](縛ってある綱は早く外せ＜解け＞)。˥バン　˥パズン [˥bam ˥ paʤuŋ](祈願を解く)。

˥バタ [˥bata] 【名】**1**腹。「鰧、魚乃和太＜うをのわた＞」『新撰字鏡』の義。バ˩タ˥ヌ　˥ヤムン [ba˩ta˥nu

˥jamuŋ](お腹が痛い＜病む＞)。2はらわた (腸)。臓物。内臓。˩オー˥ヌ　˥バタ [˩ʔoː˥nu ˥bata](豚の腸)。カ˩ツヌ˥　バ˩タガラ˥ス [kạ˩tsunu˥ ba˩tagara˥su](カツオの内臓の塩辛)。イ˩ズヌ˥　バタ　˥トゥリ [ʔi˩ʤunu˥ bata ˥turi](魚の腸を取れ)。3なかご。瓜類の内部にある、種を含んだ柔らかい部分。˩ゴーヤー˥ヌ　˥バター　˥トゥリティ　イ˩ラ˥キバ [˩goːjaː˥nu ˥bataː ˥turiti ʔi˩ra˥kiba](にがうり＜苦瓜＞の中子を取り去って炒めなさい)。4布団の中身の綿。餅の餡。ウ˩ズ˥ヌ　˥バタ　ク˩ミ˥ルン [ʔu˩ʤu˥nu ˥bata ku˩mi ˥ruŋ](布団の中身の綿を籠める)。5心。プ˩スヌ˥　バ˩タ˥ウチェー　ワ˩カラ˥ヌ [pụ˩sunu˥ ba˩ta˥ʔutʃeː wa ˩kara˥nu](他人の内心は分からないものだ)。˥バター　˩ムイブンドゥ˥　ウ˩シダマリ　ベー [˥bataː ˩muibundu˥ ʔu˩ʃidamari beː](腹は煮えたぎっているが、押し黙っている)。ウ˩ヌ˥　プ˩ソー˥　イツバタ　ヤ˩ロー˥ル [ʔu˩nu˥ pụ˩soː˥ ʔitsubata ja˩roː˥ru](あの人は心の美しい方＜絹の腸(ハラワタ)＞。絹の心＞でいらっしゃる)。

˥バタ [˥bata] 【名】湾。入り江。「ささ波の志賀の大和太＜ワダ＞よどむとも〜。万、31」の「和太」の転訛したもの。フ˩ノーラ˥ヌ　˥バタダーチ　˥フネー　˩マーシェー˥ティ　バ˩タリ　クー˥タ [ɸu˩noːra ˥nu ˥batadaːtʃi ˥ɸuneː ˩maːʃeː˥ti ba˩tari kuː˥ta](船浦湾の湾沿いに舟を回して＜漕ぎ回して＞渡ってきた)。

パ˩タ [pạ˩ta] 【名】旗。大漁旗。「幡(バン)　旒附(リュウフ)　考工記云幡 (音翻　和名波太)〜」『二十巻本和名抄』の義。カツオ漁船は漁獲高によって、ヒ˩ノマル [çi ˩nomaru](日の丸。漁獲高約 300 キロ)、ア˩ガパタ [ʔa˩gapata](赤旗。漁獲高約 500 キロ)、˩ミール [˩miːru](三色の旗。漁獲高約 800 キロ)、˩グイル [˩guiru](五色の旗。漁獲高約 1000 キロ) 等の旗を立てて帰港した。カ˩ツシンマー　タイロー　スー˥カー　パ˩ター˥　タティティル　˥ウケーラ　˩カイ˥リ　˩クー˥タ [kạ˩tsuʃimmaː tairoː suː˥kaː pạ˩taː˥ tatitiru ˥ʔukeːra ˩kai˥ri ˩kuː˥ta](カツオ漁船は大漁すると旗を立てて＜ぞ＞沖＜漁場＞から帰港した＜家に帰ってきた＞)。

パ˩タ [pạ˩ta] 【名】1ふち (縁)。へり。周囲。フ˩チヌ˥　パ˩タ˥ナー　イ˩ガヌ˥　ッ˩ふェー˥ヌ　˥シキ　˩ベー [ɸụ˩ʧinu˥ pạ˩ta˥na: ʔi˩ganu˥ f˩feː˥nu ˥ʃị̈ki ˩beː](口の周囲に烏賊の墨が付いている)。2側。˩ダイ˥ケーヤ　˩カーヌ˥　パ˩タ˥ナー　˥アリ˩ベー˥ティル　˩カーンパタ˥ヤーティ　ア˩ズ˥ダー [˩dai˥keːja ˩kaːnu˥ pạ˩ta˥naː ˥ʔari ˩beː˥tiru ˩kaːmpata˥jaːti ʔa˩ʤu˥daː](大工家は西村井戸の側にあるのでカーンパタヤー＜井戸端の家＞というのだよ)。パ˩タカキマカル [pạ˩takakimakaru](縁欠碗)。

˥パダ [˥pada] 【名】肌。皮膚。「あからひく　秦不經＜肌も触れずて＞〜。万、2399」、「連膚、連訓安牟、下波太＜ハダ＞、音普」『新訳華厳経音儀私記』の転訛。パ˩ダ　カイ˥ヤン [pa˩da kai˥jaŋ](肌が美しい)。パ˩ダ　ヨー˥ンダ　ム˩シン˥　ッ˩サ˥リカー　シ˩グ˥　フ˩クリス [pa˩dajoː˥nda mu˩ʃin˥ s˩sa˥rikaː ʃi ˩gu˥ ɸụ˩kurisu](肌が弱いから虫に刺されると、すぐ腫れる)。˥パダ　˥ヤブン [˥pada ˥jabuŋ](肌が破れる。ハンセン病になる)。パ˩ダ˥ヌ　˩カイ˥ヤー˩ヨー˥　ン˩キコーマ˥ヌ　˥カタチニル　˩ブー [pa˩da˥nu ˩kai˥jaː˩joː˥ ʔŋ˩kikoːma˥nu ˥kạtatʃiniru ˩buː](肌が美しいことよ、むき卵のようだ)。

˥パダ [˥pada] 【名】ころ。時。時分。時節。時代。マ˩ナ˥マー　ア˩サビパダ˥　ヤ˩ルンダ˥　トゥ˩レー˥シ　ア˩サビプサ˥ル　˥アル [ma˩na˥maː ʔa˩sabipada˥ ja˩runda˥ tu˩reː˥ʃi ʔa˩sabipusa˥ru ˥ʔaru](今は遊びたい年頃だから、友達同士連れ立って遊びたいのだ)。ビ˩コーンッふァー˥　ター˩ン˥　ヤ˩マン˥グパダー　ア˩リ˥ル　フ˩ドゥビ˥　クーユンダ　˥ドゥク　イ˩ズナ [bi˩koːŋffaː˥ taː˩ɲ˥ ja˩maŋ˥gu pada: ʔa˩ri˥ru ɸu ˩dubi˥ kuːjunda ˥duku ʔi˩ʤuna](男の子は誰もいたずら盛りの時期があって成長してくるのだから、あんまり叱るな)。ヤ˩ラ˥ベー　ム˩ヌウムイ˥パダナー　ザ˩マンドゥラス˥ナ˩ヨー [ja˩ra˥be: mu˩nuʔumui˥ padana: ʤa˩mandurasu˥na˩joː](子供は、思春期に思い悩ませることはするなよ)。

˥バター　˩ウイ˥　ナスン [˥bataː ˩ʔui˥ nasuŋ] 【連】仰向けに寝る。「腹を上になす」の義。ア˩バナクン [ʔa˩banakuŋ](仰向けに寝る)、ウ˩ツァバナ˥クン [ʔu ˩tsabana˥kuŋ](仰向けになる。仰向けに寝る。卑語)ともいう。˥スブットーヤ　シ˩グトー˥　サ˩ムティ˥　バター　˩ウイ˥　ナシ　ニ˩ビベー [˥subttoːja ʃi˩ guto:˥ sa˩muti˥ bataː ˩ʔui˥ naʃi ni˩bi beː](怠け者野郎めが、仕事はしないで仰向けになって寝ているよ)。

˥バター　˩ナールン [˥bataː ˩naːruŋ] 【連】腹が突き出る。妊婦のお腹が出てくる。˥バター　˩ナーリ　ブンダ˥　ビ˩コーンッふァ˥　ヤ˩ル˥パジ [˥bataː ˩naːri bunda˥ bi˩koːŋffa˥ ja˩ru˥paʤi](お腹が突き出ているから＜胎児は＞男の子だはず)。

˥パダー　˩ナーン˥　ムヌ [˥padaː ˩naːm˥ munu] 【連】

しまりのない者。落ち着きのない者。悪ふざけをする者。女癖の悪い者。ウ˩レー˥ パダー ˩ナーン˥ ムヌ ヤ˩ルンダ˥ ウ˩リンマー アシキララ˥ヌ [ʔu˩reː˥ padaː ˩naːm˥ munu ja˩runda˥ ʔu˩rimmaː ʔaʃi̥kirara˥nu](彼はしまりのない悪ふざけをする者だから、彼には預けられない)。

˥バター フ˩ツルンケー˥リ [˥bataː ɸu̥˩tsuruŋkeː˥ri] 【副】激しく怒り。はらわたが煮え返って。腸が煮えくり返り。˥バター フ˩ツルンケー˥リ ˩ベー˥ンドゥ ナー˩イ˥ ダ˩マ˥リ ˩ベート ダー [˥bataː ɸu̥ ˩tsuruŋkeː˥ri ˩beː˥ndu naː˩i˥ da˩ma˥ri ˩beːꜜda:](腸は煮えくり返っているが、じっと黙っているんだよ)。

バ˩ター˥マ [ba˩taː˥ma] 【名】小腸。ウ˩ブ˥バタ [ʔu˩bu ˥bata](大腸) の対義語。˩オー˥ヌ バ˩ター˥マ ˩カイ˥ キー ナ˩カミー˥ヌ ˩シームヌ˥ バ˩カシ˥バ [˩ʔoː˥nu ba˩taː˥ma ˩kai˥ ki: na˩kamiː˥nu ˩ʃiːmunu˥ ba ˩kaʃi˥ba]（豚の小腸を買ってきて、中身 < 臓物 > の吸い物を炊きなさい)。

˥バタ ˩アウニ ブー [˥bata ˩ʔauni buː] 【連】お腹が空になっている。妊娠していない。ユ˩メー˥ マ˩ナ˥マー ˥バター ˩アウニブー [ju˩meː˥ ma˩na˥maː ˥bataː ˩ʔauni buː](嫁は、今は懐妊していない < お腹が空になっている。空いている >)。

˥バタ ˩アス˥クン [˥bata ˩ʔasu̥˥kuŋ] 【連】腹を預ける。お産の軽い人に肖る呪術行為。お産の重い人がお産の軽い人に対して、宜しくと頼むこと。ム˩カ˥シェー ˥シラ カ˩ロー˥ル プ˩スン˥ バタ ˩アシ˥キ ˩シェー˥ティ ッ˩ふァ˥ ナス プ˩スン ˩オーッ˥タンツォー [mu˩ka˥ʃeː ˥ʃira ka˩roː˥ru pu̥˩sum˥ bata ˩ʔaʃi̥˥ki ˩ʃeː˥ti f˩fa˥ nasu pu̥˩suŋ ʔoːt˥tantsoː](昔はお産の軽い人に腹を預けることをして子を生む人も居られたそうだよ)。

バ˩タ˥イシ [ba˩ta˥ʔiʃi] 【名】石垣を積む際に、表側と裏側の二重石積みの間に入れる小石。「腹石」の義。バ˩タ˥イシ イ˩ル˥カー ˩グス˥コー ˩スー˥ヤ(ワ) ˥ナリティ ˩クーリラ˥ヌ [ba˩ta˥ʔiʃi ʔi˩ru˥kaː ˩gusu̥˥koː ˩suː˥ja(wa) ˥nariti ˩kuːrira˥nu](腹石を入れると石垣は強くなって崩れない)。

バ˩タ˥イリ [ba˩ta˥ʔiri] 【名】綿入れ。綿を入れた冬着。˩タン˥ジン [˩tan˥ʤiŋ](丹前) ともいう。一般の人は着用できなかった。標準語からの借用語。˩ピー˥ヤンダ バ˩タ˥イリ キ˩サン˥カー ˩ヤー˥ヌ˥フカー ン˩ジララ˥ヌ [˩piː˥janda ba˩ta˥ʔiri ki˩saŋ˥kaː ˩jaː˥nu ˥ɸu̥ka: ʔn˩ʤirara˥nu](寒いので綿入れを着ないと家の外へは出られない)。

バ˩タイリ˥ムチ [ba˩taʔiri˥mutʃi] 【名】あんもち (餡餅)。普通は˩アン˥ムチ [˩ʔam˥mutʃi](餡餅)、バ˩タ˥ムチ [ba˩ta˥mutʃi](餡をを入れた餅。「腸餅」の義) という。˥アボー スˬク˥ロール グ˩マ˥ヌ バ˩タイリ˥ムチェー イ˩カス˥ク ン˩マー˥ワ˩ツォー [˥ʔaboː su̥˩ku˥roːru gu˩ma˥nu ba˩taʔiri˥mutʃeː ʔi˩ka˥su̥ku ʔm ˩maː˥wa˩tsoː](お母さんが作られる胡麻餡入りの餅はどんなに美味しいことかってば)。

バ˩タ˥ウチ [ba˩ta˥ʔutʃi] 【名】内心。腹の中。胸中。「腹内」の義。プ˩スヌ˥ バ˩タ˥ウチェー ワ˩カラ˥ヌ [pu̥˩sunu˥ ba˩ta˥ʔutʃeː wa˩kara˥nu](他人の腹の中 < 内心 > は分からないものだ)。ク˩ヌ˥ クトー ˩ワー タンガ˥ヌ バ˩タ˥ウチナー トゥ˩ドゥ˥ミ シ˩キ˥リ プ˩スンナー˥ネー イッ˩カ˥ パ˩ナ˥シェー ナ˩ラ˥ヌ [ku˩nu˥ ku̥toː ˩waː taŋga˥nu ba˩ta˥ ʔutʃina: tu˩du˥mi ʃi̥˩ki˥ri pu̥˩sunna:˥ne: ʔik˩ka˥ pa˩na ˥ʃeː na˩ra˥nu](この件 < こと > は君一人の腹の内に納め < とどめて > ておけ、他人には決して話してはならない)。

パ˩ダ˥カ [pa˩da˥ka] 【名】裸。「裸、波太加奈利 < はだかなり >」『新撰字鏡』の義。マ˩ルパダカ [ma˩rupadaka](丸裸)。ア˩ガパダカ [ʔa˩gapadaka](全裸。丸裸)。˩マーパダカ [˩maːpadaka](真っ裸)。ヤ˩ラ˥ビ ˩シェーン˥ケンマー パ˩ダ˥カ ˥ナリティル ˥オンダー シ˩タル [ja˩ra˥bi ˩ʃeːŋ˥kemmaː pa˩da˥ka ˥naritiru ˥ʔonda: ʃi̥˩taru](子供の頃は裸になって海水浴をしたものだ)。˥アツァバティ ˩シー˥ パ˩ダ˥カナシ ニ˩バス˥カー パ˩ナシキ フシゥカラ˥スン˩ダー [˥ʔatsabati ˩ʃiː˥ pa˩da˥ka ˥naʃi ni˩basu˥kaː pa ˩naʃi̥ki ɸusi̥kara˥sun˩daː](暑いからといって裸にして寝かせると風邪をひかせる < 鼻風邪 (鼻つき) をくっつかせる > ぞ)。

バ˩タ˥ガー [ba˩ta˥gaː] 【名】腹の皮。ウ˩シヌ˥ バ˩タ˥ガーシル ˩タイ˥コー パ˩ル˥ティ˩ダー [ʔu˩ʃinu˥ ba˩ta˥gaːʃiru ˩tai˥koː pa˩ru˥ti˩daː](牛の腹の皮で太鼓を張るそうだよ)。

パ˩タガー [pḁ˩tagaː] 【名】鍋縁(ナベブチ)に張り付く黒糖。黒糖を製造する際に砂糖黍の汁を煮詰める鍋の内側に張り付く薄い黒糖。ム˩カ˥シェー パ˩トゥ˥マナーン ˩シートーヤーン˥ アリティ ˥サタ ˥タリ ˩オーッタ˥ヌ ˩ウン˥ ッ˩ふァーソーッ˥タ パ˩タガーヌ˥ ア˩ジェー バシキララヌ [mu˩ka˥ʃeː pḁ˩ tu˥manaːŋ ˩ʃiːtoːjaːŋ˥ ʔariti ˥sḁta ˥tari˩ʔoːtta˥nu ˩ʔuŋ˥ f˩fa:soːt˥ta pḁ˩tagaːnu˥ ʔa˩ʤe: baʃi̥kiraranu](昔は鳩

間島にも製糖小屋があって、黍汁を煮詰めて黒糖を作っておられたが、あの時に食べさせて下さった、鍋縁に張りつく薄い黒糖の味が忘れられない)。

˥バタ　˞カーラ˥スン [˥bata ˞ka:ra˥suŋ]【連】空複を凌ぐために少量の食物をとる。空腹を紛らわすために少量の代用食をとる。˞ユー˥ボンスコール　˞スン˥ケン　˞サーフキ˥ヌ　ヌ˞カ˥ローンツァン　ッ˞ふァイティ˥　バタ　˞カーラ˥シバ [˞ju:˥bonsu̥ko:ru ˞suŋ ˥ken ˞sa:ɸu̥ki˥nu nu˞ka˥ro:ntsaŋ f˞faiti˥ bata ˞ka:ra˥ʃiba](夕食の支度ができるまで、茶請けの残りものだけでも食べて空腹を紛らわしなさいよ)。

˥バタ　˞カイ˥ヤン [˥bata ˞kai˥jaŋ]【連】心が美しい。こころね (心根) が優しい。我慢強い。キ˞ムカイ˥ヤン [ki˞mukai˥jaŋ] ともいう。ウ˞レー˥　イッ˞ケナ˥　バタ　˞カイ˥ヤル　プ˞ス　ユン˥　アイニ　イ˞ザリタンティン　クン˥ゾー　ウ˞クラ˥ヌ [ʔu˞re:˥ ʔik ˞kena˥ bata ˞kai˥jaru pu̥˞su juŋ˥ ʔaini ʔi˞ʤaritantiŋ kun˥ʤo: ʔu˞kura˥nu](彼は非常に心根の優しい人だ。あんなに叱られても腹を立てない)。

˥パダ　˞カイ˥ヤン [˥pada ˞kai˥jaŋ]【連】肌が美しい＜綺麗である＞。肌の色が白く、きめ＜木目＞が細かい。˞クン˥ネヌ　ミ˞ドーン˥ッふァー　ムー˞ル˥　パダ　˞カイ˥ヤン [˞ʔun˥nenu mi˞do:ŋ˥ffa: mu:˞ru˥ pada ˞kai˥jaŋ](その家の女の子はみんな肌が美しい)。

パ˞ダカウ˥ワン [pa˞dakau˥waŋ]【形】怖くて身震いするさま。怖くて寒気立つ。悪寒をおぼえるほど怖い。おじけだつ。身の毛立つ。ぞっとする。˞キーヌパン˥ター　˞ヌール˥カー　パ˞ダカウワ˥ヌ　ッ˞サンター˥　ミ˞ララ˥ヌ＜ミリ˞サヌ＞[˞ki:nupan˥ta: ˞nu:˥ruka: pa˞dakauwa˥nu s˞santa:˥ mi˞rara˥nu＜miri ˞sanu＞](木の先端に登ると怖くて下を見られない)。パ˞ダカウ˥ワンダー　˞ウンター　ヌールナ [pa ˞dakau˥wanda: ˞ʔunta: nu:runa](怖いから上に登るな)。˞ウンター　ヌールアー˥シ　パ˞ダカウ˥ワ　˥ナルン [˞ʔunta: nu:ru ʔa:˥ʃi pa˞dakau˥wa: ˥naruŋ](上に登るにつれて怖くなる)。パ˞ダカウワ　ナー˥ヌ [pa˞dakauwa: na:˥nu](身震いするほど怖くない＜寒気立たない＞)。パ˞ダカウ˥ワ　˥クトー　˞ナー˥ヌ [pa˞dakau˥wa ˥ku̥to: ˞na:˥nu](身震いするほど怖いことはない)。

パ˞タカキムヌ [pḁ˞takakimunu]【名】茶碗など陶器類の縁が一部分欠けたもの。縁が欠けた不良品。フ˞チカキムヌ [ɸu̥˞ʧikakimunu](口欠けもの) ともいう。パ˞タカキムノー　カーサラヌ [pḁ˞takakimuno: ka:saranu](陶器類の縁の欠けたものは売れない)。

パ˞ダカ˥ムン [pa˞daka˥muŋ]【名】裸麦。麦の穂にのぎ＜芒＞が少なく、脱穀しやすい麦。パ˞ダカムン˥マー　˞ナン˥ゾー　ス˞クラン˥シェン [pa˞dakamum ˥ma: ˞nan˥ʤo: su̥˞kuraŋ˥ʃeŋ](裸麦はあまり作らなかった)。

˥バタ　カ˞ルン [˥bata ka˞ruŋ]【連】経産婦の腹を名義的に借りること。妊婦が胎児との相性が悪い時、相性の良い経産婦のお腹を名義的に借りること。

˥バタ　カ˞ローン [˥bata ka˞ro:˥ŋ]【連】1お産が軽い。安産である。˥バタ　カ˞ロー˥ル　プ˞ソー˥　ギュ˞タール˥　ナ˞サ˥バン　˞ソーヤ　ナー˥ヌ [˥bata ka˞ro: ˥ru pu̥˞so:˥ gju˞ta:ru˥ na˞a˥ban ˞so:ja na:˥nu](お産の軽い人は何人産んでも心配はない)。2お腹が軽い。˞イー˥ヤ　˥バタ　ハ˞チブナー˥ル　ッ˞ふァイブンダ˥　バタ　カ˞ロー˥ン [˞ʔi:˥ja ˥bata hḁ˞ʧibuna:˥ru f ˞faibunda˥ bata ka˞ro:˥ŋ](ご飯は腹八分ずつ食べているので、お腹は軽い)。

パ˞タ˥キ [pḁ˞ta˥ki]【名】畑。「〜蒔きし波多氣毛〜。万、4122」、「陸田種子、＜ハタケツモノ＞」『類聚名義抄』の転訛したもの。ウ˞ブパタ˥キ [ʔu˞bupata˥ki](大きな畑)。パ˞タケー˥マ [pḁ˞take:˥ma](小さな畑)。パ˞タ˥キ　˞カイ˥スン [pḁ˞ta˥ki ˞kai˥suŋ](畑を耕す)。パ˞タキ˥ヌ　˥アザ [pḁ˞taki˥nu ˥ʔaʤa:](畑の畦)。ア˞ラシ˥　ア˞クン [ʔa˞raʃi˥ ʔa˞kuŋ](開墾する)。畑を開墾する際は、先ず原野の˞ユシ˥キ [˞juʃi̥˥ki](ススキ) を焼く。その後、立ち枯れのススキを刈り取る。これを、ヤ˞キバイ˥スリ [ja˞kibai˥suri](焼けたススキ刈り) という。立ち枯れのススキをヤ˞キバイ [ja˞kibai] という。ススキの刈り株を掘り起こして土地を耕すことを、ア˞ラシアキ [ʔa˞raʃiʔaki](新仕開け＜開墾＞) という。その次に、マ˞タカイシ [ma˞takaiʃi](又耕し。二度打ち) をして作付けした。ヤ˞キバイ˥　スリティ　ア˞ラシ˥　ア˞キ˥　パ˞タ˥キ　ス˞ク˥ローッタ [ja˞kibai˥ suriti ʔa˞raʃi˥ ʔa˞ki˥ pḁ˞ta˥ki su̥˞ku˥ro:tta](焼き払ったススキを刈り取って開墾して畑を作られた)。

パ˞ダ˥ギ [pa˞da˥gi]【名】肌着。標準語からの借用語が転訛したもの。老年層は、˥ジバン [˥ʤibaŋ](襦袢) と言った。˞キュー˥ヤ　ドゥ˞ク˥ヌ　˥アツァティ　パ˞ダ˥ギ　˞タン˥ガ　キ˞シ　ベー [˞kju:˥ja du˞ku˥nu ˥ʔatsati pa˞da˥gi ˞taŋ˥ga ki̥˞ʃibe:](今日は、あまりにも暑いので肌着だけ着ている)。

パ˞タキウヤ˥ザ [pḁ˞takiʔuja˥ʤa]【名】(動) 野鼠。「畑

鼠」の義。パ˞タキウヤザ˥ヌ　ウ˞スマ˥シスコー　˥シディティ　パ˞タキ˥ヌ　˞ウン˥マー　ムー˞ル˥　シ˞ラリ　ナー˥ヌ [pḁ˞takiʔujaʤa˥nu ʔu˞suma˥ʃisu̥ko: ˥ʃiditi pḁ˞taki˥nu ˞ʔum˥ma: mu:˞ru˥ ʃi˞rari na:˥nu](野鼠が異常発生＜おぞましいほど発生＞して畑の芋は全部やられてしまった)。

バ˞タキクッ˥ツァーン [ba˞takikut˥tsa:ŋ] 【形】腹具合がわるい。「腹が重苦しい」の義。˞ヌー˥ヌ　ア˞タラン˥ターユー　バ˞タキクッツァー˥ヌ　ナ˞ラン˥サー [˞nu:˥nu ʔa˞taran˥ta:ju: ba˞takikuttsa:˥nu na˞ran˥sa:](何が合わなかったのか、腹具合が悪くてたまらないよ)。バ˞タキクッ˥ツァーンティ　ス˞クタンドゥ　ナン˥ゾー　バ˞タキクッツァーナーン˥ティバン [ba˞takikut˥tsa:nti su̥˞kutandu nan˥ʤo: ba˞takikuttsa:na:n˥tibaŋ](腹具合が悪いと聞いたんだが、それほど腹具合は悪くないんだってよ)。バ˞タキクッ˥ツァー　˥ナリクン [ba˞takikut˥tsa: narikuŋ](腹具合が悪くなってくる)。

パ˞ダキクッ˥ツァーン [pa˞dakikut˥tsa:ŋ] 【形】蒸し暑くて息苦しい。暑苦しい。熱気がこもって不快である。ナ˞チェー˥　ン˞ブリオーシ˥キ　˥ナリティ　パ˞ダキクッツァー˥ヌ　ニ˞バラヌ [na˞ʧe:˥ ʔm˞buriʔoʃi̥˥ki ˥nariti pa˞dakikuttsa:˥nu ni˞baranu](夏は蒸し暑い天気になって、暑苦しくて眠られない)。パ˞ダキクッ˥ツァーンティ　ア˞ズヌ˥　カ˞マ˥トゥ　ア˞ティル˥カー　パ˞ダキクッツァー　ナー˥ヌ [pa˞dakikut˥tsa:nti ʔa˞ʤunu˥ ka˞ma˥tu ʔa˞tiru˥ka: pa˞dakikuttsa:na:˥nu](暑苦しいというけれど、あそこと較べれば暑苦しくないよ)。˞シンダイ˥　パ˞ダキクッ˥ツァー　˥ナリクン [˞ʃindai˥ pa˞dakikut˥tsa: ˥narikuŋ](次第に暑苦しくなってくる)。パ˞ダキクッ˥ツァー　˥ピンマー　˞ピーリ˥ミジ　ア˞ミ˥バ [pa˞dakikut˥tsa: ˥pimma: ˞pi:ri˥miʤi ʔa˞mi˥ba](暑苦しい時は冷や水を浴びなさいよ)。

パ˞タキシグ˥トゥ [pḁ˞takiʃigu˥tu] 【名】畑仕事。ティ˞ダ˥ヌ　˞ヨーコイ˥　ナ˞ラ˥バール　パ˞タキシグ˥トー　˥ナル [ti˞da˥nu ˞jo:koi˥ na˞ra˥ba:raru pḁ˞takiʃigu˥to: ˥naru](太陽が傾いて暑気が緩む＜夕影の＞頃になってから＜頃になればぞ＞畑仕事はできる)。

パ˞タキスクリ˥プス [pḁ˞takisu̥kuri˥pu̥su] 【名】農夫。畑作人。百姓。「畑作り人」の義。˥アブジェー　パ˞タキスクリプス˥ヌ　˥ティフン　ヤ˞ロー˥ルンダ　パ˞タキ˥ヌ　シ˞キゴイン˥　ク˞メーキ˥　ス˞ク˥ロールン [˥ʔabuʤe: pḁ˞takisu̥kuripusu˥nu ˥tiɸuɲ ja˞ro:˥runda pḁ˞taki˥nu ʃi̥˞kigoiŋ˥ ku˞me:ki˥ su̥˞ku˥ro:ruŋ](お祖父さんは畑作人の手本であられるから、畑の堆肥＜敷き肥＞造りも細かく念入りに造られる)。

パ˞タキトゥナ˥ル [pḁ˞takituna˥ru] 【名】畑隣り。畑がと隣り合っていること。˞ウン˥ネートー　パ˞タキトゥナ˥ル　ヤ˞ルンダ˥　マー˞ズン˥シル　パ˞タ˥ケーン　˞パッタ˥ル [˞ʔun˥ne:to: pḁ˞takituna˥ru ja˞runda˥ ma:˞ʤuŋ˥ʃiru pḁ˞ta˥ke:m ˞patta˥ru](あの家とは畑隣だから一緒に畑へも行ったものだ)。

パ˞タキドン˥グ [pḁ˞takidoŋ˥gu] 【名】畑道具。鍬、鎌、箆などの農具。パ˞タキドン˥ゴー　イ˞チン˥　ピ˞カラ˥シ　シキ˞ヨー [pḁ˞takidoŋ˥go: ʔi˞ʧim˥ pi̥˞kara˥ʃi˥ʃi̥ki˞jo:](畑道具＜農具＞は、いつも磨いて＜光らせて＞おけよ)。

パ˞タキ˥ヌ　˥ッサ　˞ソールン [pḁ˞taki˥nu ˥ssa ˞so:ruŋ] 【連】畑の草をへら＜箆＞で鋤き起こして取る＜除草する＞。ア˞サカイナー˥ル　パ˞タキ˥ヌ　˥ッサー　˞ソール˥　アツァサーリ　˥ヌーヤ　ウ˞レー [ʔa˞sakaina:˥ru pḁ˞taki˥nu ˥ssa: ˞so:ru˥ ʔatsasa:ri ˥nu:ja ʔu˞re:](朝の涼しいうちに＜朝影に＞畑の草取りはするのであって、暑いのに何ですか、これは。)。

パ˞ダキネー˥ン [pa˞dakine:˥ŋ] 【形】いたずらっこ (悪戯っ児) である。腕白である。暴れん坊である。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　パ˞ダキネー˥ンティ　ス˞クタヌ˥　アイ˞スン˥スコー＜アイ˞スー˥スコー＞　パ˞ダキネー　ナー˥ヌ [ku˞nu˥ f˞fa:˥ pa˞dakine:˥nti su̥˞kutanu˥ ʔai˞sun˥su̥ko:＜ʔai˞su:˥suko:＞ pa˞dakine: na:˥nu](この子は悪戯っ子＜腕白坊主＞であると聞いたが、それほど腕白ではない)。パ˞ダキネー˥ヌ　˞バン˥マー　˞アシゥカーラヌ [pa˞dakine:˥nu ˞bam˥ma: ˞ʔasi̥ka:ranu](あまりにも悪戯っ子＜腕白＞で、私には扱えない)。˞シンダイ˥　パ˞ダキネー˥　ナリ　˞ナー˥ヌ [˞ʃindai˥ pa˞dakine:˥ nari ˞na:˥nu](次第に悪戯っ子＜腕白坊主＞になってしまった)。˥アイニ　パ˞ダキネー˥(ル)　ッ˞ふァー˥　ブ˞ラーヌ [˥ʔaini pa˞dakine:˥(ru) f˞fa:˥ bu˞ra:nu](あんなに腕白な子供はいない)。

パ˞タキマー˥ル [pḁ˞takima:˥ru] 【名】畑の見回り。作物の生育状況や鳥虫害の有無などを調べ、収穫時期の予想をたてるために畑を見回ること。˥ユー　パ˞タキマー˥ル　˞ソー˥ルンダ　ス˞クリ˥ムヌナー　キ˞ジェー　ピー˥チン　˞ナー˥ヌ [˥ju: pḁ˞takima:˥ru ˞so:˥runda su̥˞kuri˥mununa: ki˞ʤe: pi:˥ʧin ˞na:˥nu](よく畑の見回りをされるので、作物には、傷は一つ

もない)。

パ˞タキ˥マイ **[pa̠˞taki˥mai]** 【名】陸稲。おかぼ。「畑米」の義。終戦後の一時期、西表島から陸稲が導入されたことがあったが、味が不味く、鳩間島では定着しなかった。パ˞タキマイ˥ヌ　ア˞ジェー　ナン˥ゾー　˞ダーッ˥サー　˞ナーン˥シェン [pa̠˞takimai˥nu ʔa˞ʤe: nan˥ʤo: ˞da:s˥sa: ˞na:ŋ˥ʃeŋ](陸稲の味はあまり良くなかった)。

パ˞タキヤー˥マ **[pa̠˞takija:˥ma]** 【名】畑小屋。畑の側に小さな小屋を作って畑作業の後、休憩をしたり、昼食のための湯茶をたてたりしたところ。戦後はほとんどなくなってしまった。˥アブジェー　パ˞タキヤー˥マナー　˞ユー˥クイティ　˥ウナー　プ˞スマニビン　ソーッ˥タツォー [˥ʔabuʤe: pa̠˞takija:˥mana: ˞ju:˥kuiti ˥ʔuna: pu̠˞sumanibin so:t˥tatso:](お祖父さんは畑小屋で休憩をして、そこで昼寝もされたそうだ)。

パ˞ダ˥キン **[pa˞da˥kiŋ]**【名】肌着。˥ジバン [˥ʤibaŋ](ジバン。gibão< ポルトガル語、肌着 > の転訛したもの。襦袢。) ともいう。ナ˞チェー˥　アツァンダ　パ˞ダ˥キン　プ˞スッ˥クビシ　ス˞グサ˥リン <˞トゥーサ˥リン >[na˞ʧe:˥ ʔatsanda pa˞da˥kim pu̠˞suk˥kubiʃi su˞gusa˥riŋ <˞tu:sa˥riŋ >](夏は暑いから肌着一着で過ごされる)。

パ˞タキンガ˥ナ **[pa̠˞takiʔŋga˥na]** 【名】畑で栽培したにがな < 苦菜 >。栽培にがな。「畑苦菜」の義。˞ヌーンガ˥ナ [˞nu:ʔŋga˥na](野苦菜。野生の苦菜) の対義語。パ˞タキンガ˥ナー　バ˞タ˥ヌ　フ˞チ˥ルティ　˞シール˥　ス˞ク˥ローッタ [pa̠˞takiʔŋga˥na: ba˞ta˥nu ɸu̠˞ʧi˥ruti ˞ʃi:ru˥ su̠˞ku˥ro:tta](栽培苦菜はお腹の薬として栽培さ < 作ら > れた)。

バ˞タクク˥チ **[ba˞takuku˥ʧi]** 【名】腹具合。胃腸の調子。「腹心地」の義。バ˞タククチ˥ヌ　ムッ˞トゥマーダーッサー　ナーン˥サー [ba˞takukuʧinu mut˞tu ma:da:ssa: na:n˥sa:](腹具合がちっとも調子良くないよ)。

バ˞タ˥クサー **[ba˞ta˥ku̠sa:]**【名】へそくり (臍繰り)。密かに溜めたお金。ワ˞タ˥クサー [wa˞ta˥kusa:](へそくり) ともいう。糸満方言からの借用語か。ミ˞ドゥ˥モー　ン˞メーマ˥ナー　バ˞タ˥クサーン　ア˞リバ˥ル　˥ナル [mi˞du˥mo: ʔm˞me:ma˥na: ba˞ta˥ku̠sa:ŋ ʔa˞riba˥ru ˥naru](女は、少しは臍繰りも無くてはならない < あったほうがよい >)。

バ˞タグス˥ク **[ba˞tagusu̠˥ku]** 【名】二重積みの石垣。前と後ろに二重に石垣を積んで、中間にバ˞タ˥イシ [ba˞ta˥ʔiʃi](腹石) を入れて積み上げた石垣。バ˞タグス˥ク　シ˞ム˥カー　˞クーリラ˥ヌ [ba˞tagusu̠˥ku ʃi˞mu˥ka: ˞ku:rira˥nu](二重積みの石垣を積んだら崩れない)。

˥バタ　ク˞ダスン **[˥bata ku˞dasuŋ]** 【連】下痢する。˞腹を下す」の義。˞シーリ˥ムヌ　ッ˞ふー˥カー　˥バタ　ク˞ダスント ダー [˞ʃi:ri˥munu f˞fu:˥ka: ˥bata ku˞dasunト-da:](饐(ス)えたものを食べると下痢するよ < 腹下すよ >)。

˥バタ　˞グッ˥ふァン **[˥bata ˞guf˥faŋ]** 【連】お腹がもたれる。お腹が張って重い。腹具合がわるい。「腹が重い」の義。ウ˞ブッ˥ふァイ　˞シーティ˥　バタ　˞グッふァ˥ヌ　˞ウーカラ˥ヌ [ʔu˞buf˥fai ˞ʃi:ti˥ bata ˞guffa˥nu ˞ʔu:kara˥nu](大食いして、お腹が重くて動かれ < 動け > ない)。

˥バタグルグルー **[˥bataguruguru:]** 【名】下痢気味になること。腹がごろごろと鳴ること。「腹ゴロゴロ」の義。˞ヌー˥ヌ　ア˞タランタ˥ユー　˥バタグルグルー　˞シーベー˥サー [˞nu:˥nu ʔa˞taranta˥ju: ˥bataguruguru: ˞ʃi:be:˥sa:](何が < 腹に > 合わなかったのか、下痢気味になっているよ < 腹がごろごろと鳴っているよ >)。

バ˞タ˥グル　˞スン **[ba˞ta˥guru ˞suŋ]** 【連】お腹の具合が悪くなる。下痢気味になる。バ˞タ˥グル　シ˞ティ　ウーカラ˥ヌ [ba˞ta˥guru ʃi̠˞ti ʔu:kara˥nu](下痢気味で働け < 動かれ > ない)。

バ˞タグロー˥ン **[ba˞taguro:˥ŋ]** 【形】お腹の調子が悪い。下痢しやすい。˥バー　バ˞タグロー˥ンダ　˞コー˥　ムノー　ッ˞ふァーラヌ [˥ba: ba˞taguro:˥nda ˞ko:˥ muno: f˞fa:ranu](私は下痢しやすいから硬い物は食べられない)。バ˞タグロー　ナーン˥シェンドゥ　˞シンダイ˥　バ˞タグロー˥　ナリ　˞ナー˥ヌ [ba˞taguro: na:ŋ˥ʃendu ˞ʃindai˥ ba˞taguro:˥ nari ˞na:˥nu](下痢しやすくなかったが、次第に下痢しやすくなってしまった)。バ˞タグロー˥　プ˞ソー˥　ッ˞ふァーン˥　ブ˞リ˥バ [ba˞taguro:˥ pu̠˞so:˥ f˞fa:m˥ bu˞ri˥ba](下痢しやすい人は食べるなよ)。

˥バタ　˞コー˥ルン **[˥bata ˞ko:˥ruŋ]** 【連】 1腹が落ち着く。お腹がかたくなる。˞ベー˥カー　˞シー　ベータ˥ヌ　˥バター　˞コー˥レーン [˞be:˥ka: ˞ʃi: be:ta˥nu ˥bata: ˞ko:˥re:ŋ](ひどい下痢をしていたが、お腹が落ち着いた < お腹がかたくなった >)。2妊婦のお腹 < 胎児 > が安定する。「腹強る」の義。パ˞ルミ˥プソー　˞ムーシキ˥　タトゥカー　˥バター　˞コー˥ルン [pa˞rumi˥pu̠so: ˞mu:ʃi̠ki˥ ta̠tuka: ˥bata: ˞ko:˥

ruŋ](妊婦＜孕み人＞は六月たてばお腹は安定する＜妊婦のお腹はかたくなる＞)。³腹の皮がよじれる＜腹の皮が硬くなる＞。ウ˩リンマー˥ バタ ˩コー˥ルンケン バ˩ラーサリ ミッ˥タン [ʔu˩rimma:˥ bata ˩ko:˥ruŋkem ba˩ra:sari mit˥taŋ](あいつには腹の皮がよじれるまで笑わされたことがある＜笑わされてみた＞よ)。

˥パダ ˩コー˥ルン **[˥pada ˩ko:˥ruŋ]** 【連】新生児や乳児が成長すること。赤ちゃんの首がすわる。「肌強る」の義。グイ˩ユー イットゥ˥キ ミ˩ラン˥ケンナー ッ˩ふァー˥マー イッ˩ケナ˥ パダー ˩コーリ˥ ブーバン [gui˩ju: ʔittu˥ki mi˩raŋ˥kenna: f˩fa:˥ma: ʔik˩kena˥ pada: ˩ko:ri˥ bu:baŋ](あらまあ、ちょっと見ぬうちに赤ちゃんはすっかり成長している＜肌が硬くなっている＞わい)。

ハ˩ダ˥シ **[ha˩da˥ʃi]** 【名】裸足。標準語からの借用語。老年層は、カ˩ラピサ [ka˩rapisa](裸足)、カ˩ラパン [ka˩rapaŋ](裸足。＜空足・カラァシ＞の転訛)。キ˩ザ˥パン [ki˩ʤa˥paŋ](裸足。汚れた足) という。ヤ˩ラ˥ビ ˩シェーン˥ケンマー ハ˩ダ˥シシル ˩ガッ˥コーン ˩パッタ˥ル [ja˩ra˥bi ˩ʃe:ŋ˥kemma: ha˩da˥ʃiʃiru ˩gak˥ko:m ˩patta˥ru](子供のころは裸足で学校に＜へ＞も行ったものだ)。

バ˩タ˥シ **[ba˩ta˥ʃi]** 【名】酒器の一つ。神酒を入れて神前に供えるための挽き物の祭具。˥インダヌ ウ˩シヌ˥ ウガンナーティ ウ˩シヌ ニン˥ガイ ˩ソー˥ル ˥ピンマー ミ˩キバタ˥シナ ミ˩キバ˥ イ˩リティ ニン˥ガイ ˩ソーッ˥タ [˥ʔindanu ʔu˩ʃinu˥ ʔuganna:ti ʔu˩ʃinu niŋ˥gai ˩so:˥ru ˥pimma: mi˩kibata ˥ʃina mi˩kiba˥ ʔi˩riti niŋ˥gai ˩so:t˥ta](伊武田の牛の御嶽で牛の祈願をされる時はミキバタシ＜神酒入れの酒器＞に神酒を入れて祈願をされた)。

バ˩タシ **[ba˩taʃi]** 【名】渡し場。ウ˩ラッチガーラ˥ヌ バ˩タシ˥ナーティ タ˩ナ˥ムカー バ˩タシ ッふィールタン [ʔu˩rattʃiga:ra˥nu ba˩taʃi˥na:ti ta˩na˥muka: ba˩taʃi ffi:rutaŋ](浦内川の渡し場で頼んだら渡してくれるよ)。

パ˩ダ˥シ **[pa˩da˥ʃi]** 【名】裸足。「⊠跣、波太志＜はだし＞」『新撰字鏡』の義。老年層は、キ˩ザ˥パン [ki˩ʤa˥paŋ](土足)、カ˩ラピサ [ka˩rapisa](裸足)、カ˩ラパン [ka˩rapaŋ](裸足) ともいう。パ˩ダ˥シシ ˩ヤーン˥ナカー ˩ペール˥ナ [pa˩da˥ʃiʃi ˩ja:n˥naka: ˩pe:ru˥na](裸足で室内＜家の中＞に入るな)。

˥パダ シ˩ズ˥マルン **[˥pada ʃi˩ʤu˥maruŋ]** 【連】緊張する。かしこまる。恐れ慎む。うやうやしく＜恭しく＞かしこまる。「肌鎮まる」の義。ヨー˩ヨー˥ パダー シ˩ズ˥マレーティル シ˩キン˥マー バ˩タル˥ダー [jo:˩jo:˥ pada: ʃi˩ʤu˥mare:tiru ʃi̥˩kim˥ma: ba˩taru˥da:](よくよく注意しなさいよ。緊張して、恐れ敬いながら世間は渡るものだぞ)。˩カンヌ˥マイナー ˩デー˥ジ ˥ゴーサ ˩シー˥ パダ シ˩ズ˥マレーティ ˩アー˥キ [˩kannu˥maina: ˩de:˥ʤi ˥go:sa ˩ʃi:˥ pada ʃi˩ʤu˥mare:ti ˩ʔa:˥ki](神様の前では「大変だの気持ち」で恐れ慎みながら、緊張して行動しなさい＜あるきなさい＞)。

バ˩タシ˥ブニ **[ba˩taʃi˥buni]** 【名】渡し船。ウ˩ラッチガー˥ラナー バ˩タシブニ˥ヌ ˩アッ˥タン [ʔu˩rattʃiga:˥rana: ba˩taʃibuni˥nu ˩ʔat˥taŋ](1959 年頃まで、浦内川には渡し船があった)。

˥パダ シ˩マ˥ルン **[˥pada ʃi˩ma˥ruŋ]** 【連】緊張する。気を引き締める。「肌締まる」の義。˥パダ ヌ˩ビ˥ルン [˥pada nu˩bi˥ruŋ](気がゆるむ。油断する＜怠ける＞) の対義語。ノー˩ンヌ˥ シ˩グトゥ˥ ヤ˩ラバン˥ パダ シ˩マ˥レーティ ˩サン˥カー ˥ムノー ナ˩ラ˥ヌ [no:˩nnu˥ ʃi˩gutu˥ ja˩rabam˥ pada ʃi˩ma˥re:ti ˩saŋ˥ka: ˥muno: na˩ra˥nu](どんな仕事でも緊張してしないと成功しない＜物にならない＞)。

バ˩タ˥ジル ˩コー˥ルン **[ba˩ta˥ʤiru ˩ko:˥ruŋ]** 【連】腹の筋が硬くなる。腹筋を縒＜よ＞る。˩ウンザン˥ バ˩ラーサリティ˥ バ˩タ˥ジル ˩コー˥ルンケン バ˩ライ ミッ˥タン [˩ʔunʤam˥ ba˩ra:sariti˥ ba˩ta˥ʤiru ˩ko:˥ruŋkem ba˩rai mit˥taŋ](あいつに笑わされて、腹の筋が硬くなるまで＜腹筋がよじれるほど＞笑ってみたよ)。

バ˩タズー˥ワン **[ba˩taʤu:˥waŋ]** 【形】お腹が丈夫である。内臓機能が強くてお腹をこわしにくい。「腹強し」の義。バ˩タズー˥ワンダ ノー˩ン ッふァーサリン [ba˩taʤu:˥wanda no:˩ŋ ffa:sariŋ](お腹が丈夫だから何でも食べさせられる)。˥キサー バ˩タズーワ ナーン˥シェンドゥ フ˩ドゥブアーシ˥ バ˩タズー˥ワ ˥ナリケーン [˥ki̥sa: ba˩taʤu:wa na:ŋ˥ʃendu ɸu˩dubuʔa:ʃi˥ ba˩taʤu:˥wa ˥narike:ŋ](以前はお腹が丈夫でなかったが、成長するにつれてお腹が丈夫になってきた)。ウ˩リン˥スコー バ˩タズー˥ワ プ˩ソー˥ ブ˩ラーヌ [ʔu˩rin˥su̥ko: ba˩taʤu:˥wa pu̥˩so:˥ bu˩ra:nu](彼ぐらいお腹の丈夫な人はいない)。

˥パダ ス˩ク˥マルン **[˥pada su̥˩ku˥maruŋ]** 【連】肌が縮まる。体が縮まる。驚いて身が縮まる。身がすくま (竦ま) る。˥トゥシ トゥ˩ル˥ター ˥パダン

スˡクˬマリティ　マˡガリベー [˥tu̥ʃi tuˡruˬta: ˥padan su̥ˡkuˬmariti maˡgaribeː](年を取ったので体＜肌＞も縮まってうずくま＜蹲＞っている)。ウˡダラˬキティ　˥パダ　スˡクˬマリ　ˡベー [ʔuˡdaraˬkiti ˥pada su̥ˡkuˬmari ˡbeː](驚いてちぢまりこんでいる)。

˥バタ　スˡクˬムン [˥bata su̥ˡkuˬmuŋ] 【連】お腹がすくむ＜竦む＞。腹がへこむ。お腹が縮む。キˡノーˬラ　ˡイーˬユン　ッˡふァーランベーˬティ　˥バター　スˡクˬミティ　クˡシンˬ　マˡガリベー [kiˡnoːˬra ˡʔiːˬjuŋ fˡfaːrambeːˬti ˥bataː su̥ˡkuˬmiti kuˡʃimˬ maˡgaribeː](昨日からご飯も食べられないので、お腹はへこんで腰も曲がっている)。

バˡタスクˬライ [baˡtasukuˬrai] 【名】腹ごしらえ＜腹拵え＞。小腹が減るときに少量の食べ物を取って本食事に備えること。ˡイーˬヌ　ˡニールンˬケン　ユˡナˬクンツァン　ンˡキティˬ　バˡタスクˬライ　ˡシーˬ　スˡコーˬリバ [ˡʔiːˬnu ˡniːruŋˬkeɲ juˡnaˬkuntsaŋ ʔŋˡkitiˬ baˡtasu̥kuˬrai ˡʃiːˬ su̥ˡkoːˬriba](ご飯が炊けるまで、麦焦がしでも召し上がって腹ごしらえをしておいてください＜〜おかれなさい＞)。

バˡタスン [baˡtasuŋ] 【他動】渡す。˥フネーラ　バˡタスンティ　スンドゥˬ　バˡタサラヌ [˥ɸuneːra baˡtasuntiˬ sunduˬ baˡtasaranu](はしけ＜艀＞から本船に渡そうとするが、渡されない)。バˡタシˬ　ミサカー　ˡジンˬマー　バˡタスˬクトー　˥ナルン [baˡtaʃiˬ misakaː ˡʤimˬmaː baˡtasuˬ ku̥toː ˥naruŋ](渡してよければ、お金は渡すことはできる)。マˡナˬマ　バˡタシェーˬ　ミサムヌ [maˡnaˬma baˡtaʃeːˬ misamunu](今、渡せば良いのに)。カˡリンˬ　バˡタシˬバ [kaˡrimˬ baˡtaʃiˬba](彼に渡しなさいよ)。

パˡタˬスン [paˡtaˬsuŋ] 【他動】果たす。成し遂げる。「〜結びてし事者不果＜言は果たさず＞〜。万、481」の義。ˡドゥーˬヌ　ヌˡズミˬ　パˡタˬスンティ　ˡギーバルタンドゥˬ　パˡタサランˬシェン [ˡduːˬnu nuˡʤumiˬ pḁˡtaˬsunti ˡgiːbarutanduˬ pḁˡtasaraŋˬʃeŋ](自分の望みを果たそうと頑張った＜気張った＞が果たされなかった)。マˡナˬマー　ヌˡズミˬ　パˡタˬスˬクトー　ナˡランˬバ　パˡタシ　ヤッˬサル　ヌˡズメーラˬ　パˡタˬシェー　˥ミサムヌ [maˡnaˬmaː nuˡʤumiˬ pḁˡtaˬsu ˥ku̥toː naˡramˬba pḁˡtaʃijasˬsaru nuˡʤumeːraˬ pḁˡtaˬʃeː ˥misamunu](今は望みを果たすことは出来ないから、果たしやすい望みから果たせばいいのに)。ˡドゥーˬヌ　ヌˡズメーˬ　ヤーˡディンˬ　パˡタˬシ [ˡduːˬnu nuˡʤumeːˬ jaːˡdimˬ pḁˡtaˬʃi](自分の望みは必ず果たせ)。

バˡタˬダイ [baˡtaˬdai] 【名】腹持ち。腹力。食物の消化が遅く、満腹感が保たれること。バˡタˬタヤ [baˡtaˬtaja](腹の力) の転訛したもの。ˡカイヤーˬ　バˡタˬダイ　ˡナーˬンダ　ウˡリˬ　ッˡふァイテーˬ　パˡタキシグˬトー　ナˡラˬヌ [ˡkaijaːˬ baˡtaˬdai ˡnaːˬnda ʔuˡriˬ fˡfaiteːˬ pḁˡtakiʃiguˬto: naˡraˬnu](お粥は腹持ちがないから、それを食べては畑仕事は出来ない)。バˡタˬダイ　˥アルムヌ　ッˡふァーシˬバ [baˡtaˬdai ˥ʔaru ˥munu fˡfaːʃiˬba](腹持ちのある物を食べさせなさいよ)。

バˡタˬタヤ [baˡtaˬtaja] 【名】腹の力。腹力 (腹もち)。バˡタˬダヤ [baˡtaˬdaja](腹の力) ともいう。ムˡチェーˬ　ッˡふーˬカー　イッˡケナˬ　バˡタˬダヤー　˥アン [muˡʧeːˬ fˡfuːˬka: ʔikˡkenaˬ baˡtaˬdaja: ʔaŋ](餅は食べると非常に腹持ちがよい＜腹の力がある＞)。

パˡタチ [pḁˡtaʧi] 【名】二十歳。パˡタチˬ　ナルカー　˥ドゥームティ　˥ミサンツォー [pḁˡtaʧiˬ naruka: ˥duːmuti ˥misantsoː](二十歳になったら結婚してよいそうだ)。ˡピャーˬク　˥パタチ　˥ナルンケン　イˡキラˬリカˡナー [ˡpjaːˬkupḁtaʧi ˥naruŋkeŋ ʔiˡkira ˥rikaˡnaː](百二十歳になるまで生きられたらなあ)。

バˡタチガˬイ [baˡtaʧigaˬi] 【名】腹違い。異母兄弟姉妹。ˡカッˬツァー　バˡタチガイˬヌ　ˡキョーˬダイˡゲˬラ [ˡkatˬtsaː baˡtaʧigaiˬnu ˡkjoːˬdaiˡgeˬra](彼らは異母兄弟姉妹さ)。

パˡタッカルン [pḁˡtakkaru] 【他動】 1手足などを開き広げる。広げる。開く。「開、ハダクル『運歩色葉集』」の転訛したもの。˥マタ　パˡタッカルンティ　スンドゥˬ　パˡタッカララヌ [˥mata pḁˡtakkarunti sunduˬ pḁˡtakkararanu](股を大きく広げようとするが広げられない)。˥ウナー　˥マタ　パˡタッカリティˬ　ニˡビ　ベーˬムヌヌ　ˡミーヌッˬサˡヨーˬ　ミˡドゥˬモー　˥マタ　パˡタッカル　ムノーˬ　アˡラˬヌ [˥ʔunaː ˥mata pḁˡtakkaritiˬ niˡbi beːˬ mununu ˡmiːnusˬsaˡjoːˬ miˡduˬmoː ˥mata pḁˡtakkaru munoːˬ ʔaˡraˬnu](そこに股を広げて寝ている者の見苦しいことよ。女は股を広げるものではない)。パˡタックˬカー　パˡタッカルン [pḁˡtakkuˬkaː pḁˡtakkaruŋ](広げたら広がる)。パˡタッカレーˬ　ミサムヌ [pḁˡtakkareːˬ misamunu](広がれば良いのに)。ˡマーˬビン　パˡタッカリ [ˡmaːˬbim pḁˡtakkari](もっと広がれ)。2着物を開いて体を露出させる。˥バタ　パˡタッカリティˬ　バˡカˬヤワˡレー [˥bata pḁˡtakkaritiˬ baˡkaˬjawaˡreː](お腹を露出させて恥ずか

しいねえ)。

パ˞ダッカルン **[pa˞dakkaruŋ]** 【自動】手足を開き広げて立ち塞ぐ。立ちはだかる。前に立ち塞がる。パ˞ダカルン [pa˞dakaruŋ](立ちはだかる) ともいう。「跨、ハタカル」『類聚名義抄』の転訛したもの。「Fatacari,u,atta(ハタカル)」『邦訳日葡辞書』の義。プ˞スヌ˥　マイナー　パ˞ダッカルンダル˥　マイ　˞ユーザラヌ˥　パ˞ダッカランドー˥シ　ア˞ラカ˥シバ [pu̥˞sunu˥ maina: pa˞dakkarundaru˥ mai ˞ju:ʤaranu˥ pa˞dakkarando:˥ʃi ʔa˞raka˥ʃiba](他人の前に立ちはだかるから前に進め < 寄られ > ない。立ちはだからないで歩かせなさい)。˥マイナー　パ˞ダッカリティ˥　ミ˞チ˥バ　ッ˞サイ　ベー˥ヌ　パ˞ダッカル˥　クトー　ユ˞ラサラ˥ヌ [˥maina: pa˞dakkariti˥ mi˞ʧi˥ ba s˞sai be:˥nu pa˞dakkaru˥ ku̥to: ju˞rasara˥nu](前に立ちはだかって道を塞いでいるが、立ちはだかることは許されない)。パ˞ダッカレー˥　ミサムヌ [pa˞dakkare:˥ misamunu](立ちはだかればいいのに)。ウ˞リヌ˥　マイナー　パ˞ダッカリ˥バ [ʔu˞rinu˥ maina: pa˞dakkari˥ba](彼の前に立ちはだかれよ)。

パ˞タッキルン **[pḁ˞takkiruŋ]** 【他動】開ける。広げる。「はだける < 開ける >」。「開、ハダクル」『運歩色葉集』の義。「Fatacari,u,atta. ハタカリ、ル、ッタ (扈り、る、った) 両脚を開き、踏み広げて立つ」『邦訳日葡辞書』。˥マタ　パ˞タッキルン [˥mata pḁ˞takkiruŋ](股を広げる)。フ˞チ˥　パ˞タッキルンティ　スンドゥ˥　パ˞タッキララヌ [ɸu̥˞ʧi˥ pḁ˞takkirunti sundu˥ pḁ˞takkiraranu](口を開けようとするが、開けられない)。フ˞チェー˥　パ˞タッキ˥　ミサカー　パ˞タッキレー˥　ミサムヌ [ɸu̥˞ʧe:˥ pḁ˞takki˥ misaka: pḁ˞takkire:˥ misamunu](口を開けてよければ、開ければいいのに)。フ˞チ˥　パ˞タッキル˥　ピンマー　ウ˞ムイ˥キシ　パ˞タッキリ [ɸu̥˞ʧi˥ pḁ˞takkiru˥ pimma: ʔu˞mui˥ki̥ʃi pḁ˞takkiri](口を開ける時は思い切って大きく開けなさい)。

パ˞タックン **[pḁ˞takkuŋ]** 【自動】ひらく (開く)。「開、ハダクル」『運歩色葉集』。˥マタ　パ˞タックン [˥mata pḁ˞takkuŋ](股を開ける < 広げる >)。フ˞チ˥　パ˞タックンティ　スンド˥　パ˞タッカラヌ [ɸu˞ʧi˥ pḁ˞takkunti sundu˥ pḁ˞takkaranu](口を開けようとするが、開けられない)。パ˞タッキ˥　ミサン [pḁ˞takki˥ misaŋ](開けてもいい)。パ˞タック˥　ピンマー　˞ヨーンナー˥　パ˞タッキ [pḁ˞takku˥ pimma: ˞jo:nna:˥ pḁ˞takki](開ける時はゆっくり開けなさい)。˞マー˥ビン　パ˞タッケー˥　ミサムヌ [˞ma:˥bim pḁ˞takke:˥ misamunu](もっと開けばよいのに)。フ˞チェー˥　パ˞タッカヌンドゥ˥　ムネー　イ˞ズン [ɸu̥˞ʧe:˥ pḁ˞takkanundu˥ mune: ʔi˞ʤuŋ](口を開けないが、ものは言う)。˞ネース˥カー　パ˞モール˥ヌ　フ˞チェー˥　パ˞タックン [˞ne:su˥ka: pa˞mo:ru˥nu ɸu̥˞ʧe:˥ pḁ˞takkuŋ](煮ると蛤の口は開く)。フ˞チェー˥　パ˞タッキ　ベー˥ンドゥ　˥ムノー　ッ˞ふァイユーサヌ [ɸu̥˞ʧe:˥ pḁ˞takki be:˥ndu ˥muno: f˞faiju:sanu](口は開いているが、ものを食べることが出来ない)。パ˞モール˥ヌ　フ˞チヌ˥　パ˞タック˥カー　˞ニーブ˥　シジ [pa˞mo:ru˥nu ɸu̥˞ʧinu˥ pḁ˞takku˥ka: ˞ni:˥bu ˥ʃiʤi](蛤が口を開いたら煮えている証拠 < 訳 > だ)。パ˞タッケー˥　ミサムヌ [pḁ˞takke:˥ misamunu](開けばいいのに)。˞マー˥ビン　パ˞タッキ˥バ [˞ma:˥bim pḁ˞takki˥ba](もっと開けよ)。

˥バタッサラー **[˥batassara:]** 【名】よく怒る人。激しやすく腹黒い人。心根の腐った人。「腹腐れ者」の義。˥バタッサリムヌ [˥batassarimunu](よく怒る者。腹腐れ者。腹黒い者) ともいう。˞ウンザー˥　バタッサラー　ヤ˞ルンダ˥　ン˞メーマヌ˥　クトゥシン　プ˞ストゥ　アイ˥ス [˞ʔunʤa:˥ batassara: ja˞runda˥ ʔm˞me:manu˥ ku̥tuʃim pu̥˞sutu ʔai˥su](あいつは心根の腐った奴だからちょっとしたことでも他人と喧嘩する)。

バ˞タッサリ˥ムニ **[ba˞tassari˥muni]** 【名】腹立たしい言葉。癪(シャク)に障る言葉。「腹腐れ物言い」の義。˞ウンザトゥ˥　パ˞ナ˥スカー　バ˞タッサリ˥ムニ　カー˞ニル˥　シゥ˞カサリンダ˥　ノー˞ン˥　シ˞キ˥プサー　˞ナー˥ヌ [˞ʔunʤatu˥ pa˞na˥su̥ka: ba˞tassari˥muni ka:˞niru˥ si̥˞karinda˥ no:˞ŋ˥ ʃi̥˞ki˥pu̥sa: ˞na:˥nu](あいつと話すと癪にさわる言葉だけ聞かされるから、何も聞きたくない)。

バ˞タッサリ˥ムヌ **[ba˞tassari˥munu]** 【名】よく怒る者。腹腐れ者。腹黒い者。˥アイブ　バ˞タッサリ˥ムノー　プ˞ストゥ˥　パ˞ナシアー˥シ　˞シーユーサヌ [˥ʔaibu ba˞tassari˥muno: pu̥˞sutu˥ pa˞naʃiʔa:˥ʃi ˞ʃi:ju:sanu](あんな腹腐れ者 < 腹黒い者 > は他人と話し合いすることは出来ない < 話し合いをし得ない >)。

˥バタ　˥ッサルン **[˥bata ˥ssaruŋ]** 【連】腹立たしくなる。癪に障(サワ)る。不愉快になる。「腹が腐れる」の義。ウ˞リヌ˥　ム˞ニ˥バ　ス˞ク˥カー　˞カイ˥テー　˥バタ　˥ッサルンダー　シゥ˞カンモー˥　マ˞シ [ʔu˞rinu˥ mu˞ni˥ba su̥˞ku˥ka: ˞kai˥te: ˥bata ˥ssarunda: si̥˞kammo:˥ ma˞ʃi](彼の話を聞くと却って癪に障るの

で聞かない方がいい)。

˥パダ　ッ˩ソー˥ン **[˥pada s˩soː˥ŋ]** 【連】肌が白い。色白である。˩クン˥ネヌ　ミ˩ドーン˥ッふァー　ムー˩ル˥　パダ　ッ˩ソー˥ン [˩kun˥nenu mi˩doːŋ˥ffaː muː˩ru˥ pada s˩soː˥ŋ](この家の女の子は皆肌が白い＜色白である＞)。

バ˩タッ˥ふァー **[ba˩taf˥faː]** 【名】怒りっぽい人。「腹暗い者」の義。˩ウンザー˥　バ˩タッ˥ふァー　ヤ˩ルンダ˥　ン˩ベーマ˥　イ˩ズバン˥　シ˩グ　クン˥ゾー　ウ˩クリ˥ス [˩ʔundʑaː˥ ba˩taf˥faː jaˬrundaˬ ʔmˬbeːmaˬ ʔi˩dʑubaŋ˥ ʃi˩gu kun˥dʑoː ʔu˩kuri˥su](あいつは怒りっぽいから、少し叱ってもすぐ腹を立てる＜怒る＞)。

バ˩タッ˥ふァーン **[ba˩taf˥faːŋ]** 【形】怒りっぽい。立腹しやすい。「腹暗い」の義。ウ˩レー˥　バ˩タッ˥ふァーンダ　シゥ˩カーラヌ˥　バ˩タッふァー　ナーン˥　プ˩スバ˥　タ˩ナ˥ミ [ʔu˩reː˥ ba˩taf˥faːnda sɨ̞˩kaːranu˥ ba˩taffaː naːm˥ pu̞˩subaˬ ta˩naˬmi](彼は怒りっぽいから使えない。怒りっぽくない人を頼め)。˩シンダイ˥　バ˩タッ˩ァふァー　ナリ˩ナー˩ヌ [˩ʃindai˥ ba˩taf˥faː nari˩naː˥nu](次第に怒りっぽくなってしまった)。バ˩タッ˥ふァー　プ˩ソー˥　ピ˩ライグリ˥サン [ba˩taf˥faː pu̞˩soː˥ pi˩raiguri˥saŋ](怒りっぽい人は付き合いにくい)。˥アイニ　バ˩タッ˥ふァーレーラー　プ˩スピライヤー˥　ナ˩ラ˥ヌ [˥ʔaini ba˩taf˥faːreːraː pu̞˩supiraijaː˥ na˩ra˥nu](あんなに怒りっぽいのであれば人付き合いは出来ない)。

パ˩ダナー˥ン **[pa˩danaː˥ŋ]** 【形】悪戯っぽい。悪ふざけする。しまりがなく、怠惰である。落ち着きが無い。女癖が悪い。「肌長し」の義。˩ウンザー　ピーズ˥　パ˩ダナー˥　クトゥ　カー˩ニル　スート ツォー [˩ʔundʑaː piːdʑu pa˩danaː˥ kutu kaː˩niru suːˊtsoː](あいつは、いたずら坊主で危なっかしいことだけするそうだ)。ウ˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　パ˩ダナー˥ンティ　ス˩クタヌ　ナン˥ゾー　パ˩ダナー　ナーン˥ワー˩ン˥ノー [ʔu˩nu˥ f˥faː˥ pa˩danaː˥nti su̞˩kutanu naˬdʑoː pa˩dana: naːŋ˥waː˩n˥noː](あの子は怠惰で悪戯っぽいと聞いたが、それほど悪戯っぽくないではないか)。˥ドゥク　パ˩ダナー˥ヌ　˩サーリ˥　パ˩ララ˥ヌ [˥duku pa˩danaː˥nu ˩saːri˥ pa˩raraˬnu](あまりにも怠惰でいたずらっぽいので連れて行かれない)。˩シンダイ˥　パ˩ダナー˥　ナリ　˩ヨー˥ゾー　シ˩キララ˥ヌ [˩ʃindai˥ pa˩danaː˥ nari ˩joː˥dʑoː ʃi̞˩kiraraˬnu](次第に悪ふざけをし、いたずらっぽくなって手がつけられ＜養生でき＞ない)。パ˩ダナー˥　ッ˩ふァー　ヨーンナー˥　パ˩ナ˥シ　ウ˩ティシゥカ˥シ [pa˩danaː˥ f˥faː joːnnaː˥ pa˩naˬʃi ʔu˩tisɨ̞˥kaˬʃi](落ち着きが無く、悪戯っぽい子にはゆっくり話して落ち着かせなさい)。

バ˩タナカ˥ラ **[ba˩tanaka˥ra]** 【名】腹半分。五分腹。マ˩ナ˥マー　˩パンタリプス˥ヌ　˩ゴー˥ラーンダ　˩イー˥ヤ　ナ˩カラ˥バタ　ッ˩ふァイバル　キンコー˥＜ドゥゾー＞　ナルツォー [ma˩naˬmaː ˩pantaripu̞su˥nu ˩goː˥raːnda ˩ʔiː˥ja na˩karaˬbata f˥faibaru kiŋkoː˥＜dudʑoː＞ narutsoː](今は肥満体の人が多いので、ご飯は腹半分に食べた方が健康になるそうだ)。

バ˩タ˥ニジ **[ba˩taˬniʤi]** 【名】空腹の我慢。ひだるい＜ひもじい＞思いを我慢すること。「腹念じ」の義。ウ˩レー　ピッ˥チン　バ˩タ˥ニジ　˩シーユーサヌ [ʔu˩reː pit˥ʧim ba˩taˬniʤi ˩ʃiːjuːsanu](彼は少しも空腹の我慢をすることが出来ない)。

バ˩タ˥ヌ　˥カー **[ba˩taˬnu ˥kaː]** 【連】腹の皮。カツオの腹皮は、ハ˩ラ˥ゴー [ha˩raˬgoː](腹皮) という。

バ˩タ˥ヌ　˩サールン **[ba˩taˬnu ˩saːruŋ]** 【連】膨れた腹が痩せる。膨れた腹が細くなる。バ˩タ˥ヌ　˩サールター˥　ア˩ラカ˥リン˩ダー [ba˩taˬnu ˩saːrutaː˥ ʔa˩rakaˬrin˩daː](お腹が細くなったので歩けるよ)。

バ˩タ˥ヌ　˩シームヌ **[ba˩taˬnu ˩ʃiːmunu]** 【連】腸 (はらわた) の吸い物。豚の中身の吸い物。若年層は、ナ˩カミ˥ヌ　˩シームヌ [na˩kami˥nu ˩ʃiːmunu](中身の吸い物) という。˩バン˥テヌ　˥アチャー　˩オー˥ヌ　バ˩タ˥ヌ　˩シームノー˥　ン˩コーラン˥シェン [˩banˬtenu ˥ʔatʃaː ˩ʔoː˥nu ba˩taˬnu ˩ʃiːmunoː˥ ʔŋ˩koːraŋ˥ʃeŋ](私の家のお父さんは豚の中身の吸い物は召し上がらなかった)。

バ˩タ˥ヌ　シゥ˩カイルン **[ba˩taˬnu sɨ̞˩kairuŋ]** 【連】腹が差し込むように痛む。イ˩クサユー˥ヌ　アトゥ˩バー˥ケー　バ˩タ˥ヌ　シゥ˩カイ˥　ヤミ　ナ˩ラ˥ヌティ　ク˩チ˥サ　˩シー˥　ア˩ゾーッタ˥ヌ　マ˩ナ˥マ　˥ウムーカー　イ˩ガンドゥ˥　ヤ˩ロー˥レール˩ナー [ʔi˩kusajuː˥nu ʔatu˩baː˥ke: ba˩taˬnu sɨ̞˩kai˥ jami na˩raˬnuti ku̞˩ʧiˬsa ˩ʃiː˥ ʔa˩dʑoːttaˬnu ma˩naˬma ˥ʔu-muːka: ʔi˩gandu˥ ja˩roː˥reːru˩naː](戦後までは、「お腹が差し込むように痛む」と苦しそうに言われたが、今思うと胃癌であられただろうなあ)。

バ˩タ˥ヌ　˩ピッ˥チン **[ba˩taˬnu ˩pit˥ʧiŋ]** 【連】お腹のいっぱい。満腹。バ˩タ˥ヌ　˩ピッ˥チン　ン˩マー˥ムヌ　ッ˩ふァイ˥　プサン [ba˩taˬnu ˩pit˥ʧim ʔm˩maː˥munu f˥fai˥ pu̞saŋ](お腹いっぱい美味しいものを食べたい)。

パ˞ダヌビ˜ムヌ **[pa˞danubi˜munu]** 【名】ずぼら。怠け者。しまりのない者。パ˞ダヌビ˜ムヌ　ヤ˞ルンダ˜　シ˞グトゥン˜　トゥ˞ズミラ˜ムティ　ア˞サビマール　シー　ベー [pa˞danubi˜munu ja˞runda˜ ʃi˞gutun˜ tu˞ʤumira˜muti ʔa˞sabima:ru ʃi: be:](怠け者だから、仕事もやり遂げない＜完結しない＞で遊びまわっている)。

バ˞タ˜ヌ　フ˞チ˜ル **[ba˞ta˜nu ɸu̥˞ʧi˜ru]** 【連】腹薬。整腸薬。下痢止め。「腹の薬」の義。ク˞ダス˜　ピンマー　バ˞タ˜ヌ　フ˞チ˜ルティ　˞シー　セイロー˜ガン　ヌ˞マ˜ソーッタ [ku˞dasu˜ pimma: ba˞ta˜nu ɸu̥˞ʧi˜ruti ˞ʃi: seiro:˜gan nu˞ma˜so:tta](下痢する＜くだす＞時は腹の薬＜下痢止め＞として正露丸を飲まされた)。

˜パダ　˜ヌブン **[˜pada ˜nubuŋ]** 【連】怠ける。気がゆるむ。やる気を失って遊びまわる。ウ˞ヤ˜ヌ　˜ミー　ピ˞カラ˜シ　˞ベーラン˜カー　ヤ˞ラ˜ベー　˜パダ　˜ヌブンダ　˜パダ　ヌ˞バサン˜スコー　シ˞グトゥ˜　シ˞ミリ [ʔu˞ja˜nu ˜mi: pi̥˞kara˜ʃi ˞be:raŋ˜ka: ja˞ra ˜be: pada ˜nubunda ˜pada nu˞basan˜su̥ko: ʃi˞gutu˜ ʃi ˞miri](親が見張って＜目を開いて監視して＞いないと子供は気がゆるんで怠けるから、怠けさせないように仕事をさせなさい)。

パ˞ダヌベー˜ン **[pa˞danube:˜ŋ]** 【形】だらしない。しまりがない。節度が無い。無分別で悪戯っぽい。ずぼらである。「肌伸び・あり」の義。ウ˞ヌ　ッふァー　サッ˜コー　パ˞ダヌベー˜ン [ʔu˞nu ffa: sak˜ko: pa ˞danube:˜ŋ](あの子は非常にだらしなくてずぼらである)。˜ドゥク　パ˞ダヌベー˜ティ　マー˞ン　サーリ˜　パ˞ララ˜ヌ [˜duku pa˞danube:˜ti ma:˞n sa:ri˜ pa ˞rara˜nu](あまりにも悪戯っぽくて、だらしないので何処へも連れて行かれない)。˜キサー　˜アイニ　パ˞ダヌベー　ナーン˜シェンドゥ　フ˞ドゥブアーシ˜　パ˞ダヌベー˜　ナリ　˞ナー˜ヌ [˜ki̥sa: ˜ʔaini pa ˞danube: na:ŋ˜ʃendu ɸu˞dubuʔa:ʃi˜ pa˞danube:˜ nari ˞na:˜nu](以前はあんなにだらしがなく、ずぼらでなかったが、成長するにつれて、しまりがなくずぼらになってしまった)。

バ˞タ˜ヌ　ム˞シ **[ba˞ta˜nu mu˞ʃi]** 【連】 1腹の虫。寄生虫。ナ˞ツァー˜ラ　˜シジ　ヌ˞マ˜スカー　バ˞タ˜ヌ　ム˞シェー˜　サ˞ギ˜ルン [na˞tsa:˜ra ˜ʃiʤi nu˞ma˜suka: ba˞ta˜nu mu˞ʃe:˜ sa˞gi˜ruŋ](かいにんそう＜海人草＞を煎じて飲ませると腹の虫＜回虫＞が駆除される＜下がって出る＞)。2空腹の原因を比喩的に˞腹の虫が鳴く」と表現する。バ˞タ˜ヌ　ム˞シヌ˜　ナ˞キ　ベー˜バ　˞パー˜ク　˞イー　ッふァー˜シ [ba ˞ta˜nu mu˞ʃinu˜ na˞ki be:˜ba ˞pa:˜ku ˞ʔi: ffa:˜ʃi](腹の虫が鳴いているから早くご飯を食べさせなさい)。

バ˞タバタ **[ba˞tabata]** 【副】擬態語。忙しいさま。˞ピーズ˜　バ˞タバタ˜シ　パ˞タラキ　ベー [˞pi:ʤu˜ ba˞ tabata˜ʃi pḁ˞taraki be:](毎日ばたばたと忙しく働いている)。

パ˞タパタ **[pḁ˞tapata]** 【副】擬音語。パ˞タパタ˜シ　˞オン˜ギ　˞アウ˜ルン [pḁ˞tapata˜ʃi ˞ʔoŋ˜gi ˞ʔau˜ruŋ](パタパタと扇をあおる＜煽る＞)。

バ˞タピー˜チ **[ba˞tapi:˜ʧi]** 【名】同母兄弟姉妹。同じ母から生まれたこと。「腹一つ」の義。˞ウッ˜ツァー　˞キョーダイ˜ヤー　バ˞タピー˜チ　ヤ˞ルヌ˜　タネー　ク˞ティ˜ル　ヤ˞ル [˞ʔut˜tsa: ˞kjo:dai˜ja: ba ˞tapi:˜ʧi ja˞runu˜ tane: ku˞ti˜ru ja˞ru](彼ら兄弟姉妹は同母兄弟であるが、父＜種＞は異なる)。

˜バタ　ピ˞ナラスン **[˜bata pi˞narasuŋ]** 【連】お腹を減らす。腹ごなしをする。食後に運動をして消化を助ける。ッ˞ふァイシギ　シーティル˜　バタ　ピ˞ナラスンティ˜　ア˞ラ˜キ　˞ベー˜ダー [f˞faiʃigi ʃi:tiru˜ bata pi˞narasunti˜ ʔa˞ra˜ki ˞be:˜da:](食べ過ぎて、腹ごなしをするとて＜腹を減らそうと＞歩いているのだよ)。

˜バタ　ピ˞ナルン **[˜bata pi˞naruŋ]** 【連】腹が減る。腹が空く。シ˞トゥム˜ティ　˞パイ˜サ　˜イー　ッ˞ふァイヤー˜ツバ　マ˞ナマー˜キシェー　˜バター　ピ˞ナリ　ブー˜パジ [ʃi̥˞tumu˜ti ˞pai˜sa ˜ʔi: f˞faija:˜tsuba ma˞nama:˜kiʃe: ˜bata: pi˞nari bu:˜paʤi](朝早くご飯を食べたので、今までにはお腹は減っているはずだ)。˜ドゥー　˞ウーカ˜スカー　˜バター　ピ˞ナルン [˜du: ˞ʔu:ka˜su̥ka: ˜bata: pi˞naruŋ](体を動かすとお腹は減る＜空く＞)。

バ˞タフク˜ビ **[ba˞taɸuku˜bi]** 【名】腹に巻く帯。腹帯。カ˞サナイフク˜ビ [kḁ˞sanaiɸu̥ku˜bi](負ぶい紐。おんぶひも) の対義語。バ˞タフク˜ビシル　ッ˞ふァ˜カ˞サナウ˜タ [ba˞taɸu̥ku˜biʃiru f˞fa˜ kḁ˞sanau˜ta](腹に巻く帯＜腹帯＞で子供を負ぶった)。

バ˞タフク˜ラー **[ba˞taɸu̥ku˜ra:]** 【名】お腹の大きい者。「腹膨れ者」の義。卑語。˜バタブター [˜batabuta:](はらぶと＜腹太＞) ともいう。˜ドク　˞イー　ッふァイ˜ダーティル　バ˞タフク˜ラー　˜ナリ　˞アー˜ク [˜duku ˞ʔi: ffai˜da:tiru ba˞taɸu̥ku˜ra: ˜nari ˞ʔa:˜ku](あまりにもご飯を食べ過ぎるのでお腹の大きい者＜腹膨れ＞になっている)。

バ˞タフク˜リ **[ba˞taɸu̥ku˜ri]** 【名】腹膨れ。お腹にガ

スが溜まって腹が膨張すること。食いすぎによる消化不良でお腹が張ること。ウ˞ブ˞ッふァイ　˞スー˞カー　バ˞タフク˞リ　˞スンダ˞　ン˞ベーマ˞ナー　ッ˞ふァイ˞バ [ʔu˞buˀfai ˞suː˞kaː baˀtaɸu̥ku˞ri ˞sunda˞ ʔm˞beːma˞naː fˀfai˞ba](大食いすると腹膨れするから、少しずつ食べなさいよ)。

バ˞タフク˞ル **[baˀtaɸu̥ku˞ru]** 【名】1ふくこう (腹腔)。お腹。腹部。「腹袋」の義。˞シマ　˞トゥリ　˞ベーン˞ケン　˞ナンギラー˞リティ　バ˞タフク˞ル　ヤ˞マ˞シ　˞ナー˞ヌ [˞ʃima ˞turi ˞beːŋ˞ken ˞naŋgiraː˞riti baˀtaɸu̥ku˞ru jaˀma˞ʃi ˞naː˞nu](相撲を取っているときに投げられて、お腹 < 腹腔 > を痛めてしまった)。バ˞タフク˞ル　キ˞ラ˞リティ　˞ヤミ　ナ˞ラ˞ヌ [baˀtaɸu̥ku˞ru kiˀra˞riti ˞jami naˀra˞nu](腹部を蹴られて痛くて堪らない)。2心。内心。プ˞スヌ˞　バ˞タフク˞ロー　アˀキ˞　ミ˞ラン˞カー　ワ˞カラ˞ヌ [pu̥ˀsunu˞ baˀtaɸu̥ku˞ro: ʔaˀki˞ miˀraŋ˞ka: waˀkara˞nu](人の心の内は開腹してみないと分らないものだ)。

バ˞タフジ˞ムニ **[baˀtaɸʥi˞muni]** 【名】憎まれ口。他人を不愉快にする言葉遣い。感情を逆撫でする物言い。「腹をくじる < 抉る > 物言い」の義。˞ウンザー˞　サ˞キ˞　ヌムカー　プ˞スヌ˞　バ˞タフジ˞ムニ　˞シー˞ナー　ナ˞ラントゥォー [˞ʔunʥaː˞ sḁˀki˞ numuka: pu̥ˀsunu˞ baˀtaɸʥi˞muni ˞ʃiː˞naː naˀranˊtsoː](あいつは酒を飲むと他人の感情を逆撫でする物言いをする < 憎まれ口をたたく > ので困るんだよ)。

バ˞タ˞フズン **[baˀta˞ɸuʥuŋ]** 【他動】他人の感情を逆撫でする。憎まれ口をたたく。故意に嫌なことを言い立てて他人を不愉快にする。「腹くじる < 抉る >」の転訛したもの。「挑　天彫反、久自流」『新訳華厳経音義私記』の義か。˞バタ　˞フズン [˞bata ɸuʥuŋ](憎まれ口を叩く < 腹くじる。心を抉る >) ともいう。ウ˞レー　サッ˞コー　プ˞スヌ˞　バ˞タ˞フズンダ　ウ˞ヌ　カン˞ガイ　˞シー˞　ピライ˞ヨー [ʔuˀreː sak˞koː pu̥ˀsunu˞ baˀta˞ɸuʥunda ʔuˀnu kaŋ˞gai ˞ʃiː˞ piraiˀjoː](彼は非常に憎まれ口をたたくから、そのつもりで付き合いなさいよ)。バ˞タフザン˞ドーシ　パ˞ナ˞シバ　バ˞タ˞フズ　プ˞ソー　ニッ˞ふァー　サ˞リン˞ダー [baˀtaɸuʥan˞doːʃi paˀna˞ʃiba baˀta˞ɸuʥu pu̥ˀsoː nifˀfaː saˀrin˞daː](憎まれ口を叩かないで話しなさいよ。憎まれ口を叩くと人に憎まれるよ)。バ˞タ˞フジ　˞ミサカー　ウ˞ムイ˞キシ　バ˞タ˞フジバ [baˀta˞ɸʥi ˞misakaː ʔuˀmui ˞ki̥ʃi baˀta˞ɸʥiba](憎まれ口をたたいてよければ、思い切って憎まれ口を叩きなさい)。˞マー˞ビン　バ˞タ˞フジェー　˞ミサムヌ [˞maː˞bim baˀta˞ɸʥeː ˞misamunu](もっと憎まれ口をたたけばいいのに)。

˞バタブター **[˞batabutaː]** 【名】お腹の大きい人。太鼓腹。大食漢。卑語。「腹太奴」の義。ウ˞ブ˞バタ [ʔu˞bu˞bata](大きなお腹。妊婦。妊婦に対して親愛の情を持って言う) には卑語の意味はない。˞バタブター　˞マーシ˞ノ　ギュー˞サ˞　ッ˞ふァーサバン˞　メーティ　アˀザヌ [˞batabutaː ˞maːʃi˞no gjuːˀsa˞ fˀfaːsabam˞ meːti ʔaˀʥanu](太鼓腹奴 < 猿 > めが、いくら食わせても十分 < もう結構 > だとは言わない)。

バ˞タマー˞ルン **[baˀtamaː˞ruŋ]** 【自動】湾曲する。曲がる。たわむ (撓む)。クˀヌ　キー˞ヤ　バ˞タマー˞リ　˞ブンダ˞　パラー　ナ˞ラ˞ヌ　˞フー˞タイ　˞ナシ　シゥˀカイ˞バ [kuˀnu kiː˞ja baˀtamaː˞ri ˞bunda˞ paraː naˀra˞nu ˞ɸuː˞tai ˞naʃi si̥˞kai˞ba](この木は湾曲しているから柱には使えない。うつばり < 梁 > にして使いなさいよ)。˞グッ˞ふァムヌ　カˀタ˞ムカー　˞キーアイ˞コー　˞ビッタビッタ˞シ　バ˞タマール˞ヌ　タˀキアイコー˞　バ˞タマーラ˞ヌ [˞gufˀfamunu kḁˀta˞muka: ˞kiːʔai˞koː ˞bittabitta˞ʃi baˀtamaːru˞nu taˀkiʔaiko:˞ baˀtamaːra˞nu](重いものを担ぐと木製のおうご < 朸 > はびしびしと撓むが、竹製のおうご < 朸 > は撓まない)。クˀヌ　アイ˞コー　バ˞タマー˞ルンダ　シゥˀカウナ [kuˀnu ʔai˞koː baˀtamaː˞runda si̥˞kauna](このおうご < 朸 > は撓むから使うな)。

˞バタ　˞マイ˞ヤン **[˞bata ˞maiˀjaŋ]** 【連】お腹が大きい。大食いである。ヤˀラ˞ビ　ヤˀルンドゥ˞　バター　スズーˀコ　マイ˞ヤン　˞ユーマカルナー˞　ッˀふァイスバン [jaˀra˞bi jaˀrundu˞ bata: suʥuːˀko mai˞jaŋ ˞juːmakaruna:˞ fˀfaisubaŋ](子供だがお腹は相当に大きい < 大食いである >。お碗の四杯も食べるわい)。

パˀダ˞ミー **[paˀda˞miː]** 【名】肌身。マˀブ˞ロー　タˀベー˞　パˀラ˞バン　パˀダ˞ミー　パˀナサン˞ドーシ　˞ヌベーラ　パˀケー˞ティ　˞アー˞キ [maˀbuˀroː taˀbeː˞ paˀra˞bam paˀda˞miː paˀnasan˞doːʃi ˞nubeːra pḁˀkeː˞ti ˞ʔaː˞ki](マブル < 生霊を籠めた麻糸の苧玉 > は旅へ行っても肌身離さず、首から穿いていなさい < あるきなさい >)。

バ˞タ˞ミチ **[baˀta˞mitʃi]** 【副】満腹するほど。腹一杯に。「腹満ち」の義。˞イー˞ヤ　バ˞タ˞ミチ　ッˀふァイティ˞　パˀタラキˊヨー [˞ʔiː˞ja baˀta˞mitʃi fˀfaiti˞

pḁ˞taraki˩jo:](ご飯は腹一杯食べて働きなさいね)。

バ˞タミチソー˥ジ [ba˞tamitʃiso:˥ʤi] 【名】祭祀の名。パ˞マウリソー˥ジ [pa˞maʔuriso:˥ʤi](浜下り精進) の別名。満腹する精進祈願の義。ご馳走を作って、村中の人々が˥サンシキ [˥saŋʃi̥ki](桟敷) に集まり、神職者 (司や手擦り部) が友利御嶽で稲の下葉枯れ予防を祈願をしている間、村人等が模擬的に夜籠もりをした後、村役人の鶏鳴の合図によって一斉に起き出して、昼食のご馳走を食して帰宅した村行事。ム˞カ˥シプソー　パ˞マウリソージ˥バ　バ˞タミチソー˥ジティ　ア˞ゾーッ˥タ [mu˞ka˥ʃipu̥so: pa˞mauriso:ʤi˥ba ba˞tamitʃiso:˥ʤiti ʔa˞ʤo:t˥ta](昔の人は浜下り精進を腹満ち精進と言われた)。

バ˞タ˥ミツン [ba˞ta˥mitsuŋ] 【自動】満腹する。˞腹満つ」の転訛したもの。バ˞タ˥ミツンケン　ッ˞ふァイヤン [ba˞ta˥mitsuŋkeŋ f˞faijaŋ](満腹するほど食べた)。ムー˞ル˥　ッ˞ふー˥カー　バ˞タミツン˥ドゥ　ウ˞ビッ˥チンシェー　バ˞タミツァ˥ヌ [mu:˞ru˥ f˞fu:˥ka: ba˞tamitsun˥du ʔu˞bit˥ʧiŋʃe: ba˞tamitsa˥nu](全部食べたら満腹するが、これぽっちでは満腹しない)。バ˞タ˥ミチ　˞ナー˥ヌ [ba˞ta˥mitʃi ˞na:˥nu](満腹した)。バ˞タ˥ミツ　˥クトゥン　˥アン [ba˞ta˥mitsu ˥ku̥tuŋ ˥ʔaŋ](満腹することもある)。˞パー˥ク　バ˞タ˥ミチェー　˥ミサムヌ [˞pa:˥ku ba˞ta˥mitʃe: ˥misamunu](早く満腹すればいいのに)。

バ˞タミン˥グル [ba˞tamiŋ˥guru] 【名】腹具合。腹巡り。お腹の循環具合。消化から排泄までの胃腸の循環。「腹廻り」の義。チ˞カ˥グロー　バ˞タミングル˥ヌ　˞ワッ˥サリンギサバ　イ˞サン˥ヤー　˞サーリ　ギー˥　ミ˞サ˥シ　˥クー [ʧi̥˞ka˥guro: ba˞tamiŋguru˥nu ˞was˥sariŋgisaba ʔi˞saŋ˥ja: ˞sa:ri gi:˥ mi˞sa˥ʃi ˥ku:](近頃はお腹の具合が悪そうだから、病院＜医者の家＞に連れて行って診せてきなさい)。バ˞タミングル˥ヌ　˞ワッサ˥カー　ン˞ガナ˥ヌ　˥シル　ヌ˞マ˥シ [ba˞tamiŋguru˥nu ˞was˥saka: ʔŋ˞gana˥nu ˥ʃiru nu ˞ma˥ʃi](腹具合が悪かったらニガナ＜苦菜＞の汁を飲ませなさい)。

˥バタ　˞ムーン [˥bata ˞mu:ŋ] 【連】はら＜腸＞が煮えくり返る。非常に立腹する。激怒する。「腹・燃ゆ＜下二＞」の転訛したもの。˥バタ　˞モーヌ [˥bata ˞mo:nu](激怒しない)。

˥バタ　˞ムイルン [˥bata ˞muiruŋ] 【連】はら＜腸＞が煮えくり返る。非常に立腹する。非常に腹が立つ。激怒する。「腹が燃える」の義。˥アイブ　ヤ˞ナ˥ムニ　ス˞ク˥カー　ター˞ン˥　バター　˞ムイルン˥ヨー [˥ʔaibu ja˞na˥muni su̥˞ku˥ka: ta:˞m˥ bata: ˞muiruŋ˥jo:](あんな悪口を聞くと誰でも腹が煮えくり返るよ)。

˥バタ　ム˞ゲールン [˥bata mu˞ge:ruŋ] 【連】はら＜腸＞が煮え返る。激怒する。「はら＜腸＞が沸騰する」の義。ウ˞ヌ˥　パ˞ナ˥シ　ス˞ク˥カー　˥バタ　ム˞ゲールン [ʔu˞nu˥ pa˞na˥ʃi su̥˞ku˥ka: ˥bata mu˞ge:ruŋ](その話を聞くとはらわた＜腸＞が煮えくり返る＜沸騰する＞)。

パ˞ダ˥ムス [pa˞da˥musu] 【名】寝具用の筵(ムシロ)。ねござ (寝莫莚)。「肌筵」の義。就寝の際に畳の上に敷く上質の筵。上質の備後産の藺で編んだ莫莚。直接肌に接触する筵であることから命名されたものであろう。普通は幅 3 尺、長さ 6 尺の筵であるが、二枚続きで長さ 9 尺の筵もある。6 畳敷きの筵は長いので、˞ナー˥ムス [˞na:˥musu](長筵) という。ナ˞チェー˥　アツァンダ　パ˞ダ˥ムス　˞タン˥ガー　シ˞キティ˥　ノー˞ン˥　カ˞バン˥ドーシ　ニ˞ブタル [na˞ʧe:˥ ʔatsanda pa˞da˥musu ˞taŋ˥ga ʃi̥˞kiti˥ no:˞ŋ˥ ka˞ban˥do:ʃi ni˞butaru](夏は暑いので肌筵だけ敷いて、何も被らないで寝たものだ)。

バ˞タ˥ムチ [ba˞ta˥mutʃi] 【名】あんもち (餡餅)。「わた＜腹＞餅」の義。あずきあん (小豆餡)、ごまあん (胡麻餡)、ユ˞ナ˥クアン [ju˞na˥kuʔaŋ](黒糖を削って麦焦がしに混ぜ、餅餡にしたもの) 等を中に入れた餅。˞アンム˥チ [˞ʔammu˥ʧi](餡餅) ともいう。バ˞タム˥チ [ba˞tamu˥ʧi](餡餅) ともいう。ム˞チゾーゴー˥　バ˞タム˥チェーラン　ッ˞スムチ˥ル　ン˞マ˥ー˞ソー˥ル [mu˞ʧiʤo:go:˥ ba˞tamu˥ʧe:ran s˞sumutʃi˥ru ʔm˞ma˥: ˞so:˥ru](餅の好きな人＜餅上戸＞は餡餅よりも白餅＜餡のない餅＞が美味しいといわれ＜され＞る)。

パ˞ダム˥チ [pa˞damu˥ʧi] 【名】肌触り。外気が肌に心地よく感じる感覚。ウ˞ルズン˥ヌ　˥シチ　˞ペール˥ター　ピ˞ラ˥クン　ア˞ガリキシ　イー˥　パ˞ダム˥チ　˥ナリケーツバン˞ナー [ʔu˞ruʤun˥nu ʃi̥ʧi ˞pe:ru˥ta: pi˞ra˥kuŋ ʔa˞garikiʃi ʔi:˥ pa˞damu˥ʧi ˥narike:tsuban˞na:](初春の季節に入って、寒さもすっかり上がってしまい、寒くもなく暑くも無い、良い肌触りの季節になりましたなあ)。

˥バタ　˥ムトゥン [˥bata ˥mutuŋ] 【連】はらむ (孕む)。妊娠する。「腹を持つ」の義。ミ˞ドゥ˥モー　˥バタ˥ムトゥカー　˞グッ˥ふァムヌ　˥ムテー　ナ˞ラン˥ダー [mi˞du˥mo: ˥bata ˥mutuka: ˞guf˞famunu ˥mute: na˞ran˥da:](女は懐妊したら重いものを持ってはい

けないよ)。

バ˩タ˥ヤビ [ba˩ta˥jabi] 【名】下痢。腹痛。

パ˩ダヤビ˥プス [pa˩dajabi˥pu̥su] 【名】ハンセン病患者。「肌破れ者」の義。˩クン˥キャー [˥kuŋ˥kja:](ハンセン病患者) は卑語。パ˩ダヤビ˥ムヌ [pa˩dajabi˥munu](ハンセン病患者) ともいう。パ˩トゥ˥マナー　パ˩ダヤビ˥プソー　プ˩ス˥ローンツァン　ブ˩ラーンシェン [pḁ˩tu˥mana: pa˩dajabi˥pu̥so: pu̥˩su˥ro:ntsam bu˩ra:ŋʃeŋ](鳩間島にはハンセン病患者は一人もいなかった)。

パ˩ダヤビ˥ヤン [pa˩dajabi˥jaŋ] 【名】ハンセン病。マ˩ナ˥マー　フ˩チル˥ヌ　カ˩ナイ˥ブンダ　パ˩ダヤビ˥ヤン　カ˩カラ˥バン　˩ソーヤ　ナー˥ヌ [ma˩na˥ma: ɸu̥˩ʧiru˥nu ka˩nai˥bunda pa˩dajabi˥jaŋ kḁ˩kara˥ban ˩so:ja na:˥nu](今は薬が完備している＜叶っている＞からハンセン病に罹っても心配ない)。

˥バタ　ヤ˩ブ˥ルン [˥bata ja˩bu˥ruŋ] 【連】お腹をこわす。˩ピーリムヌ˥バ　˥ドゥク　ッ˩ふァイティル˥　バター　ヤ˩ブ˥リシケー [˩pi:rimunu˥ba ˥duku f˩faitiru˥ bata: ja˩bu˥riʃi̥ke:](冷たいものをあまりにも食べ過ぎてお腹をこわしてある)。˩ピーリ˥ムヌ　ッ˩ふー˥カー　˥バタ　ヤ˩ブ˥ルン˩ダー [˩pi:ri˥munu f˩fu:˥ka: ˥bata ja˩bu˥run˩da:](冷たいものを食べるとお腹をこわすよ)。

バ˩タ˥　ヤブン [ba˩ta˥ jabuŋ] 【連】お腹をこわす。「腹を破る」の義。ビ˩トゥラー˥ムヌ　ッ˩ふァイシギル˥カー　バ˩タ˥　ヤブンティ˩ダー [bi˩tura:˥munu f˩faiʃigiru˥ka: ba˩ta˥ jabunti˩da:](脂っこいものを食いすぎるとお腹をこわすそうだよ)。

バ˩タ˥　ヤムン [ba˩ta˥ jamuŋ] 【連】腹が痛む。腹痛がする。˩キュー˥ヤ　バ˩タ˥　ヤムンダ　˩イー˥ヤ　ッ˩ふァーラヌ [˩kju:˥ja ba˩ta˥jamunda ˩?i:˥ja f˩fa:ranu](今日は腹痛がするから＜腹が痛むから＞、ご飯は食べられない)。

バ˩タ˥ヤン [ba˩ta˥jaŋ] 【名】腹痛。腹の病気。「腹病み」の義。ン˩ガ˥ナー　バ˩タ˥ヤンヌ　フ˩チ˥ルティ　ア˩ザリ　ブー [?ŋ˩ga˥na: ba˩ta˥jannu ɸu̥˩ʧi˥ruti ?a˩ʤari bu:](苦菜は腹痛の薬といわれている)。

バ˩タヨー˥ン [ba˩tajo:˥ŋ] 【形】お腹をこわしやすい。腹を下しやすい。下痢しやすい。「腹・弱い」の義。バ˩タヨー˥ンティ　ス˩クタヌ˥　ク˩リ˥　ッ˩ふァーリ˥カー　˩ナン˥ゾー　バ˩タヨーナー˥ヌ [ba˩tajo:˥nti su̥˩kutanu˥ ku˩ri˥ f˩fa:ri˥ka: ˩nan˥ʤo: ba˩tajo:na:˥nu](お腹が弱いと聞いたが、これが食べられるなら、それほどお腹は弱くない)。バ˩タヨー˥ヌ　ア˩バ˥ムノー　ッ˩ふァーラヌ [ba˩tajo:˥nu ?a˩ba˥muno: f˩fa:ranu](お腹が弱くて脂っこいものは食べられない)。バ˩タヨー˥　プ˩スンマー˥　イ˩ル˥ジナムノー　ッふァースナ [ba˩tajo:˥ pu̥˩summa:˥ ?i˩ru˥ʤina ˥muno: f˩fa:suna](お腹の弱い人には通常食と変わった様々なものを食わせるな)。バ˩タヨー˥カー　˩サーリ˥　パ˩ララ˥ヌ [ba˩tajo:˥ka: ˩sa:ri˥ pa˩rara˥nu](お腹が弱ければ連れては行かれない)。

パ˩ダ˥ラ [pa˩da˥ra] 【名】(動) 魚の名。和名、ヤクシマイワシ (体長約 12 センチ)。和名、オキナワトウゴロイワシ (体長約 13 センチ)。パ˩ダ˥ライズ [pa˩da˥ra?iʤu] とも言う。成魚は夏に群れをなして海岸近くまで遊泳してくる。投網で漁獲し、パ˩ダ˥ラナマシ [pa˩da˥ranamaʃi](トウゴロイワシの刺身) にして食したが、あっさりした味で、あまり美味ではなかった。お盆の獅子舞のミ˩チウタ [mi˩ʧi?uta](道歌) に/シシェマヌ　オールンドー　アンガマターヌ　オールンドー　パダラヤ　ナマシ　ナマシヤ　パイル　パイルヤ　フナブ　オンガキヤ　シーソヌパー　ソーランヤーヌ　アッパター　ミーザンマーザン　オーショーリー　ソーランヤーヌ　アッパター/(獅子舞が来られるよ、入子踊り隊のアンガマ達が来られるよ、パダラ魚を刺身にして、刺身には酢を掛けて、酢には九年母を用い、刺身の妻＜あしらい＞には紫蘇の葉を用いてある、精霊会のお婆さん達よ、美味くても不味くても召し上がってください、精霊会のお婆さん達よ)『鳩間島古典民謡古謡集』と歌われている。

パタ˩ラーッティ [pata˩ra:tti] 【副】1ばたばたと。鳥が羽ばたいて飛び立つさまの様子。˥パトゥザヌ　˩コー˥マ　˥トゥルンティ　シ˩ター˥　パタ˩ラーッティ˥　トゥ˩ビ　パッ˥タヤー [˥pḁtuʤanu ˩ko:˥ma ˥turunti ʃi̥˩ta:˥ pḁta˩ra:tti˥ tu˩bi pat˥taja:](鳩の卵を獲ろうとしたら、ばたばたと鳩が飛んでいったよ)。2ぱったりと。はたと。すっかり。途絶えるさま。ウ˩ヌッキリ˥　パタ˩ラッティ˥　ミ˩ラン˥　ナリ˩ナー˥ヌ [?u˩nukkiri˥ pḁta˩ratti˥ mi˩raran˥ nari ˩na:˥nu](それっきり、ぱったりと見えなくなってしまった)。

パ˩ダラー˥ン [pa˩dara:˥ŋ] 【形】俊敏である。素早く動き回る。すばしこい。腕白ではしこい。腕白で、言うことを聞かない。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　イッ˩ケナ˥　パ˩ダラー˥ンティ　ス˩クタヌ˥　パ˩ダラーナーン˥ワー˩ン˥ノー [ku˩nu˥ f˩fa:˥ ?ik˩kena˥ pa˩dara:˥nti su̥˩kutanu˥ pa˩dara:na:ŋ˥wa:˩n˥no:](この子は非

常に敏捷で腕白だと聞いたが、腕白ではしこく無いではないか)。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　パ˞ダラー˥ヌ　プ˞スン˥ヤー　˞サーリ˥　パ˞ララ˥ヌ [ku˞nu˥ f˞fa:˥ pa˞dara:˥nu pu̥˞suɲ˥ja: ˞sa:ri˥ pa˞rara˥nu](この子は腕白ですばしこいから余所の家に連れて行かれない)。パ˞ダ˥ラー　ッ˞ふァー　アシゥカララ˥ヌ [pa˞da˥ra: f˞fa: ʔasï̥karara˥nu](腕白ではしこい子は預かれない)。˞シンダイ˥　パ˞ダ˥ラー　˥ナリ　˞ヨー˥ゾー　シ˞キララ˥ヌ [˞ʃindai˥ pa˞da˥ra: ˥nari ˞jo:˥ʤo: ʃi̥˞kirara˥nu](次第に腕白ですばしこくなって、手がつけられない)。

パ˞タラカー [pḁ˞taraka:] 【名】働き者。働きすぎる者への多少のジェラシーをこめて言う。ウ˞レー˥　パ˞タラカー˥　ヤ˞ルンダ˥　ウ˞リン˥　シ˞ミリ [ʔu˞re:˥ pḁ˞taraka:˥ ja˞runda˥ ʔu˞riŋ˥ ʃi˞miri](彼は働き者だから、彼にさせなさい)。

パ˞タラキジブン [pḁ˞tarakiʤibuŋ] 【名】働く時刻 < 時分 >。作業をする時刻 < 時分 >。˞ユー˥クイ　˞ベーン˥ケン　パ˞タラキジブン˥　ナレーツバ　˞マー˥　プ˞スギー˥バリ　˞シー˥　クー˞ディー [˞ju:˥kui ˞be:ŋ˥kem pḁ˞tarakiʤibun˥ nare:tsuba ˞ma:˥ pu̥˞sugi:˥bari ˞ʃi:˥ ku:˞di:](休んでいるうちに働く時刻になったので、もう一頑張りして来ようよ)。

パ˞タラキバナ [pḁ˞tarakibana] 【名】働き盛り。働き盛りの年頃。-バナ [-bana](〜時期。〜年ごろ。〜真っ最中) は、接尾語の-パナ [-pana](〜時期。〜年ごろ。〜真っ最中) が複合語を構成する際に連濁をおこしたもの。プ˞ス˥パナー [pu˞su˥pana:](一頃、一時期)、ウ˞ヌ˥　パナー　イッ˞ケン˥　サ˞カリパンジョー　シーブタン [ʔu˞nu˥ pana: ʔik˞ken˥ sa˞karipanʤo: ʃi:butaŋ](その頃は非常に繁昌していた) のように用いられる。˞ウン˥ネナー　パ˞タラキバナヌ˥　ッ˞ふァヌ˥　カナイ　˞ブンダ˥　ウ˞ラーミ˥サン˞ダー [˞ʔun˥nena: pḁ˞tarakibananu˥ f˞fanu˥ kanai ˞bunda˥ ʔu˞ra:mi˥san˞da:](あの家には働き盛りの子供が揃って < 叶って > いるから羨ましいよ)。

パ˞タラキムヌ [pḁ˞tarakimunu] 【名】働き者。働き手。精出して働く人。ウ˞レー˥　パ˞タラキムヌ˥　ヤ˞ルンダ　ピッ˥チン　ア˞サブ˥クトゥ　ッ˞サヌ [ʔu˞re:˥ pḁ˞tarakimunu˥ ja˞runda pit˥ʧiŋ ʔa˞sabu˥ ku̥tu s˞sanu](彼は働き者だから、ちっとも < 一つも > 遊ぶことを知らない)。

パ˞タラクン [pḁ˞tarakuŋ] 【自動】働く。活動する。˞マー˥ビン　パ˞タラクンティ˥　ウ˞ムーン˥　ドゥ　トゥ˞シ˥バ　˥トゥリ　パ˞タラカラヌ [˞ma:˥bim pḁ˞tarakunti˥ ʔu˞mu:n˥du tu˞ʃi˥ba ˥turi pḁ˞tarakaranu](もっと働こうと思うが、年をとって働かれない)。˞マー˥ビン　パ˞タラキ˥　プサカー　パ˞タラケー˥　ミサムヌ [˞ma:˥bim pḁ˞taraki˥ pu̥sakaʼ pḁ˞tarake:˥ misamunu](もっと働きたければ、働けばいいのに)。˥クナー　パ˞タラク˥　プ˞ソー　パー˥ク　パ˞タラキ˥バ [˥kuna: pḁ˞taraku˥ pu̥˞so: pa:˥ku pḁ˞taraki˥ba](ここで働く人は早く働けよ)。

パタ˞ラッティ [pḁta˞ratti] 【副】ぱっと。ぱたっと。パタ˞ラッティ˥　トゥ˞ビ˥　パリ˞ナー˥ヌ [pata˞ratti˥ tu˞bi˥ pari˞na:˥nu](ぱっと飛んでいってしまった)。

パ˞ダラムン [pa˞daramuŋ] 【名】腕白者。腕白坊主。ビ˞コーンッふァー˥　シ˞ナーン˥ケンマー　パ˞ダラムン˥　ヤ˞タンティン˥　フ˞ドゥブ˥カー　ウ˞ティ˥スクン [bi˞ko:ŋffa:˥ ʃi˞na:ŋ˥kemma: pa˞daramuŋ˥ ja˞tatantiŋ˥ ɸu˞dubu˥ka: ʔu˞ti˥su̥kuŋ](男の子は、幼い時は腕白者であっても成長したら落ち着くよ)。

パ˞タランケー˥リ [pḁ˞taraŋke:˥ri] 【副】バタバタのた打ち回って。˞パー˥ヌ　˥ヤミ　ニ˞ザラ˥ヌティ　˞シー˥　パ˞タランケー˥リ　˞ベー [˞pa:˥nu ˥jami ni˞ʤan˥ti ˞ʃi:˥ pḁ˞taraŋke:˥ri ˞be:](歯が痛くて我慢できないといって、のた打ち回っている)。

バ˞タルン [ba˞taruŋ] 【他動】 1渡る。˞マイ˥ヌ　˞トゥー˥　バ˞タルンティ　スンドゥ　ナン˥ヌ　˞スーワ˥ヌ　バ˞タララヌ [˞mai˥nu ˞tu:˥ ba˞tarunti sundu nan˥nu ˞su:wa˥nu ba˞tararanu](前の鳩間海峡 < 渡 > を渡ろうとするが、波が激しくて < 強くて > 渡られない)。フ˞ノー˥ラー　バ˞タリティ˥　イ˞サナケー　パッ˥タ [ɸu˞no:˥ra: ba˞tariti˥ ʔi˞sanake: pat˥ta](船浦へ渡って石垣へ行った)。フ˞ニ˥ヌ　˞クーン˥カー　˥パンター　バ˞タル˥　クトー　ナ˞ラン˥バ　˞ビンヌ˥　アルンケンナー　˞パー˥ク　バ˞タリ [ɸu˞ni˥nu ˞ku:ŋ˥ka: ˥panta: ba˞taru˥ ku̥to: na˞ram˥ba ˞binnu˥ ʔaruŋkenna: ˞pa:˥ku ba˞tari](船が来ないと南端 < 船浦 > へ渡ることは出来ないから、便船のあるうちに早く渡りなさい)。˞パイ˥サ　バ˞タレー˥　ミサムヌ [˞pai˥sa ba˞tare:˥ misamunu](早く渡ればいいのに)。2もらう。手渡す。˞ガッ˥コーラ　˞ツーシン˥ボー　バ˞タリ˥　ケーン [˞gak˥ko:ra ˞tsu:ʃim˥bo: ba˞tari˥ ke:ŋ](学校から通信簿 < 通知表 > を手渡して貰ってきた)。

バ˞タンバタン˥シ [ba˞tambataŋ] 【副】バタンバタント。擬音語。バ˞タンバタン˥シ　˥ヤドゥ　タ˞タック

˜ナ [ba˞tambataŋ˜ʃi ˜jadu tạ˞takku˜na](バタンバタント戸を叩くな)。

˜ハチ [˜hatʃi] 【名】(数詞) 八。標準語からの借用語。普通は˞ヤーチ [˞ja:tʃi](八つ。八)、パ˞チングヮ˜チ [pạ˞tʃiŋgwa˜tʃi](八月) という。˞ハッスンジブ˜ク [˞hassundʒibu˜ku](八寸重箱)、ハ˞チニ˜チ [hạ˞tʃini˜tʃi](八日)。ハ˞チニンキョー˜ダイ [hạ˞tʃiniŋkjo:˜dai](八人兄弟)。ハチジュー˞ゴーヌ　ソーニヨイ [hạtʃidʒu:˞go:nu so:nijoi](八十五の生年祝い)。

バ˞チ [ba˞tʃi] 【名】ばち (桴)。太鼓などを打ち鳴らす棒。「木包、豆豆美乃波知 (つづみのばち)」『和名抄』の転訛。ク˞リ˜シ　˞タイク˜ヌ　バ˞チ˜　ス˞ク˜リバ [ku˞ri˜ʃi ˞taiku˜nu ba˞tʃi˜ sụ˞ku˜riba](これで太鼓のばち < 桴 > を作りなさいよ)。三線のばち < 撥 > は、˜シミ [˜ʃimi](撥。「つめ」の義) という。

˜バチ [˜batʃi] 【名】 1ばち (罰)。神罰。ウ˞ガン˜ヌ　˜キー　˜キスカー　˜バチ　ア˞タルン˜ティ˞ダー [ʔu˞gan˜nu ˜ki: ˜kị̈suka: ˜batʃi ʔa˞tarun˜ti˞da:](御嶽の木を切ると神罰が当たるそうだよ)。2悪事のむくい。たたり。˜アイブ　˜クトゥ　˞スー˜カー　プ˞スヌ˜　バチ　˜カブン˞ダー [˜ʔaibu ˜kụtu ˞su:˜ka: pụ˞sunu˜batʃi kabun˞da:](そんなことをすると、他人の罰をかぶるぞ)。

パ˞チ [pạ˞tʃi] (1) 【名】お初。˞マイヌ˜　パ˞チ˜　ウ˞サギ　オーシ [˞mainu˜ pạ˞tʃi˜ ʔu˞sagi ʔo:ʃi](お米のお初をお供えして差し上げなさい)。 **(2)** 【接頭】パ˞チウクシ [pạ˞tʃiʔukuʃi](正月二日の仕事初め。初起こし)。パ˞チイミ [pạ˞tʃiʔimi](初夢)。パ˞チマー [pa˞tʃima:](初孫)。˜ソンガチ　パ˞チニンガイ [˜soŋga˞tʃipạtʃiniŋgai](旧暦正月の初願)。

パ˞チ [pạ˞tʃi] 【名】鉢。皿より大きくて深い容器。鰹漁船で餌を入れる木製の箱状の容器はザ˞コー˜バチ [dʒa˞ko:˜batʃi](餌 < 雑魚 > 鉢) という。ナ˞マ˜シ　パ˞チ˜ナー　ム˞リ˜　クーバ [na˞ma˜ʃi pạ˞tʃi˜na: mu˞ri˜ ku:ba](刺身を鉢に盛ってきなさいよ)。

パ˞チイミ [pạ˞tʃiʔimi] 【名】初夢。元旦の夜にみる夢。˜ソンガチ　パ˞チイメー　イー　イミバ˜　ミ˞サ˜シ　タ˞ボー˜リ [˜soŋgatʃi pạ˞tʃiʔime: ʔi: ʔimiba˜ mi˞sa˜ʃi ta˞bo:˜ri](正月の初夢は、いい夢を見させてください)。

パ˞チウクシ [pạ˞tʃiʔukuʃi] 【名】正月二日 (元旦の翌日) の仕事始め。新年の仕事初め。「初起こし」の義。˜ソンガチ　パ˞チウクシ˜ティ　˞シー˜　ソンガチ　˞フシゥカヌ˜　シ˞トゥム˜ティ　˞パイ˜サーラ　フ˞ナダマ˜ヌ　˜マイ　サ˞キ˜　シ˞キオーシ　ティー˜　ッサイティ　イ˞ソー˜　ンジ　˞ピーヌ˜クシェーラ　˞ダイ˜バン　˞ホー˜シキー　プ˞スマ˜アトーラー　˞ヨイ˜バ　˞ソーッ˜タ [˜soŋgatʃi pạ˞tʃiʔukuʃi˜ti ˞ʃi:˜ soŋgatʃi ˞ɸusị̈kanu˜ ʃị˞tumu˜ti ˞pai˜sa:ra ɸu˞nadama˜numai sạ˞ki˜ ʃị˞kiʔo:ʃi ti:˜ ssaiti ʔi˞so:˜ ʔndʒi ˞pi:nu˜ kụʃe:ra ˞dai˜baŋ ˞ho:˜ʃiki: pụ˞suma˜ ʔato:ra: ˞joi˜ba ˞so:t˜ta](正月初起こし < 仕事始め > といって、正月二日の朝早くから船霊様の前に酒を供え、手を合わせて漁に出て、島の北 < 腰。後ろ > の海から大判のカツオを釣ってきて、午後 < 昼後 > からはお祝いをされた)。

パ˞チ˜　ウ˞ク˜スン [pạ˞tʃi˜ ʔu˞ku˜suŋ] 【連】供物料理のお初を起こすこと。法事の際に仏前に供えた料理を祈願の途中に、「お初」として、重詰め料理の各品を箸で起こすこと。それによって先祖が召し上がったことを意味しているといわれている。パ˞チ˜　ウ˞ク˜シティ　˞カウ˜　シキ　タ˞ティ˜ルカー　ウ˞サイ˜ヤー　ピ˞キ˜　ミサン [pạ˞tʃi˜ ʔu˞ku˜ʃị̈ti ˞kau˜ ʃị̈ki ta˞ti˜ruka: ʔu˞sai˜ja: pị̈˞ki˜ misaŋ](お初を起こして、線香を点けて立てたらご馳走は下げてもよい)。

バ˞チカビ˜ムヌ [ba˞tʃikabi˜munu] 【名】罰当たり。「罰被り者」の義。他人を罵るときに用いる卑語。バ˞チカビ˜ムノー　˞マーシ˜ノ　˞ピッ˜チン　ウ˞ヤ˜ヌ　˜ムニ　シゥ˞カヌ [ba˞tʃikabi˜muno: ˞ma:ʃi˜no ˞pit˜tʃiŋ ʔu˞ja˜nu ˜muni sị̈˞kanu](罰当たりめ野郎が、ちっとも親の言うことを聞き入れないよ)。

バ˞チ˜　カブン [ba˞tʃi˜ kabuŋ] 【連】罰があたる。「罰を被る」の義。ウ˞ヤン˜ナーニ　フ˞チウタイ　スー˜カー　˜バチ˜カブン˞ダー [ʔu˞jan˜na:ni ɸụ˞tʃiʔutai su:˜ka: ˜batʃi kabun˞da:](親に口答えすると罰があたるよ)。ッ˞ふァバ˜　アイニ　˞シッ˜キクラシ　˞シー　シシキルナ˜　バチ　カブン˞ダー [f˞faba˜ ʔaini˞ʃik˜kikuraʃi ˞ʃi: ʃiʃị̈kiruna˜ batʃi ˜kabun˞da:](子供をあんなに叩き殴って躾けるな、罰があたるぞ)。

パ˞チカンナール [pạ˞tʃikanna:ru] 【名】初夏に最初に鳴り響く雷鳴。「初雷」の義。パ˞チカンナールヌ　ナール˜カー　ウ˞ルズン˜ヌ　˜シチ [pạ˞tʃikanna:runu na:ru˜ka: ʔu˞rudʒun˜nu ˜ʃị̈tʃi](初雷が鳴ると初夏の季節だ)。

バ˞チクゥースン [ba˞tʃikwa:suŋ] 【自動】すばらしい目にあう。僥倖(ギョウコウ)に恵まれる。幸運にめぐり合う。沖縄 (首里) 方言からの借用語。バ˞チックァースン [ba˞tʃikkwa:suŋ] ともいう。˞シ˞タイヒャー˜　バ˞チ　クゥーシェー˜ツバン [ʃi˞taiça:˜ ba˞tʃikwa:ʃe:

˺tsubaŋ](でかしたぞ＜これは　したり＞! 幸運にめぐり合えたぞ!)。

バ˞チクゥイ [ba˞ʧikwai] 【感】しめた! やった! 沖縄方言からの借用語。思い通りに事が運んだ時に喜んで発する語。バ˞チクゥイ˺　シケンナー　ア˞タレー˺ン [ba˞ʧikwai ˺ʃi̥kenna: ʔa˞tare:˺ŋ](やった!! 試験に合格した＜当たった＞ぞ!)。

パ˞チソーラン [pa˞ʧiso:raŋ] 【名】初盆。新盆。「初精霊会」の義。死者が迎える最初のお盆。ク˞トゥシェー˺　アブジェー　パ˞チソーラン˺　ン˞カイ　オーリ˺バ　シカイ˞トゥ˺　トゥ˞ルム˺チ　˞シー　オーシティ˺　ウ˞クリ　オーラ˺シ [ku̥tuʃe:˺ ʔabuʤe: pḁ˞ʧiso:raŋ˺ ʔŋ˞kai ʔo:ri˺ba ʃi̥kai˞tu˺ tu˞rumu˺ʧi ˞ʃi: ʔo:ʃi̥ti˺ ʔu˞kuri ʔo:ra˺ʃi](今年はお祖父さんの新盆をお迎えするので、しっかりと接待＜取り持＞をして上げて、お送りして差し上げなさい)。

パ˞チ˺ソンガチ [pḁ˞ʧi˺soŋgaʧi] 【名】節祭のこと。「初正月」の転訛したもの。ム˞カ˺シプソー　シ˞チ˺バ　パ˞チ˺ソンガチティル　ア˞ゾーッタ˺ル [mu˞ka˺ ʃipu̥so: ʃi̥˞ʧi˺ba pḁ˞ʧi˺soŋgaʧitiru ʔa˞ʤo:tta˺ru](昔の人は節祭を初正月と言われたものだ)。

パ˞チタビ [pa˞ʧitabi] 【名】初旅。˞キュー˺ヤ　ウ˞キ˺ナーヌ　パ˞チタビ˺　ヤ˞リバ　カンヌ˺マイ　˞ニン˺ガイ　ッ˞サリティ　オーシキ˺　ウ˞ヤーンチジ˺リ [˞kju:˺ja ʔu˞ki˺na:nu pḁ˞ʧitabi˺ ja˞riba kannu˺mai ˞niŋ˺gai s˞sariti ʔo:ʃi̥ki˺ ʔu˞ja:nʧiʤi˺ri](今日は沖縄への初旅だから、神様にお祈り申し上げて好天気＜嘉例吉＞を肖れるよう、念願しなさい)。

パ˞チタユル [pa˞ʧitajuru] 【名】初便り。ッ˞ふァヌ˺　トンラ　パ˞チタユルヌ˺　ケーティ　イッ˞ケナ˺　サ˞ニ˺ヤ　˞シー　オー˺ル [f˞fanu˺ tonra pa˞ʧita-jurunu˺ ke:ti ʔik˞kena˺ sa˞ni˺ja ˞ʃi: ʔo:˺ru](子供の所から初便りが来たので、非常に嬉しがっておられる)。

パ˞チッふァ [pḁ˞ʧiffa] 【名】初子。ういご。˞ウン˺ネヌ　パ˞チッふァーヤ˺　ミ˞ドーン˺ッふァヌドゥマ˞レー˺トゥツォー [˞ʔun˺nenu pḁ˞ʧiffa:ja˺ mi˞do:ŋ˺ffanudu ma˞re:˺tutso:](あの家のういご＜初子＞は女の子が生まれたそうだ)。

パ˞チナシ [pa˞ʧinaʃi] 【名】初産。「はつなし＜初生し＞」の義。ク˞ヌ˺　ッ˞ふァル˺　パ˞チナシ˺　ヤ˞ルヌ　ソートゥ˺　ア˞タラン˺　オ˞サン˺マー　カ˞ロー˺タンツォー [ku˞nu˺ f˞faru˺ pḁ˞ʧinaʃi˺ ja˞runu so:tu˺ ʔa˞taraŋ˺ ʔo˞sam˺ma: ka˞ro:˺tantso:](この子が初産＜初生し＞だが、心配とは裏腹＜当らず＞にお産は軽かったそうだ)。ウ˞リヌ˺　パ˞チナシェー˺　ミ˞ドーン˺ッふァ　ヤ˞レー˺ル [ʔu˞rinu˺ pḁ˞ʧinaʃe:˺ mi˞do:ŋ˺ffa ja˞re:˺ru](あれ＜彼女＞の初産は女の子であったよ)。

パ˞チナル [pḁ˞ʧinaru] 【名】初生り。果実や野菜の最初に生る果実。˞ウー˺ルン　˞ゴー˺ヤーン　カ˞ブッチン˺　パ˞チナロー˺　ブリキー　ウ˞ヤプス˺ンマイシ˞キ　オーシティル˺　バ˞カス˺ダー [˞ʔu:˺ruŋ ˞go:˺ja:ŋ ka˞buttʃim˺ pḁ˞ʧinaro:˺ buriki: ʔu˞japu̥su˺mmai ʃi̥˞ki ʔo:ʃi̥tiru˺ ba˞kasu˺da:](キュウリ＜胡瓜＞もゴーヤー＜苦瓜＞もカボチャ＜南瓜＞も初生りは捩(モ)いできて先祖に供えてから炊くのだよ)。

パ˞チナンカ [pḁ˞ʧinaŋka] 【名】初七日。死後七日目の˞ソッ˺コー [˞sok˺ko:](法事)。ア˞ラナン˺カ [ʔa˞ranaŋ˺ka](新七日法事) ともいう。以下、フ˞タナンカ [ɸu̥˞tanaŋka](二七日)、˞ミーナンカ [˞mi:naŋka](三七日)、˞ユーナンカ [˞ju:naŋka](四七日)、イ˞チナン˺カ [ʔi˞ʧinaŋ˺ka](五七日)、˞ムーナンカ [˞mu:naŋka](六七日)、˺シンズク [˺ʃinʤuku](四十九日)、˞ピャーッカニ˺チ [˞pja:kkani˺ʧi](百か日焼香) が行われる。

パ˞チヌ˺　ッ˞ふァ [pḁ˞ʧinu˺ f˞fa] 【連】初の子。第一子。最初に生まれた子。ウ˞レー˺　パ˞チヌ˺　ッ˞ふァ˺　ヤ˞レー˺ティル　˺アイニ　ア˞タラサ˺　シ˞ラリ　ブー˺ヨー [ʔu˞re:˺ pḁ˞ʧinu˺ f˞fa˺ ja˞re:˺tiru ˺ʔaini ʔa˞tara˺sa ʃi˞raribu:˺jo:](彼＜それ＞は初の子だからあんなに大切にされているのだよ)。

パ˞チパチ [pḁ˞ʧipaʧi] 【名】各果物のお初。各種果物の初生り。根菜や果物、野菜の初生り。食べられる木の実の初生り。/ナチカシヤ　ナチンガチヌ　ナチヌヤマ　キーヌナル　パチパチバ　ブリカザリ　ムスビティ　ウヤニ　マイラシバ　スリトゥム　ウヤヌヨー　タミドゥナル/(懐かしい夏季の夏山の木の実のお初＜初生り＞を取り供え、結んで亡き親に差し上げると、あるいは親の孝行＜ため＞になる)。「˞ウシトゥヌ　クイ [˞ʔuʃi̥tu˺nu ˺kui](弟の声＜歌＞)。念仏歌」『鳩間島古典民謡古謡集』。

パ˞チパチ [pḁ˞ʧipaʧi] 【副】擬音語。ぱちぱち。拍手する音。はじける音。ブ˞ドゥルヌ˺　ウ˞ムッ˺サティ　パ˞チパチ˺シ　˞ティッ˺ツァー　˞シーベー [bu˞durunu˺ ʔu˞mus˺sati pḁ˞ʧipaʧi˺ʃi ˞tit˺tsa: ˞ʃi:be:](踊りが面白いのでパチパチと拍手している)。

ハ˞チバン˺シェン [hḁ˞ʧibaŋ˺ʃeŋ] 【名】「八番線」の義か。直径約 4 ミリの鋼線。ワイヤロープに用いる鋼線。これを約 30 センチに切り、先端部を研いで竹竿の先に填めて小魚を突く銛(モリ)に作った。ハ˞チバ

ン˺シェン ˺キシティ フ˞チ˺ トゥイティ サフ˞ケー˺マ ˞トゥンガラ˺シ タ˞キユイ˺ シキ ユクン˞ナー˺マ ス˞クタ [hạ˞ʧibaŋ˺ʃeŋ ˺kiʃiti ɸụ˞ʧi˺ tuiti saɸu˞ke:˺ma ˞tuŋgara˺ʃi tạ˞kijui˺ ʃi̥ki jukun˞na:˺ma sụ˞ku˺riti ʔu˞ri˺ʃiru ˞ʔaiiʤu˺ sụ˞kuta](八番線を切って、先端を研いで先鋭に尖らして竹の柄を付けて小さな銛に作り、それでアイゴを突いた)。

ハ˞チブ˺ランプ [hạ˞ʧibu˺rampu] 【名】八分ランプ。灯心が八分のランプ。ゴ˞ブ˺ランポーラン ハ˞チブ˺ランプル ガ˞リダー (ガ˞ロー)[go˞bu˺rampo:raŋ hạ˞ʧibu˺rampuru ga˞rida:(ga˞ro:)](五分ランプよりも八分ランプのほうがより明るい＜より輝く＞)。

パ˞チマー [pạ˞ʧima:] 【名】初孫。˞バン˺テナー パ˞チマーヌ˺ マ˞レー˺ン [˞ban˺tena: pạ˞ʧima:nu˺ ma˞re:˺ŋ](私の家に初孫が生まれた)。パ˞チマーヤ˺ マ˞ダ ミュー˺ヌ＜ミ˞ラ˺ヌ＞[pa˞ʧima:ja˺ ma˞da mju:˺nu＜mi˞ra˺nu＞](初孫はまだ見ない＜九十歳以上の古老の使用語＞)。

ハ˞チマ˺キ [ha˞ʧima˺ki] 【名】鉢巻。標準語からの借用語。˞ウンドークゥイ˺ヌ ˺ピンマー ˞シー˺トゥンケーヤ ス˞ブ˺ルナー ハ˞チマ˺ケー ˞シーティル˺ パ˞リスー˺ブ シ˞タル [˞ʔundo:kwai˺nu ˺pimma: ˞ʃi:˺tuŋke:ja su˞buru˺na: hạ˞ʧima˺ke: ˞ʃi:tiru˺ pa˞risu:˺bu ʃi̥˞taru](運動会の時は生徒達は頭に鉢巻をして競走＜走り勝負＞をしたものだ)。

パ˞チミカ˺スン [pạ˞ʧimika˺suŋ] 【他動】パチンと平手打ちにする。張りとばす。ぶん殴る。˺ドゥクナリ ˞ブー˺カー パ˞チミカ˺シバ [˺dukunari ˞bu:˺ka: pạ˞ʧimika˺ʃiba](ひどく我儘で言う事を聞かなければ平手打ちにしてやれよ)。パ˞チミカ˺スンティ ˞スンドゥ˺ タケー ˺バーラ タ˞カー˺ルンダ パ˞チミカサラ˺ヌ [pạ˞ʧimika˺sunti ˞sundu˺ take:˺ ba:ra tạ˞ka:˺runda pạ˞ʧimikasara˺nu](張り倒そうとするが、身の丈が私よりも高いので張り倒されない)。パ˞チミカ˺シ ˺ミサカー ˞バン˺ヌン パ˞チミカ˺ス ˺クトー ˺ナルン [pạ˞ʧimika˺ʃi ˺misaka: ˞ban˺num pạ˞ʧimika˺su ˺kụto: ˺naruŋ](張り倒してよければ、私も張り倒すことはできる)。˞ウンザー˺ パ˞チミカ˺シェー ˺ミサムヌ [˞ʔunʤa:˺ pạ˞ʧimika˺ʃe: ˺misamunu](あの野郎は張り倒せばいいのに)。

パ˞チミングラ˺スン [pạ˞ʧimiŋgura˺suŋ] 【他動】平手で打って張り倒す。殴り倒す。ぶん殴る。フ˞チ˺シ ア˞ジシゥカシタンティン˺ シゥ˞カン˺カー パ˞チミングラシ˺ ナ˞ラー˺シバ [ɸụ˞ʧi˺ʃi ʔa˞ʤisi̥˺kaʃi-tantin˺ si̥˺kaŋ˺ka: pạ˞ʧimiŋgura˺ʃi na˞ra:˺ʃiba](口で言って教えて＜聞かせて＞も、聞かないなら、ぶん殴って教えろよ)。

パ˞チユー [pạ˞ʧiju:] 【副】お供え用に。ほんの少量。ほんの少しの供物用として。神仏に供える少量の穀物。程度をあららわす。「お初用に」の義。パ˞チユーナー˺ トゥリ ˺シキティ ˺アトー ムー˞ル カーシ˺バ [pạ˞ʧiju:na:˺ turi ˺ʃi̥kiti ˺ʔato: mu:˞ru ka:ʃi˺ba](お供え用に少しずつ取っておいて、残り＜後＞は全部売りなさいよ)。

ハ˞チョーフ [hạ˞ʧo:ɸu] 【名】破傷風。標準語の「破傷風」の転訛したもの。普通は、˞ピン˺グル ˞ペー˺ルン [˞piŋ˺guru ˞pe:˺ru](ヒジュル＜破傷風菌が傷口から侵入しておこる病気＞が入る)『医学沖縄語辞典』という。˞ヤースクリ˺ヤーナーティ サ˞ビフイ˺フン ˞フンキ˺ パン ˞ピッキ˺テイ ニ˞チ˺ヌ ˺ンジティ カ˞ク˺チ ˞コー˺リ ˞ベータン˺ドゥ ピ˞ル シッ˺キティ サ˞キトゥ マー˺ス マ˞ザー˺シティ ッ˞シットー˺シ ˞トゥン˺ザク シ˞ティル˺ ヤッ˞トゥ˺シ ˺ヌチ ˞モーシ˺タツォー [˞ja:sụkuri˺ja:na:ti sa˞biɸui˺ɸuŋ ˞ɸuŋki˺ pam ˞pik˺kiti ni˞ʧi˺nu ˺ʔnʤiti kạ˞ku˺ʧi ˞ko:˺ri ˞be:tan˺du pi˞ru ʃik˺kiti sạ˞kitu ma:˺su ma˞ʤa:˺ʃi̥ti ʃ˞ʃitto:˺ʃi ˞tunʤa˺ku ʃi̥ ˞tiru˺ jat˞tu˺ʃi ˺nuʧi ˞mo:ʃi˺tatso:](建築中の家で錆びた釘を踏んで足を傷つけ＜足に孔をあけ＞、発熱して顎も硬くなっていたが、大蒜を搗いて酒と塩を混ぜて、手で全身から傷口を擦りこみ、こすり下ろして看護＜頓着＞して、やっとで命を取り留め＜命を萌えさせ＞たそうだ)。

パ˞チンガカー [pa˞ʧiŋgaka:] 【固】ニ˞シ˺ドー [ni˞ʃi˺do:](西堂。「北の窪地」の義) と˺カンドー [˺kan-do:](地名。「上の窪地」の義) の境界地点の、加治工家の畑の側にある鍾乳洞洞穴の井戸。昔は、農作業の途中に水が欲しくなると、この鍾乳洞の洞穴を下りていって、洞窟底の湧水を汲んで飲料水に利用したという。˞ウイヌカー [˞ʔuinuka:] が整備されて以後、あまり利用されなくなったという。伝説によると、この洞窟は西表島のウ˞ラン˺ザキ [ʔu˞ran˺ʤaki](宇奈利崎) に通じているという。

パ˞チングゥ˺チ [pạ˞ʧiŋgwa˺ʧi] 【名】八月。若年層は、パ˞チンガ˺チ [pạ˞ʧiŋga˺ʧi](八月) という。八月は良い月といわれており、˞ソーニヨイ [˞so:nijoi](生年祝い) や˺ドゥーパダニンガイ [˺du:padaniŋgai](健康祈願) を行う月である。パ˞チングゥ˺チナール ˞ヤーニンズー˺ヌ ˺ドゥーパダニンガイヤー ˞ソー

˺ル [pḁ˹ʧiŋgwa˺ʧina:ru ˹ja:nindʑu:˺nu ˺du:padaniŋ-gaija: ˹so:˺ru](旧暦八月に＜ぞ＞家族の健康祈願はなされる)。

パ˹チングヮチ˺シキ [pḁ˹ʧiŋgwaʧi˺ʃi̥ki] 【名】八月。八月の月。「八月・月」の義。˹キョー˺ラ　パ˹チングヮチ˺シキン　タ˹トー˺レーン [˹kjo:˺ra pḁ˹ʧiŋgwaʧi ˺ʃi̥ki:n tḁ˹to:˺re:ŋ](今日から八月の月に入った＜八月・月も立たれた＞)。

パ˹チンジ [pḁ˹ʧiʔnʤi] 【名】1初出。初出漁。カ˹ツシンマー　キュー˺ル　パ˹チンジ˺　ヤ˹ルヌ　タイロー　シー˺　ケーン [kḁ˹tsuʃimma: kju:˺ru pḁ˹ʧiʔnʤ ˺ ja˹runui tairo: ʃi:˺ ke:ŋ](カツオ漁船は今日が初出漁だが、大漁してきたよ)。2産婦が出産後の庚(カノエ)、辛(カノト)の日に実家の仏前、親戚の家の仏前にお参りして元祖拝みをすること。˹オーシキヌ　カイ˺ヤ　˹ベー˺ティ　バ˹カ˺ジラプソー　パ˹チンジ　シーグヮン˺ス　ウ˹ガマ˺シン　˹パッ˺タ [˹ʔo:ʃikinu kai˺ ja: ˹be:˺ti ba˹ka˺ʤirapu̥so: pḁ˹ʧiʔnʤi ʃi: ˹gwan˺su ʔu ˹gama˺ʃim ˹pat˺ta](天気が良いので産後間もない産婦が初出＜初外出＞をして実家や親戚の仏壇の元祖を拝ませに行った)。

パ˹ツァー˺ン [pḁ˹ʧa:˺ŋ] 【形】せっかちである。性急で落ち着かない。怒りっぽい。普通は、˹キーパツァー˺ン [˹ki:patsa:˺ŋ](せっかちで怒りっぽい性分である) という。ウ˹レー˺　イッ˹ケナ　キーパツァー˺ンティ　ス˹クタヌ　ナン˺ゾー　˹キーパツァーナー˺ヌ [ʔu˹re:˺ ʔik˹kena ki:patsa:˺nti su̥˹kutanu nan ˺dʑo: ˹ki:patsa: na:˺nu](彼はせっかちで怒りっぽいと聞いていたが、あまりせっかちで怒りっぽくない)。˺ドゥク　˹キーパツァー˺ヌ　ウ˹リトー˺　マー˹ズン˺　シ˹グトゥ˺　シ˹ララヌ [˺duku ˹ki:patsa:˺nu ʔu˹rito:˺ ma:˹dʑuŋ˺ ʃi˹gutu˺ ʃi˹raranu](あまりにもせっかちで怒りっぽいので、彼とは一緒に仕事は出来ない＜仕事はされない＞)。˹キーパツァー˺　プ˹ソー˺　シ˹グトゥ　パヤー˺ン [˹ki:patsa:˺ pu̥˹so:˺ ʃi˹gutu paja:˺ŋ](せっかちな人は、仕事が早い)。˹キーパツァー˺　ナルン [˹ki:patsa:˺ naruŋ](せっかちになる)。

パ˹ツァーンパツァーン [pḁ˹tsa:mpatsa:ŋ] 【副】擬音語。ぽきりぽきり。ぽきぽき。木の枝などが脆(モロ)く折れる音。パ˹ツァーンパツァーン˺シ　ウ˹ジ˺ル˺ブリティ　カ˹マチ˺ナ　˹モーシバ˺　キ˹モーッ˺サ　˹ムイルン [pa˹tsa:mpatsa:ŋ˺ʃi ʔu˹ʤi˺ru ˺buriti ka˹maʧi˺na ˹mo:ʃiba˺ ki˹mo:s˺sa ˹muiruŋ](ぽきりぽきりと枯れた柴＜淹木＞を折って竈にくべて燃やすと気持ちよく燃える)。

パ˹ツァ˺グミ [pḁ˹tsa˺gumi] 【名】おこし (興し。粔籹(オコシ))。パ˹ツァ˺グミティ　ア˹ズ　コー˺シン　˺キサーイ˹サナケー˺　パ˹ラン˺カー　ッ˹ふァーランシェン [pḁ˹tsa˺gumiti ʔa˹dʑu ko:˺ʃiŋ ˺kisa: ʔi˹sanake:˺ pa ˹raŋ˺ka: f˹fa:raŋʃeŋ](おこしというお菓子も以前は石垣島へ行かないと食べられなかった)。パ˹ツァ˺グメー　ン˹マーン˺ドゥ　˺ティー　ム˹チンダーリティ˺　ナ˹ラ˺ヌ [pḁ˹tsa˺gume: ʔm˹ma:n˺du ˺ti: mu˹ʧinda:riti˺ na˹ra˺nu](おこしは美味しいが、手に粘っこくくっ付いて堪らない)。

バ˹ツァミ˺ルン [ba˹tsami˺ruŋ] 【他動】鼻綱を結わえる。牛馬など家畜類の鼻綱を草木に結わえ、一定時間放置して草を食べさせる。バ˹ツァ˺ムン [ba˹tsa ˺muŋ] ともいう。ウ˹シ˺　バ˹ツァミ˺ルンティ　˹ベーン˺ドゥ　バ˹ツァミララ˺ヌ [ʔu˹ʃi˺ ba˹tsami˺runti ˹be:n˺du ba˹tsamirara˺nu](牛の鼻綱を繋ごうとしているが繋がれない)。˺クナー　バ˹ツァミ˺　プサンドゥ　バ˹ツァミ˺ル　˺クトー　ナ˹ラン˺ツォー [˺kuna: ba˹tsami˺ pu̥sandu ba˹tsami˺ru ˺ku̥to: na˹ran˺tso:](ここに牛の鼻綱を繋ぎたいが、繋ぐことは出来ないそうだ)。ウ˹シ˺　バ˹ツァミ˺ルンティ　ウ˹ムーン˺ドゥ　バ˹ツァミ˺ル　˺トンドゥ　˹ナーン˺サー [ʔu˹ʃi˺ ba˹tsami˺runti ʔu˹mu:n˺du ba˹tsami˺ru ˺tondu ˹na:n˺sa:](牛の鼻綱を結わえようと思うが、結わえる所がないさ)。˺クナー　バ˹ツァミラ˺リン [˺kuna: ba˹tsamira˺riŋ](ここには鼻綱を結わえて置ける)。˺クナー　バ˹ツァミララン˺カー　˺カナー　バ˹ツァミ˺レー　˺ミサムヌ [˺kuna: ba˹tsamiraraŋ˺ka: ˺kana: ba˹tsami˺re: ˺misamunu](ここに鼻綱を結わえられなければ、あそこに鼻綱を結わえれば良いのに)。ヤー˹ディン˺　クナー　バ˹ツァミ˺リ [ja:˹diŋ˺ kuna: ba˹tsami˺ri](必ずここに鼻綱を結わえろ)。

バ˹ツァ˺ムン [ba˹tsa˺muŋ] 【他動】牛馬などの鼻綱を草木に繋いで放牧する。バ˹ツァマ˺ヌ [ba˹tsama ˺nu](繋がない)。ウ˹シェー˺　ガ˹ヤー˺ヌーナ　バ˹ツァ˺ミティ　˺ッサ　ッ˹ふァーシ˺バ [ʔu˹ʃe:˺ ga˹ja: ˺nu:na ba˹tsa˺miti ˺ssa f˹fa:ʃi˺ba](牛は茅野に繋いで草を食べさせなさい)。˺クナー　バ˹ツァ˺ムンティ　シ˹タンドゥ˺　バ˹ツァマラン˺シェン [˺kuna: ba˹tsa˺munti ʃi̥˹tandu˺ ba˹tsamaraŋ˺ʃeŋ](ここに牛の鼻綱を繋ごうとしたが、繋がれなかった)。˺カナー　バ˹ツァ˺メー　˺ミサムヌ [˺kana: ba˹tsa˺me: ˺misamunu](あそこに鼻綱を繋げばいいのに)。ヤー˹ディン˺　クナー　バ˹ツァ˺ミ [ja:˹diŋ˺ kuna: ba

˞tsa˥mi](必ずここで牛の鼻綱を繋げ)。バ˞ツァミ˥ルン [ba˞tsami˥ruŋ] と同じ意味。˥クナー　ウ˞シ˥　バ˞ツァ˥ムンティ　シ˞タンドゥ˥　ッ˞サ˥ヌ　˞ナーン˥ダ　バ˞ツァマラ˥ヌ [˥kuna: ʔu˞ʃi˥ ba˞tsa˥munti ʃi̥˞tandu˥ s˞sa˥nu ˞na:n˥da ba˞tsamara˥nu](ここに牛の鼻綱を結わえようとしたが、草がないのでここでは鼻綱を結わえられない)。˥クナー　ウ˞シ˥　バ˞ツァミ˥　プサンドゥ　バ˞ツァ˥ム　˥クトー　ナ˞ラン˥ツォー [˥kuna: ʔu˞ʃi˥ ba˞tsami˥ pu̥sandu ba˞tsa˥mu˥ ku̥to: na˞ran˥tso:](ここに牛の鼻綱を結わえたいが、結わえることは出来ないそうだ)。

パ˞ツァラパツァラ [pa˞tsarapatsara] 【副】 1ぱちぱち。枯ススキや竹が燃えはじけるさま。擬音語。˞ユシ˥キン　タ˞キン　モース˥カー　パ˞ツァラパツァラ˥シ　˞ムイルン [˞juʃi̥˥kin tḁ˞kim mo:su˥ka: pḁ˞tsarapatsara˥ʃi ˞muiruŋ](ススキも竹も燃やすとパチパチと音を立てて燃える)。2ぽりぽり。煎り豆などを噛み砕く音の形容。˞パー˥ヌ　˥カナイ　˞ブー˥　プ˞ソー˥　イ˞ラキ˥マミン　パ˞ツァラパツァラ˥シ　ウ˞トー˥　タティティ　ッ˞ふーユンダ˥　ウ˞ラーミ˥サン [˞pa:˥nu ˥kanai ˞bu:˥ pu̥˞so:˥ ʔi˞raki˥ mamim pḁ˞tsarapatsara˥ʃi ʔu˞to:˥ tatiti f˞fu:junda˥ ʔu˞ra:mi˥saŋ](歯の強い＜叶っている＞人は煎り豆もぽりぽりと音を立てて食べるから羨ましい)。

パ˞ツァラパツァラ˥シ [pḁ˞tsarapatsara˥ʃi] 【副】擬声語。ぽきぽきと。ぽきぽきと音を立てて食うさま。ウ˞レー　パー˥ヌ　˥カナイ　˞ブンダ　シン˥ビーン　パ˞ツァラパツァラ˥シ　ン˞マーン˥ギサシル　ッ˞ふート ダー [ʔu˞re: pa:˥nu ˥kanai ˞bunda ʃim˥bi:m pḁ˞tsarapatsara˥ʃi ʔm˞ma:ŋ˥gisaʃiru f˞fu:ɻ˞da:](彼は歯が揃っている＜叶っている＞から煎餅もパツァラパツァラと音をたてて美味しそうに食べるんだよ)。

パツァン˞ティ [pḁtsan˞ti] 【副】ぷつりと。ぷつんと。綱や縄、糸や紐などが切れるさま。擬音語からの転訛。˥アガヤー　˞ヤーフキ˥ヌ　シ˞ミナー˥バ　ウ˞ムイ˥キシ　シ˞ム˥タ　˥クトー　パツァン˞ティ˥　キシ˞ナー˥ヌ [˥ʔagaja: ˞ja:ɸu̥ki˥nu ʃi˞mina:˥ba ʔu˞mui˥ki̥ʃi ʃi˞mu˥ta ˥ku̥to: pḁtsan˞ti˥ ki̥ʃi˞na:˥nu](あ、痛!＜仕舞った!＞、屋根葺き＜家葺き＞の締め縄を思い切って引き締めたところ、ぷつんと切れてしまった)。

˞ハッ˥カ [˞hak˥ka] 【名】 (植) ハッカ (薄荷)。標準語からの借用語か。頭痛薬として用いられた。戦前は台湾から防虫、防臭用の˞ショー˥ノー [˞ʃo:˥no:](樟脳) などと共に輸入されていた。˞ハッカ˥ヌ　カ˞ザ˥　カ˞ブ˥カー　ガ˞マジ˥ヤン　˞ノール˥タンティ˞ダー [˞hakka˥nu ka˞ʤa˥ ka˞bu˥ka: ga˞maʤi˥jan ˞no:ru˥tanti˞da:](ハッカの香りを嗅ぐと頭痛が治ったそうだよ)。

˥ハッカク [˥hakkaku] 【名】八角形の凧。˥ハッカクピキダマ [˥hakkakupi̥kidama](八角凧) の略語。˥ハッカコー　シ˞カク˥バ　カ˞サビティ˥　ス˞ク˥ルンダ　˥シノー　˞ヤーチ˥　ア˞リ˥ブタル [˥hakkako: ʃi̥˞kaku˥ba kḁ˞sabiti˥ su̥˞ku˥runda ˥ʃino: ˞ja:ʧi˥ ʔa˞ri˥butaru](八角形の凧は四角を重ねて作るのだから、角が八つもあったよ)。

˞パッキルン [˞pakkiruŋ] 【自動】はち切れる。内部が膨らんできて、表面が裂け切れる。バ˞タ˥ヌ　˞パッキルン˥ケン　˥イー　ッ˞ふァイ　ベー [ba˞ta˥nu ˞pakkiruŋ˥keŋ ˥ʔi: f˞fai be:](腹がはち切れるまで飯を食べている)。ギュー˞サ˥　ッ˞ふァーバン　パッキラヌ [gju:˞sa˥ f˞fa:bam pakkiranu](いくら食ってもはち切れない)。ン˞グムタ˥　クトー　ズ˞ボン˥マー　˞パッキリ　ナー˥ヌ [ʔŋ˞gumuta˥ ku̥to: ʤu˞bom˥ma: ˞pakkiri na:˥nu](下っ腹に力をこめて力んだところ、ズボンがはち切れてしまった)。˞パッキル˥　クトー　˞ナー˥ヌ [˞pakkiru˥ ku̥to: ˞na:˥nu](はち切れることはない)。

˞バッキン [˞bakkiŋ] 【名】罰金。ク˞ルマ˥ヌ　ス˞ピード˥イハンシ　˞バッキン˥　ウ˞サム˥タ [ku˞ruma˥nu su˞pi:do˥ʔihaŋʃi ˞bakkiŋ˥ ʔu˞samu˥ta](車のスピード違反で罰金を納めた)。

˞バックラスン [˞bakkurasuŋ] 【他動】ばらばらにする。こわす。割って壊す。˞ウー˥キ　˞バックラスン [˞ʔu:˥ki ˞bakkurasuŋ](桶をばらばらにする)。˞シン˥カー　˞バックラサンドー˥シ　マ˞トゥミリ [˞ʃiŋ˥ka: ˞bakkurasando:˥ʃi ma˞tumiri](仲間＜組合員＞をばらばらにしないで纏めろ)。˞バックラシナー˥ヌ [˞bakkuraʃi na:˥nu](ばらばらにしてしまった)。˞バックラシ˥　ミサカー　˞バックラス˥　クトー˥ナルン [˞bakkuraʃi˥ misaka: ˞bakkurasu˥ ku̥to: ˥naruŋ](ばらばらに壊して良ければ壊すことはできる)。˞バックラシェー˥　ミサムヌ [˞bakkuraʃe:˥ misamunu](ばらばらにすれば良いのに)。˞バックラシ [˞bakkuraʃi](ばらばらに壊せ)。

˞バックリルン [˞bakkuriruŋ] 【自動】ばらばらに割れる。割れて崩れる。マルー˞マルー˥シ　ス˞ブ˥リ　˥シケー　˞ウンヌ˥カシェー　˥ティダナ　˥プスカー　˞バックリルンダ　バックリラン˥ヨーニ　ギッ˞ティ˥　ス˞ブ˥リ [maru:˞maru:˥ʃi su˞bu˥

ri ˥ʃi̥keː ˞ʔunnu˥kaʃeː ˥tidana ˥pu̥sukaː ˞bakkurirunda bakkuriraŋ˥joːni gitˠti˥ suˠbu˥ri](丸く握ってある芋粕は太陽に干すとバラバラに割れるからバラバラに割れないようにぎゅっと力を入れて握り <搾(シボ)り > なさい)。˞バックリ　ナー˥ヌ [˞bakkuri naː˥nu](バラバラに割れて < 崩れて > しまった)。˞バックリル˥　ムノー　シˠティリ˥バ [˞bakkuriru˥ muno: ʃi̥ˠtiri ˥ba](ばらばらに割れるものは捨てなさい)。˞バックリレー˥　ミサムヌ [˞bakkurireː˥ misamunu](ばらばらに割れればいいのに)。˞バックリリ˥バ [˞bakkuriri˥ba](ばらばらに割れろ)。

˞バックルン [˞bakkuruŋ] 【自動】ばらばらに割れる。割れて崩れる。˞ウー˥ケー　˥ティダナー　˥プスカー　˞バックルンダ　バックラサン˥ヨーニ　˥カイナカー　˞ペーラ˥シ [˞ʔuː˥keː ˥tidanaː ˥pu̥sukaː ˞bakkurunda bakkurasaŋ˥joːni ˥kainakaː ˞peːra˥ʃi](桶は太陽に干すとバラバラに割れて崩れるから、割れて崩れないように日陰に入れなさい)。˞ウー˥ケー　˞バックリ　ナー˥ヌ [˞ʔuː˥keː ˞bakkuri naː˥nu](桶は割れ崩れてしまった)。˞ウッ˥ツァー　˞グー˥ヤ　˞バックル˥　クトー　˞ナー˥ヌ [˞ʔutˠtsaː ˞guː˥ja ˞bakkuru˥ ku̥toː ˞naː˥nu](彼らの組はばらばらに崩れることはない)。˞バックレー˥　ミサムヌ [˞bakkureː˥ misamunu](ばらばらに割れればいいのに)。˞パー˥ク　˞バックリ˥バ [˞paː˥ku ˞bakkuri˥ba](早くばらばらに割れろ)。

˞バッ˥サイ [˞bas˥sai] 【名】伐採。山や森の樹木を伐りとること。標準語からの借用語。ヤ˞マ˥ヌ　˥キー　˞バッ˥サイ　スˠナ˧ヨー [jaˠma˥nu ˥kiː ˞bas˥sai su ˞na˧joː](山の木 < 樹木 > を伐採するなよ)。

˥ハッサマヨー [˥hassamajoː] 【感】驚愕(キョウガク)したり、呆(アキレ)返る際に発する語。呆れて言いようがない。何とまあ。沖縄本島糸満方言からの借用語が転訛したものか。˥ハッサマヨー　ウ˞リヌ˥　アˠブバター˧ヨー　˞ムーマカルン˥　イー　ッˠふァイス˧ダー [˥hassamajoː ʔuˠrinu˥ ʔaˠbubata˧joː ˞muːmakaruŋ˥ ʔiː fˠfaisu˧daː](何とまあ呆れたものだ。あいつの底なしのお腹だことよ。六碗 < お碗の六杯 > もご飯を食うのだよ)。

˞バッザラバザラ [˞baddʑarabadʑara] 【副】1うじゃうじゃ。うようよ。多数の虫や昆虫が重なり合ったり絡(カラミ)合ったりしてうごめくさま。バ˞ザラバザラ [ba ˞dʑarabadʑara] ともいう。˞バッザラバザラ˥シ　ウ˞ジ˥ヌ　バ˞キティ˥(˞シディティ)　キˠムフクレー˥ヌ　ナˠラ˥ヌ [˞baddʑarabadʑara˥ʃi ʔuˠdʑi˥nu baˠkiti˥(˥ʃiditi) kiˠmuɸu̥kureː˥nu naˠra˥nu](うじゃうじゃと蛆が湧いて汚くてたまらない)。2むずむず。あせも < 汗疹 > などが盛んに痒くなるさま。ナ˞チアシブヌ˥　バッ˞ザラバザラ˥シ　˞アーリティ˥　キˠム˥シル　˞シー　ベー [naˠtʃiʔaʃibunu˥ badˠdʑarabadʑara˥ʃi ˞ʔaːriti˥ kiˠmu˥ʃiru ˞ʃiː beː](夏に出るあせも <汗疹(アセモ) > がむずむずと肌のうえで暴れ出しているようで、むず痒く、むしゃくしゃしている)。

˥パッサン [˥passaŋ] 【名】発散。発熱後、熱が体内にこもらないように発汗させて体熱を外へ発し散らすこと。パˠナシキ˥　カˠカ˥ルカー (マˠマル˥カー)　˥ドゥー　˞ピーラサン˥ドーシ　˞カイ˥　タˠキ˥　ッˠふァーシティ˥　パッサン　シˠモーッ˥タ [paˠnaʃi̥ki ˥ kḁˠka˥rukaː(maˠmaru˥kaː) ˥duː ˞piːrasan˥doːʃi ˞kai˥ tḁˠki˥ fˠfaːʃi̥ti˥ passaŋ ʃiˠmoːt˥ta](風邪を引く < 風邪を塗られる > と体を冷やさないようにして御粥を炊いて食べさせて熱を発散させられた)。

˞ハッスンジブ˥ク [˞hassundʑibu˥ku] 【名】八寸角の正方形の重箱。「八寸重箱」の義。祝儀や法事の際に用いられる重箱。石垣方言からの借用語か。˞ヨイ˥ヌ　˥ピントゥ　˞ソッコー˥ヌ　˥ピンマー　˞ハッスンジブ˥クナール　ムˠチン˥　カˠマブクン˥　ムˠリティル˥　マˠツォーッ˥タ [˞joi˥nu ˥pintu ˞sokkoː˥nu ˥pimmaː ˞hassundʑibu˥kunaːru muˠtʃiŋ˥ kaˠmabukum ˥ muˠritiru˥ maˠtsoːt˥ta](お祝いの時と法事 < 焼香 > の時には八寸重箱に餅も蒲鉾も盛って供えられ < 祀られ > た)。

˞パッ˥タ　˥シキ [˞pat˥ta ˥ʃi̥ki] 【連】先月。「去った月」の義。˞パッ˥タ　シ˞キ˥ヌ　シˠキダ˥チナール　ウˠキ˥ナー　˞パッ˥タ [˞pat˥ta ʃi̥ˠki˥nu ʃi̥ˠkida˥tʃinaːru ʔuˠki˥naː ˞pat˥ta](先月 < 去った月 > の朔日に沖縄へ発った < 行った >)。˞パッ˥タ　˥トゥシ [˞pat˥ta ˥tu̥ʃi](先年 < 去った年 >) は、˥クズ [˥kudʑu](去年) と対をなすが、˞パッ˥タシキ [˞pat˥ta ˥ʃi̥ki](去った月) に対をなす語は欠落している。

˞パッ˥タンティン [˞pat˥tantiŋ] 【連】行ったとしても。行ったところで。自動詞˥パルン [˥paruŋ](行く) の連用形˥パリ [˥pari](行き) に完了の助動詞˥タン [˥taŋ](た。たり) が下接し、その連用形にさらに接続助詞˥ティン [tiŋ](～ても) が下接した形。˞ワー˥　マˠナ˥マ　˞パッ˥タンティン　ノー˞ン˥　ナˠラ˥ヌ [˞waː˥ maˠna˥ma ˞pat˥tantin noː˞n˥ naˠra˥nu](君は今行っても何にもできないよ)。

˞パッ˥チー [˞pat˥tʃiː] 【名】めんこ。子供の遊具。円形または方形に作られ、表面に絵や写真が張られた

厚紙。地上に置いた相手のものに交互に打ち付けて裏返す遊びに用いる。˹パッ˺チーン　イ˹クサユー˺ヌ　˺アトゥナー　イ˹サナケー˺ラ　˹ペー˺リケー　ア˹サビ　ヤッタ [˹patˀtʃiːŋ ʔi˹kusajuː˺nu ˺ʔatunaː ʔi˹sanakeː˺ra ˹peː˺rikeː ʔa˹sabi jatta](めんこも戦後に石垣島から入ってきた遊びであった)。

˹パッチマ˺ルン **[˹pattʃima˺ruŋ]** 【自動】お腹等がパンパンに張る。はち切れる。バ˹タ˺ヌ　˹パッチマ˺ルンケン　˹イー˺バ　ッ˹ふァイティ˺　バ˹タキクッツァ˺ヌ　ナ˹ラ˺ヌ [ba˹ta˺nu ˹pattʃima˺ruŋkeŋ ˹ʔiː˺ba fˀfaiti˺ ba˹takikuttsa˺nu na˹ra˺nu](お腹がパンパンに張るまでご飯を食べて、お腹が苦しくて堪らない)。˹パッチマラン˺　ヨーニ　ッ˹ふァイ˺バ [˹pattʃimaraŋ˺ joːni fˀfai˺ba](はち切れないように食べなさいよ)。

˹ハッチョー˺ルー **[˹hattʃoː˺ruː]** 【名】八丁艪。˹プーシン [˹puːʃiŋ](帆船) 時代のカツオ漁は八丁の艪を装着して漕ぎながらカツオを釣ったという。˹プーシンマー˺　ハッチョールーバ　˹クイ˺ヤーティル　カ˹ツォー　ホー˺ソーッタツォー [˹puːʃimmaː˺ hattʃoːruːba ˹kui˺jaːtiru kạ˹tsoː hoː˺soːttatsoː](帆船は八丁艪を漕ぎながらカツオを釣られたそうだ)。

˹バッツァースン **[˹battsaːsuŋ]** 【他動】粉々に割り砕く。「割り散らかす」の義。˹クン˺ゾー　ウ˹ク˺ルカー　˺マカルドング　˹バッツァースン˺ティ　ス˹クタヌ　キュー˺ヤ　˹バッツァーサンワーン˺ノー [˹kun˺ʤoː ʔu˹ku˺rukaː ˺makarudoŋgu ˹battsaːsunti˺ sụ˹kutandu kjuː˺ja ˹battsaːsaŋwaːn˺noː](怒ったらお碗類を粉々に割り砕くと聞いたが、今日は割り砕かないではないか)。キサー˹ティ　バッツァーシ　ナー˺ヌ [kịsaː˹ti battsaːʃi naː˺nu](すでに粉々に割り砕いてしまった)。˹バッツァース　ムノー　バッツァーシェー˺　ミサムヌ [˹battsaːsu munoː battsaːʃeː˺ misamunu](粉々に砕くものは粉々に砕けばいいのに)。˹バッツァーシ [˹battsaːʃi](粉々に砕け)。ウ˹リバ　バッツァースンティ˺　ウ˹ムータン˺ドゥ　˹バッツァーサランシェン [ʔu˹riba battsaːsunti˺ ʔu˹muːtan˺du ˹battsaːsaraŋʃeŋ](それを粉々に割ろうと思ったが割られなかった)。˹バッツァーシ˺　ミサカー　˹バッツァース˺　クトー　˺ナルン [˹battsaːʃi˺ misakaː ˹battsaːsu˺ kụtoː ˺naruŋ](粉々に割ってよければ粉々に割ることはできる)。˺アイブ　˺ムノー　˹バッツァーシェー˺　ミサムヌ [˺ʔaibu ˺munoː ˹battsaːʃeː˺ misamunu](あんな物は粉々に割ってしまえばいいのに)。˹バッツァーシ˺バ [˹battsaːʃi˺ba](粉々に割れよ)。トゥ˹ジブトゥ˺　アウカー　マ˹カ˺ルドング　˹バッツァースン [tu˹ʤibutu˺ ʔaukaː ma˹ka˺rudoŋgu ˹battsaːsuŋ](夫婦喧嘩すると食器類 < お椀道具 > 粉々に割る < 割り散らす >)。

˹パッツァー˺スン **[˹pattsaː˺suŋ]** 【自動】夢中で走る。走りまくる。「走り散らす」の転訛したもの。ウ˹レー˺　ア˹ザン˺カー　˹パッツァー˺スンダ　˹パッツァーサン˺　ヨーニ　ア˹ジト ツォー [ʔu˹reː˺ ʔa˹ʤaŋ˺ka: ˹pattsaː˺sunda ˹pattsaːsaŋ˺joːni ʔa˹ʤiトtsoː](彼は言わないと走りまくるので、走りまくらないように言ってやりなさい < 言いなさい > ってば)。˹パッツァー˺シ　˺パルカー　マ˹ニ˺アウン [˹pattsaː˺ʃi ˺paruka: ma˹ni˺auŋ](走って行ったら間に合う)。

˹バッツァールン **[˹battsaːruŋ]** 【自動】粉々に砕ける。粉々に割れる。散り散りになる。ばらばらになる。ク˹ビン˺マー　タ˹カーン˺トンラ　˺ウティティ　イ˹シ˺ナ　ア˹タル˺カー　˹バッツァールンドゥ˺　ク˹レー　バッツァーランシェン [ku˹bim˺maː tạ˹kaːn˺ tonra ˺ʔutiti ʔi˹ʃi˺na ʔa˹taru˺kaː ˹battsaːrundu˺ ku˹reː battsaːraŋʃeŋ](瓶は高い所から落ちて石に当ると粉々に砕けるが、これは粉々に砕けなかった)。˹バッツァーリ　ナー˺ヌ [˹battsaːri naː˺nu](粉々に砕けてしまった)。˹バッツァール　ムノー˺　シゥ˹カーラヌ [˹battsaːru munoː˺ sị˹kaːranu](粉々に砕けるものは使われない)。˹ウッ˺ツァー　ドゥ˹シェー　バッツァーレー˺　ミサムヌ [˹ʔut˺tsaː du˹ʃeː battsaːreː˺ misamunu](彼らの友達は散り散りばらばらになればいいのに)。マ˹ナマ˺ヌ　ウ˹チ˺ナー　˹バッツァーリ [ma˹na˺manu ʔu˹ʧi˺naː ˹battsaːri](今のうちに粉々に砕けろ。散り散りばらばらになれ)。

˹パッツォー˺ルン **[˹pattsoː˺ruŋ]** 【自動】ばらばらに散る。ほつれ < 解れ > てばらばらになる。散らかる。はじけ散る。ギャン˹ティ˺　ヌイティ　フ˹バリ˺　シケータ　˺シナー　˹パッツォー˺リ　˹ベー˺バ　˹パッツォーラサン˺ヨーニ　フ˹バリノーシ˺バ [gjan˹ti˺ nuiti ɸu˹bari˺ ʃị̊keːta ˺ʃinaː ˹pattsoː˺ri ˹beː˺ba ˹pattsoːrasaŋ˺joːni ɸu˹barinoːʃi˺ba](ぎゅっと強く綯(ナ)って縛っておいた綱がほつれてばらばらになっているから、ばらばらにしないようにくくり直せ)。ヨー˹ヨー˺シ　フ˹バル˺カー　˹パッツォー˺ルンダー　˹パッツォー˺ル　˺ムノー　シ˹ティリ˺バ [joː˹joː˺ʃi ɸu˹baru˺kaː ˹pattsoː˺runda: ˹pattsoː˺ru ˺muno: ʃị̊˹tiri˺ba](弱く縛ると解れてばらばらになるから、解(ホツ)れてばらばらになったものは捨てなさい)。˹パッツォー˺レーラー　シゥ˹カーラヌ [˹pattsoː

⌝reːraː sï̥⌜kaːranu](解れてばらばらになったら使えない)。⌜パッツォーリ⌝リ [⌜pattsoːri⌝ri](解れてばらばらになれ)。⌜ワー　キン⌝ヌ　ッ⌜ソー　パッツォー⌝リ　⌜ベー [⌜waː kin⌝nu s⌜soː pattsoː⌝ri ⌜beː](君の着物の裾は解(ホツ)れている)。ユ⌜ヌ⌝　キン　カー⌜ニ⌝　キ⌜ス⌝カー　ッ⌜ソー　パッツォー⌝ルン⌜ダー　カイ⌝　キ⌜ス⌝カー　⌜パッツォーラ⌝ヌ [ju⌜nu⌝ kiŋ kaː⌜ni⌝ ki̥⌜su⌝kaː s⌜soː pattsoː⌝run⌜daː kai⌝ ki̥⌜su⌝kaː ⌜pattsoːra⌝nu](同じ着物だけ着ると裾が解(ホツ)れるよ。着替えると解れない)。⌜パッツォー⌝ル　⌝トンマー　クー⌜シティ⌝　キ⌜シ⌝バ [⌜pattsoː⌝ru ⌝tommaː ⌝kuː ʃi̥⌜ti⌝ ki̥⌜ʃi⌝ba](解(ホツ)れる所は繕(ツクロ)って着なさい)。⌜パッツォー⌝レーラ　キ⌜サラヌ [⌜pattsoː⌝reːraː ki̥⌜saranu](解れたら着られない)。⌜パッツォー⌝リバ [⌜paː⌝ku ⌜pattsoː⌝riba](早く解れろ)。

⌜**パットゥ [⌜pattu]**【名】法度。おきて。禁令。禁制。禁止。⌝アッパターラー　⌝アトー　パ⌜ルシケー⌝ヤ　⌜パットゥ⌝　ナリ　⌜ティーヌ⌝クシナー　パ⌜ル⌝シケー　シ⌜モーラン⌝シェンツォー [⌝ʔappataːra ⌝ʔatoː pa⌜ruʃi̥keː⌝ja ⌜pattu⌝ nari ⌜tiːnu⌝ku̥ʃinaː pa⌜ru⌝ʃi̥keː ʃi⌜moːraŋ⌝ʃentsoː](お祖母さんたちから以後は入れ墨は禁止 < 法度 > になって、手の甲 < 手の後ろ > に入れ墨を刺はされなかったそうだ)。

⌜**ハッ⌝パ [⌜hap⌝pa]**【名】ダイナマイト。⌜ダイ⌝ダマ [⌜dai⌝dama](ダイナマイト) ともいう。「発破」の義。西表炭坑などで使用されていた語が借用されたもの。戦後の一時期、八重山では⌜ハッ⌝パ [⌜hap⌝pa] で魚を乱獲する人が現れ、誤って死亡する事件が続発したので、その使用が禁止された。⌝タンコーナーテー　⌜ハッ⌝パ　⌝カキティル　シ⌜キ⌝タン　⌝プリ　ブ⌜タ⌝ティ⌜ダー [⌝taŋkoːnaːteː ⌜hap⌝pa ⌝kḁkitiru ʃi̥⌜ki⌝tam ⌝puri bu⌜ta⌝ti⌜daː](炭坑では発破をかけて石炭を掘っていたそうだよ)。

⌜**バッパー [⌜bappaː]**【名】(幼) タバコ (煙草)。⌝アブジェーン　⌝アッパーン　⌝バッパー < タ⌜バ⌝ク > フ⌜コー⌝ルン [⌝ʔabuʤeːm ⌝ʔappaːm ⌝bappaː<ta⌜ba⌝ku> ɸu̥⌜koː⌝ruŋ](お祖父さんもお婆さんもタバコを吸われる < 吹かれる >)。

⌜**バッ⌝パイ [⌜bap⌝pai]**【名】誤り。間違い。取り違え。誤解。⌜バッパイ⌝ルン [⌜bappai⌝ruŋ](間違える。取り違える) の連用形より転成した名詞。⌜バッパイ⌝ヤー　⌜ターン⌝ナーン　ア⌜リ⌝ス [⌜bappai⌝jaː taː⌜n⌝naːn ʔa⌜ri⌝su](誤りは誰にでもあることだ)。

⌜**バッパイ⌝ルン [⌜bappai⌝ruŋ]**【他動】間違える。誤る。取り違える。誤解する。ユ⌜ヌン⌝トンナー　シ⌜キ⌝ルカー　⌜バッパイ⌝ルンダ　⌜バッパイラン⌝ヨーニ　ビ⌜チン⌝トンナー　シ⌜キ⌝リ [ju⌜nun⌝tonnaː ʃi̥⌜ki⌝rukaː ⌜bappai⌝runda ⌜bappairaɲ⌝joːni bi⌜ʧin⌝tonnaː ʃi̥⌜ki⌝ri](同じ所に置くと間違えるから、間違えないように別の所に置きなさい)。⌜バッパイ　ヤッ⌝サン [⌜bappai jas⌝saŋ](間違い易い)。⌜バッパイ⌝ル　⌝クトー　⌜ナーン⌝　パジ [⌜bappai⌝ru ⌝kutoː ⌜naːm⌝paʤi](間違えることは無いはずだ)。⌜バッパイ⌝レー　⌝ミサムヌ [⌜bappai⌝reː ⌝misamunu](間違えたら良いのに)。⌜バッパイ⌝リ [⌜bappai⌝ri](間違えろ)。

⌜**バッ⌝パウン [⌜bap⌝pauŋ]**【他動】間違える。誤る。取り違える。ウ⌜ヤ⌝ヌ　⌜クイ⌝トゥ　⌝ユー　⌜バッ⌝パウンティ　ス⌜クタヌ⌝　バー　⌜バッパーン⌝シェン [ʔu⌜ja⌝nu ⌜kui⌝tu ⌝juː ⌜bap⌝paunti su̥⌜kutanu⌝ baː ⌜bappaːŋ⌝ʃeŋ](親の声とよく間違えると聞いたが、私は間違えなかった)。⌜ニーブンダ　バッパイ　ヤッ⌝サンドゥ　⌜バッ⌝パウ　⌝クトー　⌜ナーン⌝パジ [⌜niːbunda bappai jas⌝sandu ⌜bap⌝pau ⌝ku̥toː ⌜naːm⌝paʤi](似ているから間違えやすいが、間違うことは無いはずだ)。⌜バッパイ⌝ヤー　⌝ミサムヌ [⌜bappai⌝jaː ⌝misamunu](間違えれば良いのに)。ワザッ⌜トゥ　バッ⌝パイバ [waʣat⌜tu bap⌝paiba](わざと < 態と > 間違えなさいよ)。

⌜**バッ⌝プー [⌜bap⌝puː]**【名】配分。分配。等分に分け合うこと。「割賦」の転訛したあもの。⌜ワッ⌝プー [⌜wap⌝puː] ともいう。ウ⌜ヤ⌝ヌ　⌝ザイサンマー　⌜キョーダイ⌝サ　⌝ザーンシ　⌜マータキナー　バッ⌝プー　シ⌜タ⌝ツォー [ʔu⌜ja⌝nu ⌝ʣaisammaː ⌜kjoːdai⌝sa ⌝ʣaːŋʃi ⌜maːtakinaː bap⌝puː ʃi̥⌜ta⌝tsoː](親の財産は兄弟で等しく配分したそうです)。

⌜**パップガスン [⌜pappugasuŋ]**【他動】暴露する。ばらす。秘密を暴く。若年層は⌜ハップガスン [⌜happugasuŋ](暴露する) ともいう。「Fogaxi,u,aita. ホガシ、ス、イタ (ほがし、ほがす、いた)穿孔(センコウ)する、すなわち、孔をあける」『邦訳日葡辞書』に強意の接頭語⌜パッー [⌜pap-](うち～) が付いて再転訛した語か。⌝バークトゥ　⌜パップガスンティ⌝　ウ⌜ドーシ　ベータン⌝ドゥ　⌜パップガサンシェン [⌝baː ⌝ku̥tu ⌜pappugasunti⌝ ʔu⌜doːʃi beːtan⌝du ⌜pappugasaŋʃeŋ](私のことを暴露する < うちほがす > といって威していたが、暴露しなかったよ)。⌜パップガシ　ヤッ⌝サカー　⌜パップウガス⌝　プ⌜スン　ブンダー⌝ヌ　⌜ワー⌝　イッ⌜カナ⌝シ　⌜パップガシェー⌝　ナ⌜ラ⌝ヌ [⌜pappugaʃi jas⌝sakaː ⌜pappugasu⌝ pu̥⌜sum bundaː⌝nu ⌜waː⌝ ʔik⌜kana⌝ʃi ⌜pappugaʃeː⌝ na⌜ra⌝nu](暴露しやす

ければ暴露する人もいるだろうが、君は決して暴露してはならない)。˩パー˥ク　˩パップガシ˥バ [˩paː˥ku ˩pappugaʃi˥ba](早く暴露しなさいよ)。

˩パップギルン [˩pappugiruŋ] 【自動】ばれる。発覚する。露見する。˩˩ハップギルン [happugiruŋ](ばれる)ともいう。ウ˩ヌ˥　クトー　˩パップギルンテー˥　ウ˩モーン˥シェンドゥ　ムー˩ル　パップギ　ナー˥ヌ [ʔu˩nu˥ kʉto: ˩pappugirunteː˥ ʔu˩moːŋ˥ʃendu muː ˩ru pappugi naː˥nu](そのことは、ばれるとは思わなかったが、全部ばれてしまった)。˩パップギル˥　クトー　˩ナーヌ˥ヌ　˩パップギランティ　スー　スー˥クーン　˩ナー˥ヌ [˩pappugiru˥ kuto: ˩naːnu˥nu ˩pappugiranti suː suː˥kuːn ˩naː˥nu](ばれることは無いが、ばれないという証拠も無い)。˩パー˥ク　˩パップギレー˥　ミサムヌ [˩paː˥ku ˩pappugireː˥ misamunu](早くばれればいいのに)。˩パップギリ [˩pappugiri](ばれよ。露見せよ)。

˥ハッポー [˥happoː] 【名】八方。方々。標準語からの借用語か。普通は˥ウマーカマー [˥ʔumaːkamaː](あちこち。< ここあそこ >) という。˥シホー　˥パッポーラ　˩ナン˥ヌ　˩ユーシ˥クン [˥ʃi̥hoː ˥happoːra ˩nan˥nu ˩juːʃi˥kuŋ](四方八方から波が寄せてくる)。

ハ˩ツリ [hḁ˩tsuri] 【名】はつる (削る) こと。材木をはつること。山で材木を伐り、運び出した後、斧で軽く斜めに切り込み、次に本格的に削って角材に作ること。少しずつ削り落としていくことをいう。左足を丸太にかけ、右足で体重を支えながら、ヤ˩マブー˥ヌ [ja˩mabuː˥nu](山斧) で木材の右側から 10 センチ間隔に打ち込んでおいてから削ると削りやすいという。これを繰り返して角材に仕上げた。

ハ˩ツルン [hḁ˩tsuruŋ] 【他動】はつる (削る)。丸太を削って角材にしあげる。大工用語。家屋建築の技術が導入された時に定着した語であろう。˩ザイ˥ギ　ハ˩ツ˥ルンティ　˩スンドゥ˥　ク˩リ˥シェー　ハ˩ツララ˥ヌ [˩ʤai˥gi hḁ˩tsu˥runti ˩sundu˥ ku˩ri˥ʃeː hḁ˩tsurara˥nu](材木を削ろうとするが、これでは削られない)。ハ˩ツリヤッ˥サン [ha˩tsurijas˥saŋ](削りやすい)。ハ˩ツ˥ル　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [hḁ˩tsu˥ru ˥kʉto: na˩ra˥nu](削ることは出来ない)。˥クマーラ　ハ˩ツ˥レー　˥ミサムヌ [˥kumaːra hḁ˩tsu˥reː ˥misamunu](ここから削ればいいのに)。˩タンガ˥シ　ハ˩ツ˥リ [˩taŋga˥ʃi ha˩tsu˥ri](一人で削れ)。

パ˩ティ [pḁ˩ti] 【名】果て。おわり。はしっこ。かぎり。端。はずれ。限界に行きつくところ。シ˩マ˥ヌ　パ˩ティ˥ナー　シ˩ティリ [ʃi˩ma˥nu pa˩ti˥naː ʃi̥˩tiri](島の最北端 < 果て > に捨てなさい)。ク˩ヌ　ユーヌ˥　パ˩ティ [ku˩nu juːnu˥ pḁ˩ti](この世の果て)。

パ˩ティ˥ムニ [pa˩ti˥muni] 【名】すてぜりふ (捨て台詞)。最低のことば。「すてことば < 物言い >」の義。去り際に言いたい放題、悪しざまにいうこと。˥アイブ　パ˩ティ˥ムニ　シ˩ティムニバ˥　イ˩ズムノー˥　ア˩ラ˥ヌ [˥ʔaibu pḁ˩ti˥muni ʃi̥˩timuniba˥ ʔi˩ʤumunoː˥ ʔa˩ra˥nu](あんな最低のことば、捨て台詞をいうものではない)。

パ˩ティ˥ムヌ [pḁ˩ti˥munu] 【名】命知らず。怖いもの知らず。「果て者」の義。パ˩ティ˥ムヌ　ヤ˩ルンダ˥　ウ˩リヌ　スンティ　シェーラ˥　プ˩スヌ˥　ムニ˩ナー˥ト　シゥ˩カヌ˥　マー˩ンバーキ˥ン　パ˩リ˥ス [pḁ˩ti˥munu ja˩runda˥ ʔu˩rinu sunti ʃeːra˥ pʉ˩sunu˥ muni˩naː˥to si̥˩kanu˥ ma:˩mbaː˥kim pa˩ri˥su](怖いもの知らず < 命しらす > だから、彼がすると決めたら他人の話など聞かない。どこまでも行くよ)。

パ˩ティヨー˥ゾー [pḁ˩tijoː˥ʤoː] 【名】荒療治。手荒く治療すること。「果て養生」の義。イ˩サ˥ヌ　˩オーラン˥ダー　˥ニーブターアシボー　˩ティーパン˥マー　˩ウシキティ˥　タ˩マ˥ヌ　バ˩リ˥シ　ア˩シ˥ブ　バ˩リティ　アース˥　パ˩ティヨーゾー˥バ　˩シェー˥ティル　˩ノー˥ソーッタ [ʔi˩sa˥nu ˩ʔoːran˥daː ˥niːbutaːʔaʃiboː ˩tiːpam˥maː ˩ʔuʃi̥kiti˥ ta˩ma˥nu ba˩ri˥ʃi ʔa˩ʃi˥bu ba˩riti ʔaːsu˥ pḁ˩tijoːʤoː˥ba ˩ʃeː˥tiru ˩noː˥ so:tta](お医者さんがいらっしゃらないので、おできの根太は手足を抑えて、ガラスの破片で切開し、膿みを出しす荒療治をして治された)。

パ˩ティルマ [pa˩tiruma] 【名】(地) 波照間島。石垣島の南西約 53 キロメートルの洋上に浮かぶ日本最南端の島。パ˩ティルマ˥ナー　˩パイパティ˥ローティ　˩スー˥　ム˩カ˥シパナシヌ　アン˩ダー [pḁ˩tiruma˥naː ˩paipati˥roːti ˩suː˥ mu˩ka˥ʃipanaʃinu ʔan˩daː](波照間島には南波照間という昔話があるよ)。

パ˩ティルマプス [pa˩tirumapusu] 【名】波照間の人。パ˩ティルマプソー　ターティ　ナー˥ン　ムー˩ル˥　イッ˩ケナ˥　ミサ˩ロー˥ルン [pḁ˩tirumapusoː taːti naː˥m muː˩ru˥ ʔik˩kena˥ misa˩roː˥ruŋ](波照間人は誰彼というのでなく、みんな非常に良い人ばかりでいらっしゃる)。

パ˩ティルマムル [pa˩tirumamuru] 【名】波照間森 < 波照間岳 >。西表島の浦内川の源流にある山。カツオ漁船は沖へ出漁する際、鳩間島や西表島が水平線に没するところで波照間森が目印となる。パ˩

ティルマムルバ˥　ア˞ティバ　シール˥　ナ˞カヌ˥スニ　タイパン˥ズネー　˥カキ　カ˞ツ　ホー˥シン　˞オーッ˥タツォー [pḁ˞tirumamuruba˥ ʔa˞tiba ʃiːru˥ na˞kanu˥suni ˞taipan˥ʤune: ˥kaki kḁ˞tsu hoː˥ʃiŋ ˞ʔoːt ˥tatsoː](波照間森を目印にして中の曽根、台湾曽根をかけてカツオを釣りに行かれたそうだ)。

パ˞ティ˥ルン **[pḁ˞ti˥ruŋ]** 【自動】我慢できず爆発する。限界に達して理性が失われる。切れる。きわまる。死ぬ。「果てる」の転訛したもの。日常的にはあまり使用されない。「昨日こそ年は極之賀＜はてしか＞〜。万、1843」の義。ミ˞ドゥム˥ヌ　パ˞ティ˥ルカー　˥ザー　˥ナルンティ　ア˞ザリブー [mi˞dumu˥nu pḁ˞ti˥ruka: ˥ʤa: ˥narunti ʔa˞ʤaribuː](女が果てる＜切れる＞と蛇になるといわれている)。パ˞ティラ˥ヌ [pa˞tira˥nu](爆発しない。切れない)。˥パティ　˞ナー˥ヌ [˥pati ˞naː˥nu](切れてしまった)。パ˞ティ˥ル　˥クトー　サ˞ヌ [pḁ˞ti˥ ru̥kutoː saˢnu](切れること＜理性を失った行動＞はしない)。パ˞ティ˥レー　ミサムヌ [pa˞ti˥reː ˥misamunu](理性を失って、切れればいいのに)。˥クナーティ　パ˞ティ˥リ [˥kunaːti pa˞ti˥ri](ここで果てろ＜死ね＞)。

パ˞ティ˥ワザ **[pa˞ti˥waʤa]**【名】命がけの仕事。最低の仕事。冒険。˥アイブ　パ˞ティワザ˥バ　˞シー　アー˥キ　˥ヌチ　シ˞ティルン˥ダー [˥ʔaibu ʃi̥˞tiwaʤaba ʃiːʔaː˥ki ˥nutʃi ʃi̥˞tirun˥daː](あんな命がけの仕事をしていて、命を落とす＜捨てる＞ぞ)。

˥パトゥグザ **[˥patuguʤa]**【名】はと。山鳩。きじばと(雉鳩)。子供は、˥パトゥザ [˥pḁtuʤa](山鳩) ともいう。鳩間島には山鳩が多かった。体長約 20 センチで、稲や豆、麦などを食い荒らす害鳥であった。木の枝やススキの中に巣を作ったので、子供達は雛を捕らえて鳥かごの中で育てて楽しんだ。パ˞トゥザー˥　グックー [pḁ˞tuʤaː˥ gukkuː] と鳴いた。ム˞カ˥シェー　パ˞トゥ˥マナーン　パ˞トゥ˥マレーナーン　˥パトゥザー　˞イッ˥パイ　ブ˞タント ダー [mu˞ka˥ʃeː pḁ˞tu˥manaːm pḁ˞tu˥mareːnaːm ˥pḁtuʤaː ˞ʔip ˥pai bu˞tanˢdaː](昔は鳩間島にも鳩離島にも山鳩はたくさんいたよ)。

˥パトゥザ **[˥pḁtuʤa]**【名】はと。山鳩。きじばと (雉鳩)。老年層は、˥パトゥグザ [˥pḁtuguʤa](山鳩) という。˥パトゥザヌ　˞コー˥マ　˞ミシ˥キン　パラ˞ディー [˥pḁtuʤanu ˞koː˥ma ˞miʃi̥˥kim para˞diː](山鳩の卵を探しに行こうよ)。

パ˞トゥザー˥グック **[pḁ˞tuʤaː˥gukku]**【名】擬声語。山鳩の鳴く声。転じて山鳩の幼児語。幼児たちは、パ˞トゥザー˥グック　˞ベントー˥ヌ　˥ヌカル　˞タール˥　ッふーッふ [pḁ˞tuʤaː˥gukku ˞bentoːnu˥ nukaru ˞taːru˥ ffuːffu](パトゥアーグックと鳴く山鳩よ、弁当の残りは誰が食うか) と歌っていた。

パ˞トゥ˥マ **[pḁ˞tu˥ma]**【名】(地) 鳩間島。西表島の北約 5,5 キロメートルの洋上に浮かぶ小島。周囲約 3、491 キロメートル、面積は約 1、080 平方キロ。中央にナ˞カン˥ブレ [na˞kam˥bure](中岡。標高 34 メートル) があり、その東側に˥ウガンヤマ [˥ʔugaŋjama](˞ウイヌ˥ウガン [˞ʔuinu˥ʔugaŋ]＜友利御嶽＞の杜)、西側にはパ˞カヤマ [pḁ˞kajama](墓山) がある。周囲は珊瑚礁がよく発達していて、島はリーフで囲われ、昔から良好な漁場となっている。島の南面には˞マイ˥ヌパマ [˞mai˥nupama](前の浜)、˞イントゥ˥マパマ [˞ʔintu˥mapama](イントゥマ浜) が形成されている。リーフも島の南側には˞マイ˥ズニ [˞mai˥ʤuni](前曽根) が形成発達し、東南のタ˞カ˥ビー [ta˞ka˥biː](高干瀬) との間と、西の˞クー˥シビー [˞kuː˥ʃibiː](クーシ干瀬) の間に天然の津口が形成され、船の出入港となっている。カツオ漁業、烏賊漁の漁船もそこから出入りして漁業を発達させた。集落は島の南斜面に形成され、西村と東村に分かれて発達している。村井戸も˞インヌカー [˞ʔinnukaː](西村井戸)、˞アンヌカー [˞ʔannukaː](東村井戸。下り井戸)、˞ウイヌカー [˞ʔuinukaː](上の井戸)、パ˞チンガカー [pḁ˞ʧiŋgakaː](初の井戸。アブ [ʔa˞bu]＜洞穴＞型の井戸) などがある。古記録によると、1702(元禄 15) 年、黒島から 60 人、を強制移住させ、鳩間の人口 50 人を加えて独立村とした『八重山民謡誌』という。人口は 1737(元文 2 年) に 381 人、1753(宝暦 3) 年に 450 人、1873(明治 6) 年に 110 人、1892(明治 25) 年に 163 人、1925(大正 14) 年に 380 人、1930(昭和 5) 年に 499 人、1936(昭和 11) 年に 525 人であったが、1995(平成 7) 年には 45 人に激減している。島では、昔から男性は˞パイ˥ター [˞pai˥taː](西表島北岸) に渡って稲作に従事し、女性は島で畑を耕し、イモ、麦、粟、豆、黍、などを栽培し、干潮時には島を取り巻くリーフに降りてタコや魚、貝類の蛋白源を漁獲して生活するのが慣わしであった。明治 37 年以前、女性は人頭税である˞グイ˥フ [˞gui˥ɸu](御用布) の芭蕉布や麻布を織って納入しなければならず、生活を支えるのに追われたという。鳩間島は昔からマラリヤの風土病がない島として、西表島上原村や船浦の鬚川村から人々が移住してきた。黒島や古見村からの琉球王府の移住政策によ

る移住民が増え、友利御願＜御嶽＞を中心として、ピナイ＜鬚川＞御願、新川御願、西堂御願、前泊(旅) 御願などの宗教基盤が築かれ、祭祀行事が盛んとなった。明治以降はカツオ漁業、イカ釣り漁が導入され、西表島の石炭産業との商業上の交流も盛んになって島の経済が発展した。戦後は一時600余人に人口増加し、カツオ漁業やイカ釣り漁も賑わったが、高度経済発展に伴う日本政府の所得倍増計画政策によって若者が島から流出し、高校進学のために一家ごと石垣島への移住が増えて人口は激減し、今日の状態に至った。

パ˞トゥ˥マナカムリ [pa̠˞tuma˥nakamuri] 【名】節歌の˞鳩間節」、及びその古典舞踊。石垣島では節歌の˞鳩間節」と称されているが、鳩間島ではパ˞トゥ˥マナカムリ (鳩間中岡)、またはウ˞ブ˥ブシ [ʔu˞bu˥buʃi](本節) といっている。名優伊良波尹吉がアレンジ創作した「鳩間節」は「早節」といって区別している。パ˞トゥ˥マナカムリは、従来「鳩間中森」と表記されてきたが、鳩間方言では、ム˞ル [mu˞ru](岡。土が盛り上がったところ) の義で、漢字表記の「岡」が意味上はより正確に対応する。森や林は鳩間方言では、˥ヤマ [˥jama](林。密林) という。˥ウガンヤマ [˥ʔugaŋjama](友利御嶽の杜)、パ˞カヤマ [pa̠˞kajama](墓山。墓所の杜。中岡の西側にある林) がこれを実証する。「鳩間節」は、原歌「鳩間ユンタ」の口碑によると仲底真那の作という。/パトゥマナカムリ　パリヌブリ　クバヌシタニ　パリヌブリ　ハイヤヨーティーバ　カイダキ　ティトゥルトゥ　テンヨーマサティ　ミグトゥ/(鳩間中岡を走り上って、蒲葵の下に走り上ってみると、＜囃子＞南の方はといえば、美しい古見岳＜古見の連山＞が手に取るようで、実に何処よりも勝って見事な眺めである) 以下略。『鳩間島古典民謡古謡集』。

パ˞トゥ˥マナツァーラ [pa̠˞tu˥manatsa:ra] 【名】(固) 鳩間人のあだ名。鳩間産の海人草をよく石垣島への土産にしたからという。パ˞トゥ˥マプソー　ナ˞ツァーラ˥バ　˥シトゥ　˞ソー˥レーティル　パ˞トゥ˥マナツァーラティ　ア˞ザナー˥　シ˞キラ˥リ　˞オー˥リ　ブ˞レー˥ル [pa̠˞tu˥mapuso: na˞tsa:ra˥ba ˥ʃi̥tu ˞so:˥re:tiru pa̠˞tu˥manatsa:rati ʔa˞ʤana:˥ ʃi̥˞kira˥ri ˞ʔo:˥ri bu˞re:˥ru](鳩間の人は海人草を御土産＜つと＞にされたので鳩間海人草とあだ名をつけられておられたのだろう)。

パ˞トゥ˥マブシ [pa̠˞tu˥mabuʃi] 【名】節歌の˞鳩間節」。石垣島の歌集に収載された古典民謡の鳩間節。鳩間島では、パ˞トゥ˥マナカムリ (鳩間中岡) という。伊良波尹吉がアレンジした鳩間節は「早節」といっている。

パ˞トゥ˥マムニ [pa̠˞tu˥mamuni] 【名】鳩間言葉。鳩間方言。「鳩間物言い」の義。パ˞トゥ˥マムネー　フ˞シ˥マムニトゥ　˞ニーブンドゥ、パ、ピ、プ、ペ、ポ、ティ　˞スー˥　ウ˞トゥヌ˥　アルンダ　チ˞ガイスヌ　タイゲー˥ヤ　シゥ˞カリントダー [pa̠˞tu˥mamune: ɸu̠˞ʃi˥mamunitu ˞ni:bundu pa、pi、pu、pe、po、ti ˞su:˥ ʔu˞tunu˥ ʔarunda ʧi˞gaisunu taige:˥ja si̥˞karinˈda:](鳩間言葉は黒島言葉と似ているが、pa、pi、pu、pe、po、という音があるので異なるが、大概は聞ける＜聞いて理解できる＞よ)。

パ˞トゥ˥マレー [pa̠˞tu˥mare:] 【名】地名。鳩離島。老年層のことば。若年層 (昭和生まれ以降) は、˞ホートゥ˥バレー [˞ho:tu˥bare:](鳩離) という。西表島船浦湾の北部湾口に位置する。干潮時にはピナイ崎から潮干狩りに行くことができる。無数の土鳩が島のススキの上や下に巣を作っており、岩の間にはウミネコがたくさん卵を産んでいた。昭和40年ごろまでは、故慶田城勇氏所有の島だったという。˞カンザトゥ˥ヤーヌ　˥オトーン　˞サーラリティ˥　パトゥザヌ　˞コー˥マ　˥トゥリン　パ˞トゥ˥マレー　˞ゲー˥タン˞ダー [˞kanʤatu˥ja:nu ˥ʔoto:n ˞sa:rariti˥ pa̠tuʤanu ˞ko:˥ma ˥turim pa̠˞tu˥mare: ˞ge:˥tan˞da:](慶田城のお父さんに連れられて、土鳩の卵を取りに鳩離島へ行ったよ)。

パ˞トゥ˥ムヌ [pa̠˞tu˥munu] 【名】機。織機。「はたもの＜機物＞」の義。「～織りつがむ　我が廿物～。万、1298」、「機、ハタモノ・ハタ」『類聚名義抄』の転訛したもの。タ˞カバ˥タ [ta̠˞kaba˥ta](高機) と˞ジーバ˥タ [˞ʤi:ba˥ta](地機) がある。ム˞カ˥シェー　˞ヤーカー˥ジナー　パ˞トゥ˥ムヌ　˥タティティ　˞ヌーヌ˥　ウ˞ローッ˥タン [mu˞ka˥ʃe: ˞ja:ka:˥ʤina: pa˞tu˥munu ˥tatiti ˞nu:nu˥ ʔu˞ro:t˥taŋ](昔は家毎に織機をたてて布を織られたものだ)。

パ˞トゥ˥メー [pa̠˞tu˥me:] 【名】屋号。鳩間家。鳩間真佐氏宅。鳩間村創建時の古い家という伝承がある。パ˞トゥ˥メヌ　˞スン˥ザー　キ˞チゴンヌ　ザーピラキ　キョンギン˥ヌ　˥ピラー　イッ˞ケン　ゾー˥ジ　ヤ˞ローッ˥タ [pa̠˞tu˥menu ˞sun˥ʤa: ki̥˞ʧigonnu ʤa:pirakikjoŋgin˥nu ˥pira: ʔik˞ken ʤo:˥ʤi ja˞ro:t˥ta](鳩間家のスンザー氏は結願祭の開幕・座開き狂言のピラ＜箆＞が非常に上手であられた)。

パ˞トゥ˺メーヌ　カ˞ブッチテー **[pḁ˞tu˺menu ka˞buttʃite:]** 【連】屋号。鳩間真吉氏宅。鳩間家の本家という。「鳩間カブ・ヤッチー＜兄＞宅」の転訛したもの。˞ヤッチー [˞jattʃi:](兄)、首里方言」は沖縄方言からの借用語。鳩間真吉氏は、フ˞ナ˺バルウガン [ɸu˞na˺baruʔugaŋ](船原御嶽) のティ˞ジリ˺ビー [ti˞ʤiri˺bi:](男性神職者) を努められた。鳩間カブ氏は太平洋戦争中、軍による西表島避難命令を無視し、老齢の夫婦二人で島に残って芋を栽培した。敗戦後、鳩間島に帰った住民で、カブ氏の畑から芋蔓の苗を分けてもらってイモの植え付けをした人も多い。

˺**-パトゥン [˺-patuŋ]** 【補動】限界に行き着くことを表す補助動詞。˞～しつくす」。˞～きわまる」の義。下二段動詞「はつ (果つ)」の四段活用化したもの。動詞の連用形に下接する。シゥ˞カイパティ　ナー˺ヌ [si̥˺kaipati na:˺nu](使い尽くしてしまった)。

˺**バナ [˺bana]** 【名】わな (罠)。針金などを輪状につくり、˺カマイ [˺kamai](猪) の獣道に仕掛けておいて足を縛って締め上げ捕獲する装置。「⊠　和奈＜わな＞」『新撰字鏡』、「～彼面此面に　佐須　和奈乃～。万、3361」の義。˞シン˺ダシ　ヤ˞マシゥ˺カ˺バナ　ス˞ク˺リ　ア˞ギティ˺　カマイ　˺トゥルンティ　ス˞コーリ˺　ス˞コー˺レー [˞ʃin˺daʃi ja˞masi̥˺ka ˺bana su̥˞ku˺ri ʔa˞giti˺ kamai ˺turunti su̥˞ko:ri˺ su̥˞ko:˺re:](針金で沢山罠を作って獣道に仕掛けて＜掛けあげて＞、猪を捕獲しようと＜獲ろうと＞準備しておかれてある)。˺バナ　ア˞ギルン [˺bana ʔa˞giruŋ](罠を仕掛ける)。

˺**パナ [˺pana]** 【名】1かび (黴)。こうじかび (麹黴)。˺パナ　˺フーン [˺pana ˺ɸu:ŋ](黴(カビ)が生える)。˞ミー˺スン　シ˞タ˺ディン　サ˞キン　コージ˺　タティティ　˺パナ　ホー˺シティル　ス˞ク˺ローッタル [˞mi:˺suŋ ʃi̥˞ta˺din sḁ˞kiŋ ko:ʤi˺ tatiti ˺pana ˞ho:˺ʃitiru su̥˞ku˺ro:ttaru](味噌も醤油＜下地＞も酒も、麹(コウジ)をたてて麹黴(コウジカビ)を付かせて＜生えさせて＞から造られた)。2こうじ (麹)。˺パナ　タ˞ティ˺ルン [˺pana tḁ˞ti ˺ruŋ](麹をたてる)。

˺**パナ [˺pana]** 【名】花。パ˞ナ˺ヌ　˺サクン [pa˞na˺nu ˺sḁkuŋ](花が咲く)。˺パナー　サ˞カ˺ヌ [˺pana: sḁ˞ka ˺nu](花は咲かない)。パ˞ナ˺バ　サ˞カ˺シ [pa˞na˺ba sa˞ka˺ʃi](花を咲かせよ)。˺パナナー　トゥ˞マルン [˺panana: tu˞maruŋ](花にとまる)。˺パナ　˺ブリン　˞パッ˺タ [˺pana ˺burim ˞pat˺ta](花を挽ぎ＜折り＞に行った)。

˺**パナ [˺pana]** 【名】綿。綿花。ム˞カ˺シェー　˺パナン　ス˞ク˺ローッタンツォー [mu˞ka˺ʃe: ˺panan su̥˞ku˺ro:ttantso:](昔は綿花も栽培され＜作られ＞たそうだ)。

パ˞ナ **[pa˞na]** 【名】1鼻。「鼻　pana」『語音翻訳』、「鼻　花那」『琉球館訳語』とある。パ˞ナヌ˺　タ˞カー˺ン [pa˞nanu˺ ta˞ka:˺ŋ](鼻が高い)。パ˞ナヌ˺　シ˞マ˺リティ　˺イキ　サ˞ラヌ [pa˞nanu˺ ʃi˞ma˺riti ˺ʔiki sa˞ranu](鼻が詰まって息が出来ない)。パ˞ナ˺フクン [pa˞na˺ ɸu̥kuŋ](子供が泣き出す。べそをかく。＜鼻を吹く＞義)。タ˞カ˺パナ [tḁ˞ka˺pana](高い鼻)。ピ˞タパナ [pi̥˞tapana](低い鼻、平たい鼻)。2先端。岬。ウ˞ヌ˺　パ˞ナー˺　ブ˞ラ˺リ　˞ベー [ʔu˞nu˺ pa˞na:˺ bu˞ra˺ri ˞be:](その先端部は折られている)。3「鼻・先端」の義か。˺イダフニ [˺ʔidaɸuni](板舟。サバニ) の舳先の内側にある、˞アン˺カージナ [˞ʔaŋ ˺ka:ʤina](碇綱。碇縄。アンカーロープ) を結わえておくところ。˺イダフニ [˺ʔidahuni] の項参照。

˺**パナ [˺pana]** 【名】神仏に供える精白した米。パ˞ナン˺グミ [pa˞naŋ˺gumi](花米)。˞コー˺パナ [˞ko:˺pana](˞香花」の義か。線香と一合ほどの精白米)。イ˞チンゴー˺パナ [ʔi˞ʧiŋgo:˺pana](一合花米。小さな法事などに親戚の仏前へ供える花米)。˞サンゴー˺パナ [˞saŋgo:˺pana](三合花米。普通の法事などに親戚の仏前へ供える花米)。˞グンゴー˺パナ [˞guŋgo:˺pana](五合花米。大きな法事の際に親戚の仏前へ供える花米) などがある。ア˞ライパナ [ʔa˞raipana](神前に供える、水で洗った供物の花米)。カ˞ミニン˺ガイナー　˺パナー　˺サバンナー　ム˞リティ˺　イ˞ツァン˺パイキーヌ　˞パーバ˺　ッシ　˺タティティ　ウ˞リバ　イッチー˺　ス˞コーッ˺タン [ka˞miniŋ˺gaina: ˺pana: ˺sabanna: mu˞riti˺ ʔi˞tsam˺paiki:nu ˞pa:ba˺ ʃʃi ˺tḁtiti ʔu˞riba ʔittʃi:˺ su̥˞ko:t˺taŋ](神願いには、花米は茶碗に盛って、サカキの葉を茶碗の周りに挿し立て、それを一対供えられた)。

˺**パナ [˺pana]** 【接尾】時期。頃。複合語の後部要素となる場合は連濁を起こして、˺バナ [˺bana](時期。頃) ともいう。プ˞ス˺　パナー　ア˞キ˺ナイ　˞シー　オーッ˺タン [pu̥˞su˺ pana: ʔa˞ki˺nai ˞ʃi:o:t˺taŋ](一時期は商いをしておられた)。ヤ˞ラビ˺ヌ　ム˞ヌウムイ˺パナー　˞キー　シキ˺リ [ja˞rabi˺nu mu˞nuʔumui˺ pana: ˞ki:˺ ʃi̥˞ki˺ri](子供の思春期＜もの思う時期＞は、よく気をつけなさい)。時期。最盛期。最中。˺パナ [˺pana](～時期。～最中) の異形態が動詞の連用形に下接して連濁を起こし、「動詞が指し示す意

味の動作に入った頃、動作の最盛期」を表す。アˈサビバナ [ʔaˈsabibana](遊ぶ時期。遊びに夢中になる時期)。ニˈビバナ [niˈbibana](寝入りばな。熟睡中。睡眠の最中)。アˈサビバナ˥　ヤˈルンダ　ヤー˥ナ　カˈカラ˥ヌ [ʔaˈsabibana˥ jaˈrunda ja:˥na kạˈkara˥nu](遊びに熱中する時期だから、ほとんど家にいない)。ニˈビバナーラ˥　サˈキヌミ˥プスン　ウˈコーサ˥リティ　ˈオスˈク　シˈラリ　ミッ˥タン [niˈbibana:ra˥ sạˈkinumi˥pụsuŋ ʔuˈko:sa˥riti ˈʔosụ˥ku ʃiˈrarimit˥taŋ](寝入りばなから酔っ払いに起こされて非常に邪魔され＜迷惑かけられ＞たことがある)。

パˈナー˥スン [paˈna:˥suŋ]【他動】離す。切り離す。別々にする。ˈミーウシ˥トゥ　ビˈキウシェー˥　パˈナーサン˥カー　ズˈブ˥マイ　シˈティ　アールン˥ダー [ˈmi:ʔuʃi˥tu biˈkiʔuʃe:˥ paˈna:saŋ˥ka: ʤuˈbu˥mai ʃị̈ˈti ʔa:run˥da:](牝牛と雄牛は離さないと発情して暴れるよ)。パˈナー˥スンティ　˥ウムーカー　パˈナー˥ス　˥クトー　˥ナルン [paˈna:˥sunti ˥ʔumu:ka: paˈna:˥su ˥kụto: ˥naruŋ](離そうと思えば離すことは出来る)。パˈナー˥シェー　˥ミサムヌ [paˈna:˥ʃe: ˥misamunu](離せばいいのに)。パˈナー˥シ [paˈna:˥ʃi](離せ)。

パˈナー˥マ [paˈna:˥ma]【名】少量の花米。イˈチンゴー˥パナ [ʔiˈʧiŋgo:˥pana](一合花米) に˥グシ [˥guʃi](御酒) をˈカン˥ビン [ˈkam˥biŋ](銚子。燗瓶)2 本に入れ、それに杯(サカズキ)を添えて一式にしたもの。マˈブ˥ルクミ [maˈbu˥rukumi](魂籠め。マブイクミ) やˈヤシキ˥ヌ　ˈニン˥ガイ [ˈjaʃị̈ki˥nu ˈniŋ˥gai](屋敷の祈願) などの際に供えた。パˈナー˥マンツァン　スˈコーリ˥　マˈブ˥ル　クˈミ˥シミ　ˈオーシリ [paˈna:˥mantsan sụˈko:ri˥ maˈbu˥ru kuˈmi˥ʃimi ˈʔo:ʃiri](少量の花米でも準備して魂籠め＜マブイクミ＞の祈願をして差し上げなさい＜マブイを籠めさせて差し上げなさい＞)。

パˈナーラ˥スン [paˈna:ra˥suŋ]【他動】離す。離すようにする。ビˈキウシェー　ミー˥ウシェーラ　パˈナーラ˥スンティ　ˈスンドゥ˥　ムッˈトゥ˥　パˈナーラサラ˥ヌ [biˈkiʔuʃe: mi:˥ʔuʃe:ra paˈna:ra˥sunti ˈsundu˥ mutˈtu˥ paˈna:rasara˥nu](雄牛を牝牛より引き離そうとするが、一向に離されない)。ンˈベーマ˥　パˈナーラ˥シティ　バˈツァ˥ミバ [ʔmˈbe:ma˥ paˈna:ra˥ʃị̈ti batsa˥miba](少しは離して鼻綱を結わえなさいよ)。パˈナーラ˥ス　˥クトー　ナˈラ˥ヌ [paˈna:ra˥su ˥kụto: naˈra˥nu](離すことは出来ない)。パˈナーラ˥シェー　˥ミサムヌ [paˈna:ra˥ʃe: ˥misamunu](離せば良いのに)。ヤーˈディン˥　パˈナーラ˥シ [ja:ˈdim˥ paˈna:ra˥ʃi](必ず離せ)。

パˈナーリ˥ルン [paˈna:ri˥ruŋ]【自動】離れる。遠ざかる。日本古語の「離れる (下一段)」から転訛したもの。ˈマー˥ビン　パˈナーリ˥ルンカヤーティ　ウˈムータ˥ヌ　ˈナン˥ゾー　パˈナーリラン˥バンˈナー [ˈma:˥bim paˈna:ri˥ruŋkaja:ti ʔuˈmu:ta˥nu ˈnan˥ʤo: paˈna:riram˥banˈna:](もっと離れるかと思ったが、あまり離れないんだね)。

パˈナーリルン [paˈna:ri˥ruŋ]【自動】離れる。ヤˈラ˥ベー　フˈドゥベー˥チバ　˥ウヤーラ　パˈナーリ˥ルンカヤーティ　ウˈムータン˥ドゥ　˥ウヤナー　ˈフシゥ˥カリティ　イッˈカ˥　パˈナーリラ˥ヌ [jaˈra˥be: ɸuˈdube:˥ʧiba ˥ʔuja:ra paˈna:ri˥ruŋkaja:ti ʔuˈmu:tan˥du ˥ʔujana: ˈɸusị̈˥kariti ʔikˈka˥ paˈna:rira˥nu](子供は成長したのだから親から離れるかと思ったけれど、親にくっついて一向に離れない)。パˈナー˥リ˥ミサカー　パˈナーリ˥ル　˥クトー　ナˈリ˥シバˈパー˥ク　パˈナーリ˥リ [paˈna:˥ri ˥misaka: paˈna:ri˥ru ˥kụto: naˈri˥ʃiba ˈpa:˥ku paˈna:ri˥ri](離れてよければ離れることは出来るから、早く離れなさい＜離れれ＞)。パˈナーリ˥レー　˥ミサムヌ [paˈna:ri˥re: ˥misamunu](離れればいいのに)。

パˈナー˥ルン [paˈna:˥ruŋ]【自動】離れる。「離れ、下二段活用」の四段活用に転訛したもの。ヤˈラ˥ベー　フˈドゥブ˥カー　ウˈヤム˥トゥ　パˈナー˥リ　˥パルンティ　スˈクタヌ˥　パˈナーラン˥バン [jaˈra˥be: ɸuˈdubu˥ka: ʔuˈjamu˥tu paˈna:˥ri ˥parunti sụˈkutanu˥ paˈna:ram˥baŋ](子供は成長すると親元を離れていくと聞いたが、離れないよ)。ˈナンククˈル　パˈナー˥ルンヨー [ˈnaŋkuku˥ru paˈna:˥ruŋjo:](自然に離れるよ)。マˈナ˥マー　パˈナー˥ル　˥クトー　ムˈチカ˥サンダ　ヨーˈンナー˥　パˈナー˥リバ [maˈna˥ma: paˈna:˥ru ˥kụto: muˈʧika˥sanda jo:ˈnna:˥ paˈna:˥riba](今離れることは難しいから、ゆっくり離れなさい)。ˈパー˥ク　パˈナー˥リ [ˈpa:˥ku paˈna:ri](早く離れなさい)。˥フネー　ˈジュー˥ジナー　ˈサンバ˥シェーラ　パˈナー˥ルンティ　スˈクタンドゥ˥　マˈダ˥　パˈナーラ˥ヌ [˥ɸune: ˈʤu:˥ʤina: ˈsamba˥ʃe:ra paˈna:˥runti sụˈkutandu˥ maˈda˥ paˈna:ra˥nu](船は 10 時に桟橋から離れると聞いたが、まだ離れない)。キˈサ˥　パˈナー˥リパリ　ˈナー˥ヌ [kị̈ˈsa˥ paˈna:˥ripari ˈna:˥nu](既に離れて行ってしまった)。ˈオーパ˥ヤー　パˈナー˥ル　˥クトー　ˈナーン˥パジ　ˈダー˥ヌ

パ˞ナー˜レーカー　˜メー　シ˞カター　ナー˜ヌ [˞ʔoːpa˜jaː pa˞naː˜ru ˜kʉtoː ˞naːm˜paʤi ˞daː˜nu pa˞naː˜ reːka: ˜meː ʃi̥˜kataː naː˜nu](そんなに早く離れることはないはずだが、離れたのならもう仕方がない)。パ˞ナー˜レー　˜ミサムヌ [pa˞naː˜reː ˜misamunu](離れたらいいのに)。˜クマーラ　パ˞ナール˜ナ [˜kumaːra pa˞naːru˜na](ここから離れるな)。

パ˞ナイ [pa˞nai] 【名】へさき (舳先)。パ˞ナイサキ [pa˞naisaki](サバニの舳先。「舳の端」の義) ともいう。船首の部分。サバニの船首。˜イダフニヌ　パ˞ナイ˜ナー　˜パラー　˞トー˜シ　シ˞キ˜リ [˜ʔidaɸuninu pa˞nai˜naː ˜paraː ˞toː˜ʃi ʃi̥˞ki˜ri](板舟 < サバニ > の舳先に帆柱を倒して置きなさい)。

パ˞ナ˜イカ [pa˞na˜ʔika] 【名】料理名。祝儀料理の一つ。はないか (花烏賊) の義。烏賊(イカ)の腹部に浅く切り込みを入れ、丸めて茹で、食紅で赤く染めて菊形に切り、盛り付けた料理。赤と白身とのコントラストが料理の華やかさを作り出す。ア˞ガカマブク [ʔa˞gakamabuku](赤蒲鉾) と共に祝儀料理には欠かせない食材。˞ヨイ˜ヌ　˜ウサイナー　パ˞ナイカ˜ヌ　˜アルカー　˞ザー˜ヤ　ガ˞ルン [˞joi˜nu ˜ʔusainaː pa˞najika˜nu ˜ʔarukaː ˞ʤaː˜ja ga˞ruŋ](祝いの料理に花烏賊料理があると、一座が明るくなる)。

パ˞ナイキ [pa˞najiki] 【名】高慢な人。傲慢な人。高慢ちき。驕りたかぶる人。自惚れもの。威張る人。ウ˞レー˜　パ˞ナイキ˜　ヤ˞ルンダ　バンタ˜ヨー　˞ミームタイ˜ヤンツァン　サ˞ヌ [ʔu˞reː˜ pa˞naiki˜ ja˞runda banta˜joː ˞miːmutai˜jantsan sa˞nu](彼は高慢ちきだから、私たちを見向きさえもしない)。パ˞ナイキ˜　ガルン [pa˞naiki˜ garuŋ](威張る)。

パ˞ナ˜イキ [pa˞na˜ʔiki] 【名】花活け。花瓶。花筒。花器。仏壇や床の間に花木の枝を活けて供えるのに用いる陶製の器。床の間の花活けは大型で、約 10 センチ方形に高さ約 30 センチの陶製が多かった。仏壇の花活は徳利型で、両側に耳状の飾りがあり、正面には蓮華の透かし彫りがあった。床の間にはトゥ˞ラヌズー [tu˞ranuʤuː](虎の尾) をいけるのが普通で、仏壇には、イ˞ツァン˜パイキー [ʔi˞tsam˜paikiː](ヒサカキの一種か。葉はゲッキツに似る) やパ˞ナ˜ギ [pa˞na˜gi](˞花木」の義。クロトン)、˞キャーンギ [˞kjaːŋgi](槙) の枝を旧暦の朔日と十五日に活けるのが習慣であった。シ˞キダ˜チ　˜ズングニチェー　˞ザートゥク˜トゥ　トゥ˞クニヌ˜　パ˞ナイ˜キナー　˜パナ　イ˞キ˜リ [ʃi̥˞kida˜ʧi ˞ʤuŋguni ˜ʧe: ˞ʤaːtuku˜tu tʉ˞kuninu˜ pa˞na˜ʔikinaː ˜pana ʔi˞ki˜ri](朔日十五日には、床の間と仏壇の花生けに花を活けなさい)。

パ˞ナイキガリ˜ムヌ [pa˞naikigari˜munu] 【名】高慢ちき。尊大にふるまう者。威張り散らかす者。鼻息の荒い者。ウ˞レー　サッ˜コー　パ˞ナイキガリ˜ムヌ˞ダー [ʔu˞reː sak˜koː pa˞naikigari˜munu˞daː](彼は非常に威張り散らかす < 高慢ちき > 野郎だ)。

パ˞ナイキ˜ガルン [pa˞naji̥ki˜garuŋ] 【自動】驕りたかぶる。高慢になる。威張りちらかす。自慢する。ウ˞ヤ˜キプソー　パ˞ナイキ˜ガルンティ　ス˞ヌ˜　パ˞ナイキガラン˜　プ˞スン　ブン [ʔu˞ja˜kipʉso: pa˞najiki˜garunti su˞nu˜ pa˞najikigaram˜ pʉ˞sum buŋ](金持ちは驕り高ぶるというが、驕り高ぶらない人もいる)。ア˞リ˜バティ　˞シー˜　パ˞ナイキ˜ガリ　˞ベー [ʔa˞ri˜bati ˞ʃiː˜ pa˞najiki˜gari ˞beː](< 金が > あるからといって驕りたかぶっている)。パ˞ナイキ˜ガル　プ˞ソー　ダーッ˜サー　˞ナー˜ヌ [pa˞najiki˜garu pʉ˞soː daːs˜saː ˞naː˜nu](驕り高ぶる人は信頼できない < よくない >)。パ˞ナイキ˜ガレー　˜ミサムヌ [pa˞najiki˜gareː ˜misamunu](威張ればいいのに)。˞マー˜ビン　パ˞ナイキ˜ガリ [˞maː˜bim pa˞najiki˜gari](もっと威張れ)。

パ˞ナイサキ [pa˞naisaki] 【名】˜イダフニ [˜ʔidaɸuni](板舟) の舳先の上面。単にパ˞ナイ [pa˞nai](へさき < 舳先 >) ともいう。˜パラー [˜paraː](帆柱) を倒して掛けておくところ。帆柱を固定するために凹状に木を刳り抜いて竹釘で固定してあるところ。パ˞ナイサキ˜ナー　˜パラー　˞トー˜シ　ウ˞サッ˜キ　シ˞キ˜リバ [pa˞naisaki˜naː ˜paraː ˞toː˜ʃi ʔu˞sak˜ki ʃi̥˞ki˜riba](パナイサキ < 舳先の上面 > に帆柱を倒して掛けておきなさいよ)。

パ˞ナ˜ウトゥン [pa˞na˜ʔutuŋ] 【他動】指示する。指図する。鼻綱で牛馬の顔を打ったり、引いたりして使うことから転訛。プ˞スン˜　パ˞ナウタラン˜ドーシ　˜ドゥーシ　˞カンガイ˜ヤーティ　シ˞グトゥ　シー [pʉ˞sum˜ pa˞naʔutaran˜doːʃi ˜duːʃi ˞kaŋgai˜jaːti ʃi ˞gutu ʃiː](他人に指図されないで、自分で考えながら仕事をしなさい)。˞ワー˜　ドゥーシ　˞カン˜ガイ　˞シーユーサンダル˜　パ˞ナ˜ウトゥンダ　パ˞ナ˜ウトゥ　プ˞スバ　ニッ˜ふァー　˞シェー˜　ナ˞ラ˜ヌ [˞waː˜ duːʃi ˞kaŋ˜gai ˞ʃiːjuːsandaru˜ pa˞na˜ʔutunda pa˞na˜ʔutu pʉ˞suba nif˞faː ˞ʃeː˜ na˞ra˜nu](君は自分で考えて行動することが出来ないから指図するのであって、指図する人を憎んではならない)。パ˞ナ˜ウティ　シ˞ミラン˜カー　シ˞グトー　サンバン [pa

˞na˜ʔutiti ʃi˞miraŋ˜ka: ʃi˞guto: sambaŋ](指図してさせないと仕事をしないよ)。パ˞ナ˜ウテー　˜ミサムヌ [pa˞na˜ʔute: ˜misamunu](指図すればいいのに)。パ˞ナ˜ウティバ [pa˞na˜ʔutiba](指図しなさいよ)。

パ˞ナガー˜ラ [pa˞naga:˜ra] 【名】軒瓦。「花瓦」の義。屋根の棟の両端や軒先に取り付ける、装飾を施した雄瓦。パ˞ナガー˜ラ　シゥ˞カイヨー˜ル　プ˞ソーナン˜ゾー　˞オーラ˜ヌ　ナー˞イ˜　ム˞チバ　ヌーリ˜　ス˞コー˜ル [pa˞naga:˜ra s̥i˞kaijo:˜ru pu̥˞so: nan˜ʤo: ˞ʔo:ra˜nu na:˞ji˜ mu˞ʧiba nu:ri˜ su̥ko:ru](花瓦を使用される人は、あまりいらっしゃらない。ただ漆喰を塗っておかれるだけだ)。

パ˞ナカカー [pa˞nakaka:] 【名】鼻の欠けた者。卑称。パ˞ナカキムヌ [pa˞nakakimunu](鼻の欠けた者)、パ˞ナモー [pa˞namo:](鼻の欠けた者) ともいう。˜ヌンティ　˜アイニ　パ˞ナカカー˜　ナリ　˞ベー˜ワ [˜nunti ˜ʔaini pa˞nakaka:˜ nari ˞be:˜wa](何故あんなに鼻の欠けた者になっているのか)。

パ˞ナカキ˜ムヌ [pa˞nakaki˜munu] 【名】鼻の欠けた者。パ˞ナカキ˜ムヌ　˜ナリティ　キ˞ムイ˜ツァーワレー [pa˞nakaki˜munu ˜nariti ki˞mui˜tsa:ware:](鼻の欠けた者になって可哀相なことだ)。

パ˞ナガ˜サ [pa˞naga˜sa] 【名】花笠。石垣方言、ハ˞ナガ˜サ [ha˞naga˜sa](花笠) の転訛したもの。花飾りをつけた笠で、˜カサブドゥル [˜kasabuduru](沖縄の古典笠踊り) に用いる小道具。˜カサブドゥロー　パ˞ナガサ˜バ　˜カビティル　ブ˞ドゥル　ソー˜ル [˜kasabuduro: pa˞naga˜sa ˜kabitiru bu˞duru so:˜ru](笠踊りは花笠を被って踊られる)。

パ˞ナ˜ガラ [pa˞na˜gara] 【名】花柄。花模様。˞ワー˜バ˞カー˜ンダ　パ˞ナ˜ガラキンヌン　イッ˞ケナ˜ウ˞チ˜ルン˞ダー [˞wa:˜ ba˞ka:˜nda pa˞na˜garakinnuŋ ʔik˞kena˜ ʔu˞ʧi˜run˞da:](君は若いから花柄の着物もよく似合う＜移る＞よ)。

パ˞ナ˜ギ [pa˞na˜gi] 【名】かき (花卉)。クロトンなど、観賞用の花や木。ハ˞ナ˜ギ [ha˞na˜gi](花木) ともいう。「花木」の義。シ˞キダ˜チ　˜ズングニチェー　パ˞ナ˜ギ　˜キシキー　パ˞ナ˜イキナー　イ˞キ˜リ [ʃi̥˞kida˜ʧi ˜ʤuŋgunitʃe: pa˞na˜gi ˜ki̥ʃiki: pa˞na˜ʔikina: ʔi˞ki˜ri](朔日十五日には花木を切ってきて、花生けに活けなさい)。

パ˞ナギー [pa˞nagi:] 【名】鼻毛。パ˞ナギーヌ˜　ナー˞ナー˜シ　˜ムイ　˞ベー [pa˞nagi:nu˜ na:˞na:˜ʃi ˜mui ˞be:](鼻毛が長く生えている)。

パ˞ナギタ [pa˞nagita] 【名】鼻柱。鼻筋。「鼻桁」の義。˞カイ˜リ　シ˞キッ˜クミティ　パ˞ナギタ˜　ブリ˜シケーバン [˞kai˜ri ʃi̥˞kik˜kumiti pa˞nagita˜ buri ˜ʃi̥ke:baŋ](転んで頭から突っ込んで鼻柱＜鼻桁＞を折ってしまってあるよ)。

パ˞ナクラ˜ガー [pa˞nakura˜ga:] 【名】(植) 甘藷の品種名。ク˞ラ˜ガー [ku˞ra˜ga:](サツマイモの品種名) は、中身は白く、外皮が赤い、美味な芋である。読谷村クラガー＜暗川＞から栽培され始めたことからこの名前ついたという『石垣方言辞典』。プ˞スパナー　パ˞ナクラガー˜ル　ン˞マー˜ティ　˞シー˜ス˞ク˜リ　˞オーッ˜タン [pu̥˞su˜pana: pa˞nakuraga:˜ru ʔm˞ma:˜ti ˞ʃi:˜ su̥˞ku˜ri ˞ʔo:t˜taŋ](一頃＜一時期＞はハナクラガーが美味しいといって、それを作っておられたことがある)。

パ˞ナ˜ゴザ [pa˞na˜goʤa] 【名】花莫蓙。莫蓙(ゴザ)の表に花柄のプリントのある筵。˞ビー˜グ [˞bi:˜gu](備後藺) を細かく裂いて織り上げた上質の筵。肌触りがよく、夏場はこの筵を敷いて、その上に寝ると涼感があり、喜ばれたものである。畳が古くなると、花莫蓙を敷いて畳の表替えの代わりにしていた。タ˞タミヌ˜　フ˞ル˜ミ　˞ブンダ˜　パ˞ナ˜ゴザシ˞キティ˜　ニ˞ビ˜バ [tḁ˞taminu˜ ɸu˞ru˜mi ˞bunda˜ pa˞na˜goʤa ʃi̥˞kiti˜ ni˞bi˜ba](畳が古くなっているから花莫蓙を敷いて寝なさい)。

パ˞ナザ˜キ [pa˞naʤa˜ki] 【名】泡盛醸造過程で最初に蒸留される酒。アルコール度数が高く、最上級酒とされている。「花酒」の義。パ˞ナザ˜キティ　ア˞ズ˜カー　ユ˞ノンヌ˜　パ˞ナザキ˜ル　イッ˞チンスー˜ワ˞ナー [pa˞naʤa˜kiti ʔa˞ʤu˜ka: ju˞nonnu˜ pa˞naʤaki˜ru ʔit˞ʧin su:˜wa˞na:](花酒といえば、与那国の花酒が一番強いねえ)。

パ˞ナ˜シ [pa˞na˜ʃi] 【名】1話。話すこと。談話。ム˞カ˜シパナシ [mu˞ka˜ʃipanaʃi](昔話。金言。金句。先祖の残した処世訓)。パ˞ナ˜シゾージ [pa˞na˜ʃiʤo:ʤi](話し上手)。ウ˞ヌ˜　パ˞ナ˜シェー　˞ヌー˜シ　˞ナッ˜ター [ʔu˞nu˜ pa˞na˜ʃe: ˞nu:˜ʃi ˞nat˜ta:](その話はどうなったのか)。パ˞ナシ˜ヌ　˞ゾー˜ジ　ヤ˞ロー˜ルンダ　ナー˞イ˜　シ˞キプリ　シーベー [pa˞naʃi˜nu ˞ʤo:˜ʤi ja˞ro:˜runda na:˞ji˜ ʃi̥˞kipuri ʃi:be:](話が上手でいらっしゃるから、じっと聞き惚れている)。2うわさ (噂)。評判。パ˞ナ˜シ　ス˞ク˜カー　イッ˞ケンマイフナー˜ティバン　˞ナー [pa˞na˜ʃi su̥˞ku˜ka: ʔik ˞kem maiɸuna:˜ tiban˞na:](噂による＜話に聞くと＞と、よく働く非常に真面目な人だそうだねえ)。

パ˞ナジー [pa˞naʤi:] 【名】鼻血。ヌ˞ブシティ˜　パ˞ナ

ジーヌ˥　ンジ　トゥˈマラヌヌ　ヌー˥　スバル˥ミサカヤー [nuˈbuʃi̥ti˥ paˈnaʤi:nu˥ ʔnʤi tuˈmaranunu nu:˥ subaru ˥misakaja:](鼻血が出て止まらないが如何すればよいでしょうか)。

パˈナシアー˥スン [paˈnaʃiʔa:˥suŋ] 【他動】話し合う。語らう。睦まじく語り合う。イˈチンマー˥　ユーパˈナシアースン˥ドゥ　ˈクン˥ドー　パˈナシアーサン˥シェンツォー [ʔiˈʧimma:˥ ju: paˈnaʃiʔa:sun˥du ˈkun˥do: paˈnaʃiʔa:saŋ˥ʃentso:](いつもはよく話し合うが、今度は話し合わなかったそうだ)。パˈナシアー˥シ　˥ミリティ　パˈナシアー˥ス　クˈトゥ˥ヌ　ˈカンヌーナ˥　クトゥ　ˈサッシリ˥バ [paˈnaʃiʔa:˥ʃi ˥miriti paˈnaʃiʔa:˥su ku̥ˈtu˥nu ˈkannu:na˥ ku̥tu ˈsaʃʃiri˥ba](話し合ってみて話し合うことの肝要なことを察し＜理解し＞なさいよ)。ˈマー˥ビン　パˈナシアー˥シェー　˥ミサムヌ [ˈma:˥bim paˈnaʃiʔa:˥ʃe: ˥misamunu](もっと話し合えばいいのに)。ヤーˈディン˥　パˈナシアー˥シ [ja:ˈdim˥ paˈnaʃiʔa:˥ʃi](必ず話し合え)。

パˈナシキ [paˈnaʃi̥ki] 【名】風邪。「はなひせ (鼻塞)〜波奈比世〜」『和名抄』の転訛したものか。パˈナシキ˥　カˈカ˥ルン [paˈnaʃi̥ki˥ kḁˈka˥ruŋ](風邪をひく＜風邪に罹る＞)。パˈナシキヌ˥　パˈヤー˥リ　ˈブンダー　キン˥マー　アˈチーアチー˥シ　キˈシ　アー˥キバ [paˈnaʃi̥kinu˥ paˈja:˥ri ˈbunda: kim˥ma: ʔaˈʧi:ʔaʧi:˥ʃi ki̥ˈʃi ʔa:˥kiba](風邪が流行っているから、着物は厚めに着ていなさい＜着ておりなさい＞よ)。

パˈナシキ˥　ウˈツァ˥スン [paˈnaʃi̥ki˥ ʔuˈtsa˥suŋ]【連】風邪を移す。風邪を伝染させる。プˈスン˥　パˈナシキ˥　ウˈツァス˥ナ [pu̥ˈsum˥ paˈnaʃi̥ki˥ ʔuˈtsasu˥na](他人に風邪を移す＜伝染させる＞な)。

パˈナシキ˥　カˈカリン˥ギサン [paˈnaʃi̥ki˥ kḁˈkariŋ˥gisaŋ] 【連】風邪を引きそうだ。パˈダピー˥ヤ　˥ナリ　パˈナ˥プス　ˈギン˥シェー　クˈヌ˥ッˈふァー˥　パˈナシキ˥　カˈカリン˥ギササー [paˈdapi:˥ja ˥nari paˈna˥pu̥su ˈgiŋ˥ʃe: kuˈnu˥ fˈfa:˥ paˈnaʃi̥ki˥ kḁˈkariŋ˥gisasa:](肌寒くなって、くしゃみをするから、この子はどうも風邪を引きそうだよ)。

パˈナシキ˥　カˈカ˥ルン [paˈnaʃi̥ki˥ kḁˈka˥ruŋ] 【連】風邪を引く。パˈナシキカカリプス˥ヌ　˥トン　˥パルカー　パˈナシキ˥　カˈカ˥ルンダ　ウˈマー　パン˥ナˈヨー [paˈnaʃi̥kikakaripu̥su˥nu ˥tom ˥paruka: paˈnaʃi̥ki˥ kḁˈka˥runda ʔuˈma: pan˥naˈjo:](風邪を引いた人の所へ行くと風邪を引くから、そこへは行くなよ)。

パˈナシキ˥　ガˈマーラ˥サン [paˈnaʃi̥ki˥ gaˈma:ra˥saŋ] 【連】風邪気味である。風邪ひきがちである。パˈナシキ˥　ガˈマーラ˥サンダー　シゥˈカラシグトー　シーユーサンバン [paˈnaʃi̥ki˥ gaˈma:ra˥sanda si̥ˈkaraʃiguto: ʃi:ju:sambaŋ](風邪気味で力仕事は出来ないよ)。

パˈナシキヌ　ニン˥ガイ [paˈnaʃi̥kinu niŋ˥gai] 【連】風邪予防の祈願。鳩間島では、風邪の神が上陸することによって風邪が流行すると考えられていた。それ故シˈマッサル [ʃiˈmassa˥ru](11 月に執り行われたシマクサラシ祭) には島の南海岸に通じる幹道の入り口に大蒜を吊るした注連縄が張り巡らされて風邪の神様の侵入を防いだ。

パˈナシキヌ˥　フˈチ˥ル [paˈnaʃi̥kinu˥ ɸu̥ˈʧi˥ru] 【連】風邪の薬。風邪薬。ナˈマ˥ピロー　パˈナシキヌ˥　フˈチ˥ルティ　ˈシー˥　サˈキ˥ナ　シˈキティ˥　ユーッˈふァーソーッ˥タン [naˈma˥piro: paˈnaʃi̥kinu˥ ɸu̥ˈʧi˥ruti ˈʃi:˥ sḁˈki˥na ʃi̥ˈkiti˥ ju: fˈfa:so:t˥taŋ](生の大蒜は風邪の薬といって、酒に漬けて良く食べさせて下さった＜食べさせられた＞)。

パˈナシキ　フシゥ˥カルン [paˈnaʃi̥ki ɸusi̥˥karuŋ] 【連】風邪をひく＜風邪が取り付く。くっつく＞。風邪は病気の神が人に取り付いて病気を起こさせると考えられていた。それで、シˈマッサ˥ル [ʃiˈmassa˥ru](島くさらし) の行事に˥イソーパーレー [˥ʔiso:pa:re:](銅鑼や瓶(カメ)の破片を打ち鳴らして悪霊を追い払う行事、神事) をして村浚えをし、風邪の神を島から追い払って島への再侵入を防ぐために村の入り口に注連縄を張り巡らした。パˈナシキヌ　フシゥ˥カリティ　アˈムサ˥ヌ　ナˈラン˥サー [paˈnaʃi̥kinu ɸusi̥˥kariti ʔaˈmusa˥nu naˈran˥sa:](風邪にかかって＜風邪が取り付いて＞気分がわるく、頭痛がしてたまらないよ)。

パˈナシキ˥　マˈマルン [paˈnaʃi̥ki˥ maˈmaruŋ] 【連】風邪をひく。風邪に感染する。「風邪にまめる＜塗る＞」の義。「Mameri,meru,etta. マメリ、ル、ッタ (まめり、る、った) ずぶ濡れになる、〜泥だらけになる、泥にまみれる. 上 (Cami) では、Mabururu(塗るる) と言う」『邦訳日葡辞書』と関連のある語であろう。パˈナシキ˥　マˈマリ˥　キˈタ˥シキティ　マˈナ˥マー　シˈグトゥ　シーユーサヌ [paˈnaʃi̥ki˥ maˈmari˥ ki̥ˈta˥ʃi̥kiti maˈna˥ma: ʃiˈgutu ʃi:ju:sanu](風邪に罹って＜塗られて＞すっかり衰弱して＜痛めつけられて＞、今は仕事をすることが出来ない)。

パ˞ナシケー **[pa˞naʃi̥ke:]**【固】花城家。ウ˞ブパナシ˝ケー [ʔu˞bupanaʃi̥˝ke:](「大・花城家」の義。花城真佐氏の本家) と、˞インタパナシケー [˞ʔintapanaʃi̥ke:](˞西・花城家」の義、花城伊佐氏宅＜分家＞) がある。パ˞ナシケーヌ˝　イガンマー　ピ˞ナイウガン˝ヌ　サ˞カサ˝　ヤ˞ロー˝タ [pa˞naʃi̥ke:nu˝ ʔigamma: pi˞naiʔugan˝nu sḁ˞kasa˝ ja˞ro:t˝ta](花城家のイガお母さんは鬚川お願の司であられた)。

パ˞ナシケーヌ　アー˝ニヤーテー **[pa˞naʃi̥ke:nu ʔa:˝nija:te:]**【連】屋号。花城英行氏宅。「花城の安仁屋宅」の義か。鳩間村三班のク˞メー [ku˞me:](小浜真那氏宅) の西隣にある。

パ˞ナシジ **[pa˞naʃiʤi]**【名】鼻筋。鼻茎。鼻柱。ブ˞ネーン˝ウヤン　˞ニー˝　パ˞ナシジヌ˝　タ˞カーン˝ダル　˝アイニ　ア˞バ˝レー˞ツォー [bu˞ne:ŋ˝ʔujan ˞ni:˝pa˞naʃiʤinu˝ tḁ˞ka:n˝daru ˝ʔaini ʔa˞ba˞re:˞tso:](母親に似て、鼻筋が高いので＜ぞ＞あんなに美しいのだよ)。

パ˞ナ˝シゾージ **[pa˞na˝ʃiʤo:ʤi]**【名】話し上手。パ˞ナ˝シゾージェー　シ˞キゾージ˝ティ　ム˞カ˝シェーラ　ア˞ザリブンダ˝　プ˞スヌ˝　パ˞ナ˝シェー　˝ユー　シ˞キ [pa˞na˝ʃiʤo:ʤe: ʃi̥˞kiʤo:ʤi˝ti mu˞kaʃe:ra ʔa˞ʤaribunda˝ pu̥˞sunu˝ pa˞na˝ʃe: ˝ju: ʃi̥˞ki](話し上手は聞き上手と昔から言われているから、他人の話はよく聞きなさい)。

パ˞ナジナ **[pa˞naʤina]**【名】牛の手綱。牛の鼻に繋ぐ綱。はななわ。「鼻綱」の義。ウ˞シヌ˝　パ˞ナジナー　フー˝カラジナシル　シゥ˞カイヨー˝ル　バ˞ラフ˝タジナー　˞フッ˝チ　ッ˞ふァイスンダ˝　シゥ˞カーラヌ [ʔu˞ʃinu˝ pa˞naʤina: ɸu:˝karaʤinaru si̥˞kaijo:˝ru ba˞raɸu˝taʤina: ˞ɸut˝ʧi f˞faisunda˝ si̥˞ka:ranu](牛の鼻綱はクロツグ＜桄榔子＞の鬚で綯った綱が使われる。藁縄はかじって食うから使えない)。

パ˞ナ˝シ　ナ˞ラ˝ヌ **[pa˞na˝ʃi na˞ra˝nu]**【連】お話にならない。問題にもならない。あきれてものが言えない。ウ˞リヌ˝　イ˞ズ　ホー˝シェー　˞バンター˝トー　パ˞ナ˝シ　ナ˞ラ˝ヌ　˞サッ˝コー　˞ゾー˝ジ [ʔu˞rinu˝ ʔi˞ʤu ho:˝ʃe: ˞banta:˝to: pa˞na˝ʃi na˞ra˝nu ˞sak˝ko: ˞ʤo:˝ʤi](彼の魚釣りは、僕らとはお話にならない。非常に＜魚釣りが＞上手である)。

パ˞ナ˝　シマ˞ル˝ン **[pa˞na˝ ʃi˞ma˝ruŋ]**【連】鼻が詰まる。風邪をひいて鼻孔が詰まる。パ˞ナシキ　フシゥカル˝ター　パ˞ナ˝　シ˞マ˝リティ　ムッ˞トゥ˝　イキ　サ˞ラヌ [pa˞naʃi̥ki ɸusi̥˞karu˝ta: pa˞na˝ ʃi˞ma˝riti mut˞tu˝ ʔiki ʃi˞raranu](風邪をひいた＜風邪がくっついた＞ので、鼻が詰まってちっとも息できない)。

パ˞ナ˝シムチ **[pa˞na˝ʃimuʧi]**【名】話題の豊富な人。話の面白い人。「話し持ち」の義。˞ワッ˝テヌ　˝アボー (˝アンマー)　パ˞ナ˝シムチ　ヤ˞ロー˝ルンダ　˝アボー＜˝アンマー＞　パ˞ナ˝シェー　シ˞キグトゥト˝ツォー [˞wat˝tenu ˝ʔabo:＜˝ʔamma:＞ pa˞na˝ʃimuʧi ja˞ro:˝runda ˝ʔabo: pa˞na˝ʃe: ʃi̥˞kigutu˝tso:](お宅のお母さんは話題の豊富な人だから、お母さんの話は面白くて聞き事＜聞く値打ちがある＞なんですよ)。

パ˞ナシ˝ムヌ **[pa˞naʃi˝munu]**【名】話の種。噂話の材料。「話もの」の義。˝アイブ　˝クトゥ　˞スー˝カー　シ˞キン˝ヌ　パ˞ナシ˝ムヌ　バ˞ライムヌ˝　シ˞ラリン˝ダー [˝ʔaibu ˝ku̥tu ˞su:˝ka: ʃi̥˞kin˝nu pa˞naʃi˝munu ba˞raimunu˝ ʃi˞rarin˝da:](あんなことをすると世間の話しの種、笑いものにされるぞ)。

パ˞ナシ˝ヨー **[pa˞naʃi˝jo:]**【名】話し方。話しぶり。ウ˞リヌ˝　パ˞ナシヨー˝ヤ　プ˞ストゥ　カウリティ˝　イッ˞ケン˝　ウ˞ムッ˝サン [ʔu˞rinu˝ pa˞naʃijo:˝ja pu̥˞sutu kauriti˝ ʔik˞keŋ˝ ʔu˞mus˝saŋ](彼の話し方は他人とは違って、非常に面白い)。

パ˞ナジル **[pa˞naʤiru]**【名】鼻汁。風邪を引くときに鼻孔から出る無色の粘液。ッ˞サーク˝トゥ　パ˞ナジルヌ˝　トゥ˞マラヌ [s˞sa:ku˝tu pa˞naʤirunu˝ tu˞maranu](咳と鼻汁が止まらない)。

パ˞ナシン˝グイ **[pa˞naʃiŋ˝gui]**【名】話し声。話をする声。人声。˞ヨーンヌ˝　ミーラ　パ˞ナシングイ˝ヌ　シゥ˞カリヌ　ター˝カヤー [˞jo:nnu˝ mi:ra pa˞naʃiŋgui˝nu si̥˞karinu ta:˝kaja:](暗闇の中から話し声が聞こえるが、誰だろうか)。

パ˞ナ˝ズミティサジ **[pa˞na˝ʤumitisaʤi]**【名】紅花染料で赤く染めた手拭。「花染め手拭」の義。沖縄本島から導入された民俗舞踊で、踊り手の女性が用いる鉢巻用の手拭。˞プー˝ル　˝キチゴンヌ　ブ˞ドゥル˝ナー　シゥ˞カイヨー˝ル　サ˞ジ˝バ　パ˞ナ˝ズミティサジティ　ア˞ゾーッタ˝ル [˞pu:˝ru ˝ki̥tʃigonnu bu˞duru˝na: si̥˞kaijo:˝ru sa˞ʤi˝ba pa˞na˝ʤumitisaʤiti ʔa˞ʤo:tta˝ru](豊年祭、結願祭の踊りに使われる、紅花染料で赤く染めた手拭を花染め手拭といわれたよ)。

パ˞ナ˝スン **[pa˞na˝suŋ]**【他動】話す。語る。言う。ウ˞ヌ˝　クトー　˝バーラ　パ˞ナ˝スンティ　ウ˞ムーン˝ドゥ　パ˞ナサラ˝ヌ [ʔu˞nu˝ ku̥to: ˝ba:ra pa˞na˝sunti ʔu˞mu:n˝du pa˞nasara˝nu](そのことは私から

話そうと思うが、話されない)。パ˞ナ˥シ　˥ミサカー　˞ワー˥ラ　パ˞ナ˥シバ [pa˞na˥ʃi ˥misaka: ˞wa:˥ra pa˞na˥ʃiba](話してよければ君から話しなさいよ)。パ˞ナ˥ス　ク˞トゥ˥ヌ　˥アルカー　マ˞ナ˥マ　パ˞ナ˥シェー　ミサムヌ [pa˞na˥su kṵ˞tu˥nu ˥ʔaruka: ma˞na˥ma pa˞na˥ʃe: ˥misamunu](話すことがあれば今話せばいいのに)。˞パー˥ク　パ˞ナ˥シバ [˞pa:˥ku pa˞na˥ʃiba](早く話せよ)。

パ˞ナ˥スン [pa˞na˥suŋ] 【他動】1放す。解放す。自由にする。カ˞サミ　ベー　ティー˥ヤ　パ˞ナ˥スンティ　˞スンドゥ˥　パ˞ナサラン˥サー [ka˞sami be: ti:˥ja pa˞na˥sunti ˞sundu˥ pa˞nasaran˥sa:](掴んでいる手は放そうとするが、放されないさ)。パ˞ナ˥シ　˥ミサカー　パ˞ナ˥ス　˥クトー　˥ナルン [pa˞na˥ʃi ˥misaka: pa˞na˥su ˥kṵto: naruŋ](放してよければ放すことは出来る)。パ˞ナ˥シェー　˥ミサムヌ [pa˞na˥ʃe: ˥misamunu](放せばいいのに)。ウ˞シェー˥　バ˞ツァマン˥ドーシ　パ˞ナ˥シ　˥シキバ˞ヨー [ʔu˞ʃe:˥ ba˞tsaman˥do:ʃi pa˞na˥ʃi ˥ʃi̥kiba˞jo:](牛は鼻綱を結わえないで放しておきなさいよ)。2解きほぐす。ア˞ザー˥リ　˞ベー˥　シナー　パ˞ナ˥シバ [ʔa˞ʤa:˥ri ˞be:˥ ʃina: pa˞na˥ʃiba](もつれ＜縺れ＞ている綱を解きほぐしなさいよ)。

パ˞ナダヤー [pa˞nadaja:] 【名】洟垂れ小僧。「洟垂らし奴」の義。ヤ˞ラ˥ビ　˞シェーン˥ケンマー　パ˞ナダヤー　ヤッタンドゥ˥　フ˞ドゥブター˥　イッ˞ケナ　マイフナー˥　マ˞レー˥ン [ja˞ra˥bi ˞ʃe:ŋ˥kemma: pa˞nadaja: jattandu˥ ɸu˞dubuta:˥ ʔik˞kena maiɸuna:˥ ma˞re:˥ŋ](子供の頃は洟垂れ小僧だったが、成長したら非常に立派な男＜勤勉でよく働き、子供に恵まれ、財を成した人＞に育っているよ)。

パ˞ナダリ˥ムヌ [pa˞nadari˥munu] 【名】洟垂れ小僧。「洟垂れ者」の義。パ˞ナダヤー [pa˞nadaja:](洟垂れ小僧) ともいう。ウ˞ヌ　ッふァー˥　パ˞ナダリ˥ムヌ　˥ナリ　˞ジン˥ブン　˞トー˥リティ　シゥ˞カーラヌ [ʔu˞nu ffa:˥ pa˞nadari˥munu ˥nari ˞ʤim˥bun ˞to:˥riti si̥˥ka:ranu](あの子は洟垂れ小僧になって、智恵＜存分＞がなくて、使えない)。

パ˞ナダル [pa˞nadaru] 【名】はな (洟)。鼻じる。「洟垂れ」の義。パ˞ナドゥル [pa˞naduru](洟) ともいう。ム˞カ˥シェー　パ˞ナダル˥　ッ˞サーラ˥シ　˞アー˥ク　ヤ˞ラビ˥ヌ　˞ゴー˥ラータン [mu˞ka˥ʃe: pa˞nadaru˥ s˞sa:ra˥ʃi ˞ʔa:˥ku ja˞rabi˥nu ˞go:˥ra:taŋ](昔は洟を垂らしている子供が多かった)。

パ˞ナダルタリ˥ムヌ [pa˞nadarutari˥munu] 【名】洟垂れ小僧。「洟垂れ者」の義。未熟な者。パ˞ナドゥルタリ˥ムヌ [pa˞nadurutari˥munu](洟垂れ小僧) ともいう。˥アイブ　パ˞ナダルタリムヌ˥ヌ　˞ヌー˥ッ˞シェー˥ワ [˥ʔaibu pa˞nadarutarimunu˥nu ˞nu:˥ ʃ˞ʃe:˥wa](あんな洟垂れ小僧に何が分かるものか)。

パ˞ナ˥　ッスン [pa˞na˥ ssuŋ] 【連】臭気が鼻を突く。カ˞ツシンヌ˥　ナ˞ヤ˥ナー　˞カーバイト˥バ　˞モーシ　ブー˥ユー　カ˞ザヌ˥　パ˞ナ˥　ッシ　˞ビーバキンギサ˥ル [kḁ˞tsuʃinnu˥ na˞ja˥na: ˞ka:baito˥ba ˞mo:ʃi bu:˥ju: ka˞ʤanu˥ pa˞na˥ ʃʃi ˞bi:bakiŋgisa˥ru](カツオ船の納屋＜鰹節工場＞でカーバイトを燃やしているのか、臭気が鼻を突いて、嘔吐しそうだ)。

パ˞ナトーラー [pa˞nato:ra:] 【名】はなつんぼ (鼻聾)。嗅覚(キュウカク)を失った人。卑語。パ˞ナトーリ˥ムヌ [pa˞nato:ri˥munu](鼻つんぼ) の卑語。ウ˞レー˥　パ˞ナトーラール˥　ヤ˞ルムヌ˥　ム˞ヌ˥ヌ　カ˞ザナー˥ト　ワ˞カラ˥ヌ ＜ッ˞サヌ＞[ʔu˞re:˥ pa˞nato:ra:ru˥ ja˞rumunu˥ mu˞nu˥nu ka˞ʤa:na:˥to wa˞kara˥nu＜s˞sanu＞](彼は鼻つんぼだから、物の匂いなど分からない)。

パ˞ナトーリ˥ムヌ [pa˞nato:ri˥munu] 【名】はなつんぼ (鼻聾)。病的に物の匂いを感じない人。「鼻倒れ者」の義。パ˞ナトーリ˥ムヌ　˥ナリティル　˞ピッ˥チン　ム˞ヌ˥ヌ　カ˞ザ˥　カ˞バラヌ [pa˞nato:ri˥munu ˥naritiru ˞pit˥ʧim mu˞nu˥nu ka˞ʤa˥ ka˞baranu](はなつんぼになってしまって物の匂いがちっとも嗅(カ)がれない)。

パ˞ナドゥル [pa˞naduru] 【名】はな (洟)。鼻孔から出る黄色い粘液。慢性の副鼻腔炎で鼻孔から出る黄色い粘液。パ˞ナダル [pa˞nadaru](洟垂れ) ともいう。パ˞ナドゥル　ヌシ˥ティバ [pa˞naduru nuʃi̥˥tiba](洟をぬぐい取りなさいよ)。ム˞カ˥シェー　パ˞ナドゥル˥　タ˞ラ˥シ　˞アークタ˥ヌ　˥カイニ　ウ˞ブ˥プス　ナリ˞ナー [mu˞ka˥ʃe: pa˞naduru˥ ta˞ra˥ʃi ˞ʔa:kuta˥nu ˥kaini ʔu˞bu˥pṵsu nari˞na:](昔は黄色い洟を垂らしていたのだが、こんなに立派な大人になってねえ)。

パ˞ナ˥ヌキ [pa˞na˥nuki] 【名】貫き花。花を紐で貫き連ねたもの。「花貫き」の義。女の子らがオシロイバナやニチニチソウの花を糸や藁しべなどで貫いて花輪にし、首にかけたり、持って踊ったりして遊ぶのに用いた。マ˞ナマ˥ヌ　ヤ˞ラ˥ベー　パ˞ナ˥ヌキ　˞シー˥　ア˞ザブ˥　クトー　ッ˞サン˥　ナー˞レー [ma˞nama˥nu ja˞ra˥be: pa˞na˥nuki ˞ʃi:˥ ʔa˞sabu˥ kṵto: s˞san˥na:˞re:](今の子供は貫き花＜オシロイバナやニチニチソウの花を糸に貫き通してレイに

作ること＞をして遊ぶことも知らないだろうなあ)。

パ˞ナヌ　キー [pa˞nanu ki:] 【連】鼻の毛。鼻毛。パ˞ナギー [pa˞nagi:](鼻毛) ともいう。パ˞ナヌ　キーヌ　ナームイ　シー　ベー [pa˞nanu ki:nu na:mui ʃi: be:](鼻毛が長く生え＜長生えして＞いる)。

パ˞ナヌ˥　サ˞キ [pa˞nanu˥ sḁ˞ki] 【連】鼻の先。極めて近いところ。普通は、˞ミー˥トゥ　パ˞ナヌ˥　サ˞キ [˞mi:˥tu pa˞nanu˥ sḁ˞ki](目と鼻の先) という。˞ワッ˥テートゥ　˞バン˥テーヤ　˞ミー˥トゥ　パ˞ナヌ˥　サ˞キル˥　ヤ˞ル˥　ヌンティ　キ˞ララン˥　ク˞トゥ˥ヌ　ア˞ル˥ワ [˞wat˥te:tu ˞ban˥te:ja ˞mi:˥tu pa˞nanu˥ sḁ˞kiru˥ ja˞ru˥ nunti ki˞raraŋ˥ ku̥˞tu˥nu ʔa˞ru˥wa](君の家と私の家は目と鼻の先の近いところだ。どうして来れないことがあろうか)。

パ˞ナ˥ヌ　˥ジッチ [pa˞na˥nu ˥ʤittʃi] 【連】花の蜜。「花の乳」の義。˥ジッチ [˥ʤittʃi](乳) は幼児語である。野草の花の芯に含まれている甘い汁を˥ジッチ [˥ʤittʃi](乳) といって、子供達は花や植物の茎を折ってしゃぶったものである。ム˞カ˥シェー　ヤ˞ラ˥ベー　˥ユー　パ˞ナ˥ヌ　˥ジッチ　シ˞ビリ˥　ア˞サブタヌ˥ナー [mu˞ka˥ʃe: ja˞ra˥be: ˥ju: pa˞na˥nu ˥ʤittʃi ʃi˞biri˥ ʔa˞sabutanu˥na:](昔は、子供達はよく花の乳＜花の芯の甘い汁＞をしゃぶって遊んだものだがなあ)。

パ˞ナヌ˥　ッス [pa˞nanu˥ ssu] 【連】鼻くそ。「鼻の糞」の義。ヤ˞ラビ˥ヌ　ナー˞イ˥　パ˞ナヌ˥　ッス　フ˞ジ˥リ　˞ブー˥カー　ム˞シ˥ティ　ア˞ザリ　ブー˥ダー [ja˞rabi˥nu na:˞ji˥ pa˞nanu˥ ssu ɸu˞ʤi˥ri ˞bu:˥ka: mu˞ʃiti˥ ʔa˞ʤari bu:˥da:](子供がずっと鼻の糞をほじくって＜穿って＞ばかりいると、虫がいる＜虫だ＞といわれているよ)。

パ˞ナヌ˥　ミー [pa˞nanu˥ mi:] 【連】鼻の穴。˞パナヌ˥　ミー　ウ˞ブフラッ˥キ　˞シー　ベー [pa˞nanu˥ mi: ʔu˞buɸurak˥ki ˞ʃi: be:](鼻の穴を大開きさせて＜非常に自慢そうにして＞いる。得意満面にしている)。

パ˞ナ　パス˥クン [pa˞na pasu̥˥kuŋ] 【連】鼻を弾く。指先で鼻を弾く。ヤ˞ラビ˥ヌ　˞テン˥ガマー　˞スー˥カー　ウ˞ブウヤビ˥トゥ　ナ˞カ˥イビシ　ヤー˞ラマ˥シ　パ˞ナ　パスク˥タン [ja˞rabi˥nu ˞teŋ˥gama: ˞su:˥ka: ʔu˞buʔujabi˥tu na˞ka˥ʔibiʃi ja:˞rama˥ʃi pa˞na pasu̥ku˥taŋ](子供が悪戯すると親指と中指で柔らかく鼻を弾いたものだ)。

パ˞ナバ˥チ [pa˞naba˥ʧi] 【名】花瓶。「花鉢」の義。パ˞ナバ˥チナー　˥イキ　シケー　パ˞ナ˥ヌ　˞カイ˥ヤワ˞ナー [pa˞naba˥ʧina: ˥ʔiki ˥ʃi̥ke: pa˞na˥nu ˞kai˥jawa˞na:](花瓶＜花鉢＞に活けてある花が美しいねえ＜きれいだねえ＞)。

パ˞ナ˥パナ [pa˞na˥pana] 【名】はしばし。端々。ところどころ。老年層は、˞パンタパンタ [˞pantapanta](端々) という。パ˞ナシ˥ヌ　パ˞ナ˥パナー (˞パンタパンター)˥　シゥ˞カリシタンドゥ˥　ムー˞ロー˥　シゥ˞カランシェン [pa˞naʃi˥nu pa˞na˥pana:(˞pantapanta:)˥ si̥˞kariʃi̥tandu˥ mu:˞ro:˥ si̥˞karaŋʃeŋ](話の端々＜ところどころ＞は聞こえたが、全体は聞こえなかった)。

パ˞ナパンキ˥カザ [pa˞napaŋki˥kaʤa] 【名】嗅覚を強く刺激する臭気。臭(ニオイ)がきつくて鼻を刺激するもの。からし菜の塩もみしたものなど。「鼻弾き臭い」の義。パ˞ナパンキカザ˥ヌ　˞スーユンダル˥　バー　ウ˞リ˥　ッ˞ふァイユーサントゥツォー [pa˞napaŋkikaʤa˥nu ˞su:jundaru˥ ba: ʔu˞ri˥ f˞faiju:sanトtso:](臭いがきつくて鼻を刺激＜鼻弾き臭いが＞するから私はそれを食べることが出来ないのですよ)。

パ˞ナ　パン˥クン [pa˞na paŋ˥kuŋ] 【連】強く嗅覚を刺激する。鼻を突く。臭いがきつくて、鼻を弾くように感じる場合にいう。「鼻を弾く」の義。サ˞バヌ˥　アバ　˥タル　˥ピンマー　ウ˞ヌ˥　カ˞ザー˥　パ˞ナ　パン˥クンダ　ン˞カーランシェン [sa˞banu˥ ʔaba˥turu ˥pimma: ʔu˞nu˥ ka˞ʤanu˥ pa˞na paŋ˥kunda ʔŋ˞ka:raŋʃeŋ](鱶の肝臓を煎って鱶油を搾油する時は、その臭いが鼻を突く＜鼻を弾く＞ので側に近寄れなかった)。

パ˞ナピーピー [pa˞napi:pi:] 【名】風邪のため、鼻づまりして変な音を出すこと。みずっぱな (水っ洟) を啜(ススス)る音。鼻を啜る音。パ˞ナシケー　フシゥ˥カリティ　パ˞ナピーピー˥シ　シ˞グトゥン˥　ナ˞ラ˥ヌ [pa˞naʃi̥ke: ɸusi̥˥kariti pa˞napi:pi:˥ʃi ʃi˞gutun˥ na˞ra˥nu](風邪をひいて＜風邪がくっついて＞鼻づまりをして仕事も出来ない)。

パ˞ナビラー [pa˞nabira:] 【名】鼻の低い人。鼻のひしゃげた人。若年層はハ˞ナビラー [ha˞nabira:] という。ミ˞ドーン˥ッふァヌ　パ˞ナビラー˥　ナリティ　キ˞ムイ˥ツァー˞ツォー [mi˞do:ŋ˥ffanu pa˞nabira:˥ nariti ki˞mui˥tsa:˞tso:](女の子がひしゃげ鼻＜つぶれ鼻。平たい鼻＞になって、可哀そうなんだよ)。

パ˞ナブー [pa˞nabu:] 【名】1鼻緒。ア˞シツァ˥ヌ　パ˞ナブー˥　キシ　˞ナーン˥バ　バ˞ラフ˥タシ　˥ナイティ　パ˞ナブー˥　シキ　ッ˞ふィーリ˥バ [ʔa˞ʃitsa˥nu

pa˞nabu:˥ kiʲʃi ˞na:m˥ba ba˞raɸu̥˥taʃi ˥naiti pa˞nabu:˥ ʃi̥ki f˞fi:ri˥ba](下駄の鼻緒が切れてしまったので、藁で綯って鼻緒をすげて＜付けて＞あげなさいよ)。²牛の鼻綱。パ˞ナジナ [pa˞naʤina](鼻綱) ともいう。

˥パナ　˥フーン **[˥pana ˥ɸu:ŋ]** 【連】かびる (黴びる)。黴が生える。「黴食う」の義。カ˞ジ˥　イ˞リラン˥カー　フ˞トゥミティ˥　パナ　˥フーンティ　˞スンダ˥　パナ　˞ホーン˥ヨーニ　˥ヤドゥ　ア˞キティ˥　カ˞ジ˥　イ˞リリ˥バ [ka˞ʤi˥ ʔi˞riraŋ˥ka: ɸu̥˞tumiti˥ pana ˥ɸu:nti ˞sunda˥ pana ˞ho:ɲ˥jo:ni ˥jadu ʔa˞kiti˥ ka˞ʤi˥ ʔi˞riri˥ba](風が通らない＜入らない＞と、ほてって＜ほめいて＞黴がはえるというから、黴が生えないように戸を開けて風を通し＜入れ＞なさいよ)。

パ˞ナフイ˥カザ **[pa˞naɸui˥kaʤa]** 【名】かびくさい＜黴臭い＞におい。「黴食い＜生え＞臭い」の義。フ˞クイカザ [ɸu̥˞kuikaʤa](湿った黴臭い、埃っぽいにおい) ともいう。˞ヤー˥ヌ　ナ˞カー˥　パ˞ナフイカザ˥ヌ　˞シー　ブーバ˥　ヤドー　ア˞キティ˥　カ˞ジン　トゥー˥シ　˥フキソージ　˞シー˥バ [˞ja:˥nu na˞ka:˥ pa˞naɸuikaʤa˥nu ˞ʃi: bu:ba˥ jado: ʔa˞kiti˥ ka˞ʤin tu:˥ʃi ɸukiso:ʤi ˞ʃi:˥ba](家の中は黴臭い臭いがしているから、戸を開け放して風も通し、拭き掃除をしなさいよ)。

パ˞ナ˥フキ **[pa˞na˥ɸu̥ki]** 【名】いびき (鼾)。「鼻吹き」の義。ウ˞リヌ˥　パ˞ナ˥フケー　ウ˞トゥンジ˥ムヌ　ヤ˞ルンダ˥　ムー˞ル˥　ッ˞シ　ブー [ʔu˞rinu˥ pa˞na˥ ɸu̥ke: ʔu˞tuʔnʤi˥munu ja˞runda˥ mu:˞ru˥ ˞ʃʃi bu:](彼のいびき＜鼾＞は有名＜音に聞こえたもの＞だから、みんな知っている)。

パ˞ナフクル **[pa˞naɸu̥kuru]** 【名】小鼻。左右の鼻孔を丸く包み、ふくらんだ部分。「鼻袋」の義。パ˞ナフクル˥バ　˞ウーカ˥シ　˞ベー　ギン˥シェー　ノー˞シン˥　サ˞ニ˥ヤ　ク˞トゥヌ˥ル　アル˞ナー [pa˞naɸukuru˥ba ˞ʔu:ka˥ʃi ˞be: giŋ˥ʃe: no:˞ʃin˥ sa˞ni˥ja ku̥˞tunu˥ru ʔaru˞na:](小鼻を動かしているからには、きっと嬉しいことがあるねえ)。

パ˞ナ˥　フクン **[pa˞na˥ ɸu̥kuŋ]** 【連】子供が泣き出す。泣きべそをかく。カ˞ジェー　マーリ˥　パ˞ナ˥フキ　˞ベー˥ムヌ　ノー˞ン　ヤラバン　ッふァーシ˥　キ˞ム˥　トゥリ [ka˞ʤe: ma:ri˥ pa˞na˥ ɸu̥ki ˞be: ˥munu no:˞ɲ jarabaŋ ffa:ʃi˥ ki˞mu˥ turi](子供は機嫌を損ねて＜風が北に回って＞泣き出しているんだから、何か食べさせて機嫌をとりなさい)。

パ˞ナ˥フクン **[pa˞na˥ɸu̥kuŋ]** 【他動】¹いびき＜鼾＞をかく。˥ビーティ　ニ˞ブ˥カー　パ˞ナ˥フクンティ　ス˞クタヌ　ナン˥ゾー　パ˞ナフカン˥ワー　˞ン˥ノー [˥bi:ti ni˞bu˥ka: pa˞na˥ɸu̥kunti su̥˞kutanu nan˥ʤo: pa˞naɸu̥kaŋ˥wa: ˞n˥no:](酔って寝ると鼾をかくと聞いたが、あまり鼾をかかないではないか)。パ˞ナ˥フク　プ˞ストー˥　ニ˞バラヌ [pa˞na˥ɸu̥ku pu̥˞suto: ˥ni˞baranu](鼾をかく人とは寝れない)。˥キューユン　パ˞ナ˥フキ　˞ベー [˥kju:m pa˞na˥ɸu̥ki ˞be:](今日も鼾をかいている)。ウ˞リヌ˥　パ˞ナ˥フケーラー　ニ˞バラヌ [ʔu˞rinu˥ pa˞na˥ɸu̥ke:ra: ni˞baranu](彼が鼾をかいたら寝れない)。パ˞ナ˥フキバ [pa˞na˥ ɸu̥kiba](鼾をかけよ)。²しくしく泣く。べそをかく。ヤ˞ラ˥ベー　パ˞ナ˥フキ　˞ベー˥バ　ユ˞ナコー˥マーンツァン　ス˞クイ　ッふァーシ˥バ [ja˞ra˥be: pa˞na ˥ɸu̥ki ˞be:˥ba ju˞nako:˥mantsan su̥˞kui ffa:ʃi˥ba](子供がしくしく泣いているから、麦焦がしでも掬ってあげなさいよ)。

パ˞ナ˥プシ **[pa˞na˥puʃi]** 【名】くさめ＜嚏＞。くしゃみ。「眉根掻き鼻火紐解＜ハナヒヒモトケ＞〜。万、2808」。「嚏、ハナヒル」『類聚名義抄』の転訛。ヤ˞ラビ˥ヌ　パ˞ナ˥プシ　˞スー˥カー　パ˞ナシキフシゥ˥カルンダー　˞キー˥　シ˞キ˥リ˞ヨー [ja˞rabi˥ nu pa˞na˥pu̥ʃi ˞su:˥ka: pa˞naʃi̥ki ɸusi̥˥karunda: ˞ki:˥ ʃi̥ ˞ki˥ri˞jo:](子供がくさめ＜嚏＞をしたら風邪をひく＜風邪がくっつく＞から気をつけなさいよ)。

パ˞ナ˥プスン **[pa˞na˥pusuŋ]** 【自動】くさめ＜くしゃみ＞をする。はなひる (嚏る)。「眉根掻き鼻火紐解け＜ハナヒヒモトケ＞〜。万、2808」。「嚏、ハナヒル」『類聚名義抄』の転訛。˞ピン˥グルカー　パ˞ナ˥プスンティ　˞スンダ˥　パ˞ナプサン˥ヨーニ　˞キン˥マー　カ˞サビ˥　キ˞シ˥バ [˞piŋ˥guruka: pa˞na ˥pu̥sunti ˞sunda˥ pa˞napusaŋ˥jo:ni ˞kim˥ma: kḁ˞sabi˥ ki̥˞ʃi˥ba](冷え込んだらくしゃみをするから、くしゃみをしないように着物は重ねて着なさい)。パ˞ナ˥プシ　˞ベー [pa˞na˥pu̥ʃi ˞be:](くしゃみをしている)。パ˞ナ˥プス　˥ピンマー　˥カマンター　ン˞カイティ˥　パ˞ナ˥プシバ [pa˞na˥pu̥su ˥pimma: ˥kaman-ta: ʔŋ˞kaiti˥ pa˞na˥pu̥ʃiba](くしゃみをする時は、向こう側に向いてくしゃみをしなさい)。˞マー˥ビン　パ˞ナ˥プシェー　˥ミサムヌ [˞ma:˥bim pa˞na˥pu̥ʃe: ˥misamunu](もっとくしゃみをすればいいのに)。

パ˞ナブニ **[pa˞nabuni]** 【名】鼻骨。˞ティス˥クン　ッ˞ふァーサリティ˥　パ˞ナブニバ˥　ブリ　ヤ˞ゴーマシ˥　˥シケーティバン　˥ヌヤー [˞tisu̥˥kun f˞fa:sariti

˺ pa˞nabuniba˺ buri ja˞go:maʃi˺ ʃi̥ke:tiban ˺nuja:](拳骨を食らわされて鼻骨を折って、＜鼻を＞歪(ユガ)ましておいてあるんだってさ、何だ＜何かと思ったよ＞)。

パ˞ナ˺ ブルン [pa˞na˺ buruŋ] 【連】鼻を折る。相手の慢心をくじく。やりこめる。鼻っ柱を折る。˞ウンザー˺ ドゥクナリ パ˞ナイキ˺ガリ ˺シザウヤンケーユン ウ˞サイル ブンダ˺ パ˞ナ˺ ブリ トゥ˞ラ˺シ [˞ʔundʑaː˺ dukunari pa˞najiki˺gari ˺ʃidʑaʔujaŋkeːjuŋ ʔu˞sairu bunda˺ pa˞na˺ buri tu˞ra˺ʃi](あいつ＜彼奴＞は、あまりにも高慢ちきで年輩方をも小馬鹿回しにして＜押さえて＞いるから鼻をへし折ってやれ)。

˺パナ ˞ホーシ˺ヤマ [˺pana ˞hoːʃi˺jama] 【連】綿繰り機。綿花の種子と繊維を分離する器具。「綿挟み仕掛け」の義。ム˞カ˺シェー ˺パナ ˞ホーシ˺ヤマン ˞アッ˺タンティ ス˞ヌ バン˺ター ˺ミリ ミ˞ラン˺シェン [mu˞ka˺ʃeː ˺pana ˞hoːʃi˺jamaŋ ˞ʔat˺tanti su˞nu ban˺taː ˺miri mi˞raŋ˺ʃeŋ](昔は綿繰り機もあったそうだが、私らは見たことがなかった)。

ハ˞ナボー˺ル [ha˞naboː˺ru] 【名】菓子の名。小麦粉で造った花形の菓子。石垣島で購入して島への土産にした。ハ˞ナボー˺ロー イ˞サナキ˺ナーティ ˞カイティ˺ パ˞トゥ˺マーヌ ˺シトゥ ˞ソーッ˺タ [ha˞naboː˺roː ʔi˞sanaki˺naːti ˞kaiti˺ pḁ˞tu˺maːnu ˺ʃi̥tu ˞soːt˺ta](ハナボールは石垣島で買って鳩間島への土産にされた)。

パ˞ナミジ [pa˞namidʑi] 【名】鼻水。パ˞ナシキ˺ マ˞マルタ˺ユー パ˞ナミジヌ˺ ン˞ジ˺ルサー [pa˞naʃi̥ki˺ ma˞maruta˺juː pa˞namidʑinu˺ ʔn˞dʑi˺rusaː](風邪を引いたのか、鼻水が出るよ)。

パ˞ナ˺ムス [pa˞na˺musu] 【名】はなむしろ (花筵)。藺で織り上げた花模様の筵。接客用に用いたはなござ (花莫蓙)。イ˞サナケーラヌ˺ プ˞スヌ オー˺ル ˺ピンドゥ パ˞ナ˺ムソー ス˞コーッ˺タ [ʔi˞sanakeːranu˺ pu̥˞sunu ʔoː˺ru ˺pindu pa˞na˺musoː su̥˞koːt˺ta](石垣島からの人がいらっしゃる時に＜ぞ＞花筵は敷かれた)。

パ˞ナムニ [pa˞namuni] 【名】鼻声。「鼻物言い」の義。パ˞ナシキ フシゥカリ˺ル ˞ブー˺ユー パ˞ナムニバ シーブー˺サー [pa˞naʃi̥ki ɸusi̥˞kari˺ru ˞buː˺juː pa˞namuniba ʃiːbuː˺saː](風邪をひいて＜風邪がくっついて＞いるのか、鼻声＜鼻物言い＞をしているよ)。

パ˞ナモー˺モー [pa˞namoː˺moː] 【名】鼻の欠けた人。パ˞ナモーモー˺ヤ パ˞トゥ˺マナー ブ˞ラーンシェン [pa˞namoːmoː˺ja pḁ˞tu˺manaː bu˺raːŋʃeŋ](鼻の欠けた人は、鳩間島にはいなかった)。

パ˞ナヤ˺カ [pa˞naja˺ka] 【名】勢いが盛んなさま。賑やかなさま。美しくきらびやかなさま。形容動詞の語幹から転訛したもの。ム˞カ˺シェー ˞プー˺ル ˺キチゴンマー プ˞スヌ ゴー˺ラーレーンダ ブ˞ドゥルキョンギン˺ヌン イッ˞ケン˺ パ˞ナヤ˺カ ˞ヤッタ [mu˞ka˺ʃeː ˞puː˺ru ˺ki̥tʃigomma: pu̥˞sunu goː ˺raːreːnda bu˞durukjoŋginnuŋ˺ ʔik˞kem˺ pa˞naja˺ka ˞jatta](昔は豊年祭や結願祭は、人が多かったから、踊りや芝居＜狂言＞も非常に華やかだった)。

パ˞ナ˺リ [pa˞na˺ri] 【固】 (地) 新城島。ア˞ラグス˺ク [ʔa˞ragusu̥˺ku](新城島) ともいう。西表島の東約 6 キロの洋上に位置する。黒島との中間にあり、親島の上地 (かみじ) と子島の下地 (しもじ) の二島からなる。古来、˺ザン [˺dʑaŋ](ジュゴン) とパ˞ナリ˺ヤキ [pa˞nari˺jaki](パナリ焼きの土器) で有名である。˞ショーワ サンジューネン˺ マーラ˞バー˺ケー パ˞ナ˺リナーン ˞ガッコー˺ヤ ア˞リ˺ブタ˞ダー [˞ʃoːwa sandʑuːnem˺ maːra˞baː˺keː pa˞na˺rinaːŋ ˞gakkoː˺ja ʔa˞ri˺buta˺daː](昭和三十年ごろまでは新城島にも学校はあった＜ありおった＞よ)。パ˞ナ˺リナー ˞ザン˺ヌ ウ˞ガン˺ヌ アンティ˞ダー [pa˞na˺rinaː ˞dʑan˺nu ʔu˞gan˺nu ʔanti˞daː](新城島にはジュゴン＜儒艮＞を祀った御嶽があるそうだよ)。パ˞ナ˺レー ˞カンジ˺トゥ ス˞ムジヌ˺ フ˞タシマー˺ラ ˺ナリ ˞ブー˺ダー [pa˞na˺reː ˞kandʑi˺tu su˞mudʑinu˺ ɸu̥˞taʃimaː˺ra ˺nari ˞buː˺daː](新城島は上地島と下地島の二島から出来て＜なって＞いるよ)。

パ˞ナ˺リ ˺アカマター [pa˞na˺ri ˺ʔakamataː] 【連】新城島のアカマター神信仰。秘密結社による信仰で、島外の者には見ることの出来ない草装の仮面神信仰であった。パ˞ナリ˺ヌ ˺アカマター マ˞ナ˺マン ˞プール˺ナー ˺ンジ ˞オー˺ルンティ˞ダー [pa˞nari˺nu ˺ʔakamataː ma˺na˺mam ˞puːru˺naː ˺ʔndʑi ˞ʔoː˺runti˞daː](新城島のアカマター神は今も豊年祭には御出座しになる＜出て来られる＞そうだよ)。

パ˞ナ˺リザンカミ [pa˞na˺ridʑaŋkami] 【名】新城島で漁獲されたという˺ザン [˺dʑaŋ](ジュゴン)。琉球国時代には新城島の特産品として王府への貴重な貢納品であった。ム˞カ˺シェー ˞ザン˺マー パ˞ナリ˺ヌ ˞グイ˺フゾーノーティ ア˞ザリブタ˺ツォー

[mu˩ka˥ʃe: ˩ʤam˥ma: pa˩nari˥nu ˩gui˥ɸuʤo:no:ti ʔa˩ʤaributa˥tso:](昔は、ジュゴンは新城島から王府への税金＜御庸布・上納＞と言われていたそうだ)。

パ˩ナリ˥ジマ **[pa˩nari˥ʤima]** 【名】離れ島。イ˩ラムティ˥ナー　フ˩カバナ˥リ　ウ˩チバナリ˥ティ　˩スー˥　パ˩ナリジマ˥ヌ　˥アン [ʔi˩ramuti˥na: ɸu̥˩kabana˥ri ʔu˩tʃibanari˥ti ˩su:˥ pa˩nariʤima˥nu ˥ʔaŋ](西表島には、外離島、内離島という離れ島がある)。

パ˩ナリ˥ヤキ **[pa˩nari˥jaki]** 【名】土器名。新城島で焼成された焼き物。カタツムリを砕き、土に混ぜて焼成した質の粗い素焼きの焼き物。茅で焼いたといわれている。パ˩ナリ˥ヤケー　シ˩ダミ˥バ　˩シッ˥キティ　ドゥ˩ル˥ナ　マ˩ザー˥シティル　˥カミン　マ˩カ˥ルン　ヤ˩カリ　ブー [pa˩nari˥jake: ʃi˩dami˥ba ˩ʃik˥kiti du˩ru˥na ma˩ʤa:˥ʃi̥tiru ˥kamim ma˩ka˥ruɲ ja ˩kari bu:](パナリ焼きはカタツムリを搗き砕いて土に混ぜて＜ぞ＞、瓶もお碗も焼成されて＜焼かれて＞いる)。

パ˩ナン˥ギ **[pa˩naŋ˥gi]** 【名】ふざけ。いたずら (悪戯)。冗談。悪ふざけすること。じゃれて暴れること。パ˩ナン˥ギラール　˩ソーアイ˥　ナルンダー　˥ドゥク　パ˩ナン˥ギ　ス˩ナ˥ヨー [pa˩naŋ˥gira:ru ˩so:ʔai˥ narunda: ˥duku pa˩naŋ˥gi su˩na˥jo:](悪戯から本当の喧嘩になるのだから、あまり悪戯するなよ)。パ˩ナン˥ギ　˩サンドー˥シ　カ˩シーカシー˥　シ˩グトゥ　シー [pa˩naŋ˥gi ˩sando:˥ʃi kḁ˩ʃi:kaʃi:˥ ʃi˩gutu ʃi:](悪戯しないで、しっかり仕事をしろ)。ビ˩コーンッふァー˥　ユー　パ˩ナン˥ギ　˩スン [bi ˩ko:ŋffa:˥ ju: pa˩naŋ˥gi ˩suŋ](男の子はよく悪戯する)。

パ˩ナンギタ **[pa˩naŋgita]** 【名】鼻柱。「鼻桁」の義。パ˩ナシジ [pa˩naʃiʤi](鼻筋) ともいう。パ˩ナンギタ　ティス˥クン　ッ˩ふァーサリティ˥　ブ˩チ˥クン　˩シー　ベー˥タ [pa˩naŋgita tisu̥˥kuŋ f˩fa:sariti˥ bu˩tʃi˥kuŋ ˩ʃi:be:˥ta](鼻柱に拳骨を食わされて失神していた)。

パ˩ナンギ˥ムニ **[pa˩naŋgi˥muni]** 【名】冗談。悪ふざけ。「悪戯物言い」の義。パ˩ナンギ˥ムニ　カー˩ニ˥　ア˩ザンドー˥シ　プ˩スケンナー˥ヤ　˩マームニン˥　ア˩ジ˥バ [pa˩naŋgi˥muni ka:˩ni˥ ʔa˩ʤando:˥ʃi pu̥˩sukenna:˥ja ˩ma:muniŋ˥ ʔa˩ʤi˥ba](冗談＜悪ふざけ＞ばかり言わないで、一度ぐらいは真面目なこと＜真物言い＞も言いなさいよ)。

パ˩ナン˥グミ **[pa˩naŋ˥gumi]** 【名】神仏に供える白米。「花米」の義。重箱に白米を 1 合、2 合、3 合、5 合、のように入れて、それぞれイ˩チンゴー˥パナ [ʔi˩tʃiŋgo:˥pana](1 合花米)、˩ニンゴー˥パナ [˩niŋgo:˥pana](2 合花米)、˩サンゴー˥パナ [˩saŋgo:˥pana](3 合花米)、˩グンゴー˥パナ [˩guŋgo:˥pana](5 合花米) という。近しい親戚の法事には˩グンゴー˥パナ [˩guŋgo:˥pana](5 合花米) に線香を添えた˩コー˥パナ [˩ko:˥pana](線香と花米) を供えた。カ˩ミグトゥ˥トゥ　˩グァンス˥グトゥナー　パ˩ナング˥ミン　シ˩キ　ソーッ˥タ [ka˩migutu˥tu ˩gwansu˥gututuna: pa ˩naŋ˥gumiŋ ʃi̥˩ki so:t˥ta](神事と仏事＜元祖事＞には花米も供えなさった)。

パ˩ニ **[pa˩ni]** 【名】 1羽。つばさ (翼)。パ˩ニ　ムイ˥ルン [pa˩ni mui˥ruŋ](羽が生える)。トゥ˩ルヌ˥　パ˩ニ˥　ヌイバ [tu˩runu˥ pa˩ni˥ nuiba](鶏の羽を抜きなさい)。/ヤー　トゥルパニバ　ガヤーバシー　ヤーバ　スクリ　アンティスー/(やあ　鳥の羽を茅にして、家を葺いてあるという)˩アーパーレー歌＜ハヤミク＞」『鳩間島古典民謡古謡集』。2ひれ (鰭)。イ˩ズヌ　パニ˥　キシティ　シ˩ティリ [ʔi˩ʤunu˥ pa˩ni˥ ki̥ʃiti ʃi̥˩tiri](魚のひれ＜鰭＞を切って捨てなさい)。サ˩バヌ˥　パ˩ネー˥　ティダナ　˥プシティ　˩カン˥ソー　シ˩ティ　カーソーッ˥タ [sa˩banu˥ pa˩ne:˥ tidana ˥pu̥ʃiti ˩kan˥so: ʃi̥˩ti ka:so:t˥ta](鱶の鰭は太陽に干し、乾燥して売られた)。

パ˩ニ **[pa˩ni]** 【名】はね (跳ね)。衣服などに飛び散った泥。「Fane, ハネ (跳ね) 日本の靴 (下駄) や草履から着物の後に跳ねついた泥.」『邦訳日葡辞書』。ア˩ミフイ˥ヤー　˩キン˥ヌ　ク˩シェー˥　パ˩ニヌ˥　スクンダ　シ˩ベー˥　カライティ　ミ˩スコーミスコー˥　ア˩ラ˥キバ [ʔa˩miɸui˥ja: ˩kin˥nu ku̥˩ʃe:˥ pa˩ninu˥ su̥kunda ʃi˩be:˥ karaiti misu˩ko:misuko:˥ ʔa˩ra ˥kiba](雨降りには着物の背には跳ね＜泥＞が付くから、裾をからげてゆっくりゆっくり注意深く歩きなさいよ)。

パ˩ニアキ **[pa˩niʔaki]** 【名】(動) 魚の名。和名、バショウカジキ (体長約 2 メートル)。終戦後まで、ツ˩キセン [tsu̥˩kiʃeŋ](突船) が鳩間島で操業されていて、尖閣諸島付近に出漁してパ˩ニアキなどのカジキを漁獲していた。またイカ釣り漁の時期に漁獲されることもあった。

パ˩ニウトゥ **[pa˩niutu]** 【名】羽音。羽ばたく音。パ˩トゥ˥マレー　˥パトゥザヌ　˩コー˥マ　˥トゥリン　˥パル　˥バソー　˥パトゥザヌ　˩アーリ˥　トゥ˩ビ˥パルンダ　ウ˩ヌ˥　パ˩ニウトゥ˥ナー　ウ˩ダラカサリ˥シタ [pa˩tu˥mare: ˥pḁtuʤanu ˩ko:˥ma ˥turim

˥paru ˥baso: ˥patudʑanu ˩ʔa:ri˥ tu˩bi˥parunda ʔu˩nu˥ pa˩niutu˥na: ʔu˩darakasari˥ʃi̥ta](鳩離島へ鳩の卵を取りに行く時は、鳩が慌てふためいて飛び立つので、その羽音に驚かされたものだ)。

パ˩ニジクルー [pa˩niʥikuru:] 【名】(植) 伝統稲作品種の名。「羽地黒穂」の義。芒の長さは 4〜6 センチで、玄米の色は赤紫『西表島の農耕文化』という。˩ザイレーマイ˥ヤー　カ˩マイ˥ヤー　ッ˩ふァーンベー˥ティ　˩ショーワ　ヨンジューネンバー˥ケー　ク˩バシ˥ターナー　˩ザイレーマイ˥ヌ　パ˩ニジクルー˥バ　˩トゥー˥シ　ス˩ク˥リティ　シ˩ラン˥　ス˩ク˥リ　˩オーッ˥タン [˩ʥaire:mai˥ja: ka˩mai˥ja: f˩fa:mbe:˥ti ˩ʃo:wa jonʥu:nemba:˥ke: ku˩baʃi̥˥ta:na: ˩ʥaire:mai˥nu pa˩niʥikuru:˥ba ˩tu:˥ʃi su̥˩ku˥riti ʃi˩ran˥ su̥˩ku˥ri ˩ʔo:t˥taŋ](在来種稲は猪は食べないから、昭和 40 年まではクバシターの田圃に在来種稲の羽地黒穂を通して作付けし、いなむら < 叢 > も作っておられた)。

パ˩ニダリ˥ムヌ [pa˩nidari˥munu] 【名】意気消沈した者。羽がだれた (垂れた) 鳥のように、元気のない者。˥ヌンティ　˥アイニ　パ˩ニダリ˥ムヌ　˥ナリ　˩ベー˥ワ [˥nunti ˥ʔaini pa˩nidari˥munu ˥nari ˩be:˥wa](どうしてあんなに元気のない者になっているのか < 羽垂れ者になっているのか。意気消沈しているのか >)。

パ˩ニッカイ˥スン [pa˩nikkai˥suŋ] 【他動】撥ね返す。当たってきたものを勢いよく返す。はねてひっくりかえす。ゴ˩ガン˥マー　˩タイフー˥ヌ　ナ˩ミ˥　パ˩ニッカイ˥スン [go˩gam˥ma: ˩taiɸu:˥nu na˩mi˥ pa˩nikkai˥suŋ](護岸は台風の際の大波を撥ね返す)。

パ˩ニッ˥クルン [pa˩nik˥kuruŋ] 【自動】そっくり返る。そりかえる。板や蓋などが反り返る。˥イツァー　˥ティダナー　˥プスカー　パ˩ニックルン˥ドゥ　˥カイナカナー　シ˩キ˥ルカー　パ˩ニックラ˥ヌ [˥ʔitsa: ˥tidana: ˥pu̥suka: pa˩nikkurun˥du ˥kainakana: ʃi̥˩ki˥ruka: pa˩naikkura˥nu](板は、ひなた < 日向 > に置くと反り返るが、日陰に置いたら反り返らない)。フ˩ター˥　パ˩ニッ˥クリティ　シゥ˩カーラヌ [ɸu̥˩ta:˥ pa˩nik˥kuriti si̥˩ka:ranu](蓋は反り返って使えない)。パ˩ニッ˥クル　˥イツァー　シゥ˩カウナ [pa˩nik˥kuru ˥ʔitsa: si̥˩kauna](反り返る板は使うな)。パ˩ニッ˥クレー　˥ミサムヌ [pa˩nik˥kure: ˥misamunu](反り返れば良いのに)。パ˩ニッ˥クリ [pa˩nik˥kuri](反り返れ)。

パ˩ニッケー˥ルン [pa˩nikke:˥ruŋ] 【自動】1はね返る。パ˩ニッカイ˥ルン [pa˩nikkai˥ruŋ] ともいう。˩タイフー˥ヌ　˩ナン˥マー　イ˩シバナ˥ナー　ア˩タル˥カー　パ˩ニッケールン˥ドゥ　マ˩ナ˥マー　˩オーシキヌ　カイ˥ヤンダ　パ˩ニッケラ˥ヌ [˩taiɸu:˥nu ˩nam˥ma: ʔi˩ʃibana˥na: ʔa˩taru˥ka: pa˩nikke:run˥du ma˩na˥ma: ˩ʔo:ʃi̥kinu kai˥janda pa˩nikkera˥nu](台風の波は海岸の岩端(イワハナ)< 岩鼻 > に当るとはね返るが、今は天気が良いからはね返らない)。パ˩ニッケー˥リ　˥パル　˥スーン　˩サンガリ　ナー˥ヌ [pa˩nikke:˥ri ˥paru ˥su:n ˩saŋgari na:˥nu](はね返っていく潮に引張られてしまった)。パ˩ニッケー˥ル　˥ピン　ッ˩スパナ˥ヌ　˥サクン [pa˩nikke:˥ru ˥pin s˩supana˥nu ˥sḁkuŋ](はね返る時、白い波の花が咲く)。パ˩ニッケー˥レー　˥ミサムヌ [pa˩nikke:˥re: ˥misamunu](はね返れば良いのに)。パ˩ニッケー˥リ [pa˩nikke:˥ri](はね返れ)。2反り返る。ク˩ヌ˥ヤ˩ラ˥ベー　ナ˩ク˥カー　˥シンター　パ˩ニッケー˥ルン [ku˩nu˥ ja˩ra˥be: na˩ku˥ka: ˥ʃinta: pa˩nikke:˥ruŋ](この子供 < 童 > は泣くと後ろに反り返る)。

パ˩ニットゥバ˥スン [pa˩nittuba˥suŋ] 【他動】跳ね飛ばす。勢いよく遠くへ投げる。ウ˩リトゥ˥　シマ　˥トゥルカー　パ˩ニットゥバ˥スンダ　ウ˩リトー˥　シマ　トゥ˩ラ˥ヌ [ʔu˩ritu˥ ʃima ˥turuka: pa˩nittuba˥sunda ʔu˩rito:˥ ʃima tu˩ra˥nu](彼と相撲をとると跳ね飛ばすので、彼とは相撲をとらない)。

パ˩ニヌキ˥ルン [pa˩ninuki˥ruŋ] 【他動】はねのける。外側へ強く押しのける。˥フカーラ　˩ユーシ˥　クー　ヤ˩ナ˥ムネー　˥ドゥーシ　パ˩ニヌキ˥ルン [˥ɸu̥ka:ra ˩ju:ʃi˥ ku: ja˩na˥mune: ˥du:ʃi pa˩ninuki˥ruŋ](外から寄せてくる悪口は自分ではねのける)。

パ˩ニ　ヌバ˥スン [pa˩ni nuba˥suŋ] 【連】羽を伸ばす。自由に遊ぶ。自由に伸び伸びとふるまう。イ˩ズ˥　プ˩スヌ　オーラン˥カー　ヤ˩ラ˥ベー　パ˩ニ　ヌバ˥スン [ʔi˩ʥu˥ pu̥˩sunu ʔo:raŋ˥ka: ja˩ra˥be: pa˩ni nuba˥suŋ](叱る人がおられないと子供は羽を伸ばして遊ぶ)。

パ˩ニビキ [pa˩nibiki] 【名】引縄釣り。擬餌針をつけた縄を船から引いてカツオやマグロ類を釣る漁法。ハ˩ニビキ [ha˩nibiki](引縄釣り) ともいう。直径約 8 ミリ、長さ約 12 ミリの鉛に雄鶏の柔らかい羽を丸く縛りつけ、その上にヒ˩ロー˥サー [çi˩ro:˥sa:](めがねもちのうお) の成魚の鱗を剥がして羽を押さえて縛り、それに釣り針を仕込んだ疑似餌を船尾から約 70 メートルほどの長さの釣り縄で流して引きながら釣る漁法。カ˩ツシンラ˥　イ˩サナケー˥　パ

ルピン　パ˞ニビキ　スー˥カー　˞マーガツン˥　シ˞ブ˥タン　˞サー˥ラン　ユー　˞ホー˥ソーッタン [kq̥ ˞tsuʃinra˥ ʔi˞sanake:˥ parupim pa˞nibiki su:˥ka: ˞ma: ˥gatsun ʃi˞bu˥tan ˞sa:˥raŋ ˥ju: ˞ho:˥so:ttaŋ](カツオ漁船から石垣島へ行くとき、引縄釣りをするとカツオもソウダガツオもサワラもよく釣られた)。

パ˞ニポーキ [pa˞nipo:ki] 【名】けぼうき (毛箒)。鳥の羽で作った箒。けご (毛蚕) を掃き落としたり、細かいごみやほこり (埃) を掃き落とすのに用いる。トゥ˞クニヌ　イーパイヤー˥　パ˞ニポーキ˥シ　ヤー˞ラマ˥シ　˞ポー˥キバ [tu̥˞kuninu ʔi:paija:˥ pa˞nipo:ki ˥ʃi ja:˞rama˥ʃi ˞po:˥kiba](仏壇の位牌は羽箒で柔らかく丁寧に掃きなさいよ)。

パ˞ニポー˥ルン [pa˞nipo:˥ruŋ] 【他動】散らかす。撒き散らす。ヤ˞ラ˥ベー　ム˞タビ˥ムヌ　˞ザー˥ヌ　˞ピッ˥チン　パ˞ニポー˥リティ　ア˞サビベー [ja˞ra˥be: mu˞tabi˥munu ˞ʤa:˥nu ˞pit˥ʧim pa˞nipo:˥riti ʔa˞sabibe:](子供は座敷の一杯玩具を散らかして遊んでいる)。パ˞ニポー˥ルンティ　˞ベー　ベー˥ティ　パ˞ニポーラン˥　ヨー　˞トゥシキ˥リ [pa˞nipo:˥runti ˞be: be:˥ti pa˞nipo:raŋ˥jo: ˞tuʃi̥ki˥ri](散らかそうとしているから、散らかさないように諭し＜言い付け＞なさい)。パ˞ニポー˥ル　˥プソー　˞マー˥ビン　パ˞ニポー˥レー　˥ミサムヌ [pa˞nipo:˥ru ˥pu̥so: ˞ma:˥bim pa˞nipo:˥re: ˥misamunu](散らかす時は、もっと散らかせば良いのに)。˥クナー　パ˞ニポー˥リバ [˥kuna: pa˞nipo:˥riba](ここで散らかせよ)。

パ˞ニ˥ルン [pa˞ni˥ruŋ] (1)【自動】跳ねる。飛び上がる。飛び散る。ア˞マダラミジ˥ヌ　イ˞シ˥ナー　ア˞タリティ˥　パ˞ニ˥ルンダ　パ˞ニラ˥ン　˞シー˥ヨー　˞シー [ʔa˞madaramiʤi˥nu ʔi˞ʃi˥na: ʔa˞tariti˥ pa˞ni ˥runda pa˞nira˥ŋ ˞ʃi:˥jo: ˞ʃi:](雨垂れが石に当って跳ねて飛び散るから、跳ねない方法＜仕方＞を工夫しなさい)。パ˞ニ˥ル　ミ˞ジ˥ナー　˞キン˥マー　˞ゾッふィス [pa˞ni˥ru mi˞ʤi˥na: ˞kim˥ma: ˞ʤoffisu](跳ねる水で着物は濡れるよ)。ミ˞ジェー˥　パニティ　˞ゾッふァシス [mi˞ʤe:˥ paniti ˞ʤoffaʃisu](水が跳ねて濡らしてしまう)。˞マー˥ビン　パ˞ニ˥レー　˥ミサムヌ [˞ma:˥bim pa˞ni˥re: ˥misamunu](もっと跳ねればいいのに)。 **(2)**【他動】水を跳ねる。跳ね飛ばす。「～沖つ櫂　いたくな波祢曾～。万、153」の義。˞サンスイ˥キシ　ミ˞ジェー˥　パニティ　˥ザコーン　˥マキティル　カ˞ツォー　ホー˥ソール [˞sansui˥kiʃi mi˞ʤe:˥ paniti ˥ʤako:m ˥makitiru kq̥˞tso: ho:˥so:ru](散水器で潮水を撒き跳ねて、餌＜雑魚＞も撒いてカツオを釣られた)。

パ˞ニンガーリ [pa˞niŋga:ri] 【名】羽の生え変わり。「羽変わり」の義。パ˞ニムインガー˥リ [pa˞nimuiŋga: ˥ri](羽生え変わり) ともいう。トゥ˞ロー˥　パ˞ニンガーリ　シー˥　ジ˞ブン˥　ヤ˞レー˥ティル　˞キー˥　パギ　˞アー˥ク˞ナー [tu˞ro:˥ pa˞niŋga:ri ʃi:˥ ʤi˞buŋ˥ ja˞re:˥tiru ˞ki:˥ pagi ˞ʔa:˥ku˞na:](鶏は羽が生え変わる時期だから、毛が禿げていうるのだねえ)。

パ˞ネーカ˥スン [pa˞ne:ka˥suŋ] 【他動】賑(ニギ)わす。盛んにする。賑やかにする。パ˞ナヤカ˥スン [pa˞najaka˥suŋ](他動) ともいう。˞サンシン˥　ピ˞キティ　マー˥ビン　パ˞ネーカ˥スンティ　˞スンドゥ˥　パ˞ネーカサラ˥ヌ [˞saŋʃim˥ pi̥˞kiti ma:˥bim pa˞ne:ka˥sunti ˞sundu˥ pa˞ne:kasara˥nu](三線を弾いて、もっと賑わせようとするが、賑わせられない)。パ˞ネーカ˥シ　˥ミサカー　パ˞ネーカ˥ス　˥クトー　˥ナルン [pa˞ne:ka˥ʃi ˥misaka: pa˞ne:ka˥su ˥ku̥to: ˥naruŋ](賑わしてよければ賑わせることはできる)。パ˞ネーカ˥シェー　˥ミサムヌ [pa˞ne:ka˥ʃe: ˥misamunu](賑わせれば良いのに)。˞サンシン˥　ピ˞キティ˥　パ˞ネーカ˥シ [˞saŋʃim˥ pi̥˞kiti˥ pa˞ne:ka˥ʃi](三線を弾いて賑わせよ)。

パ˞ネー˥ザ [pa˞ne:˥ʤa]【名】(動) サヨリ科の魚名。和名、リュウキュウサヨリ (体長約 25 センチの細長い魚)。老年層は、パ˞レー˥ザ [pa˞re:˥ʤa] ともいう。和名、マルサヨリ (体長約 35 センチ)。和名、センニンサヨリ (体長約 35 センチ)。和名、ホシサヨリ (体長約 40 センチ) などの総称。秋から冬にかけて、浮きを付けた釣り糸を浜辺から釣竿で投げ入れて、よく釣り上げたものである。味はあっさりとしている。パ˞ネー˥ザー　˞ティングス˥ルナー　ウ˞キバ˥シケーティル　パ˞マー˥ラ　˞ナン˥ゲーティ　˥ユー　˞ホーシタ˥ル [pa˞ne:˥ʤa: ˞tiŋgusu˥runa: ʔu˞kiba˥ ʃi̥ke:tiru pa˞ma:˥ra ˞naŋ˥ge:ti ˥ju: ˞ho:ʃi̥ta˥ru](リュウキュウサヨリは、てぐす＜天蚕糸＞に浮きをつけて＜ぞ＞、浜から投げ入れてよく釣ったものだ)。

パ˞ネーラ [pa˞ne:ra] 【名】 (昆虫)、白蟻の羽化したもの。「はあり＜羽蟻＞」の転訛。夜明かりを求めて室内に侵入してくる。パ˞ネーラヌ˥　ン˞ジ˥ルカー　ッ˞サール˥ヌ　˥シディ　˞ブー˥　タ˞ミ˥シ [pa˞ne:ranu˥ ʔn˞ʤi˥ruka: s˞sa:ru˥nu ˥ʃidi ˞bu:˥ ta˞mi˥ʃi](パネーラが出ると白蟻が発生＜孵(フカ)化して＞いる証拠である)。

パ˞ノー˥ル [pa˞no:˥ru] 【名】 (植) 野原の砂地に生ずるノリ (海苔) の一種。˞ミン˥グル [˞miŋ˥guru](きく

らげ) に似た、緑褐色で寒天質状の柔らかいノリ (海苔)。踏むと潰れて水分がにじみ出るので滑りやすい。鳩間島の人は食しない。パ˞タキアー˥サ [pḁ˞takiʔa:˥sa](モーアーサ。畑の海苔) ともいう。˥キサー　˞ガッコー˥ヌ　˞ウンドー˥バナー　˥ユー　パ˞ノール˥ヌ　˞ムー˥タン [˥ki̥sa: ˞gakko:˥nu ˞ʔundo: ˥bana: ˥ju: pa˞no:ru˥nu ˞mu:˥taŋ](以前は、学校の記念運動場にパノールがよく生えたものだ)。

パ˞バ [pa˞ba] 【名】幅。若年層はハバ [ha˞ba](幅) ともいう。パ˞バヌ　マイ˥ヤワレー [pa˞banu mai˥jaware:](幅が大きいねえ)。˞ダンベー˥ヌ　パ˞ババ˥　パ˞カ˥リ　˞ミー [˞dambe:˥nu pa˞baba˥ pḁ˞ka˥ri ˞mi:](だんべーぶね < 団平船 > の幅をはかってごらん)。˞ダン˥ベーナー　シ˞キ˥タン　シ˞ミティ　サンギ˥パルンダ　パ˞バヌ　マイ˥ヤバル　˞ゴー˥ラー　シ˞マリ [˞dam˥be:na: ʃi̥˞ki˥taŋ ʃi˞miti saŋgi˥parunda pa˞banu mai˥jabaru ˞go:˥ra: ʃimari](団平船に石炭を積んで引張っていくから、幅の大きいのが < 大きいければこそ > 多く積める)。

パ˞バ˥カー [pa˞ba˥ka:] 【名】ききもの (利き者)。はたらきのある人。精力のある人。幅利き。交渉能力のある人。商売上手。ハ˞バ˥カー [ha˞ba˥ka:] ともいう。トゥ˞ジェー˥　パ˞バ˥カー　ヤ˞ルンダ˥　ブ˞トー　ミンダリ˥ムヌ　˥ナリ　˞ベー [tu˞ʤe:˥ pa˞ba˥ka: ja˞runda˥ bu˞to: mindari˥munu ˥nari ˞be:](妻は利き者 (働き者) だから、夫は大人しくて、やる気のない人 <˞耳垂れ」の義。おとなしく、従順な人 > になっている)。

パ˞バ˥クン [pa˞ba˥kuŋ] 【他動】 1物事を上手に処理する。よく働きかけて調整する。物事が進捗するよう交渉する。ハ˞バ˥クン [ha˞ba˥kuŋ] ともいう (若年層)。ウ˞リヌ˥　パ˞バ˥キ　ッ˞ふィーッタル˥　シ˞グトゥン˥　トゥ˞ミラ˥レール　パ˞バカン˥カー　トゥ˞ミララ˥ヌ [ʔu˞rinu˥ pa˞ba˥ki f˞fi:ttaru˥ ʃi˞gutun˥ tu˞mira˥re:ru pa˞bakaŋ˥ka: tu˞mirara˥nu](彼が積極的に調整して働きかけたから仕事も探せたのであって、働きかけなければ探せない)。ウ˞リヌ˥　パ˞バ˥クンティ　シ˞タンドゥ˥　パ˞バ˥ク　プ˞スヌ˥　ブ˞ラーン˥ナリ　˞ナー˥ヌ [ʔu˞rinu˥ pa˞ba˥kunti ʃi̥˞tandu˥ pa˞ba˥ku pu̥˞sunu˥ bu˞ra:n˥nari ˞na:˥nu](彼が調整して働きかけると言ったが、働きかける人がいなくなってしまった)。˞マー˥ビン　パ˞バ˥ケー˥ミサムヌ [˞ma:˥bim pa˞ba˥ke: ˥misamunu](もっと働きかければ良いのに)。˞パー˥ク　パ˞バ˥キ [˞pa:˥ku pa˞ba˥ki](早く働きかけよ)。2品物を売りつくす。˥バー　シ˞ナムノー˥　ムー˞ル˥　パ˞バ˥ケーン [˥ba: ʃi˞namuno:˥ mu:˞ru˥ pa˞ba˥ke:ŋ](僕の品物は全部売り尽くした)。3大食いする。ぱくつく。˞ヤー˥サカー　˥ヌーテー　˞ナー˥ヌ　ムー˞ル˥　ハ˞バキ˥ス [˞ja:˥saka: ˥nu:te:˞na:˥nu mu:˞ru˥ ha˞baki˥su](ひもじかったら何でも区別せずぱくつく)。

パ˞ビ˥ル [pa˞bi˥ru] 【名】 (動) チョウ (蝶)。ガ (蛾)。「蛾、比々流 (ひひる)」『和名抄』の転訛したものか。ム˞カ˥シェー　パ˞ビル˥ヌ　˞ユー˥ル　˞ヤーン˥ナカー　˞ペー˥リクーカー　シゥ˞カ˥ミティ　ピ˞ネー˥　ヤ˞キティ˥　ク˞サテー˥ニ　˥フカー　˞ナン˥ギ　シ˞トーッ˥タ [mu˞ka˥ʃe: pa˞biru˥nu ˞ju:˥ru ˞ja:n ˥naka: ˞pe:˥riku:ka: si̥˞ka˥miti pi˞ne:˥ ja˞kiti˥ ku̥˞sate: ˥ni ˥ɸu̥ka: ˞naŋ˥gi ʃi̥˞to:t˥ta](昔は蝶 < 蛾 > が夜家の中に入ってきたら、捕まえて触覚 < 鬚 > を焼いて、後ろ手 < 腕を前方から後方へ振りつつ、内側から外側へ捻るように > にして外へ投げ捨てた)。

パ˞ブ [pa˞bu] 【名】 (動) 蛇類の総称。˞マーパブ [˞ma:pabu](毒蛇。体長は普通 60 センチ～1 メートル。頭はほぼ三角形。西表島に棲息する。鳩間島には棲息しない)、タ˞コー˥ラ [ta˞ko:˥ra](無毒の蛇。体長 1 メートル～2 メートル、灰色)、˞アウナ˥ジ [˞ʔauna˥ʤi](無毒の蛇。体長約 50 センチ、青色。水田地帯に生息)、ガ˞ラ˥サパブ [ga˞ra˥sapabu](「烏蛇」の義。無毒。体長約 50 センチ。鳩間島にも大雨の後などに、稀にみられることがある。神の使いといわれている) などがいる。パ˞トゥ˥マー　パ˞ブヌ˥　ブ˞ラーン˥　シマ　ヤ˞ルンダ　ヨーンヌ˥　ミーナーン　パ˞タ˥ケーン　マー˞ン˥　パ˞ラ˥リン [pḁ˞tu˥ma: pa˞bunu˥ bu˞ra:ŋ˥ ʃima ja˞runda jo:nnu˥ mi:na:m pḁ˞ta˥ke:m ma:˞m˥ pa˞ra˥riŋ](鳩間島は毒蛇のいない島だから闇夜の中でも、畑にも何処にも行ける < 行かれる >)。

パ˞ブカクチ [pa˞bukakutʃi] 【名】えら (鰓) が張った顔。へびの頭のように出ばったあご (顎)。「ハブ顎」の義。えらぼねの張った、いかつい顔。カ˞ク˥チェー　˞トゥン˥ガリティ　パ˞ブカクチ˥　ナリ　˞ベー [kḁ˞ku˥tʃe: ˞tuŋ˥gariti pa˞bukakutʃi˥ nari ˞be:](顎は尖って、えら < 鰓 > が張った顔になっている)。

ハ˞ブチャー [ha˞butʃa:] 【名】 (植) ハブソウ。エビスグサ。ハブソウの実を煎ってお茶にしたもの。漢方薬として石垣島から購入していた。ハ˞ブチャー˥ヌ˥ムター˥ル　ヤ˞ル˥ユー　ク˞ダシティ˥　シ˞ビン　オーリトゥーシ　ブー˥サー [ha˞butʃa:˥ nu˞muta:˥ ru ja˞ru˥ju: ku˞daʃi̥ti˥ ʃi˞biŋ ʔo:ritu:ʃiru bu:˥sa:](ハブ

茶を飲んだ所為だろうか、下痢をして、尻に追われ通しでいる＜頻繁にトイレに立つ＞よ)。

パ˞マ [pa˞ma] 【名】浜。鳩間島には˞マイ˥ヌパマ [˞mai˥nupama](前の浜。集落の南海岸、桟橋より東に形成された浜)、˞イントゥ˥マパマ [˞ʔintu˥mapama](桟橋の西側に形成された浜)、ナ˞ラ˥リパマ [na˞ra˥ri-pama](前の浜とフ˞ナ˥バル浜の間に形成された小さな浜。現在の鳩間校グラウンドの南海岸の浜)、フ˞ナ˥バルパマ [ɸu˞na˥barupama](島の東北海岸にある浜。島建ての神々が船を着けた浜という口碑が伝わる)、フ˞カバ˥カパマ [ɸu̥˞kaba˥kapama](シマナカ浜とフナバル浜の中間にある浜)、シ˞マナカ˥パマ [ʃi˞manaka˥pama](桟橋通りを真北に抜けた、島の北岸に形成された浜)、タ˞チ˥バルパナ [ta˞ʧi˥barupama](立原浜。島の北西海岸の浜。ナ˞カウー˥ル [na˞kaʔu:˥ru] やピ˞ザ˥キ [pi˞ʤa˥ki] 方面へ潮干狩りに出る際に利用する浜)、ヤ˞ラヌ˥パマ [ja˞ranu˥pama](屋良の浜)、˞ナードーパマ [˞na:do:pama](長堂浜) などがある。

パ˞マイ [pa˞mai] 【名】飯米。食糧。˞パンマイ [˞pam-mai](飯米。食糧) ともいう。グ˞ニチブンヌ˥　パ˞マイ˥　ス˞コーリティ　パイ˥ター　ア˞ロー˥ナ　˞シン　オーッ˥タ [gu˞nitʃibunnu˥ pa˞mai˥ su̥˞ko:riti pai˥ta: ʔa˞ro:˥na ˞ʃiŋ ʔo:t˥ta](五日分の飯米を用意して西表島へ最初の田こなし＜荒ごなし＞をしに行かれた)。イ˞ズン˥　タクン　˥ガシシケーバ　˞ソーヤ　ナー˥ヌ　˞ダン˥シ　˞マイ˥　ッサイティ　パ˞マイ˥　ス˞コーリ [ʔi˞ʤun˥ takuŋ ˥gaʃiʃi̥ke:ba ˞so:ja na:˥nu ˞daŋ˥ʃi ˞mai˥ ssaiti pa˞mai˥ su̥˞ko:ri](魚も蛸も焙乾してあるから心配ない。早く米を搗いて＜精げて＞飯米を用意しなさい)。

パ˞マ˥ウリ [pa˞ma˥ʔuri] 【名】浜へ下りること。旧暦三月三日の大潮の日の干潮時に女性が潮干狩りに出ること。女性が魔除け、邪気払いのために浜へ下り、潮干狩りをすること。˞サングヮ˥チサニチェー　ミ˞ドゥ˥モー　パ˞マ˥ウリ　˞シー˥　イ˞ソー˥　パルカー　ヤ˞ク˥バライ　˥ナルンツォー [˞saŋgwa˥ʧisanitʃe: mi˞du˥mo: pa˞ma˥ʔuri ˞ʃi:˥ ʔi˞so:˥ paruka: ja˞ku˥barai ˥naruntso:](三月三日は女は浜下りをして、潮干狩りに行くと厄払いになるそうだ)。

パ˞マウリソー˥ジ [pa˞maʔuriso:˥ʤi] 【名】「浜下り精進」の義。旧暦 3 月の庚の日を選んで執り行われる。別名バ˞タミチソー˥ジ [ba˞tamiʧiso:˥ʤi](腹満ち精進) ともいわれる。虫祓いの祈願。部落の住民総出で、˥サンシキ [˥saŋʃiki](桟敷) に集まり、˞ウイヌ˥ウガン [˞ʔuinu˥ʔugaŋ](友利御嶽) でサ˞カサ [sḁ˞kasa](司) やティ˞ジリ˥ビー [ti˞ʤiri˥bi:](男性神職者) が「稲の下葉の願い」をしている間、ヤ˞ク˥サ [ja˞ku˥sa](村役人) の指示に従って一斉にサンシキで就寝し、村役人が両手でバタバタと羽音を作ってコケコッコーという鶏鳴の合図をすることによって起き、ご馳走＜昼食＞を食べて帰宅した。この祈願は、友利御嶽において他の四箇所の御嶽の分まで、ウ˞トゥー˥シ [ʔu˞tu:˥ʃi](遥拝) で祈願される。合計イ˞チ˥ヤマ [ʔi˞ʧi˥jama](五箇所の御嶽) の祈願が執り行われるものである。ムラヤクサ (村役人) 達は手分けして˥イダフニ [˥ʔidaɸuni](サバニ) に分乗し、西表島の˞タータバ˥ル [˞ta:taba˥ru](田原) へ行き、˞ユシキ˥ヌサン [˞juʃi̥ki˥nusaŋ](ススキで作ったサン) を田圃の中に差し立てて島に帰った。「浜下り精進」の三日前の夜、村ヤクサたちによって˥ッサレー [˥ssare:](知らせごと。お触れごと)」が行われる。声色を使って、声の主が誰であるか分からないように「ッサレー」を申し述べる。闇の中から「ッサレーッサレー」という声が聞こえると、家の中の母親たちが畏まって、「˞オー [˞ʔo:](はい)」と答えた。親達は、それを神の声として聞き、謹んで応答したものである。ややあって、戸外の闇の中から、˞アシ˥トー　パ˞マウリソー˥ジ　ア˞タリオーッ˥タ　シ˞キン˥ドゥ　カ˞マチヌ　マーラヌ˥　カキソージ　ピ˞ナカンヌ　マイ˥ヌ　ア˞ガムノーマ˥ヌ　カ˞キン˥グ　˞シー˥　タ˞ボー˥ローリ」[˞ʔaʃi̥˥to: pa˞ma˥ʔuriso:˥ʤi ʔa˞tariʔo:t˥ta ʃi̥˞kin˥du ka˞maʧinu ma:ranu˥ kḁkiso:ʤi pi˞nakannu mai˥nu ʔa˞gamuno:ma˥nu kḁ˞kiŋ˥gu ˞ʃi:˥ ta˞bo:˥ro:ri](明後日は「浜下り精進」に当っておりますので、竈の回りの掃除、火の神様の前の「赤もの」＜火＞の用心＜格護＞をよくしてください) というと、家の中の者は「˞ウ˥ー [˞ʔu˥:](畏まりました)」と答えた。これを全戸に触れまわって唱えたものである。唱え方が下手な人は、声の主が誰だと分かるので、「ッサレー」が帰った後、家の中は哄笑の渦となるのことがあった。それでも親立ちは、「シーッ」といって子供達をたしなめ＜窘＞た。昔は、パ˞マウリソー˥ジの日に、日頃の行いの悪い人や˞グイ˥フゾーノー [˞gui˥ɸuʤo:no:](貢納布) の検査で不合格となった女性がサンシキに引き出されて、˞トゥン˥ガー　˞ッふァーサリタ [˞tuŋ˥ga: f˞fa:sarita](˞科を食わされた」、罰を与えられた) といわれている。

パ˞マ˥カザ [pa˞ma˥kaʤa] 【名】(植) カズラの名。グ

ンバイヒルガオ。˩バン˥テヌ　˥マンタヌ　パ˩マ˥ナー　パ˩マカザ˥ヌ　˩イッ˥パイ　˥ムイティ　˥パナン　サ˩ク˥タン˩ダー [˩ban˥tenu ˥mantanu pa˩ma˥na: pa˩makaʤa˥nu ˩ʔip˥pai ˥muiti ˥panan sa˩ku˥tan˩da:](我が家の前の浜にはグンバイヒルガオが沢山生えていて、花も咲いたよ)。

パ˩マ˥カジ [pa˩ma˥kaʤi] 【名】浜風。海から陸の方へ吹く風。パ˩マンパタ˥ヌ　˩ヤー˥ヤ　パ˩マカジ˥ヌ　˩スーンダ˥　カ˩ジボー˥ンドゥ　ナ˩チェー˥　ピ˩ラ˥ケーン [pa˩mampata˥nu ˩ja:˥ja pa˩makaʤi˥nu ˩su:nda˥ ka˩ʤibo:˥ndu na˩ʧe:˥ pi˩ra˥ke:ŋ](浜端 < 浜辺 > の家は、浜風が吹くから風が強いが夏は涼しい)。

パ˩マザ˥キ [pa˩maʤa˥ki] 【名】(地) 鳩間島の南海岸に形成された砂浜は島人の生産的、宗教的生活の基点として重要な機能を持つ浜で、˩マイ˥ヌパマ [˩mai˥nupama](前の浜) という。干潮時になると、この浜の東南の方から砂洲が沖へ約 100 メートルほど延びる。この砂洲の干瀬をパ˩マザ˥キ [pa˩maʤa˥ki](浜崎) という。現在は防波堤がその上に建造されている。防波堤が建造される以前は、干潮時に白鷺(シラサギ)やカモメが降り立って餌をついばみ、満潮時にはカツオドリが波間を飛び交っていた。˩スー˥ヌ　˥ピスカー　パ˩マザキ˥ヌ　サ˩キバー˥キン　ア˩ラ˥キ　パ˩ラリ˥タン [˩su:˥nu ˥pi̥suka: pa˩maʤaki˥nu sḁ˩kiba:˥kiŋ ʔa˩ra˥ki pa˩rari˥taŋ](潮が引くと浜崎の先まで歩いて行けた)。

パ˩マザラ˥シ [pa˩maʤara˥ʃi] 【名】布を海水で洗って浜に干し、日光に晒すこと。主として貢納布を晒したという。˥マンタヌ　パ˩マ˥ナール　˩グイ˥ホー　パ˩マザラ˥シ　˩ソーッ˥タティ˩ダー [˥mantanu pa˩mana:˥ru ˩gui˥ho: pa˩maʤara˥ʃi ˩so:t˥tati˩da:](前の浜で貢納布 < 御用布 > は浜晒しされたそうだよ)。

パ˩マダー˥チ [pa˩mada:˥ʧi] 【連】浜沿いに。浜づたいに。浜に沿って。˥クマーラ　パ˩マダー˥チ　ア˩ラ˥キ　˥パルカー　フ˩ノー˥ラー　パ˩ラ˥リン [˥kuma:ra pa˩mada:˥ʧi ʔa˩ra˥ki ˥paruka: ɸu˩no:˥ra: pa˩ra˥riŋ](ここから浜沿いに歩いて行くと船浦に行ける)。

パ˩マチジュ˥ヤー [pa˩maʧiʤu˥ja:] 【名】浜千鳥節。パ˩マチジュ˥ヤーナー　パ˩トゥマ˥ヌ　ク˩クヌチ˥ヌ　パ˩マヌ˥　ク˩トゥ˥ル　˥ウタナー　カ˩キラ˥リ　イ˩ザリ　ブー˥ダー [pa˩maʧiʤu˥ja:na: pḁ˩tuma˥nu ku̥˩kunuʧi˥nu pa˩manu˥ ku̥˩tu˥ru kḁ˩kira˥ri ʔi˩ʤari bu:˥da:](浜千鳥節には、鳩間の九つの浜のことが歌に掛けられて歌われているよ)。

パ˩マバ˥タ [pa˩maba˥ta] 【名】浜辺。浜の上。「浜端」の義。˩バン˥テーヤ　パ˩マバタ˥ヌ　˥ヤー　ヤ˩ルンダ˥　ノー˩ン˥　サ˩バン˥　イッ˩ケナ˥　タ˩ユル˥ヌ　˥アン [˩ban˥te:ja pa˩mabata˥nu ˥ja: ja˩runda˥ no:˩n˥ sa˩baŋ˥ ʔik˩kena˥ ta˩juru˥nu ˥ʔaŋ](私の家は浜辺 < 浜端 > にある家だから何をするにしても非常に便利がいい)。

パ˩マ˥ヤー [pa˩ma˥ja:] 【名】浜に造った小屋。「浜屋」の義。魚網や漁具類を収納するのに利用した小屋。また糸満漁民が鳩間島で季節的に漁をする際は、浜で簡単な小屋を作って短期間の宿泊に利用した。˥アンティバ　ッ˩サ˥ジナティバ　イ˩ソードンゴー˥　パ˩マ˥ヤーナール　˩イットゥ˥キ　カ˩キン˥グ　˩ソーッ˥タ [˥ʔantiba s˩sa˥ʤinatiba ʔi˩so:doŋgo:˥ pa˩ma˥ja:na:ru ˩ʔittu˥ki kḁ˩kiŋ˥gu ˩so:t˥ta](網とか草綱 < 追い込み漁の魚威し綱 > とかの漁具類は一時的に浜小屋で保管された)。

パ˩マ˥ル [pa˩ma˥ru] 【名】貝の名。ハマグリ (蛤)。若年層の言葉。老年層は、パ˩モー˥ル [pa˩mo:˥ru](蛤) という。ピ˩ザフチ˥ヌ　イ˩ノン˥　ティーシ　˥ガジティ　パ˩マ˥ル　˥カキ　˥クーバ [pi˩ʤaɸuʧi˥nu ʔi˩non˥ ti:ʃi ˥gaʤiti pa˩ma˥ru ˥kḁkiku:ba](渚 < 波打ち際 > の砂を手で掻き寄せて蛤を掻き取ってきなさいよ)。

パ˩マ˥ルン [pa˩ma˥ruŋ] 【自動】一生懸命努力する。一生懸命頑張る。若年層は、ハ˩マ˥ルン [ha˩ma˥ruŋ](一生懸命頑張る) ともいう。ティ˩マ˥ヌサーギ　タ˩カー˥カー　パ˩マ˥ルンティ　ス˩クタヌ˥　ヌンティ　パ˩マラン˥ワ [ti˩ma˥nusa:gi tḁ˩ka:˥ka: pa˩ma˥runti su̥˩kutanu˥ nunti pa˩maraŋ˥wa](手間賃がさえ高ければ一生懸命頑張ると聞いたが、どうして一生懸命頑張らないか)。パ˩マ˥リティ　シ˩グトゥ　シー [pa˩ma˥riti ʃi˩gutu ʃi:](一生懸命頑張って仕事をしなさい)。パ˩マ˥ル　プ˩スンドゥ˥　˩モーキ˥ル [pa˩ma˥ru pu̥˩sundu mo:ki˥ru](一生懸命頑張る人が儲ける)。˩マー˥ビン　パ˩マ˥リ [˩ma:˥bim pa˩ma˥ri](もっと一生懸命頑張れ)。パ˩マ˥レー　˥ミサムヌ [pa˩ma˥re: ˥misamunu](一生懸命頑張れば良いのに)。

パ˩マン˥　パタ [pa˩mam˥ pḁta] 【連】浜の端。浜の側。パ˩マン˥　パタナ　˥ヤー　ス˩ク˥ルン [pa˩mam˥ pḁtana ˥ja: su̥˩ku˥ruŋ](浜の側に家を作る)。

パ˩マン˥パタヤー [pa˩mam˥pḁtaja:] 【名】海岸の家。

「浜の端の家」の義。˞バン˥テーン　˞ワッ˥テーン　パ˞マン˥パタヤー　˞ヤッタ˥ナー [˞ban˥teːŋ ˞wat˥teːm pa˞mam˥pḁtaja: ˞jatta˥naː](私の家も君の家も浜端の家だったねえ)。

パ˞ミ˥ルン [pa˞mi˥ruŋ] 【他動】はめる (嵌)。くぼみに入れて固定する。差し込む。年層は、ハ˞ミ˥ルン [ha˞mi˥ruŋ](嵌める) ともいう。ボ˞タン˥　パ˞ミ˥ルンティ　˞スンドゥ˥　パ˞ミララ˥ヌ [bo˞tam˥ pa˞mi˥runti ˞sundu˥ pa˞mirara˥nu](ボタンを嵌めようとするが、嵌められない)。˞ウー˥キナ　タ˞マガラ˥ス　˥パミティル　タ˞マウー˥キ　ス˞クル˥タ [˞ʔuː˥kina: ta˞ma-gara˥su ˥pamitiru ta˞maʔuː˥ki su̥˞kuru˥ta](桶の底にガラスを嵌めてガラス桶 < 水中を覗く桶 > を作った)。

パ˞モー˥ル [pa˞moː˥ru] 【名】 (動) 二枚貝の一種。はまぐり (蛤)。「蚌蛤、波万久理 (はまぐり)」『和名抄』の転訛。*[pamakurï] → *[pamaɸuri] → *[pamauri] → [pamoːru] と音韻変化したもの。海辺のピ˞ザ˥フチ [pi˞ʤa˥ɸu̥˞tʃi](渚。波打ち際) の砂地に棲息する。手や足で砂を掻くと出てくる。貝長 1〜1,5 センチの二枚貝。煮ると旨み成分の琥珀酸(コハクサン)が滲出(シンシュツ)して美味である。˥マンタヌ　パ˞マー˥ラ　パ˞モー˥ル　˥カキ　˥キー　˥スー　バ˞カシ˥バ [˥mantanu pa˞maː˥ra pa˞moː˥ru ˥kḁki ˥kiː ˥suː ba˞kaʃi˥ba](前の浜から蛤を掻き出してきてお汁に炊きなさいよ)。

パ˞ヤー˥キ [pa˞jaː˥ki] 【名】南側。南の方。ニ˞シェーキ [ni˞ʃeːki](北側) の対義語。˞イーリキ [˞ʔiːriki](西側) の対義語は˞アーリキ [˞ʔaːriki](東側)。ウ˞ブ˥マイミチヌ　パ˞ヤー˥キナール　イ˞ラ˥カマイヤー　˥アル [ʔu˞bu˥maimitʃinu pa˞jaː˥kinaːru ʔi˞ra˥kamaijaː ˥ʔaru](大前道の南側にイ˞ラ˥カマイ [ʔi˞ra˥kamai]< 地名。˞薑前」の義 > はある)。

パ˞ヤーパヤ [pa˞jaːpaja] 【副】早々。たいそう早いさま。ユ˞ダル˥　ピ˞カンドー˥シ　˞マー˥ビン　パ˞ヤーパヤ˥シ　シ˞グトー　シー˥バ [ju˞daru˥ pi̥˞kandoː ˥ʃi ˞maː˥bim pa˞jaːpaja: ˥ʃi ʃi˞guto: ʃiː˥ba](だらだらと涎を垂らしたようにしないで < 涎を引かないで > もっと早々と仕事をしなさいよ)。

パ˞ヤーパヤー˥シ [pa˞jaːpaja: ˥ʃi] 【副】手早く。すばやく。早々と。「Fayabaya. ハヤバヤ (早々) 副詞. 速やかに.」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞マー˥ビン　パ˞ヤーパヤー˥シ　˥カキバ [˞maː˥bim pa˞jaːpaja: ˥ʃi ˥kḁkiba](もっと手早く書きなさいよ)。

パ˞ヤーラ˥スン [pa˞jaːra˥suŋ] 【他動】流行らす。自動詞パ˞ヤー˥ルン [pa˞jaː˥ruŋ](流行る) の未然形に使役の助動詞˥スン [˥suŋ](〜せる、〜させる) が下接して形成された使役の派生動詞。˞プーキ˥　パ˞ヤーラ˥スン [˞puːki˥ pa˞jaːra˥sunŋ](風土病 < マラリア > を流行させる)。˥ウタ　パ˞ヤーラ˥スン [˥ʔuta pa˞jaːra˥suŋ](歌を流行らせる)。

パ˞ヤーリ˥ウタ [pa˞jaːri˥ʔuta] 【名】流行歌。「はやりうた」の義。戦後の昭和 22 年から 35 年頃、鳩間島で若者が多かった時代、石垣島の映画館で上映された映画の主題歌の歌詞をノートに書き写して歌うのが流行っていた。パ˞ヤーリ˥ウタ　ア˞ツァ˥ミティ　˥ウタチョー　ス˞ク˥リ　˥シケー [pa˞jaːri˥ʔuta ʔa˞tsa˥miti ˥ʔutatʃoː su̥˞ku˥ri ˥ʃi̥keː](流行歌を集めて歌帳 < 歌集 > を作ってある)。

パ˞ヤーリ˥ミー [pa˞jaːri˥miː] 【名】流行性結膜炎。流行性眼病。「はやりめ (流行眼)」の義。パ˞ヤーリミー˥ヤ　ウ˞チリ　ヤッ˥サンダ　プ˞スヌ˥　サジェー　シゥ˞カウナ˥ヨー [pa˞jaːrimiː˥ja ʔu˞tʃirijas˥sanda pu̥˞sunu˥ saʤeː si̥˞kauna˥joː](流行性結膜炎は伝染し < うつり > やすいから、他人の手拭は使うなよ)。

パ˞ヤーリ˥ヤン [pa˞jaːri˥jaŋ] 【名】 伝染病。流行病。「はやりやまい < 流行病 >」の義。パ˞ヤーリヤン˥ヌ　パ˞ヤー˥リ　˞アーキ˥バ　ピ˞ルバ˥　イトゥナー　ヌ˞キティ˥　パ˞キ　アー˥キ [pa˞jaːrijan˥nu pa˞jaː˥ri ˞ʔaːki˥ba pi˞ruba˥ ʔituna nu˞kiti˥ pḁ˞ki ʔaː˥ki](伝染病が流行っているから、大蒜(ニンニク)を糸に貫いて首に掛けて <穿(ハ)いてあるけ > いなさい)。

パ˞ヤー˥ル [pa˞jaː˥ru] 【名】 1はやり (流行)。パ˞ヤー˥ルティ　˞シー˥　ノー˞ンシェー˥ル　˥ムーン　マ˞ナマ˥ヌ　ヤ˞ラ˥ベー　キ˞シスト ツォーカ [pa˞jaː˥ruti ˞ʃiː˥ noː˞ŋʃeː˥ru ˥muːm ma˞nama˥nu ja˞ra˥beː ki̥˞ʃisu˧tsoːka](流行だからといって、どんなものでも、今の子供は着るんだよ、< 信じられない!>)。2伝染病 < 風邪 >。フ˞チン˥パーヤ　パ˞ヤール˥ヌ　フ˞チ˥ル　˞ヤッタ˧ダー [ɸu̥˞tʃim˥pa:ja pa˞jaːru˥nu ɸu̥˞tʃi˥ru ˞jatta˧daː](よもぎの葉 <˞蓬葉」の義 > は流行病 < 風邪 > の薬だったよ)。

パ˞ヤー˥ルン [pa˞jaː˥ruŋ] 【自動】流行する。はやる (流行る)。ク˞トゥシェー˥　パ˞ナシキヌ˥　パ˞ヤー˥ルンティ　˞シバ˥　パ˞ヤーラン˥ケン　˞チュー˥サ　イ˞リシミリ [ku̥˞tuʃeː˥ pa˞naʃi̥kinu˥ pa˞jaː˥runti ʃi ˞ba˥ pa˞jaːraŋ˥ken ˞tʃuː˥sa ʔi˞riʃimiri](今年は風邪が流行るというから、流行らないうちに注射を打たせなさい)。キ˞サーティ˥　パ˞ヤー˥リ　ナ˞ー˥ヌ [ki˞saːti˥ pa˞jaː˥ri ˞naː˥nu](既に流行ってしまった)。パ˞

ナシキヌ˺　パ˹ヤー˺ル　˺ピンマー　˹キー˺　シ˹キ˺リ [pa˹naʃi̥kinu˺ pa˹ja:˺ru ˺pimma: ˹ki:˺ ʃi̥˹ki˺ri](風邪が流行る時は気をつけなさい)。マ˹ナ˺マ　パ˹ナシキヌ˺　パ˹ヤー˺レーラ　˹デー˺ジゲ˹ゲ˺ラ [ma˹na˺ma pa˹naʃi̥kinu˺ pa˹ja:˺re:ra: ˹de:˺ʤi˹ge˺ra](今風邪が流行ったら大変さ)。

パ˹ヤー˺ン [pa˹ja:˺ŋ]【形】早い。速い。ミ˹ドーン˺ッふァー　˺ムネー　パ˹ヤーン˺ティ　ア˹ズヌ˺　ク˹ヌ　ッふァー˺　ムネー　パ˹ヤー　ナー˺ヌ [mi˹do:ŋ˺ ffa: ˺mune:: pa˹ja:n˺ti ʔa˹ʣunu˺ ku˹nu ffa:nu˺ mune: pa˹ja: na:˺nu](女の子の喋り＜物言い始め＞は早いというが、この子の喋り＜物言い始め＞は早くない)。ム˹ニ˺ヌ　パ˹ヤー˺ヌ　シゥ˹カラヌ [mu˹ni˺nu pa˹ja:˺nu sï̥˹karanu](話＜物言い＞が早くて、理解できない＜聞き取れない＞)。˹シンダイ˺　パ˹ヤー˺　ナルン [˹ʃindai˺ pa˹ja:˺ naruŋ](次第に早くなる)。パ˹ヤー˺　クトー　˹ナー˺ヌ [pa˹ja:˺ ku̥to: ˹na:˺nu](早いことはない)。ム˹ニ˺ヌ　パ˹ヤー˺カー　シ˹キトゥララヌ＜シ˹キトゥララ˺ヌ＞[mu˹ni˺nu pa˹ja:˺ka: ʃi̥˹kituraranu＜ʃi˹kiturara˺nu＞](話しかた＜物言い＞が早いと聞き取れない)。˹マー˺ビン　パ˹ヤーパヤー˺シ　パ˹ナ˺シバ [˹ma:˺bim pa˹a:paja:˺ʃi pa˹na˺ʃiba](もっと早く＜早々と＞話しなさいよ)。

パ˹ヤアガ˺リ [pa˹jaʔaga˺ri]【名】早上り。早仕舞い。仕事などを定刻より早く終えること。˹キューヤ˺　シ˹グトー˺　パ˹ヤアガ˺リ　˹シー˺バ˹ヨー [˹kju:˺ja ʃi˹guto:˺ pa˹jaʔaga˺ri ˹ʃi:˺ba˹jo:](今日は、仕事は早上りしなさいね)。

パ˹ヤ˺アシ [pa˹ja˺ʔaʃi]【名】早足。足早。ア˹シパヤー˺ン [ʔa˹ʃipaja:˺ŋ](足早い。歩くのが早い) の名詞化したもの。˺マー　ン˹ベーマ˺　パ˹ヤ˺アシシ　ア˹ラ˺キバ [˺ma: ʔm˹be:ma˺ pa˹ja˺ʔaʃiʃi ʔa˹ra˺kiba](もう少し早足で歩きなさいよ)。

パ˹ヤ˺イキ [pa˹ja˺ʔiki]【名】早い呼吸。激しく呼吸をすること。「早息」の義。イ˹キ˺フキ [ʔi˹ki˺ɸu̥ki](喘ぎ)、˹アーフキ [˹ʔa:ɸu̥ki](喘ぎ) ともいう。˹パッツァー˺シ　˹クータ˺ル　パ˹ヤ˺イキ (イ˹キ˺フキ)　˹シーベー [˹pattsa:˺ʃi ˹ku:ta˺ru pa˹ja˺ʔiki(ʔi˹ki˺ɸu̥ki) ˹ʃi:be:](走って来たので激しく呼吸をしている＜早息をついている＞)。

パ˹ヤ˺ウキ [pa˹ja˺ʔuki]【名】早起き。˺アツァー　˹トーサ˺　トゥリン　˹パイ˺ター　パ˹リ˺バ　パ˹ヤ˺ウキ　˹シー˺ヨー [˺ʔatsa: ˹to:sa˺ turim ˹pai˺ta: pa˹ri˺ba pa˹ja˺ʔuki ˹ʃi:˺jo:](明日は田草を取りに西表＜南端＞へ行くから、早起きしなさいね)。

パ˹ヤ˺ウタ [pa˹ja˺ʔuta]【名】調子の早い歌。軽快なリズムの歌。早節。「早歌」の義。マ˹ミドー˺マン　パ˹トゥ˺マブシン　パ˹ヤ˺ウタシル　イ˹ゾー˺ル [ma˹mido:˺mam pḁ˹tu˺mabuʃim pa˹ja˺ʔutaʃiru ʔi˹ʣo:˺ru](マミドーマ節も鳩間節も早節＜早歌＞で歌われる)。パ˹ヤ˺ウター　ピ˹キティ˺　ザー　プ˹ミカシ˺バ [pa˹ja˺ʔuta: pi̥˹kiti˺ ʣa: pu˹mikaʃi˺ba](早歌を三線で弾いて座敷を賑わしなさいよ)。

パ˹ヤ˺カジ [pa˹ja˺kaʤi]【名】台風シーズン以前に吹く台風。新暦の五、六月頃に吹く台風。「早風」の義。ム˹カ˺シェー　マ˹ルケーティ˺ナー　パ˹ヤカジ˺ヌ　˺フク　˺トゥシン　˹アッ˺タン [mu˹ka˺ʃe: ma˹ruke:ti˺na pa˹jakaʤi˺nu ˺ɸu̥ku ˺tu̥ʃiŋ ˹ʔat˺taŋ](昔は、稀には暴風シーズン以前に台風が吹く年もあった)。

パ˹ヤガッ˺ティン [pa˹jagat˺tiŋ]【名】早合点。パ˹ヤガッ˺ティン　˹サンドー˺シ　プ˹スヌ˺　ムネー　シカイ˹トゥ˺　シ˹キティ　ピントー　シー˺バ [pa˹jagat˺tin ˹sando:˺ʃi: pu̥˹sunu˺ mune: ʃi̥kai˹tu˺ ʃi̥˹kiti pinto: ʃi:˺ba](早合点をしないで、他人の話をしっかりと聞いてから返答をしなさいよ)。

パ˹ヤ˺シ [pa˹ja˺ʃi]【名】歌謡語の「はやし」(囃子)。日常会話では、˹ヘー˺シ [˹he:˺ʃi](囃子) という。歌謡の中や終わりに、地方(ジカタ)＜地謡＞や囃子方がそれを入れて調子を整え、雰囲気を盛り上げる語句。日常会話では、動詞˹パー˺スン [˹pa:˺suŋ](はやす) の名詞形として、˹パー˺シ [˹pa:˺ʃi](囃子) ともいう。ヘーシは、[hajaʃi] → [he:ʃi] と音韻変化したもの。パ˹トゥ˺マクドゥケー　パ˹ヤシヌ˺ル　イッ˹ケナ˺　ウ˹ムッ˺サ˹ツォー [pḁ˹tu˺makuduke: pa˹jaʃinu˺ru ʔik˹kena˺ ʔu˹mus˺sa˹tso:](鳩間口説は囃子が非常に面白いんですよ)。会話では、˹ヘー˺シ　イ˹リリ [˹he:˺ʃi ʔi˹riri](囃子を入れよ) のようにいう。

パ˹ヤシガ˺キ [pa˹jaʃiga˺ki]【名】仕事に早く取り掛かること。早朝開始。「早仕掛け」の義。˺アツァー　シ˹グトー˺　パ˹ヤシガ˺キ　ヤ˹ルンダ　パー˺クニ˹ビ [˺ʔatsa: ʃi˹guto:˺ pa˹jaʃiga˺ki ja˹unda pa:˺kuni˹bi](明日は、仕事は早朝開始＜早仕掛け＞だから、早く寝ろ)。

パ˹ヤ˺シニ [pa˹ja˺ʃini]【名】早死。若死。イ˹サ˺ヌ　˹オーラン˺シマ　ヤ˹ルンダ˺　ム˹カ˺シェー　パ˹ヤ˺シニ　˹スー　プスヌ　ゴー˺ラータン [ʔi˹sa˺nu ˹ʔo:raŋ˺ ʃima ja˹runda˺ mu˹ka˺ʃe: pa˹ja˺ʃini ˹su:˺ pu̥˹sunu go:˺ra:taŋ](医者のいない島だから、昔は早死

にする人が多かった)。

パ˞ヤスー˥リ **[pa˞jasu:˥ri]** 【名】1子供の成長が早いこと。早熟すること。ヤ˞ラ˥ベー　パ˞ヤスー˥リ　˞シー　ミーッサラン˥シェンバン [ja˞ra˥be: pa˞jasu:˥ri ˞ʃi: mi:ssaraŋ˥ʃembaŋ](子供は成長が早くて、すぐには識別＜見知ること、気付き＞できなかったよ)2病人や産婦などの回復が早いこと。˥シラプソー　パ˞ヤスー˥リ　˞シー　オーパ˥ヤー　˥フカー　˥ンジェーティ　˞アーク˥バン [˥ʃirapu̥so: pa˞jasu:˥ri ˞ʃi: ʔo:pa˥ja: ˥ɸu̥ka: ˥ʔnʤe:ti ˞ʔa:ku˥baŋ](産婦は回復が早くて、そんなにも早く外出しているわい)。

パ˞ヤスクリ˥ムヌ **[pa˞jasu̥kuri˥munu]** 【名】わせ(早生)。時期より早めに作る作物。パ˞ヤスクリムヌ˥ル　˞カーサバン　ダイヤー˥　ムトゥンダ　ウ˞リ˥　ス˞ク˥リ˞ヨー [pa˞jasu̥kurimunu˥ru ˞ka:saban daija:˥ mutunda ʔu˞ri˥ su̥˞ku˥ri˞jo:](早生(ワセ)の品種が売っても高値になる＜値段は持つ＞から、それを栽培し＜作り＞なさいよ)。

パ˞ヤ˥ドゥームティ **[pa˞ja˥du:muti]** 【名】早婚。「早身持ち」の義。「Mimochi. ミモチ(身持)　妊娠. Cano vonna mimochini natta、かの女身持になった、〜」『邦訳日葡辞書』の転訛。ミ˞ドーン˥ッふァー　ムー˞ル˥　パ˞ヤ˥ドゥームティ　˞シー˥　パレーンティ˞ダー [mi˞do:n˥ffa: mu:˞ru˥ pa˞ja˥du:muti ˞ʃi:˥ pare:nti˞da:](女の子は皆早婚して嫁いでしまったそうだよ)。

パ˞ヤ˥ナイ **[pa˞ja˥nai]** 【名】早苗。早稲の苗。ク˞ヌ　ター˥ヤ　˞ニン˥ニン　パ˞ヤナイ˥バ　イ˞ビル˥　ス˞ク˥リ˞ブー [ku˞nu ta:˥ja ˞nin˥nim pa˞janai˥ba ʔi˞biru˥ su̥˞ku˥ri ˞bu:](この田圃は毎年早苗を植えて作っている)。

パ˞ヤ˥ニビ **[pa˞ja˥nibi]** 【名】早寝。パ˞ヤ˥ニビ　˞シーティ˥　パ˞ヤ˥ウキ　サ˞バル˥　ドゥーガンゾー　˥ナルティ　ム˞カ˥シェーラ　ア˞ザリ　ブー [pa˞ja˥nibi ˞ʃi:ti˥ pa˞ja˥ʔuki sa˞baru˥ du:ganʤo: ˥naruti mu˞ka˥ʃe:ra ʔa˞ʤari bu:](早寝して早起きすれば＜ぞ＞健康＜胴頑丈＞になると昔からいわれている)。

パ˞ヤノー˥リ **[pa˞jano:˥ri]** 【名】早く熟すること。「早実り」の義。˞イー　オーシキ˥サーリ ＜˞オーシキヌ　カイ˥ヤンダ＞　ク˞トゥシヌ　マイヤー˥　パ˞ヤノー˥リ　˞シー　ブー˥サー [˞ʔi: ʔo:ʃi̥ki˥sa:ri＜˞ʔo:ʃikinu kai˥janda＞ ku̥˞tuʃinu maija:˥ pa˞jano:˥ri ˞ʃi: bu:˥sa:](よい天気で＜天気が良いから＞今年の稲は早く熟しているよ)。

パ˞ヤ˥パン **[pa˞ja˥paŋ]** 【名】早足。˞ダーラダーラ˥シ　ア˞ラカン˥ドーシ　˞マー˥ビン　パ˞ヤ˥パンシ　ア˞ラ˥キバ [˞da:rada:ra˥ʃi ʔa˞rakan˥do:ʃi ˞ma:˥bim pa˞ja˥paŋʃi ʔa˞ra˥kiba](だらだらと歩かないで、もっと早足で歩きなさいよ)。

パ˞ヤ˥ブシ **[pa˞ja˥buʃi]** 【名】テンポの早い歌。ハ˞ヤ˥ブシ [ha˞ja˥buʃi] ともいう。「早節」の義。伊良波尹吉がアレンジして、全国的に人口に膾炙されるようになった「鳩間節」など。˞ザーピラ˥キナー　ウ˞ブ˥ウタ　イ˞ゾー˥リ　カ˞ルイ˥シキ　˞ソー˥ルカー　˥アトー　ハ˞ヤ˥ブシ　ピ˞キティ˥　パ˞ネーカ˥ソーリバ [˞ʤa:pira˥kina: ʔu˞bu˥ʔuta ʔi˞ʤo:˥ri ka˞rui˥ʃi̥ki ˞so:˥ruka: ˥ʔato: ha˞ja˥buʃi pi̥˞kiti˥ pa˞ne:ka˥so:riba](開演＜座開き＞に荘重な本節＜大歌＞を歌われて幸運祈願＜嘉例付(カリーツケ)＞されたら、後は早節を弾いて一座を賑(ニギ)わして＜華やかして＞ください)。

パ˞ヤ˥フチ **[pa˞ja˥ɸu̥ʧi]** 【名】1早口。はやことば。ことばの言い方が早いこと。ウ˞レー˥　パ˞ヤ˥フチ　ヤ˞ルンダ˥　ムネー　シ˞キグリ˥サン [ʔu˞re:˥ pa˞ja˥ɸu̥ʧi ja˞runda˥ mune: ʃi̥˞kiguri˥saŋ](彼は早口だから言葉は聴きづらい)。2急いで食べること。パ˞ヤ˥フチシ　˞イー˥ヤ　ッ˞ふァーン　ブリ˥バ [pa˞ja˥ɸu̥ʧiʃi ˞ʔi:˥ja f˞fa::m buri˥ba](早口でご飯は食べるなよ)。

パ˞ヤ˥フニ **[pa˞ja˥ɸuni]** 【名】はやぶね(早船)。急ぎの船。パ˞ヤ˥フニ　タ˞ナ˥ミ　イ˞ラムティバー˥キサーギ　˥パルカー　˞ゾーキ˥ナ　マ˞ニ˥アウン [pa˞ja˥ɸuni ta˞na˥mi ʔi˞ramutiba:˥kisa:gi ˥paruka: ˞ʤo:ki˥na ma˞ni˥ʔauŋ](早舟を頼んで西表までさえ行けば台湾航路の定期蒸気船に間に合うよ)。

パ˞ヤマーラ˥シ **[pa˞jama:ra˥ʃi]** 【名】早逝。早く亡くなること。ウ˞ヌ˥　プ˞ソー˥　パ˞ヤマーラ˥シ　˞ソー˥リ　˞ナー˥ヌ [ʔu˞nu˥ pu̥˞so:˥ pa˞jama:ra˥ʃi ˞so:˥ri ˞na:˥nu](その人は早世されてしまった)。

パ˞ヤ˥マイ **[pa˞ja˥mai]** 【名】早稲。早く収穫できる品種の米。ク˞ヌ　ター˥ヤ　パ˞ヤ˥マイ　イ˞ビラン˥カー　˞ノーラ˥ヌ [ku˞nu ta:˥ja pa˞ja˥mai ʔi˞biraŋ˥ka: ˞no:ra˥nu](この田圃には早稲品種の稲を植えないと実らない)。

パ˞ヤ˥マリ **[pa˞ja˥mari]** 【名】早生まれ。一月から三月の間に生まれること。早生まれの子は一歳上の子と一緒に入学する。˥バー　パ˞ヤ˥マリ　ヤ˞ルンダ　ウッツァー˥トー　ユ˞ヌ˥トゥシェー　ア˞ラ˥ヌ [˥ba: pa˞ja˥mari ja˞runda ʔuttsa:˥to: ju˞nu˥tu̥ʃe: ʔa˞ra˥nu](私は早生まれだから彼らとは同じ年ではない)。パ˞ヤ˥マリ　˞ヤレー˥ティ　グ˞マー˥タンドゥ　マ

˞ナ˥マー　ユ˞ヌナダ˥カ　ナ˞リ˥　ブー [pa˞ja˥mari ja˞re:˥ti gu˞ma:˥tandu˥ ma˞na˥ma: ju˞nunada˥ka na˞ri˥ bu:](早生まれだから小さかったが、今では同じ高さになっている)。

パ˞ヤ˥マルン [pa˞ja˥maruŋ] 【自動】1早まる。早くなる。若年層は、ハ˞ヤ˥マルン [ha˞ja˥maruŋ](早まる) ともいう。ン˞ジ˥フネー　パ˞ヤ˥マルンティ　ス˞クタヌ˥　パ˞ヤマラン˥ティバーヤ [ʔn˞ʤi˥ɸune: pa˞ja˥marunti sʉ˞kutanu˥ pa˞jamaran˥tiba:ja](出港 < 出船 > は早まると聞いたが、早まらないんだってさ)。パ˞ヤ˥マリ　˞ナー˥ヌ [pa˞ja˥mari ˞na:˥nu](早まってしまった)。˞マー˥ビン　パ˞ヤ˥マルクトー　˞ナーン˥パジ [˞ma:˥bim pa˞ja˥maru ˥kʉto: ˞na:m˥ paʤi](もっと早まることはないはずだ)。ン˞ベーマ˥　パ˞ヤ˥マレー　˥ミサムヌ [ʔm˞be:ma˥ pa˞ja˥mare: ˥misamunu](少しは早まれば良いのに)。˞イー　クトー˥　パ˞ヤ˥マリ [˞ʔi: kʉto:˥ pa˞ja˥mari](善 < 良いこと > は急げ)。2時期尚早の誤った判断をする。急ぎすぎて判断を誤る。ヨー˞ヨー˥　イッ˞カナ˥シ　パ˞ヤマル˥ナ˞ダー [jo:˞jo:˥ ʔik˞kana˥ʃi pa˞jamaru˥na ˞da:](十分に注意して < 善く善く >、決して早まった事をするなよ)。

ハ˞ヤミ˥ク [ha˞jami˥ku] 【名】早め句。古謡の˥アーパーレー [˥ʔa:pa:re:](新室寿ぎ歌) や、ア˞マン˥グイ [ʔa˞maŋ˥gui](雨乞い歌) などので、途中からテンポが速くなる曲節。

パ˞ヤミ˥ルン [pa˞jami˥ruŋ] 【他動】速める。速くする。急がせる。若年層はハ˞ヤミ˥ルン [ha˞jami˥ruŋ](速める) ともいう。タ˞ヌマリ˥タ　シ˞グトー˥　パ˞ヤミ˥ルンティ　ウ˞ムーン˥ドゥ　˞ティー˥ヌ　タ˞ラーサランダ˥　パ˞ヤーミララ˥ヌ [ta˞numari˥ta ʃi˞guto:˥ pa˞ja:mi˥runti ʔu˞mu:n˥du ˞ti:˥nu ta˞ra:saranda˥ pa˞jamirara˥nu](頼まれた仕事は早めようと思うが、手が足りなくて早められない)。パ˞ヤ˥ミ　˥ミサカー　パ˞ヤミ˥ル　˥クトー　˥ナルン [pa˞ja˥mi ˥misaka: pa˞jami˥ru ˥kʉto: ˥naruŋ](速めてよければ速めることはできる)。パ˞ヤミ˥レー　˥ミサムヌ [pa˞jami˥re: ˥misamunu](速めればよいのに)。シ˞グトー˥　パ˞ヤミ˥リ [ʃi˞guto:˥ pa˞jami˥ri](仕事は早めろ)。˞ティー˥ヤ　パ˞ヤ˥ミティ　シ˞グトゥ　シー [˞ti:˥ja pa˞ja˥miti ʃi˞gutu ʃi:](手を速めて仕事をしなさい)。

パ˞ヤ˥ムティ [pa˞ja˥muti] 【名】早婚。「早身持」の義。ミ˞ドーン˥ッふァー　ムー˞ル˥　パ˞ヤ˥ムティ　˞シー˥　パリ　˞ナー˥ヌ [mi˞do:n˥ffa: mu:˞ru˥ pa˞ja˥muti ˞ʃi:˥ pari˞na:˥nu](女の子は皆早婚して嫁いでいってしまった)。パ˞ヤドゥー˥ムティ [pa˞jadu:˥muti](早婚。早身持) ともいう。

パ˞ヤ˥ムン [pa˞ja˥muŋ] 【他動】早める。早くする。急がせる。せきたてる。「早む < 下二段活用 >」の四段活用化したもの。ク˞ヌ˥　シ˞グトー˥　パ˞ヤ˥ムンティ　ウ˞ムー˥ナ　パ˞ヤミラン˥ドーシ　ク˞メーキティ　シー [ku˞nu˥ ʃi˞guto:˥ pa˞ja˥munti ʔu˞mu:˥na pa˞jamiran˥doʃi ku˞me:kiti ʃi:](この仕事は早めようと思うな。早めないで入念に精密にしなさい)。˥ティー　パ˞ヤ˥ミティ　˞シー˥　ミサカー　パ˞ヤ˥ム˥クトー　˥ナルン [˥ti: pa˞ja˥miti ˞ʃi:˥ misaka: pa˞ja˥mu ˥kʉto: ˥naruŋ](手を早めてしてよければ早めることは出来る)。˞マー˥ビン　パ˞ヤ˥メー　˥ミサムヌ [˞ma:˥bim pa˞ja˥me: ˥misamunu](もっと早めれば良いのに)。

パ˞ヤリッ˥シン [pa˞jariʃ˥ʃiŋ] 【名】早い立身出世。「早立身」の義。ウ˞ヤ˥ヌ　ピ˞キ˥シル　パ˞ヤリッ˥シン　シ˞ラリタ˥ツォー [ʔu˞ja˥nu pʉ˞ki˥ʃiru pa˞jariʃ˥ʃiŋ ʃi˞rarita˥tso:](親の七光り < 贔屓。威光 > で早い立身出世が出来たそうだ)。

パ˞ヤ˥ワザ [pa˞ja˥waʤa] 【名】すばやく巧みなわざ。敏捷な腕前。敏捷なやりかた。「早技」の義。ウ˞リヌ˥　カ˞ツホーシ˥ヌ　パ˞ヤ˥ワザー　プ˞スノー　マーベー˥　ナ˞ラ˥ヌ [ʔu˞rinu˥ ka˞tsuho:ʃi˥nu pa˞ja˥waʤa: pʉ˞suno: ma:be:˥ na˞ra˥nu](彼のカツオ釣りの早業は、他人が < は > 真似はできない)。

パ˞ヤン˥マ [pa˞jaʔm˥ma] 【名】早馬。緊急の要件で発進する馬。ム˞カ˥シェー　カ˞ビ˥ラーラー　˥トゥヌスコー　パ˞ヤン˥マ　タ˞ティ˥ル　シ˞ラシグトー˥　シ˞モーッ˥タツォー [mu˞ka˥ʃe: ka˞bi˥ra:ra: ˥tunusʉko: pa˞jaʔm˥ma tatiru ʃi˞raʃiguto:˥ ʃi˞mo:t˥tatso:](昔は川平から登野城まで早馬をたてて知らせ事をされたそうだ)。

ハ˞ヨー [ha˞jo:] 【名】はやお (早緒)。船を漕ぐ際に、ろ (艪) に掛ける綱。綱は舷側に繋いである。˞リューヤ˥　ハ˞ヨー˥　カ˞キラン˥カー　˞コーラ˥ヌ [˞rju:ja˥ ha˞jo:˥ kʉ˞kiraŋ˥ka: ˞ko:ra˥nu](艪(ロ)は速緒(ハヤオ)を掛けないと漕(コ)がれない)。

˥パラ [˥para] 【助数】出産を数える単位。˥パラン [˥paraŋ](孕み) ともいう。ク˞ヌ˥　アヒャーオーヤ　プ˞ス˥パラシ　˞ギュッカラナー˥　ナ˞ス˥ワ [ku˞nu˥ ʔaça:ʔo:ja pʉ˞su˥paraʃi ˞gjukkarana:˥ na˞su˥wa](この母豚 < 繁殖用豚 > は一度のお産で何匹ずつ生むのか)。

˥パラー [˥para:] 【名】柱。「軀、ミ・ハシラ」『類聚名義

抄』の転訛したもの。ナ˩カ˥バラー [na˩ka˥bara:](中柱)、˥ムヤーバラー [˥muja:bara:](母屋柱。庇の内側の柱)、ハ˩ギバラー [ha˩gibara:](軒柱。庇の柱。軒を支える柱。「脛柱」の義か。「〜夜束波岐＜ヤツカハギ＞」『常陸風土記』の転訛か) などがある。˩キャーンギバラー˥　ウ˩ヤ˥キプスヌル　˩ゴー˥ラー　シゥ˩カイヨーッ˥タ [˩kja:ŋgibara:˥ ʔu˩ja˥kipu̥sunuru ˩go:˥ra: si̥˩kaijo:t˥ta](犬槇の柱は金持ちの人が多く使われた)。/カクガニバ　パラーバ　シー　ヤーバ　スクリ　アンティスー　ウリユー　ミューナー　キャー　ムイ/[kḁ˩kuganiba˥ pa˩ra:˥ba ˩ʃi: ja:˥ba su̥˩ku˥ri ʔantisu: ʔu˩riju: mju:˥na:kja:mui](四角い鉄材を柱にして家を造ってあるという。それを見なければならない)「アーパーレ、＜ナガミク＞」『鳩間島古典民謡古謡集』。

バ˩ラースン [ba˩ra:suŋ]【他動】笑わせる。自動詞バ˩ラウン [ba˩rauŋ](笑う) の未然形に、使役の助動詞˥スン [˥suŋ](〜せる。〜させる) が下接して形成された使役の派生動詞。ウ˩レー　サッ˥コー　プ˩ス˥　バ˩ラースン [ʔu˩re: sak˥ko: pu̥˩su˥ ba˩ra:suŋ](彼は非常によく人を笑わせる)。バ˩ラーサヌ [ba˩ra:sanu](笑わさない)。バ˩ラーシ˥プサン [ba˩ra:ʃi˥pu̥saŋ](笑わせたい)。バ˩ラース˥　クトゥ [ba˩ra:su˥ ku̥tu](笑わせること)。バ˩ラーシ˥バ [ba˩ra:ʃi˥ba](笑わせよ)。

パ˩ラータティ˥ミー [pa˩ra:tati˥mi:]【名】サバニの帆柱を立てて固定するほぞあな (臍穴)。ウ˩シカキ [ʔu˩ʃikaki](帆柱を立てる梁) の真下の竜骨にある臍穴。帆柱の根っこの尖った部分をこの穴に入れて固定する。パ˩ラータティ˥ミーナ　パ˩ラー˥ヌ　シ˩ビ˥　ッシ　˩ペーラ˥シ [pa˩ra:tati˥mi:na pa˩ra:˥nu ʃi ˩bi˥ ʃʃi ˩pe:ra˥ʃi](竜骨の臍穴(ホゾアナ)に帆柱の尻を差し入れよ)。

パ˩ラー˥ヌアナ [pa˩ra:˥nu]【名】ほぞ (枘)。「柱の穴」の義。ヌ˩キヤー [nu˩kija:](貫き家) を作る際、柱に穴を掘って柱と梁、桁材に連結させる。その枘穴のこと。パ˩ラー˥ヌ　˥アナ (˥ミー)　プ˩リプス˥(˩ピッキプス˥) ヌ　タ˩ラーンバ　テー˥ナイ　˩シー˥　ッ˩ふォーラン˥カヤー [pa˩ra:˥nuʔana(˥mi:) pu˩ripusu˥nu ＜˩pikkipusu˥nu＞ ta˩ra:mba te:˥nai ˩ʃi:˥ f˩fo:raraŋ˥kaja:](柱の枘穴を掘る＜開ける＞人が足りないから手伝ってくださいませんか)。

バ˩ライ [ba˩rai]【名】笑い。バ˩ラウン [ba˩rauŋ](笑う) の連用形から転成した名詞。バ˩ライグイ [ba˩raigui](笑い声)。バ˩ライジラ [ba˩raiʤira](笑い顔)。バ˩ライムヌ [ba˩raimunu](笑われもの)。バ˩ライパダ [ba˩raipada](よく笑う年頃。女性の十七、八歳頃)。ウ˩ブ˥バライ [ʔu˩bu˥barai](大笑い)。ッ˩サ˥バライ [s˩sa˥barai](嘲(アザケ)り笑い)。ナ˩キバライ [na˩kibarai](泣き笑い)。ウ˩リヌ˥　バ˩ライヤー˥　カ˩タフチピケー˥シ　˩シール˥　バラウト ツォー [ʔu˩rinu˥ ba˩raija:˥ kḁ˩taɸu̥tʃipi̥˩ke:˥ʃi ˩ʃi:ru˥ ba˩rauトtso:](彼の笑いは片口をそっと引いて笑うんだよ)。

˥パライ [˥parai]【名】はらい (祓い)。神に祈願して罪や穢れ、厄、禍などを取り除くこと。「Farai. ハライ (祓い) 神 (Cami) の前で行われる、ある儀式」『邦訳日葡辞書』の義。ヤ˩フ˥バライ　シ˩ミリ˥バ [ja˩ɸu˥barai ʃi˩miri˥ba](厄払いをさせなさいよ)。

˥パライ　ウ˩タ˥スン [˥parai ʔu˩ta˥suŋ]【連】祓い落とす。つきもの (憑物) を祓いのける。悪霊やもののけを祓い落とす。ヤ˩ナ˥ムノー　フ˩チカザルバ˥　シ˩ティ˥　パライ　ウ˩タ˥シ [ja˩na˥muno: ɸu̥˩tʃikaʤaruba˥ ʃi̥˩ti˥ parai ʔu˩ta˥ʃi](悪霊は魔除けの唱えごとを声を出して唱えて祓い落としなさい)。

˩バライグイ [ba˩raigui]【名】笑い声。ウ˩ヌス˥ク　バ˩ライグイヌ　シゥ˩カリ　ギン˥シェー　イッ˩ケナ˥　サ˩ニ˥ヤル　ク˩トゥ˥ヌ　˥アレー　˥パジ [ʔu˩nusu̥˥ku ba˩raiguinu˥ si̥˩kari giŋ˥ʃe: ʔik˩kena˥ sa˩ni˥jaru ku̥˩tu˥nu ˥ʔare: ˥paʤi](あれほどに笑い声が聞こえるからには、嬉しいことがあったのだろう＜あったはず＞)。

バ˩ライグトゥ [ba˩raigutu]【名】笑い事。笑ってすまされること。ク˩ヌ˥　クトー　バ˩ライグトゥ˥ティ　˩シー˥　シ˩マサリ˥ル　˥クトー　ア˩ラン˥ダー [ku˩nu˥ ku̥to: ba˩raigutu˥ti ˩ʃi:˥ ʃi˩masari˥ru ˥ku̥to: ʔa˩ran˥da:](このことは、笑い事といって済まされることではないよ)。

バ˩ライジラ [ba˩raiʤira]【名】笑顔。笑みを含んだ顔。ミ˩ドーン˥ッふァー　バ˩ライジラル˥　タ˩カ˥ラ˩ダー [mi˩do:ŋ˥ffa: ba˩raiʤiraru˥ tḁ˩ka˥ra˩da:](女の子は笑顔が宝だよ)。

バ˩ライツォールン [ba˩raitso:ruŋ]【自動】ほほえむ (微笑む)。微笑する。にっこり笑う。ア˩ガッふァー˥マ　ヤ˩ルヌ˥　ブ˩ネーヌ˥　シラ　ミ˩ラ˥リカー　バ˩ライツォーリティ˥　イッ˩ケン˥　ア˩タラ˥サン [ʔa˩gaffa:˥ma ja˩runu˥ bu˩ne:nu˥ ʃira mi˩ra˥rika: ba˩raitso:riti˥ ʔik˩keŋ˥ ʔa˩tara˥saŋ](赤ちゃん＜赤子＞だが母親の顔が見えると＜見られると＞、にっこり笑って非常にかわいい＜アタラシ。可惜し＞)。

バ˩ライックナー [ba˩raikkuna:]【名】笑い競争。˩笑い比べ」の転訛したもの。ミ˩ドーン˥ッふァンケー

ヤ　バ˞ライックナーバ　シー˥　ア˞サビベー [mi˞do:ŋ˥ffaŋke:ja ba˞raikkuna:ba ʃi:˥ ʔa˞sabi be:](女の子たちは笑い競争をして遊んでいる)。

バ˞ライッツォールン [ba˞raittso:ruŋ] 【自動】微笑む。にっこり笑う。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　ウヤー˞ミーッシー˥ル　˞ブー˥ユー　バ˞ライッツォーリ　ベー˥バン [ku˞nu˥ f˞fa:˥ ʔuja ˞mi:ʃʃi:˥ru ˞bu:˥ju: ba˞raittso:ri be:˥baŋ](この乳児＜子＞は親を見知っているのか、微笑んでいるよ)。ン˞ゴーンゴー˥ティ˞パー˥スカー　バ˞ライッツォールンダ　パー˥シ　バ˞ライッツォーラシ˥バ [ʔŋ˞go:˥ʔŋ˞go:˥ti ˞pa:˥su̥ka: ba˞raittsorunda pa:˥ʃi ba˞raittso:raʃi˥ba](ンゴーンゴーといって囃すとにっこり笑うので、囃して微笑ませなさい)。バ˞ライッツォール˥　ピンマー　イッ˞ケン˥　ア˞タラ˥サン˞ダー [ba˞raittso:ru˥ pimma: ʔik˞keŋ˥ ʔa˞tara˥san˞da:](微笑む時は非常に可愛いよ)。バ˞ライッツォーレー˥　ミサムヌ [ba˞raittso:re:˥ misamunu](にっこり笑えば良いのに)。バ˞ライッツォーリ [ba˞raittso:ri](にっこり笑え)。

パ˞ライヌキ˥ルン [pa˞rainuki˥ruŋ] 【他動】払いのける。除き去る。プ˞スヌ˥　ヤ˞ナ˥フチェー　ドゥーシ　パ˞ライヌキ˥ルン [pu̥˞sunu˥ ja˞na˥ɸu̥tʃe: ˥du:ʃi: pa˞rainuki˥ruŋ](他人の悪口は自分で払いのける)。

バ˞ライパダ [ba˞raipada] 【名】よく笑う年頃。思春期の女の子。バ˞ライパダヌ˥　ミ˞ドーン˥ッふァー　キーヌパー˥ヌ　˞ウーキ˥バン　バ˞ラウンティ˥　ア˞ザリ　ブー [ba˞raipadanu˥ mi˞do:ŋ˥ffa: ˞ki:nupa:˥nu ˞ʔu:ki˥bam ba˞raunti˥ ʔa˞ɖari bu:](よく笑う時期の女の子＜思春期の女の子＞は木の葉が動いても笑うといわれている)。

バ˞ライパナシ [ba˞raipanaʃi] 【名】笑い話。滑稽な話。ユーモア。ウ˞リヌ˥　バ˞ライパナシ˥　ス˞ク˥カー　バ˞カヤ˥ヌ　ナ˞ラ˥ヌ [ʔu˞rinu˥ ba˞raipanaʃi˥ su̥˞ku˥ka: ba˞kaja˥nu na˞ra˥nu](彼の笑い話を聞くと可笑しくてたまらない)。ウ˞レー˥　バ˞ライパナシヌ　ゾー˥ジ　ヤ˞ルンダ　サッ˥コー　プ˞ス˥　バ˞ラースト ツォー [ʔu˞re:˥ ba˞raipanaʃinu ɖo:˥ʤi ja˞runda sak˥ko: pu̥˞su˥ ba˞ra:suɫtso:](彼は笑い話が上手だから、よく他人を笑わせるんだよ)。

パ˞ライ˥ミー [pa˞rai˥mi:] 【名】負債。債務。金銭を支払う義務。払う分。ウ˞ヤ˥ヌ　ウ˞カ˥ヌ　˥バー　パ˞ライミー˥ヤ　˞ギュー˥サ　ヌ˞カ˥レーワ [ʔu˞ja˥nu ʔu˞ka˥nu ˥ba: pa˞raimi:˥ja ˞gju:˥sa nu˞ka˥re:wa](親の借金のうち、私が負担す＜支払う＞べき債務はいくら残っているか)。

バ˞ライムヌ [ba˞raimunu] 【名】笑いもの。笑われ者。笑い種(グサ)。ヤ˞ナクトゥ　スー˥カー　プ˞スヌ˥　バ˞ライムヌ˥　シ˞ラリン˥ダー [ja˞nakṵtu su:˥ka: pṵ˞sunu˥ ba˞raimunu˥ ʃi˞rarin˥da:](悪いことをすると、人の笑い種(グサ)にされるよ)。イ˞ファナクトゥバ　シー˥　シ˞キン˥ヌ　バ˞ライムヌ　ナン˥ナ˞ヨー [ʔi˞ɸanakṵtuba ʃi:˥ ʃi̥˞kin˥nu ba˞raimunu nan˥na˞jo:](妙なことをして世間の笑いものになるなよ)。˞チャー˥　メー　ウ˞ヌ˥　パ˞ナシ˥バ　˞シー˥　バ˞ライムヌ　シーベー˥タ [˞ʧa:˥ me: ʔu˞nu˥ pa˞naʃi˥ba ˞ʃi:˥ ba˞raimunu ʃi:be:˥ta](いつも、もう、その話をして笑いぐさにしていた)。

ハ˞ラ˥ウビ [ha˞ra˥ʔubi] 【名】腹帯。妊婦が締める腹帯。岩田帯。妊婦が妊娠 5 ヶ月に入ると、干支のイヌ (戌) の日を選んで締めた帯。胎児を安定させて支えるための帯であるという。新しく導入された妊婦用品。ハ˞ラ˥ウビ　˞サン˥カー　˥バター　タダー˞イ　マイ˥ヤー　ナ˞リ˥ス [ha˞ra˥ʔubi ˞saŋ˥ka: ˥bata: tada:˞ji mai˥ja: na˞ri˥su](腹帯をしないとお腹はどんどん大きくなるよ)。

バ˞ラウン [ba˞rauŋ] 【他動】笑う。ウ˞ヌ˥　パ˞ナ˥シ　ス˞ク˥カー　バ˞ラウンティ˥　ウ˞ムータ˥ヌ　バ˞ラーンバン [ʔu˞nu˥ pa˞na˥ʃi su̥˞ku˥ka: ba˞raunti˥ ʔu˞mu:ta˥nu ba˞ra:mbaŋ](その話を聞いたら笑うと思ったが、笑わないわい)。バ˞ライ˥　ミサンドゥ　マ˞ナ˥マー　バ˞ラウ˥クトー　ナ˞ラ˥ヌ [ba˞rai˥ misandu ma˞na˥ma: ba˞raru˥ kṵto: na˞ra˥nu](笑っても良いが、今は笑うことは出来ない)。ン˞ベーマー˥　バ˞ライヤー˥　ミサムヌ [ʔm˞be:ma:˥ ba˞raija:˥ misamunu](少しは笑えばいいのに)。ヤー˞ディン˥　バ˞ライ [ja:˞dim˥ ba˞rai](必ず笑え)。プ˞スバ˥　バ˞ラウンティ　ベーン˥ケン　プ˞スン˥　バ˞ラーリ　ナー˥ヌ [pṵ˞suba˥ ba˞raunti be:ŋ˥kem pṵ˞sum˥ ba˞ra:ri na:˥nu](他人を笑おうとしていて、他人に笑われてしまった)。バ˞ライ˥　プサンドゥ　バ˞ラーラヌ [ba˞rai˥ pusandu ba˞ra:ranu](笑いたいが笑われない)。バ˞ラウ　プソー˥　バ˞ライヤー˥　ミサムヌ [ba˞rau pṵso:˥ ba˞raija:˥ misamunu](笑う人は笑えば良いのに)。

˥パラウン [˥parauŋ] 【他動】1払う。˞ダイヤー˥　バー　˥パラウンティ　ウ˞ムー˥ヌ　˞キュー˥ヤ　パ˞ラー˥ヌ　[˞daija:˥ ba: ˥paraunti ʔu˞mu:˥nu ˞kju:˥ja pa˞ra:˥nu](代金は私が払おうと思うが、今日は払わない)。˞ゴー˥ラー　˥パライ　˞ナー˥ヌ [˞go:˥ra:˥ parai ˞na:˥nu](多く払ってしまった)。˥パラウ　プ˞

ソー˥　ン˩メーマ˥　ヤ˩ラバン˥　パ˩ライ˥ヤー　˥ミサムヌ [˥parau pu̥˩soː˥ ʔm˩meːma˥ ja˩rabam˥ pa˩rai˥ jaː ˥misamunu](支払う人は少しでもいいから払えばいいのに)。ア˩ツァバー˥キナ　˥パライ [ʔa˩tsabaː ˥kina ˥parai](明日までに払え)。2祓う。˥ヤホー　フ˩チカザル　シー˥　パライバ [˥jahoː ɸu̥˩tʃikaʤaru ʃiː ˥ paraiba](厄は口で唱えごとをして祓えよ)。3雑(ナ)ぎ払う。草や茅を刈りはらう。パ˩タキ˥ヌ　˥ッサ　˥パラウンティル　˩ベー [pḁ˩taki˥nu ˥ssa ˥parauntiru ˩beː](畑の雑草を刈り取ろうとしている)。

ハ˩ラ˥ガー [ha˩ra˥gaː] 【名】家畜類の腹部の肉。「腹皮」の義。˩オー˥ヌ　ハ˩ラガー˥ヤ　˩ダイヤー　ヤッ˥サン [˩ʔoː˥nu ha˩ragaː˥ja ˩daijaː jas˥saŋ](豚の腹部の肉＜腹皮＞は値段は安い)。

ハ˩ラ˥クリ [ha˩ra˥kuri] 【名】鰹節の腹部を刳(ク)り削る小刀。「腹刳り」の義。小刀の刃先が円くなり、左側に湾曲している。これで鰹節の腹部の湾入部を刳るように削ることができる。ハ˩ラ˥クリシル　˩ミーブシ˥ヌ　バ˩タマー˥ロー　キ˩ゾーッ˥タ [ha˩ra˥kuriʃiru ˩miːbuʃi˥nu ba˩tamaː˥roː ki˩ʤoːt˥ta](腹刳り小刀で鰹節の腹まわりは削られた)。

ハ˩ラ˥ゴー [ha˩ra˥goː] 【名】魚の腹部の肉。「腹皮」の転訛。[harakawa] → [harakaua] → [harakoː] → [haragoː] と音韻変化したもの。カ˩ツヌ˥　ハ˩ラ˥ゴー　ヤ˩ク˥カー　イッ˩ケン˥　ン˩マー˥ン [kḁ˩tsunu˥ ha˩ra˥goː ja˩ku˥kaː ʔik˩kem˥ ʔm˩maː˥ŋ](カツオの腹皮を焼くと非常に美味しい)。

バ˩ラ˥サ [ba˩ra˥sa] 【名】悪いこと。形容詞バ˩ラ˥サン [ba˩ra˥saŋ](悪い) の名詞形。˩オーヌ˥　バ˩ラ˥サテー　˩ナーン˥ユンダ　˩チャー　オー˥ティ　ア˩ジ　アー˥キ [˩ʔoːnu˥ ba˩rasateː ˩naːŋ˥junda ˩tʃaː ʔoː˥ti ʔa˩ʤi ʔaː˥ki](はいと返事することが悪いことは無いから、いつも「はい」と返事していなさい)。

バ˩ラ˥サ　˩スン [ba˩ra˥sa ˩suŋ] 【連】謝罪する。詫びる。バ˩ラ˥サ　˩シェー˥チバ　˥メー　ユ˩ラ˥シバ [ba˩ra˥sa ˩ʃeː˥tʃiba ˥meː ju˩ra˥ʃiba](謝罪したから、もう許しなさいよ)。

バ˩ラ˥サビナサ　˩スン [ba˩ra˥sabinasa ˩suŋ] 【連】お詫びを申し上げる。バ˩ラ˥サビナサ　˩スンティ˥　ク˩リバ　サーリ　ギーティル˥　ヤッ˩トゥ˥シ　ユ˩ラサ˥リ　˩クー˥タ [ba˩ra˥sabinasa ˩sunti˥ ku˩riba saːri giːtiru˥ jat˩tu˥ʃi ju˩rasa˥ri ˩kuː˥ta](お詫びを申し上げようと、これを連れて行って＜ぞ＞やっとのことで許されてきたよ)。

バ˩ラ˥サン [ba˩ra˥saŋ] 【形】悪い。古めかしい言い方。老年層が多く用いる。若年層は、普通˩ワッ˥サン [˩was˥saŋ](悪い) という。˩ドゥー˥ヌ　バ˩ラ˥サンティ　˥ウムーカー　˥ワキ　ア˩ジ˥　ッ˩サリリ˥　バ˩ラサ　ナーン˥カー　ウ˩ヌ˥ムティ　ア˩ジ˥　ッ˩サリ˥バ [˩duː˥nu ba˩ra˥santi ˥ʔumuːkaː ˥waki ʔa˩ʤi ˥ s˩sariri˥ ba˩rasa naːŋ˥kaː ʔu˩nu˥muti ʔa˩ʤi˥ s˩sariri ˥ba](自分が悪いと思うならばお詫び＜訳＞を申し上げなさい。悪くなければ、その旨申し上げなさい)。˩オーシキヌ˥　バ˩ラサ˥ヌ　マー˩ン˥　パ˩ララ˥ヌ [˥ʔoːʃi̥kinu˥ ba˩rasa˥nu maː˩m˥ pa˩rara˥nu](天気が悪くて何処にも行かれない)。バ˩ラ˥サル　˥クトー　イッ˩カ　シェー˥　ナ˩ラ˥ヌ [ba˩ra˥saru ˥ku̥toː ʔik˩ka ʃeː˥ na˩ra˥nu](悪いことは、決してやってはならない)。

バ˩ラ˥ザン [ba˩ra˥ʤaŋ] 【名】わら算。文字の代わりに藁や縄で数字を表す方法。パ˩トゥ˥マナテー　マ˩ナ˥マン　˩プール˥ヌ　グ˩サークマイ˥ヌ　タ˩カトゥ　ニンズー˥ヤ　バ˩ラ˥ザンシ　トゥ˩ミティ　ウイヌ˥ウガン　˥ムティ　˩オー˥ル [pḁ˩tu˥manateː ma˩na˥mam ˩puːru˥nu gu˩saːkumai˥nu tḁ˩katu ninʤuː˥ja ba˩ra˥ʤaŋʃi tu˩miti ʔuinu˥ʔugam ˥muti ˩ʔoː˥ru](鳩間島では、今も豊年祭には各家から徴収された五勺米の量と納めた人数を、わら算で記録し＜とめ＞て友利御嶽へ持っていかれる)。

パ˩ラシキルン [pa˩raʃi̥kiruŋ] 【他動】手足を押さえつける。手足を引っ張って押さえつける。「張り付ける」の義。「縄を以て、四つの支を機物＜はたもの＞に張り付けて〜」『今昔物語　一六ノ二六』の転訛したものか。パ˩ラシキルンティ　スンドゥ˥　パ˩ラシキララヌ [pa˩raʃi̥kirunti sundu˥ pa˩raʃi̥kiraranu](押さえつけようとするが、押さえつけられない)。パ˩ラシキル˥　クトー　ナ˩ラ˥ヌ [pa˩raʃi̥kiru˥ ku̥toː na˩ra˥nu](押さえつけることは出来ない)。パ˩ラシキレー˥　ミサムヌ [pa˩raʃi̥kireː˥ misamunu](押さえつければ良いのに)。パ˩ラシキリ [pa˩raʃi̥kiri](押さえつけろ)。

パ˩ラスクン [pa˩rasu̥kuŋ] 【他動】引張って押さえつける。押さえつける。「張り付く」の転訛したものか。パ˩ラシキルンとも言う。ヤ˩ラ˥ビ　パ˩ラシキティ˥　ヤツ　ヤ˩クンティ　スンドゥ˥　パ˩ラシゥカラヌ [ja˩ra˥bi pa˩raʃi̥kiti˥ jatsu ja˩kunti sundu˥ pa˩rasi̥karanu](子供を押さえつけてお灸をすえよう＜焼こう＞とするが、押さえつけられない)。パ˩ラスクンティ˥　ウムーカー　˩ティー˥パン　˩ウシケ

ー˥ティンノーン　パ˩ラスク˥　クトー　ナ˩リ˥スティムカーヤ [pa˩rasu̥kunti˥ ʔumu:ka: ti:˥paŋ ˩ʔuʃi̥ke: ˥tinno:m pa˩rasu̥ku˥ ku̥to: na˩ri˥sutimuka:ja](押さえつけようと思うなら、手足を押し付けてでも押さえつけることは出来るというものだよ)。パ˩ラシケー˥　ミサムヌ [pa˩raʃi̥ke:˥ misamunu](押さえつければいいのに)。フ˩ター˥シ　ギッ˩ティ˥　パ˩ラシキ˥バ [ɸu̥˩ta:ru˥ʃi git˩ti˥ pa˩raʃi̥ki˥ba](二人でぎゅっと押さえつけなさいよ)。

パ˩ラ˥スン [pa˩ra˥suŋ] 【他動】1走らせる。走行させる。行かせる。˥フニ　パ˩ラ˥スンティ　ス˩コーリベーン˥ドゥ　カ˩ジヌ　スーワ˥ヌ　パ˩ラサラ˥ヌ [˥ɸuni pa˩ra˥sunti su̥˩ko:ri be:n˥du ka˩ʤinu su:wa˥nu pa˩rasara˥nu](舟を走行させようと準備しているが、風が強くて走らされない)。˥フニ　パ˩ラ˥シ　˥ミサカー　パ˩ラ˥スクトー　˥ナルン [˥ɸuni pa˩ra˥ʃi ˥misaka: pa˩ra˥su ˥ku̥to: ˥naruŋ](舟を走らせてよければ、走らせることは出来る)。˩マー˥ビン　パ˩ラ˥シェー　˥ミサムヌ [˩ma:˥bim pa˩ra˥ʃe: ˥misamunu](もっと走らせば良いのに)。˥フニ　パ˩ラ˥シ [˥ɸuni pa˩ra˥ʃi](舟を走らせ＜走行させ＞よ)。2血や汗を流す。˩シー˥　パ˩ラ˥スン [˩ʃi:˥ pa˩ra˥suŋ](血を流す)。3注ぐ。流す。ミ˩ジ˥　パ˩ラ˥スン [mi˩ʤi˥ pa˩ra˥suŋ](水を注ぐ＜流す＞)。

パ˩ラ˥スン [pa˩ra˥suŋ] 【他動】晴らす。晴れるのを待つ。雨上がりを待つ。˥アミ　パ˩ラ˥スンティ　˩ベーン˥ドゥ　パ˩ラサラン˥バン [˥ʔami pa˩ra˥sunti ˩be:n ˥du pa˩rasaram˥baŋ](雨を晴らそうと＜雨上がりを＞待っているが、晴らされない＜雨が上がらない＞よ)。˥アメー　パ˩ラ˥シティ　˥パリバ [˥ʔame: pa ˩ra˥ʃi̥ti ˥pariba](雨を晴らして＜雨があがって＞から行きなさい)。˥アミ　パ˩ラ˥ス　˥ピンマー　˩サー˥ヤンツァン　˥ヌメーティ　パ˩ラ˥シェー　˥ミサムヌ [˥ʔami pa˩ra˥su ˥pimma: ˩sa:˥jantsan ˥nume:ti pa˩ra˥ʃe: ˥misamunu](雨を晴らす時はお茶でも飲みながら晴らせば良いのに)。˥クナー　˩ベー˥ティ　˥アメー　パ˩ラ˥シ [˥kuna: ˩be:˥ti ˥ʔame: pa˩ra˥ʃi](ここにいて雨上がりを待て＜雨を晴らせ＞)。

パ˩ラチ˥ブニ [pa˩ratʃi˥buni] 【名】肋骨。特に魚の肋骨。人間の肋骨はヤ˩カタ˥ブニ [ja˩kata˥buni](人間の肋骨)、家畜の肋骨は、˩ソーキ˥ブニ [˩so:ki˥buni] という。イ˩ズヌ　ミーヤ˥　パ˩ラチ˥ブネー　˥トゥリティ　ヤ˩ラ˥ビン　ッ˩ふァーシ˥バ [ʔi˩ʤunu mi:ja ˥ pa˩ratʃi˥bune: ˥turiti ja˩ra˥biŋ f˩fa:ʃi˥ba](魚の身は肋骨を取り除いて子供に食べさせなさい)。魚のあばら骨。イ˩ズヌ˥　パ˩ラチ˥ブネー　˥トゥリティ　ッ˩ふァイ˥バ [ʔi˩ʤunu˥ pa˩ratʃi˥bune: ˥turiti f˩fai˥ba](魚のあばら骨は除去してから食べなさいよ)。

パ˩ラッカースン [pa˩rakka:suŋ] 【自動】行事等がぶつかる。かち合う。鉢合わせになる。˩ヨイ˥ヌ　パ˩ラッカーシティル˥　イ˩サンケー˥　パ˩リユーサン˥バン [˩joi˥nu pa˩rakka:ʃitiru˥ ʔi˩saŋke:ja˥ pa˩riju:sa˥mbaŋ](祝儀がかち合って、石垣へは行けないわい)。ユ˩ヌ˥　ピンナー　パ˩ラッカーシティ　ウーカラ˥ヌ [ju˩nu˥ pinna: pa˩rakka:ʃi̥ti ʔu:kara˥nu](同じ日に行事がぶつかって身動き出来ない)。˩ダイアン˥ヌ˥ピンマー　˩ヨイ˥ヌ　パ˩ラッカースンダ˥　パ˩ラッカーサン˥　ヨーニ　ビ˩チ˥ヌ　˩ピュール˥　トゥリ [˩daiʔan˥nu ˥pimma: ˩joi˥nu pa˩rakka:sunda˥ pa˩rakkasaŋ˥ jo:ni bi˩ʧi˥nu ˩pju:ru˥ turi](大安の日は祝儀がぶつかるから、ぶつからないように別の日和を選定し＜取り＞なさい)。パ˩ラッカース˥　トンマー　パ˩ララ˥ヌ [pa˩rakka:˥su ˥tomma: pa˩rara˥nu](鉢合わせする所には行かれない)。パ˩ラッカーシェー˥　ナ˩ラ˥ヌ [pa˩rakka:ʃe:˥ na˩ra˥nu](鉢合わせになってはならない)。

パ˩ラッカウン [pa˩rakkauŋ] 【自動】複数の行事が鉢合わせになる。ぶつかる。˥アツァー　˩ヨイ˥ヌ　パ˩ラッカイ　ブンダ˥　パ˩ラッカイラン˥　カタチニ　ナ˩ラヌ [˥ʔatsa: ˩joi˥nu pa˩rakkai bunda˥ pa˩rakkairaŋ˥ kḁtatʃini na˩ranu](明日はお祝いがぶつかっているから、ぶつからないように出来ないか)。˩ヨイ˥ヤー　パ˩ラッカイティ　ティー˥ヤ　タ˩ラーサラヌ [˩joi˥ja: pa˩rakkaiti ti:˥ja ta˩ra:saranu](お祝いが鉢合わせになって、準備する手が足りない)。パ˩ラッカウ˥　ピンマー　˩ヌー˥スワ　˥メー [pa˩rakkau˥ pimma: ˩nu:˥suwa ˥me:](鉢合わせるときは、どうしようか、もう)。ユ˩ヌ˥　ピンナー　パ˩ラッカイヤー˥　ナ˩ラ˥ヌ [ju˩nu˥ pinna: pa˩rakkaija:˥ na˩ra˥nu](同じ日に鉢合わせになったら＜ぶつかったら＞いけない)。

パ˩ラッツァイルン [pa˩rattsairuŋ] 【他動】行く手を塞ぐ。通せんぼする。通路を塞ぐ。˥ウナー　シ˩キ˥ルカー　プ˩スヌ˥　ア˩ラキ˥ミチ　パ˩ラッツァイルンダ˥　パ˩ラッツァイラン˥　ヨーニ　マ˩ダカ˥シ [˥ʔuna: ʃi̥˩ki˥ruka: pu̥˩sunu˥ ʔa˩raki˥miʧi pa˩rattsairunda˥ pa˩rattsairaŋ˥ jo:ni ma˩daka˥ʃi](そこに置くと他人の通路を塞ぐから、塞がないように除けなさい)。ア˩ラキ˥ミチ　パ˩ラッツァイ　ベー˥ティバ　パ˩ラッツァイル　ムノー˥　マ˩ダカ˥シ [ʔa˩

rakiˀmitʃi paˀrattsai beːˀtiba paˀrattsairu munoːˀ ma ˞dakaˀʃi](通路を塞いでいるというから、塞いでいる物はよけ＜除け＞なさい)。パ˞ラッツァイレーˀ　ミサムヌ [paˀrattsaireːˀ misamunu](通路を塞げば良いのに)。ˀクマー　パ˞ラッツァイリ [ˀkumaː pa ˞rattsairi](ここは通路を塞(フサ)げよ)。

パ˞ラッツァウン [paˀrattsauŋ] 【他動】行く手を塞ぐ。通せんぼうる。通路を塞ぐ。ˀティー　パ˞タッカリティˀ　パ˞ラッツァウンティ　スンドゥˀ　パ˞ラッツァーララヌ [ˀtiː pa̠ˀtakkaritiˀ paˀrattsaunti sunduˀ paˀrattsaːraranu](両手を広げて道を塞ごうとするが、塞がれない)。パ˞ラッツァイˀ　ミサカー　パ˞ラッツァウˀ　クトー　ˀナルン [paˀrattsai ˀ misakaː paˀrattsauˀ kṵtoː ˀnaruŋ](塞いでよければ塞ぐことは出来る)。パ˞ラッツァイヤーˀ　ミサムヌ [paˀrattsaijaːˀ misamunu](塞げばいいのに)。˞パーˀク　パ˞ラッツァイˀバ [˞paːˀku paˀrattsaiˀba](早く塞げよ)。

バ˞ラˀヌギ [baˀraˀnugi] 【名】カツオの骨抜き作業。「バラ (荊(バラ)棘) 抜き」の義。標準語からの借用語の転訛。煮上がったカツオのパ˞ラチˀブニ [paˀratʃiˀ buni](あばら骨) やその他の骨を抜き取る作業。薄いブリキ板を幅約 1、5 センチ、長さ約 20 センチに切って折り曲げ、ピンセットに仕上げ、それを手伝いの女性たちが片手に持って、丁寧にバラヌキの作業をおこなった。バ˞ラˀヌゲー　˞ピーヨーˀヌ　ミ˞ドゥムンケーヌˀル　ˀユー　˞シーヨーッˀタ [baˀraˀnugeː ˞piːjoːˀnu miˀdumuŋkeːnuˀru ˀjuː ˞ʃiːjoːtˀta](バラ＜荊棘＞抜き作業は、よく日雇の女性たちがしておられた)。

バ˞ラバラ [baˀrabara] 【副】ばらばら。一体であるべきものが離れ離れになるさま。散り散りになるさま。ウ˞トゥˀザンケーˀヤ　ムー˞ルˀ　ウ˞キˀナー　ˀパリ　バ˞ラバラˀ　ナリ˞ナーˀヌ [ʔuˀtucɧaŋkeːˀ ja muː˞ruˀ ʔuˀkiˀnaː ˀpari baˀrabaraˀ nari˞naːˀnu](親戚たちは皆沖縄へ行ってしまって散り散りになってしまった)。

パ˞ラパラ [paˀrapara] 【副】大粒の雨が降ってトタン屋根や軒をたたきつけるさま。または音。ウ˞ブシジˀヌ　ア˞ミˀヌ　パ˞ラパラˀシ　ˀフイ　˞クーターン˞ガマサˀヌ　パ˞ナˀシン　シゥ˞カラヌ [ʔuˀbuʃicɧiˀ nu ʔaˀmiˀnu paˀraparaˀʃi ɸuiˀkuːˀtaː ŋˀgamasaˀnu paˀnaˀʃin si̥ˀkaranu](大粒の雨がぱらぱらと降ってきたので、うるさくて話も聞こえない)。

パ˞ラˀバン [paˀraˀbaŋ] 【連】行っても。自動詞ˀパルン [ˀparuŋ](行く) の未然形に接続助詞ˀバ [ˀba](～ば。～たら。仮定の順接条件) が付き、それに係助詞ˀン [ŋ](も。追加) の下接したもの。普通は活用語の終止形で結ぶ。˞ワーˀ　パ˞ラˀバン　ˀミサン [˞waːˀ paˀraˀbam ˀmisaŋ](君は行ってもいい)。

バ˞ラˀビ [baˀraˀbi] 【名】(植) ワラビ。バ˞ラˀベー　˞パイタˀナール　˞ゴーˀラー　ˀムイ　˞ブー [baˀraˀ beː ˞paitaˀnaːru ˞goːˀraː ˀmui ˞buː](ワラビは西表島に多く生えている)。

バ˞ラフˀタ [baˀraɸṵˀta] 【名】稲わら。バ˞ラフˀタジナ [baˀraɸṵˀtacɧina](藁縄)、バ˞ラフˀタフチ [baˀraɸṵˀ taɸṵtʃi](稲わらで作った草鞋(ワラジ)。藁靴)、バ˞ラフˀタポーキ [baˀraɸṵˀtapoːki](藁製の箒) がある。バ˞ラフˀタジナー　イッ˞ケナˀ　シゥ˞カイミチヌˀ　アン [baˀraɸṵˀtacɧinaː ʔikˀkenaˀ si̥ˀkaimitʃinuˀ ʔaŋ](藁縄は非常に用途が広い＜使い道がある＞)。ニ˞ブˀコー　バ˞ラフˀタシル　フ˞モーッˀタ [niˀbuˀkoː baˀraɸṵˀtaʃiru ɸuˀmoːtˀta](いなばきむしろ＜稲掃き筵＞は稲わらで編まれた)。

バ˞ラフˀタジナ [baˀraɸṵˀtacɧina] 【名】藁縄。稲わらで綯った綱で、農業にも漁業にも用途が広い。「藁綱」の義。昭和 38 年頃までは稲作が盛んに行われていたので、稲藁も豊富にあった。バ˞ラフˀタジナシル　ˀガヤヤーヌ　˞ヤーフキˀジナン　˞ソーˀリ　˞アウˀダン　ニ˞ブˀクン　ウ˞リˀシル　フ˞モーッタˀル [baˀraɸṵˀtacɧinaʃiru ˀgajajaːnu ˞jaːɸukiˀcɧinan ˞soːˀri ˞ʔauˀdan niˀbuˀkuŋ ʔuˀriˀʃiru ɸuˀmoːttaˀru](藁綱で茅葺家の屋根葺き綱にもされ、奄(モッコ)も稲掃(イナバキムシロ)筵もそれで編まれたものだ)。

バ˞ラフˀタッスン [baˀraɸṵˀtassuŋ] 【名】わらづつみ (藁包み)。わらづと (藁苞)。約 20 本ほどの藁束の中に鶏卵を数個並べて　　包み、鶏卵の横を藁で軽く結わえて藁包みが崩れないように編みあげ、持ち運びできるようにしたもの。˞コーマˀヌ　バ˞ラフˀタッスンマ　イ˞サンケーヌˀ　シトゥ　˞ヤッタ [˞koːmaˀnu baˀraɸṵˀtassumma ʔiˀsaŋkeːnuˀ ʃi̥tu ˞jatta](卵の藁包みは石垣への土産＜つと。苞＞であった)。

バ˞ラフタˀヌ　ˀシン [baˀraɸṵtaˀnu ˀʃiŋ] 【連】藁の芯。わらしべ。バ˞ラフタˀヌ　ˀシンシ　ウ˞チポーキンˀ　ス˞クルˀタン [baˀraɸṵtaˀnu ˀʃiŋʃi ʔuˀtʃipoːkinˀ sṵˀkuruˀtaŋ](藁の芯＜わらしべ＞で内箒＜座敷箒＞も作った)。

バ˞ラフˀタピー [baˀraɸṵˀtapiː] 【名】「稲藁火」の義。お盆の初日の精霊迎えに焚く稲藁の火。祖霊を各

家に迎え入れるために藁束の先を丸めて縛り、その中におきび＜熾＞をいれてくすぶら＜燻＞せる。それを門の西側に置く。できるだけ煙が多く出るようにした。この煙を伝って先祖が下りてくると伝えられている。ウ˞ヤ˜プソー　バ˞ラフタ˜ヌ　˞ピー˜バ　˞モーシティル˜　ン˞カイヨー˜ル [ʔu˞jaˀpu̥so: ba˞raɸu̥taˀnu ˞piːˀba ˞moːʃi̥tiru˜ ʔŋ˞kaijoː˜ru](先祖は稲藁の火を焚いてお迎えするのだ)。今は線香で迎える。

バ˞ラフ˜タフクビ [ba˞raɸu̥˜taɸu̥kubi] 【名】藁縄の帯。百姓や漁師は藁縄で帯をしながら働いた。˞ターパタ˜キ　˞スー˜　ピンマー　バ˞ラフ˜タジナシル　フ˞ク˜ベー　˞シェー˜ティル　パ˞タラクタル　カーフク˜ベー　˞サンシェン [˞taːpḁtaˀki ˞suː˜ pimmaː ba˞raɸu̥˜taʤinaʃiru ɸu̥˞ku˜beː ˞ʃeː˜tiru pḁ˞tarakutaru kaːɸu̥ku˜beː ˞saŋʃeŋ](田畑を耕す＜田畑をする＞時は藁縄を帯びにして働いたものだ。皮帯はしなかった)。

バ˞ラフ˜タフチ [ba˞raɸu̥˜taɸu̥ʧi] 【名】藁製の草鞋。「藁靴(ワラクツ)」の転訛したもの。バ˞ラフ˜タフチェー　˞ヨーン˜ダ　˞フンシケーラ˜　ナ˞カウー˜ル˞バー˜キ　タ˞ク˜トゥリン　˜パル　˜ブソー　˜フチェー　フ˞タックミ˜　ムティ　パ˞リ˜シタ [ba˞raɸu̥˜taɸu̥ʧeː ˞joː˜nda ˞ɸuŋʃi̥keːra˜ naˀkaʔuː˜ru ˞baː˜ki tḁ˞ku˜turim ˜paru ˜busoː ˜ɸu̥ʧeː ɸu̥˞takkumi˜ muti pa˞riˀʃi̥ta](藁製の草鞋は弱いから、フンシキからナカウール辺りまで蛸漁＜蛸獲り＞に行く場合は、草鞋は二足＜2組＞持って行った)。

バ˞ラフ˜タポーキ [ba˞raɸu̥˜tapoːki] 【名】わらぼうき (藁箒)。藁しべで作った室内用の箒。稲藁の芯を抜いて直径約 1 センチに束ねたものを扇形に編み上げて作る箒。編み上げる縄はア˞ダナ˜シユール [ʔa˞danaˀʃijuːru](アダンの気根の繊維を縒(ヨ)って綯(ナ)った縄。「アダン縒(ヨ)り」の義) を使用する。バ˞ラフタ˜ヌ　˜シンシル　˞ザシキポー˜ケー　ス˞ク˜ローッタル [ba˞raɸu̥taˀnu ˜ʃiŋʃiru ˞ʤaʃi̥kipoː˜ke: su̥˞ku˜roːttaru](藁の芯で＜ぞ＞座敷箒は作られたものだ)。

˜パラン [˜paraŋ] 【助数】家畜などのお産の回数を数える助数詞。「孕み」の転訛したものか。オー˜ヤ　プ˞ス˜パランシ　˞トゥッカラナー˜　ッ˞ふァ˜　ナスン [ˀoː˜ja pu̥˞suˀparaŋʃi ˞tukkaranaː˜ f˞faˀ nasuŋ](豚は一回の妊娠＜一孕み＞で十匹子豚を産む)。

パ˞ラン˜カー　ナ˞ラ˜ヌ [pa˞ŋ˜kaː na˞raˀnu] 【連】行かなければならない。「行くこと」の必要条件を表す。˞クン˜ドー　˞ワー˜　パ˞ラン˜カー　ナ˞ラ˜ヌ [˞kunˀdoː ˞waː˜ pa˞raŋ˜kaː na˞raˀnu](今度は君が行かなくてならない)。

パ˞ラン˜タンティン [pa˞ranˀtantiŋ] 【連】行かなくても。˞ワー˜　パ˞ラン˜タンティン　˜ミサン [˞waː˜ pa˞ranˀtantim misaŋ](君は行かなくても良い)。

パ˞ラン˜パー [pa˞ramˀpaː] 【連】行くのを嫌がること。自動詞˜パルン [˜paʔruŋ](行く) の未然形に、感動詞˞ン˜パ [ʔmpa](嫌だ) が下接して形成された連語表現。˞ン˜パ [˞ʔmˀpa](嫌だ) は、いろいろな動作動詞の未然形に付く。パ˞ラン˜パー　˞スー˜　プ˞スバ˜　ヌンティ　シー˞ティ˜　パ˞ラ˜スンティ　˞アーク˜ワ [pa˞ramˀpaː ˞suː˜ pu̥˞subaˀ nunti ʃiː˞tiˀ pa˞raˀsunti ˞ʔaːkuˀwa](行きたがらない者＜行くのを嫌がる人＞を何故に強いて行かせようとするのか)。

バ˞リ [bari] 【名】谷間。谷。ヤ˞マ˜ヌ　バ˞リ˜ナー　˞キー˜ヤ　˜キシ　ウ˞タ˜シ [ja˞maˀnu ba˞riˀna: ˞kiːˀja ˜ki̥ʃi ʔu˞taˀʃi](谷間に木材は伐って落としなさい)。

バ˞リ [ba˞ri] 【名】かけら。破片。「割れたもの」。動詞バ˞ルン [bar˞uŋ](割る) の連用形から転生した名詞。カ˞ミ˜ヌ　バ˞リ [ka˞miˀnu ba˞ri](甕の破片)。ク˞ビン˜ヌ　バ˞リ [ku˞binˀnu ba˞ri](瓶の破片)。マ˞カル˜ヌ　バ˞リ [ma˞karuˀnu ba˞ri](お椀の破片)。˞カーラ˜ヌ　バ˞リ [˞kaːraˀnu ba˞ri](瓦の破片)。

バ˞リア˜ティ [ba˞riʔaˀti] 【名】割り当て。˞ヤーカージ˜ヌ　バ˞リア˜テー　˞ギューサ˜ナ　ア˞タルワ [˞jaːkaːʤi˜nu ba˞riʔaˀteː ˞gju:saˀnaː ʔa˞taruwa](各家への割り当て額はいくらずつになるか＜当るか＞)。

バ˞リアティ˜ルン [ba˞riʔatiˀruŋ] 【他動】割り当てる。配分する。割り振る。ユ˞ヌスク˜ナー　バ˞リアティ˜ルンティ　˞スンドゥ˜　アイヤー　バ˞リアティララ˜ヌ [ju˞nusu̥ku˜naː ba˞riʔatiˀrunti ˞sundu˜ ʔaijaː ba˞riʔatiraraˀnu](同額ずつ割り当てようとするが、そうは割り当てられない)。バ˞リア˜ティ　˜ミサカー　バ˞リアティ˜ル　˜クトー　˜ナルン [ba˞riʔaˀti misakaː ba˞riʔatiˀru ˜ku̥toː ˜naruŋ](割り当ててよければ、割り当てることはできる)。˞マータキナー˜　バ˞リアティ˜レー　˜ミサムヌ [˞maːtakinaː˜ ba˞riaʔtiˀreː ˜misamunu](等しく＜同額に＞割り当てれば良いのに)。ムー˞ル˜ニ　バ˞リアティ˜リ [muː˞ruˀni ba˞riʔatiˀri](全員に割り当てなさい)。

バ˞リ˜アトゥン [ba˞riˀʔatuŋ] 【他動】割り当てる。「わりあつ＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。˞マータキナー˜　バ˞リア˜トゥンティ　˞スンドゥ˜　バ˞リアタラ˜ヌ [˞maːtakinaː˜ ba˞riʔaˀtunti ˞sundu˜ ba˞

riʔatara˺nu](同じように割り当てようとするが、割り当てられない)。ク˞ビ˺ナー　バ˞リア˺ティ　˺ミサカー　バ˞リア˺トゥ　˺クトー　˺ナルン [ku˞bi˺naː ba˞riʔa˺ti ˺misakaː ba˞ri˺ʔatu ˺kṵtoː ˺naruŋ](これくらいずつ割り当ててよければ割り当てることは出来る)。˞パー˺ク　バ˞リア˺テー　˺ミサムヌ [˞paː ˺ku ba˞riʔa˺teː ˺misamunu](早く割り当てればいいのに)。ヤー˞ディン˺　バ˞リア˺ティ [jaː˞dim˺ ba˞riʔa ˺ti](必ず割り当てよ)。

パ˞リアン [pa˞riʔaŋ] 【名】張り網漁法。また、その漁に用いる網。魚の通り道に網を張っておいて漁獲する漁法の網。フ˞クル˺アン [ɸṵ˞kuru˺ʔaŋ](袋網)、ス˞クアン [sṵ˞kuʔaŋ](底網)、˺キタアン [˺kḭtaʔaŋ](桁網。袖網)、ヤ˞シ˺ミアン [ja˞ʃi˺miʔaŋ](八十目網)、ム˞ジ˺アン [mu˞ʤi˺ʔaŋ](目の細い網) などがある。ヤ˞シ˺ミーアンバ　パ˞リアン˺　シ˞ティ˺　イ˞ズ˺　ガ˞ラ˺スン [ja˞ʃi˺miːʔamba pa˞riaŋ˺ ʃḭ˞ti˺ ʔi˞ʤu˺ ga˞ra˺ʃi](八十目網を魚の通り道に張り網しておいて魚を引っ掛けて漁獲しなさい)。

バ˞リイン [ba˞riʔiŋ] 【名】割り印。標準語の「割り印」から転訛したもの。ヤ˞クバ˺ヌ　˞クシキ˺ボーナー　バ˞リインヌ˺　シゥ˞カリ　ブー [ja˞kuba˺nu ˞kuʃḭki˺boːnaː ba˞riʔinnu˺ sḭ˞kari buː](役場の戸籍簿には割り印が押され＜突かれ＞ている)。

パ˞リカビ [pa˞rikabi] 【名】貼り紙。広告。ク˞ヌ˺　パ˞リカビ˺ナー　˺ヌーティル　カ˞カ˺リ　˞ベー˺ワ　˺ユミ˞ミー [ku˞nu˺ pa˞rikabi˺naː ˺nuːtiru kạ˞ka˺ri ˞beː˺wa ˺jumi˞miː](この貼り紙には何と書かれているか。読んでごらん)。

バ˞リカミ [ba˞rikami] 【名】1割れ甕。バ˞リカミ˺ナー　ミ˞ジ˺　イ˞リティ　ヌー˺スワ [ba˞rikami˺naː mi˞ʤi˺ ʔi˞riti nuː˺suwa](割れ甕に水を入れえてどうするのか)。2底なしの大酒飲み。ウ˞レー˺　バ˞リカミ˺　ヤ˞ルンダ˺　ギュー˞サ˺　ヌ˞マサ˺バン　タ˞ラーヌ [ʔu˞reː˺ ba˞rikami˺ ja˞runda˺ gjuː˞sa˺ nu˞masa˺ban ta˞raːnu](彼は底なしの大酒飲み＜割れ甕＞だから、いくら飲ませても足りない)。

パ˞リキスン [pa˞rikisuŋ] 【他動】張ってしまう。張り尽くす。すべて張り終わる。他動詞パ˞ルン [pa˞ruŋ](張る) の連用形に、接尾語化した˺キスン [˺kḭsuŋ](～切る。～尽くす。～終える) が付いた形。˺キューズーナ　パ˞リキスンティ˺　ウ˞ムーン˺ドゥ　パ˞リキサラン˺パジ [˺kjuːʤuːna pa˞rikisunti˺ ʔu˞muːn˺du pa˞rikisaram˺ paʤi](今日中に張り尽くそうと思うが、張り尽くされないはずだ)。キサー˞ティ˺　パ˞リキシ　ナー˺ヌ [kḭsaː˞ti˺ pa˞rikiʃi naː˺nu](すでに張りつくしてしまった)。ア˞ツァバー˺キナ　パ˞リキス˺　クトゥ [ʔa˞tsabaː˺kina pa˞rikisu˺ kṵtu](明日までに張り尽くすこと)。パ˞リキシェー˺　ミサムヌ [pa˞rikiʃeː˺ misamunu](張り尽くせばいいのに)。˞˞パー˺ク　パ˞リキシ˺バ [˞paː˺ku pa˞rikiʃi˺ba](早く張りつくしなさいよ)。

バ˞リクー [ba˞rikuː] 【名】「割り粉」の義。一晩米を水に浸けた後、十分水を切ってから˞シッキ˺ウシ [˞ʃikki˺ʔuʃi](搗き臼) にいれ、杵で搗いて粉にしたもの。ピ˞キクー [pḭ˞kikuː](石臼で挽いた麦粉) の対語。ピキクーに比して粒子が粗い。餅作りの際に˞ソー˺キ [˞soː˺ki](竹で編んだ浅い笊。˞笊筅(ザルケ)＜ソーケ＞」の義) に散布しておいて、餅にまぶす＜塗す＞のに用いる。バ˞リクーを作ることを、˞クー˺　バルン [˞kuː˺ baruŋ](粉を割る) という。バ˞リクーヌ　ナーン˺カー　ム˞チェー˺　ス˞クララ˺ヌ [ba˞rikuːnu naːŋ˺kaː mu˞ʧeː˺ sṵ˞kurara˺nu](割り粉がないと餅は作られない)。

バ˞リ˺ザン [ba˞ri˺ʤaŋ] 【名】割り算。ユ˞ター˺ル˺シェー　˞ギューサ˺ナ　ア˞タル˺ユー　バ˞リ˺ザン　˞シート˺ミー [ju˞taːru˺ʃeː ˞gjuːsa˺na ʔa˞taru˺juː ba˞ri˺ʤaŋ ˞ʃiːˈmiː](四人ではいくらずつになるか、割り算をしてごらん)。

パ˞リスギ˺ルン [pa˞risugi˺ruŋ] 【自動】行き過ぎる。通り過ぎる。ある地点を通り過ぎる。˞ヨーンナー˺　パ˞ラサン˺カー　パ˞リスギ˺ルン˞ダー [˞joːnnaː ˺ pa˞rasaŋ˺ka: pa˞risugi˺run˞daː](ゆっくり運転しないと＜走らさないと＞通り過ぎるよ)。

パ˞リスグ˺スン [pa˞risugu˺suŋ] 【他動】行き過ごす。通り過ごす。ある地点を通り過ごす。「走り・過ごす」の転訛したもの。若年層は、糸満方言の影響を受けて、˞ハイクゥー˺スン [˞haikwaː˺suŋ](行き過ぎる) ともいう。ウ˞マ˺ヌ　˺トン　パ˞リスグ˺スンケン　˞キー˺　シゥ˞カン˺シェンサー [ʔu˞ma˺nu ˺tom pa˞risugu˺suŋkeŋ ˞kiː˺ sḭ˞kaŋ˺ʃensaː](そこ＜その所＞を通り過ぎるまで気づかなかったよ)。

パ˞リタク [pa˞ritaku] 【名】日干し乾燥した蛸。大型の蛸の手を裂いて竹串で張り拡げ、太陽に干して乾燥させたもの。三、四日ほど日干しすると長期保存できる乾物に仕上がる。「張り蛸」の義。これを調理の前に数時間水に浸けてもどし、祝儀用には食紅で着色してア˞ガタク [ʔa˞gataku](赤蛸) に調理し、法事用には着色しないで調理した。パ˞リタコー˺　ミ˞ジ˺ナー　ム˞ドゥ˺シティ　ス˞ミクー˺シ　ス˞

ミティ˥　シ˞ミ˥ムヌ　ス˞コーリ˥バ [pa˞ritako:˥ mi˞ʤi˥na: mu˞du˥ʃi̥ti su˞miku:˥ʃi su˞miti˥ ʃi˞mi˥munu su̥˞ko:ri˥ba](張り蛸は水に浸けてもどし、食紅＜染め粉＞で染めて煮しめものを準備しなさいよ)。

パ˞リ˥ダケー　˞ナー˥ヌ [pa˞ri˥dake: ˞na:˥nu] 【連】行けそうにない。行ける状態にない。パ˞ナシキ˥　マ˞マリティ　キュー˥ヤ (ワ)　˞バン˥マー　パ˞リ˥ダケー　˞ナー˥ヌ [pa˞naʃi̥ki˥ ma˞mariti kju:˥ja(wa) ˞bam˥ma: pa˞ri˥dake: ˞na:˥nu](風邪をひいて＜風邪・鼻付きに塗られて＞今日は、私には行けそうにない)。

バ˞リタムヌ [ba˞ritamunu] 【名】生木を長さ約 30 センチに切り、斧で割り裂き、日干しにした燃料の薪。「割り薪」の義。バ˞リタムノー˥　タ˞ムヌ˥ダナナー　シ˞ミティ˥　カ˞マチヌ　ピー˥ヌ　˥イキシ　˞カーラカシティ˥　ッ˞サーラ˥ラー　˥ヌイティ　˞モーソーッ˥タ [ba˞ritamuno:˥ ta˞munu˥danana: ʃi˞miti˥ ka˞matʃinu pi:˥nu ˥ʔikiʃi ˞ka:rakaʃi̥ti˥ s˞sa:ra˥ra:˥nuiti ˞mo:so:t˥ta](割り薪は薪棚に積んで竈の火勢で乾かし＜乾燥させ＞て、積んである薪の下の方から抜き取って燃やされた)。

パ˞リッサールン [pa˞rissa:ruŋ] 【自動】胸が張り裂ける。張り詰まる。「張り塞がる」の義。˞ンーニ [˞ʔn:ni](胸) や˥キム [˥kimu](心) 等に続いて、˞ンーニヌ˥　パ˞リッサールン˥ケン　ム˞ヌ˥バ　ウ˞ムイ˥ル　ナ˞キベー　[˞ʔn:ninu˥ pa˞rissa:ruŋ˥kem mu˞nu˥ba ʔu˞mui˥ru na˞kibe:](胸が張り裂けるほど悲しんで＜思い悩んで＞泣いている)。˞ンーネー˥　パ˞リッサーリティ˥　ムネー　イ˞ザラヌ [˞ʔn:ne:˥ pa˞rissa:riti˥ mune: ʔi˞ʤaranu](胸が張りつめて、ものが言えない)。

バ˞リッツァースン [ba˞rittsa:suŋ] 【他動】粉々にわる。散々に割る。「割り散らす」の義。普通は、˞バッツァースン [˞battsa:suŋ](粉々に割る) という。˞クン˥ゾー　ウ˞ク˥ルカー　˥ヌーンクイン　˞ナン˥ギ　バ˞リッツァースンドゥ　キュー˥ヤ＜キュー˥ワ＞　バ˞リッツァーサンワーン˥ノー [˞kun˥ʤo: ʔu˞ku˥ruka: ˥nu:ŋkuin ˞naŋ˥gi ba˞rittsa:sundu kju:˥ja＜kju:˥wa＞ ba˞rittsa:saŋwa:n˥no:](怒ったら何でもかんでも投げてつけて粉々に割るが、今日は粉々に割らないではないか)。バ˞リッツァーシ˥　ミサカー　バ˞リッツァース˥クトー　˥ナルン [ba˞rittsa:ʃi˥ misaka: ba˞rittsa:su˥ ku̥to: ˥naruŋ](粉々に割ってよければ粉々に割ることはできる)。バ˞リッツァーシェー˥　ミサムヌ [ba˞rittsa:ʃe:˥ misamunu](粉々に割ればいいのに)。˥カイブ　˥ムノー　バ˞リッツァーシ [˥kaibu˥muno: ba˞rittsa:ʃi](こんなものは粉々に割ってしまえ＜割れ＞)。

パ˞リッツァー˥スン [pa˞rittsa:˥suŋ] 【自動】走りまくる。「走り散らす」の転訛したもの。ヤ˞ラ˥ビンケーヤ　˞ウイックナーバ　シール˥　パ˞リッツァー˥シ　ア˞サブタル [ja˞ra˥biŋke:ja ˞ʔuikkuna:ba ʃi:ru˥ pa˞rittsa:˥ʃi ʔa˞sabutaru](子供たちは追いかけっこをしながら遊んだものだ)。

パ˞リ˥ドゥ　シ˞ラリル [pa˞ri˥du ʃi˞rariru] 【連】行かなければならない。「行きぞされる」の転訛したもの。係助詞ドゥ [du](ぞ) は、ぞんざいに発音すると、ル [ru](ぞ) ともいう。係助詞ドゥ [du] は種々の語に下接して強調の意味を添え、下にかかって連体形で結ぶ文節と呼応の関係をつくる。˥ヨイナー　˞バン˥ヌン　パ˞リ˥ドゥ (ル)　シ˞ラリル˥　ナー˞イヤ˥　ブ˞ララヌ [˥joina: ˞ban˥num pa˞ri˥du＜ru＞ʃi˞rariru˥ na:˞ija˥ bu˞raranu](お祝いには私も行かなければならない＜行きぞされる＞。黙ってはおられない＜無為にはおれない。行ってこそ義理が果たせるというものだ＞)。

バ˞リナビ [ba˞rinabi] 【名】割れ鍋。バ˞リナビン˥　シゥ˞カイミチェー˥　アン [ba˞rinabin˥ si˞kaimiʧe:˥ ʔaŋ](割れ鍋も用途＜使い道＞はある)。

パ˞リヌブ˥リ [pa˞rinubu˥ri] 【連】駆け上って。走り上って。歌謡語。パ˞トゥ˥マナカムリ [pa˞tu˥manaka-muri](鳩間中岡＜鳩間節＞) の第一連の歌詞。/パトゥマナカムリ　パリヌブリ　クバヌ　シタニ　パリヌブリ　ハイヤヨー　ティーバ　カイダキ　ティトゥユル　テンヨー　マサティ　ミグトゥ/(鳩間中岡に駆け上ってみると、蒲葵の下に駆け上ってみると、南の方は、美しい古見の山々が手に取るように実に見事な眺望である)『鳩間島古典民謡古謡集』。

バ˞リパク [ba˞ripaku] 【名】割れた箱。ヤ˞リ˥パク [ja˞ri˥paku](破れた箱) ともいう。バ˞リパクヌ˥　イ˞ツァ˥ヌ　シゥ˞カーリ　ムノー˥　トゥリクーバ [ba˞ripakunu˥ ʔi˞tsa˥nu si̥˞ka:ri muno:˥ turiku:ba](割れた箱の板の使えるものは取ってきなさい)。

˥パリ　˥パルン [˥pari ˥paruŋ] 【連】走って行く。ッ˞ふァヌ˥　シ˞ビ　ウイ˥　パリ　パ˞ルン˥ドゥ　シ˞ビ　ウイユーサヌ [f˞fanu˥ ʃi˞bi ʔui˥ pari pa˞run˥du ʃi˞bi ʔuiju:sanu](子供の後を追って走って行くが、後を追うことができない)。

パ˞リフキ˥ルン [pa˞riɸuki˥ruŋ] 【自動】逃走する。逃

げ切る。逃走して行方不明になる。「行きふけ＜抜け＞る」の義。˞マー˥ヌマーラー　パ˞リ˥フキ　˞パッ˥タンサー　ウ˞トー˥　シ˞キン˥　ミ˞ララ˥ヌ [˞ma:˥numa:ra: pa˞ri˥ɸu̥ki ˞pat˥tansa: ʔu˞to:˥ ʃi̥˞kim˥ mi˞rara˥nu](どこの辺りへ逃げ切っていったのか、噂＜音＞も聞いたことがない)。パ˞リフキ˥ルンティ　シ˞タンティン˥　パ˞リフキラ˥リ　˥ムノー　ア˞ラ˥ヌ [pa˞riɸu̥ki˥runti ʃi̥˞tantim˥ pa˞riɸu̥kira˥ri ˥muno: ʔa˞ra˥nu](逃げ切ると言っても逃げ切られるものではない)。パ˞リフキ˥ル　ク˞トゥ˥ヌ　˥ナルカー　パ˞リフキ˥リ [pa˞riɸuki˥ru ku̥˞tu˥nu ˥naruka: pa˞riɸuki˥ri](逃げ切ることが出来れば逃げ切れ)。˥ナルカー　パ˞リフキ˥レー　˥ミサムヌ [˥naruka: pa˞riɸu̥ki˥re: ˥misamunu](可能＜出来る＞なら逃げ切ればいいのに)。

パ˞リ˥フチ [pa˞ri˥ɸutʃi] 【名】行き方。帰り方。帰った時刻。イ˞チル　パッタ˥ユー　ウ˞リヌ˥　パ˞リ˥フチ　˞ピッ˥チン　ッ˞サン˥サー [ʔi˞tʃiru pat˥taju: ʔu˞rinu˥ pa˞ri˥ɸu̥tʃi ˞pit˥tʃiŋ s˞san˥sa:](いつ行ったのか、彼の行き＜帰り＞方は全く＜一つも＞知らないよ)。

パ˞リ˥マー [pa˞ri˥ma:] 【名】雨の晴れ間。ア˞ミ˥ヌ　パ˞リ˥マー　˥ミレーティ　˞キン˥マー　ン˞ザ˥シ　˥プシバ [ʔa˞mi˥nu pa˞ri˥ma: ˥mire:ti ˞kim˥ma: ʔn˞ʤa ˥ʃi ˥pu̥ʃiba](雨の晴れ間を見て着物は出して干しなさいよ)。

パ˞リマー˥キ [pa˞rima:˥ki] 【名】行くことが出来ないこと。行き兼ねるさま。接尾辞˞マー˥キ [˞ma:˥ki] は、他の動詞の連用形にに付いて不可能、困難の意味を表す。能力はあるが、条件が悪くて行けないさま。カ˞ジヌ　スー˥ワティ　ア˞ラ˥キ　パ˞リマー˥キ　˞ベー˥ダー [ka˞ʤinu su:˥wati ʔa˞ra˥ki pa˞rima: ˥ki ˞be:˥da:](風が強いので歩いて行きかねて＜行くことが出来ないで＞いるよ)。

パ˞リマー˥ビ [pa˞rima:˥bi] 【名】行くまね。行くふり。˞マービ [˞ma:bi](真似) は「学、マナブ、ナラフ、マネブ」『類聚名義抄』の転訛したもの。˞パー˥ク　˥パレー　サ˞ムティ˥　パ˞リマー˥ビ　カー˞ニル　スー [˞pa:˥ku ˥pare: sa˞muti˥ pa˞rima:˥bi ka:˞niru su:](早く行きはしないで、行くまねだけをする)。

パ˞リマー˥ルン [pa˞rima:˥ruŋ] 【自動】駆け回る。駆けずり回る。駆巡る。「走り回る」の義。ウ˞マー˥カマー　パ˞リマー˥リ　˞ミシ˥キ　˥クーバ [ʔu˞ma: ˥kama: pa˞rima:˥ri ˞miʃi̥˥ki ˥ku:ba](あっちこっち駆けずり回って探してきなさいよ)。パ˞リマー˥ルンティ　ウ˞ムーン˥ドゥ　パ˞リマーララ˥ヌ [pa˞rima:˥runti ʔu˞mu:n˥du pa˞rima:rara˥nu](走り回ろうと思うが走り回られない)。パ˞リマー˥ル　プ˞スンドゥ˥　シ˞グトー˥　ト˞ミラ˥リ [pa˞rima:˥ru pu̥˞sundu˥ ʃi ˞guto:˥ tu˞mira˥ri](走り回る人にが＜ぞ＞仕事は探される＜～人にしか仕事は探されない＞)。ウ˞マー˥ンカマーン　パ˞リマー˥レー　˥ミササムヌ [ʔu˞ma:ŋ˥kama:m pa˞rima:˥re: ˥misamunu](あっちこっち走り回ればいいのに)。˞マー˥ビン　˥ドゥー　˞タンガ˥シ　パ˞リマー˥リ [˞ma:˥bin ˥du: ˞taŋga˥ʃi pa ˞rima:˥ri](もっと自分一人で走り回れ)。

バ˞リミー [ba˞rimi:] 【名】割れ目。˞ミー˥バリ [˞mi: ˥bari](ひび割れ) ともいう。ク˞ヌ˥　サバンナー　バ˞リミーヌ˥　アン [ku˞nu˥ sabanna: ba˞rimi:nu˥ ʔaŋ](この茶碗には割れ目＜ひび＞が入っている)。カ˞ミ˥ヌ　バ˞リミーラル˥　ミ˞ジェー˥　ムリ　˞ブー [ka˞mi˥nu ba˞rimi:raru˥ mi˞ʤe:˥ muri ˞bu:](甕の割れ目から水は漏れている)。

バ˞リムヌ [ba˞rimunu] 【名】割れ物。割れたもの。割れやすいもの。バ˞リムノー˥　シゥ˞カーランバ˥　ムティ　˞ギー˥　シ˞ティリ [ba˞rimuno:˥ si̥˞ka:ramba ˥ mutu ˞gi:˥ ʃi̥˞tiri](割れ物は使えないから、持っていって捨ててきなさい＜捨てれ＞)。バ˞リムヌ˥　ヤ˞リバ˥　ミス˞コーミスコー˥シ　˞アシゥカイ˥ヨー [ba˞rimunu˥ ja˞riba˥ misu̥˞ko:misu̥ko:˥ʃi ˞ʔasi̥kai˥ jo:](壊れやすいものだから、注意深く丁寧に扱いなさいよ)。

パ˞リムヌ [pa˞rimunu] 【名】はれもの (腫物)。ム˞ムッ˥タラナ　パ˞リムヌヌ˥　ンジ　˞ベー˥ティ　シ˞ラシフチル˥　パ˞リ˥シケー [mu˞mut˥tarana pa˞rimununu˥ ʔnʤi ˞be:˥ti ʃi˞raʃiɸu̥tʃiru˥ pa˞ri˥ ʃi̥ke:](腿に腫物が出ているので散らし薬を貼っておいてある)。

パ˞リ˥ヤフ [pa˞ri˥jaɸu] 【名】後厄。49 歳や 61 歳の本厄の晴れた後の厄年。「晴れ厄」の義。若年層はハ˞リ˥ヤク [ha˞ri˥jaku](後厄) ともいう。ク˞トゥシェー˥　パ˞リ˥ヤフ　ア˞タリブーバ˥　タ˞ベー　パン˥ナ˞ヨー [ku̥˞tuʃe:˥ pa˞ri˥jaɸu ʔa˞taribu:ba˥ ta˞be: pan ˥na˞jo:](今年は後厄に当っているから旅には出るなよ)。

バ˞リルン [ba˞riruŋ] 【自動】割れる。マ˞カ˥ロー　ウ˞タ˥スカー　バ˞リルンドゥ˥　ク˞レー˥　ウ˞タシ˥タンティン　バ˞リラヌ [ma˞ka˥ro: ʔu˞ta˥suka: ba˞ririrundu˥ ku˞re:˥ ʔu˞taʃi˥tantim ba˞riranu](お碗は落

とすと割れるが、これは落としても割れない)。ウ˞タシ˥ター　バ˞リナー˥ヌ [ʔuˤtaʃi̥˥taː baˤrinaː˥nu](<誤って>落としたので割れてしまった)。ウ˞タ˥スカー　バ˞リル˥　クトゥン　˥アン [ʔuˤta˥su̥ka: baˤriru˥ ku̥tuŋ ˥ʔaŋ](落としてら割れることもある)。バ˞リレー˥　ミサムヌ [baˤrireː˥ misamunu](割れればいいのに)。バ˞リリバ˥　ミサムヌ [baˤririba˥ misamunu](割れればいいのに)。˥カイブ　˥ムノー　˞パー˥ク　バ˞リリ [˥kaibu ˥muno: ˞paː˥ku baˤriri](こんな物は早く割れろ)。

パ˞リ˥ルン [paˤri˥ruŋ] 【自動】晴れる。雨が上がる<止む>。プ˞スマバー˥キナ　˥アメー　パ˞リ˥ルンティ　ス˞クタヌ˥　マ˞ダ˥　パ˞リラン˥バン˞ナー [pu̥ˤsumabaː˥kina ˥ʔameː paˤri˥runti su̥ˤkutanu˥ maˤda˥ paˤriram˥banˤnaː](正午までには雨は止む<晴れる>と聞いたが、まだ晴れないんだねえ)。マ˞ダ˥　パ˞リ　キサン˥ドゥ　パ˞リ˥ル　˥クトー　マ˞チ˥ガイ　˞ナー˥ヌ [maˤda˥ paˤri kisan˥du paˤri˥ru ˥kuto: maˤtʃi˥gai ˞naː˥nu](まだすっかり晴れては<晴れきって>ないが、晴れることは間違いない)。プ˞スマバー˥キナ　˥パレー　˥ミサムヌ˞ナー [pu̥ˤsumabaː˥kina ˥pareː ˥misamunuˤnaː](正午までに晴れたら良いのになあ)。

パ˞リルン [paˤriruŋ] 【自動】腫れる。炎症で皮膚がふくれあがる。「〜瞼腫而<マナブタハレテ>〜。万、3856」の転訛したものか。ア˞シブ˥ヌ　˞ウー˥ムカー　アガー˞アガー˥シ　パ˞リルンドゥ˥　ク˞レー˥　マ˞ダ˥　パ˞リランバン [ʔaˤʃibu˥nu ˞ʔuː˥mukaː ʔagaː˞ʔagaː˥ʃi paˤrirundu˥ kuˤreː˥ maˤda˥ paˤrirambaŋ](お出来が化膿すると赤く腫れるが、これはまだ腫れないよ)。パ˞リ　ベー [paˤri beː](腫れている)。パ˞リル˥　ア˞シ˥ボー　バ˞リソーッ˥タ [paˤriru˥ ʔaˤʃi˥bo: baˤrisoːtˢta](腫れるお出来<あせも>は切開された<割られた>)。

パ˞リン˥ギサン [paˤriŋ˥gisaŋ] 【連】行きそうだ。動詞˥パルン [˥paruŋ](行く)の連用形に様態の助動詞˥ンギサン [˞ŋ˥gisaŋ](〜ようだ。〜そうだ)の終止形が下接した形。˞キュー˥ヤ (ワ)　イ˞ソー˥　パ˞リン˥ギサン˞ダー [˞kjuː˥ja(wa) ʔiˤsoː˥ paˤriŋ˥gisanˤdaː](今日は漁に行きそうだ<出漁しそうだ>よ)。

パ˞リンテー˥ナ [paˤrinteː˥na] 【連】行きながら。二つのことが同時に進行する際の、動作の並行を表す。動詞の連用形に接続助詞˞˞-ンテー˥ナ [˞-nteː˥na](〜ながら。〜つつ)の下接した形。˞ガッ˥コー　パ˞リンテー˥ナ　ティ˞ガ˥ミ　ン˞ザ˥シ　ッ˞ふィーリ [˞gak˥koː paˤrinteː˥na tiˤga˥mi ʔnˤʤa˥ʃi fˤfiːri](学校へ行きながら手紙を出してくれ)。

パ˞リン˥マ [paˤriʔm˥ma] 【名】疾走する馬。˞走り馬」の義。パ˞リン˥マー　˞ウイシキララヌ [paˤriʔm˥maː ˞ʔuiʃi̥kiraranu](疾走する馬は追いつけない)。

˥パル [˥paru] 【名】1針。縫い針。「〜波里曾多麻敝流(ハリゾタマヘル)〜。万、4128」の転訛したもの。˞キンヌイ˥パル [˞kinnui˥paru] ともいう。パ˞ル˥ヌミー　˥イトゥ　ヌ˞キ (˞トゥー˥シ)[paˤru˥numiː ˥ʔitu nuˤki(˞tuː˥ʃi)](針穴に糸を貫き<通し>なさい)。2茅葺に用いる竹製の矛。竹の先端を鋭利に削り、先端部に直径約一センチの穴を開けてシ˞ミ˥ナー [ʃiˤmi˥naː](締め縄)が通せるように作った竹矛。茅葺の屋根を葺く際に屋内にいるパ˞ルシキ˥プス [paˤruʃi̥ki˥pu̥su](竹矛を刺す人)が竹矛を屋根の上へ突き出し、屋根の上の˞ヤーフキ˥プス [˞jaːɸu̥ki˥pu̥su](屋根葺き人)からシ˞ミ˥ナー [ʃiˤmi˥naː](締め縄)をパ˞ル˥ヌミー [paˤru˥numiː](針穴)に通してもらい、それを室内へ引き抜いてタ˞ル˥キ [taˤru˥ki](垂木)に掛けて再度パルを屋上へ突き出して屋根葺き人へ届けるのに用いる道具。˥パル　ス˞ク˥　ピンマー　˥ユー　˞アイ˥ジェー　˞シェー˥ティ　シゥ˞カン˥カー　ナ˞ラン˥ダー [˥paru su̥ˤku˥ pimmaː ˥juː ˞ʔai˥ʤeː ˞ʃeː˥ti si̥ˤkaŋ˥kaː naˤran˥daː](家葺き用の竹矛を突き出す時は、よく合図をしながら突き刺さないといけないよ)。

˥パル [˥paru] 【名】羅針盤。コンパス (kompas)。明治生まれの老年層は、カ˞ラバル [kaˤrabaru](羅針盤。「唐針」の義か)という(加治工伊佐氏談)。カツオ漁船のブ˞リッ˥ジ [buˤrid˥ʤi](船長室。海軍航海用語の bridge<艦橋>から転訛したもの)に設置されていた。西表島が地平線の彼方に没する遠方の˞タイワン˥ズニ [˞taiwan˥ʤuni](台湾曽根)、ナ˞カヌ˥スニ [naˤkanu˥suni](中の曽根)辺りへ出漁する際は羅針盤が必要であった。戦後鳩間島の烏賊釣りサバニ船団が夜中に風向きが変わったことに気付かず、翌朝漁から帰港する際に島とは正反対の(尖閣列島)方面へ順風に帆を孕ませて帆走し去った海難事故がある。小型のカ˞ラバル [kaˤrabaru](コンパス)を所持していた加治工伊佐氏がそれに気付いて、櫂を振り揚げて逆走するサバニを制止したが意思が通じず、先頭のサバニに誘導されて二十数隻のサバニが尖閣列島方向へ帆走し去ったという。その前日、北風の中をサバニを牽引して出漁

していたカツオ漁船も逆走するサバニを制止できず、結局はサバニを追走する印象を船団に与えてしまったという海難事故である。加治工伊佐氏は近くにいたサバニ1隻を説得し、ジグザグ帆走でその日の午後に石垣島の川平村に辿り付く事ができ、石垣市の警察署へ捜索願いを出すことができたという。全員救助されるのに4,5日を要したといわれている。パ˩ル˥ヌ　˩ナーンタ˥カー　˩ヤーカイ˥ル　˥クトー　ナ˩ラ˥ン　˩ブレー˥ル [pa˩ru˥nu ˩naːn˥takaː ˩jaː kai˥ru ˥kʉtoː na˩ra˥m ˩bureː˥ru](羅針盤＜コンパス＞が無かったら家に帰ることは出来なかったであろうよ)。

パ˩ルシキ˥プス [pa˩ruʃʉki˥pʉsu] 【名】茅葺用の竹製の矛を突き刺す人。「針突き人」の義。竹矛を突き刺す人は屋上の屋根葺きと声を掛け合いながら作業を進めた。勘の鈍い人とペヤーを組むと非常に危険で、屋根葺き作業もはかどらないと言われていた。パ˩ルシキ˥プソー　˩ヤーフキプス˥トゥ　˩アイ˥ジ　˩シェー˥ティル　˥ヤー　フ˩カソーッ˥タ [pa˩ruʃʉki˥pʉsoː ˩jaːɸʉkipʉsu˥tu ˩ʔai˥ʤi ˩ʃeː˥tiru ˥jaː ɸʉ˩kasoːt˥ta](茅葺用の竹矛を突き刺す人は屋根葺き人と合図をしながら茅葺屋根を葺かされた)。

パ˩ルシグ˥トゥ [pa˩ruʃigu˥tu] 【名】針仕事。ヤ˩ラビッふァーマ˥ヌ　˩ブー˥　ヤーナーテー　パ˩ルシグ˥トー　˥ユー　˩キー˥　シ˩キ˥リ [ja˩rabiffaːma˥nu ˩buː˥ jaːnaːteː pa˩ruʃigu˥toː ˥juː ˩kiː˥ ʃʉ˩ki˥ri](幼児のいる家では針仕事はよくよく気をつけなさい)。

パ˩ル˥シケー [pa˩ru˥ʃʉkeː] 【名】入れ墨。刺青。首里方言のhazici(入れ墨。「針突き」)が転訛したもの。明治生まれの女性までは、結婚後に左右の手の甲および指の背に入れ墨をする習慣があったという。ム˩カ˥シプソー　ミ˩ドゥ˥モー　バ˩カーン˥ケン　˥ニービキ　˩スー˥カー　˩ティーヌ˥クシナー　パ˩ル˥シケー　˩シーソーッ˥タツォー [mu˩ka˥ʃipʉsoː mi˩du˥moː ba˩kaːŋ˥ken ˥niːbiki ˩suː˥kaː tiːnu˥kuʃinaː pa˩ru˥ʃʉkeː ˩ʃiːsoːt˥tatsoː](昔の人は、女性は若い時に、結婚したら手の甲＜手の背＞に入れ墨をされたそうだ)。

パ˩ルスー˥ブ [pa˩rusuː˥bu] 【名】かけっこ(駆けっこ)。「走り勝負」の義。˩ウンドー˥カイナー　ヤー˩ディン˥　パ˩ルスー˥ボー　ア˩リ˥ブタ [˩ʔundoː˥kainaː jaː˩dim˥ pa˩rusuː˥boː ʔa˩ri˥buta](運動会には必ず徒歩競争はありよった)。ヤ˩ラ˥ビンケーヤ　˥ゾーナーティ　パ˩ルスー˥ブ　˩シール˥　ア˩サブタル [ja˩ra˥biŋkeːja ˥ʤoːnaːtiru pa˩rusuː˥bu ˩ʃiːru˥ ʔa˩sabutaru](子供達は門の外で駆けっこをして＜ぞ＞遊んだものだ)。

パ˩ルスー˥ブ [pa˩rusuː˥bu] 【名】1「畑勝負」のこと。「墾・勝負」の義か。琉球国時代に農作物の出来具合を審査した村行事。鳩間島では、終戦直後までは西村と東村対抗で畑作物の増産競争が行われていて、村役人＜篤農青年団＞が各家の畑を実地検証してまわり、作柄を評価して発表し、順位を競ったという。ム˩カ˥シェー　パ˩タキ˥ヌ　ス˩クリムヌ˥ヌ　˩スー˥ブン　˩ソーッ˥タンツォー＜˩ソーッ˥タンティ˩ダー＞[mu˩ka˥ʃeː pʉ˩taki˥nu sʉ˩kurimunu˥nu ˩suː˥bun ˩soːt˥tantsoː＜˩soːt˥tanti˩daː＞](昔は畑の作物の競争もされたそうだ)。2結願祭に上演される奉納芸の一つ。沖縄本島方言で独演される狂言芸能の˥ピラ [˥pira](箆)に続いて上演される演劇(畑勝負＜農産振興競争＞)のこと。パ˩ルスー˥ブティ　˩スー　キョンギン˥ヌ　˩アッ˥タン [pa˩rusuː˥buti ˩suː kjoŋgin˥nu ˩ʔat˥taŋ](畑勝負という狂言＜演劇＞があった)。

パ˩ル˥ッシ [pa˩ru˥ʃʃi] 【名】針刺し。標準語からの借用語の転訛したもの。˥パロー　パ˩ル˥ッシナ　˥ッシ　シ˩キ˥リバ [˥paroː pa˩ru˥ʃʃina ˥ʃʃi ʃʉ˩ki˥riba](針は針刺しに刺しておきなさいよ)。

パ˩ル˥トゥ　˩アーシ [pa˩ru˥tu ˩ʔaːʃi] 【連】行くと同時に。˩行くのと合わせて」の義。˥バー　ウ˩キ˥ナー　パ˩ル˥トゥ　˩アー˥シ　˥シザー　ヤ˩マ˥トー　˩オー˥リ　˩ナーン˥シェン [˥baː ʔu˩ki˥naː pa˩ru˥tu ˩ʔaː˥ʃi ˥ʃiʤaː ja˩ma˥to ˩ʔoː˥ri ˩naːŋ˥ʃeŋ](私が沖縄へ行くと同時に＜行くのに合わせて＞、兄は大和＜日本本土＞へ行ってしまわれた)。

パ˩ル˥ヌ　˥シチ [pa˩ru˥nu ˥ʃʉʧi] 【連】春の季節。「春の節」の転訛したもの。老年層は、ウ˩ルズン˥ヌ　˥シチ [ʔu˩ruʤun˥nu ˥ʃʉʧi](初夏の季節)という。

パ˩ル˥ヌミー [pa˩ru˥numiː] 【名】1縫い針の穴。「針の目」の義。˩ミー˥ヌ　˩ムイティ˥　ムッ˩トゥ˥　パ˩ル˥ヌミー　˥イトゥ　ヌ˩キサヌ [˩miː˥nu ˩muiti˥ mut˩tu˥ pa˩ru˥numiː ˥ʔitu nu˩kisanu](老眼になって、ちっとも針の孔に糸を貫き通すことが出来ない)。2屋根葺き用竹矛の穴のこと。この穴にシ˩ミ˥ナー [ʃi˩mi˥naː](締め縄)を通して垂木に掛け、引き締めて茅葺屋根を葺く。パ˩ル˥ヌ　˥ミーナー　シ˩ミ˥ナー　ヌ˩キティ˥　ピ˩キシミティル　ヤー˥ヤフ˩コーッ˥タ [pa˩ru˥nu ˥miːnaː ʃi˩mi˥naː nu˩kiti˥ pʉ˩kiʃimitiru jaː˥ja ɸʉ˩koːt˥ta](竹矛の穴に締め縄を貫き通して、引き締めて＜ぞ＞屋根は葺かれたもの

だ)。

パˈルˈパク [paˈruˈpaku] 【名】針箱。ˈパロー　パˈルパクンˈ　ナカナー　イˈリシキˈリ [ˈparo: paˈrupakunˈ nakana: ʔiˈriʃi̥kiˈri](針は針箱の中に入れておきなさい)。

パˈルマˈスン [paˈrumaˈsuŋ] 【他動】孕ませる。妊娠させる。自動詞パˈルˈムン [paˈruˈmuŋ](孕む) の未然形に、使役の助動詞ˈスン [ˈsuŋ](〜せる。〜させる) が下接して形成された使役の派生動詞 (使役動詞)。ビˈキピビザˈ　カˈリティ　ミーピビˈザ　パˈルマˈスンティ　ˈシケー [biˈkipibiʤaˈ kaˈriti miːpibiˈʤa paˈrumaˈsunti ˈʃi̥keː](雄山羊を借りて雌山羊を妊娠させようとしておいてある)。

パˈルミˈバタ [paˈrumiˈbata] 【名】妊娠している腹。妊娠中の大きなお腹。パˈルミˈバター　ヒˈヤスˈナティル　アˈゾーッˈタ [paˈrumiˈbata: çiˈjasuˈnatiru ʔaʤoːtta](妊婦のお腹は冷やすなと言われたものだ)。

パˈルミˈプス [paˈrumiˈpu̥su] 【名】妊婦。「孕み人」の義。パˈルミˈプソー　ギューˈサン　ッふン [paˈrumiˈpu̥soː gjuːˈsaŋˈ fˈfuŋ](妊婦はいくらでも食べる)。

パˈルミˈ　ミˈドゥˈム [paˈrumiˈ miˈduˈmu] 【連】妊娠した女。「孕み女」の義。チˈカˈグロー　パˈルミˈ　ミˈドゥˈモー　ˈナンˈゾー　ミˈラランˈサーˈナー [ʧi̥ˈkaˈguroː paˈrumiˈ miˈduˈmoː ˈnanˈʤoː miˈraranˈ saːˈnaː](近頃は、妊娠した女はあまり見受けられ＜見られ＞ないよねえ)。

パˈルˈムン [paˈruˈmuŋ] 【自動】はらむ＜孕＞。妊娠する。「胎、博羅無＜はらむ＞」『日本霊異記下』の転訛。ˈニービキ　ˈスーˈカー　パˈルムンˈドゥ　クˈヌ　ッふァーˈ　マˈダˈ　パˈルマˈヌ [ˈniːbiki ˈsuːˈkaː paˈrumunˈdu kuˈnuˈ fˈfaːˈ maˈdaˈ paˈrumaˈnu](結婚すると孕むが、この子はまだ孕まない)。パˈルˈミ　ˈナーˈヌ [paˈruˈmi ˈnaːˈnu](孕んでしまった)。パˈルˈム　プˈスヌ　イシゥˈカーンダ　ˈマーˈビン　パˈルˈメー　ˈミサムヌ [paˈruˈmu pu̥ˈsunu ʔisi̥ˈkaːnda ˈmaːˈbim paˈruˈmeː ˈmisamunu](孕む人が少ないから、もっと孕めば良いのに)。ヤーˈディンˈ　パˈルˈミˈヨー [jaːˈdimˈ paˈruˈmiˈjoː](きっと＜必ず＞孕みなさいよ)。

バˈルン [baˈruŋ] (1) 【自動】割れる。ウˈタˈスカー　バˈルンダˈ　バˈランˈヨーニ　ミスˈコーミスコーˈシ　ˈムティ　ˈパリバ [ʔuˈtaˈsu̥ka: baˈrundaˈ baˈraŋˈjoːni misu̥ˈkoːmisukoːˈʃi ˈmuti ˈpariba](落としたら割れるから、割れないように細心の注意を払って持っていけよ)。ウˈタシˈター　バˈリナーˈヌ [ʔuˈtaʃi̥ˈta: baˈrinaːˈnu](落としたら割れてしまった)。クˈレーˈ　バˈリヤッˈサンダ　ˈカウナ [kuˈreːˈ baˈrijasˈ sanda ˈkauna](これは割れやすいから買うな)。サˈバンˈヌ　バˈルˈ　ピンマー　クˈマキˈヌ　トゥˈブン [saˈbanˈnu baˈruˈ pimma: kuˈmakiˈnu tuˈbuŋ](茶碗が割れる時は細かい破片が飛ぶ)。ナˈカーˈラ　バˈレーˈ　ミ　サムヌ [naˈkaːˈra baˈreːˈ misamunu](内部から割れたら良いのに)。ˈパーˈク　バˈリˈバ [ˈpaːˈku baˈriˈba](早く割れろ)。 **(2)** 【他動】割る。「石戸破＜わる＞　手力もがも〜。万、419」。割る。クˈレーˈ　バˈルンティˈ　ウˈムーンˈドゥ　マˈナˈマー　バˈラヌ [kuˈreːˈ baˈrundiˈ ʔuˈmuːnˈdu maˈnaˈmaː baˈranu](これは割ろうと思うが、今は割らない)。バˈリˈミサン [baˈriˈmisaŋ](割ってもいい)。バˈルˈクトー　ˈナルン [baˈruˈ ku̥to: ˈnaruŋ](割ることは出来る)。クˈレーˈ　バˈレーˈ　ミサムヌ [kuˈreːˈ baˈreːˈ misamunu](これは割ればいいのに)。クˈリンˈ　バˈリˈバ [kuˈrimˈ baˈriˈba](これも割れよ)。3切開する。アˈシˈブンドーレー　パˈリムノーˈ　クˈビンˈヌ　バˈリˈシル　バˈローッˈタ [ʔaˈʃiˈbundoːre: paˈrimunoːˈ kuˈbinˈnu baˈriˈʃiru baˈroːtˈta](お出来や腫れ物などはガラス瓶の破片で切開された)。

ˈパルン [paruŋ] 【自動】晴れる。ˈ雨が止む」については、普通は、ヤˈムン [jaˈmuŋ](止む) という。ユˈネンˈマー　ˈアメー　ˈパルンパジ [juˈnemˈmaː ˈʔameː ˈparumpaʤi](夜＜夕方＞には雨は止む＜あがる＞だろう)。ˈアメー　パˈリンˈギサン [ˈʔameː paˈriŋˈgisaŋ](雨は上がりそうだ＜晴れそうだ＞)。「〜雨雲晴而　月夜さやけし。万、2227」の義。「霽、ハレ」『類聚名義抄』の転訛。ˈアメー　ˈパルンティ　ウˈムータンˈドゥ　マˈダˈ　パˈランˈバン [ˈʔameː ˈparunti ʔuˈmuːtanˈdu maˈdaˈ paˈramˈbaŋ](雨は晴れると思ったが、まだ晴れないよ)。アˈミˈヌ　パˈルˈター　ˈキムン　ˈパリティ　シˈグトゥン　シーヤッˈサン [ʔaˈmiˈnu paˈruˈtaː ˈkimum ˈpariti ʃiˈgutuŋ ʃiːjasˈsaŋ](雨が晴れたので心も晴れて仕事もしやすい)。アˈミˈヌ　ˈパル　ˈピンマー　イˈスガˈサン [ʔaˈmiˈnu ˈparu ˈpimma: ʔiˈsugaˈsaŋ](雨が晴れる時は忙しい)。プˈスマバーˈキナ　ˈパレー　ˈミサムヌ [pu̥ˈsumabaːˈkina ˈpareː ˈmisamunu](正午までに晴れればいいのに)。

ˈパルン [ˈparuŋ] 【名】魚の卵。特にカツオの卵。すじこ (筋子)。「孕み」の転訛か。ˈキンパルン [ˈ

kimparuŋ](黄み卵) とッ˩ス˥パルン [s˩su˥paruŋ](白み卵) がある。˩キンパルン (黄み卵) が美味である。カ˩ツヌ˥　パ˩ルン˥マー　カ˩ラ˥ス　シ˩キティ　カーソーッ˥タ [kạ˩tsunu˥ pa˩rum˥ma: ka˩ra˥su ʃị˩kiti ka:so:t˥ta](カツオの卵 < パルン > は塩漬けにして売られた)。

パ˩ルン **[pa˩ruŋ]**【他動】張る。貼る。ピ˩キダマ˥　パ˩ルンティ　ベーン˥ドゥ　˩バン˥マー　パ˩ララヌ [pị˩kidama˥ pa˩runti be:n˥du ˩bam˥ma: pa˩raranu](凧を張ろうとしているが、私には張られない)。ア˩カルヌ˥　ヤレー　パ˩リティル˥　ソンガチェー　ン˩カイラリル [ʔa˩karunu˥ jare: pa˩ritiru˥ soŋgatʃe: ʔŋ˩kairariru](障子の破れを張って (貼って)< ぞ > 正月は迎えられる)。˩タンガ˥シ　パ˩ル˥　クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˩taŋga˥ʃi pa˩ru˥ kụto: na˩ra˥nu](一人で張ることはできない)。˥ドゥーシ　パ˩レー˥　ミサムヌ [˥du:ʃi pa˩re:˥ misamunu](自分で張ればいいのに)。ッ˩ス˥カビシ　パ˩リ˥バ [s˩su˥kabiʃi pa˩ri˥ba](白紙で張りなさいよ)。

パ˩ルン **[pa˩ruŋ]**【自動】膨れる。乳房が腫れる。乳液で乳房がはちきれそうになる。˩シー˥ヌ　パ˩リティ　アーサン˥カー　ヤ˩ミ˥スバン [˩ʃi:˥nu pa˩riti ʔa:saŋ˥ka: ja˩mi˥subaŋ](乳房が張って、乳液を出さ < 搾乳し > ないと痛むよ)。バ˩タ˥ヌ　パ˩リ　ブー [˩ta˥nu pa˩ri bu:](腹が張っている)。

˥パルン **[˥paruŋ]**【自動】1行く。「走る」が転訛し、意味派生したもの。「〜苦しくあれば　出波之利 < イデハシリ >〜。万、899」の義。パ˩トゥ˥マナカムリ　パ˩リ˥ヌブリ [pạ˩tu˥manakamuri pa˩ri˥nuburi](鳩間中岡走り上り)。˥パリ　˥ミサカー　˥キュー　˥パルンティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　˩キュー˥ヤ (ワ)　パ˩ラン˥ツォー [˥pari ˥misaka: ˥kju: ˥parunti ʔu˩mu:tan˥du ˩kju:˥ja(wa) pa˩ran˥tso:](行って良ければ、今日行こうと思ったが、今日は行かれないそうだ)。˩バン˥ヌン　パ˩リ˥　プサン [˩ban˥num pa˩ri˥pụsaŋ](私も行きたい)。˥アツァー　˥パルクトー　ナ˩リ˥シバ　˩ワンヌン˥　パレー　˥ミサムヌ [˥ʔatsa: ˥parukụto: na˩ri˥ʃiba ˩wannum˥ pare: ˥misamunu](明日は行くことが出来るから、君も行けばいいのに)。˩ワー˥　ヤー˩ディン˥　パリバ˩ヨー [˩wa:˥ ja:˩dim˥ pariba˩jo:](君は必ず行けよねえ)。2流れる。去る。˩シー˥　パルン [˩ʃi:˥ paruŋ](血が出る < 流れる >)。˥アシ　˥パルン [˥ʔaʃi ˥paruŋ](汗が出る < 流れる >)。ムッ˩トゥ˥　アシ　パ˩ラ˥ヌ [mut˩tu˥ ʔaʃi pa˩ra˥nu](ちっとも汗が出ない)。˥アシ　˥パリティ　˩キン˥マー　ダッ˩カティ　ゾーリ　ベー [˥ʔaʃi ˥pariti ˩kim˥ma: dak˩kati ʤo:ri be:](汗が流れ出て着物はぐっしょり濡れている)。˥アイニ　˥アシ　˥パルプ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [˥ʔaini ˥ʔaʃi ˥paru pụ˩so:˥ bu˩ra:nu](あんなに汗をかく < 汗が流れる > 人はいない)。3他の動詞の連用形に下接して「〜していく (事態の進行)」を表す。˩ナー˥リパリ　˩ナー˥ヌ [˩na:˥ripari ˩na:˥nu](流れ去ってしまった)。ヤ˩ラ˥ベー　タッ˩タン˥　フ˩ドゥビ˥パルンダ　˩ソーヤ　ナー˥ヌ [ja˩ra˥be: tat˩taŋ˥ ɸu˩dubi˥parunda ˩so:ja na:˥nu](子供は次第に成長していくから、心配はない)。

˥バレン **[˥bareŋ]**【名】たわし (束子)。しゅろ (棕櫚) の毛などを束ねて造ったもので、器物をこすり洗うのに用いる。「馬連(バレン)」と「束子(タワシ)」が「擦る」という意味特徴を共有することから、意味派生して再転訛したものであろう。石垣方言からの借用語か。˥バレンサーリ　˥ナビ　˥ッシ　ア˩ライ˥バ [˥barensa:ri ˥nabi ˥ʃʃi ʔa˩rai˥ba](束子で鍋を擦って洗いなさいよ)。

パ˩ロー˥ビ **[pa˩ro:˥bi]**【名】牛の腹帯。鞍をかける際に腹帯を締める。ハ˩ロー˥ビ [ha˩ro:˥bi] ともいう。ウ˩シヌ˥ヤマ　シゥ˩カス˥　ピンマー　パ˩ロー˥ビ　シ˩ミラン˥カー　˥ヤマー　シゥ˩カサラヌ [ʔu˩ʃinu˥ jama sị˩kasu˥ pimma: pa˩ro:˥bi ʃi˩miraŋ˥ka: ˥jama: sị˩kasaranu](鋤 < 牛に牽かせて耕す仕掛け > を牽かせる時は牛の腹帯を締めさせないと鋤は牽かされない)。

パ˩ロー˥マ **[pa˩ro:˥ma]**【名】(動) カニ (蟹) の一種。ツノメガニ。2〜3 センチの楕円形の甲殻を持ち、長さ約 3 センチの歩脚 5 対を有する。その第 1 対は強大なはさみ < 鉗脚 > となる。横向きに早く走る。疾走する姿は馬を連想させる。砂浜に穴を掘って棲息している。食べられない。これを捕獲してシャコ貝の殻に入れ、石で搗いて潰し、砂と混ぜて魚釣り用の撒き餌にした。パ˩ロー˥マ　˥カキキー　˩シッキ˥ティ　カ˩ブ˥　ス˩ク˥リ　ウ˩リバ˥　マキティ　イ˩ズ　ホーシ˥タ [pa˩ro:˥ma ˥kạkiki: ˩ʃik˥kiti ka˩bu˥ sụ˩ku˥ri ʔu˩riba˥ makiti ʔi˩ʤu ho:ʃị˥ta](ツノメガニを掻き獲ってきて、潰して撒き餌を作って、それを撒いて魚を釣った)。

˥バン **[baŋ]**【代】私。˩バン˥ヌン　˥パリ　˥ミサンカヤー [˩ban˥num ˥pari ˥misaŋkaja:](私 < が > も行っていいのかなあ)。˥バンラン　パ˩ヤー˥ル [˥banram pa˩ja:˥ru](私よりも早い)。˥バンシェー　ウ˩サミラ

ラ˥ヌ [˥baŋʃe: ʔu˩samirara˥nu](私では収拾できない＜食い止められない＞)。˩バン˥ヌンツァン　パ˩ララン˥ムヌ　˩ワーナー˥トー　パ˩ララ˥ヌ [˩ban˥nuntsam pa˩raram˥munu ˩wa:na:˥to: pa˩rara˥nu](私でさえも行かれないのだから、君などは行かれないよ)。我。老年層の言葉。˥バヌ [˥banu](私) の転訛したもの。若年層は、˥バー [˥ba:](私) という。˩バン˥マー　˥ヌンティ　シゥ˩カサンワ [˩bam˥ma: ˥nunti si̥˩kasaŋwa](私には何故聞かさないか)。˩バン˥ヌン　シ˩キ˥プサン [˩ban˥nuŋ ʃi̥˩ki˥pusaŋ](私も聞きたい)。˥バンラ　シ˩キ˥バ [˥banra ʃi̥˩ki˥ba](私から聞きなさいよ)。˩バン˥バ　イ˩ジ　ベー [˩bam˥ba ʔi˩ʤi be:](私を叱っている)。˩バン˥トゥ　˩マーズン˥　パラ [˩ban˥tu ˩ma:ʤum˥ para](私と一緒に行こう)。˥バン　ッ˩ふィーリ [˥ban f˩fi:ri](私に呉れよ)。

˥バン [˥baŋ] (1)【名】番。順番。ナ˩チェー　カーヌ˥　バン　˥トゥレーティル　ミ˩ジェー˥　フ˩ムタル [na˩ʧe: ka:nu˥ ban ˥ture:tiru mi˩ʤe:˥ ɸu˩mutaru](夏は井戸の水汲みの順番をとって水は汲んだものだ)。**(2)**【助数】順序、等級を表す。ク˩トゥシヌ　ウンドー˥カイナー　イ˩チ˥バン　˥ナレータン [ku̥˩tuʃinu ʔundo:˥kaina: ʔi˩ʧi˥ban ˥nare:taŋ](今年の運動会には一番になれた)。˩ワー　ナン˥バン　˩ヤッター [˩wa: nam˥baŋ ˩jatta:](君は何番だったか)。

˥バン [˥baŋ]【接助】〜ても＜〜ばも＞。用言の未然形に接続して仮定の逆接条件を表し、後に述べることがそれに拘束されない意を表す。ア˩ミ˥ヌ　˩ホー˥バン　カ˩ジヌ　ソーバン˥(カ˩ジヌ˥　フ˩カ˥バン)　シ˩グトー　シース [ʔa˩mi˥nu ˩ho:˥baŋ ka˩ʤinu so:baŋ(ka˩ʤinu˥ ɸu̥˩ka˥baŋ)ʃi˩guto: ʃi:su](雨が降っても＜降ろうとも＞、風が吹いても＜そよごうとも＞、仕事はする)。ギュー˩サ˥　ッ˩ふァーバン˥　ミサン　˥アル　カ˩カ˥ラー　ムー˩ル˥　ッ˩ふァイ [gju:˩sa˥ f˩fa:bam˥ misaŋ ˥ʔaru ka˩ka˥ra: mu:˩ru˥ f˩fai](いくら食っても良い。あるだけ全部食え)。イコー˩ラ˥　ミ˩ラ˥バン　˥ミサンドゥ　˩サウレー˥　ナ˩ラ˥ヌ [ʔiko:˩ra˥ mi˩ra˥bam ˥misandu ˩saure:˥ na˩ra˥nu](いくら見てもよいが触りはするな＜ならぬ＞)。˩クー˥バン　˩クーン˥バン　˩ワー　カッティ [˩ku:˥bam ˩ku:m˥bam ˩wa: katti](来ても来なくても、君の勝手だ)。ゴ˩ジ˥ナー　ウ˩カ˥バン (ウ˩ク˥バン) ˥ミサン [go˩ʤi˥na: ʔu˩ka˥bam(ʔu˩ku˥bam)˥misaŋ](5時に起きても良い)。

˥バン [˥baŋ]【終助】〜わい。1否定の助動詞˥ヌ [˥-nu](〜ない) の連体形に下接して軽い詠嘆の意を表す。さらに、聞き手に確認や同意を求める終助詞、˩ナー [˩na:](ねえ) を下接させることができる。˥アイヤー　ア˩ラン˥バン [˥ʔaija: ʔa˩ram˥baŋ](そうではないわい)。ムッ˩トゥ˥　シ˩グトゥ˥　シ˩ミラランバン [mut˩tu˥ ʃi˩gutu˥ ʃi˩mirarambaŋ](ちっとも仕事をさせられないわい)。˥キューン　˥アメー　˩ホーン˥バン˩ナー [˥kju:ŋ ˥ʔame: ˩ho:m˥ban˩na:](今日も雨は降らないわいねえ)。˩ワー˥　バー　˥ムネー　˩ピッ˥チン　シゥ˩カンバント ナー [˩wa:˥ ba:mune: ˩pit˥ʧin si̥˩kambanト na:](お前は私の忠告＜言うこと＞をちっとも聞かないんだね＜聞かないわいねえ＞)。2ドゥ＜ぞ＞が係って結ぶ動詞の連体形に下接して軽い驚きや詠嘆を表す。˩ヌー˥　スーカヤーティ　˥ウムーカ　パ˩タキバ˥ル　˩カイス˥バン [˩nu:˥ su:kaja:ti ˥ʔumu:ka pḁ˩takiba˥ru ˩kaisu˥baŋ](何をするかと思へば、畑を＜ぞ＞耕す＜ようだ＞わい)。

˥パン [˥paŋ]【名】足。脚。「はぎ＜脛＞」の義。「国巣、〜夜都賀波岐＜やつかはき＝八束脛ノ意＞という。『常陸風土記』」の転訛したもの。˥パンシ　キ˩リマラバサ˥リ　˩ベー [˥paŋʃi ki˩rimarabasa˥ri ˩be:](足で蹴り殴られている)。キ˩ザ˥パン [ki˩ʤa˥paŋ](裸足)。˩ナーパン [˩na:paŋ](長い足)。˩ティーナー˥リ　˥パンナーリ [˩ti:na:˥ri ˥panna:ri](手を出し、足を出しして喧嘩すること)。˩マー˥テー　˩ナー˥ヌ　˩パン˥ヌ　ア˩ラ˥クン　˥トンドゥ　˥パル [˩ma: ˥te: ˩na:˥nu ˩pan˥nu ʔa˩ra˥kun ˥tondu ˥paru](何処へという目的はない。足の向くままに＜足の歩く所へぞ＞行く)。˩カイ˥リティ　˥パン　˥ブリ　˩ナー˥ヌ [˩kai˥riti ˥pam ˥buri ˩na:˥nu](転んで足を折ってしまった)。

˩パン [˩paŋ] (1)【接頭】半。半分。˩パンニチ [˩pannitʃi](半日)。˩パンシキ [˩paŋʃi̥ki](半月)。˩パントゥシ [˩pantuʃi](半年)。˩パンニチ˥シ　˥ティマー　˩ギュー˥サ　ア˩タルワ [˩pannitʃi˥ʃi ˥tima: ˩gju:˥sa ʔa˩taruwa](半日で手間賃はいくらになるか＜当たるか＞)。**(2)**【接尾】イ˩チニンパン [ʔi˩ʧinimpaŋ](一年半)。ウ˩リヌ˥　パレーラ　イ˩チニンパン˥　ナ˩リ˥ス [ʔu˩rinu˥ pare:ra ʔi˩ʧinimpan˥ na˩ri˥su](彼が行ってから一年半になるよ)。˩イッキンパン [˩ʔikkimpaŋ](一斤半)。

˩パン [˩paŋ]【名】1いん (印)。印鑑。「判」の義。˩カッティニ　パンマー˥　ス˩クナ˥ヨー [˩kattini pamma:˥ su̥˩kuna˥jo:](勝手に印を押す＜突く＞なよ)。2しる

し (印し)。ˈドゥーンˌヤーヌ　ˈドンˌグナー　ムーˈル　パンˌ　イˈリˌ　シゥカˈナー [ˈduːɲˌjaːnu ˈdoŋˌ guna: muːˈru paŋˌ ʔiˈriˌ sʲ̥ˈkaˈnaː](自分の家の道具には全部印(シルシ)を入れておこうねえ)。ウˈシヌˌ　ミンナー　ˈヤーˌバン　イˈリˌバ [ʔuˈʃinuˌ minnaː ˈjaːˌbaŋ ʔiˈriˌba](牛の耳に家判(ヤーバン)< 家紋に相当する記号。耳を切り込んで作る形。記号 > を入れなさいよ)。

ˈパンウクジ [ˈpaŋʔukuʤi] 【名】「半御神籤」の義。ウˈクˌジ　バˈルン [ʔuˈkuˌʤi baˈruŋ](米粒で占う < 御神籤を割る >) 際には米粒を二粒ずつ取り、対を作って並べるが、最後に一粒だけ残ったものをいう。ˈパンウクジヌˌ　ウˈガマˌリカー　ˈマーˌ　プˈスムˌシ　ˌクジェー　バˈリソーッˌタ [ˈpaŋʔukuinuˌ ʔuˈgamaˌrikaː ˈmaːˌ pu̥ˈsumuˌʃi ˌkuʤeː baˈrisoːtˌta](半御神籤が出現したら < 拝まれたら >、もう一度御神籤をひかれた < 米粒で占いをされた。御神籤を割られた >)。

ˈパンˌ　ウˈスン [ˈpanˌ ʔuˈsuŋ] 【連】印をを押す。「判をつく < 突く >」の義。ˈカッティニ　パンˌ　ウˈスナ [ˈkattini panˌ ʔu̥ˈsuna](勝手に印を押すな)。

ˈパンカウˌワン [ˈpaŋkauˌwaŋ] 【形】藪などにハブが居そうで、足を踏み入れるのが薄気味悪いさま。「足・痒い」の義。ˌクマー　ˈパンカウˌワン [ˈkumaː ˈpaŋkauˌwaŋ](ここは足を踏み入れるのが薄気味悪い)。ˈパンカウワˌヌ　ˌパン　ˈナーララヌ [ˈpaŋkauwaˌnu ˌpan ˈnaːraranu](薄気味悪くて足を踏み込めない)。ˈパンカウˌワ　ˌトン [ˈpaŋkauˌwa ˌtoŋ](ハブが居そうで、足を踏み入れるのが薄気味悪い所)。

ˈパンˌカキ [ˈpaŋˌkaki] 【名】足相撲。二人で向かい合って座り、互いに膝を立てて脛を交叉させ、相手の足を倒す競技。ウˈディˌカキ [ʔuˈdiˌkaki](腕相撲。腕かけ) の対義語。ˈパンˌカキ　ˈスーˌ　ピンマー　ˈパンˌヌ　ˌプニナー　アˈタリティˌ　ヤˈミˌシタ [ˈpaŋˌkaki ˈsuːˌ pimmaː ˈpanˌnu ˌpuninaː ʔaˈtaritiˌ jaˈmiˌʃi̥ta](足相撲をする時は脛骨 < 足の骨 > に当って痛かった)。

ˈパンガマ [ˈpaŋgama] 【名】はがま (羽釜)。周囲に羽のようなつば (鍔) のついた炊飯用の釜。ˈイッスˌタキ [ˈʔissuˌtaki](一升炊き)、ニˈスˌタキ [niˈsuˌtaki](二升炊き)、ˈサンスˌタキ [ˈsansuˌtaki](三升炊き) 等があった。ウˈブパンˌガマ [ʔuˈbupaŋˌgama](大きな羽釜)、ˈパンガマーˌマ [ˈpaŋgamaːˌma](小さな羽釜) などもあった。ˈパンガマヌˌ　パˈニバˌ　ナビウティフチシ　カˈサミティˌ　ウˈティˌバ [ˈpaŋgamanuˌ paˈnibaˌ nabiʔutiɸu̥ʧiʃi kaˈsamitiˌ ʔuˈtiˌba](羽釜の羽を鍋取り < 鍋取り靴(クツ)> で掴(ツカン)で竈(カマド)から移しなさい)。

ˈパンガマイシ [ˈpaŋgamaʔisi] 【名】「羽釜石」の義。パˈトゥˌマレー [pḁˈtuˌmareː](鳩離島) の離れ岩で、形が羽釜に似ていることから命名されたもの。海中にあって、海水の浸食により、二重にノッチが形成されており、外見上は蓋をした羽釜に似ている。岩の頂上部には、ˌユナキー [ˌjunakiː](オオハマボウ) が生えていて、いたるところにウミネコの巣があった。繁殖期になると、岩陰のあちらこちらに産卵されていた。ˈパンガマイシェー　プールˌヌ　ˈパーレーˌヌ　ˌピンヌ　ˈミーシルˌシ　ˌナリ　ˈブート ダー [ˈpaŋgamaʔiʃeː puːruˌnu ˈpaːreːˌnu ˌpiŋnu ˈmiːʃiruˌʃi ˌnari ˈbuːɺdaː](羽釜石は豊年祭の爬竜船競漕の時の目印になっているよ)。

ˈバンギ [ˈbaŋgi] 【名】「板木」の義か。重い物を動かす際、ˈコロ [ˈkoro](ころ。転・丸太) を滑らかに転がすために、ころ (転) の下に敷く板や材木。カツオ船は漁期が終わると翌年の漁期まで陸揚げして補修点検をした。漁船を砂浜に陸揚げする際、ˈバンギ [ˈbaŋgi] を敷いて、その上にコˈロ [koˈro](ころ < 転。丸太 >) を置き、漁船をコロに載せてタˈグラˌザン [taˈguraˌʤaŋ](ˈビービー [ˈbiːbiː])(巻き上げ機) を十数名で回しながら引き揚げた。ˈバンギˌ　シˈキティˌ　ウˈヌ　ウイˌナー　コˈロ　マーサンˌカー　ˌフネー　ˈアンギララヌ [ˈbaŋgiˌ ʃi̥ˈkitiˌ ʔuˈnu ʔuiˌnaː koˈro maːsaŋˌka: ˌɸuneː ʔaˈgiraranu](バンギを敷いて、その上にコロを回さないと漁船は陸揚げできない)。

ˈパンキシ [ˈpaŋkiʃi] 【名】「半切れ」の義か。畑一枚の半分。畑の一枚をプˈスˌキシ [pu̥ˈsuˌki̥ʃi](一切れ) という。パˈタキˌヌ　ˈパンキシェーˌ　サニユーヌ　ピˈルバˌ　イˈビˌ　シケー [pḁˈtakiˌnu ˈpaŋkiʃeːˌ saniju:nu piˈrubaˌ ʔiˈbiˌ ʃi̥keː](畑の半分は種子用の大蒜を植えておいてある)。

ˈハンˌキチ [ˈhaŋˌki̥ʧi] 【名】ハンカチ。標準語のˈハンカチ (handkerchief の転訛)」が再転訛したもの。ムˈカˌシェー　ˈハンˌキチティ　ˈスーˌ　ムˈノー　ナーンˌシェン　ムーˈルˌ　サˈジˌル　シゥˈカウタル [muˈkaˌʃeː ˈhaŋˌki̥ʧiti ˈsuːˌ muˈnoː naːŋˌʃen muːˈruˌ saˈʤiˌru sʲ̥ˈkautaru](昔はハンカチというものはなかった。みんな手拭を < ぞ > 使ったものだ)。

ˈパンˌキュー [ˈpaŋˌkjuː] 【名】半休。土曜日。オランダ語のドンタク (zondag< 日曜日。休日 >) と接

頭語「半」の合成語、「ハンドン」が「半休」となることから転訛したもの。鳩間島に学校が設置された明治 29 年以降に定着した語であろう。˞キュー˜ヤ　˞パン˜キュー　ヤ˞ルンダ˜　プ˞スマ˜　アトー　パ˞タ˜キ　˞カイ˜シン　˜パラ [˞kjuː˜ja ˞paŋ˜kjuː ja˞runda˜ pu̥˞suma˜ ʔatoː pḁ˞ka˜ki ˞kai˜ʃim ˜para](今日は半休だから正午後からは畑を耕しに行こう)。

˞パンギリ [˞**paŋgiri**] 【名】ブリキ製の茶筒。ブリキ缶の半切。ブリキ缶の半筒。「はんぎりおけ (盤切)」の転訛したものか。˞パンギリ˜ナー　˜サー　イ˞リ˜　シキバ [˞paŋgiri˜naː ˜saː ʔi˞ri˜ ʃi̥kiba](ブリキ製の茶筒にお茶っ葉を入れておきなさいよ)。

˞バン˜ク [˞**baŋ˜ku**] 【名】縁台。涼み台。ポルトガル語からの借用語バンコ (banco< 縁台 >) が転訛したもの。ナ˞チェー˜　アツァンダ　˞キー˜ヌ　ッ˞サーラ˜ナー　バン˞コー˜マ　ス˞ク˜リティ　˜ウナール　˞サー˜ユン　ヌ˞モーッタ˜ル [na˞tʃeː˜ ʔatsajunda ˞kiː˜nu s˞saːra˜naː baŋ˞koː˜ma su̥˞ku˜riti ˜ʔunaːru ˞saː˜jun nu˞moːtta˜ru](夏は暑いから木の下で小さ縁台を作って、そこで < ぞ > お茶も飲まれたものだ)。

˞バング˜バリ [˞**baŋgu˜bari**] 【名】番組。プログラム。「番組割り」の義。結願祭や豊年祭に出演する˞バン˜グ [˞baŋ˜gu](演目。番組の配置 < 割付 >。プログラム)。結願祭は西村、東村共同の˞バング˜バリ (演目割り付け) を作成して友利御嶽で芸能を演舞奉納した。豊年祭では西村、東村対抗で、それぞれの˞ゾーラキ [˞ʤoːraki](入れ子型芸能。「常楽会」の義か) の˞バング˜バリ (プログラム) を作成して競演した。˞プール˜ヌ　˞ゾーラキヌ　バング˜バレー　キ˞マレーン˜カヤー [˞puːru˜nu ˞ʤoːrakinu baŋgu˜bareː ki˞mareːŋ˜kajaː](豊年祭の入れ子型芸能 < 常楽会 > のプログラムは決まったかねえ)。

˞パンクラ˜スン [˞**paŋkura˜suŋ**] 【他動】めくる (捲る)。めくらせる。皮などをめくる。裏返す。˞ミー˜ヌカー　˞パンクラ˜スンティ　˞スンドゥ　パンクラサラ˜ヌ [˞miː˜nuka: ˞paŋkura˜sunti ˞sundu paŋkurasara˜nu](瞼(マブタ)を裏返そう < ひっくり返そう > とするが、裏返されない < ひっくり返されない >)。˞ミー˜ヌカー　˞パンクラ˜シティ　フ˞チ˜ル　イ˞リリ [˞miː˜nuka: ˞paŋkura˜ʃi̥ti ɸu̥˞ʧi˜ru ʔi˞riri](瞼を裏返して薬を入れれ)。˞ミー˜ヌカー　˞パンクラ˜シェー　˜ミサムヌ [˞miː˜nuka: ˞paŋkura˜ʃeː ˜misamunu](瞼を裏返せばいいのに)。˞パンクラ˜ス　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [˞paŋkura˜su ˜ku̥toː na˞ra˜nu](瞼を裏返すことはできない)。˞ミー˜ヌカー　˞パンク˜ラシ [˞miːnu˜kaː ˞paŋkura˜ʃi](瞼を裏返せ)。

˞パンクリ˜マラ [˞**paŋkuri˜mara**] 【名】包皮の捲(メク)れ剥(ムケ)けた陰茎。ビ˞コーンッふァー˜　パ˞タチ˜　シ˞ギ˜ルカー　˞パンクリ˜マラ　ナ˞リ˜ス [bi˞koːŋffaː˜ pḁ˞tatʃi˜ ʃi˞gi˜ruka: ˞paŋkuri˜mara na˞ri˜su](男の子は二十歳過ぎると包皮の捲(メク)れた陰茎になるものだ)。

˞パンクリ˜ルン [˞**paŋkuri˜ruŋ**] 【自動】 1皮などがめくれる (捲れる)。˞パン˜クルン [˞paŋ˜kuruŋ](捲れる。ひっくり返る) ともいう。ナー˞イ˜　シ˞キ˜ルカー　˞パンクリ˜ルンダ　˞パンクリラン˜　ヨーニ　シ˞ビシキ˜　シ˞キ˜リ [naː˞ji˜ ʃi̥˞ki˜ruka: ˞paŋkuri˜runda ˞paŋkuriraŋ˜ joːni ʃi˞biʃi̥ki˜ ʃi̥˞ki˜ri](放置して置くと捲れるから、捲れないようにくっつけておけ)。˞パン˜クリ　˞ナー˜ヌ [˞paŋ˜kuri ˞naː˜nu](捲れてしまった)。˞パンクリ˜ル　˜ムノー　シ˞ティリ [˞paŋkuri˜ru ˜muno: ʃi̥˞tiri](捲れるものは捨てなさい)。˞パンクリ˜レー　˜ミサムヌ [˞paŋkuri˜reː ˜misamunu](捲れれば良いのに)。˞パンクリ˜リ [˞paŋkuri˜ri](捲れろ)。2反転する。ひっくり返る。断る。˞ウン˜ネヌ　ユ˞メー　パンクリ˜ルンティ　˞アー˜キ　˞ベー˜ティ　˞ヤットゥ˜シ　ウ˞ティシゥカ˜シ　˜シケー [˞ʔun˜nenu ju˞meː paŋkuri˜runti ˞ʔaː˜ki ˞beː˜ti ˞jattu˜ʃi ʔu˞tisi̥ka˜ʃi ˜ʃi̥keː](あの家の嫁は破談にしよう < 縁談からひっくり返えろう。縁談を転覆させよう > としているので、やっとのことで落ち着かせてある)。

˞パン˜クルン [˞**paŋ˜kuruŋ**] 【自動】 1皮などがめくれる (捲れる)。反転する。ひっくり返る。˜タニ　˞パン˜クルン [˜tani ˞paŋ˜kuruŋ](包皮が捲れる)。マ˞ダ　パンクラ˜ヌ [ma˞da paŋkura˜nu](まだ包皮は捲れない)。2婚約を破談にしてしまう。ひっくり返える。嫌がる。ユ˞メー　パン˜クリ　˞ナーン˜ツォー [ju˞meː paŋ˜kuri ˞naːn˜tsoː](嫁は破談にして < ひっくり返って > しまったそうだ)。ミ˞ドゥム˜ヌ　˞パン˜クル　˜クトー　˞ナーン˜シェン [mi˞dumu ˜nu ˞paŋ˜kuru ˜ku̥toː ˞naːŋ˜ʃeŋ](女が破談にする < ひっくり返る > ことはなかった)。˜アイブー　ビ˞キドゥモー˜　ミ˞ドゥ˜モーラ　˞パン˜クレー　˜ミサムヌ [˜ʔaibuː bi˞kidumoː˜ mi˞du˜moːra ˞paŋ˜kureː ˜misamunu](あんな男には、女から破談にすれば < ひっくり返れば > いいのに)。˞ウン˜ネー　˜パローラ　˞パー˜ク　˞パン˜クリバ [˞ʔun˜neː ˜paroːra ˞paː˜ku ˞paŋ˜kuriba](あの家に嫁ぐよりは、早く破談にしなさい < ひっくり返れ > よ)。

˞パン˜クン [˞**paŋ˜kuŋ**] 【他動】 1皮などをめくる (捲

る)。裏返す。反転させる。ヤ˞ラビ˞ヌ　˞ミーナミ˞ツム˞ヌ　˞ペー˞ルカー　˞ミー˞ヌカー　˞パン˞キティ　˞シー　˞アーシ˞　イ˞ローッ˞タ [ja˞ra˞binu˞ mi:na mi˞tsumu˞nu ˞pe:˞ruka: ˞mi:˞nuka: ˞paŋ˞kiti˞ ʃi: ˞ʔa:ʃi˞ ʔi˞ro:t˞ta](子供の目にごみ＜塵＞が入ると、瞼＜目の皮＞を裏返して母乳を搾(シボ)って入れられた)。˞ミー˞ヌカー　˞パン˞クンティ　˞スンドゥパンカラ˞ヌ [˞mi:˞nuka: ˞paŋ˞kunti ˞sundu paŋkara˞nu](瞼を裏返そうとするが､裏返されない)。˞ミー˞ヌカー　˞パン˞ケー　˞ミサムヌ [˞mi:˞nuka: ˞paŋ˞ke: ˞misamunu](瞼を裏返せばいいのに)。˞ミー˞ヌカー　˞パン˞キ [˞mi:˞nuka: ˞paŋ˞ki](瞼を裏返せ)。2はじく。強烈な臭気が鼻をはじく (弾く)。ク˞ヌ˞　カ˞ザヌ˞　パ˞ナ　パン˞キティ　ン˞カーラヌ [ku˞nu˞ ka ˞ʤanu˞ pa˞na paŋ˞kiti ʔŋ˞ka:ranu](この強烈が臭いが鼻を刺激して＜弾いて＞顔が向けられない)。ウ˞ヤ˞ビシ　˞パン˞キバ [ʔu˞ja˞biʃi ˞paŋ˞kiba](指で弾きなさいよ)。

˞バン˞ゴー **[˞baŋ˞go:]** 【名】番号。˞ワー　バンゴー˞ヤ　˞ナン˞バンヤ [˞wa: baŋgo:˞ja ˞nam˞baŋja](君の番号は何番か)。

˞バンゴー˞フダ **[˞baŋgo:˞ɸuda]** 【名】番号札。フ˞ダ [ɸu ˞da](札) ともいう。˞ペーレーヌ˞　シ˞ジク˞カー　˞バンゴー˞フダ　ス˞クˇリティル　˞カーヌ˞　ミ˞ジェー˞　フ˞ムタ˞ダー [˞pe:re:nu˞ ʃi˞ʤiku˞ka: ˞baŋgo:˞ ɸuda sụ˞ku˞ritiru ˞ka:nu˞ mi˞ʤe:˞ ɸu˞muta˞da:](旱魃が続くと番号札を作って＜ぞ＞井戸の水は汲んだものだ)。

バン˞コー˞マ **[baŋ˞ko:˞ma]** 【名】ちいさな縁台。ちいさな涼み台。家ごとに庭の木陰に小さな涼み台を設置していた。、老人や子供たちは、その上で雑談をしたり、昼寝をしたりした。ナ˞チヌ　マープスマー˞　バン˞コー˞マナール　ビ˞レー˞ティ　ピ˞ラ˞ケー　˞ソーッ˞タ [na˞ʧinu ma:pusuma:˞ baŋ˞ko: ˞mana:ru bi˞re:˞ti pi˞ra˞ke: ˞so:t˞ta](夏の真昼間には小さな縁台に座りながら涼を取られた＜涼しまれた＞)。

˞パン　˞コー˞ルン **[˞paŋ ˞ko:˞ruŋ]** 【連】足が強くなる。幼児の足が強くなって歩けるようになる。˞足が堅くなる｣の義。ヤ˞ラ˞ベー　˞スーリ˞キシティ　˞パン˞ヌン　˞コー˞リ　˞メー　ア˞ラキ˞スバン [ja˞ra˞be: ˞su:ri˞kiʃiti ˞pan˞nuŋ ˞ko:˞ri ˞me: ʔa˞raki˞subaŋ](子供はすっかり成長して、足も強くなって＜こわくなって＞、もう歩けるわい)。

˞バンジ **[˞banʤi]** 【名】まっさかり (真っ盛り)。最盛期。青年期。˞バンジン [˞banʤiŋ](最盛期) ともいう。˞マイカリヌ　バンジン [˞maikarinu banʤiŋ](稲刈りの真っ最中)。˞クンガ˞チェー　イ˞ガメーヌ　バンジ　ヤッタ [˞kuŋga˞ʧe: ʔi˞game:nu banʤi jatta](九月は烏賊釣り漁の真っ最中であった)。˞バンジンヌ˞　バ˞カー˞ムヌヌ　˞カナイ　˞ブンダ˞　ノー˞ンシェー˞ル　シ˞グトゥン˞　ナルン [˞banʤinnu˞ ba˞ka:˞mununu ˞kanai ˞bunda˞ no:˞ŋʃe:˞ru ʃi˞gutun˞ naruŋ](真っ盛りの若者が揃っているから如何なる仕事もできる)。˞ヨイ˞ヤー　マ˞ナマ˞ル　˞バンジン˞　ヤ˞リン˞ギサバン [˞joi˞ja: ma˞nama˞ru ˞banʤiŋ˞ ja˞riŋ˞gisabaŋ](お祝いは今が最高潮であるらしいよ)。マ˞ナ˞マー　˞ダイクニ˞ヌ　˞バンジン [ma˞na˞ ma: ˞daikuni˞nu ˞banʤiŋ](今は大根の最盛期)。

˞パンシ **[˞paŋʃi]** 【名】一時しのぎ。当面の危機をしのぐこと。しのぎ (凌ぎ)。「はずし (外し)」の義。˞クビサーギ　˞アルカー　˞イットゥキ˞ヌ　˞パンシェー˞　ナ˞リ˞ス [˞kubisa:gi ˞ʔaruka: ˞ʔittuki˞nu ˞paŋʃe:˞ na˞ri˞su](これだけさえあれば一時しのぎはできる)。ノー˞シ　シン˞　ク˞ヌ　パンシサーギ　コーサリ˞カー　˞アトー　˞ソーヤ　ナー˞ヌ [no: ˞ʃi ʃiŋ˞ ku˞nu paŋʃisa:gi ko:sari˞ka: ˞ʔato: ˞so:ja na:˞ nu](何としてもこの一時凌ぎをさえ越されたら、後は心配ない)。

˞パンシカン˞シ **[˞paŋʃikaŋ˞ʃi]** 【副】とぎれとぎれに。意識が一貫しないさま。おぼろげに。はっきりしないさま。意識が不明確で途切れ途切れに。˞パンチカン˞チ [˞pantʃikan˞ʧi] ともいう。ウ˞ヌ˞　クトーシゥ˞カイトー˞　ウブイ　ブ˞ラーヌ　パンシカンシ˞ル　˞ウブイ　˞ブー [ʔu˞nu˞ kụto: sị˞kaito:˞ ʔubui bu˞ra:nu paŋʃikaŋʃi˞ru ˞ʔubui ˞bu:](そのことは明確には覚えていない、とぎれとぎれにぼんやりと覚えている)。

˞パンシキ **[˞paŋʃị̈ki]** 【名】半月。ク˞ヌ˞　シ˞グトー　パンシキ˞　カ˞カリ˞ス [ku˞nu˞ ʃi˞guto: paŋʃị̈ki˞ kạ˞ kari˞su](この仕事は半月かかる)。

˞パン˞　シ˞キラ˞リン **[˞paŋ˞ ʃị̈˞kira˞riŋ]** 【連】印しを付けられる。ク˞ヌ˞　ッ˞ふァー　ター˞　ユ˞ミ˞ティ　˞パン˞　シ˞キラリ˞ブー [ku˞nu˞ f˞fa: ta:˞ ju˞mi˞ti ˞paŋ˞ ʃị̈˞kirari˞ bu:](この子は誰の嫁と決めら＜印し付けさ＞れている)。2印をつかれる。決められる。ウ˞レー˞　バ˞リカミ˞ティ　˞パン˞　シ˞キラリ˞　ブー [ʔu˞re:˞ ba˞rikami˞ti ˞paŋ˞ ʃị̈˞kirari˞ bu:](彼は底なしの大酒飲み＜割れ甕＞と評価されている)。

˞パン˞　シ˞キ˞ルン **[˞paŋ˞ ʃị̈˞ki˞ruŋ]** 【連】印をつけ

る。印を突く (捺印する)。˹メーメーヌ　ヤー˺ヌ　˹ドン˺グナー　ムー˹ル　パン˺　シ˹キ˺ル　˺クトゥティ　キ˹ミ˺シケー [˹meːmeːnu jaː˺nu ˹doŋ˺gunaː muː˹ru paŋ˺ ʃi̥˹ki˺ru ˺ku̥tuti ki˹mi˺ʃi̥keː](銘銘の家の道具には印を付けておくことと決めてある)。ヤ˹マ˺フミ　シ˹ティ˺　ヤ˹マ˺ヌ　˺キーナ　˹パン˺　シキ　シゥ˹コー˺レーツォー [ja˹ma˺ɸumi ʃi̥˹ti˺ ja˹ma˺nu ˺kiːna ˹paŋ˺ ʃi̥ki si̥˹koː˺reːtsoː](山入りして山の木に印しを付けておかれてあるそうだ)。

˺パン　シ˹マ˺リン [˺paŋ ʃi˹ma˺riŋ] 【連】足がきかなくなる。歩けなくなる。˹ナーヤン˺　シ˹ター˺　パン　シ˹マ˺リティ　ア˹ラキユーサ˺ヌ [˹naːjaŋ˺ ʃi̥˹taː˺ paŋ ʃi˹ma˺riti ʔa˹rakijuːsa˺nu](長患いをしたので、足が利かなくなって＜足が締まって＞歩くことができ＜歩け＞ない)。

˹バン˺ジュ [˹ban˺ʤu] 【名】琉球国時代の村の役所。「番所」の義。˹バンジュー˺ヤ　イ˹サナキナー˺ル　˹アッタ˺ル　パ˹トゥ˺マナーヤ　˹ナーン˺シェンツォー [˹banʤuː˺ja ʔi˹sanakinaː˺ru ˹ʔatta˺ru pḁ˹tu˺ manaːja ˹naːŋ˺ʃentsoː](番所は石垣島に＜ぞ＞あったのである。鳩間島には無かったそうだ)。

˹パン˺ジョー [˹pan˺ʤoː] 【名】繁昌。若年層は、˹ハン˺ジョー [˹han˺ʤoː] ともいう。ウ˹ヤ˺キパンジョー　マ˹リパンジョー˺　ア˹ラ˺シミ　タ˹ボー˺リティル　˹ニン˺ガイ　˹オー˺ル [ʔu˹ja˺kipanʤoː ma˹ripanʤoː˺ ʔa˹ra˺ʃimi ta˹boː˺ritiru ˹niŋ˺gai ˹ʔoː˺ru](富貴繁盛、子孫繁盛あらしめ賜れと＜ぞ＞祈願される)。

˹バンジン [˹banʤiŋ] 【名】1真っ盛り。最盛期。˹バンジ [˹banʤi](真っ盛り) ともいう。˹カツシンヌ　バンジン˺ナー　˹マイカリヌ˺　シ˹チ˺ヌ　˹クー˺タン [kḁ˹tsuʃinnu banʤin˺naː ˹maikarinu˺ ʃi̥˹tʃi˺nu ˹kuː˺taŋ](カツオ漁の最盛期に稲刈りの季節がやってきたものだ)。ナ˹チヌ　バンジ˺　ヤ˹ルンダ˺　ア˹ツァ˺ヌ　フ˹シガラ˺ヌ [na˹tʃinu banʤi˺ ja˹runda˺ ʔa˹tsa˺nu ɸu̥˹ʃigara˺nu](夏の最盛期だから暑くて堪らない)。2青年。男女共に若さの最盛期。˹ウン˺ネナーン　˹バンジンヌ˺　ミ˹ドーン˺ッふァヌ　˹ブン [˹ʔun˺nenaːm ˹banʤinnu˺ mi˹doːn˺ffanu ˹buŋ](あの家にも適齢期＜最盛期＞の女の子がいる)。

˹パン˺　スクン [˹pan˺ su̥kuŋ] 【連】しるし (印) を付ける。˹ドゥー˺ヌ　˹ドン˺グナー　˹パン˺　スクン [˹duː˺nu ˹doŋ˺guna: ˹pan˺ su̥kuŋ](自分の道具には印を付ける)。

˹パン˺スディ [˹pan˺sudi] 【名】半そで。ナ˹ガ˺スディ [na˹ga˺sudi](長袖) の対義語。老年層は˺スディッキラー [˺sudikkiraː](袖なし。「袖切れ」の義) ともいう。ナ˹チェー　パンスデイ˺ル　キ˹スタ [na˹tʃeː pansudiba˺ru ki̥˹suta](夏は半袖を着た)。

˹バン˺スル [˹ban˺suru] 【名】(植) バンジロウ。蕃石榴。グアバ。フトモモ科の常緑の小高木。果実は直径3〜6センチになり、完熟すると芳香を放つ。甘くて美味である。畑の畦や原野の中に自生しており、畑仕事の帰りに捥(モ)いで子供の土産にした。半熟の果実は多少渋い味があり、食べ過ぎると、シ˹ビコー˺ルン [ʃi˹biko:˺ruŋ](便秘する。「尻強る」の義か) といわれている。葉は利尿効果があるとして、お茶代用に飲まれた。お盆には、仏壇に供えるム˹ルムル [mu˹rumuru](˹諸々」の義か) の砂糖黍の束に挿す果実として必要であった。˹バン˺スロー　˹ウー˺ムカー　イッ˹ケナ˺　カ˹バッ˺サン　˺アリ　ン˹マー˺ン　˹アッ˺タン [˹ban˺suro: ˹ʔuː˺muka: ʔik˹kena˺ ka˹bas˺saŋ ˺ʔari ʔm˹maː˺ŋ ˹ʔat˺taŋ](バンジロウ＜蕃石榴＞は熟れると非常に香ばしくもあり、美味しくもあった)。イ˹シバンスル [ʔi˹ʃibansuru](発育不全の小さな果実で、硬くて渋く、不味いバンジロウ) は食べなかった。

˺バン　˹スン [˺ban ˹suŋ] 【連】番をする。見張りをする。警護する。ミ˹ナ˺カナー　ア˹ガマミ˺　プシシケーティ　˺アッパー　トゥ˹ルヌ˺　バン　˹スンティ　オー˺ル [mi˹na˺kana: ʔa˹gamami˺ pu̥ʃi ˺ʃi̥keːti ˺ʔappa: tu˹runu˺ ban ˹sunti ʔoː˺ru](庭に小豆を干してあるので、おばあさんは鶏の番＜鶏が食い荒らすのを見張る＞をしておられる)。

˹パンソー [˹panso:] 【名】両端に飾りの付いている笛。「横笛。歌口(ウタグチ)のほかに穴が七つあるのが普通。中国の管楽器の簫(ショウ)は管が十六あり、横笛はその半分の八つあるので半簫の意か」『沖縄語辞典』とある。「半簫の意か。竹の筒で穴が十二あり、長さ約二尺三寸。直径七、八分ほど」『石垣方言辞典』とある。昔、˺ウブシケー [˺ʔubuʃi̥keː](大城家) に唐より伝来したという笛があった。竹筒は細かく割ってあって、穴と穴の間は糸で強く締めてあった。それを西村の笛として用いたという。飾りはついてなかったが、その笛を˹パンソーといった (加治工伊佐氏談) という。

˹バンゾン˺ガニ [˹banʤoŋ˺gani] 【名】1さしがね。まがりがね (曲尺)。かねじゃく。直角に折れ曲がった形の物差し。「ばんしょうがね (番匠矩)」の義。˹ヤーザイ˺ク [˹jaːʤai˺ku](建築大工。「家大工」の義) が使用した差し金。˹サイ˺コー　˹バンゾン˺ガニシル

ノー˞ン˜　パ˞カリ˜ル　˜ムノー　ス˞ク˜ロール [˞sai ˜koː ˞bandʑoŋ˜ganiʃiru noː˞m˜ pḁ˞kari˜ru ˜munoː su̥˞ku˜roːru](大工は曲りがね < 番匠がね > で何でも計って、物は作られる)。˞サイ˜コー　˞バンゾン˜ガニシ　パ˞カ˜レーティル　シ˞ミ˜ナー　˞パン˜コーッタ [˞sai˜koː ˞bandʑoŋ˜ganiʃi pḁ˞ka˜reːtiru ʃi˞mi˜naː ˞paŋ˜koːtta](大工は差し金で測りながら墨縄で直線を引かれた < 弾かれた >)。˞バンゾンガニ˜ヌ　˜アルカー　˞サイクシグ˜トー　˜ナルン [˞bandʑoŋgani ˜nu ˜ʔarukaː ˞saikuʃigu˜toː ˜naruŋ](差し金があれば大工仕事は出来る)。2番匠矩のような角材。歌謡語。˞バンゾンガニ˜バ　ヌ˞キバ　シー～[˞bandʑoŋgani˜ ba nu˞kiba ʃiː～。](番匠矩の鋼材を貫材にして～)「アーパーレー歌」。

˞パン˜タ **[˞pan˜ta]** 【名】繁忙。多忙。「繁多」の義。˞マイカリヌ　パン˜ター　マ˞ヤ˜ヌ　˜ティーン　カ˞リプサ˜ル [˞maikarinu pan˜taː ma˞ja˜nu ˜tiːŋ ka˞ripusa˜ru](稲刈りの繁多さ < 忙しさ > は猫の手も借りたいぐらいだ)。˞ウンマー˜　シュ˞カナイ˜ヌ　˞パン˜タ　ヤ˞レー˜ンダ　ム˞ヌカン˜ガイ　ナ˞ラン˜シェン [˞ʔummaː˜ si̥˞kani˜nu ˞pan˜ta ja˞reː˜nda mu ˞nukaŋ˜gai na˞raŋ˜ʃeŋ](あの頃は子育ての繁忙期 < 繁多 > だったから、ものを考えることが出来なかった)。

˞パン˜タ **[˞pan˜ta]** 【名】先端。端っこ。ふち。断崖。パン˞ター˜マ [pan˞taː˜ma](先端) ともいう。˞キー˜ヌ　ユ˞ダヌ　パン˜タナー　˜パトゥザヌ　トゥ˞マリベー [˞kiː˜nu ju˞danu pan˜tanaː ˜pḁtudʑanu tu˞maribeː](木の枝の先端に鳩が止まっている)。ク˞ヌ˜　ヤ˞サイ˜ヤー　マ˞ナマ˜ル　サ˞カリヌ　パンタ˜ダー [ku˞nu˜ ja˞sai˜jaː ma˞nama˜ru sḁ˞karinu panta˜daː](この野菜は今が盛りの先端 < 最成長期 > だよ)。˞キーヌ　パン˜タ [˞kiːnu pan˜ta](木の先端)。

˜パンタ **[˜panta]** 【名】南方。南の方。西表島の北岸一帯の水田地帯。昭和 40 年ごろまでは鳩間島の人が˜イダフニ [˜ʔidaɸuni](サバニ) で渡り、四、五日の泊りがけで水田耕作をしたところ。パ˞トゥ˜マプソー　˜イダフネーラ　˜パンター　バ˞タリ　ター˜ヤーナ　トゥ˞マレー˜ティル　˞タースク˜リ　˞ソーッ˜タ [pḁ˞tu˜mapu̥soː ˜ʔidaɸuneːra ˜pantaː ba˞tari taː˜jaːna tu˞mareː˜tiru ˞taːsu̥ku˜reː ˞soːt˜ta](鳩間の人はサバニで南の西表島へ渡り、田圃小屋に泊まりながら水田耕作 < 田作り > をされた)。

˞バン˜ター **[˞ban˜taː]** 【代】僕達。僕ら。私達。一人称、複数 (聞き手を含まない)。˞ベー [˞beː](我々。私達。聞き手を含む) と対立する。ク˞ヌ˜　プ˞ソー　バン˜ター　˞シン˜シー　ヤ˞ロー˜ル。ワ˞ター　シン˜シェー　˞ター˜　ヤ˞ローッ˜ター [ku˞nu˜ pu̥˞soː ban ˜taː ˞ʃiŋ˜ʃiː ja˞roː˜ru。wa˞taː ʃiŋ˜ʃeː ˞taː˜ ja˞raːt˜taː](この人は僕達の先生でいらっしゃる。君等の先生はどなたでした < 誰であられた > か)。˞ベー˜　ムー˞ル˜　パ˞トゥ˜マプス　ヤ˞ルヌ　バン˜ター　˞インヌムラプス˜ダー [˞beː˜ muː˞ru˜ pḁ˞tu˜mapu̥su ja˞runu ban˜taː ˞ʔinnumurapusu˜daː](我々は皆鳩間島出身 < 鳩間人 > だが、僕らは西村出身 < 人 > だよ)。

パン˞ター˜マ **[pan˞taː˜ma]** 【名】端っこ。突端。˜-マ [˜-ma] は美称の接尾辞。˞キー˜ヌ　パン˞ター˜マ [˞kiː˜nu pan˞taː˜ma](樹木の最先端)。˞キーヌパン˜タ [˞kiːnupan˜ta](梢) は名詞。˞キー˜ヌ　パン˞ター˜マナ　˜パトゥザヌ　トゥ˞マリバー [˞kiː˜nu pan˞taː˜ mana ˜pḁtudʑanu tu˞maribeː](木の最先端部 < 梢(コズエ) > に鳩がとまっている)。˞サンガラ˜ヌ　パン˞ター˜マナ　˜タティ　˞ベー˜　モー　˞ター˜ヤ [˞saŋgara˜nu pan˞taː˜mana ˜tḁti ˞beː˜ moː ˞tːa˜jaː](崖の先端 < 崖っぷち > に立っている者は誰か)。

˞ハン˜ダイ **[˞han˜dai]** 【名】飯台。ちゃぶだい (卓袱台)。四脚の脚の低い食事用の台。食卓。「飯台」の義。標準語からの借用語。飯台の中央には大皿におかずを盛り、炊いた芋なども竹笊に盛って置いて、各自欲しいものを取って食べた。ご飯とお汁だけは各自の前に配膳された。カ˞ティ˜ムヌ [kḁ˞ti ˜munu](おかず。かてもの < 揉て物 >) は共通の大皿から取ってたべた。˜キサー　˞サンバン˜ザーナ　˞ハン˜ダイ　シ˞キティ　ヤーニン˜ズ　˞マーズン˜シ　˞イー˜ヤ　ン˞コーッ˜タ [˜kisaː ˞samban˜dʑaːna ˞han˜dai ʃi̥˞kiti jaːnin˜dʑu ˞maːdʑuŋ˜ʃi ˞ʔiː˜ja ʔŋ˞koːt˜ta](以前は三番座で飯台を据えて家族一緒にご飯 < 飯 > は召上がられた)。

˞ハンタグゥー˜テー **[˞hantagwaː˜teː]** 【名】屋号。通事実氏宅。指小辞 (diminutive) の˜グゥー [˜gwaː](小。小さいもの) は沖縄方言であるから、˞ハンタ˜グゥー [˞hanta˜gwaː](「最先端。村の端っこ」の義か。転じて「分家」の意か) も糸満方言由来の言葉であろう。

˜パン　ダ˞クン **[˜pan da˞kuŋ]** 【連】˞足を抱く」の義。足を怪我して働くことが出来なくなること。˞パン˜バ　ヤ˞マ˜シティル　ナー˞イ˜　パン　ダ˞キティ　ウー˜キカーキン　ナ˞ラ˜ヌティ　˞アーアー˜シ　˞オー˜ル [˞pam˜ba ja˞ma˜ʃi̥tiru naː˞ji˜ pan da˞kiti ʔuː˜

kika:kin na˩ra˥nuti ˩ʔa:ʔa:˥ʃi ˩ʔo:˥ru](足を痛めて、ただ足を抱いて、身動きできないといって、ため息をついて嘆いておられる)。

˩パンタ˥サン [˩panta˥saŋ] 【形】忙しい。多忙である。繁多である。「繁多さあり」の義。˩マイカレー　パンタ˥サンダ　˩ガッ˥コーン　ヤ˩ス˥ミ　ナ˩リ˥シタ [˩maikare: panta˥sanda ˩gak˥ko:ɲ ja˩su˥mi na˩riʃi̥ta](稲刈りは忙しいから学校も休みになった)。˩キュー˥ヤ (ワ)　˩パンタ˥サー　˩ナーヌ˥ヌ　ア˩ツァー˥ラー　˩パンタ˥サ　˥ナルンツォー [˩kju:˥ja(wa)˩panta˥sa: ˩na:nu˥nu ʔa˩tsa:˥ra: ˩panata˥sa ˥naruntso:](今日は忙しくないが、明日からは忙しくなるそうだ)。˥ドゥク　˩パンタサ˥ヌ　˥イキン　˥ヌビーン　ナ˩ラ˥ヌ [˥duku ˩pantasa˥nu ˥ʔikin ˥nubi:n na˩ra˥nu](あまりにも忙しくて一息つく暇も、腰を伸ばす暇もない)。˩パンタ˥サー (˩パンタ˥サル)˥ピンマー　ヤ˩ラビ˥ヌ　˥ティーン　カ˩リ˥プサン [˩panta˥sa:(˩panta˥saru) ˥pimma: ja˩rabi˥nu ˥ti:ŋ ka˩ri˥pu̥saŋ](忙しい時は子供の手も借りたい)。˥アイニ　˩パンタ˥サーレーラー　˩イー˥　ッふー　˥マドゥーン　˩ナー˥ヌ [˥ʔaini ˩panta˥sa:re:ra: ˩ʔi:˥ ffu: ˥madu:n ˩na:˥nu](あのように忙しいようではご飯を食べる暇＜間時＞もない)。

˩パン˥ダマ [˩pan˥dama] 【名】(植) 野菜の名。スイゼンジナ (水前寺菜)。キク科の多年草。葉の色は、表が緑色で裏は紫色。葉は食用となる。カツオの頭やイ˩ノー˥イズ [ʔi˩no:˥ʔidʑu](環礁内の魚) と一緒に煮ると美味である。˩パン˥ダマー　パ˩トゥ˥マナー　˩ナン˥ゾー　ス˩ク˥ロー˩ラン˥シェン [˩pan˥dama: pḁ˩tu˥mana: ˩nan˥dʑo: su̥˩ku˥ro:˩raŋ˥ʃeŋ](スイゼンジナは、鳩間島ではあまり栽培され＜作られ＞なかった)。

˩パン˥ダヤ [˩pan˥daja] 【名】足の力。脚力。「足の体力」の義。ア˩シ˥ダイ [ʔa˩ʃi˥dai](足の力。脚力) ともいう。˩ナーヤンバ　シーティル　パンダヤ˥ヌ　˩ナーン˥ナリ　ア˩ラキユーサン˥バン [˩na:jamba ʃi:tiru pandaja˥nu ˩na:n˥nari ʔa˩rakiju:sam˥baŋ](長患い＜長病み＞をして足の力がなくなり、歩くことが出来ないわい)。

˩パンタラ˥スン [˩pantara˥suŋ] 【他動】太らせる。肥えさせる。自動詞˩パン˥タルン [˩pan˥taruŋ](太る。肥える) の未然形に、使役の助動詞˥スン [˥suŋ](～す。～さす。～させる) が下接して形成された使役の派生動詞。˥オー　シゥ˩カ˥ナイ　˩パンタラ˥スン [˩ʔo: si̥˩ka˥nai ˩pantara˥suŋ](豚を養って太らせる)。˩パンタラサ˥ヌ [˩pantarasa˥nu](太らさない)。˩パンタラシ˥プサン [˩pantaraʃi˥pu̥saŋ](太らせたい)。

˩パンタリッサー˥ルン [˩pantarissa:˥ruŋ] 【自動】肉付きが良くなる。ほどよく健康的に肥える。˥ヤミティ　˩ヨーガリ　ブー˥ティ　シ˩キ　ソーバ　シー　ベータ˥ヌ　˩パンタリッサーリ˥　ブーバン　˩ボー˥レー [˥jamiti ˩jo:gari bu:˥ti ʃi̥˩kiti so: ʃi: be:ta ˥nu pantarissa:ri˥ bu:bam ˩bo:˥re:](病んで痩せ衰えていると聞いて心配していたが、すっかり肉付きも良くなっているわい。良い子だ)。

˩パンタリ˥プス [˩pantari˥pu̥su] 【名】肥えた人。太った人。˩パンタリ˥プソー　˩ドゥン˥ナーンダ　˩アッ˥タニ　˩ウーキユサ˥ヌ [˩pantari˥pu̥so: ˩dun˥na:nda ˩ʔat˥tani ˩ʔu:kijusa˥nu](肥えた人は動作が鈍いから、急には動けない)。

˩パン˥タルン [˩pan˥taruŋ] 【自動】太る。肥える。ン˩マー˥ムヌ　ッ˩ふァイティ　パン˥タルンティ　˩スンドゥ˥　イッ˩カ＜˩ピッ˥チン＞　パンタラン˥サー [ʔm˩ma:˥munu f˩faiti pan˥tarunti ˩sundu˥ ʔik˩ka＜˩pit˥ʧiŋ＞ pantaran˥sa:](美味しいものを食べて太ろうとするが、一向に太らないさ)。˩パン˥タリ　˩ナー˥ヌ [˩pan˥tari ˩na:˥nu](太ってしまった)。ッ˩ふァイムヌヌ˥　ユ˩チ˥クニ　ナ˩ルター˥ル　˩パン˥タル　プ˩スヌ　ゴー˥ラー　ナレー˩ツォー [f˩faimununu˥ ju ˩ʧi˥kuni na˩ruta:˥ru ˩pan˥taru pu̥˩sunu go:˥ra: nare:˩tso:](食べ物が豊かになったから＜ぞ＞太る人が多くなったのだよ)。マン˩ベーマ　パン˥タレー　˥ミサムヌ [mam˩be:ma pan˥tare: ˥misamunu](もう少し太ればいいのに)。˩マー˥ビン　˩パン˥タリ [˩ma:˥bim ˩pan˥tari](もっと太れ)。

˥パンタレー [˥pantare:] 【名】太った子供。太っちょ。デブちゃん。大人にはいわない。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー　イーッふァイ˥ダーティル　˥アイニ　˥パンタレー　˥ナリ　˩ブー [ku˩nu˥ f˩fa: ʔi:ffai˥da:tiru ˥ʔaini ˥pantare: ˥nari ˩bu:](この子は食べ過ぎるのであのように太っちょになっているのだ)。

˩バン˥チ [˩ban˥ʧi] 【名】番地。標準語からの借用語。パ˩トゥマ˥ヌ　˩ドゥーン˥ヤーヌ　˩バン˥チェー　˥ウブイ　˩ブン˥カヤー [pḁ˩tuma˥nu ˩du:ɲ˥ja:nu ˩ban˥ʧe: ˥ʔubui ˩buŋ˥kaja:](鳩間島の自分の家の番地は覚えているかねえ)。˩ワッ˥テーヤ　˩ナンバン˥チヤ [˩wat˥te:ja ˩namban˥ʧija](君の家は何番地か)。

˩パンチカン˥チ [˩panʧikan˥ʧi] 【副】生半可に。中途半端に。途切れ途切れにしか記憶してないさま。不完全でところどころしか記憶していないさま。お

ぼろげなさま。はっきりしないさま。一知半解なさま。プ˞スヌ˜　ムネー　シゥ˞カイトゥ˜　シ˞ケー　サムティ　パンチカン˜チ　シ˞キティ　クン˜ゾー　ウ˞クル˜ナ [pu̥˞sunu˜ mune: si̥˞kaitu˜ ʃi̥˞ke: samuti pantʃikan˜tʃi ʃi̥˞kiti kun˜ʤo: ʔu˞kuru˜na](他人の話はしっかり聞きはしないで、ところどころ中途半端に聞いて怒るな)。ム˞カ˜シ　ウ˞ヤ˜ヌ　ア˞ゾーッ˜タ　˜クトー　˞パンチカン˜チ　˜ウブイ　˞ブン [mu˞ka˜ʃi ʔu˞ja˜nu ʔa˞ʤo:t˜ta ˜ku̥to: ˞pantʃikan˜tʃi ʔubui˞buŋ](昔親が言われたことはところどころ、おぼろげに覚えている)。˞ソー˜　シ˞ティルン˜ケン　˜ビーティ　˞パンチカンチ˜ル　ウ˞ボー˜リ　˞ピッ˜チン　ア˞テー　ナーント ツォー [˞so:˜ ʃi̥˞tiruŋ˜kem ˜bi:ti ˞pantʃikantʃi˜ru ʔu˞bo:˜ri ˞pit˜tʃiŋ ʔa˞te: na:nトtso:](正気を失うまで酔っておぼろげにしか思い出されない＜意識が途切れ途切れだ＞。あとは何も意識がないんですよ)。˜トームニン　ウ˞ランダ˜ムニン　˞パンチカン˜チ　シゥ˞カリン [˜to:muniŋ ʔu˞randa˜ munim ˞pantʃikan˜tʃi si̥˞kariŋ](中国語も英語＜オランダ語＞もところどころ中途半端に理解でき＜聞くことができ＞る)。

˞バンチ˜フダ **[˞bantʃi˜ɸuda]** 【名】門札。「番地札」の義。イ˞クサユー˜ヌ　˜アトー　˞ヤーカー˜ジ　˞バンチ˜フダ　ク˞バラリ˜　ブタル [ʔi˞kusaju:˜nu ˜ʔato: ˞ja:ka:˜ʤi ˞bantʃi˜ɸuda: ku˞barari˜ butaru](戦後は家毎に門札＜番地札＞は配られていたよ)。

˞パンチルン **[˞pantʃiruŋ]** 【自動】 1ほどける (解ける)。はずれる。フ˞バリ˜シケー　˜シナー　˞パンチルン˜カヤーティ　ウ˞ムータ˜ヌ　˞パンチランバン [ɸu˞bari˜ʃi̥ke: ˜ʃina: ˞pantʃiruŋ˜kaja:ti ʔu˞mu:ta˜nu ˞pantʃirambaŋ](縛ってある綱は解けるかと思ったが、解けないわい)。˞パンチ　ナー˜ヌ [˞pantʃi na:˜nu](解けてしまった)。˞パンチル˜　クトー　˞ナーン˜パジ [˞pantʃiru˜ ku̥to: ˞na:m˜ paʤi](解けることはないはずだ)。˞パンチレー˜　ミサムヌ [˞pantʃire:˜ misamunu](解ければいいのに)。˞パー˜ク　˞パンチリ [˞pa:˜ku ˞pantʃiri](早く解けろ)。2はずれる (外れる)。それる (逸れる)。˜タミティ　ア˞タン˜カー　˞パンチルン ＜˞パンチス＞[˜tamiti ʔa˞taŋ˜ka: ˞pantʃiruŋ＜˞pantʃisu＞](真直ぐに狙って ＜矯(タ)めて＞撃たない＜当てない＞と外れる)。

˞パンツァスン **[˞pantsasuŋ]** **(1)**【他動】 1ほどく (解く)。フ˞バリ˜　シケー　シ˞ナ˜バ　˞パンツァスンティ　スンドゥ　パンツァサラヌ [ɸu˞bari˜ ʃi̥ke: ʃi˞na˜ba ˞pantsasunti sundu pantsasaranu](縛(シバ)ってある綱を解こうと＜外そうと＞するが、解かれ＜外され＞ない)。˞パンツァシヤッ˜サ　˜ムノーラ　˞パンツァス˜　クトゥ [˞pantsaʃi jas˜sa ˜muno:ra ˞pantsasu˜ ku̥tu](解き易い＜外しやすい＞物から解く＜外す＞こと)。˞パー˜ク˞パンツァシェー˜　ミサムヌ [˞pa:˜ku ˞pantsaʃe:˜ misamunu](早く解けば＜外せば＞いいのに)。˜ドゥーシ　˞パンツァシ [˜du:ʃi ˞pantsaʃi](自分で解け＜外せ＞)。外す。˜シナ　˞パンツァスンティ　スンドゥ　パンツァサラヌ [˜ʃina ˞pantsasunti sundu pantsasaranu](綱を解こうとするが解かれない)。˞ティー˜ヤ˞パンツァサンドー˜シ　ギッ˞ティ˜　カ˞サミ [˞ti:˜ja ˞pantsasando:˜ʃi gi˞ti˜ kḁ˞sami](手は放さないで、ぎゅっと掴め)。˞パンツァシ˜　ミサカー　˞パンツァシェー˜　ミサムヌ [˞pantsaʃi˜ misaka: ˞pantsaʃe:˜ misamunu](解(ホド)いてよければ解けば良いのに)。˞パンツァス˜　クトー　ナ˞ラ˜ヌ [˞pantsasu˜ ku̥to: na˞ra˜nu](解くことは出来ない)。˜ドゥーシ　˞パンツァシ [˜du:ʃi ˞pantsaʃi](自分で解け)。2はずす (外す)。˞ティー˜ヤ　˞パンツァスナ [˞ti:˜ja ˞pantsasuna](＜握っている＞手は外すな)。 **(2)**【補動】(補助動詞)。動詞の連用形に付いて˞～しそびれる。～しはずす」の意を表す。シ˞グトゥブリ　シーベー˜ティ　ン˞マー˜ムヌ　ッ˞ふァイパンツァシ (ッ˞ふァイパザキ) ナー˜ヌ [ʃi˞gutuburi ʃi:be:˜ti ʔm˞ma:˜munu f˞faipantsaʃi＜f˞faipaʤaki＞ na:˜nu](仕事に夢中になって＜仕事惚れして＞、美味しいものを食べ外して＜食べ損ねて＞しまった)。

˞パンッサーラシ˜ビリ **[˞panssa:raʃi˜biri]** 【名】足下げ座り。縁側や三番座などで足を垂らして座ること。農家の主婦たちは用事を済ませてすぐ立てるように座敷に上がることはしなかった。老人たちが座敷に上がって茶を飲んだ。˞パンタ˜サンダ　˞パンッサーラシ˜ビリ　˞シェー˜ティル　˞サー˜ユン　ヌ　˞ム˜タ˞ダー [˞panta˜sanda ˞panssa:raʃi˜biri ˞ʃe:˜tiru ˞sa:˜jun nu˞mu˜ta˞da:](忙しいので足下げ座りをしながらお茶も飲んだものだよ)。

˞パンッス˜ル **[˞panssu˜ru]** 【名】あしふき (足拭き)。雑巾。明治生まれの老年層の使用語彙。若年層は˞ゾー˜キン [˞ʤo:˜kiŋ](雑巾) という。˞パンッス˜ルシ　˞パン˜マー　ッ˞スリティ　ウンター　ヌーリ˜バ [˞panssu˜ruʃi ˞pam˜ma: s˞suriti ʔunta: nu:ri˜ba](足拭きで足を拭いて上＜座敷＞に上がりなさい)。

˜パン　˜ッスン **[˜pan ˜ssuŋ]** 【連】足摺りをする。˞キン˜ダン　˞スン [˞kin˜dan ˞suŋ](地団太踏む) というの

が普通。ヤ˩ラ˥ベー　ブ˩ネーヌ˥　シ˩ビ　ウーンティ　˥パン　˥ッシ＜キン˥ダン　˩シー＞　ナ˩キヨー˥ゾー　ナ˩ラ˥ヌ [ja˩ra˥be: bu˩ne:nu˥ ʃi˩bi ʔu:nti˥ paŋ˥ ʃʃi＜˩kin˥daŋ˩ʃi:＞ na˩ki jo:˥ʤo: na˩ra˥nu](子供は母親の後追いするとて足摺して＜地団太踏んで＞泣いて、手が付けられ＜養生でき＞ない)。

˩パンツン [˩pantsuŋ] 【自動】 1ほどける (解ける)。外れる。フ˩バリ˥　シケータンドゥ　˩パンチ　ナー˥ヌ [ɸu˩bari˥ʃi̥ke:tanndu˩pantʃi na:˥nu](縛っておいたが解けてしまった)。˩ナンククˇル　˩パンツン [˩naŋkuku˥ru˩pantsuŋ](自然に＜おのずと＞解ける)。˩パンツァヌ [˩pantsanu](解けない)。˥クマーラ　˩パンツ˥　クトー　˩ナー˥ヌ [˥kuma:ra˩pantsu˥ ku̥to:˩na:˥nu](ここから解けることはない)。˩パンチェー˥　ミサムヌ [˩pantʃe:˥ misamunu](解ければ良いのに)。˩パンチ˥バ [˩pantʃi˥ba](解けろよ)。2はずれる (外)˥タミティ　ア˩タン˥カー　˩パンツン [˥tamiti ʔa˩taŋ˥ka:˩pantsuŋ](真直ぐ狙って当てないと外れる)「はづる (下二段活用)」の四段段活用化したもの。˥Fazzure, uru, eta. ハヅレ, ルル, レタ (外れ, るる, れた) ～Fitonami fazzururu(人並みに外るる)～」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。

˩バン˥テー [˩ban˥te:] 【名】わが家。私の家 (他人に対して言うときに用いる)。banta(私たち＜聞き手を含まない＞の)・[ja:](家)→　[bante:](我が家) と転訛したもの。家族の者同士が「わが家」というときは、˩ベー˥ヤー [˩be:˥ja:](我ら＜聞き手を含む＞の家、建物、家庭) という。˥バーヤー [˥ba:ja:](私個人の家) は建物を指す。˩バン˥テーン　ア˩サビン˥　クーバ˩ヨー [˩ban˥te:ŋ ʔa˩sabiŋ˥ ku:ba˩jo:](わが家にも遊びに来なさいね)。

˩バンドーガミ [˩bando:gami] 【名】水がめ。炊事用、飲料用の水を入れておく水瓶で、口が胴体ほど広い。普通の水甕を半分の高さで切った形をしている。「半胴甕」の義。˩パンドー [˩pando:](半胴瓶) ともいう。˩バンドーガミヌ˥　フ˩ター˥　イツァシス˩ク˥リティル　フ˩チェー˥　カ˩バ˥シ　ス˩ク˥タ [˩bando:gaminu˥ ɸu̥˩ta:˥ ʔitsaʃi su̥˩ku˥ritiru ɸu̥˩tʃe:˥ ka˩ba˥ʃi su̥˩ku˥ta](半胴甕の蓋は板で作って口を覆い被せておいた)。

˩ハン˥ドゥー [˩han˥du:] 【名】˩プーシン [˩pu:ʃiŋ](帆船) の帆柱を立てたり、倒したりする際のヌ˩チ˥ジナ [nu˩tʃi˥ʤina](命綱) を張る棒。舳先に突き出してある。

˩パントゥキ [˩pantuki] 【名】はんとき (半時)。ごく短い時間。˩イットゥ˥キ [˩ʔittu˥ki](いっとき＜一時＞。ごく短い時間) と共に対語的に用いられる。˩イットゥ˥キ　˩パントゥキヌ˥　ピ˩マーンツァン˥　ス˩クララヌー [˩ʔittu˥ki˩pantukinu˥ pi˩ma:ntsan˥ su̥˩kuraranu:](わずか一時、半時の時間＜暇＞さも作られないのか)。ウ˩マー˥ヤ　˩パントゥキ˥シー　˩ギーッティ˥　キ˩ラ˥リン [ʔu˩ma:˥ja˩pantuki˥ʃi:˩gi:tti˥ ki˩ra˥riŋ](そこへは半時で行って来られる)。

˩パントゥシ [˩pantuʃi] 【名】半年。˥ヨイ　˩シェーラ˥　メー　キサー˩ティ　パントゥシ˥　ナ˩リ˥　ブー [˥joi˩ʃe:ra:˥ me: kisa:˩ti pantuʃi˥ na˩ri˥ bu:](結婚祝いをしてから、もう既に半年は経って＜なって＞いる)。

˩パンニチ [˩pannitʃi] 【名】半日。˩パンニチ˥　パ˩タラク˥カー　˥ティマー　˩ギュー˥サ　˩イーラリ˥ワ [˩pannitʃi˥ pḁ˩taraku˥ka: ˥tima:˩gju:˥sa ˩ʔi:rari˥wa](半日働いたら手間賃はいくら貰えるか)。ク˩レー　パンニチヌ˥　シ˩グトゥユント ナー [ku˩re: pannitʃinu˥ ʃi˩gutujunt-na:](これは半日の仕事ですねえ)。

˩バン˥ニン [˩ban˥niŋ] 【名】番人。見張りをする人。マ˩チヤーヌ　バンニン˥マー　ブ˩ラーヌ [ʔma˩tʃija:nu bannim˥ma: bu˩ra:nu](お店の番人はいない)。

˩パンニン [˩panniŋ] 【名】半年。˩チューガッ˥コー　˥ンジティ　˩パンニンマー˥　カ˩ツシン˥ナ　˩ヌールタ (中学校を出て半年はカツオ漁船に乗った)。

˩パンニンマイ [˩pannimmai] 【名】半人前。一人前の半分の能力。ヤ˩ラ˥ビ　ヤ˩ルンダ　パンニンマイヌ˥　ティ˩マ˥ル　˩イーラリ˥タ [ja˩ra˥bi ja˩runda pannimmainu˥ ti˩ma˥ru ˩ʔi:rari˥ta](子供だから半人前の手間賃がもらえた)。

˩パン˥ヌ　˥アトゥ [˩pan˥nu ˥ʔatu] 【連】足跡。動物の足跡。人の足跡には、˩パン˥ヌペー [˩pan˥nupe:](人の足跡) という。カ˩マイ˥ヌ　˩パン˥ヌ　˥アトゥ　˥ミレーティル　˥バナー　ア˩ギル [ka˩mai˥nu ˩pan˥nu ˥ʔatu ˥mire:tiru ˥bana: ʔa˩giru](猪の足跡を見ながら罠は仕掛けるものだ)。

˩パン˥ヌ　˥アドゥ [˩pan˥nu ˥ʔadu] 【連】かかと (踵)。˩パン˥ヌ　˥アドゥシ　˩フンシキ˥バ [˩pan˥nu ˥ʔaduʃi ˩ɸunʃi̥ki˥ba](かかと＜踵＞で踏みつけなさいよ)。

˩パン˥ヌ　ウ˩トゥ [˩pan˥nu ʔu˩tu] 【連】足音。˩パン˥ヌ　ウ˩トゥヌ˥　シゥ˩カリヌ　ター˥カヤー [˩pan˥nu ʔu˩tunu˥ si̥˩karinu ta:˥kaja:](足音が聞こえるが、誰かねえ)。

˩パン˥ヌ　ウ˩ヤ˥ビ [˩pan˥nu ʔu˩ja˥bi] 【連】足の指。˩パン˥ヌ　ウ˩ヤ˥ビ　イ˩シ˥ナ　˩フッカーサ˥リティ　˥

ヤミ　ナ˞ラˀヌ [˞panˀnu ʔu˞jaˀbi ʔi˞ʃiˀna ˞ɸukkaːsaˀriti ˀjami na˞raˀnu](足の指が石に挟まれて痛くてたまらない＜堪らない＞)。

˞パンˀヌ　ク˞シ [˞panˀnu kṵ˞ʃi] 【連】足の甲。「足の背＜腰＞」の義。˞パンˀヌ　ク˞シˀナー　ウ˞ブˀ　ア˞シブˀヌ　ˀンジ　˞ベー [˞panˀnu kṵ˞ʃiˀnaː ʔu˞buˀ ʔa˞ʃibuˀnu ˀʔnʤi ˞beː](足の甲に大きな腫れ物＜お出来＞ができている)。

˞パンˀヌ　グ˞ジ [˞panˀnu gu˞ʤi] 【連】足のまめ (肉刺)。˞パンˀヌ　グ˞ジヌ　ピッˀチティ　ヤ˞ミˀスバン [˞panˀnu gu˞ʤinu pitˀʧiti ja˞miˀsubaŋ](足のまめ＜肉刺＞がつぶれて痛むよ)。

˞パンˀヌ　サ˞ラーˀマ [˞panˀnu sa˞raːˀma] 【連】くるぶし (踝)。「はぎ (脛) の小皿」の義。ˀパン　キ˞ルˀタクトー　˞パンˀヌ　サ˞ラーˀマ　イ˞シˀナ　ˀキリティ　ヤ˞マˀシ　˞ナーˀヌ [ˀpaŋ ki˞ruˀtakṵtoː ˞panˀnu sa˞raːˀma ʔi˞ʃiˀnaː ˀkiriti ja˞maˀʃi ˞naː˞nu](足を蹴りあげたところ、踝を石に蹴りつけて怪我＜病ま＞してしまった)。

˞パンˀヌ　ˀシミ [˞panˀnu ˀʃimi] 【連】足の爪。˞パンˀヌ　ˀシミ　˞フッツァˀシ　ッ˞ふィーリ [˞panˀnu ˀʃimi ˞ɸuttsaˀʃi f˞fiːri](足の爪を摘んで＜切って＞くれ)。

˞パンˀヌ　ˀバタ [˞panˀnu ˀbata] 【連】足裏。「足の腹」の義。イ˞ソーˀナーティ　ˀアバイズ　˞フンキティ　パンˀヌバタ　˞ピッˀキティ　˞パンˀマー　フ˞クリ　ベー [ʔi˞soːˀnaːti ˀʔabaiʤu ˞ɸuŋkiti panˀnubata ˞pikˀkiti ˞pamˀmaː ɸṵ˞kuri beː](潮干狩りで、ヒメオニオコゼを踏んで足裏を傷つけ＜ほがし＞て、足は腫れてしまった)。

˞パンˀヌ　ˀプニ [˞panˀnu ˀpuni] 【連】足の骨 (むこうずねのほね＜脛骨＞、腓骨)。ˀシニ [ˀʃini](脛(スネ)) ともいう。˞キーヌパンˀターラ　ˀウティティ　˞パンˀヌプニ (ˀシニ)ˀブリシケー [˞kiːnu panˀtaːra ˀʔutiti ˞panˀnu ˀpuni(ʃini)ˀburiʃi̥ke:](木の先端から落ちて足の骨＜脛(スネ)＞を折ってある)。

˞パンˀヌ　フ˞ビ [˞panˀnu ɸu˞bi] 【連】足首。˞カイˀリティ　˞パンˀヌ　フ˞ビˀ　シ˞ガーシティˀ　ヤミ　ア˞ラカラˀヌ [˞kaiˀriti ˞panˀnu ɸu˞biˀ ʃi˞gaːʃi̥tiˀ jami ʔa˞rakaraˀnu](転んで足首を捻挫(ネンザ)して、痛くて歩かれない)。

˞パンˀヌ　ˀペー [˞panˀnu ˀpeː] 【連】1人の足跡。あしあと。パ˞マˀナー　˞パンˀヌ　ˀペーヌ　ˀアル　˞ギンˀシェー　ター˞ンナーカˀヌ　ˀキー　ブ˞レーˀル [pa˞maˀnaː ˞panˀnu ˀpeːnu ˀʔaru ˞giŋˀʃeː taː˞nnaːkaˀnu ˀkiː bu˞reːˀru](砂浜に人の足跡が付いているからには誰かが来ていたのだろう)。˞パンˀヌ　ˀペー　フ˞ムン [˞panˀnu ˀpeː ɸu˞muŋ](足跡を踏む。人の後を追う。他人の真似をする)。2足の爪先。˞パンˀヌ　ˀペー　ˀキリティ　ˀヤミ　ナ˞ラˀヌ [˞panˀnu ˀpeː ˀkiriti ˀjami na˞raˀnu](足の爪先を蹴って痛くてたまらない)。

˞パンˀヌ　˞ユーˀル [˞panˀnu ˞juːˀru] 【連】足指の裏のひだ (襞)。ム˞カˀシェー　カ˞ラパンˀシ　ア˞ラˀケーユンダ　ヤ˞ラビˀンメーヤ　˞パンˀヌ　˞ユーˀロー　ˀユー　キ˞シˀシタ [mu˞kaˀʃeː ka˞rapaŋˀʃi ʔa˞raˀkeːjunda ja˞rabiˀmmeːja ˞panˀnu ˞juːˀroː ˀjuː ki̥ˀʃiˀʃi̥ta](昔は裸足で歩いたのだから、子供達は足指の裏の襞がよく切れたものだ)。

˞パンˀヌ　ˀワザ [˞panˀnu ˀwaʤa] 【連】足を使う仕事。「足の業」の義。˞ティーˀヌ　ˀワザ [˞tiːˀnu ˀwaʤa](手の技術。手業) の対義語。˞カーˀラヤー　フ˞クˀピンヌ　ˀミツァ　ク˞ナシェー　パンˀヌ　ˀワザ　ヤ˞ルンダˀ　ター˞ンˀ　ナ˞リˀシタ [˞kaːˀraja: ɸṵ˞kuˀpinnu ˀmitsa ku˞naʃeː panˀnu ˀwaʤa ja˞rundaˀ taː˞nˀ na˞riˀʃi̥ta](瓦屋根を葺く時の粘土を捏ねる仕事は足を使う仕事だから、誰にでも出来た)。

˞バンˀヌン [˞banˀnuŋ] 【連】私も。撥音で終わる語に副助詞ン [ŋ](も) が下接すると連声現象が起きて、ヌン [nuŋ](～も) となる。˞バンˀヌン　パ˞リˀプサン [˞banˀnum pa˞riˀpṵsaŋ](私も行きたい)。˞ジンˀヌン　˞モーカˀリン [˞ʤinˀnum ˞moːkaˀriŋ](金も儲かれる)。˞ワンヌンˀ　パリミサン [˞wannumˀ parimisaŋ](君も行って良い)。

ˀバンパジ [ˀbampaʤi] 【名】祈願解き。「番外し」の義。˞バンプトゥˀキ [˞bampṵtuˀki](願解き) と同じ。御嶽で神々に対する一回の祈願を、プ˞スˀバン [pṵ˞suˀbaŋ](一番) という。ˀヤマヤマナー　˞ニンˀガイ　˞オーˀレール　カ˞ジカジˀヌ　˞ニンガイˀヌ　ˀバンパジバル　˞プールˀナーティ　˞ソーˀル [ˀjamajamana: ˞niŋˀgai ˞ʔoː˞reːru ka˞ʤikaʤiˀnu ˞niŋgaiˀnu ˀbampaʤiru ˞puːruˀnaːti ˞soː˞ru](御嶽御嶽で祈願された数々の祈願の願解きを＜ぞ＞豊年祭でなさるのだ)。

˞バンˀバラー [˞bamˀbaraː] 【名】家の中ががらんどうであること。家の中に家具類がなく、がらんとしているさま。プ˞スヌˀ　ブ˞ラーンˀ　ヤー　ヤ˞ルンダ　バンˀバラー　ˀナリティ　ノー˞ン　ナーˀヌ [pṵ˞sunuˀ bu˞raːŋˀ ja: ja˞runda bamˀbaraː ˀnariti noː˞n naː˞nu](人の住んでいない家だから、がらんどう

になって＜家具が＞何もないわい)。

「バンバン [ˈbambaŋ] 【副】擬態語。ぼうぼう。火の燃えさかるさま。「マーキーバ　バンバン゛シ　「モーシェー゛ティ　「マイヌ゛イー　バ「カシ゛バ [ˈmaːkiːba bambaŋ゛ʃi ˈmoːʃeː゛ti ˈmainu゛ʔiː baˈkaʃi゛ba](薪をぼうぼう燃やして米のご飯を炊きなさいよ)。

「パンパン [ˈpampaŋ] 【副】擬態語。1発熱したり、火照ったりするさま。ム「カ゛シェー　ニ「チ゛ヌ　「パンパン゛シ　ン「ジ゛ルカー　フ「チン゛パー　「シッ゛キ　゛シル　ヌ「マ゛シティ　゛バサン＜バ「サ゛ムトゥ＞　「シッ゛キティ　「マッ゛ふァ　シ「モーッ゛タ [muˈka゛ʃeː niˈʧi゛nu ˈpampaŋ゛ʃi ʔnˈʤi゛rukaː ɸu̥ˈʧim゛paː ˈʃik゛ki゛ʃiru nuˈma゛ʃi̥ti ゛basaŋ＜baˈsa゛mutu＞ ˈʃik゛kiti ˈmafˈfa ʃiˈmoːt゛ta](昔は発熱してパンパンと高熱が出ると蓬(ヨモギ)の葉を搗いて汁を搾って飲ませ、芭蕉の幹をも叩いて枕にさせられた)。2真夏の太陽が照りつけて暑くなるさま。゛ティダー　「パンパン゛シ　゛ティリ　「ブンダ　ヨーコイ゛　ナ「ラ゛バーラル　パ「タ゛ケー　パ「ラ゛リ [゛tidaː pampaŋ゛ʃi ゛tiri ˈbunda joːkoi゛ naˈra゛baːraru pḁˈta゛keː paˈra゛ri](太陽がパンパンと照り付けているから、夕方＜「夕影」の義。午後四時ごろ＞頃になってから＜ぞ＞畑には行かれる)。

゛パンピサ [゛pampisa] 【名】足首から足の先。足の甲から足の裏を含む。「足・平」の義。゛パンピサシ　ウ「ムイ゛キシ　「フンピルン [゛pampisaʃi ʔuˈmui゛ki̥ʃi ˈɸumpiruŋ](足裏＜足の平＞で思い切り踏みつぶす)。

「パン゛ビン [ˈpam゛biŋ] 【名】祝儀用に大きく揚げた芯のない平たいてんぷら。「はんぺん (半片)」の転訛したものか。祝祭日などには、「パン゛ビンを油で揚げて子供達に与えた。「パン゛ビン　ヤ「キティ゛　ヤ「ラ゛ビンケーン　ッ「ふァーシ゛バ [ˈpam゛biŋ jaˈkiti゛ jaˈra゛biŋkeːŋ fˈfaːʃi゛ba](はんぺんを揚げて＜焼いて＞子供達に食べさせなさいよ)。

「パン゛ブン [ˈpam゛buŋ] 【名】半分。若年層は「ハン゛ブン [ˈham゛buŋ](半分) という。標準語からの借用語が転訛したもの。普通は、ナ「カ゛ラ [naˈka゛ra](半ら) という。「キュー゛ヤ　シ「グトー　パンブン゛ドゥ　「ナッ゛タ [ˈkjuː゛ja ʃiˈguto: pambun゛du ˈnat゛ta](今日は、仕事は半分しか出来なかった＜半分ぞできた＞)。「パンブン゛ナー　゛バキ　ッ「ふァイ゛バ [ˈpambun゛naː゛baki fˈfai゛ba](半分ずつ分けて食べなさいよ)。「パンブンシグ゛トゥ [ˈpambuŋʃigu゛tu](半端な仕事)。

「パンブン゛シー [ˈpambuŋ゛ʃiː] 【名】中途半端な仕事をすること。仕事を完全にやり遂げないこと。「半分し」の義。若年層は、「ハンブン゛シー [ˈhambuŋ゛ʃiː](中途半端にすること) という。タ「ナマリ゛タ　シ「グトー゛　トゥ「ズ゛メー　サ「ムティ　パンブン゛シー　「シーティ゛　シ「ティ゛　シケーバン [taˈnamari゛ta ʃiˈguto:゛ tuˈʤu゛meː saˈmuti pambuŋ゛ʃiː ˈʃiːti゛ ʃi̥ˈti゛ ʃi̥keːbaŋ](頼まれた仕事は成し遂げ＜とじめ＞ないで、中途半端にやって＜半分やりして＞放置してある)。

「パンブンッサー゛ク [ˈpambunssaː゛ku] 【名】半分仕事。゛アイニ　アˈミ゛ヌ　゛フーカー　「キュー゛ヤ　「パンブンッサー゛クンツァン＜「パンブンシグ゛トゥンツァン＞　ナ「ラ゛ヌ [゛ʔaini ʔaˈmi゛nu ゛ɸuːkaː ˈkjuː゛ja ˈpambunssaː゛kuntsan＜ˈpambuŋʃigu゛tuntsan＞ naˈra゛nu](あんなに雨が降るようでは＜降るなら＞、今日は半分仕事さえもできない)。

「パンブン゛ナー [ˈpambun゛naː] 【連】半分ずつ。クˈレー゛　ワˈター゛　フˈタール゛シ　「パンブン゛ナー　゛バキ　「イー゛リ　゛ミサン [kuˈreː゛ waˈtaː゛ ɸu̥ˈtaːru゛ʃi ˈpambun゛naː ゛baki ˈʔiː゛ri ゛misaŋ](これは君たち二人で半分ずつ分けて貰っていい)。

「パンブン゛バタ [ˈpambum゛bata] 【名】「半分腹」の義。食事についていう。五分通り (腹半分に食すること) 腹に入れること。老年層は、ナ「カラ゛バタ [naˈkara゛bata](腹五分) という。イ「クサ゛ユーナーヤ　ッ「ふァイムノー　パンブンバタ゛ナール　ッ「ふァーリタ [ʔiˈknusa゛juːnaːja fˈfaimunoː pambumbata゛naːru fˈfaːrita](戦争の時代には食べ物は腹半分ずつしか食べられなかった＜腹半分ずつぞ食べられた＞)。

「パンブン゛ミチ [ˈpambum゛miʧi] 【名】道半ば。半分道。中途。「パンブン゛ミチ　「バー゛ケー　「キー゛ブンドゥ　アˈトゥ゛ヌ　パˈンブンミチ゛ル　パˈリグリ゛サーˈツォー [ˈpambum゛miʧi ˈbaː゛keː ˈkiː゛bundu ʔaˈtu゛nu ˈpambummiʧi゛ru paˈriguri゛saːˈtsoː](半分道までは来ているが、後の半分道が行きにくいんだよ)。「パンブン゛ミチェーラ　「ヤー゛　ムˈドゥ゛リ (ˈカイ゛リ)　「クー゛タ [ˈpambum゛miʧeːra ˈjaː゛ muˈdu゛ri(ˈkai゛ri) ˈkuː゛ta](半分道から＜道の途中から＞家に戻って＜帰って＞きた)。

「パンマイ [ˈpammai] 【名】飯米。食糧米。丁寧な表現。普通は、パ「マイ [paˈmai](飯米) という。「トゥッカブンヌ　パンマイ゛　スˈコーリティ゛　アˈロー゛ナ　「シン　パイ゛ター　「オーッ゛タ [ˈtukkabunnu pammai゛ su̥ˈkoːriti゛ ʔaˈroː゛na ˈʃim pai゛taː ˈʔoːt゛ta](十日分の飯米を用意して田圃の初耕＜荒耕し＞をしに西表＜南端＞へ行かれた)。

˥パン ˩ムイ˥ルン **[˥pam ˩mui˥ruŋ]** 【連】幼児が立ち始める。幼児が歩き始める。「足が生える」の義。ク˩ヌ˥ ッ˩ふァー タンカー サン˥ケン キサー˩ティ˥ パン ˩ムイ˥ルンティ ˩アーキ˥バン [ku˩nu˥ f˩fa: taŋka: saŋ˥keŋ kʲsa:˩ti˥ pam ˩mui˥runti ˩ʔa:ki˥baŋ](この子は一歳の誕生祝いをしないうちに、すでに歩き始めようとしているわい)。

˩パン˥ヤドゥ **[˩paŋ˥jadu]** 【名】半間戸。半窓に設置された上げ下ろし式の半戸。半分の戸。「半屋戸」の義。一般の住宅には作らなかったが、鰹節工場の事務所には˩パン˥ヤドゥ [˩paŋ˥jadu](半) が設置されていた。˩パン˥ヤドゥ ア˩キティ˥ カ˩ジ トゥー˥シ [˩p˩aŋ˥jadu ʔa˩kiti˥ ka˩ʤi tu:˥ʃi](半戸を開けて風を入れよ < 通せ >)。

˥パン ˩ヨー˥ルン **[˥paŋ ˩jo:˥ruŋ]** 【連】足 (脚) が弱くなる。「足弱る」の義。トゥ˩シ˥ トゥルカー ˩シンダイ˥ パン ˩ヨー˥ルンダ ア˩ラキグリ˥サン [tu̥˩ʃi˥ turuka: ˩ʃindai˥ paŋ ˩jo:˥runda ʔa˩rakiguri˥ saŋ](年を取ると次第に足が弱くなるから歩きずらい)。

ヒ

˥ビー [˥biː] 【接尾】職、任務、身分などを表す語の末尾に付く。ティ˫ジリ˥ビー [tiˬʤiri˥biː](男性神職。手擦部の義か)。˥ウガンカージナー　サ˫カサトゥ˥　ティ˫ジリビー˥ヌ　˫オー˥ルン [˥ʔugaŋkaːʤinaː sḁˬkasatu˥ tiˬʤiribiː˥nu ˫ʔoː˥ruŋ](お願 < 御嶽 > ごとに司(ツカサ) <巫(ミコ)女。女性神職者 > と男性神職者 < 手摺り部 > がおられる)。

˥ビー [˥biː] 【名】酔うこと。酔い。˫ビー˥プス [˫biː˥pu̥su](酔っ払い。「酔い人」の義)。サ˫キビー [sḁˬkibiː](酒酔い)。イ˫ズビー [ʔiˬʤubiː](魚の中毒)。タ˫バ˥クビー [taˬba˥kubiː](タバコ酔い)。˥ビー　サ˫マ˥シテーラ　˫ヤー˥　パリ [˥biː saˬma˥ʃi̥teːra ˫jaː˥pari](酔いを醒ましてから家に帰りなさい)。

˥ビー [˥biː] 【名】(植) いぐさ (藺草)。茎は畳表に使う。「～於保為具左 < オホヰグサ > よそに見しよは～。万、3417」の「ヰ」が転訛したもの。畳表は沖縄本島や本土から輸入された。西表島で栽培された藺草は˫サー˥ラ [˫saː˥ra](藺草) といった。˫パイタ˥ナー　˫ビー˥ヤ　イ˫バンシェン　サーラ˥ル　イ˫ブタ [˫paitaˬnaː ˫biː˥ja ʔiˬbaŋʃeŋ saːraˬru ʔiˬbuta](西表島には藺は植えなかった。サーラを < ぞ > 植えた)。

˥ビー [˥biː] 【名】 1とい (樋(ヒ))。かけひ < 懸樋 >。筧。「水やりたる樋 < ヒ > の上に～」『かげろふ日記』の転訛したもの。屋根を流れおちる雨水を受けて、ミ˫ジン˥グラ [miˬʤiŋ˥gura](水タンク) やミ˫ジカミ [miˬʤikami](水甕) に流す装置。直径約 10 センチの竹筒を半分に割り、節を刳り抜いて利用していた。˫タイ˥フーナ　˫ビー˥ヌ　ヤ˫ブ˥リ　˫ナーン˥バ　トゥ˫リカイ˥リ [˫taiˬɸuːna ˫biː˥nu jaˬbu˥ri ˫naːm˥ba tuˬrikai˥ri](台風で樋が壊れてしまったから取替えなさい)。2急須の口。注ぎ口。

˥ビー [˥biː] 【名】 1よごれ (汚れ)。しみ (染み)。「汚穢(オワイ)、オエ」の義か。˫キン˥マー　˫ティー˥リ　˫サン˥カー　˥ビー　シ˫キ˥ルン˫ダー [˫kim˥maː ˫tiː˥ri ˫saŋ˥kaː ˥biː ʃi̥ˬki˥runˬdaː](着物は手入れをしないと汚れ < 染み > がつくよ)。2不浄。穢れ。˥ビーン˥サビーン　シ˫キ˥シミ　タ˫ボーン˥ナ [˥biːn ˥sabiːŋ ʃi̥ˬki˥ʃimi taˬboːn˥na](何事も無くあらしめくださいますように < 汚れも錆びも付けさせ給うな >)。3水垢(ミズアカ)。みあか。みしぶ。パ˫ナ˥イキナー　ビー　シキ˫ベー˥バ　ア˫ラシティティ˥　パナ　イ˫キ˥リ [paˬna˥ʔikinaː ˥biː ʃi̥ˬki˥beː˥ba ʔaˬraʃi̥titi˥ pana ʔiˬki˥ri](花活けに水垢が付いているから、洗ってから花を活けなさい)。

˫ビー [˫biː] 【名】亥 (い)。十二支の第十二番目。˫ビーディプス [˫biːdipusu](亥年生まれの人)。˫ビーディマリ [˫biːdimari](亥年生まれ)。ク˫トゥシェー　ビードゥシ [ku̥ˬtuʃeː biːduʃi](今年は亥年だ)。˫ワンヌンー　ビーディマリ　ヤッタ˥ミ˫ツォー [˫wannum biːdimari jatta˥miː˫tsoː](君も亥年生まれだったんだよねえ)。

˫ビー [˫biː] 【感】ほら。それ。話し手と同等、目下の者に物を与えるときにいう。˫ビー˥　ク˫リ　ピーチ˥ナー　˥トゥリ　ッ˫ふァイ˥バ [˫biː˥ kuˬri piːʧi˥naː ˥turi fˬfai˥ba](ほら、これを一つずつ取って食べなさいよ)。

˥ピー [˥piː] 【名】ひせ (干瀬)。満潮時には海中に没し、干潮時には海面上に現れて島と陸続きになる平坦なサンゴ礁原。「ひし (必志)」「大隈風土記逸文」の転訛したものか。˥シンタヌピー [˥ʃintanupiː](島の後ろの干瀬)、˫アンタヌ˥ピー [˫ʔantanu˥piː](島の東の干瀬)、˫インタヌ˥ピー [˫ʔintanu˥piː](島の西の干瀬)、タ˫カ˥ビー [taˬka˥biː](島の東南の高干瀬)、˫クー˥シビー [˫kuː˥ʃibiː](島の南西のクーシ干瀬)、˫イー˥シビー [˫iː˥ʃibiː](西表島の北にひどくツノマタの養殖をした干瀬) などがある。島を取り巻く珊瑚礁のリーフ (環礁) を˥ピー [˥piː](干瀬) という。この˥ピーは、鳩間島の前面 (南側) の数箇所で切れて離れている。そこをフ˫チ [ɸu̥ˬʧi](津口) という。船はそこを通って島に出入りする。˫スー˥ヌ　ピ˫ス˥ター　タ˫ク˥　トゥリン　タ˫カ˥ベー　˫オーッ˥タ [˫suː˥nu pi̥ˬsu˥taː tḁˬku˥ turin tḁˬka˥beː ˫ʔoːt˥ta](潮が引いたので蛸漁 < 蛸を獲り > に島の南東の高干瀬

へ行かれた)。

˥ピー [˥pi:] 【名】屁。おなら。˩ピー˥ プスン [˩pi:˥ pu̥suŋ](屁をひる < 放る >)。「Feuo firu.(屁を放る) 放屁する。卑語」『邦訳日葡辞書』。「屁、倍比流、下部出気也」『倭妙類聚鈔』。˩ピー˥ ッ˩サー˥ヌ ナ˩ラ˥ヌ [˩pi:˥ s˩sa:˥nu na˩ra˥nu](屁が臭くてたまらない)。プ˩スヌ˥ マンタナー ˩ピー˥ プシェーー ナ˩ラント ダー [pu̥˩sunu˥ mantana: ˩pi:˥ pu̥ʃe: na˩ranˈda:](人前で屁を放ってはならないぞ)。˩ピーッサリ˥ カ˩ザ˥ヌ ˩スン [˩pi:ssari˥ ka˩ʤa˥nu ˩suŋ](ひどく臭いおならの臭いがする)。

˥ピー [˥pi:] 【名】日。˩イー˥ピー [˩ʔi:˥pi:](良い日。佳日)。˩カイ˥ピー [˩kai˥pi:](良い日。立派な日。佳日)。/アー˩パーレー キューヌ ピー˥バ ムー˩トゥー˥バ ˩シー˥ アー˩パーレー クガニーピー˥バ ニー˩シー˥キ ˩シー/[ʔa:˩pa:re: kju:nu pi:˥ba mu:˩tu:˥ba: ˩ʃi:˥ ʔa:˩pa:re: kugani: pi:˥ba ni:˩ʃi:˥ki ˩ʃi:](アーパーレー < ああ素晴らしい >、今日の日を基にして、アーパーレー 黄金の日を基礎にして)『鳩間島古典民謡古謡集』。˩キュー˥ヌ˩ピー˥ヤ ˥ヌチジュー ˩バシキララヌ [˩kju:˥nu ˩pi:˥ja ˥nutʃiʤu: ˩baʃi̥kiraranu](今日の日は生涯忘れられない)。

˥ピー [˥pi:] 【名】火。炎。灯火。「〜伊射流火波 < イザルヒハ >〜。万、3648」の転訛したもの。˥ピー ˩タスクン [˥pi: ˩tasu̥kuŋ](火を焚きつける)。˩ピー˥ヌ ˩ムイルン [˩pi:˥nu ˩muiruŋ](火が燃える)。˥ピー ˩モースン [˥pi: ˩mo:suŋ](火を焚く < 燃やす >)。ム˩カ˥シェー シ˩キダ˥ケー タ˩カ˥ラ ヤ˩ルンダ˥ カ˩マチ˥ナー ˩ピー˥ダネー キ˩サ˥ソーランシェン [mu˩ka˥ʃe: ʃi̥˩kida˥ke: tḁ˩ka˥ra ja˩runda˥ ka˩matʃi ˥na: ˩pi:˥dane: ki̥˩sa˥so:raŋʃeŋ](昔はマッチは宝だから、竈に火種は切らされなかった)。˥ピー ˥クーン [˥pi: ˥ku:ŋ](火種をもらう < 乞う >)。˩タンビー [˩tambi:](炭火)。˩ヌー˥ピー [˩nu:˥pi:](野火)。

˥ピー [˥pi:] 【名】火事。昔は火事が出ると、˩ピードー ピードー [˩pi:do: pi:do:](火事だ、火事だ) と叫んで村中に触れ回った。人々は手に手に桶を持って集まり、海から海水を汲んで手渡しで運び、消火した。˩ピー˥ヌ ン˩ジ˥ルン [˩pi:˥nu ʔn˩ʤi˥ruŋ](火事 < 火 > が出る)。パ˩トゥ˥マナテー ˩ピー˥ヤ ˩ナン˥ゾー ン˩ジラン˥シェン [pḁ˩tu˥manate: ˩pi:˥ja ˩nan˥ʤo: ʔn˩ʤiraŋ˥ʃeŋ](鳩間島では火事はあまり起きなかった < 出なかった >)。

˩ピー [˩pi:] 【名】 1女性の陰部。女性の外部生殖器。˩マン˥ジュ [˩man˥ʤu](女性の外部生殖器。幼児語)ともいう。ミ˩ドーン˥ッふァー ヤ˩ラ˥ビ ˩シェーン˥ケンマー シ˩ベー˥ シンターニル ˩ヌシ˥トゥ ˥マンターニ ˩ヌシ˥トゥカー ˩ピーン ナカー˥ ッスゴーダー ˩スンティル˥ ナ˩ラー˥ソーッタ [mi˩do:n˥ffa: ja˩ra˥bi ˩ʃe:ŋ˥kemma: ʃi˩be:˥ ʃinta:niru ˩nuʃi̥˥tu ˥manta:ni ˩nuʃi̥˥tuka: ˩pi:nnaka:˥ ssugo:da: ˩suntiru˥ na˩ra:˥so:tta](女の子は、幼少の頃はお尻は後ろの方へ拭くものだ。前方へ拭くと性器の中は糞便まみれになる、と教えられた)。2艪臍(ロベソ)。˩リュー˥ クー ˥ピンマー ˩ピーヤ˥ マラナー ˩フッカー˥シティル ˩クー˥タ [˩rju:˥ ku: ˥pimma: ˩pi:ja˥ marana: ˩ɸukka:˥ʃi̥tiru ˩ku:˥ta](艪を漕ぐ時は艪臍を艪杭(ログイ)に填(ハメ)めて漕いだ)。

˩ピー [˩pi:] 【名】 (植) ひえ (稗)。稗草。˩ピーッサー [˩pi:ssa:](稗草) ともいう。˩トーサ˥ トゥル ˥ピンマー ˩ピーヤ˥ ヌイティ ム˩ディマー˥シティ グ˩ルッカイ˥シティ ˥スラー ッ˩サーラー˥ ナシ ウ˩ズムタ [˩to:sa˥ turu ˥pimma: ˩pi:ja˥ nuiti mu ˩dima:˥ʃi̥ti ˥sura: s˩sa:ra˥ naʃi ʔu˩ʤumuta](田草を取る時は、稗は抜き取り、捻じってひっくり返し、草の穂先は下にして土中に埋めた)。

˥ピー [˥pi:] 【名】笛。竹製の横笛。「〜末をば府曳 < フエ >」『日本書紀 継體謡 97』の転訛したもの。古老の使用語。笛を˥ピーダキ [˥pi:daki] ともいった。若年層は˥ピラキ [˥piraki](笛) という。ウ˩レー˥ ピー フキ ˩ゾージ˥ユン˩ナー [ʔu˩re:˥ pi: ɸu̥ki ˩ʤo:ʤi˥ jun˩na:](彼は笛を吹くのが上手だねえ)。

˩ピーアサ˥ビ [˩pi:ʔasa˥bi] 【名】火遊び。˩ピームタ˥ビ [˩pi:muta˥bi](名) ともいう。ヤ˩ラ˥ベー ˩ピームタ˥ビ シ˩ミルナ [ja˩ra˥be: ˩pi:muta˥bi ʃi˩miruna](子供には火遊びをさせるな)。

˩ピー˥イキ [˩pi:˥ʔiki] 【名】余熱。熾(オキ)火(ビ)の勢い。火勢。「火息」の義か。タ˩ムヌ˥ヌ ˩ピー˥ヤ ˩ケーシティ˥ ウ˩キルヌ ピー˥イキシ ˩ネーシ˥バ [ta˩munu˥nu ˩pi:˥ja ˩ke:ʃiti˥ ʔu˩kirunu pi:˥ʔikiʃi ˩ne:ʃi˥ba](薪の火は消して熾(オキ)の火勢 < 余熱 > で焚きなさい)。

˩ピー˥イシ [˩pi:˥ʔiʃi] 【名】火打石。ム˩カ˥シェー ˩ピー˥イシ ˩シッ˥キティル ˩ピー˥ヤ ン˩ザ˥ソーッタツォー [mu˩ka˥ʃe: ˩pi:˥ʔiʃi ˩ʃik˥kitiru ˩pi:˥ja ʔn˩ʤa˥so:ttatso:](昔は火打石を打って火を出されたそうだ)。

˩ピー˥ウチ [˩pi:˥ʔutʃi] 【名】日中。日のある内。太陽のある内。イ˩ガメーフネー ピー˥ウチナー イ˩ガ ホー˥ス ˥トン ˩バー˥キ ˩サンガリ オーッ˥タ [ʔi˩game:ɸune: pi:˥ʔutʃina: ʔi˩ga ho:˥su ˥tom ˩ba:

˺ki ˹saŋgari ʔoːt˺ta](烏賊釣り舟は日のある内に烏賊をを釣るところまで＜本船に＞引張られて行かれた)。

˹ピー˺カー **[˹piː˺kaː]** 【名】(動) 魚の名。和名、シモフリアイゴ (体長約 25 センチ)。ブチアイゴ (体長約 30 センチ) の総称。背びれに毒針を有する。魚肉は締まって美味である。刺身にしても美味であるが、蒸し煮にしても美味である。˹ピーカー˺ヌ　ナ˹マ˺シン　ン˹マー˺ン [˹piːkaː˺nu na˹ma˺ʃim ʔm˹maː˺ŋ](ピーカーの刺身も美味しい)。

˹ピー˺カザ **[˹piː˺kaʤa]** 【名】屁の臭い。˹ピーカザ˺ヌ　ッ˹サー˺ヌ　˹タール˺　ピー　プ˹ス˺ター [˹piːkaʤa˺nu s˹saː˺nu ˹taːru˺ piː pu̥˹su˺taː](おなら＜屁＞の臭いが臭い。誰がおなら＜屁＞を放ったのか)。

˹ピー˺カザ **[˹piː˺kaʤa]** 【名】ひなたくさい (日向臭い) 臭(ニオイ)。衣類などが日光に晒(サラ)されて生ずる臭い。ナ˹チヌ˺　ア˹ガティダ˺ナー　˺プスイピーズ　˺キン　˺プシ　˺シケータル　˹ピーカザ˺ヌ　˹スー˺サー [na˹tʃinu˺ ʔa˹gatida˺naː ˺pu̥suipiːʤu ˺kim ˺pu̥ʃi ˺ʃi̥keːtaru ˹piːkaʤa˺nu ˹suː˺saː](夏の酷熱の太陽に一日中着物を干しておいたらば、日向臭い臭い＜日に焼けた臭い＞がするよ)。

˹ピー˺カジ **[˹piː˺kaʤi]** 【名】寒風。冷たい風。「冷え風」の義。˹ピーカジ˺ヌ　˺フキ　˹ピーヤ˺ヌ　ク˹バリンギサ˺ルバン [˹piːkaʤi˺nu ˺ɸu̥ki ˹piːja˺nu ku˹bariŋgisa˺rubaŋ](寒風が吹いて、寒くて凍えそうだわい)。˹ピー˺カジン　フ˹カ˺リ　˹アー˺ケーティル　パ˹ナシキ˺　マ˹マリ　ベート ダー [˹piː˺kaʤiŋ ɸu̥˹ka˺ri ˹ʔaː˺keːtiru pa˹naʃi̥ki˺ ma˹ma ribeːɦ˺daː](寒風にずっと吹かれたいたので、風邪をひい＜風邪が塗られ＞ているのだよ)。

˺ピーカジ **[˺piːkaʤi]** 【名】雨の降らない台風。「火風」の義。雨の降らない台風が襲来すると、吹きつけられる潮水により、島の総ての草木の葉が赤く枯れるので、火事で焼けたように見えることから命名されたもの。˺ピーカジヌ　˺フクカー　˺シマズーヌ　˹キー˺ヤ　ア˹ガミティ˺　ナ˹クラーン˺ト ダー [˺piːkaʤinu ˺ɸu̥kukaː ˺ʃimaʤuːnu ˹kiː˺ja ʔa˹gamiti˺ na ˹kuraːnɦ˺daː](雨の降らない台風が吹くと島中の木は真っ赤になって怖いよ)。

˹ピーキ **[˹piːki]** 【名】冷気。寒気。冷たい空気。˹ダイカン˺ヌ　˺シチ　˹ペー˺ルカー　˹ピーキヌ　スー˺ワ　˺ナルン [˹daikan˺nu ˺ʃi̥tʃi ˹peː˺ruka: ˹piːkinu suː˺wa ˺naruŋ](大寒の季節に入ると寒気が強くなる)。

˹ピーキ **[˹piːki]** 【名】ひいき (贔屓)。えこひいき (依怙贔屓)。˹ヘイキ [˹heiki](贔屓) ともいう。若年層は、˹ヒーキ [˹çiːki](贔屓) ともいう。˹サッ˺コー　˹ピーキ　ソー˺ルン [˹sak˺koː ˹piːki soː˺ruŋ](非常に贔屓される)。ウ˹ヌ˺　プ˹ソー　ピーキ　シー˺ナー　ナ˹ラ˺ヌ [ʔu˹nu˺ pu̥˹soː piːki ʃiː˺naː na˹ra˺nu](あの人はえこ贔屓(ヒイキ)するので困る＜堪らない＞)。

˹ビー˺グ **[˹biː˺gu]** 【名】びんごおもて (備後表)。畳表。最良の畳表として輸入された。˹ビーゴー˺　ウ˹キ˺ナーラ　˹カイヨー˺ッタ [˹biːgoː˺ ʔu˹ki˺naːra ˹kaijoːt˺ta](備後表は沖縄から買ってこられた)。鳩間島では普通、˹サー˺ラ [˹saː˺ra](いぐさ＜藺草＞) という。

˹ビーグ **[˹biːgu]** 【名】 (植) へご。ヘゴ科常緑シダ。茎は太く直立して 3〜5 メートルの高木状に生育する。西表島の山林や水田の周囲の林に自生していた。鳩間島の人にとっては全く無用の植物であった。˹ビーゴー˺　ノー˹ン˺　シゥ˹カイミチェー　ナーン˺シェン [˹biːgoː˺ noː˹n˺ si̥˺kaimitʃeː naːŋ˺ʃeŋ](ヘゴは何も用途＜使い道＞がなかった)。

˹ピー˺グトゥ **[˹piː˺gutu]** 【名】火事。火災。「なべて世にひごと＜火事＞恐れぬ人もなし」『文明本節用集』。˹ヌシ˺トゥロー　ム˹タ˺リ　˹ブン˺ドゥ　˺ムティパル　˹ピーグトゥ˺ヌ　ウ˹ク˺レーラー　ムー˹ル　パイル˺　ナルティ　ア˹ザリ　ブー [˹nuʃi̥˺turoː mu˹ta˺ri ˹bun˺du ˺mutiparu ˹piːgutu˺nu ʔu˹ku˺reːraː ˹muːru pairu˺ naruti ʔa˹ʤaribuː](泥棒は持てる分しか持っていかない＜〜分ぞ持っていく＞、火事が起こったら全部灰になると言われている)。

˹ピーグル˺マ **[˹piːgurua˺ma]** 【名】蒸気船。「火車」の義。/ヤ˹マ˺トゥ　˹ピーグルマ˺ヌ　ウ˹ランザーキ　マーリ　パッ˺タンドー　マー˹リヤーヌ　ヒー˺カベーヌ　˹シー˺ザソッタンドー/[ja˹ma˺tu ˹piːguruma˺nu ʔu˹ranʤaːki maːri pat˺tandoː maː˹ri-jaːnu çiː˺kabeːnu ˹ʃiː˺ʤasottandoː](大和の蒸気船が宇奈利崎を回って行ったよ。巡回屋のヒーカベーが知らされたよ)「鳩間島わらべ歌」。

˹ビー˺ゴー **[˹biː˺goː]** 【名】痒みのある皮膚の腫れ。痒みのために皮膚を掻き腫らしたもの。「ゑぐし・かわ＜皮＞」の義か。「〜酢味也。俗云恵久之 (ゑぐし)」『和名抄』の転訛か。ドゥ˹ク˺ヌ　˹ビー˺ヨーティ　ガ˹ジフクラシ˺タ　˺クトー　˹ビー˺ゴー　ナ˹ル˺タ　˹ベー˺ティ　˹マー˺ス　˺ッシ　ッ˹ふァーシ˺　シケー [du˹ku˺nu ˹biː˺joːti ga˹ʤiɸu̥kuraʃi̥˺ta ˺ku̥toː ˹biː˺goː na˹ru˺ta ˹beː˺ti ˹maː˺su ˺ʃʃi f˹fa:ʃi˺ ʃi̥keː](あまり

にも痒いので、掻きまくったところ、腫れ上がってビーゴーになったので、塩を摺りつけて、塗ったくって＜摺って食わして＞ある)。

˞ピーザ [˞piːʤa] 【名】なぎさ (渚)。波打ちげわ。みぎわ。ピ˞ザ [pi˞ʤa](渚。へた。＜老年層＞) ともいう。へた (端)。˞近江の海　邊多波＜へたは＞人知る〜。万、3027」の転訛したものか。ヤ˞ラ˜ベー　˞ピーザ˜ナール　˜オンダー　˞スー˜　フカー　˜パルカー　˞ウッふィルン˜ダー [ja˞ra˜beː ˞piːʤa˜naːru ˜ʔondaː ˞suː˜ ɸu̥kaː ˜paruka: ˞ʔuffirun˜daː](子供は渚＜水際＞で泳ぐものだ。沖へ行くと溺れるぞ)。

˞ピー˜ザイ [˞piː˜ʤai] 【名】火気のことに心を取られて他のことが出来なくなること。火気のことにかまけること。˜ザイ [˜ʤai](〜に心奪われる。〜に夢中になる) の接尾語で、上接語の意味内容に心を奪われることを表す。プ˞スザイ [pu̥˞suʤai](接客に夢中になること)、ッふァザイ [f˞faʤai](子供に気を取られること) など、多くの表現がある。カ˞マチフチヌ　ピー˜ザイ　˞シー　ベーン˜ケンマー　ウ˞ヌ˜　クトー　スラー˞ク　バシキナーン˜シェン [ka˞matʃiɸu̥tʃinu piː˜ʤai ˞ʃiː beːŋ˜kemmaː ʔu˞nu˜ ku̥toː suraː˞ku baʃi̥kinaːŋ˜ʃeŋ](竈の火気に気を取られているうちに、あのことはすっかり忘れてしまっていた)。

˜ビーサビ [˜biːsabi] 【名】ちゃしぶ (茶渋)。水垢。茶碗に付く茶の煎じ汁のあか。トゥ˞クニヌ　サー˜ドーサバンヌ　˜ビーサベー　˜ユー　ア˞ラーン˜カー　ウ˞ティラ˜ヌ [tu̥˞kuninu saː˜doːsabannu ˜biːsabeː ˜juː ʔa˞raːŋ˜kaː ʔu˞tira˜nu](仏壇の茶湯茶碗の茶渋は、よく洗わないと落ちない)。

˜ビーサビ [˜biːsabi] 【名】災い。凶事。˜ビー [˜biː](茶渋の淦(アカ)。汚れ) とサ˞ビ [sa˜bi](錆び、「鉄精、カネノサビ」『類聚名義抄』) の合成語。˜ビーサビシ˞キ˜シミ　タ˞ボーラン˜ドーシ　˜ドゥーパダ˜ガンゾー　ア˞ラ˜シミ　タ˞ボー˜リ [˜biːsabi ʃi̥˞ki˜ʃimi ta˞boːran˜doːʃi ˜duːpada ˜ganʤoː ʔa˞ra˜ʃimi ta˞boː˜ri](凶事＜茶渋の汚れ＞付けさせ賜らないで、体＜胴・肌＞は健康あらしめください＜賜れ＞)。

˞ピーザ˜フチ [˞piːʤa˜ɸu̥tʃi] 【名】なぎさ (渚)。波打ちぎわ。みぎわ。「へた (端)・口」の転訛か。「近江の海邊多＜へタ＞は人知る〜。万、3027」の転訛したもの。ピ˞ザ˜フチ [pi˞ʤa˜ɸu̥tʃi](渚) ともいう。ヨー˞ヨー˜　ヤ˞ラ˜ベー　ア˞シナカラ˜ヌ　ス˞ブシダーチヌ˜　ピ˞ザ˜フチナーティン　˞ウッふィルン˜ダー [joː˞joː˜ ja˞ra˜beː ʔa˞ʃinakara˜nu su˞buʃidaːtʃinu ˜pi˞ʤa˜fu̥tʃinaːtiŋ ˞ʔuffirun˜daː](よく注意しろよ。子供は足半分の水深、膝のぐらいの深さの渚でも溺れるんだぞ)。

˞ピー˜ザラ [˞piː˜ʤara] 【名】キセル (煙管) のタバコを詰めるところ。「火皿」の義。「Fizara. ヒザラ (火皿)　鉄砲の火皿」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。キ˞シル˜ヌ　˞ピー˜ザラナー　キ˞ザミタバクバ˜　シミティ　˞ピー˜バ　˜シキティ　タ˞バ˜ク　フ˞コーッ˜タ [ki̥˞ʃiru˜nu ˞piː˜ʤarana: ki˞ʤamitabakuba˜ ʃimiti ˞piː˜ba ˜ʃi̥kiti ta˞ba˜ku ɸu̥˞koːt˜ta](煙管の火皿に刻み煙草を詰め、火をつけて煙草を吸われた)。

˞ピーザラ˜シ [˞piːʤara˜ʃi] 【名】ひさらし (日晒し)。太陽光線に干して晒すこと。˞スーザラ˜シ [˞suːʤara˜ʃi](海水に晒すこと) の対義語。˜ブーキンマーミ˞ジ˜アライ　˞シーティ　ピーザ˜ラシ　˞シー˜シケー [˜buːkimma: mi˞ʤi˜ʔarai ˞ʃiːti piːʤara˜ʃi ˞ʃiː˜ʃi̥keː](麻の着物は水洗いして日晒しにしてある)。

˞ピージー [˞piːʤiː] 【名】平生。普段。若年層は˞ヒージー [˞çiːʤiː] ともいう。˞マイ˜　ス˞ク˜ロー˞ラン˜　プ˞ソー　ピージーヌ　イー˜ヤ　˞ウンバ˜ル　プ˞ス˜カタ　ン˞コーッ˜タ [˞mai˜ su̥˞ku˜roː˞ram˜ pu̥˞soː piːʤiːnu ʔiː˜ja ˞ʔumba˜ru pu̥˞su˜kḁta ʔŋ˞koːt˜ta](米を作られない人は、普段のご飯は芋だけ＜芋一方＞を召し上がった)。

˞ピーシゥカ˜スン [˞piːsi̥˞ka˜suŋ] 【他動】焦がす。「焦げ付かす」の義。˞ピー˜ヌ　˞スー˜ワカー　˜イー　˞ピーシゥカ˜スンダ　˞ピーシゥカサン˜　スコー　˞ピー˜ヤ　ピ˞キ˜バ [˞piː˜nu ˞suː˜waka: ˜ʔiː ˞piːsi̥˞ka˜sunda ˞piːsi̥kasan˜ su̥koː ˞piː˜ja pi̥˞ki˜ba](火が強いとご飯を焦がすから、焦がさないように火を引きなさいよ)。˞ピーシゥカ˜シ　˞ナー˜ヌ [˞piːsi̥˞ka˜ʃi ˞naː˜nu](焦がしてしまった)。˞ピーシゥカ˜ス　˜クトー　˞ナー˜ヌ [˞piːsi̥˞ka˜su ˜ku̥toː ˞naː˜nu](焦がすことはない)。˞ピーシゥカ˜シェー　˜ミサムヌ [˞piːsi̥˞ka˜ʃeː ˜misamunu](焦がせばいいのに)。ン˞メーマー　ピーシゥカ˜シ [ʔm˞meːma: piːsi̥˞ka˜ʃi](少しは焦がせ)。

˞ピー　˜シゥクン [˞piː ˜su̥kuŋ] 【連】放火する。「火・付く」の転訛したもの。ヤ˞ラ˜ビン　˜ピー　ム˞タバ˜スカー　˜ピー　シゥクン˞ダー [ja˞ra˜bim ˜piː mu˞taba˜suka: ˜piː si̥kun˞daː](子供に火をいじらせる＜弄(イジ)らせる＞と放火する＜火を付ける＞ぞ)。

˞ピーシキ˜イー [˞piːʃi̥ki˜ʔiː] 【名】おこげ (御焦げ)。こげめし。釜の底に焦げついた飯。若年層のこと

ば。˹ピシキ˺イー [˹piʃi̥ki˺ʔiː](こげめし)、ナ˹マ˺シキ [na˹ma˺ʃi̥ki](おこげ。焦げ飯) ともいう。ム˹カ˺シェー　ヤ˹ラビ˺ヌ　˹ミーコーヤー˺ヤ　˹ピーシキイーバ˺ル　ッ˹ふァーソーッ˺タ [mu˹ka˺ʃeː ja˹rabi˺nu ˹miːkoːja˺ja ˹piːʃi̥kiʔiːba˺ru f˹faːsoːt˺ta](昔は子供のおめざめには、昨夜の焦げ飯を食べさせられた)。

˹ピーシキ˺カザ **[˹piːʃi̥ki˺kaʤa]** 【名】焦げ付く臭い。ご飯や煮物が焦げ付く際に発する臭気。˹ピーシキカザ˺ヌ　˹スンダ˺　カ˹マチヌ　ピー˺ヤ　ピ˹キ˺バ [˹piːʃi̥kikaʤa˺nu ˹sunda˺ ka˹matʃinu piː˺ja pi̥˹ki˺ba](焦げ付く臭いがするので、竈の火は引き出しなさいよ)。

˹ピーシキ˺ルン **[˹piːʃi̥ki˺ruŋ]** 【自動】焦げる。焦げ付く。˹ピシキ˺ルン [˹piʃi̥ki˺ruŋ](焦げる。焦げ付く) ともいう。˺ドゥク　˺ピー　˹モース˺カー　˹イー˺ヤ　˹ピーシキ˺ルンダ　フ˹キカバ˺スカー　ウ˹キルカーニ˺シ　ン˹ブシバ˺ル　˹ピーシキラ˺ヌ [˺duku ˺piː ˹moːsu˺kaː ˹ʔiː˺ja ˹piːʃki˺runda ɸu̥˹kikaba˺su̥kaː ʔu ˹kirukaːni˺ʃi ʔm˹buʃiba˺ru ˹piːʃi̥kira˺nu](あんまり火を燃やすとご飯は焦げるから、噴きこぼれたら熾火だけで蒸したほうが焦げない)。˹イー˺ヤ　˹ピー˺シキ　˹ナー˺ヌ [˹ʔiː˺ja ˹piː˺ʃi̥ki ˹naː˺nu](ご飯は焦げてしまった)。ク˹ヌ˺　ナビナー　˹ピーシキ˺ル　˺クトー　˹ナー˺ヌ [ku˹nu˺ nabinaː ˹piːʃi̥ki˺ru ˺ku̥toː ˹naː˺nu](この鍋では焦げることはない)。˹ピーシキ˺レー　˺ミサムヌ [˹piːʃi̥ki˺reː ˺misamunu](焦げればいいのに)。˹ピーシキ˺リ [˹piːʃi̥ki˺ri](焦げろ)。

˹ピー˺ジミ **[˹piː˺ʤimi]** 【名】火責め。火あぶりの刑。ム˹カ˺シナー　ウ˹ランダプトゥキ˺バ　ウ˹ガ˺ミ　˹オー˺レーティ　˹ピー˺ジミ　シ˹ラロー˺レー　プ˹スヌ　オーッ˺タンツォー [mu˹ka˺ʃinaː ʔu˹randa-putuki˺ba ʔu˹ga˺mi ˹ʔoː˺reːti ˹piː˺ʤimi ʃi˹raroː˺reː pu̥ ˹sunu ʔoːt˺tantsoː](昔、西洋の仏さま < キリスト教 > を拝んでおられたので火責めの刑にされた人がおられるそうだ)。

˹ピージントー **[˹piːʤintoː]** 【名】乳児の遊戯名。片方の肘を曲げ、その肘を片方の掌で打って調子をとりながら遊ばせる遊戯。˹イージョーミー　イージョーミー　ピージントー　ピージントー　ミンミンミー　ミンミンミー　ガーバラガーバラ [˹ʔiːʤoːmi: ʔiːʤoːmi: piːʤinto: piːʤinto: mimmimmi: mimmimmi: gaːbaragaːbara](魚の目、魚の目、肘の先、肘の先、お耳、お耳、こうぶり < 冠 >、こうぶり) と唱えながら親が乳児の両手を耳にあてがい、首振りをさせる遊び。

˹ピー˺ス **[˹piː˺su]** 【名】(動) 鳥の名。ヒヨドリ。˹ピュー [˹pjuː] と鳴くことからの命名であろう。˺ウガンヤマ [˺ʔugaŋjama](御嶽 < お願 > の密林) など雑木林に生息していた。子供達は˺ホイダーヤマ [˺hoidaːjama](小鳥を捕獲する仕掛け) を作って捕獲したものである。ヤ˹ラ˺ビ　˹シェーン˺ケンマー　˺ホイダーヤマ　ア˹ギティ˺　ユー　˹ピー˺ス　シゥ˹カム˺タン [ja˹ra˺bi ˹ʃeːŋ˺kemmaː ˺hoidaːjama ʔa˹giti ˺juː ˹piː˺su si̥˹kamu˺taŋ](子供の頃は、小鳥捕獲の仕掛けを作って < 上げて。据え付けて >、よくヒヨドリを捕獲したものである)。

˹ピーズ **[˹piːʤu]** 【名】 1(名) 一日中。終日。常日頃。平生。˹ピーゾー　ヌー˺ル　˹シーブワ [˹piːʤoː nuː˺ru ˹ʃiːbuwa](常日頃は何をしているか)。˺プスイ　˹ピーズヌ˺　シ˹グトゥ˺シ　ク˹ビ˺ル　˹モーキラ˺リ [˺pu̥sui ˹piːʤunu˺ ʃi˹gutu˺ʃi ku˹bi˺ru ˹moːira˺ri](一日中の仕事でこれだけしか儲けられない)。2(副) いつも。常に。˹ピーズ˺　パ˹タラキトゥーシル　ブンドゥ˺　マイ　˹ユーザラヌ [˹piːʤu˺ pḁ˹tarakituːʃiru bundu˺ mai ˹juːʤaranu](いつも働き通しているが、生活は前に進まない)。

˹ビースク˺ライ **[˹biːsu̥ku˺rai]** 【名】酔ったふりをすること。「酔い繕い」の義。˹ビープス˺トー　˹ビースク˺ライ　˹シェー˺ティ　ア˹ラン˺カー　カ˹ラカーラヌ [˹biːpu̥su˺toː ˹biːsu̥ku˺rai ˹ʃeː˺ti ʔa˹raŋ˺kaː ka ˹rakaːranu](酔っ払いとは酔ったふり < 酔い繕い > をしないと対応できない < まともに扱えない >)。

˹ピー˺スクン **[˹piː˺su̥kuŋ]** 【自動】焦げ付く。˹ピス˺クン [˹pisu̥˺kuŋ](焦げ付く) ともいう。˺ドゥク　タ˹ム˺ヌ　イ˹ビティ　ピー˺ヌ　˹スー˺ワカー　˹イー˺ヤ　˹ピー˺スクンダ　˹ピーシゥカン˺ヨーニ　˹ピー˺ヤ　ピ˹キ˺バ [˺duku ta˹mu˺nu ʔi˹biti piː˺nu ˹suː˺waka: ˹ʔiː˺ja ˹piː˺su̥kunda ˹piːsi̥kaŋ˺joːni ˹piː˺ja pi̥˹ki˺ba](あんまり薪をくべて火が強いと飯は焦げ付くから、焦げ付かないように、竈の火を引けよ)。˹ピー˺シキ　˹ナー˺ヌ [˹piː˺ʃi̥ki ˹naː˺nu](焦げ付いてしまった)。˹ピー˺スク　˺クトー　˹ナー˺ヌ [˹piː˺su̥ku ˺ku̥toː ˹naː˺nu](焦げ付くことはない)。˹ピー˺シケーラ　ッ˹ふァーラヌ [˹piː˺ʃi̥keːra f˹faːranu](焦げ付いたら食べられない)。˹ピー˺シケー　˺ミサムヌ [˹piː˺ʃi̥keː ˺misamunu](焦げ付けばいいのに)。˹ピー˺シキ [˹piː˺ʃi̥ki](焦げ付け)。˹イー˺ヌ　˹ピー˺スクンケン　˺ピー　˹モースナ [˹ʔiː˺nu ˹piː˺su̥kuŋkem ˺piː ˹moːsuna](ご飯が焦げるまで火を燃やすな)。ウ˹キル˺シ　ン˹ブ˺スカー　˹ピシゥカ˺ヌ [ʔu˹kiru˺ʃi ʔm˹

buˆsuka: ˞pisi̥ka˜nu](熾火で蒸すと焦げない)。˞ピー˜シキ　˞ナー˜ヌ [˞piːˆʃi̥ki ˞naːˆnu](焦げてしまった)。˞ピー˜スク　˜ピンマー　バ˞サン˜パー　カ˞バ˜シティ　フ˞ター　フイヨーッ˜タ [˞piːˆsu̥ku ˜pimmaː ba˞samˆpaː ka˞baˆʃi̥ti ɸu̥˞taː ɸuijoːtˆta](焦げる時は芭蕉の葉を被せて蓋をされた)。˞ピー˜シケー　˜ミサムヌ [˞piːˆʃi̥keː ˜misamunu](焦げつけばいいのに)。˞ピー˜シキバ [˞piːˆʃi̥kiba](焦げよ)。

˞ピースン [piːsuŋ] 【自動】人間が交接する。性交する。˜ニービキ　˞スー˜カー　˞ピー　スン˜ツォー [˜niːbiki ˞suːˆkaː ˞piːsunˆtsoː](結婚したら性交するそうだ)。小動物の交尾は˜ズブン [˜ʤubuŋ] といい、牛馬は˜カナウン [˜kanauŋ](交尾する) といって区別する。

˞ピー˜ソー [˞piːˆsoː] 【名】えと (干支) の、ひのえ、ひのと (丙、丁) に生まれた人の性格、気性。˞ピーソー˜トゥ　ミ˞ジソー˜　ヤ˞ルンダ　ウッ˜ツァー　フ˞ターロー˜　ア˞タラヌ [˞piːsoːˆtu mi˞ʤisoː ja˞runda ʔutˆtsaː ɸu̥˞taːroː ʔa˞taranu](火の性格と水の性格だから、彼ら二人は < 性格が > 合わない)。

˞ビーソー˜ラン [˞biːsoːˆraŋ] 【名】酔っ払い。「酔い精霊」の義。お盆の獅子舞は重い獅子頭を持って舞うので獅子頭が上下に振れる。酔っ払いは姿勢を安定できず、絶えず体を前後に揺らすことから獅子舞に譬えて表現したもの。サ˞キヌミ˜ムノー　キューユン　˞ビーソー˜ラン　˜ナリ　˞シー˜シェー　˞マーシル　オール˜バン [sḁ˞kinumiˆmunoː ˜kjuːjum ˞biːsoːˆran ˜nari ˞ʃiˆʃeː ˞maːʃiru ʔoːruˆbaŋ](酒飲み人は今日もぐにゃぐにゃに酔っ払って獅子を舞わして < ぞ > おられるわい)。

˞ピー˜ソンガチ [˞piːˆsoŋgatʃi] 【名】正月に祝いの料理がなく、ただ火を焚いて暖を取り、正月を迎えたという民話の中の正月のこと。ッ˞ふァイムヌン　ナーン˜ベーティ　ナー˞イ　ピー˜バ　ヌ˞クミ˜ル　˜ソンガチ　˞ソーッ˜タツォー [fˆfaimunun naːmˆbeːti naː˞i piːˆba nu˞kumiˆru ˜soŋgatʃi ˞soːtˆtatsoː](食べ物もないので、ただ火を焚いて暖をとって正月を迎えられ < され > たそうだ)。

˞ピー˜タイ [˞piːˆtai] 【名】兵隊。イ˞クサユー˜ヌ　˜ピンマー　イ˞ラムティ˜ナー　˞ピータイ˜ヌ　ヤ˞マシゥ˜カ　˞オーッ˜タン [ʔi˞kusajuːˆnu ˜pimmaː ʔi˞ramuti ˜naː ˞piːtaiˆnu ja˞masi̥ˆka ˞ʔoːtˆtaŋ](戦時中 < 戦世の時 > は西表に兵隊が沢山おられた)。

˜ピー　˞タスクン [˜piː ˞tasu̥kuŋ] 【連】火を焚きつける。˜ピー　˞タシキティ˜　イー　バ˞カシ [˜piː ˞taʃi̥kiti˜ ʔiː ba˞kaʃi](火を焚きつけて飯を炊きなさい)。

˞ピー˜ダニ [˞piːˆdani] 【名】火種。燃えさしやおき (熾) を竈の灰の中に埋めて火種にした。マッチのない時代には火種を絶やさぬことが主婦の務めであった。˞ピー˜ダニ　キ˞サ˜シティル　トゥ˞ナロー˜ラ　˜ピー　˜クーンティ　˞アー˜ク˞ダー [˞piːˆdani ki̥˞saˆʃi̥tiru tu˞naroːˆra ˜piː ˜kuːnti ˞ʔaːˆku˞daː](火種を切らして、隣から火を貰おうと < 乞おう > としているんだよ)。

˞ピー˜ダマ [˞piːˆdama] 【名】 ¹霊魂。おにび (鬼火)。妖怪の火。火の玉。「火玉」の義。青白い火で、横に尾を引くように流れていくという。セジの高い人が可視能力を持つといわれている。ピーダマが現れると死人が出ると信じられている。シ˞チ˜ヌ　˞ユー˜ロー　パ˞カヌ˜　マイナー　˜ユー　˞ピーダマ˜ヌ　ミ˞ラリ˜タンツォー [ʃi̥˞ʧiˆnu ˞juːˆroː pḁ˞kanuˆmainaː ˜juː ˞piːdamaˆnu mi˞rariˆtantsoː](節祭りの夜には、墓の前によく鬼火がよく見られたそうだ)。 ²卑称。相手を罵る言葉。˞ピー˜ダマ　˞ウンザー [˞piːdaˆma ˞ʔunʤaː](魔物 < 火の玉 > 野郎)。イ˞キ˜ロー　˞ピー˜ダマ [ʔi˞kiˆroː ˞piːˆdama](生霊、火玉の野郎)。

˞ヒータマラ˜サー [˞çiːtamaraˆsaː] 【名】糸満漁師の漁法の一つ。˜クサン [˜kusaŋ] の項参照。イ˞ツォーン˜プソー　ク˞サン˜バ　˞ヒータマラ˜サーティ　ア˞ゾーッ˜タツォー [ʔi˞tsoːmˆpu̥soː ku̥˞samˆba ˞çiːtamara ˜saːti ʔa˞ʤoːtˆtatsoː](糸満漁師はクサン漁のことをヒータマラサーと言われたそうだ)。

˞ピーダム˜チ [˞piːdamuˆʧi] 【名】˞火保ち」の義。長く火種を保つこと。熾きが長時間保存される。˜マチダムノー　˞ピーダムチ˜ヌ　˜アン [˜matʃidamunoː ˞piːdamuʧiˆnu ˜ʔaŋ](松の薪は火保ちが良い < 火種が長持ちする >)。

˜ビー　タ˞リ˜ルン [˜biː ta˞riˆruŋ] 【連】酔いつぶれる。泥酔する。˜ビー　タ˞リラン˜ドーシル　サ˞ケー˜　ヌム　˜ビー　˞タリ˜ルンケン　ヌム　プ˞スヌ˜　マナー　ブ˞ラー <˞ブワー >[˜biː ta˞riranˆdoːʃiru sḁ˞keː˜ numu ˜biː ta˞riˆruŋken ˜numu pu̥sunuˆ manaː bu˞raː <˞buwaː >](酔いつぶれないように酒は飲むのであって、泥酔するまで飲む人が何処にいるものか)。

˜ビータルン [˜biːtaruŋ] 【自動】泥酔する。酔いつぶれる。˜ビータルンケン　ヌ˞ム˜ナ˞ツォー˜　ビータ˞ラン˜ケンナー　パ˞ナシビ˜キ　˜クトー　パ˞ナ˜

シ　シ˩キ˥リ [˥biːtaruŋken nu˩mu˥na˩tsoː˥ biːta˩raŋ˥ kenna: pa˩naʃibi˥ki ˥kʉto: pa˩na˥ʃi ʃi̥˩ki˥ri](酔いつぶれるまで飲むなよ。酔いつぶれないうちに話すべきことは話しておきなさい)。マ˩ナマー˥ケー　˥ビータル　˥クトー　˩ナーン˥シェンドゥ　˩キュー˥ヤ (ワ) ˥ビータリ˩ベー [ma˩namaː˥ke: ˥biːtaru kʉto: ˩naːŋ˥ʃendu ˩kjuː˥ja(wa)˥biːtari ˩beː](今までは酔いつぶれることはなかったが、今日は酔いつぶれている)。˥ビータレー　˥ミサムヌ [˥biːtare: ˥misamunu](酔いつぶれればいいのに)。˩パー˥ク　˥ビータリバ [˩paː˥ku ˥biːtariba](早く酔いつぶれろよ)。

˩**ピー˥チ [˩piː˥ʧi]** 【名】 (数) 一つ。˩ピー˥チ　フ˩ターチ　ミーチ　ユーチ˥　イ˩チ˥チ　˩ムーチ˥　ナ˩ナ˥チ　˩ヤーチ˥　ク˩クヌ˥チ　˩トゥー　ティル˥　ユ˩モーッタ˥ル [˩piː˥ʧi ɸu̥˩taːʧi miːʧi juːʧi˥ ʔi˩ʧi˥ʧi ˩muːʧi˥ na˩na˥ʧi ˩jaːʧi˥ ku̥˩kunu˥ʧi ˩tu: tiru˥ ju˩moːtta ˥ru](一つ、二つ、三つ、四つ、五つ、六つ、七つ、八つ、九つ、十と＜とぞ＞数えられたものだ)。

˩**ピーチイラ˥ビ [˩piːʧiʔira˥bi]** 【名】一つ一つ丁寧に選ぶこと。つぶより (粒選り)。˩ウン˥マー　˩ピーチイラ˥ビ　˩シー˥　イ˩ラバン˥カー　˩カーサラヌ [˩ʔum ˥ma: ˩piːʧiʔira˥bi ˩ʃiː˥ ʔi˩rabaŋ˥ka: ˩kaːsaranu](芋は粒選りして選ばないと売られない)。

˩**ピーチ˥カイ [˩piːʧi˥kai]** 【名】一つ違い。「一つ替え」の義か。˩ウッ˥ツァー　˩ピーチカイ˥ヌ　シザ˩ウシトゥ˥ル　ヤ˩ル [˩ʔut˥tsa: ˩piːʧikai˥nu ʃiʤa˩ʔuʃi̥tu˥ru ja˩ru](彼等は一つ違いの兄弟＜兄、弟。年子＞である)。˩ピーチ˥カイシ　ッ˩ふァ˥　ナシェーン [˩piːʧi ˥kaiʃi f˩fa˥ naʃeːŋ](一つおきに子供を産んだ)。

˩**ピーチカイ˥ッふァ [˩piːʧikai˥ffa]** 【名】年子。一つ違いの子。˩ピーチカイ˥ッふァ　ヤ˩レー˥ティ　˥シザー　˩ウシトゥマ˥キ　シ˩ティル　ヨーガリベー [˩piːʧikai˥ffa ja˩reː˥tiru ˥ʃiʤa: ˩ʔuʃi̥tuma˥ki ʃi̥˩ti joːgari beː](年子だから兄は弟負け＜乳児が母親の妊娠により栄養不良となること＞して痩せこけているのだ)。

˩**ピーチカサ˥ビ [˩piːʧikasa˥bi]** 【名】一つ重ね。一つ重にすること。「一つ重ね」の義。カ˩ベー˥　トゥ˩リヤッ˥サ　˥ヨーニ　˩ピーチカサ˥ベー　˩シー˥　クナー　シ˩ミ˥　シ˩キ˥リバ [ka˩beː˥ tu˩rijas˥saː ˥joːni ˩piːʧikasa˥beː ˩ʃiː˥ kuna: ʃi˩mi˥ ʃi̥˩ki˥riba](紙は取り易いように一つ重ねにして、ここに積んで置きなさいよ)。

˩**ピーッサ [˩piːssa]** 【名】ひえ (稗)。˩稗草」の義。「打つ田にも　稗＜ヒエ＞はあまたも〜。万、2476」、「稗、比衣 (ひえ)、草之似⊠穀者也」『和名抄』の転訛したもの。˩トー˥サ　˥トゥル　˥ピンマー　˩ピーッサー˥　ピ˩キティ　ター˥ン　˥ナカー　ッ˩シナ˥キ　イ˩ルタ [˩toːsa˥ turu ˥pimma: ˩piːssaː˥ pi̥˩kiti taːn˥ naka: ʃ˩ʃina˥ki ʔi˩ruta](田草を取るときは、稗草を引き抜いて田の泥の中に差し込んで入れた)。

˩**ピーッサー˥ン [˩piːssaː˥ŋ]** 【形】屁の匂いが臭い。「屁臭い」の義。˩ウンヌ˥イー　カー˩ニ˥　ッ˩ふァイベー˥ティ　˩ピー˥ヤ　ッ˩サー˥ンティ　˩スンドゥ˥　カ˩ビナラウター　ピーッサー　ナー˥ヌ [˩ʔunnu˥ ʔi: ka:˩ni˥ f˩fai beː˥ti ˩piː˥ja s˩saː˥nti ˩sundu˥ ka˩bina-rauta: piːssa: naː˥nu](芋のご飯でけ食べているので屁が臭いというが、嗅ぎなれたので臭くないよ)。ドゥ˩ク˥ヌ　˩ピーッサー˥ティ　˩ウイパラシ˥タ [du ˩ku˥nu ˩piːssaː˥ti ˩ʔuiparaʃi̥˥ta](あまりにも屁が臭いので追っ払った)。˩シンダイ　ピーッサー˥　ナリクー [˩ʃindai piːssaː˥ nariku:](次第に屁が臭くなってくる)。˩ピーッサー˥　プ˩ソー　サーク˥ナ [˩piːssaː˥ pu̥˩so: saːku˥na](屁の臭い人はつれて来るな)。˥アイニ　˩ピーッサー˥レーラー　ター˩ン˥　キ˩ライス [˥ʔaini ˩piːssaː˥reːra: taː˩ŋ˥ ki˩raisu](あんなに屁が臭いのであれば誰でも嫌うよ)。

˩**ピーッサリ˥カザ [˩piːssari˥kaʤa]** 【名】 (植) へくそかずら (屁糞葛)。ヤイトバナ。くそかずら。「〜延ひおほとれる屎葛〜。万、3855」。寝違えして首が痛むとき、脱臼したりした時などには˩ピーッサリ˥カザ [˩piːssari˥kaʤa] を巻いておくと痛みがとれるといわれていた。˩ピーッサリ˥カザー　イッ˩ケナ˥　ッ˩サー˥ン [˩piːssari˥kaʤa: ʔik˩kena˥ s˩saː˥ŋ](へくそがずらは非常に臭い)。˩ティー˥パン　シ˩ガース˥　ピンマー　˩ピーッサリ˥カザ　マ˩キシキ˥ルカー　˩ノー˥ルンティ　ア˩ザリブタ [˩tiː˥paŋ ʃi˩gaːsu˥ pimma: ˩piːssari˥kaʤa ma˩kiʃi̥ki˥ruka: ˩noː˥runti ʔa˩ʤaributa](手足を捻挫する時は屁糞葛(ヘクソカズラ)を巻いておくと治るといわれていた)。

˩**ビーッタビーッタ [˩biːttabiːtta]** 【副】ゆさゆさ。担い棒や天秤棒 (おうご＜枂＞) などが重量でたわむ＜撓む＞さま。しなうさま。˩ビーッタビーッタ˥シ　˩アイ˥コー　マ˩ガルンダ　タン˥グナー　ウ˩キバ˥　イ˩レー˥ティル　ミ˩ジェー˥　カ˩タム˥タ [˩biːttabiːtta˥ʃi ˩ʔai˥koː ma˩garunda taŋ˥guna: ʔu˩kiba˥ ʔi˩reː˥tiru mi˩ʤeː˥ kḁ˩tamu˥ta](ゆさゆさと天秤棒＜おうご＞が撓(タワ)むので、ススキの葉の浮きを水桶に入れてウ˩キ [ʔu˩ki](浮き草) にして水を運ん＜担い＞だ)。

˞ピー˜トゥル **[˞piː˜turu]** 【名】じゅうのう (十能)。ひかき (火掻)。おきかき。竈のおきび (熾火) を掻きだして運ぶ道具。幅約 15 センチ、長さ約 10 センチのブリキ板に約 30 センチの柄を付けた、熾火を運ぶ道具。「火取り」の義。「薫炉、比度利」『和名抄』の転訛したもの。˞ピー˜トゥルナー　ウ˞キル˜　イ˞リティ˜　ムティ　˜キー　ピ˞バ˜チナ　ウ˞ツァ˜シ (ウ˞ツォー˜シ)[˞piː˜turunaː ʔu˞kiru˜ ʔi˞riti˜ muti ˜kiː pi˞ba˜ʧina ʔu˞tsa˜ʃi(ʔu˞tsoː˜ʃi)](火取り < 十能 > に熾火を入れて持ってきて、火鉢に移しなさい)。

˞ピーナーサキ **[˞piːnaːsaki]** 【名】 (海底地名)。ヤ˞ラ [ja˞ra](屋良) の西南西にある、˜フキクムル [˜ɸu̥kikumuru] の東側に、南北に細く延びた浅瀬。ム˞チイズ [mu˞ʧiʔidʑu](ノコギリダイ) の釣り場。夜釣りの名所。

˞ビー˜ナバ **[˞biː˜naba]** 【名】(植) どくたけ (毒茸)。どくきのこ。˜カブルキーナ　˞ムイ˜ル　˜ナバー　˞ビー˜ナバティ　ア˞ザリ　ブー [˜kaburukiːna ˞mui˜ru ˜naba: ˞biː˜nabati ʔa˞dʑari buː](オオバイヌビワに生えるきのこ < 茸 > は毒茸といわれている)。

˜ビーナビ **[˜biːnabi]** 【名】注ぎ口の付いた鍋。注ぎ口のついたお汁鍋や油鍋。「樋鍋」の義。˜ビー [˜biː] は「水を流し送る装置」で、「樋」と同義。「Fi. ヒ(樋)Caqefi(懸樋) に同じ. 水の流れ通る、高く懸けられた導管.」(『邦訳日葡辞書』) に、「鍋」が付いて形成された合成語。˜ビーナビナー　タ˞ニ˜ユー　イ˞リティ　ティン˜プラ　ヤ˞キ˜バ [˜biːnabinaː ta˞ni˜juː ʔi˞riti tim˜pura ja˞ki˜ba](注ぎ口のある鍋に菜種油をいれてテンプラを揚げ < 焼き > なさいよ)。

˞ピー˜ナミ **[˞piː˜nami]** 【名】干瀬に打ち寄せる大波。「〜邊波 < ヘナミ > 立つとも〜。万、274」の転訛したものか。˞ウイバルヌ˜　ヤ˞ダン˜ブレピーヌ　ッ˞スナン˜ヌ　ウ˞ク˜ルカー　˞オシケー˜　ヤ˞ビ˜スツォー [˞ʔuibarunu˜ ja˞dam˜burepiːnu s˞sunan˜nu ʔu˞ku˜ruka: ˞ʔoʃi̥keː˜ ja˞bi˜sutsoː](上原のヤダンブレ干瀬の白波が起こると天気は崩れる < 破れる > そうだ)。

˞ビーニー **[˞biːniː]** 【名】干支の亥の日。「ゐ (亥) の日」の転訛したもの。˞ビーディマリ˜　ヤ˞リバ　ウンキニンガイ˜ヤー　˞ビーニー˜ナール　˞ソー˜ル　˜パジ [˞biːdimari˜ ja˞riba ʔuŋkiniŋgai˜jaː ˞biːniː˜naːru ˞soː˜rupaʤi](亥の日の生まれだから、健康祈願 < 運気の祈願 > は干支の亥の日にされるはずだ)。

˞ピーヌール **[˞piːnuːru]** 【名】へのり (舳乗)。˜イダフニ [˜idaɸuni](板舟。サバニ) の舳先に乗る人。風の強い時は舳乗がミ˞ナー [mi˞naː](水縄。みづな。帆の上げ下ろしに用いる縄) を握り締めて身を舟べりより風上の方へ身を乗り出して船頭と協力し、舟の安定走行を手助けする人。˞バン˜テヌ　˜アチャー　˞バイ˜ヨー　ヤ˞ラ˜ビ　˞シェーン˜ケーラ　˞ピーヌールバ˜　シ˞メー˜ティ　˞パイ˜ター　˞サーローッタ [˞ban˜tanu ˜ʔatʃaː ˞bai˜joː ja˞ra˜bi ˞ʃeːŋ˜keːra ˞piːnuːruba˜ ʃi˞meː˜ti ˞pai˜taː ˞saːroːt˜ta](私の父 < 我が家の父 > は私を子供の時からイダフニ < サバニ > の舳乗をさせて西表 < 南端 > へ連れて行かれた)。

˞ピー˜ヌ　イ˞キブル **[˞piː˜nu ʔi˞kiburu]** 【連】火の勢い。火勢が強いこと。˞ピー˜ヌ　イ˞キブルヌ　スーワ˜ヌ　カ˞マチヌ˜　スバー　パ˞ララ˜ヌ [˞piː˜nu ʔi˞kiburunu suːwa˜nu ka˞matʃinu˜ suba: pa˞rara˜nu](火の勢いが強くて竈の側には近づけない < 行かれない >)。

˞ピーヌ˜クー **[˞piːnu˜kuː]** 【名】(動) 貝の名。和名。くろちょうがい (黒蝶貝)。真珠養殖の母貝となる。殻長約 20 センチの扇形に成長する。普通は殻長 14〜15 センチの貝が多い。殻の内側の口縁部は緑褐色。内側は平滑で真珠のような光沢を有する。干瀬のサンゴ礁の間に棲息している。美味であるが多くは獲れない。˞ピーヌクー˜ヤ　˞クー˜ヌ　ナ˞カー˜　ピ˞カ˜リティ　イッ˞ケナ　カイ˜ヤン [˞piːnukuː˜ja ˞kuː˜nu na˞kaː˜ pi̥˞ka˜riti ʔik˞kena kai˜jaŋ](黒蝶貝(クロチョウガイ)は殻の内側が光って非常に美しい)。

˞ピーヌ˜クシ **[˞piːnu˜ku̥ʃi]** 【名】干瀬 (環礁。島を取り囲むサンゴ礁) の北側の外海。˞ピーヌ˜　クシェーラ　ヤ˞マトゥピーグルマー˜ヌ　ウ˞ランザ˜ケー　˞マーリパッ˜タ [˞piːnu˜kuʃeːra ja˞matupiːguruma: ˜nu ʔu˞randʑa˜keː ˞maːripat˜ta](干瀬の北側外海を大和の蒸気船が宇奈利崎へ回航していったよ)。

˞ピーヌク˜ムン **[˞piːnuku˜muŋ]** 【他動】火に当たって体を温める。体をあたためる。「火・温む」の義。˞ピーヌク˜ムンティ　ウ˞ムーン˜ドゥ　˜クナーテー　˞ピーヌクマラ˜ヌ [˞piːnuku˜munti ʔu˞muːn˜du ˜kunaːteː ˞piːnukumara˜nu](火に当たって体を温めようと思うが、ここでは体を温められない)。˞ピーヌク˜ミ　˜ミサカー　˞ピーヌク˜ム　˜クトー˜ナルン [˞piːnuku˜mi ˜misakaː ˞piːnuku˜mu ˜ku̥toː ˜naruŋ](火に当たって体を温めて良ければ体を温めることはできる)。˞パー˜ク　˞ピーヌク˜メー　˜ミサムヌ [˞paː˜ku ˞piːnuku˜meː ˜misamunu](早く火に当たって体を温めれば良いのに)。˞ピーヌク˜ミ [˞

piːnukuˬmi](火に当たって体を温めよ)。

˩ピーヌ˥　シ˩ターˬマ **[˩piːnuˬ ʃi̥˩taːˬma]** 【連】ひなさき。陰核。女陰の小舌。「吉舌楊氏漢語抄云吉舌 (比奈佐岐)」『和名抄』の転訛したものか。

˩ピーˬヌ　ˬティー **[˩piːˬnu ˬtiː]** 【連】燃え上がる炎。「火の手」の義。竈から外へはみ出す炎。粘土を捏(コ)ねて作った竈には鍋や釜が密着するので、薪を効率よく燃やすために排気孔を、竈の左右側面と後方の 3 箇所に作っておいた。芋を煮る際には、これらの排気孔から盛んに炎が出るほど薪をくべた。˥ドゥク　˩ピーˬヌ　˩ティーˬヌ　ン˩ジˬルカー　ク˩ビˬヤ˩クンˬユー　ッ˩サンバˬ　ン˩ベーマˬ　タ˩ムˬヌ　ˬトゥリティ　ˬピー　ピ˩キˬバ [ˬduku ˩piːˬnu ˩tiːˬnu ʔn˩ʤiˬrukaː kuˬbiˬ jaˬkuŋˬjuː s˩sambaˬ ʔm˩beːmaˬ ta˩muˬnu ˬturiti ˬpiː pi̥˩kiˬba](あまりに炎 < 火の手 > がでると壁を焼くかも知れないから、少し薪を取り除いて火勢を押さえ < 引き > なさい)。

˩ピーˬヌ　パ˩タラ **[˩piːˬnu pḁ˩tara]** 【連】火花。火の粉。パ˩タラ [pḁ˩tara](「はじける音」の擬音語) はプ˩ツルパタラ [pu̥˩tsurupatara](パチパチ) のように用いられる擬音語である。˩ピーˬヌ　ン˩ジˬルカー　˩ピーˬヌ　パ˩タラヌˬ　トゥ˩ビˬ　クーンダ　カ˩ジッソーマヌ　ヤーˬヤ　ミ˩ジェーˬ　カ˩キトゥーˬシ　ブ˩タト ダー [˩piːˬnu ʔn˩ʤiˬrukaː ˩piːˬnu pḁ˩taranu ˬ tu˩biˬkuːnda ka˩ʤisso:manu jaːˬja mi˩ʤeːˬ kḁ˩kituːˬʃi bu˩taɭ-daː](火事が起きると火の粉が飛ぶから、風下の家は水を掛け通していたよ)。

˩ピーˬヌ　ˬバン **[˩piːˬnu ˬbaŋ]** 【連】火の用心の水。「火の番」の義。昭和 40 年台までは竈(カマド)を利用して炊飯していたから、竈の前に防火用の水を桶に入れて常備していた。外出する際、就寝前には防火用水を点検するのが主婦の心得であった。土竈の前面には、水の文字を彫り込むのが常であった。カ˩マチフチヌ　ピーˬヌ　˩バンˬマー　˩バシキルナˬヨー [ka˩matʃiɸu̥tʃinu piːˬnu ˩bamˬmaː ˩baʃi̥kirunaˬjoː](竈口の防火用水 < 火の番 > は忘れるなよ)。

˩ビーバˬキ **[˩biːbaˬki]** 【名】嘔吐。へど < 反吐 > を吐くこと。˩ビーバˬキ　˩スンˬケン　サ˩キバˬ　ヌミ˩ベー [˩biːbaˬki ˩suŋˬken sḁ˩kibaˬ numi˩beː](嘔吐するほど酒を飲んでいる)。

˩ビーˬバクン **[˩biːˬbakuŋ]** 【自動】嘔吐する。へどをはく。えずく (嘔吐く)。もどす。˥フナイ　˩スーˬカー　˩ビーˬバクンダー　フ˩ナブˬヌ　カ˩ザˬ　カ˩ビˬバ。ア˩スˬカー　˩ビーバカˬヌ [ˬɸunai ˩suːˬkaː ˩biːˬbakunda ɸu˩nabuˬnu ka˩ʤaˬ ka˩biˬba。ʔa˩suˬkaː ˩biːbakaˬnu](船酔いすると嘔吐する < えずく > から、みかん < 九年母 > の匂いを嗅ぎなさい。そうしたら嘔吐 < えずかない > しない)。˩ビーˬバキ　˩ナーˬヌ [˩biːˬbaki ˩naːˬnu](嘔吐して < えずいて > しまった)。˩ビーˬバク　ˬクトー　˩ナーˬヌ [˩biːˬbaku ˬku̥toː ˩naːˬnu](嘔吐する < えずく > ことはない)。˩ビーバˬケー　ˬミサムヌ [˩biːbaˬkeː ˬmisamunu](嘔吐すれば < えずけば > いいのに)。˩パーˬク　˩ビーˬバキ [˩paːˬku ˩biːˬbaki](早く嘔吐しなさい < えずけ >)。˩ビーˬバク　˩ギンˬシェー　˩サーラマキ　ユンˬナー [˩biːˬbaku ˩giŋˬʃeː ˩saːramaki junˬnaː](嘔吐する < えずく > からには、きっとつわり < 悪阻 > だな)。

˩ピーˬパサン **[˩piːˬpasaŋ]** 【名】火箸。鉄製の火箸。鉄線 (八番線) を利用して簡単な火箸を作った。生竹やススキで作ることもあった。「Fibasami. ヒバサミ (火挟) 火縄銃の引き金の所についていて、火縄をさしこむ金具」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。カ˩マチェーラ　ピーˬパサンシ　ウ˩キルˬ　パ˩サˬミ　ˬトゥリ　ˬクーバ [ka˩matʃeːra piːˬpasaŋʃi ʔu ˩kiruˬ pḁ˩saˬmi ˬturi ˬkuːba](竈から火箸で熾を挟んで取って来いよ)。

˩ピーバンˬムル **[˩piːbamˬmuru]** 【名】烽火台(ホウカダイ)。「火番岡 < もり >」の義。˩琉球国時代には船の入港や島の周囲を船が航行していることを知らせるために烽火(ノロシ)をたいて次々と伝えていく方法がとられた。その火をたく高いところ」『石垣方言辞典』。ム˩カˬシェー　˩ピーバンˬムルナーティ　˩ピーˬバ　˩モーシˬ　キ˩ボーシバˬ　タテーティル　フ˩ニˬヌ　シ˩ラシグトー　ソーッˬタツォー [mu˩kaˬʃeː ˩piːbam ˬmuruna:ti ˩piːˬba ˩moːʃiˬ ki˩boːʃibaˬ tḁte:tiru ɸu˩niˬnu ʃi˩raʃiguto: so:tˬtatso:](昔は烽火台で火を焚き、煙を立てて船の知らせごとをされたそうだ)。

˥ビービー **[ˬbiːbiː]** 【名】漁船を陸揚げする際に用いる巻上げ機 (ウィンチ)。複数の滑車を利用して、ころ (転) に載せた漁船を陸上へ引き揚げる装置。古老はタ˩グˬラザン [ta˩guˬraʤaŋ](巻き上げ機) という。カ˩ツシンマーˬ　ジ˩キヌˬ　シ˩マウˬカー　˥ビービーシ　˥ウカー　ア˩ギソーッˬタ [kḁ˩tsuʃimmaːˬ ʤi˩kinuˬ ʃi˩mauˬka: ˬbiːbiːʃi ˬʔuka: ʔa˩giso:tˬta](カツオ漁船は漁期が終わる < 仕舞う > とビービーの巻上げ機でおか < 陸上 > へ引き揚げられた)。

˩ピーピーカーカーˬシ **[˩piːpiːkaːkaːˬʃi]** 【副】貧乏のひどいさま。AaAaBbBbC 型の重言。強調表現。イ˩クサユーˬヌ　˥アトー　ッ˩ふァイムヌティン　ナー

˜ムティ　˞ピーピーカー˜カー　˞シール˜　ク˞ラシブタ [ʔiˀkusajuː˜nu ˜ʔatoː fˀfaimunutin naː˜muti ˞piːpiːkaː˜kaː ʃiːru˜ kuˀraʃi buta](終戦後は食べるものとてなく、貧乏のどん底で暮らしていた)。

˞ビービー˜シ **[˞biːbiː˜ʃi]** 【副】 1びゅうびゅう。風が強く吹くさま。擬音語。˞ビービー˜シ　ニ˞シカジヌ˜　フキティ　˞ピーヤ˜ヌ　ナ˞ラ˜ヌ [˞biːbiː˜ʃi ni ˞ʃikaʤinu˜ ɸu̥kiti ˞piːja˜nu naˀra˜nu](びゅうびゅうと北風が吹いて寒くてたまらない)。2ごくごく。ごくんごくん、ぐいぐい。水や酒、乳などを勢いよく飲む音。ク˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　ニ˞ビベーン˜ドゥ˜ワー　˞ビービー˜シ　˞シー˜バ　ユ˞ビ˜　ッ˞ふァイスト ツォー [kuˀnu˜ fˀfaː˜ niˀbi beːn˜du ˜waː ˞biːbiː˜ʃi ˞ʃiː˜ba juˀbi˜ fˀfaisu˧tsoː](この子は寝ているんだが、なんとまあ＜あなた＞、ぐいぐいと強く乳を吸って飲む＜食べる＞んですよ)。

˞ピーフキダ˜キ **[˞piːɸukida˜ki]** 【名】火吹き竹。吹いて火をおこすのに用いる竹筒。˞ピーフキダ˜キシ　˞ピー˜バ　˜フキティ　˞モーシ˜バ [˞piːɸu̥kida˜kiʃi ˞piː˜ba ˜ɸu̥kiti ˞moːʃi˜ba](火吹き竹で火を吹いて燃やしなさいよ)。

˞ビーフク˜ル **[˞biːɸu̥ku˜ru]** 【名】原因不明の痒みで皮膚を掻いているうちに赤く腫れたもの。「えぐい・ふくれ (腫れ)」の転訛か。「〜酢味也、俗語云恵久之＜ゑぐし＞」『和名抄』。˞ビー˜ヨーティ　ガ˞ズ˜ター　˞ビーフク˜ル　˜ナリ　˞ベー [˞biː˜joːti ga ˞ʤu˜taː ˞biːɸu̥ku˜ru ˜nari ˞beː](痒いので掻いたらば赤い水膨(ミズブク)れになっているよ)。

˜ピープサー **[˜piːpusaː]** 【名】屁こき (放き)。屁をよくひる＜放る＞者。「放屁、倍比流＜ひる＞」『和名抄』の転訛。˞ピープシ˜ムヌ [˞piːpu̥ʃi˜munu](屁放り奴) ともいう。ウ˞レー˜　ピープサー　ヤ˞ルンダ˜　カ˞マー˜　パ˞ラ˜シ [ʔuˀreː˜ piːpusaː jaˀruda˜ ka ˞maː˜ paˀra˜ʃi](彼は屁放きだから、あっちへ行かせ＜遣れ＞)。

˞ピー˜フシ **[˞piː˜ɸu̥ʃi]** 【名】欠点。難癖。フ˞シ [ɸu̥ˀʃi](欠点) ともいう。「〜かどかどしく癖をつけ」『源氏物語＜若菜上＞』の転訛したもの。˞ピー [˞piː] は「屁、倍比流、下部出気也」『和名抄』の義か。プ˞スヌ　ピー˜フシ　カー˞ニ˜　トゥルンティ　˞サンドー˜シ　パ˞ナシアー˜シェーティ　˞シー˜バ [pu̥ˀsunu piː˜ɸu̥ʃi kaːˀni˜ turunti ˞sandoː˜ʃi paˀnaʃiʔaː˜ʃeːti ˞ʃiː˜ba](他人の欠点ばかりをあげつらおうと＜取ろうと＞しないで、話し合いながらしなさいよ)。

˞ピー˜プシ **[˞piː˜pu̥ʃi]** 【名】日干し。日干し乾燥。˜ティダナ　˜プシティ [˜tidana ˜pu̥ʃiti](太陽に干して) ともいう。イ˞ガー　ユシ˜キシダルナー　ナ˞ラビティ　フシゥカブカラ　ピー˜プシ　˞シーティル　カーソーッ˜タ [ʔiˀgaː juʃi̥˜kiʃidaruna: naˀrabiti ɸusi̥˜kabukara piː˜pu̥ʃi ˞ʃiːtiru kaːsoːt˜ta](烏賊はススキの簾(スダレ)に並べて二日ほど＜ばかり＞日干ししてから売られた)。

˞ピー˜プシ **[˞piː˜pu̥ʃi]** 【名】放屁すること。ひどく屁をひること。動詞˞ピー˜プスン [˞piː˜pu̥suŋ](放屁する) の連用形からの転成名詞。「Fefiri、ヘヒリ (屁放り)　ひどく屁をひる人」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞ウンザー　ピー˜プシナー　ナ˞ラ˜ヌ [˞ʔunʤaː piː˜pu̥ʃina: naˀra˜nu](あいつはひどく屁をひるので困る＜堪(タマ)らない＞)。

˞ビー˜プス **[˞biː˜pu̥su]** 【名】酔っ払い。「酔い人」の義。˞ビー˜プソー　プ˞リムヌ˜　ヤ˞ルンダ　ビープス˜ヌ　ムネー　カ˞タ˜ミンラ　シ˞キティ˜　カ˞タ˜ミンラ　ン˞ザ˜シバ [˞biː˜pu̥soː puˀrimunu˜ jaˀrunda˜ kḁˀta˜minra ʃi̥˜kiti˜ kḁˀta˜minra ʔnˀʤa˜ʃiba](酔っ払いは馬鹿＜惚れ者＞だから、酔っ払いの言葉は片方の耳から聞いて片方の耳から放出しなさいよ)。

˞ピー˜プスイ **[˞piː˜pusui]** 【名】一日。「日一日風やまず」『土佐日記』の義。˞ウン˜ネーナーヤ　˞ピー˜プスイヌ　˞ブン˜ゲー　アˀリ˜ル　˜ブーバ　˞バシキルナ˜ダー [˞ʔun˜neːnaːja ˞piː˜pusuinu ˞buŋ˜geː ʔaˀri˜ru ˜buːba ˞baʃi̥kiruna˜daː](あの家には一日の仕事の恩義があるから忘れるなよ)。

˞ピー˜　プスン **[˞piː˜ pu̥suŋ]** 【連】屁をひる＜放る＞。ッ˞サリ˜ピー　˜プスン [sˀsari˜piː ˜pusuŋ](非常に臭い屁をひる)。˜ウン　ッ˞ふータール　サッ˜コー　˞ピー˜　プス˞ツォー [˜ʔuŋ fˀfuːtaːru sak˜koː ˞piː˜ pu̥suˀtsoː](芋を食べたので、よく屁を放るのだよ)。プ˞スヌ˜　マンタナー　˜ピー　プ˞ス˜ナ˞ダー [pu̥ˀsunu˜ mantanaː ˜piː pu̥ˀsu˜naˀdaː](人前では屁を放るなよ)。

˞ピー˜ブルン **[˞piː˜buruŋ]** 【自動】珊瑚礁に大波が押し寄せて砕け散る。波頭が砕け散る。波頭が立つ。˞オーシキヌ˜　ヤ˞ビ˜ルカー　ヤ˞ダン˜ブレビーヤ　˞ピーブルン˜ドゥ　˞マイ˜ズネー　˞ピーブラ˜ヌ [˞ʔoːʃi̥kinu˜ jaˀbiˀruka: jaˀdam˜burebiːja ˞piːburun˜du ˞maiˀʤune: ˞piːbura˜nu](天気が崩れると上原のヤダンブレ干瀬は波頭が砕け散るが、前曽根には波頭は砕け散らない)。ウ˞ブ˜ビーン　˞ピー˜ブリ　˞ベー [ʔuˀbu˜biːm ˞piː˜buri ˞beː](ウブビー＜フツァーマの東の干瀬＞も波頭が砕け散っている)。˞ピ

ーˌブル　ˌトンラー　ˌフネー　ˌペーラサラˌヌ [ˌpiːˌburu ˌtonraː ˌɸuneː ˌpeːrasaraˌnu](波頭が砕け散る所からは、舟は漕ぎいれられない)。ヤˌダンˌブレピーヌ　ˌピーˌブレーラー　ˌウケー　ンˌジララˌヌ [jaˌdamˌburepiːnu ˌpiːˌbureːraː ˌʔukeː ʔnˌʤiraraˌnu](上原のヤダンブレ干瀬が波頭を立てると漁船は沖に＜漁に＞出られない)。

ˌピーフンシキˌドゥル [ˌpiːɸuŋʃi̥kiˌduru] 【名】鶏が火を踏んだ時、ばたついて鳴き騒ぐように、騒ぎ立てる人。「火踏み付け鶏」の義。ˌピーフンシキドゥルˌヌ　ˌカタチニ　ˌアーラン　ブリˌバ [ˌpiːɸuŋʃi̥kiduruˌnu ˌkạtatʃini ˌʔaːram buriˌba](鶏がばたついて騒ぎ立てるように＜火踏み付け鶏のように＞暴れるなよ＜暴れずに居れよ＞)。

ˌピーマ [ˌpiːma] 【名】えら (鰓)。ˌピューマ [ˌpjuːma](えら＜鰓＞) ともいう。カˌツヌ　ピーマーˌ　パˌタˌケー　カˌタˌミ　ˌギーˌ　パˌタキˌヌ　ˌコイ　ˌナシバ [kạˌtsunu piːmaːˌ pạˌtaˌke: kạˌtaˌmi ˌgiːˌ pạˌtakiˌnu ˌkoi ˌnaʃiba](カツオの鰓は畑に担いで行って、畑の肥やしにしなさいよ)。イˌズヌ　ピーマーˌ　トゥリティ　バˌザイˌバ [ʔiˌʤunu piːmaːˌ turiti baˌʤaiˌba](魚の鰓を取って捌(サバ)きなさい)。

ˌピーマカー [ˌpiːmakaː] 【名】喘息持ち。ウˌレーピーマカーˌ　ヤˌルンダˌ　ウˌリンマーˌ　クˌヌˌ　シˌグトーˌ　シˌミララヌ [ʔuˌreː piːmakaːˌ jaˌrundaˌ ʔuˌrimmaːˌ kuˌnuˌ ʃiˌgutoːˌ ʃiˌmiraranu](彼は喘息持ちだから、彼にはこの仕事はさせられない)。

ˌピーマキ [ˌpiːmaki] 【名】喘息。喘息患者 (an asthmatic)。『医学沖縄語辞典』。ˌピーマキヌˌ　ウˌクˌルカー　ˌイキン　シˌララントダー [ˌpiːmakinuˌ ʔuˌkuˌrukaː ˌʔikiŋ ʃiˌraranトdaː](喘息の発作が起こると呼吸＜息＞も出来ないよ)。ˌピーマキˌ　カˌカリˌプソー　ˌピーマキヌˌ　ウˌクˌルカー　ˌイケーユˌビティˌ　イキ　ˌシーマーキ　オーˌルンダ　キˌムイˌツァーン [ˌpiːmakiˌ kạˌkariˌ pụsoː ˌpiːmakinuˌ ʔuˌkuˌrukaː ˌʔikeː juˌbitiˌ ʔiki ˌʃiːmaːki ʔoːˌrunda ki ˌmuiˌtsaːŋ](喘息患者は発作が起こると息を吸い込んで、息をし兼ねておられるので気の毒だ)。

ˌピーマキ　シープス [ˌpiːmaki ʃiːpusu] 【名】喘息患者＜喘息する人＞。ˌピーマキシープソーˌ　キˌムイˌツァーン [ˌpiːmakiʃiːpụsoːˌ kiˌmuiˌtsaːŋ](喘息患者は可哀相だ＜気の毒だ＞)。

ˌピーマキ　スン [ˌpiːmaki suŋ] 【連】喘息の発作が起きる＜喘息する＞。ニˌシカジヌˌ　フクカー　ˌピーマキ　スントダー [niˌʃikaʤinuˌ ɸụkukaː ˌpiːmaki sunトdaː](北風が吹くと喘息の発作が起こるよ＜喘息するよ＞)。

ˌピーマキムチ [ˌpiːmakimutʃi] 【名】喘息持ち。持病の喘息がある人。ˌピーマキムチンマーˌ　シˌグトーˌ　タˌナマラˌヌ [ˌpiːmakimutʃimmaːˌ ʃiˌgutoːˌ taˌnamaraˌnu](喘息持ちには仕事は頼まれない)。

ˌピーマチカウ [ˌpiːmatʃikau] 【名】夜通し焚く線香。箸の太さで長さ約 25 センチの線香。「日待ち香」の義。ˌユードゥーˌシ [ˌjuːduːˌʃi](夜通しの祈願) の時、夜中の祈願から明け方の祈願までの間、夜を徹して神職者や村役人たちが祈願したり、歌や太鼓で神様をもてなしたりする時に焚く線香。また、法事の際はユˌナカソッˌコー [juˌnakasokˌkoː](夜中焼香) をするとき等に焚く線香をいう。お盆の時は三日間、仏壇に線香を絶やさないよう、この線香を焚いた。ユˌナカソッˌコー　ˌソーˌル　ˌピンマー　ˌピーマチカウˌ　シキ　タˌトーッˌタン [juˌnakasokˌkoː ˌsoːˌru ˌpimmaː ˌpiːmatʃikauˌ ʃi̥ki tạˌtoːtˌtaŋ](夜中焼香をされる時は日待ち線香を焚かれた)。

ˌピー　ˌムイルン [ˌpiː ˌmuiruŋ] 【連】火が燃える。サˌリタムヌ　モースˌカー　イッˌケン　ピーˌヤ　ムˌイルン [saˌritamunu moːsuˌkaː ʔikˌkem piːˌja ˌmuiruŋ](枯れた薪を燃やすと、火は非常によく燃える)。ˌピーˌヤ　フˌチˌマリティ　ˌムイラヌ [ˌpiːˌja ɸụˌtʃiˌmariti ˌmuiranu](火はくすぶっ＜燻＞て燃えない)。

ˌビーˌムス [ˌbiːˌmusu] 【名】い (藺) の筵。パˌダˌムソー　ˌタイゲーˌヤ　ˌビームス　ˌヤッタ [paˌdaˌmusoː ˌtaigeːˌja ˌbiːmusu ˌjatta](寝莫蓙＜肌筵＞はほとんど藺の筵だった)。

ˌピームタˌビ [ˌpiːmutaˌbi] 【名】火遊び。子供が炭焼きなどをして遊ぶこと。「火弄(モテアソ)び」の転訛。ムˌタˌビ [muˌtaˌbi](弄(モテアソ)び。賞翫(ショウガン)) は「～若君は、乳母などもてあそび (持て遊び) 聞こゆ」『源氏物語　東屋』の義。ムˌカˌシェー　フˌユˌ　ナルカー　パˌマˌナーティ　ˌタンヤキ　シーˌ　アˌサブタンドゥˌ　ウˌリバˌ　ウˌブˌプソー　ˌピームタˌビティ　アˌゾーッˌタ [muˌkaˌʃeː ɸuˌjuˌ narukaː paˌmaˌnaːti ˌtạŋjaki ʃiːˌ ʔaˌsabutanduˌ ʔuˌribaˌ ʔuˌbuˌpụsoː ˌpiːmutaˌbiti ʔaˌʤoːtˌta](昔は冬になると子供は浜で炭焼きをして遊んだが、それを大人は火遊びと言われた)。

ˌピームドゥル [ˌpiːmuduru] 【名】日帰り。日戻り。「Fimodori. ヒモドリ (日戻り). その日の中に帰ること. この語は普通、海路を通る旅行に用いられる. それは、Caueru(かへる) という語は、また船 (fune)

の転覆することを意味するので、ゼンチョ (gentios 異教徒) はこの語を口にするのを恐れるからである」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。パ˞トゥ˜マプソー ˞ピームドゥル˜シ ˞パイ˜ター ˞トーサ˜トゥリン ˞オーッ˜タ [pḁˈtu˜mapu̥soː ˈpiːmuduru˜ʃi ˈpai˜taː ˈtoːsa˜ turiŋ ˈʔoːt˜ta](鳩間の人は日帰り < 日戻り > で南端 < 西表北岸の水田地帯 > へ田草を取りに行かれた)。

˞ビー˜ムニ **[ˈbiː˜muni]** 【名】酔っ払いの言葉。「酔い物言い」の義。˞ビー˜ムネー <˞ビープス˜ヌ ムネー> ˞ミーヤ ナーン˜バ ス˞クナ˜ヨー [ˈbiː˜muneː < ˈbiːpusu˜nu muneː > ˈmiːja naːm˜ba su̥ˈkuna˜joː](酔っ払いの言葉は中身のない言葉だから、< 何を言われてもまともに > 聞くなよ)。

˞ビー˜ムヌ **[ˈbiː˜munu]** 【名】毒物。食中毒を起こすもの。˞ミン˜グルナーン ˜ナバナーン ˞ビー˜ムノー ア˞リ˜ブーバ ア˞ティンガーラン˜ ムノー ッ˞ふーナ˜ヨー [ˈmiŋ˜guruna:n ˜nabanaːm ˈbiː˜munoː ʔaˈri˜buːba ʔaˈtiŋgaːram˜ munoː fˈfuːna˜joː](きくらげ < 木耳 > にも、きのこ < 茸 > にも毒物はあるから、見当つかない < 有毒か無毒かの見分けができない > ものは食べるなよ)。

˜ピー ˞モースン **[˜piː ˞moːsuŋ]** 【連】火を燃やす。˞バンバン˜シ ˜ピー モースン [ˈbambaŋ˜ʃi ˜piː ˈmoː-suŋ](勢いよく火を燃やす < 焚く >)。˞ピー˜ヤ ˞バンバン˜シ ˞モーシ [ˈpiː˜ja ˈbambaŋ˜ʃi ˈmoːʃi](火はバンバンと勢いよく焚け < 燃やせ >)。˞モーサヌ [ˈmoːsanu](燃やさない)。

˞ピー˜ヤ **[ˈpiː˜ja]** 【名】寒さ。形容詞˞ピー˜ヤン [ˈpiː˜jaŋ](寒い) の語幹から転成した名詞。˞キュー˜ヌ ˞ピー˜ヤー ク˞トゥケン˜トゥ ˞カウリ ブー˜ イ˞ズン˜ ク˞バ˜リティ ウ˞ケーリ キー˜ス [ˈkjuː˜nu ˈpiː˜jaː ku̥ˈtuken˜tu ˈkauri buː˜ ʔiˈʤun˜ kuˈba˜riti ʔuˈkeːri kiː˜su](今日の寒さはいつも < 別の時 > と違っている。魚も凍えて浮いてくるほどだ)。

˞ヒーヤ˜サ **[ˈçiːja˜sa]** 【感】掛け声。動作を起こす際に発する声。よいしょ。バ˞カー˜ユンダ ˜アシー ッ˞ふァイティ˜ プ˞ス˜イキ イ˞ル˜カー ˞ヒーヤ˜サティ ˞シー˜ シ˞グトゥ シン˜ パ˞リ˜ス [baˈkaː˜junda ˜ʔaʃiː fˈfaiti˜ pu̥ˈsu˜ʔiki ʔiˈru˜kaː ˈçiːja˜sati ˈʃiː˜ʃiˈgutu ʃim˜ paˈri˜su](若いから昼食を食べて一息入れると、よいしょといって、仕事をしに行くよ)。

˞ヒーヤヒーヤ˜シ **[ˈçiːjaçiːja˜ʃi]** 【副】喜び勇むさま。嬉しそうに声をあげるさま。サ˞ニンケーリ ヒーヤヒーヤ˜シ ブ˞ダッカレー˜ティ ˞パッ˜タヤー [saˈniŋkeːri çiːjaçiːja˜ʃi buˈdakkareː˜ti ˈpat˜tajaː](嬉しそうに声をあげて < 喜び勇んで > 飛び跳ねて行ったよ)。

ピー˞ヤピーヤ˜シ **[piːˈjapiːja˜ʃi]** 【副】冷え冷えと。寒々と。いかにも寒そうに。˞キュー˜ヤ ピー˞ヤピーヤ˜シ ˞ブーバ キン˜マー カ˞サビ˜ キ˞シトヨー [ˈkjuː˜ja piːˈjapiːja˜ʃi ˈbuːba kim˜maː kaˈsabi˜ ki̥ˈʃiɨ-joː](今日は寒そう < 冷え冷えとしている > だから、着物は重ねて着なさいよ)。

˞ヒーヤ˜ホー **[ˈçiːja˜hoː]** 【感】木材を縦挽きの鋸で挽くときの掛け声。鳩間島には製材所がなかったので家屋新築の際には木挽きを頼んで木材を挽いてもらった。台木に木材の片方をかけ、一人は材木の上に乗り、一人は地上に立って大鋸で木材を挽いた。˞ヒーヤ˜ホー ˞ヒーヤ˜ホーティ ヤ˞グイバ˜ イ˞レー˜ティル ˞キー˜ヤ バ˞コーッ˜タ [ˈçiːja˜hoː ˈçiːja˜hoːti jaˈguiba˜ ʔiˈreː˜tiru ˈkiː˜ja baˈkoːt˜ta](ヒーヤホー、ヒーヤホーと掛け声を掛けて < 入れて > 木材は挽かれた)。

˞ピーヤ˜ムイサン **[ˈpiː˜jamuisaŋ]** 【形】寒がりである。形容詞˞ピー˜ヤン [ˈpiː˜jaŋ](寒い) の語幹˞piː˜ja に接尾語-ムイサン [-muisaŋ](～がりである。～思いである) が付いて形成された合成語。˞ウイ˜プソー ˞ピー˜ヤムイサンダ ピ˞バ˜チナ ˜ピー キ˞ササラ˜ヌ [ˈʔui˜pu̥soː ˈpiː˜jamuisanda piˈba˜ʧina ˈpiː˜ja ki̥ˈsasara˜nu](老人は寒がりやだから、火鉢に火は切らされない)。

˞ヒーヤユイ˜サ **[ˈçiːjajui˜sa]** 【感】掛け声。豊年祭の旗頭を持って踊る際の掛け声。旗頭を上下に振りながら、˞ヒーヤユイ˜サ ˞ヒーヤユイ˜サと掛け声をかけて勢いよく巻き踊りをした。˞ヒーヤユイ˜サ ˞ヒーヤユイ˜サ ˞シェー˜ティ ブ˞ドゥルシンカー ガー˜リ ˞オー˜ル [ˈçiːjajui˜sa ˈçiːjajui˜sa ˈʃeː˜ti buˈduruʃiŋkaː gaː˜ri ˈʔoː˜ru](ヒーヤユイサ、ヒーヤユイサと掛け声を掛けながら、踊り人衆 < 臣下 > は気勢を上げ、威勢をあげて自分たちの優勢を盛んにアピールして < 自慢して > おられる)。

˞ピー˜ヤン **[ˈpiː˜jaŋ]** 【形】寒い。「冷え・さ・あり」の「さ」の [s] が口蓋化して [ʃ] となり、脱落した結果、「あり (有り)」が直接語幹の [piː] に下接して、[piːʃaːŋ] → [piːjaŋ] と音韻変化したもの。˞キュー˜ヤ ˞ピー˜ヤンティ ス˞クタヌ ナン˜ゾー ˞ピーヤナーン˜ワー˞ン˜ノー [ˈkjuː˜ja ˈpiː˜janti su̥ˈkutanu nan˜ʤoː ˈpiːjanaːŋ˜waːˈn˜noː](今日は寒いと聞いたが、あまり寒くないではないか)。˞ピーヤ˜

ヌ　フ˞シガラ˞ヌ [˞piːjaˀnu ɸu˞ʃigaraˀnu](寒くてたまらない)。˞シンダイ　ピー˞ヤ　˞ナリクン [˞ʃindai piːˀja ˀnarikuŋ](次第に寒くなってくる)。˞ピー˞ヤ　˞ピンマー　˞フカー　ン˞ジル˞ナ [˞piːˀja ˀpimmaː ˀɸu̥ka: ʔn˞ʤiruˀna](寒い時は外へ出るな)。˞アイニ　˞ピー˞ヤーレーラー　ノー˞ン˞　ナ˞ラ˞ヌ [ˀʔaini ˞piːˀjaːreːraː noː˞n˞ na˞raˀnu](あんなに寒かったら何も出来ない)。

˞ピー˞ユキ [˞piːˀjuki] 【名】日除け。日避け。日覆い。日光を避けるための覆い。ティ˞ダ˞ヌ　カ˞タ˞カ [ti˞daˀnu kḁ˞taˀka](太陽の日除け＜日陰＞) ともいう。ススキで作ったシ˞ダ˞ル [ʃi˞daˀru](簾) を立てて日除けにした。ティ˞ダ˞ヌ　˞スーワ˞ヌ　シ˞ダ˞ル　˞タティティ　˞ピーユ˞キ　˞シー˞バ [ti˞daˀnu ˞suːwaˀnu ʃi˞daˀru ˀtḁtiti ˞piːju˞ki ˞ʃiːˀba](太陽光線が強いので、スダレを立てて日除けにしなさい)。

˞ピー˞ヨー [˞piːˀjoː] 【名】日雇い。日雇いの仕事。一日契約の仕事。「日傭」の転訛。˞ピー˞ヨー　˞シェー˞ティル　ウ˞ヌピーヌ˞　ク˞ラシガタバ　シーブー [˞piːˀjoː ˞ʃeː˞tiru ʔu˞nupiːnu˞ ku˞raʃigataba ʃiːbuː](日雇い＜日傭＞をして＜ぞ＞其の日暮らしをしている)。˞ピー˞ヨー　˞シー　プス˞　タ˞ナ˞ミ　˞クーバ [˞piːˀjoː ˞ʃiːpusu˞ ta˞naˀmi ˀkuːba](日雇い労働者＜日傭する人＞を頼んできなさいよ)。

˞ビー˞ヨーン [˞biːˀjoːŋ] 【形】痒い。「、酢味也。俗語云恵久之＜ゑぐし＞」『和名抄』の転訛したものか。˞ドゥー　˞ビーヨー˞ヌ　ナ˞ラ˞ヌ [ˀduː ˞biːjoːˀnu na˞raˀnu](体が痒くて堪らない)。ビ˞ローサ˞ヌ　˞シル　マ˞マル˞カー　˞ビー˞ヨーンドゥ　ミ˞ジ˞シ　ア˞ラウ˞カー　˞ビーヨーナー˞ヌ [bi˞roːsaˀnu ˀʃiru ma˞maru ˀkaː ˞biːˀjoːndu mi˞ʤiˀʃi ʔa˞rauˀkaː ˞biːjoːnaːˀnu](クワズイモの汁が体に付く＜塗られる＞と痒いが、水で洗うと痒くない)。˞ビー˞ヨー　˞ナリクーン [˞biːˀjoː ˀnarikuːŋ](痒くなってくる)。˞ビー˞ヨー　˞クトー　˞ナー˞ヌ [˞biːˀjoː ˀku̥toː ˞naːˀnu](痒いことはない)。˞ビー˞ヨー　˞トン　˞ガジバ [˞biːˀjoː ˀtoŋ ˀgaʤiba](痒い所を掻けよ)。イッ˞ケン　ビー˞ヨータン [ʔik˞kem biːˀjoːtaŋ](非常に痒かった)。

˞ビー˞ラー [˞biːˀraː] 【名】病弱な者。形容詞˞ビー˞ラーン [˞biːˀraːŋ](病弱である) の名詞形。チ˞カ˞グロー　˞ビー˞ラー　˞ナリティ　シ˞グトゥン　シーユーサヌ [ʧi̥˞kaˀguroː ˞biːˀraː ˀnariti ʃi˞gutuŋ ʃiːjuːsanu](近頃は病弱になって仕事もできない＜し得ない＞)。˞シキ　タ˞ラーン　ッふァ˞　ヤ˞ルンダ　ビー˞ラー　˞ナリティ　マ˞ナマー˞キン　ア˞ラキユーサ˞ヌ [˞ʃi̥ki ta˞raːŋ ffaˀ ja˞runda biːˀraː ˀnariti ma˞namaːˀkiŋ ʔa˞rakijuːsaˀnu](月足らずで生まれた子だから、病弱になって、今だに＜今までも＞歩くことができない＜歩き得ない＞)。「混効験集」に「びる」(童の久敷足立さるを云。蛭子と書歟～)『おもろ語辞書』とある。

˞ビー˞ラーン [˞biːˀraːŋ] 【形】病弱である。体が弱い。˞シキ　タ˞ラーン　ッふァー　ビー˞ラーンティ　ス˞クタヌ˞　ク˞ヌ˞　ッ˞ふァー˞　ノー˞ン　ビー˞ラー　˞ナー˞ヌ [ʃi̥ki ta˞raːŋ ffaː biːˀraːnti su̥˞kutanu˞ ku˞nu˞ f˞faː˞ noː˞m biːˀraː ˞naːˀnu](月足らずの子は病弱であると聞いたが、この子はちっとも病弱ではない)。˞ドゥク　˞ビーラー˞ヌ　ノー˞ン˞　ナ˞ラ˞ヌ [ˀduku ˞biːraːˀnu noː˞n˞ na˞raˀnu](あまりにも病弱なので何も出来ない)。˞シンダイ　ビー˞ラー　˞ナリクン [˞ʃindai biːˀraː ˀnarikuŋ](次第に病弱になってくる)。˞ビー˞ラー　プ˞ソー˞　タ˞ナマラ˞ヌ [˞biːˀraː pu̥˞soː˞ ta˞namaraˀnu](病弱な人は頼まれない)。˞アイニ　˞ビー˞ラーレーラー　マー˞ン˞　パ˞ララ˞ヌ [ˀʔaini ˞biːˀraːreːraː maː˞m˞ pa˞raraˀnu](あんなに病弱だったら何処へも行かれない)。

˞ピーラ˞スン [˞piːraˀsuŋ] 【他動】 1冷やす。ア˞チユー˞ヤ　˞ピーラ˞シテーラ　ヤ˞ラビン˞マー　ヌ˞マ˞シバ [ʔa˞ʧijuːˀja ˞piːraˀʃi̥teːra ja˞rabimˀmaː nu˞maˀʃiba](熱いお湯は冷やしてから子供には飲ませなさいよ)。˞サー˞ヤ　˞ピーラ˞スンティ　˞シケーンドゥ　˞ピーラサン˞タンティン　˞ミサンツォー [˞saːˀja ˞piːraˀsunti ˀʃi̥keːndu ˞piːrasanˀtantim ˀmisantsoː](お茶は冷やそうと置いてあるが、冷やさなくても良いそうだ)。˞ピーラ˞ス　˞ピンマー　˞オン˞ギシ　˞アウ˞リ [˞piːraˀsu ˀpimmaː ˞ʔoŋˀgiʃi ˞ʔauˀri](冷やす時は扇で煽(アオ)れ)。ク˞レー　ピーラ˞シェー　˞ミサムヌ [ku˞reː piːraˀʃeː ˀmisamunu](これは冷やせばいいのに)。˞マー˞ビン　˞ピーラ˞シ [˞maːˀbim ˞piːraˀʃi](もっと冷やせ)。2冷静にする。落ち着かせる。˞キモー　˞ピーラ˞シティ　˞ウチソーダン　˞シー˞バ [ˀkimoː ˞piːraˀʃi̥ti ˀʔutʃisoːdaŋ ˞ʃiːˀba](心を落ち着かせて相談しなさいよ)。3しらけ (白け) させる。˞ザー　˞ピーラス˞ナ　˞サンシン˞　ピ˞キティ˞　パ˞ネーカ˞シ [ˀʤaː ˞piːrasuˀna ˞saŋʃim˞ pi̥˞kiti˞ pa˞neːkaˀʃi](座を白けさせるな。三線を弾いて華やかせ＜賑わせ＞よ)。

˞ピーリ˞イー [˞piːriˀʔiː] 【名】冷たくなった飯。冷や飯。˞ピーリイー˞ヌ　ヌ˞カ˞リ　˞ベー˞バ　ウ˞リンツァン˞　ッ˞ふァイティ˞　パリバ [˞piːriʔiːˀnu nu˞

ka˞ri ˞be:˞ba ʔu˞rintsaŋ˞ f˞faiti˞ pariba](冷や飯が残っているから、それでも食べて行きなさいよ)。

˞ピーリ˞ ッ˞サー˞ルン **[˞pi:ri˞ s˞sa:˞ruŋ]** 【連】冷え切る。すっかり冷えてしまう。「冷え・っししるん < 切れる >」の転訛か。˞スー˞ヤ ˞ピーリッサー˞リ ˞ナーン˞バ ア˞ツァ˞シティ イ˞リ˞バ [˞su:˞ja ˞pi:rissa:˞ri ˞na:m˞ba ʔa˞tsa˞ʃi̥ti ʔi˞ri˞ba](お汁はすっかり冷え切ってしまったから温めて入れなさいよ)。˞ピーリッサーリ˞ムノー ッ˞ふァーンドー˞シ ン˞ブ˞シティ ッ˞ふァイ˞バ [˞pi:rissa:ri˞muno: f˞fa:ndo:˞ʃi ʔm˞bu˞ʃi̥ti f˞fai˞ba](冷え切ったものは食べないで、蒸してから食べなさいよ)。

˞ピーリ˞ドゥー **[˞pi:ri˞du:]** 【名】冷たい身体。冷え性の体。体温の低い人。「冷え胴」の転訛。˞ワードゥー˞ヤ ˞ヌンティ ˞アイニ ˞ピーリ˞ドゥー˞ナリ ˞ブーワレー [˞wa: du:˞ja ˞nunti ˞ʔaini ˞pi:ri˞du: ˞nari ˞bu:ware:](君の体はどうしてあんなに冷え性の体になっているのかね)。

˞ピーリボール **[˞pi:ribo:ru]** 【副】冷え冷えとしたさま。寒々としたさま。人気(ヒトケ)がなく生活の温もりがない状態。竈の火の温もりがないさま。˞ヤー˞ヤナー˞イ˞ ピーリボール シ˞ムーンドー˞シ ˞ユー˞ヤンツァン フ˞カ˞シ ˞ヤー ア˞ツァ˞シバ [˞ja:˞ja na:˞ji˞ pi:ribo:ru ʃi˞mu:ndo:˞ʃi ˞ju:˞jantsaŋ ɸu̥˞ka˞ʃi ˞ja: ʔa˞tsa˞ʃiba](家は冷え冷えと放置しておかないで、お湯でも沸かして家を温めなさいよ)。˞ウン˞マー ア˞チーアチー˞シ ッ˞ふァイバ˞ル ン˞マー˞ル ˞ピーリボール ˞シェーラー ミー˞ザ ナ˞リ˞ス [˞ʔum˞ma: ʔa˞tʃi:ʔatʃi:˞ʃi: f˞faibaru˞ ʔm˞ma:˞ru ˞pi:ribo:ru ˞ʃe:ra mi:˞ʤa na˞ri˞su](芋は煮立ての熱いうちに食べるのが美味しいのであって、冷え切ってしまってからでは不味くなる)。

˞ピーリ˞ミジ **[˞pi:ri˞miʤi]** 【名】冷たい水。おひや(御冷)。「冷え水」の転訛。ナ˞チェー˞ オンダー˞シーティ˞ キー ˞ピーリ˞ミジ ˞カビティル ˞キン˞マー ˞カイ˞ キ˞スタル [na˞tʃe:˞ ʔonda: ˞ʃi:ti˞ki: ˞pi:ri˞miʤi ˞kabitiru ˞kim˞ma: ˞kai˞ ki̥˞sutaru](夏は海水浴をしてきて、冷や水を被ってから < ぞ > 着物は換えて着た < 着替えた > ものだ)。

˞ピール **[˞pi:ru]** 【名】昼。昼間。白昼。日中。ア˞ガピール [ʔa˞gapi:ru](白昼。真昼間。「明昼」の義)。プ˞スマ [pu̥suma](正午) は、「正午」からの転訛で、[psi̥ruma] → [psi̥ma] → [pusuma] と音韻変化したものである。˞ピールウチ˞ナー シ˞グトー˞ トゥ˞ズ˞メーン [˞pi:ruʔutʃi˞na: ʃi˞guto:˞ tu ˞ʤu˞me:ŋ](日中 < 昼内 > に仕事は完了し < 閉じめ > た)。˞ユール ピー˞ルティン ッ˞サナー˞ アイニ パ˞タラクナ [˞ju:ru pi:˞rutin s˞sana:˞ ʔaini pḁ˞tarakuna](夜、昼とも知らずに、そんなに働くなよ)。

˞ピール **[˞pi:ru]** 【名】ひがら (日柄)。吉日。老年層は˞ピュール [˞pju:ru](日柄) という。「日和」の義から転じて、「事柄を行うのによい日」の意味となる。˞ヨイ˞グトー ˞ピールヌ カイ˞ヤル ピ˞ニチバ˞ ク˞ラシ˞ル ˞スート ダー [˞joi˞guto: ˞pi:runu kai˞jaru pi˞nitʃiba˞ ku˞raʃi˞ru ˞su:ɺda:](祝い事は吉日を選んでするものだよ)。˞キュー˞ヤ (ワ) ˞ピールヌ <˞ピュールヌ > カイ˞ヤン [˞kju:˞ja(wa) ˞pi:runu、<˞pju:runu> kai˞jaŋ](今日はお日柄がよろしい < 吉日だ。日柄が綺麗だ >)。˞キュー˞ヌ ˞カイピー˞ルナ マ˞ブ˞ル ˞クミ ˞オースン [˞kju:˞nu ˞kaipi:˞runa ma˞bu˞ru ˞kumi ˞ʔo:suŋ](今日の吉日にマブル < 霊魂 > を籠めて差し上げます)。˞ピール˞ ク˞ラ˞シン ˞パッ˞タ [˞pi:ru˞ ku˞ra˞ʃim ˞pat˞ta](吉日 < 日柄 > を選んでもらいに < 繰らしに > 行った)。

˞ピールカー˞ル **[˞pi:ruka:˞ru]** 【名】日柄。良い日柄。ABCDBC 型の重言。˞カー˞ル [˞ka:˞ru] は「代わり」の義か。老年層は˞ピュールカー˞ル [˞pju:ruka:˞ru](日柄。良い日柄) という。˞ピールカールバ˞ ユー シ˞ラ˞ベーティル ˞ヨイ˞ヤー ˞スー˞ イ˞チンイチン シー˞ミサー ˞ナー˞ヌ [˞pi:ruka:ruba˞ ju: ʃi˞ra ˞be:tiru ˞joi˞ja: ˞su:˞ ʔi˞tʃiŋʔitʃiŋ ʃi:˞misa: ˞na:˞nu](日柄をよく調べてお祝いはするものだ。いつでもお祝いをしてよいわけではない)。

˞ピールピナカ **[˞pi:rupinaka]** 【名】昼日中。ア˞ガピール [ʔa˞gapi:ru](明るい昼間。「赤昼間」の義) ともいう。˞ワンザー ˞ピールピナカー˞ラ サ˞キバ˞ ヌミ ˞ヌーツァムンヤー ウ˞レー [˞wanʤa: ˞pi:rupinaka: ˞ra sḁ˞kiba˞ numi ˞nu:tsa ˞munuja ʔu˞re:](お前は、昼日中から酒を飲んで何たることだ、これは)。

˞ビー˞ルン **[˞bi:˞ruŋ]** 【自動】¹酔う。酒に酔う。ウ˞ビ˞ナー サ˞キ˞ ヌムカー ˞ビールン˞ドゥ ˞キュー˞ヤ (ワ)˞ピッ˞チン ˞ビーラ˞ヌ <˞ビュー˞ヌ >[ʔu˞bi ˞na: sḁ˞ki˞ numuka: ˞bi:run˞du ˞kju:˞ja(wa)˞pit˞tʃim ˞bi:ra˞nu<˞bju:˞nu>](あれだけ酒を飲むと酔うが、今日はちっとも酔わない、˞ビュー˞ヌは老年層が使う)。サ˞キ˞ ヌ˞ム˞ター ˞ビー ˞ナー˞ヌ [sḁ˞ki˞nu˞mu˞ta: ˞bi: ˞na:˞nu](酒を飲んだので酔ってしまった)。˞ビーティ ニ˞ビ ベー [˞bi:ti ni˞bi be:](酔って寝ている)。ウ˞ビッ˞チン ˞ヌミティ ˞ビー

˞ル　˞クトー　˞ナー˞ヌ [ʔuˈbit˞ʧin ˞numiti ˞biː˞ru ˞kʰuˑto: ˞naː˞nu](これぽっち飲んで酔うことはない)。˞マー˞ビン　˞ビー˞ヤー　˞ミサムヌ [˞maː˞bim ˞biː˞jaː ˞misamunu](もっと酔えばいいのに)。˞ヌミティ　˞パー˞ク　˞ビーバ [˞numiti ˞paː˞ku ˞biːba](飲んで早く酔いなさいよ)。2中毒する。ク˞ヌ˞　ミナー　˞ビー˞ルンダ　ッ˞ふーナ˞ヨー [kuˈnu˞ minaː ˞biː˞runda ˞fˈfuːna˞joː](このニナ貝＜蜷＞は中毒するから食べるなよ)。

˞ピー˞ルン [˞piː˞ruŋ] 【自動】冷える。ア˞チイー˞ヤ　˞ピー˞ルンケン　˞マトゥンティ　˞ベーン˞ドゥ　˞ピーラン˞ケン　ン˞コー˞リバ　˞メー [ʔaˈʧiʔiː˞ja ˞piː˞ruŋkem ˞matunti ˞beːn˞du ˞piːraŋ˞keŋ ʔŋˈkoː˞riba ˞meː](熱いご飯は冷えるまで待とうとしているが、冷えないうちに召し上がって下さいよ、もう)。キサー˞ティ　ピー˞リ　˞ベー [kisaː˞ti piː˞ri ˞beː](すでに冷えているよ)。˞ピー˞ル　˞クトー　˞ナー˞ヌ [˞piː˞ru ˞kʰuˑto: ˞naː˞nu](冷えることはないよ)。˞スー˞ヤー　˞ピー˞レーラー　ヌ˞マラ˞ヌ [˞suː˞ja ˞piː˞reːraː nu ˞mara˞nu](お汁は冷えたら飲まれない＜飲めない＞)。˞パー˞ク　˞ピー˞リ [˞paː˞ku ˞piː˞ri](早く冷えよ)。

˞ピールン [˞piːruŋ] 【他動】引っ提(サ)げる。手に吊るして持つ。ク˞リバ　ピールンティ　スンドゥ˞　カ˞タ˞ティーシェー　˞ピーララヌ [kuˈriba piːrunti sundu˞ kʰ˞taˈtiːʃeː ˞piːraranu](これを引っ提げようとするが、片手では引っ提げられない)。˞ワー˞　シトゥ˞シー　ピー˞　パリバ [˞waː˞ ʃʰtu ˞ʃiː piː˞ pariba](君のお土産＜苞＞にして引っ提げて行きなさいよ)。˞ワー　タンガ˞カー˞ニ　ピール˞　クトー　ナ˞ラ˞ヌ [˞waː taŋ˞ga kaː˞ni piːru˞ kʰuˑto: naˈra˞nu](君一人だけ引っ提げる＜持っていく＞ことは出来ない)。ウ˞リンツァン　ピーヤー˞　ミサムヌ [ʔuˈrintsam piːjaː˞ misamunu](これだけでも引っ提げれば＜持って行けば＞いいのに)。˞ピーリ˞バ ＜˞ピー˞バ＞[˞piːri˞ba＜˞piː˞ba＞](引っ提げよ＜引っ提げよ。持参せよ＞)。

˞ビー˞ロー [˞biː˞roː] 【名】病弱な人。˞ビー˞ラー [˞biː˞raː](病弱な人) の卑語。ウ˞レー　ビー˞ロー　ヤ˞ルンダ˞　シ˞グトー　シーユーサヌ [ʔuˈreː biː˞roː jaˈrunda˞ ʃiˈgutoː ʃiːjuːsanu](それ＜その人。彼＞は病弱者だから仕事をすることが出来ない)。

˞ビー˞ワン [˞biː˞waŋ] 【形】痒い。老年層の言葉。若年層は、˞ビー˞ヨーン [˞biː˞joːŋ](痒い) という。ク˞シナカヌ　ビー˞ワンダ　˞ガジ　ッ˞ふィーリ [ku˞ʃinakanu biː˞wanda ˞gaʤi ˞fˈfiːri](背中が痒いから掻いてくれ)。˞ウマー　˞ビーワナー˞ヌ [˞ʔumaː ˞biːwanaː˞nu](そこは痒くない)。˞ビー˞ワン　˞トンマー　˞マーヤ [˞biː˞wan ˞tommaː maːja](痒い所は何処か)。

˞ピー˞ワン [˞piː˞waŋ] 【形】えぐい。えがらっぽい。灰汁が強くて喉を刺激する。「酢味也。俗語云恵久之＜ゑぐし＞」『和名抄』の転訛か。老年層は、˞ピュー˞ワン [˞pjuː˞waŋ] ともいう。カツオのハ˞ラ˞ゴー [ha˞ra˞goː](腹皮) の煮たものを一日放置して食するとえぐい感じがする。キ˞ノー˞ヌ　ハ˞ラ˞ゴー　ッ˞ふータ˞　クトー　フ˞チ　ピーワ˞ヌ　ナ˞ラン˞シェン [kiˈnoː˞nu haˈra˞goː fˈfuːta˞ kʰuˑto: ɸʰu˞ʧi piːwa˞nu naˈraŋ˞ʃeŋ](昨日の、カツオの腹皮を食べたところ、えがらっぽくて堪らなかった)。˞シーリ˞ムノー　フ˞チ　ピー˞ワン [˞ʃiːri˞muno: ɸʰu˞ʧi piː˞waŋ](饐(ス)えたものは口がえぐい)。˞ピーワ　ナー˞ヌ [˞piːwa naː˞nu](えぐくない)。˞ピー˞ワ　˞ムノー　ッ˞ふーナ [˞piː˞wa ˞muno: ˞fˈfuːna](えぐい物は食べるな)。˞ピー˞ワカー　ッ˞ふーナ [˞piː˞waka: ˞fˈfuːna](えぐかったら食べるな)。

˞ビーン　˞サビーン [˞biːn ˞sabiːŋ] 【連】災いも不幸も。「水垢も錆も」の転訛か。˞ビーン　˞サビーン　シ˞キ˞シミ　タ˞ボーン˞ナ [˞biːn ˞sabiːŋ ʃʰi˞ki˞ʃimi ˞taboːn˞na](災いにも不幸にも遭わせ給うな＜水垢も錆もつけさせ給いますな＞)。

˞ピーン˞ティジ [˞piːn˞tiʤi] 【名】(海底地名)。干瀬の頂上。島を取り巻く環礁の干瀬は外洋部へ切り立つ絶壁状に落ち込んで形成されている。その外洋部は˞ピーヌ˞　クシ [˞piːnu˞ kʰuˑʃi](干瀬の腰＜後ろ。後背部＞) という。外洋部から干瀬の頂上部へかけて深い渓谷状の切り込みが走る。その珊瑚礁の渓谷をヤ˞トゥ [jaˈtu](珊瑚礁の裂け目) という。ヤ˞トゥ [jaˈtu] の上部はカ˞ソーライシ [kaˈsoːraʔiʃi](テーブルサンゴ) で被われていることが多い。また、ヤ˞トゥが大きなク˞ム˞ル [kuˈmu˞ru](池) を形成しているところもある。大潮の、夜の干潮時に村人たちはヤ˞トゥ [jaˈtu] に集まって、真っ赤なイットウダイの仲間、パ˞シ˞ナー [pʰ˞ʃi˞naː](パ˞チ˞ナー [pʰ˞ʧi˞naː] ともいう。若年層) を釣った。干瀬の頂上部は幾分盛り上がっていて、いわば、環礁は珊瑚礁の防波堤で島を巻き廻らして保護しているようなものである。満ち潮になると、外洋から泡を浮かべた海水がひたひたと干瀬に押し寄せてくる。干瀬の頂上部へ打ち寄せては引く大波に乗って、魚

たちが干瀬の海草を食べに上がってくるのが見える。干瀬の頂上を海水が越えると海の水は堰を切ったように礁池部の方へ流れていく。こうして満ち潮は海岸部の干瀬や遠浅の干潟を海面下に沈め隠してく。

˞ピーンピン [˞piːmpiŋ] 【名】ひび (日々)。毎日。˞ピントゥルピン [˞pinturupiŋ](日々。毎日)、˞ヒービー [˞çiːbiː](日々) ともいう。˞ピーンピン˜ パ˞タ˜キ ˞カイ˜スンティ ˞アウ˜リ ˞シーベー [˞piːmpim˜ pḁ˞ta˜ki ˞kai˜sunti ˞ʔau˜ri ˞ʃiːbeː](毎日畑を耕すのに苦労 < 哀れ > している)。

ピ˞カイ [pi̥˞kai] 【名】控え。備忘のために書き留めておくこと。ティ˞ガミ˜ヌ ピ˞カイヤー˜ ウ˞ツァ˜シ シ˞キバ˜ル マ˞シ [ti˞gami˜nu pi̥˞kaijaː˜ ʔu˞tsa˜ʃi ʃi̥˞kiba˜ru ma˞ʃi](手紙の控えは写しておいた方が良い)。

ピ˞カイズー [pi̥˞kaidʑuː] 【名】控え所。楽屋。結願祭では奉納芸が行われる張り出し舞台の裏にあるウ˞ブ˜ヤー [ʔu˞bu˜jaː](本殿) を出演者の準備場所 < 楽屋。控え所 > とした。ブ˞ドゥル キョンギン˜ヌ シ˞タコー˜ ピ˞カイズー˜ナーティ ˞ソーッ˜タ [bu˞duru kjoŋgin˜nu ʃi̥˞tako:˜ pi̥˞kaidʑuː˜naːtiru ˞soːt˜ta](踊りや狂言 < 村芝居 > の準備 < 支度 > は控え所 < 楽屋 > でなされた)。

ピ˞カイルン [pi̥˞kairuŋ] 【他動】1やめる。遠慮する。「控える」の義。タ˞バ˜クン サ˞キン˜ ピ˞カイルンティ スンドゥ˜ ピ˞カイララヌ [ta˞ba˜kun sḁ˞kim˜ pi̥˞kairunti sundu˜ pi̥˞kairaranu](タバコも酒もやめよう < 控えよう > とするがやめられない)。タ˞バ˜コー ピ˞カイ ッふィーリ [ta˞ba˜ko: pi̥˞kai ffiːri](タバコは控えてくれ)。ピ˞カイル˜ クトー ナ˞ラ˜ヌ [pi̥˞kairu˜ kṵto: na˞ra˜nu](やめる < 控える > ことは出来ない)。ン˞メーマー˜ ピ˞カイレー˜ ミサムヌ [ʔm˞meːmaː˜ pi̥˞kaireː˜ misamunu](少しは控えれ < 遠慮すれ > ばいいのに)。˞キュー˜ヤー ピ˞カイリ [˞kjuː˜jaː pi̥˞kairi](今日はやめ < 控え > ろ)。2待機する。˞ワー バン˜ヌ ˜クーンケンマー ˜クナー ピ˞カイ ベー˜リ [˞waː ban˜nu ˜kuːŋkemmaː ˜kunaː pi̥˞kai beː˜ri](君の番が来るまではここで待機しておれ)。3後々のために記録する。˞テー˜ナイ ˞シン オー˜リ ッ˞ふォー˜レー プ˞ソー˜ ムー˞ル˜ ピ˞カイ˜ シ˞キ˜リ [˞teː˜nai ˞ʃiŋ ʔoː˜ri f˞foː˜reː pṵ˞soː˜ muː˞ru˜ pi̥˞kai˜ ʃi̥˞ki˜ri](手伝いに来て下さった人は全部記録して < 控えて > おきなさい)。

ピ˞カウン [pi̥˞kauŋ] 【他動】1控える。やめる。待機する。後々のために記録する。「ひかふ (下二段活用)」の四段活用化したもの。タ˞バ˜コー ピ˞カウンティ˜ ウ˞ムーン˜ドゥ ムッ˞トゥ˜ ピ˞カーラヌ [ta˞ba˜koː pi̥˞kaunti˜ ʔu˞muːn˜du mut˞tu˜ pi̥˞kaːranu](タバコは止めようと思うが、ちっとも止められない)。ン˞ベーマー˜ ピ˞カイ˜ ミリ [ʔm˞beːmaː˜ pi̥˞kai˜ miri](少しは控えてみよ)。ピ˞カウ˜クトー ナ˞ラ˜ヌ [pi̥˞kau˜ kṵto: na˞ra˜nu](控えることは出来ない)。ピ˞カイヤー˜ ミサムヌ [pi̥˞kaijaː˜ misamunu](控えればいいのに)。ピ˞カイ˜バ [pi̥˞kai˜ba](控えよ)。2待機する。˜クナー ピ˞カイ ベー˜リ [˜kunaː pi̥˞kai beː˜ri](ここに待機しておれ)。3後々のために記録する。˞チョーミン˜ナー ピ˞カイ˜ シ˞キ˜リ [˞tʃoːmin˜naː pi̥˞kai˜ ʃi̥˞ki˜ri](帳面に記録して < 控えて > おけ)。

ピ˞カサリン [pi̥˞kasariŋ] 【自動】愛情にひかされる。ほだされ (絆され) る。ッ˞ふァン˜ ピ˞カサリティル˜ マー˞ン˜ パ˞リユーサ˜ヌ [f˞fam˜ pi̥˞kasaritiru˜ maː˞m˜ pa˞rijuːsa˜nu](子供にひかされて何処へも行けないでいる)。ッ˞ふァン˜ ピ˞カサリン˜カヤーティ ウ˞ムータ˜ヌ ˜メー ピ˞カサラヌ [f˞fam˜ pi̥˞kasariŋ˜kajaːti ʔu˞muːta˜nu ˜meː pi̥˞kasaranu](子供に引かされるかと思ったが、もう、ひかされない)。ピ˞カサリヤッ˜サン [pi̥˞kasarijas˜saŋ](ひかされやすい)。ピ˞カサリル˜ クトゥン ˜アン [pi̥˞kasariru˜ kṵtuŋ ˜ʔaŋ](ひかされる事もある)。ピ˞カサレー˜ ミサムヌ [pi̥˞kasareː˜ misamunu](ひかされれば良いのに)。ッ˞ふァヌ˜ キムナー ピ˞カサリリ [f˞fanu˜ kimunaː pi̥˞kasariri](子を思う情にほだされろ)。

ピ˞カスン [pi̥˞kasuŋ] 【他動】引かせる。牽(ヒ)かせる。牛馬に犂(スキ)を引かせて耕す。ウ˞シン˜ ヤマ ピ˞カスンティ スンドゥ˜ ピ˞カサラヌ [ʔu˞ʃiŋ˜ jama pi̥˞kasunti sundu˜ pi̥˞kasaranu](牛に犂を牽かせて耕そうとするが、牽かされない)。ウ˞シン˜ ピ˞カシティ カイ˜シバ [ʔu˞ʃim˜ pi̥˞kaʃi̥ti kai˜ʃiba](牛に引かせて耕しなさいよ)。˜ピラ ピ˞カス˜ ピンマー˜クラ カ˞キ˜リ [˜pira pi̥˞kasu˜ pimmaː ˜kura kḁ˞ki˜ri](犂を牽かせる時は鞍を掛けなさい)。

ピ˞カラ˜スン [pi̥˞kara˜suŋ] 【他動】光らせる。磨いて光らせる。輝かせる。˞ミーカンガン˜バ ˞ウンヌ˜パー ˞ムーミ˜ ッシティ ピ˞カラ˜スンティ ˞ベーン˜ドゥ ピ˞カラサラ˜ヌ [˞miːkaŋgam˜ba ˞ʔunnu˜paː ˞muːmi˜ ʃʃiti pi̥˞kara˜sunti ˞beːn˜du pi̥˞karasara

˥nu](水中眼鏡を芋の葉を揉んで擦って光らせようとしているが、光らされない)。ピ˞カラ˥シ　˥ミサカー　ピ˞カラ˥ス　˥クトー　˥ナルン [pi̥˞kara˥ʃi ˥misaka: pi̥˞kara˥su ˥ku̥to: ˥naruŋ](光らせてよければ光らすことはできる)。ピ˞カラ˥シェー　˥ミサムヌ [pi̥˞kara˥ʃe: ˥misamunu](光らせばいいのに)。˞マー˥ビン　ピ˞カラ˥シバ [˞ma:˥bim pi̥˞kara˥ʃiba](もっと光らせよ)。

ピ˞カラピカラ˥シ [pi̥˞karapikara˥ʃi] 【副】ぴかぴかと。光り輝くさま。擬態語。˞デンキ˥ヌ　シ˞カリ˥タ　カ˞ジヌ˥　フ˞カ˥バン　˥ヤドー　ア˞キラリスンダ　ヤー˥ヌ　˥ナカー　ピ˞カラピカラ˥シ　ガ˞リティ˥　イ˞カムス˥ク　サ˞ニ˥ヤワ˞ツォー [˞deŋki˥nu ʃi̥˞kari˥ta ka˞ʤinu˥ ɸu̥˞ka˥baŋ ˥jado: ʔa˞kirarisunda ja: ˥nu ˥naka: pi̥˞karapikara˥ʃi ga˞riti˥ ʔi˞kamusu̥˥ku sa˞ni˥jawa˞tso:](電気が点いたので風が吹いても戸は開けられるから、家の中はぴかぴかと光り輝いて、なんと嬉しいことか＜どんなにうれしい事か＞よ)。

ピ˞カ˥リ [pi̥˞ka˥ri] 【名】光。老年層は、ガ˞ル [ga˞ru](明かり) ともいう。プ˞シ˥ヌ　ピ˞カリ˥ヌ (ガ˞ルヌ˥) ミ˞ラ˥リン [pu̥˞ʃi˥nu pi̥˞kari˥nu(ga˞runu˥)mi˞ra˥riŋ](星の光が見える)。˞ジンジンバーヤー˥ヌ　ピ˞カリ˥ヌ　˞カイ˥ヤワ˞ナー [˞ʤinʤimba:ja:˥nu pi̥˞kari˥nu ˞kai˥jawa˞na:](蛍の光が美しいよねえ)。

ピ˞カ˥ルン [pi̥˞ka˥ruŋ] 【自動】光る。˞フンツァヌ˥　ピ˞カ˥ルンケン　ッ˞スリ　トゥーシル　ブンドゥ˥　ピ˞カラン˥バン [˞ɸuntsanu˥ pi̥˞ka˥ruŋken s˞suri tu:ʃiru bundu˥ pi̥˞karam˥baŋ](床板が光るまで拭き続けて＜通して＞いるが、光らないわい)。ピ˞カ˥リ　˞ベー˥ン [pi̥˞ka˥ri ˞be:˥ŋ](光っている)。ピ˞カ˥ル　˥ムノー　˞マー˥ビン　ピ˞カ˥レー　˥ミサムヌ [pi̥˞ka˥ru ˥muno: ˞ma:˥bim pi̥˞ka˥re: ˥misamunu](光るものはもっと光ればいいのに)。ピ˞カリ˥リ [pi̥˞kari˥ri](光れ)。˥ミー　ピ˞カ˥ルン [˥mi: pi̥˞ka˥ruŋ](目を剥く＜光らせる＞。叱る。怒る)。

ビ˞キ [bi˞ki] 【接頭】雄の意味を表す。動物や植物、物の名に上接する。ビ˞キウシ [bi˞kiʔuʃi](雄牛)。ビキオー [bi˞kiʔo:](雄豚)。ビ˞キイン [bi˞kiʔiŋ](雄犬)。ビ˞キマヤ [bi˞kimaja](雄猫)。ビ˞キドゥル [bi˞kiduru](雄鶏)。ビ˞キムヌ [bi˞kimunu](雄。雄もの)。ビ˞キキー [bi˞kiki:](雄木)。ビ˞キケージ [bi˞kikeːʤi](マルバチシャノキ)。ビ˞キカーラ [bi˞kika:ra](雄瓦)。ビ˞キウシェー˥　ズ˞ブ˥マイジブンマー　˞ミー˥ウシェーミ˞シララ˥ヌ [bi˞kiʔuʃe:˥ ʤu˞bu˥maiʤibumma: ˞mi: ˥ʔuʃe: mi˞ʃirara˥nu](雄牛は、発情期には牝牛を見せられない)。

ビ˞キ [bi˞ki] 【助動】～べき (当然。義務) の意味をあらわす。動詞の連用形や連体形につく。不変化助動詞。ク˞レー　ワー　シービキ [ku˞re: wa: ʃi:biki](これは君がすべきだ)。マ˞ナ˥マーパ˞ナ˥ス　ビ˞ケー˥　ア˞ラ˥ヌ [ma˞na˥ma: pa˞na˥su bi˞ke:˥ ʔa˞ra˥nu](今は話すべきではない)。˥バー　˞シービケー˥　ア˞ラ˥ヌ [˥ba: ˞ʃi:bike:˥ ʔa˞ra˥nu](これは私がすべきではない)。

ピ˞キ [pi̥˞ki] 【名】さおばかり (棹秤。竿秤(サオバカリ))。一貫 (3,75 キログラム) 以下のものを量るのにのに用いる竿秤。それ以上の重量は、˞タイトー [˞taito:] という大きな秤で計量する。生きた豚などは˞タイトー [˞taito:] で計量した。イ˞ゾー˥　ナンギン　カ˞カ˥ルユー　ピ˞キ˥シ　˥カキ　パ˞カ˥リ˞ミー [ʔi˞ʤo: ˥naŋgiŋ kḁ˞ka˥ruju: pi̥˞ki˥ʃi ˥kḁki pḁ˞ka˥ri˞mi:](魚は何斤かかるか、秤で量ってごらん)。

ピ˞キ [pi̥˞ki] 【名】 1血統。親族の系譜や系統を表す語。「引き」の義か。マ˞ガ˥ラピキ [ma˞ga˥rapi̥ki](父方の血を引く親族) と˞インビ˥キ [˞ʔimbi˥ki](縁のある親族。姻戚関係のある親族) がある。˞プール˥ナー　ピ˞ナイウガン˥ヌ　ピ˞ケー˥　ムー˞ル˥　ア˞ツァ˥マリティル　˞ニン˥ガイ　˞オーッ˥タ [˞pu:ru ˥na: pi˞nai?ugan˥nu pi̥˞ke:˥ mu:˞ru˥ ʔa˞tsa˥maritiru ˞niŋ˥gai ʔo:t˥ta](豊年祭にはピナイ御嶽の縁故の人が皆集まって祈願された)。˞ウン˥ネートー　マ˞ガ˥ラピキ　ア˞タリブンダ　ソッコー˥ムノー　˞バシキルナ˥ヨー [˞ʔun˥ne:to: ma˞ga˥rapiki ʔa˞taribunda sokko:˥muno: ˞baʃi̥kiruna˥jo:](あの家とはマガラピキに当っているので法事の供物＜焼香もの。˞コー˥パナ [˞ko:˥pana]＞は忘れるなよ)。2縁故。つて。てづる。ウ˞ヌ　プスヌ˥　ピ˞キ˥シル　ヤ˞ク˥バー　˞ペーラリ˥タ [ʔu˞nu˥ pu̥˞sunu˥ pi̥˞ki˥ʃiru ja˞ku˥ba: ˞pe:rari˥ta](あの＜その＞人の縁故で役場に入れた)。

ピ˞キ [pi̥˞ki] 【名】 (動) 魚の名。和名、ミスジリュウキュウスズメ。体長約 10 センチの熱帯魚。頭部と腹部、尾部に黒と白の縦縞模様がある。鳩間島では漁獲しなかった。ヒ˞カー˥グゥー [çi̥˞ka:˥gwa:](小心者の魚) ともいう。

ピ˞キアウン [pi̥˞kiauŋ] 【自動】引き合う。双方が釣り合う。「Fiqiai,o-,o-ta. ひきあい、ワゥ、ワゥタ (引き合ひ、ふ、うた)～荷物が双方同じだけの重さがある.～」『邦訳日葡辞書』。若年層は、ヒ˞キアウ

ン [çi̥˞kiauŋ](引き合う) ともいう。ウ˞ヌ　ダイ˥シ　ピ˞キアウン˥カヤーティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　ピ˞キアーン˥ティバーヤ [ʔu˞nu daiˀ˥ʃi pi̥˞kiʔauŋˀkaja:ti ʔu˞mu:taˀnu pi̥˞kiʔa:nˀtiba:ja](その値段で引き合うかと思ったが、引き合わないそうだよ)。˞ナンギ˥トゥ　ピ˞キアイバル˥　シ˞グトー˥　シ˞ラリンダ˥　ピ˞キアウ˥　シ˞グトゥ˥　トゥミ　˥クー [˞naŋgiˀtu pi̥˞kiʔaibaru˥ ʃi˞guto:˥ ʃi˞rarinda˥ pi̥˞kiʔau˥ ʃi˞gutu˥ tumi ˥ku:](難儀苦労と引き合えばこそ仕事はすることが出来るのだから、引き合う仕事を探してこい)。

ピ˞キアギルン [pi̥˞kiʔagiruŋ] 【他動】引き揚げる。目をかけて挙げ用いる。老年層は、ピ˞キアイルン [pi̥˞kiʔairuŋ](引きあげる) ともいう。˞アン˥カー (カ˞ラグ˥) ピ˞キアギルンティ　スンドゥ　タンガ˥シェー　ピ˞キアギララヌ [˞ʔaŋˀka:(ka˞raguˀ)pi̥˞kiagirunti sundu taŋgaˀ˥ʃe: pi̥˞kiʔagiraranu](錨 < 金具。錨 > を引き揚げようとするが、一人では引き揚げられない)。˥フネーラ　˞ニー˥ヤ　ピ˞キアギティ　ナーラビ˥　シキバ [˥ɸune:ra ˞ni:˥ja pi̥˞kiʔagiti na:rabi˥ ʃi̥kiba](船から荷物を引き揚げて並べて置きなさい)。˞バン˥マー　ピ˞キアギル˥　クトー　ナ˞ラヌ˥ヌ　ピ˞キアギレー˥　ミサムヌテー　ウ˞モー˥リン [˞bam˥ma: pi̥˞kiʔagiru˥ kʉto: na˞ranuˀnu pi̥˞kiʔagire:˥ misamunute: ʔu˞mo:˥riŋ](私には、引き揚げることは出来ないが、引き揚げれば良いのにとは思える)。ピ˞キアギリ [pi̥˞kiʔagiri](引き揚げろ)。シゥ˞カイ˥　ミリティ　˞ダーッ˥サンギサカー　ピ˞キアギルンティ˥　ウムイ　˞ベー [si̥˞kai˥ miriti ˞da:s˥saŋgisaka: pi̥˞kiʔagirunti˥ ʔumui ˞be:](使ってみて、良いようだったら上へ引き揚げようと思っている)。

ピ˞キアングン [pi̥˞kiʔaŋguŋ] 【他動】引き揚げる。カ˞ジヌ˥　フ˞カン˥ケン　˥フネー　ピ˞キアンギティ˥　カ˞キン˥グ　˞スンティ˥　ウムイ　˞ベーン˥ドゥ　ピ˞キアンガラヌ [ka˞ʤinuˀ ɸʉ˞kaŋˀkeŋ ˥ɸune: pi̥˞kiʔaŋgitiˀ kʉ˞kiŋˀgu ˞suntiˀ ʔumui ˞be:nˀdu pi̥˞kiaŋgaranu](台風が来ない < 風が吹かない > うちに舟を引き揚げて保護 < 格護 > しようと思っているが、引き揚げられない)。ピ˞キアングンティ˥　ウムーカー　プ˞ス˥　タ˞ナ˥ミ　˞キーバ˥ル　˥フネー　ピ˞キアング˥　クトー　˥ナル [pi̥˞kiaŋguntiˀ ʔumu:ka: pʉ˞suˀ ta˞naˀmi ˞ki:ba˞ru ˥ɸune: pi̥˞kiaŋgu˥ kʉto: ˥naru](引き揚げようと思うなら人を頼んでくればこそ舟は引き揚げることができるのだ)。ピ˞キアンゲー˥　ミサムヌ [pi̥˞kiaŋge:˥ misamunu](引き揚げればいいのに)。˞パー˥ク　ピ˞キアンギ˥バ [˞pa:˥ku pi̥˞kiaŋgiˀba](早く引き揚げなさいよ)。

ピ˞キウキ˥ルン [pi̥˞kiʔukiˀruŋ] 【他動】引き受ける。ヒ˞キウキ˥ルン [çi̥˞kiʔukiˀruŋ](引き受ける) ともいう。ウ˞ヤ˥ヌ　˞ミンドー˥ヤ　˥バー　ピ˞キウキ˥ルン [ʔu˞jaˀnu ˞mindo:˥ja ˥ba: pi̥˞kiʔukiˀruŋ](親の面倒は私が引き受ける)。ピ˞キウキララ˥ン　˥クトー　˞ナー˥ヌ [pi̥˞kiʔukirara˥ŋ ˥kʉto: ˞na:˥nu](引き受けられないことはない)。˞タンガ˥シ　ピ˞キ˥ウキティッ˞ス˥フキ　˞ベー [t˞aŋgaˀ˥ʃi pi̥˞kiˀ˥ʔukiti s˞suˀɸʉki ˞be:](一人で引き受けて苦労して < 脱糞して > いる)。ピ˞キウキ˥ル　˥クトー　ナ˞ラ˥ヌ [pi̥˞kiʔukiˀru˥kʉto: na˞raˀnu](引き受けることは出来ない)。ピ˞キウキ˥レー　˥ミサムヌ [pi̥˞kiʔukiˀre: ˥misamunu](引き受ければいいのに)。ピ˞キウキ˥リ [pi̥˞kiʔukiˀri](引き受けろ)。

ビ˞キウシ [bi˞kiuʃi] 【名】雄牛。˥グトゥイ [˥guti](雄牛。体力のある大きな雄牛) ともいう。ビ˞キウシェー˥　ズ˞ブ˥マイ　˞スー˥カー　˞ミー˥ウシ　ミ˞シララ˥ヌ [bi˞kiʔuʃe:˥ ʤu˞buˀmai ˞su:˥ka: ˞mi:˥ʔuʃi mi˞ʃirara˥nu](雄牛は発情期になると牝牛を見せられない。< 暴れる >)。

ピ˞キウシ [pi̥˞kiʔuʃi] 【名】碾(ヒ)き臼。もみすり (籾摺り) 臼に限って言う。麦、豆、米などを粉に挽く石臼は、イ˞ソーシ [ʔi˞so:ʃi](石臼) という。籾摺り臼は松や樫の大木の幹部を利用して造った。籾から籾殻を除去して玄米にするために用いる臼。上段 (約 70 センチ) と下段 (約 40 センチ) より構成される。下段は山形の台座で中央に軸棒があり、それを上段に貫き通す。上段の下部は台座の山形に重なるように刳(ク)られ、中央部には直径約 10 センチの穴が開けられて台座の軸棒を通す仕掛けになっている。上段の頭部は籾を入れるための椀型の穴が掘られ、軸棒を通す腕木が付けられて回転軸の揺れを防ぐようになっている。上段と下段の接合部は鑿で歯がたてられており、すり合せることによって籾殻が摺り落とされる仕組みになっている。上段の両外側には本体を刳って耳を作り、それに約 2 メートルの縄を通して両手に交叉させて持ち、碾き臼を中に置いて相対した二人が交互に縄を引いて臼を回転させ、籾摺りをする仕組みになっている。通常は˥ニ˞ブ˥ク [ni˞buˀku](藁で編んだ敷物。いなばきむしろ < 稲掃筵 >) の上に碾き臼を置いて籾摺りをした。多くの場合、碾き臼を挟んで女性が

両側に対座し、縄を交互に引き合って籾摺りをした。人手の足りない時は、母親は息子や娘を対座させて一緒に縄を引かせ、その引く力をみて子供の成長を楽しんだりした。ピ˞キウシ˥シ　˞マイヤー˥　ピ˞キティ˥　ウ˞リバ˥　ッサイティル　˞イー˥ヤ　バ˞カソーッ˥タ [pi̥˞kiʔuʃi˥ʃi ˞maija:˥ pi̥˞kiti˥ ʔu˞riba˥ ssaitiru ˞ʔi:˥ja ba˞kaso:t˥ta](碾き臼で籾摺りをして < 米を挽いて >、それを精げてご飯を炊かれた)。

ピ˞キウラ˥スン [pi̥˞kiʔura˥suŋ] 【他動】引き下ろす。ヤ˞マー˥ラ　˥キー　ピ˞キウラ˥スンティ　シ˞タンドゥ˥　ピ˞キウラサラン˥シェン [ja˞ma:˥ra ˥ki: pi̥˞kiʔura˥sunti ʃi̥˞tandu˥ pi̥˞kiʔurasaraŋ˥ʃeŋ](山から材木を引き下ろそうとしたが、引き下ろされなかった)。˞キー˥ヤ　ピ˞キウラシ˥ティ　˞サンギ˥クー [˞ki:˥ja pi̥˞kiʔuraʃi̥˥ti ˞saŋgi˥ ku:](木は引き下ろして、引張ってこい)。ピ˞キウラ˥ス　˥ピンマー　˞カーラヌ˥　ナ˞カー˥　ピ˞キウラ˥シェー　˥ミサムヌ [pi̥˞kiʔura˥su ˥pimma: ˞ka:ranu˥ na˞ka:˥ pi̥˞kiʔura˥ʃe: ˥misamunu](引き下ろす時は川の中へ引き下ろせばいいのに)。˥キューズーナ　ピ˞キウラ˥シ [˞kju:ʤu:na pi̥˞kiʔura˥ʃi](今日中に引き下ろせ)。

ビ˞キガー˥ラ [bi˞kiga:˥ra] 【名】おがわら (牡瓦)。老年層は˞ウーガー˥ラ [˞ʔu:ga:˥ra](牡瓦) という。「牡瓦、乎加波良 (をかはら)」『和名抄』の義。˞ミーガー˥ラ [˞mi:ga:˥ra](牝瓦) の対義語。牝瓦を並べて、その列間に土を盛って被せる瓦。˞ミーガーラ˥ヌ　˞ウイ˥ナー　ビ˞キカーラ˥　カ˞バ˥シティ　フ˞キ˥バ [˞mi:ga:ra˥nu ˞ʔui˥na: bi˞kika:ra˥ ka˞ba˥ʃi̥ti ɸu̥˞ki˥ba](牝瓦の上に牡瓦を被せて葺きなさい)。

ピ˞キカイ [pi̥˞kikai] 【名】二の膳。「引き換(カ)え」の義か。仏前や神前に供えた供物の膳を下げて、二の膳を供えること。ア˞サカイ [ʔa˞sakai](朝粥) を供えた後のピ˞キカイ [pi̥˞kikai](二の膳) は、˥サリ [˞sari](巾約 2 センチ、厚さ約 1 センチ、長さ約 10 センチに切った白豆腐。「舎利」の義) を三切れずつ、小皿に入れたものを一対供える。ピ˞キカイヤー˥　サリ　˞ミーキシナー˥　イ˞リティ　イッ˥チー　ス˞コーッ˥タ [pi̥˞kikaija:˥ sari ˞mi:kiʃina:˥ ʔi˞riti ʔit˥tʃi: su̥˞ko:t˥ta](二の膳は、サリを三切れずつ小皿に入れたもの一対を供えられた)。

ピ˞キカイスン [pi̥˞kikaisuŋ] 【自動】引き返す。ピ˞キッカイスン [pi̥˞kikkaisuŋ](引き返す < 強調表現 >) ともいう。カ˞ジヌ　スー˥リ　˞ナン˥ヌ　˥ンジ　˞クー˥ター　ピ˞キカイスンティ˥　シ˞タンドゥ˥　ピ˞キカイサランシェン [ka˞ʤinu su:˥ri ˞nan˥nu ˥ʔnʤi ˞ku:˥ta: pi̥˞kikaisunti˥ ʃi̥˞tandu˥ pi̥˞kikaisaraŋʃeŋ](風が強くなって、大波が出てきたので引き返そうとしたが、引き返されなかった)。ピ˞キカイシ˥　ミサカー　ピ˞キカイス˥　クトー　ナ˞リ˥シバ　˞パー˥ク　ピ˞キカイシ [pi̥˞kikaiʃi˥ misaka: pi̥˞kikaisu˥ ku̥to: na˞ri˥ʃiba ˞pa:˥ku pi̥˞kikaiʃi](引き返してよければ引き返すことは出来るから、早く引き返せ)。マ˞ナ˥マ　ピ˞キカイシェー˥　ミサムヌ [ma˞na˥ma pi̥˞kikaiʃe:˥ misamunu](今引き返せばいいのに)。

ピ˞キカウ [pi̥˞kikau] 【名】供物下げの線香。「引き香」の義。法事などの際に、仏前に供えた供物を下げるために焚く線香。ピ˞キカウヤー˥< ピ˞キカウワー˥>　タティテーラ　˞ティー˥ヤ　ウ˞サーシティ　ジン˥　ピ˞キ˥バ [pi̥˞kikauja:˥ < pi˞kikauwa:˥ > tą̥tite:ra ˞ti:˥ja ʔu˞sa:ʃiti ʤim˥ pi̥˞ki˥ba](供物下げの線香は立ててから合掌して、お膳を引き < 下げ > なさい)。

ピ˞キカタミ˥ルン [pi̥˞kikatami˥ruŋ] 【他動】引っ担ぐ。「担ぐ」に強意強調の接頭語ピ˞キ [pi̥˞ki](引き) が˞カタミ˥ルン [kḁ˞tami˥ruŋ](担ぐ) に上接して形成された合成語。

ピ˞キカタ˥ムン [pi̥˞kikatamuŋ] 【他動】引っ担ぐ。グ˞チ˥ホーニ　ピ˞キカタムンティ　スンダル˥　ドゥー　ヤ˞マ˥スンダ　˥アイニ　ピ˞キカタマン˥　ブ˞リ˥バ [gu˞ʧi˥ho:ni pi̥˞kikatamunti sundaru˥ du: ja˞ma˥sunda ˥ʔaini pi̥˞kikatamam˥ bu˞ri˥ba](無鉄砲に引っ担ごうとするから体を痛めるのだから、あんあに引っ担ぐなよ)。ピ˞キカタミティ　パッ˥タヤー [pi̥˞kikatamiti pat˥taja:](引っ担いでいったよ)。˞バン˥マー　ピ˞キカタム˥　クトー　ナ˞ラ˥ヌ [˞bam ˥ma: pi̥˞kikatamu˥ ku̥to: na˞ra˥nu](私には引っ担ぐことは出来ない)。ピ˞キカタメー˥　ミサムヌ [pi̥˞kikatame:˥ misamunu](引っ担げば良いのに)。ウ˞ヌ˥　ア˞タ˥ロー　ピ˞キカタミ˥バ [ʔu˞nu˥ ʔa˞ta˥ro: pi̥˞kikatami˥ba](あの程度は引っ担げよ)。

ビ˞キキー [bi˞kiki:] 【名】おぎ (男木。雄木)。雄の木。雄花だけを咲かせる木。˞ミー˥キー [˞mi:˥ki:](雌木) の対義語。ビ˞キケージ [bi˞kike:ʤi](雄のマルバチシャノキ)。ビ˞キマンズイ [bi˞kimanʤui](雄のパパイヤ)。ビ˞キマンズイ˥ナー　˥ナロー　ナ˞ラ˥ヌ [bi˞kimanʤui˥na: ˥naro: na˞ra˥nu](雄のパパイヤには実はつか < 生ら > ない)。

ピ˞キキスン [pi̥˞kikisuŋ] 【他動】引き切る。ひっ切る。「切る」の強調表現。ク˞ヌ˥　シナー　ピ˞キキ

スンティ　スンドゥ˥　ピ˞キキサラヌ [ku˞nu˥ ʃinaː pi̥˞kikisunti sundu˥ pi̥˞kikisaranu](この綱は引き切ろうとするが、引き切られない)。ピ˞キキシ˥　ミサカー　ピ˞キキス˥　クトー　˥ナルン [pi̥˞kikiʃi˥ misakaː pi̥˞kikisu˥ ku̥toː ˥naruŋ](引き切って良ければ引き切ることは出来る)。ピ˞キキシェー˥　ミサムヌ [pi̥˞kikiʃeː˥ misamunu](引き切れば良いのに)。˞パー˥ク　ピ˞キキシ˥バ [˞paː˥ku pi̥˞kikiʃi˥ba](早く引き切れよ)。

ピ˞キクー [pi̥˞kikuː] 【名】水に漬けた糯米を石臼で水挽きし、メリケン袋に入れて水分を切って造った餅用の澱粉。「挽き粉」の義。バ˞リクー [ba˞rikuː](割り粉) の対義語。バ˞リクー [ba˞rikuː](割り粉。水に浸けた粳米を水切りし、臼で細かく搗いて造った粉) は煮た餅を成形する際にまぶし (塗し) て粘着するのを防ぐのに用いる。ピ˞キクー˥シル　ム˞チェー˥　ス˞クル˥タ [pi̥˞kikuː˥ʃiru mu˞tʃeː˥ su̥˞kuru˥ta](挽き粉で餅は造った)。

ピ˞キクマルン [pi̥˞kikumaruŋ] 【自動】 1引き籠る。ひっこもる。ピ˞キックマルン [pi̥˞kikkumaruŋ](引きこもる) ともいう。ア˞ガニチェー　ピングラ˥スカー　ピ˞キクマ˥ルント ダー　ピ˞キクマラサンドー˥シ　˥ドゥー　ア˞ツァ˥シ　トゥ˞クットゥ˥シ　ニ˞バシ [ʔa˞ganitʃeː piŋgura˥su̥ka: pi̥˞kikuma˥runꜜda: pi̥˞kikumarasando:˥ʃi ˥duː ʔa˞tsa˥ʃi tu̥˞kuttu˥ʃi ni˞baʃi](風疹 < 三日ハシカ > は体を冷やすと熱が内に引きこもるから、引きこもらさないように体を温めて静かに寝かせなさい)。˥ニチェー　ピ˞キクマリティ˥　サ˞マラ˥ヌ [˥nitʃeː pi̥˞kikumariti˥ sa˞mara˥nu](熱は引きこもって下がらない)。˥ニチェー　マ˞ナ˥マー　ピ˞キクマル˥　クトー　˞ナーヌ˥ヌ　ピ˞キクマレー˥ラー　˞デー˥ジ˞ダー [˥nitʃeː ma˞na˥maː pi̥˞kikumaru˥ ku̥toː ˞naːnu˥nu pi̥˞kikumareː˥raː ˞deː˥ʤi˞daː](熱は、今は引きこもることはないが、引きこもったら大変だよ)。2閉じこもる。ウ˞レー　ヤー˥ナー　ピ˞キクマリティ˥　ノー˞ン˥　サ˞ヌ [ʔu˞reː jaː˥na: pi̥˞kikumariti˥ noː˞n˥ sa˞nu](彼は家に閉じこもって何もしない)。

ピ˞キコースン [pi̥˞kikoːsuŋ] 【他動】引き抜く。地中のもの根こそぎにする。「引き刮(コソ)ぐ」の転訛したものか。ピ˞キンコースン [pi̥˞kiʔŋkoːsuŋ](引き抜く。引き刮げる。根こそぎにする) ともいう。パ˞タキ˥ヌ　˥ッサー　ピ˞キンコーシ˥　トゥリ [pḁ˞taki˥nu˥ssa: pi̥˞kiʔŋkoːʃi˥ turi](畑の雑草は根こそぎ < 引き抜いて > 取れ) ともいう。

ピ˞キサールン [pi̥˞kisaːruŋ] 【他動】1注ぎ尽くす。接頭語のピ˞キ [pi̥˞ki](引き) と˞サールン [˞saːruŋ](液体を容器から注ぎ尽くす。流し尽くす) の合成語。˞スッカー˥ヌ　˞サー˥ヤ　ピ˞キサーリティ˥　シ˞キバ˥ル　˞サー˥ヤ　ン˞マー [˞sukkaː˥nu ˞saː˥ja pi̥˞kisaːriti˥ ʃi̥˞kiba˥ru ˞saː˥ja ʔm˞maː](急須の茶は注ぎ尽くしておく方が茶は美味しい)。ピ˞キサール˥　クトー　ピ˞キサールンドゥ˥　ドゥク　ピ˞キサーラン˥　ブ˞レー˥　ミサムヌ [pi̥˞kisaːru˥ ku̥toː pi̥˞kisaːrundu˥ duku pi̥˞kisaːram˥ bu˞reː˥ misamunu](注ぎ尽くすことは注ぎ尽くすが、完全に注ぎ尽くさないでおれば < おけば > いいのに)。ピ˞キサーレー˥　ミサムヌ [pi̥˞kisaːreː˥ misamunu](注ぎ尽くせばいいのに)。˞サー˥ヤ　ピ˞キサーリ˥バ [˞saː˥ja pi̥˞kisaːri˥ba](茶は注ぎ尽くしなさいよ)。2下痢などでげっそり痩せ細る。˞ベー˥カー　シ˞ティル˥　アイニ　ピ˞キサーラリ　ベー [˞beː˥ka: ʃi̥˞tiru˥ ʔaini pi̥˞kisaːrari beː](下痢や嘔吐をして < ぞ > あんなにげっそり痩せ細っているのだ)。

ピ˞キサイ˥ルン [pi̥˞kisai˥ruŋ] 【他動】引き下げる。引っさげる。吊り下げる。「よべ縫ひし御衣どもひきさげて、みづからもよろしき衣着かへて〜」『源氏物語 < 若紫 >』の転訛したものか。タカー˞タカー˥シ　ピ˞キサイルンティ　スンドゥ˥　ピ˞キサイララヌ [tą̥ka:˞taka:˥ʃi pi̥˞kisairunti sundu˥ pi̥˞kisairaranu](高く < 高々と > 引き下げようとするが、引き下げられない)。˥タコー　˥カターラ　ピ˞キサイティル　クー˥タ [˥tą̥koː ˥ką̥taːra pi̥˞kisaitiru kuː˥ta](< 漁獲した > 蛸は肩から引き下げて来た)。˞グッふァヌ　ピ˞キサイル˥　クトー　ナ˞ラ˥ヌ [˞guffa˥nu pi̥˞kisairu˥ ku̥toː na˞ra˥nu](重くて引き下げることは出来ない)。˥カナー　ピ˞キサイレー˥　ミサムヌ [˥kana: pi̥˞kisaireː˥ misamunu](あそこに引き下げれば良いのに)。˥ドゥーシ　ピ˞キサイ˥リ [˥duːʃi pi̥˞kisai˥ri](自分で引き下げよ < 吊り下げよ >)。

ピ˞キサウン [pi̥˞kisauŋ] 【他動】引き下げる。引っ提げる。「ひきさぐ < 下二段活用 >」の四段か活用化したもの。「よべ縫ひし御衣どもひきさげて〜」『源氏物語 < 若紫 >』の転訛したものか。ク˞レーンツァン˥　ピ˞キサイ˥　ムティパリバ [ku˞reːntsam˥ pi̥˞kisai˥ mutipariba](これでも引っ提げて持って行きなさい)。ピ˞キサウンティ　スンドゥ˥　ピ˞キサイララヌ [pi̥˞kisaunti sundu˥ pi̥˞kisairaranu](引っ提げようとするが、引っ提げられない)。ピ˞キサウ˥

クトー　ナ˞ラ˥ヌ [pi̥˞kisau˥ kṵto: na˞ra˥nu](引っ提げることは出来ない)。ピ˞キサイヤー˥　ミサムヌ [pi̥˞kisaija:˥ misamunu](引っ提げればいいのに)。ピ˞キサイ˥バ [pi̥˞kisai˥ba](引っ提げなさいよ)。

ピ˞キサクン [pi̥˞kisakuŋ] 【他動】引き裂く。˞ヌーヌ˥　ピ˞キサキ˥　ミサカー　ピ˞キサクンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　　ウ˞ムイツァー˥ヌ　ピ˞キサカラヌ [˞nu:nu˥ pi̥˞kisaki˥ misaka: pi̥˞kisakunti˥ ʔu˞mu:n˥du ʔu˞muitsa:˥nu pi̥˞kisakaranu](布を引き裂いて良ければ引き裂こうと思うが、惜しくて引き裂かれない)。マ˞ナ˥マー　ピ˞キサク˥　クトー　ナ˞ラヌ˥ヌ　˥ナルカー　ピ˞キサケー˥　ミサムヌ [ma˞na˥ma: pi̥˞kisaku˥ kṵto: na˞ranu˥nu ˥naruka: pi̥˞kisake:˥ misamunu](今は引き裂くことは出来ないが、出来れば引き裂けばいいのに)。˥クマーラ　ピ˞キサキ˥バ [˥kuma:ra pi̥˞kisaki˥ba](ここから引き裂きなさい)。

ピ˞キザシ [pi̥˞kiʤaʃi] 【名】引出し (抽斗)。ピ˞キザシナー˥ル　˥ヌーンクイン　イ˞リ˥　シケー [pi̥˞kiʤaʃina:˥ru ˥nu:ŋkuiŋ ʔi˞ri˥ ʃi̥ke:](引き出しに＜ぞ＞何もかも入れてある)。˥アボー　キン˥マー　˞タンシ˥ヌ　ピ˞キザシヌ˥　ナ˞カ˥ナ　イ˞リ˥シケー [˥ʔabo: ˞kim˥ma: ˞taŋʃi˥nu pi̥˞kiʤaʃinu˥ na˞ka˥na ʔi˞ri˥ʃi̥ke:](お母さんの着物は箪笥の引き出しの中に入れてある)。

ピ˞キザスン [pi̥˞kiʤasuŋ] 【他動】引き出す。ピ˞キンザスン [pi̥˞ki?nʤasuŋ](引き出す) は丁寧な言い方。˞ウシキクミ˥　シケー　ム˞ヌ˥バ　ピ˞キザスンティ　スンドゥ˥　ピ˞キザサラヌ [˞ʔuʃi̥kikumi˥ ʃi̥ke: mu˞nu˥ba pi̥˞kiʤasunti sundu˥ pi̥˞kiʤasaranu](押し込んであるものを引き出そうとするが、引き出されない)。カ˞サビ˥　シ˞ミ˥シケー　ナ˞カー˥ラ　ピ˞キザシ˥　ミサカー　ピ˞キザス˥　クトー　ナ˞リ˥シバ　ピ˞キザシ˥バ [kḁ˞sabi˥ ʃi˞mi˥ʃi̥ke: na˞ka:˥ra pi̥˞kiʤaʃi˥ misaka: pi̥˞kiʤasu˥ kṵto: na˞ri˥ʃiba pi̥˞kiʤaʃi˥ba](重ねて積んである中から引き出して良ければ、引き出すことは出来るから、引き出せよ)。˞マー˥ビン　ピ˞キザシェー˥　ミサムヌ [˞ma:˥bim pi̥˞kiʤaʃe:˥ misamunu](もっと引き出せばいいのに)。

ピ˞キ˥ザン [pi̥˞ki˥ʤaŋ] 【名】引き算。標準語からの借用語。˞ガッ˥コー　ン˞ザバ˥ル　ピ˞キ˥ザン　タ˞シザン˥マー　ナ˞ラウン˥ドゥ　ク˞ヌ　ッふァー˥　キサー˞ティ˥　ッ˞シル　ブー [˞gak˥ko: ʔn˞ʤaba˥ru pi̥˞ki˥ʤan ta˞ʃiʤam˥ma: na˞raun˥du ku˞nu˥ f˞fa:˥ kisa:˞ti˥ ʃ˞ʃiru bu:](入学してはじめて＜学校に出ればぞ＞引き算足し算は習うのだが、この子は既に知っているよ)。

ピ˞キサングン [pi̥˞kisaŋguŋ] 【他動】強く引張る。引きずる。引き連れる。˞クンザバ˥　ピ˞キサングンティ　スンドゥ˥　ピ˞キサンガラヌ [˞kunʤaba˥ pi̥˞kisaŋgunti sundu˥ pi̥˞kisaŋgaranu](こいつを引張ろうとするが引張られない)。ヤ˞ナクトゥ　スー˥カー　˞ズン˥サン　ピ˞キサンガリン˥ダー [ja˞nakṵtu su:˥ka: ˞ʤun˥sam pi̥˞kisaŋgarin˥da:](悪いことをすると巡査に引っ張られるぞ)。ウ˞シバ˥　ピ˞キサングンティ　スンドゥ　ピン˥バ　˞シー˥　ピ˞キサンガラヌ [ʔu˞ʃiba˥ pi̥˞kisaŋgunti sundu˥ pim˥ba ˞ʃi:˥ pi̥˞kisaŋgaranu](牛を引っ張り出そうとするが、反抗して＜言うことを聞かないで抵抗して＞引っ張りだされない)。ピ˞キサンギ˥　キー　˥ミサカー　ピ˞キサング˥　クトー　˥ナルン [pi̥˞kisaŋgi˥ ki: ˥misaka: pi̥˞kisaŋgu˥ kṵto: ˥naruŋ](引張ってよければ引張ることはできる)。ピ˞キサンゲー˥　ミサムヌ [pi̥˞kisaŋge:˥ misamunu](引張ればいいのに)。ピ˞キサンギ [pi̥˞kisaŋgi](引張れ)。

ピ˞キシーグ [pi̥˞kiʃi:gu] 【名】カツオ節を引き削る小刀。「ヒキ・サイグ (引き・鉏具(サイグ))」の転訛したものか。鰹節の筋目に沿って、前方から手前の方へ引きながら削る小刀。小刀の刃先分が円く、左側へ湾曲している。鰹節の湾曲した腹部を削るのに用いた。ピ˞キシーグ˥シ　˥クマンター　ピ˞ケー˥ティ　キ˞ジ˥バ [pi̥˞kiʃi:gu˥ʃi ˥kumanta: pi̥˞ke:˥ti ki˞ʤi˥ba](引き小刀でこちら側へ小刀を引きつけながら削りなさいよ)。

ピ˞キシキカー˥シキ [pi̥˞kiʃi̥kika:˥ʃi̥ki] 【副】強く引張るさま。突っ張るさま。引きつるさま。両手で掴んで引き延ばすように引張るさま。ク˞ヌ　キン˥マー　ピ˞キシキカー˥シキ　シ˞ティ˥　シ˞バー˥ヌ　キ˞サラヌ [ku˞nu kim˥ma: pi̥˞kiʃikika:˥ʃi̥ki ʃi̥˞ti˥ ʃi˞ba:˥nu ki̥˞saranu](この着物はあっちこっち引きつって狭くて着られない)。ピ˞キシキカー˥シキ　˞シェー˥ティ　˥キン　シ˞バンナクン˥ティル　˞ベー [pi̥˞kiʃi̥kika:˥ʃi̥ki ˞ʃe:˥ti ˥kiŋ ʃi˞bannakun˥tiru ˞be:](両手で掴んで、引き延ばすようにして着物のしわ＜皺＞をのばそうと＜つばなかそうと。茅花かそうと＞している)。

ビ˞キシキル [bi˞kiʃi̥kiru] 【名】(動) 雄ナマコ (海鼠)。ビ˞キシキルン˥　ッ˞ふァーリント ダー [bi˞kiʃi̥kiruŋ˥ f˞fa:rinト da:](雄ナマコも食べられるよ)。

ピ˞キシキルン [pi̥˞kiʃi̥kiruŋ] (1)【自動】引きつける。引きつる。痙攣する。˞パン˜ヌ　シ˞ジ˜ヌ　ピ˞キシキルンティ　˞ベー˜タ　˞ベー˜ティ　フ˞チ˜ル　˞ヌーリティ　ムーミ˜　シケータ　ピ˞キシキランシェン [˞pan˜nu ʃi˞ʤi˜nu pi̥˞kiʃi̥kirunti ˞beː˜ta ˞beː˜ti ɸu̥˞ʧi˜ru ˞nuːriti muːmi˜ ʃi̥keːta pi̥˞kiʃi̥kiraŋʃe](足の筋＜腱＞がひきつろう＜痙攣しようと＞としていたので、薬を塗って揉んでおいたら引きつらなかった)。˞パン˜ヌ　シ˞ルヌ˜　ピ˞キシキティ˜　ヤミ　ナ˞ラ˜ヌ [˞pan˜nu ʃi˞runu˜ pi̥˞kiʃi̥kiti˜ jami na˞ra˜nu](足の腱＜筋＞が引きつって痛くてたまらない)。ピ˞キスク˜　ピンマー　フ˞チ˜ル　˞ヌーリ [pi̥˞kisu̥ku˜ pimmaː ɸu̥˞ʧi˜ru ˞nuːri](引きつる時は薬を塗れ)。プ˞スム˜シ　ピ˞キシケー˜ラ　フ˞シ˜　ナルンティ˞ダー [pu̥˞sumu˜ʃi pi̥˞kiʃi̥keː˜raː ɸu̥˞ʃi˜ narunti˞daː](一度引きつけ＜痙攣し＞たら癖になるそうだよ)。 **(2)**【他動】引張る。ガ˞マ˜ジ　ピ˞キシキルンティ　ベー˜ティ　イ˞ズター˜　ピ˞キシキランシェン [ga˞ma˜ʤi pi̥˞kiʃi̥kirunti beː˜ti ʔi˞ʤutaː˜ pi̥˞kiʃi̥kiraŋʃeŋ](髪の毛を引張ろうとしているので、叱ったら引張らなかった)。ブ˞ネーヌ　キン˜ヌ　ッ˞ス˜　ピ˞キシキティ˜　シ˞ビ　ウーンティ˜　ナ˞キ　ベー [bu˞neːnu kin˜nu s˞su˜ pi̥˞kiʃi̥kiti˜ ʃi˞bi ʔuːnti˜ na˞ki beː](母親の着物の裾を引張って、後追いしようと地団駄踏んで泣いている)。ク˞レー˜　ピ˞キシキル˜　クトー　˞スーナ [ku˞reː˜ pi̥˞kiʃi̥kiru˜ ku̥toː ˞suːna](これは、ひきつけることはするな)。˞マー˜ビン　ピ˞キシキリ [˞maː˜bim pi̥˞kiʃikiri](もっと引きつけろ)。

ピ˞キシティルン [pi̥˞kiʃi̥tiruŋ]【他動】引き抜く。引き抜いて捨てる。「引き捨つ」の義。パ˞タキ˜ヌ　ッ˞サ˜バ　ピ˞キシティルンティ　ベーン˜ドゥ　˞タンガ˜シェー　ピ˞キシティララヌ [pḁ˞taki˜nu s˞sa˜ba pi̥˞kiʃi̥tirunti beːn˜du ˞taŋga˜ʃeː pi̥˞kiʃi̥tiraranu](畑の草を引き抜いて捨てようとしているが、一人では引き抜かれない)。˜ッサ　ピ˞キシティテーラ　カイ˜シバ [˜ssa pi̥˞kiʃi̥titeːra kai˜ʃiba](草を引き抜いて捨ててから耕しなさいよ)。ピ˞キシティル˜　ピンマー　˜ニーラ　ピ˞キシティリ [pi̥˞kiʃi̥tiru˜ pimmaː ˜niːra pi̥˞kiʃi̥tiri](引き抜いて捨てる時は根っこから引き抜け)。ピ˞キシティレー˜　ミサムヌ [pi̥˞kiʃi̥tireː˜ misamunu](引き抜いて捨てればいいのに)。

ピ˞キシトゥン [pi̥˞kiʃi̥tuŋ]【他動】引き抜く。引き抜いて捨てる。「引き捨つ＜下二段活用＞」の四段活用化したもの。ピ˞キシトゥンティ˜　ウ˞ムータン˜ドゥ　ピ˞キシタランシェン [pi̥˞kiʃi̥tunti˜ ʔu˞mu:tan˜du pi̥˞kiʃi̥taraŋʃeŋ](引き抜こうと思ったが引き抜かれなかった)。ピ˞キシティ˜　ミサカー　ピ˞キシトゥ˜　クトー　˜ナルン [pi̥˞kiʃiti˜ misakaː pi̥˞kiʃi̥tu˜ ku̥toː ˜naruŋ](引き抜いてよければ、引き抜くことはできる)。ムー˞ル˜　ピ˞キシテー˜　ミサムヌ [muː˞ru˜ pi̥˞kiʃi̥teː˜ misamunu](全部引き抜けばいいのに)。˞パー˜ク　ピ˞キシティ [˞paː˜ku pi̥˞kiʃi̥ti](早く引き抜け)。

ビ˞キジナ [bi˞kiʤina]【名】男綱。˞ウー˜ジナ [˞ʔuːʤi˜na](男綱) ともいう。˞ミー˜ジナ [˞miː˜ʤina](女綱) の対義語。豊年祭の時に女綱の先端の大きな輪の中に男綱の先端の輪を差し入れ、棒を差し込み、二つの綱が外れないようにする綱。パ˞トゥマ˜ヌ　シ˞ナピキ˜ヌ　˜シナー　˞インヌムラー　ミー˜ジナ　˞アンヌムラー˜　ビ˞キジナ˜ティ　ア˞ザリブー [pḁ˞tuma˜nu ʃi˞napi̥ki˜nu ˜ʃinaː ˞ʔinnumuraː miː˜jina ˞ʔannumuraː˜ bi˞kiʤina˜ti ʔa˞ʤaribuː](鳩間の綱引きの綱は、西村は牝綱、東村は男綱といわれている)。

ピ˞キシミルン [pi̥˞kiʃimiruŋ]【他動】引き締める。˞ヤーフキ˜ジナ　ピ˞キシミル˜　ピンマー　ウ˞ムイ˜キシ　ピ˞キシミリ˜バ [˞jaːɸu̥ki˜ʤina pi̥˞kiʃimiru˜ pimmaː ʔu˞mui˜ki̥ʃi pi̥˞kiʃimiri˜ba](屋根葺き綱を引き締める時は、思い切って引き締めよ)。˞マー˜ビン　ピ˞キシミルンティ˜　ウ˞ムーン˜ドゥ　ピ˞キシミララヌ [˞maː˜bim pi̥˞kiʃimirunti˜ ʔu˞muːn˜du pi̥˞kiʃimiraranu](もっと引き締めようと思うが、引き締められない)。ピ˞キシミ˜　プサカー　˞マー˜ビン　ピ˞キシミレー˜　ミサムヌ [pi̥˞kiʃimi˜ pu̥saka: ˞maː˜bim pi̥˞kiʃimireː˜ misamunu](引き締めたければ、もっと引き締めればいいのに)。フ˞ク˜ビ　ピ˞キシミルン [ɸu̥˞ku˜bi pi̥˞kiʃimiruŋ](帯を引き締める)。

ピ˞キシムン [pi̥˞kiʃimuŋ]【他動】引き締める。フ˞ク˜ベー　ピ˞キシミティ˜　イ˞ジ˜ンジ　パ˞タラキ˜ヨー [ɸu̥˞ku˜beː pi̥˞kiʃimiti˜ ʔi˞ʤi˜ʔnʤi pḁ˞taraki˜joː](帯を引き締めて、しっかり働けよ)。˞キン˜マー　フ˞ク˜ビシ　ピ˞キシムンティ　スンドゥ˜　ピ˞キシマラヌ [˞kim˜maː ɸu̥˞ku˜biʃi pi̥˞kiʃimunti sundu˜ pi̥˞kiʃimaranu](着物は帯で引き締めようとするが、引き締められない)。˞マー˜ビン　ピ˞キシメー˜　ミサムヌ [˞maː˜bim pi̥˞kiʃimeː˜ misamunu](もっと引き締めればいいのに)。˞マー˜ビン　ピ˞キシミ˜バ [˞maː˜bim pi̥˞kiʃimi˜ba](もっと引き締めよ)。

ピ˞キスー [pi̥˞kisuː]【名】1、引き潮。ピ˞シ˜スー [pi̥

˞ʃiˀsu:](ひしお < 干潮 >。大潮の時の干潮) ともいう。ピ˞キスー˥ ナ˞リ˥ル ˥ブーバ イ˞ソー シン˥ パラ [pi̥˞kisu:˥ na˞ri˥ru ˥bu:ba ʔi˞so: ʃim˥ para](引き潮になっているから、潮干狩りに行こうよ)。2潮流。ユ˞ニヌ˥ トンマー ピ˞キスーヌ スー˥ワン [ju˞ninu˥ tomma: pi̥˞kisu:nu su:˥waŋ](ユニの所は引き潮 < 潮流 > が強い < 激しい >)。

ピ˞キスールン [pi̥˞kisu:ruŋ] 【自動】顔が細くなる。おもやつれる (面やつれる)。ウ˞ムティ˥ヌ ピ˞キスールン˥ケン ヤ˞ミ˥ル ブ˞レー˥バン˞ナー [ʔu˞mutiˀnu pi̥˞kisu:ruŋ˥keɲ ja˞miˀru bu˞re:˥ban˞na:](面やつれするほど病気して < 病んで > いたのだなあ)。ウ˞ム˥テー ピ˞キスーリ ナーン˥ティ ス˞クタンドゥ˥ ミルカー ˞ナン˥ゾー ピ˞キスーランワーン˥ノー [ʔu˞mu˥te: pi̥˞kisu:ri na:n˥ti su̥˞kutandu˥ miruka: ˞nan˥ʤo: pi̥˞kisu:raŋwa:n˥no:](面や連れしたと聞いたが、見たところあまり面やつれしないではないか)。ウ˞ムティ˥ヌ ピ˞キスール˥ ピンマー ˞ヤンヌ˥ル ˥アルパジ [ʔu˞mutiˀnu pi̥˞kisu:ru˥ pimma: ˞jannu˥ru ˥ʔaru ˥paʤi](面や連れする時は病気があるはずだ)。

ピ˞キスールン [pi̥˞kisu:ruŋ] 【他動】ひきこく (扱く)。稲の穂などをこく。しごく。「引き・しごく < 扱く >」の転訛したもの。「〜袖尓古寸入津 < コキレツ >〜。万、1644」、「揃、ムシル・コク」『類聚名義抄』、「藁のはかまを取るを すぐる (選る) という」『志不可起』の義。バ˞ラフ˥タ ピ˞キスールンティ スンドゥ˥ ピ˞キスーララヌ [ba˞raɸu˥ta pi̥˞kisu:runti sundu˥ pi̥˞kisu:raranu](藁をひき扱こうとするがひき扱かれない)。バ˞ラフ˥タ ピ˞キスー˥リティ ˥シナ ˥ナイバ [ba˞raɸu˥ta pi̥˞kisu:˥riti ˥ʃina ˥naiba](藁をひき扱いて縄を綯いなさい)。バ˞ラフ˥タ ピ˞キスール˥ ピンマー カ˞シーカシー˥ ピ˞キスーレー˥ ミサムヌ [ba˞raɸu˥ta pi̥˞kisu:ru˥ pimma: ka˞ʃi:kaʃi:˥ pi̥˞kisu:re:˥ misamunu](藁をひき扱く時はしっかりひき扱けばいいのに)。˞パー˥ク ピ˞キスー˥リ [˞pa:˥ku pi̥˞kisu:ri](早くひき扱け)。

ピ˞キスクン [pi̥˞kisu̥kuŋ] (1)【他動】ひきつける。引張る。「ひきつく < 下二段活用 >」の四段活用化したもの。ガ˞マ˥ジ ピ˞キスクンティ スンドゥ˥ ピ˞キシゥカラヌ [ga˞ma˥ʤi pi̥˞kisu̥kunti sundu˥ pi̥˞kisi̥karanu](髪の毛を引張ろうとするが引張られない)。ピ˞キシキ˥ ミリバ [pi̥˞kiʃi̥ki˥ miriba](引張ってごらんよ)。ピ˞キスク˥ プソー ヤ˞ミ˥スンダ ピ˞キシケー˥ ナ˞ラ˥ヌ [pi̥˞kisu̥ku˥ pu̥so: ja˞mi˥sunda pi̥˞kiʃi̥ke:˥ na˞ra˥nu](引張る時は痛むから引張ってはならない)。˞パー˥ク ピ˞キシキ˥バ [˞pa:˥ku pi̥˞kiʃi̥ki˥ba](早く引張れよ)。 **(2)**【自動】痙攣する。˞パン˥ヌ シ˞ルヌ˥ ピ˞キシキティ˥ ヤミ ナ˞ラ˥ヌ [˞pan˥nu ʃi˞runu˥ pi̥˞kiʃi̥kiti˥ jami na˞ra˥nu](足の腱がひきつって < 痙攣して > 痛くてたまらない)。

ピ˞キスングルン [pi̥˞kisuŋguruŋ]【他動】ひっぱたく (引っ叩く)。強くたたく。「ひき扱(シゴ)く」の義か。「撲、ウツ、ハラフ、コク」『類聚名義抄』の義。ピ˞キスングルンティ˥ ウ˞ムーン˥ドゥ シ˞ナー˥ンダ ピ˞キスングララヌ [pi̥˞kisuŋgurunti˥ʔu˞mu:n˥du ʃi˞na:˥nda pi̥˞kisuŋguraranu](引っ叩こうと思うが、幼いので引っ叩かれない)。カ˞ナ˥サルナカー ピ˞キスングリ˥ ナ˞ラー˥シティル ム˞カ˥シプソー ナ˞ラー˥ソーッタ [ka˞na˥saru ˥naka: pi̥˞kisuŋguri˥ na˞ra:˥ʃi̥tiru mu˞ka˥ʃipu̥so: na˞ra:˥so:tta](可愛いほど鞭打って <扱(シゴ)いて > 教えなさいと昔の人は教えられた)。ピ˞キスングル˥ クトー ナ˞ラ˥ヌヌ プ˞スケン˥ナー ピ˞キスングレー˥ ミサムヌ [pi̥˞kisuŋguru˥ ku̥to: na˞ra˥nunu pu̥˞suken˥na: pi̥˞kisuŋgure:˥ misamunu](引っ叩くことは出来ないが、一度ぐらいは引っ叩けばいいのに)。˞ウンザー˥ ピ˞キスングリ [˞ʔunʤa:˥ pi̥˞kisuŋguri](こいつは引っぱたけ)。

ピ˞キダシ [pi̥˞kidaʃi] 【名】引き出し (抽出し。抽斗)。標準語からの借用語が転訛したもの。˞タンシ˥ヌ ピ˞キダシ [˞taŋʃiˀnu pi̥˞kidaʃi](箪笥の抽斗)。˞タンシ˥ヌ ピ˞キダシェー˥マナー ˞カンユーナ˥ ムノー イ˞リティ˥ カ˞キン˥グ ˞ソーッ˥タ [˞taŋʃiˀnu pi̥˞kidaʃe:˥mana: ˞kaɲju:na˥ muno: ʔi˞riti˥ kḁ˞kiŋ˥gu ˞so:t˥ta](箪笥の小さな抽斗に肝要なものを入れて保管 < 格護 > された)。

ピ˞キタティルン [pi̥˞kitatiruŋ]【他動】引き立てる。ウ˞リヌ˥ パ˞タラキバ˥ ミリティ ピ˞キタティルンティ˥ シ˞タンドゥ˥ ピ˞キタティラン˥サー [ʔu˞rinu˥ pḁ˞tarakiba˥ miriti pi̥˞kitatirunti˥ ʃi̥˞tandu˥ pi̥˞kitatiraran˥sa:](彼の働きを見て引き立てようとしたが、引き立てられないさ)。ドー˞ディン˥ ピ˞キタティ˥ ッ˞ふォー˥リ [do:˞dim˥ pi̥˞kitati˥ f˞fo:˥ri](どうぞ引き立ててください)。ピ˞キタティル˥ クトー ナ˞リ˥シバ ピ˞キタティレー˥ ミサムヌ [pi̥˞kitatiru˥ ku̥to: na˞ri˥ʃiba pi̥˞kitatire:˥ misamunu](引き立てることは出来るから、引き立てればいいのに)。ヤー˞ディン˥ ピ˞キタティリ [ja:˞dim˥ pi̥˞kitatiri](必ず引き立てろ)。

ピ˞キタトゥン [pi̥˞kitatuŋ] 【他動】引き立てる。パ˞タラキバ˥ ミリティ ピ˞キタトゥンティ カン˥ガイ ˞ベー˥ンドゥ ピ˞キタタラン˥ クトゥン ˥アン [pḁ˞tarakiba˥ miriti pi̥˞kitatunti kaŋ˥gai ˞be:˥ndu pi̥˞kitataraŋ˥ ku̥tuŋ ˥ʔaŋ](働きを見て引き立てようと考えているが引き立てられないこともある)。ピ˞キタティ˥ ミサン [pi̥˞kitati˥ misaŋ](引き立ててよい)。ピ˞キタトゥ˥ クトー ナ˞リ˥シバ ˞パイ˥サ ピ˞キタティ˥バ [pi̥˞kitatu˥ ku̥to: na˞ri˥ʃiba ˞pai˥sa pi̥˞kitati˥ba](引き立てることは出来るから早く引き立てよ)。ク˞リバ˥ ピ˞キタテー˥ ミサムヌ [ku˞riba˥ pi̥˞kitate:˥ misamunu](これを引き立てればいいのに)。

ピ˞キダマ [pi̥˞kidama] 【名】たこ (凧)。普通の凧は台形に作る。竹を割って幅約 1,5 センチ、長さ約 40 センチの˥ブーブブニ [˥bu:bubuni](頭部の竹を弓状に曲げて鳴き紙を張るもの) と長さ約 28 センチの˞ズーブニ [˞ʤu:buni](尾骨) を竹ひごで格子状に編み、紙を張って作る。頭部の竹 (˥ブーブブニ) には左右に 2 本の糸をつけ、胸部と腹部にそれぞれ 3 本の糸をつけて˥サク [˥sḁku](尺。勾配をつけること) を当て、尾骨に 2 本の糸をつけて凧を安定させる˞ズー [˞ʤu:](尻尾) とし、˥サクイトゥ [˥sḁkuitu](尺糸。勾配をつけた糸) を˞ユー˥ル [˞ju:˥ru](凧上げ紐) に繋いで凧上げをした。トゥ˞シヌ˥ユーナー ビ˞コーンッふァヌ ブー ヤー˥ヤ ピ˞キダマバ˥ ス˞ク˥リ パ˞リティ グゥンタン˥ヌ ˥ピンマー ピ˞キダマ˥ トゥ˞バシティ˥ ア˞サブタ [tu̥˞ʃinu ˥ju:na: bi˞ko:ŋffanu bu: ja:˥ja pi̥˞kidamaba˥ su̥˞ku˥ri pa˞riti gwantan˥nu ˥pimma: pi̥˞kidama˥ tu˞baʃi̥ti˥ ʔa˞sabuta](大晦日の夜には、男の子のいる家は凧を作って張って、元旦の日には凧を揚げて < 飛ばして > 遊んだ)。

ピ˞キタミルン [pi̥˞kitamiruŋ] 【他動】布や縄等を真っ直ぐに引っ張る。たるまないように引っ張る。シ˞ナ˥バ ピ˞キタミルンティ スンドゥ キーヌ˥ユダナ カ˞カ˥リティ ピ˞キタミララヌ [ʃi˞na ˥ba pi̥˞kitamirunti sundu ki:nu˥judana kḁ˞ka˥riti pi̥˞kitamiraranu](綱を引っ張ってまっすぐにしようとするが、木の枝にかかって真っ直ぐに引っ張れない)。

ピ˞キックムン [pi̥˞kikkumuŋ] 【他動】引きこむ。引き入れる。シ˞キ˥ヌ ミ˞ジバ ドゥー˥ヌ ˥ター ピ˞キックムンティ スンドゥ˥ ピ˞キックマラヌ [ʃi̥˞ki˥nu mi˞ʤiba du:˥nu ˥ta: pi̥˞kikkumunti sundu˥ pi̥˞kikkumaranu](せき < 堰 > の水を自分の田に引き込もうとするが、引き込まれない)。ピ˞キッ˥クミ ˥ミサカー カ˞リン ドゥー˥ヌ ˥グー ピ˞キックム˥ クトー ˥ナルン [pi̥˞kik˥kumi ˥misaka: ka˞rin du:˥nu ˥gu: pi̥˞kikkumu˥ ku̥to: ˥naruŋ](引き入れてよければ彼も自分の組に引き入れることは出来る)。ピ˞キッ˥クメー ˥ミサムヌ [pi̥˞kik˥kume: ˥misamunu](引き込めば < 引き入れれば > いいのに)。ムー˞ル ドゥー˥ヌ ˥トン ピ˞キックミ˥バ [mu:˞ru du:˥nu ˥tom pi̥˞kikkumi˥ba](全部自分の所に引き込めよ < 引き入れよ >)。

ピ˞キッコースン [pi̥˞kikko:suŋ] 【他動】植物などを根っこから引き抜く。大きな石などを地中より引き抜く。「引き起こす」の転訛したもの。˞ユシキ˥ヌ ˥ニー ピ˞キッコースンティ スンドゥ˥ ピ˞キッコーサランバン [˞juʃiki˥nu ˥ni: pi̥˞kikko:sunti sundu˥ pi̥˞kikko:sarambaŋ](ススキの根っこを引き抜こう < 引き起こそう > とするが、引き抜かれない)。ク˞レー˥ ピ˞キッコーシ˥ ミサン [ku˞re:˥ pi̥˞kikko:ʃi˥ misaŋ](これは引きぬいても良い)。ピ˞キッコース˥ クトー ナ˞ラ˥ヌ [pi̥˞kikko:su˥ ku̥to: na˞ra˥nu](引き抜いてはならない)。ピ˞キッコーシェー˥ ミサムヌ [pi̥˞kikko:ʃe:˥ misamunu](引き抜けばいいのに)。ピ˞キッコーシ˥バ [pi̥˞kikko:ʃi˥ba](引き抜けよ)。

ビ˞キッツァーミドゥム [bi˞kittsa:midumu] 【名】お転婆娘。女性としてのつつしみがなく、男勝りの活発な女性。ビ˞キッツァー [bi˞kittsa:](お転婆) ともいう。ウ˞レー˥ ビ˞キッツァーミドゥム˥ ヤ˞ルンダ˥ ビ˞キドゥムン˥ ウ˞リンマー˥ カ˞ナー˥ヌ [ʔu˞re:˥ bi˞kittsa:midumu˥ ja˞runda˥ bi˞kidumuŋ˥ ʔu˞rimma:˥ ka˞na:˥nu](あれは男勝りのお転婆娘だから、男も彼女にはかなわ < 敵わ > ない)。

ピ˞キッツァイパラッ˥ツァイ [pi̥˞kittsaiparat˥tsai] 【副】衣服が小さくて体に合わず、引きつっているさま。つんつるてんのさま。「引きつり・張りつり」の転訛したものか。ABCDEFGCDE 型の重言。˞キン˥バ ピ˞キッツァイ パラッ˥ツァイ ˞シー˥ キ˞シェー˥ティ ˞アー˥キ ˞ミッ˥トー ˞ナー˥ヌ [˞kim˥ba pi̥˞kittsaiparat˥tsai ˞ʃi:˥ ki̥˞ʃe:˥ti ˞ʔa:˥ki ˞mit˥to: ˞na:˥nu](衣服 < 着物 > をつんつるてんに引きつって着ているので見苦しい < みっともない >)。

ピ˞キットースン [pi̥˞kitto:suŋ] 【他動】引き倒す。引いて倒す。ぶっ倒す。ウ˞シトースン [ʔu˞ʃito:-suŋ](前方へ押して倒す) の対義語。˥イノーカジ

ヌ ˥フクカー ˥ヤーン ピ˞キットースン [˥ʔi-no:kaʤinu ˥ɸu̥kuka: ˥ja:m pi̥˞kitto:suŋ](竜巻が吹くと家も引き倒す)。˥シンターニ ピ˞キットースンティ ベー˥ティ イ˞ザリティ˥ ピ˞キットーサンシェン [˥ʃinta:ni pi̥˞kitto:sunti be:˥ti ʔi˞ʤariti˥ pi̥˞kitto:saŋʃeŋ](後方に引き倒そうとしていて、叱られて引き倒さなかった)。ピ˞キットーシ˥ ミサカー ピ˞キットース˥ クトー ナ˞リ˥スンダ ピ˞キットーシェー˥ ミサムヌ [pi̥˞kitto:ʃi˥ misaka: pi̥˞kitto:su˥ ku̥to: na˞ri˥sunda pi̥˞kitto:ʃe:˥ misamunu](引き倒してよければ引き倒すことは出来るから、引き倒せばいいのに)。˥クマンター ピ˞キットーシ [˥kumanta: pi̥˞kitto:ʃi](こちら側へ引き倒せ)。

ピ˞キットールン [pi̥˞kitto:ruŋ] 【自動】ぶっ倒れる(打っ倒れる)。ピ˞キッ-[pikit-](ぶっ-) は強意の接頭語。˥ビータリティ ˞ヨータベー˥ティ ˞アー˥クンダ ˞カイ˥リ ピ˞キットールン˥ダーティ ア˞ズンドゥ˥ ピ˞キットーラヌ˥ティ ˞ガー˥パリ ˞ベー [˥bi:tariti ˞jo:tabe:˥ti ˞ʔa:˥kunda ˞kai˥ri pi̥˞kitto:run˥ da:ti ʔa˞ʤundu˥ pi̥˞kitto:ranu˥ti ˞ga:˥pari ˞be:](泥酔してふらついているので、転んで打っ倒れるぞと言うんだが、打っ倒れないと我を張っている)。ピ˞キットーリティ˥ ドゥー ヤ˞マ˥シ ˥シケー [pi̥˞kitto:riti˥ du: ja˞ma˥ʃi ˥ʃi̥ke:](打っ倒れて怪我をして＜胴を病まして＞ある)。ピ˞キットール˥ クトー ˞ナーヌ˥ヌ プ˞スケン˥ナー ピ˞キットーレー˥ ミサムヌ [pi̥˞kitto:ru˥ ku̥to: ˞na:nu˥nu pu̥˞suken˥ na: pi̥˞kitto:re:˥ misamunu](打っ倒れることはないが、一度ぐらいずつは＜偶には＞打っ倒れればいいのに)。ピ˞キットーリリ [pi̥˞kitto:riri](打っ倒れろ)。

ピ˞キットールン [pi̥˞kitto:ruŋ] 【他動】縄を強く手繰る。引き手繰る。サ˞バナー˥ ピ˞キットールンティ スンドゥ グッふァ˥ヌ ピ˞キットーララヌ [sa˞bana:˥ pi̥˞kitto:runti sundu guffa˥nu pi̥˞kitto:raranu](鱶釣り縄を引き手繰ろうとするが、重くて引き手繰られない)。ピ˞キットーリ˥ ミサカー ピ˞キットー˥ル ˥クトー ˥ナルン [pi̥˞kitto:ri˥ misaka: pi̥˞kitto:ru˥ ku̥to: ˥naruŋ](引き手繰ってよければ引き手繰ることは出来る)。ピ˞キットーレー˥ ミサムヌ [pi̥˞kitto:re:˥ misamunu](引き手繰れば良いのに)。˞ダンダン˥シ ピ˞キットーリ˥バ [˞dandaŋ˥ʃi pi̥˞kitto:ri˥ba](さっさと引き手繰れよ)。

ピ˞キトゥミルン [pi̥˞kitumiruŋ] 【他動】引き留める。立ち去ろうとするのを無理に留める。相手の動作を抑え込む。タ˞ベー˥ パルンティ ˞スームーバ˥ ピ˞キトゥミルンティ スンドゥ˥ ピ˞キトゥミララヌ [ta˞be:˥ parunti ˞su:mu:ba˥ pi̥˞kitumirunti sundu˥ pi̥˞kitumiraranu](旅へ発とうとするのを引き留めようとするのだるが、引き留められない)。

ビ˞キドゥム [bi˞kidumu] 【名】男。男性。「わけ (別)、～諸国の別と謂へるは、即ち其の別王 (わけのみこ) の苗裔なり」『日本書紀 景行四年』の訛語という説あり『八重山語彙』。「男 曾几喝」『中山伝信録』、「男 烏吉喀」『琉球入学見聞録』、「ゑくかにせ」『おもろさうし、1403』、「まゑけか 男の事 ゑけがとも云まの字を云ふ時は敬ふ言葉なり『混効験集』とある」『図説琉球語辞典』参照。ビ˞キドゥムキョーダイ [bi˞kidumukjo:dai](男兄弟)。ミ˞ドゥムキョー˥ダイ [mi˞dumukjo:˥dai](女兄弟)。ビ˞キドゥム˥ウヤ [bi˞kidumu˥ʔuja](男親)。ミ˞ドゥム˥ウヤ [mi˞dumu˥ʔuja](女親)。ビ˞キドゥムッふァ [bi˞kidumuffa](男の子)。ミ˞ドゥム˥ッふァ [mi˞dumu˥ffa](女の子)、ミ˞ドーン˥ッふァ [mi˞do:ŋ˥ffa] ともいう。ビ˞キドゥム˥ ア˞タルムヌ˥ アイブ ˥ムヌンツァン ˞シーユーサヌ [bi˞kidumu˥ ʔa˞tarumunu˥ ʔaibu ˥mununtsaŋ ˞ʃi:ju:sanu](男のくせに＜男たるものが＞、そんなものさえも出来ないのかム)。

ビ˞キドゥムダーッ˥サン [bi˞kidumuda:s˥saŋ] 【形】男らしい。いかにも男性的である。フ˞ドゥン マイ˥ヤ シゥ˞カラン スー˥ワンダ イッ˞ケナ˥ ビ˞キドゥムダーッ˥サン [ɸu˞dum mai˥ja si̥˞karan su:˥ wanda ʔik˞kena˥ bi˞kidumuda:s˥saŋ](体格も大きく、力も強いから非常に男らしい)。ウ˞ブクイ˥バン˞ザ˥シ ナ˞キ˥ ビ˞キドゥムダーッサー ナー˥ヌ [ʔu˞bukui˥ba ʔn˞ʤa˥ʃi na˞ki˥ bi˞kidumuda:ssa: na:˥nu](大声を出して泣いて、男らしくない)。

ビ˞キドゥムマサル [bi˞kidumumasaru] 【名】男勝り。女傑。気性が男以上に勝気な女。ウ˞ドゥクマサ˥ル [ʔu˞dukumasa˥ru](男勝り) ともいう。ビ˞キドゥムマサルヌ˥ ミ˞ドゥ˥ム ヤ˞ルンダ˥ ブ˞トー グングルマーサリ˥ル ˞ブー [bi˞kidumumasarunu˥ mi˞du˥mu ja˞runda˥ bu˞to: guŋguruma:sari˥ru ˞bu:](男勝りの女だから、夫は妻の掌でぐるぐる回されて操縦されている)。

ビ˞キドゥル [bi˞kiduru] 【名】 (動) おんどり (雄鳥。雄鶏)。˞ミー˥ドゥル [˞mi:˥duru](めんどり＜雌鳥＞) の対義語。ビ˞キドゥルヌ カンガン˥マー ˞マイ˥ヤン [bi˞kidurunu kaŋgam˥ma: ˞mai˥jaŋ](雄鶏のとさかは大きい)。

ピ˞キ˥トゥルン **[pi̥˞ki˥turuŋ]**【他動】引き取る。˞カーサラン˥　ム˞ノー˥　ピ˞キ˥トゥルンティ　ア˞ジティ˥　マ˞ナ˥マ　˞ナッタ˥　クトー　ピ˞キトゥララン˥ティ　ア˞ジバン (ア˞ズバン) ガッ˥ティン　ナ˞ラ˥ヌ [˞kaːsarammunoː˥ pi̥˞ki˥turunti ʔa˞ʤiti˥ ma˞na˥ma ˞nat˥ta ˥ku̥to: pi̥˞kituraran˥ti ʔa˞ʤibaŋ(ʔa˞ʤubaŋ) gat˥tin na˞ra˥nu](売れない物は引き取るといっていて、今になってから引き取られないと言っても納得 < 合点 > できない)。ピ˞キトゥリ˥　ミサカー　ピ˞キトゥル˥　クトー　ナ˞リ˥シバ　˞パー˥ク　ピ˞キトゥリ [pi̥˞kituri˥ misakaː pi̥˞kituru˥ ku̥to: na˞ri˥ʃiba ˞paː˥ku pi̥˞kituri](引き取ってよければ、引き取ることは出来るから早く引き取れ)。ピ˞キトゥレー˥　ミサムヌ [pi̥˞kitureː˥ misamunu](引き取ればよいのに)。

ピ˞キナー **[pi̥˞kinaː]**【名】曳縄釣り。ひきなわ (引縄) 漁。船から餌の付いた長い縄や疑似餌を付けた縄を引いて食い付いた魚を釣り上げる漁法。パ˞ニビキ [pa˞nibiki](曳縄釣り) ともいう。カ˞ツシンラ˥　イ˞サンケーヌ　ギームドゥロー˥　ピ˞キナーバ　シー˥　カ˞ツ　ホー˥ソータン [kḁ˞tsuʃinra˥ ʔi˞saŋkeːnu giːmuduroː˥ pi̥˞kinaːba ʃiː˥ kḁ˞tsu hoː˥soːt-taŋ](カツオ漁船からの石垣島への行き戻りには曳縄釣りをしてカツオを釣られたものだ)。

ピ˞キヌーン **[pi̥˞kinuːŋ]**【他動】引き抜く。抜き出す。˞ダイ˥クニ　ピ˞キヌーンティ　スンドゥ˥　ピ˞キノーラン˥バン [˞daiˡkuni pi̥˞kinuːnti sundu˥ pi̥˞kinoːram˥baŋ](大根を引き抜こうとするが引き抜かれないよ)。ピ˞キヌイ˥　ミサカー　ピ˞キヌー˥　クトー　˥ナルン [pi̥˞kinui˥ misaka: pi̥˞kinuː˥ ku̥to: ˥naruŋ](引き抜いてよければ、引き抜くことは出来る)。ム˞タ˥リスコー　ピ˞キヌイヤー˥　ミサムヌ [mu˞ta˥risu̥ko: pi̥˞kinuijaː˥ misamunu](持てるだけ引き抜けば良いのに)。ムー˞ル˥　ピ˞キヌイ˥バ [muː˞ru˥ pi̥˞kinui˥ba](全部引き抜けよ)。

ピ˞キヌバ˥スン **[pi̥˞kinuba˥suŋ]**【他動】引き伸ばす。引き延ばす。˥グム　ピ˞キヌバ˥スンティ　˞スンドゥ˥　ピ˞キヌバサラ˥ヌ [˥gumu pi̥˞kinuba˥sunti ˞sundu˥ pi̥˞kinubasara˥nu](ゴムを引き伸ばそうとするが、引き伸ばされない)。ピ˞キヌバシ˥　ミサカー　ピ˞キヌバス˥　クトー　˥ナルン [pi̥˞kinubaʃi˥ misaka: pi̥˞kinubasu˥ ku̥to: ˥naruŋ](引き伸ばしてよければ、引き伸ばすことはできる)。˞マー˥ビン　ピ˞キヌバシェー˥　ミサムヌ [˞maː˥bim pi̥˞kinubaʃeː˥ misamunu](もっと引き伸ばせば良いのに)。˥ドゥーシ　ピ˞キヌバシ [˥duːʃi pi̥˞kinubaʃi](自分で引き伸ばせ)。

ピ˞キヌ˥　フ˞ル **[pi̥˞kinu˥ ɸu˞ru]**【連】さおばかり (竿秤) のふんどう (分銅)。フ˞ル [ɸu˞ru] は「ふぐり < 睾丸 >」で、「陰嚢、俗云、布久利 < ふぐり >」『和名抄』の転訛。ピ˞キヌ˥　フ˞ロー˥　カ˞ニ˥シル　ス˞クラ˥リ　˞ブートダー [pi̥˞kinu˥ ɸu˞roː˥ ka˞ni˥ʃiru su̥˞kura˥ri ˞buːɦdaː](竿秤の分銅は鉄で作られているんだよ)。ピ˞キヌ˥　フ˞ル˥　サイティ　˞ギュー˥サカ˞カ˥ルユー　パ˞カ˥リバ [pi̥˞kinu˥ ɸu˞ru˥ saiti ˞gjuː˥sa kḁ˞ka˥ruju: pḁ˞ka˥riba](竿秤の分銅を下げて、重量がいくらになるか計れよ)。

ピ˞キヌ˥ミー **[pi̥˞kinu˥ miː]**【連】竿秤 < 棹秤 (サオバカリ) > の目盛り。斤目を表す目盛り。ピ˞キヌ˥　ミー　ミリ˞ミー [pi̥˞kinu˥ miː miri˞miː](竿秤の目盛りを見てごらんよ)。ピ˞キヌ˥　キター　マッ˞シング˥　ナシティ　ピ˞キヌ˥　ミー　マ˞チガーン˥ヨーニ　パ˞カ˥リバ [pi̥˞kinu˥ ki̥taː maʃ˞ʃiŋgu˥ naʃi̥ti pi̥˞kinu˥ miː ma˞ʧigaːɲ˥joːni pḁ˞ka˥riba](竿秤の竿 < 桁 > を水平 < 真直ぐに > にして、斤目を間違えないように計りなさいよ)。

ピ˞キ˥バ **[pi̥˞ki˥ba]**【名】退場の時。引き退く時機。「引端」の義。「Fiqifa. ヒキハ (引き端)　陣を引き払う時期、あるいは好い機会」『邦訳日葡辞書』の転訛。琉球古典舞踊の「出羽」、「中踊」、「入羽」の「入羽」に対応する。/ユルヤヒルヤトゥ　サカムレニ　ウタヤ　サミシン　トゥンジタチ　ミチヌ　ヌジャヌジャ　タティアシバ、(囃子) イヤイーヤー　ムカシミルクヌ　シルシサミエー　ウテーモーテー　スディワ　スラニティ　ウムシルムヌサミ　ナマヌ　ヒキバヤ　ウタユ　カワシバ/(夜や昼やの酒盛りに、歌や三線で飛び出して、道のちまた < 巷 > に踊り立って遊ぼう (道之能座々立阿春ぶ < 道に芸を立てて遊ぶ >)『竹富町史だより』39 号 20 頁。< 囃子 > さてさて、昔弥勒様の御世の徴候であるよ、歌えや舞えやで、踊衣装の袖を連ねて誠に楽しいものだ。今の引端 < 入羽 > は歌曲を変えよ)『鳩間島古典民謡古謡集』。

ピ˞キバカスン **[pi̥˞kibakasuŋ]**【他動】引き分ける。強引に離す。引き離す。意地悪い語感を有する。ピ˞キパナスン [pi̥˞kipanasuŋ](引き離す) ともいう。ブ˞ネー˥ナ　˞フシュ˥カリティ　ナ˞キベー˥ムバ　ピ˞キバカスンティ　スンドゥ˥　ピ˞キバカサラヌ [bu˞neː˥na ˞ɸusi̥˥kariti na˞kibeː˥muba pi̥˞kibakasunti sundu˥ pi̥˞kibakasaranu](母親にしがみついて泣い

ているのを、引き離そうとするが、引き離されない)。ピ˞キバカシ˜　ミサカー　ピ˞キバカス˜　クトー　ナ˞ルン˜ドゥ　キ˞ムイ˜ツァー˞ツォー [pi̥˞kipanaʃi˜ misaka: pi̥˞kipanasu˜ ku̥to: na˞run˜du ki˞mui˜tsa:˞tso:](引き離して良ければ引き離すことは出来るが、ふびん＜不憫＞なんだよ)。˞ウッ˜ツァー　フ˞ターロー˜　ピ˞キバカセー˜　ミサムヌ [˞ʔu˜tsa: ɸu̥˞ta:ro:˜ pi̥˞kibakaʃe:˜ misamunu](彼ら二人は引き離せば良いのに)。ウ˞ヤッ˜ふァ　ピ˞キバカシ˜バ [ʔu˞jaf˜fa pi̥˞kibakaʃi˜ba](親子を引き離しなさいよ)。

ピ˞キパガ˜スン [pi̥˞kipaga˜suŋ] 【他動】引き剥がす。引っ剥がす。無理に剥す。˞ピッパガ˜スン [˞pippaga˜suŋ](引っ剥がす) ともいう。˞ピッパガ˜スン [˞pippaga˜suŋ] は、ぞんざいな表現。˜ヤドゥナー　パ˞リ˜シケー　カ˞ビ˜　ピ˞キパガ˜スンティ　˞スンドゥ˜　ピ˞キパガサラ˜ヌ [˜jaduna pa˞ri˜ʃi̥ke: ka˞bi˜ pi̥˞kipaga˜sunti ˞sundu˜ pi̥˞kipagasara˜nu](戸に貼りつけてある紙を引き剥がそうとするが、引き剥がされない)。

ビ˞キパシナー [bi˞kipaʃina:] 【名】(動) 魚の名。和名、スミツキエビス (体長 15〜20 センチ)。体色は薄い朱色。鰓の部分から尾びれにかけて細く白い縞が数本走る。目が大きく、腹部から下にかけて白みがかった上品な魚。パシナーの雄。

ビ˞キパナ [bi˞kipana] 【名】(植) おばな (雄花)。雄しべがあって雌しべがない花。˞ミー˜パナ [˞mi:˜pana](雌花) の対義語。ビ˞キパナ˜ナー　˜ナロー　ナ˞ラ˜ヌ [bi˞kipana˜na: ˜naro: na˞ra˜nu](雄花には実はならない)。

ピ˞キパナ˜スン [pi̥˞kipana˜suŋ] 【他動】引き離す。シ˞ビシゥカリ　ベー˜ムヌ　ピ˞キパナスンティ　スンドゥ˜　ピ˞キパナサラヌ [ʃi˞bisi̥kari be:˜munu pi̥˞kipanasunti sundu˜ pi̥˞kipanasaranu](くっついている物を引き離そうとするが、引き離されない)。ピ˞キパナシ˜ミサカー　ピキパナス˜　クトー　˜ナルン [pi̥˞kipanaʃi˜ misaka: pi̥˞kipanasu˜ ku̥to: naruŋ](引き離してよければ引き離すことはできる)。˞マー˜ビン　ピ˞キパナシェー˜　ミサムヌ [˞ma:˜bim pi̥˞kipanaʃe:˜ misamunu](もっと引き離せばいいのに)。˞パー˜ク　ピ˞キパナシ [˞pa:˜ku pi̥˞kipanaʃi](早く引き離せ)。

ピ˞キフチル [pi̥˞kiɸutʃiru] 【名】塗り薬。「引き薬」の転訛。ピ˞クン [pi̥˞kuŋ](1引く。2塗る) の意味がある。シ˞キフチ˜ル [ʃi̥˞kiɸutʃi˜ru](付け薬。塗り薬)、˞ヌーリフチル [˞nu:riɸutʃiru](塗り薬) ともいう。ヌ˞ミフチ˜ル [nu˞miɸutʃi˜ru](飲み薬) の対義語。ピ˞キフチルトゥ˜　ヌ˞ミフチ˜ロー　˜クティ　˜ナシ　シ˞キ˜リバ [pi̥˞kiɸutʃirutu˜ nu˞miɸutʃi˜ro: ˜ku̥ti ˜naʃi ʃi̥˞ki˜riba](塗り薬＜引き薬＞と飲み薬は別々＜異＞になしておきなさいよ)。

ピ˞キマー˜サー [pi̥˞kima:˜sa:] 【名】腰巻。ク˞シマキ [ku˞ʃimaki](腰巻) ともいう。ブ˞ドゥル　ソー˜ル　˜ピンドゥ　ピ˞キマー˜サー　キ˞ソーッ˜タ˞ナー [bu˞duru so:˞ru ˜pindu pi̥˞kima:˜sa: ki̥˞so:t˜ta˞na:](踊をされる時に＜ぞ＞腰巻は着られたねえ)。フ˞タイツァカカン [ɸu̥˞taitsakakaŋ] ともいう。

ピ˞キマーシ [pi̥˞kima:ʃi] 【名】引き合わせ。神慮による幸せとのめぐり合わせ。「引き回し」の義。マ˞ブローマ˜ヌ　ア˞サビマーリ　シー　アー˜クカー　ピ˞キマーシ˜　カ˞ルイマー˜シ　˞サーリオー˜リ [ma˞buro:ma˜nu ʔa˞sabima:ri ʃi: ʔa:˜kuka: pi̥˞kima:ʃi˜ ka˞ruima:˜ʃi ˞sa:riʔo:˜ri](マブル＜魂。游離魂＞が遊び回っていたら、神様のお力で引き回し、背負いまわしてお連れ下さい)。

ピ˞キマースン [pi̥˞kima:suŋ] 【他動】1引き回す。ウ˞マー˜　カマー　ピ˞キマースンティ　アー˜クンケン　˞ピンギラ˜リ˞ナー˜ヌ [ʔu˞ma:˜ kama: pi̥˞kima:-sunti ʔa:˜kuŋkem ˞piŋgira˜ri ˞na:˜nu](あっちへこっちへと＜挨拶に＞引き回そうとしているうちに逃げられてしまった)。˜ウシェー　˞タンガ˜シン　ピ˞キマーサリン [˜ʔuʃe: ˞taŋga˜ʃim pi̥˞kima:sariŋ](挽き臼は一人でも引き回される)。ピ˞キマーシ˜　ミサカー　˞タンガ˜シン　ピ˞キマース˜　クトー　˜ナルン [pi̥˞kima:ʃi˜ misaka: ˞taŋga˜ʃim pi̥˞kima:su˜ ku̥to: ˜naruŋ](引き回して良ければ、一人でも引き回すことは出来る)。˞マー˜ビン　ピ˞キマーシェー˜　ミサムヌ [˞ma:˜bim pi̥˞kima:ʃe:˜ misamunu](もっと引き回せば良いのに)。˞パー˜ク　ピ˞キマーシ [˞pa:˜ku pi̥˞kima:ʃi](早く引き回せ)。2引き合わせる。˜ウヤパープジトゥ　˞カンヌマイ˜ヌ　ピ˞キマーシ˜シ　カフー　タ˞ボー˜レール˞ナー [˜ʔujapa:puɕitu ˞kannumai˜nu pi̥˞kima:ʃi˜ʃi kaɸu: ta˞bo:˜re:ru˞na:](ご先祖様と神様が引き合わされて＜引き回されて＞、幸運＜果報＞を賜ったのだろうねえ)。

ピ˞キミジ [pi̥˞kimiɕi] 【名】流水。流れ水。˞カーラヌ˜　ピ˞キミジヌ˜　サ˞リルン˜ケン　ア˞ミ˜ヌ　˞ホー˜ン　˞ペーレー˜ティン　˞アッ˜タンツォー [˞ka:ranu˜ pi̥˞kimiɕinu˜ sa˞riruŋ˜keŋ ʔa˞mi˜nu ˞ho:˜m ˞pe:re:˜tiŋ ˞ʔat˜tantso:](川の流水が枯れるほどの旱魃とい

うのもあったそうだ)。

ビ˞キミドゥム [biˀkimidumu] 【名】男みたいな女。「おとこおんな (男女)」の義。ビ˞キドー [biˀkido:](男のような女) ともいう。女でありながら男の性徴を有する人。˞ミー˞ドー [ˀmi:ˀdo:](女のような男、男でありながら女のような性徴を有する人) の対義語。ウ˞レー˞ ビ˞キミドゥム˞ ヤ˞ルンダ˞ ドゥーム˞ティ ユーサ˞ヌ [ʔu˞re:˞ biˀkimidumu˞ ja˞runda˞ du: mu˞tiju:sa˞nu](あれ＜彼女＞は男みたいな女だから結婚できない)。

ビ˞キミナ [biˀkimina] 【名】(動) 高瀬貝 (サラサバテイラ＜更紗馬蹄螺＞)。直径約 6 センチ、高さ約 8 センチの円錐形の雄貝。˞ミー˞ミナ [ˀmi:ˀmina](広瀬貝。雌貝) と対で干瀬のサンゴ礁の間に棲息している。貝ボタンの原料として終戦後まで輸出されていたが、プラスチック製品の出現により、輸出されなくなった。˞スー˞ヌ ˞ピスカー ˞ピーナ イ˞ソーシン ギーティ˞ ビ˞キミナン ミー˞ミナン プ˞サイ キー˞シタ [ˀsu:ˀnu ˀpi̥suka: ˀpi:na ʔiˀso: ʃiŋ gi:ti˞ biˀkiminam mi:ˀminam pu̥˞sai ki:ˀʃi̥ta](潮が引くと干瀬へ潮干狩りに行って、高瀬貝も広瀬貝も拾ってきた)。

ピ˞キムタイ˞ルン [pi̥˞kimutai˞ruŋ] 【他動】力強く持ち上げる。一気に引き上げる。持ち上げる。「引き持ち上げる」の義。ル˞クトゥダー˞ラ ピ˞キムタイルンティ スンドゥ˞ ピ˞キムタイララヌ [ru˞kutu-da:ˀra pi̥˞kimutairunti sundu˞ pi̥˞kimutairaranu](六斗俵を持ち上げようとするが持ち上げられない)。ピ˞キムタイ˞ ミサカー ピ˞キムタイル˞ クトー ˞ナルン [pi̥˞kimutai˞ misaka: pi̥˞kimutairu˞ ku̥to: ˞naruŋ](強く持ち上げて良ければ、持ち上げることは出来る)。˞マー˞ビン ピ˞キムタイレー˞ ミサムヌ [ˀma:ˀbim pi̥˞kimutaire:˞ misamunu](もっと引き上げれば良いのに)。˞クマンターラ ピ˞キムタイリ [ˀkumanta:ra pi̥˞kimutairi](ここの方から持ち上げろ)。

ピ˞キムタウン [pi̥˞kimutauŋ] 【他動】力強く上へ持ち上げる。引き上げる。一気に持ち上げる。「引き・もたぐ＜擡ぐ＞下二段活用」の四段活用化したもの。「かしら擡げて〜」『竹取物語』の義。˞ムティ・˞アウン [ˀmuti-ˀʔauŋ](持ち・上ぐ) の融合同化した合成語。「Motague,uru,eta. モタゲ、グル、ゲタ (擡げ、ぐる、げた) 持ち上げる. 例、Axiuo motageru.(足を擡げる)」『邦訳日葡辞書』の転訛か。˞タンガ˞シ ˞ター˞ラ ピ˞キムタウンティ スンドゥグッふァ˞ヌ ピ˞キムターラヌ [ˀtaŋga˞ʃi ˀta:ˀra pi̥˞kimutaunti sundu guˀfanu pi̥˞kimuta:ranu](一人で俵を持ち上げようとするが、重くて持ち上げられない)。ピ˞キムタイヤン [pi̥˞kimutaijaŋ](強く持ち上げた)。ピ˞キムタイ˞ ミサカー ピ˞キムタウ˞ クトー ˞ナルン [pi̥˞kimutai˞ misaka: pi̥˞kimutau˞ ku̥to: ˞naruŋ](引き持ち上げて良ければ、引き持ち上げることは出来る)。˞マー˞ビン ピ˞キムタイヤー˞ ミサムヌ [ˀma:ˀbim pi̥˞kimutaija:˞ misamunu](もっと引き持ち上げれば良いのに)。˞パー˞ク ピ˞キムタイ˞バ [ˀpa:ˀku pi̥˞kimutai˞ba](早く強く引き持ち上げよ)。ウ˞ビ˞ヌ ˞ムヌ ピ˞キムタイ˞ パリ ˞ナー˞ヌ [ʔu˞bi˞nu ˞munu pi̥˞kimutai˞ pari ˞na:˞nu](あれだけの物を引っ担いで＜引き持ち上げて＞行ってしまった)。

ピ˞キムチ [pi̥˞kimutʃi] 【名】挽き餅。糯米(モチゴメ)を一晩水に浸けて水切りをし、石臼で水挽きした液体をメリケン袋に入れ、水を切って得た澱粉を成形して芭蕉 (バサ) や月桃 (サミ) の葉で包み、蒸して作った餅。パ˞トゥ˞マプソー ピ˞キムチル˞ ス˞ク˞ローッタル シ˞キ˞ムチェー ス˞ク˞ロー ˞ラン˞シェン [pḁ˞tu˞mapu̥so: pi̥˞kimutʃiru˞ su̥˞ku˞ro:ttaru ʃi̥˞ki˞mutʃe: su̥˞ku˞ro: ˞raŋ˞ʃeŋ](鳩間の人は、挽き餅を＜ぞ＞造られたのであって、搗き餅は造られなかった)。

ビ˞キムヌ [biˀkimunu] 【名】動物の雄。ぞんざいな表現では、ビ˞キムー [biˀkimu:](雄の動物)。˞ミー˞ムヌ [ˀmi:ˀmunu](動物の雌) の対義語。ビ˞キオー [biˀkiʔo:](雄豚)。ビ˞キウシ [ˀmi:ˀʔuʃi](雄牛)。ビ˞キマヤ [biˀkimaja](雄猫)。ビ˞キドゥル [biˀkiduru](雄鶏)。ビ˞キムヌバ˞ シゥ˞カ˞ナイ フ˞ドゥバシティ カーシ˞バ [biˀkimunuba˞ si̥˞ka˞nai ɸu˞dubaʃiti ka:ʃi˞ba](雄の動物＜豚や牛＞を肥育し＜養い成長させ＞て売れよ)。

ピ˞キムヌ [pi̥˞kimunu] 【名】ひきもの (挽き物)。˞シームヌバンマー˞ ピ˞キムヌ˞ナー ˞ヌー˞ル ッ˞ふァーシティル˞ ス˞ク˞ルティ˞ダー [ˀʃi:munubamma:˞ pi̥˞kimunu˞na: ˞nu:ˀru fˀfa:ʃitiru˞ su̥˞ku˞ruti˞da:](吸い物椀は挽き物に漆を塗って＜糊を食わして＞作るのだそうだよ)。

ピ˞キムヌヤー [pi̥˞kimunuja:] 【名】挽き物屋。ギ˞リギリ˞ヤー [gi˞rigiri˞ja:](挽き物屋) ともいう。鳩間島にはなかった。石垣島には挽き物屋があり、祝儀用、不祝儀用の吸い物椀を注文して製作してもらっていた。ピ˞キムヌヤーヤ˞ イ˞サナキナー˞

ル　˞アッタ˜ル　パ˞トゥ˜マナー˞ナーン˜シェン [pi̥˞kimunuja:ja˜ ʔi˞sanakina:˜ru ˞ʔatta˜ru pḁ˞tu˜mana: ˞na:ŋ˜ʃeŋ](引き物屋は石垣島にぞあった。鳩間にはなかった)。

ピ˞キヤドゥ [pi̥˞kijadu] 【名】引き戸。遣り戸。敷居と鴨居の溝に戸を立てて左右に走らせて開閉する戸。˞マーシヤドゥ [˞ma:ʃijadu](開き戸。まいど < 舞戸 >) の対義語。ピ˞キヤドー˜　シ˞ギイツァヌ　サンブ˜イツァシル　˞パイヨーッ˜タ [pi̥˞kijado:˜ ʃi˞gi?itsanu sambu˜?itsaʃiru paijo:t˜ta](引き戸は杉板の三分板で < ぞ >接(ハ)いで作られた)。

ピ˞キヤルン [pi̥˞kijaruŋ] 【他動】引き破る。ピ˞キヤブルン [pi̥˞kijaburuŋ] ともいう。˞ワー　アッ˜タル　カ˞ビバ˜　ピ˞キヤルンティ　スヌ˜　ピ˞キヤラン˜ドーシ　タ˞ブイ˜　シ˞キ˜リ [˞wa: ʔat˜taru ka˞biba˜ pi̥˞kijarunti sunu˜ pi̥˞kijaran˜do:ʃi ta˞bui˜ ʃi̥˞ki˜ri](君は惜しくも < あたら、可惜 > 紙を引き破ろうとするが、引き破らないで貯えておきなさい)。ピ˞キヤリ˜　ミサカー　ピ˞キヤル˜　クトー　˜ナルン [pi̥˞kijari˜ misaka: pi̥˞kijaru˜ kṵo: ˜naruŋ](引き破ってよければ、引き破ることは出来る)。ッ˞ふ˜　カベー　ピ˞キヤレー˜　ミサムヌ [f˞fu˜kabe: pi̥˞kijare:˜ misamunu](古紙は引き破ればいいのに)。ピ˞キヤリ [pi̥˞kijari](引き破れ)。

ピ˞キユーシルン [pi̥˞kiju:ʃiruŋ] 【他動】引き寄せる。寄せ集める。シ˞ナピキ˜ヌ　˜シナー　ピ˞キユーシルンティ　スンドゥ　タンガ˜シェー　ピ˞キユーシララヌ [ʃi˞napiki˜nu ˜ʃina: pi̥˞kiju:ʃirunti sundu taŋga˜ʃe: pi̥˞kiju:ʃiraranu](綱引きの綱を引き寄せようとするが、一人では引き寄せられない)。マ˞ナ˜マ　ピ˞キユーシ˜　ミサカー　ピ˞キユーシル˜　クトー　˜ナルン [ma˞na˜ma pi̥˞kiju:ʃi˜misaka: pi̥˞kiju:ʃiru˜ kṵto: ˜naruŋ](今、引き寄せてよければ、引き寄せることはできる)。˞マー˜ビン　ピ˞キユーシレー˜　ミサムヌ [˞ma:˜bim pi̥˞kiju:ʃire:˜ misamunu](もっと引き寄せればいいのに)。˞パー˜ク　ピ˞キユーシリ [˞pa:˜ku pi̥˞kiju:ʃiri](早く引き寄せろ)。

ピ˞キユースン [pi̥˞kiju:suŋ] 【他動】引き寄せる。寄せ集める。フ˞ター˜ル˜シ　フ˞ニ˜バ　ピ˞キユースンティ　スンドゥ˜　カ˞ジヌ　スーワ˜ヌ　ピ˞キユーサラヌ [ɸṵ˞ta:ru˜ʃi ˜ɸuni pi̥˞kiju:sunti sundu˜ ka˞ʤinu su:wa˜nu pi̥˞kiju:saranu](二人で船を引き寄せようとするが、風が強くて引き寄せられない)。ピ˞キユーシ˜　ミサカー　ピ˞キユース˜　クトー　˜ナルン [pi̥˞kiju:ʃi˜ misaka: pi̥˞kiju:su˜ kṵto: ˜naruŋ](引き寄せてよければ、引き寄せることは出来る)。˞マー˜ビン　ピ˞キユーシェー˜　ミサムヌ [˞ma:˜bim pi̥˞kiju:ʃe:˜ misamunu](もっと引き寄せればいいのに)。˜クマンター　ピ˞キユーシ˜バ [˜kumanta: pi̥˞kiju:ʃi˜ba](こちら側へ引き寄せよ)。

ビ˞キル [bi˞kiru] 【名】姉妹からいう兄弟。ブ˞ナル [bu˞naru](兄弟からいう姉妹) の対義語。オモロ原注に「女ノ男兄弟を云う也」(14 巻 998) とある。多くの場合、シ˞ザビキ˜ル [ʃi˞ʤabiki˜ru](年上の男兄弟)、˞ウシトゥビキ˜ル [˞?uʃi̥tubiki˜ru](年下の兄弟) がいる。ビ˞キルヌ˜　ドゥーパダニンガイヤー　ブ˞ナルヌ˜　ス˞クブン　ヤッタ [bi˞kirunu˜ du:padaniŋgaija: bu˞narunu˜ sṵ˞kubuɲ jatta](兄弟の健康祈願の神願いは姉妹の務め < 職分 > であった)。

ビ˞キ˜レ [bi˞ki˜re] 【名】 (動) とかげ (蜥蜴) の総称。きのぼりとかげ。鳩間島には体長約 30 センチに成長する巨大トカゲも生息している。口碑によると、これが海中に下りて、カ˞タカシ [kḁ˞takaʃi](みなみひめじ) になると伝えられている。ウ˞ブビキレー˜ヤ　ス˞ナ˜カー　˜ウリティ　カ˞タカシ˜　ナルティ　ア˞ザリ　ブー [?u˞bubikire:˜ja su˞na˜ka: ˜?uriti ka˞taka˜ʃi ˜naruti ?a˞ʤari bu:](大型のトカゲが海に下りてミナミヒメジという魚になるといわれている)。

ピ˞キンザ˜スン [pi̥˞ki?nʤa˜suŋ] 【他動】引き出す。引っ張り出す。ピ˞キザスン [pi̥˞kiʤasuŋ](引き出す) ともいう。ヤ˞ナ˜ムヌ　ピ˞キンザスンティ˜　ウムーカ　ピ˞キンザス˜　クトー　ナ˞ルン˜ドゥ　ク˞リ˜シェー　ピ˞キンザサラヌ [ja˞na˜munu pi̥˞ki?nʤa-sunti˜ ?umu:ka pi̥˞ki?nʤasu˜ kṵto: na˞run˜du ku˞ri˜ʃe: pi̥˞ki?nʤasaranu](魔物を引っ張り出そうと思えば引っ張り出すことは出来るが、これでは引っ張り出されない)。ピ˞キンザシ　ッふィーリ [pi̥˞ki?nʤaʃi ffi:ri](引っ張り出してくれ)。ピ˞キンザシェー˜　ミサムヌ [pi̥˞ki?nʤaʃe:˜ misamunu](引っ張り出せばいいのに)。ヤー˞ディン˜　ピ˞キンザシ [ja:˞dim˜ pi̥˞ki?nʤaʃi](必ず引っ張り出せ)。

ビ˞キンマ [bi˞ki?mma] 【名】(動) おうま (牡馬)。˞ミーン˜マ [˞mi:?m˜ma](雌馬) の対義語。ビ˞キンマバ　カイティ˜　バ˞シャ˜　ピ˞カシ [bi˞ki?mmaba kaiti˜ ba˞ʃa˜ pi̥˞kaʃi](牡馬を買って馬車を牽かせ)。

ピ˞クン [pi̥˞kuŋ] 【他動】 籾摺(モミスリ)をする。粉を挽く (碾く)。ム˞チマイ˜　フ˞クラシティ˜　クー　ピ˞キティ　プール˜ムチ　ス˞ク˜リバ [mu˞ʧimai˜ ɸṵ˞kuraʃiti˜ ku: pi̥˞kiti pu:ru˜mutʃi sṵ˞ku˜riba](糯米(モチゴメ)を水に浸け

てふやかし、粉を挽いて豊年祭の餅を作りなさいよ)。˞クー˥ヤ　ピ˞カヌ [˞kuː˥ja pi̥˞kanu](粉は＜を＞挽かない)。˥クー　ピ˞ク˥　プソー　フ˞ター˥ル˥シ　ピ˞キ˥バ [˥kuː pi̥˞ku˥ pu̥soː ɸu̥˞taːru˥ʃi pi̥˞ki˥ba](粉を挽く時は二人で挽きなさい)。˞バン˥ヌン　˥クー　ピ˞クンダ　ワンヌン˥　ピ˞ケー˥　ミサムヌ [˞ban˥nuŋ ˥kuː pi̥˞kunda wannum˥ pi̥˞keː˥ misamunu](私も粉を挽くから、君も挽けばいいのに)。˞キュー˥ヤ　ヤー˞ディン˥　クー　ピ˞キ [˞kjuː˥ja jaː˞diŋ˥ kuː pi̥˞ki](今日は必ず粉を挽け)。

ピ˞クン [pi̥˞kuŋ] 【他動】1引く。草などを引き抜く。間引きする。イ˞ジヌ˥　ン˞ジ˥ルカー　˥ティー　ピ˞キ　ティー˥ヌ　ン˞ジ˥ルカー　イ˞ジ˥　ピ˞キ˥ティ　ナ˞ラー˥ソーッタル [ʔiˀʤinu˥ ʔnˀʤi˥ruka: ˥ti: pi̥˞ki ti:˥nu ʔnˀʤi˥ruka: ʔiˀʤi˥ pi̥˞ki˥ti na˞raː˥soːttaru](「意地が出たら手を引け、手が出たら意地を引け」と教えられた)。˥ッサ　ピ˞クンティ　スンドゥ˥　ピ˞カラヌ [˥ssa pi̥˞kunti sundu˥ pi̥˞karanu](草を引き抜こうとするが、引き抜かれない)。ピ˞キ˥　ミサカー　ピ˞ク˥　クトー　˥ナルン [pi̥˞ki˥ misaka: pi̥˞ku˥ ku̥to: ˥naruŋ](引き抜いてよければ、引き抜くことは出来る)。˞フータイ˥　ピ˞キティ　ギュー˥サ　カ˞カル˥ワ [˞ɸuːtai˥ pi̥˞kiti gjuː˥sa kḁ˞karu˥wa](風袋(フウタイ)を引いて重さはどれほどになるか)。˥ッサー　ピ˞ケー˥　ミサムヌ [˥ssa: pi̥˞keː˥ misamunu](草は引き抜けばいいのに)。˥ッサー　ムー˞ル˥　ピ˞キ [˥ssa: muː˞ru˥ pi̥˞ki](草は全部引き抜け＜引け＞)。2水や血が流れる。˞シーバ˥　ピ˞ケー˥ティ　˞アーク˥ヌ　˞ヌー˥シタカヤー [˞ʃiːba˥ pi̥˞keː˥ti ˞ʔaːku˥nu ˞nuː˥ ʃi̥takajaː](血を流しているがどうしたのかなあ)。ユ˞ダル˥　ピ˞クン [ju˞daru˥ pi̥˞kuŋ](涎をひく＜垂らす＞)。3引退する。退職する。卒業する。引き下がる。ヤ˞ク˥バ　ピ˞ケーン˥ツォー [ja˞ku˥ba pi̥˞keːn˥tsoː](役場を退職したそうだ)。4蚊張を吊る。ガ˞ザン˥ヌ　˞ブンダ˥　カ˞ツァ˥　ピ˞キティ˥　ニ˞バシ [ga˞ʤan˥nu ˞bunda˥ kḁ˞tsa˥ pi̥˞kiti˥ ni˞baʃi](蚊がいるので蚊張を吊って寝かせなさい)。5血筋をひく。血統をひく。˞ウン˥ネートー　˞シー˥　ピ˞キ　ブー [˞ʔun˥neːto: ˞ʃiː˥ pi̥˞ki buː](あの家とは血筋を引いている＜同じ血統である＞)。6腫物が引く。ア˞シブ˥ヌ　パ˞レー˥　ピ˞ケー˥ン [ʔa˞ʃibu˥nu pa˞reː˥ pi̥˞keː˥ŋ](おできの腫れは引いた)。

ピ˞クン [pi̥˞kuŋ] 【自動】引きつる。痙攣(ケイレン)する。筋などが引きつる。普通は、ガ˞ラ˥サマール　˞スン [ga˞ra˥samaːru ˞suŋ](痙攣する) という。シ˞ル˥　ピ˞クン [ʃiˀru˥ pi̥˞kuŋ](筋が引きつる＜痙攣する＞)。ニ˞チ˥ヌ　ア˞ガリティ˥　シ˞ル　ピキ　ベー [ni˞ʧi˥nu ʔa˞gariti˥ ʃiˀru˥ pi̥˞ki beː](熱が脳に上がって引きつって＜痙攣して＞いる)。シ˞ロー˥　ピ˞カンティ˥　ウ˞ムー˥ヌ　シ˞ル˥　ピ˞ク˥　ピンマー　˥ニチ　サ˞マ˥シ [ʃiˀroː˥ pi̥˞kanti˥ ʔu˞muː˥nu ʃiˀru˥ pi̥˞ku˥ pimmaː˥ nitʃi sa˞ma˥ʃi](引きつらない＜痙攣しない＞と思うが、引きつる＜痙攣する＞時は熱を冷ましなさい)。シ˞ル˥　ピ˞ケー˥ラー　˞ヨー˥ゾー　ナ˞ラ˥ヌ [ʃiˀru˥ pi̥˞keː˥raː ˞joː˥ʤo: na˞ra˥nu](引きつったら＜痙攣したら＞養生＜手当て＞できない)。

ピ˞クン [pi̥˞kuŋ] 【他動】弾く。弾奏する。˞サンシン˥　ピ˞クンティ　スンドゥ　バン˥マー　ピ˞カラヌ [˞saŋʃim˥ pi̥˞kunti sundu bam˥mama: pi̥˞karanu](三線を弾こうとするが、私には弾かれない)。˞サンシン˥　ピ˞キ˥　ミサカー　ピ˞ク˥クトー　ナ˞ルン˥ドゥ　˞キュー˥ヤー　ピ˞ケー˥　ナ˞ラ˥ヌ [˞saŋʃim˥ pi̥˞ki˥ misaka: pi̥˞ku˥ ku̥to: na˞run˥du ˞kjuː˥ja pi̥˞keː˥ na˞ra˥nu](三線を弾いてよければ弾くことは出来るが、今日は弾いてはならない)。˞ワンヌン˥　ピ˞ケー˥　ミサムン [˞wannum˥ pi̥˞keː˥ misamunu](君も弾けばいいのに)。˞キュー˥ヤ　ヤー˞ディン˥　ピ˞キ [˞kjuː˥ja jaː˞dim˥ pi̥˞ki](今日は必ず弾け)。

˥ピグン [˥piguŋ] 【他動】削る。へぐ (剥(へ)ぐ。折(へ)ぐ)。薄く削り取る。「〜御髪＜ぐし＞の少し削がれたる〜」『源氏物語＜明石＞』。「Fegui, u, eida.　ヘギ、グ、イダ (剥ぎ、ぐ、いだ) 密着しているものを剥がす、〜Itauo fegu(板を剥ぐ)〜」『邦訳日葡辞書』の転訛。カ˞ツブシ˥　ピグンティ　˞ベーン˥ドゥ　ク˞ヌ　シー˥グシェー　ピ˞ガラ˥ヌ [kḁ˞tsubuʃi˥ pigunti ˞beːn˥du ku˞nu ʃiː˥guʃeː pi˞gara˥nu](鰹節を削ろう＜剥ごう＞としているが、この小刀＜˞鉏具、サイグ」の義か＞では削られない)。˥バー　˥ピギ　˥ミサカー　˥ピグ　˥クトー　˥ナルン [˥baː ˥pigi ˥misakaː ˥pigu˥ ku̥to: ˥naruŋ](私が削ってよければ、削ることはできる)。ク˞リ˥シ　˥ピゲー　˥ミサムヌ [ku˞ri˥ʃi ˥pigeː ˥misamunu](これで削ればいいのに)。ク˞ヌ　シー˥グシ　˥ピギ [ku˞nu ʃiː˥guʃi ˥pigi](この小刀＜˞鉏具、サイグ」の義か＞で削れ＜剥げ＞)。

ビ˞ケー [bi˞keː] 【名】父親。父親の名称。ア˞チャー [ʔa˞ʧaː](お父さん!)、アー˞ヤー [ʔaː˞jaː](お父さん!) は名称、呼称にも用いる。ビ˞ケーヌ˥ウヤ [bi˞keː˥nuʔuja](父親) ともいう。ビ˞ケーヤ　パイ˥ター　˞ター　カイ˥シン　˞オーッ˥タ [bi˞keːja pai˥taː ˞taː kai˥ʃiŋ ˞ʔoːt˥ta](父親は西表島＜南端＞へ田圃を耕

しに行かれた)。

ビ˞ケーカタ [biˤkeːkata] 【名】父方。「父親方」の義。bikirikata(ゑけりかた)→ [bikirjaːkata] → [bikeːkata] と転訛したものであろう。ブ˞ネーカタ [buˤneːkata](母親方) の対義語。シ˞ジ˞カタ [siˤʤi˞kata](血筋の方)、サ˞ニ˞カタ [saˤni˞kata](種方) ともいう。ク˞ヌ˞ ッ˞ふァー˞ ビ˞ケーカタマリバシーブー [kuˤnu˞ fˤfaː˞ biˤkeːkatamariba ʃiːbuː](この子は父方の遺伝子を多く受けて、父親似の生まれ方 < 父方生まれ > をしている)。

ビ˞ケーヌ˞ウヤ [biˤkeːnu˞ʔuja] 【名】父親。親族名称。ビ˞ケーヌ˞ウヤー ˞パイ˞サナー ˞マーラシ ナー˞ヌ [biˤkeːnu˞ʔujaː ˞paiˤsanaː ˞maːraʃi naː˞nu](父親は早くに亡くなられてしまった)。

ピ˞コー˞ン [pi̥ˤkoː˞ŋ] 【形】低い。˞タケー ピ˞コー˞ンティ ス˞クタヌ ナン˞ゾー ピ˞コー ナー˞ヌ [˞tạkeː pi̥ˤkoːn˞ti sṵˤkutanu nan˞ʤoː pi̥ˤkoː naː˞nu](身長 < 丈 > は低いと聞いたが、あまり低くない)。˞ドゥク ピ˞コー˞ヌ シゥ˞カーラヌ [˞duku pi̥ˤkoː˞nu si̥ˤkaːranu](あまりにも低くて使えない)。トゥ˞シ˞ トゥルカー ˞シンダイ˞ ピ˞コー˞ ナルン [tṵˤʃi˞ turukaː ˞ʃindai˞ pi̥ˤkoː˞ naruŋ](年をとったら次第に低くなる)。ピ˞コー˞ プ˞ソー ピー˞タイ ˞トゥーラン˞シェン [pi̥ˤkoː˞ pṵˤsoː piː˞tai ˞tuːraŋ˞ʃeŋ](低い人は兵役検査 < 兵隊 > に通らなかった)。˞クイ˞ヌ ピ˞コー˞カー ノー˞ン˞ シゥ˞カラヌ [˞kui˞nu pi̥ˤkoː˞kaː noːˤn˞ si̥ˤkaranu](声が低かったら何も聞こえない)。

ビ˞コーンッふァ [biˤkoːŋffa] 【名】男の子。男児。ミ˞ドーン˞ッふァ [miˤdoːŋ˞ffa](女の子) の対義語。ビ˞コーンッふァヌ˞ マ˞レー˞ン [biˤkoːŋffanu˞ maˤreː˞ŋ](男の子が生まれた)。

˞ピサ [˞pi̥sa] (1)【名】足。足首から下の部分。「足の平」の義。irV → isV の音韻変化の法則による転訛。˞パンピサ [˞pampisa](足平。「脛(ハギ)平」の義)。「ティー˞ピサ [˞tiː˞pi̥sa](掌(テノヒラ))。ア˞シフン˞ ピ˞サ˞フン ˞シー クン˞ゾー ˞ンジ ˞バイ˞ヨー イ˞ゾーッ˞タ [ʔaˤʃiɸum˞ pi̥ˤsa˞ɸuŋ ˞ʃiː kun˞ʤoː ˞ʔnʤi ˞baiˤjoː ʔiˤʤoːt˞ta](地団駄(ジダンダ)踏んで < 何度も激しく足を踏みしめて >、怒って私を叱られた)。**(2)**【助数】そく (足)。下駄、草履(ゾウリ)、足袋などの履物(ハキモノ)を数える単位。プ˞スッ˞クミ [pṵˤsuk˞kumi](一組。一揃い) ともいう。ア˞シ˞ツァ プ˞ス˞ピサ (プ˞スッ˞クミ)˞カイ˞クー [ʔaˤʃi˞tsa pṵˤsu˞pi̥sa(pṵˤsuk˞kumi)˞kai˞kuː](下駄を一足買ってきなさい)。一足の片方を、カ˞タ˞パン [kạˤta˞paŋ](片足) という。両足揃って、プ˞ス˞ピサ [pṵˤsu˞pisa](一足)< プ˞スッ˞クミ [pṵˤsuk˞kumi]> となる。フ˞タピサ [ɸṵˤtapisa](2 足)。「ミーピサ [˞miːpisa](3 足)。「ユーピサ [˞juːpisa](四足)。イ˞チ˞ピサ [ʔiˤʧi˞pisa](5 足)。

ピ˞サ [pi̥ˤsa] 【名】 1平たい面。薄くて平らなもの。魚の片身。はんみ (半身)。「ひら (平)」の義。CirV → CisV の音韻変化の法則によるもの。ピ˞サイズ [pi̥ˤsaʔiʤu](ひらめ。< 平魚 >)。イ˞ズヌ˞ ピ˞サ˞ ウ˞コー˞シ [ʔiˤʤunu˞ pi̥ˤsa˞ ʔuˤkoː˞ʃi](魚の片平 < 片身 > を三枚に下ろせ < 起こせ >)。イ˞ズヌ˞ カ˞タ˞ピサ [ʔiˤʤunu˞ kạˤta˞pi̥sa](魚の片平 < 片身 >)。2屋根の斜面。「ヤー˞ヌ ˞マイ˞ピサ [˞jaː˞nu ˞mai˞pisa](屋根の前の斜面 < 前平 >)。「ヤー˞ヌ ˞シー˞ピサ [˞jaː˞nu ˞ʃiː˞pisa](屋根の後ろの斜面 < 背平 >)。「アンタヌ ピサ [˞ʔantanu pisa](東の斜面 < 屋根 >)。「アールピサ [˞ʔaːrupisa](東屋根。東斜面)。「マイ˞ピサ [˞mai˞pisa](前平。前屋根)。「イールピサ [˞ʔiːrupisa](西平。西屋根)。

˞ピザ [˞piʤa] 【名】みぎわ (汀)。なぎさ (渚)。「Feta. ヘタ (端(ヘタ)・蔕) 海やその他の物の縁・端」『邦訳日葡辞書』の転訛か。「へた (端・辺)」の義。「へた 海の端を云。和詞にもおなし」『おもろ語辞書 (混効験集)』とある。˞イダフネーラ ˞クーラヌ˞ ピザー ˞マーリ˞ フ˞ノー˞ラー バ˞タリ˞ パリバ [˞ʔidaɸuneːra ˞kuːranu˞ piʤaː ˞maːri˞ ɸuˤnoː˞raː baˤtari˞ pariba](板船 < サバニ > から久浦のみぎわ < 汀 > を回って船浦へ渡って行きなさい)。

ビ˞ザーカスン [biˤʤaːkasuŋ] 【他動】押し潰す。潰す。ビ˞ザークン [biˤʤaːkuŋ](潰れる) の未然形に、-スン [-suŋ](〜せる。〜させる) が付いて形成された派生動詞で、使役の意味を持つ。˞ウシキ˞ ビ˞ザーカスンティ スンドゥ˞ ビ˞ザーカサラヌ [˞ʔuʃi̥ki˞ biˤʤaːkasunti sundu˞ biˤʤaːkasaranu](押し潰そうとするが、押し潰されない)。ム˞チェー ウシキティ˞ ビ˞ザーカスンティ スンドゥ コー˞リティ ビ˞ザーカサラヌ [muˤʧeː ʔuʃi̥kiti˞ biˤʤaːkasunti sundu koː˞riti biˤʤaːkasaranu](餅は押して押しつぶそうとするが、硬くなって押しつぶされない)。ビ˞ザーカシ˞ ミサカー ˞バン˞ヌン ビ˞ザーカス˞クトー ˞ナルン [biˤʤaːkaʃi˞ misakaː ˞ban˞num biˤʤaːkasu˞ kṵtoː ˞naruŋ](押し潰してよければ、私も押し潰すことはできる)。˞ウシキ˞ ビ˞ザーカシェー˞ ミサムヌ [˞ʔuʃi̥ki˞ biˤʤaːkaʃeː˞ misamunu](押し潰せばいいのに)。˞パー˞ク ˞ウシキ˞ ビ˞ザーカ

シ˥バ [˞paː˥ku ˞ʔuʃi̥ki˥ biˀʤaːkaʃi˥ba](早く押し潰せよ)。

ビ˞ザーカリン [biˀʤaːkariŋ] 【自動】つぶされる。押しつぶされる。ビ˞ザークン [biˀʤaːkuŋ](潰れる) の未然形に受け身の助動詞リン [riŋ](れる) が付いて形成された受身の派生動詞。˞ウイプス˥ヌ　パ˞ナシキ　スーアタ˥リ　シ˞ティ˥　ビ˞ザーカリ　オー˥ル [˞ʔuipu̥su˥nu paˀnaʃi̥ki suːʔata˥ri ʃi̥ti biˀʤaːkari ʔoː˥ru](年寄が酷(ヒド)い風邪に罹って足腰が立たないほどにつぶされて＜打ちのめされて＞おられる)。ビ˞ザーカラヌ [biˀʤaːkaranu](つぶされない)。

ビ˞ザーカルン [biˀʤaːkaruŋ] 【自動】べたっと座り込む。へたばって座り込む。へたり込む。尻餅をつく。へたる。˥スブットー　シ˞グトー˥　サ˞ムティ˥　ビ˞ザーカルンダー˥　シゥ˞カウナ [˥subuttoː ʃi ˞gutoː˥ saˀmuti˥ biˀʤaːkarunda˥ si̥ˀkauna](怠け者は仕事をしないでへたばってべったりと座り込むから使うな)。

ビ˞ザークン [biˀʤaːkuŋ] 【自動】 1潰れてぺしゃんこになる。押しつぶされて平らになる。潰れて座り込む。「拉、ヒサグ・ヒシグ」『色葉字類抄』の転訛したもの。˞ウスク˥カー　ム˞チェ˥　ビ˞サークンダ˥　ビ˞ザーカン˥ヨーニ　˥シキバ [˞ʔusu̥ku˥kaːmuˀʧeː˥ biˀʤaːkunda˥ biˀʤaːkaŋ˥joːni ˥ʃi̥ˀkiba](押したら餅は潰れて平たくなる＜ペシャンコになる＞から、つぶされない＜ペシャンコにならない＞ように置きなさいよ)。ビ˞ザーキ　ナー˥ヌ [biˀʤaːki naː˥nu](潰れてしまった)。ビ˞ザーク˥　ム˞チェー˥　カ˞ザルナ [biˀʤaːku˥ muˀʧeː˥ kaˀʤaruna](潰れる餅は供えるな)。2病気で立てなくなる。˥ヤミティ　ビ˞ザーカリ　ベー [˥jamiti biˀʤaːkari beː](病気で立てなくなっている＜ぺしゃんこにされている＞)。

ピサー˞ピサー˥シ [pisaː˞pisaː˥ʃi] 【副】低く低く。平身低頭して。頭を非常に低くして。ピサー˞ピサー˥シ　˥グリー　˞スン [pisaː˞pisaː˥ʃi ˥guriː ˞suŋ](頭を非常に低く下げてお辞儀をする)。ピサー˞ピサー˥グレー　˞シール˥　クˀトゥ˥ワキ　˞ソーッタ [pi̥saː˞pisaː˥ gureː ˞ʃiːru˥ ku̥ˀtu˥waki ˞soːt˥ta](平身低頭して＜頭を低く下げてお辞儀をして＞お詫び＜事情を話して詫び、弁解された。事訳(コトワケ)＞をされた)。

ピ˞サーマスン [pi̥ˀsaːmasuŋ] 【他動】低める。低くする。ピ˞サーマスンティ˥　アˀズンドゥ˥　ムッˀトゥ˥　ピ˞サーマサンバン [pi̥ˀsaːmasunti˥ ʔaˀʤundu˥ mutˀtu˥ pi̥ˀsaːmasambaŋ](低めるというが、ちっとも低めないよ)。ピ˞サーマシ˥　ミサン [pi̥ˀsaːmaʃi ˥misaŋ](低めても良い)。ピ˞サーマス˥　クトーナ˞ラ˥ヌ [pi̥ˀsaːmasu˥ ku̥toː naˀraˀnu](低めることは出来ない)。ン˞ベーマ˥　ピ˞サーマシェー˥　ミサムヌ [ʔmˀbeːma˥ pi̥ˀsaːmaʃeː˥ misamunu](少し低めればいいのに)。˞マー˥ビン　ピ˞サーマシ [˞maː˥bim pi̥ˀsaːmaʃi](もっと低めろ)。

ピ˞サームン [pi̥ˀsaːmuŋ] 【自動】低くなる。平たくなる。シ˞ティ˥　シ˞キ˥ルカー　˞ナンク˥ル　ピ˞サームン [ʃi̥ˀti˥ ʃi̥ˀki˥ruka: ˞naŋku˥ru piˀsaːmuŋ](ほったらかして＜放置して＞置くと自然に低くなる)。ピ˞サーミ　ナー˥ヌ [pi̥ˀsaːmi naː˥nu](ひくくなってしまった)。ピ˞サーム˥　クトー　˞ナー˥ヌ [pi̥ˀsaːmu˥ ku̥toː ˞naː˥nu](低くなることはない)。

ビ˞ザーリプス [biˀʤaːripu̥su] 【名】いざり (膝行る) 人。歩けない人。病気で足が萎(ナ)えて歩行できない人。ビ˞ザーリプス˥　ヤ˞ルンダ˥　ドゥーシェー　˞シーユーサヌ [biˀʤaːripusu˥ jaˀrunda˥ duːʃeː ˞ʃiːjuːsanu](歩けない人だから、自分ではすることができない＜し得ない＞)。

ビ˞ザーリヤン [biˀʤaːrijaŋ] 【名】歩けない病気。「ゐざり・やみ (躄・病)」の義か。ビ˞ザーリヤンバ˥　カ˞カ˥リ　ミ˞チェー˥ユン　ン˞ジララ˥ヌ [biˀʤaːrijamba˥ kḁˀka˥ri miˀʧeː˥jun ʔnˀʤirara˥nu](歩けない病気に罹って道にも出られない)。

ビ˞ザールン [biˀʤaːruŋ] 【自動】1潰れる。˞ウーカジヌ˥　フ˞クター　˞ヤー˥ヤ　ビ˞ザーリ　ナー˥ヌ [˞ʔuːkaʤinu˥ ɸu̥ˀku˥taː ˞jaː˥ja biˀʤaːri naː˥nu](台風が吹いたので、家は潰れてしまった)。ビ˞ザールンティ˥　ウムイ　˞ソーバ　シーベータ˥ヌ　ビ˞ザーランシェン [biˀaːrunti˥ ʔumui ˞soːba ʃiːbeːta˥nu biˀʤaːraŋʃeŋ](潰れると思って心配していたが潰れなかった)。˞カー˥ラヤーヌ　ビ˞ザール˥　クトー　˞ナー˥ヌ [˞kaː˥rajaːnu biˀʤaːru˥ ku̥toː ˞naː˥nu](瓦葺家が潰れることはない)。˥アイブ　˞ヤー˥ヤ　ビ˞ザーレー˥　ミサムヌ [˥ʔaibu ˞jaː˥ja biˀʤaːreː˥ misamunu](あんな家は潰れればいいのに)。˞パー˥クビ˞ザーリ˥バ [˞paː˥ku biˀʤaːri˥ba](早く潰れろ)。2腰が砕ける。立てなくなる。病気で足腰が立たなくなる。ク˞シバ˥　ヤ˞マ˥シティ　ビ˞ザーリ　ベー [ku̥ˀʃiba˥ jaˀma˥ʃi̥ti biˀʤaːri beː](腰を痛めて立てなくなっている)。

ピ˞サー˥ン [pi̥ˀsaː˥ŋ] 【形】物が低い。平たくて低い。ピ˞コー˥ン [pi̥ˀkoː˥ŋ](身長が低い) ともいう。˞ヤー˥ヌ　ピ˞サーン˥ダ　カ˞ジェー˥　ア˞タラヌ [˞jaː˥nu

pi̥˞sa:˜nda ka˞ʤe:˜ ʔa˞taranu](家が低いから風＜台風＞は当たらない)。˜タケー　ピ˞サー˜ンティ　ウ˞ムータ˜ヌ　ピ˞サーナー˜ヌ [˜tạke: pi̥˞sa:˜nti ʔu˞mu:ta˜nu pi̥˞sa:na:˜nu](高さは低いと思ったが低くはない)。˞シンダイ˜　ピ˞サー˜　ナリクン [˞ʃindai˜ pi̥˞sa:˜ narikuŋ](次第に低くなってくる)。ウ˞レー˜　ピ˞サー˜ヌ　シゥ˞カーラヌ [ʔu˞re:˜ pi̥˞sa:˜nu si̥˞ka:ranu](彼は低いので使われない)。ピ˞サー˜　クトー　˞ナー˜ヌ [pi̥˞sa:˜ kụto: ˞na:˜nu](低いことはない)。ピ˞サー˜カー　シゥ˞カーラヌ [pi̥˞sa:˜ka: si̥˞ka:ranu](低かったら使えない)。

ピ˞サイ [pi̥˞sai] 【固】(地) 石垣市字平得。字登野城と字大浜の間にある集落。ピ˞サイトゥ　マイザ˜トー　˜ミチ　˞ピーチ˜ル　ピ˞ダ˜ティ　˞ブンドゥ˜　ムネー　˞カウリス [pi̥˞saitu maiʤa˜to: ˜mitʃi ˞pi:tʃi˜ru pi˞da˜ti ˞bundu˜ mune: ˜kaurisu](平得村と前里村は道一つしか隔てていないが＜道一つを隔てているが＞言葉は変わる)。

ピ˞サイズ [pi̥˞saʔiʤu] 【名】(動) 魚の名。和名、テンジクカレイ (体長約 30 センチ)。「ひらうお (平魚)」の転訛したもの。和名、トゲダルマ (体長約 20 センチ)。和名、モンダルマカレイ (体長約 30 センチ)。和名、アマミウシノシタ (体長約 45 センチ)。和名、ミナミウシノシタ (体長約 23 センチ) などの総称。カ˞タピサ˜イズ [kḁ˞tapisa˜ʔiʤu](かれい。˞片平魚」の義) ともいう。若年層はヒ˞ラ˜メー [çi˞ra˜me:] ともいうが、標準語からの借用語。ピ˞サイゾー˜　カ˞タピサ˜イズティン　ア˞ズヌ　ナン˜ゾー　トゥ˞ラン˜シェン [pi̥˞saiʤo:˜ kḁ˞tapisa˜ʔiʤutiŋ ʔa˞ʤunu nan˜ʤo: tu˞raŋ˜ʃeŋ](カレイは片平魚とも言うが、あまり漁獲しなかった＜獲らなかった＞)。

ピ˞サイズ [pi̥˞saʔiʤu] 【名】魚名。ひらめ (平目)。「平・魚」の義。ピ˞サイゾー　ナン˜ゾー　ン˞マーン˜テー　ウ˞モーン˜シェン [pi̥˞saʔiʤo: nan˜ʤo: ʔm˞ma:n˜te: ʔu˞mo:ŋ˜ʃeŋ](平目は、あまり美味しいとは思わなかった)。

ピ˞サイプス [pi̥˞saipusu] 【名】平得の人。ピ˞サイプソー　ターパタ˜キ　ス˞ク˜リ　˞ゾー˜ジティ˞ダー [pi̥˞saipụso: ta:pata˜ki sụ˞ku˜ri ˞ʤo:˜ʤiti˞da:](平得の人は田畑を作るのが上手だそうだよ)。

ピ˞サ˜　ウ˞コー˜スン [pi̥˞sa˜ ʔu˞ko:˜suŋ] 【連】魚を三枚に下ろす。「平を起こす」の義。イ˞ズヌ˜　ピ˞サ˜　ウ˞コー˜スン [ʔi˞ʤunu˜ pi̥˞sa˜ ʔu˞ko:˜suŋ](魚を三枚に下ろす＜魚の平を起こす＞)。

ピ˞ザ˜キ [pi˞ʤa˜ki] 【名】(海底地名)。鳩間島の北西端の干瀬。島を取り巻く環礁が北西端で鋭く南へ曲がる。その曲がり角の部分の干瀬の名。˞ミー˜ミナ [˞mi:˜mina](広セ貝) や、ビ˞キミナ [bi˞kimina](高セ貝)、˜サザミナ [˜saʤamina](サザエ貝) などが多く、干潮時には婦人たちがよく潮干狩りに行き、フ˞クラ˜ベー [ɸụ˞kura˜be:](タスキモンガラ) や、イ˞ラブ˜チ [ʔi˞rabu˜ʧi](ブダイの仲間)、˜タク [˜tạku](蛸)、˜ミナ [˜mina](サザエ貝)、ヤ˞ダン˜ブレ [ja˞dam˜bure](ソデガイの仲間) などを漁獲した。

ピ˞サグジ [pi̥˞saguʤi] 【名】芋食い虫。体長約 3 センチ。頭が大きく、平たい虫。多くは砂地に棲息するという。ピ˞サグジ˜ティ　˞スー　ウンヌムシ˜ヌ　˞ブント ダー [pi̥˞saguʤi˜ti ˞su: ʔunnumuʃi˜nu ˞bunt-da:](ピサグジという芋食い虫がいるよ)。

ピ˞サシ [pi̥˞saʃi] 【名】ひさし (庇)。軒先。母屋から外側に差し出した片流れの小屋根。ム˞カ˜シェー　ビ˞コーンッふァヌ˜　マ˞リル˜カー　ピ˞サシ˜ナー　˞ユン˜ヌ　カ˞タバ˜　ス˞ク˜リティ　˜ッシ　ス˞コーッ˜タ [mu˞ka˜ʃe: bi˞ko:nffanu˜ ma˞riru˜ka: pi̥˞saʃi˜na: ˞jun˜nu kḁ˞taba˜ sụ˞ku˜riti ˜ʃʃi sụ˞ko:t˜ta](昔は男の子が生まれると弓の形を作って庇に挿して置かれた)。

ピ˞サシ˜イー [pi̥˞saʃi˜ʔi:] 【名】米飯。こわいい (強飯)。単にピ˞サ˜シ [pi̥˞sa˜ʃi] ともいう。水分を吹き上がらせて＜干させて＞炊いたご飯。˞コー˜イー [˞ko:˜ʔi:](こわいい＜強飯＞) ともいう。ピ˞サシイー˜ヤ　マ˞ルケーティナー˜ル　バ˞カソーッ˜タ [pi̥˞saʃiʔi:˜ja ma˞ruke:tina:˜ru ba˞kaso:t˜ta](硬いご飯＜強飯＞はたまに＜ぞ＞炊かれた)。「干させ飯」の義。˞コー˜イー [˞ko:˜ʔi:](強飯) とも言う。お粥の対義語。ピ˞サシ˜イー　バ˞カシティ˜　ティーシ　ス˞ブ˜リ　ム˞リティ˜　バ˞サン˜パーシ　ッ˞スム˜タ [pi̥˞saʃi˜ʔi: ba˞kaʃi̥ti˜ ti:ʃi su˞bu˜ri mu˞riti˜ ba˞sam˜pa:ʃi s˞sumu˜ta](強飯を炊いて、手でしぼり、丸く握って芭蕉の葉で包んだ)。

ピ˞サシズー˜シ [pi̥˞saʃiʤu:˜ʃi] 【名】五目飯。混ぜご飯。加薬飯。炊き込みご飯。「干＜ひ＞させ雑炊」の義。豚肉、蒲鉾、人参、にら、昆布などの炊き込みをした混ぜご飯。˞コーズー˜シ [˞ko:ʤu:˜ʃi](硬い雑炊) ともいう。お盆の精霊迎えの供物は、ン˞カイズーシ [ʔŋ˞kaiʤu:ʃi:](迎えの雑炊) という。˞コーズー˜シー [˞ko:ʤu:˜ʃi:](強雑炊) ともいう。˞ピンガン˜トゥ　˞ソーラン˜ヌ　ン˞カイヌ˜　ピンマー　ヤー˞ディン˜　ピ˞サシズー˜シ　ス˞コー˜ルン [˞piŋgan˜tu ˞

so:ran˥nu ʔŋ˞kainu˥ pimma: ja:˞dim˥ pi̥˞saʃidʑu:˥ʃi su̥˞ko:˥ruŋ](彼岸とお盆の精霊迎えの時には必ず五目飯を供えられる)。

ピ˞サシマ [pi̥˞saʃima] 【名】山のない平坦な島。竹富島や黒島、新城島、鳩間島などの島々。ピ˞サシマー˥ ヤ˞マ˥ヌ ˞ナーン˥ユンダ ˞タイフー˥ヌ ˥ピンマー ˞スーカジ˥ヌ ˥フキ ˞キーヌ˥パーン ムー˞ル˥ サ˞リス [pi̥˞saʃima:˥ ja˞ma˥nu ˞na:ɲ˥junda ˞taiɸu:˥nu ˥pimma: ˞su:kaʤi˥nu ˥ɸu̥ki ˞ki:nu˥ pa:m mu:˞ru˥ sa˞risu](平坦な島は山がないから、台風の時は潮風が吹いて木の葉もみんな枯れる)。平たい島。低い島。ピ˞サシマ˥ナー ˞ター˥ヤ ˞ナー˥ヌ [pi̥˞saʃima˥na: ˞ta:˥ja ˞na:˥nu](平たい島には水田はない)。

ピ˞サジン [pi̥˞saʤiŋ] 【名】平膳。低い膳。ヒ˞ラジン [çi˞raʤiŋ](平膳) ともいう。タ˞カ˥ジン [tḁ˞ka˥ʤiŋ](高膳) の対義語。普通はピ˞サジン [pi̥˞saʤiŋ](平膳) を使用した。ピ˞サジン˥ナー ˞ニンガイムヌ˥ヌ ˥グシパナ ス˞コーリ˥ ビ˞シティ˥ シ˞キ オーシリ [pi˞saʤin˥na: ˞niŋgaimunu˥nu ˥guʃipana: su̥˞ko:ri˥ bi˞ʃiti˥ ʃi̥˞kiʔo:ʃiri](平膳に祈願用の神酒と花米を用意して据え置き、神仏に供えて差し上げなさい)。

ピ˞サスブル [pi̥˞sasuburu] 【名】平たい頭。後頭部が平らな頭。マ˞リティ˥ フ˞タケ˥ナーラ カ˞タン˥トン カー˞ニ˥ ン˞カーシ˥ ニ˞バス˥カー ピ˞サスブル˥ ナルンティ˞ダー [ma˞riti˥ ɸu̥˞take˥na:ra kḁ˞tan˥toŋ ka:˞ni˥ ŋ˞ka:ʃi˥ ni˞basu˥ka: pi̥˞sasuburu˥ narunti˞da:](誕生後すぐから片方にだけ向け < 向かわせ > て寝かせると平たい頭になるそうだよ)。

ピ˞サ˥スン [pi̥˞sa˥suŋ] 【他動】1水を枯らす。水分を減らす。減す。干させる。干潮にする。˞ター˥ヌ ミ˞ジ˥ ピ˞サ˥スンティ ˞ベーン˥ドゥ ピ˞ササラ˥ヌ [˞ta:˥nu mi˞ʤi˥ pi̥˞sa˥sunti ˞be:n˥du pi̥˞sasara˥nu](田の水を枯らせようとするが、枯らされない)。ミ˞ジ˥ ピ˞サ˥シティル ˞マイヤー˥ カ˞ル [mi˞ʤi˥ pi̥˞sa˥ʃi̥tiru ˞maija:˥ ka˞ru](田の水を枯らしてぞ < 落してぞ > 稲は刈るものだ)。ミ˞ジ˥ ピ˞サ˥ス ˥クトー ナ˞ラ˥ヌ [mi˞ʤi˥ pi̥˞sa˥su ˥ku̥to: na˞ra˥nu](水を枯らすことは出来ない)。ミ˞ジェー˥ ピ˞サ˥シェー˥ミサムヌ [mi˞ʤe:˥ pi̥˞sa˥ʃe: ˥misamunu](水は枯らせばいいのに)。˞マー˥ビン ピ˞サ˥シ [˞ma:˥bim pi̥˞sa˥ʃi](もっと水を枯らせ)。2おこわ < お強 > に炊き上げる。˞イーナビ˥ヌ ミ˞ジェー˥ ピ˞サ˥シティ ウ˞ティ˥バ [˞ʔi:nabi˥nu mi˞ʤe:˥ pi̥˞sa˥ʃi̥ti ʔu˞ti˥ba](羽釜 < 飯鍋 > の水は枯らして < 干させて > から竈から移しなさい)。˥スー ピ˞サ˥シティ フ˞ノー˥ラー バ˞タリバ [˥su: pi̥˞sa˥ʃi̥ti ɸu˞no:˥ra: ba˞tari˥ba](干潮になって < 潮を干させて > 船浦へ歩いて渡りなさい)。

ピ˞サダー [pi̥˞sada:] 【固】(地) 石垣市字新川の近くにある水田地帯。「平」の [hira] が、〜irV → 〜isV と変化する音韻法則によるもの。ヒラタバル (平田原) にある田圃。ア˞ラカーヌ インタナー˥ル ピ˞サダーヤ˥ アルティ˞ダー [ʔa˞raka:nu ʔintana:˥ru pi̥˞sada:ja˥ ʔaruti˞da:](新川集落の西側にピサダーはあるそうだよ)。

ビ˞ザッカルン [bi˞ʤakkaruŋ] 【自動】でんと座る。怠けて座り込む。へたりこむ。ブ˞ガ˥ルカー ビ˞チ˥ヌ プ˞ソー˥ ビ˞ザッカルンドゥ˥ ク˞レー˥ ビ˞ザッカランシェン [bu˞ga˥ruka: bi˞ʧi˥nu pu̥˞so:˥ bi˞ʤakkarundu˥ ku˞re:˥ bi˞ʤakkaraŋʃeŋ](疲れたら別の人は座り込むが、この人 < これ > は座り込まなかった)。ビ˞ザッカリティ ウーカ˥ヌ [bi˞ʤakkar-iti ʔu:ka˥nu](座り込んで動かない)。ビ˞ザッカル˥ プ˞ソー˥ スブットゥ [bi˞ʤakkaru˥ pu̥˞so:˥ sub-uttu](座り込む人は怠け者だ)。ビ˞サッカレー˥ラー ˞ウーカ˥ヌ [bi˞ʤakkare:˥ra: ˞ʔu:ka˥nu](座り込んだら動かない)。˥ウナー ビ˞ザッカリ˥バ [˥ʔuna: bi˞ʤakkari˥ba](そこに座り込め)。

ピ˞サヌン [pi̥˞sanuŋ] 【名】平鑿(ヒラノミ)。約一寸巾の薄くて平たい鑿。柱のほぞ穴の横壁面を直線的に掘り貫く際に用いる工具。ピ˞サヌン˥シル パ˞ラー˥ヌ ˥アナー ヤ˞ゴーマサン˥ ヨーニ プ˞ル˥タ [pi̥˞sanuŋ˥ʃiru pa˞ra:˥nu ˥ʔana: ja˞go:masaŋ˥jo:ni pu˞ru˥ta](平鑿で < ぞ > 柱のほぞ穴は歪めないように掘った)。

ピ˞サパナ [pi̥˞sapana] 【名】低い鼻。平たい鼻。「平鼻」の義。不美人を表す語。˥ピタパナ [˥pi̥tapana](低い鼻。「平鼻」の義) ともいう。ウ˞ヌ ミ˞ドーン˥ッふァー ピ˞サパナ˥ ヤ˞ルンダ˥ ア˞バ˥レーヤ ˞ナー˥ヌンドゥ ア˞タラ˥サン [ʔu˞nu˥ mi˞do:ŋ˥ffa: ˥pi̥sapana ja˞runda˥ ʔa˞ba˥re:ja ˞na:˥nundu ʔa˞tara˥saŋ](あの女の子は低い鼻だから美人ではないが、可愛い)。

ピ˞サ˥ビ [pi̥˞sa˥bi] 【名】なべずみ (鍋墨)。鍋や釜の底につく黒い煤煙(バイエン)。「瓮(へ)・錆(サビ)」の転訛か。「さし名倍尓 湯沸かせ〜。万、3824」の「倍 < べ >」、「瓮、へ」『類聚名義抄』の「瓮」に「錆」「鉄精、和名加奈久曾一名加禰乃佐比」『本草和名』の「佐比」が付いた

形。ヤ˞ラビ˥ヌ　マ˞リル˥カー　ナ˞ビ˥ヌ　ピ˞サビ˥バ　フ˞タイ˥ナー　マ˞ミティ　ピャー˥ク　ス˞コーッ˥タ [ja˞rabi˥nu ma˞riru˥ka: na˞bi˥nu pi̥˞sabi˥ba ɸu˞tai˥na: ma˞miti pja:˥ku su̥˞ko:t˥ta](子供が生まれると鍋墨を額に塗って、˞ピャー˥ク [˞pja:˥ku]< 魔除けの呪符 > を付けられた)。ナ˞ビ˥ヌ　ピ˞サ˥ビ　ウ˞タ˥シ [na˞bi˥nu pi̥˞sa˥bi ʔu˞ta˥ʃi](鍋の墨を落とせ)。

ピ˞サフタイ [pi̥˞saɸutai] 【名】おでこ (額)。額の広い人。ウ˞リヌ˥　フ˞タイヤー˥　ピ˞サフタイ˥　ヤ˞ルンダ˥　マー˞ン˥ラーン　ワ˞カ˥ルン [ʔu˞rinu˥ ɸu̥˞taija:˥ pi̥˞saɸutai˥ ja˞runda˥ ma:˞n˥ra:ŋ wa˞ka˥ruŋ](彼の額はおでこだから、何処からもわかる)。

ピ˞サフチ [pi̥˞saɸutʃi] 【名】唇の薄い人。「薄口、平口」の義。ピ˞サフチミドゥモー˥　ム˞ニユミ˥ムヌティ　ア˞ザリ　ブー [pi̥˞saɸutʃimidumo:˥ mu˞nijumi˥ munuti ʔa˞ʤari bu:](唇の薄い女はお喋り女だといわれている)。

ピ˞ザ˥フチ [pi˞ʤa˥ɸu̥tʃi] 【名】みぎわ (汀)。なぎさ (渚)。˞ピーザ˥フチ [˞pi:ʤa˥ɸu̥tʃi] ともいう。「へた口」の義。「へた (端・辺)、< へ (端)> タ < 手 > の意。タは方向を示す。近江の海　邊多は人知る〜。万、3027」の転訛したものか。ヤ˞ラ˥ベー　ピ˞ザ˥フチナール　˥オンダー　シ˞ミル˥ダー [ja˞ra˥be: pi˞ʤa˥ɸu̥tʃina:ru ˥ʔonda: ʃi˞miru˥da:](子供は渚口で海水浴させるんだぞ)。

ビ˞ザルン [bi˞ʤaruŋ] 【自動】押しつぶされて平にる。ぺしゃんこになる。足腰が立たなくなる。ウ˞ブニーバ　タンガ˥シ　カ˞タ˥ムカー　ク˞シェー˥　ビ˞ザルン˥ダー [ʔu˞buni:ba taŋga˥ʃi kḁ˞ta˥muka: ku̥˞ʃe:˥ bi˞ʤarun˥da:](重い荷物を一人で担ぐと腰が押しつぶされてぺしゃんこになるよ)。

˥ピサン [˥pi̥saŋ] 【形】 1厚さが薄い。ア˞チメー˥　ピサンドゥ　ブ˞リラ˥ヌ [ʔa˞ʧime:˥ pi̥sandu bu˞rira˥nu](厚みは薄いが折れない)。ア˞チメー˥　ピサー˞ナー˥ヌ [ʔa˞ʧime:˥ pi̥sa: ˞na:˥nu](厚みは薄くはない)。ガ˞マ˥ジェー　˥ピサー　˥ナリケーン [ga˞ma˥ʤe: ˥pi̥sa: ˥narike:ŋ](髪の毛は薄くなってきた)。ウ˞レー˥　ア˞チミヌ˥　ピ˞サ˥ヌ　シゥ˞カーラヌ [ʔu˞re:˥ ʔa˞ʧiminu˥ pi̥˞sa˥nu si̥˞ka:ranu](これは厚みが薄くて使われない)。ア˞チミヌ˥　ピサ　˥クトー　˞ナー˥ヌ [ʔa˞ʧiminu˥ pi̥sakuto: ˞na:˥nu](厚みが薄いことはない)。˞マー˥ビン　˥ピサレーラー　˥シゥ˞カーラヌ [˞ma:˥bim ˥pi̥sare:ra: si̥˞ka:ranu](もっと薄かったら使われない)。2液体の濃度が薄い。˞サー˥ヤ˥ピサンダ　ヌ˞ミヤッ˥サン [˞sa:˥ja ˥pi̥sanda nu˞mijas˥saŋ](お茶は薄いから飲みやすい)。カ˞ター˥ン [ka˞ta:˥ŋ](濃い) の対義語。

ピ˞サンカスン [pi̥˞saŋkasuŋ] 【他動】押し詰める。詰める。押し固める。へこます。「ひしゃげる」、「押されて潰れる (圧される)」の転訛したものか。˞イー˥シェー　カ˞シガーフク˥ルナー　˞シッ˥キ　ピ˞サンカシ˥　フ˞ナイ˥リ [˞ʔi:˥ʃe: ka˞ʃiga:ɸu̥ku˥runa: ˞ʃik˥ki pi̥˞saŋkaʃi˥ ɸu˞nai˥ri](乾燥ツノマタは麻袋の中に搗いてへこまして入れなさい)。

˥ピサンゴー [˥pi̥saŋgo:] 【名】菓子の種類。落雁。米や麦を煎って粉にし、黒砂糖を削って混ぜ、型に詰めて押し出して作った菓子。七十三の生年祝いや˞トー˥カキ [˞to:˥kaki](米寿の祝い) などの大きな祝儀の際につくられた。˞クーゴー˥シ [˞ku:go:˥ʃi](粉菓子) ともいう。˞トーカキ˥ヌ　˥ヨイナー　˥ピサンゴー　ス˞ク˥ローッタン [˞to:kaki˥nu ˥joina: ˥pi̥saŋgo: su̥˞ku˥ro:ttaŋ](米寿の祝いにはピサンゴー菓子 < 落雁 > を造られた)。

˥ピサンター [˥pi̥santa:] 【名】平たいもの。平べったいもの。擦り減ったもの。押しつぶされて平たくなったもの。˞ワー˥　ア˞シ˥ツァー　˥ピサンター　˥ナリティ　フ˞マラヌ˥　シ˞ティリ [˞wa:˥ ʔa˞ʃi˥tsa: ˥pi̥santa: ˥nariti ɸu˞maranu˥ ʃi̥˞tiri](君の下駄は履き潰されて平べったくなって履かれない。捨てなさい)。

ピ˞ジ [pi˞ʤi] 【名】 1ひじ (肘 < ひぢ >)。「肘、比地 < ひぢ >」『華厳経音義私記』の転訛したもの。ピ˞ジ˥　ヤ˞マ˥シティ　˥ムヌ　ム˞タラ˥ヌ [pi˞ʤi˥ ja˞ma˥ʃi̥ti ˥munu mu˞tara˥nu](肘を痛めて物を持つことが出来ない < 持たれない >)。2欲張り。貪欲。ウ˞レー˥　ピ˞ジ˥　ヤ˞ルンダ　ジン˥マー　カ˞ラサヌ [ʔu˞re:˥ pi˞ʤi˥ ja˞runda ʤim˥ma: ka˞rasanu](彼は貪欲だから、金は貸さない)。

ピ˞シーピシー [pi̥˞ʃi:piʃi:] 【副】薄く。板などの厚みが薄いさま。˞ティンゾー˥イツァー　ピ˞シーピシー˥シ　バ˞カ˥シクー [˞tinʤo:˥ ʔitsa: pi̥˞ʃi:piʃi:˥ʃi ba˞ka˥ʃi ˥ku:](天井板を薄く製材させてきなさい)。イ˞ガナマシェー˥　ピ˞シーピシー˥シ　ウ˞ラサバ˥ルン˞マー [ʔi˞ganamaʃe:˥ pi̥˞ʃi:piʃi:˥ʃi ʔu˞rasaba˥ru ʔm˞ma:](烏賊(イカ)の刺身は薄く下ろした方が美味しい)。˞ヌー˥ロー　ピ˞シーピシー˥シ　˥タリバ [˞nu:˥ro: pi̥˞ʃi:piʃi:˥ʃi ˥tariba](糊は薄く炊きなさい)。ピ˞シーピシー˥シ　キ˞ズン [pi̥˞ʃi:piʃi:˥ʃi ki˞ʤuŋ](薄く削る)。

˥ピシェー [˥pi̥ʃe:] 【名】女の子。少女の呼称。ピ˞シェ

ー˥　ダン˩ティ˥　キー　ミ˩リ [pi̥˩ʃeː˥ dan˩ti˥ kiː mi˩ri](娘さん、早く来てごらん)。

ピ˩シェー˥マ [pi˩ʃeː˥ma] 【名】女の子の愛称。お嬢ちゃん。˥ピシェー [˥pi̥ʃeː](女の子) に親愛の情を表す指小辞、-マ [-ma](〜ちゃん) の付いた形。名称、呼称に用いる。˩ウン˥ネナー　ピ˩シェーマ˥ヌ　マ˩レーン˥ツォー [˩ʔun˥nenaː pi̥˩ʃeːma˥nu ma˩reːn˥tsoː](あの家にお嬢ちゃんが生まれたそうだ)。

ヒ˩ジ˥ガラ [çi˩ʤi˥gara] 【名】鰹節の削り殻。「滅、オトス・ヘグ・ヘス」『類聚名義抄』、「へぎ・から (剥ぎ殻)」の転訛したもの。鰹節を出荷する際には、˩バイカン˥ヤー [˩baikaɲ˥jaː](燻製屋 < 焙乾屋 >) から鰹節を取り出して削り、綺麗に製品化して出荷する。その削り殻。カ˩ツヌ˥　ヒ˩ジ˥ガラー　˩マイヌ　ミース˥トゥ　カ˩ケー˥シティ　˩サー˥フキ　ン˩ザ˥シ [ka˩tsunu˥ çi˩ʤi˥garaː ˩mainu miːsu˥tu ka˩keː˥ʃiti ˩saː˥ɸu̥ki ʔn˩ʤa˥ʃi](カツオ節の削り殻 < 削り節 > を米味噌と混ぜ和えて茶請けに出しなさい)。ヒ˩ジ˥ガラ　˥シジティ　˥ダシ　˥トゥリバ [çi˩ʤi˥gara ˥ʃiʤiti ˥daʃi ˥turiba](鰹節の削り殻を煎じて出汁を取りなさいよ)。

ピ˩ジガンク [pi˩ʤiganku] 【名】欲張り。けちんぼ。吝嗇家(リンショク)。頑迷固陋(ガンメイコロウ)な人。˥アブジェー　ピ˩ジガンク˥　ヤ˩ロー˥ルンダ　プ˩スヌ˥　ムニ　˩ナー˥トース˩コーラ˥ヌ [˥ʔabuʤeː pi˩ʤiganku˥ ja˩roː˥runda pu̥˩sunu˥ muni ˩naː˥toː su̥˩koːra˥nu](お祖父さんは欲張りの頑迷固陋であられるから、人の話など聞かれない)。

˩ピシ˥キ [˩piʃi̥˥ki] 【名】おこげ (お焦げ)。老年層のことば。˩ピー˥シキ [˩piː˥ʃi̥ki](おこげ)(若年層のことば)、ナ˩マ˥シキ [na˩ma˥ʃi̥ki](お焦げ) ともいう。˩ピシ˥キ　シ˩ムン˥ヨーニ　˩イー˥ヤ　バ˩カシ˥バ [˩piʃi̥˥ki ʃi˩muɲ˥joːni ˩ʔiː˥ja ba˩kaʃi˥ba](焦げ付きさせないようにご飯は炊きなさい)。

ビ˩シコーマ [bi˩ʃikoːma] 【名】鶏に卵を産ませるために巣に据えておく卵。「据え卵。居せ卵」の義。産んだ卵を全部取らないで、一個だけ残しておくと、鶏は次々に卵を産むといわれている。ビ˩シコーマー˥　ヌ˩カ˥シ　ス˩クバ˥ル　トゥ˩ロー　コー˥マ　˥ナスティ˩ダー [bi˩ʃikoːma˥ nu˩ka˥ʃi su̥˩kuba˥ru tu˩roː koː˥ma ˥nasuti˩daː](据え卵を残しておいたら < おけばぞ > 鶏は卵を産むのだそうだよ)。

ピ˩ジ˥　シゥ˩カウン [pi˩ʤi˥ si̥˩kauɲ] 【連】ほおづえ (頬杖) をつく。つらづえ (面杖)。肘を立てて手のひらで頬をささえる。「肘・支える」の義。鳩間島では子供が頬杖をつくことを非常に嫌う。親の死に目に会えないといわれている。ヤ˩ラビ˥ヌ　ピ˩ジ˥　シゥ˩カウ˥カー　ウ˩ヤ˥ヌ　シ˩ニミー　アーラン˥ティ　イ˩ゾーッ˥タ [ja˩rabi˥nu pi˩ʤi˥ si̥˩kau˥kaː ʔu˩ja˥nu ʃi˩nimiː ʔaːran˥ti ʔi˩ʤoː˥ta](子供が頬杖をつくと、親の死目に会えないといって叱られた)。

ピ˩シシキ˥ルン [pi̥˩ʃiʃi̥ki˥ruɲ] 【自動】干上がる。すっかり潮が引く。「ひ (干) し尽きる」の義。˥マー　ン˩ベーマ˥　スカー　ピ˩シシキ˥ルンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　マ˩ダ˥　ピ˩シシキラン˥バン [˥maː ʔm˩beːma˥ su̥ka: pi̥˩ʃiʃi̥ki˥runti ʔu˩muːn˥du ma˩da˥ pi̥˩ʃiʃi̥kiram˥baɲ](もう少ししたら干上がると思うが、まだ干上がらないよ)。ピ˩シ˥シキ˩ナー˥ヌ [pi̥˩ʃi˥ʃi̥ki ˩naː˥nu](干上がってしまった)。ピ˩シシキ˥ル　˥ピンマー　ムー˩ル˥　ア˩ギ˥　ナ˩リ˥ス [pi̥˩ʃiʃi̥ki˥ru ˥pim-maː muː˩ru˥ ʔa˩gi˥ na˩ri˥su](潮がすっかり引ききる時は全部陸地になるよ)。˩パー˥ク　ピ˩シシキ˥レー　˥ミサムヌ [˩paː˥ku pi̥˩ʃiʃi̥ki˥reː ˥misamunu](早く干上がればいいのに)。ピ˩シシキ˥リ [pi̥˩ʃiʃi̥ki˥ri](干上がれ)。

ピ˩シ˥スー [pi̥˩ʃi˥suː] 【名】引き潮。干潮。「ひしお (干潮)」の義。「干り潮」の転訛したもの。ピ˩シ˥スー˥ナルカー　ミ˩ナトー˥　ア˩ラ˥キ　バ˩タラリン [pi̥˩ʃi˥suː ˥naruka: mi˩nato:˥ ʔa˩ra˥ki ba˩tarariɲ](引き潮になったら湊は歩いて渡られる)。ミ˩チ˥スー [mi˩ʧi˥suː](満ち潮) の対義語。ピ˩シ˥スーサーリ　タ˩ク˥トゥリン　パラ˩ディー [pi̥˩ʃi˥suːsaːri tḁ˩ku˥turim para˩diː](引き潮で蛸漁 < 蛸獲り > にいこうよ)。

ピ˩シ˥スクン [pi̥˩ʃi˥su̥kuɲ] 【自動】干上がる。「ひ (干) し尽く」の義。プ˩スマバー˥キナ　ピ˩シ˥スクン　パジ˩ダー˥バ　˥マティティ　ピ˩シシゥカン˥カー　バ˩タリ˥　ミサン [pu̥˩suma baː˥kina pi̥˩ʃi˥su̥kum ˥paʤi˩daː˥ba ˥matiti pi̥˩ʃisi̥˥kaɲ˥kaː ba˩tari˥misaɲ](正午までには干上がるはずだから待って、干上がらなければ渡ってよい)。ピ˩シ˥シキ　˩ナー˥ヌ [pi̥˩ʃi˥ʃi̥ki ˩naː˥nu](干上がってしまった)。マ˩ナ˥マー　ピ˩シ˥スク　˥クトー　˩ナー˥ヌ [ma˩na˥ma: pi̥˩ʃi˥su̥ku ˥ku̥to: ˩naː˥nu](今は、干上がることはない)。˩パー˥ク　ピ˩シ˥シケー　˥ミサムヌ [˩paː˥ku pi̥˩ʃi˥ʃi̥ke: ˥misamunu](早く干上がればいいのに)。˩パー˥ク　ピ˩シ˥シキ [˩paː˥ku pi̥˩ʃi˥ʃi̥ki](早く干上がれ)。

ビシッ˩ティ [biʃit˩ti] 【副】物がたわむさま。タ˩ケー˥　ピーナ　ア˩ブ˥ター　ビシッ˩ティ˥　マ˩ガリナー˥ヌ [tḁ˩keː˥ piːna ʔa˩bu˥taː biʃit˩ti ma˩gari naː˥nu](竹は火に炙ったらばぐんにゃりと曲がってし

まった)。

˥ピシ　˥パルン **[˥pi̥ʃi ˥paruŋ]** 【連】潮が引い＜干い＞ていく。干潮になる。水が涸(カ)れていく。˩スー˥ヤマ˩ナマー˥ケー　˥ピシ　˥パルン [˩suː˥ja ma˩namaː˥ keː ˥pi̥ʃi ˥paruŋ](潮は今までは引いていく)。˩カーヌ˥　ミ˩ジェー˥　ピシ　˩ナー˥ヌ [˩kaːnu˥ mi˩ʤeː˥ pi̥ʃi ˩naː˥nu](井戸の水は涸(カ)れ＜引い＞てしまった)。

ピ˩ジ˥ル **[pi˩ʤi˥ru]** 【名】つむじ (旋毛)。頭頂部のひゃくえ (百会) にある毛髪の渦巻き。つじげ (辻毛)。ヤ˩ラ˥ビ˩シェーン˥ケン　˩キーヌパン˥タナ　˩ヌーリティ˥　ピ˩ジ˥ル　カ˩サミスーブ　シー˥　ア˩サブタン [ja˩ra˥bi ˩ʃeːŋ˥keŋ ˩kiːnu pan˥tanaː ˩nuːriti˥ pi˩ʤi˥ru ka˩samisuːbu ʃiː˥ ʔa˩sabutaŋ](子供の頃に木のてっぺんに登って旋毛掴み競争をして遊んだことがある)。

ピ˩ジ˥ル **[pi˩ʤi˥ru]** 【名】傷跡。はげの一種。傷や御出来の跡がてかてかと光っているところ。「火照り」の義とする説『石垣方言辞典』。ア˩シブ˥ヌ　˥アトー　ピ˩ジ˥ル　˥ナリ　˩ベー [ʔa˩ʃibu˥nu ˥ʔatoː pi˩ʤi˥ru ˥nari ˩beː](御出来の跡が傷跡のはげになっている)。

ピ˩ジ˥ル **[pi˩ʤi˥ru]** 【名】薪の燃えさし。薪の燃え残り。燃え尽きずに残ったもの。おきび (熾火)。薪が燃えて炭のようになったもの。ピ˩ジ˥ロー　˩ケーシ˥シキ [pi˩ʤi˥roː ˩keːʃi˥ ʃi̥ki](燃え残りは消しておけよ)。

ピ˩ジ˥ルカジル **[pi˩ʤi˥rukaʤiru]** 【副】あちこち剥げているさま。はげだらけ。˩ワー˥　ス˩ブ˥ロー　ピ˩ジ˥ルカジル　˥ナリティ　˥ヌーヤレー [˩waː˥ su˩bu ˥roː pi˩ʤi˥rukaʤiru ˥nariti ˥nuːjareː](君の頭ははげだらけになって何事かね)。˩アーパタ˥キン　マ˩ミパタ˥キン　˥パトゥザン　ッ˩ふァーリティ˥　ピ˩ジ˥ルカジル　˥ナリ　˩ベー [˩ʔaːpata˥kim ma˩mipata˥ kim ˥pḁtuʤaŋ f˩faːriti˥ pi˩ʤi˥rukaʤiru ˥nari ˩beː](粟畑も豆畑も山鳩の食害に遭って所々苗が生えない＜禿げ＞状態になっている)。

ビ˩シルン **[bi˩ʃiruŋ]** 【他動】1据える。座らせる。「ゐ＜居・坐＞せる」の義。「〜妻子どもは足の方に圍み居而〜。万、892」の義。ミ˩ジカメー˥　クナー　ビ˩シルンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩マイヤ˥ヌ　ビ˩シラランバン [mi˩ʤikameː˥ kunaː bi˩ʃirunti˥ ʔu˩muːn ˥du ˩maija˥nu bi˩ʃirarambaŋ](水甕はここに据えようと思うが、大きくて据えられないわい)。˥クナー　ビ˩シ˥　ミサカー　ビ˩シル˥　クトー　˥ナルン [˥kunaː bi˩ʃi˥misakaː bi˩ʃiru˥ ku̥toː ˥naruŋ](ここに据えてよければ、据えることはできる)。˥カナー　ビ˩シェー˥　ミサムヌ [˥kanaː bi˩ʃeː˥ misamunu](あそこに据えればいいのに)。˩パー˥ク　ビ˩シ˥バ [˩paː˥ ku bi˩ʃi˥ba](早く据えよ)。2鎮める。静める。落ち着かせる。˥キモー　ビ˩シティ˥　パ˩ナ˥シ　シ˩キ˥ヨー [˥kimoː bi˩ʃiti˥ pa˩na˥ʃi ʃi̥˩ki˥joː](心を落ち着けて話を聞きなさいよ)。

ピ˩シ˥ルン **[pi̥˩ʃi˥ruŋ]** 【自動】潮が引く。干潮になる。˥ピスンとも言う。プ˩スマ˥　ナルカー　˩スー˥ヤ　ピ˩シ˥ルンティ　ス˩クタヌ˥　マ˩ダ˥　ピ˩シラン˥バン [pu̥˩suma˥ naruka: ˩suː˥ja pi̥˩ʃi˥runti su̥˩kutanu ˥ma˩da˥ pi̥˩ʃiram˥baŋ](正午になると潮は引くと聞いたが、まだ引かないよ)。ク˩ビ˥ナー　˩スー˥ヌ　ピ˩シ˥ル　˥クトー　˩ナー˥ヌ [ku˩bi˥na: ˩suː˥nu pi̥˩ʃi ˥ru ˥ku̥toː ˩naː˥nu](こんなに潮が引くことはない)。˩マー˥ビン　˥ピシェー　˥ミサムヌ [˩maː˥bim ˥pi̥ʃeː˥ misamunu](もっと潮が引けばいいのに)。

ピ˩ジンダティ **[pi˩ʤindati]** 【名】頬杖。頬杖をつくこと。「肘立て」の義。ピ˩ジシュカイ [pi˩ʤisi̥kai](頬杖) ともいう。ヤ˩ラビ˥ヌ　ピ˩ジンダティ　スー˥カー　˥アブジェー　イッ˩ケナ˥　イ˩ゾーッ˥タン [ja˩rabi˥nu pi˩ʤindati suː˥kaː ˥ʔabuʤeː ʔik˩kena˥ ʔi˩ʤoːt˥taŋ](子供が頬杖をつくとお祖父さんは非常にお叱りになった)。

ピ˩ス˥ザー **[pi̥˩su˥ʤaː]** 【名】広い座敷。「広座」の義。˩エン˥ヌ　˩キュー˥ヤ　ク˩ヌ˥　ウ˩ブ˥ザー　ピ˩ス˥ザーナーティ　˩トーカキ˥ヌ　˥ヨイ　シ˩ミ˥タ˩ボー˥リ [˩jen˥nu ˩kjuː˥ja ku˩nu˥ ʔu˩bu˥ʤaː pi̥˩su˥ʤaːnaːti ˩toːkaki˥nu ˥joi ʃi˩mi˥ ta˩boː˥ri](来年の今日はこの大きな座敷、広い座敷で米寿の祝い (88 歳の生年祝い。斗掻の生年祝い) をさせてください)。

ビスッ˩ティ **[bisut˩ti]** 【副】勢いが急に弱くなるさま。しゅんと。˩ヨイ˥ヌ　ス˩コール　スンティ　アーリ　ベータン˥ドゥ　マ˩クター˥　ビスッ˩ティ˥　ナリ　ムー˩ル　ヤー˥　パリ　˩ナー˥ヌ [˩joi˥nu su̥˩koːru sunti ʔaːri beːtan˥du ma˩kutaː˥ bisut˩ti˥ nari muː˩ru jaː˥ pari ˩naː˥nu](お祝いの準備をしようと騒いでいたが、負けたのでしゅんとなって、みんな家に帰って＜行って＞しまった)。

ピ˩スミ˥ルン **[pi̥˩sumi˥ruŋ]** 【他動】広める。拡げる。˩ヤー˥バ　˩スイザシティ˥　ピ˩スミ˥ルンティ　ウムイ˩ベー˥ンドゥ　˩ヤシキ˥ヌ　シ˩バー˥ティ　ピ˩スミララ˥ヌ [˩jaː˥ba ˩suiʤaʃi̥ti˥ pi̥˩sumi˥runti ʔumui˩beː˥ndu ˩jaʃi̥ki˥nu ʃi˩baː˥ti pi̥˩sumirara˥nu](家を増築して広めようと思っているが、屋敷が狭いので広

められない)。˥ピ˞スミ˥レー　˥ミサムヌ [pi˞sumi˥re: ˥misamunu](拡めればいいのに)。˥クマー　˥マーン˞ベーマー˥　ピ˞スミ˥リ [˥kuma: ˥ma: ʔm˞be:ma:˥ pi̥˞sumi˥ri](ここは、もう少し広めよ＜拡げれ＞)。ピ˞スミ˥　プサカー　ピ˞スミ˥ル　˥クトー　ナルン˞ダー [pi̥˞sumi˥ pu̥saka: pi̥˞sumi˥ru ˥ku̥to: narun˞da:](広げたければ広げることは出来るよ)。

ピ˞ス˥ムン **[pi̥˞su˥muŋ]** 【他動】拡げる。広める。「拡む」の義。ピ˞ス˥ムンティ　˥ウムーカー　ピ˞スマリン˥ドゥ　マ˞ナ˥マー　ピ˞スミ˥プサー　˞ナー˥ヌ [pi̥˞su˥munti ˥ʔumu:ka: pi̥˞sumarin˥du ma˞na˥ma: pi̥˞sumi˥pu̥sa: ˞na:˥nu](広めようと思えば広められるが、今は広めたくない)。ピ˞ス˥ム (ピ˞スミ˥ル)˥ピンマー　マイ˞マイ˥シ　ピ˞ス˥メー (ピ˞スミ˥レー)˥ミサムヌ [pi̥˞su˥mu(pi̥˞sumi˥ru)˥pimma: mai˞mai˥ʃi pi̥˞su˥me:(pi̥˞sumi˥re:)˥misamunu](広める時は大きく広めればいいのに)。˞パー˥ク　ピ˞ス˥ミ＜ピ˞スミ˥リ＞[˞pa:˥ku pi̥˞su˥mi＜pi̥˞sumi˥ri＞](早く広めろ)。

ビ˞スン **[bi˞suŋ]** 【他動】据える。座らせる。甕などの容器を据え置く。˥カメー　˥クナー　ビ˞スン [˥kame: ˥kuna: bi˞suŋ](甕はここに据える＜居せる＞)。シ˞バー˥ヌ　˥クナー　ビ˞サラヌ [ʃi˞ba:˥nu ˥kuna: bi˞saranu](狭くて、ここには据えられない)。˥マーナル　ビ˞シ　ヤッ˥サカヤー [˥mana:ru bi˞ʃi jas˥saka-ja:](何処にが＜ぞ＞据えやすいのかなあ)。˥カナー　ビ˞ス˥　カメー　˥ヌーヤ [˥kana: bi˞su˥ kame: ˥nu:ja](あそこに据える甕はどれか)。˥ウナー　ビ˞シェー˥　ミサムヌ [˥ʔuna: bi˞ʃe:˥ misamunu](そこに据えればいいのに)。˥クナー　ビ˞シ˥バ [˥kuna: bi˞ʃi˥ba](ここに据え＜座らせ＞なさい)。

˥ピスン **[˥pi̥suŋ]** 【自動】ひる (干る)。かわく。水がなくなる。潮が引く。海や川の水が涸れて底が現れる。「之保非奈婆＜シホヒナバ＞またも吾来む～。万、3710」の転訛したもの。˞スー˥ヌ　˥ピスンケンティ　˥マティ　˞ベーン˥ドゥ　マ˞ダ˥　ピ˞サン˥バン [˞su:˥nu ˥pi̥suŋkenti ˥mati ˞be:n˥du ma˞da˥ pi̥˞sam˥baŋ](潮が引くまでと待っているが、まだ引かないよ)。˞スー˥ヤ (ワ)　˥ピシ　˥パルン [˞su:˥ja(wa) ˥pi̥ʃi ˥paruŋ](潮は引いてく)。˞マー˥ビン　˥ピス　˥クトー　˞ナー˥ヌ [˞ma:˥bim ˥pi̥su ˥ku̥to: ˞na:˥nu](もっと＜潮が＞引くことはない)。˞マー˥ビン　˥ピシェー　˥ミサムヌ [˞ma:˥bim ˥pi̥ʃe: ˥misamunu](もっと＜潮が＞引けばいいのに)。˞パー˥ク　˥ピシ [˞pa:˥ku ˥pi̥ʃi](早く引け)。

˥ピスン **[˥pi̥suŋ]** 【他動】押しつぶす。押しつける。明治 38 年生まれの古老の使用語。若年層では、ほぼ死語に近い。昭和生まれの若年層は、˞ピッツァ˥スン [˞pittsa˥suŋ](押しつぶす) という。「Fexi,su,eita. ヘシ, ス, イタ (滅・圧し, す, いた) 丈の高い物を低くするとか,～」『邦訳日葡辞書』からの転訛。ピ˞サ˥ヌ [pi̥˞sa˥nu](押しつぶさない)。ウ˞ヤ˥ビシ　˥ピシティ　ッ˞ふァーシ˥バ [ʔu˞ja˥biʃi ˥pi̥ʃiti f˞fa:ʃi˥ba](指で押しつぶして食べさせなさい)。˥ドゥク　ピ˞ス˥ナ [˥duku pi̥˞su˥na](あんまり押しつぶすな)。˥ピス　˥ムノー　ア˞ラ˥ヌ [˥pi̥su ˥muno: ʔa˞ra˥nu](押しつぶすものではない)。˥ピシェー　˥ミサムヌ [˥pi̥ʃe: ˥misamunu](押しつぶせば良いのに)。ウ˞ヤ˥ビシ　˥ピシバ [ʔu˞ja˥biʃi ˥pi̥ʃiba](指で押しつぶせよ)。

ビ˞スンカーリン **[bi˞suŋka:riŋ]** 【自動】打ち据えられる。ビスンカーサリン [bi˞suŋka:sariŋ](うち据えられる) のぞんざいなな発音。立ち上がれないほどに打撃を受ける。他動詞ビ˞スンカスン [bi˞suŋkasuŋ](打ち据える) の未然形に受身の助動詞˥-リン [˥-riŋ](れる) が下接して派生した受身動詞。パ˞ナシキ˥ナ　スズー˞コ˥　ビ˞スンカーリティ　ウーキユーサ˥ヌ [pa˞naʃi̥ki˥na sudʒu:˞ko˥ bi˞suŋka:riti ʔu:kiju:sa˥nu](風邪でひどく打ち据えられて動けない)。パ˞ナシキ˥　ナ˞マジラ˥スカー　˞ワッ˥サ˥ナリティ　ビ˞スンカーリン˥ダー [pa˞naʃi̥ki˥ na˞madʒira˥su̥ka: ˞was˥sa ˥nariti bi˞suŋka:rin˥da:](風邪をこじらせ＜拗(コジ)らせ＞ると悪化させて打ち据えられるぞ)。

ビ˞スンカスン **[bi˞suŋkasuŋ]** 【他動】打ち据える。立ち上がれないほどに打ち据える。プ˞スヌ˥　ムニシゥ˞カンダ˥　ビ˞スンカスンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　ビ˞スンカサラヌ [pu̥˞sunu˥ muni si̥˞kanda˥ bi˞suŋkasunti˥ ʔu˞mu:n˥du bi˞suŋkasaranu](他人の言うことを聞かないので打ち据えようと思うが、打ち据えられない)。ビ˞スンカシ˥　ミサカー　ビ˞スンカス˥　クトー　ナルン˞ダー [bi˞suŋkaʃi˥ misaka: bi˞suŋkasu˥ ku̥to: narun˞da:](打ち据えて良ければ打ち据えることは出来るよ)。ビ˞スンカシェー˥　ミサムヌ [bi˞suŋkaʃe:˥ misamunu](打ち据えればいいのに)。ビ˞スンカシ˥バ [bi˞suŋkaʃi˥ba](打ち据えろよ)。

ピ˞ソー˥　シ˞バー˥ **[pi̥˞so:˥ ʃi˞ba:˥]** 【連】広狭。広さ、狭さ。マー˞ン˥ナーン　˞ヤー˥ヌ　ピ˞ソー˥　シ˞バー˥ヤ　ア˞リ˥ルブー [ma:˞n˥na:ɲ ˞ja:˥nu pi̥˞so:˥ ʃi˞ba:˥ja ʔa˞ri˥ru ˥bu:](何処にでも家の広い狭いはあるものだ＜ありぞおる＞)。

ピ˞ソーピソー˥シ **[pi˞so:piso:˥ʃi]** 【副】ひろびろと。ピ˞ソーピソー˥シ ˞ヤー˥バ ス˞ク˥リ ˥シケー [pi̥˞so:piso:˥ʃi ˞ja:˥ba su̥˞ku˥ri ˥ʃi̥ke:](広々と家を造ってある)。˞キン˥マー ピ˞ソーピソー˥シ ˥ヌイ [˞kim ˥ma: pi˞so:piso:˥ʃi ˥nui](着物は広々と＜ゆったりと＞縫いなさい)。

ビ˞ソーミ **[bi˞so:mi]** 【名】水甕(ミズガメ)。「座し甕」(据付(スエツケ)の甕) の義。陶製の水甕で、容量は普通は 6 斗入り、8 斗入りの水甕が炊事場の外側に据付られて用いられた。ミ˞ジタング [mi˞ʤitaŋgu](1 斗入りの水桶＜水担桶(ミズタゴ)＞) を天秤棒で前後に担うが、その一対の水桶をプ˞スカタ˥ミ [pu̥˞sukata˥mi](一担(ヒトカツギ)。一荷(イツカ)) という。水甕には板の蓋をし、柄杓で汲み取って使った。ミ˞ジカメー ミーカタミ ユーカタミナー ペール˥タン [mi˞ʤikame: mi:katami ju:katamina: pe:ru˥taŋ](水甕は三担ぎ、四担ぎも入った)。

ピ˞ソーミ˥ルン **[pi˞so:mi˥ruŋ]** 【他動】広める。拡げる。拡大する。˞ヤー˥ヌ シ˞バー˥ンダ ピ˞ソーミ˥ルンティ ウ˞ムーン˥ドゥ ピ˞ソーミララ˥ヌ [˞ja:˥nu ʃi˞ba:˥nda pi̥˞so:mi˥runti ʔu˞mu:n˥du pi˞so:mirara˥nu](家が狭いので広げようと思うが、拡げられない)。ピ˞ソー˥ミ ˥ミサン [pi˞so:˥mi ˥misaŋ](拡げても良い)。˥クマー ピ˞ソーミ˥ル ˥クトー ム˞チ˥カサン [˥kuma: pi̥˞so:mi˥ru ˥ku̥to: mu˞ʧi˥kasaŋ](ここは拡げることは難しい)。˞マー˥ビン ピ˞ソーミ˥レー ˥ミサムヌ [˞ma:˥bim pi̥˞so:mi˥re: ˥misamunu](もっと広めればいいのに)。˞イッケンマー˥ ピ˞ソーミ˥リ [˞ʔikkemma:˥ pi˞so:mi˥ri](一間は拡げなさい)。

ピ˞ソー˥ムン **[pi̥˞so:˥muŋ]** 【他動】広める。拡げる。拡大する。ユ˞ヌン˥ トンナー ピ˞ソー˥ムンティ シ˞タンティン マービン˥マー ピ˞ソーマラヌ [ju˞nun˥ tonna: pi̥˞so:˥munti ʃi̥˞tantim ma:bim˥ma: pi̥˞so:mara˥nu](同じ所で広げようとしても更には拡げられない)。˞マー˥ビン ピ˞ソーミ˥ プサンドゥ ピ˞ソー˥ム ˥クトー ナ˞ラン˥ツォー [˞ma:˥bim pi̥˞so:mi˥ pu̥sandu pi̥˞so:˥mu ˥ku̥to: na˞ran˥tso:](もっと拡げたいが、拡げることはできないそうだ)。ピソーメー ˥ミサムヌ [pi̥˞so:˥me: ˥misamunu](拡げればいいのに)。˞マー˥ビン ピ˞ソー˥ミバ [˞ma:˥bim pi˞so:˥miba](もっと広めよ)。ビ˞ソーミ˥リ [bi˞so:mi˥ri](広めろ)。

ピ˞ソー˥ン **[pi̥˞so:˥ŋ]** 【形】1広い。面積が大きい。「〜天地は比呂之等いへど 吾が為は〜。万、892」の義。イ˞チバンザー˥ヤ ピ˞ソー˥ンティ ウ˞ムータ˥ヌ フ˞ドゥブター˥ ピ˞ソーナー˥ヌ [ʔi˞ʧibandʑa:˥ja pi̥˞so:˥nti ʔu˞mu:ta˥nu ɸu˞dubuta:˥ pi̥˞so:na:˥nu](一番座は広いと思ったが、成長したので広くない)。˞シンダイ˥ ピ˞ソー˥ ナルン [˞ʃindai˥ pi̥˞so:˥ naruŋ](次第に広くなる)。˥ドゥク ピ˞ソー˥ヌ ˞タンガ˥シェー カ˞ララヌ [˥duku pi̥˞so:˥nu ˞taŋga˥ʃe: ka˞raranu](あまりに広くて一人では借りられない)。ピ˞ソー˥ クトー ˞ナー˥ヌ [pi̥˞so:˥ ku̥to: ˞na:˥nu](広いことはない)。˥マー ン˞ベーマ˥ ピ˞ソー˥カ˞ナー [˥ma: ʔm˞be:ma˥ pi̥˞so:˥ka˞na:](もう少し広かったらなあ)。2語幹部を重複させて副詞を作る。˞ヤー˥ヤ ピ˞ソーピソー˥シ ス˞ク˥リ [˞ja:˥ja pi̥˞so:piso:˥ʃi su̥˞ku˥ri](家は広々と＜ゆったりと＞作れ)。

˥ピタ **[˥pi̥ta]** 【名】下手。不器用であること。未熟であること。「Feta. ヘタ (下手) 不器用な者、または、のろまな者」『邦訳日葡辞書』。˞ティー˥ フ˞コー˥ン [˞ti:˥ ɸu̥˞ko:˥ŋ](手が鈍い) ともいう。ウ˞レー˥ ノー˞ン˥ シ˞ミリバン˥ ピタ [ʔu˞re:˥ no:˞ŋ˥ ʃi˞miribam˥ pi̥ta](彼は何をさせても下手だ)。

˥ピダ **[˥pida]** 【名】ひだ (襞)。「Fida. ヒダ (襞) ひだ目, あるいは折り目, 波状になった所」『邦訳日葡辞書』の転訛。カ˞カンヌ˥ ピダー ˥ブリシキ [kḁ˞kannu˥ pida: ˥buri ˥ʃi̥ki](カカン＜古典舞踊鳩間中岡衣装の下着用の袴＞のひだ＜襞＞は＜を＞折っておきなさい)。˥ピダ ˞ノー˥スン [˥pida ˞no:˥suŋ](襞を折って直す)。

˥ピター **[˥pi̥ta:]** 【固】(人名) 女子の名前。˥ピタンマー ˞ヤー˥ナ ˞オー˥ルン [˥pi̥tamma: ˞ja:˥na ˞ʔo:˥ruŋ](ピタ姉さんは家に居られる)。

ビ˞ダーカスン **[bi˞da:kasuŋ]** 【他動】押しつぶす。ひしゃぐ (拉ぐ)。ぺしゃんこにする。圧して平たくする。˞ウシキ˥ ビ˞ダーカスンティ スンドゥ˥ ビ˞ダーカサラヌ [˞ʔuʃi̥ki˥ bi˞da:kasunti sundu˥ bi˞da:kasaranu](押して潰そうとするが、押しつぶされない)。ビ˞ダーカシ ナー˥ヌ [bi˞da:kaʃi na:˥nu](押しつぶしてしまった)。ビ˞ダーカス˥ クトー ナ˞ラ˥ヌ [bi˞da:kasu˥ ku̥to: na˞ra˥nu](押しつぶすことは出来ない)。ビ˞ダーカシェー˥ ミサムヌ [bi˞da:kaʃe:˥ misamunu](押しつぶせばいいのに)。˞パー˥ク ビ˞ダーカシ [˞pa:˥ku bi˞da:kaʃi](早く押しつぶせ)。ム˞チェー˥ ドゥク ˞ヤー˥ラーカー ビ˞ダークントダー [mu˞ʧe:˥ duku ˞ja:˥ra:ka: bi˞da:kunt̪da:](餅はあまり柔らかいとひしゃげるよ)。

ビ˞ダーキビリ **[bi˞da:kibiri]** 【名】べったり座る座り

方。怠け者の座り方。尻をぺたんと床につけて座る座り方。ウ˞リヌ˥　ビ˞ダーキビリ　シェーラ˥　イッ˞カ　ウーカ˥ヌ [ʔu˞rinu˥ bi˞da:kibiri ʃe:ra˥ ʔik˞ka ʔu:ka˥nu](彼がべったり座り込むと決して＜一向に＞動かない)。バ˞カー˥ムノー　ビ˞ダーキビリ　サンドー˥シ　シ˞ビシゥカイビリ　シェー˥ティル　˞イー˥ユン　ッ˞ふー [ba˞ka:˥muno: bi˞da:kibiri sando:˥ʃi ʃi˞bisi̥kaibiri ʃe:˥tiru ˞ʔi:˥juŋ f˞fu:](若者はべったり座らず、片膝(カタヒザ)を折り、片膝を地面につけ、踵で尻を支えて座る「尻支え座り」をして＜ぞ＞飯も食うものだ)。

ビ˞ダークン [bi˞da:kuŋ] 【自動】1へたる。尻をつけて座る。へたばって座り込む。へたり込んで立てなくなる。ヤ˞ム˥ター　ビ˞ダーキティ˥　ノー˞ン　シーユーサヌ [ja˞mu˥ta: bi˞da:kiti˥ no:˞ŋ ʃi:ju:sanu](病気したのでへたり込んでしまって、何も出来ない)。ア˞ラカン˥カー　ビ˞ダークンダ˥　ビ˞ダーカン˥ヨーニ　˥ドゥー　˞ウーカ˥シ [ʔa˞rakaŋ˥ka: bi˞da:kunda˥ bi˞da:kaŋ˥jo:ni du: ˞ʔu:ka˥ʃi](歩かないとへたり込むから、へたり込まないように体を動かせ)。ア˞ラ˥キサーギ　˞スー˥カー　ビ˞ダーク˥　クトー　˞ナー˥ヌ [ʔa˞ra˥kisa:gi ˞su:˥ka: bi˞da:ku˥ ku̥to: ˞na:˥nu](歩きさえすれば、へたることはない)。ビ˞ダーケー˥　ミサムヌ [bi˞da:ke:˥ misamunu](へたればいいのに)。ビ˞ダーキ˥バ [bi˞da:ki˥ba](へたれよ)。2潰れる。ひしげる (拉(ヒシャ)げる)。ウ˞スク˥カー　ビ˞ダークンダ　ウスクナ [˞ʔusu̥ku˥ka: bi˞da:kunda ʔusu̥kuna](圧したら潰(ツブレ)る＜ひしゃげる＞から、圧すな)。

ビ˞ダーシキビリ [bi˞da:ʃi̥kibiri] 【名】べたっと座ること。特に女性が床の上に、又は地面の上にべたっと尻をついて座ること。このように座ると次の動作が取りにくいので、働き者の農家の女性の忌み嫌う座り方である。農家の娘たちは、この座りかたを親からきつくとがめられた。ビ˞ダーシキビリ　スー˥　ッ˞ふァー˥　スブットゥ [bi˞da:ʃi̥kibiri su:˥ f˞fa:˥ subuttu](べったりと座る子は怠け者である)。

ビターッ˞ティ [bita:t˞ti] 【副】ぺったり。べたっと。ム˞チェー˥　ドゥク　˞ヤー˥ラーティ　ビターッ˞ティ˥　ビ˞ダーキ　ナー˥ヌ [mu˞tʃe:˥ duku ˞ja:˥ra:ti bita:t˞ti˥ bi˞da:ki na:˥nu](餅はあまりにも柔らかすぎるので、ぺたっとひしゃげて＜押しつぶれて＞しまった)。

ピ˞ターマスン [pi̥˞ta:masuŋ] 【他動】へこます。窪ます。ぺしゃんこにする。使役動詞。押しつぶす。「～を～させる」の意味を表す。˥グムマール　ピ˞ターマスン [˥gumuma:ru pi̥˞ta:masuŋ](ゴム鞠をへこます)。ピ˞ターマサヌ [pi̥˞ta:masanu](へこまさない)。ピ˞ターマシナー˥ヌ [pi̥˞ta:maʃina:˥nu](へこましてしまった)。ピ˞ターマス˥　クトー　ナ˞ラ˥ヌ [pi̥˞ta:masu˥ ku̥to: na˞ra˥nu](へこますことは罷(マカリ)ならぬ)。˞マー˥ビン　ピ˞ターマシェー˥　ミサムヌ [˞ma:˥bim pi̥˞ta:maʃe:˥ misamunu](もっとへこませばいいのに)。˞パー˥ク　ピ˞ターマシ [˞pa:˥ku pi̥˞ta:maʃi](早くへこませ)。

ピ˞タームン [pi̥˞ta:muŋ] 【自動】ぺしゃんこになる。へこむ (凹む)。くぼむ (窪む)。表面が落ち込んで平たくなる。押しつぶされて平たくなる。バ˞キ˥チ　˞シッ˥クカー　ピ˞タームン˥ダー [ba˞ki˥tʃi ˞ʃik˥kuka: pi̥˞ta:mun˥da:](バケツを叩くとへこむよ)。˞シック˥タンティン　ピ˞ターマヌ [˞ʃikku˥tantim pi̥˞ta:manu](叩いてもへこまない)。˞シック˥ター　ピ˞ターミ　ナー˥ヌ [˞ʃikku˥ta: pi̥˞ta:mi na:˥nu](叩いたので凹んでしまった)。ウ˞ビッ˥チンシ　ピ˞ターム˥　クトー　˞ナー˥ヌ [ʔu˞bit˥tʃiŋʃi pi̥˞ta:mu˥ ku̥to: ˞na:˥nu](これっぽっちで凹むことはない)。ピ˞ターメー˥　ミサムヌ [pi̥˞ta:me:˥ misamunu](凹めばいいのに)。ピ˞ターミ [pi̥˞ta:mi](へこめ)。˥バター　ピ˞ターミティ　ヨーガレー˥ティ　˞アー˥ク [˥bata: pi̥˞ta:miti jo:gare:˥ti ˞ʔa:˥ku](お腹はへこんで、痩せ衰えているよ)。

ピ˞ターンティ [pi̥˞ta:nti] 【副】ぴたんと。ぴしゃんと。平手で打つ音の形容。ピ˞ターンティ˥　ビ˞ケーン˥　シラ　ウ˞タ˥リティ　ナ˞キ　ベー [pi̥˞ta:nti˥ bi˞ke:ŋ˥ ʃira ʔu˞ta˥riti na˞ki be:](ぴたんと男の親に顔を叩かれて泣いている)。

˥ピダキ [˥pidaki] 【名】笛。古老は˥ピー [˥pi:](笛) という。若年層は、˥ピラキ [˥piraki](笛) ともいう。「いにしへを吹き伝へたる笛竹に～。」『源氏物語　少女』の転訛したもの。*[pue]　→　*[pui]　→　[pi:]　の音韻変化をへたもの。伊江島方言では、ティー [ti:](笛) という。˥ピダキ　˥フクン [˥pidaki˥ɸu̥kuŋ](笛を吹く)。˞ソーラン˥ヌ　˞シー˥シ　˞マーソー˥ル　˥ピンヌ　ミ˞チウター˥　イ˞リクヌ˥ティーティル　ア˞ゾーッ˥タ [˞so:ran˥nu ˞ʃi:˥ʃi ˞ma:so:˥ru ˥pinnu mi˞tʃiʔuta:˥ ʔi˞rikunu˥ti:tiru ʔa˞ʤo:t˥ta](お盆の獅子舞をされるときの道歌をイ˞リクヌ˥ティー [ʔi˞rikunu˥ti:]＜入れ子の笛＞といわれた)。イ˞リクヌ˥ティーは伊江島方言由来の言葉であろう。

ピ˞ダシゥ˥カ [pi˞dasi̥˥ka] 【名】(動) しゃこ (蝦蛄)。しゃこえび。体はやや扁平で体長 10～12 センチ、カ

マキリ (サントゥルサー [゚san゚turusa:]) のような補脚を持つ。珊瑚礁の中に棲息し、捕捉しようとするとパチンパチンと音を立てて弾く。それで指を切られることがある。煮ると海老のように美味である。ピ゚ダプカ [pi゚daɸu゚̥ka](しゃこ < 蝦蛄 >)(老年層) ともいう。ピ゚ダシゥ゚カ　シゥ゚カ゚ミ　゚キーティ　バ゚カス゚カー　イッ゚ケナ゚　ン゚マー゚ン [pi゚dasi゚̥ka si゚̥ka゚mi ゚ki:ti ba゚kasu゚̥ka: ʔik゚kena゚ ʔm゚ma:゚ŋ](しゃこえびを捕獲してきて炊くと非常に美味しい)。

ピ゚ダ゚ティ [pi゚da゚ti] 【名】隔て。境。区切り。仕切り。「〜安の河　中に敝太弖々　向かひ立ち〜。万、4125」の義。゚イー゚ネートゥ　゚アー゚ネーヌ　ピ゚ダ゚テー　゚グス゚クシ　シ゚ラリ　ブー [゚ʔi:゚ne:tu ゚ʔa:゚ne:nu pi゚da゚te: ゚gusu゚̥kuʃi ʃi゚rari bu:](西隣の家と東隣の家の隔ては石垣で < 仕切り > されている)。

ピ゚ダティ゚ルン [pi゚dati゚ruŋ] 【他動】隔てる。仕切る。「〜中に敝太弖 < ヘダテテ >〜。万、4125」(下二) のラ行四段活用化したもの。ウ゚ヤッふァ゚ヌ゚ナカ　ピ゚ダティ゚ルンティ　゚スンドゥ゚　ピ゚ダティララ゚ヌ [ʔu゚jaffa゚nu ゚naka pi゚dati゚runti ゚sundu゚ pi゚datirara゚nu](親子の仲を隔てようとするが、隔てられない)。ピ゚ダ゚ティ　゚ミサカー　ピ゚ダティ゚ル゚クトー　゚ナルン [pi゚da゚ti ゚misaka: pi゚dati゚ru ゚ku̥to: ゚naruŋ](隔ててよければ隔てることはできる)。ピ゚ダティ゚レー　゚ミサムヌ [pi゚dati゚re: ゚misamunu](隔てれば良いのに)。゚パー゚ク　ピ゚ダティ゚リ [゚pa:゚ku pi゚dati゚ri](早く隔てろ)。

ピ゚ダ゚トゥン [pi゚da゚tuŋ] 【他動】隔てる。境とする。区別する。「〜安の河　中に敝太弖々　向ひ立ち〜。万、4125」(下二) のタ行四段活用化したもの。ピ゚ダティ゚ルンとも言う。プタールヌ゚　ナカー　ピ゚ダ゚トゥンティ　゚スンドゥ゚　ピ゚ダタラ゚ヌ [ɸu゚̥ta:runu゚ naka: pi゚da゚tunti ゚sundu゚ pi゚datara゚nu](二人の仲を隔(ヘダ)てようとするが、隔てられない)。゚ミーウシ゚トゥ　ビ゚キウシェー゚　ピ゚ダ゚ティティ　シゥ゚カ゚ナイバ [゚mi:ʔuʃi゚tu bi゚kiʔuʃe:゚ pi゚da゚titi si゚̥ka゚naiba](牝牛と雄牛は隔てて飼育しなさいよ)。ピ゚ダ゚トゥ　゚クトー　ナ゚ラ゚ヌ [pi゚da゚tu ゚ku̥to: na゚ra゚nu](隔てることは出来ない)。ピ゚ダ゚テー　゚ミサムヌ [pi゚da゚te: ゚misamunu](隔てればいいのに)。シ゚ザ゚トゥ　゚ウシ゚トー　ピ゚ダ゚ティバ [ʃi゚ʤa゚tu ゚ʔuʃi゚̥to: pi゚da゚tiba](兄 < 年上 > と弟 < 年下 > は区別しなさいよ < 隔てよ >)。

ピ゚タパナ [pi゚̥tapana] 【名】低い鼻。鼻の低い女の子。卑語。ピ゚サパナ [pi゚̥sapana](低い鼻) ともいう。ウ゚リヌ゚　パ゚ナー゚　ピ゚タパナ゚　ナリティ　キ゚ムイ゚ツァーワ　レー [ʔu゚rinu゚ pa゚na:゚ pitapana ゚nariti ki゚mui゚tsa:wa ゚re:](あの子の鼻は低い鼻 < 平たい鼻 > になって、なんと可哀相なことよ < それは >)。

ピ゚ダプカ [pi゚daɸu゚̥ka] 【名】動物。シャコ (蝦蛄)。しゃこえび。ピ゚ダシゥ゚カ [pi゚dasi゚̥ka](蝦蛄。しゃこえび) ともいう。ピ゚ダプカー　イ゚ビヌ゚カタチニ　イッ゚ケン゚　ン゚マー゚ン [pi゚daɸu゚̥ka: ʔi゚binu゚ kḁtatʃini ʔik゚kem゚ ʔm゚ma:゚ŋ](蝦蛄(シャコ)はエビのように、非常に美味しい)。

ピ゚ダ゚ミ [pi゚da゚mi] 【名】隔て。境。境界。間隔。ク゚マ゚ル　パ゚タキ゚トゥ　ミ゚チ゚ヌ　ピ゚ダ゚ミ　゚ナリ゚ブー [ku゚ma゚ru pḁ゚taki゚tu mi゚ʧi゚nu pi゚da゚mi ゚nari゚bu:](ここが畑と道の隔て < 境界 > になったいる)。゚イー゚ネー　゚アー゚ネーヌ　゚ヤシキ゚ヌ　ピ゚ダ゚メー　シ゚ラリ゚　ブ゚ラーヌ [゚ʔi:゚ne: ゚ʔa:゚e:nu ゚jaʃi̥ki゚nu pi゚da゚me: ʃi゚rari゚ bu゚ra:nu](西隣と東隣りの屋敷の隔て < 境界 > はされていない)。

ピ゚ダミ゚ルン [pi゚dami゚ruŋ] 【他動】隔てる。区別する。サ゚ク゚シェー　ジ゚ナン　サン゚ナンラン　ピ゚ダミ゚ルンティ　ス゚クタヌ゚　ドゥク　ピ゚ダミラン゚ドーシ　ス゚ダティ゚リバ [sa゚ku゚ʃe: ʤi゚nan san゚nanran゚ pi゚dami゚runti su゚̥kutanu゚ duku pi゚damiran゚do:ʃi su゚dati゚riba](長男は次男、三男からも区別する < 隔てる > と聞いたが、あまり区別しないで育てなさいよ)。ム゚カ゚シェー　ビ゚コーンッふァー゚　ミ゚ドーン゚ッふァトー　ピ゚ダ゚ミティル　シゥ゚カ゚ナイ　゚ヨーッタ゚ヌ　マ゚ナ゚マー　゚アイニ　ピ゚ダミ゚ル　゚クトー　゚ナー゚ヌ [mu゚ka゚ʃe: bi゚ko:ŋffa:゚ mi゚do:ŋ゚ffato: pi゚da゚mitiru si゚̥ka゚nai ゚jo:tta゚nu ma゚na゚ma: ゚ʔaini pi゚dami゚ru ゚ku̥to: ゚na:゚nu](昔は男の子と女の子は区別して養育したが、今はそのように区別することはない)。

ピ゚ダ゚ムン [pi゚da゚muŋ] 【他動】着物や布のひだ (襞) を両手で折って作り直す。「ひだめ (ひだをつける)」の転訛したものか。ム゚カ゚シェー　゚アイロン゚マー　゚ナーン゚　ブ゚レーン゚ダ　カ゚カンヌ゚　ピダー　゚ティーシ　゚ブリ　ピ゚ダ゚ミティ　゚イツァシ　゚ウシキ゚　ヌ゚バ゚ソーッタル [mu゚ka゚ʃe: ゚ʔairom゚ma: ゚na:m゚ bu゚re:゚nda kḁ゚kannu゚ pida: ゚ti:ʃi ゚buri pi゚da゚miti ゚ʔitsaʃi ゚ʔuʃi̥ki゚ nu゚ba゚so:ttaru](昔はアイロンはなかったので、カカンの襞(ヒダ)は手で折って板で押して皺(シワ)を伸ばされた)。カ゚カンヌ゚　ピ゚ダ゚バ　ピ゚ダ゚ムンティ　゚スンドゥ゚　ピ゚ダマラ゚ヌ [kḁ゚kannu

˥ pi˞da˥ba pi˞da˥munti ˞sundu˥ pi˞damara˥nu](カカンの襞を両手で折って直そうとするが、直されない)。˞ゾー˥ブンニ　ピ˞ダ˥ム　˥クトー　ナ˞ラ˥ヌ [˞ʤo:˥bunni pi˞da˥mu ˥kṵto: na˞ra˥nu](上手に襞を作り直す＜伸ばす＞ことはせきない)。カ˞シーカシー˥　ピ˞ダ˥メー　˥ミサムヌ [kạ˞ʃi:kaʃi:˥ pi˞da˥me:˥ misamunu](しっかりと襞を作り直すせば＜伸ばせ＞ばいいのに)。ピ˞ダ˥ミバ [pi˞da˥miba](襞を作り直しなさい)。

ピ˞ダ˥ヤー [pi˞da˥ja:] 【名】ひだりぎっちょ (左器用。左利(ヒダリキキ))。ウ˞レー˥　ピ˞ダ˥ヤー　ヤ˞ルンダ˥　ピ˞ダリ˥ティーシル　ノー˞ン　スー [ʔu˞r:e˥ pi˞da˥ja: ja ˞runda˥ pi˞dari˥ti:ʃiru no:˞n su:](彼は左ぎっちょ＜左利＞だから、左手で何でもする)。

ビ˞ダラー˥ン [bi˞dara:˥ŋ] 【形】どろどろと柔らかいさま。餅や粘土等のどろどろと柔らかいさま。˞ワー˥　ム˞チェー˥　ビ˞ダラー˥ヌ　ッ˞ふァーラヌ [˞wa:˥ mu˞tʃe:˥ bi˞dara:˥nu f˞fa:ranu](君の餅はどろどろと柔らかすぎて食べられない)。˥ミルカー　ビ˞ダラー˥ン　˥ギサンドゥ　カ˞サム˥カー　˞ナン˥ゾー　ビ˞ダラー　ナー˥ヌ [˥miruka: bi˞dara:˥ŋ ˥gisandu ka˞samu˥ka: ˞nan˥ʤo: bi˞dara: na:˥nu](見たらどろどろと柔らかそうだが、掴むとあまり柔らかくない)。ビ˞ダラー˥　ナリティ　シゥ˞カーラヌ [bi˞dara:˥ nariti sï˥ka:ranu](どろどろと柔らかくなって使えない)。ビ˞ダラー˥　ムノー　シ˞ティリ [bi˞dara:˥ muno: ʃị˞tiri](どろどろと柔らかいものは捨てなさい)。

ビ˞ダラッス [bi˞darassu] 【名】どろどろした大便。下痢状の便。ク˞ダシティ˥　ビ˞ダラッスバ˥　マリ　˥シケー [ku˞daʃị̈ti˥ bi˞darassuba˥ mari ˥ʃị̈ke:](下痢してどろどろ便を排便してある)。

ビ˞ダラムチ [bi˞daramutʃi] 【名】どろどろした柔らかい餅。˞ワー˥　ム˞チェー˥　タリティ　ビ˞ダラムチ˥　ナリ　˞ベー [˞wa:˥ mu˞tʃe:˥ tariti bi˞daramutʃi˥ nari ˞be:](君の餅は溶けてどろどろとした柔らかい餅になっている)。

ピ˞ダ˥リ [pi˞da˥ri] 【名】左。正常でないもの。˞ニーリ [˞ni:ri](右) の対義語。ピ˞ダリ˥ティー [pi˞dari˥ti:](左手)。ピ˞ダリ˥パン [pi˞dari˥paŋ](左足)。ピ˞ダリ˥ジナ [pi˞dari˥ʤina](左綯(ヒダリナイ)の綱)。ピ˞ダリマー˥ル [pi˞darima:˥ru](左回り。状況が悪化すること)。˞ワー˥ン˞ベーマ˥　ピ˞ダ˥レー　˞ユージ [˞wa:˥ ʔm˞be:ma˥ pi˞da˥re: ju:˞ʤi](君は少し左の方へ寄れ)。

ピ˞ダリウチマー˥シ [pi˞dariʔutʃima:˥ʃi] 【名】左前。着物の左おくみ＜衽＞を下にし、右おくみを上にして着る着方。普通と逆の、間違った着方。ヨー˞ヨー˥　ピ˞ダリウチマー˥シ　˞シェー˥ティ　˥キンキ˞スナ˥ヨー [jo:˞jo:˥ pi˞dariʔutʃima:˥ʃi ˞ʃe:˥ti ˥kiŋ kị̈˞suna˥jo:](気をつけろよ、左前にして着物を着るなよ)。

ピ˞ダリカジマー˥リ [pi˞darikaʤima:˥ri] 【名】すねる (拗(ス)ねる) こと。ひねくれる (捻(ヒネ)くれる) こと。ねじけて我をはること。感情を損ねて我を張ること。˥ヌンティルター　˞キュー˥ヤ　ピ˞ダリカジマー˥リ　˞シー　ベー˥ワ [˥nuntiruta: ˞kju:˥ja pi˞darikaʤima:˥ri ˞ʃi: be:˥wa](どうしてまた、今日はひねくれ＜捻くれ＞ているのかねえ)。

ピ˞ダリ˥ジナ [pi˞dari˥ʤina] 【名】左縄。左縒りの縄。「左綱」の義。左縄には悪霊を祓う力があると信じられている。神事を執り行う場所には左縄が張りめぐらされた。パ˞トゥ˥マナテー　˞ヨー˥　ピ˞ダリ˥ジナー　ヌ˞キ˥ムヌティ　ア˞ザリ　ブート˞ダー [pạ ˞tu˥manate: ˞jo:˥ pi˞dari˥ʤina: nu˞ki˥munuti ʔa˞ʤari bu:˞da:](鳩間島ではねえ、左縄は悪霊祓いといわれているよ)。

ピ˞ダリ˥ジン [pi˞dari˥ʤiŋ] 【名】膳に配置するご飯とお汁の位置が逆であること。「左膳(ヒダリゼン)」の義。死者、仏前に食事を供える際の配膳法といわれている。標準語の「左膳」は別儀で、ピ˞ダリ˥ジンは、「よこぜん (横膳)」の意に近い。˞ワー　ジンマー˥　ピ˞ダリ˥ジン　ナ˞リ˥ブバ　˞イー˥ヤ　ピ˞ダ˥レー　˥ナシ　˞スー˥ヤ　˞ニーレー˥　ナシバ [˞wa: ʤimma:˥ pi˞dari˥ʤin na˞ri˥buba ˞ʔi:˥ja pi˞da˥re: ˥naʃi ˞su:˥ja ˞ni:re:˥ naʃiba](君の膳は左膳になっているから、ご飯は左、お汁は右へ移し＜なし＞なさい)。

ピ˞ダリ˥プス [pi˞dari˥pṵsu] 【名】左利き。ひだりぎっちょ (左器用・左利)。「左人」の義。ピ˞ダ˥ヤー [pi˞da˥ja:](左利き) ともいう。ピ˞ダリ˥プス　ヤ˞ルンドゥ　ティーシグ˥トー　˞ゾー˥ジ˞ダー [pi˞dari˥ pṵsu ja˞rundu ti:ʃigu˥to: ˞ʤo:˥ʤi](左利きの人だが、手仕事は上手だ)。

ピ˞ダリマー˥シ [pi˞darima:˥ʃi] 【名】左巻きにすることによって祓うこと。除霊(ジョレイ)の呪術。左周りにひねること。˥シナ　ヤ˞ラバン˥　ノー˞ン　ヤラバン˥　ピ˞ダリマー˥シ　˞シー˥　シ˞キ˥ルカー　ヤ˞ナ˥ムノー　シゥ˞カン˥ツォー [˥ʃina ja˞raban˥ no:˞ŋ jarabam˥ pi˞darima:˥ʃi ˞ʃi:˥ ʃị̈˞ki˥ruka: ja˞na˥muno: ʃị̈ ˞kiran˥tso:](綱でも何でもいいから、左に巻いて＜捻(ヒネ)って＞おくと邪霊は付かないそうだ)。

˥ピダルカダル [˥pidarukadaru] 【名】すねる (拗ね

る) こと。ひねくれる (捻くれる) こと。感情を損ねて我を張ること。感情を損ねて人に従わないこと。˩ヌー˥ヌ　˥キモー　フ˩ガン˥タユー　˥ピダルカダル　˥シー　˥ムニーン　イ˩ザヌ [˩nu:˥nu ˥kimo: ɸu ˩gan˥taju: ˥pidarukadaru ˥ʃi: ˥muni:ŋ ʔi˩ʤanu](何が気に食わない＜不満。納得できない＞のか、捻くれてものも言わない)。

ピ˩ダ˥レーニーレー [pi˩da˥re:ni:re:] 【名】左右。ピ˩ダ˥リニーリ [pi˩da˥rini:ri](左右) ともいう。ピ˩ダ˥レーニーレー　˩マーシ˥　ミレーティル　˥フカー　ン˩ジ˥ル˩ダー [pi˩da˥re:ni:re: ˩ma:ʃi˥ mire:tiru ˥ɸu̥ka: ʔn˩ʤi˥ru˩da:](左右を見回してから外へは出るのだぞ)。

˥ビチ [˥bitʧi] 【名】別。別個。別のところ。ク˩リヌ˥　フカナー　ビ˩チ˥ヌ　˥ムノー　ナー˩ヌ [ku˩rinu˥ ɸu̥kana: bi˩tʧi˥nu ˥muno: na:˩nu](これの他に別の物はないのか)。ビ˩チ˥ヌ　ム˩ヌ˥ル　プサ˩サー [bi˩tʧi˥ nu mu˩nu˥ru pu̥sa˩sa:](別の物が欲しい)。˥ビチナー　˩ナーン˥カヤー [˥bitʃina: ˩na:ŋ˥kaja:](別の所にはないのかねえ)。

ピ˩チ [pi̥˩tʧi] 【名】十二支の第八番目、ひつじ (未)。ピ˩チディプス [pi̥˩tʧidipusu](未年生まれの人)。ピ˩チニー [pi̥˩tʧini:](十二支のひつじ＜未＞の日)。ピ˩チディマリ [pi̥˩tʧidimari](未年の生まれ)。ピ˩チヌパー [pi̥˩tʧinu pa:](ひつじ＜未＞の方向。南西の方向)。ピ˩チディプソー˥　イッ˩ケナ˥　ウ˩トゥナ˥サン ＜˩ワンダーッ˥サン＞[pi̥˩tʧidipu̥so:˥ ʔik˩kena˥ ʔu˩tuna˥saŋ＜˩wanda:s˥saŋ＞](未年生まれの人は、非常に大人しい)。

ビ˩チカン˥ガイ [bi˩tʧikaŋ˥gai] 【名】別の考え。違った考え。マ˩ナマ˥ヌ　˩シー˥ヨーシェー　˥マイ　˩ユーザランダ˥　ビ˩チガン˥ガイ　˩サン˥カー　ナ˩ラ˥ヌ [ma˩nama˥nu ˩ʃi:˥jo:ʃe: ˥mai ˩ju:ʤarnada˥ bi˩tʧikaŋ˥gai ˩saŋ˥ka: na˩ra˥nu](今の仕方では前に進めない＜寄れない＞から、別の考えをしなければならない)。

ピ˩チディマリ [pi̥˩tʧidimari] 【名】十二支のひつじ (未) 年生まれ。未年生まれの人。˥アッパー　ピ˩チデマリ˥　ヤ˩ロー˥ルンダ　˥アブジェーラ　フ˩ターチェー˥　ウ˩ス˥トゥ　ヤ˩ロー˥ル　˥パジ [˥ʔappa: pi̥˩tʧidimari˥ ja˩ro:˥runda ˥ʔabuʤe:ra ɸu̥˩ta:tʃe:˥ ʔu˩su˥tu ja˩ro:˥ru ˥paʤi](お祖母さんは未年生まれであられるから、お祖父さんより二歳は年下＜弟＞であられるはずです)。

ピ˩チニー [pi̥˩tʧini:] 【名】十二支のひつじ (未) の日。ピ˩チドゥシヌ˥　ピ˩チニー˥ナ　マ˩レー˥ル　ッ˩ふァ˥　ヤ˩ルンダ＜ル＞˥　ウ˩トゥナッ˥サン　˥パジ [pi̥˩tʧiduʃinu˥ pi̥˩tʧini:˥na ma˩re:˥ru f˩fa˥ ja˩runda＜ru＞˥ ʔu˩tunas˥sam ˥paʤi](未年の未の日に生まれた子供だから＜ぞ＞、大人しいはずだ)。

ピ˩チマー [pi̥˩tʧima:] 【名】玄孫。孫の孫。やしゃご。˩バン˥テナーヤ　ピ˩チマーン˥　マ˩レーン˥ダー [˩ban˥tena:ja pi̥˩tʧima:m˥ ma˩re:n˥da:](私の家には玄孫も生まれたよ)。

ピ˩チ　マクン [pi̥˩tʧi makuŋ] 【連】1蛇がとぐろをまく。蛇のように、敵愾心(テキガイシン)をもって反抗しようとすること。パ˩ブヌ˥　ピ˩チマキ　ベー [pa˩bunu˥ pi̥˩tʧi maki be:](ハブ＜毒蛇＞がとぐろを巻いている)。2葉が丸く巻き込んで開かない。病的に葉が丸く巻き込むこと。˩ナーンパー˥ヤ　ピ˩チ　マキ　ベー˥ヌ　˥ヌーカヤー [˩na:mpa:˥ja pi̥˩tʧi maki be:˥nu ˥nu:kaja:](菜っ葉は丸く巻いているが何だろうか)。

ピ˩チライ [pi̥˩tʧirai] 【名】へつらい (諂い)。媚びること。おもねること。「互ひにあひ讒＜しこ＞ち諂＜へつらひ＞つつ〜」『金光明最勝王経平安初期点』の転訛したもの。˩ピンソー˥ムヌ　ヤ˩リバ˥ティ　˩シー˥　ウ˩ヤ˥キプスンナーニ　˥アイニ　ピ˩チライ˥　ス˩ナ˥ヨー [˩pinso:˥munu ja˩riba˥ti ˩ʃi:˥ ʔu˩ja˥kipu̥sunna:ni ˥ʔaini pi̥˩tʧirai˥ su˩na˥jo:](貧乏人だからといって、金持ちに対してあのように諂(ヘツライ)をするなよ)。

ビ˩チ˥ル [bi˩tʧi˥ru] 【名】ハマユウ (浜木綿) やオオタニワタリなどの茎の芯。˥ビッチ [˥bittʧi](茎の芯) ともいう。浜木綿の茎の上皮の肉質部を剥ぎ取るとビニール状の内皮が現れる。それを丸めて抜き取り、膨らませて風船を作って遊んだ。その内皮が剥(ハ)げなくなったところにある芯。シ˩ダフカ˥ヌ　ビ˩チ˥ロー　シゥ˩カーラヌ [ʃi˩daɸu̥ka˥nu bi˩tʧi˥ro: si̥˩ka:ranu](浜木綿の芯は使えない＜用途がない＞)。

ビ˩チ˥ル [bi˩tʧi˥ru] 【名】びんずる (賓頭盧) の義か。屋敷の東側の庭に自然石を据え、˩マー˥ニ [˩ma:˥ni](くろつぐ＜黒桄榔子＞) やシ˩トゥッ˥チ [ʃi̥˩tut˥tʧi](蘇鉄)、パ˩ナ˥ギ [pa˩na˥gi](花木＜クロトン＞) などを植栽し、桑の大木やフ˩クン [ɸu̥˩kuŋ](福木) の大木が生えていて、信仰の対象となっている所。シ˩ジダカー˥ン [ʃi˩ʤidaka:˥ŋ](セジ＜神霊＞が高い) として、普段は人の立ち入りを禁じている。˥ウブシケー [˥ʔubuʃi̥ke:](大城家)、˩ヨー˥カヤー [˩jo:˥kaja:](西原家)、˩クシケー [˩kuʃi̥ke:](小底家) の屋敷の東側にあるビチルは、˩カンダカー˥ン [˩kandaka:˥ŋ](神

霊が高い) といって、子供達は恐れて近寄らなかった。˞ヨー˜カヤーヌ　˞アンタヌ˜　ビ˞チ˜ルナーム˞カ˜シェー　˞カン˜プスンケーヌ　˞ウイヌ˜ウガンラヌ　˞カイ˜ロー　˜ウナーティ　˞カンアサ˜ビ˞ソーッ˜タンティ˞ダー [˞joː˜kajaːnu ˞ʔantanu˜ bi˞ʧi˜runaː mu˞ka˜ʃeː ˞kam˜pu̥suŋkeːnu ˞ʔuinu˜ʔuganranu ˞kai˜roː ˜ʔunaːti ˞kaŋʔasa˜bi ˞soːt˜tanti˞daː](西原家の東側のビチルには、昔は神職者 < 神人 > の方々が友利お嶽からの帰りに、そこで神遊びをされたそうだよ)。

˞**ピッカイスン [˞pikkaisuŋ]** 【他動】引っ返す。マ˞ナ˜マン　˞デー˜カ　˞ピッカイスンティ˜　ウムーカ　˞ピッカイサリンドゥ　ピッカイス˜　クトーナ˞ラ˜ヌ [ma˞na˜man ˞deː˜ka ˞pikkaisunti˜ ʔumuːka ˞pikkaisarindu pikkaisu˜ ku̥toː na˞ra˜nu](今なら引っ返そうと思えば、引っ返されるが、引っ返すことは出来ない)。˞ピッカイシ˜　ミサン [˞pikkaiʃi˜ misaŋ](引返して良い)。˞ピッカイシェー˜　ミサムヌ [˞pikkaiʃeː˜ misamunu](引っ返せば良いのに)。˞パー˜ク　˞ピッカイシ [˞paː˜ku ˞pikkaiʃi](早く引っ返せ)。

˞**ヒッカカ˜ルン [˞çikkaka˜ruŋ]** 【自動】引っ掛かる。釣り糸が海底の岩等に掛かる。˞ナー˜ヤ　イ˞シ˜ナ　˞ヒッカカリティ　パンツァサラヌ [˞naː˜ja ʔi˞ʃi˜na ˞çikkakariti pantsasaranu](縄が岩に引っ掛かって外されない)。

˞**ピッカカルン [˞pikkakaruŋ]** 【自動】1引っかかる。釣り糸が海底の岩に掛かる。若年層は、˞ヒッカカ˜ルン [˞çikkaka˜ruŋ](引っ掛かる) ともいう。˞ナー˜ヤ　イ˞シ˜ナ　˞ピッカカリティ　パンチラヌ [˞naː˜ja ʔi˞ʃi˜na ˞pikkakariti pantʃiranu](縄は岩に引っ掛かって外れない)。ウ˞ムリ˜　シ˞キ˜ルカー　イ˞シ˜ナ　˞ピッカカルンダ　ピッカカラン˜ヨーニ　ウ˞ムリ　パンツァシ˜バ [ʔu˞muri˜ ʃi̥˞ki˜ruka: ʔi˞ʃi˜na ˞pikkakarunda pikkakaraŋ˜joːni ʔu˞muri pantsaʃi˜ba](錘をつけると岩に引っ掛かるから、引っ掛からないように錘を外せよ)。˞ピッカカル˜　クトゥン　˜アン [˞pikkakaru˜ ku̥tuŋ ˜ʔaŋ](引っ掛かることもある)。˞ピッカカレー˜　ミサムヌ [˞pikkakareː˜ misamunu](引っ掛かればいいのに)。˞ピッカカリ˜バ [˞pikkakari˜ba](引っ掛かれよ)。2気にかかる。すっきりと納得できない。ウ˞ヌ˜　ク˞トゥ˜ヌ　ン˞ニウチ˜ナ　˞ピッカカリティ˜　ムッ˞トゥ˜　キ˞ムフガ˜ヌ [ʔu˞nu˜ ku̥˞tu˜nu ʔn˞niʔutʃi˜na ˞pikkakariti˜ mut˞tu˜ ki˞muɸuga˜nu](そのことが胸に引っ掛かって、ちっとも納得できない)。

˞**ピッカキルン [˞pikkakiruŋ]** 【他動】引っ掛ける。壁や突き出ている物にかけて吊り下げる。˞キー˜ヌ　ユ˞ダ˜ナー　˞ピッカキルン [˞kiː˜nu ju˞da˜naː ˞pikkakiruŋ](木の枝に引っ掛ける)。˞ピッカキラヌ [˞pikkakiranu](引っ掛けない)。˞ピッカキヤッ˜サン [˞pikkakijas˜saŋ](引っ掛けやすい)。˞ピッカキル˜クトゥ [˞pikkakiru˜ ku̥tu](引っ掛けること)。˞ピッカキ˜レー　˜ミサムヌ [˞pikkaki˜reː ˜misamunu](引っ掛ければいいのに)。˞ピッカキ˜リ [˞pikkaki˜ri](引っ掛けろ)。

˞**ピッカ˜リン [˞pikka˜riŋ]** 【自動】穴を開けることができる。他動詞˞ピッ˜クン [˞pik˜kuŋ](穴をあける) の未然形に、助動詞˜リン [˜riŋ](～れる < 可能 >) が下接して形成された可能の派生動詞 (可能動詞)。多くの他動詞、自動詞にも見られる。˞バン˜ヌン　˞ピッカ˜リン [˞ban˜num ˞pikka˜riŋ](私にも穴があけられる)。˞バン˜マー　˞ピッカラ˜ヌ [˞bam˜maː ˞pikkara˜nu](私には穴を開けられない)。˞ピッカリン˜ギサン [˞pikkariŋ˜gisaŋ](穴が開けられそうだ)。˞ピッカ˜リ　˜クトー　˞ナー˜ヌ [˞pikka˜ri ˜ku̥toː ˞naː˜nu](穴が開けられることはない)。

˞**ピッ˜キ [˞pik˜ki]** 【名】小さな孔。小穴。˞タング˜ヌ　˞ピッ˜キーラ　ミ˞ジヌ˜　ムリ˞ベー [˞taŋgu˜nu ˞pik˜kiːra mi˞ʤinu˜ muri˞beː](水担桶の小穴から水が漏れている)。ヤ˞ドゥ˜ヌ　˞ピッ˜キ [ja˞du˜nu ˞pik˜ki](板戸の小穴。小さな孔)。

˞**ピッ˜キカーキ [˞pik˜kikaːki]** 【名】あちこちに開いた穴。使い古してぼろぼろになったものの穴。˞ワー　キン˜マー　˞ピッ˜キカーキ　˞シーティ˜　キ˞サラヌ [˞waː kim˜maː ˞pik˜kikaːki ˞ʃiːti˜ ki̥˞saranu](君の着物はあちこち穴があいていて着られない)。ヤ˞ラビ˜ヌ　˞ブー　ヤー˜ヌ　˞ソージェー　ピッ˜キカーキ　˞シーブー [ja˞rabi˜nu ˞buː jaː˜nu˞soːʤeː pik˜kikaːki ˞ʃiː buː](子供のいる家の障子はあちこち穴が開いている)。

˞**ピッキ˜キン [˞pikki˜kiŋ]** 【名】穴の開いた着物。着古して敗れた着物。つづれ。ぼろ (襤褸)。ヤ˞リ˜キン [ja˞ri˜kiŋ](敗れた着物) ともいう。˞ピッキキン˜バ　キ˞シテー˜　プ˞スヌ˜　マイ　ン˞ジララ˜ヌ [˞pikkikim˜ba ki̥˞ʃiteː˜ pu̥˞sunu˜mai ʔn˞ʤirara˞nu](つづれを着ては人の前に出られない)。

˞**ピッキ˜ナビ [˞pikki˜nabi]** 【名】穴のあいた鍋。˞ピッキ˜ナベー　˜クー　˞サン˜カー　シゥ˞カーラヌ [˞pikki˜nabeː ˜kuː ˞saŋ˜kaː si̥˞kaːranu](穴のあいた鍋

は穴を塞ぐ補修 <鋼(コ)、ィカケ > をしないと使用できない < 使われない >)。

「ピッキバー˥キ [「pikkiba:˥ki] 【名】穴のあいた竹筒(タケザル)。「ピッキバー˥キナー ˥ムノー イ「リララヌ [「pikkiba:˥kina: ˥muno: ʔi「riraranu](穴のあいた竹筒には、物は入れられない)。

「ピッキ˥ミー [「pikki˥mi:] 【名】小穴。壁や船底にできた小さな穴。「ヤー˥ヌ ク「ビヌ ピッキ˥ミーラ ニ「シカジヌ˥ フ「キッ˥クミ ˥キー 「ピーヤ˥ヌ ナ「ラ˥ヌ [「ja:˥nu ku「binu pikki˥mi:ra ni「ʃikaʤinu˥ ɸu̥「kik˥kumi ˥ki: 「pi:ja˥nu na「ra˥nu](家の壁の小穴から北風が吹き込んできて寒くて堪らない)。

「ピッキ˥ムヌ [「pikki˥munu] 【名】穴のあいた物。ス「クピッキ˥ムノー シゥ「カイユーゾー ナー˥ヌ [su̥「kupikki˥muno: si̥˥kaiju:ʤo: na:˥nu](底の穴があいた物は使い道 < 用途 > がない)。「ピッキ˥ムノー シゥ「カーランバ˥ シ「ティリ [「pikki˥muno: si̥˥ka:ramba˥ ʃi̥「tiri](穴のあいたものは使えないから捨てなさい)。

「ピッキ˥ヤコン [「pikki˥jakoŋ] 【名】穴のあいたやかん (薬缶)。「穴開き薬缶」の義。「ピッキヤコン˥マー ˥クー 「サン˥カー シゥ「カーラヌ [「pikkijakom˥ma: ˥ku: 「saŋ˥ka: si̥˥ka:ranu](穴のあいた薬缶は修理 < 穴を塞ぐこと。金固 > しないと使え < 使われ > ない)。

「ピッキ˥ルン [「pikki˥ruŋ] 【自動】穴があく。ウ「タ˥スカー ス「ク ピッキ˥ルンダ 「ピッキラン˥ヨーニ ヤー「ラマ˥シ シ「キ˥リ [ʔu「ta˥suka: su̥˥ku pikki˥runda 「pikkiraɲ˥jo:ni ja:「rama˥ʃi ʃi̥˥ki˥ri](落としたら底に穴があくから、穴があかないようにゆっくりと丁寧に置きなさい)。「ピッ˥キ 「ナー˥ヌ [「pik˥ki「na:˥nu](穴があいてしまった)。「オーパ˥ヤー ス「クヌ ピッキ˥ル ˥ナベー シゥ「カウナ [「ʔo:pa˥ja: su̥˥kunu pikki˥ru ˥nabe: si̥˥kauna](そんなに早く底に穴があく鍋は使うな)。「マー˥ビン 「ピッキ˥レー ˥ミサムヌ [「ma:˥bim 「pikki˥re: ˥misamunu](もっと穴があけばいいのに)。˥アイブ ˥ムノー 「パー˥ク 「ピッキ˥リ [˥ʔaibu ˥muno: 「pa:˥ku 「pikki˥ri](あんなものは早く穴があけろ)。

「ピックマスン [「pikkumasuŋ] 【他動】へこませる。へこます (凹ます)。物の表面を窪ませる。ウ「ブ˥イキ ユ「ビティ˥ バタ 「ピックマスンティ スンドゥ ピックマサラヌ [ʔu「bu˥ʔiki ju「biti˥ bata pi「kkumasunti sundu pikkumasaranu](深呼吸をしてお腹をへこまそうとするが、へこまされない)。「ピックマシ˥ ミサカー 「ピックマス˥ クトー ˥ナルン [「pikkumaʃi˥ misaka: 「pikkumasu˥ ku̥to: ˥naruŋ](へこましてよければへこますことは出来る)。「ピックマシェー˥ ミサムヌ [「pikkumaʃe:˥ misamunu](へこませばいのに)。「ピックマシ [「pikkumaʃi](へこませ)。

「ピックムン [「pikkumuŋ] 【自動】へこむ (凹む)。物の表面が窪む。˥バタ 「ウスク˥カー 「ピックムンドゥ˥ バタ 「コーラ˥スカー 「ピックマヌ [˥bata 「ʔusu̥ku˥ka: 「pikkumundu˥ bata 「ko:ra˥su̥ka: 「pikkumanu](お腹を押すとへこむが、お腹を固くするとへこまない)。「ピックミ ナー˥ヌ [「pikkumi na:˥nu](へこんでしまった)。「ピックム ムノー˥ シ「ティリ [「pikkumu muno:˥ ʃi̥「tiri](へこむ物は捨てなさい)。「マー˥ビン 「ピックメー˥ ミサムヌ [「ma:˥bim 「pikkume:˥ misamunu](もっとへこめばいいのに)。「ピックミ [「pikkumi](へこめ)。

「ヒックリカイ˥スン [「çikkurikai˥suŋ] 【他動】ひっくり返す。上下、表裏を逆にする。くつがえす (覆す)。標準語から転訛したもの。ウ「ラガイ˥スン [ʔu「ragai˥suŋ](裏返す)、「ウッカイ˥スン [「ʔukkai˥suŋ](裏返す)、グ「ルッカイ˥スン [gu「rukkai˥suŋ](ひっくり返す) ともいう。イ「ガー˥ プ「スマ˥アトー 「ヒックリカイ˥シティ シ「ダ˥ルナ ˥プシバ [ʔi「ga:˥ pu̥「suma˥ʔato: 「çikkurikai˥ʃi̥ti ʃi「da˥runa ˥pu̥ʃiba](烏賊は正午後はひっくり返してすだれ < 簾 > の上に干しなさいよ)。

「ピッ˥クン [「pik˥kuŋ] 【自動】穴があく。˥ドゥク ˥ッスカー 「ピッ˥クンダー 「ピッカン˥ヨーニ ヤー「ラマ˥シ ˥ッシバ [˥duku ˥ssuka: 「pik˥kunda: 「pikkaɲ˥jo:ni ja:「rama˥ʃi ˥ʃʃiba](あまり強く擦(コス)ると穴があくので、穴があかないようにゆっくり丁寧に擦れよ)。「ピッ˥キ 「ナー˥ヌ [「pik˥ki 「na:˥nu](穴があいてしまった)。「ピック˥ クトー 「ナーン˥テー ウ「ムー˥ヌ 「ピッ˥ケー ˥ミサムヌ [「pik˥ku ˥ku̥to: 「na:n˥te: ʔu「mu:˥nu 「pik˥ke: ˥misamunu](穴があくことはないとは思うが、穴があけばいいのに)。「パー˥ク 「ピッ˥キティ ニ「ガウ˥タン [「pa:˥ku 「pik˥kiti ni「gau˥taŋ](早く穴があけよと願った)。

「ピッ˥クン [「pik˥kuŋ] 【他動】穴を開ける。突きさす。ク「リ˥シ ˥アナ 「ピッ˥クンティ 「スンドゥ ピッカラ˥ヌ [ku「ri˥ʃi ˥ʔana 「pik˥kunti 「sundu pikkara˥nu](これで穴を開けよう < 突き刺そう > とするが、< 穴を > 開けられない)。「ピッキ˥ ミサカー 「ピッ˥ク ˥クトー ˥ナルン [「pik˥ki ˥misaka: 「pik

˞ku ˞kʉto: ˞naruŋ](穴を開けて＜突き刺して＞よければ、穴を開ける＜突き刺す＞ことは出来る)。˞ピッ˞ケー　˞ミサムヌ [˞pik˞ke: ˞misamunu](穴を開ければ＜突き刺せば＞いいのに)。ク˞リ˞シ　˞ピッ˞キ [ku˞ri˞ʃi ˞pik˞ki](これで突き刺せ)。

ピッ˞ケー˞マ [pi˞ke:˞ma] 【名】非常に小さな穴。極小の穴。ヤ˞ドゥ˞ヌ　ピッ˞ケー˞マーラ　˞フカンタ　˞ミルンティ　˞ベー [ja˞du˞nu pik˞ke:˞ma:ra ˞ɸʉkanta ˞mirunti ˞be:](戸の小さな穴から外を見ようとしている)。

˞ヒッコーシ [˞çikko:ʃi] 【名】引越し。転居すること。標準語からの借用語が再転訛したもの。ムー˞ル˞イ˞サンケー　ヒッコーシ (˞ヒックシ)˞　パリ　˞ナー˞ヌ [mu:˞ru˞ ʔi˞saŋke: çikko:ʃi(çikkuʃi)˞ pari ˞na:˞nu](皆石垣島へ引っ越して行ってしまった)。

˞ビッ˞ター [˞bit˞ta:] 【名】座ること (幼児語)。お座り。˞ウナー　˞ビッ˞ター　˞シー˞　ア˞サビト ヨー [˞ʔuna: ˞bit˞ta: ˞ʃi:˞ ʔa˞sabiɨ-jo:](そこにお座りして遊びなさいよ)。

˞ピッタティルン [˞pittatiruŋ] 【他動】嫌がるものを無理に連れて行く。「引き立てる」の転訛したもの。˞ピッタティラン˞カー　ナー˞イ˞　ア˞サブンダ˞　パ˞タ˞ケー　˞ピッタティルンティ　ベー˞ダー [˞pittatiraŋ˞ka: na:˞i˞ ʔa˞sabunda˞ pḁ˞tak˞ke: ˞pittatirunti be:˞da:](引っ立てないとずっと遊ぶから、畑へ引っ立てようとしているのだよ)。˞ピッタティ˞　ミサカー　˞ピッタティル˞　クトー　˞ナルン [˞pittati˞ misaka: ˞pittatiru˞ kʉto: ˞naruŋ](引っ立ててよければ引っ立てることはできる)。˞ピッタティレー˞　ミサムヌ [˞pittatire:˞ misamunu](引っ立てればいいのに)。˞パー˞ク　˞ピッタティリ [˞pa:˞ku ˞pittatiri](早く引っ立てろ)。

˞ビッチ [˞bittʃi] 【名】草木の芯。˞バサ [˞basa](芭蕉)やハマユウ (浜木綿) などの芯。新芽を出す前の筆の穂先のような芽。ビ˞チ˞ル [bi˞tʃi˞ru](草木の新芽)ともいう。シ˞ダフカ˞ヌ　˞ビッチ [ʃi˞daɸʉka˞nu ˞bittʃi](ハマユウの茎の芯)。

˞ピッチ˞ルン [˞pittʃi˞ruŋ] 【自動】潰(ツブ)れる。ひしゃげる。˞ピッチ˞ルンカヤーティ　ウ˞ムータン˞ドゥ　˞ピッチラン˞バン [˞pittʃi˞ruŋkaja:ti ʔu˞mu:tan˞du ˞pittʃiram˞baŋ](潰れるかと思ったが、潰れないわい)。˞ピッチ　ヤッ˞サンティ　ア˞ザバン　ナンク˞ル　˞ドゥーシ　˞ピッチ˞ル　˞クトー　˞ナー˞ヌ [˞pittʃijas˞santi ʔa˞ʤaban naŋku˞ru ˞du:ʃi ˞pittʃi˞ru ˞kʉto: ˞na:˞nu](潰れやすいとはいっても、自然に＜自ら＞潰れることはない)。ムー˞ル　ピッ˞チェー　˞ミサムヌ [mu:˞ru pit˞tʃe: ˞misamunu](全部潰れたらいいのに)。˞パー˞ク　ピッチ˞リ [˞pa:˞ku ˞pittʃi ˞ri](早く潰れろ)。

˞ピッ˞チン [˞pit˞tʃiŋ] (1)【名】一つ。˞ピー˞チ [˞pi:˞tʃi](一つ) の強調表現。˞ピッ˞チンサーギ　ヌ˞カ˞スカー˞ミサン　[˞pit˞tʃinsa:gi nu˞ka˞suka: ˞misaŋ](一つさえ残せばあとはよろしい)。 **(2)**【副】一つも。何も。下に打消しを伴って、「全く～しない」、「何も～しない」の意味を表す。ウ˞レー　バン˞マー　ア˞ガピッチンマーンツァン˞　ッ˞ふィーランシェン [ʔu ˞re: bam˞ma: ʔa˞gapi:tʃimma:ntsaŋ˞ f˞fi:raŋʃeŋ](彼は私にはたったの一つも呉れなかった＜何も呉れなかった＞)。

˞ピッ˞チン [˞pit˞tʃiŋ] 【副】いっぱい。たくさん。満ちているさま。˞ヤー˞ヌ　˞ピッ˞チン　˞ヨイシー˞プソー　˞オーリ˞　ブー [˞ja:˞nu ˞pit˞tʃiɲ ˞joiʃi:˞pʉso: ˞ʔo:ri˞ bu:](家のいっぱいお祝いの客がいらっしゃっている)。バ˞タ˞ヌ　˞ピッ˞チン　˞ヌメーン [ba˞ta ˞nu ˞pit˞tʃin nume:ŋ](腹の一杯飲んだ)。カ˞ミ˞ヌ　˞ピッ˞チン　ミ˞ジ˞　ミ˞ツァ˞シ [ka˞mi˞nu ˞pittʃi˞m mi˞ʤi˞ mi˞tsa˞ʃi](水瓶の一杯＜満杯＞水を汲んできて満たしなさい)。

˞ピッ˞チン [˞pit˞tʃiŋ] 【副】陳述副詞。少しも。ちっとも。まったく。「一つも」からの転訛。強意表現。文末の打ち消しの助動詞と呼応して用言の意味を強調し、少しも～ない、ちっとも～ない、まったく～ない、の意味を表す。˞バー　ム˞ニ˞ヨー　˞ピッ˞チン　シゥ˞カヌ [˞ba: mu˞ni˞jo: ˞pit˞tʃin si̥˞kanu](私の話＜ことば＞を全く聞かない)。˞ジン˞マー　˞ピッ˞チン　˞ナー˞ヌ [˞ʤim˞ma: ˞pit˞tʃin ˞na:˞nu](お金は少しも＜全く＞ない)。˞ジンブン˞マー　˞ピッ˞チン　˞ナー˞ムティ　ウ˞ブ˞ムニ　イ˞ジ　アー˞ク [˞ʤimbum˞ma: ˞pit˞tʃin ˞na:˞muti ʔu˞bu˞muni ʔi˞ʤi ʔa:˞ku](思慮分別＜存分＞はな何もいのに大言壮語(タイゲンソウゴ)して＜大きなこと言って＞いる)。

˞ピッツァ˞スン [˞pittsa˞suŋ] 【他動】潰(ツブ)す。押しつぶす。ひしゃぐ。˞コー˞マ　˞ピッツァ˞シティ　˞スーナ　イ˞リ˞バ [˞ko:˞ma ˞pittsa˞ʃi̥ti ˞su:na ʔi˞ri˞ba](卵を割って＜潰して＞お汁に入れなさいよ)。˞ピッツァ˞スンティ　˞スンドゥ　ピッツァサラ˞ヌ [˞pittsa˞sunti ˞sundu pittsasara˞nu](潰そうとするが、潰されない)。˞クナー　˞ピッツァ˞ス　˞クトーナ˞ラ˞ヌ [˞kuna: ˞pittsa˞su kʉto: na˞ra˞nu](ここで潰すことは出来ない)。ク˞ヌ˞　ア˞シ˞ボー　˞ピッツ

ァ˞シェー　˞ミサムヌ [kuˤnu˞ ʔaˤʃi˞boː ˤpittsa˞ʃeː ˞misamunu](このお出来は潰せ＜切開すれ＞ばいいのに)。クˤレー　ピッツァ˞シ [kuˤreː pittsa˞ʃi](これは潰せ)。

ビッˤツティ [bitˤtsuti] 【副】そっくり。残すところなく。そのまま。全部。全く。肯定判断の陳述と呼応して、「そっくり～だ」の意を表す陳述副詞。ˤキョーダイ˞サ　フˤターロー˞　マーˤン　カウラヌ˞　ビッˤツティ　ニーブ [ˤkjoːdai˞sa ɸu̥ˤtaːroː˞ maːˤŋ kauranu˞ bitˤtsuti niːbuː](兄弟二人はどこも変わらない、そっくり似ている)。

ˤピッ˞ツン [ˤpit˞tsuŋ] 【自動】潰(ツブ)れる。クˤレー　ウスク˞カー　ˤピッツン˞ドゥ　ウˤレー　ピッツァ˞ヌ [kuˤreː ʔusu̥ku˞kaː ˤpittsun˞du ʔuˤreː pittsa˞nu](これは圧すと潰れるが、それは潰れない)。ˤピッチヤッ˞サンンダ　ˤピッ˞ツ　˞ムノーラ　˞トゥリバ [ˤpittʃi jas˞sanda ˤpit˞tsu ˞munoːra ˞turiba](潰れやすいから、潰れるものから取れよ)。ムーˤル　ピッ˞チェー　˞ミサムヌ [muːˤru pit˞tʃeː ˞misamunu](全部潰れればいいのに)。ˤピッチ˞リ [ˤpittʃi˞ri](潰れろ)。

ビッˤティン　クイッティン　ナー˞ヌ [bitˤtiŋ kuittin naː˞nu] 【連】うんともすんともない。ウˤヌス˞クˤトゥイスクンドゥ˞　ビッˤティンクイッティン　ナー˞ヌ [ʔuˤnusu̥˞ku ˤtuisu̥kundu˞ bitˤtiŋkuittin naː˞nu](しきりに問い尋ねる＜問い聞く＞がうんともすんともない)。

ˤピッパルン [ˤpipparuŋ] 【他動】引っ張る。縄や糸を強く張って伸ばす。「引き張る」の転訛したもの。若年層は、ˤヒッパルン [ˤçipparuŋ](引っ張る)ともいう。ˤティン˞ナー　ˤピッパルンティ　スンドゥ˞　カˤジヌ　スーヤ (wa)˞ヌ　ˤピッパララヌ [ˤtin˞naː ˤpipparunti sundu˞ kaˤʤinu suːja(wa)˞nu ˤpippararanu](帆の手縄を引っ張ろうとするが、風が強くて引っ張られない)。ˤピッパリ˞　ミサカー　ˤピッパル˞　クトー　˞ナルン [ˤpippari˞misakaː ˤpipparu˞ ku̥toː ˞naruŋ](引っ張ってよければ、引っ張ることは出来る)。ˤピッパレー˞　ミサムヌ [ˤpippareː˞ misamunu](引っ張れば良いのに)。ˤマー˞ビン　ˤピッパリ＜ピˤキシキ＞[ˤmaː˞bim ˤpippari＜piˤkiʃiki＞](もっと引っ張れ)。

ビˤツルッティ [biˤtsurutti] 【副】ごっそり。物がすっかりなくなるさま。つるりと。ガˤマ˞ジェー　ビˤツルッティ˞　パギパリ　ˤナー˞ヌ [gaˤma˞ʤeː biˤtsurutti˞ pagipari ˤnaː˞nu](髪の毛はごっそりと抜け落ちて＜禿げていって＞しまった)。

˞ピトゥ [˞pi̥tu] 【名】(動) イルカ (海豚)。鳩間島の漁民はイルカを漁獲することはしなかった。パˤトゥ˞マプソー　˞ピトー　トゥローˤラン˞シェン [paˤtu ˞mapu̥soː ˞pi̥toː turoːˤraŋ˞ʃeŋ](鳩間島の人はイルカは漁獲され＜取られ＞なかった)。

ピˤトゥ˞ヌ　カˤタ [pi̥ˤtu˞nu kḁˤta] 【連】イルカの絵。ˤヤー˞　ピˤトゥ˞ヌ　カˤタ˞　ミˤリ˞バ　バˤガウヤー˞ドゥ　ˤシーユール [ˤjaː˞ pi̥ˤtu˞nu kḁˤta˞ miˤri˞ba baˤgaujaː˞du ˤʃiːjuːru](ああ、イルカの絵を見ると奪い合いをしている)(アーパーレー歌)。

ビˤトゥラー˞ン [biˤturaː˞ŋ] 【形】脂っこい。ˤオー˞ヌ　アˤバッ˞タラー　ビˤトゥラー˞ヌ　ッˤふァーラヌ [ˤʔoː˞nu ʔaˤbat˞tara: biˤturaː˞nu fˤfaːranu](豚の脂身は脂っこくて食べられない)。アˤバッ˞タラー　ビˤトゥラー˞ンティ　スˤクタヌ˞　アˤバ˞ナビナー　シˤズ˞ター　ビˤトゥラー　ナー˞ヌ [ʔaˤbat˞tara: biˤturaː˞nti su̥ˤkutanu˞ ʔaˤba˞nabina: ʃiˤʤu˞taː biˤturaː naː˞nu](脂身は脂っこいと聞いたが、油鍋で空揚げし＜煎じ＞たら脂っこくないよ)。ビˤトゥラー˞　ナリ　ˤナー˞ヌ [biˤturaː˞ nari ˤnaː˞nu](脂っこくなってしまった)。ビˤトゥラー˞　ムノー　ッˤふーナ [biˤturaː˞ muno: fˤfuːna](脂っこいものは食べるな)。ビˤトゥ˞ラーカー　ッˤふァーン　ブリ˞バ [biˤtu˞raːka: fˤfaːm buri˞ba](脂っこかったら食べるなよ)。

˞ビナー [˞binaː] 【名】不潔。不潔な人。ウˤレー　サッ˞コー　ビナーˤダー [ʔuˤreː sak˞koː binaːˤdaː](あれ＜彼＞は非常に不潔な人だよ)。

˞ピナー [˞pinaː] 【名】火縄。クロツグ (桄榔) のˤフー˞カラ [ˤɸuː˞kara](クロツグの鬚) で直径約 2 センチの縄を綯い、それを藁などで強く縛って約 50 センチの長さにして先端に火を点け、火種にして畑などに持参した。畑仕事の合い間に湯を沸かしたり、煙草を吸うのに用いた。˞アブジェーターヤ　パˤタ˞ケー　ˤオー˞ル　˞ピンマー　˞ピナーナ　ˤピー˞ヤ　˞シキティ　ムˤトーッタ˞ル [˞ʔabuʤeːtaːja pḁˤta˞keː ˤʔoː˞ru ˞pimmaː ˞pinaːna ˤpiː˞ja ˞ʃi̥kiti muˤtoːtta˞ru](お祖父さん達は畑へ行かれる時は、火縄に火を点けて持って行かれたものだ)。

ビˤナー˞ン [biˤnaː˞ŋ] 【形】1不潔である。汚い。「惠比＜ゑひ＞」『古事記　中　應神謡 50』の転訛したものか。ウˤレー˞　ビˤナー˞ンダ　ビˤナーナーン˞　プˤスン　イー˞ヤ　スˤコーラシ [ʔuˤreː˞ biˤnaː ˞nda biˤnaːnaːm˞ pu̥ˤsuŋ ʔiː˞ja su̥ˤkoːraʃi](彼は不潔

だ＜汚い＞から、不潔でない＜汚くない＞人にご飯を炊かせ＜作らせ＞なさい)。˜ドゥク　ビ˞ナー˜ヌ　ウ˞リンマー˜　ス˞クラサラヌ [˜duku bi˞naː˜nu ʔu˞rimmaː˜ sṵ˞kurasara˜nu](あまりにも不潔なので＜汚くて＞、彼には作らされない)。トゥ˞シ˜　トゥルカー　˞シンダイ˜　ビ˞ナー˜　ナルン [tṵ˞ʃi˜ turukaː ˞ʃindai˜ bi˞naː˜ naruŋ](年をとったら次第に不潔に＜汚く＞なる)。˜クナー　ビ˞ナー˜　プ˞ソー˜　ブ˞ラーヌ [˜kunaː bi˞naː˜ pṵ˞soː˜ bu˞raːnu](ここには不潔な＜汚い＞人はいない)。²病弱である。ヤ˞ラ˜ビ　˞シェーン˜ケンラ　˞ドゥー˜ヌ　ビ˞ナー˜ティ＜˞ヨー˜ティ＞　パ˞タキシグ˜トー　˞サンシェン [ja˞ra˜bi ˞ʃeːŋ˜kenra ˞duː˜nu bi˞naː˜ti＜˞joː˜ti＞ pa˞takiʃigu˜toː ˞saŋʃeŋ](若い頃から病弱なので畑仕事はしなかった)。

ピ˞ナイ˜ウガン [pi˞nai˜ʔugaŋ] 【名】ピナイ御願 (御嶽)。「鬚川嶽」とある。『琉球国由来記』記載の名称は、ヒナイ御嶽。所在地　字鳩間西村中。祭神　神名　フチコハラ。御イベ名　イリキヤニ。由来「由来不二相知一」(『琉球国由来記』沖縄文化財調査報告書 70 集) という。鳩間島の対岸の西表島ヒナイ集落は、地味が肥え、農作物が豊穣であった。ピナイ村から鳩間島に移住した人々は、この稔り豊かなピナイ集落の御嶽の香炉の灰を分けてもらい、鳩間島に˜ウガン [˜ʔugaŋ](御嶽＜お願＞) を建立しようたしたが、ピナイ集落の人たちに拒否された。そこで、夜の闇にまぎれて二隻の˜イダフニ [˜ʔidaɸuni](サバニ＜板船＞) を出し、ピ˞ナイ˜ウガン (ヒナイ御嶽) の香炉の灰を分け取って船を漕ぎ急いで島に帰った。島に到着するやいなや、海岸端に香炉を安置し、線香を立てて祈願した。これがピナイウガンの始まりだという口碑が残っている。二隻の舟の船頭を務めた人の血筋から、この御嶽＜御願＞のサ˞カサ [sa̱˞kasa](司。女性神職者) とティ˞ジリ˜ビー [ti˞ʤiri˜biː](＜手擦り部＞。男性神職者) が世襲的に出るようになっているという。˞プー˜ル [˞puː˜ru](豊年祭) の˞パー˜レー [˞paː˜reː](爬竜船競漕) は、この御嶽建立譚(コンリュウタン)に淵源(エンゲン)を発しているという。花城イガ氏 (1970 年当時、ピナイウガンの神司)、加治工伊佐氏 (ピナイウガンのティジリビ。1989 年 1 月 23 日、老齢による˞インクニガイ [˞ʔiŋkunigai]＜隠居願い＞により正式に神職者を隠居した) の直話によるピ˞ナイ˜ウガン (鬚川御嶽) の由来は次の通りである。前記の˜イダフニ [˜ʔidaɸuni](サバニ＜板舟＞) の船頭を務めた者が、˞トゥー˜ゼー [˞tuː˜ʤeː](通事家) とカ˞ザケー [ka˞ʤakeː](加治工家) の先祖であった。それで、サ˞カサ [sa̱˞kasa](司) は通事家の血を引く女性からマ˞ロー˜リ [ma˞roː˜ri](誕生され)、ティ˞ジリ˜ビー [ti˞ʤiri˜biː](男性神職者) はカ˞ザケー [ka˞ʤakeː](加治工家) の血を引く男性の中からマ˞ロー˜ル [ma˞roː˜ru](誕生される) という。花城イガ氏は通事家の出身であり、同じく通事家の出身であった˜ユージェヌ　˜アッパ [˜juːʤenu ˜ʔappa](松竹家のお祖母さん。松竹マカト氏) から司の神役を継承された。加治工伊佐氏は、加治工家の血を引く、寄合家のユ˞レーヌ˜　アブジェー [ju˞reːnu˜ ʔabuʤeː](寄合家のお祖父さん。寄合阿嘉伊佐氏) からティ˞ジリ˜ビー [ti˞ʤiri˜biː](カンプス。男性神職者) の神役を継承している。ピ˞ナイ˜ウガンには巨木が生えていた。特に˜ウボー [˜ʔuboː](威部) の所には周囲約 2 メートルのヤ˞ラブ [ja˞rabu](てりはぼく) の巨木が地面を這うように海岸へ伸びて生えていたが、1960 年代の大型台風の直撃を受け、幹から折れて枯れた。樹齢約 400 年と推定されていた。現在のア˞ラ˜カーウガン [ʔa˞ra˜kaːʔugaŋ](新川御願) のヤ˞ラブより大きかったと思われる。また、˞パー˜レー [˞paː˜reː](爬竜船競漕) の折り返し点を示すウ˞キ [ʔu˞ki](浮子) は、パ˞トゥ˜マレー [pa̱˞tu˜mareː](鳩離島) の˞パンガマイシ [˞paŋgamaʔiʃi](羽釜石) と、ピ˞ナサキ [pi˞nasaki](ピナイ崎) のマ˞ニ˜ツァイシ [ma˞ni˜tsaʔiʃi](俎板石。グンカンイシ [˞guŋkaŋʔiʃi]＜軍艦石＞ともいう) を目印にするといわれている。1970 年ごろ、神域の東側の大木のもとに香炉を無断で設置してあると言って、その扱いに困惑していると花城イガ氏と共に話されたが、結局は放置されたという。

ピ˞ナイサーラ [pi˞naisaːra] 【名】滝の名。西表島北部の船浦湾の奥にある。˞マーレー [˞maːreː](地名) とニ˞シダ [ni˞ʃida](地名) の間を流れるピナイ川の川上にある、八重山一高い滝。˞サーラ˜ミジ [˞saːra˜miʤi](滝) ともいう。ピ˞ナイ [pi˞nai] の˞ナイ [˞nai] はアイヌ語の「川」の意という説がある『八重山語彙』。˞ウーアミヌ˜　アトー　パ˞トゥ˜マラーン　ピ˞ナイサーラー˜　ミ˞ラ˜リン [˞ʔuːʔaminu˜ ʔatoː pa̱˞tu˜maraːm pi˞naisaːraː˜ mi˞ra˜riŋ](大雨の後は鳩間島からもピナイ滝は見える＜見られる＞)。

ピ˞ナイサキ [pi˞naisaki] 【名】地名。船浦湾を出て˞ウイバル [˞ʔuibaru](字上原) へ左折する角で、パ˞トゥ˜マレー [pa̱˞tu˜mareː](鳩離島) の対岸に当たる所。

大きなピ˞ナイサキヌガマ [pi˞naisakinugama](ピナイ崎のガマ < 洞窟 >) がある。戦争中はそこも避難場所とされた。ピ˞ナイサキヌ˥ ガ˞マヌ˥ ウ˞ク˥ナー ˞グス˥クン シ˞マリティ ティン˥ゾーナーヤ カ˞ブレー˥ヌ ヤ˞マシゥ˥カ ッ˞サー˥リ ブ˞タン [pi˞naisakinu˥ ga˞manu˥ ʔu˞ku˥na: ˞gusu̥ ˥kuŋ ʃi˞mariti tin˥ʤo:ra:ja ka˞bure:˥nu ja˞masï̥˥ka s˞sa:˥ri bu˞taŋ](ピナイ崎のガマ < 洞窟 > の奥には石垣が積まれており、天井からは蝙蝠がたくさんぶら下がっていた)。

ピ˞ナカン [pi˞nakaŋ] 【名】火の神。竈(カマド)の神様。竈の後ろに 3 個の石を鼎形(カナエカタ)に据えて、パ˞ナ˥イキ [pa˞na˥ʔiki](花生け) に花卉の枝を挿して活け、˞コー˥ロ [˞ko:˥ro](香炉) を配して拝む。3 個の石はそれぞれ、ヤ˞マ˥イシ [ja˞ma˥ʔiʃi](山石)、˞ヌー˥イシ [˞nu:˥ʔiʃi](野の石)、˞カーラヌイシ [˞ka:ranu ʔiʃi](川の石) を採取して当てるという。ス˞ク˥マ [su̥˞ku˥ma](稲の初穂祭) で刈り取った初穂はピナカンに供えて竈の奥に一年間吊るしておいた。ピ˞ナカンヌ˥マイ ˞マイヌプー˥ヌ パ˞チ˥ カ˞ザリオーシ [pi˞nakannu˥mai ˞mainupu:˥nu pḁ˞ʧi˥ ka˞ʤariʔo:ʃi](火の神の前に稲の初穂を供えて差し上げなさい)。

ピ˞ナカンガナシ [pi˞nakaŋganaʃi] 【名】火の神様。火の神の尊敬語。˞ガナシ [˞ganaʃi](～様) は接尾敬称辞。ピ˞ナカンガナシヌ˥マイ ˞ニン˥ガイ ˞オーシリ [pi˞nakaŋganaʃinu˥mai ˞niŋ˥gai ˞ʔo:ʃiri](火の神様の御前に祈願 < 願い > して差し上げなさい)。

ピ˞ナカンクムル [pi˞nakamkumuru] 【名】(海底地名)。˞ナーバレー [˞na:bare:] を越えて、タ˞カ˥ビー [tḁ˞ka˥bi:](高干瀬) へ行く途中の、干瀬の中にあるク˞ム˥ル [ku˞mu˥ru](礁池。「籠り池」の義)。

ピ˞ナッカイ˥ルン [pi˞nakkai˥ruŋ] 【自動】1そっくり返る。反り返る。カ˞サ˥ナイ ˞ベーン˥ドゥ ナ˞ク˥カー シンター ピ˞ナッカイ˥リ ナ˞キスー [kḁ˞sa˥nai ˞be:n˥du na˞ku˥ka: ˞ʃinta: pi˞nakkai˥ri na˞kisu:](負ぶっているが、泣くとそっくり返って泣く)。ピ˞ナッカイ˥ルンケン ナ˞キスンダ˥ ピ˞ナッカイラサン˥ヨーニ ˥シンターラ シゥ˞カイ˥バ [pi˞nakkai˥ruŋken na˞kisunda˥ pi˞nakkairasaŋ˥jo:ni ˥ʃinta:ra sï̥˥kai˥ba](そっくり返るまで泣くから、そっくり返らさないように後ろから支えなさい)。ピ˞ナッカイ˥ル ˥ピンマー プ˞スヌ˥ ムニ シゥ˞カヌ [pi˞nakkai˥ru ˥pimma: pu̥˞sunu˥ muni sï̥˥kanu](そっくり返る時は人の言う事を聞かない)。˞マー˥ビン ピ˞ナッカイ˥レー ˥ミサムヌ [˞ma:˥bim pi˞nakkai˥re: ˥misamunu](もっとそっくり返ればいいのに)。˞パー˥ク ピ˞ナッカイ˥リ [˞pa:˥ku pi˞nakkai˥ri](早くそっくり返れ)。2後ろ向きに回転する。後転する。ひっくり返る。ブン˞ティ˥ トゥ˞ビティ˥ シンター ピ˞ナッカイ˥リティ タ˞ティ˥スムヌ ピ˞ルマサ˥ヌ ナ˞ラ˥ヌ [bun˞ti˥ tu˞biti˥ ʃinta: pi˞nakkai˥riti tḁ˞ti˥su ˥munu pi˞rumasa˥nu na˞ra˥nu](ぽんと飛んで後の方に後方回転するんだもの、珍しくて、不思議で堪らないよ)。

ピ˞ナルン [pi˞naruŋ] 【自動】減る。少なくなる。減少する。˞カーヌ˥ ミ˞ジェー˥ ドゥク フ˞ム˥カー ピ˞ナルント ダー [˞ka:nu˥ mi˞ʤe:˥ duku ɸu˞mu˥ka: pi˞narunt-da:](井戸の水は汲みすぎると < あまり汲むと > 減るよ)。ギュー˞サ˥ フ˞マバン˥ ピ˞ナラヌ [gju:˞sa˥ ɸu˞mabam˥ pi˞naranu](いくら汲んでも減らない)。ピ˞ナリ ナー˥ヌ [pi˞nari na:˥nu](減ってしまった)。ピ˞ナル˥ クトー ˞ナー˥ヌ [pi˞naru˥ ku̥to: ˞na:˥nu](減ることはない)。ピ˞ナレー˥ ミサムヌ [pi˞nare:˥ misamunu](減ればいいのに)。ピ˞ナリリ [pi˞nariri](減れ)。

ピ˞ニ [pi˞ni] 【名】1ひげ (鬚)。˞オーピニ [˞ʔo:pini](うわひげ < 上髭 >)。ッ˞サピニ [s˞sapini](したひげ < 下鬚。顎鬚(アゴヒゲ)>)。ピ˞ネー˥マ [pi˞ne:˥ma](ちょび髭)。ピ˞ニ˥ スルン [pi˞ni˥ suruŋ](鬚を剃る)。ピ˞ニ モー˥スン [pi˞ni mo:˥suŋ](鬚を生やす)。2気根。ガ˞ジマル˥ヌ ピ˞ニ˥シ カ˞シラ˥ヌ ピ˞ニ ソーッ˥タン [ga˞ʤimaru˥nu pi˞ni˥ʃi ka˞ʃira˥nu pi˞ni so:t˥taŋ](ガジマルの鬚 < 気根 > で豊年祭の旗頭の鬚にされた)。3のぎ (芒)。イ˞ナ˥ピニ [ʔi˞na˥pini](稲ののぎ < 芒 >)。

˥ピニー [˥pini:] 【名】十干の第三番目。ひのえ (丙) の日。˥ピニーナ ˥ヤー フ˞ク˥カー ˞ピーグトゥ˥ヌ ウ˞ク˥ルンティ˞ダー [˥pini:na ˥ja: ɸu̥˞ku˥ka: ˞pi:gutu˥nu ʔu˞ku˥runti˞da:](丙の日に家を葺くと火事が起こるそうだよ)。ム˞シヌ ニンガイ˥ヤー ム˞カ˥シェーラ ˥ピニーバ ア˞ティル ニン˥ガイ ˞ヨー˥ル [mu˞ʃinu niŋgai˥ja: mu˞ka˥ʃe:ra ˥pini:ba ʔa˞tiru niŋ˥gai ˞jo:˥ru](虫駆除の祈願は昔から丙の日を選んで < 当て > て祈願される)。

ピ˞ニチ [pi˞niʧi] 【名】日。ひにち (日にち)。˞イー ピニチ [˞ʔi: piniʧi](よい日。吉日)。˞カイピニ˥チ [˞kaipini˥ʧi](吉日。佳日)。ヤ˞ナピニチ [ja˞nap-iniʧi](凶日。縁起の良くない日。不吉な日)。˞ヨイ˥ヤー ピ˞ニチバ˥ クリティ ˞カイピニ˥チ イ˞ラ˥ビティ ˞シー˥ヨー [˞joi˥ja: pi˞niʧiba˥ kuriti ˞

kaipiniˀtʃi ʔi˞raˀbiti ˞ʃiːˀjoː](お祝いは、日にちを繰って佳日を選んでしなさいよ)。

ˀピニリカニリ **[ˀpinirikaniri]** 【副】もじもじ。気が進まず態度を決めかねているさま。ぐずぐずして行動しないさま。シ˞トゥムˀテーラ　ナー˞イˀ　ピニリカニリ　˞シー　ベーˀティ　˞ガッˀコー　ウ˞クリナーˀヌ [ʃi̥˞tumuˀteːra naː˞jiˀ pinirikaniri ˞ʃiː beːˀti ˞gakˀkoː ʔu˞kurinaːˀnu](朝からただぐずぐず、もじもじしていて学校の時間に遅れてしまった)。ˀピニリカニリ　˞サンドーˀシ　˞パーˀク　˞ペーˀリ　ˀクーバ [ˀpinirikaniri ˞sandoːˀʃi ˞paːˀku ˞peːˀri ˀkuːba](もじもじしないで早く入って来なさい)。

ピ˞ニˀルン **[pi˞niˀruŋ]** 【他動】1ひねる (捻る)。指先でつまんでまわす。ねじ回す。よる (縒る)。イ˞トゥˀバ　ピ˞ニˀルンティ　˞スンドゥˀ　ムッ˞トゥˀ　ピ˞ニララˀヌ [ʔi˞tuˀba pi˞niˀrunti ˞sunduˀ mut˞tuˀ pi˞niraraˀnu](糸を捻ろうとするが、ちっとも捻られない)。˞ブーˀヤ　ピ˞ニˀレーティル　˞ウーˀモーッタ [˞buːˀja pi˞niˀreːtiru ˞ʔuːˀmoːtta](麻は捻りながら麻糸を紡がれた)。ピ˞ニˀル　ˀクトー　ˀナルン [pi˞niˀru ˀkṵtoː ˀnaruŋ](捻ることはできる)。ン˞ベーマーˀ　ピ˞ニˀレー　ˀミサムヌ [ʔm˞beːmaːˀ pi˞niˀreː ˀmisamunu](少しは捻ればいいのに)。˞パーˀク　ピ˞ニˀリ [˞paːˀku pi˞niˀri](早く捻れ)。2つねる (抓る)。˞ウンザーˀ　ムニユマー　フ˞チˀ　ピ˞ニˀリトゥ˞ラˀシ [˞ʔundʑaːˀ munijumaː ɸṵ˞tʃiˀ pi˞niˀri tu˞raˀʃi](あの野郎はお喋りだから、口をつねって < 抓って > やれ)。

ピ˞ネーˀマ **[pi˞neːˀma]** 【名】ちょびひげ。鼻の下に小さく生やした鬚(ヒゲ)。ピ˞ネーˀマ　˞モーˀシティ　イ˞バリ　ベー [pi˞neːˀma ˞moːˀʃi̥ti ʔi˞bari beː](ちょび髭を生やして威張っている)。

ピ˞バˀチ **[pi˞baˀtʃi]** 【名】火鉢。ひびつ (火櫃)。ひおけ。大木の幹を刳り貫いて内側にブリキ板を張り、砂や灰を入れて作った丸型の火鉢や箱型の火鉢、陶器製の火鉢などがあった。フ˞ユˀ　ナルカー　˞ウイˀプスンケーヤ　ピ˞バˀチナ　˞ピーˀバ　イ˞リティルˀ　ヌ˞クˀモーッタ [ɸu˞juˀ naruka: ˞ʔuiˀpṵsuŋkeːja pi˞baˀtʃina ˞piːˀba ʔi˞ritiruˀ nu˞kuˀmoːtta](冬になるとお年寄りの方達は火鉢に火を入れて暖をとられた < 体を温められた >)。

ピ˞バˀツン **[pi˞baˀtsuŋ]** 【名】(植) ヒハツモドキ。コショウ科のつる性植物。ピ˞バˀチ [pi˞baˀtʃi] ともいう。中国語の「ひはつ (畢撥)」からきた語という『石垣方言辞典』。赤く完熟した実は乾燥させて煎り、擂(ス)って香辛料として用いられる。芳香を放ち、肉や魚の臭みを消して料理に独特の風味みを添えて美味にする。屋敷の石垣に自生していて、直径5〜7ミリ、長さ3〜4センチの紡錘型の実をつける。ピ˞バツンˀバ　イ˞ラˀキ　ˀッシティ　˞スーンˀシルナ　カ˞キˀルカー　イッ˞ケナˀ　ン˞マーˀン [pi˞batsumˀba ʔi˞raˀki ˀʃʃiti ˞suːŋˀʃiruna kạ˞kiˀruka: ʔik˞kenaˀ ʔm˞maːˀŋ](ヒハツモドキを煎り、擂ってお汁に振り掛けると非常に美味しい)。

ピ˞バナシゥカイ **[pi˞banasi̥ˀkai]** 【名】少量ずつ、小出しに使うこと。ピ˞バナ [pi˞bana] の独立用法はない。複合語の構成要素として用いられるのみである。˞ジンˀマー　ピ˞バナシゥカイル　シーˀ　ブ˞タンドゥˀ　シゥ˞カイキシ　ナーンˀバンメー [˞dʑimˀmaː pi˞banasi̥ˀkairu ʃiːˀ bu˞tanduˀ si̥ˀkaikiʃi naːmˀbam ˀmeː](お金は少しずつ使うことにしていたが、使い切ってしまったよ)。

ピ˞バナッサイ **[pi˞banassai]** 【名】米を少しずつ精白すること。˞マイヤーˀ　ギュー˞サン　ナーˀンダマ˞ルケーティˀナ　˞マイヌˀイー　バ˞カスˀ　ピンドゥ　ピ˞バナッサイバ　シー　ブー [˞maijaːˀ gju˞san naːˀnda ma˞rukeːtiˀna ˞mainuˀʔiː ba˞kasuˀ pindu pi˞banassaiba ʃiː buː](米はいくらも残っていないから、偶(タマ)に米飯を炊く時に < ぞ > 米を少しずつ搗く < 少量精白をする > ようにしている)。

ピ˞バナッふァイ **[pi˞banaffai]** 【名】少量に小分けして食べること。˞ミーˀザン　ˀギサシ　˞ウンヌイーˀバ　ナー˞イˀ　ピ˞バナッふァイ　シー　ベー [˞miːˀ dʑaŋ ˀgisaʃi ˞ʔunnuʔiːˀba naː˞iˀ pi˞banaffai ʃiː beː](不味そうに芋のご飯を少量ずつに小分けして食べているよ)。

ピ˞ビザ **[pi˞bidʑa]** 【名】(動) 山羊。˞ガッˀコーラ　˞カイˀルカー　˞ダンダンˀシ　ピ˞ビザヌˀ　ッサ　カ˞リˀクー [˞gakˀkoːra ˞kaiˀruka: ˞dandaŋˀʃi pi˞bidʑanuˀ ssa ka˞riˀkuː](学校から帰ったら、さっさと山羊の草を刈ってこい)。

ピ˞ビザヌˀ　コイ **[pi˞bidʑanuˀ koi]** 【連】山羊小屋から出る肥料。山羊の糞尿は山羊小屋の中で飼料の草や木の葉、茅などと一緒に踏み固められて発酵している。それらを掻き出して畑へ運び、肥料として用いた。˞アウˀダ [˞ʔauˀda](もっこ < 畚 > に入れて担いで運んだ。ピ˞ビザヌˀ　コイ　パ˞タˀケー　イ˞リリ [pi˞bidʑanuˀ koi pạ˞taˀke: ʔi˞riri](山羊小屋の肥やし < 堆肥 > を畑へ入れなさい)。

ピ˞ビザヌˀ　シー **[pi˞bidʑanuˀ ʃiː]** 【連】山羊の乳。ブ

˞ネーヌ　シー˥ヌ　˞アイランベー˥ティ　ピ˞ビザヌ　シー˥バ　ヌ˞マシ˥ル　˥ヌチ　˞モーシ˥タ [bu˞ne:nu ʃi:˥nu ˞ʔairambe:˥ti pi˞bidʑanu ʃi:˥ba nu˞maʃi˥ru ˥nutʃi ˞mo:ʃi̥˥ta](母親の乳が出ないので山羊の乳を飲ませて命を救った < 命を萌やした >)。

ピ˞ビザヌ˥　スー [pi˞bidʑanu˥ su:] 【連】山羊のお汁。山羊汁。山羊の肉、皮、臓物等を入れて炊いたお汁。体力回復に優れた効能があるといわれている。ピ˞ビザヌ　スー˥ヤ　ア˞チーアチー˥シ　ッ˞ふァーバル˥　フ˞チ˥ル　˥スクツォー　˞ピーリ˥ミジ　˥ヌムカ　˥バタ　ヤ˞ブ˥ルンティ˞ダー [pi˞bidʑanu su:˥ja ʔa˞tʃi:ʔatʃi:˥ʃi f˞fa:baru ˥ɸu̥˞tʃi˥ru ˥su̥kutso: ˞pi:ri˥midʑi ˥numuka: ˥bata ja˞bu˥runti˞da:](山羊汁は熱く湯気を立てて食うのが薬になる < 薬効づく > そうだ。冷水を飲むとお腹をこわすそうだよ)。

ピ˞ビザヌ˥ッサ [pi˞bidʑanu˥ ssa] 【連】山羊の草。山羊の餌(エサ)となる草。山羊の草刈りは子供の仕事であった。山羊の好物は桑の木の葉やイモの葉であった。˞ガッ˥コーラ　˞カイ˥ルカー　ピ˞ビザヌ˥　ッサカ˞リン　パッ˥タ [˞gak˥ko:ra ˞kai˥ruka: pi˞bidʑanu˥ ssa ka˞rim pat˥ta](学校から帰ると山羊の草を刈に行った)。

ピ˞ビザヌ˥　ッ˞ふァ [pi˞bidʑanu˥ f˞fa] 【連】山羊の子。小山羊。元気な子。山羊の子は生まれて間もなく歩くことが出来るので元気な子供のシンボルとされる。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァヌ˥　ア˞タラ˥サー˞ヨー˥　ピ˞ビザヌ˥　ッ˞ふァン˥　カタチニ　イッ˞ケナスーリ˥　ブーバン [ku˞nu˥ f˞fanu˥ ʔa˞tara˥sa:˞jo:˥ pi˞bidʑanu˥ f˞faŋ˥ kḁtatʃini ʔik˞kena ˞su:ri˥ bu:baŋ](この子の可愛いことよ。山羊の子のように非常に元気に発育しているわい)。

ピ˞ビザヌ˥ヤー [pi˞bidʑanu˥ja:] 【名】山羊小屋。母屋の裏や屋敷の西側に山羊小屋を建てて山羊を 3〜4 頭飼育した。一定の大きさに肥育した後、屠殺し、山羊汁にして食した。山羊汁は冷え症に効くされ、特に蓬(ヨモギ)の葉を入れて煮ると薬効があるといわれていた。畑の芋蔓(イモカズラ)や桑の葉が山羊好物の餌であった。山羊の草刈は子供の仕事であった。ピ˞ビザヌ˥　ッサ　カ˞リ˥　キー　ピ˞ビザヌ˥ヤー　イ˞リリ [pi˞bidʑanu˥ ssa ka˞ri˥ki: pi˞bidʑanu˥ja: ʔi˞riri](山羊の草 < 飼料 > を刈りてきて、山羊小屋に入れなさい)。

ピ˞ピ˥ル [pi̥˞pi˥ru] 【名】ひびろ (紽)。かせ車で糸を繰って巻いたものの一つ。

ピ˞ピル [pi̥˞piru] 【名】絹糸。蚕糸。「蛾、比比留 (ひひる)」『霊異記下』、「蟲、比比流 (ひひる)、⊠内老蚕也」『和名抄』の転訛したもの。˥イツピピル [˥ʔitsupipiru](絹糸で綯(ナ)った縄) ともいう。歌謡語。ヤー　イツピピルバ　シミナー　シー　ヤーバスクリ　˥アンティ　˥スー [˞ja:˥ ʔitsupipiruba ʃi˞mi˥na: ˞ʃi: ja:˥ba su̥˞ku˥ri ˥ʔanti ˥su:](やあ　絹糸を綯(ナ)って作った縄を屋根葺きの締め縄にして家を造ってあるという)(アーパーレー歌 < ナガミク >)。

ピ˞マ [pi˞ma] 【名】暇。いとま。時間。˞パンタサ˥ヌ　ア˞サブ˥　ピ˞マー　ナー˥トー　˞ナー˥ヌ [˞pantasa˥nu ʔa˞sabu˥ pi˞ma: na:˥to: ˞na:˥nu](忙しくて遊ぶ暇などはない)。ピ˞マヌ˥　トゥ˞ラ˥リカー　マー˞ズン˥　パラ˞ナー [pi˞manu˥ tu˞ra˥rika: ma:˞dʑum˥ para˞na:](暇 < 時間 > が取れたら一緒に行こうねえ)。

ピ˞マー　ター˥スン [pi˞ma: ta:˥suŋ] 【連】暇(ヒマ)を費やす。無駄に時間を潰(ツブ)す。「暇を絶やす」の義。ピ˞マー　ターシ˥ル　ヤッ˞トゥ˥シ　ヤ˞リキン˥バ　ス˞ク˥ライ　˥シケー [pi˞ma: ta:ʃi˥ru jat˞tu˥ʃi ja˞rikim˥ba su̥˞ku˥rai ˥ʃi̥ke:](暇を費やしてやっとで破れ着物を繕ってある)。

ピ˞マー˥　ッ˞ふン [pi˞ma:˥ f˞fuŋ] 【連】時間がかかる。「暇を食う」の義。˞クンドゥ˥ヌ　シ˞グトー˥　ウ˞ムイヌ˥　フカ　ピ˞マー˥　ッ˞ふンティル˥　ウ˞モー˥リ [˞kundu˥nu ʃi˞guto:˥ ʔu˞mui˥nu ˥ɸu̥ka pi˞ma:˥ f˞funtiru˥ ʔu˞mo:˥ri](今度の仕事は予想以上に < 思いのほか > 時間がかかる < 暇を食う > と思われる)。

ピ˞マダーリ [pi˞mada:ri] 【名】時間がかかること。暇を食うこと。「暇絶え・る」の義か。ピ˞マドーリ [pi˞mado:ri] ともいう。ウ˞レー˥　ピ˞マダーリシグトゥ˥　ヤ˞ルンダ　ピッ˥チン　˞モーカラ˥ヌ [ʔu˞re:˥ pi˞mada:riʃigutu˥ ja˞runda pit˥tʃim ˞mo:kara˥nu](それは時間のかかる < 暇倒れする > 仕事だから、ちっとも儲からない)。

ピ˞マダーリシグトゥ [pi˞mada:riʃigutu] 【名】時間がかかる仕事。手間隙(テマヒマ)のかかる仕事。ピ˞マッふァイシグトゥ [pi˞maffaiʃigutu](時間のかかる < 時間喰い > 仕事) ともいう。ピ˞マダーリシグトー　モーカラ˥ヌ [pi˞mada:riʃiguto: mo:kara˥nu](手間隙のかかる仕事は儲からない)。

ピ˞マッふァイシグトゥ [pi˞maffaiʃigutu] 【名】時間のかかるしごと。「暇食い仕事」の義。ピ˞マッふァイシグトゥ˥　ヤ˞ルンドゥ˥　ティマー　タ˞カー˥ン [pi˞maffaiʃigutu˥ ja˞rundu˥ tima: tḁ˞ka:˥ŋ](時間のかかる仕事だが手間賃は高い)。

ピ˞マピマ [pi˞mapima] 【副】時折。時には。用事の無

い時。「ひまひま (暇暇)」の義。ピ˞マピマー　マーリ˥　キー　ヤ˞ラ˥ビンケー　ナ˞ラー˥シ　ッ˞ふィーリ˥ヨー [pi˞mapima: ma:ri˥ ki: ja˞ra˥biŋke: na˞ra:˥ ʃi f˞fi:ri˥jo:](時々は回ってきて子供達を教えてくれよ)。

˥ヒャー **[˥ça:]** 【間助】 1そら、大変だ。それ、大変だ。感動詞や指示詞、疑問詞等に下接して危機の接近を注意勧告し、自覚をうながすことば。独立用法はない。他の語に下接してさまざまな感動詞句をつくる。˥トーヒャー　˞デー˥ジ˞ゲ˥ラ　˥メー [˥to:ça: ˞de:˥ʤi˞ge˥ra ˥me:](さあ大変だぞ < 大変さ >、もう)。˥ウリヒャー　˥カマーラ　˞ズンサ˥ヌ　˞オー˥ルン˞ドー [˥ʔuriça: ˥kama:ra ˞ʤunsa˥nu ˞ʔo:˥run˞do:](それ見ろ、大変だぞ。あそこから巡査が来られるぞ)。˞ヌー˥ヒャー [˞nu:ça:](何だって)。2卑語について相手を強く罵ることば。～野郎。～奴。ワン˞ザー˥ヒャー　˞スングリ˥　トゥ˞ラ˥サ [wan˞ʤa:˥ça: ˞suŋguri˥ tu˞ra˥sa](お前野郎は、引っぱたいてやろうか)。˥ワンザーヒャー　ヌーッ˞シェー˥ル　˥ムンヤー [˥wanʤa:ça nu:ʃ˞ʃe:˥ru ˥muŋja:](お前野郎は何奴だ)。

˞ピャー˥ク **[˞pja:˥ku]** 【名】百。百歳。˥ドゥーガンゾーシ　˞オー˥レーティ　˞ピャー˥ク　˞バー˥キ　ナ˞ガイキ　ソー˥リ [˥du:ganʤo:ʃi ˞ʔo:˥re:ti ˞pja:˥ku ˞ba:˥ki na˞gajiki so:˥ri](お元気で < 胴体頑丈で > いらっしゃって、百歳まで長生きなさってください)。

˞ピャー˥ク **[˞pja:˥ku]** 【名】びゃくごう (白毫) の転訛したものか。生まれたばかりの子供に産湯を浴びせた後、魔除けの呪(マジナイ)として額につける˞ピング [˞piŋgu](なべずみ < 鍋墨 >。「竈黒」の義か)。百歳までの長寿を祈願する意味があるという。仏の眉間にある白い毛に肖ったものという『石垣方言辞典』。ッ˞ふァヌ˥　マ˞ル˥カー　ア˞ガッふァーマ˥ヌ　フ˞タイ˥ナー　ピ˞サ˥ビシ　˞ピャー˥ク　ス˞コーッ˥タ [f˞fanu˥ ma˞ru˥ka: ʔa˞gaffa:ma˥nu ɸu̥˞tai˥na: pi̥˞sa˥biʃi ˞pja:˥ku su̥˞ko:t˥ta](子供が生まれると新生児 < 赤子 > の額に鍋墨でピャークを付けられた)。

˞ピャー˥クイチ **[˞pja:˥ku?itʃi]** 【名】1(数) 百一。˥アッパー　ク˞トゥシェー　ピャー˥クイチ　ナ˞ロー˥ルン [˥ʔappa: ku̥˞tuʃe: pja:˥ku?itʃi na˞ro:˥ruŋ](お祖母さんは今年百一歳になられる)。2百分の一。百のうちの一つしか真実がないこと。嘘つき。˞ピャー˥クイチヌ　ア˞ズ˥　ムネー　˞ヌー˥シカヤ　ナ˞レー [˞pja:˥ku?itʃinu ʔa˞ʤu˥ mune: ˞nu:˥ʃikaja na˞re:](百一 < 嘘つき > の言うことは、どうかな <如何(イカガ)だろうか。疑問だなあ >)。

˞ピャーク˥ニン **[˞pja:ku˥niŋ]** 【名】1(数) 百人。˞ピャーク˥ニンブカラー　プ˞ソー˥　ア˞ツァマリ˥　ブー [˞pja:ku˥nimbukara: pu̥˞so:˥ ʔa˞tsamari˥ bu:](百人ぐらい人が集まっている)。2百年。ウ˞レー　ピャーク˥ニン　カ˞カリ˥ル　ス˞クラ˥レーティ˞ダー [ʔu˞re: pja:ku˥niŋ kḁ˞kari˥ru su̥˞kura˥re:ti˞da:](それは百年かかって作られたそうだよ)。

˞ピャーシング **[˞pja:ʃiŋgu]** 【名】爆竹。「火矢信号」の義か。「Fiya. ヒヤ (火矢・火箭) 火のついた矢. また、爆竹」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。大晦日の夜から家々では子供たちが爆竹を鳴らして遊んだ。シ˞チフル˥マイ [ʃi̥˞tʃiɸuru˥mai](節祭りの振舞 < ご馳走・饗応 >) をいただく際にも鳴らした。ム˞カ˥シェー　˥ソンガチヌ　シ˞トゥム˥テー　˞ヤーカー˥ジ　˞ピャーシングバ　ナーラシェー˥ティル　˞ミードゥシェー˥　ン˞カイヨーッタ˥ル [mu˞ka˥ʃe: ˥soŋgatʃinu ʃi̥˞tumu˥te: ˞ja:ka:˥ʤi ˞pja:ʃiŋguba na:raʃe:˥tiru ˞mi:duʃe:˥ ʔŋ˞kaijo:tta˥ru](昔は、正月の朝は家毎に爆竹を鳴らしながら新年を迎えられたものだ)。

˞ピャーッカニ˥チ **[˞pja:kkani˥ʧi]** 【名】百日忌。死後百日目の法要。˞ピャーッカニチ˥ヌ　˞ソッコー˥ヤ　シ˞マ˥シェーチバ　ツ˞ゲー˥　ユ˞ノーレー˥ヌ　˞ソッコーヌ˥ル　˞オー˥ル [˞pja:kkaniʧi˥nu ˞sokko:˥ja ʃi˞ma˥ʃe:ʧiba tsu˞ge:˥ ju˞no:re:˥nu ˞sokko:nu˥ru ˞ʔo:˥ru](百日忌の法事は済まされたので、次は一周忌の法事がやってこられる)。

˞ピャーッ˥キン **[˞pja:k˥kiŋ]** 【名】数詞。百斤。˥ソンガチオーヤ　˞ピャーッキン˥ドゥ　カ˞カル˥タ [˥soŋgatʃiʔo:ja ˞pja:kkin˥du kḁ˞karu˥ta](正月用の豚は百斤が出た < 百斤しか出なかった >)。

˞ピャーン˥ガルン **[˞pja:ŋ˥garuŋ]** 【自動】1飛び上がる。跳ね上がる。吊りあがる。タ˞マシ˥ヌ　˞ピャーン˥ガルンケン　ウ˞バーサリ　ミッ˥タン [ta˞maʃi˥nu ˞pja:ŋ˥garuŋkeŋ ʔu˞ba:sari mit˥taŋ](魂が飛び上がる < 魂消る > ほど驚かされた)。˞キン˥ヌ　˞マイ˥スバー　˞ピャーン˥ガリティ　カ˞タソー˥ピキ　˞シー˥　ホー˞ガーホーガー˥シ　˞アー˥ク [˞kin˥nu ˞mai˥suba: ˞pja:ŋ˥gariti kḁ˞taso:˥pi̥ki ˞ʃi:˥ ho:˞ga:ho:ga:˥ʃi ˞ʔa:˥ku](着物の前裾が跳ね上がり、片方の裾が下がる着方をして、間抜けな恰好をしてあるくよ)。2魂消る。非常に驚く。びっくり仰天する。ギュー˞サ˥　ウ˞バーシタンティン　ピャーンガラ˥ヌ [gju:˞sa˥

ʔu˩baːʃtantim pjaːŋgara˥nu](いくら驚かしても魂消ない)。˩ピャーン˥ガル　˥クトー　˩ナー˥ヌ [˩pjaːŋ˥garu ˥kuto: ˩naː˥nu](魂消ることはない)。³自惚(ウヌボレ)る。のぼせ上がる。舞い上がる。増長する。˩ピャーン˥ガレーラ　プ˩スヌ˥　ムネー　シゥ˩カヌ [˩pjaːŋ˥gareːra pu̥˩sunu˥ muneː si̥˩kanu](舞い上がったら＜自惚れたら＞、人の言うことを聞かない)。˥ワンザーヒャー　˩ピャーン˥ガリバヒャー [˥wandʑaːça: ˩pjaːŋ˥garibaça:](お前って奴は自惚れやがれヒャー)。

˩ピャーンピャーン [˩pjaːmpjaːŋ]【副】擬態語。ぴょんぴょん。跳ね回るさま。˩ピャーンピャーン˥シ　サ˩ニンケーリ˥　マ˩ヤーリ　パッ˥タヤー [˩pjaːmpjaːŋ˥ʃi sa˩niŋkeːri˥ ma˩jaːri pat˥taja:](ぴょんぴょんと嬉しそうに飛びはねて＜舞い上がって＞行ったよ)。

ヒャ˩ク˥ゴー [ça˩ku˥goː]【名】(植) サツマイモの品種名。沖縄百号のこと。ヒャ˩クゴー˥ヤ　˩ネース˥カー　˩クー˥フキティ　イッ˩ケナ˥　ン˩マー˥タン [çḁ˩kugoː˥ja ˩neːsu˥kaː ˩kuː˥ɸu̥kiti ʔik˩kena˥ ʔm˩maː˥taŋ](サツマイモの沖縄百号は、煮ると粉を吹いて＜粉吹き芋になって。水分が少なく、澱粉が粉状に出て＞美味しかった)。

ヒ˩ヤ˥サー [çi˩ja˥saː]【感】えいや。重い物を持ち上げるなど、力を入れる時の掛け声。バ˩カー˥ムンケーヤ　ア˩ツァ˥マリティ　ヒ˩ヤ˥サーッティ　˩シー˥　ル˩クトゥダー˥ラ　カ˩タ˥ミ　パ˩リ˥シタ [ba˩kaː˥muŋkeːja ʔa˩tsa˥mariti çi˩ja˥saːtti ˩ʃiː˥ ru˩kutudaː˥ra kḁ˩ta˥mi pa˩ri˥ʃi̥ta](若者たちは集まって、えいや、といって六斗入り俵を担いでいったものだ)。

˩ヒャッ˥クラ˩サ [˩çak˥kura˩sa]【感】よいこらしょ。やっこらさ。動作を起こすときに発する掛け声。˥トゥシ　トゥ˩ル˥ター　˥タティビリ　˩スンティン　ヒャッ˥クラ˩サ˥ティ　ア˩ジティル　スート ツォー [˥tuʃi tu˩ru˥taː ˥tatibiri ˩suntin çak˥kura˩sa˥ti ʔa˩ʤitiru suːˈtsoː](年を取ったので立ち、座りするにもヒャックラサと掛け声を出して＜言って＞するんだよ。情けない)。

˩ヒャッ˥クゥン [˩çak˥kwaŋ]【名】(数) 百貫。明治以降の評価額では二円にあたるという『石垣方言辞典』。民謡に/イチニチニ　グンジュ　ヒャクニチニ　グクゥン　タミティ　スンナユミ　ムカシクトゥバ　ムカシクトゥバ/とうたわれている。

ヒ˩ヤリクヨイ˥サー [çi˩jarikujoi˥saː]【感】掛け声。アンガマ踊りの掛け声。囃子詞。アンガマ踊りの最中、地方が歌う˩ニンブ˥ツァー [˩nimbu˥tsaː](念仏歌) に合わせて˩アン˥ガマター [˩ʔaŋgama˥taː](姉子達) がヒ˩ヤリクヨイ˥サー　˩サーサー [çi˩jarikujoi˥saː ˩saːsaː] と唱和する囃子詞。エイサー踊りの語源か。

ピャン˩ティ [pjan˩ti]【副】ぴょんと。飛び上がるさま。ピ˩ビザヌ˥　ッ˩ふァー˥　マ˩リティ˥　フ˩タケ˥ナーラ　ピャン˩ティ˥　タトゥン˩ダー [pi˩biʤanu˥ f˩faː˥ ma˩riti˥ ɸu̥˩take˥naːra pjan˩ti˥ tḁtun˩daː](山羊の子は生まれてすぐからピョンと立つよ)。

˥ヒュー [˥çuː]【名】(数) 俵を数える単位。上接語の末尾が破裂音-p、-t、-k、破擦音-で終わる場合は、˥ッピュー [-pjuː]、鼻音の-m、-n で終わる場合は˥ビュー [-bjuː]、その他の場合は、˥ヒュー [˥çuː] となる。˩イッ˥ピュー [˩ʔip˥pjuː](1 表)。˥ニヒュー [˥niçuː](2 表)。˥サンビュー [˥sambjuː](3 表)。˩ヨンピュー [˩jompjuː](4 表)。グ˩ヒュー [gu˩çuː](5 表)。˩ルッ˥ピュー [˩rup˥pjuː](6 表)。ナ˩ナ˥ヒュー [na˩na˥çuː](7 表)。ハ˩チ˥ヒュー [hḁ˩ʧi˥çuː](8 表)。˩キューヒュー [˩kjuːçuː](9 表)。˥ジッピュー [˥ʤippjuː](10 表)。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　ル˩クトゥダー˥ラ　˥ニヒュー　カ˩タ˥ムン [ku˩nu˥ f˩faː˥ ru˩kutudaː˥ra ˥niçuː kḁ˩ta˥muŋ](この子は 6 斗俵を 2 表担ぐことができる＜担ぐ＞)。

˩ピュー˥カ [˩pjuː˥ka]【名】凪。風がやんで波が穏やかなさま。無風状態の凪。˩ウー˥トゥリ [˩ʔuː˥turi] ともいう。˩キュー˥ヤ　˩ピュー˥カ　ヤ˩ルンダ　プーヤ˥　ピ˩カラヌ [˩kjuː˥ja ˩pjuː˥ka ja˩runda puːja˥ pi̥˩karanu](今日は凪だから帆は張れない＜ひかれない＞)。

˩ピューマ [˩pjuːma]【名】魚の鰓(エラ)。若年層は˩ピーマ [˩piːma](鰓) ともいう。イ˩ズヌ　ピューマー˥　トゥリティ　ピ˩サー˥　ン˩コー˥シバ [ʔi˩ʤunu pjuːma˥ turiti pi̥˩saː˥ ʔŋ˩koː˥ʃiba](魚の鰓(エラ)を取って三枚におろしなさい)。

˩ピュール [˩pjuːru]【名】日柄。吉日。「日和」から転じたもの。事柄を行うのに適した日を選定して得られた吉日。老年層の言葉。˩ヤースクリ˥ヌ　˩ピュールバ˥　トゥリティル　˩ティンダ˥テー　シ˩ラリル [˩jaːsu̥kuri˥nu ˩pjuːruba˥ turitiru ˩tinda˥teː ʃi ˩rariru](家屋新築＜家作り＞の吉日＜日和＞を選定してから＜ぞ＞工事の着工はされる)。˥サンギンソーン　˩ピュール˥　ク˩ラ˥シ　˥クー [˥saŋginsoːm ˩pjuːru˥ ku˩ra˥ʃi ˥kuː](易者＜三世相＞に吉日を選定させて＜繰らせて＞こい)。

˹ピュール˺　クルン **[˹pjuːru˺ kuruŋ]** 【連】日柄＜吉日＞を選定する＜繰る＞。˹ヤースクリ˺ヌ　˹ピュール˺　クルンティ　˺ウムイ　˹ベー [˹jaːsu̥kuri˺nu ˹pjuːru˺ kurunti ˺ʔumui ˹beː](家屋新築＜家作り＞の日柄＜吉日＞を選定しようと＜繰ろうと＞思っている)。

˹ピュール˺　トゥルン **[˹pjuːru˺ turuŋ]** 【連】日柄＜吉日＞を選定する＜繰る＞。パ˹カスク˺リン　パ˹カヌ˺　ヨイン　˹ピューロー˺　トゥリティル　˹ソー˺ル [pḁ˹kasu̥ku˺rim pḁ˹ka˺nu ˺joim ˹pjuːroː˺ turitiru ˹soː˺ru](墓造りも墓の新築祝いも日柄を選定して＜取って＞からなされる)。

˹ピュールピュール˺シ **[˹pjuːrupjuːru˺ʃi]** 【副】そよそよと。風が心地よくそよぐさま。˹ピュールピュール˺シ　カ˹ジヌ　スーン [˹pjuːrupjuːru˺ʃi ka˹ʤinu suːŋ](そよそよと風がそよぐ)。

˹ピュー˺ワン **[˹pjuː˺waŋ]** 【形】えぐい (蘇)。えがらっぽい。あく (灰汁) が強く、喉をいらいらと刺激するような味がすることをいう。「酢味也。俗語云恵久之＜ゑぐし＞」『和名抄』の転訛した語か。ク˹レー　ピューワ˺ヌ　ッ˹ふァーラヌ [ku˹reː pjuːwa˺nu f˹faːranu](これはえぐいので食べられない)。˺ッサリムノー　フ˹チ　ピュー˺ワンダ　ッふ˹ーナ˺ヨー [˺ssarimunoː ɸu̥˹tʃi pjuː˺wanda f˹fuːna˺joː](腐れたものは口がえぐいから食べるなよ)。˹ナン˺ゾー　˹ピューワ　ナー˺ヌ [˹nan˺ʤoː ˹pjuːwa naː˺nu](あまりえぐくない)。ク˹リバ˺　ッ˹ふータ˺　クトー　˺ヌドゥン　˹ピュー˺ワ　˺ナリティ　フ˹シガラン˺シェン [ku˹riba˺ f˹fuːta˺ ku̥toː ˺nudum ˹pjuː˺wa ˺nariti ɸu̥˹ʃigaraŋ˺ʃeŋ](これを食べたところ、喉もえぐくなって堪(タマ)らなかった)。˹ピュー˺ワ　˺ムノー　ッ˹ふーナ [˹pjuː˺wa ˺munoː f˹fuːna](えぐいものは食べるな)。˹ピュー˺ワカー　ッ˹ふーナ [˹pjuː˺waka: f˹fuːna](えぐかったら食うな)。

˹ビョー˺キ **[˹bjoː˺ki]** 【名】病気。標準語からの借用語。普通は˺ヤミ [˺jami](病(ヤマイ)。病気)。˹ヤン˺マイ [˹jam˺mai](病。病気) という。パ˹ナシキ [pa˹naʃi̥ki](風邪)、パ˹ヤー˺ル [pa˹jaː˺ru](流行り病) ともいう。˹ビョー˺キ　カ˹カ˺リティ　˹ヤー˺ナ　ニ˹ビ　ベー [˹bjoː˺ki kḁ˹ka˺riti ˹jaː˺na ni˹bi beː](病気に罹って家で寝ている)。

˹ビョー˺ザー **[˹bjoː˺ʤaː]** 【名】病弱な者。「びゃうざ (病者)」『源氏物語　夕顔』の転訛したものか。ウ˹レー　ビョー˺ザー　ヤ˹ルンダ˺　カイブ　シ˹グトー˺　ウ˹リンマー˺　シ˹ミララヌ [ʔu˹reː bjoː˺ʤaː ja˹runda˺ kaibu ʃi˹gutoː˺ ʔu˹rimmaː˺ ʃi˹miraranu](彼は病弱な者だから、こんな仕事は、彼にはさせられない)。

˹ビョー˺ザーン **[˹bjoː˺ʤaːŋ]** 【形】病弱である。病気がちである。「びょうざ (病者)・あり」が形容詞に転訛したもの。ユ˹メー　ビョー˺ザーンティス˹クタヌ˺　ミルカー　˹ビョー˺ザー　˹ナーン˺ワー˹ヌー [ju˹meː bjoː˺ʤaːnti su̥˹kutanu˺ miruka: ˹bjoː˺ʤaː ˹naːŋ˺wa˹nuː](嫁は病弱だと聞いたが、見ると病弱ではないではないか)。˹ビョー˺ザー　˺ナリ˹ナー˺ヌ [˹bjoː˺ʤaː ˺nari ˹naː˺nu](病弱になってしまった)。˹ビョー˺ザー　プ˹ソー˺　シゥ˹カーラヌ [˹bjoː˺ʤaː pu̥˹soː˺ si̥˹kaːranu](病弱な人は使えない)。˹ビョー˺ザーティル　ヤ˹トーン˺シェン˹ダー [˹bjoː˺ʤaːtiru ja˹toːŋ˺ʃen˹daː](病弱だったので雇わなかったのだよ)。

˹ピョー˺シ **[˹pjoː˺ʃi]** 【名】1はずみ。とたん (途端)。丁度その時。ア˹シ˺ツァ　フ˹ミティ˺　ミ˹ナ˺カー　ン˹ジ˺ルンティ　シ˹ター˺　ウ˹ヌ　ピョー˺シナ　ク˹ルビティ˺　ドゥー　ヤ˹マ˺シ　˺シケー [ʔa˹ʃi˺tsa ɸu ˹miti˺ mi˹na˺ka: ʔn˹ʤi˺runti ʃi̥˹taː ʔu˹nu pjoː˺ʃina ku ˹rubiti˺ duː ja˹ma˺ʃi ˺ʃi̥keː](下駄を履いて庭へ出ようとしたはずみに＜途端に＞転んで体を痛めて＜胴を病まして＞ある)。2えんぎ。ひょうし。げん (験)。まん (間)。˹ピョーシ˺ヌ　˹ワッ˺サティ　イ˹ゾー˺　プ˹スッ˺カラン　ホーサラ˺ヌ [˹pjoːʃi˺nu ˹was ˺sati ʔi˹ʤoː pu̥˹suk˺karaŋ ˹hoːsara˺nu](えんぎ＜験＞が悪くて魚は一匹も釣れない)。3手拍子。手拍子を打つ。˹ピョー˺シ　˺トゥリ [˹pjoː˺ʃi ˺turi](手拍子を取れ)。

˹ヒョータン **[˹çjoːtaŋ]** 【名】(植) 和名、ユウガオ。ウリ科植物。普通は、裏庭の家庭菜園で作る。木や竹で棚をかけ、それに這わせて実をつけさせた。果実が成熟すると挽(モ)いで乾燥させ、鋸で切って割り、˹ペー˺ラ [˹peː˺ra](籾(モミ)を掬(スク)ったり、水を掬ったりするのに用いる道具。柄杓(ヒシャク)) を作った。˹ヒョータン˺シル　˹ペー˺ラー　ス˹ク˺ル˹ダー [˹çoːtaŋ˺ʃiru ˹peː˺raː su̥ ˹ku˺ru˹daː](瓢箪(ヒョウタン)でペーラ＜柄杓(ヒシャク)＞を作るのだよ)。˹ペー˺ラシ　ミ˹ジ˺　ス˹クイ˺　ヌミバ [˹peː˺raʃi mi˹ʤi˺ su̥˹kui˺ numiba](ペーラ＜柄杓＞で水を掬(スク)って飲みなさいよ)。

˹ピョー˺ピョー **[˹pjoː˺pjoː]** 【名】子供の遊具。乾燥した、ヤ˹ラブ [ja˹rabu](テリハボク) の実の果核に直径約 1 ミリの穴を開け、内部の肉質を除去して作った笛。ピョーピョーと吹き鳴らして遊んだ。˹ピ

ョー˥ピョー　スˬクˬリティ　˩ナーラシ˥　アˬサバˬナー [ˬpjoːˬpjoː su̥ˬkuˬriti ˩naːraʃi˥ ʔaˬsabaˬnaː](ピョーピョーを作って鳴らして遊ぼうねえ)。

˩ピョー˥マルゴッケー [ˬpjoːˬmarugokkeː] 【名】かくれんぼう (隠れん坊)。明治生まれの古老の使用言語。大正、昭和生まれの人からは、カˬクレンˬボー [kḁˬkuremˬboː](隠れん坊。標準語からの借用語) という。ムˬカˬシプソー　カˬクレンボーˬバ　˩ピョー˥マルゴッケーティ　アˬゾーッタˬルシェー [muˬkaˬʃipu̥soː kḁˬkurembo:ˬba ˬpjoːˬmarugokkeːti ʔaˬʤoːttaˬruʃeː](昔の人は、隠れん坊をピョーマルゴッケーと言われたものだよ)。

˩ピョー˥マルン [ˬpjoːˬmaruŋ] 【自動】1すくまる (竦まる)。縮みこむ。縮まってひきこもる。恐れて身がすくんで小さくなる。「ひそまり (潜まり)」『土佐日記』の転訛したものか。˥ドゥク　イˬズˬカー　ヤˬラˬベー　˩ピョー˥マルンダ　˩ピョーマラサンˬスコー　˩カシカシマー˥シェーティ　シゥˬカイˬバ [ˬduku ʔiˬʤuˬkaː jaˬraˬbeː ˬpjoːˬmarunda ˬpjoːmarasanˬsu̥koː kaˬʃi̥kaːʃimaːˬʃeːti si̥ˬkaiˬba](あまり叱ると子供は縮みこもるから、縮みこもらないように、なだめ <宥(ナダ)め >賺(スカ)しながら使いなさいよ)。˩ピョー˥マリ　˩ナー˥ヌ [ˬpjoːˬmari ˬnaːˬnu](縮こもってしまった)。イˬズタンティン　ピョー˥マル　˥クトー　˩ナーヌˬヌ　ンˬベーマー　ピョー˥マレー　˥ミサムヌ [ʔiˬʤutantim pjoːˬmaru ˬku̥toː ˬnaːnuˬnu ʔmˬbeːmaː pjoːˬmareː ˬmisamunu](叱っても縮みこむことはないが、少しは縮こもればいいのに)。˩ピョー˥マリ [ˬpjoːˬmari](竦(スク)まれ)。2卵が縮みこもって孵化しなくなる。˩コー˥マー　˩ピョー˥マリ　˩ブンダー˥　シˬディラˬヌ [ˬkoːˬmaː ˬpjoːˬmari ˬbundaː˥ ʃiˬdiraˬnu](卵は竦んで縮みこもっているから孵化しない)。

˥ビラ [ˬbira] 【名】(植) にら (韮)。「薤、ミラ、ニラ、ヒル」『類聚名義抄』の義。家庭菜園に栽培して、必要に応じて採取し、お汁に入れて食した。冷蔵庫のなかった頃は調理の直前まで家庭菜園に野菜を保存していた。˥ビラーンツァン　˥スリキー　˩スー˥ヌ　˩オンガキ　サン˥ノーレー [ˬbiraːntsan ˬsurikiː ˬsuːˬnu ˬʔoŋgaki sanˬnoːreː](韮(ニラ)でも刈って < 剃って > きてお汁の薬味にしないかね)。˥ビラー　˩ヤーカー˥ジ　˩ヤー˥ヌ　カˬクˬナー　イˬビ˥　スˬコーッˬタ [ˬbiraː ˬjaːkaːˬʤi ˬjaːˬnu kḁˬkuˬnaː ʔiˬbiˬ su̥ˬkoːtˬta](ニラは各家庭、屋敷内の菜園に植えておかれた)。

˥ピラ [ˬpira] 【名】へら (篦。鏟)。「鏟、閉良 < へら >、犂 < からすき > 耳也」『和名抄』の「へら」が転訛したもの。畑の除草用に用いるへら < 篦 >。幅約 4 センチ、厚さ約 3 ミリの鉄板の先端部を刃に作り、後部を丸めて取っ手 < 把手。木の股木を利用した v 字型の柄 > が取り付けられた農具。長時間使うと掌にグˬジ [guˬʤi](まめ < 肉刺 >) ができやすく、それが潰れると痛くて農具を掴むのに苦労した。˥ピラシ　パˬタキˬヌ　˥ッサ　˩ソーリ˥バ [ˬpiraʃi pḁˬtakiˬnu ˥ssa ˬsoːriˬba](篦で畑の草を根こそぎ < さくる、剞(サク)る。Sacuri、utta. サクリ, ル, ッタ『邦訳日葡辞書』> 除草しなさいよ)。˩キー˥ヌ　˥マタシ　ピˬラˬヌ　˩ユイ˥　スˬクˬリティ　˥ッサ　˩ソーリ˥バ [ˬkiːˬnu ˥mataʃi piˬraˬnu ˬjuiˬ su̥ˬkuˬriti ˥ssa ˬsoːriˬba](木の股の部分で篦の柄を作って、除草し < さくり・剞(ク)り > なさい)。

˥ピラ [ˬpira] 【名】鳩間島の結願祭に上演される狂言の名。/˩クリヤ˥　クヌムラ　ムジクイ　クーサー　ハマˬサチドゥ˥　ヤル～/(これは < 罷り出たるは > この村の農作に詳しい浜崎である。～) のように、台詞がすべて沖縄方言で唱えられ、「浜崎」なる人名 < 長者 > が出現する、珍しい狂言である。沖縄本島の「長者の大主」系統の狂言であろう。パˬルスー˥ブ [paˬrusuːˬbu](農耕、農産コンクール < 畑勝負 >) 狂言の一部で、村の最長老が舞台に出現し、植えつけた芋が見事に実ったことをことあげ < 言挙げ > し、村の人々にも作付けさせようというストーリーの狂言である。方言の抑揚とジェスチャーが笑いの対象となる。尚泰王十八年 (1865 年) に 30 歳で首里から鳩間島へ遠流の刑に処せられたという比屋根安弼の指導によるものか。他に数種の琉球王国賛美の歌謡があり、比屋根と何らかの関係が推定される。

ヒˬラー [çiraː] 【名】(動) 魚の名。和名、ササムロ (体長約 27 センチ)。ヒˬラーグルクン [çiˬraːgurukuŋ] ともいう。和名、ハナカサゴ (体長約 30 センチ)、和名、ユメウメイロ (体長約 30 センチ) などの総称。これらは総て、ムˬレー˥ジ [muˬreːˬʤi](群れ魚) といった。

˥ピライ [ˬpirai] 【名】交際。付き合い。「へりあい (謙合)」の転訛か。「謙、軽也敬也、ヘリクタル」『新撰字鏡』。「謙、ヘル」『類聚名義抄』の転訛したものか。プˬスピライ [pu̥ˬsupirai](世間との交際。人付き合い)。シˬトゥピライ [ʃi̥ˬtupirai](嫁の姑との付き合い)。ドゥˬシピライ [duˬʃipirai](友達付き合い)。

プ˞スピライヌ　ナー˥ヌティ　ア˞ザリ　ブー [pu̥ ˞supirainu naː˥nuti ʔa˞ʤari buː](人付き合いがないと言われている)。ム˞カ˥シェー　シ˞トゥピライティル　アッタ˥ヌ　マ˞ナ˥マー　ユ˞ミピライティル˥　ア˞ゾー˥ル [mu˞ka˥ʃeː ʃi̥˞tupiraitiru ʔatta˥nu ma˞na˥maː ju˞mipiraitiru˥ ʔa˞ʤoː˥ru](昔は˞舅・姑付き合い＜は大変だ＞」と言われていたが、今は「嫁付き合い＜が大変だ＞」と言われる)。

˥ピラウン [˥pirauŋ] 【自動】交際する。付き合う。ドゥ˞シトー˥　ピラウンティ　ウ˞ムーン˥ドゥ　マ˞ナ˥マー　ピ˞ラーラ˥ヌ [du˞ʃitoː˥ piraunti ʔu˞muːn˥du ma˞na˥maː pi˞raːra˥nu](友人とは付き合おうと思うが、今は付き合えない)。シ˞キン˥トゥン　ピ˞ライ˥プサンドゥ　˥ピラウ　ドゥ˞シン˥　ブ˞ラーヌ [ʃi̥˞kin˥tum pi˞rai˥pusandu ˥pirau du˞ʃim˥ bu˞raːnu](世間とも付き合いたいが、付き合う友人もいない)。シ˞キン˥トゥン　ピ˞ライ˥ヤー　˥ミサムヌ [ʃi̥˞kin˥tum pi˞rai˥jaː ˥misamunu](世間とも付き合えばいいのに)。ドゥ˞シトゥ˥　ピライバ [du˞ʃitu˥ piraiba](友人と付き合えよ)。ピ˞ライグリ˥サン [pi˞raiguri˥saŋ](付き合いにくい)。

˥ピラキ [˥piraki] 【名】笛。若年層の言葉。老年層は、単に˥ピー [˥piː](笛) とも言い、˥ピダキ [˥pidaki](笛) ともいう。˥ピダキ [˥pidaki](竹笛) 参照。˥ピラキ　˥フクン [˥piraki ˥ɸu̥kuŋ](笛を吹く)。ス˞クˇマ˞ソー˥ルンケンマー　˥ピラキン　フ˞コーラン˥シェン [su̥˞ku˥ma ˞soː˥ruŋkemmaː ˥pirakiŋ ɸu̥˞koːraŋ˥ʃeŋ](シキョマ＜初穂祭り＞をされるまでは笛も吹かれなかった)。

ピ˞ラキ˥カジ [pi˞raki˥kaʤi]【名】涼しい風。涼風。ア˞キ˥ヌ　˥シチ　˞ペール˥ター　ピ˞ラキカジン　スイイー˥　パ˞ダム˥チ　ユン˞ナー [ʔa˞ki˥nu ˥ʃi̥ʧi ˞peːru ˥taː pi˞rakikaʤin sui ʔiː˥ pa˞damu˥ʧi ˥jun˞naː](秋の季節に入ったので涼風がそよいで、いい心地＜肌触り＞だね)。

ピ˞ラ˥ク [pi˞ra˥ku] 【名】寒気。凍えるさむさ。極寒の寒さ。寒波。ピ˞ラ˥ク　˞スン [pi˞ra˥ku ˞suŋ](寒波が襲う＜する＞)。ウ˞ブピラク˥ヌ　ン˞ジ˥ルカー　ス˞ナカ˥ヌ　イ˞ズン˥　シ˞ニシタ [ʔu˞bupiraku˥nu ʔn˞ʤi˥ruka: su˞naka˥nu ʔi˞ʤuŋ˥ ʃi˞niʃi̥ta](凍えるような寒さ＜寒波＞が寄せてくると海の魚も死んだ)。

ピ˞ラ˥クイズ [pi˞ra˥kuʔiʤu] 【名】寒波で凍えて浮いた魚。凍死した魚。ウ˞ブピラク˥ヌ　ン˞ジ˥ルカー　カ˞タバル˥ナー　ピ˞ラ˥クイズヌ　˞ユーリ　クー˥タン [ʔu˞bupiraku˥nu ʔn˞ʤi˥ruka: ka˞tabaru˥naː pi˞ra˥kuʔiʤunu ˞juːri kuː˥taŋ](大寒波が押し寄せると渚＜潟原＞では凍死した魚が流れて＜寄って＞きた)。

ピ˞ラ˥クカジ [pi˞ra˥kukaʤi] 【名】寒波。非常に寒い風。ピ˞ラ˥クカジヌ　フ˞キッツァー˥シ　˞ブーヌ　ヌー˥シ　˞オー˥ルカヤー [˞pira˥ku˥kaʤinu ɸu̥˞kittsaː˥ʃi ˞buːnu nuː˥ʃi ˞ʔoː˥rukajaː](寒波が吹きすさんで＜荒んで＞いるが、いかがお過ごしでしょうか＜どのようにしていらっしゃいますか＞)。

ヒ˞ラクギ [çi˞rakugi] 【名】「平釘」の義。˞ティンマ [˞timma](伝馬船) を造る際に、板と板を接ぎ合わせるのに用いる釘。巾約 1 センチ、厚さ約 3 ミリ、長さ約 12 センチの釘。この釘を打ち込む際には、マ˞キワラ [ma˞kiwara](杉の内皮の繊維を乾燥させたもの) を巻きつけて打ち込んだ。˞ティンマ˥ナ　シゥ˞カウ　フンマー˥　ヒ˞ラクギ˥ティル　ア˞ゾーッ˥タ [˞timma˥na si̥˞kau ɸumma:˥ çi˞rakugi˥tiru ʔa˞ʤoːt˥ta](伝馬船に使う釘は平釘と＜ぞ＞いわれた)。

ヒ˞ラ˥クサー [çi˞ra˥ku̥saː]【名】(動) 魚の名。和名、シロカジキ (体長約 4 メートル)。和名、メカジキ (体長約 4 メートル) の総称。イカ釣りの漁期に糸満から定期的に鳩間島に来る漁師で、イカの生餌でヒラクサーを釣り上げる人もいた。鳩間島の人の中にもヒラクサーを漁獲する人もいたが、釣り上げるための格闘の際に、釣り縄で手を擦り切られたりして、非常に苦労をしたという。また、ヒ˞ラ˥クサーの前頭部の長い角で˥イダフニ [˥ʔidaɸuni](サバニ) の船腹を突き割られた人もいて、その威力は人々に恐れられていた。魚肉は脂が乗っていて美味である。漁師は、ヒラクサーの肉を幅約 3 センチ、長さ約 25 センチ、厚さ約 1、5 センチに切って塩漬けにしたり、˞ソー˥ギリ [˞soː˥giri](塩を塗して日干し乾燥したもの) にして沖縄へ輸出した。

ピ˞ラ˥クマキ [pi˞ra˥kumaki] 【名】あかぎれ (皸)。「寒さ負け」の義。寒さに冒されて手足の皮膚が裂けたり、赤く腫れて痛む症状。ピ˞ラ˥クサーリ　˞ターシグトゥ˥バ　˞シー　アー˥ケーティル　ピ˞ラ˥クマキバ　˞シー　ベー˥ル [pi˞ra˥kusaːri ˞taːʃigutu˥ba ˞ʃiː ʔaː˥keːtiru pi˞ra˥kumakiba ˞ʃiː beː˥ru](寒波の中で田仕事をしていたので、あかぎれ＜皸＞しているのだ)。

ピ˞ラ˥ケー　˞スン [pi˞ra˥keː ˞suŋ] 【連】涼む。「涼しく・する」の転訛したもの。ドゥ˞ク˥ヌ　˥アツァテ

ィ ゜キーヌッサーゝラナー ピ゜ラゝケー ゜スンティ ベー [du゜kuゝnu ˀatsati ゜ki:nussa:ゝrana: pi゜raゝke: ゜sunti be:](あまりにも暑いので木陰＜木の下＞で涼んでいる)。

ピ゜ラケーピラケーゝシ [pi゜rake:pirake:ゝʃi] 【副】涼しく。涼やかに。涼風に吹かれて涼むさま。゜ウイゝプスンケーヤ ゜キーヌッサーゝラナ ピ゜ラケーピラケーゝシ ビ゜リ オーゝル [゜ʔuiゝpu̥suŋke:ja ゜ki:nussa:ゝrana pi゜rake:pirake:ゝʃi bi゜ri ʔo:ゝru](老人たちは木陰＜木下＞で涼しそうに＜涼やかに＞座っておられる)。

ピ゜ラゝケーン [pi゜raゝke:ŋ] 【形】涼しい。゜ワッゝテーヤ ピ゜ラゝケーンティ ス゜クタヌ ナンゝゾー ピ゜ラケー ナーンゝワー゜ンゝノー [゜watゝte:ja pi゜raゝke:nti su̥゜kutanu nanゝʤo: pi゜raka: na:ŋゝwa:゜nゝno:](君の家は涼しいと聞いたが、あまり涼しくないではないか)。゜パイカジゝヌ ゜スーゝカー ピ゜ラゝケー ゝナルン [゜paikaʤiゝnu ゜su:ゝka: pi゜raゝke: ゝnaruŋ](南風がそよぐと涼しくなる)。ゝドゥク ピ゜ラケーゝヌ ゜ニーヌブルルゝ シ゜ラリバン [ゝduku pi゜rake:ゝnu ゜ni:nubu-ruruゝ ʃi゜raribaŋ](あまりにも涼しくて居眠りする＜居眠りがされる＞よ)。ピ゜ラゝケー ゝトンバ ゝトゥメーティ ゜アーゝク [pi゜raゝke: ゝtomba ゝtume:ti ゜ʔa:ゝku](涼しい所を探し回っている)。゜マーゝビン ピ゜ラゝケーカー ゝミサムヌ [゜ma:ゝbim pi゜raゝke:ka: ゝmisamunu](もっと涼しければいいのに)。ピ゜ラケーピラケーヌゝ カ゜ジヌ スーン [pi゜rake:pirake:nuゝ ka゜ʤinu su:ŋ](非常に涼しい風が吹く＜そよぐ＞)。

ビ゜ラスン [bi゜rasuŋ] 【他動】座らせる。ゝウナー ビ゜ラスンティゝ ウ゜ムーゝヌ ビ゜ラシゝ ミサンカヤー [ゝʔuna: bi゜rasuntiゝ ʔu゜mu:ゝnu bi゜raʃiゝ misaŋkaja:](そこに座らせたいと思うが、座らせて良いかなあ)。ゝクナーヤ ビ゜ラサラヌヌゝ カナーヤ ビ゜ラスゝクトー ゝナルン [ゝkuna:ja bi゜rasaranunuゝ kana:ja bi゜rasuゝ ku̥to: ゝnaruŋ](ここには座らされないが、あそこには座らせることは出来る)。ビ゜ラシェーゝ ミサムヌ [bi゜raʃe:ゝ misamunu](座らせば良いのに)。ゝクナー ビ゜ラシ [ゝkuna: bi゜raʃi](ここに座らせなさい)。

ゝピラブニ [ゝpirabuni] 【名】肩甲骨。「へら骨」の義。゜タンガゝシ ウ゜ビゝヌ ゜ターゝバ ゜カイゝシ ゝムヤーバラーヌ ゜ザイゝギーン キ゜ジェーゝユンダル ゝピラブニバ ヤ゜マゝシェール [゜taŋgaゝʃi ʔu゜biゝnu ゜ta:ゝba ゜kaiゝʃi ゝmuja:bara:nu ゜ʤaiゝgi:ŋ ki゜ʤe:ゝjundaru ゝpirabuniba ja゜maゝʃe:ru](一人であれだけの田圃を耕し、新築の母屋柱を削りだしたから肩甲骨を痛めたのだろうよ)。

ヒ゜ラヤー [çi゜raja:] 【名】ひらや (平家)。一階建ての家。普通は、ピ゜サヤー [pi̥゜saja:](ひらや＜平家＞) という。ヌ゜キヤー [nu゜kija:](貫き屋) は一般に寄棟造りの構造である。これを、゜ユーピサヤー [゜ju:pisaja:](四つ平家。寄棟造り) という。フ゜タピサヤー [ɸu̥゜tapisaja:](二つ平家) は切妻型屋根の家である。パ゜トゥゝマナー ヒ゜ラヤー タンガゝル ゝアル [pḁ゜tuゝmana: çi゜raja: taŋgaゝru ゝʔaru](鳩間には平家だけがある)。

ビ゜リグジ [bi゜riguʤi] 【名】座りだこ (胼胝)。シ゜ビゝナー ビ゜リグジヌゝ ン゜ジゝルンケン ビ゜リトゥーシルゝ シ゜グトゥ ソーッゝタツォー [ʃi゜biゝna: bi゜riguʤinuゝ ʔn゜ʤiゝruŋkem bi゜ritu:ʃiruゝ ʃi゜gutu so:tゝtatso:](尻に座りだこ＜胼胝＞が出来るまで座り通して＜ぞ＞仕事をされたそうだ)。

ビ゜リゝグゥー [bi゜riゝgwa:] 【名】極小のカツオ。一番小さなカツオ。ビ゜リ [bi゜ri](最後。最下級) に指小辞のゝグゥー [gwa:](小さいもの) が下接して形成された語。糸満方言からの借用語か。ビ゜リゝグゥーシェー カ゜ツブシゝ ス゜クラランゝシェン [bi゜riゝgwa:ʃe: kḁ゜tsubuʃiゝ su̥゜kuraraŋゝʃeŋ](極小のカツオ＜ビリグゥー＞では鰹節は作れなかった)。

ビ゜リシゥカルン [bi゜risi̥karuŋ] 【自動】居座る。居つづける。長居する。「座りつく」の義。ビ゜リシゥカリティゝ マ゜ナマナーゝト ゜ウーゝク ゝスコー ア゜ラゝヌ [bi゜risi̥karitiゝ ma゜namana:ゝto ゜ʔu:ゝku ゝsu̥ko: ʔa゜raゝnu](長居して＜居つかれて＞今など動くどころではない)。サ゜キゝ ヌムカー ビ゜リシゥカルンダゝ ウ゜リンゝ ビ゜リシゥカランゝヨーニ サ゜ケーゝ カ゜ザミゝリ [sḁ゜kiゝ numuka: bi゜risi̥karundaゝ ʔu゜rimゝ bi゜risi̥karaŋゝjo:ni sḁ゜ke:ゝ ka゜ʤamiゝri](酒を飲むと長居するから、長居されないように酒を隠せよ)。ビ゜リシゥカルゝ プ゜スンマーゝ ヌ゜マスナ [bi゜risi̥karuゝ pu̥゜summa:ゝ nu゜masuゝna](長居する人には飲ませるな)。ビ゜リシゥカレーゝ ミサムヌ [bi゜risi̥kare:ゝ misamunu](長居すればいいのに)。

ビ゜リシグトゥ [bi゜riʃigutu] 【名】座業。座り仕事。ゝプスイピーズ ビ゜リシグトゥバゝ カー゜ニ シーブンダゝ パンラル ゜ヨーリゝバン [ゝpu̥suipi:ʤu bi゜riʃigutubaゝ ka:゜ni ʃi:bundaゝ panraru ゜jo:riゝbaŋ](一日中座業だけをしているから、足から＜ぞ＞弱るわい)。

ビ˞リスクドゥン [biˀrisu̥kuduŋ] 【名】怠け者。役人のように座って働かない怠け者。「座り役人＜筑登之＞」の義。˞クンザー˺　ビ˞リスクドゥン˺　ナリティ　ノー˞ン˺　シ˞グトゥ　スンティ˺　サ˞ヌ [˞kundʑaː˺ biˀrisukudun˺ nariti noː˞ŋ˺ ʃiˀgutu sunti˺ sa˞nu](こいつは怠け者＜座り筑登之＞になって、ちっとも＜何も＞仕事をしようとしない)。

ビ˞リダイ [biˀridai] 【名】椅子。腰掛。「座り台」の義。背もたれのある物はイ˞ス [ʔiˀsu](椅子) といい、背もたれのない物は˺ダイ [˺dai](台) という。ナ˞カ˺ザナー　ビ˞リダイ˺　ビ˞シティ　ウン˺ナー　ビ˞リティ˺　イー　ッ˞ふァイ˺バ [naˀkaˀdʑanaː biˀridai˺ biˀʃiti ʔun˺naː biˀriti˺ ʔiː fˀfai˺ba](土間に椅子を据えて、それに座ってご飯を食べなさいよ)。

ビ˞リッサーク [biˀrissaːku] 【名】座業。座ってする仕事。「座り仕事」の義。ビ˞リザーク [biˀridʑaːku](座業) ともいう。˺ブー　˞ウー˺メー　ビ˞リッサーク˺　ヤ˞ルンダ˺　マ˞ナマ˺ヌ　バ˞カームヌ˺ノー　˞シーユーサヌ [˺buː ˞ʔuː˺meː biˀrissaːku˺ jaˀrunda˺ maˀnama˺nu baˀkaːmunu˺noː ˞ʃiːjuːsanu](からむし＜苧＞績み＜紡ぎ＞は座業だから、今の若者がはできない＜し得ない＞)。

ピ˞リ˺ピリ [piˀri˺piri] 【副】傷口が刺すように傷むさま。ひりひり。キ˞ジフチヌ　ウー˺ミティ　ピ˞リ˺ピリ　˺ヤムサー [kiˀdʑiɸu̥tʃinu ʔuː˺miti piˀri˺piri ˺jamusaː](傷口が膿んでひりひりと痛むよ)。

ビ˞リブガリ [biˀribugari] 【名】座り続けて疲れること。「座り＜居＞疲れ」の義。ユ˞ヌン˺トンナ　ナー˞イ˺　ビ˞リティ˺　ブー　˞ウー˺ムンダ　ビ˞リブガリ　˞シース [juˀnun˺tonna naː˞i˺ biˀriti˺ buː ˞ʔuː˺munda biˀribugari ʃiːsu](同じ所にずうっと座り続けて麻を績むので座り疲れするよ)。

ビ˞リブドゥル [biˀribuduru] 【名】座ったまま手を上げてこねり踊ること。「座り踊り」の義。ドゥ˞ク˺ヌ＜ア˞マ˺ヌ＞　サ˞ニ˺ヤティ　˺アッパー　˺タティ　˞ソーラン˺ヌンドゥ　ビ˞リブドゥルバ　シーソーッ˺タ [duˀku˺nu＜ʔaˀma˺nu＞ saˀni˺jati ˺ʔappaː ˺tati ˞soːran˺nundu biˀribuduruba ʃiː soːt˺ta](あまりにも嬉しくて、お祖母さんは立つことが出来ないのに座ったまま手を上げてこねり踊りをしなさった)。

ピ˞ル [piˀru] 【名】(植) ヒル (蒜)。にんにく (大蒜)。葉や鱗茎を食用・薬用にする。鱗茎は甕に塩け、黒糖漬け、泡盛漬けにして茶請けや冬季の風邪薬に利用した。風邪が流行ると鱗茎を糸で貫き連ねて首に掛け、風邪予防に利用した。ピル (大蒜) はシ˞ビナージナ [ʃiˀbinaːdʑina](注連縄) に結んで厄払いにも用いた。発熱すると、鱗茎を˞ダイ˺パー [˞daiˀpaː](擂鉢) で擂って塩と混ぜ、頭から背中へかけて掌(テノヒラ)で揉み、すりおろし、腹部から足へと摩り下ろした後に着衣させ、体を温めて解熱させた。「〜野蒜摘みに　比流＜ヒル＞摘みに〜」『古事記　中・歌謡』、「醤酢＜ひしほす＞に　蒜都伎合而＜ヒルツキカテテ＞〜。万葉、3829」の転訛したもの。ピ˞ロー˺カミナー　˞マー˺スシ　シ˞キティ　サー˺フキン　˞シー˺　パ˞ナシキヌ˺　パ˞ヤー˺ル　˺ピンマー　˺イトゥナー　ヌ˞キティ˺　ヌビナー　パ˞カソーッ˺タン [piˀroː˺ kaminaː ˞maː˺suʃi ʃi̥ˀkiti saː˺ɸu̥kiŋ ˞ʃiː˺ paˀnaʃi̥kinu˺ paˀjaː˺ru ˺pimmaː ˺ʔituna: nuˀkiti˺ nubinaː pḁkasoːt˺taŋ](大蒜は甕に入れて塩で漬けて茶請けにもし、風邪が流行る時は糸に貫いて首に穿かされたものだ)。

˺ピル [˺piru] 【名】(動物) ひる (蛭)。˞ター˺ピル [˞taː ˺piru](田の蛭)、ヤ˞マ˺ピル [jaˀma˺piru](山蛭) がいる。蛭は水田や湿地、山地に棲息していて、脊椎動物や人体に吸い付き吸血する。「蛭　比留」『新撰字鏡』の転訛したもの。昔は質(タチ)の悪い大きな腫れ物をヒル (蛭) に吸わせて治療する療法を実施したという。特に顔面にできる腫れ物は、傷跡が残らないといわれ、ヒル (蛭) に吸血させる療法がしばしば行われたという。˞パイタ˺ヌ　˞ター˺ヤ　˺マーティ　˞ナー˺ン　ピ˞ル˺ヌ　˞ゴー˺ラーンダ　˞マイカリ˺ヌ　˺ピンマー　˞サッ˺コー　ナ˞クラー˺タン [˞paita˺nu ˞taː˺ja: ˺maːti ˞naː˺m piˀru˺nu ˞goː˺raːnda ˞maikarinu˺ pimmaː ˞sak˺koː naˀkuraː˺taŋ](西表北岸の田圃は、いたるところに蛭が多いので、稲刈りの時は非常に怖かった)。

˺ピル [˺piru] 【接尾】尋。両手を左右に広げた時の両手先の間の距離を表す単位。単語の末尾が母音終わりの場合は、˺ヒル [˺çiru](尋) といい、漢数字の語尾が撥音の N で終わる単語や、十尋などのように漢数字の単語の末尾が促音で終わる場合は、˺ピル [˺piru](尋) という。プ˞ス˺ヒル [pu̥ˀsuçi˺ru](一尋)。フ˞タヒル [ɸutaçiru](二尋)。˞ミーヒル [˞miːçiru](三尋)。˺サンピル [˺sampiru](三尋)。˺ジッピル [˺dʑippiru](十尋)。

˺ピル [˺piru] 【名】へり (縁)。畳の縁。「縁、ホトリ・ヘリ・ハタ」『類聚名義抄』の「ヘリ」から転訛したもの。タ˞タミヌ˺　ピル [tḁˀtaminu˺ piru](畳の縁)。タ˞タミヌ˺　ピロー　˞フンシゥカンドー˺

シ　アˈラ˥クティル　ナˈラー˥ソーッタ [tą̥ˈtaminu˥ piroːˈɸunsï̥kandoː˥ʃi ʔaˈra˥kutiru naˈraː˥soːtta](畳の縁は踏みつけないで歩くものだと＜ぞ＞教えられた)。

ピˈルガラスン **[piˈrugarasuŋ]** 【他動】拡げる。広める。広がらせる。宣伝する。˥カイ　˥ブー　パˈナ˥シェー　˥シキンナー　ピˈルガラサン˥　ヨーニ　シˈタンティン˥　ノーˈシン˥　ピˈルガラスンティル˥　ウˈモー˥リ [˥kai ˥buː paˈna˥ʃeː ˥ʃi̥kinnaː piˈrugarasaŋ˥ joːni ʃi̥ˈtantim˥ noːˈʃim˥ piˈrugarasuntiru˥ ʔuˈmoː˥ri](このような話は世間に広めないようにしても、どうせ拡げると＜ぞ＞思われる)。ピˈルガラシナー˥ヌ [piˈrugaraʃinaː˥nu](拡げてしまった)。ピˈルガラス˥　クトー　スˈナ˥ヨー [piˈrugarasu˥ kṵtoː suˈna˥joː](拡げることはするなよ)。ピˈルガラシェー˥　ミサムヌ [piˈrugaraʃeː˥ misamunu](広めれば良いのに)。ˈホーライマイ˥ヤー　ピˈルガラシ [ˈhoːraimai˥jaː piˈrugaraʃi](蓬莱種の稲は広めなさい)。

ピˈルガルン **[piˈrugaruŋ]** 【自動】広がる。拡大する。˥ッサー　ˈニン˥イリ　ˈソーラン˥カー　ピˈルガルンダ˥　ピˈルガラン˥　スコー　クˈメーキ　ソーリ˥バ [˥ssaː ˈniŋ˥ʔiri ˈsoːraŋ˥kaː piˈrugarunda˥ piˈrugaran˥ sṵko: kuˈmeːki soːri˥ba](草＜雑草＞は入念に除草しないと＜さくらないと、刹る＞広がるから、広がらないように細かく除草しなさい)。パˈナシケー˥　ムˈラズー˥　ピˈルガリ　ナー˥ヌ [paˈnaʃi̥keː˥ muˈradzuː˥ piˈrugari naː˥nu](風邪は村中に拡がってしまった)。パˈナシ˥ヌ　ピˈルガル˥　クトー　ˈナー˥ヌ [paˈnaʃi˥nu piˈrugaru˥ kṵtoː ˈnaː˥nu](話が広がることはない)。ピˈルガレー˥　ミサムヌ [piˈrugareː˥ misamunu](拡がれば良いのに)。ˈマー˥ビン　ピˈルガリ [ˈmaː˥bim piˈrugari](もっと拡がれ)。

ピˈルキ **[piˈruki]** 【名】真夏の太陽の熱気。「陽の息」の義か。ピˈルキヌ　スーワ˥ヌ　˥ウナー　ブˈラランダ　ユシ˥キシダル　˥タティティ　˥カイ　スˈク˥リバ [piˈrukinu suːwa˥nu ˥ʔunaː buˈraranda juʃi̥˥ kiʃidaru ˥tatiti ˥kai sṵˈku˥riba](真夏の太陽の熱気が強くて、そこにはおられない。ススキの簾を立てて日陰を作りなさいよ)。

ピˈルキー **[piˈrukiː]** 【名】ひよめき (しんもん＜顖門＞。泉門)。アˈガッふァーマ˥ヌ　ピˈルケー　サウルナ˥ヨー [ʔaˈgaffaːma˥nu piˈrukeː sauruna˥joː](赤子のひよめきは触るなよ)。ピˈルケーラ˥　イキ　ˈシー　アー˥ク [piˈrukeːra˥ ʔiki ˈʃiː ʔaː˥ku](ひよめき＜泉門＞から息をしている。頭から湯気が立つほど忙しく働いている様子をいう)。

ピˈルギルン **[piˈrugiruŋ]** 【他動】拡げる。拡大する。˥クナー　ピˈルギルンティ˥　シˈタンティン˥　シˈバー˥ヌ　ピˈルギララヌ [˥kunaː piˈrugirunti˥ ʃi̥ˈtantiŋ˥ ʃiˈbaː˥nu piˈrugiraranu](ここで広げようとしても狭くて拡げられない)。ピˈルギティ˥　プˈシ˥　プサンドゥ　ピˈルギル˥　クトー　ナˈラン˥ツォー [piˈrugiti˥ pṵˈʃi˥ pṵsandu piˈrugiru˥ kṵtoː naˈran˥tsoː](広げて干したいが広げることは出来ないそうだ)。˥クナーティ　ピˈルゲー˥　ミサムヌ [˥kunaːti piˈrugeː˥ misamunu](ここで広げればいいのに)。ˈパー˥ク　ピˈルギリ [ˈpaː˥ku piˈrugiri](早く広げれ)。

ピˈルザキ **[piˈrudzaki]** 【名】大蒜酒。泡盛に大蒜(ニンニク)を漬けて薬用酒として飲用する酒のこと。ピˈルザケー　カンボー˥ヌ　フˈチ˥ルティ　ˈシー˥　ンˈメーマ˥ナー　ヌˈマ˥ソーッタン [piˈrudzake: kamboː˥nu ɸṵˈtʃi˥ruti ˈʃiː˥ ʔmˈmeːma˥naː nuˈma˥soːttaŋ](大蒜酒は感冒の薬といって少しずつ飲まされた)。

ピˈル˥　スˈクン **[piˈru˥ sṵˈkuŋ]** 【連】大蒜を漬物にする。「蒜を漬ける」の義。˥カミナー　ピˈル˥　スˈクンティ˥　ウˈムーン˥ドゥ　ピˈル˥　スˈク˥　カˈミ˥ヌ　トゥˈミララ˥ヌ [˥kaminaː piˈru˥ sṵˈkunti˥ ʔuˈmuːn˥du piˈru˥ sṵˈku˥ kaˈmi˥nu tuˈmiraraˈnu](甕に蒜を漬けようと思うが、蒜を漬ける甕が探されない)。

ビˈル˥パニ **[biˈru˥pani]** 【名】美しい羽。美しく飾られた羽。綾取(アヤド)られた羽。アˈヤ˥パニ [ʔaˈja˥pani](綾羽) の対語。/アヤパニバ　マラショーリ　ビルパニバ　シダショーリ/(綾羽をかえして＜孵して＞、綾なす羽の雛を孵化して)「鷲ヌ鳥節」『八重山民謡誌』。

ピˈルフキカー˥フキ **[piˈruɸṵkikaː˥ɸṵki]** 【副】糸などがほどけるさま。ほつれ解けるさま。ˈワーウー˥メール　ˈブー˥ヤ　ピˈルフキカー˥フキ　ˈシー　ユー˥ゾー　ˈナー˥ヌ [ˈwaː ʔuː˥meːru ˈbuː˥ja piˈruɸṵkikaː˥ɸṵki ˈʃiː juː˥dzoː ˈnaː˥nu](君が績んだ麻糸はほどけて使えない＜養生ができない＞)。

ピˈルフキ˥ルン **[piˈruɸṵki˥ruŋ]** 【自動】ほどける (解ける)。解けて抜け落ちる。˥ブー　ˈウー˥ム　˥ピンマー　シゥˈカイトゥ˥　ピˈニラン˥カー　ピˈルフキ˥ルンダー　ピˈルフキラン˥スコー　ピˈニ˥リ [˥buː ˈʔuː˥mu ˥pimmaː si̥ˈkaitu˥ piˈniraŋ˥kaː piˈruɸṵki˥runda: piˈruɸṵkiran˥sṵko: piˈni˥ri](麻糸を績むとき

はしっかり捻らないと解けるから、解けないように捻りなさい)。ピ˞ル˞フキパリ　˞ナー˞ヌ [pi˞ru˞ɸu̥kipari ˞naː˞nu](解けていってしまった)。ピ˞ルフキ˞ル　˞イトー　シゥ˞カーラヌ [pi˞ruɸu̥ki˞ru ˞ʔitoː si̥˞kaːranu](解ける糸は使えない)。

ピ˞ルフキルン **[pi˞ruɸukiruŋ]** 【自動】解きほぐれる。ほぐれる。ほつれる。指先からするりと抜け落ちる。ふけ落ちる。ウ˞ム˞ジェー　ティ˞ル˞ヌ　˞ミーラン　ピ˞ルフキルンダ˞　ピ˞ルフキラン˞ヨーニ　フ˞バリ˞　シキ [ʔu˞mu˞ʤeː ti˞ru˞nu ˞miːram pi˞ruɸukirunda˞ pi˞ruɸukiraɲ˞joːni ɸu˞bari˞ʃi̥ki](イイダコは笊の網目からもふけ落ちるから、ふけ落ちないように縛っておけ)。ア˞ダナ˞シシナー　ピ˞ルフキ˞ル　˞クトー　˞ナー˞ヌ [ʔa˞dana˞ʃiʃinaː pi˞ruɸu̥ki˞ru ˞ku̥toː ˞naː˞nu](アダンの気根の繊維で綯った綱は、ほぐれることはない)。

ピ˞ル˞フクン **[pi˞ru˞ɸu̥kuŋ]** 【自動】ほどける (解ける)。解けて抜け落ちる。ピ˞ルフキ˞ルン [pi˞ruɸu̥ki ˞ruŋ](解ける) と同じ。˞シナー　フ˞バリヨーヌ　ナーン˞カー　ピ˞ル˞フクン˞ダー [˞ʃinaː ɸu˞barijoːnu naːŋ˞kaː pi˞ru˞ɸu̥kun˞daː](綱は縛り方がよくないと解けるよ)。˞カイニ　フ˞バル˞カー　ピ˞ルフカ˞ヌ [˞kaini ɸu˞baru˞kaː pi˞ruɸu̥ka˞nu](このように縛ると解けない)。フ˞バリ˞　シケーター　トゥ˞ム˞ジナー　ピ˞ル˞フキ　パリ˞ナー˞ヌ [ɸu˞bari˞ ʃi̥keːtaː tu˞mu ˞ʤinaː pi˞ru˞ɸu̥ki pari˞naː˞nu](縛っておいた船の艫綱は解けていってしまった)。ピ˞ル˞フク　˞クトー　˞ナーン˞パジ [pi˞ru˞ɸu̥ku ˞ku̥toː ˞naːm˞ paʤi](解けることはないはずだ)。ピ˞ル˞フケー　˞ミサムヌ [pi˞ru˞ɸu̥keː ˞misamunu](解ければいいのに)。

ピ˞ルフクン **[pi˞ruɸukuŋ]** 【自動】解きほぐれる。ほぐれる。ほつれる < 解れる >。指先からするりと抜け落ちる。ふけ落ちる。ギッ˞ティ˞　フ˞バリ˞シケーンダ　ピ˞ルフクンテー˞　ウ˞モーン˞シェンドゥ　ピ˞ルフキ˞パリ　˞ナー˞ヌ [git˞ti ˞ ɸu˞bari˞ʃi̥keːnda pi˞ruɸu̥kunteː˞ ʔu˞moːŋ˞ʃendu pi˞ruɸu̥ki˞pari ˞naː˞nu](ぎゅっと縛っておいたから、解きほぐれるとは思わなかったが、ほぐれてしまった)。

ピ˞ルマ˞サン **[pi˞ruma˞saŋ]** 【形】珍しい。不思議だ。˞テープレコー˞ダーナ　˞ドゥー˞ヌ　˞クイ˞バ　フ˞クマ˞シティ　ウ˞リバ˞　シ˞キティ˞　イッ˞ケナ˞　ピ˞ルマ˞サンティ　ア˞ゾーッ˞タン [˞teːpurekoː˞daːna ˞duː˞nu ˞kui˞ba ɸu̥˞kuma˞ʃi̥ti ʔu˞riba˞ ʃi̥˞kiti˞ ʔik˞kena ˞ pi˞ruma˞santi ʔa˞ʤoːt˞taŋ](テープレコーダーに自分の声を録音させて < 含ませて >、それを聞いて非常に珍しい < 不思議だ > といわれた)。ウ˞リン˞　マ˞ナ˞マー　ピ˞ルマサナー˞ヌ [ʔu˞rim˞ ma˞na˞maː pi˞rumasanaː˞nu](それも今では珍しく < 不思議で > ない)。˞ヌンティ　˞アイ　˞ナルユー　ピ˞ルマサ˞ヌ　ナ˞ラ˞ヌ [˞nunti ˞ʔai ˞naruju: pi˞rumasa˞nu na˞ra˞nu](どうしてそうなるのか、不思議で < 珍しくて > ならない)。ピ˞ルマ˞サル　˞クトゥン　ユ˞ヌナカ˞ナー　ミ˞チ˞ル　˞ブー [pi˞ruma˞saru ˞ku̥tuɲ ju˞nunaka˞naː mi˞ʧi˞ru ˞buː](珍しい事も世の中には沢山ある < 満ちてぞおる >)。

ピ˞ルマ˞シムヌ **[pi˞ruma˞ʃimunu]** 【名】不思議なこと。珍しいこと。疑わしいこと。「ひろましや　不思議と云う事」『混効験集』の義。ピ˞ルマ˞シムヌ　˞アイ　˞ブー　˞クトゥティン　˞アンカヤー [pi˞ruma˞ʃimunu ˞ʔai ˞buː ˞ku̥tutiŋ ˞ʔaŋkajaː](不思議なことだ < 怪しい >。そんなこととてもあるものかねえ)。

ピ˞ルマ˞ルン **[pi˞ruma˞ruŋ]** 【自動】拡がる。広まる。ピ˞ルマ˞ルンダラーティ　˞ソー　シー　ベー˞タ　˞クトー　キサー˞ティ˞　˞シキンナー　ピ˞ルマ˞リ　˞ナー˞ヌ [pi˞ruma˞rundaraːti ˞soː ʃiː beː˞ta ˞ku̥toː ki̥saː˞ti˞ ʃi̥kinnaː pi˞ruma˞ri ˞naː˞nu](広まるだろうかと心配していたのに、既に世間に広まってしまった)。マ˞ナマー˞キ　パ˞ナシ˞ヌ　ピ˞ルマラ˞ン　˞ギン˞シェー　ピ˞ル˞マル　˞クトー　˞ナーン˞パジ [ma˞namaː˞ki pa˞naʃi˞nu pi˞rumara˞ŋ ˞giŋ˞ʃeː pi˞ru˞maru ˞ku̥toː ˞naːm˞paʤi](今まで噂話が拡がらないからには、拡がることはないはずだ)。˞マー˞ビン˞　ピ˞ルマ˞レー　˞ミサムヌ [˞maː˞bim pi˞ruma˞reː ˞misamunu](もっと広まればいいのに)。˞パー˞ク　ピ˞ルマ˞リ [˞paː˞ku pi˞ruma˞ri](早く拡がれ)。

ピ˞ルミ˞ルン **[pi˞rumi˞ruŋ]** 【他動】広める。広げる。流行らせる。˞ホーライマイ˞バ　ピ˞ルミ˞ルンティ　˞サニマイ　˞ムティ　˞クー˞タ [˞hoːraimai˞ba pi˞rumi˞runti ˞sanimai ˞muti ˞kuː˞ta](蓬莱米を広めようと種子を持ってきた)。˞タンガ˞シェー　ピ˞ルミララ˞ヌ [˞taŋga˞ʃeː pi˞rumirara˞nu](一人では広められない)。ピ˞ル˞ミ　˞ミサカー　˞タンガ˞シン　ピ˞ルミ˞ル　˞クトー　˞ナルン [pi˞ru˞mi ˞misakaː ˞taŋga˞ʃim pi˞rumi˞ru ˞ku̥toː ˞naruŋ](広めてよければ一人ででも広めることは出来る)。˞マー˞ビン　ピ˞ルミ˞レー　˞ミサムヌ [˞maː˞bim pi˞rumi˞reː ˞misamunu](もっと広めればいいのに)。ピ˞ルミ˞リ [pi˞rumi˞ri](広めれ)。

ビ˞ルン [biˤruŋ] 【自動】1座る。「〜妻子どもは足の方にかくみ居而〜。万、892」の義。˞ワー˞ クナー ビ˞ル˞カー ˞バン˞ヌン ビ˞ルン [˞waː˞ kunaː biˤru ˞kaː ˞ban˞num biˤruŋ](君がここに座ったら、私も座る)。˞クナー ビ˞リ˞ プサカー ビ˞リ˞バ [˞kunaː biˤri˞ pu̥saka: biˤri˞ba](ここに座りたければ座りなさいよ)。˞ワー˞ ビ˞リティ˞ アˤザバン˞ バー ビ˞ラヌ [˞waː˞ biˤriti˞ ʔaˤʤabam˞ baː biˤranu](君が座れといっても、私は座らない)。ビ˞ル˞ プ˞ソー パー˞ク ビ˞レー˞ ミサムヌ [biˤru˞ pu̥ˤsoː paː˞ku biˤreː˞ misamunu](座る人は早く座ればいいのに)。2落ち着く。静まる。止む。スˤブル˞ヌ ˞ヤン˞マー ビ˞レー˞ン [suˤburu˞nu ˞jam˞maː biˤreː˞ŋ](頭痛 < 頭の痛みは取れた < 止まった >)。

ヒ˞ロー˞サ [çiˤroː˞sa] 【名】(動) 魚の名。和名、メガネモチノウオ。成魚は体長約 1 メートルに成長する。ビニールが発明される以前には、この魚の鱗(ウロコ)を乾燥して剥がし、ビニール状になった部分を利用して、パˤニビキ [paˤnibiki](引き縄釣り) やカツオ釣りの疑似餌を作った。˞キサー ヒ˞ローサ˞ヌ イˤラ˞キ ˞パギティル パˤニビキ˞ スˤク˞ローッタ [˞kiu̥sa: çiˤroːsa˞nu ʔiˤra˞ki ˞pagitiru paˤnibiki˞ su̥ˤku˞roːtta](以前は、メガネモチノウオの鱗を剥いで引き縄釣り漁の疑似餌(ギジエ)を作られたものだ)。

ビˤロー˞サ [biˤroː˞sa] 【名】(植) クワズイモ。サトイモ科の多年草。高さ約 1 メートル。葉は広い。子供は雨降りの際には葉柄(ヨウヘイ)から切って傘の代用に利用した。樹液は有毒で、口に入ると喉までえがらっぽくなり、皮膚にふれると赤く腫れて痒くなる。ビˤローサ˞ヌ ˞ウン˞マー ˞ターウン˞ヌ ˞カタチニ ˞ブンドゥ˞ ウˤレー˞ ドゥク ヤˤルンダ˞ ッˤファーラヌ [biˤroːsa˞nu ˞ʔum˞maː ˞taːʔun˞nu ˞kątatʃini ˞bundu˞ ʔuˤreː˞ duku jaˤrunda˞ fˤfaːranu](クワズイモの芋は田芋に似ているが、それは有毒だから食べられない)。

ビˤローサン˞パー [biˤroːsam˞paː] 【名】クワズイモの葉。˞ビローサン˞パーヤ アˤミ˞ヌ ˞フーカー カˤサ˞ヌ ˞カール シェー˞ティル ˞カビ アˤサブタ [biˤroːsam˞paːja ʔaˤmi˞nu ˞ɸuːkaː kaˤsa˞nu ˞kaːru ʃeː˞tiru ˞kabi ʔaˤsabuta](クワズイモの葉は雨が降ると傘の代わりにしながら、被って < 傘をさして > 遊んだ)。

˞ビン [˞biŋ] 【名】便。船便。運搬船が発着すること。˞キュー˞ヤ (ワ) イˤサナケーラヌ ビンヌ˞ アンツォー [˞kjuː˞ja(wa) ʔiˤsanakeːranu binnu˞ ʔantsoː](今日は石垣からの船便があるそうだ)。˞キュー˞ヌ ˞ビン˞ラ イˤサナケー パッ˞タ [˞kjuː˞nu ˞bin˞ra ʔiˤsanakeː pat˞ta](今日の船便で石垣へ行った)。

˞ビン [˞biŋ] 【名】弁。弁舌。˞ビンヌ˞ カˤナイ˞ル プ˞スンマー˞ イˤジマカサリス [˞binnu˞ kaˤnai˞ru pu̥ˤsummaː˞ ʔiˤʤimakasarisu](弁の達者な人には言い負かされる)。

˞ビン [˞biŋ] 【名】瓶。複合語の後部形式となる際に、˞クビン [˞kubiŋ](瓶) の第一音節の「ク」が脱落して形成された形。限られた語に現れる。˞ニンゴー˞ビン [˞niŋgoː˞biŋ](二合瓶)。˞サンゴー˞ビン [˞saŋgoː˞biŋ](三合瓶)。˞イッス˞ビン [˞ʔissu˞biŋ](一升瓶)。˞アブジェー ˞サンゴー˞ビン ˞ピーティ シー˞ネー ˞オーッ˞タヤー [˞ʔabuʤeː ˞saŋgoː˞bim ˞piːti ʃiː˞neː ˞ʔoːt˞tajaː](お祖父さんは泡盛の三合瓶を引っ提げて北隣の家へいかれたよ)。

˞ピン [˞piŋ] 【名】1日。ウˤヌ˞ ピンヌ ウˤチ˞ナー ナˤラン˞カヤー [ʔuˤnu˞ pinnu ʔuˤʧi˞naː naˤraŋ˞kaja:](その日のうちに出来ないかね)。ユˤヌ˞ ピンナー マーˤズン˞ パラ [juˤnu˞ pinnaː maːˤʤum˞ para](同じ日に一緒に行こう)。2場合。とき。イˤソー˞ パル ˞ピンマー ˞ガルユクン ムティパリˤヨー [ʔiˤsoː˞ paru ˞pimmaː ˞garujukum mutipariˤjoː](潮干狩りにいくときは鉤鋲(コウセン)< 先端に鉤(カギ)のある蛸捕(タコト)り用の鋲(モリ)> を持って行けよ)。

˞ピン [˞piŋ] 【名】抵抗。反抗。すねる (拗(ス)ねる) こと。捻(ヒネ)くれること。˞ウヤン イˤザリティ˞ ナーˤイ ピン˞バ ˞シー˞ プˤスヌ˞ ムニ シゥˤカヌ [˞ʔujaŋ ʔiˤʤariti˞ naːˤji pim˞ba ˞ʃiː˞ pu̥ˤsunu˞ muni si̥ˤkanu](親に叱られて、ずっと反抗して拗ねて人の言うことを聞かない)。ヤˤラ˞ベー イˤズ˞カー ˞ピン ˞スントダー [jaˤra˞be: ʔiˤʤu˞kaː ˞pin ˞sul-daː](子供は叱ると反抗をする < 拗ねる > よ)。

˞ピンガ˞スン [˞piŋga˞suŋ] 【他動】逃がす。イˤズ ホー˞スカー ˞ミン˞バニ ギャンˤティ ウシゥカン˞カー ˞ピンガ˞スンˤダー ピンガサン˞スコーニ カˤサミ˞バ [ʔiˤʤu hoː˞sukaː ˞mim˞bani gjanˤti ʔusi̥kaŋ ˞kaː ˞piŋga˞sunˤda: piŋgasan˞su̥koːni kaˤsami˞ba](魚を釣ったらエラブタ < 鰓蓋 > をぎゅっと押さえないと逃げられる < 逃がす > よ。逃がさないように掴めよ)。˞ピンガ˞シ ˞ミサカー ˞ピンガ˞ス ˞クトー ˞ナルン [˞piŋga˞ʃi ˞misakaː ˞piŋga˞su ˞ku̥toː ˞naruŋ](逃がしてよければ逃がすことは出来る)。グˤマー˞ イˤゾー ピンガ˞シェー ˞ミサムヌ [guˤmaː˞ ʔiˤʤoː piŋga˞ʃeː ˞misamunu](小さな魚は逃が

せばいいのに)。ク˞レー˞　ヤー˞ディン　ピン˞ガシ [ku˞re:˞ ja:˞dim piŋga˞ʃi](これは必ず逃がせ)。

˞ピン　カ˞マイ˞ルン **[˞piŋ ka˞mai˞ruŋ]** 【連】反抗する < 反抗を構える >。腹を据えて反抗する。拗(スネ)る。捻(ヒネ)くれる。ウ˞リヌ˞　ピン　カ˞マイ˞ルカー　˞ウーカサラ˞ヌ [ʔu˞rinu˞ piŋ ka˞mai˞ruka: ˞ʔu:kasara˞nu](彼が覚悟して反抗すると動かされない)。

˞ピン˞ガン **[˞piŋ˞gaŋ]** 【名】彼岸 (春分の日。秋分の日)。彼岸の˞ソーニチ [˞so:nitʃi](当日 <˞正日」の義か >) を挟んで前後一週間を˞ピン˞ガンシチ [˞piŋ˞gaŋʃitʃi](彼岸の節) という。一週間以内であれば都合のよい日に彼岸祭りをしてもよいといわれている。˞ピンガン˞ヌ　˞シチ　˞ペー˞レーン [˞piŋgan˞nu ˞ʃi̥tʃi ˞pe:˞re:ŋ](彼岸の節に入った)。彼岸には˞ピン˞ガンズーシー [˞piŋ˞gandʑu:ʃi:](「彼岸雑炊」の義。豚肉や魚肉、大根、人参を采(サイ)の目状に切り、韮(ニラ)を刻んで入れ、醤油で味付けして炊いた五目飯。こわいい < 強飯 >) が必需である。ッ˞ス˞ムチ [s˞su˞mutʃi](白餅) 一重箱、ナ˞マ˞シ [na˞maʃi](刺身) 一皿、イ˞ラキ˞ムヌ [ʔi˞raki˞munu](油炒め。「煎物(イリモノ)」の義) 一皿、˞ユーチング [˞ju:tʃiŋgu](四つ組のご馳走)、˞グシパナ [˞guʃipana](酒と花米)、ウ˞ティン˞ガビ [ʔu˞tiŋ˞gabi](紙銭。「打ち紙」の義。後生の通貨といわれている) を供えて祀(マツ)った。紙銭は祖霊達に金銭上の困難がかからぬよう、それを焼いて送ると信じられている。カ˞ビヤキムヌ [ka˞bijakimunu](紙銭を焼く道具。通常、金盥(カナダライ)の上に、バ˞サ˞ヌ　˞ウディ [ba˞sa˞nu ˞ʔudi]< 芭蕉の葉柄(ヨウヘイ)> を約一尺の長さに切り、ススキの生木で井の字型に刺して作ったもの) の上で紙銭を焼いた後グシ [˞guʃi](酒) を一杯注ぎ、アルコールが青白く燃え、紙銭が完全に燃えたところで˞サー˞ドー [˞sa:˞do:](茶湯) を二杯注ぎ、火を消してパ˞ナン˞グミ [pa˞naŋ˞gumi](花米) を三(ミ)掴(ツカ)み入れて終わる。それが済むと供えたご馳走や餅などを箸で裏返す。これをウ˞ク˞シ [ʔu˞ku˞ʃi](起こし) という。それによって供物は祖霊達に食されたことになるといわれている、一種の儀式である。その後にピ˞キカウ [pi̥˞kikau](供物を引き下げる線香) を点けて˞ウサンダイ [˞ʔusandai](供え物) を下げ、家族一同が揃(ソロ)って会食した。

˞ピン˞ガンズーシー **[˞piŋ˞gandʑu:ʃi:]** 【名】五目御飯。「彼岸雑炊」の義。豚肉や魚肉を采の目に切り、韮(ニラ)を刻んで混ぜ、大根や人参も采の目に切って入れ、醤油で味付けして炊いた五目飯 (こわいい < 強飯 >)。˞ピン˞ガンズーシェー　イッ˞ケナ˞　ン˞マー˞タン [˞piŋ˞gandʑu:ʃe: ʔik˞kena˞ ʔm˞ma:˞taŋ](彼岸雑炊 < 彼岸祭りの五目飯 > は非常に美味しかった)。

˞ピンギ˞ウシ **[˞piŋgi˞ʔuʃi]** 【名】逃げた牛。飼い主の所から逃げた牛。老年層は、ン˞ギ˞ウシ [ʔŋ˞gi˞ʔusi](逃げ牛) という。˞ピンギ˞ウシェー　プ˞スン˞トンニン　ン˞カイ˞　クンダー　ナ˞クラー˞ン [˞piŋgi˞ʔuʃe: pu̥˞sun˞tonniŋ ʔŋ˞kai˞kunda: na˞kura:˞ŋ](逃げた牛は人の所へも向かって来るので怖い)。

˞ピンギ˞ッふァ **[˞piŋgi˞ffa]** 【名】迷子。「逃げた子」の義。˞ピンギ˞ッふァー　マ˞ダ˞　トゥ˞ミララ˞ヌ [˞pingi˞ffa: ma˞da˞ tu˞mirara˞nu](迷子 < 逃げた子 > は、まだ見つから < 尋められ > ない)。

˞ピン˞ギマール **[˞piŋ˞gima:ru]** 【名】逃げ回ること。逃亡。˞逃げ回り」の義。˞ウンザー˞　シ˞グトー˞　サ˞ムティ˞　マナール　˞ピン˞ギマール　˞シー　アー˞クユー [˞ʔundʑa:˞ ʃi˞guto:˞ sa˞muti˞ mana:ru ˞piŋ˞gima:ru ˞ʃi: ʔa:˞kuju:](あの怠け者 < あいつ > は、仕事はしないで何処を逃げ回っているのやら)。

˞ピンギマー˞ルン **[˞piŋgima:˞ruŋ]** 【自動】逃げ回る。逃亡する。˞タンコー　˞ピンギ˞ムノー　˞ピンギマー˞ルンティ　シ˞タンティン˞　アトー　˞ズン˞サン　カ˞サマリシタ [˞taŋko: ˞piŋgi˞muno: ˞piŋgima:˞runti ʃi̥˞tantiŋ˞ ʔato: ˞dʑun˞saŋ kḁ˞samariʃi̥ta](炭坑逃亡者は逃げ回るとしても、後は巡査に捕まれた)。˞ピンギマー˞リ　˞ミサカー　˞ピンギマー˞ル　˞クトゥン　ナ˞リ˞シタンドゥ　˞ピンギマーラン˞ドーシ　ウ˞ティ˞シキ　パ˞タラキ　ベー˞タ [˞piŋgima:˞ri ˞misaka: ˞piŋgima:˞ru ˞ku̥tun na˞ri˞ʃi̥tandu ˞piŋgima:ran˞do:ʃi ʔu˞ti˞ʃi̥ki pḁ˞taraki be:˞ta](逃げ回ってよければ逃げ回ることも出来たが、逃げ回らないで落ち着いて働いていた)。˞マー˞ビン　˞ピンギマー˞レー　˞ミサムヌ [˞ma:˞bim ˞piŋgima:˞re: ˞misamunu](もっと逃げ回ればいいのに)。˞ピンギマー˞リバ [˞piŋgima:˞riba](逃げ回れよ)。

˞ピンギ˞ムヌ **[˞piŋgi˞munu]** 【名】逃亡者。脱走者。イ˞クサユー˞ヌ　˞ピン　˞パイタ˞ヌ　ヒ˞ナン˞ヤーナー　˞タンコー　˞ピンギムヌ˞ヌ　˞ユー　˞イー˞　クイン　˞マーリクー˞タン [ʔi˞kusaju:˞nu ˞pim ˞paita˞nu çi˞naŋ˞ja:na: ˞taŋko: ˞piŋgimunu˞nu ˞ju: ˞ʔi:˞ kuim ˞ma:ri ku:˞taŋ](太平洋戦争の時、西表 < 南端 > の避難小屋に炭坑逃亡者がよく飯を貰い < 飯乞い > に逃げ回って来た)。

˞ビンキョー **[˞biŋkjo:]** 【名】勉強。˞バン˞ター　ヤ˞ラ˞ビ　˞シェーン˞ケンマー　シ˞キユー˞ランプバ　シケーティル　˞ユール˞ナー　˞ビンキョー˞　シ

ˈタˈダー [ˈbanˈtaː jaˈraˈbi ˈʃeːŋˈkemmaː ʃi̥ˈkijuːˈram-puba ˈʃi̥keːtiru ˈjuːruˈnaː ˈbiŋkjoːˈ ʃi̥ˈtaˈdaː](私達 < 聞き手を含まない > が子供の頃は石油ランプを灯して、夜には勉強したよ)。

ˈピンギˈルン [ˈpiŋgiˈruŋ] 【自動】逃げる。「へ逃げる」の音韻変化したものか。ピˈビザーˈ フˈバリˈ シˈキランˈカー ˈピンギˈルンˈダー [piˈbiʤaːˈ ɸuˈbariˈ ʃi̥ˈkiraŋˈkaː ˈpiŋgiˈrunˈdaː](山羊は縛っておかないと逃げるよ)。フˈバランˈタンティン ˈピンギラˈヌ [ɸuˈbaranˈtantim ˈpiŋgiraˈnu](縛らなくても逃げない)。ˈピンˈギ パリˈナーˈヌ [ˈpiŋˈgi pariˈnaːˈnu](逃げていってしまった)。ˈクマーラ ˈピンギˈル ˈクトー ナˈラヌˈヌ ˈナルカー ˈピンギˈレー ˈミサムヌ [ˈkumaːra ˈpiŋgiˈru ˈkṵtoː naˈranu ˈnu ˈnarukaː ˈpiŋgiˈreː ˈmisamunu](此処から逃げることはできないが、できたら逃げればいいのに)。ˈクマーラ ˈパーˈク ˈピンギˈリ [ˈkumaːra ˈpaːˈku ˈpiŋgiˈri](此処から早く逃げろ < 逃げれ >)。

ˈピング [ˈpiŋgu] 【名】なべずみ (鍋墨)。鍋・釜の底に付く煤煙(バイエン)。「へぐろ < 竈黒 >」の転訛したものか。「へんご」『混効験集』。汚れ。ピˈサˈビ [pi̥ˈsaˈbi](鍋墨。へぐろ。「竈錆(へサビ)」の転訛か) ともいう。ウˈムˈティナー ˈピングヌˈ マˈマリベー [ʔuˈmuˈtinaː ˈpiŋgunuˈ maˈmari beː](顔に鍋墨が付いて < 塗られて > いる)。

ˈビングˈサー [ˈbiŋguˈsaː] 【名】能弁家。標準語の「弁護士」から転訛。ウˈレー ビングˈサー ヤˈルンダˈ ターˈンˈ ウˈリンˈスコー フˈチェーˈ カˈナーˈヌ [ʔuˈreː biŋguˈsaː jaˈrundaˈ taːˈŋˈ ʔuˈrinˈsṵkoː ɸṵˈʧeːˈ kaˈnaːˈnu](彼は能弁家だから、誰も彼には弁舌 < 口 > は敵わない)。

ˈビングタタミ [ˈbiŋgutatami] 【名】い (藺) で編んだ上質の畳表を使用した畳。「びんごたたみ (備後畳)」の転訛。ムˈカˈシェー ˈビングタタミˈ シˈキソーˈレール ˈヤーˈヤー ˈギューキブルティル アッˈタ [muˈkaˈʃeː ˈbiŋgutatamiˈ ʃi̥ˈkisoːˈreːru ˈjaːˈja ˈgjuːkiburutiru ʔatˈta](昔は備後畳を敷くことの出来る家は何軒としかなかった)。

ˈビングムス [ˈbiŋgumusu] 【名】い (藺) で編んだむしろ (筵)。肌触りのいい、上品な筵。ˈビングムスˈ シˈキティˈ ッˈふァˈ ニˈバシ [ˈbiŋgumusuˈ ʃi̥ˈkitiˈ fˈfaˈ niˈbaʃi](備後筵(ムシロ)を敷いて子供を寝かせ)。

ピングˈラーピングラーˈシ [piŋguˈraːpiŋguraːˈʃi] 【副】肌寒く。肌に少し寒く感じられるさま。ˈミーニシヌ フˈクˈター ピングˈラーピングラーˈシティ スˈナˈカーン ッˈスマラˈヌ [ˈmiːniʃinu ɸṵˈkuˈtaː piŋguˈraːpiŋguraːˈʃi̥ti suˈnaˈkaːn sˈsumaraˈnu](ミーニシ < 秋ごろに吹く北風 > が吹いたので薄ら肌寒くて海中に潜られない)。

ˈビングリマーˈスン [ˈbiŋgurimaːˈsuŋ] 【他動】抉(エグ)る。「抉り回す」の義。ˈクルン [ˈkuruŋ](抉る) ともいう。ˈッサリ ˈベーンˈ トンマー ˈビングリマーˈシ ˈトゥリ シˈティリ [ˈssari ˈbeːnˈ tommaː ˈbiŋgurimaːˈʃi ˈturi ʃi̥ˈtiri](腐っているところは抉り取って捨てよ)。ˈビングリマーˈスンティ ˈスンドゥˈ プニナー シゥˈカッティティ ビングリマーサラˈヌ [ˈbiŋgurimaːˈsunti ˈsunduˈ punina: si̥ˈkattiti biŋgurimaːsaraˈnu](抉(エグ)ろうとするが、骨に触れて抉られない)。ˈクマー ˈビングリマーˈス ˈクトー ナˈラˈヌ [ˈkumaː ˈbiŋgurimaːˈsu ˈkṵtoː naˈraˈnu](ここは抉ることはできない)。ˈビングリマーˈシェー ˈミサムヌ [ˈbiŋgurimaːˈʃeː ˈmisamunu](抉ればいいのに)。ˈクマー ˈビングリマーˈシ [ˈkumaː ˈbiŋgurimaːˈʃi](ここは抉れ)。

ˈピンˈグル [ˈpiŋˈguru] 【名】 1冷え込み。冷気。ˈピングルˈヌ ˈスーˈリ ˈケーチバ パˈナシキˈ カˈカラシムンˈヨー ピˈルバˈ ヌビナ パˈカシ [ˈpiŋguruˈnu ˈsuːˈri ˈkeːʧiba paˈnaʃi̥kiˈ kḁˈkaraʃimuŋˈjoː piˈrubaˈ nubina pḁˈkaʃi](冷え込みが強くなってきたから、風邪に罹(カカ)らせないように大蒜(ニンニク)を糸に貫き通して首に穿(ハ)かせ)。2病気になる冷気、破傷風菌。キˈジェーラ ピングルˈヌ ˈペーˈルカー ハˈチョーフーˈ ナルンティˈダー [kiˈʤeːra piŋguruˈnu ˈpeːˈrukaː hḁˈʧoːɸuːˈ narntiˈdaː](傷口から冷え込み < 破傷風菌 > が体内に入ると破傷風の病気になるそうだよ)。

ˈピンˈグルン [ˈpiŋˈguruŋ] 【自動】冷える。ˈキューˈヤ (ワ) ˈキン キˈサンˈカー ˈピンˈグルンダ ˈピングランˈスコーシ カˈサビˈ キˈシ [ˈkjuːˈja(wa) ˈkiŋ ki̥ˈsaŋˈkaː ˈpiŋˈgurunda ˈpiŋguranˈsṵkoːʃi kaˈsabiˈ ki̥ˈʃi](今日は着物を着ないと冷え込むから、重ねて着 < 重ね着し > なさい)。ˈアミンˈゾッふァーリティ ピンˈグリ ˈナーˈヌ [ˈʔaminˈʤoffaːriti piŋˈguri ˈnaːˈnu](雨に濡れて体が冷えてしまった)。ウˈビッチンˈヌ ˈアミシェー ˈピンˈグル ˈクトー ˈナーˈヌ [ʔuˈbittʃinˈnu ˈʔamiʃeː ˈpiŋˈguru ˈkṵtoː ˈnaːˈnu](これっぽっちの雨で冷え込むことはない)。ˈマーˈビン ˈピンˈグレー ˈミサムヌ [ˈmaːˈbim ˈpiŋˈgureː ˈmisamunu](もっと冷えこめばいいのに)。ˈピンˈグリバ [ˈpiŋˈguriba](冷えこ

め)。

˞ピン˞グローン [˞piŋ˞guroːŋ] 【形】寒い。肌寒い。冷たい。˞ピー˞ヤンとも言う。ニ˞シカジェー　ピン˞グローン [ni˞ʃikaʤeː piŋ˞guroːŋ](北風は冷たい)。˞キュー˞ヤ (ワ)　˞ピングロー˞ヌ　˞フカンター　ン˞ジララ˞ヌ [˞kjuː˞ja(wa) ˞piŋguroː˞nu ˞ɸu̥kantaː ʔn˞ʤirara˞nu](今日は肌寒くて外へは出られない)。˞ピングロー　ナーン˞タンティン　˞フカンター　ン˞ジル˞ナ [˞piŋguroː naːn˞tantiŋ ˞ɸu̥kantaː ʔn˞ʤiru˞na](肌寒くなくても外へは出るな)。˞シンダイ　ピン˞グロー　˞ナリ　˞ケーン [˞ʃindai piŋ˞guroː ˞narikeːŋ](次第に肌寒くなってきた)。˞ピン˞グロー　˞ピンマー　ヤ˞ラ˞ベー　˞フカー　ン˞ザス˞ナ [˞piŋ˞guroː ˞pimmaː ja˞ra˞beː ˞ɸu̥kaː ʔn˞ʤasu˞na](寒い日には子供は外へ出すな)。

˞ピン˞グン [˞piŋ˞guŋ] 【自動】逃げる。ウ˞シェー˞　バ˞ツァマン˞カー　˞ピン˞グン˞ダー [ʔu˞ʃeː˞ ba˞tsamaŋ˞kaː ˞piŋ˞gun˞daː](牛は鼻綱を木に繋がないと逃げるよ)。パ˞ナブー˞　シ˞ナイ˞　シケーンダ　˞ピンガ˞ヌ [pa˞nabuː˞ ʃi˞nai˞ ʃi̥keːnda ˞piŋga˞nu](鼻綱を繋いであるから逃げない)。˞ピン˞ギ　パリ˞ナー˞ヌ [˞piŋ˞gi pari˞naː˞nu](逃げていってしまった)。˞ピン˞グ　˞ワケー　˞ナー˞ヌ [˞piŋ˞gu ˞wakeː ˞naː˞nu](逃げるわけがない)。˞クマーラ　˞ピン˞ゲー　˞ミサムヌ [˞kumaːra ˞piŋ˞geː ˞misamunu](ここから逃げればいいのに)。˞ピン˞ギ [˞piŋ˞gi](逃げよ)。

˞ビンサー [˞binsaː] 【名】能弁家。弁達者。よく喋る者。「弁する者」の義。ウ˞レー　ビンサー˞　ヤ˞ルンダ˞　ギイン　シ˞ミルワー˞　マ˞シ [ʔu˞reː binsaː˞ ja˞runda˞ gijiŋ ʃi˞miruwaː˞ ma˞ʃi](彼は能弁家だから議員にさせる <～しめる > のが良い)。ヤ˞ラビ˞ヌ　˞ビンサー˞　ナリティ　ウ˞ヤン˞ナーニン　フ˞チウタイル　スーバン [ja˞rabi˞nu ˞binsaː˞ nariti ʔu˞jan˞naːniŋ ɸu̥˞ʧiʔutairu suːbaŋ](子供のくせに弁達者になって親にも反抗 < 口答え > をするよ)。

˞ピンザ˞スン [˞pinʤa˞suŋ] 【他動】露出させる。内部のものを外に出す。突き出す。フ˞ク˞ローラ　˞ピンザ˞スンティ　˞スンドゥ　ピンザサラ˞ヌ [ɸu̥˞ku˞roːra ˞pinʤa˞sunti ˞sundu pinʤasara˞nu](袋から外に突き出そうとするが、突き出されない)。ス˞ブ˞ル　˞ピンザ˞シ　˞ミサカー　˞ピンザ˞ス　˞クトー　˞ナルン [su˞bu˞ru ˞pinʤa˞ʃi ˞misakaː ˞pinʤa˞su ˞ku̥toː ˞naruŋ](頭を外へ突き出してよければ突き出すことは出来る)。˞マー˞ビン　˞ピンザ˞シェー　˞ミサムヌ [˞maː˞bim ˞pinʤa˞ʃeː ˞misamunu](もっと突き出せばいいのに)。˞ピンザ˞シバ [˞pinʤa˞ʃiba](突き出せよ)。

˞ピン˞ジ　˞トゥンジ [˞pin˞ʤi ˞tunʤi] 【連】突き出たり、飛び出たりすること。でこぼこ (凸凹) なこと。˞ウン˞ネヌ　˞グス˞コー　˞ピン˞ジ　˞トゥンジヌ　˞アルンダ　˞クーリンギサ˞ル [˞ʔun˞nenu ˞gusu̥˞koː ˞pin˞ʤi ˞tunʤinu ˞ʔarunda ˞kuːriŋgisa˞ru](あの家の石垣は凸凹があるので崩れそうだ)。

˞ピンジ˞ルン [˞pinʤi˞ruŋ] 【自動】露出する。飛び出る。内部のものが外に出る。突き出る。˞シーッふァイパー˞ヌ　カ˞カウ˞カー　˞ミーパーヌ　ピン˞ジ　˞クン [˞ʃiːffaipaː˞nu kḁ˞kau˞kaː ˞miːpaːnu pin˞ʤi ˞kuŋ](乳歯が欠けると新しい歯が出てくる)。˞ウスク˞カー　˞ミーヌ　ピンジ˞ルンダ　˞ピンジラン˞ヨーニ　ヤー˞ラマ˞シ　˞マーシ [˞ʔusu̥ku˞kaː ˞miːnu pinʤi˞runda ˞pinʤiraŋ˞joːni jaː˞rama˞ʃi ˞maːʃi](押したら中身が飛び出るから、飛び出ないように柔らかく回せ)。˞クマーラ　˞ピンジ˞ル　˞バイ˞ヤー　˞ブリ　˞トゥリバ [˞kumaːra ˞pinʤi˞ru ˞bai˞jaː ˞buri ˞turiba](ここから突き出る芽は折り取れ)。˞マー˞ビン　˞ピンジ˞レー　˞ミサムヌ [˞maː˞bim ˞pinʤi˞reː ˞misamunu](もっと突き出れば良いのに)。

˞ピン˞ズン [˞pin˞ʤuŋ] 【自動】突き出る。露出する。芽が出る。マ˞ミ˞ヌ　˞サニ　˞マキティ　˞トゥッカ˞　タトゥカー　˞バイ˞ヤー　˞ピン˞ズン [ma˞mi˞nu ˞sani ˞makiti ˞tukka˞ tḁtukaː ˞bai˞jaː ˞pin˞ʤuŋ](豆の種を蒔いて十日経つと芽が出る)。マ˞ダ　ピンザ˞ヌ [ma˞da pinʤa˞nu](まだ発芽しない)。˞ピン˞ジ　˞ケーン [˞pin˞ʤikeːŋ](芽が出てきた)。˞バイ˞ヌ　˞ピン˞ズ　˞ピン [˞bai˞nu ˞pin˞ʤu ˞piŋ](芽が出る時)。˞パー˞ク　˞ピン˞ジェー　˞ミサムヌ [˞paː˞ku ˞pin˞ʤeː ˞misamunu](早く芽がデレが < 突き出れば > 良いのに)。タ˞キ˞ヌ　タ˞カー˞ティ　˞パン˞ヌ　サ˞ケー˞　ウゾーラ　˞ピン˞ジ　˞ベー [tḁ˞ki˞nu tḁ˞kaː˞ti ˞pan˞nu sḁ˞keː˞ ʔuʤoːra ˞pin˞ʤi ˞beː](身長が高いので、足首が布団から突き出ている)。イ˞ツァ˞ヌ　˞ピサン　˞トンマー　˞フンマー　ピン˞ズン [ʔi˞tsa˞nu ˞pi̥san ˞tommaː ˞ɸummaː pin˞ʤuŋ](板の薄いところは、釘は飛び出る)。ア˞ツァン˞　トンマー　˞フンマー　ピンザ˞ヌ [ʔa˞tsan˞ tommaː ˞ɸummaː pinʤa˞nu](厚い所は、釘は突き出ない)。˞フンマー　ピン˞ジ　˞ナー˞ヌ [˞ɸummaː pin˞ʤi ˞naː˞nu](釘は突き出てしまった)。˞フンヌ　ピン˞ズ　˞クトー　˞ナー˞ヌ [˞ɸunnu pin˞ʤu ˞ku̥toː ˞naː˞nu](釘が突き出ることはない)。ン˞ベーマー　ピン˞ジェー　˞ミサムヌ

[ʔmˈbeːmaː pinˈʤeː ˈmisamunu](少しは突き出ればいいのに)。˹ピン˺ジ [ˈpinˈʤi](突き出よ)。

˹ピン˺ソー [ˈpinˈsoː] 【名】貧乏。˹ウン˺ネーヤ　ムˈカ˺シェー　˹ピン˺ソー　˹ヤッタヌ˺　マˈナ˺マー　ウˈヤ˺キヤー　ナリ　˹ベー [ˈʔunˈneːja muˈkaˈʃeː ˈpin˺soː ˈjattanu˺ maˈnaˈmaː ʔuˈjaˈkijaː ˈnari ˈbeː](あの家は昔は貧乏だったが、今は金持ちになっている)。˹ピンソー˺ヌ　˹カン˺バ　˺カミ　˺マイ　˹ユーザラヌ [ˈpinsoː˺nu ˈkam˺ba ˈkami ˈmai ˈjuːʤaranu](貧乏の神を頭に頂いて < 貧乏の神に取り付かれて > 前に進めない)。

˹ピン˺ソー　タˈタ˺クン [ˈpinˈsoː tạˈtaˈkuŋ] 【連】貧乏を極める。極貧(ゴクヒン)に喘(アエ)ぐ。シˈグトー　ナー˺ムティ　ッˈふァヌ　ゴー˺ラーサーリ　シˈナー˺ユンダ　˹ピン˺ソー　タˈタキ˺ル　˹ブー [ʃiˈguto: naː˺muti fˈfanu goː˺raːsaːri ʃiˈnaː˺junda ˈpinˈsoː tạˈtaki˺ru ˈbuː](仕事はなくて、子供は多いし、幼いので貧乏のどん底にある < 貧乏を極めている >)。

˹ピンソー˺ミン [ˈpinsoː˺miŋ] 【名】貧相な耳。耳たぶの小さな耳。「貧乏耳」の義。ウˈヤ˺キミン [ʔuˈja˺kimiŋ](福耳(フクミミ)。福相の耳) の対義語。˹ピンソーミン˺ドゥ　ヤˈルバントナー　アイ　˹ヤー˺ティル　˹ピン˺ソー　˹シー　ブー˺ユー　ウˈレー [ˈpinsoːmin ˺du jaˈrubanˈna: ˺ʔai ˈja:˺tiru ˈpin˺soː ˈʃiː buː˺juː ʔuˈreː](貧相な耳だねえ、それで貧乏をしているのかなあ、彼は)。

˹ピンソー˺ムヌ [ˈpinsoː˺munu] 【名】貧乏人。˹ピンソームヌ˺ヌ　ッˈふァヌル　マイフナーヤ˺　マˈリル [ˈpinsoːmunu˺nu fˈfanuru maiɸunaːja˺ maˈriru](貧乏人の子供が成功する < 立身出世する人は生まれる >)。

˹ピンソー˺ヤー [ˈpinsoː˺jaː] 【名】貧乏な家。貧しい家。ひんか (貧家)。「貧相家」の義。˹ピンソーヤー˺ヌ　ッˈふァ˺　ヤˈルンダ˺　イッˈケナ˺　ムˈヌアタラ˺サ　˹スン [ˈpinsoːja˺nu fˈfa˺ jaˈrunda˺ ʔikˈkena˺ muˈnuʔatara˺sa ˈsuŋ](貧しい家の子供だから非常に物を大事にする < 物可惜しさする。物惜しみする >)。

˹ビン˺タ [ˈbin˺ta] 【名】1びん (鬢)。頭の左右の髪。左右の頬に伸びた髪。˹ウンザー　ビン˺タ　ヌˈバ˺シティ　ウˈブナクラー˺ン [ˈʔunʤaː bin˺ta nuˈba˺ʃi̥ti ʔuˈbunakuraː˺ŋ](あの野郎は鬢(ビン)を伸ばして薄気味悪い)。2ほほ (頬)。ほっぺた。標準語からの借用語。˺アイティ　˹ビン˺タ　ウˈタ˺リティ　ナˈキ　ベー [˺ʔaiti ˈbin˺ta ʔuˈta˺riti naˈki beː](喧嘩して、びんたを張られて < 横っ面をたたかれて > 泣いている)。˹ビン˺タ　ッˈふァースン [ˈbin˺ta fˈfaːsuŋ](ビンタを食らわす)。普通は、˺シラ　˺ウトゥン [˺ʃira ˺ʔutuŋ](顔 < 面 > を打つ < 張り飛ばす >) という。

˹ビン˺ダライ [ˈbin˺darai] 【名】洗面器。「Bindarai. ビンダライ (鬢盥) 男の髪を整える時に、櫛を濡らすのに使う小うさな器」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˹ビン˺ダライナー　ミˈジェー˺　イˈリティ˺　ウˈム˺ティ　˺シミバ [ˈbin˺daraina: miˈʤeː˺ ʔiˈriti ˺ʔuˈmu˺ti ˺ʃimiba](洗面器に水を入れて顔 < 面 > を洗い <澄(ス)み、清み > なさい)。

ビンダˈロー˺マキー [bindaˈroː˺makiː] 【名】 (植) ハスノハギリ。常緑高木。材質は軽くて柔らかく弱い。海岸に自生していたが今は少ない。この木の下にいる˺マコヤ [˺makoja](ヤシガニ) は有毒であると言われている。実は卵形 (3〜4 センチ) で先端に穴のある総包に包まれていて、子供たちがそれを吹き鳴らして遊んだことから命名されたもの。ビンダˈロー˺マキーヌ　ッˈサンタ˺ナ　˹ブー˺　マコヤーヤ　ドゥˈク˺ヌ　˺アンダー　ッˈふァーラヌ [ˈbindaroː˺makiːnu sˈsanta˺na ˈbuː˺ makojaːja duˈku˺nu ˺ʔanda fˈfaːrunu](ハスノハギリの下にいるヤシガニは毒があるから食べられない < 茹でても赤くならない蟹は有毒といわれている >)。「ビードロ (vidro)」(玩具) の転訛したものか。種子の中身を除去して鳴り物を作った。葉は鼠除けとして、シˈラ [ʃiˈra](いなむら < 稲叢 >) に差し込んだり、穀類の俵の側においたりした。ビンダˈロー˺マキーナ　˹ブー˺　マコヤーヤ　˹ビー˺ルンティ　アˈザリ　ブー [bindaˈroː˺makiːna ˈbuː˺ makojaːja ˈbiː˺runti ʔaˈʤari buː](ハスノハギリにいるヤシガニは食中毒を起こすといわれている)。

˹ピンティカン˺ティ [ˈpintikan˺ti] 【副】あっちこっち突き出るさま。でこぼこしているさま。ごつごつしているさま。ABCDBC 型の重言。クˈヌ　キー˺ヤ　ブˈシ˺ヌ　˹ピンティカン˺ティ　˹シー˺　ブシブッター　˺ナリティ　キˈジングリサ˺ヌ　ナˈラ˺ヌ [kuˈnu kiː˺ja buˈʃi˺nu ˈpintikan˺ti ˈʃiː˺ buʃibuttaː˺ nariti kiˈʤiŋgurisa˺nu naˈra˺nu](この木は節がごつごつして、節だらけになって削りにくくて堪(タマ)らない)。

˹ビントー [ˈbintoː] 【名】弁当。˹ピントゥルピン　ビントーヤ˺　ムˈティ˺ル　シˈグトー˺　ンジ　˹ブー [ˈpinturupim bintoːja˺ muˈti˺ru ʃiˈguto:˺ ʔnʤi ˈbuː](毎日弁当を持って仕事へは出ている)。ムˈティビン˺

トー　˞シール　テー˥ナイ　˞シー　ッふィーッタル [muˠtibin˥to: ˞ʃi:ru te:˥nai ˞ʃi: ffi:ttaru](弁当持参で手伝ってあげた)。

˞ピントー [˞pinto:] 【名】返答。返事。プ˞スヌ˥　ヤ˞ラブ˥カー　˞ピントー　シー˥バ [pu̥ˠsunu˥ jaˠrabu˥ka: ˞pinto: ʃi:˥ba](人が呼んだら返答しなさいよ)。アˠバトゥナ˥　ユー　˞カンガイ˥ヤーティル　˞ピントーヤ　スート ダー [ʔaˠbatuna˥ ju: ˞kaŋgai˥ja:tiru ˞pinto:ja su:˧da:](急ぐ＜慌てる＞な、よく考えてから＜ぞ＞返事はするものだ)。˞ピントーヌ　ナーン˥カー　˥ミサンティヌ　˥クトゥ　˥ミー [˞pinto:nu na:ŋ˥ka: ˥misantinu ˥ku̥tumi:](返事が無いことは、よろしいとのことだね)。

˞ビントーバク [˞binto:baku] 【名】弁当箱。標準語からの借用語。アルミやステンレス製の近代的な弁当箱が導入される以前は、フˠタディル [ɸu̥ˠtadiru](竹製の蓋付笊(フタツキザル)) に芋のお握り弁当を入れて畑仕事に出たものである。˞ビントーバコー˥　チˠカ˥グル˥シェーラル　ンジケールˠナー [˞binto:bakoː˥ ʧi̥˞ka˥guru ˥ʃe:raru ʔnʤike:ruˠna:](弁当箱は近頃になってから出てきたんだよねえ)。

˞ピントゥルピン [˞pinturupiŋ] 【名】毎日毎日。˞ピントゥルピン　ウンヌイー˥バ　フˠタディル˥ナ　ムティティ　パˠタ˥ケー　˞パッ˥タ [˞pinturupiŋ ʔunnui:˥ba ɸu̥ˠtadiru˥na mutiti pḁˠta˥ke: ˞pat˥ta](毎日毎日、芋の握り飯を蓋付き弁当駕籠に持って畑に行った)。˞ピントゥルピン˥　ユˠヌシグトゥ˥バ　シˠミラリティ˥　アˠキリ　ナー˥ヌ [˞pinturupin˥ juˠnuʃigutu˥ba ʃiˠmirariti˥ ʔaˠkiri na:˥nu](毎日同じ仕事をさせられて飽きてしまった)。

˞ヒン˥ビン [˞çim˥biŋ] 【名】返却。借りた物を返すこと。「へんべん (返弁)」の転訛。カ˞ラシタ　サイクドン˥グン　˞ヒン˥ビン　˞サンユンダ˥　ウ˞リンマー˥　ノー˞ン˥　カ˞ラシ˥プサー　˞ナー˥ヌ [kaˠraʃi̥ta saikudoŋ˥guŋ ˞çim˥bin ˞saɲjunda˥ ʔuˠrimma:˥ no:˞ŋ˥ kaˠraʃi˥pusa: ˞na:˥nu](貸した大工道具も返却しないから、彼には何も貸したくない)。

˥ビンビン [˥bimbiŋ]【副】1びゅうびゅう。˞ビンビン˥シ　カ˞ジヌ˥　フクン [˞bimbiŋ˥ʃi kaˠʤinu˥ ɸu̥kuŋ](びゅうびゅうと風が吹く)。2びゅんびゅんと。すいすいと。船などが高速で走るさま。˥フネー　˞ビンビン˥シ　トゥ˞バシパッタ [˥ɸune: ˞bimbiŋ˥ʃi tuˠbaʃipat˥ta](船はびゅんびゅんと飛ばしていった)。

˞ピンピン [˞pimpiŋ] (1)【名】毎日。日々。˞ピンピンヌ˥　シˠグトー　バシキルナ [˞pimpinnu˥ ʃiˠguto: baʃi̥kiruna](日々の仕事は忘れるな)。˞ピンピンマー˥　ッˠふァーラヌ˥　マˠルケーティナー˥ル　ッˠふァーリル [˞pimpimma:˥ fˠfa:ranu˥ maˠruke:tina:ru fˠfa:riru](毎日は食べられない。稀(マレ)にしか食べられない＜稀にぞ食べられる＞)。 **(2)**【副】ヤˠラ˥ベー　˞ピンピン˥　フˠドゥビス [jaˠra˥be: ˞pimpiŋ˥ ɸuˠdubisu](子供は毎日成長するものだ)。

˞ピン˥プン [˞pim˥puŋ] 【名】家の前にある石積みの塀。目隠し。庭前塀。石垣方言からの借用語。中国福建省では、同様な塀を「ピンプン＜屏風＞」という『沖縄の民間信仰』。普通は、ナˠカグス˥ク [naˠkagusu̥˥ku](中石垣) という。長さ約 4 メートル、高さ約 2 メートル、巾約 50 センチに積まれた石垣。石垣のナˠカフク˥ル [naˠkaɸuku˥ru](中央部、「中袋」の義) には小石を詰め、組石の間隙を埋めて石垣を固めるようにしてある。ナカグスクの内側にはパˠナ˥ギ [paˠna˥gi](花弁(カキ))。クロトン、トゥˠラヌズー [tuˠranuʤu:]＜とらのお＞) 類を植栽し、シˠキダ˥チズングニチ [ʃi̥ˠkida˥ʧiʤuŋguniʧi](朔日、十五日) の朝には床の間の神前や仏間の仏前に花木を活け、˞サー˥ド [˞sa:˥do](茶湯(チャトウ)) を供えた。ウˠブ˥ヤー [ʔuˠbu˥ja:](母屋) と˞ペーラ˥フチ [˞pe:ra˥ɸuʧi](門。「入り口」の義) の中間にある石垣で、母屋の軒からの距離は棺を運ぶ龕が入る長さに設定されているという。門より内側に向かって右側は上手、左側は下手となる。祝儀の際の客人は上手より家に入り、不祝儀や法事の際の客人は下手より出入りしたが、現在はその不文律も忘れられている。親しい人は、普通は下手より出入りした。

フ

˥ブ [˥bu] 【名】(数) 分。ある物を十等分したものの一つを表す単位。十分の一。一寸の十分の一。ミ˩ジェー˥　カ˩ミ˥ヌ　ハ˩チ˥ブブカラドゥ　ヌ˩カ˥リ˩ベー [mi˩ʤe:˥ ka˩mi˥nu ha˩ʧi˥bubukaradu nu˩ka˥ri˩be:](水は水瓶の八分ばかりが残っている)。シ˩タディ˥トゥ　˩パイルトゥ˥　グ˩ブグブナー˥　イ˩リティ　アー˥シバ [ʃi̥˩tadi˥tu ˩pairutu˥ gu˩bugubuna:˥ ʔi˩riti ʔa:˥ʃiba](醤油 < 下地 > と酢と五分五分に入れて合わせ酢にしなさい < 合わせなさい > よ)。

˥フー [˥ɸu:] 【名】運。幸運。果報。めぐり合わせ。「Fu、フ (符)　運、あるいは、めぐり合わせ. Funo yoi varui fito,(符の良い、または、悪い人) 幸運な人、または、不運な人」『邦訳日葡辞書』の転訛。ッ˩ふァイフー [fˀfaiɸu:](食べることの幸運)。トゥ˩ジフー [tu˩ʤiɸu:](妻に恵まれる運)。ッ˩ふァフー [fˀfaɸu:](子宝の運)。ク˩ヌ˥　イ˩クサナー　ヌ˩チ˥バ　˩ムイラ˥リ　˩ワー˥　イッ˩ケナ　フー˥バ　シ˩キ˥ル　マ˩リ˥ケール [ku˩nu˥ ʔi˩ku˥sana: nu˩ʧi˥ba ˩muira˥ri ˩wa:˥ ʔik˩kena ɸu:˥ba ʃi̥˩ki˥ru ma˩ri˥ke:ru](この戦争で生きて帰れて < 命が萌えられて >、君は非常に幸運に恵まれて < 符が付いて > 生まれてきているよ)。˥ガバーフー　˥スクン [˥gaba:ɸu: ˥su̥kuŋ](大きな幸運が付く)。

˩フー [˩ɸu:] 【名】封。密封すること。˩ミー˥スカメー　フ˩ター˥　シ˩ティ˥　フ˩チェー˥　ア˩バ˥ガビシ　ッ˩スミティ　˩フー　シー˥　シ˩キ˥リ [˩mi:˥sukame: ɸu̥˩ta:˥ ʃi̥˩ti˥ ɸu̥˩ʧe:˥ ʔa˩ba˥gabiʃi s˩su˥miti ˩ɸu: ʃi:˥ ʃi̥˩ki˥ri](味噌甕は蓋をして、口部 < 口 > は油紙で包んで密封して < 封をして > おきなさい)。

˥ブー [˥bu:] 【名】お (苧)。苧麻(チョマ)。からむし。「麻苧(アサオ)、乎 < を >、一云阿佐 < あさ >」『和名抄』の義。八重山上布の原料となる。˥ブーキン [˥bu:kiŋ](麻布で仕立てた着物)。˥ブー　˩ウー˥ムン [˥bu ˩ʔu:˥muŋ](麻糸を績(ウ)む)。ム˩カ˥シェー　˩タッ˥テヌ　˩ウイ˥プスン　˥ブー　˩ウー˥ミティ　˥スクイナー　タ˩ブイヨーッ˥タン [mu˩ka˥ʃe: ˩tat˥tenu ˩ʔui˥pu̥sum ˥bu: ˩ʔu:˥miti ˥su̥kuina: ta˩buijo:t˥taŋ](昔は何処の家の年寄りも苧(オ)を績(ウ)んでスクイ < をけ、麻笥(オケ)。(麻(ソ)。ァサの古名)> に貯えておられたものだ)。

˩ブー [˩bu:] 【名】ひも (紐)。緒。下駄や草履などの緒や鼻緒。ア˩シツァ˥ヌ　˩ブーヌ˥　キシ　˩ナー˥ヌ [ʔa˩ʃitsa˥nu ˩bu:nu˥ ki̥ʃi ˩na:˥nu](下駄の緒が切れてしまった)。ア˩シツァ˥ヌ　パ˩ナブー˥　シ˩キ˥リ [ʔa˩ʃitsa˥nu pa˩nabu:˥ ʃi̥˩ki˥ri](下駄の鼻緒をつけろ)。˩パウルヌ　ブー [˩paurunu bu:](羽織の紐)。˩ブー˥　シ˩ナウン [˩bu:˥ ʃi˩nauŋ](紐を結ぶ < 繋ぐ >)。鳩間方言では、しっぽ (尾) に対して˩ブー [˩bu:] とは言わない。˩ズー [˩ʤu:](尾) という。

˥ブー [˥bu:] 【名】人夫。ぶやく < 夫役 > を課せられた人。労働の役務を課せられた人。グ˩ニンブーヌ˥　ッ˩サークバ　タン˥ガシ　˩シー˥　シケー [gu˩nimbu:nu˥ s˩sa:kuba taŋga˥ʃi ˩ʃi:˥ ʃi̥ke:](五人前の夫役を一人でしてある)。

˥プー [˥pu:] 【名】穂。「秋の田の穂のへ < 穂上 > に霧らふ〜。万、88」の転訛。˩マイヌ˥　プー [˩mainu˥ pu:](稲の穂)。˩アー˥ヌ　˥プー [˩ʔa:˥nu ˥pu:](粟の穂)。˩ムン˥ヌ　˥プー [˩mun˥nu ˥pu:](麦の穂)。˩マイヌ　プー˥ヤ　ン˩ジ˥キシェーン [˩mainu pu:˥ja ʔn˩ʤi˥ki̥ʃe:ŋ](稲穂は出揃った < 出尽くした >)。

˩プー [˩pu:] 【名】帆。「海人小船　帆かもはれる〜。万、1182」、「帆、保 < ほ >」『和名抄』の転訛。帆には、˥イダフニヌ　˩プー [˥ʔidaɸuninu ˩pu:](板舟 < サバニ > の帆)。この帆の形を˩プーザンプー [˩pu:ʤampu:]<˩帆桟帆」の義か > という」と、˩ティンマヌ　プー [˩timmanu pu:](伝馬船の帆)、この形をフ˩クル˥プー [ɸu̥˩kuru˥pu:](˩袋帆」の義か。和船の帆) という、の二種類があった。˩プー˥　ピ˩キティ˥　フニ　パ˩ラ˥シ [˩pu:˥ pi̥˩kiti˥ ɸuni pa˩ra˥ʃi](帆を上げて < 引いて > 舟を走らせよ)。

˩プー [˩pu:] 【名】皮膚病の一種。皮膚の一部に粟粒状の発疹(ホッシン)ができて痒くなり、痛くなる病気。原因不明の皮膚病とされ、老婆たちがタバコの煙を吹

きかけて呪文を唱える治療を施していた。ヌˈビˈカジナー　ˈプーヌˈ　ンジ　ˈベーˈティ　ˈアッパー　タˈバクˈヌ　キˈボーシバˈ　フˈキˈカキティ　フˈチカザルˈ　シˈティ　トゥンザˈク　ˈソーッˈタ [nuˈbi ˈkaʤinaː ˈpuːnuˈ ʔnʤi ˈbeːˈti ˈʔappaː taˈbakuˈnu ki ˈboːʃibaˈ ɸu̥ˈkiˈkḁkiti ɸu̥ˈʧikaʤaruˈ ʃi̥ˈti tunʤaˈku ˈsoːtˈta](首筋 < うなじ > にプー < 発疹 > が出ているので、お婆さんがタバコの煙を吹きかけて呪文を唱えて治療 <ˈ頓着」の義。転じてˈ看病」をすること > をされた)。

ˈブーイトゥ [ˈbuːʔitu] 【名】麻糸。苧麻 (カラムシ) の繊維を績んで造った糸。ムˈカˈシェー　ˈキンヌイイトゥˈヌ　ˈナーンˈユンダ　ˈブーイトゥシル　ˈキンˈユン　ヌイˈヨーッˈタ [muˈkaˈʃeː ˈkinnuiʔituˈnu ˈnaːɲˈjunda ˈbuːʔituʃiru ˈkiɲˈjun nuiˈjoːtˈta](昔は縫い糸もなかったので、麻糸で着物も縫われたものだ)。

ˈブー　ˈウーˈムン [ˈbuː ˈʔuːˈmuŋ] 【連】麻糸を紡ぐ < 績む >。イˈクサユーˈヌ　ˈアトゥ　ˈジューˈネンブカラ　ˈバーˈケー　ˈブーˈバ　ˈウーミˈル　ˈヌーヌンˈ　ウˈリティˈ　キン　ˈサーソーッˈタˈル [ʔi ˈkusajuːˈnu ˈʔatu ˈʤuːˈnembukara ˈbaːˈkeː ˈbuːˈba ˈʔuːmiˈru ˈnuːnuŋˈ ʔuˈritiˈ kin ˈsaːsoːttaˈru](戦後 10 年ぐらいまでは麻を績んで布を織り、着物を仕立てられたものだ)。

ˈブーˈガー [ˈbuːˈgaː] 【名】1化膿した腫れ物の中心部が膨れあがること。腫れ物の根。ˈワーˈ　アˈシˈボー　ˈブーˈガー　ˈナリ　ˈベー [ˈwaːˈ ʔaˈʃiˈboː ˈbuːˈgaː ˈnari ˈbeː](君のお出来 < 腫れ物 > は化膿して膨れ上がっている)。2脱肛。直腸の肛門部が外部へ出たもの。ˈドゥク　ンˈグムˈカー　ˈブーガーˈヌ　ˈトゥンジルンˈダー [ˈduku ʔŋˈgumuˈkaː ˈbuːgaːˈnu ˈtunʤirunˈdaː](あんまり力むと直腸の肛門部が飛び出る < 脱肛する > よ)。

ˈプーˈカー [ˈpuːˈkaː] 【名】風船。シˈダフカˈヌ　ˈオーカーˈ　パギティ　ウˈリヌˈ　ウˈチガーˈシ　ˈプーˈカー　スˈクルˈタン [ʃiˈdaɸu̥kaˈnu ˈʔoːkaːˈ pagiti ʔuˈrinuˈ ʔuˈʧigaːˈʃi ˈpuːkaː su̥ˈkuruˈtaŋ](浜木綿の外皮を剥いで、それの内皮 < その薄い内皮 > で風船を作ったものだ)。

ˈフーガーリ [ˈɸuːgaːri] 【名】風変わり。性格や行動が一風変わっていること。チˈカˈグロー　ˈフーガーリヌˈ　ブˈドゥルヌˈ　パˈヤーˈリティ　ウˈムッˈサー　ˈナーンˈバン [ʧi̥ˈkaˈguroː ˈɸuːgaːrinuˈ buˈdurunuˈ paˈjaːˈriti ʔuˈmusˈsaː ˈnaːmˈbaŋ](近頃は風変わりな踊が流行って面白くないわい)。

ˈブーˈカシ [ˈbuːˈkaʃi] 【名】麻糸。あさがせ (麻綛)。布の縦糸にする麻糸。麻糸を一定の長さの枠に一定回数巻いて、それを枠から取り外して束ねたもの。ˈカシェー　ˈブーˈカシシル　パˈトゥˈムノーˈタティシケーヌ　ヌˈケーˈ　ヌーシ　ウˈルワˈメー [ˈkaʃeː ˈbuːˈkaʃiʃiru pḁˈtuˈmunoː ˈtḁtiʃi̥keːnu nuˈkeːˈ nuːʃi ʔuˈruwaˈmeː](綛糸(アカセイト)は麻綛(アサガセ)で機(ハタ)をたてておいてあるが、ぬきいと <緯糸(ヨコ) > は何で織ろうかねえ、もう)。

ˈフーガフーガ [ˈɸuːgaɸuːga] 【副】さめざめと泣くさま。ウˈヤˈヌ　クˈトゥˈバ　ウˈムイザˈシティ　ˈフーガフーガˈシ　ナˈキベー [ʔuˈjaˈnu ku̥ˈtuˈba ʔu ˈmuiʤaˈʃi̥ti ˈɸuːgaɸuːgaˈʃi naˈki beː](親のことを思い出してさめざめと泣いている)。

ˈフーガフーˈガシ [ˈɸuːgaɸuːgaˈʃi] 【副】さめざめと。声を出して静かに泣く様子。声を押し殺して悲しそうに泣く様子。ˈキューˈヤ (ワ)　ウˈヤˈヌ　クˈトゥˈル　ウˈモーリˈタユー　ˈフーガフーガˈシ　ナˈキベー [ˈkjuːˈja(wa)ʔuˈjaˈnu ku̥ˈtuˈru ʔuˈmoːriˈtajuː ˈɸuːgaɸuːgaˈʃi naˈki beː](今日は、親のことが思い出されたのかさめざめと泣いている)。

ˈフーˈカラ [ˈɸuːˈkara] 【名】ˈマーˈニ [ˈmaːˈni](クロツグ < 桄榔 >) の幹頂につく黒く光沢のある繊維。風雨に晒(サラ)されても強い繊維で、屋根葺きの締め縄や船のアンカー綱、牛の鼻綱に利用される。また座敷箒の素材としても利用される。ˈフーˈカラシ　ˈナウˈシナー　ˈッサリランダ　ナˈガムティ　スン [ˈɸuːˈkaraʃi ˈnau ˈʃinaː ˈssariranda naˈgamuti suŋ](クロツグの繊維で綯った綱は腐れないから長持ちする)。

ˈフーˈカラジナ [ˈɸuːˈkaraʤina] 【名】しゅろ綱 (棕櫚綱)。クロツグの繊維で綯った綱。「クロツグ綱」の義。風雨に強く、ˈイダフニ [ˈʔidaɸuni](板舟。サバニ) のアンカーロープや茅葺屋根の甍を締めるカˈキˈナー [kḁˈkiˈnaː](掛け縄) にも、これを使った。ˈイダフニヌ　ˈアンˈカージナーン　ウˈシヌˈ　パˈナジナーン　フーˈカラジナシル　ˈソーッˈタˈル [ˈʔidaɸuninu ˈʔaŋˈkaːʤinaːŋ ʔuˈʃinuˈ paˈnaʤinaːŋ ɸuːˈ karaʤinaʃiru ˈsoːttaˈru](板舟 < サバニ > のアンカー綱も牛の鼻綱もクロツグ綱でされた < 使用された > ものだ)。

ˈフーˈカラポーキ [ˈɸuːˈkarapoːki] 【名】クロツグの繊維で作った座敷用の箒。座敷箒。ˈフーˈカラポーキシ　イˈチバンˈザー　ˈポーˈキバ [ˈɸuːˈkarapoːkiʃi

ʔiˈʧiban˺ʤaː ˈpoː˺kiba](クロツグの箒で一番座を掃きなさいよ)。

˹フー˺カラムシ [ˈɸuː˺karamuʃi] 【名】(動) 黒い毛虫。˹フー˺カラ [ˈɸuː˺kara](クロツグの繊維) のような毛で覆われた、体長約 5 センチの毛虫。˹フー˺カラムシェー ナˈチンマーラナー˺ル ˺ユー ˺シディティ ˺ンジ ˹クー˺タˈナー [ˈɸuː˺karamuʃeː naˈʧimmaːranaː˺ru ˺juː ˺ʃiditi ˺ʔnʤi ˈkuː˺taˈnaː](黒い毛虫は夏頃に < ぞ > よく孵化して出てきたよねえ)。

˹プーキ [ˈpuːki] 【名】風土病。マラリア。「Fuqi. フゥキ (風気) ひどく熱の出る、ある伝染性の病気」『邦訳日葡辞書』の義。˹プーキ˺ カˈタミ˺プス [ˈpuːki˺ kạˈtami˺pụsu](マラリア患者。「風気担ぎ人」の義)。˹パイタ˺ナー ˹プーキヌ˺ アルンダ (˹アンダ) パˈトゥ˺マプソー ˹タースク˺リン ˹パイ˺ター ˹ギーティ プーキ˺ カˈカ˺ル プˈスン˺ ブˈタン [ˈpaita˺naː ˈpuːkinu˺ ʔarunda(˺ʔanda) pạˈtu˺mapụsoː ˈtaːsụku˺rim ˈpai˺taː ˈgiːti puːki˺ kạˈka˺ru pụˈsum˺ buˈtaŋ](西表島 < 南端 > には風気 < マラリア > があるから、鳩間の人は水田耕作に行って風気に罹る人もいた)。

˹プーキジマ [ˈpuːkiʤima] 【名】マラリア地帯。「マラリア島」の義。戦前は西表島、石垣島の伊原間、平久保などがマラリア有病地とされていた。イˈクサ˺ユーナー ˹グンヌ メイレイ˺シ ˹プーキジマー˺ ヒˈナン˺ シˈミラリティ プーキ˺ カˈカ˺リティ シˈネー˺ プˈスン˺ タカーˈニン ブン [ʔiˈkusa˺juːnaː ˈgunnu meirei˺ʃi ˈpuːkiʤimaː˺ çiˈnaŋ˺ ʃiˈmirariti puːki˺ kạˈka˺riti ʃiˈneː˺ pụˈsun˺ takaːˈnim buŋ](戦争中、軍命令でマラリア有病地 < 西表島や裏石垣 > に避難させられて、マラリアに罹って死んだ人も沢山いる)。

˹フーキシ˺ムヌ [ˈɸuːkiʃi˺munu] 【名】不運な者。幸運から見放された者。「符 < 幸運。果報 > 切れ者」の義。˹フーキシ˺ムヌ ˺ナルカー ノーˈン サバン˺ アˈタラヌ [ˈɸuːkị̊ʃi˺munu ˺naruka: noːˈn sabaŋ˺ ʔaˈtaranu](運が切れたら何事をしても成功しない < 当らない >)。

˹プーギタ [ˈpuːgita] 【名】帆桁。フˈクル˺プー [ɸụˈkuru˺puː](袋帆) の最上段と最下段にある桁。強い木材を利用した。これには、ウˈチ˺マー [ʔuˈʧi˺maː] という縄が張られており、帆が帆柱より離れるのを防ぐ機能を果たしていた。

˺ブーキン [˺buːkiŋ] 【名】からむし (苧) の繊維で織った着物。涼しい着物で上等、高貴な衣服とされた。クˈリル˺ アボー ウˈリッふォー˺レール ブーキンˈダー [kuˈriru˺ ʔaboː ʔuˈriffoː˺reːru buːkinˈdaː](これがお母さんが < ぞ > 織って下さった麻の着物だよ)。

˹フー˺ク [ˈɸuː˺ku] 【名】奉公。他人に尽くす。バˈカーン˺ケンマー ウˈヤカタ˺ヌ ˺ヤーナー グˈニンマー フー˺ク ˹シーティル˺ ケーˈダー [baˈkaːŋ˺kemmaː ʔuˈjakata˺nu ˺jaːnaː guˈnimmaː ɸuː˺ku ˈʃiːtiru˺ keːˈdaː](若かった頃には親方の家に五年間は奉公してから帰ってきたのだよ)。˹ワー˺ メー プˈスヌ フー˺ク カーˈニ シーティ ドゥー˺ヌ ˺クトー イˈチル スーワ [ˈwaː˺ meː pụˈsunu ɸuː˺ku kaːˈni ʃiːti duː˺nu ˺kụto: ʔiˈʧiru suːwa](君は、もう、他人に尽くしてばかりいて < 奉公だけして >、自分のことは何時 < ぞ > するのか)。

˹ブー˺グル [ˈbuː˺guru] 【名】麻の皮をはいだ茎。「おがら (苧殻)」の義。˹ブー˺ガラー ˺プスカー ˹ピータシキ˺ムヌ ナルンˈダー˺ シˈトゥナ˺ヨー [ˈbuː˺garaː ˺pụsukaː ˈpiːtaʃị̊ki˺munu narunˈdaː˺ ʃị̊ˈtuna ˺joː](苧殻は干したら焚付(タキツケ)になるよ、捨てるなよ)。

˹ブー˺サー [ˈbuː˺saː] 【名】じゃんけん (石拳) の一種。「両拳」の転訛とする説、[muʃi]+[jaː](接尾辞)→ [muʃaː] → [buʃaː] → [buːsaː] 説『石垣方言辞典』がある。˹ブー˺サー シˈティ˺ マˈキル˺ プˈソーラ˺ ンジ ˺パリバ [ˈbuː˺saː ʃị̊ˈti˺ maˈkiru˺ pụˈsoːra˺ ʔnʤi ˺pariba](じゃんけん < 石拳 > をして、負ける人から出て行きなさいよ)。

˹プーザンプー [ˈpuːʤampuː] 【名】片帆。横風を帆にはらませて舟の推進力に転換させる構造の帆。「帆桟帆」の義か。形は˺イダフニ [ʔidaɸuni](板舟。< サバニ >) の帆の形と同形。沖縄本島の本部より導入された帆で、それまでのフˈクル˺プー [ɸụˈkuru˺puː](袋帆。真帆。和船の帆) より進んだ機能のある帆という。本部の漁師が鳩間島に来てカツオ漁、イカ釣り漁をしたとき、カˈザケー [kaˈʤakeː](加治工家) に宿をとっていたので、その技術を加治工家の者が学び取ったという。当初鳩間島の人はプーザンプーを見て、˺アイブ ˺ムヌシ ˹ティーアザナー˺ヌ ˺フニ ムˈタ˺リンカヤー [˺ʔaibu ˺munuʃi ˈtiːʔaʤanaː˺nu ˺ɸuni muˈta˺riŋkajaː](あんな物で、手が絡み合って操船できる < 舟がもてる > だろうか) と言っていたが、操船してみるとプーザンプーが便利で機能的であることに気付き、次第に一般に普及していったという (加治工伊佐直話)。ナˈナタン˺

ブー [na˞natam˞bu:](˞七反帆」の義か)、ハ˞チタン˞ブー [hḁ˞ʧitam˞bu:](「八反帆」の義か) が˞プーシン [˞pu:siŋ](帆船) のプーザンプー (帆桟帆) の型であったという。この帆の利点は、˞オーラーマーレー [˞ʔo:ra:ma:re:](風上方向へ旋回すること) が可能であったことという。プーザンプーの形は長い台形をなし、約一反幅で竹竿の桟 < 帆桁 > が 7,8 本付いている。それぞれの桟 < 帆桁 > には、取り外し式のウ˞チ˞マー [ʔu˞ʧi˞ma:](桟の両端に結ばれた縄) が帆柱を抱くように張られ、帆柱と帆桟 < 帆桁 > が離れないように工夫されろとともに、帆桁の右端には˞ティン˞ナー [˞tin˞na:](「手縄」の義か) が結わえられており、それが船頭の所に集められる。船頭は風の強弱に合わせて˞ティン˞ナー (手縄) を引いたり、緩めたりして操船した。最下段の桟 < 帆桁 > の四分の一程の上手に、˞アー˞パ [˞ʔa:˞pa](桟をしっかり柱に結わえつける縄) が付いている。帆は最上段の桟 < 帆桁 > の中央部にミ˞ナー [mi˞na:](「水縄」の義) が結わえられ、ミ˞ナー [mi˞na:](水縄) を柱の先端の˞ナン˞バー [˞nam˞ba:](滑車) に通して帆を引き上げた。˞イダフニの帆柱の先端部にある、ミ˞ナーを通す穴は、カ˞ナミー [ka˞nami:] という。帆の大きさには、˞ヤイルプー [˞jairupu:](八尋帆)、˞ヤイルパン [˞jairupaŋ](八尋半)、ク˞ヌ˞イル [ku˞nu˞iru](九尋)、˞ジッピル [˞ʤippiru](十尋) など、各種の大きさの帆があったという。

˞フージ **[˞ɸu:ʤi]** 【名】1作法に適った容姿。格好。「Fujei. フゼイ (風情)　格好、あるいは、様子. Icarino fujeiuo arauasu(怒りの風情をあらはす)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞ウイプス˞ヌ　˞フージェー　ナー˞ヌ　˞アイブ　˞キン˞バ　キ˞シティ˞　ミ˞チェー˞　ン˞ゾーン˞ナ [˞ʔuipusu˞nu ˞ɸu:ʤe: na:˞nu ˞ʔaibu ˞kim˞ba ki̥˞ʃiti˞ mi˞ʧe:˞ ʔn˞ʤo:n˞na](年寄りのくせに格好が悪い < 風情がない > よ、あんな着物を着て外出しなさるな < 道へ出られるな > よ)。2形式名詞。～様子。ウ˞ヌ [ʔu˞nu](その) 等の連体詞や助動詞˞ギサン [˞gisaŋ](ようだ) の語幹に付いて˞～のようだ」(様態) の意味を表す。ア˞ツァブカ˞ラー　イ˞サンケー˞　パ˞リン˞ギサ　˞フージー [ʔa˞tsabuka˞ra: ʔi˞saŋke:˞ pa˞riŋ˞gisa ˞ɸu:ʤi:](明日あたり石垣島へ行きそうな様子だ)。ウ˞ヌ　フージ˞ヌ　プ˞スヤッタ [ʔu˞nu ɸu:ʤi˞nu pu̥˞su jatta](そのような身なり < 程度 > の人だった)。

˞ブー˞シジ **[˞bu:˞ʃiʤi]** 【名】カラムシ (苧) の繊維。マ˞ブ˞ル　ク˞モー˞ル　˞ピンマー　˞ブー˞シジシ　˞ブー˞ダマ　ス˞ク˞リティ　˞ニン˞ガイ　シ˞ティ˞　ウ˞リバ˞　ヌビナー　パ˞カソーッ˞タ [ma˞bu˞ru ku˞mo:˞ru ˞pimma: ˞bu:˞ʃiʤiʃi ˞bu:˞dama su̥˞ku˞riti ˞niŋ˞gai ʃi̥˞ti˞ ʔu˞riba˞ nubina: pḁ˞kaso:t˞ta](魂籠めをされる時は苧の繊維で結び目 < 苧玉 > を作り、祈願をしてそれを首にはかせられた)。

˞ブー˞ジナ **[˞bu:˞ʤina]** 【名】麻の繊維を細かく裂き、細い糸に撚(ヨ)って、それに結び玉を 3、5、7 個結んで作った麻糸。「苧綱」の義。これで魂籠めをして、その人の首に穿(ハ)かせる。魂籠めの祈願をする際には、マ˞ブ˞ルクミ [ma˞bu˞rukumi](魂籠めの儀礼) の供物の一つである水を入れた茶碗の上で苧綱を 3 度まわし、˞ヌーディマリ [˞nu:dimari](何年生まれ) の˞ターター [˞ta:ta:](誰々) と実名を唱えて、マ˞ナマ˞ヌ　˞カイ˞トゥキナー　マ˞ブロー˞マ　ク˞ミ˞シミ　タ˞ブ˞ローリ [ma˞namа˞nu ˞kai˞tu̥kina: ma˞buro:˞ma ku˞mi˞ʃimi ta˞bu˞ro:ri](唯今の佳き時に魂を籠めさせてください) と唱え、手早くブージナを締めて魂を逃がさぬよう、魂籠(タマゴメ)をする人の衣服の袖の中に入れ、袖の両端を縛っておく。それを家の中に持ち帰って魂籠めをした人の首に穿かせる。一ヶ月ほど首に穿いていると、マ˞ブ˞ル [ma˞bu˞ru](魂) は体内にもどるといわれている。以後は箪笥の中の本人の衣類の中に入れて保管する。首に苧綱を穿(ハ)くことを、マ˞ブ˞ル　パ˞クン [ma˞bu˞ru pḁ˞kuŋ] という。旅にいる家族のために、マ˞ブ˞ル [ma˞bu˞ru] を籠めて、その人の衣類を送ってやることもある。

˞プーシン **[˞pu:ʃiŋ]** 【名】帆船。ナ˞ナタン˞ブー [na˞natam˞bu:](七反帆)、ハ˞チタン˞ブー [hḁ˞ʧitam˞bu:](八反帆) の二本マストの帆船に、˞ハッチョールー [˞hattʃo:ru:](八挺の櫓)、˞ロクチョールー [˞rokutʃo:ru:](六挺艪) を装備して航海、操船したという。帆船のカツオ漁船は明治末期に沖縄の本部から導入されたという。当初は散水器もなく、竹を割って造った˞スー˞パニ [˞su:˞pani](潮撥ね器具) で潮を撥ねてカツオを釣ったという (加治工伊佐氏談)。ム˞カ˞シェー　˞プーシンラル˞　カ˞ツ　ホー˞シン　˞オーッ˞タティ˞ダー [mu˞ka˞ʃe: ˞pu:ʃinraru˞ kḁ˞tsu ho:˞ʃiŋ ˞ʔo:t˞tati˞da:](昔は帆船でカツオを釣りに行かれたそうだよ)。

˞フー　˞スクン **[˞ɸu: ˞su̥kuŋ]** 【連】幸運に恵まれる。「符 (幸運。果報) が付く」の義。˞カイブ　˞イットーッふァー˞バ　ユ˞ミ　サーリ˞　キー　˞ワー˞　イッ˞ケナ˞　ガバーフーバ　シ˞キ˞ブーバン　˞ボー˞レ

ー [˥kaibu ˩ʔitto:ffa:˥ba ju˩mi sa:ri˥ ki: ˩wa:˥ ʔik˩kena˥ gaba:ɸu:ba ʃi̥˩ki˥ bu:bam ˩bo:˥re:](こんなに立派な子を嫁に連れてきて、君は最高の果報が付いているよ、よくやった＜お利口さん＞)。

˩ブー˥ソー **[˩bu:˥so:]** 【名】ぶっしょう (仏餉) の転訛したもの。法事の際に供物の他に、茶碗に盛り飯をして供えるもの。無縁仏への分＜お布施＞として供えるという。˩ブー˥ソー [˩bu:˥so:] の˥ウサンダイ [˥ʔusandai](お下がり) は必ず女性が食すること、男性は食しないことに決まっているという。˩ブーソー˥ヌ　˥ウサンダイヤー　ヤー˩ディン˥　ミ˩ドゥム˥ル　ッ˩ふー˥ティ　キ˩マリ　ブー˥ツォー [˩bu:so:˥nu ˥ʔusandaija: ja:˩dim˥ mi˩dumu˥ru ˩fu:˥ti ki˩mari bu:˥tso:](仏餉のお下がりは必ず女が食べるものと決まっているそうだ)。

˩フー˥タイ **[˩ɸu:˥tai]** 【名】風袋。包装分。品物の上包み。

˩フータイ **[˩ɸu:tai]** 【名】ふうたい (風袋) の重量。品物を計量する際、品物の容器＜箱、缶＞や包装、袋などの重さ。ク˩ヌ˥　イ˩ゾー　フータイ˥　ピ˩ク˥カー　˥ナンギン　カ˩カル˥ワ [ku˩nu˥ ʔi˩ʤo: ɸu:tai˥ pi̥˩ku˥ka: ˥naŋgiŋ kḁ˩karu˥wa](この魚は風袋の重さを差し引くと何斤になるか＜かかるか＞)。

˩フー˥タイ **[˩ɸu:˥tai]** 【名】はり (梁)。うつばり。柱上に渡して小屋組を受ける横木。多くの場合、湾曲したフ˩クン [ɸu̥˩kuŋ](福木) などの大木が利用された。マ˩ガリキーバ　フー˥タイ　シゥ˩カウムル　サイク˥ヌ　ウ˩ディ˥ヌ　ミ˩シドゥク˥ル˩ゲ˥ラ [ma˩gariki:ba ɸu:˥tai si̥˩kaumuru saiku˥nu ʔu˩di˥nu mi˩ʃiduku˥ru˩ge˥ra](曲がった材木を梁に使うのが大工の腕の見せ所さ)。

˩ブー˥ダマ **[˩bu:˥dama]** 【名】呪具の一つ。約 1 メートルの˥ブー [˩bu:](苧麻の繊維) を撚って中央部に結び玉を 3、5、7 個作り、マ˩ブ˥ル　ウ˩タ˥シ [ma˩bu˥ru ʔu˩ta˥ʃi](転んだり、ひどくびっくりして魂を落としたり) した時に、マ˩ブ˥ルクミ [ma˩bu˥rukumi](魂籠め) の祈願をして、それでマ˩ブ˥ル [ma˩bu˥ru](魂、生霊) を籠め、結ぶのに用いる呪具。˩ブー˥バ　˩ウー˥ミ　˩ブー˥ダマー　ス˩ク˥リティ˥　ウ˩リ˥シ　マ˩ブ˥ル　˥クミティ　˥ヌビナー　パ˩カソーッ˥タ [˩bu:˥ba ˩ʔu:˥mi ˩bu:˥dama: su̥˩ku˥riti ʔu˩ri˥ʃi ma˩bu˥ru ˥kumiti ˥nubina: pḁ˩kaso:t˥ta](苧を績んでブーダマを作り、それで魂籠めをして、首におし穿かされた)。

˥フー　タ˩ラーンムヌ **[˥ɸu: ta˩ra:mmunu]** 【連】運の悪い人。不幸な人。運が尽きて死ぬ人。「符足りぬ者」の義。˥フー　タ˩ラーンムヌ˥　ヤ˩レー˥ティル　˩タシキララン˥　ブ˩レー˥ル [˥ɸu: ta˩ra:mmunu˥ ja˩re:˥tiru ˩taʃi̥kiraram˥ bu˩re:˥ru](運の悪い人＜符足りぬ人＞だったので助けられなかったのだろうよ)。

˩ブー˥チ **[˩bu:˥ʧi]** 【名】むち (鞭)。ウ˩ヤ˥ヌ　˥ムニシゥ˩カン˥　ッ˩ふァー　ブー˥チシ　シ˩ビ˥　シ˩トゥ˥ナイバ [ʔu˩ja˥nu ˥muni si̥˩kaŋ˥ ˩fa: bu:˥ʧiʃi ʃi˩bi˥ ʃi̥˩tu˥naiba](親のいうことを聞かない子は鞭で尻を打ちすえ＜叩き＞なさいよ)。

˩フー˥トゥク **[˩ɸu:˥tu̥ku]** 【名】幸運。生来の幸運と仁徳。「符・徳」の義。˥クビ　˩トゥンザ˥ク　˩シー　オーシェー˥バ　˥アトー　˥メー　˩ドゥー˥ヌ　˩フー˥トゥクナール　カ˩カ˥ル [˥kubi ˩tunʤa˥ku ˩ʃi: ʔo:ʃe:˥ba ˥ʔato: ˥me: ˩du:˥nu ˩ɸu:˥tu̥kuna:ru kḁ˩ka˥ru](これだけ看病＜頓着＞して差し上げたから、助かるかどうかは＜後は＞もう、自分＜本人＞の幸運にかかっている)。

˩ブー˥ナー **[˩bu:˥na:]** 【名】 (動) 魚の名。和名、フグ (河豚。体長約 30 センチ) の総称。和名、ハコフグ (˩マッ˥ふァイズ [˩maf˥fa ʔiʤu]＜枕魚。体長約 30 センチ＞) にもいう。攻撃を受けると腹を膨らます。鳩間島では食用に供しない。パ˩トゥ˥マプソー　˩ブー˥ナーンドーレー　ッ˩ふームヌテー˥　ウムイ　˩オーラン˥シェン [pḁ˩tu˥mapu̥so: ˩bu:˥na:ndo:re: ˩fu:munute:˥ ʔumui ˩ʔo:ran˥ʃeŋ](鳩間島の人は、ふぐ＜河豚＞などは食べるものとは思われなかった)。網にかかっても捨てる。大型の河豚は、˩マッ˥ふァイズ [˩maf˥fa ʔiʤu](こんごうふぐ。＜枕魚＞の義) ともいう。˩ブーナー˥ヤ　ッ˩ふァーラヌティ˥　ア˩ゾー˥リ　ウ˩レー˥　シ˩ティソーッ˥タ [˩bu:na:˥ja ˩fa:ranuti˥ ʔa˩ʤo:˥ri ʔu˩re:˥ ʃi̥˩tiso:t˥ta](河豚は食べられないといわれて、それは捨てられ＜捨てなさっ＞た)。

˥ブーナー **[˥bu:na:]** 【名】麻縄。カラムシ＜苧＞の繊維を撚(ヨ)って作った釣り糸＜縄＞。ム˩カ˥シェーイ˩ズホーシ˥ナーン　˥ブーナーバル　シゥ˩カイヨーッ˥タル [mu˩ka˥ʃe: ʔi˩ʤuho:ʃi˥na:m ˥bu:na:baru si̥˩kaijo:tta˥ru](昔は魚釣り糸も麻縄を使われたものだ)。

˩ブー˥ヌ **[˩bu:˥nu]** 【名】斧。木を切ったり割ったりするのに用いる道具。「斧、乎能＜をの＞」『和名抄』の義。ヤ˩マブー˥ヌ [ja˩mabu:˥nu](山斧。山仕事用の斧)、˩キーバリブー˥ヌ [˩ki:baribu:˥nu](薪

割り用の斧) 等がある。山斧は薪割り斧よりも小型で楔形の刃は鋭利であるのに比して、薪割り斧は少し大型で、楔形の刃も鈍角で厚い。ˈユッキ [ˈjukki](小型の斧)。イˈシユッキ [ʔiˈʃijukki](石工の用いる石斧) などがある。ˈブーˀヌシ　ˈマーキˀ　バˈリティˀ　ティダナ　ˀプシバ [ˈbuːnuˀʃi ˈmaːkiˀ baˈritiˀ tidana ˀpuʃi̥ba](斧で薪を割って太陽に干しなさいよ)。ヤˈマー　ペーˀリティ　ˈブーˀヌシ　ˈヤーザイˀギ　キˈジˀ　ウˈラˀソーッタ [jaˈmaː peːˀriti ˈbuːˀnuʃi ˈjaːʤaiˀgi kiˈʤiˀ ʔuˈraˀsoːtta](山へ入って建築用材木を削って下ろされた)。

ˀブーヌーヌ [ˀbuːnuːnu] 【名】麻布。カラムシ (苧) の繊維で織った布。「苧布」の義。ˀアッパターˈクンジェーˀ　ブーヌーヌシル　ˈサーソーッタ [ˀʔappataː ˈkunʤeːˀ buːnuːnuʃiru ˈsaːsoːtˀta](お祖母さん方の紺地(コンジ)の着物は麻布で仕立てられた)。

ˈプーヌ　ソーˀジ [ˈpuːnu soːˀʤi] 【連】稲穂の祈願。「稲穂の精進」の義。旧暦 3 月の壬、丙、庚の何れかの日を選んで祈願されたˈユーニンガイ [ˈjuːniŋ-gai](豊作祈願) で、ムˈシヌ　ニンˀガイ [muˈʃinu niŋˀgai](虫を祓うˈ虫の祈願」)、ッˈサバーˀヌ　ˈニンˀガイ [sˈsabaːˀnu ˈniŋˀgai](稲の下葉が枯れないように祈願する祭事) と共に　ˈプーヌ　ソーˀジ [ˈpuːnu soːˀʤi](稲穂が完全に出揃うよう精進潔斎して祈願する祭事。パˈマウリソーˀジ [paˈmaʔurisoːˀʤi]< 部落総出で浜下りをして祈願する祭事 > をして祈願した) をして稲穂に害虫が付かぬよう、サˈカサ [sḁˈkasa](司)、ティˈジリˀビー [tiˈʤiriˀbiː](男性神職者) たちがˈウイヌˀウガン (友利御嶽)、ニˈシˀドーウガン (西堂御願)、アˈラˀカーウガン (新川御願)、ピˈナイˀウガン (鬚川御願)、ˈマイドゥマˀルウガン (前泊御願)、ミˈルクンˀヤー (弥勒を奉納してある家。大城家) を回って祈願をした。パˈマウリソーˀジ [paˈmaʔurisoːˀʤi](浜下り精進の祭事) の日、神職者達が祈願している間にムˈラヤクサ [muˈrajakusa](村役人) 達がサバニで西表島へ行き、各地の田圃にススキのˀサン [ˀsaŋ](ススキの茎を十字に結んだ呪具) を差して帰った。ˈサンˀマーˈヨー　ターパタキˀヌ　ˀカドーラ　ˈミーパン　ペーˀリティ　ˀフケー　ˀッスティ　アˈザリ　ブー [ˈsamˀmaːˈjoː taːpatakiˀnu ˀkadoːra ˈmiːpam peːˀriti ˀɸu̥keːˀssuti ʔaˈʤari buː](サン < 呪具 > はねえ、田や畑の角から三歩中へ入って、ススキの茎 < 呪具のサン > を差すことといわれている)。バˈラフタˀヌ　ˈサンˀマー　ムˈスビティˀ　スˈブルˀヌ　パˈタˀナーシˈキˀルカー　ウˈレーˀ　ヌˈキˀムヌ　ˀナルン [baˈraɸutaˀnu ˈsamˀmaː muˈsubitiˀ suˈburuˀnu pḁˈtaˀnaː ʃi̥ˀkiˀruka: ʔuˈreːˀ nuˈkiˀmunu ˀnaruŋ](藁のサンは、十字に結んで頭の側に置くと、それは魔除けとなる)。

ˈフーヌ　マˈリ [ˈɸuːˀnu maˈri] 【連】幸運な生まれ。生まれつき幸運な人。「ふ (符) の生まれ」の義。イッˈケナ　ソーユミバˀ　アˈタリ　ワー　フンˀトー　ˈフーˀヌ　マˈリˀ　ヤˈルバン [ʔikˈkena soːjumibaˀ ʔaˈtari waː ɸunˀtoː ˈɸuːˀnu maˈriˀ jaˈrubaŋ](非常に立派な嫁に当って、君は誠に幸運な生まれつきだよ)。カˈフーˀヌ　ˀムヌ [kaˈɸuːˀnu ˀmunu](果報な者) ともいう。

ˈフーヌ　ˀムヌ [ˈɸuːˀnu ˀmunu] 【連】運次第。「符(フ)の物」の義。ˀウミシグトー　スˈクリムヌˀトーˈカウリ　フーˀヌ　ˀムヌ　ヤˈルンダˀ　イッˈチンˀ　トゥˈラˀリンテー　カˈギラヌ [ˀʔumiʃiguto: su̥ˈkurimunuˀto: ˈkauri ɸuːˀnu ˀmunu jaˈrundaˀ ʔitˈʧinˀtuˈraˀrinte: kaˈgiranu](漁師の仕事 < 海仕事 > は農作物とは違って運次第の獲物だから、いつも漁獲できるとは限らない)。

ˈフーバ　ˀアリ [ˈɸuːˀba ˀʔari] 【連】運よく。幸い。「果報があって」の義。老年層が使う。ˈフーˀバリ [ˈɸuːˀbari](運よく。< 副 >) ともいう。ˈフーˀバ　ˀアリ　ˀパリ　ブˈレーˀル　ヤッˈトゥˀシ　マˈニアーˀシェータンツォー [ˈɸuːˀba ˀʔari ˀpari buˈreːˀru jatˈtuˀʃi maˈniʔaːˀʃeːtantsoː](運よく出発して < 行って > いたのだよ、やっとのことで間に合ったそうだ)。

ˈブーパタˀキ [ˈbuːpataˀki] 【名】麻畑。ユˈナˀデヌカˈクˀナール　ˈベーˀヌ　ˈブーパタˀケー　ˈアッˀタˈナー [juˈnaˀdenu kḁˈkuˀnaːru ˈbeːˀnu ˈbuːpataˀkeː ˈʔatˀtaˈnaː](与那田家の屋敷に我が家の麻畑はあったねえ)。

ˈフーバリ [ˈɸuːˀbari] 【副】運よく。幸いに。幸運にも。若年層が使う。ˈフーˀバリ　ˀキノー　ˀパリブˈレーˀナー [ˈɸuːˀbari ˀkinoː ˀpari buˈreːˀnaː](運よく昨日出発し < 行って > ていたなあ。< 今日だったら間に合わなかった > の含意)。

ˈフービ [ˈɸuːbi] 【名】褒美。賞。ウˈレーˀ　パˈリˀダーユンダ　ˈウンドーˀカイナー　ˈチャーˀ　イˈチˀバン　ˀナリティ　ˈフービ　イーˀリ　クンˈダー [ʔuˈreːˀ paˈriˀdaːjunda ˈʔundoːˀkaina: ˈʧaːˀ ʔiˈʧiˀban ˀnariti ˈɸuːbi ʔiːˀri kunˈdaː](彼は良く走るから、運動会にはいつも一番になって褒美を貰ってくるよ)。

˹ブー˺ビキ **[˹buː˺biki]** 【名】月賦。月々に割り当てて支払いすること。一度に払わずに何回かに分けて支払いすること。「賦引き」の転訛したものか。ク˹レー　ブービ˺キシ　˹カイ　クー˺タ [ku˹reː buːbi˺ kiʃi ˺kai kuː˺ta](これは月賦で買ってきた)。

˹ブー˺ブ **[˹buː˺bu]** 【名】瀉血(シャケツ)。民間療法の一種。頭痛持ちの人、のぼせ症の人、腰痛やカ˹ヤ [ka˹ja](肩こり。肩の痛み) の人などに施されていた治療。剃刀の刃を炎で焼いて消毒し、それで瀉血を施すところ < 背中など > の皮膚を軽く˹パン˺キ [˹paŋ˺ki](弾いて。傷つけて)、そこに竹筒やコップに度数の高い泡盛を入れて点火したものを据える。アルコールが燃え尽きると筒の中は真空になり、静脈から悪い血液を吸いだすという療法。ヤ˹ブヌル　ブー˺ボー <˹ブー˺ブー >　トゥ˹ローッ˺タ [ja˹bunuru buː˺boː <˹buː˺buː > tu˹roːt˺ta](民間療法の藪医者が瀉血 < ブーブ > を取られた)。マ˹ナ˺マー　˹ブー˺ブ　˺トゥル　プ˹ソー˺　ブ˹ラーヌ [ma˹na˺maː ˹buː ˺bu ˺turu pu̥˹soː˺ bu˹raːnu](今は瀉血する < 瀉血を取る > 人はいない)。

˺ブーブー **[˺buːbuː]** 【名】 1凧の頭骨 (竹) をしなら (撓) せて糸を張り、それに薄い油紙や和紙などを張って風力で振動音を出させる仕掛け。凧の泣き紙。カ˹ジヌ　スー˺カー　˺ブーブーン　˺ユー　˹ナールン [ka˹ʤinu suː˺kaː ˺buːbuːɲ ˺juː ˹naːruŋ](風が吹く < そよぐ > と凧の泣き紙もよく鳴る)。2草笛。フクギの若葉の裏側を少し折って剥がし、薄いビニール状の膜を出して口に当て、鳴らして遊ぶもの。フ˹クンヌパー˺シ　˺ブーブー　ス˹ク˺リ　˹ナーラシ˺バ [ɸu̥˹kunnupaː˺ʃi ˺buːbuː su̥˹ku˺ri ˹naːraʃi˺ba](福木の葉でブーブー < 草笛 > を作って鳴らしなさいよ)。ガ˹ジマル˺ヌ　˹パー˺シ　˺ブーブ　˹ナーラシ˺バ [ga˹ʤimaru˺nu ˹paː˺ʃi ˺buːbu ˹naːraʃi˺ba](ガジマル < 榕樹 > の葉で草笛を吹いて鳴らしなさいよ)。

˺ブーブー **[˺buːbuː]** 【名】 (幼児語) 凧。˺ブーブー　トゥ˹バシン˺　パラ˹ナー [˺buːbuː tu˹baʃim˺ para ˹naː](ブーブー < 凧 > を揚げに < 飛ばせに > 行こうねえ)。

˹プープー˺シ **[˹puːpuː˺ʃi]** 【副】 1息を吹きかける動作の形容。˹ピーフキダ˺ケーラ　˹プープー˺シ　イ˹キ˺バ　˺フケーティ　˺ピー　˹モーシ˺バ [˹piːɸukida ˺keːra ˹puːpuː˺ʃi ʔi˹ki˺ba ˺ɸu̥keːti ˺piː ˹moːʃi˺ba](火吹き竹から息を吹き込みながら火を熾し < 燃やし > なさいよ)。2放屁するさま。˹プープー˺シ　˺ピープ˹スン˺ドゥ　ッ˹サー　ナー˺ヌ [˹puː˺puːʃi ˺piː pu̥˹sun˺du s˹saː naː˺nu](プープーと放屁するが、臭くはない)。

˺ブーブブニ **[˺buːbubuni]** 【名】凧の鳴き紙を貼る竹の頭骨。ピ˹キダマヌ˺　ブーブブネー　ク˹シェーニ˺ル　マ˹ギル˺ダー [pi̥˹kidamanu˺ buːbubuneː ku̥˹ʃeːni˺ru ma˹giru˺daː](凧の頭骨は背面の方に曲げるのだよ)。

˺プーマイ **[˺puːmai]** 【名】稲藁のついたままの稲。「穂米」の義。刈り取ったままの稲。在来種の稲は˺プーマイ [˺puːmai] のままでシ˹ラ [ʃi˹ra](いなむら < 稲叢 >) に積み、トゥ˹マー [tu˹maː](苫) を掛けて屋根状に葺き、風雨を防いで保存した。˺プーマイ　プ˹スマラ˺キシ　˹ヌー˺マイ　˹ユンス˺　ン˹ジ˺ルンティ　ア˹ザリ　ブー [˹puː˺mai pu̥˹sumara˺kiʃi ˹nuː˺mai ˹junsu˺ ʔn˹ʤi˺runti ʔa˹ʤari buː](穂米一丸き <30 束 > で玄米が四升搗ける < 出る > といわれている)。

˹プーマキ **[˹puːmaki]** 【名】夏の厳しい暑さ。酷暑。酷熱。蒸し暑さ。無風状態でほてるような暑さ。「ほめく < 熱く >」の転訛。「Fomeqi,u,eita. ホメキ、ク、イタ (燥き、く、いた) 非常な暑さである。または、非常に熱い. Miga fomequ. (身が燥く) からだが熱い、または、熱がある」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ナ˹チヌ　プーマケー　シンダイ　スーワ˺ル　˺ナリ　クー˹サー [na˹ʧinu puːmakeː ʃindai suːwa˺ru ˺nari kuː˹saː](夏の酷暑 < ほめき > は次第に強くなってくるようだねえ)。

˹プーマクン **[˹puːmakuŋ]** 【自動】蒸し暑くなって、ほてる。熱気をおびる。「Miga fomeku(身が燥く) からだが熱い。熱がある」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。プ˹スマー˺ラ　カ˹ジヌ˺　トゥ˹リティ　ソーン˺カー　˹プーマクン˺ダー　˹プーマカン˺ケンナシ˹グトー˺　ウ˹チナ˺シ　シ˹キ˺リ [pu̥˹sumaː˺ra ka˹ʤinu˺ tu˹riti soːŋ˺kaː ˹puːmakun˺daː ˹puːmakaŋ˺keŋ ʃi˹gutoː˺ ʔu˹ʧina˺ʃi ʃi̥˹ki˺ri](正午から風が凪いで、そよがないと蒸し暑くなってほてるので、ほてらないうちに仕事は済ませておきなさい)。˹プーマキティ˺　シ˹グトー˺　ナ˹ラ˺ヌ [˹puːmakiti˺ ʃi˹gutuː˺ na˹ra˺nu](蒸し暑くなって、ほてって仕事が出来ない)。˹プーマク˺　プソー　ス˹ブ˺ローラ　ミ˹ジ˺　カ˹ビ˺バ [˹puːmaku˺ pu̥soː su˹bu˺roːra mi˹ʤi˺ kabiba](蒸し暑くなってほてってきたら、頭から水を被りなさい)。˺アイニ　˹プーマケー˺ラー　˹デー˺ジ [˺ʔaini ˹

pu:make:˺ra: ˞de:˺ʤi](あんなに蒸し暑くなって体がほてったら大変だよ)。

˞ブー˺マル **[˞bu:˺maru]** 【名】苧の繊維を丸く束ねたもので、神前に供えるもの。一本の苧の茎から採取されるほどの本数を束ねて四本の指に巻き取って丸めたもの。土祭りの際の供物の一つ。シ˞チマチ˺ルナーヤ ˞ブー˺マルン シ˞キルン˺ツォー [ʃi̥˞ʧimatʃi˺runa:ja ˞bu:˺maruŋ ʃi̥˞kirun˺tso:](土祭りには苧の繊維を束ねたものも供えるそうだよ)。

˞プーミ **[˞pu:mi]** 【名】風味。マイヌミー˺ソー カ˞バッ˺サン ˺アリ イッ˞ケナ プーミーン˺ アン [˞mainumi:˺so: ka˞bas˺saŋ ˺?ari ?ik˞kena pu:mi:ŋ˺ ?aŋ](米味噌は香ばしくもあり、非常に美味しい風味もある)。

˞プームティシゥカ˺ラ **[˞pu:mutisi̥˞ka˺ra]** 【名】風圧。風力。帆にかかる風の力。˞シー˺キサシ ˺パラー カ˞トンカ˺シティ ˞プームティシゥカ˺ラー ˞ヨーミ˺リ [˞ʃi:˺ki̥saʃi ˺para: kḁ˞ton̥ka˺ʃi̥ti ˞pu:mutisi̥˞ka˺ra ˞jo:mi˺ri](シーキサ楔で帆柱を後方に傾けて風圧を弱めなさい)。

˞ブー˺ムトゥ **[˞bu:˺mutu]** 【名】カラムシ (苧) の茎。˞ブー˺ムトゥ ˺スリ ˺バター ˺トゥリティ ˞ウンダ˺ タ˞キシーグ˺シ ˞カー˺バ ˺ピギティ ウ˞リバ˺ プシティル ˞ブー˺バ ˺サキ ˞ウー˺モーッタル [˞bu:˺mutu ˺suri ˺bata: ˺turiti ˞?unda˺ tḁ˞kiʃi:gu˺ʃi ˞ka:˺ba ˺pi̥giti ?u˞riba˺ pu̥ʃitiru ˺bu:˺ba ˺sḁki ˞?u:˺mo:ttaru](苧(カラムシ)の茎を刈り取り、芯を取り去って、それから竹製の小刀で表皮を剥ぎ取り、それを干して < ぞ > 苧を裂いて麻糸に績(ウ)まれたものだ)。

˞プー˺ル **[˞pu:˺ru]** 【名】豊年祭。稲の収穫祭。「穂利」と記されるが、「穂祈り」の義とする説『八重山語彙』がある。毎年旧暦六月中旬の壬の日から (i)˞ユードゥー˺シ [˞ju:du:˺ʃi](「夜通し」の義。夜をこめて祈願する前夜祭) が始まり、(ii) ˺トーピン [˺to:piŋ](「当日」の義。ナ˞カヌ˺ピン [na˞kanu˺piŋ]< 中の日 > ともいう)、(iii) シ˞ナ˺ピキ [ʃi˞na˺pi̥ki](綱引き) と三日間に亘って執り行われる。鳩間島では旧暦五月の壬の日に執り行われるス˞ク˺マ [su̥˞ku˺ma](稲の初穂祭) から˞プール˺ヌ ˺シチ [˞pu:ru˺nu ˺ʃi̥ʧi](豊年祭の期間) に入っているといわれている。昔の人々は˞豊年祭をするために生きているんだ」と言われたという。島で最も盛大な祭りである。対岸の西表島からも、この祭りを見学するために傭船して来たものである。稲や粟の収穫後、神に対する感謝と来年の豊作を祈願する祭りで、旧暦 6 月のミ˞ジニー [mi˞ʤini:](壬) に˞ピュール˺トゥリ [˞pju:ru˺turi](日取り。「日和取り」の義) して行われた。昔は、ム˞トゥサカ˺サ [mu˞tusaka˺sa](友利御嶽の司) を中心にして各御嶽の司やティ˞ジリ˺ビー [ti˞ʤiri˺bi:](男性神職者) が集まって祭りの日取りをし、それを˞スー˺ダイ [˞su:˺dai](「総代」の義。部落会長に相当する人) に伝え、それをブ˞ラクゾーカイ [bu˞rakuʤo:kai](部落常会) にかけて決定した。サ˞キピュール [sḁ˞kipju:ru](上旬の日和。「先日和」の義) と˺アトゥピュール [˺?atupju:ru](下旬の日和。「後日和」の義) を司の方々が用意して部落の役員に提案し、稲穂の˞ウーミ˺グワイ [˞?u:mi˺guwai](完熟度。˞熟れ具合」の義) を勘案して部落常会で日程を決定したのである。豊年祭の日程が決まると、部落レベルや家庭レベルにおいても、それへ向けての諸準備がなされた。司の˺アッパー [˺?appa:](お祖母さん) たちは各自の˺ウガン [˺?ugaŋ](御嶽。「お願」の義) へ参拝し、˞プー˺ルの日程を報告して御嶽の掃除を始めた。各家庭では、˞プー˺ルスコール [˞pu:˺rusu̥ko:ru](豊年祭の準備) として、ム˞チマイ [mu˞ʧimai](糯米) を精白し始めた。庭の木陰でニ˞ブ˺ク [ni˞bu˺ku](ニクブク。藁を編んで作った敷物。稲藁でカーペットのように編んだ敷物。稲掃き蓆) を敷いて、イ˞ニ˺ピキ [?i˞ni˺pi̥ki](米擂り。籾摺(モミスリ)) をしたり、シ˞キ˺ウシ [ʃi̥˞ki˺?uʃi](搗き臼) を並べて、二人一組、三人一組になって糯米(モチゴメ)を搗(ツ)いて精白(セイハク)した。これが˞プールシゥカイ˺バー [˞pu:rusi̥˞kai˺ba:](豊年祭用の糯米) となる。˞プール˺ムチ [˞pu:ru˺muʧi](豊年祭の餅) に使う米のことである。豊年祭の一週間前になると、餅を包むのに用いるバ˞サン˺パー [ba˞sam˺pa:](芭蕉の葉) やサ˞ミヌパー [sa˞minupa:](月桃の葉) を切りに、˞ウイバル [˞?uibaru](西表島の上原) やウ˞ボー˺ダ [?u˞bo:˺da](西表島の住吉地区)、ニ˞シ˺ミジ [ni˞ʃi˺miʤi](西表島の住吉地区の北側)、˞カーダ [˞ka:da](西表島、ウ˞ボー˺ダの東部) あたりへ出かけた。部落では˞スー˺ダイ (総代。部落会長。シ˞マム˺チ ˞ユームチ [ʃi˞mamu˺ʧi ˞ju:muʧi]< 島持ち・世持ち > の義) を中心に、ヤ˞ク˺サ [ja˞ku˺sa](総代の下に西村、東村に各二名選出された村役人)、˞ザーアタ˺ル [˞ʤa:?ata˺ru](座敷係。西村、東村各二名選出)、˞ジンバイ [˞ʤimbai](配膳係。西村、東村各二名選出) らが神行事の諸準備を担当した。ヤ˞ク˺サ達は˞プー˺ルの四、五日前から漁に出て魚や蛸を捕り、蒲鉾やガ˞シ˺イズ [ga˞ʃi?iʤu](燻製(クンセイ)にした魚。˺クバン [˺kubaŋ]<神饌(シンセン)>) にしたり、パ˞リタク

[paˑritaku](干し蛸(タコ)。「張り蛸」の義) にして準備した。ナˑマ˖シ [naˑma˖ʃi](刺身。「膾(ナマス)」の義) にする魚は˖ユードゥー˖シの昼に漁獲した魚を用いた。˖ゾーラキ [ˑʤoːraki](奉納舞踊) の稽古は˖プー˖ルの二週間前辺りから始められた。西村は、˖ウブシケー [˖ʔubuʃikeː](大城家)、˖ヨーカ˖ヤー [ˑjoː˖kajaː](西原家)、アˑザテー [ʔaˑʤateː](東里家)、パˑナシケー [paˑnaʃi̥keː](花城家)、˖クシケー [˖kuʃi̥keː](小底家) などで棒踊や˖ゾーラキ (奉納舞踊) の練習がなされた。銅鑼を打ち、笛を吹き鳴らして、西村・東村が競争して練習した。練習風景を盗み見ようとしては、見張りの青年たちに追い返されたりした。西村の棒踊、特にルˑクサク˖ボー [ruˑkusaku˖boː](六尺棒)、サˑク˖ボー [sḁˑku˖bou](尺棒。木刀踊) などは、先輩方が厳しく技を指導された。東村のナˑギナタ [naˑginata](長刀棒踊) は力強く、勇壮な棒踊だったので、見劣りせぬよう、ガˑマ˖ク [gaˑma˖ku](腰) の入れ方、腕の使い方 < ため方 >、力の入れ方を注意して指導した。昭和 40 年頃までは、昼は田畑の仕事と鰹漁業に従事し、夜は遅くまで銅鑼や笛の音を鳴らして奉納舞踊、棒踊の稽古をして、村は最高に活気付いていた。˖ゾーラキや棒踊がˑバングˑ˖バリ [˖baŋguˑ˖bari](プログラム。「番配り」の義) 通りに仕上がっているかどうかを確認するため、˖トーピン [˖toːpiŋ](祭り当日) の二、三日前に、スˑクミ [su̥ˑkumi](リハーサル。「仕込み」の義) をして部分的な手直しを行い、満を持して祭り当日を迎えた。その間、西村、東村双方とも偵察を送って相手方の技を研究しあっていたことは勿論である。グˑサーク˖マイ [guˑsaːku˖mai](五勺米) は˖ユードゥー˖シ [˖juːduː˖ʃi] の前日、ヤˑク˖サ [jaˑku˖sa] 二人、˖ザーアタ˖ル [˖ʤaːata˖ru] 二人らによって各戸から一人当たり白米五勺ずつ徴収された。これは、˖フダニン [˖ɸudaniŋ](十五歳以上の男女。人頭税時代の「納税者」の義) の頭数に割り当てられたが、中には、フダニンに達しない子供の分まで、進んで納入する人もいた。昔は、˖グシパナ [˖guʃipana](神酒と花米) の神酒や、˖コー˖パナ [˖koː˖pana](線香と花米) の˖カウ [˖kau](線香。「香」の義) も徴収された。徴収されたグˑサーク˖マイは友利御嶽のサˑカサ (司) の家の一番座に集められ、ヤˑク˖サ達によって、イˑチ˖ヤマ [ʔiˑʧi˖jama](五箇所の御嶽。友利御嶽、ピナイ御嶽、西堂御嶽、新川御嶽、前泊御嶽) に等分に配分された。その間、司は一番座で正座している。作業が完了した後、友利御嶽の五勺米を入れた˖フイ˖バ [˖ɸui˖ba](真茅を編んで作った穀物入れ) にだけは、バˑラ˖ザン [baˑra˖ʤaŋ](藁算(ワラザン)、五勺米の数量を示したもの) と明細書が置かれ、他の御嶽の分は袋に入れられる。五勺米が神前に並べられると、酒と肴の膳が出され、ヤクサによって五勺米の明細が読み上げられる。司によるお礼の言葉が述べられて後、ヤクサからは豊年祭が滞りなく行われるよう、お願いの言葉が交わされる。その後に各御嶽の司の家へ同様な形式で五勺米が届けられる。かくて諸準備が順調に進行し、村ヤクサの家では、˖ユードゥー˖シ [˖juːduː˖ʃi](夜を徹して行われる祈願) に用いる円形のッˑスˑ˖ムチ [sˑsu˖muʧi](白餅) が作られ、˖ユードゥー˖シを迎えた。˖ユードゥー˖シは、友利御嶽でサˑカサ [sḁˑkasa](司) とティˑジリ˖ビーが各家から集められたパˑナン˖グミ [paˑnaŋ˖gumi](花米) を神前に供え、村役人の˖ポー˖ツァー [˖poː˖ʦaː](料理人。「包丁人」の義) によって作られた˖ウサイ [˖ʔusai](魚介料理。「お菜」の義) やバˑキサカ˖サ [baˑkisaka˖sa](脇司。司を補助する司) によって盛り付けられた˖クームチ [˖kuːmuʧi](供物類) をバˑキトゥリ˖ブン [baˑkituri˖buŋ](通い盆。供物一式を盛って持ち運ぶ長方形の盆) に入れて供え、ユˑネン˖ヌパイ [juˑnen˖nupai](夕方の拝 < 祈願 >)、ユˑナカ˖ヌパイ [juˑnaka˖nupai](夜中の拝 < 祈願 >)、シˑトゥムティ˖ヌパイ [ʃi̥ˑtumuti˖nupai](朝 < つとめて > の拝 < 祈願 >) の順で、三回の祈願を夜を徹して執り行った。ユˑネン˖ヌパイ、ユˑナカ˖ヌパイ、シˑトゥムティ˖ヌパイの間には、˖ユードゥー˖シに参加した村の有志たちと司やティˑジリ˖ビーらが三線、笛、太鼓を鳴らして歌舞をし、神を歓待するが、˖ユードゥー˖シが終わった早朝、司を先頭にティˑジリ˖ビーたちがミˑルク˖ウタ [miˑruku˖ʔuta](弥勒歌) を歌って友利御嶽をおりて村へ帰る。ミˑルクン˖ヤー [miˑrukuɲ˖jaː](弥勒を安置、保管している家) の所まで来て神職者達は解散して各家庭に帰り、˖トーピン [˖toːpiŋ](祭り当日) の神行事へと移っていく。˖トーピンの午前十時ごろ、司やティˑジリ˖ビー　バキサカサたちがグˑサーク˖マイ (五勺米)、パナングミ (花米) を各ピˑキ [pi̥ˑki](血族集団) の御嶽へ持参して祈願する。その際、各家から司の家へ献上されたカˑサン˖パームチ [kḁˑsam˖paːmuʧi](芭蕉の葉で包んだ餅を 5 枚〜7 枚を一束にしたもの。˖プール˖ムチ [˖puːru˖muʧi] ともいう) の中から数枚の餅を持参して供える。丁度この時間帯には友利御嶽で、˖ヤーバンニガイ [˖jaːbannigai](「八番祈願」

の義か) が祈願される。各御嶽では、サ˞カサやティ˞ジリ˞ビー、ピ˞キの参拝者たちが各御嶽の˞プール˞ウタ [˞puːru˞ʔuta](豊年祭の歌) を謡う。その後、時間を見計らって友利御嶽へ行く。全員が揃うと友利御嶽の拝殿に向かって合掌し、˞カン˞シバ [˞kaŋ˞ʃiba](マーニの葉。「神芝」の義か) を頭に結び、ミ˞チウタ [mi˞ʧiʔuta](道歌) を歌いながら友利御嶽を下りて˞サンシキ [˞saŋʃi̥ki](桟敷) へと向かう。˞サンシキでは、˞スー˞ダイ (総代) やムラヤクサ (村役人) 達が司やティ˞ジリ˞ビーら神職者一行を迎えて˞サンシキヌウタ [˞saŋʃi̥kinu](桟敷の歌) を歌って所定の座につく。これを合図に、西村と東村のカ˞シ˞ラ [kḁ˞ʃi˞ra](旗頭) が˞アイ˞ザムトゥ [˞ʔai˞ʤamutu](旗頭が合流する地点) で合流し、桟敷へ入場する。東村のカ˞シ˞ラ (旗頭) を先頭にし、˞ボーウティシン˞カ [˞boːʔutiʃiŋ˞ka](棒踊人衆 < 臣下 >)、˞ゾーラキシンカ [˞ʤoːrakiʃiŋka](奉納舞踊をする人衆 < 臣下 >) を従えて進む。出演者はカ˞シ˞ラがトゥ˞ニムトゥ [tu˞nimutu](根屋。友利家と東里家) を出る時からメーキャップをし、コスチュームに身を包み、隊列を組んで笛、太鼓、銅鑼を打ち鳴らし、気勢を上げてアイザムトゥで合流し、˞サンシキ [˞saŋʃi̥ki] へと進んでいく。続いて西村のカ˞シ˞ラも同様に入場する。カシラは˞サンシキ (桟敷) の正面の定位置に二本のポールを立てて、それに結わえておく。˞ゾーラキや棒踊は東村、西村対抗で競演されるが、東村と西村の交代の際にはカ˞シ˞ラを一旦サンシキの入り口まで退場させて再入場させる。競演が終わると、最後に˞パー˞レー [˞paː˞reː](爬竜船競漕 (ハリュウセンキョウソウ)) が行われる。ゾーラキの最終演目が終わると同時に、笛が一段と高く吹き鳴らされると、銅鑼が強打され、カシラ持ちが旗頭を持ち上げ、棒踊の曲に合わせながら、東回りでサンシキの浜に移動させる。浜には二本のポールが立てられており、カシラをそれに結わえて立てておく。ポールの前には、東と西の˞パーレー˞フニ [˞paːre˞ɸuni](爬竜船) が装飾を施されて並べてある。司たちが所定の座に着かれると、二隻のパーレーフニは漕ぎ手によって手で下げ持つようにして勢いよく海に浮かべられ、漕ぎ手たちが乗る。一旦舟を揃えてから˞ユーアギジラマ [˞juːʔagiʤirama](世揚げジラバ。世乞いジラバ < 神歌 >) を歌い、ゆっくりと舟を漕ぎまわして出発点に揃え、出発の銅鑼の合図でスタートを切る。折り返し点のブイは約 200 メートル沖に白旗を立ててある。この方角も、桟敷からパ˞トゥ˞マレー [pḁ˞tu˞mareː](鳩離島) の˞パンガマイシ [˞paŋgamaiʃi](羽釜石 (ハガマイシ)) と、ピ˞ナイサキ [pi˞naisaki](ピナイ崎) のマ˞ニ˞ツァイシ [ma˞ni˞tsaʔiʃi](俎板石 (マナイタイシ)) に合わせるように定められている。このブイの白旗を回る際に、トゥ˞ム˞ヤク [tu˞mu˞jaku](船頭。「艫櫂」の義) が櫂で白旗を倒すことになっている。こうしてゴールインすると、イ˞チバン˞ヤク [ʔi˞ʧibaɲ˞jaku](一番漕ぎ手) が舟から飛び降りて司の前に跪 (ヒザマズキ) き、神酒を頂く。その間、浜では老若男女が入り乱れて銅鑼や太鼓を乱打し、˞ガー˞リ [˞gaː˞ri](応援合戦。「自慢合戦」の義か) をする。これが済むと、˞ユーアギジラマ [˞juːʔagiʤirama] と˞パイミジラ˞マ [˞paimiʤira˞ma](早めジラバ) を漕ぎ手と応援団が一緒に歌い、旗頭を先頭にして桟敷へ戻り、東西のトゥニムトゥ (根元屋) へと分かれていく。桟敷では˞サンシキヌ˞ウタ [˞saŋʃikinu˞ʔuta](桟敷の歌) を歌い、それから˞アイ˞ザムトゥ [˞ʔai˞ʤamutu](合流点。「あひざ < 会い座元 >」の義か) へ戻って「別れの歌」、˞アイ˞ザムトゥウタ [˞ʔai˞ʤamutuʔuta](アイザムトゥ歌) を歌って東西のトゥ˞ニムトゥ (根元屋。旗頭を保管している家) へ帰る。トゥ˞ニムトゥ (根元屋) ではトゥ˞ニムトゥヌ˞ウタ [tu˞nimutunu˞ʔuta](根元屋の歌) と˞サンバー˞レー [˞sambaː˞reː] が歌われて儀式を終える。一方、漕ぎ手達は˞パー˞レー [˞paː˞reː](爬竜船) の船元家に集まり、フ˞ナム˞トゥ [ɸu˞namu˞tu](船元の歌) を歌ってトーピンの儀式の総てを終了する。˞プー˞ルの三日目は、シ˞ナ˞ピキ [ʃi˞na˞pi̥ki](綱引き) である。綱引きの当日、午前中に、サ˞カサ [sḁ˞kasa](司)、ティ˞ジリ˞ビー [ti˞ʤiri˞biː](男性神職者)、バ˞キサカ˞サ [ba˞kisaka˞sa](脇司) らは˞ウガン [˞ʔugaŋ](御嶽) に行き、祈願をして帰りに友利御嶽の司の家で歌や三線で神遊びをして待機する。一方、青年達は午前中より綱の準備や旗頭の準備をする。各戸から徴収した稲藁 (イナワラ) を使って藁縄 (ワラナワ) を綯 (ナ) い、それを数本縒り合わせて太い綱をつくる。シ˞ナヌ˞ミン [ʃi˞nanu˞miŋ](綱の耳) は稲藁を巻き込んで直径約 30 センチの太さにつくり、そこから約 20 メートルほどは直径約 20 センチの太い綱に作る。太い綱からは枝綱を多く出して、綱を引きやすいように工夫した。旗頭の伝統的なものと異なり、綱引きの日のカシラはデザインも形も毎年新しく工夫された。鰹漁船の工場からはカツオをかたどったカシラも出された。午後 3 時頃になると、˞サンシキにおいては司やティ˞ジリ˞ビーらが所定の座につき、村の有志たちも所定の座

にすわる。と同時に銅鑼の早打ちが始まり、それを合図にˈヒーヤユイˈサ [ˈçiːjajuiˈsa] の掛け声があがり、東村、西村入り乱れて乱舞する。巻き踊のように、ひとしきり乱舞があり、銅鑼の合図で旗頭が東西に分かれた後、コスチュームに身を固め、前列に木刀 (剣) を持った婦人 (2 名)、二列にˈザイ [ˈʤai](麾(キ)。幣帛(ヘイハク)。ザイ) もった婦人 (2 名)、三列にタイˈコーˈマ [taiˈkoːˈma](小太鼓) を持った婦人 (2 名)、その後に数人の合唱隊よるイˈジックナー [ʔiˈʤikkunaː](口合戦。「言い競い」の義) が始まる。一種の「土地誉め」競争で、東村、西村の合唱隊は向かい合って、村の自慢を単調な曲にのせて謡い囃(ハヤ)す。小太鼓の音に合わせて謡い、曲に合わせて体を前後にゆすりながら両手を下ろしたり、戻したりする動作を繰り返す。前列の女性は両手で剣を小さく振りながら東西より 5、6 歩前進してきて剣と剣を切り結び、くるっと回って原隊へ戻る動作を繰り返す。こうしてˈイジックナーが終わると、次にˈガーリˈウタ [ˈgaːriˈʔuta](囃し歌。「自慢歌」の義か) が歌われ、シˈナˈピキ [ʃiˈnaˈpi̥ki](綱引き) に移る。綱引きは一回と二回は簡単に引いて本番に移る。本番は、先ず、シˈナヌˈミン [ʃiˈnanuˈmiŋ](綱の耳。雄綱と雌綱を合わせるところ) を寄せることから始まる。西村からは戸板に乗った女性が鎌を持って身構え、男達に担がれてゆっくりと進み出る。東村からは、長刀を持った男性が身構え、同じく戸板に乗って銅鑼の音に合わせてながらゆっくりと進み出る。東西の綱が合体した所まで進むと、双方とも身構えを解き、東村から五穀の入った籠が手渡され、西村からは、それを受けて神酒を手渡す。この儀式が済むと西村の女性は鎌と鎌の刃を打ち鳴らして再び身構える。東村の男性も長刀を斜め下に身構え、双方とも急いで退場する。そして本番の綱引きが行われる。本番の綱引きには司もティˈジリˈビーも参加する。東村は人口も多く、強力ではあるが、大綱は一旦は東へ引かせても、最後は西村の方へ引き寄せ、世果報を予祝するのが慣例である。これはˈパーˈレー (爬竜船競漕) でも同様で、ˈユーアギジラマの歌詞の中に構造的に西村が勝つ仕組みが隠されている。

ˈプールˈウタ [ˈpuːruˈʔuta] 【名】豊年祭の歌。豊年祭に歌われる神歌。各御嶽の神々を称え、祈願する神歌。**(1-1)** ウˈブトゥムˈル (友利御嶽 < 御願 >) の歌。**(1)**/ヘイヤー　ウブトムル　ホー　マブルシュー　ヘイヤー　ウブスクヌ　ホー　ウヤガミ/(へいやー < 囃子。以下略 > 大友利御嶽の　ホー < 囃子。以下略 >　守護神様、へいやー　みずがき < 瑞垣 > の　ホー　親神様)。**(2)**/ヘイヤー　ウユミサ　ホー　アラバン　ヘイヤー　ナユミサ　ホー　アラバン/(へいやー　恐れ多く　ほー　ありましても、へいやー　かしこしく < 畏しく >　ホー　おわし < 在し > ても)。**(3)**/ヘイヤー　ウスバユティ　ホー　ウガマ　ヘイヤー　チカクユティ　ホー　ウガマ/(へいやー　お側に寄って　ホー　拝みましょう　へいやー　お側近くに寄って　ホー　拝みましょう)。**(1-2)** ピˈナイˈウガン (鬚川御嶽 < 御願 >)**(1)**/ヘイヤー　ピナイパナヌ　ホー　マブルシュー　ヘイヤー　カンパナヌ　ホー　ウヤガミ/(へいやー < 囃子 >　ピナイ崎 < 端 > の　ホー < 囃子 >　守護神様、へいやー < 囃子 >　神崎 < 神端 > の祖先神さま)。**(2)**/ヘイヤー　ニガウカラ　ホー　シズカ　ヘイヤー　ティジルカラ　ホー　ムドゥラ/(へいやー < 囃子 > 祈願してから退出しましょう、へいやー < 囃子 > 合掌して < 手摺りして > から戻りましょう)。**(3)**/ヘイヤー　ヤンヌ　ユーヤー　ホー　ナヒンダラ　ヘイヤー　ンカイル　ユーヤー　ホー　ユクンダラ/(へいやー < 囃子 >　来年の世は　ホー < 囃子 >　いやさか < 弥栄 > だ。へいやー < 囃子 >　迎える世は尚更の豊作だ)。**(1-3)** アˈラˈカーウガン (新川御嶽 < 御願 >)**(1)**/ヘイヤー　アラカーヌ　ホー　マブルシュー　ヘイヤー　カミイラカヌ　ホー　ウヤガミ/(ヘイヤー　新川御嶽の　ホー　守護神様、ヘイヤー　神森甍の　ホー　祖神様)**(2)**/ヘイヤー　ニガウカラ　ホー　シズカ　ヘイヤー　ティジルカラ　ホー　ムドゥラ/(ヘイヤー　祈願してから　ホー　退出しましょう。ヘイヤー　合掌してから　ホー戻りましょう)**(3)**/ヘイヤー　ヤンヌユーヤー　ホー　ナヒンダラ　ヘイヤー　ンカイル　ユーヤー　ホー　ユクンダラー/(ヘイヤー　来年の世は　ホー　尚更の稔りだ、ヘイヤー　迎える世は一層の豊作だ)。**(1-4)**ˈマイドゥマˈルウガン (前泊御願)**(1)**/ヘイヤー　マイドゥマルヌ　ホー　マブルシュー　ヘイヤー　ユニザキヌ　ホー　ウヤガミ/(ヘイヤー　前泊の　ホー　守護神様　ヘイヤー　浜崎 < ˈ倉廩、与奈久良 (よなくら)」『和名抄』の「与奈」の転訛したものか > の　ホー　祖神様)**(2)**/ヘイヤー　ニガウカラ　ホー　シズカ　ヘイヤー　ティジルカラ　ホー　ムドゥラ/(ヘイヤー　祈願してから　ホー　退こう　ヘイヤー　手摺り < 祈願 >

してから　戻ろう)**(3)**/ヘイヤー　ヤンヌユーヤ　ホー　ナヒンダラ　ヘイヤー　ンカイルユヤー　ユクンダラ/(ヘイヤー来年の世は、ホー　更に豊作だ　ヘイヤー　迎える世は　ホー　尚一層の豊作だ)**(2)** みちうた (道歌)、**(1)**/ヘイヤー　パトゥマユーヌ　ホー　ナウラバ　ヘイヤー　トゥムルユーヌ　ホー　ミキラバ/(ヘイヤー　鳩間世が　ホー　稔ると　ヘイヤー　友利御嶽の世が豊作になる＜実る＞と)、**(2)**/ヘイヤー　タルトゥユードゥ　ホー　ティユマス　ヘイヤー　ジリトゥユードゥ　ホー　ナトゥラス/(ヘイヤー　誰をぞ　称えよう＜トヨマス (鳴響ます)＞か、誰をば　ホー　称え轟かせ＜名取らせ＞ようか)、**(3)**/ヘイヤー　マブルシュードゥ　ホー　ティユマス　ヘイヤー　ウヤガミドゥ　ホー　ナトゥラス/(ヘイヤー　守護神をば　ホー　称える＜鳴響ます＞　ヘイヤー　祖神を　ホー　称え轟かす＜名取らせる＞)、**(4)**/ヘイヤー　マブルシューヌ　ホー　アトゥンヤー　ヘイヤー　ウヤガミヌ　ホー　アトゥンヤー/(ヘイヤー　守護神の　ホー　後には　ヘイヤー　祖神の　ホー　後には)、**(5)**/ヘイヤー　サカサキャードゥ　ホー　ティユマス　ヘイヤー　ティジリキャードゥ　ホー　ナトゥラス/(ヘイヤー　司の方々を　ホー　称える＜鳴響ます＞　ヘイヤー　手摺り部＜男性神職者＞の方々を　ホー　轟かす＜名取らせる＞)、**(6)**/ヘイヤー　サカサキャーヌ　ホー　アトゥンヤー　ヘイヤー　ティジリキャーヌ　ホー　アトゥンヤー/(ヘイヤー　司方の　ホー　後には、ヘイヤー　手摺り部方の　ホー　後には)、**(7)**/ヘイヤー　ユムチキャードゥ　ホー　ティユマス　ヘイヤー　シマムチキャードゥ　ホー　ナトゥラス/(ヘイヤー　世持ちたちを　ホー　称える＜鳴響ます＞　ヘイヤー　島持ちたちを　ホー　称え轟かす＜名取らす＞)、**(8)**/ヘイヤー　ユムチキャーヌ　ホー　アトゥンヤー　ヘイヤー　シマムチキャーヌ　ホー　アトゥンヤー/(ヘイヤー　世持ちたちの　ホー　後には、ヘイヤー　島持ち立ちの　ホー後には)、**(9)**/ヘイヤー　バガケーラドゥ　ホー　ティユマス　ヘイヤー　ユスケーラドゥ　ホー　ナトゥラス/(ヘイヤー　我々皆を　ホー　称える＜鳴響ます＞　ヘイヤー　他の皆を　ホー　轟かす＜名取らす＞)**(3)**˹サンシキヌ　˺ウタ [˹saŋsikinu ˺ʔuta](桟敷の歌)**(1)**/ヘイヤー　サンシキヌ　ホー　マブルシュー　ヘイヤー　ユライズーヌ　ホー　ウヤガミ/(ヘイヤー　桟敷の　ホー　守護神様　ヘイヤー　集い所＜寄り合い所＞の　ホー　おやがみ＜祖神＞)、**(2)**/ヘイヤー　ウユミサ　ヨー　ホー　アラバン　ヘイヤー　ナユミサ　ヨー　ホー　アラバン/(ヘイヤー　畏れ多く　ヨーホー　あられても　ヘイヤー　かしこく＜畏し (恐れ多く)＞　おわし＜御座し＞ても)、**(3)**/ヘイヤー　ウスバユティ　ホー　ウガマディ　ヘイヤー　チカクユティ　ホー　ウガマディ/(へいやー　お側に寄って　ホー　拝もうよ　ヘイヤー　近くに寄って　ホー　拝もうよ)**(4-1)** ミ˹ルク˺ウタ [mi˹ruku˺ʔuta](弥勒歌)**(1)**/ダイククヌ　ミルク　バカ　パトゥマニ　イモリ＜チ＞　クトゥシカラ　バガパトゥマ　ユンガフデームヌ　サーンサーン　グーヤー　サーサー＜囃子。以下省略＞/(大国の弥勒神様が我が鳩間島においでになり、今年から鳩間島は世果報＜豊年満作＞であるよ)、**(2)**/ミルクユーヤ　イモチ　アシババン　アシビ　ブドゥラバン　ブドゥリ　ウユルシデムヌ/(弥勒世は招来されて　人々は遊びに遊べ　踊りに踊れ　お許しだから)、**(3)**/ミルクユーヌ　シルシ　トゥカグシヌ　ユアミ　カキブサイミソリ　シマヌ　アルジ/(弥勒世の兆候は十日越しに降る雨だ　降らせて＜掛けて＞下さい　島の主様)、**(4)**/ウスカジン　クガニ　ミルクユヌ　シルシ　ウクダカサムヌヤ　イスジワルビ/(臼のごと＜数＞の黄金の米は弥勒世の印である　これだけのものは　急げよ子供らよ)、**(5)**/ケラヌダイ　タツシ　ウジガミヌ　ジンク　ウヤヌダイ　タツシ　ハチヌウミングゥ/(島人皆の世代を立てるのは氏神の甚句である　親の世代をを立てるのは初の産みの子である)、**(6)**/ヒャクハタチ　ナティン　クトゥシラン　ムヌヤ　トゥシヤ　ユタンティン　ワラビサダミ/(百二十歳になっても　こと＜道理＞を知らぬ者は　年はとっても童と同じだ)、**(7)**/イマワラビ　ヤティン　クトゥ　シユルムヌヤ　スユイグゥン　タティティ　ウトゥナサダ＜ラ＞ミ/(未成年＜今童＞であっても道理をわきまえている者は、首里奉公の願を立てて、大人であるよ)、**(8)**/スイメデイ　スシヤ　アトゥヌタミ　デムヌ　ハタルチュル　ナカドゥ　カフヤ　チチュル/(首里王府へ奉公するのは後々のためである。働いている者に嘉報は付くものだ)、**(9)**/パトゥマカーヌ　ミジヤ　イチマディン　カワラヌ　ウリタユティ　パトゥマ　ユンガフデムヌ/(鳩間井戸の水は、いつまでも変わらない。これを頼りに鳩間島は世嘉報であるよ)。**(4-2)** 弥勒

節の締め。「ヤーラーヨー節/ヤーラヨーヨー　ヤーラヨーヨー (囃子、以下、曲調急転する)/、**(1)**/キユヌピーバ　ムトゥバシー　ヤーラヨーヨー　ヤーラヨーヨー (囃子、以下省略)/(今日の日を本にして)、**(2)**/クガニピーバ　ニシキシ/(黄金の日を基礎にして)、**(3)**/ニガイオーラ　バガケーラ/(祈願しましょうよ、我等皆)、**(4)**/ティジリオーラ　ユスケーラ/(手摺りしましょうよ、皆様皆)、**(5)**/ニガウニシ　タボーリ/(祈願する如くに賜りませ)、**(6)**/ティジルニシ　アラショーリ/(手摺りした如くに実現してください)、**(7)**/エンヌ　ユーヤ　ナヒンダラ/(来年の世は弥栄の豊作だ)、**(8)**/ンカイルユーヤ　ユクンダラ/(迎える世は尚更豊作の年だ)**(5)** カ「ムラー」マ [ka「mura:」ma](「神漏美＜かむろみ＞」の転訛か)**(1)**/パトゥマユーヌ　ナウラバ　トゥムルユーヌ　ミキラバ　カムラマーヌ　アマイヤミルクユーバ　タボラリ/(鳩間世が稔ると、友利御嶽の世が豊作になると　カムラーマ＜神漏美＞の喜び＜歓えほこり＞は　弥勒神の御世を賜ることです)、**(2)**/タルトゥユードゥ　ティユマス　ジリトゥユードゥ　ナトゥラス　カムラマーヌ　アマイヤ　ウヤキユーバ　タボーラリ/(誰をぞ鳴響ます　何れ＜いずれ＞をぞ称えよう＜名取らす＞、カムラーマ＜神漏美＞の喜び＜歓え＞は裕福な世を賜ることです)、**(3)**/マブルシュードゥ　ティユマス　ウヤガミドゥ　ナトゥラス　カムラーマヌ　アマイヤー　ミルクユーバ　タボーラリ/(守り主＜氏神様＞をぞ鳴響ます、祖神＜氏神様＞をぞ称える＜名取らす＞、カムラーマ＜神漏美＞の喜び＜歓え＞は弥勒世を賜ることです)、**(4)**/カムラーマヌ　アマイヤ　ヌー　フサティル　アマイル　カムラーマヌ　アマイヤ　アカカラジ　フサティルアマイル　カムラーマヌ　アマイヤ　ウヤキユーバ　タボーラリ/(カムラーマ＜神漏美＞の喜びは、何が欲しくて歓えるのか、カムラーマの喜びは人々＜百姓＞が欲しくて歓えるのです、カムラーマの喜びは裕福な世を賜ることです)**(6)**「ユークイジラ」マ [「ju:kuidʑira」ma](世乞いジラバ)**(1)**/パトゥマユーヌ　ヨーホー　トゥムルユーヌ　ナウラバ　ヨーホー　スイナウレ/(鳩間世が　ヨーホー　友利世が稔ると　ヨーホー　スイナウレ＜囃子＞)、**(2)**/タルトゥユドゥ　ヨーホー　ジリトゥユドゥ　ティユマス　ヨーホー　スイナウレ/(誰をば　ヨーホー　いずれをば　鳴響ます＜称える＞　ヨーホー　スイナウレ)、**(3)**/マブルシュードゥ　ヨーホー　ウヤガミドゥ　ナトゥラス　ヨーホー　スイナウレ/(守護神＜守り主＞を　祖神＜氏神＞を称える＜名取らす＞　ヨーホー　スイナウレ)、以下曲調が早まる。/パトゥマユーヌ　ナウラバ　ヨー　サーユイユイ/(鳩間世が稔ると、サーユイユイ)＜囃子＞、この歌が終わると同時に爬竜船はスタートする。**(7)**「ユーアギジラマ [「ju:ʔagidʑirama](世揚げジラバ)**(1)**/インスクヌ　ヨーホー　マブルシュマイバマヌ　ヨーホー　ウヤガミ/(海底＜ニライカナイ＞の　ヨーホー　守護神様＜守る主＞　前浜の　ヨーホー　祖神＜氏神＞様)、**(2)**/バガパトゥマニ　ヨーホー　アガリョーリ　クリ　トゥムルニ　ヨーホー　ウツリョーリ/(我が鳩間島に　ヨーホー　上がりませ＜坐せ＞、これ友利御嶽に　ヨーホー　移りませ＜坐せ＞)**(8)**「パイ」ミジラマ [「pai」midʑirama](言挙げ＜栄えみ＞ジラバ)**(1)**/パトゥマユーヌ　ナウラバ　ヨー　サーユイユイ　トゥムルユーヌ　ミギラバ　ヨー　ハイヨーシューラヨー/(鳩間世が稔ると　ヨー　サーユイユイ＜囃子、以下略＞　友利世が実ると　ヨー　ハイヨーシューラヨー＜囃子、以下略＞)、**(2)**/タルトゥユドゥ　ティユマス　ヨー　ジリトゥユドゥ　ナトゥラス　ヨー/(誰をば鳴響ます　ヨー　どなた＜いづれ＞をば称えよう＜名取らす＞)、**(3)**/マブルシュードゥ　ティユマス　ヨー　ウヤガミドゥ　ナトゥラス　ヨー/(守護神をば鳴響ます　ヨー　祖神をぞ称える＜名取らす＞　ヨー)、**(4)**/マブルシューヌ　アトゥンヤ　ヨー　ウヤガミヌ　アトゥンヤ　ヨー/(守護神の後には　ヨー　祖神の後には　ヨー)、**(5)**/サカサキャードゥ　ティユマス　ヨー　ティジリキャードゥ　ナトゥラス　ヨー/(司の方々を鳴響ます　ヨー手摺り部方の方々を称える＜名取らす＞　ヨー)、**(6)**/サカサキャーヌ　アトゥンヤ　ヨー　ティジリキャーヌ　アトゥンヤ　ヨー/(司の方々の後には、ヨー　手摺り部方の後には　ヨー)、**(7)**/ユムチキャードゥ　ティユマス　ヨー　シマムチャードゥ　ナトゥラス　ヨー/(村長＜世持ち＞方をぞ鳴響ます　ヨー　島持ち＜村役人＞達を称える＜名取らす＞　ヨー)、**(8)**/ユムチキャーヌ　アトゥンヤ　ヨー　シマムチャーヌ　アトゥンヤ　ヨー/(村長＜世持ち＞方の後には　ヨー　島持ち＜村役人＞達の後には　ヨー)、**(9)**/バガケーラドゥ　ティユマス　ヨー　ユスケーラドゥ　ナトゥラス　ヨー/(私たち全員を鳴響ます　ヨー　他の皆を称える＜名取らす＞　ヨー)**(9)**「サンシキヌ

˺ウタ [˺saŋʃikinu ˺ʔuta](桟敷の歌)**(1)**/ヘイヤー　サンシキヌ　ホー　マブルシュー　ヘイヤー　ユライズーヌ　ホー　ウヤガミ/(ヘイヤー＜囃子＞　サンシキヌ　ホー＜囃子＞　守護神様　ヘイヤー　集い場＜寄り合い所＞の　ホー　氏神様＜祖神＞)、**(2)**/ヘイヤー　ニガウカラ　ホー　シズカ　ヘイヤー　ティジルカラ　ホー　ムドゥラ/(ヘイヤー　祈願してから退きましょう　ヘイヤー　手摺り祈願してから　ホー　戻りましょう)、**(3)**/ヘイヤー　エンヌユーヤ　ホー　ナヒンダラ　ヘイヤー　ンカイルユーヤ　ホー　ユクンダラ/(ヘイヤー　来年の世は、願わくばいやさか＜弥栄＞の年だ　ヘイヤー　迎える世は　ホー　尚更の豊作の年たれ)**(10)**˹アイ˺ザムトゥ [˹ʔai˺ʤamutu](「会い座元」の義か) の歌 **(1)**/ヘイヤー　アイザムトゥヌ　ホー　マブルシュ　ヘイヤー　ンカイズーヌ　ホー　ウヤガミ/(ヘイヤー　迎神所＜会い座元＞の　ホー　守護神様　ヘイヤー　迎神所の祖神＜氏神＞様)、**(2)**/ヘイヤー　ウガディカラ　ホー　シズカ　ヘイヤー　ティジルカラ　ホー　シズカ/(ヘイヤー　拝んでから退きましょう　ヘイヤー　手摺り拝んでから　ホー　退きましょう)、**(3)**/ヘイヤー　ヤイヌ　クナチ　ホー　ルクンガチ　ヘイヤー　チカクユティ　ホー　ンカイオーラ/(ヘイヤー　来年の＜来る夏の＞　ホー　六月に　ヘイヤー　お側近く寄って　ホー　お迎えいたしましょう)**(11)** トゥ˹ニムトゥ [tu˹nimutu](村の宗家。集落創建者の家)**(1)**/ヘイヤー　クヌトゥンチヌ　ホー　マブルシュ　ヘイヤー　トゥニムトゥヌ　ホー　ウヤガミ/(ヘイヤー　この殿内の　ホー　守護神様　ヘイヤー　宗家(ソウケ)の　ホー氏神様)、**(2)**/ヘイヤー　ウユミサ　ホー　アラバン　ヘイヤー　ナユミサ　ホー　アラバン/(ヘイヤー　畏(オソレ)多く　ホー　あっても　ヘイヤー　畏れ多く　ホー　あっても)、**(3)**/ヘイヤー　ウスバユティ　ホー　ウガマディ　ヘイヤー　チカクユティ　ホー　ウガマディ/(ヘイヤー　お側に寄って　ホー　拝みましょうよ　ヘイヤー近くに寄って　ホー　拝みましょうよ)**(12)** ˺サンバーレー [˺sambaːreː](˹サン＜魔除け呪符＞・祓え」の義か。意味不明)**(1)**/パトゥマユーヌ　ヨー　サンバーレー　トゥムルユーヌ　ミギラバ　ナトゥラス　サンバーレー　ティユマス　サンバーレー/(鳩間世が　ヨー　サンバーレー　友利世が稔ると　名取らす　サンバーレー　鳴響ます　サンバーレー)、**(2)**/タルトゥユードゥ　ヨー　サンバーレー　ジリトゥユードゥ　ナトゥラス　ナトゥラス　サンバーレー　ティユマス　サンバーレー/(誰をば　ヨー　サンバーレー　いづれをば　名取らす　名取らす　サンバーレー　鳴響ます　サンバーレー)、**(3)**/マブルシュードゥ　ヨー　サンバーレー　ウヤガミドゥ　ナトゥラス　ナトゥラス　サンバーレー　ティユマス　サンバーレー/(守護神を　ヨー　サンバーレー　氏神をば　名取らす　名取らす　サンバーレー　鳴響ます　サンバーレー)、**(4)**/マブルシューヌ　ヨー　サンバーレー　ウヤガミヌ　アトゥンヤ　アトゥンヤ　サンバーレー　ティユマス　サンバーレー/(守護神の　ヨー　サンバーレー　氏神の後には　後には　サンバーレー　鳴響ます　サンバーレー)、**(5)**/サカサキャードゥ　ヨー　サンバーレー　ティジリキャードゥ　ヨー　サンバーレー　ナトゥラス　サンバーレー　ティユマス　サンバーレー/(司方を　ヨー　サンバーレー　手摺り部方を　ヨー　サンバーレー　名取らす　サンバーレー　鳴響ます　サンバーレー)、**(6)**/サカサキャーヌ　ヨー　サンバーレー　ティジリキャーヌ　アトゥンヤー　アトゥンヤ　サンバーレー　ティユマス　サンバーレー/(司方の　ヨー　サンバーレー　手摺り部方の　後には　後には　サンバーレー　鳴響ます　サンバーレー)、**(7)**/ユムチキャードゥ　ヨー　サンバーレー　シマムチャーヌ　アトゥンヤ　アトゥンヤ　サンバーレー　ティユマス　サンバーレー/(世持ち＜村役人＞方を　ヨー　サンバーレー　島持ち＜村役人＞達の後には　後には　サンバーレー　鳴響ます　サンバーレー)、**(8)**/バガケーラドゥ　ヨー　サンバーレー　ユスケーラドゥ　ナトゥラス　ナトゥラス　サンバーレー　ティユマス　サンバーレー/(私たち皆を　ヨー　サンバーレー　他の皆を　名取らす　名取らす　サンバーレー　鳴響ます　サンバーレー)**(13)** フ˹ナム˺トゥ [ɸu˹namu˺tu](船元) の歌 **(1)**/ヘイヤー　クヌ　トゥンチヌ　ホー　マブルシュー　ヘイヤー　フナムトゥヌ　ホー　ウヤガミ/(ヘイヤー　この殿内の　ホー　守護神様　ヘイヤー　船元の　ホー　祖神様＜祖神＞)、**(2)**/ヘイヤー　ウヤミサ　ホー　アラバン　ヘイヤー　ナユミサ　ホー　アラバン/(ヘイヤー　畏れ多く　ホー　あっても　ヘイヤー　畏れ多く　あっても)、**(3)**/ヘイヤー　ウスバユティ　ホー　ウガマ　ヘイヤー　チカクユティ　ホーウガマ/(ヘイヤー　お側に寄って　ホー　拝みましょう　ヘイヤー

近くに寄って　ホー　拝みましょう)**(14)** イ˹ジックナー [ʔi˹ʤikkunaː](口合戦。「言い競べ」の義)**(1)** 西村/アーレサー　アーレサー　シナヌミンバ　ユーシクーバ　シンカサー　シンカサー/(東よ東、綱の耳を寄せてきたら、押し合おうよ、張り合おうよ)、**(2)** 東村/イーレサー　イーレサー　シナヌミンバ　ユーシクーバ　シンカサー　シンカサー/(西よ西、綱の耳を寄せてきたら、押し合おうよ、張り合おうよ)、**(3)** 西村/アーレントゥ　イーレントゥ　ガータスヌ　アーレンヤ　マキ　イーレンヤ　カチ　シックリサーサ/(東村と西村が村自慢をしたが、東村は負けて西村は勝ち、シックリサーサ)、**(4)** 東村/イーレントゥ　アーレントゥ　ガータスヌ　イーレンヤ　マキ　アーレンヤ　カチ　シックリサーサ/(西村と東村と村自慢をしたが、西村は負け、東村は勝ち、シックリサーサ)、**(5)**/バンター　シマナー　ウブシラティン　クーシラティン　アンダラ　シックリサーサ/(私達の村には、大きな稲叢とても、小さな稲叢とてもあるよ、シックリサーサ)、**(6)**/バンター　シマナー　ウリカーティン　シルカーティン　アンダラ　シックリサーサ/(私達の村には、下り井戸とても、釣瓶井戸とてもあるよ、シックリサーサ)**(15)**˹ガーリ˺ウタ [˹gaːri ˺ʔuta](加勢、自慢の歌)**(1)** 西村、/アールプール　アールプール　シナヌミンバ　ユーシクーバ　シナンギ　スー　サーサー　ユーシクーバ　シナンギ　スー/(東村の豊年祭　東村の豊年祭　綱の耳を　寄せて来ると　綱繋ぎをする　サーサー　寄せて来ると　綱繋ぎをする)、**(2)** 東村、/イールプール　イールプール　シナヌミンバ　ユーシクーバ　シナンギ　スー　サーサー　ユーシクーバ　シナンギ　スー/(西村の豊年祭　西村の豊年祭　綱の耳を　寄せて来ると　綱繋ぎをする　サーサー　寄せて来ると　綱繋ぎをする)。

˹プールシゥカイ˺バー [˹puːrusïkai˺baː] 【名】豊年祭に使用する米。「豊年祭使い分」の義。ム˹チマイ [mu ˹tsimai](糯米) は、˹プール˺ムチ [˹puːru˺mutsi](豊年祭の糯。バ˹サン˺パームチ [ba˹sam˺paːmutʃi]< 芭蕉の葉で包んだ餅 >、サ˹ミンパームチ [sa˹mimpaː-mutʃi]< 月桃の葉餅 >) を作るため、サ˹ク˺マイ [sḁ ˹ku˺mai](粳米) は日常生活用として、豊年祭の一週間前から準備された。庭の木陰で、ピ˹キウシ [pi̥˹kiʔuʃi](挽き臼。籾摺り臼) やシ˹キ˺ウシ [ʃi̥˹ki˺ ʔuʃi](搗き臼) を並べて、女たちが精米した。「プールシゥカイバー˺ヤ　ム˹チマイ˺　ル˹ク˺スブカラ　ッ˹サウバ˺ル　˺ナル [˹puːrusïkaiba˺ja mu˹tsimai ˺ru˹ku˺subukara s˹sauba˺ru ˺naru](豊年祭に使用する米は、糯米(モチゴメ)を六升ほど精米しないといけない < 精米すればぞなる >)。

˹プール˺ムチ [˹puːrumu˺tsi] 【名】豊年祭の餅。バ˹サン˺パームチ [ba˹sam˺paːmutʃi](芭蕉の葉餅) ともいう。芭蕉の葉で包み、5 枚、7 枚 13 枚と束ねて蒸し上げて作った餅で、餅皮を剥ぐに便利である。普通は糯米を一晩水に浸け、石臼で挽いたのをミ˹リキンブク˺ル [mi˹rikimbuku˺ru](メリケン袋。小麦粉の袋) に入れて水を切り、˺シトゥ [˺ʃi̥tu](澱粉) をとり、それを直径約 3 センチ、長さ約 8 センチの円柱状に丸め、芭蕉の葉に包んで蒸すと餅が出来る。大量に作って、食べ残したものは˹ミー˺ス [˹miː˺su](餅味噌) に作って茶請け < 茶の子 > として食した。月桃の葉で包んで作る餅は、サ˹ミンパームチ [sa˹mimpaːmutsi](月桃の葉餅) といい、香ばしくて食欲をそそる。シ˹ナピキ˺ヌ　˺アトー　ヤ˹ラ˺ビンケーヤ　˹ヤーカ　ー˺ジ　˹ヒーヤユイ˺サ　˹シー　ガー˺レーティ　˹プール˺ムチ　˹イー˺リ　˹クー˺タ [ʃi˹napiki˺nu ˺ʔatoː ja˹ra˺biŋkeːja ˹jaːka˺ʤi ˹çiːjajui˺sa ˹ʃiː gaː˺reːti ˹puːru˺mutʃi ˹ʔiː˺ri ˹kuː˺ta](綱引きの後、子供たちは家ごとにヒーヤユイサと掛け声をかけて景気付けをしながら豊年祭の餅を貰ってきた)。

˹フーン [˹ɸuːŋ] 【他動】1閉める。閉じる。目を閉じる意には用いない。˺ミー　ッ˹サウン [˺miː s˹ sauŋ](目を閉じる) という。˺ヤドゥ　˹フーンティ　スンドゥ˺　カ˹ムイ˺ナー　カ˹カ˺リティ　˹ホーララヌ [˺jadu ˹ɸuːnti sundu˺ ka˹mui˺naː kḁ˹ka˺riti ˹ hoːraranu](戸を閉めようとするが、鴨居に引っ掛かって閉められない)。カ˹ミ˺ヌ　フ˹ター　フイティ˺　シケーンドゥ　˹フイカタヌ　ヨー˺カー　˺イケー　ム˹リ˺ス [ka˹mi˺nu ɸu̥˹taː ɸuiti˺ ʃi̥keːndu ˹ ɸuikatanu joː˺kaː ˺ʔikeː mu˹ri˺su](甕(カメ)の蓋(フタ)を閉めておいてあるが、閉め方が弱いと息がもれる)。˺ヤドー　ギャン˹ティ　フイヤー˺　ミサムヌ [˺jadoː gjan˹ ti ɸuijaː˺ misamunu](戸はびっしりと閉めれば良いのに)。ク˹ビン˺ヌ　フ˹ター˺　ドゥーシ　˹フイ˺バ [ku˹bin˺nu ɸu̥˹taː˺ duːʃi ˹ɸui˺ba](瓶(ビン)の蓋は自分で閉めなさい)。2蓋をする。覆う。フ˹タ　フーン [ɸu̥˹ta ɸuːŋ](蓋をする。蓋を閉める)。フ˹タ　ホーヌ [ɸu̥˹ ta hoːnu](蓋をしない。蓋を閉めない)。

˺フーン [˺ɸuːŋ] 【自動】1降る。「風まじり雨布流欲乃 < アメフルヨノ >〜。万、892」の転訛。˺アツァー

ア⌜ミ⌝ヌ　⌝フーンティ　⌝ラジヨラ　ス⌜クタヌ⌝ ノー⌜シン　ホーン⌝パジ [⌝ʔatsa: ʔa⌜mi⌝nu ⌝ɸu:nti ⌝ radʒijora su̥⌜kutanu⌝ no:⌜ʃiŋ ho:m⌝padʒi](明日は雨が降るとラジオで < から > 聞いたが、どうせ降らないだろう < はずだ >)。ア⌜ミ⌝ヌ　⌝フイティ　パ⌜タ⌝ケー　パ⌜ララ⌝ヌ [ʔa⌜mi⌝nu ⌝ɸuiti pḁ⌜ta⌝ke: pa⌜rara⌝nu](雨が降って畑へ行かれない)。ア⌜ミ⌝ヌ　⌝フー　⌝ピンマー　ウ⌜ロイ⌝ヌ　ウ⌜リ⌝ルンダ　⌜マー⌝ビン　⌜フイ⌝ヤー　⌝ミサムヌ [ʔa⌜mi⌝nu ⌝ɸu: ⌝pimma: ʔu⌜roi⌝nu ʔu⌜ri⌝runda ⌜ma:⌝biŋ ⌜ɸui⌝ja: ⌝misamunu](雨が降る時は畑に潤いが下りるから、もっと降ればいいのに)。⌝フーカー　⌜パー⌝ク　⌝フイ [⌝ɸu:ka:⌜pa:⌝ku ⌝ɸui](降るなら早く降れ)。

⌝フーン [⌝ɸu:ŋ] 【自動】付く。生じる。サ⌜ビ⌝　フーン [sa⌜bi⌝ ɸu:ŋ](錆がつく < 錆くう >)。⌝パナ　⌝フーン [⌝pana ⌝ɸu:ŋ](黴がつく < 黴が生える >)。⌜コージ⌝　フーン [⌜ko:dʒi⌝ ɸu:ŋ](麹黴がつく < 生じる >)。⌜ヌー⌝ル　⌝フーン [⌜nu:⌝ru ⌝ɸu:ŋ](苔が生える)。⌝ガバー　⌝フーン [⌝gaba: ⌝ɸu:ŋ](垢が付く)。

⌝フーン [⌝ɸu:ŋ]【他動】**1**噛む。喰らう。[kuraɸi・wori] → [kurawiuŋ] → [ffauŋ] → [ffu:ŋ] → [ɸu:ŋ] と音韻変化したもの。ク⌜ヌ　イン⌝マー　⌜ズー　フンク⌝カー　プ⌜ス⌝　フーン [ku⌜nu ʔim⌝ma: ⌜dʑu: ɸuŋku⌝ka: pu̥⌜su⌝ ɸu:ŋ](この犬は尾を踏むと人を噛む)。⌜ミンダリインヌ⌝ル　プ⌜ソー⌝　フー [⌜mindariʔinnu⌝ru pu̥⌜so:⌝ ɸu:](耳の垂れた大人しい犬が人を噛むのだ)。タ⌜キ⌝ル　⌜イン⌝マー　プ⌜ソー　ホー⌝ヌ [tḁ⌜ki⌝ru ⌜ʔim⌝ma: pu̥⌜so: ho:⌝nu](吠える < 哮る。「哮、タケル」『類聚名義抄』> 犬は人を噛まない)。**2**巣くう。「巣、スクフ」『類聚名義抄』。ア⌜マ⌝ダラナー　⌜カー⌝ラヤーヌ　トゥ⌜ラーマ⌝ヌ　⌜シー⌝バ　⌝フイ　⌜ベー [ʔa⌜ma⌝darana: ⌜ka:⌝raja:nu tu⌜ra:ma⌝nu ⌜ʃi:⌝ba ⌝ɸui ⌜be:](軒 < 雨垂れ > にスズメ < 瓦屋の小鳥 > が巣くっている)。

⌜ブイ [⌜bui] 【名】甥。姪。「甥、兄弟之子為☒甥、乎比 < をひ >」『和名抄』の転訛したもの。ク⌜ヌ⌝　ビ⌜コーンッふァトゥ⌝　ミ⌜ドーン⌝ッふァー　⌝バー　⌜ブイ⌝ダー [ku⌜nu⌝ bi⌜ko:ŋffatu⌝ mi⌜do:ŋ⌝ffa: ⌝ba: ⌜bui⌝da:](この男の子と女の子は私の甥姪だよ)。ブ⌜イッふァ [⌜buiffa](甥姪だ。「甥子、姪子」の義)。

⌜フイ⌝キシ　⌝ヤムン [⌜ɸui⌝ki̥ʃi ⌝jamuŋ] 【連】うずく(疼き痛む)。噛み切るように痛む。⌜ピーリ⌝ミジ　⌝ヌムカー　⌜パー⌝ヤ　⌜フイ⌝キシ　ヤムン⌜ダー [⌜pi:ri ⌝midʒi ⌝numuka: ⌜pa:⌝ja ⌜ɸui⌝ki̥ʃi jamun⌜da:](冷や水を飲むと歯は疼き痛むよ)。ギ⌜シギシ⌝シ　バ⌜タ⌝ヌ　⌜ふイ⌝キシ　⌝ヤムン [gi⌜ʃigiʃi⌝ʃi ba⌜ta⌝nu ⌜ɸui⌝ki̥ʃi ⌝jamuŋ](ギューギューとお腹が疼き痛む)。

⌜フイ⌝キスン [⌜ɸui⌝ki̥suŋ] 【他動】食い切る。噛み切る。食い千切る。⌝パーシ　⌜フイ⌝キスンティ　⌜スンドゥ　コー⌝ヌ　⌜フイキサラ⌝ヌ [⌝pa:ʃi ⌜ɸui⌝ki̥sunti ⌜sundu ko:⌝nu ⌜ɸuiki̥sara⌝nu](歯で噛み切ろうとするが、硬くて噛み切られない)。⌝パーシ　⌜フイ⌝キシッ⌜ふァイ⌝バ [⌝pa:ʃi ⌜ɸui⌝kiʃi f⌜fai⌝ba](歯で噛み切って食べなさい)。⌜ドゥー⌝ヌ　⌝パーシ　⌜フイ⌝キス　⌝クトー　ナ⌜ラ⌝ヌ [⌜du:⌝nu ⌝pa:ʃi ⌜ɸui⌝ki̥su ⌝ku̥to: na⌜ra⌝nu](自分の歯で噛み切ることは出来ない)。⌜フイ⌝キシェー　⌝ミサムヌ [⌜ɸui⌝ki̥ʃe: ⌝misamunu](噛み切ればいいのに)。ク⌜マン⌝　トンラ　⌜フイ⌝キシ [ku⌜man⌝ tonra ⌜ɸui⌝ki̥ʃi](ここの所から噛み切れ)。

⌜フイキスン [⌜ɸuiki̥suŋ] 【他動】戸を締め切る。完全に戸締りをする。⌝ヤドゥ　⌜フイキスン⌝カヤーティ　ウ⌜ムータン⌝ドゥ　マ⌜ダ　フイキサンバン [⌝jadu ⌜ɸuiki̥suŋ⌝kaja:ti ʔu⌜mu:tan⌝du ma⌜da ɸuki̥sambaŋ](戸を閉め切るかと思ったが、まだ締め切らないよ)。⌜フイキシ⌝　ミサカー　ユネン⌜バー⌝キナ　⌜フイキス　⌝クトー　⌝ナルン [⌜ɸuiki̥ʃi⌝ misaka: junem⌜ba:⌝kina ⌜ɸuiki̥su⌝ ku̥to: ⌝naruŋ](締め切ってよければ、夕方までには締め切ることはできる)。⌜フイキシェー⌝　ミサムヌ [⌜ɸuki̥ʃe:⌝ misamunu](締め切ればいいのに)。⌜パー⌝ク　⌜フイキシ [⌜pa:⌝ku ⌜ɸuiki̥ʃi](早く戸を締め切れ)。

⌜フイッ⌝ツァムン [⌜ɸuit⌝ʦamuŋ]【他動】咬む。噛み付く。噛み砕く。「食い噛む」の義。「Cami, u, oda. カミ, ム, ゥダ (噛む、む、うだ) 噛み砕く、または、噛み付く. Xixi fitouo camu.(獅子が人を食う)」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。⌝フーンとも言う。⌜イン⌝マー　プ⌜ス　フイッ⌝ツァムン⌜ダー [⌜ʔim⌝ma: pu̥⌜su ɸuit⌝ʦamun⌜da:](犬は人を咬むよ)。⌜フイッ⌝ツァミティ　⌜パンツァサヌ [⌜ɸuit⌝ʦamiti](噛みついて離さない)。ク⌜ヌ　イン⌝マー　プ⌜スヨー　フイッツマ⌝ヌ [ku⌜nu ʔim⌝ma: pu̥⌜sujo: ɸuitʦama⌝nu](この犬は人を咬まない)。⌜フイッ⌝ツァム　⌝クトー　⌜ナー⌝ヌ [⌜ɸuit⌝ʦamu ⌝ku̥to: ⌜na:⌝nu](咬みつくことはない)。⌜フイッ⌝ツァメーラ　⌜パンツァサヌ [⌜ɸuit⌝ʦame:ra ⌜pantsasanu](噛み付いたら離さない)。⌝パーシ　⌜フイッ⌝ツァミ [⌝pa:ʃi ⌜ɸuit⌝ʦami](歯で噛みつけ)。

⌜ブイッふァ [⌜buiffa] 【名】甥っこ。姪っこ。⌜ブイ [⌜bui](甥、姪) と同じ。ッ⌜ふァー⌝　ブ⌜ラーン　ベー⌝ティ　⌜ブイッふァヌル⌝　ミリ　ッ⌜ふィー　ブー [f⌜fa:⌝ bu⌜ra:m be:⌝ti ⌜buiffanuru⌝ miri f⌜fi: bu:](子供

がいないので、甥っ子が＜面倒を＞看てくれている)。

˞フイナ [˞ɸuina] 【名】(動) くいな (水鶏)。「水雞、此をば倶田比那 (くひな) といふ」『日本書紀皇極一年』の転訛したものか。

˞フイ˞バ [˞ɸui˞ba] 【名】茅で編み上げた壷型、バケツ型の穀物入れ。約 1.5 メートルほどの˞マーガヤ [˞ma:gaja](真茅) を根元から刈り取り、2〜3 日干して柔らかくし、直径約 1 センチほどの束にして、˞クー˞ジ [˞ku:˞ʤi](藤蔓もどき) の皮や˞マー˞ニ [˞ma:˞ni](くろつぐ＜桄榔＞) の皮で巻き締めながら大きな壷や広口バケツのように編み上げたもの。穀物を入れて保管するのに用いた。蓋付きのものや、広口のものなど、種々の形のものがある。˞ガヤー　˞スリ　˞キー　˞フイ˞バ　˞フミバ [˞gaja: ˞suri ˞ki: ˞ɸui˞ba ˞ɸumiba](茅を刈ってきて、フイバを編みなさい)。

フイ˞バー˞マ [ɸui˞ba:˞ma] 【名】小型の穀物入れ (フイバ)。フイ˞バー˞マナ　サ˞ニ˞ムヌ　イ˞リ˞シケー [ɸui˞ba:˞mana sa˞ni˞munu ʔi˞ri˞ʃi̥ke:](小型の穀物入れに種子を入れてある)。

˞フイヤキ [˞ɸuijaki] 【名】マラリア。震えの発作があってから高熱を発する病気。「フルエヤキ」の転訛。戦争中、軍命で鳩間島の住民が西表島に避難した際に多くの人がマラリアに罹患し、終戦直後に多くの死亡者をだした。戦後の医師がいない鳩間島では、薬品の˞キナイ [˞kinai](キニーネ) もなかったから、悪寒を伴う震えの発作が起きると布団を掛けて押さえつけた。マラリアはその発作の後に高熱を発したので、芭蕉の幹を約 30 センチの長さに切って中央部を木槌で叩き、柔らかくして氷枕の代用にし、濡らしたタオルを絞って、それを額に当てながら熱を冷ました。イ˞クサ˞ユーナ　パ˞イタ˞ヌ　ヒ˞ナン˞ヤーナー　マ˞ラリ˞ヤ　カ˞カ˞リティ　˞マーラソー˞レー　プ˞スン˞　タカー˞ニン　オー˞ルン [ʔi˞kusa˞ju:na: ˞paita˞nu çi˞naɲ˞ja:na: ma˞rari˞ja kḁ˞ka˞riti ˞ma:raso:˞re: pu̥˞sun˞ tḁka:˞niŋ ʔo:˞ruŋ](戦争中に西表島の避難小屋でマラリアに罹患して、亡くなられた人も沢山おられる)。

˞フイユーナー [˞ɸuiju:na:] 【連】噛み付き合い。牙を出して噛み付き合う。歌謡語。˞ヤー　イン˞ヌ　カ˞タ˞　ミ˞リ˞バ　˞フイ˞ユーナードゥ　˞シーユール [˞ja: ʔin˞nu kḁ˞ta˞ mi˞ri˞ba ˞ɸui˞ju:na:du ˞ʃi:ju:ru](ああ、犬の絵を見ると噛み付き合いをしている)(アーパーレー歌)。

˞フイルン [˞ɸuiruŋ] 【自動】震える。˞フイヤキ˞　カ˞カ˞ルカー　˞フイルンドゥ˞　キナイ　˞ヌムカー　˞フイランシェン [˞ɸuijaki˞ kḁ˞ka˞ruka: ˞ɸuirundu˞ kinai ˞numuka: ˞ɸuiraŋʃeŋ](マラリアに罹ると震えたが、薬のキニーネーを飲むと震えなかった)。˞ドゥー˞ヤ　ガ˞タガタ˞シ　˞フイティ˞　ニチ　ン˞ズ˞タン [˞du:˞ja ga˞tagata˞ʃi ˞ɸuiti˞ nitʃi ʔn˞ʤu˞taŋ](体はぶるぶる震えて熱が出た)。˞フイル˞　クトー　ニ˞チ˞ヌ　ン˞ジ˞ル　シ˞ルシ　ヤッタ [˞ɸuiru˞ ku̥to: ni˞tʃi˞nu ʔn˞ʤi˞ru ʃi˞ruʃi jatta](震えることは熱が出る兆候＜印し＞だった)。˞マー˞ビン　˞フイヤー˞　ミサムヌ [˞ma:˞biŋ ˞ɸuija:˞ misamunu](もっと震えばいいのに)。˞フイリ [˞ɸuiri](震えろ)。

˞フカ [˞ɸu̥ka] 【名】1他。ウ˞リラ˞　フ˞カ˞ヌ　˞クトー　ウ˞モーラ˞ヌ [ʔu˞rira˞ ɸu̥˞ka˞nu ˞ku̥to: ʔu˞mo:ra˞nu](それより他のことは考えられない＜思われない＞)。2外。˞クーズメー˞　ナリティ　˞ヤー˞ヌ　˞フカー　ン˞ジ˞ルンティ　ッ˞サヌ [˞ku:ʤume:˞ nariti ˞ja:˞nu ˞ɸu̥ka: ʔn˞ʤi˞runti s˞sanu](岩にへばりつく貝のように家の中に籠って、家の外へ出ようとしない＜出ることを知らない＞)。

フ˞カーフカー [ɸu̥˞ka:ɸu̥ka:] 【副】深々と。深く。ウ˞ヌ˞　プ˞ソー　バン˞ター　˞ヨー˞ムンニン　˞チャー˞　フ˞カーフカー˞シ　˞グリー　˞シーソー˞ル [ʔu˞nu˞ pu̥˞so: ban˞ta: ˞jo:˞munnin ˞ʧa:˞ ɸu̥˞ka:ɸu̥ka:˞ʃi ˞guri: ˞ʃi:so:˞ru](あの人は、私等のような者にも、常に深々とお辞儀をされる)。

フ˞カー˞ン [ɸu̥˞ka:˞ŋ] 【形】深い。表面から下方への垂直の距離が大きい。「〜底深伎　阿胡根の浦の〜。万、12」の転訛。ア˞サー˞ン [ʔa˞sa:˞ŋ](浅い) の対義語。˞ウイヌカーヤ˞　フ˞カーン˞ドゥ　˞インヌカーヤ　ナン˞ゾー　フ˞カー　ナー˞ヌ [˞ʔuinuka:ja˞ ɸu̥˞ka:n˞du ˞ʔinnuka:ja nan˞ʤo: ɸu̥˞ka: na:˞nu](上の村井戸＜富村井戸＞は深いが、西の村井戸はそれほど深くない)。˞ドゥク　フ˞カー˞ヌ　ウ˞リラ˞ヌ [˞duku ɸu̥˞ka:˞nu ʔu˞rirara˞nu](あまりにも深くて下りられない)。˞シンダイ˞　フ˞カー˞　ナルン [˞ʃindai˞ ɸu̥˞ka:˞ naruŋ](次第に深くなる)。フ˞カーン˞　トンマー　ッ˞スマラ˞ヌ [ɸu̥˞ka:n˞ tomma: s˞sumara˞nu](深い所は潜(モグ)れない)。フ˞カー˞ル　˞トン [ɸu̥˞ka˞:ru ˞toŋ](深い所) ともいう。˞アイニ　フ˞カー˞カー　ッ˞スマラ˞ヌ [˞ʔaini ɸu̥˞ka:˞ka: s˞sumara˞nu](あんなに深かったら潜れない)。˞マー˞ビン　フ˞カー˞レー　˞ミサムヌ [˞ma:˞biŋ ɸu̥˞ka:˞re: ˞misamunu](もっと深ければいいのに)。2ものの程度が大きい。ウ

˞レー˞　ユク　フ˞カー˞ン [ʔu˞reː˞ juku ɸu̥˞kaː˞ŋ](彼は欲が深い)。

フ˞カアラ˞キ [ɸu̥˞kaʔara˞ki] 【名】外歩き。外出。「ほかありき」『源氏物語 (澪標)』の転訛か。普通は病み上がりで外出する際に用いる。フ˞カマー˞ル [ɸu̥˞kamaː˞ru](外回り。外歩き)、˞ヤーマー˞ル [˞jaːmaː˞ru](外出。家回り) というのは、仕事を怠けて外出し、遊ぶ意味がともなう。ニ˞チ˞ヌ　ピ˞クター˞　フ˞カアラ˞キン　ナルン˞ダー [ni˞ʧi˞nu pi̥˞kuta˞ ɸu̥˞kaʔara˞kin narun˞daː](熱が引いたので外出 < 外歩き > も出来るよ)。

˞フカイ [˞ɸu̥kai] 【名】(地) 桴海。裏石垣の冨野東部海岸に位置し、浦底湾に臨む。ム˞カ˞シェー　˞フカイナーン　ム˞ラー　アッ˞タンツォー [mu˞ka˞ʃeː˞ ɸu̥kainaːm mu˞raː ʔat˞tantsoː](昔は桴海にも村があったそうだ)。

フ˞カイ˞バナ [ɸu̥˞kai˞bana] 【名】醗酵するとき。最高に醗酵し始めた頃。勢いよく醗酵し始めた頃。歌謡語。古典民謡「鳩間中岡」でうたわれている。動詞˞フカウン [˞ɸu̥kauŋ](醗酵する) の連用形で、接尾語˞バナ [˞bana](端。最初。動作の始め) が下接して形成された合成名詞。

フ˞カイ˞ルン [ɸu̥˞kai˞ruŋ] 【自動】1火照(ホテ)る。体温が著しく上昇する。プ˞スマティダヌ˞　アツァカー　˞ドゥー˞ヤ　フ˞カイルン˞ドゥ　˞ピーリ˞ミジ　ヌ˞マ˞スカー　フ˞カイラ˞ヌ [pu̥˞sumatidanu˞ ʔatsakaː ˞duː˞ja ɸu̥˞kairun˞du ˞piːri˞miʤi nu˞ma˞sukaː ɸu̥˞kaira˞nu](真昼の太陽が暑いと火照るが、冷や水を飲ませると火照らない)。˞ドゥー˞ヤ　˞フカイティ　ニ˞バラヌ [˞duː˞ja ˞ɸu̥kaiti ni˞baranu](体が火照って眠れない)。フ˞カイ˞ル　˞ピンマー　˞ピーリ˞ミジ　ヌ˞マ˞シティ　˞オン˞ギシ　˞アウ˞リ [ɸu̥˞kai˞ru ˞pimmaː ˞piːri˞miʤi nu˞ma˞ʃi̥ti ˞ʔoŋ˞giʃi ˞ʔau˞ri](体が火照る時は冷や水を飲ませて扇で煽(アオ)れ)。˞マー˞ビン　フ˞カイ˞ヤー　˞ミサムヌ [˞maː˞biŋ ɸu̥˞kai˞jaː˞ misamunu](もっと火照ればいいのに)。フ˞カイ˞リ [ɸu̥˞kai˞ri](火照れ)。2醗酵(ハッコウ)する。シ˞タ˞デー　˞フカイティ　イッ˞ケナ　バイヤー˞ン [ʃi̥˞ta˞deː ˞ɸu̥kaiti ʔik˞kena baijaː˞ŋ](醤油 < 下地 > は醗酵してよく醸造され < 沸い > た)。3湯が吹き上がる。吹きこぼれる。˞ユー˞ヤ　˞フカイティ　ク˞バ˞リ　˞ナー˞ヌ [˞juː˞ja ˞ɸu̥kaiti ku˞ba˞ri ˞naː˞nu](お湯は吹き上がってこぼれ < 零れ > てしまった)。

˞フカウン [˞ɸu̥kauŋ] 【自動】火照る。体温が著しく上昇する。火照って意識障害を起こす。˞ドゥク　˞アツァカー　˞ドゥー˞ヤ　˞フカウンティ　˞スンドゥ˞　バー　˞ナン˞ゾー　フ˞カーン˞シェン [˞duku ˞ʔatsakaː ˞duː˞ja ˞ɸu̥kaunti ˞sundu˞ baː ˞nan˞ʤo: ɸu̥˞kaːŋ˞ʃeŋ](あんまり暑いと体が火照るというが、私はあまり火照らなかった)。˞ドゥー˞ヤ　˞フカイティ　ニ˞バラヌ [˞duː˞ja ˞ɸu̥kaiti ni˞baranu](体が火照って眠れない)。˞ドゥー˞ヤ　˞フカウ　˞クトゥン　˞アン [˞duː˞ja ˞ɸu̥kau ˞ku̥tuŋ ˞ʔaŋ](体は火照ることもある)。フ˞カイ˞ヤー　˞ミサムヌ [ɸu̥˞kai ˞jaː ˞misamunu](火照ればいいのに)。˞フカイバ [˞ɸu̥kaiba](火照れよ)。

˞フカウン [˞ɸu̥kauŋ] 【自動】醗酵する。ム˞ルン˞マー　フ˞カイ˞ジブン　˞ナルカー　ブ˞クブ˞クシ　フ˞カウン˞ドゥ　ク˞レー˞　マ˞ダ˞　フ˞カーン˞バン [mu˞rum˞maː ɸu̥˞kai˞ʤibun ˞naruka: bu˞kubuku ˞ʃi ɸu̥˞kaun˞du ku˞reː˞ ma˞da˞ ɸu̥˞kaːm˞baŋ](もろみ < 諸味。醪(モロミ) > は醗酵する時分にはぶくぶくと醗酵するが、これは、まだ醗酵しないよ)。

フ˞カカザ˞ミ [ɸu̥˞kakaʤa˞mi] 【名】深く仕舞うこと。深く隠すこと。大事に仕舞いこむこと。隠し過ぎること。カ˞ザミフカ˞スン [ka˞ʤamiɸu̥ka˞suŋ](隠しすぎる) ともいう。フ˞カカザミ　シーティル　ミシキマー˞キ　˞シェー˞ティ　˞アー˞ク [ɸu̥˞kakaʤami ʃiːtiru miʃi̥kima˞ki ˞ʃeː˞ti ˞ʔaː˞ku](深く仕舞いこみ過ぎて、探し兼ねて < 見つけ負けして > いる)。

フ˞カキジ [ɸu̥˞kakiʤi] 【名】重傷。深手。深い傷。「深傷」の転訛。ア˞サキジ [ʔa˞sakiʤi](浅い傷) の対義語。フ˞カキジ˞　ヤ˞レー˞ティル　イ˞サン˞ヤー　˞サーリ　パッ˞タ [ɸu̥˞kakiʤi˞ ja˞reː˞tiru ʔi˞saŋ˞jaː ˞saːri pat˞ta](重傷 < 深傷 > であったので病院 < 医者の家 > へ連れていった)。

フ˞カ˞ザイサン [ɸu̥˞ka˞ʤaisaŋ] 【名】自宅以外に所有する先祖伝来の田畑などの土地財産。˞ウン˞ネーヤ　フ˞カ˞ザイサンヌ　˞ゴー˞ラール　˞ヤー˞キナイ　ヤ˞ルンダ˞　ウ˞ラーミ˞サン [˞ʔun˞neːja ɸu̥˞ka˞ʤaisannu ˞goː˞raːru ˞jaː˞kinai ja˞runda˞ ʔu˞raːmi˞saŋ](あの家は先祖伝来の田畑の多い家庭だから羨ましい)。

˞フカサバン [˞ɸu̥kasabaŋ] 【名】深茶碗。筒型の茶碗。ア˞ササバン [ʔa˞sasabaŋ](浅い茶碗。普通の茶碗。来客用の茶碗) の対義語。深茶碗は老人が愛用した。床の間や仏壇用の茶碗には深茶碗を用いた。˞ウイ˞プスンケーヤ　˞フカサバンナール　˞サー˞ヤ　˞サイティ˞　ヌ˞モーッタ˞ル [˞ʔui˞pu̥sunkeːja ˞ɸu̥kasa-bannaːru ˞saː˞ja ˞saiti˞ nu˞moːtta˞ru](老人達は深茶

碗にお茶を注いで飲まれたものだ)。トゥ˩クニトゥ　ザートゥク˥ヌ　˩サー˥ドーサバンマー　˥フカサバンル　シゥ˩カイヨー˥ル [tu̥˩kunitu ʤa:tuku˥nu ˩sa:˥do:sabamma: ˥ɸu̥kasabanru si̥˩kaijo:˥ru](仏壇と床の間の茶湯用の茶碗は底の深い湯のみ茶碗を使われる)。

˥フカシグトゥ **[˥ɸu̥kaʃigutu]** 【名】家庭以外の場所でする仕事。「外仕事」の義。山仕事、畑仕事、海仕事＜漁業＞など。˩オシキヌ　カイ˥ヤンダ　ムー˩ル˥　フカシグトゥ　˩シン˥　パ˩リ˥キシ　˩ナー˥ヌ [˩ʔoʃi̥kinu kai˥janda mu:˩ru˥ ɸu̥kaʃigutu ˩ʃim˥ pa˩ri˥ki̥ʃi ˩na:˥nu](天気がいいので＜綺麗だから＞、皆外の仕事に行ってしまった)。

フ˩カズミ **[ɸu̥˩kaʤumi]** 【名】こぞめ (濃染)。濃く染めること。「紅の　深染之衣　下に着て〜。万、1313」の義。˥アブジェー　˩クンジヌ˥　フ˩カズミ　ソー˥レール　˩キン˥バ　キ˩シ　オーッ˥タ [˥ʔabuʤe: ˩kunʤuminu˥ ɸu̥˩kaʤumi so:˥re:ru ˩kim˥ba ki̥˩ʃi ʔo:t˥ta](お祖父さんは紺染めの深染めされた着物を着ておられた)。

フ˩カスン **[ɸu̥˩kasuŋ]** 【他動】1大小便を漏らす。粗相(ソソウ)する。˥ドゥク　シ˩バ˥ル　˥ニズカー　フ˩カスンダ˥　フ˩カサン˥ヨーニ　シ˩バ˥ル　シ˩ミリ˥バ [˥duku ʃi˩ba˥ru ˥niʤuka: ɸu̥˩kasunda˥ ɸu̥˩kasaŋ˥jo:ni ʃi˩ba˥ru ʃi˩miri˥ba](あんまり小便を我慢すると漏らすから、漏らさないように小便をさせなさいよ)。シ˩バ˥ル　フ˩カシティ˥ナ˩キ　ベー [ʃi˩ba˥ru ɸu̥˩kaʃi̥ti˥ na˩ki be:](小便を漏らして泣いている)。ン˩グム˥カー　シ˩バ˥ル　フ˩カ˥ス　˥クトゥン　˥アン [ʔŋ˩gumu˥ka: ʃi˩ba˥ru ɸu̥˩kasu˥ ku̥tuŋ ˥ʔaŋ](力むと小便を漏らすこともある)。ニ˩ザン˥ドーシ　フ˩カシェー˥　ミサムヌ [ni˩ʤan˥do:ʃi ɸu̥˩kaʃe:˥ misamunu](我慢しないで漏らせばいいのに)。フ˩カシ˥バ [ɸu̥˩kaʃi˥ba](漏らしなさい)。2ずらし落とす。「放下(ホカ)す」の義か。˩ヤーティ˥スカー　サ˩ラマ˥タ　フ˩カスンティ　アーク˥タ [˩ja:ti˥si̥ka: sa˩rama˥ta ɸu̥˩kasunti ʔa:ku˥ta](もうじきパンツ＜猿股＞を落とすところだった)。3潜(クグ)らせる。ユ˩クンツァ˥メーラ　フ˩カシ˥　パ˩ラシ˥タ [ju˩kuntsa˥me:ra ɸu̥˩kaʃi˥ pa˩raʃi̥˥ ta](床下から潜らせて逃がし＜行かせ＞た)。4ほどけさせる。ほどく。ガ˩マ˥ジ　フ˩カスン [ga˩ma˥ʤi ɸu̥˩kasuŋ](結い髪をほどく)。5篩(フル)う。 篩(フルイ)でふるう。˥シノーシ　˥クー　フ˩カシ˥バ [˥ʃino:ʃi ˥ku: ɸu̥˩kaʃi˥ba](篩いで粉を篩いなさいよ)。6妻が姦通する。夫を裏切る。ブ˩トゥ˥　フ˩カスン [bu˩tu˥ ɸu̥˩kasuŋ](妻が姦通する。夫を裏切る)。

フ˩カ˥スン **[ɸu̥˩ka˥suŋ]** 【他動】沸かす。お湯を沸かす。「煖、阿太々牟、又、和可須＜わかす＞」『新撰字鏡』。「さし鍋に　湯和可世子等〜。万、3824」の義。˥ユー　フ˩カ˥スンティ　˩ベーン˥ドゥ　ムッ˩トゥ˥　フ˩カサラン˥バン [˥ju: ɸu̥˩ka˥sunti ˩be:n˥du mut˩tu˥ ɸu̥˩kasaram˥baŋ](お湯を沸かそうとしているが、ちっとも沸かされないよ)。˥クナーティ˥ユー　フ˩カ˥シ　˥ミサカー　フ˩カ˥スクトー　˥ナルン [˥kuna:ti ˥ju: ɸu̥˩ka˥ʃi ˥misaka: ɸu̥˩ka˥su ˥ku̥to: ˥naruŋ](ここでお湯を沸かしてよければ、沸かすことはできる)。˩マー˥ビン　フ˩カ˥シェー　˥ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ɸu̥˩ka˥ʃe: ˥misamunu](もっと湯を沸かせばいいのに)。˩パー˥ク　˥ユー　フ˩カ˥シ [˩pa:˥ku ˥ju: ɸu̥˩ka˥ʃi](早くお湯を沸かせ)。

フ˩ガスン **[ɸu˩gasuŋ]** 【他動】1穴をあける。底抜けにする。「Fogaxi,u,aita. ホガシ、ス、イタ (ほがし、す、いた)穿孔(センコウ)する、すなわち、孔をあける」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ピッカスンとも言う。ナ˩ビ˥ヌ　シ˩ビ˥　フ˩ガシ　ナー˥ヌ [na˩bi˥nu ʃi˩bi˥ ɸu˩gaʃi na:˥nu](鍋の底＜尻＞をほがして＜孔をあけて＞しまった)。˥ドゥク　ナ˩ビ˥ヌ　シ˩ビ˥　ッスカー　シ˩ビ˥　フ˩ガスンダ˥　フ˩ガサン˥　スコーニ　ア˩ライ˥バ [˥duku na˩bi˥nu ʃi˩bi˥ ssuka: ʃi˩bi˥ ɸu˩gasunda˥ ɸu˩gasan˥ su̥ko:ni ʔa˩rai˥ba](あんまり鍋の底を擦ると、底＜尻＞に穴があくから、穴をあけないように洗いなさいよ)。ナ˩ビ˥ヌ　シ˩ビ˥　フ˩ガシティ˥　シゥ˩カーラヌ [na˩bi˥nu ʃi˩bi˥ ɸu˩gaʃi̥ti˥ si̥˩ka:ranu](鍋の底に穴をあけて使えない)。ス˩ク˥　フ˩ガシェー˥　ミサムヌ [su̥˩ku˥ ɸu˩gaʃe:˥ misamunu](底に穴を明ければいいのに)。ナ˩ビ˥ヌ　ス˩ク˥　フ˩ガシ [na˩bi˥nu su̥˩ku˥ ɸu˩gaʃi](鍋の底に穴をあけよ＜ほがせ＞)。2欠損させる。横領する。ク˩ミアイ˥ヌ　˥ジン　フ˩ガシナー˥ヌ [ku˩miʔai˥nu ˥ʤiŋ ɸu˩gaʃina:˥nu](組合の金を横領して＜穴を開けて＞しまった)。

フ˩カ˥ダー **[ɸu̥˩ka˥da:]** 【名】深田。泥の深い田圃。ガ˩タダー [ga˩tada:](浅田。泥の深くない田。「潟田」の義か) の対義語。深田には泥の中に垂木を敷き、それを踏みながら耕作したという。ウ˩ヌ　ター˥ヤ　ム˩ムッ˥タラ　˩バー˥キ　˩ペー˥ル　ス˩ク˥ヌ　フ˩カ˥ダー　˩ヤッタ [ʔu˩nu ta:˥ja mu˩mut˥tara ˩ba:˥ki ˩pe:˥ru su̥˩ku˥nu ɸu̥˩ka˥da: ˩jatta](その田圃は股(モモ)まで入るほどの深田であった)。

フ˩カダ˥チ **[ɸu̥˩kada˥ʧi]** 【名】下痢。便所がよいを

すること。「ほかたち (外立)」の義という説『石垣方言辞典』あり。老年層の言葉。若年層では使用しない。˞ヌー˺ル　ッ˞ふァイル˺　ア˞タルタ˺ユー　ユ˞ビン˺サートゥ　フ˞カダ˺チ　˞シートゥーシ˺　ナ˞ラン˺シェン [˞nuː˺ba ˞fairu˺ ʔa˞taruta˺juː juˑbin˺ saːtu ɸu̥˞kada˺ʧi ˞ʃiːtuːʃi˺ na˞raŋ˺ʃeŋ](何を食べて当ったのか、昨夜は夜通し下痢で便所通いをして堪らなかった)。

フ˞カ˺テー **[ɸu̥˞ka˺teː]** 【名】腕を後方外側へ捻ること。「外手」の義か。このやり方で物品を受け渡しするのは霊界、魔界の作法といわれ、非常に忌み嫌われていた。フ˞カ˺テーニ　ム˞ヌ˺バ　トゥ˞ラ˺ス　˺ムノー　ア˞ラ˺ヌ [ɸu̥˞ka˺teːni mu˞nu˺ba tu˞ra˺su ˺muno: ʔa˞ra˺nu](腕を後方外側へ捻るようにして物を受け渡しするものではない)。

フ˞カ˺トゥー **[ɸu̥˞ka˺tuː]** 【名】深海。大海。大洋。リーフの外側の深海。フ˞カ˺トゥー　ン˞ジ˺ル　イ˞ガン˺　カ˞ツン　ホー˺ソーッタ [ɸu̥˞ka˺tuː ʔn˞ʤi˺ru ʔi˞gaŋ˺ kḁ˞tsuŋ hoː˺soːtta](リーフの外の大洋＜深海＞に出て＜ぞ＞烏賊もカツオも釣られた)。

フ˞カ˺ドゥミ **[ɸu̥˞ka˺dumi]** 【名】妾(メカケ)。正妻以外に養っている愛人。˞ウン˺ネヌ　˺アボー　ブ˞トゥヌ˺　フカドゥミン＜フ˞カ˺ドゥミナ＞　キ˞ム˺バ　ヤ˞カリトゥーシル　オー˺ル [˞ʔun˺nenu ˺ʔaboː buˑtunu˺ ɸu̥kadumiŋ＜ɸu˞ka˺dumina＞ ki˞mu˺ba ja˞karituːʃiru ʔoː˺ru](あの家のお母さんは、夫の妾に悩まされ通して＜肝を焼かれ通して＞＜ぞ＞おられる)。

˺フカナライ **[˺ɸu̥kanarai]** 【名】外での慣わし。世間での習慣。˞ヤー˺ナライ [˞jaː˺narai](家庭での習慣)の対義語。˞ヤーナライ˺ル　˺フカナライ [˞jaːnarai˺ ru ˺ɸu̥kanarai](家庭での習慣＜仕付け＞が世間に出ると、そのまま現れるものだ＜外での習慣となる＞)＜諺＞。

フ˞カバ˺カパマ **[ɸu̥˞kaba˺kapama]** 【名】(地)「ほかはか (外計(ホカハカ))・ぱま (浜)」の義か。フ˞ナ˺バルパマ (船原浜) の北側、シ˞マナカヌ˺パマ [ʃi˞manakanu˺ pama](島仲の浜) の中間にある小さな浜。東村の人々が潮干狩りに行く際に利用した。

フ˞カ˺バラー **[ɸu̥˞ka˺baraː]** 【名】縁の外側にある柱。えんばしら (縁柱)。「外柱」の義。普通は、ハ˞ギバラー [ha˞gibaraː](軒柱(ノキバシラ)、裾柱(スソバシラ)) という。ク˞ヌ　ヤー˺ヌ　フ˞カ˺バラー　ムー˞ル　キャーンギバル˺　シゥ˞カイ˺　ス˞コー˺レーバン [ku˞nu jaː˺nu ɸu̥˞ka˺ baraː muː˞ru kjaːŋgibaru˺ si̥˞kai˺ su̥˞koː˺reːbaŋ](この家の縁柱は全部イヌマキ＜犬槇＞を使ってあられるわい)。

フ˞カ˺ビリ **[ɸu̥˞ka˺biri]** 【名】便所に行くこと。大便をすること。「ほかゐり (外座り)」の義とする説『石垣方言辞典』。戦前までは豚舎に便所があり、人糞を与えていた。ウ˞レー˺　フ˞カ˺ビリ　˞シー˺ナー　ナ˞ラ˺ヌ [ʔu˞reː˺ ɸu̥˞ka˺biri ˞ʃiː˺naː naˑra˺nu](彼はよく便所に行くので＜彼が外座りするのには＞困る)。

˺フカマー **[˺ɸu̥kamaː]** 【名】外孫。分家した息子の子供や嫁入りした娘らの子供。ウ˞チマー [ʔu˞ʧimaː](長男＜跡取り＞の子供。内孫) の対義語。˞ウン˺ネーヤ　ウ˞チマーン˺　フカマーン　イッ˞ケナ˺　サ˞カリ　ブー [˞ʔun˺neːja ʔu˞ʧimaːŋ˺ ɸu̥kamaːŋ ʔik˞kena˺ sḁ˞karibuː](あの家は内孫も外孫も非常に繁盛して＜栄えて＞いる)。

フ˞カマー˺ル **[ɸu̥˞kamaː˺ru]** 【名】外歩き。外出。外出して遊びまわること。仕事に身を入れない怠惰(タイダ)な人にいう。「外回り」の義。フ˞カマー˺ル　カー˞ニ　サンドー˺シ　カ˞シーカシ˺　パ˞タラキ˺バ [ɸu̥˞kamaː˺ru kaː˞ni sandoː˺ʃi ka˞ʃiːkaʃi˺ pḁ˞taraki˺ba](外回り＜外出して遊ぶこと＞だけしないで、しっかり働きなさいよ)。

フ˞カマイ˺フナー **[ɸu̥˞kamai˺ɸunaː]** 【名】家の外でよく働く者。職場でよく働く律儀者。ビ˞キドゥモー˺　フ˞カマイ˺フナー　ミ˞ドゥ˺モー　フ˞カマイ˺フナーラン　˞ヤーマイフナー˺ル　マ˞シ [biˑkidu-moː˺ ɸu̥˞kamai˺ɸuna: miˑdu˺mo: ɸu̥˞kamai˺ɸunaːraɲ ˞jaːmaiɸuna:˺ru ma˞ʃi](男は職場でよく働く律儀者が良くて、女は職場でよく働く律儀者よりも家庭内でよく働く者の方がよい)。

フ˞カミ˺ルン **[ɸu̥˞kami˺ruŋ]** 【他動】深める。深くする。「深め (下二)」のラ行四段活用化したもの。˞マー˺ビン　サ˞ライティ˺　フ˞カミ˺ルンティ　˞スンドゥ˺　フ˞カミララ˺ヌ [˞maː˺bin sa˞raiti˺ ɸu̥˞kami˺ runti ˞sundu˺ ɸu̥˞kamirara˺nu](もっと浚(サラ)って深めようとするが、深められない)。フ˞カミ˺ル　˺トンマー　フ˞カミ˺レー　˺ミサムヌ [ɸu̥˞kami˺ru ˺tommaː ɸu̥˞kami˺reː ˺misamunu](深める所は深めれば良いのに)。˞パー˺ク　˺プリ　フ˞カミ˺リ [˞paː˺ku ˺puri ɸu̥˞kami˺ri](早く掘って深めろ)。

フ˞カムス˺ク **[ɸu̥˞kamusu̥˺ku]** 【名】(海底地名)。鳩間島の東、フ˞カバ˺カパマ [ɸu̥˞kaba˺kapama](外計浜) に続く干瀬の˞ズンズンの南側の礁池部。フ˞カムス˺クナーティン　フ˞クル˺アン　ウ˞ラ˺ソーッタン

[ɸu̥˩kamusu̥˥kuna:tiŋ ɸu̥˩kuru˥ʔaŋ ʔu˩ra˥so:ttaŋ](フカムスクの礁池部にも袋網を下ろされ＜仕掛けられ＞た)。

フ˩カ˥ムン **[ɸu̥˩ka˥muŋ]** 【他動】深める。深くする。深化させる。「～奥を深目手＜フカメテ(下二)＞～。万、2781」の四段活用化したもの。˩ビンキョーン　シーティ　カンガイ˥ユン　フ˩カ˥ムンティ　˩ベーン˥ドゥ　˩カンガイ˥ヤー　フ˩カマラン˥サー [˩biŋkjo:ŋ ʃi:ti kaŋgai˥juŋ ɸu̥˩ka˥munti ˩be:n˥du ˩kaŋgai˥ja: ɸu̥˩kamaran˥sa:](勉強もして考えをも深めようとしているが、考えは深まらないさ)。˩カンガイ˥ヤー　フ˩カミ˥　プサンドゥ　˥ドゥーシ　フ˩カ˥ム　˥クトー　˥ナルンカヤー [˩kaŋgai˥ja: ɸu̥˩kami˥pu̥sandu ˥du:ʃi ɸu̥˩ka˥mu ˥ku̥to: ˥naruŋkaja:](考えは深めたいが、自分自身で深めることは出来るかねえ)。˩マー˥ビン　フ˩カ˥メーミサムヌ [˩ma:˥biŋ ɸu̥˩ka˥me: ˥misamunu](もっと深めれば良いのに)。フ˩カ˥ミバ [ɸu̥˩ka˥miba](深めなさいよ)。

˥フカヤー **[˥ɸu̥kaja:]** 【名】墓。「外家」の義。歌謡語。˩ニンブ˥ツァー [˩nimbu˥tsa:](念仏歌) に歌われている言葉。日常会話では用いない。˩ウシトゥ˥ヌ　˥クイ [˩ʔuʃi̥tu˥nu ˥kui](弟の歌＜声＞) に、˩～ヌクタル　サーミジヤ　クバスユカ　フカヤーヌ　ソーローヌ　タミドゥナル～(残った茶湯＜茶水＞を零(コボ)すから、お墓＜外家＞の祖霊＜精霊＞たちのためになる) と歌われている。

˥フカヤドゥ **[˥ɸu̥kajadu]** 【名】雨戸。家の戸。「外屋戸」の義。「夕さらば　屋戸開けまけて　吾待たむ～。万、744」の義。˥アツァユンダ　˥フカヤドー　ムー˩ル˥　ア˩キパタッキティ˥　カ˩ジ˥　イ˩リリ [˥ʔatsajunda ˥ɸu̥kajado: mu:˩ru˥ ʔa˩kipatakkiti˥ ka˩ʤi˥ ʔi˩riri](暑いから外戸を全部開け放って風を入れなさい＜入れれ＞)。

˥**-ブカラ [˥-bukara]**【副助】おおよその程度を表す。ぐらい。ほど。ばかり。**(1)** 数量名詞につく。˥プスイブカラー　˥バー　˩テー˥ナイ　˩シー˥　ッ˩ふィーラン˥ノーレー [˥pu̥suibukara: ˥ba: ˩te:˥nai ˩ʃi:˥ f˩fi:ran˥ no:re:](一日ぐらいは私の手伝いをしてくれないかね)。**(2)** さらに格助詞ヌ [nu](の) がつく。サ˩キヤマ˥ヌ　˩インタ　˥　ニリブカラヌ　˥トンナー　ス˩ニ˥ヌ　˥アンツォー [sḁ˩kijama˥nu ˩ʔinta˥ niribukaranu ˥tonna: su˩ni˥nu ˥ʔantso:](西表島の崎山崎の西、二里ほどのところに曽根があるそうだ)。**(3)** さらに副助詞連語˩ナール [˩na:ru](ずつ＜ぞ＞) がつく。グ˩タンブカラナール˥　バ˩キ˥ダマー　˩イーラ˥リツォー [gu˩tambukarana:ru˥ ba˩ki˥dama: ˩ʔi:ra˥ritso:](五反ぐらいずつ＜ぞ＞財産は貰えるそうだ)。**(4)** さらに係助詞ル [ru](ぞ) がつく。ク˩ヌ　カーヤ˥　シン˩トゥ　ミール　ブカラル˥　タトゥ [ku˩nu ka:ja ˥ ʃin˩tu mi:rubukararu˥ tḁtu](この井戸は、たったの三尋ぐらい＜ぞ＞深い＜深くたつ＞)。**(5)** さらに並立の助詞トゥ [tu](と) がつく。˩マイヌ˥　クビブカラトゥ　˩ムン˥ヌ　˥クビブカラバ　マ˩ザー˥シティ　バ˩カシ˥バ [˩mainu˥ kubibukaratu ˩mun˥nu ˥ kubibukaraba ma˩ʤa:˥ʃi̥ti ba˩kaʃi˥ba](米のこれぐらいと、麦のこれぐらいを混ぜて炊きなさいよ)**(6)** さらに副助詞˩バー˥キ [˩ba:˥ki](まで。限界点を表す) がつく。˥ウビブカラ　˩バーキ˥ル　ス˩クラ˥リン　˩スー [˥ʔubibukara ˩ba:ki˥ru su̥˩kura˥rin ˩su:](これぐらいまでが作られもする)。**(7)** さらに係助詞˥ツァン [˥tsaŋ](だに。すら。さえ) が付いて、最小限のことをあげて、他の重要なことを類推させる。ユ˩クジン˥マー　˥クビブカランツァン　˥バキ　ッ˩ふィーラヌ [ju˩kuʤim˥ma: ˥kubibukarantsam ˥baki f˩fi:ranu](欲張りめが、これぐらいさえも分けてくれない)。**(8)** さらに格助詞連語˥-シン [˥-ʃiŋ](＜～で。手段、方法、道具、材料を表す＞に取り立て強調の係助詞˥-ン [˥-ŋ]＜～も＞がついた助詞連語) が付いて強調表現をつくる。˥クビブカラシン　˩パスクラ˥サリン [˥kubibukaraʃim ˩pasu̥kurasa˥riŋ](これぐらいでも爆発させられる)。**(9)** さらに副助詞˥サーギ [˥sa:gi](さえ) がついて程度の限界点を表す。˥ウビブカラ　˥サーギ　˥マティ　ッ˩ふィール˥カー　˥ミサン [˥ʔubibukara ˥sa:gi ˥mati f˩fi:ru˥ka: ˥misaŋ](これぐらいさえ待ってくれたらいいよ)。**(10)** さらに副助詞˥サーギ [˥sa:gi](さえ) と係助詞˥ツァン [˥tsaŋ](だに。すら) の助詞連語がついて強調表現となる。˩マー　ミッカブカラ　サーギンツァン˥　マ˩タラヌ [˩ma: mikkabukara sa:gintsam˥ ma˩taranu](あと三日ぐらいさえも待てない＜待たれない＞のか)。

ブ˩ガラ˥サン **[bu˩gara˥saŋ]** 【形】疲れている。きつい。つらい。ブ˩ガラ˥サン　ア˩リ˥ブンドゥ　ブ˩ガラサナーン˥ティ　ア˩ジ　アー˥ク [bu˩gara˥saŋ ʔa˩ri˥bundu bu˩garasana:n˥ti ʔa˩ʤi ʔa:˥ku](きつい＜疲れている＞が、きつくない＜疲れていない＞といっている)。ブ˩ガラサ˥ヌ　˥タティ　ブ˩ララヌ [bu˩garasa˥nu ˥tati bu˩raranu](きつくて＜疲れて＞、立っておられない)。マ˩ナ˥マーラル　ブ˩ガラ˥サ　˥ナリ　˥クー [ma˩na˥ma:raru bu˩gara˥sa ˥nari ˥

ku:](今からがきつくなって＜疲れて＞くる)。シ˞グトー˥　ブ˞ガラ˥サ　˥クトー　˞ナー˥ヌ [ʃi˞guto:˥ bu˞gara˥sa ku̥to: ˞na:˥nu](仕事は、きついことはない)。ブ˞ガラ˥サカー　˞ユー˥クイバ [bu˞gara˥saka: ˞ju:˥kuiba](きつかった＜疲れていた＞ら休みなさい)。

ブ˞ガ˥リ [bu˞ga˥ri] 【名】疲れ、疲労。「緒＜玉の緒。命＞枯れ」の義説あり『石垣方言辞典』。サ˞キ˥ヌミティ　ブ˞ガ˥リ　˞ノー˥シバ [sḁ˞ki˥ numiti bu˞ga˥ri ˞no:˥ʃiba](酒を飲んで疲れを忘れ＜直し＞なさい)。

ブ˞ガリノー˥シ [bu˞garino:˥ʃi] 【名】疲れ直し。骨休め。田植えや畑仕事の後の慰労会。豊年祭や結願祭の出演者の慰労会。˞マイイビヌ˥　ブ˞ガリノー˥シ　˞スンティ˥　ウ˞トゥザマリ˥　ア˞ツァ˥マリティ　サ˞キ˥　ヌミ　˞オー˥ル [˞mai?ibinu˥ bu˞garino:˥ʃi ˞sunti˥ ʔu˞tuʤamari˥ ʔa˞tsa˥mariti sḁ˞ki˥ numi ˞ʔo:˥ru](田植えの骨休めをしようと親戚が集まって酒を飲んでおられる)。ヤ˞マ˥バコー [ja˞ma˥bako:](家造りのための山入り共同作業。木材の伐り出し作業) や、˞ユイマール [˞juima:ru](結による共同作業) の終了した日の晩などに行われた。

ブ˞ガリ˥ルン [bu˞gari˥ruŋ] 【自動】疲れる。疲れ果てる。疲労困憊する。ブ˞ガ˥ルンとも言う。˞タンガ˥シ　˞スー˥カー　ブ˞ガリルン˥ドゥ　フ˞タール˥シ　˞スンダ˥　ブ˞ガリラ˥ヌ [˞taŋga˥ʃi ˞su:˥ka: bu˞garirun˥du ɸu̥˞ta:ru˥ʃi ˞sunda˥ bu˞garira˥nu](一人ですると疲れるが、二人でするから疲れない)。ウ˞ブシグトゥバ　シーティル˥　ブ˞ガ˥リ　˞ベー [ʔu˞buʃigutuba ʃi:tiru˥ bu˞ga˥ri ˞be:](大きな仕事をして疲れている)。ウ˞ヌ˥　ア˞タル˥ヌ　シ˞グトゥ˥シ　ブ˞ガリ˥ル　˥クトー　˞ナーヌ˥ヌ　ブ˞ガリ˥レー　˥ミサムヌ [ʔu˞nu˥ ʔa˞taru˥nu ʃi˞gutu˥ʃi bu˞gari˥ru ˥ku̥to: ˞na:nu˥nu bu˞gari˥re: ˥misamunu](この程度の仕事で疲れることはないが、疲れればいいのに)。˞パー˥ク　ブ˞ガリ˥リバ [˞pa:˥ku bu˞gari˥riba](早く疲れろよ)。

ブ˞ガリ˥ワザ [bu˞gari˥waʤa] 【名】疲れる仕事。ヤ˞マシグ˥トー　˞フン˥トー　ブ˞ガリ˥ワザ　˞ダー [ja˞maʃigu˥to: ˞ɸun˥to: bu˞gari˥waʤa ˞da:](山仕事は本当に疲れる仕事だよ)。

ブ˞ガ˥ルン [bu˞ga˥ruŋ] 【自動】疲れる。疲れ果てる。疲労困憊する。ウ˞ビ˥ヌ　シ˞グトゥ　タンガ˥シ　˞スー˥カー　ブ˞ガ˥ルンティ　˞スンドゥ˥　バー　˞ピッ˥チン　ブ˞ガラ˥ヌ [ʔu˞bi˥nu ʃi˞gutu taŋga˥ʃi ˞su:˥ka: bu˞ga˥runti ˞sundu˥ ba: ˞pit˥ʧim bu˞gara˥nu](あれだけの仕事を一人でしたら疲れるというが、私はちっとも疲れない)。˥メー　ブ˞ガ˥リ　˞ナー˥ヌ [˥me: bu˞ga˥ri ˞na:˥nu](もう疲れてしまった)。ウ˞ビッ˥チンシ　ブ˞ガ˥ル　˥クトー　˞ナーン˥パジ [ʔu˞bit˥ʧiŋʃi bu˞ga˥ru ˥ku̥to: ˞na:m˥ paʤi](これぽっちで疲れることはないはずだ)。˞パー˥ク　ブ˞ガ˥レー　˥ミサムヌ [˞pa:˥ku bu˞ga˥re: ˥misamunu](早く疲れればいいのに)。˞パー˥ク　ブ˞ガ˥リバ [˞pa:˥ku bu˞ga˥riba](早く疲れろよ)。

フ˞カン˥ガイ [ɸu̥˞kaŋ˥gai] 【名】十五夜に作る粥(カユ)状の餅。食紅で縞模様(シマモヨウ)になるように作った粥状の餅。老年層の言葉。若年層はフ˞カン˥ギ [ɸu̥˞kaŋ˥gi] ともいう。伝説によると、名月を拝んでいた妻が、月の面に映る夫と他の女性との不倫の姿に激昂(ゲキコウ)して現場へ行き、夫の男性性器を両手で力任せに捻(ヒネ)り回したという。これで夫の不倫を治すことができたので、妻は総てを照らし出す鏡のような十五夜の月に感謝の気持ちをこめて餅を供え、過ちを忘れないためにフカンガイを作って食するという (花城イガ氏伝承)。フ˞カンガイ˥ヤー　ミ˞ドゥム˥ヌ　˥カルイティ　ア˞ザリ　ブー [ɸu̥˞kaŋgai˥ja: mi˞dumu˥nu ˥karuiti ʔa˞ʤari bu:](フカンガイは女の嘉例といわれている)。

フ˞カン˥ギ [ɸu̥˞kaŋ˥gi] 【名】餅の名。老年層はフ˞カン˥ガイ [ɸu̥˞kaŋ˥gai] という。˞ズング˥ヤー [˞ʤuŋgu˥ja:](十五夜) の月見の祭りに供える、タ˞リフカン˥ギ [ta˞riɸu̥kaŋ˥gi](どろどろに柔らかい餅) をいう。フ˞カン˥ゲー　タ˞リ˥ルンケン　˞ネーシティ˥　マ˞カ˥ルナー　イ˞リティル˥　マ˞ツォーッタ˥ル [ɸu̥˞kaŋ˥ge: ta˞ri˥ruŋken ˞ne:ʃi̥ti˥ ma˞ka˥runa: ʔi˞ritiru˥ ma˞tso:tta˥ru](フカンギは、どろどろに柔らかくなるまで煮て、お碗に入れてお供えしたものだ)。

˥フカンタ [˥ɸu̥kanta] 【名】外部。外の方。外側。ウ˞チンタ [ʔu˞ʧinta](内側) の対義語。˥フカンタナー　˥タティ　シ˞キ˥リバ [˥ɸu̥kantana: ˥tḁti ʃi̥˞ki˥riba](外側に立てておきなさいよ)。˞ヤー˥ヌ　˥フカンタナ　˥タティ　˞ベー [˞ja:˥nu ˥ɸu̥kantana ˥tati ˞be:](家の外に立っている)。

˥フキ [˥ɸu̥ki] 【名】1「茎」の義。ススキの茎を結んで作った˥サン [˥saŋ](魔除けの呪符(ジュフ)の一種) のこと。稲や麦、豆等の種を播(マ)いた後、田畑の角から三歩内側に挿(サ)しておいた。パ˞タ˥キナー　˥タニ＜˥サニ＞　˥マキティ　˥アトー　ヤー˞ディン˥　フケー　ッ˞シ˥ル　ス˞コーッ˥タ [pḁ˞ta˥kina: ˥tani＜˥sani＞ ˥

makiti ˥ʔato: jaːˬdiŋ˥ ɸu̥ke: ʃˬʃi˥ru su̥ˬkoːt˥ta](畑に種を播いた後、必ずサン＜茎＞を挿しておかれた)。2草木の芽。茎。ˬキー˥ヌ　フˬキ˥ヌ　ˬバイン˥ジ˥クン [ˬkiː˥nu ɸu̥ˬki˥nu ˬbai˥ʔnʤi ˥kuŋ](木の新芽が芽吹いてくる)。

˥フキ **[˥ɸu̥ki]** 【名】ふいご (鞴)。「Fuqi.　fuigo. フキ. または、フイゴ (吹き、または、鞴)、鍛冶屋や金銀細工師などの使う鞴(フイゴ)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ムˬカ˥シェー　カˬザケーヌ˥　ウˬヤプス˥ヌ　ˬナードー˥ナーティ　フˬキ˥バ　シゥˬカイル　カンザ˥ヤー　ˬソーッ˥タツォー [muˬka˥ʃe: kaˬʤakeːnu ˥ʔuˬjapu̥su˥nu ˬnaːdoː˥naːti ɸu̥ˬki˥ba si̥ˬkairu kanʤa˥jaː ˬsoːt˥tatsoː](昔は加治工家の先祖が長堂で鞴(フイゴ)を使って鍛冶屋をされたそうだ)。

フˬキアー˥ルン **[ɸu̥ˬkiʔaː˥ruŋ]** 【自動】吹き零(コボ)れる。吹き上がってこぼれる。沸騰(フットウ)してこぼれる。「吹き上がる」の義。ˬピー˥ヌ　ˬスー˥ワカー　ˬカイヤー˥　フˬキアー˥ルンダ　フˬキアーラサン˥ヨーニ　ˬピー˥ヤ　ピˬキ˥バ [ˬpiː˥nu ˬsuː˥wakaː ˬkaijaː˥ ɸu̥ˬkiʔaː˥runda ɸu̥ˬkiʔaːrasaŋ˥joːni ˬpiː˥ja pi̥ˬki˥ba](火力が強いと粥は吹き零(コボレ)るから、吹き零れないように火を引きなさいよ)。フˬキアー˥リ　ˬナー˥ヌ [ɸu̥ˬkiʔaː˥ri ˬnaː˥nu](吹き零れてしまった)。ˬオーパ˥ヤー　フˬキアー˥ル　˥クトー　ˬナー˥ヌ [ˬʔoːpa˥jaː ɸu̥ˬkiʔaː˥ru ˥ku̥toː ˬnaː˥nu](こんなに早く吹き零れることはない)。フˬキアー˥レー　˥ミサムヌ [ɸu̥ˬkiʔaː˥reː ˥misamunu](吹き零れたらいいのに)。フˬキアーリ˥リ [ɸu̥ˬkiʔaːri˥ri](吹き零れろ)。

フˬキガイ **[ɸu̥ˬkigai]** 【名】葺(フ)き替(カ)え。茅葺(カヤブキ)屋根や瓦葺(カワラブキ)屋根を葺き替えること。クˬヌ　ヤー˥ヤ　フˬキガイ　サン˥カー　ナˬラ˥ヌ [kuˬnu jaː˥ja ɸu̥ˬkigai saŋ˥kaː naˬra˥nu](この家は葺き替えしないといけない)。ˬカー˥ラヤーヌ　フˬキガイ [ˬkaː˥rajaːnu ɸu̥ˬkigai](瓦葺屋根の葺き替え)。

フˬキガイ˥シ **[ɸu̥ˬkigai˥ʃi]** 【名】吹き返し。台風の吹き返し。台風の目が通過した後に、反対の方向から吹く強い風。ˬタイフー˥ヌ　ˬミー˥ヌ　˥ンジパルカー　フˬキカイシ˥ヌ　˥クーンダ　ˬキー˥　シˬキ˥リ [ˬtaiɸuː˥nu ˬmiː˥nu ˥ʔnʤiparukaː ɸu̥ˬkikaiʃi˥nu ˥kuːnda ˬkiː˥ ʃi̥ˬki˥ri](台風の目が過ぎ去ると吹き返しが来るから気をつけなさい)。

フˬキ˥ガラ **[ɸu̥ˬki˥gara]** 【名】吸殻。煙草の吸殻。タˬバク˥ヌ　フˬキガラ˥バ　アˬツァ˥ミティ　˥フクプˬスン˥　ブˬタン˥ダー [taˬbaku˥nu ɸu̥ˬkigara˥ba ʔaˬtsa˥miti ˥ɸu̥ku pu̥ˬsum˥ buˬtan˥daː](煙草の吸殻を集めて吸う人もいたよ)。

˥フキクムル **[˥ɸu̥kikumuru]** 【名】(海底地名)。鳩間島の西北部にある深い礁内湖。干瀬の上で海草を食べていた魚が引き潮に伴って、˥フキクムル [˥ɸu̥kikumuru] へと下がってくるから、シˬナカキ˥ヤー [ʃiˬnakaki˥jaː](追い込み漁) の際には袋網をそこに仕掛けて、よく漁獲した。

フˬキザー˥ルン **[ɸu̥ˬkiʤaː˥ruŋ]** 【自動】吹き荒れる。吹きまくる。カˬジヌ˥　ニˬシェー　アンガル˥カー　フˬキザー˥ルンダ　カˬジヌ˥　フˬキザーラン˥ケン　ˬヤー˥　パリ [kaˬʤinu˥ niˬʃe: ʔaŋgaru˥kaː ɸu̥ˬkiʤaː˥runda kaˬʤinu˥ ɸu̥ˬkiʤaːraŋ˥keɲ ˬjaː˥ pari](風が北へ上がると、吹き荒れるから、風が吹き荒れないうちに家に帰りなさい)。キサーˬティ˥　フˬキザー˥リ　ˬナー˥ヌ [ki̥saːˬti˥ ɸu̥ˬkiʤaː˥ri ˬnaː˥nu](既に吹き荒れてしまった)。ˬマー˥ビン　フˬキザー˥ル˥クトー　ˬナー˥ヌ [ˬmaː˥biŋ ɸu̥ˬkiʤaː˥ru ˥ku̥toː ˬnaː˥nu](これ以上吹き荒れることはない)。フˬキザー˥レーラー　ˬデー˥ジ [ɸu̥ˬkiʤaː˥reːra ˬdeː˥ʤi](吹き荒れたら大変だ)。ˬマー˥ビン　フˬキザー˥リ [ˬmaː˥biŋ ɸu̥ˬkiʤaː˥ri](もっと吹き荒れろ)。

フˬキ˥ジー **[ɸu̥ˬki˥ʤiː]** 【名】肥えた土地。肥沃な土地。パˬギ˥ジー [paˬgi˥ʤiː](痩せた土地) の対義語。クˬヌ˥　パˬタ˥ケー　フˬキ˥ジー　ヤˬルンダ˥　スˬクリ˥ムノー　イッˬケナ　ノー˥ルン [kuˬnu̥ pḁˬta˥ke: ɸu̥ˬki˥ʤiː jaˬrunda˥ su̥ˬkuri˥muno: ʔikˬkena noː˥ruŋ](この畑は肥えた土地だから作物は非常によく稔る)。

フˬキジナ **[ɸu̥ˬkiʤina]** 【名】茅葺(カヤブキ)屋根を葺(フ)く際に使用する、太めに綯(ナ)った藁縄(ワラナワ)。「葺綱(フキツナ)」の義。ˬヤーフキ˥ジナ [ˬjaːɸu̥ki˥ʤina](屋根葺き綱) ともいう。フˬキジナー˥　パルナー　ヌˬキティ˥　タˬル˥キーナ　˥カキ　ˬマーシティ　ウイ˥　ンˬザ˥スカー　ティˬブ˥クナ　˥カキティ　シˬミ˥シキティル　ˬヤー˥ヤ　フˬクタル [ɸu̥ˬkiʤinaː˥ paruna: nuˬkiti˥ taˬru˥kina ˥kaki ˬmaːʃi̥ti ʔui˥ ʔnˬʤaˬsu̥kaː tiˬbu˥kuna ˥kḁkiti ʃiˬmi˥ʃi̥kitiru ˬjaː˥ja ɸu̥ˬkutaru](屋根葺き綱は竹の針に通し、垂木にかけ回して上へ出すと、茅を押さえる竹の手矛にかけ、締め付けて屋根は葺いた)。

˥フキ　˥ッスン **[˥ɸu̥ki ˥ssuŋ]** 【連】ススキの˥フキ [˥ɸu̥ki](茎を結んで作ったサン) を挿す。畑に挿したり、˥シチ [˥ʃi̥tʃi](節祭り) には家の四隅の軒に桑の枝を添えて挿した。シˬチ˥ヌ　˥ピンマー　ˬヤー˥ヌ　ˬユーカドゥヌ˥　ヌˬキ˥ナー　˥フキ　ッˬス˥タン [ʃi̥ˬtʃi˥nu ˥pimmaː ˬjaː˥nu ˬjuːkadunu˥ nuˬki˥naː ˥ɸu̥ki sˬsu˥taŋ](節祭りの日には家の四隅の軒にフキを挿

した)。

フ˩キッツァー˥スン **[ɸu̥˩kittsa:˥suŋ]** 【自動】風が強く吹く。吹きまくる。カ˩ジヌ　マール˥カー　ニ˩シカジヌ˥　フ˩キッツァー˥スンダ　フ˩キッツァーサン˥ケン　˥フネー　ン˩ザ˥シバ [ka˩ʤinu ma:ru˥ka: ni˩ʃikaʤinu˥ ɸu̥˩kittsa:˥sunda ɸu̥˩kittsa:saŋ˥keŋ ˥ɸune: ʔn˩ʤa˥ʃiba](風が回ると北風が吹きまくるから、吹きまくらないうちに船を出しなさい)。キサー˩ティ˥　フ˩キッツァー˥シ　˩ナー˥ヌ [ki̥sa:˩ti˥ ɸu̥˩kittsa˥ʃi˩na:˥nu](もう既に吹きまくってしまった)。˩キュー˥ヤ (ワ)　フ˩キッツァー˥ス　˥クトー　˩ナーン˥　パジ [˩kju:˥ja(wa) ɸu̥˩kittsa:˥su ˥ku̥to: ˩na:m˥ paʤi](今日は吹きまくることはないはずだ)。フ˩キッツァー˥シェー　˥ミサムヌ [ɸu̥˩kittsa:˥ʃe: ˥misamunu](吹きまくればいいのに)。˩アンカジェー˥　フ˩キッツァー˥シ [˩ʔaŋkaʤe:˥ ɸu̥˩kittsa:˥ʃi](東風は吹きまくれ)。

フ˩キナ˥クン **[ɸu̥˩kina˥kuŋ]** 【自動】吹き込む。雨風が吹き込む。˥ヤドゥ　˩ホーン˥カー　ア˩ミ˥ヌ　フ˩キナ˥クン　˩ダー [˥jadu ˩ho:ŋ˥ka: ʔa˩mi˥nu ɸu̥˩kina˥kun˩da:](戸を締めないと雨が吹き込むぞ)。˥ヤドゥ　˩フー˥カー　フ˩キナカ˥ヌ [˥jadu ˩ɸu:˥ka: ɸu̥˩ki-naka˥nu](戸を締めたら吹き込まない)。カ˩ジヌ　スー˥ヤ (ワ) ティ　˥アメー　フ˩キナ˥キ　˩キー˥ス [ka˩ʤinu su:˥ja(wa)ti ˥ʔame: ɸu̥˩kina˥ki ˩ki:˥su:](風が強いので雨は吹き込んくるよ)。˥ヤドー　˩フイ˥　シケーンダ　フ˩キナ˥ク　˥クトー　˩ナー˥ヌ [˥jado: ˩ɸui˥ ʃi̥ke:nda ɸu̥˩kina˥ku ˥ku̥to: ˩na:˥nu](戸は締めてあるから吹き込むことはない)。˩マー˥ビン　フ˩キナ˥ケー　˥ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ɸu̥˩kina˥ke: ˥misamunu](もっと吹き込めばいいのに)。フ˩キナ˥キ [ɸu̥˩kina˥ki](吹き込め)。

フ˩キ˥ユー **[ɸu̥˩ki˥ju:]** 【名】沸騰した湯。沸き湯。沸かした湯。熱湯。フ˩キユー˥バ　ク˩バ˥シティル　ユ˩ダ˥リ　˩ベー [ɸu̥˩kiju:˥ba ku˩ba˥ʃi̥tiru ju˩da˥ri ˩be:](熱湯＜沸き湯＞を零(コボ)して＜ぞ＞茹(ユダ)れて火傷(ヤケド)しているのだ)。

˥フキ　˩ユーン **[˥ɸu̥ki ˩ju:ŋ]** 【連】フキを結う。ススキの茎を丸く十字に結って魔除(マヨケ)の˥サン [˥saŋ] を作ること。˥タニ　˥マケー　˥トンマー　˥フキ　˩ユイティ˥　ッシ　シ˩キ˥リバ [˥tani ˥make: ˥tomma: ˥ɸu̥ki ˩juiti˥ ʃʃi ʃi̥˩ki˥riba](種を播いたところにはススキの茎でサンを作って＜フキを結って＞挿しておきなさいよ)。

フ˩キ˥ルン **[ɸu̥˩ki˥ruŋ]** 【自動】土が肥える。シ˩キゴイ˥　イ˩リル˥カー　˩ジー˥ヤ　フ˩キルン˥ドゥ　ウ˩ビッ˥チンシェー　˩ジー˥ヤ　フ˩キラ˥ヌ [ʃi̥˩kigoi˥ ʔi˩riru˥ka: ˩ʤi:˥ja ɸu̥˩kirun˥du ʔu˩bit˥ʧiŋʃe: ɸu̥˩kira˥nu](堆肥を入れると土は肥えるが、これぽちでは肥えない)。˩ジー˥ヌ　フ˩キシギ˥ルカー　˩マイヤー　ムイ˥フクン　˩スン˥ダー [˩ʤi:˥nu ɸu̥˩kiʃigi˥ruka: ˩maija: mui˥ɸu̥kun ˩sun˥da:](土が肥え過ぎると稲は生育し過ぎて実を結ばない＜稔らない＞よ)。˩ターパタ˥ケー　˩カイ˥シ　シ˩キゴイ˥　イ˩リル˥　アー˩シ　ジー˥ヤ　フ˩キ˥ル　タ˩ミ˥シ [˩ta:pata˥ke: ˩kai˥ʃi ʃi̥˩kigoi˥ ʔi˩riru˥ ʔa:˩ʃi ʤi:˥ja ɸu̥˩ki˥ru ta˩mi˥ʃi](田畑は耕して堆肥を入れるごとに土は肥える訳＜ためし。というわけ＞だ)。

フ˩キルン **[ɸu̥˩kiruŋ]** 【自動】1漏れる。シ˩バル˥ヌ　フ˩キルン˥ケン　ニ˩ブン [ʃi˩baru˥nu ɸu̥˩kiruŋ˥ken ni˩buŋ](小便が漏れるまで寝る)。ン˩グムタンティン˥　シ˩バ˥ロー　フ˩キラヌ [ʔŋ˩gutantiŋ˥ ʃi˩ba˥ro: ɸu̥˩kiranu](力んでも小便は漏れない)。2潜(クグ)り抜ける。すり抜ける。ずれ落ちる。˥ティーラ　フ˩キ˥　パリ˩ナー˥ヌ [˥ti:ra ɸu̥˩ki˥ pari˩na:˥nu](手からずれ落ちて＜潜り抜けて＞しまった)。ク˩ヌ˥　アンラ　フ˩キル˥　クトー　˩ナー˥ヌ [ku˩nu˥ ʔanra ɸu̥˩kiru˥ ku̥to: ˩na:˥nu](この網を＜から＞潜り抜けることはない)。˩パー˥ク　フ˩キレー (フ˩ケー)˥　ミサムヌ [˩pa:˥ku ɸu̥˩kire:(ɸu̥˩ke:)˥ misamunu](早く潜り抜ければいいのに)。˥クマーラ　フ˩キリ＜フ˩キ＞[˥kuma:ra ɸu̥˩kiri＜ɸu˩ki＞](ここから潜り抜け＜ろ＞)。

フ˩ギルン **[ɸu˩giruŋ]** 【自動】大穴が開く。穴があいて底が抜ける。ほげる。「Fogue,uru,eta.　ホゲ、グル、ゲタ (ほげ、ぐる、げた) 孔があく.〜」『邦訳日葡辞書』。˩ピッキ˥ルン [˩pikki˥ruŋ](小さな穴があく。浅い穴があく)、˩トゥッ˥クン [˩tuk˥kuŋ](陥(カン)没(ボツ)する) は類義語。˥アイニ　˩スー˥カー　シ˩ビ˥　フ˩ギルンダ˥　シ˩ビ˥　フ˩ギラン　シー˥ヨー　˩サン˥カー　ナ˩ラ˥ヌ [˥ʔaini ˩su:˥ka: ʃi˩bi˥ ɸu˩girunda˥ ʃi˩bi˥ ɸu˩giraŋ ʃi:˥jo: ˩saŋ˥ka: na˩ra˥nu](そんなにやったら穴があいて底が抜けるから、底が抜けない仕方をしないといけない)。ナ˩ビ˥ヌ　シ˩ベー˥　フ˩ギナー˥ヌ [na˩bi˥nu ʃi˩be:˥ ɸu˩gina:˥nu](鍋の底は穴がしてしまった)。˩オーパ˥ヤー　シ˩ビヌ˥　フ˩ギル˥　クトー　˩ナー˥ヌ [˩ʔo:pa˥ja: ʃi˩binu˥ ɸu˩giru˥ ku̥to: ˩na:˥nu](そんなに早く底に穴があくことはない)。ス˩ク˥　フ˩ギレー˥ミサムヌ [su̥˩ku˥ ɸu̥˩gire:˥ misamunu](底が抜ければいいのに)。ス˩ク˥　フ˩ギリ [ɸu˩giri](底に穴があけよ)。

˥フキン **[˥ɸu̥kiŋ]** 【名】布巾。『日葡辞書』の転訛か。老年層は、ッ˩スル [s˩suru](布巾(フキン)。手拭き)、˩ティーッス˥ル [˩tiːssu˥ru](手拭き) という。綿布を使うことが多かった。マ˩カ˥ロー　ミ˩ジ˥シ　ア˩ラシティティ˥　フキンシ　ッ˩スリ˥バ [ma˩ka˥roː mi˩ʤi˥ʃi ʔa˩raʃititi˥ ɸu̥kiŋʃi s˩suri˥ba](お椀は水で洗って布巾で拭きなさいよ)。

フ˩キング˥チ **[ɸu̥˩kiŋgu˥ʧi]** 【名】煙管の吸い口。キ˩シル˥ヌ　˩ピーザラ˥トゥ　フ˩キングチ˥ヌ　˥アイナー　˥ラウティ　˩スー˥　タ˩キヌ˥　フ˩ダ˥ヌ　˥アン [ki˩ʃiru˥nu ˩piːʤara˥tu ɸu̥˩kiŋguʧi˥nu ˥ʔainaː ˥rauti ˩suː˥ tḁ˩kinu˥ ɸu˩da˥nu ˥ʔaŋ](煙管の火皿と吸い口の間にラウという竹の管があるよ)。

フ˩キンジ˥ムヌ **[ɸu̥˩kiʔnʤi˥munu]** 【名】ふきでもの (吹き出物)。あせも (汗疹)。はれもの。夏の暑い時期に出る皮膚の赤い発疹。ナ˩チ˥　ナルカー　˩プーマクンダ˥　フ˩キンジ˥ムヌン　ン˩ジ˥シタ [na˩ʧi˥ naruka: ˩puːmakunda˥ ɸu̥˩kiʔnʤi˥munuŋ ʔn˩ʤi˥ʃi̥ta](夏になると暑くなる＜ほめく＞から吹き出物も出たものだ)。

フ˩キン˥ヌフキ **[ɸu˩kin˥nuɸu̥ki]** 【名】(植) オオタニワタリ (大谷渡り)。パ˩トゥ˥マプソー　フ˩キン˥ヌフケー　ン˩コーラン˥シェン [pḁ˩tu˥mapu̥so: ɸu̥˩kin˥nuɸu̥ke: ʔŋ˩koːraŋ˥ʃeŋ](鳩間の人はオオタニワタリは召し上がらなかった)。

˥フク **[˥ɸu̥ku]** 【名】肺。肺臓。「肺、フクフクシ・キモ」『類聚名義抄』の転訛。プ˩スヌ˥　フク [pu̥˩sunu˥ ɸu̥ku](人間の肺臓)。ウ˩シヌ˥　フク [ʔu˩ʃinu˥ ɸu̥ku](牛の肺)。˩オーヌ　˥フク [˩ʔoː˥nu ˥ɸu̥ku](豚の肺)。ウ˩シヌ˥　フクン　˩オー˥ヌ　˥フクン　ン˩マー˥ン [ʔu˩ʃinu˥ ɸu̥kuŋ ˩ʔoː˥nu ˥ɸu̥kum ʔm˩maː˥ŋ](牛の肺臓も豚の肺臓も美味しい)。キ˩ム˥フク [ki˩mu˥ ɸu̥ku](心。精神。「肝・肺」の義)。

˥フク **[˥ɸu̥ku]** 【名】ほこ (矛)。狩りで猪を仕留める矛(ホコ)。˩矛は鎌倉以前、槍は南北朝以後に実用された」『岩波古語辞典』という。「〜白鷺の桙＜ホコ＞啄ひ持ちて〜。万、3831」の転訛したもの。烏賊漁で釣れた鮫を仕留める矛。イ˩ガメー　オー˥ル　˥ピンマー　˥フクン　ム˩ティ˥ル　˩オーッ˥タ [ʔi˩game: ʔoː˥ru ˥pimmaː ˥ɸu̥kum mu˩ti˥ru ˩ʔoːt˥ta](烏賊漁に出られるときは、矛も持って＜ぞ＞行かれたものだ)。

˥フク **[˥ɸu̥ku]** 【名】福。幸福。福の神。フ˩ク˥ヌ　˩カン˥マー　˩ヤー˥ウチェー　ン˩カイオーシェー˥ン [ɸu̥˩ku˥nu ˩kam˥maː ˩jaː˥ʔutʃe: ʔŋ˩kai ʔoːʃeː˥ŋ](福の神は家の中にお迎えして差し上げました)。

ブ˩クー **[bu˩kuː]** 【名】不器用な者。ぶきっちょ。ノー˩ンヌ˥　シ˩グトゥ˥　シ˩ミラバン˥　メー　ブ˩クー˥　ヤ˩ルンダ˥　イ˩ザリトゥーシル　ブー [noː˩nnu˥ ʃi˩gutu˥ ʃi˩mirabam˥ meː bu˩kuː˥ ja˩runda˥ ʔi˩ʤaritu:ʃiru buː](どんな＜何の＞仕事をさせても不器用な者だから、もう叱られ通しである＜いる＞)。˥アイブ　ブ˩クー˥ティン　˩ブントツォー˥カー [˥ʔaibu bu˩kuː˥tim ˩bunˊtsoː˥kaː](あんな不器用者＜ぶきっちょ＞とてもいるものだよ、呆れたものだ)。

フ˩クイ **[ɸu̥˩kui]** 【名】ほこり (埃)。砂塵。目に見えないような塵埃(ジンアイ)。粉末のように飛び散るごみ。˩ポー˥キシ　˥ザー　˩ポーク˥ター　フ˩クイヌ˥　タティティ　˥ミー　ア˩キララヌ˥　イキン　シ˩ララヌ (サ˩ラヌ)[˩poː˥ki̥ʃi ˥ʤaː ˩poːku˥taː ɸu̥˩kuinu˥ tḁtiti ˥miː ʔa˩kiraranu˥ ʔikin ʃi˩raranu(sa˩ranu)](箒で座敷を掃いたら埃が立って目もあけられない。息も出来＜され＞ない)。フ˩クイ˥　カブンダ　ミ˩ジ˥　ウティティ　˩ポー˥キバ [ɸu̥˩kui˥ kabunda mi˩ʤi˥ ʔutiti ˩poː˥kiba](埃を被るから水を打って＜水をかけて＞掃きなさいよ)。

フ˩クイカザ **[ɸu̥˩kuikaʤa]** 【名】湿ったかび臭い匂い。˥ヤドゥ　フ˩ジックミ˥　シケーター　˩ヤーン˥ナカー　フ˩クイカザヌ　スー˥サー [˥jadu ɸu˩ʤikkumi˥ ʃi̥keːta: ˩jaːn˥naka: ɸu̥˩kuikaʤanu suː˥saː](戸を閉め切っておいたので、家の中は湿った黴(カビ)臭い匂いがするよ)。

フ˩クイキー **[ɸu̥˩kuikiː]** 【名】ふくげ (ふく毛)。顔に生える柔らかく細い毛。「Fucugue. フクゲ (ふく毛)　幼児や、その他鬚(ヒゲ)のはえていない顔にある柔らかな毛 (うぶ毛)」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。ミ˩ドゥム˥ヌ　˥シラナーン　フ˩クイキーヤ　ムイ˥ルン [mi˩dumu˥nu ˥ʃiranaːn ɸu̥˩kuikiːja mui˥ruŋ](女の顔にもふく毛は生える)。

フ˩クイキー **[ɸu̥˩kuikiː]** 【名】 (植) ウラジロエノキ。フ˩クイ [ɸu̥˩kui] ともいう。西表島の山中に自生する。材質は軽く柔らかい。下駄や建具(タテグ)の用材として重宝された。フ˩クイキーヤ˥　カ˩ロー˥ンダ　ア˩シ˥ツァー　ウ˩リ˥シル　ス˩ク˥ローッタル [ɸu̥˩kuikiːja˥ ka˩roː˥nda ʔa˩ʃi˥tsa: ʔu˩riʃiru su̥˩ku˥roːttaru](ウラジロエノキは軽いから、下駄はそれで＜ぞ＞作られたものだ)。

フ˩クカーラキ **[ɸu̥˩kukaːraki]** 【名】半乾燥。半乾き。十分に乾かない状態。˩キン˥マー　フ˩クカーラキル　シー　ベー˥バ　˩ゾー˥ブンニ　˥ティダナ　˥プ

シバ [˞kimˀma: ɸu̥˞kuka:rakiru ʃi: be:ˀba ˞ʤo:ˀbunni ˀtidana ˀpu̥ʃiba](着物は半乾きしているから、十分に太陽に干しなさい)。

フ˞クキー [ɸu̥˞kuki:] 【名】木質が荒くて柔らかく、折れ易い木。フ˞コーˀ　キー [ɸu̥˞ko:ˀ ki:](脆い樹木) ともいう。サ˞バーˀン [sa˞ba:ˀŋ](脆く、裂けやすい) の類義語。ˀグジキー　ˀウシキー　ビンダ˞ローˀマキーヤ　フ˞クキーˀ　ヤ˞ルンダ　ヤーˀザイ　ナ˞ラˀヌ [ˀguʤiki: ˀʔuʃi̥ki: binda˞roːˀmaki:ja ɸu̥˞kuki:ˀ ja˞runda ˞ja:ˀʤai na˞raˀnu](デイゴ、アコウ、ハスノハギリは脆い木だから建築材にはならない)。

フ˞クˀサ [ɸu̥˞kuˀsa] 【名】神前に供える二番吸い物。˞ニーバンシーˀムヌ [˞ni:baŋʃi:ˀmunu](二番吸い物) の項参照。

フ˞クˀジ [ɸu̥˞kuˀʤi] 【名】稲藁、麦藁、粟、ススキ、砂糖黍などの枯れ葉や枯れ屑。草木の枯れ葉や枯れ屑(クズ)など。「古屑(フルクズ)」の転訛したものか。フ˞クˀジア˞ツァˀミティ　パ˞タˀキナー　イ˞リルˀカー　ˀコイ　ˀナルン [ɸu̥˞kuˀʤi ʔa˞tsaˀmiti pḁ˞taˀkina: ʔi˞riruˀka: ˀkoi ˀnaruŋ](稲藁や草木の枯れ葉などを集めて畑に入れると肥やしになる)。

フ˞クˀジシティ [ɸu̥˞kuˀʤiʃi̥ti] 【名】塵捨て場。チ˞リシティ [ʧi˞riʃi̥ti](塵捨て) ともいう。昔は、屋敷の一角に石を一、二段に積んで囲い、約一坪の塵捨て場を作っていた。落ち葉や塵屑をそこへ入れて燃やし、肥料を作って畑に入れた。ミ˞ナカˀヌ　フ˞クˀジェー　フ˞クˀジシティナー　シ˞ティリˀバ [mi˞nakaˀnu ɸu̥˞kuˀʤe: ɸu̥˞kuˀʤiʃi̥tina: ʃi̥˞tiriˀba](庭の塵は塵捨て場に捨てなさい)。

フ˞クˀジピー [ɸu̥˞kuˀʤipi:] 【名】塵芥を燃やした火。塵芥を燃やして作った灰を畑に入れて肥料にした。フ˞クˀジピーヌ　フ˞チˀマリティ　˞キーボーˀヌ　ナ˞ラˀヌ [ɸu̥˞kuˀʤipi:nu ɸu̥˞ʧiˀmariti ˞ki:boːˀnu na˞raˀnu](塵芥(ジンカイ)を燃やした火がくすぶっ＜燻＞て、煙たくてたまらない)。

フ˞クˀジン [ɸu̥˞kuˀʤiŋ] 【名】裕福な人。富貴な人。「Fucujin. フクジン (福人)　すなわち, Tomeru fito,(富める人) 金持ち、あるいは、栄えている人」『邦訳日葡辞書』の義。ウ˞ヤˀキフクジンヌ　˞オーˀルン [ʔu˞jaˀkiɸu̥kuʤinnu ˞ʔoːˀruŋ](富貴な人がいらっしゃる)。

フ˞クˀダー [ɸu̥˞kuˀda:] 【名】ぼろ (襤褸)。着古して破れた着物。つづれごろも。ク˞ヌ　キンˀマー　フ˞クˀダー　ˀナリティ　キ˞サラヌ [ku˞nu kimˀma: ɸu̥˞kuˀda: ˀnariti ki̥˞saranu](この着物は襤褸になっているから着られない)。ヤ˞リフクˀダー [ja˞riɸu̥kuˀda:](着古してぼろぼろに破れた着物＜襤褸衣＞)。

フ˞クナ [ɸu̥˞kuna] 【名】(植) 草の名。ハルノノゲシ。食用になる。耕作放棄した畑などによく自生した。カツオの頭と一緒に煮るとカツオの出汁とハルノノゲシの苦味が調和して美味であった。ナ˞チェーˀ　ヤ˞サイˀヌ　˞ナーンˀユンダ　カ˞ツンスブˀルナー　フ˞クナˀ　イ˞リティˀ　バ˞カシバˀ　ダシン　シ˞キティˀ　ン˞マーˀタン [na˞ʧeːˀ ja˞saiˀnu ˞na:nˀjunda kḁ˞tsunsubuˀruna: ɸu̥˞kunaˀ ʔi˞ritiˀ ba˞kaʃibaˀdaʃiŋ ʃi̥˞kitiˀ ʔm˞maːˀtaŋ](夏は野菜がないから、カツオの頭にハルノノゲシを入れて炊くと、出汁も効いて美味しかった)。

フ˞クˀヌマキ [ɸu̥˞kuˀnumaki] 【名】牧場の名。伊武田地区にあった牧場。伊武田のˀフクパマ [ˀɸu̥kupama](福浜) からク˞バシˀター [ku˞baʃi̥ˀta:] へ行く途中の松林の中にあった牧場。ˀインダヌ　フ˞クˀヌマケーラ　サ˞キンダヌマキˀ　バ˞カˀソーッタツォー [ˀʔindanu ɸu̥˞kuˀnumake:ra sḁkindanumakiˀ ba˞kaˀsoːttatsoː](伊武田のフクヌマキ＜福の牧＞から崎田の牧に分割され＜分けられ＞たそうだ)。

フ˞クˀビ [ɸu̥˞kuˀbi] 【名】帯。「帯　乞角必」「玉帯　亦石乞角必」「金帯　孔加尼乞角必」『琉球館訳語』。「ほしのかたの　みききうひ〜」『おもろさうし。10-513』。「帯　文筆」『中山伝信録』。「帯　烏比」『琉球入学見聞録』。「我が背なを〜於妣は解かなな〜。万、4422」。「キッキビ」(帯) 大宜味村喜如嘉。鳩間方言には、カ˞クフクビ [kḁ˞kuɸu̥kubi](ティジリビ＜男性神職者＞の正装用の帯。神前に出る際に締める)、˞カーフクˀビ [ˀka:ɸu̥kuˀbi](皮帯)、ッ˞ふァカサナイフクˀビ [f˞fakasanaiɸu̥kuˀbi](おぶいひも＜負い紐＞)、ˀシナフクビ [ˀʃinaɸu̥kubi](綱帯。藁縄の帯。農作業や漁業の際に用いる帯) などがある。ˀアッパター　フ˞クˀベー　˞ソーランˀドーシ　ˀウシンチール　˞ソーッタˀル [ˀʔappata: ɸu̥˞kuˀbe: ˞soːranˀdoːʃi ˀʔuʃinʧi:ru ˞soːttaˀru](お婆さんたちは、帯をしないでウシンチー＜押しぬき＞をされたものだ)。

ˀブクブクー [ˀbukubuku:] 【副】1ぶくぶく泡が出るさま。ドゥ˞クˀヌ　ˀアツァティ　ウ˞シェーˀ　フ˞チェーˀラ　ブ˞クブクーˀシ　˞アーˀツベー　ˀフキ　˞ベー [du˞kuˀnu ˀʔatsati ʔu˞ʃeːˀ ɸu̥˞ʧeːˀra bu˞kubukuˀʃi ˞ʔa:ˀtsube: ˀɸu̥ki ˞be:](あまりにも暑いので、牛は口からぶくぶくと泡を吹いている)。2体などが腫れるさま。˞パンヌˀドゥ　ブ˞クブクˀシ　フ˞クリ　ベ

ー [ˈpannu˥du buˈkubuku˥ʃi ɸuˈkuri beː](足がぶくぶくと腫れあがっている)。

フˈクマ˥スン [ɸu̥ˈkuma˥suŋ] 【他動】含ませる。フˈチ˥ナー　アˈミ˥　フˈクマ˥スンティ　ˈスンドゥ˥　フˈチ˥　ッˈサイティ˥　フˈクマサン˥バン [ɸu̥ˈtʃi˥naː ʔaˈmi˥ ɸu̥ˈkuma˥sunti ˈsundu˥ ɸu̥ˈtʃi˥ sˈsaiti˥ ɸu̥ˈkumasam˥baŋ](口に飴を含ませようとするが、口を閉めて含ませないよ)。フˈチ˥ナー　フˈクマ˥シ　˥ミサカー　フˈクマ˥ス　˥クトー　˥ナルン [ɸu̥ˈtʃi˥naː ɸu̥ˈkuma˥ʃi ˥misakaː ɸu̥ˈkuma˥su ˥ku̥toː ˥naruŋ](口に含ませてよければ、含ませることは出来る)。フˈクマ˥シェー　˥ミサムヌ [ɸu̥ˈkuma˥ʃeː ˥misamunu](含ませばいいのに)。ヤーˈディン˥　フˈクマ˥シ [jaːˈdiŋ˥ ɸu̥ˈkuma˥ʃi](必ず含ませなさい)。

˥フクマミ [˥ɸu̥kumami] 【名】動物の心臓。ˈオー˥ヌ　˥フクマミン　キˈム˥トゥ　マˈザー˥シ　イˈラキ˥ムヌ　ˈシー˥バ [ˈʔoː˥nu ˥ɸu̥kumamiŋ kiˈmu˥tu maˈʤaː˥ʃi ʔiˈraki˥munu ˈʃiː˥ba](豚の心臓も肝臓と混ぜて炒め(イタ)物 <煎(イリ)物 > にしなさいよ)。

フˈク˥マレー [ɸu̥ˈku˥mareː] 【名】屋号。友利津久利氏宅。古老は、フˈク˥チ [ɸu̥ˈku˥tʃi](福地) ともいう。フˈク˥マレーヌ　˥アンマー　ˈウイヌウガン˥ヌ　サˈカサ˥　ヤˈローッ˥タ [ɸu̥ˈku˥mareːnu ˥ʔammaː ˈʔuinuʔugan˥nu sḁˈkasa˥ jaˈroːt˥ta](友利家のお母さん < 友利米氏 > は友利御嶽 < 上の御願 > の司であられた)。

フˈク˥ムン [ɸu̥ˈku˥muŋ] 【他動】 1口に含む。内包する。フˈチ˥ナー　フˈク˥ムンティ　ˈスンドゥ˥　ンˈガー˥ヌ　フˈクマラ˥ヌ [ɸu̥ˈtʃi˥naː ɸu̥ˈku˥munti ˈsundu˥ ʔŋˈgaː˥nu ɸu̥ˈkumara˥nu](口内に含もうとするが、苦くて含まれない)。フˈク˥ミ　˥ミサカー　ナーˈイ˥　フˈク˥ム　˥クトゥン　˥ナルン [ɸu̥ˈku˥mi ˥misakaː naːˈji˥ ɸu̥ˈku˥mu ˥ku̥tun ˥naruŋ](口に含んでよければ、じっと含むことも出来る)。ˈマー˥ビン　フˈク˥メー　˥ミサムヌ [ˈmaː˥biŋ ɸu̥ˈku˥meː ˥misamunu](もっと含めばいいのに)。ˈパー˥ク　フˈク˥ミ [ˈpaː˥ku ɸu̥ˈku˥mi](早く含め)。2味などがしみ込む。ˈダイ˥クネー　イッˈケナ˥　ダシ　フˈクミ˥　ブー [ˈdai˥kuneː ʔikˈkena˥ daʃi ɸu̥ˈkumi˥ buː](大根は非常にたくさん出し汁を含んでいる)。

フˈク˥ラ [ɸu̥ˈku˥ra] 【名】(植) 海草の名。ボタンアオサ。ヒトエグサに似るが、質が粗く食用にはならない。台風の後に砂浜に押し上げられたものを集めて畑に入れ、肥料にした。星砂はこの草の根元に多い。この草を掻き分けて星砂を採集し、竹富島に売り出した。フˈク˥ラー　ッˈふァーラユンダ˥　パˈタ˥ケー　イˈルタル [ɸu̥ˈku˥raː fˈfaːrajunda˥ pḁˈta˥keː ʔiˈrutaru](フクラは食べられないから畑に入れたものだ)。

フˈクラ˥サ [ɸu̥ˈkura˥sa] 【名】めでたさ。喜ばしさ。嬉しさ。ありがたさ。「誇らしさ」の義。「ほこらしや　和詞にも云源氏明石の巻にあさりするあまともほこらしけなり」『混効験集　坤・言語』とある。沖縄本島方言からの借用語の転訛。ˈキュー˥ヌ　ウˈムッ˥サ　˥フクラサー < サˈニ˥ヤー >　˥メー　˥ヌーティ　アˈジッサリル˥ユー　ッˈサン˥スコー　フˈコーラ˥サーン [ˈkjuː˥nu ʔuˈmus˥sa ˥ɸu̥kurasaː < saˈni˥jaː > ˥meː ˥nuːtiru ʔaˈʤissariru˥juː sˈsan˥su̥koː ɸu̥ˈkoːra˥saːŋ](今日の嬉しさ喜ばしさは、もう何と申し上げてよいか分からないほど有難い)。

フˈクラシクー [ɸu̥ˈkuraʃikuː] 【名】膨らし粉。ソーダ (曹達)。重曹。ˈアンツォー [ˈʔantsoː](重曹) ともいう。ˈティン˥プラ　ヤˈク˥　ピンマー　フˈクラシクー˥　イˈリティ˥　ヤˈキバル˥　ンˈマー˥タ [ˈtim ˥pura jaˈku˥ pimmaː ɸu̥ˈkuraʃikuː˥ ʔiˈriti˥ jaˈkibaru˥ ʔmˈmaː˥ta](テンプラを揚げる < 焼く > 時は、膨らし粉を入れて焼いた方が美味かった)。

フˈクラスン [ɸu̥ˈkurasuŋ] 【他動】 1ふやかす。水に浸けて柔らかくする。ˈトー˥フマメー　ミˈジ˥ナ　シˈキティ˥　フˈクラスンティ　スンドゥ˥　フˈクラサランバン [ˈtoː˥ɸumameː miˈʤi˥na ʃi̥ˈkiti˥ ɸu̥ˈkurasunti sundu˥ ɸu̥ˈkurasarambaŋ](大豆は水に浸けてふやかそう < 膨らませよう > とするが、ふやかされない)。ミˈジ˥ナー　フˈクラシティル　トーフ˥マミ　ピˈコーッ˥タ [miˈʤi˥naː ɸu̥ˈkuraʃi̥tiru toː ˥ɸumami pi̥ˈkoːt˥ta](水に浸けてふやかして < ぞ > 大豆 < 豆腐豆 > を挽かれた)。2ˈ膨らませる。マー˥ビン　フˈクラス˥　クトー　ナˈラ˥ヌ [ˈmaː˥biŋ ɸu̥ˈkurasu˥ ku̥toː naˈra˥nu](もっと膨らませることは出来ない)。フˈクラシェー˥　ミサムヌ [ɸu̥ˈkuraʃeː˥ misamunu](膨らませばいいのに)。ˈマー˥ビン　フˈクラシ [ˈmaː˥biŋ ɸu̥ˈkuraʃi](もっと膨らませなさい)。

フˈクラ˥ベー [ɸu̥ˈkura˥beː] 【名】(動)1魚の名。和名、タスキモンガラの仲間。カワハギ科の硬骨魚。珊瑚礁内に住む体長 15〜20 センチで皮が厚い。潮干狩りの際に、浅瀬の珊瑚礁内にいるのを女性が銛(モリ)で突いて漁獲した。お汁にすると美味である。和名、クラカケモンガラともいう。ˈバン˥テヌ　˥アボー　イˈソー　オー˥ルカー　ヤーˈディン˥　タˈク

˺トゥ　フ˹クラ˺ベー　シ˹キ˺　トゥ˹ゴーッ˺タン [˹ban˺tenu ˺ʔabo: ʔi˹so: ʔo:˺ruka: ja:˹din˺ tḁ˹ku˺tu ɸu̥˹kura˺be: ʃi̥˹ki˺ tu˹go:t˺taŋ](私の家のお母さんは潮干狩りに行かれると、必ず蛸とカワハギを漁獲して＜突いて＞持ち帰えられた)2皮が厚いので、比喩的に着脹れした者をいう。フ˹クラベー˺ヌ　˺カタチニ　キ˹シフクリ　シーベー [ɸu̥˹kurabe:˺nu ˺kḁtatʃini ki̥˹ʃiɸukuri ʃi:be:](カワハギのように着脹れしている)。

フ˹クラマスン [ɸu̥˹kuramasuŋ]【他動】膨ます。膨らませる。老年層は、フ˹クラスン [ɸu̥˹kurasuŋ](膨らす) という。˺バタ　フ˹クラマスンティ　スンドゥ˺　フ˹クラマサラヌ [˺bata ɸu̥˹kuramasunti sundu˺ ɸu̥˹kuramasaranu](腹を膨らませようとするが、膨らまされない)。フ˹クラマシ˺　ミサカー　フ˹クラマス˺　クトー　˺ナルン [ɸu̥˹kuramaʃi˺ misaka: ɸu̥˹kuramasu˺ ku̥to: ˺naruŋ](膨らませてよければ、膨らませることはできる)。˹マー˺ビン　フ˹クラマシェー˺　ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ɸu̥˹kuramaʃe:˺ misamunu](もっと膨らませればいいのに)。フ˹クラマシ˺バ [ɸu̥˹kuramaʃi˺ba](膨らませなさいよ)。

フ˹クラムン [ɸu̥˹kuramuŋ]【自動】膨らむ。老年層は、フ˹クルン [ɸu̥˹kuruŋ](膨れる) という。˹プーカー˺ヤー　˺イキ　フ˹キッ˺クムカー　フ˹クラムンドゥ˺　ク˹レー　ピッ˺チン　フ˹クラマン˺サー [˹pu:ka:˺ja ˺ʔiki ɸu̥˹kik˺kumuka: ɸu̥˹kuramundu˺ ku˹re: pit˺tʃiŋ ɸu̥˹kuraman˺sa:](風船は息を吹き込むと膨らむが、これはちっとも膨らまないよ)。˹シンダイ˺　フ˹クラミ˺　クン [˹ʃindai˺ ɸu̥˹kurami˺ kuŋ](次第に膨らんでくる)。フ˹クラム˺　クトゥン　˺アン [ɸu̥˹kuramu˺ ku̥tuŋ˺ ʔaŋ](膨らむこともある)。˹マー˺ビン　フ˹クラメー˺　ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ɸu̥˹kurame:˺ misamunu](もっと膨らめばいいのに)。˹パー˺ク　フ˹クラミ˺バ [˹pa:˺ku ɸu̥˹kurami˺ba](早く膨らめよ)。

フ˹ク˺リ [ɸu̥˹ku˺ri]【名】人名。男子の名前。一般に「福利」と表記されている。呼びかけるときは、フ˹クレー [ɸu̥˹kure:](福利よ) となる。取立ての係助詞ヤ [ja](は) が下接する際、語末の母音 [i] と融合同化して、フ˹ク˺レー [ɸu̥˹ku˺re:](福利は) となる。親愛の情を表したり、小さいものを表す指小辞 (diminutive) の-マ [-ma] が付くときも、フ˹クレー˺マ [ɸu̥˹kure:˺ma](福利ちゃん) のようになる。フ˹ク˺レー　˹マー˺ル　˹パッ˺ター [ɸu̥˹ku˺re: ˹ma:˺ru ˹pat˺ta:](福利は何処へ＜ぞ＞行ったのか)。

フ˹クリ [ɸu̥˹kuri]【接尾】動詞の連用形に下接して、「十分に堪能して贅沢になる、飽きるほど～する、むやみやたらにする、～三昧 (ざんまい)」などの意を表す。ッ˹ふァイフクリ˺　シ˹ティ˺　ノー˹ン˺　ッ˹ふァイ˺　プサンティ　ウ˹モーラ˺ヌ [f˹faiɸu̥kuri˺ ʃi̥˹ti˺ no:˹ŋ˺ f˹fai˺pu̥santi ʔu˹mo:ra˺nu](食べ飽きて、何も食べたいと思われない)。キ˹シフクリ　シーブンダ˺　イ˹カス˺ク　タ˹カー˺キン　ミ˹シル˺バン＜ミ˹ラス˺バン＞　˺プサンテー　ウ˹モーン˺シェン [ki̥˹ʃiɸu̥kuri ʃi:bunda˺ ʔi˹kasu̥˺ku tḁ˹ka:˺kim mi˹ʃiru˺bam＜mi˹rasu˺bam＞ ˺pu̥sante: ʔu˹mo:ŋ˺ʃeŋ](飽きるほど贅沢に着ているから、どんなに高価な着物を見せても欲しいとは思わなかった)。

フ˹クリルン [ɸu̥˹kuriruŋ]【自動】ふくれる (膨れる)。はれる (腫れる)。炎症などで皮膚が脹れる。怒って顔が膨れる。フ˹クルンとも言う。˹アンツォー˺　イ˹リル˺カー　˹マー˺ビン　フ˹クリルンドゥ˺　イ˹リラン˺カー　フ˹クリラヌ [˹ʔantso:˺ ʔi˹riru˺ka: ˹ma:˺biŋ ɸu̥˹kurirundu˺ ʔi˹riraŋ˺ka: ɸu̥˹kuriranu](膨らし粉＜炭酸ソーダ＞を入れるともっと膨れるが、入れないと膨れない)。˺シラー　フ˹クティ˺　ムネー　イ˹ザヌ [˺ʃira: ɸu̥˹kuriti˺ mune: ʔi˹ʥanu](怒って顔を膨らませて＜顔を膨らして＞ものも言わない)。ク˹リヌ˺　フ˹クリル˺　クトゥン　ア˹リ˺　ブーバン˹ナー [ku˹rinu˺ ɸu̥˹kuriru˺ ku̥tuŋ ʔa˹ri˺ bu:ban˹na:](これがが膨れることもあるのだねえ)。˹マー˺ビン　フ˹クレー˺　ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ɸu̥˹kure:˺ misamunu](もっと膨れたらいいのに)。˹マー˺ビン　フ˹クリ˺バ [˹ma:˺biŋ ɸu̥˹kuri˺ba](もっと膨れよ)。

フ˹ク˺ル [ɸu̥˹ku˺ru]【名】袋。「胃、クソフクロ。膀胱、ユハリフクロ」『色葉字類抄』の転訛したもの。˹カシガーフク˺ル [ka˹ʃiga:ɸu̥ku˺ru](南京袋。籾を入れる袋)。カジフクル [ka˹ʤiɸukuru](帆が風に孕むこと)。ッ˹ふァフクル [f˹faɸukuru](羊膜)。バ˹タフク˺ル [ba˹taɸu̥ku˺ru](お腹、腹部)、シ˹バ˺ルフクル [ʃi˹ba˺ruɸu̥kuru](膀胱)。˹シーフク˺ル [˹ʃi:ɸu̥ku˺ru](乳房＜乳袋＞)、カ˹ビフクル [ka˹biɸu̥kuru](紙袋)。˺ジョーブクル [˺ʤo:bukuru](封筒) などがある。ク˹レー˺　フ˹ク˺ルナー　イ˹リティ˺　ムティ　˺パリ [˹kure:˺ ɸu̥˹ku˺runa: ʔi˹riti˺ muti ˺pari](これは袋に入れて持って行け)。

フ˹クル˺アン [ɸu̥˹kuru˺ʔaŋ]【名】袋網。網の目は約1センチ四方。網の幅、約12メートル、網の高さ、約12メートルのほぼ正方形の網。網の上部には

ウ˞キ [ʔuˀki](直径約 7 センチ、板製の半円形の浮き) を付け、網の脚部には宝貝を付けて重しにした。これにˀタカアン [ˀtạkaʔaŋ](高網。深い所に用いる網)、ˀキタアン [ˀkịtaʔaŋ](袖網。< 桁網 > の義。比較的浅い所に用いる網) を連結して魚が逃げるのを防ぐ。フ˞クルˀアンナー　ˀタカアントゥ　ˀキタアンバ　シ˞ナイティˀ　アン　ウ˞ラˀソーッタ [ɸṵ˞kuruˀʔanna: ˀtạkaʔantu ˀkịtaʔamba ʃi˞naitiˀ ʔaŋ ʔu˞raˀsoːtta](袋網に高網と桁網(ケタアミ)を繋(ツナ)いで魚網を設置 < 降ろ > された)。

フ˞クルカザ [ɸṵ˞kurukaʤa] 【名】いい匂い。香ばしい匂い。芳香(ホウコウ)。バンジロウ (蕃石榴(バンザクロ)) やバナナの熟れた匂いなど。˞バンスルˀヌ　フ˞クルカザヌˀ　シ˞ターˀ　パ˞タキˀヌ　ˀアザー　˞ギーˀ　ミルンケン　˞バンスルˀヌ　ナ˞ルˀヌ　˞ウーˀミ　˞ベーˀタ [˞bansuruˀnu ɸṵ˞kurukaʤanuˀ ʃị˞taːˀ pạ˞takiˀnu ˀʔaʤaː ˞giːˀ miruŋkeŋ ˞bansunuˀnu na˞ruˀnu ˞ʔuːˀmi ˞beːˀta](蕃石榴の香ばしい匂いがしたので、畑の畦に行ってみると蕃石榴の実が熟れていた)。

フ˞クルクˀジュー [ɸṵ˞kurukuˀʤuː] 【名】福禄寿。尊い掛け軸の一種。床の間の掛け軸として重宝された。フ˞クルクジューˀヌ　カ˞キジˀコー　イッ˞ケナˀ　カ˞ルイˀヌ　ˀアンティ　˞シー　ザーˀトゥクナー　カ˞ザラリ　トゥーシルˀ　ブ˞タˀダー [ɸṵ˞kurukuʤuːˀnu kạ˞kiʤiˀkoː ʔik˞kenaˀ ka˞ruiˀnu ˀʔanti ˞ʃiː ʤaːˀtukunaː ka˞ʤarari tuːʃiruˀ bu˞taˀdaː](福禄寿の掛け軸は非常に縁起が良い < 嘉例がある > として、床の間にずっと飾られて < 飾られ通して > いたんだよ)。

フ˞クルˀスディ [ɸṵ˞kuruˀsudi] 【名】たもと (袂)。袖(ソデ)の下が袋のようになったもの。「袋袖」の義。˞ティップースディ [˞tippuːsudi](鉄砲袖。筒袖(ツツソデ)) の対語。バ˞カーˀムンヌ　˞キンˀマー　フ˞クルˀスディˀヌイ　キ˞サシˀバ [baˀkaːˀmunnu ˞kimˀmaː ɸṵ˞kuruˀsudi ˀnui kị˞saʃiˀba](若者の着物は華やかな袂 < 袋袖 > に縫って着せなさい)。

フ˞クルˀプー [ɸṵ˞kuruˀpuː] 【名】和船の帆。ˀマーランブニ [ˀmaːrambuni](馬艦船) や和船の「袋帆」の義。˞プーザンプー [˞puːʤampuː](帆桟帆) 以前の帆の形態。トゥ˞バシˀプー [tu˞baʃiˀpuː](飛ばし帆。帆の中間に帆桁のない帆) ともいう。帆の最上段と最下段の˞プーギタ [˞puːgita](帆桟。帆桁) にはウ˞チˀマー [ʔu˞ʧiˀmaː](帆柱から帆桁を遠く離さないように、帆桁の両端に結わえる取り外し式の縄) のある帆。この帆では、˞オーラーマーˀレー [˞ʔoːraː-maːˀreː](船を風上の方へ旋回させること) が出来ない。風の力で˞ドングˀヤビ　˞シース [˞doŋguˀjabi ˞ʃiːsu](帆走航海の用具を壊す < 道具破れする >) という。最上段の˞プーギタ [˞puːgita](帆桁) の中央にミ˞ナー [mi˞naː](水縄) を結わえ、帆柱の先端の˞ナンˀバー [˞namˀbaː](滑車) に通して帆を上げ下げする。帆の左手中央部に˞ジヨー [˞ʤijoː](˞ティンˀナー [˞tinˀnaː]< 手縄 > の一種で、帆がばたつくのを防ぐ縄) が二本舳先(ヘサキ)の方に張られている。二本の˞ジヨーの中間に˞ハイˀジョー [˞haiˀʤoː](「張り竿」の義か) という竹竿が艫側に張られている。下段の˞プーギタ [˞puːgita](帆桟。帆桁) にはウ˞チˀマー [ʔu˞ʧiˀmaː] が張られ、ˀカタ [ˀkạta](帆桁の左側。オーラー [ʔoːraː]< 風上 > に相当する部分) にはジ˞ヨー [ʤi˞joː](ティンナー < 手縄 > の一種) という縄が張られる。下段の帆桁の右側 < 風下 > をッ˞ス [s˞su](˞裾」の義か) といい、そこの縄をッ˞ス [s˞su](裾縄) という。˞ティンˀナー [˞tinˀnaː](手縄) の一種である。これを引いたり緩めたりして操船した。舳先には、帆柱を立てたり、倒したりするときのヌ˞チˀジナ [nu˞ʧiˀʤina](命綱) を張る、˞ハンˀドゥー [˞hanˀduː](命綱を張る棒) を突き出しておく。袋帆。まほ (真帆)。˞プーザン [˞puːʤaŋ](帆桟) が上と下に二つある構造の帆。帆を正面に向け、追い風を受けて走る構造の帆。帆柱が帆の中心にくるように作られている。フ˞クルプーˀヤ　マ˞ナˀマー　シゥ˞カイヨーラˀヌ [ɸṵ˞kurupuːˀja ma˞naˀmaː sị˞kaijoːraˀnu](袋帆は今は使われない)。

フ˞クルン [ɸṵ˞kuruŋ] 【自動】膨(フクレ)る。腫(ハレ)る。「ふくる < 下二段活用 >」の四段活用化したもの。「○、布久流 (ふくる)、肉墳起也」『和名抄』の転訛。ˀバタ　フ˞クルン [ˀbata ɸṵ˞kurŋ](お腹が膨れる)。ウ˞ヌスˀク　ッ˞ふータンティンˀ　バター　フ˞クラヌ [ʔu˞nusṵˀku f˞fuːtantimˀ bataː ɸṵ˞kuranu](あれほど食ってもお腹は膨(フクレ)ない)。ˀバター　フ˞クリティ　ウーカラˀヌ [ˀbataː ɸṵ˞kuriti ʔuːkaraˀnu](お腹が膨れて動けない)。バ˞タˀヌ　フ˞クルˀ　ピンマー　˞ヤンˀマイ　ウ˞クˀルン [ba˞taˀnu ɸṵ˞kuruˀ pimmaː ˞jamˀmai ʔu˞kuˀruŋ](お腹が膨れる時は病気が起きる)。˞マーˀビン　フ˞クレーˀ　ミサムヌ [˞maːˀbiŋ ɸṵ˞kureːˀ misamunu](もっと膨れたらいいのに)。˞パーˀク　フ˞クリ [˞paːˀku ɸṵ˞kuri](早く膨れろ)。

フ˞クローフクローˀシ [ɸṵ˞kuroːɸukuroːˀʃi] 【副】1柔らかく香ばしく匂うさま。匂いが薫るさま。カ˞バッˀサ　カ˞ザヌˀ　フ˞クローフクローˀシ　カ˞

バリン [ka⌈bas⌉sa ka⌈ʥanu⌉ ɸu̥⌈kuroːɸukuroː⌉ʃi ka⌈bariŋ](香ばしい匂いがふんわりと香ばしく薫っている＜嗅がれる＞)**2**ふんわりと柔らかいで状態。ピ⌈サシイー⌉ヤ　フ⌈クローフクロー⌉シ　バ⌈カシバル⌉　ン⌈マー [pi̥⌈saʃiʔiː⌉ja ɸu̥⌈kuroːɸukuroː⌉ʃi ba⌈kaʃibaru⌉ ʔm⌈maː](米のご飯はふんわりと柔らかく炊いた方が美味しい)。

フ⌈クロー⌉ン [ɸu̥⌈kuroː⌉ŋ] 【形】柔らかい。ふくよか＜膨よか＞である。食物や衣類などのふっくらとした柔らかさについていう。ム⌈チマイヌ　カシ⌉ケー　フ⌈クロー⌉ンドゥ　サ⌈クマイ⌉ヌ　⌈カシ⌉ケー　フ⌈クロー　ナー⌉ヌ [mu⌈ʧimainu kaʃi̥⌉keː ɸu̥⌈kuroː⌉ndu sḁ⌈kumai⌉nu ⌈kaʃi̥⌉keː ɸu̥⌈kuroː naː⌉nu](甑で蒸し煮した糯米のおこわ＜御強＞は柔らかいが、粳米のおこわ＜御強＞は柔らかくない)。ム⌈チマイ⌉　マ⌈ザー⌉スカー　フ⌈クロー⌉　ナルン [mu⌈ʧimai⌉ ma⌈ʥaː⌉sukaː ɸu̥⌈kuroː⌉ naruŋ](糯米を混ぜると柔らかくなる)。フ⌈クロー⌉ル　⌈カシ⌉ケーン⌈マー　ナー⌉ヌ [ɸu̥⌈kuroː⌉ru ⌈kaʃi̥⌉keː ʔm⌈maːnaː⌉nu](柔らかいおこわは美味しくない)。

フ⌈クン [ɸu̥⌈kuŋ] 【名】(植) ふくぎ (福木)。フ⌈クンキー [ɸu̥⌈kuŋkiː](福木) ともいう。オトギリソウ科の高木。葉は対生で、厚く革質。葉の長さは 8～12 センチの長楕円形で子供の遊具にもなる。対生の葉を片方を折り捨てて草履にしたり、葉の裏面に折り目を入れて剥ぐとビニール状の膜ができるのを吹き鳴らして遊んだりした。また、第一級の防潮・防風林、屋敷林として昔から植栽されている。材質は淡黄色で堅緻(ケンチ)である。島では一級建築用材として多く利用され、樹皮は黄色染料として利用される。実は直径 4～5 センチ大の柿のように黄熟し、蝙蝠(コウモリ)の好物となる。フ⌈クンキーヤ　ヤシキ⌉ヌ　⌈マール⌉ナーン　イ⌈ビティ　タイフー⌉ヌ　カ⌈タ⌉カ⌈ソーッ⌉タ [ɸu̥⌈kuŋkiːja jaʃi̥ki⌉nu ⌈maːru⌉naːŋ ʔi⌈biti taiɸuː⌉nu kḁ⌈ta⌉ka ⌈soːt⌉ta](福木は屋敷の回りにも植えて防風林＜台風の陰、防御＞にされた)。

フ⌈クン [ɸu⌈kuŋ] 【自動】くぐり (潜り) 抜ける。くぐる。抜ける。逃げる。「潜、ククル」『類聚名義抄』の転訛したものか。ク⌈ヌ⌉　アナーラ　フ⌈クンティスンドゥ⌉　フ⌈カランバン [ku⌈nu⌉ ʔanaːra ɸu̥⌈kunti sundu⌉ ɸu̥⌈karambaŋ](この穴からくぐり抜けようとするが、潜られない)。⌉クマーラ　フ⌈キ⌉　パリ⌈ナー⌉ヌ [⌉kumaːra ɸu̥⌈ki⌉ pari ⌈naː⌉nu](ここから潜り抜けていってしまった)。⌉バー　フ⌈ク⌉　クトーナ⌈ラヌ⌉ヌ　⌈ワーヤ⌉　フ⌈キ⌉バ [⌉baː ɸu̥⌈ku⌉ ku̥toː na⌈ranu⌉nu ⌈waːja⌉ ɸu̥⌈ki⌉ba](私は潜り抜けることは出来ないが、君は潜れよ)。⌉クマーラ　フ⌈ケー⌉　ミサムヌバ [⌉kumaːra ɸu̥⌈keː⌉ misamunuba](此処から潜ればよいものを)。

フ⌈クン [ɸu̥⌈kuŋ] 【自動】**1**漏れる。シ⌈バル⌉ヌ　フ⌈クン⌉ケン　ニ⌈ズ⌉ナ [ʃi⌈baru⌉nu ɸu̥⌈kuŋ⌉ken ni⌈ʥu⌉na](小便が漏れるまで我慢するな)。ン⌈グムタンティン⌉　シ⌈バ⌉ロー　フ⌈カヌ [ʔŋ⌈gumutantiŋ⌉ ʃi⌈ba⌉roː ɸu̥⌈kanu](力んでも小便は漏れない)。キサー⌈ティ⌉　フ⌈キ　ナー⌉ヌ [ki̥saː⌈ti⌉ ɸu̥⌈ki naː⌉nu](すでに漏れてしまった)。⌈オーパ⌉ヤー　シ⌈バル⌉ヌ　フ⌈ク⌉　クトー　⌈ナー⌉ヌ [⌈ʔoːpa⌉jaː ʃi⌈baru⌉nu ɸu̥⌈ku⌉ ku̥toː ⌈naː⌉nu](そんなに早く小便が漏れることはない)。シ⌈バ⌉ロー　フ⌈ケー⌉　ミサムヌ [ʃi⌈ba⌉roː ɸu̥⌈keː⌉ misamunu](小便は漏れたらいいのに)。フ⌈キ⌉バ [ɸu̥⌈ki⌉ba](漏れろよ)。**2**ずり下がる。ずり落ちる。サ⌈ラマ⌉ター　フ⌈キ⌉　パリ　⌈ナー⌉ヌ [sa⌈rama⌉taː ɸu̥⌈ki⌉ pari ⌈naː⌉nu](猿股＜パンツ＞は、ずり落ちてしまった)。**3**解(ト)ける。ほぐれる。ガ⌈マ⌉ジェー　⌈ユーバン⌉　フ⌈キス [ga⌈ma⌉ʤeː ⌈juːbaŋ⌉ ɸu̥⌈kisu](髪は結っても解ける)。

フ⌈クン [ɸu̥⌈kuŋ]【他動】葺く。茅や瓦で屋根を葺く。⌈カー⌉ラヤー　フ⌈クンティ⌉　ウ⌈ムーン⌉ドゥ　⌈カーラ⌉ヌ　タ⌈ラーンダ⌉　フ⌈カラヌ [⌈kaː⌉rajaː ɸu̥⌈kunti⌉ ʔu⌈muːn⌉du ⌈kaːra⌉nu ta⌈raːnda⌉ ɸu̥⌈karanu](瓦屋根を葺こうと思うが、瓦が足りないので葺かれない)。フ⌈キ⌉　プサカー　⌈カー⌉ラ　カ⌈リティ⌉　フ⌈ク⌉　クトー　⌉ナルン [ɸu̥⌈ki⌉ pu̥sakaː ⌈kaː⌉ra ka⌈riti⌉ ɸu̥⌈ku⌉ ku̥toː ⌉naruŋ](葺きたければ瓦を借りて葺くことはできる)。⌉キューズーナ　フ⌈ケー⌉　ミサムヌ [⌉kjuːʥuːna ɸu̥⌈keː⌉ misamunu](今日中に葺けばいいのに)。ヤー⌈ディン⌉　キュー　⌉ズーナ　フ⌈キ [jaː⌈diŋ⌉ kjuːʥuːna ɸu̥⌈ki](必ず今日中に葺け)。

⌉フクン [⌉ɸu̥kuŋ] 【自動】**1**湯が沸く。沸騰する。⌉ピー　⌈モース⌉カー　⌈ユー⌉ヤ (ワ)　フ⌈クン⌉ドゥ　⌈モーサン⌉カー　フ⌈カ⌉ヌ [⌉piː ⌈moːsu⌉kaː ⌈juː⌉ja(wa)ɸu̥⌈kun⌉du ⌈moːsaŋ⌉kaː ɸu̥⌈ka⌉nu](火を燃やしたらお湯は沸くが、燃やさければ沸かない)。キ⌈サーティ　ユー⌉ヤ (ワ)　フ⌈キ⌉　ブー [ki̥⌈saːti juː⌉ja(wa) ɸu̥⌈ki⌉ buː](すでに湯は沸いている)。⌈ユー⌉ヌ　⌉フク　⌉ピンマー　ウ⌈トゥヌ　ナールン [⌈juː⌉nu ⌉ɸu̥ku ⌉pimmaː ʔu⌈tunu naːruŋ](湯が沸く時は音がなる)。⌈パー⌉ク　⌉フケー　⌉ミサムヌ [⌈paː⌉ku ⌉ɸu̥keː ⌉misamunu](早く沸けばいいのに)。⌈パー⌉ク　⌉フキ [⌈paː⌉ku ⌉ɸu̥ki](早く沸け)。**2**繁茂する。繁る。⌉

クマー ˩ウンヌカザ˥ヌ ウ˩スマ˥サ ˥スコー ˥フクン [˥kuma: ˩ʔunnukaʤa˥nu ʔu˩suma˥sa ˥sɥko: ˥ɸɥkuŋ](ここはイモカズラ＜芋蔓＞が恐ろしいほどすごく繁茂する)。

˥フクン [˥ɸɥkuŋ] 【自動】1風が吹く。「伊可保風 布久日布加奴日ありといへど～。万、3422」の義。˩キュー˥ヤ (ワ) カ˩ジヌ˥ フクンティ ス˩クタヌ˥ フ˩カン˥バン˩ナー [˩kju:˥ja(wa) ka˩ʤinu˥ ɸɥkunti sɥ˩kutanu˥ ɸɥ˩kam˥ban˩na:](今日は風が吹くと聞いたが吹かないんだねえ)。˩カーチーバイ˥ヌ フ˩キ アー˥ルン [˩ka:ʧi:bai˥nu ɸɥ˩ki ʔa:˥ruŋ](夏至の南風が吹き荒れる)。カ˩ジヌ˥ フク ˥ピンマー ˩プー˥ ピ˩キ˥ パ˩ラ˥シ [ka˩ʤinu˥ ɸɥku ˥pimma: ˩pu:˥ pɥ˩ki˥ pa˩ra˥ʃi](風が吹く日には帆を揚げて＜引いて＞走らせよ)。カ˩ジェー マー˥ビン ˥フケー ˥ミサムヌ [ka˩ʤe: ma:˥biŋ ˥ɸɥke: ˥misamunu](風はもっと吹けばいいのに)。˩マー˥ビン ˥フキ [˩ma:˥biŋ ˥ɸɥki](もっと吹け)。2暴風が吹く。カ˩ジヌ˥ フクン [ka˩ʤinu˥ ɸɥkuŋ](台風が吹く)3息を吹き返す。蘇生する。ブ˩チ˥クン ˩シー ベータ˥ヌ イ˩キ˥ フケーン [bu˩ʧi˥kuŋ ˩ʃi: be:ta˥nu ʔi˩ki˥ ɸɥke:ŋ](人事不省に陥っていたが、息を吹き返した)。4あえぐ(喘ぐ)。荒い息づかいをする。ウ˩マーバー˥キ ˩ヌール˥カー ˥イキ ˥フクン [ʔu˩ma:ba:˥ki ˩nu:ru˥ka: ˥ʔiki ˥ɸɥkuŋ](そこまで登ると息苦しくなる。喘ぐ＜息を吹く＞)。

フ˩グン [ɸu˩guŋ] 【自動】満ち足りる。満足する。納得する。「祠、春祭也、保加不 (ほかふ)」『新撰字鏡』の転訛したものか。キ˩ムヌ フ˩グン˥ケン パ˩ナ˥シ シ˩ミタンドゥ˥ マ˩ダ˥ キモー フ˩ガン˥ティバン [ki˩mu˥nu ɸu˩guŋ˥kem pa˩na˥ʃi ʃi˩mitandu˥ ma˩da˥ kimo: ɸu˩gan˥tibaŋ](満足するまで話をさせたが、まだ満足＜納得＞しないそうだよ)。˥キモー フ˩ゲーン˥カヤー [˥kimo: ɸu˩ge:ŋ˥kaja:](満足＜納得＞したかなあ)。˥キム フ˩グ˥ クトー ˩ナー˥ヌ [˥kimu ɸu˩gu˥ kɥto: ˩na:˥nu](満足＜納得＞することはない)。˥ウビシ ˥キム フ˩ゲー˥ ミサムヌ [˥ʔubiʃi ˥kimu ɸu˩ge:˥ misamunu](これだけで満足すればいいのに)。˥ウビシ ˥キモー フ˩ギ˥バ [˥ʔubiʃi ˥kimo: ɸu˩gi˥ba](これで満足＜納得＞しろよ)。

フ˩クン˥ドー [ɸɥ˩kun˥do:] 【名】地名。友利御嶽の北側の窪地一帯。普通は「福堂」と記される。「福木の窪地」の義か。フ˩クン˥ドーナーン ˩バン˥テヌ パ˩タ˥ケー ˩アッ˥タン [ɸɥ˩kun˥do:na:m ˩ban˥tenu pɥ˩ta˥ke: ˩ʔat˥taŋ](福堂にも私の家の畑はあった)。

フ˩クンヤマ [ɸɥ˩kuŋjama] 【名】福木の林。福木の叢林(ソウリン)。ナ˩ダラヌ˥ ヤマー フ˩クンヤマ˥ ヤ˩ルンダ˥ ウマーラル ˩ヤーザイ˥ギ ˥キシ ウ˩ラ˥ソーッタ [na˩daranu˥ jama: ɸɥ˩kuŋjama˥ ja˩runda˥ ʔuma:raru ˩ja:ʤai˥gi ˥kɥʃi ʔu˩ra˥so:tta](ナダラの山は福木の叢林だから、そこから建築用材＜家の材木＞を伐って下ろされた)。

フ˩コー [ɸɥ˩ko:] 【名】不孝。親不孝。沖縄本島方言からの借用語。˩コー [˩ko:](孝行) の対義語。˥ウヤフコー [˥ʔujaɸuko:](親不孝) の形で多く用いられる。˥ウヤフコーヌ ッ˩ふァティ˥ ア˩ザラン˥ヨーニ シカイ˩トゥ コー シー オーシリ [˥ʔujaɸɥko:nu f˩fati˥ ʔa˩ʤaraŋ˥jo:ni ʃɥkai˩tu ko: ʃi: ʔo:ʃiri](親不孝の子供といわれないように、しっかり孝行を尽くしなさい＜孝行をして差し上げなさい＞)。

フ˩ゴー [ɸu˩go:] 【名】不合格。「不合格」の略語で、石垣方言からの借用語。˩ウイヌ ガッコー˥ヌ ˥シキン ウ˩クタン˥ドゥ ク˩トゥシェー˥ フ˩ゴー ヤッタ˥ツォー [˩ʔuinu gakko:˥nu ˥ʃɥkiŋ ʔu˩kutan˥du kɥ˩tuʃe:˥ ɸu˩go: jatta˥tso:](上級学校の試験を受けたが今年は不合格だったそうだ)。

フ˩コーラサ [ɸɥ˩ko:rasa] (1)【名】お礼。ありがたさ(有難さ)。˩ヨイ˥ヌ フ˩コーラサ シン パッ˥タ [˩joi˥nu ɸɥ˩ko:rasa ʃim pat˥ta](お祝いのお礼をしに行った)。 **(2)**【感】ありがとう (有難う)。同等以下の相手に対して用いる。ムー˩ル˥シ ˩テー˥ナイ ˩シーッふィー˥ フ˩コーラサ [mu:˩ru˥ʃi ˩te:˥nai ˩ʃi:˥ f˩fi:˥ ɸɥ˩ko:rasa](皆で手伝ってくれて、有難う)。「ほこらしや 和詞にも云 源氏明石の巻にあさりするあまともほこらしけなり」『混効験集』とある。

フ˩コーラサー˥ン [ɸɥ˩ko:rasa:˥ŋ] 【形】ありがたい(有難い)。˩ワー˥ キー ッ˩ふィール˥ ウビシ イッ˩ケナ˥ フ˩コーラサー˥ン [˩wa:˥ ki: f˩fi:ru˥ ʔubiʃi ʔik˩kena˥ ɸɥ˩ko:rasa:˥ŋ](君が来てくれるだけで非常に有難い)。˩ワー クー˥タンティン ˩ピッ˥チン フ˩コーラサー ナー˥ヌ [˩wa: ku:˥tantim ˩pit˥ʧiŋ ɸɥ˩ko:rasa: na:˥nu](君が来ても、ちっとも有難くない)。ドゥ˩ク˥ヌ フ˩コーラサー˥ティ ˩バン˥ヌン ナー˩イヤー˥ ブ˩ララン˥シェン [du˩ku˥nu ɸɥ˩ko:rasa:˥ti ˩ban˥nun na:˩jija:˥ bu˩raraŋ˥ʃeŋ](あまりにも有難くて、私もじっとしては居れなかった)。˥カイニ フ˩コーラサー˥ル ˥クトー ˥メー ˩ナー˥ヌ [˥kaini ɸɥ˩ko:rasa:˥ru ˥kɥto: ˥me: ˩na:˥nu](こんな

に有難いことは、もう他にない)。

フ゜コーラサ　スン [ɸu̥ˈkoːrasa suŋ] 【連】感謝する。有難く思う。「有難さする」の義。゜ワール¬　ク゜チラキ　ふィーッタ¬ティ　シ゜キティ¬　アブジェー　¬シンニン　フ゜コーラサ　スンティ　オー¬レーツォー [ˈwaːruˀ kṵˈtʃiraki fiːttaˀti ʃi̥ˈkitiˀ ʔabudʑeː ˀʃinniŋ ɸu̥ˈkoːrasa sunti ʔoːˀreːtsoː](君が口添えをして打開してくれたと聞いて、お祖父さんはわざわざ感謝するためにいらっしゃったそうだ)。

フ゜コー¬ン [ɸu̥ˈkoːˀŋ] 【形】1もろい (脆い)。¬グジキーヤ　フ゜コー¬ンダ　ブ゜リヤッ¬サン [ˀgudʑikiːja ɸu̥ˈkoːˀnda buˈrijasˀsaŋ](デイゴの木は脆いから折れやすい)。゜ナン¬ゾー　フ゜コー　ナー¬ヌ [ˈnanˀdzoː ɸu̥ˈkoː naːˀnu](あまり脆くない)。サ゜ルター　マー¬ビン　フ゜コー¬　ナリ　゜ナー¬ヌ [saˈrutaː maːˀbiŋ ɸu̥ˈkoːˀ nari ˈnaːˀnu](枯れたので、もっと脆(モロ)くなってしまった)。フ゜コー　キー¬ヤ　シゥ゜カウナ [ɸu̥ˈkoː kiːˀja si̥ˈkauna](脆い木は使うな)。¬アイニ　フ゜コー¬レーラー　シゥ゜カーラヌ [ˀʔaini ɸu̥ˈkoːˀreːraː si̥ˈkaːranu](あんなに脆ければ使えない)。2手が鈍(ノロ)い。手が遅い。ウ゜レー¬　ティー　フ゜コー¬ヌ　シゥ゜カーラヌ [ʔuˈreː tiːˀ ɸu̥ˈkoːˀnu si̥ˈkaːranu](彼は手が鈍(ノロ)くて使えない)。

¬ブザ [ˀbudʑa] 【名】1百姓。農民。ユ゜カラ¬プス [juˈkara ˀpu̥su](士族) の対義語。¬ブザマリ [ˀbudʑamari](百姓出身。゜百姓生まれ」の義)。マ゜ナマ¬ヌ　゜ユー¬ナー　¬ブザ　ユ゜カラ¬プステー　゜ナー¬ヌ [maˈnamaˀ nu ˈjuːˀnaː ˀbudʑa juˈkaraˀpu̥suteː ˈnaːˀnu](今の世には百姓、士族の区別は < 百姓、士族なんて > ない)。「〜まちよ　ふさの　よりあふしま〜。」の「ふさ」の義『おもろさうし　巻 13-960』。2゜ター¬ブサ [ˈtaːˀ busa](農民の耕作を監督した村の下級役人。農民の中から納税義務を免除される年代の者が選ばれた。゜田夫作」と表記だれた) のこと。農耕の監督者で働かないことから、転じて「怠け者」を意味する。゜ウンザー¬　ブザ　¬ナリティ　゜ピッ¬チン　パ゜タラカヌ [ˈʔundʑaːˀ budʑa ˀnariti ˈpitˀtʃim pḁˈtarakanu](あいつはブザ < 怠け者 > になってちっとも働かない)。

ブ゜サー [buˈsaː] 【名】人体部位名。゜ヨー¬ラ [ˈjoːˀra](腰)、臀部(デンブ)から大腿部(ダイタイブ)まで。ブ゜サーブニ [buˈsaːbuni](寛骨から大腿骨まで) の辺り。ブ゜サーヌ¬　ヤ゜ミ¬ル　ア゜ラカラン¬バン [buˈsaːnuˀ jaˈmiˀru ʔaˈrakaramˀ baŋ](大腿部が痛くて歩けないんだよ)。

ブ゜サーブニ [buˈsaːbuni] 【名】人体の骨格の名。大腿骨。ブ゜サーブニヌ¬　ヤ゜ム¬ヌ　゜ヌー¬ヌ　゜ヤン¬マイカヤー [buˈsaːbuninuˀ jaˈmuˀnu ˈnuːˀnu ˈjamˀ maikaja](大腿骨が痛むが何の病気かねえ)。

ブ゜サー¬ラ [buˈsaːˀra] 【名】大きなもの。巨漢。巨体。¬カマーラ　ブ゜サーラ¬ヌ　¬クーン [ˀkamaːra buˈsaːraˀnu ˀkuːŋ](向こう < あそこ > から巨漢がやってくる)。ブ゜サー¬ラ　゜ホー¬シェーン [buˈsaːˀra ˈhoːˀʃeːŋ](大きなの < 大きな魚 > を釣った)。

ブ゜サー¬ライズ [buˈsaːˀraʔidʑu] 【名】大魚。大きな魚。巨大魚。イ゜ガメー¬ラ　ブ゜サー¬ラスビ　゜ホー¬ソーレーン [ʔiˈgameːˀra buˈsaːˀrasubi ˈhoːˀsoːreːŋ](烏賊釣り漁で < から > 巨大マグロ <¬スビ [ˀsubi] マグロ > を釣ってこられた)。

ブ゜サー¬ラキー [buˈsaːˀrakiː] 【名】大木。大きな木。巨木。ク゜ヌ¬　フ゜クンヌ¬　ブ゜サー¬ラキーバ　゜ユーチェー¬ニ　¬バキティ　¬パラー　ス゜ク¬リバ [kuˈnuˀ ɸu̥ˈkunnuˀ buˈsaːˀrakiːba ˈjuːtʃeːˀni ˀbakiti ˀparaː su̥ˈkuˀriba](この福木の巨木を四つに切り分けて < 縦に切り裂いて > 柱に作りなさい)。

ブ゜サー¬ラプス [buˈsaːˀrapu̥su] 【名】巨漢。巨人。体格の大きな人。゜カン¬ネナー　ブ゜サー¬ラプスヌ　゜オー¬ルン [ˈkanˀnenaː buˈsaːˀrapu̥sunu ˈʔoːˀruŋ](あの家には巨漢がいらっしゃる)。

¬プサール　¬ムヌ [ˀpusaːru ˀmunu] 【連】欲しいもの。゜ドゥー¬ヌ　¬プサール　¬ムノー　¬ドゥーシ　¬トゥリ [ˈduːˀnu ˀpu̥saːru ˀmunoː ˀduːʃi ˀturi](自分の欲しい物は自分で取れ)。

プ゜サイムヌ [pu̥ˈsaimunu] 【名】拾い物。拾得物。「家づとに　貝を比里布等　沖邊より〜。万、3709」の義。プ゜サイムノー¬　ウ゜タシ¬ヌシン　゜カイ¬シ [pu̥ˈsui munoːˀ ʔuˈtaʃiˀnuʃiŋ ˈkaiˀʃi](拾い物は落とし主に返しなさい)。

プ゜サウン [pu̥ˈsauŋ] 【他動】拾う。「〜君し踏みてば玉と比呂波牟。万、3400」の転訛したもの。鳩間方言には CirV　→　CissV(C= 子音、V= 母音 a・i・u) と変化する音韻法則が認められるから、「比呂波牟」は「プサウン」に対応する。カ゜ツシンヌ¬　ス゜ラウラシ¬ヌ　ム゜チェー¬マ　プ゜サイ¬　クーバ [kḁˈtsuʃinnuˀ suˈrauraʃiˀnu muˈtʃeːˀma pu̥ˈsaiˀ kuːba](カツオ漁船の進水式に播く御餅を拾ってきなさい)。゜バンヌ¬ン　ム゜チ¬　プ゜サウン [ˈbanˀnum muˈtʃiˀ pu̥ˈsauŋ](私も餅を拾う)。¬バー　プ゜サーヌ [ˀbaː pu̥ˈsaːnu](私は拾わない)。プ゜サウ¬　プ゜スヌ　ゴー¬ラーンダ　゜バン¬マー　プ゜サーランシェン [pu̥ˈsauˀ pu̥ˈsunu goːˀraːnda ˈbamˀmaː pu̥ˈsaːraŋʃeŋ](拾う人

が多かったので、私には拾えなかった)。˞ワンヌン˥　プ˞サイヤー˥　ミサムヌ [˞wannum˥ pu̥˞saija:˥ misamunu](君も拾えばいいのに)。˞ワー˥　ヤー˞ディン˥　プ˞サイ˥バ [˞wa:˥ ja:˞dim˥ pu̥˞sai](君は必ず拾え)。

ブ˞ザカー˥テー [bu˞ʤaka:˥te:] 【名】屋号。吉川安夫氏宅。鳩間村一斑にあった。長男の吉川一雄氏の代になって、˥アブターテー [˥ʔabuta:te:](吉川喜屋氏宅)の東隣から鳩間村二班の屋敷に移られた。吉川安夫氏は戦前の鳩間島東村のカツオ漁業を経営された。次男の吉川安一氏は、「芭蕉布」、その他の歌謡の作詞家として有名である。県立高等学校長や県立図書館長を務め、名桜大学教授として活躍した。三男の吉川英治氏は県立八重山高等学校長を務めた。ブ˞ザカー˥テーラー　˞キョー˥ダイ　フ˞タールヌ　コートーガッコー˥ヌ　˞コー˥チョーシンシー　マ˞ラソー˥レーン [bu˞ʤaka:˥te:ra: ˞kjo:˥dai ɸu̥˞ta:runu ko:to:gakko:˥nu ˞ko:˥ʧo:ʃiŋʃi: ma˞raso:˥re:ŋ](吉川安夫氏宅からは二人の、高等学校の校長先生＜吉川安一氏、吉川英治氏＞を誕生させられた)。

フ˞サ˥キ [ɸu̥˞sa˥ki] 【名】(地) 西表島北部の上原の地名。鳩間島の水田がある。プ˞サ˥キャーヌ　˞ター˥ヤ　フ˞サ˥キナー　˞アッ˥タン [pu̥˞sa˥kja:nu ˞ta:˥ja ɸu̥˞sa˥kina: ˞ʔat˥taŋ](冨里家の田圃はフサキという所にあった)。

フ˞サキ˥ヌー [ɸu̥˞saki˥nu:] 【名】(地) 西表島北部のフ˞サ˥キ [ɸu̥˞sa˥ki](上原の地名) の原野。「豊作野」の義か。フ˞サ˥キヌーヌ　˞タータバ˥ロー　˞マイヤー˥　イッ˞ケナ　ノール˥タン [ɸu̥˞sa˥kinu:nu ˞ta:taba ˥ro: ˞maija:˥ ʔik˞kena no:ru˥taŋ](フサキ野の水田地帯は、稲が非常によく稔った)。

フ˞サク [ɸu̥˞saku] 【名】不作。凶作。作物の出来が悪いこと。標準語からの借用語。満作 (豊作) の対義語。普通はヤ˞ブ˥ルン [ja˞bu˥ruŋ](破れる。不作、凶作になる)、˞ノー˥ルン [˞no:˥ruŋ](稔る。満作になる) のようにいう。˞ペーレイヌ˥　シ˞ジクター˥　ク˞トゥシヌ　マイヤー˥　フ˞サク˥　ナリ　˞ナーン˥バン [˞pe:reinu˥ ʃi˞ʤikuta:˥ ku̥˞tuʃinu maija:˥ ɸu̥˞saku˥ nari ˞na:m˥baŋ](旱魃＜日照り＞が続いたので、今年の稲は不作になってしまったわい)。

ブ˞ザ˥サ [bu˞ʤa˥sa] 【名】おじ (伯父、叔父) の名称。呼称 (呼びかけ) には、ブザ˞マー [buʤa˞ma:](伯＜叔＞父様!) という。˞バー˥ル　ク˞ヌ˥　ッ˞ふァヌ˥　ブ˞ザ˥サ˞ユー˥　ドー˞ディン　ミーッ˥シ　タ˞ボー˥ラナー˞ラ [˞ba:˥ru ku˞nu˥ f˞fanu˥ bu˞ʤa˥sa˞ju:˥ do:˞dim mi:ʃ˥ʃi ta˞bo:˥ra na:˞ra](私がこの子の叔父でございます。どうぞお見知りおきくださいませ＜〜お見知りおき賜りたく存じます＞)。ク˞ヌ˥　プ˞スル˥　バー　ブ˞ザ˥サ [ku˞nu˥ pu̥˞suru˥ ba: bu˞ʤa˥sa](この人が私の伯父＜叔父＞です)。

ブ˞ザ˥サウヤ [bu˞ʤa˥saʔuja] 【名】おじ親。伯叔父(ハクシュクフ)を自分の父親と思い、敬った表現。ビ˞ケーヌ　パイ˥サ　˞マーラシタール˥　ブ˞ザ˥サウヤバ　タ˞ユリ˥ル　フ˞ドゥビ˥　ケー˞ダー [bi˞ke:nu pai˥sa ˞ma:raʃi̥ta:ru˥ bu˞ʤa˥saʔujaba ta˞juri˥ru ɸu˞dubi˥ ke:˞da:](父親が早くに亡くなったので伯叔父を父親と思い頼って成長してきたのだよ)。

˥プサ　˞スン [˥pu̥sa ˞suŋ] 【連】欲しがる。欲しく思う。「欲しさする」の義。プ˞スヌ˥　ムヌ　˥プサ　˞スー˥　ム˞ノー˥　ア˞ラ˥ヌ [pu̥˞sunu˥ munu ˥pu̥sa ˞su:˥ mu˞no:˥ ʔa˞ra˥nu](他人のものを欲しがるものではない)。

プ˞サッ˥キャー [pu̥˞sak˥kja:] 【名】屋号。富里善一氏宅。プ˞サ˥キャー [pu̥˞sa˥kja:] ともいう。明治の中期頃に上原村から鳩間島に移住された。プ˞サッ˥キャーヌ　ウ˞ヤ˥プスンケー˥ヤ　˞ウイバロー˥ラル　˞オー˥レーツォー [pu̥˞sak˥kja:nu ʔu˞ja˥pu̥suŋke:ja ˞ʔuibaro:˥raru ˞ʔo:˥re:tso:](富里家の先祖の方々は上原村から＜ぞ＞こられたそうだ)。

˥ブザマ [˥buʤama] 【名】1親族名称。伯父、叔父。ク˞ヌ˥　プ˞ソー˥　バー　˥ブザマ [ku˞nu˥ pu̥˞so:˥ ba: ˥buʤama](この人は私の伯父＜叔父＞です)。2親族呼称。伯父さん! 叔父さん! と呼ぶ際に用いる呼称。ブザ˞マー　マー˥ティル　˞オール˥ワ [buʤa˞ma: ma:˥tiru ˞ʔo:ru˥wa](伯＜叔＞父さん! 何処へいらっしゃるのですか)。

˥プサン [˥pu̥saŋ] 【形】欲しい。入手したい。˞フントー˥ヤ　˞ジン˥マー　イッ˞ケナ˥　プサンドゥ　˥プサー　˞ナーン˥ティ　ア˞ジ　アー˥ク [˞ɸunto:˥ja ˞ʤim˥ma: ʔik˞kena˥ pu̥sandu ˥pu̥sa: ˞na:n˥ti ʔa˞ʤiʔa: ˥ku](本当は、お金は非常に欲しいが、欲しくないといっている)。ア˞マ˥ヌ　˥プサティル　˞カイヤー˥ル [ʔa˞ma˥nu ˥pu̥satiru ˞kaija:˥ru](あまりにも欲しくて買ったのだ)。˞シンダイ˥　プサ　˥ナリ　˥クン [˞ʃindai˥ pu̥sa ˥nari ˥kuŋ](次第に欲しくなってくる)。˞ドゥー˥ヌ　˥プサー　˥ムノー　˞ナー˥ヌ [˞du: ˥nu ˥pu̥sa: ˥muno: ˞na:˥nu](自分の欲しい物はない)。˥アイニ　˥プサレーラー　ナー˞イヤ˥　ブ˞ララヌ [˥ʔaini ˥pu̥sare:ra: na:˞ija˥ bu˞raranu](あんなに欲しければ、じっとしておれない)。˥プサカー　˥ドゥー

シ　˥トゥリバ [˥pu̥saka: ˥du:ʃi ˥turiba](欲しかったら自分で取れよ)。

˥プサン [˥pu̥saŋ] 【助動】形容詞型助動詞。〜たい。動詞や助動詞の連用形に付いて願望を表す。˩バン˥ヌン　˩パー˥ク　˩ジー˥　カ˩キ˥プサン [˩ban˥num ˩pa: ˥ku ˩ʤi:˥ kḁ˩ki˥pusaŋ](私も早く文字を書きたい)。˥バー　˩ピッ˥チン　カ˩キプサナー˥ヌ [˥ba: ˩pit˥ʧiŋ kḁ˩kipusana:˥nu](私はちっとも書きたくない)。ア˩マ˥ヌ　ッ˩ふァイプサ˥ティル　˩カイヤー˥ル [ʔa˩ma˥nu f˩faipusa˥tiru ˩kaija:˥ru](あまりにも食べたくて買ったのだ)。ッ˩ふァイプサ˥　ムノー　˩カイ˥　ミサン [f˩faipu̥sa˥ muno: ˩kai˥ misaŋ](食べたい物は買ってもいい)。˥アイニ　ッ˩ふァイ˥プサレーラー　ニ˩ジユーサ˥ヌ [˥ʔaini f˩fai˥pu̥sare:ra: ni˩ʤiju:sa˥nu](あんなに食べたければ我慢でき < 念じおおせ (果せ)> ない)。フ˩ミラリ˥プサン [ɸu˩mirari ˥pusaŋ](誉められたい)。

フ˩シ [ɸu̥˩ʃi] 【名】1くせ (癖)。偏った習慣。ウ˩ディ˥シゥカイ　˩シー˥　プ˩スヌ˥　パ˩ナ˥シ　ス˩ク˥　ウ˩リヌ˥　フ˩シェー　ノーラン˥バン˩ナー [ʔu˩di˥si̥˩kai ˩ʃi:˥ pu̥˩sunu˥ pa˩na˥ʃi su̥˩ku˥ ʔu˩rinu˥ ɸu̥˩ʃe: no:ram˥ ban˩na:](頬杖をついて人の話を聞く彼の癖は直らないのだねえ)。2欠点。非難すべきこと。プ˩スヌ˥　フ˩シ˥　トゥルンティカー˩ニ˥　ス˩ナ [pu̥˩sunu˥ ɸu̥˩ʃi˥ turuntika:˩ni˥ su˩na](他人の欠点を暴いて非難しよう < 欠点を取ろう > とだけするな)。

˥ブシ [˥buʃi] 【名】1節。「筠(イン)、節也、竹乃不志(フシ)」『新撰字鏡』の転訛したもの。タ˩キヌ˥　ブシ [ta˩kinu˥ buʃi](竹の節)。˩シンザ˥ヌ　ブシ [˩ʃinʤa˥nu ˥buʃi](サトウキビ < サトウキビ <甘蔗(カンシャ)> の節)。˩キー˥ヌ　˥ブシ [˩ki:˥nu ˥buʃi](木の瘤 < 木の節 >)。2指や膝(ヒザ)の関節。˩ティー˥ヌ　ブ˩シ˥ヌ　ヤム˩サー [˩ti:˥nu bu˩ʃi˥nu jamu˩sa:](指の関節が痛むよ)。ス˩ブシバ˥　バ˩リティル˥　タ˩ティマー˥キ　˩ベー [su˩buʃiba˥ ba˩ritiru˥ tḁ˩tima:˥ki ˩be:](膝(ヒザ)小僧 < 膝関節 > を打ち痛めて立ちかねている)。

˥ブシ [˥buʃi] 【名】(数) 寸。人差し指の (食指) の第一関節から第二関節までの長さ。約一寸。プ˩ス˥ブシ [pu̥˩su˥buʃi](一寸 < 一節 >)。フ˩タブシ [ɸu̥˩tabuʃi](二寸 < 二節 >)。˩ミーブシ [˩mi:buʃi](三寸 < 三節 >)。˩ユーブシ [˩ju:buʃi](四寸 < 四節 >)。イ˩チ˥ブシ [ʔi˩ʧi˥buʃi](五寸 < 五節 >)。/クルマヤ　ミブシヌ　クサビシドゥ　シンリヌ　ミチン　カユール　ピトゥヤ　ミブシヌ　シタシドゥ　グフドゥヤ　ファイシティ　デンサー/(車は三寸の楔で千里の道も行くものだ。人は舌先三寸 < 三寸の舌先 > で己の五体を食い殺すことがある)(デンサ節)『八重山民謡誌』。

˥ブシ [˥buʃi] 【名】古典民謡の曲節。音曲。メロディー。パ˩トゥ˥マブシ [pḁ˩tu˥mabuʃi](鳩間節。パ˩トゥ˥マナカムリ)。バ˩シヌ˥トゥルブシ [ba˩ʃinu˥turubuʃi](鷲の鳥節)。ク˩モーマブシ [ku˩mo:mabuʃi](小浜節)。ブ˩シブリ˥ヌ　タ˩ノー˥ル　˩ナーン˥ユンダ　ウ˩ムッサ　ナー˥ヌ [bu˩ʃiburi˥nu ta˩no:˥ru ˩na:ŋ˥junda ʔu˩mussa na:˥nu](節回し < 節折り > が要領得ない < 器用でない > から面白くない)。

ブ˩シ [bu˩ʃi] 【名】剛(ゴウ)(豪) の者。力強い者。「武士」の義。˥アブジェー　ム˩カ˥シェー　˩ティー˥ユン　シゥ˩カイ　ヨー˥リ　ブ˩シ˥　ヤ˩ローッ˥タ [˥ʔabuʤe: mu˩ka˥ʃe: ˩ti:˥jun si̥˩kaijo:˥ri bu˩ʃi˥ ja˩ro:t˥ta](お祖父さんは、昔は空手の使い手であり < 空手も使われ >、剛の者 < 武士 > であられた)。

˥プシ [˥pu̥ʃi] 【名】星。複合語の下位成分となる際は連濁現象を起こして、˥ブシ [˥buʃi](星) となる。ア˩カシキン˥ブシ [ʔa˩kaʃi̥kim˥buʃi](明けの明星 < 暁星 >)。ム˩リカブシ [mu˩rikabuʃi](すばる星。六連(ムツラ)星。< 群れ星 >)。˩ユー˥ボンブシ [˩ju:˥bombuʃi](宵の明星 < 夕飯星 >)。宵の明星を、˩ダイ˥ケヌ　˩アー˥ヤプシ [˩dai˥kenu ˩ʔa:˥japuʃi](大工家のお父さん星) ともいう。この星が出るまで働いたことからの命名という。˩ニーヌ˥パーブシ [˩ni:nu˥pa:buʃi](北斗七星。< 子の方星 >)。˥ニカー　イッ˩ケナ˥　プ˩シ˥ヌ　ミ˩ラ˥リン　˥パジ [˥nika: ʔik˩kena˥ pu̥˩ʃi˥nu mi˩ra˥rim ˥paʤi](今夜は星が非常によく見えるはずだ)。プ˩シ˥バ　ア˩ティル˥　ム˩ヌスクル˥ヌ　˥タネー　マ˩コーッ˥タ [pu̥˩ʃi˥ba ʔa˩tiru˥ mu˩nusu̥kuru ˥nu ˥tane: ʔu˩ra˥so:tta](星を目印にして作物の種を播かれた)。

˥プシ [˥pu̥ʃi] 【名】鰹節。˥プシ　キ˩ズン [˥pu̥ʃi ki˩ʤuŋ](鰹節を削って製品化する < 鰹節を削る >)。複合語の構成要素となる際は連濁現象を起こす。カ˩ツブシ˥ナー　˩ウー˥ブシ　˩ミー˥ブシ　カ˩ミ˥ブシティ　ア˩リ˥ブー [kḁ˩tsubuʃi˥na: ˩ʔu:˥buʃi ˩mi:˥buʃi ka˩mi˥buʃiti ʔa˩ri˥bu:](鰹節には、雄節、雌節、亀節というのがある)。

プ˩シ˥イガ [pu̥˩ʃi˥ʔiga] 【名】干し烏賊。するめ (鯣)。若年層は、プ˩シ˥イカ [pu̥˩ʃi˥ʔika] ともいう。鳩間島では明治の初期から糸満漁師による烏賊漁が行われていた。旧暦 8 月にカツオ漁が終わると、スルメイカ漁が始まった。早朝に陸揚げされたスルメ

イカを浜で切り開き、内臓を塩辛にして貯蔵する。烏賊は、浜に作ってあるイ˞ガヤマ [ʔi˞gajama](浜に立てた数本の垂木に藁縄を数段に張って、烏賊を干すのに用いたもの) に漁獲して帰った早朝に干して半乾燥にした。二日目からはススキで作ったシ˞ダ˜ル [ʃi˞da˜ru](簾(スダレ)) を庭に広げて、その上に半乾燥の烏賊を並べて干した。三日間日干し乾燥して完成品にした。プ˞シ˜イガー　˞イッキン　ギューサ˜ナーシ　˞カーサリワ [pu̥˞ʃi˜ʔiga: ˞ʔikkiŋ gju:sa˜na:ʃi ˞ka:sariwa](干し烏賊は一斤いくらぐらいで売れるか)。

プ˞シ˜イズ [pu̥˞ʃi˜ʔidʑu] 【名】干し魚。日干し乾燥した魚。大漁の時は、魚を切り開いて内臓を除去し、塩を塗(マブ)して日干し乾燥し、長期に保存した。プ˞シ˜イゾー　イ˞ズ˜　バ˞ザウ˜カー　˞マー˜ス　ッ˞ふァーシティ˜　ティダナー　˜プシティル　ス˞ク˜ローッタ [pu̥˞ʃi˜ʔidʑo: ʔi˞dʑu˜ ba˞dʑau˜ka: ˞ma:˜su f˞fa:ʃi̥ti˜ tidana: ˜pu̥ʃitiru su̥˞ku˜ro:tta](干し魚は、魚を捌(サバ)いたら塩を塗(マブ)し、日干して < ぞ > 作られた)。

˞フシゥカ [˞ɸusi̥ka] 【名】(数) 二日。ににち。ッ˞ふァヌ˜　マ˞リティ　フシゥカ˜アトゥナー　タ˞ベー　パッ˜タ [f˞fanu˜ ma˞riti ɸusi̥ka˜ ʔatuna: ta˞be: pat˜ta](子供が生まれて二日後に旅へ出発した)。

˞フシゥ˜カルン [˞ɸusi̥˜karuŋ] 【自動】すがる (縋る)。しがみつく。くっつく。風邪に罹る (風邪の神が縋(スガリ)つく)。パ˞ナシキ　フシゥ˜カルン [pa˞naʃi̥ki ɸusi̥˜karuŋ](風邪をひく < 風邪の神がしがみつく >)。ク˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　ウヤナー　˞フシゥ˜カリティ　プ˞スンマー˜　ダ˞カラヌ [ku˞nu˜ f˞fa:˜ ʔujana: ˞ɸusi̥˜kariti pu̥˞summa:˜ da˞karanu](この子は親にしがみついて他人には抱かれない)。ピ˞ル˜　ヌ˞キティ˜　パ˞ク˜カー　パ˞ナシケー　フシゥカラ˜ヌ [pi˞ru˜ nu˞kiti˜ pḁ˞ku˜ka: pa˞naʃi̥ke: ɸusi̥kara˜nu](大蒜(ニンニク)を糸に貫いて首に掛ける < 穿く > と風邪には罹(カカ)らない < 風邪が縋(スガリ)つかない >)。パ˞ナシキ　フシゥ˜カル　˜クトー　˞ナー˜ヌ [pa˞naʃi̥ki ɸusi̥˜karu˜ku̥to: ˞na:˜nu](風邪に罹る < 風邪が縋りつく > ことはない)。˞フシゥ˜カレー　˜ミサムヌ [˞ɸusi̥˜kare: ˜misamunu](縋りつけばいいのに)。˞クン˜ナーン　˞フシゥ˜カリバ [˞kun˜na:ŋ ˞ɸusi̥˜kariba](これにも縋りつけ)。

プ˞シ˜ウン [pu̥˞ʃi˜ʔuŋ] 【名】干し芋。芋を薄く切って日干しにしたもの。非常要食品として常備していた。米に混ぜて炊くと米の澱粉と芋の澱粉が溶け合って美味であった。プ˞シウン˜バ　˞マイ˜ナー　マ˞ザー˜シティ　バ˞カス˜カー　ン˞マー˜タン　˞ダー [pu̥˞ʃiʔum˜ba ˞mai˜na: ma˞dʑa:˜ʃi̥ti ba˞kasu̥˜ka: ʔm˞ma:˜tan˞da:](干し芋を米に混ぜて炊くと美味しかったよ)。

フ˞シガラ˜ヌ [ɸu̥˞ʃigara˜nu] 【連】押さえられない。食い止められない。我慢できない。耐えられない。「防がれない」の義。˞ヤーサ˜ヌ　フ˞シガラ˜ヌ [˞ja:sa˜nu ɸu̥˞ʃigara˜nu](お腹がすいて < ひだるくて。ひもじくて > 我慢できない)。

˞フシキ [˞ɸuʃi̥ki] 【名】しらくも (白癬)。子供の頭部にできる灰白色の粉末状のりんせつ (鱗屑) に覆われた皮膚病。トゥ˞ルフシキ [tu˞ruɸuʃi̥ki](しらくも。白癬) ともいう。ム˞カ˜シェー　ヤ˞ラビ˜ヌ　ス˞ブ˜ルナー　˜ユー　˞フシキヌ˜　ン˞ズタ˜ヌ　マ˞ナ˜マー　˞ピッ˜チン　ミ˞ララ˜ヌ [mu˞ka˜ʃe: ja˞rabi˜nu su˞bu˜runa: ˜ju: ˞ɸuʃi̥kinu˜ ʔn˞dʑuta˜nu ma˞na˜ma: ˞pit˜ʧim mi˞rara˜nu](昔は子供の頭によくしらくも < 白癬 > が出たが、今は全く見かけない < 一つも見られない >)。

˞フシキ [˞ɸuʃi̥ki] 【名】ふけ (雲脂(フケ))。ガ˞マ˜ジナー　˞フシキヌ˜　シキティ　˞ミーヌッサ˜ヌ　ナ˞ラ˜ヌ [ga˞ma˜ʤina: ˞ɸuʃi̥kinu˜ ʃi̥kiti ˞mi:nussa˜nu na˞ra˜nu](髪の毛にふけ (雲脂) が付いて見苦しくて堪らない)。

˞フシキ [˞ɸuʃi̥ki] 【名】けば (毛羽)。芭蕉や苧(オ)など績(ウ)む際にできる残り屑(クズ)。いとくず (糸屑)。綿ぼこり。抜け毛。˞ブー˜ヌ　˞フシキン˜　ガ˞マジ˜ヌ　˞フシキン˜　ア˞ザケーアザケー˜シ　˞ポー˜キ　シ˞ティリ [˞bu:˜nu ˞ɸuʃi̥kiŋ˜ ga˞maʤi˜nu ˞ɸuʃi̥kiŋ˜ ʔa˞dʑake:ʔadʑake:˜ʃi ˞po:˜ki ʃi̥˞tiri](からむし < 苧 > の残り屑も毛髪の抜け毛も清潔に掃き取り < 掃き捨て > なさい)。˞フシキ˜　カベーティ　˞アーク˜ナ [˞ɸuʃi̥ki˜ kabe:ti ˞ʔa:ku˜na](糸屑や綿ぼこりを体につけているな < 被ってあるくな >)。

フ˞シ˜グン [ɸu̥˞ʃi˜gu] 【他動】防ぐ。さえぎる。守る。他の侵害をくい止める。「防、布世久 (ふせく)」『華厳音義私記』の転訛したもの。˞タイ˜フー　フ˞シ˜グンティ　˜ヤドゥ　フ˞バリティ˜　シゥ˞カイ˜　イ˞リ　ベーン˜ドゥ　˜ウビシェー　フ˞シガラン˜バン [˞tai˜ɸu: ɸu̥˞ʃi˜gunti ˜jadu ɸu˞bariti˜ si̥˞kai˜ ʔi˞ri be:˜ndu ˜ʔubiʃe: ɸu̥˞ʃigaram˜baŋ](台風を防ごうと戸を縛(シバ)り、支柱を入れているが、それだけでは防がれないよ)。ピ˞ル˜シェー　パ˞ナシキ˜　フ˞シギヤッ˜サン [pi˞ru˜ʃe: pa˞naʃi̥ki˜ ɸu̥˞ʃigijas˜saŋ](大蒜(ニンニク)では風邪を防ぎやすい)。ク˞リ˜シェー　フ˞シ˜グ　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [ku˞ri˜ʃe: ɸu̥˞ʃi˜gu ˜ku̥to: na˞ra˜nu](これ

では防ぐことは出来ない)。ク⌜リ⌝シ　フ⌜シ⌝ゲー　⌝ミサムヌ [ku⌜ri⌝ʃi ɸu̥⌜ʃi⌝geː ⌝misamunu](これで防げば良いのに)。ヤー⌜ディン⌝　ク⌜リ⌝シ　フ⌜シ⌝ギ [jaː⌜diŋ⌝ ku⌜ri⌝ʃi ɸu̥⌜ʃi⌝gi](必ずこれで防げ)。

フシ⌜ケー⌝マ [ɸuʃi̥⌜keː⌝ma] 【名】小さなけば (毛羽)。小さな糸屑。綿ぼこり。フシ⌜ケーマ⌝ヌ　⌜ポッツァーリ　ベー [ɸuʃi̥⌜keːma⌝nu ⌜pottsaːri beː](小さな糸くずが散らかっている)。

⌝プシスクライ [⌝pu̥ʃisukurai] 【名】穀物を貯蔵するために日干し乾燥すること。「干しつくろい (繕い)」の義。⌜マイヤー　アーシティ⌝　ニ⌜ブ⌝クナ　⌝プシスクライ　⌜シーティル⌝　モ⌜ミグラー⌝　イ⌜ルタル [⌜maijaː ʔaːʃiti⌝ ni⌜bu⌝kuana ⌝pu̥ʃisukurai ⌜ʃiːtiru⌝ mo⌜miguraː⌝ ʔi⌜rutaru](米は脱穀して、いなばきむしろ < 稲掃き筵 > に干して < ぞ > から米倉に入れたものだ)。

⌝ブシスクリ [⌝buʃisu̥kuri] 【名】ごつごつ節くれだっていること。まめ (肉刺) だらけになること。「節作り」の義。パ⌜タキシグ⌝トゥ　カー⌜ニ　シーブンダ⌝　⌜ティー⌝ヤ　⌝ブシスクリ　シ⌜ティ⌝　プ⌜スンマー⌝　ミ⌜シララ⌝ヌ [pḁ⌜takiʃigu⌝tu kaː⌜ni ʃiːbunda tiː⌝ja ⌝buʃisu̥kuri ʃi̥⌜ti⌝ pu̥⌜summaː⌝ mi⌜ʃirara⌝nu](畑仕事だけしているから、手はごつごつと節くれだって < 節作りして > いるので他人には見せられない)。

プ⌜シ⌝タク [pu̥⌜ʃi⌝taku] 【名】干し蛸。日干し乾燥した蛸。パ⌜リタク [pa⌜ritaku](張り蛸) ともいう。蛸の頭から足まで切り開き、竹串で張って塩を塗し、3〜4 日、炎天下で日干し乾燥したもの。調理する際は、水でもどして使った。プ⌜シ⌝タコー　ミ⌜ジ⌝ナー　フ⌜クラシティル⌝　ウ⌜サイ⌝ヤー　ス⌜コーロー ッ⌝タ [pu̥⌜ʃi⌝tḁkoː mi⌜ʤi⌝naː ɸu̥⌜kuraʃi̥tiru⌝ ʔu⌜sai⌝jaː su̥⌜koːroːt⌝ta](干し蛸は水に戻して < ぞ > 料理は作られたものだ)。

フ⌜ジックミルン [ɸu⌜ʤikkumiruŋ] 【他動】1閉じ込める。押し込める。パ⌜クヌ⌝　ナ⌜カ⌝ナー　フ⌜ジックミ⌝　ミサカー　フ⌜ジックミル⌝　クトー ⌝ナルン [pḁ⌜kun naka⌝naː ɸu⌜ʤikkumi⌝ misakaː ɸu⌜ʤikkumiru⌝ ku̥toː ⌝naruŋ](箱の中に押し込めてよければ、押し込めることはできる)。ギュー⌜ムシン⌝　オ⌜シイレ⌝ン　ナ⌜カ⌝ナー　フ⌜ジックミルンドゥ ピン⌝ギ　パ⌜リ⌝ス [gjuː⌜muʃiŋ⌝ ʔo⌜ʃiʔire⌝n na⌜ka⌝naː ɸu⌜ʤikkumirundu piŋ⌝gi pa⌜ri⌝su](何度も押入れの中に閉じ込めるのだが、逃げていく)。フ⌜ジックミラヌ [ɸu⌜ʤikkumiranu](閉じ込めない)。フ⌜ジックミレー⌝　ミサムヌ [ɸu⌜ʤikkumireː⌝ misamunu](閉じ込めればいいのに)。フ⌜ジックミリ [ɸu⌜ʤikku-miri](閉じ込めろ)。2閉め切る。⌝ヤドゥ　フ⌜ジックミル⌝カー　イ⌜キザー⌝サンダ　フ⌜ジックミラン⌝ ブ⌜リ⌝バ [⌝jadu ɸu⌜ʤikkumiru⌝kaː ʔi⌜kiʣaː⌝sanda ɸu⌜ʤikkumiram⌝ bu⌜ri⌝ba](戸を閉め切ると息苦しいから、締め切るな < 締め切らないで居れ > よ)。⌝ヤドゥ　フ⌜ジックミルン [⌝jadu ɸu⌜ʤikkumiruŋ](戸を閉め切る)。

フ⌜ジックムン [ɸu⌜ʤikkumuŋ]【他動】1閉じ込む。押し込む。「閉じこむ < 下二段活用 >」の四段活用化したもの。パ⌜クン　ナカ⌝ナー　フ⌜ジックムン [pḁ⌜kun naka⌝naː ɸu⌜ʤikkumuŋ](箱の中に閉じ込める)。2戸を閉め切る。⌝ヤドゥ　フ⌜ジックムンティ　スンドゥ⌝　シ⌜キー⌝ナ　カ⌜カ⌝リティ　フ⌜ジックマラヌ [⌝jadu ɸu⌜ʤikkumunti sundu⌝ ʃi̥⌜kiː⌝na kḁ⌜ka⌝riti ɸu⌜ʤikkumaranu](戸を閉め切ろうとするが、敷居に引っ掛かって閉め切られない)。⌝ヤドゥ　フ⌜ジックミティ⌝　ク⌜マ⌝リ　⌜ベー [⌝jadu ɸu⌜ʤikkumiti⌝ ku⌜ma⌝ri ⌜beː](戸を閉め切って籠っている)。フ⌜タール⌝シ　ヤ⌜ドゥ⌝バ　⌜キッ⌝ス　⌜シー⌝　フ⌜ジックム　モー⌝　ア⌜ラ⌝ヌ [ɸu̥⌜taːru⌝ʃi ja⌜du⌝ba ⌜kis⌝su ⌜ʃiː⌝ ɸu⌜ʤikkumu moː⌝ ʔa⌜ra⌝nu](二人で戸を競争して閉め切るものではない < 締め切ってはいけない >)。⌝ヤドゥ　フ⌜ジックメー⌝　⌝ミサムヌ [⌝jadu ɸu⌜ʤikkumeː⌝ misamunu](戸を閉め切ればいいのに)。ウ⌜チ⌝アミ　⌜スンダ⌝　ヤドー　フ⌜ジックミ [ʔu⌜ʧi⌝ʔami ⌜sunda⌝ jadoː ɸu⌜ʤikkumi](雨が室内に吹き込むから戸を締め切りなさい)。

フ⌜ジッ⌝クルン [ɸu⌜ʤik⌝kuruŋ]【他動】ほじくる (穿(ホジク)る)。ほじる。⌝ミン　フ⌜ジッ⌝クリ　シ⌜キ⌝ヨー [⌝miŋ ɸu⌜ʤik⌝kuri ʃi̥⌜ki⌝ba](耳を穿ってよく聞けよ)。プ⌜スヌ⌝　ヤ⌜ナフシバ⌝　フ⌜ジッ⌝クルンティ　⌜アー⌝キ ⌜ドゥー⌝ヌ　フ⌜シン⌝　フ⌜ジックラ⌝リ　⌜ベーン⌝ティ [pu̥⌜sunu⌝ ja⌜naɸuʃiba⌝ ɸu⌜ʤik⌝kurunti ⌜ʔaː⌝ki ⌜duː⌝nu ɸu̥⌜ʃiŋ⌝ ɸu⌜ʤikkura⌝ri ⌜beːn⌝ti](他人の悪癖(アクヘキ)を穿(ホジク)ろうとしていて、自分の癖も穿られているよ)。フ⌜ジッ⌝クリ　⌝ミサン [ɸu⌜ʤik⌝kuri ⌝misaŋ](穿ってよい)。フ⌜ジッ⌝クル　⌝バス [ɸu⌜ʤik⌝kuru ⌝basu](穿る時)。フ⌜ジッ⌝クレー　⌝ミサムヌ [ɸu⌜ʤik⌝kureː ⌝misamunu](穿れば良いのに)。フ⌜ジッ⌝クリバ [ɸu⌜ʤik⌝kuriba](穿れよ)。

⌜ブシ⌝トゥイ [⌜buʃi̥⌝tui] 【名】おととい (一昨日)。おとつい。「Vototoi. ヲトトイ (一昨日)」『邦訳日葡辞書』からの転訛。⌝アッパー　⌜トーカキ⌝ヌ　⌝ヨ

イ ˩スンティ ブシ˥トゥイラ ˥クナー ˥キー ˩ベー˥ダー [˥ʔappa: ˩to:kaki˥nu ˥joi ˩sunti buʃi̥˥tuira ˥kuna: ˥ki: ˩be:˥da:](お祖母さんの斗掻(トカキ)の祝い < 米寿 > をしようと一昨日からここに来ているんですよ)。˥キノー ˩ブシトゥイ˥ヌ ˥クトー アˬラ˥ヌ [˥kino: ˩buʃitui˥nu ˥kʉto: ʔa˩ra˥nu](昨日一昨日のことではない)。

フˬシ˥ トゥルン [ɸʉˬʃi˥ turuŋ] 【連】非難する。欠点を見つけて責め立てる。「癖を取る」の義。プˬスヌ˥ フˬシ˥ トゥルンティ ˩スー˥カー フˬシカーニル˥ ミˬラ˥リユンダ プˬスヌ˥ マˬシェーン˥ トンバ トˬミ˥ル クˬトゥ˥ル ˩カンユー [pʉˬsunu˥ ɸʉˬʃi˥ turunti ˩su:˥ka: ɸʉˬʃika:niru˥ miˬra˥rijunda pʉˬsunu˥ maˬʃe:˥ru ˥tomba tuˬmi˥ru kʉˬtu˥ru ˩kaɲju:](他人の欠点を見つけて非難しようとすると、欠点だけが目に付くから、他人の長所を探すことが大事 < 肝要 > だ)。

フˬジナクン [ɸuˬʤinakuŋ] 【他動】放りこむ。押し込む。ぶち込む。竈(カマド)などに薪をぶち込んで燃やすことにもいう。フˬチ˥ナー ˩ペーラン˥スコー ムˬヌ˥バ フˬジナキティ˥ ッˬふァイ ベー [ɸʉˬʧi˥na: ˩pe:ran˥sʉko: muˬnu˥ba ɸuˬʤinakiti˥ fˬfai be:](口に入りきらないほどご飯を押し込んで食べている)。˥ヌーンクイン イˬキ˥フキ フˬチ˥ナー フˬジナカンドー˥シ ˩ヨーンナー˥ ッˬふァ˥イバ [˥nu:ŋkuiŋ ʔiˬki˥ɸʉki ɸʉˬʧi˥na ɸuˬʤinakando:˥ʃi ˩jo:nna:˥ fˬfai˥ba](何もかも息せき切って口に放り込ますに、ゆっくり食べなさい)。フˬチ˥ナー フˬジナクン [ɸʉˬʧi˥na: ɸuˬʤinakuŋ](口に押し込む)。˥アイニ フˬジナク˥ クトー スˬナ˥ヨー [˥ʔaini ɸuˬʤinaku˥ kʉto: suˬna˥jo:](あのように口に押し込むことはするなよ)。カˬツネーシカマ˥ナー ˩マー˥ビン タˬム˥ヌ フˬジナケー˥ ミサムヌ [kaˬtsune:ʃikama˥na: ˩ma: ˥bin taˬmu˥nu ɸuˬʤinake:˥ misamunu](カツオを煮る釜にもっと薪を押し込めばいいのに)。˩パー˥ク フˬジナキ˥バ [˩pa:˥ku ɸuˬʤinaki˥ba](早く放り込めよ)。

フˬシ˥ ヌˬクン [ɸʉˬʃi˥ nuˬkuŋ] 【連】非難する。欠点を見つけて責め立てる。欠点をあげつらう。「癖を抜く」の義。ウˬリ˥ナー プˬスヌ˥ フˬシ˥ ヌˬクンティ スー˥ フˬシヌル˥ アル [ʔuˬri˥na: pʉˬsunu˥ ɸʉˬʃi˥ nuˬkunti su:˥ ɸʉˬʃinuru˥ ʔaru](彼には他人の欠点をあげつらう <〜欠点を見つけて非難する > 癖がある)。

プˬシ˥ヌ ˥シル [puˬʃi˥nu ˥ʃiru] 【連】赤潮。赤潮が発生すると災いが起きるといわれていた。「星の汁」の義。普通は˥ユドゥン [˥juduŋ](赤潮) という。スˬナカ˥ナー プˬシ˥ヌ シˬル˥ヌ ウˬリ˥ルカー ヤˬナクトゥヌ˥ ンˬジ˥ルンティ アˬザリブタン [suˬnaka˥na: pʉˬʃi˥nu ʃiˬru˥nu ʔuˬri˥ruka: jaˬnakutunu˥ ʔnˬʤi˥runti ʔaˬʤaributaŋ](海に赤潮が発生する < 星の汁が下りる > と悪いことが起きるといわれていた)。

ブˬシヌ˥ヤー [buˬʃinu˥ja:] 【名】(地)「武士の家」の義。タˬチ˥バルパマ [tą̊ˬʧi˥barupama](立原の浜) の北側の岸壁上から陸地部にかけて石積みで囲って造られていた防塁。何時、誰が、何のために作ったかに関する確かな研究資料はない。ただ、1962 年にジョージ・H・カー (ハワイ大学) が鳩間島に来島し、遺跡調査を実施して作成した測量図が沖縄公文書館に保存されている。伝説によると、武士が住んでいたという。その近くの˥ウブシケー [˥ʔubuʃi̥ke:](大城家) の畑の畦に、サˬクラ˥カー [są̊ˬkura˥ka:](「塩辛い井戸」の義) という洞穴の井戸があった。ブˬシンヤー˥ヌ ˩グス˥コー ˥グガン シˬムンティル クーサ˥レーˬダー [buˬʃiŋja:˥nu ˩gusʉ ˥ko: ˥gugaŋ ʃiˬmuntiru ku:sa˥re:ˬda:](武士の家の石垣はコンクリートの護岸を作る < 積む > からといって崩されたのだよ)。

プˬシ˥ヌ ˩ユー˥ベー [pʉˬʃi˥nu ˩ju:˥be:] 【連】流れ星。「星のよばい (星の婚)」の義とする説『八重山語彙』。プˬシ˥ヌ ˩ユー˥ベー ˥ミルカー ˩チン˥チ ˥パキティ ムˬカ˥シプソー アˬゾーッ˥タ [pʉˬʃi˥nu ˩ju:˥be: ˥miruka: ˩ʧin˥ʧi ˥pą̊kiti muˬka˥ʃipʉso: ʔaˬʤo:t˥ta](流れ星を見たら不浄だといって、唾を吐きなさいと、昔の人はいわれた)。

プˬシ˥ヌ ユˬダル [pʉˬʃi˥nu juˬdaru] 【連】赤潮。「星の涎(ヨダレ)」の義。プˬシ˥ヌ ˥シル [pʉˬʃi˥nu ˥ʃiru](赤潮。「星の汁」の義) ともいう。ユˬドゥン˥バ プˬシ˥ヌ ユˬダル˥ティ アˬゾー˥ル プˬスン オーッ˥タン [juˬdum˥ba pʉˬʃi˥nu juˬdaru˥ti ʔaˬʤo:˥ru pʉˬsuŋ ʔo:t˥taŋ](ユドゥン < 赤潮 > を星の涎という人もおられた)。

プˬシ˥ビリ [pʉˬʃi˥biri] 【名】目減り。干し減り。乾燥による体積や重量の減少。˩イー˥シェー ˥ティダナ ˥プスカー プˬシ˥ビリ ˩シーティ パンブン˥マーンツァン トゥˬララ˥ヌ [˩ʔi:˥ʃe: ˥tidana ˥pʉsuka: pʉˬʃi˥biri ˩ʃi:ti pambum˥ma:ntsan tuˬrara˥nu](ツノマタは太陽にほして乾燥すると目減り < 干し減り > して半分すらも取れない)。

˥ブシブッター **[˥buʃibutta:]** 【名】大きな節の木や竹類。節くれ立った樹木。竹や樹木が節だらけになっているもの。クˈヌ　キー˥ヤ　˥ブシブッター　˥ナリティ　シゥˈカーラヌ [kuˈnu ki:˩ja ˥buʃibutta: ˥nariti si̥ˈka:ranu](この木は節くれ立って＜節だらけになって＞、使い物にならない＜使えない＞)。

フˈシ˥マ **[ɸu̥ˈʃi˥ma]** 【名】(地) 黒島。古老の言葉。七十歳代以下の若年層は、クˈル˥シマ [kuˈru˥ʃima](黒島) という。フˈシ˥マプス [ɸu̥ˈʃi˥mapu̥su](黒島の人)。パˈトゥ˥マー　フˈシ˥マーラヌ　バˈカ˥リティ　アˈザリ　ブー [pḁˈtu˥ma: ɸu̥ˈʃi˥ma:ranu baˈka˥riti ʔaˈʤari bu:](鳩間島は黒島からの分村＜分かれ＞と言われている)。

フˈシ˥マガラサー **[ɸu̥ˈʃi˥magarasa:]** 【名】黒島の人に対するあだ名。黒島の人が利口すぎるので、ずるがしこい烏に見たてた呼び方『石垣方言辞典』。「黒島烏」の義。イˈサナキプソー˥　フˈシ˥マガラサーティ　˥ユー　アˈゾーッ˥タン [ʔiˈsanakipuso:˥ ɸu̥ˈʃi ˥magarasa:ti ˥ju: ʔaˈʤo:tˈtaŋ](石垣の人は「黒島烏」とよく言われた)。

フˈシマチ **[ɸu̥ˈʃimatʃi]** 【名】不始末。標準語からの借用語の転訛。˥クヌヨーナ　フˈシマチバ　シーンザ˥シ　ウˈトゥザマリーン　ミーワクバ˥　カキ　˥ヌー˥　スー　˥カン˥ガイヤ [˥kunujo:na ɸu̥ˈʃimatʃiba ʃi:ʔnʤa˥ʃi ʔuˈtuʤamari:m mi:wakuba˥ kḁki ˥nu:˥ su: ˥kaŋ˥gaija](このような不始末をしでかして、親戚一同に迷惑をかけて、如何するつもり＜考え＞か)。

フˈシ˥マヤー **[ɸu̥ˈʃi˥maja:]** 【名】仲本家の屋敷名。先祖は黒島からの移住と伝えられている。1748 年 (乾隆 13) の「憲章姓家譜 C」によると、鳩間島の脇筆者黒島仁屋発の「請筑登之座敷」文書に、ˈ与人、目差役の時に村人を下知して耕作させ、三ヶ月飯料貯蓄させ、芋や綿花耕作させ、村付近に井戸させる功績があった」と述べている。ナˈカン˥テーヤ　ムˈカ˥シェー　フˈシ˥マヤーティ　アˈゾーッ˥タツォー [naˈkan˥te:ja muˈka˥ʃe: ɸu̥ˈʃi˥maja:ti ʔaˈʤo:t ˥tatso:](仲本家は昔は黒島屋といわれたそうだ)。

フˈジマレー **[ɸuˈʤimare:]** 【名】石を積み上げて造った「古墓」のこと。往古の風葬の跡と思われる所で、身元の不明の人骨が葬られてある。イˈラ˥カマイ [ʔiˈra˥kamai](「甍前」の義か。ウˈブ˥マイ [ʔuˈbu˥mai]＜大前＞とˈナードー [ˈna:do:]＜長堂＞の中間にある) のガˈジ˥マル [gaˈʤi˥maru](がじまる。榕樹) やヤˈラブ [jaˈrabu](てりはぼく) などの雑木、アˈダン˥ブラ [ʔaˈdam˥bura](阿檀。タコノキ) の繁った所である。イˈラ˥カマイナー　フˈジマレーヌ　アッタ˥ヌ　マˈナ˥マン　˥アンユー　ッˈサン˥サー [ʔiˈra˥kamaina: ɸuˈʤimare:nu ʔatta˥nu maˈna˥maŋ ˥ʔaŋju: sˈsan˥sa:](イラカマイにフジマレーがあったが、今もあるのか分からない＜知らない＞よ)。

フˈジマレーパカ **[ɸuˈʤimare:paka]** 【名】石を丸く積み上げ、カˈソーライシ [kaˈso:raiʃi](テーブルサンゴ) を被せて作った古い墓。ウˈブ˥マイナー＜イˈラ˥カマイナー＞　ユˈナ˥デヌ　フˈジマレーパカヌ˥　アン [ʔuˈbu˥maina:＜ʔiˈra˥kamaina:＞ juˈna ˥denu ɸuˈʤimare:pakanu˥ ʔaŋ](大前に與那田家の、石を積み上げて作った古墓がある)。

プˈシ˥ムヌ **[pu̥ˈʃi˥munu]** 【名】干し物。洗濯物。アˈミ˥ヌ　˥フーカー　プˈシ˥ムノー　˥トゥリ　イˈリリト ヨー [ʔaˈmi˥nu ˥ɸu:ka: pu̥ˈʃi˥muno: ˥turi ʔiˈririトjo:](雨が降ったら洗濯物＜干し物＞は取り込み＜取り入れ＞なさいね)。

フˈジ˥リカジリ **[ɸuˈʤi˥rikaʤiri]** 【副】ほじくり (穿り) 回すさま。あさり (漁り) ちらかすさま。根掘り葉掘り尋ねるさま。ABCDBC 型の重言。ˈヤー˥ヌ　˥ナカ　フˈジ˥リカジリ　ˈシー　ミスクン˥ドゥ　ˈミシキララ˥ヌ [ˈja:˥nu ˥naka ɸuˈʤi˥rikaʤiri ˈʃi: misu̥kun˥du ˈmiʃi̥kirara˥nu](家の中をあちらこちら穿(ホジク)り回して探すけれど探されない)。プˈスヌ˥　パˈナ˥シ　フˈジ˥リカジリ　スˈクナ [pu̥ˈsunu˥ paˈna˥ʃi ɸuˈʤi˥rikaʤiri su̥ˈkuna](他人の話を根掘り葉掘り聞くな)。

フˈジ˥ルン **[ɸuˈʤi˥ruŋ]** 【他動】1くじる (抉る)。ほじくる。えぐる。えぐって取り出す。あさる (漁る)。「Cujiri,ru,itta. クジリ、ル、ッタ (抉り、る、った) 指、または、木片などで孔をあける、あるいは、貫き通す.〜」『邦訳日葡辞書』。ˈミン˥ヌ　˥ッス　フˈジルン˥ドゥ　クˈリ˥シェー　フˈジララ˥ヌ [ˈmin˥nu ˥ssu ɸuˈʤirun˥du kuˈri˥ʃe: ɸuˈʤirara˥nu](耳垢＜耳の糞＞をほじくる＜穿る＞が、これではほじくれない)。タˈクˈヌ　˥アナ　˥ガルユクンシ　フˈジ˥リティ　ˈミートゥ˥タク　スˈクタン [tḁˈku˥nu ˥ʔana ˥garujukuŋʃi ɸuˈʤi˥riti ˈmi:tu˥tḁku su̥ˈkutaŋ](蛸の穴を鉤銛(カギモリ)でほじくって夫婦蛸を突いた)。クˈリ˥シェー　フˈジ˥ル　˥クトー　ナˈラ˥ヌ [kuˈri˥ʃe: ɸuˈʤi˥ru ˥ku̥to: naˈra˥nu](これでは穿(ホジク)ることは出来ない)。ˈマー˥ビン　フˈジ˥レー　˥ミサムヌ [ˈma:˥biŋ ɸuˈʤi ˥re: ˥misamunu](もっと穿ればいいのに)。クˈリ˥シ　フˈジ˥リ [kuˈri˥ʃi ɸuˈʤi˥ri](これで穿れ)。2他人の

心をかき乱して感情を害する。プ˞スヌ˥　バタ　フ˞ジ˥ルン [pu̥˞sunu˥ bata ɸu˞ʤi˥ruŋ](他人の心をかき回して感情を逆なでする)。3探しまわる。漁(アサ)る。ウ˞レー　サッ˥コー　˥ヤー　フ˞ジ˥ルン [ʔu˞re: sak˥ko: ˥ja: ɸu˞ʤi˥ruŋ](彼は、よく家の中を漁る＜探し回る＞)。˞ヤーフジ˥ル　˞スン [˞ja:ɸuʤi˥ru ˞suŋ](家の中をほじくり、探し回る＜家漁りする＞)。

フ˞ジ˥ルン [ɸu˞ʤi˥ruŋ] 【自動】崩れる。後退する。しくじる。単独の用法はなく、多くは、シ˞ビ [ʃi˞bi](後、後方) と共に用いられる。˥アイニ　˞スー˥カー　シ˞グトー˥　シ˞ベール˥　フ˞ジ˥ル [˥ʔaini ˞su:˥ka: ʃi˞guto:˥ ʃi˞be:ru˥ ɸu˞ji˥ru](あんなやり方では＜あんなにすると＞仕事は後退する＜尻へとくずれる＞)。シ˞ベー˥　フ˞ジ˥ルンティル　ウ˞モー˥リ [ʃi˞be:˥ ɸu˞ʤi˥runtiru ʔu˞mo:˥ri](失敗する) と思われる。

フ˞ジ˥ルン [ɸu˞ʤi˥ruŋ] 【自動】ぐずる。だだをこねる。ぐずぐずする。ぐずって泣く。ヤ˞ラ˥ベー　ニ˞ブンティンマー˥　ヤー˞ディン˥　フ˞ジ˥ルンダ　˞シーッふァー˥シ　ニ˞バシ [ja˞ra˥be: ni˞buntimma: ˥ja:˞diŋ˥ ɸu˞ʤi˥runda ˞ʃi: ffa:˥ʃi ni˞baʃi](子供は寝るときには必ずぐずるから、お乳を飲ませて寝かせなさい)。ヤ˞ラ˥ベー　ナー˞イ˥　フ˞ジ˥リ　˞ベータ˥ヌ　ニ˞ビナー˥ヌ [ja˞ra˥be: na:˞ji˥ ɸu˞ʤi˥ri ˞be:ta˥nu ni˞bina:˥nu](子供はずっとぐずっていたが、寝てしまった)。フ˞ジラン˥ドーシ　ニ˞ビ　ッふィール˥カ˞ツォー [ɸu˞ʤiran˥do:ʃi ni˞bi ffi:ru˥ka˞tso:](ぐずらないで寝てくれたら良いのになあ)。バ˞タ˥　ミツカー　フ˞ジ˥ル　˥クトー　˞ナー˥ヌ [ba˞ta˥ mitsuka: ɸu˞ʤi˥ru ˥ku̥to: ˞na:˥nu](満腹したらぐずることはない)。

プ˞ス [pu̥˞su] 【名】1人。人間。一人前の人間。「〜わくらばに比等々波＜ヒトトハ＞あるを〜。万、892」の転訛したもの。˥ウナー　プ˞スヌ　ブン [˥ʔuna: pu̥˞sunu buŋ](そこに人がいる)。プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [pu̥˞so:˥ bu˞ra:nu](人はいない)。2他人。ク˞レー˥　プ˞スヌ˥　ムヌ [ku˞re:˥ pu̥˞sunu˥ munu](これは他人のものだ)。プ˞スン˥　ッ˞ふィーリ [pu̥˞suŋ˥ f˞fi:ri](他人に上げ＜呉れ＞なさい)。プ˞ソーラ˥　ムヌ　˞イール˥ナ [pu̥˞so:ra˥ munu ˞ʔi:ru˥na](他人からものを貰うな)。

˥プスイ [˥pu̥sui] 【名】ひとひ (一日)。「太白神、和名比止比米久利＜ひとひめぐり＞」『和名抄』の転訛したもの。シ˞グトー˥　プスイ　˞フシゥカー˥　ヤ˞スマン˥カー　ナ˞ラ˥ヌ [ʃi˞guto:˥ pu̥sui ˞ɸusi̥ka:˥ ja˞sumaŋ˥ka: na˞ra˥nu](仕事は一日二日休まないといけない)。

˥プスイ　ウ˞チマー˥シ [˥pu̥sui ʔu˞ʧima:˥ʃi] 【連】毎日。一日ごとに。天候が毎日のように変わること。二月末頃から四月頃までの天候の変わりやすいことの比喩。昔の人は、˥アツァティヌ　ピ˞ニチェー　ナー˥ヌ [˥ʔatsatinu pi˞niʧe: na:˥nu](明日という日はない) といって、今日の内に仕事を済ませよ、といわれた。＜諺＞。

˥プスイピーズ [˥pusuipi:ʤu] 【名】一日中。˥プスイピーズ　ナ˞ク˥　ッ˞ふァー˥　ブ˞ラーヌ˥　プスイピーズ　˥フー　˥アミン　˞ナー˥ヌ [˥pusuipi:ʤu na˞ku˥ f˞fa:˥ bu˞ra:nu˥ pusuipi:ʤu ˥ɸu: ˥ʔamin ˞na:˥nu](一日中泣く子はいない。一日中降る雨もない) といって、「待てば海路の日和」を教えた。

プ˞スイ˥ラ [pu̥˞sui˥ra] 【名】一枚。イラ [ʔira](平。「枚・片」) は、紙、葉、皿など、薄くて平らなものを数える数詞。ッ˞ス˥カビ　プ˞スイラ˥　フ˞タイ˥ラ　˥トゥリ　ヤ˞ラシト ミー [s˞su˥kabi pu̥˞suira˥ ɸu̥˞tai˥ra ˥turi ja˞raʃi-mi:](白紙を一二枚取ってよこしなさいよ)。

プ˞スウバイ　スン [pu̥˞suʔubai suŋ] 【連】人怖じする。ウ˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　プ˞スウバイ　シー˥ナー　ナ˞ラ˥ヌ [ʔu˞nu˥ f˞fa:˥ pu̥˞suʔubai ʃi:˥na: na˞ra˥nu](この子は人怖じするので困る)。

プ˞ス˥　ウ˞バウン [pu̥˞su˥ ʔu˞bauŋ] 【連】人を恐れる。人を怖がる。人怖(ヒトオ)じする。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　イッ˞ケン˥　プ˞ス˥　ウ˞バウン [ku˞nu˥ f˞fa:˥ ʔik˞kem˥ pu̥˞su˥ ʔu˞bauŋ](この子は非常に人を怖がる＜人怖じする＞)。

プ˞ス˥カブ [pu̥˞su˥kabu] 【名】数詞。一回出漁。カツオ漁船が一回出漁すること。カ˞ツシンマー˥　プスイ　プ˞スカブナー˥ル　イ˞チンマー˥　ウケー　ン˞ゾーッ˥タ [kḁ˞tsuʃimma:˥ pu̥sui pu̥˞sukabuna:˥ru ʔi˞ʧimma:˥ ʔuke: ʔn˞ʤo:t˥ta](カツオ漁船は、一日に一回出漁ずつ＜ぞ＞、普通＜いつも＞は沖へ出られたものだ)。

フ˞スク [ɸu̥˞suku] 【名】不足。不満。˞ヌーヌ˥ル　フ˞スク　シーブーワ [˞nu:nu˥ru ɸu̥˞suku ʃi:bu:wa](何が不足しているのか)。˞ジンヌ˥ル　フ˞スク　シーブー [˞ʤinnu˥ru ɸu̥˞suku ʃi:bu:](お金が不足している)。ッ˞ふァイフスク [f˞faiɸusu̥˥ku](食べ不足)。ミ˞リフス˥ク [mi˞riɸusu̥˥ku](見物不足。見たりない。物足りない)。

プ˞ス˥クイ [pu̥˞su˥kui] 【名】1一声。一曲。ム˞カ˥シ

ウタ　プ゚スクイˬ　プタˬクイ　イ゚ジˬ　シゥ゚カソーˬリ゚ミー [muᵊkaˬʃiʔuta pu̥ᵊsukuiˬ ɸu̥ᵊtaˬkui ʔiᵊʤiˬ si̥ˬkasoːˬriᵊmiː](昔歌を一、二曲歌って聞かせてくださいな)。2ひとこと (一言)。ウ゚ヤˬヌ　゚クイˬヤー　プ゚スˬクイシ　シ゚キ [ʔuᵊjaˬnu ᵊkuiˬjaː pu̥ᵊsuˬkuiʃi ʃi̥ᵊki](親の言うこと＜言葉＞は一言で聞け)。シ゚ザˬヌ　゚クイˬヤー　ウ゚ヤˬヌクイ　ウ゚ヤˬヌ　゚クイˬヤー　゚カンˬヌクイ [ʃiᵊʤaˬnu ᵊkuiˬjaː ʔuᵊjaˬnu ˬkui ʔuᵊjaˬnu ᵊkuiˬjaː ᵊkanˬnu ˬkui](兄のいうこと＜言葉＞は親のいうこと＜言葉＞であり、親のいうこと＜言葉＞は神の言葉である) 諺。

プ゚スククˬル [pu̥ᵊsukukuˬru] 【名】一心にすること。心をあわせること。心を一致させること。゚ヤーニンˬズー　ウ゚トゥザマリˬ　プ゚スククˬル　ˬナシェーティ　パ゚タラキ [ᵊjaːninˬʤu ʔuᵊtuʤamariˬ pu̥ᵊsukukuˬru ˬnaʃeːti pḁᵊtaraki](家族、親戚一同が一心になって働きなさい)。/マクトゥ　キキシミ　パトゥマムラ　ウイム　ワカキム　ピトゥククル　シジク　パンジョー　ナウマワル/(誠を心に聞き染めて鳩間村は老いも若きも一心になって、続く繁盛はいよいよ勝っていく)(囃子)/イヤイーヤー　カミヌククルニ　タムキアルラバ　ミグリミグリヌ　ナシグゥウミグゥン　ンマリンマリティ　アトゥユンサキユン　ネランムヌサミ　アタルウヤフジ　ラクユミシェユサ　ナマヌパヤシニ　クドゥキユミユミ/(弥々＜イヨイヨ＞、神の御心に手向けの心があれば、廻り廻って子孫も誕生して後も先もないものだ。当たる先祖は安楽をなさるものだ。今の囃子に口説きを歌おう) パ゚トゥˬマクドゥキン [paᵊtuˬmakudukiŋ](鳩間口説)。『鳩間島古典民謡古謡集』。

プ゚スˬクトゥ [pu̥ᵊsuˬku̥tu] 【名】ひとこと (一事)。一件。プ゚スˬクトー　ˬキューズーナ　゚ユーˬゾー　シ゚マサリˬスンドゥ　゚マーˬ　プ゚スˬクトー　ピ゚マーˬ　カ゚カリˬス　ˬパジ [pu̥ᵊsuˬku̥toː ˬkjuːʤuːna ᵊjuːˬʤoː ʃiᵊmasariˬsundu ᵊmaːˬ pu̥ᵊsuˬku̥toː piᵊmaːˬ kḁᵊkariˬsu ˬpaʤi](一件は今日中に用事は済まされるが、もう一件は時間がかかる＜隙が入る。暇取る。てまどる＞だろう＜はずだ＞)。

プ゚スグトゥ [pu̥ᵊsugutu] 【名】1ひとごと (人事)。よそごと (他所事)。他人事。プ゚スグトゥティˬ　ウムイ　゚ベーンˬケン　゚ドゥーˬヌ　゚ウイˬ　ナリ゚ナーˬヌ [pu̥ᵊsugututiˬ ʔumui ᵊbeːŋˬken ᵊduːˬnu ˬʔui nariᵊnaːˬnu](人事かと思っていたところ、自分の身の上のことになってしまった)。プ゚スグトゥˬテー　ウ゚ムーˬナ゚ヨー　ドゥーˬヌ　ˬクトゥティ　ウ゚ムイˬヤーティ　゚シートヨー [pu̥ᵊsugutuˬteː ʔuᵊmuːˬnaᵊjoː duːˬnu ˬku̥tuti ʔuᵊmuiˬjaːti ᵊʃiːꜜjoː](他人事と思うなよ、自分のことと思ってしなさいよ)。2他人のために働くこと。ウ゚レーˬ　イッ゚ケナˬ　プ゚スグトー　シェーˬン [ʔuᵊreːˬ ʔikᵊkenaˬ pu̥ᵊsugutoː ʃeːˬŋ](彼は非常によく他人のことをしてある)。

プ゚スクトゥˬバ [pu̥ᵊsukutuˬba] 【名】一語。一言。一言葉。゚ワーˬラー　プコーラサヌˬ　プ゚スクトゥバˬル　ˬプサタ　ビ゚チˬヌ　ˬムノー　ˬプサー　゚ナーˬヌ [ᵊwaːˬraː ɸu̥ᵊkoːrasanuˬ pu̥ᵊsukutubaˬru ˬpu̥sata biᵊʧiˬnu ˬmunoː ˬpu̥saː ᵊnaːˬnu](君からは有難うの一語が欲しかった。別のものは欲しくない)。

プ゚スクラシムヌ [pu̥ᵊsukuraʃimunu] 【名】1人をよく叩く者。ウ゚レーˬ　メー　゚サッˬコー　プ゚スクラシムヌˬ　ナリティ　イ゚メーマヌˬ　クトゥシン　プ゚スˬ　ク゚ラシˬナー　ナ゚ラˬヌ [ʔuᵊreːˬ meː ᵊsakˬkoː pu̥ᵊsukurasimunuˬ nariti ʔiᵊmeːmanuˬ ku̥tuʃim pu̥ᵊsuˬ kuᵊraʃiˬna: naᵊraˬnu](あやつ＜彼奴＞は非常に人をぶつ＜打つ＞者になってしまって、ちょっとのことでも人を殴るのでたまらない＜堪らない＞)。2人殺し。゚ヤイマˬナー　プ゚スクラシムヌヌブンティˬ　シ゚ターˬ　シ゚キミラˬヌ [ᵊjaimaˬnaː pu̥ᵊsukuraʃimununu bunˬti ʃi̥ᵊtaːˬ ʃi̥ᵊkimiraˬnu](八重山で殺人者がいるということは聞いたことがない)。

゚フスクリˬルン [ᵊɸusu̥kuriˬruŋ] 【自動】ささくれる。毛羽立つ。そそける。゚フスクルンとも言う。゚ティーパンˬヌ　フスクリˬルンケン　パ゚タキシグˬトゥシ゚ラリミッˬタン [ᵊtiːpanˬnu ᵊɸusukuriˬruŋkem pḁᵊtakiʃiguˬtu ʃiᵊrari mitˬtaŋ](手足がささくれるほど畑仕事をさせられてみた)。゚ティーˬリ　゚スーˬカー　゚フスクリラˬヌ [ᵊtiːˬriː ᵊsuːˬkaː ᵊɸusu̥kuriraˬnu](手入れをしたらささくれない)。゚ティーˬヌ　サ゚キヌ　フスクリティˬ　シゥ゚カッティララヌ [ᵊtiːˬnu sḁᵊkinu ɸusukuritiˬ si̥ᵊkattiraranu](手先がささくれて、触られない)。゚ティーˬヌ　゚フスクリルˬ　クトー　゚ナーˬヌ [ᵊtiːˬnu ᵊɸusukuriruˬ ku̥toː ᵊnaːˬnu](手がささくれることはない)。゚マーˬビン　゚フスクリレーˬ　ミサムヌ [ᵊmaːˬbiŋ ᵊɸusu̥kurireːˬ misamunu](もっとささくれればいいのに)。

゚フスクル [ᵊɸusu̥kuru] 【名】懐。歌謡語。「Futocoro. フトコロ (懐) ふところ.〜」『邦訳日葡辞書』の転訛。日常会話でぱフンスクル [ᵊɸunsu̥kuru](懐) というのが普通。/ウーギヌ　カジニ　アウガリティ　ユルヤ　ハハグヌ　フスクルニ　トゥインハテン

ンスガウチ/(扇の風に扇がれて、夜は母御の懐に、十重も二十重も御衣の内)『無蔵念仏歌』。ウˈヤˀヌ　ˈフンスクルˀナー　イˈリˀ　スˈダティラˀレール　ッˈふァ [ʔuˈjaˀnu ˈɸunsu̥kuruˀna: ʔiˈriˀ suˈdatiraˀ re:ru fˈfa](親の懐に入れて育てられた子)。

ˈフスクルディー [ˈɸusu̥kurudi:] 【名】手を懐に入れること。若者が懐に手をいれることはだらしないといわれていた。「ふところで (懐手)」の義。「Futocorode. フトコロデ (懐手)」『邦訳日葡辞書』の転訛。老人がよく懐手をした。ˈフンスクルディー [ˈɸunsu̥kurudi:](懐手) ともいう。バˈカーˀムヌ　ˈフスクルディーバ　シェーˀティ　ˈフージェー　ナーˀヌ　ヤˈミリ [baˈkaːˀmunu ˈɸusu̥kurudi:ba ʃeːˀti ˈɸu:ʤe: naːˀnu jaˈmiri](若者が懐手をして若者らしくない < 風情がない >。止めれ < やめろ >)。

ˈフスクルン [ˈɸusukuruŋ] 【自動】ささくれる。毛羽立つ。ˈフスクリˀルン [ˈɸusu̥kuriˀruŋ](ささくれる) と同じ。ヤˈナアシゥカイ　スーˀカー　ˈティーˀヤ　ˈフスクルン [jaˈnaʔasi̥kai suːˀkaː ˈtiːˀja ˈɸusu̥ˀkuruŋ](酷使すると手はささくれる)。バˈカーンˀケンマー　ˈティーˀヤ　ˈフスクランシェンドゥˀ　トゥシ　トゥˈルˀター　ˈフスクリ　ナーˀヌ [ba ˈkaːŋˀkemmaː ˈtiːˀja ˈɸusu̥kuraŋˀʃendu ˀtuʃi tuˈruˀtaː ˈɸusu̥kuri naːˀnu](若い時は、手はささくれなかったが、年をとったのでささくれてしまった)。ˈマーˀビン　ˈフスクレーˀ　ミサムヌ [ˈmaːˀbiŋ ˈɸusu̥ˀ kureː ˀmisamunu](もっとささくれればいいのに)。

ˈフスˀクン [ˈɸusu̥ˀkuŋ] 【名】1打ち身による皮下出血の青黒い痣。ˈカイˀリティ　ˀパラーナ　フˈタイバˀ　バˈリティ　フスˀクン　ˈシーˀ　シケー [ˈkaiˀ riti ˀparaːna ɸu̥ˈtaibaˀ baˈriti ɸusu̥ˀkuŋ ˈʃiːˀ ʃi̥keː](転倒して柱に額を打ちつけて打ち身による皮下出血の青黒い痣を作ってある < 痣をしておいてある >)。2顔面が青黒くなる。黒ずむ。ブˈチˀクン　シˈティˀ　シラー　ˈフスˀクン　ˈシーベー [buˈʧiˀkuŋ ʃi̥ˈtiˀ ʃiraː ˈɸusu̥ˀkuŋ ˈʃiːbeː](気絶して顔は青黒くなっている)。フˈチヌˀシバー　ˈフスˀクン　ˈシーベー [ɸu̥ˈʧinuˀ ʃibaː ˈɸusu̥ˀkuŋ ˈʃiːbeː](寒さで唇が黒ずんでいる)。

プˈスケーˀラ [pu̥ˈsukeːˀra] 【名】(数) 一度。一回。「一返り」の義。回数や繰り返しの意味に重点がある。プˈスッケーˀラ [pˈsukkeːˀra](1 回) ともいう。「Fitocayeri. ヒトカエリ (一返り) 回数の数え方」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。フˈタケーラ [ɸu̥ˈtakeːra](2 回)。ˈミーケーラ [ˈmiːkeːra](3 回)。ˈユーケーラ [ˈjuːkeːra](4 回)。イˈチケーˀラ [ʔiˈʧikeːˀra](5 回)。ˈムーケーラ [ˈmuːkeːra](6 回)。ナˈナケーˀラ [naˈnakeːˀra](7 回)。ˈヤーケーラ [ˈjaːkeːra](8 回)。クˈヌケーˀラ [kuˈnukeːˀra](9 回)。ˈトゥーケーラ [ˈtuːkeːra](10 回)。ウˈブˀマイミチェーラ　ナˈナケーˀラ　カˈタˀミ　カˈヨーシルˀ　パˈタキˀヌ　ˈコイˀヤー　イˈルタル [ʔuˈbuˀmaimiʧeːra naˈnakeːˀra kḁˈtaˀmi kaˈjoːʃiruˀ pḁˈtakiˀnu ˈkoiˀja: ʔiˈrutaru](大前農道を < から >7 回も通って < ぞ > 畑の肥やしは運び入れたものだ)。

プˈスˀケン [pu̥ˈsuˀkeŋ] 【名】(数) 一回。一度。度数の意味に重点がある。通常は、プˈスケーˀラ [pu̥ˈsukeːˀra](一回。< 一往復 > の転訛したもの) 系統の語を用いることが多い。プˈスケン [pu̥ˈsuˀkeŋ](一回) 系の語は、フˈタˀケン [ɸu̥ˈtakeŋ](二回) までは用いられるが、それ以上は用いられない。プˈスケン　フタˀケン　ˈバーˀケー　ˈヌンガーラサリˀヌ　ウˈヌウイヤー　ヌンガーラサラˀヌ [pu̥ˈsukeŋ ɸu̥taˀkem ˈbaːˀke: ˈnuŋgaːrasariˀnu ʔuˈnu ʔuija: nuŋgaːrasaraˀ nu](一度二度までは許される < 見逃される > が、それ以上は許され < 見逃され > ない)。

プˈスˀケンナー [pu̥ˈsuˀkennaː] 【副】一度に。一時に。プˈスˀケンナー　ˈコッふァシˀ　クーカー　ˈヨーˀゾー　シˈキララˀヌ [pu̥ˈsuˀkennaː ˈkoffaʃiˀ kuːkaː ˈjoːˀʤoː ʃi̥ˈkiraraˀnu](< 多数の人が > 一度になだれ込んできたら対応できない < 養生つけられない >)。

プˈスケンˀナー [pu̥ˈsukenˀnaː] 【副】1一回ずつ。一度ぐらいは。プˈスケンˀナー　ˈシーˀミサン [pu̥ˈsukenˀnaː ˈʃiːˀmisaŋ](一回ずつはしてもよい)。2たまには。時には。「一度ぐらいは」の義。プˈスケンナーˀヤ　タˈビン　シーミラバˀル　シˈキンˀヌ　ˀクトゥン　ワˈカˀル [pu̥ˈsukennaːˀja taˈbiŋ ʃiːmirabaˀru ʃi̥ˈkinˀnu ˀku̥tuŋ waˈkaˀru](たまには < 一度ぐらいは > 旅もしてみないと世間のことは分からない < 旅もしてみればこそ世間のことも分かるものだ >)。

プˈスˀサー [pu̥ˈsuˀsaː] 【名】(数) 一杯茶。一杯だけのお茶。プスサバン [pu̥ˈsuˀsabaŋ](一茶碗の茶) ともいう。プˈスサーˀヤ　ˀヌムムノー　アˈランˀティ　アˈザリブー [pu̥ˈsusaːˀja ˀnumumunoː ʔaˈranˀti ʔaˈʤari buː](一杯茶は飲むものではないと言われている。お茶は必ず二杯は飲むものという)。

プˈスˀザー [pu̥ˈsuˀʤaː] 【名】一室。一部屋。一座。「ひとざ (一座)」の義。ˈカンˀプスンケーヤ　タˈナˀドゥルアヨー　ˀナラウンティ　プˈスˀザーナ

アˈツァˌマリ　アˈサボーッˌタ [ˈkamˌpusuŋkeːja ta ˈnaˌduruʔajoː ˌnaraunti pu̥ˈsuˌʤaːna ʔaˈtsaˌmari ʔaˈsaboːtˌta](神職者 < 神人 > 達は種取りアヨーを習うために一座に集まって遊ばれた < 神遊びをされた >)。

プˈスザイ [pu̥ˈsuʤai] 【名】客人の接待に熱中すること。客人接待にかまけ (感(カマ)け) る。客人のことに心を奪われて他のことが出来なくなること。接尾語ˈ-ザイ [-ʤai](一つの事に心を取られて、他のことがおろそかになる。〜に拘泥する) は、他の名詞 (仕事、や人間等) に下接して「その仕事やその人にかまける < 心奪われて他のことがおろそかになる >」の意味を有する名詞を作る。マˈチヤーヤˌ プˈスザイルˌ　ナル　ˈヤーˌヌ　ˌクトー　ˈシーユーサヌ [maˈʧijaːjaˌ pu̥ˈsuʤairuˌ naru ˈjaːˌnu ˌku̥toː ˈʃiːjuːsanu](店ではお客接待にかまけてしまう。通常の家事 < 家庭の仕事 > は出来ない)。ッˈふァザイ [fˈfaʤai](子供の世話に手が焼けること)。シˈグトゥザイ [ʃiˈgutuʤai](仕事にかまけること。仕事に夢中になること)。

プˈスサキ [pu̥ˈsusaki] 【名】ひとさき (人先)。他人より先。プˈスサキˌ　パˈランˌカー　ビˈルンˌ　トンマー　トゥˈララˌヌ [pu̥ˈsusakiˌ paˈraŋˌkaː biˈrunˌtom-maː tuˈraraˌnu](人先に行かないと座る所は取られない)。ˈモーキˌジク　サˈバンˌ　ガˈクˌムン　サˈバンˌ　プˈスサキˌ　ナˈサˌシミ　タˈボーˌリ　トゥッˈトゥイˌティル　ˈニンˌガイˈヨーˌル [ˈmoːkiˌʤiku saˈbaŋˌ gaˈkuˌmun saˈbamˌ pu̥ˈsusakiˌ naˈsaˌʃimi taˈboːri tutˈtuiˌtiru ˈniŋˌgaiˈjoːˌru](儲け仕事をするにしても学問をするにしても、人先になさしめて賜れ神様 < あな尊!> とぞ祈願される)。

プˈスサニˌヤン [pu̥ˈsusaniˌjaŋ] 【形】ひとなつこい (人懐こい)。ひとなつっこい。他人となれ親しみやすく愛嬌があるさま。ウˈレーˌ　プˈスサニˌヤンティ　ウˈムータンˌドゥ　マˈナˌマー　ˈナンˌゾー　プˈスサニヤーナーˌヌ [ʔuˈreːˌ pu̥ˈsusaniˌjanti ʔuˈmuːtan ˌdu maˈnaˌmaː ˈnanˌʤoː pu̥ˈsusanijaːnaːˌnu](彼は人懐(ナツ)こいと思ったが、今はあまり人懐こくない)。プˈスサニˌヤ　ˈスン [pu̥ˈsusaniˌja ˈsuŋ](人懐こくする。人懐こがる)。

プˈスˌサバン [pu̥ˈsuˌsabaŋ] 【名】(数) 一茶碗。湯呑み一杯。ˌサー　プˈスˌサバンツァン　ˌヌミティ　ˌパリバ [ˌsaː pu̥ˈsuˌsabantsan ˌnumiti ˌpariba](お茶一杯 < 一茶碗 > だけでも飲んで行きなさいよ)。

プˈスサマˌル [pu̥ˈsusamaˌru] 【名】一束。一締め。「ひとしばり (一縛り)」の義。バˈラフˌタ　プˈスサマˌル < プˈスマラˌキ >　ˌムティクー [baˈraɸu̥ˌta pu̥ˈsusamaˌru < puˈsumaraˌki > ˌmutikuː](稲藁を一締め <30 束 > 持って来い)。

プˈスˌシゥカ [pu̥ˈsuˌsɨ̥ka] 【名】(数) 稲藁は片手で一掴みする分量。二掴みの分量で、プˈスタブˌル [pu̥ˈsutabuˌru](一束) と言った。ひとつか (一束(ツカ))。片手で握られる稲の量。「一掴み」の転訛したものか。フˈタシゥカˌシ　プˈスタブˌル　ˈユイヨーッˌタ [ɸu̥ˈtasɨ̥kaˌʃi pu̥ˈsutabuˌru ˈjuijoːtˌta](2 つかで 1束(タバ)を結われた)。

プˈスシゥカイ [pu̥ˈsusɨ̥kai] 【名】人使い。人の使い方。プˈスシゥカイヌ　サッˌコー　アˈラーˌユンダ　ˈウンˌネナー　シˈグトゥ　スーˌ　プˈソーˌ　ブˈラーヌ [pu̥ˈsusɨ̥kainu sakˌko: ʔaˈraːˌjunda ˈʔunˌnena: ʃiˈgutu suːˌ pu̥ˈsoːˌ buˈraːnu](人使いがあまりにも酷(ヒド)い < 荒い > から、あの家で仕事をする人はいない)。

プˈスˌシゥカン [pu̥ˈsuˌsɨ̥kaŋ] 【名】一掴み。一つまみ。ˈワー　スーˌヤ　アˈマーˌンダ　ˈマーˌス　プˈスˌシゥカン　シゥˈカˌミ　イˈリリ [ˈwa: suːˌja ʔaˈmaːˌnda ˈmaːˌsu pu̥ˈsuˌsɨ̥kanˌ sɨ̥ˈkaˌmi ʔiˈriri](君のお汁は味が薄いから塩を一つまみ摘(ツマ)んで入れなさい)。ˈマイヤー　イッスˌサーシ　パˈカˌリティ　プˈスシゥカンˌマー　ˈシーブˌ　イˈリッふォーッˌタン [ˈmaija: ʔissuˌsaːʃi pḁˈkaˌriti pu̥ˈsusɨ̥kamˌmaː ˈʃiːbuˌ ʔiˈriffoːtˌtaŋ](米は一升枡で量って、一握り分はおまけ < 添え分 > として入れてくださった)。

プˈスシキンゴーˌシ [pu̥ˈsuʃikiŋgoːˌʃi] 【名】一月おき。一月ぶり。「一月越し」の義。プˈスシキンゴーˌシシ　ˈジンˌマー　ウˈクラリˌ　クーン [pu̥ˈsuʃɨ̥kiŋgoːˌʃiʃi ˈʤimˌmaː ʔuˈkurariˌ kuːŋ](一月おきにお金は送られてくる)。

プˈスシグˌトゥ [pu̥ˈsuʃiguˌtu] 【名】一作業。「一仕事」の義。アˈサカイˌナー　プˈスシグˌトー　シˈマˌシティル　ˈクーˌタ [ʔaˈsakaiˌnaː pu̥ˈsuʃiguˌtoː ʃiˈmaˌʃɨ̥tiru ˈkuːˌta](朝の涼しいうちに < 朝陰のうちに > 一作業を済ませてきたよ)。

プˈスˌシジ [pu̥ˈsuˌʃiʤi] 【名】(数)1一筋。一本。糸などの細いものを数える単位。ˌイーナ　ガˈマジˌヌ　ˈキーˌ　プˈスˌシジ　ˈペーˌリ　ˈベー [ˌʔiːna ga ˈmaʤiˌnu ˈkiːˌ pu̥ˈsuˌʃiʤi ˈpeːˌri ˈbeː](ご飯に髪の毛が一本 < 一筋 > 入っている)。2一粒。ˈマイヤーˌ　プˈスˌシジンツァン　シˈテーˌ　ナˈラˌヌ [ˈmaijaːˌ pu̥ˈsuˌʃiʤintsaŋ ʃɨ̥ˈteːˌ naˈraˌnu](米は一粒たりとも

捨ててはならない)。

プˈスシタˈダル [pu̥ˈsuʃi̥taˈdaru] 【名】(数) ひとしずく。一滴。「ひとしただり < 一滴り >」の義。「その矛の末より滴り落つる塩〜。」『古事記、神代』。プˈスシタダルˈヌ　ミˈジˈシル　ˈヌチェー　ˈムイˈヤーツォー [pu̥ˈsuʃi̥tadaruˈnu miˈʤiˈʃiru ˈnutʃeː ˈmuiˈjaːtsoː](一滴の水で命が蘇(ヨミガエ)った < 命が生えた。生き返った > そうだ)。

プˈスˈシナ [pu̥ˈsuˈʃina] 【名】(数) 一品。「ひとしな < 一品 >」の義。ウˈサイˈバ　プˈスシナˈナー　ヌˈカーˈシェーティ　ˈヨイ　ˈシー　オーサー [ʔuˈsaiˈba pu̥ˈsuʃinaˈnaː nuˈkaːˈʃeːti ˈjoi ˈʃiː ʔoːsaː](料理 < お菜 > を一品ずつ出し合ってお祝いをして差し上げよう)。

プˈスシˈプス [pu̥ˈsuʃiˈpu̥su] 【名】同年生。同じ年齢の人。ウˈリトゥ　バンˈトー　プˈスシˈプス [ʔuˈritu banˈtoː pu̥ˈsuʃiˈpu̥su](彼と私は同年生だ)。

プˈスシル [pu̥ˈsuʃiru] 【名】妻子や親兄弟に愛情を持つこと。人に親しみを持つこと。対人関係に愛着をもつこと。「人・領(シル)(他人を支配しようとすること)」の義か。ウˈレーˈ　イッˈケナˈ　プˈスシルヌˈ　アン [ʔuˈreːˈ ʔikˈkenaˈ pu̥ˈsuʃirunuˈ ʔaŋ](彼は妻子や親兄弟に非常な愛情がある)。ッˈふァシルヌナーンˈ　プˈス [fˈfaʃirunu naːmˈ pu̥ˈsu](子供に愛情のない人)。ˈシロー　ˈナーˈヌ [ˈʃiroː ˈnaːˈnu](愛情がない)。

プˈスˈシル [pu̥ˈsuˈʃiru] 【名】(数) 一釣瓶。井戸水を釣瓶で 1 回汲み上げる単位。フˈタシル [ɸu̥ˈtaʃiru](二釣瓶、釣瓶の 2 回)。ˈミーシル [ˈmiːʃiru](三釣瓶、釣瓶の 3 回)。ˈユーシル [ˈjuːʃiru](四釣瓶、釣瓶の 4 回)。イˈチˈシル [ʔiˈʧiˈʃiru](五釣瓶、釣瓶の 5 回)。ˈムーシル [ˈmuːʃiru](六釣瓶、釣瓶の 6 回)。ナˈナˈシル [naˈnaˈʃiru](七釣瓶、釣瓶の 7 回)。ˈヤーシル [ˈjaːʃiru](八釣瓶、釣瓶の 8 回)。クˈヌˈシル [kuˈnuˈʃiru](九釣瓶、釣瓶の 9 回)。ˈトゥーシル [ˈtuːʃiru](十釣瓶、釣瓶の 10 回)。ˈタンˈグ　カˈタティーˈヤ　ˈギューシルˈシ　ミˈツァサリˈワ [ˈtaŋˈgu kḁˈtatiːˈja ˈgjuːʃiruˈʃi miˈtsasariˈwa](水担桶の片方 < 一個 > は釣瓶の何回 < 幾釣瓶 > で満たされるか)。

プˈスソーン [pu̥ˈsusoːŋ] 【名】人並み。タˈキˈフドゥン　プˈスソーンˈ　フˈドゥビˈケーチバ　ˈソーヤナーˈヌ [tḁˈkiˈɸudum pu̥ˈsusoːŋˈ ɸuˈdubiˈkeːʧiba ˈsoːja naːˈnu](身長も人並みに成長してきたので心配はない)。**(1)** 人並み。世間並み。世間一般の人と同じ程度。マˈナマバーˈケー　プˈスソーンヌˈ　シˈグトー　バンˈヌン　ナˈリˈス [maˈnamabaːˈke: pu̥ˈsusoːnnuˈ ʃiˈgutoː banˈnun naˈriˈsu](今までは人並みの仕事は私にもできる)。**(2)** 一般の人と同様の程度に。人並みに。シˈグトーˈ　プˈスソーン　シーバルˈ　ティマー　ˈイーラリˈル [ʃiˈgutoːˈ pu̥ˈsusoːŋ ʃiːbaruˈ timaː ˈʔiːrariˈru](仕事は人並みにして始めて手間賃は貰えるというものだ)。

プˈスタキ [pu̥ˈsutaki] 【名】人並み。「ひとたけ (人丈)」の義。プˈスタケー　ナーンˈ　ムヌヌ　ウˈブムニˈバ　イˈジアーˈク [pu̥ˈsutakeː naːmˈ mununu ʔuˈbumuniˈba ʔiˈʤiʔaːˈku](一人前でない < 人並みでない。人丈も無い > 者が大法螺(オオホラ)大言 > を吐いている)。

プˈスダニ [pu̥ˈsudani] 【名】人のたね (種子)。親子の血筋。「ひとたね < 人種 >」の義。プˈスダネーˈ　カˈクサラˈヌ [pu̥ˈsudaneː kḁˈkusaraˈnu](人たね < 種 > は隠されない < 誰の子かすぐわかる >< 諺 >)。

プˈスタニン [pu̥ˈsutaniŋ] 【名】他人。赤の他人。「他人」の強調表現。「ひとたにん (人他人)」の義。ˈベーˈヤ　プˈスタニンマーˈ　アˈラˈヌ　ウˈヤˈプソー　ˈピーˈチˈダー [ˈbeːˈja pu̥ˈsutanimmaːˈ ʔaˈraˈnu ʔuˈjaˈpu̥soː ˈpiːˈʧiˈdaː](我々は他人ではない。先祖は一つだよ)。

プˈスˈタバ [pu̥ˈsuˈtaba] 【名】 (数) 一束。老年層は、プˈスタバˈル [pu̥ˈsutabaˈru](一束) という。バˈラフˈタタバ　プˈスˈタバ　ˈムティクー [baˈraɸuˈtataba pu̥ˈsuˈtaba ˈmutikuː](藁束を一束持ってこい)。ˈソーˈミン　プˈスˈタバ　ˈカイˈクーバ [ˈsoːˈmim pu̥ˈsuˈtaba ˈkaiˈkuːba](素麺を一束買ってこいよ)。

プˈスタバˈル [pu̥ˈsutabaˈru] 【名】(数) 一束。稲藁や麦藁の一束。プˈスタブˈル [pu̥ˈsutabuˈru](一束) ともいう。バˈラフˈタ　プˈスタバˈルシ　ˈシナ　ˈナイバ [baˈraɸu̥ˈta pu̥ˈsutabaˈruʃi ˈʃina ˈnaiba](稲藁一束で縄を綯(ナ)いなさいよ)。

プˈスタブˈル [pu̥ˈsutabuˈru] 【名】一束。老年層のことば。若年層は、プˈスタバˈル [pu̥ˈsutabaˈru](一束) ともいう。ˈマイタブローˈ　フˈタシゥカˈシ　プˈスタブˈル　ˈユイヨーッˈタ [ˈmaitaburoːˈ ɸu̥ˈtasi̥kaˈʃi pu̥ˈsutabuˈru ˈjuijoːtˈta](稲束は二束 < つか > で一束 < 把・束、タバリ > に束ねられ < 結われ > た)。

プˈスダマシムヌ [pu̥ˈsudamaʃimunu] 【名】嘘つき。人をだます < 騙す > 者。ウˈレー　サッコーˈヌ　プˈスダマシムヌˈ　ヤˈルンダˈ　ウˈリヌˈ　ムネー　スˈクナˈヨー [ʔuˈreː sakkoːˈnu pu̥ˈsudamaʃimunuˈ jaˈrundaˈ ʔuˈrinuˈ muneː su̥ˈkunaˈjoː](彼は大変な

嘘つき＜人を騙す者＞だから、彼の言うことは聞くなよ)。

プ˞スダミ [pu̥˞sudami] 【名】人のため。他人のためになること。プ˞スタシ˥ケー　ノー˞ン˥　プ˞スダミテー˥　ア˞ラ˥ヌ　˞マーリ˥キー　˞ドゥー˥ヌ　タ˞ミル˥　ナル [pu̥˞sutaʃi̥˥ke: no:˞m˥ pu̥˞sudamite:˥ ʔa˞ra˥nu ˞ma:ri˥ki: ˞du:˥nu ta˞miru˥ naru](人助けは何も他人の為だけではない。回りまわって自分のためになるのだ)。

プ˞スタルガキ [pu̥˞sutarugaki] 【名】他人を頼みにしてよりかかること。他人を当てにすること。プ˞スタルガキ　サンドー˥シ　˞ドゥー˥ヌ　˥クトー　˥ドゥーシ　˞シー˥バ [pu̥˞sutarugaki sando:˥ʃi ˞du:˥nu ˥ku̥to: ˥du:ʃi ˞ʃi:˥ba](他人を当てにしないで、自分のことは自分でしなさいよ)。

プ˞スッ˥カラ [pu̥˞suk˥kara] 【名】(数) 一匹。魚類、牛、馬、豚、犬、猪、鶏、鳩、蛇、昆虫、虫等を数える単位。フ˞タッカラ [ɸu̥˞takkrara](二匹)。˞ミッカラ [˞mikkara](三匹)。˞ユッカラ [˞jukkara](四匹)。イ˞チッ˥カラ [ʔi˞tʃik˥kara](五匹)。˞ムッカラ [˞mukkara](六匹)。ナ˞ナッ˥カラ [na˞nak˥kara](七匹)。˞ヤッカラ [˞jakkara](八匹)。ク˞ヌッ˥カラ [ku˞nuk˥kara](九匹)。˞トゥッカラ [˞tukkara](十匹)。ウ˞シーン˥　オーン　プ˞スッカラ˥ナー　シゥ˞カナイ˥　ブー [ʔu˞ʃi:ŋ˥ ʔo:m pu̥˞sukkara˥na: si̥˞kanai˥ bu:](牛も豚も一匹ずつ飼っている)。

プ˞スッ˥ク [pu̥˞suk˥ku] 【名】一個。甕(カメ)、瓶(ビン)、お椀(ワン)、杯(サカズキ)、果物など、貝類、石や岩など丸いもの、球状のもの、などを数える単位。フ˞タック [ɸu̥˞takku](2 個)、˞ミック [˞mikku](3 個)、˞ユック [˞jukku](4 個)。イ˞チッ˥ク [ʔi˞tʃik˥ku](5 個)。˞ムック [˞mukku](6 個)、ナ˞ナッ˥ク [na˞nak˥ku](7 個)。˞ヤック [˞jakku](8 個)。ク˞ヌッ˥ク [ku˞nuk˥ku](9 個)。˞トゥック [˞tukku](10 個)。˞コー˥マ　˞トゥック　カイ˥キー　ユ˞ディコー˥マ　バ˞カシ˥バ [˞ko:˥ma ˞tukku kai˥ki: ju˞diko:˥ma ba˞kaʃi˥ba](卵を 10 個買ってきて茹で卵＜煮抜(ニヌキ)き卵＞に炊きなさいよ)。

プ˞スッ˥クビ [pu̥˞suk˥kubi] 【名】(数) 着物一着。着物を数える単位。クビ [kubi] は着物の首に当たる部分をいう。プ˞スッ˥クビ　フ˞タックビ　ミックビ˥ティル　˥キンパダー＜˞キン˥マー＞　ユ˞モーッ˥タ [pu̥˞suk˥kubi ɸu̥˞takkubi mikkubi˥tiru ˥kimpada:＜˞kim˥ma:＞ ju˞mo:t˥ta](一着、二着、三着というように着物は数えられた)。

プ˞スッ˥クミ [pu̥˞suk˥kumi] 【名】(数) 組。一組。一揃い。一足。組み合わせて一揃えとなるものを数える単位。フ˞タックミ [ɸu̥˞takkumi](二組)。˞ミックミ [˞mikkumi](三組)。˞ユークミ [˞ju:kumi](四組)。イ˞チッ˥クミ [ʔi˞tʃik˥kumi](五組)。˞ムークミ [˞mu:kumi](六組)。ナ˞ナッ˥クミ [na˞nak˥kumi](七組)。˞ヤークミ [˞ja:kumi](八組)。ク˞ヌッ˥クミ [ku˞nuk˥kumi](九組)。˞トゥックミ [˞tukkumi](十組)。˥ソンガチアチツァー＜˥ソンガチアシツァー＞　˞ヤーニンズー˥ヌ　˥ブン　˞ヤークミ　カイ˥　ケーン [˥soŋgatʃiʔatʃitsa:＜˥soŋgatʃiʔaʃitsa:＞ ˞ja:nindʑu: ˥nu ˥buɲ ˞ja:kumi kai˥ke:ŋ](正月用の下駄は家族の分、八組＜八足＞買ってきた)。

プ˞スッシウイ˥ビ [pu̥˞suʃʃiʔui˥bi] 【名】人差し指。プ˞スッシウイ˥ビ　˥ヤドゥナ　˞フッカーサ˥リティ　˥ヤミ　ナ˞ラ˥ヌ [pu̥˞suʃʃiʔui˥bi ˥jaduna ˞ɸukka:sa ˥riti ˥jami na˞ra˥nu](人差し指を戸に挟まれた痛くて堪らない)。ヤ˞ラ˥ベー　プ˞スッシウイビ˥バ　˞フッ˥ツァミティ　ム˞ヌ˥プサ　˞シーベー [ja˞ra˥be: pu̥˞suʃʃiʔuibi˥ba ˞ɸut˥tsamiti mu˞nu˥pu̥sa ˞ʃi:be:](子供は人差し指をしゃぶって、物欲しそうにしている)。

プ˞ス˥ッスン [pu̥˞su˥ssuŋ] 【名】一包み。˞コー˥マー　バ˞ラフ˥タッスンシ　プ˞ス˥ッスン　ッ˞ス˥ミティ　˥シトゥ　ム˞タ˥シバ [˞ko:˥ma: ba˞raɸu̥˥tassuŋʃi pu̥˞su˥ssun s˞su˥miti ˥ʃi̥tu mu˞ta˥ʃiba](卵は藁苞包みで一包み包んで、お土産＜苞＞に持たせなさい)。

プ˞スッ˥ツァー [pu̥˞sut˥tsa:] 【名】数詞。一升。プ˞ス˥サー [pu̥˞su˥sa:](一升の転訛)。˞マイヤー˥　プ˞スッ˥ツァー　フ˞タッツァー˥ティ　˞シー　イッス˥サーシ　パ˞カ˥リ　˞カーシタル [˞maija:˥ pu̥˞sut˥tsa: ɸu̥˞tattsa:˥ti ˞ʃi: ʔissu˥sa:ʃi pḁ˞ka˥ri ˞ka:ʃi̥taru](米は一升、二升といって、一升枡で計って売ったものだ)。

プ˞スッふァイジマ [pu̥˞suffaiʤima] 【名】食人種の島。野蛮人の島。「人食い島」の義。ム˞カ˥シェー　˞タイ˥パンナー　プ˞スッふァイジマ˥ティン　˞アッ˥タンツォー [mu˞ka˥ʃe: ˞tai˥panna: pu̥˞suffaiʤima˥tiŋ ˞ʔat˥tantso:](昔は台湾に人食い島というのがあったそうだ)。

プ˞スッふァイプス [pu̥˞suffaipusu] 【名】食人種。首狩り族。「人食い人」の義。友人を陥れる人。ム˞カ˥シェー　プ˞スッふァイプスヌ˥　ブ˞タン˥ティス˞クタヌ˥　マ˞ナ˥マー　ブ˞ラーン˥ツォー [mu˞ka˥ʃe: pu̥˞suffaipusunu˥ bu˞tan˥ti su̥˞kutanu˥ ma˞na˥ma: bu˞ra:n˥tso:](昔は食人種がいたと聞いたが、今はいないそうだ)。

プ⸢スッふァイムニ **[pu̥⸢suffaimuni]** 【名】悪口雑言。人を口汚く罵ること。人の悪口。中傷する言葉。「人食い言葉」の義。ウ⸢レー⸣　サ⸢キ⸣ヌムカー　プ⸢スッふァイムニバル⸣　ユムンダ　⸢キー⸣　シ⸢キ⸣リ [ʔu⸢re:⸣ sḁ⸢ki⸣ numuka: pu̥⸢suffaimunibaru⸣ jumunda ⸢ki:⸣ ʃi̥⸢ki⸣ri](彼は酒を飲むと人を口汚く罵《ノノシ》るから、気をつけなさい＜気をつけれ＞)。

プ⸢スッふァイムヌ **[pu̥⸢suffaimunu]** 【名】人を陥れる者。「人食い者」の義。プ⸢スッふァイムノー⸣　ドゥ⸢シン⸣　ッ⸢ふァイル　スー [pu̥⸢suffaimuno:⸣ du⸢ʃiŋ⸣ f⸢fairu su:](人を陥れる者は友人も陥れる)。

プ⸢ス　ッふン **[pu̥⸢su ffuŋ]** 【連】人を陥れる。他人をやっつける。「人を食う」の義。ウ⸢レー⸣　ナー⸢イ　ベー⸣ティ　プ⸢ス　ッふンㇳダー [ʔu⸢re:⸣ na:⸢ji be:⸣ti pu̥⸢su ffun꜔da:](彼はそうやって黙っていて人を陥れるぞ)。⸢ミンダリムン⸣ドゥ　プ⸢ソー　ッふ⸣ティ　ア⸢ザリ　ブー⸣ダー [⸢mindarimun⸣du pu̥⸢so: ffu⸣ti ʔa⸢ʣari bu:⸣da:](大人しい人＜耳の垂れた者＞が人を陥れる＜人を食う＞といわれているよ)。

プ⸢ス⸣ティー **[pu̥⸢su⸣ti:]** 【名】一年。ひととし。プ⸢ス⸣トゥシとも言う。⸣ヨイ　⸢シェーラ⸣　プ⸢ス⸣ティー　⸣ナルンティ　⸢アー⸣ク　⸢ダー⸣メ [⸣joi ⸢ʃe:ra⸣ pu̥⸢su⸣ti: ⸣narunti ⸢ʔa:⸣ku ⸢da:⸣me:](お祝いをしてから早くも一年になろうとしているよ)。

プ⸢ス⸣ティー **[pu̥⸢su⸣ti:]** 【名】布の縦糸八本。プ⸢ス⸣パー [pu̥⸢su⸣pa:](布の縦糸二本) の四つ。⸢ユーパー [⸢ju:pa:](布の縦糸八本) をいう。⸢ヌーヌヌ⸣　カシ　⸢ユーパー⸣シル　プ⸢ス⸣ティーティ　ア⸢ゾーッタ⸣ル [⸢nu:nunu⸣ kḁʃi ⸢ju:pa:⸣ʃiru pu̥⸢su⸣ti:ti ʔa⸢ʣo:tta⸣ru](布の縦糸四パーで、プスティー＜縦糸 8 本＞と言われたものだ)。

プ⸢スティー **[pu̥⸢suti:]** 【名】ひとで (人手)。他人の手。他人の所有物。プ⸢スティー⸣　バ⸢タソーラ　ヤッ⸣サタンティン　⸣ドゥーマーラン　⸢カースモー⸣　マ⸢シ [pu̥⸢suti:⸣ ba⸢taso:ra jas⸣satantin ⸣du:ma:raŋ ⸢ka:sumo:⸣ ma⸢ʃi](人手に渡すよりは、値段が安くても身内に売るほうがましだ)。

プ⸢ストゥー⸣ル **[pu̥⸢sutu:⸣ru]** 【名】一通り。あらまし。一往。ひとわたり。プ⸢ストゥー⸣ロー　シ⸢ラ⸣ビ　⸣シケーンダ　マ⸢チガイ⸣ヤー　⸢ナーン⸣パジ [pu̥⸢sutu:⸣ro: ʃi⸢ra⸣bi ⸣ʃike:nda ma⸢ʧigai⸣ja: ⸢na:m⸣paʤi](一通りは調べてあるので間違いはないはずだ)。

プ⸢ス⸣トゥキ **[pu̥⸢su⸣tuki]** 【名】ひととき。いちじ (一時)。マ⸢ナマ⸣ヌ　プ⸢ストゥキ⸣ル　ア⸢ワ⸣レー　⸢スー⸣　ヤ⸢ラ⸣ベー　ユ⸢ドゥマ⸣ナー　フ⸢ドゥビス [ma⸢nama⸣nu pu̥⸢sutuki⸣ru ʔa⸢wa⸣re: ⸢su:⸣ ja⸢ra⸣be: ju⸢duma⸣na: ɸu⸢dubisu](今のひと時だけが難儀もするのだ。子供は間もなく＜時を淀《ヨド》まずに＞成長するものだ)。

プ⸢ス⸣トゥシ **[pu̥⸢su⸣tu̥ʃi]** 【名】1一年。「ひととせ (一年)」の義。プ⸢ス⸣トゥシ　フ⸢タトゥシェー⸣　ノー⸢シ⸣シン　ク⸢ラサリン [pu̥⸢su⸣tuʃi ɸu̥⸢tatuʃe:⸣ no:⸢ʃi⸣ʃiŋ ku⸢rasariŋ](一年、二年は何とかしてでも暮らせる)。プ⸢ス⸣トゥシナー　ム⸢ラキザロー　ギューチ⸣　ア⸢ロール⸣ワ [pu̥⸢su⸣tu̥ʃina: mu⸢rakiʣaro: gju:ʧi⸣ ʔa⸢ro:ru⸣wa](一年に村行事＜村の祭祀＞はいくつあります＜ございます＞か)。プ⸢ス⸣トゥシナ　キ⸢ザロー　ギューチ⸣　ア⸢ル⸣ワ [pu̥⸢su⸣tu̥ʃina ki⸢ʣaro: gju:ʧi⸣ ʔa⸢ru⸣wa](一年に祭祀行事はいくつあるか)。2ある年。先年。プ⸢ス⸣トゥシェータ　カ⸢ツブシヌ　ダイ⸣　ムティティ　イッ⸢ケナ　モーキラリ⸣タン [pu̥⸢su⸣tuʃe:ta kḁ⸢tsubuʃinu dai⸣ mutiti ʔik⸢kena mo:kirari⸣taŋ](ある年にはまた、カツオ節が高値をもって非常に儲かった)。プ⸢ス⸣トゥシェー　⸢ウーカジヌ⸣　フキ　プ⸢ス⸣トゥシェー　⸢ペーレーヌ⸣　シ⸢ジクタル⸣　ガ⸢シ　シェー⸣タツォー [pu̥⸢su⸣tuʃe: ⸢ʔu:kaʤinu⸣ ɸu̥ki pu̥⸢su⸣tu̥ʃe: ⸢pe:re:nu⸣ ʃi⸢ʤikutaru⸣ ga⸢ʃe: ʃe:⸣tatso:](ある年は暴風が吹き、ある年は旱魃《カンバツ》が続いたので飢饉《キキン》が起きた＜した＞のだそうだ)。

プ⸢ス⸣トン **[pu̥⸢su⸣toŋ]** 【名】ひとところ (一所)。同じところ。一箇所。プ⸢スン⸣トン [pu̥⸢sun⸣toŋ](一所) ともいう。ワ⸢ター⸣　ムー⸢ル⸣　プ⸢ス⸣トンナー　ビ⸢リ⸣バ [wa⸢ta:⸣ mu:⸢ru⸣ pu̥⸢su⸣tonna: bi⸢ri⸣ba](君達は皆一所＜一箇所＞に座れよ)。ナー⸢イ⸣　プ⸢ス⸣トンナ　カー⸢ニ　ベーラン⸣ドーシ　ウ⸢マーン⸣　カマーン　⸢ウー⸣キ　⸢マーリ⸣バ [na:⸢ji⸣ pu̥⸢su⸣tonna: ka:⸢ni be:ran⸣do:ʃi ʔu⸢ma:ŋ⸣ kama:m ⸢ma:ri ʔu:⸣kiba](ただ一カ所にだけいないで、あちらこちらにも動いて回りなさいよ)。

プ⸢スナミ **[pu̥⸢sunami]** 【名】人並み。ビ⸢キドゥモー⸣　ヤー　ス⸢クラバ⸣ル　プ⸢スナミテー⸣　ア⸢ザリル [bi⸢kidumo:⸣ ja: su̥⸢kuraba⸣ru pu̥⸢sunamite:⸣ ʔa⸢ʣariru](男は家を建てて始めて＜家を造らばこそ＞一人前＜人並み＞とは言われるものだ)。

プ⸢スナライ **[pu̥⸢sunarai]** 【名】人馴れ。ヤ⸢ラ⸣ベー　プ⸢スナライバ　シー⸣　プ⸢スン⸣　ダ⸢カリン [ja⸢ra⸣be: pu̥⸢sunaraiba ʃi:⸣ pu̥⸢sun⸣ da⸢kariŋ](子供は人馴れして、他人にも抱かれる)。ク⸢ヌ　イン⸣マー　イッ⸢ケナ⸣　プ⸢スナライ　シーブー [ku⸢nu ʔim⸣

ma: ʔikˈkenaˀ pu̥ˈsunarai ʃi:bu:](この犬は非常に人馴れしている)。人馴れすること。人に馴れること。クˈヌ　インˀマー　イッˈケナˀ　プˈスナライ　シーブ [kuˈnu ʔimˀma: ʔikˈkenaˀ pu̥ˈsunarai ʃi:bu:](この犬は非常に人馴れしている)。

プˈスナンˀカ [pu̥ˈsunaŋˀka] 【名】ひとなぬか (一七日)。初七日の法事。パˈチナンカ [pḁˈʧinaŋka](初七日の法事) ともいう。パˈチナンカトゥˀ　シンズコー　マイˈマイˀシ　ˈソーッˀタン [pḁˈʧinaŋkatuˀ ʃindʑuko: maiˈmaiˀʃi ˈso:tˀtaŋ](初七日の法事と四十九日の法事は大きくなさったものだ)。

プˈスˀニー [pu̥ˈsuˀni:] 【名】 (数) 一荷。一度に担いで運べる荷の量。ˀイダフニヌ　プˈスˀニー　タˈムˀヌ　ˀキシ　ˈカーシタ [ˀʔidaɸuninu pu̥ˈsuˀni: taˈmuˀnu ˀki̥ʃi ˈka:ʃi̥ta](サバニ一艘分の薪を切って売った)。

プˈスˀニビ [pu̥ˈsuˀnibi] 【名】一眠り。一睡。イˈソージブンˀ　ナルンケン　プˈスˀニビ　ˈシーˀバ [ʔiˈso:ʤibunˀ naruŋkem pu̥ˈsuˀnibi ˈʃi:ˀba](潮が引いて潮干狩り時分 < 潮時 > になるまで一眠りしなさいよ)。ˈスーˀヌ　ˀピスンケン　プˈスˀニベー　ˈシーティルˀ　ウˈキラリˀル [ˈsu:ˀnu ˀpi̥suŋkem pu̥ˈsuˀnibe: ˈʃi:tiruˀ ʔuˈkirariˀru](潮が引くまで一眠りしてから起きよう < 一眠りしてからぞ起きられる >)。

プˈスニンギン [pu̥ˈsuniŋgiŋ] 【名】人。人間。プˈスニンギンティˀ　マˈリ　ベーˀティ　ウˈヌˀ　アˈタルˀヌ　クˈトゥˀヌ　ナˈランˀティ　ˀクトー　ˈナーˀヌ [pu̥ˈsuniŋˀginti maˈri be:ˀti ʔuˈnuˀ ʔaˈtaruˀnu ku̥ˈtuˀnu naˈranˀti ˀku̥to: ˈna:ˀnu](人間として生まれていて、この程度のことができないということはない)。

プˈスニンˀギン [pu̥ˈsuniŋˀgiŋ] 【名】人。人間。「人人間」の義。プˈスニンˀギン　ˀタル　ムˈヌˀヌ　ドゥˈクドゥクˀ　アイブ　クˈトゥˀヌ　シˈラリワト ナー [pu̥ˈsuniŋˀgin ˀtaru muˈnuˀnu duˈkudukuˀ ʔaibu ku̥ˈtuˀnu ʃiˈrariwaɻna:](人間たるものが、よくもよくもあんなことが出来るものだねえ。< 出来はしないはずだが >)。

プˈスヌˀ　カˈタチ [pu̥ˈsunuˀ kḁˈtaʧi] 【連】人の形。人の恰好。プˈスヌˀ　カˈタチˀ　カーˈニル　シーベーˀル　ノーˈンˀ　ヤコー　タˈタˀヌ [pu̥ˈsunuˀ kḁˈtaʧiˀ ka:ˈniru ʃi: be:ˀru no:ˈɲˀ jako: tḁˈtaˀnu](人間の恰好だけ < が > している、何の役にもたたない)。

プˈスˀヌキ [pu̥ˈsuˀnuki] 【名】貫いて作った物を数える単位。「ひとぬき < 一貫き >」の義。ˈシーˀシダマ　プˈスˀヌキ　スˈクˀリティ　ˀヌビナー　パˈカシˀバ [ˈʃi:ˀʃidama pu̥ˈsuˀnuki su̥ˈkuˀriti ˀnubina: pḁˈkaʃiˀba](数珠玉 <ˈつしだま」の義か > を一貫き作って首にはかせなさいよ)。

プˈスヌシトゥル [pu̥ˈsunuʃi̥turu] 【名】人さらい (人攫(ヒトサライ))。「人盗人」の義。ˈユーˀル　ˀナルカー　プˈスヌシトゥルヌˀ　ンˈジˀルンティバ　ヤˈラˀベー　ミˈチェーˀ　ンˈジルˀナˈヨー [ˈju:ˀru ˀnaruka: pu̥ˈsunuʃi̥turunuˀ ʔnˈʤiˀruntiba jaˈraˀbe: miˈʧe:ˀ ʔnˈʤiruˀnaˈjo:](夜になると人さらいが出るというから、子供は道に出るなよ)。

プˈスヌˀ　シマ [pu̥ˈsunuˀ ʃima] 【連】異郷。「人の島」の義。プˈスンˀシマ [pu̥ˈsuŋˀʃima](異郷) ともいう。プˈスンˀシマ　ˀパルカー　ウˈヌˀ　シˈマˀヌ　ˀナライ　ˈサンˀカー　ナˈラˀヌ [pu̥ˈsuŋˀʃima ˀparuka: ʔuˈnuˀ ʃiˈmaˀnu ˀnarai ˈsaŋˀka: naˈraˀnu](異郷 < よその村 > へ行ったら、その島 < 村 > の習いをしなければならない)。

プˈスヌˀ　タˈマˀシ [pu̥ˈsunuˀ taˈmaˀʃi] 【連】人魂。人の魂。マˈブˀル [maˈbuˀru] ともいう。タˈマˀシ [taˈmaˀʃi](魂) には、イˈキˀダマ [ʔiˈkiˀdama](いきすだま <生霊(セイレイ)>) とˈユーˀリー [ˈju:ˀri:](幽霊(ユウレイ)。死霊) がいる。人の生霊が肉体から抜け出すと肉体は浮遊してさ迷い歩くといわれている。そこで、マˈブˀルクミ [maˈbuˀrukumi](霊魂籠め) の儀式が行われた。

プˈスヌˀ　バチ [pu̥ˈsunuˀ baʧi] 【連】他人に対する悪事の報い。たたり。プˈスヌˀ　バチェー　サˈラˀヌ　パˈタ　マーラヌ [pu̥ˈsunuˀ baʧe: saˈraˀnu pḁˈta ma:ranu](他人の罰はすぐにやってくる < 皿の縁を回らない >)。

プˈスˀパー [pu̥ˈsuˀpa:] 【名】 (数) 歯一本。ˀパー　プˈスˀパー　カˈカイ　シティナーˀヌ [ˈpa: pu̥ˈsuˀpa: kḁˈkai ʃi̥tina:ˀnu](歯を一本欠いてしまった)。

プˈスˀパー [pu̥ˈsuˀpa:] 【名】 (数) ひとは (一葉)。葉一枚。フˈクンヌ　パーˀ　プˈスˀパー　カˈカイˀ　クーバ [ɸu̥ˈkunnupa:ˀ pu̥ˈsuˀpa: kḁˈkaiˀ ku:ba](福木の葉を一枚 < 一葉 >挽(モイ)できなさいよ)。クˈバヌパーˀ　プˈスˀパーシ　シˈル　ピーˀチ　スˈクラˀリン [kuˈbanupa:ˀ pu̥ˈsuˀpa:ʃi ʃiˈru piːˀʧi su̥ˈkuraˀriŋ](蒲葵(クバ)の葉一枚で蒲葵の葉の釣瓶(ツルベ)が一つ作れる)。

プˈスˀパー [pu̥ˈsuˀpa:] 【名】布の縦糸二本。ˈユーパーˀシ　プˈスˀティー　ˀナル　ˀシジ [ˈju:paːˀʃi pu̥ˈsuˀti: ˀnaruʃiʤi](< 織糸 >4 パーで 1 ティー <8 本 > になるわけだ)。

プˈスバーˀキ [pu̥ˈsubaːˀki] 【名】 (数) ざる一杯。ひ

とざる (一笊)。˺ユベー　イ˞ガメーラ˺　プ˞スバー˺キ　イ˞ガバ　ホー˺シケーン [˺jube: ʔi˞game:ra˺ ʔi˞gaba˺ pu̥˞suba:˺ki ˞ho:˺ʃike:ŋ](昨夜は烏賊釣り漁から一笊の一杯イカを釣ってきた)。

プ˞スバカ˺ヤン [pu̥˞subaka˺jaŋ] 【形】恥ずかしい。世間に対して恥ずかしい。世間体が悪い。「人恥ずかしい」の義。˺アイニ　˞アイカーフン˺カー　˞スー˺カー　プ˞スバカヤ˺ヌ　˺シキンラー　˺シラー　˺ムティ　ア˞ラカラ˺ヌ [˺ʔaini ˞ʔaika:ɸuŋ˺ka: ˞su: ˺ka: pu̥˞subakaja˺nu ˺ʃi̥kinra: ˺ʃira: ˺muti ʔa˞rakara˺nu](あんなに喧嘩口論をしていると恥ずかしくて世間から顔を持って歩かれない)。プ˞スバカ˺ヤン　ア˞リ˺ブンドゥ　プ˞スバカヤー　ナー˺ヌティ　˞バーキ˺ル　ア˞ザリル [pu̥˞subaka˺jaŋ ʔa˞ri˺bundu pu̥˞subakaja: na:˺nuti ˞ba:ki˺ru ʔa˞ɕariru](恥ずかしくもあるが、恥ずかしくないとしか言えない＜恥ずかしくないとまでが言われる＞)。ウ˞リ˺　ス˞ク˺カー　ター˞ン˺　プ˞スバカヤー˺　ナ˞リ˺ス [ʔu˞ri˺ su̥˞ku˺ka: ta:˞m˺ pu̥˞subakaja:˺ na˞ri˺su](それを聞くと誰でも恥ずかしくなるよ)。ノー˞ン˺　プ˞スバカ˺ヤー　˺クトー　˞ナー˺ヌ [no:˞m˺ pu̥˞subaka˺ja: ˺ku̥to: ˞na:˺nu](何も恥ずかしいことはない)。プ˞スバカヤナー˺ナ　˺アイブ　ク˞トゥ˺ヌ　シ˞ラリラー＜シ˞ラリワー＞[pu̥˞subakajana:˺na ˺ʔaibu ku̥˞tu˺nu ʃi˞rarira:＜ʃi˞rariwa:＞](恥ずかしくもなく、よくもあんなことが出来るものだ)。プ˞スバカヤ˺ヌ　ク˞レー˺　キ˞シ˺　パ˞ララ˺ヌ [pu̥˞subakaja˺nu ku˞re:˺ ki̥˞ʃi˺ pa˞rara˺nu](恥ずかしくて、これは着て行かれない)。プ˞スバカ˺ヤンテー　ウ˞モー˺ヌ [pu̥˞subaka˺jante: ʔu˞mo:˺nu](恥ずかしいとは思わない)。˺アイブ　ク˞トゥ˺バ　˞シー˺　プ˞スバカヤ˺ヌ　マー˞ン˺　パ˞ララ˺ヌ [˺ʔaibu ku̥˞tu˺ba ˞ʃi:˺ pu̥˞subakaja˺nu ma:˞m˺ pa˞rara˺nu](あんなことをして、気恥ずかしくて何処へも行かれない)。プ˞スバカ˺ヤン　˞ナー˺ン　ブ˞リン˺ギサバン [pu̥˞subaka˺jan ˞na:˺m bu˞riŋ˺gisabaŋ](気恥ずかしくもないようだ＜気恥ずかしくもなくているようだ＞)。

プ˞スパカリ˺ムシ [pu̥˞supakari˺muʃi] 【名】(動) 虫の名。シャクトリムシ (尺取虫)。「人測り虫」の義。尺取虫が人の身長を測ったら、測られた人は死ぬといわれて子供達はそれを恐れた。ガ˞ジ˺マル [ga˞ɕi˺maru](ガジマル。榕樹) やイ˞ツァン˺パイキー [ʔi˞tsam˺paiki:](まさき＜柾＞) によくつく虫である。イ˞ツァン˺パイキーナー　˺ユー　プ˞スパカリムシ˺ヌ　シ˞ドゥ˺タン [ʔi˞tsam˺paiki:na: ˺ju: pu̥˞supakarimuʃi˺nu ʃi˞du˺taŋ](まさき＜柾＞によく尺取虫が発生＜孵化(フカ)＞した)。

プ˞スパジ [pu̥˞supaɕi] 【名】世間に対して恥じること。面目を失うこと。「人恥」の義。ウ˞リ˺ナー　プ˞スパジ˺ティ　˞スームノー˞　ナー˺ヌ [ʔu˞ri˺na: pu̥˞supaɕi˺ti ˞su:muno:˞ na:˺nu](彼には世間に対して恥じる気持ちがない)。プ˞スパジ˺　カ˞キ˺ルン [pu̥˞supaɕi˺ kḁ˞ki˺ruŋ](人様に恥をかける)。

プ˞ス˺バタ [pu̥˞su˺bata] 【名】動物の一回の妊娠。「一腹」の義。˺アヒャーオーヤ　プ˞ス˺バタシ　˞トゥッカラナー˺　ッ˞ふァ˺　ナスン [˺ʔaça:ʔo:ja pu̥˞su˺bataʃi ˞tukkarana:˺ f˞fa˺ nasuŋ](繁殖用母豚は一回の妊娠＜一腹＞で十匹ずつ子豚を生む)。

プ˞スパダ [pu̥˞supada] 【名】一人前の年頃。青年期。プ˞ス [pu̥˞su](人。一人前の人) と、˺パダ [˺pada](時期) の合成語。プ˞スパダ˺　シ˞キ˺ルン [pu̥˞supada˺ ʃi̥˞ki˺ruŋ](青年期になる)。プ˞スパダー　ナーン˺　ム˞ヌ˺ヌ　ウ˞ブムニ˺バ　イ˞ジ　アー˺ク [pu̥˞supada: na:m˺ mu˞nu˺nu ʔu˞bumuni˺ba ʔi˞ɕi ʔa:˺ku](嘴(クチバシ)の黄色い者＜一人前でない者＞が大きなことを抜かして＜しゃべって＞いる)。

プ˞ス˺パダ [pu̥˞su˺pada] 【名】一頃。一時期。ウ˞レー˺　プ˞ス˺パダー　˞サンシン˺ナ　˞ニン˺バ　イ˞リブタヌ˺　マ˞ナ˺マー　ア˞ティン˺クティン　˞ナー˺ヌ [ʔu˞re:˺ pu̥˞su˺pada: ˞saŋʃin˺na ˞nim˺ba ʔi˞ributanu˺ ma˞na˺ma: ʔa˞tiŋ˺kutin ˞na:˺nu](あれ＜彼＞は、一時期は三味線に夢中だった＜念を入れていた＞が、今は何の関心＜音沙汰＞もない)。

プ˞ス˺パナ [pu̥˞su˺pana] 【名】ひところ (一頃)。ある時期。一時期。ミ˞ドーン˺ッふァヌ　ア˞サビパナー˺　プ˞スパナ˺ドゥ　ヤ˞リバ˺　ウ˞ムイ˺キシ　ア˞サバシ˺バ [mi˞do:ŋ˺ffanu ʔa˞sabipana:˺ pu̥˞supana˺du ja˞riba˺ ʔu˞mui˺ki̥ʃi ʔa˞sabaʃi˺ba](女の子の遊ぶ年頃はほんの一時期だから、思いっきり遊ばせなさいよ)。プ˞ス˺パナー　ブ˞ドゥル˺ナ　˞ニン˺イリ　˞シーブタン [pu̥˞su˺pana: bu˞duru˺na ˞niŋ˺ʔiri ˞ʃi:butaŋ](一時期は踊りに夢中になって＜念入りにして＞いた)。ク˞ヌ˺　マ˞チヤーヤ˺　プ˞ス˺パナー　サ˞カリ˺　ブ˞タンドゥ˺　マ˞ナ˺マー　サ˞ボーリ　ナー˺ヌ [ku˞nu˺ ma˞ʧija:ja˺ pu̥˞su˺pana sḁ˞kari˺ bu˞tandu˺ ma˞na˺ma: sa˞bo:ri na:˺nu](この店は一時期栄えていたが今は寂びれてしまった)。

プ˞スバラーシムヌ [pu̥˞subara:ʃimunu] 【名】滑稽な者。「人笑わせ者」の義。˞テーファー˺ムヌ [˞te:ɸa: ˺munu](滑稽な者。粗忽者。冗談をいう者) ともい

う。ˈスバラーシムヌヌ　シーˈヨー　ˈミルカー　バˈライルˈ　サˈリル [pu̥ˈsubaraːʃimununu ʃiːˈjoːˈ miruka: baˈrairuˈ saˈriru](滑稽な者のしぐさを見ると笑わすにはおれない＜笑いぞされる＞)。

ˈスバライムヌ [pu̥ˈsubaraimunu] 【名】人を笑う者。揚げ足を取る者。皮肉屋。ウˈレーˈ　ˈスバライムヌˈ　ヤˈルンダˈ　イˈチルˈ　フˈシˈ　ヌˈクˈティ　カˈマイˈル　ˈブー [ʔuˈreːˈ pu̥ˈsubaraimunuˈ jaˈrundaˈ ʔiˈtʃiruˈ ɸu̥ˈʃiˈ nuˈkuˈti kaˈmaiˈru ˈbuː](彼は皮肉屋＜人を笑う者＞だから、いつ他人の欠点を取り上げよう＜難癖を突こう＞かと待ち構えている)。

ˈスビー [pu̥ˈsubiː] 【名】人疲れ。人との対応や付き合いなどで疲れること。「人酔い」の義。ˈスビーバ　シーˈ　スˈブルˈヌ　ˈヤミ　ナˈラˈヌ [pu̥ˈsubiːba ʃiːˈ suˈburuˈnu ˈjami naˈraˈnu](人疲れ＜人酔い＞して頭が痛くて堪らない)。

ˈスˈピサ [pu̥ˈsuˈpi̥sa] 【名】一足。履き物の左右一揃え。一組。ˈピサ [ˈpisa](〜足) は、一組のものを数える単位。アˈダンˈパーサバ　ˈスˈピサ　ˈフミッˈふォーッˈタン [ʔaˈdamˈpaːsaba pu̥ˈsuˈpisa ˈɸumi fˈfoːtˈtaŋ](アダン葉草履を一足＜一組＞編んでくださった)。フˈタピサ [ɸu̥ˈtapisa](二足)。ˈミーピサ [ˈmiːpi̥sa](三足)。

ˈスピライ [pu̥ˈsupirai]【名】交際。付き合い。「人付き合い」の義。ウˈレーˈ　サˈキンˈ　ヌˈマˈンダ　ˈスピライヤ　ワッˈサン [ʔuˈreːˈ sḁˈkinˈ nuˈmaˈnda pu̥ˈsupiraija wasˈsaŋ](彼は酒も飲まないから付き合いは悪い)。ウˈトゥザマリティン　オーリˈル　ˈブー　ˈスピライ　シーサンˈカー　ˈヌーˈスワ　ˈメー [ʔuˈtudʑamaritiŋ ʔoːriˈru ˈbuː pu̥ˈsupirai ʃiːsaŋˈkaː ˈnuːˈsuwa ˈmeː](親戚とてもおられるのであって、人付き合いが出来なければどうするのだ)。ˈクンˈネーヤ　イッˈケナˈ　ˈスピライヌ　スーˈワル　ˈヤー　ˈヤッタ [ˈkunˈneːja ʔikˈkenaˈ pu̥ˈsupirainu suːˈwaru ˈjaː ˈjatta](この家は非常に人付き合いの多い＜強い＞家だった)。クˈヌˈ　ッˈふァーˈ　ˈスピライヌ　ゾーˈジ [kuˈnuˈ fˈfaːˈ pu̥ˈsupirainu dʑoːˈ dʑi](この子は人付き合いが上手だ)。ˈスピライ　シーユーサヌ [pu̥ˈsupirai ʃiːjuːsanu](人付き合いできない)。

ˈスˈフキ [pu̥ˈsuˈɸu̥ki] 【名】 (数) 一息。一気。「一吹き」の義。ˈロースクˈヌ　ˈピーˈヤ　ˈスˈフキシ　ˈケーシˈバ [ˈroːsu̥kuˈnu ˈpiːˈja pu̥ˈsuˈɸu̥kiʃi ˈkeːʃiˈba](ローソクの火は一息＜一吹き＞で消しなさいよ)。

ˈスˈフキ [pu̥ˈsuˈɸu̥ki] 【名】 (数) 若芽一本。一茎。ˈユシキˈヌ　ˈフキ　ˈスˈフキ　ˈブリ　ˈクーバ [ˈjuʃi̥kiˈnu ˈɸu̥ki pu̥ˈsuˈɸu̥ki ˈburi ˈkuːba](ススキの茎を一茎＜茎一本＞折って来なさいよ)。

ˈスフキˈルン [pu̥ˈsuɸukiˈruŋ] 【自動】ずり落ちる。抜け落ちる。網の目から抜け落ちる。ˈアンˈヌ　ˈミーˈヌ　ˈマイˈヤカー　イˈゾーˈ　ˈスフキˈルンˈダー [ˈʔanˈnu ˈmiːˈnu ˈmaiˈjaka: ʔiˈdʑoːˈ pu̥ˈsuɸukiˈrunˈdaː](網の目が大きいと魚はくぐり抜けていくよ)。ˈスフキラˈヌティ　ウˈムータンˈドゥ　ˈスフキˈ　パリ　ˈナーˈヌ [pu̥ˈsuɸukiraˈnuti ʔuˈmuːtanˈdu pu̥ˈsuɸukiˈ pari ˈnaːˈnu](抜け落ちないと思ったが、抜け落ちていってしまった)。クˈヌˈ　ミーラ　ˈスフキルˈ　クトー　ˈナーンˈパジ　ˈダーˈヌ　ˈスフキレーˈ　ミサムヌティン　ウˈモーˈリンˈダー [kuˈnuˈ miːra pu̥ˈsuɸukiruˈ ku̥toː ˈnaːmˈ padʑi ˈdaːˈnu pu̥ˈsuɸukireːˈ misamunutiŋ ʔuˈmoːˈrin ˈdaː](この網目から抜け落ちることは無いだろうが、抜け落ちれば良いのにとも思われるよ)。ˈスフキˈリ [pu̥ˈsuɸukiˈri](抜け落ちれ)。

ˈスˈフクン [pu̥ˈsuˈɸu̥kuŋ]【名】(数) 一含み。口中に一度含むこと。「一含み」の義。ンˈガフチˈロー　ˈスˈフクンシ　ヌˈミバˈル　ヌˈミヤッˈサ [ʔŋˈgaɸu̥tʃiˈroː pu̥ˈsuˈɸu̥kuŋʃi nuˈmibaˈru nuˈmijasˈsa](苦い薬は一気＜一含み＞に飲んだ方が飲みやすい)。

ˈスˈフシ [pu̥ˈsuˈɸu̥ʃi] 【名】一癖。ターˈンˈナーン　ˈスˈフシ　ˈフタフシェー　アˈリˈル　ˈブー [taːˈnˈnaːm pu̥ˈsuˈɸu̥ʃi ˈɸu̥taɸu̥ʃeː ʔaˈriˈru ˈbuː](誰にも一癖二癖はあるものだ)。

ˈスˈブシ [pu̥ˈsuˈbuʃi]【名】1(数) ひとふし (一節)。ˈパイフケーˈ　タˈキヌˈ　ブシ　ˈスˈブシ　ˈクミティル　スˈクˈル [ˈpaiɸu̥keːˈ tḁˈkinuˈ buʃi pu̥ˈsuˈbuʃi ˈkumitiru su̥ˈkuˈru](煙草の吸殻を入れる灰吹きは竹の節を一節籠(ゴ)めて作るのだ)。竹や砂糖黍などの一節。ˈスˈブシ [pu̥ˈsuˈbuʃi](一寸。一節)。フˈタブシ [ɸu̥ˈtabuʃi](二寸。二節)。ˈミーブシ [ˈmiːbuʃi](三寸。三節)。ˈユーブシ [ˈjuːbuʃi](四寸。四節)。ˈシンˈザ　ˈスˈブシ　ˈブリ　カˈマˈシ [ˈʃinˈdʑa pu̥ˈsuˈbuʃi ˈburi kaˈmaˈʃi](砂糖黍を一節折って食べさせなさい)。2一寸。普通は中指の関節一節の長さをいう。ウˈヌ　ナイˈヤー　ˈスˈブシブカラー　シˈミˈリ [ʔuˈnu naiˈija: pu̥ˈsuˈbuʃibukara: ʃiˈmiˈri](その長さは一寸＜一節＞ほど短くせよ＜詰めれ＞)。一寸。人差し指の第一関節から第二関節までの長さ。3音曲の

一曲。パ゚トゥマナカムリ　プ゚スブシェー　ピ゚キティ　ザー　プ゚ミカシバ [pḁˀtuˀmanakamuri pu̥ˀsuˀbuʃe: pi̥ˀkitiˀ ʤa: puˀmikaʃiˀba](鳩間中岡 < 鳩間節 > の一曲を三線で弾いて一座を賑わせよ。<゚ほめく」Fomeqi、u、eita。燥(カワ)き、く、いた。～身が燥く。からだが熱い >『邦訳日葡辞書』)。

プ゚スフチ [pu̥ˀsuˀɸu̥ʧi] 【名】ひと口。一口。プチロー　プ゚スフチシ　ゴン゚ティ　ヌミバ [ɸu̥ˀʧiˀro: pu̥ˀsuˀɸu̥ʧiʃi gonˀtiˀ numiba](薬は一口でごくっと飲みなさいよ)。プ゚スフチェー　ク゚リン　ッ゚ふァイ　ミリ゚ミー [pu̥ˀsuˀɸu̥ʧe: kuˀriŋˀ fˀfaiˀ miriˀmi:](一口はこれも食べてごらんよ < 食べてみてみよ >)。

プ゚スブリ [pu̥ˀsuˀburi] 【名】一群れ。カ゚ジヌ　フクカー　゚ナンマー　プ゚スブリ　プタブリティ　゚シー　ブ゚レー　ス゚クリル　゚ユーシ　クー゚ダー [kaˀʤinuˀ ɸu̥kuka: ˀnamˀma: pu̥ˀsuˀburi ɸu̥ˀtaburiˀti ˀʃi:ˀ buˀre:ˀ su̥ˀkuriˀru ˀju:ʃiˀ ku:ˀda:](台風が吹くと波は一群れ二群れと群れを作って寄せてくるのだよ)。

プ゚スマ [pu̥ˀsuma] 【名】昼間。お昼。正午ごろから二時ごろ。「Firuma. ヒルマ (昼間)　すなわち、Firuno aida(昼の間)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ア゚ツァヌ　プ゚スマー　ヌースワ [ʔaˀtsaˀnu pu̥ˀsuma: nu:ˀsuwa](明日のお昼は何をするか)。プ゚スマティダー　ビールンダ　シ゚グトー　ナ゚ラヌ [pu̥ˀsumatida: bi:ˀrunda: ʃiˀgutoˀ naˀraˀnu](真昼の太陽の熱気には、ふらつくほどに酔うから、仕事は出来ない)。

プ゚スマ [pu̥ˀsuma] 【名】ふすま (襖)。からかみ。「Fusumaxoji. フスマシヤゥウジ (襖障子)　戸の一種で、その表も裏も全部紙で張ったもの」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。ヤ゚ラビヌ　゚ブー　ヤーヤ　プ゚スマヌ　ヤ゚ブリン　゚ノーシマーキル　゚ブー [jaˀrabiˀnu ˀbu: ja:ˀja pu̥ˀsumanuˀ ja ˀbuˀrin ˀno:ʃima:kiˀru ˀbu:](子供のいる家は、襖の破れも直しかねて < ぞ > いる)。プ゚スマヌ　サンブリ　゚ナーヌ [pu̥ˀsumanuˀ sam ˀburi ˀna:ˀnu](襖の桟を折ってしまった)。障子の場合は、゚ソージヌ (ア゚カルヌ)　プニ [ˀso:ʤinu(ʔaˀkarunu)ˀ puni](障子の骨) という。

プ゚スマー [pu̥ˀsuma:] 【名】正午。昼間。日中。プ゚スマー　ナ゚ランケンナ　゚ギーッティ　クー゚ディー [pu̥ˀsuma:ˀ naˀraŋˀkenna: ˀgi:ttiˀ ku:ˀdi:](正午にならないうちに行ってこようよ)。プ゚スマーウチェー　ヤーナーティル　シ゚グトー　スー [pu̥ˀsuma:ʔutʃe:ˀ ˀja:ˀna:tiru ʃiˀguto: su:](昼間内 < 正午から二時頃まで > は家で仕事をする)。

プ゚スマーラシヤー [pu̥ˀsuma:raʃija:] 【名】死人の出た家。葬式を出す家。「人の亡くなられた家」の義。プ゚スマーラシヤーヤ　パ゚ルミプソー　パ゚ラソーランシェン [pu̥ˀsuma:raʃija:jaˀ paˀrumiˀpu̥so: paˀraˀso:raŋʃeŋ](人の亡くなられた家には、妊娠した人は行かされなかった)。

プ゚スマール [pu̥ˀsuma:ˀru] 【名】 1一周。「一回り」の義。゚ターマール　プ゚スマール　゚シー　クーバ [ˀta:ma:ˀru pu̥ˀsuma:ˀru ˀʃi:ˀ ku:ba](水田の見回りを一回りして来なさい)。2干支で生まれ年が一巡してくる間 (12 年間)。゚ワーットゥ　バントー　トゥシェー　プ゚スマール　チ゚ガウント゛ダー [ˀwa:ttu banˀto: ˀtuʃe: pu̥ˀsuma:ˀru ʧiˀgaunt゛da:](君と私は、年齢は一回り違うよ)。一回り。一巡。ク゚レー　バーラン　プ゚スマーロー　゚ウシトゥ [kuˀre:ˀ ba:ram pu̥ˀsuma:ˀro: ˀʔuʃi̥ˀtu](この人は < これは > 私より一回り年下 < 弟 > だ)。プ゚スマーレー　゚ターマールン　゚シーティ　クータル [pu̥ˀsuma:ˀre: ˀta:ma:ˀruŋ ˀʃi:ti ku:taˀru](一回りは、水田の見回りもしてきたよ)。

プ゚スマアトゥ [pu̥ˀsumaˀʔatu] 【名】午後三時以降。「正午後」の義。プ゚スマアトゥヌ　シ゚グトゥヌ　ダンドゥレー　゚シェーンカヤー [pu̥ˀsumaʔatuˀnu ʃiˀgutunu danˀdure: ˀʃe:ŋˀkaja:](正午後の仕事の準備、手順 < 段取り > はつけてあるのかな)。

プ゚スマイ [pu̥ˀsumai] 【名】人前。公衆の面前。カイブ　シ゚タフシェー　プ゚スマイヤー　ン゚ジララヌ [ˀkaibu ʃi̥ˀtaˀɸu̥ʃe: pu̥ˀsumaija:ˀ ʔnˀʤiraraˀnu](こんな服装では人様の前には出られない)。ウ゚ヌス゚クヌ　シゥ゚カラシェー　プ゚スマイナー　タ゚タラヌ [ʔuˀnuˀ su̥ˀkuˀnu si̥ˀkaraˀʃe: pu̥ˀsumaiˀna: tḁˀtaraˀnu](その程度の力では人前には立たれ < 立て > ない)。

プ゚スマウチ [pu̥ˀsumaʔutʃi] 【名】正午ごろから二時ごろまで。「昼間内」の義。プ゚スマウチェー　ユークイティ　プ゚スマアトーラ　シ゚グトゥ　シーバ [pu̥ˀsumaʔutʃe: juˀkuiti pu̥ˀsumaˀʔato:ra ʃiˀgutu ʃi:ˀba](昼間内は休んで < 憩うて > 昼間後から仕事をしなさい)。

プ゚スマカル [pu̥ˀsumakaˀru] 【名】(数) 一椀。飯椀、汁椀などの一椀。゚ウンネー　パルカー　゚マイヌイー　プ゚スマカル　ッ゚ふァーソーッタン [ˀʔunˀne:

゜paruka: ゚mainu゜ʔi: pu゚̥sumaka゜ru f゚fa:so:t゜taŋ](あの家に行くとお米のご飯をお椀の一杯 < 一椀 > 食べさせてくださった < 食わされなさった >)。

プ゚ス゜マキ [pu゚̥su゜maki] 【名】(数) 豚小屋の一区画。各家庭では屋敷の北西の隅に、二区画に仕切られた豚小屋が設置されていた。豚舎は、幅約 15 センチ、高さ約 20 センチ、長さ約 40 センチの砂岩や石灰岩を積み上げて造られていた。゚オー゜ヌ　マ゚ケーヤーカー゜ジ　プタマキナー゜　ア゚リ゜ブタル [゚ʔo:゜nu ma゚ke: ja:ka:゜ʤi ɸu゚̥tamakina:゜ ʔa゚ri゜butaru](豚舎は家毎に二区画ずつ設置されていた < ありおった >)。

プ゚ス　マサー゜ン [pu゚̥su masa:゜ŋ] 【連】正直者である。「人・正し」の転訛。「当、マサシ」『類聚名義抄』の義。ウ゚レー゜　イッ゚ケナ゜　プ゚ス　マサー゜ンダ　ウ゚リン゜　タ゚ナ゜ムカー　゚ソーヤ　ナー゜ヌ [ʔu゚re:゜ ʔik゚kena゜ pu゚̥su masa:゜nda ʔu゚rin゜ ta゚na゜muka: ゚so:ja na:゜nu](彼は非常に正直者であるから、彼に頼めば心配はない)。

プ゚スマサル [pu゚̥sumasaru] 【名】人に勝っていること。他人よりも優れていること。「人勝り」の義。゚クン゜ネナー　プ゚スマサルヌ　マイフナーヌ゜　マ゚リ゜ケーン [゚kun゜nena: pu゚̥sumasarunu maiɸuna:nu゜ ma゚ri゜ke:ŋ](この家に他人に優れた立派な男が誕生してきたよ)。

プ゚ス゜マシ [pu゚̥su゜maʃi] 【名】水田一枚。水田の一区切り。゜マシ [゜maʃi](枡) は方形に区切った水田のこと。ウ゚ブ゜マシ [ʔu゚bu゜maʃi](大きな田圃一枚)。マ゚シェー゜マ [ma゚ʃe:゜ma](小さな水田)。プ゚ス゜マシェー　゚トー゜サ　゜トゥレーン [pu゚̥su゜maʃe: ゚to:゜sa゜ ture:ŋ](水田一枚は田草を取り終えた)。

プ゚スマジブン [pu゚̥sumaʤibuŋ] 【名】昼食時分。正午から午後一時、二時ごろ。゜アシジブン [゜ʔaʃiʤibuŋ](昼食時分) ともいう。プ゚スマジブンマー゜　パ゚タ゜ケーラ　゚キー゜シバ　゚ウン゜　マ゚ニヤー゜シ　゜クーバ [pu゚̥sumaʤibumma:゜ pḁ゚ta゜ke:ra ゚ki:゜ʃiba ゚ʔum゜ ma゚nija:゜ʃi ゜ku:ba](昼食時分には畑から来るから、その時に間に合わせて来いよ)。

プ゚スマチガイ [pu゚̥sumatʃigai] 【名】人違い。「人・間違い」の義。ウ゚レー゜プ゚スマチガイバ゜　シ゚ラリティ゜　スズー゚コ゜　イ゚ザレーン゜ティ　゚ダー゜　[ʔu゚re:゜ pu゚̥sumatʃigaiba゜ ʃi゚rariti゜ suʤu:゚ko゜ ʔi゚ʤare:n゜ti゚da:](彼は人違いされて, したたかに叱られたそうだよ)。

プ゚スマティ [pu゚̥sumati] 【名】人待ち。人を待つこと。プ゚スマティヌ゜　プ゚リムヌ゜ティル　ム゚カ゜シェーラ　ア゚ザリ　ブー゜ティムカーヤ [pu゚̥sumatinu゜ pu゚rimunu゜tiru mu゚ka゜ʃe:ra ʔa゚ʤari bu:゜timuka:ja](「人待ちすることは馬鹿のすることだ」と昔から言われていることだよ)。

プ゚ス゜マドゥ [pu゚̥su゜madu] 【名】ひととき。一時。ひまの時。「ひと・間遠」の義か。プ゚ス゜マドー　ニ゚ビティ　ユー゜クイバ [pu゚̥su゜mado: ni゚biti ju:゜ kuiba](一時は寝て休み < 憩い > なさいよ)。プ゚ス゜マドーンツァンン　シ゚グトー゜　サ゚バル゜　ティマー　゚イーラ゜リ [pu゚̥su゜mado:ntsaŋ ʃi゚guto:゜ sa゚baru゜ tima: ゚ʔi:ra゜ri](一時でも仕事をしてはじめて手間賃は貰えるというものだ)。

プ゚スマニビ [pu゚̥sumanibi] 【名】昼寝。「昼間寝」の義。夏の盛りの真昼間は、暑くて畑仕事が出来ないから老人たちは、゚ヨーコイ [゚jo:koi](「夕影」の義か。午後の 3 時頃) になるまで、風通しのよい木の下や家の縁側などで、よく昼寝をした。゜ドゥク　プ゚スマニビ　スー゜カー　゚クンキブラーリ　スン゜ダー [゜duku pu゚̥sumanibi su:゜ka: ゚kuŋkibura:ri sun゜ da:](あまり昼寝すると、根気が失せてふらつくよ)。

プ゚スマムヌ [pu゚̥sumamunu] 【名】昼飯。「昼間もの」の義。プ゚スマ゜イー [pu゚̥suma゜ʔi:](昼食) ともいう。普通は、゜アシ [゜ʔaʃi](昼食。「あさいひ (朝飯)」の転訛したものか。これによれば、昔は昼近くに朝食を取っていて、一日二食であったことを意味する) という。プ゚スマムノー゜　ッ゚ふァイティル゜　パ゚ラリ゜ル [pu゚̥sumamuno:゜ f゚faitiru゜ pa゚rari゜ru](昼食をとってからでないと行かれない。< 昼食を取ってぞ行かれる >)。

プ゚スマユークイ [pu゚̥sumaju:kui] 【名】昼休み。「昼間憩い」の転訛。プ゚スマユークイヌ゜　アトー　ユネン゚バー゜ケー　゚ギーバリバル゜　ナル [pu゚̥suma-ju:kuinu゜ ʔato: junem゚ba:゜ke: ゚gi:baribaru゜ naru](昼休みの後は夕方までは頑張らないといけない < 気張ればぞなる >)。

プ゚スマラ゜キ [pu゚̥sumara゜ki] 【名】ひとまろぎ (一丸ぎ)。稲束 30 束を一まとめにしたもの。゚マイ゜　プ゚スマラ゜キ [゚mai゜ pu゚̥sumara゜ki](稲束一まろぎ <30 束 >)。゚マイ゜　プ゚スマラ゜キシ　゚ミーヤ　ナン゜ス　ン゚ジル゜ワ [゚mai゜ pu゚̥sumara゜kiʃi ゚mi:ja nan゜su ʔn゚ʤiru゜wa](稲一丸ぎ <30 束 > で実は何升でる < 取れる > か)。

プ゚ス゜ミー [pu゚̥su゜mi:] 【名】1一目 (一睡)。゚ミー　コ

ーˉリティ　プ˞スˉミーンツァン　ニ˞バランシェン [˞mi: koːˉriti pu̥˞suˉmiːntsan ni˞baranʃeŋ](目が冴えて＜強張って＞一睡すらもできなかった＜一目さえも眠られなかった＞)。²一瞥(イチベツ)すること。一目見ること。プ˞スˉミー　ˉミルカー　ˉアトー　ミ˞ランˉタンティン　ッ˞シェーˉン [pu̥˞suˉmiː ˉmiruka: ˉʔato: mi˞ranˉtantiŋ ʃ˞ʃeːˉŋ](一目見ると、後は見なくても分かる＜知っている＞)。シン˞トゥˉ　プ˞スミーˉル　ミ˞ラリˉタ [ʃin˞tuˉ pu̥˞sumiːˉru mi˞rariˉta](たった一目しか見えなかった＜一瞥しかできなかった＞)。プ˞スˉミーンツァン　ˉミリティル　˞ヤーˉ　パ˞ラリˉル [pu̥˞suˉmiːntsam ˉmiritiru ˞jaːˉ pa˞rariˉru](一目＜一瞥＞だけでも見て＜ぞ＞家には帰れるものだ)。

プ˞ス　ミーッˉスン [pu̥˞su miːsˉsuŋ] 【連】人見知りをする。見馴れない人を嫌う。プ˞ス　ミーッスˉター　プ˞スンマーˉ　ダ˞カランバン [pu̥˞su miːssuˉta: pu̥˞summaːˉ da˞karambaŋ](人見知りをしたので、他人には抱かれないわい)。

プ˞スˉミチ [pu̥˞suˉmitʃi] 【名】一つの道。一本道。タ˞チˉバロー　ˉパル　ˉミチェー　プ˞スミチˉル　ˉアル [tḁ˞itʃiˉbaro: ˉparu ˉmitʃe: pu̥˞sumitʃiˉru ˉʔaru](立原の浜へ行く道は一つの道しかない＜一本道がある＞)。

プ˞スムイˉサン [pu̥˞sumuiˉsaŋ] 【形】人恋しい。人なつっこい。人と話がしたい気持ちである。-ムイサン [muisaŋ](～なつっこい) は接尾語。ウ˞レーˉ　イッ˞ケナˉ　プ˞スムイˉサンダ　ター˞ントゥンˉ　シ˞グˉ　ウ˞チアーˉルン [ʔu˞reːˉ ʔik˞kenaˉ pu̥˞sumuiˉsanda taːˉntuŋˉ ʃi˞guˉ ʔu˞tʃiʔaːˉruŋ](彼は非常に人なつっこい人だから、誰とでもすぐ仲良くなる＜調和する＞)。プ˞スムイサナーˉヌ [pu̥˞sumuisa naːˉnu](人なつっこくない)。ウ˞レーˉ　イッ˞ケナˉ　プ˞スムイˉサンダ　ター˞ントゥンˉ　シ˞グˉ　ドゥ˞シˉ　ナルン [ʔu˞reːˉ ʔik˞kenaˉ pu̥˞sumuiˉsanda taːˉntuŋˉ ʃi˞guˉ du˞ʃiˉ naruŋ](彼は非常に人懐こいから、誰とでもすぐと友達になる)。

プ˞スˉムシ [pu̥˞suˉmuʃi] 【名】(数) 一度。プ˞スムシˉ　フ˞タムシˉヌ　マ˞チガイˉヤー　ター˞ンˉナーン　ア˞リˉル　ˉブー [pu̥˞sumuʃiˉ ɸu̥˞tamuʃiˉnu ma˞tʃigai ˉjaː taː˞nˉnaːŋ ʔa˞riˉru ˉbuː](一度や二度の間違いは誰にもある＜有りぞ居る＞)。

プ˞スムスˉビ [pu̥˞sumusuˉbi] 【名】紐などの結び方の一種。一重結び。ˉクボー　プ˞スムスˉビ　˞シールˉ　カ˞ザル [ˉkubo: pu̥˞sumusuˉbi ˞ʃiːruˉ ka˞ʤaru](昆布は一重結びして供えるものだ)。

プ˞スˉムトゥ [pu̥˞suˉmutu] 【名】草や樹木の一本。「ひともと (一本)」のこと。「比登母等能なでしこ植ゑし～。万、4070」の義。˞キームトゥˉヌ　プ˞スˉムトゥ　ˉムイ　˞ベーˉン [˞kiːmutuˉnu pu̥˞suˉmutu ˉmui ˞beːˉŋ](樹木が一本生えている)。˞ダイˉクニ　プ˞スムˉトゥ　ピ˞キˉクー [˞daiˉkuni pu̥˞sumuˉtu pi̥˞kiˉkuː](大根を一本引き抜いてこい)。

プ˞スムドゥˉシ [pu̥˞sumuduˉʃi] 【名】一回転。一回りして戻ってくる回数の単位。「Fitomodori. ヒトモドリ (一戻り)　戻ってくる回数の数え方」『邦訳日葡辞書』の転訛。˞パーレーˉフネー　˞ユーアギジラマバˉ　イ˞ジェーˉティ　˞ヨーンナーˉ　クイ　プ˞スムドゥˉシェー　˞マーシˉ　キーティル　ˉクイ　ン˞ザˉソーッタ [˞paːreːˉɸune: ˞juːʔagiʤiramabaˉ ʔi˞ʤeːˉti ˞joːnnaːˉ kui pu̥˞sumuduˉʃe: ˞maːʃiˉ kiːtiru ˉkui ʔn˞ʤaˉsoːtta](爬竜船はユーアギジラバを歌いながら一回転＜一戻し＞してきてから＜ぞ＞漕ぎ出された)。

プ˞スムトゥˉマチ [pu̥˞sumutuˉmatʃi] 【名】一本松。ˉインダヌ　ウ˞シヌウガンˉヌ　ˉトンナー　プ˞スムトゥマチˉヌ　ˉムイ˞ベーˉタン [ˉʔindanu ʔu˞ʃinuʔu-ganˉnu ˉtonnaː pu̥˞sumutumatʃiˉnu ˉmui ˞beːˉtaŋ](伊武田の牛の御嶽＜お願＞の所に一本松が生えていた)。

プ˞スムラˉシ [pu̥˞sumuraˉʃi] 【名】ひとかたまり (一塊)。ッ˞ふˉサタ　プ˞スムラˉシ　バ˞リティ　サーˉフキ　ン˞ザˉシバ [f˞fuˉsata pu̥˞sumuraˉʃi ba˞ritiˉsaːˉɸu̥ki ʔn˞ʤaˉʃiba](黒糖を一塊を割って茶請けとして出しなさいよ)。˞ジームラˉシェー　プ˞スムラシˉナー　バ˞リティル　カイスˉタ [˞ʤiːmuraˉʃe: pu̥˞sumuraʃiˉnaː ba˞ritiru kaisuˉta](土塊はひとかたまり＜一塊＞ずつ鍬で割って＜ぞ＞耕したものだ)。

プ˞スˉユー [pu̥˞suˉjuː] 【名】(数) 一晩。「一夜」の義。˞ユードゥーˉシェー　˞ユーングマˉル　˞ソーˉレーティ　プ˞スˉユー　˞トゥーˉシティ　˞ニンˉガイ　˞ヨーˉル　ク˞トゥバˉル　ア˞ズˉダー [˞juːduːˉʃe: ˞juːŋgumaˉru ˞soːˉreːti pu̥˞suˉjuː ˞tuːˉʃi̥ti ˞niŋˉgai ˞joːˉru ku̥˞tubaˉru ʔa˞ʤuˉdaː](夜通しの祈願とは、夜籠りをなさりながら一晩＜一夜＞通して祈願されることをいうのだよ)。ウ˞キナーˉタベー　プ˞スˉユー　ク˞ミˉル　˞パッタˉル [ʔu˞kinaːˉtabe: pu̥˞suˉjuː ku˞miˉru ˞pattaˉru](沖縄への船旅は一夜籠(コ)めて行ったものだ)。

プ゚スユー¬クイ [pu̥ˈsujuːˀkui] 【名】一休み。「一憩い」の義。¬クナーティ　プ゚スユー¬クイ　゚シーティ¬　パラ゚ナー [ˀkunaːti pu̥ˈsujuːˀkui ˈʃiːtiˀ paraˈnaː](ここで一休みしてから行こうねえ)。

プ゚ス¬ユダ [pu̥ˈsuˀjuda] 【名】一枝。゚キャーンギキーヌ¬　ユ゚ダ¬　プ゚ス¬ユダ　¬ブリ　¬キー　トゥ゚クニヌ¬　パ゚ナ¬イキナー　イ゚キ¬リ [ˈkjaːŋgikiːnuˀ juˈdaˀ pu̥ˈsuˀjuda ˀburi ˀkiː tu̥ˈkuninuˀ paˈnaˀikinaː ʔiˈkiˀri](槇の木の枝を一枝折ってきて仏壇の花生けに活けなさい＜活けれよ＞)。

プ゚スユ¬ヌ　¬サートゥ [pu̥ˈsujuˀnu ˀsaːtu] 【連】一晩中。夜通し。徹夜で。¬ユベー　プ゚スユ¬ヌ　¬サートゥ　ッ゚ふァヌ　トウンザ¬ク　゚スンティ¬　プ゚ス¬ミーン　ニ゚ビ　ミラン¬シェン [ˀjubeː pu̥ˈsujuˀnu ˀsaːtu fˈfanu tundʑaˀku ˈsuntiˀ pu̥ˈsuˀmiːn niˈbi miraŋˀʃeŋ](昨夜は子供の発熱の看病＜頓着＞をすると て一睡もできなかった)。

プ゚ス¬ル [pu̥ˈsuˀru] 【名】(数) 一人。いちにん。シン゚トゥ¬　プ゚ス¬ル　゚タンガ¬ル　゚ブー [ʃinˈtuˀ pu̥ˈsuˀru ˈtaŋgaˀru ˈbuː](たった一人しかいない＜一人だけぞ居る＞)。プタール [ɸu̥ˈtaːru](二人)。ミ゚ツァール [miˈtsaːru](三人)。ユ゚タール [juˈtaːru](四人)。¬ウナー　ギュ゚タール　ブーワ [ˀʔunaː gjuˈtaːru buːwa](其処に何人いるか)。プ゚ス¬　プ゚ス¬ルンツァン　ブ゚ラーヌ [pu̥ˈsuˀ pu̥ˈsuˀruntsam buˈraːnu](人っ子ひとりすら＜も＞いない)。「〜吾が思ふ君はただ一人＜ヒトリ＞のみ。万、2382」の転訛したもの。プ゚スルプスル¬ヌ　゚カンガイ¬ヤー　゚カウリ　ブー [pu̥ˈsurupusuruˀnu ˈkaŋgaiˀjaː ˈkauri buː](一人一人の考えは違っている)。

プ゚スル¬ダチ [pu̥ˈsuruˀdatʃi] 【名】自立すること。独立すること。一人前になること。「一人立ち」の義。゚タンガ¬ダチ [ˈtaŋgaˀdatʃi](独身者。独身男、独身女) とは意味が異なる。ジ゚ナンマー¬　イ゚サナキ¬ナーティ　゚サイク¬バ　゚シー¬　プ゚スル¬ダチ　゚シーベー¬ツォー [dʑiˈnammaːˀ ʔiˈsanakiˀnaːti ˈsaikuˀba ˈʃiːˀ pu̥ˈsuruˀdatʃi ˈʃiːbeːˀtsoː](次男は石垣島で大工仕事をして一人立ち＜独立＞しているそうだ)。

¬プスル　タ゚ラーシタラーシ [ˀpu̥suru taˈraːʃitaraːʃi] 【連】互いに足らざるところを補いあって。互いに協力しあって。「一人足らわし足らわし」の転訛。゚キョーダイ¬サー　¬プスル　タ゚ラーシタラーシ　シェー¬ティル　タティパル゚ダー [ˈkjoːdaiˀsaː ˀpu̥suru taˈraːʃitaraːʃi ʃeːˀtiru tu̥tiparuˈdaː](兄弟は互いに足らざるところを補い合いしながら生活していく＜立って行く＞のだぞ)。

¬プスル　タ゚ルガキ [ˀpu̥suru taˈrugaki] 【連】互いに相手を当てにして義務を果たさないこと。お互いに相手を頼りにすること。゚ウッ¬ツァー　ナー゚イ¬　プスル　タ゚ルガキバ　シー　ピッ¬チン　シ゚グトー　サンバン [ˈʔutˀtsaː naːˈiˀ pu̥suru taˈrugakiba ʃiː pitˀtʃiŋ ʃiˈguto: sambaŋ](彼等はお互いにただ相手を当てにして、ちっとも仕事をしないよ)。

プ゚スル¬ッふァ [pu̥ˈsuruˀffa] 【名】一人っ子。ひとりご。゚タンガ¬ッふァ [ˈtaŋgaˀffa](一人っ子) ともいう。プ゚スル¬ッふァ　ヤ゚ルンダ¬　ウ゚ヤ¬ヌ　゚ティーピサ¬ヌ　゚ウイ¬ナー　゚ヌーシラレー¬ティル　ス゚ダティラ¬レーツォー [pu̥ˈsuruˀffa jaˈrundaˀ ʔuˈjaˀnu ˈtiːpisaˀnu ˈʔuiˀnaː ˈnuːʃirareːˀtiru suˈdatira ˀreːtsoː](一人っ子であるから親の掌の上に載せられて育てられたそうだ)。

¬プスル　゚トゥンクイトゥンクイ [ˀpu̥suru ˈtuŋkituŋkui] 【連】一人おきに。ミ゚ドゥ¬ム　¬ビキドゥム　¬プスル　゚トゥンクイトゥンクイシー¬　ビ゚リ　ベー [miˈduˀmu ˀbikidumu ˀpu̥suru ˈtuŋkituŋkui ʃiːˀ biˈribeː](男女が一人おきに＜一人跳び越え飛び越えで＞座っている)。

プ゚スル¬ナー [puˈsuruˀnaː] 【連】一人ずつ。゚タンガ¬シ　ミ゚ツァールナー　サーリ　パッ¬タヤー [ˈtaŋgaˀʃi miˈtsaːruna: saːri patˀtajaː](一人で三人ずつ連れ去って行ったよ)。ナー [naː](ずつ) は副助詞。分量を表す語に付いて、一定量を均等に割り当てる意味を表す。

プ゚スルビフ¬ナー [pu̥ˈsurubiɸuˀnaː] 【名】一人息子。古老の使用語彙。プ゚スルビコーン¬ッふァ [pu̥ˈsurubikoːŋˀffa](一人息子) ともいう。゚ウン¬ネナー　プ゚スルビフナー¬ヌ　ブ゚タンドゥ¬　イ゚クサ¬ユーナー　゚ピー¬タイ　トゥ゚ラ¬リ　゚ナーン¬シェン [ˈʔunˀnena: pu̥ˈsurubiɸunaːˀnu buˈtanduˀ ʔiˈkusaˀjuːnaː ˈpiːˀtai tuˈraˀri ˈnaːŋˀʃeŋ](あの家には一人息子がいたが、戦争で徴兵されて＜兵隊に取られて＞しまった)。

プ゚スルミドゥ¬ナー [pu̥ˈsurumiduˀnaː] 【名】一人娘。古老の使用語彙。若年層はプ゚スルミドーン¬ッふァ [pu̥ˈsurumidoːŋˀffa](一人娘) という。プ゚スルミドゥ¬ナー　ヤ゚ルンダ¬　イ゚リムク¬　トゥ゚ロー¬ッタツォー [pu̥ˈsurumiduˀna: jaˈrundaˀ ʔiˈrimukuˀ tuˈroːtˀtatsoː](一人娘だから入り婿を迎えられた＜取られた＞そうだ)。

プ゚スル¬ムヌ [pu̥ˈsuruˀmunu] 【名】一人者。独身者。

˞タンガ˥ムヌ [˞taŋga˥munu](一人者。独身者) ともいう。カ˞カ˥ルン ˥サールン ˞ナー˥ン プ˞スル˥ムヌ ˥ナリ ˞ナー˥ヌ [kạ˞ka˥run ˥saːrun ˞naː˥m pụ˞sur˥munu ˥nari ˞naː˥nu](係累 < 係り繋がり。両親妻子 > のない一人者になってしまった)。

˥フズン [˥ɸudʑuŋ] 【他動】くじる (抉る)。えぐる。他人の心をほじくり (穿(ホジク)り) 回して感情を害する。プ˞スヌ˥ バタ ˥フズン [pụ˞sunu˥ bata ˥ɸudʑuŋ](他人の心を抉(クジ)って感情を害する < 腹をほじくる >)。プ˞スヌ˥ バター フ˞ザン˥ドーシ パ˞ナ˥シバ [pụ˞sunu˥ bataː ɸu˞dʑan˥doːʃi pa˞na˥ʃiba](他人の感情を害しない < 腹を抉(クジ)らないで > で話しなさいよ)。˥バタ ˥フジ ˞ベー [˥bata ˥ɸudʑi ˞beː](他人の感情を害している)。˥バタ ˥フズ クトゥカー˞ニ シー ベー [˥bata ˥ɸudʑu kụtukaː˞ni ʃiː beː](他人の感情を害する < 心を抉(クジ)る > ことだけしている)。˥バタ ˥フジェー ˥ミサムヌ [˥bata ˥ɸudʑe: ˥misamunu](他人の感情を害すればいいのに)。˞マー˥ビン ˥バタ ˥フジ [˞maː˥bim ˥bata ˥ɸudʑi](もっと他人の感情を害せよ)。

˥プスン [˥pụsuŋ] 【他動】1ひる (放る)。「Feuo firu.(屁を放る) 放屁する. 卑語」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˥ピー ˥プスンティ ˞スンドゥ˥ バ˞カヤ˥ヌ プ˞サラ˥ヌ [˥piː ˥pụsunti ˞sundu˥ ba˞kaja˥nu pụ˞sara˥nu](屁を放ようとするが、恥ずかしくて放られない)。˥ピー ˥プシ ˥ミサカー ˥プスクトー ˥ナルン [˥piː ˥pụʃi ˥misakaː ˥pụsu ˥kụtoː ˥naruŋ](屁を放ってよければ、放ることは出来る)。˞マー˥ビン ˥プシェー ˥ミサムヌ [˞maː˥bim ˥pụʃe: ˥misamunu](もっと放ればいいのに)。˞パー˥ク ˥プシバ [˞paː˥ku ˥pụʃiba](早く放れよ)。2ひる (嘘る)。くしゃみをする。「Fana fiqu, firu coto.(鼻ひく、または、ひること) くしゃみ」『邦訳日葡辞書』の義。パ˞ナシキ˥ カ˞カ˥ルカー パ˞ナ˥ プスン [pa˞naʃi̥ki˥ kạ˞ka˥rukaː pa˞na˥ pụsuŋ](風邪を引くと鼻を放る)。

˥プスン [˥pụsuŋ] 【他動】干す。乾かす。乾燥する。˞キン˥バ ˥ティダナー ˥プスンティ ˞スンドゥ˥ クマー ˥カイ ˥ナリティ プ˞サラ˥ヌ [˞kim˥ba ˥tidanaː ˥pụsunti ˞sundu˥ kumaː ˥kai ˥nariti pụ˞sara˥nu](着物を太陽に干そうとするが、此処は日陰になって干せない)。˥クナー ˥プシ ˥ミサン [˥kunaː ˥pụʃi ˥misaŋ](此処に干してよい)。˥プス ˥ムノーノー˞ン ナー˥ヌ [˥pụsu˥ munoː noː˞n naː˥nu](干す物は何もない)。˞パー˥ク ˥プシェー ˥ミサムヌ [˞paː˥ku ˥pụʃe: ˥misamunu](早く干せばいいのに)。ヤー˞ディン˥ クナー ˥プシ [jaː˞dim˥ kunaː ˥pụʃi](必ず此処に干せ)。

プ˞スンガーリ [pụ˞suŋgaːri] 【名】変人、奇人になること。人格が変わること。「人・変わり」の義。ウ˞レー˥ トゥ˞ジバ˥ シ˞ナシティ˥ プ˞スンガーリ シー ナー˥ヌ [ʔu˞reː˥ tu˞dʑiba˥ ʃi˞naʃi̥ti˥ pụ˞suŋgaːri ʃiː naː˥nu](彼は妻に死なれて < 死なせて > 人格が変わって < 人変わり > してしまった)。ウ˞レー˥ プ˞スンガーリムヌ˥ ヤ˞ルンダ ヌー˥シル ク˞トゥ˥バ ˞スー˥ユー ワ˞カラ˥ヌ [ʔu˞reː˥ pụ˞suŋgaːrimunu˥ ja˞runda nuː˥ʃiru kụ˞tu˥ba ˞suː˥juː wa ˞kara˥nu](彼は変人 < 変わり者 > だから、どんな事をするか分からない)。

プ˞スン˥トン [pụ˞sun˥toŋ] 【名】一箇所。一所。ワ˞ター˥ プ˞スン˥トンナー ˞マーズン˥シ ˞ベー˥リバ [wa˞taː˥ pụ˞sun˥tonnaː ˞maːdʑuŋ˥ʃi ˞beː˥riba](君たちは一箇所で一緒に居れよ)。

プ˞スン˥ヤー [pụ˞suɲ˥jaː] 【名】よその家。他家。「他人の家」の義。プ˞スン˥ヤヌ ム˞ヌ˥トゥ ˞ドゥーン˥ヤヌ ム˞ヌ˥トー ˥ビチ ˥ナシ シ˞キ˥リ [pụ˞suɲ˥jaːnu mu˞nu˥tu ˞duːɲ˥jaːnu mu˞nu˥toː ˥biti ˥naʃi ʃi̥˞ki˥ri](よその家の物と自分の家の物は区別して < 別にして > おけ < おけれ >)。

˥プゾー [˥pudʑoː] 【名】煙草入れ。刻み煙草をいれる袋。「ほうぞう (宝蔵)」と表記されている『琉歌全集』。女性は宝珠(ホウシュ)のような形に縫製(ホウセイ)した袋状の煙草入れを持っていたという。細かく刻んだキ˞ザミタバク [ki˞dʑamitabaku](刻み煙草) を入れて持ち歩いた。男は、木地師(キジシ)が轆轤(ロクロ)を用いて木材を筒状に刳(ク)って、蓋付きの煙草入れに作ったものに煙管(キセル)を結わえ、腰に差して持ち歩いた。それにはシ˞キダ˥キ [ʃi̥˞kida˥ki](マッチ) が内臓され、野良仕事や漁に出ても雨や海水に濡れないように工夫されていた。漁師はこれを˞ナーブ˥ク [˞naːbu˥ku](縄箱) に入れて持参した。˥アブジェー パ˞タ˥ケー ˞オール˥バン プ˞ゾー˥ヤ ˞バスコーラン˥シェン [˥ʔabudʑe: pạ˞ta˥ke: ˞ʔoːru˥bam pu˞dʑoː˥ja ˞basụkoːraŋ˥ʃeŋ](お祖父さんは畑へ行かれても煙草入れ < 宝蔵 > を忘れなさらなかった)。

フ˞タ [ɸụ˞ta] 【名】ふた (蓋)。板製の鍋蓋や茅製の鍋蓋がある。ナ˞ビ˥ヌ ˥フタ [na˞bi˥nu ˥ɸụta](鍋の蓋)。カ˞ミ˥ヌ ˥フタ [ka˞mi˥nu ˥ɸụta](甕の蓋)。パ˞クヌ˥ フ˞タ [pạ˞kunu˥ ɸụ˞ta](箱の蓋) 等がある。ナ˞カ˥フタ [na˞ka˥ɸụta](中蓋) は芭蕉の葉を使うことが多かった。ナ˞ビ˥ヌ フ˞タ カ˞バ˥シ [na˞bi˥

nu ɸu̥˞ta˥ ka˞ba˥ʃi](鍋の蓋をし＜被せ＞なさい)。ン˞ブシ˥ムノー　ナ˞カ˥フタ　˞シーバル˥　ン˞ブシヤッ˥サタ [ʔm˞buʃi˥muno: na˞ka˥ɸu̥ta ˞ʃi:baru˥ ʔm˞buʃijas˥sata](蒸し物は中蓋したほうが＜すればぞ＞蒸しやすかった)。

フ˞タ [ɸu̥˞ta] 【接頭】「二つ」を意味する接頭語。˞ケーラ [ke:ra](回数) には往復の意味が内包される。フ˞タケーラ　ゲー˥タン [ɸu̥˞take:ra ge:˥taŋ](二度行ったことがある)。フ˞タムシ˥　パルン [ɸu̥˞tamuʃi˥ paruŋ](二回行く) の˞ムシ [˞muʃi](回) は単に出現回数＜頻度数＞を表す。フ˞タナンカ [ɸu̥˞tanaŋka](二七日忌)。

フ˞タ [ɸu̥˞ta] 【接頭】そのまま。いちず。ひたすら。専らにすること。「ひた＜直＞」の転訛したもの。「〜ひた土に　足踏み貫き〜。万、3295」の転訛したものか。フ˞タ˥キシ　˞スン [ɸu̥˞ta˥ki̥ʃi ˞suŋ](普段着にする＜ひた着にする＞)。フ˞タ˥キシキン [ɸu̥˞ta˥ ki̥ʃikiŋ](普段着。＜ずっと着るきもの。ひた着にする着物＞)。フ˞タ˥ニビ　˞シー˥　ウ˞キラ˥ヌ [ɸu̥˞ta˥ nibi ˞ʃi:˥ ʔu˞kira˥nu](そのまま寝たっきりで起きないよ)。

˥フダ [˥ɸuda] 【名】 1機織りの横糸をつむ＜紡錘＞の管に巻いて抜き取り、シャトル <梭(ヒ)> の内部に装着するもの。˥ペーナ　˥フダー　イ˞リティル　ヌーノー˥　ウ˞ル [˥pe:na: ˥ɸuda: ʔi˞ritiru nu:no:˥ ʔu˞ru](ひ＜梭、杼(ヒ)＞にフダを入れて布は織るものだ)。2糸繰車のつむ <紡錘(ボウスイ)> にさして糸を巻きつける小さいフ˞ドー˥シ [ɸu˞do:˥ʃi](管)。「〜久太 (くだ)、管子、同上」『和名抄』の意。˥フダナ　˥イトゥ　マ˞キ˥バ [˥ɸudana ˥ʔitu ma˞ki˥ba](管に糸を巻きなさいよ)。

˥フダ [˥ɸuda] 【名】 (動) 巻貝の一種か。直径 1〜2 ミリのへび貝に似た管状の貝が珊瑚礁などにくっ付いていて、その管の口辺部が鋭い刃をなしている。それを踏みつけると足の裏に円形の切り傷が付いていたむ。それを防ぐためにも潮干狩りに行く際は草鞋(ワラジ)を履く必要があった。「〜久太 (くだ)、管子、同上」『和名抄』の転訛したもの。イ˞ソー˥　パル　˥ピンマー　˥フチ　フ˞マン˥カー　˥フダナー　˥パン　˞ピッカ˥リン˞ダー [ʔi˞so:˥ paru ˥pimma:˥ ɸu̥tʃi ɸu˞maŋ˥ka: ˥ɸudana: ˥pam ˞pikka˥rin˞da:](潮干狩りに行く時は草鞋を履かないとフダに足を刺されるよ)。

フ˞ダ [ɸu˞da] 【名】札。˞キー˥フダ [˞ki:˥ɸuda](木の札)。タ˞キフダ [tḁ˞kiɸuda](竹製の札)。˞ナーフダ [˞na:ɸuda](名札)。ク˞ヌ　キー˥ヌ　フ˞ダ˥ナー　˞ドゥー˥ヌ　˞ナー˥　カキ　シ˞キ˥リ [ku˞nu ki:˥nu ɸu˞da˥na: ˞du:˥nu ˞na:˥ kḁki ʃi̥˞ki˥ri](この木の札に自分の名前を書いておきなさい)。˞ナーフダ˥　ス˞ク˥リバ [˞na:ɸuda˥ su̥˞ku˥riba](名札を作りなさいよ)。

フ˞ターチ [ɸu̥˞ta:tʃi] 【名】 (数) 二つ。二歳。フ˞ターチ　ミーチェー　カーン˥カー　タ˞ラーサラヌ [ɸu̥˞ta:tʃimi:tʃe: ka:ŋ˥ka: ta˞ra:saranu](二つ三つは買わないと足りない＜足らされない＞)。ヤ˞ラ˥ベー　フ˞ターチ˥　ナルカー　˞ゾー˥ブンニ　ム˞ヌパナ˥シ　˥ナルン [ja˞ra˥be: ɸu̥˞ta:tʃi˥ naruka: ˞ʤo:˥bunni mu˞nupana˥ʃi ˥naruŋ](子供は二歳になると十分に＜上手に＞話し合いができる)。

フ˞ターチェー [ɸu̥˞ta:tʃe:] 【名】双子。ク˞ヌ　キョーダイ˥ヤー　フ˞ターチェー˥　ヤ˞レー˥ティル　˥アイニ　˞ニーヤート ダー [ku˞nu kjo:dai˥ja: ɸu̥˞ta:tʃe:˥ ja˞re:˥tiru ˥ʔaini ˞ni:ja:ɦ˞da:](この兄弟は双子だから、あんなによく似ているんだよ)。

フ˞ターチェーッふァ [ɸu̥˞ta:tʃe:ffa] 【名】双子。若年層は˞ター˥チュー [˞ta:˥tʃu:](双子) ともいうが、沖縄方言からの借用語であろう。フ˞ターチェーッふァヌ˥　マ˞レーン˥ツォー [ɸu̥˞ta:tʃe:ffanu˥ ma˞re:n ˥tso:](双子が生まれたそうだ)。

フ˞ターチズニ [ɸu̥˞ta:tʃiʤuni] 【名】 (海底地名)。フ˞ターチズネー˥　タ˞カビー˥ヌ　˞インタヌ˥　ス˞ニ˥ヌ　˞イーリキ˥ナ　˥アル　グ˞マーグマーヌ˥　スニ [ɸu̥˞ta:tʃiʤune: tḁ˞kabi:˥nu ˞ʔintanu˥ su˞ni˥nu ˞ʔi:riki ˥na ˥ʔaru gu˞ma:guma:nu˥ suni](二つ曽根は、高干瀬の西の曽根の西側にある小さな曽根だ)。

フ˞ターチフニ [ɸu̥˞ta:tʃiɸuni] 【名】舟 (イダフニ) を二艘並べて帆柱で前方のウ˞シカキ [ʔu˞ʃikaki](帆柱を立てる梁) と後方の˥トゥム [˥tumu](艫) の部分を結わえて固定し、双胴船のようにしたもの。糸満の漁師は、漁期になると沖縄からサバニ (板で接いで造った舟) をフ˞ターチフニ [ɸu̥˞ta:tʃiɸuni] にして鳩間島に渡り、漁期が終了すると舟を鳩間島の人に売って帰ったという。イ˞ツマン˥プソー　フ˞ターチフニ　シェー˥ティル　˞ヤイマー˥　バ˞タローッ˥タティ˞ダー [ʔi˞tsumam˥pu̥so: ɸu̥˞ta:tʃiɸuni ʃe:˥tiru ˞jaima:˥ ba˞taro:t˥tati˞da:](糸満の人はフターチフニをして八重山へ渡られたそうだよ)。

フ˞ターチマキ [ɸu̥˞ta:tʃimaki] 【名】つむじ (旋毛) の二重巻き。ピ˞ジ˥ル [pi˞ʤi˥ru](旋毛(ツムジ)) が二つあるもの。フ˞ターチマキヌ˥　アル　ッ˞ふァー˥　ヤ˞マン˥グ　ヤ˞ルンドゥ　マイフナーン˥　マ˞ルン˥ティ

ア˞ザリ　ブー [ɸu˞ta:ʧimakinu˜ ʔaru f˞fa:˜ ja˞maŋ˜ gu ja˞rundu maiɸuna:m˜ ma˞run˜ti ʔa˞ʤari bu:](頭髪に二重巻き旋毛(ツムジ)のある子は腕白坊主だ＜怒りっぽい＞が、成長して立身出世するとも言われている)。

フ˞タール **[ɸu̥˞ta:ru]** 【名】(数) 二人。˜カマーラ　フ˞タールプスヌ˜　クーン [˜kama:ra ɸu̥˞ta:rupusunu˜ ku:ŋ](向こうから二人の人が来る)。ク˞ヌ˜　シ˞グトー˜　フ˞ター˜シ　˞スー˜カー　˜プスイシ　˜ナルン [ku˞nu˜ ʃi˞guto:˜ ɸu̥˞ta:ru˜ʃi ˞su:˜ka: ˜pu̥suiʃi˜ naruŋ](この仕事は、二人でしたら一日で出来る)。フ˞タールヌ˜　ナカー　˞カイ˜ヤン [ɸu̥˞ta:runu˜ naka: ˞kai˜jaŋ](二人の仲はきれい＜仲良し＞)。

フ˞タールヌ˜　ウヤ **[ɸu̥˞ta:runu˜ ʔuja]** 【連】二人の親。両親。フ˞タールヌ˜　ウヤー　˞ガン˜ゾー　ア˞ロー˜ルン [ɸu̥˞ta:runu˜ ʔuja: ˞gan˜ʤo: ʔa˞ro:˜ruŋ](両親は達者＜頑丈＞であられる)。

フ˞タールミツァール **[ɸu̥˞ta:rumitsa:ru]** 【名】(数) 二、三人。˞ウン˜ネナー　ビ˞コーンッふァー˜　フ˞タールミツァール˜　ブ˞リブタト ナー [˞ʔun˜nena: bi˞ko:ŋffa:˜ ɸu̥˞ta:rumitsa:ru˜ bu˞ributaトna:](あの家には男の子は二、三人いた＜二、三人居りおった＞ねえ)。

フ˞タイ **[ɸu̥˞tai]** 【名】ひたい (額)。「〜ヒタヒ、カシラノカハラ」『類聚名義抄』の転訛したもの。タ˞カ˜フタイ [tḁ˞ka˜ɸu̥tai](おでこ。「高額」の義)、˞ガッ˜パイ [˞gap˜pai](おでこ。高く出た額の卑語) ともいう。フ˞タイヌ˜　パギティ　パ˞ギ˜フタイ　˜ナリ　˞ナー˜ヌ [ɸu̥˞tainu˜ pagiti pa˞gi˜ɸu̥tai ˜nari ˞na:˜nu](額が禿げ上がって禿げ額になってしまった)。ウ˞ブ˜フタイプソー　˞ブンダーッ˜サン [ʔu˞bu˜ɸu̥taipuso: ˞bunda:s˜saŋ](大きな額の人は重々しい感じがする)。

フ˞タイツァカカン **[ɸu̥˞taitsakakaŋ]** 【名】古典舞踊で着用する女性用下着のコスチューム (衣装)。ふたぬの (二布) で縫製された腰巻の一種。パ˞トゥ˜マナカムレー　フ˞タイツァカカンヌ　ウイラ˜　タ˞ナシバ˜　キ˞シティル˜　ブ˞ドゥル　ソーッ˜タ˞ナー [pḁ˞tu˜manakamure: ɸu̥˞taitsakakannu ʔuira˜ ta˞naʃiba˜ ki̥˞ʃitiru˜ bu˞duru so:t˜ta˞na:](鳩間中岡節の踊はカカンの上からタナシ＜田無。一重の打ち掛け＞を着て踊をされたのだったよねえ)。ピ˞キマー˜サー [pi̥˞kima:˜sa:] ともいう。

フ˞タ˜イビ **[ɸu̥˞ta˜ʔibi]** 【名】じかまき (直播)。種子を直接田畑に播いてそのまま生育させる農法。「直接植え」の義。マ˞タイビ [ma˞taʔibi](植え替え。「また植え」の義) は、一度植えたものが枯れたり、発芽しなかったりした際に植え替えすること。播種して苗に育てて他の田畑に植え代えることを、˜ヤトゥーン [˜jatu:ŋ](移植する) という。˞ムン˜トゥ　˜マミンドーレー　パ˞タ˜キナ　˜マキティ　フ˞タ˜イビ　˞ソーッ˜タ˞ナー [˞mun˜tu ˜mamindo:re: pḁ˞ta˜kina ˜makiti ɸu̥˞ta˜ʔibi ˞so:t˜ta˞na:](麦と豆などは、畑に播いて＜直播して＞植えられたねえ)。カ˞ブッチトゥ˜　シ˞ブロー˜　フ˞タ˜イビ　˞サンドー˜シ　˞ナイ˜バ　ヤトゥイ˞ヨーッ˜タ [ka˞buttʃitu˜ ʃi˞buro:˜ ɸu̥˞ta˜ibi ˞sando:˜ʃi ˞nai˜ba jatui˞jo:t˜ta](南瓜と冬瓜は直播しないで、苗を移植された)。

フ˞タイヤー˜マ **[ɸu̥˞taija:˜ma]** 【名】小さな額。貧相な額。˞ヨーガルター˜　フ˞タイヤー˜マ　˜ナリ　˞アーク˜バン [˞jo:garuta:˜ ɸu̥˞taija:˜ma ˜nari ˞ʔa:ku˜baŋ](痩せたので貧相な額になっているわい)。

フ˞ダイリ **[ɸu˞dairi]** 【名】投票。札入れ。˞ワー˜　フ˞ダイレー˜　シ˞マシェン [˞wa:˜ ɸu˞daire:˜ ʃi˞maʃeŋ](君は、投票は済ませたか)。

フ˞ダ˜　イ˞ルン **[ɸu˞da˜ ʔi˞ruŋ]** 【連】投票する。「札を入れる」の義。˞クンドゥ˜ヌ　ク˞ミヤイチョー˜ヤ　˞ター˜ナ　フ˞ダ˜　イ˞ルワー [˞kundu˜nu ku˞mijaitʃo:˜ja ˞ta:˜na ɸu˞da˜ ʔi˞ruwa:](今度の組合長＜選挙で＞は誰に投票する＜誰に札を入れる＞か)。

フ˞タウシ˜キ **[ɸu̥˞taʔuʃi̥˜ki]** 【名】強引に押し付けること。無理に押し付けること。ム˞カシ˜ヌ　ミ˞ドゥ˜モー　˜ウヤン　フ˞タウシ˜キ　シ˞ラリティル˜　ユ˞ミ˜　ナリ　˞パッ˜タ [mu˞kaʃi˜nu mi˞du˜mo: ˜ʔujaŋ ɸu̥˞taʔuʃi̥˜ki ʃi˞raritiru˜ ju˞mi˜ nari ˞pat˜ta](昔の女性は親に強引に押し付けられて嫁いで＜嫁になって＞いったものだ)。

フ˞タウヤ **[ɸu̥˞taʔuja]** 【名】両親。「ふたおや (二親)」の義。˞アーヤ˜トゥ　˜アボー　フ˞タウヤ˜　カナイ˞ヨー˜リ　マー˞タキ˜　パ˞タラコー˜ルンダ　キ˞ナイヤー˜　イッ˞ケナ˜　ユ˞チ˜ク [˞ʔa:ja˜tu ˜ʔabo: ɸu̥˞taʔuja˜ kanai˞jo:˜ri ma:˞taki˜ pḁ˞tarako:˜runda ki˞naija:˜ ʔik˞kena˜ ju˞ʧi˜ku](お父さんとお母さんの両親が健在で＜適って＞同等に働かれるから、家庭は非常に裕福である)。

フ˞タカサビ **[ɸu̥˞takasabi]** 【名】二重。二つ重ねること。ふたかさね。フ˞ヨー　ピー˜ヤンダ　˞キン˜マー　フ˞タカサビ　シー˜　キ˞サン˜カー　ク˞バリ˜ス [ɸu˞jo: pi:˜janda ˞kim˜ma: ɸu̥˞takasabi ʃi:˜ ki̥˞saŋ

⌉ka: ku⌈bari⌉su](冬は寒いから、着物はふたかさねにして着ないと凍える)。

フ⌈タ⌉キシキン [ɸu̥⌈ta⌉ki̥ʃikiŋ]【名】普段着。常時着る着物。平常服。常住着(ジョウジュウギ)。着たっきりの着物。「一着だけを着続ける着物」の義。接頭語⌉フタ [⌉ɸu̥ta](いちず。専ら～。そのまま～。継続して～。日常的に続けて～) は「ひた (直)」の転訛した接頭語で、動詞の連用形に上接したもの。ク⌈レー　ワー⌉　フ⌈タ⌉キシキン　⌉ナシバ [ku⌈re: wa:⌉ ɸu̥⌈ta⌉ki̥ʃikin ⌉naʃiba](これは君の着たきりの普段着にしなさいよ)。フ⌈タ⌉キシキンシェー　⌉ヨイ　⌈シンマー⌉　パ⌈ララ⌉ヌ [ɸu̥⌈ta⌉kiʃikiŋʃe: ⌉joi ⌈ʃimma:⌉ pa⌈rara⌉nu](普段着では祝儀の座敷に < お祝いをしに > は行けない)。

フ⌈タ⌉キナ [ɸu̥⌈taki⌉na]【副】直ちに。直ぐに。ただちに (直ちに)。すぐさま。さっそく。若年層は、フ⌈タケ⌉ナ [ɸu̥⌈take⌉na](すぐさま) ともいう。⌈イー⌉ッふァイティ　フ⌈タキ⌉ナ　ニ⌈ブ　ムノー⌉　ア⌈ラ⌉ヌ [⌈ʔi:⌉ ffaiti ɸu̥⌈taki⌉na ni⌈bu muno:⌉ ʔa⌈ra⌉nu](ご飯を食べてすぐさま寝るものではない)。

フ⌈タキム [ɸu̥⌈takimu]【名】ふたごころ (二心)。裏切りの心。若年層はフ⌈タグクル [ɸu̥⌈tagukuru](二心) ともいう。⌈ワーラ⌉　フカナー　フ⌈タキム⌉　ムトゥ　⌉バー (ヤ)　ア⌈ラン⊦ダー [⌈wa:ra⌉ ɸu̥kana: ɸu̥⌈takimu⌉ mutu ⌉ba:(ja) ʔa⌈ran⊦da:](君より他に愛する人をつくるような、二心を持つ私ではないよ)。

フ⌈タグクル [ɸu̥⌈tagukuru]【名】二心。フ⌈タグクルヌ⌉　アル　プ⌈ソー　シンヨー⌉　ナ⌈ラ⌉ヌ [ɸu̥⌈tagukurunu⌉ ʔaru pu̥⌈so: ʃiɲjo:⌉ na⌈ra⌉nu](二心のある人は信用できない)。

フ⌈タケ⌉ナ [ɸu̥⌈take⌉na]【副】直ちに。直ぐに。すぐさま。さっそく。⌈ガッ⌉コーラ　⌈カイ⌉リ　⌉クーカー　フ⌈タケ⌉ナ　パ⌈タ⌉ケー　クー⌈ヨー [⌈gak⌉ko:ra ⌈kai⌉ri ⌉ku:ka: ɸu̥⌈take⌉na pḁ⌈ta⌉ke: ku:⌈jo:](学校から帰ってきたら、すぐ畑に来なさいね < 来いよ >)。

フ⌈タサバン [ɸu̥⌈tasabaŋ]【名】蓋付きの茶碗。⌈ウイ⌉プソー　フ⌉タサバン⌉ナー　⌈サー⌉ヤ　⌈サイティ　ピーラサン⌉ドーシ　⌈ヨーンナール⌉　ヌ⌈モーッ⌉タ [⌈ʔui⌉pu̥so: ɸu̥⌉tasaban⌉na: ⌈sa:⌉ja ⌈saiti pi:rasan⌉do:ʃi ⌈jo:nna:ru⌉ nu⌈mo:t⌉ta](老人は蓋付きの茶碗にお茶を注いで、冷まさないでゆっくりと飲まれた)。

フ⌈タ⌉シゥカイ [ɸu̥⌈ta⌉sï̥kai]【名】**1**常用すること。持続的に使用すること。カ⌈ミ⌉ヌ　ミ⌈ジェー⌉　フ⌈タシゥカイ⌉ユー　⌈シー⌉バ [ka⌈mi⌉nu mi⌈ʤe:⌉ ɸu̥⌈tasï̥kai⌉ju: ⌈ʃi:⌉ba](水瓶の水は日常使用する水にしなさいよ)。**2**使用人として使うこと。下男、下女として奉公させること。キ⌈ナイヌ　クー⌉ワティナー⌈イ⌉　プ⌈スン⌉ヤーナ　フ⌈タ⌉シゥカイ　シ⌈ラリベー [ki⌈nainu ku:⌉wati na:⌈ji⌉ pu̥⌈suŋ⌉ja:na ɸu̥⌈ta⌉sï̥kai ʃi⌈rari be:](家庭が貧しいので、ずっと余所の家で使用人として使われている)。

フ⌈タシジ [ɸu̥⌈taʃiʤi]【名】二粒。⌉マメー　シン⌈トゥ⌉　フ⌈タシジル⌉　ヌ⌈カ⌉リ　⌈ベー [⌉mame: ʃin⌈tu⌉ ɸu̥⌈taʃiʤiru⌉ nu⌈ka⌉ri ⌈be:](豆はたった二粒しか残ってない < 二粒がぞ残っている >)。

ブ⌈ダッカルン [bu⌈dakkaruŋ]【自動】飛び上がる。飛び跳ねる。サ⌈ニ⌉ヤンダ　ブ⌈ダッカルンティ⌉　ウ⌈ムーン⌉ドゥ　⌈パン⌉ヌ　⌉ヤミティ　ブ⌈ダッカララヌ [sa⌈ni⌉janda bu⌈dakkarunti⌉ ʔu⌈mu:n⌉du ⌈pan⌉nu ⌉jamiti bu⌈dakkararanu](嬉しいから飛び上がろうと思うが、足が痛くて飛び上がられない)。ブ⌈ダッカリ⌉　ミサカー　ブ⌈ダッカル⌉　クトー　⌉ナ⌈リ⌉スバ　⌈マー⌉ビン　ブ⌈ダッカレー⌉　ミサムヌ [bu⌈dakkari⌉ misaka: bu⌈dakkaru⌉ ku̥to: na⌈ri⌉suba ⌈ma:⌉bim bu⌈dakkare:⌉ misamunu](飛び上がってよければ飛び上がることはできるから、もっと飛び上がればいいのに)。⌈パー⌉ク　ブ⌈ダッカリ [⌈pa:⌉ku bu⌈dakkari](早く飛び上がれ)。

フ⌈タッチン [ɸu̥⌈tatʧiŋ]【名】(数) 二つ。二個。二粒。粒状のものを数えるのに用いる語。「二粒」の義か。プ⌈ス⌉ケンシ　フ⌈タッチンナー⌉　フ⌈チ⌉ルヌ⌈ミ⌉シタ [pu̥⌈su⌉keŋʃi ɸu̥⌈tatʧinna:⌉ ɸu̥⌈ʧi⌉ru nu⌈mi⌉ʃi̥ta](一度に二粒ずつ薬を飲んだ)。

フ⌈ダッツメー [ɸu⌈datʦume:]【名】**1**(動) ヤモリ (守宮)。ヤ⌈マトゥ⌉プソー　フ⌈ダッツメーヌ⌉　キーナ⌈キバン⌉　ウ⌈バイソーッ⌉タ [ja⌈matu⌉pu̥so: ɸu⌈datʦume:nu⌉ ki: na⌈kibaŋ⌉ ʔu⌈baiso:t⌉ta](本土の人 < 大和人 > はヤモリが出てきて鳴いても怖がりなさった)。**2**家の外に出ない人。引籠(ヒキコ)もりの人。ウ⌈レー⌉　フ⌈ダッツメー⌉　ナリティ　⌈ヤー⌉ラ　⌉フカー　ン⌈ジラ⌉ヌ [ʔu⌈re:⌉ ɸu⌈datʦume:⌉ nariti ⌈ja:⌉ra ⌉ɸu̥ka: ʔn⌈ʤira⌉nu](彼は引籠もり <守宮(ヤモリ)> になって、家の外に出ない)。

フ⌈タティー [ɸu̥⌈tati:]【名】**1**両手。両腕。カ⌈タ⌉ティー [kḁ⌈ta⌉ti:](片手) の対義語。フ⌈タティー⌉シギッ⌈ティ⌉　カ⌈サミベー [ɸu̥⌈tati:⌉ʃi git⌈ti⌉ kḁ⌈sami be:](両手でぎゅっと掴んでいる)。**2**両方の水桶。プ⌈スカタ⌉ミ [pu̥⌈sukata⌉mi](いっか < 一荷 >)。⌈タン⌉グ　フ⌈タティー⌉シル　プ⌈スカタ⌉ミティ　ア⌈ゾーッ⌉タ [⌈taŋ⌉gu ɸu̥⌈tati:⌉ʃiru pu̥⌈sukata⌉miti ʔa⌈ʣo:t

˺ta](水桶両手 <2 つ > で一荷 < 一担ぎ。一人の肩に担える分量 > といわれた)。

フ˞タディル [ɸu̥˞tadiru] 【名】弁当を入れる蓋付(フタツキ)の笊(ザル)。蓋付きの籠(カゴ)。˞クー˺ジ [˞kuː˺ʤi](トウヅルモドキ)の皮で編みあげた蓋付きの笊。畑や海へ行く際に持参した。また、日帰りで˞パイ˺ター [˞paiˀtaː](南端、西表島北部の水田地帯) へ田仕事で行く際もそれを持参した。「蓋笊」の義。˞ウンヌ˺イー [˞ʔunnu˺ʔiː](芋を煮て捏(コ)ねてボール状に握ったお握り) や、カ˞ティ˺ムヌ [kḁ˞tiˀmunu](御数。菜。副食物) などを入れておくのに用いた。冷蔵庫のなかった時代には、この蓋付きの笊に食物を入れて風通しのよい木陰の枝に吊るしておくと、食品は長持ちできたし、蠅などの昆虫が付くこともなく、衛生的に食品を保存し、運搬することができた。フ˞タディル˺ナー ˞ウンヌ˺イー イ˞リティ˺ パ˞タ˺ケー ムティ ˞パッ˺タ [ɸu̥˞tadiru˺naː ˞ʔunnu˺ʔiː ʔi˞ritiˀ pḁ˞ta˺keː ˺muti˞pat˺ta](蓋付きの笊に芋のお握りを入れて畑へ持っていった)。

フ˞タトゥシ [ɸu̥˞tatuʃi] 【名】二年。ク˞ヌ˺ シ˞グトー˺ フ˞タトゥシ˺ カ˞カリ˺ル トゥ˞ズミラ˺リ˞ナー [ku˞nuˀ ʃi˞gutoː˺ ɸu̥˞tatuʃiˀ kḁ˞kariˀru tu˞ʤumira˺ri˞naː](この仕事は二年かかって完成することが出来るねえ)。

フ˞タナイラ [ɸu̥˞tanaira] 【副】二人で代わる代わる。トゥ˞ジブトゥ˺ フ˞タナイラ˺シ ッ˞ふァ˺ イ˞ズムノー˺ ア˞ラ˺ヌ [tu˞ʤibutuˀ ɸu̥˞tanaira˺ʃi f˞fa˺ ʔi˞ʤumunoː˺ ʔa˞ra˺nu](夫婦二人で代わる代わるに子供を叱るものではない)。

フ˞タナカ [ɸu̥˞tanaka] 【名】 1二つのものの間。あいなか (相中)。˺アボートゥ ˞アーヤー˺ヌ フ˞タナカ˺ナー ギュ˞タールヌ˺ ッ˞ふァヌ˺ ニ˞バサリラ [˺ʔaboːtu ˞ʔaːja˺nu ɸu̥˞tanaka˺naː gju˞taːrunuˀ f˞fanuˀ ni˞basarira](お母さんとお父さんの間に、一体何人の子供が寝せつけられるものかねえ)。マ˞ユヌ˺ フ˞タナカー˺ シ˞カマサンドー˺シ サ˞ニーサニー˺シ パ˞ナ˺シバ [ma˞junuˀ ɸu̥˞tanakaː˺ ʃi̥˞kamasandoː˺ʃi sa˞niːsaniː˺ʃi pa˞na˺ʃiba](眉間(ミケン)をしかめ <顰(シカ)め > ないで嬉(ウレ)しそうに話しなさいよ)。2母屋と炊事小屋の間。フ˞タナカ˺ナー ミ˞ジカミ˺ ビ˞シ˺ シケー [ɸu̥˞tanaka˺naː mi˞ʤikamiˀ bi˞ʃiˀ ʃi̥ke:](母屋と炊事小屋の間に水甕を据えつけて < 座らせて > ある)。

フ˞タナンカ [ɸu̥˞tanaŋka] 【名】二七日忌。人の死後 14 日目に執り行われる法事。フ˞タナンカトゥ ユーナンカ ムーナンカーヤ˺ ドゥーマーラシ ˞シーティ˺ ヌ˞カ˺ロー ウ˞トゥザマリーン˺ シゥ˞カシティ ソーッ˺タツォー [ɸu̥˞tanaŋkatu juːnaŋka muːnaŋkaːja˺ duːmaːraʃi ˞ʃiːtiˀ nu˞ka˺roː ʔu ˞tuʤamarin˺ si̥˞kaʃiti soːt˺tatsoː](二七日忌と四七日忌、六七日忌は身内でやって、残りは親戚も案内してされたそうだ)。

フ˞タニバ˺シ [ɸu̥˞tanibaˀʃi] 【名】直接醗酵。こうじ (麹) をしたてる際に、原料の米や大豆などを蒸して筵などに広げ、そのまま醗酵させること。「そのまま寝かせ」の義。マ˞タニバシ [ma˞tanibaʃi](「又度寝かせ」の義。盛り上げてある程度醗酵させた後、更に原料を加えて広げて醗酵させること) の対義語。˞コージェー˺ バ˞ラフ˺タシ ウ˞スイ˺ カ˞バ˺シティ フ˞タニバ˺シ ˞シー˺ シケー [˞koːʤeː˺ ba˞raɸu̥˺taʃi ʔu˞suiˀ ka˞ba˺ʃi̥ti ɸu̥˞tanibaˀʃi ˞ʃiː˺ ʃi̥ke:](麹は稲藁で覆い被せて、直接醗酵させて < そのまま寝かせて > おいてある)。

フ˞タニビ [ɸu̥˞tanibi] 【名】二度寝。一度目覚めた後に、もう一度寝ること。˺ユベー ˞ビー˺プスン ウ˞コーサ˺リティ フ˞タニビ シーティル˺ ア˞サ˺ニビ ˞シー ナー˺ヌ [˺jubeː ˞biː˺pu̥suŋ ʔu˞koːsa˺riti ɸu̥˞tanibi ʃiːtiruˀ ʔa˞sa˺nibi ˞ʃiː naː˺nu](昨夜は酔っぱらいに起こされて、二度寝したので < してぞ > 朝寝坊してしまった)。

フ˞タ˺ニビ [ɸu̥˞taˀnibi] 【名】寝続けること。寝たきり〜。シ˞トゥム˺ティ イ˞ガメーラ カイ˺リ ˺キーティ ニ˞ブタター˺ナ フ˞タニ˺ビ ˞シーティ˺ ウ˞キラ˺ヌ [ʃi̥˞tumuˀti ʔi˞gameːra kai˺ri ˺kiːti ni˞butataː˺na ɸu̥˞ta˺nibi ˞ʃiːtiˀ ʔu˞kira˺nu](朝、イカ釣り漁から帰ってきて寝たまま寝たきりで起きない)。

˺フダニン [˺ɸudaniŋ] 【名】納税義務者 (満十五歳から五十歳の人)。琉球国時代に満十五歳になると一人前として納税の義務を負わされ、田地の配分を受ける権利を有した人。村の祭祀行事にも一人前の人間として参加した。「札人」の義か。˺Fuda. フダ (札) 禁制のこととか人々の名前とかなどを書きつける小さな板」『邦訳日葡辞書』や書状などによって役所から通知された人。˞ニントーゼイ˺ヌ ジ˞ダイヤー ズン˺グ ˺ナルカー ˺フダニン ˺ナリ ウ˞ブプス˺トゥ ˞マータキ グイ˺フゾーノー カ˞タミ˺ソーッタツォー [˞ninto:ʤeiˀnu ʤi˞daija: ʤuŋ˺gu ˺naruka: ˺ɸudanin ˺nari ʔu˞bupusu ˺tu ˞ma:taki gui˺ɸuʤo:no: kḁ˞tami˺sottatso:](人頭税の時代には、十五歳になると札人 < 納税義務者 >

となって、大人と同じく税金＜御庸布・上納＞を負担された＜担がれた＞そうだ)。

フ˩タヌ　ナー˥ン　˩ジン˥パク [ɸu̥˩tanu naː˥n ˩ʤim˥paku] 【連】豚便所。「蓋のない銭箱」の義。諺。戦前までは主婦は豚便所で養豚していた。肥育した豚を売って金を儲けたので、豚便所を比喩的に「蓋のない銭箱」と表現した。フ˩タヌ　ナー˥ン　˩ジン˥パコーラル　ミ˩ドゥム˥ヌ　ワ˩タクサー˥ヤ　˩モーキ˥ルティ　˥ムカーヤ [ɸu̥˩tanu naː˥n ˩ʤim˥pakoːraru mi˩dumu˥nu wa˩takusaː˥ja ˩moːki˥ruti ˥mukaːja](蓋のない銭箱＜養豚をして＞から＜ぞ＞女はへそくりがね＜臍繰り金＞を儲けるというものだよ)。

フ˩タバーキ [ɸu̥˩tabaːki] 【名】(数) 竹製笊(ザル)の二杯分の量。「二笊」の義。イ˩ガー˥　フ˩タバーキ　ホー˥ソーレーン [ʔi˩gaː˥ ɸu̥˩tabaːki hoː˥soːreːŋ](烏賊を笊の二杯分釣ってこられた)。

フ˩タバキ [ɸu̥˩tabaki] 【名】二分すること。両分すること。「二分け」の義。˩ターパタ˥ケー　˩ベー˥　フ˩タール˥シ　˩マータキナー˥　フ˩タバキ　シー˥　ス˩ク˥ラナー [˩taːpata˥keː ˩beː˥ ɸu̥˩taːru˥ʃi ˩maːtakinaː˥ ɸu̥˩tabaki ʃiː˥ su̥˩ku˥ra˩naː](田畑はわれわれ二人で等分に二分して耕作しよう＜作ろう＞ねえ)。

フ˩タバリ [ɸu̥˩tabari] 【名】二つ割り。真っ二つに割ること。ク˩レー˥　フ˩タバリ　ミーバリ˥　ナ˩サバ˥ル　ッ˩ふァイヤッ˥サー [ku˩reː˥ ɸu̥˩tabari miːbari˥ na˩saba˥ru f˩faijas˥saː](これは二つ割、三つ割りにした方が食べやすい)。

フ˩タ˥パリ [ɸu̥˩ta˥pari] 【名】行ったきり。行ったきり戻らないこと。ウ˩レー　パッ˥タ　˩ター˥ナ　フ˩タ˥パリ　˩シー˥　ム˩ドゥラ˥ヌ [ʔu˩reː pat˥ta ˩taː˥na ɸu̥˩ta˥pari ˩ʃiː˥ mu˩dura˥nu](彼は行ったきり＜行ったまま＞戻らない)。

フ˩タパン [ɸu̥˩tapaŋ] 【名】両足。両脚。カ˩タ˥パン [kḁ˩ta˥paŋ](片足) の対義語。˩ワー˥　フ˩タパン˥　カナイ　˩ブームヌ˥　ア˩ラカラン˥　クトー　˩ナー˥ヌ [˩waː˥ ɸu̥˩tapaŋ˥ kanai ˩buːmunu˥ ʔa˩rakaraŋ˥ ku̥toː ˩naː˥nu](君は両足が揃って健康だのに、歩けないことはない)。

フ˩タピサヤー [ɸu̥˩tapi̥saja:] 【名】切妻屋根。棟を境に両方に流れを持つ屋根、切破風の屋根。「二平屋」の義。「Catafira. カタヒラ (片平) 家の屋根の流れの片側」『邦訳日葡辞書』の両面のこと。˩パイタ˥ヌ˩ターヤー˥ヤ　ムー˩ル˥　フ˩タピサヤー　ヤッタ [˩paita˥nu ˩taːjaː˥ja muː˩ru˥ ɸu̥ta˩tapisaja: ˩jatta](南端(ハイバタ)の田圃小屋は皆二平屋＜切妻屋根＞だった)。

フ˩タヒル [ɸu̥˩taçiru] 【名】二尋。フ˩タイル [ɸu̥˩tairu](二尋) ともいう。˩インヌカーヌ˥　シ˩ルヌ˥　シナー　フ˩タヒル˥シェー　タ˩ラーヌ [˩ʔinnukaːnu˥ ʃi˩runu˥ ʃinaː ɸu̥˩taçiru˥ʃeː ta˩raːnu](西村井戸の釣瓶の綱は二尋では足りない)。

フ˩タマタ [ɸu̥˩tamata] 【名】1二股。もとが一つで、末が二つに分かれたもの。ク˩ヌ　キー˥ヌ　ユ˩ダー˥　フ˩タマター˥　ナリ　˩ブー [ku˩nu kiː˥nu ju˩daː˥ ɸu̥˩tamataː˥ nari ˩buː](この木の枝は二股になっている)。2二股の鍬。フ˩タマタカナパイヤー˥　イ˩シジーパタキナー˥ル　シゥ˩カウ [ɸu̥˩tamatakanapaijaː˥ ʔi˩ʃiʤiːpatakinaː˥ru si̥˩˥kau](二股の鍬は石ころの多い畑＜石地畑＞で＜ぞ＞使う)。

フ˩タマタ˥　カ˩キ˥ルン [ɸu̥˩tamata˥ kḁ˩ki˥ruŋ] 【連】1ふたまた (二股) をかける。同時に二つの物事を達成しようとする。フ˩タマタ˥　カ˩キ˥ル　ア˩キ˥ナイン　˩スーユンダ˥<˩スンダ˥>　イッ˩ケナ　モーキ˥ルンツォー [ɸu̥˩tamata˥ kḁ˩ki˥ru ʔa˩ki˥nain ˩suːjunda˥<˩sunda˥> ʔik˩kena moːki˥runtsoː](二股に掛ける商売もするから非常に儲けるそうだ)。2あちらに付き、こちらに付きして去就(キョシュウ)が定まらないこと。態度をはっきり示さないこと。ユ˩ミ˥　クイン　˩ゲータン˥ドゥ　フ˩タマタ˥　カ˩キラ˥リ　ブ˩リン˥ギサリ　˩ダーッ˥サル　˩ピントーヤ　ナーン˥シェンツォー [ju˩mi˥ kuiŋ ˩geːtan˥du ɸu̥˩tamata˥ kḁ˩kira˥ri bu˩riŋ˥gisari ˩daːs˥saru ˩pintoːja naːŋ˥ʃentsoː](嫁を貰いに行ったが、二股を掛けられているらしく、よい返事はなかったそうだ)。

フ˩タマタミチ [ɸu̥tamatamitʃi] 【名】二本に分かれた道。分かれ道。二股道。三叉路。フ˩タマタミチェーラ　ニーレー　マール˥カー　ニ˩シ˥ドー　˥ンジ　ピ˩ダ˥レー　˩マール˥カー　ヤ˩ラヌ˥　パマール　ン˩ジ˥ル [ɸu̥˩tamatamitʃeːra niːreː maːru˥kaː ni˩ʃiˀdoː ˥ˀnʤi pi˩daˀreː ˩maːru˥kaː ja˩ranu˥ pamaːru ˀn˩ʤi˥ru](二股道から右へ回ると西堂へ出、左へ回ると屋良の浜へ＜ぞ＞出る)。

フ˩ダマリ [ɸu˩damari] 【名】神託(シンタク)を告げること。託宣(タクセン)。神懸(カミガカリ)して神託を告げること。フ˩ダマレー˥　ター˩ンターンマー˥　サ˩ヌ˥　サーダカマリヌ　プ˩スヌル　スー [ɸu˩damareː˥ ta˩nta:mmaː˥ sa˩nu˥ saːdakamarinu pu̥˩sunuru suː](神懸り＜神懸りして神託を述べること＞は誰も彼もはしない。セジ高生まれの人がするのだ)。

フ˩ダマルン [ɸu˩damaruŋ] 【自動】神懸りして神の託宣をのべる。神仏の霊が人に憑依(ヒョウイ)して神仏の意

を告げる。˥サーダカマリ [˥saːdakamari](セジ高生まれ) の女性に神仏の霊が乗り移って失神状態となり、その後に神仏の意思を語り出すことをいう。˥サーダカマリヌ　プ˞スヌ˥　フ˞ダマリティル　ウン˥ネヌ　キ˞ナイヌ˥　シジ　タ˞ダ˥ソーッタツォー [˥saːdakamarinu pu̥˞sunu˥ ɸu˞damaritiru ʔun˥nenu ki˞nainu˥ ʃiʤi ta˞da˥soːttatsoː](セジ高生まれの人が憑依(ヒョウイ)して＜ぞ＞、その家の血統を正されたそうだ)。フ˞ダマリナー˥ヌ [ɸu˞damarinaː˥nu](神懸り＜憑依＞してしまった)。ビ˞キドゥモー˥　フ˞ダマラヌ [bi˞kidumoː˥ ɸu˞damaranu](男は憑依しない)。˥クナー　フ˞ダマル˥　プ˞ソー˥　ブ˞ラーン˥パジ [˥kunaː ɸu˞damaru˥ pu̥˞soː˥ bu˞raːm˥paʤi](ここには憑依する人はいないはずだ)。˞ワンヌン˥　フ˞ダマレー˥　ミサムヌ [˞wannuŋ˥ ɸu˞damareː˥ misamunu](君も憑依すればいいのに)。˞パー˥ク　フ˞ダマリ˥バ [˞paː˥ku ɸu˞damari˥ba](早く憑依しなさいよ)。

フ˞タミー [ɸu̥˞tamiː] 【名】両眼。二つの目。カ˞タ˥ミー [kḁ˞ta˥miː](片目) の対義語。˞ヌー˥ル　マ˞シ˥ユー　フ˞タミー˥　プ˞ラッキティ˥　ユー　˥ミリ [˞nuː˥ru ma˞ʃi˥ju: ɸu̥˞tamiː˥ pu˞rakkiti˥ juː ˥miri](何が良いか、両眼を開いてよく見よ＜見れ＞)。

フ˞タムシ [ɸu̥˞tamuʃi] 【名】二度。二回 (数詞)。˞ター˥ヤ　フ˞タムシ (マ˞トーナ [ma˞toːna]＜二度耕＞) ˞ミームシナー　カイ˥セーティル　˞マイ˥　イ˞ボーッ˥タ [˞taː˥ja ɸu̥˞tamuʃi(ma˞toːna＜ 二度耕 ＞)˞miː-muʃina: kai˥ʃeːtiru ˞maija:˥ ʔi˞boːt˥ta](田圃は二度打ち、三度と打ち＜耕し＞して稲を植えられた)。

フ˞タムティ [ɸu̥˞tamuti] 【名】再婚。「二持ち」の義。フ˞タムティ　スー˥　プ˞スン˥　ブ˞リブンドゥ˥　˥ドゥームティ　˞サン˥　プ˞スン˥　ブ˞リブー [ɸu̥˞tamuti suː˥ pu̥˞sum˥ bu˞ri bundu˥ duːmuti ˞sam˥ pu̥˞sum˥ bu˞ri buː](再婚する人もいる＜居りおる＞が、結婚をしない人もいる＜居りおる＞)。

フ˞タ˥ムニ [ɸu̥˞ta˥muni] 【名】口癖。常日頃から言っている言葉。「平生から言い続けている言葉」の義。˥アボー　˞ワー　ソー˥　カー˞ニル˥　フ˞タ˥ムニ　ア˞ゾー˥リ　タ˞ナ˥モーッタ˞ダー [˥ʔabo: ˞waː soː˥ ka:˞niru˥ ɸu̥˞ta˥muni ʔa˞ʤoː˥ri ta˞na˥moːtta˞daː](お母さんは君の心配だけを口癖のようにいつも話されて頼まれたのだよ)。

˥フダユリ [˥ɸudajuri] 【名】納税免除。賦役免除(フエキメンジョ)。琉球国時代、五十歳以上になって納税・賦役等の義務を免除されたこと。「札許し」の義。ム˞カ˥シェー　トゥ˞シ˥ヌ　˞グン˥ズ　˥ナルカー　ム˞ル˥　フダユリー　ナ˞リ˥ソーッタツォー [mu˞ka˥ʃeː tu̥˞ʃi˥nu ˞gun˥ʤu ˥naruka: mu:˞ru˥ ɸudajuri: na˞ri˥soːttatsoː](昔は年齢が五十になったらみんな納税・賦役免除になられたそうだ)。

フ˞ダ˥ル [ɸu˞da˥ru] 【名】ひしゃく (柄杓)。水甕より水を汲み取るのに用いる道具。「ほだり (秀罇)。本陀理」『古事記　下雄略　歌謡 104』の転訛したものか。タ˞キフダル [tḁ˞kiɸudaru](竹筒製の柄杓)。カ˞ニフダル [ka˞niɸudaru](ブリキ缶で作った柄杓)。˞ペー˥ラフダル [˞peː˥raɸudaru](完熟した夕顔の実を切り割り、中子を除去して作った柄杓) などがある。ビロウの葉で作った柄杓はウ˞ム˥ル [ʔu˞mu˥ru] といった。フ˞ダ˥ルシ　ミ˞ジカメー˥ラ　ミ˞ジ˥　フ˞ミティ˥　ヌミバ [ɸu˞da˥ruʃi mi˞ʤikameː˥ra mi˞ʤi˥ ɸu˞miti˥ numiba](柄杓で水甕から水を汲んで飲みなさいよ)。

フ˞ダロー˥マ [ɸu˞daroː˥ma] 【名】小さな柄杓(ヒシャク)。酒甕(サケカメ)から酒を汲み取るのに用いる小さな柄杓。フ˞ダロー˥マシ　サ˞キカメーラ˥　サ˞キ˥　フ˞ミ˥バ [ɸu˞daroː˥maʃi sḁ˞kikameːra˥ sḁ˞ki˥ ɸu˞mi˥ba](小さな柄杓で酒甕から酒を汲みなさいよ)。

ブ˞タン [bu˞taŋ] 【名】(植)花卉(カキ)の名。観賞用植物。鳩間島には栽培されていないが、石垣方言などからの借用語であろう。イ˞サナキヌ　プール˥ナーヤ　ブ˞タンカシラ˥ティ　˞シー˥　イッ˞ケナカイ˥ヤー　カ˞シラ˥バ　シ˞ダーシ˥　ン˞ザ˥ソーッタン [ʔi˞sanakinu puːru˥naːja bu˞taŋkaʃira˥ti ˞ʃiː˥ ʔik˞kena kai˥jaː ka˞ʃira˥ba ʃi˞daːʃi˥ ʔn˞ʤa˥soːttaŋ](石垣の豊年祭には牡丹旗頭といって非常に美しい旗頭を飾りつけて＜仕出して＞出されたものだ)。

˥フチ [˥ɸu̥ʧi] 【名】櫛。頭髪をすく道具。「〜眞櫛用＜マクシモチ＞〜。万、1233」の転訛したもの。タ˞キフチ [tḁ˞kiɸuʧi](竹製の櫛)、˞キー˥フチ [˞kiː˥ɸu̥ʧi](木製の櫛)、カ˞ミヌ˥クーフチ [ka˞minu˥kuːɸu̥ʧi](鼈甲(ベッコウ)製(セイ)の櫛) などがあった。˥フチシ　ガ˞マ˥ジ　˥キズン [˥ɸu̥ʧiʃi ga˞ma˥ʤi ˥kiʤuŋ](櫛で髪をすく＜梳(ケズ)る＞)。

フ˞チ [ɸu̥˞ʧi] 【名】 1口。「久知 (口)」『古事記中、神武謡 13』。「口　姑之」『琉球館訳語』の転訛したもの。ウ˞リヌ˥　フ˞チェーラ˥　ム˞ドゥ˥ル　˥ムノー　˞ナー˥ヌ [ʔu˞rinu˥ ɸu̥˞ʧeːra˥ mu˞du˥ru ˥muno: ˞naː˥nu](彼の口から戻る物はない＜何でも食べる＞)。2言葉。プ˞スヌ˥　ヤ˞ナ˥フチ　ス˞ナ [pu̥˞sunu˥ ja˞na˥ɸu̥ʧi su˞na](他人の悪口をするな)。ウ˞レー˥　フ˞チ˥　フ˞コー˥ン [ʔu˞reː˥ ɸu̥˞ʧi˥ ɸu̥˞koː˥ŋ](彼は口下手で

ある < 口が鈍い >)。˞カンヌ˞マイ　フ˞チカザルスン [˞kannu˞mai ɸu̥˞ʧikaʤaru suŋ](神様の前に願い事を口に出して唱える)。3端緒(タンショ)。糸口。はじまり。˞ミー˞ヌ　˞ムイティル˞　イ˞トゥ˞ヌ　フ˞チ˞　トゥ˞ミユーサン˞バン [˞miː˞nu ˞muitiru˞ ʔi˞tu˞nu ɸu̥˞ʧi˞ tu˞mijuːsam˞baŋ](目が老眼になって < 目が燃えて > 糸の端が探されない)。˞ワー˞ラ　パ˞ナシ˞ヌ　フ˞チェー˞　ン˞ザ˞シバ [˞waː˞ra pa˞naʃi˞nu ɸu̥˞ʧeː˞ ʔn˞ʤa˞ʃiba](君から話しを切り出し < 話の口を出し > なさい)。4〜時。〜方法。〜仕方。ニ˞ビベー˞ティウ˞リヌ　キー˞フチェー　˞ピッ˞チン　ッ˞サンシェン [ni˞bibeː˞ti ʔu˞rinu kiː˞ɸu̥ʧeː ˞pit˞ʧin s˞saŋʃeŋ](眠っていて彼の帰って来た時 < いつどうやって帰って来たか、その方法 > をちっとも知らなかった)。5回数。口に物を入れる回数を表す。フ˞チ˞ロー　プ˞スフチシ　˞ゴーンティ˞　ヌミバ [ɸu̥˞ʧi˞roː pu̥˞su˞ ɸu̥ʧiʃi ˞goːnti˞ numiba](薬は一口でごくんと飲みなさいよ)。

フ˞チ [ɸu̥˞ʧi] 【名】津口。港の入り口。島の回りを取り巻く珊瑚礁の切れ目。船は珊瑚礁の切れ目より港へ出入りした。鳩間島の東南の方には、タ˞カビ˞ヌ　フ˞チ [tḁ˞kabi˞nu ɸu̥˞ʧi](タカビ < 高干瀬 > の津口) があり、西南西の方には˞ウーグ˞チ [˞ʔuːgu ˞ʧi](大津口) がある。定期航路の運搬船はこの津口を通って出入港した。イ˞サナケーラ˞ヌ　˞フネータ˞カビ˞ヌ　フ˞チェー˞ラ　˞ペー˞リ　˞キー　イ˞ラムテーヌ˞　フネー　˞ウーグ˞チェーラル　˞ンジ˞パッ˞タ [ʔi˞sanakeːranu˞ ɸuneː tḁ˞kabi˞nu ɸu̥˞ʧeː˞ra ˞peː˞ri ˞kiː ʔi˞ramuteːnu˞ ɸuneː ˞ʔuːgu˞ʧeːraru ˞ʔnʤi ˞pat˞ta](石垣からの運搬船は東南方の高干瀬の津口から鳩間島へ入ってき、西表への運搬船は西南西の大津口から出て行った)。

˞フチ [˞ɸu̥ʧi] 【名】わらじ (草鞋(ワラジ))。「〜刈りばねに足踏ましなむ久都波氣 < クツハケ > 吾が背。万、3399」の「沓 < 久都 >」が　[kutsu]　→　[ɸu̥tsu]　→　[ɸu̥ʧi]　のように転訛したもの。普通は、バ˞ラフ˞タフチ [ba˞raɸu̥˞taɸu̥ʧi](稲藁で編んだ草鞋) を履いて潮干狩りに行った。稲藁製の草鞋は弱いから一回で履き捨てにしたが、ア˞ダナ˞シフチ [ʔa˞dana˞ʃiɸu̥ʧi](あだん < 阿檀。タコノキ > の気根の繊維で編んだ草鞋) は強いので二、三回使用することが出来た。鳩間島の北西の˞ピー [˞piː](干瀬) の˞フンシキ [˞ɸuŋʃi̥ki] には、タ˞カウー˞ル [tḁ˞kaʔuː˞ru](枝珊瑚) が密生していて蛸がよく獲れたので、そこへ行くには˞フチ [˞ɸu̥ʧi] を二本要した。˞フチ　フ˞マン˞カー　イ˞ソー˞　パ˞ララ˞ヌ [˞ɸu̥ʧi ɸu˞maŋ˞kaː ʔi˞soː˞ pa˞rara˞nu](草鞋を履かないと潮干狩りには行けない)。

˞フチ [˞ɸu̥ʧi] 【名】(植) 薬草の名。ヨモギ (蓬)。フ˞チン˞パー [ɸu̥˞ʧim˞paː](ヨモギの葉。汁を搾(シボ)って飲むと風邪の薬効がある。乾燥して綿のように作り、˞ヤツフチ [˞jatsuɸu̥ʧi]< もぐさ > にした)。フ˞チン˞パーズーシー [ɸu̥˞ʧim˞paːʤuːʃiː](ヨモギの葉を入れて炊いた雑炊) などがある。˞フチェー　フ˞チ˞ル　ヤ˞ルンドゥ˞　パ˞タ˞キナー　ウ˞リヌ　ムイ˞ルカー　イッ˞カ˞　キ˞ササラ˞ヌ [˞ɸu̥ʧeː ɸu̥˞ʧi˞ ru ja˞rundu˞ pḁ˞ta˞kina: ʔu˞rinu mui˞ruka: ʔik˞ka˞ ki̥˞sasara˞nu](ヨモギは薬だが、畑にそれが生えると < 雑草となり > なかなか根絶やしされない)。

フ˞チ　アー˞スン [ɸu̥˞ʧi ʔaː˞suŋ] 【連】くちうら < 口裏 > を合わせる。両者が話を一致させる。˞ウチソーダンバ　˞シェー˞テイ　フ˞チェー　アー˞シ　˞ムネー　イ˞ジ˞ヨー [˞ʔutʃisoːdamba ˞ʃeː˞ti ɸu̥˞ʧeː ʔaː˞ʃi ˞mune: ʔi˞ʤi˞joː](よく相談をして、くちうらを合わせて話しなさい < ものは言いなさい > よ)。

フ˞チ　アーラ˞スン [ɸu̥˞ʧiʔaːra˞suŋ] 【連】足りない物を少しずつ分けて皆に配分して食べさせる。ン˞メーマ˞ナー　ヤ˞ラバン˞　ミ˞サ˞ル　˞バキティ　ムー˞ルン˞　フ˞チアーラ˞シバ [ʔm˞meːma˞naː ja˞rabam˞ mi˞sa˞ru ˞bakiti muː˞ruŋ˞ ɸu̥˞ʧi ʔaːra˞ʃiba](少しずつでもいいさ、分けて皆に配分して食べさせなさいよ)。

フ˞チ˞　ア˞キルン [ɸu̥˞ʧi˞ ʔa˞kiruŋ] 【連】1口を開ける。何かをし始める。ク˞ヌ˞　パ˞タ˞ケー　˞マーラ　フ˞チ˞　ア˞キルワ [ku˞nu˞ pḁ˞ta˞keː ˞maːra ɸu̥˞ʧi˞ ʔa˞kiruwa](この畑は何処から開墾する < 耕しはじめる > か)。2イダフニの通行のため、魚垣の一部を開けて通した後に元通りに石垣を積みなおすこと。˞スーピサールナー　˞パイ˞ター　˞オー˞ル　˞ピンマー　˞インダヌ　カ˞キヌ˞　フ˞チ˞　ア˞ケー˞ティル　トゥ˞マダヌ　ニー˞ウレー　˞オーッ˞タ [˞suːpi̥saːruna: ˞pai˞ta: ˞ʔoː˞ru ˞pimmaː ˞ʔindanu kḁ˞kinu˞ ɸu̥˞ʧi˞ ʔa˞keː˞tiru tu˞madanu niː˞ʔureː ˞ʔoːt˞ta](干潮時に南端 < 西表島 > へ行かれる時は、伊武田の魚垣の口を開けてトゥマダの浜辺へ行かれた)。

フ˞チ˞　ア˞クン [ɸu̥˞ʧi˞ ʔa˞kuŋ] 【連】口を開ける。マ˞ミ˞グロー　ニ˞シェーキ˞ラ　フ˞チ˞　ア˞クンティ˞　ウ˞ムーン˞ドゥ　˞ヌー˞シカヤー [ma˞mi˞guroː ni ˞ʃeːki˞ra ɸu̥˞ʧi˞ ʔa˞kunti˞ ʔu˞muːn˞du ˞nuː˞ʃikajaː](豆

を収穫した後の畑は北側から耕そう＜口を開けよう＞と思うが如何だろうか)。゗ウサンダイヤー　゚ワー゗　プチ゗　ア゚カバル゗　ケー゚ラー゗　タ゚ボーラリ゗ル [゗ʔusandaija: ゚waː゗ ɸu゚̥ʧi゗ ʔa゚kabaru゗ keː゚raː゗ ta゚boːrari゗ru](お供えした料理＜供物＞は、君が手をつけて始めて＜君が口を開けたらばこそ＞皆も頂ける＜賜れる＞のだ)。

プチアタル [ɸu゚̥ʧiʔataru] 【名】1口当たり。くちざわり (口触り)。ク゚ヌ゗　サ゚ケー゗　プチアタルヌ　スーワ゗ヌ　ヌ゚マラ゗ヌ [ku゚nu゗ sḁ゚keː゗ ɸu゚̥ʧiatarunu suːwa゗nu nu゚mara゗nu](この酒は口当たりが強くて飲めない)。2悪口や呪詛(ジュソ)に満ちた言葉に当って災いを受けること。゗ドゥク　プ゚スン　ニッ゗ふァー　サ゚リティル゗　プチアタル゗　シ゚タムヌ゗ユー　ヤミ　゚ベー゗ティバーヤ [゗duku pu゚̥sun nif゚fa: sa゚ritiru゗ ɸu゚̥ʧiʔataru゗ ʃi゚̥tamunu゗juː ゗jami ゚beː゗tibaːja](あまりにも他人に憎まれて口当たりしたものか、病気して＜病んで＞いるそうな)。

プチイカラー゗ン [ɸu゚̥ʧiʔikaraː゗ŋ] 【形】口の中が不快である。食中毒気味で口中が正常でない。゚ヌー゗ヌ　ア゚タルタ゗ユー　プチイカラー゗ヌ　゚ビーバキンギサ゗ル [゚nuː゗nu ʔa゚taruta゗juː ɸu゚̥ʧiʔikaraː゗nu ゚biːbakiŋgisa゗ru](何が当ったのか、口中が不快で嘔吐しそうだ)。ク゚レー゗　ッ゚ふー゗カー　プチイカラー゗ンダ　シ゚ティリ [ku゚reː゗ f゚fuː゗ka: ɸu゚̥ʧiʔikaraː゗nda ʃi゚̥tiri](これは食べると口中が不快になるから捨てなさい)。プチイカラー　ナー゗ヌ [ɸu゚̥ʧiʔikaraː naː゗nu](口中は不快ではない)。プチイカラー゗　ムノー　シ゚ティリ [ɸu゚̥ʧiʔikaraː゗ muno: ʃi゚̥tiri](口中が不快になるものは捨てなさい)。

プチイリ [ɸu゚̥ʧiʔiri] 【名】申し込み。取引の申し込み。「口入れ」の義。プ゚スシダキ゗　プチイリ　シー゗　シ゚キラン゗カー　プ゚スン゗　トゥ゚ラ゗リン゚ダー [pu゚̥suʃidaki゗ ɸu゚̥ʧiʔiri ʃiː゗ ʃi゚̥kiraŋ゗ka: pu゚̥sun゗ tu゚ra゗rin゚daː](他人より先＜人先＞に申し込みしておかないと人様に取られるぞ)。

プチ゗　ウ゚キ゗ルン [ɸu゚̥ʧi゗ ʔu゚ki゗ruŋ] 【連】申し込みを受ける。申し込みを承諾する。プ゚スヌ゗　プチ゗　ウ゚キ゗ルン　ウ゚キラ゗ヌン　゚ワー　カン゗ガイナール　カ゚カ゗ル [pu゚̥sunu゗ ɸu゚̥ʧi゗ ʔu゚ki゗ruŋ ʔu゚kira゗nuŋ ゚wa: kaŋ゗gainaːru kḁ゚ka゗ru](人様からの申し込みを受けるのも、受けないのも君の考えにかかっている)。

プチ゗　ウクン [ɸu゚̥ʧi゗ ʔukuŋ] 【連】申し込みを受ける。プ゚スヌ゗　プチ゗　ウキティ　アトーラー　゚ンー゗バテー　ア゚ザラント゚ダー [pu゚̥sunu゗ ɸu゚̥ʧi゗ ʔukiti ʔatoːra: ゚ʔmː゗bate: ʔa゚ʤaranˈdaː](人様からの申し込みを受けて＜承諾して＞後からは、嫌だとは言えないよ)。

プチ゗　ウ゚スーン [ɸu゚̥ʧi゗ ʔu゚suːŋ] 【連】沈黙する。口を締める。口を慎む。「口を覆(オオ)う」の義。ミ゚ドーン゗ッふァー　゗アイニ　ア゚バッ゗ツァー　ナ゚ラン゗ドーシ　プチ゗　ウ゚スイヤー゗ティ　゚アー゗キ [mi゚doːn゗ffa: ゗ʔaini ʔa゚bat゗tsa: na゚ran゗doːʃi ɸu゚̥ʧi゗ ʔu゚suijaː゗ti゚ʔaː゗ki](女の子は、あのようにお喋りにならないで、口を慎んで＜押さえ＞いなさい)。

プチウタイ [ɸu゚̥ʧiʔutai] 【名】口答え。反抗。「Cuchigotaye. クチゴタエ (口答) 自分に命ぜられた事に対して言い訳をするような返答」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ウ゚ヤン゗ナーニ　プチウタイ　スー゗　ッ゚ふァー　マーパカラッサー　ナー゗ヌ [ʔu゚jan゗naːni ɸu゚̥ʧiʔutai suː゗ f゚fa: maːpakarassa: naː゗nu](親に対して反抗＜口答え＞する子は真っ当な＜子として正道な、まっとうな＞子でない)。

プチェー　ウイ゗ナリ [ɸu゚̥ʧeː ʔui゗nari] 【連】反抗して。叱って指導するのに対して逆に口答えして反抗する。「口は上になって」の義。ウ゚ナー　サンシェン゗ティ　゚シー゗　プチェー　ウイ゗ナリ　゚ベートツォーカー [ʔu゚naː saŋʃen゗ti゚ʃiː゗ ɸu゚̥ʧeː ʔui゗nari゚beːˈtsoː゗kaː](自分はしなかったといって、逆に反抗して＜口は上になって＞いるんだよってば＜珍しいものだ＞)。

プチェーラ゗　シ゚ダキ゗　マ゚リ [ɸu゚̥ʧeːra゗ ʃi゚daki゗ ma゚ri] 【連】口から先に生まれて。能弁(ノウベン)な者を形容して言う表現。プチェーラ゗　シ゚ダキ゗　マ゚リル゗　アイニ　ム゚ニ゗バ　ユム [ɸu゚̥ʧeːra゗ ʃi゚daki゗ ma゚riru゗ ʔaini mu゚ni゗ba jumu](口から先に生まれたので、あのようによく喋るのだ)。

プチガール [ɸu゚̥ʧigaːru] 【名】自慢。大法螺(ホラ)を吹くこと。威張ること。自分で自分を褒(ホ)める。自分に関係の深いことを褒めそやし、他人に誇ること。言葉で゚ガー゗ルン [゚gaː゗ruŋ](自慢する。応援する。威勢よく掛け声を上げて乱舞する) こと。ウ゚レー　サッ゗コー　゚ドゥー゗ヌ　ッ゚ふァ゗　フミ　プチガール　スント゚ダー [ʔu゚reː゗ sak゗koː ゚duːnu f゚fa゗ ɸumi ɸu゚̥ʧigaːru sunˈdaː](彼は非常に自分の子を誉めて自慢するよ)。ウ゚レー゗　プチガール　シーナー゗ル　ナ゚ラント゚ツォー [ʔu゚reː゗ ɸu゚̥ʧigaːru ʃiːnaː゗ru na゚ranˈtsoː](あいつはあまりにも自慢するので堪らないのだよ)。

プチガイシ [ɸu̥ʧigaiʃi] 【名】他人の呪詛(ジュソ)を返す呪(マジナ)い。「口返し」の義。プチンガイシ [ɸu゚̥ʧiŋgaiʃi](口返し) ともいう。プ゚スン　ニッふァムン゛　シ゚ラランヨー゛シ　゚チャー゛　プチンガイシェー　シー　アー゛キ [pu゚̥sun niffamun゛ ʃi゚raraɲjo:゛ʃi ゚ʧa:゛ ɸu゚̥ʧiŋgaiʃe: ʃi: ʔa:゛ki](他人に呪詛されない＜憎まれ者にされない＞ように、いつも呪詛返し＜口返し＞をしてい＜あるき＞なさい)。

プチカカー [ɸu゚̥ʧikaka:] 【名】三つ口。兎唇(トシン)。口唇裂(コウシンレツ)。「口欠け者」の義。プチカキプス [ɸu゚̥ʧikakipusu](口唇裂の人)。パ゚ルミプス゛ヌ　プチカキマカル゛　シゥ゚カウ゛カー　゛ムナイ　シ゚ティ゛　プチカキッふァヌ゛　マ゚リル゛ティ　ム゚カ゛シプソー　ア゚ゾーッ゛タ [pa゚rumipu̥su゛nu ɸu゚̥ʧikakimakaru゛ si゚̥kau゛ka: ゛munai ʃi゚̥ti゛ ɸu゚̥ʧikakiffanu゛ ma゚riru゛ti mu゚ka゛ʃipu̥so: ʔa゚ʤo:t゛ta](妊婦が縁(フチ)の欠けた碗を使うと、それに感応(カンノウ)して口唇裂の子が生まれると昔の人はいわれたものだ)。

プチカキムヌ [ɸu゚̥ʧikakimunu] 【名】縁の欠けたもの。縁の欠けた碗や什器類。「縁欠け物」の義。ア゚ティブチニ゛　マ゚カ゛ルドング　゚アシゥカウ゛カー　プチカキムヌ゛　ナスン゚ダー [ʔa゚tibuʧini゛ ma゚ka゛rudoŋgu ゚ʔasi̥kau゛ka: ɸu゚̥ʧikakimunu゛ nasun゚da:](むこうみずに＜無鉄砲に。手荒に＞お碗類を扱うと縁の欠けたものにするよ)。

プチカザ [ɸu゚̥ʧikaʤa] 【名】口臭(コウシュウ)。「口の臭い」の義。プチカザヌ゛　ッ゚サー゛ヌ　ン゚カーラヌ [ɸu゚̥ʧikaʤanu゛ s゚sa:゛nu ʔŋ゚ka:ranu](口臭がひどく＜臭く＞て向き合われない)。

プチガザ [ɸu゚̥ʧigaʤa] 【名】口角炎。ム゚カ゛シェー　ッ゚ふァイムヌヌ゛　カ゚ナーン゛シェンダル　プチガザ゛　ン゚ジプス゛ヌ　゚ゴー゛ラーリ　ブ゚レー゛ル [mu゚ka゛ʃe: f゚faimununu゛ ka゚na:ŋ゛ʃendaru ɸu゚̥ʧigaʤa゛ ʔn゚ʤipusu゛nu ゚go:゛ra:ri bu゚re:゛ru](昔は食べ物が十分でなかった＜適わなかった＞から＜ぞ＞口角炎の人が多かったのだろう)。

プチカサマ゛サン [ɸu゚̥ʧikasama゛saŋ] 【形】口がうるさい＜煩い＞。くちやかましい＜口喧しい＞。プチ　ンガマ゛サン [ɸu゚̥ʧi ʔŋgama゛saŋ](口煩い) ともいう。゛アブジェー　゚ミー゛ミー　゛クジクジ　゚シー゛　プチカサマ゛サン゚ダー [゛ʔabuʤe: ゚mi:゛mi: ゛kuʤikuʤi ゚ʃi:゛ ɸu゚̥ʧikasama゛san゚da:](お祖父さんは些細な事までほじくって＜穿って＞口煩(ウルサ)いよ)。

プチカザル [ɸu゚̥ʧikaʤaru] 【名】まじない (呪い) ごとを唱(トナエ)ること。儀礼を伴わずに口で祈願の呪文を唱えること。心配事や危機に直面したとき、神仏に安全祈願の呪文を唱える習慣がある。ニ゚シェー　パヤー゛ヌ　バ゚タリヌ゛　バソー　゚カンヌ゛マイトゥ　゛ウヤパープジヌ　゛マイニ　゚チャー゛　プチカザロー　シートゥーシル　アーク゛タ [ni゚ʃe: paja:゛nu ba゚tarinu゛ baso: ゚kannu゛maitu ゛ʔujapa:puʤinu゛maini ゚ʧa:゛ ɸu゚̥ʧikaʤaro: ʃi:tu:ʃiru ʔa:ku゛ta](鳩間島と西表島の間の海峡を北へ南へと海を渡る時は、神様とご先祖様に対し、いつも安全祈願の呪文を唱え通していたものだ)。

プチカジ [ɸu゚̥ʧikaʤi] 【名】くちかず (口数)。ことばかず。話す回数。゚ワー゛　プチカジヌ　ゴーラー゛ヌ　ン゚メーマー゛　ピ゚カイリ [゚wa:゛ ɸu゚̥ʧikaʤinu go:ra:゛nu ʔm゚me:ma:゛ pi゚̥kairi](君はことばかずが多いから、少しは控えなさい)。プチカジヌ　イシゥ゛カー　プ゚ス [ɸu゚̥ʧikaʤinu ʔisi̥゛ka: pu゚̥su](口数の少ない人)。

プチ゛　カ゚ター゛ン [ɸu゚̥ʧi゛ kḁ゚ta:゛ŋ] 【連】口が堅い。約束をまもる。秘密を口外しない。ウ゚レー゛　プチ゛　カ゚ター゛ンダ　プ゚スンナー゛ニ　パ゚ナ゛ス　゛クトー　゚サン゛パジ [ʔu゚re:゛ ɸu゚̥ʧi゛ kḁ゚ta:゛nda pu゚̥sunna:゛ni pa゚na゛su ゛ku̥to: ゚sam゛paʤi](彼は口が堅いから他人に話すことはないはずだ)。

プチ゛　カ゚タミルン [ɸu゚̥ʧi゛ kḁ゚tamiruŋ] 【連】口止めする。秘密にする。口外しないようにする。「口を固める」の義。プチ゛　カ゚タムン [ɸu゚̥ʧi゛ kḁ゚tamuŋ](口止めする) ともいう。ウ゚ヌ゛　パ゚ナ゛シェー　プ゚スンマー゛　シゥ゚カサランバ　ヤーニン゛ズーシ　プチ゛　カ゚タミ゛　シ゚キ゛リ [ʔu゚nu゛ pa゚na゛ʃe: pu゚̥summa:゛ si゚̥kasaramba ja:nin゛ʤu:ʃi ɸu゚̥ʧi゛ kḁ゚tami゛ ʃi゚̥ki゛ri](この話は他人には聞かされないから、家族で固く口止めして＜口を固めて＞おけ)。

プチカナイ゛ムヌ [ɸu゚̥ʧikanai゛munu] 【名】能弁者。おしゃべり。「口適い者」の義。ヤ゚ラビ゛ヌ　プチカナイ゛ムヌ　゛ナリティ　ウ゚ヤ゛ヌ　゛ムニ　シゥ゚カヌ [ja゚rabi゛nu ɸu゚̥ʧikanai゛munu ゛nariti ʔu゚ja゛nu゛muni si゚̥kanu](子供がお喋りになって、親のいうことを聞かない)。

プチ゛　カナウン [ɸu゚̥ʧi゛ kanauŋ] 【連】1口答えをする。反抗する。「口適(クチカナ)う」の義。ク゚ヌ゛　ッ゚ふァー゛　ウ゚ヤン゛ナーニン　プチ゛　カ゚ナイ゛ス [ku゚nu゛ f゚fa:゛ ʔu゚jan゛na:niŋ ɸu゚̥ʧi゛ ka゚nai゛su](この子は親にも口答えをする)。2弁が立つ。能弁である。プチヌ゛　カナウンダ　゚アウ゛バン　イッ゚カ゛　マ゚キラヌ [ɸu゚̥ʧinu゛ kanaunda ゚ʔau゛baŋ ʔik゚ka゛ ma゚kiranu](弁

が立つ＜口適う＞から、喧嘩しても決して負けない)。

フ˞チカロー˜ン [ɸu˞ʧikaroː˜ŋ] 【形】口が軽い。軽率である。ウ˞レー˜　フ˞チカロー˜ンダ　ウ˞リンナー˜ネー　ミス˞コーマヌ˜　パ˞ナ˜シェー　ナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞reː˜ ɸu˞ʧikaroː˜nda ʔu˞rinnaː˜neː misu˞koːmanu˜ pa˞naʃeː na˞ra˜nu](彼は口が軽いから、彼にはないしょごと＜みそかごと。密事＞は話されない)。ウ˞レー˜　フ˞チカロー　ナー˜ヌンドゥ　˞カンザヌ˜　フ˞チカロー˜ティル　ウ˞リン　オーサ˜レール [ʔu˞reː˜ ɸu˞ʧikaroː naː˜nundu ˞kandʑanu˜ ɸu˞ʧikaroː˜tiru ʔu˞riŋ ʔoːsa˜reːru](彼は口は軽くないが、あの野郎が口が軽いので、彼に責任を負わされたのだよ)。フ˞チカロー˜　プ˞スンマー˜　パ˞ナサラ˜ヌ [ɸu˞ʧikaroː˜ pu˞summaː˜ pa˞nasara˜nu](口の軽い人には話されない)。

フ˞チカンスル [ɸu˞ʧikansuru] 【名】厳しい口調。厳しく尋問すること。「口剃刀」の義。ウ˞ヌ˜　プ˞ソー˜　フ˞チカンスル˜　ナリティ　プ˞ス˜　イ˞ゾー˜ル [ʔu˞nu˜ pu˞soː˜ ɸu˞ʧikansuru˜ nariti pu˞su˜ ʔi˞ʤoː˜ru](その人は厳しい口調で他人を叱られる)。

フ˞チギライ [ɸu˞ʧigirai] 【名】ものたち (物断ち) をすること。病気や健康のために特定の飲食物を断って取らないこと。「口嫌(クチキライ)」の義。イッ˞ケナ˜　フ˞チキライ　サン˜カー　マ˞ナマ˜ン　˞トゥー˜ルシェー　˞ヤンマイ˜ヤー　˞ノーサラ˜ヌ [ʔik˞kena˜ ɸu˞ʧikirai saŋ˜ka: ma˞namaˀnu ˞tuː˜ruʃeː ˞jammai˜jaː ˞noːsara˜nu](よくよく物断ち＜口嫌＞をしないと、今のままでは病気は治されない)。

フ˞チグシ [ɸu˞ʧiguʃi] 【名】口癖。ウ˞レー˜　ウ˞ブ˜ムニ　イ˞ズ˜　フ˞チグシヌル˜　シン˞トゥ　ピーチ˜ヌ　フ˞シ [ʔu˞reː˜ ʔu˞bu˜muni ʔi˞ʤu˜ ɸu˞ʧiguʃinuru˜ ʃin˞tu piːʧi˜nu ɸu˞ʃi](彼は大言壮語する＜法螺を吹く＞口癖がたった一つの欠点である)。

フ˞チグッ˜ふァン [ɸu˞ʧiguf˜faŋ] 【形】口が重い。軽々しくものを言わない。言葉がなめらかに出ない。「Cuchiuomoi. クチヲモイ (口重い)　話がのろくて、口べたな (人)、または、口数の少ない (人)」『邦訳日葡辞書』。ウ˞レー˜　フ˞チグッ˜ふァンダ　˞ナン˜ゾー　˜ムネー　イ˞ザヌ [ʔu˞reː˜ ɸu˞ʧiguf˜fanda ˞nan˜ʤoː ˜mune: ʔi˞ʤanu](彼は口が重いから、あまりものは言わない)。˜アイニ　フ˞チグッ˜ふァ　プ˞ソー˜　ブ˞ラーヌ [˜ʔaini ɸu˞ʧiguf˜fa pu˞soː˜ bu˞raːnu](あんなに口の重い人はいない)。ミ˞ドゥ˜モー　ビ˞キドゥム˜　シ˞キル˜カー　フ˞チグッふァ　ナー˜ヌ [mi˞du˜moː bi˞kidumu˜ ʃi˞kiru˜kaː ɸu˞ʧiguffa naː˜nu](女は男に較べると口重くない)。

フ˞チクバー˜ン [ɸu˞ʧikubaː˜ŋ] 【形】どもり (吃り) がちである。口下手である。上手に話せない。フ˞チ [ɸu˞ʧi](口) に「Couai. コワイ (強い) 固くてこわばった (もの). また、比喩. 骨の折れる (もの)、あるいは、苦痛の種になる (もの)、恐怖を感じさせる (もの)」『邦訳日葡辞書』が付いて形成された合成語であろう。ヤ˞ラ˜ビシェーンケンマー　フ˞チクバー　ナーン˜シェンドゥ　マ˞ナ˜マー　フ˞チクバー˜ンダル　˜アイニ　˜ムニ　イ˞ジマーキ　シェー˜ティ　アー˜ク [ja˞ra˜biʃeːŋkemmaː ɸu˞ʧikubaː naːŋ˜ʃendu ma˞naˀma: ɸu˞ʧikubaː˜ndaru ˜ʔaini ˜muni ʔi˞ʤimaːki ʃeː˜ti ˞ʔaː˜ku](子供の頃は吃りがちではなかったが、今は吃りがちだから、あんなに言葉をしゃべりかねている)。˞シンダイ˜　フ˞チクバー˜　ナリキー　˜アイニ　フ˞チクバー˜　プ˞ソー˜　ミリ　ミ˞ラ˜ヌ [˞ʃindai˜ ɸu˞ʧikubaː˜ nariki: ˜ʔaini ɸu˞ʧikubaː˜ pu˞soː˜ miri mi˞ra˜nu](次第に吃りがちになってきて、あんなに吃りがちな人を見たことがない)。ウ˞レー˜　フ˞チクバー˜ヌ　パ˞ナシユーサ˜ヌ [ʔu˞reː˜ ɸu˞ʧikubaː˜nu pa˞naʃijuːsa˜nu](彼は吃りがち＜口下手＞なので、とても話せない)。

フ˞チクバリ˜ムニ [ɸu˞ikubari˜muni] 【名】どもり (吃り) のことば。吃音(キツオン)による物言い。ン˞ガニ [ʔŋ˞gani](どもり) ともいう。たどたどしい物言い。˜アイブ　フ˞チクバリ˜ムネー　イ˞ザンドー˜シ　カ˞シーカシー˜　イ˞ジ˜バ [˜ʔaibu ɸu˞ʧikubari˜mune: ʔi˞ʤando:˜ʃi ka˞ʃiːkaʃiː˜ ʔi˞ʤi˜ba](あんなたどたどしい物言いはしないで、しっかりと喋りなさいよ)。

フ˞チ˜　ク˞バル˜ン [ɸu˞ʧi˜ ku˞ba˜ruŋ] 【連】どもる (吃る)。「口強張る」の義。フ˞チ˜　ク˞バリ˜ル　˜ムニン　イ˞ザラヌ [ɸu˞ʧi˜ ku˞bari˜ru ˜muniŋ ʔi˞ʤaru-anu](口が吃って＜口強張って＞ものが言われない)。ン˞ガニ　スン [ʔŋ˞gani suŋ](どもり＜吃音＞をする) ともいう。

フ˞チクバ˜レー [ɸu˞ʧikuba˜reː] 【名】どもり (吃り)。吃音者。「口強ばり者」の義。フ˞チクバリ˜ムヌ [ɸu˞ʧikubari˜munu](どもり) ともいう。ン˞ガナー [ʔŋ˞gana:](どもり＜吃り＞) ともいう。フ˞チクバ˜レー　ヤ˞ルムヌ˜　プ˞スヌ˜　マイナー　˜ムニ　イ˞ザスナ [ɸu˞ʧikuba˜reː ja˞rumunu˜ pu˞sunu˜ mainaː˜muni ʔi˞ʤasuna](どもり＜吃り＞だのに、人前でしゃべらせる＜ものを言わさせる＞な)。

ブ˞チ˜クン [bu˞ʧi˜kuŋ] 【名】気絶。一時的に人事不(ジンジフ)

省(意識不明) に陥ること。ク˞ヌ˞　ッ˞ふァー˞　キノー　˞キーヌ　パン˞ターラ　˞ウティティ　ブ˞チ˞クン　˞シー　ベー˞タ [ku˞nu˞ f˞fa:˞ kino: ˞ki:nu pan ˞ta:ra ˞ʔutiti bu˞ʧi˞kuŋ ˞ʃi: be:˞ta](この子は昨日、木のてっぺんから落ちて気絶していた)。

フ˞チ　コー˞ルン [ɸu̥˞ʧi ko:˞ruŋ] 【連】頑なに言い張る。「口」に「Couari,ru,atta. コワリ、ル、ッタ (強り、る、った) 物が固くなる、または、強直する」『邦訳日葡辞書』が下接して形成された連語であろう。˞ギーンゴー˞ルン [˞gi:ŋgo:˞ruŋ](強情に言い張る) ともいう。ウ˞ナー˞　イッ˞カ˞　サ˞ヌ˞ティ　フ˞チ　コー˞リ　˞ベー [ʔu˞na:˞ ʔik˞ka˞ sa˞nu˞ti ɸu̥˞ʧi ko:˞ri ˞be:](自分は決してやらないと頑なに言い張っている)。

フ˞チ　コイ˞ルン [ɸu̥˞ʧi koi˞ruŋ] 【連】口が肥える。口がおご (奢) る。美味いものを沢山食べて、食物に対する好みが贅沢になる。ン˞マー˞ムヌ　カー˞ニ˞　ッ˞ふァイナラウ˞カー　フ˞チ　コイ˞ルン˞ダー [ʔm˞ma:˞munu ka:˞ni˞ f˞fainarau˞ka: ɸu̥˞ʧikoi˞ run˞da:](美味しいものだけ食べる癖がつくと口が肥えるよ)。ブ˞トー˞　フ˞チ˞　コイ　˞ブンダ˞　ウ˞リ˞　シゥ˞カ˞ナウンティ　ア˞ウ˞リ　˞シー　ベー [bu˞to:˞ ɸu̥˞ʧi˞ koi ˞bunda˞ ʔu˞ri˞ si̥˞ka˞naunti ˞ʔau˞ri ˞ʃi:be:](夫は口が肥えているから、彼を養うのに難儀苦労をしている)。

フ˞チザイ [ɸu̥˞ʧiʤai] 【名】食べることばかりを考えていること。食べることしかできないこと。生活すること＜食べること＞にかまけて、他のことを考える余裕がないこと。接尾語-ザイ [-ʤai](～かまける＜感ける＞。～拘泥する) が名詞や動詞の連用形に下接して、その名詞の指し示す意味内容や動詞の指し示す動作・作用に感ける意味を表す。˞ドゥー˞ヌ　フ˞チザイル˞　ナル　˞ジン　タ˞ミラリ˞　スク　˞ナー˞トー　ア˞ラ˞ヌ [˞du:˞nu ɸu̥˞ʧiʤairu˞ naru ˞ʤin ta˞mirari˞ su̥ku ˞na:˞to: ʔa˞ra˞nu](自分が食べるのに精一杯であって、とてもお金を貯めることはできない＜貯められるほどなどではない＞)。ッ˞ふァイザイル˞　ナル [f˞faiʤairu˞ naru](食べることしか出来ない＜食べることに感けて他のことを考える余裕がない＞) ともいう　。

フ˞チサキ [ɸu̥˞ʧisaki] 【名】言葉の上だけのこと。うわべばかりの言いぐさ。言うだけで誠意がないこと。「口先」の義。ウ˞レー˞　フ˞チサキヌ˞　パ˞ナシ˞ル　ヤ˞ル˞　キ˞ム˞ウチェー　˞ヌー˞シユー　ワ˞カラ˞ヌ [ʔu˞re:˞ ɸu̥˞ʧisakinu˞ pa˞naʃi˞ru ja˞ru˞ ki˞mu ˞ʔutʃe: ˞nu:˞ʃiru ja˞ru˞ju: wa˞kara˞nu](それは言葉の上＜口先＞の話であって、内心＜肝内＞はどうだか分からないよ)。

フ˞チザシ [ɸu̥˞ʧiʤaʃi] 【名】さしでぐち。ようかい(容喙)。「口出し」の義。プ˞スン˞ヤヌ　˞クトゥナー　フ˞チザシ　ソーン˞ナ [pu̥˞sun˞janu ˞ku̥tuna: ɸu̥˞ʧiʤaʃi so:n˞na](よその家＜他人の家＞のことにさしでぐち＜容喙＞なさるな)。

フ˞チサラー˞ン [ɸu̥˞ʧisara:˞ŋ] 【形】喋りが流暢(リュウチョウ)である。能弁である。ウ˞ビッチン˞ヌ　ヤ˞ラビ˞ヌカー　フ˞チサラー˞　ムニ　イ˞ズントツォー [ʔu˞bitʧin˞ nu ja˞rabi˞nuka: ɸu̥˞ʧisara:˞ muni ʔi˞ʤunˊtso:](こんな小さな子供が、なんと流暢に喋る＜ものを言う＞んだよ)。ミ˞ドーン˞ッふァー　フ˞チサラー˞ン [mi˞do:ŋ˞ffa: ɸu̥˞ʧisara:˞ŋ](女の子は喋りが流暢である)。ビ˞コーンッふァー˞　フ˞チサラー　ナー˞ヌ [bi˞ko:ŋffa:˞ ɸu̥˞ʧisara: na:˞nu](男の子は喋りが流暢でない)。イ˞チンマー˞　フ˞チサラー˞　ッ˞ふァ˞ヤ˞ルンドゥ　キュー˞ヤ (ワ)˞ムニ　イ˞ザンバン [ʔi ˞ʧimma:˞ ɸu̥˞ʧisara:˞ f˞fa˞ ja˞rundu kju:˞ja(wa)˞muni ʔi˞ʤambaŋ](いつもは喋りの流暢な子だが、今日はものを言わないわい)。

フ˞チザライ [ɸu̥˞ʧiʤarai] 【名】津口(ツグチ)を浚渫(シュンセツ)すること。「口浚え」の義。フ˞チザライ　サン˞カー　˞フネー　˞ンジペーラシ＜ン˞ザ˞シペーラシ＞　ナ˞ラ˞ヌ [ɸu̥˞ʧiʤarai saŋ˞ka: ˞ɸune: ˞ʔnʤipe:raʃi＜ʔn˞ʤa ˞ʃipe:raʃi＞ na˞ra˞nu](津口を浚渫しないと船は出入りさせることができない)。

フ˞チサンシン [ɸu̥˞ʧisaŋʃiŋ] 【名】口三線。くちじゃみせん (口三味線)。˞デン˞トゥンデン˞トゥンと口で三線の音や曲をまねること。˞サンシン˞　ピ˞キプスヌ　オーラン˞カー　フ˞チサンシン˞　シ˞ティ˞　ブ˞ドゥル˞　ナ˞ラー˞シバ [˞saŋʃim˞ pi̥˞kipu̥sunu ʔo:raŋ˞ka: ɸu̥˞ʧisaŋʃiŋ˞ ʃi̥˞ti˞ bu˞duru˞ na˞ra:˞ʃiba](三線を弾く人がおられなければ、口三味線をして踊を教えなさいよ)。

フ˞チ˞シ　˞ドゥー　˞ムトゥン [ɸu˞ʧi˞ʃi ˞du: ˞mutuŋ] 【連】口先で世間を渡る。「口で体を持つ＜生命を維持する＞」の義。グ˞タイ˞ヤー　˞ナー˞ンドゥ　フ˞チヌ˞　カナイ　˞ブンダ˞　フ˞チ˞シ　˞ドゥー　˞ムティ　˞アー˞クンティ [gu˞tai˞ja: ˞na:˞ndu ɸu̥˞ʧinu˞ kanai ˞bunda˞ ɸu̥˞ʧi˞ʃi ˞du: ˞muti ˞ʔa:˞kunti](体力はないが、弁が立つ＜口が適っている＞ので口先で世間を渡っているさよ＜見てごらん＞)。

フ˞チ˞　シ˞ビルン [ʧu̥˞ʧi˞ ʃi˞biruŋ] 【連】くちづけ

(口付け) する。接吻する。「口を吸う」の義。フ˩チ　シッピルン [ɸu̥˩tʃi ʃippiruŋ](くちづけをする) ともいう。シ˩ビルン [ʃi˩biruŋ](強く吸う。嘗める) は甘いものをしゃぶって食べたり、乳児の洟垂(ハナタレ)を母親が口で吸い取ることにもいう。アガッ˩ふァー˥マー　˥ドゥーシ　パ˩ナドゥル˥　ン˩ザシユーサン˥　ユンダ　ブ˩ネール˥　フ˩チ˥シ　シ˩ビリ˥＜ユ˩ビ˥＞　トゥ˩ローッ˥タ [ʔagaf˩faː˥maː ˥duːʃi pa˩naduru˥ ʔn˩ʤaʃijuːsaŋ˥ junda bu˩neːru˥ ɸu̥˩tʃi˥ʃi ʃi˩biri˥＜ju˩bi˥＞ tu˩roːt˥ta](赤子は自分で洟垂れを出せないから、母親が口でしゃぶって吸い取られた)。

フ˩チジル [ɸu̥˩tʃiʤiru] 【名】なまつば (生唾)。おいしいものや酸(ス)いものを見た時などに、自然に口中に分泌される唾液。「口汁」の義。ン˩マー˥　ムヌ　˥ミルカー　フ˩チジルヌル˥　ンジクー [ʔm˩maː˥munu˥miruka: ɸu̥˩tʃiʤirunuru˥ ʔnʤiku:](美味しいものを見ると生唾が＜ぞ＞出てくる)。フ˩チジル˥　ン˩ジ˥ルン [ɸu̥˩tʃiʤiru˥ ʔn˩ʤi˥ruŋ](涎(ヨダレ)＜なまつば＞がでる)。

フ˩チジル˥　キ˩シ˥ルン [ɸu̥˩tʃiʤiru˥ ki̥˩ʃi˥ruŋ] 【連】1口中に唾液が盛んに出てくる。フ˩チジル˥　キスン [ɸu̥˩tʃiʤiru˥ ki̥suŋ](口中に唾液が盛んに出る) ともいう。キ˩シ˥ルン [ki̥˩ʃi˥ruŋ](酢が十分に醗酵する) は、甕(カメ)の中で˩パイル [˩pairu](酢) の種(タネ)が十分に熟成することにも言い、唾液が多量に分泌することにも言う。カ˩ツナマシ˥　ミ˩ル˥ター　フ˩チジル˥　キシ　ナ˩ラ˥ヌ [kḁ˩tsunamaʃi˥ mi˩ru˥ta: ɸu̥˩tʃiʤiru˥ ki̥ʃi na˩ra˥nu](カツオの刺身を見たらば涎がでてたまらない)。2すいぜん (垂涎) する。ひどく食べたがる。ア˩ガヤー˥　フ˩チジルヌ˥　キ˩シル˥バン [ʔa˩gaja:˥ ɸu̥˩tʃiʤirunu˥ ki̥˩ʃiru˥baŋ](ああ!　もう　涎がたれる＜出るわい＞よ!＜食べたくて堪らない＞)。

フ˩チ　スー˥ルン [ɸu̥˩tʃi su:ru˥ŋ] 【連】言語能力が成長する。言うことがませてくる。語彙が増えて表現力が向上する。「口が成長する」の義。ク˩ヌ˥　ヤ˩ラ˥ベー　フ˩チ˥　サ˩ララランケー˥リ　イッ˩ケナ˥　フ˩チ　スーリ˥ブーバン [ku˩nu˥ ja˩ra˥be: ɸu̥˩tʃi˥ sa˩raraŋke:˥ri ʔik˩kena˥ ɸu̥˩tʃisu:ri˥ bu:baŋ](この子は喋りが流暢＜さらさらと滑らか＞で、非常に言語能力が成長しているわい)。ヤ˩ラビ˥ヌ　フ˩チェー　スー˥リティ　フ˩チウタイ　シース [ja˩rabi˥nu ɸu̥˩tʃe: su:˥riti ɸu̥˩tʃiʔutai ʃi:su](子供のくせに言うことがませて＜言語能力が成長して＞、口答えするよ)。

フ˩チズー˥ワン [ɸu̥˩tʃiʤu:˥waŋ] 【形】物言いが厳しい。「口強し」の義。˩ウン˥ネヌ　シ˩トゥウヤー˥　イッ˩ケナ˥　フ˩チ　ズー˥ワンティ　ウ˩トゥ˥ンジ　˩オー˥ルツォー [˩ʔun˥nenu ʃi̥˩tuʔujaː˥ ʔik˩kena˥ ɸu̥˩tʃiʤu:˥wanti ʔu˩tu˥ʔnʤi ˩ʔo:˥rutso:](あの家の舅は大変物言いが厳しいと評判になっておられる＜音に出ておられる＞そうだ)。

フ˩チスク˥ライ [ɸu̥˩tʃisu̥ku˥rai] 【名】何か食べているように口を動かすこと。口をもぐもぐさせる。「口」・˩Çucuroi,ro,ota. ツクロイ、ゥ、ゥタ (繕) 整える～」『邦訳日葡辞書』の転訛か。˩ヌー˥ル　ッ˩ふァイプサ˥ユー　フ˩チスク˥ライ　˩シー　ベー [˩nu:˥ru f˩faipusa˥ju: ɸu̥˩tʃisu̥ku˥rai ˩ʃi:be:](何を食べたいのか、口をもぐもぐ動かしている)。

フ˩チスブー [ɸu̥˩tʃisubu:] 【名】(動) 魚の名。和名、アカマツカサの仲間 (体長約 20 センチ)、目玉が大きく体色は薄い朱色。鰓(エラ)の下から腹部にかけてやや白みがかっている。和名、ウロコマツカサ、体長約 25 センチ。ウロコマツカサはフ˩チスブー [ɸu̥˩tʃisubu:] に似る。体表に細い黒色の縞が頭部からストライプ状に 5、6 本並ぶが、これにもフチスブーという。

フ˩チスボー˥ン [ɸu̥˩tʃisubo:˥ŋ] 【形】しぶい (渋い)。「口渋・有り」の転訛したもの。未熟なバ˩サン˥ナル [ba˩san˥naru](バナナ) の味等を表す。舌の上や口中にカサカサ感、ザラザラ感を残す味覚。ナ˩マバン˥スロー　フ˩チスボー˥ヌ　ッ˩ふァーラヌ [na˩maban˥suro: ɸu̥˩tʃisubo:˥nu f˩fa:ranu](未熟のバンザクロ＜グワバ＞は渋くて食べられない)。˩ナン˥ゾー　フ˩チスボー　ナー˥ヌ [˩nan˥ʤo: ɸu̥˩tʃisubo: na:˥nu](あまり渋くない)。フ˩チスボー˥　ムノー　ナ˩マ˥ムヌ [ɸu̥˩tʃisubo:˥ muno: na˩ma˥munu](渋いものは未熟なものだ)。フ˩チスボー˥カー　ッ˩ふーナ [ɸu̥˩tʃisubo:˥ka: f˩fu:na](渋かったら食べるな)。

フ˩チ˥　タ˩タッ˥クン [ɸu̥˩tʃi˥ tḁ˩tak˥kuŋ] 【連】自慢する。ほら (法螺) を吹く。「Cuchitataqi. クチタタキ (口叩き) ぺちゃくちゃとよくしゃべる者.Cuchiuo tataqu(口を叩く) よくしゃべる」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。˩ドゥー˥ヌ　ッ˩ふァヌドゥ˥　ブ˩ドゥロー　ゾー˥ジティ　˩シー˥　ウ˩ブ˥フチェー　タ˩タ˥キ　˩オーッタン˥ドゥ　マ˩キ　ナーン˥ワー˩ン˥ノー [˩du:˥nu f˩fanudu˥ bu˩duro: ʤo:˥ʤiti ˩ʃi:˥ ʔu˩bu˥ɸu̥tʃe: tḁ˩ta˥ki ˩ʔo:ttan˥du ma˩ki na:ŋ˥wa:˩n˥no:](自分の子が踊りは上手だといって、大法螺をふいて＜大口をたたいて＞おられたが、負けてし

まったではないか)。

フ˞チダリ [ɸu̥˞ʧidari] 【名】 喋(シャベ)り過ぎて口を開くのが億劫(オックウ)になること。口がだるくなること。喋るのが疲れること。「口・だれる」の義。˥プスイピーズ　˞ンーナパナシバ　シーベー˥ティ　フ˞チダリ＜フ˞チブガリ＞　シー　ナー˥ヌ [˥pu̥suipiːʤu ˞ʔnːnapanaʃiba ʃiːbeː˥ti ɸu̥˞ʧidari＜ɸu˞ʧibugari＞ ʃiː naː˥nu](一日中無駄話をして口が疲れてしまった)。

フ˞チックナー [ɸu̥˞ʧikkunaː] 【名】他人が食べるのを見て、自分も食べたそうに口をもぐもぐ動かすこと。舌なめずり。「口較べ」の義か。ヤ˞ラ˥ベー　˥ムヌ　ッ˞ふァイ˥　プサカー　フ˞チックナー　スン [ja˞ra˥beː ˥munu f˞fai˥ pu̥saka: ɸu̥˞ʧikkunaː suŋ](子供は食べ物が食べたければ他人の口を見て自分の口をもぐもぐ動かす)。

フ˞チ˥　ッ˞サールン [ɸu̥˞ʧi˥ s˞saːruŋ] 【連】口を閉じる。物を言わなくなる。口を塞(フサ)ぐ。フ˞チ˥　ッ˞サーリティ˥　ウ˞シダマリ　ベー [ɸu̥˞ʧi˥ s˞saːriti˥ ʔu˞ʃidamari beː](口を閉じて押し黙っている)。

フ˞チ˥　ッ˞サー˥ン [ɸu̥˞ʧi˥ s˞saː˥ŋ] 【連】口臭がある。「口が臭い」の義。˞ワー˥　フ˞チ˥　ッ˞サー˥ンダ　フ˞チ˥　ア˞ライ [˞waː˥ ɸu̥˞ʧi˥ s˞saː˥nda ɸu̥˞ʧi˥ ʔa˞rai](君は口臭がある＜口が臭い＞ので、口を洗いなさい)。

フ˞チ˥　ッ˞サウン [ɸu̥˞ʧi˥ s˞sauŋ] 【連】口を閉じる。口を締める。「口・塞ぐ」が、[kuʧi・ɸusagi]　→　[ɸu̥ʧi・ssagi]　→　[ɸu̥ʧi・ssai]　のように音韻変化 (逆行同化) して転訛したもの。プ˞スヌ˥　マンタナーテー　シゥ˞カイトゥ˥　フ˞チェー˥　ッ˞サイティ　アー˥キ [pu̥˞sunu˥ mantanaːteː si̥˞kaitu˥ ɸu̥˞ʧeː˥ s˞saiti ʔaː˥ki](人の前ではしっかりと口を締め＜閉じ＞ていなさい＜あるけ＞)。

フ˞チッサリ˥カザ [ɸu̥˞ʧissari˥kaʤa] 【名】口臭。「口腐れ臭い」の義。フ˞チッサリカザ˥ヌ　タ˞カー˥ヌ　ン˞カーラヌ [ɸu̥˞ʧissarikaʤa˥nu tḁ˞kaː˥nu ʔŋ˞kaːranu](口臭＜口腐れ臭い＞がひどくて＜高くて＞対面して話できない＜向かわれない＞)。

フ˞チ˥　トゥルン [ɸu̥˞ʧi˥ turuŋ] 【連】口真似をする。親の口真似をする。受け売りをする。ウ˞ビッチン˥ヌ　ヤ˞ラビ˥ヌカー　ウ˞ヤ˥ヌ　フ˞チバ˥　トゥリ　˞ゾー˥ブンニ　ウ˞ブ˥ブシ　イ˞ズント ツォー [ʔu ˞bitʧin˥nu ja˞rabi˥nuka: ʔu˞ja˥nu ɸu̥˞ʧiba˥ turi ˞ʤoː˥ bunni ʔu˞bu˥buʃi ʔi˞ʤun˧tsoː](こんなに小さな子供だのに、親の口真似をして立派＜十分＞に古典民謡＜大節＞を謡うんですよ＜珍しいことだ＞)。伝聞の終助詞の˥ツォー [˥tsoː](～そうだ) の場合は、アクセントは三段階まで下がるが、詠嘆、感嘆の終助詞˥ツォー [˥tsoː](～だよ) のアクセントは二段階 (中段) まで下がる。

フ˞チナイ [ɸu̥˞ʧinai] 【名】 (動) 魚の名。和名、ハナフエフキ (体長約 25 センチ)。和名、イソフエフキ (体長約 25 センチ)。鳩間島の前の浜で、延縄をしてよく釣り上げた。高級魚の一つ。フ˞チナイヤー˥　マンタヌ　パ˞マー˥ラ　˞パイ˥ナー　˞シェー˥ティ　˥ユー　˞ホーシ˥タン [ɸu̥˞ʧinaijaː˥ mantanu pa ˞maː˥ra ˞pai˥naː ˞ʃeː˥ti ˥juː ˞hoːʃi̥˥taŋ](フチナイは島の前の浜から延縄をして、よく釣ったものだ)。

フ˞チナシイズ [ɸu̥˞ʧinaʃiʔiʤu] 【名】(動) 魚の名。和名、コチ (体長約 70 センチ)。イソフエフキ (体長約 25 センチ)。高級魚の一つ。白身の肉が美味である。鳩間島の前の浜で、延縄で釣れた。島の周囲でよく釣れる。焼き魚、から揚げ、煮付け、刺身等にして食された。

フ˞チ　ニー˥バン [ɸu̥˞ʧi niːbaŋ] 【連】1 喋(シャベ)るのが遅い。話すのが遅い。˞Cuchi vosoi. クチヲソイ (口遅い) 話すのがおそい」『邦訳日葡辞書』の転訛。フ˞チ˥　ク˞バー˥ン [ɸu̥˞ʧi˥ ku˞baː˥ŋ](吃(ドモ)ってなかなか喋れない。話すのがおそい)、フ˞チ　フコー˥ン　[ɸu̥˞ʧi˥ ɸukoː˥ŋ]　ともいう。ウ˞レー˥　フ˞チ　ニー˥バンダー　˞ワーラ˥　パ˞ナ˥シ [ʔu˞reː˥ ɸu̥˞ʧiniː˥banda ˞waːra˥ pa˞na˥ʃi](彼は喋るのが遅いから、君から話しなさい)。2幼児の話し始めるのが遅い。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　フ˞チ　ニー˥バティ　˞ソーバ　シー　ベー˧ ツォー [ku˞nu˥ f˞faː˥ ɸu̥˞ʧi niː˥bati ˞soːba ʃiː beː˧tsoː](この子は喋るのが遅いので心配しているんですよ)。

フ˞チニチ [ɸu̥˞ʧiniʧi] 【名】口の中に熱が出ること。「口熱」の義。フ˞チニチヌ˥　ンジティ　フ˞チェー˥　タ˞ダリベー˥ヌ　˞ホー˥ヤー　˥カヤー [ɸu̥˞ʧiniʧinu˥ ʔnʤiti ɸu̥˞ʧeː˥ ta˞dari beː˥nu ˞hoː˥jaːkaja:](口熱が出て口はただれているが、胎毒＜丹毒＞かなあ)。

フ˞チヌ˥　ア˞クママ [ɸu̥˞ʧinu˥ ʔa˞kumama] 【連】口のあくまま。言いたい放題に言うこと。フ˞チヌ˥　ア˞クママ˥　ノー˞ンティン˥　ア˞ズント ダー　˞クンザー [ɸu̥˞ʧinu˥ ʔa˞kumama˥ noː˞ntiŋ˥ ʔa˞ʤun˧daː ˞kunʤaː](言いたい放題＜口のあくまま＞何とでも言うよ、こいつは)。

フ˞チ˥　ヌイ　˥スクン [ɸu̥˞ʧi˥ nui ˥su̥kuŋ] 【連】黙らせる。喋らないようにする。「口を縫っておく」の

義。゚ウンザー゗　ムニユマー　ヤ゚ルンダ゗　プチ゗　ヌイトゥ゚ラ゗シ [゚ʔundʑaː゗ munijumaː ja゚runda゗ ɸu゚̥tʃi゗ nui tu゚raʃ゗i](あいつはお喋りだから、喋らないように口を縫ってやれ＞)。

プチ　ヌシ゗トゥン [ɸu゚̥tʃi nuʃi̥゗tuŋ] 【連】1口をぬぐう (拭う)。口を軽く拭き取る。口の回りの汚れを拭う。ヤ゚ラビ゗ヌ　プチェー゗　ア゚バゴー゗ダー　゚シー　ベー゗バ　プチ　ヌシ゗ティ　ッ゚ふィーリ゗バ [ja゚rabi゗nu ɸu゚̥tʃeː゗ ʔa゚bagoː゗daː ゚ʃiː beː゗ba ɸu゚̥tʃi nuʃi̥゗ti f゚fiːri゗ba](子供の口の回りは油だらけ＜油まみれ＞になっているので、拭(ヌグ)ってやりなさい)。2そしらぬ顔をする。゚ドゥー゗ヌ　ア゚ズタ゗　クトー　イ゚カシタテー　ナー゗ナー　プチェー　ヌシ゗ティティ　ッ゚サンコーラー゗シ　゚ベー [゚duː゗nu ʔa゚dʑuta゗ kuto: ʔi゚kaʃi̥tate: naː゗naː ɸu゚̥tʃeː nuʃi̥゗titi s゚saŋkoːra゗ʃi ゚beː](自分の言ったことは忘れて＜如何(ドウ)したということもなく、責任をとらず＞、口を拭(ヌグ)って知らないふりをしている)。

プチヌ゗シバ [ɸu゚̥tʃinu゗ʃiba] 【連】唇の総称。゚オーシバ [゚ʔoːʃiba](上唇)、゚オーシバ゗ナー　ア゚シブ゗ヌ　゗ンジケーン [゚ʔoːʃiba゗na: ʔa゚ʃibu゗nu ゗ʔndʑikeːŋ](上唇におでき＜御出来＞が出てきた)。ッ゚サシバ [s゚saʃiba](下唇)。ッ゚サシバ　フッ゗ツァムン [s゚saʃiba ɸut゗tsamuŋ](下唇を噛みしめる)。゚トー゗リティ　プチヌ゗シバ　バ゚リ゗　プクラシ゗　シケー [゚toː゗riti ɸu゚̥tʃinu゗ʃiba ba゚ri゗ ɸu゚̥kuraʃi゗ ʃi̥keː](倒れて唇を強打して腫(ハレ)させてある)。

プチ゗ヌ　゗パー [ɸu゚̥tʃi゗nu ゗paː] 【連】櫛の歯。プチ゗ヌ　゗パー　カ゚カイナー゗ヌ [ɸu゚̥tʃi゗nu ゗paː: kḁ゚kainaː゗nu](櫛の歯が欠けてしまった)。

プチヌ゗　パジェー　゚ナー゗ヌ [ɸu゚̥tʃinu゗ paʤeː ゚naː゗nu] 【連】食い意地がはって恥ずかしいとも思わない。口の恥が無い。ウ゚レー゗　プチヌ゗　パジェー　゚ナー゗ユンダ　ッ゚ふァイムヌヌ゗　アルン　゗トンマー　マー゚ンバー゗キン　パ゚リ゗ス [ʔu゚reː゗ ɸu゚̥tʃinu゗ paʤeː ゚naː゗junda f゚faimununu゗ ʔarun ゗tomma: maː゚mbaː゗kim pa゚ri゗su](彼は食い意地がはって恥がないから、食べ物のある所へはどこまでも行くよ)。

プチヌ゗　パ゚タ [ɸu゚̥tʃinu゗ pḁ゚ta] 【連】口の周辺。プチヌ゗　パ゚タヌ　パイヤンツァン　ウイユーサヌ [ɸu゚̥tʃinu゗ pḁ゚tanu paijantsaŋ ʔuijuːsanu](口の回りの蝿さえも追えない。衰弱しきって自分のことすら何もできない)。ヤ゚ナ゗ムネー　プチヌパタ　マーラヌ [ja゚na゗muneː ɸu゚̥tʃinupata maːranu](他人に対する悪口は、言った人の口の周囲を回らないうちに自分の方へと向かってくる＜口の端を回らぬ＞)。

プチヌ゗　ピライ [ɸu゚̥tʃinu゗ pirai] 【連】表面だけの付き合い (言葉の付き合い)。「口の付き合い」。ウ゚ヌ゗　プ゚ストー゗　プチヌ゗　ピ゚ライ゗ル　゗ナル　キ゚ム゗ヌ　ピ゚ライ゗ヤー　ナ゚ラ゗ヌ [ʔu゚nu゗ pu゚̥sutoː゗ ɸu゚̥tʃinu゗ pi゚rai゗ru ゗naru ki゚mu゗nu pi゚rai゗jaː na゚ra゗nu](その人とは表面だけ＜言葉だけ＞の付き合いしかできない＜言葉だけの付き合いが出来る＞、心からの付き合いは出来ない)。

プチヌ゗　マイ [ɸu゚̥tʃinu゗ mai] 【連】くちすぎ (口過ぎ)。食費を得るだけのこと。糊口(コウ)。生計。「口の前＜生計分。食べる分＞」の義。プチヌ゗マイ　゚バーキ゗ル　゗ナル　゚ウイヌ　ガッ゗コー　ン゚ザシユーサ゗ヌ [ɸu゚̥tʃinu゗mai ゚baːki゗ru ゗naru ゚ʔuinu gak゗koːja ʔn゚dʑaʃijuːsa゗nu](食べて生活することしかできない＜口の前までが出来る＞。上の学校へは出せない)。プチヌ　マイ゗ヤンツァン　゚シーユーサヌ [ɸu゚̥tʃinu mai゗jantsaŋ ゚ʃiːjuːsanu](食費＜口の前。口過ぎ＞すら稼げない)。

プチヌ゗　ヤムンケン [ɸu゚̥tʃinu゗ jamuŋkeŋ] 【連】くちすっぱく (口酸っぱく) 言い聞かせる。「口が痛くなるまで」の義。プチヌ゗　ヤムンケン　ア゚ジ゗　シゥ゚カスンドゥ゗　シゥ゚カンバン [ɸu゚̥tʃinu゗ jamuŋkeŋ ʔa゚dʑi゗ si゚̥kasundu゗ si゚̥kambaŋ](口酸っぱく＜口が痛くなるまで＞言って聞かせるが聞きいれない＜聞かない＞わい)。

プチノーシ゗ムヌ [ɸu゚̥tʃinoːʃi゗munu] 【名】口直し。苦い薬や不味(マズ)いものを飲食した後、その味を消すために食する甘い物や美味な物。「口直し物」の義。プチノーシ゗ムノー　゚ノーンガサ゗　ナー゚ヌー [ɸu゚̥tʃinoːʃi゗munoː ゚noːŋgasa゗ naː゚nuː](口直し物は何かないか)。

プチ　ノー゗ルン [ɸu゚̥tʃi noː゗ruŋ] 【連】口の傷や味覚障害が治る。「口が治る」の義。プチヌ　ノール゗ター　ム゚ヌ゗ヌ　ア゚ジン゗　ワ゚カ゗ルン゚ダー [ɸu゚̥tʃinu noːru゗ta: mu゚nu゗nu ʔa゚dʑiŋ゗ wa゚ka゗run゚daː](口の病が治ったので、ものの味がわかるよ)。

プチ゗パク [ɸu゚̥tʃi゗pḁku] 【名】櫛箱。女性用の櫛やびんつけ油、鏡などを収納した木箱。パ゚トゥ゗マナーテー　プチ゗パコー　ミ゚ドゥムンケー゗ヌ　゚ドン゗グ　゚ヤッタ [pḁ゚tu゗manaːte: ɸu゚̥tʃi゗pḁko: mi゚dumuŋkeː゗nu ゚doŋ゗gu ゚jatta](鳩間島では櫛箱は女性達の持ち物＜道具＞であった)。

プチバシ [ɸu̥tʃibaʃi] 【名】くちばし (嘴)。゗ゴッカ

ーロー　フ˩チバシ˥シ　˥アミツァ　パ˩サ˥ミティ　イ˩シ˥ナ　˩シッ˥キ　バ˩リティル˥　ッ˩ふー˥ダー [˥gokkaro: ɸu̥˩tʃibaʃi˥ʃi ˥ʔamitsa pḁ˩sa˥miti ʔi˩ʃi˥na ˩ʃik˥ki ba˩ritiru˥ f˩fu:˥da:](アカショービンは嘴でヤドカリをくわえて石に叩き割って食べるのだよ)。

フ˩チパジ [ɸu̥˩tʃipaʤi] 【名】軽々しくものを言うこと。慎みがなくものを言うことで恥をかくこと。「口恥」の義。フ˩チパジェー　ナー˥ン　˥マーティ　˩ナー˥ナ　キ˩ナイヌ˥　パ˩ナシ˥バ　ム˩ニ˥ユメーティ　˩アー˥ク [ɸu̥˩tʃipaʤe: na:˥m ma:ti ˩na:˥na ki ˩nainu˥ pa˩naʃi˥ba mu˩ni˥jume:ti ˩ʔa:˥ku](軽々しくしゃべって恥ずかしくもなく＜口恥もなく＞、所かまわず家庭内の秘密話を喋っている＜喋ってあるく＞)。

フ˩チ˥　パ˩タッカルン [ɸu̥˩tʃi˥ pḁ˩takkaruŋ] 【連】1口を開ける。˩ヤー˥ナー　フ˩チ˥　パ˩タッカリ˥　ムヌ　ッ˩ふンティ˥　マティ　˩ブー˥　プ˩スン˥　ブ˩リル　ブー [˩ja:˥na: ɸu̥˩tʃi˥ pḁ˩takkari˥ munu f˩funti˥ mati ˩bu:˥ pu̥˩sum˥ bu˩riru bu:](家では口を開けてものを食べようと待ち受けている人もいる)。2唖然とする。ぼうぜん (呆然) となる。あっけ (呆気) にとられて、あいた口がふさがらないさま。パ˩ナイキ˥ガリ　˩オーッ˥タ　プ˩スヌ˥　シキンナ　カ˩カラン˥ター　フ˩チェー˥　パ˩タッカリティ˥　ムネー　イ˩ゾーラ˥ヌ [pa˩naiki˥gari ˩ʔo:t˥ta pu̥˩sunu˥ ʃi̥kinna: kḁ˩karan˥ta: ɸu̥˩tʃe:˥ pḁ˩takkariti˥ mune: ʔi˩ʤo:ra˥nu](威張っておられた人が、試験に受から＜かから＞なかったので、口を開けて呆然(ボウゼン)としておられる)。

˥フチパブ [˥ɸu̥tʃipabu] 【名】(動) 和名、オオイカリナマコ。浅い珊瑚礁の砂地に棲息している。直径約 2〜3 センチの円筒状の体形で、体長約は約 2 メートル。海砂の上に長く伸びたり、折りたたんだように這っているのでウミヘビと間違えることがある。グロテスクな感じを与える。˥フチパボー　˥ミルカー　ナ˩クラーン˥ドゥ　ウ˩レー˥　ノー˩ンサヌ [˥ɸu̥tʃipabo: ˥miruka: na˩kura:n˥du ʔu˩re:˥ no:˩n sanu](オオイカリナマコは見ると恐ろしいが、それは危険ではない＜何もしない＞よ)。

フ˩チパヤー˥ン [ɸu̥˩tʃipaja:˥ŋ] 【形】口が早い。早口である。フ˩チパヤー˥ンダ　˩ワー˥　ムネー　ムッ˩トゥ˥　シゥ˩カラヌ [ɸu̥˩tʃipaja:˥nda ˩wa:˥ mune: mut˩tu˥ si̥˩karanu](口が早いから、君の話は一向に聞き取れない)。˩ナン˥ゾー　フ˩チパヤー　ナー˥ヌンドゥ　フ˩チパヤー˥ヌ　シゥ˩カラヌ˥ティ　ア˩ジアー˥ク [˩nan˥ʤo: ɸu̥˩tʃipaja: na:˥nundu ɸu̥˩tʃipaja:˥nu si̥˩karanu˥ti ʔa˩ʤiʔa:˥ku](それほど口は早くないが、口が早くて聞き取れないと言っている)。˩シンダイ˥　フ˩チパヤー˥　ナリケーン [˩ʃindai˥ ɸu̥˩tʃipaja:˥ narike:ŋ](次第に口が早くなってきた)。フ˩チパヤー˥　プ˩スヌ˥　ムネー　シ˩キングリ˥サン [ɸu̥˩tʃipaja:˥ pu̥˩sunu˥ mune: ʃi̥˩kiŋguri˥saŋ](早口＜口が早い＞の人の話＜物言い＞は聞きづらい)。

フ˩チビー [ɸu̥˩tʃibi:] 【名】いぼ (疣)。皮膚上に突起した角質の小さな塊。「贅、布須倍 (ふすべ)」『和名抄』の義。ミ˩ジフチビー [mi˩ʤiɸutʃibi:](柔らかい疣)、イ˩シフチビー [ʔi˩ʃiɸu̥tʃibi:](固い疣) がある。ウ˩ム˥ティナ　˥アル　フ˩チビー˥ヤ　˥トゥリ　シ˩ティララン˥カヤー [ʔu˩mu˥tina ˥ʔaru ɸu̥˩tʃibi:˥ja ˥turi ʃi̥˩tiraraŋ˥kaja:](顔にある疣(イボ)は取って捨てられないかなあ)。

フ˩チピー˥ワン [ɸu̥˩tʃipi:˥waŋ] 【形】えがらっぽい。口内がひりひりして、痺(シビ)れるような感じがする。食中毒を起こす前兆として、口内がひりひりしてくる感じを表す。ビ˩ロー˥サ [bi˩ro:˥sa](くわずいも) の汁液が唇にかかると、ひりひりしてくる感じを表す。ウ˩レー˥　フ˩チピー˥ワンダ　ッ˩ふァーラヌ [ʔu˩re:˥ ɸu̥˩tʃipi:˥wanda f˩fa:ranu](これはえがらっぽいから食べられない)。フ˩チピーワ˥ヌ　ッ˩ふァーラヌ [ɸu̥˩tʃipi:wa˥nu f˩fa:ranu](えがらっぽくて食べられない)。フ˩チピー˥ワ　˥ムノー　ッ˩ふーナ [ɸu̥˩tʃipi:˥wa ˥muno: f˩fu:na](えがらっぽいものは食べるな)。

フ˩チビタ [ɸu̥tʃibita] 【名】くちべた (口下手)。くちぶちょうほう (口不調法)。口のきき方が下手であること。首里方言から転訛した語。老年層はフ˩チブックー [ɸu̥˩tʃibukku:](口下手) という。ウ˩レー˥　フ˩チビタ˥　ヤ˩ルンダ˥　プ˩スヌ˥　マイナン˩ジ˥ルカー　パ˩ナ˥シ　˩シーユーサヌ [ʔu˩re:˥ ɸu̥˩tʃibita˥ ja˩runda˥ pu̥˩sunu˥maina ʔn˩ʤi˥ruka: pa˩na˥ʃi ˩ʃi:ju:sanu](彼は口下手だから、人の前に出ると話をすることが出来ない)。

フ˩チ　フーン [ɸu̥˩tʃi ɸu:ŋ] 【連】口を閉じる。口をつぐむ (噤む)。口を塞ぐ。ク˩ヌ˥　クトー　フ˩チェー　フイティ˥　ムネー　イ˩ズナ˥ヨー [ku˩nu˥ ku̥to: ɸu̥˩tʃe: ɸuiti˥ mune: ʔi˩ʤuna˥jo:](このことは、口を噤んでものを言うなよ)。

フ˩チフイ [ɸu̥˩tʃiɸui] 【名】寒さで口が震えること。「口振るえ」の義。ク˩ヌ　ッふァー˥　ドゥ˩ク˥ヌ　˩ピー˥ヤティ　フ˩チフイ　シー　ベー [ku˩nu˥ f˩fa:˥

du⌜ku⌝nu ⌜pi:⌝jati ɸu̥⌜ʧiɸui ʃi:be:](この子は、あまりにも寒いのでガクガク口振るえしている)。

フ⌜チブク [ɸu̥⌜ʧibuku] 【名】口下手。口不調法。フ⌜チブク⌝　ヤ⌜ルンダ⌝　ウ⌜リンマー⌝　ア⌜キナイ⌝ヤー　シ⌜ミララヌ [ɸu̥⌜ʧibuku⌝ ja⌜runda⌝ ʔu⌜rimma:⌝ ʔa⌜kinai⌝ja: ʃi⌜miraranu](口下手だから、彼には商売はさせられない)。

フ⌜チフコー⌝ン [ɸu̥⌜ʧiɸu̥ko:⌝ŋ] 【形】口下手である。口が遅い。喋りが遅い。ビ⌜キドゥモー⌝　フ⌜チフコー⌝ンダー　ア⌜キナイ⌝ヤー　ミ⌜ドゥムン⌝スコー　⌜シーユーサヌ [bi⌜kidumo:⌝ ɸu̥⌜ʧiɸu̥ko:⌝nda: ʔa⌜kinai⌝ja: mi⌜dumun⌝su̥ko: ⌜ʃi:ju:sanu](男は口下手だから、商売は女のように＜女程に＞出来ない)。

フ⌜チブシ [ɸu̥⌜ʧibuʃi] 【名】口達者。能弁家。口先だけで勇ましいことを言う者。虚勢を張る者。「口武士」の転訛したもの。ヤ⌜ラビ⌝ヌ　⌝ヤコー　タ⌜タ⌝ムティ　フ⌜チブシ⌝　ナリティ　フ⌜チウタイ　シース [ja⌜rabi⌝nu ⌝jako: tḁ⌜ta⌝muti ɸu̥⌜ʧibuʃi⌝ nariti ɸu̥⌜ʧiʔutai ʃi:su](子供が、何の役にも立たないくせに口達者になって＜口先だけ勇ましいことを言って＞反抗＜口答え＞をするよ)。

フ⌜チ⌝　フ⌜ラックン [ɸu̥⌜ʧi⌝ ɸu⌜rakkuŋ] 【連】ものを言う。話をする。「口を開く」の義。ナー⌜イ⌝　ウ⌜シダマリ　ベータン⌝ドゥ　ヤッ⌜トゥ⌝シ　フ⌜チ⌝　フ⌜ラッキ　フントー⌝ヌ　⌝クトゥ　パ⌜ナ⌝シェーンツォー [na:⌜ji⌝ ʔu⌜ʃidamari be:tan⌝du jat⌜tu⌝ʃi ɸu̥⌜ʧi⌝ ɸu⌜rakki ɸunto:⌝nu ⌝ku̥tu pa⌜na⌝ʃe:ntso:](じいっと押し黙っていたが、やっとで口を割って＜口を開いて＞本当のことを話したそうだ)。ン⌜メーマ⌝ナー　フ⌜チ⌝　フ⌜ラキティ⌝　ムヌーン　イ⌜ジ⌝バ [ʔm⌜me:ma⌝na: ɸu̥⌜ʧi⌝ ɸu⌜rakkiti⌝ munu:ŋ ʔi⌜ʤi⌝ba](少しは口も開いて話もし＜ものを言い＞なさいよ)。

フ⌜チ　マイ⌝ヤン [ɸu̥⌜ʧi mai⌝jaŋ]【連】口が大きい。サ⌜バヌ⌝　フ⌜チェー　マイ⌝ヤンダ　フ⌜チヌ　マイ⌝ヤー　プ⌜ソー⌝　サ⌜バフチ⌝ティル　ア⌜ズ [sa⌜banu⌝ ɸu̥⌜ʧe: mai⌝janda ɸu̥⌜ʧinu mai⌝ja: pu̥⌜so:⌝ sa⌜baɸu̥ʧi⌝tiru ʔa⌜ʥu](鮫の口は大きいから、口の大きい人を鮫口という)。ウ⌜ブ⌝フチ [ʔu⌜bu⌝ɸu̥ʧi](大きな口)ともいう。

フ⌜チマチル [ɸu̥⌜ʧimaʧiru] 【名】(海底地名)。⌝フキクムル [⌝ɸu̥kikumuru] の北西部にある干瀬が外洋部から湾入した所。フチマチル漁をするところ。外洋から干瀬の頂上部に海草を食べに上がった魚は引き潮で外洋や⌝フキクムル [⌝ɸu̥kikumuru] の方へと下がっていく。その魚道に網を仕掛けて⌜クー⌝レー [⌜ku:⌝re:](チョウチョウコショウダイ。クロコショウダイ) やシ⌜ツ [ʃi̥⌜tsu](クロメジナ) などを漁獲する。フ⌜チマチル⌝　ウ⌜ラ⌝シン　パラ⌜ディー [ɸu̥⌜ʧimaʧiru⌝ ʔu⌜ra⌝ʃim para⌜di:](フチマチルに網を降ろして漁をしに行こうよ)。

フ⌜チマチル⌝　ウ⌜ラ⌝シ [ɸu̥⌜ʧimaʧiru⌝ ʔu⌜ra⌝ʃi] 【連】⌝タカアン [⌝tḁkaʔaŋ](高網) や⌝キタアン [⌝ki̥taʔaŋ](桁網)、ヤ⌜シ⌝ミーアン [ja⌜ʃi⌝mi:ʔaŋ](広目＜八十目＞網) を使って、主として島の北西の干瀬のフチマチルで行われた漁法。満ち潮に乗って⌜ピーヌ⌝クシ [⌜pi:nu⌝ku̥ʃi](干瀬の外。外洋) から海藻を食いに、干瀬の上に上ってくる魚を巻き取る漁法。

フ⌜チマリ⌝カザ [ɸu̥⌜ʧimari⌝kaʥa]【名】きな臭さ。薪がくすぶる時の煙の臭い。「燻り臭い」の義。フ⌜チマリカザ⌝ヌ　⌜スーギン⌝シェー　カ⌜マチヌ　ピー⌝ヤ　⌜ムイ⌝　ブ⌜ラーン⌝ナー [ɸu̥⌜ʧimarikaʥa⌝nu ⌜su:giŋ⌝ʃe: ka⌜maʧinu pi:⌝ja ⌜mui⌝ bu⌜ra:n⌝na:](きな臭い＜薪や草が燻っている＞臭いがするからには、竈の火は燃えていないのだねえ)。

フ⌜チ⌝マルン [ɸu̥⌜ʧi⌝maruŋ] 【自動】くすぶる (燻る)。けむる (煙る)。もうもうと煙る。「Fusube,uru,eta. フスベ, ブル, ベタ (燻べ、ぶる、べた)　いぶす.～」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。キ⌜ボーシ⌝　フ⌜チ⌝マルン [ki⌜bo:ʃi⌝ ɸu̥⌜ʧi⌝maruŋ](煙が燻(クスブ)る)。⌜ゾーリタムノー⌝　フ⌜チ⌝マリティ　⌜ムイラヌンドゥ⌝　⌜カーラク⌝カー　フ⌜チマラ⌝ヌ [⌜ʥo:ritamuno:⌝ ɸu̥⌜ʧi⌝mariti ⌜muiranundu ka:raku⌝ka: ɸu̥⌜ʧimara⌝nu](濡(ヌ)れた薪は燻って燃えないが、乾いたら燻らない)。フ⌜チ⌝マル　タ⌜ム⌝ノー　⌜モースナ [ɸu̥⌜ʧi⌝maru ta⌜mu⌝no: ⌜mo:suna](燻る薪は燃やすな)。⌜マー⌝ビン　フ⌜チ⌝マレー　⌝ミサムヌ [⌜ma:⌝biŋ ɸu̥⌜ʧi⌝mare: ⌝misamunu](もっと燻ればいいのに)。フ⌜チ⌝マリ [ɸu̥⌜ʧi⌝mari](燻れ)。

フ⌜チミー⌝ザン [ɸu̥⌜ʧimi:⌝ʥaŋ]【形】ものの味が不味い。ものの味が不味く感じられる。「口不味い」の義。多くは重い病気に罹った際に使用されることが多い。ン⌜マー⌝　ムヌ　ン⌜カサバン⌝　フ⌜チミー⌝ザンティル　ア⌜ゾー⌝ル [ʔm⌜ma:⌝ munu ʔŋ⌜kasabaŋ⌝ ɸu̥⌜ʧimi:⌝ʥantiru ʔa⌜ʥo:⌝ru](美味しいものを召し上がらせても不味いといわれる)。ナ⌜ガヤン⌝　シ⌜タール⌝　ヌーンクイン　フ⌜チミー⌝ザ　⌝ナリティ　⌝ムヌン　ッ⌜ふァーラヌ [na⌜gajaŋ⌝ ʃi̥⌜ta:ru⌝ nu:ŋkuiŋ ɸu̥⌜ʧimi:⌝ʥa ⌝nariti ⌝munuŋ f⌜fa:ranu](長患いしたので、何もかもものの味が不味くなってご飯が食べられない)。フ⌜チミー⌝ザル　⌝クトー　⌜ナー⌝ヌ

[ɸu̥˹ʧimiː˺ʥaru ˺ku̥toː ˹naː˺nu](ものの味が不味いことはない)。

フ˹チ˺　ム˹サリン˺ダー [ɸu̥˹ʧi˺ mu˹sarin˺daː]【連】口をむしられる (毟《ムシ》られる) ぞ。口をちぎら (千切ら) れるぞ。ヨー˹ヨー˺　プ˹スヌ˺　ヤ˹ナ˺グチ　˹シー　アー˺クンケン　フ˹チ˺　ム˹サリン˺ダー [joː˹joː˺ pu̥˹sunu˺ ja˹na˺guʧi ˹ʃiː ʔaː˺kuŋkeŋ ɸu̥˹ʧi˺ mu˹sarin˺daː](よく注意しろよ。他人の悪口を言っていると口を毟り取られるぞ)。

フ˹チ˺ムチ [ɸu̥˹ʧi˺muʧi]【名】よもぎもち (蓬餅)。旧暦三月三日の節句の日に作って食べる。ム˹カ˺シェー　˹サングヮチ˺　サンニチナー　カ˹ルイ˺ムヌティ　˹シー˺　フ˹チ˺ムチ　ス˹ク˺ローッタン [mu˹ka˺ʃeː ˹saŋgwa˺ʧi ˺sanniʧinaː ka˹rui˺munuti ˹ʃiː˺ ɸu̥˹ʧi˺muʧi su̥˹ku˺roːttaŋ](昔は三月三日には縁起物《エンギモノ》として蓬餅を造られた)。

フ˹チ　ヤー˺ラーン [ɸu̥˹ʧi jaː˺raːŋ]【連】ものごし (物腰) 柔らかい。ことばつきが優しい。「口が柔らかい」の義。˺アッパー　イッ˹ケナ˺　フ˹チ　ヤー˺ラー　˺ムニ　イ˹ゾーッ˺タ [˺ʔappaː ʔik˹kena˺ ɸu̥˹ʧi jaː˺raː ˺muni ʔi˹ʥoːt˺ta](お祖母さんは非常に物腰柔らかく話された)。

フ˹チャ˺ギ [ɸu̥˹ʧa˺gi]【名】十五夜の餅。「吹き上げ餅」の義。円柱形の餅の周りに煮た小豆を塗《マブ》した餅。これを皿に盛り、庭に台を置いてススキを活けた瓶一対と酒を入れた˹カン˺ビン [˹kam˺biŋ](燗瓶) 一対とともに十五夜の月に供えた。家族一同が揃って健康祈願をした後、ご馳走を頂いた。子供達も深夜まで月見の遊びが許された。˹ズングヤー˺ヌ　フ˹チャ˺ギン　マ˹チティ˺　ッ˹ふァイ˺バ [˹ʥuŋgujaː˺nu ɸu̥˹ʧa˺gim ma˹ʧiti˺ f˹fai˺ba](十五夜のフチャギ餅もお月様に供えて＜祭って＞から食べなさい)。

フ˹チヤクスク [ɸu̥˹ʧijakusuku]【名】口約束。口だけで嫁取の約束をしたり、物品売買、その他の約束をすること。ミ˹ドーン˺ッふァー　ユ˹ミ˺　ッ˹ふィールン˺ティ　フ˹チヤクスク　シー˺　シケー [mi˹doːn˺ffaː ju˹mi˺ f˹fiːrun˺ti ɸu̥˹ʧijakusu̥ku ʃiː˺ ʃi̥keː](娘＜女の子＞を嫁にやると口約束をしてある)。

フ˹チヤニ˺ヤン [ɸu̥˹ʧijani˺jaŋ]【形】口汚い。言葉遣いが汚い。若年層は、フ˹チヤン˺ヤン [ɸu̥˹ʧijaɲ˺jaŋ](口汚い) ともいう。˹ウンザー˺　イッ˹ケナ˺　フ˹チヤニ˺ヤンティ　ス˹クタヌ　ナン˺ゾー　フ˹チヤニヤー　ナーン˺ワー˹ヌー [˹ʔunʥaː˺ ʔik˹kena˺ ɸu̥˹ʧijani˺janti su̥˹kutanu nan˺ʥoː ɸu̥˹ʧijanijaː naːŋ˺waː˹nuː](あいつは非常に口汚いと聞いたが、あまり口汚くないではないか)。フ˹チヤニヤ˺ヌ　ウ˹リヌ˺　ムネー　シ˹キ˺　ブ˹ララヌ [ɸu̥˹ʧijanija˺nu ʔu˹rinu˺ muneː ʃi̥˹ki˺ bu˹raranu](口汚くて、彼の話＜物言い＞は聞いておられない)。フ˹チヤニ˺ヤー　プ˹ストゥ˺　トゥ˹レー˺スカー　˺ドゥー　˹バー˺キン　フ˹チヤニ˺ヤー　ナ˹リ˺ス [ɸu̥˹ʧijani˺jaː pu̥˹sutu˺ tu˹reː˺sukaː ˺duː ˹baː˺kiŋ ɸu̥˹ʧijani˺jaː na˹ri˺su](口汚い人と付き合うと自分までも口汚くなるよ)。

フ˹チ˺　ヤ˹ビ˺ルン [ɸu̥˹ʧi˺ ja˹bi˺ruŋ]【連】「口が破れる」の義。大病した後に味覚障害をおこすこと。味覚がおかしくなる。フ˹チ˺　ヤブン [ɸu̥˹ʧi˺ jabuŋ](口が破れる。口がおかしくなる) ともいう。ウ˹ブヤンヌ˺　アトゥナー　˺ユー　フ˹チ˺　ヤ˹ビ˺ルンティ　ス˹クタンドゥ　フン˺トー　フ˹チ˺　ヤビティ　ム˹ヌ˺ヌ　ア˹ジン˺　ワ˹カラ˺ヌ [ʔu˹bujannu˺ ʔatunaː ˺juː ɸu̥˹ʧi˺ ja˹bi˺runti su̥˹kutandu ɸun˺toː ɸu̥˹ʧi˺ jabiti mu˹nu˺nu ʔa˹ʥiŋ˺ wa˹kara˺nu](大病の後には味覚障害をおこす＜口が破れる＞と聞いたが、本当に味覚障害をおこして＜口が破れて＞ものの味がわからない)。

プ˹チュルパタラ˺シ [pu̥˹ʧurupatara˺ʃi]【副】ぱちぱちと。竹や枯れススキの束がぱちぱちと音を立てて燃え盛るさま。˹タイ˺バ　˺シキ　プ˹チュルパタラ˺シ　˹モーシェー˺ティ　イ˹ソー　シン　オーッ˺タ [˹tai˺ba ˺ʃi̥ki pu̥˹ʧurupatara˺ʃi ˹moːʃeː˺ti ʔi˹soː ʃiŋ ʔoːt˺ta](松明を灯して＜つけて＞ぱちぱちと燃やしながら潮干狩りに行かれた)。

フ˹チ˺ル [ɸu̥˹ʧi˺ru]【名】薬。「薬、療レ病則謂ニ之薬一、久須利 (くすり)」『和名抄』の「ス」、「リ」の [u] と [i] 母音が音位転換して転訛したもの。老年層はフ˹シ˺ル [ɸu̥˹ʃi˺ru](薬) ともいう。ヌ˹ミフチ˺ル [nu˹miɸuʧi˺ru](飲み薬)、˹クーフチ˺ル [˹kuːɸuʧi˺ru](粉薬)、˹シンジフチ˺ル [˹ʃinʤiɸuʧi˺ru](煎じ薬)、シ˹ジフチ˺ル [ʃi˹ʤiɸuʧi˺ru](煎じ薬)、サ˹ギフチ˺ル [sa˹giɸuʧi˺ru](下げ薬＜血圧降下剤＞。下剤)、シ˹キフチ˺ル [ʃi̥˹kiɸuʧi˺ru](塗り薬)、パ˹リフチル [pa˹riɸu̥ʧiiru](張り薬) 等がある。イ˹サ˺ヌ　フ˹チ˺ルテー　˹ナーン˺ユンダ　フ˹チン˺パートゥ　ン˹ガナ˺バ　˺シジ　˺ヌメーティル　フ˹チ˺ル　˹ソーッ˺タ [ʔi˹sa˺nu ɸu̥˹ʧi˺ruteː ˹naːŋ˺junda ɸu̥˹ʧim˺paːtu ʔŋ˹gana˺ba ˺ʃiʤi ˺numeːtiru ɸu̥˹ʧi˺ru ˹soːt˺ta](医者の薬とてないわけだから、よもぎ＜蓬＞の葉とニガナ＜苦菜＞を煎じて飲みながら、それを薬とされたものである)。

フ˞チ˥ル　˥スクン **[ɸu̥˞ʧi˥ru ˥su̥kuŋ]**【連】1薬が効(キ)く。薬効(ヤッコウ)がある。フ˞シ˥ル　˥スクン [ɸu˞ʃi˥ru ˥su̥kuŋ](薬が効く) ともいう。ク˞ヌ˥　フ˞チ˥ロー　バ˞タ˥ヤンナー　イッ˞ケナ˥　フ˞チ˥ル　˥スクン [ku˞nu˥ ɸu̥˞ʧi ˥ro: ba˞ta˥janna: ʔik˞kena˥ ɸu̥˞ʧi˥ru ˥su̥kuŋ](この薬は腹痛に非常に効く)。2効果てきめん (覿面) である。˞ワー˥　ム˞ニ˥ル　ク˞ヌ　ッふァ˥ナー　イッ˞ケナ˥　フ˞チ˥ル　˥スク˞ツォー [˞wa:˥ mu˞ni˥ru ku˞nu ffa˥na: ʔik˞kena˥ ɸu̥˞ʧi˥ru su̥ku˞tso:](貴方の教え＜言葉＞がこの子の教育には非常に効果がある＜薬が効く＞んですってば)。

フ˞チ˥ル　˞スン **[ɸu̥˞ʧi˥ru ˞suŋ]**【連】薬にする。薬として使用する。シ˞ル˥イカー　サ˞ギフチ˥ル　ヤ˞リバ˥　ウ˞リバ˥　シジ　˥ヌミティ　フ˞チ˥ル　˞スンティ　ベー [ʃi˞ru˥ʔika: sa˞giɸu̥ʧi˥ru ja˞riba˥ ʔu˞riba˥ ʃiʤi ˥numiti ɸu̥˞ʧi˥ru ˞sunti be:](アオリイカ＜シロイカ＞は下げ薬＜血圧を下げるのに効く薬＞だから、それを煎じて飲んで、薬にしようとしている)。

フ˞チル˥ヌ　˥ムヌ **[ɸu̥˞ʧiru˥nu ˥munu]**【連】滋養(ジョウ)食品。薬になる食品。「薬のもの」の義。トゥ˞ロー˥　パ˞ルミプス˥ヌ　フ˞チル˥ヌ　˥ムヌティティル　ア˞ザリ　ブー [tu˞ro:˥ pa˞rumipu̥su˥nu ɸu̥˞ʧiru˥nu ˥munutiru ʔa˞ʤaribu:](鶏肉は妊婦にとって滋養薬食品といわれている)。

フ˞チ˥ルヤー **[ɸu̥˞ʧi˥ruja:]**【名】薬屋。薬店。フ˞シ˥ルヤー [ɸu̥˞ʃi˥ruja:](薬屋) ともいう。イ˞サナキヌ˥　フ˞チ˥ルヤーラ　ニ˞チサマシ˥トゥ　バ˞タフチ˥ル　˞カイ˥　クー [ʔi˞sanakinu˥ ɸu̥˞ʧi˥ruja:ra ni˞ʧisamaʃi˥tu ba˞taɸuʧi˥ru ˞kai˥ ku:](石垣島の薬店から解熱剤＜熱冷まし＞と腹薬を買ってきなさい)。

フ˞チンガイシ **[ɸu̥˞ʧiŋgaiʃi]**【名】「口返し」の義。フ˞チガイシ [ɸu̥˞ʧigaiʃi](口返し) ともいう。他人から受けた呪詛(ジュソ)を祓(ハラ)うための呪術(ジュジュツ)。ヤ˞ナ˥ムニシ˞ラリ˥カー　ヤー˞ディン˥　フ˞チンガイシ　シート ヨー [ja˞na˥muni ʃi˞rari˥ka: ja:˞diŋ˥ ɸu̥˞ʧiŋgaiʃi ʃi:ɨjo:](悪口＜呪詛＞をされたら必ず呪詛祓い＜口返し＞をしなさいよ)。

フ˞チン　サーラ˥ヌ **[ɸu̥˞ʧin sa:ra˥nu]**【連】食べ物が少ないさま。食べ物が少なくて、ほとんど食べられない。食べ物がほんの少ししか口に入らないさま。「口に触(サワ)らない」の転訛したものか。ウ˞ビッチン˥ヌ　˥ムヌバ　バ˞キ˥ルカー＜˥バクカー＞　フ˞チン　サーラ˥ヌ [ʔu˞bittʃin˥nu ˥munuba ba˞ki˥ruka:＜˥bakuka:＞ ɸu̥˞ʧin sa:ra˥nu](これっぽっちのものを分けたら、量が少なくていくらも食べられない＜口に触らない程度だ＞)。

フ˞チンザ˥シ **[ɸu̥˞ʧiʔnʤa˥ʃi]**【名】物事の切っ掛けをつくる。最初に手掛けること。手がかりとなることをすること。シ˞グトー˥　ム˞チ˥キサタンティン　フ˞チンザ˥シサーギ　˞シー˥　ッ˞ふィール˥カー　˞アトー　˞ドゥーシン　˞ナルン [ʃi˞guto:˥ mu˞ʧi˥ki̥satantiŋ ɸu̥˞ti ʔnʤa˥ʃisa:gi ˞ʃi:˥ f˞fi:ru˥ka: ˞ʔato: ˞du:ʃin ˞naruŋ](仕事は難しくても切っ掛け＜口出し＞さえ作ってくれたら、後は自分でも出来る)。

フ˞チ˥　ン˞ザ˥スン **[ɸu̥˞ʧi˥ ʔn˞ʤa˥suŋ]**【連】口火を切る。最初に言ったり、したりしてきっかけをつくる。ウ˞ヌ˥　パ˞ナ˥シェー　˞バーラ　フ˞チ˥　ン˞ザサ˥バ＜ン˞ザシ˥バ＞　ワ˞ターン˥　カシー　˞シー˥ヨー [ʔu˞nu˥ pa˞na˥ʃe: ˞ba:ra ɸu̥˞ʧi˥ ʔn˞ʤasa˥ba＜ʔn˞ʤaʃi˥ba＞ wa˞ta:ŋ˥ kḁʃi: ˞ʃi:˥jo:](その話は私から口火を切る＜口出しする＞から、君達も応援＜加勢＞しなさいよ)。

フ˞チンザ˥スン **[ɸu̥˞ʧiʔnʤa˥suŋ]**【他動】口を出す。差し出口をいう。ようかい (容喙) する。˥ヤコー　タ˞タ˥ムティ　プ˞スヌ˥　クトゥナー　フ˞チンザ˥スンティ　˞アー˥ク [˥jako: tḁ˞ta˥muti pu̥˞sunu˥ ku̥tuna: ɸu̥˞ʧiʔnʤa˥sunti ˞ʔa:˥ku](何の役にも立たないくせに他人のことに口出し＜容喙＞しようとしている)。

フ˞チンダタール **[ɸu̥˞ʧindata:ru]**【名】世間の取り沙汰。世間の噂。くちのは (口の端) にのぼること。口うるさく噂されること。「口立たり」の義か。イ˞フナクトゥバ　シー˥　シ˞キン˥ヌ　フ˞チンダタール˥　シ˞ラリベー [ʔi˞ɸunakutuba ʃi:˥ ʃi̥˞kin˥nu ɸu̥˞ʧindata:ru˥ ʃi˞rari be:](妙なことをして、世間の噂になっている)。˞ミートゥンダバカリ˥バ　˞シー˥　シキンナー　フ˞チンダタール˥　シ˞ラリ˥　イ˞ナムヌ˥ダラ [˞mi:tundabakari˥ba ˞ʃi:˥ ʃi̥kinna: ɸu̥˞ʧindata:ru˥ ʃi˞rari˥ ʔi˞namunu˥dara](離婚＜夫婦分かれ＞をして世間の噂になって、まことに残念なことだよ)。

フ˞チン˥　ッ˞ふァーリン **[ɸu̥˞ʧiŋ˥ f˞fa:riŋ]**【連】口に食われる。悪口を言うとその通りになって、災いが己にふりかかる。ヤ˞ナ˥ムニ　イ˞ズ˥カー　フ˞チン˥　ッ˞ふァーリン˥ティ　˞スンダ˥　ヤ˞ナ˥ムニ　イ˞ズナ [ja˞na˥muni ʔi˞ʤu˥ka: ɸu̥˞ʧiŋ˥ f˞fa:rin˥ti ˞sunda˥ ja˞na˥muni ʔi˞ʤuna](悪口を言うと口に食われるというから、悪口は言うな)＜諺＞。

フ˞チンドゥ　オーリ **[ɸu̥˞ʧindu ʔo:ri]**【連】口に追わ

れる。子供を食べさせるのに精一杯である。生活に困窮している。ウ˞ビ˜ヌ　˞ヤーニン˜ズ　シゥ˞カ˜ナウンティ　フ˞チンドゥ　オーリ　アー˜ク　˜キンパダ　ア˞ラ˜ス　˞ジン˜カニ　˞ナー˜トー　˞ナー˜ヌ [ʔu˞bi˜nu ˞ja:nin˜ʤu si̥˞ka˜naunti ɸu̥˞ʧindu ʔo:ri ʔa:˜ku ˜kimpada ʔa˞ra˜su ˞ʤiŋ˜kani ˞na:˜to ˞na:˜nu](あれだけの家族を養うために、毎日の生活に困窮している＜食べさせるのに追われている＞、着物を買うお金などはない)。

フ˞ツァー˜マ [ɸu̥˞tsa:˜ma] 【名】海底地名。津口の名。「小津口」の義。西表島の˜インダ [˜ʔunda](伊武田)と˞クーラ [˞ku:ra](久浦) の北にある干瀬の中央部にある小さな津口。˞クーラ [˞ku:ra](久浦)、˜インダ [˜ʔinda](伊武田)、トゥ˞マダ [tu˞mada](苫田)、˞ケー˜ダ [˞ke:˜da]、˞ユシ˜キダー [˞juʃi̥˜kida:](ヨシキ田)、サ˞キンダ [sḁ˞kinda](崎田) で通耕する鳩間島の舟は、このフ˞ツァー˜マを通っていく。フ˞ツァー˜マ [ɸu̥˞tsa:˜ma] より西の干瀬は、˞イーリジマ [˞ʔi:riʤima] といい、そのすぐ東側の干瀬にはウ˞ブ˜ビー [ʔu˞bu˜bi:](大干瀬) があり、その東側に˞ダイ˜クビー [˞dai˜kubi:] があって、この一帯が鳩間島の角又養殖場で、約 2 万坪の広さがある。

˜ブッカー [˜bukka:] 【名】不器用。不器用な者。ウ˞レー˜　ティーブッカー　ヤ˞ルンダ˜　ノー˞ン　シーサヌ [ʔu˞re:˜ ti:bukka: ja˞runda˜ no:˞ŋ ʃi:ju:sanu](あれ＜彼＞は手が不器用だから、何も出来ない＜作れない＞)。

˞フッカー˜スン [˞ɸukka:˜suŋ] 【他動】 1間に入れて差し挟む。挟みこむ。˜クマ　カ˞サム˜カー　˜ティー　˞フッカー˜スンダ　˞フッカーサン˜　トンバ　カ˞サミ [˜kuma kḁ˞samu˜ka: ˜ti: ˞ɸukka:˜sunda ˞ɸukka:san˜ tomba kḁ˞sami](ここを掴むと手を挟む＜手が挟まれる＞から、挟まない所をつかめ)。˜パンシ　˞フッカー˜シティ　˜ムティバ [˜paŋʃi ˞ɸukka:˜ʃi̥ti ˜mutiba](足で差し挟んで持ちなさい)。˜パンシ　˞フッカー˜ス　˜クトー　ナ˞ラ˜ヌ [˜paŋʃi ˞ɸukka:˜su ˜ku̥to: na˞ra˜nu](足で差し挟むことはできない)。˞フッカー˜シェー　˜ミサムヌ [˞ɸukka:˜ʃe:˜misamunu](挟めばいいのに)。˜パンシ　˞フッカー˜シ [˜paŋʃi ˞ɸukka:˜ʃi](足でさし挟め)。2歯を食い縛る。噛みあわせる。˞ピー˜ヤタンティン　ナー˞イ˜　パー　˞フッカー˜シティ　˜ニジ　˞ベー˜リ [˞pi:˜jatantin na:˞ji˜ pa: ˞ɸukka:˜ʃi̥ti ˜niʤi ˞be:˜ri](寒くても、じっと歯を食い縛って堪えて＜念じて＞いる)。

˞フッカイスン [˞ɸukkaisuŋ] 【自動】治癒(チユ)した熱病が再発する。熱病が繰り返す。若年層は、˞フッケースン [˞ɸukke:suŋ](熱病が再発する) ともいう。˜ドゥー　˞ピーラ˜スカー　˞プーケー　フッカイスンダ　フッカイサン˜スコー　ヌ˞クーヌクー˜シ　˜キンキ˞シ˜ヨー [˜du: ˞pi:ra˜su̥ka: ˞pu:ke: ɸukkaisunda ɸukkaisan˜su̥ko: nu˞ku:nuku:˜ʃi ˜kiŋ ki̥˞ʃi˜jo:](体を冷すとマラリアの熱が再発するから、再発しないようにぬくぬくと＜温温と＞着物を着なさいよ)。˞フッカイシナー˜ヌ [˞ɸukkaiʃina:˜nu](再発した)。フ˞チ˜ル　˜ヌメーチバ　˞フッカイス˜　クトー　˞ナー˜ヌ [ɸu̥˞ʧi˜ru ˜nume:ʧiba ˞ɸukkaisu˜ ku̥to: ˞na:˜nu](薬を飲んだから再発することはない)。˜ニチェー　˞フッカイシェー˜　ミサムヌ [˜nitʃe: ˞ɸukkaiʃe:˜ misamunu](熱は再発すればいいのに)。

˞ブックミルン [˞bukkumiruŋ] 【他動】ぶち込める。うち混ぜる。一纏(ヒトマト)めにする。˞ピー˜チナ　˞ブックミルンティ　スンドゥ　ブックミララヌ [˞pi:˜ʧina ˞bukkumirunti sundu bukkumiraranu](一つにぶち込めようとするが、ぶち込められない)。˞ブックミ˜ミサ　˜ムノー　˞ブックミル˜　クトゥ [˞bukkumi˜misa ˜muno: ˞bukkumiru˜ ku̥tu](ぶち込めてよい物はぶち込めることだ)。˞パー˜ク　˞ブックミレー˜ミサムヌ [˞pa:˜ku ˞bukkumire:˜ misamunu](早くぶち込めればいいのに)。˞ピー˜チナ　˞ブックミリ [˞pi:˜ʧina ˞bukkumiri](一つにぶち込めろ＜一纏めにしろ＞)。

˞ブックムン [˞bukkumuŋ] 【他動】ぶち込む。うち混ぜる。一纏めにする。合算する。シ˞ナムヌヌ　ダイヤー˜　ヌーンクイン　˞ブックムンティ˜　ウ˞ムーン˜ドゥ　˞ブックム˜　クトー　ナ˞ラン˜ティ　シ˞バ　ブックマンドー˜シ　˜ビチビチニ　˜パライバ [ʃi˞namununu daija:˜ nu:ŋkuim ˞bukkumunti˜ ʔu˞mu:n˜du ˞bukkumu˜ ku̥to: na˞ran˜ti ʃi˞ba bukkumando:˜ʃi ˜bitʃibitʃini ˜paraiba](品物の代金は何もかもぶち込もうと思うが、ぶち込むことはできないというので、纏(マト)めないで別々に支払いなさいよ)。˞ブックミティ˜　パライバ [˞bukkumiti˜ paraiba](ぶち込んで＜合算して＞支払いなさいよ)。ムー˞ル　ブックメー˜　ミサムヌ [mu:˞ru bukkume:˜ misamunu](全部ぶち込めばいいのに)。˞ブックミ˜バ [˞bukkumi˜ba](ぶち込めよ)。

˞プッ˜クン [˞puk˜kuŋ] 【自動】穴が開く。˞ピッ˜クン [˞pik˜kuŋ](自動詞、穴が開く。他動、穴をあける。ほがす) ともいう。˜ガンガンタングヌ　ス˞ク　プ

ッ⌉キティ　シゥ⌈カーラヌ [⌉gaŋgantaŋgunu su̥⌈ku puk⌉kiti si̥⌈ka:ranu](ブリキ缶製のたごおけ < 水担桶 > の底に穴が開いて使えない)。イ⌈シ⌉シ　⌈シッ⌉クカ　⌉アナ　⌈プッ⌉クン [ʔi⌈ʃi⌉ʃi ⌈ʃik⌉kuka ⌉ʔana ⌈puk⌉kuŋ](石で打ったら穴が開く)。⌈プッ⌉ク　⌈タン⌉グシェー　ミ⌈ジ⌉　カ⌈タマラ⌉ヌ [⌈puk⌉ku ⌈taŋ⌉guʃe: mi⌈ʤi⌉ kḁ⌈tamara⌉nu](穴の開いたおけ < 水担桶 > では水を汲むことはできない)。

⌈**フッサー⌉ルン [⌈ɸussa:⌉ruŋ]** 【自動】ぶら下がる。しがみつく。「食い下がる」からの転訛。ブ⌈ネー⌉ナ　⌈フッサー⌉リティ　プ⌈スン⌉　ダ⌈カラヌ [bu⌈ne:⌉na ⌈ɸussa:⌉riti pu̥⌈sun⌉ da⌈karanu](母親にぶら下がって他人には抱かれない)。ヤ⌈ラビ⌉ヌ　⌈キーヌ⌉ユダナ　⌈フッサー⌉ルンティ　⌈ベー⌉バ　⌉ウナー　⌈フッサーラス⌉ナ [ja⌈rabi⌉nu ⌈ki:nu⌉judana ⌈ɸussa:⌉runti ⌈be:⌉ba ⌉ʔuna: ⌈ɸussa:rasu⌉na](子供が木の枝にぶら下がろうとしているから、そこにぶら下がらせるな)。⌈フッサー⌉ル　プ⌈ソー⌉　ブ⌈ラーヌ [⌈ɸussa:⌉ru pu̥⌈so:⌉ bu⌈ra:nu](ぶら下がる人はいない)。⌈フッサー⌉レー　⌉ミサムヌ [⌈ɸussa:⌉re: ⌉misamunu](ぶら下がればいいのに)。⌈ワー⌉　ヤー⌈ディン　フッサー⌉リ [⌈wa:⌉ ja:⌈diŋ ɸussa:⌉ri](君は必ずぶら下がれ)。

⌉**ブッター [⌉butta:]** 【名】太いもの。太っちょ。厚ぼったいもの。肥えたもの太ったものを卑しめた語。ク⌈マークマーヌ⌉　ム⌈ヌ⌉ル　シゥ⌈カイヤッ⌉サル　⌉ブッターヤ　シゥ⌈カイグリ⌉サン⌈ダー [ku⌈ma:ku-ma:nu⌉ mu⌈nu⌉ru si̥⌈kaijas⌉saru ⌉butta:ja si̥⌈kaiguri⌉saŋ](細かいものが使いやすい。太っちょは使いづらいよ)。

⌉**-ブッター [⌉-butta:]** 【接尾】〜だらけ。〜まみれ。〜でいっぱい (多すぎるさまに対して用いる)。汚れたものを表す語に下接して、「〜まみれ、〜だらけ」を表す。沖縄方言からの借用語か。普通は⌈-ゴー⌉ダー [⌈-go:⌉da:](〜まみれ、〜だらけ) を用いる。ドゥ⌈ルブッター⌉　ナリティ　⌈グッふァ⌉ヌ　カ⌈タマラ⌉ヌ [du⌈rubutta:⌉ nariti ⌈guffa⌉nu ka⌈tamara⌉nu](泥まみれになって重くて担がれない)。

⌈**フッ⌉チ　ッ⌈ふン [⌈ɸut⌉ʧi f⌈fuŋ]** 【連】食いちぎる。嚙み千切って食う。⌈ネーシタクヌ⌉　ティー　⌈フッ⌉チ　ッ⌈ふァイティ⌉　アサ⌈ビン⌉　パリ　⌈ナー⌉ヌ [⌈ne:ʃitakunu⌉ ti: ⌈ɸut⌉ʧi f⌈faiti⌉ ʔa⌈sabim⌉pari ⌈na:⌉nu](煮蛸の手を食いちぎって食べて遊びに行ってしまった)。

⌈**ブッツ [⌈buttsu]** 【名】へそ (臍)。ほぞ。「臍、和名保曾 (ほそ)。俗云倍曾 (へそ)」『和名抄』。⌈ティンブッツ [⌈timbuttsu](でべそ。大きなお臍)、ブッ⌈ツォー⌉マ [but⌈tso:⌉ma](小さなへそ < 臍 >) などという。ヤ⌈ラ⌉ベー　⌈ブッツ　ピングラス⌉カー　パ⌈ナシキ⌉　カ⌈カラ⌉スンダー　カシー⌈カシー⌉　キン　キ⌈サシ⌉ヨー [ja⌈ra⌉be: ⌈buttsu piŋgura⌉su̥ka: pa⌈naʃi̥ki⌉ kḁ⌈kara⌉sunda: ka⌈ʃi:kaʃi:⌉ kiŋ ki̥⌈saʃi⌉jo:](子供は、お臍を冷やすと風邪をひかせるから、きちんと着物を着せなさいよ)。

⌈**フッツァ⌉スン [⌈ɸuttsa⌉suŋ]** 【他動】髪の毛や紙などを鋏(ハサミ)でチョキチョキと小刻みに切る。鋏で切り刻む。抓(ツ)む。⌉パサンシ　ガ⌈マ⌉ジ　⌈フッツァ⌉スンティ　⌈スンドゥ　フッツァサラ⌉ヌ [⌉pḁsaŋʃi ga⌈ma⌉ʤi ⌈ɸuttsa⌉sunti ⌈sundu ɸuttsasara⌉nu](鋏で髪を切ろうとするが、切られない)。ガ⌈マ⌉ジ　⌈フッツァ⌉シッ⌈ふィーリ [ga⌈ma⌉ʤi ⌈ɸuttsa⌉ʃi f⌈fi:ri](髪の毛を鋏で切ってくれ)。ガ⌈マ⌉ジ　⌈フッツァ⌉ス　プ⌈ソーパー⌉ク　⌈フッツァ⌉シェー　⌉ミサムヌ [ga⌈ma⌉ʤi ⌈ɸuttsa⌉su pu̥⌈so: pa:⌉ku ⌈ɸuttsa⌉ʃe: ⌉misamunu](髪の毛を鋏で切る人は早く切ればいいのに)。⌈フッツァ⌉シバ [⌈ɸuttsa⌉ʃiba](鋏で切れよ)。ガ⌈マ⌉ジ　⌈フッツァ⌉スン [ga⌈ma⌉ʤi ⌈ɸuttsa⌉suŋ](髪の毛を鋏で切る)。⌈フッツァサ⌉ヌ [⌈ɸuttsasa⌉nu](鋏で髪を切らない)。ヤ⌈ラビ⌉ヌ　ガ⌈マ⌉ジ　⌉パサンシ　⌈フッツァ⌉シ　⌉ミサカー　⌈フッツァ⌉ス　⌉クトー　⌉ナルン [ja⌈rabi⌉nu ga⌈ma⌉ʤi ⌉pasaŋʃi ⌈ɸuttsa⌉ʃi ⌉misaka: ⌈ɸuttsa⌉su ⌉ku̥to: ⌉naruŋ](子供の頭髪を鋏で切って < 刈って > 良ければ切ることはできる)。⌈フッツァ⌉シェー　⌉ミサムヌ [⌈ɸuttsa⌉ʃe: ⌉misamunu](髪を切り散らせば < 刈れば > 良いのに)。ガ⌈マ⌉ジ　⌈フッツァ⌉シ [ga⌈ma⌉ʤi ⌈ɸuttsa⌉ʃi](髪を鋏で切り散らせ < 刈れ >)。

⌈**フッツァミ⌉ルン [⌈ɸuttsami⌉ruŋ]** 【他動】食いしばる。食いしめる。指をくわえ <衘(クワ)え > る。「食い詰める」からの転訛。ヤ⌈ラ⌉ベー　ン⌈マー⌉ムヌ　⌉ミルカー　ウ⌈ヤ⌉ビ　⌈フッツァミ⌉ルンダ　⌈フッツァミラン⌉ケン　⌉バキ　ッ⌈ふァーシ⌉バ [ja⌈ra⌉be: ʔm⌈ma:⌉munu ⌉miruka: ʔu⌈ja⌉bi ⌈ɸuttsami⌉runda ⌈ɸuttsami-raŋ⌉kem ⌉baki f⌈fa:ʃi⌉ba](子供は美味しいものを見ると指を衘えるから、指を衘えないうちに分け与えなさい)。⌉ティー　⌈フッ⌉ツァミティ　⌉プサンギサシ　⌉ミリ　⌈ベー [⌉ti: ⌈ɸut⌉tsamiti ⌉pusaŋgisaʃi ⌉miri ⌈be:](指を衘えて欲しそうに見ている)。⌉ティー　⌈フッ⌉ツァム　フ⌈シヌル⌉　アル [⌉ti: ⌈ɸut⌉tsamu ɸu̥⌈ʃinuru⌉ ʔaru](指を衘える癖がある)。⌉ティー　⌈フッツァミ⌉リ [⌉ti: ⌈ɸuttsami⌉ri](指を衘えよ)。

˞フッ˞ツァムン [˞ɸut˞tsamuŋ] 【他動】指をくわえ(銜え)る。食いしめる。噛む。「食い詰む < 下二段 >」からの転訛。˞フッツァミ˞ルン [˞ɸuttsami˞ruŋ] と同じ。ウ˞ヤ˞ビ ˞フッ˞ツァムンティ ˞スー˞ フ˞シヌル˞ アル [ʔu˞ja˞bi ˞ɸut˞tsamunti ˞su:˞ɸu̥˞ʃinuru˞ ʔaru](指を銜えるという癖がある)。ク˞ヌ˞ ッ˞ふァー˞ ティー ˞フッツァマ˞ヌ [ku˞nu˞ f˞fa:˞ ti: ˞ɸuttsama˞nu](この子は指を銜えない)。˞ティー ˞フッ˞ツァミティ ˞ミリ ˞ベー [˞ti: ˞ɸut˞tsamiti ˞miri ˞be:](指を銜えて見ている)。˞ティー ˞フッ˞ツァム フ˞シ [˞ti: ˞ɸut˞tsamu ɸu̥˞ʃi](手を銜える癖)。˞ティー ˞フッ˞ツァメー ˞ミサムヌ [˞ti: ˞ɸut˞tsame: ˞misamunu](指を銜えればいいのに)。˞ティー ˞フッ˞ツァミバ [˞ti: ˞ɸut˞tsamiba](指を銜えよ)。

˞フッツォーリカッツォーリ [˞ɸuttso:rikattso:ri] 【副】ぶるぶると震えるさま。ABCDEFBCDE 型の重言。˞震える」の強調表現。˞ドゥク ˞ピー˞ヤティ ˞フッツォーリカッツォーリ シェー˞ティ ˞アー˞ク [˞duku ˞pi:˞jati ˞ɸuttso:rikattso:ri ʃe:˞ti ˞ʔa:˞ku](あまりにも寒くてぶるぶる震えている)。

˞フッツォールン [˞ɸuttso:ruŋ] 【自動】震える。身震いする。ガ˞タガタ˞シ ˞フッツォールン˞ケン ˞アミナ ˞ゾッふァーリ ベー [ga˞tagata˞ʃi ˞ɸuttsoruŋ˞keŋ ˞ʔamina: ˞ʤoffa:ri be:](ぶるぶる < がたがたと > 震えるほど雨に濡らされている)。˞ピー˞ヤタンティン ˞フッツォーラヌ [˞pi:˞jatantiŋ ˞ɸuttso:ranu](寒くても震えない)。˞ピー˞ヤティ ˞フッツォーリティ˞ タティ ˞ベー [˞pi:˞jati ˞ɸuttso:riti˞ tạ̥ti ˞be:](寒いので、震えて立っている)。イ˞コーラ ピー˞ヤタンティン ˞フッツォール˞ クトー ˞ナー˞ヌ [ʔi˞ko:ra pi:˞jatantiŋ ˞ɸuttso:ru˞ kụ̥to: ˞na:˞nu](いくら寒くても震えることはない)。˞ピー˞ヤカー ˞フッツォーレー˞ ミサムヌ [˞pi:˞jaka: ˞ɸuttso:re:˞ misamunu](寒かったら震えればいいのに)。˞マー˞ビン ˞フッツォーリ˞バ [˞ma:˞biŋ ˞ɸuttso:ri˞ba](もっと震えよ)。

˞ブッツキシ˞プス [˞buttsu˞ kị̥˞ʃi˞pụ̥su] 【連】お臍の緒を切る人。産婆のいない島では、カ˞ティ [kạ̥˞ti]、˞カッティ [˞katti] といわれる取上げ婆 < 助産婦の経験者 > が煮沸した竹ナイフや炎で焼いて消毒した剃刀を使ってお臍の緒を切ったという。

˞ブッツヌ ブー [˞buttsunu bu:] 【連】お臍の緒。˞ブッツヌ ブーヤ ミーシキミー バー˞キナー ウ˞ティ˞ルンカヤー [˞buttunu bu:ja: mi:ʃị̥kimi: ba:˞kina: ʔu˞ti˞ruŋkaja:](お臍の緒は誕生後三月目までには取れる < 落ちる > かねえ)。

˞フッ˞ツン [˞ɸut˞tsuŋ] 【他動】噛み切る。食い千切る。タ˞クヌ ˞ティー ˞フッ˞ツンティ ˞スンドゥ˞ シ˞ビネー˞ヌ ˞フッツァラ˞ヌ [tạ̥˞ku˞nu ˞ti: ˞ɸut˞tsunti ˞sundu˞ ʃi˞bine:˞nu ˞ɸuttsara˞nu](蛸の手を噛み切ろうとするが、ゴムのように固柔(カタヤワ)らかくて噛み切れない)。˞フッチ˞ カミバ [˞ɸut˞ʧi ˞kamiba](食い千切って食べなさい)。˞フッ˞ツ ク˞トゥ˞ヌ ˞ナルカー ˞フッ˞チェー ˞ミサムヌ [˞ɸut˞tsu kụ˞tu˞nu ˞naruka: ˞ɸut˞ʧe: ˞misamunu](噛み切ることができたら噛み切ればいいのに)。ヤー˞ディン フッ˞チバ [ja:˞diŋ ˞ɸut˞ʧiba](必ず噛み切れよ)。

˞ブッ˞トゥル [˞but˞turu] 【名】炒め物。サツマイモやキャッサバの澱粉を熱湯で固めて、さらに油で炒めたもの。弾力のあるジェリー状の炒め物。˞ウンヌ˞クジブットゥルー [˞ʔunnu˞kuʤibutturu:](芋葛粉の油炒め)。˞ソー˞ミンブットゥルー [˞so:˞mimbutturu:](素麺の油炒め) などがある。ム˞カ˞シェー ˞ユー ˞ウンヌ˞クジブットゥルー ス˞ク˞リ ッ˞ふァーソーッ˞タン [mu˞ka˞ʃe: ˞ju: ˞ʔunnu˞kuʤibutturu: sụ̥˞ku˞ri f˞fa:so:t˞taŋ](昔はよく芋葛粉 < 芋澱粉 > の油炒めを作って下さったものだ)。

˞プツルパタラ [˞pụ̥tsurupatara] 【副】擬音語。ぱちぱちと。火がぱちぱちと勢いよくもえるさま。いさりび (漁火) の竹松明やススキ松明がぱちぱちと燃えるさま。˞プツルパタラシ ˞タイ˞バ ˞モーシェー˞ティル ˞タク ˞トゥリン ˞オーッ˞タ [pụ̥tsurupataraʃi ˞tai˞ba ˞mo:ʃe:˞tiru ˞tạ̥ku ˞turiŋ ˞ʔo:t˞ta](ぱちぱちと松明を燃やして蛸捕(タコト)りに行かれた)。

フ˞ディ [ɸu˞di] 【名】筆。毛筆。タ˞キフディ [tạ̥˞kiɸudi](竹筆。大工さんが建築工事で用いる竹を削って作った筆)。フ˞ディ˞シ ˞ジー˞ カクン [ɸu˞di˞ʃi ˞ʤi:˞ kạ̥kuŋ](筆で字を書く)。/フディトゥリゾージン ナリトーリ シンカキゾージン ナリトーリ/(文筆・算勘(サンカン)の達人になって下さい。偉いお役人 < 墨書き上手 > に出世してください)(アガロウザ節)『八重山民謡誌』が鳩間島で伝承されている。

フ˞ディキ [ɸu˞diki] 【名】凶作。「不出来」の転。標準語からの借用語。ク˞トゥシヌ マイヤー˞ フ˞ディキヌト ナー [kụ̥˞tuʃinu maija:˞ ɸu˞dikinu˞na:](今年は米は凶作 < 不出来 > だなあ)。

フ˞ディ˞タティ [ɸu˞di˞tati] 【名】筆立て。筆筒。筆入れ。ク˞ヌ˞ フ˞ディ˞タテー ˞バン˞テヌ ˞アチャール ス˞ク˞リ ッ˞ふォーッ˞タ [ku˞nu˞ ɸu˞di˞tate:

˞ban˜tenu ˜ʔatʃaːru sṵ˞ku˜ri f˞foːt˜ta](この筆立ては私の家のお父さんが作って下さった)。

フ˞ディヌ˜　シゥカ [ɸu˞dinu˜ sï˞ka] 【連】筆の軸。「筆のつか (柄)」の義。フ˞ディヌ˜　シゥカー　マッ˞シグ˜　タティティ　カ˞キバ˜ル　˞ジーヤ　ゾー˜ジ　˜ナル [ɸu˞dinu˜ sï˞kaː maʃ˞ʃigu˜ tạtiti kạ˞kiba˜ru ˞ʤi:ja ʤoː˜ʤi ˜naru](筆の軸をまっすぐに立てて書いたらば＜書けばぞ＞こそ字は上達する＜上手になる＞ものだ)。

フ˞ドー˜シ [ɸu˞doː˜ʃi] 【名】いねこき (稲扱(イネコキ))。「管(クダ)＜久太＞『和名抄』・串＜ツラヌク・クシ＞『類聚名義抄』」の転訛したもの。直径 4〜5 ミリ、長さ約 10 センチの竹管二本をわらしべ (藁稭) で貫き通して蝶番(チョウツガイ)状に連結したもの。在来種の稲は、フドーシを右手に持って稲穂を挟み、籾(モミ)を扱(コキ)き落として脱穀した。それを搗き臼に入れて杵で搗き、芒(ノゲ)を落として籾(モミ)にした。籾は更にピ˞キウシ [pị˞kiʔuʃi](挽臼(ヒキ))に入れ、摺(ス)って玄米にした。玄米は必要に応じて搗き臼で搗いて精白し、˞パンガマ [˞paŋgama](羽釜)で炊いて食した。フ˞ドー˜シシ　˞マイヌ˜　プー　˞スー˜リバ [ɸu˞doː˜ʃiʃi ˞mainu˜ puː ˞suː˜riba](いねこき＜竹管＞で稲穂を扱き落とし＜脱穀し＞なさいよ)。

フ˞ドゥ [ɸu˞du] 【名】1体格。背丈。身長。ビ˞コーンッふァー˜　フ˞ドゥヌ　マイ˜ヤンダ　ウ˞リンマー˜　シゥ˞カラシグトゥ˜　シ˞ミリ˜バ [bi˞koːŋffaː˜ ɸu˞dunu mai˜janda ʔu˞rimmaː˜ sï˞karaʃigutu˜ ʃi˞miri ˜ba](男の子は体格が大きいから力仕事は彼にさせなさいよ)。タ˞キ˜フドゥン　タ˞カー˜ン [tạ˞ki˜ ɸudun tạ˞kaː˜ŋ](身長も高い)。2身の程。分際。体力実力。身長体力。タ˞キ˜フドー　˞ナー˜ムティ　ウ˞ブ˜ムニ　イ˞ジ　アー˜ク [tạ˞ki˜ɸudoː ˞naː˜muti ʔu˞bu˜muni ʔi˞ʤiʔaː˜ku](体力実力もないくせに大言壮語して＜身の程を知らず大法螺を吹いて＞いる)。

˜フドゥ [˜ɸudu] 【副助】1歌謡語で、名詞や代名詞などを受けて˞程度」を表す。沖縄本島方言からの借用語か。/クリフドゥ　ウヤニ　ウムワリティ　トゥシヤ　トゥハタチ　ナユリドゥン　ウヤヌウグヌヤ　マダシラン/(これほど親に思われて、年は二十歳になっても親のご恩はまだ知らない。『無蔵念仏節』)。1の˜フドゥ [˜ɸudu](ほど) は、日常会話では、˜ブカラ [˜bukara](〜ぐらい) を多用する。˞ワー˜ブカラ　シ˞グトー　シーユーサヌ [˞waː˜bukaraː ʃi˞guto: ʃi:juːsanu](君ぐらい仕事をすることができない＜し得ない＞)。2〜するほど (文語的)。日常会話では、アー˞シ [ʔaː˞ʃi](〜ほど＜〜につれて、〜にあわせて＞) を多用する。ムティとも言う。用言の連体形に下接して「〜するほど。〜ほど」のように、程度を表す。イ˞ズ˜カー　イ˞ズフドゥ　シンギンドゥ˜　ナル [ʔi˞ʤu˜ka: ʔi˞ʤuɸudu ʃiŋgindu˜ naru](叱れば叱るほど余計に悪くなる)。パ˞ヤー˜カー　パ˞ヤー˜フドゥ　˞モーキヤッ˜サン [pa˞jaː˜ ka: pa˞jaː˜ɸudu ˞moːkijas˜saŋ](早ければ早いほど儲けやすい)。

ブ˞トゥ [bu˞tu] 【名】をふと (夫)、(ヲヒト＜男人＞の転)。「夫、ヲフト」『伊呂波字類抄』(鎌倉初期、10 巻本)。ブ˞トゥ˜　ムトゥン [bu˞tu˜ mutuŋ](女性が結婚する＜夫を持つ＞)。ミ˞ドーン˜ッふァー　˞パイ˜サ　ブ˞トゥ˜　ム˞タ˜シ　パ˞ラ˜シ [mi˞doːŋ˜ffaː ˞pai˜sa bu˞tu˜ mu˞ta˜ʃi pa˞ra˜ʃi](女の子は早く嫁入り＜結婚＞させよ)。

プ˞トゥ˜キ [pṵ˞tu˜ki] 【名】仏。石垣島の桃林寺の山門に、˜ニヨープトゥキ [˜nijoːpṵtuki](仁王仏) が安置されている。友利御嶽のウ˞ブ˜ヤー [ʔu˞bu˜jaː](本殿。＜母屋＞の義) にもプ˞トゥ˜キ [pṵ˞tu˜ki](仏像) が安置されている。ティ˞ラヌ˜　プ˞トゥ˜キ　ウ˞ガマ˜シ [ti˞ranu˜ pṵ˞tu˜ki ʔu˞gama˜ʃi](寺の仏様を拝ませなさい)。

プ˞ドゥ˜キ [pu˞du˜ki] 【名】機織の道具。おさ (筬)。たていと (縦糸) を一定の密度に整えるため、竹または金属の薄い小片を櫛の歯のように連ね、長方形のわく (框) に入れたもの。プ˞ドゥ˜キナ　˜イトゥ　ヌ˞キ　トゥー˜シティ　パ˞トゥ˜ムヌ　タ˞ティ˜ルンティ　˞ベー [pu˞du˜kina ˜ʔitu nu˞ki tuː˜ʃị̈ti pạ˞tu˜munu tạ˞ti˜runti ˞beː](おさ＜筬＞に縦糸を貫き通して織機を仕立てようとしている)。

プ˞トゥキ˜ブニ [pṵ˞tuki˜buni] 【名】のど仏の骨。「ほとけぼね (仏骨)」の義。ア˞ライクサイ˜　シ˞ティ˜　クチカミナ　ウ˞サミ˜ル　˜バソー　プ˞トゥ˜キブネー　イッ˞チン˜　アトーラル　イ˞リル˜ツォー [ʔa˞raikusai˜ ʃị˞ti˜ kṵtʃikamina ʔu˞sami˜ru ˜baso: pṵ˞tuki˜bune: ʔit˞iŋ˜ ʔatoːraru ʔi˞riru˜tsoː](洗骨葬＜洗い清め＞をして骨壷に納めるときは仏骨を一番後から入れるのだそうだ)。

プ˞トゥキ˜ルン [pṵ˞tuki˜ruŋ] 【他動】ゆるめ、解き放つ。ほどく (解く)。ほどける (解ける)。フ˞バリ˜　シケー　˞ナー˜ヤ　˞ナンク˜ル＜˞ナンククル˜＞　プ˞トゥキ˜ルン [ɸu˞bari˜ ʃị̈ke: ˞naː˜ja ˞naŋku˜ru＜˞naŋkuku˜ru＞ pṵ˞tuki˜ruŋ](縛ってある縄は自

然に解(ホド)ける)。プ˞トゥキ˥ルンカヤーティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　マ˞ダ˥　プ˞トゥキラン˥バン [pu̥˞tuki˥ruŋkaja:ti ʔu˞mu:tan˥du ma˞da˥ pu̥˞tukiram˥baŋ](自然に解けるかなあと思ったが、まだ解けないよ)。プ˞ドゥキ˥ルン [pu˞duki˥ruŋ](ほどける) ともいう。ア˞ザーリナー˥バ　˞タンガ˥シ　プ˞トゥキ˥ルンティ　˞ベー˥ンドゥ　プ˞トゥキララ˥ヌ [ʔa˞ɖa:rina:˥ba ˞taŋga˥ʃi pu̥˞tuki˥runti ˞be:˥ndu pu̥˞tukirara˥nu](縺(モツ)れた縄を一人で解(ホド)けようとしているが、解(ホド)けられない)。サ˞バナーバ　タンガ˥シ　プ˞トゥキ˥ルンティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　プ˞トゥキラン˥シェン [sa˞bana:ba taŋga˥ʃi pu̥˞tuki˥runti ʔu˞mu:tan˥du pu̥˞tukiraŋ˥ʃeŋ](鱶釣り縄を一人で解けようと思ったが、解けなかった)。プ˞トゥキ　ヤッ˥サカー　˥ドゥーシン　プ˞トゥキ˥ル　˥クトー　˥ナルン [pu̥˞tukijas˥saka: ˥du:ʃim pu̥˞tuki˥ru ˥ku̥to: ˥naruŋ](解けやすければ自分でも解くことはできる)。プ˞トゥキ˥　パ˞ジ˥メーラー　˞ナンク˥ル <˞ナンククル>　プ˞ドゥキ˥ル　˥クトゥン　˥ナルン [pu̥˞tuki˥ pa˞ʤi˥me:ra: ˞naŋ˥kuru <˞naŋkuku˥ru> pu̥˞tuki˥ru ˥ku̥tun ˥naruŋ](解け始めたら自然に解けることも出来る)。˞パー˥ク　プ˞トゥキ˥レー　˥ミサムヌ [˞pa:˥ku pu̥˞tuki˥re: ˥misamunu](早く解ければいいのに)。˞ワー˥シ　ク˞リ˥　プ˞ドゥキ˥リ [˞wa:˥ʃi ku˞ri˥ pu̥˞tuki˥ri](君でこれを解けなさい)。

ブ˞ドゥ˥ク [bu˞du˥ku] 【名】(動) 貝の名。和名ロウソクイモ。殻は厚くて高い。ら塔は平たく、円錐形状をなす。沿岸の海底砂地に棲息する。子供は、煮て身を取った後の殻の上半分割って親指と中指で捻(ヒネ)って回転させ、独楽の代用にして遊んだ。ブ˞ドゥ˥クシ　˥クマ　ス˞ク˥リティ　˞マーシ˥　ア˞サブタ [bu˞du˥kuʃi ˥kuma su̥˞ku˥riti ˞ma:ʃi˥ ʔa˞sabuta](ブドゥク貝で独楽を作って回して遊んだ)。イモガイ科の仲間のマガキガイ。サラサミナシ『原色沖縄海中動物生態図鑑』。ム˞カ˥シェー　ブ˞ドゥク˥ヌ　グ˞ル˥シ　˥コマ　ス˞ク˥リティ　˞マーシ˥　ア˞サブタン [mu˞ka˥ʃe: bu˞duku˥nu gu˞ru˥ʃi ˥koma su̥˞ku˥riti ˞ma:ʃi˥ ʔa˞sabutaŋ](昔はブドゥク貝の殻で独楽を作って回して遊んだものだ)。

プ˞トゥ˥クン [pu̥˞tu˥kuŋ] 【他動】ほどく (解く)。とく。解き放つ。プ˞ドゥ˥クン [pu˞du˥kuŋ](解く) ともいう。「ほどく (解く) 下二段活用」の四段活用化したもの。ギッ˞ティ˥　フ˞バリ˥　シケーンダ　プ˞トゥ˥クンティ　シ˞タンティン˥　プ˞トゥカラ˥ヌ [git˞ti˥ ɸu˞bari˥ ʃi̥ke:nda pu̥˞tu˥kunti ʃi̥˞tantim˥ pu̥˞tukara˥nu](ぎゅっと強く縛ってあるので、解こうとしても解かれない)。プ˞トゥ˥キ　˥ミサカー　プ˞トゥ˥ク　˥クトー　˥ナルン [pu̥˞tu˥ki ˥misaka: pu̥˞tu˥ku ˥ku̥to: ˥naruŋ](解いてよければ解くことはできる)。˞パー˥ク　プ˞トゥ˥ケー　˥ミサムヌ [˞pa:˥ku pu̥˞tu˥ke: ˥misamunu](早く解けばいいのに)。˞マー˥ビン　プ˞トゥ˥キバ [˞ma:˥bim pu̥˞tu˥kiba](もっと解けよ)。

プ˞トゥケー˥マ [pu̥˞tuke:˥ma] 【名】小さな仏さま。友利御嶽の本殿に祀られている仏像。˞ウイヌ˥ウガンナー　プ˞トゥケーマ˥ヌ　マ˞ツァリ　オー˥ルン [˞ʔuinu˥ʔuganna: pu̥˞tuke:ma˥nu ma˞tsari ʔo:˥ruŋ](友利御嶽に小さな仏が祀られている < 祀られておられる >)。

フ˞トゥッチ˥ウン [ɸu̥˞tuttʃi˥ʔuŋ] 【名】虫が入って朽ち腐っているサツマイモ。「朽ち腐れ芋」の義。フ˞トゥッチウン˥マー　ッ˞ふァーランバ　オー˥ヌ　˥イー　˞シー˥バ [ɸu̥˞tuttʃiʔum˥ma: f˞fa:ramba ʔo:˥nu ˥ʔi: ˞ʃi:˥ba](虫が入って朽ち腐ったイモは食べられないから豚の餌にしなさい)。

フ˞トゥッ˥チカーチ [ɸu̥˞tut˥ʧika:ʧi] 【副】朽ち腐るさま。フ˞トゥッ˥チカタッチ [ɸu̥˞t˥ʧikḁtattʃi](朽ち腐れるさま) ともいう。ABCDEFD 型の重言。フ˞トゥッ˥チカーチ　˞シー　ブー　キー˥ヤ　タ˞ム˥ヌ　シ˞ララヌ [ɸu̥˞tut˥ʧika:ʧi ˞ʃi: bu: ki:˥ja ta˞mu˥nu ʃi˞raranu](朽ち腐っている木は薪炭には出来 < され > ない)。ク˞ヌ　ウン˥マー　フ˞トゥッ˥チカーチ　シ˞ティ˥　ッ˞ふァーラヌ [ku˞nu ʔum˥ma: ɸu̥˞tut˥ʧika:ʧi ʃi̥˞ti˥ f˞fa:ranu](この芋は虫に喰われ、朽ち腐れていて食べられない)。

フ˞トゥッチ˥キー [ɸu̥˞tuttʃi˥ki:] 【名】朽木。木の髄が朽ち腐れているもの。フ˞トゥッチキー˥ヤ　シゥ˞カーラヌ [ɸu̥˞tuttʃiki:˥ja si̥˞ka:ranu](朽木は使えない)。フ˞トゥッチ˥キーナー　ッ˞サール˥ヌ　˥シドゥン [ɸu̥˞tuttʃi˥ki:na: s˞sa:ru˥nu ˥ʃiduŋ](朽木には白蟻がわく < 発生する >)。

フ˞トゥッチ˥パー [ɸu̥˞tuttʃi˥pa:] 【名】虫歯。「朽ちた歯」の義。ウ˞クバーヌ˥　フ˞トゥッチ˥パー　˥ナリティ　˥ヤミ　ナ˞ラ˥ヌ [ʔu˞kuba:nu˥ ɸu̥˞tuttʃi˥pa: ˥nariti ˥jami na˞ra˥nu](奥歯が虫歯 < 朽ち歯 > になって、痛くて堪らない)。

フ˞トゥッチ˥パー [ɸu̥˞tuttʃi˥pa:] 【名】虫歯。「朽ち歯」の義。フ˞トゥッチパー˥ヌ　ヤミ˞ベー˥ティ　イ˞サン˥ヤーナ　˞ギー˥　˥パー　˞ノー˥シタ [ɸu̥˞tuttʃipa: ˥nu jami˞be:˥ti ʔi˞saŋ˥ja:na ˞gi:˥ pa: ˞no:˥ʃi̥ta](虫歯が

痛むので病院＜医者の家＞に行って抜歯してもらった＜抜かした＞)。

フ˩トゥッチ˥ルン **[ɸu̥˩tuttʃi˥ru]** 【自動】朽ちる。転じて「虫歯になる」の意にもなる。˥ドゥク　˥サタ　ッ˩ふー˥カー　˥パー　フ˩トゥッチ˥ルンティ　˩スンドゥ˥　フ˩チ˥　ア˩ラウ˥カー　フ˩トゥッチラン˥ツォー [˥duku ˥sḁta f˩fu:˥ka: ˥pa: ɸu̥˩tuttʃi˥runti ˩sundu˥ ɸu̥˩tʃi˥ ʔa˩rau˥ka: ɸu̥˩tuttʃiran˥tso:](あまり砂糖を食べると虫歯になる＜歯が朽ちる＞というが、歯磨きする＜口を洗う＞と虫歯にならない＜朽ちない＞そうだ)。フ˩トゥッチ　ヤッ˥サン [ɸu̥˩tuttʃi jas˥saŋ](虫歯になりやすい＜朽ちやすい＞)。˥マイバーヤ　フ˩トゥッチ˥ル　˥クトー　˩ナー˥ヌ [˥maiba:ja ɸu̥˩tuttʃi˥ru ˥ku̥to: ˩na:˥nu](前歯は虫歯になる＜朽ちる＞ことはない)。ムー˩ル˥　フ˩トゥッチ˥レー　˥ミサムヌ [mu:˩ru˥ ɸu̥˩tuttʃi˥re: ˥misamunu](全部虫歯になれば＜朽ちれば＞いいのに)。ムー˩ル˥　フ˩トゥッチ˥リ [mu:˩ru˥ ɸu̥˩tuttʃi˥ri](全部虫歯になれ＜朽ちれ＞)。

フ˩トゥッツァ˥スン **[ɸu̥˩tuttsa˥suŋ]** 【他動】沸騰させる。沸かせる。煮立たせる。˥スー　フ˩トゥッツァ˥スンティ　˩スンドゥ˥　フ˩トゥッツァサラ˥ヌ [˥su: ɸu̥˩tuttsa˥sunti ˩sundu˥ ɸu̥˩tuttsasara˥nu](お汁を沸騰させようとするが沸騰させられない)。フ˩トゥッツァ˥シ　˥ミサカー　フ˩トゥッツァ˥ス　クトー　˥ナルン [ɸu̥˩tuttsa˥ʃi ˥misaka: ɸu̥˩tuttsa˥su ˥ku̥to: ˥naruŋ](沸騰させてよければ沸騰させることはできる)。˩パー˥ク　フ˩トゥッツァ˥シェー　˥ミサムヌ [˩pa:˥ku ɸu̥˩tuttsa˥ʃe: ˥misamunu](早く沸騰させればいいのに)。フ˩トゥッツァ˥シ [ɸu̥˩tuttsa˥ʃi](沸騰させよ)。

フ˩トゥッ˥ツン **[ɸu̥˩tut˥tsuŋ]** 【自動】朽ちる。「くつ(朽つ)　上二段活用」の四段活用化したもの。タ˩タメー˥　アミナー　˩ゾーラス˥カー　フ˩トゥッ˥ツンダ　フ˩トゥッツァサン˥スコーニ　カ˩キン˥グ˩シー [tḁ˩tame:˥ ʔamina: ˩ʤo:rasu˥ka: ɸu̥˩tut˥tsunda ɸu̥˩tuttsasan˥su̥ko:ni kḁ˩kiŋ˥gu ˩ʃi:](畳は雨に濡らすと朽ちるから、朽ちさせないように保管＜格護＞しなさい)。フ˩トゥッ˥チ　˩ナー˥ヌ [ɸu̥˩tut˥tʃi ˩na:˥nu](朽ち果ててしまった)。˩カーラカシ˥　シ˩キ˥ルカー　フ˩トゥッ˥ツ　˥クトー　˩ナー˥ヌ [˩ka:rakaʃi˥ ʃi̥˩ki˥ruka: ɸu̥˩tut˥tsu ˥ku̥to: ˩na:˥nu](乾かしておくと朽ちることはない)。˩パー˥ク　フ˩トゥッ˥チェー　˥ミサムヌ [˩pa:˥ku ɸu̥˩tut˥tʃe: ˥misamunu](早く朽ち果てればいいのに)。˩パー˥ク　フ˩トゥッ˥チ [˩pa:˥ku ɸu̥˩tut˥tʃi](早く朽ちよ)。植物が朽ち果てる。芋などに虫が入って腐れる。ク˩ヌ　ウン˥マー　フ˩トゥッ˥チティ　ッ˩ふァーラヌ [ku˩nu ʔum˥ma: ɸu̥˩tut˥tʃiti f˩fa:ranu](この芋は腐れていて食べられない)。˩ウン˥マー　˥プリ　トゥ˩ラン˥カー　フ˩トゥッ˥ツンティ　˩スンドゥ˥　ヒャ˩クゴー˥ヤー　フ˩トゥッツァ˥ンシェン [˩ʔum˥ma: ˥puri tu˩raŋ˥ka: ɸu̥˩tut˥tsunti ˩sundu˥ ça˩kugo:˥ja: ɸu̥˩tuttsaŋ˥ʃeŋ](芋は掘りとらないと腐れるというが、百号品種の芋は腐れなかった)。フ˩トゥッ˥ツ　˥トンマー　キ˩マリ　ブー [ɸu̥˩tut˥tsu ˥tomma: ki˩mari bu:](腐れる所はきまっている)。フ˩トゥッ˥チェー　˥ミサムヌ [ɸu̥˩tut˥tʃe: ˥misamunu](腐れればいいのに)。フ˩トゥッ˥チ [ɸu̥˩tut˥tʃi](腐れろ)。

フ˩トゥッ˥ツン **[ɸu̥˩tut˥tsuŋ]** 【自動】1沸騰する。ぐつぐつ煮えたぎる。タ˩ム˥ヌ　˩モース˥カー　イチジ˩カン˥シェー　˩イー˥ナベー　フ˩トゥッ˥ツン　パジ˩ダー˥ヌ　マ˩ダ˥　フ˩トゥッツァン˥サー [ta˩mu˥nu ˩mo:su˥ka: ʔitʃiʤi˥kaŋ˥ʃe: ˩ʔi:˥nabe: ɸu̥˩tut˥tsum paʤi˩da:˥nu ma˩da˥ ɸu̥˩tuttsan˥sa:](薪を燃やすと一時間では飯鍋は沸騰するはずだが、まだ沸騰しないよ)。キサー˩ティ˥　フ˩トゥッ˥チ　˩ベー [ki̥sa:˩ti˥ ɸu̥˩tut˥tʃi ˩be:](すでに沸騰しているよ)。˩オーパ˥ヤー　フ˩トゥッ˥ツ　˥クトー　˩ナー˥ヌ [˩ʔo:pa˥ja: ɸu̥˩tut˥tsu ˥ku̥to: ˩na:˥nu](そんなに早く沸騰することはない)。˩マー˥ビン　フ˩トゥッ˥チェー　˥ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ɸu̥˩tut˥tʃe: ˥misamunu](もっと沸騰すればいいのに)。˩パー˥ク　フ˩トゥッ˥チ [˩pa:˥ku ɸu̥˩tut˥tʃi](早く沸騰しろ)。˩スー˥ヤ　フ˩トゥッ˥ツカー　˩ミー˥ス　˥タリ　イ˩リリ˥バ [˩su:˥ja ɸu̥˩tut˥tsuka: ˩mi:˥su ˥tari ʔi˩riri˥ba](お汁は沸騰したら味噌を。˥溶かして入れなさいよ)。2ぶつぶつ不平をいう。ぶつぶつ小言を言う。プ˩スン˥　イ˩ザリティ˥　フ˩トゥッ˥チ　˩ベー [pu̥˩suŋ˥ ʔi˩ʤariti˥ ɸu̥˩tut˥tʃi ˩be:](他人に叱られてぶつぶつ不平を言っている)。˥ヌンティル　˥アイニ　フ˩トゥッ˥チ　˩ベー˥ワ [˥nuntiru˥ ʔaini ɸu̥˩tut˥tʃi ˩be:˥wa](君はどうしてそんなにぶつぶつ不平をいっているのか)。

フ˩ドゥバスン **[ɸu˩dubasuŋ]** 【他動】成長させる。養育する。「ほど (程＜身分、分際＞)」『源氏物語＜桐壺＞』・Fodofodoni xitagatte(程々に随って) すなわち、bũnzaini xitagatte(分際に随って)『邦訳日葡辞書』と「おふ (生ふ)・せる＜成長させる＞『古事記 (下)』」の合成語か。ヤ˩ラ˥ビ　シゥ˩カ˥ナイ　フ˩ドゥバスンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩バン˥マー　フ

゜ドゥバサラヌ [ja゜ra゜bi sï̥゜ka゜nai ɸu゜dubasunti゜ ʔu゜mu:n゜du ゜bam゜ma: ɸu゜dubasaranu](子供を養育しよう＜養って成長させよう＞と思うが、私には養育できない)。フ゜ドゥバシ゜　ッ゜ふィーリ [ɸu゜dubaʃi゜ f゜fi:ri](養育してくれ)。゜タンガ゜シ　フ゜ドゥバス゜　クトー　ナ゜ラ゜ヌ [゜taŋga゜ʃi ɸu゜dubasu゜ kṵto: na゜ra゜nu](一人で養育することは出来ない)。ク゜ヌ゜　ッ゜ふァバ゜　シゥ゜カ゜ナイ　フ゜ドゥバシェー゜　ミサムヌ [ku゜nu゜ f゜faba゜ sï̥゜ka゜nai ɸu゜dubaʃe:゜ misamunu](この子を養育すればいいのに)。シゥ゜カ゜ナイ　フ゜ドゥバシ [sï̥゜ka゜nai ɸu゜dubaʃi](養育しなさい＜養って成長させなさい＞)。

フ゜ドゥビルン [ɸu゜dubiruŋ] 【自動】成長する。フ゜ドゥブンとも言う。゜イーサーギ　ッ゜ふァース゜カー　ヤ゜ラ゜ベー　゜ナンク゜ル　フ゜ドゥビルン [゜ʔi:sa:gi f゜fa:su゜ka: ja゜ra゜be: ゜naŋku゜ru ɸu゜dubiruŋ](飯さえ食べさせれば子供は自然に成長する)。ギュー゜サ゜　ッ゜ふァーサバン゜　フ゜ドゥビラヌ [gju:゜sa゜ f゜fa:sabaŋ゜ ɸu゜dubiranu](いくら食わせても成長しない)。フ゜ドゥビ゜　パ゜ヤー゜ン [ɸu゜dubi゜ pa゜ja:゜ŋ](成長しやすい＜成長し早い＞)。フ゜ドゥビル゜　ピンマー　゜アッ゜タニル　フ゜ドゥブ [ɸu゜dubiru゜ pimma: ゜ʔat゜taniru ɸu゜dubu](成長する時は急に＜ぞ＞成長する)。フ゜ドゥビレー゜　ミサムヌ [ɸu゜dubire:゜ misamunu](成長すればいいのに)。フ゜ドゥビリ [ɸu゜dubiri](成長せよ)。

ブ゜トゥフガシムヌ [butu゜ɸugaʃimunu] 【名】夫を裏切る女。姦通する女。ブ゜トゥフガシムヌ゜ティ　シ゜タ゜タカ　イ゜ザリ　ベー゜タ [bu゜tuɸugaʃimunu゜ti ʃi̥ ゜ta゜taka ʔi゜ʤari be:゜ta](夫を裏切る＜姦通する＞女といって厳しく叱られていた)。

ブ゜トゥ゜　フ゜ガスン [bu゜tu゜ ɸṵ゜gasuŋ] 【連】(夫の目を盗んで) 姦通する。「夫の目を盗む＜ほがす。穴をあける＞」の義。転じて゜裏切る」の意味。ウ゜ヌ゜　プ゜スヌ゜　ブ゜トゥ゜　フ゜ガスンテー゜　イッ゜カ゜　ウ゜モーラン゜シェン [ʔu゜nu゜ pṵ゜sunu゜ bu゜tu゜ ɸu゜gasunte:゜ ʔik゜ka゜ ʔu゜mo:raŋ゜ʃeŋ](あの人が姦通するとは決して思われなかった)。

フ゜トゥフトゥ [ɸṵ゜tuɸutu] 【副】1どきどき。激しく動悸するさま。ウ゜ダラ゜キティ　゜ンーネー゜　フ゜トゥフトゥ゜シティ　゜ヌー゜シル　゜パッタ゜ユー　ウ゜ムインザサラ゜ヌ [ʔu゜dara゜kiti ゜ʔn:ne:゜ ɸṵ゜tuɸutu゜ʃi̥ti ゜nu:゜ʃiru ゜pat゜taju: ʔu゜mui ʔnʤasara゜nu](驚いて胸はどきどきして、どうやって行ったのか思い出されない)。2ふつふつ (沸沸)。思いが激しく湧き出るさま。ウ゜リバ゜　シ゜キティ゜　バター　フ゜トゥフトゥ゜シ　゜ムイティ゜　マーラル　゜クン゜ゾー　゜ンジ　゜クー゜ワ゜ツォー [ʔu゜riba゜ ʃi̥゜kiti゜ bata:゜ ɸṵ゜tuɸutu゜ʃi ゜muititi゜ ma:raru ゜kun゜ʤo: ʔnʤi ゜ku:゜wa゜tso:](それを聞いてはらわた＜腸＞がふつふつと煮えたぎって＜燃えて＞、何処から怒りが出てくるかってんだよ＜怒りが収まらない＞)。

フ゜ドゥブン [ɸu゜dubuŋ] 【自動】人間が成長する。身長が伸びる。背が伸びる。「ほど (程)・おふ (生)」の合成語か。ヤ゜ラ゜ベー　゜クインガーリ゜　ジブンナーテー　イッ゜ケナ゜　フ゜ドゥブンドゥ　ニン゜ズー　シ゜ギ゜ルカー　゜ナン゜ゾー　フ゜ドゥバヌ [ja゜ra゜be: ゜kuiŋga:ri゜ʤibunna:te: ʔik゜kena゜ ɸu゜dubundu nin゜ʤu: ʃi゜gi゜ruka: ゜nan゜ʤo: ɸu゜dubanu](子供は変声期には非常に成長する＜背が伸びる＞が、二十歳を過ぎると、あまり成長しない)。゜ナンク゜ル　フ゜ドゥビ゜　クーン [゜naŋku゜ru ɸu゜dubi゜ ku:ŋ](自然に＜自ずから＞成長してくる)。フ゜ドゥブ゜　プ゜ソー　ニンニ　サンズン゜マー　フ゜ドゥブン [ɸu゜dubu゜ pṵ゜so: ninni sanʤum゜ma: ɸu゜dubuŋ](成長する人は一年に三寸は成長する)。゜マー゜ビン　フ゜ドゥベー゜　ミサムヌ [゜ma:゜biŋ ɸu゜dube:゜ misamunu](もっと成長すれ＜背が伸びれ＞ばいいのに)。゜パー゜ク　フ゜ドゥビ [゜pa:゜ku ɸu゜dubi](早く成長せよ)。

フ゜ドゥ　マイ゜ヤン [ɸu゜du mai゜jaŋ] 【連】体が大きい。巨体である。フ゜ドー　マイ゜ヤンドゥ　ナン゜ゾー　゜ウーキユーサ゜ヌ [ɸu゜do: mai゜jandu ゜nan゜ʤo: ゜ʔu:kiju:sa゜nu](体は大きいが、あまり動ききれない)。

フ゜トゥマスン [ɸṵ゜tumasuŋ] 【他動】蒸(ム)らして温める。麹(コウジ)などを温める。「浸水、ホトバカス」『運歩色葉集』の転訛したものか。゜コージェー゜　ムス　カ゜バ゜シティ　フ゜トゥマスンティ゜　シケーンドゥ　フ゜トゥマサラヌ [゜ko:ʤe:゜ musu ka゜ba゜ʃi̥ti ɸṵ゜tumasunti゜ ʃi̥ke:ndu ɸṵ゜tumasaranu](麹は筵を被せて蒸らそうとしているが蒸らされない)。フ゜トゥマシティ゜　パナ　゜ホー゜シ [ɸṵ゜tumaʃi̥ti゜ pana ゜ho:゜ʃi](蒸らして黴を生やせなさい)。゜マー゜ビン　フ゜トゥマス゜　クトゥ [゜ma:゜biŋ ɸṵ゜tumasu゜ kṵtu](もっと蒸(ム)らすこと)。フ゜トゥマシェー゜　ミサムヌ [ɸṵ゜tumaʃe:゜ misamunu](蒸らせばいいのに)。フ゜トゥマシ [ɸṵ゜tumaʃi](蒸らせ)。

フ゜トゥミカザ [ɸṵ゜tumikaʤa] 【名】黴臭(カビクサ)いにおい (臭い)。蒸れて腐敗しつつある臭気。長期間放置した部屋や寝具類の湿った黴臭さ。夏場になると

押入れの寝具類はフトゥミカザを放つようになる。フ˞トゥミカザヌ　スンダ˥　ウズンドーレー　シゥカイ˞トゥ˥　ティダナー　˥プシティ　˞カーラカサン˥カー　シゥ˞カーラヌ [ɸu̥˞tumikadʑanu sunda˥ ʔudʑundoːre: si̥kai˞tu˥ tidanaː ˥pu̥ʃiti ˞kaːrakasaŋ˥kaː si̥˞kaːranu]（湿った黴臭い臭いがするから布団などはしっかりと太陽に干して乾かさないと使用できない）。ヤ˞ドゥ˥フジ　˞スー˥カー　フ˞トゥミカザヌ　スン [ja˞du˥ɸudʑi ˞suː˥kaː ɸu̥˞tumikadʑanu suŋ]（戸締りして、締め切っておくと黴臭いにおいがする）。

ブ˞トゥムティ˥プス [bu˞tumuti˥pu̥su] 【名】夫のある人。「夫持ち」の義。ウ˞ヌス˥ク　˞ンー˥バティ　˞シー　ベー˥タ　˥ムーバ　ウ˞ティシゥカ˥シ　ヤッ˞トゥ˥シ　ブ˞トゥムティ˥プス　˥ナシ　ス˞コー˥レーンティ [ʔu˞nusu̥˥ku ˞ʔmː˥bati ˞ʃiː beː˥ta ˥muːba ʔu˞tisi̥˥kaˀʃi jat˞tu˥ʃi bu˞tumuti˥pu̥su ˥naʃi su̥˞koː˥reːnti]（あれほど嫌がっていたのを説得して＜落ち着かせて＞やっとで夫持ちにしておかれてあるさ＜ほらごらんよ＞）。

フ˞トゥムン [ɸu̥˞tumuŋ] 【自動】多少熱気ががこもり、湿気を帯びる。蒸(ム)れる。ア˞ミ˥ヌ　シ˞ジクター˥　ウゾー　フ˞トゥミティ　カ˞バラ˥ヌ [ʔa˞mi˥nu ʃi ˞dʑikutaː˥ ʔudʑoː ɸu̥˞tumiti˥ ka˞bara˥nu]（雨が続いたので布団は多少熱気がこもり湿気を帯びて被れない）。˥キンカー　˞ウスクミ˥　シ˞キ˥ルカー　フ˞トゥムンダ˥　フ˞トゥマサン˥　ヨーニ　˥ティダナ　˥プシ [˥kiŋka: ˞ʔusu̥kumi˥ ʃi̥˞ki˥ruka: ɸu̥˞tumunda˥ ɸu̥˞tumasaŋ˥ joːni ˥tidana ˥pu̥ʃi]（衣類を押し込んで置くと湿気を帯びるから、湿らさないように日干ししなさい）。カ˞ジ˥ナ　ス˞ガス˥カー　フ˞トゥム˥　クトー　˞ナー˥ヌ [ka˞dʑi˥na su˞gasu˥ka: ɸu̥˞tumu˥ ku̥toː ˞naː˥nu]（風にあてたら＜そよがせたら＞、湿気を帯びることはない）。フ˞トゥメー˥ラー　キ˞サラヌ [ɸu̥˞tumeː˥ra: ki̥˞saranu]（湿気を帯びたら着られない）。蒸(ム)れる。蒸し暑くなる。麹(コウジ)が醗酵(ハッコウ)して温かくなる。ナ˞チェー　マープスマ˥　ナルカー　フ˞トゥミティ　ヤーン˥　ナカナー　ブ˞ララヌ [na˞ʧe: maːpusuma˥ naruka: ˥ɸu̥˞tumiti jaːn˥ nakana: bu˞raranu]（夏は、真昼間になると蒸れて家の中にはおれない）。カ˞ジヌ　ソーン˥カー　˞ヤーン˥　ナカー　フ˞トゥムンダ˥　フ˞トゥマン˥　トン　˥パリバ [ka˞dʑinu soːŋ˥kaː ˞jaːn˥ nakaː ɸu̥˞tumunda˥ ɸu̥˞tuman˥ tom ˥pariba]（風がそよがないと家の中は蒸れるから、蒸れない所へ行きなさい）。˞マー˥ビン　フ˞トゥム˥　クトー　˞ナーン˥パジ [˞maː˥biŋ ɸu̥˞tumu˥ ku̥toː ˞naːm˥ padʑi]（これ以上蒸れることはないはずだ）。˞マー˥ビン　フ˞トゥメー˥　ミサムヌ [˞maː˥biŋ ɸu̥˞tumeː˥ misamunu]（もっと蒸れたらいいのに）。フ˞トゥミ [ɸu̥˞tumi]（蒸れよ）。

ブ˞ドゥル [bu˞duru] 【名】踊。舞踊。「〜立乎杼利＜たちヲドリ＞〜。万、9904」、「⊠、踰也、越也、〜古由＜こゆ＞、又乎止留＜をどる＞」『新撰字鏡』の転訛したもの。˞飛び上がる、跳ね上がる」の転訛したもの。鳩間島には、ウ˞ブブドゥ˥ル [ʔu˞bubudu˥ru]（伝統的古典舞踊）。˞ニーサイブドゥ˥ル [˞niːsaibudu˥ru]（二才踊。若衆踊）。˞ゾーブドゥ˥ル [˞dʑoːbudu˥ru]（雑踊）。ヤ˞マトゥブドゥ˥ル [ja˞matubudu˥ru]（大和踊）。˞モー˥ヤー [˞moː˥jaː]（カチャーシ。沖縄本島から伝わる芸能の一種。手踊り。「匏＜ひさこ＞浪の上に転＜ま＞いつつ沈まず」『日本書紀　仁徳十一年』＜旋回運動＞より転訛か）などが伝承されている。˞プールブドゥル˥ヌ　ス˞クミヌ　バング˥バレー　イ˞チル　ソール˥ワ [˞puːrubuduru˥nu su̥˞kuminu baŋgu˥bare: ʔi˞ʧiru soːru˥wa]（豊年祭踊のリハーサル＜仕込み＞のプログラム作り＜番配り＞は何時なさいますか）。

プ˞トゥ˥ル [pu̥˞tu˥ru] 【名】いなびかり（稲光）。稲妻。「Inabicari. イナビカリ（稲光）稲妻」『邦訳日葡辞書』とあるが、鳩間方言のプ˞トゥ˥ル [pu̥˞tu˥ru] は、「電　波得那（フディヌ）」『琉球館訳語』の転訛したもの。「ほてり（火照り）」に遡源(ソゲン)される語であろう。プ˞トゥル˥ヌ　ピ˞カ˥ルンダ　ア˞ミ˥ヌ　フ˞イン˥ギサバン [pu̥˞turu˥nu pi̥˞ka˥runda ʔa˞mi˥nu ˞ɸuiŋ˥gisabaŋ]（稲光が光るから、どうやら雨がふりそうだ）。プ˞トゥル˥ヌ　˞スー˥カー　˞カンナー˥ルン　˞ナーリ˥　アミーン　˥フーン [pu̥˞turu˥nu ˞suː˥kaː ˞kannaː˥run ˞naːri˥ ʔamiːŋ ˥ɸuːŋ]（稲光がすると雷も鳴り、雨も降る）。

ブ˞ドゥルキョンギン [bu˞durukjoŋgiŋ] 【名】踊や村芝居。˞踊狂言」の義。キ˞チゴン [ki̥˞ʧigoŋ]（結願祭）で˞ウイヌ˥ウガン [˞ʔuinu˥ʔugaŋ]（友利お嶽＜お願＞）に奉納される村芝居や踊。キ˞チゴンヌ˥　ブ˞ドゥルキョンギンマー˥　ク˞トゥシェー　ギューバング˥　ス˞クモー˥レーワ [ki̥˞ʧigonnu˥ bu˞durukjoŋgimmaː˥ ku̥˞tuʃe: gjuːbaŋgu˥ su̥˞kumoː˥rewa]（結願祭の踊狂言は、今年は何番＜幾番組＞仕込まれましたか）。

ブ˞ドゥルキン [bu˞durukiŋ] 【名】踊り衣装。「踊り衣」の転訛したもの。パ˞トゥ˥マナカムリヌ

ブ˞ドゥルキンマー˥　カ˞ザケートゥ˥　ユ˞レー˥ナー　˥アル　ス˞ディナー˥ル　キ˞ソーッ˥タ [pḁ˞tu˥ manakamurinu bu˞durukimma:˥ ka˞ʤake:tu˥ ju˞re:˥ na ˥ʔaru su˞dina:˥ru ki̥˞so:t˥ta](古典舞踊鳩間中岡 < 鳩間節 > の衣装には加治工家と寄合家にあるスディナを着用された < 着られた >)。

ブ˞ドゥル　シーパナ [bu˞duru ʃi:pana] 【連】踊をする年頃。ミ˞ドーン˥ッふァー　マ˞ナマ˥ル　ブ˞ドゥル　シーパナ˥　ヤ˞ルンダ˥　イ˞ジン˥ジ　シ˞ミリ [mi˞do:n˥ffa: ma˞nama˥ru bu˞duru ʃi:pana˥ ja˞runda˥ ʔi˞ʤin˥ʤi ʃi˞miri](女の子は今が踊をする年頃だから、しっかり < 意地を出して、応援して > 踊をさせなさい)。

ブ˞ドゥルシープス [bu˞duruʃi:pusu] 【名】踊り手。˞踊をする人」の義。˞インヌムラ˥ナー　ブ˞ドゥルシープスヌ˥　タ˞ラーンベー˥ティ　˞アンヌムラー˥ラ　タ˞ナ˥ミ　˞クー˥タ [˞ʔinnumura˥na: bu˞duruʃi:pu̥sunu˥ ta˞ra:mbe:˥ti ˞ʔannumura:˥ra ta˞na˥mi ˞ku:˥ta](西村には踊手が足りないので東村から頼んできた)。

ブ˞ドゥルシタフ [bu˞duruʃi̥taɸu] 【名】踊の衣装。踊の衣服をととのえること。コスチューム (costume)。「踊支度」の義。˞プールゾーラキ˥ヌ　ブ˞ドゥルシタフ　スンティ　オー˥ル [˞pu:ruʤo:raki˥nu bu˞duruʃi̥taɸu sunti ʔo:˥ru](豊年祭の入子踊の踊衣装の準備をしておられる)。

ブ˞ドゥルシンカ [bu˞duruʃiŋka] 【名】踊りの一団。踊りの団員。踊り人数。˞踊り臣下」の転訛したもの。西村と東村に別れて競演する入子型の舞踊集団の団員。ブ˞ドゥルシンカー˥　ス˞ルイ˥ヤン [bu˞duruʃiŋka:˥ su˞rui˥jaŋ](踊り人数は揃った)。

ブ˞ドゥル　スン [bu˞duru suŋ] 【連】踊をする。踊る。ブ˞ドゥルン [bu˞duruŋ] とは言わない。ブ˞ドゥル　スンティ　ベー˥ンドゥ　˥ジー　˞シープスヌドゥ　オーラント˥ツォー [bu˞duru sunti be:˥ndu˥ʤi: ˞ʃi:pu̥sunudu ʔo:ranト˥tso:](踊をしようとしているが、地謡をする人がおられないんですよ)。

ブ˞ドゥルゾージ [bu˞duruʤo:ʤi] 【名】踊上手。˥アンマーター　シ˞リンケー˥ヤ　イッ˞ケナ˥　ブ˞ドゥルゾージ˥　ヤ˞ローッ˥タ˞ダー˥　オバートゥ　˞ダイ˥ケーヌ　˥オバー　フ˞タールヌ˥　タ˞カ˥ナブシェー　˞バシキララヌ [˥ʔamma:ta: ʃi˞riŋke:˥ja ʔik˞kena˥ bu˞duruʤo:ʤi˥ ja˞ro:t˥ta˞da:˥ ʔoba:tu ˞dai˥kenu ˥ʔoba: ɸu̥˞ta:runu˥ tḁ˞ka˥nabuʃe: ˞baʃi̥kiraranu](お母さん達の同年輩方は非常に踊が上手であられた。千代叔母と大工家の良叔母二人打ち組で踊る高那節の踊は忘れられないよ)。

プ˞トゥルパタラ˥シ [pu̥˞turupatara˥ʃi] 【副】擬態語。ぴかぴかと。松明が燃えて光るさま。イカ釣りランプ < 集魚灯 > の光るさま。イ˞ガピキジブンマー　ユール˥　ナルカー˥　シンタヌ　˞トゥー˥ナー　イ˞ガメー˥ランプヌ　プ˞トゥルパタラ˥シ　ガ˞ルムヌ˥　ミ˞ラリ˥タン [ʔi˞gapikiʤibumma: ju:˥ru˥naruka: ˥ʃintanu ˞tu:˥na: ʔi˞game:˥rampunu pu̥˞turupatara˥ʃi ga˞ru munu˥ mi˞rari˥taŋ](イカ釣り漁の時分には、夜になると島の後の沖にイカ釣りランプがぴかぴかと光るのが見えた)。

ブ˞ドゥルヤー [bu˞duruja:] 【名】豊年祭の˞ゾーラキ [˞ʤo:raki](入子踊 <˞常楽舞踊」の義か >) の稽古に指定された家。˞プールゾーラキ˥ヌ　ブ˞ドゥルヤーヤ˥　ク˞トゥシェー　タッ˥テーヤ [˞pu:ruʤo:raki˥nu bu˞duruja:ja˥ ku̥˞tuʃe: tat˥te:ja](豊年祭の入子踊 < 常楽舞踊 > の稽古をする家は、今年はどこの家か)。

˥フドゥン [˥ɸuduŋ] 【名】 (植) 樹木の名。ホウトウ。フトモモ (蒲桃)。フトモモの実。ビワの実に似た形と色をした香りの高い実がなり、食用となる。西表島の山中に自生している。フ˞ドウン˥マー　ル˞クンガチ˥ヌ　˞カーチー˥ヌ　˞マーラー˥ラル　˥ンジ　˞クー˥タ˞ナー [ɸu˞dum˥ma: ru˞kuŋgatʃi˥nu ˞ka:tʃi:˥nu ˞ma:ra:˥raru ˥ʔnʤi ˞ku:˥ta˞na:](フトモモの実は六月の夏至の頃からが出始めたなあ)。

フ˞トッ˥ツン [ɸu̥˞tut˥tsuŋ] 【自動】[1]沸騰(フットウ)する。沸く。煮立つ。˞イットゥ˥キシ　フ˞トゥッツン˥ドゥ　ク˞レー˥　マ˞ダ˥　フ˞トゥッツァン˥バン [˞ʔittu˥kiʃi ɸu̥˞tuttsun˥du ku˞re:˥ ma˞da˥ ɸu̥˞tuttsam˥baŋ](短時間で沸くが、これはまだ沸かないよ)。˞ユー˥ヤ　フ˞トゥッ˥チティ　ア˞バイベー [˞ju:˥ja ɸu̥˞tut˥tʃiti ʔa˞bai be:](湯は沸騰して吹きこぼれている)。フ˞トゥッ˥ツ　˥ピンマー　フ˞ター˥　ム˞タイ˥ルン [ɸu̥˞tut˥tsu˥pimma: ɸu̥˞ta:˥ mu˞tai˥ruŋ](沸騰する時は蓋を持ち上げる)。˞パー˥ク　フ˞トゥッ˥チェー　˥ミサムヌ [˞pa:˥ku ɸu̥˞tut˥tʃe: ˥misamunu](早く沸騰すればいいのに)。フ˞トゥッ˥チ [ɸu̥˞tut˥tʃi](沸騰しろ。沸け)。[2]ぶつぶつ不平をいう。˥ウヤン　イ˞ザリティ˥　フ˞トゥッ˥チ　˞ベー˥タ [˥ʔujaŋ ʔi˞ʤariti˥ ɸu̥˞tut˥tʃi ˞be:˥ta](親に叱られてぶつぶつ不平をいっていた)。

ブ˞ナージマヌー [bu˞na:ʤimanu:] 【名】 (地) トゥ˞マダタバル [tu˞madatabaru] の南側、ティ˞ドゥ˥ク [ti˞du˥ku] 山の北側斜面に、幅約 50 メートル、長さ

約 100 メートルの茅の密生した原野がある。これをブ˞ナージマヌーという。明治末期から大正期にかけて、˥シザバナリ (下離) の炭坑用の坑木を伐採したり、炭焼き用の材木を伐採したためにできた原野といわれている。昔は竹富島の山で、˞ソー˥ノー [˞soː˥noː](樟脳の木) を植林した原野という (加治工伊佐氏談)。

フ˞ナ˥アシ **[ɸu˞na˥ʔaʃi̥]** 【名】 1船の速度。˞船脚」の義。フ˞ナアシ˥ヌ　パ˞ヤー˥ン [ɸu˞naʔaʃi˥nu pa˞jaː˥ŋ](船脚が早い)。2喫水。船体の、水中に没した部分。˥アシ [˥ʔaʃi](喫水) ともいう。˥アシ　ビ˞ルン [˥ʔaʃi bi˞ruŋ](喫水が沈む < 座る >)。˥ニー　シ˞ム˥カー　フ˞ナ˥アシェー　ビ˞リス [˥niː ʃi˞mu˥kaː ɸu˞na˥ʔaʃeː bi˞risu](貨物を積むと喫水線が深くなる < 船脚が座る >)。

˥フナイ **[˥ɸunai]** 【名】船酔い。˞船ゑひ < 酔い >」『土佐日記』の転訛。パ˞ジミティ˥　カ˞ツシン　ヌールタ˥ピンマー　フ˞ナイ˥バ　˞シーティル　ウーキ　ユーサン˥シェンツォー [pa˞ʤimiti˥ kḁ˞tsuʃin nuːruta˥ pimmaː ɸu˞nai˥ba ˞ʃiːtiru ʔuːki juːsaŋ˥ʃentsoː](初めてカツオ漁船に乗った時は船酔いをして動けなかった < 動き得なかった > そうだ)。˞ジー˥フナイ [˞ʤiː˥ɸunai](下船して、陸に上がってからもなお続く船酔い)。パ˞トゥ˥マーラ　イ˞サナキバーキ˥ヌ　˥アイナ　˥フナイ　˞スー˥　プ˞スン˥　ブ˞リル　ブー [pḁ˞tu˥maːra ʔi˞sanakibaːki˥nu ˥ʔainaː ˥ɸunai ˞suː˥ pu̥˞sum˥ bu˞riru buː](鳩間島から石垣島までの間に船酔いする人も居りぞ居る)。

フ˞ナイ˥ルン **[ɸu˞nai˥ruŋ]** 【他動】袋や他の容器などにものを詰め込む。詰める。カ˞シガーフク˥ルナモ˞ミ˥　フ˞ナイ˥ルンティ　˞スンドゥ　ピー˥チナー　フ˞ナイララ˥ヌ [kḁ˞ʃigaːɸu̥ku˥runa mo˞mi˥ ɸu˞nai˥runti ˞sundu piː˥ʧinaː ɸu˞nairara˥nu](南京袋に籾を詰め込もうとするが、袋一つには詰められない)。ル˞クトゥダー˥ラナ　˥フナイ　˥ミサカー　フ˞ナイ˥ルクトー　˥ナルン [ru˞kutudaː˥rana ˥ɸunai ˥misakaː ɸu˞nai˥ru ˥ku̥toː ˥naruŋ](六斗俵の南京袋に詰め込んでよければ詰め込むことはできる)。˞ピー˥チナ　フ˞ナイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˞piː˥ʧina ɸu˞nai˥jaː ˥misamunu](一つに詰め込めればいいのに)。˞パー˥ク　フ˞ナイ˥リ [˞paː˥ku ɸu˞nai˥ri](早く詰め込めろ)。

フ˞ナ˥ウキ **[ɸu˞na˥ʔuki]** 【名】地名。船浮。西表島西部の船浮湾の湾口西部にある集落。船浮湾は天然の良港で、戦前は軍港であった。戦後は台風時の避難港に指定されていた。˞タイフー˥ヌ　˥ピンマー　˞ゾーケー˥　フ˞ナウ˥キナール　カ˞クル˥タ [˞taiɸuː˥nu ˥pimmaː ˞ʤoːkeː˥ ɸu˞naʔu˥kinaːru kḁ˞kuru˥ta](台風の時は大型蒸気船は船浮港に隠れた < 避難した >)。

˥フナウン **[˥ɸunauŋ]** 【他動】詰め込む。容器に物を詰め込む。˞ウン˥マー　˥ティルナ　˥フナウンティ　アシ˞タヌ˥　マ˞ダ˥　フ˞ナー˥ヌ [˞ʔum˥maː ˥tiruna ˥ɸunaunti ʔaʃi̥˞tanu˥ ma˞da˥ ɸu˞naː˥nu](サツマイモは笊(ザル)に詰め込むと言ったが、まだ詰め込まないよ)。˥ティルナ　˥フナイティ　カ˞タ˥ミ [˥tiruna ˥ɸunaiti kḁ˞ta˥mi](笊に詰め込んで担げ)。˥ティルナー　˥フナウ　˥クトー　ナ˞ラン˥バ　カ˞シガーフク˥ルナ　フ˞ナイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˥tiruna: ˥ɸunau ˥ku̥toː na˞ram˥ba kḁ˞ʃigaːɸu̥ku˥runa ɸu˞nai˥jaː ˥misamunu](笊には、詰め込むことは出来ないから、南京袋に詰め込めばいいのに)。ヤー˞ディン　クン˥ナ　˥フナイ [jaː˞diŋ kun˥naː ˥ɸunai](必ずこれに詰め込め)。

フ˞ナ˥カク **[ɸu˞na˥kaku]** 【名】船乗り。水夫。乗組員。「水手、加古 (かこ)」『和名抄』の転訛。「〜朝凪に可故等登能倍 < カコトトノヘ >〜。万 4331」の「加古」(水手) が˞フナ」(船) に下接して合成された合成名詞。カ˞ツシンヌ˥　フ˞ナ˥カク　ア˞ツァ˥ミティ　イ˞ソー　オーッ˥タ [kḁ˞tsuʃinnu˥ ɸu˞na˥kḁku ʔa˞tsa˥miti ʔi˞soː ʔoːt˥ta](カツオ漁船の乗組員を集めて出漁された < 漁に行かれた >)。

フ˞ナカク˥ヌメー **[ɸu˞nakaku˥numeː]** 【名】水夫達、乗組員達。敬意を含まない一般名称。フ˞ナカクン˥メー [ɸu˞nakaku˥meː] ともいう。フ˞ナカク˥ヌメーヤ　ムー˞ル˥　ス˞ルイ˥ヤンカヤー [ɸu˞nakaku˥numeːja muː˞ru˥ su˞rui˥jaŋkajaː](乗組員達は全員揃ったかね)。

フ˞ナ˥カクンケー **[ɸu˞na˥kakuŋkeː]** 【名】水夫の方々。乗組員の方々。敬称。フ˞ナ˥カクンケーヤ　ムー˞ル˥　スルイ　˞ヨー˥レーンカヤー [ɸu˞na˥kakuŋkeːja muː˞ru˥ surui ˞joː˥reːŋkajaː](乗組員の方々は全員そろわれたかね)。

フ˞ナ˥ク **[ɸu˞na˥ku]** 【名】水夫。船乗り。歌謡語。「船子 (ふなこ)。〜満ちのとどみに三船子呼 < みふなこを >〜。万、1780」の転訛したもの。

フ˞ナ˥クヤー **[ɸu˞na˥kujaː]** 【名】 (地)。石垣島東北の、伊原間の手前に位置する。石垣島で最も陸地の幅が狭い所である。東海岸から西海岸までの距離が約 260 メートルという。往時、サバニを担いでこの地を越えたことから命名されたとの口碑が

ある。˞アンタヌ˥　パ˞マー˥ラ　˞インタヌ˥　パ˞マバー˥キ　フ˞ニ˥バ　カ˞タ˥ミ　˞クイヤー˥ティル　フ˞ナ˥クヤーティ　シ˞キラ˥レーツォー [˞ʔantanu˥ pa˞maː˥ra ˞ʔintanu˥ pa˞mabaː˥ki ɸu˞ni˥ba kḁ˞ta˥mi ˞kuijaː˥tiru ɸu˞na˥kujaːti ʃi̥˞kira˥reːtsoː](東の浜から西の浜まで舟を担いで越えたのでフナクヤーと名前が付けられたそうだ)。

フ˞ナザイ˥ク **[ɸu˞nadʑai˥ku]** 【名】船大工。「船細工」の義。ム˞カ˥シェー　パ˞トゥ˥マナーテー　フ˞ナザイ˥コー　プ˞ス˥ルンツァン　˞オーラン˥シェンドゥ　チ˞カ˥グロー　トゥ˞ムシェヌ˥　サ˞ダミツォザール˥　フ˞ナザイ˥ク　˞シーオー˥ル [mu˞kaˀʃeː pḁ˞tu˥manaːteː ɸu˞nadʑai˥koː pu̥˞su˥runtsaŋ ˞ʔoːraŋ˥ʃendu tʃi̥˞ka˥guroː tu˞muʃenu˥ sa˞damitsoːdʑaːru˥ ɸu˞nadʑai˥ku ˞ʃiːʔoː˥ru](昔は鳩間島には船細工は一人もおられなかったが、近頃は宮良貞光氏が船大工をしておられる)。

フ˞ナシキ˥バ **[ɸu˞naʃi̥˞ki˥ba]** 【名】船着場。はとば (波止場)。桟橋の埠頭。ウ˞キズー [ʔu˞kidʑuː](船を浮ける所。波止場) ともいう。フ˞ナシキ˥バナ　˥フネー　˥シキティ　˞ニー˥ヤ　シ˞ミ˥バ [ɸu˞naʃi̥˞ki˥bana˥ ɸuneː ˥ʃi̥˞kiti ˞niː˥ja ʃi˞mi˥ba](船着場に船をつけて荷物を積みなさいよ)。

ブ˞ナシティアライ **[bu˞naʃi̥˞tiʔarai]** 【名】すすぎあらい (濯ぎ洗い)。˥サフンシ　ア˞ライティ˥　アトー　ブ˞ナシティアライ˥　シ˞ティル˥　プス˞ダー [˥sḁɸuŋʃi ʔa˞raiti˥ ʔato: bu˞naʃi̥˞tiʔarai˥ ʃi̥˞tiru˥ pu̥su˞da:](石鹸で洗って後は濯ぎ洗いをしてから干すんだよ)。

ブ˞ナシトゥン **[bu˞naʃi̥˞tuŋ]** 【他動】すすぐ (濯ぐ)。ゆすぐ (濯ぐ)。一度洗剤で洗ったものを、別の新しい水の中で揺り動かして洗い流す。˞キン˥マー　ブ˞ナシトゥンティ　スンドゥ˥　ミ˞ジヌ　ナーントベー˥ティ　ブ˞ナシタラヌ [˞kim˥ma: bu˞naʃi̥˞tunti sundu˥ mi˞dʑinu naːmɦbeːti bu˞naʃi̥˞taranu](着物は濯(スス)ごうとするが、水がないので濯がれない)。˞キン˥マー　ブ˞ナシティティ˥　プシ [˞kim˥ma: bu˞naʃi̥˞titi˥ pu̥˞ʃi](着物は濯いで干せ)。ブ˞ナシトゥムノー　クン˥ナー　ブ˞ナシテー˥　ミサムヌ [bu˞naʃi̥˞tu muno: kun˥na: bu˞naʃi̥˞teː˥ misamunu](ゆすぐ物はこれの中で濯げばいいのに)。ヤー˞ディン˥　ブ˞ナシティ [jaː˞dim˥ bu˞naʃiti](必ず濯げ)。

ブ˞ナジマリ **[bu˞nadʑimari]** 【名】女として生まれていること。「をなり生まれ」の義。ビ˞キジマリ [bi˞kidʑimari](男として生まれていること。< ゑけり生まれ > の義) の対義語。˞ヤシキ˥ヌ　˞ニン˥ガイ [˞jaʃi̥˞ki˥nu ˞niŋ˥gai](屋敷の祈願) の˞ニンガイ˥フチ [˞niŋgai˥ɸu̥˞tʃi](祈願文) などで用いられる。˥ヌーディマリヌ　ビ˞キジマリヌ (ブ˞ナジマリヌ) フンダメー˥ル　˞ヤー˥ウチ　キ˞ナイウチ˥　ヤ˞ナ˥カジ　ア˞マリ˥カジ　˞ペーラ˥シミ　タ˞ボーラン˥ヨー　˥ニガイ　˞オーシ˥　ッ˞サラバ～[˥nuːdimarinu bi ˞kidʑimarinu(bu˞nadʑimarinu)ɸundameː˥ru ˞jaː˥ʔutʃi ki˞nai?utʃi˥ ja˞na˥kadʑi ʔa˞mari˥kadʑi ˞peːra˥ʃimi ta˞boːraŋ˥joː ˥nigai ˞ʔoːʃi˥ s˞saraba～](何年生まれの男の誰某、< 女の誰某 > が踏み固めた屋敷内、家屋内に悪い風 < 悪霊 >、余り風 < 余計な風、悪霊 > を入れさせ給わぬように祈願し申し上げ奉りますから～) のように用いられる。

フ˞ナシン˥カ **[ɸu˞naʃiŋ˥ka]** 【名】船員。乗組員。船人衆。「船臣下」の義。フ˞ナ˥カクとも言う。フ˞ナシンカ˥ヌ　ス˞ルイバ˥ル　イ˞ソーヤ˥　ン˞ジラリ˥ル [ɸu˞naʃiŋka˥nu su˞ruiba˥ru ʔi˞soːja˥ ʔn˞dʑirari˥ru](船員が揃えば < ぞ > 漁には出られる < 船員が揃ってはじめて出漁できる >)。

フ˞ナ˥タビ **[ɸu˞na˥tabi]** 【名】船旅。フ˞ナ˥タベー　˞オーシキバ　ミーパカライ˥ル　パ˞ラリ˥バ　˞カンヌ˥マイン　ウ˞ヤプス˥ヌマイン　˥ユー　˞ティー　ウサー˥シェーティル　パル˞ダー [ɸu˞na˥tabeː ˞ʔoːʃikiba miːpakarai˥ru pa˞rari˥ba ˞kannu˥maiŋ ʔu˞japu̥su˥nu maiŋ ˥juː ˞tiː ʔusaː˥ʃeːtiru paru˞daː](船旅は天気を見計らって < ぞ > 行かれるものだから、神様の前にもご先祖様の前にもよく手を合わせて拝んで < ぞ > 行くのだぞ)。

フ˞ナ˥ダマ **[ɸu˞na˥dama]** 【名】ふなだま (船霊)。女の髪の毛、五穀などを神体として祀った船の守護霊。船の守護神。船室の中央に神棚を作って御神体を安置し、酒をコップに入れて出漁前に安全航海と大漁を祈願した。漁船に女性を乗せると縁起が悪いといわれていた。出漁のため、船員が早朝に家を出て船に向かう途中、女性に出会うと縁起が悪いといわれていた。カ˞ツシンマー　ヤー˥グゥーナ　フ˞ナダマ˥バ　マ˞チティ˥　ウ˞ガ˥ミ　˞オーッ˥タ [kḁ˞tsuʃimma: jaː˥gwaːna ɸu˞nadama˥ba ma˞tʃiti˥ ʔu˞ga˥mi ˞ʔoːt˥ta](カツオ漁船はブリッジ < 船橋。船室。小屋 > に船霊さまを祀って拝んでおられた)。

フ˞ナ˥チン **[ɸu˞na˥tʃiŋ]** 【名】船賃。運賃。˞ウンチン [˞ʔuntʃiŋ](運賃)、˞ウンパン˥チン [˞ʔumpan˥tʃiŋ](運搬賃) ともいう。イ˞サンケーバーキ˥ヌ　フ˞ナチン˥マー　˥クビシ　タ˞ラウン˥カヤー [ʔi˞saŋkeːbaːki˥

nu ɸu˩natʃim˥ma: ˥kubiʃi ta˩rauŋ˥kaja:](石垣島までの船賃はこれだけで足りるかね)。

フ˩ナヌー˥ル [ɸu˩nanu:˥ru] 【名】船乗り。船員。ビ˩ケーヤ˥ バ˩カーン˥ケンラ フ˩ナヌール˥バ ˩シール˥ ッ˩ふァー ウイヌ ガッ˥コー ン˩ザ˥ソーレール [bi˩ke:ja˥ ba˩ka:ŋ˥kenra ɸu˩nanu:ru˥ba ˩ʃi:ru˥ f˩fa: ʔuinu gak˥ko: ʔn˩ʤa˥so:re:ru](父親は若い頃から船乗りをして子供を上級学校へ出されたものだ)。

フ˩ナ˥ヌシ [ɸu˩na˥nuʃi] 【名】船主。カ˩ツシンヌ˥ フ˩ナ˥ヌシェー ˩ソー˥ランマカナイヤー ˩ギューサ˥ナー ン˩ザ˥ソールカヤー [kạ˩tsuʃinnu˥ ɸu˩na˥nuʃe: ˩so:˥rammakanaija: ˩gju:sa˥na: ʔn˩ʤa˥so:ruka-ja:](カツオ漁船の船主は、お盆の経費はいくらずつ支給される < 出される > のかね)。

フ˩ナ˥バル [ɸu˩na˥baru] 【名】(地) 鳩間島の東北海岸に位置する一定地域。そこは、鳩間島を創建した人々を乗せた船が最初に接岸した地点という伝承がある。海岸一帯にヤ˩ラブ [ja˩rabu](てりはぼく < 照葉木 >) の林に囲まれた拝所、フ˩ナ˥バルウガン [ɸu˩na˥baruʔugaŋ](船原御願) があった。

フ˩ナ˥バルウガン [Fu˩na˥baruʔugaŋ] 【名】船原御願。島の東北海岸にある御願。『琉球国由来記』には無い。伝承によると、鳩間村創建の際、黒島や古見村から分村されてきた人たちが最初に上陸した所がフ˩ナ˥バルパマ [ɸu˩na˥barupama](船原浜) で、ア˩マン˥グイ [ʔa˩maŋ˥gui](雨乞い歌) に、フ˩ナ˥バマ [ɸu˩na˥bama] とあるが、これはフ˩ナ˥バルパマ [ɸu˩na˥barupama](船原浜) のことであるという。/バガパトゥマ クダリヨーリヨー フナバマニ フナシキヨー ハーリ アミタボリ リューガナシ/(雨乞い歌―33 連)『鳩間島古典民謡古謡集』。そこから友利御嶽へ上り、村の根拠地をつくったという。その道跡が˩カン˥ヌミチ [˩kan˥numitʃi](神の道) であるという (鳩間真吉氏伝承)。フナバル浜に下る道の側に、ク˩バ [ku˩ba](蒲葵) や˩マー˥ニ [˩ma:˥ni](くろつぐ < 桄榔子 >) の密生する中に拝所がある。˩コー˥ロ [˩ko:˥ro](香炉) があるだけで、サ˩カサ (司) もティ˩ジリ˥ビー (手摺り部 < 男性神職者 >) も今はいない。1960 年頃までは、鳩間真吉氏がティジリビーを勤めておられた。

フ˩ナ˥バルパマ [ɸu˩na˥barupama] 【名】(地) 船原浜。鳩間島の東北の海岸にある海岸地名。小さな浜がある。東村の人は、そこから潮干狩りに出た。往古、黒島や古見村から分村させられた人たちが最初に上陸した浜と伝えられている。分村させられた人たちの家具や生活用品を積載した船は喫水の深い船であったと思われる。その船が陸地に最も近くまで接岸可能な所は、ミ˩ズヌ˥カン [mi˩ʤunu˥kaŋ](澪の上) で、そこはフ˩ナ˥バルパマ [ɸu˩na˥barupama](船原浜) に接している。フ˩ナ˥バロー ˩ヨー˥ イッ˩ケナ カンダカーン˥ トンティ˩ダー [ɸu˩na˥baro: ˩jo:˥ ʔik˩kena kandaka:n˥ tonti˩da:](船原はねえ、非常に神高い < 霊験あらたかな > 所だそうだよ)。

フ˩ナ˥ビン [ɸu˩na˥biŋ] 【名】船便。カ˩ジヌ˥ フキティ ウ˩キ˥ナーラヌ フ˩ナビン˥ヌ ˩ペーラン˥ター シ˩ナムノー˥ キシ ˩ナー˥ヌ [ka˩ʤinu˥ ɸụk-iti ʔu˩ki˥na:ranu ɸu˩nabin˥nu ˩pe:ran˥ta: ʃi˩namuno: ˥ kịʃi ˩na:˥nu](台風が吹いて沖縄からの船便が入らなかったので品切れして < 品物は切れて > しまった)。

フ˩ナ˥ブ [ɸu˩na˥bu] 【名】(植) ミカン (蜜柑)。くねんぼ (九年母)。シークヮー˥サー [˩ʃi:kwa:˥sa:](ヒラミレモン) ともいうが、沖縄本島方言の借用語であろう。「Cunebu. クネブ (久年父) 甘い蜜柑の一種」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。西表島北部一帯の水田の回りには九年母の木が自生しており、夏季にはその実を取って刺身に入れて食した。鳩間島には九年母は少なかった。フ˩ナ˥ブ ˥ブリ ˥キーナ˩マ˥シナ カ˩キ˥ルカー イッ˩ケナ˥ ン˩マー˥ン [ɸu˩na˥bu ˥buri ˥ki: na˩ma˥ʃina kạ˩ki˥ruka: ʔik˩kena ˥ ʔm˩ma:˥ŋ](九年母を捩(モ)いで < 折って > きて、汁を搾(シボ)って刺身にかけると非常に美味しい)。

フ˩ナ˥ブキー [ɸu˩na˥buki:] 【名】(植) 木の名。蜜柑の木。「九年母の木」の義。˥シンタヌ ˩ヤシ˥キナー フ˩ナ˥ブキーヌ シン˩トゥ˥ プ˩スム˥トゥ カー˩ニ˥ ムイ ˩ベー˥タン [˩ʃintanu ˩jaʃị˥kina: ɸu˩na˥buki:nu ʃin˩tu˥ pụ˩sumu˥tu ka:˩ni˥ mui ˩be:˥taŋ](後ろの屋敷には九年母の木がたった一本だけ生えていた)。

フ˩ナ˥ブパイル [ɸu˩na˥bupairu] 【名】蜜柑酢。蜜柑で作った酢。ヤ˩マフナ˥ブ [ja˩maɸuna˥bu](山九年母。ヒラミレモン。シークヮーサー) の汁で作った酢。イ˩ズナマシン˥ イ˩ガナマシン˥ フ˩ナ˥ブパイル カ˩キラン˥カー ン˩マーナー˥ヌ [ʔi˩ʤunamaʃiŋ˥ ʔi˩ganamaʃiŋ˥ ɸu˩na˥bupairu kạ˩kiraŋ˥ka: ʔm˩ma:na:˥nu](魚刺身もイカ刺身も蜜柑酢をかけないと美味しくない)。

フ˩ナ˥ムトゥ [ɸu˩na˥mutu] 【名】船主の家。「船元」の義。豊年祭の˩パーレー˥フニ [˩pa:re:˥ɸuni](爬竜船。イダフニ) を提供する家。鳩間島では、˩パーレ

ー˜フニ [˞paːreː˜ɸuni](爬竜船) を特別に造らなかった。各家は˜イダフニ [˜ʔidaɸuni](板船・サバニ) を所有しているので、毎年西村、東村別々に舟を漕ぎ試して、船足の速いものを選んでパーレーフニを決定していた。˞プール˜ウタ [˞puːru˜ʔuta](豊年祭の歌) の項参照。

フ˞ナ˜ヤー [ɸu˞na˜jaː] 【名】昔、離島の船乗りが宿泊するために石垣島の浜辺に作ったという小屋。「船屋」。ム˞カ˜シェー　イ˞サナキヌ˜　パ˞マナー˜ル　フ˞ナヤー˜バ　ス˞ク˜リティ　˜ウナール　フ˞ナカク˜ヌメーヤ　トゥ˞マローッ˜タツォー [mu˞ka˜ʃeː ʔi˞sanakinu˜ pa˞manaː˜ru ɸu˞najaː˜ba sʊ̥˞ku˜riti ˜ʔunaːru ɸu˞nakaku˜numeːja tu˞maroːt˜tatsoː](昔は石垣島の浜に小屋を＜船屋＞作って、そこに離島からの船員達は宿泊されたのだそうだ)。

ブ˞ナル [bu˞naru] 【名】姉妹。ビ˞キル [bi˞kiru](兄弟) に対して姉妹を指していう。「妹子有麼　'or(n)ari'ari(妹あるか)」「語音翻訳」『海東諸国紀』、「⊠　洗之烏乃 (シジャウナイ)」、「妹　屋多烏乃 (ウットゥウナイ)」『中山伝信録』とある『図説琉球語辞典』参照。ス˞クマ˜ヌ　˜ピンマー　ピ˞ナカンヌ　ニンガイ˜ヤー　ブ˞ナルヌル　ソーッ˜タ [sʊ̥˞kuma˜nu ˜pimmaː pi˞nakannu niŋgai˜jaː bu˞narunuru soːt˜ta](稲の初穂祭りの時は、火の神への祈願はブナル＜姉妹＞が執り行われた＜なさった＞)。シ˞ザブナ˜ル [ʃi˞ʤabuna˜ru](姉)。˞ウシトゥブナ˜ル [˞ʔuʃi̥tubuna˜ru](妹)。

ブ˞ナルビキル [bu˞narubikiru] 【名】兄弟姉妹。ブ˞ナルビキルヌ˜　カナイ　˞オー˜ルンダ　イッ˞ケナ˜　ウ˞ラーミ˜サン [bu˞narubikirunu˜ kanai ˞ʔoː˜runda ʔik˞kena˜ ʔu˞raːmi˜saŋ](兄弟姉妹が揃っておられるから非常に羨ましい)。

ブ˞ナルンガイ [bu˞naruŋgai] 【名】婿の姉か妹が嫁方へ嫁ぐこと。「姉妹替え」の義。ブ˞ナルンガイヤー　サンモー˜　マ˞シ˜ツォー [bu˞narungaija: sammoː˜ ma˞ʃi˜tsoː](姉か妹が嫁方へ嫁ぐのはしないほうがいいそうだ)。

ブ˞ナルンガン [bu˞naruŋgaŋ] 【名】おなり神。姉妹神。姉妹には兄弟を守護する霊威があるという信仰がある。ブ˞ナルンガンマー　カンダカー˜ンティ　ア˞ザリ　ブー˜ダー　ブ˞ナルンナー˜ニ　イッ˞カティー˜　カケー　ナ˞ラン˜ダー [bu˞naruŋgammaː kandakaː˜nti ʔa˞ʤari buː˜daː bu˞narunnaː˜neː ʔik˞kati:˜ kʊ̥ke: na˞ran˜daː](姉妹神は霊威が高いといわれているぞ。決して姉妹に手を振り上げてはならないぞ)。

ブ˞ナ˜レー [bu˞na˜reː] 【名】人名。平民女子の名。ブ˞ナ˜レンマー [bu˞na˜remmaː](ブナレ姉さん)。˞ワッ˜テヌ　ブ˞ナ˜レンマー　˜ミサー　ア˞ロールン [˞wat˜tenu bu˞na˜remmaː ˜misaː ʔa˞roːruŋ](お宅のブナレー姉さんはお元気で＜お元気であられま＞すか)。

˜フニ [˜ɸuni] 【名】船。船の総称。˜イダフニ [˜ʔidaɸuni](サバニ。板を接いで造った舟)。˜マチフニ [˜matʃiɸuni](松の木の刳り舟)。明治の初期までは松の大木で刳り舟を造って西表島への通耕に利用したが、刳(クリ)舟は時化で遭難することが多かったという。明治初期頃から夏期のイカ釣漁に従事するため、糸満の漁師がサバニを二艘組み合わせて双胴船に仕立て、直接鳩間島にやって来、漁期が終わるとサバニを鳩間の人に売って帰ったという。糸満漁師が帰郷する際は、漁獲して製造したプ˞シ˜イカ [pʊ̥˞ʃi˜ʔika](干しイカ。するめいか) とイ˞ガカラス [ʔi˞gakarasu](イカの塩辛) を那覇・石垣・台湾間の定期航路を利用して沖縄へ持ち帰ったという。こうして鳩間島には˜イダフニ [˜ʔidaɸuni](板舟。サバニ) が増えていったといわれている (加治工伊佐氏談)。˞ティンマ [˞timma](伝馬船。地舟。五反帆船)。˜マーラン [˜maːraŋ](馬艦船)、˞ヤンバル˜シン [˞jambaru˜ʃiŋ](山原船)、˞ダン˜ベー [˞dam˜beː](団平舟。石炭運搬船) など。ン˞ジ˜フニ [ʔn˞ʤi˜ɸuni](出船)。イ˞リフニ [ʔi˞riɸuni](入船)。

˜プニ [˜puni] 【名】骨。プ˞スヌ˜　プニ [pʊ̥˞sunu˜ puni](人骨。人の骨)。イ˞ズヌ˜プニ [ʔi˞ʤunu˜ puni](魚の骨)。ウ˞シヌ˜　プニ [ʔu˞ʃinu˜ puni](牛の骨)。ク˞シブニ [kʊ̥˞ʃibuni](脊椎＜腰骨＞)。ヤ˞カタ˜ブニ [ja˞kata˜buni](肋骨)。ク˞シブニ [kʊ̥˞ʃibuni](脊椎。腰骨)。ブ˞サーブニ [bu˞saːbuni](大腿骨)。サ˞リプニ [sa˞ripuni](晒された骨。白骨)。ク˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　プ˞ニ˜ヌ　ア˞ラー˜ンダ　˞マー˜ビン　フ˞ドゥブン˜パジ [ku˞nu˜ f˞faː˜ pu˞ni˜nu ʔa˞raː˜nda ˞maː˜biŋ ɸu˞dubum˜paʤi](この子は骨が太いからもっと成長するはずだ)。

˜プニ　ア˞ラー˜ン [˜puni ʔa˞raː˜ŋ] 【連】骨が太い。˜ウミシグトゥ＜ス˞ナカシグ˜トゥ＞　パ˞タキシグ˜トゥ　˞シープソー˜　プニ　ア˞ラー˜ン [˜ʔumiʃigutu＜su˞nakaʃigu˜tu＞ pḁ˞takiʃigu˜tu ˞ʃiːpʊ̥soː˜ puni ʔa˞raː˜ŋ](漁師や百姓＜海仕事、畑仕事をする人＞は骨が太い)。

˜プニ　ザ˞ララランケー˜リ [˜puni ʤa˞raraŋkeː˜ri] 【連】

死者の骨が揃っているさま。埋葬した人の骨が崩れずに整っているさま。洗骨のために埋葬した人骨を掘り起こした際に用いた言葉。ザ˩ララランケーリ˥ルとも言う。˥アッパー　˥プネー　ザ˩ララランケーリ˥ル　˩オール˥バン [˥ʔappa: ˥pune: ʤa˩raraŋke:ri˥ru ˩ʔo:ru˥baŋ](お祖母さんのお骨は綺麗に揃っておられますわい)。

プ˩ニスクリ˥ヨー [pu˩nisu̥kuri˥jo:] 【名】骨格。骨組み。「骨作りよう」の義。˩ドゥースクリ˥ヨー [˩du:su̥kuri˥jo:](体格。体作りよう) というのが普通。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　プ˩ニスクリ˥ヨーラ　ビ˩ケーヌウヤ˥トゥ　マー˩ン　カウラヌ˥　ビッ˩ツティ　ニール　ブー [ku˩nu˥ f˩fa:˥ pu˩nisu̥kuri˥jo:ra bi˥ke:nuʔuja˥tu ma:˩ŋ kauranu˥ bit˩tsuti ni:ru bu:](この子は骨格から父親とどこも変わらない。そっくり似ている)。

プ˩ニ˥トゥ　˥カー [pu˩ni˥tu ˥ka:] 【連】骨と皮。肉が削(ソ)げ落ちて骨と皮だけに痩せさらばえた姿。痩せこけた姿。˥ヤミティ　プ˩ニ˥トゥ　˥カー　˥ナルンケン　˩ヨーガリ　ベー [˥jamiti pu˩ni˥tu ˥ka: ˥naruŋkeɲ ˩jo:gari be:](病気して骨と皮になるまで痩せさらばえている)。

フ˩ニ˥ヌ　˥アカ [ɸu˩ni˥nu ˥ʔaka] 【連】あか (淦)。ふなゆ (船湯)。舟底に溜まった水。フ˩ニ˥ヌ　˥ユー [ɸu˩ni˥nu ju:](船の湯) ともいう。「Aca.yu. アカ、またはユ (淦(アカ)、叉は、ゆ) 揚水器で汲み出す船の水」、「Aca, Acano mizzu. アカ、または、アカノミヅ (閼伽、または、閼伽の水)　朝早く仏 (Fotoqes) に供える水」『邦訳日葡辞書』の義。鳩間島では病弱な子供には船の淦を汲んで額に塗ると病気が良くなるという信仰が行われていた。昭和 30 年代までは、運搬船が入港する際に船長に依頼して淦を汲んでもらい、子供の額に塗ってもらう習慣があった。カ˩ツシンヌ˥　アカ　˥トゥルン [kḁ˩tsuʃinnu˥ ʔaka ˥turuŋ](カツオ漁船の淦を汲み上げる < 淦を取る >)。

フ˩ニ˥ヌ　˥ユー [ɸu˩ni˥nu ˥ju:] 【連】舟のあか (淦)。「船の湯」の義。˩ユー˥トゥルシ　フ˩ニ˥ヌ　˥ユー < ˥アカ >　˥トゥリ [˩ju:˥turuʃi ɸu˩ni˥nu ˥ju: < ˥ʔaka > ˥turi](淦取りで船の淦 < 船湯 > をとりなさい)。

˥フニ　˩パウン [˥ɸuni ˩pauŋ] 【連】造船する。˩舟を接(ハ)ぐ」の義。˩舟」に「Fagui, u, aida. ハギ、ぐ、イダ (矧・接ぎ、ぐ、いだ) ～Itauo fagu(板を接ぐ) 戸・扉などを作る時に板を接着する」『邦訳日葡辞書』が転訛したもの。˩バン˥テヌ　˥アチャー　˥ドゥーシ　˩ティンマ　パイヨーッ˥タン [˩ban˥tenu ˥ʔatʃa: ˥du:ʃi ˩timma paijo:t˥taŋ](私の家のお父さんは自分で伝馬船を造られた < 接(ハ)がれた > ことがある)。

˥フニ　˩マースン [˥ɸuni ˩ma:suŋ] 【連】回船する。手配して運搬船を寄港させる。「船回す」の義。イ˩サンケーヌ　ニー˥ヌ　˥アルカー　˥フネー　˩マースン˥ツォー [ʔi˩saŋke:nu ni:˥nu ˥ʔaruka: ˥ɸune: ˩ma:sun˥tso:](石垣島への貨物 < 荷 > があれば運搬船は寄港させるそうだ)。

フ˩ニ˥マチ [ɸu˩ni˥matʃi] 【名】船待ち。運搬船の入港を待つこと。イ˩ラムテー˥ラヌ　˩ウンパンシン˥バ　フ˩ニ˥マチ　˩スンティ　ベーン˥ドゥ　˩キーン˥ギサー　˩ナーン˥バン [ʔi˩ramute:˥ranu ˩ʔumpaŋʃim˥ba ɸu˩ni˥matʃi ˩sunti be:n˥du ˥ki:ŋ˥gisa: ˩na:m˥baŋ](西表からの運搬船を船待ちしようとしているが、来そうもないわい)。2旅に出た夫の帰り舟を待つこと。ウ˩リヌ　ナーヤ˥　ビ˩ケーヌ˥　ウ˩キ˥ナーラヌ　˩カイリ˥バ　フ˩ニ˥マチ　˩シー　ベーン˥ケン　マ˩レー˥ティル　˥マツァーティ　˩ナー˥　シ˩キラ˥レーツォー [ʔu˩rinu na:ja˥ bi˩ke:nu˥ ʔu˩ki˥na:ranu ˩kairi˥ba ɸu˩ni˥matʃi ˩ʃi: be:ŋ˥kem ma˩re:˥tiru ˥matsa:ti ˩na: ˥ʃi̥˩kira˥re:tso:](それ < 彼 > の名は、父親が沖縄から帰るのを船待ちしている時に生まれたので、マツァーと命名されたのだそうだ)。

˥フニ　˥ムトゥン [˥ɸuni ˥mutuŋ] 【連】舟を操船する。サバニに帆を掛けて帆走させる。ヤ˩ラビ˥ヌカー　˩タン˥ガシ　˩パイ˥ター　˩バー˥キ　˥フニ　ムトゥン˩ツォー˥カー [ja˩rabi˥nuka: ˩taŋga˥ʃi ˩pai˥ta: ˩ba:˥ki ˥ɸuni mutun˩tso:˥ka:](子供だのに一人で西表島 < 南端 > までイダフニに帆をかけてを帆走させることが出来るんだってば、驚いたよ)。ン˩ジ˥フニヨイ [ʔn˩ʤi˥ɸunijoi](出港 < 出船 > の嘉例吉を祈願する祝い)。イ˩リ˥フニヨイ [ʔi˩ri˥ɸunijoi](入港 < 入船 > の嘉例吉を神に感謝する慶びの祝い)。

˥プニ　˩ヤー˥ラーン [˥puni ˩ja:˥ra:ŋ] 【連】骨が柔らかい。ミ˩ドーン˥ッふァー　プ˩ニ˥ヌ　˩ヤー˥ラーンダ　˩サッ˥コー　ブ˩ドゥルゾージ [mi˩do:ŋ˥ffa: pu˩ni˥nu ˩ja:˥ra:da ˩sak˥ko: bu˩duruʤo:ʤi](女の子は骨が柔らかいから大変踊り上手だ)。˥プニ　˩ヤー˥ラー　イ˩ゾー˥　プニシケーナ　˩カン˥ザリ　ッ˩ふァイ [˥puni ˩ja:˥ra: ʔi˩ʤo:˥ puniʃi̥ke:na ˩kan˥ʤari f˩fai](骨の柔らかい魚は骨ごと噛み砕いて食べなさい)。

フ˩ニンジョー [ɸu˩ninʤo:] 【名】不人情。標準語からの借用語。˥アイニ　フ˩ニンジョーヌ˥　プ˩ソー

˥　ブ˞ラーン˥パジ [˥ʔaini ɸu˞ninʤo:nu˥ pu̥˞so:˥ bu˞ra:m˥paʤi](あんなに不人情な人は他にいないはずだ)。キ˞ム˥　ピ˞サー˥ン [ki˞mu˥ pi̥˞sa:˥ŋ](不人情 < 肝が薄い。思う心が薄い >) ともいう。

ブ˞ネー [bu˞ne:] 【名】母親、女親の親族名称。呼称には用いない。ブ˞ネーヌ˥　ウヤー [bu˞ne:nu˥ ʔuja](母親) ともいう。˞ウッ˥ツァー　ブ˞ネーヤ˥　クティ　ビ˞ケーヤ　ピーチ˥ヌ　˞キョー˥ダイ [˞ʔut˥tsa: bu˞ne:ja˥ ku̥ti bi˞ke:ja pi:ʧi˥nu ˞kjo:˥dai](彼らは、母親は別腹、父親は一つの兄弟だ)。

ブ˞ネーカタ [bu˞ne:kata] 【名】母方。「母親方」の義。Bunarikata(をなり方)→ [bunarja:kata] → [buŋna:kata] → [bune:kata] と転訛したものであろう。ブ˞ネーカタヌ˥　ウ˞トゥ˥ザ [bu˞ne:katanu˥ ʔu˞tu˥ʤa](母方の親戚)。ブ˞ネーカタ˥ナー　イッ˞ケナ˥　カ˞ナイプス˥ヌ　˞オー˥ルン [bu˞ne:kata˥na: ʔik˞kena˥ ka˞naipusu˥nu ˞ʔo:˥ruŋ](母方に非常に優れた、有力な人がおられる)。

ブ˞ネーズー [bu˞ne:ʤu:] 【名】凧の尻尾の長いもの。「母親尾」の義。ブ˞ネーズーヌ　イシゥ˥カーカー　ピ˞キダマー˥　フ˞ルマーリティ˥　トゥ˞バヌ [bu˞ne:ʤu:nu ˞ʔisi̥˥ka:ka: pi̥˞kidama:˥ ɸu˞ruma:riti˥ tu˞banu](母親尾が短いと凧はくるくる回って飛ばない)。

ブ˞ネーヌ˥ウヤ [bu˞ne:nu˥ʔuja] 【名】母親。「母なる親」の義。ブ˞ネーヌ˥ウヤー　バ˞カーン˥ケンマー　イッ˞ケナ˥　ア˞バ˥レータンツォー [bu˞ne:nu˥ ʔuja: ba˞ka:ŋ˥kemma: ʔik˞kena˥ ʔa˞ba˥re:tantso:](母親は、若い時は非常に美しかったそうだ)。

ブ˞ネー˥　ビ˞ケー [bu˞ne:˥ bi˞ke:] 【連】母親と父親。両親。イ˞クサ˥ユーナー　ブ˞ネー˥　ビ˞ケー˥　マ˞ラリ˥ヤナ　カ˞カ˥リ　˞マーラソー˥リ　˞ナー˥ヌ [ʔi˞kusa˥ju:na: bu˞ne:˥ bi˞ke:˥ ma˞rari˥jana kḁ˞ka˥ri ˞ma:raso:˥ri ˞na:˥nu](戦争中 < 戦世 > に母親と父親はマラリアに罹って亡くなられてしまった)。

フ˞ノー˥ラ [ɸu˞no:˥ra] 【名】(地名) 船浦湾の西側に位置する船浦集落。往古、西表島北部にあった古村鬚川村はマラリアのために廃村となり、住民は鳩間島に移った。戦後はマラリア撲滅に伴い、鳩間島から船浦への移住が増え、またその他の地域からの移住者も増えて現在のように栄えた。西表観光の船着場としての機能も果たしている。1611 年の慶長検地によると古見間切に所属する「ひけ川村」『論集沖縄の集落研究』は、ピ˞ナイムラ [pi˞naimura](鬚川村) のことで、船浦にあった古村のことであろう。鳩間島のピ˞ナイ˥ウガン [pi˞nai˥ʔugaŋ](鬚川御嶽) はピナイムラの御嶽の香炉の灰を分けて建立されたという口碑が伝わっている。˥シザバナリ [˥ʃiʤabanari](下離)、ナ˞ダラ [na˞dara](なだら田原)、ナ˞カ˥シ [na˞ka˥ʃi](中石田原)、ニ˞シダ [ni˞ʃida](西田田原) の対岸にフ˞ノー˥ラ [ɸu˞no:˥ra](船浦田原) は位置する。バ˞ンテ˥ヌ　˞ター˥ヤ　フ˞ノーラ˥ヌ　ナ˞カ˥ダナーン　アン˞ダー [˞ban˥tenu ˞ta:˥ja ɸu ˞no:ra˥nu na˞ka˥dana:ŋ ʔan˞da:](私の家の田圃は船浦の仲田にもあるよ)。

フ˞ノー˥ル [ɸu˞no:˥ru] 【名】田舟。深い田圃で稲束や苗を運んで作業をする際に用いる小さな舟型の農具。木の幹を刳(ク)り貫いて船形に作ったもの。˞トー˥ニ [˞to:˥ni](田舟) ともいう。フ˞カ˥ダーナ　シ˞グトゥ　ソー˥ル　˥ピンマー　フ˞ノール˥バ　シゥ˞カイヤー˥ティル　˞ソーッ˥タ [ɸu̥˞ka˥da:na ʃi˞gutu so:˥ru ˥pimma: ɸu˞no:ru˥ba si̥˞kaija:˥tiru ˞so:t˥ta](深い田で仕事をされる時はフノールを使ってなされた)。

ブ˞バー [bu˞ba:] 【名】˞叔母」の親族呼称。「伯母」の親族呼称はウボ˞マー [ʔubo˞ma:](大叔母さん!)、ボ˞マー [bo˞ma:](伯母さん!) などという。ブ˞バーキュー˥ヤ (ワ)　˞マー˥ティル　˞オール˥ワ [bu˞ba: kju:˥ja(wa) ˞ma:˥tiru ˞ʔo:ru˥wa](叔母さん! 今日は何処へいらっしゃるのですか)。

ブ˞バー˥マ [bu˞ba:˥ma] 【名】伯叔母の親族名称。ブ˞バー˥マー　ギュ˞タール　オール˥ワ [bu˞ba:˥ma: gj˞ta:ru ʔo:ru˥wa](伯叔母は何人いらっしゃいますか)。ク˞ヌ˥　プ˞スル˥　バー　ブ˞マー˥マ˞ユー [ku ˞nu˥ pu̥˞suru˥ ba: bu˞ba:˥ma˞ju:](この人が私の叔母です <〜叔母でございます >)。

ブ˞バマン˥ガン [bu˞bamaŋ˥gaŋ] 【名】セジ (霊力) 高い伯 < 叔 > 母。伯 < 叔 > 母や姉妹は兄弟、甥を守護する霊力があると信じられ、兄弟、甥から神として尊敬されている。ブ˞バマンガン˥ヌ　カ˞ルイ˥シキ　タ˞ボーリ˥バ　˞ソー　サンドー˥シ　˞ギーバリ˥バ˞ヨー [bu˞bamaŋgan˥nu ka˞rui˥ʃi̥ki ta˞bo:ri˥ba ˞so: sando:˥ʃi ˞gi:bari˥ba˞jo:](セジ < 霊力 > 高い伯 < 叔 > 母の神様が守護 < 嘉例付け > して下さるから心配しないで頑張り < 気張り > なさいね)。

フ˞バラリン [ɸu˞bararin̥] 【自動】縛られる。縛ることが出来る。フ˞バルン [ɸu˞baruŋ](他動) の未然形に受身・可能の助動詞˞-リン [˞-rin̥](〜れる) が下接して生成された受身・可能動詞。˥パン　フ˞バラリン [˥paŋ ɸu˞bararin̥](足を縛られる)。ク˞ヌ˥　シナー　˞バン˥ヌン　フ˞バラリンドゥ˥　カ˞ヌ˥　シナー　˞

バンˬマー　フ˞バララヌ [ku˞nuˬ ʃina: ˞banˬnun ɸu ˞bararinduˬ ka˞nuˬ ʃina: ˞bamˬma: ɸu˞bararanu](この綱は私にも縛られる＜可能＞が、あの綱は私には縛られない)。キ˞サーティˬ　フ˞バラリ　ナーˬヌ [ki̥˞sa:tiˬ ɸu˞barari naːˬnu](既に縛られ＜受身＞てしまった)。˞ワンˬ　フ˞バラリルˬ　ムノー˞　ナーˬヌ [˞waŋˬ ɸu˞barariru munoː˞ naːˬnu](君に縛られるものはない＜受身＞)。˞パーˬク　フ˞バラレーˬ　ミサムヌ [˞paːˬku ɸu˞barareːˬ misamunu](早く縛られればいいのに＜受身＞)。

フ˞バリフチ **[ɸu˞bariɸutʃi]** 【名】結び目。縛り目。結わい目。「縛り口」の義。ˬシナー　キ˞サンˬドーシ　フ˞バリフチェーˬラ　プ˞トゥˬキバ (˞パンツァシˬバ)[ˬʃina: ki̥˞sanˬdoːʃi ɸu˞bariɸu̥tʃeːˬra pu̥˞tuˬ kiba(˞pantsaʃiˬba)](綱は切らないで、結び目＜縛り口＞から解きなさいよ)。

フ˞バルン **[ɸu˞baruŋ]** 【他動】縛る。くくる。くくりしめる。「頸を結 (ゆ) ふをば縊(クビル)といふ」『新撰字鏡』、「Cubiri,ru,itta. クビリ、ル、ッタ (縊り、る、った) 結びつける、または、しばる、～」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。バ˞ラフˬタジナシ　フ˞バルンティˬ　シ˞タンドゥˬ　フ˞バランドーˬシ　ˬシケー [ba˞raɸu̥ˬtaʤinaʃi ɸu˞barantiˬ ʃi˞tanduˬ ɸu˞barandoːˬʃi ʃi̥ke:](藁縄で縛ろうとしたが縛らないで置いてある)。フ˞バリˬ　ミサカー　フ˞バルˬ　クトー　ˬナルン [ɸu˞bariˬmisaka: ɸu˞baruˬ ku̥to: ˬnaruŋ](縛ってよければ縛ることはできる)。˞マーˬビン　フ˞バレーˬ　ミサムヌ [˞maːˬbiŋ ɸu˞bareːˬ misamunu](もっと縛ればいいのに)。˞パーˬク　フ˞バリ [˞paːˬku ɸu˞bari](早く縛れ)。

フ˞ビ **[ɸu˞bi]** 【名】 1首。後頭部の下の部分。うなじ。「頸、久鼻 (くび)」『華厳経音義私記』の転訛したもの。ヤ˞ビマイˬヤー　フ˞ビルˬ　スル [ja ˞bimaiˬja: ɸu˞biruˬ suru](稔らない稲が稲穂の首を反らせる＜諺＞)。˞ノーリマイˬヤー　フ˞ビˬ　ブルン [˞noːrimaiˬja: ɸu˞biˬ buruŋ](稔った稲は稲穂の首を折る＜首を垂れる＞)。2襟。「衣襟、己呂毛乃久比 (ころものくび)」『新撰字鏡』。˞キンˬヌ　フ˞ビヌˬ　ユ˞グリルˬカー　˞ミーヌッˬサン [˞kinˬnu ɸu˞binuˬ ju˞guriruˬka: ˞miːnusˬsaŋ](着物の襟が汚れると見苦しい)。3(数) 着物を数える単位。この場合、フ [ɸu] は原音のク [ku] に回帰する。˞キンˬマー　プ˞スッˬクビ　˞カイˬバ [˞kimˬma: pu̥˞sukˬkubi ˞kaiˬba](着物は一着＜一枚＞買いなさいよ)。フ˞タックビ [ɸu̥˞takkubi](二着)。˞ミックビ [˞mikkubi](三着)。˞ユックビ [˞jukkubi](四着)。イ˞チッˬクビ [ʔi˞tʃikˬkubi](五着)。˞ムックビ [˞mukkubi](六着)。ナ˞ナッˬクビ [na˞nakˬkubi](七着)。˞ヤックビ [˞jakkubi](八着)。ク˞ヌッˬクビ [ku˞nukˬkubi](九着)。˞トゥックビ [˞tukkubi](十着)。

フ˞ビシジ **[ɸu˞biʃiʤi]** 【名】首すじ。うなじ。襟首。襟足。ヌ˞ビˬシジ [nu˞biˬʃiʤi](首すじ) ともいう。フ˞ビシジヌ　コーˬリティ　ˬヌビ　˞マースˬカーヤ˞ミˬス [ɸu˞biʃiʤinu koːˬriti ˬnubi ˞maːsuˬkaː ja˞miˬsu](首すじが凝って、首を回すと痛むよ)。

フ˞ビˬ　スルン **[ɸu˞biˬ suruŋ]** 【連】首を反らす。ふんぞり返る。稔らない稲が穂先を反らす。転じて、人格者でない者が傲慢(ゴウマン)な態度をとるの意。バ˞カーˬ　ムヌヌ　フ˞ベーˬ　スリティ　プ˞スヌˬ　ムニ　シゥ˞カヌˬ　イ˞ナムヌˬダラ [ba˞kaːˬ mununu ɸu˞beːˬ suriti pu̥˞sunuˬ muni si̥˞kanuˬ ʔi˞namunuˬdara](若者だのに、傲慢になって＜首を反らして＞他人の忠告＜ことば＞を聞き入れない。残念なことだ)。

フ˞ビダリ **[ɸu˞bidari]** 【名】首を垂れること。自信喪失して落ち込むこと。意気消沈すること。ク˞トゥシンˬ　シケンナー　ˬウティティ　ナー˞イˬ　フ˞ビダリ　シーベー [ku̥˞tuʃiŋˬ ʃi̥kenna: ˬʔutiti naː˞jiˬ ɸu ˞bidari ʃiːbeː](今年も試験に落ちて、ただ意気消沈して＜首を垂れて＞いる)。

フ˞ビˬ　タルン **[ɸu˞biˬ taruŋ]** 【連】1首を垂れる。気力を失う。自信を喪失する。ウ˞ビˬナー　ウ˞ドゥˬクカー　ター˞ンˬ　フ˞ビˬ　タルン [ʔu˞biˬna: ʔu˞duˬkuka: taː˞ŋˬ ɸu˞biˬ taruŋ](あれだけ大損＜欠損＞したらだれでも首を垂れる)。2稲穂の実が稔って穂先を垂らす。˞ノーリマイˬル　フ˞ベーˬ　タル [˞noːrimaiˬru ɸu˞beːˬ taru](よく稔った稲が稲穂を垂らす＜諺＞)。

フ˞ビˬ　ブルン **[ɸu˞biˬ buruŋ]** 【連】1首を折る。頭を下げる。了承する。フ˞ビˬ　ブルンカヤーティ　ウ˞ムータˬヌ　ˬキモー　フ˞ガンドゥ　ブーˬユー　ムッ˞トゥˬ　フ˞ビˬ　ブ˞ランˬバン [ɸu˞biˬ buruŋkajaːti ʔu˞muːtaˬnu ˬkimo: ɸu˞gandu buːˬju: mut˞tuˬ ɸu˞biˬ bu˞ramˬbaŋ](首を折る＜了承する＞かと思ったが、納得しない＜満足しない＞のか、首を折らないわい)。2転じて「詫びる」の意。「首を折る」の義。転じて、人格者は謙遜した態度で行動するの意味。プ˞スヌ　ウイˬナー　ˬタトゥ　プ˞ソー　チャーˬ　フ˞ビˬ　ブレーティル　ˬクトー　˞スートˬダー [pu̥˞sunu ʔuiˬna: ˬtḁtu pu̥˞so: tʃaːˬ ɸu˞biˬ bureːtiru ˬku̥to: ˞suːˬdaː](人の上に立つ人は、常に頭を下げて事を

成すのだぞ)。

˜フビリカビリ **[˜ɸubirikabiri]** 【副】みすぼらしいさま。貧弱な身なり。ABCDBC 型の重言。˜アイニ　˜フビリカビリ　˞シェー˜ティ　˞アーク˜ナ˞ヨー [˜ʔaini ˜ɸubirikabiri ˞ʃeː˜ti ˞ʔaːku˜na˞joː](あのようなみすぼらしい身なりをしているなよ)。

フ˞ビリマリ **[ɸu˞birimari]** 【名】貧相な生まれつき。貧相な相貌。貧弱な容貌。マ˞リトーラ˜　フ˞ビリマリ　シー　ブンダ˜　イ˞カ˜スク　シ˞ダーサバン　ダーッ˜サー　˞ナー˜ヌ [ma˞ritoːra˜ ɸu˞birimari ʃiː bunda˜ ʔi˞kasu̥˜ku ʃi˞daːsaban daːs˜saː ˞naː˜nu](生まれつき貧相な容貌をしているから、いくら装っても＜し出だしても＞ぱっとしない＜それらしく良くならない＞)。

フ˞ビルン **[ɸu˞biruŋ]** 【自動】みすぼらしくなる。˞ヤー˜ヌ　フ˞ビルン˜ケン　˞ティー˜リン　サ˞ムティ˜　シ˞ティ˜　シケーバン [˞jaː˜nu ɸu˞biruŋ˜ken ˞tiː˜rin sa˞muti˜ ʃi̥˞ti˜ ʃi̥keːbaŋ](家がみすぼらしくなるまで手入れもしないで放置してあるわい)。˞ティー˜リサーギ　˞スー˜カー　フ˞ビラヌ [˞tiː˜risaːgi ˞suː˜kaː ɸu˞biranu](手入れさえすれば、みすぼらしくならない)。˞ティー˜リ　˞サンユンダ˜　フ˞ビリ　ナー˜ヌ [˞tiː˜ri ˞saŋjunda˜ ɸu˞biri naː˜nu](手入れしないから、みすぼらしくなってしまった)。

フ˞ミカスン **[ɸu˞mikasuŋ]** 【他動】賑わす。盛んにする。ほてらす。老年層は、˞プーミカスン [˞puːmikasuŋ](ほてらす。賑わわす)、プ˞ミカスン [pu˞mikasuŋ] ともいう。「Fomeqi,u,eita. ホメキ、ク、イタ (燥き、く、いた) 非常な暑さである、または、非常に暑い」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞サンシン˜　ピ˞キティ˜　ヤー　フ˞ミカスン [˞saŋʃim˜ pi̥˞kiti˜ jaː ɸu˞mikasuŋ](三線を弾いて家の中を賑わす)。˜ヤー　フ˞ミカサン˜カー　ナ˞ラ˜ヌ [˜jaː ɸu˞mikasaŋ˜kaː na˞ra˜nu](家の中を賑わさないといけない)。˞サンシン˜　ピ˞キ˜　ヤー　フ˞ミカス˜　プ˞ス　サーリ˜キー　フ˞ミカシェー˜　ミサムヌ [˞saŋʃim˜ pi̥˞ki˜ jaː ɸu˞mikasu˜ pu̥˞su saːri˜ kiː ɸu˞mikaʃeː˜ misamunu](三線を弾いて家の中を賑わす人を連れてきて賑わせばいいのに)。˞マー˜ビン　フ˞ミカシ [˞maː˜biŋ ɸu˞mikaʃi](もっと賑わせ)。

フ˞ミダイ **[ɸu˞midai]** 【名】踏み台。高い所にあるものを取る際の足場となる台。標準語からの借用語。タ˞キ˜ヌ　ピ˞コー˜ンダ　フ˞ミダイ˜ナ　˞ヌーラン˜カー　˞ティー˜ヤ　トゥ˞ドゥカ˜ヌ [tḁ˞ki˜nu pi̥˞koː˜nda ɸu˞midai˜na ˞nuːraŋ˜kaː ˞tiː˜ja tu˞duka˜nu](背丈が低いから踏み台に上らないと手が届かない)。

フ˞ミ˜フチ **[ɸu˞mi˜ɸu̥tʃi]** 【名】¹編み方。編む方法。フ˞ミ˜ミチ [ɸu˞mi˜mitʃi](編み方) ともいう。˞アン˜スコー　˞ヌー˜シル　フ˞ム˜タユー　フ˞ミ˜フチ　˞バシキ　ナー˜ヌ [˞ʔan˜su̥koː ˞nuː˜ʃiru ɸu˞mu˜taju: ɸu˞mi˜ɸu̥tʃi ˞baʃi̥ki naː˜nu](網袋＜アンスク。細いアダナシの縄で、約 20 センチ方形の手提げ鞄(カバン)状に編み上げた野外用野物入れ。弁当入れ＞はどのように編んだのか、その編み方を忘れてしまったよ)。²編み口。編み始め。組み口。フ˞ミ˜-[ɸu˞mi˜-] は、「Cumi,u,unda. クミ、む、ンダ (組み、む、んだ) 組紐・金銀のモールなどを作る者のやり方で編む〜。」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。フ˞ミ˜フチ　ン˞ザ˜シ　˞サンバ˜　ナ˞ラー˜シ　ッ˞ふィーリ [ɸu˞mi˜ ɸutʃi ʔn˞ʤa˜ʃi ˞samba˜ na˞raː˜ʃi f˞fiːri](編み口を出しきれないから教えてくれ)。

フ˞ミマラバ˜スン **[ɸu˞mimaraba˜suŋ]** 【他動】褒めちぎる。褒めまくる。大いに褒める。「褒め・まろばす」の合成語か。マ˞ラバスン [ma˞rabasuŋ](転ばす) は、「馬展、マロバス」『類聚名義抄』の義。動詞の連用形に付いて複合動詞を作り、その動作を強調する一種の接尾語的機能を有する語。プ˞ス˜　フ˞ミマラバ˜スン [pu̥˞su˜ ɸu˞mimaraba˜suŋ](他人を褒めちぎる)。˜ドゥク　フ˞ミマラバス˜ナ˞ヨー [˜duku ɸu˞mimarabasu˜na˞joː](あまり褒めちぎるなよ)。フ˞ミマラバ˜シティ [ɸu˞mimaraba˜ʃi̥ti](褒めちぎって)。˞ワー˜　スコー　フ˞ミマラバ˜ス　プ˞ソー˜　ブ˞ラーヌ [˞waː˜ su̥koː ɸu˞mimaraba˜su pu̥˞soː˜ bu˞raːnu](君くらい褒めちぎる人はいない)。フ˞ミマラバ˜シェー　˜ミサムヌ [ɸu˞mimaraba˜ʃeː˜ misamunu](褒めちぎればいいのに)。フ˞ミマラバシ [ɸu˞mimaraba˜ʃi](褒めちぎれ)。

フ˞ミ˜ムヌ **[ɸu˞mi˜munu]** 【名】編み物。バ˞ラフ˜タジナトゥ　バ˞ラフタ˜ヌ　フ˞ミ˜ムヌティ　ア˞ズ˜カー　ニ˞ブク˜ル　アル˞ナー [ba˞raɸu̥˜taʤinatu ba˞raɸu̥ta˜nu ɸu˞mi˜munuti ʔa˞ʤu˜kaː ni˞bukunu˜ru ʔaru˞naː](藁縄(ワラナワ)と藁の編みものといえば、いなばきむしろ＜稲掃筵＞があるねえ)。ク˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　フ˞ミ˜ムヌ　˞シー　ゾー˜ジ [ku˞nu˜ f˞faː˜ ɸu˞mi˜ munu ˞ʃiː ʤoː˜ʤi](この子は編みものが上手だ)。

フ˞ミムヌ **[ɸu˞mimunu]** 【名】履物(ハキモノ)。ア˞シ˜ツァ [ʔa˞ʃi˜tsa](下駄)、サ˞バ [sa˞ba](草履(ゾウリ))、˜フチ [˜ɸu̥tʃi](藁草履。ク˞ツ＜沓＞の転訛したもの) などがある。「Fumimono. フミモノ (踏物(フミモノ))　踏みつけられる物.」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。フ˞ミムノー˜　ノ

ー˩ンヤラバン˥　フ˩マン˥カー　イ˩ソー　シン˥　パ˩ララ˥ヌ [ɸu˩mimunoː˥ noː˩ɲjarabaŋ˥ ɸu˩maŋ˥kaː ʔi˩soː ʃim˥ pa˩rara˥nu](履物は何でもよいから履かないと潮干狩り＜漁をし＞には行かれない)。

フ˩ミ˥ルン **[ɸu˩mi˥ruŋ]** 【他動】誉 (褒) める。讃える。「まけばしら寶米弖豆久礼留〜。万、4342」の義。ム ー˩ル　ドゥー˥ヌ　ッ˩ふァバ˥　フ˩ミ˥ルンティ　˩スンドゥ˥　バー　フ˩ミラヌ [muː˩ru duː˥nu fᶠfa˥ ɸu ˩mi˥runti ˩sundu˥ baː ɸu˩mira˥nu](皆は自分の子供を褒めるというが、私は褒めない)。ッ˩ふァー˥　フミティ　ナ˩ラー˥シ [fᶠfaː˥ ɸumiti na˩raː˥ʃi](子供は褒めて教えなさい)。フ˩ミ˥ル　˥ピンマー　˥フミティ　イ˩ズ˥　ピンマー　イ˩ジ˥バ [ɸu˩mi˥ru ˥pimmaː ˥ɸumiti ʔi˩ʤu˥ pimmaː ʔi˩ʤi˥ba](褒める時は褒めて、叱る時は叱りなさいよ)。˩マー˥ビン　フ˩ミ˥レー　˥ミサムヌ [˩maː˥biŋ ɸu˩mi˥reː ˥misamunu](もっと褒めればいいのに)。˥バー　イ˩ズバ　ワー˥　フ˩ミ˥リ [˥baː ʔi˩ʤuba waː˥ ɸu˩mi˥ri](私が叱(シカ)るから君は褒(ホメ)なさい)。

˥フムン **[˥ɸumuŋ]** 【他動】誉＜褒＞める。讃える。「褒め＜下二段＞」の四段活用化したもの。「眞木柱　寶米弖＜ホメテ＞造れる殿の如〜。万、4342」の転訛したもの。プ˩スケンナー˥ヤ　フ˩ミ˥ルンティ　˩スンドゥ˥　クヌ　˩ブン˥シェー　フ˩ミララ˥ヌ [pu̥ ˩sukennaː˥ja ɸu˩mi˥runti ˩sundu˥ kunu ˩buŋ˥ʃeː ɸu˩ mirara˥nu](一度ぐらいは褒めようとするのだが、この分＜仕事の程度＞では褒められない)。˥フミティ　パ˩タラカシ˥バ [˥ɸumiti pḁ˩tarakaʃi˥ba](褒めて働かせなさいよ)。˩バン˥ヨー　˥フム　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [˩baŋ˥joː ˥ɸumu pu̥˩soː˥ bu˩raːnu](私を褒める人はいない)。˩マー˥ビン　˥フメー　˥ミサムヌ [˩maː˥biŋ ˥ɸumeː ˥misamunu](もっと褒めればいいのに)。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　ヤー˩ディン˥　フミ˩ヨー [ku˩nu˥ fᶠfaː˥ ja˩diŋ˥ ɸumi˩joː](この子は、必ず褒めなさいよ)。

フ˩ムン **[ɸu˩muŋ]** 【他動】汲(ク)む。水を汲む。「〜立ちよそひたる山清水　酌尓雖行＜クミニイカメド＞〜。万、158」、「Cumi,u,unda. クミ、ム、ンダ (汲み、む、んだ) 手桶で水を汲む」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˩カー˥ラ　ミ˩ジ˥　フ˩ムンティ　スンドゥ˥　ク˩バシルヌ˥　ヤリティ　フ˩マラヌ [˩kaː˥ra mi˩ʤi˥ ɸu˩munti sundu˥ ku˩baʃirunu˥ jariti ɸu˩maranu](井戸から水を汲もうとするが、クバ＜蒲葵＞の葉で作った釣瓶が破れて汲まれない)。フ˩ミ　ンザ˥スン [ɸu˩mi ʔnʤa˥suŋ](汲みだす)。˥ガンガンシルシェー　フ˩ミヤッ˥サン˩ダー [˥gaŋgaŋʃiruʃeː ɸu˩mijas˥ san˩daː](ブリキ板で作った釣瓶では汲み易いよ)。マ˩ナ˥マー　˩カー˥ラ　ミ˩ジ˥　フ˩ム　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [ma˩na˥maː ˩kaː˥ra mi˩ʤi˥ ɸu˩mu˥ pu̥˩soː ˥ bu˩raːnu](今は井戸から水を汲む人はいない)。˩マー˥ビン　フ˩メー˥　ミサムヌ [˩maː˥biŋ ɸu˩meː˥ misamunu](もっと汲めばいいのに)。ヤー˩ディン˥　フ˩ミ [jaː˩diŋ˥ ɸu˩mi](必ず汲め)。

フ˩ムン **[ɸu˩muŋ]** 【他動】 1履(ハ)く。ア˩シ˥ツァ　フ˩ムン [ʔa˩ʃi˥tsa ɸu˩muŋ](下駄を履く)。サ˩バー˥　フ˩マンドー˥シ　ア˩ラ˥クン [sa˩baː˥ ɸu˩mandoː˥ʃi ʔa ˩ra˥kuŋ](草履(ゾウリ)を履かないで歩く)。˥フチェー　フ˩ミティル˥　イ˩ソー˥　パル [˥ɸu̥ʧe: ɸu˩mitiru˥ ʔi˩soː ˥ paru](草鞋＜˩沓(クツ)」の転訛＞を履いて＜ぞ＞潮干狩りには行く)。˥フチ　フ˩ム˥　プ˩ソー　ブン˥カヤー [˥ɸu̥ʧi ɸu˩mu˥ pu̥˩soː buŋ˥kajaː](草鞋＜沓＞を履く人はいるかなあ)。˥フチ　フ˩メー˥　ミサムヌ [˥ɸu̥ʧi ɸu˩meː˥ misamunu](草鞋＜沓＞を履けばいいのに)。˥フチ　フ˩ミ˥バ [˥ɸu̥ʧi ɸu˩mi˥ba](草鞋＜沓＞を履けよ)。2道理に適う。正しい人の道を踏む。サ˩クシ˥ヌ　˥ヤー　シ˩ギバル˥　ミ˩チェー˥　フ˩ム [sḁ˩kuʃi˥nu ˥ja: ʃi˩gibaru˥ mi˩ʧeː˥ ɸu˩mu](長男が家を継いでこそ＜継げばぞ＞道理に適う)。ア˩ス˥カー　ミ˩チェー˥　フ˩ムン [ʔa˩su˥ka: mi˩ʧeː˥ ɸu ˩muŋ](そうしたら人の道に適う)。

˥フムン **[˥ɸumuŋ]** 【他動】編む。「組む」の義。˩物を互いちがいに交差させて作る」から転訛したもの。「Cumi,u,unda. クミ、む、ンダ (組み、む、んだ) 組紐・金銀モールなどを作るやり方で編む」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˥フチ　˥フムンティ　˩スンドゥ　バン˥マー　ムッ˩トゥ˥　フ˩マラ˥ヌ [˥ɸu̥ʧi ˥ɸumunti ˩sundu bam˥ma: mut˩tu˥ ɸu˩ mara˥nu](草鞋を編もうとするが、私にはちっとも編まれない)。ニ˩ブ˥ク　˥フミティ　˩マイ˥　プスンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　ニ˩ブ˥ク　˥フム　プ˩スヌドゥ˥　ブ˩ラーンバン [ni˩bu˥ku ˥ɸumiti ˩mai˥ pu̥sunti ʔu˩muːn˥du ni˩bu˥ku ˥ɸumu pu̥˩sunudu˥ bu˩ raːmbaŋ](いなばきむしろ＜稲掃き筵。ニクブク＞を編んで籾(モミ)を干そうと思うが、いなばきむしろを編む人＜編める人＞がいないのだよ)。ア˩ダン˥パームス　˥フメー　˥ミサムヌ [ʔa˩dam˥paːmusu ˥ɸumeː˥ misamunu](アダンバ筵(ムシロ)を編めばいいのに)。˩ユシ˥キシ　イ˩ガプシシダ˥ル＜シ˩ダ˥ル＞　˥フミバ [˩ juʃi̥˥kiʃi ʔi˩gapuʃiʃida˥ru＜ʃi˩da˥ru＞ ˥ɸumiba](ススキでスルメイカを干す簾(スダレ)を編めよ)。フ˩ミ˥プサン

[ɸuˈmi˥pusaŋ](編みたい)。ˈタング˥　フミティ　ˈタン˥　フナウン [ˈtaŋgu˥ ɸumiti ˈtaŋ˥ ɸunauŋ](炭俵を編んで炭を詰め込む)。

フˈヤ [ɸuˈja] 【名】ほや (火屋)。カˈサ˥ランプ [kaˈsa˥ rampu](笠ランプ) の火を覆うガラス製の筒。ムˈカ˥シェー　˥ユネン　˥ナルカー　˥ランプヌ　フˈヤヌ˥　ピˈサ˥ビ　ッˈスル˥　ムˈノー˥　ヤˈラビ˥ヌ　シˈグトゥ　ヤッタ [muˈka˥ʃeː ˥junen ˥naruka: ˥rampunu ɸuˈjanu˥ pi̥ˈsa˥bi sˈsuru˥ muˈnoː˥ jaˈrabi˥nu ʃiˈgutu jatta](昔は夕方になるとランプの火屋の煤 < ˈ火・錆」、「〜一名加禰乃佐比」『本草和名』の義か > を拭いて磨くのが子供の仕事であった)。

˥フヤー [˥ɸujaː] 【名】猫が繁殖期に発情して吠え立てる < 鳴き騒ぐ > こと。牛馬は、タˈキ˥ルン [tḁˈki˥ruŋ](たける < 哮る >) という。マˈヤ˥ヌ　˥フヤー　シˈティ˥　ンˈガマサ˥ヌ　ナˈラ˥ヌ [maˈja˥nu ˥ɸujaː ʃi̥ˈti˥ ʔŋˈgamasa˥nu naˈra˥nu](猫が発情してなき喚(ワメ)いて、うるさくてたまらない)。ウˈル˥ズン　˥ナルカー　˥マヤー　ズˈブ˥マイ　シˈティ˥　フヤー　ˈスントダー [ʔuˈru˥ʤun ˥naruka: ˥majaː ʤuˈbu˥mai ʃi̥ˈti˥ ɸujaː ˈsunˊdaː](春の季節になったら猫は発情してなき喚くよ)。

フヤーˈスン [ɸujaːˈsuŋ] 【自動】猫が吠える。

フˈユ [ɸuˈju] 【名】冬。「Fuyu. フユ (冬). Fuyuni naru. 冬になる」『邦訳日葡辞書』。フˈユヌ˥シチ　ˈペー˥ルカー　ˈトゥンジーヌ　オール˥ヌ　ˈトゥンジズーシェー˥　パˈトゥ˥マナーヤ　バˈカソーラン˥シェン [ɸuˈjunu˥ ʃi̥tʃi ˈpeː˥ruka: ˈtunʤiːnu ʔoːru˥nu ˈtunʤiʤuːʃeː˥ pḁˈtu˥manaːja baˈkasoːraŋ˥ʃeŋ](冬の季節に入ると冬至が来られるが、冬至雑炊は鳩間島では炊かれなかった)。

˥フユー [˥ɸujuː] 【名】無精者。怠け者。怠惰な者。「Fuyô フヨゥ (不用) 怠惰。無精. Huyôuo camayuru.(不用を構ゆる) 怠け心を抱く」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˈウンザー˥　フˈユー˥バ　シゥˈカン˥カビティ　ムッˈトゥ˥　パˈタラカヌ [ˈʔunʤaː˥ ɸuˈjuː˥ba si̥ˈkaŋ˥kabiti mutˈtu˥ pḁˈtarakanu](あの野郎は怠惰をきめこんで < 不用をうち被って > 一向に働かない)。˥フユー　ˈサンドー˥シ　パˈタラキ [˥ɸujuː ˈsandoː˥ʃi pḁˈtaraki](怠けないで < 無精しないで > 働け)。

˥フユー　シゥˈカン˥カブン [˥ɸujuː si̥ˈkaŋ˥kabuŋ] 【連】怠惰を決め込む。怠ける。˥フヨー　シゥˈカン˥カビティ　イコーˈラ˥　イˈズバン　ウーカ˥ヌ [˥ɸujoː si̥ˈkaŋ˥kabiti ʔikoːˈra˥ ʔiˈʤabaŋ ʔuːka˥nu](怠惰を決め込んで、いくら叱っても動かない)。

フˈユー˥ナ　˥ムヌ [ɸuˈjuː˥na ˥munu] 【連】怠け者。無精者。フˈユ˥ニンとも言う。フˈユー˥ナ　˥ムノー　ウˈキ˥ナー　ˈサーリ˥　パˈララ˥ヌ [ɸuˈjuː˥na ˥munoː ʔuˈki˥naː ˈsaːri˥ paˈrara˥nu](怠け者は沖縄へは連れて行かれない)。˥アイニ　フˈユー˥ナ　˥ムノー　ブˈラーヌ [˥ʔaini ɸuˈjuː˥na ˥munoː buˈraːnu](あんな怠け者は他にいない)。

フˈユ˥キン [ɸuˈjuɸkiŋ] 【名】冬着。ˈアーシ˥キン [ˈʔaːʃi˥kiŋ](袷。袷着) ともいう。フˈユキン˥マー　˥ムミンシル　ˈサーソーッ˥タ [ɸuˈjukim˥maː ˥mumiŋʃiru ˈsaːsoːt˥ta](冬着は綿布で仕立てられた)。

フˈユ˥ニン [ɸuˈju˥niŋ] 【名】怠け者。無精者。˥スブットゥ [˥subuttu](無精者。怠け者)、ウˈシクラサー [ʔuˈʃikurasaː](酷い怠け者)、ウˈシクラシムヌ [ʔuˈʃikuraʃimunu](酷(ヒド)い怠け者) ともいう。ウˈレー˥　フˈユ˥ニン　ヤˈルンダ˥　プˈスンマー˥　シゥˈカーラヌ [ʔuˈreː˥ ɸuˈju˥niɲ jaˈrunda˥ pu̥ˈsummaː˥ si̥ˈkaːranu](彼は怠け者だから他人には使われない)。

フˈユ˥ムヌ [ɸuˈju˥munu] 【名】冬物。ナˈチムヌ [naˈtʃimunu](夏物) の対義語。フˈユ˥キン [ɸuˈju˥kiŋ](冬着) ともいう。パˈダピー˥ヤ　˥ナリ　˥ケーチバ　フˈユ˥ムヌ　ンˈザ˥シ　キˈサン˥カー　ナˈラ˥ヌ [paˈdapiː˥ja ˥nari ˥keːtʃiba ɸuˈju˥munu ʔnˈʤa˥ʃi ki̥ˈsaŋ˥ka: naˈra˥nu](肌寒くなってきたので冬物を出して着ないといけない)。

フˈヨー˥ゾー [ɸuˈjoː˥ʤoː] 【名】不養生(フヨウジョウ)。不摂生(フセッセイ)。健康管理をしないこと。標準語からの借用語。˥チニヒージーラヌ　フˈヨーゾーヌ˥ル　ˈヤン˥バ　スˈク˥ル　ˈヨー˥ゾーサーギ　ˈスー˥カー　ˈヤン˥マー　シˈキラ˥ヌ [˥tʃiniçiːʤiːranu ɸuˈjoːʤoːnu˥ru ˈjam˥ba su̥ˈku˥ru ˈjoː˥ʤoːsaːgi ˈsuː˥ka: ˈjam˥maː ʃi̥ˈkira˥nu](常日頃 < 常平生 > からの不養生が病気 < 病 > を作るのだ。養生さえすれば病気は付かない)。

フˈヨー˥ン [ɸuˈjoː˥ŋ] 【形】怠惰(タイダ)である。無精(ブショウ)である。クˈヌ˥　ヤˈラ˥ベー　ˈサッ˥コー　フˈヨー˥ンドゥ　カˈリトゥ˥　シˈキル˥カー　フˈヨー　ナー˥ヌ [kuˈnu˥ jaˈra˥beː ˈsak˥koː ɸuˈjoː˥ndu kaˈri˥ ʃi̥ˈkiru˥kaː ɸuˈjoː naː˥nu](この子は非常に怠惰であるが、彼に較べると怠惰ではない)。カˈヌ˥　プˈソー˥　フˈヨー˥ヌ　シゥˈカーラヌ [kaˈnu˥ pu̥ˈsoː˥ ɸuˈjoː˥nu si̥ˈkaːranu](あの人は怠惰であるから使われない)。クˈヌ˥グロー　フˈヨー˥　ナリ　ˈナー˥ヌ [kuˈnu˥guroː ɸuˈjoː˥nari ˈnaː˥nu](最近は怠惰になってしまった)。

フ゜ヨー゜　プ゜ソー゜　シゥ゜カウナ [ɸu゜joː˥ pu̥゜soː˥ si̥゜kauna](怠惰な人は使うな)。

˥ブラ [˥bura] 【名】 (動)1ホラガイ (法螺貝)。殻長 40 センチに達するのもある。水深 5〜10 メートルの珊瑚礁やエダサンゴの中に棲息する。昔はこの貝を利用して湯沸(ユワカシ)にした。法螺貝の上部に穴をあけ、木製の柄を付け、殻口にも板で作った蓋をし、竈(カマド)の上に自在鉤(ジザイカギ)を作って吊(ツ)るし、湯を沸かした。ム゜カ˥シェー　゜パイタ˥ナーテー　˥ブラナール　゜ユー˥ヤ <゜ユー˥ワ >　フ゜カ˥シティ　ヌ゜モーッタ˥ル [mu゜ka˥ʃeː ゜paita˥naːteː ˥buranaːru ゜juː˥ja < ゜juː˥wa > ɸu̥゜ka˥ʃi̥ti nu゜moːtta˥ru](昔は、通耕の際、西表島 < 南端 > では法螺貝で < ぞ > お湯を沸かして飲まれたものだよ)。2汽笛。イ゜サンケーラヌ　ウンパンシン˥マー　˥ブラ　フ゜カ˥シェーティ　゜ペー˥リ　゜クー˥タ [ʔi゜saŋkeːranu ʔumpaŋʃim˥maː ˥bura ɸu̥゜ka˥ʃeːti ゜peː˥ri ˥kuː˥ta](石垣島からの運搬船は汽笛を鳴らしながら < 吹かして > 入港して < 入って > きた)。˥ブラ　˥フクン [˥bura ˥ɸu̥kuŋ](法螺貝を吹き鳴らす)。

フ゜ラー [ɸu゜raː] 【名】ふれもの (狂れ者) の義。気違い。馬鹿者。プ゜リムヌとも言う。゜フラー˥　ヤ゜ルンダ˥　プ゜スン˥　ダ゜マサリティ˥ <゜カシゥカーサ˥リティ >　ウカ　˥カビ　゜アー˥クンティ [ɸu゜raː˥ ja ゜runda˥ pu̥゜sun˥ da゜masariti˥ <゜kasïkaːsa˥riti > ʔuka ˥kabi ゜ʔaː˥kunti](馬鹿だから、他人に騙されて負債を被っているよ)。

゜ブラー [buraː] 【連】居るものか。「woram-ja」の転訛か。老年層の言葉。若年層は、゜ブーワ [゜buːwa](居るものか)。

ブ゜ラー˥マ [bu゜raː˥ma] 【名】 (動) タケノコガイ科の細長い巻貝。「小さな法螺貝」の義か。˥ブラ [˥bura](法螺貝) に、˥-マ [˥-ma](小さなもの、可愛いもの、を表す接尾指小辞) の付いた形。ブ゜ラーマ˥バ　˥ナーシ　フ゜バリテイ　ナン˥ゲー　゜トーリトー˥リ　゜シェー˥ティ　ウ゜ム˥ジ　゜ホー˥ソーッタン [bu゜raːma˥ba ˥naːʃi ɸu゜bariti naŋ˥geː ゜toːrito˥ri ゜ʃeː˥ti ゜ʔumu˥ʤi ゜hoː˥soːttaŋ](タケノコガイを縄で縛って、投げては手繰り手繰りしながらイイダコを釣られた)。

ブ゜ライズ [bu゜raʔiʤu] 【名】 (動) ボラ (鯔)。単に、ブ゜ラ [bu゜ra](鯔) ともいう。西表島の河口あたりに群れをなして集まることが多かった。ブ゜ラ˥　ガ゜ラ˥シン　パラ゜ディー [bu゜ra˥ ga゜ra˥ʃim para゜diː](ボラを網で捕獲しに行こうよ)。

˥ブライトゥリ [˥buraituri] 【名】尻はしょり (尻端折り)。着物のつま (褄) を折りかかげて帯びに挟むこと。明治生まれの老年層の使用語で上品な語感を有する。「折り上げ取り」の義『石垣方言辞典』という。若年層はシ゜ビ˥カライ [ʃi゜bi˥karai](しりからげ < 尻からげ >) という。ア゜ミ˥ヌ　゜フイ˥バ　゜ワー　キン˥ヌ　ッ゜ソー˥　ブライトゥリ　゜シェー˥ティ　˥パリバ [ʔa゜mi˥nu ゜ɸui˥ba ゜waː kin˥nu s゜soː˥ buraituri ゜ʃeː˥ti ˥pariba](雨が降るから君の着物の裾を尻端折りしながら行きなさいよ)。

プ゜ラ˥グ [pu゜ra˥gu] 【名】農具。洋式鋤。牛に引かせる鋤(スキ)。英語の Plough(Plow) から転訛したものか。戦前の鳩間島では台湾から輸入されたものが使われていた。プ゜ラグ˥バ　ウ゜シン˥　ピ゜カシティ˥　パ゜タ˥キ　シゥ゜カソー˥ル　プ゜スン　オーッ˥タン [pu゜ragu˥ba ʔu゜ʃim˥ pi̥゜kaʃiti˥ pḁ゜ta˥ki si̥゜kasoː˥ru pu̥゜suŋ ʔoːt˥taŋ](プラグ < 洋式犂(スキ)> を牛に牽かせて畑を鋤かされる人もおられた)。˥プロー [˥puroː] とも。

ブ゜ラクゾーカイ [bu゜rakuʤoːkai] 【名】部落常会。標準語からの借用語。昔は、ム゜ラズルイ [mu゜raʤu-rui](村揃い) といったが、部落会という制度ができてから、旧暦正月の後に初常会が持たれ、一年の村行事の日程がきめられたという。˥ソンガチヌ　パ゜チゾーカイ˥ナール　゜ニンズーヌ　ギョージ˥ヌ　゜ピューロー˥　キ゜モーッ˥タツォー [˥soŋgatʃinu pḁ゜tʃiʤoːkai˥naːru ゜ninʤuːnu gjoːʤi˥nu ゜pjuːroː˥ ki゜moːt˥tatsoː](正月の後の初常会で年中の部落行事の日程 < 日和 > は決められたそうだ)。

ブ゜ラシキ˥ムヌ [bu゜raʃi̥ki˥munu] 【名】ぼんやり者。気力がなく、精神作用が落ち込んで健全な活動ができない者。ブ゜ラシキ˥ムヌ　˥ナリティ　ウ゜レー˥　プ゜スアティ˥　ナ゜ラ˥ヌ [bu゜raʃiki˥munu ˥nariti ʔu゜reː˥ pu̥゜suʔati˥ na゜ra˥nu](ぼんやり者になって、彼は人頼みできない < 一人前の人として当てにならない >)。

フ゜ラックン [ɸu゜rakkuŋ] 【自動・他動】開く。プ゜ラックン [pu゜rakkuŋ](開く) と同じ。ウ゜キ˥ルカー　゜ナンクク˥ル　˥ミー　フ゜ラックン [ʔu゜ki˥ruka: ゜naŋkuku˥ru ˥mi: ɸu゜rakkuŋ](起きたらおのずと目が開く)。フ゜ラッカヌ [ɸu゜rakkanu](開かない)。

プ゜ラックン [pu゜rakkuŋ] (1)【自動】開く。人の目、鼻、耳の穴、肝 (心) などの塞がっていたのが゜開く」の意味で用いる。パ゜ナヌ˥　プ゜ラックン [pa゜nanu˥ pu゜rakkuŋ](詰まっていた鼻が開く)。若年層は、フ゜ラックン [ɸu゜rakkuŋ](開く) ともいう。フ゜チ

˥ル　˥ヌムカー　ッ˞サーリ　ベー　ミー˥ユン　プ˞ラックンティ˥　ス˞クタンドゥ˥　マ˞ダ˥　プ˞ラッカンバン [ɸu˞ʧi˥ru ˥numuka: s˞sa:ri be: mi:˥jum pu˞rakkunti˥ su̥˞kutandu˥ ma˞da˥ pu˞rakkambaŋ](薬を飲むと閉じて＜塞いで＞いる目も開くと聞いたが、まだ開かないよ)。˞ミー˥ヤ　プ˞ラッキティ　キー˥シキ　˥ミリ　˞ベー [˞mi:˥ja pu˞rakkiti ki:˥ʃi̥ki ˥miri ˞be:](目を開いてじっと見つめている)。˞ミー˥ヌ　プ˞ラック˥　クトー　˥アンカヤー [˞mi:˥nu pu˞rakku˥ ku̥to: ˥ʔaŋkaja:](目が開くことはあるかねえ)。˞パーク˥　プ˞ラッケー˥　ミサムヌ [˞pa:˥ku pu˞rakke:˥ misamunu](早く開けばいいのに)。˞マー˥ビン　プ˞ラッキ [˞ma:˥bim pu˞rakki](もっと開け)。

(2)【他動】開く。ウ˞リヌ˥　キム　プ˞ラックンティ　スンドゥ˥　ムッ˞トゥ˥　キム　プ˞ラッカサラヌ [ʔu˞rinu˥ kimu pu˞rakkunti sundu˥ mut˞tu˥ kimu pu˞rakkasaranu](彼の心を開こうとするが、ちっとも心を開かされない)。ウ˞リヌ˥　キム　プ˞ラッキティ˥　プ˞ストゥン˥　ムニ　イ˞ザシ˥　プサン [ʔu˞rinu˥ kimu pu˞rakkiti˥ pu̥˞sutum˥ muni ʔi˞ʤaʃi˥ pu̥saŋ](彼の心を開かせて＜開いて＞、他人とも話をさせたい＜言葉を言わせたい＞)。

˥ブラッサーク [˥burassa:ku]【名】大声でする咳。しわがれごえ (嗄れ声) でする咳。「法螺貝咳」の義。ピ˞ラク˥ヌ　˞スー˥カー　˥ウマー　カマーラ　˥ブラッサークヌ　シゥ˞カリン [pi˞raku˥nu ˞su:˥ka: ˥ʔuma:kama:ra ˥burassa:kunu si̥˞kariŋ](寒波がくると、あちこちからしわがれ声の咳が聞こえてくる)。

フ˞ラビルン [ɸu˞rabiruŋ]【他動】較べる。比較する。「Curabe,uru,eta. クラベ、ブル、ベタ、(比べ、ぶる、べた) 物と物とを比較する、または、対照する.」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˥ブーキントゥ　˥バサキントゥ　˞ヌー˥ル　マ˞シ˥ユー　フ˞ラビルンティ　スンドゥ˥　フ˞ラビララヌ [˥bu:kintu ˥basakintu ˞nu:˥ru ma˞ʃi˥ju: ɸu˞rabirunti sundu˥ ɸu˞rabiraranu](麻糸の着物と芭蕉糸の着物はどれがよいか比べようとするが、比べられない)。フ˞ラビ˥　ミリバ [ɸu˞rabi˥ miriba](比べてみなさい)。ク˞リトゥ˥　フ˞ラビル˥　ム˞ノー˥　ノー˞ン　ナー˥ヌ [ku˞ritu˥ ɸu˞rabiru˥ mu˞no:˥ no:˞n na:˥nu](これと比べる物は何もない)。˞マー˥ビン　フ˞ラビレー˥　ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ɸu˞rabire:˥ misamunu](もっと比べればいいのに)。˞パー˥ク　フ˞ラビリ [˞pa:˥ku ɸu˞rabiri](早く比べろ)。

˥フラフカー [˥ɸuraɸu̥ka:]【名】法螺吹き。大言をする人。でたらめをいう人。多少卑称のニュアンスを伴う。フ˞ラフキ˥ムヌ [ɸu˞raɸu̥ki˥munu](法螺吹き者) ともいう。ウ˞レー˥　フラフカー　ヤ˞ルンダ˥　ウ˞リヌ˥　ムネー　ス˞クナ [ʔu˞re:˥ ɸuraɸu̥ka: ja˞runda˥ ʔu˞rinu˥ mune: su̥˞kuna](彼は法螺吹きだから、彼の話は聞くな)。

フ˞ラフキ˥ムヌ [ɸu˞raɸu̥ki˥munu]【名】法螺吹き。大言をいう人。でたらめをいう人。フ˞ラフキムヌ˥ヌ　ア˞ズ˥　ムネー　˞ミーヤ　ナー˥ヌ [ɸu˞raɸu̥kimunu ˥nu ʔa˞ʤu˥ mune: ˞mi:ja na:˥nu](法螺吹きのいうことは真実味＜中身＞はない)。

˥フラ　˥フクン [˥ɸura ˥ɸu̥kuŋ]【連】法螺を吹く。大言をいう。ウ˞レー˥　サ˞キ˥　ヌムカー　˞サッ˥コー　˥フラ　˥フクン [ʔu˞re:˥ sḁ˞ki˥ numuka: ˞sak˥ko: ˥ɸura ˥ɸu̥kuŋ](彼は酒を飲むと非常に法螺を吹く)。

フ˞ラフラー　スン [ɸu˞raɸura: suŋ]【連】ふらふらする。ドゥ˞ク˥ヌ　˞ヤーサ˥トゥ　ブ˞ガリ˥トゥサーリ　フ˞ラフラー　シェー˥ティ　ヤッ˞トゥ˥シ　ア˞ラ˥キ　˞クータ˥ル [du˞ku˥nu ˞ja:sa˥tu bu˞gari˥ tusa:ri ɸu˞raɸura: ʃe:˥ti jat˞tu˥ʃi ʔa˞ra˥ki ˞ku:ta˥ru](あまりのひだるさと疲れとでふらふらしながら歩いてきたよ)。

フ˞ラブン [ɸu˞rabuŋ]【他動】比べる。比較する。「くらぶ (下二)」の転訛したもの。若年層はク˞ラブン [ku˞rabuŋ](比べる) ともいう。フ˞タール˥　フ˞ラブンティ˥　ウムーカ　フ˞ラバリンドゥ˥　フ˞ラブ˥　クトー　ナ˞ラ˥ヌ [ɸu̥˞ta:ru˥ ɸu˞rabunti˥ ʔumu:ka: ɸu˞rabarindu˥ ɸu˞rabu˥ ku̥to: na˞ra˥nu](二人を比べようと思えば比べられるが、比べることは出来ない)。フ˞ラビ˥　プサカー　フ˞ラビ˥バ [ɸu˞rabi˥ pu̥saka: ɸu˞rabi˥ba](比べたかったら比べなさいよ)。フ˞ラベー˥　ミサムヌ [ɸu˞rabe:˥ misamunu](比べればいいのに)。

˥ブラヤッコン [˥burajakkoŋ]【名】ほらがい (法螺貝) で造った湯沸し。「法螺貝薬缶」の義。戦前までは、西表島の北岸で水田耕作に従事する際に使用していた。田圃小屋を作って、五六日泊りがけの通耕であったから、簡単な炊飯器具類を用意していた。˥ブラヤッコンシ　フ˞カ˥ス　˞サー˥ヤ　ン˞マー˥タンティ˞ダー [˥burajakkoŋʃi ɸu̥˞ka˥su ˞sa:˥ja ʔm˞ma:˥tanti˞da:](法螺貝の湯沸しでたてる＜沸かす＞茶は、美味しかったそうだよ)。

ブ˞リ [bu˞ri]【名】群れ。群がっているもの。カ˞ツヌ˥　ブ˞リヌ˥　ミ˞ラ˥リン [kḁ˞tsunu˥ bu˞rinu˥ mi˞ra

˺riŋ](カツオの群れが見える < 見られる >)。プ˞スヌ˺　ブ˞リヌ　ユーシ˺　クーン [pu̥˞sunu˺ bu˞rinu juːʃi˺ kuːŋ](人の群れが寄せてくる)。

˞-ブリ [˞-buri] 【接尾】～に夢中になること。～惚れすること。シ˞グトゥブリバ　シー˺　˺アシスコールン　˞バシキ　ベー [ʃi˞gutuburiba ʃiː˺ ʔaʃisu̥koːrum ˞baʃi̥ki beː](仕事に夢中になって < 仕事惚れして > 昼食の準備も忘れている)。ア˞サビブリ [ʔa˞sabiburi](遊びに夢中になること)。

˺ブリー [˺buriː] 【名】無礼。失礼。˞ヨイ˺　シン　˞キーユーサ˺ムティ　シ˞カイトゥ˺　ブリー　˺ナリ　˞ブー˺ユー [˞joi˺ ʃiŋ ˞kiːjuːsa˺muti si̥˞kaitu˺ buriː ˺nari ˞buː˺juː](お祝いにあがれず < お祝いしに来ることができず > 大変失礼しております)。

プ˞リープリ˺シ [pu˞riːpuri˺ʃi] 【副】あたかも気がふれたように。気違いのように。馬鹿みたいに。「Foreforeto. ホレホレト (耄(ホ)れ耄(ホ)れと) 副詞. 恋愛とかその他の愛情とかのために夢中になり、気違いのようになるさま」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。プ˞リープリ˺シ　˺ムニ　イ˞ジ　ベー˺ンドゥ　ウ˞レー˺　ナー˞イ˺　プ˞リスクライバル　シー　ベー˺ダー [pu˞riːpuri˺ʃi ˺muni ʔi˞ʤi beː˺ndu ʔu˞reː˺ naː˞ji˺ pu˞risu̥kuraibaru ʃiː beː˺daː](あたかも気がふれたように話しているが、彼はただ気違いのふりをしている < 狂れ繕いしている > だけだ)。

プ˞リアサビ [pu˞riʔasabi] 【名】ばか遊び。つまらない遊び。「狂れ遊び」の義。プ˞リアサビ　サンドー˺シ　パ˞タラキ˺バ [pu˞riʔasabi sandoː˺ʃi pḁ˞taraki˺ ba](ばか遊びしないで働けよ)。

プ˞リ˺ウン [pu˞riˀʔuŋ] 【名】「掘り芋」の義。カ˞ノーシ [ka˞noːʃi](かなぐし < 金串 >) で芋の根を探って掘り出したサツマイモ。˞カイシ˺ウン [˞kaiʃi ˺ʔuŋ](鍬で耕して収穫するサツマイモ) の対義語。ム˞カ˺シェー　カ˞ノーシ˺シ　˞ウン˺ヌ　˞ニー˺バ　サ˞ドゥレー˺ティ　˺ウン　プ˞ローッ˺タン [mu˞ka˺ ʃeː ka˞noːʃi˺ʃi ˞ʔun˺nu ˞niː˺ba sa˞dureː˺ti ˺ʔum pu˞roːt ˺taŋ](昔は金串で芋の根を探りながらイモを掘られた)。

ブ˞リ˺　クーン [bu˞ri˺ kuːŋ] 【連】群れて来る。ウ˞ブナン˺ヌ　ブ˞リ˺　クーン˞ドー˺　フネー　˞オーラー˺　ン˞カーシ [ʔu˞bunan˺nu bu˞ri˺ kuːn˞doː˺ ɸuneː ˞ʔoːraː˺ ʔŋ˞kaːʃi](大波が群れて寄せてくるぞ。船は風上へ向けろ)。

プ˞リサキ [pu˞risaki] 【名】狂い咲き。季節外れに植物の花が咲くこと。グ˞ジ˺ヌ　パ˞ナ˺ヌ　プ˞リサキシー　ベー˺ヌ　˺ヌンティカヤー [gu˞ʤi˺nu pa˞na˺nu pu˞risaki ʃiː beː˺nu ˺nuntikajaː](デイゴの花が季節外れに狂い咲きしているが、何故だろうかねえ)。

プ˞リシゥカラ [pu˞risi̥kara] 【名】ばかぢから (馬鹿力)。くそぢから。「ほれぢから (耄れ力)」の義。プ˞ソー˺ヨー　˞トーティ　スー˺カー　プ˞リシゥカラヌ˺　ン˞ジ˺ルン˞ダー˺　バー　ッ˞ふァ˺　フ˞タール˺　ユ˞クサンダキバ˺　シ˞ティ˺　ス˞ブ˺ルナーヤ　˞サントゥダー˺ラ　˺カミティ　˞ボークー˺ゴー　˞ピン˺ギ　˞クー˺タン˞ダー [pu̥˞soː˺joː ˞toːti suː˺kaː pu˞risi̥karanu˺ ʔn˞ʤi˺run˞daː˺ baː f˞faba˺ ɸu̥˞taːru˺ ju˞ku-sandakiba˺ ʃi̥˞ti˺ su˞bu˺runaːja ˞santudaː˺ra ˺kamiti ˞boːku˺goː ˞piŋ˺gi ˞kuː˺tan˞daː](人はねえ、いざとなれば馬鹿力が出るよ。私は子供を二人を横ざまに抱きにかかえ、頭には三斗俵を載せて防空壕に逃げ延びてきたことがあるんだよ)。

ブ˞リズー [bu˞riʤuː] 【名】居所。住所。タ˞ベー˺　パルカー　ヤー˞ディン　ドゥー˺ヌ　ブ˞リゾー˺　マーティ　シゥ˞カシ˺ダー [ta˞beː˺ paruka: ja:˞din duː˺ nu bu˞riʤoː˺ maːti si̥˞kaʃi˺daː](旅へ行ったら必ず自分の住所は何処だと知らせなさいよ)。

プ˞リスクライ [pu˞risu̥kurai] 【名】気違い (狂人) のふり。狂人つくろい。「ほれつくろい (耄れ繕い)」の義。-ス˞ク˺ライ [-su̥˞ku˺rai](～のふりをする。～繕い。～きどり) は動詞の連用形から転成した名詞や普通の名詞に下接して「～のように取り繕う」の意味を表す接尾語。「Tçucuroi, rô, ôta. ツクロイ、ウ、ウタ (繕・刷・口刷ひ、うた) 整える、または、飾る・Miuo tçukurô.(身をつくろふ) 立派に身を装う」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ナー˞イ˺　プ˞リスクライバ　シー˺　プ˞スヌ　ミー˺バ　ダ˞マシベー [naː˞ji˺ pu˞risu̥kuraiba ʃiː˺ pu̥˞sunu miː˺ba da˞maʃi beː](ずっと気違いのふりをして人の目を騙している)。

ブ˞リ˺　ス˞ク˺ルン [bu˞ri˺ su̥˞ku˺ruŋ] 【連】群れを作る。カ˞ツォー˺　ブ˞リ˺　ス˞ク˺レーティル　˞アー˺ク [kḁ˞tsoː˺ bu˞ri˺ su̥˞ku˺reːtiru ˞ʔaː˺ku](カツオは群れを作りながら < ぞ > いるのだ)。

プ˞リタクマ [pu˞ritakuma] 【名】気違いの悪知恵。耄(ホ)れ者 < 阿呆 > だが自分の得になることには悪智恵が働くこと。タ˞ク˺マ [tḁ˞ku˺ma] は、タ˞ク˺ムン [tḁ˞ku˺muŋ](工夫をめぐらす。企む) の連用形タ˞ク˺ミ [tḁ˞ku˺mi] に、接尾語˺アー [˺ʔaː](～する人。～すること) が下接して形成されたもの。ウ˞レー˺

カ゚タチトー゛　ア゚タラン゛　プ゚リタクマー　ベー゛ラン　カ゚チ゛ル　゛ブー [ʔuˈreː˞ kạˈtatʃitoː˞ ʔaˈtaram˞ puˈritakumaː beː˞raŋ kạˈtʃi˞ru ˞buː](彼は外見とは似合わず＜当らず＞、気違いの悪知恵は我々よりも優れて＜勝って＞いる)。

ブ゚リッカー゛スン [buˈrikkaː˞suŋ] 【他動】折る。折り畳む。折り合わせる。カ゚ビ゛　ブ゚リッカー゛スン [kaˈbi˞ buˈrikkaː˞suŋ](紙を折り畳む)。ブ゚リッカーサ゛ヌ [buˈrikkaːsa˞nu](折り畳まない)。ブ゚リッカー゛シ　゛ミサン [buˈrikkaː˞ʃi ˞misaŋ](折り畳んでも良い)。ブ゚リッカー゛ス　゛クトゥ [buˈrikkaː˞su ˞kụtu](折り重ねること)。ブ゚リッカー゛シェー　゛ミサムヌ [buˈrikkaː˞ʃeː ˞misamunu](折り畳めば良いのに)。ブ゚リッカー゛シバ [buˈrikkaː˞ʃiba](折り畳めよ)。

ブ゚リッカー゛ムン [buˈrikkaː˞muŋ] 【他動】折り曲げる。折って縮める。折り畳む。ブ゚ルッカー゛ムン [buˈrukkaː˞muŋ](折り畳む) ともいう。カ゚ビ゛　ブ゚リッカー゛ムンティ　゛スンドゥ　コー゛ンダ　ブ゚リッカーマン゛ドーシ　イ゚リリ゛バ [kaˈbi˞ buˈrikkaː˞munti ˞sundu koː˞nda buˈrikkaːman˞doːʃi ʔiˈriri˞ba](紙を折り畳もうとするが、固いので、折り畳まないで入れなさい)。ブ゚リッカー゛ミ　゛ナー゛ヌ [buˈrikkaː˞mi ˞naː˞nu](折り畳んでしまった)。ブ゚リッカー゛ム　゛ムノー　゛ヌーヤ [buˈrikkaː˞mu ˞munoː ˞nuːja](折り畳むものは何か)。ブ゚リッカー゛メー　゛ミサムヌ [buˈrikkaː˞meː ˞misamunu](折り畳めばいいのに)。゛パー゛ク　ブ゚リッカー゛ミバ [˞paː˞ku buˈrikkaː˞miba](早く折り畳めよ)。

ブ゚リッカイスン [buˈrikkaisuŋ] 【自動】ぶり返す。病気などがぶり返す。再発する。゛ピン゛グルカー　゛ニチェー　ブ゚リッカイスンダ゛　ブ゚リッカイサン゛ヨー　゛キン゛マー　ア゚チーアチー゛シ　キ゚シ゛バ [˞piŋ˞guruka: ˞nitʃeː buˈrikkaisunda˞ buˈrikkaisaŋ˞joː ˞kim˞maː ʔaˈtʃiːʔatʃiː˞ʃi kị˞ʃi˞ba](冷え込むと熱が再発する＜ぶりかえす＞から、再発しないように着物は温かく重ね着しなさいよ)。゛ヤン゛ヌ　ブ゚リッカイ゛シティル　ニ゚ビベー゛バン [˞jan˞nu buˈrikkai˞ʃị̊tiru niˈbibeː˞baŋ](病気が再発して＜ぞ＞寝ているわい)。ブ゚リッカイ゛ス　゛クトー　゛ナー゛ヌ [buˈrikkai˞su ˞kụtoː ˞naː˞nu](再発することはない)。ブ゚リッカイ゛シェー　゛ミサムヌ [buˈrikkai˞ʃeː ˞misamunu](ぶりかえせば＜再発すれば＞いいのに)。ブ゚リッカイ゛シ [buˈrikkai˞ʃi](ぶり返せ)。

プ゚リッサイ [puˈrissai] 【名】わかしらが (若白髪)。「ほれしらが (耄(ホ)れ白髪)。狂い白髪」の義で、白髪の生える年齢でない若い人に生える白髪のこと。「Vacaxiraga. ワカシラガ (若白髪) まだそのような時期でないのに生える白髪」『邦訳日葡辞書』のこと。バ゚カー゛ムヌヌ　プ゚リッサイバ゛　ムイティ　゛ヌーヤ　ウ゚レー　ミッ゛トーン　゛ナー゛ヌ [baˈkaː˞mununu puˈrissaiba˞ muiti ˞nuːja ʔuˈreː mit˞toːn ˞naː˞nu](若者だのに若白髪＜耄れ白髪＞が生えて何だねそれは、みっともない＜外聞がわるい＞)。

ブ゚リティ [ブ゚リテイ] 【連】～て居って。「居りて」の義。動詞の連用形について「～していて」の意を表す。話者の動作と話者と同等、又は目下者の動作について用いる。「～旅を苦しみ戀ひ乎礼婆＜ヲレバ＞～。万、3674」の転訛したものか。目上に対しては、゛オー゛ルン [˞ʔoː˞ruŋ](いらっしゃる。「おはす」の転訛したもの) を用いる。イ゚チン゛　ヤ゚タンティン゛　ナルンティ　ア゚ジブリティ　トーティ　スー゛カー　゛シーサン゛ティ　ア゚ズワーン゛ノー [ʔiˈtʃiŋ˞ jaˈtantin˞ narunti ʔaˈʤiburiti toːti suː˞kaː ˞ʃiːsanti˞ ʔaˈʤuwaːn˞noː](いつでも＜いつであっても＞出来ると言っていながら、いざとなると＜いざというと＞、出来ないと言うではないか)。

ブ゚リパダラ [buˈripadara] 【名】 (動) 魚の名。ナナメトラギス (体長約 20 センチ)。「群れパダラ (トウゴロイワシの群れ)」の義。

プ゚リパンタリ [puˈripantari] 【名】異常に太ること。馬鹿太りすること。プ゚リ [puˈri](狂れる) の連用形で、「異常さ」や「常軌(ジョウキ)を逸(イッ)すること」を表す接頭語。゛ヌー゛バ　ッ゚ふァイティル゛　ウ゚リ　タン゛ガ　゛アイニ　プ゚リパンタリ　シーベー゛ユー　゛ミーヌッサ゛ヌ　ナ゚ラ゛ヌ [˞nuː˞ba fˈfaitiru˞ ʔuˈritaŋ˞ga ˞ʔaini puˈripantari ʃiːbeː˞juː ˞miːnussa˞nu naˈra˞nu](何を食べて彼一人だけあのように馬鹿太りしているのか、見苦しくて堪らない)。

ブ゚リブシ [buˈribuʃi] 【名】すばる (昴) 星。むつらぼし (六連星)。ム゚リカブシ [muˈrikabuʃi](群れ星) ともいう。゛クナーティ　ブ゚リブシヌ゛　ミ゚ラ゛リン [˞kunaːti buˈribuʃinu˞ miˈra˞riŋ](此処では昴星がみえる)。

ブ゚リ゛フチ [buˈri˞ɸutʃi] 【名】折り取った先端。タ゚キヌ゛　ブ゚リ゛フチナ　゛ピッカ゛リティ　゛ヤミ　ナ゚ラ゛ヌ [tạˈkinu˞ buˈri˞ɸụtʃina ˞pikka˞riti ˞jami naˈra˞nu](竹を折り取った先端に突かれ＜刺され＞て、痛くて堪らない)。

プリマースン [ɸuˈrimaːsuŋ] 【他動】振り回す。゛ガッケー゛　プリマーシェー゛ティ　゛ガヤー　゛スリ　゛

ベー [゜gakˀke: ɸu゜rima:ʃe:ˀti ˀgaja: ˀsuri ゜be:](鎌を振り回わしながら茅を刈っている)。ˀウディ　フ゜リマースンティ　スンドゥ　カイナˀヌ　ˀヤミティ　フ゜リマーサラヌ [ˀ?udi ɸu゜rimasunti sundu kainaˀnu ˀjamiti ɸu゜rima:saranu](腕を振り回そうとするが、肩が痛くて振り回されない)。ˀウディ　フ゜リマースˀ　クトー　ナ゜ラˀヌ [ˀ?udi ɸu゜rima:suˀ ku̥to: na゜raˀnu](腕を振り回すことは出来ない)。フ゜リマーシェーˀ　ミサムヌ [ɸu゜rima:ʃe:ˀ misamunu](振り回せばいいのに)。ヤー゜ディンˀ　フ゜リマーシ [ja: ゜diŋˀ ɸu゜rima:ʃi](必ず振り回せ)。

プ゜リマービ [pu゜rima:bi] 【名】気の狂った真似。狂人の真似。「ほれまね (耄れ真似)」の義。ウ゜レーˀ　プ゜リマービバル　シーベーˀル　゜ソープレーシーˀ　ブ゜ラーヌ [?u゜re:ˀ pu゜rima:bibaru ʃi:be:ˀru ゜so:pure: ʃi:ˀ bu゜ra:nu](彼は気ちがいの真似をしているのであって、本当に狂って＜本当の狂いはして＞いない)。

ブ゜リˀミー [bu゜riˀmi:] 【名】二重まぶた。ˀカーミー [ˀka:mi:](一重まぶた) の対義語。ウ゜キナーˀプソー　ブ゜リミーˀル　゜ゴーˀラー　ヤ゜マトゥˀプソー　ˀカーミール　゜ゴーˀラー [?u゜kina:ˀpu̥so: bu゜rimi:ˀru ゜go:ˀra: ja゜matuˀpu̥so: ˀka:mi:ru ゜go:ˀra:](沖縄人は二重まぶたが多い。本土＜大和＞の人は一重瞼(マブタ)が多い)。「折れ目」の義。ˀカーミー [ˀka:mi:](一重瞼) の対義語。ウ゜キナーˀプソー　ミ゜ドゥˀモー　ブ゜リミーˀル　ア゜バˀレーティ　ア゜ザリ　ブートダー [?u゜kina:ˀpu̥so: mi゜duˀmo: bu゜rimi:ˀru ?a゜baˀre:ti ?a゜ʤari bu:ɦda:](沖縄の人は、女は二重瞼が美しいといわれているよ)。

プ゜リムニ [pu゜rimuni] 【名】ばかげた言葉。意味のない言葉。たわごと。「ふれものいい (耄(フ)れ物言い)」の義。ˀアイブ　プ゜リムネーˀ　ス゜クナˀヨー [ˀ?aibu pu゜rimune:ˀ su̥゜kunaˀjo:](あんなばかげた言葉＜話＞は聞くなよ)。サ゜キヌミプスˀヌ　ˀムネー　プ゜リムニルˀ　ヤ゜ル　ソームネーˀ　ア゜ラˀヌ [sḁ゜kinumipu̥suˀnu ˀmune: pu゜rimuniruˀ ja゜ru so:mune:ˀ ?a゜raˀnu](酒飲みの言うこと＜言葉＞はたわごとであって真の言葉＜本心を述べた、中身のある言葉＞ではない)。

プ゜リムヌ [pu゜rimunu] 【名】あほう。馬鹿。気違い。狂人。「ほれもの (耄れ者)」の義。「Foremono. ホレモノ (耄れ者)Foreta fito(耄れた人) におなじ. 分別のなくなった人、あるいは、老いぼれたひと.〜」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˀトゥシ　トゥ゜ルˀター　プ゜リムヌˀ　ナリティ　ˀヤコー　タ゜タˀヌ [ˀtu̥ʃi tu゜ruˀta: pu゜rimunuˀ nariti ˀjako: tḁ゜taˀnu](年を取ったので馬鹿になって役に立たない)。

プ゜リムヌ [pu゜riˀmunu] 【名】ほりもの (彫物)。彫刻。゜インヌムラヌˀ　ミ゜ルクヌˀ　プ゜リˀムノー　ˀマナーティル　ス゜クˀローッタカヤー [ˀ?innumuranuˀ mi゜rukunuˀ pu゜riˀmuno: ˀmana:tiru su̥゜kuˀro:ttaka-ja:](西村の弥勒の彫刻はどこで作られたのかなあ)。

ブ゜リˀルン [bu゜riˀruŋ] 【自動】折れる。ク゜ヌˀ　ユ゜ダˀナ　ッ゜サーˀルカー　ブ゜リˀルン [ku゜nuˀ ju゜daˀna s゜sa:ˀruka: bu゜riˀruŋ](この枝にぶら下がると折れる)。カ゜ジヌˀ　フ゜カˀバン　ブ゜リラˀヌ [ka゜ʤinuˀ ɸu̥゜kaˀbam bu゜riraˀnu](風が吹いても折れない)。ク゜ヌˀ　ユ゜ダーˀ　ブリミサン [ku゜nuˀ ju゜da:ˀ burimisaŋ](この枝は折ってもよい)。カ゜ジヌˀ　フ゜カˀバン　ブ゜リˀル　ˀクトー　゜ナーˀヌ [ka゜ʤinuˀ ɸu̥゜kaˀbam bu゜riˀru ˀku̥to: ゜na:ˀnu](風が吹いても折れることはない)。゜パーˀク　ブ゜リˀレー　ˀミサムヌ [゜pa:ˀku bu゜riˀre:ˀ misamunu](早く折れればいいのに)。゜パーˀク　ブ゜リˀリ [゜pa:ˀku bu゜riˀri](早く折れろ)。

プ゜リルン [pu゜riruŋ] 【自動】 1気違いになる。狂う。ぼける (惚ける)。馬鹿になる。「耄、ホレタリ」『伊呂波字類抄』。「已に衰へ邁＜す＞ぎ耄＜ほ＞れ虚＜うつ＞け」『金光明最勝王経音義』。シ゜グトゥ　サンˀカー　プ゜ソーˀ　プ゜リルンダˀ　プ゜リランˀヨーニ　シ゜グトゥ　シーˀバ [ʃi゜gutu saŋˀka: pu̥゜so:ˀ pu゜rirundaˀ pu゜riraŋˀjo:ni ʃi゜gutu ʃi:ˀba](仕事をしないと人は惚(ホ)ける＜狂う＞から、惚け＜狂わ＞ないように仕事をしなさい)。プ゜リティˀ　ノー゜ンシーサヌ [pu゜ritiˀ no:゜ŋ ʃi:sanu](惚け＜狂っ＞て何も出来ない)。ウ゜ヌˀ　クトゥシ　プ゜リルˀ　プ゜スン　ブン [?u゜nuˀ ku̥tuʃi pu゜riruˀ pu̥゜sum buŋ](そのことで惚ける＜狂う＞人もいる)。プ゜リルˀカー　カ゜シーカシーˀ　プ゜リレーˀ　ミサムヌ [pu゜riruˀka: ka゜ʃi:kaʃi:ˀ pu゜rire:ˀ misamunu](惚けるならすっかり惚ければいいのに＜うすら惚けしてこまる＞)。プ゜リリ [pu゜riri](惚けれ)。2惚れる。異性に心を奪われ、恋い慕う。「Fore,ruru,eta.(耄れ、るる、れた) 分別がなくなる、または、年取ってぼける、〜Fitoni foruru.(人に耄るる) ある人に熱狂的な愛情、感情を抱く.」『邦訳日葡辞書』。ミ゜ドゥˀムナー　プ゜リティ　ヨーˀゾー　シ゜キララˀヌ [mi゜duˀmuna pu゜riti jo:ˀʤo: ʃi̥゜kiraraˀnu](女にぞっこん惚れてどうにも手がつけられ＜養生でき＞ない)。

プ˹リワザ [pu˹riwaʥa] 【名】正気とは思われないふるまい。ばかげた行動。気が狂ったような行動。狂態。ウ˹ブプス˺ヌ　ア˹ティナシヌ˺　ヤ˹ラビ˺トゥ　˹マータキ˺　ナリティ　プ˹リワザバ　シー˺　イ˹ナムヌ˺ダラ [ʔu˹bupu̥su˺nu ʔa˹tinaʃinu˺ ja˹rabi˺tu ˹ma:taki˺ nariti pu˹riwaʥaba ʃi:˺ ʔi˹namunu ˺dara](大人のくせに分別のない子供と一緒になって、正気とは思われない振る舞いをして誠に残念なことだよ)。

ブ˹リンマ [bu˹riʔmma] 【名】群れをなす馬。「群れ馬」の義。バ˹カー˺ムヌヌ　ア˹ツァ˺マリ　˺パリパル　˺ムヌ　˺ミルカー　ブ˹リンマヌ˺　パル　˺カタチニル　˹ブー [ba˹ka:˺mununu ʔa˹tsa˺mari ˺pariparu ˺munu ˺miruka: bu˹riʔmmanu˺ paru ˺kḁtatʃiniru ˹bu:](若者らが集まって走って行くのをみると、群れ馬が走っていくようにいる)。

フ˹ル [ɸu˹ru] 【名】**1**いんのう (陰嚢)。睾丸。「陰嚢、俗云、布久利 (ふぐり)」『和名抄』。「Fuguri. フグリ (陰嚢)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。シ˹マ˺バ　˺トゥリ　˹ベーン˺ケン　タ˹ニ˺ヌ　フ˹ル˺　キ˹ラ˺リティ　ナ˹キ　ベー˺タ [ʃi˹ma˺ba ˺turi ˹be:ŋ˺keŋ ta˹ni˺nu ɸu˹ru˺ ki˹ra˺riti na˹ki be:˺ta](相撲をとっているうちに性器の陰嚢を蹴られて泣いていた)。**2** 秤のおもり (錘)。ふんどう (分銅)。ピ˹キヌ˺　フ˹ル [pi̥˹kinu˺ ɸu˹ru](竿秤の錘)。**3**時計の振り子。トゥ˹キ˺ヌ　フ˹ロー˺　トゥ˹マリ　ベー [tu̥˹ki˺nu ɸu˹ro:˺ tu˹mari be:](時計の振り子は止まっている)。

フ˹ル˺ザ [ɸu˹ru˺ʥa] 【名】くじら (鯨)。フ˹ルザ˺ヌ　˹トーリバ˺ル　˺タコー　˺スク [ɸu˹ruʥa˺nu ˹to:riba˺ru ˺tḁko: ˺su̥ku](鯨が大きな尾びれで波を叩いて通ったら <ぞ> 蛸は干瀬に付くものだ <諺>)。昔は、鳩間島の前の渡 <海峡> を東から西へ 2 頭ずつ揃って遊泳していった。昔はカツオ漁船からもよく見たが、最近はあまり見ない。フ˹ル˺ザー　˹ズーバ　アウ˺レーティ　˹アー˺ク。˺バスプソータ　˹スー˺バ　˺フケーティル　˺パル。ッ˹ス˺ム　˺バソー　˹コー˺グ　マ˹ガリティル˺　ッ˹ス˺ム [ɸu˹ru˺ʥa: ˹ʥu:ba ʔau˺re:ti ˹ʔa:˺ku。˺basupu̥so:ta ˹su:˺ba ˺ɸu̥ke:tiru ˺paru。s˹su˺mu ˺baso: ˹ko:˺gu ma˹garitiru˺ s˹su˺mu](鯨は尾びれを煽りながら遊泳している。時には潮を吹いて行く。潜る時は背中が曲がって潜る)。

フ˹ル˺シキ [ɸu˹ru˺ʃi̥ki] 【名】風呂敷。石垣方言からの借用語か。老年層はウ˹スッ˺ふァイ [ʔu˹suf˺fai](風呂敷)、ウ˹スッ˺ふァイッスン [ʔu˹suf˺faissuŋ](風呂敷包み) のようにいう。フ˹ル˺シキナー　ッ˹ス˺ミティ　˺ムティ　˺パリバ [ɸu˹ru˺ʃi̥kina: s˹su˺miti ˺muti ˺pariba](風呂敷に包んで持って行きなさいよ)。

フ˹ル˺シケー [ɸu˹ru˺ʃi̥ke:] 【名】風呂敷。若年層は、フ˹ル˺シキ [ɸu˹ru˺ʃi̥ki](風呂敷) ともいう。ム˹カ˺シェー　˺ヌーンクイン　フ˹ル˺シケーナール　ッ˹ス˺ミティ　ム˹トーッ˺タ [mu˹ka˺ʃe: ˺nu:ŋkuiŋ ɸu˹ru˺ʃi̥ke:na:ru s˹su˺miti mu˹to:t˺ta](昔は何もかも風呂敷に包んで持っていかれた)。

フ˹ル˺シケーッスン [ɸu˹ru˺ʃi̥ke:ssuŋ] 【名】風呂敷包み。˺クナー　˺アル　ウ˹ブ˺　フ˹ル˺シケーッスンマ　˹ター˺ムヌヤ [˺kuna: ˺ʔaru ʔu˹bu˺ ɸu˹ru˺ʃi̥ke:ssumma ˹ta:˺ munuja](ここにある大きな風呂敷包みは誰の物か)。

フ˹ルシティカー˺シティ [ɸu˹ruʃi̥tika:˺ʃi̥ti] 【副】パタパタと振るって。布や衣類をパタパタ振るって塵を落として。ABCDEFCD 型の重言。˺マーカマーティ　˹ナー˺ン　˹キンバ˺　フ˹ルシティ　カー˺シティ　˹シェー˺ティ　フ˹クイ˺　トゥ˹バスナ [˺ma:kama:ti ˹na:˺ŋ ˹kim˺ba ɸu˹ruʃi̥tika:˺ʃi̥ti ˹ʃe:˺ti ɸu̥˹kui˺ tu˹basuna](所かまわず <どこそことなく> 着物をパタパタ振るいながら塵を飛ばすなよ)。

フ˹ルシティルン [ɸu˹ruʃi̥tiruŋ]【他動】振り捨てる。水分や塵埃を振り払う。払いのける。洗濯物等を振って水分を切る。˺ティーナ　˹フシゥ˺カリ　˹ベー˺ムヌ　フ˹ルシティルンティ　スンドゥ˺　フ˹ルシティラランヌ [˺ti:na ˹ɸusï̥˺kari ˹be:˺munu ɸu˹ruʃi̥tirunti sundu˺ ɸu˹ruʃi̥tiraranu](手にくっついているものを振り捨てようとするが、振り捨てられない)。フ˹ルシティティ˺　パリ　˹ナー˺ヌ [ɸu˹ruʃi̥titi˺ pari ˹na:˺nu](振り捨てて行ってしまった)。˹ティー˺ヌ　˺ヤムンダ　フ˹ルシティル˺　クトゥン　ナ˹ラ˺ヌ [˹ti:˺nu ˺jamunda ɸu˹ruʃi̥tiru˺ ku̥tun na˹ra˺nu](手が痛むので、振り捨てることも出来ない)。フ˹ルシティレー˺　ミサムヌ [ɸu˹ruʃi̥tire:˺ misamunu](振り捨てればいいのに)。˹パー˺ク　フ˹ルシティリ˺バ [˹pa:˺ku ɸu˹ruʃi̥tiri˺ba](早く振り捨てなさいよ)。

フ˹ルシトゥン [ɸu˹ruʃi̥tuŋ] 【他動】振り捨てる。塵などを振り払う。振るう。衣服などに付着した塵を振るって落とす。「すつ (捨つ) 下二段」の四段活用化したものが「振り」に下接して形成された形。˹ワー˺　ティーナ　˹フシゥ˺カリ　˹ベー˺　ムヌ　フ˹ルシトゥンティ　ベー˺ヌ　フ˹ルシタンドー˺シ　˺ガジ　ウ˹タ˺シバ [˹wa:˺ ti:na ˹ɸusï̥˺kari ˹be:˺ munu ɸu˹ruʃi̥tunti be:˺nu ɸu˹ruʃi̥tando:˺ʃi ˺gaʥi ʔu

˞taˀʃiba](君は、手にくっついているものを振り捨てようとしているが、振り捨てないで掻き落としなさいよ)。˞キンˀマー　フ˞ルシティティˀ　キ˞シˀヨー [˞kimˀma: ɸu˞ruʃi̥titiˀ ki̥˞ʃiˀjo:](着物は振るって＜振り捨てて＞から着なさいよ)。ˀクナー　フ˞ルシトゥ　キンˀマー　˞マーˀビン　フ˞ルシテーˀ　ミサムヌ [ˀkuna: ɸu˞ruʃi̥tu kimˀma: ˞ma:ˀbiŋ ɸu˞ruʃi̥teˀ misamunu](此処で振るう＜振り捨てる＞着物は、もっと振るえば＜振り捨てれば＞いいのに)。˞キンˀマー　キ˞スˀマイナー　ヤー˞ディンˀ　フ˞ルシトゥン [˞kimˀma: ki̥˞suˀmaina: ja:˞diŋˀ ɸu˞ruʃi̥tuŋ](着物は、着る前には必ず振りはらう＜振り払って埃を落とす＞)。フ˞ルシタンドーˀシ　キ˞シˀバ [ɸu˞ruʃi̥tando:ˀʃi ki̥˞ʃiˀba](振り払らわないで着なさいよ)。ˀカイニ　フ˞ルシティˀバ [ˀkaini ɸu˞ruʃi̥tiˀba](このように振るえよ＜振り捨てよ＞)。

ブ˞ルッカーミˀルン [bu˞rukka:miˀruŋ] 【他動】折り曲げる。折り畳む。ˀムス　ブ˞ルッカーミˀルンティ　˞スンドゥˀ　ブ˞ルッカーミララˀヌ [ˀmusu bu˞rukka:miˀrunti ˞sunduˀ bu˞rukka:mirara˞nu](筵(ムシロ)を折り畳もうとするが、折り畳まれない)。グ˞マーグマーˀシ　ブ˞ルッカーˀミ　ˀミサカー　ブ˞ルッカーミルˀ　クトー　ˀナルン [gu˞ma:guma:ˀʃi bu˞rukka:ˀmi ˀmisaka: bu˞rukka:miˀru ˀku̥to: ˀnaruŋ](小さく折り畳んでよければ、折り畳むことは出来る)。˞マーˀビン　ブ˞ルッカーミˀレー　ˀミサムヌ [˞ma:ˀbim bu˞rukka:miˀre: ˀmisamunu](もっと折り畳めばいいのに)。˞パーˀク　ブ˞ルッカーミˀリ [˞pa:ˀku bu˞rukka:miˀri](早く折り畳め)。

ブ˞ルッカーˀムン [bu˞rukka:ˀmuŋ] 【他動】折り畳む。˞コーˀカビ　ブ˞ルッカーˀムンティ　˞スンドゥˀ　ブ˞ルッカーマラˀヌ [˞ko:ˀkabi bu˞rukka:ˀmunti ˞sunduˀ bu˞rukka:mara˞nu](厚紙を折り畳もうとするが、折り畳まれない)。ブ˞ルッカーˀミ　ˀミサカー　ブ˞ルッカーˀム　ˀクトー　ˀナルン [bu˞rukka:ˀmi ˀmisaka: bu˞rukka:ˀmu ˀku̥to: ˀnaruŋ](折り畳んで良ければ折り畳むことはできる)。ブ˞ルッカーˀメー　ˀミサムヌ [bu˞rukka:ˀme: ˀmisamunu](折り畳めば良いのに)。ˀクマーラ　ブ˞ルッカーˀミバ [ˀkuma:ra bu˞rukka:ˀmiba](ここから折りたためよ)。

フ˞ルドーンˀグ [ɸu˞rudo:ŋˀgu] 【名】古道具。フ˞ルドーンˀグティ　˞シーˀ　シ˞ティˀガラ　ス˞ナˀヨー [ɸu˞rudo:ŋˀguti ˞ʃi:ˀ ʃi̥˞tiˀgara su˞naˀjo:](古道具だといって粗末に扱うなよ)。

フ˞ルˀヌ　ˀミー [ɸu˞ruˀnu ˀmi:] 【連】便所の糞便を落とす穴。脱糞して便を落とす穴。「便所の穴」の義。ッ˞スˀ　マル　ˀピンマー　フ˞ルˀヌ　ˀミーラル　ˀッソー　ウ˞タシˀタ [s˞suˀ maru ˀpimma: ɸu˞ruˀnu ˀmi:raru ˀsso: ʔu˞taʃi̥ˀta](脱糞する＜糞をまる。糞を放る＞際は、便所の穴から便は落とした)。

フ˞ルバスン [ɸu˞rubasuŋ] 【他動】1滅ぼす。滅亡させる。なきものにする。「～繰り畳ね焼き保呂煩散牟＜ホロボサム＞～。万、3724」の転訛。ア˞カハチˀ　フ˞ルバスンティ　トゥイミャーˀヤ　イ˞クˀサ　˞ユーシ　クータンˀドゥ　フ˞ルブサランシェンˀツォー [ʔa˞kahatʃiˀ ɸu˞rubasunti tuimja:ˀja ʔi˞kuˀsa ˞ju:ʃi ku:tanˀdu ɸu˞rubusaraŋʃenˀtso:](アカハチを滅ぼそうと豊見親は戦を押し寄せてきたが滅ぼされなかったそうだ)。フ˞ルバシ　ナーˀヌ [ɸu˞rubaʃi naːˀnu](滅ぼしてしまった)。フ˞ルバスˀ　クトー　ナ˞ラˀヌ [ɸu˞rubaˀsu ˀku̥to: na˞raˀnu](滅ぼすことは出来ない)。フ˞ルバシェーˀ　ミサムヌ [ɸu˞rubaʃeːˀ misamunu](滅ぼせばいいのに)。フ˞ルバシˀバ [ɸu˞rubaʃiˀba](滅ばせよ)。2損害を与える。倒産させる。˞カーシェーˀル　シ˞ナムヌヌ　ダイヤーˀ　ノー˞ンˀ　トゥ˞ラランˀ　ナリ　ミ˞シーミシˀ　ウ˞リンマーˀ　フ˞ルバサリ　ナーˀヌ [˞ka:ʃeːˀru ʃi˞namununu daijaːˀ noːˀnˀ tu˞raranˀ nari mi˞ʃi:miʃiˀ ʔu˞rimmaːˀ ɸu˞rubasari naːˀnu](売った品物の代金は何も取れなくなって、みすみす彼には倒産させられ＜滅ぼされ＞てしまった)。

フ˞ルブン [ɸu˞rubuŋ] 【自動】滅ぶ。ムーˀル　サ˞ガラˀシ　˞カースˀカー　マ˞チヤーヤˀ　フ˞ルブンˀティ　˞スンドゥ　ウンˀネーヌ　マ˞チヤーヤˀ　フ˞ルバンシェン [mu:˞ruˀ sa˞garaˀʃi ˞ka:suˀka: ma˞tʃija:jaˀ ɸu˞rubunˀti ˞sundu ʔunˀne:nu ma˞tʃija:jaˀ ɸu˞rubaŋʃeŋ](全部掛売りで売ると店はつぶれる＜滅ぶ＞というが、あの家の店はつぶれ＜滅ば＞なかった)。サ˞ガラˀシ　˞カーシターˀ　フ˞ルビ　ナーˀヌ [sa˞garaˀʃi ˞ka:ʃitaːˀ ɸu˞rubi naːˀnu](掛売りで売ったので、つぶれて＜滅んで＞しまった)。サ˞ガラˀシ　˞カーシタンティンˀ　フ˞ルブˀクトー　˞ナーˀヌ [sa˞garaˀʃi ˞ka:ʃitantiŋ ɸu˞rubuˀ ku̥to: ˞naːˀnu](掛売りで売ってもつぶれる＜滅ぶ＞ことはない)。フ˞ルベーˀ　ミサムヌ [ɸu˞rubeːˀ misamunu](つぶれれば＜滅べば＞いいのに)。ˀアイブ　マ˞チヤーヤ　パーˀク　フ˞ルビリ [ˀʔaibu ma˞tʃija:ja paːˀku ɸu˞rubiri](あんな店は早くつぶれろ＜滅びよ＞)。

フ˞ルマイ [ɸu˞rumai] 【名】ご馳走。正月や行事の際

のご馳走。接待。もてなし。「翔、フルマフ」『類聚名義抄』、「Furumai,o,,ota. フルマイ、ゥ、ゥタ (振る舞ひ、ふ、うた) 宴会を催す、あるいは、ご馳走する〜。」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。トゥ˩シトゥリフル˥マイ [tu̥˩ʃituriɸuru˥mai](「年取り振る舞い < ご馳走 >」の義。元旦の < 年取り > のご馳走)。普通は˥ソンガチフルマイ [˥soŋgatʃiɸurumai](正月振る舞い) といった。トゥ˩シヌ˥ユー [tu̥˩ʃinu˥ju:](大晦日) には、トゥ˩シクシ˥スバ [tu̥˩ʃikuʃi˥suba] を作った。トゥ˩シトゥリフル˥マイには、家族全員に˩ユーチングー [˩ju:tʃiŋgu:](四ツ組料理。一汁三菜 < 飯、汁、香の物、膾(ナマス) >) が配膳されるのが基本で、˩ウー˥ザラ [˩ʔu:˥ʤara](大皿) に揚げ物 < テンプラ類 > が盛られ、お重 (蒲鉾、冬瓜、南瓜、蛸、魚、昆布などの煮染料理) 等がテーブルの中央に出されるのが一般であった。˥ソンガチ　フ˩ルマイヤー˥　シ˩ディ˥ミジシ　ウ˩ム˥ティ　˥シミティ　˩ヤーニン˥ズ　˥スルイティル　ン˩コーッタ˥ル [˥soŋgatʃi ɸu˩rumaija:˥ʃi˩di˥miʤiʃi ʔu˩mu˥ti ˥ʃimiti ˩ja:nin˥ʤu ˥suruitiru ʔŋ˩ko:tta˥ru](正月元旦のご馳走は、若水 < 孵で水 > で顔 < 面 > を洗って、家族揃って < ぞ > 召し上がられたものだ)。シ˩チフル˥マイティン　ア˩リ˥ブタルシェー [ʃi̥˩tʃiɸuru˥maitiŋ ʔa˩ri˥butaruʃe:](節祭りのご馳走 < 節振る舞い > とてもありおったよ)。

フ˩ルマイー˥ル **[ɸu˩ruma?i:˥ru]** 【名】「車錐」の義。錐の柄の下に錘を付け、横棒を貫き通し、柄の先端から糸を横棒の両端に結び、糸を巻き付けて横棒を下へ押すことにより回転させる仕掛けの錐。フ˩ルマイー˥ルシ　˩ピッ˥クカー　˥ティーン　ブ˩ガラ˥ヌ [ku˩ruma?i:˥ruʃi ˩pik˥kuka: ˥ti:m bu˩gara˥nu](車錐で孔を開けると手も疲れない)。

フ˩ルマ˥スン **[ɸuruma˥suŋ]** 【他動】古くなす。寝かす。熟成させる。˩ミー˥スン　シ˩タ˥ディン　フ˩ルマ˥スンティ　˥シケーンドゥ　フ˩ルマサラン˥バン [˩mi:˥suŋ ʃi̥˩ta˥diŋ ɸu˩ruma˥sunti ˥ʃi̥ke:ndu ɸu˩rumasaram˥baŋ](味噌も醤油も熟成させよう < 寝かそう > としてあるが、熟成させられ < 寝かされ > ないよ)。˩ミー˥ソー　フ˩ルマシ˥テーラ　ッ˩ふァイバル˥　ン˩マー˥ル [˩mi:˥so: ɸu˩ruma˥ʃi̥te:ra f˩faibaru˥ ʔm˩ma:˥ru](味噌は十分熟成させ < 寝かし > てから食べた方が美味しいよ)。フ˩ルマ˥ス　˩ミー˥ソー　˩ナー˥ヌ [ɸu˩ruma˥su ˩mi:˥so: ˩na:˥nu](熟成させる < 寝かせる > 味噌はないよ)。˩マー˥ビン　フ˩ルマ˥シェー　˥ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ɸu˩ruma˥ʃe:˥misamunu](もっと熟成させれば < 寝かせれば > いいのに)。ン˩メーマー˥　フ˩ルマ˥シ [ʔm˩me:ma˥ɸu˩ruma˥ʃi](少し成熟させ < 寝かせ > なさい)。

フ˩ル˥ムン **[ɸu˩ru˥muŋ]** 【自動】古くなる。古む。ク˩ヌ　キン˥マー　フ˩ル˥ミティ　キ˩サラヌ [ku˩nu kim˥ma: ɸu˩ru˥miti ki˩saranu](この着物は古くなって着られない)。˩ドン˥ゴー　˩ティー˥リ　˩サン˥カー　フ˩ル˥ムンティ　˩スンドゥ˥　ク˩レー　ティー˥リ　˩サンヌンドゥ　ピッ˥チン　フ˩ルマン˥バン [˩doŋ˥go: ˩ti:˥ri ˩saŋ˥ka: ɸu˩ru˥munti ˩sundu˥ ku˩re: ti:˥ri ˩sannundu pit˥ʧiŋ ɸu˩rumam˥baŋ](道具は手入れしないと古くなるというが、これは手入れしないがちっとも古くならないよ)。イ˩チニン˥シ　フ˩ル˥ム　˥ムノー　˩カウナ [ʔi˩ʧiniŋ˥ʃi ɸu˩ru˥mu ˥muno: ˩kauna](一年で古くなるものは買うな)。˩パー˥クフ˩ル˥メー　˥ミサムヌ　ア˩ス˥カー　˩ミームヌカーリスヌ [˩pa:˥ku ɸu˩ru˥me: ˥misamunu ʔa˩su˥ka: ˩mi:munu ka:risunu](早く古くなればいいのに、そしたら新しいものが買えるのだが)。

˥フルヤー **[˥ɸuruja:]** 【名】便所。豚便所。˥オンケー [˥ʔoŋke:](便所) ともいう。かつては、便所は豚小屋と一つになっていて、人糞を豚に与えていた。戦後、保健所から公衆衛生上の問題点が指摘されて廃止された。三千年前の古代中国にも同様な様式の便所が使われていたことを示す陶器が発掘されたという。1996 年の中国雲南省の民俗言語調査の際に、同様の便所様式が少数民族 (ハニ族) の中で使用されているのを確認した。˥フルヤーヌ　˩カン˥マー　˩カンダカー˥　ア˩ロー˥ルンツォー [˥ɸuruja:nu ˩kam˥ma: ˩kandaka:˥ ʔa˩ro:˥runtso:](便所の神様は霊験あらたかで < 神高く > あられるそうだ)。˥オンケー [˥ʔoŋke:](便所) の項参照。

フ˩ル˥ヤー **[ɸu˩ru˥ja:]** 【名】古い家 (若年層)。老年層は、ッ˩ふ˥ヤー [f˩fukagija:](古い家) という。「古屋」の義。フ˩ルヤー˥ヤ　˩クー˥シティ　ア˩ラヤー˥　ス˩ク˥リ [ɸu˩ruja:˥ja ˩ku:˥ʃi̥ti ʔa˩raja:˥ su̥˩ku˥ri](古い家を崩して新しい家を造れ)。

フ˩ルン **[ɸu˩ruŋ]** 【他動】振る。「〜帰れとか比礼布良斯家武 < ヒレフラシケム >〜。万、874」の転訛したもの。˥ティー　フ˩ルンティ　スンドゥ˥　フ˩ララヌ [˥ti: ɸu˩runti sundu˥ ɸu˩raranu](手を振ろうとするが振られない)。˥ティー　フ˩リ˥　ミサン [˥ti: ɸu˩ri˥ misaŋ](手を振ってもよい)。˥クナーテー˥ティー　フ˩ル˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˥kuna:te: ˥ti: ɸu˩ru˥ ku̥to: na˩ra˥nu](此処では手を振ることはできない)。˩マー˥ビン　フ˩レー˥　ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ɸu˩

re:˺ misamunu](もっと振ればいいのに)。˺テイー フ˞リ˺バ [˺ti: ɸu˞ri˺ba](手を振れよ)。

˺ブルン [˺buruŋ] 【他動・自動】折る。捩ぐ。「梅の花　乎利弖＜ヲリテ＞かざせる〜。万、832」の転訛したもの。˞キー˺ヌ　ユ˞ダ˺　ブルンティ　˞スンドゥ˺　ブ˞ララ˺ヌ [˞ki:˺nu ju˞da˺ burunti ˞sundu˺ bu ˞rara˺nu](木の枝を折ろうとするが折られない)。サ˞リユダ˺　ブリティ　˞モーシ˺バ [sa˞rijuda˺ buriti ˞mo:ʃi˺ba](枯れ枝を折って燃やしなさい)。ユ˞ダ˺　ブル　プ˞ソー˺　ブ˞ラーヌ [ju˞da˺ buru pu̥˞so:˺ bu˞ra:nu](枝を折る人はいない)。ムー˞ル˺　ブレー˺ミサムヌ [mu:˞ru˺ bure: ˺misamunu](全部折ればいいのに)。˞パー˺ク　˺ブリ [˞pa:˺ku ˺buri](早く折れ)。˞バン˺スル　˺ブリン　パラデ˞ィー [˞ban˺suru ˺burim para˞di:](グワバ <蕃石榴(バンザクロ)> を捩(モギ)ぎに行こうよ)。

ブ˞ルン [bu˞ruŋ] 【自動】群れる。波が折り畳むように重なってくる。「〜白浪の　夜敝乎流我＜ヤヘヲルガ＞上に〜。万、4360」の義。˺ピーナ　ナ˞ミ˺ヌ　˺ブリ　˺クン [˺pi:na na˞minu˺ buri ˺kuŋ](リーフ＜干瀬＞に波が折りたたむよう群れて崩れて寄せてくる)。

プ˞ルン [pu˞ruŋ] 【自動】1気違いになる。馬鹿になる。狂れる。ぼける (惚ける)。2ほれる (惚れる)。異性に心を奪われるほどに恋慕する。「ほる＜惚る＞、下二段活用」の四段活用化したもの。プ˞リルン [pu˞riruŋ](気違いになる。惚れる) に同じ。パ˞タラカン˺カー　プ˞ソー˺　プ˞ルントダー　プ˞ラン˺ケン　˞パー˺ク　シ˞グトゥ˺　トゥ˞ミ˺リ [pḁ˞tarakaŋ ˺ka: pu̥˞so:˺ pu˞runtda: pu˞raŋ˺kem ˞pa:˺ku ʃi˞gutu˺ tu˞mi˺ri](働かないと人は馬鹿になる＜狂う＞。馬鹿にならないうちに仕事を探せ＜尋めよ＞)。˺メー　プ˞リ　ナー˺ヌ [˺me: pu˞ri na:˺nu](もう、馬鹿になって＜惚れて＞しまった)。˞ワー˺ナー　プ˞ル˺　プ˞ソー˺　ブ˞ラーヌ [˞wa:˺na: pu˞ru˺ pu̥˞so:˺ bu˞ra:nu](君に惚れる人はいない)。プ˞ル˺カー　カ˞シーカシー˺　プ˞レー˺　ミサムヌ　ナ˞マンダプリバシー [pu˞ru˺ka: kḁ˞ʃi:kaʃi:˺ pu˞re:˺ misamunu na˞mandapuriba ʃi:](惚れるなら、すっかり＜完全に＞惚れたらいいものを、中途半端な惚れかたをして)。プ˞リ˺バ [pu˞ri˺ba](惚れろよ)。

˺プルン [˺puruŋ] 【他動】1掘る。穴をあける。「〜栄えし君が穿之＜ホリシ＞井の〜。万、1128」の転訛したもの。˺クナー　˺アナ　˺プルン [˺kuna: ˺ʔana ˺puruŋ](此処に穴を掘る)。˺バー　˺アナープ˞ラ˺ヌ [˺ba: ˺ʔana: pu˞ra˺nu](私は穴を掘らない)。˺アナ　˺プリティ　˺パラー　タ˞ティ˺ルン [˺ʔana ˺puriti ˺para: tḁ˞ti˺ruŋ](穴を掘って柱を立てる)。˺アナ　˺プル　プ˞ソー˺　ブ˞ラーヌ [˺ʔana ˺puru pu̥˞so:˺ bu˞ra:nu](穴を掘る人はいない)。˺アナ　˺プレー　˺ミサムヌ [˺ʔana ˺pure: ˺misamunu](穴を掘ればいいのに)。˞ワー˺　ドゥーシ　˺アナ　˺プリバ [˞wa:˺ du:ʃi ˺ʔana ˺puriba](君は自分で穴を掘れよ)。2彫る。˞イン˺　プルン [˞ʔim˺ puruŋ](印を彫る)。プ˞ラ˺スン [pu˞ra˺suŋ](彫らせる)。˺プリ　ッ˞ふィーリ [˺puri f˞fi:ri](彫ってくれ)。˞カー˺　プルン [˞ka:˺ puruŋ](井戸を掘る)。

˺プロー [˺puro:] 【名】西洋式の鋤。英語の Plow が転訛したもの。鳩間島では台湾製の洋式鋤を輸入して使用する人もいたが、多くは古い型の鋤、˺ピラ [˺pira](犂。牛に引かせて土を切り開き、土塊を反転させて耕す耕具) を使用していた。「鋤・鉏、須支＜スキ＞」『新撰字鏡』。ウ˞ヤ˺キプスヌドゥ　˞タイ˺パンラ　˺プロー　˞カイヨー˺リ　ウ˞シン˺　ピ˞カシェー˺ティ　˞ターパタ˺キ　˞カイ˺ソーッタ [ʔu˞ja˺kipu̥sunudu ˞tai˺panra ˺puro: ˞kaijo:˺ri ˞ta:pata˺ki ˞kai˺so:tta](金持ちの人が台湾から洋式鋤のプローを買われて牛に引かせながら田畑を耕された)。

˞フン [˞ɸuŋ] 【名】国。村。石垣島から上、沖縄、大和の国を指す。「天皇の敷きます久尓能〜。万、4123」の転訛したもの。kuni(国)→　[ɸuŋ]。˞ウイヌ　フンラヌ˺　プ˞スヌ　オー˺レーツォー [˞ʔuinu ɸunranu ˺ pu̥˞sunu ʔo:˺re:˺tso:](石垣島からの人＜役人＞が来られたそうだ)。˞ウイヌ　フンヌ˺　プ˞ス [˞ʔuinu ɸunnu˺ pu̥˞su](上の国＜石垣島＞の人＜役人＞)。

˞フン [˞ɸuŋ] 【名】釘。釘の総称。「群玉の枢に久枳作之＜クギサシ〜＞。万、4390」、「釘、クギ」『類聚名義抄』の転訛したもの。カ˞ニフン [ka˞niɸuŋ](鉄釘)、タ˞キフン [tḁ˞kiɸuŋ](竹釘)、˞キー˺フン [˞ki:˺ ɸuŋ](木釘)、ピ˞サフン [pi̥˞saɸuŋ](平釘) 等がある。˞フン　ウーン [˞ɸuŋ ʔu:ŋ](釘を打つ)。˞フン˺　ウトゥン [˞ɸuŋ˺ ʔutuŋ](釘を打つ) ともいう。˺イダフニナーヤ　タ˞キフンドゥ˺　シゥ˞カウ˺　カ˞ニフンマー˺　シゥ˞カーヌ [˺ʔidaɸunina:ja tḁ˞kiɸundu˺ si̥˞kau˺ ka˞niɸumma:˺ si̥˞ka:nu]([サバニ＜板船＞には竹釘を使うのであって、鉄釘は使わない)。

˺フン [˺ɸuŋ] 【助数】本。細長いものを数える単位。上接語 (漢語) の末尾音が　[t, k, p]　で終わる場合は、異形態-プン　[-puŋ]、末尾音が　[m, n, ŋ]　で終わる場合は、異形態-ブン [-buŋ]、和語

の˩ヨ」(四) が撥音便化したものは、異形態-プン [-puŋ]、それ以外の母音終わりの場合は、異形態-フン [ɸuŋ] となる。これを形態素と定めて見出し語とした。˩イッ˥プン [˩ʔip˥puŋ](一本)、˥ニフン [˥niɸuŋ](二本)、˥サンブン [˥sambuŋ](三本)、˩ヨンプン [˩jompuŋ](四本)、グ˩フン [gu˩ɸuŋ](五本)、˩ルッ˥プン [˩rup˥puŋ](六本)。ナ˩ナ˥フン [na˩na˥ɸuŋ](七本)、˩ハッ˥プン [˩hap˥puŋ](八本)、˩キューフン [˩kjuːɸuŋ](九本)、˥ジップン [˥ʤippuŋ](十本)。

˩フン- [˩ɸun-] 【接頭】接頭辞。動詞の語頭について強意を表す。˩フンバカウン [˩ɸumbakauŋ](奪い取る。ぶん取る)。˩フンサマルン [˩ɸunsamaruŋ](ふん縛る)。˩フントールン [˩ɸuntoːruŋ](打っ倒れる)。˩フンスン˥グルン [˩ɸunsuŋ˥gurun](ぶん殴る)。˩フンサマルンティ˥ シ˩タンドゥ ピンガ˥シ ˩ナー˥ヌ [˩ɸunsamarunti˥ ʃi̥˩tandu piŋga˥ʃi ˩naː˥nu](ふん縛ろうとしたが、逃がしてしまった)。

˩ブン [˥buŋ] 【自動】 1居る。生物や動くものが存在する。自分の動作については謙遜、卑下の意味が加わり、他人の動作、状態については目下の者として待遇する、または蔑視する意味が加わる。˩ベー˥ン [˥beː˥ŋ](継続して居る) は、˩ブン [buŋ](居る) の連用形に˥アン [˥ʔaŋ](有り) が下接して形成されたもの。ブ˩リブー [bu˩ribuː](居り居る) は連用形に「居る」が付いた形。目上に対しては、˩オー˥ルン [˩ʔoː˥ruŋ](いらっしゃる。「おわす < 御座す >」の義) を用いる。「〜候ふと吾が乎流等伎尓 < ワガ ヲルトキニ >〜。万、4398」の義。˥ウナー プ˩スヌ ブンティ˥ ス˩クタンドゥ˥ キー ˥ミルカー ター˩ン˥ ブ˩ラーンワーン˥ノー [˥ʔuna: pu̥˩sunu buntiˬ su̥˩kutanduˬ ki: ˬmiruka: ta:˩mˬ bu˩ra:ŋwan˥no:](そこに人が居ると聞いたが、来てみると誰も居ないではないか)。˩マー˥ビン ブ˩リ˥ プサンドゥ ˥クナー ˩ブー˥ クトー ナ˩ラン˥ツォー [˩maː˥bim bu˩riˬ pu̥sandu ˥kuna: ˩buːˬ ku̥to: na˩ran˥tsoː](もっと居りたいが、ここに居ることは出来ないそうだ)。ター˩ン ヤラバン ブー˥カー キー ˩ミー [taː˩ɲ jarabam buː˥ka: kiː˩miː](誰か < 誰であっても > 居たら来てごらん)。˩タン˥ガーンツァン ˥クナー ブ˩レー (ブ˩リ˥バ)˥ ミサムヌ [˩taŋ˥ga:ntsaŋ ˥kuna: bu˩re:(bu˩ri˥ba)˥ misamunu](一人だけでもここに居ればいいのに)。ヤー˩ディン タン˥ガー ブ˩リ˥バ [ja:˩din taŋ˥ga: bu˩ri˥ba](必ず一人は居れよ)。2動詞の連用形に付いて、動作を続ける意、「〜ている」の意味を表す。「〜旅を苦しみ故非乎礼婆 < コヒヲレバ >〜。万、3674」の義。˩ワー˥ ッ˩ふァヌ˥ クトゥ ˥ウムイ ˩ブン [˩waː˥ ˩fanu˥ ku̥tu ˥ʔumui ˩buŋ](君は子供のことを思っているか)。

˥ブン [˥buŋ] 【名】分。1一部。量。イ˩チニンブンヌ マイ˥ タ˩ブイリ [ʔi˩ʧinimbunnu mai˥ ta˩buiri](一年分の米を貯えろ)。2割り当て。分け前。˩ワー˥ トゥ˩リブン˥マー ˥ビチ ˥ナシティ ヌ˩カ˥ロー ˩マータキナー˥ バ˩キ˥リ [˩waː˥ tu˩ribum˥maː ˥biʧi˥ naʃi̥ti nu˩ka˥roː ˩maːtakinaː˥ ba˩ki˥ri](君の取り分は別に取っておいて、残りは等分に < 同じように > 分けなさい)。3身の程。身分。地位。˩ブン˥ヌ ア˩ロー˥ル プ˩ス [˩bun˥nu ʔa˩roː˥ru pu̥˩su](身分の高い人。重々しい人)。˩ドゥー˥ヌ ˩ブン˥マー ッ˩シェー˥ティル ˥ムネー イ˩ズ˥ダー [˩duː˥nu ˩bum ˥maː ʃ˩ʃeː˥tiru ˥mune: ʔi˩ʤu˥daː](自分の身分をわきまえて < ぞ > ものは言うのだぞ)。

˥ブン [˥buŋ] 【名】恩。恩義。˩ブン˥ギ [˩buŋ˥gi](恩義) ともいう。プ˩スヌ˥ ブン ˥カブン [pu̥˩sunu˥ buŋ ˥kabuŋ](人の恩を被る)。プ˩スヌ˥ ブン カ˩ビ˥ル ウ˩ブ˥プス ˥ナリ ˥ケー˩ダー [pu̥˩sunu˥ buŋ ka˩biˬru ʔu˩bu˥pu̥su ˥nari keː˩daː](他人の恩を受けて < 被って。頂いて > 大人になってきたのだよ)。

˥-ブン [˥-buŋ] 【接尾】盆。単独に用いられることはなく、名詞に下接して、マ˩ルブン [ma˩rubuŋ](丸盆)、タ˩バク˥ブン [ta˩baku˥buŋ](煙草盆)、バ˩キトゥリ˥ブン [ba˩kituri˥buŋ](神前に供物を供えるための特別な膳。通い盆)、˩ドーング˥ブン [˩doːŋgu˥buŋ](仏前供物を供える特別な膳。「霊供盆」の義か) のように単語を形成する。タ˩バク˥ブンナー ˩ピー˥イリン ˩パイフキン˥ キ˩シ˥ルン イ˩リ˥ ス˩コー˥レーン [ta˩baku˥bunna: ˩piː˥ʔiriːm ˩paiɸu̥kiŋ˥ ki̥˩ʃi˥ruŋ ʔi˩riˬ su̥˩koː˥reːŋ](煙草盆に火入れも灰吹きも煙管も入れて置いてある)。

˥ブン [˥buŋ] 【名】威厳。身分にそなわる品位。ウ˩ヌ˥ プ˩ソー˥ イッ˩ケン ブン˥ヌ ア˩ロー˥ルン [ʔu ˩nuˬ pu̥˩soːˬ ʔik˩kem bun˥nu ʔa˩roː˥ruŋ](その人は非常に威厳 < 品位 > が有られる)。

˩フンカキルン [˩ɸuŋkakiruŋ] 【他動】ぶっかける (ぶっ掛ける)。荒々しく水をかける。「フンー」は強意の接頭語。˩フンカクン [˩ɸuŋkakuŋ](ぶっ掛ける) ともいう。ミ˩ジ フンカキルンティ˥ ウ˩ムーン˥ドゥ ˩フンカキララヌ [mi˩ʤi ɸuŋkakirunti˥ ʔu˩mu:n˥du ˩ɸuŋkakiraranu](水をぶっ掛けようと思うが、ぶっ掛けられない)。˩フンカキル˥ クトー ナ˩ラ˥ヌ [˩ɸuŋkakiruˬ ku̥to: na˩ra˥nu](ぶっ掛け

ることはできない)。˞フンカキレー˞　ミサムヌ [˞ɸuŋkakireː˞ misamunu](ぶっ掛ければいいのに)。˞フンカキリ [˞ɸuŋkakiri](ぶっ掛けろ)。

˞ブン˞カドゥ [˞buŋ˞kadu] 【名】義理。その人に相応しい人間としての体面。「ぶんかど (分・廉)」の義。˞ブン˞カドゥ　˞バシケーラ˞　プ˞リムヌティ˞　ア˞ザリン˞ダー [˞buŋ˞kadu ˞baʃikeːra˞ pu˞rimunuti˞ ʔa˞ʤarin˞daː](恩義や義理、清廉潔白の＜体面＞を忘れたら馬鹿といわれるよ)。

˞ブン˞ギ [˞buŋ˞gi] 【名】恩義。ク˞ヌ˞　プ˞スヌ　ブン˞ギ　カ˞ビ˞ル　ウ˞ブ˞プス　˞ナレーンダ　ヤー˞ディン　ブン˞ゲー　˞カイ˞シ˞ダー [ku˞nu˞ pu̥˞sunu buŋ˞gi ka˞bi˞ru ʔu˞bu˞pu̥su ˞nareːnda jaː˞dim buŋ˞geː ˞kai˞ʃi˞daː](この方の恩義を受けて＜被って＞大人になったのだから、恩義は必ず返しなさいよ)。

˞ブン˞ギ　˞カイ˞シ [˞buŋ˞gi ˞kai˞ʃi] 【連】ご恩返し。「恩義返し」の義。˞ブンガイ˞シ [˞buŋgai˞ʃi](恩返し) ともいう。˞ブン˞ギ　˞カイ˞シ　˞バシケー˞　ナ˞ラ˞ヌ [˞buŋ˞gi ˞kai˞ʃi ˞baʃi̥keː˞ na˞ra˞nu](ご恩返しを忘れてはならない)。

˞ブンギガイ˞シ [˞buŋgigai˞ʃi] 【名】恩返し。若年層は˞ウンガイ˞シ [˞ʔuŋgai˞ʃi](恩返し) ともいう。˞ブン˞ギ　˞スン [˞buŋ˞gi ˞suŋ](恩を返す) ともいう。ヤー˞ディン　ブンギガイ˞シ　˞シー˞　ッ˞サルンティ˞　ウムイ　˞ベート ダー [jaː˞dim buŋgigai˞ʃi ˞ʃiː˞ s˞sarunti˞ ʔumui ˞beːꜜdaː](きっと＜必ず＞恩返しをして差し上げ＜ご恩返し申し上げ＞ようと思っていますよ)。

˞フンキスン [˞ɸuŋki̥suŋ] 【他動】ぶっ切る。横切る。横断する。近道をとって横切って行く。正規の道を通らずに横切って行く。「踏み切る」の転訛したもの。˞ミチェーラ　パ˞ラ˞ムティ　パ˞タ˞ケーラ　˞フンキスンティ˞　シ˞ター˞　イ˞ザリティ　フンキサンドー˞シ　˞パッ˞タヤー [˞mitʃeːra pa˞ra˞muti pḁ˞ta˞keːra ˞ɸuŋkisunti˞ ʃi̥˞taː ʔi˞ʤariti ɸuŋkisandoː˞ʃi ˞pat˞tajaː](道から行かないで畑を横切って行こうとしたので叱られて横切らないで行ったよ)。˞フンキシ˞　パリミサカー　˞クマーラ　˞フンキス˞　クトー　˞ナルン [˞ɸuŋkiʃi˞ misakaː ˞kumaːra ˞ɸuŋki̥su˞ ku̥toː ˞naruŋ](横切って行ってよければ、ここから横切ることは出来る)。˞フンキス˞　ピンマー　˞クマーラ　˞フンキシェー˞　ミサムヌ [˞ɸuŋki̥su˞ pimmaː ˞kumaːra ˞ɸuŋkiʃeː˞ misamunu](横切る時は此処から横切ればいいのに)。ヤー˞ディン˞　クマーラ　˞フンキシ [jaː˞diŋ˞ kumaːra ˞ɸuŋki̥ʃi](必ず此処から横切れ)。

˞フン˞キル [˞ɸuŋ˞kiru] 【助数】畑の一区切り (一区画)。プ˞スフン˞キル [pu̥˞suɸuŋ˞kiru](一区画)。フ˞タフンキル [ɸu̥˞taɸuŋkiru](二区切り)。˞ミーフンキル [˞miːɸuŋkiru](三区切り)。˞ユーフンキル [˞juːɸuŋkiru](四区切り)。イ˞チフン˞キル [ʔi˞ʧiɸuŋ˞kiru](五区切り)。˞ムーフンキル [˞muːɸuŋkiru](六区切り)。ナ˞ナフン˞キル [na˞naɸuŋ˞kiru](七区切り)。˞ヤーフンキル [˞jaːɸuŋkiru](八区切り)。ク˞ヌフン˞キル [ku˞nuɸuŋ˞kiru](九区切り)。˞トゥーフンキル [˞tuːɸuŋkiru](十区切り)。˞プスイシ　フ˞タフンキル　カイ˞シ　˞シェー˞ン [˞pu̥suiʃi ɸu̥˞taɸuŋkiru kai˞ʃi ʃ˞ʃeː˞ŋ](一日で畑を二区切り耕せる＜耕しきれる＞)。

˞フンクムン [˞ɸuŋkumuŋ] 【自動】勢いよく足を踏み込む。勢いよく踏みつける。足を踏み込んで釘などに深く刺される。カ˞ラパン˞シ　˞パレーティ　˞アー˞キ　˞フンバ　フンクミティ˞　パン　ヤ˞マ˞シ　˞シケー [ka˞rapaŋ˞ʃi ˞pareːti ˞ʔaː˞ki ˞ɸumba ɸuŋkumiti˞ paŋ ja˞ma˞ʃi ˞ʃi̥keː](裸足で走っていて釘を踏みつけて、足を痛めて＜病まして＞ある)。フ˞ミムヌ˞　フ˞ム˞カー　˞フン˞ナーン　˞フンクマス [ɸu˞mimunu˞ ɸu˞mu˞kaː ˞ɸun˞naːŋ ˞ɸuŋkumanu](履物を履くと釘にも刺され＜踏み込ま＞ない)。カ˞ラパン˞シェー　˞フン　フンクムントー ダー [ka˞rapaŋ˞ʃeː ˞ɸuŋ ɸuŋkumunꜜdaː](裸足では足を釘に刺される＜踏み込む＞ぞ)。˞フン　フンクメー˞ラ　˞デー˞ジ˞ダー [˞ɸuŋ ɸuŋkumeː˞ra deː˞ʤi˞daː](釘に刺されたら＜釘を踏み込んだら＞大変だぞ)。˞フン　フンクム˞　ピンマー　ピ˞ルザキ˞シ　˞ドゥー　˞トゥイットー˞シティ　キ˞ジフチン˞　ピ˞ルザキトゥ　マー˞スシル　ッ˞ス˞モーッタ [˞ɸuŋ ɸuŋkumu˞ pimmaː pi˞ruʤaki˞ʃi ˞duː ˞tuittoː˞ʃi̥ti ki˞ʤiɸu̥˞ʧim˞ pi˞ruʤakitu maː˞suʃiru s˞su˞moːtta](釘に刺される＜釘を踏み込んだ＞時は大蒜酒で体を拭きおろし、傷口も大蒜酒と塩とで包んでおかれたものだ)。

˞フンクン [˞ɸuŋkuŋ] 【他動】踏む。踏みつける。ッ˞ふァー˞カー　イ˞シ　フンクン˞ユー　ッ˞サンバ˞　イ˞シ　フンカン˞スコー　ガ˞ルバ˞　シケーティ　˞パリバ [f˞faː˞ka: ʔi˞ʃi ɸuŋkuŋ˞juː s˞samba˞ ʔi˞ʃi ɸuŋkan˞sukoː ga˞ruba˞ ʃi̥keːti ˞pariba](暗かったら石を踏みつける＜踏む＞かも知れないから、踏みつけない＜踏まない＞ように明りを点けて行けよ)。イ˞シ　フンキ˞　プサカー　˞フンキ˞バ [ʔi˞ʃi ɸuŋki˞ pu̥saka: ˞ɸuŋki˞ba](石を踏みつけ＜踏み＞たけれ

ば踏みつけなさい < 踏め > よ)。˹フンク˺ プソー ムー˹ル フンケー˺ ミサムヌ [˹ɸuŋku˺ pu̥so: mu:˹ru ɸuŋke:˺ misamunu](踏みつける < 踏む > 時は全部踏みつけれ < 踏め > ばいいのに)。

˹フンケーリ トゥンケーリ [˹ɸuŋke:ri tuŋke:ri]【連】˹踏み返り・飛び返り」の義。離別の際、別れを惜しんで、二歩進んで振り返り、三歩進んで振り返ってみるさま。非常に名残を惜しんで立ち去る様子。グ˹ソー˺ヌ ˺シトゥン タ˹カーニ˺ ス˹コーリ˺ シケーバ ˹フンケーリ トゥンケーリ ソーラン˺ ドーシ ˹マン˺カ ˹ヤー カイ˺ローリティ ˹エン˺ヌ ˹ソー˺ランナー マ˹タ˺ ン˹カイラリ˺ コーヨー シ˹ラロー˺リ˹ヨー [gu˹so:˺nu ˺ʃi̥tun tḁ˹ka:ni˺ su̥˹ko:ri˺ ʃi̥ke:ba ˹ɸuŋke:ri tuŋke:ri so:ran˺ do:ʃi ˹maŋ˺ka ˹ja: kai˺ro:riti ˹jen˺nu ˹so:˺ranna: ma˹ta˺ ʔŋ˹kairari˺ ko:jo: ʃi˹raro:˺ri˹jo:](後生への土産 < 苞 > もたくさん用意してありますから、振り返り振り返りして名残惜しむことをなさらないで、真っ直ぐに家へお帰りになって、来年のお盆には、また迎えられなされて孝養をお受け < され > なされませよ)。

˹フンザスン [˹ɸundʑasuŋ]【他動】強く汲みだす。怒って水を汲みだす。フ˹ニ˺ヌ ˺アカー ˹フンザスンティ スンドゥ タンガ˺シェー ˹フンザサラヌ [ɸu˹ni˺nu ˺ʔaka: ˹ɸundʑasunti sundu taŋga˺ʃe: ˹ɸundʑasaranu](船の淦(アカ)を汲み出そうとするが、一人では汲み出せない)。˹フンザシ˺ シ˹ティリ [˹ɸundʑaʃi˺ ʃi̥˹tiri](汲み出して捨てろ)。フ˹ニ˺ヌ ˺アカー ˹フンザス˺ プ˹ソー˺ ブ˹ラーヌ [ɸu˹ni˺nu ˺ʔaka: ˹ɸundʑasu˺ pu̥˹so:˺ bu˹ra:nu](船の淦を汲み出す人はいない)。˹マー˺ビン ˹フンザシェー˺ ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ˹ɸundʑaʃe:˺ misamunu](もっと汲み出せばいいのに)。˹パー˺ク ˹フンザシ [˹pa:˺ku ˹ɸundʑaʃi](早く汲み出せ)。

˹フンサマルン [˹ɸunsamaruŋ]【他動】ふん縛る。強く荒々しく縛る。接頭語˹フン [˹ɸuŋ](強く、荒々しく)が付いた形。バ˹ラフ˺タタブロー バー ˺ドゥーシ ˹フンサマルンティ˺ シケーバ ˹ワーヤ フンサマラン˺タンティン ˺ミサン [ba˹raɸu̥˺tataburo: ˺ba:du:ʃi ˹ɸunsamarunti˺ ʃi̥ke:ba ˹wa:ja ɸunsamaran˺ tantim ˺misaŋ](藁束は私が自分でふん縛ろうと置いてあるから、君はふん縛らなくてもよい)。˹フンサマリ˺ ミサカー ˹フンサマル˺ クトー ˺ナルン [˹ɸunsamari˺ misaka: ˹ɸunsamaru˺ ku̥to: ˺naruŋ](ふん縛ってよければ、ふん縛ることはできる)。˺アイブ ˺ムノー ˹フンサマレー˺ ミサムヌ [˺ʔaibu ˺muno: ˹ɸumsamare:˺ misamunu](あんなものはふん縛ればいいのに)。˹パー˺ク ˹フンサマリ [˹pa:˺ku ˹ɸunsamari](早くふん縛れ)。˹ヌシ˺トゥル ˹フンサマリティ サンギ˺ クー [˹nuʃi̥˺turu ˹ɸunsamariti saŋgi˺ ku:](泥棒をふん縛って引き連れて来い)。˹フンサマルンティ ベー˺ンドゥ ˹バン˺マー ˹フンサマララヌ [˹ɸunsamarunti be:˺ndu ˹bam˺ma: ˹ɸunsamararanu](ふん縛ろうとしているが、私には、ふん縛れない)。˹パー˺ク ˹フンサマレー˺ ミサムヌ [˹pa:˺ku ˹ɸunsamare:˺ misamunu](早くふん縛ればいいのに)。ムー˹ル フンサマリ [mu:˹ru ɸunsamari](みんなふん縛れ)。

˹フンザルン [˹ɸundʑaruŋ]【他動】踏み潰(ツブ)す。踏みつける。˹フンツァルン [˹ɸuntsaruŋ](踏み潰す) ともいう。˺ウナー ˺スクカー プ˹スヌ フンザルンダ フンザラン˺ トンナー ˺シキバ [˺ʔuna: ˺su̥kuka: pu̥˹sunu ɸundʑarunda ɸundʑaran˺ tonna: ˺ʃi̥kiba](そこに置くと他人が踏み潰すから、踏み潰さない所に置けよ)。˹フンザラナ˺ カー˹ニ˺シ ˹シェー˺ティ ˹アー˺ク [˹ɸundʑarana˺ ka:˹ni˺ʃi ˹ʃe:˺ti ˹ʔa:˺ku](あたかも < 人を > 踏みつけんばかりにして威張っている)。˹フンザリ˺ ミサカー ˹フンザル˺ クトー ˺ナルン [˹ɸundʑari˺ misaka: ˹ɸundʑaru˺ ku̥to: ˺naruŋ](踏み潰して良ければ踏み潰すことは出来る)。˹マー˺ビン ˹フンザレー˺ ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ˹ɸundʑare:˺ misamunu](もっと踏み潰せば良いのに)。˹フンザリ˺バ [˹ɸundʑari˺ba](踏み潰せよ)。

˹フン˺シ [˹ɸuŋ˺ʃi]【名】風水。「風水」の漢語音の転訛したもの。山川、水流などの地勢や水勢を占い検討して屋敷や墓地を定める中国伝来の風水思想。ク˹ヌ ヤシ˺ケー イッ˹ケナ フンシ˺ヌ ˹カイ˺ヤ ˹ベー˺ティ マ˹リサカリヌ˺ アンツォー [ku˹nu jaʃi̥˺ke: ʔik˹kena ɸuŋʃi˺nu ˹kai˺ja ˹be:˺ti ma˹risakarinu˺ ʔantso:](この屋敷は非常に風水が良い < 美しい > ので子孫繁盛があるそうだよ)。˹ヤー˺ヌ ˹フン˺シ シ˹ラビ˺ルン [˹ja:˺nu ˹ɸuŋ˺ʃi ʃi˹rabi˺ruŋ](家の風水を調べる)。˹バン˺テーヤ イッ˹ケナ フンシ˺ヌ ˹カイ˺ヤンツォー [˹ban˺te:ja ʔik˹kena ɸuŋʃi˺nu ˹kai˺jantso:](私の家は非常に風水が良い < きれいだ > そうだ)。

˹フンシキ [˹ɸuŋʃi̥ki]【名】(海底地名)。˹インタヌ ズンズン [˹ʔintanu dʑundʑuŋ](西のズンズン) からナ˹カウー˺ル [na˹kaʔu:˺ru](中間の枝珊瑚地帯) まで。そこには小さな礁内湖があり、その周辺にス˹ブル

˥イシ [su˞buru˥ʔiʃi](キクメサンゴ) やタ˞カウー˥ル [tạ˞kaʔu:˥ru](枝サンゴ) が密生していて、˥タク [˞tạku](蛸) 貝類が漁獲できる。

˞フンシキルン [˞ɸuŋʃi̥kiruŋ] 【他動】踏みつける。踏んづける。足で強く踏む。˞フンスクンとも言う。˞ビー˥ルカー ˞ヨータビティ˥ プ˞スヌ˥ パン ˞フンシキルン˥ダー [˞bi:˥ruka: ˞jo:tabiti˥ pu̥˞sunu˥ paŋ ɸuŋʃikirun˥da:](酔うとふらついて他人の足を踏みつけるぞ)。˥バーヤ プ˞スヌ˥ パン ˞フンシキラヌ [˥ba:ja pu̥˞sunu˥ paŋ ˞ɸuŋʃikiranu](私は他人の足を踏みつけない)。キサー˞ティ フンシキ ナー˥ヌ [ki̥sa:˞ti ɸuŋʃi̥ki na:˥nu](既に踏みつけてしまった)。˥パン ˞フンシキル˥ プ˞ソー˥ ブ˞ラーヌ [˞paŋ ˞ɸuŋʃi̥kiru˥ pu̥˞so:˥ bu˞ra:nu](足を踏みつける人はいない)。˞フンシキレー˥ ミサムヌ [˞ɸuŋʃi̥kire:˥ misamunu](踏みつければいいのに)。˞パー˥ク ˞フンシキリ [˞pa:˥ku ˞ɸuŋʃi̥kiri](早く踏みつけろ＜れ＞)。

˞フン˥ジル [˞ɸun˥ʤiru] 【名】ふんじろ (焚字炉)。書き古した紙を集めて焼き捨てるために路傍の石垣に設けた石製の炉『石垣方言辞典』。パ˞トゥ˥マナー ˞フン˥ジロー ˥ミリ ミ˞ラン˥シェンドゥ イ˞サナキナー˥ヤ ˞アッ˥タン˞ダー [pạ˞tu˥mana: ˞ɸun˥ʤiro: ˥miri mi˞raŋ˥ʃendu ʔi˞sanakina:˥ja ˞ʔat˥tan˞da:](鳩間島には焚字炉は見たことはなかった＜見てみなかった＞が、石垣島にはあったよ)。

˞フン˥シン [˞ɸuŋ˥ʃiŋ] 【名】本船。カツオ漁船。カ˞ツシンヌ フンシン˥マー ˥ザコー ˥トゥリ イ˞キ˥マナ イ˞リティ˥ ウケー ン˞ズ˥タ [kạ˞tsuʃinnu ɸuŋʃim˥ma: ˥ʤako: ˥turiti ʔi˞ki˥mana ʔi˞riti˥ ʔuke: ʔn˞ʤu˥ta](カツオ船の本船はいきえ＜生餌＞の雑魚を取って生け間に入れて沖へ出た)。

˞フンスクル [˞ɸunsu̥kuru] 【名】ふところ (懐)。歌謡語では˞フスクル [˞ɸusu̥kuru](懐) という。˞フンスクル˥ナー ˞ジン˥バ イ˞リティ˥ ア˞ラ˥キ ˞オー˥ルンケンドゥ ヌ˞スマ˥レータティバン˞ナー [˞ɸunsu̥kuru˥na: ˞ʤim˥ba ʔi˞riti˥ ʔa˞ra˥ki ˞ʔo:˥ruŋkendu nu˞suma˥re:tatiban˞na:](懐にお金を入れて歩いておられたときに盗まれたそうだ＜盗まれたってわい＞ねえ)。

˞フンスクルディー [˞ɸunsu̥kurudi:] 【名】懐手。手を懐に入れること。バ˞カー˥ムヌヌ ˞フンスクルディーバ スー˥カ ˞ミーヌッ˥サン [ba˞ka:˥munununu ˞ɸunsu̥kurudi:ba su:˥ka ˞mi:nus˥saŋ](若者が懐手をすると見苦しい)。

˞フンスクン [˞ɸunsu̥kuŋ] 【他動】踏みつける。強く踏みつける。「Fumitçuke,ru.eta. フミツケ、クル、ケタ (踏み付け、くる、けた) 足で踏みつける」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。パ˞ヤーパヤー˥シ ア˞ラ˥クカー プ˞スヌ˥ パン ˞フンスクン˥ダー [pa˞ja:paja:˥ʃi ʔa˞ra˥kuka: pu̥˞sunu˥ paŋ ˞ɸunsu̥Kun˥da:](急いで＜早々と、足早に＞歩くと他人の足を踏みつけるぞ)。˥バー イッ˞カ フンシュカヌ [˥ba: ʔik˞ka ɸunsi̥kanu](私は決して＜一向に＞踏みつけない)。プ˞スヌ˥ パン ˞フンシキ ベー [pu̥˞sunu˥ paŋ ˞ɸuŋʃi̥ki be:](他人の足を踏みつけている)。プ˞スヌ˥ パン ˞フンスク˥ プソー イ˞ザリ˥ゲラ [pu̥˞sunu˥ paŋ ˞ɸunsu̥ku˥ pu̥so: ʔi˞ʤari˥gera](他人の足を踏みつける時は叱られるさ)。˞マー˥ビン ˞フンシケー˥ ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ˞ɸuŋʃi̥ke:˥ misamunu](もっと踏みつければいいのに)。˞フンシキ [˞ɸuŋʃi̥ki](踏みつけろ)。

˞ブンダーッ˥サン [˞bunda:s˥saŋ] 【形】重々しい。いかめしい (厳しい)。ふくぶくしい (福福しい)。「分らしさ有り」の義。˞ブンラーッ˥サン [˞bunra:s˥saŋ](福福しい) ともいう。˞パンタル˥ター イッ˞ケナ ブンダーッ˥サンティ ス˞クタヌ ナン˥ゾー ˞ブンダーッサ ナー˥ヌ [˞pantaru˥ta: ʔik˞kena bunda:s˥santi su̥˞kutanu nan˥ʤo: ˞bunda:ssa na:˥nu](太ったので大変福福しくいかめしいと聞いたが、あまり福福しくない)。˞ブンダーッ˥サ ˥ナリケーン [˞bunda:s˥sa ˥narike:ŋ](福福しくいかめしくなってきた)。˞ブンダーッ˥サ プ˞ソー˥ラ イ˞ラ˥ビバ [˞bunda:s˥sa pu̥˞so:˥ra ʔi˞ra˥biba](福福しい人から選びなさいよ)。

ブン˞ダーブンダー [bun˞da:bunda:] 【副】福福しく。重々しく。˥アブジェー ガ˞クムン˥ヌン ア˞ロー˥リ ˞パン˥タリティ ブン˞ダーブンダー˥シル ˥ムニン イ˞ゾー˥ル [˥ʔabuʤe: ga˞kumun˥nuŋ ʔa˞ro:˥ri ˞pan˥tariti bun˞da:bunda:˥ʃiru ˥munin ʔi˞ʤo:˥ru](お祖父さんは学問もあられ、太っておられて重々しく話され＜ものも言われ＞る)。

˞フンダイ [˞ɸundai] 【名】わがまま (我儘)。身勝手。勝手放題。駄駄を捏ねること。「Fdai. ハゥダイ (放題) しつけが悪くて物事をするのに下品なこと、または、礼儀正しくないこと、Fdai xigocuna mono.(放題至極な者)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。「ほんたい」『混効験集』。ヤ˞ラ˥ベー ˞フンダイ˥ シ˞ミルナ˥ヨー [ja˞ra˥be: ˞ɸundai˥ ʃi˞miruna˥jo:](子供は我儘にさせるなよ)。

˩フンダイムニ [˩ɸundaimuni] 【名】駄駄(ダダ)を捏(コ)ねる物言い。甘えてすねる (拗ねる) こと。ねだること。甘えん坊の物言い。マ˩タ　フンダイムニバ˥　イ˩ジ　ベー˥バン˩ナー [ma˩ta ɸundaimuniba˥ ʔi˩ʤi be:˥ ban˩na:](また駄駄を捏ねておねだりする物言いをしているんだねえ)。

˩ブンダカー˥ン [˩bundaka:˥ŋ] 【形】位、身分が高い。重々しい。ウ˩ヌ˥　プ˩ソー˥　イッ˩ケナ　ブンダカー˥ンティ　ス˩クタヌ˥　ミルカー　˩ヨーガリティ　ナン˥ゾー　˩ブンダカー　ナー˥ヌ [ʔu˩nu˥ pu̥˩so:˥ ʔik˩kena bundaka:˥nti su̥˩kutanu˥ miruka: ˩jo:gariti nan˥ʤo: ˩bundaka: na:˥nu](その人は非常に重々しいと聞いたが、見てみると痩(ヤ)せてあんまり重々しくない)。˩ブンダカー˥　ナルン [˩bundaka:˥ naruŋ](重々しくなる)。˩ブンダカー˥　プ˩ストー˥　パ˩ナ˥シ　˩シーグリ˥サン [˩bundaka:˥ pu̥˩suto:˥ pa˩na˥ʃi ˩ʃi:guri˥saŋ](身分の高い、重々しい人とは話しずらい)。˥アイニ　˩ブンダカー˥レーラー　˩バン˥ター　˩フージェー˥　パ˩ナ˥シン　ナ˩ラ˥ヌ [˥ʔaini ˩bundaka:˥re:ra: ˩ban˥ta: ˩ɸu:ʤe:˥ pa˩na˥ʃin na˩ru˥nu](あんなに身分が高くて重々しかったら、私らごときは話も出来ない)。

˩フンタトゥン [˩ɸuntatuŋ] 【自動】足を地面に踏みしめて立つ。踏ん張って立つ。地面を蹴って立ち上がる。さっと立ち上がる。「Fumitate,tçuru,eta. フミタテ、ツル、テタ (踏みたて、つる、てた) 足を踏んばって身を支える」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ク˩ヌ˥　ッ˩ふァー˥　タ˩ナマ˥リカー　シ˩グ　フンタティ˥　パ˩ルン˥ドゥ　˩キュー˥ヤ　˩フンタタヌ [ku˩nu˥ f˩fa:˥ ta˩nama˥rika: ʃi˩gu ɸuntati˥ pa˩run˥du ˩kju:˥ja ˩ɸuntatanu](この子は頼まれるとさっと立ち上がって行くが、今日はさっと立ち上がらない)。ギ˩チ˥　サ˩ランドー˥シ　˩フンタトゥ˥　ッ˩ふァヌル　マイフナー˥　ヤ˩ル [gi˩ʧi˥ sa˩rando:˥ʃi ˩ɸuntatu˥ f˩fanuru maiɸuna:˥ ja˩ru](げじ < 下知。指図 > されなくてもさっと立ち上がる子が働き者 < 利口者 > だ)。イ˩チンマー˥　シ˩グ　フンタトゥン [ʔi˩ʧimma:˥ ʃi˩gu ɸuntatuŋ](いつもはすぐさっと立ち上がる)。タ˩ナ˥モールンダ　˩フンタテー˥　ミサムヌ [ta˩na˥mo:runda ˩ɸutate:˥ misamunu](お頼みになるんだから、すぐさっと立ち上がればいいのに)。ヤ˩ラボー˥ルカー　˩フンタティ˥バ [ja˩rabo:˥ ruka: ˩ɸuntati˥ba](お呼びになったら、さっと立ち上がれよ)。

˩フンダミルン [˩ɸundamiruŋ] 【他動】つっぱる。足で強く踏みしめる。「踏み固める」の転訛したもの。˥パンシ　˥ジー　˩フンダミルンティ　スンドゥフンダミララヌ [˥paŋʃi ˥ʤi: ˩ɸundamirunti sundu ɸundamiraranu](足で地面を踏みしめようとするが、踏みしめられない)。˩フンダミティ˥　タティ　˩ベー [˩ɸundamiti˥ tati ˩be:](大地を踏みしめ < 踏み固め > て立っている)。˥クマー　˩フンダミル˥　クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˥kuma: ˩ɸundamiru˥ ku̥to: na˩ra˥nu](此処は踏みしめる < 踏み固める > ことはできない)。˩マー˥ビン　˩フンダミレー˥　ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ˩ɸundamire:˥ misamunu](もっと踏みしめ < 踏み固め > ればいいのに)。˩フンダミリ [˩ɸundamiri](踏みしめろ)。

˩フンダヤー [˩ɸundaja:] 【名】我儘(ワガママ)もの。我儘な子供。気儘(キママ)勝手な子。勝手放題な子。泣き虫。だだっこ (駄駄っ児)。甘えん坊。˩ウンザー　フンダヤー˥　ナリティ　プ˩スヌ˥　ムニ　イッ˩カ˥　シゥ˩カヌ [˩ʔunʤa: ɸundaja:˥ nariti pu̥˩sunu˥ muni ʔik˩ka˥ si̥˩kanu](こいつは我儘勝手な子になってしまって人の注意 < 言うこと > を一向に聞かない)。

˩フンチョー˥シ [˩ɸunʧo:˥ʃi] 【名】本調子。正調。三線の調弦法の一つ。三線楽譜の工工四に従った正規の奏法。パ˩トゥ˥マナカムリバ　˩フンチョー˥シシ　ピ˩キト ミー [pḁ˩tu˥manakamuriba ˩ɸunʧo:˥ʃiʃi pi̥˩kiト mi:](鳩間節 < 鳩間中岡 > を本調子で弾いてごらんよ)。

˩フン˥ツァ [˩ɸun˥tsa] 【名】床。板敷き。縁側。「踏み板」の義。「Fumiita. フミイタ (踏板) 厩(ウマヤ) の板敷きであって、その上に馬が居る所」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。イ˩ツァフン˥ツァ [ʔi˩tsaɸun˥tsa](板敷き。板の間)。タ˩キフンツァ [tḁ˩kiɸuntsa](竹床。根太の上に竹を編んでフロアリングしたもの)。˩トゥーシェー˥　フ˩クンイツァ˥シル　˩フン˥ツァパ˩ローッタ˥ル [˩tu:ʃe:˥ ɸu̥˩kuŋʔitsa˥ʃiru ˩ɸun˥tsa: pa˩ro:tta˥ru](縁側は福木の板で床を張られたものだ)。

˩フンツァースン [˩ɸuntsa:suŋ] 【他動】踏み散らす。散々に踏みつける。作物を踏み潰(ツブ)す。「Fumichiraxi,su,aita. フミチラシ、ス、イタ (踏み散らし、す、いた) 足で踏んで散らばらせる」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ヤ˩ラ˥ベー　パ˩タ˥キ　˩フンツァースンダ　フンツァーサン˥ヨーニ　˥アザナー　ア˩サバシ [ja˩ra˥be: pḁ˩ta˥ki ˩ɸuntsa:sunda ɸuntsa:saŋ˥ jo:ni ˥ʔaʤana: ʔa˩sabaʃi](子供は畑を踏み散らすから、踏み散らさないように畦で遊ばせな

さい)。キサー˞ティ　フンツァーシ　ナー˺ヌ [kisa:˞ti ɸuntsa:ʃi na:˺nu](もう既に踏み散らしてしまった)。˞フンツァース˺　トンマー　˞マー˺ビン　˞フンツァーシェー˺　ミサムヌ [˞ɸuntsa:su˺ tomma: ˞ma:˺biŋ ˞ɸuntsa:ʃe:˺ misamunu](踏み散らす所はもっと踏み散らせばいいのに)。˞パー˺ク　˞フンツァーシ [˞pa:˺ku ˞ɸuntsa:ʃi](早く踏み散らせ)。

˞フンツァケン˺ツァ **[˞ɸuntsaken˺tsa]** 【名】ひどい扱い。踏んだり蹴ったり。ABCDBC 型の重言。ム˞カ˺シェー　ユ˞ミバ　フンツァケン˺ツァ　˞ソー˺ル　シ˞トゥウヤン　オーッ˺タンツォー [mu˞ka˺ʃe: ju˞miba ɸuntsaken˺tsa ˞so:˺ru ʃi̥˞tuʔujaŋ ʔo:t˺tantso:](昔は嫁を酷(ヒド)く扱われる < 踏んだり蹴ったりの扱いをされる > 姑もおられたそうだ)。

˞フンツァヌ˺ミー **[˞ɸuntsanu˺mi:]** 【名】床下。「踏み板の穴」の義。若年層は、˞フンツァ˺メー [˞ɸuntsa˺me:](床下) とも言う。ム˞カ˺シェー　˞フンツァヌ˺ミーナール　カ˞ブッチン˺　シ˞ブルン˺　タ˞ブイヨーッタ˺ヌ˞ナー [mu˞ka˺ʃe: ˞ɸuntsanu˺mi:na:ru ka˞buttʃiŋ˺ ʃi˞burun˺ ta˞buijo:tta˺nu˞na:](昔は床下の穴蔵でカボチャ (南瓜) もトウガン (冬瓜) も貯蔵(チョゾウ)されたのだがなあ)。

˞フンツァ˺メー **[˞ɸuntsa˺me:]** 【名】床下。若年層のことば。「床下の穴」の義。普通は、ユ˞クンツァ˺メー [ju˞kuntsa˺me:](床下。床下の穴) という。˞フンツァ˺メーナ　トゥ˞ルヌ　コー˺マ　˺ナシシケー [˞ɸuntsa˺me:na tu˞runu ko:˺ma ˺naʃi ˺ʃi̥ke:](床下に鶏が卵を産んである)。˞フンツァ˺メー　˞ペー˺ルン [˞ɸuntsa˺me: ˞pe:˺ruŋ](床下に入る)。

˺ブン　ッ˞サーラ **[˺bun s˞sa:ra]** 【連】目下の人。身分が下の者。部下。˺ブン　˞ウイ [˺buŋ ˞ʔui](目上の人。身分が上の人。上司) の対義語表現。˺ブン　˞ウイヌ˺　プ˞スン˺ケーラー　シゥ˞カイトゥ˺　ム˞ヌ˺ナライ　˞シー˺　ダー [˺buŋ ˞ʔuinu˺ pu̥˞suŋ˺ke:ra: si̥˞kaitu˺ mu˞nu˺narai ˞ʃi:˺da:](目上の < 身分が上の。上司 > 方々からは、しっかり教えていただき < もの習いをし > なさいよ)。

˞フン˺ティー **[˞ɸun˺ti:]** 【名】ほんて (本手)。本式。基本。伝統踊や棒術の正式の型。パ˞トゥ˺マナカムリヌ　ブ˞ドロー　ベー˺ヌ　˺アンマトゥ　パ˞ナシケヌ˺　イガンマートゥ　フ˞タールヌ˺　バ˞カーン˺　ケンナー　˞ソーッ˺タ　˞ティー˺ル　˞フン˺ティーティ　ス˞クタン˺ダー [pḁ˞tu˺manakamurinu bu˞duro: be:˺nu ˺ʔammatu pa˞naʃi̥kenu˺ ʔigamma:tu ɸu̥˞ta:runu˺ ba˞ka:ŋ˺kenna: ˞so:t˺ta ˞ti:˺ru ˞ɸun˺ti:ti su̥˞kutan˺da:](鳩間中岡(ナカモリ)本節の踊りの型は、我が家のお母さんと花城家のイガお母さんの二人が若い頃に踊られた < なさった > 手型が伝統的な正式の型 < 本手 > だと聞いたことがあるよ)。

˞フン˺トー **[˞ɸun˺to:]** 【名】本当。真。真実。老年層は、˞ソーフン˺トー [˞so:ɸun˺to:](真実。正本当) という。˞ワー　フントー˺ヌ　˺ウヤー　˞ター˺ヤ [˞wa: ɸunto:˺nu ˺ʔuja: ˞ta:˺ja](君の本当の親は誰か)。˞フントー˺ヌ　˺クトゥ　ア˞ジバル˺　マ˞シトダー [˞ɸunto:˺nu ˺ku̥tu ʔa˞ʤibaru˺ ma˞ʃiɨ-da:](本当のことを言った方がいいよ)。˞フン˺トー　˞シーシェーン [˞ɸun˺to: ˞ʃi:ʃe:ŋ](本当に出来るか)。

˞フントースン **[˞ɸunto:suŋ]** 【他動】踏みしめる。踏み固める。踏み付ける。「踏み倒す」の義。「フン-」は意味を強める接頭語。ヤ˞ラビ˺ヌ　ア˞ツァ˺マリティ　パ˞タ˺キ　˞フントーシ　ベー [ja˞rabi˺nu ʔa˞tsa˺mariti pḁ˞ta˺ki ˞ɸunto:ʃi be:](子供が集まって畑を踏み固めている)。パ˞タ˺キ　˞フントーサンドー˺シ　˺アザーラ　ア˞ラ˺キ [pḁ˞ta˺kai ˞ɸunto:sando:˺ʃi ˺ʔaʤa:ra ʔa˞ra˺ki](畑を踏み固めないで畦から歩け)。パ˞タキ˺ヌ　ス˞クリ˺ムヌ　˞フントース˺　プ˞ソー˺　ブ˞ラーヌ [pḁ˞taki˺nu su̥˞kuri˺munu ˞ɸunto:su˺ pu̥˞so:˺ bu˞ra:nu](畑の作物を踏みつける人はいない)。イ˞シジ˺　ビ˞スン˺　トンマー　˞マー˺ビン　˞シッ˺キ　˞フントーシェー˺　ミサムヌ [ʔi˞ʃiʤi˺ bi˞sun˺ tomma: ˞ma:˺biŋ ˞ʃik˺ki˞ɸunto:ʃe:˺ misamunu](礎石を据える所はもっと突き固め、踏み固めればいいのに)。˞フントーシ˺バ [˞ɸunto:ʃi˺ba](踏み固め、突き固めよ)。

˞フントールン **[˞ɸunto:ruŋ]** 【他動】ぶったくる (打っ手繰る)。ふんだくる。強くたぐりよせる。「フン-」は意味を強める接頭語。サ˞バナーバ　フントー˺ルンティ　˞スンドゥ　バン˺マー　˞フントーララヌ [sa˞bana:ba ɸunto:˺runti ˞sundu ˞bam˺ma: ˞ɸunto:raranu](鱶の延縄(ハエナワ)をぶった繰(ク)ろうとするが、私にはぶった繰られない)。サ˞バナー　フントーリ˺　ミリバ [sa˞bana:ba ɸunto:ri˺ miriba](鱶の延縄をぶった繰ってみなさい)。˞グッふァ˺ヌ　˞フントール˺　クトー　ナ˞ラ˺ヌ [˞guffa˺nu ˞ɸunto:ru˺ ku̥to: na˞ra˺nu](重くてぶった繰るくとは出来ない)。˞フントーレー˺　ミサムヌ [˞ɸunto:re:˺ misamunu](ぶった繰ればいいのに)。˞パー˺ク　˞フントーリ [˞pa:˺ku ˞ɸunto:ri](早くぶった繰れ)。

˞フン˺ドゥ **[˞ɸun˺du]** 【名】ちきりじめ (滕締め)。˺イダフニ [˺ʔidaɸuni](サバニ。「板舟」) の板の接合部

を引き締めるためにうめ (填め) 込むもの。幅約 3、5 センチ、長さ約 6 センチ、厚さ約 1、5 センチのイヌマキ (犬槙) で作った滕締(チキリジメ)。両端が広く、中がくびれて狭い。このフンドゥと竹釘だけで舟板の接合部分は強化され、分離しにくいようになっている。˞イダフネー　イ˞ツァ˞ヌ　˞アーシ˞ミーナ　˞フン˞ドゥ　イ˞リティ˞　タ˞キフン˞　ウ˞トーッ˞タ [˞ʔidaɸuneː ʔi˞tsa˞nu ˞ʔaːʃi˞miːna ˞ɸun˞du ʔi˞riti˞ tạ˞kiɸuŋ˞ ʔu˞toːt˞ta](板船 < サバニ > は、板の合わせ目 < 接ぎ目 > に滕締めを入れて、竹釘(タケクギ)を打たれた)。

˞フンドゥミ **[˞ɸundumi]** 【名】釘付け。釘締め。「くぎどめ (釘止)」の義。パ˞クヌ˞　フ˞ター˞　ヤ˞シーヤシー˞　ア˞キララン˞　ヨーニ　˞フンドゥミ˞　シ˞ラリ　ベー [pạ˞kunu˞ ɸụ˞taː˞ ja˞ʃiːjaʃiː˞ ʔa˞kiraraŋ˞ joːni ˞ɸundumi˞ ʃi˞rari beː](箱の蓋は簡単に開けられないように釘付けにされている)。

フン˞ナー˞マ **[ɸun˞naː˞ma]** 【名】小さな釘。「小釘」の義。˞˞-ナー˞マ [˞-naː˞ma] は指小辞の形態素-マ [-ma](小さいもの。小) の異形態。語尾が [n] で終わる語に続く時は [˞-naː˞ma]、語尾が二重母音構造の、前舌狭母音 [i] で終わる語に続く時は˞-ヤー˞マ [˞-jaː˞ma](ミー˞ヤー˞マ [miː˞jaː˞ma]< 小さな目 >)、ガイ˞ヤー˞マ [gai˞jaː˞ma](小匙) となり、語尾が二重母音構造の、後舌狭母音 [u] で終わる語に続く時は˞ワー˞マ [˞waː˞ma](バウ˞ワー˞マ [bau˞waː˞ma]< 小さな棒 >、サウ˞ワー˞マ [sauwaːma]< 小さな竿 >) となる。語尾が CV 構造の [i] で終わる時は、フ˞ネー˞マ [ɸu˞neː˞ma](小舟)、語尾が CV 構造の [u] で終わる時は、パ˞コー˞マ [pạ˞koː˞ma](小箱)、語尾が CV 構造の [a] で終わる時は、シ˞マー˞マ [ʃi˞maː˞ma](小島) と形態変化を起こす。フン˞ナー˞マシ　˞ウティバ [ɸun˞naː˞maʃi ˞ʔutiba](小さい釘で打てよ)。

˞フンナクン **[˞ɸunnakuŋ]** **(1)**【他動】船を沈める。沈没させる。水中にぶち込む。ユ˞ニヌ　インタヌ　トゥー˞ナー　˞ユー　˞フニ　˞フンナクンꜜダー [ju˞ninu ʔintanu tuː˞naː ˞juː ˞ɸuni ˞ɸunnakunꜜdaː](ユニ < 鳩離島の西にある枝珊瑚の砂利で出来た島 > の西側の深海では、よくサバニを沈没させるよ)。˞フンナカン˞ヨーニ　ウ˞キ˞ヤー　˞サイバ [˞ɸunnakaŋ˞ joːni ʔu˞ki˞jaː ˞saiba](沈没しないように舷側に孟宗竹のフロートを吊るし < 下げ > なさいよ)。ウ˞キ˞ヤー　˞サイ˞ルカー　˞フンナカヌ [ʔu˞ki˞jaː ˞sai˞ rukaː ˞ɸunnakanu](孟宗竹のフロートを吊るしたら沈没しない)。˞イダフニ　˞フンナク˞　ピンヌン　˞アッ˞タン [˞ʔidaɸuni ˞ɸunnaku˞ pinnuŋ ˞ʔat˞taŋ](板船 < サバニ > を沈没させる時もあった)。˞フニ　˞フンナケー˞　ミサムヌ [˞ɸuni ˞ɸunnakeː˞ misamunu](舟を沈没させればいいのに)。˞フニ　˞フンナキ˞バ [˞ɸuni ˞ɸunnaki˞ba](舟を沈没させなさい)。**(2)**【自動】舟が沈む。沈没する。フ˞ニ˞ヌ　˞フンナクン [ɸu˞ni˞nu ˞ɸu˞nnakuŋ](舟が沈没する)。˞フネー　˞フンナカヌ [˞ɸuneː ˞ɸunnakanu](舟は沈没しない)。˞フネー　˞フンナキ　ナー˞ヌ [˞ɸuneː ˞ɸunnaki naː˞nu](船は沈没していまった)。˞マチフニル　˞フンナク˞　イダフネー　˞フンナカヌ [˞matʃihuniru ˞ɸunnaku˞ ʔidaɸuneː ˞ɸunnakanu](松の刳り舟が < ぞ > 沈没する、板舟 < イダフニ > は沈没しない)。˞フンナケー˞　ミサムヌ [˞ɸunnakeː˞ misamunu](沈没すればいいのに)。˞フンナキ˞バヒャー [˞ɸunnaki ˞baça:](< 忠告を聞かずに舟を出したりして > 沈没しろよ、くそったれめ)。

˞ブン˞ナブンナ **[˞bun˞nabunna]** 【名】めいめい (銘銘)。各自。それぞれ。「居りな居りな」の義か。˞ナー　ブン˞ナブンナ　˞ドゥー˞ヌ　パ˞タキ˞ヌ　˞ティーリバ˞ル　˞シー　ブー [˞naː bun˞nabunna ˞duː ˞nu pạ˞taki˞nu ˞tiːriba˞ru ˞ʃiː buː](もう各自 < 銘銘。居る者それぞれ > 自分の畑の手入れをしている)。

˞フン˞ニン **[˞ɸun˞niŋ]**【名】本人。˞フンニン˞ヌ　˞ミサンティ　ア˞ズ˞カー　ミ˞サ˞ルミー　ビ˞チ˞ヌ　プ˞スヌ˞　ヌーティクイティ　ア˞ズ˞クトー　ナ˞ラ˞ヌ [˞ɸunnin˞nu ˞misanti ʔa˞ʤu˞kaː mi˞sa˞rumiː bi˞tʃi˞nu pụ˞sunu˞ nuːkuiti ʔa˞ʤu˞ kụtoː na˞ra˞nu](本人が良いというのなら、それで良いではないか。他人 < 別の人 > がつべこべ < どうのこうの > と言うことはいけない)。

˞フンバカウン **[˞ɸumbakauŋ]** 【他動】強引に奪い取る。強奪する。ぶん取る。ふんだくる。˞フン-[˞ɸum-] は強意の接頭語。ヤ˞ラ˞ビン　サ˞キナー˞トー　ヌ˞マ˞シェー　ナ˞ラ˞ヌ　˞フンバカイ˞　シ˞ティリ [ja˞ra˞bin sạ˞kinaː˞toː nu˞ma˞ʃeː na˞ra˞nu ˞ɸumbakai˞ ʃị˞tiri](子供に酒などを飲ませてはならない。ぶん取って捨てなさい)。˞ザイサン　˞フンバカウンティ　スンドゥ　バン˞マー　˞フンバカーラヌ [˞ʤaisaŋ ˞ɸumbakaunti sundu bam˞maː ˞ɸumbakaːranu](財産をぶん取ろうとするが、私にはぶん取られない)。˞フンバカイヤー˞　ミサムヌバ　˞フンバカウ˞　クトウン　ナ˞ラ˞ヌ [˞ɸumbakaijaː˞ misamunuba ˞ɸumbakau˞ kụtun na˞ra˞nu](ぶん取

ればいいものを、ぶん取ることもできない)。シ˩グ　フンバカイ˥バ [ʃi˩gu ɸumbakai˥ba](直ちに＜すぐ＞ぶん取れよ)。

˥ブンパジリムヌ [˥bumpaʤirimunu] 【名】恩知らず。「恩義の義理から外れた者」の義。ヨー˩ヨー˥　ブンパジリムヌティ　ア˩ザラン˥ヨーニル　˩シェー˥ティ　˩アー˥ク˩ダー [jo:˩jo:˥ bumpaʤirimunuti ʔa˩ʤaraŋ˥jo:niru ˩ʃe:˥ti ˩ʔa:˥ku˩da:](よくよく気を付けて、恩知らずと言われないようにして生きていくんだ＜あるくんだ＞よ)。

˩フンパルン [˩ɸumparuŋ] 【自動】踏ん張る。両足に力をこめて踏みこたえる。˥マター　パ˩タッカリ˥　シゥ˩カラ˥　˥ンジ　˩フンパルンティ　スンドゥ　フンパララヌ [˥mata: pḁ˩takkari˥ si̥˥kara˥ ʔnʤi ˩ɸumparunti sundu ɸumpararanu](股を開き、力を出して踏ん張ろうとするが、踏ん張られない)。˩フンパリ　ベー˥リ [˩ɸumpari be:˥ri](踏ん張って居れ)。˩フンパル˥　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [˩ɸumparu˥ pu̥˩so:˥ bu˩ra:nu](踏ん張る人はいない)。˩マー˥ビン　˩フンパレー˥　ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ˩ɸumpare:˥ misamunu](もっと踏ん張ればいいのに)。˩パー˥ク　˩フンパリ [˩pa:˥ku ˩ɸumpari](早く踏ん張れ)。

˩フンパンツァスン [˩ɸumpantsasuŋ] 【他動】踏み外す。˩キーヌ˥　ユダ　˩フンパンツァシ˥　ウティ　˩ナー˥ヌ [˩ki:nu˥ juda ˩ɸumpantsaʃi˥ ʔuti ˩na:˥nu](木の枝を踏み外して落ちてしまった)。ア˩バティティ˥　ア˩ラ˥クカ　˩キー˥パシ　˩フンパンツァスンダ　フンパンツァサン˥ヨーニ　˩ヨーンナー˥　ア˩ラ˥キバ [ʔa˩batiti˥ ʔa˩ra˥kuka: ˩ki:˥pḁʃi ˩ɸumpantsasunda ɸumpantsasaŋ˥jo:ni ˩jo:nna:˥ ʔa˩ra˥kiba](急いで歩くと木の橋＜丸木橋＞を踏み外すから、踏み外さないようにゆっくり歩けよ)。˩フンパンツァス˥　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌヌ　フンパンツァシェー˥　ミサムヌ [˩ɸumpantsasu˥ pu̥˩so:˥ bu˩ra:nunu ɸumpantsaʃe:˥ misamunu](踏み外す人はいないが、踏み外せばいいのに)。パ˩ナン˥ギ　˩シー　ベー˥ティ　˥パン　˩フンパンツァシ˥バ˩ヨー [pa˩naŋ˥gi ˩ʃi: be:˥ti ˥paŋ ˩ɸumpantsaʃi˥ba˩jo:](悪戯をしていて、いまに足を踏み外すぞ＜足を踏み外せよねえ＞)。

˩フンピグン [˩ɸumpiguŋ] 【他動】ひきへぐ (引き剥(ハ)ぐ)。ひっぺぐ (引っ剥ぐ)。包丁などで薄く削(ケズ)り取る。ガ˩シ˥タク　˩フンピグンティ　スンドゥ　フンピガラヌ [ga˩ʃi˥tḁku ˩ɸumpigunti sundu ɸumpigaranu](燻製(クンセイ)の蛸(タコ)を引き剥ごうとするが、引っ剥がされない)。ピ˩シーピシー˥シ　˩フンピギ˥　ミサカー　˩フンピグ˥　クトー　˥ナルン [pi̥˩ʃi:piʃi:˥ʃi ˩ɸumpigi˥ misaka: ˩ɸumpigu˥ ku̥to: ˥naruŋ](薄く引っ剥(パ)がしてよければ、引っ剥がすことはできる)。˩フンピゲー˥　ナ˩ラ˥ヌ [˩ɸumpige:˥ na˩ra˥nu](引っ剥がしてはならない)。˩フンピギ˥バ [˩ɸumpigi˥ba](引っ剥がせ＜引っ剥げよ＞)。

˩フンビダーカスン [˩ɸumbida:kasuŋ] 【他動】踏み潰す。ぺしゃんこにする。「踏んで平らにする」の義。˩フン [˩ɸuŋ-](強く＜踏み＞〜) は強意の接頭語。˥ガンガンパク　˩フンビダーカスンティ　スンドゥ　フンビダーアカサラヌ [˥gaŋgampaku ɸumbida:kasunti sundu ɸumbida:kasaranu](ブリキ箱を踏み潰そうとするが、踏み潰されない)。˩フンビダーカシ　ナー˥ヌ [˩ɸumbida:kaʃi na:˥nu](ぺしゃんこにしてしまった)。˩フンビダーカス˥　ムノー　ムー˩ル　フンビダーカシェー˥　ミサムヌ [˩ɸumbida:kasu˥ muno: mu:˩ru ɸumbida:kaʃe:˥ misamunu](踏み潰すものは全部踏み潰せばいいのに)。˩パー˥ク　˩フンビダーカシ [˩pa:˥ku ˩ɸumbida:kaʃi](早く踏み潰せ)。

˩フンビ˥チ [˩ɸumbi˥ʧi] 【名】分別。標準語からの借用語。普通は˩ジン˥ブン [˩ʤim˥buŋ](存分。考え。存念。思慮分別。「Zonnen. ゾンネン (存念) 思うこと」『邦訳日葡辞書』) という。ク˩ヌ˥　トゥシ　˥ナルカー　プ˩ソー　フンビチ˥ヌ　ア˩リバ˥ル　ナル˩ダー [ku˩nu˥ tu̥ʃi ˥naruka: pu̥˩so: ɸumbiʧi˥nu ʔa˩riba˥ru naru˩da:](この年になると、人は分別があって然るべきだぞ＜分別があればぞなるのだ＞)。

˩ブンピトゥ [˩bumpitu] 【名】大きなイルカ (海豚)。˥アヤ [˥ʔaja](紋。筋。縞模様) のあるイルカは舟に寄ってきて離れないことがある。パ˩ナシケーヌ　アー˥ニヤートゥ　マー˩ズン˥　イ˩ガメーゲータ˥ヌ　ウ˩ヌ˥　ピン　ピ˩トゥ˥ヌ　フ˩ニ˥ヌ　˩マール˥ナ　ブ˩リブタンドゥ˥　ウ˩ヌ˥　ナ˩カヌ˥　プ˩スッ˥カラー　イ˩ガメー˥ランプバ　˥シキシケール　トゥ˩ム˥ヌ　˥トン　ン˩カイ　クー˥ター　ウ˩ダラ˥キティ　˩ピーヌールン˥トン　ブ˩ダッカリ˥　キー　˥ガタガタシ　˩フッツォーリティ　ウン˥ヌ　˩カン˥マー　ス˩バー　オー˥リ　タ˩ボー˥リティ　フ˩チカザル　ソーッター˥ル　˩ブンピトー˥　ス˩バー　パッ˥タ˩ダー　アー˥ニヤー　ウ˩ダラ˥キティ　˩アン˥カー　˩アイシミティ　ダイ˥ケーヌ　˩アーヤー˥トゥ　˩メー˥ケヌ　˩アー˥ヤー　フ˩ニ˥ヌ　˥スバー　˩ギール˥　イ˩ガー　ホーシ˥タ˩ダー [pa˩naʃi̥ke:nu ʔa:˥nija:tu ma:˩ʤuŋ ʔi˩

game: ge:taˀnu ʔuˀnuˀ pim pi̥ˀtuˀnu ɸuˀniˀnu ˞ma:ru ˀna: buˀributanduˀ ʔuˀnuˀ naˀkanuˀ pu̥ˀsukˀkara: ʔiˀ game:ˀrampuba ˀʃi̥kiʃi̥ke:ru tuˀmuˀnu ˀtoŋ ŋˀkai ku:ˀta: ʔuˀdaraˀkiti ˞pi:nu:runˀtom buˀdakkariˀ ki: ˀgata-gataʃi ˞ɸuttso:riti ʔunˀnu ˞kamˀma suˀba: ʔo:ˀri taˀbo:ˀriti ɸu̥ˀtʃikaʤaru so:ttaˀru ˞bumpito:ˀ suˀba: patˀtaˀda: ʔa:ˀnija: ʔuˀdaraˀkiti ˞ʔaŋˀka: ˞ʔaiʃimiti daiˀke:nu ˞ʔa:jaˀtu ˞me:ˀke:nu ˞ʔa:ˀja ɸuˀniˀnu ˀsuba: ˞gi:ruˀ ʔiˀga: ho:ʃiˀtaˀda:](花城家のアーニヤーさんと一緒にイカ釣り漁に行ったが、その時にイルカが舟の周りに群れていたが、その中の一頭がイカ釣りランプを灯してある艫(トモ)の方へ向かってきたので、驚いて舳先(へサキ)の方へ飛び込んできて、ガタガタ震えて「海の神様は余所＜側＞へ行って下さい」と呪文を唱えたので、イルカは余所へ行ったよ。アーニヤーさんは驚いて錨を揚げさせ、大工家のお父さんと大城家のお父さんの舟の側へ行ってイカを釣ったのだよ＜加治工伊佐氏談＞)。

˞フンピルン [˞ɸumpiruŋ] 【他動】踏み潰(ツブ)す。シˀダミˀバ ˀパンシ ˞フンピルンティ スンドゥ バンˀマー ˞フンピララヌ [ʃiˀdamiˀba ˀpaŋʃi ˞ɸumpirunti sundu bamˀma: ˞ɸumpiraranu](蝸牛(カタツムリ)を足で踏み潰そうとするが、私には踏み潰されない)。˞フンピリˀ ミサカー ˞フンピルˀ クトー ˀナルン [˞ɸumpiriˀ misaka: ˞ɸumpiruˀ ku̥to: naruŋ](踏み潰してよければ踏み潰すことはできる)。ウˀレー フンピレーˀ ミサムヌ [ʔuˀre: ɸumpire:ˀ misamunu](それは踏み潰せばいいのに)。ˀドゥーシ ˞フンピリˀバ [ˀdu:ʃi ˞ɸumpiriˀba](自分で踏み潰せよ)。

˞フンˀプー [˞ɸumˀpu:] 【名】ほんぽ(本帆)。舟の中央の帆柱に張る大きな帆。˞プーシンヌ マンナカヌˀ パラーナ ピˀクˀ ウˀブプーバˀル ˞フンˀプーティ アˀズト ダー [˞pu:ʃinnu mannakanuˀ para:na pi̥ˀkuˀ ʔuˀbupu:baˀru ɸumˀpu:ti ʔaˀʤuトda:](帆船の真中の帆柱に張る＜引く＞大きな帆を本帆と言うのだよ)。

˞フンˀブン [˞ɸumˀbuŋ] 【名】本職。本務。職分(スˀクブン [su̥ˀkubuŋ])。その人の守るべき本来の分限。標準語からの借用語。ブˀザˀヌ ˞フンブンˀマー ˞タースクˀルティル ナˀラーˀソーッタ [buˀʤaˀnu ˞ɸumbumˀma: ˞ta:su̥kuˀrutiru naˀra:ˀso:tta](百姓の本分は稲作＜田作り＞だと教えられた)。

˞フンマギルン [˞ɸummagiruŋ] 【他動】ひん曲げる。力強く曲げる。「踏み曲げる」の転訛したもの。˞フンマギルンティ スンドゥ フンマギララヌ [˞ɸummagirunti sundu ɸummagiraranu](ひん曲げようとするが、ひん曲げられない)。

˞フンマラクン [˞ɸummarakuŋ] 【他動】強くまろぐ(丸ぐ。円ぐ)。稲束30束をひとまとめにして強く縛る。丸くひっくくる。˞フン-[˞ɸuŋ-] は強意の接頭語。マˀラクン [maˀrakuŋ] は、「Marome,uru. マロメ、ムル(丸め、むる)」『邦訳日葡辞書』、「是れを丸げて〜」『宇治拾遺物語二』の転訛したもの。バˀラフˀタタバル ˞フンマラクンティ スンドゥ フンマラカラヌ [baˀraɸu̥ˀta ˀtabaru ˞ɸummarakunti sundu ɸummarakaranu](藁束を強く丸ごうとするが、強く丸がれない)。クˀビˀナー ˞フンマラキˀ ミサカー ˞フンマラクˀ クトー ˀナルン [kuˀbiˀna: ˞ɸummarakiˀ misaka: ˞ɸummarakuˀ ku̥to: ˀnaruŋ](これぐらいずつ丸くひっくくって＜丸げて＞よければ、丸くひっくくる＜丸げる＞ことはできる)。˞マイーマイーˀシ ˞フンマラケーˀ ミサムヌ [˞mai:-mai:ˀʃi ˞ɸummarake:ˀ misamunu](大きくひっくくれば＜丸げば＞いいのに)。˞マーˀビン ˞フンマラキ [˞ma:ˀbiŋ ˞ɸummaraki](もっ大きくとひっくくれ＜丸げ＞)。

ˀブンムチ [ˀbummutʃi] 【名】身分の高い人。重々しいひと。「分持ち」の義。ウˀヌˀ プˀソーˀ イッˀケナˀ ブンムチル ヤˀローリンˀサ [ʔuˀnuˀ pu̥ˀso:ˀ ʔikˀkenaˀ bummutʃiru jaˀro:rinˀsa](あの人は大変身分の高い方であられる＜〜でいらっしゃる＞ようだ)。

˞ブンラーッˀサン [˞bunra:sˀsaŋ] 【形】重々しい。福福しい。沖縄首里方言の転訛したもの。˞ブンダーッˀサン [˞bunda:sˀsaŋ](重々しい。福福しい)に同じ。˞ブンラーッˀサンギサヌ ムˀニイジˀヨー [˞bunra:sˀsaŋgisanu muˀni?iʤiˀjo:](見るからに重々しい物の言いぶり)。

へ

へ˞〜 **[ɕ:ẽ]** 【感】1ええ? なんだって? 相手の話に対して婉曲に疑問ないし反感の意を表す。へ˞〜˺　アン˞デー˺カ　マー˞ズンマー˺　パ˞ララ˺ヌ [hẽ˞:˺ ʔan˞de:˺ka ma:˞ʤumma:˺ pa˞rara˺nu](ええ?、それならば一緒には行けないのか)。2更に、あからさまに反感の意を表す際は、ハ〜[hã:](何ですって?) と鼻音化する。ハ˞〜˺　ヌーティー˞ー [hã˞:˺ nu:ti˞:](ええ?、何だとう?)。

へ˞ー **[çe˞:]** 【感】へえ。ほう。相手が言ったことに対して感嘆した時に、肯定的に認めて発することば。へ˞ー　ワッ˺テーヤ　˺アイル　˺ナリ　˞ブー [çe˞: wat˺te:ja ˺ʔairu ˺nari ˞bu:](へえ、君の家はそのような関係になっている < そのような事情にある > のか)。

˺へー **[˺çe:]** 【格助】〜へ。鳩間方言の方向を表す格助詞は、上接語の末尾母音の種類によって、以下のように変化する。**(1)**-i+ へ　→　Ce:(C= 子音)。˺マチェー　˞カイムヌ　シン˺　パル [˺matʃe: ˞kaimunu ʃim˺ paru](町へ買い物をしに行く)。パ˞タ˺ケー　˺ウン　˞カイ˺シン　˞パッ˺タ [pa̠˞ta˺ke: ˺ʔuŋ ˞kai˺ʃim ˞pat˺ta](畑へ芋ほりに < 芋耕しに > 行った)。˺フネー　ア˞ゲー　ヌーシ　アンギリ [˺ɸune: ʔa˞ge: nu:ʃi ʔaŋgiri](舟は陸へ陸揚(リクアゲ)しなさい)。イ˞ラムテー˺　イ˞ズカーシン　パッ˺タ [ʔi˞ramute: ˺ ʔi˞ʤu ka:ʃim pat˺ta](西表へ魚を売りに行った)。**(2)**-a+ へ　→　Ca(C= 子音)。グ˞ラマン˺マー　˞インター (˞イーラー)˺　トゥ˞ビ　パッ˺タ [gu˞ramam ˺ma: ˞ʔinta:(˞ʔi:ra:)˺ tu˞bi pat˺ta](グラマン飛行機は西の方へ飛び去った)。˞ヤーン˺　ナカー　˞ペー˺リ [˞ja:n˺ naka: ˞pe:˺ri](家の中へ入れ)。˺キノー　ウ˞キ˺ナー　˞パッ˺タ [˺kino: ʔu˞ki˺na: ˞pat˺ta](昨日、沖縄へ行った)。ン˞ガマサ˺ヌ　カ˞マー˺　パリ [ʔŋ˞gamasa˺nu ka˞ma:˺ pari](うるさい、あっちへ行け)。**(3)**-u+ へ →Co(C= 子音)。˺アツァー　ヤ˞マ˺トー　˺パルンティ　ス˞コーリ　ベー [˺ʔatsa: ja˞ma˺to: ˺ parunti su̠˞ko:ri be:](明日本土 < 大和 > へ行こうと準備している)。パ˞ナシキヌ　カン˺マー　ブ˞ラコー　ペーラス˺ナ [pa˞naʃi̠kinu kam˺ma: bu˞rako: pe:rasu˺na](風邪の神は部落へ入れるな)。˺フネー　キ˞サ˺　ミ˞ナトー　ペー˺レーン [˺ɸune: ki̠˞sa˺ mi ˞nato: pe:˺re:ŋ](船は既に港へ入った)。˞カイヌ˺　ス˞コー˺　イ˞リリ [˞kainu˺ su̠˞ko:˺ ʔi˞riri](長持ちの底へ入れなさい)。

˞ベー **[˞be:]** 【代】自称。複数。< 聞き手を含む > 私たち、われら。˞ベーター [˞be:ta:](私たち) ともいう。˞ベー˺　ムー˞ル　ヤイマプス˺　ヤ˞ルヌ˺　ワ˞ター˺　イ˞サナキプス　バン˺ター　パ˞トゥ˺マプス˞ダー [˞be:˺ mu:˞ru jaimapusu˺ ja˞runu˺ wa˞ta:˺ ʔi ˞sanakipu̠su ban˺ta: pa̠˞tu˺mapu̠su˞da:](我々はみんな八重山人だが、君らは石垣の人、僕らは鳩間人だ)。

˺ペー **[˺pe:]** 【名】1つまさき (爪先)。˺アイニ　ア˞ラ˺クカー　˺ペー　キルン˞ダー [˺ʔaini ʔa˞ra˺kuka: ˺ pe: kirun˞da:](あのように歩くと足の爪先を蹴る < 蹴躓(ケツマズ)く > ぞ)。2足跡。あしあと。パ˞マー˺ラ　˺パレーカー　˞パン˺ヌ　˺ペー　タ˞ドゥ˺レーティ　˞ミシキラ˺リン [pa˞ma:˺ra ˺pare:ka ˞pan˺nu ˺pe: ta˞du˺ re:ti ˞miʃi̠kira˺riŋ](浜から行ったのであれば足跡を辿って探せ < 探され > る)。

˺ペー **[˺pe:]** 【名】へ (綜)。そうこう (綜絖)。布を織る際に、よこいと (緯糸) を通すひ (杼) 道を作るために、たていと (経糸) を上下させる道具。

˞ベー˺カー **[˞be:˺ka:]** 【名】下痢と嘔吐(オウト)を繰り返す病気。霍乱(カクラン)。赤痢の一種か?˞ヌー˺バ　ッ˞ふァイティ˺　ア˞タルタ˺ユー　ユ˞ナカー˺ラ　˞ベー˺カー　˞シー　ベー [˞nu:˺ba f˞faiti˺ ʔa˞taruta˺ju: ju˞naka:˺ra ˞ be:˺ka: ˞ʃi: be:](何を食べて当ったのか、夜中から下痢と嘔吐をいている)。

˞ヘーガ˺サ **[˞çe:ga˺sa]** 【名】頭の皮膚病。頭にお出来ができて、じめじめと湿り、悪臭を放つ皮膚病。「はえかさ (這え瘡)。瘡、加佐 < かさ >『和名抄』」の義か。˞ペーガ˺サ [˞pe:ga˺sa](頭の皮膚病) ともい

う。ス˞ブ˜ロー　˞ヘーガ˜サー　˜ナリティ　ッ˞サー˜ヌ　ナ˞ラ˜ヌ [suˀbu˜ro: ˞çe:ga˜sa: ˜nariti s˞sa:˜nu na ˞ra˜nu](頭はヘーガサーの皮膚病に罹(カカ)って臭くて堪(タマ)らない)。

˞ベー˜カベー [˞be:˜kabe:] 【名】(動) 山鳩の一種。アオバト (青鳩)。子供が拗ねて泣きだすと親たちは、˞ウリウリ　ベー˜カベーヌ　ナ˞クン˜ドー [˞ʔuriʔuri be:˜kabe:nu na˞kun˜do:](ほらほらベーカベー < 青鳩 > が鳴くよ) といって、婉曲に子供をたしなめ < 窘め > たり、一時的に子供の注意を引くようにしたものである。

˜ペー　˜キルン [˜pe: ˜kiruŋ] 【連】つまづく (躓く)。けつまずく (蹴躓く)。「爪先を蹴る」の義。˞パン˜バ　˞サンゲー˜ティ　˞アー˜キ　˜ペー　˜キリティ　ドッ˞ふァティ　シンナ˜キ　˞トー˜リ　˞ナー˜ヌ [˞pam˜ba ˞saŋge:˜ti ˞ʔa:˜ki ˜pe: ˜kiriti dof˞fati ʃinna˜ki ˞to:˜ri ˞na:˜nu](足を引きずって歩いていて、蹴躓いてバタンとつんのめって倒れてしまった)。˜アイニ　ア˞ラ˜クカー　˜ペー　˜キルンダ　˜ペー　キ˞ラン˜ヨーニ　ア˞ラ˜キ [˜ʔaini ʔa˞ra˜kuka: ˜pe: ˜kirunda ˜pe: ki˞raŋ˜jo:ni ʔa˞ra˜ki](あのように歩くと蹴躓(ケツマズ)くから、蹴躓かないように歩け)。˜ペー　˜キル　˜クトー　˞ナー˜ヌ [˜pe: ˜kiru ˜kʰuto: ˞na:˜nu](蹴躓く < 爪先を蹴る > ことはない)。

˞ペー˜キン [˞pe:˜kiŋ] 【名】琉球国時代、頭 < カシラ > 職に与えられた位階名と同じ『石垣方言辞典』。パ˞トゥ˜マナー　˞ペーキン˜マー　˞オーラン˜　ブ˞レー˜ル [pa̠˞tu˜mana: ˞pe:kim˜ma: ˞ʔo:ram˜ bu˞re:˜ru](鳩間島には親雲上は居られなかったのだろうよ)。

˞ヘー˜シ [˞çe:˜ʃi] 【名】囃子。民謡や民俗芸能などの各種芸能で、あいのて (間の手) を入れたり、手拍子を打ったり、情緒(ジョウチョ)を出すために添える歌詞や文句。笛、太鼓、三線などの楽器が用いられる。˞ヘー˜シは沖縄方言からの借用語。伝統的鳩間方言では、˞パー˜シ [˞pa:˜ʃi](囃子。傍らで鼓を打ったり、手拍子を打ったり、声を出したりして歌舞を活気付けること) という。「〜七重花咲く　八重花咲くと白賞尼 < マヲシハヤサネ >。万、3885」、「Fayaxi,u,aita. ハヤシ、ス、イタ (囃し、す、いた) 楽器を鳴らし、声を上げて歌う」、「Fayaximono. ハヤシモノ (囃し物・拍子物) 一緒に動き回る大勢の人々の、合唱を伴った踊.」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞ヘー˜シ　イ˞リリ [˞çe:˜ʃi ʔi˞riri](囃しを入れなさい)。

ベーシ˞ティ [be:ʃi̥˞ti] 【副】ぎくっと。ぎょっと。不意に驚くさま。˞ウンザヌ　アッ˜タニ　˜ンジ　˜キーティル　ベーシ˞ティ˜　ウ˞バーサリ　ベー˜タ [˞ʔundʑanu ʔat˜tani ˜ndʑi ˜ki:tiru be:ʃi̥˞ti˜ ʔu˞ba:sari be:˜ta](あいつが急に出てきたので、ぎょっと驚かされていたよ)。ベーシ˞ティ˜　ウ˞ダラ˜クン [be:ʃi̥˞ti˜ ʔu˞dara˜kuŋ](ぎくっと驚く)。

˞ベー˜スン [˞be:˜suŋ] 【他動】1酔わせる。ウ˞リン˜　サ˞キ˜　ヌ˞マ˜シティ　˞ベー˜スンティ　˞スンドゥ　ベーサラン˜バン [ʔu˞rin˜ sa̠˞ki˜ nu˞ma˜ʃi̥ti ˞be:˜sunti ˞sundu be:saram˜baŋ](彼に酒を飲ませて酔わせようとするが、酔わされないわい)。ヤ˞ラ˜ビン　サ˞キ˜　ヌ˞マ˜シ　˞ベース˜ナ [ja˞ra˜bin sa̠˞ki˜ nu˞ma˜ʃi ˞be:su˜na](子供に酒を飲ませて酔わせるな)。˞ベー˜シ　˜ミサカー　˞ベー˜ス　˜クトー　˜ナルン [˞be:˜ʃi ˜misaka: ˞be:˜su ˜kʰuto: ˜naruŋ](酔わせてよければ、酔わせることはできる)。˞マー˜ビン　˞ベー˜シェー　˜ミサムヌ [˞ma:˜bim ˞be:˜ʃe: ˜misamunu](もっと酔わせればいいのに)。˞パー˜ク　˞ベー˜シ [˞pa:˜ku ˞be:˜ʃi](早く酔わせろ)。2中毒させる。麻痺させる。痺れさせる。イ˞ズベーシ˜　ッサ　˞シッ˜キティ　ク˞ム˜ルナ　イ˞リティ˜　イ˞ズ　ベー˜シバ [ʔi˞dʑube:ʃi˜ ssa ˞ʃik˜kiti ku˞mu˜runa ʔi˞riti˜ ʔi˞dʑu be:˜ʃiba](キツネノゴマ < 魚酔わせ草。魚を麻痺(マヒ)させる草 > を砕いて、魚の巣、隠れ場 < 籠り > に入れて魚を麻痺させ < 酔わせ > なさいよ)。

˞ベーター [˞be:ta:] 【代】自称。複数。< 聞き手を含む > 私たち。われら。˞ベーター˜　ムー˞ル˜　パ˞トゥ˜マプス˞ダー [˞be:ta:˜ mu:˞ru˜ pa̠˞tu˜mapʰusu˞da:](私たちはみな鳩間人だ)。

˞ベーッサベーッサ [˞be:ssabe:ssa] 【副】擬態語。牛馬、山羊などが力強くかいば < 飼葉 > を食べるさま。ぱくぱく。転じて人が美味しそうに食事をするさま。˞ベーッサベーッサ˜シ　バ˞カー˜ムヌヌ　キ˞モーッ˜サ　˜イー　ッ˞ふー　ムヌ˜　ミルカー　ウ˞ムッサ˜ルバン [˞be:ssabe:ssa˜ʃi ba˞ka:˜mununu ki˞mo:s˜sa ˜ʔi: f˞fu: munu˜ miruka: ʔu˞mussa˜rubaŋ](ベーッサベーッサと若者が気持ちよく飯を食うのを見ると嬉しい < 面白い > わい)。

˞ベーッサラベーッサラ [˞be:ssarabe:ssara] 【副】ぺちゃくちゃ。賑やかに喋るさま。˞ベーッサラベーッサラ˜シ　パ˞ナ˜シ　˞ベー˜ムヌ　ス˞ク˜カー　ウ˞ムッサ˜ルバン [˞be:ssarabe:ssara˜ʃi pa˞na˜ʃi ˞be:˜munu sʰu˞ku˜ka: ʔu˞mussa˜rubaŋ](ぺちゃくちゃ喋っているのを聞くと、なるほど楽しい < 楽しくある > わい)。

˹ベーッタベーッタ [˹beːttabeːtta] 【副】擬態語。ゆたゆた。ゆさゆさ。重い物が揺れ撓(タワ)むさま。˹ビーッタビーッタ [˹biːttabiːtta] ともいう。タ˹キアイク˺シミ˹ジタングバ　ベーッタベーッタ˺シ　カ˹タ˺ミ　˺クーンケンドゥ　˹パンブン˺マー　ク˹バ˺シ　˹ナーン˺シェン [tạ˹kiʔaiku˺ʃi mi˹ʤitaŋguba beːttabeːtta˺ʃi kạ˹ta˺mi ˺kuːŋkendu ˹pambum˺maː ku˹ba˺ʃi ˹naː˺nu](竹のおうご < 枂。天秤棒(テンビン) > で水桶 <水担桶(タゴオケ)> をゆさゆさと撓(タワ)ませて担いでくるうちに、半分は零(コボ)してしまった)。

˹ベー˺フ [˹beː˺ɸu] 【名】びょうぶ (屏風)。「Bibu. ビャゥブ (屏風)Cajeuo fuxegu.(風を屏ぐ) それ自体で立つ一種の大きな飾り板のようなもので、日本人が家の飾りとして、または、風を防ぐためなどに用いるもの.」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˺シラヤーナー　˹ベー˺フ　˺タティ　ス˹コー˺レーン [˺ʃirajaːnaː ˹beː˺ɸu ˺tạti sụ˹koː˺reːŋ](うぶや < 産室 > に屏風を立てて置かれている)。

˹ペーブク [˹peːbuku] 【名】(地) 平久保。石垣島最北端の集落。˹ペーブク˺ナー　ム˹カ˺シェーラ　マ˹キヌ　アッ˺タンティ˹ダー [˹peːbuku˺naː mu˹ka˺ʃeːra ma˹kinu ʔat˺tanti˹daː](平久保には昔から牧場があったそうだよ)。

˹ペーブクウシ [˹peːbukuʔuʃi] 【名】1平久保牛。平久保の牛は人をじろじろ見て、ものを言わない。˹ペーブクウシ˺　ナリティ　˺ムネー　イ˹ザムティ˺　ナー˹イ˺　プ˹スバ　キシ˺キ　˺ミリ　˹ベー [˹peːbukuʔʃi˺ nariti ˺muneː ʔi˹ʤamuti˺ naː˹i˺ pụ˹suba kiʃị˺ki ˺miri ˹beː](平久保牛のようになって、ものは言わずに、ただじっと人を見つめ < 凝視し > ている)。2ものを言わずに押し黙っている人を卑しめていう。˹ペーブクウシェー˺　マ˹タ˺　ウ˹シダマリ　ベー˺バン [˹peːbukuʔuʃeː˺ ma˹ta˺ ʔu˹ʃidamari beː˺baŋ](平久保牛野郎は、また押し黙っているよ)。

˹ベー˺ベー [˹beː˺beː] 【名】小山羊。幼児語。沖縄方言からの借用語。ディー˹ディー　ベー˺ベー　˺ミリ　クー˹ディー [diː˹diː beː˺beː ˺miri kuː˹diː](さあさあ、小山羊を見てこようよ)。

˹ペー˺ラ [˹peː˺ra] 【名】完熟したひょうたん (瓢箪) を縦に真っ二つに切り割って作った柄杓(ヒシャク)。穀類を掬(スク)ったり、飲み水を汲(ク)むのに用いた。˹ラッコッ˺キシ　˹アーシェー˺ル　˹マイヤー　ペー˺ラシ　ス˹クイティ˺　カ˹ジ˺ナ　フ˹ク˺ジ　トゥ˹バシ˺バ [˹rakkok ˺kiʃi ˹ʔaːʃeː˺ru ˹maija: peː˺raʃi sụ˹kuiti˺ ka˹ʤi˺naː ɸụ ˹ku˺ʤi tu˹baʃi˺ba](脱穀機で脱穀した籾(モミ)はペーラで掬(スク)って、風で塵芥(チリアクタ)を飛ばせよ)。

˹ペーラ˺フチ [˹peːra˺ɸụʧi] 【名】門。家の入り口。「はいりぐり (這入口(ハイリ))」の義。「Fairu,u,itta. ハイリ、ル、ッタ (這入り、る、った)」『邦訳日葡辞書』に「Cuchi. クチ (口)」『邦訳日葡辞書』が下接して形成された語。門の両側の石積みは、大きな石を削って整形したものを使用した。また、葬列が門前を通過する際は、ペーラフチに竹竿を X 字に交差させて立て、死者の霊の侵入を防ぐ習慣が昭和 30 年ごろまであった。パ˹トゥマ˺ヌ　˹ヤシキ˺ヌ　˹ペーラ˺フチェー　ムー˹ル˺　パ˹ヤー˺ケーニル　ン˹カイブー [pạ˹tuma˺nu ˹jaʃị˺ki˺nu ˹peːra˺ɸụʧe: muː˹ru˺ pa ˹jaː˺keːniru ʔŋ˹kai buː](鳩間島の屋敷の門は皆南の方に向いている)。

˹ペーリ˺フチ [˹peːri˺ɸụʧi] 【名】這入り方。入り方。這入る方法。˺ウマーラ　˹ヌー˺シ　˹ペー˺ルユー　˹ペーリ˺フチ　ッ˹サンバン [˺ʔumaːra ˹nuː˺ʃi ˹peː˺ruju: ˹peːri˺ɸụʧi s˹sambaŋ](そこからどうやって這入るのか、這入り方は知らないさ)。

˹ペーリ˺マイ [˹peːri˺mai] 【名】収入。這入る分 (金額)。「這入り前」の義。ク˹ヌ˺　シケー　˹ペーリ˺マイラン　ン˹ジマイ˺ル　˹ゴー˺ラール [ku˹nu˺ ʃị̈ke: ˹peːri˺mairan ʔn˹ʤimai˺ru ˹goː˺raːru](今月は収入 < 這入り前 > よりも出費 < 出で前 > が多い)。

˹ベー˺ルヒャー [˹beː˺ruça:] 【感】いやだ (卑語)。強く拒絶する意思を表す。同等以下の者に対して嫌悪の意味を籠めていう。˹ベー˺ルヒャー　˺ワンザヌ　ムニ˹ナー˺ト　シゥ˹カヌ [˹beː˺ruça: ˺wanʤanu muni˹naː˺to sị̈˹kanu](いやだ! 貴様の言うことなど聞かない)。

˹ペー˺ルン [˹peː˺ruŋ] 【自動】這入る。入る。「Fairi,u,itta. ハイリ、ル、ッタ (這入り、る、った) 入る」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˹ヤーン˺　ナカー　˹ペー˺ルンティ　˹スンドゥ˺　シ˹バー˺ヌ　˹ペーララ˺ヌ [˹jaːn˺naka: ˹peː˺runti ˹sundu˺ ʃi˹baː˺nu ˹peːrara ˺nu](家の中へ入ろうとするが、狭くて入られない)。˹ペー˺リ　˺ミサカー　˹ペー˺ル　˺クトー　˺ナルン [˹peː˺ri ˺misaka: ˹peː˺ru ˺kụto: ˺naruŋ](入ってよければ入ることは出来る)。˹マー˺ビン　ナ˹カー　ペー˺レー　˺ミサムヌ [˹maː˺bin na˹ka: peː˺reː ˺misamunu](もっと中へ入ればいいのに)。˹パー˺ク　˹ペー˺リバ [˹paː˺ku ˹peː˺riba](早く入れよ)。

˹ペーレー [˹peːreː] 【名】かんばつ (旱魃)。ひでり (日照り)。「Fideri,canbat. ヒデリ. またはカンバツ (日照り. または、旱魃)」『邦訳日葡辞書』の転訛したも

の。夏の日照りが続くと島の人々は、三つある村井戸で順番に並んで水汲みをした。˞インヌカー [˞ʔinnukaː](西村の井戸)、˞アンヌカー [˞ʔannukaː](東村井戸) には、村の娘たちが集まって、井戸水が湧出(ユウシュツ)するまでの時間を語り合いながら、夜を徹して水汲みをした。˞ペーレーヌ˩ シ˞ジクター˩ ス˞クリ˩ムノー ムー˞ル˩ サ˞リ ナー˩ヌ [˞peːreːnu˩ ʃi˞ʤikutaː˩ sɥ˞kuri˩munoː muː˞ru˩ sa˞ri naː˩nu](旱魃が続いたので作物は全部枯れてしまった)。˞ペーレーヌ˩ シ˞ジク˩カー ム˞ヌスク˩ロー ナ˞ラ˩ヌ [˞peːreːnu˩ ʃi˞ʤiku˩kaː muˈnusɥku˩roː naˈra˩nu](旱魃が続いたら耕作 < 作物の栽培。植え付け > はできない)。

˞ペーレー スン **[˞peːreː suŋ]** 【連】旱魃がする。旱魃になる。フ˞タシキ スン˩ケン ア˞ミ˩ヌ ˞ホー˩ンダ ク˞トゥシェー ペーレー スン˩パジ [ɸɥ˞taʃiki suŋ˩keŋ ʔa˞mi˩nu ˞hoː˩nda kɥ˞tuʃeː peːreː sum ˩paʤi](ふたつき < 二月 > 経つまで雨が降らないから、今年は旱魃になるはずだ)。

˞ヘイキ **[˞heiki]** 【名】ひいき (贔屓)。老年層は˞ピーキ [˞piːki](贔屓) という。

˩ヘイヤー **[˩heijaː]** 【感】田圃を耕す時の男の掛け声。˞エイヤー [˞jeijaː](掛け声) という人もいる。˩ユージェヌ ˩イーヤーター ˞バー˩ケー ˞ター カイ˩ソール ˩ピンマー ˩ヘイヤー ˩ヘイヤーティ カ˞キン˩グイ ˞シェー˩ティル ˞カイ˩ソーッタ˞ダー [˩juːʤenu ˩ʔiːjaːtaː ˞baː˩keː ˞taː kai˩soːru ˩pimmaː ˩heijaː ˩heijaːti kɥ˞kiŋ˩gui ˞ʃeː˩tiru ˞kai˩soːtta˞daː](松竹家のお父さん達までは、田圃を耕される時は、ヘイヤー、ヘイヤーと掛け声をかけて耕されたよ)。豊年祭の古謡で、古謡の歌いだしに用いられる囃子言葉。/ヘイヤー ウブトゥムル ホー マブルシュー ヘイヤー ウブスクヌ ウヤンガミ/(へいやー 大友利御嶽の ホー 守り神 < 主 > へいやー 大奥 < 大底 > の 親神様)(大友利御嶽の祖神様)「豊年祭の歌」。『鳩間島古典民謡古謡集』。

˩ペンガー **[˩peŋgaː]** 【名】女子の名。固有名詞。ム˞カ˩シェー ミ˞ドーン˩ッふァヌ ˞ナーバ˩ ペンガーティ ス˞コー˩ル プ˞スン オーッ˩タン˞ダー [muˈka˩ʃeː miˈdoːŋ˩ffanu ˞naːba˩ peŋgaːti sɥ˞koː˩ru pɥ˞suŋ ʔoːt˩tan˞daː](昔は女の子の名をペンガーと名付ける人もおられたよ)。

˩ペンガンガザミ **[˩peŋgaŋgasami]** 【名】 (動) 蟹の一種。西表島の船浦港対岸の˞マーレーガーラ [˞maːreːgaːra](マーレー川)、ニ˞シダガーラ [ni˞ʃidagaːra](ニシダ川)、ナ˞ダラガーラ [na˞daragaːra](ナダラ川)、ピ˞ナイガーラ [pi˞naigaːra](ピナイ < 鬚川 > 川) の川口のア˞カ˩ズミキー [ʔa˞ka˩ʤumikiː](マングローブ) 林で捕獲されていた。パ˞トゥ˩マナーヤ ˩ペンガンガサメー ブ˞ラーンシェン [pa˞tu˩manaːja ˩peŋgaŋgasameː bu˞raːŋʃeŋ](鳩間島にはペンガンガサミは棲息していなかった)。

˞ペンシキビリ **[˞peŋʃi̥kibiri]** 【名】ひざまずき (跪き)。正座。両膝(リョウヒザ)と爪先を地につけて身を支え、踵(カカト)の上に臀部(デンブ)を乗せて座り、深い敬意を表す座り方。「Fagui.(脛)『邦訳日葡辞書』付け座り」の義か。˞ペンシキビレー˩ シ˞ティル カンヌマイ˩ヌ ˩グシェー カ˞ミ˩ル˞ダー [˞peŋʃi̥kibireː˩ ʃi̥˞tiru kannumai˩nu ˩guʃeː kaˈmi˩ruˈdaː](ひざまずき < 跪き > をして < ぞ > 神様にお供えした神酒はおし戴(イタダ)くものだぞ)。

˞ペンスクムン **[˞pensɥkumuŋ]** 【自動】しびれる (痺)。体の一部が感覚をうしなう。˞ペンシキビリ スー˩カー ˞パン˩マー ˞ペンスクムンダ ペンスクマン˩ヨーニ トゥ˞キドゥ˩ケー ˩パン ヌ˞バ˩シバ [˞peŋʃi̥kibiri suː˩kaː ˞pam˩maː ˞pensɥkumunda pensɥkumaŋ˩joːni tɥ˞kidu˩keː ˩pan nu˞ba˩ʃiba](跪きをすると足が痺(シビ)れるので、痺れないように時々は足を延ばしなさいよ)。˞パン˩マー ˞ペンスクミティ˩ ア˞ラカラ˩ヌ [˞pam˩maː ˞pensɥkumiti˩ ʔa˞rakara ˩nu](足は痺れて歩かれない)。ウ˞ビッ˩チンシ ˞ペンスクム˩ クトー ˞ナー˩ヌ [ʔu˞bit˩ʧiŋʃi ˞pensɥkumu˩ kɥto: ˞naː˩nu](たったこれだけで痺れることはない)。˞マー˩ビン ˞ペンスクメー˩ ミサムヌ [˞maː˩bim ˞pensɥkumeː˩ misamunu](もっと痺れればいいのに)。˞パー˩ク ˞ペンスクミ [˞paː˩ku ˞pensɥkumi](早く痺れろ)。

˞ペンツァイ **[˞pentsai]** 【名】爪先で立って歩くこと。爪先立ち歩き。˞ワー˩ マ˞ナ˩マ ˞ペンツァイ シー シェー˞ン [˞waː˩ ma˞na˩ma ˞pentsai ʃiː ʃeː˞ŋ](君は今爪先立ちして歩くことが出来る < 爪先立ち歩きし得る > か)。

˞ペンツァウン **[˞pentsauŋ]** 【自動】爪先で立って歩く。爪立てて歩く。ウ˞トゥ˩ タ˞トゥン˩ヨーニ < タ˞タン˩ヨーニ > ˞ペンツァウンティ スンドゥ ペンツァイララヌ <˞ペンツァーラヌ >[ʔu˞tu˩ tɥ˞tuŋ˩joːni < ta˞taŋ˩joːni > ˞pentsaunti sundu pentsairaranu < ˞pentsaːranu >](音を立てないように爪先立って歩こうとするが、爪先立って歩かれない)。ヤー˞ラマ˩シ ˞ペンツァイ˩ パ

リ [jaː˩rama˩ʃi ˩pentsai˩ pari](ゆっくりと、そっと爪先立って歩いて行け)。˩ペンツァウ˩ クトゥ˩ナルカー ˩パー˩ク ˩ペンツァイヤー˩ ミサムヌ [˩pentsau˩ kʷtu ˩narukaː ˩paː˩ku ˩pentsaijaː˩ misamunu](爪先立って歩くことが出来れば、早く爪先立って歩けばいいのに)。˩マー˩ビン ˩ペンツァイ˩バ [˩maː˩bim ˩pentsai˩ba](もっと爪先立って歩けよ)。

ホ

ˈホー [ˈho:] 【名】方。方向。かた。ˈインヌ　ホー [ˈʔinnu ho:](西の方)。ˈアンヌ　ホー [ˈʔannu ho:](東の方)。ニˈシヌ　ホー [niˈʃinu ho:](北の方)。ˈパイˈヌ　ˈホー [ˈpaiˈnu ˈho:](南の方)。ˈウイヌ　ホーヌˈ　プˈスヌル　オーˈレーツォー [ˈʔuinu ho:nuˈ pu̥ˈsunuru ʔoːˈreːtsoː](上の方 < 石垣島より北の沖縄や本土 > の人が来られたそうだ)。

ˈボー [ˈbo:] 【名】棒術。棒踊。老年層はˈバウ [ˈbau](棒)という。「b. バゥ (棒)〜Buo tçuc.(棒を使ふ).Bnote(棒の手) 棒を使いこなす方法、あるいは、棒術」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。鳩間島では豊年祭に演舞される、サˈクˈボー [sḁˈkuˈboː](剣の舞い)、ルˈクサクˈボー [ruˈkusakuˈboː](六尺棒)、ナˈギナタ [naˈginata](長刀)、ˈカサボー [ˈkasaboː](笠棒) などの古典棒踊 < 棒術 > に対していう。日常生活で用いる棒は、ˈバウ [ˈbau]、ˈアイˈク [ˈʔaiˈku](担い棒。おうこ < 朸 >) という。サˈクボーˈヤ　ˈインヌムラヌ　ボーˈル　ウˈムッˈサヌ　ルˈクサクボーˈヤ　ˈアンヌムラヌ　ボーˈル　ウˈムッˈサタ [sḁˈkuboːˈja ˈʔinnumuranu boːˈru ʔuˈmusˈsanu ruˈkusakuboːˈja ˈʔannumuranu boːˈru ʔuˈmusˈsata](サクボーは西村の棒踊 < 棒術 > が面白かったが、六尺棒は東村の棒踊 < 棒術 > が面白かった)。ˈボー　ˈウトゥン [ˈboː ˈʔutuŋ](棒踊 < 棒術 > を演舞する < 棒を打つ >)。

ˈホーイホーイ [ˈho:iho:i] 【感】ほういほうい。火事の時に唱えることば。火災通知のための掛け声の機能と我が家への類焼(ルイショウ)を防ぐ呪(マジナ)いの機能を有することば。ムˈカˈシェー　ムˈラˈナー　ˈピーˈヌ　ンˈジˈルカー　ˈホーイホーイˈティ　ウˈヤーˈレーティル　ˈピーˈヤ　ˈケーソーッˈタティˈダー [muˈkaˈʃe: muˈraˈna: ˈpiːˈnu ʔnˈʤiˈruka: ˈho:iho:iˈti ʔuˈjaːˈreːtiru ˈpiːˈja ˈkeːsoːtˈtatiˈdaː](昔は村に火事がでるとホーイホーイと大声を出して火事を消されたそうだよ)。

ˈボー　ˈウトゥン [ˈboː ˈʔutuŋ] 【連】棒術を演舞する。ˈプールˈナー　ˈバンˈヌン　ˈボー　ˈウトゥン [ˈpuːruˈnaː ˈbanˈnum ˈboː ˈʔutuŋ](豊年祭には私も棒術を演舞する < 棒を打つ >)。

ˈボーウン [ˈboːʔuŋ] 【名】(植) ヤマノイモ科のイモ。ダイジョ (大薯)。細長く紫色に赤味を帯びた美しい色と美味しい味が特徴『石垣方言辞典』。「Yamano imo. ヤマノイモ (山の芋・薯蕷(ショヨ)) 山林に生ずる芋」『邦訳日葡辞書』。鳩間島には産しない。西表島のˈフノーˈラ [ɸuˈnoːˈra](船浦) や、ˈウイバル [ˈʔuibaru](上原) で作っていた。ˈボーウンマー　パˈトゥˈマナー　スˈクˈローˈランˈシェン [ˈboːʔummaː pḁˈtuˈmanaː su̥ˈkuˈroːˈraŋˈʃeŋ](ダイジョ < 大薯 > は、鳩間島では作られなかった)。

ˈホーガーˈサン [ˈhoːgaːˈsaŋ] 【形】不恰好である。ぶざま (無様) である。間抜けの様である。ˈウヌヨーナ　シˈタˈフシェー　ˈホーガーˈサンダ　プˈスヌˈマイ　ンˈジララˈヌ　カˈシーカシー　ホーガーサナーˈン　シˈタフˈバ　ˈシートツォー [ˈʔunujoːna ʃi̥ˈtaˈɸuʃeː ˈhoːgaːˈsanda pu̥ˈsunuˈmai ʔnˈʤiraraˈnu kḁˈʃiːkaʃiː hoːgaːsaːnaːˈŋ ʃi̥ˈtaɸuˈba ˈʃiːꜜtsoː](そのような服装では不恰好であるから他人様の前には出られない。しっかりと、不恰好でない服装をしなさいよ)。ウˈリˈ　キˈスˈカー　ユˈクン　ホーガーˈサー　ナˈリˈス [ʔuˈriˈ ki̥ˈsuˈkaː juˈkuŋ hoːgaːˈsaː naˈriˈsu](それを着ると、余計に不恰好になる)。ウˈレー　ホーガーサˈヌ　キˈサラヌ [ʔuˈreː hoːgaːsaˈnu ki̥ˈsaranu](それは不恰好だから着られない)。ˈホーガーˈサール　ˈキンˈマー　キˈスナ [ˈhoːgaːˈsaːru ˈkimˈmaː ki̥ˈsuna](不恰好な着物は着るな)。ˈアイニ　ˈホーガーˈサーレーラー　ウˈレーˈ　キˈサラヌ [ˈʔaini ˈhoːgaːˈsaːreːraː ʔuˈreːˈ ki̥ˈsaranu](あんなに不恰好であるなら < 不格好であるからには >、それは着られない)。

ホーˈガーホーガー [hoːˈgaːhoːgaː] 【副】1不恰好な様子。間の抜けた様子。ˈワーˈ　ウˈヌˈ　キン　キˈスˈカー　ホーˈガーホーガーˈシル　ミˈラリˈバン

[˞waː˺ ʔu˞nu˺ kiŋ kɨ̥˞su˺ka: ho˞ga:ho:ga:˺ʃiru mi˞rari˺ baŋ](君がこの着物を着ると間抜けにみえるよ)。[2] 耄碌(モウロク)した様子。惚(ホ)けた様子。˺トゥシ　トゥ˞ローッ˺ター　ア˞ゾー˺ル　˺ムニン　ス˞ク˺カー　ホー˞ガーホーガー˺シル　˞オールン˺ドゥター　˺ドゥーパダー　イッ˞ケン　ガン˺ゾー　ア˞ロー˺ルン [˺tɨ̥ʃi tu˞ro:t˺ta: ʔa˞ʤo:˺ru ˺munin sɨ̥˞ku˺ka: ho:˞ga:ho:ga:˺ʃiru ˞ʔo:run˺duta: ˺du:pada: ʔik˞keŋ gan˺ʤo: ʔa˞ro:˺ruŋ](年を取られたので、おっしゃる言葉も、聞くと惚(ボ)けた様子でいらっしゃるが、また一方で、体は非常に健康＜頑丈＞でいらっしゃる)。

ホー˞ガーホーガーヌ˺　プ˞ス [ho:˞ga:ho:ga:nu˺ pɨ̥˞su] 【連】耄碌したような人。智恵遅れの人。˺カマーラ　ホー˞ガーホーガーヌ˺　プ˞スヌ　オール˺ヌ　˞ヤー˺　パ˞リマー˺キル　˞オー˺ルユー　ッ˞サンバ　ヤーバー˺キ　シュ˞カシ˺　パリバ [˺kama:ra ho:˞ga:ho:ga:nu˺ pɨ̥˞sunu ʔo:ru˺nu ˞ja:˺ pa˞rima:ki˺ru ˞ʔo:ru˺ju: s˞samba ja:ba:˺ki sɨ̥˞kaʃi˺ pariba](向こうから耄碌したような人が来られるが、家へ帰りかねて＜帰れなくて＞おられるかも知れないから、お家まで案内＜お連れ＞して行きなさい)。

˞ポー˺キ [˞po:˺ki] 【名】ほうき(箒)。タ˞キポーキ [tɑ̥˞kipo:ki](竹箒。庭箒)。バ˞ラフ˺タポーキ [ba˞raɸɨ̥˺tapo:ki](稲藁の藁しべ箒。室内箒)。˞フー˺カラポーキ [˞ɸu:˺karapo:ki](棕櫚箒。室内箒)。シ˞トゥッチ˺ヌパーポーキ [ʃɨ̥˞tuttʃi˺nupa:po:ki](蘇鉄の葉箒。台所用の箒)は、ナ˞カ˺ザポーキ [na˞kaʤapo:ki](台所箒)ともいう。˞ユシ˺キポーキ [˞juʃɨ̥˺kipo:ki](完熟したススキの尾花で作った箒。台所用の箒)などがある。タ˞キポーキ˺シ　シ˞トゥム˺ティカージ　ミ˞ナ˺カ　˞ポーク˺タン [tɑ̥˞kipo:ki˺ʃi ʃɨ̥˞tumu˺tika:ʤi mi˞na˺ka ˞po:ku˺taŋ](竹箒で毎朝＜つとめての数＞庭を掃いたものだ)。

˞ポー˺キダキ [˞po:˺kidaki] 【名】˞箒竹」の義。箒を作る竹。西表島北岸一帯の水田地帯に自生している。これを伐ってきて4、5本束ねて箒を作った。ト˞マダヌ　ター˺ヌ　˞ウイ˺ナー　タ˞キヤマヌ˺　アリティ　˺ウマーラル　˞ポー˺キダケー　˺キシ　˞クー˺タ [tu˞madanu ta:˺nu ˞ʔui˺na: tɑ̥˞kijamanu˺ ʔariti ˺ʔuma:raru ˞po:˺kidake: ˺kɨ̥ʃi ˞ku:˺ta](トゥマダの田圃の上に竹林があって、そこから＜ぞ＞箒竹を伐って来た)。

˞ポーキ˺ヌ　˺ミー [˞po:ki˺nu ˺mi:] 【連】箒目(ホウキメ)。˞ポー˺キミー [˞po:˺kimi:] ともいう。箒で地面を掃いた跡に残る模様。来客のある場合は特に˞箒目」を残すよう親から躾けられたものである。シ˞トゥム˺ティ　˞パイ˺サ　˺ウキティ　ミ˞ナ˺カー　ムー˞ル　ポーキ˺ヌ　˺ミー　イ˞リシキバ˺ル　フ˞ク˺ヌ　˞カン˺マー　˞ペー˺ロールティ　ナ˞ラー˺ソーッタ [ʃɨ̥˞tumu˺ti ˞pai˺sa ˺ʔukiti mi˞na˺ka: mu:˞ru po:ki˺nu ˺mi: ʔi˞riʃɨ̥kiba˺ru ɸɨ̥˞ku˺nu ˞kam˺ma: ˞pe:˺ro:ruti na˞ra:˺so:tta](朝早く起きて庭全体に箒の目を入れておいたらばこそ福の神は家に入られるのだ教えられた)。

˞ポー˺キブシ [˞po:˺kibuʃi] 【名】ほうきぼし(箒星)。˞ポー˺キブシヌ　ン˞ジ˺ルカー　イ˞クサ˺ヌ　ウ˞ク˺ルンティル　ム˞カ˺シパナシェー　アル˞ダー [˞po:˺kibuʃinu ʔn˞ʤi˺ruka: ʔi˞kusa˺nu ʔu˞ku˺runtiru mu˞ka˺ʃipanaʃe: ʔaru˞da:](箒星が出ると戦が起ると＜ぞ＞昔の教訓話にはいわれている＜昔話はある＞)。

˺ボーキラー [˺bo:kira:] 【名】乱暴者。強情者。向こう見ずの暴れ者。˞ボーキリ˺ムヌ [˞bo:kiri˺munu](乱暴者)と同じ。˞ボーキリ [˞bo:kiri](乱暴)に接尾語˺アー [˺ʔa:](～する人)が下接して形成された語。˞ウンザー˺　ボーキラー　˺ナリティ　プ˞スヌ˺　ムニ　˞ナー˺ト　イッ˞カ˺　シュ˞カヌ [˞ʔunʤa:˺ bo:kira: ˺nariti pɨ̥˞sunu˺ muni ˞na:˺to ʔik˞ka˺ sɨ̥˞kanu](あの野郎は乱暴者になってしまって、他人の注意＜言葉。物言い＞なんど一向に聞かない)。

˞ボーキリ˺ムヌ [˞bo:kiri˺munu] 【名】乱暴者。強情者。向こう見ずの暴れ者。˺ボーキラー [˺bo:kira:](乱暴者)ともいう。˺アイブ　˞ボーキリ˺ムヌテー　ク˞ヌ˺　トゥシ　˺ナルンケン　˺ミリ　ミ˞ラ˺ヌ [˺ʔaibu ˞bo:kiri˺munute: ku˞nu˺ tɨ̥ʃi ˺naruŋkem ˺miri mi˞ra˺nu](あんな乱暴者とは、この年＜年齢＞になるまで見たことがない＜見てみない＞)。

˞ボー˺キルン [˞bo:˺kiruŋ] 【自動】乱暴を働く。暴れる。ウ˞レー˺　サ˞キ˺　ヌムカー　˞ボー˺キルンダー　ヌ˞マス˺ナ˞ヨー [ʔu˞re:˺ sɑ̥˞ki˺ numuka: ˞bo:˺kirunda nu˞masu˺na˞jo:](彼は酒を飲むと乱暴を働く＜暴れる＞ので飲ませるなよ)。˞ボーキラン˺カー　ヌ˞マサ˺バン　˺ミサンドゥ　ウ˞リヌ　ボー˺キレーラー　˞ヨー˺ゾー　シ˞キララント ダー [˞bo:kiraŋ˺ka: nu ˞masa˺bam ˺misandu ʔu˞rinu bo:˺kire:ra: ˞jo:˺ʤo: ʃɨ̥˞kiraranト da:](乱暴を働か＜暴れ＞なければ飲ませてもよいが、彼が乱暴を働く＜暴れる＞と手のつけようがないぞ)。˺ワンザーヒャー　ドゥー˞カッティ˺シ　˞ボー˺キリ　˞ベー˺ヌ　˺アトゥシマチ　˺ドゥーシ　シキ˞シェー˺カー　˞ボー˺キリバヒャー

[˺wandʑaːça: ˺duːkattiʃi ˹boː˺kiri ˹beː˺nu ˺ʔatuʃimatʃi ˺duːʃi ʃi̥ki˹ʃeː˺ka: ˹boː˺kiribaːça:](お前奴は自分勝手に暴れているが、後始末を自分でつけることが出来るなら勝手に暴れろヒャー＜暴れやがれ＞)。

˹ボークン **[˹boːkuŋ]** 【他動】 濯(スス)ぎ洗う。すすぐ (濯ぐ)。「濯・滌、ススグ」『類聚名義抄』の義。˺キン　ア˹ライティ　ボークンティ˺　シ˹タンドゥ˺　ミ˹ジヌ˺　タ˹ラーンタ　ボーカランシェン [˹kiŋ ʔa˹raiti boːkunti˺ ʃi̥˹tandu˺ mi˹ʤinu˺ ta˹raːnta boːkaraŋʃeŋ](洗濯して濯(ユス)ごうとしたが、水が足りなかったので濯がれなかった)。˹ボーキティ˺　プシバ [˹boːkiti˺ pu̥ʃiba](濯いで干しなさいよ)。˹ボーク˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [˹boːku˺ ku̥toː na˹ra˺nu](濯ぐことは出来ない)。˹マー˺ビン　˹ボーケー˺　ミサムヌ [˹maː˺bim ˹boːkeː˺ misamunu](もっと濯げばいいのに)。˹パー˺ク　˹ボーキ [˹paː˺ku ˹boːki](早く濯げ)。

˹ポー˺クン **[˹poː˺kuŋ]** 【他動】掃く。朝昼は屋内、屋外共に掃くことはできるが、夜は原則として箒は使わなかった。必要上掃く時は、形式的に内側へ3回掃いてから外側へ掃き出した。ミ˹ナ˺カ　˹ポー˺クンティ　ウ˹ムーン˺ドゥ　ク˹リ˺シェー　˹ポーカラ˺ヌ [mi˹na˺ka ˹poː˺kunti ʔu˹muːn˺du ku˹ri˺ʃeː ˹poːkara˺nu](庭を掃こうと思うが、これでは掃かれない)。˹ポー˺キ　˺ミサカー　˺ドゥーシ　˹ポー˺ク　˺クトー　˺ナルン [˹poː˺ki ˺misakaː ˺duːʃi ˹poː˺ku ˺ku̥toː ˺naruŋ](掃いてよければ、自分で掃くことはできる)。˹マー˺ビン　˹ポー˺ケー　˺ミサムヌ [˹maː ˺bim ˹poː˺keː ˺misamunu](もっと掃けばいいのに)。カ˹シーカシー　ポー˺キバ [ka˹ʃiːkaʃiː poː˺kiba](きちんと＜しっかり＞掃けよ)。

˹ボーシ **[˹boːʃi]** 【名】帽子。標準語からの借用語。ナ˹チェー　ボーシ˺　カ˹バン˺カー　ミ˹チェー˺ラ　ア˹ラカラ˺ヌ [na˹ʧeː boːʃi˺ ka˹baŋ˺kaː mi˹ʧeː˺ra ʔa˹rakara˺nu](夏は帽子を被らないと道から歩けない)。

˹ボー˺ジ **[˹boː˺ʤi]** 【名】僧侶。寺の住職。坊主。鳩間島には僧侶はいなかった。ティ˹ラヌ　ボー˺ジ　タ˹ナ˺ミティ　˺ウキョー　ア˹ギシミタ [ti˹ranu boː˺ʤi ta˹na˺miti ˺ʔukjoː ʔa˹giʃimita](寺の坊主を頼んでお経を上げさ＜読経さ＞せた)。ティ˹ラヌ　ボー˺ジ [ti˹ranu boː˺ʤi](寺の坊主)。ティ˹ラヌ　ボージ˺ヌ　キ˹トーフダー　ペーラフチ˺トゥ　カ˹マチフチ˺ナー　パ˹リシキ˺リ [ti˹ranu boːʤi˺nu ki̥˹toːɸudaː peːraɸu̥ʧi˺tu ka˹matʃiɸu̥ʧi˺naː pa˹riʃi̥ki˺ri](寺の坊主の祈祷札を戸口＜入り口＞と台所＜竈(カマド)＞入口に張っておけ)。

˺ボージマー **[˺boːʤimaː]** 【名】太い縦縞模様。「ぼうじま (棒縞)」の義。ア˹ガボージマー˺　バ˹カー˺ムヌヌ　˹キン˺ヌ　˺アヤティル　ア˹ザリ　ブー [ʔa˹gaboːʤimaː˺ ba˹kaː˺mununu ˹kin˺nu ˺ʔajatiru ʔa˹ʤari buː](赤い太めの縦縞模様＜柄＞は若者の着物のがら＜柄＞といわれている)。

˹ボージャー˺ムン **[˹boːʤaː˺muŋ]** 【名】大麦の一種。殻のついたままの大麦。˹ンーナ˺ムン [˹ʔnːna˺muŋ](殻麦。殻のついたままの大麦) ともいう。明治生まれの老年層の使用語彙。若年層では死語。˹ボージャームン˺マー　˺ミリ　ミ˹ラン˺シェン [˹boːʤaːmum ˺maː ˺miri mi˹raŋ˺ʃeŋ](ボージャー麦は見たことが無かった)。

˹ボースー **[˹boːsuː]** 【名】ぼうしゅ (芒種)。二十四節気の一つ。陰暦五月のせつ (節)。太陽暦の6月6日頃に当たるという。この頃になると梅雨の季節に入り、長雨ガ続くので、それまでに稲刈りを終えるように努めた。˹ボースーヌ˺　シ˹チ˺ヌ　˹ペーラン˺ケン　˹マイヤー˺　カ˹リ˺ヨー [˹boːsuːnu˺ ʃi̥˹ʧi˺nu ˹peːraŋ˺kem ˹maijaː˺ ka˹ri˺joː](芒種(ボウシュ)の節気に入らないうちに稲は刈りなさいよ)。

˹ボースーアミ **[˹boːsuːʔami]** 【名】ぼうしゅ (芒種) の頃に降る雨。˹ボースーヤブリ [˹boːsuːjaburi](芒種の頃の荒天) に伴う大雨。1期作米の収穫時期に˹ボースーアミが降って、籾を干すことが出来ず被害が起きることもあった。˹ボースーアミヌ　ホーン˺ケン　˹マイヤー˺　カ˹ラン˺カー　ナ˹ラ˺ヌ [˹boːsuːʔaminu hoːŋ˺kem ˹maijaː˺ ka˹raŋ˺kaː na˹ra˺nu](芒種雨が降らないうちに稲＜米＞は刈りおさめないといけない)。

˹ボースーヤブリ **[˹boːsuːjaburi]** 【名】ぼうしゅ (芒種) の時期に天候が荒れること。「芒種破れ」の義。˹ボースーヤブリ　スー˺カー　˹マイヤー˺　カ˹ララヌ [˹boːsuːjaburinu suː˺kaː ˹maijaː˺ ka˹raranu](芒種荒れがきたら稲刈りはできない＜米は刈られない＞)。

˹ホー˺スン **[˹hoː˺suŋ]** 【他動】1釣る。ム˹チイズ　ホー˺スンティ　˹ベー˺ンドゥ　˹ムンダニ˺ヌ　˹ナーン˺ベーティ　˹ホーサラ˺ヌ [mu˹ʧiʔiʤu hoː˺sunti ˹beːn ˺du ˹mundani˺nu ˹naːm˺beːti ˹hoːsara˺nu](ノコギリダイを釣ろうとしているが、餌がないので釣られない)。˺クナーティ　˹ホー˺シ　˺ミサカー　˹マーズン　ホー˺ス　˺クトー　˺ナルン [˺kunaːti ˹hoː˺ʃi ˺misakaː ˹maːʤuŋ hoː˺su ˺ku̥toː ˺naruŋ](此処で釣っ

てよければ、一緒に釣ることはできる)。˞カーナーティ　˞ホー˞シェー　˞ミサムヌ [˞kanaːti ˞hoː˞ʃeː ˞misamunu](あそこで釣ればいいのに)。˞ワー˞　アミツァバ　˞ムン˞ダニ　シ˞ティ　ホー˞シバ [˞waː˞ʔamitsaba ˞mun˞dani ʃi̥˞ti hoː˞ʃiba](君はヤドカリを餌にして釣れよ)。2挟(ハサ)む。食わせる。間に入れて固定する。「Cuuaxe,suru,eta. クワセ、スル、セタ (食わせ、する、せた)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ッ˞サビ　ホー˞スンティ　˞スンドゥ　ホーサラ˞ヌ [s˞sabi hoː˞sunti ˞sundu hoːsara˞nu](楔(クサビ)を入れて固定しよう < 噛ませよう > とするが、楔を打ち込めない < 噛まされない >)。バ˞キンッサー˞ラナ　˞ホー˞シティ　˞ムティバ [ba˞kinssaː˞rana ˞hoː˞ʃi̥ti ˞mutiba](腋下に挟ん < 噛まし > で持てよ)。

˞ホー˞スン [˞hoː˞suŋ] 【他動】降らせる。˞フーン [˞ɸuːŋ](降る) の使役形。ア˞マン˞グイ　シ˞ティ˞　アミ　˞ホー˞スンティ　˞ソーッタン˞ドゥ　˞ホーサラン˞シェンツォー [ʔa˞maŋ˞gui ʃi̥˞ti˞ ʔami ˞hoː˞sunti ˞soːttan˞du ˞hoːsaraŋ˞ʃentsoː](雨乞いをして雨を降らそうとされたが、降らされなかったそうだ)。˞アミ　˞ホー˞シミサカー　˞ホー˞スクトゥン　˞ナルン [˞ʔami ˞hoː˞ʃi ˞misakaː ˞hoː˞su ˞ku̥tun ˞naruŋ](雨を降らしてよければ、降らすことも出来る)。˞マー˞ビン　˞ホー˞シェー　˞ミサムヌ [˞maː˞biŋ ˞hoː˞ʃeː ˞misamunu](もっと降らせばよいのに)。˞パー˞ク　˞アミ　˞ホー˞シ [˞paː˞ku ˞ʔami ˞hoː˞ʃi](早く雨を降らせよ)。

˞ボー　˞スン [˞boː ˞suŋ] 【連】乱暴を働く。他人を騙し、悪事を働く。˞ウンザー˞　ヤ˞ラビ˞ヌ　プ˞ス˞　ボー　˞スン˞ダー [˞ʔundʑaː˞ ja˞rabi˞nu pu̥˞su˞ boː ˞sun˞daː](あの野郎は子供のくせに他人を騙(ダマ)して悪事を働くぞ)。˞クン˞ドー　ウ˞リンマー˞　ス˞ズーコ˞　ボー　シ˞ラリミッ˞タン [˞kun˞doː ʔu˞rimmaː˞ su ˞dʑuːko˞ boː ʃi˞rarimit˞taŋ](今度は、彼には大変に乱暴 < 悪事を > を働かれた)。

˞ボー˞ダ [˞boː˞da] 【名】 (動) ブダイの仲間。キツネブダイ。体長約 60 センチに成長する。鳩間島では 30〜40 センチの成魚が多く漁獲された。刺身にしたり、煮つけにしたりすると美味である。シークヮーサー (ヒラミレモン) の汁と味噌に肝を刻んで和え、それにブダイの刺身をつけて食すると特に美味である。˞ボーダー˞ヌ　ナ˞マシ˞バ　ウ˞ヌ˞　キム　キ˞ザミティ　ミース˞トゥ　˞シークヮーサー˞ヌ　˞シーナ　カ˞ケー˞シティ　ッ˞ふー˞カー　イッ˞ケナ˞　ン˞マー˞ン [˞boːda˞nu na˞maʃi˞ba ʔu˞nu˞ kimu ki˞dʑamiti miːsu˞tu ˞ʃiːkwaːsaː˞nu ˞ʃiːna kḁ˞keː˞ ʃi̥ti f˞fuː˞kaː ʔik˞kena˞ ʔm˞maː˞ŋ](キツネブダイの刺身を、その肝を刻んで味噌とヒラミレモンの酢に混ぜあわせて食べると非常に美味しい)。

˞ボー˞ダヤー [˞boː˞dajaː] 【名】 (海底地名)。˞ボー˞ダ [˞boː˞da](キツネブダイ) の巣 < 家 > の義。ピザキ [pi˞dʑa˞ki](島の北西部の干瀬) の東側の˞ピーヌ˞クシ [˞piːnu˞ku̥ʃi](干瀬の外洋部 < 干瀬の腰 >)。キツネブダイがよく釣れる所といわれている。

˞ポー˞ツァー [˞poː˞tsaː] 【名】包丁人。結願祭の供物の料理人。「料ニ理魚鳥一者、謂ニ之包丁一」『和名抄』の転訛したもの。鳩間島の結願祭には、祭前夜の˞ユードゥー˞シ [˞juːduː˞ʃi](夜通しの祈願) から、˞トーピン [˞toːpiŋ](当日) の祈願に供える供物を、˞ウイヌ˞ウガン [˞ʔuinu˞ʔugaŋ](友利御嶽) の本殿 < ウ˞ブ˞ヤー [ʔu˞bu˞jaː](母屋)> の側に仮の˞ポー˞ツァーヤー [˞poː˞tsaːjaː](炊事小屋 < 包丁屋 >) を建てて供物を準備した。餅類はバ˞キサカ˞サ等が準備し、ム˞ラヤクサ [mu˞rajakusa](村役人) 達が漁獲した魚や蛸を村役人と調理担当の˞ポー˞ツァー [˞poː˞tsaː](包丁人) が調理した。イ˞クサユー˞ヌ　˞アトー　カ˞ザケーヌ˞　マツォーザール　˞ポー˞ツァー　˞ソーッ˞タ [ʔi˞kusajuː˞nu ˞ʔatoː ka˞dʑakeːnu˞ matsoːdʑaːru ˞poː˞tsaː ˞soːt˞ta](戦後は加治工実氏が友利御嶽の包丁人をされた)。

˞ポー˞ツァーカタナ [˞poː˞tsaːkatana] 【名】料理用の包丁。特に神事の供物を料理する包丁人の用いる包丁をいう。˞ポーツァー˞ヌ　シゥ˞カイヨー˞ル　カ˞タナ˞バ　˞ポー˞ツァーカタナティ　ア˞ゾー˞ル [˞poːtsaː˞nu si̥˞kaijoː˞ru kḁ˞tana˞ba ˞poː˞tsaːkatanati ʔa˞dʑoː˞ru](包丁人の使われる包丁 < 刀 > を包丁刀とおっしゃる < 言われる >)。

˞ポー˞ツァー　˞スン [˞poː˞tsaː ˞suŋ] 【連】包丁人として神事の供物を調理する。˞ポーツァー˞ヤ　˞ターンターンマー˞　ナ˞ラ˞ヌ　˞ニンガイ˞グトゥ　ッ˞シェー˞　プ˞スヌル˞　ナル˞ダー [˞poːtsaː˞ja taː˞ntamma˞ na˞ra˞nu ˞niŋgai˞gutu ʃ˞ʃeː˞ pu̥˞sunuru˞ naru˞daː](包丁人は誰にも彼にも出来るものではない。祈願ごとを知っている人にしかできない < 知っている人にが出来る > のだ)。

˞ホート˞バレー [˞hoːto˞bareː] 【固】鳩離島。若年層の言葉。老年層は、パ˞トゥ˞マレー [pḁ˞tu˞mareː](鳩離島) という。˞ホート˞バレーナ　˞パトゥザヌ˞コー˞マ　˞トゥリン　˞ゲー˞タン [˞hoːto˞bareːna ˞pḁtudʑanu ˞koː˞ma ˞turiŋ ˞geː˞taŋ](鳩離島に鳩の卵

を取りに行ったこ＜行ったことがある＞)。

˞ホー˞ヌ **[˞hoː˞nu]**【自動】1降らない (˞フーン [ɸuːŋ]＜降る＞の未然形)。ア˞ミ˞ヌ　˞ホーン˞ケン　˞パー˞ク　˞ヤー˞パリ [ʔa˞mi˞nu ˞hoːŋ˞kem ˞paː˞ku ˞jaː˞pari](雨が降らないうちに早く家に帰れ)。2付かない、生じない (˞フーン [˞ɸuːŋ]＜喰う。錆(サビ)や黴(カビ)が生ずる。垢(アカ)がつく＞の未然形)。˞パナー　˞ホー˞ヌ [˞panaː ˞hoː˞nu](黴は生えない＜付かない＞)。サ˞ベー　ホー˞ヌ [sa˞beː hoː˞nu](錆はつかない)。˞ガバー　˞ホー˞ヌ [˞gabaː ˞hoː˞nu](垢はつかない)。3噛まない (˞フーン [˞ɸuːŋ]＜噛む＞の未然形)。˞アメー　˞ホー˞ヌ [˞ʔameː ˞hoː˞nu](雨は降らない)。

˞ボー˞ボー **[˞boː˞boː]**【名】幼児語。男の赤ちゃん。˞ウン˞ネナー　˞ボーボー˞ヌ　マ˞レーン˞ツォー [˞ʔun˞nenaː ˞boːboː˞nu ma˞reːn˞tsoː](あの家に男の赤ちゃんが生まれたそうだ)。

˞ボーボー **[˞boːboː]**【固】人名。˞ボッパー [˞boppaː] ともいう。˞ナラシケーナール　˞ボーボーティ　˞スー˞プ˞ソー　オーッタ˞ル [˞naraʃi̥keːnaːru ˞boːboːti ˞suː˞pu̥˞soː ʔoːtta˞ru](成底家に＜ぞ＞ボーボーという人はおられたのだ)。

˞ポー˞ポー **[˞poː˞poː]**【名】料理名。小麦粉を水に溶(ト)いてフライパンで薄く延ばして焼き上げ、中に油味噌を炒(イタメ)たものをいれ、細長く巻いたもの。ッ˞スポー˞ポー [s˞supoː˞poː](味噌入りの白いポーポー) とッ˞ふポー˞ポー [f˞fupoː˞poː](黒砂糖を削って小麦粉に混ぜ、溶いて焼き上げたポーポー) があった。˞ポー˞ポーンツァン　ヤ˞キティ　サー˞フキ　ン˞ザサン˞ノーレー [˞poː˞poːntsaŋ ja˞kiti saː˞ɸu̥ki ʔn˞ʤasan ˞noːreː](ポーポーでも焼いて茶請けに出しなさいよ＜出さないかよ＞)。

˞ボーボー˞シ **[˞boːboː˞ʃi]**【副】擬態語。1火の燃えるさま。ウ˞ブカマ˞チナー　˞ユシ˞キタムヌ　˞ボーボー˞シ　˞モーシェー˞ティル　˞シンメー˞ナビナー　˞ウン˞マー　˞ネーシタ [ʔu˞bukama˞ʧinaː ˞juʃi̥˞ki-tamunu ˞boːboː˞ʃi ˞moːʃeː˞tiru ˞ʃimmeː˞nabinaː ˞ʔum˞maː ˞neːʃi̥ta](大きな竈(カマド)にススキの薪をぼうぼうと燃やして、四枚鍋で芋を煮た＜炊いた＞)。2強風の吹くさま。˞ボーボー˞シ　カ˞ジヌ˞　フクンダ　˞フネー　ン˞ザサラ˞ヌ [˞boːboː˞ʃi ka˞ʤinu˞ ɸu̥kunda ˞ɸuneː ʔn˞ʤasara˞nu](ぼうぼうと強風が吹くので舟は出されない)。

˞ポーポー˞シ **[˞poːpoː˞ʃi]**【副】1ぷんぷんと。馥郁(フクイク)たる香りが一面に漂うさま。˞ポーポー˞シ　ン˞マー˞ンギサヌ　˞ティンプラ˞ヌ　カ˞ザヌ　スン [˞poːpoː˞ʃi ʔm˞maː˞ŋgisanu ˞timpura˞nu ka˞ʤanu suŋ](ぷんぷんと＜馥郁と＞美味しそうなテンプラの匂いがする)。2ぷんぷんと悪臭がたちこめるさま。˞ポーポー˞シ　˞ピーッサリカザ˞ヌ　˞スンドゥ　タール˞プ˞ス˞タユー　ッ˞サヌ [˞poːpoː˞ʃi ˞piːssarikaʤa˞nu ˞sundu taːru˞ pu̥˞su˞taju: s˞sanu](ぷんぷんと腐れ屁の臭いがするが、誰が放屁したのか知らない)。

˞ポーポー˞シ **[˞poːpoː˞ʃi]**【副】ぽかぽかと。微熱が出るさま。発熱して体が熱くなるさま。ニ˞チ˞ヌ　˞ンジティ　˞ドゥー˞ヤ　˞ポーポー˞シ　˞ベーン˞ドゥ　˞ガー˞バ　˞タティ　シ˞グトゥ　シェー˞ティ　˞アーク˞バン [ni˞ʧi˞nu ˞ʔnʤiti ˞duː˞ja ˞poːpoː˞ʃi ˞beːn˞du ˞gaː˞ba ˞tḁti ʃi˞gutu ʃeː˞ti ˞ʔaːku˞baŋ](熱が出て体はぽかぽかと熱くなっているのに、意地を張って＜我を立てて＞仕事をしているわい)。

˞ポー˞ポー　˞パー˞スン **[˞poː˞poː ˞paː˞suŋ]**【連】ポーポーを焼く＜這(ハ)わす＞。メリケン粉や芋の澱粉を水で溶き、薄くのばして焼く。˞ポー˞ポー　˞パー˞シティ　˞サー˞フキ　ン˞ザ˞シバ [˞poː˞poː ˞paː˞ʃi̥ti ˞saː˞ɸu̥ki ʔn˞ʤa˞ʃiba](ポーポーを薄く焼いて茶請けに出しなさいよ)。

˞ホー˞マ **[˞hoː˞ma]**【固】(地) 大浜集落。若年層は、˞オー˞ハマ [˞ʔoː˞hama](大浜) ともいう。˞ホー˞マプス [˞hoː˞mapu̥su](大浜の人)。˞オー˞ハマプス [˞ʔoː˞hamapu̥su](大浜のひと) ともいう。˞ホー˞マムニ [˞hoː˞mamuni](大浜言葉)。˞オー˞ハマムニ [˞ʔoː˞hamamuni](大浜言葉) ともいう。˞ホー˞マー　ピ˞サイトゥ　メーラヌ　アイナ˞カナール　˞アル [˞hoː˞maː pi̥˞saitu meːranu ʔaina˞kanaːru ˞ʔaru](大浜集落は平得集落と宮良集落の中間にある)。

˞ホー˞マアカハチ **[˞hoː˞maʔakahatʃi]**【固】人名。歴史上の英雄的人物である「大浜アカハチ」の義。普通は、ウ˞ヤ˞キアカハチ [ʔu˞ja˞kiʔakahatʃi](16 世紀初頭に首里王府に謀反した八重山の豪族) という。˞ホー˞マアカハチェー　パ˞ティルマ˞ナール　マ˞ルタ˞ティ　ア˞ザリ　ブー [˞hoː˞maʔakahatʃeː pḁ˞tiruma ˞naːru ma˞rutati˞ ʔa˞ʤari buː](大浜アカハチは波照間島に生まれたといわれている)。

˞ホー˞マプス **[˞hoː˞mapu̥su]**【名】大浜の人。˞オー˞ハマプス [˞ʔoː˞hamapu̥su](大浜の人) ともいう。˞ホー˞マプソー　˞ターパタキ˞ル　ス˞ク˞ロール　˞ウミシグトー　˞ソーラ˞ヌ [˞hoː˞mapu̥soː ˞taːpḁtaki ˞ru su̥˞ku˞roːru ˞ʔumiʃiguto: ˞sora˞nu](大浜の人は農業＜田畑を作られる＞をなさる、漁業＜海の仕事＞はなさらない)。

˩ホー˥ヤー **[˩hoː˥jaː]** 【名】たんどく (丹毒)。菌によって起こる皮膚病。高熱がでて、患部が真っ赤に腫れあがる。怖い病気とされていた『石垣方言辞典』。「胎毒 (eczema) 乳児が、妊娠中に感染した毒により、生後体に発疹ができること。体質的なものだが、昔は梅毒が原因と思われていた。丹毒にも使われている」『医学沖縄語辞典』。˩ホー˥ヤー　カ˩カ˥ルカー　˥ヌチェー　˩タシゥカラン˥ティ　ア˩ザリブタ [˩hoː˥jaː kạ˩ka˥rukaː ˥nutʃeː ˩tasɨ̥karan˥ti ʔa˩ʤaributa](ホーヤーに羅(カカ)ったら命は助からないといわれていた)。

˩ホーラ **[˩hoːra]** 【名】ふり。若年層は、˩コーラ [˩koːra](ふり) ともいう。˥ッサン　˩ホーラ　スン [˩ssaŋ ˩hoːra suŋ](知らないふりをする)。ミ˩ラ˥ン　˩ホーラ　スン [mi˩ra˥ŋ ˩hoːra suŋ](見ぬふりをする)。˥ウナーテー　˩ワー˥　ッサン　˩コーラ˥シ　˩ベー˥リバ [˩ʔunaːteː ˩waː˥ ssaŋ ˩koːra˥ʃi ˩beː˥riba](そこでは、君は知らん振りをしていなさいよ)。ミ˩ラ˥ン　˩コーラ˥　シティ　ミリ˩ベー [mi˩ra˥ŋ ˩koːra˥ʃi̥ti miri˩beː](見ない振りをして見ている)。

˩ホーライ˥マイ **[˩hoːrai˥mai]** 【名】(植) 蓬莱米。戦前に台湾より導入された稲の品種。粘り気があって美味しく、多収量で、脱穀しやすい品種に改良されていた。˩ホーライマイ˥ヌ　ン˩ズ˥ター　˩ザイレー˥マイ　ス˩ク˥ル　プ˩ソー˥　ブ˩ラーンシェン [˩hoːraimai˥nu ʔn˩ʤu˥taː ˩ʤaireː˥mai sụ˩ku˥ru pụ˩soː˥ bu˩raːŋʃeŋ](蓬莱米が出回ったので在来品種の米を作付けする人はいなかった)。

˩ホー˥ラザー **[˩hoː˥raʤaː]** 【名】八重山の最高神女職。サ˩カサ [sạ˩kasa](司。神女。石垣方言の、チゥ˩カ˥サ [tsɨ̥˩ka˥sa]) の最高職。˩ホー˥ラザーマイ [˩hoː˥raʤaːmai](大阿母) のこと。

˩ホーラ˥ザーマイ **[˩hoːra˥ʤaːmai]** 【名】八重山の最高神女職。「大阿母」と記されている。「おほあるじまえ (大主前)」の意か。各種の神女、チゥカサの総監督、指導にあたり、女性でただ一人俸禄をもらっていた『石垣方言辞典』という。˩ホーラ˥ザーマイヤー　ウ˩ム˥トゥダキヌ　˩カン˥バ　ウ˩ガ˥ミ　˩オー˥ルティ˩ダー [˩hoːra˥ʤaːmaija: ʔu˩mu˥tudakinu ˩kam˥ba ʔu˩ga˥mi ˩ʔoː˥ruti˩daː](ホーラザーマイは於茂登岳の神を信仰しておられるそうだよ)。

˩ホーラ˥リン **[˩hoːra˥riŋ]** 【自動】噛まれる。「Curai,,ta. クライ、ゥ、ゥタ (飡ひ、ふ、うた) 食う. 下賤の者とか獣とかについていう. また、かみつく.Inuni teuo curauaruru(犬に手を飡はるる)」『邦訳日葡辞書』。˥フーン [˥ɸuːŋ](喰らう。噛みつつく) の未然形˩ホー [˩hoː] に受身の助動詞˩ラ˥リン [˩ra˥riŋ](られる) が付いて転訛した受身動詞。˥イン　˩ター˥スカー　˩ホーラ˥リン˩ダー [˥ʔin ˩taː˥sụkaː ˩hoːra˥rin˩daː](犬をからかう < に戯(ジャ)れる > と噛まれるぞ)。˥イン　˩ホーララン˥ヨーニ　˩シー˥バ [˥ʔiŋ ˩hoːraraŋ˥joːni ˩ʃiː˥ba](犬に噛まれないようにしなさいよ)。˥イン　˩ホーラ˥リティ　ナ˩キ　ベー [˥ʔiŋ ˩hoːra˥riti na˩ki beː](犬に噛まれて泣いている)。˥ウナー　˩ベー˥ティ　パ˩ブン　ホーラ˥リ　˥クトー　˩ナーヌ˥ヌ　˩ホーラ˥レーラ　˩デー˥ジ˩ゲ˥ラ [˥ʔunaː ˩beː˥ti pa˩buŋ hoːra˥ri ˥kụtoː ˩naːnu˥nu ˩hoːra˥reːra ˩deː˥ʤi˩ge˥ra](そこにいて蛇に噛まれることはないが、噛まれたら大変さ)。˥ワンザーヒャー　パ˩ブン　ホーラ˥リバ [˥wanʤaːça: pa˩buŋ hoːra˥riba](お前奴は蛇に噛まれろ)。

˩ホー˥リン **[˩hoː˥riŋ]** 【自動】受身動詞。噛まれる。˩ホーラ˥リン [˩hoːra˥riŋ](噛まれる) と同じ。˥ウマーラ　ア˩ラ˥クカー　パ˩ブン　ホー˥リン˩ダー [˥ʔu-maːra ʔa˩ra˥kukaː pa˩buŋ hoː˥rin˩daː](そこを歩くと蛇に噛まれるぞ)。アー˩イ　ホーラ˥ヌ [ʔaː˩ji hoːram˥ paʤi](いや、噛まれない)。パ˩ブン　ホー˥リ　˩ナー˥ヌ [pa˩buŋ hoː˥ri ˩naː˥nu](蛇に噛まれてしまった)。パ˩ブン　ホー˥リ　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [pa˩buŋ hoː˥ri pụ˩soː˥ bu˩raːnu](蛇に噛まれる人はいない)。˩ホー˥レー　˥ミサムヌ [˩hoː˥reː ˥misamunu](噛まれたらいいのに)。ワンザー˩ナー˥トー　パ˩ブン　ホー˥リバヒャー [wanʤaː˩naː˥toː pa˩buŋ hoː˥ribaça:](お前野郎などは蛇に噛まれっちまえヒャー)。

˩ホーリン **[˩hoːriŋ]** 【自動】戸締りできる。他動詞˩フーン [˩ɸuːŋ](閉める。戸を閉める) の未然形に可能の助動詞˥リン [˥riŋ](～れる) が下接して形成された可能動詞。˥ヤドー　ヤ˩ラビン˥ヌン　˩ホーリン [˥jadoː ja˩rabin˥nuŋ ˩hoːriŋ](戸は子供にも閉められる)。˩バン˥マー　˩ホーララヌ [˩bam˥maː ˩hoːraranu](私には閉められない)。ヤ˩ラ˥ビン　˩ホラリル˥　ヤドー　ア˩ラ˥ヌ [ja˩ra˥biŋ ˩hoːrariru˥ jadoː ʔa˩ra˥nu](子供に閉められる戸ではない)。

˩ホー˥ル **[˩hoː˥ru]** 【名】思慮。分別。常識。˥アイブー　ク˩トゥ˥バ　˩シー　˩ホー˥ロー　˩ナー˥ン　˥ヌーヤ　ウ˩レー [˩ʔaibuː kụ˩tu˥ba ˩ʃiː hoː˥roː ˩naː˥n ˥nuːja ʔu˩reː](あんなことをして、思慮分別がない。何だね、それは)。

ホー˩ルーホールー **[hoː˩ruːhoːruː]** 【副】間抜けなさ

ま。思慮分別のないさま。薄ら惚(ボケ)したようなさま。ウˈヌˀ　プˈソーˀ　チˈカˀグロー　ンˈベーマ　カウリティˀ　ホーˈルーホールーˀシル　ˈオーˀル [ʔuˈnuˀ pu̥ˈsoːˀ ʧi̥ˈkaˀguroː ʔmˈbeːmaː kauritiˀ hoːˈruːhoːruːˀʃiru ˈʔoːˀru](その人は、最近ちょっと変で、薄ら惚けしておられる)。

ˈホーˀルキシムニ [ˈhoːˀrukɨ̥ʃimuni] 【名】愚かな物言い。馬鹿げた話。辻褄の合わない話。ˈホーˀルˀキシムニバ　イˈジアーˀク [ˈhoːˀru ˀkɨ̥ʃimuniba ʔiˈʤiʔaːˀku](非常識でばかげた＜訳の分からない。辻褄の合わない＞話をしている＜言っている＞)。

ˈホーˀル　キˈシˀムヌ [ˈhoːˀru kɨ̥ˈʃiˀmunu] 【連】思慮分別のない者。耄碌(モウロク)した者。常識のない者。間抜け。ˈホーˀル　キˈシムヌˀヌ　ˀカタチニ　ˈシェーˀティ　ˈアークˀナ [ˈhoːˀru kɨ̥ˈʃimunuˀnu ˀkḁtatʃini ˈʃeːˀti ˈʔaːkuˀna](思慮分別のない者のように振舞う＜行動してあるく＞な)。

ˈホーˀル　キˈシˀルン [ˈhoːˀru kɨ̥ˈʃiˀruŋ] 【連】思慮分別がなくなる。耄碌する。間が抜ける。「思慮が切れる」の義。ˈワー　タンˀガー　アˈラˀヌ　ターˈンˀ　トゥˈシˀ　トゥルカー　ˈホーˀル　キˈシˀルンダー　ˈソー　サンブリˀバ [ˈwaː taŋˀgaː ʔaˈraˀnu taːˈnˀ tu̥ˈʃiˀ turukaː ˈhoːˀru kɨ̥ˈʃiˀrundaː ˈsoː samburiˀba](君だけではない、誰でも年を取ったら耄碌するから心配するなよ)。

ˈホーˀル　ˀキスン [ˈhoːˀru ˀkɨ̥suŋ] 【連】思慮分別がなくなる。耄碌(モウロク)する。間が抜ける。「思慮が切れる」の義。トゥˈシˀ　トゥルカー　ˈホーˀル　ˀキスンダル　ˀトゥシェー　トゥˈリˀプサ　ˈナーントゥォー [tu̥ˈʃiˀ turukaː ˈhoːˀru ˀkɨ̥sundaru ˀtu̥ʃeː tuˈriˀpu̥sa ˈnaːnˊtsoː](年を取ったら耄碌するから、年は取りたくないんですよ)。

ˀボールボール [ˀboːruboːru] 【副】1ぐつぐつ煮えたぎる＜滾(タギ)る＞さま。ˈカイヤーˀ　ボールボールシ　フˈトゥッチˀルカー　ˀナベー　ウˈティˀ　ミサン [ˈkaijaːˀ boːruboːruʃi ɸu̥ˈtuttʃiˀrukaː ˀnabeː ʔuˈtiˀ misaŋ](お粥はぐつぐつ煮えたぎると、鍋を竈(カマド)から移しても良い)。2擬態語。ぶつぶつ不平を言うさま。ˀボールボールシ　フˈトゥッˀチェーティ　ˈスーˀ　シˈグトー　ダーッˀサー　ˈナーˀヌ [ˀboːruboːruʃi ɸu̥ˈtutˀʧeːti ˈsuːˀ ʃiˈgutoː daːsˀsaː ˈnaːˀnu](ぶつぶつ不平を言いながらする仕事は良くない＜立派なものでない。まともなものでない。信頼のおけるものではない＞)。

ˈポールン [ˈpoːruŋ] 【他動】撒く。散らかす。ほうる「放る」からの転訛。アˈガマミ　ポーリティˀ　トゥˈルンˀ　ッˈふァーシˀバ [ʔaˈgamami poːritiˀ tuˈruŋˀ fˈfaːʃiˀba](小豆を撒いて鶏に食わせなさいよ)。ˈバンˀヌン　ˈポールンティˀ　ウˈムーンˀドゥ　ˈポーララヌ [ˈbanˀnum ˈpoːruntiˀ ʔuˈmuːnˀdu ˈpoːraranu](私も撒こうと思うが、撒かれない)。ˈポールˀ　プˈソーˀ　ブˈラーヌ [ˈpoːruˀ pu̥ˈsoːˀ buˈraːnu](撒く人はいない)。ムーˈル　ポーレーˀ　ミサムヌ [muːˈru poːreːˀ misamunu](全部撒けばいいのに)。ˈパーˀク　ˈポーリˀバ [ˈpaːˀku ˈpoːriˀba](早く撒けよ)。

ˈボーˀレー [ˈboːˀreː] (1)【名】良い子。お利口さん。利口者。子供を褒(ホメ)る時にいう。ˈワー　ウイヌ　ガッˀコーン　ˈペーˀリ　ˈボーレーˀユン [ˈwaː ʔuinu gakˀkoːm ˈpeːˀri ˈboːreːˀjuŋ](君は上級学校にも入学して利口者だ)。 **(2)**【感】ボーˈレー　ボーレーˀ　アˈターチマˀ　クˈマーˀ　キーˈミリ [boːˈreː boːreːˀ ʔaˈtaːʧimaˀ kuˈmaːˀ kiːˈmiri](お利口ちゃん、お利口ちゃん、ちょっとここへ来てごらん)。

ˈホーˀロー　ˈナーˀヌ [ˈhoːˀroː ˈnaːˀnu] 【連】思慮分別がない。間抜けだ。耄碌(モウロク)した奴。うすのろ (薄鈍) 奴。[hoːru](思慮・分別)+　[ja](は)→　[hoːroː]　と変化したもの。ˈホーˀロー　ˈマーシˀノ [ˈhoːˀroː ˈmaːʃiˀno](間抜け野郎＜猿＞めが)。

ˈボーンケーˀルン [ˈboːŋkeːˀruŋ] 【自動】1匂いが漂う。匂いがぷんぷん立ち上る。悪臭がぷんぷん漂う。サˈキカザヌ　ボーンケーˀリティ　ンˈカーラヌ [sḁˈkikaʤanu boːŋkeːˀriti ʔŋˀkaːranu](酒の臭いがぷんぷん漂って向かい合われ＜対面出来＞ない)。サˈキˀ　ヌミティヌ　ˈナーツァーˀ　サˈキカザヌ　ボーンケーˀルンダ　ˈボーンケーランˀ　ヨーニ　ˈイッˀパイ　ミˈジˀ　ヌミバ [sḁˈkiˀ numitinu ˈnaːtsaːˀ sḁˈkikaʤanu boːŋkeːˀrunda ˈboːŋkeːraŋˀjoːni ˈʔipˀpai miˈʤiˀ numiba](酒を飲んだ翌日は酒の臭いがぷんぷん漂うから、酒臭みが匂わないように沢山＜一杯＞水を飲めよ)。ˀッサリカザヌ　ˈボーンケーˀル　ˀトンナー　ˈベールˀナ [ˀssarikaʤanu ˈboːŋkeːˀru ˀtonnaː ˈbeːruˀna](腐臭の漂う所には居るな)。ˈマーˀビン　ˈボーンケーˀレー　ˀミサムヌ [ˈmaːˀbim ˈboːŋkeːˀreː ˀmisamunu](もっと悪臭が漂えばいいのに)。2蝿などがたかる。ˀッサリムヌナー　ˈアウバイヌ　ボーンケーˀリティ　キˈムフクレーˀヌ　ナˈラˀヌ [ˀssarimununaː ˈʔaubainu boːŋkeːˀriti kiˈmuɸu̥kureːˀnu naˈraˀnu](腐れたものに青蝿がたかって汚くて堪らない)。

ˈボーンボーンˀシ [ˈboːmboːŋˀʃi] 【副】擬声語。ぶう

ぶう不平不満をいうさま。ぶつぶつ文句をいうさま。˞ボールボール˜シ [˞boːruboːru˜ʃi](ぶつぶつと盛んに不平不満 < 文句 > をいう) より多少弱い表現。˞ボーンボーン˜シ　ム˞ニ˜バ　˜ユメーティ　˞アー˜ク [˞boːmboːŋ˜ʃi muˤni˜ba ˜jumeːti ˞ʔaːˤku](ぶうぶう不平不満を言っている)。

˜ホイダー [˞hoidaː] 【名】 (動) スズメ目ヒタキ科の鳥の名。和名、シロハラ。ツグミほどの大きさ。翼と尾羽(オバネ)は黒褐色。冬期に渡ってきた。子供たちは林の中に˜ヤマ [˜jama](捕獲用の装置) を拵(コサエ)ておいて捕獲していた。˜ホイダー　˜ヤマ　˜カキティ　˜ユー　トゥ˞ル˜タン [˞hoida: ˜jama ˜kąkiti ˜juː tuˤru˜taŋ](シロハラは捕獲用の仕掛けを作って、よく捕獲したものだ)。

˞ホイナ˜クン [˞hoina˜kuŋ] 【他動】かっこむ。食物を掻き込む。急いで、大口で食う。˜イー　˞ホイナ˜クン [˜ʔiː ˞hoina˜kuŋ](ご飯を掻っ込む)。˜アイニ　˞ホイナカン˜　ブリバ [˜ʔaini ˞hoinakam˜ buriba](あのように掻っ込むな < 掻っ込まないでおれ > よ)。˞ホイナク˜ナ [˞hoinaku˜na](掻っ込むな)。˞イー˜ヤ　˞ホイナ˜キミサカー　˞ホイナ˜ク　˜クトー　˜ナルン [˞ʔiːˤja ˞hoina˜ki ˜misakaː ˞hoina˜ku ˜kụtoː ˜naruŋ](ご飯は掻っ込んでよければ掻っ込むことはできる)。˞マー˜ビン　˞ホイナ˜ケー　˜ミサムヌ [˞maːˤbiŋ ˞hoina˜keː ˜misamunu](もっと掻っ込めばいいのに)。˜ナルカギリ　˞ホイナ˜キバ [˜narukagiri ˞hoina˜kiba](出来る限り沢山掻っ込めよ)。˞イー˜バ　˞ホイナ˜クンティ　˞アー˜キ　ン˞ツァウター˜　ウ˞ダラ˜キティ　˞ホイナカン˜ドーシ　˞ヨーンナ˜　ッ˞ふァイティ　パッ˜タヤー [˞ʔiːˤba ˞hoina˜kunti ˞ʔaːˤki ʔn˞tsautaː ʔuˤdara˜kiti ˞hoinakan˜doːʃi ˞joːnna˜ f˞faiti pat˜tajaː](ご飯をかっこもうとして、むせ <咽(ムセ)> ったので、かっ込まないでゆっくり食べて行ったよ)。キサー˞ティ　ホイナ˜キ　˞ナー˜ヌ [kisaːˤti hoina˜ki ˞naːˤnu](すでにかっ込んでしまった)。˞ホイナ˜ク　˜クトー　˞スーナ˜ヨー [˞hoina˜ku ˜kụtoː ˞suːna˜joː](かっ込むことはするなよ)。˞マー˜ビン　˞ホイナ˜ケー　˜ミサムヌ [˞maːˤbiŋ ˞hoina˜keː ˜misamunu](もっとかっ込めばいいのに)。ムー˞ル　ホイナ˜キバ [muːˤru hoina˜kiba](全部かっ込めよ)。

˞ホイル [˞hoiru] 【名】焼玉エンジンのシリンダーの前面にある車輪。これを回してエンジンを起動させた。英語のホイール (Wheel< 車輪 >) が語源。焼玉式発動機船がカツオ漁船として導入された時に、ホイールが転訛して借用されたもの。同時期に借用された外来語に、˞バー˜ナー [˞baːˤnaː](英語の burner< 霧状石油燃料の燃焼装置 >)、ク˞ラッ˜チ [kuˤrat˜ʧi](英語の clutch< 連軸器 >)、˞ノーズル [˞noːʤuru](英語の nozzle< ディーゼル機関で燃料を噴出する細孔 >)、˞ピス˜トン [˞pisụ˜toŋ](英語の piston< シリンダーの中にあって往復運動できる栓状の部材 >)、˞シャフ˜ト [˞ʃaɸụ˜to](英語の shaft< 動力伝達を目的とする棒状の回転軸 >)、˜ペラ [˜pera](英語の propeller< 船舶の推進器 >) などがある。˞ホイル　マーシティ˜　キカイ　ウ˞ク˜スン [˞hoiru maːʃi̥ti˜ ki̥kai ʔuˤku˜suŋ](ホイルを回してエンジンを起動する < 起こす >)。

˞ホッ˜カー [˞hok˜kaː] 【名】手品(テジナ)。奇術(キジュツ)。曲芸。「放下」、鎌倉時代末・南北朝の頃に現れた異端の芸能者。手に小切子 < こきりこ > などを持って街頭で滑稽な歌舞、曲芸を演じた『岩波古語辞典』。「放家、ハウカ、シナダマトルモノ、術者」『運歩色葉集』、「Fca. ハゥカ (放家)　道化手品師. Fcauo suru.(放家をする) 道化手品師の職をする、あるいは、巧みに人の目を欺いて手品師のわざをする」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ウ˞リヌ　スームヌ˜　ミルカー　˞フン˜トー　˞ホーッカー˜　ユン [ʔuˤrinu suːmunu˜ miruka: ˞ɸun˜toː ˞hokkaː˜juŋ](彼がするのを見ると本当に手品だよ)。

˞ホッ˜カー　˞シープス [˞hok˜kaː ˞ʃiːpusu] 【連】奇術師。「奇術をする人」の義。イ˞サナキナー˜ヤ　ミ˞ジラ˜サル　˞ホッカー˜バ　˞シー˜　ミ˞ラ˜ス　プ˞スン˜　ウ˞キ˜ナーラ　˞クー˜タンツォー [ʔiˤsanakinaː ˜ja miˤʤira˜saru ˞hokkaː˜ba ˞ʃiː˜ miˤra˜su pụˤsuŋ˜ ʔu ˞ki˜naːra ˞kuː˜tantsoː](石垣島には、珍しい奇術をして見せる人も沖縄から来たそうだよ)。

˞ポッチカッ˜チ [˞pottʃikat˜ʧi] 【副】まばらな状態。散らばるさま。散らかすさま。ABCDBC 型の重言。ポッツァーシとも言う。ヤ˞ラビ˜ヌ　ム˞タビ˜ムノー　˞ポッチカッ˜チ　˞シー˜　シゥ˞カン˜ドーシ　プ˞スン˜トンナー　マ˞トゥミ˜　シ˞キ˜リバ [jaˤrabi ˜nu muˤtabi˜muno: ˞pottʃikat˜ʧi ˞ʃiː˜ si̥˜kan˜doːʃi pụˤsun˜tonnaː maˤtumi˜ ʃi̥kiba](子供の玩具は散らかして置かないで、一箇所に纏めておけよ)。

˞ポッチポッチ [˞pottʃipottʃi] 【副】点々と。まばらに。ちりじりに。とびとびに。ABCABC 型の重言。˞ムン˜マー　ギャン˞ティ˜　イ˞ベーサムティ　ポッチポッ˜チル　イ˞ビ˜シケーンダ　˞ナン˜ゾー　トゥ˞ララ˜ヌ [˞mum˜maː gjanˤti˜ ʔiˤbeːsamuti pottʃipot˜ʧiru

ʔi˹bi˺ʃi̥keːnda ˹nan˺ʤoː tu˹rara˺nu](麦はびっしり植えないで、まばらに＜ぞ＞植えてあるのであまり収穫できない＜あまり取られない＞)。

˹ポッチルン [˹pottʃiruŋ] 【自動】散らばる。散乱する。散り散りになる。粒状のものが散らばる。イ˹ツァフン˺ツァナー　マ˹ミフク˺ル　ウ˹タ˺シ　ク˹バ˺スカー　˹ポッチルンダ　ポッチラン˺ヨーニ　ウ˹ラ˺シ [ʔi˹tsaɸun˺tsana: ma˹miɸu̥ku˺ru ʔu˹ta˺ʃi ku˹ba ˺su̥ka: ˹pottʃirunda pottʃiraŋ˺joːni ʔu˹ra˺ʃi](板の間に豆袋を落として零すと豆が散乱するから、散乱しないように降ろしなさい)。˹ポッチ　ナー˺ヌ [˹pottʃi naː˺nu](散乱してしまった)。˹ポッチル˺　クトー　˹ナー˺ヌ [˹pottʃiru˺ ku̥to: ˹naː˺nu](散乱することはない)。˹マー˺ビン　˹ポッチレー˺　ミサムヌ [˹maː ˺bim ˹pottʃireː˺ misamunu](もっと散乱すればいいのに)。˹パー˺ク　˹ポッチリ [˹paː˺ku ˹pottʃiri](早く散らばれ)。

˹ポッツァースン [˹pottsaːsuŋ] 【他動】撒き散らかす。散らかす。放り散らかす。˹マイシジ　ポッツァーサンドー˺シ　˺ッサイバ [˹maiʃiʤi pottsaːsandoː˺ʃi ˺ssaiba](米粒を散らかさないで搗け＜精げなさい＞よ)。˺シケー　˹サンドー˺シ　˺ッサウカー　˹マイシジ　ポッツァースン˺ダー [˺ʃi̥keː sandoː˺ʃi ˺ssaukaː ˹maiʃiʤi pottsaːsun˺daː](揺輪(ユリワ)を搗き臼の縁に嵌(ハ)めないで精げると米粒が飛び散る＜散らす＞よ)。˹ポッツァーシ˺　ミサン [˹pottsaːʃi˺ misaŋ](散らかしてもいい)。˺アイニ　˹ポッツァース˺　プ˹ソー˺　ブ˹ラーヌ [˺ʔaini ˹pottsaːsu˺ pu̥˹soː˺ bu˹raːnu](あんあに散らかす人はいない)。˹マー˺ビン　˹ポッツァーシェー˺　ミサムヌ [˹maː˺bim ˹pottsaːʃeː˺ misamunu](もっと散らかせばいいのに)。˹パー˺ク　˹ポッツァーシ˺バ [˹paː˺ku ˹pottsaːʃi˺ba](早く散らかせよ)。

˹ポッツァールン [˹pottsaːruŋ] 【自動】散らかる。散らばる。散り散りになる。ミ˹リ˺ムヌ　˺ミルンティ　ア˹ツァ˺マリ　˺ケータ　プ˹スン˺　ブ˹ドゥルヌ˺　シ˹マウター　ナーブンブン　ポッツァーリ˺　パリ˹ナー˺ヌ [mi˹ri˺munu ˺mirunti ʔa˹tsa˺mari ˺keːta pu̥˹sum bu˹durunu˺ ʃi˹mautaː naːbumbum pottsaː˺ri pari˹naː˺nu](見世物＜見もの。催し物＞を見ようと集まってきた人も舞踊が終わったので各自散らばって行ってしまった)。ウ˹トゥ˺　タ˹テ˺ィルカー　イ˹ゾー˺　ウ˹ダラ˺キティ　˹ポッツァールンダ　ポッツァーラン˺ヨーニ　ム˹ヌ˺ウトゥ　タ˹ティル˺ナ [ʔu˹tu˺ tḁ˹ti˺ruka: ʔi˹ʤoː˺ ʔu˹dara˺kiti ˹pottsaːrunda pottsaːraŋ˺joːni ʔu˹tu˺ tḁ˹tiru˺na](音を立てると魚は驚いて散らばるから、散らばらないように音を立てるな)。˺クナーヤ　˹ポッツァーリ˺　ミサンドゥ　˺カーナーヤ　˹ポッツァーララヌ [˺kunaːja ˹pottsaːri ˺ misandu ˺kanaːja ˹pottsaːraranu](此処では散らばってよいが、あそこでは散らばられない)。˹ポッツァール˺　ピンマー　˹トゥーサバー˺キン　˹ポッツァーレー˺　ミサムヌ [˹pottsaːru˺ pimmaː ˹tuːsabaː˺ kim ˹pottsaːreː˺ misamunu](散らばる時は遠くまでも散らばればいいのに)。˹パー˺ク　˹ポッツァーリ˺バ [˹paː˺ku ˹pottsaːri˺ba](早く散らばれよ)。

˹ポッツン [˹pottsuŋ] 【自動】散らばる。散乱する。散る。散り散りになる。粒状のものが散らばる。˹ポッチルン [˹pottʃiruŋ] と同じ。タ˹カーン˺　トンラ　ウ˹タ˺スカー　ムー˹ル　ポッツンドゥ˺　ウ˹タサン˺カー　˹ポッツァーラヌ [tḁ˹kaːn˺ tonra ʔu˹ta˺sukaː muː˹ru pottsundu˺ ʔu˹tasaŋ˺kaː ˹pottsaːranu](高い所から落とすと全部散乱するが、落とさなければ散乱しない)。˹ポッチ˺　パルン [˹pottʃi˺ paruŋ](散乱していく)。ウ˹ビ˺ナー　˹ポッツ˺　クトー　˹ナー˺ヌ [ʔu˹bi˺naː ˹pottsu˺ ku̥to: ˹naː˺nu](あれほどに散乱することはない)。˹マー˺ビン　˹ポッチェー˺　ミサムヌ [˹maː˺bim ˹pottʃeː˺ misamunu](もっと散乱すればいいのに)。˹パー˺ク　˹ポッチ˺バ [˹paː˺ku ˹pottʃi˺ba](早く散らばれ)。

˹ホッ˺パルン [˹hop˺paruŋ] 【他動】頬張(ホオバ)る。丸かじりする。「Fobare. ホゥバレ (頬腫れ) 顔を腫れ上がらせる病気. 上 (Cami) では Fofare(頬はれ) という」『邦訳日葡辞書』の転訛し、意味派生したものか。˹シン˺ザ　˹ホッ˺パルンティ　˹スンドゥ　パー˺ヌ　˺ヤミティ　˹ホッパラ˺ヌ [˹ʃin˺ʤa ˹hop˺parunti ˹sundu paː˺nu ˺jamiti ˹hopparara˺nu](砂糖黍を頬張ろうとするが、歯が痛くて頬張れない)。˹ホッ˺パリ　˺ミサカー　˹ホッ˺パル　˺クトー　ナ˹ルン˺ドゥ　˹ホッ˺パリティ　ア˹ゾーラン˺　ユンダー　˹ホッパラ˺ヌ [˹hop˺pari ˺misakaː ˹hop˺paru ˺ku̥to: na˹run ˺du ˹hop˺pariti ʔa˹ʤoːraŋ˺ junda ˹hoppara˺nu](頬張ってよければ頬張ることはできるが、頬張れといわれないから頬張らないのだ)。˹ホッ˺パレー　˺ミサムヌ [˹hop˺pareː ˺misamunu](頬張ればいいのに)。

˹ボッふァスン [˹boffasuŋ] 【他動】束ねてあるものをばらす。ばらばらにする。ほぐす。˹ソー˺ミン　タブロー　˹ボッふァシティ˺　ユ˹ディ˺リバ [˹soː˺ mintaburo: ˹boffaʃi̥ti˺ ju˹di˺riba](素麺束はばらばらにほぐして茹でなさいよ)。˹ボッふァスン˺ティ　˹スンドゥ　ボッふァサラヌ [˹boffasun˺ti ˹sundu

boffasaranu](ばらばらにほぐそうとするが、ほぐされない)。˩ボッふァス˥　ピンマー　˩ヨーンナ　ボッふァシェー˥　ミサムヌ [˩boffasu˥ pimma:˩ jo:nna: boffaʃe:˥ misamunu](ほぐすときは、ゆっくりほぐせばいいのに)。˩パー˥ク　˩ボッふァシ [˩pa:˥ku ˩boffaʃi](早くほぐせ)。

ボッ˩ふァティ [bof˩fati] 【副】ざぶんと。ものが水田や砂浜などへ柔らかい音を立てて落ち込んだり、めり込んだりするさま。カ˩タパン˥マー　˩ター˥ヌ　ナ˩カー˥　ボッ˩ふァティ　˩ペー˥リ　˩ナー˥ヌ [kạ˩tapam˥ma: ˩ta:˥nu na˩ka:˥ bof˩fati pe:˥ri ˩na:˥nu](片足は田圃の中にざぶんとはまり込んで＜入って＞しまった)。ウ˩ラッチ˥ヌ　パ˩マー˥　ア˩ラ˥クカー　ボッ˩ふァティ　トゥッキ˥　シタ [ʔu˩rattʃi˥nu pa˩ma:˥ ʔa˩ra˥kuka: bof˩fati tukki˥ ʃi̥ta](浦内湾のなぎさ＜渚＞は歩くと、ざぶんと＜すぽっと＞足が砂浜の中にめり込んだ＜陥没した＞ものだ)。

ボフ˩ティ [boɸu̥˩ti] 【副】すぽっと。するりと。締(シメ)てあるものが抜けたり、ほどけたりするさま。ク˩ビン˥ヌ　˩ザウ˥バ　ボフ˩ティ˥　ピ˩キヌイ　ナー˥ヌ [ku˩bin˥nu ˩ʤau˥ba boɸu̥˩ti˥ pi̥˩kinui na:˥nu](瓶(ビン)の栓(セン)をすぽっと引き抜いてしまった)。ダ˩キ　ベータン˥ドゥ　ボフ˩ティ˥　フ˩キ˥パリ　˩ナー˥ヌ [da˩ki be:tan˥du boɸu̥˩ti˥ ɸu̥˩ki˥pari ˩na:˥nu](抱いていたが、するりと抜け落ちてしまった)。

˥ボマー [˥boma:] 【名】伯母の親族呼称。父母の次姉、三姉に当たる伯母を呼ぶ際に用いた。父母の長姉に当たる伯母には˩ウボーマー [˩ʔubo:ma:](大母) と呼んだ。ボ˩マー˥　ブ˩ドゥル˥　ナ˩ラー˥ソーリ [bo˩ma:˥ bu˩duru˥ na˩ra:˥so:ri](伯母さん、踊を教えて下さい)。

˩ボンタン [˩bontaŋ] 【名】 (植) 果樹の名。ザボンの一品種。ブンタン (文旦)。戦前は、果皮を砂糖漬けにしたものを老人の咳薬として珍重(チンチョウ)していた。多くの場合、台湾帰りの土産品として鳩間島に持ち込まれていた。˩ボンタンヌ　カー˥ヤ　˥サタナー　シ˩キラリティ˥　ッ˩サーク˥ヌ　フ˩チ˥ルティ　˩シー˥　ン˩キ　オーッ˥タ [˩bontannu ka:˥ja ˥satana: ʃi̥˩kirariti˥ s˩sa:ku˥nu ɸu̥˩tʃi˥ruti ˩ʃi:˥ ʔŋ˩ki ʔo:t˥ta](ボンタンの皮は砂糖に漬けられていて、咳薬として召し上がっておられた)。

ボン˩ティ [bon˩ti] 【副】ぷくっと。体の打撲を受けた部分が腫(ハレ)出るさま。˩カイ˥リティ　スズー˩コ˥　フ˩タイバ˥　バ˩リティル˥　ボン˩ティ˥　フ˩クラシ˥　シケーバン [˩kai˥riti suʤu:˩ko˥ ɸu̥˩taiba˥ ba˩ritiru˥ bon˩ti˥ ɸu̥˩kuraʃi˥ ʃi̥ke:baŋ](転んで、したたかに額を打って、ぷくっと膨(フク)らませてあるわい)。[2]ウ˩ジ˥ロー　ボン˩ティ˥　ブリティ　˩モーシ˥バ [ʔu˩ʤi˥ro: bon˩ti˥ buriti ˩mo:ʃi˥ba](枯れた小枝はぽきっと折って燃やしなさいよ)。

˩ホン˥マ [˩hom˥ma] 【名】長姉。最年長の姉。親族名称、親族呼称にも用いる。ウ˩フ˥・アンマ [ʔu˩ɸu˥・ʔamma](大姉) の融合変化した形。古老は、˥ウボーマ [˥ʔubo:ma](長姉。大姉) ともいう。˥ナカンマ [˥nakamma](中姉)、アン˩マー˥マ [ʔam˩ma:˥ma](小姉) のように、年齢によって区別する。˩ホン˥マー　˩マー˥ル　˩オーッ˥ター [˩hom˥ma: ˩ma:˥ru ˩ʔo:t˥ta:](長姉はどこへ行かれたか)。

˩ホンマ˥キ [˩homma˥ki] 【名】カツオの餌撒き (本撒き)。カツオ漁船がトゥ˩ルマキ [tu˩rumaki](カツオドリの群れ＜鳥巻き＞) を発見して追跡し、船を魚群に付ける際に「本撒き」が腕を振るう。餌の投げ入れの良し悪しによって魚群が船体に群れ寄るか、否かが決まるからである。熟練した「カツオの餌撒き」が船頭やイ˩チバン˥ジョー [ʔi˩tʃiban˥ʤo:](一番竿。一番釣り手) らの指示に従って餌を撒き入れた。カ˩ツドゥル [kạ˩tsuduru](カツオ鳥＜ウミネコ＞) の飛び方、潮の流れを見定めつつカツオの喰いつきを判定するタイミングを捉えなければならない。餌の撒き方の上手、下手はその日の漁獲を左右した。釣り始めは散水器の放水と同時であった。カツオの喰いつきが弱くなると「本撒き」は、イ˩キ˥マ [ʔi˥ki˥ma](生け間) からタ˩ブ [ta˩bu](たも網＜攬網＞) で˥ザコー [˥ʤako:](餌＜雑魚＞) を掬い、撒き入れてカツオの喰いつきを誘った。˩ホンマキ˥ヌ　˩ゾー˥ジ　ア˩ラン˥カー　カ˩ツォー˥　フニナー　シ˩キララ˥ヌ [˩hommaki˥nu ˩ʤo:˥ʤi ʔa˩raŋ˥ka: kạ˩tso:˥ ɸunina: ʃi̥˩kirara˥nu](本撒きが上手でないとカツオは漁船に寄せ付けられない)。

マ

˥-マ [˥-ma] 【接尾】指小辞。「小。小さいもの、可愛いらしいもの」等を表す。˩ヤー˥マ [˩ja:˥ma](小屋)。フ˩ネー˥マ [ɸu˩ne:˥ma](小舟)。ッ˩ふァー˥マ [f˩fa:˥ma](小児)。コー˩ネー˥マ [ko:˩ne:˥ma](坊ちゃん)。ピ˩シェー˥マ [pi̥˩ʃe:˥ma](お嬢ちゃん)。ヤラ˩ベー˥マ [jara˩be:˥ma](お子さん。こわらわ < 小童 >)。トゥ˩ラー˥マ [tu˩ra:˥ma](小鳥)。アー˩ヤー˥マ [ʔa:˩ja:˥ma](小さな体格のお父さん。ニックネーム)。オー˩ヤー˥マ [ʔo:˩ja:˥ma](子豚)。キー˩ヤー˥マ [ki:˩ja:˥ma](小さな木)。ティー˩ヤー˥マ [ti:˩ja:˥ma](小さな手)。シー˩ヤー˥マ [ʃi:˩ja:˥ma](小さなお乳)。ズー˩ヤー˥マ [ʤu:˩ja:˥ma](小さなしっぽ。尾っぽ)。ティー˩ヤー˥マ [ti:˩ja:˥ma](小さな手)。ミー˩ヤー˥マ [mi:˩ja:˥ma](小さな目)。ミン˩ナー˥マ [min˩na:˥ma](小さな耳)。トゥ˩ルンヤー˥マ　ス˩ク˥リティ　トゥ˩ル˥　シゥ˩カ˥ナイバ [tu˩runja:˥ma su̥˩ku˥riti tu˩ru˥ si̥˩ka˥naiba](鶏小屋を作って鶏を飼育し < 養い > なさいよ)。

˩マー [˩ma:] 【代】どこ (何処)。不定の場所を表す。石垣方言、˩ジゥマ [˩ʤïma](どこ。いずこ。「いずま」の意)『石垣方言辞典』の転訛したもの。˩ジゥマ [ʤïma] は、「梅の花散らくは伊豆久 < イヅク >〜。万、823」の˩イヅ」に「磯の麻由 < マユ >〜。万、3619」の「間 (所、空間)」が下接し、融合転訛して形成されたもの。「Izzucu. イヅク (何処) どこ、または、どの場所」『邦訳日葡辞書』と同じ。˩マー　パッ˥ター [˩ma: pat˥ta:](どこへ行ったか)。˩マー˥ル　マ˩シ˥ヤー [˩ma:˥ru ma˩ʃi˥ja:](何処が良いか)。˥マーナ　ア˩ル˥ワー [˥ma:na ʔa˩ru˥wa](何処にあるか)。ウ˩レー　マーン˥ナーン　˩ナー˥ヌ [ʔu˩re: ma:n˥na:n ˩na:˥nu](それは何処にもない)。˩ワー˥マーラ　˩クー˥タ [˩wa:˥ ma:ra ˩ku:˥ta](君は何処からきたのか)。˩マー˥ヌ　ヤ˩ム˥ワー [˩ma:˥nu ja˩mu˥wa:](何処が痛む < 病む > のか)。

˥マー [˥ma:] 【名】親族名詞の孫 (本人の孫)。普通は、˥マーッふァ [˥ma:ffa](孫。「孫子」の義) という。パ˩チマー [pḁ˩ʧima:](初孫)。マ˩タマー [ma˩tama:](曾孫)。˩ブイマー [˩buima:](兄弟姉妹の孫)、マ˩タマー [ma˩tama:](ひまご < 曾孫 >)、ピ˩チマー [pi̥˩ʧima:](やしゃご < 玄孫 >) などがいる。˩ワー　マー˥ヤ　ギュ˩ター˥　ナシェーワ [˩wa: ma:˥ja gju˩ta:ru˥ naʃe:wa](君は孫を何人生んであるか)。

˩マー [˩ma:] 【名】1魔。妖怪。単独では用いず、熟語として用いられる。˩マー˥スクン [˩ma:˥su̥kuŋ](性格がひどくなる。悪さが酷(ヒド)くなる、「魔が付く」の義)。˩マーシキ˥ムヌ [˩ma:ʃi̥ki˥munu](素行不良な者。ヤクザ者。「魔付き者」の義)。˩クンザー˥　ク˩ヌ˥グロー　˩マーバ˥　シキティル　ウ˩ヤ˥ヌ　˥ムニ　シゥ˩カヌ [˩kunʤa:˥ ku˩nu˥guro: ˩ma:ba˥ ʃi̥kitiru ʔu˩ja˥nu ˥muni si̥˩kanu](こいつは、近頃は性格が酷く悪くなって、親の話 < 言うこと > を聞かない)。2副詞。ひどく (酷く)。異常に (˩魔が付いて」の義)。ウ˩ヌプス˥　ミルカー　˩マー˥シキ　ナ˩キスヌ˥　ヌンティカヤー [ʔu˩nu pu̥su˥ miruka: ˩ma:˥ʃi̥ki na˩kisunu˥ nuntikaja:](あの人を見ると酷く泣くのだが、なぜだろうか)。

˩マー [˩ma:] 【副】更に。そのうえ。もう。今一つ。˩マー　ピー˥チ　˥トゥリバ [˩ma: pi:˥ʧi ˥turiba](もう一つ取れよ)。˩マー　ミー˥ティ　˩スー˥カー　˥アブジェー　˩トーカキ˥ヌ　ヨイ˩ダー [˩ma: mi:˥ti ˩su:˥ka: ˥ʔabuʤe: ˩to:kaki˥nu joi˩da:](もう三年経ったらお祖父さんの米寿 < 斗掻 > のお祝いだよ)。

˩マー- [˩ma:-] 【接頭】まことの。真実の。本当の。下に付く語を強調表現する。˩マープスマ [˩ma:-pusuma](真昼間)。˩マータンカー [˩ma:taŋka:](真向かい)。˩マーニンギン [˩ma:niŋgiŋ](真人間)。˩マーパダカ [˩ma:padaka](真っ裸)。˩マーパカラサ　ナー˥ヌ [˩ma:pakarasa na:˥nu](全く無能である。真に不器用である。人格的に全く信頼できない)。˩マープスマー˥　ア˩ツァ˥ヌ　シ˩グトー˥　ナ˩ラ˥ヌ [˩ma:pusuma:˥ ʔa˩tsa˥nu ʃi˩guto:˥ na˩ra˥nu](真昼間は暑くて仕事は出来ない)。˩マーダーッ˥サーン [˩ma:-

da:s˺sa:ŋ](すっかり元気である)。˹マーパカラサー　ナー˺ヌ [˹ma:pakarasa: na:˺nu](不元気 < 健康状態が信頼できない状態 > である)。

˹マーイーシ [˹ma:ʔi:ʃi]【名】(植) 海草の名。ツノマタ。普通は˹イー˺シ [˹ʔi:˺ʃi] という。˹パイタ˺ヌ　˹イーリジマ˺　フ˹ツァー˺マ　ウ˹ブ˺ビーナーヤ　パ˹トゥ˺マプスヌ　˹イーシ˺バ　イ˹ビ˺　ス˹コー˺レー˹ダー [˹paita˺nu ˹ʔi:riʤima˺ ɸu̥˹tsa˺ma ʔu˹bu˺bi:na:ja pḁ˹tu ˺mapu̥sunu ˹ʔi:ʃi˺ba ʔi˹bi˺ su̥˹ko˺re:˹da:](南端 < 西表島 > のイーリジマ、フツァーマ、ウブビーの干瀬には鳩間の人がツノマタを養殖しておいてあるのだよ)。

˹マーイミ [˹ma:ʔimi]【名】正夢。夢に見たことが現実に起こる夢。ユ˹ビ˺ヌ　˺イメー　˹マーイミ˺　ナリ　ウ˹ブジンヌ　ペー˺リケーン [ju˹bi˺nu ˺ʔime: ˹ma:ʔimi˺ nari ʔu˹buʤinnu pe˺rike:ŋ](昨夜の夢が正夢になって、大金が入ってきた)。

˹マーウール [˹ma:ʔu:ru]【名】(植) マクワウリ。しろうり。きゅうりに似た瓜で、食用となる。「真瓜 (まうり)」『石垣方言辞典』の転訛したもの。ム˹カ˺シェー　˹マーウールバ˺ル　ス˹ク˺リ　˹オーッ˺タ˹ナー [mu˹ka˺ʃe: ˹ma:ʔu:ruba˺ru su̥˹ku˺ri ˹ʔo:t˺ta˹na:](昔はマクワウリを栽培して < 作って > おられなねえ)。

˹マーウイ [˹ma:ʔui]【名】真上。ティ˹ダ˺ヌ　˹マーウイ˺　ナ˹ラン˺ケンナー　˹カイシ˺キシティ　˹ヤー˺　パラ˹ナー [ti˹da˺nu ˹ma:ʔui˺ na˹raŋ˺kenna: ˹kaiʃi ˺ki̥ʃiti ˹ja:˺ para˹na:](太陽が真上にならないうちに耕しきって、家に帰ろうな)。

˹マーウムティ [˹ma:ʔumuti]【名】まおもて (真面)。真正面。真向かい。˺アイブー　ク˹トゥ˺バ　˹シェー˺ユンダ　˹マーウムテーラ˺　ク˹マー˺　ン˹カイ　キーユーサ˺ヌ [˺ʔaibu: ku̥˹tu˺ba ˹ʃe:˺junda ˹ma:ʔu-mute:ra˺ ku˹ma:˺ ʔŋ˹kai ki:ju:sa˺nu](あんな事をしたのだから、真正面からここへ顔を向けて来ることができない)。

˹マー˺ガ [˹ma:˺ga]【名】農具の一種。田植えの前に田の土を均(ナラ)して、水田に水が均等に溜まるようにする農具。巾約 15 センチ、長さ約約 160 センチの、木材を切り割って板状にしたものに柄をつけてハンドルにし、牛に引かせて田の土を均した。˹マー˺ガー　ウ˹シン　サンガシテイ　ター˺ヌ　˺ミツァー　ナ˹ダラカシティル　マイヤー˺　イ˹ボーッタ˺ル [˹ma:˺ga: ʔu˹ʃin saŋgaʃi̥ti ta:˺nu ˺mitsa: na˹darakaʃi̥tiru maija:˺ ʔi˹bo:tta˺ru](マーガを牛に牽かせて田の土を均して < ぞ > 米は植えられたものだ)。

˹マーガ˺ツ [˹ma:ga˺tsu]【名】(動) 魚の名。和名、スマ (体長約 80 センチ)。和名、ハガツオ (体長約 60 センチ)。漁船が沖から帰港する際、または石垣島へ回航する際に、パ˹ニビキ [pa˹nibiki](引き縄釣り。ハ˹ニビキ [ha˹nibiki] ともいう) をして釣り上げることがあった。

˺マーカマー [˺ma:kama:]【代】どこそこ。至る所。随所。あちらこちら。˺マー [˺ma:](何処) と˺カマー [˺kama:](あそこ) を重ねた語。具体的に指示されない場所。˺マーカマーティ　˹ナー˺ン　フ˹ク˺ジ　パ˹ニポー˺リ　˺シケー [˺ma:kama:ti ˹na:˺ŋ ɸu̥˹ku˺ʤi pa˹nipo:˺ri ˺ʃi̥ke:](どこそこことなく、至る所にに塵を撒き散らしてある)。

˹マーガヤ [˹ma:gaja]【名】(植)、茅。チガヤ。「真茅」の義。「萱、和名、加夜 < かや >」『和名抄』の転訛したもの。ナ˹ビン˺フタ [na˹biŋ˺ɸu̥ta](鍋蓋) や˹フイ˺バ [˹ɸui˺ba](茅で編み上げた穀物入れ) などを編むのに用いる長い茅。茅の叢中より、約 150 センチに成長した茅を選んで根っこから刈り取り、二、三日陰干しにして柔らかくなった頃に直径約 1 センチの太さに束ねて、˹マー˺ニ [˹ma:˺ni] の皮や˹クー˺ジ [˹ku:˺ʤi] の皮で巻き締めながら編み上げて作る。˹マーガヤーバ˺　スリキー　˹フイ˺バ　˺フミバ [˹ma:gaja:ba˺ suriki: ˹ɸui˺ba ˺ɸumiba](真茅を刈ってきてフイバを編み上げなさいよ)。

˹マー˺キ [˹ma:˺ki]【副助】まで。動作・作用の到達するところ、範囲、極端な程度を表す。上接語の末尾が鼻音や狭母音 [i] で終わる場合は、やや˹マー˺キ [˹ma:˺ki] となる傾向が認められる。それ以外は˹バー˺キ [˹ba:˺ki](まで) となるといえるが、[b] と [m] は自由変異となる場合も認められる。マ˹ナマー˺キ　˺マーナール　˹アーク˺ター [ma˹nama:˺ki ˺mana:ru ˹ʔa:ku˺ta:](今まで何処にいたのか)。

˹マー˺キ [˹ma:˺ki]【接尾】～かね (兼ね) る。～することができない。～することがむずかしい。他動詞の連用形に付いて不可能、困難を表す。トゥ˹リマー˺キ　˹ベーン˺ケンマー　˹ナーン˺ナリ　˹ナー˺ヌ [tu˹rima:˺ki ˹be:m˺kemma: ˹na:n˺nari ˹na:˺nu](取りかねているうちに、無くなってしまった)。˹ジー˺　カ˹キマー˺キ　˹ベー [˹ʤi:˺ kḁ˹kima:˺ki ˹be:](字を書きかねている)。ティ˹ガ˺ミ　ユ˹ミマー˺キ　˹ベー [ti˹ga˺mi ju˹mima:˺ki ˹be:](手紙を読みかねている)。パ˹リマー˺キ　˹ベー [pa˹rima:˺ki ˹be:](行きかねてい

る＜行くことが出来ないでいる＞)。アˈジマーˈキ　ˈベートツォー [ʔaˈʤimaːˈki ˈbeːˈtsoː](言いかねているんですよ)。

ˈマーキー [ˈmaːkiː] 【名】薪。わりき。燃料にする木。雑木を長さ約 30 センチに切り、斧で割って乾燥させたたきぎ。まき (薪) 以外の燃料には、ˈユシˈキ [ˈjuʃi̥ˈki](枯れたススキ)、ウˈジˈル [ʔuˈʤiˈru](枯れた小枝) がある。サツマイモをふかす＜蒸す＞際にはフˈクˈジ [ɸu̥ˈkuˈʤi](木の枯れ葉やススキ、ソテツの枯れ葉など) なども利用された。終戦後 1954 年頃まで、鳩間島や西表島から薪を束ねて石垣島へ輸出する商売もあったが、石油の時代になって消滅した。ˈマーキーヤ　パイターˈラ　タˈムヌˈバ　ˈキシ　ˈキー　ヌˈキˈルシ　ˈバキ　ウˈリバ　ブーˈヌシ　バˈリティˈ　タˈムˈヌダナナー　シˈミˈ　サˈラシティルˈ　シゥˈカイヨーッタˈル [ˈmaːkiːja paitaːˈra taˈmunuˈba ˈki̥ʃi ˈkiː nuˈkiˈruʃi ˈbaki ʔuˈriba buːˈnuʃi baˈritiˈ taˈmuˈnudanana: ʃiˈmiˈ saˈraʃi̥tiruˈ si̥ˈkaijoːttaˈru](薪は南端＜西表＞から雑木を切ってきて、鋸で切り、それを斧で割って竈の上の薪棚に積み、乾燥さ＜枯ら＞せてから使われたものだ)。

ˈマーキム [ˈmaːkimu] 【名】本心。本気。真心。愛情。「真」に「Qimo. キモ (肝・胆) 肝臓、脾臓など」『邦訳日葡辞書』が付いて形成されたものが転訛し、意味派生した形。ウˈレー　マーキモー　ナーˈヌ [ʔuˈre: maːkimo: naːˈnu](彼は本気で＜真心が＞ない)。ˈマーキム　ナーンˈ　ムヌン　ナˈラーサˈバン　ウˈブイラˈヌ [ˈmaːkimu naːmˈ munun naˈraːsaˈbaŋ ʔuˈbuiraˈnu](本気でない者に教えても覚えないよ)。

ˈマーギラ [ˈmaːgira] 【名】(動) シャコ貝の名。ヒレジャコ。シャゴウ。水深 4～5 メートルの海底の砂の上や枝珊瑚の中に棲息している。殻の長さ 20～25 センチ。身はしまって美味しい。最近は個体数が激減している。イˈシギラ [ʔiˈʃigira](ヒメジャコ) は珊瑚礁の岩の中に穴を開けて棲息しており、潮干狩りの際、女性たちがよく漁獲する。殻の長さは約 10 センチ。サˈクˈラギラ [sḁˈkuˈragira](シラナミ) は細長い殻をもち、円筒状に近い形をしている。岩礁の表面に付着している。ˈマーギランˈ　サˈクˈラギラン　イˈシギランˈ　サˈギフチˈルティ　アˈザリ　ブー [ˈmaːgiranˈ sḁˈkuˈragiraŋ ʔiˈʃigiranˈ saˈgiɸu̥tʃiˈruti ʔaˈʤari buː](ヒレジャコもシラナミもヒメジャコも下げ薬＜のぼせに効く薬＞と言われている)。

ˈマーサ [ˈmaːsa] 【名】人名。成人男子にはˈマーˈサザー [ˈmaːˈsaʤaː](眞佐兄、「眞勢兄」とも書く)、成人女性にはˈマーˈサンマー [ˈmaːˈsammaː](マーサ姉さん) という。ビˈキドゥムˈナーン　ミˈドゥˈムナーン　ˈマーˈサティ　ˈスー　ナーヤˈ　アˈリˈブタ [biˈkidumuˈnaːm miˈduˈmunaːm ˈmaːˈsati ˈsuː naːjaˈ ʔaˈriˈ buta](男にも女にも、マーサという名前はあった＜有り居った＞)。

ˈマーˈザ [ˈmaːˈʤa] 【名】侵入禁止の印しに木や竹を X 形に結んで立てたもの。タˈキˈ　ヤˈラザイティ　マーˈザ　タˈティラˈレーン　ˈトンマー　ˈペーˈレー　ナˈラˈヌ [tḁˈkiˈ jaˈraʤaiti maːˈʤa tḁˈtiraˈreːnˈtommaː ˈpeːˈreː naˈraˈnu](竹を X 形に交差させて縛って立ててある所には入ってはならない)。

ˈマーサナイ [ˈmaːsanai] 【名】六尺ふんどし (褌)。「眞褌」の義。マˈナˈマー　ˈマーサナイˈ　キˈソーˈル　プˈソー　オーラˈヌ [maˈnaˈmaː ˈmaːsanaiˈ ki̥ˈsoːˈru pu̥ˈsoː ʔoːraˈnu](今は六尺褌を着られる人は居られない)。

ˈマーˈザピー [ˈmaːˈʤapiː] 【名】おにび (鬼火)。きつねび。霊魂の火。火の玉。墓地などで闇夜に燃えて空中に浮遊する青白い火。シˈチˈヌ　ユˈネンˈマー　ˈユー　ˈマーˈザピー　ˈミリン　ˈパッˈタン [ʃi̥ˈʧiˈnu juˈnemˈmaː ˈjuː ˈmaːˈʤapiː ˈmirim ˈpatˈtaŋ](節祭りの夜は、よくマーザピー＜霊魂の火＞を見に行ったものだ)。

ˈマーサマリ [ˈmaːsamari] 【名】眞結び。本結び。こま結び。結んだ紐が並行の形になるような結び方。「Mamusubi. マムスビ (真結び) 二重結び」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˈマーサマリ　シーˈ　シケーンダ　ムッˈトゥ＜イッˈカ＞　パンツァサラヌ [ˈmaːsamari ʃiːˈ ʃi̥keːnda mutˈtu＜ikˈka＞ pantsasaranu](眞結びにしてあるから、一向に外されず＜解かれ＞ない)。

ˈマーシ [ˈmaːʃi] 【接尾】～置きに。時間を表す語に付いて、それだけずつの間隔を置く意を表す。「～回し」の義。ˈトゥッカマーˈシ　アˈミˈヌ　ˈフーン [ˈtukkamaːˈʃi ʔaˈmiˈnu ˈɸuːŋ](十日置きに雨が降る)。ˈウンˈネヌ　ッˈふァーˈ　フˈターチマーシˈシ　マˈリブー [ˈʔunˈnenu fˈfaːˈ ɸu̥ˈtaːʧimaːʃiˈʃi maˈri buː](この家の子は二歳おきに生まれている)。

ˈマージー [ˈmaːʤiː] 【名】くろつち (黒土)。腐植土(フショクド)。「真地」の義か。鳩間島では、カˈニクˈジー [kaˈnikuˈʤiː](砂土壌。堆積土壌)、アˈガミツァ [ʔaˈgamitsa](赤土の粘土)、イˈノンジー [ʔiˈnonʤiː](砂地) があり、

それらに対立する土地。農耕に最適の土壌。クˬヌ˪ パˬタ˪ケー ˞マージー˪ ヤˬルンダ˪ ウン ス˞クラ˪バン ˪アー スˬクラ˪バン イッˬケン ミールン [kuˬnu˪ pḁˬta˪keː ˞maːʤiː˪ jaˬrunda˪ ʔum su̥ˬkura˪baŋ ˪ʔaː su̥ˬkura˪baŋ ʔikˬkem miːruŋ](この畑は真地だから芋を作っても粟を作っても非常に良く稔る)。

˞マーシーシ **[˞maːʃiːʃi]** 【名】肉。赤肉。「真・肉」の義。接頭語˞マー [˞maː](真) に、「肉、之之 < しし > 肌膚之肉也」『和名抄』が下接して形成された合成語。˞オー˪ヌ アˬバッ˪タラ アˬラン˪ドーシ ˞マーシーシ ˞カイ˪ クーバ [˞ʔoː˪nu ʔaˬbat˪tara ʔaˬran˪doːʃi ˞maːʃiːʃi kai˪ kuːba](豚の脂身ではなく、赤肉を買ってきなさい)。

˞マーシキ˪ムヌ **[˞maːʃi̥ki˪munu]** 【名】 1魔に取り付かれたように、異常な行動をとる者。異常に取り乱した者。素行不良の者。ヤクザ者。「魔付き者」の義。˞ウンザー˪ クˬヌ˪グロー ˞マーシキムヌ˪ヌ ˪カタチニ ˪ナリティ ンˬメーマヌ˪ クトゥシン プˬストゥ アイ˪ス [˞ʔunʤaː˪ kuˬnu˪guroː ˞maːʃi̥kimunu˪nu ˪kḁtatʃini ˪nariti ʔmˬmeːmanu˪ ku̥tuʃim pu̥ˬsutu ʔai˪su](あ奴は近頃は魔に取り付かれた者 < ヤクザ者 > になって、些細(ササイ)なことでも他人と喧嘩をする)。2親に反抗する子。きかんぼう。素行不良。反抗する者 (卑称)。˞マーシキ˪ムノー ˞ピン˪バ シˬティ˪ ムッˬトゥ˪ プˬスヌ˪ ムニシゥˬカヌ [˞maːʃi̥ki˪munoː ˞pim˪ba ʃi̥ˬti˪ mutˬtu˪ pu̥ˬsunu˪ muni si̥ˬkanu](素行不良者めが、親に反抗して、ちっとも言うことを聞かない)。

˞マーシヌキル **[˞maːʃinukiru]** 【名】「回し鋸(ノコ)」の義。桶の底や˪イダフニ [˪ʔidaɸuni](サバニ。板船) の底板を接合するために、幅の狭い鋸を入れて挽きながら接合部を密着させ、水漏れを防ぐために用いる鋸。˞タング˪ヌ スˬクイツァー マーシヌキル˪シ ピˬキティ アー˪シバ [˞taŋgu˪nu su̥ˬkuʔitsaː maːʃinukiru˪ʃi pi̥ˬkiti ʔaː˪ʃiba](担桶の底板は回し鋸で挽いて密着させ < 合わせ > なさいよ)。

˞マーシ˪フニ **[˞maːʃi˪ɸuni]** 【名】風上に向かってジグザグ航行すること。マˬギフニ [maˬgiɸuni](曲げ舟) ともいう。北風が吹いて鳩間島へ直線的に帰帆できないとき、向かい風の約 45 度斜めに一定距離帆走し、次に反対方向へ約 45 度斜めに一定距離帆走しながら目的地へ接近する航法。˞プーザンプー [˞puːʤampuː](片帆。「帆桟帆」の義か) は横風をはらませ、その力を推進力に変換するため、帆を船の右方に寄せてある。船頭は風力に合わせながら帆の右端につけたティンナー (手縄) を操り、楽に操船することが出来る。ニˬシカジヌ スー˪カー ˞マーシ˪フニ ˞シェー˪ティル パˬトゥ˪マー ˞オーッ˪タ [niˬʃikaʤinu suː˪kaː ˞maːʃi˪ɸuni ˞ʃeː˪tiru pḁˬtu˪maː ˞ʔoːt˪ta](北風が吹くとジグザグ帆走 < 回し舟 > しながら鳩間島へ行かれた)。

˞マーシ˪ ミルン **[˞maːʃi˪ miruŋ]** 【連】覗(ノゾ)き見る。伺(ウカガ)い見る。垣間見る。「回し見る」の義。ウˬキ˪ナー ˪パルカー ˞バン˪テヌ ヤˬラ˪ビンケン ˪トンユン ˪ヌビ ˞ナーリ マーシ˪ ミリ ッˬふィーリ˪ヨー [ʔuˬki˪naː ˪parukaː ˞ban˪tenu jaˬra˪biŋken ˪toŋjun ˪nubi ˞naːri maːʃi˪ miri fˬfiːri˪joː](沖縄へ行くなら私の家の子供たちの所にも首をのばして様子を覗き見てきてくれよ)。

˞マーシムヌ **[˞maːʃimunu]** 【名】回し者。間者(カンジャ)。ウˬレー マー˪ヌ ˞マーシムヌ˪ ヤˬル˪ユー ッˬサンバ キー˪シˬキ˪リ [ʔuˬreː maː˪nu ˞maːʃimunu˪ jaˬru˪juː sˬsamba kiː˪ ʃi̥ˬki˪ri](彼は何処の回し者か分からない < 知らない > から、気を付けなさい)。

˞マーシムヌ **[˞maːʃimunu]** 【名】回転させる玩具。「回し物」の義。あだん葉で作った風車やブˬドゥ˪ク [buˬdu˪ku](マガキガイ) で作った独楽(コマ)を回して遊んだ。ブˬドゥク˪ヌ フˬチ˪ バˬリティ˪ クマ スˬク˪リティル ˞マーシムヌ シー˪ アˬサブタル [buˬduku˪nu ɸu̥ˬʧi˪ baˬriti˪ kuma su̥ˬku˪ritiru ˞maːʃimunu ʃiː˪ ʔaˬsabutaru](マガキガイの口の上部を割って独楽(コマ)に作り、回転遊具 < 回し物 > にして遊んだものだ)。

˞マーシヤドゥ **[˞maːʃijadu]** 【名】西洋風の開き戸。戸の片面の桟に蝶番(チョーツガイ)を付け、それを戸口の柱に固定し、もう片方の桟に取っ手を付けて開閉する様式の戸。「回し屋戸」の義。とびら (扉)。ドア (door)。ピˬキヤドゥ [pi̥ˬkijadu](引き戸) の対義語。˞マーシヤドー˪ ピˬキヤドー˪ラン アˬキフイ シーヤッ˪サン [˞maːʃijadoː˪ pi̥ˬkijadoː˪raŋ ʔaˬkiɸui ʃiːjas˪saŋ](回し戸は引き戸よりも開閉 < 開け閉め > しやすい)。˞マーシヤドー˪ グˬチ˪ホーニ アˬキフイ˪ スˬナ˪ヨー [˞maːʃijadoː˪ guˬʧi˪hoːni ʔaˬkiɸui˪ suˬna˪joː](回し戸 < ドア > は無鉄砲に開閉するなよ)。

˞マーシラ **[˞maːʃira]** 【名】真正面の顔。対面すること。真顔。「マー (真)・シラ (面)」の転訛。˪アイブー クˬトゥ˪バ ˞シーテー ワー˪ネー ˞マーシラ˪ ンˬカイ ユーサン˪ヨー [˪ʔaibuː ku̥ˬtu˪ba ˞ʃiːteː waː˪neː ˞maːira˪ ʔŋˬkaijuːsaŋ˪joː](あんなことをして

は、君に対して真正面からまともに対面できない＜真顔で向き合うことができない＞よ)。

「マーシンザ [「maːʃindʑa]」【名】(植) 甘蔗。サトウキビの品種名。黒糖製造用のサトウキビ。タイケイ種。茎が太く、節と節の間隔が比較的に長く、糖度の高い樹液を多く含んでいた。法事の供え物や生食にも供された。他に「コー˥シシンザ [「koː˥ʃiʃindʑa](菓子サトウキビ) や、在来種のア「ガシンザ [ʔa「gaʃindʑa](幹や茎の皮が紫色のサトウキビ) があった。

「マー˥ス [「maː˥su]【名】塩。「真塩」の義。塩には穢(ケガレ)を祓(ハラ)い清め、長寿延命を司る霊力があると信じられている。シゥ「カラマース [si̥「karamaːsu](盛り塩＜力塩＞。嘉例の塩)、カ「ニマース [ka「nimaːsu](黄金塩) は元旦や祝儀、祈願の際に床の間に供え、飾って健康を祈願し、礼拝する人にひとつまみずつ授けて嘉例を祈願する。また、葬儀に参列した人は自宅に入る際は塩で不浄を祓い落す。道で悪霊に襲われると戸口で塩を撒(マ)いて悪霊祓えをする。「マー˥ソー シゥ「カラマース˥ カ「ニマース˥ティ 「シー˥ ヤ「ナムヌ˥ヌ ヌ「キ˥ムヌティ ア「ザリ ブー [「maː˥soː si̥「karamaːsu˥ ka「nimaːsu˥ti ʃiː˥ ja「namunu˥ nu nu「ki˥munuti ʔa「dʑaribuː](塩は力塩、黄金塩といって、悪霊落とし＜魔除けの護符(ゴフ)＞といわれている)。

「マー˥スカギン [「maː˥sukagiŋ]【名】塩加減。塩の付け具合。しおあんばい (塩塩梅)。「マー˥スカギンヌ 「ナーン˥カー 「スーシキ˥ムノー タ「ボーラヌ [「maː˥su ˥kaginnu ˥naːŋ˥ka: 「suːʃi̥ki˥munoː ta「boːranu](塩加減が良くないと塩漬けは保存できない)。

「マー˥スカミ [「maː˥sukami]【名】塩壷。塩を入れておく壷。「塩甕」の義。「マー˥スカメー＜「マー˥ススボー＞ ギッ「ティ˥ フ「タ˥ シ「マン˥カー ミ「ジ˥ ナルン [「maː˥sukameː＜「maː˥susuboː＞ gitˈti˥ ɸu̥「ta˥ ʃi˥「maŋ˥ka: mi「dʑi˥ naruŋ](塩壷はぎゅっと蓋を閉めないと水になる)。

「マー˥スクン [「maː˥su̥kuŋ]【自動】魔が取り付いたように悪くなる。状態が余計にひどくなる。ア「ミ˥ヌ ヤ「ムン˥ケンティ 「イットゥ˥キ マ「トゥ˥タ ˥クトー 「マーシキ˥ル 「フー˥バン [ʔa「mi˥nu ja「muŋ˥kenti 「ʔittu˥ki ma「tu˥ta ˥ku̥to: 「maːʃi̥ki˥ru 「ɸuː˥baŋ](雨が止むまでと、一時待ったところ、余計に酷(ヒド)く降るよ)。ク「ヌ˥ アメー 「マー˥スクンティル ウ「モーリ˥バ 「マーシゥカン˥ケン 「ヤー˥パラ「ディー [ku「nu˥ ʔameː 「maː˥sukuntiru ʔu「moːri˥ba 「maːsi̥kaŋ˥keɲ 「jaː˥ para「diː](この雨降りは余計に酷くなると思われるから、ひどくならないうちに家に帰ろうよ)。ヤ「ラビ˥ヌ 「ユーナキ˥ヌ 「マー˥スク ˥ピンマー ム「ヌシラ˥シティル ア「ザリブー [ja「rabi˥nu 「juːnaki˥nu 「maː˥su̥ku ˥pimmaː mu「nuʃira˥ʃitiru ʔa「dʑari buː](子供の夜泣きが酷くなる時は、何かの前兆＜もの知らせ＞だといわれている)。「フンダイヌ マー˥シケーラー トゥ「ミララヌ [「ɸundainu maː˥ʃi̥keːraː tu「miraranu](やりたい放題の我儘が酷くなったら止められない)。

「マー˥スシキ [「maː˥suʃi̥ki]【名】塩漬け。「スー˥シキ [「suː˥ʃi̥ki](塩漬け) ともいう。ナ「マ˥イゾー 「マー˥スシキ 「スー˥カー タ「ボーリン [na「ma˥ʔidʑoː 「maː˥suʃi̥ki 「suː˥kaː ta「boːriŋ](生魚は塩漬けにする長期保存できる＜貯えられ＞る)。

「マー˥スダーラ [「maː˥sudaːra]【名】塩俵。カ「マ˥ジー [ka「ma˥dʑiː](稲藁を二重に編んで造った、塩をいれる袋) に塩を入れた塩俵。「マース˥ダーラー ˥アミナー 「ゾッふァスナ˥ヨー [「maː˥sudaːraː ˥ʔaminaː 「dʑoffasuna˥joː](塩俵は雨に濡らすなよ)。

「マー˥ス タ「クン [「maː˥su tḁ「kuŋ]【連】塩を焼く。イ「クサユー˥ヌ ˥アトー ダ「ルマッ˥カンシ 「マー˥スナビ ス「クリティ 「マー˥ス タ「クタン˥ダー [ʔi「kusajuː˥nu ˥ʔatoː da「rumak˥kaŋʃi 「maː˥sunabi su̥「ku˥riti 「maː˥su tḁ「kutan˥daː](戦後は、ドラムカンで塩焼き釜を作って、塩を焼い＜炊い＞たこともあったよ)。

「マー˥ス ッ「ふァースン [「maː˥su fˈfaːsuŋ]【連】1塩をまぶ＜塗＞す。魚や蛸、鱶(フカ)をさばい＜捌い＞て濃く塩を塗(マブ)し、一晩樽に詰めた後、十分に天日乾燥させて「ソー˥ギリ [「soː˥giri](魚肉の乾物) 製品に仕上げる。イ「ゾー˥ バ「ザイ マー˥ス ッ「ふァーシティ ソー˥ギリ ス「クリバ [ʔi「dʑoː˥ ba「dʑai maː˥su fˈfaːʃi̥ti soː˥giri su̥「ku˥riba](魚は捌(サバ)いて塩をまぶし、ソーギリ＜魚肉の乾物＞に作りなさいよ)。2塩で祓(ハラ)い清める。不吉なことを言ったり、不都合なことを言う者に対して、諌(イサ)めて言う表現。「ウンザー˥ フ「チ˥ナー 「マー˥ス ッ「ふァーシ˥ シ「キ˥リ [「ʔundʑaː˥ ɸu̥「tʃi˥naː 「maː˥su fˈfaːʃi˥ ʃi̥「ki˥ri](こいつは、口を塩で祓い清め＜口に塩を食わせ＞ておけ)。

「マースディ [「maːsudi]【名】広袖。四角の形になった袖。「ティップスデ [「tippusudi](筒袖) やフ「クル˥スディ [ɸu̥「kuru˥sudi](袂袖。＜袋袖＞の義) に対していう『石垣方言辞典』という。ク「ヌ キン

˥マー　フ˞クル˥スデー　˞ノー˥シティ　˞マースディ˥　ナシバ [kuˀnu kim˥ma: ɸu̥ˀkuru˥sude: ˀno:˥ʃi̥ti ˀma:sudi˥ naʃiba](この着物は、袋袖を直して広袖＜四角の袖＞に直しなさいよ)。

˞マース˥ニー [˞ma:su˥ni:] 【名】塩煮。塩味だけで煮ること。˞マース˥ニー　˞シー˥　シケー　イ˞ゾー˥ン˞マー˥ンダ　˥ムティ　˞ギー˥　ヤ˞ラ˥ビンケン　ッ˞ふァーシ˥バ [ˀma:su˥ni: ˀʃi:˥ ʃi̥ke: ʔi˞ʤo:˥ ʔm˞ma:˥nda ˥muti ˀgi:˥ ja˞ra˥biŋkeŋ fˀfa:ʃi˥ba](塩煮にしてある魚は美味しいから、持って行って子供達にも食べさせなさいよ)。

˞マー˥ス　˞パン˥クン [˞ma:˥su ˀpaŋ˥kuŋ] 【連】塩を撒く。悪霊＜邪気＞を祓うために、または不浄を祓い清めるために塩を撒いた。ヤ˞ナ˥ムノー　˞マー˥ス　˞パン˥キ　パ˞ラ˥シ [ja˞na˥muno: ˀma:˥su ˀpaŋ˥ki paˀra˥ʃi](悪霊＜邪気＞は塩を撒いて追い払え)。ヤ˞ナムヌ˥ヌ　˞ペー˥リ　˥クーカー　˞マー˥ス　˞パン˥キ　パ˞ラ˥シ [ja˞namunu˥nu ˀpe:˥ri ˥ku:ka: ˀma:˥su ˀpaŋ˥ki paˀra˥ʃi](悪霊＜邪悪なもの＞が入ってきたら塩を撒いて祓い清めよ＜塩を弾いて追いやれ＞)。

˞マー˥スヤー [˞ma:˥suja:] 【名】塩焼き小屋。「塩屋」の義。˞マー˥スヤー　ス˞ク˥リティ　˞マー˥ス　タ˞キ　ベー [ˀma:˥suja: su̥ˀku˥riti ˀma:˥su tą˞ki be:](塩焼き小屋を作って塩を炊いている)。

˞マースン [˞ma:suŋ] 【他動】1回す。回転させる。˥ウディ　˥グルグルシ　˞マースンティ　スンドゥ˥　ヤミティ　˞マーサラヌ [˥ʔudi ˥gurugurusi ˀma:sunti sundu˥ jamiti ˀma:saranu](腕をぐるぐる回そうとするが、痛くて回されない)。˞マーシ˥　ミサカー　˞マース˥　クトー　ナ˞ルン˥ドゥ　シ˞バー˥ンダー　˞マーシェー˥　ナ˞ラン˥ツォー [ˀma:ʃi˥ misaka: ˀma:su˥ ku̥to: naˀrun˥du ʃiˀba:˥nda: ˀma:ʃe:˥ naˀran˥tso:](回してよければ回すことは出来るが、狭いので回してはならないそうだ)。˞パー˥ク　˞マーシ [ˀpa:˥ku ˀma:ʃi](早く回せ)。2エンジンをかける。˥キカイ　˞マーシ [˥ki̥kai ˀma:ʃi](機械をかけろ)。3船を回送する。˞ティンマー˥　ニー　シ˞ミン˥　フ˞ノー˥ラー　˞マーシ　パッ˥タ [ˀtimma:˥ ni: ʃiˀmiŋ˥ ɸuˀno: ˥ra: ˀma:ʃi pat˥ta](伝馬船は荷を積みに船浦へ回送していった)。

˞マーズン [˞ma:ʤuŋ] (1) 【副】一緒に。共に。˞バン˥トゥ　˞マーズン˥　シ˞グトゥ　サン˥カヤー [ˀban˥tu ˀma:ʤuŋ˥ ʃiˀgutu saŋ˥kaja:](私と一緒に仕事をしないかなあ)。˞マーズン˥　パラ˞ディー [ˀma:ʤum˥para˞di:](一緒に行こうよ)。˞ディ˥ー　˞バン˥トゥ　˞マーズン˥　パラ [ˀdi˥: ˀban˥tu ˀma:ʤum˥ para](さあ、私と一緒に行こう)。 **(2)** 【名】1同時。同時期。˞ウッ˥ツァー　ムー˞ル　ワットゥ　マーズンヌ　シー˥トゥンケー　˞ヤッタ˥ミー [ˀʔut˥tsa: mu:ˀru wattu ma:ʤunnu ʃi:˥tuŋke: ˀjatta˥mi:](彼らは全員君と同時期の生徒達だったでしょう?)。2同級。同年。˞ウッ˥ツァー　ムー˞ル　マーズンヌ˥　プ˞スン˥ケー˞ダー [ˀʔut˥tsa: mu:ˀru ma:ʤunnu˥ pu̥ˀsuŋ˥keˀda:](彼らは皆同年＜同級＞の人たちだよ)。

˞マーズン˥シ [˞ma:ʤuŋ˥ʃi] 【副】一緒に。一緒になって。シ˞グトー　タンガ˥シ　˞ソーラー　マーズン˥シ　˞サーバル˥　パカー　˥トゥル [ʃiˀguto: taŋga˥ʃi ˀso:ra: ma:ʤuŋ˥ʃi ˀsa:baru˥ pą̥ka: ˥turu](仕事は一人でするよりも一緒にやったほうが捗(ハカド)る。「はか＜捗＞をとる」)。

˞マーダーッサー　ナー˥ヌ [˞ma:da:ssa: na:˥nu] 【連】気分が正常でない。気分が勝れない。不元気である。˞マーダーッサー　ナー˥ムティ　˞ガー˥タティ　シ˞グトゥバ　シー　アー˥ク [ˀma:da:ssa: na:˥muti ˀga:˥tati ʃiˀgutuba ʃi: ʔa:˥ku](気分が正常で無いのに我慢して＜我を立てて＞仕事をしている)。

˞マーダーッ˥サン [˞ma:da:s˥saŋ] 【形】 1まとも (真面) である。人格的にきちんとしている。ウ˞ヌ˥プ˞ソー　マーダーッ˥サンティ　ウ˞モーラン˥バ　˞マーダーッ˥サー　プ˞スバ˥　イ˞ラ˥ビ [ʔuˀnu˥ pu̥ˀso: ma:da:s˥santi ʔuˀmo:ram˥ba ˀma:da:s˥sa: pu̥ˀsuba˥ ʔiˀra˥bi](その人はまとも＜真面＞であるとは思えないから、真面である人を選べ)。アイ˞ブー˥プ˞ソー　マーダーッサー　ナー˥ヌ [ʔaiˀbu:˥ pu̥ˀso: ma:da:ssa: na:˥nu](ああいう人はまとも＜真面＞でない)。2気分が正常である。元気である。˞マーダーッサー　ナー˥ムティ　˞ガー˥バ　˥タティ　シ˞グトゥ　シェー˥ティ　˞アーク˥ナ [ˀma:da:ssa: na:˥muti ˀga:˥ba ˥tati ʃiˀgutu ʃe:˥ti ʔa:ku˥na](気分がすぐれないのに、我慢をして＜我をたてて＞仕事をしているな)。

˞マータキ [˞ma:taki] 【名】同等。同程度。対等の高さ。同じ高さ。「ま・たけ (真丈)」の義。ユ˞ヌ˥タキ [juˀnu ˥tą̥ki](同じ高さ) ともいう。ヤ˞ラビ˥ヌ　˥タケー　ウ˞ヤ˥トゥ　˞マータキ˥　ナ˞リ˥　ブーバン [jaˀrabi˥nu ˥take: ʔuˀja˥tu ˀma:taki˥ naˀri˥ bu:baŋ](子供の身長は親と同じ高さ＜同等＞になっているわい)。ヤ˞ラビ˥トゥ　˞マータキル˥　ア˞ル˥バン [jaˀrabi˥tu ˀma:takiru˥ ʔaˀru˥baŋ](子供と同じ程度でしかない＜

同じレベルがある＞わい)。ムー˞ル　マータキナー˜　バ˞キ˜リ [muː˞ru maːtakinaː˜ ba˞ki˜ri](全部同等＜均等＞に分けなさい)。グ˞フンヌ　ウイ˜ベー　˞マータケー　ナー˜ヌ [gu˞ɸunnu ʔui˜beː ˞maːtakeː naː˜nu](五本の指は同じ高さではない。長短それぞれの特徴があって、それぞれが大切である。＜兄弟の大切さを諭す(サト)箴言(シンゲン)＞)。

˞マータク [˞maːtaku] 【名】 (植) 和名、ダイサンチク (泰山竹)。竿や天秤棒に利用された。˞マータク˜シル　フ˞ニ˜ヌ　˜サウン　˞アイ˜クン　ス˞ク˜ローッタミー [˞maːtaku˜ʃiru ɸu˞ni˜nu ˜sauŋ ˞ʔai˜kun su̥˞ku˜roːttamiː](泰山竹で舟の竿も天秤棒も作られたのでしょうね)。

˞マータマシ [˞maːtamaʃi] 【名】思慮分別。精神。根性。「真魂」の義。˞マータマシヌ　ナー˜ン　ッ˞ふァ˜ヤ˞ルンダ　ヌー˜シル　˜クトゥバ　˞スー˜ユー　ッ˞サントゥ ダー [˞maːtamaʃiːnu naː˜ŋ f˞fa˜ ja˞runda nuː˜ʃiru ˜ku̥tuba ˞suː˜juː s˞sanˤdaː](思慮分別のない子供だから、どんな事をするか分からないのだよ)。

˞マー　タン˜ガ [˞maː taŋ˜ga] 【連】もう一人。バ˞コーシン˜カー　˞マー　タン˜ガー　タ˞ナマン˜カー　ナ˞ラ˜ヌ [ba˞koːʃiŋ˜ka: ˞maː taŋ˜ga: ta˞namaŋ˜kaː na˞ra˜nu](新築用材伐り出しの共同作業人員は、もう一人頼まないといけない)。

˞マータンカー [˞maːtaŋkaː] 【名】真向かい。パ˞トゥマ˜ヌ　˜パンタヌ　˞マータンカ˜ナール　パ˞トゥ˜マレー (˞ホートゥ˜バレー) ヤ　˜アル [pḁ˞tuma˜nu ˜pantanu ˞maːtaŋka˜naːru pḁ˞tu˜mareː(˞hoːtu˜bareː)ja ˜ʔaru](鳩間島の南の真向かいに鳩離島はある)。

˞マー˜チ [˞maː˜ʧi] 【固】 (人名) 女性の名。˞マー˜チェンマ [˞maː˜ʧemma](マーチ姉さん)。プ˞サ˜キャーヌ　˞マー˜チェンマー　イ˞クサユー˜ヌ　˜アトゥナール　˞マーラソー˜レー˞ナー [pu̥˞sa˜kjaːnu ˞maː˜ʧemmaː ʔi˞kusaju:˜nu ˜ʔatunaːru ˞maːraso:˜reː˞naː](冨里家のマーチ姉さんは戦後に亡くなられたのだったねえ)。

˞マーッサー˜ル [˞maːssaː˜ru] 【名】間を取るもの。間を塞(フサ)ぐ物。部屋を塞ぐもの。部屋のさまたげ。障害物。ク˞ヌ　ダイ˜ヤー　˞マーッサー˜ル　ヤ˞ルンダ˜＜ナリ˞ブンダ˜＞　マ˞ダカ˜シバ [ku˞nu daiʔja: ˞maːssaː˜ru ja˞runda˜＜nari˞bunda˜＞ ma˞daka˜ʃiba](このテーブル＜食台＞は部屋を塞ぐ障害物だから除けなさい)。

˜マーッふァ [˜maːffa] 【名】孫。男女共に˜マーッふァ [˜maːffa] という。ウ˞チマー [ʔu˞ʧimaː](内孫。跡取りの子。息子の生んだ子)。フ˞カ˜マー [ɸu̥˞ka˜maː](外孫。嫁いだ娘の子)。ク˞レー˜　バー　マーッふァ˞ユー [ku˞reː˜ ba: maː˞ffa˞juː](これは私の孫です)。マーッ˞ふァー˜　ギュ˞ター˜　ナシェーワ [maːf˞faː˜ gju˞taːru˜ naʃeːwa](孫は何人産んであるか)。

˞マーッふァイ˜ムヌ [˞maːffai˜munu] 【連】場所をとるもの。広い面積を占有するもの。「間食いもの」の義。˞ヤー˜ヤ　シ˞バー˜ユンダ　˞マーッふァイ˜ムノー　イ˞リルナ [˞jaː˜ja ʃi˞baː˜junda ˞maːffai˜munoː ʔi˞riruna](家は狭いから場所をとる家具＜もの＞は入れるな)。

˞マー˜ツン [˞maː˜tsuŋ] 【他動】 ¹期待する。請い願う。待ち望む。シ˞マ˜ナーテー　ッ˞ふァンケー˜ヌ　˞イー　サウバ˜　ス˞クンテイ　マー˜チ　˞ベー˜ダー [ʃi˞ma˜naːteː f˞faŋkeː˜nu ˞ʔiː sauba˜ su̥˞kunti maː˜ʧi ˞beː˜daː](島では子供達のいい知らせ＜さう。左右(サウ)＞を聞こうと祈って待ち望んでいるんだよ)。˞イー　サウヤー＜サウワー＞　マーツン˜ドゥヤ˞ナ　サウ　マー˜ツ　プ˞ソー˜　ブ˞ラーヌ [˞ʔiː sauja:＜sauwa:＞ maːtsun˜du ja˞na sau maː˜tsu pu̥˞soː˜ bu˞raːnu](良い知らせは待ち望むが、悪い便りを待ち望む人はいない)。˜ドゥク　ッ˞ふァンケー˜ヌ　˞ソー　マーツァン˜ドーシ　ガ˞シ˜タク　ヤ˞ラバン˜　シトゥ　ウ˞クリ˜バ [˜duku f˞faŋkeː˜nu ˞soː maːtsan˜doːʃi ga˞ʃi˜taku ja˞rabaŋ ˜ʃi̥tu ʔu˞kuri˜ba](あんまり子供達からの知らせを待ち望まないで、燻製の蛸でも土産に送りなさいよ)。˞イー　サウ　マー˜チェー　˜ミサムヌ [˞ʔiː sau maː˜ʧeː ˜misamunu](良い便りを期待すればいいのに)。˞イー　サウバ　マーチ˜リ [˞ʔiː sauba maːʧi˜ri](良い便りを期待しなさい)。˜アミ　˞マー˜ツン [˜ʔami ˞maː˜tsuŋ](降雨を待ち望む)。²待ち望んで間に合わせる。˞ウンパンシン˜バ　˞マー˜チ　˞クー˜タ [˞ʔumpaŋʃim˜ba ˞maː˜ʧi ˞kuː˜ta](運搬船の入港を待ち望んで入港に間に合わせて来た)。

˞マーティジ [˞maːtiʤi] 【名】てっぺん。頂上。頂。「マ (真)・ティジ (頂)」の義。ティ˞ドゥ˜クヤマヌ　˞マーティジ˜ナーヤ　ティ˞ドゥ˜クダキヌル　˜ムイ　˞ブートゥ ダー [ti˞du˜kudakinu ˞maːtiʤi˜naːja ti˞du˜kudakinuru ˜mui ˞buːˤdaː](ティドゥク岳の頂上にはティドゥク竹が＜ぞ＞生えているのだよ)。ティ˞ダ˜ヌ　˞マーティ˜ジ　˜ナルンケン　パ˞タ˜キ　˞カイ˜シ　˞ベー [ti˞da˜nu ˞maːtiʤi˜ naruŋkem pḁ˞ta˜ki ˞kai˜ʃi ˞beː](太陽が真上になるまで畑を耕している)。真上。若年層は˞マーチジ [˞maːʧiʤi](真上。頂

上) ともいう。シ˞キ˜ヌ　˞マーティジ　ヌール˜カー　˞スー˜ヤ　ピ˞シキシ˜ルン [ʃi̥˞ki˜nu ˞ma:tiʤi nu:ru ˜ka: ˞su:˜ja pi̥˞ʃikiʃi˜ruŋ](月が真上に昇ると潮は干潮になる < 引ききる >)。

˞マーティダ [˞ma:tida] 【名】灼熱の太陽。炎熱の陽光。ア˞ガティダ [ʔa˞gatida](灼熱の太陽。真っ赤な太陽) ともいう。˞マーティダ˜ナ　プ˞サ˜レーティ　˞イー˜シ　˞カイ˜スンティ　˞ベー [˞ma:tida˜na: pu̥˞sa˜re:ti ˞ʔi:˜ʃi ˞kai˜sunti ˞be:](灼熱の太陽に焼かれながら < 乾されて > ツノマタを裏返して乾している)。

˜マーティ　˞ナー˜ン [˜ma:ti ˞na:˜ŋ] 【連】ところ構わず。あたり一面に。「何処とて無く」の義。ヤ˞ラ˜ベー　˞ヤーン˜ナカー　˜マーティ　˞ナー˜ン　ム˞タビム　ヌ˜バ　パ˞ニポー˜リ　˜シケー [ja˞ra˜be: ˞ja:n˜naka: ˜ma:ti ˞na:˜m mu˞tabi˜munu pa˞nipo:˜ri ʃi̥ke:](子供は家の中をあたり一面に玩具を散らかしてある)。

˞マードゥー [˞ma:du:] 【名】完全な体。健康体。「マー (真)・ドゥー (胴)」の義。˞マー [˞ma:](真。本物) が名詞、˜ドゥー [˜du:](身体。胴) に付いて形成された複合名詞。ミ˞ドゥ˜モー　ッ˞ふァ˜　ナスカー　プ˞ス˜シキ　˜ウチェー　˞マードゥヤ˜　ア˞ラン˜　ユンダ　˞ピーリ˜ミジェー　シゥ˞カースナ˜ヨー [mi˞du˜mo: f˞fa˜ nasu̥ka: pu̥˞su˜ʃi̥ki ˜ʔutʃe: ˞ma:du:ja˜ ʔa˞raŋ˜ junda ˞pi:ri˜miʤe: si̥˞ka:suna˜jo:](女は子供を産むと一月内は完全な体ではないから、冷たい水を使わせるなよ)。

˜マー　˜トゥルン [˜ma: ˜turuŋ] 【連】広い面積を必要とする。場所をとる。「間を取る」の義。ピ˞バ˜チェー　˜マー　トゥ˞リ˜ムヌ　ヤ˞ルンダ˜　カ˞タジキ˜リ [pi˞ba˜tʃe: ˜ma: tu˞ri˜munu ja˞runda˜ kḁ˞taʤiki ˜ri](火鉢は部屋の場所を余計に取るから片付けなさい)。

˞マーナ˜サ [˞ma:na˜sa] 【固】女性の名。˞マーナ˜サンマー [˞ma:na˜samma](マーナサお母さん。マーナサ姉さん)。˞マーナ˜サンマー　˞ダイ˜ケーナーン　ウ˞チ˜ネーナーン　˞オーッ˜タン˞ナー [˞ma:na˜samma: ˞dai˜ke:na:ŋ ʔu˞tʃi˜ne:na:ŋ ˞ʔo:t˜tan˞na:](マーナサお母さんは大工家にも仲伊部家にもいらっしゃったねえ)。

˞マーナダカ [˞ma:nadaka] 【名】まったく同じ高さ。ナ˞ダ˜カ (同じ高さ) は「ヌ [nu](の)・タキ [taki](丈)」の融合変化したものか。ヤ˞ラビ˜ヌ　フ˞ドゥベー˜　ユ˞ドゥマ˜ヌ　キサー˞ティ˜　ウ˞ヤ˜トゥ　˞マーナダカ˜ < ユ˞ヌナダ˜カ >　ナ˞リ˜ブバン [ja˞rabi˜nu ɸu˞dube:˜ ju˞duma˜nu kisa:˞ti˜ ʔu˞ja˜tu ˞ma:nadaka˜ < ju˞nunada˜ka > na˞ri˜bubaŋ](子供の成長は時間がかからない < 淀まない >。既に親と同じ高さに成長しているわい)。

˞マーナチ [˞ma:natʃi] 【名】真夏。ン˞ガナ˜チ [ʔŋ˞gana˜tʃi](酷暑(コクショ)の夏。「苦夏」の義) ともいう。˞マーナチヌ˜　ン˞ガ˜ティダナー　プ˞サ˜レーティ　パ˞タ˜キ　˞カイ˜ス　˜ムノー　ア˞ラ˜ヌ [˞ma:natʃinu˜ ʔŋ˞ga˜tidana: pu̥˞sa˜re:ti pḁ˞ta˜ki ˞kai˜su ˜muno: ʔa˞ra˜nu](真夏の酷熱の太陽に焼かれ < 干され > て畑を耕すものではない)。

˞マー˜ニ [˞ma:˜ni] 【名】 (植) クロツグ (桄榔)。ヤシ科の常緑低木。高さは 2〜3 メートルに達する。長大な葉が幹頂につき、茎には黒色の強力な˞フー˜カラ [˞ɸu:˜kara](網状の繊維) が絡み付く。これが˞フー˜カラジナ [˞ɸu:˜karaʤina](くろつぐの繊維の綱) の原料となる。マーニは˞ウイヌ˜ウガン [˞ʔuinu˜ʔugaŋ](友利御嶽) やパ˞カヤマ [pḁ˞kajama](墓山) に密生している。葉柄の表皮は硬いが柔軟性があり、加工しやすいので、˞クー˜ジ [˞ku:˜ʤi](トウズルモドキ) と共に˞フイ˜バ [˞ɸui˜ba](穀物入れ) を編む際に陰干しにした茅を引き締めるのに使用する。˞マーニ˜ヌ　˜カーシン　˞フイ˜バ　フ˞モーッ˜タン [˞ma:ni˜nu ˜ka:ʃiŋ ˞ɸui˜ba ɸu˞mo:t˜taŋ](マーニの皮でもフイバ < 茅をマーニやクージで編んだ穀物入れ > を編まれた)。

˞マーニ˜ヌ　˜ウディ [˞ma:ni˜nu ˜ʔudi] 【連】クロツグ (桄榔) の葉柄(ヨウヘイ)。「クロツグの腕・枝」の義。直径 2〜3 センチ、長さ 1〜1.5 メートル。表皮は蝋状(ロウジョウ)の光沢を有し、硬いが薄く削ると柔軟生がある。髄の部は柔らかく、白い発泡スチロール状の材質で脆(モロ)い。この表皮でフイバを編む。ヤ˞ラ˜ベー　キ˞チゴン˜ナー　˞マーニ˜ヌ　˜ウディシ　˞ケンバ˜　ス˞ク˜リ　ア˞サブタン [ja˞ra˜be: ki̥˞tʃigon˜na: ˞ma:ni˜nu ˜ʔudiʃi ˞kemba˜ su̥˞ku˜ri ʔa˞sabutaŋ](子供は結願祭の日に、マーニの葉柄で剣を作って遊んだものだ)。

˞マーニンギン [˞ma:niŋgiŋ] 【名】 1真人間。まともな人。ウ˞リヌ˜　シ˞ナタカコー˜　ミルカー　˞マーニンギンテー˜　ウ˞モーラン˜バン˞ナー [ʔu˞rinu˜ ʃi˞natakako:˜ miruka: ˞ma:niŋginte:˜ ʔu˞mo:ram˜ban ˞na:](彼の姿や仕種(シグサ)< 姿格好 > を見ると真人間とは思われないねえ)。2幽霊でなく本当の人間。˞ワー　マーニンギンマー˜　ア˞ラン˜バ　イ˞キプスン˜ナーニ　˞ガイヤー　サンドー˜シ　タ˞ナミグトゥ

˥ヌ　˥アルカー　˥ウヌムティヌ　ムˬヌシラ˥シ　˩シー˥ティ　フˬチカザルバ˥　シˬタル˥　ブˬラーン˥　ナˬル˥タ [ˬwa: ma:niŋgimma:˥ ʔaˬram˥ba ʔiˬkipu̥-sun˥na:ni ˬgaija: sando:˥ʃi taˬnamigutu˥nu ˥ʔaruka: ˥ʔunumutinu muˬnuʃira˥ʃi ˬʃi:˥ti ɸu̥ˬtʃikaʤaruba˥ ʃi̥ˬtaru˥ buˬra:n˥ naˬru˥ta](君は本当の人間でないから、生きている人に危害を加えない＜しない＞で、頼みごとが有るなら、その旨の「もの知らせ」をしなさい、と口で唱えたので消えていなくなった)。

˩マーヌ˥ムヌ **[ˬma:nu˥munu]** 【名】間食。おやつ。「間の物」の義。˥ドゥク　˩マーヌ˥ムヌ　ッˬふァーンドー˥シ　トゥˬキヌムヌ˥バ　ッˬふァイト ツォー [˥duku ˬma:nu˥munu fˬfa:ndo:˥ʃi tu̥ˬkinumunu˥ba fˬfai˩tso:](あまり間食をしない＜間のものを食べない＞で、時＜朝食、昼食、夕食＞のものを食べなさいってば)。

˩マーパカラー˥サン **[ˬma:pakara:˥saŋ]** 【形】しっかりしている。信用できる。まっとう (真っ当) である。˩マーパカラー˥サル　プˬスンドゥ˥　タˬナマリ˥ル　˩マーパカラーサナーン˥　ムヌネー　タˬナマラ˥ヌ [ˬma:pakara:˥saru pu̥ˬsundu˥ taˬnamari˥ru ˩ma:pakara:sa na:m˥ munune: taˬnamara˥nu](しっかりした人にこそ頼まれるのであって、真っ当でない人には頼まれない)。ウˬレー　マーパカラー˥サンテー　ウˬモーラ˥ヌ [ʔuˬre: ma:pakara:˥sante: ʔuˬmo:ra˥nu](彼が信用できる真っ当な人とは思われない)。

˩マーパカラサー　ナー˥ヌ **[ˬma:pakarasa: na:˥nu]** 【連】まっとう (真っ当) でない。しっかりしていない。きちんとしていない。信用できない愚かである。利口者でない。˥アイブ　クˬトゥ˥バ　˩スン˥ドゥˬトー˥　ウˬレー　マーパカラサー　ナー˥ヌ [˥ʔaibu ku̥ˬtu˥ba ˩sun˥ duˬto:˥ ʔuˬre: ma:pakarasa: na:˥nu](あんな事をするようでは、彼は真っ当な者ではない)。

˩マーパカラ˥サン **[ˬma:pakara˥saŋ]** 【形】真っ当である。しっかりしている。信頼できる。

˩マーバサ **[ˬma:basa]** 【名】(植) 芭蕉。実の生る芭蕉。「真・芭蕉」の義。˩マーバサヌ˥　ナロー　˩タイワン˥バサーラン　ン˩マー˥ル [ˬma:basanu˥ naro: ˩taiwam˥basa:ram ʔmˬma:˥ru](真芭蕉＜実の生る芭蕉＞の実は台湾芭蕉の実よりも美味しい)。

˩マーパダカ **[ˬma:padaka]** 【名】真っ裸。マˬルパダカ [maˬrupadaka](丸裸) ともいう。ヤˬラ˥ベー　˩マーパダカ˥　ナリティ　˥オンダー　˩シーベー [jaˬra ˥be: ˩ma:padaka˥ nariti ˥ʔonda: ˩ʃi:be:](子供は真っ裸になって海水浴をしている)。

˩マーパブ **[ˬma:pabu]** 【名】毒蛇。「蛇、倍美＜へみ＞、一云久知奈波、日本紀私記云、乎呂知、毒虫也」『和名抄』の転訛したものか。「マー (真)・パブ (蛇、＜波布＞)」の義。パˬトゥ˥マナー　˩マーパボー˥　ブˬラーヌヌ　パイタ˥ナーテー　˩マーパブン˥　パン　˩ホー˥リ　プˬスン˥　ブˬタント ダー [pḁˬtu˥mana: ˩ma:pabo:˥ buˬra:nunu paita˥nate: ˩ma:pabum˥ paŋ ˩ho:˥ri pu̥ˬsum˥ buˬtan˩da:](鳩間島には毒蛇はいないが、南端＜西表島＞では毒蛇に足を咬まれる人もいたよ)。

˩マービ **[ˬma:bi]** 【名】まね (真似)。模倣。「倣・傚、ナラフ・マナブ」『類聚名義抄』、「Manebi,u,oda. マネビ、ブ、ゥダ (まねび、ぶ、うだ) まねをする、似せる」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。プˬスヌ˥　ナˬキマービ　スン [pu̥ˬsunu˥ naˬkima:bi suŋ](人の泣き真似をする)。ムˬニイジマー˥ベー　˩ゾージ˥　ユン [muˬniʔiʤima:˥be: ˩ʤo:ʤi˥ juŋ](他人の口真似＜話し方の真似＞は上手だよ)。プˬスヌ　マービ˥　カーˬニ　サンドー˥シ　˥ドゥーシ　˩カン˥ガイバ [pu̥ˬsunu ma:bi˥ ka:ˬni sando:˥ʃi ˥du:ʃi ˩kaŋ˥gaiba](他人の真似ばかりしないで、自分で考えなさいよ)。˩ウイプスマー˥ビ [˩ʔuipusuma:˥bi](老人の真似。＜形態模写＞)。

˩マービ　スン **[ˬma:bi suŋ]** 【連】真似をする。プˬスヌ　マービ　スン [pu̥ˬsunu ma:bi suŋ](人の真似をする)。

˩マー˥ビン **[ˬma:˥biŋ]** 【副】もっと。さらに。˩マー˥ビン　˥カキバ [ˬma:˥biŋ ˥kḁkiba](もっと書けよ)。˩マー˥ビン　˩ヨーンナー˥　パˬナ˥シバ [ˬma:˥biŋ ˩jo:nna: ˥paˬna˥ʃiba](もっとゆっくり話せよ)。˩マー˥ビン　カˬマー　ユージ [ˬma:˥biŋ kaˬma: ju:ʤi](もっとあそこへ寄れ)。˩マー˥ビン　˩ウイヌ˥　タˬナ˥ナ　˥シキバ [ˬma:˥biŋ ˩ʔuinu˥ taˬna˥na ˥ʃi̥kiba](もっと上の棚に置きなさいよ)。

˩マーブー **[ˬma:bu:]** 【名】(植) からむし (苧麻)。「真麻」の義。普通は˥ブー [˥bu:](からむし＜苧麻＞) という。この繊維から˥ブーキン [˥bu:kiŋ](麻衣) を作った。御用布もこの繊維で織り上げて納めた。˩ブー˥バ　ムˬカ˥シプソー　˩マーブー˥ティン　アˬゾーッ˥タン [˩bu:˥ba muˬka˥ʃipuso: ˩ma:bu:˥tiŋ ʔaˬʤo:t˥taŋ](麻＜苧麻＞のことを昔の人は真麻ともいわれた)。

˩マープスマ **[ˬma:pu̥suma]** 【名】真昼間。昼のさかり。

昼の最中。˹マープスマ˺　ナルカー　˹ヤー˺　キー˺アシ　ッ˹ふァイティ　ユー˺クイバ [˹maːpusuma˺ naruka: ˹jaː˺ kiː ˺ʔaʃi f˹faiti juː˺kuiba](真昼間になったら家に帰って来て、昼食を食べて休みなさいよ)。

˹マーフユ [˹maːɸuju] 【名】真冬。冬の最中。˹マーフユ˺　ナルカー　マ˹ナ˺マーラン　˹マービン˺ドゥ˹ピー˺ヤ　˺ナル [˹maːɸuju˺ naruka: ma˹na˺maːram ˹maːbin˺du ˹piː˺ja ˺naru](真冬になったら、今よりも更に＜ぞ＞寒くなる)。

˹マーホール˺　キ˹シ˺ムヌ [˹maːhoːru˺ kᵢ̥˹ʃi˺munu] 【連】まったく思慮分別のない者。まったく気のきかない者。とんちきやろう (頓痴気やろう)。まぬけ。とんま。˺アイブ　˹マーホールキシムヌ˺ヌ˹ブン˺ツォカー [˺ʔaibu ˹maːhoːrukᵢ̥ʃimunu˺nu ˹bun˺tsokaː](あんな頓痴気野郎がいるかってんだ)。

˹マーマチ [˹maːmatʃi] 【名】(動) 魚名。おおひめ (はまだいの仲間)。˹マーマチェー　ダイ˺　ムトゥンダ　ウ˹リ　ホーサ˺リカー　˹モーカ˺リン [˹maːmatʃeː dai˺ mutunda ʔu˹ri hoːsa˺rika: moːka˺riŋ](マーマチは高級魚で値段が高いから、それが釣れたら儲かる)。

˹マー　ミーシキ [˹maː miːsᵢ̥ki] 【連】再来月(サライゲツ)。もう三ヶ月。三ヵ月後。˹マー　ミーシキ˺　タトゥカー　˹マイヤー˺　カ˹ラリン [˹maː miːʃᵢ̥ki˺ tᵃ̥tuka: ˹maija:˺ ka˹rariŋ](もう三月経つと稲は刈られる＜刈ることが出来る＞)。

˹マー　ミー˺ティ [˹maː miː˺ti] 【連】再来年(サライネン)。明後年。「もう三年」の義。˹マー　ミー˺ティ　ナ˹ラバ˺ル　˹ヤー˺ヤ　ス˹クラ˺リ˹[maː miː˺ti na˹raba˺ru ˹jaː˺ja sᵘ̥˹kura˺ri](もう三年経たないと家は造られない＜〜経ったらばぞ家は造られる＞)。

˹マーミジ [˹maːmiʤi] 【名】真水。淡水。天水。˹インヌカーヌ˺　ミ˹ジェー　マーミジ˺　ヤ˹ルヌ　ウイヌカーヌ˺　ミ˹ジン˺　スコー　ン˹マー　ナー˺ヌ [˺ʔin-nukaːnu˺ mi˹ʤeː maːmiʤi˺ ja˹runu ʔuinukaːnu˺ mi˹ʤin˺ sᵘ̥koː ʔm˹maː naː˺nu](西村井戸の水は真水だが、上の井戸＜富村井戸＞の水ほど美味しくない)。シンタ˹カートゥ　アンヌカー　ウイヌカーヌ˺　ミ˹ジェー　マーミジ˺　ヤ˹ルヌ　ウイヌカーヌ˺　ミ˹ジル˺　イッ˹チン˺　ン˹マー [ʃinta˹kaːtu ʔannukaː ʔuinukaːnu˺ mi˹ʤeː maːmiʤi˺ ja˹runu ʔuinukaːnu˺ mi˹ʤiru˺ ʔit˹ʧim˺ ʔm˹maː](西の村井戸＜後ろの井戸＞と東の村井戸＜下り井戸＞、上の井戸＜島中の富村井戸＞の水は真水であるが、富村井戸の水が一番美味しい)。

˹マームスビ [˹maːmusubi] 【名】本結び。二重結び。解けない結びかた。「Mamusubi. マムスビ (真結び) 二重結び. Mamusubini suru(真結びにする) 二重むすびにする」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˹マームスビ　スー˺カー　˹パンツァサランバ˺　プ˹トゥキヤッ˺サ　˺ヨーニ　ナー˹イ˺　サンムスビ　˹シー˺シ˹キ˺リバ [˹maːmusubi suː˺ka: ˹pantsasaramba˺ pᵘ̥˹tukijas˺sa ˺joːni naː˹ji˺ sammusubi ˹ʃiː˺ ʃᵢ̥˹ki˺riba](本結びにすると解けないから、解きやすいように簡単にサンを結ぶような結び方＜とんぼ結び＞にしておきなさい)。

˹マームティ [˹maːmuti] 【名】着物の表。真正面。「まおもて (真表)」の義。˹キン˺マー　˹カイ˺サマー　˺ナシ　キ˹サンドー˺シ　˹マームティ˺　ナシ　キ˹シト ヨー [˺kim˺maː ˹kai˺samaː ˺naʃi kᵢ̥˹sandoː˺ʃi ˹maːmuti˺ naʃi kᵢ̥˹ʃiɨ-joː](着物は裏返しに着ないで、正面＜真表＞にして着なさいよ)。

˹マームニ [˹maːmuni] 【名】本心から出た言葉。本当の気持ち。真のことば。マ˹ナマ˺ヌ　パ˹ナ˺シェー　˹マームネー˺　ア˹ラ˺ヌ　˹ワー˺　ク˹トゥ˺バ　ウ˹ムイ˺ル　˺アイヤー　ア˹ゾー˺ル [ma˹namaˇnu pa˹na˺ʃeː ˹maːmuneː˺ ʔa˹ra˺nu ˹waː˺ kᵘ̥˹tu˺ba ʔu˹mui˺ru ˺ʔaija: ʔa˹ʤoː˺ru](今の話は本心から出た言葉ではない。君のことを思って＜ぞ＞あんなにおっしゃるのだ)。

˹マームヌ [˹maːmunu] 【名】毒蛇。ほんもの。˹真物」の義。パ˹トゥ˺マナーヤ　ム˹カ˺シェーラ　˹マームノー˺　ブ˹ラーンダ　ヨーンヌ˺　ミーナーン　マー˹ン˺　パ˹ラ˺リン [pᵃ̥˹tu˺manaːja mu˹ka˺ʃeːra ˹maːmunoː˺ bu˹raːnda joːnnu˺ miːnaːm maː˹m˺ pa˹ra˺riŋ](鳩間島には昔から真物＜毒蛇＞はいないから、闇夜の中でも何処へでも行ける)。

˹マー　ユー˺ティ [˹maː juː˺ti] 【連】もう四年。再来年の次の年。˹マー　ユー˺ティ　˹スー˺カー　˺アボー　˹トーカキ˺ヌ　˹ヨイ˺ヌ　˹クー˺バン˹ナー [˹maː juː˺ti ˹suː˺ka: ˺ʔaboː ˹toːkaki˺nu ˹joi˺nu ˹kuː˺ban˹naː](もう四年経つと＜もう四年したら＞お母さんの米寿の祝いがやってくるんだよね)。

˹マーユイ [˹maːjui] 【名】女性の伝統的な日常の髪の結い方。きちんとした髪の結い方。洗髪をして乾かした後、きちんと髪を結った。結願祭などにはイ˹ローラ [ʔi˹roːra](かもじ。入れ髪) を足し添え、ウ˹ブガマ˺ジ [ʔu˹bugama˺ʤi](大髪結い) に結って伝統的古典民俗舞踊を上演した。ガ˹マ˺ジェー　˹マー

ユイ　サン˥カー　ボフ˞ティ˥　フ˞キス [ga˞ma˥ʤe: ˞ma:jui saŋ˥ka: boɸu̥˞ti˥ ɸu̥˞kisu](髪はきちんと結いあげないと、ぽろりと解けてしまうよ)。

˞マーユナカ [˞ma:junaka] 【名】真夜中。˞マーユナカ˥ナー　ヤ˞ラビ˥ヌ　˥ニチ　˥ンジティ　˞トゥンザ˥ク　˞スンティ　ユー˥キ　シ˞ミラリタンドゥ˥　シ˞トゥム˥テー　˥ニチン　サ˞ガ˥リ　パ˞シットゥ　シーベー [˞ma:junaka˥na: ja˞rabi˥nu ˥nitʃi ˥ʔnʤiti ˞tunʤa˥ku ˞sunti ju:˥ki ʃi˞miraritandu˥ ʃi̥˞tumu˥te: ˥nitʃin sa˞ga˥ri pḁ˞ʃittu ʃi:be:](真夜中に子供の熱が出て、看病しようとして徹夜させられたが、今朝は熱も下がって気分爽快＜元気。さっぱりした気分＞になっている)。

˥マーラ [˥ma:ra] 【名】場所を表す。辺り。付近。周辺。周囲。ウ˞キナー˥ヌ　˥マーラー　˞ヌー˥シ　˞ブーワ [ʔu˞kina:˥nu ˥ma:ra: ˞nu:˥ʃi ˞bu:wa](沖縄辺りは状況はどうか＜～どんなにしているか＞)。ウ˞マ˥ヌ　˥マーラナール　˞バン˥テーヤ　˞アッタ˥ル [ʔu ˞ma˥nu ˥ma:rana:ru ˞ban˥te:ja ˞ʔatta˥ru](その辺りに＜ぞ＞私の家はあったのだ)。ク˞マ˥ヌ　˥マーラー　˞ミシ˥キ　˞ミッタン [ku˞ma˥nu ˥ma:ra: ˞mi̥ʃi̥˥ki ˞mittaŋ](この辺りは探してみたか)。カ˞マ˥ヌ　˥マーラー　˞ヌー˥シ　˥カヤー [ka˞ma˥nu ˥ma:ra: ˞nu:˥ʃi ˥kaja:](あそこの辺りはどうだろうかね)。2およその時を表す。～の頃。˞ウンヌマーラー　ヌー˥シ　˞ブーター [˞ʔunnuma:ra: nu:˥ʃi ˞bu:ta:](その頃はどうだったか)。

˥マーラ [˥ma:ra] 【連】何処から。[ma:-kara]　→　[ma:hara]　→　[ma:ra]　と転訛したもの。˞ワー　キュー˥ヤ (ワ)　˥マーラ　˞クー˥タ [˞wa: kju:˥ja(wa) ˥ma:ra ˞ku:˥ta](君は、今日は何処から来たのか)。

マー˞ラ [ma:˞ra] 【連体】ずっと。はるかに。空間的な隔たりが大きいさま。カー˞マ [ka:˞ma](ずうっと。はるか) は˞空間的、時間的な隔たりの大きいさま」に用いられるが、マー˞ラ [ma:˞ra] は空間的表現に用いられる。マー˞ラ˥　カ˞マー˥　パリ [ma:˞ra˥ ka˞ma:˥ pari](ずうっと＜遙か＞向こうへ行け)。マー˞ラ˥　カマーラ　˥クー　プ˞ソー　ター˥ヤ [ma:˞ra˥ kama:ra ˥ku: pu̥˞so: ta:˥ja](はるか向こうから来る人は誰か)。

˞マーラシフチ [˞ma:raʃiɸu̥tʃi] 【名】臨終。「死に目、死に際」の敬語。普通は、シ˞ニミー [ʃi˞nimi:](死に目) という。シ˞ママー˥ル　˞シー　アー˥ケーティル　ウ˞ヤ˥ヌ　˞マーラシフチン˥　ッ˞サナー˥　ブ˞レー˥ル [ʃi˞mama:˥ru ˞ʃi: ʔa:˥ke:tiru ʔu˞ja˥nu ˞ma:raʃiɸu̥tʃin˥ s˞sana:˥ bu˞re:˥ru](出稼ぎ＜旅回り、島回りをして稼ぐこと＞をしていたので、親の臨終も知らずにいたのだろうよ)。

˞マーラスン [˞ma:rasuŋ] 【自動】亡くなる。亡くなられる。「死ぬ」ことを婉曲に言う敬語。「～高庭の駅家於て身故也＜ミ・マカリキ＞。万、886＜題詞＞」の「罷り (死去する)」が　→　[makari]　→　[ma-hari]　→　[ma:ri]　と変化した動詞の未然形に助動詞˥スン [suŋ](する) が付いて形成されたものか。トゥ˞シ˥　トゥルカー　プ˞ソー　マーラスンダ　マーラサン˥ケンナール　ン˞マー˥ムヌン　ン˞カサリル [tu̥˞ʃi˥ turuka: pu̥˞so: ma:rasunda ma:rasaŋ˥ kenna:ru ʔm˞ma:˥muŋ ʔŋ˞kasariru](年を取ると人は亡くなるから、亡くならないうちにしか＜ぞ＞美味しいものも召し上がらされない＜～ぞ召し上がらされる＞)。˥アブジェー　˞マーラシナーヌ˥ヌ　アッパー　マ˞ナ˥マトー　˞マーラス˥　クトー　˞ナーン˥　パジ [˥ʔabuʤe: ˞ma:raʃi na:nu˥nu ˥ʔappa: ma˞na˥mato: ˞ma:rasu˥ ku̥to: ˞na:m˥ paʤi](お祖父さんは亡くなったが、お祖母さんは今どき亡くなることは無いはずだ)。マ˞ナ˥マ　˞マーラシェー˥ラ　˞デー˥ジ˞ゲ˥ラ [ma˞na˥ma ˞ma:raʃe:˥ra ˞de:˥ʤi˞ge˥ra](今亡くなったら大変さ)。˞マーラシ˥バ [˞ma:raʃi ˥ba](亡くなれよ)。

˥マーラン [˥ma:raŋ] 【名】馬艦船＜マーラン＞。近世琉球の大型船の一つ。船身が約 14.2 メートルで、進貢船や楷船の半分以下。中国のジャンク船タイプの帆船。˥マーランシン [˥ma:ramʃiŋ]、˥マーランブニ [˥ma:rambuni] ともいう。ム˞カ˥シェー　˥マーランシンラル　ウ˞キ˥ナーヌ　˞グイ˥フゾーノーヤ　ウサモーッタ˞トゥ˥ツォー [mu˞ka˥ʃe: ˥ma:raŋʃinraru ʔu˞ki˥na:nu ˞gui˥ɸuʤo:no:ja ʔu˞sa˥mo:tta˞tu˥tso:](昔は馬艦船から＜ぞ＞沖縄＜首里王府＞への御庸布、上納米は納められたそうな)。

˥マーランブニ [˥ma:rambuni] 【名】馬艦船。琉球王国の官船の一種。中国のジャンクタイプの船。˞船体を黒、赤で彩色し、舳先には両側に目玉を描いた帆船。蒸気船が導入される以前は、沖縄、八重山間に就航していた官船で、˞ヤンバル˥シン [˞jambaru ˥ʃiŋ](山原船) ともいう」『石垣方言辞典』。˥マーラン [˥ma:raŋ] の項参照。

˞マーリ˥ザ [˞ma:ri˥ʤa] 【名】茅葺屋根の甍(イラカ)を固定するティ˞ブ˥ク [ti˞bu˥ku](竹串。「手矛」の義)。甍を固定するために、屋根の最上部 (棟) の前面と背面に

木の矛 (串) を数本ずつ斜めに差し込んで、それに˹フー˺カラジナ [˹ɸu:˺karadʒina](棕櫚(シュロ)で綯(ナ)った綱) のカ˹キ˺ナー [kạ˹ki˺na:](掛け縄) を掛けて引き締めるのに用いるティ˹ブ˺ク [ti˹bu˺ku](手矛) のこと。直径約 2、5 センチ、長さ約 3 メートル程の若木を使用した。カ˹キナー˺ヤ ˹マーリ˺ザナー ˺カキティル ピ˹キシモーッ˺タ [kạ˹kina:˺ja ˹ma:ri˺dʒana: ˺kạkitiru pị˹kiʃimo:t˺ta](掛け縄はマーリザに掛けて < ぞ > 引き締められた)。˹ナンツァヨーチ˺バ ˹マーリ˺ザ ˹シー ヤー˺バ ス˹ク˺リ ˺アンティ˺スー [˹nantsajo:tʃi˺ba ˹ma:ri˺dʒa ˹ʃi: ja:˺ba sụ˹ku˺ri ˺ʔanti ˺su:](銀の串を甍(イラカ)止めにして家を造ってあるという)(アーパーレー歌)。

˹マーリマー˺リ **[˹ma:rima:˺ri]** 【連】回り回って。次々に移り回って。巡りめぐって。ヤ˹ナ˺ムニ イ˹ズ˺カー ˹マーリマー˺リ ˹ドゥー˺ヌ ˺ウイニル カ˹カ˺ル˹ダー [ja˹na˺muni ʔi˹dʒu˺ka: ˹ma:rima:˺ri ˹du:˺nu ˺ʔuiniru kạ˹ka˺ru˹da:](他人の悪口を言うと巡り巡って自分の身の上に降りかかるのだよ)。

˹マー˺ル **[˹ma:˺ru]** 【名】まり (毬)。˺グムマール [˺gumuma:ru](ゴム毬)。シ˹トゥッ˺チマール [ʃị˹tut˺tʃima:ru](蘇鉄の綿状の花で作った毬)。˺グムマールヌ ン˹ジ˺ル ˹マイ˺ヤー シ˹トゥッ˺チマールバ ウ˹ティ˺ル ミ˹ドーン˺ッふァー ア˹サブタル [˺gumuma:runu ʔn˹dʒi˺ru ˹mai˺ja: ʃị˹tut˺tʃima:ruba ʔu˹ti˺ru mi˹do:n˺ffa: ʔa˹sabutaru](ゴム毬が出る前は蘇鉄毬をついて < ぞ > 女の子は遊んだものだ)。

˹マール **[˹ma:ru]** 【名】(名)1周囲。まわり。˹ヤー˺ヌ ˹マールヌ˺ カキソージ ˹バスクナ˺ヨー [˹ja:˺nu ˹ma:runu˺ kạkiso:dʒi ˹basụkuna˺jo:](家の周囲の掃除を忘れるなよ)。2見回り。˹ターマー˺ル [˹ta:ma:˺ru](田圃の見回り。田の手入れ)。パ˹タキマー˺ル [pạ˹takima:˺ru](畑の見回り。畑の手入れ)。˹ヤーマー˺ル [˹ja:ma:˺ru](家回り。家々を遊びまわること)。ヤ˹ママー˺ル [ja˹mama:˺ru](山の見回り。家屋建築用材を求めて山回りをすること)。3あたり。近所。付近。近辺。ク˹マ˺ヌ ˹マール˺ナー ˺ミリ ミ˹ラ˺ン プ˹スヌト˺ナー [ku˹ma˺nu ˹ma:ru˺na: ˺miri mi˹ra˺m pụ˹sunuト˺na:](この辺りでは見たことのないひとだねえ)。

˹マール **[˹ma:ru]** 【接尾】1〜回り。ある地点やコースをまわって行くことを表す。˹アーラーマール シー˺ パルン [˹ʔa:ra:ma:ru ʃi:˺ paruŋ](東まわりをして行く)。˹オーラーマール シーバル ˺フネー ˹ナン˺バ ˹クイラリル˺ ッ˹ソーマーマール シェー˺ラー ˺フネー ˹フンナキス [˹ʔo:ra:ma:ru ʃi:baru˺ ɸune: ˹nam˺ba ˹kuirariru˺ s˹so:-ma:ma:ru ʃe:ra:˺ ɸune: ˹ɸunnakisu](風上の方向へ旋回させたらばこそ船は大波を乗り越えられるのであって、風下の方向へ旋回したらば船は沈没する)。2〜おき。˹イシュカマール˺ヌ ˹ユー˺アミ タ˹ボーラ˺リ [˹ʔisị̈kama:ru˺nu ˹ju:˺ʔami ta˹bo:ra˺ri](五日おきの夜雨をたまわって)。

˹マールマー˺ル **[˹ma:ruma:˺ru]** **(1)**【名】季節季節。時々。「回り回り」の義。˹マールマールヌ˺ キ˹ザルン ニンガイ˺グトゥン ウ˹チナ˺シ ウミ˹ナーク ソー˺レーン [˹ma:ruma:runu˺ ki˹dʒarun niŋgai˺ gutuŋ ʔu˹tʃina˺ʃi ʔumi˹na:ku so:˺re:ŋ](季節ごとの家庭祭祀も村の祈願 < 神事 > ごとも無事に済まされてほっと < 思い煩うことを無く > された)。 **(2)**【副】たまには (偶に)。時として。時には。時おり。˹マールマー˺ロー ˹バン˺テヌ ˺マーラーン ˹オー˺リバ [˹ma:ruma:˺ro: ˹ban˺tenu ˺ma:ra:ŋ ˹ʔo:˺riba](たまには私の家の辺りにもおいでくださいよ)。

˹マールマールー˺シ **[˹ma:ruma:ru:˺ʃi]** 【副】代り番こで。代わる代わるで。輪番で。普通は˹カールカール˺シ [˹ka:ruka:ru˺ʃi](代り番こで) という。ク˹ヌ ダッコッ˺ケー ドゥー ˹タンガ˺シ シゥ˹カーンドー˺シ ˹マールマー˺ルーシ シゥ˹カイヤー˺ティ ˹マイヤー アーシ˺バ [ku˹nu dakkok˺ke: ˺du: ˹taŋga˺ʃi sị̈˹ka:ndo:˺ʃi ˹ma:ruma:ru˺ʃi sị̈˹kaija˺:ti ˹maija: ʔa:ʃi˺ba](この脱穀機は自分一人だけで使わなずに、代り番こで使いながら稲は脱穀しなさいよ)。

˹マールン **[˹ma:ruŋ]** 【自動】1回る。めぐる。回転する。ク˹ヌ˺ クマー ˺ユー ˹マールンティ˺ス˹クタンドゥ マーランバン [ku˹nu˺ kuma: ˺ju: ˹ma:runti˺ sụ˹kutandu ma:rambaŋ](この独楽(コマ)は良く回ると聞いたが、回らないよ)。˹マーリ ベーン˺ティ [˹ma:ri be:n˺ti](回っているさ、ほら)。˹マール˺<˹マーリダー˺> クマーラ イ˹ラ˺ビ ˺トゥリ [˹ma:˺ru < ˹ma:rida:˺ > ˺kuma:ra ʔi˹ra˺bi ˺turi](回る独楽から選んで取れ)。˹ヤーカー˺ジ ˹マーレー˺ ミサムヌ [˹ja:ka:˺dʒi ˹ma:re:˺ misamunu](家ごとに < 家のかず > 回ればいいのに)。ム˹ラズー˺ タ˹ナ˺ミ ˹マーリ [mu˹radʒu:˺ ta˹na˺mi ˹ma:ri](村中に頼んで回れ)。2エンジンが起動する。ア˹バ˺ヌ ˹ナーン˺カー キ˹カイ˺ヤー ˹マーラヌ [ʔa˹ba˺nu ˹na:ŋ˺ka: kị˹kai˺ja: ˹ma:ranu](油 < 石油 > が無いと機械はエンジン始動しない < 機械は回らない >)。

˩マー˥ルン **[˩maː˥ruŋ]** 【接尾】～ぐむ。～を含む。ナ˩ダマー˥ルン [na˩damaː˥ruŋ](涙ぐむ)。ウ˩ヌ˥　パ˩ナシ˥バ　シ˩キティ˥　アッパー　ナ˩ダマー˥リ　˩オーッ˥タ [ʔu˩nu˥ pa˩naʃi˥ba ʃi̥˩kiti˥ ʔappaː na˩damaː˥ri ˩ʔoːt˥ta](その話を聞いて、お祖母さんは涙ぐんでおられた)。

˩マーレー **[˩maːreː]** 【名】(地) 船浦湾の南東最奥部にマーレー川があり、その河口部一帯をいう。寄合家の水田があった。˩マーレー˥ナーヤ　ユ˩レーヌ　サン˥ドーザータール　ヒ˩ナン　シー　オーッ˥タ [˩maːreː˥naːja ju˩reːnu ˩san˥doːʤaːtaːru çi˩naŋ ʃiː ʔoːt˥ta](マーレーには戦時中寄合三戸さん一家が避難しておられた)。

˩マーレーガーラー **[˩maːreːgaːraː]** 【名】船浦湾南東奥部にある˩マーレー [˩maːreː] にある川の名。˩マーレータバル [˩maːreːtabaru](マーレーの水田地帯)の水源となっている。

˩マーレー˥コーレー **[˩maːreː˥koːreː]** 【副】曲がりくねって。˩マーレー˥コーレー　˩シー　ブー˥　ミ˩チ˥ヌ　˥アン [˩maːreː˥koːreː ˩ʃiː buː˥ mi˩ʧi˥nu ˥ʔaŋ](曲がりくねっている道がある)。2あちら回り、こちら回りして。あちらこちら回って。˩マレー˥コーレー　˩シェー˥ティル　ヤッ˩トゥ˥シ　˥トゥミ　˩クータ [˩maːreː˥koːreː ˩ʃeː˥tiru jat˩tu˥ʃi ˥tumi ˩kuː˥ta](あちらこちら回ってやっとで探してきた)。

˥マーンカマーン **[˥maːŋkamaːŋ]** 【連】どこもかしこも。至るところ皆。˥マーンカマーン　ムー˩ル　プール˥ムチ　ス˩ク˥ルンティ　˩オー˥ル [˥maːŋkamaːm muː˩ru ˩puːru˥mutʃi sṵ˩ku˥runti ˩ʔoː˥ru](何処もかしこも皆豊年祭の餅を作ろうとしておられる)。

マー˩ン　ナー˥カ **[maː˩n naː˥ka]** 【連】何処か。ある所。マー˩ン　ナー˥カナー　˩ナーン˥カヤー。˩ワー˥　トゥミ　ッ˩ふィーラン˥ノーレー [maː˩n naː˥kana: ˩naːŋ˥kajaː。˩waː˥ tumi f˩fiːran˥noːreː](何処かにないのかね。君は探してくれないか)。

˥マー　ン˩ベーマ **[˥maː ʔm˩beːma]** 【連】もう少し。もうちょっと。マ行音に同化されて、˥マー　ン˩メーマ [˥maː ʔm˩meːma](もう少し) ともいう。˥マー　ン˩ベーマ　アンター　ユージ [˥maː ʔm˩beːma ʔantaː juːʤi](もう少し東の方に寄れ)。

˥マー　ン˩メーマ **[˥maː ʔm˩meːma]** 【連・副】もう少し。˥マー　ン˩ベーマ [˥maː ʔm˩beːma](もう少し) ともいう。˩マー [˩maː] は、「ma. マ (ま・真) すなわち、Mata(また) さらにその上に.Mafitotçu.(ま一つ) さらに一つ」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˥マー　ン˩メーマ˥　ヌミ　˥ミサンカヤー [˥maː ʔm˩meːma˥ numi ˥misaŋkajaː](もう少し飲んでいいかねえ)。

˥マー　ン˩メーマ˥　スカー **[˥maː ʔm˩meːma˥ sṵkaː]** 【連・副】すんでのところ (既の所) で。もう少ししたら。ほとんど～のところ。˥マー　ン˩ベーマ˥　スカー [˥maː ʔm˩beːma˥ sṵkaː](もう少しのところで。すんでのところで)、˥マー　ン˩ベー˥スカー [˥maː ʔm˩beː˥sṵkaː](すんでのところ＜既の所＞で) ともいう。「もう少ししたら」の義。˥マー　ン˩メーマ˥スカー　˩キーヌ　パン˥ターラ　ウ˩ティ˥ルンティ　˩アーク˥タ˩ドー˥ティバーヤ [˥maː ʔm˩meːma˥sṵkaː ˩kiːnupan˥taːra ʔu˩ti˥runti ˩ʔaːku˥taː˩doː˥tibaːja](すんで＜既＞のところで木のてっぺんから落ちるところだったんだってばよ)。

˥マイ **[˥mai]** 【名】1空間的な前。前方。物の正面。「～取り上げ麻敝尓於吉＜マヘニオキ＞～。万、4129」の義。˩マイ˥バ　ミ˩リ˥ル　ア˩ラ˥ク　ク˩シェー˥　ミ˩ル˥ナ [˩mai˥ba ˥miri ʔa˩ra˥ku kṵ˩ʃeː˥ mi˩ru˥na](前を見て歩け、後ろは見るな)。˥ッシェーナリ　˥マイナリ　˩シェー˥ティ　˩パッ˥タヤー [˥ʃʃeːnari ˥mainari ˩ʃeː˥ti ˩pat˥tajaː](後ろになり、前になりしながら行ったよ)。対語はク˩シ [kṵ˩ʃi](腰。背)、˥ッシェー [˥ʃʃeː](しりへ＜後方＞。「～殿の志利敝乃＜シリヘノ＞～。万、4326」の転訛したもの)。2時間的な前を表す。パ˩トゥ˥マナテー　イ˩クサユー˥ヌ　˥マイナー　マ˩ラリ˥ヤナ　カ˩カ˥リ　シ˩ヌ˥　プ˩ソー˥　ブ˩ラーン˥タヌ　イ˩クサユー˥ヌ　シ˩グ˥　アトゥナール　マ˩ラリ˥ヤシ　ヤ˩マシゥ˥カ　シ˩ネー˥ダー [pḁ˩tu˥manate: ʔi˩kusajuː˥nu ˥maina: ma˩rari˥jana kḁ˩ka˥ri ʃi˩nu˥ pṵ˩soː˥ bu˩raːn˥tanu ʔi˩kusajuː˥nu ʃi˩gu˥ ʔatu-naːru ma˩rari˥jaʃi ja˩maʃi̥˥ka ʃi˩neː˥daː](鳩間島では、戦争の前にはマラリアに羅(カカ)って死ぬ人はいなかったが、敗戦の直後に＜ぞ＞マラリアでたくさん死んだのだよ)。

˩マイ **[˩mai]** 【名】1米。米穀。呉音系統の語。「米、姑米」『琉球館訳語』とある。ム˩チマイ [mu˩ʧimai](糯米(モチゴメ))、サ˩ク˥マイ [sḁ˩ku˥mai](粳米) がある。˩マイヌ˥イー [˩mainu˥ʔiː](米のご飯)。グ˩サーク˥マイ [gu˩saːku˥mai](五勺米)。村の神事に要するパ˩ナン˥グミ [pa˩naŋ˥gumi](花米) は五勺米として各戸より徴収した米よりつくり、「姑米」の系統の語として残っている。2稲。˩マイ˥　イ˩ビルン [˩mai˥ ʔi˩biruŋ](稲を植える)。˩マイ˥　カ˩ルン [˩mai˥ ka˩ruŋ](稲を刈る)。鳩間島の人が栽培していた稲には、ム˩チマイ [mu˩

tʃimai](糯米)。サ˩クˬマイ [sḁ˩kuˬmai](粳米) があり、˩ホーライˬマイ [˩hoːraiˬmai](蓬莱米。台湾から導入された芒(ノゲ)のない米) は新種の稲。˩ザイレーˬマイ [˩ʤaireːˬmai](在来品種の芒(ノゲ)の長い米) は古い稲の品種。戦後まで「台中 65 号」が栽培されていた。その他に、猪の害を防ぐため、˩ザイレーˬマイ [˩ʤaireːˬmai](在来種) のピ˩ジˬルマイ [pi˩ʤiˬrumai](赤褐色の芒、赤褐色の籾、芒長 4〜5 センチ) やダ˩ネーˬママイ [da˩neːˬmamai](褐色の芒、灰褐色の籾、赤色の玄米、芒長 4〜5 センチ) などが 1962 年ごろまで山中の水田で作付けされていた。

ˬマイ [ˬmai] 【接尾】(数)。枚。紙や皿など薄く平たいものを十一枚以上数える際に用いる単位。標準語からの借用語。老年層の人は、十枚まではˬ-イラ [ˬ-ira](〜枚。「平、此れをば田比羅 (ヒラ) という」『紀、齋明五年』の転訛したものか) を用いるのが普通である。カ˩ビ　ジューニンˬマイ　ˬブカラ　ˬトゥリ　ッ˩ふィーリ [ka˩bi ʤuːnimˬmai ˬbukara ˬturi f˩fiːri](紙を十二枚ほど取ってくれ)。

ˬ-マイ [ˬ-mai] 【接尾】敬意を表す。様。「前」の転訛したもの。˩カンヌˬマイ [˩kannuˬmai](神様)。ウ˩ヤプスˬヌマイ [ʔu˩japusuˬnumai](仏様。ご先祖様)。ˬウシュン　ガ˩ナˬシェーマイ [ˬʔuʃuŋ ga˩naˬʃeːmai](国王様。< 御主のカナシ前 > の転訛したもの)。˩カンヌˬマイン　˩ニンˬガイ　ッ˩サリリ [˩kannuˬmain ˩niŋˬgai s˩sariri](神様の御前にお祈り申し上げなさい < 願い知られれ >)。

˩マイアーシ [˩maiʔaːʃi] 【名】稲の脱穀。˩ザイレーマイˬヤー　フ˩ドーˬシシ　˩サイˬヤーティル　˩マイアーシ　ソーッタˬヌ　˩ホーライマイˬヤー　˩ダッコッˬキシル　˩マイアーシ　ソーッˬタ [˩ʤaireːmaiˬjaː ɸu˩doːˬʃiʃi ˩saiˬjaːtiru ˩maiʔaːʃi soːttaˬnu ˩hoːraimai ˬjaː ˩dakkokˬkiʃiru ˩maiʔaːʃi soːtˬta](在来種の稲は、竹管(タケクダ)のいねこき < 稲扱 > でしごい < 扱 > て稲扱(イネコキ)されたが、蓬莱米は脱穀機で稲を脱穀された)。

˩マイ　アースン [˩mai ʔaːsuŋ] 【連】稲を脱穀する。˩マイ　アースンティ　ベーˬンドゥ　˩ダッコッキˬヌ　ヤ˩ブˬリティ　˩アーサラヌ [˩mai ʔaːsunti beːˬndu ˩dakkokkiˬnu ja˩buˬriti ˩ʔaːsaranu](稲を脱穀しようとしているが、脱穀機が壊れて脱穀できない)。ˬキサー　フ˩ドーˬシシル　˩アーシ　オーッタˬル [ˬki̥saː ɸu˩doːˬʃiʃiru ˩ʔaːʃi ʔoːttaˬru](以前 < 昔 > は、竹管のいねこき < 稲扱 > で脱穀しておられた)。マ˩ナˬマー　フ˩ドーˬシシ　˩マイ　アースˬ　プ˩ソーˬ　ブ˩ラーヌ [ma˩naˬmaː ɸu˩doːˬʃiʃi ˩mai ʔaːsuˬ pu̥˩soːˬ bu˩raːnu](今は竹管の稲扱きで脱穀する人はいない)。˩パーˬク　˩マイ　アーシェーˬ　ミサムヌ [˩paːˬku ˩mai ʔaːʃeːˬ misamunu](早く稲を脱穀すればいいのに)。˩マーˬビン　˩マイ　アーシ [˩maːˬbim ˩mai ʔaːʃi](もっと稲を脱穀せよ)。

˩マイイビ [˩maiʔibi] 【名】田植え。「稲植え」の義。ム˩カˬシェー　˩ダイカンˬヌ　ˬシチナー　ピ˩ラˬクサーリ　ク˩バˬレーティ　˩マイイビ　ソーッˬタ [mu˩kaˬʃeː ˩daikanˬnu ˬʃi̥tʃinaː pi˩raˬkusaːri ku˩baˬreːti ˩maiʔibi soːtˬta](昔は大寒の時節に、寒気で凍えながら田植え < 稲植え > をされた)。

˩マイˬウチ [˩maiˬʔutʃi] 【名】鍛冶屋の大きな金槌を打つ人。「前打ち」の義。˩マイˬウチェー　カ˩ラヌ　ヨーˬ　プ˩スンマーˬ　ナ˩ラˬヌ [˩maiˬʔutʃeː ka˩ranu joːˬ pu̥˩summaːˬ na˩raˬnu](前打ち < 鍛冶屋の大金槌を打つ人 > は体力の弱い人には出来ない)。

˩マイガˬキ [˩maigaˬki] 【名】前掛け。前垂れ。着物の汚れを防ぐため、体の前面の胸部から膝までに掛けて着用する布。エプロンの一種。浜辺でカツオの頭を切り、˩シーゾーˬヤー [˩ʃiːʤoːˬjaː](鰹節製造工場) でカツオを三枚下ろしにして、さらにヨ˩ツˬワリ [jo˩tsuˬwari](四つ割り) にし、煮釜に入れ、煮あがったカツオからバ˩ラˬヌキ [ba˩raˬnuki](小骨抜き) をし、シ˩ルˬク　ッ˩ふァーシ [ʃi˩ruˬku f˩faːʃi](魚肉を練ったもので鰹節の形を補正する) などの作業をするが、˩マイガˬキ [˩maigaˬki] はその際に着用した。カ˩ツˬ　バ˩ザウˬ　ピンマー　˩シージルスンダー　マイガˬケー　˩シーティル　ソーッˬタ [kḁ˩tsuˬ ba˩ʤauˬ pimmaː ˩ʃiːʤiru sunda maigaˬkeː ˩ʃiːtiru soːtˬta](カツオを捌(サバ)く際には血まみれになるから、前掛けをしてされた)。

˩マイˬ　カトゥン [˩maiˬ kḁtuŋ] 【連】˩ザイレーˬマイ [˩ʤaireːˬmai](在来品種の米) をシ˩ラ [ʃi˩ra](稲叢) から必要な分だけ稲束を下ろし、フ˩ドーˬシ [ɸu˩doːˬʃi](稲扱き用の竹管) で稲扱きをして脱穀し、それをカ˩ティˬウシ [kḁ˩tiˬʔuʃi](搗き臼。芒(ノギ)を除去するための専用の搗き臼) で搗いて芒を除去し、さらに碾(ヒ)き臼で挽(ヒ)いて籾殻を落とした後、精米用の搗き臼に入れて杵で搗いて精米する < 精げる > までの全過程をまとめていう。˩キューˬヤ　˩マイˬ　カティティ　˩ザイレーˬヌ　˩カイˬ　タ˩キˬ　ッ˩ふァーサˬナー [˩kjuːˬja ˩maiˬ kḁtiti ˩ʤaireːˬnu ˩kaiˬ tḁ˩kiˬ f˩faːsaˬnaː](今日は稲を搗き精げて在来米のお粥(カユ)を炊いてあげようね)。

˩マイカニˬティ [˩maikaniˬti] 【副】予て。前もって。

あらかじめ。事前に。「前予て」の義。カ˹ニティ [ka˹niti](予て) は「かからむと　可祢弖 < カネテ > 知りせば〜。万、3959」の転訛したもの。˹ヨイ˺ヌ　˹ピュール˺　トゥ˹ラ˺リカー　ヤー˹ディン　マイカニ˺ティ　シゥ˹カシ˺ダー [˹joi˺nu ˹pju:ru˺ tu˹ra˺rika: ja:˹dim maikani˺ti s̥ï˹kaʃi˺da:](お祝いの日和 < 日取り > が取れたら必ず前もって知らせなさいよ)。

˹マイカリ [˹maikari] 【名】稲刈り。「米刈り」の義。鳩間島ではス˹ク˺マ [sṵ˹ku˺ma](稲の初穂祭り。旧暦 5 月の壬に執り行われた) を過ぎると稲刈りの準備に入り、早い田圃では刈り入れが始まった。西表島北岸一帯にある˹タータバ˺ル [˹ta:taba˺ru](田袋) の各自の˹ター˺ヤー [˹ta:˺ja:](田子屋) に、一週間、または 10 日の日程で宿泊して稲刈り作業を行った。˹スー˺マン [˹su:˺maŋ](小満、太陽暦 5 月 20 日) の頃から稲刈りが始まり、˹ボースー [˹bo:su:](芒種(ボウシュ)、太陽暦 6 月 5 日頃) の節に吹く˹カーチー˺バイ [˹ka:ʧi:˺bai](南風。夏至の頃に吹く南風) に吹かれて稲刈りをした。刈り取った稲は、プ˹ス˺シゥカ [pṵ˹su˺si̥ka](一掴(ツカ)み。ヒトツカ < 一束 >) ずつ、X 字状に捻じったス˹リ˺バイ [su˹ri˺bai](刈り株) の上に置いて天日に干し、刈り終えたらそれを束ねてタ˹ブ˺ル [ta˹bu˺ru](束。二掴みで一束(タバル) にしたもの) にし、それらを 30 束纏めてプ˹スマラ˺キ [pṵ˹sumara˺ki](一丸ぎ) にした。それらを田の畦の集荷場に積み重ね、フ˹ナ˺ジン [ɸu˹na˺ʤiŋ](˹船積み」の義。高さ約 4 尺、長さ約 6 尺に積み、上にトゥ˹マー [tu˹ma:]< 苫 > を掛けて雨露を防ぐ) して置く。2、3 日おいて脱穀機にかけて脱穀し、籾をカ˹シガーフク˺ル [ka˹ʃiga:ɸṵku˺ru](南京袋。朝鮮袋) に詰めて鳩間島へ運んだ。天気をみて籾を天日乾燥し、モ˹ミパク [mo˹mipaku](籾箱) に入れて保管した。˹マイカリヌ　パンタ˺サー　トゥ˹リパン˺タティ　˹シー˺イッ˹ケナ　パンタ˺サタン [˹maikarinu panta˺sa: tu˹ripan˺tati ˹ʃi:˺ ʔik˹kena panta˺sataŋ](稲刈り時の忙しさは収穫の繁忙 < 繁多さ > といって、非常に忙しかった)。

˹マイ˺ガリ [˹mai˺gari] 【名】まえがり (前借り)。ぜんしゃく (前借)。カ˹ツシンマー˺　ク˹ミ˺アイラ　˹マイガリ˺バ　˹シーティル˺　シ˹キ˺ユーン　˹カイティ˺　ウケー　ン˹ズ˺タ [kạ˹tsuʃimma:˺ ku˹mi˺ ʔaira ˹maigari˺ba ˹ʃi:tiru˺ ʃi̥˹ki˺ju:ŋ ˹kaiti˺ ʔuke: ʔn˹ʤu˺ta](カツオ漁船は組合から前借をして < ぞ > 石油も買って出漁した < 沖へ出た > ものだ)。バ˹カヤ˺ヌ　˹ギッキュー　マイ˺ガリ　シ˹ララヌ [ba˹kaja˺nu ˹gikkju: mai˺gari ʃi˹raranu](恥ずかしくて、月給を前借出来ない)。

˹マイ˺　カ˹ルン [˹mai˺ ka˹ruŋ] 【連】稲 < 米 > を刈る。ス˹クマ˺ヌ　˹ナーツァー˺ラ　˹マイ˺　カ˹ルンティ˺　ス˹コーリ　ベー [sṵ˹kuma˺nu ˹na:tsa:˺ra ˹mai˺ ka˹runti˺ sṵ˹ko:ri be:](スクマの翌日から稲刈りしようと < 稲を刈ろうと > 準備している)。

˹マイグス˺ク [˹maigusṵ˺ku] 【名】屋敷の前面の石垣。前石垣。門と住宅の間にある目隠しの石垣には、ナ˹カグス˺ク [na˹kagusṵ˺ku](目隠し) という。˹カジヌ˺　カ˹タ˺カティ　˹シール　マイグス˺コー　タ˹カータカー˺シ　シ˹マリ　ブー˺ツォー [ka˹ʤinu˺ kạ˹ta˺kati ˹ʃi:ru maigusṵ˺ko: tạ˹ka:taka:˺ʃi ʃi˹mari bu:˺tso:](台風のカ˹タ˺カ [kạ˹ta˺ka]< 風除け。片陰。˹Catacague. カタカゲ。隠れた方の側、または、場所『邦訳日葡辞書』の義」として屋敷の前石垣は積まれているそうだよ)。

˺マイクメー [˺maikume:] 【名】小浜家 < 小浜正秀氏宅 >。˺マイクマヤー [˺maikumaja:](「前小浜家」の義) ともいう。˺マイクメーヌ　˹アー˺ヤ [˺maikume:nu ˹ʔa:˺ja](小浜家のお父さん)。[maikumaja:] → [maikume:] のように音韻変化したもの。

˺マイクメーヌ　˹セイショーザーテー [˺maikume:nu ˹ʃeiʃo:ʤa:te:] 【連】屋号。小浜正昌氏宅。˺マイクメーヌ　˹セイショーザー˺　タ˹ケ˺トミチョーヌ　˹シューニュー˺ヤク　˹バー˺キ　˹ソーッ˺タン [˺maikume:nu ˹ʃeiʃo:ʤa:˺ ta˹ke˺tomiʧo:nu ˹ʃu:ɲu:˺jaku ˹ba:˺ki ˹so:t˺taŋ](小浜家の正昌兄さんは竹富町の収入役までなされた)。

˹マイサー˺シ [˹maisa:˺ʃi] 【名】いなこき (稲扱き)。脱穀。シ˹ラ [ʃi˹ra](いなむら < 稲叢 >) より稲束を下ろし、フ˹ドー˺シ [ɸu˹do:˺ʃi](稲扱き管) で稲扱きをすること。ニ˹ブ˺ク [ni˹bu˺ku](稲掃(イナバ)き筵(ムシロ)) に稲束を下ろし、シ˹ビシゥカイビリ [ʃi˹bisi̥kaibiri](片膝を立てて座ること。「尻支え座り」の義) をして、稲束を片膝を立てた足の指で押さえ、左手で稲藁を 2,3 本ずつ掴み、右手のフ˹ドー˺シ [ɸu˹do:˺ʃi](稲扱き管) に稲穂を挟んで穂先へ扱(コ)きおろす。ム˹カ˺シェー　˹ダッコッ˺ケー　˹ナーン˺　ブ˹レー˺ンダ　˹ザイレーマイ˺ヤー　フ˹ドー˺シシル　˹マイサー˺シ　˹ソーッ˺タ [mu˹ka˺ʃe: ˹dakkok˺ke: ˹na:m˺ bu˹re:˺nda ˹ʤaire:mai˺ja: ɸu˹do:˺ʃiʃiru ˹maisa:˺ʃe: ˹so:t˺ta](昔は脱穀機はなかったから、在来種の米は稲扱きで脱穀された)。

˹マイ˺　サウ　フ˹ドー˺シ [˹mai˺ sau ɸu˹do:˺ʃi] 【連】

稲を扱(コ)く竹管。「米・さくる (渫)・管串」の転訛したもの。直径約 8 ミリ、長さ約 9 センチの竹管 2 本に藁しべを貫き挿(サ)し、蝶番(チョウツガイ)にして作った一組の稲扱き用の器具。˹マイ˺　サウ　フ˹ドー˺シェー　˹ダッコッキ˺ヌ　ン˹ズ˺ター　シゥ˹カウ˺　プ˹ソー　オーラン˺シェン [˹mai˺ sau ɸu˹doː˺ʃeː ˹dakkokki˺nu ʔn˹ʤu˺taː sʲ˹kau˺ pu̥˹soː ʔoːraŋ˺ʃeŋ](稲を扱く竹管は脱穀機が出回ったので使う人はおられなかった)。

˹マイ˺　**サウン [˹mai˺ sauŋ]** 【連】在来種の稲をこく (扱く)。稲を扱く。稲をしごく。竹管で稲穂から籾を扱き取る。˹ザイレーマイバ˺ル　˹アースムー　˹マイ˺　サウンティー　ア˹ズ [˹ʤaireːmaiba˺ru ˹ʔaːsumuː ˹mai˺ saunti: ʔa˹ʤu](在来種の稲を脱穀することをサウン < 竹管で扱(シゴ)く。さくる > というのだ)。˹ホーライマイ˺ヤー　˹マイ　˹サー˺ヌ。˹アースン˺ティル　ア˹ズ [˹hoːraimai˺jaː ˹mai ˹saː˺nu。˹ʔaːsun˺tiru ʔa˹ʤu](蓬莱米は竹管で扱かない。「脱穀する」< 実を落とす > というのだ)。˹マイ˺　サイ　˹ベー [˹mai˺ sai˹beː](稲扱きをし < 扱い > ている)。˹マイ˺　サウ　プ˹ソー˺　ブ˹ラーヌ [˹mai˺ sau pu̥˹soː˺ bu˹raːnu](稲を扱く人はいない)。˹パー˺ク　˹マイ　サイ˺ヤー　˺ミサムヌ [˹paː˺ku ˹mai saiˀjaː ˺misamunu](早く稲を扱けばいいのに)。˹マー˺ビン　˹マイ˺　サイバ [˹maː˺bim ˹mai˺ saiba](もっと稲を扱けよ)。

˹マイザ˺トゥ **[˹maiʤa˺tu]**【名】(地) 前里集落。ピ˹サイトゥ　マイザ˺トー　˺ミチ　˹ピー˺チ　ピ˹ダ˺ティティ　˺ムネー　˹カウルン˺ツォー [pi̥˹saitu maiʤa˺toː ˺miʧi ˹piː˺ʧi pi˹da˺titi ˺muneː ˹kaurun˺tsoː](平得村と前里村は道一つ隔てて言葉が変わるそうだ)。イ˹サナキヌ˺　トゥヌスクヌ　˹アンタナー˺ル　˹マイザ˺トゥムラー　˺アル [ʔi˹sanakinu˺ tunusu̥kunu ˹ʔantanaː˺ru ˹maiʤa˺tumuraː ˺ʔaru](石垣島の登野城の東側に < ぞ > 前里村はある)。

˹マイ˺シゥカイ **[˹maiˀsʲ̥kai]** 【名】こまづかい (小間使い)。走り使い。「前使い」の義。煙草盆の火を取ったり、急須にお湯を注いだり、隣へのお使いに行くなど、祖父母や両親の身の回りの雑用に使われる子供 (多くの場合は少女だった)。ミ˹ドーン˺ッふァー　˹ヤーチェーラ　ゾー˺ブンニ　˹マイ˺シゥカイ　ナ˹リ˺スバン [mi˹doːŋ˺ffa: ˹jaːʧeːra ʤoː˺bunni ˹maiˀsʲ̥kai na˹riˀsubaŋ](女の子は、八歳からは十分に老人の小間使いができるわい)。

マイ˹シキ **[mai˹ʃiki]** 【名】まいつき (毎月)。まいげつ (毎月)。標準語からの転訛。普通は、˺シキシキ [˺ʃi̥kiʃi̥ki](月々) という。月ごと。月々。マイ˹シキヌ˺　ティ˹マ˺チンラ　ウ˹ヤム˺トー　˹ジン˺バ　ウ˹クリ　ブー˺ツォー [mai˹ʃikinu˺ ti˹ma˺ʧinra ʔu˹jamu˺to: ˹ʤim˺ba ʔu˹kuri buː˺tsoː](毎月の給料 < 手間賃 > から親元へお金を送っているそうだ)。

˹マイ˺シキ **[˹maiʃi̥ki]** 【名】米搗(コメツ)き。稲搗(イネツキ)。搗き臼に玄米を入れて杵で搗いて精げること。老年層は普通は、イ˹ニ˺ッサイ [ʔi˹ni˺ssai](稲精げ)、˹マイ˺ッサイ [˹mai˺ssai](米精げ) という。1960 年ごろからは祭祀用の米を運搬船で石垣島へ送り、精米所で精米してもらうようになった。精米賃は米で支払っていた。ム˹カ˺シェー　˹ユーズピーズ˺ヌ　˹マイ˺シケー　ミ˹ナカ˺ナー　シ˹キ˺ウシ　フ˹ターチナー˺　ビ˹シティ˺　プ˹ス˺クミ　フ˹ターンナー˺シル　ッサイ˹ヨーッ˺タ [mu˹ka˺ʃeː ˹juːʤupiːʤu˺nu ˹mai˺ʃi̥ke: mi˹naka˺naː ʃi̥˹ki˺ʔuʃi ɸu̥˹taːʧina:˺ bi˹ʃiti˺ pu̥˹su˺kumi ɸu̥˹taːruna:˺ʃiru ssai˹joːt˺ta](昔は、祭祀行事用の米搗きは、庭に搗き臼を二台ずつ据えて、一組二人ずつで米搗き < 精げ > をされた)。

˹マイシジ **[˹maiʃiʤi]** 【名】米粒。玄米。˹マイ˺　ッサウ　˺ピンマー　˺ウシェーラ　˹マイシジヌ　ポーリ˺ウ˹ティラン˺　ヨーニ　˺シケー　ッ˹ふァーシ˺バ [˹mai˺ ssau ˺pimma: ˺ʔuʃeːra ˹maiʃʤinu poːri˺ ʔu˹tiraŋ˺ joːni ˺ʃi̥ke: f˹faːʃi˺ba](米を搗く < 精げる > 時は、臼から米粒が飛び散らないように臼の口縁に揺輪を付けなさいよ)。

˹マイジマ **[˹maiʤima]** 【名】米作のできる島。米の取れる島。イ˹ラムテー　マイジマ [ʔi˹ramuteː maiʤima](西表島は米の取れる島だ)。パ˹トゥ˺マー　˹マイジマ˺　ア˹ラ˺ヌンドゥ　˹パイ˺ター　カ˹ユイヤー˺ティル　˹マイヤー˺　ス˹ク˺ローッタル [pḁ˹tu˺ma: ˹maiʤima˺ ʔa˹ra˺nundu ˹pai˺ta: ka˹juija:˺tiru ˹maija:˺ su̥˹ku˺roːttaru](鳩間島は米作のできる島ではないが、南端 < 西表島 > へ通いながら稲は作られたものだ)。

˹マイジラ **[˹maiʤira]** 【名】いなむら (稲叢)。刈り取った稲 < 在来種の稲 > を積み重ねたもの。単にシ˹ラ [ʃi˹ra](稲叢) ともいう。ミ˹ナ˺カナー　˹マイジラヌ˺　シ˹マリ　ベー˺ン [mi˹na˺kana: ˹maiʤiranu˺ ʃi˹mari beː˺ŋ](庭に稲叢が積まれている)。

˹マイ˺ジラ **[˹mai˺ʤira]** 【名】1前面。正面。「まえづら (前面)」の転訛。˹ウン˺ネヌ　˹ヤー˺ヌ　˹マイ˺ジラー　イッ˹ケナ　カイ˺ヤン [˹ʔun˺nenu ˹jaː˺nu ˹mai˺ʤira: ʔik˹kena kai˺jaŋ](あの家の正面 < 前面 > は非

常に美しい)。2˺イダフニ [˺ʔidaɸuni](板舟。サバニ)の舳先(へサキ)の鋭三角形の前面。「前面」の転訛したもの。みよし (舳)。˹パーレー˺フネー ˹マイ˺ジラナー ナ˹ミキシ˺ムヌン パ˹リ˺ シ˹ダーシソーッ˺タ [˹paːreː˺ɸuneː ˹mai˺ʤirana: na˹mikiʃi˺munum pa˹ri˺ ʃi ˹daːʃisoːt˺ta](爬竜船は正面に波きりを貼り付け、装飾を施して飾り立てられた)。イダフニの項参照。

˹マイシラ˺シ **[˹maiʃira˺ʃi]** 【名】前兆。予兆。「前知らせ」の義。˹マイジラ˺シ [˹maiʤira˺ʃi](前兆。前知らせ)、単に、シ˹ラシ [ʃi˹raʃi] ともいう。˹ウン˺ネヌ ˺アッパー ˹マーラソーッ˺タ ˺ピンマー ˹マイシラシ˺ヌ ˹アッ˺タンツォー [˹ʔun˺nenu ˺ʔappa: ˹maːrasoːt ˺ta ˺pimma: ˹maiʃiraʃi˺nu ˹ʔat˺tantsoː](その家のお祖母さんが亡くなられた時は、その前兆 < 前知らせ > があったそうだ)。

˹マイ˺ジン **[˹mai˺ʤiŋ]** 【名】前金。代金を前もって払うこと。「前銭」の転訛。シ˹ナムヌヌ˺ タ˹ラーンダ マイ˺ジン ˺パライ ス˹クバ˺ル トゥ˹ラリン˺ギサバン [ʃi˹namununu˺ ta˹raːnda mai˺ʤim ˺parai sʉ˹kuba˺ru tu˹rariŋ˺gisabaŋ](品物が足りないので前金を払っておいた方が品物は確保でき < 取られ > そうだわい)。

˹マイ スー˺ルン **[˹mai suː˺ruŋ]** 【連】稲を扱く。稲扱き管 <扱(コ)き箸(ハシ)の一種 > で稲穂の実を扱き落とす。˹ザイレー˺マイ ˹スー˺ル ˺ピンマー カ˹タ˺ティーナ フ˹ドー˺シ ˺ムティティ ˹マイヌ˺ プー ˹フッカー˺シ カ˹タ˺パンシェー ˹マイタバ フンキマー˺ カ˹タ˺ティーシェー バ˹ラフタ˺ヌシン カ˹サミティル˺ ピ˹キスーローッ˺タ [˹ʤaireː˺mai ˹suː˺ru ˺pimma: kạ˹ta˺tiːna ɸu˹doː˺ʃi ˺mutiti ˹mainu ˺puː ˹ɸukkaː˺ʃi kạ˹ta˺paŋʃeː ˹maitabaru ɸuŋki maː˺ kạ˹ta˺tiːʃeː ba˹raɸʉta˺nuʃiŋ kạ˹samitiru˺ pị˹kisuːroːt ˺ta](在来種の稲を扱く時は、片手には竹管を持って稲穂を挟み、片足では稲束を踏み押さえ、もう一方の手では藁の芯を掴(ツカ)んで引きしごいだ < 扱いだ >)。

˹マイスク˺ブ **[˹maisʉku˺bu]** 【名】籾殻。籾摺(モミガラ モミスリ)の際に出る籾殻やその他の塵(チリ)や埃(ホコリ)。ス˹ク˺ブ [sʉ˹ku˺bu] は、「Sucumo. スクモ (すくも) すなわち、Nuca.(糠) 米や小麦などの殻」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˹マイスクブ˺バ ˺カビティ ˹パスコー˺ヌ ナ˹ラ˺ヌ [˹maisʉkubu˺ba ˺kabiti ˹pasʉkoː˺nu na˹ra˺nu](籾殻の塵埃(ジンアイ)を被って、はしかしくて < 皮膚がちくちくしてむずがゆくて < 痛痒くて > 堪らない)。˹パシゥコー˺ン [˹pasị̈koː˺ŋ] は、˹Faxicai. ハシカイ < はしかい > 素肌に着た粗い着物などのように、ざらざらしてがさつくこと『邦訳日葡辞書』」からの転訛か。

˹マイスコー˺ル **[˹maisʉkoː˺ru]** 【名】前準備。˹ヨイ˺ヌ ˹マイスコー˺ル ˹スンティル パンタ˺サ ˹シーベー [˹joi˺nu ˹maisʉkoː˺ru ˹sunti panta˺sa ˹ʃiːbeː](お祝いの前準備をしようとして忙殺され < 繁多さし > ている)。˹プー˺ル ˺ソーランヌ ˹マイスコー˺ロー ˹トゥッカ マイ˺ラー イ˹ニ˺ピキ ˹マイ˺ッサイ ˹スンティ˺ ミ˹ドゥムンケー˺ヤ イッ˹ケナ パンタ˺サタン [˹puː˺ru ˺soːrannu ˹maisʉkoː˺roː ˹tukka mai˺raː ʔi˹ni˺piki ˹mai˺ssai ˹sunti˺ mi˹du-muŋkeː˺ja ʔik˹kena panta˺sataŋ](豊年祭やお盆の前準備は十日前から籾摺り、米搗き < 米精げ > をしようとして、女たちは非常に忙しかった)。

˹マイ˺ズニ **[˹mai˺ʤuni]** 【名】固有名詞。前曽根。鳩間島の南約 1000 メートルの海中に発達した珊瑚礁。˹アーラマイズニ [˹ʔaːramaiʤuni](東前曽根) とナ˹カヌ˺スニ [na˹kanu˺suni](中の曽根)、˹イーリマイズニ [˹ʔiːrimaiʤuni](西前曽根) の三つの曽根からなる。˺スニ [˺suni](曽根) とは、干潮時に海上に姿を現さない珊瑚礁の浅瀬のことである。

˹マイ˺スバ **[˹mai˺suba]** 【名】まえすそ (前裾)。着物のまえみごろ (前身頃) の裾。˹ワー キン˺マー ˹マイスバ˺ヌ ピ˹キアンガリティ フージェー ナー˺ヌ [˹waː kim˺maː ˹maisuba˺nu pị˹kiʔaŋgariti ɸuːʤeː naː˺nu](君の着物は前裾が吊りあがっていて不恰好だ < 風情がない > よ)。

˺マイター **[˺maitaː]** 【名】前方。前の方。˹空間的な前方」を表し、「時間的な前方」の意味はない。「まえかた (前方)」の転訛したもの。老年層は˺マインター [˺mainta:](前方)、˺マンター [˺manta:](前方) ともいう。˹マー˺ビン ˺マイターナー ˺タティ ˹ベー˺リ [˹maː˺bim ˺maitanaː ˺tati ˹beː˺ri](もっと前方に立っていなさいよ)。マー˹ラ˺ マインター ˺パリ [maː ˹ra˺ mainta: ˺pari](ずっと前方へ行け)。

˹マイダーラ **[˹maidaːra]** 【名】米俵。南京袋に籾を入れた袋。˹ユントゥダーラ [˹juntudaːra](四斗俵)、ル˹クトゥダー˺ラ [ru˹kutudaː˺ra](六斗俵) がある。˹マイヤー パイタ˺ナーティ ˹アーシティ˺ ル˹クトゥダー˺ラナー ˺シミティ ˺イダフネーラ パ˹トゥ˺マー カ˹ヨーシタ [˹maija: paita˺naːti ˹ʔaːʃiti ˺ru˹kutudaː˺rana: ˺ʃimiti ˺ʔidaɸuneːra pạ˹tu˺maː ka ˹joːʃị̈ta](稲は南端 < 西表島 > で脱穀して六斗俵に詰めて、板船 < サバニ > で鳩間島へ運んだ < 通わ

した＞)。

˩マイダニ [˩maidani] 【名】たねもみ (種籾)。「米種」の義。˥サニムミ [˥sanimumi](種籾)、˥サニマイ [˥sanimai](種米)、タ˩ニ˥ムミ [ta˩ni˥mumi](種籾) ともいう。˩マイダネー˥ タ˩ブイ˥ シ˩キバ˥ル タ˩ニ˥ドゥロー＜タ˩チ˥ドゥロー＞ ˥ナル [˩maidane:˥ ta˩bui˥ ʃi̥˩kiba˥ru ta˩ni˥duro: ˥naru＜ta˩ʧi˥duro:＞](種籾は貯えておかないと種取り祭りはできない＜貯えておけばこそ種取り祭りはできる＞)。

˩マイタブル [˩maitaburu] 【名】稲束。˩マイタブル˥ フ˩ナ˥ジン ˩シー˥シケー [˩maitaburu˥ ɸu˩na˥ʤiŋ ˩ʃi:˥ʃi̥ke:](稲束を船積みするように積み上げて＜脱穀の準備をして＞ある)。

˩マイタブ˥レー [˩maitabu˥re:] 【名】固有名詞。吉川家の屋号。老年層は、˩マイトゥブ˥レー [˩maitubu˥re:](吉川亨氏家の屋号) というのが普通である。「前友利」の転訛か。

˩マイ˥ダリ [˩mai˥dari] 【名】前掛け。前垂れ。˩シーゾー˥ヤーナーテー ムー˩ル マイ˥ダレー ˩シェー˥ティル カ˩ツォー˥ バ˩ザイヨーッ˥タ [˩ʃi:ʤo:˥ja:na:te: mu:˩ru mai˥dare: ˩ʃe:˥tiru ka˩tso:˥ ba˩ʤaijo:t˥ta](製造小屋では、皆前垂れをして＜カツオの中骨を取ったり、四つ割りにしたりして＞捌(サバ)いておられた)。

マイ˩ダン [mai˩daŋ] 【副】1非常に。まことに。ほんとうに。「毎度 (いつも)」の転訛したもの。マイ˩ダン˥ フ˩コーラサト ユー [mai˩daŋ˥ ɸu̥˩ko:rasa˩ju:](まことに有難うございます)。2正常なさま。いつもの元気な状態。˩キュー˥ヤ マイ˩ダン ナー˥ムティ シ˩グトゥバ シー アーキ˥ル ˥ニチ ン˩ザ˥シェー˩ツォー [˩kju:˥ja mai˩dan na:˥muti ʃi˩gutuba ʃi: ʔa:ki˥ru ˥niʧi ʔn˩ʤa˥ʃe:˩tso:](今日はいつもの正常な状態でないのに仕事をしていて熱を出したのだよ)。

˩マイ˥ツ [˩mai˥tsu] 【名】(固) 人名。カ˩ザケヌ˥ アッパー ˩ナーヤ マイ˥ツティル ア˩ゾーッ˥タミー [ka˩ʤakenu˥ ʔappa: ˩na:ja mai˥tsutiru ʔa˩ʤo:t˥tami:](加治工家のお祖母さんの名前はマイツと言われたんでしょう?)。

˩マイ˥ツォンマー [˩mai˥tsomma:] 【固】人名。マイツ姉さん。マイツお母さん。˩マイ˥ツォンマー ˩ヤー˥ナ ˩オールン [˩mai˥tsomma: ˩ja:˥na ˩ʔo:ruŋ](マイツ姉さんは家におられますか)。

マ˩イッサー˥リ [˩maissa:˥ri] 【名】前ふさがり。前に立ちはだかること。˩マイッサー˥リ ˩シー ベー˥ムノー ˩パー˥ク マ˩ダキ˥リ [˩maissa:˥ri ˩ʃi: be:˥muno: ˩pa:˥ku ma˩daki˥ri](前ふさがりしているものを早くどけ＜退け＞なさい)。

˩マイ˥ッサイ [˩mai˥ssai] 【名】米搗き。いねつき (稲舂)。「米・精げ (精、シラグ)『類聚名義抄』」の転訛したもの。シ˩キ˥ウシ [ʃi̥˩ki˥ʔuʃi](搗き臼) に玄米を入れ、イ˩ナシ˥キ [ʔi˩naʃi̥˥ki](杵。「稲搗」の義) で搗き精げること。普通は女性一人で搗くが、祭祀、祝儀用の米搗きの場合は搗き臼を 2 台据え、四名で搗くこともあった。庭のガ˩ジ˥マル [ga˩ʤi˥maru](榕樹) の下にニ˩ブ˥ク [ni˩bu˥ku](稲掃筵(イナバキムシロ)) を敷き、その上に搗き臼を 2 台据付け、1,5 升～2 升の玄米を臼に入れ、ウ˩シ˥ヌ ˥シケー [ʔu˩ʃi˥nu ˥ʃi̥ke:](臼の揺輪) を臼の口縁部に嵌(ハ)め、˩アイダ˥チ [˩ʔaida˥ʧi](大槌の杵) で、二人一組にして米搗き＜精米＞をした。˩ショーワ ヨンジューネン マーラバー˥ケー パ˩トゥ˥マ ˥プソー ˩ドゥー˥ヌ ッ˩ふァイユー˥ヤ ˥ドゥーシル ˩マイ˥ッサイ ˩シー ヨーッタ˥ル [˩ʃo:wa jonʤu:nem ma:raba:˥ke: pḁ˩tu˥mapu̥so: ˩du:˥nu f˩faiju:˥ja ˥du:ʃiru ˩mai˥ssai ˩ʃi: jo:tta˥ru](昭和四十年辺りまでは、鳩間の人は自分の食べる分は自分で米搗きをしておられたものだよ)。

˩マイ˥ツバーオン [˩mai˥tsuba:ʔoŋ] 【固】石垣市字新川にある御嶽の名。「真乙姥嶽」と記す。˩マイ˥ツバー [˩mai˥tsuba:](˩ナー˥タフージ [˩na:˥taɸu:ʤi]＜長田大主＞の妹) を祀った˥ウガン [˥ʔugaŋ](お願。御嶽)。旧石垣市の豊年祭が行われるところ。˩マイ˥ツバーオンナール イ˩サナキヌ プー˥ロー ˩ソー˥ル˩ダー [˩mai˥tsuba:ʔonna:ru ʔi˩sanakinu pu:˥ro: ˩so:˥ru˩da:](マイツバー御嶽で＜ぞ＞旧石垣市の豊年祭はなさるのだよ)。

˩マイ˥ディマ [˩mai˥dima] 【名】前払い。仕事をする前に貰う手間賃。「まえでま (前手間)」の義。˩マイ˥ディマ パ˩ラーン˥カー ヤ˩トーララン˥ツォー [˩mai˥dima pa˩ra:ŋ˥ka: ja˩to:raran˥tso:](前払い＜前手間賃＞でないと雇われないそうだ)。

マイ˩トゥシ [mai˩tuʃi] 【名】毎年。マイ˩ニン [mai˩niŋ](毎年) ともいう。ヤ˩ラビンケー˥ヤ マイ˩トゥシ プー˥ル ˩シンテーナ˥ ウヤ ˥ミリン パ˩トゥ˥マー クン˩ダー [ja˩rabiŋke:˥ja mai˩tuʃi pu:˥ru ˩ʃinte:na˥ ʔuja ˥mirim pḁ˩tu˥ma: kun˩da:](子供達は毎年豊年祭をしがてら親を見に鳩間島へ来るよ)。

˥マイトゥジェー [˥maituʤe:] 【固】屋号。通事力氏宅。竹富町議会議長を務めた通事隆一氏 (船浦在住) は

通事家の長男である。「前通事家」の義。˥マイトゥジェーヤ　˥サンシキヌ　スˬバ˥ヌ　ˬアンタナー˥ル　˥アル [˥maituʤe:ja ˥saŋʃikinu suˬba˥nu ˬ?antana:˥ru ˥?aru](通事家は桟敷の側の東側に＜ぞ＞ある)。

ˬマイ˥　トゥˬバスン [ˬmai˥ tuˬbasuŋ] 【連】箕(ミ)でひる(簸(ヒ)る)。籾を飛ばす。籾摺りしたものを箕(ミ)に入れて煽(アオ)ったり、風に吹かせたりして籾殻(モミガラ)を飛ばして除去すること。蓬莱米などの脱穀した籾を風に煽らせて枯れ葉や塵芥(ジンカイ)を除去した。ムˬメー˥　ピˬキティ˥　アトーラ　ˬマイ˥　トゥˬバシティ˥　ユˬラシティル˥　アˬラム˥トゥ　プˬサウタトダー [ˬmuˬme:˥ pu̥ˬkiti˥ ?ato: ˬmai˥ tuˬbaʃu̥ti˥ juˬraʃu̥tiru˥ ?aˬramu˥tu pu̥ˬsautaɦda:](籾は籾摺(モミス)りして後に箕(ミ)で煽(アオ)ったり＜箕で簸(ヒ)たり＞、風に吹かせたりして籾殻を除去し、篩(フルイ)にかけて籾殻付きのあらぬか＜粗糠＞を除いた＜拾った＞ものだ)。

ˬマイトゥブ˥レー [ˬmaitubu˥re:] 【固】屋号。吉川家(吉川享氏の家)。「前友利家」の転訛したものか。ユˬナ˥デーヌ　ミˬドーン˥ッふァル　ˬマイトブ˥レーヌ　ユˬミ˥　ナˬロー˥レーミー [juˬna˥de:nu miˬdo:n ˥ffaru ˬmaitubu˥re:nu juˬmi˥ naˬro:˥re:mi:](与那田家の女の子が吉川家の嫁になられたんですね)。

˥マイ　˥ナスン [˥mai ˥nasuŋ] 【連】1目前にする。ˬプー˥ロー　˥マイ　˥ナシティ　ˬプールゾーラキ˥ヌ　スˬコール　スンティ　パンタ˥サ　ˬシー　ベー [ˬpu:˥ro: ˥mai ˥naʃu̥ti ˬpu:ruʤo:raki˥nu su̥ˬko:ru sunti panta˥sa ˬʃi: be:](豊年祭を目前にして、豊年祭のゾーラキ踊の準備をしようと忙しく＜繁多さ＞している)。2先にする。ウˬレー˥ラン　クˬヌ˥　シˬグトゥバ˥　マイ　˥ナスンティ　ウˬムーン˥ドゥ　ˬヌー˥シカヤー [?uˬre:˥raŋ kuˬnu˥ ʃiˬgutuba˥ mai ˥nasunti ?uˬmu:n˥du ˬnu:˥ʃikaja:](それよりもこの仕事を先にしようと思うが、如何でしょうか＜どうだろうか＞)。3前に置く。揃えて。常用する。ウˬビ˥ヌッˬふァマー˥バ　˥マイ　˥ナシティ　ノーˬンヌ　ソーン　ナー˥ヌ [?uˬbi˥nu fˬfama:˥ba ˥mai ˥naʃu̥ti no:ˬnnu so:n na:˥nu](そんな沢山の子や孫を前に揃えて何の心配もない)。ˬピーズ˥　グシェー　˥マイナˬシ˥ル　ˬオー˥ル [ˬpi:ʤu˥ guʃe: ˥mai naˬʃi˥ru ˬ?o:˥ru](毎日お酒を前にして＜常用して＞おられる)。

˥マイ　˥ナルン [˥mai ˥naruŋ] 【連】1前になる。先頭になる。ˬワー˥　マイナリ　アˬラ˥キバ [ˬwa:˥ mainari ?aˬra˥kiba](君は先頭にたって歩けよ)。ヤーˬディン˥　ウˬリヌ˥　マイ　ナˬリ˥　プサンドゥ　˥マイナˬララ˥ヌ [ja:ˬdim˥ ?uˬrinu˥ mai naˬri˥ pu̥sandu ˥mai naˬrara˥nu](必ず＜何としても＞それの前になりたいが、前になれない)。˥マイ　˥ナルンティ　˥ウムーカー　˥マイ　˥ナレー　˥ミサムヌ [˥mai ˥narunti ˥?umu:ka: ˥mai ˥nare: ˥misamunu](前になろうと思うならば前になればいいのに)。˥マイ　˥ナル　プˬソー˥　ブˬラーヌ [˥mai ˥naru pu̥ˬso:˥ buˬra:nu](前になる人はいない)。ヤーˬディン˥　バー　˥マイ　˥ナリ [ja:ˬdim˥ ba: ˥mai ˥nari](必ず私の前になれ)。2他人より先んじる。競争に勝つ。プˬスヌ˥　マイナルンティ　˥ウムーカ　˥ヌチカギリ　ˬビンキョー　サン˥カー　ナˬラ˥ヌ [pu̥ˬsunu˥ mai ˥narunti ˥?umu:ka ˥nutʃikagiri ˬbiŋkjo: saŋ˥ka: naˬra˥nu](競争に打ち勝とうと思うなら一生懸命勉強しなければならない)。

ˬマイ˥ナン [ˬmai˥naŋ] 【名】前通り。屋敷の前通りの家並み。前の道沿い。前側。「前並」の転訛したもの。ˬバン˥テヌ　ˬマイ˥ナンナー　ウˬブガジマル˥ヌ　イˬビラリ　ブン˥ダー [ˬban˥tenu ˬmai˥nanna: ?uˬbugaʤimaru˥nu ?iˬbirari bun˥da:](私の家の前通りには大きなガジマルが植えられているよ)。

ˬマイ˥ニー [ˬmai˥ni:] 【名】船の前方の積み荷が重く不安定なこと。「前荷」の義。ˬマイ˥ニー [maini:](前荷) は船が沈没する原因という。トゥˬム˥ニー [tuˬmu˥ni:](艫の荷が重く不安定なこと。操船不能になる原因となるという) の対義語。˥フネー　ˬマイ˥ニー　シˬキ　ブンダ　ニー˥ヤ　˥トゥモー　バˬキ˥リ [˥ɸune: ˬmai˥ni: ʃu̥ˬkibunda ni:˥ja ˥tumo: baˬki˥ri](船は前方に積み荷が偏って重いから、艫の方へ分けなさい)。

マイˬニン [maiˬniŋ] 【名】毎年。標準語の「毎年」から転訛したもの。老年層は、マイˬトゥシ [maiˬtuʃi](毎年) とも、トゥシˬカージ [tu̥ʃiˬkaːʤi](年ごとに) ともいう。ˬタイフー˥ヤ　マˬイニン　ミーチ　ユーチェー˥　フˬキ˥ス [ˬtaiɸu:˥ja maiˬnim mi:ʧi ju:ʧe:˥ ɸu̥ˬki˥su](台風は毎年三個、四個は吹く)。

ˬマイヌ˥イー [ˬmainu˥?i:] 【名】米飯。「米の飯」の義。ˬウンヌ˥イー [ˬ?unnu˥?i:](芋のご飯) の対義語。ˬピーズンマー　ウンヌ˥イー　ˬマイヌイー˥ヤ　マˬルケーティナー˥ル　ッˬふァーソーッ˥タ [ˬpi:ʤum-ma: ?unnu˥?i: ˬmainu?i:˥ja maˬruke:tina:˥ru fˬfa:so:t˥ta](毎日は芋のご飯、偶に米のご飯を食べさせられた)。

ˬマイヌ˥シジ [ˬmainu˥ʃiʤi] 【名】米粒。ˬマイヌ˥シジ　プˬス˥シジンツァン　ウˬタ˥シェー　ナˬラ˥ヌ [ˬ

mainu˜ʃiʤi pu̥˞su˜ʃiʤintsaŋ ʔu˞ta˜ʃeː na˞ra˜nu](米粒を一粒たりとも落としてはならない)。

˞マイ˜ヌ　˜トゥシ [˞mai˜nu ˜tu̥ʃi] 【連】前年。「前の年」の義。過去の基準となる一定の時の前の一年。˞パッ˜タトゥシ [˞pat˜ta ˜tu̥ʃi](去った年。行った年) ともいう。˞ウンヌ　マイ˜ヌ　˜トゥシナール　ク˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　マ˞レー˜バン [˞ʔunnu mai˜nu ˜tu̥ʃinaːru ku˞nu˜ f˞faː˜ ma˞reː˜baŋ](その時の前年にこの子は生まれたのだよ)。

˞マイヌ˜　ナイ [˞mainu˜ nai] 【連】稲の苗。日当たりの良い水田には、パ˞ヤ˜ナイ [pa˞ja˜nai](早苗。早稲の苗) が、山田には˜アトゥナイ [˜ʔatunai](おくて < 晩稲の苗 >) が作付けされていた。˞ナーッス˜ヌ　˞マイヌ　ナイ˜ヤー　イッ˞ケナ　ムイ˜ヤン [˞naːssu ˜nu ˞mainu nai˜jaː ʔik˞kena mui˜jaŋ](苗代の稲の苗は非常に良く成長した < 生えた >)。

˞マイヌ˜プー [˞mainu˜puː] 【名】稲穂。˞米の穂」の義。˞マイヌプー˜ヤ　ン˞ジ˜キシェーン [˞mainupuː˜ja ʔn˞ʤi˜ki̥ʃeːŋ](稲穂は出揃った)。

˞マイヌ˜　プー [˞mainu˜ puː] 【連】稲穂。「米の穂」の転化したもの。˞マイヌプー˜ヌ　˞ソー˜ジ [˞mainupuː˜nu ˞soː˜ʤi](稲穂の精進。稲穂が順調に稔るように祈る祭祀 < 精進潔斎して祈ること >)。˞マイヌプー˜ヌ　˞ニン˜ガイ [˞mainupuː˜nu ˞niŋ˜gai](稲穂の祈願。村の祭祀)。˞プーヌソー˜ジ [˞puːnu soː˜ʤi](稲穂の精進 < 祈願 >) ともいう。稲の穂に害虫がつかぬよう、旧暦 3 月に祭祀が執り行われた。˞マイヌプー˜ヤ　ン˞ジスー˜リティ　˜イルン　シ˞キ˜ブバ　ス˞ク˜マ　ウ˞チナ˜スカー　カ˞ラリン˜ヨー [˞mainu puː˜ja ʔn˞ʤisuː˜riti ˜ʔiruŋ ʃi̥˞ki˜buba su̥˞ku˜ma ʔu˞tʃina˜su̥kaː ka˞rariŋ˜joː](稲穂は出揃って色もついているから、スクマを済ませたら収穫できる < 刈り取られる > よ)。

マ˞イヌミー˜ス [˞mainumiː˜su] 【名】米味噌。米だけで作った味噌。「米の味噌」の義。塩分は控えめで、泡盛の味が染み込んでいて、何ともいえない風味があった。三時の˞サーサー˜フキ [˞saːsaː˜ɸu̥ki](茶請け) として食された。また、黒糖やザ˞ラ˜ミ [ʤa˞ra˜mi](粗目糖) を混ぜると美味であった。祖父母の側に纏(マツ)わりついて、着物の裾を引っ張って˞マイヌミー˜スをおねだりする孫の小さな掌(テノヒラ)に一摘(ツマ)み載せていただいて、美味しそうに食べる光景がよく見られた。˞サンジ˜ヌ　˞サー˜フケー　˞マイヌミー˜スナ　˜サタ　カ˞ケー˜シティ　ン˞ザ˜シバ [˞sanʤi˜nu ˞saː˜ɸu̥keː ˞mainumiː˜suna ˜sata kḁ˞keː˜ʃi̥ti ʔn˞ʤa˜ʃiba](三時の茶請けは米味噌に砂糖を掻き混ぜて出しなさい)。

˞マイ˜ネー [˞mai˜neː] 【名】自分の家より前 < 南 > の方にある親戚の家。前隣。「前の家」が *[maɸeno・jaː] → [maweno・jaː] → [majeno・jaː] → [mainu・jaː] → [mainu・iaː] → [maineː] のように音韻変化したもの。˞シー˜ネー [˞ʃiː˜neː](後ろの家。後ろ隣) の対義語。˞マイ˜ネーラ　ヌ˞キ˜ル　カ˞リ˜　キー　タ˞ム˜ヌ　˜バキ [˞mai˜neːra nu˞ki˜ru ka˞ri˜ ki: ta˞mu˜nu ˜baki](前隣から鋸を借りてきて木を薪用の長さに切れ)。

˜マイバー [˜maibaː] 【名】前歯。門歯。切歯。˞ギーバー [˞giːbaː](犬歯。糸切り歯)、˜ウシパー [˜ʔuʃi̥paː](臼歯。奥歯)、ウ˞クバー [ʔu˞kubaː](奥歯。臼歯)。フ˞トゥッチ˜パー [ɸu̥˞tuttʃi˜paː](虫歯) 等が歯の部分的語彙体系を構成している。˞カイ˜リティ　˜マイバー　˜ブリ　˜シケー [˞kai˜riti ˜maibaː ˜buri ˜ʃi̥keː](転んで前歯を折ってある)。

˞マイ˜バライ [˞mai˜barai] 【名】前払い。前もって代金を支払うこと。˞ウンチンマー　マイ˜バライ　˞ヤッタル [˞ʔuntʃimmaː mai˜barai ˞jattaru](運賃は前払いであったよ)。˞マイ˜バライ　˞スー˜カー　˞ワー˜　ムノー　˜トゥリ　˜シキティル　˞カース˜パジ [˞mai˜barai ˞suː˜kaː ˞waː˜ muno: ˜turi ˜ʃi̥kitiru ˞kaːsu˜ paʤi](前払いをすれば君の分は取っておいて、残りを売るはずだ)。

˜マイパン [˜maipaŋ] 【名】獣や虫類の前足。前脚。「Mayeaxi. マエアシ (前足)　動物の前足.Atoaxi.(後足)」『邦訳日葡辞書』の義。˜パン [˜paŋ](足。脛) は「〜夜都賀波岐 (やつかはぎ = 八束脛ノ意といふ)」『常陸風土記』の転訛したもの。˜アトゥパン [˜ʔatupaŋ](後足。後脚) の対義語。ウ˞ヌ　イン˜マー　˜マイパン　˜ブリティ　ア˞ラキマー˜キ　˞シーベー [ʔu˞nu ʔim˜maː ˜maipam ˜buriti ʔa˞rakimaː˜ki ˞ʃiːbeː](その犬は前脚を折って歩きかねている)。

˞マイピキウシ [˞maipi̥kiʔuʃi] 【名】もみすりうす (籾摺り臼)。「米碾き臼」の義。ピ˞キ [pi̥˞ki] は、「Fiqi, u, ijta. ヒキ、ク、イタ (引・曳・挽・弾・碾き、く、いた) 引っ張る. Cha, comugui nadouo fiqu.(茶、小麦などを碾く) 茶 (Cha) や小麦などを臼で碾く.」『邦訳日葡辞書』の転訛。単に、ピ˞キウシ [pi̥˞kiʔuʃi](碾き臼) ともいう。˞マイピキウシ˜シ　˞マイ˜　ピ˞キティル　マイヤー˜　ッサイ　˞ヨーッ˜タ [˞maipi̥kiʔuʃi˜ʃi ˞mai˜ pi̥˞kitiru maijaː˜ ssai ˞joːt˜ta](籾摺り臼で籾を碾いて < ぞ > 米は精げ < 精米 > なされた)。

˞マイ˜ピサ **[˞maiˀpi̥sa]** 【名】屋根の前面の斜面。前流れ。「前平」の転訛したもの。˞シー˜ピサ [˞ʃiːˀpi̥sa](屋根の後ろの斜面。後ろ流れ) の対義語。˞アーラピサ [˞ʔaːrapisa](屋根の東側の斜面) は˞イーリピサ [˞ʔiːripisa](屋根の西側の斜面) の対義語。˞マイピサ˜ヌ　˞カー˜ラー　˞タイ˜フーナ　トゥ˞バサリ　ナー˜ヌ [˞maipisaˀnu ˞kaːˀraː ˞taiˀɸuːna tu˞basari naːˀnu](屋根の前流れ < 前平 > の瓦は台風に飛ばされてしまった)。˞タイ˜フーナー　˞アー˜ネーヌ　フ˞クンヌ　トー˜リ　˜キー　ウ˞ブヤー˜ヌ　˞アーラピサー　クー˜シ　˞ナー˜ヌ [˞taiˀɸuːna ˞ʔaːˀneːnu ɸu̥˞kunnu toːˀri ˀkiː ʔu˞bujaːˀnu ˞ʔaːrapi̥saː kuːˀʃi ˞naːˀnu](台風で東隣の家の福木が倒れてきて、母屋の屋根の東斜面 < 東流れ > を壊してしまった)。

˞マイピュー˜ル **[˞maipjuːˀru]** 【名】祭祀や行事を執り行う日和で干支(エト)の前期に当たる日。「前日和」の義。前期の干支で不都合が生じる際には、˜アトゥピュール [˜ʔatupjuːru](後期の干支に当たる日和) で実施された。「Fiyori. ヒヨリ (日和)　Tenqi(天気) に同じ. 天気のめぐりあわせ.Fiyorigayoi,varui(日和が好い、または、悪い) 航海などをするのに好い天気である、または、悪い天気である」『邦訳日葡辞書』。ク˞トゥシヌ　プー˜ロー　˞ユーリシキヌ˜　アルンダ　˞マイピュー˜ルナー　˞ソー˜ルツォー [ku̥˞tuʃinu puːˀroː ˞juːriʃi̥kinuˀ ʔarunda ˞maipjuːˀrunaː ˞soːˀrutsoː](今年の豊年祭は、閏月(ウルウヅキ)があるので、前日和でなさるそうだ)。

˞マイフナー **[˞maiɸunaː]** 【名】 1利口者。しっかり者。お利口さん。˞ボー˜レード˞ー　マイフナー˜ド˞ー [˞boːˀreːdo˞ː maiɸunaːˀdo˞ː](良い子だよ! 利口者だよ)。˞アーラシマイ˜フナー　ミ˞ドーン˜ッふァ [˞ʔaːraʃimaiˀɸuna: mi˞doːŋˀffa](倹約上手で貯蓄上手は女の子)。˞モーキマイ˜フナー [˞moːkimaiˀɸu-naː](儲け上手)。2働き者。成功した者。「まゑけか　男の事　ゑけがとも云　まの字を云時は敬ふ言葉なり」『混効験集　坤人・倫』、「男　会几臈」『中山伝信録』の「真の男」の義が転訛したもの。ウ˞ブ˜プス　˜ナルカー　ヤー˞ディン　マイフナー˜　マ˞リリ˜ヨー　˜コーネー [ʔu˞buˀpu̥su ˀnaruka: ja:˞dim maiɸunaːˀ ma˞ririˀjoː ˀkoːneː](大人になったら、きっと < 必ず > 立派な人 < 成功した人 > になりなさいよ、坊や)。

˞マイ˜ボー **[˞maiˀboː]** 【名】二人で荷を棒に吊るして担う際、棒の先の方を担(カツ)ぐ人。「前棒」の義。˞ワー　マイ˜ボー　カ˞タ˜ムカー　˜バー　˜アトゥボー　カ˞タ˜ムン [˞waː maiˀboː kḁ˞taˀmukaː ˀbaː ˀʔatuboː kḁ˞taˀmuŋ](君が先頭 < 前棒 > を担いだら私は後方 < 後棒 > を担ぐよ)。

˞マイボー˜ル **[˞maiboːˀru]** 【名】菓子の名。メリケン粉に卵、砂糖を混ぜて焼いた、直径約 6 センチの平たい菓子。ポルトガル語のボーロ (bolo) の借用語が転訛したものという『石垣方言辞典』。石垣島で焼かれたマイボールを仕入れて、鳩間島でも販売していた。ヤ˞ラ˜ビシェーンケンマー　ウ˞ヌス˜ク　ン˞マー˜タヌ　˞マイボー˜ルン　ク˞ヌ˜グロー　ミ˞ラランˀ　ナリ　˞ナーンˀバン˞ナー [ja˞raˀbiʃeːŋkemma ʔu˞nusu̥ˀku ʔm˞maːtaˀnu ˞maiboːˀruŋ ku˞nuˀguroː mi˞raranˀ nari ˞naːmˀban˞naː](子供の頃にはあんなに美味しかったマイボールも此の頃は見られなくなってしまったねえ)。

˜マイマイ **[˜maimai]**【名】以前。ずっと以前。前方。「前前」の義。ウ˞レー˜　マイマイラヌ　ヤ˞クスク˜　ヤ˞ルンダ　サン˜カー　ナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞reː˜ maimairanu ja˞kusu̥ku˜ ja˞runda saŋˀkaː na˞raˀnu](それは以前からの約束だから、しないといけない)。

マイ˞マイ˜シ **[mai˞maiˀʃi]**【副】大きく。大きめに。˞ヤー˜ユン　ノー˞ン˜　マイ˞マイ˜シ　ス˞クラバル˜　シゥ˞カイミチェー˜　アル [˞jaːˀjun noː˞mˀ mai˞maiˀʃi su̥˞kurabaˀru si̥˞kaimitʃeːˀ ʔaru](家でも何でも大きく造った方が用途は広い < 使い道がある >)。

マイ˞マイヌ **[mai˞mainu]** 【連体】大きな。マイ˞マイヌ　カー˜ラヤーバ　ス˞ク˜レーンツォー [mai˞mainu kaːˀrajaːba su̥˞kuˀreːntsoː](大きな瓦葺きの家を造ったそうだ)。

˞マイマジミ **[˞maimaʤimi]** 【名】刈り取った稲を一時的に積み上げたもの。「稲真積み」の義。˞マイマジン [˞maimaʤiŋ] ともいう。ア˞ミ˜ヌ　˜フイティ　˞ゾッふァシェー˜　ナ˞ランˀバ　˞マイマジミ˜ナー　トゥ˞マー˜　カキ　シ˞キ˜リ [ʔa˞miˀnu ˀɸuiti ˞ʤoffaʃeːˀ na˞ramˀba ˞maimaʤimiˀnaː tu˞maːˀ kḁki ʃi̥˞kiˀri](雨が降って濡らしてはいけないので、稲を積み上げたもの < 稲真積み > には茅で編んだ苫をかけておきなさい)。

˞マイマチブラー˜リ **[˞maimatʃiburaːˀri]** 【名】体の前面に纏(マツ)わり付くこと。体の前方から絡みつくこと。「前まつわり (纏わり)」の義。ブ˞ネーヤ˜　パ˞タ˜ケー　˜パルンティ　˞シー　ベー˜ンドゥ　ッ˞ふァヌ　マイマチブラー˜リ　˞シー˜　ナ˞クンダル　ウーキ　ユーサン˜バン [bu˞neːjaˀ pḁ˞taˀke: ˀparunti ˞ʃiː beːˀndu f˞fanu maimatʃiburaːˀri ˞ʃiːˀ na˞kundaru

ʔuːkijuːsamˀbaŋ](母親は畑へ行こうとしているが、子供が前に纏わり付いて泣くので、それで動くことが出来ないよ)。

˹マイマラキ [˹maimaraki] 【名】˹まいまろぎ (稲丸ぎ)」の義。稲束を 30 束集めてひとまるぎ < 一丸ぎ > にしたもの。稲束 30 束を纏(マトメ)た単位。˹マイマラキ˺ フ˹タマラキ˺ カ˹タ˺ミ ˺クーバ [˹maimaraki˺ ɸu̥˹tamarakiˀ kḁ˹taˀmi ˀkuːba](稲丸ぎを二丸ぎ担いできなさいよ)。

˺マイムッティ [ˀmaimutti] 【副】前もって。あらかじめ。かねて。事前に。老年層は、˹マイカニ˺ティ [˹maikaniˀti](事前に。前もって。かねて) という。ウ˹ヌ˺ クトー ˺マイムッティ ウ˹ヤンナー˺ネー ˹ワー˺ラン ˺アジ ッ˹サリ˺ シキバ [ʔu˹nu˺ ku̥toː ˀmaimutti ʔu˹jannaːˀneː ˹waːˀraŋ ˀʔaʤi s˹sari˺ ʃi̥kiba](そのことは前もって親には君からも申し上げて置きなさいよ)。

˺マイムティ [ˀmaimuti]【副】前もって。あらかじめ。事前に。かねて (予て)。˺マイムッティ [ˀmaimutti](前もって) ともいう。˺マイムティ パ˹ナ˺シ シゥ˹カサン˺カー ˹アッ˺タネー ス˹コーララン˺ダー [ˀmaimuti pa˹naˀʃi si̥˹kasaŋˀkaː ˹ʔatˀtaneː su̥˹koːraranˀdaː](前もって話して聞かせないと急には準備できないよ)。

˹マイ˺ヤク [˹maiˀjaku] 【名】前の漕ぎ手。サバニの前方の漕ぎ手。˹パーレー˺ヌ ˹マイ˺ヤコー シゥ˹カラヌ˺ アル プ˹スンドゥ˺ ナル [˹paːreːˀnu ˹maiˀjakoː si̥˹karanuˀ ʔaru pu̥˹sunduˀ naru](爬竜船の前方の一番漕ぎ手 <前櫂(ゼントウ)> は力のある人しかできない < 力のある人にができる >)。

˹マイ˺ヤフ [˹maiˀjaɸu] 【名】厄年の前の年。「前厄」の義。˺アトゥヤフ [ˀʔatujaɸu](後厄。ハ˹リ˺ヤフ [ha˹riˀjaɸu]< 晴れ厄 > ともいう) の対義語。ク˹トゥシェー マイ˺ヤフティ ˹シー˺ ユ˹ヌ˺シリンケーヌ ア˹ツァ˺マリティ ˺ヨイ シ˹タ˺ツォー [ku̥˹tuʃeː maiˀjaɸuti ˹ʃiːˀ ju˹nuˀʃiriŋkeːnu ʔa˹tsaˀmaritiˀ joi ʃi̥˹taˀtsoː](今年は前厄の年だといって同輩達 < 同じ年生まれの人たち > が集まってお祝いをしたそうだ)。

˺マイヤマ [ˀmaijama] 【名】まえやま (前山)。前の方にある山。村里に近い山。ウ˹クヤマ [ʔu˹kujama](奥山) の対義語。ティ˹ドゥ˺クヤマヌ ˺マイヤマラーン ム˹カ˺シェー ˹キャーンギキーヤ˺ ン˹ザサリ˺タン [ti˹duˀkujamanu ˀmaijamaraːŋ mu˹kaˀʃeː ˹kjaːŋgikiːjaˀ ʔn˹ʤasariˀtaŋ](ティドゥク山の前山からも昔は槇の木は伐り出せた)。

˹マイ˺ヤン [˹maiˀjaŋ] 【形】大きい。ク˹ヌ ヤー˺ヤ ˹マイ˺ヤンティ ウ˹ムータ˺ヌ ˹ナン˺ゾー ˹マイヤナー˺ヌ [ku˹nu jaːˀja ˹maiˀjanti ʔu˹muːtaˀnu ˹nanˀʤoː ˹maijanaːˀnu](この家は大きいと思ったが、あまり大きくない)。パ˹ナ˺シェー ˹シンダイ マイ˺ヤ ˺ナルン [pa˹naˀʃeː ˹ʃindai maiˀja ˀnaruŋ](話は次第に大きくなる)。˹マイ˺ヤ ˺フニナ ˹ヌールン [˹maiˀja ˀɸunina ˹nuːruŋ](大きな船に乗る < 船員になる >)。フ˹ドゥヌ マイ˺ヤカー シゥ˹カラー˺アン [ɸu˹dunu maiˀjakaː si̥˹karaː˺ ʔaŋ](体格が大きかったら力はある)。

˹マイユー˺シ [˹maijuːˀʃi] 【名】繰り上げ。「前寄せ」の義。˹ヨイ˺ヤー ˹マイユー˺シ ˹シー˺ シ˹マ˺シテーラ タ˹ベー˺ パリバ [˹joiˀjaː ˹maijuːˀʃi ˹ʃiː˺ ʃi˹maˀʃi̥teːra ta˹beː˺ pariba](お祝いは繰り上げて済ませてから旅へは行きなさいよ)。

˹マイユッ˺カ [˹maijukˀka] 【名】前床板。˺イダフニ [ˀʔidaɸuni](板舟) の前方の床板。ウ˹シカキ [ʔu˹ʃikaki](帆柱を立てる梁) の後ろにある床板。˹ピーヌール [˹piːnuːru](舳乗り) が座って舟を漕ぐ床板。˺イダフニ [ˀʔidaɸuni](板舟) の項参照。

˹マイユッカー˺マ [˹maijukkaːˀma]【名】˹マイユッ˺カ [˹maijukˀka](前床板) の前、ウ˹シカキ [ʔu˹ʃikaki](帆柱を立てる梁) の前方の舳先に近い所にある床板。鋭三角形の小さい床板。˺イダフニの項参照。

˹マイ˺ ユ˹ラスン [˹maiˀ ju˹rasuŋ] 【連】米を篩(フルイ)にかける。籾摺りした後、ユ˹ラシ [ju˹raʃi](竹製の篩) で揺すって玄米の中のア˹ラム˺トゥ [ʔa˹ramuˀtu](あらもと < 粡(アラモト)。☒ >) を除去する。˹マイヤー˺ ユ˹ラシティ˺ ア˹ラム˺トゥ プ˹サイ˺バ [˹maijaːˀ ju˹raʃi̥tiˀ ʔa˹ramuˀtu pu̥˹saiˀba](米を篩で篩ってアラムトゥ < 粡 > を拾いなさいよ)。

˹マイヨー˺ゾー [˹maijoːˀʤoː] 【名】前養生。病気予防のために事前に養生すること。健康維持の手当てをすること。˺ドゥーパダヌ ˹キンコーヤ˺ サ˹キトゥ˺ タ˹バク˺バ ヤ˹ミル マイヨーゾー˺ル ˹ダイイチ [ˀduːpadanu ˹kiŋkoːjaˀ sḁ˹kituˀ ta˹bakuˀba ja˹miru maijoːʤoːˀru ˹daiʔitʃi](体の健康は酒と煙草を止める前養生が第一だ)。

˹マイ˺ヨイ [˹maiˀjoi] 【名】前祝い。1祝いの準備をした後に、軽く飲み食いすること。˹ヨイ˺ヌ ス˹コーロー˺ナレーチバ ˹ヤーニン˺ズー カー˹ニ˺シ ˹マイ˺ヨイ ˹サー˺ディー [˹joiˀnu su̥˹koːroːˀ nareːʧiba ˹jaːninˀʤuː ˹kaːniˀʃi ˹maiˀjoi ˹saːˀdiː](祝いの準備が

出来たので家族だけで前祝いをしようよ)。2物事の成就、完成を予祝すること。ウˈキナータビˈヌ ˈマイˈヨイ ˈソーˈラˈディー [ʔuˈkinaːtabiˈnu ˈmaiˈ joi ˈsoːˈraˈdiː](沖縄への旅の安全を予祝して前祝いをしましょうよ)。

ˈマイˈリ [ˈmaiˈri] 【名】参詣。御参り。石垣島の観音堂を拝みに行くこと。カˈツシンマーˈ アˈガルˈカー ˈカンナンˈドーマイリ ˈソーッˈタン [kạˈtsuʃimmaːˈ ʔaˈguruˈkaː ˈkannanˈdoːmairi ˈsoːtˈtaŋ](カツオ漁船は漁期が上がると観音堂参りをされた)。

ˈマインタ [ˈmainta] 【名】前方。前の方。普通は、ˈマンタ [ˈmanta](前方。前の方) という。ˈシンタ [ˈʃinta](後方。後の方) の対義語。ˈマインタヌ ˈヤーナール トゥˈマリ ベー [ˈmaintanu ˈjaːnaːru tuˈmari beː](前の家に < ぞ > 泊まっている)。ˈマーˈビン ˈマインター ˈパリバ [ˈmaːˈbim ˈmainta: ˈpariba](もっと前方へ行けよ)。ˈウヌヨーヌ シˈタˈフシェー プˈスヌˈ マインター ンˈジララˈヌ [ˈʔunujoːnu ʃi̥ˈtaˈɸuʃeː pu̥ˈsunuˈmainta: ʔnˈʤiraraˈnu](そのような服装 < よそおい。身形(ミナリ)> では人様の前に出られない)。

マˈカグ [maˈkagu] 【名】重箱に詰めた御握り。地炉の神に産婦と新生児の健康を祈願するための供物。

マˈカスン [maˈkasuŋ] 【他動】負かす。相手を負けさせる。ウˈレーˈ イˈバリムヌˈ ヤˈルンダˈ パˈリスーˈブ ˈシーˈ マˈカスンティˈ ウˈムーンˈドゥ マˈカサランˈサー [ʔuˈreːˈ ʔiˈbarimunuˈ jaˈrundaˈ paˈrisuːˈbu ˈʃiːˈ maˈkasuntiˈ ʔuˈmuːnˈdu maˈkasaranˈsaː](彼は高慢ちき < 威張り者 > だから走り競走をして負かそうと思うが負かされない)。マˈカシˈ プサンドゥ ウˈリˈ マˈカスˈ プˈソーˈ ブˈラーヌ [maˈkaʃiˈ pu̥sandu ʔuˈriˈ maˈkasuˈ pu̥ˈsoːˈ buˈraːnu](負かしたいが、彼を負かす人はいない)。ˈパーˈク マˈカシェーˈ ミサムヌ [ˈpaːˈku maˈkaʃeːˈ misamunu](早く負かせばいいのに)。ˈワーˈシ ヤーˈディンˈ カˈリバˈ マˈカシ [ˈwaːˈʃi jaːˈdimˈ kaˈribaˈ maˈkaʃi](君で必ず彼を負かせよ)。

マˈカスン [maˈkasuŋ] 【他動】任す。任せる。委ねる。相手のするままにさせる。クˈヌˈ シˈグトー ワンˈ マˈカスンティˈ ウˈムーンˈドゥ ˈワー タンガンˈマー マˈカサラヌ [kuˈnuˈ ʃiˈguto: wamˈ maˈkasuntiˈ ʔuˈmuːnˈdu ˈwa: taŋgamˈma: maˈkasaranu](この仕事は君に任せようと思うが、君一人には任されない)。ˈワー タンˈガン マˈカシˈ ミサカー マˈカスˈ クトー ˈナルン [ˈwa: taŋˈgam maˈkaʃiˈ misaka: maˈkasuˈ ku̥to: ˈnaruŋ](君一人に任せてよければ、任すことは出来る)。ウˈリンˈ マˈカシェーˈ ミサムヌ [ʔuˈrimˈ maˈkaʃeːˈ misamunu](彼に任せればいいのに)。ムーˈルˈ ウˈリンˈ マˈカシ [muːˈruˈ ʔuˈrimˈ maˈkaʃi](全部彼に任せろ)。

マˈカˈタ [maˈkaˈta] 【固】人名。女性の名。マˈカˈテー [maˈkaˈteː](女性の名) ともいう。トゥˈムレーˈナール マˈカˈタティ ˈスーˈ プˈソー オーッˈタツォー [tuˈmureːˈnaːru maˈkaˈtati ˈsuːˈ pu̥ˈsoː ʔoːtˈtatsoː](友利家にマカタという人はおられたそうだ)。

ˈマガタマ [ˈmagatama] 【名】祭祀用の玉。まがたま(曲玉)。サˈカサーˈ マガタマ ˈムティ ˈオーˈルンツォー [sạˈkasaːˈ magatama ˈmuti ˈʔoːˈruntsoː](司 < 巫女 > は曲玉を持っておられるそうだ)。

マˈカˈトー [maˈkaˈtoː] 【固】人名。女性の名。パˈナシケーˈナーン ˈナラシケーナーン トゥˈムシェーˈナーン ˈウイザテーˈナーン マˈカˈトーティ ˈスーˈ プˈソー オーッˈタンツォー [paˈnaʃi̥keːˈnaːn ˈnaraʃi̥keːnaːn tuˈmuʃeːˈnaːm maˈkaˈtoːti ˈsuːˈ pu̥ˈsoː ʔoːtˈtaŋtsoː](花城家にも成底家にも宮良家にも上里家にもマカトーという人はおられたそうだ)。

マˈカˈナイ [maˈkaˈnai] 【名】炊事。食事を作ること。給仕すること。「賄(マカナイ)」の転訛。ˈドゥーマカナイ ˈシー ブー [ˈduːmakanai ˈʃiː buː](自炊をしている)。ˈタールˈ マˈカˈナイ ˈシーˈ ッˈふィールワ [ˈtaːˈru maˈkaˈnai ˈʃiːˈ fˈfiːruwa](誰が炊事 < 賄い > をしてくれるか)。ˈアッパー ヤˈクニンˈヌ マˈカナイˈプス ˈシー オーˈレーティル ˈグンˈボー ナˈソーˈレーツォー [ˈʔappa: jaˈkuninˈnu maˈkanaiˈpu̥su ˈʃiː ʔoːˈreːtiru ˈgumˈboː naˈsoːˈreːtsoː](お祖母さんは役人の賄い婦をしておられたので、役人の落胤 < 役人と平民の混血児。混紡 > を生みなさったそうだ)。

マˈカナイˈプス [maˈkanaiˈpu̥su] 【名】賄い人。下宿人。ˈウンˈネナー マˈカナイプスˈヌ ˈオーˈルン [ˈʔunˈnena: maˈkanaipu̥suˈnu ˈʔoːˈruŋ](あの家に下宿人 < 賄い人 > がいらっしゃる)。

マˈカナイミドゥˈム [maˈkanaimiduˈmu] 【名】賄い女。琉球国時代に八重山の離島で役人の衣食住の世話をした女性。その役人との間に生まれた子をˈグンˈボー [ˈgumˈboː](混血児) という。パˈトゥˈマナーン ヤˈクニンˈヌ マˈカナイミドゥˈム ˈソー

˩レー　プ˞ソー　オー˩ルン [pḁ˞tu˩manaːŋ ja˞kunin˩ nu ma˞kanaimidu˩mu ˞soː˩reː pu̥˞soː ʔoː˩ruŋ](鳩間島にも役人の賄い女をされた人はおられる)。

マ˞カ˩ナウン [ma˞ka˩nauŋ] 【他動】衣食住の世話をする。下宿人の給仕をする。「賄う」の義。琉球国時代には、離島では役人の給仕から身辺の世話、よとぎ (夜伽) まで、選ばれた未婚の女性が世話をした。˞ヤースクリ˩ヌ　バ˞コーシン˩カ　マ˞カ˩ナウン [˞jaːsu̥kuri˩nu ba˞koːʃiŋ˩ka ma˞ka˩nauŋ](家屋建築の共同作業人衆の大量炊事を賄う＜食事を世話する＞)。ム˞カ˩シェー　ヤ˞クニン　マ˞カ˩ナウンティ˞シー˩　マ˞カ˩ナウ　ミ˞ドゥ˩ム　シ˞マカー˩ジ　イ˞ラ˩ボーッタンツォー [mu˞ka˩ʃeː ja˞ku˩nim ma˞ka˩naunti ˞ʃiː˩ ma˞ka˩nau mi˞du˩mu ʃi˞makaː˩ʤi ʔi˞ra˩ boːttantsoː](昔は役人を賄おうとして、賄う未婚の女性を島ごとに選ばれたそうだ)。マ˞カナイ˩　グ˞リ˩サル　プ˞ソー˩　マ˞カナーン˩タンティン　˩ミサン [ma˞kanai˩ gu˞ri˩saru pu̥˞soː˩ ma˞kanaːn˩tantim ˩misaŋ](賄いにくい人は賄わなくてもよい)。マ˞カナイ˩ヤー　˩ミサムヌ [ma˞kanai˩jaː ˩misamunu](賄えばいいのに)。ク˞ヌ˩　プ˞ソー　ワー˩　マ˞カ˩ナイ [ku˞nu˩ pu̥˞soː waː˩ ma˞ka˩nai](この人は君が賄いなさい)。

マ˞カブ [ma˞kabu] 【名】(動) 魚名。ベラ科のくさべら、体長約 30 センチや、同じくベラ科の、しろくさべら、体長約 60 センチも含めて云う。刺身や蒲鉾にして食すると美味である。マ˞カボー˩　ナ˞マ˩シ˩キシティ　フ˞ナブ˩トゥ　˞ミー˩スナ　カ˞ケー˩スカー　ン˞マー˩タン [ma˞kaboː˩ na˞ma˩ʃi ˩kiʃiti ɸu˞nabu˩tu ˞miː˩suna a˞keː˩suka: ʔm˞maː˩taŋ](マカブは刺身に切って、九年母の汁と味噌を和えた垂れにつけて食すると美味であった)。

マ˞ガ˩ヤー [ma˞ga˩jaː] 【名】曲がったもの。ウ˞レー˩　マ˞ガ˩ヤー　˩ナリティ　シゥ˞カーラヌ [ʔu˞reː˩ ma˞ga˩jaː ˩nariti si̥˞kaːranu](それは曲がったものになっていて使えない)。

マ˞ガ˩ラ [ma˞ga˩ra] 【名】父系の血筋。血縁。「真・から (柄、族)」の義か。「〜問ひさくる親族兄弟＜ウカラハラカラ＞無き国に〜。万、460」の転訛したものか。マ˞ガ˩ラピキ [ma˞ga˩rapi̥ki](父系の血縁関係) は、˞インビ˩キ [˞ʔimbi˩ki](母系の血縁関係。姻戚関係) の対義語。˞ウン˩ネートー　マ˞ガ˩ラピキル　˩ナリ　˞ブンダ　ソッコー˩ムノー　˞コーパナ˩トゥ　サ˞キ˩　ッ˞スムチ˩ヌ　ジ˞ブ˩ク　ス˞コーリル˩　ナルカヤー [˞ʔun˩neːto: ma˞ga˩rapikiru ˩nari ˞bunda sokkoː˩muno: ˞koːpana˩tu sḁ˞ki˩ s˞sumutʃi˩nu ʤi˞bu˩ku su̥˞koːriru˩ narukajaː](あの家とはマガラピキ＜父系の近しい血縁関係＞になっているから、法事の供物は線香と花米、酒、白餅の重箱を用意しなければならないのかねえ)。

マ˞ガ˩ラピキ [ma˞ga˩rapi̥ki] 【名】父系の血縁関係を有する親族集団。˞インビ˩キ [˞ʔimbi˩ki](母系の血縁関係を有する親族集団。姻戚関係) の対義語。この血縁関係にある者は、法事の際、˞ナン˩カ [˞naŋ˩ka](初七日忌から四十九日忌の法事) や˞ソッ˩コー [˞sok˩koː](焼香。法事。一周忌から三十三年忌まで) の際に、˩グシパナ [˩guʃipana](酒と三合花米) やウ˞ティン˩ガビ [ʔu˞tiŋ˩gabi](紙銭＜打ち紙＞3 枚)、˞カウ [˞kau](線香 1 束) をそなえる習慣が 1960 年代頃まであった。˞ワッ˩テートゥ　˞バン˩テーヤ　マ˞ガ˩ラピキ　˞ダー [˞wat˩teːtu ˞ban˩teːja ma˞ga˩rapiki ˞daː](君の家と私の家はマガラピキ＜父系の血縁関係＞の関係だよ)。

マ˞ガリカドゥ [ma˞garikadu] 【名】曲がり角。道の曲がっている所。進む方向の変わり目。ミ˞チ˩ヌ　マ˞ガリカドゥ˩ナー　プ˞スヌ˩　ア˞ツァ˩マリ　˞ベー [mi˞ʧi˩nu ma˞garikadu˩naː pu̥˞sunu˩ ʔa˞tsa˩mari ˞beː](道の曲がり角に人が集まっている)。

マ˞ガリ˩クガリ [ma˞gari˩kugari] 【副】曲がりくねって。ABCDBC 型の重言。ウ˞ヌ˩　ミチェー　マ˞ガリ˩クガリ　シ˞ティ˩　ア˞ラキグリサ˩ン [ʔu˞nu˩ miʧeː ma˞gari˩kugari ʃi̥˞ti˩ ʔa˞rakiguri˩saŋ](その道は曲がりくねっていて歩きにくい＜難い＞)。

マ˞カ˩ル [ma˞ka˩ru] (1) 【名】 1ご飯やお汁用の茶碗。「椀、杯也、万利 (まり)」『新撰字鏡』。「おまかり　茶碗の類をいふ　和詞にもまかり」『混効験集』、「碗　麻加立」『琉球館訳語』、「飯碗　麦介衣」『中山伝信録』、「鋺、おまへにしろがねのまがりなど〜」『宇津保物語』の転訛したもの。˞イーマカ˩ル [˞ʔiːmaka˩ru](ご飯茶碗)、˞スーマカ˩ル [˞suːmaka˩ru](お汁茶碗)。マ˞カ˩ルドング [ma˞ka˩rudoŋgu](食器類の総称)。他に˞シームヌバン [˞ʃiːmunubaŋ](吸い物碗) がある。マ˞カ˩ルサバン [ma˞ka˩rusabaŋ](お碗や湯のみ茶碗類)。マ˞カ˩ルナー　˞イー˩バ　ム˞リティ˩　シ˞キリ [ma˞ka˩runaː ˞ʔiː˩ba mu˞riti˩ ʃi̥˞kiri](お碗に飯を盛って供えなさい) **(2)**【接尾】杯。お碗に入れたものを数える単位。プ˞スマカ˩ル [pu̥˞sumaka˩ru](飯碗の一杯)。フ˞タマカル [ɸu̥˞tamakaru](飯飯の二杯)。˞ミーマカル [˞miːmakaru](飯碗の三杯)。˞ユーマカル [˞juːmakaru](飯碗の四杯)。イ˞チマカ˩

ル [ʔiˈtʃimaka˥ru](飯の五杯)。

˥マカルサバン [˥makarusabaŋ] 【名】碗や皿の総称。食器類。˥マカルサバン　スˈローサバ˥ル　ˈスータイ˥ヤー　ムˈタ˥リ [˥makarusaban suˈroːsaba˥ru ˈsuːtai˥jaː muˈta˥ri](食器類 < 碗や皿 > を揃えないと所帯は持てない < 揃えればぞ所帯はもたれる >)。

˥マカルザラ [˥makaruʤara] 【名】茶碗や皿などの総称。食器類。ˈイー˥　ッふーカー　ˈドゥー˥ヌ　˥マカルザラー　˥ドゥーシ　アˈライ [ˈʔiː˥ ffuːkaː ˈduː˥nu ˥makaruʤaraː ˥duːʃi ʔaˈrai](ご飯を食べたら自分の食器類は自分で洗いなさい)。

˥マカルドング [˥makarudoŋgu] 【名】食器類。食器の総称。ˈヤーバカ˥リ　ˈスンティ˥　スˈクタヌ˥　マカルドンゴー　スˈロー˥シェーンカヤー [ˈjaːbaka˥ri ˈsunti˥ sɯˈkutanu˥ makarudoŋgoː suˈroː˥ʃeːŋkajaː](分家すると聞いたが、食器類は揃えたかね)。

マˈガルン [maˈgaruŋ] 【自動】1曲がる。カˈヌ　シン˥ダー　マˈギル˥カー　マˈガルンドゥ˥　クˈレー˥　マˈガラン˥サー [kaˈnu ʃin˥daː maˈgiru˥kaː maˈgarundu˥ kuˈreː˥ maˈgaran˥saː](あの針金は曲げたら曲がるが、此れは曲がらないよ)。ˈウイ˥プス　ナˈル˥ター　クˈシェー˥　マˈガリ　ナー˥ヌ [˥tuʃi tuˈru˥taː kɯˈʃeː˥ maˈgari naː˥nu](年をとったので腰が曲がってしまった)。マˈガル　キー˥ヤ　ブˈリラ˥ヌ [maˈgaru kiː˥ja buˈrira˥nu](曲がる木は折れない)。クˈヌ˥　カドーラ　マˈガレー˥　ミサムヌ [kuˈnu˥ kadoːra maˈgareː˥ misamunu](この角から曲がればいいのに)。ˈパー˥ク　マˈガリ [ˈpaː˥ku maˈgari](早く曲がれ)。2縮こまる。萎縮する。イˈザリティ˥　マˈガリ　ベー [ʔiˈʤariti˥ maˈgari beː](叱られて縮みこまっている)。

マˈガレー˥クガレー [maˈgareː˥kugareː] 【副】曲がりくねって。ABCDBC 型の重言。マˈガレー˥クガレー　ˈシー　ブー˥　ミチェー　アˈラキグリ˥サンダ　ˈマーリミチ　シー˥バ [maˈgareː˥ kugareː ˈʃiː buː˥ mitʃeː ʔaˈrakiguri˥sanda ˈmaːrimitʃi ʃiː˥pari](曲がりくねっている道は歩き難(ニク)いから、回り道をして行きなさい)。

マˈキ [maˈki] 【名】1牧場。昔は西表島の˥インダ [˥ʔinda](伊武田) 地区とサˈキンダ [saˈkinda](崎田) 地区に鳩間島のウˈシマキ [ʔuˈʃimaki](牛の放牧場) があった。伊武田にはフˈク˥ヌマキ [ɸɯˈku˥nu-maki](福浜の牧場) があり、ウˈシヌ˥ウガン [ʔuˈʃinu˥ʔugaŋ](牛の御嶽) もあって、毎年旧暦 9 月のウˈシニー [ʔuˈʃiniː](干支の丑の日) にウˈシニン˥ガイ [ʔuˈʃiniŋ˥gai](牛の繁盛祈願) が行われ、ˈ牛の繁昌祈願 < 祝い > の歌」が歌われた。次に、伝承されている、ウˈシヌヨイヌ˥　ウタ [ʔuˈʃinujoi˥nu ˥ʔuta](牛の繁昌祈願 < 祝い > の歌の歌詞 (伝承者、加治工伊佐)) を示す。/**(1)** キューヌ　ピーヌ　ウユワイムトゥ　スイナウレ (今日の日の祝いの元、スイナウレ < 囃子 >)、**(2)** フクヌマキ　ウユワイムトゥ　スイナウレ (福浜の牧場の祝いの元スイナウレ)、**(3)** ムヤシバードゥ　パンゾー　スームトゥ　スイナウレ (発情 < ズブマイ > したらばこそ繁昌の元になるスイナウレ)、**(4)** パンジョー　シーヌ　ウミサク　ムムドゥ　スイナウレ (繁昌させるお神酒百度　スイナウレ)/。2豚舎。豚便所。「豚の牧」の義。ムˈカ˥シェー　ˈヤーカー˥ジナー　ˈオー˥ヌ　˥マケー　アˈリ˥ブタ [muˈka˥ʃeː ˈjaːkaː˥ʤinaː ˈʔoː˥nu ˥makeː ʔaˈri˥buta](昔は家毎に豚舎 < 豚便所 > はあった < 有り居った >)。

マˈキ [maˈki] 【名】つむじ (旋毛)。人の頭頂にある、毛髪の渦巻き。ピˈジ˥ル [piˈʤi˥ru](つむじ。旋毛) ともいう。マˈキヌ˥　フˈターチ˥　アル　ッˈふァー˥　ヤˈマン˥グティ　アˈザリブートˈ ダー [maˈkinu˥ ɸɯˈtaːtʃi˥ ʔaru fˈfaː˥ jaˈmaŋ˥guti ʔaˈʤari buːˈ-daː](旋毛(ツムジ)が二つある子は腕白者だといわれているよ)。

マˈキ [maˈki] 【名】1負け。ˈスーブ˥グトー　マˈキヌ˥　シˈジク˥カー　ヤˈミリ [ˈsuːbu˥guto: maˈkinu˥ ʃiˈʤiku˥kaː jaˈmiri](勝負事は負けが続いたら止めよ)。˥カチマケー　ˈカンガウ˥ナ [˥kɯ̥tʃimakeː ˈkaŋgau˥na](勝ち負けは考えるな)。2かぶれ (気触れ)。かぶれによる発疹や炎症。パˈジマキ˥　シˈティ˥　フˈクリ　ベー [paˈʤimaki˥ ʃɯ̥ˈti˥ ɸɯˈkuri beː](はぜのき < 黄櫨 > にかぶれて腫れている)。

˥マギー [˥magiː] 【名】大きいもの一般をさす。特別に大きいものには、ブˈサー˥ラ [buˈsaː˥ra](大きい動物や植物) ということが多い。ノーˈン˥　マˈギー˥ル　シゥˈカイヤッ˥サル　グˈマーヤ˥　シゥˈカイ˥　グˈリ˥サンティ　アˈザリ　ブー [noːˈm˥ maˈgiː˥ru sɯ̥ˈkaijas˥saru guˈmaː˥ja sɯ̥ˈkaiguri˥santi ʔaˈʤari buː](何でも大きいのが使いやすいのだ。小さいのは使いにくいといわれている)。˥マギーラ　イˈラ˥ビ　˥トゥリ [˥magiːra ʔiˈra˥bi ˥turi](大きいのから選んで取れ)。

マˈギーマギー˥シ [maˈgiːmagiː˥ʃi] 【副】大きく。大々的に。ˈヤーニンズー˥ヌ　ˈゴー˥ラーユンダ　ˈヤー˥ヤ　マˈギーマギー˥シ　スˈク˥リバ [ˈjaːninʤuː˥nu ˈgoː˥raːjunda ˈjaː˥ja maˈgiːmagiː˥ʃi sɯ̥ˈku˥riba](家

族が多いから、家は大きく作りなさいよ)。

マ˞キイクサ [ma˞ki?ikusa] 【名】負け戦。敗戦。˞ドゥー˜ヌ　˜タケー　ワ˞カラ˜ムティ　ア˞ミリカ˜トゥ　イ˞クサ˜バ　ウ˞ク˜シティル　マ˞キイクサ　シェー˜ダー [˞du:˜nu ˜tạke: wa˞kara˜muti ?a˞miri˜katu ?i ˞kusa˜ba ?u˞ku˜ʃi̥tiru ma˞ki?ikusa ʃe:˜da:](自分の実力＜身の丈＞を知らずにアメリカと戦争を起こして負け戦をしたのだ)。

マ˞キカビ [ma˞kikabi] 【名】˞巻き紙」の義。ム˞ルムル [mu˞rumuru](大焼香に供える砂糖黍を束ねたもの) を巻いて飾る幅約 3 センチ、長さ約 30 センチの紅白の紙。˞ソーラン˜ヌ　ム˞ルムルヌ　シン˜ザナー　マ˞キカビ˜　パ˞リティ　キーヌ˜ナル　˜ッシバ [˞so:ran˜nu mu˞rumurunu ʃin˜ʤana: ma˞kikabi ˜ pa˞riti ki:nu˜ naru ˜ʃʃiba](お盆のムルムルの砂糖黍の束に巻き紙を貼って木の実を挿しなさい)。

マ˞キザーラ˜スン [ma˞kiʤa:ra˜suŋ] 【他動】撒き散らす。ばらばらに振り撒く。タ˞タミヌ　ウイ˜ナー　イ˞ノンバ˜　マ˞キザーラ˜シ　˜シケーバン [tạ˞taminu ?ui˜na: ?i˞nomba˜ ma˞kiʤa:ra˜ʃi ˜ʃi̥ke:baŋ](畳の上に砂を撒き散らかしてあるわい)。˞ヤーン˜　ナカナー　イ˞ノン˜　マ˞キザーラサン˜ドーシ　ミ˞ナ˜カナー　マ˞キザーラ˜シェー　˜ミサムヌ [˞ja:n ˜ nakana: ?i˞nom˜ ma˞kiʤa:rasan˜do:ʃi mi˞naka˜na: ma˞kiʤa:ra˜ʃe: ˜misamunu](室内で砂を撒き散らさないで､庭で撒き散らせばいいのに)。マ˞キザーラ˜ス　˜ムノー　˞パー˜ク　マ˞キザーラ˜シ [ma˞kiʤa:ra˜su ˜muno: ˞pa:˜ku ma˞kiʤa:ra˜ʃi](撒き散らすものは早く撒き散らせ)。

マ˞キシンカ [ma˞kiʃiŋka] 【名】牧場を共同で経営している仲間。マ˞キニンズー [ma˞kinindʒu:](牧人数) ともいう。˜インダヌ　フ˞ク˜ヌマキヌ　マ˞キシンカー　インヌムラ˜ナー　˜ウブシケートゥ　˞ダイ˜ケートゥ　カ˞ザケートゥ˜　パ˞ナシケー˜　ユージェーヌ　プ˞スンケー˜ヌル　˞オー˜レー˞ナー [˜?indanu ɸu̥˞ku˜numakinu ma˞kiʃiŋka: ?innumura ˜na: ˜?ubuʃi̥ke:tu ˞daiʤke:tu ka˞ʤake:tu˜ pa˞naʃi̥ke:˜ ju:ʤe:nu pu̥˞suŋke:˜ru ˞?o:˜re:˞na:](伊武田地区のフクヌマキ＜福浜の牧場＞の仲間は、西村では大城家と大工家と加治工家と花城家、松竹家の人々がおられたんだねえ)。

マ˞キダ [ma˞kida] 【名】ちまき (千巻)。織った布を巻き取る木製の円い棒。「巻き板の約まった形」という『石垣方言辞典』。マ˞キダ˜ナー　˞ヌーノー　ヌーン˜ブカラ　マ˞カレー˜ワ [ma˞kida˜na: ˞nu:no: nu:m˜bukara ma˞kare:˜wa](千巻(チマキ)には、布はどれほど＜どれくらい＞ど巻かれているか)。

マ˞キタバク [ma˞kitabaku] 【名】巻きタバコ (煙草)。キ˞ザミタバク [ki˞ʤamitabaku](刻み煙草) の対義語。ム˞カ˜シェー　マ˞キタバク˜　フ˞コー˜ル　プ˞ソー　オーラン˜シェン　キ˞ザミタバクバ˜　キ˞シ˜ルシル　フ˞コーッタ˜ル [mu˞kaʃe: ma˞kitabaku ˜ ɸu̥˞ko:˜ru pu̥˞so: ?o:raŋ˜ʃeŋ ki˞ʤamitabakuba˜ ki̥˞ʃi ˜ruʃiru ɸu̥˞ko:tta˜ru](昔は巻き煙草を吸う＜ふかす＞人はおられなかった。刻み煙草を煙管で吸われた)。

マ˞キックムン [ma˞kikkumuŋ] 【他動】巻き込む。仲間に入れる。プ˞スバー˜キ　マ˞キックミティ　ミーワク˜　シ˞ミ˜　シケー [pu̥˞suba:˜ki ma˞kikkumiti mi:waku˜ ʃi˞mi˜ ʃi̥ke:](他人まで巻き込んで迷惑をかけてある)。ムー˞ル˜　マ˞キックムンティ　スンドゥ˜　マ˞キックマラヌ [mu:˞ru˜ ma˞kikkumunti sundu˜ ma˞kikkumaranu](全員巻き込もうとするが、巻き込まれない)。マ˞キックム˜　ピンマー　ムー˞ル˜　マ˞キックメー˜　ミサムヌ [ma˞kikkumu ˜ pimma: mu:˞ru˜ ma˞kikkume:˜ misamunu](巻き込む時は全員巻き込めばいいのに)。マ˞キックミ [ma ˞kikkumi](巻き込め)。

マ˞キッツァー˜スン [ma˞kittsa:˜suŋ] 【他動】撒き散らす。ばらまく。ばら蒔きにする。マ˞キッツァーラ˜スン [ma˞kittsa:ra˜suŋ](撒き散らす。ばらまく。ばら蒔きにする) ともいう。˞ワー　ムン˜ヌ　˜タニ　マ˞キッツァー˜スンティ　˞ベー˜ヌ　˜アイニ　マ˞キッツァーサン˜ドーシ　シ˞ジ˜バ　ス˞ク˜リティ　˜マキバ [˞wa: mun˜nu ˜tani ma˞kittsa:˜sunti ˞be:˜nu ˜?aini ma˞kittsa:san˜do:ʃi ʃi˞ʤi˜ba su̥˞ku˜riti ˜ makiba](君は麦の種を撒き散らそう＜ばら蒔きにしよう＞としているが、あんなに撒き散らさないで筋をを作って播きなさいよ)。マ˞キッツァー˜シ　˞ナー˜ヌ [ma˞kittsa˜ʃi ˞na:˜nu](撒き散らしてしまった)。マ˞キッツァー˜ス　˞ムン˜マー　˞ノーラ˜ヌ [ma˞kittsa:˜su ˞mum˜ma: ˞no:ra˜nu](ばら蒔きにする麦は稔らない)。マ˞キッツァー˜シェー　˜ミサムヌ [ma˞kittsa:˜ʃe: ˜misamunu](撒き散らせばいいのに)。ムー˞ル˜　マ˞キッツァー˜シ [mu:˞ru˜ ma˞kittsa:˜ʃi](全部撒き散らせ)。

マ˞キヌ˜　ヨイ [ma˞kinu˜ joi] 【連】牛牧の祝い。牧場の祝い。毎年旧暦の 9 月の干支のウ˞シニー [?u˞ʃini:](丑の日) にフ˞ク˜ヌマキ [ɸu̥˞ku˜numaki](西表島伊武田地区の福の牧) のウ˞シヌ˜ウガン [?u˞ʃinu˜

ʔugaŋ](牛の御嶽) で行われた。子牛の耳を切って˞ヤー˥バン [˞jaː˥baŋ](各家の目印) を付け、牛の繁昌祈願が行われた。その際、二人一組で対座して˞ペンシキビリ [˞peŋʃikibiri](正座。跪いて座ること) し、ミ˞キバタ˥シ [mi˞kibata˥ʃi](神酒を入れる容器) を持ち上げ、歌の調子に合わせて右上、左上へと交互に持ち上げた。歌い終わって次の組みに手渡す際は、次の詞章を交わした。A(ミキバタシを手渡す側): マ˞ムレー˥　マ˞ムレー˥　ッサリー　˞キュー˥ヌピー　ク˞ガニピー˥ナ　タ˞ボーラリ˥タル　˞ウーミサ˥クドゥ　˞マーム˥レー˞ユー˥　ッサリー　シ˞ギシューヤ　タッ˥テヌ　˞ウンナーマ˥ドゥ　シ˞ギシューユー˥　ッサリー　イ˞メーヌ　カー˥ジ (マムレーマムレー < 神の加護だ、神の加護だ >、申し上げます。今日の佳日、黄金の日に賜ったお神酒が神の御守護の印と申します。次の主は、どこそこの家のお方が次主でございます。サリー。さあお参りなさいませ)。B(受け取る側):˞ウー˥タリ (畏まりました) といって受け取る。ミ˞キバタ˥シはヤ˞ラブ [ja˞rabu](てりはぼく) の幹を刳り貫いて中腹がへこんだ形に作られ、とって < 把手 > も付いていた (加治工伊佐氏談)。

マ˞キブドゥル [ma˞kibuduru] 【名】巻き踊り。円陣を巻いて踊る踊り。豊年祭の˞パー˥レー [˞paː˥reː](爬竜船) やシ˞ナ˥ピキ [ʃi˞na˥pi̥ki](綱引き) の際に踊られる。˞プール˥ヌ　シ˞ナピキ˥ヌ　˥ピンマー　マ˞キブドゥルン　シーソーッ˥タ˞ナー [˞puːru˥nu ʃi˞napiki˥nu ˥pimmaː ma˞kibuduruŋ ʃiː soːt˥ta˞naː](豊年祭の綱引きの時には巻き踊もなさったよねえ)。

マ˞ギ˥フニ [ma˞gi˥ɸuni] 【名】帆船のジグザグ航法 (帆走方)。「曲げ船」の転訛したもの。˞プーザンプー [˞puːʤampuː](片帆) の˥イダフニ [˥ʔidaɸuni](サバニ) を風上の方へ約 45 度斜めに一定距離走行して後、反転して反対方向の斜め風上へ走行することを繰り返しながら風上の目的地へ辿りつく航法。ニ˞シカジヌ˥　フク　˥ピン　˞パイター˥ラ　パ˞トゥ˥マー　˥パル　˥ピンマー　マ˞ギ˥フニ　˞シェー˥ティル　˞オーッ˥タ [ni˞ʃikaʤinu˥ ɸu̥ku ˥pim ˞paitaː˥ra pḁ˞tu˥maː ˥paru ˥pimmaː ma˞gi˥ɸuni ˞ʃeː˥tiru ˞ʔoːt˥ta](北風が吹く日には、南端 < 西表島 > から鳩間へ行く時には、曲げ船 < ジグザグ帆走 > をしながら行かれたものだ)。

マ˞ギプニ [ma˞gipuni] 【名】たこ (凧) の頭部の幅広の竹骨。此れを強い糸で曲げたわめて張り、油紙を貼り付けて鳴らした。「曲げ骨」の義。ブーブーと鳴るので、普通は˥ブーブーブニ [˥buːbuːbuni](ブーブー唸り骨) という。マ˞ギプニヌ　ヨー˥カー˥ブーボー　˞ナーラヌ [ma˞gipuninu joː˥kaː ˥buːboː˞naːranu](凧の曲げ骨が弱いとブーブは鳴らないよ)。

マ˞キポー˥ルン [ma˞kipoː˥ruŋ] 【他動】撒き散らす。あたり一面にばら撒いて散らす。ヤ˞ラ˥ベー　ム˞タビ˥ムヌ　マ˞キポールン˥ドゥ　ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　ユー　ナ˞ラーサ˥リ　˞ブンダ˥　マ˞キポーラ˥ヌ [ja˞ra˥beː mu˞tabi˥munu ma˞kipoːrun˥du ku˞nu˥ f˞faː˥ juː na˞raːsa˥ri ˞bunda˥ ma˞kipoːra˥nu](子供は玩具を撒き散らすが、この子はよく躾けられているので撒き散らかさない)。マ˞キポー˥リ　˥ミサン [ma˞kipoː˥ri ˥misaŋ](撒き散らしてもよい)。マ˞キポー˥ル　˥クトー　ス˞ナ˥ヨー [ma˞kipoː˥ru ˥ku̥toː su˞na˥joː](撒き散らすことはするなよ)。˞マー˥ビン　マ˞キポー˥レー　˥ミサムヌ [˞maː˥bim ma˞kipoː˥reː ˥misamunu](もっと撒き散らせばいいのに)。˞パー˥ク　マ˞キポー˥リ [˞paː˥ku ma˞kipoː˥ri](早く撒き散らせ)。

マ˞ギ˥ムヌ [ma˞gi˥munu] 【名】まげもの。杉やひのき < 檜 > などの薄い板を円形に曲げ、合わせ目を桜の皮などで綴じて作った容器。標準語から転訛したもの。マ˞ギ˥ムノー　イ˞サナケーラル　ペー˥リ　˞クー˥タ [ma˞gi˥munoː ʔi˞sanakeːraru peː˥ri ˞kuː˥ta](曲げものは石垣島から入ってきた)。

マ˞ギ˥リ [ma˞gi˥ri] 【名】間切り。琉球国時代の行政区画。八重山全体が石垣間切り、大浜間切り、宮良間切りの三間切りに区画されていた。間切りの長が˥カサ [˥kḁsa](カ˞シ˥ラ [kḁ˞ʃi˥ra]< 頭 > の転訛) である。鳩間島は宮良間切りに所属していた。パ˞トゥ˥マー　˞メーラマギリナー˥ル　˞ペー˥リ　ブ˞タト ダー [pḁ˞tu˥maː ˞meːramagirinaː˥ru ˞peː˥ri bu˞taɻ-daː](鳩間島は宮良間切りに入っていたんだよ)。

マ˞キルン [ma˞kiruŋ] 【自動】負ける。「負け < 下二段 >」のラ行四段活用化したもの。「〜もころ男に負而者不有跡 < マケテハアラジト >〜。万、1809」の転訛。ク˞ヌ　スー˥ボー　イッ˞カ˥　マ˞キラヌ˥　マ˞キルンテー˥　ウ˞モーラ˥ヌ [ku˞nu suː˥boː ʔik˞ka˥ ma˞kiranu˥ ma˞kirunteː˥ ʔu˞moːra˥nu](この勝負は決して負けない。負けるとは思われない)。˥メー　キサー˞ティ˥　マ˞キ　ナー˥ヌ [˥meː ki̥sa˞ti˥ ma˞kinaː˥nu](もう既に負けてしまった)。マ˞キル˥　クトー　˞ナーヌ˥ヌ　プ˞スムシナー˥ヤ　マ˞キレー˥

ミサムヌ [ma˞kiru˩ kʉto: ˞na:nu˩nu pʉ˞sumuʃina: ˩ja ma˞kire:˩ misamunu](負けることはないが、一度ぐらいは負ければいいのに)。˞パー˩ク　マ˞キリ [˞pa:˩ku ma˞kiri](早く負けろ)。

マ˞ギルン [ma˞giruŋ] 【他動】曲げる。「橈、木曲折也、弱也、加久、又、万久 (まく)」『新撰字鏡』の転訛か。「Mague,uru,eta. マゲ、グル、ゲタ (曲げ、ぐる、げた) ゆがめ曲げる、または、たわめる」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞ティー˩ヌ　˞ウイ˩ビ　マ˞ギルンティ　スンドゥ˩　マ˞ギララヌ [˞ti:˩nu ˞ʔui˩bi ma˞girunti sundu˩ ma˞giraranu](手の指を曲げようとするが、曲げられない)。マ˞ギ˩ミサカー　マ˞ギル˩　クトー　˩ナルン [ma˞gi˩misaka: ma˞giru˩ kʉto: ˩naruŋ](曲げてよければ曲げることはできる)。˞マー˩ビン　マ˞ギレー˩　ミサムヌ [˞ma:˩bim ma˞gire:˩ misamunu](もっと曲げればいいのに)。˞パー˩ク　マ˞ギリ [˞pa:˩ku ma˞giri](早く曲げろ)。

マ˞キワラ [ma˞kiwara] 【名】杉の皮の繊維を十分に乾燥させて、カツオ船や˞ティンマ [˞timma](伝馬船) の接ぎ板の接合部に強く差し込み、水漏れを防ぐのに用いるもの。また、平釘を打つ際に、平釘の頭部に巻きつけて打ち込み、鉄錆による船板の直接の傷みを防ぐのに用いた。マ˞キワラバ˩　ヒ˞ラクギ˩シ　˞アーシ˩ミーナ　˩ッシ　イ˞リティ˩　ム˞チ　ヌール˩カー　˩フネー　ム˞リラン˩シェン [ma˞kiwaraba˩ çi˞rakugi˩ʃi ˞ʔa:ʃi˩mi:na ˩ʃʃi ʔi˞riti˩ mu˞ʧi nu:ru˩ka: ˩ɸune: mu˞riraŋ˩ʃeŋ](マキワラを平釘で板の接合部分に差し込んで接着剤を塗ると船は漏れなかった)。

˩マク [˩maku] 【名】幕。結願祭の奉納芸の舞台に地謡と舞台の間に張る幕。「幕、万玖 (まく)」『和名抄』の転訛。「Maku. マク (幕) 船の中、陣営、演劇 (能) などで使う長い幕. Macuuo faru.(幕を張る)」『邦訳日葡辞書』の転訛。キ˞チゴンヌ˩　ブ˞ドゥロー　バンク˩ヌ　˩シンタナー　˩マク　パ˞リティ˩　ジーシンカー　˩ウナーティル　˞サンシンマー˩　ピ˞コーッ˩タ [kʉ˞ʧigonnu˩ bu˞duro: baŋku˩nu ˩ʃintana: ˩maku pa˞riti˩ ʤi:ʃiŋka: ˩ʔuna:tiru ˞saŋʃimma:˩ pʉ˞ko:t˩ta](結願祭の踊りは、バンク < 舞台 > の後方に幕を引き張って、地謡仲間 < 臣下 > はそこで三線を弾かれた)。

マ˞ク˩ウチ [ma˞ku˩ʔuʧi] 【名】楽屋裏。「幕内」の義。ブ˞ドゥルヌ　ドン˩グ　˞バシキル˩カー　マ˞ク˩ウチェーラ　ン˞ザ˩シバ [bu˞durunu doŋ˩gu ˞baʃʉ˞kiru˩ka: ma˞ku˩ʔuʧe:ra ʔn˞ʤa˩ʃiba](踊りの小道具を忘れたら幕内から出しなさいよ)。

マ˞グクル [ma˞gukuru] 【名】真心。真実の心。「Magocoro. マゴコロ (真心) すなわち、Makotono cocoro. (真の心) 素直で誠実な心.」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。マ˞グクルヌ˩サーギ　˩アルカー　˩アトゥアトー　ヤー˞ディン˩　バ˞カ˩ロールン (ミ˞トゥ˩モールン)[ma˞gukurunu˩sa:gi ˩ʔaruka: ˩ʔatuato: ja:˞diŋ˩ ba˞ka˩ro:ruŋ(mi˞tu˩mo:ruŋ)](真心がさえあれば、後々きっとお分かりになられる < 認められる > よ)。

マ˞クトゥ [ma˞kutu] 【名】真実。本当のこと。正直者。「～眞間の手兒名を麻許登賀聞 < マコトカモ >～。万、3384」。「太々志支己止、又、万己止 < マコト > 也」『新撰字鏡』の転訛したもの。マ˞クトゥヌ˩　ク˞トゥ˩バ　ア˞ジ˩　ッ˞サリリ [ma˞kutunu˩ kʉ˞tu˩ba ʔa˞ʤi˩ s˞sariri](真実のことを申し上げなさい)。マ˞クトゥヌ˩　プ˞ス [ma˞kutunu˩ pʉ˞su](正直者)。/マクトゥ　キキシミ　パトゥマムラ　ウイムワカキム　ピトゥククル　シジク　パンジョヌ　ナウマサル/(まこと < 真実 > を聞き積み上げる鳩間村は、老いも若きも一心同体で、続く子孫繁盛が尚一層勝っている)(鳩間口説)『鳩間島古典民謡古謡集』。

マ˞クブ [ma˞kubu] 【名】(動) 魚の名。和名、クサベラ (体長約 30 センチ)。和名、シロクラベラ (体長約 50 センチ) の総称。魚肉は白色の淡白な味であるが、刺身にして、その肝を味噌で溶かし、˞シークヮー˩サーで和えて食すると美味である。蒲鉾の材料としても重宝された。マ˞クボー˩　ナ˞マ˩シ　˩キシティ　ウ˞ヌ˩　キ˞ム˩バ　˞ミー˩スナ　カ˞ケー˩シティ　フ˞ナブ˩ヌ　˩シル　˩カキティ　ッ˞ふー˩カー　ン˞マー˩ン [ma˞kubo:˩ na˞ma˩ʃi ˩kʉʃiti ʔu˞nu˩ ki˞mu˩ba ˞mi:˩suna kʉ˞ke:˩ʃiti ɸu˞nabu˩nu ˩ʃiru ˩kʉkiti f˞fu:˩ka ʔm˞ma:˩ŋ](マクブは刺身に切って、その肝を味噌に混ぜ合わせて、ミカン < 九年母 > の汁をかけて食べると美味しい)。

マ˞クン [ma˞kuŋ] 【自動】負ける。「負け < 下二段 >」のカ行四段活用化したもの。「～もころ男に負而者不有跡 < マケテハアラジト >～。万、1809」の転訛。マ˞キルンとも言う。˞クン˩ドー　イッ˞カ˩　マ˞カヌ [˞kun˩do: ʔik˞ka˩ ma˞kanu](今度は決して負けない)。マ˞クンティ˩　ウムーカー　˞スー˩ボー　サ˞ヌ [ma˞kunti˩ ʔumu:ka: ˞su:˩bo: sa˞nu](負けると思うなら勝負はしない)。˞クン˩ドゥン　マ˞キナー˩ヌ [˞kun˩dum ma˞ki na:˩nu](今度も負けてし

まった)。˥バー　マ˞ク˥クトー　˞ナー˥ヌ [˥baː maˑku˥ kʉto: ˞naː˥nu](私が負けることは無い)。プ˞スケン˥ナー　マ˞ケー˥　ミサムヌ [pʉ˞suken˥naː maˑkeː˥ misamunu](たまには＜一度ぐらいは＞負ければいいのに)。˞ワー˥　マ˞キ˥バ [˞waː˥ maˑki˥ba](君は負けよ)。

マ˞クン [maˑkuŋ] 【他動】巻く。長いものをくるくる丸める。「玉ならば手にも將巻乎 (まかむを)〜。万、729」の転訛。「Maqi,u,aita. マキ、ク、イタ (巻き、く、いた) ぐるぐる巻く、または、包みくるむ.」『邦訳日葡辞書』の転訛。˞クン˥ナー　˥イトゥ　マ˞クンティ　スンドゥ˥　マ˞カラヌ [˞kun˥naː ˥ʔitu maˑkunti sundu˥ maˑkaranu](此れに糸を巻こうとするが、巻かれない)。˞クン˥ナー　マ˞キ˥　ミサカー　マ˞ク˥　クトー　˥ナルン [˞kun˥naː maˑki˥ misakaː maˑku˥ kʉto: ˥naruŋ](これに巻いてよければ巻くことはできる)。˞パー˥ク　マ˞ケー˥　ミサムヌ [˞paː˥ku maˑkeː˥ misamunu](早く巻けばいいのに)。パ˞ヤーパヤー˥シ　マ˞キ [paˑjaːpajaː˥ʃi maˑki](早く＜早々と＞巻け)。

˥マクン [˥makuŋ] 【他動】1種を蒔く。播種する。「Maqi,u,aita. マキ、く、イタ (蒔き、く、いた) 種子をまく」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˥マミ˥マクン [˥mami ˥makuŋ](豆を蒔く)。˞キュー˥ヤマ˞カ˥ヌ [˞kjuː˥ja maˑka˥nu](今日は蒔かない)。マ˞キ˥　プサン [maˑki˥ pʉsaŋ](蒔きたい)。˥マミ　˥マク　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [˥mami ˥maku pʉ˞soː˥ buˑraːnu](豆を蒔く人はいない)。ア˞ガマミ˥　マケー　˥ミサムヌ [ʔaˑgamami˥ makeː ˥misamunu](小豆を蒔けばいいのに)。ア˞ミ˥ヌ　˞ホーン˥ケン　˞パー˥ク　˥タニ　˥マキ [ʔaˑmi˥nu ˞hoːŋ˥kem ˞paː˥ku ˥tani ˥maki](雨が降らないうちに早く種子を蒔け)。2撒く。散水する。フ˞クイヌ˥　タトゥンダ　ミ˞ナ˥カナー　ミ˞ジ˥　マキ [ɸʉ˞kuinu˥ tʉatunda miˑna˥kanaː miˑʤi˥ maki](埃がたつから庭に水を撒け)。

マ˞グン [maˑguŋ] 【他動】曲げる。湾曲させる。「橈、木曲折也、弱也、加久、又、万久 (まぐ)」『新撰字鏡』の転訛したもの。「まぐ＜下二段＞」のガ行四段活用化したもの。˞ウイ˥ビ＜ウ˞ヤ˥ビ＞　マ˞グン [˞ʔui˥bi＜ʔuˑja˥bi＞ maˑguŋ](指を曲げる)。˞ティー˥ヤ　マ˞ギ˥ティ　ア˞ゾール˥ヌ　マ˞ギ˥　プサー　˞ナー (ン)˥ユンダ　イッ˞カ˥　マ˞ガヌ [˞tiː˥ja maˑgi˥ti ʔaˑʤoːru˥nu maˑgi˥pʉsaː ˞naː＜ŋ＞˥junda ʔikˑka˥ maˑganu](指を曲げろと言われるが、曲げたくないので、一向に曲げない)。マ˞グ˥　プ˞ソー˥　マ˞ゲー˥　ミサムヌ [maˑgu˥pʉ˞soː˥ maˑgeː˥ misamunu](曲げる人は曲げればいいのに)。ク˞ヌ　シン˥ダー　マ˞ギ˥バ [kuˑnu ʃin˥daː maˑgi˥ba](この針金は曲げよ)。

˥マコヤ [˥makoja] 【名】(動) ヤシガニ。カ˞ツシンヌ˥　ジ˞ブンマー˥　カ˞ツヌ　ピーマーバ˥　ア˞ダンブラ˥ヌ　˥ニーナ　フ˞バリ˥　シキティ　ウ˞リ˥シル　˥マコヤー　トゥ˞ルタ˥ル [kʉ˞tsuʃinnu˥ ʤi˞bummaː˥ kʉ˞tsunu piːmaːba˥ ʔaˑdambura˥nu ˥niːna ɸuˑbari˥ ʃʉkiti ʔuˑriʃi˥ru ˥makoja: tuˑruta˥ru](カツオ漁船の時期には、カツオのえら＜鰓＞をアダンの根っこに括(ククル)っておいて、それでヤシガニを獲ったものだ)。˥マコヤー　˞ネーシティ˥　ア˞ガマン˥カー　˞ビー˥ルン [˥makoja: ˞neːʃʉti˥ ʔaˑgamaŋ˥kaː ˞biː˥ruŋ](ヤシガニは煮て赤くならないと食中毒を起こす＜酔う＞)。

˥マサーカサー　˞ナー˥ヌ [˥masaːkasaː ˞naː˥nu] 【連】1不元気である。体調不良である。˥マサーカサー　˞ナー˥ムティ　ナー˞イ˥　ナ˞マ˥ジリ　シ˞グトゥ　シー　アー˥キティル　˞ヤン˥バ　˞フッカイシミ˥　シケーバン [˥masaːkasaː ˞naː˥muti naː˞ji˥ naˑma˥ʤiri ʃi ˞gutu ʃiː ʔaː˥kitiru ˞jam˥ba ˞ɸukkaiʃimi˥ ʃʉkeːbaŋ](不元気＜体調不良＞だのに、養生しないで生半可に、のらりくらりと仕事をして病気を再発＜吹き返し＞させてしまっているよ)。2差障りのある、意味不明瞭な話。すっきりしない話。˥マサーカサ　˞ーナーン˥　ム˞ニ˥バ　イ˞ジ　アーク˥ヌ　プ˞スン˥　シゥ˞カリ˥カー　˞デー˥ジ˞ダー [˥masaːkasaː ˞naːm˥ muˑni˥ba ʔiˑʤi ʔaːku˥nu pʉ˞sun˥ sʉ˞kari˥kaː ˞deː˥ʤiˑdaː](差障りのある、問題含みの意味不明瞭な話をしているが、他人に聞かれたら大変だぞ)。

マ˞ザーシ˥イー [maˑʤaːʃi˥ʔiː] 【名】米と芋を混ぜて炊いたご飯。「混ぜご飯」の義。日常は˞ウンヌダー˥キ [˞ʔunnudaː˥ki](芋だけを煮て潰し捏ねたご飯)を食したが、時々は˞マイヌ˥イー [˞mainu˥ʔiː](米飯)を食した。冬期から若夏の稲刈りまでは米の蓄えが少なくなり、マ˞ザーシ˥イー [maˑʤaaːʃi˥ʔiː](米と芋の混ぜご飯) がご馳走になった。˞クーフキウン˥マー　˞マイヌシジ˥トゥ　トゥ˞ヤーサ˥リティ　ン˞マー˥タン [˞kuːɸʉkiʔum˥maː ˞mainuʃiʤi˥tu tuˑjaːsa˥riti ʔmˑmaː˥taŋ](粉ふき芋＜澱粉の多い芋＞は米の粒に溶け合って美味しかった)。˞ミーマイヌ　ペー˥ルンケンマー　マ˞ザーシイー˥ル　ン˞マー˥ムヌ　˞ヤッタル [˞miːmainu peː˥ruŋkemmaː maˑʤaːʃiʔiː˥ru ʔmˑmaː˥munu ˞jattaru](新米が入るまでは混ぜ

ご飯がご馳走＜美味しいもの＞だったよ)。

マ˞ザー˥シカザーシ [ma˞ʤa:˥ʃikaʤa:ʃi] 【副】まぜこぜに。ごちゃまぜに。ごたまぜに。ABCDEBCD 型の重言。˥ヌーラ　˥クイラ　マ˞ザー˥シカザーシ　ッ˞ふァイティル˥　バタ　ヤ˞ブ˥リ　˥シケー [˥nu:ra ˥kuira ma˞ʤa:˥ʃikaʤa:ʃi f˞faitiru˥ bata ja˞bu˥ri ˥ʃi̥ke:](何やらかにやら、いろいろとごちゃ混ぜに食べて＜ぞ＞お腹を壊してあるのだ)。マ˞ザー˥シカザーシ　˥ムニ　˥ユムカー　ワ˞カラン˥バ　˞ピーチピーチ˥ナー　˥バキティ　パ˞ナ˥シバ [ma˞ʤa:˥ʃikaʤa:ʃi ˥muni ˥jumuka: wa˞karam˥ba ˞pi:ʧipi:ʧi˥na: ˥bakiti pa˞na˥ʃiba](いろいろな事をごちゃ混ぜにして文句を言うと、分からないから、一つ一つずつに分けて話しなさいよ)。

マ˞ザー˥スン [ma˞ʤa:˥suŋ] 【他動】混ぜる。混ぜ合わせる。サ˞ク˥マイナー　ム˞チマイ˥　マ˞ザー˥スンティ　ウ˞ムーン˥ドゥ　マ˞ザーサン˥バル　ン˞マー˥カヤー [sḁ˞ku˥maina: mu˞ʧimai˥ ma˞ʤa:˥sunti ʔu˞mu:n˥du ma˞ʤa:sam˥baru ʔm˞ma:˥kaja:](粳米に糯米を混ぜようと思うが、混ぜない方が美味しいのかねえ)。マ˞ザー˥シ　˥ミサカー　マ˞ザー˥ス　˥クトー　˥ナルン [ma˞ʤa:˥ʃi ˥misaka: ma˞ʤa:˥su ˥ku̥to: ˥naruŋ](混ぜてよければ、混ぜることはできる)。˞マー˥ビン　マ˞ザー˥シェー　˥ミサムヌ [˞ma:˥bim ma˞ʤa:˥ʃe: ˥misamunu](もっと混ぜればいいのに)。˥ドゥーシ　マ˞ザー˥シ [˥du:ʃi ma˞ʤa:˥ʃi](自分で混ぜろ)。

マ˞サーマサ [ma˞sa:masa] 【副】正しく。本当に。˥キノー　˞ブシ˥トゥイ　˞バー˥ケー　˥ミサナリ　˞アーク˥タ˥ムヌ　マ˞サーマサ˥　シ˞ニ　ナーン˥ティバン˞ナー [˥kino: ˞buʃi̥˥tui ˞ba:˥ke: ˥misanari ˞ʔa:ku˥ta ˥munu ma˞sa:masa˥ ʃi˞ni na:n˥tiban˞na:](昨日、おとといまでは元気でいたのに、本当に死んでしまったんだってねえ)。

˥マザーリカザーリ [˥maʤa:rikaʤa:ri] 【副】入り混じって。ごた混ぜになって。ABCDEBCD 型の重言。ミ˞ドゥ˥ムビキドゥム　˥マザーリカザーリ　˞シェー˥ティ　ブ˞ドゥル　シーベー [mi˞du˥mu ˥bikidumu ˥maʤa:rikaʤa:ri ˞ʃe:˥ti bu˞duru ʃi:be:](女も男も入り混じって踊をしている)。

マ˞ザー˥ルン [ma˞ʤa:˥ruŋ] 【自動】混じる。混ざる。交わる。交際する。˥アバー　ミ˞ジ˥ナー　マ˞ザーラ˥ヌ [˥ʔaba: mi˞ʤi˥na: ma˞ʤa:ra˥nu](脂は水に混じらない)。ユ˞ヌ˥シリンケートゥ　マ˞ザー˥リ　ア˞サブンティ　スンドゥ˥　ウ˞ヤ˥ヌ　キ˞ツァー˥ローレーティ　マ˞ザーラン˥シェン [ju˞nu˥ʃiriŋke:tu ma˞ʤa:˥ri ʔa˞sabunti sundu˥ ʔu˞ja˥nu ki̥˞tsa:˥ro:re:ti ma˞ʤa:raraŋ˥ʃeŋ](同級生たちと混じって遊ぼうとするが、親が厳しくあられたので混じられなかった)。ムー˞ルトゥン˥　マ˞ザー˥リ　˥ミサカー　マ˞ザー˥ル　˥クトー　˥ナルン [mu:˞rutum˥ ma˞ʤa:˥ri ˥misaka: ma˞ʤa:˥ru ˥ku̥to: ˥naruŋ](皆とも交わってよければ、交わることはできる)。マ˞ザー˥レー˥ミサムヌ [ma˞ʤa:˥re: misamunu](交わればいいのに)。ドゥ˞シトゥン˥　マ˞ザー˥リバ [du˞ʃitum˥ ma˞ʤa:˥riba](友人とも交われよ)。

マ˞サー˥ン [ma˞sa:˥ŋ] 【形】占いや巫女のお告げがよく当たる。予兆、予言などがそのまま実現する。「まさし (正し)」の義。「大船の津守の占にのらむとは益爲尓＜マサシニ＞知而〜。万、109」の転訛したものか。ウ˞ヌ˥　ユ˞タヌ˥　ウ˞クス　˞キーヤ˥　マ˞サーン˥ティ　ス˞クタヌ　クンドゥ˥ヌ　ユ˞ター˥　マ˞サー　ナー˥ヌ [ʔu˞nu˥ ju˞tanu˥ ʔu˞ku˥su ˞ki:ja˥ ma˞sa:n˥ti su̥˞kutanu kundu˥nu ju˞ta:˥ ma˞sa: na:˥nu](あのユタ＜巫女＞の占うけ＜卦＞は正しいと聞いたが、今度のユタは正しくない)。ユ˞タヌ˥　ムネー　˞シンダイ˥　マ˞サー˥　ナリ　˥ケーン [ju˞tanu˥ mune: ˞ʃindai˥ ma˞sa:˥ nari ˥ke:ŋ](ユタの話は次第に正しくなってきた)。˥アイニ　マ˞サー˥ル　ユ˞ター˥　ブ˞ラーヌ [˥ʔaini ma˞sa:˥ru ju˞ta:˥ bu˞ra:nu](あんなに正しい＜よく当たる＞ユタはいない)。

マ˞サル [ma˞saru] 【連体】良い。優る。優れた。それ以上の。「優る」の連体詞用法。「〜麻佐礼留＜マサレル＞寶〜。万、803」の転訛したもの。ウ˞リ˥　マ˞サルヌ˥　ユ˞ル˥クベー　˞ナー˥ヌ [ʔu˞ri˥ ma˞sarunu˥ ju˞ru˥kube: ˞na:˥nu](それ以上の＜それに優る＞喜びはない)。マ˞サル　ハン˥ジョー　ウ˞キ˥シミ　タ˞ボー˥リ [ma˞saru han˥ʤo: ʔu˞ki˥simi ta˞bo:˥ri](優る繁盛を受けさせてください)。

マ˞サルン [ma˞saruŋ] 【自動】勝る。優れる。「〜麻佐礼留多可良＜まされる寶＞〜。万、803」の義。プ˞ソー˥ラ　マサ˞ルンティ˥　ウ˞モーン˥カー　ナ˞ラントダー [pu̥˞so:˥ra ma˞sarunti˥ʔumo:ŋ˥ka: na˞ra˥ntda:](他人よりも勝ると思わなければ出来ない)。˞ワール˥　マ˞サリブー [˞wa:ru˥ ma˞sari bu:](君が勝っている)。ク˞リ˥　マ˞サルヌ˥　ユ˞ル˥クビテー　˞ナー˥ヌ [ku˞ri˥ ma˞sarunu˥ ju˞ru˥kubite: ˞na:˥nu](此れに勝る喜びはない)。

˥マシ [˥maʃi] (1) 【名】田圃の一区画。水田の一枚。「升、麻須 (ます)、十合器也」『和名抄』の転訛したものか。

ウ˖ブ˥マシ [ʔu˖bu˥maʃi](大きな水田。「大升」の義か)。マ˖シェー˥マ [ma˖ʃe:˥ma](小さな水田。「小升」の義か)。˖ター˥マシ [˖ta:˥maʃi](水田の一枚。水田)ともいう。˖ターマシ˥ヌ　˖ゴー˥ラー　˖ヤー˥ヤ　ウ˖ヤ˥キヤー [˖ta:maʃi˥nu ˖go:˥ra: ˖ja:˥ja ʔu˖ja˥kija:](水田の多い家は金持ちの家だ)。 **(2)**【助数】水田を数える単位。˥ター　プ˖スマ˥シ [˥ta: pu̥˖suma˥ʃi](水田一枚)。フ˖タマシ [ɸu̥˖tamaʃi](水田二枚)。˖ミーマシ [˖mi:maʃi](水田三枚)。˖ユーマシ [˖ju:maʃi](水田四枚)。イ˖チ˥マシ [ʔi˖ʧi˥maʃi](水田五枚)。˖ムーマシ [˖mu:maʃi](水田六枚)。ナ˖ナ˥マシ [na˖na˥maʃi](水田七枚)。˖ヤーマシ [˖ja:maʃi](水田八枚)。ク˖ヌ˥マシ [ku˖nu˥maʃi](水田九枚)。˖トゥーマシ [˖tu:maʃi](水田十枚)。

マ˖シ **[ma˖ʃi]** 【形動】他より勝っている＜良い＞。増しである。「Maxi,su,aita. マシ、ス、イタ (増し、す、いた) 越えしのぐ、また、まさる、〜」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。/インダ　フクパマ　シザバナリ　フノーラカラヌ　マシヌジー (伊武田、福浜、下離は船浦よりも良い土地＜増しの地＞だ)/(鳩間中岡)『鳩間島古典民謡古謡集』。˖キン˥マー　˖ヌー˥ル　マ˖シ˥カヤー [˖kim˥ma: ˖nu:˥ru ma˖ʃi˥kaja:](着物は何が良いかねえ)。˖ワー˥　マ˖シェー˥　ムノーラ　イ˖ラ˥ビバ [˖wa:˥ ma˖ʃe:˥ muno:ra ʔi˖ra˥biba](君が良いものから選びなさいよ)。˖ワー˥　マ˖シェー˥ル　˥ムノーラ　イ˖ラ˥ビバ [˖wa:˥ ma˖ʃe:˥ru ˥muno:ra ʔi˖ra˥biba](君がより良い物から選びなさい)。˥バー　ク˖リル˥　マ˖シヤッタ [˥ba: ku˖riru˥ ma˖ʃijatta](私はこれが良かっ＜増しだった＞た)。

˥マジ **[˥maʤi]** 【副】まず (先ず)。最初に。真先に。第一に。「〜春立たば　末豆和我夜度尓＜マヅわがやどに＞〜。万、4490」の転訛したもの。プ˖スン˥　シ˖ミル˥　マイナー　˥マジ　˥ドゥーシ　˖シー˥　ミ˖シリバ˥ル　プ˖スン　スー [pu̥˖suŋ˥ ʃi˖miru˥ maina: ˥maʤi ˥du:ʃi ˖ʃi:˥ mi˖ʃiriba˥ru pu̥˖sun su:](他人にさせる前に、先ず自分でして見せればこそ＜ぞ＞他人もするものだ)。˥マジ　˥バー　シ˖ダキ˥　ウタ　イ˖ザバ˥　ワ˖ターン˥　イ˖ジ˥ヨー [˥maʤi ˥ba: ʃi˖daki˥ ʔuta ʔi˖ʤaba˥ wa˖ta:ŋ˥ ʔi˖ʤi˥jo:](先ず私が先に歌を歌うから、君たちも歌いなさいよ)。

˥マジェー **[˥maʤe:]** 【副】先ずは。はじめに。とにかく。˥マジ [˥maʤi](最初に。真っ先に) に取立ての係助詞˥ヤ [˥ja](は) が下接して、[maji]　+　[ja]　→　[maʤe]　と変化したもの。˥マジェー　˖ヌー˥シ　サ˖バル˥　マ˖シ˥ユー　パ˖ナ˥シ　˥ミリバ [˥maʤe: ˖nu:˥ʃi sa˖baru˥ ma˖ʃi˥ju: pa˖na˥ʃi ˥miriba](先ずは如何すればよいか、話してみなさいよ)。

マ˖シカク **[ma˖ʃikaku]** 【名】真四角。正方形。˖マッカク [˖makkaku](真四角) ともいう。˖ワッ˥テヌ　˖ヤー˥ヌ　カ˖コー˥　マ˖シカクヌ˥ナー [˖wat˥tenu ˖ja:˥nu kḁ˖ko:˥ ma˖ʃikakunu˥na:](君の家の屋敷は真四角だねえ)。

マ˖シ˥ビ **[ma˖ʃi˥bi]** 【名】船の真後ろから吹く風。「ましり＜真尻＞吹く風」の義。「まとも (真艫) から吹く風」のこと。マ˖シ˥ビカジェー　˖カイ˥テー　˥フニ　ム˖ティグリ˥サン˖ダー [ma˖ʃi˥bikaʤe: ˖kai˥te: ˥ɸuni mu˖tiguri˥san˖da:](船の真後ろから吹く風では、かえって船は操船しにくい＜持ちにくい＞よ)。

˥マジマジ **[˥maʤimaʤi]** 【副】先ずは。とにかく。何はともあれ。「先ず先ず」の義。˥マジマジ　ノー˖ン　ヤラバン˥　タ˖ミ˥シ　ミリ˖ツォー˥　イッ˖ケナ˥　キ˖シ˥ルン˖ダー [˥maʤimaʤi no:˖ɲ jarabam˥ ta˖mi˥ʃi miri˖tso:˥ ʔik˖kena˥ ki̥˖ʃi˥run˖da:](先ずは＜とにかく＞試してごらんってば、非常によく切れるんだよ)。

マ˖ジ˥ミ **[ma˖ʤi˥mi]** 【名】いなむら (稲叢)。高く積み重ねてあるもの。マ˖ジン [ma˖ʤiŋ](真積み) ともいう。マ˖ジ˥ムン [ma˖ʤi˥muŋ](高く積み上げる) の連用形から転成した名詞。˖マイヤー˥　カ˖リティ˥　イ˖ニマジ˥ミ　˖シー˥　シケー [˖maija:˥ ka˖riti˥ ʔi˖nimaʤi˥mi ˖ʃi:˥ ʃi̥ke:](稲は刈り取って稲積してある)。タ˖ム˥ヌタバルヌ　プ˖スマジ˥メー　プ˖ス˥ヤマティル　ア˖ゾーッ˥タ [ta˖mu˥nutabarunu pu̥˖sumaʤi˥me: pu̥˖su˥jamatiru ʔa˖ʤo:t˥ta](薪束を積み上げたもの、高さ三尺に長さ一間の一つの塊をプ˖ス˥ヤマ [pu̥˖su˥jama]＜一山＞といわれた)。

マ˖ジミ˥ルン **[ma˖ʤimi˥ruŋ]** 【他動】物をうず高く積み上げる。積み重ねる。マ˖ジ˥ムン [ma˖ʤi˥muŋ](積み重ねる) ともいう。マ˖ジミ˥ルンティ　˥ウムーカー　マ˖ジマ˥リン [ma˖ʤimi˥runti ˥ʔumu:ka: ma˖ʤima˥riŋ](うず高く積み上げようと思えば高く積み上げられる)。マ˖ジ˥ミ　˥ミサカー　マ˖ジ˥ム　˥クトー　˥ナルン [ma˖ʤi˥mi ˥misaka: ma˖ʤi˥mu ˥ku̥to: ˥naruŋ](積み上げて良ければ積み上げることはできる)。˥ウナー　マ˖ジミ˥レー　˥ミサムヌ [˥ʔuna: ma˖ʤimi˥re: ˥misamunu](そこに積み上げれば良いのに)。˖パー˥ク　マ˖ジミ˥リ [˖pa:˥ku ma˖ʤimi˥ri](早く積み上げろ)。

マ˞ジムヌ **[ma˞ʤimunu]** 【名】1化け物。魔物。幽霊。妖怪。「まじもの (蟲物)」の義。「蟲、万自物 (まじもの)」『新撰字鏡』の転訛したもの。ヤ˞ナ˥ムヌ [ja˞na˥munu](悪魔。魔物) ともいう。ク˞マン˥マーラー ˞ユー˥ロー ム˞カ˥シェーラ ˥ユー マ˞ジムヌヌ˥ タトゥンティ ˞スンダ˥ ヌ˞キムヌ˥ヌ ˥サン ˥ムティティ パリ˞ヨー [ku˞mam˥ma:ra: ˞ju: ˥ro: mu˞ka˥ʃe:ra ˥ju: ma˞ʤimununu˥ tạtunti ˞sunda˥ nu˞kimunu˥nu ˥sam ˥mutiti pari˞jo:](ここの辺りは、夜は昔からよく化け物が立つというから、魔除けの護符であるサン < 一種の藁の標。藁しべを丸く輪を残して結んだもの > を持って行きなさいね)。2相手を軽く罵倒する際にいう。「馬鹿者」程度の義。マ˞ジムノー˥ プ˞スバ˥ ウ˞バーシ˥ ヌーヤ ウ˞レー [ma˞ʤimuno:˥ pụ˞suba˥ ʔu˞ba:ʃi˥ nu:ja ʔu˞re:](馬鹿たれ < マジモノ > は、人を驚かせて何だね、それは)。

マ˞ジムヌヌ˥ タク **[ma˞ʤimununu˥ tạku]** 【連】(動) ヒトデ。「化け物の蛸」の義。海中で五本の手を広げて珊瑚礁や砂地に這っているのが異形の蛸を思わせることから命名されたもの。ス˞ナカ˥ナー マ˞ジムヌ˥ヌ タクン ブ˞タン [su˞naka˥na: ma˞ʤimununu˥ tạku:m bu˞taŋ](海の中にはヒトデもいたよ)。

マ˞ジ˥ムン **[ma˞ʤi˥muŋ]** 【他動】山のように積む。積み重ねる。積み込む。「Maume,uru,eta. マツメ、ムル、めた (集め、むる、めた) 散らばったもの、あるいは、雑然としたものを集める」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞マイダーラー˥ フニナー マ˞ジ˥ムンティ ˞ベー˥ンドゥ ムー˞ロー˥ マ˞ジマラヌ [˞maida:ra:˥ ɸunina: ma˞ʤi˥munti ˞be:˥ndu mu:˞ro:˥ ma˞ʤimara˥nu](米俵をサバニに積み込もうとするが、全部は積み込めない)。˥イダフニナー マ˞ジ˥ミ ˥ミサカー ムー˞ル˥ マ˞ジ˥ム ˥クトー ˥ナルン [˥ʔidaɸunina: ma˞ʤi˥mi ˥misaka: mu:˞ru˥ ma˞ʤi˥mu ˥kụto: ˥naruŋ](板舟 < サバニ > に積み込んでよければ、全部積み込むことはできる)。˞マー˥ビン マ˞ジ˥メー ˥ミサムヌ [˞ma:˥bim ma˞ʤi˥me: ˥misamunu](もっと積み重ねればいいのに)。˞パー˥ク マ˞ジ˥ミバ [˞pa:˥ku ma˞ʤi˥miba](早く積み重ねよ)。/パトゥマパイバタ カユフニヌ カギリカギラン クルリクル イニヤマシンジ クギバタシ(鳩間島、南端 < 西表島 > を通う舟がひっきりなしに漕いで往き来する、稲を山積み < 真積み > にして漕ぎ渡している)/(鳩間口説き)『鳩間島古典民謡古謡集』。

˥マタ **[˥mata]** 【名】また (股)。「極、樹岐為極、木乃万太 (きのまた)」『新撰字鏡』。「胯、万太 (また)、両股の間也」『和名抄』。˞パン˥ヌ ˥マタ [˞pan˥nu ˥mata](股。両足の付け根。「足の股」の義)。˞キー˥ヌマタ [˞ki:˥nu ˥mata](木の股)。˞キー˥ヌ ˥マターラ ˥サキパリ ˞ナー˥ヌ [˞ki:˥nu ˥mata:ra ˥sạkipari ˞na:˥nu](木の股から裂けていってしまった)。˥マタ パ˞タッカルナ [˥mata pạ˞takkaruna](股を開くな)。

マ˞タ **[ma˞ta]** **(1)**【接】また。さらに。その上に。ウ˞レー˥ イッ˞ケナ˥ パ˞タラクン˥ マ˞タ ウ˞ヤ˥ヌ ˥クトゥン ˥ウムーン [ʔu˞re:˥ ʔik˞kena˥ pạ˞tarakum˥ ma˞ta˥ ʔu˞ja˥nu ˥kụtuŋ ˥ʔumu:ŋ](彼は良く働く。また親の孝行もする < 思う >)。 **(2)**【副】再び。「〜いやしき吾が身 麻多越知奴倍之 < マタをちぬべし >。万、848」の義。˥アメー ヤ˞ミ ブタンドゥ˥ マ˞タ フイ˥シバン [˥ʔame: ja˞mi butandu˥ ma˞ta ɸui˥ʃibaŋ](雨は止んでいたが、また降るよ)。ミリ˞ミー˥ マ˞タ ク˞ルブン˥ダー ウ˞レー [miri˞mi:˥ ma˞ta˥ ku˞rubun˥da: ʔu˞re:](見てごらんよ、また転ぶよ、彼は)。

マ˞ダ **[ma˞da]** 【副】まだ。「イマダ (未)」の転化したもの。「Imada. イマダ (未だ) 副詞. まだ〜ない。書き言葉で末尾に常に否定形を伴う」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˥アボー パ˞タ˥ケーラ マ˞ダ オーラ˥ヌ [˥ʔabo: pạ˞ta˥ke:ra ma˞da ʔo:ra˥nu](お母さんは畑からまだ帰ってこられない < いらっしゃらない >)。˞イー˥ヤ マ˞ダ˥ ッ˞ふァーヌ [˞ʔi:˥ja ma˞da˥ f˞fa:nu](ご飯はまだ食べていない)。

マ˞ダーサリン **[ma˞da:sariŋ]** 【自動】惑わされる。化かされる。マ˞ダースン [ma˞da:suŋ](惑わす) の未然形に受身の助動詞˞リン [˞riŋ](れる) が付いて形成された受身動詞。˞ユー˥ロー ミ˞チェー˥ ン˞ジ˥ルカー マ˞ジムン˥ マ˞ダーサリント ダー [˞ju:˥ro: mi˞tʃe:˥ ʔn˞ʤi˥ruka: ma˞ʤimum˥ ma˞da:sarin˧da:](夜道に出ると蟲物(マジモノ)に化かされるぞ)。マ˞ダーサラヌ [ma˞da:saranu](化かされない)。マ˞ダーサリ ナー˥ヌ [ma˞da:sari na:˥nu](化かされてしまった)。マ˞ダーサリル˥ クトー ˞ナー˥ヌ [ma˞da:sariru˥ kụto: ˞na:˥nu](化かされることはない)。マ˞ダーサレー˥ ミサムヌ [ma˞da:sare:˥ misamunu](化かされればいいのに)。˥ウナー ˞ベー˥ティ マ˞ダーサリ˥バ [ʔuna: ˞be:˥ti ma˞da:sari˥ba](そこにいて化かされろ)。

マ˞ダーシムヌ **[ma˞daːʃimunu]** 【名】1化け物。まじもの (蠱物)。マ˞ダーシムヌン˥　マ˞ダーサリ˥　ム˞ター˥リティ　˥ヤー　トゥ˞ミマー˥キ　˞ベー˥タツォー [ma˞daːʃimunum˥ ma˞daːsari˥ mu˞taː˥riti ˥jaː tu ˞mimaː˥ki ˞beː˥tatsoː](化け物に惑わされ＜化かされ＞引きずりまわされて、家を探しかねていたそうだ)。2˞人を惑わす者」の義。人を誘惑する者。悪友。マ˞ダーシムヌ˥トゥ　トゥ˞レー˥シ　˞アー˥ケーティ　プ˞リムヌ˥　ナリ　˞ベーン˥ティ [ma˞daːʃimunu ˥tu tu˞reː˥ʃi ˞ʔaː˥keːti pu˞rimunu˥ nari ˞beːn˥ti](人を誘惑する悪友と連れ立って遊び歩いていて、すっかり馬鹿＜ふれもの。狂れ者＞になっているよ)。

マ˞ダースン **[ma˞daːsuŋ]** 【他動】惑わす。妖怪(ヨウカイ)などが人を惑わす。ばかす (化かす)。マ˞ジムノー˥　プ˞ス˥　マ˞ダースン˥ティバ　マ˞ダーサラン˥　ヨーニ　˥サン　˥ムティ　˞アー˥キ [ma˞ʤimunoː˥ pu̥ ˞su˥ ma˞daːsun˥tiba ma˞daːsaraŋ˥ joːni ˥sam ˥muti ˞ʔaː˥ki](妖怪 <蠱物(マジモノ)> は人を惑わす＜化かす＞というから、惑わされないようにサン＜呪符。魔除け＞を持ってあるきなさい)。マ˞ジムヌル˥　マ˞ダーシブーバ˥　サン　˥ムティ　˞アー˥クカー　マ˞ダース˥　クトー　˞ナーン˥　パジ [ma˞ʤimunuru˥ ma˞daːʃibuːba˥ sam ˥muti ˞ʔaku˥kaː ma˞daːsu˥ ku̥toː ˞naːm˥ paʤi](蠱物が惑わしているはずだから、サンを持っていたら惑わすことはないはずだ)。マ˞ダーシェー˥　ミサムヌ [ma˞daːʃeː˥ misamunu](惑わせばいいのに)。マ˞ダーシ [ma˞daːʃi](惑わせ)。

マ˞タイチフ **[ma˞taʔitʃiɸu]** 【名】またいとこ (又従兄弟・又従姉妹)。イ˞チフ˥ヌ　ッ˞ふァ˥ザーンマ　マ˞タイチフ˥ティル　ア˞ズ˥ミー [ʔi˞tʃiɸu˥nu f˞fa˥ ʤaːmma ma˞taʔitʃiɸu˥tiru ʔa˞ʤu˥miː](従兄弟姉妹の子供同士を、またいとこ＜又従兄弟姉妹＞というんでしょうね)。

マ˞タイビ **[ma˞taʔibi]** 【名】定植。植え替え。植物を苗床から本田や畑に移し植えること。フ˞タ˥イビ [ɸu̥˞ta˥ʔibi](じかまき＜直播＞。˞直接植え」) の対義語。˞マイヤー　ナーッ˥スナー　˥サニ　ウ˞ラ˥シティ　˥ナイ　ス˞ク˥リティル　˥ターナ　マ˞タイビ　ソー˥ル [˞maija: naːs˥suna: ˥sani ʔu˞raʃ˥ti ˥nai su̥˞ku˥ritiru ˥taːna ma˞taʔibi soː˥ru](稲は苗代に種をおろして苗に作ってから本田に定植＜又植え＞されるのだ)。˥ヤトゥーン [˥jatuːŋ] は、カ˞ブッチ (南瓜) などを定植する義。

マ˞タイラビ **[ma˞taʔirabi]** 【名】再検討。二度選び。「又選び」の義。イ˞ラ˥ビ　˥シケー　˥ムヌバ　マ˞タイラビ˥　シ˞ミラリティ˥　バ˞タ˥ッサリ　˞ベー [ʔi˞ra˥bi ˥ʃi̥ke: ˥munuba ma˞taʔirabi˥ ʃi˞mirariti˥ ba˞tas˥sari ˞beː](選んである物を再検討＜又選び＞させられて立腹して＜腹腐れ＞している)。

マ˞タウトゥザ **[ma˞taʔutuʤa]** 【名】親類の親類。直接の親類ではなく、姻戚の親類など。「又弟者」の義。˞ウン˥ネートー　マ˞タウトゥザル˥　ナリ　˞ブー˥　ア˞チーアチーヌ˥　ウ˞トゥ˥ザー　ア˞ラ˥ヌ [˞ʔun˥neːto: ma˞taʔutuʤaru˥ nari ˞buː˥ ʔa˞tʃiːʔatʃiːnu˥ ʔu˞tu˥ʤa: ʔa˞ra˥nu](あの家とは親類の親類になっている。近しい＜篤い＞親戚ではない)。

マ˞タオーシ **[ma˞taʔoːʃi]** 【名】貰い物 (到来物(トウライモノ)) を、さらに余所へ贈る＜差し上げる＞こと。「又贈り」の義。˞オーシ [˞ʔoːʃi] は、「みおやすら　進上の事也　おやすら共云」『混効験集　乾・言語』の転訛したもの。マ˞タオーシ˥　ヤ˞ルヌ˥　ン˞マー˥バ　˥アッパーン　˞オーシ˥バ [ma˞taʔoːʃi˥ ja˞runu˥ ʔm˞maː˥ba ˥ʔappaːŋ ˞ʔoːʃi˥ba](余所からの到来物だが、美味しいのでお祖母さんに差し上げなさい)。

マ˞タカーシ **[ma˞takaːʃi]** 【名】転売。又売り。「又買わせ」の義。ウ˞レー˥　パ˞トゥ˥マーラ　ナ˞ツァー˥ラ　˞カイティ˥　ウ˞キ˥ナー　ムティ　˞ギー˥　マ˞タカーシ　シール　モー˥ケーツォー [ʔu˞reː˥ pḁ˞tu˥maːra na˞tsaː˥ra ˞kaiti˥ ʔu˞ki˥naː ˥muti ˞giː˥ ma ˞takaːʃi ʃiːru moː˥keːtsoː](彼は鳩間島から海人草を買って沖縄へ持って行って転売して＜ぞ＞儲けたそうだ)。

マ˞タカイシ **[ma˞takaiʃi]** 【名】再度耕すこと。二度耕し。「又返し」の義。畑を粗く耕して後、植え付けに適するように細かく耕すこと。ア˞ラシ˥　ア˞キ˥シケーン　˥トンマー　マ˞タカイシ　サン˥カー　イ˞バラヌ [ʔa˞raʃi˥ ʔa˞ki˥ʃi̥ke:n ˥tomma: ma˞takaiʃi saŋ ˥ka: ʔi˞baranu](開墾して粗耕してあるところは二度耕ししないと植えつけられない)。

マ˞タカサビ **[ma˞takasabi]** 【名】又重ね。二重に重ねること。˞ドングペン˥ゴー　マ˞タカサビ　サンドー˥シ　˞ナーラビ˥　シゥ˞カバ˥ル　シゥ˞カイヤッ˥サル [˞doŋgupeŋ˥go: ma˞takasabi sando:˥ʃi ˞naːrabi˥ si̥˞kaba˥ru si̥˞kaijas˥saru](道具類は二重重ね＜又重ね＞しないで並べて置く方が＜置いたらば・ぞ＞使いやすいものだ)。

マ˞タカザミ **[ma˞takaʤami]** 【名】洗骨。改葬。「二度隠し」の義。ア˞ライクサイ [ʔa˞raikusai](洗骨。「洗い拵え」の義。「誘、古之良布＜こしらふ＞」『華厳経音義私記』の転訛したものか) ともいう。火葬が

普及する以前は、埋葬して三年以後に骨を洗って甕に入れ、フインチバカ (掘抜き墓) に納めた。故加治工津久里 (1921< 大正 10> 年 2 月 22 日死去)、故加治工マイツ (1932< 昭和 7> 年 12 月 5 日死去) の場合、骨は、安国寺の指導に基き、アˬライクサイ [ʔa˞raikusai](洗骨) の済んだ骨を荼毘に付して、その灰を甕に入れ、平成 16 年 9 月吉日に首里石嶺霊園の加治工家の墓に納められた。ムˬカ˥シェー　アˬライクサイ˥　シˬティ˥　マˬタカザミ　ソーッ˥タ [mu˞ka˥ʃe: ʔa˞raikusai˥ ʃi̥˞ti˥ ma˞takadzami so:t˥ta](昔は洗骨をして改葬をされた)。

マˬダカ˥スン [ma˞daka˥suŋ] 【他動】 1退(ノ)かす。人や物を他所(ヨソ)に移す。塞(フサ)がっている物を除(ヨ)ける。退(ノ)かせる。取り除く。2自動詞、マˬダ˥クン [ma˞da˥kuŋ](退(ノ)く。いる場所から立ち去る)。1は、2の未然形に使役の助動詞˥スン [˥suŋ](～せる) が付いて形成された使役動詞。ウˬブ˥イシ　マˬダカ˥スンティ　˥スンドゥ　グッふァ˥ヌ　マˬダカサラ˥ヌ [ʔu˞bu˥ʔiʃi ma˞daka˥sunti ˞sundu guffa˥nu ma˞dakasara˥nu](大石を退(ノ)かせようとするが重くて退かされない)。クˬレー˥　マˬダカ˥シ　˥ミサカー　マˬダカ˥ス　˥クトー　˥ナルン [ku˞re:˥ ma˞daka˥ʃi ˥misaka: ma˞daka˥su ˥kṵto: ˥naruŋ](此れは、退けてよければ退けることはできる)。˞パー˥ク　マˬダカ˥シェー　˥ミサムヌ [˞pa:˥ku ma˞daka˥ʃe: ˥misamunu](早く退かせばいいのに)。˞マー˥ビン　マˬダカ˥シバ [˞ma:˥bim ma˞daka˥ʃiba](もっと退かせろよ)。

マˬタカラシ [ma˞takaraʃi] 【名】又貸し。借りた物を持ち主に無断で他人に貸すこと。˞ワール˥　カˬラシタル˥　ヌンティ　˞バー˥ネー　クˬトゥ˥ワレー　サˬムティ　カッティニ˥　プˬスン˥　マˬタカラシ˥　シˬター [˞wa:ru˥ ka˞raʃi̥˞taru˥ nunti ˞ba:˥ne: kṵ˞tu˥ware: sa˞muti kattini˥ pṵ˞sum˥ ma˞takaraʃi˥ ʃi̥˞ta:](君が < ぞ > 貸したのであって、何故に私には断りもしないで、勝手に他人に又貸ししたのか)。

マˬタカンガイ [ma˞takaŋgai] 【名】再考。考え直すこと。思いなおすこと。「又考え」の義。˞カンガイナウ˥シ [˞kaŋgainau˥ʃi] ともいう。ユˬクカンガイ [ju˞kukaŋgai](別の考え) は類義語。˥アイヤー　ナˬラン˥バ　˞マー˥　プˬスム˥シ　マˬタカンガイ　シー˥　ッˬふィーリ [˥ʔaija: na˞ram˥ba ˞ma:˥ pṵ˞sumu˥ʃi ma˞takaŋgai ʃi:˥ f˞fi:ri](そうは出来ないから、もう一度、考え直 < 再考 > してくれ)。

マˬタ˥ギー [ma˞ta˥gi:] 【名】股木。股になった木。マˬタ˥ギー　˥キシキー　˥パラー　˥タティティ　トゥˬルン˥ヤー　スˬク˥ラˬディー [ma˞ta˥gi: ˥ki̥ʃiki: ˥para: ˥tạtiti tu˞ruŋ˥ja: sṵ˞ku˥ra˞di:](股木を伐ってきて、柱に立てて、鶏小屋を造ろうよ)。

マˬダキ˥ルン [ma˞daki˥ruŋ] (1)【自動】のく (退く)。避けて離れる。立ち去る。˥ウマーラ　マˬダキ˥ルンティ　˞スンドゥ˥　マˬダキララ˥ヌ [˥ʔuma:ra ma˞daki ˥runti ˞sundu˥ ma˞dakirara˥nu](そこから退こうとするが、退けられない)。マˬダキ　グリ˥サン [ma˞daki guri˥saŋ](退けずらい)。マˬダキ˥ル　˥クトーナˬラ˥ヌ [ma˞da˥kiru ˥kṵto: na˞ra˥nu](退けることは出来ない)。˥ドゥーシ　マˬダキ˥レー　˥ミサムヌ [˥du:ʃi ma˞daki˥re: ˥misamunu](自分で < 自ら > 退ければいいのに)。マˬダキ˥リバ [ma˞daki˥riba](退けなさいよ)。**(2)**【他動】退(ノ)ける。のける。除(ヨ)ける。物を他の場所へ移す。˥ミチ　ッˬサーリ　ベー˥　ムˬヌ˥バ　マˬダキ˥ルンティ　ウˬムーン˥ドゥ　マˬダキラン˥タンティン　˥ミサンツォー [˥mitʃi s˞sa:ri be:˥ mu˞nu˥ba ma˞daki˥runti ʔu˞mu:n˥du ma˞dakiran˥tantim ˥misantso:](道を塞いでいるものを退(ノ)けようと思うが、退けなくてもよいそうだ)。クˬレー˥　マˬダキヤッ˥サン [ku˞re:˥ ma˞dakijas˥saŋ](此れは退けやすい)。クˬリ˥　マˬダキ˥ル　˥ピンマー　マー˞ラ˥　カ˞マー˥　マˬダキ˥リ [ku˞ri˥ ma˞daki˥ru ˥pimma: ma:˞ra˥ ka˞ma:˥ ma˞daki˥ri](これを退けるときは、ずっと向こうまで退けろ)。クˬレー　パー˥ク　マˬダキ˥レー　˥ミサムヌ [ku˞re: pa:˥ku ma˞daki˥re: ˥misamunu](此れは早く退ければいいのに)。

マˬダ˥クン [ma˞da˥kuŋ] (1)【自動】退く。遠のく。退く。よける (避ける)。立ち去る。プˬスヌ˥　クーカー　マˬダ˥クンティ　ウˬムータ˥ヌ　マˬダカン˥シェン [pṵ˞sunu˥ ku:ka: ma˞da˥kunti ʔu˞mu:ta˥nu ma˞dakam˥ʃeŋ](人が来たらよけるかと思ったがよけなかったよ)。ンˬメーマ˥　マˬダ˥キ　ッˬふィーリ [ʔm˞me:ma˥ ma˞da˥ki f˞fi:ri](少し退(ノ)いてくれ)。マˬダ˥ク　˥プソー　カˬシーカシ˥　マˬダ˥ケー　˥ミサムヌ [ma˞da˥ku ˥pṵso: ka˞ʃi:kaʃi˥ ma˞da˥ke: ˥misamunu](退く時はしっかり退ければいいのに)。˞パー˥ク　マˬダ˥キバ [˞pa:˥ku ma˞da˥kiba](早く退けよ)。 **(2)**【他動】退ける。除ける。退かせる。ウˬリ˥　マˬダ˥キ　ッˬふィーリ˞[ʔu˞ri˥ ma˞da˥ki f˞fi:ri](それを除(ノ)けてくれ)。ウˬリ˥　マˬダ˥クンティ　ウˬムーン˥ドゥ　˞バン˥マー　マˬダカサラ˥ヌ [ʔu˞ri˥ ma˞da˥kunti ʔu˞mu:n˥du ˞bam˥ma: ma˞dakasara˥nu](それを退けようと思うが、私には退けられない)。˥クマーラ　マˬダ˥ク　˥ムノー　˥ヌーヤ [˥kuma:ra ma˞

daˀku ˀmuno: ˀnu:ja](此処から除ける＜退かせる＞物はどれか)。ク˞レーˀ　カ˞マーˀ　マ˞ダˀキ [ku˞reːˀ ka˞maːˀ ma˞daˀki](これはあちらへ除けなさい)。

マ˞タゴイ [ma˞tagoi] 【名】追肥。おいごえ。マ˞タゴイˀ　イ˞リˀシケーンダ　カ˞ブッチンˀ　シ˞ブルンˀ　イッ˞ケナ　ミーレーˀン [ma˞tagoi ʔi˞riˀʃi̥keːnda ka˞buttʃiŋˀ ʃi˞buruŋˀ ʔik˞kena miːreːˀŋ](追肥を入れてあるから、南瓜も冬瓜も非常によく稔った)。

マ˞タザーク [ma˞tadʑaːku] 【名】やり直し。しなおし。「又仕事」の義。ウ˞リンˀ　シ˞グトゥˀ　タ˞ナˀミ　ˀシケータ　ˀクトー　マ˞タザークˀ　シ˞ミラリˀ　ナ˞ランˀバン　ˀメー [ʔu˞riŋˀ ʃi˞gutuˀ ta˞naˀmi ˀʃi̥keːta ˀku̥toː ma˞tadʑaːkuˀ ʃi˞mirariˀ na˞ramˀbam ˀmeː](彼に仕事を頼んでおいたところ、やり直しさせられてたまらない＜堪らない＞よ＜全くやりきれないよ＞)。

マ˞タサーリ [ma˞tasaːri] 【名】男の再婚。「又連れ」の義。女の場合は、マ˞タドゥー [ma˞taduː](又胴＜所帯＞) という。ウ˞レーˀ　トゥ˞ジヌ　マーラシターˀ　ッ˞ふァーˀ　シゥ˞カナイ　ユーサンˀベーティ　マ˞タサーリ　シールˀ　ウ˞ビˀヌ　ッ˞ふァーˀ　フ˞ドゥバシェーˀツォー [ʔu˞reːˀ tu˞dʑinu maːraʃi̥taːˀ f˞faːˀ si̥˞kanai juːsamˀbeːti ma˞tasaːri ʃiːruˀ ʔu˞biˀnu f˞faːˀ ɸu˞dubaʃeːˀtsoː](彼は妻が亡くなって、子供を養育することが出来なくなったので、再婚して、あれだけの子供たちを養育し、成長させたのだそうだ)。

ˀマタサカー [ˀmatasakaː] 【名】二股。二股に分かれているもの。あちらについたり、こちらについたりして態度が一定しない者。「股の裂けた者」の義。ク˞マーˀ　ナリ　カ˞マーˀ　ナリ　˞シェーˀティ　ˀマタサカー　ˀナリ　˞アーˀク　ˀムノー　˞ダーッサー　ナーˀヌ [ku˞maːˀ nari ka˞maːˀ nari ˞ʃeːˀti ˀmatasakaː nari ˞ʔaːˀkuˀmunoː ˞daːssaː naːˀnu](こっち付き、あっち付きして股裂きになっている者は信頼できない＜良くない＞)。ユ˞クˀヌ　ˀマタサカー [ju˞kuˀnu ˀmatasakaː](虻蜂(アブハチ)取らず。欲張って両方を狙って一物も得られないこと)。

ˀマタサカー [ˀmatasakaː] 【名】 (動) 魚の名。和名、コバンアジ (体長約 40 センチ。白銀色の体色をもつ)。

マ˞タサキ [ma˞tasaki] 【名】返り咲き。二度咲き。くるいざき。「又咲き」の義。グ˞ジˀヌ　パ˞ナˀヌ　マ˞タサキ　シー　ベーˀヌ　ˀヌンティ　ˀカヤー [gu˞dʑiˀnu pa˞naˀnu ma˞tasaki ʃiː beːˀnu ˀnunti ˀkajaː](デイゴの花が返り咲きしているが、何故だろうか)。

マ˞タシキ [ma˞taʃi̥ki] 【名】 1又聞き。聞いた人からさらに聞き知ること。プ˞スヌˀ　マ˞タシキˀ　ヤ˞ルムヌバˀ　ウ˞ナールˀ　ッ˞シェーˀン　˞ホーラˀシ　ム˞ニˀバ　イ˞ジ　アーˀク [pu̥˞sunuˀ ma˞taʃi̥kiˀ ja˞rumunubaˀ ʔu˞naːruˀ ʃ˞ʃeːˀŋ ˞hoːraˀʃi muˀniˀba ʔi˞dʑi ʔaːˀku](人の又聞きだのに、己が知っているかの如く＜知っているふりをして＞、ものを言っている＜言ってあるく＞)。2聞き返す。反問する。プ˞スヌˀ　ムネー　シゥカイ˞トゥ　ミンˀバ　トゥ˞ルッˀサイティ　シ˞キˀ　マ˞タシケーˀ　ス˞ナ [pu̥˞sunuˀ mune: si̥˞kai˞tu mimˀba tu˞rusˀsaiti ʃi̥˞kiˀ ma˞taʃi̥keːˀ su˞na](人の話は、しっかりと耳を澄ませて＜注意して、聞き耳をたてて＞聞け、又聞き＜反問＞するな)。

マ˞タシキ [ma˞taʃi̥ki] 【名】二度漬け。塩辛などを漬物や塩分を足して再度塩漬けにすること。ク˞ンドゥˀヌ　イ˞ガガラソー　マースˀヌ　˞ヨーˀンダ　イ˞ガˀ　キシ　イ˞リティ　マーˀスン　˞シーブンˀ　イ˞リティˀ　マ˞タシキ　シーˀバ [˞kunduˀnu ʔi˞gagarasoː maːsuˀnu ˞joːˀnda ʔi˞gaˀ ki̥ʃi ʔi˞riti maːˀ suŋ ˞ʃiːbuŋˀ ʔi˞ritiˀ ma˞taʃi̥ki ʃiːˀba](今度の烏賊の塩辛は塩分が少ない＜弱い＞ので、烏賊を切って入れて、塩も余分に添えて二度漬けにしなさいよ)。

マ˞タスクリ [ma˞tasu̥kuri] 【名】作り直し。作り替えること。改作。改造。「又作り」の義。ス˞クリノーˀシ [su̥˞kurinoːˀʃi](作り直し。作り替え) ともいう。ヤッ˞トゥˀシ　˞サンシンˀ　ス˞クˀレーンドゥ　ˀキモー　フ˞ガンˀティ　˞シーˀ　マ˞タスクリ　スーˀツォー [jat˞tuˀʃi ˞saŋʃinˀ su̥˞kuˀreːndu ˀkimoː ɸu˞ganˀti ˞ʃiːˀ ma˞tasu̥kuri suːˀtsoː](やっとで三線を作ってあるのに、＜作品が＞納得できない＜満足できない。「肝祝がぬ」の義＞といって作りなおす＜又作り＞するそうだ)。

マ˞タソーリ [ma˞tasoːri] 【名】二度目の除草。ア˞ラソーˀリ [ʔa˞rasoːˀri](一回目の除草。「あらさくり＜粗刳＞」の転訛か) の対義語。箆(ヘラ)でさくる＜刳(サク)る＞ように細かく再度除草すること。ク˞ヌˀ　パ˞タキˀヌ　˞ガンボーˀシェー　マ˞タソーリ　サバルˀ　ナル [ku˞nuˀ pḁ˞takiˀnu ˞gamboːˀʃeː ma˞tasoːriˀ sa˞baruˀ naru](この畑の雑草のガンボーシは二度目の除草をいないといけない＜～すればぞなる＞)。

マ˞タトゥ [ma˞tatu] 【副】またと。再び。二度と。文末の打ち消し表現と呼応して陳述副詞的働きを示す。ˀアイブ　ˀクトゥ　˞ナーˀト　マ˞タトゥ　シェ

ー˥　ナ˞ラントダー [˥ʔaibu ˥kʉ̥tu ˞naː˥toː ma˞tatu ʃeː˥ na˞ranˢdaː](あんなことなどを、再び＜二度と＞してはならないぞ)。ウ˞リンマー˥　ク˞ヌ˥　シ˞グトー˥　マ˞タトー˥　シ˞ミララヌ [ʔu˞rimmaː˥ ku˞nu˥ ʃi˞gutoː˥ ma˞tatoː˥ ʃi˞miraranu](彼には、この仕事は二度とはさせられない)。マ˞タトー˥　サ˞ヌ [ma˞tatoː˥ sa˞nu](二度とはしない)。

マ˞タドゥー [ma˞tadu:] 【名】女性の再婚。「又身＜胴＞を持つ」の義。˥ドゥー　˥ムトゥン [˥duː˥ mutuŋ](所帯＜身＞を持つ＜立てる＞)ことを再び行うこと。マ˞タドゥー˥　ムティティ　ウ˞ヌ˥　ナカナー　˥ナシェール　ッ˞ふァル˥　アトー　˥ミリ　˞ブー [ma˞taduː˥ mutiti ʔu˞nu˥ nakanaː˥naʃeːru ˞faru˥ ʔatoː˥miri ˞buː](再婚して＜又身を持って＞、その仲で産んだ子が跡継ぎをしている＜老後を見ている＞)。

マ˞タナシ [ma˞tanaʃi] 【名】初産でない、二度目のお産。経産婦。「又生し＜産し＞」の義。パ˞チナシ [pḁ˞ʧinaʃi](初産)の対義語。˞クン˥ドー　マ˞タナシル˥　ヤ˞リン　シー　サン˥バーン　カ˞ナイ˥ル　˞オーリ˥バ　˞ソーヤ　ナー˥ヌ [˞kun˥doː ma˞tanaʃiru˥ ja˞riŋ ʃiː sam˥baːŋ ka˞nai˥ru ˞ʔoːri˥ba ˞soːja naː˥nu](今度は二度目のお産だし、産婆も経験豊富の人＜適った人＞だから心配はない)。

マ˞タニバシ [ma˞tanibaʃi] 【名】二度醗酵させること。麹(コウジ)を作る際に、蒸した米、麦、豆等に麹菌を植え、ある程度醗酵させた後、筵などに広げて更に醗酵させること。「又寝かせ」の義。フ˞タニバ˥シ [ɸʉ̥˞taniba˥ʃi](最初から筵に広げて醗酵させること＜直接醗酵＞)の対義語。˞コージェー˥　マ˞タニバシ˥　サ˞バル˥　パナー　˥フー [˞koːʤeː˥ ma˞tanibaʃi˥ sa˞baru˥ pana: ˥ɸuː](麹は二度醗酵＜又寝かせ＞させた方が麹黴がよく生える)。

マ˞タニビ [ma˞tanibi] 【名】またね(又寝)。一度目を覚まして再び寝ること。またぶし(又臥し)。「フ˞タ˥ニビ」(熟睡すること。寝たっきり目を覚まさないこと)の対義語。˞トゥンナキン˥ナー　マ˞タニビ　シー˥　ニ˞ビフカシ˥　シ˞ティル˥　ア˞サ˥ニビ　˞シー　ナーン˥バン [˞tunnakin˥naː ma˞tanibi ʃiː˥ ni ˞biɸʉ̥kaʃi˥ ʃi̥˞tiru˥ ʔa˞sa˥nibi ˞ʃiː naːm˥baŋ](明け方＜鶏鳴の時刻＞に又寝して、寝過ごしてしまい＜寝耽かしてぞ＞、朝寝坊してしまったわい)。

マ˞タヌー˥ル [ma˞tanuː˥ru] 【名】馬乗り。「股乗り」の義。ドゥ˞シトゥ˥　シ˞マ˥バ　˥トゥリ　˞ベーン˥ケン　˞ナンギラー˥リティ　バ˞タ˥ヌ　˞ウイ˥ナー　マ˞タヌー˥ル　シ˞ラリティル˥　ク˞シバ˥　ヤ˞マ˥シ　˥シケーバン [du˞ʃitu˥ ʃi˞ma˥ba ˥turi ˞beːŋ˥ken ˞naŋgiraː˥riti ba˞ta˥nu ˞ʔui˥naː ma˞tanuː˥ru ʃi˞raritiru˥ kʉ̥˞ʃiba˥ ja˞ma˥ʃi ˥ʃi̥keːbaŋ](友人と相撲をとっているときに投げ飛ばされ、腹の上に馬乗りにされて＜ぞ＞腰を痛めてあるんだわい)。

マ˞タヌール [ma˞tanuːru] 【名】塗り直し。「又塗り」の義。カ˞ツシンヌ　ペン˥キ　マ˞タヌール　スー˥カー　˥フネー　ム˞リラン˥ツォー [kḁ˞tsuʃinnu peŋ˥ki ma˞tanuːru suː˥kaː ˥ɸuneː mu˞riran˥tsoː](カツオ漁船のペンキ＜塗料＞を塗り直ししたら船は漏れないそうだ)。

マ˞タ˥バイ [ma˞ta˥bai] 【名】股ずれ。股の内側の皮膚がすれて、すりむけること。「バイ」は「ハギ(はげ)」の g が脱落した形『石垣方言辞典』の説がある。˞パン˥タリ　˞ブンダ　トゥーミチ˥　ア˞ラ˥クカー　マ˞タ˥バイ　˞シース [˞pan˥tari ˞bunda tuːmitʃi˥ ʔa˞ra˥kuka: ma˞ta˥bai ˞ʃiːsu](肥えているから、遠道を歩くと股ずれする)。

マ˞タバイ [ma˞tabai] 【名】ひこばえ(蘖)。稲のひこばえ(またばえ)。ひつじいね(穭稲)。「穭、ヒツチ」『類聚名義抄』。刈り取った草木の根や株から出た芽。「またばえ(又芽)」の義。「荑、比古波江(ひこばえ)」『新撰字鏡』の義。ひこばえ(蘖)を放置しておくと穂が出て収穫できるが、翌年の収穫に影響を及ぼすので、田の地力を養うため、マ˞タバイを田の泥の中に踏み入れて肥料にした。˞マイヌ˥　マ˞タバイヌ　ノー˥レーティ　ウ˞リバ˥　カ˞リティル˥　ア˞ロー˥ナー　シ˞ラリル [˞mainu˥ ma˞tabainu noː˥reːti ʔu˞riba˥ ka˞ritiru˥ ʔa˞roː˥naː ʃi˞rariru](稲のひこばえ＜蘖＞が稔っているので、それを刈ってから＜ぞ＞田圃の初耕しは出来る＜される＞)。

マ˞タピサシ [ma˞tapisaʃi] 【名】ご飯を炊く際に、初めは多めに水を入れ、ある程度煮えたとき、余分の水を捨てて適量にし、更に煮ること。「又蒸(ム)らし」の義。ム˞チマイヌ　コー˥イー　バ˞カス˥　ピンマー　マ˞タピサシ　サン˥カー　˞ゾー˥ブンニ　バ˞カサラン˥ツォー [mu˞ʧimainu koː˥ʔiː ba˞kasu˥ pimmaː ma˞tapisaʃi saŋ˥kaː ˞ʤoː˥bunni ba˞kasaran˥tsoː](糯米のおこわ＜強飯、コハイヒ、飯字亦作餅。『色葉字類抄』＞を炊く時は「又蒸らし」しないと上手に炊けないそうだ)。

マ˞タ˥ブシ [ma˞ta˥buʃi] 【名】またぐら(股座)。両ももの間。股間。「股節」の義。マ˞タブシ˥ヌ　˥パギティ　マ˞タ˥バイ　˥ナリティル　ア˞ラキマー˥キ

˞アー˥ク [ma˞tabuʃi˥nu ˥pagiti ma˞ta˥bai ˥naritiru ʔa˞rakima:˥ki ˞ʔa:˥ku](またぐら＜股座＞がはげて、股ずれになって、歩きかねているよ)。

マ˞タブシコー˥ヤク [ma˞tabuʃiko:˥jaku] 【名】ふたまたこうやく (二股膏薬)。うちまたこうやく (内股膏薬) の転訛したもの。内股に貼った膏薬のように、あっち付き、こっち付きして、定見、節操のない者。ウ˞レー˥ マ˞タブシコー˥ヤク ˥ナリティ ˞マー˥ヌ カ˞タル˥ スクユー ッ˞サヌ [ʔu˞re:˥ ma˞tabuʃi ko:˥jaku ˥nariti ˞ma:˥nu kḁ˞taru˥ su̥kuju: s˞sanu](彼は内股膏薬になっていて、どこの方に付くか分からない)。

マ˞タブトゥ [ma˞tabutu] 【名】二度目の夫。のちぞいの夫。ごふ (後夫)。「又夫」の義。サ˞キブトー˥ イ˞ク˥サナー ˞マーラシタール˥ シザー マ˞タブトゥ˥ トゥミ ˞ヤー˥ラ ン˞ゾーッ˥タツォー [sḁ˞kibuto:˥ ʔi˞ku˥sana: ˞ma:raʃi̥ta:ru˥ ʃiʤa: ma˞tabutu˥ tumi ˞ja:˥ra ʔn˞ʤo:t˥tatso:](先夫は戦で亡くなったので、姉はのちぞいの夫に嫁いで＜後夫を求めて＞実家から出られたそうだ)。

マ˞タフトゥッツァシ [ma˞taɸututtsaʃi] 【名】煮返し。になおし。「又沸騰」の義。夏期は煮物が饐(す)えやすいので、一度炊いたお汁や煮物などを煮返して＜再度沸騰させて＞食した。˞スーン˥シロー ˞ナーン˥パー イ˞リティ˥ マ˞タフトゥッツァシ シー˥バ [˞su:ŋ˥ʃiro: ˞na:m˥pa: ʔi˞riti˥ ma˞taɸututtsaʃi ʃi:˥ba](お汁は、菜っ葉を入れて煮返し＜再沸騰させ＞なさい)。

マ˞タマー [ma˞tama:] 【名】ひまご。孫の子。曾孫。「またまご (又孫)」の義。曾孫の子は、ピ˞チマー [pi̥˞ʧima:](やしゃご＜玄孫＞) という。マ˞タマーヤ˥ ギュ˞タール˥ ナシェーワ [ma˞tama:ja˥ gju˞ta:ru˥ naʃe:wa](曾孫はいくたり＜幾人＞産んだか)。

マ˞タムティ [ma˞tamuti] 【名】女性が再婚すること。「又持ち」の義。パ˞ジミテー˥ ア˞ラ˥ヌ マ˞タムティ˥ ヤ˞レー˥ティ ˞ヨイ˥ヤー マ˞ギーマギー˥シェー ˞ソーラン˥シェン [pa˞ʤimite:˥ ʔa˞ra˥nu ma˞tamuti˥ ja˞re:˥ti ˞joi˥ja: ma˞gi:magi:˥ʃe: ˞so:raŋ˥ʃeŋ](初婚では＜初めてでは＞なく再婚であるから、お祝いは大きくはされなかった)。

マ˞タムニ [ma˞tamuni] 【名】同じ言葉を再度言うこと。同じ言葉を繰り返すこと。「又物言い」の義。˞ミン˥マー トゥ˞ルッ˥サイ ˥ユー シ˞キ˥バン マ˞タムニ˥ イ˞ザシムナ [˞mim˥ma: tu˞rus˥sai ˥ju: ʃi̥˞ki˥ bam ma˞tamuni˥ ʔi˞ʤaʃimuna](耳をそばだて＜欹て＞てよく聞け。私に同じ事を繰り返させるな＜又物言いを言わさせるな＞)。

マ˞タ˥リン [ma˞ta˥riŋ] 【自動】待つことができる。˥マトゥン [˥matuŋ](待つ) の未然形に可能の助動詞˥リン [˥riŋ](れる) が下接して形成された可能動詞。˥クナーテー マ˞タリ˥ル (マ˞タ˥リ) ˥クトー マ˞タリン˥ドゥ ピ˞マーヌ ナー˥ヌ [˥kuna:te: ma˞tari˥ru(ma˞ta˥ri) ˥ku̥to: ma˞tarin˥du pi˞ma:nu na:˥nu](ここでは待たれる＜待てる＞ことは待たれるが、暇がない)。˥クナー マ˞タラ˥ヌ [˥kuna: ma˞tara˥nu](ここでは待たれない＜待てない＞)。

マ˞タンブシ [ma˞taʔmbuʃi] 【名】蒸し返し。一度蒸したものを再度蒸すこと。「又蒸し」の義。ム˞チェー コーリ˥ブーバ マ˞タンブシ シー˥ ッ˞ふァーシ˥バ [mu˞ʧe: ko:ri˥bu:ba ma˞taʔmbuʃi ʃi:˥ f˞fa:ʃi˥ba](餅は固くなっているから蒸し返して食べさせなさいよ)。カ˞マブコー˥ ッサリ パ˞ヤー˥ンダー マ˞タンブシ シー˥ヨー [ka˞mabuko:˥ ssari pa˞ja:˥nda: ma˞taʔmbuʃi ʃi:˥jo:](蒲鉾は腐れ易いから蒸し返ししなさいよ)。

˥マチ [˥maʧi] 【名】市場。魚介類、肉類、野菜類、食料品類を売るところ。石垣島にあった。石垣方言からの借用語。イ˞サナキヌ˥ マチェーラル キ˞ザルキザルヌ˥ シ˞ナムノー カイヨーッ˥タ [ʔi˞sanakinu˥ maʧe:raru ki˞ʤarukiʤarunu˥ ʃi˞namuno: kaijo:t˥ta](石垣の市場から祭祀行事の品物は買っておられた)。

˥マチ [˥maʧi] 【名】 (植) 木の名。松。マツ科の常緑樹。長寿、不変の象徴として古来尊ばれている。「～木足る木＜こだるき＞を 麻都＜マツ＞と汝が云はば～。万、3433」。˥マチキー [˥maʧiki:](松の木)、˥マチフニ [˥maʧiɸuni](松の刳り舟)、˥マチヤマ [˥maʧijama](松林)、˥マチアバ [˥maʧiʔaba](まつやに＜松脂＞) などがある。西表島の˥インダ [˥ʔinda](伊武田) のウ˞シヌ˥ウガン [ʔu˞ʃinu˥ʔugaŋ](牛の御嶽) の周辺には松の大木が生えている。˥マチフネー ˥マチキー プ˞ス˥ムトゥ ˞トー˥シ キ˞ジ˥ プリティル ス˞ク˥ローッタ [˥maʧiɸune: ˥maʧiki: pu̥˞su˥mutu ˞to:˥ʃi ki˞ʤi˥ puritiru su̥˞ku˥ro:tta](松の刳り舟は松の木を一本伐り倒して削り、刳り貫いて＜掘って＞造られた)。

˥マチアバ [˥maʧiʔaba] 【名】まつやに (松脂)。「松油」の義。琉球松には松根油が豊富に含まれている。枯れた松の根には褐色になるほどの松根油を含んだ木質部があり、ア˞カ˥シ [ʔa˞kaʃi](灯。ともしび)

に利用された。マ˩チ˥ヌ　˥ニーナー　˥マチアバヌ　˥アンダ　ウ˩リバ˥　キ˩ジティ˥　ア˩カ˥シ　ス˩ク˥ローッタ [ma˩ʧi˥nu ˥ni:na ˥maʧiʔabanu ˥ʔanda ʔu˩riba˥ ki˩ʤiti˥ ʔa˩ka˥ʃe: sɥ˩ku˥ro:tta](松の根元に松脂があるから、それを削って、ア˩カ˥シ [ʔa˩ka˥ʃi]< 割り箸状に割った灯火用の松の根。炊き付け > に作られた)。

マ˩チ˥ガイ [ma˩ʧi˥gai] (1)【名】間違い。誤り。˩ワー　サンミン˥ヌ　マ˩チガイ˥ヤー　˩ナーン˥シェン [˩wa: sammin˥nu ma˩ʧigai˥ja: ˩na:ŋ˥ʃeŋ](君は、計算の間違はなかった)。マ˩チガイ˥ヌ　˥アルカー　ア˩ジ˥　シゥ˩カソー˥リ [ma˩ʧigai˥nu ˥ʔaruka: ʔa˩ʤi˥ si̥˩kaso:˥ri](間違があったら、言って教えて < 聞かせて > ください)。˩タール˥　カイブー　マ˩チ˥ガイシ˩ター [˩ta:ru˥ kaibu: ma˩ʧi˥gai ʃi̥˩ta:](誰がこんな間違いをしたのか)。ター˩ン˥　ナーン　マ˩チガイ˥ヤ　ア˩リ˥ス [ta:˩n˥na:m ma˩ʧigai˥ja: ʔa˩ri˥su](誰にも間違いはある)。 **(2)**【感】ごめんなさい。謝罪するときにいう。˩バー˥ル　マ˩チ˥ガイ˩ユー [˩ba:˥ru ma˩ʧi˥gai˩ju:](ごめんなさい < 私が間違いです >)。

マ˩チガイ˥ルン [ma˩ʧigai˥ruŋ]【他動】間違える。たがえる (違える)。取り違える。ター˩ン˥　マ˩チガイ˥ル　˥クトー　マ˩チガイルン˥ドゥ　ク˩レー˥　マ˩チガイ˥ヤー　ナ˩ラ˥ヌ　マ˩チガイラン˥ドーシ　シカイ˩トゥ˥　カ˩キウツァ˥シ [ta:˩m˥ ma˩ʧigai˥ru ˥kɥ̥to: ma˩ʧigairun˥du ku˩re:˥ ma˩ʧigai˥ja: na˩ra˥nu ma˩ʧigairan˥do:ʃi ʃi̥kai˩tu˥ kɥ̥˩kiʔutsa˥ʃi](誰でも間違えることは間違えるが、此れは間違えてはならない。間違えないでしっかりと書き写しなさい)。ン˩メーマー˥　マ˩チガイ˥レー　(マ˩チガイ˥ヤー)˥ミサムヌ [ʔm˩me:ma:˥ ma˩ʧigai˥re:(ma˩ʧigai˥ja:) ˥misamunu](少しは間違えればいいのに)。˩ワンヌン˥　マ˩チガイ˥リ [˩wannum˥ ma˩ʧigai˥ri](君も間違えろ)。

マ˩チ˥ガウン [ma˩ʧi˥gauŋ]【自動・他動】間違う。くい違う。誤る。「まちがふ < 下二段 >」の四段活用化したもの。˩ワー　カンガイ˥ヤー　マ˩チガイ˥　ブー [˩wa: kaŋgai˥ja: ma˩ʧigai˥ bu:](君の考えは間違っている)。˥バー　マ˩チ˥ガウ　˥パジェー　˩ナー˥ヌ [˥ba: ma˩ʧi˥gau ˥paʤe: ˩na:˥nu](私が間違うはずはない)。˩バン˥ヌン　マ˩チ˥ガウ　˥クトー　マ˩チ˥ガウン　ア˩スヌ　ワーン˥　カタチネー　マ˩チガー˥ヌ [˩ban˥num ma˩ʧigau˥ kɥ̥to: ma˩ʧi˥gauŋ ʔa˩sunu wa:ŋ˥ kɥ̥tatʃine: ma˩ʧiga:˥nu](私も間違うことは間違う。しかし、君のようには間違わない)。マ˩チガイ　ヤッ˥サカー　マ˩チガイ˥ヤー　˥ミサムヌ [ma˩ʧigai jas˥saka: ma˩ʧigai˥ja: ˥misamunu](間違い易ければ間違えばいいのに)。˩ワンヌン˥　マ˩チ˥ガイバ [˩wannum˥ ma˩ʧi˥gaiba](君も間違えよ)。

マ˩チカン˥ティ [ma˩ʧikan˥ti]【名】待ち遠しいこと。待ちかねること。待ち兼ね。「待ち兼ねて」の義。老年層は、マ˩ティカン˥ティ [ma˩tikan˥ti](待ち兼ね) という。イ˩サンケーラヌ˥　フネー　イ˩チル˥　クーカヤーティ　マ˩チカン˥ティ　˩シー　ベー˥ンドゥ　マ˩ダ　クーン˥サー [ʔi˩saŋke:ra˥nu ˥ɸune: ʔi˩ʧiru˥ ku:kaja:ti ma˩ʧikan˥ti ˩ʃi: be:˥ndu ma˩da ku:n˥sa:](石垣からの船は何時来るかなあと、待ちかねているが、まだ来ないよ)。

マ˩チカン˥テイ　˩スン [ma˩ʧikan˥ti ˩suŋ]【連】待ちわびる。待ち遠しく思う。待ち兼ねる。「待ち兼ねてする」の義。ナー˩イ˥　ウ˩ヌ˥　プ˩スヌ　オー˥ル　˥ムヌバ　マ˩チカン˥ティ　˩スン [na:˩ji˥ ʔu˩nu˥ pɥ̥˩sunu ʔo:˥ru ˥munuba ma˩ʧikan˥ti ˩suŋ](ただ、じっとその人がいらっしゃる < 来られる > のを待ちわびる < 待ち兼ねてする >)。

˥マチキー [˥maʧiki:]【名】松。松の木。松の木材。˥マチキーヤ　ッ˩サール˥ヌ　˩ペーリ　ヤッ˥サン [˥maʧiki:ja s˩sa:ru˥nu ˩pe:ri jas˥saŋ](松の材木は白蟻が入りやすい)。

マ˩チクガリ˥ルン [ma˩ʧikugari˥ruŋ]【他動】待ち焦がれる。沖縄方言からの借用語か。サ˩ク˥シェー　イ˩チル　ピー˥タイラ　˩カイ˥リ　˥クーユーティ　˥アボー　マ˩チクガ˥リティル　˩オーッタン˥ドゥ　˩マーラシ　ナー˥ヌ [sa˩ku˥ʃe: ʔi˩ʧiru pi:˥taira ˩kai˥ri ˥ku:ju:ti ˥ʔabo: ma˩ʧikuga˥ritiru ˩ʔo:ttan˥du ˩ma:ra-so:˥ri ˩na:˥nu](何時になったら兵隊から帰ってくるかと待ち焦がれておられたが、亡くなってしまった)。˩ヤー˥ヌ　プ˩ソー˥　タ˩ビヌ˥　プ˩スバ　マ˩チクガリ˥ルンダ　トゥ˩ジッふァ˥　マ˩チクガラシムン˥ドーシ　˩パイ˥サ　˩カイ˥リ　˥クー [˩ja:˥nu pɥ̥˩so:˥ ta˩binu˥ pɥ̥˩su˥ba ma˩ʧikugari˥runda tu˩ʤiffa˥ ma˩ʧikugaraʃimun˥do:ʃi ˩pai˥sa ˩kai˥ri ˥ku:](家の人は、旅にいる人を待ち焦がれるから、妻子を待ち焦がらせないで、早く帰って来いよ)。マ˩チクガリ˥ル　プ˩スヌ˥　キ˩ム˥ウチ [ma˩ʧikugari˥ru pɥ̥˩sunu˥ ki˩mu˥ʔutʃi](待ち焦がれる人の心 < 肝内 >)。˩マー˥ビン　マ˩チクガリ˥レー　˥ミサムヌ [˩ma:˥bim ma˩ʧikugari˥re: ˥misamunu](もっと待ち焦がれればいいのに)。˩マー˥ビン　マ˩チクガリ˥リバ [˩ma:˥bim ma˩ʧikugari˥riba](もっと待ち焦がれろよ)。

マ⌜チクガ⌝ルン [ma⌜ikuga⌝ruŋ]【他動】待ち焦がれる。沖縄方言からの借用語か。ユ⌜ナカバー⌝キ　マ⌜チクガ⌝レーティ　⌜ワーヨー⌝　ン⌜カイヨーッ⌝タ⌜ダー [ju⌜nakaba:⌝ki ma⌜tʃikuga⌝re:ti ⌜wa:jo:⌝ ʔŋ⌜kaijo:t⌝ta⌜da:](夜中まで待ち焦がれながら君を迎えられたのだよ)。⌝ドゥク　マ⌜チクガラン⌝ドーシ　⌜ヨーンナー⌝　ン⌜カイヨー⌝リバ [⌝duku ma⌜tʃikugaran⌝do:ʃi ⌜jo:nna:⌝ ʔŋ⌜kaijo:⌝riba](あまり待ち焦がれないで、ゆっくりお迎えなさいよ)。ッ⌜ふァヌ　カイリ⌝バ　マ⌜チクガ⌝ルンテー　ア⌜ラン⌝ドゥ　⌜ナーイ⌝　マティ　⌜ベー [f⌜fanu kairi⌝ba ma⌜tʃikuga⌝runte: ʔa⌜ran⌝du ⌜na:ji⌝ mati ⌜be:](子供の帰りを待ち焦がれるという訳ではないが、ただじっと待っている)。⌝アイブ　ム⌜ヌ⌝バ　マ⌜チクガ⌝ル　プ⌜スヌ　ブン⌝カヤー [⌝ʔaibu mu⌜nu⌝ba ma⌜tʃikuga⌝ru pu̥⌜sunu buŋ⌝kaja:](あんな者を待ち焦がれる人がいるかね)。⌜マー⌝ビン　マ⌜チクガ⌝レー　⌝ミサムヌ [⌜ma:⌝bim ma⌜tʃikuga⌝re: ⌝misamunu](もっと待ち焦がれればいいのに)。⌝ウナー　⌜ベー⌝ティ　マ⌜チクガ⌝リバ [⌝ʔuna: ⌜be:⌝ti ma⌜tʃikuga⌝riba](そこにいて待ち焦がれろよ)。

マ⌜チグシ [ma⌜tʃiguʃi] 【名】供物の神酒。「祀り御酒」の義。神前や仏前に供えた神酒。マ⌜チグシェー⌝　ピ⌜キティ⌝　グシ　カ⌜ミ⌝リバ [ma⌜tʃiguʃe:⌝ pi̥⌜kiti⌝ guʃi ka⌜mi⌝riba](供物の神酒は祭壇から引き下げて頂きなさいよ)。

マ⌜チダイ [ma⌜tʃidai] 【名】末代。末の代。石垣方言からの借用語。老年層は、ア⌜トゥ⌝ヌ　⌜ユー [ʔa⌜tu⌝nu ⌜ju:](後の世) ともいう。⌜ベー⌝ヌ　⌝ウヤパーブジェー　⌜イークトゥ　バ　ソー⌝レーティル　マ⌜チダイバー⌝キ　⌜ナーヤ⌝　ヌ⌜カ⌝リ　⌜オー⌝ルティ⌜ダー [⌜be:⌝nu ⌝ʔujapa:budʒe: ⌜ʔi:kutuba so:⌝re:tiru ma⌜tʃidaiba:⌝ki ⌜na:ja⌝ nu⌜ka⌝ri ⌜ʔo:⌝ruti⌜da:](我が家のご先祖は良い事をなされたので < ぞ >、末代まで名前が残っているそうだよ)。

⌝マチナバ [⌝matʃinaba] 【名】 (植) キノコ (茸) の一種。マツタケ (松茸)。⌝ナバ [⌝naba](キノコ < 茸 >) を食することは、鳩間島ではあまりなかった。桑の木やガジマル (榕樹) に自生する⌜ミン⌝グル [⌜miŋ⌝guru](キクラゲ < 木耳 >) を食した。⌝マチナバー　ッ⌜ふァーリン⌝テー　ッ⌜サンシェン [⌝matʃinaba: f⌜fa:rin⌝te: s⌜saŋʃeŋ](松茸(マツタケ)< 松の木に生えるキノコ > は食べられるとは知らなかった)。

マ⌜チ⌝ニー [ma⌜tʃi⌝ni:] 【名】まつげ (睫毛、睫)。若年層はマ⌜チ⌝ギ [ma⌜tʃi⌝gi](睫) ともいう。「睫、万豆介 (まつげ)、目瞼毛也」『和名抄』。「Matçugue. マツゲ (睫)　まつげ」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。マ⌜チニー⌝ヌ　⌜ナー⌝< ナ⌜ガー⌝>　ミ⌜ドーン⌝ッふァー　ア⌜バ⌝レーン [ma⌜tʃini:⌝nu ⌜na:⌝<na⌜ga:⌝> mi⌜do:ŋ⌝ffa: ʔa⌜ba⌝re:ŋ](睫毛(マツゲ)の長い女の子は美しい < あはれさ・あり・む >)。キ⌜ラマー⌝　ミ⌜ラリ⌝ヌ　マ⌜チ⌝ゲー　ミ⌜ララ⌝ヌ [ki⌜rama:⌝ mi⌜rari⌝nu ma⌜tʃi⌝ge: mi⌜rara⌝nu](灯台下暗らし。沖縄本島の諺 < 慶良間は見えるが睫毛は見えない > の翻案)。

マ⌜チ⌝ヌ　⌝アバ [ma⌜tʃi⌝nu ⌝ʔaba] 【連】まつやに (松脂)。「松の脂」の義。⌝マチアバ [⌝matʃiʔaba] ともいう。「松脂　万豆夜邇」『和名抄』の義。⌝マチキーヤ　マ⌜チ⌝ヌ　⌝アバ　フ⌜ク⌝ミ　⌜ブンダ⌝　タ⌜ム⌝ヌ　サ⌜バン⌝　イッ⌜ケナ　ムイルン [⌝matʃiki:ja ma⌜tʃi⌝nu ⌝ʔaba ɸu̥⌜ku⌝mi ⌜bunda⌝ ta⌜mu⌝nu sa⌜baŋ⌝ ʔik⌜kena muiruŋ](松の木は松脂 < 松の脂 > を含んでいるから、薪にしても非常によく燃える)。

マ⌜チ⌝ヌ　⌝ナル [ma⌜tʃi⌝nu ⌝naru] 【連】松の実。松かさ。松ぼっくり。⌝マチヤマーラ　マ⌜チ⌝ヌ　⌝ナル　プ⌜サイ⌝　クーバ [⌝matʃijama:ra ma⌜tʃi⌝nu ⌝naru pu̥⌜sai⌝ ku:ba](松林から松かさを拾ってきなさいよ)。

マ⌜チ⌝ヌ　⌝ニー [ma⌜tʃi⌝nu ⌝ni:]【連】松の根。マ⌜チ⌝ヌ　⌝ニーナーン　マ⌜チ⌝ヌ　⌝アバ　フ⌜クマ⌝リ　⌜ブン⌝ダー [ma⌜tʃi⌝nu ⌝ni:na:m ma⌜tʃi⌝nu ⌝ʔaba ɸu̥⌜kuma⌝ri ⌜bun⌝da:](松の根にも松脂が含まれているよ)。

マ⌜チ⌝ヌパー　⌜アー⌝シ [ma⌜tʃi⌝nupa: ⌜ʔa:⌝ʃi] 【連】子供の遊戯の名。松葉の喧嘩。松の葉を互いに根元の方を掛け合わせて引張り合い、切れた方を負けとする遊び。「松の葉合わせ」の義。子供は正月の門松を廃棄する際に、松葉を合わせて引き合いながら、その強さを競って遊んだ。森林愛護運動が起ってからは門松を飾ることが廃止され、その遊びも見られなくなった。マ⌜ナ⌝マー　ヤ⌜ラビ⌝ヌ　マ⌜チ⌝ヌパー　⌜アー⌝シン　ミ⌜ララン⌝　ナリ　⌜ナー⌝ヌ [ma⌜na⌝ma: ja⌜rabi⌝nu ma⌜tʃi⌝nupa: ⌜ʔa:⌝ʃim mi⌜raran⌝ nari ⌜na:⌝nu](今は子供の松葉喧嘩 < 松の葉合わせ > の遊びも見られなくなった)。

マ⌜チバーリ⌝　カ⌜サバーリ [ma⌜tʃiba:ri⌝ kḁ⌜saba:ri] 【連】まつわり、絡(カラ)まりつくこと。「まつわり <纏(マツ)わり > からまり < 絡まり >」の転訛したもの。シ⌜ナッふァ⌝ヌ　⌜ゴー⌝ラーンダ　マ⌜チバーリ⌝　カ⌜サバーリ⌝　シ⌜ラリティ⌝　タティン　⌝ビリン　ナ⌜ラ⌝ヌ [ʃi⌜naffa⌝nu ⌜go:⌝ra:nda ma⌜tʃiba:ri⌝ ka⌜saba:ri⌝ ʃi⌜rariti⌝ tatimbirin na⌜ra⌝nu](幼い子供が多いから、まつわり絡まりつかれて、身動き < 立ちも座りも

＞できない)。

マ˞チバールン [ma˞ʧiba:ruŋ] 【自動】まつわり (纏(マツ)わり) つく。子供が母親にまとい (纏(マトイ)) つく。ヤ˞ラ˥ベー　ブ˞ネー˥ナー　マ˞チバーリティ˥　パ˞ナーサラ˥ヌ [ja˞ra˥be: bu˞ne:˥na: ma˞ʧiba:riti˥ pa˞na:sara˥nu](子供が母親に纏(マツ)わり付いて離されない)。ウ˞ヌ˥　ジ˞ブンマー˥　ブ˞ネー˥ナー　マ˞チバールンダ˥　マ˞チバーラン˥ヨーニ　ナ˞ラー˥シ [ʔu˞nu˥ ʤi˞bumma:˥ bu˞ne:˥na: ma˞ʧiba:runda˥ ma˞ʧiba:raŋ˥jo:ni na˞ra:˥ʃiba](その年頃＜時分＞は母親に纏わり付くから、纏わり付かないように躾け＜教え＞なさい)。ブ˞ネー˥ナー　マ˞チバール˥　ヤ˞ラ˥ベー　ブ˞ラーヌ [bu˞ne:˥na: ma˞ʧiba:ru˥ ja˞ra˥be: bu˞ra:nu](母親に纏わり付く子供はいない)。ン˞メーマー˥　マ˞チバーレー˥　ミサムヌ [ʔm˞me:ma:˥ ma˞ʧiba:re:˥ misamunu](少しは母親に纏わり付けばいいのに)。˞マー˥ビン　マ˞チバーリ˥バ [˞ma:˥bim ma˞ʧiba:ri˥ba](もっと纏わり付けよ)。

˥マチフニ [˥maʧiɸuni] 【名】松の木で作った刳(ク)り舟。直径 50〜60 センチ、長さ約 5 メートルの˥マチキー [˥maʧiki:](松材。松の幹。「松木」の義) を刳り貫いて作った舟。明治 18 年頃の鳩間島には丸木舟が 13 隻あったという「鳩間島巡検統計誌」(田代安定)。この丸木舟に乗って西表島へ通い、人頭税を納めるために水田耕作をした。パ˞トゥ˥マプソー　˥マチフネーラ　˞パイ˥ター　˞ギーカユイ　シール　ター˥ヤ　ス˞ク˥ローッタツォー [pḁ˞tu˥mapu̥so: ˥maʧiɸune:ra ˞pai˥ta: ˞gi:kajui ʃi:ru ta:˥ja su̥˞ku˥ro:ttatso:](鳩間の人は松の刳り舟で＜から＞西表島＜南端＞へ行き通いして水田耕作された＜田んぼを作られた＞そうだ)。

マ˞チブルン [ma˞ʧiburuŋ] 【自動】1仕事に熱中する。夢中になる。耽る。没頭する。「まつわる (纏わる)」の転訛したもの。「〜藤波の思纏＜オモヒマツハリ＞若草の〜。万、3248」、「縈、マツハレリ」『類聚名義抄』の転訛したもの。シ˞グトゥ˥ナー　マ˞チブリ　ベーン˥ケン　˞ユー˥ボン　˥スコール　˞バシキナー˥ヌ [ʃi˞gutu˥na: ma˞ʧiburi be:ŋ˥keɲ ˞ju:˥bon ˥su̥ko:ru ˞baʃi̥ki na:˥nu](仕事に夢中になっているうちに夕飯の準備を忘れていまった)。バ˞カーン˥　ケンマー　シ˞グトゥ˥ナー　マ˞チブルンダ˥　ドゥク　マ˞チブランドー˥シ　シ˞グトー　シート ヨー [ba˞ka:ŋ˥ kemma: ʃi˞gutu˥na: ma˞ʧiburunda˥ duku ma˞ʧiburando:˥ʃi ʃi˞guto: ʃi:ɪ-jo:](若い時は仕事に夢中になるから、あまり夢中にならないで仕事をしなさいよ)。シ˞グトゥ˥ナー　マ˞チブル˥　クトー　˞ナーン˥セン [ʃi˞gutu˥na: ma˞ʧiburu˥ ku̥to: ˞na:ŋ˥ʃeŋ](仕事に夢中になることはなかった)。˞マー˥ビン　シ˞グトゥ˥ナー　マ˞チブレー˥　ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ʃi˞gutu˥na: ma˞ʧibure:˥ misamunu](もっと仕事に夢中になればいいのに)。マ˞チブリ˥バ [ma˞ʧiburi˥ba](夢中になれよ)。2女性に惚(ホ)れて現(ウツツ)を抜(ヌ)かす。芸事に現を抜かす。ミ˞ドゥ˥ムナー　マ˞チブリティ˥　ムッ˞トゥ˥　シ˞グトー　サンバン [mi˞du˥muna: ma˞ʧiburiti˥ mut˞tu˥ ʃi˞guto: sambaŋ](女に夢中になって遊び惚けて、ちっとも仕事をしないわい)。シ˞グトゥマチブリ　スン [ʃi˞gutumaʧiburi suŋ](仕事に夢中になる＜仕事惚けする＞)。

マ˞チヤー [ma˞ʧija:] 【名】店。商家。商店。町屋。「店家、マチヤ、坐売舎也」『色葉字類抄』、「Machiya. マチヤ (町屋)　町の家」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。イ˞サンケーヌ˥　マ˞チヤー˥ラ　シ˞ナムヌ　カイ˥　クー [ʔi˞saŋke:nu˥ ma˞ʧija:˥ra ʃi˞namunu kai˥ ku:](石垣島の商家から品物を買ってこい)。

˥マチャーヘー [˥maʧa:he:] 【固】人名。「真津氏」の義。大城真津氏の愛称。˥マチャーヒー [˥maʧa:çi:] ともいう。˞〜ヘー [˞〜he:](琉球古語では「比屋」と表記される。昔の按司の家来の役名で、鳩間方言のそれは糸満方言から借用したもの。˞〜氏。〜さん」の義)。「〜ヒー」[çi:](〜さん。ぞんざいな表現) ともいう。ヒャー [ça:]→ ヘー [he:]　→　ヒー [çi:] と音韻変化したもの。鳩間方言では敬愛の接尾語として用いられ、人名に下接して敬愛の情を表す。˥マチャーヘー [˥maʧa:he:](真津さん)、˞サン˥ダーヘー [˞san˥da:he:](三郎さん)。˥カナーヒー [˥kana:çi:](加那さん) などという。

˥マチャーヘースニ [˥maʧa:he:suni] 【名】(海底地名)。マチャーヘー曽根。大城真津氏がカツオ漁船のザ˞コー˥バ [ʤa˞ko:˥ba](餌獲り場。「雑魚獲り場」) とした曽根。フ˞ターチズニ [ɸu̥˞ta:ʧiʤuni](二つ曽根) の内側で、ヤ˞マ˥タジル [ja˞ma˥taʤiru] の南側にある。

˥マチヤマ [˥maʧijama] 【名】松林。松の森。「松山」の義。˥インダヌ　˞シーヌウチヌ˥　マチヤマー　イッ˞ケンカイ˥ヤタン [˥ʔindanu ˞ʃi:nuʔutʃinu˥ maʧijama: ʔik˞keŋ kai˥jataŋ](西表島の、伊武田地区の垣の内の松林は非常に美しかった)。

マ˞チリ [ma˞ʧiri] 【名】祭り。シ˞チマチ˥リ [ʃi̥˞ʧimaʧi˥ri](節祭り。単に˥シチ [˥ʃi̥ʧi]＜節＞ともいう)。˞タンカーマチリ [˞taŋka:maʧiri](遠方から、供物を

祈願する方向へ向かって供え、線香を立てて祈願すること。˞タンカーマチ [˞taŋkaːmatʃi] ともいう)、ウ˞シマチリ [ʔu˞ʃimatʃiri](牛祭り) などの語がある。節祭りは旧暦 8,9,10 月の戊戌 (つちのえいぬ)、己亥 (つちのとゐ) に当る日に執り行われた。

マ˞チン˺パー [ma˞tʃim˺paː] 【名】松葉。「松の葉」の転訛したもの。鳩間島には琉球松は自生していない。西表島には見事な琉球松が繁茂していたが、多くは戦時中に伐採された。伐採されて枯れた松の幹や根からは松根油を含んだ、ア˞カ˺シ [ʔa˞ka˺ʃi](あかし < 灯 >) がとれた。終戦直後は、これを鉛筆大に割って、二三本ずつ燃やしてランプの代用にしていた。マ˞チン˺パーバ　タ˞ム˺ヌ　˞シー　モース˺　プ˞ソー˺　ブ˞ラーンシェン [ma˞tʃim˺paːba ta˞mu˺nu ˞ʃiː moːsu˺ pu̥˞soː˺ bu˞raːŋʃeŋ](松葉を薪にして燃やす < 燃料にする > 人はいなかった)。

˺マツォー [˺matsoː] 【固】 (人) 男性の名。名称、呼称にいう。˺マツァー [˺matsaː](眞津) ともいう。明治時代の男子の名前には「松」、「眞津」、「多呂」、「多良」と戸籍に記される人名が多い。明治以後は戸籍上の大和風の名前と日常家庭で呼ばれる旧来の童名があった。カ˞ザケヌ˺　マツォーザー [ka˞ʤakenu˺ matsoʤaː](加治工の眞津兄さん) は、戸籍上の名は「加治工実」である。

マッ˞カーラ [mak˞kaːra] 【名】真っ赤。˞ウイプス˺ヌ　マッ˞カーラヌ　キン˺バ　キ˞シティ˺　バ˞カヤー　ナーン˺カヤー [˞ʔuipusu˺nu mak˞kaːranu kim˺ba ki̥˞ʃiti˺ ba˞kaja: naːŋ˺kajaː](年寄りが真っ赤な着物を着て恥ずかしくないのかねえ)。マッ˞カーラヌ˺　パ˞ナ˺ヌ　˺サクン [mak˞kaːranu˺ pa˞na˺nu ˺sḁkuŋ](真っ赤な花が咲く)。

˞マッカク [˞makkaku] 【名】真四角。正方形。˞マッカクヌ˺　カ˞ビ˺　ブリバ [˞makkakunu˺ ka˞bi˺ buriba](正方形の紙を折りなさい)。˞マッカクヌ˺　フ˞ル˺シケーナ　ッ˞ス˺ミバ [˞makkakunu˺ ɸu˞ru ˺ʃi̥keːna s˞su˺miba](真四角の風呂敷に包みなさいよ)。˞マッカクヌ˺　ピ˞キダマー　カッコー　ダーッサーナー˺ヌ [˞makkakunu˺ pi˞kidamaː kakkoː daːssaːna˺nu](真四角の凧は、格好は良くない)。

マッ˞クルー [mak˞kuruː] 【名】真っ黒。˺ティダナー　プ˞サ˺レーティ　シ˞グトゥ　シーアー˺キ　マッ˞クルー˺　ナリ˞ベー [˺tidanaː pu̥˞sa˺reːti ʃi˞gutu ʃiːʔaː˺ki mak˞kuruː˺ nari˞beː](太陽に干されて仕事をしていて真っ黒になっている)。

˺マッコー [˺makkoː] 【名】 (植) 木の名。盆栽用植物。ハリツルマサキ。˺マッコーヤ　パ˞トゥ˺マナー　˞ナン˺ゾー　˺ミリ　ミ˞ラン˺シェン [˺makkoːja pḁ˞tu˺manaː ˞nan˺ʤoː ˺miri mi˞raŋ˺ʃeŋ](マッコーは鳩間島では、あまり見たことはなかった)。

˞マッサ [˞massa] 【名】 (動) 魚の名。和名、テングハギの仲間。体長は 80 センチに達するというが、鳩間島ではあまり漁獲されない。

マッ˞シル [maʃ˞ʃiru] 【名・形動】真っ白。純白である。標準語からの借用語が転訛したもの。˺ッサイ　˺ムイティ　ス˞ブ˺ロー　マッ˞シル　ヤッタ [˺ssai ˺muiti su˞bu˺roː maʃ˞ʃiru jatta](白髪が生えて、頭は真っ白だった)。マッ˞シルヌ˺　カ˞ビ < ッ˞ス˺カビ >[maʃ˞ʃirunu˺ ka˞bi < s˞su˺kabi >](真っ白な紙)。マッ˞シル˺シ　˞ヌーリ < ッ˞ソーッソー˺シ　˞ヌーリ >[maʃ˞ʃiru˺ʃi ˞nuːri < s˞soːsso:˺ʃi˞nuːri >](真っ白に塗れ)。

マッ˞シング [maʃ˞ʃiŋgu] 【副】 1真っ直ぐに。˞シン˺マー　マッ˞シング˺　ピ˞キ˺バ [˞ʃim˺maː maʃ˞ʃiŋgu˺ pi̥˞ki˺ba](線は真直ぐに引きなさいよ)。マッ˞シング˺シ　˞ブー˺　タ˞キ˺　イ˞ラ˺ビバ [maʃ˞ʃiŋgu˺ʃi ˞buː˺ tḁ˞ki˺ ʔi˞ra˺biba](真っ直ぐになっている竹を選べよ)。˺ビーティ　マッ˞シング˺　ア˞ラキ　ユーサ˺ヌ [˺biːti maʃ˞ʃiŋgu˺ ʔa˞raki juːsa˺nu](酔って真っ直ぐに歩けない)。マッ˞シグ [maʃ˞ʃigu](真っ直ぐ) ともいう。2(名) 真っ直ぐ。正直。マッ˞シングヌ˺　タ˞キ [maʃ˞ʃiŋgunu˺ tak˞i](真っ直ぐな竹)。ウ˞レー˺　マッ˞シングヌ˺　プ˞ス [ʔu˞reː˺ maʃ˞ʃiŋgunu˺ pu̥˞su](彼は正直な人だ < 真っ直ぐな人だ >)。

マッ˞シング [maʃ˞ʃiŋgu] 【名・形動】真っ直ぐ。少しも曲がっていないこと。老年層の使用語。マッ˞シングヌ˺　ミ˞チ˺ヌ　˺アン [maʃ˞ʃiŋgunu˺ mi˞tʃi˺nu ˺ʔaŋ](真っ直ぐな < の > 道がある)。マッ˞シング˺　ア˞ラ˺キ　˺パリ [maʃ˞ʃiŋgu˺ ʔa˞ra˺ki ˺pari](真っ直ぐ歩いて行け)。マッ˞シング　ヤッタ [maʃ˞ʃiŋgu jatta](真っ直ぐだった)。

マッ˞スグ [mas˞sugu] 【名・形動】真っ直ぐ。少しも曲がっていないこと。標準語からの借用語か。若年層の使用語。マッ˞スグ˺　タティバ [mas˞sugu˺ tḁtiba](真っ直ぐ立ちなさいよ)。マッ˞スグヌ˺　プ˞ス [mas˞sugunu˺ pu̥˞su](正直な < 真っ直ぐな > 人)。

マッ˞タキ [mat˞taki] 【副】全く。完全に。そっくり。「Mattacu. マッタク (全く). 副詞. 確かに疑いも無く, または, すべて, 完全に」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ク˞レー˺　マ˞ッタキ˺　ユ˞ヌ˺ム

ヌ [kuˇreːˀ matˇtakiˀ juˇnuˀmunu](これは全く同じものだ)。ッˇふァーˀ　ウˇヤˀトゥ　マッˇタキ＜ビッˇツティ＞　ニーブ [fˇfaːˀ ʔuˇjaˀtu matˇtaki＜bitˇtsuti＞ niːbu](子供は親にそっくり似ている)。ウˇヌ　シーヨーˀヤ　マッˇタキˀ　プˇリムヌト ツォー [ʔuˇnu ʃiːjoːˀja matˇtakiˀ puˇrimunuꜜtsoː](そいつのやり方＜しざま。為様＞は全く狂人＜耄(ホ)れ者＞なんだよ)。

マッˇトーバ [matˇtoːba]【名】真っ直ぐ。真っ正直。ウˇレーˀ　マッˇトーバヌˀ　プˇスˀ　ヤˇルンダˀ　ユˇクシˀムネー　アˇザヌ [ʔuˇreːˀ matˇtoːbanuˀ pu̥ˇsuˀ jaˇrundaˀ juˇkuʃiˀmuneː ʔaˇʤanu](彼は真っ正直な＜の＞人だがら、嘘は言わない)。カˇクˀシ　ˀユクシˇサンドーˀシ　マッˇトーバˀ　アジ　ッˇサリリ [kḁˇkuˀʃi ˀjukuʃi ˇsandoːˀʃi matˇtoːbaˀ ʔaʤi sˇsariri](嘘偽り＜隠したり、嘘ついたり＞しないで、真っ正直＜真っ直ぐ＞に申し上げなさい)。マッˇトーバˀ　アˇラˀキバ [matˇtoːbaˀ ʔaˇraˀkiba](真っ直ぐ歩けよ)。

ˇマットーˀン [ˇmattoːˀŋ]【形】正直である。真っ直ぐである。ウˇヌˀ　プˇソー　マットーˀンティ　スˇクタンドゥ　ナンˀゾー　ˇマットー　ナーンˀティバン　ˇナー [ʔuˇnuˀ pu̥ˇsoː mattoːˀnti su̥ˇkutandu nanˀʤoːˇmattoː naːnˀtiban ˇnaː](その人は真っ正直だと聞いたが、それほど真っ正直ではないそうだねえ)。イッˇケナ　マットーヌˀ　プˇス [ʔikˇkena mattoːnuˀ pu̥ˇsu](非常に正直な人)。

ˇマッˀふァ [ˇmafˀfa]【名】枕。「枕、万久良 (まくら)」『和名抄』。「Macura. マクラ (枕) 枕. Macurauo catamuquru. (枕を傾くる) 寝るために枕を整(トトノ)える」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˇキーマッˀふァ [ˇkiːmafˀfa](木枕)。パˇクマッふァ [pḁˇkumaffa](箱枕)。ˇヌーヌマッふァ [ˇnuːnumaffa](布枕)。イˇシマッふァ [ʔiˇʃimaffa](陶磁器製の枕。ひんやりとした感触があり、夏季に愛用された)。ˇティーマッˀふァ [ˇtiːmafˀfa](手枕。母親が子供を寝かせつける際に手枕にした) などがあった。ˇマッˀふァ　ˇサンˀカー　ニˇバラヌ [ˇmafˀfa ˇsaŋˀka: niˇbaranu](枕をしないと眠れない)。

ˇマッˀふァイズ [ˇmafˀfaʔiʤu]【名】(動) 魚の名。和名、ハコフグ (体長約 30 センチ)。和名、コンゴウフグ (体長約 40 センチ) の総称。形態が枕に似ることから命名された。ˇブーˀナー [ˇbuːˀnaː](ふぐ＜河豚＞) ともいう。ˇマッˀふァイズ [ˇmafˀfaʔiʤu] もˇブーˀナー [ˇbuːˀnaː] も全く食しない。網にかかっても捨てた。

マˇツˀラ [maˇtsuˀra]【名】船のˇカーˀラ [ˇkaːˀra](竜骨) に据え付ける L 字型、V 字型の肋骨。多くは V 字型、L 字型の股木を利用していた。これに板を接ぎ合わせて伝馬船の船体を造っていた。ˇキーˀヌˀマタ　シゥˇカイティˀ　フˇニˀヌ　マˇツˀラ　ˇソーッˀタ [ˇkiːˀnu mata si̥ˇkaitiˀ ɸuˇniˀnu maˇtsuˀra ˇsoːtˀta](木の股＜股木＞を使って伝馬船の竜骨に据え付けるマツラ (肋骨) にされた)。

マˇツン [maˇtsuŋ]【他動】まつる。神仏に供物を供える。「祭る、祀る」の義。「～神のみ坂に奴佐麻都理＜ヌサマツリ＞～。万 4402」、「Matçuri,u,utta. マツリ、ル、ッタ (祭り、る、った) 神 (Camis) に対して祭礼や儀式を行い、いけにえを捧げ、祈願をする.」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ムˇチンˀ　グシン　ˇコーˀパナーン　シˇキˀ　マˇチティ　ニンˀガイ　ッˇサリリ [muˇʧiŋˀ guʃiŋ ˇkoːˀpanaŋ ʃi̥ˇkiˀ maˇʧiti niŋˀgai sˇsariri](餅も神酒も線香、花米も供え祭ってお祈＜祈願＞を申し上げなさい)。ˀグシマˇツンティ　スンドゥˀ　マˇツァンˀタンティ　ˀミサンティ　アˇゾールˀバン [ˀguʃi maˇtsuntiˀ sunduˀ maˇtsanˀtantim ˀmisanti ʔaˇʤoːruˀbaŋ](神酒を供えよう＜祭る＞とするが、祭らくてもよいとおっしゃるよ)。マˇチˀ　ミサカー　マˇツˀ　クトー　ˀナルン [maˇʧiˀ misakaː maˇtsuˀ ku̥toː ˀnaruŋ](祭って＜供えて＞よければ、祭る＜供える＞ことは出来る)。ムーˇルˀ　マˇチェーˀ　ミサムヌ [muːˇruˀ maˇʧeːˀ misamunu](全部お供えすればいいのに)。ˇパーˀク　ˀグシパナ　マˇチˀバ [ˇpaːˀku ˀguʃipana maˇʧiˀba](早く神酒や花米を供えなさいよ)。

マˇティカンˀティ [maˇtikanˀti]【名】待ち遠しいさま。待ちかねること。待ちあぐむこと。その状態になることを待ちわびること。ˇワーˀ　イˇチルˀ　クーカヤーティ　マˇティカンˀティ　ˇシーベートダー [ˇwaːˀ ʔiˇʧiruˀ kuːkajaːti maˇtikanˀti ˇʃiːbeːꜜdaː](君はいつ来るのかと待ちかねているよ＜待ち遠しく思っているよ＞)。

マˇティングリˀサン [maˇtiŋguriˀsaŋ]【形】待ちづらい。待ち兼ねる。待ちきれなくなる。「待ち苦しい＜待ち難い＞」の義で、厳しい状況表現が中心的意味。「Machicane.uru,eta. マチカネ、ヌル、ネタ (待ち兼ね、ぬる、ねた) 待ちきれないほどになる」『邦訳日葡辞書』の語形に対応するマˇティカンˀティ [maˇtikanˀti](待ち兼ねて。待ち遠しい) は、「期待して待つ」ことが中心意味。ˀクナーテー　マˇティングリˀサンダ

˥カナーティ　マ˞タディー [˥kuna:te: ma˞tiŋguri˥ sanda ˥kana:ti mata˞di:](此処では待ちづらいから、あそこで待とうよ)。˞ナン˥ゾー　マ˞ティングリ˥サー　˞ナー˥ヌ [˞nan˥ʤo: ma˞tiŋguri˥sa: ˞na:˥nu](それほど待ちづらくない)。˞シンダイ˥　マ˞ティングリ˥サー　˥ナリ　˞ナー˥ヌ [˞ʃindai˥ ma˞tiŋguri˥sa: ˥nari ˞na:˥nu](次第に待ちづらくなってしまった)。マ˞ティングリ˥サル　˥クトー　˞ナー˥ヌ [ma˞tiŋguri˥ saru ˥kʉto: ˞na:˥nu](待ちづらいことはない)。

マ˞トー [ma˞to:] 【名】(動) 魚の名。和名、イスズミ(体長約 55 センチ、薄い銀色の体色)。鳩間島では大型の成魚は、あまり漁獲されなかった。

マ˞トーナ [ma˞to:na] 【名】又こなし (またこなし < 又熟し >)。二度耕し。

マ˞トーナー [ma˞to:na:] 【名】又ごな (熟) し。田圃を二度目に耕すこと。マ˞タ [ma˞ta](又) に「Conaxi, su, aita. コナシ、ス、イタ (こなし、す、いた)、Tçuchiuo conasu(土をこなす) 粘土を捏ねる」『邦訳日葡辞書』が融合して形成され、更に転訛したもの。ア˞ロー˥ナ [ʔa˞ro:˥na](水田の初耕し < 初起こし。粗こなし >) の後、マ˞トーナ [ma˞to:na](又起こし。又こなし)、˞サン˥トゥ [˞san˥tu](三度耕し < 三度こなし >) をして田植えをするのが普通であった。˞マイフナー [˞maiɸuna:](働き者 < 立派な男 >) は、˞ユントゥ [˞juntu](四度こなし) までするので、その人は村の誉れと言われたという。イ˞ガメーヌ˥　ウ˞ワール˥カー　ア˞ロー˥ナ　マ˞トーナ　サン˥カー　ナ˞ラ˥ヌ [ʔi˞game:nu˥ ʔu˞wa:ru˥ka: ʔa˞ro:˥na ma˞to:na saŋ ˥ka: na˞ra˥nu](烏賊釣り漁が終わると、田圃の初耕し < 初こなし >、二度耕 < 又こなし > しをしないといけない)。

マ˞トゥ [ma˞tu] 【名】的。目標。「的、万斗 (まと)、射的也」『和名抄』。「Mato. マト (的) 射垜 (あずち) に立てる標的」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞ユン˥ヌ　マ˞トゥ˥　イ˞ヤ˥シ　イ˞リ˥バ [˞jun˥nu ma ˞tu˥ ʔi˞ja˥ʃi ʔi˞ri˥ba](弓の的を矢で射なさいよ)。

˥マドゥ [˥madu] 【名】1暇。あいた時間。˞キュー˥ヤ (ワ)　マ˞ドー　ナーン˥バ　マー˞ズン˥　パ˞ララ˥ヌ [˞kju:˥ja(wa)ma˞do: na:m˥ba ma:˞ʤum˥ pa˞rara˥ nu](今日は暇がないから、一緒に行けない)。2時間的な間隔。˞チャーチジ˥キ　˞サンドー˥シ　˥マドー　ア˞ケー˥ティ　シ˞グトー　シー˥バ [˞ʧa:ʧiʤi˥ki ˞sando:˥ʃi ˥mado: ʔa˞ke:˥ti ʃi˞guto: ʃi:˥ba](ぶっ続けにしないで、間を置きながら < 開けて > 仕事はしなさい)。イ˞チヌ˥　マドゥナール　˞パッ˥タユー　ブ˞ラーン˥ナリ　˞ナー˥ヌ [ʔi˞ʧinu˥ maduna:ru ˞pat ˥taju: bu˞ra:n˥nari ˞na:˥nu](いつの間に行ったのか、いなくなってしまた)。

マ˞ドゥ˥キドゥ [ma˞du˥kidu] 【名】すきま (隙間)。空き間。ABCB 型の重言。「間遠・気遠」の義。「〜鳴き行く鶴の麻登保久 < マトホク >〜。万、3522」、「〜近からむと思ひつるを、されどけどほしかりけり」『源氏物語　帚木』の「間遠・気遠」が転訛したものか。空間的、時間的に離れたものを表す。マ˞ドゥーン　ナー˥ヌ [ma˞du:n na:˥nu](暇がない。時間がない)。キ˞ドゥ　ヌクン [ki˞du nukuŋ](訪ねることが減る。よそよそしくなる)。マ˞ドゥ˥キドゥ　˞ナーン˥スコー　ギャン˞ティ˥　プ˞スヌ˥　ア˞ツァ˥マリ　˞ベー [ma˞du˥kidu ˞na:n˥ sʉko: gjan˞ti˥ pʉ˞sunu ˥ ʔa˞tsa˥mari ˞be:](隙間無く < 立錐の余地がなく > 人がぎっしり集まっている)。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　ブ˞ネートゥ˥　マ˞ドゥ˥キドゥ　ヌ˞カヌ [ku˞nu˥ f˞ fa:˥ bu˞ne:tu˥ ma˞du˥kidu nu˞kanu](この子は母親にくっ付いて一寸も側を離れない。一寸の間隔もおかない)。

マ˞ドゥスク˥ル [ma˞dusʉku˥ru] 【名】間作(カンサク)。麦や粟の畝や株の間に植えてつくる大豆など。ア˞ガマミーン　トー˥フマミーン　˥ユー　マ˞ドゥスク˥ル　˞ソーッ˥タン [ʔa˞gamami:n to:˥ɸumani:ɲ ˥ju: ma˞ dusʉku˥ru ˞so:t˥taŋ](小豆も大豆もよく間作されたものだ)。

マ˞ドゥ　ヌクン [ma˞du nukuŋ] 【連】まどお (間遠(マドオ)) になる。往き来が遠のいていく。関係が薄れていく。キ˞ドゥ　ヌクン [ki˞du nukuŋ](気遠(ケドオシ)になる。気遠退く) ともいう。チ˞カ˥グロー　˞ウン˥ネートー　マ˞ドゥヌキル　ブー˥ティバン　˞ナー [ʧi̥˞ka˥guro: ˞ʔun˥ne:to: ma˞dunukiru bu:˥tiban ˞na:](最近はあの家との往き来が間遠に < 疎遠に > なっているそうだねえ <〜間遠に遠退いているってねえ >)。

マ˞ドゥ˥ヌ　˥ムヌ [ma˞du˥nu ˥munu] 【連】おやつ。間食。食事と食事の間に食べるもの。「間の物」の義。「〜鳴き行く鶴の麻登保久 < マトホク > 思ほゆ。万、3522」の形容詞語幹の名詞化したものが意味派生したもの。˞ウイ˥プソー　˥ドゥク　˞イー˥ヤ　ン˞コーラ˥ヌヌ　マ˞ドゥ˥ヌ　˥ムノー　˥プサ　˞ソー˥ルン [˞ʔui˥pʉso: ˥duku ˞ʔi:˥ja ʔŋ˞ko:ra˥nunu ma˞du˥nu ˥muno: ˥pʉsa ˞so:˥ruŋ](老人は、あまり食事を召し上がらないが、お八つは欲しがられる < 欲しくなさる >)。

マ˞ドゥヌ˥ムヌ [ma˞dunu˥munu] 【名】魔物。悪霊。

「魔道のもの」の義か。無縁仏で成仏できずにさ迷って、道行く人に供物をねだったり、頼みごとをして危害を加えると信じられている。キ˞ドゥヌ˥ムヌ [ki˞dunu˥munu](「外道のもの」の義か) と対語で用いられる。乳幼児を連れて夜間外出する必要がある場合、マ˞ドゥヌ˥ムヌ (魔道のもの) に乳幼児をさらわれぬよう、眉間に鍋墨を付けたり、祖母が舌で眉間を舐(ナ)めてやったりした。マ˞ドゥヌ˥ムヌンム˞タラン˥ヨーニ　ピ˞サ˥ビ　フ˞タイ˥ナー　マ˞ミ˥バ [ma˞dunu˥munum mu˞taraŋ˥jo:ni pi̥˞sa˥bi ɸu̥˞tai˥na: ma˞mi˥ba](魔物に惑わされないように鍋墨を額に塗りなさい)。

マ˞ドゥ˥　パ˞カ˥ラウン [ma˞du˥ pḁ˞ka˥rauŋ] 【連】合間をぬう。合間を見計らう。物事の途切れる間の短時間を活用する。シ˞グトゥヌ˥　マ˞ドゥ˥　パ˞カライ˥ヤーティ　クーバ˞ヨー [ʃi˞gutunu˥ ma˞du˥ pḁ˞karai˥ja:ti ku:ba˞jo:](仕事の合間を見計らって来なさいね)。

マ˞ドゥ˥マドゥ [ma˞du˥madu] 【名】ひまひま (暇暇)。時々。マ˞ドゥ˥マドー　˥キー　˞テー˥ナイ　˞シー˥バ [ma˞du˥mado: ˥ki: ˞te:˥nai ˞ʃi:ba](暇暇には来て手伝いなさいよ)。シ˞グトゥヌ˥　マ˞ドゥ˥マドー　ア˞サビン˥　クーバ [ʃi˞gutunu˥ ma˞du˥mado: ʔa˞sabiŋ˥ ku:ba](仕事のあいま < 合間 > には遊びに来いよ)。

マ˞トゥマルン [ma˞tumaruŋ] 【自動】まとま (纏(マトマ)) る。ひとかたまりになる。整った状態になる。˥キューズーナ　˞カンガイ˥ヤー　マ˞トゥマルン˥カヤーティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　マ˞トゥマラン˥サー [˥kju:ʤu:na ˞kaŋgai˥ja: ma˞tumaruŋ˥kaja:ti ʔu˞mu:tan˥du ma˞tumaran˥sa:](今日中に考えが纏まるかと思ったが、纏まらないさ)。ドゥ˞シザーン˥　マ˞トゥマリ˥　ミサカー　マ˞トゥマル˥　クトー　˥ナルン [du˞ʃiʤa:m˥ ma˞tumari˥ misaka: ma˞tumaru˥ ku̥to: ˥naruŋ](友人同士纏まってよければ、纏まることはできる)。マー˞ズン˥　マ˞トゥマレー˥　ミサムヌ [ma:˞ʤum˥ ma˞tumare:˥ misamunu](一緒に纏まればいいのに)。˞パー˥ク　マ˞トゥマリ˥バ [˞pa:˥ku ma˞tumari˥ba](早く纏まれよ)。˥アイル　ム˞ヌグ˥トー　マ˞トゥマル [˥ʔairu mu˞nugu˥to: ma˞tumaru](そのようにしか < ぞ > 物事は纏まらない < 物事は纏まる > ものだ)。²全うする。ク˞ヌ˥　ユ˞ミンデー˥カー　˞クン˥ネーナー　マ˞トゥマルン [ku˞nu˥ ju˞minde:˥ka: ˞kun˥ne:na: ma˞tumaruŋ](この嫁ならこの家に嫁の勤めを成し遂げる < 全うする >)。

マ˞トゥミルン [ma˞tumiruŋ] 【他動】まとめ (纏め) る。ひとかたまりにする。整った状態にする。ムー˞ルヌ　カンガイ˥バ　マ˞トゥミルンティ　サンドー˥シ　マ˞トゥミランドー˥シ　˞タンガタンガ˥ヌ　˞カンガイ˥バ　パ˞ナシミ˥リ [mu:˞runu kaŋ˥gai ma˞tumirunti sando:˥ʃi ma˞tumirando:˥ʃi ˞taŋgataŋga˥nu ˞kaŋgai˥ba pa˞naʃimi˥ri](皆の考えを纏めようとしないで、纏めないで、一人一人の考えを話させなさい)。パ˞ナ˥シ　マ˞トゥミ˥　ミサカー　マ˞トゥミル˥　クトー　˥ナルン [pa˞na˥ʃi ma˞tumi˥ misaka: ma˞tumiru˥ ku̥to: ˥naruŋ](話を纏めてよければ纏めることは出来る)。マ˞トゥミレー˥　ミサムヌ [ma˞tumire:˥ misamunu](纏めればいいのに)。˞パー˥ク　マ˞トゥミリ [˞pa:˥ku ma˞tumiri](早く纏めろ)。

マ˞トゥムン [ma˞tumuŋ] 【他動】まとめ (纏め) る。ひとかたまりにする。整った状態にする。総括する。˞ニー˥ヤ　˞ピー˥チナ　マ˞トゥムンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　マ˞トゥマランバン [˞ni:˥ja ˞pi:˥ʧina ma˞tumunti˥ ʔu˞mu:n˥du ma˞tumarambaŋ](荷物は一つに纏めようと思うが、纏められない)。マ˞トゥミ˥　ミサカー　プ˞ス˥トンナー　マ˞トゥム˥　クトー　˥ナルン [ma˞tumi˥ misaka: pu̥˞su˥tonna: ma˞tumu˥ ku̥to: ˥naruŋ](纏めてよければ、一箇所に纏めることは出来る)。˞ニー˥ヤ　マ˞トゥメー˥　ミサムヌ [˞ni:˥ja ma˞tume:˥ misamunu](荷物は纏めればいいのに)。˞ニー˥ヤ　˞パー˥ク　マ˞トゥミ˥バ [˞ni:˥ja ˞pa:˥ku ma˞tumi˥ba](荷物は早く纏めよ)。

˥マトゥン [˥matuŋ] 【他動】待つ。「之保麻都等 < シホマツト >〜。万、3594」の「麻都」の転訛したもの。˞マー˥ビン　マ˞ティ˥プサンドゥ　˞キュー˥ヤ (ワ) マ˞タ˥ヌ [˞ma:˥bim ma˞ti˥pu̥sandu ˞kju:˥ja(wa)ma˞ta˥nu](もっと待ちたいが、今日は待たない)。˥マトゥンティ　˥ウムーカー　˥マトゥ　˥クトー　˥ナルン [˥matunti ˥ʔumu:ka: ˥matu ˥ku̥to: ˥naruŋ](待とうと思えば待つことは出来る)。ン˞ベーマ˥　マテー˥ミサムヌ [ʔm˞be:ma˥ mate: ˥misamunu](ちょっと待てば良いのに)。ヤー˞デイン˥　クナー　˥マティ [ja:˞dim˥ kuna: ˥mati](必ずここで待て)。

マ˞ドゥン˥　キドゥーン　˞ナー˥ヌ [ma˞duŋ˥ kidu:n ˞na:˥nu] 【連】暇も余裕もない。隔たりがない。物理的心理的距離がない。ぎっしりと詰まっている。「間遠も気遠もない」の義。ナ˞チヌ　マイカリジブンマー˥　ス˞クリ˥プソー　˞パンタサ˥ヌ　マ˞ドゥン˥　キドゥン　˞ナー˥ヌ [na˞ʧinu maikariʤibumma:˥ su̥˞kuri˥pu̥so: ˞pantasa˥nu ma˞duŋ˥kidun ˞na:˥nu](夏

の稲刈り時分は百姓＜作人＞は多忙＜繁多＞なので、いっときの暇も心の余裕もない)。

˥マナー [˥mana:] 【連】どこ (何処) に。代名詞˥マー [˥ma:](どこ＜何処＞) に、格助詞˥ナー [˥na:](に) が付いた形成された形。˞ワッ˥テーヤ　˥マナー　ア˞ル˥ワ [˞wat˥te:ja ˥mana: ʔa˞ru˥wa](君の家は何処にあるか)。

マ˞ナ˥マ [ma˞na˥ma] 【名】1今。現在。接頭語˞マ [˞ma](真実) が名詞˥ナマ [˥nama] に付いて形成された形。マ˞ナ˥マン　˥アイブ　シ˞グトー˥　ソー˞ルン [ma˞na˥maŋ ˥ʔaibu ʃi˞guto:˥ so:˞ruŋ](今もあんな仕事はされますか)。2すぐ。やがて。直ちに。マ˞ナ˥マ　˞キー˥シバ　ン˞メーマ˥　マティバ [ma˞na˥ma ˞ki:˥ʃiba ʔm˞me:ma˥ matiba](今すぐ来るから、少し待ちなさいよ)。

マ˞ナマー˥キ [ma˞nama:˥ki] 【連・副】1今まで。先刻まで。若年層では、マ˞ナバー˥キ [ma˞naba:˥ki](今まで) ともいう。マ˞ナマー˥キ　˥ウナー　˞ベータ˥ヌ　ブ˞ラーン˥　ナリ˞ナー˥ヌ　˞マー　パッ˥タカヤー [ma˞nama:˥ki ˥ʔuna: ˞be:ta˥nu bu˞ra:n˥ nari˞na:˥nu ˞ma: pat˥takaja:](今先まで此処に居たが、居なくなってしまった。何処へ行ったかなあ)。2陳述副詞的用法。未だに。まだ。打ち消しの語を伴って「未だに～ない」のように用いられる。˞パー˥ク˥クーティ　ア˞ズタヌ˥　マ˞ナマー˥キ　˞クー˥ヌ [˞pa:˥ku ˥ku:ti ʔa˞ʤutanu˥ ma˞nama:˥ki ˞ku:˥nu](早く来いと言ったのに、まだ＜未だに＞来ない)。

マ˞ナ˥マ　カ˞キ˥ティン [ma˞na˥ma kḁ˞ki˥tiŋ] 【連】今もって。いまだに。「今にかけても」の義。イ˞クサユー˥ヌ　ク˞チ˥サー　マ˞ナ˥マ　カ˞キ˥ティン＜シ˞キ˥ティン＞　˞バシキララヌ [ʔi˞kusaju:˥nu ku̥˞ʧi˥sa: ma˞na˥ma kḁ˞ki˥tim＜ʃi˞ki˥tim＞ ˞baʃi̥kiraranu](戦争の時代＜戦世＞の苦しさは今もって忘れられない)。

マ˞ナ˥マグル [ma˞na˥maguru] 【名】いまごろ (今頃)。˥アブジェー　マ˞ナ˥マグロー　ニ˞ビル　オー˥ル　˥パジ [˥ʔabuʤe: ma˞na˥maguro: ni˞biru ʔo:˥ru ˥paʤi](おじいさんは、今頃は寝て＜ぞ＞おられるだろう＜はずだ＞)。マ˞ナ˥マグローラ　ア˞ザバン　ニーバ˥ル　˥アル [ma˞na˥maguro:ra ʔa˞ʤaban ni:ba˥ru ˥ʔaru](今頃から言っても遅い＜遅くぞある＞)。

マ˞ナ˥マ　シ˞キ˥ティン [ma˞na˥ma ʃi̥˞ki˥tiŋ] 【連】いまだに。いまなお。今もって。イ˞クサユー˥ヌ　ク˞チ˥サー　マ˞ナ˥マ　シ˞キ˥ティン　˞バシキララヌ [ʔi˞kusaju:˥nu ku̥˞ʧi˥sa: ma˞na˥ma ʃi̥˞ki˥tim ˞baʃi̥kiraranu](戦時中の苦しさは、今もって忘れられない)。

マ˞ナ˥マジブン [ma˞na˥maʤibuŋ] 【名】今時分。今の時期。今頃。マ˞ナ˥マジブンマー　イ˞ゾー　ヌー˥ル　˞ホーサリ˥ワ [ma˞na˥maʤibumma: ʔi˞ʤo: nu:˥ru ˞ho:sari˥wa](今の時期は、魚は何が釣られるか)。マ˞ナ˥マジブンマー　˞スー˥ヤ　ピ˞シ˥ブー　˥パジ [ma˞na˥maʤibumma: ˞su:˥ja pi̥˞ʃi˥bu: ˥paʤi](今時分は潮も引いているだろう)。イッ˞チンマー˥　マ˞ナ˥マジブンマー　˞キー˥スンドゥ　˞キュー˥ヤ (ワ) マ˞ダ　クー˥ヌ [ʔit˞ʧimma:˥ ma˞na˥maʤibumma: ˞ki:˥sundu ˞kju:˥ja(wa) ma˞da ku:˥nu](いつもは、今頃は来るのだが、今日はまだ来ない)。

マ˞ナマタ [ma˞namata] 【名】先刻。さきほど。今しがた。ついさっき (先)。「いま先」の義。マ˞ナマッタ [ma˞namatta](先刻。強調表現) ともいう。マ˞ナマタル　ヤー　パッタ˥ル　シ˞ビウイ　シー˥　パリバ [ma˞namataru ja: patta˥ru ʃi˞biʔui ʃi:˥ pariba](ついさっき＜ぞ＞家にかえったんだ。後追い＜しりおい＞して行きなさいよ)。

マ˞ナ˥マトー [ma˞na˥mato:] 【副】今には決して～ない。今すぐには決して～ない。今には～。「今とは」の義。下に打ち消しの語を伴って用いられる陳述副詞的用法。フ˞ヨー˥ムヌ　ウ˞リノー˥　マ˞ナ˥マトー　˞クー˥ヌ [ɸu˞jo:˥munu ʔu˞rino:˥ ma˞na˥mato: ˞ku:˥nu](怠け者だもの、彼＜が＞は、今には＜今すぐには＞来ないよ)。マ˞ナ˥マトー　˞キーユーサ˥ヌ [ma˞na˥mato: ˞ki:ju:sa˥nu](今すぐはとても来ることが出来ない)。

マ˞ナ˥マ　˥ドーレーラ [ma˞na˥ma ˥do:re:ra] 【連】今頃になってから。いまさら＜今更＞に。この期に及んで。マ˞ナ˥マ　˥ドーレーラ　˥ワキ　サ˞バン　ニーバ˥ル [ma˞na˥ma ˥do:re:ra ˥waki sa˞ban ni:ba˥ru](この期に及んで＜今頃になって＞謝っても＜断りしても。弁解しても＞遅い)。

マ˞ナ˥マ　˞ナー˥トー [ma˞na˥ma ˞na:˥to:] 【連】今なんぞ～ない。今には～ない。今更～ものか、～ない。˥カイ　˞ブームヌ˥　マ˞ナ˥マ　˞ナー˥ト　イッ˞カ˥　パ˞リユーサ˥ヌ [˥kai ˞bu:munu˥ ma˞na˥ma ˞na:˥to ʔik˞ka˥ pa˞riju:sa˥nu](こんなだから、今なんぞ＜今には＞決して行くことができない)。マ˞ナ˥マ　˞ナー˥トー　パルン˞トゥレー [ma˞na˥ma ˞na:˥to: parun˞ture:](今なんぞ行くものか、彼がは決して行かない)。

マ˞ナ˞マ　˞ナリ **[ma˞na˞ma ˞nari]** 【連】1今になって。今までに。˞ナン˞ギ　˞アウリバ　˞シェー˞ティル　ッ˞ふァバ˞　フ˞ドゥバシ˞　マ˞ナ˞マ　˞ナリ　ケー˞ダー [˞naŋ˞gi ˞ʔauriba ˞ʃe:˞tiru f˞faba˞ ɸu˞dubaʃi˞ ma ˞na˞ma ˞nari ke:˞da:](難儀苦労＜哀れ＞をしながら子供を成長させて今日になってきたんだよ)。2いまさら (今更)。ウ˞ヌ˞　ピンマー　ア˞ザムティ˞　マ˞ナ˞マ　˞ナリ　ア˞ズバン˞　ノー˞ン˞　ナ˞ラ˞ヌ [ʔu ˞nu˞ pimma: ʔa˞ʤamuti˞ ma˞na˞ma ˞nari ʔa˞ʤuban˞ no:˞n˞ na˞ra˞nu](その時は言わないで、今更＜今になって＞言っても、何にもならない)。

マ˞ナマ˞ヌ　˞アイ **[ma˞nama˞nu ˞ʔai]** 【連】この間。この間ずっと。今までの間。マ˞ナマ˞ヌ　˞アイ　˞ヌー˞シ　˞シー˞　キ˞ナイ˞　ムティ　˞クー˞ター [ma ˞nama˞nu ˞ʔai ˞nu:˞ʃi ˞ʃi:˞ ki˞nai˞ muti ˞ku:˞ta:](この間どうやって家庭を切り回して＜維持して＞きたのか)。

マ˞ナマ˞ヌ　˞パンシ **[ma˞nama˞nu ˞paŋʃi]** 【連】当面。さしあたり。当座しのぎ (凌ぎ)。「今の外し」の義。マ˞ナマ˞ヌ　˞パンシェー˞　クビシン　ナ˞リ˞スヌ　ウ˞ビ˞ヌ　˞ウカー　˞タンガ˞シェー　パ˞ライユーサ˞ヌ [ma˞nama˞nu ˞paŋʃe:˞ kubiʃin na˞ri˞ sunu ʔu˞bi˞nu ˞ʔuka: ˞taŋga˞ʃe: pa˞raiju:sa˞nu](差し当たっては此れだけでも対応できるが、あれだけの借金は一人では返済できない＜払いきれない＞)。

マ˞ナマバー˞キ **[ma˞namaba:˞ki]** 【連】今まで。マ˞ナマー˞キ [ma˞nama:˞ki](今まで。[ma˞namama:˞ki] の略) というのが普通。上接語の末尾音がマ行音、鼻音の場合、[b] が [m] に変わる自由変異の傾向が強い。マ˞ナマバー˞キ　˞マナー　ア˞サビマール　シー　アーク˞ター [ma˞namaba:˞ki ˞mana: ʔa˞ sabima:ru ʃi: ʔa:ku˞ta:](今まで何処で遊び回りをしていたのか)。マ˞ナマー˞キ　マ˞ダ　クー˞ヌ [ma˞ nama:˞ki ma˞da ku:˞nu](今までまだ来ないのか)。

マ˞ナ˞マパダ **[ma˞na˞mapada]** 【名】今の年代 (の子供)。今の年頃 (の子供)。今時 (の子供)。当世 (の子供)。ヤ˞ラ˞ベー　マ˞ナ˞マパダル　ノー˞ン˞　シ˞ミルバン　スー˞ルンダ　ク˞ヌ　スーリ˞パダナー　シカイ˞トゥ˞　ナ˞ラー˞シバ [ja˞ra˞be: ma˞na˞ mapadaru no:˞ŋ˞ ʃi˞miruban su:˞runda ku˞nu su:ri˞ padana: ʃi̥kai˞tu˞ na˞ra:˞ʃiba](子供は、今の年頃が何をさせても成長するから、この成長期にしっかりと教えなさい)。マ˞ナ˞マパダヌ　ミ˞ドーン˞ッふァー　ブ˞ドゥルン　ゾー˞ジ [ma˞na˞mapadanu mi˞do:ŋ ˞ffa: bu˞durun ʤo:˞ʤi](今の年頃の女の子は踊も上手だ)。

マ˞ナ˞マブカラ **[ma˞na˞mabukara]** 【連】1今ぐらい。今の程度。この程度。マ˞ナ˞マ [ma˞na˞ma](今) に副助詞˞ブカラ [˞bukara](物事を示して、それとほぼ等しい分量や程度を表す) が付いた形。マ˞ナ˞マ　˞ブカラヌ　シゥ˞カラヌ˞　アルカー　ノー˞ン˞　ナ˞リ˞スヌ　˞ナー [ma˞na˞ma ˞bukaranu s̬i˞karanu˞ ʔaruka: no:˞n˞ na˞ri˞sunu ˞na:](今ぐらいの力があれば何でも出来るのだがなあ)。2今ぐらい＜時間的な程度＞。今頃。マ˞ナ˞マブカラー＜マ˞ナ˞グロー＞　ニ˞ビ　ブー˞　パジ [ma˞na˞mabukara:＜ma˞na ˞guro:＞ ni˞bi bu:˞ paʤi](今頃は寝ているはずだ)。

マ˞ナ˞マプス **[ma˞na˞mapu̥su]** 【名】今人。現代の人。ム˞カ˞シプス [mu˞ka˞ʃipu̥su](昔の人。昔人) の対義語。マ˞ナ˞マプソー　˞シマムニン　ッ˞サヌ　ヌー˞スワメー [ma˞na˞mapu̥so: ˞ʃimamunin s˞sanu nu:˞ suwame:](今の人は島の言葉も分らない。如何しようか)。

マ˞ナ˞マムティ **[ma˞na˞mamuti]** 【副】今もって。いまだに。今でも。文末に打ち消しの表現を伴って、「今もって～ない」のように陳述副詞的に用いられる。ウ˞ヌ˞　クトー　マ˞ナ˞マムティ　バ˞シキララヌ [ʔu˞nu˞ ku̥to: ma˞na˞mamuti ˞baʃi̥kiraranu](そのことは今もって忘れられない)。

マ˞ナ˞マユー **[ma˞na˞maju:]** 【名】今の世。現代。ム˞カ˞シユー [mu˞ka˞ʃiju:](昔の世。前代) の対義語。マ˞ナ˞マー　マ˞ナ˞マユーヌ　ナ˞ライ˞ヌ　˞アンダ　˞ウヌトゥール　˞シー˞バ [ma˞na˞ma: ma˞na˞maju:nu na˞rai˞nu ˞ʔanda ˞ʔunutu:ru ˞ʃi:˞ba](今は、現代の慣習＜風習＞があるから、その通りにしなさいよ)。

マ˞ナマンチン **[ma˞namanʧiŋ]** 【副】直ちに。いますぐに。じきに。あっという間に。「唯今の内に」の転訛したもの。ピ˞ルザキバ˞　ドゥーナ　ッ˞シットー˞シ　˞ヌーリ˞　シケーバ　パ˞ナシケー˞　マナ˞マンチン　ノーリ˞ス [pi˞ruʤakiba˞ du:na ʃ˞ʃitto:˞ʃi ˞nu:ri˞ ʃi̥ke:ba pa˞naʃi̥ke:˞ mana˞manʧin no:ri˞su](にんにくざけ＜大蒜酒＞を体にすり込んで塗ってあるから風邪はじきに治るよ)。

マ˞ニアー˞スン **[ma˞niʔa:˞suŋ]** 【他動】間に合わせる。時刻に遅れないようにする。ン˞ジフニ˞ヌ　ジ˞カン˞　マ˞ニアー˞スンティ　˞スンドゥ˞　マ˞ニアーサラ˞ヌ [ʔn˞ʤiɸuni˞nu ʤi˞kam˞ ma˞niʔa:˞sunti ˞sundu ˞ ma˞niʔa:sara˞nu](出船の時間に間に合わせようとするが、間に合わされない)。マ˞ニアー˞シ　˞ミサカー　マ˞ニアー˞ス　˞クトー　˞ナルン [ma˞niʔa:˞

ʃi ˥misaka: ma˞ni?a:˥su ˥kʉto: ˥naruŋ](間に合わせてよければ間に合わせることはできる)。マ˞ニアー˥シェー　˥ミサムヌ [ma˞ni?a:˥ʃe: ˥misamunu](間に合わせれば良いのに)。ヤー˞ディン˥　マ˞ニアー˥シ [ja:˞dim˥ ma˞ni?a:˥ʃi](必ず間に合わせなさい)。

マ˞ニ˥アウン [ma˞ni˥auŋ] 【自動】間に合う。予定された時刻や日程に遅れない。フ˞ニ˥ヌ　ン˞ジ˥ル　ジ˞カンバー˥キナー　マ˞ニ˥アウンティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　マ˞ニアーン˥シェン [ɸu˞ni˥nu ?n˞ʤi ˥ru ʤi˞kamba:˥kina: ma˞ni˥aunti ?u˞mu:tan˥du ma˞nia:ŋ˥ʃeŋ](船の出港する時間までに間に合うと思ったが、間に合わなかった)。マ˞ニ˥アウ　プ˞ソー˥　ムー˞ル˥　クー˞ヨー [ma˞ni˥au pʉ˞so:˥ mu:˞ru˥ ku:˞jo:](間に合う人は皆来いよ)。マ˞ニ˥アイティ　キ˞ラ˥レーティル　˥ウナー　˞ベー˥ル [ma˞ni˥aiti ki˞ra˥re:tiru ˥?una: ˞be:˥ru](間に合って来れたから＜ぞ＞其処にいるのだよ)。ムー˞ル˥　マ˞ニアイ˥ヤー　˥ミサムヌ [mu:˞ru˥ ma˞niai˥ja: ˥misamunu](皆間に合えばいいのに)。ヤー˞ディン　マ˞ニ˥アイ˞ヨー [ja:˞dim˥ ma˞ni˥ai˞jo:](きっと＜必ず＞間に合えよ)。

マ˞ニ˥ツァ [ma˞ni˥tsa] 【名】俎板。魚を料理するのに用いる板。「俎、末奈以太 (まないた)」『和名抄』の転訛したもの。普通は厚さ約 3 センチ、巾約 15 センチ、長さ約 30 センチの板を用いた。時には、その板に脚を付けたものも使った。脚付きの俎板は、庭先で魚を捌いたり、蒲鉾を作る際に魚を三枚おろしにするのに用いた。マ˞ニ˥ツァー　˥ユー　ア˞ライティ˥　シゥ˞カイ˥ヨー　シゥ˞カウ˥カー　マ˞タ˥　ア˞ライティ˥　ティダナー　˥プシバ [ma˞ni ˥tsa: ˥ju: ?a˞raiti˥ si̥˞kai˥jo: si̥˞kau˥ka: ma˞ta˥ ?a˞raiti˥ tidana: pʉ̥ʃiba](俎板はよく洗って使えよ。使ったら、また洗って太陽に干しなさい＜干せ＞よ)。イ˞ゾー˥　マ˞ニ˥ツァナ　˞ヌーシティ˥　バ˞ザイ˥バ [?i ˞ʤo:˥ ma˞ni˥tsana ˞nu:ʃiti˥ ba˞ʤai˥ba](魚は俎板に載せて捌(サバ)きなさいよ)。

マ˞ニ˥ツァイシ [ma˞ni˥tsa?iʃi] 【名】俎板石。ピ˞ナイサキ [pi˞naisaki](ピナイ崎) の海中にある岩。俎板のように見えることから命名された。˞グンカンイシ [˞guŋkaniʃi](軍艦石) ともいう。軍艦の形をした岩。古老たちはこれを、マ˞ニ˥ツァイシ [ma˞ni˥tsa?iʃi](俎板石) という。鳩離島の˞パンガマイシ [˞paŋgamaiʃi](羽釜形の石) と対を成して、神話的空間世界をなすと考えられる。ム˞カ˥シプソー　ムー˞ル˥　マ˞ニ˥ツァイシティル　ア˞ゾーッタ˥ル [mu˞ka˥ʃipʉ̥so: mu:˞ru˥ ma˞ni˥tsa?iʃitiru ?a˞ʤo:tta˥ru](昔の人は皆俎板石といわれたものだ)。˞パー˥レー [˞pa:˥re:](爬竜船) の際の˞ブイ [˞bui](英語からの借用語。Buoy＜浮標＞) 設置の目印となる。˞ブイヤー　パンガマイシトゥ˥　マ˞ニ˥ツァイシナー　ア˞ティリ˥バ [˞buija: paŋgama?iʃitu˥ ma˞ni˥tsa?iʃina: ?a˞tiri ˥ba](浮標は羽釜石と俎板石に当てなさい＜目印にしなさい＞)。

マ˞ニッ˥カ [ma˞nik˥ka] 【名】怠け者。ずるい奴。˞ウンザー˥　マ˞ニッ˥カ　ヤ˞ルンダ　ウンザヌ˥　ムニ˞ナー˥トー　シ˞ケー˥　ナ˞ラン˥ダー [˞?unʤa:˥ ma˞nik˥ka ja˞runda ?unʤanu˥ muni˞na:˥to ʃi̥˞ke:˥ na˞ran ˥da:](あいつ＜彼奴＞はずるい奴だから、あいつの話＜言葉。言うこと＞を聞いてはいけないよ)。

マ˞ニッ˥カ　˞マーシ˥ノ [ma˞nik˥ka ˞ma:ʃi˥no] 【連】怠け者めが。他人を罵(ノノシ)る言葉。罵詈(バリ)表現。˞マーシ˥ノ [˞ma:ʃi˥no] は、「Maxi. マシ (猿)　Maxira(猿) と言う方がまさる. 猿」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。マ˞ニッ˥カ　˞マーシ˥ノ　˞ウンザナー˥トー　˞ヤーン˥　ナカー　˞ペーラ˥シェー　ナ˞ラ˥ヌ [ma˞nik˥ka ˞ma:ʃi˥no ˞?unʤana:˥to ˞ja:n˥ naka: ˞pe:˥raʃe: na˞ra˥nu](怠け者＜怠け猿＞めが、あいつ＜彼奴＞などを家の中に入れてはならない)。

マ˞ニヤー˥スン [ma˞nija:˥suŋ] 【他動】間に合わせる。予定された時刻や日程に合うようにする。シ˞グトー˥　ア˞ツァバー˥キナー　マ˞ニヤー˥スンティ　ウ˞ムーン˥ドゥ　マ˞ニヤーサラ˥ヌ [ʃi˞guto:˥ ?a ˞tsaba:˥kina ma˞nija:˥sunti ?u˞mu:n˥du ma˞nija:sara˥ nu](仕事は明日までに間に合わせようと思うが、間に合わされない)。マ˞ニヤーシ˥　プササーギ　˥アルカー　マ˞ニヤー˥スクトー　ナ˞リ˥ス [ma˞nija:ʃi ˥ pʉ̥sasa:gi ˥?aruka: ma˞nija:˥su ˥kʉto: na˞ri˥su](間に合わせたければ＜間に合わせたささえあれば＞間に合わせることは出来るさ)。ノー˞ンナー˥カシ　マ˞ニヤー˥シェー　˥ミサムヌ [no:˞nna:˥kaʃi ma˞nija:˥ ʃe: ˥misamunu](何とかして＜何かで＞間に合わせればいいのに)。˞ワーンツァン˥　マ˞ニヤー˥シバ [˞wa:ntsam˥ ma˞nija:˥ʃiba](君だけでも間に合わせろよ)。

マ˞ビ˥キ [ma˞bi˥ki] 【名】間引き。「Mabiqi,u,ijita. マビキ、ク、イタ (間引き、く、いた) 何か種子を蒔いた物が非常に密生しているのを、他の所へ移し植えるために引き抜く。Yasaiuo mabiqu(野菜を間引く)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。マ˞ビ˥キ　˞スン [ma˞bi˥ki ˞suŋ](間引きする)。˞ダイ˥クネー　カ˞タ

ー˥ マクカー ˞ミーランダ˥ ン˞ベーマ˥ マ˞ビ˥キ ˞シー˥バ [˞daiˀkuneː kạ˞taː˥ makukaː ˞miːrandaˀ ʔm˞beːma˥ ma˞biˀki ˞ʃiː˥ba](大根は密に蒔くと大きく稔らないので、少し間引きしなさいよ)。ピ˞キアカスン [pi̥˞kiʔakasuŋ](引き抜いて間隔をあける) ともいう。

˞マフカー **[˞maɸu̥kaː]** 【名】真っ盛り。最中。˞Mappucura. マップクラ (真脹ら) 何かが円い物のまん中、または、中心. また何かが栄える時期、あるいは、その力と勢いのある時期」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ティ˞ダ˥ヌ ˞マフカ˥ナー パ˞タ˥キ ˞カイ˥スンティ ˞アー˥ク プ˞リムヌヌ ˞ブントツォー [tiˀ˞da˥nu ˞maɸu̥ka˥na: pạ˞ta˥ki ˞kai˥sunti ˞ʔaː˥ku pu˞rimununu ˞bunˊtsoː](太陽の真っ盛り < 真昼間 > に畑を耕そうととする馬鹿 < 惚れ者 > がいるかよ)。

˥マフタネー **[˥maɸu̥taneː]** 【名】石垣島の四個字の山手の平民集落。イ˞サナキヌ˥ マフタネーナー ウ˞トゥザ˥ヌ ˞オー˥ルン [ʔi˞sanakinu˥ maɸu̥taneːnaː ʔu˞tuʤa˥nu ʔoː˥ruŋ](石垣島のマフタネー集落には親戚がおられる)。

マ˞ブ˥ル **[ma˞bu˥ru]** 【名】魂。霊魂。「守り」の義。「〜浪かしこみ風守 < かぜマモリ >〜。万、1390」の転訛か。人間の体内に宿っている魂のこと。極度に驚いたり、事故に遭遇したりすると、そこでマ˞ブ˥ル [ma˞bu˥ru] が人体から遊離してさ迷うという。魂の抜けた体は、気だるくなり、病弱になると信じられている。子供が樹上から落ちたり、転倒して怪我をすると、マブルが落ちるので、その現場から小石や砂を掴んで懐に入れ、マブルを逃がさぬようにした。マ˞ブル˥ヌ ウ˞ティ˥ルカー プ˞ソー ヨーリ˥ス [ma˞buru˥nu ʔu˞ti˥ruka: pu̥˞so: joːri˥su](マブルが落ちると人は弱くなるよ)。

マ˞ブ˥ル ウ˞ティ˥ルン **[ma˞bu˥ru ʔu˞ti˥ruŋ]** 【連】魂が落ちる。魂が抜け落ちる。「守り < 守護霊・魂 > が落ちる」の義。魂が肉体より抜け落ちる。遊離魂となる。何かにひどく驚かされると魂が肉体より遊離していくと信じられている。そして、魂の抜け殻となった肉体は生気を失い、病弱になると信じられている。キ˞ム˥ヌ ダフ˞ティ スン˥ケン ウ˞ダラク˥ター マ˞ブ˥ル ˥ウティパリ ˞ナー˥ヌ [ki˞mu˥nu daɸu̥˞ti suŋ˥keŋ ʔu˞daraku˥ta: ma˞bu˥ru ˥ʔutipari ˞naː˥nu](心臓が止まるほど < 肝がダフッとするほど > 驚いたので、魂が落ちていってしまった)。

マ˞ブ˥ルカルイ **[ma˞bu˥rukarui]** 【名】「魂籠め」の義。˥カルイ [˥karui] は「Carui,u,uta. カルイ、ゥ、ゥタ (かるひ、ふ、うた) 物を背負う. 下 (X) の語」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。マ˞ブ˥ルクミ [ma˞bu˥rukumi](魂籠め) と同じ。人体から遊離して浮遊している魂を追まわし、囲いまわして連れ戻し、元の体に魂籠めをする儀式。ヤ˞ミプス˥ヌ マ˞ブ˥ル ˥カルイ ˞オーシェー˥バ パ˞シットゥ˥ ナ˞リ˥ス ˥パジ [ja˞mipusu˥nu ma˞bu˥ru ˥karui ˞ʔoːʃeː˥ba pạ˞ʃittu˥ na˞ri˥su ˥paʤi](病人の魂籠めをして差し上げたので、すぐ元気になるはずです)。

マ˞ブ˥ルカルイヌ ˞ニンガイ˥フチ **[ma˞bu˥rukaru-inu ˞niŋgai˥ɸu̥ʧi]** 【連】魂籠め(タマゴメ)の祝詞。「マブル籠め願い口」の義。マ˞ブ˥ル (魂) が人体より抜け落ちた場合、サ˞カサ [sạ˞kasa](司。神女。女性神職者) か、祖母に依頼して魂籠めの儀式を執り行ってもらうが、その際に次のような祝詞(ノリト)を唱える。**(1)**˥ヌーディマリヌ マ˞ブ˥ル ˥プサティ ドー˞ディン キュー˥ヌ ˞カイピール˥バ ム˞トゥ˥バ ˥シー ウ˞ガミトゥー˥シ ア˞ギル˥ ウ˞ガミ˥ヌ ニ˞ガイ˥ヤー ドー˞ディンマー˥ ピ˞ナカンガナシヌ˥ マイシー シ˞キウキ˥ トゥ˞リウ˥キ タ˞ブ˥ローレーティ ウ˞ス˥バユシ ウ˞ガマ˥リ タ˞ブ˥ローリ [˥nuːdimarinu ma˞bu˥ru ˥pu̥sati doː˞diŋ kjuː˥nu ˞kaipiːru˥ba mu˞tu˥ba ˥ʃiː ʔu˞gamituː˥ʃi ʔa˞giru˥ ʔu˞gami˥nu ni˞gai˥jaː doː˞dimmaː˥ pi˞nakaŋganaʃinu˥ maiʃiː ʃi̥˞kiʔuki˥ tu˞ri˥ʔuki ta˞bu˥roːreːti ʔu˞su˥bajuʃi ʔu˞gama˥ri ta˞bu˥roːri](何年生まれの人が、マブル < 魂 > が欲しいので、どうぞ今日の佳日(カジツ)をもとにして、黄金の佳日をもとにして拝み通しあげる拝みの願いを、どうぞ火の神様の御前 < 御自身 > がお聞き受け、お取り受け下さってお側にお寄せになって、拝まれてください)**(2)**(ドー˞ディン˥ティ ˞シー)˞ゴー˥サナガラ ˞ヨーミ˥サナガラ ウ˞ス˥バユリ ウ˞ガミ トゥー˥シ ア˞ギル˥ ニ˞ガイ˥ヤー ドー˞ディンマー˥ ピ˞ナカンガナシヌ˥ マイ トゥ˞クヌ˥マイ ッ˞サリ˥ シ˞キウ˥キ トゥ˞リウ˥キ タ˞ボー˥ローレーティ ウ˞ス˥バユシ ウ˞ガマ˥リ タ˞ブ˥ローリ ドー˞ディン˥ ドー˞ディン˥ティ ˞シー˥ ウ˞ス˥バユリ ウ˞ガミトゥー˥シ ア˞ギル˥ ニ˞ガイ˥ヤー ˞ジューニホン˥ヌ コー ˞トゥー˥シ ˥アギ ˥ヌーディマリヌ ˞トゥーヌ ティー˥ピサ ウ˞サーシ˥ ス˞ブシピサ˥ ウ˞シトーシ˥ ウ˞ガミトゥー˥シ ア˞ギル˥ ニ˞ガイ˥ヤー ドー˞ディンマ

ー　カンヌ˞マイ　˞ミートゥクルヌ　カンヌ˞マイ　ドー˞ディン˞　シ˞キウキ˞　トゥ˞ル˞ウキ　タ˞ブ˞ローレーティ　ウ˞ス˞バユシ　ウ˞ガマ˞リ　タ˞ブ˞ローリ　˞キュー˞ワ　˞カイブー　˞ヌーディマリヌ　ア˞サビブリバ　シー˞　ア˞ラ˞クンケン　キ˞ムウダラ˞キ　ン˞ニウダラキ　シーベー˞ティ　˞ティーダル˞サ　˞ピサダルサ　˞ティー˞パン　˞ダルサ　˞ティーダラダラー˞シ　˞ブーユンダ˞　ノー˞シン˞　マ˞ブル˞ヌ　˞ドゥーナー　シゥ˞カ˞ン　˞ウティ　˞ベー˞ティル　ア˞サビブリ　シー　ベー˞ティル　˞カイ　˞ブーダー˞バ　ドー˞ディンマー˞　アイヤ˞ル˞スクン　˞デー˞カー　ナ˞カミ˞チェーラ　˞アンタ˞ナー　˞ヌーディマリヌ　マ˞ブローマ˞ヌ　ア˞サビブリバ　˞シー˞　ア˞ラ˞クスクン　˞デー˞カー　ドー˞ディンマー　カンヌ˞マイシ　˞ウイマーシ˞　カ˞ルイマー˞シ　˞サーロー˞リ　˞ヌーヤーヌ　˞ヌーディマリヌ　˞フンダメー˞ル　˞ヤー˞ウチ　キ˞ナイウチ　トゥー˞リ　ウ˞フムン˞ヌ　ウ˞チェー˞ニ　ン˞カイシミ˞　タ˞ボー˞リ　ン˞カイシミ˞　タ˞ボー˞レーティ　マ˞ナマ˞ヌ　˞カイ˞トゥキナー　ドー˞ディン˞　マ˞ブル˞ヌ　ミ˞ジ˞　プサティ　˞オー˞ル　スクン　˞デー˞カー　ミ˞ジヌ˞　パ˞チーン˞　シ˞ル˞ミジ　ア˞マ˞ミジ　チャン˞トゥ˞　イ˞リー˞　ウ˞ツァナ˞クーン　˞グシパナーン　チャン˞トゥ˞　イ˞リー˞　マ˞ミ˞ヌ　˞スーン　バ˞カシ˞　シケーバ　マ˞ナ˞マ　ヤ˞ラビ　サーロー˞リ　˞ブー˞ヌ　˞タマ　ナ˞ナチ˞ヌ　˞タマ　イ˞チチ˞ヌ　˞タマ　˞ミーチヌ˞　タマナー　ク˞ミ˞シミ　タ˞ブ˞ローリ　マ˞ブロー˞マ　マ˞ブロー˞マ　˞イー˞ユン　マ˞ミ˞ヌスーン　バ˞カシ˞シケーバ　ダン˞ティ˞　キーッ˞ふァイ˞　ッ˞ふァイ [do:˞din˞ti ˞ʃi: go:˞sanagara ˞jo:mi˞sanagara ʔu˞su˞bajuri ʔu˞gamitu:˞ʃi ʔa˞giru˞ ni ˞gai˞ja: do:˞dimma:˞ pi˞nakaŋganaʃinu˞mai tu̥˞kunu˞ mai s˞sari˞ ʃi̥˞kiʔu˞ki tu˞riʔu˞ki ta˞bo:˞re:ti ʔu˞su˞baju̥ʃi ʔu˞gama˞ri ta˞bu˞ro:ri do:˞din˞ do:˞din˞ti ˞ʃi:˞ ʔu˞su˞bajuri ʔu˞gamitu:˞ʃi ʔa˞giru˞ ni˞gai˞ja: ˞ʤu:nihon ˞nu ˞ko: ˞tu:˞ʃi ˞ʔagi ˞nu:dimarinu ˞tu:nu ti:˞pi̥sa ʔu˞sa:ʃi˞ su˞buʃipisa˞ ʔu˞ʃito:ʃi˞ ʔu˞gamitu:˞ʃi ʔa˞giru˞ ni ˞gai˞ja: do:˞dimma: kannu˞mai ˞mi:tukurunu kannu˞mai do:˞diŋ˞ ʃi̥˞kiʔuki˞ tu˞ru˞ʔuki ta˞bu˞ro:re:ti ʔu˞su˞baju̥ʃi ʔu˞gama˞ri ta˞bu˞ro:ri ˞kju:˞wa kai˞bu:˞ nu:dimarinu ʔa˞sabiburiba ʃi:˞ ʔa˞ra˞kuŋkeŋ ki˞muʔudara ˞ki n˞niʔudaraki ʃi:be:˞ti ˞ti:daru˞sa pi̥˞sadarusa ti:˞pan ˞darusa ˞ti:daradara:˞ʃi ˞bu:junda˞ no:˞ʃim˞ ma˞buru˞nu ˞du:na si̥˞ka˞n ʔuti˞be:˞tiru ʔa˞sabiburi ʃi:be:˞tiru ˞kai ˞bu:da:˞ba do:˞dimma:˞ ʔai ja˞ru˞si̥kun ˞de:˞ka: na˞kami˞ʧe:ra ˞ʔanta˞na: ˞nu:dimarinu ma ˞buro:ma˞nu ʔa˞sabiburiba ʃi:˞ ʔa˞ra˞kusu̥kun ˞de:˞ka: do:˞dimma: kannu˞maiʃi ˞ʔuima:ʃi˞ ka˞ruima:˞ʃi ˞sa:ro:˞ri ˞nu:ja:nu ˞nu:dimarinu ˞ɸundame:˞ru ˞ja:˞ʔutʃi ki˞naiʔutʃi tu:˞ri ʔu˞ɸumun˞nu ʔu˞ʧe:˞ni ŋ˞kaiʃimi˞ ta˞bu˞ro:re:ti ma˞nama˞nu ˞kai˞tukina do:˞dim˞ ma˞buru˞nu mi˞ʤi˞ pu̥sati ˞ʔo:˞ru su̥kun ˞de:˞ka: mi˞ʤinu˞ pḁ˞ʧi:n˞ ʃi˞ru˞miʤi ʔa˞ma˞miʤi ʧan˞tu˞ ʔi˞ri:˞ ʔu˞tsana˞ku:ŋ ˞guʃipana:n ʧan˞tu˞ ʔi˞ri:˞ ma˞mi˞nu ˞su:m ba˞kaʃi˞ʃi̥ke:ba ma˞na˞ma ja˞rabi sa:ro:˞ri ˞bu:˞nu ˞tama na˞natʃi˞nu tama ʔi˞ʧitʃi˞nu ˞tama ˞mi:ʧinu˞ tamana: ku˞mi˞ʃimi ta˞bu˞ro:ri ma˞buro:˞ma ma˞buro:˞ma ˞ʔi:˞jum ma˞mi˞nu ˞su:m ba˞kaʃi˞ʃi̥ke:ba dan˞ti˞ ki: f˞fai˞ f˞fai](どうぞ、願わくば、と言って、恐れ多いことですが、お側近くに寄って拝み通して祈願し申し上げる願い事は、どうぞ火の神様、床の間の神様へ申し上げますから、お聞き届け取り受け賜って、お側へ寄せて祈願されて下さい。願わくば、どうぞと言ってお側に寄って拝み通し上げる願いは、十二本の香を灯し通して祈願し、何年生まれの者が、十の掌を合わせ、足膝を押し倒して拝み通し上げる祈願は、どうぞ神様、三箇所の神様、どうぞお聞き届け、取り受け下さって、お側へ寄せさせ、拝まれ＜祈願され＞て下さい。今日は、このように、何年生まれの者が遊び惚(ホ)けているうちに、肝驚き胸驚きをしているので、手がだるく、足がだるく、手も足もだるく、手がだらだらしているので、きっとマブル＜魂＞が肉体に付かずに抜け落ちているので、魂が遊び惚けているので、このようにしているでしょうから、どうぞ、そうであるならば、中道から東の方に、何年生まれのマブローマ＜幼い魂＞が遊び惚けているようでしたらば、どうぞ神様で魂を追い回し、囲い回し＜負ぶい回して＞てお連れ下さって、何家の、何年生まれが踏み固めた＜建立した＞家内、家庭内、通り大門の内側に向かわしめてください。向かわしめてくださって、今の佳き時に、どうぞ魂＜マブル＞が水を欲しがっておられるのなら、水のお初も白水＜神酒＞、雨水＜真水＞もちゃんと入れ、供物(クモツ)もお酒も米のお初もちゃんと入れ、豆のお汁も炊いてありますから、今すぐ呼んで連れてきてくださって、麻糸の玉の、七つの玉、五つの玉、三つの玉に籠めさせてください。マブローマ＜幼い魂＞よ、マブローマよ、ご飯も豆

も炊いてあるから、早くきてお食べ、すぐ来てお食べ) と唱える。˞マブル籠め」は、夕食の頃に執り行われるのが普通であったから、その時分に来客があると大変に喜ばれた。その客が男性の場合は最高に良いとされた。来客に連れられてマブローマが門より家の中へ入ってくると信じられているからである。マブル < 魂 > は水と大豆のお汁が大好物であるといわれている。

マ˞ブ˺ルクミ **[ma˞bu˺rukumi]** 【名】魂籠め。マ˞ブ˺ルカルイ [ma˞bu˺rukarui] ともいう。戸外で転倒したり、悪霊に遭遇して極度に驚いたり、何かの事故を起こして驚愕すると、魂が肉体より抜け落ちて浮遊していくので、病弱になると信じられている。その浮遊している魂を呼び戻し、体内に籠めるための祈願を執り行う儀式。樹木から落ちたり、道で転倒して怪我をすると、事故現場の小石や土砂を掴みとって懐中に入れるだけでも取り敢(ア)えず魂を拾うことが出来ると信じられている。そして後日、改めて正式に魂籠めの祈願を執り行った。魂が抜け落ちると、体がダラダラして気だるくなり、何事に対しても意欲が湧かなくなっていき、寝込むようになるという。顔色も青白くなり、影が薄くなっていくので、そんな時は浮遊している魂を呼び寄せ、˞ブー˺ジナ [˞buː˺ʤina](麻糸で 7、5、3 の結び玉を作ったもの) で縛って逃がさないようにし、衣類の袖に結び付け、そのブージナを首に穿かせることによって体内に魂を戻すことが出来ると信じられている。肉体から遊離したマ˞ブ˺ル (魂) は、よく水を欲しがるという。それ故、魂籠めの祈願では、必ず水と豆腐 (または大豆の) お汁を供物として供える。お膳の最前列に、˺サバン [˺sabaŋ](茶碗) に水を入れて置き、次に˺パナ [˺pana](お皿に白米を入れたもの) を˞イッチー [˞ʔittʃiː](一対)、塩を皿に盛ったもの、それに˺グシ [˺guʃi](神酒) を供えて祈願する。マブルを呼び寄せてくると、水を入れた茶碗の上に三回˞ブー˺ジナ (麻糸) を回して待機する。祈願の祝詞が終わると、˺ヌーディマリ [˺nuːdimari](何年生まれ) の誰某(ダレソレ)と名前を唱えて、マ˞ナマ˺ヌ　˞カイ˺トゥキナー　マ˞ブ˺ル　ク˞ミ˺シミ　タ˞ブ˺ローリ (今の佳き時に魂を籠めさせてください) と唱え、ブージナで縛って魂籠めをする。そして供物の˺パナ (白米) から 3 回米を摘んで紙に入れ、塩も一摘み取って入れ、マブルと一緒に包んで着物の袖に入れ、袖の両端をしっかりと結んでおく。祈願する人が指を水に付けて水をとり、三回魂籠めをする本人の額に塗ってやって儀式は終了する。ナ˞ガヤン　スー˺　バスン　マ˞ブ˺ル　˺クミ　˞オーシル˺カー　パ˞シットゥ˺　ナルンティ˞ダー [na˞gajan suː˺ basum ma˞bu˺ru ˺kumi ˞ʔoːʃiru˺kaː pḁ˞ʃittu˺ narunti˞daː](長病みする時も魂籠めをして差し上げると元気になるそうだ)。

マ˞マ **[ma˞ma]** 【接頭】まま (継)。血のつながらない親子、兄弟の間柄。マ˞マウヤ [ma˞maʔuja](継親)。マ˞マッふァ [ma˞maffa](継子)。マ˞マキョーダイ [ma˞makjoːdai](継兄弟)。ウ˞ヌ˺　プ˞ソー˺　マ˞マウヤ˺　ヤ˞ルンドゥ˺　イッ˞ケナ˺　ッ˞ふァ˺　ア˞タラ˺サー　˞ソー˺ルン [ʔu˞nu˺ pu̥˞soː˺ ma˞maʔuja˺ ja˞rundu ˺ʔik˞kena˺ f˞fa˺ ʔa˞tara˺saː ˞soː˺ruŋ](あの人は継親だが非常に子供を可愛がられる < 子供をあたらしさ「可惜(アタラ)しさ」される >)。

マ˞マ **[ma˞ma] (1)**【名】1ままま。もとと同じ状態であること。˞マーマ [˞maːma](まま) ともいう。˺シマー　ム˞カシ˺ヌ　マ˞マ˺(˞マーマ˺)　マー˞ンカウラヌ [˺ʃimaː mu˞kaʃi˺nu ma˞ma˺(˞maːma˺) maː˞ŋ kauranu](島は昔のまま < まんま >、何処も変わらない)。ウ˞ヌ˺　ママ (˞マーマ˺)　ナ˞マシケー˺ナ　ッ˞ふァーリン [ʔu˞nu˺ mama(˞maːma˺) na˞maʃi̥keː˺na f˞faːriŋ](そのまま、生のままで食べられる)。2その通りにすること。動詞の連体形に付いて、上接語の意味内容の儘になること。˞ドゥー˺ヌ　˺ウムー　マ˞マネー˺　プ˞ソー　ウーカサラ˺ヌ [˞duː˺nu ˺ʔumuː ma˞maneː˺ pu̥˞soː ʔuːkasara˺nu](自分の思うままには人は動かされない)。フ˞チヌ˺　ア˞クママ˺　ノー˞ンティン˺　ム˞ニ˺　ユムン [ɸu̥˞˞ʧinu˺ ʔa˞kumama ˺ noː˞ntim˺ mu˞ni˺ jumuŋ](口の開くまま、なんとでもものを言う)。 **(2)**【接助】(接続助詞的) 物事が次の事態に進展せず、そのままの状態であることを表す。ビ˞ルタママ　ウーカ˺ヌ [bi˞rutamama ʔuːka˺nu](座ったまま動かない)。**(3)**【接尾】(接尾語的)〜ごと。〜と一緒に。名詞について、そのものごとの意味を表す。パ˞クママ˺　ムティクーバ [pḁ˞kumama ˺ mutikuːba](箱ごと持って来いよ)。

マ˞マウヤ **[ma˞maʔuja]** 【名】ままおや (継親)。マ˞マウヤ˺　ヤ˞ルンドゥ　ソーウヤー˺ラン　ア˞タラ˺サー　˞ソー˺ルン [ma˞maʔuja˺ ja˞rundu soːʔujaː ˺raŋ ʔa˞tara˺saː ˞soː˺ruŋ](継親だが産みの親 < 本当の親 > よりも可愛がって < 可惜しさして > 下さる)。

マ˞マキョーダイ **[ma˞makjoːdai]** 【名】まま (継) 兄弟姉妹。˞ウッ˺ツァー　˞ソーキョーダイヤー˺

ア˞ラ˥ヌ　マ˞マキョーダイドゥ˥　ヤ˞ル [˞ʔut˥tsa: ˞so:kjo:daija:˥ ʔa˞ra˥nu ma˞makjo:daidu˥ ja˞ru](彼らは本当の兄弟姉妹ではない、まま兄弟姉妹で＜ぞ＞あるのだ)。

マ˞マッふァ [ma˞maffa] 【名】ままこ (継子)。ナ˞サンッ˥ふァ [na˞saŋf˞fa](産さぬ子) ともいう。「Mamaco. ママコ (継子) 継子」『邦訳日葡辞書』の転訛。マ˞マッふァ˥　ヤ˞ルンドゥ　ソーッふァヌ˥　カタチニル　シゥ˞カ˥ナイ　ッ˞ふォーッ˥タ [ma˞maffa˥ ja˞rundu so:ffanu˥ kạtatʃiniru sị˞ka˥nai f˞fo:t˥ta](継子ではあるが、本当の子のように＜ぞ＞養育して下さった)。

マ˞マルン [ma˞maruŋ] 【自動】塗られる。くっつかれる。接着される。液体などが体に塗布される (受身形で用いられる)。他動詞、マ˞ミルン [ma˞miruŋ](塗る。くっつける)、マ˞ムン [ma˞muŋ](塗る。くっつける) が受身動詞に派生変化したもの。ク˞ビ˥ナー　ウ˞サッ˥カルカー　˞ペン˥キ　マ˞マルンダ˥　マ˞マラン˥ヨーニ　ア˞ラ˥キバ [ku˞bi˥na: ʔu˞sak˥karuka: ˞peŋ˥ki ma˞marunda˥ ma˞maraŋ˥jo:ni ʔa˞ra˥kiba](壁にもたれるとペンキがくっつく＜塗られる＞から、くっつかない＜塗られない＞ように歩けよ)。キサー˞ティ˥　マ˞マリ　ナー˥ヌ [kị̣sa:˞ti˥ ma˞mari na:˥nu](既にくっついて＜塗られて＞しまった)。パ˞ナシキ˥　マ˞マル˥　ピンマー　ピ˞ルザキ˥　ヌ˞マ˥シバ [pa˞naʃị̣ki˥ ma˞maru˥ pimma: pi˞rudʑaki˥ nu˞ma˥ʃiba](風邪を引く＜風邪がくっつく。風邪に塗られる＞時は大蒜酒を飲ませなさい)。ウ˞リ˥ナーン　パ˞ナシケー˥　マ˞マレー˥　ミサムヌ [ʔu˞ri˥na:m pa˞naʃị̣ke:˥ ma˞mare:˥ misamunu](彼にも風邪はくっつけ＜塗られれ＞ばいいのに)。パ˞ナシキ˥　マ˞マリ˥バ [pa˞naʃị̣ki˥ ma˞mari˥ba](風邪がくっつけよ＜風邪に塗られろよ＞)。˥シラナー　˞ピング˥　マ˞マリ　ベー [˥ʃirana: ˞piŋgu˥ ma˞mari be:](顔に鍋墨がくっついて＜塗られて＞いる)。

˥マミ [˥mami] 【名】 (植) 豆。豆類の総称。「道の邊のうまらの末＜うれ＞に這ほ麻米＜マメ＞乃〜。万、4352」。「大豆、一名菽、万米＜まめ＞」『和名抄』の転訛。「Mame. マメ (豆) 日本の豆、または、大豆.」『邦訳日葡辞書』の転訛。ア˞ガマミ [ʔa˞gamami](小豆)。ク˞マミ [ku˞mami](やえなり。リョクトウ＜緑豆＞)。˞トー˥フマミ [˞to:˥ɸumami](大豆、＜豆腐豆＞の義) 等が作付けされていた。マ˞ミ˥ヌ　˥アトー　ス˞クリ˥ムノー　イッ˞ケナ　ミールン˥ティ　ア˞ザリ　ブー [ma˞mi˥nu ˥ʔato: sụ˞kuri ˥muno: ʔik˥kena mi:run˥ti ʔa˞dʑari bu:](豆を栽培した後の作物は非常によく稔るといわれている)。

マ˞ミ [ma˞mi] 【名】牛や豚の腎臓。形が豆に似ていることからの命名という『石垣方言辞典』。首里方言では、maami(腎臓)、hukumaami(心臓) という『沖縄語辞典』。˞オー˥ヌ　マ˞ミン˥　ナ˞カミー˥ヌ　˥スーナ　イ˞ロー˥ルン [˞ʔo:˥nu ma˞min˥ na˞kami:˥nu ˥su:na ʔi˞ro:˥ruŋ](豚の腎臓も豚の臓物のお汁に入れなさる)。

マ˞ミ˥グル [ma˞mi˥guru] 【名】 1まめがら (豆殻)。˥マミ [˥mami](豆) に、グ˞ル [gu˞ru](殻。屑。水などの飲み残し) が付いて形成された合成語。˥グル [˥guru](殻) は、「吾がやどの穂蓼古幹＜フルカラ＞〜。万、2759」、「柄、賀良 (から)、器物茎柯也」『和名抄』の転訛したものか。˞ムン˥グルクバガサ [˞muŋ˥gurukubagasa] は˞麦藁で作った笠」の義。マ˞ミ˥グル　ア˞ツァ˥ミ　˞モーシ˥バ [ma˞mi˥guru ʔa˞tsa˥mi ˞mo:ʃi˥ba](豆殻や茎を集めて燃やせよ)。2豆を収穫した後の畑。マ˞ミ˥グル　˞カイ˥シン　パラ˞ディー [ma˞mi˥guru ˞kai˥ʃim para˞di:](豆を収穫した後の畑を耕しに行こうよ)。

マ˞ミッツァースン [ma˞mittsa:suŋ] 【他動】塗りたくる。塗りまくる。めちゃくちゃに塗る。「塗り散らす」の義。「まみれ (塗れ)」　の他動詞化したものか。˞ヌッツァースンとも言う。˥シラナー　オ˞シ˥ロイ　マ˞ミッツァースンティ　スンドゥ˥　マ˞ミッツァーサラヌ [˥ʃirana: ʔo˞ʃi˥roi ma˞mittsa:sunti sundu˥ ma˞mittsa:saranu](顔＜面＞に白粉(オシロイ)を塗りたくろうとするが、塗りたくられない)。マ˞ミッツァーシ˥　ミサカー　マ˞ミッツァース˥　クトー˥ナルン [ma˞mittsa:ʃi˥ misaka: ma˞mittsa:su˥ kụto: ˥naruŋ](塗りたくってよければ、塗りたくることはできる)。˞マー˥ビン　マ˞ミッツァーシェー˥　ミサムヌ [˞ma:˥bim ma˞mittsa:ʃe:˥ misamunu](もっと塗りたくればいいのに)。˥シラナー　マ˞ミッツァーシ˥バ [˥ʃirana: ma˞mittsa:ʃi˥ba](顔に塗りたくれよ)。

マ˞ミドー˥マ [ma˞mido:˥ma] 【名】竹富島の伝統的民謡と民俗舞踊の名称。農耕に従事する村人の生活の実態と収穫の喜びを写実的に、コミカルに、しかもアップテンポに描写することに成功した作品。「マ・ミドー [ma・mido˜:](真の乙女)」の義か。タ˞キドゥン˥ヌ　ム˞ラブドゥル˥ナー　イッ˞チン˥　ウ˞ムッ˥サモー　マ˞ミドー˥マ　˞ナー [tạ˞kidun˥nu mu˞rabudu˥runa: ʔit˞tʃiŋ˥ ʔu˞mus˥samo: ma˞mido:˥ma ˞

na:](竹富島の村踊で一番面白いのはマミドーマだねえ)。

マ˞ミ˥ナー [ma˞mi˥na:]【名】1(植) モヤシ (萌やし)。マ˞ミナー˥ヌ　˞チャン˥プロー　ン˞マーントダー [ma˞mina:˥nu ˞tʃam˥puro: ʔm˞ma:nˈda:](萌やしの炒め物は美味しいよ)。2痩せた人。˞ヨーガリティ˥　マ˞ミ˥ナー　ナリ˞ベー [˞jo:gariti˥ ma˞mi˥na: nari˞be:](痩せて萌やしになっている)。

マ˞ミナーチャン˥プルー [ma˞mina:tʃam˥puru:]【名】萌やしの炒め物 (チャンプルー)。老年層は、イ˞ラキ˥ムヌ [ʔi˞raki˥munu](炒りもの) という。マ˞ミナーチャン˥プルー　ッ˞ふァイ˥プサワ˞ナー [ma˞mina:tʃam˥puru: f˞fai˥pu̥sawa˞na:](もやしの炒め物を食べたいなあ)。

マ˞ミ˥ヌアン [ma˞mi˥nuʔaŋ]【名】あずきあん (小豆餡)。「豆の餡」の義。ゆでた小豆に砂糖を混ぜ、さらに煮て練ったもの。餅の中に包み入れて餡餅(アンモチ)にした。マ˞ミ˥ヌアンヌ　バ˞タム˥チェー　˞ミース˥ヌアンヌ　バ˞タム˥チェーラン　ン˞マー˥タン [ma˞mi˥nuʔannu ba˞tamu˥tʃe: ˞mi:su˥nuʔannu ba˞tamu˥tʃe:ram ʔm˞ma:˥taŋ](小豆餡の餡餅は味噌餡の餡餅よりも美味しかった)。

マ˞ミ˥ヌカー [ma˞mi˥nuka:]【連・名】1豆の皮。マ˞ミ˥ヌ　˞カー˥ヤ　˞コー˥ユンダ　ミ˞ジ˥ナー　フ˞クラシティ˥　ピ˞キ˥バ [ma˞mi˥nu ˞ka:˥ja ˞ko:˥junda mi˞ʤi˥na: ɸu̥˞kuraʃi̥ti˥ pi̥˞ki˥ba](豆の皮は固いから水にふやかしてから碾(ヒ)きなさい)。2一張羅。一枚しかない着物。ク˞ヌ˥　マ˞ミ˥ヌ　˥カー　˞ナー˥ト　ユ˞グシェー˥ラ　ナ˞ラン˥ダー [ku˞nu˥ ma˞mi˥nu ˥ka: ˞na: ˥to ju˞guʃe:˥ra na˞ran˥da:](この一張羅などを汚したらいけないぞ)。

マ˞ミ˥ヌクー [ma˞mi˥nuku:]【名】きなこ (黄な粉)。「豆の粉」の義。大豆を煎って碾(ヒ)いて粉にしたもの。マ˞ミ˥ヌクー　ピ˞キ˥バ [ma˞mi˥nuku: pi̥˞ki˥ba](黄な粉を碾きなさいよ)。

マ˞ミ˥ヌ　˞ニン˥ガイ [ma˞mi˥nu ˞niŋ˥gai]【連】豆の祈願。˞ニンガチニン˥ガイ [˞niŋgatsiniŋ˥gai](名) の際に、˞ヤーバン [˞ja:baŋ](「八番」の義か。八回祈願すること) の一つとして祈願されたもの。ア˞ガマミ [ʔa˞gamami](アズキ < 小豆 >) やク˞マミ [ku˞mami](ヤエナリ < 緑豆 >)、˞トー˥フマミ [˞to: ˥ɸumami](大豆 < 豆腐豆 >) 等が稔るよう祈願する祭祀。戦後まで祈願されていたが、村行事が多いとのことで 1960 年ごろに廃止された。マ˞ナ˥マー　マ˞ミ˥ヌ　˞ニンガイ˥ヤー　˞ソーラ˥ヌ [ma˞na˥ma: ma˞mi˥nu ˞niŋgai˥ja: ˞so:ra˥nu](今は豆の祈願はなさらない)。

マ˞ミ˥マキ [ma˞mi˥maki]【名】豆まき。豆の種を蒔くこと。˥アボーヤ　マ˞ミ˥マキ　˞シン˥　パ˞タ˥ケー　˞オーッ˥タ [˥ʔabo:ja ma˞mi˥maki ˞ʃim˥ pḁ˞ta˥ke: ˞ʔo:t˥ta](お母さんは豆蒔きをしに畑へ行かれた)。

マ˞ミルン [ma˞miruŋ]【他動】液体や軟膏、塗料などを塗りつける。塗る。「Mamexi,su. マメシ、ス (まめし、す)」『邦訳日葡辞書』がラ行四段活用に転訛したものか。マ˞ムンとも言う。プ˞スヌ˥　シラナー　˥シン　マ˞ミルンティ　ベーン˥ケン　˞ドゥー˥ヌ　˥キンナー　マ˞ミラリ　ナー˥ヌ [pu̥˞sunu˥ ʃirana: ˥ʃim ma˞mirunti be:ŋ˥ken ˞du:˥nu ˥kinna: ma˞mari na:˥nu](他人の顔 < 面 > に墨を塗ろうとしているうちに、自分の着物に塗られてしまった)。˥シン　マ˞ミ˥　ミサカー　マ˞ミル˥　クトー　˥ナルン [˥ʃim ma˞mi˥ misaka: ma˞miru˥ ku̥to: ˥naruŋ](墨を塗ってよければ、塗ることはできる)。˞マー˥ビン　マ˞ミレー˥　ミサムヌ [˞ma:˥bim ma˞mire:˥ misamunu](もっと塗ればいいのに)。˞パー˥ク　フ˞チ˥ル　マ˞ミリ [˞pa:˥ku ɸu̥˞tʃi˥ru ma˞miri](早く薬を塗れ)。

マ˞ムリ˥ガミ [ma˞muri˥gami]【名】守り神。守護神。標準語からの借用語。神歌では、˥ウヤンガミ [˥ʔujaŋgami](親神様)、マ˞ブ˥ルシュー [ma˞bu˥ruʃu:](守り主 < 神 >)、カミガ˞ナ˥シ [kamiga˞na˥ʃi](神様) のように歌われている。/ウブシクヌ　マブルシュー　アミブシャヌ、　ウブトゥムルヌ　カミガナシ　アミブシャヌ、ウマンチュヌ　ニガイヤ　アミブシャヌ、アカカラジヌ　ニガイヤ　アミブシャヌ、タンディトートゥ　マブルシュー　アミブシャヌ、ガラクトートゥ　カミガナシ　アミブシャヌ。(大城の守り主 < 神 >、雨が欲しゅうございます。大友利御嶽の神様、雨が欲しゅうございます。民衆 < 御万人 > の願いは雨が欲しゅうございます、百姓の願いは雨が欲しゅうございます、どうぞ守り神様雨が欲しゅうございます、なにとぞ神様、雨が欲しゅうございます)(雨乞い歌)/『鳩間島古典民謡古謡集』。

マ˞ムリ˥ヌ　˥カン [ma˞muri˥nu ˥kaŋ]【連】守護神。「守りの神」の義。˞コン˥ジン [˞kon˥ʤiŋ](女性個人用の守り神。根神) のこと。その家の娘は床の間に˞コン˥ジンをたてて拝んでいた。嫁いでいく時には香炉を下げて嫁ぎ先の家の床(トコ)の間に移した。˞ザー˥トゥクナー　ミ˞ドーン˥ッふァヌ　マ˞ムリ˥ヌ　˞カ

ン˞ヌ　˞オー˞ルン [˞ʤaː˞tu̥kunaː mi˞doːŋ˞ffanu ma˞muri˞nu ˞kan˞nu ˞ʔoː˞ruŋ](床の間には女の子の守り神がいらっしゃる <御座(オワ)します >)。

マ˞ム˞ルン [ma˞mu˞ruŋ] 【他動】守る。守護する。「〜筑紫の国は安多麻毛流 < 仇マモル >〜。万、4331」の義。˞ワットゥヌ˞　ヤ˞クスコー˞　ヤー˞ディン˞　マ˞ム˞ルンティ　ウ˞ムーン˞ドゥ　マ˞ムラン˞　クトゥン　˞アン [˞wattunu˞ ja˞kusu̥koː˞ jaː˞dim˞ ma˞mu˞runti ʔu˞muːn˞du ma˞muraŋ˞ ku̥tuŋ ˞ʔaŋ](君との約束は必ず守ると思うが、守らないこともある)。ウ˞レー˞　マ˞ムリ　ヤッ˞サン [ʔu˞reː˞ ma˞muri jas ˞saŋ](それは守りやすい)。ヤ˞クスコー˞　ヤー˞ディン˞　マ˞ム˞ル　˞クトゥ [ja˞kusu̥koː˞ jaː˞dim˞ ma˞mu˞ru ˞ku̥tu](約束は必ず守ることだ)。マ˞ム˞レー　˞ミサムヌ [ma˞mu˞reː ˞misamunu](守ればよいのに)。ウ˞レー　ワー˞　マ˞ム˞リ [ʔu˞reː waː˞ ma˞mu˞ri](それは君が守れ)。

マ˞ムン [ma˞muŋ] 【他動】液体や軟膏、塗料を塗(ヌ)りつける。塗る。「Mamexi,su. マメシ、ス (まめし、す) 粟の粉や豆の粉などに餅を入れてするように、粉をつける. また、泥だらけにする、泥まみれにする。. 上 (Cami) では、Mabuxi,su(塗し、す) と言う」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。フ˞チ˞ル　マ˞ムンティ　スンドゥ˞　ヤムンダ　マ˞マラヌ [ɸu̥˞ʧi ˞ru ma˞munti sundu˞ jamunda ma˞maranu](薬を塗ろうとするが、痛むので塗られない)。キ˞ジ˞ナー　フ˞チ˞ル　マ˞ミ˞　シ˞キバ˞ル　˞ノーリ˞　パ˞ヤートダー [ki˞ʤi˞naː ɸu̥˞ʧi˞ru ma˞mi˞ ʃi̥˞kiba˞ru ˞noːri˞ pa ˞jaːɦdaː](傷には薬を塗っておいた方が治り早いよ)。˞カイブ　フ˞チ˞ル　マ˞ム˞　プ˞ソー˞　ブ˞ラーヌ [˞kaibu ɸu̥˞ʧi˞ru ma˞mu˞ pu̥˞soː˞ bu˞raːnu](こんな薬を塗る人はいない)。フ˞チ˞ルンツァン　マ˞メー˞　ミサムヌ [ɸu̥˞ʧi˞runtsam ma˞meː˞ misamunu](薬でも塗ればいいのに)。フ˞チ˞ル　マ˞ミ˞バ [ɸu̥˞ʧi˞ru ma˞mi˞ba](薬を塗れよ)。

˞マヤ [˞maja] 【名】(動) 猫。鼠の害を防ぐために飼われていた。˞マヤー　˞ミートゥシ˞　シゥ˞カナウ˞バン　˞ヌシ　˞バシキルン　イン˞マー　˞ミッカ˞　シゥ˞カ˞ヌカー　˞ヌシ　˞バシキラヌ [˞majaː ˞miːtuʃi˞ si̥˞kanau˞ban ˞nuʃi ˞baʃikiruŋ ʔim˞maː ˞mikka˞ si̥˞ka ˞nauka: ˞nuʃi ˞baʃi̥kiranu](猫は三年飼育しても飼い主を忘れる。犬は三日飼育したら飼い主を忘れない)。˞イン˞トゥ　˞マヤ [˞ʔin˞tu ˞maja](犬と猫。仲の悪い者同士。˞犬猿の仲」の義)。マ˞ヤ˞ヌ　ウ˞ム˞ティ　˞シムン　˞カタチニ [ma˞ja˞nu ʔu˞mu˞ti ˞ʃimuŋ ˞kḁtatʃini](猫が顔 < 面 > を洗うように。簡単に洗面することを諌(イサ)める意)。

マ˞ヤーサ˞リン [ma˞jaːsa˞riŋ] 【自動】妖怪などに化かされる。迷わされる。マ˞ヤー˞スン [ma˞jaː˞suŋ](化かす。惑わす。たぶらかす) の未然形に受身の助動詞˞リン [˞riŋ](れる、られる) が付いて形成された受身動詞。ユ˞ナカー˞ラ　ミ˞チェー˞　ン˞ジ˞ルカー　マ˞ジムン˞　マ˞ヤーサ˞リンダ　マ˞ヤーサラン˞　スコーニ　˞サン　˞ムティ　˞アー˞キ [ju˞nakaː˞ra mi˞ʧeː˞ ʔn˞ʤi˞ruka: ma˞ʤimum˞ ma˞jaːsa˞rinda ma˞jaːsaran˞ su̥koːni ˞sam ˞muti ˞ʔaː˞ki](夜中から道に出ると、まじもの < 蠱物 > に化かされるから、化かされないようにサンを持って行け < 歩け >)。˞アイブ　ミ˞ドゥ˞ムン　マ˞ヤーサ˞リティ　˞ヌーヤ　ウ˞レー [˞ʔaibu mi˞du˞mum ma˞jaːsa˞riti ˞nuːja ʔu ˞reː](あんな女に惑わされて、何だねそれは)。ビ˞キドゥモー˞　マ˞ヤーサリ˞ル　˞クトゥーン　˞アン [bi˞kidumoː˞ ma˞jaːsari˞ru ˞ku̥tuːŋ ˞ʔaŋ](男は惑わされることもある)。˞ワンヌン˞　マ˞ヤーサ˞レー　˞ミサムヌ [˞wannum˞ ma˞jaːsa˞reː ˞misamunu](君も惑わさればいいのに)。˞ウナー　˞ベー˞ティ　マ˞ヤーサ˞リバ [˞ʔunaː ˞beː˞ti ma˞jaːsa˞riba](そこにいて惑わされろ)。

˞マヤーブー [˞majaːbuː] 【名】(植) メドハギ (蓍萩)。メドギ (蓍木)。「猫の尾」の義。野原に自生しており、日常は雑草として利用されることのない植物であるが、˞ソー˞ラン [˞soː˞raŋ](お盆) には仏前へ食事を供える際の箸に作ったり、朝、昼、晩の食事を供えて線香を立てる直前に、ミ˞ジヌ˞クー [mi ˞ʤinu˞kuː](< 水の粉 > の義か。無縁仏へのお布施として用意される供物で、砂糖黍の茎や茄子を小さく賽の目に刻んだものに米、小豆、昆布を刻んだもの等を加え、7 回水洗いしたもの) を戸外へ弾き飛ばすのに用いるもの。長さ約 30 センチの箒状に結わえたもの。˞マヤーブーシ　ミ˞ジヌ˞クー　˞パン˞キバ [˞majaːbuːʃi mi˞ʤinu˞kuː ˞paŋ˞kiba](マヤーブー < メドハギ > でミジヌクー < 水の粉 > を家の外へ弾き飛ばしなさいよ)。

マ˞ヤーリ˞　ン˞ジ˞ルン [ma˞jaːri˞ ʔn˞ʤi˞ruŋ] 【連】ものに憑(ツ)かれたように飛び出る。躍り出る。浮かれて出る。˞サンシンヌ˞　ウ˞トゥヌ˞　シゥ˞カリター˞　マ˞ヤーリ˞　ンジティ　ブ˞ドゥル　シー　ベー [˞saŋʃinnu˞ ʔu˞tunu˞ si̥˞karitaː ma˞jaːri˞ ʔnʤiti bu˞duru ʃiːbeː](三線の音が聞こえたので憑かれたように飛び出て踊っている)。

マ˞ヤールン [ma˞ja:ruŋ] 【自動】憑かれたように舞い上がる。何かに浮かされて起き上がる。調子にのって浮かれ出る。「舞い上がる」の転訛したもの。ニ˞チ˥ヌ　ア˞ガル˥カー　トゥ˞ビウキティ˥　マ˞ヤールン˥ティ　˞スンダー˥　マ˞ヤーラン˥　スコーニ　ス˞ブ˥ル　ヒ˞ヤ˥シ [ni˞ʧi˥nu ʔa˞garu˥ka: tu˞biʔukiti˥ ma˞ja:run˥ti ˞sunda:˥ ma˞ja:ran˥ sʉko:ni su˞bu˥ru çi˞ja˥ʃi](熱が上がると熱に浮かされて起き上がるというから、起き上がらないように頭を冷やせ)。˞サンシンヌ˥　ウ˞トゥ˥　ス˞ク˥カー　シ˞グ˥　マ˞ヤーリ˥　ン˞ジ˥ス [˞saŋʃinnu˥ ʔu˞tu˥ sʉ˞ku˥ka: ʃi˞gu˥ ma˞ja:ri˥ ʔn˞ʤi˥su](三線の音を聞くと、すぐ浮かれ出て舞う)。ウ˞レー˥　マ˞ヤー˥ル　˥クトー　˞ナー˥ヌ [ʔu˞re:˥ ma˞ja:˥ru ˥kʉto: ˞na:˥nu](彼は調子にのって浮かれ出ることはない)。˞マー˥ビン　マ˞ヤー˥レー　˥ミサムヌ [˞ma:˥bim ma˞ja:˥re: ˥misamunu](もっと浮かれ出ればいいのに)。˞マー˥ビン　マ˞ヤーリリ [˞ma:˥bim ma˞ja:riri](もっと浮かれ出ろ)。

˥マヤスクグル [˥majasʉkuguru] 【名】(動) リュウキュウコノハズク『石垣方言辞典』。˥ミンスクグル [˥minsʉkuguru](みみずく < 木菟 >) ともいうが、分類学的には不明。˥マヤスクグロー　マ˞ヤ˥ヌ　˥カタチニル　ナ˞ク˥ティバン　˞ナー [˥majasʉkuguro: ma˞ja˥nu ˥kʉtatʃiniru na˞ku˥tiban ˞na:](リュウキュウコノハズクは猫のように鳴くそうだね)。

マ˞ヤ˥ヌ　カ˞タ [ma˞ja˥nu kʉ˞ta] 【連】猫の絵。歌謡語。˞ヤー˥　ク˞ヌ　ヤー˥ヌ　ウ˞チ˥ナカー　マ˞ヤ˥ヌ　˥カタ　˥アンティ　˥スー [˞ja:˥ ku˞nu ja:˥nu ʔu˞ʧi˥naka: ma˞ja˥nu ˥kʉta ˥ʔanti ˥su:](ああ、この家の中に猫の絵があるという)(アーパーレー歌)。

マ˞ヤ˥ヌ　˥ッス　ウ˞ズムン˥　カタチニ [ma˞ja˥nu ˥ssu ʔu˞ʤumuŋ˥ kʉtatʃini] 【連】仕事を粗雑にすること。いいかげんに仕事をすること。「猫が糞を埋めるように」の義。˞ワー˥　パ˞タ˥キ　˞カイシヨー˥ヤ　マ˞ヤ˥ヌ　˥ッス　ウ˞ズムン˥　カタチニル　˞ブーワーン˥ノー　キ˞ム˥バ　˥イリ　カ˞シーカシ　カイ˥シバ [˞wa:˥ pʉ˞ta˥ki ˞kaiʃijo:˥ja ma˞ja˥nu ˥ssu ʔu˞ʤumuŋ˥ kʉtatʃiniru ˞bu:wa:n˥no: ki˞mu˥ba ˥ʔiri kʉ˞ʃi:kaʃi kai˞ʃiba](君の畑 < を耕す > 耕し方は、猫が糞を埋めるよう < いいかげん > ではないか。もっと心をこめてしっかり耕せ)。

マ˞ヤ˥ヌ　フ˞タイ [ma˞ja˥nu ɸʉ˞tai] 【連】猫の額。面積の小さいことの比喩表現。マ˞ヤ˥ヌ　フ˞タイヌ˥　ブカラヌ　˞ヤシキ˥バ　˞カイティル˥　ウナー　˞ヤー˥バ　ス˞ク˥リ　˥シケー [ma˞ja˥nu ɸʉ˞tainu˥ bukaranu ˞jaʃʉ̥ki˥ba ˞kaitiru˥ ʔuna: ˞ja:˥ba sʉ˞ku˥ri ˥ʃʉ̥ke:](猫の額ほどの屋敷を買って、そこに家を造って < 置いて > ある)。

マ˞ユ [ma˞ju] 【名】眉。まゆげ。「眉 < マヨ > の如〜。万、998」、「Maju. マユ (眉). Mayuuo fisomuru(眉を顰(ヒソ)むる) 悲しみや驚きのために、しかめ面をする、あるいは、いやな顔をする」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。マ˞ユ˥ナーン　ッ˞サイ˥ヌ　˥ムイ　˞ベー˥ン [ma˞ju˥na:n s˞sai˥nu ˥mui ˞be:˥ŋ](眉にも白髪が生えている)。ヤ˞マ˥マユ [ja˞ma˥maju](濃い眉毛。繁茂した眉毛)。マ˞ユ˥　ピ˞クン [ma˞ju˥ pʉ̥˞kuŋ](眉を美しく描く。美しい女性の眉に描く)。

˥マユ [˥maju] 【名】繭。蚕の繭。「繭、和名万由 (まゆ) 蚕衣也」『和名抄』、「Mayu. マユ (繭) 蚕のまゆ」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。老年層は˥マンムシヌ　˞コー˥マ [˥mammuʃinu ˞ko:˥ma](蚕の卵。「殻、和名与⊠貝 < かひ > 同、虫之皮甲也」『和名抄』) と言った。若年層は、˞カイコ˥ヌ　˥マユ [˞kaiko˥nu maju](蚕の繭) という。イ˞クサユー˥ヌ　˞マイ˥ヤー　パ˞トゥ˥マナーン　˞カイ˥コ　シゥ˞カ˥ナイティ　˞イッ˥パイ　˥マユ　トゥ˞ローッ˥タン [ʔi˞kusaju:˥nu ˞mai˥ja: pʉ̥˞tu˥mana:ŋ ˞kai˥ko: sʉ̥˞ka˥naiti ˞ʔip˥pai ˥maju tu˞ro:t˥taŋ](戦前は鳩間島にも蚕を養って、たくさん繭を生産された < 取られた >)。

˥マユーン [˥maju:ŋ] 【自動】迷う。「紕、漢語抄云、万与布 (まよふ)、一云与流 (よる)」『和名抄』の転訛したもの。˞バン˥ヌン　ウ˞リ˥　サ˞バル˥　ナルユー　˥マユー　˥クトゥン　˞アッタン˥ドゥ　マ˞ナ˥マー　マ˞ヨーン˥ドーシ　˞シー　ブー [˞ban˥nuŋ ʔu˞ri˥ sa˞baru˥ naruju: ˥maju: ˥kʉtuŋ ˞ʔattan˥du ma˞na˥ma: ma˞jo:n˥do:ʃi ˞ʃi: bu](私もそれをした方が良いのか、迷うこともあったが、今は迷わずにやっている)。マ˞ナ˥マン　マユーン˞ダー [ma˞na˥mam maju:n˞da:](今も迷うよ)。マ˞ナ˥マン　マ˞ユイ˥ブー [ma˞na˥mam ma˞jui˥ bu:](今も迷っている)。˞マー˥ビン　マ˞ユイ˥ヤー　˥ミサムヌ [˞ma:˥bim ma˞jui˥ja: ˥misamunu](もっと迷えばいいのに)。˥マユイバ [˥majuiba](迷えよ)。

マ˞ユイ˥ルン [ma˞jui˥ruŋ] 【自動】迷う。右往左往する。さまよう。「紕、漢語抄云、万与布 (まよふ)、」『和名抄』、「Mayoi, ô, ôta. マヨイ、ウ、ウタ (迷ひ、ふ、うた) 誤る　Mayoi ariqu(迷い歩く) 道を知らないで迷い歩く」『邦訳日葡辞書』のラ行四段に転訛したもの。˥アイニ　ア˞ザリ˥カー　ター˞ン˥　マ˞ユイ˥ルンティ　ウ˞ムーン˥ドゥ　˥バー　イッ˞カ˥

マ˞ユイラン˜シェン [˜ʔaini ʔa˞ʤari˜kaː taː˞m˜ ma˞jui˜runti ʔu˞muːn˜du ˜baː ʔik˞ka˜ ma˞juiraŋ˜ʃeŋ](そう言われたら誰でも迷うと思うが、私は決して迷わなかった)。˞ヌー˜ スーバル マ˞シ˜ユー ˜マユイ ˞ナー˜ヌ [˞nuː˜ suːbaru ma˞ʃi˜juː ˜majui ˞naː˜nu](何をすればよいか、迷ってしまった)。マ˞ユー˜ クトー ター˞ン˜ナーン ア˞リ˜ ブー [ma˞juː˜ kʉtoː taː˞n˜naːŋ˜ ʔa˞ri˜ buː](迷うことは誰にもある＜有り居る＞)。˞マー˜ビン マ˞ユイ˜レー ˜ミサムヌ [˞maː˜bim ma˞jui˜reː ˜misamunu](もっと迷えばいいのに)。˞ワンヌン˜ マ˞ユイ˜リ [˞wannum˜ ma˞jui˜ri](君も迷えろ)。

マ˞ユヌ˜ フ˞タナカ [ma˞junu˜ ɸʉ˞tanaka] 【連】眉と眉の間。みけん (眉間)。マ˞ユヌ˜ フ˞タナカー˜ シ˞カミティ˜ ムニ イ˞ゾール˜ヌ ア˞ムサ˜ル ア˞ロー˜ルカヤー [ma˞junu˜ ɸʉ˞tanakaː˜ ʃi̥˞kamiti˜ muni ʔi˞ʤoːru˜nu ʔa˞musa˜ru ʔa˞roː˜rukajaː](眉間をしかめ＜顰め＞て話しておられるが、ご気分が悪くあられるのだろうか)。

˜マラ [˜mara] 【名】1陰茎。「魔羅」の義。ウ˞シヌ˜ マラ [ʔu˞ʃinu˜ mara](牛の陰茎)。2籾摺り臼の下の台にある回転軸となる棒。杭。石臼の下の台にある突起物。建築用材木のほぞ (枘(ホゾ))。ろぐい (艪杭)。ピ˞キウシヌ˜ ッ˞サダイヌ˜ マラー ˞オーダイ˜ナー ˞ホー˜シティル ˞マイヤー˜ ピ˞ク [pi̥˞kiʔuʃinu˜ s˞sadainu˜ maraː ˞ʔoːdai˜naː ˞hoː˜ʃitiru ˞maijaː˜ pi̥˞ku](籾摺り臼＜碾き臼＞の下の台の回転軸＜魔羅＞を上台に嵌(ハ)め合わせて＜ぞ＞籾摺(モミス)りはする＜米は碾(ヒ)く＞ものだ)。

マ˞ラ キ [ma˞raki] (1)【名】 ˞マ イ マ ラ キ [˞maimaraki](稲のまろげ＜丸げ＞。一巻き＜30 束＞)。バ˞ラフ˜タマラキ [ba˞raɸʉ˜tamaraki](稲藁の丸げ)。 (2)【助数】30 タ˞バ˜ル [ta˞ba˜ru](束) を一まとめにまろげた＜丸げた＞単位。˞マイ˜ プ˞スマラ˜キ [˞mai˜ pʉ˞sumara˜ki](稲＜米＞一丸げ)。フ˞タマラキ [ɸʉ˞tamaraki](二丸げ)。˞ミーマラキ [˞miːmaraki](三丸げ)。˞ユーマラキ [˞juːmaraki](四丸げ)。イ˞チマラ˜キ [ʔi˞ʧimara˜ki](五丸げ)。˞ムーマラキ [˞muːmaraki](六丸げ)。ナ˞ナマラ˜キ [na˞namara˜ki](七丸げ)。˞ヤーマラキ [˞jaːmaraki](八丸げ)。ク˞ヌマラ˜キ [ku˞numara˜ki](九丸げ)。˞トゥーマラキ [˞tuːmaraki](十丸げ)。˞イッタン˜ヌ ˜ターラ ˞マイヤー ギューマラキ˜ トゥ˞ラリ˜ワ [˞ʔittan˜nu ˜taːra ˞maijaː gjuːmaraki˜ tu˞rari˜wa](一反の田圃から稲は幾丸げ収穫できる＜取れる＞か)。

マ˞ラキカラ˜キ [ma˞rakikara˜ki] 【副】稲、稲藁などは 30 束を一丸げに、茅などは直径約 30 センチほどの大きさに束ね丸げることの強調表現。ABCDBC 型の重言。カラキ [karaki] は「Carague,uru,eta. カラゲ、グル、ゲタ (紮(カラ)げ、ぐる、げた) 荷物などを結ぶ、または、しばりつける」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。˞マイヤー˜ ア˞ミ˜ヌ ˞ホーン˜ケンティ ˞シー˜ マ˞ラキカラ˜キ ˞シー˜ シケー [˞maijaː˜ ʔa˞mi˜nu ˞hoːŋ˜kenti ˞ʃiː˜ ma˞rakikara˜ki ˞ʃiː˜ ʃi̥keː](稲＜米＞は、雨が降らないうちにといって、30 束ずつ一丸げにしておいてある)。

マ˞ラクン [ma˞rakuŋ] 【他動】稲、稲藁などは 30 束を一丸げ＜一巻き＞にする。茅などは直径約 30 センチほどの大きさに束ね丸げる。˞マイ˜ マ˞ラクンティ スンドゥ˜ バ˞ラフタ˜ヌ タ˞ラーンダ˜ マ˞ラカラヌ [˞mai˜ ma˞rakunti sundu˜ ba˞raɸʉ˜ta˜nu ta˞raːnda˜ ma˞rakaranu](稲束を＜30 束一巻きに＞丸げようとするが、稲藁が足りないので丸げられない)。マ˞ラキ˜ ミサカー ˜バー ˞タンガ˜シン マ˞ラク˜ クトー ˜ナルン [ma˞raki˜ misakaː ˜baː ˞taŋga˜ʃim ma˞raku˜ kʉtoː ˜naruŋ](丸げてよければ、私一人ででも丸ぐことはできる)。˞パー˜ク マ˞ラケー˜ ミサムヌ [˞paː˜ku ma˞rakeː˜ misamunu](早く丸げばいいのに)。ヤー˞ディン˜ マ˞ラキ [jaː˞dim˜ ma˞raki](必ず丸げ)。

マ˞ラスン [ma˞rasuŋ] 【他動】1産ませる。誕生させる。「～吾が中の産礼出有＜ウマレイデタル＞～。万、904」の「ウマレ＜生まれ＞」に使役の助動詞˜スン [˜suŋ](せる。させる) が付いて転訛したものか。ッ˞ふァ˜ マ˞ラスン [f˞fa˜ ma˞rasuŋ](子供を産ませる)。˞イッ˜パイ ウ˞シヌッふァ˜ マ˞ラシティ˜ フ˞ドゥバスンティ˜ ウ˞ムータン˜ドゥ マ˞ラサランシェン [˜ʔip˜pai ʔu˞ʃinu˜ f˞fa˜ ma˞raʃiti˜ ɸu˞dubasunti˜ ʔu˞muːtan˜du ma˞rasaraŋʃeŋ](たくさん子牛を産ませて育てようと思ったが、産ませられなかった)。˞マー˜ビン マ˞ラス˜ クトー ナ˞ラ˜ヌ [˞maː˜bim ma˞rasu˜ kʉtoː na˞ra˜nu](もっと＜子牛を＞産ませることはできない)。˞マー˜ビン マ˞ラシェー˜ ミサムヌ [˞maː˜bim ma˞raʃeː˜ misamunu](もっと産ませればいいのに)。˞マー˜ プ˞スッ˜カラ マ˞ラシ˜バ [˞maː˜ pʉ˞suk˜kara ma˞raʃi˜ba](もう一匹産ませよ)。2酒や醤油を醸造す＜産まらせ＞る。豆腐を製造す＜産まらせ＞る。サ˞キ˜ マ˞ラスン [sḁ˞ki˜ ma˞rasuŋ](酒を醸造す＜産まらせ＞る)。ム˞カ˜シェー ˞ヤーカー˜ジナ サ˞キ˜ マ˞ラシティ˜ シ

ゥ˞カイヨーッタン˥ドゥ　マ˞ナ˥マー　サ˞キ˥　マ˞ラソー˥ル　プ˞ソー　オーラ˥ヌ [muˀkaˀʃeː ˞jaːkaː˥ ʤina: sḁˀki˥ maˀraʃi̥ti˥ si̥ˀkaijoːttan˥du maˀna˥maː sḁˀki˥ maˀrasoː˥ru pu̥ˀsuŋ ʔoːra˥nu](昔は家毎に酒を醸造されて使っておられたが、今は酒を醸造される人はおられない)。˥ドゥーシ　˞トー˥フ　マ˞ラシェー˥　ミサムヌ [˥duːʃi ˞toː˥ɸu maˀraʃeː˥ misamunu](自分で豆腐を製造すればいいのに)。˞トー˥フ　マ˞ラシ [˞toː˥ɸu maˀraʃi](豆腐を製造せよ)。

マ˞ラタリ˥ムヌ [maˀratari˥munu] 【名】褌をしめないで男根を露出させ＜垂らし＞た者。思慮分別のない子供。ティ˞ジリ˥ビー [tiˀʤiri˥biː](男性神職者)が台風の後片付けのために˥ウボー [˥ʔuboː](威部)へ立ち入る際は、褌の前を垂らして無分別者であることを装(ヨソオ)う必要があったという。ウ˞グビ˥ヌ　ム˞ヌ˥ヌ　マ˞ラタリ˥ムヌ　˥ナリティ　˥ヌーヤ　ウ˞レー [ʔuˀgubi˥nu muˀnu˥nu maˀratari˥munu ˥nariti ˥nuːja ʔuˀreː](あれほどの図体をした者が「魔羅垂れ者」になって、一体全体何事だね、これは)。ヤ˞ラビ˥ヌ　マ˞ラタリムヌ˥ヌ　˞シェー˥ル　˥ワザ [jaˀrabi˥nu maˀratarimunu˥nu ˞ʃeː˥ru ˥waʤa](子供の、思慮分別のない者のなせる＜しでかした＞仕業)。

˥マラ　˥タルン [˥mara ˥taruŋ] 【連】魔羅を垂れる。男が下着を着ないで男根を露出させる。マ˞ラ˥ヌ　˥タルンケン　サ˞キバ˥　ウ˞チッ˥クライ　˞アー˥クカー　˥タケー　シ˞ムラリ　ブー [maˀra˥nu ˥taruŋken saˀkiba˥ ʔuˀʧik˥kurai ˞ʔaː˥kuka: ˥takeː ʃiˀmurari buː](男根を露出させるほど酒を打ち喰らっているようだったら、その人物の程度＜身の程＞は知れて＜見積もられて＞いる)。

マ˞ラ˥ヌ　˥サウ [maˀra˥nu ˥sau] 【連】陰茎。「魔羅(男根)の竿」の義。バ˞カー˥タン　˥ケンマー　マ˞ラ˥ヌ　˞サウ˥ヌン　˥ユー　タ˞トゥ˥タンドゥ　マ˞ナ˥マー　グ˞リー˥ル　˞スー [baˀkaː˥taŋ ˥kemmaː maˀra˥nu ˞sau˥nuŋ ˥juː tḁˀtutan˥du maˀna˥maː guˀriː˥ru ˞suː](若かりし時は魔羅の竿もよく立ったものだが、今はお辞儀をする)。

マ˞ラバスン [maˀrabasuŋ] (1)【他動】殴る。打ちのめす。「馬展、マロバス」(身を転倒させる。倒し伏す)『類聚名義抄』の転訛したもの。˥ムニ　シゥ˞カン˥カー　マ˞ラバスンティ˥　ウ˞ムータン˥ドゥ　マ˞ラバサランシェン [˥muni si̥ˀkaŋ˥ka: maˀrabasunti˥ ʔu˞muːtan˥du maˀrabasaraŋʃeŋ](言う事を聞かなかったら殴ろうと思ったが、殴られなかった)。˥ワキン　シゥ˞カムティ˥　マ˞ラバシ　ナー˥ヌ [˥wakin si̥ˀkamuti˥ maˀrabaʃi naː˥nu](言い訳も聞かずに殴ってしまった)。マ˞ラバ˞ス　˥ブソー　˞ティー˥ヤ　˞ヨーミ˥リ [maˀraba˥su ˥bu̥soː ˞tiː˥ja ˞joːmi˥ri](殴る時は手は弱めよ)。˞ウンザー˥　マ˞ラバシェー˥　ミサムヌ [˞ʔunʤaː˥ maˀrabaʃeː˥ misamunu](あいつは殴ればいいのに)。マ˞ラバシ [maˀrabaʃi](殴れ)。**(2)**【補動】動詞の連用形に付いて、上接語の意味を強める。イ˞ジマラバスン [ʔiˀʤimarabasuŋ](叱りとばす)。カ˞キマラバ˥スン [kḁˀkimaraba˥suŋ](書き散らす。書きなぐる)。

マ˞ラビッ˥ツァーン [maˀrabit˥tsaːŋ] 【形】すべっこい(滑っこい)。「転び易い」の義。「馬展、マロバス」『類聚名義抄』、「展　車専(コイマロビ)〜。万、2274」の転訛したものか。ク˞ヌ　フン˥ツァー　マ˞ラビッ˥ツァーン [kuˀnu ɸun˥tsa: maˀrabit˥tsaːŋ](この床はすべっこい)。˞ナン˥ゾー　マ˞ラビッツァー　ナー˥ヌ [˞nan˥ʤoː maˀrabittsa: naː˥nu](そんなに＜あまり＞すべっこくない)。˞ゾーラス˥カー　マ˞ラビッ˥ツァー　ナルン˞ダー [˞ʤoːrasu̥˥ka: maˀrabit˥tsa: narunˀdaː](濡らしたらすべっこくなるよ)。マ˞ラビッツァー˥ヌ　ア˞ラカラ˥ヌ [maˀrabittsaː˥nu ʔaˀrakara˥nu](すべっこくて歩かれない＜歩けない＞)。マ˞ラビッ˥ツァー　˥トンラー　ア˞ラク˥ナ [maˀrabit˥tsa: ˥tonraː ʔaˀraku˥na](すべっこい所からは歩くな)。

マ˞ラブン [maˀrabuŋ] 【自動】転ぶ。まろぶ。転がる。転倒(テントウ)する。「展轉＜コイマロビ＞　恋はしぬとも〜。万、2274」、「Marobi,u,oda. マロビ、ブ、ゥダ(転び、ぶ、うだ)地上に倒れる.」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ア˞ガミツァー˥　ア˞ミ˥ヌ　˥フーカー　マ˞ラビッ˥ツァーンダ　マ˞ラバンドー˥シ　ヨー˞ンナー˥　ア˞ラ˥キ [ʔaˀgamitsaː˥ ʔaˀmi˥nu ˥ɸuːkaː maˀrabit˥tsaːnda maˀrabandoː˥ʃi joːˀnnaː˥ ʔaˀra˥ki](赤粘土は、雨が降るとすべっこいから、転ばないでゆっくり歩け)。ノー˞ンヤラバン˥カ˞サマン˥カー　マ˞ラブン˥ダー [noːˀɲjarabaŋ˥ kḁˀsamaŋ˥kaː maˀrabun˥daː](何かでも掴(ツカ)まないと転倒するぞ)。˥クナー　マ˞ラブ˥　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [˥kunaː maˀrabu˥ pu̥ˀsoː˥ buˀraːnu](ここで転ぶ人はいない)。˥クナー　マ˞ラベー˥　ミサムヌ [˥kunaː maˀrabeː˥ misamunu](ここで転べばいいのに)。˞ワンヌン˥　クナー　マ˞ラビ˥バ [˞wnanuŋ˥ kunaː maˀrabi˥ba](君も此処で転べよ)。

マ˞ラベー˥クルベー [maˀrabeː˥kurubeː] 【副】転転と転がるさま。まろび(転び)ころび。幼児が母親に駄

々をこねて転がりながら泣き喚くさま。普通は、ク˞ルベー˥マラベー [ku˞rube:˥marabe:](ころび＜転び＞まろび) と言う。ク˞ルベー˥マラベー　˞シー˥　ナ˞キ　ヨー˥ゾー　ナ˞ラ˥ヌ [ku˞rube:˥marabe: ˞ʃi:˥ na˞ki jo:˥ʤo: na˞ra˥nu](転転と転んで＜転びまろびして＞泣いて、どうにも手がつけられ＜養生でき＞ない)。

マ˞ラリ˥ヤ [mararija] 【名】マラリア。ハマダラカの媒介するマラリア原虫の血球内寄生による感染症。鳩間島では、老年層は˞フイヤキ [˞ɸuijaki](三日熱、二日熱マラリア。高熱と震えを伴う病気) という。戦争中に西表島へ強制避難させられた鳩間島の人々がマラリアに罹患(リカン)し、戦中戦後に多くの死亡者を出した。特効薬の˥キナイ [˥kinai](キニーネ) やア˞テブ˥リン (Atebrin) は戦後になって八重山民政府から配給されるようになった。˥キナイ　˥ヌミティル　マ˞ラリ˥ヤ　˞ノー˥シタ [˥kinai ˥numitiru ma˞rari˥ja ˞no:˥ʃi̥ta](キニーネを飲んでマラリアを治した)。

マ˞リ [ma˞ri] 【名】1生まれ。出身。˞ワー˥　マ˞レー˥　マーヤー [˞wa:˥ ma˞re:˥ ma:ja:](君の出身地＜生まれ＞はどこか)2一族一統特有の形質。性質。性分。プ˞ソー˥　マ˞リ˥シ　バ˞カサ˥リン [pu̥˞so:˥ ma˞ri˥ʃi ba˞kasa˥riŋ](人は生まれつきの形質や性分で、どの家の子か区別できる)。˞ワー˥　カ˞ザケヌ˥　マ˞リバ　シーブーバン [˞wa:˥ ka˞ʤakenu˥ ma˞riba ʃi:bu:baŋ](君は加治工家の形質と性格をそなえた生まれをしているわい＜生まれは隠せないものだ＞)。3生まれつき。ウ˞レー˥　サ˞ニマリ　シーブンダ˥　ケー˞ラ˥　ア˞タラ˥サ　˞シー˥　ッ˞ふォー˥ルン [ʔu˞re:˥ sa˞nijamari ʃi:bunda˥ ke:˞ra˥ ʔa˞tara˥sa ˞ʃi:˥ f˞fo:˥ruŋ](彼は生まれつき人に喜ばれる明るい性格をしているので、皆が可愛がって＜大事にして＞くださる)。˞ニッふァマリ [˞niffamari](生まれつき人に憎まれる性格。暗い性格)。4運命。バ˞カ˥シニ　˞シー　ナーヌ˥ヌ　ウ˞ヌマリル˥　ヤ˞レー˥ル [ba˞ka˥ʃini ˞ʃi: na:nu˥nu ʔu˞numariru˥ ja˞re:˥ru](若死にしてしまったが、その運命であったのだろう)。

˥マリ [˥mari] 【形動】まれ (稀)。めったにないさま。標準語からの借用語か。˥カイブ　マ˞チガイ˥ヤー　マ˞リ˥ナ　˥クトゥ。˞ミッ˥タニ　˞ナーン˥シェン [˥kaibu ma˞tʃigai˥ja: ma˞ri˥na ˥ku̥tu。˞mit˥tani ˞na:ŋ˥ʃeŋ](こんな間違いは稀なことだ。めったになかった)。˥マリニル＜タ˞マーニル＞　˞ヤー˥ヌ　˥フカーン　ン˞ジ˥ル [˥mariniru＜ta˞ma:niru＞˞ja:˥nu˥ ɸu̥ka:n ʔn˞ʤi˥ru](稀にしか＜ぞ＞家の外には＜出る＞出ない)。

マ˞リカーリ [ma˞rika:ri] 【名】生まれ変わり。生まれ変わりの人。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　ビ˞ケーヌ˥　マ˞リカーリ˥ティ　˞シール˥　マ˞レー˥ル　˞ナー˥　ア˞タラ˥サ　˞シーリ˥ヨー [ku˞nu˥ f˞fa:˥ bi˞ke:nu˥ ma˞rika:ri˥ti ˞ʃi:ru˥ ma˞re:˥ru ˞na:˥ ʔa˞tara˥sa ˞ʃi:ri˥jo:](この子は父親の生まれ変わりとして誕生したのだねえ、大事に可愛がれよ)。

マ˞リカールン [ma˞rika:ruŋ] 【自動】1生まれ変わる。人が更正する。ウ˞ガン˥ツメーツバ　˞クン˥ドー　ヤー˞ディン˥　マ˞リカールンティ˥　ウ˞ムーン˥ドゥ　マ˞リカーラン˥カー　˞ヌー˥スワ　˥メー [ʔu˞gan˥tsume:tsuba ˞kun˥do ja:˞dim˥ ma˞rika:runti˥ ʔu˞mu:n˥du ma˞rika:raŋ˥ka: ˞nu:˥suwa ˥me:](懲(コ)りたから、今度はきっと＜必ず＞生まれ変わると思うが、生まれ変わらなかったら、如何しようか、もう)。マ˞リカーリ　ベー [ma˞rika:ri be:](生まれ変わっている)。ク˞ヌ　ブン˥シェー　マ˞リカール˥　クトー　˞ナーン˥　パジ˞ダー˥ヌ　マ˞リカーレー˥　ミサムヌ [ku˞nu buŋ˥ʃe: ma˞rika:ru˥ ku̥to: ˞na:m˥ paʤi˞da:˥nu ma˞rika:re:˥ misamunu](このぶんでは生まれ変わることはないだろうが、生まれ変われればいいのに)。マ˞リカーリ [ma˞rika:ri](生まれ変われ)。2死んだ者が再度生命を得て生まれてくる。マ˞リカーリ˥　クー˞ヨー [ma˞rika:ri˥ ku:˞jo:](生まれ変わってきなさいよ。死んだ子供に対する別れのことば)。

マ˞リカタチ [ma˞rikatatʃi] 【名】姿形。容姿。体格。「生まれ形」の義。マ˞リカタチェー˥　ビ˞ケーヌ˥　ウヤニ＜ウヤン＞　ビッ˞ツティ　ニーブー [ma˞rikatatʃe:˥ bi˞ke:nu ˥ʔujani＜ʔujam＞ bit˞tsuti ni:bu:](姿形は父親にそっくり似ている)。

マ˞リサニ [ma˞risani] 【名】血統。一統。ク˞ヌ˥　ッ˞ふァー˥　シ˞ラカタ˥チェーラ　˞カン˥ネヌ　マ˞リサニ˥ティ　ア˞ティンガーリ　ベーン˥ティ˞ゲ˥ラ [ku˞nu˥ f˞fa:˥ ʃi˞rakata˥tʃe:ra ˞kan˥nenu ma˞risani˥ti ʔa˞tiŋga:ri be:n˥ti˞ge˥ra](この子は顔貌から、あの家の血統＜子種＞を受け継いでいることが推定できているさ＜いるではないか＞)。

マ˞リシキ [ma˞riʃi̥ki] 【名】生まれ月。生まれた月。せいげつ (生月)。˞ワー˥　マ˞リシケー　ナンガ˥チヤー [˞wa:˥ ma˞riʃi̥ke: naŋga˥tʃija](君の生まれ月は何月か)。

マ˞リシジ [ma˞riʃiʤi] 【名】血筋。血統。「生まれ筋」の義。ユ˞タン˥　ヤー　˞ギー˥　マ˞リシジ˥　サ˞バ

カ˥シ [juˤtaŋ˥ ja: ˤgi:˥ maˤriʃiʤi˥ saˤbakaˤʃi](ユタ＜いちこ。口寄せをする巫女＞の家に行って不明な血筋＜血統＞を解明してもらいなさい)。

マ˞リジマ [maˤriʤima] 【名】郷里。故郷。「生まれ島」の義。ˤドゥー˥ヌ　マ˞リジマヌ˥　クトー　イッˤカ　バシキラヌ [ˤduː˥nu maˤriʤimanu˥ kṵtoː ʔikˤka baʃi̥kiranu](自分の生まれ故郷のことは決して忘れない)。マ˞リジマヌ˥　プ˞スンケー˥ヌ　ˤオー˥レーン [mariˤʤimanu˥ pṵˤsuŋkeː˥nu ˤʔoː˥reːŋ](故郷の人々が来られた)。

マ˞リソー [maˤrisoː] 【名】1天性。生まれつきの性質。「うまれじょう (生まれ性)」の義。ウˤレー˥　ウˤヌ˥　マ˞リソー˥　ヤˤルンダ　ニー˥バンティ　ˤシー˥　ドゥク　イˤズナ˥ヨー [ʔuˤreː˥ ʔuˤnu˥ maˤrisoː˥ jaˤrunda niː˥banti ˤʃiː˥ duku ʔiˤʤuna˥joː](彼は、それが生まれつきの性質＜その生まれ性＞だから、動作が鈍いといって、あまり叱るなよ)。2もって生まれた運命。宿命。バˤカ˥ジニ　ˤシェー˥ムン　ウˤヌ　プスヌ˥　マ˞リ˥ソー　ヤˤルンダ˥　シˤカター　ナー˥ヌ [baˤka˥ʤini ˤʃeː˥muŋ ʔuˤnu pṵsunu˥ maˤri˥soː jaˤrunda˥ ʃi̥ˤkata: naː˥nu](夭逝(ヨウセイ)＜若死＞したのも、その人の生得的な運命だから仕方ないよ)。

˥マリッコー [˥marikkoː] 【名】背の低い人。矮小(ワイショウ)な体。ちび。石垣方言からの借用語か。ウˤレー˥　トゥˤシ˥グル　ナˤリ˥ブンドゥ　˥マリッコー　˥ナリティ　ムッˤトゥ˥　フˤドゥバンバン [ʔuˤreː˥ tṵˤʃi˥guru naˤri˥bundu ˥marikkoː ˥nariti mutˤtu˥ ɸuˤdubambaŋ](彼は年頃になっているが、矮小な体になって、ちっとも成長しないわい)。

マ˞リッツァー˥スン [maˤrittsaː˥suŋ] 【他動】大便を排泄し散らかす。まり＜放り＞散らす。「送糞、此をば倶蘇摩屡＜くそまる＞と言ふ」『日本書紀　神代下』。「～倉立てむ　屎遠麻礼＜クソトホクマレ＞～。万、3832」の転訛したものか。˥タンザンドゥ　˥ウマーカマーナ　˥ッス　カˤキザ˥シ　マ˞リッツァー˥シ　˥シケーワ [˥tanʤandu ˥ʔumaːkamaːna ˥ssu kạˤkiʤa˥ʃi maˤrittsaː˥ʃi ʃi̥keːwa](どやつ＜何奴＞があちらこちらに脱糞(ダッフン)し、糞(クソ)を放(マ)り散らかしてあるのか)。ˤイン˥マー　˥ウマーカマーナ　˥ッス　マ˞リッツァー˥スンダ　マ˞リッツァーサン˥　ヨーニ　ナˤラー˥シ [ˤʔim˥maː ˥ʔumaːkamaːna ˥ssu maˤrittsaː˥sunda maˤrittsaːsaŋ˥ joːni naˤraː˥ʃi](犬はあちこちに糞を放り散らすから、まり散らさないように躾けろ)。˥ッス　マ˞リッツァー˥ス　˥ピンマー　シˤトゥ˥ナイバ [˥ssu maˤrittsaː˥su ˥pimmaː ʃi̥ˤtu˥naiba](糞を放り散らす時は引っ叩けよ)。マ˞リッツァー˥シェー　˥ミサムヌ [maˤrittsaː˥ʃeː˥misamunu](放(マ)り散らせばいいのに)。マ˞リッツァー˥シバ [maˤrittsaː˥ʃiba](放り散らせよ)。

マ˞リッ˥ツァーン [maˤrit˥tsaːŋ] 【自動】排便したい。まり (放り) たい。「送糞、此をば倶蘇摩屡 (くそまる) といふ」『日本書紀　神代下』の連用形マ˞リ [maˤri](まり＜放り＞) に、「～たさ・あり」が融合変化して形成された形容詞型の接尾語˥ッツァーン [˥ttsaːŋ](～たい) が付いて形成された動詞。生理現象を表す特定の動詞につく。シˤバ˥ル　ˤシッ˥ツァーン [ʃiˤba˥ru ˤʃit˥tsaːŋ](小便をしたい)。˥ッス　マ˞リッ˥ツァーン [˥ssu maˤrit˥tsaːŋ](大便をしたい＜糞を放りたい＞)。マˤナ˥マー　マ˞リッツァー　ナーン˥タンティン　マ˞リッ˥ツァー　˥プソー　˥マリ　˥ミサン [maˤna˥ma: maˤrittsa: naːn˥tantim maˤrit˥tsa: ˥pṵsoː ˥mari ˥misaŋ](今は大便を放(マ)りたくなくても、大便を放りたい時は大便を放(マ)ってもよい)。˥ッス　マ˞リプサ˥ヌ　ニˤジララ˥ヌ [˥ssu maˤripusa˥nu niˤʤirara˥nu](大便を放(マ)りたくて、我慢でき＜念じられ＞ない)。

マ˞リトーラ [maˤritoːra] (1)【名】生まれつき。生来。マ˞リットーラ [maˤrittoːra](生まれつき。強調表現)ともいう。ウˤレー˥　マ˞リットーラヌ˥　ナˤキブサー [ʔuˤreː˥ maˤrittoːranu˥ naˤkibusaː](彼は生まれつきの泣き虫だ)。 **(2)**【副】副詞的用法。ウˤレー˥　マ˞リットーラ˥　ムノー　ミˤリユーサ˥ヌ [ʔuˤreː˥ maˤrittoːra˥ munoː miˤrijuːsa˥nu](彼は生まれつきものを見ることが出来ない)。

マ˞リドゥシ [maˤriduʃi] 【名】生まれ年。干支の上での自分の生まれた年。ˤドゥー˥ヌ　マ˞リドゥシェー˥　ウブイˤブン [ˤduː˥nu maˤriduʃeː˥ ʔubui ˤbuŋ](自分の生まれ年は覚えている)。マ˞リドゥシヌ˥　ヨイ [maˤriduʃinu˥ joi](ˤソーニヨイ [ˤsoːnijoi]＜生年祝い＞ともいう。自分の生まれた干支の年の祝い。還暦 <60 歳 >、73 歳、85 歳、97 歳の生年祝い)。

マ˞リパー [maˤripaː] 【名】生まれた年の干支の方向。子 (ね) 年生まれの人は子＜北＞の方向、寅 (とら) 年生まれの人は、寅＜東北＞の方向。ˤウンキニン˥ガイ　ˤソー˥ル　˥ピンマー　マ˞リパー˥ニン　ンˤカイ　ニン˥ガイ　ˤソーッ˥タン [ˤʔuŋkiniŋgai soː˥ru ˥pimmaː maˤripaː˥niŋ ʔŋˤkai niŋ˥gai ˤsoːt˥taŋ](健康＜運気＞祈願をされる時は、その人の生まれた干支の方向にも向かって祈願をされたものだ)。

˥マリパキ [˥maripaki] 【名】下痢と嘔吐。「まり (放

り)・吐き」の義。吐いたり、下痢したりする病気。˥ヌーナール　アˬタルタ˥ユー　˥ユベーラ　˥マリパキヌ　シˬジキ　ブー [˥nu:na:ru ʔaˬtaruta˥ju: ˥jube:ra ˥maripakinu ʃiˬʤiki bu:](どの食物に当った＜食中毒した＞のか、昨夜から下痢と嘔吐＜放り・吐き＞が続いている)。

マˬリパンジョー [maˬripanʤo:] 【名】子孫繁昌。子宝繁昌。「生まれ繁昌」の義。ウˬヤ˥キパンジョーラン　マˬリパンジョール˥　タˬカ˥ラ [ʔuˬja˥kipanʤo:ram maˬripanʤo:ru˥ tạˬka˥ra](金持ち財産持ちの繁昌よりも子孫繁昌こそ＜ぞ＞宝である)。

マˬリビー [maˬribi:] 【名】生まれた年の干支に当る日。「生まれ日」の義。ˬキュー˥ヤ　トゥˬラニー˥　ヤˬリ　ワー˥　マˬリビー˥　ヤˬルンダ　ソー˥シキヤー　ˬパン˥ナˬヨー [ˬkju:˥ja tuˬrani:˥ jaˬri wa:˥ maˬribi:˥ jaˬrunda so:˥ʃi̥kija: ˬpan˥naˬjo:](今日は寅の日で、君の生まれ日だから葬儀のある家には行くなよ)。マˬリビーヤ　ウンキヌ　ヨーン˥ツォー [maˬribi:ja ʔuŋkinu jo:n˥tso:](生まれ日は運気が弱いそうだ)。

マˬリピキ [maˬripiki] 【名】血縁。血族。血統。「生まれ・引き」の義。マˬリピキヌ　ゴー˥ラー　ˬヤー˥ヤ　キˬザルキザヌ˥　ピˬライ˥ヤー　ˬスー˥ワン　ˬダー [maˬripikinu go:˥ra: ˬja:˥ja kiˬʤarukiʤarunu˥ piˬrai˥ja ˬsu:˥wan ˬda:](親類縁者＜血縁＞の多い家は、祭り行事の付き合いは厳しい＜強い＞よ)。

マˬリフチ [maˬriɸu̥ʧi] 【名】生まれ際(キワ)。生まれる時。「生まれ口」の義。ッˬふァヌ˥　マˬリフチン˥　ッˬサン˥　スコー　サˬキバ˥　ウˬチッ˥クライティ　イˬザリ　アー˥クンティ [fˬfanu˥ maˬriɸu̥ʧin˥ sˬsan˥ su̥ko: sạˬkiba˥ ʔuˬʧik˥kuraiti ʔiˬʤari ʔa:˥kunti](子供が生まれる時も知らずに酒をうち喰らって、叱られている＜あるく＞よ)。

マˬリポー˥ルン [maˬripo:˥ruŋ] 【他動】大小便を排泄し散らかす。まり (放り) ちらかす。ˬイン˥マー　˥ウマー　˥カマー˥ナ　˥ッス　マˬリポールン˥ドゥ　ナˬラー˥スカー　マˬリポーラ˥ヌ [ˬʔim˥ma: ˥ʔu-ma: ˥kama:na ˥ssu maˬripo:run˥du naˬra:˥suka: maˬripo:ra˥nu](犬はあちらこちらに糞を放(マ)り散らかすが、躾(シツケ)たら＜教えたら＞放り散らかさない)。マˬリポー˥リ　˥シケー [maˬripo:˥ri ˥ʃi̥ke:](放り散らかしてある)。マˬリポー˥ル　˥クトゥン　˥アン [maˬripo:˥ru ˥ku̥tuŋ ˥ʔaŋ](放り散らかすこともある)。マˬリポー˥レー　˥ミサムヌ [maˬripo:˥re: ˥misamunu](放り散らかせばいいのに)。マˬリポー˥リバ [maˬripo:˥riba](放り散らかせよ)。

マˬリヤブリ˥ムヌ [maˬrijaburi˥munu] 【名】1片端(カタワ)者。体の不自由な人。「生まれ破れ者」の義。マˬリヤビムヌ [maˬrijabimunu] ともいう。マˬリヤブリムヌ˥ヌ　マˬリ˥　ケーティル　キˬムイツァー˥ヌ　ナˬラントツォー [maˬrijaburimunu˥nu maˬri˥ keːtiru kiˬmuitsa:˥nu naˬranトtso:](体の不自由な人が生まれてきたので、可哀相で堪らないのだよ)。2根性の悪い者。˥アイブ　マˬリヤブリムヌ˥テー　˥ミリ　ミˬラ˥ヌ [˥ʔaibu maˬrijaburimunu˥te: ˥miri miˬra˥nu](あんな根性悪な奴は見たことがない)。

マˬリルン [maˬriruŋ] 【自動】生まれる。出生する。誕生する。「〜吾が中の産礼出有＜ウマレイデタル＞〜。万 904」の転訛したもの。マˬルンとも言う。ッˬふァー　トゥーシキ˥　タトゥカー　マˬリルンドゥ˥　シキ　タˬラーン˥カー　マˬリラヌ [fˬfa: tu:ʃi̥ki˥ tạtuka: maˬrirundu˥ ʃi̥ki taˬra:ŋ˥ka: maˬriranu](子供は十ヶ月経つと生まれるが、月が足りないと生まれない)。マˬリ˥　ケール　ッˬふァー˥　アˬタラ˥サ　ˬシー [maˬri˥ keːru fˬfa:˥ ʔaˬtara˥sa ˬʃi:](生まれてきた子は可愛がれよ)。マˬリル˥　ッˬふァー˥　ムー˥ル˥　タˬカ˥ラ [maˬriru˥ fˬfa:˥ mu:ˬru˥ tạˬka˥ra](生まれる子は皆宝だ)。ˬパー˥ク　マˬリレー˥　ミサムヌ [ˬpa:˥ku maˬrire:˥ misamunu](早く生まれればいいのに)。マˬリリ [maˬriri](生まれろ)。

マˬリンガーリ [maˬriŋga:ri] 【名】生まれ変わり。更生。性格や生活態度が一変して良くなること。˥アイヌ　ヤˬビ˥ムヌ　ˬヤッタヌ˥　マˬリンガーリ　シーブーバン [˥ʔainu jaˬbi˥munu ˬjattanu˥ maˬriŋga:ri ʃi:bu:baŋ](あんな不良少年＜破れ者＞だったのに、すっかり更生して＜生まれ変わって＞しているわい)。

マˬル [maˬru] 【名】丸。丸い形。円。クˬヌ˥　カˬビ˥ナー　マˬル˥　マˬキ˥　シˬキ˥リ [kuˬnu˥ kaˬbi˥na: maˬru˥ maˬki˥ ʃi̥ˬki˥ri](この紙に丸をまいて＜書いて＞おきなさい)。マˬル˥　マˬクン [maˬru˥ maˬkuŋ](円を描く)。アˬタル˥カー　マˬル˥　マˬクン [ʔaˬtaru˥ka: maˬru˥ maˬkuŋ](当たったら円をまく)。

マˬル [maˬru] 【接頭】まる。すっかり。全く。マˬルパダカ˥　ナリ　ˬベー [maˬrupadaka˥ nari ˬbe:](真っ裸になっている)。マˬルスン　シーナー˥ヌ [maˬrusuŋ ʃi:naː˥nu](まる損してしまった。全部損すること)。スˬブ˥ロー　マˬルパギ　シーナー˥ヌ [suˬbu˥ro: maˬrupagi ʃi:naː˥nu](頭はまる禿げになってしまった。すっかり禿げてしまった)。マˬルモーキー

スン [ma˞rumo:ki: suŋ](まる儲けする)。

マ˞ルーマルー˺シ [ma˞ru:maru:˺ʃi] 【副】丸々と。まん丸で。˞ズングヤー˺ヌ ˺シケー マ˞ルーマルー˺シティ < マ˞ローマロー˺シティ > イッ˞ケナ カイ˺ヤン [˞dʑuŋguja:˺nu ˺ʃi̥ke: ma˞ru:maru:˺ʃi̥ti < ma˞ro:maro:˺ʃiti > ʔik˞kena kai˺jaŋ](十五夜の月は丸々として < まん丸で > 非常に美しい < きれいだ >)。

マ˞ルアライ [ma˞ruʔarai] 【名】丸洗い。全体を洗うこと。シゥ˞カン˺アライ [si̥˞kaŋ˺ʔarai](部分洗い。「掴み洗い」の義) の対義語。シゥ˞カン˺アライ ˞サンドー˺シ マ˞ルアライ˺ サ˞バル˺ ク˞ヌ˺ ユ˞グレー˺ ウ˞タ˺サリ [si̥˞kaŋ˺ʔarai ˞sando:˺ʃi ma˞ruʔarai˺ sa˞baru˺ ku˞nu˺ ju˞gure:˺ ʔu˞tasa˺ri](部分洗い < つかみ洗い > でなく、丸洗いしないとこの汚れは落とされない < 丸洗いすればぞ汚れは落とされる >)。

マ˞ルカナ [ma˞rukana] 【名】まるかんな (丸鉋)。˺イダフニ [˺ʔidaɸuni](サバニ) の船底や˞ウー˺キ [˞ʔu:˺ki](桶)、ミ˞ジタン˺グ [mi˞dʑitaŋ˺gu](水桶。担桶) の内側などの曲面を削る際に用いる鉋。マ˞ルカナ˺シル ˞ウーキ˺ヌ ク˞リ˺タ キ˞ズタル [ma˞rukana˺ʃiru ˞ʔu:ki˺nu ku˞ri˺ta ki˞dʑutaru](丸鉋で桶の枠板 < クリタ > を削ったものだ)。

マ˞ルキー [ma˞ruki:] 【名】丸木。一本木。マ˞チ˺ヌ マ˞ルキーバ˺ キシ ウ˞ラ˺シティ ˺マチフニ ス˞ク˺ローッタ [ma˞tʃi˺nu ma˞ruki:ba˺ ki̥ʃi ʔu˞ra˺ʃi̥ti ˺matʃiɸuni su̥˞ku˺ro:tta](松の丸木を伐り下ろして、松の刳り舟を造られた)。

マ˞ルケーティ [ma˞ruke:ti] 【副】たまに (偶に)。稀に。たまさか。マ˞ルケーティ˺ナー ˞バン˺テーン ア˞サビン˺ クーバ˞ヨー [ma˞ruke:ti˺na: ˞ban˺te:ŋ ʔa˞sabiŋ˺ ku:ba˞jo:](偶には私の家にも遊びに来なさいよねえ)。マ˞ルケーティナール˺ クームヌ ン˞ベーマ˺ ア˞サビティ˺ パリバー [ma˞ruke:tina:ru˺ ku:munu ʔm˞be:ma˺ ʔa˞sabiti˺ pariba](偶にしか来ない < 稀にぞ来る > のだから、少しは遊んでいきなさいよ)。

マ˞ルケーティ [ma˞ruke:ti] 【名】 (連体) まれ (稀)。めったにないこと。たま (偶)。たまさか。˺カイブー ˞ヨイ˺ヤー イ˞チンイチン˺ アルムノー ア˞ラ˺ヌ マ˞ルケーティヌ˺ ヨイ ヤ˞ルンダ˺ マ˞ギーマギー˺シ ˞ソー˺ラ˞ディー [˺kaibu: ˞joi˺ja: ʔi˞tʃiŋʔitʃiŋ˺ ʔaru ˺muno: ʔa˞ra˺nu ma˞ruke:tinu˺ joi ja˞runda˺ ma˞gi:magi:˺ʃi ˞so:˺ra˞di:](こんなお祝いはいつもいつもある物ではない。偶のお祝いだから大きくしましょう < なさいましょう > よ)。

マ˞ルケーティ˺ナー [ma˞ruke:ti˺na:] 【副】稀には。たまには (偶には)。マ˞ルケーティ [ma˞ruke:ti](偶に、格助詞˺ナ [˺na](に) のとりたて強調の係助詞˺ヤー [˺ja:](は) が付いて形成された形。˞ヤー˺ナー カー˞ニ˺ ク˞マ˺リ ˞オーラン˺ドーシ マ˞ルケーティ˺ナー ˞バン˺テーン ˞オー˺リ ッ˞ふォー˺リバ [˞ja:˺na ka:˞ni˺ ku˞ma˺ri ˞ʔo:ran˺do:ʃi ma˞ruke:ti˺na: ˞ban˺te:ŋ ˞ʔo:˺ri f˞fo:˺riba](家にだけ籠っていらっしゃらないで、偶には私の家にもいらっしゃってくださいよ)。

マ˞ルザー [ma˞rudʑa:] 【名】車座。円形をつくって座ること。えんざ (円座)。˞カン˺プスンケーヤ イ˞チバン˺ザーナ マ˞ルザー˺ マ˞キ˺ ビ˞リティ˺ タ˞ナ˺ドゥルアヨー イ˞ゾーッ˺タ [˞kam˺pu̥suŋke:ja ʔi˞tʃiban˺dʑa:na ma˞rudʑa:˺ ma˞ki˺ bi˞riti˺ ta˞na˺duruʔa-jo: ʔi˞dʑo:t˺ta](神職者 < 神人 > 達は一番座に円形に座って種取り˺アヨー [˺ʔajo:]< 稲の種取り神歌 > を歌われた)。

マ˞ルスニ [ma˞rusuni] 【名】 (海底地名)。タ˞カビー˺ヌ フ˞チ [tḁ˞kabi:˺nu ɸu̥˞tʃi](高干瀬の津口) の西にある˞イシケーズニ [˞ʔiʃi̥ke:dʑuni](イシケー曽根) と˞アーラマイズニ [˞ʔa:ramaidʑuni](東前曽根) の間にある丸い曽根。

マ˞ルスン [ma˞rusuŋ] 【名】まるぞん (丸損)。すっかり損すること。カ˞ジフキ˺ナー ˺フネー ˞フンナキティ ニー˺ヤ ムー˞ル ナーラサ˺リ マ˞ルスン シー ナー˺ヌ [ka˞dʑiu̥ki˺na: ˺ɸune: ˞ɸunnakiti ni:˺ja mu:˞ru na:rasa˺ri ma˞rusuŋ ʃi: na:˺nu](嵐 < 風吹き > で舟を沈没させて、荷物は全部流されてしまい、丸損してしまった)。

マ˞ルタ [ma˞ruta] 【名】まるた (丸太)。丸材。標準語からの借用語か。˞マーレーヌ˺ ヤマーラ フ˞クンキーヌ˺ マ˞ルタバ˺ キシ ウ˞ラシ˺ル ˞ヤーザイ˺ギ ン˞ザ˺ソーッタ [˞ma:re:nu˺ jama:ra ɸu̥˞kunki:nu˺ ma˞rutaba˺ ki̥ʃi ʔu˞raʃi˺ru ˞ja:dʑai˺gi ʔn˞dʑa˺so:tta](西表島のマーレーの山やナダラの山から福木の丸太を伐り下ろして < ぞ > 家屋建築用材としての材木を伐りだされた)。

マ˞ルヌミ [ma˞runumi] 【名】丸呑み。噛み砕かずに、そのまま飲み込むこと。老年層は、マ˞ルヌン [ma˞runuŋ](丸呑み) というのが普通。ヤ˞ラ˺ベー マ˞ルヌミ スンダ˺ ガ˞ラ˺スダマ ˞ナー˺トー ˞ティー˺ヌ トゥ˞ドゥ˺クン ˺トンナー ス˞ク˺ナ˞

ヨー [ja˞ra˩be: ma˞runumi sunda˩ ga˞ra˩sudama ˞na: ˩to ˞ti:˩nu tu˞du˩ku ˩tonna: sɯ̥˞ku˩na˞jo:](幼児は丸呑みするから、ガラス玉などを手の届く所に置くなよ)。

マ˞ルヌン [ma˞runuŋ] 【名】丸呑み。噛み砕かずに、そのまま飲み込むこと (古老の言葉)。ッ˞ふァイムヌ˩ ユー ˞カンザラ˩ムティ マ˞ルヌン シー ベー [f˞faimunu˩ ju: ˞kandzara˩muti ma˞runuŋ ʃi:be:](食べ物をよく噛み砕かないで丸呑みしている)。

マ˞ルヌン [ma˞runuŋ] 【名】まるのみ (丸鑿)。まるい穴をうがつのに用いる、刃のまるい鑿(ノミ)。˩アブジェー ˞サイクドン˩グナー ピ˞サヌン˩ マ˞ルヌン˩ ゴ˞ブヌン サンブ˩ヌンティン ˞アッ˩タン [˩ʔabudʒe: ˞saikudoŋ˩guna: pi̥˞sanum˩ ma˞runuŋ˩ go˞bunun sambu˩nuntiŋ ˞ʔat˩taŋ](お祖父さんの大工道具には平鑿(ヒラノミ)、丸鑿、五分鑿、三部鑿なども < とても > あった)。

マ˞ルバイ [ma˞rubai] 【名】全裸。まる出し。陰部を露出すること。下着を全く着ていないこと。すっぽんぽん。沖縄本島方言からの借用語か。老年層は、マ˞ルパダカ [ma˞rupadaka](丸裸) という。ヤ˞ラビ˩バ ヤ˞ナナラーシ シー˩ ナー˞イ˩ マ˞ルバイ˩ シ˞ミ˩ シケー [ja˞rabi˩ba ja˞nanara:ʃi ʃi:˩ na:˞i˩ ma˞rubai˩ ʃi˞mi˩ ʃi̥ke:](子供に悪い習慣づけして、下着を着せないでまる出しさせてあるよ)。

マ˞ルパダカ [ma˞rupadaka] 【名】まるはだか (丸裸)。ム˞カ˩シェー ヤ˞ラ˩ベー ムー˞ル˩ マ˞ルパダカ˩ ナリティル ˩オンダー ˞シー˩ ブ˞タル [mu˞ka ˩ʃe: ja˞ra˩be: mu:˞ru˩ ma˞rupadaka˩ naritiru ˩ʔonda: ˞ʃi:˩ bu˞taru](昔は、子供は皆丸裸で泳いで < 海水浴をして > いたものだ)。

マ˞ルブン [ma˞rubuŋ] 【名】丸盆。直径約 30 センチの大木の幹を厚さ約 4 センチに切り、中を刳って御盆にに作ったもの。普通は、˞サー˩ブン [˞sa:˩buŋ](茶盆) に用いられた。仏壇にパ˞ナン˩グミ [pa˞naŋ˩gumi](花米) を供える際にはマ˞ルブン [ma˞rubuŋ](丸盆) を用いた。˞サーブン˩マー マ˞ルブンバル˩ シゥ˞カイヨーッタ˩ル [˞sa:bum˩ma: ma˞rubumbaru˩ si̥˞kaijo:tta˩ru](茶盆には丸盆をば < ぞ > 使われたものだ)。

マ˞ル˩マブンサン [ma˞ru˩mabunsaŋ] 【固】西表島租内湾の海中に浮かぶ周囲約 200 メートルの小島。「丸い盆のような島」の義。˞マルマブンサン節」に歌われている小島。/ヨーホー マルマブンサン ユナユナミリバ カジヌニユシチ イチュルシルサヤ (ヨーホー < 掛け声 >、マルマ盆山と称する小島を毎夕暮時に眺めて見ると、風の風位と方向をよく知っていると見えて、坐っている白鷺の群れはじつに利口なものじゃ)/『八重山民謡誌』。

マ˞ルモーキ [ma˞rumo:ki] 【名】丸儲け。イ˞タンダムヌ˩バ ˞カーシティ˩ マ˞ルモーキ シーベー [ʔi˞tandamunu˩ba ˞ka:ʃi̥ti˩ ma˞rumo:ki ʃi:be:](ただ同然のものを売って丸儲けしている)。

マ˞ルン [ma˞ruŋ] 【自動】1生まれる。出生する。誕生する。˞ヤーティ˩ スカー ッ˞ふァヌ˩ マ˞ルンティ˩ ス˞クタヌ˩ マ˞ダ˩ マ˞ランバント ナー [˞ja:ti˩ sɯ̥ka: f˞fanu˩ ma˞runti˩ sɯ̥˞kutanu˩ ma˞da˩ ma˞rambant-na:](もうじき < やがて > 子供が生まれると聞いたが、まだ生まれないんだねえ)。˩シキ タ˞ラームティ˩ マ˞リナー˩ヌ [ʃi̥ki ta˞ra:muti˩ ma˞rina:˩nu](十ヶ月に満たずに生まれてしまった)。˩シキ タ˞ラーン˩ マ˞ル˩ ッ˞ふァン˩ トゥ˞ラ˩リン˞ダー [˩ʃi̥ki ta˞ra:m˩ ma˞ru˩ f˞fan˩ tu˞ra˩rin˞da:](十ヶ月に満たずに生まれる子も育てられる < 手に抱き取ることができる > よ)。˞パー˩ク マ˞レー˩ ミサムヌ [˞pa:˩ku ma˞re:˩ misamunu](早く生まれたらいいのに)。マ˞リ˩バ [ma˞ri˩ba](生まれろ)。2人が立派に育つ。人が〜になる。神女 < 司。神職者 > が誕生する。サ˞カサヌ˩ マ˞レー˩カー ˞サウワ ナー˩ヌ [sḁ˞kasanu˩ ma˞re:˩ka: ˞sauwa: na:˩nu](神女 < 司 > が生まれたのなら心配はない)。˞マイフナー˩ マ˞リ˩ヨー [˞maiɸuna:˩ ma˞riri˩jo:](立派な人 < お利口さん > に成長しなさいよ)。

˩マルン [˩maruŋ] 【他動】排便する。脱糞する。「まる (放(マ)る)」の義。「送糞、此をば倶蘇摩屡 (くそまる) と云ふ」『日本書紀 神代下』の転訛したもの。˩ッス ˩マルンティ ビ˞リ ベー [˩ssu ˩marunti bi˞ri be:](排便しよう < 糞を放(マ)ろう > と座っている)。ヤ˞ラ˩ベー ˩ッス マ˞ラン˩カー シ˞ビ コー˩ルン [ja˞ra˩be: ˩ssu ma˞raŋ˩ka: ʃi˞bi ko:˩ruŋ](子供は排便しない < 糞を放(マ)らない > と便秘する < 尻強張る >)。˩ッス ˩マリ ˩シケー [˩ssu ˩mari ˩ʃi̥ke:](糞を放(マ)ってある)。ヤ˞ラビ˩ヌ ˩ッス ˩マル ピンマー ヤー˞ラマー˩シ シ˞ビシ˩ケー ˞カイリ˩ヨー [ja˞rabi˩nu ˩ssu ˩maru ˩pimma: ja:˞rama:˩ʃi ʃi˞biʃi̥˩ke: ˞kairi˩jo:](子供が排便する < 糞放(マ)る > 時は、優しく < 柔らかに > おむつを取り替えなさいよ)。˞パー˩ク ˩マレー ˩ミサムヌ [˞pa:˩ku ˩mare: ˩misamunu](早く排便すれば < 糞放(マ)れば > いいのに)。˩ッス ˩マ

リバ [˥ssu ˥mariba](排便せ＜糞放(マ)れ＞よ)。

マ˞レーラ˥　シデーラ [ma˞re:ra˥ ʃide:ra] 【連】生まれてこのかた。生まれて初めて。「生まれてから、孵化してから」の義。次に続く否定表現と呼応して打消しを強調する、一種の陳述副詞的用法。˥アイブ　パ˞ナ˥シェー　マ˞レーラ˥　シデーラ　シ˞キミラ˥ヌ [˥ʔaibu pa˞na˥ʃe: ma˞re:ra˥ ʃide:ra ʃi̥˞kimira ˥nu](そのような話は生まれてこの方聞いたことがない)。

マ˞ロー˥ン [ma˞ro:˥ŋ] 【形】丸い。まん丸である。「丸、マロカス」『類聚名義抄』の転訛したものか。˞ズングヤー　˥ヌ　˥シケー　マ˞ロー˥ン [˞ʤuŋguja:˥nu ˥ʃi̥ke: ma˞ro:˥ŋ](十五夜の月は丸い)。˞ナン˥ゾー　マ˞ローナー˥ヌ [˞nan˥ʤo: ma˞ro:na:˥nu](あまり丸くない)。˞シンダイ˥　マ˞ロー˥　ナルン [˞ʃindai˥ ma˞ro:˥ naruŋ](次第に丸くなる)。˥アイニ　マ˞ロー˥　シケー　˥ミリ　ミ˞ラ˥ヌ [˥ʔaini ma˞ro:˥ ʃi̥ke: ˥miri mi˞ra˥nu](あんなに丸い月は見たことが無い)。

˥マン [˥maŋ] 【名】数の名。万。˥マンニン　シ˞ジクン [˥manniŋ ʃi˞ʤikuŋ](万年続く)。˥マンニンヌ　プ˞スヌ˥　ア˞ツァ˥マルン [˥manninnu pu̥˞sunu˥ ʔa˞tsa˥maruŋ](万人の人が集まる)。˥マンダイ　シ˞ジクン [˥mandai ʃi˞ʤikuŋ](万代続く)。˥イチマン [˥ʔitʃimaŋ](一万)。˥ニマン [˥nimaŋ](二万)。˥サンマン [˥sammaŋ](三万)。˞ヨンマン [˞jommaŋ](四万)。˥ゴマン [˥gomaŋ](五万)。˥ロクマン [˥rokumaŋ](六万)。˥ナナマン [˥nanamaŋ](七万)。˥ハチマン [˥hatʃi-maŋ](八万)。˞キューマン [˞kju:maŋ](九万)。˥ジューマン [˥ʤu:maŋ](十万)。˞キュー˥ヤ (ワ) カ˞ツシンヌ˥　イチマンギヌ　˥ヨイ [˞kju:˥ja(wa)kḁ˞tsuʃinnu ˥ʔitʃimaŋginu ˥joi](今日カツオ漁船の一万斤漁獲の祝いだ)。

˞マンイチ [˞maŋʔitʃi] (1)【名】万の中に一つ。万が一。ほとんどないが、きわめて稀にあること。マ˞チガイ˥ヤー　˞ナーン˥　パジ　˞ダー˥ヌ　˞マンイチヌ˥　ピンマー　ク˞ヌ˥　ジン　シゥ˞カイ˥バ [ma˞ʧigai˥ ja: ˞na:m˥ paʤi ˞da:˥nu ˞maŋʔitʃinu˥ pimma: ku˞nu˥ ʤin sɨ̥˞kai˥ba](間違いは無いはずだが、万一の場合はこのお金を使いなさいよ)。 **(2)**【副】まんがいち。もしも。ひょっとして。標準語「万一」からの借用語。˞マンイチ˥　シ˞ナムヌヌ˥　トゥ˞ドゥカン˥カー　˞ヌー˥　スワ [˞maŋʔitʃi˥ ʃi˞namununu˥ tu˞dukaŋ˥ka: ˞nu:˥suwa:](もしも品物が届かないと、＜その時は＞どうするのか)。

˞マン˥カ [˞maŋ˥ka] 【副】真っ直ぐ。直接に。ミ˞チマン˥カ　˞アーラー˥　ア˞ラ˥キ　˥パルカー　シ˞カットゥン˥＜シ˞キアタル˥＞　トンドゥ　˞ウン˥ネー [mi˞ʧimaŋ˥ka ˞ʔa:ra:˥ ʔa˞ra˥ki ˥paruka: sɨ̥˞kattun ˥＜ʃi˞kiataru˥＞ tondu ˞ʔun˥ne:](道を真っ直ぐに東の方へ歩いて行くとぶつかる所があの家だ)。ウ˞ヤン˥ナーネー　˥ドゥーシ　˞マン˥カ　パ˞ナ˥シ [ʔu˞jan˥na:ne: ˥du:ʃi ˞maŋ˥ka pa˞na˥ʃi](親には自分で直接に話なさい)。

マン˞カーマ [maŋ˞ka:ma] 【副】真正面から。正直に。率直に。˞マン˥カ [˞maŋ˥ka](真っ直ぐ。直接) の強調表現。ウ˞レー˥　カ˞クシ　˥ユクシ　˞スー˥　プ˞ソー˥　ア˞ラ˥ヌ　マン˞カーマル˥　ア˞ズ [ʔu˞re:˥ kḁ˞ku˥ʃi ˥jukuʃi ˞su:˥ pu̥˞so:˥ ʔa˞ra˥nu maŋ˞ka:maru˥ ʔa˞ʤu](彼は隠しごとや嘘＜讒、与己須 (よこす)『新撰字鏡』＞をする人ではない。正直に＜ぞ＞言う)。カ˞クシユクシ　˞サンドー˥シ　マン˞カーマ˥　アジ　ッ˞サリ˥バ [kḁ˞ku˥ʃijukuʃi ˞sando:˥ʃi maŋ˞ka:ma˥ ʔaʤi s˞sari˥ba](嘘偽りをしないで真っ正直に申し上げなさいよ)。

マン˞カーマンカー [maŋ˞ka:maŋka:] 【副】真っ直ぐに。まっとうに。真っ正直に。ABCDABCD 型の重言。ジ˞ジョーヤ˥　ッ˞サムティ˥　マン˞カーマンカー˥　ア˞ズンティ　アー˥キ　イ˞ザリ　ベー˥タ [ʤi˞ʤo:ja˥ s˞samuti˥ maŋ˞ka:maŋka:˥ ʔa˞ʤunti ʔa:˥ki ʔi˞ʤari be:˥ta](事情は知らないで真っ正直に意見を言おうとしていて、叱られていたよ)。

˞マンガイチ [˞maŋgaʔitʃi] 【副】万一。もしも (若しも)。˞マンガイチ˥ティ　˞スー˥　クトゥン　ア˞リ˥ブンダ　ヤ˞ラ˥ビ　˞タンガ˥シェー　パ˞ラサラ˥ヌ [˞maŋgaʔitʃi˥ti ˞su:˥ ku̥tuŋ ʔa˞ri˥bunda ja˞ra˥bi ˞taŋga˥ʃe: pa˞rasara˥nu](若しもという事もあることだから、子供一人だけでは遣れ＜行かされ＞ない)。

˞マン˥ガナ [˞maŋ˥gana] 【名】おろしがね (下ろし金)。「おろし鉋」の義。˞ダイ˥クニ [˞dai˥kuni](大根) や˞マン˥イズイ [˞man˥ʤui](パパイアの実) をすりおろす器具。薄いブリキ板に斜孔をあけ、その先端部を研いでおき、中央部を刳りぬいた板に張りつけて大根や人参を細かくおろすのに用いる料理器具。巾約 10 センチ、長さ約 23 センチ程度のものが多く用いられた。「眞鉋＜マカナ＞持ち〜。万、1385」の転訛したものか。「鏟、平⊠木鉄也、加奈 (かな)」『新撰字鏡』の転訛したもの。˞マンズイ˥ヌ　˥ナル　˞マン˥ガナシ　シ˞キ˥　ウ˞ラ˥シティ　タ˞ク˥トゥ　˥アバナー　イ˞ラ˥キバ [˞manʤui˥nu ˥naru ˞maŋ˥ganaʃi ʃi̥˞ki˥ ʔu˞ra˥ʃi̥ti tḁ˞ku˥tu ˥ʔabana: ʔi

˞ra˞kiba](パパイアの実を下ろし金でつき下ろして、蛸と脂で炒め＜煎り＞なさいよ)。

˞マンカ˞ミチ [˞maŋka˞mitʃi] 【名】目的地への真っ直ぐな道。直線道路。直行する道。˞ウン˞ネー　˞バー˞ケー　˞マンカ˞ミチ　ヤ˞ルンダ˞　イッ˞ケナ˞　サ˞バキ　ヤッ˞サン [˞ʔun˞ne: ˞ba:˞ke: ˞maŋka˞mitʃi ja˞runda˞ ʔik˞kena˞ sa˞baki jas˞saŋ](あの家までは直線道路だから非常に探しやすい)。ミ˞チマン˞カ [mi˞tʃimaŋ˞ka] ともいう。

˞マンカ˞ムヌ [˞maŋka˞munu] 【名】正直者。馬鹿正直な者。愚直な者。ウ˞レー　マンカ˞ムヌ　ヤ˞ルンダ˞　ウ˞リンマー˞　シゥ˞カサラヌ [ʔu˞re: maŋka˞munu ja˞runda˞ ʔu˞rimma:˞ si̥˞kasaranu](彼は馬鹿正直者であるから、彼には話され＜聞かされ＞ない)。

˞マンククル [˞maŋkukuru] 【名】美しい心。優しい心。˞絹、繭のような心」の義。「マン」は、˞マン [˞maŋ](繭。絹) の意。˞イツククル　˞マンククル　ム˞トーリ˞ル　プ˞ス˞　ヤ˞ローッ˞タ [˞ʔitsukuku̥ru ˞maŋku̥kuru mu˞to:ri˞ru pu̥˞su˞ ja˞ro:t˞ta](絹のような美しい心を持っておられる方＜人＞でいらっしゃった)。

˞マングル [˞maŋguru] 【名】あたり。付近。近辺。頃。～の時代。沖縄本島糸満方言からの借用語。烏賊(イカ)釣り漁のため、糸満から鳩間島に季節労働者として移住する人がいたが、その人たちからの影響であろう。老年層は、˞マーラ [˞ma:ra](～のあたり) という。ウ˞ヌ　マングル˞ヌ　プ˞スンケー˞ヤ　ムー˞ル˞　ッ˞ソー˞レン [ʔu˞nu maŋguru˞nu pu̥˞suŋke:˞ja mu:˞ru˞ s˞so:˞reŋ](あの頃の方々＜人達＞はみんな知っておられる)。

˞マン˞ケーザーテー [˞maŋ˞ke:ʤa:te:] 【名】屋号。仲本満慶氏宅。「満慶兄の家」の義。シ˞マフ˞ケーヌ　˞アー˞ネー　ク˞メーヌ　マイ˞ネール　˞マン˞ケーザーテー˞ダー [ʃi˞maɸu̥˞ke:nu ˞ʔa:˞ne: ku˞me:nu mai˞ne:ru ˞maŋ˞ke:ʤa:te:˞da:](島袋家の東隣、小浜家の前隣の家が仲本満家氏の家だよ)。

˞マンサク [˞mansaku] 【名】満作。豊年。ク˞トゥシン　マンサクヌ　ユーバ˞　タ˞ボーラ˞レーン [ku̥˞tuʃim mansakunu ju:ba˞ ta˞bo:ra˞re:ŋ](今年も豊年満作の年＜稔りの世＞を賜った)。

˞マンサン [˞mansaŋ] 【名】生誕一ヶ月目の日。「満産」の義。産婦が産褥で過ごす日が満了したことを意味し、新生児と産婦の健康を祝う。˞キュー˞ヤ (ワ)˞マンサンヌ˞　ヨイ　ア˞タリ　ブーバ　オー˞リ　ッ˞ふォー˞リ [˞kju:˞ja(wa)˞mansannu˞ joi ʔa˞tari bu:ba ʔo:˞ri f˞fo:˞ri](今日は満産の祝い当っていますので、いらっしゃってください)。

˞マン˞ジュ [˞man˞ʤu] 【名】女陰の幼児語。マン˞ジョー˞マ [man˞ʤo:˞ma] ともいう。ズッ˞カー˞マ [ʤuk˞ka:˞ma](男児の性器。幼児語) の対義語。˞アリアリー˞　マン˞ジョーマ˞ヌ　ミ˞ラ˞リン˞ダー　パー˞ク　サ˞ラマ˞タ　キ˞シ [˞ʔuriʔuri:˞ man˞ʤo:ma˞nu mi˞ra˞rin˞da: pa:˞ku sa˞rama˞ta ki̥˞ʃi](ほれほれ、マンジョーマが他人に見られるよ。早くパンツを佩(ハ)き＜着用し＞なさい)。

˞マンシン [˞maŋʃiŋ] 【名】船に満載すること。「満船」の義。˞タイロー　シー　ダイバン˞バ　˞マンシン　シー˞　ケーンティ˞ダー [˞tairo: ʃi: daibam˞ba ˞maŋʃiŋ ʃi:˞ ke:nti˞da:](大漁して、カツオの大判を満載して来ているそうだよ)。

˞マン˞ズイ [˞man˞ʤui] 【名】 (植) パパイアの木。まんじゅか (万寿果)。幹は柔軟で約 3～4 メートルに育つ。葉はヤツデに似て 40～50 センチの大きさになる。葉柄は中空で 60～70 センチになり、子供たちはこれで水鉄砲を作って遊んだ。果実は楕円形で約 20 センチに成長する。内部に小豆大の種子が 20～30 個ほど認められる。未熟果は濃緑色であるが、完熟すると赤黄色になり、芳香を放つ。未熟菓の皮を剥くと白い乳液状の汁が出る。この未熟菓を˞マン˞ガナ [˞maŋ˞gana](下ろし金) で下ろして、魚肉や豚肉と煮たり、炒ったりして食した。また、シ˞チ˞ビシチビー [ʃi̥˞tʃi˞biʃitʃibi](節日。祭日) のイ˞ラキ˞ムヌ [ʔi˞raki˞munu](炒り物。炒め物料理) にも必須の食材であった。各家には 2～3 本のパパイアが植えられていた。幼児語の˞マン˞ジュー [˞man˞ʤu:](女性の性器) は˞マン˞ズイ (パパイア) からの派生語という『八重山語彙』。パパイアの幹の根に近い方の髄部は食用になる。灰汁抜きをして魚や豚肉と煮しめると美味である。˞マン˞ズイ　˞トー˞シティ　˞ムトゥ　キ˞ジティ˞　シ˞ミ˞ムヌ　バ˞カシ [˞man˞ʤui ˞to:˞ʃi̥ti ˞mutu ki˞ʤiti˞ ʃi˞mi˞munu ba˞kaʃi](万寿果＜パパイヤ＞の木を切り倒して根元を削って煮しめ物に炊きなさい)。

˞マンズク [˞manʤuku] 【名】満足。満ち足りること。標準語からの借用語の転訛したもの。普通は、キ˞ム˞　フグン [ki˞mu˞ ɸuguŋ](満足する。＜肝祝(キモホ)ぐ＞) という。˞ウビ　ッ˞ふー˞カー　ノー˞シン　マンズク　スン˞ヨー [˞ʔubi f˞fu:˞ka: no:˞ʃim manʤuku suŋ˞jo:](これだけ食べたら、きっと満足するだろう

よ)。

˥マンタ [˥manta]【名】前方。前の方。˥シンタ [˥ʃinta](後ろ。後方) の対義語。丁寧に言う場合は、˥マインタ [˥mainta](前方) となる。˥マンタナー　ビ˩ロー˥リバ [˥mantana: bi˩ro:˥riba](前方にお座り下さい < おはれ > よ)。˩マー˥ビン　˥マンター　˩オー˥リ˩ツォー [˩ma:˥bim ˥manta: ˩ʔo:˥ri˩tso:](もっと前へいらっしゃいよ)。˥マンタヌ　プ˩ソー　ヌー˥　シー　˩ベー˥ワ [˥mantanu pu̥˩so: nu:˥ ʃi: ˩be:˥wa](前の人は何をしているか)。˥マンターラ　˩サーリ˥　パリ [˥manta:ra ˩sa:ri˥ pari](前方から連れて行け)。

˥マンダイ [˥mandai]【名】万代。˥シンダイ　˥マンダイヌ　ユ˩ガフユー˥　ニガイ　ッ˩サリル˥ユー [˥ʃindai ˥mandainu ju˩gaɸuju:˥ nigai s˩sariru˥ju:](千代、万代続く豊年満作の御世をお祈り申しあげます)。

˥マンタヌ　˩ヨーカ˥ミー [˥mantanu ˩jo:ka˥mi:]【連】前方の排水用の穴。「前の湯淦目 < 孔 >」の転訛したもの。ふなゆを排水する穴。パ˩ラータティ˥ミー [pa˩ra:tati˥mi:](帆柱を立てる穴) の直前にある。船底に溜まった水を、˥アカ [˥ʔaka](ふなゆ。淦(アカ)) という。˥イダフニ [˥ʔidaɸuni] の項参照。

˥マンタヤー [˥mantaja:]【名】前隣。「前の家」の義。˩マイ˥ネー [˩mai˥ne:](前の家。前隣) ともいう。˥マンタヤーナ　プ˩スヌ˥　ア˩ツァ˥マリ　˩オー˥ルン [˥mantaja:na pu̥˩sunu˥ ʔa˩tsa˥mari ˩ʔo:˥ruŋ](前の家に人が集まっておられる)。

˩マン˥ダル [˩man˥daru]【固】人名。平民女子の名前。˩マン˥ダラーンマ [˩man˥dara:mma:](マンダルお姉さん)。˩マン˥ダラーンマー　ミサー˩ロールン [˩man˥dara:mma: misa:˩ro:ruŋ](マンダルお姉さんはお元気ですか)。˩マン˥ダル・アンマ [˩man˥daru・amma] の連母音が、[ua] → [ŏ:] → [a:] の音韻変化を起こしたもの。

˩マン˥ツァー [˩man˥tsa:]【名】混合物。混ぜこぜ。ごた混ぜ。若年層は、˩マン˥チャー [mantʃa:](ごた混ぜ) という。ッ˩ス˥イル　ッ˩ふ˥イル　˩マン˥ツァー　˥ナリティ　˩カイヤー　ナー˥ヌ [s˩su˥ʔiru f˩fu˥ʔiru ˩man˥tsa: ˥nariti ˩kaija: na:˥nu](白色と黒色が混ぜこぜになって、美しくない)。

˩マンツァークン˥ツァー [˩mantsa:kun˥tsa:]【名】混ぜこぜ。ごた混ぜ。雑然とごた混ぜになっているさま。混乱したさま。ABCDEBCD 型の重言。若年層は˩マンチャークン˥チャー [˩mantʃa:kun˥tʃa:](ごた混ぜ) ともいう。˥ヌーンクイン　˩マンツァークン˥ツァー　˥ナリティ　˩ユー˥ゾー　˩ナー˥ヌ [˥nu:ŋkuim ˩mantsa:kun˥tsa: ˥nariti ˩ju:˥ʤo: ˩na:˥nu](何もかもごた混ぜになって、役に立たない < 養生できない。対応できない >)。

˩マンツァー˥スン [˩mantsa:˥suŋ]【他動】混ぜこぜにする。雑多なものを無原則に掻き混ぜる。沖縄本島方言からの借用語か。マ˩ザー˥スン [ma˩ʤa:˥suŋ](混ぜる) よりも「意図的で強引」の悪い語感を持ち、語構成上からも「混ぜ散らかす」の悪いニュアンスを伴う。˥ヌーンクイン　˩マンツァー˥スンティ　˩ベー˥バ　˩マンツァーサン˥ドーシ　マ˩ザー˥ス˥ムヌ　キ˩ミリ [˥nu:ŋkuim ˩mantsa:˥sunti ˩be:˥ba ˩mantsa:san˥do:ʃi ma˩ʤa:˥su ˥munu ki˩miri](何もかも掻き混ぜようとしているから、掻き混ぜないで、混ぜるものを決めなさい)。˩マンツァー˥シ　˥ミサカー　マ˩ンツァー˥ス　˥クトー　˥ナルン [˩mantsa:˥ʃi ˥misaka: ˩mantsa:˥su ˥ku̥to: ˥naruŋ](掻き混ぜてよければ、掻き混ぜることは出来る)。˩マンツァー˥シェー　˥ミサムヌ [˩mantsa:˥ʃe: misamunu](掻き混ぜればいいのに)。˩マンツァー˥シ [˩mantsa:˥ʃi](掻き混ぜろ)。

˩マンツァー˥ルン [˩mants:ruŋ]【自動】1混ざる。「〜新草麻自利〜。万、3452」の転訛したものか。マ˩ザー˥ルン [ma˩ʤa:˥ruŋ](混じる) ともいう。ク˩ヌ˥　イロー　ミ˩ジ˥ナ　トゥ˩カ˥スカー　フ˩カ˥ヌ　イ˩ル˥トゥ　˩マンツァー˥ルン [ku˩nu˥ ʔiro: mi˩ʤi˥ na tu̥˩ka˥su̥ka: ɸu̥˩ka˥nu ʔi˩ru˥tu ˩mantsa:˥ruŋ](この色は水に溶かすと他の色と混ざる < まぜこぜになる >)。2交際する。進んで交じり合う。ウ˩レー˥プ˩ストゥ　マンツァー˥ルンティン　サ˩ヌ [ʔu˩re:˥ pu̥˩sutu man˥tsa:˥runtin sa˩nu](彼は自ら進んで人と交際しよう < 交わろう > ともしない)。

˩マン˥　トン [˩man˥ toŋ]【連】どこ。「何処の所」の義。˩マーン˥　トン [˩ma:n˥ toŋ] ともいう。˩マー˥ヌ　˥トン [˩ma:˥nu ˥toŋ](何処 < いづれ > の所) の縮まった形。多くの場合、若年層が急いだり、ぞんざいに発音する際に現れる。ウ˩レー　マン˥トンナー　ア˩ル˥ワ [ʔu˩re: man˥tonna: ʔa˩ru˥wa](それは何処にあるか)。

˩マンナカ [˩mannaka]【名】真ん中。中央。ウ˩ブヤー˥ヌ　˩マンナカ˥ナー　˥アル　パ˩ラー˥ル　ナ˩カ˥バラー [ʔu˩buja:˥nu ˩mannaka˥na: ˥ʔaru pa˩ra:˥ru na˩ka˥bara:](母屋の真ん中にある柱が大黒柱 < 中柱 > だ)。

˥マンニン [˥manniŋ]【名】万人。˥シンニン　˥マンニ

ンヌ　ナ˩カー˥ラ　イ˩ラバ˥レール　プ˩ス [˥ʃinnim ˥manninnu na˩ka:˥ra ʔi˩raba˥re:ru pu̥˩su](千人万人の中から選ばれた人)。

˥マンニン [˥manniŋ] 【名】万年。˥シンニン　˥マンニンヌ　˥マイラ　ウ˩キ˥ナーナー　プ˩ソー˥　ブ˩リブタ˥ティ　˩スー　スーク˥ヌ　˥ンジェーンツォー [˥ʃinnim ˥manninnu ˥maira ʔu˩ki˥na:na: pu̥˩so:˥ bu˩ributa˥ti ˩su: su:ku˥nu ˥ʔnʤe:ntso:](千年万年の前から沖縄島には人がいた＜居り居った＞という証拠が出たそうだ)。

˩マンブリ [˩mamburi] 【名】すっかり惚れこむこと。くびったけ (首っ丈) であること。異性に夢中であること。「万惚れ」の義という『石垣方言辞典』。ウ˩ヌ˥　ミ˩ドゥ˥ムナー　˥マンブレー　˩シー　ユー˥ロー　˩ヤー˥ナー　カ˩カラ˥ヌ [ʔu˩nu˥ mi˩du˥muna: ˥mambure: ˩ʃi: ju:˥ro: ˩ja:˥na: kḁ˩kara˥nu](あの女に首っ丈で、夜は実家にいない)。

˩マンマ [˩mamma] 【名】そのまま (儘)。もとと同じ状態であること。成り行きに任せること。連体修飾語を受けて、形式名詞的に用いられる。˥シマーム˩カシ˥トゥ　˩カウラヌ˥　ウ˩ヌ　マン˥マ　ヌ˩カ˥リ　˩ベー [˥ʃima: mu˩kaʃi˥tu ˩kauranu˥ ʔu˩nu mam˥ma nu˩ka˥ri ˩be:](島は昔と変わらない。そのまんま残っている)。ウ˩ヌ　マン˥マ　シ˩ティシキ˥リ [ʔu˩nu mam˥ma ʃi̥˩tiʃi̥ki˥ri](そのまんま放っておけ)。

˩マン˥マ [˩mam˥ma] 【名】まんま。ご飯 (幼児語)。ゾー˩ゾー　マン˥マ　ッ˩ふァイ [ʤo:˩ʤo: mam˥ma f˩fai](さあさあ、ご飯をお食べ)。

˩マンマルー [˩mammaru:] 【名】真ん丸。正円。˩ズングヤー˥ヌ　˥シケー　˩マンマル˥シ　˩アーリ　オー˥ルン [˩ʤuŋguja:˥nu ˥ʃi̥ke: ˩mammaru:˥ʃi ˩ʔa:ri ʔo: ˥ruŋ](十五夜のお月様は真ん丸になって昇っ＜上がっ＞てこられる)。

˥マンムシ [˥mammuʃi] 【名】(動) 蚕。「繭虫」の転訛か。˥マン [˥maŋ](繭) は、「筑波嶺の尓比具波麻欲能＜ニヒグハマヨノ＞〜。万、3350」の「麻欲」の転訛したもの。若年層は˩カイ˥ク [˩kai˥ku](蚕)、「蚕、カイコ」『類聚名義抄』という。ム˩カ˥シプソー　˩カイク˥バ　˥マンムシティ　ア˩ゾーッタ˥ル [mu˩ka ˥ʃipu̥so: ˩kaiku˥ba ˥mammuʃiti ʔa˩ʤo:tta˥ru](昔の人は蚕を、マンムシと言われたものだ)。

˥マンムシヌ　˩コー˥マ [˥mammuʃinu ˩ko:˥ma] 【連】繭。「蚕の卵」の義 (老年層)。˩コー˥マ [˩ko:˥ma](卵) は、「鶯の生卵乃＜カヒゴノ＞中に〜。万、1755」、「卵、加比古＜かひご＞」『和名抄』、「卵、鳥殻、カヒゴ」『類聚名義抄』の「加比」が、[kaɸigo] → [kawigo] → [ko:・ma]＜美称の接尾語＞と転訛したもの。˥マンムシヌ　˩コー˥マーラル　˥イツキンマー　ス˩ク˥ローッタ [˥mammuʃinu ˩ko:˥ma:raru ˥ʔitsukimma: su̥˩ku˥ro:tta](繭＜蚕の卵＞から＜ぞ＞絹糸の着物は作られた)。普通は、˩カイコ˥ヌ　˩コー˥マ [˩kaiko˥nu ˩ko:˥ma] という。

˩マンリ˥キ [˩manri˥ki] 【名】万力。ねじの作用で重い物を上げ下ろししたり、締め付けたりして固定するのに用いる工具。標準語からの借用語。家の柱を交換する際やカツオ漁船を持ち上げたりする際に使用していた。ク˩レー　マンリ˥キシ　ア˩ラン˥カー　ム˩タイララ˥ヌ [ku˩re: manri˥kiʃi ʔa˩raŋ˥ka: mu˩tairara˥nu](これは万力でないと持ち上げられないよ)。

ミ

˥ミー [˥mi:] 【名】1目。˥ミー　ピ˩カ˥ルン [˥mi: pi̥˩ka˥ruŋ](<a>。目を光らせる＜叱る＞。<b>。癲癇の発作を起こす)。˩ミー˥ヌ　˩ガン˥バレー　˩シー˥　ミサン　˩ティー˥ヌ　˩ガン˥バレー　˩シェー˥　ナ˩ラ˥ヌ [˩mi:˥nu ˩gam˥bare: ˩ʃi:˥ misan ˩ti:˥nu ˩gam˥bare: ˩ʃe:˥ na˩ra˥nu](目で見るだけの悪戯はしてもよいが、実際に手で悪戯することは決してやってはならない)。2穴。パ˩ル˥ヌ　˥ミー　ヌ˩キ [pa˩ru˥nu ˥mi: nu ˩ki](針の穴に糸を通せ＜抜け＞)。3間。プ˩スヌ˥　ミーラ　フ˩キ　パッ˥タ [pu̥˩sunu˥ mi:ra ɸu̥˩ki pat˥ta](群集＜人＞の間をふけて＜逃げて＞いった)。4〜の中。˩ヤー˥ヌ　˥ミーナ　ク˩マ˥リティ　˥フカー　ン˩ジラ˥ヌ [˩ja:˥nu ˥mi:na ku˩ma˥riti ˥ɸu̥ka: ʔn˩ʤira˥nu](家の中に引きこもって外へ出ない)。ヤ˩マン˥　ミーナ　ク˩マ˥リ　˩ベー [ja˩mam˥ mi:na ku˩ma˥ri ˩be:](山の中に隠れて＜籠もって＞いる)。ユ˩クンツァ˥ミーナール　シ˩ブルン˥　カ˩ブッチン˥　バ˩ラフ˥タシ　˥シケー　シ˩キ˥　ビ˩シティ˥　タ˩ブイ˥　ス˩コーッ˥タ [ju˩kuntsa˥mi:na:ru ʃi˩buruŋ˥ ka˩buttʃim˥ ba˩raɸu̥˥taʃi ˥ʃi̥ke: ʃi̥˩ki˥ bi˩ʃiti˥ ta˩bui˥ s˩ko:t˥ta](床下の中に＜ぞ＞冬瓜も南瓜も稲藁(イナワラ)でゆりわ(ユリワ)<揺輪>を作って敷いてその上に載せ＜据え＞て保存しておかれた)。

˥ミー [˥mi:] 【名】1権利。かた (形)。抵当。割り当て。ウ˩カ˥ヌ　˥ミーティ　˩シール　ウン˥ネナー　イ˩タン˥ダシ　シゥ˩カーリ　ベー [ʔu˩ka˥nu mi:ti ˩ʃi:ru ʔunne˥na: ʔi˩tan˥daʃi si̥˩ka:ri be:](借金の形＜抵当＞として、あの家で只＜無報酬＞で使役されている)。2分け前。取り分。˥バー　トゥ˩リミー˥ヤ　˩ギュー˥サ　ア˩ル˥ワ [˥ba: tu˩rimi:˥ja ˩gju:˥sa ʔa˩ru˥wa](私の取り分はいくらあるか)。

˩ミー [˩mi:] 【名】運命。めい (命)。天命。ウ˩ヌ˥　プ˩ソー˥　ウ˩ヌ　ミードゥ˥　ヤ˩ロー˥レール [ʔu˩nu˥ pu̥˩so:˥ ʔu˩nu mi:du˥ ja˩ro:˥re:ru](その人は、その運命であられたのだろうよ)。˩チョーミー [˩tʃo:mi:](長命) の˩ミー [˩mi:](命) と同じ。

˩ミー [˩mi:] 【名】み (巳)。十二支の第六番目。˩ミーディプス [˩mi:dipu̥su](巳年生まれの人)。˩ミーディマリ [˩mi:dimari](巳年生まれ)。˩ヤーニン˥ズナ　˩ミーディプスヌ˥　スルーカー　イッ˩ケナ˥　カ˩ルイ˥ヌ　アンティ˩ダー [˩ja:nin˥ʤuna: ˩mi:dipu̥sunu˥ suru:ka: ʔik˩kena˥ ka˩rui˥nu ʔanti˩da:](家族に巳年生まれの人が揃うと非常に嘉例＜果報。善事＞があるそうだよ)。

˩ミー [˩mi:] 【名】1肉。汁の中身。実。「身」の転訛したもの。˩スー˥ヤ　イ˩ズヌ　ミー˥　イ˩リ˥バ [˩su:˥ja ʔi˩ʤunu mi:˥ ʔi˩ri˥ba](お汁は、魚の肉を入れなさい)。˥バー　マ˩カ˥ルナ　˩マー˥ビン　˩オー˥ヌ　˩ミーン˥　イ˩リリ˥バ˩ツォー [˥ba: ma˩ka˥runa ˩ma:˥biŋ ˩ʔo:˥nu ˩mi:ŋ˥ ʔi˩riri˥ba˩tso:](私のお碗にもっと豚肉を入れろってば)。2真実。内容。まこと。中身。ウ˩ヌ˥　パ˩ナ˥シェー　˩ミーヤ　ナー˥ヌ [ʔu˩nu˥ pa˩na˥ʃe: ˩mi:ja na:˥nu](その話は真実味＜内容＞はない)。

˥ミー [˥mi:] 【名】いっぱい。満杯。老年層の使用語彙。若年層は、˩ピッ˥チン [˩pit˥tʃiŋ](一杯。満杯) という。ン˩マー˥ムヌ　バ˩タ˥ヌ　˥ミー　ッ˩ふァーシティ˥　パ˩ラ˥ソーッタ [ʔm˩ma:˥munu ba˩ta˥mi: f˩fa:ʃi̥ti˥ pa˩ra˥so:tta](美味しいものを腹一杯食べさせて帰さ＜行かせら＞れた)。

˩ミー [˩mi:] 【名】 (数) 三。三つ。˩ティー [˩ti:](一つ)、˩ター [˩ta:](二つ)、˩ミー [˩mi:](三つ)、˩ユー [˩ju:](四つ)、˩イ˥チ [˩ʔi˥tʃi](五つ)、˩ムー [˩mu:](六つ)、˥ナナ [˥nana](七つ)、˩ヤー [˩ja:](八つ)、˥ククヌ [˥ku̥kunu](九つ)、˩トゥー [˩tu:](十) と数える。˩ミームトゥ [˩mi:mutu](三本)。˩ミーマカル [˩mi:-makaru](三碗)。˩ミーカ [˩mi:ka](三日)。˩ミーティ [˩mi:ti](三年)。˥パシ　˩ミームトゥ˥　ス˩ルイ˥リ [˥pḁʃi ˩mi:mutu˥ su˩rui˥ri](箸を三組揃えなさい＜揃えれ＞)。

˥ミー [˥mi:] 【名】竿秤(サオバカリ)の目盛り。もんめ (匁)。˩イッキンマー　ピャー˥ク　ル˩クジュー˥ミーティ　ナ˩

ラー˥ソーッタ [ˈʔikkimmaː pjaː˥ku ruˈkuʤː˥miːti naˈraː˥soːtta](一斤は百六十匁と教えられた)。ˈマー˥プˈス˥ミー　ˈスイリ [ˈmaː˥ pu̥ˈsu˥miː ˈsuiri](もう一目盛り分余計に入れ＜添え＞なさい)。

ˈミー [ˈmiː] 【名】三。ˈヒー [ˈçiː](一)、ˈフー [ˈɸuː](二)、ˈミー [ˈmiː](三)、ˈユー [ˈjuː](四)、ˈイ˥チ [ˈʔi˥ʧi](五)、ˈム˥ー [ˈmu˥ː](六)、˥ナナ [˥nana](七)、ˈヤー [ˈjaː](八)、˥ククヌ [˥ku̥kunu](九)、ˈトゥー [ˈtuː](十)。

ˈミー [ˈmiː] 【接頭】動植物や、瓦の「牝(メス)」を意味する。ビˈキ [biˈki](雄) の対義語。ˈミー˥ウシ [ˈmiː˥ʔuʃi](牝牛)。ˈミーン˥マ [ˈmiːʔm˥ma](雌馬)。ˈミー˥オー [ˈmiː˥ʔoː](牝豚)。ˈミー˥マヤ [ˈmiː˥maja](雌猫)。ˈミー˥ドゥル [ˈmiː˥duru](雌鳥)。ˈミーガー˥ラ [ˈmiːgaː˥ra](雌瓦。屋根に二枚ずつ敷き並べる瓦。その継ぎ目に雄瓦で被せて屋根を葺く)。

˥ミー [˥miː] 【接尾】～め (目)。その順番を表す。イˈチバンミー˥ヌ　プˈス˥　ヤˈラビ [ʔiˈʧibammiː˥nu pu̥ˈsu˥ jaˈrabi](一番目の人を呼べ)。マˈリティ　トゥッカミー˥ナ　ˈナー˥　スˈク˥タン [maˈriti tukkamiː˥na ˈnaː˥ su̥ˈku˥taŋ](生まれて十日目に名前をつけた)。ˈワー　バン˥マー　ˈナンバン˥ミーヤー [ˈwaː bam˥maː ˈnambam˥miːjaː](君の順番は何番目か)。

ˈミー [ˈmiː] 【接頭】新しい。初めての。「ニヒ (新)、若草の新手枕乎＜ニヒタマクラを＞～。万、2542」の転訛したもの。ˈミームヌ [ˈmiːmunu](新しいもの。新品)。ˈミーマイ˥　ッサイティ　バˈカシ˥バ [ˈmiːmai˥ ssaiti baˈkaʃi˥ba](新米を精げて＜搗いて＞炊きなさいよ)。ˈミーユミ　サー˥リケーン [ˈmiːjumi saːri˥ keːŋ](新しい嫁＜新嫁＞を迎えた＜連れてきた＞)。

ˈ-ミー [ˈ-miː] 【終助】～みよ。～ごらん。「～見よ」の転訛か。動詞の連用形に下接して、軽い命令の意を表す。˥マー　ンˈベーマ˥　トゥˈクットゥ˥シ　パˈナ˥シˈミー [˥maː ʔmˈbeːma˥ tu̥ˈkuttu˥ʃi paˈna˥ʃiˈmiː](もう少し落ち着いて話してごらん)。ˈマー˥ビン　クˈマー　ユージ˥　キーˈミー˥　アˈス˥カー　ミˈラ˥リンヨー [ˈmaː˥biŋ kuˈmaː juːʤi˥ kiːˈmiː˥ ʔaˈsu˥kaː miˈra˥riɲjoː](もう少しここへ近寄ってきてごらん、そうしたら見られるよ)。

˥ミー [˥-miː] 【終助】～だね。間違いなく～だね。確かな情報をもとに、聞き手に同意を求めて尋ねる。念押し。1体言に付く。話し手 A の断定の陳述に対し、聞き手 B が A に対し、確認、同意を求める (念押し)。ウˈヌ˥　パˈナ˥シェー　ˈフン˥トーミー [ʔuˈnu˥ paˈna˥ʃeː ˈɸun˥toːmiː](その話は本当だね)。ウˈヌ˥　パˈナ˥シェー　ユˈク˥シミー [ʔuˈnu˥ paˈna˥ʃeː juˈku˥ ʃimiː](その話は嘘だろう＜嘘だね＞)。さらに終助詞˗ツォー [ˈ-tsoː](～ね、間違いないね＜念押し、再確認＞) が付く。ウˈヌ˥　パˈナ˥シェー　ˈフン˥トーミーˈツォー [ʔuˈnu˥ paˈna˥ʃeː ˈɸun˥toːmiːˈtsoː](その話は間違いなく本当だよねえ＜念押し、再確認＞)。2用言の終止形に付く。話し手 A の断定陳述内容に対し、聞き手 B が A の陳述内容に同意することを A に確認し、同意することを求める。通時的には用言の終止形語尾の˥-ン [˥-ŋ] に、強意の間投助詞の「い」「～木乃関守伊＜紀の関守い＞とどめてむかも。万、545」が付いて融合変化し、転訛したものか。ˈワンヌン　バン˥トゥ　ˈマーズン˥　パルンミー [ˈwannum ban˥tu ˈmaːʤum˥ parummiː](君も私と一緒に行くよねえ)。ウˈレー　カイ˥ヤンミー [ʔuˈreː kai˥jammiː](それは美しいだろう?＜間違いなく美しいだろう?＞)。ティˈガ˥メー　カˈク˥タンミー [tiˈga˥meː kḁˈku˥tammiː](手紙は書いたでしょうね?＜間違いなく書いたね＞)。

˥ミー　アˈクン [˥miː ʔaˈkuŋ] 【連】穴をあける。クˈヌ˥　イツァナー　ˈイー˥ルシ　グˈマーグマーヌ˥　ミー　アˈキ˥　ッˈふィーリ [kuˈnu˥ ʔitsanaː ˈʔiː˥ruʃi guˈmaːguma:nu˥ miː ʔaˈki˥ fˈfiːri](この板に錐で小さな穴をあけてくれ)。

ˈミー˥アティ [ˈmiː˥ʔati] 【名】1目当て。目標。目印。ˈユー˥ル　パˈラ˥ス　˥フネー　ˈニーヌ˥パープシトゥ　ˈトーダイ˥ル　ˈミー˥ヤティ [ˈjuː˥ru paˈra˥su˥ ɸuneː ˈniːnu˥paːpu̥ʃitu ˈtoːdai˥ru ˈmiː˥jati](夜航海する＜走らせる＞船は北斗七星＜子の方の星＞と灯台が目印である)。2頼り。トゥˈシ˥　トルカーッˈふァル　ミー˥アティ [tu̥ˈʃi˥ turukaː fˈfaru miː˥jati](年を取ったら子供が頼り＜目当て＞だ)。

ˈミー˥ウイ [ˈmiː˥ʔui] 【名】目上。年齢や地位が自分より上の人。ˈミーウイ˥ヤー　ˈチャー˥　アˈガ˥メーティ　ˈアー˥キ [ˈmiːʔui˥jaː ˈʧaː˥ ʔaˈga˥meːti ˈʔaː˥ki](目上の人に対しては、常に敬意をもって＜崇めて＞接しなさい)。

ˈミーウキカー˥ウキ　ˈスン [ˈmiːʔukikaː˥ʔuki ˈsuŋ] 【連】落ち着かず目をきょろきょろさせる。ˈミーウキカー˥ウキ　ˈシー　ヌー˥バ　トゥˈミ˥ルンティ　ˈベー˥ワ [ˈmiːʔukikaː˥ʔuki ˈʃiː nuː˥ba tuˈmi˥runti ˈbeː˥wa](目をきょろきょろさせて、何を探そうとしているのか)。

˥ミー　ウˈクン [˥miː ʔuˈkuŋ] 【連】平常心を失う。落ち着かず目がきょろきょろする。慌てふためく。

˩目が浮く」の義。ッ˩ふァヌ˥　ニ˩チ˥バ　ン˩ザ˥シティ　ブ˩チ˥クン　シ˩ター˥　ウ˩ダラ˥キ　˩ミー˥ヤ　ウ˩キティ˥　イ˩サン˥ヤー　パリ˩パッ˥タ [fˈfanu˥ niˈtʃiˈba ʔnˈʤaˈʃi̥ti buˈtʃiˈkuŋ ʃi̥ˈtaː˥ ʔuˈdaraˈki ˈmiː˥ja ʔuˈkiti˥ ʔiˈsaɲˈjaː pariˈpatˈta](子供が発熱して人事不省に陥った＜気絶した＞ので、驚いて平常心を失い、慌てふためいて病院＜医者の家＞へ走っていった)。

˩ミー˥ウシ [ˈmiːˈʔuʃi] 【名】牝牛。ビ˩キウシ [biˈkiʔuʃi](雄牛) の対義語。˥インダヌ　マ˩キ˥ナー　˩ミー˥ウシェー　˩ギュッカラ　ブーワ [˥ʔindanu maˈki˥naː ˩miːˈʔuʃeː ˩gjukkara buːwa](伊武田の牧＜牧場＞には牝牛が何頭＜幾匹＞いるか)。

˥ミー　ウ˩スーン [˥miː ʔuˈsuːŋ] 【連】ごまかす。だます。「目を覆う」の義。ウ˩ヤ˥ヌ　˩ミー˥バ　ウ˩スイ˥　ミ˩ドゥム˥トゥ　ア˩サビマール　シー　アー˥ク [ʔuˈja˥nu ˩miː˥ba ʔuˈsui˥ miˈdumu˥tu ʔaˈsabi-maːru ʃiː ʔaː˥ku](親の目をごまかして、女と遊びまわっている)。

˩ミーウタ˥スン [ˈmiːʔuta˥suŋ] 【他動】見落とす。ミ˩リパンツァ˥スンとも言う。ア˩バトゥ˥カー　˩ミーウタ˥スンダー　˩ミーウタサン˥ヨーニ　ヨー˩ンナー˥　ユミバ˩ヨー [ʔaˈbatu˥kaː ˩miːʔuta˥sunda ˩miːʔu-tasaɲ˥joːni joː˩nnaː˥ jumiba˩joː](急ぐと見落とすので、見落とさないようにゆっくり読めよ)。ア˩バトゥター　ミーウタ˥シ　˩ナー˥ヌ [ʔaˈbatutaː miːʔuta˥ʃi ˩naː˥nu](急いだので見落としてしまった)。˩ミーウタ˥ス　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [ˈmiːʔuta˥su pu̥ˈsoː˥ buˈraːnu](見落とす人はいない)。˩ピー˥チブカラー　˩ミーウタ˥シェー　˥ミサムヌ [ˈpiː˥tʃibukaraː ˩miːʔuta˥ʃeː ˥misamunu](一つぐらいは見落とせばいいのに)。˩ミーウタ˥シ [ˈmiːʔuta˥ʃi](見落とせ)。

˩ミー˥ウチ [ˈmiːˈʔutʃi] 【名】身内。縁者。親類。標準語からの借用語。˩ミーウチ˥ヌ　プ˩スン˥ケーラ　シ˩ダキ　ソッ˥コー　˩ソー˥リバ [ˈmiːʔutʃi˥nu pu̥ˈsuŋ˥keːra ʃiˈdaki sok˥koː ˩soː˥riba](身内の方々から、先に焼香をなさってください＜し・おはれ＞)。

˩ミー˥ウティ [ˈmiːˈʔuti] 【名】死去すること。落命すること。「命落ち」の義。多くの場合、目上の人が死去する際に用いる。ス˩ナカ˥ナーティ　˩ミー˥ウティ　˩ソー˥レー　プ˩スヌ　ジーヌゲー　スー˥ワンティ˩ダー [suˈnaka˥naːti ˩miːˈʔuti ˩soː˥reː pu̥ˈsunu ʤiːnuge: suː˥wantiˈdaː](海で死去＜落命＞された人の霊魂を成仏させる祈願は難しいそうだ)。

˩ミー˥ウブイ [ˈmiːˈʔubui] 【名】見覚え。ウ˩ヌ˥　プ˩ソー　バン˥ヌン　˩ミーウブイ˥ヤー　˥アン [ʔuˈnu˥ pu̥ˈsoː ban˥num ˩miːʔubi˥jaː ˥ʔaŋ](その人は、私にも見覚えがある)。

˩ミー˥オー [ˈmiːˈʔoː] 【名】雌豚。˩ミー˥オー　シュ˩カ˥ナイティ　サ˩カラシ˥バ [ˈmiː˥ʔoː si̥ˈka˥naiti sḁˈkaraʃi˥ba](雌豚を飼育して繁殖させなさいよ)。

˩ミーカ [ˈmiːka] 【名】三日。˩プール˥ヌ　˩ミーカ˥　ソンガチヌ　˩ミーカー　ヨイ˥ル　˩ソーッタ˥ル [ˈpuːru˥nu ˩miːkaː˥ soŋgatʃinu ˩miːkaː joiˈru ˩soːtta˥ru](豊年祭の三日、正月の三日はお祝いを＜ぞ＞なさったものだ)。˥プスイ　˩ミーカ˥シェー　ク˩ヌ˥　シ˩グトー˥　ナ˩ラ˥ヌ [˥pu̥sui ˩miːka˥ʃeː kuˈnu˥ ʃiˈguto:˥ naˈra˥nu](一日や三日では、この仕事は出来ない)。

˩ミーガー˥ガー [ˈmiːgaː˥gaː] 【名】穴が多数あいていること。隙間だらけになること。障子や板戸、桶の底、船底などに穴が多数あいていること。˩ウーキ˥ヌ　ス˩コー　ミーガー˥ガー　˥ナリティ　ミ˩ジェー　ザー˥カ　ム˩リ˥ス [˩ʔuːki˥nu su̥ˈkoː miːgaː˥gaː˥ nariti miˈʤeː ʤaː˥ka muˈriˈsu](桶の底は穴が多数あいていて、水はジャージャー漏れる)。

˩ミーカー˥スン [ˈmiːkaː˥suŋ] 【他動】面会する。お目にかかる。「目交わす」の転訛か。ウ˩ヌプストゥ　ミーカー˥スンティ　˩クータン˥ドゥ　˩ミーカーサラ˥ヌ [ʔuˈnu˥ pu̥ˈsutu miːkaː˥sunti ˩kuːtan˥du ˩miːkaːsara˥nu](その人に面会しに来たが面会できない)。˥バー　˩ミーカー˥シ　ミサカー　˩ミーカー˥ス　˥クトー　˥ナルン [˥baː ˩miːkaː˥ʃi ˥misakaː ˩miːkaː˥su ˥ku̥toː ˥naruŋ](私が面会してよければ面会することは出来る)。˥シンニン　˥ケーンダ　˩ミーカー˥シェー　˥ミサムヌ [˥ʃinniŋ ˥keːnda ˩miːkaː˥ʃeː ˥misamunu](せっかく＜わざわざ＞来たのだから面会すればいいのに)。ヤー˩ディン　ミーカー˥シ [jaː˩dim miːkaː˥ʃi](必ず面会しなさい)。

˩ミーガー˥ラ [ˈmiːgaː˥ra] 【名】めがわら (雌瓦)。平瓦。粘土を一定の形＜ゆるく湾曲した台形＞に成形し、焼成した屋根葺き用の瓦。ビ˩キガーラ [biˈkigaːra](牡瓦) の対義語。屋根のユ˩チル [juˈtʃiru](えつり) に粘土を捏ねて乗せ、それにめがわら (雌瓦) を二枚ずつ重ねて並べ、その継ぎ目に粘土を乗せて接着し、更にその上にビ˩キガーラ [biˈkigaːra](牡瓦) を被せ、瓦を連結して屋根を葺きあげていく。最終的には瓦の継ぎ目に漆喰を塗って固定させ、屋根葺きを完成させる。˥ミツァー　ク˩ナシティ˥　ユ˩チル˥ナ　˩ヌーシテイ　ウン˥ナー　˩ミーガ

ー˺ラ　˹ニンマイ˺ナー　カ˹サビ˺　ナ˹ラビティ˺　ウ˹ヌ˺　シ˹ギフチ˺ナー　˺ミツァ　ム˹リティ　ウーガー˺ラ　カ˹バ˺シェーティ　˹カー˺ラヤーヤ　フ˹コーッ˺タ [˺mitsa: ku˹naʃi̥ti˺ ju˹ʧiru˺na ˹nu:ʃi̥ti ʔun˺na: ˹mi:ga:˺ra ˹nimmai˺na: kḁ˹sabi˺ na˹rabiti˺ ʔu˹nu˺ ʃi˹giɸutʃi˺na: ˺mitsa mu˹riti ʔu:ga:˺ra ka˹ba˺ʃi̥ti ˹ka:˺raja:ja ɸu̥˹ko:t˺ta](粘土を捏ねて屋根のえつりに乗せ、それに雌瓦を二枚ずつ重ね並べて、その継ぎ目に粘土を盛って牡瓦を被せながら瓦葺きの家は屋根を葺かれたものだ)。

˹ミーカキ˺ムヌ **[˹mi:kaki˺munu]** 【名】まぶた (瞼) に傷のある人。˺ミーカカー [˺mi:kaka:](瞼に傷のある人) ともいう。ヨー˹ヨー˺　ミ˹ドーン˺ッふァヌ　˺ミーナ　キ˹ジバ˺　シキ　˹ミーカキ˺ムヌ　˺ナシェー　シ˹マン˺ダー [jo:˹jo:˺ mi˹do:n˺ffanu ˺mi:na ki˹ʤiba˺ ʃi̥ki ˹mi:kaki˺munu ˺naʃe: ʃi˹man˺da:](よく気をつけろよ、女の子の目に傷をつけて瞼に傷のある者になしてはならないぞ)。

˹ミー˺カギン **[˹mi:˺kagiŋ]** 【名】目分量。計量器具を用いないで目分量で測ること。目測すること。「目加減」の義。パ˹カラン˺タンティン　˺ミサバ　˹パー˺ク　˹ミー˺カギンシ　シゥ˹カ˺ミ　イ˹リ˺バ [pḁ˹karan˺tantim ˺misaba ˹pa:˺ku ˹mi:˺kagiŋʃi si̥˹ka˺mi ʔi˹ri˺ba](量らなくてもいいから、早く目分量で掴んで入れなさいよ)。

˹ミーカサマ˺サーン **[˹mi:kasama˺sa:ŋ]** 【形】目が異常である。目がかさついて見づらい。目が見づらくて不愉快である。˹ミーカサマサ˺ヌ　シゥカイ˹トゥ˺　ムヌン　ミ˹ララ˺ヌ [˹mi:kasamasa˺nu si̥kai˹tu˺ munum mi˹rara˺nu](目が異常にかさついて、ものもしかとは見えない)。ニ˹チ˺ヌ　˺アル　˺ピンマー　˹ミーカサマ˺サン˹ダー [ni˹ʧi˺nu ˺ʔaru ˺pimma: ˹mi:kasama˺san˹da:](熱がある時は目がかさついて見づらいよ)。˹ミーカサマサ˺ヌ　ナ˹ラン˺バ　イ˹サン˺ヤー　˹ギー˺　ミ˹ラリ˺ル [˹mi:kasamasa˺nu na˹ram˺ba ʔi˹saŋ˺ja: ˹gi:˺ mi˹rari˺ru](目がかさついて見づらいから、病院 < 医者の家 > へ行ってみようと思う)。

˹ミーカシキ **[˹mi:kaʃi̥ki]** 【名】三日月。ミ˹カジキ [mi˹kaʤiki](三日月) ともいう。˹ミーカシキヌ　アーリ　オー˺レーン [˹mi:kaʃi̥kinu ʔa:ri ʔo:˺re:ŋ](三日月が上がってこられた)。ウ˹ヌ˺　ミ˹ドーン˺ッふァヌ　マ˹ヨー　ミーカシキヌ˺　マ˹ユ˺　ピ˹キ　ブンダ˺　イッ˹ケナ˺　ア˹バ˺レーン [ʔu˹nu˺ mi˹do:ŋ˺ffanu ma˹jo: mi:kaʃi̥kinu˺ ma˹ju˺ pi̥˹ki bunda˺ ʔik˹kena˺ ʔa˹ba˺re:ŋ](あの女の子の眉は、三日月の形だ < 三日月の眉を引いている > から非常に美しい。< 女性の美しさはア˹バ˺レーン [ʔa˹ba˺re:ŋ] といい、˹カイ˺ヤン [˹kai˺jaŋ]< 美しい。きれい > とは言わない)。

˹ミーカン˺ガン **[˹mi:kaŋ˺gaŋ]** 【名】水中眼鏡。漁師が海に潜って漁をする際に装着する手製の水中眼鏡。ッ˹スイキー [s˹suiki:](モンパノキ) でゴーグルの型を彫り、ガラスを丸く割って縁取りをし、ゴーグル型に嵌めてつくる。パ˹トゥ˺マナテー　カ˹ザケヌ˺　ウスマイル　˹ミーカン˺ガン　ス˹ク˺レー　˹ゾー˺ジ　ヤ˹ローッ˺タ [pḁ˹tu˺manate: ka˹ʤakenu˺ ʔsumairu ˹mi:kaŋ˺gan su̥˹ku˺re: ˹ʤo:˺ʤi ja˹ro:t˺ta](鳩間島では加治工のウスマイ < 伊佐氏 > が水中眼鏡作りは上手であられた)。

˹ミーガン˺キョー **[˹mi:gaŋ˺kjo:]** 【名】眼鏡。「目眼鏡」の義。˹ミー˺ヤ　˹ムイティ˺　ムノー　ミ˹ラン˺タンティン　˺アッパー　˹ミーガン˺キョー　カ˹カーン˺ドーシ　パ˹ル˺ヌ　˺ミー　ヌキソーッ˺タ [˹mi:˺ja ˹muiti˺ muno: mi˹raran˺tantiŋ ˺ʔappa: ˹mi:gaŋ˺kjo: kḁ˹kan˺do:ʃi pa˹ru˺nu ˺mi: nu˹kiso:t˺ta](老眼になって < 目がもえて > ものがよく見えなくても、お祖母さんは眼鏡をかけないで、針の穴に糸を抜き通されたものだ)。

˹ミー˺キー **[˹mi:˺ki:]** 【名】めぎ (雌木)。雌株。実のなる樹木。「megui. メギ (雌木) 雌の樹木;Vogui(雄木)」『邦訳日葡辞書』。˹ゴーナ˺キナーン　˹マン˺ズイナーン　˺バサナーン　˹ケージ˺ナーン　˹ミー˺キー　ビ˹キキーヤ˺　ア˹リ˺ブー [˹go:na˺ki:na:m ˹man˺ʤuina:m ˺basana:ŋ ˹ke:ʤi˺na:m ˹mi:˺ki: bi˹kik-i:ja˺ ʔa˹ri˺bu:](桑の木にも、パパイアの木にも、芭蕉にも、マルバチシャノキにも雌木と雄木はあるものだ)。

˹ミー˺キスン **[˹mi:˺ki̥suŋ]** 【他動】見切る。見捨てる。見限る。˹ウンザヨー　ミー˺キスンティ　ウ˹ムーン˺ドゥ　ウ˹ヤ˺ヌ　˺クトゥ　˺ウムーカー　˹ミーキサラ˺ヌ [˹ʔunʤajo: mi:˺ki̥sunti ʔu˹mu:n˺du ʔu˹ja˺nu ˺ku̥tu ˺ʔumu:ka: ˹mi:ki̥sara˺nu](あいつを見切ろうと思うが、親のことを思うと見切ら < 見捨てら > れない)。ウ˹リヨー　ミー˺キシ　˹ナー˺ヌ [ʔu˹rijo: mi:ki˺ʃi ˹na:˺nu](彼を見切ってしまった)。˹バン˺マー　˹ミー˺キス　˺クトー　ナ˹ラ˺ヌ [˹bam˺ma: ˹mi:˺ki̥su ˺ku̥to: na˹ra˺nu](私には見切る < 見捨てる > ことは出来ない)。˺アイブ　˺ムノー　˹ミー˺キシェー　˺ミサムヌ [˺ʔaibu ˺muno: ˹mi:˺ki̥ʃe: ˺

misamunu](あんな者は見切れば＜見捨てれば＞いいのに)。˹ミー˺キシバ [˹miː˺kʲʃiba](見切れ＜見捨てろ＞よ)。

ミーグチグゥー [˹miːgutʃi˺gwaː] 【名】(海底地名)。小さな新津口。˹イーリマイズニ [˹ʔiːrimaidʑuni](西前曽根) の西側にある干瀬の小さな津口。˹ウー˺グチ [˹ʔuː˺gutʃi](大津口) の後に使われたので、「小新津口」と命名された。「～グゥー [～gwaː](「小」の指小辞。diminutive)」は沖縄方言であるから、糸満漁師がイカ釣り漁のためにサバニを二隻組み、双胴船仕立てにして鳩間島へ帆走してきて漁労に従事した頃に伝播した方言であろう。

˹ミーグッ˺ふァン [˹miːguf˺faŋ] 【形】非常に眠たい。瞼が重い。˹ミーグッふァ˺ヌ　ニ˹ジララ˺ヌ [˹miːguffa˺nu ni˹ʤirara˺nu](眠たくて我慢できない)。˹ミーグッふァナー˺ヌヌ　˹ミーグッ˺ふァンティ　ア˹ジ　アー˺ク [˹miːguffana˺nunu ˹miːguf˺fanti ʔa˹ʤiʔaː˺ku](眠たくないのに眠たいといっている)。˹ミーグッ˺ふァ　プ˹ソー˺　ニ˹ビ˺バ [˹miːguf˺fa pu̥˹soː˺ ni˹bi˺ba](眠たい人は寝なさい)。

˹ミーグ˺トゥ [˹miːgu˺tu] 【名】みもの (見物)。珍しい見世物。素敵な見物。「みごと (見事。興行)」の義。˹ミーグトゥ˺ヌ　˺アンティ　˹シール˺　ウ˹リ˺　ミリン　˹パッ˺タ [˹miːgutu˺nu ˺ʔanti ˹ʃiːru˺ ʔu˹ri˺mirim ˹pat˺ta](珍しい見世物があるといって、それを見に行ったよ)。

˹ミーグ˺トゥ　シ˹キグトゥ [˹miː˺gutu ʃi̥˹kigutu] 【連】優れた見物催し物。優れたエンターティメント。˹見ごと、聞きごと˺の転訛。˹クンドゥ˺ヌ　シ˹バヤーヌ˺　ブ˹ドゥル　キョンギンマー　ミーグ˺トゥ　シ˹キグトゥティ˺バン˹ナー [˹kundu˺nu ʃi˹bajaːnu˺ bu˹duru kjoŋgimmaː miːgu˺tu ʃi̥˹kigututi˺ban˹naː](今度の芝居の踊り、狂言は見ごたえのある催し物だそうだだね)。

˹ミークラ˺ガン [˹miːkura˺gaŋ] 【名】めまい (眩暈(ゲンウン))。「目くらみ」の義か。「Mecurumecu.　メクルメク (目くるめく) 文章語。Meno m　coto(目のまふこと) 頭がくらくらする病気、または、目がくらむ病気.～」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ドゥ˹ク˺ヌ　˺アツァティ　˹ミークラ˺ガン　˹シース [du˹ku˺nu ˺ʔatsati ˹miːkura˺gaŋ ˹ʃiːsu](あまりにも暑いので、めまい (眩暈) がする＜頭がくらくらする。頭が回って目がくらむ＞)。

˹ミークラ˺ガン　˹スン [˹miːkura˺gan ˹suŋ] 【連】めまい (眩暈) がする。立ち暗みする。˺ヤミティ　˹クンキヌ　ナーン˺　ピンマー　˹ミークラ˺ガン　˹スン [˺jamiti ˹kuŋkinu naːm˺ pimmaː ˹miːkura˺gan ˹suŋ](病気して根気がない時は眩暈(メマイ)がする)。

˹ミーグル˺グル [˹miːguru˺guru] 【副】目をくるくるさせるさま。きょろきょろするさま。きょろきょろ見回すさま。落ち着かないさま。˹ワー˺　ヌンティ　˺アイニ　˹ミーグル˺グル　˹シー　ベー˺ワ [˹waː˺ nunti ˺ʔaini ˹miːguru˺guru ˹ʃiː beː˺wa](君は何故あんなにきょろきょろ＜目をくるくる＞させているのか)。

˹ミーケーラ [˹miːkeːra] 【名】(数) 三回。三度。「三・かへり＜返り＞、ただひとかへり舞ひて入りぬるは～。源氏＜若菜下＞の『かへり』が付いて形成された語」の転訛したものか。プ˹スケー˺ラ　フ˹タケーラー˺　ア˹ラ˺ヌ　˹ミーケーラー　ギー˺　ウ˹ガミトーシ˺ル　˹カイヤー˺ダー [pu̥˹suke:˺ra ɸu̥˹takeːraː˺ ʔa˹ra˺nu ˹miːkeːraː giː˺ ʔu˹gamitoːʃi˺ru ˹kaijaː˺daː](一度や二度ではない、三度も行って拝み倒して＜ぞ＞買ったのだぞ)。

˹ミーケン [˹miːkeŋ] 【名】(数) 三回。回数、度数の頻度を表す。四回以上にはあまり使わない。プ˹ス˺ケン　フ˹タケンマー˺　ア˹ラ˺ヌ　˹ミーケンナー˺　ユ˹ヌ˺　マ˹チガイ˺バ　˹シー˺　ヌーヤ　ウ˹レー [pu̥˹su˺keŋ ɸu̥˹takemmaː˺ ʔa˹ra˺nu ˹miːkennaː˺ ju˹nu˺ ma˹tʃigai˺ba ˹ʃiː˺ nuːja ʔu˹reː](一度や二度ではない、三度も同じ間違いをして、何だねこれは)。

˹ミーコー˺ガー [˹miːkoː˺gaː] 【名】病気で痩せこけ眼球がへこんださま。˹ミーコー˺ガー　˺ナルンケン　˹ヨーガリベー [˹miː˺koːgaː ˺naruŋkeŋ ˹joːgari beː](眼球がへこむほどに痩せている)。

˹ミーコー˺ヤー [˹miːkoː˺jaː] 【名】おめざ。「お目覚め」の義。子供が朝起きたときに与える菓子類やご飯。「目強飯」の義か。主として昨晩の米飯の残りを与えた。親達は朝ご飯の前に、お茶と˹サー˺フキ [˹saː˺ɸu̥ki](茶請け) に、˹マイヌミー˺ス [˹mainumiː˺su](米味噌) や˹アンダミー˺ス [˹ʔandamiː˺su](米味噌に豚の脂肉を混ぜて炒めた味噌) を食して、早朝に畑へ出た。コー˹ネー˺　ア˹バティ˺　ウキティ　˹ミーコー˺ヤー　ッ˹ふァイ [koː˹neː˺ ʔa˹bati˺ ʔukiti ˹miːkoː˺jaː f˹fai](坊や、早く起きてお目ざを食べなさい)。

˹ミー　コー˺ルン [˹miː koː˺ruŋ] 【連】目が冴えて眠れない。「目・強はり」の義。˹コー˺ルン [˹koː˺ruŋ] は、˹Couari,ru,atta. コワリ、ル、ッタ (強り、る、った) 物が固くなる、または強直する˺『邦訳日葡辞書』

の転訛したもの。˞ユネンラ　カ˞タサーバ˞　ヌミティ　˞ミー　コー˞リ　ユ˞ビ˞ヌサートゥ　プ˞ス˞ミーンツァ　ンニ˞バランシェン [˞junenra kạ˞tasa:ba˞ numiti ˞mi: ko:˞ri ju˞bi˞nusa:tu pụ˞su˞mi:ntsan ni˞baraŋʃeŋ](夕方から濃い茶を飲んで、目が冴えて、昨夜は一晩中一睡もできなかった＜眠れなかった＞)。

˞ミー　サー˞ルン **[˞mi: sa:˞ruŋ]** 【連】早死にする。短命になる。˞アイニ　サ˞キバ˞　ヌメーティル　˞オーパ˞ヤー　˞ミー　サー˞レール [˞ʔaini sạ˞kiba˞ nume:tiru ˞ʔo:pa˞ja: ˞mi: sa:˞re:ru](あんなにたくさん酒を飲んだので、こんなに早く死んだ＜早死にした 身に障った＞のだよ)。

˞ミー˞サ　˞カバッサ **[˞mi:˞sa ˞kabassa]** 【連】新しいものが香ばしくてよい。「新しさ・香ばしさ」の転訛したもの。˞ミー˞サ　˞カバッサティ　˞シー˞　アボー　˞サーソー˞レール　ア˞ラキンバ˞　キ˞シティ˞　サ˞ニヤ　シー　ベーン˞ティ [˞mi:˞sa ˞kabassati ˞ʃi:˞ ʔabo: ˞sa:so:˞re:ru ʔa˞rakimba˞ kị˞ʃiti˞ sa˞nija ʃi: be:n˞ti](新しいものは香ばしくて立派だといって、お母さんが新調された着物を着て喜んでいるさ。ほら、見てごらん)。

˞ミー˞ザマーザ **[˞mi:˞ʤama:ʤa]** 【名】味の旨いことや不味いこと。「旨さ・不味さ＜不味さ・旨さ＞」の義。˞ヤーサ˞バター　˞ミー˞ザマーザー　ッ˞サヌ˞　ッ˞ふァーリサーギ　スー˞カー　ノー˞ン˞　ン˞マー˞ル　˞アル [˞ja:sa˞bata: ˞mi:˞ʤama:ʤa: s˞sanu˞ f˞fa:risa:gi su:˞ka: no:˞m˞ ʔm˞ma:˞ru ˞ʔaru](空腹は、ものの味の旨さ不味さは分からない。食べられさえすれば何でも美味しい)。

˞ミーサマ˞スン **[˞mi:sama˞suŋ]** 【他動】目覚ます。起こす。目を覚ます。シ˞トゥム˞ティ　˞パイ˞サ　˞ミーサマ˞スンカヤーティ　ウ˞ムータ˞ヌ　マ˞ダ　ミーサマサン˞バン [ʃị˞tumu˞ti ˞pai˞sa ˞mi:sama˞suŋkaja:ti ʔu˞mu:ta˞nu ma˞da mi:samasam˞baŋ](朝早く目を覚ますかと思ったが、まだ目を覚まさないよ)。キサー˞ティ　ミーサマ˞シ　˞ナー˞ヌ [kị̣sa:˞ti mi:sama˞ʃi ˞na:˞nu](既に目を覚ましてしまった)。˞ミーサマ˞ス　˞バス [˞mi:sama˞su ˞basu](目を覚ますとき)。˞ミーサマ˞シェー　˞ミサムヌ [˞mi:sama˞ʃe: ˞misamunu](目を覚ませば良いのに)。˞パー˞ク　˞ミーサマ˞シ [˞pa:˞ku ˞mi:sama˞ʃi](早く目を覚ませよ)。

˞ミーサミ˞ルン **[˞mi:sami˞ruŋ]** 【自動】1目覚める。˞パイ˞サ　ニ˞ブ˞カー　˞パイ˞サ　˞ミーサミ˞ルン [˞pai˞sa ni˞bu˞ka: ˞pai˞sa ˞mi:sami˞ruŋ](早く寝たら早くめざめる)。ウ˞コーサ˞バン　˞ミーサミラ˞ヌ [ʔu˞ko:sa˞bam ˞mi:samira˞nu](起こしても目覚めない)。ユ˞ナカー˞ラ　˞ミー˞サミティ　ニ˞バランシェン [ju˞naka:˞ra ˞mi:˞samiti ni˞baraŋʃeŋ](夜中から目が覚めて眠れなかった)。2心の迷いが去る。悪事に気付く。˞スッパイ　˞スー˞カー　˞ミーサミ˞ルンパジ [˞suppai ˞su:˞ka: ˞mi:sami˞rumpaʤi](失敗したら悪いことに気付くはずだ)。

˞ミー˞ザムニ **[˞mi:˞ʤamuni]** 【名】不愉快なことば、批評。面白くない物言い。ン˞ガ˞ムニ [ʔŋ˞ga˞muni](苦言。厳しい批判。悪口) の類義語。ア˞マムニ [ʔa˞mamuni](甘言) の対義語。プ˞スヌ　ミー˞ザムネー　˞ドゥー˞ヌ　タ˞ミティ　カンガイ˞リ [pụ˞sunu mi:˞ʤamune: ˞du:˞nu ta˞miti kangai˞ri](他人の苦言＜不愉快な言葉＞は自分のためと考えよ)。

˞ミー˞ザムヌ **[˞mi:˞ʤamunu]** 【名】不味いもの。食べ物の味が不味いもの。˞カイブ　˞ミー˞ザムノー　˞ヌドー　ウ˞ラサラ˞ヌ [˞kaibu ˞mi:˞ʤamuno: ˞nudo: ʔu˞rasana˞nu](こんなに不味いものは、食べられない＜喉へ下ろされない＞)。

˞ミー˞サン **[˞mi:˞saŋ]** 【形】新しい。石垣方言からの借用語か。老年層が多く使用する。ク˞ヌ　キン˞マー　マ˞ダ　ミー˞サンダー　シ˞ティララヌ [ku˞nu kim˞ma: ma˞da mi:˞sanda ʃị̣˞tiraranu](この着物は、まだ新しいから捨てられない)。˞ナン˞ゾー　˞ミーサー　ナー˞ヌ [˞nan˞ʤo: ˞mi:sa: na:˞nu](あまり新しくない)。シゥ˞カウ　シンダイ　ミー˞サ　˞ナリクーン [sị̈˞kau ʃindai mi:˞sa ˞nariku:ŋ](使い込むにつれて＜使う次第に＞新しくなる)。˞ミー˞サ (˞ミー˞サル)　˞キン˞マー　ウ˞ムイツァー˞ヌ　ッ˞ふィーララヌ [˞mi:˞sa(˞mi:˞saru)˞kim˞ma: ʔu˞muitsa:˞nu f˞fi:raranu](新しい着物は惜しくて他人に与えられない)。

˞ミー˞ザン **[˞mi:˞ʤaŋ]** 【形】味などが不味い。美味しくない。˞ウンヌダー˞ケー　ミー˞ザンティ　ア˞ゾール˞ヌ　˞ウンヌ˞クジ　マ˞ザー˞スカー　˞ミーザナー˞ヌ [˞ʔunnuda:˞ke: ˞mi:˞ʤanti ʔa˞ʤo:ru˞nu ˞ʔunnu˞kuʤi ma˞ʤa:˞suka: ˞mi:ʤana:˞nu](芋を捏ねたご飯は不味いといわれるが、芋澱粉を混ぜると不味くないよ)。˞ミーザ˞ヌ　ッ˞ふァーラヌ [˞mi:ʤa˞nu f˞fa:ranu](不味くて食えない)。˞ドゥク　˞ネース˞カー　˞ミー˞ザ　˞ナルン [˞duku ˞ne:su˞ka: ˞mi:˞ʤa ˞naruŋ](あまり煮ると不味くなる)。˞ミー˞ザ˞ムノー　ッ˞ふァーン　ブリ˞バ [˞mi:˞ʤa ˞muno: f

ˈfaːm buriˀba](不味いものは食べるな＜食べずにおれ＞よ)。ˈミーˀザカー　ッˈふーナ [ˈmiːˀdʑakaː fˈfuːna](不味かったら食べるな)。

ˈミーˀシゥカイ [ˈmiːˀsɨ̞kai] 【名】めくばせ (目眴)。目つき。めの動かし方や目つきで相手に「否の意味」を知らせること。「目使い」の転訛。ˀムネー　イˈザンドーˀシ　ˈミーˀシゥカイシ　ˈウイパラシˀタヤー [ˀmuneː ʔiˈdʑandoːˀʃi ˈmiːˀsɨ̞kaiʃi ˈʔuiparaʃi̥ˀtajaː](言葉＜もの言い＞は話さないで＜ものは言わないで＞、目くばせして追い返したよ)。

ˈミーˀシゥカイ　ˈスン [ˈmiːˀsɨ̞kai ˈsuŋ] 【連】めくばせ (目眴) をする。目を怒らせて知らせる。悪い目付きをする。ˈミーˀシゥカイ　ˈシーˀ　シゥˈカスンドゥˀ　ムッˈトゥˀ　シˈキ　ッふィーランバン [ˈmiːˀsɨ̞kai ˈʃiːˀ sɨ̞ˈkasunduˀ mutˈtuˀ ʃi̥ˈki ffiːrambaŋ](目くばせをして知らせてやるんだが、ちっとも聞き入れてくれない＜聞かない＞わい)。

ˈミーシゥカイˀヨー [ˈmiːsɨ̞kaiˀjoː] 【名】悪い目付き。特に厳しい目つき。「目使いよう」の転訛。ウˈリヌ　ミーシゥカイヨーˀヤ　ナˈクラーˀヌ　ˀスバー　ˈユーザラヌ [ʔuˈrinu miːsɨ̞kaijoːˀja naˈkuraːˀnu ˀsubaː ˈjuːdʑaranu](彼の目つきは怖くて、側へ近寄れない)。

ˈミーシゥカˀムン [ˈmiːsi̥kaˀmuŋ] 【他動】目をしかめる (顰める)。「Xicame,uru,eta, シカメ, ムル, メタ (顰め, むる, めた)」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。ウˈムッサナーンˀカー　ˈミーシゥカˀムン [ʔuˈmussanaːŋˀkaː ˈmiːsi̥kaˀmuŋ](面白くなかったら目を顰める)。ウˈクˀルカー　ˈミーシゥカˀミ　プˈスˀ　ミルン [ʔuˈkuˀrukaː ˈmiːsi̥kaˀmi pu̥ˈsuˀ miruŋ](怒ったら目を顰めて人を見る)。ˈワー　ミーシゥカˀム　フˈシヌˀ　アルンダ　ˈミーシゥカマンˀドーシ　パˈナˀシ　シˈキ [ˈwaː miːsi̥kaˀmu ɸu̥ˈʃinuˀ ʔarunda ˈmiːsi̥kamanˀdoːʃi paˈnaˀʃi ʃi̥ˈki](君は目を顰める癖があるから、目を顰めないで話を聞け)。

ˈミーシキッˀクナー [ˈmiːʃi̥kikˀkunaː] 【名】にらめっこ (睨(ニラ)めっこ)。子供が睨みあって先に目を閉じたり、笑った者が負けとする遊び。「見詰め・比べ」の義。ˈミーシキックナーˀヤ　シˈダキˀ　ミー　ˈフーˀ　プˈスルˀ　マˈキㅏダー [ˈmiːʃi̥kikkunaːˀja ʃiˈdakiˀ miː ˈɸuːˀ pu̥ˈsuruˀ maˈkiㅏdaː](睨めっこは、先に目を閉じる人が負けだよ)。

ˈミーˀシキパナシキ [ˈmiːˀʃi̥kipanaʃi̥ki] 【名】かぜ (風邪)。「目付き・鼻付き」の義。風邪の神が目や鼻に取り付いて人間を病気にすると信じられている。フˈユヌˀシチ　ˈペーˀルカー　ˈミーˀシキパナシキヌ　パˈヤーˀルンダ　ピˈルバˀ　ヌˈキティˀ　ヤˈラビˀヌ　ˀヌビナ　パˈカソーッˀタ [ɸuˈjunuˀ ʃi̥tʃi ˈpeːˀrukaː ˈmiːˀʃi̥kipanaʃi̥kinu paˈjaːˀrunda piˈrubaˀ nuˈkitiˀ jaˈrabiˀnu ˀnubina pḁˈkasoːtˀta](冬の季節に入ると風邪＜目付き鼻付き＞が流行るので大蒜(ニンニク)を針糸で貫いて子供の首に穿(ハ)かされた)。

ˈミーˀシキパナシキヌ　ˈニンˀガイ [ˈmiːˀʃi̥kipanaʃi̥kinu ˈniŋˀgai] 【連】風邪を防ぐ祈願。流行病予防の祈願。「目付き鼻付きの祈願」の義。風邪の神が人間の目や鼻に取り付いて風邪が流行ると信じられている。シˈマッサˀル [ʃiˈmassaˀru](島くさらしの祭) は、この風邪の神を島から追い払い、再侵入を防ぐために村の入り口にシˈビナージナ [ʃiˈbinaːdʑina](左綯いの注連縄) を張り巡らして執り行われる祭りである。ˈミーˀシキパナシキヌ　ˈニンガイˀヤー　シˈマッサˀルナー　ˈソーッˀタ [ˈmiːˀʃi̥kipanaʃi̥kinu ˈniŋgaiˀjaː ʃiˈmassaˀrunaː ˈsoːtˀta](風邪予防の祈願＜目付き鼻付きの祈願＞はシマッサルの祭りで執り行われた)。

ˈミーシキラˀリン [ˈmiːʃi̥kiraˀriŋ] 【連】狙われる。にらまれる (睨まれる)。「目つけられる」の転訛。ˈミーシキˀルン [ˈmiːʃi̥kiˀruŋ](見つめる。睨む) の未然形に受け身・可能の助動詞リン [riŋ](れる) が付いて形成された受身動詞。ヤˈナクトゥ　スーˀカー　プˈスン　ミーシキラˀリンˈダー [jaˈnakutu suːˀkaː pu̥ˈsum miːʃi̥kiraˀrinˈdaː](悪い事をすると人に睨まれる＜目つけられる＞よ)。

ˈミーシキˀル [ˈmiːʃi̥kiˀru] 【名】(動) 雌ナマコ (海鼠)。ˈミーシキルˀヌ　ˈコーˀマー　ンˈマーンˀツォー [ˈmiːʃi̥kiruˀnu ˈkoːˀmaː ʔmˈmaːnˀtsoː](雌ナマコの卵は美味しいそうだ)。

ˈミーシキˀルン [ˈmiːʃi̥kiˀruŋ] 【他動】見詰める。凝視する。にらむ (睨む)。ウˈレーˀ　プˈスバˀ　ナーˈイ　ミーシキˀルンダ　ˈミーシキラランˀヨーニ　カˈクˀリバ [ʔuˈreːˀ pu̥ˈsubaˀ naːˈi miːʃi̥kiˀrunda ˈmiːʃi̥kiraraɲˀjoːni kḁˈkuˀriba](彼は人をじっと見詰める＜睨む＞から、見詰められないように隠れろよ)。プˈスミーシキˀル　フˈシヌˀ　アルツォー [pu̥ˈsu miːʃi̥kiˀru ɸu̥ˈʃinuˀ ʔarutsoː](他人を見詰める癖があるそうだ)。ˈミーˀシキ　ˈナーˀヌ [ˈmiːˀʃi̥ki ˈnaːˀnu](見詰めてしまった)。ˈマーˀビン　ˈミーシキˀレー　ˀミサムヌ [ˈmaːˀbim ˈmiːʃi̥kiˀreː ˀmisamunu](もっと見詰めればいいのに)。ギーッˈティ　ミーシキˀリ [giːtˈti miːʃi̥kiˀri](きっと見詰めろ＜睨め＞)。

˹ミーシチ˺カザ **[˹miːʃi̥tʃi˺kadʑa]** 【名】(植) ヒメノアズキ。「雌節蔓 < 雌せつカズラ >」の義。ビ˹キシチカザ [bi˹kiʃi̥tʃikadʑa](カニクサ < 雄節かずら >) の対義語。シ˹チ˺カザ [ʃi̥˹tʃi˺kadʑa] の項目参照。

˹ミーシティ˺ルン **[˹miːʃi̥ti˺ruŋ]** 【他動】見捨てる。パ˹タラキユーサンバ˺ティ　˹シー　ミーシティ˺ルンティ　ア˹ズヌ　ワー　ミーシティラン˺ドーシ　シゥ˹カ˺ナイ　˹オーシリ [pḁ˹tarakiju:samba˺ti ˹ʃi: mi:ʃi̥ti˺runti ʔa˹dʑunu wa: mi:ʃi̥tiran˺do:ʃi si̥˹ka˺nai ˹ʔo:ʃiri](働けないかといって見捨てるというが、君は見捨てないで養って差し上げなさい)。˹ミー˺シティ　˺ミサカー　˹ミーシティ˺ルクトー　˺ナルン [˹miː˺ʃi̥ti ˺misaka: ˹mi:ʃi̥ti˺ru ˺ku̥to: ˺naruŋ](見捨ててよければ、見捨てることはできる)。アˇイブー　˺ムノー　˹ミーシティ˺レー　˺ミサムヌ [˺ʔaibu: ˺muno: ˹mi:ʃi̥ti˺re: ˺misamunu](あんなものは見捨てればいいのに)。˹パー˺ク　˹ミーシティ˺リ [˹paː˺ku ˹mi:ʃi̥ti˺ri](早く見捨てろ)。

˹ミー˺シトゥン **[˹miː˺ʃi̥tuŋ]** 【他動】見捨てる。顧みない。「見・捨つ < 下二段。〜命も須底弖 < ステテ >〜。万、4211>」の四段活用化したもの。˹ミー˺シトゥンティ　˺クトー　ス˹ナ　ミーシタン˺ドーシ　˹ミン˺ドー　˺ミリバ [˹miː˺ʃi̥tunti ˺ku̥to: su˹na mi:ʃi̥tan˺do:ʃi ˹min˺do: ˺miriba](見捨てるということはするな。見捨てないで面倒を見なさいよ)。キサー˹ティ　ミー˺シティ　˹ナー˺ヌ [ki̥sa:˹ti miː˺ʃi̥ti ˹na:˺nu](既に見捨ててしまった)。˹ミー˺シトゥ　˺クトー　ナ˹ラ˺ヌ [˹miː˺ʃi̥tu ˺ku̥to: na˹ra˺nu](見捨てることは出来ない)。˹ミー˺シテー　˺ミサムヌ [˹miː˺ʃi̥te: ˺misamunu](見捨てればいいのに)。˹ミー˺シティ [˹miː˺ʃi̥ti](見捨てろ)。

˹ミー˺ジナ **[˹miː˺dʑina]** 【名】女綱。豊年祭の綱引きに用いる女綱 (西村の綱)。ビ˹キジナ [bi˹kidʑina](雄綱。東村の綱) の対義語。綱引きには女綱の頭部の大きな輪の中に雄綱の頭部の輪を入れて、かんぬき (閂) の棒を差し込んでから綱引きをした。それまでの儀式が、シ˹ナヌ˺ミン [ʃi˹nanu˺miŋ] である。˹ミージナ˺ヌ　˹ウイ˺ナ　ビ˹キジナバ　ヌーシティル˺　カ˹ヌチボーヤ˺　ヌ˹コーッ˺タ˹ナー [˹miːdʑina ˺nu ˹ʔui˺na bi˹kidʑinaba nu:ʃitiru˺ ka˹nutʃibo:ja˺ nu˹ko:t˺ta˹na:](雌綱の上に雄綱を乗せて < ぞ > 閂棒は貫き通されたんだよね)。

˹ミー˺シリ　パ˹ナシリ **[˹miː˺ʃiri pa˹naʃiri]** 【連】目も鼻も涙にぬれて。悲嘆に暮れて泣くさま。「目擦り鼻擦りして」の義。˹ミー˺ッシパ˹ナ˺ッシ [˹miː˺ʃʃi pa˹na˺ʃʃi](目擦り鼻擦り) ともいう。˹ミー˺シリ　パ˹ナシリ　シー˺　ナ˹キベー [˹miː˺ʃiri pa˹naʃiri ʃiː˺ na ˹ki beː](悲嘆に暮れて < 目擦り鼻擦りして、涙に濡れて > 泣いている)。

˹ミー˺ジル **[˹miː˺dʑiru]** 【名】めづる (牝弦)。三線の弦の一番細いもの。˹ワー　サンシンマー　ミー˺ジロー　˹マー˺ビン　シ˹ミ˺リ [˹waː saŋʃimma: miː˺dʑiro: ˹maː˺biŋ ʃi˹mi˺ri](君の三線は、牝弦をもっと強く締めなさい)。

˹ミー˺ス **[˹miː˺su]** 【名】味噌。調味料の一つ。˹マイヌミー˺ス [˹mainumiː˺su](米の味噌)、˹ムン˺ヌ˹ミー˺ス [˹mun˺nu ˹miː˺su](麦の味噌)、˹アー˺ヌ　˹ミー˺ス [˹ʔaː˺nu ˹miː˺su](粟の味噌)、˹ウン˺ヌ　˹ミー˺ス [˹ʔun˺nu ˹miː˺su](芋の味噌) などがあった。サ˹ク˺マイ [sḁ˹ku˺mai](粳米) を一晩水に浸け、ふやかした後に水をきって、˹クシ˺キ [˹kuʃi̥˺ki](蒸し器、蒸籠(セイロウ)。˹甑、古之岐 < こしき >、炊飯器也」『和名抄』) で蒸して煮る。それをニ˹ブ˺ク [ni˹bu˺ku](稲掃(イナバ)き筵(ムシロ)) や筵に 4〜5 日ねかして醗酵(ハッコウ)させ、黄麹(キコウジ)を作る。大豆をよく煮て半つぶし状に搗き、麹と塩を混ぜて蹂(モ)み合わせて甕(カメ)につめ、酒を少量振りかけて蓋をする。その上にウ˹スイフタ [ʔu˹suiɸu̥ta](被(カブ)せ蓋)、˹覆(オオ)い蓋」の義でビ˹ローサン˺パー [bi˹roːsam˺paː]< クワズイモの葉 > などで覆うものを藁などで縛(シバ)っておき、約 3 週間ほどねかせておくと美味しい味噌が仕上がるという。˹ミー˺ス　イ˹ラン˺カー　˹スー˺ヤ　ン˹マーナー˺ヌ [˹miː˺su ʔi˹raŋ˺ka: ˹suː˺ja ʔm ˹maːna:˺nu](味噌を入れないとお汁は美味しくない)。

˹ミースー **[˹miːsuː]** 【名】寿命。天命。運命。「命終(ミョウジュウ)」の転訛したものか。˹ミースーヌ˺　クーンケンマー　˹ノーン˺シタンティン　イ˹キバ˺ル <˺ヌチ˹ムイバ˺ル >　˺ナル [˹miːsuːnu˺ kuːŋkemma: ˹noːŋ˺ʃi̥tantiŋ ʔi˹kiba˺ru <˺nutʃi˹muiba˺ru> ˺naru](寿命が尽きる < 来る > までは、何としても生きなければならない < 生きればこそなる >)。

ミー　˹スーラ˺スン **[˹miː suːra˺suŋ]** 【連】目を覚ます。眠気を覚ます。˹パー˺ク　ウ˹ム˺ティ　˺シミティ　˹ミー　スーラ˺シ˺クーバ <˺ミー　˹スー˺ラシ˺クーバ >[˹paː˺ku ʔu˹mu˺ti ˺ʃimiti ˹miː suːra˺ʃi ˺kuːba< ˺miː ˹suː˺raʃi˺kuːba>](早く顔を洗って目を覚ましてく < 眠気を覚ましてく > 来いよ)。˹ミー　スーラ˺スン <˺ミー　˹スーラ˺スン >[˹miː suːra˺suŋ <˺miː ˹suːra˺suŋ >](目を覚ます)。˹ミー　スーラ˺シ　˹ナー˺ヌ <˺ミー　˹スーラ˺シ　˹ナー˺ヌ >[˹miː suːra˺ʃi

ˈnaːˈnu＜ˈmiː ˈsuːraˈʃi ˈnaːˈnu＞](目を覚ましてしまった＜眠気を覚ませてしまった＞)。

ˈミースーリˈルン [miːˈsuːriˈruŋ]【連】目が覚める。ˈミー　スーリˈルン [ˈmiː suːriˈruŋ] と同じ。シˈトゥムˈティ　ˈパイˈサ　カˈタサーˈ　ヌムカー　ˈミースーリˈルンˈダー [ʃi̥ˈtumuˈti ˈpaiˈsa kḁˈtasaːˈ numukaː ˈmiːsuːriˈrunˈdaː](朝早く濃茶を飲むと目が覚めるよ)。

ˈミースーˈルン [ˈmiːsuːˈruŋ]【自動】目が覚める。ˈミー　ˈスーˈルンとも言う。ウˈムˈティ　ˈシムカー　ˈミースーˈルン [ʔuˈmuˈti ˈʃimukaː ˈmiːsuːˈruŋ](顔を洗うと目が覚める)。マˈダ　ミースーラˈヌ [maˈda miːsuːraˈnu](まだ目が覚めない)。ˈミースーリˈ　パˈヤーˈン [ˈmiːsuːriˈ paˈjaːˈŋ](目覚めが早い)。ˈミースーˈル　ˈクトー　ˈナーˈヌ [ˈmiːsuːˈru ˈku̥toː ˈnaːˈnu](目が覚めることはない)。ˈパーˈク　ˈミースーˈレー　ˈミサムヌ [ˈpaːˈku ˈmiːsuːˈreː ˈmisamunu](早く目が覚めればいいのに)。ˈパーˈク　ˈミースーˈリ [ˈpaːˈku ˈmiːsuːˈri](早く目覚めよ)。

ˈミーズーˈワン [ˈmiːʤuːˈwaŋ]【形】目が強い。視力が強い。「遠くのものをよく見分けることができる」、「遠くにいるカツオ鳥の群れをよく見つけることが出来る」の意味に漁師達が使用していた。ウˈレー　ミーズーˈワンダ　ˈユー　トゥˈルマキ　ミスˈクン [ʔuˈreː miːʤuːˈwanda ˈjuː tuˈrumaki misu̥ˈkuŋ](彼は視力が強いから、よくカツオ鳥の群れ＜鳥巻き＞を発見する)。ˈミーズーˈワー　ˈナーˈヌ [ˈmiːʤuːˈwaː ˈnaːˈnu](視力が強くない)。ˈクース　ッふーˈカー　ˈミーズーˈワ　ˈナルン [ˈkuːsu ffuːˈkaː ˈmiːʤuːˈwa ˈnaruŋ](トウガラシを食べると目が強くなる) という。ウˈリヌˈ　スク　ˈミーズーˈワ　プˈソーˈ　ブˈラーヌ [ʔuˈrinuˈ su̥ku ˈmiːʤuːˈwa pu̥ˈsoːˈ buˈraːnu](彼ほど目の強い＜視力の強い＞人はいない)。

ˈミーˈスカミ [ˈmiːˈsukami]【名】味噌がめ。口の小さいのが特徴。高さ約 30 センチの子型の瓶。子供が手を入れると瓶の口に挟まれるといって親に戒(イマシ)められた。ˈミーˈスカメーラ　ˈマイヌミーˈス　スˈクイˈキー　ˈサーˈフキ　ˈサンˈノーレー [ˈmiːˈsukmeːra ˈmainumiːˈsu su̥ˈkuiˈki: ˈsaːˈɸu̥ki ˈsanˈnoːreː](味噌瓶から米味噌を掬ってきて茶請けにしなさいよ＜茶請けにしないかね＞)。

ˈミーˈスカミヌ　ˈバン [ˈmiːˈsukaminu ˈbaŋ]【連】行かず後家。「味噌瓶の番人」の義。ミˈドーンˈッふァー　ˈマイフナーˈ　マˈランˈカー　ˈミーˈスカミヌ　バン　ナルンˈダー [miˈdoːŋˈffaː ˈmaifunaːˈ maˈraŋˈkaː ˈmiːˈsukaminuban narunˈdaː](女の子は賢く成長しないと行かず後家＜味噌瓶の番人＞になるぞ)。父母が娘に対して教え諭すことば。

ˈミーˈスクン [ˈmiːˈsu̥kuŋ]【他動】見詰める。凝視する。注視する。睨(ニラ)む。「みつむ＜下二段＞」の四段活用化したもの。イˈズˈ　プˈスヨー　ミースクンˈドゥ　イˈザンˈカー　ˈミーシゥカˈヌ [ʔiˈʤuˈ pu̥ˈsujoː miːsu̥kunˈdu ʔiˈʤaŋˈkaː ˈmiːsi̥ˈkaˈnu](叱る人を睨む＜見詰める＞が、叱らなければ睨ま＜見詰め＞ない)。ˈミーˈシキ　ッˈふィールン [ˈmiːˈʃi̥ki fˈfiːruŋ](注視してくれる)。ˈミーˈスク　ˈプソー　ウˈダラカˈスンケン　ˈミーˈシケー　ˈミサムヌ [ˈmiːˈsu̥ku ˈpu̥soː ʔuˈdarakaˈsuŋkem ˈmiːˈʃi̥keː ˈmisamunu](睨む時は、相手を驚かすほど睨めばいいのに)。ˈミーˈシキ [ˈmiːˈʃi̥ki](睨め)。

ˈミーˈスシキ [ˈmiːˈsuʃi̥ki]【名】味噌造り。味噌製造。「味噌搗き」の義。味噌造りは、米麹に塩とヌˈキ [nuˈki](補助材料) として煮た大豆を混ぜ、臼に入れて搗いた後、瓶に入れて密封し、十分に醗酵させて造った。その製造過程の「搗き混ぜる」ことから「味噌搗き」という。

ˈミースˈジル [ˈmiːsuˈʤiru]【名】味噌汁。ˈマイヌミースˈス [ˈmainumiːˈsu](米味噌) 等で調味したお汁。精進料理のように、あっさりした料理を象徴する。魚や肉などが無い時につくるお汁のこと。カˈティˈムヌ [kḁˈtiˈmunu](副食物。魚類や肉類など、かてて食べる食品) が無い時に作る。ノーˈン　ナーヌˈヌ　ˈミースˈジローンツァン　バˈカシˈ　ッˈふァイバルˈ　ナル [noːˈn naːnuˈnu ˈmiːsuˈʤiroːntsam baˈkaʃiˈ fˈfaibaruˈ naru](何も無いが、味噌汁でも炊いて食べないといけない)。

ˈミーˈスビ [ˈmiːˈsubi]【名】(動) 魚の名。和名、メバチ (体長約 2 メートル)。鳩間島では、イカ釣り漁の時期に、イカの生餌で釣り上げていた。

ˈミーˈソー [ˈmiːˈsoː]【名】記憶力。もの覚え。見たものを忘れないで持続する力。「目の性 (根性)」の義。ˈミーˈヌ　ˈソー [ˈmiːˈnu ˈsoː](記憶力＜目の性＞) ともいう。イッˈケナ　ミーヌソーˈヤ　アˈリˈブーバン [ʔikˈkena miːnusoːˈja ʔaˈriˈbuːbaŋ](非常に記憶力はあるわい)。ˈトゥシ　トゥˈルˈター　ˈミーヌソーˈヌ　ˈナーンˈナリ　ˈナーˈヌ [ˈtu̥ʃi tuˈruˈtaː ˈmiːnusoːˈnu ˈnaːnˈnari ˈnaːˈnu](年を取ったので記憶力がなくなってしまった)。

ˈミーソーガキ [ˈmiːsoːgaki]【名】藁縄などを三本

縒り合わせ (掛け合わせ) て作る太い縄。船のアンカーロープを作ったり、綱引きの綱を作る際に綱を縒り合わせた。片方には三本の縄を結わえるハンドルを固定した木枠に装着し、反対側には三本の縄を一本にまとめてハンドルに結わえ、それに三つ又を当てて可動式の木枠に装着し、それぞれ右回りに回転させて縒(ヨ)り合わせること。フ˞ニ˜ヌ　˞アン˜カージナー　˞フー˜カラジナバ　˞ミーソーガキ˜　シ˞ティル˜　ス˞ク˜ローッタ [ɸu˞ni˜nu ˞ʔaŋ˜ ka:ʤina: ˞ɸu:˜karaʤinaba ˞mi:so:gaki˜ ʃi̥˞tiru˜ su̥˞ku ˜ro:tta](船のアンカーロープは、くろつぐ < 桄榔 > の繊維で綯った綱を三本縒り合わせて作られた)。˜ゾーナーティ　˞フー˜カラジナバ　˞ミーソーガキ˜　シ˞ティル˜　フ˞ニ˜ヌ　˞アン˜カージナン　˞ロッ˜プン　ス˞ク˜ルタ˞ダー [˜ʤo:na:ti ˞ɸu:˜karaʤinaba ˞mi:so:gaki˜ ʃi̥˞tiru˜ ɸu˞ni˜nu ˞ʔaŋ˜ka:ʤinan ˞rop˜pun su̥˞kuru˜ta˞da:](庭で棕櫚縄を三本縒り合わせをして船のアンカー綱もロープも作ったのだよ)。

˞ミー˜ソアブジテー **[˞mi:˜soʔabuʤite:]** 【名】屋号。小浜清二郎氏宅。˞ウイカナケー [˞ʔuikanake:](浦崎家) の東隣にあった。

˞ミータティ˜ルン **[˞mi:tati˜ruŋ]** 【他動】見立てる。見て選び定める。良いものを選定する。ク˞ヌ　キン˜マー　˜ドゥーシ　˞ミー˜タティ　˞カイヤー˜ムヌ [ku ˞nu kim˜ma: ˜du:ʃi ˞mi:˜tati ˞kaija:˜ munu](この着物は自分で見立てて買ったものだ)。˜ドゥーシ　˞ミータティ˜ルンティ　˞スンドゥ　バン˜マー　˞ミータティララ˜ヌ [˜du:ʃi ˞mi:tati˜runti ˞sundu bam˜ma: ˞mi:tatirara˜nu](自分で見立てようとするが、私には見立てられない)。˜ドゥーシ　˞ミータティ˜ル˜クトゥ [˜du:ʃi ˞mi:tati˜ru ˜ku̥tu](自分で見立てることだ)。˜ドゥーシ　˞ミータティ˜レー　˜ミサムヌ [˜du:ʃi ˞mi:tati˜re: ˜misamunu](自分で見立てればいいのに)。˞ドゥー˜ヌ　˜キン　˞パー˜ク　˞ミータティ˜リ [˞du:˜nu ˜kim ˞pa:˜ku ˞mi:tati˜ri](自分の着物を早く見立てろ)。

˞ミータブル **[˞mi:taburu]** 【名】三束。バ˞ラフ˜タシラーラ　バ˞ラフ˜タ　˞ミータブル˜　ヌイクーバ [ba˞raɸu̥˜taʃira:ra ba˞raɸu̥˜ta ˞mi:taburu˜ nuiku:ba](藁のシラ <稲叢(イナムラ)> から藁を三束引き抜いて来いよ)。

˞ミーダラ˜スン **[˞mi:dara˜suŋ]** 【他動】目を疲れさせる。眠たくさせる。「め・だらす (目・疲らす < 倦。ダル、ウム。『文明本節用集』>)」の転訛したものか。˞ミーコー˜リ　ニ˞バランベー˜ティ　˞ミーダラ˜スンティ　˞ホン˜　ユミ　˞ベー˜ンドゥ　ムッ˞トゥ　ミーダラサラ˜ヌ [˞mi:ko:˜ri ni˞barambe:˜ti ˞mi:dara˜sunti ˞hoŋ˜ jumi ˞be:˜ndu mut˞tu mi:darasara˜nu](目が冴えて眠られないので、目を疲れ < 眠たく > させようと本を読んでいるが、ちっとも目を疲れさせ < 眠たくさせ > られない)。˞ミーダラ˜シティニ˞ビ˜バ [˞mi:dara˜ʃi̥ti ni˞bi˜ba](目を疲れさせて寝なさいよ)。˞ヌー˜　サバル　˞ミーダラ˜ス　˜クトー　˜ナルカヤー [˞nu:˜ sabaru ˞mi:dara˜su ˜ku̥to: ˜narukaja:](どうすれば < ぞ > 目を疲れさせることが出来るのかねえ)。˞パー˜ク　˞ミーダラ˜シェー˜ミサムヌ [˞pa:˜ku ˞mi:dara˜ʃe: ˜misamunu](早く目を疲れ < 眠たく > させればいいのに)。サ˞キ˜　ヌミティ　˞ミーダラ˜シ [sḁ˞ki˜ numiti ˞mi:dara˜ʃi](酒を飲んで目を疲れ < 眠たく > させなさい)。

˜ミー　ダ˞リ˜ルン **[˜mi: da˞ri˜ruŋ]** 【連】目が疲れて眠くなる。眠気をもよおす。睡魔におそわれる。ヤ˞ラ˜ベー　˞ミー˜ヤ　˜ダリティ　˜メー　˜キモー　˞ターリ　ベー [ja˞ra˜be: ˞mi:˜ja ˜dariti ˜kimo: ˞ta:ri be:](子供は目が疲れて眠くなり、もうすっかり心は熟睡している)。

˞ミーダルパナ˜ダルシ **[˞mi:darupana˜daruʃi]** 【副】目から涙を流し、鼻からは鼻水を流して泣くさま。激しく泣くさま。˞ミーダルパナ˜ダルシ　ナ˞ケー˜ティ　パ˞ナ˜ソーッタ [˞mi:darupana˜daruʃi na˞ke:˜ti pa˞na˜so:tta](目から涙を流し、鼻から鼻水を流して泣きながら話された)。

˞ミータング **[˞mi:taŋgu]** 【名】水桶三個。三たご (担桶)。水桶三個分の水。水桶一個は、カ˞タ˜ティー [kḁ˞ta˜ti:](片手) といい、二個でプ˞スカタ˜ミ [pu̥˞sukata˜mi](一担ぎ) という。˞ミータンゴー˜　プ˞スカタミ˜トゥ　カ˞タ˜ティー　˜ナルシジ [˞mi:taŋgo:˜ pu̥˞sukatami˜tu kḁ˞ta˜ti: ˜naruʃiʤi](水桶三個は一担ぎと片手になるわけだ)。

˞ミーダング **[˞mi:daŋgu]** 【名】鱶釣り用の三種の釣り縄の義で、次の三種がある。1ク˞ビラー˜ナー [ku ˞bira:˜na:](イカ釣り漁で、イカを餌にしてカ˞ジ˜キ [ka˞ʤi˜ki] やヒ˞ラ˜クサー [çi˞ra˜kusa:]、サ˞バ [sa˞ba] 等を釣るのに用いる縄)。2ク˞グサイ˜ナー [ku ˞gusai˜na:](小型の魚を狙って釣るのに用いる縄)、ナ˞カダン˜グ [na˞kadaŋ˜gu](中道具) ともいう。3˞サバナー [sa˞bana:](鱶釣り専用の縄。釣り針も大きい)。鱶は˜ドゥームンダニ [˜du:mundani](同種の魚の肉で同種の魚の餌にすること) でも釣れる。従って、一度釣れている小型の鱶を他の大型の鱶が喰いついて、同じ釣り針で二匹の鱶が釣れることが

あるという (加治工伊佐氏談)。

˞ミーチ [˞mi:ʧi] 【名】(数) 三つ。三個。三歳。˞ミーチナー˺ トゥリバ [˞mi:ʧina:˺ turiba](三つ < 三個 > ずつ取りなさい)。˺トゥシェー ˞ミーチ˺ ナルン [˺tu̥ʃe: ˞mi:ʧi˺ naruŋ](年は三歳になる)。助数詞を伴う場合、˞ミームトゥ [˞mi:mutu](三本)、˞ミーカ [˞mi:ka](三日)、˞ミーティ [˞mi:ti](三年)、˞ミームシ [˞mi:muʃi](三度。三回)、ミ˞ツァール [mi˞tsa:ru](三人) などのようになる。

˞ミーチヌ ピー˺チ [˞mi:ʧinu pi:˺ʧi] 【連】三分の一。三つに分けたうちの一つ。「三つの一つ」の義。ム˞チェー ミーチヌ ピーチ˺ナー ˺バキティ ッ˞ふァイ˺バ [mu˞ʧe: mi:ʧinu pi:ʧi˺na: ˺bakiti f˞fai˺ba](餅は三分の一ずつ分けて食べなさい)。

˞ミーッサー˺ラ [˞mi:ssa:˺ra] 【名】1目下。年齢や地位が自分より下の者。˺ヌンティ ˞ミーッサーラ˺ヌ < トゥ˞シッサーラ˺ス > プ˞ス˺ニ フ˞カーフカー˺ グリー ˞ソー˺ルカヤー [˺nunti ˞mi:ssa:ra˺nu < tu˞ʃissa:ra˺su > pu̥˞su˺ni ɸu̥˞ka:ɸu̥ka:˺ guri: ˞so: ˺rukaja:](どうして年下の人に深々とお辞儀をされるのかねえ)。2未成年。目より下の身長。ヤ˞ラ˺ベー ˞ミーッサー˺ラ ˺アルンケンドゥ ˞ティー˺カキ ナ˞ラーサ˺リ˞ダー [ja˞ra˺be: ˞mi:ssa:˺ra ˺?aruŋkendu ˞ti:˺kaki na˞ra:sa˺ri˞da:](子供は、背丈が自分の目より下にある間しか手をかけて教え、躾けることは出来ないよ)。

˞ミーッサーリ˺ムヌ [˞mi:ssa:ri˺munu] 【名】1目の塞がった人。目の見えない人。˞ミーッサーリ˺ムヌ ˺ナリティ ノー˞ン シーユーサヌ [˞mi:ssa:ri ˺munu ˺nariti no:˞ŋ ʃi:ju:asanu](目の見えない人になって、何も出来ない)。2穴の塞がったもの。ク˞ヌ˺ シ˞ノー˺ヤ ˞ミーッサーリ˺ムヌ ˺ナリティ シゥ˞カーラヌ [ku˞nu˺ ʃi˞no:˺ja ˞mi:ssa:ri˺munu ˺nariti si̥˞ka:ranu](このふるい < 篩(フルイ)。水嚢(スイノウ)> は目が詰まって < 目詰まり物になって > 使えない)。

˺ミー ッ˞サールン [˺mi: s˞sa:ruŋ] 【連】目をつぶる (瞑)る。目をつむる。「目閉じる」の義。˺ミー ッ˞サールンティ˺ ウ˞ムータン˺ドゥ ˺ミー ッ˞サーリマー˺キ ˞ベーン˺ケンマー ミ˞ツム˺ヌ ˺ミーナ ˞ペー˺リ ˞ナー˺ヌ [˺mi: s˞sa:runti˺ ?u˞mu:tan ˺du ˺mi: s˞sa:ri ma:˺ki ˞be:m˺kemma: mi˞tsumu˺nu ˺mi:na ˞pe:˺ri ˞na:˺nu](目を瞑(ツブ)ろうと思ったが、目を瞑りかねているうちに、ごみ < 塵 > が目に入ってしまった)。˺ミー ッ˞サーリ˺ミー [˺mi: s˞sa:ri˺mi:](目を瞑ってごらん)。目をつぶる (瞑(ツブ)る)。目を閉じる。イ˞ノンヌ˺ トゥ˞ビ˺ クーカー ˺ミー ッ˞サールン [?i˞nonnu˺ tu˞bi˺ ku:ka: ˺mi: s˞sa:ruŋ](砂が飛んでくると目を瞑る)。ナ˞ガラク˺ シゥ˞カウ˺カー ˞ナンク˺ル ˺ミー ッ˞サールン [na˞garaku˺ si̥˞kau˺ka: ˞naŋku˺ru ˺mi: s˞sa:ruŋ](長らく酷使する < あまり使う > と自ずと目が塞(フサ)がる)。

˞ミーッサ˺ヌ [˞mi:ssa˺nu] 【連】見知らぬ。思い出せない。˞ミーッ˺スン [˞mi:s˺suŋ](見知る) の未然形。ヤ˞ラ˺ビ ˞シェーン˺ケン ˺ミリティ ウ˞ヌッキリ˺ ミリ ミ˞ラン˺ダー ˞ター˺ティ ムッ˞トゥミーッサラ˺ヌ [ja˞ra˺bi ˞ʃe:ŋ˺kem ˺miriti ?u˞nukkiri˺ miri mi˞ran˺da: ˞ta:˺ti mut˞tu mi:ssara˺nu](子供の頃に見て、それっきり見たことがないので、どこの誰だか、ちっとも思い出せない < 見知らない >)。

˞ミーッ˺スン [˞mi:s˺suŋ] 【他動】見知る。見覚える。人見知りをする。「見知る」の転訛。マ˞リティ ミーシキ˺ ナルカー ッ˞ふァー˺ ウヤ ˞ミーッ˺スンティ ス˞ヌ˺ ク˞ヌ˺ ッ˞ふァー˺ マ˞ダ ミーッサン˺バン [ma˞riti mi:ʃi̥ki˺ naruka: f˞fa:˺ ?uja ˞mi: ˺ssunti su˞nu˺ ku˞nu˺ f˞fa:˺ ma˞da missam˺baŋ](生まれて三月になると、乳児は親を見覚える < 見知る > というが、この子はまだ見覚えない < 見知らない >)。˞ミーッシ パヤー˺ン [˞mi:ʃʃi pja:˺ŋ](見覚えるのが < 見知り > 早い)。プ˞ス ミーッ˺スッ˞ふァー˺ ス˞ブ˺ロー カ˞チ˺ムヌティ˞ダー [pu̥˞su mi:s˺su f˞fa:˺ su˞bu˺ro: kḁ˞ʧi˺munuti˞da:](人見知りをする子は頭が優れているそうだよ)。˞ミーッ˺シェー ˺ミサムヌ [˞miʃ˺ʃe: ˺misamunu](人見知りをすればいいのに)。ウ˞トゥ˺ザ˞ダー ミーッ˺シ˞ヨー [?u˞tu˺ʤa˞da: mi:ʃ˺ʃi˞jo:](親戚だよ。見覚えなさいよ < 見知れよ >)。˞ミーッサラン˺ スコー フ˞ドゥビ ベー [˞mi:ssaran˺ suko: ɸu˞dubi be:](見違えるほど成長している)。

˞ミーッ˺スン [˞mi:s˺suŋ] 【連】目をこする (擦(コス)る)。ヤ˞ラ˺ベー ˺ミーナ ミ˞ツム˺ヌ ˞ペー˺ルカー ˞ビー˺ワティ ˺ミー˺ッスンダ ˺ミーッ˞サス˺ナ˞ヨー [ja˞ra˺be: ˺mi:na mi˞tsumu˺nu ˞pe:˺ruka: ˞bi:˺wati ˺mi:˺ssunda ˺mi:s˞sasu˺na˞jo:](子供は目にごみ < 塵 > が入ると、痒いので目を擦(コス)るから、目を擦らせるなよ)。

˞ミー˺ッスン [˞mi:˺ssuŋ] 【他動】1見知る。見覚える。顔を記憶する。˞ミーッサラン˺スコー フ˞ドゥビティ ター˺ル˺ ヤ˞ル˺ユー ア˞ティンガーラヌ [˞mi:ssaran˺su̥ko: ɸu˞dubiti ta:ru˺ ja˞ru˺ju: ?a˞tiŋ-ga:ranu](見覚えが無いほどに成長して、誰である

のか見当がつかない)。˞アイニ　˞アッ˞タニ　フ˞ドゥブ˞カー　˞ミーッ˞ス　˞クトー　ナ˞ラ˞ヌ [˞ʔaini ˞ʔat˞tani ɸu˞dubu˞ka: ˞mi:s˞su ˞kʉto: na˞ra˞nu](あんなに急に成長すると見知る＜顔を記憶する。思い出す＞ことはできないよ)。˞ベー˞　ウ˞トゥ˞ザ　ヤ˞ルンダ　ミー˞ッシ　˞ダー [˞be:˞ ʔu˞tu˞ʤa ja˞runda mi:˞ʃʃi˞da:](我々は親戚だから見覚えなさいよ)。2人見知りをする。ヤ˞ラ˞ベー　˞ミーシケーラ˞　ウヤ　˞ミーッ˞スンダ　˞ミー˞ッシェーラー　プ˞スン˞　ダ˞カラヌ [ja˞ra˞be: ˞mi:ʃi̥ke:ra˞ ʔuja ˞mi:˞ssunda ˞mi:˞ʃʃe:ra: pʉ˞sun˞ da˞karanu](子供は三ヶ月から親を見知るから、人見知りをしたら他人に抱かれない)。キサー˞ティ　ミーッシ˞　ブー [ki̥sa:˞ti mi:ʃʃi˞ bu:](既に人見知りをしている)。

˞ミーティ **[˞mi:ti]** 【名】(数) 三年。再来年。˞エン　˞ミーティ　スー˞カー　˞ガッ˞コー　ン˞ジ˞ルン˞ダー [˞ʔjem ˞mi:ti su:˞ka: ˞gak˞ko: ʔn˞ʤi˞run˞da:](来年、再来年になったら＜したら＞学校に入学するよ)。˞アッパー　˞マーラシティ　ミーティ˞　ナ˞リ˞スバン˞ナー [˞ʔappa: ˞ma:raʃi̥ti mi:ti˞ na˞ri˞suban˞na:](お祖母さんが亡くなって三年になるんだ＜わい＞ねえ)。(数) 三年。˞マー　ミー˞ティ　˞スー˞カー　˞ガッ˞コー　ン˞ジ˞ルン [˞ma: mi:˞ti ˞su:˞ka ˞gak˞ko: ʔn ˞ʤi˞runŋ](再来年には＜もう三年したら＞学校に入学する)。˞ウンラー˞　メー　˞ミーティ˞　ナ˞リ˞スバン [˞ʔunra:˞ me: ˞mi:ti˞ na˞ri˞subaŋ](あれ＜その時＞から、もう三年にもなるわい)。

˞ミーティナ˞ティ **[˞mi:tina˞ti]** 【名】一昨年。おととし。˞クズ [˞kuʤu](こぞ) の前年。˞ナ˞ティ [˞na˞ti] は過去の年数や日時を表す接辞。「～成りて」の転訛したものか。ウ˞レー　ミーティナ˞ティ　シ˞チギョー　シェー˞ン [ʔu˞re: mi:tina˞ti ʃi̥˞ʧigjo: ʃe:˞ŋ](彼＜それ＞は一昨年卒業した)。˞ユーティナ˞ティ [˞ju:tina˞ti](四年前)。˞ユーカナ˞ティ [˞ju:kana˞ti](四日前)。˞ミーカナ˞ティ [˞mi:kana˞ti](三日前)。˞ミーティナティ˞ヌ　ク˞トゥ˞バ　ウ˞ムイザ˞スン [˞mi:tinati˞nu kʉ˞tu˞ba ʔu˞muiʤa˞suŋ](三年前のことを思い出す)。˞ミーティナ˞テーラ　˞ヤースクリ˞ヌ　ス˞コール　シー˞　ヤ˞マ˞フミン　˞シー˞　シケーン˞ダー [˞mi:tina˞te:ra ˞ja:sʉkuri˞nu sʉ˞ko:ru ʃi:˞ ja˞ma˞ɸumiŋ ˞ʃi:˞ ʃi̥ke:n˞da:](一昨年前から家造りの準備をして、建材伐採のための作業場所を確認するために山に入る＜山踏み＞ことも済ませてあるよ)。

˞ミー˞ディプス **[˞mi:˞dipʉsu]** 【名】み (巳) 年生まれの人。「巳年人」の転訛。プ˞スキブ˞ルナー　˞ミー˞ディプスヌ　ミ˞ツァール˞　スルーカー　カ˞フー˞ヌ　アンティ˞ダー [pʉ˞sukibu˞runa: ˞mi:˞dipʉsunu mi˞tsa:ru˞ suru:ka: kḁ˞ɸu:˞nu ʔanti˞da:](一軒の家に巳年生まれの人が三人揃うと果報があるそうだよ)。˞ミー˞ディプソー　イッ˞ケナ　ネーランケー˞ン [˞mi:˞dipʉso: ʔik˞kena ne:raŋke:˞ŋ](巳年生まれの人は非常に粘り強い)。

˞ミーディマリ **[˞mi:dimari]** 【名】巳年生まれ。巳年生まれの人。ウ˞レー　ミーディマリ˞　バーヤ　トゥ˞ラディマリ˞　ヤ˞ルンダ˞　バーラ　˞ミーチェー　ウシ˞トゥ [ʔu˞re: mi:dimari˞ ba:ja tu˞radimari˞ ja ˞runda˞ ba:ra ˞mi:ʧe: ʔuʃi̥˞tu](彼＜それ＞は巳年生まれ、私は寅年生まれだから、私より三歳は年下＜弟＞だ)。

˞ミー˞ドー **[˞mi:˞do:]** 【名】おとこおんな (男女)。男でありながら女のような性徴を有する人。ミ˞ドゥム˞ヌ　˞カタチニ　˞ブー˞　ビ˞キドゥムバル　ミー˞ドーティ　ア˞ゾーッ˞タ˞ナー [mi˞dumu˞nu ˞kat̥atʃini ˞bu:˞ bi˞kidumubaru mi:˞do:ti ʔa˞ʤo:t˞ta˞na:](女のような男をミードーといわれたねえ)。

˞ミードゥー˞サン **[˞mi:du:˞saŋ]** 【形】久しく会わない＜会いたい気持ち＞。久しぶりである。なかなか会わない。首里方言からの借用語であろう。「目遠い」の義。˞ヌンティ　˞アイニ　˞ミードゥー˞サワ [˞nunti ˞ʔaini ˞mi:du:˞sawa](どうしてそんなに久しく会わないのか)。チ˞カ˞グロー　˞ミードゥー˞サヌ　ヌ　˞ヌー˞シ　˞アー˞クカヤー [ʧi̥˞ka˞guro: ˞mi:du:˞ sanunu ˞nu:˞ʃi ˞ʔa:˞kukaja:](近頃は久しく会わないが、どうしているのかねえ)。˞ドゥク　˞ミードゥー˞サーティ　˞ミリン　˞クータ˞ル [˞duku ˞mi:du:˞ sa:ti ˞miriŋ ˞ku:ta˞ru](あまりにも久しく会わないので、見＜会い＞に来たよ)。

˞ミートゥー˞スン **[˞mi:tu:˞suŋ]** 【他動】見通す。遠くまで見渡す。見晴らす。見抜く。˞カン˞マー　˞ニンギン˞ヌ　バ˞タ˞ウチ　˞ミートゥーシ˞ル　˞オー˞ル [˞kam˞ma: ˞niŋgin˞nu ba˞ta˞ʔutʃi ˞mi:tu:ʃi˞ru ˞ʔo:˞ru](神様は人間の心の内を見抜いておられる)。プ˞スヌ˞　バ˞タ˞ウチ　˞ミートゥー˞スンティ　ア˞ゾール˞ヌ　˞アイヤー　˞ミートゥーサラ˞ヌ [pʉ ˞sunu˞ ba˞ta˞ʔutʃi ˞mi:tu:˞sunti ʔa˞ʤo:ru˞nu ˞ʔaija: ˞mi:tu:sara˞nu](人の心の内を見通すといわれるが、そうは見通されない)。˞クマーラー　˞ミートゥーシ　ヤッ˞サンティ　ス˞ヌ　バン˞マー　˞ミートゥー˞ス　˞クトー　ナ˞ラ˞ヌ [˞kuma:ra: ˞mi:tu:ʃi jas˞santi

su⸢nu bam⸣ma: ⸢mi:tu:⸣su ⸣kṵto: na⸢ra⸣nu](此処からは見通しやすいというが、私には見通すことはできない)。⸣クマーラ ⸢ミートゥー⸣シェー ⸣ミサムヌ [⸣kuma:ra ⸢mi:tu:⸣ʃe: ⸣misamunu](ここから見通せばいいのに)。⸣クマーラ ⸢ミートゥー⸣シバ [⸣kuma:ra ⸢mi:tu:⸣ʃiba](ここから見通しなさいよ)。

⸢**ミートゥール [⸢mi:tu:ru]** 【名】三通り。三つの方法。ク⸢ヌ⸣ シ⸢グトー ミートゥールヌ シーヨー⸣ヌ ア⸢リ⸣ブーバ ⸢ドゥー⸣ヌ ⸢シーヤッ⸣サ ⸢トゥー⸣ル ⸢シー⸣ ミサン [ku⸢nu⸣ ʃi⸢guto: mi:tu:runu ʃi:jo:⸣nu ʔa⸢ri⸣bu:ba ⸢du:⸣nu ⸢ʃi:jas⸣sa ⸢tu:⸣ru ⸢ʃi:⸣ misaŋ](この仕事は三通りの仕方があるから、自分のし易い方法でして良い)。

⸢**ミートゥ⸣イシ [⸢mi:tu⸣ʔiʃi]**【名】(地) 夫婦石のある所の地名。老年層は、⸢ミュートゥ⸣イシ [⸢mju:tu⸣ʔiʃi](夫婦石) という。タ⸢チ⸣バル [tḁ⸢ʧi⸣baru](立原) の浜に下りる道の左手にある。⸢ミュートゥイシ⸣ヌ ニ⸢シアーラキ⸣ナー ⸣ウブシケーヌ サ⸢クラカー⸣ヌ パ⸢タキ⸣ヌ ⸣アン [⸢mju:tuʔiʃi⸣nu ni⸢ʃiʔa:raki⸣na: ⸣ʔubuʃi̥ke:nu sḁ⸢kuraka:⸣nu pḁ⸢taki⸣nu ⸣ʔaŋ](夫婦石の北東側に、大城家のサ⸢クラカ＜地名＞の畑がある)。

⸢**ミートゥクル [⸢mi:tukuru]**【名】三箇所。三方。⸢ミートゥクルヌ⸣ カミ ガ⸢ナ⸣シ [⸢mi:tukurunu⸣ kami ga⸢na⸣ʃi](三箇所の神様)。

⸢**ミードゥク⸣ル [⸢mi:duku⸣ru]** 【名】見どころ。取り得。長所。ミ⸢ドゥク⸣ル [mi⸢duku⸣ru](見所) ともいう。ウ⸢ヌ⸣ ッ⸢ふァー ミードゥクル⸣ヌ ⸣アンダー マー⸢ズン⸣シ ナ⸢ラー⸣シ ミラ⸢ディー [ʔu⸢nu⸣ f⸢fa: mi:dukuru⸣nu ⸣ʔanda: ma:⸢ʥuŋ⸣ʃi na⸢ra:⸣ʃi mira⸢di:](あの子は見所があるから一緒に教えてみようよ)。

⸢**ミートゥシ [⸢mi:tuʃi]** 【名】新年。正月。「にひとし (新・年)」の転訛したものか。⸢ミートゥシ⸣ ン⸢カイヨー⸣リ フ⸢コーラサ⸣ユー ク⸢トゥシン ヤーニン⸣ズ ⸣ドゥーパダ ⸢キンコー⸣ ア⸢ラ⸣シミ ⸢タボー⸣レーティ ッ⸢ふァマー⸣ヌ ⸢パン⸣ジョーン ム⸢ヌスクル⸣ヌ ⸢ノーリ⸣ユーン ア⸢ラ⸣シミ タ⸢ボー⸣リティル ⸢カンヌ⸣マイン ⸣ニガイッ⸢サリル⸣ユー [⸢mi:tuʃi⸣ ʔŋ⸢kaijo:⸣ri ɸṵ⸢ko:rasa⸣ju: kṵ⸢tuʃiɲ ja:nin⸣ʥu ⸣du:pada ⸢kiŋko:⸣ ʔa⸢ra⸣ʃimi ta⸢bo:⸣re:ti f⸢fama:⸣nu ⸢pan⸣ʤo:m mu⸢nusṵkuru⸣nu ⸢no:ri⸣ju:ŋ ʔa⸢ra⸣ʃimi ta⸢bo:⸣ritiru ⸢kannu⸣main ⸣nigais⸢sariru⸣ju:](新年を迎えられ、おめでとう＜有難う＞ございます。今年も家族一同健康あらしめ賜って、子孫繁昌も作物の豊作もあらしめ賜りますようにと、神様にお祈り申し上げます)。

⸢**ミートゥ⸣ダク [⸢mi:tu⸣daku]** 【名】夫婦蛸。蛸のつがい (番い)。老年層は、⸢ミュートゥ⸣ダク [⸢mju:tu⸣daku](夫婦蛸) という。一般的に大型の蛸で、一箇所に二匹、ビ⸢キタク [bi⸢kitaku](雄蛸) と⸢ミー⸣タク [⸢mi:⸣taku](雌蛸) が番(ツガイ)になって棲息していることからいう。ユ⸢ヌ⸣ ヤナナー ⸢ミュートゥダク⸣ヌ ⸢ベー⸣タ ⸢ベー⸣ティ フ⸢タッカラ⸣ シ⸢キクー⸣タ [ju⸢nu⸣ janana: ⸢mju:tudaku⸣nu ⸢be:⸣ta ⸢be:⸣ti ɸṵ⸢takkara⸣ ʃi̥⸢ki ku:⸣ta](同じ穴に夫婦蛸がいたので、二匹とも突いて＜漁獲して＞きたよ)。

⸢**ミートゥドゥキ⸣ルン [⸢mi:tuduki⸣ruŋ]** 【他動】見とどける。目配りする。⸣マーッふァヌ ⸢ガッ⸣コー ン⸢ジ⸣ルムバ ⸢ミートゥドゥキ⸣ルンティ ア⸢ゾーッタ⸣ヌ ⸢ミートゥドゥキラン⸣ケン ⸢オー⸣リ ⸢ナー⸣ヌ [⸣ma:ffanu ⸢gak⸣ko: ʔn⸢ʤi⸣rumuba ⸢mi:tuduki⸣runti ʔa⸢ʥo:t⸣tanu ⸢mi:tudukiraŋ⸣keŋ ⸢ʔo:⸣ri ⸢na:⸣nu](孫が学校に入学するのを見届けると言われたが、見とどけないうちに亡くなられて＜行かれて＞しまった)。⸣ナルカー ⸢ミートゥドゥキ⸣プサンドゥ ⸢ミートゥドゥキ⸣ル ⸣クトー ナ⸢ラン⸣パジ [⸣naruka: ⸢mi:tuduki⸣pṵsandu ⸢mi:tuduki⸣ru ⸣kṵto: na⸢ram⸣paʤi](できた＜可能な＞ら見とどけたいが、見届けることは出来ないだろう＜はず＞)。⸢ミートゥドゥキ⸣レー ⸣ミサムヌ [⸢mi:tuduki⸣re: ⸣misamunu](見届ければいいのに)。ヤー⸢ディン ミートゥドゥキ⸣リ [ja:⸢dim mi:tuduki⸣ri](きっと＜かならず＞見届けよ)。

⸢**ミートゥドゥ⸣クン [⸢mi:tudu⸣kuŋ]**【連】目が届く。注意・監督ができる。気配りできる。目配りできる。配慮することが出来る。マー⸢ンバー⸣キン ⸢ミートゥドゥ⸣クンティ ウ⸢ムータン⸣ドゥ ウ⸢マーバー⸣ケー ⸢ミートゥドゥカン⸣シェン [ma⸢mba:⸣kim ⸢mi:tudu⸣kunti ʔu⸢mu:tan⸣du ʔu⸢ma:ba:⸣ke: ⸢mi:tudukaŋ⸣ʃeŋ](どこまでも注意・監督できる＜目が届く＞と思ったが、そこまでは目が届か＜注意・監督でき＞なかった)。⸣クマー ⸢ミートゥドゥキ ヤッ⸣サン ⸣トン [⸣kuma: ⸢mi:tuduki jas⸣san ⸣toŋ](此処は目配りしやすい所だ)。⸢ミートゥドゥ⸣ク ⸣トン [⸢mi:tudu⸣ku ⸣toŋ](目が届く＜監督できる＞所)。

⸢**ミー⸣ドゥル [⸢mi:⸣duru]** 【名】めんどり (雌鶏)。⸢ミードゥル⸣ヌ ナ⸢ク⸣カー ワ⸢ザワイヌ⸣ ン⸢ジ⸣ルンティ ア⸢ザリ ブー [⸢mi:duru⸣nu na⸢ku⸣ka: wa⸢ʥawainu⸣ ʔn⸢ʤi⸣runti ʔa⸢ʥari bu:](雌鶏が鳴くと災

いが起こるといわれている)。

˹ミートゥン˺ダ **[˹miːtun˺da]** 【名】めおと (夫婦)。「メヲット (妻夫)」の転訛したもの。˹ミートゥン˺ダ　˺アイティ　バ˹カ˺リ　˹ナー˺ヌ [˹miːtun˺da ˺ʔaiti ba˹ka˺ri ˹naː˺nu](夫婦喧嘩して別れてしまった)。˹ミートゥンダ˺　ナカー　イッ˹ケン　カイ˺ヤン [˹miːtunda˺ naka: ʔik˹keŋ kai˺jaŋ](夫婦仲は非常にいい＜美しい＞)。

˹ミートゥン˺ター **[˹miːtun˺taː]** 【名】出目。飛び出ている目。「目の突き出たもの」の義。˹ミートゥンティ˺ムヌ [˹miːtunti˺munu](目の飛び出た者) ともいう。˹ヨーガリティ　ミートゥン˺ター　˺ナリ　˹ベー˺ヌヌ　˺ヌーカヤー [˹joːgariti miːtun˺taː ˺nari ˹beː˺nunu ˺nuːkajaː](痩せて出目になっているが、どうしたのか＜何だろうか＞ねえ)。

˹ミーナウ˺スン **[˹miːnau˺suŋ]** 【他動】見直す。改める。改善する。若年層は、˹ミーノー˺スン [˹miːno: ˺suŋ](見直す) ともいう。ウ˹ヌ˺　シ˹グトー　ナン˺ゾー　˹ダーッサー　ナー˺ンダー　˹ミーナウ˺スンティ　ウ˹ムーン˺ドゥ　˹ミーナウサラ˺ヌ [ʔu˹nu ˺ʃi˹guto: nan˺ʤo: ˹daːssa: naː˺nda ˹miːnau˺sunti ʔu˹muːn˺du ˹miːnausara˺nu](その仕事はあまり良くないので、見直そうと思うが、見直されない)。˹ミーナウ˺シ　˺ミサカー　˹ミーナウ˺ス　˺クトー　˺ナルン [˹miːnau˺ʃi ˺misakaː ˹miːnau˺su ˺kʷto: ˺naruŋ](見直してよければ、見直すことはできる)。˹ミーナウ˺シェー　˺ミサムヌ [˹miːnau˺ʃe: ˺misamunu](見直せばいいのに)。ヤー˹ディン　ミーナウ˺シ [jaː˹dim miːnau˺ʃi](必ず見直せ)。

˹ミー˺　ナスン **[˹miː˺ nasuŋ]** 【連】1脱穀した籾を磨り臼で玄米にする。ピ˹キウシ˺シ　グ˹トゥブカラ˺　ム˹チマイ˺　ピ˹キティ　ミー˺　ナ˹サン˺ノーレー [pʲ˹ki˺ʔuʃi˺ʃi gu˹tubukara˺ mu˹ʧimai˺ pʲ˹kiti miː˺ na˹san˺noːreː](碾臼(ヒキウス)<磨り臼(スリ)>で五斗ばかり糯米(モチゴメ)を磨(ス)って<挽(ヒ)いて>玄米にして＜実にして＞くれないか)。2結実させる。目的を実現させる。良い結果を生むようにする。成功させる。ウ˹ヌ˺　パ˹ナ˺シェー　ヤー˹ディン　ミー˺　ナシ˹ヨー [ʔu˹nu˺ pa ˹na˺ʃe: jaː˹dim miː˺ naʃi˹joː](その話は必ず成功＜結実＞させなさいよね)。ク˹ヌ˺　シ˹グトゥ　ミー˺ナシ [ku˹nu˺ ʃi˹gutu miː˺ naʃi](この仕事を成功させなさい)。

˹ミー˺ナダ **[˹miː˺nada]** 【名】涙。「〜奈美太乎能其比＜ナミダヲノゴヒ＞〜。万、4398」の転訛したもの。˹ミー˺ナダ　ッ˹スリ [˹miː˺nada s˹suri](涙を拭(ヌグ)え)。

˹ミー˺ナディ　パ˹ダ˺ナディ **[˹miː˺nadi pa˹da˺nadi]** 【連】体や肌を心をこめてさする。慈しむ。可愛がる。大事に扱う。「身撫で、肌撫で」の義。ヤ˹ラ˺ベー　˹ミー˺ナディ　パ˹ダ˺ナディ　˹シェー˺ティル　ス˹ダティ˺ル˹ダー [ja˹ra˺be: ˹miː˺nadi pa˹da˺nadi ˹ʃeː˺tiru su˹dati˺ru˹daː](子供は体をさすり、肌をさするようにして慈しんで育てるものだよ)。

˹ミー˺　ナ˹マラ˺スン **[˹miː˺ na˹mara˺suŋ]** 【連】恥をかかせる。体面を傷つける。外見で親兄弟の面子をつぶす。「身鈍らす」の義か。ウ˹ヌ˺　シ˹ナタカッコー˺シェー　ウ˹ヤ˺ヌ　˹ミー˺　ナ˹マラ˺スンダ　ミ˹チェー˺　ン˹ジル˺ナ [ʔu˹nu˺ ʃi˹natakakkoː˺ʃe: ʔu˹ja˺nu ˹miː˺ na˹mara˺sunda mi˹ʧeː˺ ʔn˹ʤiru˺na](その姿形＜みなり。身形＞では親の体面を傷つける＜恥をかかせる＞から、外出するな＜道へはでるな＞)。

˹ミー˺ナライ **[˹miː˺narai]** 【名】1見習い。見て学ぶ＜習う＞こと。˺ヌーンクイン　シ˹グトー　ゾージ˺ヌ　プ˹ソー˺ラ　˹ミー˺ナライ　˹シェー˺ティル　ウ˹ブイ˺ル [˺nuːŋkuiŋ ʃi˹guto: ʤoːʤi˺nu pʷ˹soː˺ra ˹miː˺narai ˹ʃeː˺tiru ʔu˹bui˺ru](何でもかんでも、仕事は上手な人から見習いしながら覚えるものだ)。2見慣れていること。ウ˹レー　ミー˺ナライ　˹シーブンダ　ナン˺ゾー　ミ˹ジラ˺サー　˹ナー˺ヌ [ʔu˹reː miː˺narai ˹ʃiːbunda nan˺ʤo: mi˹ʤira˺saː ˹naː˺nu](それは見慣れているから、あまり珍しくない)。

˹ミー˺ナライ　シ˹キナライ **[˹miː˺narai ʃi˹kinarai]** 【連】見様見まね。見真似聞き真似して覚えること。見聞を広めること。「見習い・聞き習い」の義。˺シザンケートゥ　ア˹サビ　ブンダ　ミー˺ナライ　シ˹キナライ　シー˺　ムノー　˺ユー　ッ˹シルブー [˺ʃiʤaŋkeːtu ʔa˹sabi bunda miː˺narai ʃi˹kinarai ʃiː˺ muno: ˺juː ʃ˹ʃiru buː](年長者たちと遊んでいるから、見聞を広めて＜見習い・聞き習いして＞、ものごとをよく知っている)。˹ミー˺ナライ　シ˹キナライ　シェー˺ティル　ノー˹ン　ゾー˺ジェー　˺ナル [˹miː˺narai ʃi˹kinarai ʃeː˺tiru noː˹n ʤoː˺ʤeː](見真似聞き真似して覚えてぞ＜見習い聞き習いして＞何事も上手になるものだ)。

˹ミー˺ナラウン **[˹miː˺narauŋ]** 【他動】見習う。見て真似をする。見て学ぶ。学ぶ。真似る。ウ˹リバ　ミー˺ナラウンティ　˹スンドゥ˺　ム˹チカサ˺ヌ　˹ミーナラーラ˺ヌ [ʔu˹riba miː˺naraunti ˹sundu˺ mu˹ʧikasa˺nu ˹miːnaraːra˺nu](彼を真似よう＜見習おう＞とするが、難しくて真似られない)。ウ˹リバ　ミー

˺ナライ　˹シー˺ミサカー　˹ミー˺ナラウ　˺クトー　˺ナルン [ʔuˈriba miːˈnarai ˈʃiːˈmisakaː ˈmiːˈnarau ˈkuto: ˈnaruŋ](彼を真似て＜見習って＞、やってよければ、真似る＜見習う＞ことはできる)。˹ミーナライ˺ヤー　˺ミサムヌ [ˈmiːnaraiˈjaː ˈmisamunu](真似れば＜見習えば＞いいのに)。ウ˹ヌ˺　プ˹スバ　ミー˺ナライバ [ʔuˈnuˈ puˈsuba miːˈnaraiba](彼＜その人＞を見習えよ)。

˹ミー˺　**ナルン [ˈmiːˈ naruŋ]**　【連】1実を結ぶ。「実がなる」の義。ク˹ヌ˺　フ˹ナ˺ボー　˹ミー˺　ナルン [kuˈnuˈ ɸuˈnaˈboː ˈmiːˈ naruŋ](この蜜柑＜九年母＞は実がなる)。2実現する。成功する。ウ˹ヌ˺　シ˹ムル　ドゥール　スー˺カー　˹ワー˺　シ˹グトー　ミー˺　ナルンティ　ウ˹モー˺リン [ʔuˈnuˈ ʃiˈmuru duːru suːˈkaː ˈwaːˈ ʃiˈguto: miːˈ narunti ʔuˈmoːˈriŋ](その計画＜見積もり＞通りにすれば、君の仕事は成功する＜実現する。実になる＞と思われる)。

˹ミーナンカ **[ˈmiːnaŋka]**　【名】三七日忌。死後三週間目に執り行われる法事。˺アツァー　˹イー˺ネヌ　˺アッパー　˹ミーナンカ˺　ア˹タリ　ブーバ　ソッコー˺ムヌ　˹オーシリ˺バ˹ヨー [ˈʔatsaː ˈʔiːˈnenu ˈʔappaː ˈmiːnaŋkaˈ ʔaˈtari buːba sokkoːˈmunu ˈʔoːʃiri ˈbaˈjoː](明日は西隣のお祖母さんの三七日忌に当っているので香典＜˹コー˺パナ [ˈkoːˈpana] 焼香もの。米三合、沖縄板線香三枚、酒三合＞を差し上げなさいね)。

˹ミーニ **[ˈmiːni]**　【名】十二支の巳 (み) の日。˹ワー˺　マ˹リビーヤ　ミーニー　ヤッタ˺ミー [ˈwaːˈ maˈ ribiːja miːni: jattaˈmiː](君の生まれ日は巳の日だったよねえ?)。

˺ミーニシ **[ˈmiːniʃi]**　【名】晩秋に吹きはじめる北風。「新北風」の義。「にひ (新)」は、「新治＜ニヒバリノ＞〜。万 2855」の転訛した、ミー [miː](新しい) に、ニ˹シカジ [niˈʃikaʤi](北風) の「ニシ」が付いて形成された合成語。老年層は˺ッサンス [ˈssansu](白北風) ともいう。˺ミーニシヌ　˹スー˺カー　˹オシケー˺　ヤ˹ビ˺ス [ˈmiːniʃinu ˈsuːˈkaː ˈʔoʃi̥keːˈ jaˈbiˈsu](ミーニシ＜晩秋の北風＞が吹くと天気は崩れる＜破れる＞)。

˹ミーニチ **[ˈmiːnitsi]**　【名】命日。その人が死亡した日に当たる毎月または毎年の日で、線香をあげたり茶湯をして回向(エコウ)をした。忌日。ウ˹ヤ˺ヌ　˹ミーニチェー　バスクンドー˺シ　˹カウ˺　シキティ　˹サー˺ドー　ア˹ギ　オーシブー [ʔuˈjaˈnu ˈmiːnitʃeː ˈbasu̥kundoːˈʃi ˈkauˈ ʃi̥kiti ˈsaːˈdoː ʔaˈgiʔoːʃi buː](親の命日を忘れないで、線香を点けて茶湯を供え上げ通している)。

˹ミーヌ˺カー **[ˈmiːnuˈkaː]**　【名】まぶた (瞼)。「目の皮」の義。˹ミーヌカー˺ヌ　フ˹クルン˺ケン　ナ˹キ　ベー [ˈmiːnukaːˈnu ɸu̥ˈkuruŋˈken naˈki beː](瞼が腫れるほど泣いている)。

˹ミーヌ˺シビ **[ˈmiːnuˈʃibi]**　【名】めじり (目尻)。˹ミーヌ˺シビナー　˹イン˺ヌヤーヌ　˺ンジティ　ヤ˹ミ˺ス [ˈmiːnuˈʃibinaː ˈʔinˈnujaːnu ˈʔnʤiti jaˈmiˈsu](目尻に、ものもらい＜麦粒腫＞が出て痛むよ)。

˹ミー˺ヌ　˺シル **[ˈmiːˈnu ˈʃiru]**　【連】涙。「目の汁」の義。˹ミー˺ヌ　シ˹ル˺ヌ　˹カーラキテー　ナー˺ヌ　ナ˹キトゥーシル　ブー [ˈmiːˈnu ʃiˈruˈnu ˈkaːrakiteː naːˈnu naˈkituːʃiru buː](涙＜目の汁＞の乾くということは＜〜ことととて＞ない。泣き通して＜ぞ＞いる)。

˹ミーヌ˺シン **[ˈmiːnuˈʃiŋ]**　【名】1めがしら (目頭)。「目の芯」の転訛か。ヤ˹ラビ˺ヌ　˹ミーヌ˺シンナー　ミ˹ツム˺ヌ　˹ペー˺ル　˺ピンマー　ム˹カ˺シェー　ブ˹ネーヌ　シー˺バ　˹アーシ˺　イ˹リティル˺　トゥ˹ローッタ˺ル [jaˈrabiˈnu ˈmiːnuˈ ʃinnaː miˈtsumuˈnu ˈpeːˈru ˈpimmaː muˈkaˈʃeː buˈneːnu ʃiːˈba ˈʔaːʃiˈ ʔiˈ ritiruˈ tuˈroːttaˈru](子供の目頭に塵(ゴミ)が入るときは、昔は母親がお乳を搾って目に入れて＜塵を流して＞取り除かれた)。2視力。˹ミーヌシン˺ヌ　˹ヨー˺リティ　パ˹ル˺ヌ　˺ミー　ヌ˹キユーサヌ [ˈmiːnuʃinˈ nu ˈjoːˈriti paˈruˈnu ˈmiː nuˈkijuːsanu](視力＜目の芯＞が弱くなって、針の穴に糸を通すことができない)。

˹ミーヌ˺スバシ　プ˹スバ˺　ミルン **[ˈmiːnuˈsubaʃi pu̥ˈsubaˈ miruŋ]**　【連】軽蔑した目つきで人を見る。正視しないで人を見る。横目で人を見る。「目の側＜横目＞で人を見る」の義。ウ˹ヌ˺　プ˹ソー　ミーヌ˺スバシル　˹バンタ˺ヨー　ミ˹ロー˺ル [ʔuˈnuˈ pu̥ˈso: miːnuˈsubaʃiru ˈbantaˈjoː miˈroːˈru](あの方は軽蔑した目つき＜目の横＞で私等を見られる)。

˹ミーヌ˺　ソー **[miːnuˈ soː]**　【連】目で記憶すること。目の記憶力。「目の性」の義。˹ミーヌ˺ソー　˺アン [ˈmiːnuˈ soː ˈʔaŋ](記憶力がある＜目の性がある＞)。˹ミーヌ　ソー˺ヌ　˹ナーン˺ユンダ　˹ターヤッタ˺ユー　ムッ˹トゥ˺　ウ˹ムイ　ンザサラ˺ヌ [ˈmiːnu soːˈnu naːɲˈjunda ˈtaː jattaˈjuː mutˈtuˈ ʔuˈmui ʔnʤasaraˈnu](目の記憶力がないから、誰だったのか、ちっとも思い出されない)。

˹ミーヌ˺　タマ **[ˈmiːnuˈ tama]**　【連】目の玉。眼球。˹

ミーヌ˺　タマナー　キ˹ジヌ˺　アンツォー [˹miːnu˺ tamanaː ki˹ʤinu˺ ʔantsoː](眼球に傷があるそうだ)。

˹ミーヌッ˺サン **[˹miːnus˺saŋ]** 【形】見苦しい。見るにたえられない。「醜(ミニク)し < 見憎し >。痛醜 < アナミニク > 賢しらをすと〜。万、344」の転訛か。ミ˹ドゥム˺ヌ　タ˹バ˺ク　˺フクカー　˹ミーヌッ˺サンティ　ア˹ゾーッタン˺ド　マ˹ナ˺マー　˹ミーヌッサー　ナー˺ヌ [mi˹dumu˺nu ta˹ba˺ku ˺ɸu̥kuka: ˹miːnus˺santi ʔa˹ʤoːttan˺du ma˹na˺maː ˹miːnussaː naː˺nu](女が煙草をふかすと見苦しいと言われたものだが、今は見苦しくない)。˹ミーヌッサ˺ヌ　˺ミリ　ブ˹ララヌ [˹miːnussa˺nu ˺miri bu˹raranu](見苦しくて、見ておれない)。˹ミーヌッサ　˺クトー　˹ナー˺ヌ [˹miːnus˺sa ˺ku̥toː ˹naː˺nu](見苦しいことはない)。˹シンダイ　ミーヌッ˺サ　˺ナリ　˹キー˺ス [˹ʃindai miːnus˺sa ˺nari ˹kiː˺su](次第に見苦しくなってくるよ)。

˹ミーヌ˺ッス **[˹miːnu˺ssu]** 【名】1目やに。めくそ(目糞)。「眵、<〜米久曾 >　目汁凝也」『和名抄』の転訛したもの。ヤ˹ラビ˺ヌ　˹ミーヌ˺　ッス　ッ˹スリ˺　トゥリ　ッ˹ふィーリ˺バ [ja˹rabi˺nu ˹miːnu˺ssu s˹suri˺ turi f˹fiːri˺ba](子供の目やに < 目糞 > を拭(ヌグ)って取ってくれよ)。˹シーッふァイッふァ˺ヌ　˹ミーヌ˺ッソー　˹シー˺バ　˹アーシティ˺　フ˹クラシティル˺　ッ˹スリ˺　トゥ˹ローッタ˺ル [˹ʃiːffaiffa˺nu ˹miːnu˺sso: ˹ʃiː˺ba ˹ʔaːʃiti˺ ɸu̥˹kuraʃi̥tiru˺ s˹suri˺ tu ˹roːtta˺ru](乳児の目やに < 目糞 > は、乳を搾(シボ)って目糞を柔らかくしてから拭い取られたものだ)。2わずかばかりのもの。少量のもの(強調表現)。ン˹マー˺　ムノー　˹ミーヌ˺ッスンツァン　ヌ˹カラ˺ヌ [ʔm ˹maː˺ munoː ˹miːnu˺ssuntsan nu˹kara˺nu](美味しいものは少しも < 目糞ほども > 残らない)。

˹ミー˺ヌ　ッ˹ス˺タマ **[˹miː˺nu s˹su˺tama]** 【連】白い目玉。しろまなこ(白眼)。「目の白玉」の義。˹ミー˺ヌ　ッ˹ス˺タマー　ユ˹ヌンゴー˺リ　˹ベー [˹miː˺nu s˹su˺tamaː ju˹nuŋgoː˺ri ˹beː](眼球 < 目の白玉 > が濁っている)。

˹ミーヌ˺ッふァ **[˹miːnu˺ffa]** 【名】ひとみ(瞳)。まなこ(眼)。黒目。瞳孔。「目の子」の義。「眼、万奈古 < まなこ >、目子也」『和名抄』の転訛したもの。˺パルシ　˹ミーヌ˺ッふァ　˹ピッ˺ケーラ　˹デー˺ジ˹ダー [˺paruʃi ˹miːnu˺ffa ˹pik˺keːraː ˹deː˺ʤi˹daː](針で瞳を刺すと大変だよ)。˹ミーヌ˺ッふァー　プ˹ス˺　バ˹ラーシル　ブー [˹miːnu˺ffaː pu̥˹su˺ ba˹raːʃiru buː](瞳はにっこりしている < 瞳は人を笑わせている >。愛嬌がよい)。

˹ミー˺ヌ　ッ˹ふ˺タマ **[˹miː˺nu f˹fu˺tama]** 【連】瞳孔。ひとみ(瞳)。目の中の黒い部分。「目の黒玉」の義。˹ソー˺マー　˹ミー˺ヌ　ッ˹ふ˺タマー　˹ナー˺ヌ [˹soː ˺maː ˹miː˺nu f˹fu˺tamaː ˹naː˺nu](やぶにらみ < 藪睨み。斜視 > の人には瞳がない)。

˹ミー˺ヌ　˺ドゥク **[˹miː˺nu ˺duku]** 【連】目の毒。見ると悪影響を及ぼすもの。ウ˹レー　ミー˺ヌ　˺ドゥク　ヤ˹リバ˺　ヤ˹ラビン˺マー　ミ˹シル˺ナ [ʔu˹reː miː˺nu ˺duku ja˹riba˺ ja˹rabim˺maː mi˹ʃiru˺na](それは目の毒だから子供には見せるな)。

˹ミー˺ヌ　ナ˹ダ˺カ **[˹miː˺nu na˹da˺ka]** 【連】目の高さほど。目の丈ほど。ヤ˹ラビ˺ヌ　フ˹ドゥベー˺　トゥ˹キユドゥマ˺ヌ　キサー˹ティ˺　ウ˹ヤ˺ヌ　˹ミー˺ヌ　ナ˹ダ˺カ　フ˹ドゥビ　ブー [ja˹rabi˺nu ɸu˹dube:˺ tu̥˹kijuduma˺nu ki̥saː˹ti˺ ʔu˹ja˺nu ˹miː˺nu na˹da˺ka ɸu˹dubi buː](子供の成長は早い < 時淀まない >。すでに親の目の高さほどに成長して < 程生ひて > いる)。ヤ˹ラ˺ベー　˹ミー˺ヌ　ナ˹ダ˺カ　˺ナルカー　イ˹ジル˺　ナ˹ラー˺ス　˹ティー˺カケー　ナ˹ラ˺ヌ [ja˹ra˺be: ˹miː˺nu na˹da˺ka ˺naruka: ʔi˹ʤiru˺ na˹raː˺su ˹tiː˺kḁke: na˹ra˺nu](子供は親の目の高さになると、叱って教えるのであって手に掛けるものではない)。

˹ミー˺ヌ　˺パタ **[˹miː˺nu ˺pḁta]** 【連】目の側。目のふち。まぶち(目縁)。「目の端」の義。˹ミー˺ヌ　パ˹タ˺ナー <˺スバナー >　ア˹シブ˺ヌ　˺ンジ　˹ベー [˹miː˺nu pḁ˹ta˺naː <˺subanaː > ʔa˹ʃibu˺nu ˺ʔnʤi ˹beː](目の縁におできができて < 出て > いる)。

˹ミー˺ヌ　˺フカ **[˹miː˺nu ˺ɸu̥ka]** 【連】目の外。視野の外。眼中にないこと。˺グリー　˹スーバン˺　ッ˹サンコーラシ˺ル　˹オー˺ル　˹バン˺タ˹ナー˺トー　˹ミー˺ヌ　˺フカティル　˺ウムイ　˹ヨー˺ルパジ [˺guriː ˹suːban˺ s˹saŋkoːraʃi˺ru ˹ʔoː˺ru ˹ban˺taː˹naː˺toː ˹miːnu ˺ɸu̥katiru ˺ʔumui ˹joː˺rupaʤi](お辞儀をして挨拶しても知らないふりをされる。私など視野の外 < 眼中にない > と思っておられるはずだ)。

˹ミー˺ヌ　フ˹タナカ **[˹miː˺nu ɸu̥˹tanaka]** 【連】眉間。目と目の間。マ˹ユヌ˺　フ˹タナカ [ma˹junu˺ ɸu̥ ˹tanaka](眉間)ともいう。˹ミー˺ヌ　フ˹タナカヌ˺　シ˹ビシゥカリ　ブー˺　プ˹ソー˺　˺ムヌ　ミルンティ˹ダー [˹miː˺nu ɸu̥˹tanakaːnu˺ ʃi˹bisi̥kari buː˺ pu̥˹soː˺ munu mirunti˹daː](眉間がくっついている人は幽霊 < 魔物 > を見ることができるそうだよ)。

˹ミー˺ヌ　フ˹チ **[˹miː˺nu ɸu̥˹tʃi]** 【連】目頭(メガシラ)。「目の

口」の義。ˈミーヌˀフチ [ˈmiːnuˀɸu̥ʧi](目頭) ともいう。ˈミーヌˀフチナー　ミˈツムˀヌ　ˈペーˀリティヤˈミˀス [ˈmiːnuˀɸu̥ʧinaː miˈtsumuˀnu ˈpeːˀriti jaˈmiˀsu](目頭に塵が入って < 目が > 痛むよ)。

ˈミーˀヌ　フˈチˀル [ˈmiːˀnu ɸu̥ˈʧiˀru] 【連】目薬。「目の薬」の義。ムˈカˀシェー　ˈミーˀヌ　フˈチˀローˈナーンˀベーティ　ブˈネーヌ　シーˀバ　ˈアーシˀ　イˈリミッˀタリ　ˀカニンカザバ　ˀキシティ　ウˈヌˀ　シˈルˀバ　フˈチˀルティ　ˈシーˀ　イˈリ　オーッタˀル [muˈkaˀʃeː ˈmiːˀnu ɸu̥ˈʧiˀroː ˈnaːmˀbeːti buˈneːnu ʃiːˀba ˈʔaːʃiˀ ʔiˈrimitˀtari ˀkaniŋkadʑaba ˀki̥ʃiti ʔuˈnuˀ ʃiˈruˀba ɸu̥ˈʧiˀruti ˈʃiːˀ ʔiˈri ʔoːttaˀru](昔は目薬は無いので、母親の乳を搾って入れてみたり、野葡萄の蔓 < カズラ > を切って、その汁を薬といって目に入れておられたものだ)。

ˈミーヌˀマイ [ˈmiːnuˀmai] 【名】1眼前。目前。間近。ˈミーˀヌ　ˀマイ [ˈmiːˀnu ˀmai](目の前) ともいう。ˈマイカレー　ミーヌˀマイ　ˀナリ　ˈキーˀ　ブーバン [ˈmaikareː ˈmiːnuˀmai ˀnari ˈkiːˀ buːbaŋ](稲刈りは、目前になって来ているわい)。ッˈふァー　ミーヌˀマイナール　シゥˈカˀリ [fˈfaː miːnuˀmainaːru si̥ˈkaˀri](子供は目の前 < 間近 > にぞ置かれる < 間近に置かないと困る >)。2目の前。自分の目の前。自分の利益。ˈドゥーˀヌ　ˈミーˀヌ　マイˈカーニˀ　スˈルバン　パンˀク [ˈduːˀnu ˈmiːˀnu maiˈkaːniˀ suˈrubam paŋku](自分の利益 < 目の前 > だけに算盤をはじく)。

ˈミーヌマイˀヌ　ˈパンシ [ˈmiːnumaiˀnu ˈpaŋʃi] 【連】当座しのぎ < 凌(シノキ)ぎ >。差し当たり目の前 < 当座 > を切り抜けること。「目の前の外し」の転訛。ˀクビシェー　ˈミーヌマイˀヌ　ˈパンシンツァンˀ　ナˈラˀヌ [ˀkubiʃeː ˈmiːnumaiˀnu ˈpaŋʃintsanˀ naˈraˀnu](これだけでは当座凌ぎ < 目前の問題外し > にさえもならない)。

ˈミーヌˀマチ [ˈmiːnuˀmaʧi] 【名】まつげ (睫)。ミˈドーンˀッふァー　ˈミーヌマチˀヌ　ナーˈナーˀシ　ˀムイティ　イッˈケンˀ　アˈタラˀサン [miˈdoːŋˀffaː ˈmiːnumaʧiˀnu naːˈnaːˀʃi ˀmuiti ʔikˈkeŋˀ ʔaˈtaraˀsaŋ](女の子は睫も長く生えて、非常に可愛い)。

ˈミーヌˀマユ [ˈmiːnuˀmaju] 【名】眉。ˈミーヌˀマユ　ˀスリティ　ˀマヤ　ウˈバーシˀ　シケー [ˈmiːnuˀmaju ˀsuriti ˀmaja ʔuˈbaːʃiˀ ʃi̥keː](眉を剃って猫を驚かせてある)。

ˈミーヌンガーラˀスン [ˈmiːnuŋgaːraˀsuŋ] 【他動】見逃す。大目に見る。見落とす。ˀバーヤ　ˈミーヌンガーラˀスンティ　ˈスンドゥˀ　フˈカˀヌ　プˈソー　ミーヌンガーラサンˀツォー [ˀbaːja ˈmiːnuŋgaːraˀsunti ˈsunduˀ ɸu̥ˈkaˀnu pu̥ˈsoː miːnuŋgaːrasanˀtsoː](私は、見逃そうとするのだが、他の人は見逃さないそうだ)。ˈミーヌンガーラˀシ　ッˈふィーリ [ˈmiːnuŋgaːraˀʃi fˈfiːri](見逃してくれ)。クˈレー　ミーヌンガーラˀス　ˀクトー　ナˈラˀヌ [kuˈreː miːnuŋgaːraˀsu ˀku̥toː naˈraˀnu](これは見逃すことはできない)。ˈミーヌンガーラˀシェー　ˀミサムヌ [ˈmiːnuŋgaːraˀʃeː ˀmisamunu](見逃せばいいのに)。ˈミーヌンガーラˀシ [ˈmiːnuŋgaːraˀʃi](見逃せ)。

ˈミーパイ [ˈmiːpai] 【名】感謝。ありがたく思うこと。「御拝」の転訛したもの。フˈコーラサ [ɸu̥ˈkoːrasa](ありがたいこと。感謝) より敬意が高い。フˈコーラサ　ミーパイˀユー [ɸu̥ˈkorasa miːpaiˀjuː](有難うございます。最高敬語)。ˈヤーニンズーˀヌ　ˀドゥーパダキンコー　マˈブリˀシキ　タˈブˀローリ　シゥカイˈトゥ　ミーパイˀユー [ˈjaːninʤuːˀnu ˀduːpadakiŋkoː maˈburiˀʃi̥ki taˈbuˀroːri si̥kaiˈtu miːpaiˀjuː](家族の健康をお守り下さって誠に有難うございます)。

ˈミーパカ [ˈmiːpaka] 【名】1ˈミープス [ˈmiːpusu](死んで間もない人) を葬った墓にいう。ˀカナー　ˈミーパカヌˀ　アン [ˀkanaː ˈmiːpakanuˀ ʔaŋ](あそこに死んで間もない人を葬った墓がある)。2新しい墓。ˈミーパカˀ　スˈクˀローリティ　パˈカヌˀ　ヨイ　ˈソーッˀタツォー [ˈmiːpakaˀ su̥ˈkuˀroːriti pḁˈkanuˀjoi ˈsoːtˀtatsoː](新しい墓を造られて、墓のお祝いをされたそうだ)。

ˀミーハガー [ˀmiːhagaː] 【名】(動) 魚の名。和名、イロブダイ (雌)。体色は全体的に薄茶色の一色で統一されている。雄のˈアーガˀチャー [ˈʔaːgaˀʧaː](イロブダイ) は上体部分がグリーンを基調とする中に、頭部から尾びれにかけて縞模様(シマモヨウ)に並ぶオレンジ色の半月紋が華やかで、下顎(シタアゴ)から胸鰭(ムナビレ)にかけて流れるスカイブルーのストライプが一層の鮮やかさを増すのと対照的である。ˀミーハガーヤ　ˈミーˀイズティˈダー [ˀmiːhagaːja ˈmiːˀʔidʑutiˈdaː](ミーハガーは雌魚だそうだよ)。

ˀミーパガー [ˀmiːpagaː] 【名】ただれめ (爛(タダレ)目) の人 (蔑称)。眼瞼湿疹(ガンケンシッシン)の人 (蔑称)。まぶたの赤く爛れた者。ˈミーパギˀプス [ˈmiːpagiˀpu̥su](爛れ目の人) ともいう。ˀドゥク　スˈクッチナーティˀル　ˀミーパガー　ˀナリ　ˈベーˀル [ˀduku su̥ˈkuttʃinaːˀtiru ˀmiːpagaː ˀnari ˈbeːˀru](あまりにも不潔だから、ただれめ < 爛れ目 > になっているのだよ)。ˀミーパ

ガーヌ　⌝サジ　シゥ⌜カウ⌝カー　⌝ミー　パグン⌜ダー [⌝mi:paga:nu ⌝saʤi sï̥⌜kau⌝ka: ⌝mi: pagun⌜da:](爛れ目の人の手拭を使うと目が爛れるよ)。

⌜ミーバカ⌝スン [⌜mi:baka⌝suŋ] 【他動】見分ける。鑑別する。見て区別する。「見分かす」の義。⌜タッ⌝テヌ　ッ⌜ふァ⌝ティ　シ⌜ラカタ⌝チェーラ　⌜ミーバカ⌝スンティ　⌜スンドゥ　ミーバカサラ⌝ヌ [⌜tat⌝tenu f⌜fa⌝ti ʃi⌜rakata⌝ʧe:ra ⌜mi:baka⌝sunti ⌜sundu mi:bakasara⌝nu](何処の家の子供だと、顔貌から見分けようとするが、見分けられない)。⌜ミーバカ⌝シ　⌜シェー⌝カー　⌜ミーバカ⌝シバ [⌜mi:baka⌝ʃi ⌜ʃe:⌝ka: ⌜mi:baka⌝ʃiba](見分けることができる＜見分け得る＞なら、見分けろよ)。⌜ミーバカ⌝ス　⌝クトー　ナ⌜ラ⌝ヌ [⌜mi:baka⌝su ⌝ku̥to: na⌜ra⌝nu](見分けることは出来ない)。⌜ミーバカ⌝シェー　⌝ミサムヌ [⌜mi:baka⌝ʃe: ⌝misamunu](見分ければいいのに)。

⌜ミーパカ⌝ラウン [⌜mi:paka⌝rauŋ] 【他動】見計らう。適当な時期を考える。ウ⌜ヤ⌝ヌ　⌜オー⌝ル　⌝ピンバ　⌜ミーパカ⌝ライ　ア⌜ナ⌝ミ　⌜ギーティ⌝　タ⌜ナ⌝ミバ [ʔu⌜ja⌝nu ⌜ʔo:⌝ru ⌝pimba ⌜mi:paka⌝rai ʔa⌜na⌝mi ⌜gi:ti⌝ ta⌜na⌝miba](親が＜家に＞いらっしゃる時を見計らって訪ねていって、頼みなさいよ)。⌜ミーパカ⌝ラウンティ　⌜スンドゥ⌝　ムッ⌜トゥ　ミーパカラーラ⌝ヌ [⌜mi:paka⌝raunti ⌜sundu⌝ mut⌜tu mi:pakara:ra⌝nu](見計らおうとするが、ちっとも見計らわれない)。⌜ミーパカ⌝ラウ　⌝クトー　ナ⌜ラ⌝ヌ [⌜mi:paka⌝rau ⌝ku̥to: na⌜ra⌝nu](見計らうことはできない)。⌜ミーパカライ⌝ヤー　⌝ミサムヌ [⌜mi:pakarai⌝ja: ⌝misamunu](見計らえばいいのに)。⌜ミーパカ⌝ライバ [⌜mi:paka⌝raiba](見計らえよ)。

⌜ミーパギ⌝プス [⌜mi:pagi⌝pu̥su] 【名】ただれ目の人。眼病の人。ビ⌜ナー⌝　プ⌜スナー⌝ル　⌜ミーパギ⌝プソー　⌜ゴー⌝ラー [bi⌜na:⌝ pu̥⌜suna:⌝ru ⌜mi:pagi⌝pu̥so: ⌜go:⌝ra:](不潔な人にただれめ＜爛れ眼＞の人は多い)。

⌝ミー　パ⌜ギ⌝ルン [⌝mi: pa⌜gi⌝ruŋ] 【連】目がただれる。「目が禿げる」の義。⌜ミー⌝ヌ　⌝ヤン　カ⌜カ⌝ルカー　⌝ミー　パ⌜ギ⌝ルン [⌜mi:⌝nujaŋ kḁ⌜ka⌝ruka: ⌝mi: pa⌜gi⌝ruŋ](眼病＜目の病＞にかかると目が爛れる)。⌝ミレー　ナ⌜ラン⌝　ムヌ　⌝ミルカー　⌝ミー　パ⌜ギ⌝ルンティ⌜ダー [⌝mire: na⌜ram⌝ munu ⌝miruka: ⌝mi: pa⌜gi⌝runti⌜da:](見てはならないものを見ると、目が爛れるそうだよ)。

⌜ミーパシゥ⌝カーン [⌜mi:pasï̥⌝ka:ŋ] 【形】まぶしい＜眩しい＞。まばゆい(眩い)。ティ⌜ダ⌝ヌ　⌜スー⌝ワンダ　⌜ミーパシゥカー⌝ヌ　⌝ムヌ　ミ⌜ララ⌝ヌ [ti⌜da⌝nu ⌜su:⌝wanda ⌜mi:pasï̥ka:⌝nu ⌝munu mi⌜rara⌝nu](太陽光線が強いので、眩しくてものがよく見えない＜見られない＞)。イッ⌜ケナ　ミーパシゥ⌝カーンティ　ス⌜クタヌ　ナン⌝ゾー　⌜ミーパシゥカーナー⌝ヌ [ʔik⌜kena mi:pasï̥⌝ka:nti su̥⌜kutanu nan⌝ʣo: ⌜mi:pasï̥ka: na:⌝nu](非常に眩しいと聞いたが、あまり眩しくない)。⌜シンダイ　ミーパシゥ⌝カー　⌝ナルン [⌜ʃindai mi:pasï̥⌝ka: ⌝naruŋ](次第に眩しくなる)。⌜ミーパシゥ⌝カー　⌝クトー　⌜ナー⌝ヌ [⌜mi:pasï̥⌝ka: ⌝ku̥to: ⌜na:⌝nu](眩しいことはない)。

⌜ミーパシゥ⌝クン [⌜mi:pasï̥⌝kuŋ] 【自動】まばたき(瞬き)する。しばたたく(瞬く)。⌜ミーパシ⌝キ　⌜スン [⌜mi:paʃi̥⌝ki ⌜suŋ](瞬きする)。⌝アイニ　⌜ミーパシゥ⌝クン　⌜ギン⌝シェー　⌜ミーヌ⌝ル　⌝ヤムパジ [⌝ʔaini ⌜mi:pasï̥⌝kuŋ ⌜giŋ⌝ʃe: ⌜mi:nu⌝ru ⌝jamupaʤi](あんなに瞬きするからには、目が痛いのだろう＜痛いはずだ＞)。⌜ミーパシゥカン⌝ドーシ　⌝ミリバ [⌜mi:pasï̥kan⌝do:ʃi ⌝miriba](瞬きしないで見ろ＜見れ＞よ)。

⌜ミーパシ⌝ナー [⌜mi:paʃi⌝na:] 【名】(動) 魚の名。和名、トガリエビス (体長 30～35 センチ)。鮮やかな朱色の体色に白の細く短いい縦縞が体全体に広がっている。朱の背びれや尾びれが高貴で目出度い感じを与える魚である。夜の⌜スー⌝チズー [⌜su:⌝ʧiʣu:](大潮＜潮干時＞の義) に島の後ろの干瀬のヤ⌜トゥ [ja⌜tu](干瀬の深い割れ目。「谷」『日本国語大辞典 13』の転訛か) で釣った。

⌜ミーパダ [⌜mi:pada]【名】新嫁。嫁して間もない頃の嫁。「新肌」の義。⌜ミーパダユミ [⌜mi:padajumi](新嫁) ともいう。⌝パダ [⌝pada](肌。としごろ。年齢) は、⌝ドゥーパダ [⌝du:pada](体。胴体)、ヤ⌜ラビ⌝パダ [ja⌜rabi⌝pada](子供の頃) のように用いられる。⌜ミーパダ⌝　ヤ⌜ルムヌ⌝　ア⌜サ⌝ニビ　ス⌜ンティ⌝　イ⌜ズナ⌝ティバーヤ [⌜mi:pada⌝ ja⌜rumunu⌝ ʔa⌜sa⌝nibi ⌜sunti⌝ ʔi⌜ʣuna⌝tiba:ja](新嫁だもの、＜嫁が＞朝寝坊するからといって叱るなってば)。

⌝ミー　パ⌜タックン [⌝mi: pḁ⌜takkuŋ] 【連】目を押し開く。睡っている目を開く。瞑っている目を開く。⌝ミー　パ⌜タックン [⌝mi: pḁ⌜takkuŋ](目を押し開ける)。⌝ミー　パ⌜タッキティ　ミー⌝ヌ　フ⌜チ⌝ル　イ⌜リ　ッふィーリ⌝バ [⌝mi: pḁ⌜takkiti mi:⌝nu ɸu̥⌜ʧi⌝ru ʔi⌜ri ffi:ri⌝ba](目を押し開けて目薬を入れてやりなさいよ)。

⌜ミー⌝バ　ッ⌜サピカリ　スン [⌜mi:⌝ba s⌜sapikari

suŋ] 【連】じろっと怒った目付きをする。「目を下光りさせる」の義。下から上目遣いに睨むさまをいう。˞ミー˜バ　ッ˞サピカリ　シー˜　プ˞スバ˜　ミリ　˜ヌーヤ　ウ˞レー [˞miː˜ba s˞sapikari ʃiː˜ pu̥ ˞suba˜ miri ˜nuːja ʔu˞reː](じろっと上目遣いに他人を見て、何たるさまだね、これは)。

˞ミーバッ˜パイ **[˞miːbap˜pai]** 【名】見違い。見誤り。˞ミー [˞miː](見る) の連用形に˞バッ˜パイ [˞bap˜pai](誤り。間違い。取り違え) がついて形成された複合語。ミ˞ドゥム˜トゥ　ビ˞キドゥムバ　ミーバッ˜パイ　˞シー　ナーン˜シェン [mi˞dumu˜tu bi˞kidumuba miːbap˜pai ˞ʃiː naːŋ˜ʃeŋ](女と男を見違えてしまった)。

˞ミー˜パナ **[˞miː˜pana]** 【名】顔。顔立ち。目鼻立ち。「目鼻」の義。˞ミーパナ˜ヌ　ス˞クリヨー˜ヤ　ビッ˞ツティ˜　ビ˞ケー　ニーブ [˞miːpana˜nu su̥˞kurijoː ˜ja bit˞tsuti˜ bi˞keː niːbu](顔貌の作りようは、そっくり父親に似ている)。˞ミー˜パナ　ア˞バ˜レーン [˞miː˜pana ʔa˞ba˜reːŋ](顔貌が美しい)。ク˞ルビティ　ミー˜パナ　ヤ˞マ˜シ　˜シケーバン [ku˞rubiti miː ˜pana ja˞ma˜ʃi ˜ʃi̥keːbaŋ](転んで顔を傷つけて＜病まして＞あるよ)。

˞ミー˜バリ **[˞miː˜bari]** 【名】ひびわれ (罅割(ヒビワレ))。亀裂(キレツ)。材木や甕(カメ)などにひび (罅(ヒビ)) が入ってできる割れ目。ミ˞ジカミバ˜　ク˞ルバシ˜　クーンケン　イ˞シ˜ナー　ア˞タリティ　ミー˜バリ　˞シーナー˜ヌ [mi ˞ʤikamiba˜ ku˞rubaʃi˜ kuːŋkeŋ ʔi˞ʃi˜naː ʔa˞tariti miː ˜bari ˞ʃiːnaː˜nu](水甕(ミズガメ)を転ばしてくるうちに石に当ってひび割れしてしまった)。

˞ミー˜パルン **[˞miː˜paruŋ]** 【自動】ひび (罅) が入る。亀裂が生じる。˞ミー [˞miː](裂け目) に、˜パルン [˜paruŋ](走る) が付いて形成された合成語。マ˞カ˜ルドンゴー　˞ウッツァー˜スカー　˞ミー˜パルンダ　カ˞ビ˜シ　ッ˞ス˜ムカー　˞ミーパラ˜ヌ [ma˞ka˜rudoŋgoː ˞ʔuttsaː˜suka: ˞miː˜parunda ka˞bi˜ʃi s˞su ˜muka: ˞miːpara˜nu](お碗類＜お碗道具＞はぶつかる＜打ち合わせる＞と罅(ヒビ)が入るので、紙で包むと罅が入らない)。˞ミー˜　パ˞ラ˜シ　˜シケー [˞miː ˜ pa˞ra˜ʃi ˜ʃi̥keː](罅を入れてある)。マ˞カ˜ロー　˞ミー˜パリ　˞ベー [ma˞ka˜roː ˞miː˜pari ˞beː](お椀は罅がはいっている)。˞ミー˜パル　˜ムノー　˞カウナ [˞miː˜paru ˜munoː ˞kauna](罅の入るものは買うな)。

˜ミー　˞パン˜クン **[˜miː ˞paŋ˜kuŋ]** 【連】まぶた (瞼) を裏返す。「目を弾く」の義。ミ˞ジ˜ナー [mi˞ʤi˜ naː](スベリヒユ) の茎で上下の瞼を弾いて裏返す子供の遊びがあった。˜ミー　˞パン˜キ　˜イキ　˜フキティ　ミ˞ツ˜ム　˜トゥリバ [˜miː ˞paŋ˜ki ˜ʔiki ˜ɸu̥kiti mi˞tsu˜mu ˜turiba](瞼を裏返し＜弾き＞、息を吹きかけて、目の中のごみを取り除けよ)。

˞ミーピカリ˜ムヌ **[˞miːpikari˜munu]** 【名】よく癲癇症状(テンカンショウジョウ)を発症(ハッショウ)する人。よく発作(ホッサ)をを起こす人。よく気絶する人。ウ˞レー　ミーピカリ˜ムヌ　ヤ˞ルンダ˜　ドゥク　ウ˞バースナ˜ヨー [ʔu˞reː miːpikari ˜munu ja˞runda˜ duku ʔu˞baːsuna˜joː](彼＜それ＞はよく発作を起こす人だから、あまり驚かすなよ)。

˜ミー　ピ˞カ˜ルン **[˜miː pi̥˞ka˜ruŋ]** 【連】1目が光る。怒る。叱る。ヤ˞ナクトゥ　スー˜カー　˜アブジェー　˜ミー　ピ˞カ˜ロールン˞ダー [ja˞nakṵtu suː˜kaː ˜ʔabuʤeː ˜miː pi̥˞ka˜roːrun˞daː](悪い事をすると、お祖父さんが目を光らされる＜怒られる＞よ)。2癲癇(テンカン)症状を発症する。ブ˞チ˜クン　˞スー˜カー　˞ミー˜　ピ˞カ˜ルン [bu˞ʧi˜kun ˞suː˜kaː ˞miː˜ pi̥˞ka˜ruŋ](気絶すると目が光る＜癲癇症状を発症する＞)。ウ˞シダマ˜　カ˞カ˜リティ　˞ミー˜　ピ˞カ˜リ　˞ベー [ʔu˞ʃidama˜ kḁ˞ka˜riti ˞miː˜ pi̥˞ka˜ri ˞beː](癲癇にかかって＜癲癇症状を発して＞目を光らせている)。

˞ミービキ˜ドゥム **[˞miːbiki˜dumu]** 【名】言動が女のような男。「女男 (おんなおとこ)」の義。ウ˞レー　ミービキ˜ドゥム　ヤ˞ルンダ˜　ブ˞ドゥロー˜　イッ˞ケナ　ゾー˜ジ [ʔu˞reː miːbiki˜dumu ja˞runda˜ bu ˞duroː ʔik˞kena ʤoː˜ʤi](彼は女のような男だから、踊は非常に上手だ)。

˞ミーピッキ˜ジン **[˞miːpikki˜ʤiŋ]** 【名】穴のあいたお金。˞穴あき銭」の義。˜ミーフガージン [˜miːɸu-gaːʤiŋ](穴あき銭) ともいう。ム˞カ˜シェーラ　˞ミーピッキジン˜マー　ア˞リ˜ブタ [mu˞ka˜ʃeːra ˞miːpikkiʤim˜maː ʔa˞ri˜buta](昔から穴あき銭はあった＜有り居った＞)。

˜ミー　˞ピッキ˜ルン **[˜miː ˞pikki˜ruŋ]** 【連】小穴があく。ナ˞ビ˜ヌ　ス˞ク˜　ドゥク　カ˞ラ˜イシシ　˜トゥーカー　˜ミー　˞ピッキ˜ルン˞ダー [na˞bi˜nu su̥ ˞ku˜ duku ka˞ra˜ʔiʃiʃi ˜tuːka: ˜miː ˞pikki˜run˞daː](鍋の底を軽石であまり擦(コス)ると穴があくよ)。

˜ミー　˞ピッ˜クン **[˜miː ˞pik˜kuŋ]** 【連】**(1)**(他動) 小穴をあける。˞クン˜ナー　˜ミー　˞ピッ˜クンティ　˞スンドゥ　ピッカラン˜サー [˞kun˜naː ˜miː ˞pik˜ kunti ˞sundu pikkaran˜saː](これに小さな穴を開けようとするが、穴が開けられないよ)。˞ヤー˜ヌ ク˞ビ˜ナー　˞イー˜ルシ　˜ミー　˞ピッ˜キバ [˞ja:˜nu

ku˩bi˥naː ˩ʔiː˥ruʃi ˥miː ˩pik˥ki](家の壁に錐(キリ)で小さな穴を開けなさい)。˥ミー ˩ピッ˥キティ ˥イトゥヌ˩キ˥バ [˥miː ˩pik˥kiti ˥ʔitu nu˩ki˥ba](穴をあけて糸を通しなさい＜貫け＞よ)。**(2)**(自動) 小穴があく。ナ˩ビ˥ヌ ス˩ク˥ ミー ˩ピッ˥キ ˩ナー˥ヌ [na˩bi ˥nu sɥ˩ku˥ miː ˩pik˥ki ˩naː˥nu](鍋の底に小穴があいてしまった)。

˥ミーフガー **[˥miːɸugaː]** 【名】穴のあいた物。穴のあいた古着。ク˩ヌ キン˥マー ˥ミーフガー ˥ナリティ キ˩サラヌ [ku˩nu kim˥maː ˥miːɸugaː ˥nariti kɨ˩saranu](この着物は穴のあいた古着になって着られない)。

˩ミーフカ˥スン **[˩miːɸɥka˥suŋ]** 【他動】見落とす。見失う。ウ˩ヌ シー˥ヨーシェー ˩ミーフカ˥スンダ ˩ミーフカサン˥ヨーシ ˩キー˥シキ トゥ˩ミ˥リ [ʔu˩nu ʃiː˥joːʃe: ˩miːɸɥka˥sunda ˩miːɸɥkasaɲ˥joːʃi ˩kiː˥ʃɨki tu˩mi˥ri](この仕方では見落とすから、見落とさないように気をつけて探せ＜とめ、尋め＞よ)。˩ミーフカ˥シ ˩ナー˥ヌ [˩miːɸɥka˥ʃi ˩naː˥nu](見落としてしまった)。˩ミーフカ˥ス ˥クトー ˩ナーン˥パジ [˩miːɸɥka˥su ˥kɥtoː ˩naːm˥padʒi](見落とすことはないはずだ)。˩ミーフカ˥シェーラ ˩デー˥ジ [˩miːɸɥka˥ʃeːra ˩deː˥dʒi](見落としたら大変だ)。ン˩メーマー ミーフカ˥シバ [ʔm˩meːma: miːɸɥka˥ʃiba](少しは見落としなさいよ)。

˥ミー フ˩ガスン **[˥miː ɸu˩gasuŋ]** 【連】会計上に穴をあける。会計上に欠損を生じさせる。使途不明金を出す。ク˩ミアイ˥ヌ ˩ジン˥バ ˩アシュ˥カリ ˩ベータン˥ドゥ ˩カッティニ˥ シュ˩カイティ˥ ミー フ˩ガシ˥ シケツォー [ku˩miai˥nu ˩dʒim˥ba ˩ʔasɨ˥kari ˩beːtan˥du ˩kattini˥ sɨ˥kaiti˥ miː ɸu˩gaʃi˥ ʃɨkeːtsoː](組合のお金を預かっていたが、勝手に使って会計上に穴をあけてあるそうだ)。˥アイニ シュ˩カウ˥カー ˥ミー フ˩ガスン [˥ʔaini sɨ˥kau˥kaː ˥miː ɸu˩gasuŋ](あのように使うと会計上に穴をあける)。

˩ミーフギカー˥フギ **[˩miːɸugikaː˥ɸugi]** 【名】穴がたくさんあいているさま。ク˩レー ミーフギカー˥フギ シ˩ティ ユー˥ゾー ˩ナー˥ヌ [ku˩reː miːɸugikaː ˥ɸugi ʃɨ˩ti juː˥dʒoː ˩naː˥nu](これはたくさん穴があいていて、使えない＜養生・手当てができない＞)。

˥ミー フ˩ギルン **[˥miː ɸu˩giruŋ]** 【連】穴があく。˥アイニ ˩ジン˥バ シュ˩カウ˥カー ˥ミー フ˩ギルン [˥ʔaini ˩dʒim˥ba sɨ˥kau˥kaː ˥miː ɸu˩giruŋ](あんなにお金を使うと会計に穴があくよ)。

˩ミーブシ **[˩miːbuʃi]** 【名】(数) 三寸。「三節(ミフシ)」の義。一節は人差し指の第一関節と第二関節の間の長さ。プ˩ソー ミーブシヌ˥ シタシル グ˩フ˥ドー ッ˩ふァイシティル [pɥ˩soː miːbuʃinu˥ ʃɨtaʃiru gu˩ɸu˥ doː f˩fai ʃɨtiru](人間は舌先三寸＜三寸の舌先＞で五体を食い殺す＜食い捨てる＞ものだ。＜よくよく心して話せ。迂闊(ウカツ)に話すな＞)。

˩ミー˥ブシ **[˩miː˥buʃi]** 【名】鰹節の名。雌節。カツオの腹部の身で製造した鰹節。ハ˩ラ˥ブシ [ha˩ra˥buʃi](腹節) ともいう。˩ミー˥ブシェー ˩ウー˥ブシェーラン ˩ダイヤー ヤッ˥サル アル˩ナー [˩miː˥buʃeː ˩ʔuː˥buʃeːran ˩daijaː jassa˥ru ʔaru˩naː](雌節は雄節よりも値段は安いねえ＜安くぞあるねえ＞)。

˩ミープス **[˩miːpɥsu]** 【名】新しい遺体。埋葬したばかりの遺体。埋葬して間もない遺体。˩ミープスヌ˥ カ˩ザミラ˥リ ˩オー˥ル パ˩カー サンニンキ˥ヌ ˩アイ˥ヤー ア˩キララヌ [˩miːpusunu˥ ka˩dʒamira˥ri ˩ʔoː˥ru pɥ˩kaː sanniŋki˥nu ˩ʔai˥jaː ʔa˩kiraranu](新しい遺体を葬った墓は、三年忌の間は開けられない)。

˩ミー˥フチ **[˩miː˥ɸutʃi]** 【名】顔。顔つき。容貌。顔貌(カオカタチ)。「目口」の義。ヤ˩ラ˥ベー ウ˩ヤ˥ヌ ˩ミー˥フチ ˩バシキ ナー˥ヌ [ja˩ra˥beː ʔu˩ja˥nu ˩miː˥ɸutʃi ˩baʃɨki naː˥nu](子供は親の顔を忘れてしまった)。˩ミー˥フチェー ビ˩ケーニ˥ル ˩ニーブー [˩miː˥ɸɥtʃeː bi˩keːni˥ ru ˩niːbuː](顔貌は父親に＜ぞ＞似ている)。ウ˩ヤ˥ヌ ˩ミー˥フチェー イッ˩カ バシキララヌ [ʔu˩ja˥nu ˩miː˥ɸɥtʃeː ʔik˩ka baʃɨkiraranu](親の面差しは決して忘れられない)。

˩ミープトゥ˥ラーン **[˩miːputu˥raːŋ]** 【形】まばゆい(眩い)。まぶしい(眩(マブシ)い)。プ˩トゥ˥ラーン [pɥ˩tu˥raːŋ](眩(マブシ)い) は、プ˩トゥ˥ル [pɥ˩tu˥ru](稲妻) の形容詞化したもの。「対象物が光り輝き過ぎて眩しい」の意味。˩ミープトゥラー˥ヌ ミ˩ララ˥ヌ [˩miːpɥtura: ˥nu mi˩rara˥nu](眩(マブシ)くて見られない)。˩マープスマー˥ ティ˩ダ˥ヌ ˩ミープトゥ˥ラーンダ ˩ミー˥ヤ プ˩ラッカラヌ [˩maːpɥsuma:˥ ti˩da˥nu ˩miːpɥtu˥raːnda ˩miː˥ja pu˩rakkaranu](真昼間は太陽が眩しいので目が開けられない)。ナ˩ラウ˥ター ˩デン˥トーン ˩ナン˥ゾー ˩ミープトゥラー ナー˥ヌ [na˩rau˥taː ˩den˥toːn ˩nan˥dʒoː ˩miːputura: naː˥nu](慣れたので電灯もあまり眩しくない)。˩ミープトゥ˥ラー ˥クトー ˩ナー˥ヌ [˩miːpu˥tura: ˥kɥtoː ˩naː˥nu](眩しいことはない)。˩ミープトゥ˥ラータン [˩miːputu˥raːtaŋ](眩しかった)。

˹ミープトゥ˺レーシキル **[˹mi:pu̥tu˺re:ʃikiru]** 【名】白に黒の斑点がある海鼠(ナマコ)。「目・眩(マブシ)いなまこ」の義。白い肌に黒の斑点があり、見る人に対し、眩しく目をパチパチさせる感があることから命名されたという。ッ˹ス˺パダナー ˹テンテン˺シ ッ˹ふアヤ˺ヌ ˺アル シ˹キルバ ミープトゥ˺レーシキルティ ア˹ズト ダー [s˹su˺padana: ˹tenteŋ˺ʃi f˹fuʔaja˺nu ˺ʔaru ʃi̥˹kiruba mi:pu̥tu˺re:ʃi̥kiruti ʔa˹ʤu˺da:](白肌に点々と黒い斑点＜模様＞のあるナマコをミープトゥレーシキル＜目・眩しき海鼠＞というのだよ)。

˹ミーブラー˺リ **[˹mi:bura:˺ri]** 【名】見惚れること。ア˹マ˺ヌ ブ˹ドルヌ˺ ウ˹ムッ˺サティ ナー˹イ ミーブラー˺リ ˹シー ベー˺ダー [ʔa˹ma˺nu bu˹du-runu˺ ʔu˹mus˺sati na:˹ji mi:bura:˺ri ˹ʃi: be:˺da:](余りにも踊りが面白いので、ただじっと見惚れているのだよ)。

˹ミーフラッカ˺スン **[˹mi:ɸurakka˺suŋ]** 【他動】1目を開けさせる。孔を空ける。2成功させる。˹ミーフラッカ˺スンティ ˹スンドゥ˺ ムッ˹トゥ ミーフラッカサラ˺ヌ [˹mi:ɸurak˺kasunti ˹sundu˺ mut˹tu mi:ɸurakkasara˺nu](目を開けさせようとするが、一向に目を開けさせられない)。2教育を受けさせる。教養を養成させる。ビ˹コーンッふァー ミーフラッカ˺スンティ ˹ウイヌ ガッ˺コー ン˹ザ˺シ ˺シケー [bi˹ko:ŋffa: mi:ɸurakka˺sunti ˹ʔuinu gak˺ko: ʔn˹ʤa˺ʃi ˺ʃi̥ke:](男の子は教育を受けさせ成功させようと上級学校に出してある)。

˺ミー フ˹ラックン **[˺mi: ɸu˹rakkuŋ]** 【連】目を開ける。若年層の言葉。˺ミー フ˹ラックンティ スンドゥ˺ ムッ˹トゥ˺ フ˹ラッカラヌ [˺mi: ɸu˹rakkunti sundu˺ mut˹tu˺ ɸu˹rakkaranu](目を開けようとするが、ちっとも開けられない)。

˺ミー プ˹ラックン **[˺mi: purakkuŋ]** 【連】目を開く。老年層の言葉。˺ミー プ˹ラッキティ˺ ユー˺ミリバ [˺mi: pu˹rakkiti˺ ju: ˺miriba](目を開いてよく見なさいよ)。˺ミー プ˹ラックンティ スンドゥ˺ カ˹ジヌ スーワ˺ティ ˺ミー プ˹ラッカラヌ [˺mi: pu˹rakkunti sundu˺ ka˹ʤinu su:˺wati ˺mi: pu˹rakkaranu](目を開こうとするが、風が強くて目が開けられない)。

˹ミー˺ブリ シ˹キブリ **[˹mi:˺buri ʃi̥˹kiburi]** 【連】見とれて聞き惚れること。「みほれ (見惚れ)、聞き惚れ」の転訛。ウ˹ヌ˺ プ˹スヌ˺ パ˹ナシ˺ヌ ウ˹ムッ˺サティ ナー˹イ ミー˺ブリ シ˹キブリ シー ベーン˺ケンマー シ˹グトゥ˺ ウ˹チバシ˺キ ˹シー ナー˺ヌ [ʔu˹nu˺ pu̥˹sunu˺ pa˹naʃi˺nu ʔu˹mus˺sati na:˹i mi:˺buri ʃi̥˹kiburi ʃi: be:ŋ˺kemma: ʃi˹gutu˺ ʔu˹ʧibaʃi̥˺ki ˹ʃi: na:˺nu](あの人の話が面白くて、ただじっと見とれ、聞き惚れているうちに、すっかり仕事を忘れてしまったよ)。

˹ミー˺ブリ ˹スン **[˹mi:˺buri ˹suŋ]** 【連】見とれる。見惚れる。うっとりと見惚れる。「見惚れ・する」の義。ウ˹リヌ˺ ブ˹ドゥル スー˺カー ウ˹ムッ˺サユンダ ˹フン˺トー ˹ミー˺ブリ ˹スン˺ダー [ʔu˹rinu˺ bu˹duru su:˺ka: ʔu˹mus˺sajunda ˹ɸun˺to: ˹mi:˺buri ˹sun˺da:](あれ＜彼＞が踊をすると面白いから、本当に見惚れるよ)。

˹ミーホー˺スン **[˹mi:ho:˺suŋ]** 【他動】不足分を埋め合わせる。補填(ホテン)する。「穴を塞(フサ)ぐ。穴を埋め合わせる」の義。˹ジン˺ヌ タ˹ラーン ブン˺マー ˺ドゥーシ カ˹リ˺キーンノーン ˹ミーホー˺スンティ ˹スンドゥ ミーホーサラ˺ヌ [˹ʤin˺nu ta˹ra:m bum˺ma: ˺du:ʃi ka˹ri˺ki:nno:m ˹mi:ho:˺sunti ˹sundu mi:ho:sara˺nu](お金の不足分は自分で借りてきてでも埋め合わせようとするが、埋め合わせられない)。˺ドゥーシ ˹ミーホー˺シ ˺ミサカー ˹ミーホー˺ス ˺クトー ˺ナルン [˺du:ʃi ˹mi:ho:˺ʃi ˺misaka: ˹mi:ho:˺su ˺ku̥to: ˺naruŋ](自分で埋め合わせてよければ、埋め合わせることは出来る)。˹パー˺ク ˹ミーホー˺シェー ˺ミサムヌ [˹pa:˺ku ˹mi:ho:˺ʃe: ˺misamunu](早く埋め合わせばいいのに)。˺ドゥーシ ˹ミーホー˺シ [˺du:ʃi ˹mi:ho:˺ʃi](自分で埋め合わせよ)。

˹ミーマー˺スン **[˹mi:ma:˺suŋ]** 【他動】あたりを見回す。周囲を見回す。あたりをぐるりと見る。˹ドゥー˺ヌ ˹マール ミーマースン˺ドゥ ター˹ン˺ ブ˹ラーヌ [˹du:˺nu ˹ma:ru mi:ma:sun˺du ta:˹m˺ bu˹ra:nu](自分の回りを見回すが誰もいない)。˹ミーマーシ˺ プサンドゥ ˹ミーマサラ˺ヌ [˹mi:ma:ʃi˺ pu̥sandu ˹mi:ma:sara˺nu](見回したいが見回されない)。˺ドゥーシ ˹ミーマー˺ス ˺クトー ナ˹ラ˺ヌ [˺du:ʃi ˹mi:ma:˺su ˺ku̥to: na˹ra˺nu](自分で見回すことはできない)。˹ミーマー˺シェー ˺ミサムヌ [˹mi:ma:˺ʃe: ˺misamunu](見回せばいいのに)。ヤー˹ディン ミーマー˺シ [ja:˹dim mi:ma:˺ʃi](必ず見回せよ)。

˹ミーマール **[˹mi:ma:ru]** 【名】田圃の見回り。

˹ミーマー˺ル **[˹mi:ma:˺ru]** 【名】見回り。巡視。˹アー˺ヤー ˹ター˺ヌ ˹ミーマー˺ル ˹シン パイ˺ター ˹オーッ˺タ [˹ʔa:˺ja: ˹ta:˺nu ˹mi:ma:˺ru ˹ʃim pai˺ta:

˹ʔoːt˺ta](お父さんは、水田の見回りをしに南端＜西表島北部＞へ行かれた)。

˹ミーマール **[˹miːmaːru]** 【名】身の回りの世話。˹ドゥー˺ヌ ˹ミーマールンツァン シーユーサンムヌ˺ヌ プ˹スヌ˺ ク˹トゥ˺ヌ ナ˹ルン [˹duː˺nu ˹miːmaːruntsaŋ ʃiːjuːsam munu˺nu pu̥˹sunu˺ ku̥˹tu˺nu na˹ruŋ](自分の身の回りの世話すらできない＜成しえない＞者に他人の世話＜こと＞ができるものか)。

˹ミーマー˺ルン **[˹miːmaː˺ruŋ]**【自動・他動】見回る。巡視する。˹ター˺ヤ ˹ミーマーラン˺カー カ˹マイ˺ヌ ˹ペー˺ルンダ プ˹スインゴー˺シシ ˹ミーマー˺リ˹ヨー [˹taː˺ja ˹miːmaːraŋ˺kaː ka˹mai˺nu ˹peː˺runda pu̥˹suiŋgoː˺ʃiʃi ˹miːmaː˺ri ˹ʃiː˺joː](田圃は見回らないと猪が入るから、一日置きに見回れよ)。˺ドゥーシ ˹ミーマー˺リ ˺ミサカー ˹ミーマー˺ル ˺クトー ˺ナルン [˺duːʃi ˹miːmaː˺ri ˺misakaː ˹miːmaː˺ru ˺ku̥toː ˺naruŋ](自分で見回って良ければ、見回ることはできる)。˹ミーマー˺レー ˺ミサムヌ [˹miːmaː˺reː ˺misamunu](見回れば良いのに)。˹ミーマー˺リバ [˹miːmaː˺riba](見舞われよ)。

˹ミーマイ **[˹miːmai]** 【名】新米。新しく収穫された米。ッ˹ふ˺マイ [f˹fu˺mai](古米) の対義語。˹ミーマイ˺ ッサイティ バ˹カシ˺ シケーヌ イッ˹ケナ˺ ン˹マー˺ンダ ヤー˹ディン˺ ッ˹ふァイティ˺ パリバ [˹miːmai˺ ssaiti ba˹kaʃi˺ ʃi̥keːnu ʔik˹kena˺ ʔm˹maː˺nda jaː˹diŋ˺ f˹faiti˺ pariba](新米を精げて炊いてあるが、非常に美味しいので、是非食べて行きなさいよ)。

˹ミー˺マイ **[˹miː˺mai]** 【名】お見舞い。病人や被災者を訪ねて慰めたり、金品を贈ること。˹イー˺ネヌ ˺アッパー ˺ヤミ ˹オー˺ルティバ ˹ミー˺マイ ˹シン˺ パ˹ラン˺カー ナ˹ラ˺ヌ [˹ʔiː˺nenu ˺ʔappaː ˺jami ˹ʔoːru˺tiba ˹miː˺mai ˹ʃim˺ pa˹raŋ˺kaː na˹ra˺nu](西隣のお祖母さんが病気で臥せっておられるそうだから、お見舞いしに行かなければならない)。

˹ミーマイ˺ムヌ **[˹miːmai˺munu]** 【名】見舞い品。ヤ˹ミプス˺ヌ ˹ミーマイ˺ムノー ˹ヌー˺ル マ˹シ˺カヤー [ja˹mipu̥su˺nu ˹miːmai˺munoː ˹nuː˺ru ma˹ʃi˺kajaː](病人の見舞い品は何が良い＜増し＞でしょうか)。

˹ミーマ˺ジ **[˹miːma˺ʤi]** 【名】 (動) ミミズ (蚯蚓)。˹ミーマ˺ジバ ˹ムン˺ダニ シ˹ティ˺ ユー イ˹ズ ホーシ˺タン [˹miːmaʤi˺ba ˹mun˺dani ʃi̥˹ti˺ juː ʔi˹ʤu hoːʃi̥˺taŋ](ミミズを餌にして、よく魚を釣ったよ)。˹ミーマジ˺ヌ ˹ブー˺ パ˹タキ˺ヌ ˹ジー˺ヤフ˹キ˺ジー ヤ˹ルンダ ウン˺マー ˹ミールン˺ダー [˹miːmaʤi˺nu ˹buː˺ pḁ˹taki˺nu ˹ʤiː˺ja ɸu̥˹ki˺ʤiː ja ˹runda ʔum˺maː ˹miːrun˺daː](ミミズのいる畑の土地は肥えた土地だから、芋は実るよ)。

˹ミーマ˺ジキー **[˹miːma˺ʤikiː]** 【名】(植) 木の名。シロミミズ。重くて燃えにくい樹木という。˹ミーマ˺ジキーヤ ˹ナン˺ゾー ˹ムイランダ˺ タ˹ム˺ヌ ナ˹ラ˺ヌ [˹miːma˺ʤikiːja ˹nan˺ʤoː ˹muiranda˺ ta˹mu˺nu na˹ra˺nu](シロミミズの木はあまり燃えないので、薪にはできない)。

˹ミーマチ˺ガイ **[˹miːmatʃi˺gai]** 【名】見間違い。見誤り。ウ˹レー˺ バー ˹ミーマチガイ˺ル ヤ˹レー˺バン [ʔu˹reː˺ baː ˹miːmatʃigai˺ru ja˹reː˺baŋ](それは私の見間違いであったわい)。

˹ミーマチガイ˺ルン **[˹miːmatʃigai˺ruŋ]** 【他動】見間違える。見誤る。˺アイニ ˹ニーヤー˺カー ター˹ン ミーマチガイ˺ルンティル ウ˹モー˺リ [˺ʔaini ˹niːjaː˺kaː taː˹m miːmatʃigai˺runtiru ʔu˹moː˺ri](あんなに似ていたら、誰だって見違える＜見誤る＞と思われる)。イコー˹ラ ニーブタンティン ミーマチガイラ˺ヌ [ʔikoː˹ra niːbutantim miːmatʃigaira˺nu](いくら似ていても見間違えない)。˹ミーマチ˺ガイ ˹ナー˺ヌ [˹miːmatʃi˺gai ˹naː˺nu](見間違えてしまった)。˹ミーマチガイ˺ル ˺クトー ˹ナー˺ヌ [˹miːmatʃigai˺ru ˺ku̥toː ˹naː˺nu](見間違えることはない)。˹ミーマチガイ˺レー ＜˹ミーマチガイ˺ヤ＞ ˺ミサムヌ [˹miːmatʃigai˺reː＜˹miːmatʃigai˺ja＞ ˺misamunu](見間違えればいいのに)。˹ミーマチガイ˺リ [˹miːmatʃigai˺ri](見間違えろ)。

˹ミーマチ˺ガウン **[˹miːmatʃi˺gauŋ]** 【他動】見間違う。見間違える。見誤る。ウ˹ヌ ターチュー˺ヤ ˺ユー ˹ミーマチ˺ガウンダ ˹ミーマチガーン˺ヨーニ ˹パン˺ シ˹キ˺リ [ʔu˹nu taːʧuː˺ja ˺juː ˹miːmatʃi˺gaunda ˹miːmatʃigaːɲ˺joːni ˹paŋ˺ ʃi̥˹ki˺ri](この双子はよく見間違えるから、見間違えないように印しを付けなさい)。˹ミーマチ˺ガイ ˹ナー˺ヌ [˹miːmatʃi˺gai ˹naː˺nu](見間違ってしまった)。˺バー ˹ミーマチ˺ガウ ˺クトー ˹ナー˺ヌ [˺baː ˹miːmatʃi˺gau ˺ku̥toː ˹naː˺nu](私は、見間違えることはない)。プ˹スケン˺ナー ˹ミーマチガイ˺ヤー ˺ミサムヌ [pu̥˹suken˺naː ˹miːmatʃigai˺jaː ˺misamunu](一度ぐらいは見間違えればいいのに)。˹ミーマチ˺ガイバ [˹miːmatʃi˺gaiba](見間違えろ)。

˹ミー˺マヤ [˹miː˺maja] 【名】雌猫。˹ミーマヤ˺トゥ　ビ˹キマヤヌ˺　ズ˹ブ˺マイ　シ˹ティ˺　フヤー　˹スンダ˺　ン˹ガマサ˺ヌ　ニ˹バラヌ [˹miːmaja˺tu bi˹kimajanu˺ ʤu˹bu˺mai ʃi̥˹ti˺ ɸuja: ˹sunda˺ ʔŋ˹gamasa˺nu ni˹baranu](雌猫と雄猫が発情して吠えるから煩(ウルサ)くて眠れない)。

˹ミー˺マユ [˹miː˺maju] 【名】顔貌。顔かたち。「目眉」の転訛。ミ˹ドーンッふァ˺ヌ　˹ミー˺マユ　ア˹バレーアバレー˺シ　マ˹リベー [mi˹doːffa˺nu ˹miː˺maju ʔa˹bareːʔabareː˺ʃi ma˹ribeː](女の子が顔貌が麗しく＜美しく、可愛らしく＞生まれている)。

˹ミー˺ミカーミ [˹miː˺mikaːmi] 【副】1隅々まで。小さいところまで隈なく。˹ミー˺ミ [˹miː˺mi](穴という穴すべて) の ABACBA 型の重言。˹ミー˺ミカーミ　フ˹ジ˺リ　˹ミシ˺キティ　ヤッ˹トゥ˺シ　トゥミケール　˺ムヌ [˹miː˺mikaːmi ɸu˹ʤi˺ri ˹miʃi̥˺kiti jat˹tu˺ʃi ˺tumikeːru ˺munu](あちらこちら隈なくほじくり＜穿り＞探して、やっとで捜し求めてきたもの)。2根堀り葉堀り。微細に。˹ミー˺ミカーミ　˹トゥイスクン [˹miː˺mikaːmi ˹tuisu̥kuŋ](根堀り葉堀りこまごまと問い尋ねる＜聞く＞)。

˹ミー˺ミナ [˹miː˺mina] 【名】 (動) 牝貝。ニシキウズ科。和名、ギンタカハマ。広セ貝。貝類の牝貝一般にもいう。ビ˹キミナ [bi˹kimina](雄貝) の対義語。「女蜷(メニナ)」の義。「河貝子、美奈＜みな＞」『和名抄』の転訛したもの。雄貝に比して形状も小さく、多少ずんぐりしている。ビ˹キミナ [bi˹kimina](雄貝。高セ貝＜サラサバテイラ＞) に比して美しくない。殻の外唇と内唇が「雄貝」に比して低い。牝貝はノッペラボーな顔に似、「雄貝」は彫りの深い顔に似る。˹ミー˺ミナー　˹ナン˺ゾー　タ˹カー　カーサラヌ [˹miː˺minaː ˹nan˺ʤoː tḁ˹kaː kaːsaranu](牝貝はあまり高くは売れない＜買わされない＞)。˹ミー˺ミナーラン　ビ˹キミナル˺　タ˹カ˺ー　˹カーサリタ [˹miː˺minaram bi˹kiminaru˺ tḁ˹ka˺ː ˹kaːsarita](広瀬貝よりも高瀬貝の方が高く売れた)。

˹ミーミュー˺トゥ [˹miːmjuː˺tu] 【名】新しい夫婦。˹新夫婦˺の義。˹ミー　ミートゥン˺ダ [˹miː miːtun˺da](新しい夫婦) ともいう。マ˹ナマ˺ヌ　˹ミーミュー˺トー　˹ゴー˺ラー　ウ˹ヤ˺トゥ　プ˹ス˺キナイナー　˹ベーリ˺プサー　˹サンバン [ma˹nama˺nu ˹miːmjuː˺toː ˹goː˺raː ʔu˹ja˺tu pu̥˹su˺kinainaː ˹beːri˺pu̥saː ˹sam-baŋ](今の新しい夫婦は、多くは親と一緒の所帯に居たがらないわい)。

˹ミーミュートゥ [˹miːmjuːtu] 【名】三夫婦 (祖父母、父母、子供夫婦)。一家に三代揃った夫婦。目出度い家庭のシンボルとして村人の憧憬(ドウケイ)＜ショウケイ＞の的となる。˹ウン˺ネーヤ　˹ミーミュートゥ˺スルイ˹ヨー˺リ　ウ˹ラーミ˺サワ˹ナー [˹ʔun˺neːja ˹miːmjuːtu˺ surui˹joː˺ri ʔu˹raːmi˺sawa˹naː](あの家は三代の夫婦が揃われて、羨ましいですね)。

˺ミー　˹ムイルン [˺miː ˹muiruŋ] 【連】老眼になる。目が遠くなる。五十歳代になると目がじらじらしてきて近くの物が見づらくなる現象。˺ミー　˹ムイティ˺　パ˹ル˺ヌ　˺ミー　ヌ˹カラヌ [˺miː ˹muiti˺ pa˹ru˺nu ˺miː nu˹karanu](老眼になって、針の穴が通せ＜貫かれ＞ない)。˹ワーヤ　ピッ˺チン　˺ミー　˹ムイランバント ナー [˹waːja pit˺tʃim ˺miː ˹muirambanˈ-naː](君はちっとも目が老眼にならないわいなあ)。

˹ミームク [˹miːmuku] 【名】花婿。新しい婿。「新婿」の義。˹ミームクバ˺　アイニ　ヤ˹ナシゥカイ　シェー˺　ナ˹ラ˺ヌ [˹miːmukuba˺ ʔaini ja˹naʔasi̥kai ʃeː˺ na˹ra˺nu](花婿＜新婿＞をあのように酷使＜酷い扱い＞をしてはならない)。

˹ミームシ [˹miːmuʃi] 【名】 (数) 三回。三度。ム˹カ˺シェー　˺プスイ　˹ミームシ (˹ミーキ)˹ウンヌイー˺バ　ッ˹ふァイヤー˺ティル　ッ˹ふァー˺　フ˹ドゥバシタ [mu˹ka˺ʃeː ˺pu̥sui ˹miːmuʃi(˺pusui ˹miːki)˹ʔunnuʔiː˺ba f˹faija:˺tiru f˹faː˺ ɸu˹dubaʃi̥ta](昔は、一日に三度＜一日三食＞、芋のご飯を食べながら子供を育て＜成長させ＞た)。˹ミームシル˺　ナル　˹マービン˺マー　ナ˹ラ˺ヌ [˹miːmuʃiru˺ naru ˹maːbim˺ ma: na˹ra˺nu](三度しかできない＜三度ぞ出来る。なる＞、それ以上はできない)。

˹ミームス [˹miːmusu] 【名】新しい筵。新品の筵。˹ミームス　カイ˺　クーバ [˹miːmusu kai˺ kuːba](新しい筵を買ってきなさいよ)。

˹ミー˺ムタイ [˹miː˺mutai] 【名】見向き。˺バー　ヤ˹ラブタヌ˺　ウ˹レー　ミームタイ˺ヤーンツァン　サ˹ヌ [˺baː ja˹rabutanu˺ ʔu˹reː miːmutai˺jaːntsan sa˹nu](私は呼んだが、彼は見向きすらもしない)。

˹ミームタイ˺ヤーンツァン　サ˹ヌ [˹miːmutai˺jaːntsan sa˹nu] 【連】歯牙にもかけない。「見向きすらもしない」の義。ウ˹ヌ˺　ミ˹ドゥ˺モーイ˹バリティ　バンタ˺ヨー　˹ミームタイ˺ヤーンツァン　サ˹ヌ [ʔu˹nu˺ mi˹du˺moː ʔi˹bariti banta˺joː ˹miːmutai˺jaːntsan sa˹nu](あの女は威張って僕らを歯牙にもかけない＜見向きすらしない＞)。

˹ミームタイ˺ルン [˹miː mutai˺ruŋ] 【自動】目をもた

げる。目を上に向ける (反抗の意思表示)。見向く。ム˞タイ˜ルン [mu˞tai˜ruŋ] は「かしら擡(モタ)げて、『竹取物語』」の転訛したもの。ウ˞スンフカンドー˜シ　˞ミームタイ˜ルンティ　˞スンドゥ˜　ス˞ブ˜ル　˞グッふァ˜ヌ　˞ミーム˜タイ　シ˞ララヌ [ʔu˞suŋɸu̥kando:˜ ʃi ˞mi:mutai˜runti ˞sundu˜ su˞bu˜ru ˞guffa˜nu ˞mi:mu ˜tai ʃi˞raranu](うつむか＜俯か＞ないで、目をもたげようとするが、頭が重くて目をもたげることができない)。

˞ミー˜ムタイン　サ˞ヌ [˞mi:˜mutain sa˞nu]【連】相手にしない。目もくれない。無視する。問題にもしない。歯牙にもかけない。イ˞ナカムヌ˜ティ　˞シーバンタ˜ヨー　˞ミー˜ムタイン　サ˞ヌ [ʔi˞nakamunu ˜ti ˞ʃi: banta˜jo: ˞mi:˜mutain sa˞nu](田舎者といって私等を相手にもしない)。

˞ミー˜　ムタウン [˞mi:˜ mutauŋ]【連】目をもたげる。目を上に向ける。下から見上げて睨む (疑問・反抗に意思表示)。ウ˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　イ˞ジ˜　シゥ˞カス˜カー　˞ミー˜　ムタイ　˜ミルンダ　キ˞ビッ˜サ　イ˞ズナ˜ヨー [ʔu˞nu˜ f˞fa:˜ ʔi˞ʤi˜ si̥˞kasu˜ka: ˞mi: ˜ mutai ˜mirunda ki˞bis˜sa ʔi˞ʤuna˜jo:](あの子は叱って教える＜聞かす＞と反抗して目を見上げて睨むから、厳しく叱るなよ)。

˞ミームドゥシ [˞mi:muduʃi]【名】(数) 三往復。三回。「みもどし (三戻し)」の転訛したもの。˞ウン˜ネーラ　˞ミームドゥシ˜　ム˞ドゥサ˜リティン　ア˞キラム˜ナー　˞ベー˜ティ　ヤッ˞トゥ˜シ　ウ˞ヤ˜ヌ　ユ˞ラ˜シ　˞イー˜リ　˜クイケール　ユ˞ミッふァー　タイ˜シチニ　˞シー˜ダー [˞ʔun˜ne:ra ˞mi:muduʃi˜ mu ˞dusa˜ritiŋ ʔa˞kiramu˜na: ˞be:˜ti jat˞tu˜ʃi ʔu˞ja˜nu ju˞ra˜ʃi ˞ʔi:˜ri ˜kuike:ru ju˞miffa: tai˜ʃi̥ʧini ˞ʃi:˜da:](あの家から三回＜三戻し＞戻されても諦めずにいるので、やっとで親の許可＜許し＞を貰って、頂いてきた＜乞うてきた＞嫁子を大切にしなさいよ)。

˞ミームヌ [˞mi:munu]【名】新品。新しいもの。「にひもの (新物)」の義。˜アイブ　ッ˞ふ˜ムノー　シ˞ティティ　ミームヌ˜　シゥ˞カイヨー˜リバ [˞ʔaibu f˞fu˜muno: ʃi̥˞titi mi:munu˜ si̥˞kaijo:˜riba](あんな古物は捨てて、新品をお使いなされよ＜使いおはせ＞)。ッ˞ふ˜ムノー　ムー˞ル　ミームヌトゥ˜　トゥ˞リカイ˜リバ˞ヨー [f˞fu˜muno: mu:˞ru mi:munutu˜ tu ˞rikai˜ribaˈjo:](古いものは全部新品と取替えなさいよねえ)。

˞ミー˜ムヌ [˞mi:˜munu]【名】雌。「雌もの」の転訛したもの。ビ˞キムヌ [bi˞kimunu](雄＜雄もの＞) の対義語。˞ミー˜ドゥル [˞mi:˜duru](雌鳥)、˞ミー˜ウシ [˞mi:˜ʔuʃi](牝牛)、˞ミー˜オー [˞mi:˜ʔo:](雌豚) などをいう。˞マン˜ズイナーン　˜バサナーン　˞ケージ˜ナーン　˞ミー˜ムヌ　ビ˞キムヌティ˜　アン˞ダー [ˈman˜ʤuina:m ˜basana:ŋ ˞ke:ʤi˜na:m ˞mi:˜munu bi˞ kimunuti˜ ʔan˞da:](パパイヤにも芭蕉にもマルバチシャノキにも雌＜もの＞と雄＜もの＞の区別があるよ)。

˞ミー˜ムヌ [˞mi:˜munu]【名】見物。みせもの (見世物)。芝居。イ˞サナキ˜ナー　イッ˞ケナ˜　ウ˞ムッ˜サル　˞ミームヌ˜ヌ　˜ケーンティバ　ウ˞リ˜　ミリン　˞オーラ˞ヌー [ʔi˞sanaki˜na: ʔik˞kena˜ ʔu˞mus˜saru ˞mi:munu˜nu ˜ke:ntiba ʔu˞ri˜ miriŋ ʔo:ra˞nu:](石垣に非常に面白い見世物が来ているそうだから、それを見に行かれませんか)。

˞ミーヤー [˞mi:ja:]【名】新しい家。新築家屋。にいや (新屋)。ア˞ラヤー [ʔa˞raja:](新築家屋) ともいう。バ˞カー˜ムヌヌ　˞ミーヤーン˜　ス˞ク˜リ　マ˞イフナー　ユン [ba˞ka:˜mununu ˞mi:ja:n˜ su̥˞ku˜ri ˞ maiɸuna: juŋ](若者が＜若者だのに＞、新築家屋も造って立派な男だ)。˞ミーヤー˜　ス˞ク˜ロールカー　˜アーパーレーウタン　イ˞ゾーッ˜タン [˞mi:ja:˜ su̥˞ku˜ro:ruka: ˜ʔa:pa:re:ʔutaŋ ʔi˞ʤo:t˜taŋ](新築家屋を造られるとアーパーレー歌＜新室寿ぎ歌＞も歌われた)。

ミー˞ヤー˜マ [mi˞ja:˜ma]【名】1小さな目。˞パンタル˜ター　ミー˞ヤー˜マ　˜ナリティ　イ˞カムス˜ク　バ˞カ˜ヤワ˞ツォー [˞pantaru˜ta: mi:˞ja:˜ma ˜nariti ʔi˞kamusu̥˜ku ba˞ka˜jawa˞tso:](太ったので、小さな目になってしまって、なんと可笑しなことか)。2小さな穴。˞フンツァ˜ヌ　ミー˞ヤー˜マーラ　フ˞キ˜ウティ˞ナー˜ヌ [˞ɸuntsa˜nu mi:˞ja:˜ma:ra ɸu̥˞ki˜ ʔuti ˞na:˜nu](床の小さな穴からふけ落ちてしまった)。

˞ミー˜ヤクティ　˞ティー˜ヤ　˜クティ [˞mi:˜ja ˜ku̥ti ˞ ti:˜ja ku̥ti]【連】注意散漫で動作がばらばらである。統制のとれない行動をすること。˞目は別、手は別」の義。˞ワー˜　ッ˞サーコー　ミー˜ヤ　˜クティ　˞テー˜ヤ　˜クティ　˜ナリティ　˜マイ　˞ユーザヌ　ヌー˜バ　˞カン˜ガイ　シ˞グトゥ　シー　ベー˜ワ [˞wa:˜ s˞sa:ko: mi:˜ja ˜ku̥ti ˞ti:˜ja ˜ku̥ti ˜nariti ˜mai ˞ju:ʤanu nu:˜ba ˞kaŋ˜gai ʃi˞gutu ʃi: be:˜wa](君の作業は注意散漫で動作がばらばらであるから、前進＜進捗＞しないのだ。何を考えて仕事をしているのか)。

˞ミーヤゴー˜ミ　フ˞チヤゴーミ [˞mi:jago:˜mi ɸu̥˞ʧi-

jago:mi] 【連】今にも泣き出さんばかりに顔をしわ (皺(シワ)) くちゃにして。目や口を歪めて不平をいうさま。「目ゆがめ・口ゆがめ」の転訛したもの。ヤ˞ラ˜ベー　˞ミーヤゴー˜ミ　フ˞チヤゴーミ　シー˜　ナ˞クンティ　ベ˜ー [ja˞ra˜be: ˞mi:jago:˜mi ɸu̥˞tʃijago:mi ʃi:˜ na˞kunti be˜:](子供は目や口を歪めて、今にも泣き出しそうにしている)。

˞ミーヤッ˜サン **[˞mi:jas˜saŋ]**【形】見やすい。ミ˞リヤッ˜サン [mi˞rijas˜saŋ](見やすい) ともいう。˞ガン˜キョー　˜カクカー　˞ミーヤッ˜サン [˞gaŋ˜kjo: ˜kḁkuka: ˞mi:jas˜saŋ](眼鏡をかけたら見やすい)。˞ナン˜ゾー　˞ミーヤッサー　ナー˜ヌ [˞nan˜ʤo: ˞mi:jassa: na: ˜nu](あまり見やすくない)。˞シンダイ　ミーヤッ˜サー　˜ナルン [˞ʃindai mi:jas˜sa: ˜naruŋ](次第に見やすくなる)。˞ミーヤッ˜サ　˜ムヌ　イ˞ラ˜ビバ [˞mi:jas˜sa ˜munu ʔi˞ra˜biba](見やすい物を選びなさい)。

˞ミー˜ヤ　˞パー˜ナルン **[˞mi:˜ja ˞pa:˜naruŋ]** 【連】驚いて目を大きく見開き茫然自失する。(あっけにとられて我を忘れてしまう)。驚きあきれて戸惑う。驚きうろたえる。ウ˞ダラ˜キティ　˞ミー˜ヤ　˞パー˜ナリ　ダ˞ラシ˜キ　ビ˞リベー [ʔu˞dara˜kiti ˞mi:˜ja ˞pa:˜ nari da˞raʃi̥˜ki bi˞ribe:](驚いて目を大きく見開いて茫然自失してべったりと坐っている)。˞ミー˜ヤ　˞パー˜ナリティ　ッ˞ふァ˜　トゥ˞ミ˜ルンティ　˜パリ　˞アー˜ク [˞mi:˜ja ˞pa:˜nariti f˞fa˜ tu˞mi˜runti ˜pari ˞ʔa:˜ku](驚きうろたえて、子供を捜して走りまわっている < あるく >)。

˜ミー　ヤ˞マ˜スン **[˜mi: ja˞ma˜suŋ]** 【連】1体面を汚す。みっともないことをする。外聞の悪いことをする。「目を病ます」の転訛したもの。見るに耐えないことをする人に対していう。ウ˞ヤ˜ヌ　˜ミーヤ˞マ˜シ　˜アイブ　ガ˞バーフイ˜キン　キ˞スナ [ʔu ˞ja˜nu ˜mi: ja˞ma˜ʃi ˜ʔaibu: ga˞ba:ɸui˜kiŋ ki̥˞suna](親の体面を汚して、あんな汚れた着物を着るな)。2得られないなものを、欲しくなる気持ちを起こさせる。欲しがらせる。気持ちを損ねる。ヤ˞ラビ˜ヌ　˜ミー　ヤ˞マ˜シ　ン˞マー˜ムヌバ　˞タン˜ガ　カー˞ニン　ッふァーサン˜　ブ˞レー˜ミサムヌ [ja˞rabi ˜nu ˜mi: ja˞ma˜ʃi ʔm˞ma:˜munuba ˞taŋ˜ga ka:˞niŋ˜ f˞fa:sam˜ bu˞re:˜ misamunu](子供の気持ちを損ねて、美味しいものを一人だけに食べさせなければいいのに)。

˞ミーユミ **[˞mi:jumi]** 【名】新しい嫁。新嫁。サ˞クシ˜ヌ　˞ミーユミバ　サーリ˜　キー　˜ヨイ　˞スンティ　オー˜ル [sḁ˞kuʃi˜nu ˞mi:jumiba sa:ri˜ ki: ˜joi ˞sunti ʔo:˜ru](長男が新嫁を迎えて < 連れてきて > お祝いをしようとしておられる)。

˞ミー˜ヨー **[˞mi:˜jo:]** 【名】めくばせ (目配せ。眄(メクバ)せ)。目つきで合図すること。プ˞スヌ˜　マイナーテー　˜ムネー　イ˞ザランダ　ミー˜ヨーシ　ア˞ジ˜　シゥ˞カシ [pu̥˞sunu˜ maina:te: ˜mune: ʔi˞ʤaranda mi: ˜jo:ʃi ʔa˞ʤi˜ si̥˞kaʃi](人前では、言葉では言えないから、目配せで知らせ < 言って聞かせ > なさい)。

˞ミーヨー˜　フ˞チ˜ヨー **[˞mi:jo:˜ ɸu̥˞tʃi˜jo:]** 【連】目や口の様子で合図すること。目配せや口ぶり。「目様・口様」の転訛したもの。˜アッパー　˞ミーヨー˜　フ˞チ˜ヨーシ　ウ˞ヌス˜ク　ア˞ゾールン˜ドゥ　˞ウンザー　ピッ˜チン　˞カントゥリヨーサ˜ン　˞ベー˜ティル　˜アブジェー　˞クン˜ゾー　ウ˞ク˜ローレー˞ダー [˜ʔappa: ˞mi:jo:˜ ɸu̥˞tʃi˜jo:ʃi ʔu˞nusu̥˜ku ʔa ˞ʤo:run˜du ˞ʔunʤa: pittʃi˜ŋ ˞kanturiju:sa˜m ˞be:˜tiru ˜ʔabuʤe: ˞kun˜ʤo: ʔu˞ku˜ro:re:˞da:](お祖母さんがあれほど目配せや口ぶりで言われるのだが、此奴がちっとも感得できないので、祖父さんは立腹されたのだ)。

˞ミー　ヨー˜ルン **[˞mi: jo:˜ruŋ]** 【連】視力が弱くなる。「目が弱る」の義。˜トゥシ　トゥ˞ル˜ター　˞ミー　ヨー˜リ　グ˞マー　˜ムノー　˜ムヌ　ミ˞ララ˜ヌ [˜tu̥ʃi tu˞ru˜ta: ˞mi: jo:˜ri gu˞ma:˜ muno:˜ munu mi˞rara˜nu](年を取ったので視力が弱って、小さい物は、ものを見ることが出来ない < ものが見えない >)。

˞ミールン **[˞mi:ruŋ]** 【自動】稔(ミノ)る。豊作となる。根菜などが稔る。熟する。「実入る」の義か。ヒャ˞クゴー˜ヤ　イッ˞ケナ　ミールン˜ティ　ス˞クタヌ˜　クマー　˞ナン˜ゾー　˞ミーランバン [çḁ˞kugo:˜ja ʔik˞kena mi:run˜ti su̥˞kutanu˜ kuma: ˞nan˜ʤo: ˞mi:ram-baŋ](百号種の芋は非常によく稔ると聞いたが、ここはあまり稔らないわい)。˞ミーリ˜　パ˞ヤー˜ン [˞mi:ri˜ pa˞ja:˜ŋ](実り < 熟し > 早い)。˞ミール˜クトー　˞ミールンドゥ˜　ン˞マーナー˜ヌ [˞mi:ru˜ku̥to: ˞mi:rundu˜ ʔm˞ma:na:˜nu](稔ることは稔るが、美味しくない)。˞マー˜ビン　˞ミーレー˜　ミサムヌ [˞ma:˜bim ˞mi:re:˜ misamunu](もっと稔ればいいのだが)。˞ウン˜マー　˞ミーレー˜ン [˞ʔum˜ma: ˞mi:re:˜ŋ](芋は稔った)。˞ミーリ [˞mi:ri](稔れ)。

˞ミーワク **[˞mi:waku]** 【名】迷惑。他人から厄介な目にあわされて困ること。シゥ˞カイットーヌ　ナーン˜　ムヌバ　˞イー˜リティ　˞ミーワク　シー

ベー [sɨ̞˩kaitto:nu na:m˩ munuba ˩ʔi:˩riti ˩mi:waku ʃi:be:](使い道のない < 利用価値のない > 物を貰って迷惑している)。ク˩ヌタベー˩ バー ッ˩ふァヌ˩ タ˩ミ˩ナー ˩ワーバー˩キ ˩ミーワク˩ カ˩キ˩シミ ˩ナーヌ˩ヌ ˩クナイ ッ˩ふィーリ˩ヨー [ku˩nutabe:˩ ba: f˩fanu˩ ta˩mi˩na: ˩wa:ba:˩ki ˩mi:waku˩ kɑ̞˩ki˩ʃimi ˩na:nu˩nu ˩kunai f˩fi:ri˩jo:](この度は、私の子供のために君にまで迷惑をかけてしまったが、堪えてくれよね)。ヤ˩ナクトゥ スー˩カー ウ˩トゥザマリン˩ シ˩マ˩ヌ プ˩スンケー˩ンナーニン ˩ミーワク˩ カ˩キ˩ルン˩ダー [ja˩nakutu su:˩ka: ʔu˩tudʑamariŋ˩ ʃi˩ma˩nu pu̞˩suŋke:˩nna:nim ˩mi:waku˩ kɑ̞˩ki˩run˩da:](悪いことをすると親戚にも島の人々にも迷惑をかけるよ)。

˩ミーングリ˩サン **[˩mi:ŋguri˩saŋ]** 【形】見苦しい。若年層の言葉。老年層は˩ミーヌッ˩サン [˩mi:nus˩saŋ](見苦しい) というのが普通。˩アイブ ˩キン キ˩シェー˩ティ ˩アー˩クカー ˩ミーングリ˩サンダ ˩ミーングリ˩サ ˩ナーン˩ カタチニ ˩シェー˩ティ ˩アー˩キバ [˩ʔaibu ˩kiŋ kɨ̞˩ʃe:˩ti ˩ʔa:˩kuka: ˩mi:ŋguri˩sanda ˩mi:ŋguri˩sa ˩na:ŋ˩ kɑ̞tatʃini ˩ʃe:˩ti ˩ʔa:˩kiba](あんな着物を着ている < あるく > と見苦しいから、見苦しくないようにしていなさいよ)。˩シンダイ ミーングリ˩サ ˩ナルン [˩ʃindai mi:ŋguri˩sa ˩naruŋ](次第に見苦しくなる)。˩ミーングリ˩サ ˩クトー ス˩ナ˩ヨー [˩mi:ŋguri˩sa ˩kṵto: su˩na˩jo:](見苦しいことはするなよ)。

˩ミーン˩マ **[˩mi:ʔm˩ma]** 【名】(動)牝馬(メウマ)。ビ˩キンマ [bi˩kiʔmma](雄馬) の対義語。パ˩トゥ˩マナー ˩ミーン˩マン ブ˩ラーンシェン [pɑ̞˩tu˩mana: ˩mi:ʔm˩mam bu˩ra:ŋʃeŋ](鳩間島には牝馬もいなかった)。

ミ˩カーミカー˩シ **[mi˩ka:mika:˩ʃi]** 【副】こっそりと見透(ミスカシ)て。天網恢恢疎にして漏らさず、密かに見透して。ミシゥ˩カーマ˩シ [misɨ̞˩ka:ma˩ʃi](こっそり見透かして。ひそかに見透して)。˩ティンヌ カン˩マー ミシゥ˩カーマシ˩ル ˩オー˩ルンダー ヤ˩ナクトー˩ シ˩ララン˩ダー [˩tinnu kam˩ma: misɨ̞˩ka:maʃi˩ru ˩ʔo:˩runda ja˩nakuto:˩ ʃi˩raran˩da:](天の神様は天網恢恢疎にして漏らさず、密かに見透しておられるから悪事は出来ないよ)。

ミ˩ガクン **[mi˩gauŋ]** 【他動】磨く。石垣方言からの借用語か。普通は、˩トゥイ ピ˩カラ˩スン [˩tui pi̞˩kara˩suŋ](研ぎ光らせる) という。˩ピーシキ˩ナビ ミ˩ガクンティ スンドゥ˩ カ˩ラ˩イシシ ア˩ラン˩カー ミ˩ガカラヌ [˩pi:ʃi̞ki˩nabi mi˩gakunti sundu˩ ka˩ra˩ʔiʃiʃi ʔa˩raŋ˩ka: mi˩gakaranu](焦げ付いた鍋を磨こうとするが、軽石でないと磨かれない)。ク˩リ˩シ ミ˩ガキ˩ ミサカー ムー˩ル˩ ミ˩ガク˩ クトー ˩ナルン [ku˩ri˩ʃi mi˩gaki˩ misaka: mu:˩ru˩ mi˩gaku˩ kṵto: ˩naruŋ](これで磨いてよければ、全部磨くことはできる)。˩マー˩ビン ミ˩ガケー˩ ミサムヌ [˩ma:˩bim mi˩gake:˩ misamunu](もっと磨けばいいのに)。˩パー˩ク ミ˩ガキ [˩pa:˩ku mi˩gaki](早く磨け)。

ミ˩キ **[mi˩ki]** 【名】みき (神酒)。濁酒。どぶろく。昔は豊年祭のとき、17,18 歳の未婚の女性で、しかも虫歯のない健康な女性に塩で歯を磨かせ、一晩水に浸けた米を噛ませて、それを、米を石臼で挽いたものに混ぜて醗酵させ、神酒を醸造したという。昭和に入ってからは、石臼で挽いた物だけを甕にいれ、醗酵させて醸造した。甘酸っぱい味で、アルコール分は弱い。豊年祭の˩プール˩ミキ [˩pu:ru˩miki](豊年祭の神酒) は 4 斗樽に入れて人々に振舞っていた。結願祭には 1〜2 斗ほど醸造して神事用に用いられた。˩ベー˩ヌ ˩アッパター ˩バー˩ケー ミ˩キ˩ カ˩モーッ˩タンティ ˩ダー [˩be:˩nu ˩ʔappata: ˩ba:˩ke: mi˩ki˩ ka˩mo:t˩tanti ˩da:](我が家のお祖母さん達までは、神酒を噛 < 醸 > まれたそうだよ)。

˩ミキ **[˩miki]** 【名】(動) 三毛猫。石垣方言からの借用語か。普通は、˩アイ˩ツァマヤー [˩ʔai˩tsamaja:](毛の色が混じっている猫) という。アッ˩タラ˩サール ˩ミキヌ ナ˩キベー˩ヌンドゥ ˩タッ˩テヌ ˩マヤーユー ˩ワー˩ ッ˩シェーン [ʔat˩tara˩sa:ru ˩mikinu na˩kibe:˩nundu ˩tat˩tenu ˩maja:ju: ˩wa:˩ ʃ˩ʃe:ŋ](可愛い三毛猫が泣いているが、何処の家の猫か、君は分かる < 知っている > か)。

ミ˩キバタ˩シ **[mi˩kibata˩ʃi]** 【名】神事に用いる酒器。インダ牧場の、ウ˩シヌ˩ヨイ [ʔu˩ʃinu˩joi](牛の祝い。牛の繁昌と健康祈願祭) の際に神酒を飲むのに用いた酒器。ヤラブ (てりはぼく) の木で作った、ハンドル (把手(ハシュ)。取手) 付きの酒器。旧暦九月に行われたウ˩シヌ˩ヨイには、牛の耳に˩ヤー˩バン [˩ja:˩baŋ](家判) をつけた。耳を切って各家の印しとした。その祭りの儀式に下記の歌が歌われた。二人の男が˩ペンシキビリ [˩peŋʃikibiri](跪(ヒザマズ)き < 正座 >) をしてミ˩キバタ˩シ [mi˩kibata˩ʃi](酒器) を持ち、歌に合わせて右上、左上へと交互に持ち上げて歌った。歌い終わって酒器を次の人へ手渡す際に、次の言葉 (祝詞) を交わした。(渡す側。二人): マ˩ムレー˩ マ˩

ムレー˥　ッサリー　˩キュー˥ヌ　ク˩ガニピー˥ナタ˩ボーラリ˥タル　˥ウーミサクドゥ　˩マームレーユー˥　ッサリー。シ˩ギシューヤ　タッ˥テヌ　ウ˩ナンナー˥マドゥ　シ˩ギシューユー˥　ッサリー　イ˩メーヌ　カー˥ジ。＜順風満帆。(受け取る側。二人)＞:˩ウー˥タリ。といって受け取る。ウ˩シヌヨイ˥ヌ　˥ウタ (牛の祝いの歌 (加治工伊佐氏伝承) は旧暦 9 月のウ˩シニー [ʔu˩ʃini:]＜丑の日＞) に歌われた。1、キューヌ　ピーヌ　ウユワイムトゥ　スイナウレ (今日の日のお祝いの本、それ稔れ)。2、フクヌマキ　ウユワイムトゥ　スイナウレ (福の牧のお祝いの本は、それ稔(ミノ)れ)。3、ムヤシバードゥ　パンゾスムトゥ　スイナウレ (牛が発情すればこそ繁昌のもとだ、それ稔れ)。4、パンゾーシヌ　ウミサク　ヌムドゥ　スイナウレ (繁昌させるところのお神酒を飲むことが、それ稔れ)。

ミ˩グトゥ [mi˩gutu] 【名】見事。見るべきこと。きわだって優れている。見もの。沖縄方言からの借用語。おそらく文政四年 (1821) 年、首里当蔵町に生まれた比屋根安粥＜ひやねあんひつ＞が安政六 (1859) 年に鳩間島に遠島を仰せつけられた際に、絵入の「舞踊勤王流」の伝本を持参したというから、その頃に鳩間島に伝えられたものと考えられる。狂言「ピラ」は、全編首里方言で語られる。/クリヤ　クヌムラ　ムジクイ　クーシェー　ハマサチドゥヤル　サティ　ワッター　ヘークンディ　ウムレー　ムラカシラヌチャー　ヘークデンナ　サティ　ワッター　チクテール　カンダファー　ドゥードゥ　ミグトゥ　ヤッサ　カタバルヌ　ガニヌアナ　カチアギテーン　ネーシ　ドゥードゥ　ミグトゥ　ヤッサ　ンダマジ　ティーチェー　フッティ　ンダ～/(これは＜罷り出でたるは＞、この村一番の農業に詳しい浜崎である。さて、我等早く＜出かけよう＞と思っていたら、村頭の方々も早々にお出ましである。さて我等が植えつけてある芋は大変見事であるよ。潟原の蟹が穴を掻き揚げてあるように、誠の見事である。さて、先ずは一つ掘ってみよう～)。ウ˩リヌ˥　パ˩リヨー˥ヤ　ミ˩グトゥユン [ʔu˩rinu˥ pa˩rijo:˥ja mi˩gutujuŋ](彼の走りようは実に見事だよ)。

ミ˩ク˥ミ [mi˩ku˥mi] 【名】見込み。予想。可能性。˥シキン　ウ˩キ˥ルンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩ヌー˥シカヤー　ミ˩クメー　˥アンカヤー [˥ʃikiŋ ʔu˩ki˥runti ʔu˩mu:n˥du ˩nu:˥ʃikaja: mi˩ku˥me: ˥ʔaŋkaja:](試験を受けようと思うが、どうだろうか。見込みはあるだろうか)。ミ˩クミ˥ヌ　˩ナーン˥カー　イ˩ソー˥　パ˩ラン˥モー　マ˩シ [mi˩kumi˥nu ˩na:ŋ˥ka: ʔi˩so:˥ pa˩ram˥mo: ma˩ʃi](見込みが無ければ漁には行かない方がよい＜増しだ＞)。

ミ˩グルン [mi˩guruŋ] 【自動】めぐる。回(マワ)る。ぐるぐる回る。歌謡語。沖縄方言からの借用語か。普通は、˩マールン [˩ma:ruŋ](回(メグ)る。めぐる) という。/イヤイーヤー　カミヌ　ククルニ　タムキ　アルラバ　ミグリミグリヌ　ナシグゥ　ウミグゥン　ンマリンマリティ　アトゥユン　サキユン　テーラン　ムヌサミ　アタル　ウヤフジ　ラクユ　ミセユサ　ナマヌ　パヤシニ　クドゥキ　ユミユミ/(イヤイーヤー＜囃子＞、神の御心に手向(タムケ)があれば、それが廻(メグ)り廻って子＜生し子＞や大切な子供も繁昌して＜生まれに生まれて＞未来永劫(ミライエイゴウ)＜後にも先にも＞絶えることは無いものだ。当る親や先祖様も楽をなさるよ。今の囃子に口説きを詠め詠め)。

ミ˩ザーバタ [mi˩ʤa:bata] 【名】横っ腹。脇腹。ヤ˩カタ˥バタ [ja˩kata˥bata](横っ腹。「片側・腹」の義か) ともいう。ミ˩ザーバタンドゥ˥　カ˩ミラ˥リ　ヤム˩サー [mi˩ʤa:batandu˥ ka˩mira˥ri jamu˩sa:](横っ腹が突き刺するように痛むよ)。

˥ミサール　˥ヨーニ [˥misa:ru ˥jo:ni] 【連】宜しく。「宜しいように」の義。ウ˩レー　ワー˥シ　˥ミサール　˥ヨーニ　˩カン˥ガイ　ッ˩ふィーリ˥バ [ʔu˩re: wa: ˥ʃi ˥misa:ru ˥jo:ni ˩kaŋ˥gai f˩fi:ri˥ba](それは、君の方で良いように考えてくれよ)。

ミ˩サク [mi˩saku] 【名】神に供える特別なミ˩キ [mi˩ki](神酒。どぶろく)。豊年祭や結願祭等に供えられた。普通の神事用の供物のミ˩キ [mi˩ki](神酒) は醸造酒の泡盛酒(アワモリ)である。˩プー˥ル　˥キチゴンヌ　ウ˩ブニン˥ガイナール　ミ˩サク˥　シ˩キル　ニン˥ガイ　˩ソーッタ˥ル [˩pu:˥ru ˥kᵢ̥tʃigonnu ʔu˩buniŋ˥gaina:ru mi˩saku˥ ʃᵢ̥˩kiru niŋ˥gai ˩so:tta˥ru](豊年祭や結願祭の大きな祈願には、ミサクを供えて祈願をされたものだ)。

ミ˩ザ˥シ [mi˩ʤa˥ʃi] 【名】琉球国時代の役職名。与人(ユンチュ)(村長) の下役で、与人を補佐する、または小村の村長を勤める役人。「目差」と表記される。˩ベー˥ヌ　ウ˩ブイー˥パイナー　ム˩カ˥シ　ミ˩ザ˥シ　˥スクドゥン　˩ソー˥レール　ウ˩ヤプス˥ヌ　˩ナーン　アッ˥タン [˩be:˥nu ʔu˩buʔi:˥paina: mu˩ka˥ʃi mi˩ʤa˥ʃi ˥sᵤ̥kudun ˩so:˥re:ru ʔu˩japusu˥nu ˩na:ŋ ʔat˥taŋ](我が家の大きな位牌には昔、目差、筑登之＜チクドゥン＞を勤められた先祖の名前もあったよ)。

ミ˩ザ˥シシュー [mi˩ʤa˥ʃiʃuː] 【名】目差様。ミ˩ザ˥シ [mi˩ʤaʃi] に敬称の接尾辞、˥シュー [˥ʃuː](主。様) が付いた形。

˥ミサ　˥ナスン [˥misa ˥nasuŋ] 【連】病気を治す。他動詞的に用いる。「良く・成す」の義。˩ヤン˥マイ　˩パイ˥サ　˥ミサ　˥ナスンティ　˩ベーン˥ドゥ　ムッ˩トゥ˥　ミサ　ナ˩ラン˥バン [˩jam˥mai ˩pai˥sa ˥misa ˥nasunti ˩beːn˥du mut˩tu˥ misa na˩ram˥baŋ](病気を早く治そうとしているが、ちっとも治らない < 良くならない > よ)。˥ミサ　˥ナス　˥クトー　ナ˩ラ˥ヌ [˥misa ˥nasu ˥kṵtoː na˩ra˥nu](病気を治すことは出来ない)。˥ミサ　˥ナシ　˩ヤッ˥サン [˥misa ˥naʃi ˩jas˥saŋ](病気を治しやすい)。˩パー˥ク　˥ミサ　˥ナシェー　˥ミサムヌ [˩paː˥ku ˥misa ˥naʃeː ˥misamunu](早く病気を治せば良いのに)。フ˩チ˥ル　˥ヌミティ　˥ミサ　˥ナシバ [ɸṵ˩ʧi˥ru ˥numiti ˥misa ˥naʃiba](薬を飲んで治せよ)。

˥ミサナルン [˥misanaruŋ] 【自動】病気が治る。「良くなる」の義。自動詞的に用いられる。イ˩チンマー˥　ク˩ヌ˥　フ˩チ˥ル　˥ヌムカー　ミサナ˩ルン˥ドゥ　˩クン˥ドー　ミサナ˩ラン˥バン [ʔi˩ʧimmaː˥ ku˩nu˥ ɸṵ˩ʧi˥ru ˥numukaː misana˩run˥du ˩kun˥doː misana˩ram˥baŋ](いつもは、この薬を飲むと治るが、今度は治らない < 良くならない > よ)。˩シンダイ˥　ミサナリ　˥クーン [˩ʃindai˥ misanari ˥kuːŋ](次第に良くなってくる)。˥ミサナル　˥クトゥン　˥アン [˥misanaru ˥kṵtuŋ ˥ʔaŋ](良くなる < 治る > こともある)。˩パー˥ク　˥ミサナレー　˥ミサムヌ [˩paː˥ku ˥misanareː ˥misamunu](早く良くなれば良いのに)。˩ダンダン˥シ　˥ミサナリバ [˩dandaŋ˥ʃi˥ misariba](さっさと病気なんか良くなれよ)。

˥ミサビナサ [˥misabinasa] 【名】良否。良さ悪さ。可否。老年層の言葉。若年層は˥ミサワッサー [˥misawassaː](良し悪し) ともいう。プ˩スヌ˥　ミサビナサー　シ˩キンヌ˥ル　ッ˩ソー˥ル　˩ドゥー˥ヤ　ッ˩サヌ [pṵ˩sunu˥ misabinasaː ʃi̥˩kinu˥ru s˩soː˥ru ˩duː˥ja s˩sanu](人の良し悪しは世間の人がご存知である。本人 < 自分 > は知らないものだ)。˩ドング˥ヌ　˥ミサビナサー　シゥ˩カイミリ˥ル　ワ˩カ˥ル [˩doŋgu˥nu ˥misabinasaː si̥˩kaimiri˥ru wa˩ka˥ru](道具の良し悪しは使ってみてはじめて < ぞ > 分かるものだ)。

˥ミサレーティ　˩アー˥クン [˥misareːti ˩ʔaː˥kuŋ] 【連】元気でいる。元気に暮らしている。ムー˩ル˥　ミサレーティ　˩アー˥クン˩ダー [muː˩ru˥ misareːti ˩ʔaː˥kun˩daː](みんな元気でいる < あるく > よ)。

˥ミサン [˥misaŋ] 【形】1よろしい。好ましい。良い。ウ˩レー˥　プ˩ソー˥　イッ˩ケナ˥　ミサン˩ダー [ʔu˩reː˥ pṵ˩soː˥ ʔik˩kena˥ misan˩daː](彼は、人柄は非常によい < 立派だ > よ)。˩オシケー˥　ミサー˩ナー˥ンドゥ　˥キューズーナ　パ˩ラン˥カー　ナ˩ラ˥ヌ [˩ʔoʃi̥keː˥ misaː˩na˥ndu ˥kjuːʤuːna pa˩raŋ˥kaː na˩ra˥nu](天気は良くないが、今日中に行かないといけない)。˩シンダイ˥　ミサナリ　˥クーン [˩ʃindai˥ misanari ˥kuːŋ](次第に良くなってくる)。˩オシキヌ˥　ミサール　˥ピンマー　イ˩ガメー˥　ン˩ジラ˥リン [˩ʔoʃi̥kinu˥ misaːru ˥pimmaː ʔi˩gameː˥ ʔn˩ʤira˥riŋ](天気のいい時は烏賊釣り漁に出られる)。2適当である。よい。˩ジン˥マー　˥クビシ　˥ミサン　˥アトー　マ˩リパンジョール˥　プサル [˩ʤim˥maː˥ kubiʃi ˥misaŋ ˥ʔatoː ma˩ripanʤoːru˥ pṵsaru](お金はこれぐらいでよい。後は子孫繁昌がほしい)。3補助形容詞。動詞の連用形に付いて、「〜してよい」の意味を表す。˩ジー˥　カキミサン [˩ʤiː˥ kṵkimisaŋ](字を書いてよい)。

˩ミ˥シ [˩mi˥ʃi] 【接尾】〜置き。時間や数量を表す語に付いて、その分の間隔をあける意を表す。˩ピーチミ˥シシ　ッ˩ふァ˥　ナシ　˥シケー [˩piːʧimi˥ʃiʃi f˩fa˥ naʃi ˥ʃi̥keː](一年おきに子供を生(ウ)んである)。

ミ˩ジ [mi˩ʤi] 【名】水。˩マーミジ [˩maːmiʤi](真水)。ア˩マミジ [ʔa˩mamiʤi](真水。天水。「甘水」の義)。バ˩キミジ [ba˩kimiʤi](湧水)。ア˩マ˥ミジ [ʔa˩ma˥miʤi](雨水。天水)。˩スー˥ミジ [˩suː˥miʤi](塩分のある井戸水)。シンタ˩カーヌ˥　ミ˩ジェーラン　ウイヌカーヌ˥　ミ˩ジル˥　ン˩マー [ʃinta˩kaːnu˥ mi˩ʤeːraŋ ʔuinukaːnu˥ mi˩ʤiru˥ ʔm˩maː](西村の後ろの井戸水よりも島中井戸 < 上の井戸 > の水が美味しい)。

ミシー˩ミシ [miʃiː˩miʃi] 【副】みすみす (見す見す)。むざむざと。それと知りつつも。˩ワー˥　ウ˩ヌ˥　クトー　ッ˩シナガラ˥　ミシー˩ミシ˥　ダ˩マサリ˥　シ˩ター [˩waː ʔu˩nu˥ kṵtoː ʃ˩ʃinagara˥ miʃiː˩miʃi˥ da˩masari˥ ʃi̥˩taː](君は、その事を知りながら、みすみす騙されてしまったのか)。

ミ˩ジーミジー˥シ [mi˩ʤiːmiʤiː˥ʃi] 【副】瑞々しい。水っぽくて若々しいさま。水気が多く味が薄いさま。˩ナーンパー˥ヤ　ミジー˩ミジー˥シティ　イッ˩ケン˥　ン˩マーン˥ギサン [˩naːmpaː˥ja miʤiː˩miʤiː˥ʃi̥ti ʔik˩kem˥ ʔm˩maː˥ŋgisaŋ](菜っ葉は瑞々しくて美味しそうだ)。

ミ˩ジ˥アバ **[miˈʤi˥ʔaba]** 【名】1髪油や、びんつけあぶらの無い時に、水を髪油代用にしてつけ、頭髪を整えた水。「水油」の義。祝祭日以外の日常生活では、半農半漁の鳩間島の主婦達は日常は髪油を付けなかったが、年頃の娘達は夜になると頭髪を洗い髪油をつけて遊んでいた。巫女＜神職者＞は、神前に出る際に洗髪して身を清め、衣装を整えてから御嶽へ行った。バˈカー˥ムヌヌ　ミ˩ジ˥アバンノーン　˥シキティ　ガˈマ˥ジ　˥ナデーティ　ˈアー˥キバˈツォー [baˈkaː˥mununu miˈʤi˥ʔabannoːŋ ˥ʃi̥kiti gaˈma˥ʤi ˥nadeːti ˈʔaː˥kibaˈtsoː](若者だから、水脂でもつけて、髪をなで整えていなさいよ)。2びんつけ油。水油。ミ˩ジ˥アバ　˥シキティ　˥フチシ　ガˈマ˥ジ　キˈジ˥バ [miˈʤi˥ʔaba ˥ʃi̥kiti ˥ɸu̥tʃiʃi gaˈma˥ʤi ˥kiʤiba](水油を付けて櫛で髪を梳(クシケズ)りなさいよ)。

ミ˩ジアミ **[miˈʤiʔami]** 【名】水浴び。˥オンダー　ˈスー˥カー　ミ˩ジアミ　シーティル　キン˥マー　ˈカイキス˥ダー [˥ʔonda: ˈsuː˥ka: miˈʤiʔami ʃiːtiru kim˥maː ˈkaiki̥su˥daː](海水浴をしたら、水浴びをして＜ぞ＞、着物は着替える＜替え着る＞んだよ)。

ミ˩ジ˥アライ **[miˈʤi˥ʔarai]** 【名】水洗い。ˈキン˥マー　˥サフン　˥シキティ　ミ˩ジ˥アライ　シˈティ　マー˥　プˈスム˥シ　ミ˩ジ˥シ　ˈボーキティ˥　スˈブ˥リティ　プシバˈヨー [ˈkim˥maː ˥saɸuŋ ˥ʃi̥kiti miˈʤi ˥ʔarai ʃi̥ˈti maː˥ pu̥ˈsumu˥ʃi miˈʤi˥ʃi ˈboːkiti˥ suˈbu˥riti pu̥ʃibaˈjoː](着物は石鹸を付けて水洗いして、もう一度水で濯いで干しなさいよ)。

ミ˩ジイリ **[miˈʤiʔiri]** 【名】水入れ。水を入れる容器。ミ˩ジイリ˥ナー　ミ˩ジェー˥　イˈリティ˥　シˈキリ˥バ [miˈʤiʔiri˥na: miˈʤe:˥ ʔiˈriti˥ ʃi̥ˈkiri˥ba](水入れに水を入れて供えなさい)。

ミ˩ジ˥イル **[miˈʤi˥ʔiru]** 【名】水色。青色。老年層は、ミˈズ˥ル [miˈʤu˥ru](水色) ともいう。˥シラー　˥イロー　˥ッサイティ　ミ˩ジ˥イル　˥ナルンケン　ウˈバイ　ベー [˥ʃiraː ˥ʔiroː ˥ssaiti miˈʤi˥ʔiru ˥naruŋkeŋ ʔuˈbai beː](顔は色を失って＜白んで＞、水色＜青色＞になるほど心配している)。

ミ˩ジウー˥キ **[miˈʤiʔuː˥ki]** 【名】水桶。水を運ぶ桶。ミ˩ジタン˥グ [miˈʤitaŋ˥gu](水担桶(タゴ))。

ミシゥˈカーマ˥シ **[misi̥ˈkaːma˥ʃi]** 【副】密かに見透(ミスカ)されるように。こっそりと見通されるように。「みそか＜密か＞」の転訛したものか。総てをお見通しである。忍びやかにするさま。ひそかに。ˈティンヌ　カン˥マー　˥ミーナー　ミˈラ˥ローˈラン˥ヌンドゥ　ˈニンギン˥ヌ　ˈスー˥クトー　ムーˈル˥　ミシゥˈカーマ˥シル　ˈオー˥ルˈダー [ˈtinnu kam˥maː ˥miːnaː miˈra˥roːˈran˥nundu ˈniŋgin˥nu ˈsuː˥ ku̥toː muːˈru˥ misi̥ˈkaːma˥ʃiru ˈʔoː˥ruˈdaː](天の神様は目には見え給わぬが、天網恢恢疎(テンモウカイカイソ)にして漏らさず、人間のすることは、すべて密かに、お見通しでいらっしゃるよ)。

ˈミシゥカムニ **[ˈmisi̥kamunu]** 【名】内緒話。ひそひそ話。「みそかものいひ＜密か物言ひ＞」の転訛したものか。ˈヌー˥バ　˥マタ　ˈミシゥカムニ　ソー˥ルユー　˥バン　シゥˈカラン　ヨー˥シ　グマーˈグマー˥シ　˥ムニ　イˈゾー˥ルˈツォー [ˈnuː˥ba ˥mata ˈmisi̥kamuni soː˥ruju: ˥ban si̥ˈkaraŋ joː˥ʃi gumaːˈgu˥maː˥ʃi ˥muni ʔiˈʤoː˥ruˈtsoː](何をまた内緒話をなさるのか、私に聞かれないように小声で＜小さな小さな声で＞話し＜物言い＞をなさるんですよ＜言われるってば＞)。

ミ˩ジ˥ウン **[miˈʤi˥ʔuŋ]** 【名】水芋。水分が多くて食べられない芋。煮ると水っぽくなって食用に適しないので豚の飼料にした。雨の多い時期に、突然変種の水芋ができた。クˈレー˥　ミ˩ジ˥ウン　˥ナリティ　ッˈふァーランダ　オー˥ヌイー　ˈバーキ˥ル　˥ナル [kuˈreː˥ miˈʤi˥ʔun ˥nariti fˈfaːranda ʔoː˥nuʔiːˈ baːki˥ru ˥naru](これは水芋になって食べられないから、豚の飼料にしかならない＜豚の飯までぞなる＞)。

ミ˩ジオーシ **[miˈʤiʔoːʃi]** 【名】死者へ水を供える行事。「水差し上げ」の義。葬式後初の癸亥 (ミズノトヰ) の日に、ミ˩ジタング [miˈʤitaŋgu](水担桶) のカ˩タ˥ティー [kḁˈta˥tiː](片方) に水を入れて青竹の棒を通して二人で担いで墓へ運び、墓前に置かれた小さな水甕に入れて溢れさせた。ミ˩ジオーシン　シーオーシェー˥チバ　˥グソーナーティン　ミ˩ジヌ　ソーヤ　ソーラ˥ヌ [miˈʤiʔoːʃiŋ ʃiːʔoːʃeː˥ ʧiba ˥gusoːnatim miˈʤinu soːja soːra˥nu](水供えの行事も済ませたから、後生においても水の心配はありません)。

ミ˩ジカーキ **[miˈʤikaːki]** 【名】喉が渇くこと。「水渇き」の転訛。夏の暑い時に野良仕事をすると、発汗作用によって極端に喉が渇き、水分を欲しがること。ドゥˈク˥ヌ　˥アツァサーリ　ミ˩ジカーキ˥　シˈティ˥　プˈス˥イキシ　フˈタスッカーヌ˥　ミ˩ジ˥ヌˈミ˥シタ [duˈku˥nu ˥ʔatsasaːri miˈʤikaːki˥ ʃi̥ˈti˥ pu̥ˈsu˥ʔikiʃi ɸu̥ˈtasukkaːnu˥ miˈʤi˥ nuˈmi˥ʃi̥ta](あまりの暑さで、ひどく喉が渇いて、一気に＜一息で＞2

急須分の水をのんだよ)。ミ˞ジカーキ　サン˥ヨーニ　˞イッス˥クビンナー　ミ˞ジ˥　イ˞リティ˥　パ˞タ˥ケー　˥ムティパリバ [miˑʤika:ki saɲ˥jo:ni ˞ʔissu˥ kubinna: miˑʤi˥ ʔiˑriti˥ pḁˑta˥keː ˥mutipariba](水に飢え渇くことがないように、一升瓶に水を入れて、畑へ持って行きなさいよ)。

ミ˞シ˥ガイ **[miˑʃi˥gai]** 【名】しゃもじ (杓文字)。飯をよそう道具。老年層は、普通は˞イー˥ガイ [˞ʔiː˥gai](杓文字) という。ミ˞シ˥ガイシ　˥イー　ス˞クイ˥　イ˞リ˥バ [miˑʃi˥gaiʃi ˥ʔiː su̥ˑkui˥ ʔiˑri˥ba](杓文字でご飯をよそって <掬って > 入れなさいよ)。

ミ˞ジカミ **[miˑʤikami]** 【名】水瓶。飲料水を溜めておく瓶。普通は、直径約 12 センチの、口の小さい水甕に水を入れ、フ˞ダ˥ル [ɸuˑda˥ru](柄杓) で水を汲み出して使用した。柄杓は通常、水甕の口に掛けておいた。広口の水瓶は、˞バンドーガミ [˞bando:gami] といった。直径約 20 センチの広口の水瓶で、板を円形に切って蓋をした。˞インヌカーラ˥　ミ˞ジフミ˥　カ˞タ˥ミキーティ　ミ˞ジカミ˥　ミ˞ツァ˥ス　˥ムノー　ミ˞ドーン˥ッふァヌシ˞グトゥ　ヤッタ [˞ʔinnuka:ra˥ miˑʤiɸumi˥ kḁˑta ˥miki:ti miˑʤikami˥ miˑʦa˥su ˥muno: miˑdo:ŋ˥ffanu ʃiˑgutu jatta](西村の村井戸から水を汲んで担いできて、水瓶を満たすのは女の子の仕事であった)。

ミ˞ジカラー˥ン **[miˑʤikara:˥ŋ]** 【形】水が少ない。水が乏しい。水量が少ない。旱魃気味である。ク˞トゥシェー˥　ア˞ミ˥ヌ　˞ホー˥ンダ　ミ˞ジカラー˥ヌ　˞マイ˥　イ˞ビララヌ [ku̥ˑtuʃeː˥ ʔaˑmi˥nu ˞hoː˥nda miˑʤikara:˥nu ˞mai˥ ʔiˑbiraranu](今年は雨が降らないから、水が少なくて稲が植えつけられない)。ミ˞ジカラー˥ンティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　˞カン˥ヌ　˥マシェー　˞ナン˥ゾー　ミ˞ジカラー　ナー˥ヌ [miˑʤikara:˥nti ʔuˑmu:tan˥du ˞kan˥nu ˥maʃeː ˞nan˥ʤo: miˑʤikara: na:˥nu](水が乏しいと思ったが、水源に近い上の田 < 上の枡 > は、それほど水が乏しくない)。ミ˞ジカラー˥ル　˞ター˥ヤ　ス˞クララ˥ヌ [miˑʤikara:˥ru ˞ta:˥ja su̥ˑkurara˥nu](水の乏しい田んぼは耕作できない < 稲作ができない >)。

ミ˞ジカン **[miˑʤikaŋ]** 【名】「水乾」の義。建築用材を白蟻などの害虫から防ぐために、数ヶ月間川や沼に浸けておくこと。鳩間島では、多くの場合海水に沈めておいたり、海の砂の中に埋めて˞スー˥カン [˞suː˥kaŋ](潮乾) して樹液を抜き、約一年後に掘り出して、˞キー˥ヤー [˞kiː˥jaː](木材乾燥用の小屋) に入れて乾燥した。パ˞トゥ˥マプソー　ミ˞ジカン˥ラン　˞スー˥カン　˞ソー˥ル　プ˞スヌル　ゴー˥ラータ [pḁˑtu˥mapu̥so: miˑʤikan˥raŋ ˞suː˥kan ˞soː˥ru pu̥ˑsunuru goː˥ra:ta](鳩間の人は「水乾」よりも「潮乾」をされる人が多かった)。

ミ˞ジカン˥ガン **[miˑʤikaŋ˥gaŋ]** 【名】水鏡。鏡が無い時には、鏡の代用として˞ビン˥ダライ [˞bin˥darai](洗面器) や˥タライ [˥tarai](盥) などに水を入れて顔を写し、みだしなみ < 身嗜み > を整えた。˞カンガン˥マー　˞ナーン˥バ　ミ˞ジカン˥ガン　˥ミレーティ　ガ˞マ˥ジ　˞ユイ˥バ [˞kaŋgam˥ma: ˞na:m˥ba miˑʤikaŋ˥gam ˥mire:ti gaˑma˥ʤi ˞jui˥ba](鏡は無いから、水鏡を見ながら髪を結いなさい)。

ミ˞ジグジ **[miˑʤiguʤi]** 【名】手足にできる、豆のような水腫。まめ (肉刺)。グ˞ジ [guˑʤi](肉刺) の一種。ア˞ラシ˥　ア˞クンティ˥　プスイピーズ　カ˞ナパイ˥　シゥ˞カウタール˥　フ˞タティーヌ˥　ミ˞ジグジェー　ピッチ˥ティ　˥ヤミ　ナ˞ラ˥ヌ [ʔaˑraʃi˥ ʔa˞kunti˥ pu̥suipi:ʤu kaˑnapai˥ si̥˞kauta:ru˥ ɸu̥ˑtati:nu ˥miˑʤiguʤe: pit˥ʧiti ˥jami naˑra˥nu](仕明け地を開墾しようとして、一日中鍬を使ったので、両手の豆のような水腫 < 肉刺 > がつぶれて痛くて堪らない)。

ミ˞ジクブ˥サー **[miˑʤikubu˥saː]** 【名】素焼きの鉢。尿瓶の一種。直径約 30 センチ、深さ約 15 センチほどの女性用小水入れ。昔は年寄りの女性は、夜間における小用の際、土間に置いてあるミ˞ジクブ˥サー [miˑʤikubu˥saː] に用を足して、翌早朝にトイレに流して洗っておいた。戦後になって若い女性は使用しなくなり、病人がそれを使用するようになった。ヨー˞ヨー˥　ミ˞ジクブ˥サーナ　˞ナー˥ト　˥キンカー　マ˞チ˥ガイ　イ˞ルナ˥ダー [joː˞joː ˥miˑʤikubu˥saːna ˞naː˥to ˥kiŋka: maˑʧi˥gai ʔiˑruna˥daː](気をつけろよ、ミジクブサーなんかに着物類を間違えて入れるなよ)。

ミ˞ジクム˥ル **[miˑʤikumu˥ru]** 【名】自然に大きく水のたまっている所。大きな池や沼。「水こもり」の義。庭の水溜には言わない。一定の広さを持った沼や池。シ˞キ˥ヌ　˥カンナー　ウ˞ブミジクムルヌ˥　アン [ʃi̥ˑki˥nu ˥kanna: ʔuˑbumiʤikumurunu ˥ʔaŋ](堰の上の方に自然の大きな池 < 水こもり > がある)。

˞ミシ˥ケー **[˞miʃi̥˥keː]** 【固】人名。˞ミシ˥ケーザー [˞miʃi̥˥keːʤa:](ミシケー。ザーは < 兄 > の訛で敬語) ともいう。ム˞カ˥シ　トゥ˞ムシェー˥ナー　˞ミシ˥ケーザーティ　˞スー˥　プ˞スヌ　オーッ˥タン [mu

˞kaˀʃi tu˞muʃeːˀna: ˞miʃi̥ˀkeːʤaːti ˞suːˀ pu̥˞sunu ʔoːtˀ taŋ](昔、宮良家＜友寄家の義か＞にミシケザーという人がおられた)。

ミ˞ジ˺ゴイ [mi˞ʤiˀgoi] 【名】みずごえ (水肥)。糞尿の肥。カ˞ジゴイ [ka˞ʤigoi](堆肥) の対義語。人糞と豚舎から出る糞尿(フンニョウ)を混ぜて水肥とし、˺コイタング [ˀkoitaŋgu](こえたご＜肥担桶(コエタゴ)＞) で担いで畑へ運んだ。ミ˞ジゴイ˺バ　˺コイタングシ　カ˞タ˺ミティ　˞ダイ˺クニナーン　˞ナーン˺パーナーン　˺カケーティ　˞ミーラシ˺　サ˞カラシタベー˺ティ　˺ユーム˞シ˺　シ˞ディ˺シタ [mi˞ʤigoiˀba ˀkoitaŋguʃi kḁ˞ta ˀmeːti ˞daiˀkuninaːn ˞naːmˀpaːnaːŋ ˀkḁkeːti ˞miːraʃiˀ sḁ˞karaʃi̥tabeːˀti ˀjuː mu˞ʃiˀ ʃi˞diˀʃi̥ta](水肥を肥担桶で担いで大根にも菜っ葉にもかけて、大根を太らせ、菜っ葉を繁らせたから、よく回虫が寄生したものだ)。

ミ˞ジ　サールン [mi˞ʤi saːruŋ] 【連】1洪水などが引く。ア˞ミ˺ヌ　ヤ˞ム˺カー　˞ター˺ヌ　ミ˞ジェー　サールンドゥ　キュー˺ヤ　マ˞ダ　サーランバン [ʔa˞miˀnu ja˞muˀkaː ˞taːˀnu mi˞ʤeː saːrundu kjuːˀja ma˞da saːrambaŋ](雨が止むと田の水も引くが、今日はまだ水が引かない)。2急須の湯や酒を湯飲みや杯に注ぎきる。サ˞ケー˺　ムー˞ル　サーリ˺バ [sḁ˞keːˀ muː˞ru saːriˀba](酒は全部注ぎなさいよ)。

ミ˞ジサカシキ [mi˞ʤisakaʃi̥ki] 【名】水さかづき (水杯)。死者との別れのさかづき。ミ˞ジサカシ˺ケー　˞ノー˺カン　シ˞マ˺シティ　˺アトゥナール　˞ソー˺ル [mi˞ʤisakaʃi̥ˀkeː ˞noːˀkaŋ ʃi˞maˀʃi̥ti ˀʔatunaːru ˞soːˀru](水杯は納棺を済ませて後に＜ぞ＞なさる)。

ミ˞ジサバ [mi˞ʤisaba] 【名】(動) 魚の名。「水鮫」の義。和名、ジンベーザメ (体長約 12 メートル)。ミ˞ジサバー˺　プ˞ス˺　ウ˞ソーヌ [mi˞ʤisabaːˀ pu̥˞suˀ ʔu˞soːnu](ジンベーザメは人を襲わない)。

ミ˞ジ˺サバ [mi˞ʤiˀsaba] 【名】(動物)鱶(フカ)の一種。じんべーざめ。体長 12 メートルに達するものもいる。肉が柔らかく鱶の仲間で最大。イカ釣り漁でこれが寄ってくると怖いので逃げた。舟の側にぴたりと寄り添って舟との大きさを比べるので、帆柱などを繋(ツナ)いで流し、早々にその場から逃げ出した。

ミ˞ジソー [mi˞ʤisoː] 【名】生まれた年の干支がミズノエ (壬)、ミズノト (癸) である人の気性。ウ˞レー˺　ミ˞ジソーヌ˺　プ˞ス [ʔu˞reːˀ mi˞ʤisoːnuˀ pu̥˞su](彼は壬、癸の気性の人だ)。

ミ˞ジター [mi˞ʤitaː] 【名】1水田。みずた。単に、˺ター [ˀtaː](田) というのが普通。ア˞ミ˺ヌ　˞ホーン˺カー　ミ˞ジターン˺　サ˞リター˺　ナ˞リ˺ス [ʔa˞miˀnu ˞hoːŋˀkaː mi˞ʤitaːnˀ sa˞ritaːˀ na˞riˀsu](雨が降らないと水田も乾いた田になる)2大雨で畑が冠水した状態。˞ウーアミヌ˺　フイティ　パ˞タ˺ケー　ムー˞ル˺　ミ˞ジ˺ター　˺ナリ　˞ナー˺ヌ [ˀʔuːaminuˀ ɸuiti pḁ˞taˀkeː muː˞ruˀ mi˞ʤiˀtaː ˀnari ˞naːˀnu](大雨が降って畑は全部水田になって＜冠水して＞しまった)。

ミ˞ジ˺ター [mi˞ʤiˀtaː] 【名】「水田」の義。みずた。大雨で畑が水浸(ミズビタシ)になっていること。サ˞リター [sa˞ritaː](乾上(ヒアガ)った田。旱魃(カンバツ)で水田が乾上ったさま) の対義語。˞ウーアミヌ˺　フイティ　パ˞タ˺ケー　ムー˞ル˺　ミ˞ジ˺ター　ナリ˞ナー˺ヌ [˞ʔuːʔaminuˀ ɸuiti pḁ˞taˀkeː muː˞ruˀ mi˞ʤiˀtaː nari˞naːˀnu](大雨が降って畑は全部冠水(カンスイ)してしまった)。

ミ˞ジタン˺ク [mi˞ʤitaŋˀku] 【名】貯水槽(チョスイソウ)。直径約 1 メートル、高さ約 2 メートルのコンクリート製の貯水槽。瓦屋根に降った天水を樋(トイ)で受けてミ˞ジタン˺クに集め貯水した。ミ˞ジタンクヌ˺　ミ˞ジ˺シ　バ˞カス　サー˺ヤ　ン˞マー˺タン [mi˞ʤitaŋkunuˀ mi˞ʤiˀʃi ba˞kasu saːˀja ʔm˞maːˀtaŋ](貯水槽の天水で点てる＜沸かす＞お茶は美味しかった)。

ミ˞ジタン˺グ [mi˞ʤitaŋˀgu] 【名】たごおけ (担桶(タゴ))。「水担桶」の義。にない桶。水を桶に入れて天秤棒で担ぐ桶。水担桶一個を、カ˞タ˺ティー [kḁ˞taˀtiː](片手) といい、水担桶を天秤棒で両端に一対かけて、一人で肩に担ぐ場合、プ˞スカタ˺ミ [pu̥˞sukataˀmi](いっか＜一荷＞) という。˞カーラ˺　ミ˞ジタン˺グナ　ミ˞ジ˺　フ˞ミティ˺　フ˞タカタミ˺　カ˞タ˺ミキー　ミ˞ジカミ˺　ミ˞ツァ˺シ [ˀkaːraˀ mi˞ʤitaŋˀguna mi˞ʤiˀ ɸu˞mitiˀ ɸu̥˞takatamiˀ kḁ˞taˀmiki: mi˞ʤikamiˀ mi˞tsa ˀʃi](井戸から水担桶に水を汲み入れて、二荷＜二担ぎ＞担いできて水瓶を満たせ)。

ミ˞ジッサリ [mi˞ʤissari] 【名】1水虫。「水腐れ」の義。ミ˞ツァ˺ウティ [mi˞tsaˀʔuti](泥負け) とは異なる。˺パンピサヌ　ウ˞ヤビ˺ヌ　˺マター　ミ˞ジッサリ˺　シ˞ティ˺　ヤ˞ミスバ　フ˞チ˺ル　シ˞キ˺リ [ˀpampi̥sanu ʔu˞jabiˀnu ˀmataː mi˞ʤissariˀ ʃi̥˞tiˀ ja˞miˀsuba ɸu̥˞ʧiˀru ʃi̥˞kiˀri](足の指の間＜指の叉＞が水虫になって＜水腐れして＞痛むから、薬をつけよ＜れ＞)。2水が多すぎて作物が腐ること。「水腐れ」の義。ア˞ミ˺ヌ　˞スー˺ワティ　˞ウン˺マー　ミ˞ジ˺ッサリ　˞シー　ナー˺ヌ [ʔa˞miˀnu ˞suːˀwati ˞ʔumˀ maː mi˞ʤiˀssari ˞ʃiː naːˀnu](雨が多くて＜強くて＞、

芋は水腐れしてしまった)。

ミ˩ジティップ [mi˩ʤitippu] 【名】水鉄砲。昭和 40 年頃まで、男の子供達は、竹筒やパパイアの葉柄で水鉄砲を作って遊んだ。ム˩カ˥シェー　ビ˩コーンッふァー˥　タ˩キトゥ　マンズイ˥ヌ　˩ユイ˥シル　ミ˩ジティッ˥プー　ス˩クˬリ　ア˩サブタル [mu˩ka˥ʃe: bi˩ko:ŋffa:˥ tạ˩kitu mandzui˥nu ˩jui˥ʃiru mi˩ʤitip˥pu: sụ˩kuri˥ru ʔa˩sabutaru](昔は、男の子は竹とパパイアの葉柄で水鉄砲を作って遊んだものだ)。

ミ˩ジ˥ナー [mi˩ʤi˥na:] 【名】(植) 湿地に生える雑草の名。和名、スベリヒユ。「水菜」の義。ナ˩チェー　ナーンパー˥ヌ　˩カール˥　ミ˩ジナー˥バ　˥シルズーシナ　イ˩リティ˥　バ˩カシタン˥ダー [na˩ʧe: na:mpa:˥nu ˩ka:ru˥ mi˩ʤina:˥ba ˥ʃirudzu:ʃina ʔi˩riti˥ba˩kaʃị̊tan˥da:](夏は菜っ葉の代わりに水菜をオジヤに入れた炊いたものだよ)。

ミシ˩ナーク [miʃi˩na:ku] 【副】みすみす (見す見す)～される。むざむざ～される。あってはならないことが、情けないことに、すっかり～される。ウ˩リヌ˥　ホショー　˥ナリティ　ミシ˩ナーク　ドゥー˥ヌ　˥ザイサン　ムー˩ル˥　ウ˩ソーリ　ナー˥ヌ [ʔu˩rinu˥ hoʃo: ˥nariti miʃi˩na:ku du:˥nu ˥dzaisam mu:˩ru˥ ʔu˩so:ri na:˥nu](彼 < それ > の保証人になって、みすみす自分の財産を総て差し押さえられてしまった)。

ミシ˩ナータ˥クトゥ [miʃi˩na:ta˥kutu] 【副】みすみす (見す見す)～される。むざむざ～される。あってはならないことが、それと知りつつも、すっかり～されてしまう。誠に残念だがすっかり～されてしまう。ミシ˩ナータ˥クトゥ　ウ˩リンマー　カシカーサ˥リ　ウ˩ドゥ˥キ　˩ナー˥ヌ [miʃi˩na:ta˥kụtu ʔu˩rimma: kaʃị̊ka:sa˥ri ʔu˩du˥ki ˩na:˥nu](むざむざと彼には騙されて損をしてしまった)。

ミ˩ジ˥　ナルン [mi˩ʤi˥ naruŋ] 【連】1˩水になる」の義。サ˩ケー˥　ク˩ビン˥ヌ　フ˩タ˥　ア˩キ˥スクカー　ミ˩ジ˥　ナルン˩ダー [sạ˩ke:˥ ku˩bin˥nu ɸụ˩ta˥ ʔa˩ki˥sụkuka: mi˩ʤi˥ narun˩da:](酒は瓶の蓋を開けておくと水になるよ)。2水泡に帰する。マ˩ナマバー˥キ　˩シー˥ケール　シ˩グトー˥　ウ˩リ˥シ　ミ˩ジ˥　ナリ˩ナー˥ヌ [ma˩namaba:˥ki ˩ʃi:˥ke:ru ʃi˩guto:˥ ʔu˩ri˥ʃi mi˩ʤi˥ nari˩na:˥nu](今までやってきた仕事は、これで水泡に帰して < 水になって > しまった)。

ミ˩ジニー [mi˩ʤini:] 【名】干支の壬 (みずのえ)、癸 (みずのと) に当る日。˩プー˥ルン　キ˩チゴンヌン　ニンガイ˥ヤー　ミ˩ジニーバ˥　ア˩ティル　ピューロー˥　トゥ˩ローッ˥タ [˩pu:˥ruŋ ki̥˩ʧigonnun niŋgai˥ja: mi˩ʤini:ba˥ ʔa˩tiru pju:ro:˥ tu˩ro:t˥ta](豊年祭も結願祭も、祈願祭は壬癸の日に当てて日取りをされた)。

ミ˩ジ˥ニー [mi˩ʤi˥ni:] 【名】˩水煮」の義。味噌や塩、醤油などの調味料を入れないで調理すること。イ˩ラブ˥チン　˩オン˥デーン　˩ミースマー˥ソー　イ˩ランドー˥シ　ナー˩イ˥　ミ˩ジ˥ニー　˩シー˥　シキバ [ʔi˩rabu˥ʧiŋ ˩ʔon˥de:m ˩mi:suma:˥so: ʔi˩rando:˥ʃi na:˩i˥ mi˩ʤi˥ni: ˩ʃi:˥ ʃị̊kiba](イラブチ < ぶだい > もオンデー < はなあいご > も、味噌や塩を入れないで、ただ水炊き < 水煮 > しておきなさいよ)。

ミ˩ジヌール [mi˩ʤinu:ru] 【名】「みずのり (水糊)」の義。薄く作った洗濯用のり。カ˩タヌー˥ル [kạ˩tanu:˥ru](濃い糊) の対義語。˩キン˥ヌ　˩ヌー˥ロー　ミ˩ジヌール˥シル　ッ˩ふァース˥ダー　カ˩タヌー˥ル　˩スー˥カー　パ˩ダ˥　ッシティ　キ˩サラヌ [˩kin˥nu ˩nu:˥ro: mi˩ʤinu:ru˥ʃiru f˩fa:su˥da: kạ˩tanu:˥ru ˩su:˥ka: pa˩da˥ ʃʃiti ki̥˩saranu](着物の糊つけは、薄い水糊でのり付けするものだよ。濃いのり付けをすると、肌をちくちく刺し、擦るので着られない)。

ミ˩ジヌ˥カン [mi˩ʤinu˥kaŋ] 【名】水の神様。水神。鳩間島のア˩ラ˥カーウガン [ʔa˩ra˥ka:ʔugaŋ](新川御嶽) は水の神様を祀ってあるといわれている。ア˩マン˥グイ [ʔa˩maŋ˥gui](雨乞いの神歌) のアラカワウガン (新川御嶽 < お願 >) に、/ウフイラカ　カミガナシ　アミブシャヌ　カミイラカ　タケバル　アミブシャヌ　ミジムトゥヌ　マブルシュ　アミブシャヌ　ウブガーラヌ　シキフチ　アミブシャヌ　ウムルミジタラショーリ　アミブシャヌ　フダルミジバ　タボラリヨー　アミブシャヌ/とある。

ミ˩ジヌ˥クー [mi˩ʤinu˥ku:] 【名】水のこ。「水の粉」の転訛したものか。お盆の供物の一つ。砂糖黍の茎、茄子を賽の目に小さく刻んで、米と小豆、昆布の刻んだものを加えて、7 回水洗いをしたもの。皿に入れ、˥マヤーブー [˥maja:bu:](和名、メドハギ < 蓍萩 >) の枝を添えて仏壇に供える。一日三食を仏壇に供える際に、マヤーブーでミジヌクーを家の外へ三度掻きはねる。無縁仏達へのお布施といわれている。それをしないと、先祖に供えた供物に無縁仏が手を突っ込んだり、悪事を働くと信じられている。トゥ˩クニ˥ナー　˩ミーキヌ˥　イー　ス˩ク˥　ピン　ミ˩ジヌ˥クー　˩パン˥キティ　ア˩ゾーッ˥タ [tụ˩kuni˥na: ˩mi:kinu˥ ʔi: sụ˩ku˥ pim mi˩ʤinu˥ku: ˩paŋ˥kiti ʔa˩dzo:t˥ta](仏壇に三食のご飯を供えると

き、ミジヌクーを外へ掻(カキ)き撥(ハ)ねよ、といわれた)。

ミ˞ジヌ˜ッふァ **[miˈʤinuˈffa]** 【名】ぼうふら (子子)。「水の子」の義。˜カミナーン　ミ˞ジヌッふァ˜ヌ　˜シディ　˞ベー˜ティティル　˞ガザン˜マ　˞ゴー˜ラー˞ツォー [ˈkamina:m miˈʤinuffa˜nu ˜ʃidi ˞be:˜tiru gaˈʤam˜ma: ˞go:˜ra:ˈtso:](水甕(ミズカメ)にもボウフラが湧(ワ)いて＜孵(フ)化(カ)して＞いるので、蚊が多いのだよ)。ミ˞ジクムル˜ナー　ミ˞ジヌッふァ˜ヌ　˞イッ˜パイ　˜シディ　˞ベー [miˈʤikumuru˜na: miˈʤinuffa˜nu ˞ʔip˜pai ˜sidi ˞be:](水溜りにボウフラがたくさん発生して＜孵化して＞いる)。

ミ˞ジ˜バタ **[miˈʤi˜bata]** 【名】「水腹」の義。水分で一杯になった腹。ミ˞ジカーニ˜　ヌムンダ　ミ˞ジ˜バタ　˜ナリティ　˜ムノー　ッ˞ふァーラヌ [miˈʤika:ni˜ numunda miˈʤi˜bata ˜nariti ˜muno: fˈfa:ranu](水だけ飲むから、水で満腹して物が食べられない)。

ミ˞ジパナダル **[miˈʤipanadaru]** 【名】水洟(ミズハナ)。風邪をひくと鼻から流れ出る水のような薄い鼻汁。ミ˞ジパナダルヌ˜　ンズ　˞ギン˜シェー　パ˞ナシキ˜　ヤ˞ル˜パジ [miˈʤipanadarunu˜ ʔnʤu ˞giŋ˜ʃe: paˈnaʃi̥ki˜ ja˞ru˜paʤi](水洟(ミズハナ)が出るからにはきっと風邪だろう)。

ミ˞ジパナドゥル **[miˈʤipanaduru]** 【名】みずばな (水洟)。パ˞ナシケー˜　カ˞カ˜リ　ミ˞ジパナドゥルヌ˜　ンジティ　フ˞シガラ˜ヌ [paˈnaʃi̥ke:˜ kḁˈka˜ri miˈʤipanadurunu˜ ʔnʤiti ɸu̥ˈʃigara˜nu](風邪をひいて＜風邪にかかって＞、水洟が出て堪らない)。

ミ˞ジパン˜タリ **[miˈʤipan˜tari]** 【名】みずぶとり (水太り)。肉のしまらない、でっぷりとした脂肪質の肥満体。˞コーパン˜タリ [ˈko:pan˜tari](筋肉質の引き締まった太りかた) の対義語。ウ˞レー˜　ミ˞ジパンタリカーニル　シーブ　ピッ˜チン　タ˞ヤーナー˜ヌ [ʔu˞re:˜ miˈʤipantarika:niru ʃi:bu pit˜ʧin ta ˞ja: na:˜nu](彼＜それ＞は水太りだけしているのであって、ちっとも＜一つも＞体力がない)。

ミ˞ジフク˜ル **[miˈʤiɸu̥ku˜ru]** 【名】みずぶくれ (水脹れ)。皮膚の下に水分がたまって脹れること。漿液(ショウエキ)を含んで膨(フク)らむこと。˜プスイピーズ　カ˞ナパイ˜　シゥ˞カイ˜　パ˞タ˜キ　˞カイス˜ター　˜ティーナ　グ˞ジヌ˜　ンジ　ミ˞ジフク˜ル　˞シーベー [ˈpu̥suipi:ʤu ka˞napai˜ si̥˜kai˜ pḁˈta˜ki ˞kaisu˜ta: ˜ti:na guˈʤinu˜ ʔnʤi miˈʤiɸuku˜ru ˞ʃi:be:](一日中鍬を使って畑を耕したので、手に肉刺(マメ)が出来て水ぶくれしている)。

ミ˞ジフチ˜ル **[miˈʤiɸuʧi˜ru]** 【名】水薬。老年層は、ミ˞ジフシ˜ル [miˈʤiɸuʃi˜ru](水薬) という。˞クーフチ˜ル [ˈku:ɸuʧi˜ru]、˞クーフシ˜ル [ˈku:ɸu̥ʃi˜ru](粉薬) の対義語。シ˞トゥム˜ティカージ　ミ˞ジフチ˜ル　˜ヌメーティル　ヤッ˞トゥ˜シ　ッ˞サー˜コー　˞ノーシタ˜ル [ʃi̥ˈtumu˜tika:ʤi miˈʤiɸuʧi˜ru ˜nume:tiru jat˞tu˜ʃi sˈsa:˜ko: ˞no:ʃi̥ta˜ru](毎朝＜つとめて毎に＞水薬を飲んで、やっとのことで咳を直した)。

ミ˞ジ˜フニ **[miˈʤi˜ɸuni]** 【名】浸水した船。「みずぶね (水船)」の義。船を浸水させて航行不能の状態にすること。ヤ˞ビオシ˜キナー　˜イダフネーラ　˞パイ˜ター　バ˞タルンティ　アー˜キ　˜フネー　˞フンナキティ˜　ミ˞ジ˜フニ　˜ナシ　˞ナーン˜シェン [ja˞biʔoʃi̥˜kina: ˜ʔidaɸune:ra ˞pai˜ta: ba˞tarunti ʔa:˜ki ˜ɸune: ˞ɸunnakiti˜ miˈʤi˜ɸuni ˜naʃi ˞na:ŋ˜ʃeŋ](悪天気に板船＜サバニ＞で西表＜南端＞へ渡ろうとして、船を沈没させて航行不能の水船にしてしまった)。

ミ˞ジフミ **[miˈʤiɸumi]** 【名】水汲み。˞ガッ˜コー　˞カイ˜ルカー　ミ˞ジフメー˜＜ミ˞ジカタ˜メー＞　ミ˞ドーン˜ッふァヌ　シ˞グトゥ　ヤッタ [ˈgak˜ko: ˞kai˜ruka: miˈʤiɸume:˜＜miˈʤikata˜me:＞ miˈdo:n˜ffanu ʃiˈgutu jatta](学校から帰ると水汲みは女の子の仕事であった)。

ミ˞ジマキ **[miˈʤimaki]** 【名】「水負け」の義。長時間水田で作業をしたり、湿地帯で作業をすると足の指の間が赤く腫れたり、あかぎれ (皸) のように足の指の間が切れて痛むこと。この症状をいった。水虫の一種か。˞パン˜マー　ミ˞ジマケー　シー˜　ヤ˞ミ˜ス [ˈpam˜ma: miˈʤimake: ʃi: jaˈmi˜su](足は水負けして痛むよ)。

ミ˞ジ˜マキ **[miˈʤi˜maki]** 【名】水撒き。水打ち。庭や道などに水をまくこと。ア˞ミ˜ヌ　˞ホーン˜ユンダ　˞キンアライ˜ミジシ　ミ˞ナカ˜ヌ　ミ˞ジ˜マキ　˞シー˜バ [ʔaˈmi˜nu ˞ho:ŋ˜junda ˞kiŋʔarai˜miʤiʃi miˈnaka˜nu miˈʤi˜maki ˞ʃi:˜ba](雨が降らないので、洗濯水で庭の水撒き＜打ち水＞をしなさいよ)。

ミ˞ジミチ **[miˈʤimiʧi]** 【名】水脈。水の流れるところ。˜クマーラ　カ˞マーバー˜キ　ミ˞ジミチヌ　トゥー˜リ　˞ブン˜ツォー [˜kuma:ra kaˈma:ba:˜ki miˈʤimiʧinu tu:˜ri ˞bun˜tso:](ここからあそこまで水脈が通っているそうだ)。

ミ˞ジムトゥ **[miˈʤimutu]** 【名】水源。水源の神。ア˞ラ˜カーウガンマー　パ˞トゥマ˜ヌ　ミ˞ジムトゥ˜　ヤ˞ロー˜ルミー [ʔaˈra˜ka:ʔugamma: pḁˈtuma˜nu miˈʤimutu˜ jaˈro:˜rumi:](新川御嶽＜お願＞は鳩間島

の水源の神であられますね)。

ミ˞ジムン [miˀʤimuŋ] 【名】水分が多くて美味しい桃。「水桃」の義。イ˞シムン [ʔiˀʃimuŋ](在来種の固い実を付ける桃) の対義語。˞タイ˥パンラ　˥クー　ミ˞ジムンマー˥　イッ˞ケナ˥　ン˞マー˥タン˞ダー [˞taiˀpanra ˥kuː miˀʤimummaː˥ ʔikˀkena˥ ʔmˀmaː˥tan ˞daː](台湾からくる水桃は非常に美味しかったよ)。

ミ˞ジラ˥サ　˥ピルマサ [miˀʤiraˀsa ˥pirumasa] 【連】珍しいさまの詠嘆的表現。珍しいことよ。ABCDE-FGD 型の重言。形容詞、ピ˞ルマ˥サン [piˀrumaˀsaŋ](不思議である。怪しい。奇妙である) の語幹部が、ミ˞ジラ˥サン [miˀʤiraˀsaŋ](珍しい) の語幹部について形成された重言で、強調の意味が含まれる。ミ˞ジラ˥サ　˥ピルマサ　マ˞ナマ˥ヌ　˞ユーヤ˥　シケー˞バー˥キン　プ˞スヌ˥　パ˞ラ˥リンティバーヤ [miˀʤiraˀsa ˥pirumasa maˀnamaˀnu ˞juːja˥ ʃi̥keːˀbaː˥kim pu̥ˀsunu˥ paˀraˀrintibaːja](誠に不思議なことだ、今の世は月へまでも人間が行かれるってよ)。

ミ˞ジラ˥サン [miˀʤiraˀsaŋ] 【形】1珍しい。異様である。˥アイブ　˥ムノー　˥ミリ　ミ˞ラン˥ユンダ　ミ˞ジラ˥サンカヤーティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　˞ナン˥ゾー　ミ˞ジラサ　ナーン˥シェン [˥ʔaibu ˥munoː ˥miri miˀraŋˀjunda miˀʤiraˀsaŋkajaːti ʔuˀmuːtanˀdu ˞nanˀʤoː miˀʤirasa naːŋˀʃeŋ](あんなものは見たことがないので珍しいかなあと思ったが、あまり珍しくなかった)。ミ˞ジラサ˥ヌ　ナ˞ラ˥ヌ [miˀʤirasa ˥nu naˀraˀnu](珍しくて堪らない)。マ˞ナ˥マー　ミ˞ジラ˥サ　˥クトー　˞ナーン˥タンティン　˥アトーケー　ヤー˞デイン˥　ミ˞ジラ˥サ　˥ナルン　˥パジ [maˀnaˀmaː miˀʤiraˀsa ˥ku̥toː ˞naːnˀtantiŋ ˥ʔatoːkeː jaː˞dim˥ miˀʤiraˀsa ˥narum ˥paʤi](今は、珍しいことは無くても、後になってきっと珍しくなるはずだ)。2不思議である。ミ˞ジラ˥サ　˞ワーバー˥キン　キ˞ラリ˥　シェーバン˞ナー [miˀʤiraˀsa ˞waːbaː˥kiŋ kiˀrariˀʃeːbanˀnaː](不思議だ、君までも来れたんだねえ)。ミ˞ジラ˥サワレー [miˀʤiraˀsawareː](何と珍しいことか。珍しいことよ)。

ミ˞ジラ˥シ [miˀʤiraˀʃi] 【連体】珍しい。変わった。ミ˞ジラ˥シ　ム˞ヌ˥バ　ス˞クリティ　ヤ˞ラ˥ビンケーバ　ア˞ツァ˥ミ　˥ミシ　ウ˞ムッ˥サ　シ˞ミ　ベー [miˀʤiraˀʃi ˥munuba su̥ˀkuˀriti jaˀraˀbiŋkeːba ʔaˀtsaˀmi ˥miʃi ʔuˀmusˀsa ʃiˀmi beː](珍しいものを作って子供達に見せ、面白がらせて < 面白くさせて > いる)。

ミ˞ジラ˥シスコーナ [miˀʤiraˀʃisu̥koːna] 【連体】異様な。珍奇な。「珍しいような」の義。ク˞ヌ˥　トゥシ　˥ナルンケン　˥ミリ　ミ˞ラ˥ヌ　ミ˞ジラ˥シスコーナ　ム˞ヌ˥バ　ス˞ク˥リ　˥シケー [kuˀnuˀ tu̥ʃi ˥naruŋkem ˥miri miˀraˀnu miˀʤiraˀʃisu̥koːna muˀnuˀba su̥ˀkuˀri ˥ʃi̥keː](この年になるまで見たことのない異様な物を作ってある)。

ミ˞ジラ˥シスコーニ [miˀʤiraˀʃisu̥koːni] 【副】珍しいほど立派に。珍しく。異様に。変なふうに。ウ˞リヌ˥　ティーシ　ミ˞ジラ˥シスコーニ　ス˞コーリ˥　シケール　˥ムヌ　ミリ˞ミー [ʔuˀrinuˀ tiːʃi miˀʤira ˥ʃisu̥koːnu su̥ˀkoːriˀ ʃi̥keːru ˥munu miriˀmiː](彼の手で珍しいほど立派に作ってあるものを見てごらん < 見てみろ > よ)。

ミ˞シ˥ルン [miˀʃiˀruŋ] 【他動】見せる。老年層の言葉。若年層は、ミ˞ラ˥スン [miˀraˀsuŋ](見せる) という。カ˞ク˥シシケール　ム˞ヌ˥バ　プ˞スン˥　ミ˞シ˥ルンティ　˞アー˥キ　イ˞ザリティ˥　ミ˞シララン˥シェン [kḁˀku˥ʃi ˥ʃi̥keːru muˀnuˀba pu̥ˀsum˥ miˀʃiˀrunti ˞ʔaː˥ki ʔiˀʤariti˥ miˀʃiraraŋˀʃeŋ](隠してある物を他人に見せようとしていて叱られて、見せられなかった)。˥ミシミサカー　ミ˞シ˥ル　˥クトー　˥ナルン [˥miʃimisakaː miˀʃiˀru ˥ku̥toː ˥naruŋ](見せてよければ見せることはできる)。˞マー˥ビン　ミ˞シ˥レー　˥ミサムヌ [˞maː˥bim miˀʃiˀreː ˥misamunu](もっと見せれば良いのに)。˞バン˥ヌン　ミ˞シ˥リ [˞ban ˥num miˀʃiˀri](私にも見せよ)。˞バン˥マー　ミ˞シ˥ルンカヤーティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　ムッ˞トゥ˥　ミ˞シラ˥ヌ [˞bamˀmaː miˀʃiˀruŋkajaːti ʔuˀmuːtanˀdu muˀttuˀ miˀʃiramˀbaŋ](私には見せるかと思ったが、ちっとも見せないよ)。ウ˞リンマー˥　ミ˞シ　ヤッ˥サヌンドゥ　˞バー˥ネー　ミ˞シ˥ル　˥クトー　ナ˞ラン˥ティバーヤ [ʔuˀrimmaː˥ miˀʃijasˀsanundu ˞baː ˥neː miˀʃiˀru ˥ku̥toː naˀranˀtibaːja](彼には見せやすいが、私には見せることは出来ないそうだ)。˥ウヤニン　ミ˞シ˥レー　˥ミサムヌ [˥ʔujanim miˀʃiˀreː ˥misamunu](親にも見せればよいのに)。˞パー˥クムー˞ル˥　ミ˞シ˥リ [˞paː˥ku muː˞ruˀ miˀʃiˀri](早く全部見せろ)。

ミ˞ジンガーリ [miˀʤiŋgaːri] 【名】みずあたり (水当り)。「水変わり」の義。旅行などで、土地が変わることによって起きる下痢や腹痛。ユ˞スジマー˥キー　ナ˞マ˥ミジ　ヌ˞ムター˥ル　ミ˞ジンガーリバ　シー˥　バ˞タ˥ヤビ　˞シー　ナー˥ヌ [juˀsuʤimaː˥ kiː naˀmaˀmiʤi nuˀmutaː˥ru miˀʤiŋgaːriba ʃiː˥ baˀta

˺jabi ˞ʃi: na:˺nu](よそ島に来て、生水を飲んだところ、水当りをして下痢して＜腹をこわして＞しまった)。

ミ˞ジンガ˺サ [mi˞ʤiŋga˺sa] 【名】すいほう (水泡)。みずぼうそう (水疱瘡)。ハシカ <麻疹(マシン)> の発疹(ホッシン)。顔から始まって全身に水疱が広がる子供の皮膚病。ミ˞ジンガ˺サー　ヤ˞ラ˺ビジブンマー　ヤー˞ディン˺　カ˞カリ˺スンダ　プ˞スム˺シ　カ˞カ˺ルカー　˺アトーケー　˺メー　カ˞カラ˺ヌ [mi˞ʤiŋga˺sa: ja˞ra˺biʤibumma: ja:˞diŋ˺ kạ˞kari˺sunda pụ˞sumu˺ʃi kạ˞ka˺ruka: ˺ʔato:ke: ˺me: kạ˞kara˺nu](水疱瘡は子供の頃には必ず罹るから、一度罹(カカ)ると後になっては、もう罹らない)。

ミ˞ジン˺ガニ [mi˞ʤiŋ˺gani] 【名】鉛。「水金」の義。老年層のことば。若年層は、ナ˞マ˺リ [na˞ma˺ri](鉛) という。マ˞ナマ˺ヌ　ウ˞ツァン˺ヌ　ウ˞ムレー˺　ミ˞ジン˺ガニシル　ス˞クラ˺リ　˞ブー [ma˞nama˺nu ʔu˞tsan˺nu ʔu˞mure:˺ mi˞ʤiŋ˺ganiʃiru sụ˞kura˺ri ˞bu:](今の投網(トアミ)の錘(オモリ)は鉛で作られている)。

ミ˞ジン˺グラ [mi˞ʤiŋ˺gura] 【名】水タンク。貯水池。ミ˞ジ˺グラ [mi˞ʤi˺gura](水タンク) ともいう。若年層は、ミ˞ジタン˺ク [mi˞ʤitaŋ˺ku](水タンク) という。ム˞カ˺シプソー　ミ˞ジタンク˺バ　ミ˞ジン˺グラティル　ア˞ゾーッタ˺ル [mu˞ka˺ʃipụso: mi˞ʤi-taŋkuba˺ mi˞ʤiŋ˺guratiru ʔa˞ʤo:tta˺ru](昔の人は水タンクをミジングラ＜水蔵＞といわれたものだ)。

ミ˞ジン˺ゴイ [mi˞ʤiŋ˺goi] 【名】みずごえ (水肥)。液肥。老年層は、ミ˞ジ˺ゴイ [mi˞ʤi˺goi](水肥) ともいう。ム˞カ˺シェー　˺コイタングナー　ミ˞ジン˺ゴイ　イ˞リティル˺　パ˞タ˺ケー　カ˞ヨーシタル [mu˞ka˺ʃe: ˺koitaŋguna: mi˞ʤiŋ˺goi ʔi˞ritiru˺ pạ˞ta˺ke: ka˞jo:ʃị̥taru](昔は水肥を肥担桶に入れて畑へ運んだものだよ)。

ミ˞ジン˺ダナ [mi˞ʤin˺dana] 【名】水棚。マ˞カ˺ルダナ [ma˞ka˺rudana](お碗棚) ともいう。台所の脇にある皿や碗類を置いて水分を切るに用いる棚。「Mizzutana.faxiri. ミヅタナ、または、ハシリ (水棚. または、走り) 台所で、陶器その他の物をのせて洗う板」『邦訳日葡辞書』。マ˞カ˺ルドング　ア˞ライティ˺　ミ˞ジン˺ダナナー　ウ˞スバシティ˺　ミ˞ジ˺　キシバ [ma˞ka˺rudoŋgu ʔa˞raiti˺ mi˞ʤin˺danana: ʔu˞subaʃiti˺ mi˞ʤi˺ kị̥ʃiba](お碗類を洗って水棚に伏せて置いて水を切りなさい)。マ˞カ˺ルドンゴー　ア˞ラシティティ˺　ミ˞ジン˺ダナナ　ウ˞スンフカシ˺　シ˞キ˺リバ [ma˞ka˺rudoŋgo: ʔa˞raʃị̥titi˺ mi˞ʤin˺danana: ʔu˞suŋɸụkaʃi˺ ʃị̥˞ki˺riba](お碗類は洗ってから水棚に伏せておきなさいよ)。

ミ˞ジン˺ダラ [mi˞ʤin˺dara] 【名】下水だめ。すいこみ。炊事場の下水を流して溜めておく穴。水溜り。マ˞カ˺ルドング　ア˞ライヤー˺　ミ˞ジェー˺　ミ˞ジン˺ダラー　˞ナーラ˺シ　タ˞ムタ [ma˞ka˺rudoŋgu ʔa˞raija:˺ mi˞ʤe:˺ mi˞ʤin˺dara: ˞na:ra˺ʃi ta˞muta](お碗類を洗った水は下水溜め＜すいこみ＞へ流して溜めた)。

ミ˞ズ [mi˞ʤu] 【名】1溝。下水溝。˺ミゾー　バ˞リティ˺　タ˞マリミジェー˺　ナ˞ガシバ˺ル　ヤ˞シキ˺ヌ　˞フン˺シェー　˞カイ˺ヤーツォー [˺miʤo: ba˞riti˺ ta˞marimiʤe:˺ na˞gaʃiba˺ru ˞jaʃị̥ki˺nu ˞ɸuŋ˺ʃe: ˞kai˺ja:tso:](溝を割って溜まった水を流すのが家の風水は良い＜綺麗＞のだそうだ)。2澪(ミオ)。水路。鳩間島の東南のパ˞マザ˺キ [pa˞maʤa˺ki](浜崎浜) とタ˞カ˺ビー [tạ˞ka˺bi:](高干瀬) の間にある深い澪。水路。ミ˞ズヌ˺カン [mi˞ʤunu˺kaŋ](澪の上) ともいう。

˞ミス˺クン [˞misụ˺kuŋ] 【他動】捜す。発見する。「見つく＜下二＞」の転訛したもの。˺マナール　シ˞トゥタ˺ユー　˞ミス˺クンティ　˞ベーン˺ドゥ　ムッ˞トゥ　ミシゥカラ˺ヌ [˺mana:ru ʃị̥˞tuta˺ju: ˞misụ˺kunti ˞be:n˺du mut˞tu misïkara˺nu](何処で無くしたのか、捜そうとするが、一向に捜せない)。˞ミシ˺キ　˺ミサカー　˞ミス˺ク　˺クトー　˺ナルン [˞miʃị̥˺ki ˺misaka: ˞misï˺ku ˺kụto: ˺naruŋ](捜してよければ捜すことは出来る)。˞マー˺ビン　˞ミシ˺ケー　˺ミサムヌ [˞ma:˺bim ˞miʃị̥˺ke: ˺misamunu](もっと捜せばいいのに)。˞パー˺ク　˞ミシ˺キバ [˞pa:˺ku ˞miʃị̥˺kiba](早く捜せよ)。

ミス˞コーマ˺シ [misụ˞ko:ma˺ʃi] 【副】こっそりと。小声密かに。ミシゥ˞カーマ˺シとも言う。ウ˞ブ˺クイシェー　パ˞ナサン˺ドーシ　ミス˞コーマ˺シ　パ˞ナ˺シバ [ʔu˞bu˺kuiʃe: pa˞nasan˺do:ʃi misụ˞ko:ma˺ʃi pa˞na˺ʃiba](大声では話さないで、小声で密(ヒソカ)に話しなさいよ)。

ミス˞コーミスコー˺シ [misụ˞ko:misuko:˺ʃi] 【副】用心深く。慎重に。丁寧に。バ˞リムヌ˺　ヤ˞リバ˺　ミス˞コーミスコー˺シ　˞アシゥカーン˺カー　バ˞リスンダ˺　ナ˞ラン˺ダー [ba˞rimunu˺ ja˞riba˺ misụ˞ko:misụko:˺ʃi ˞asï̥ka:ŋ˺ka: ba˞risunda˺ na˞ran˺da:](割れもの＜割れやすい物＞だから慎重に扱わないと割れるから、いけないよ)。

˺ミズサライ [˺miʤusarai] 【名】溝さらえ。˺ミズナー

˖キーヌパー˥ヌ　タ˖マリティ˥　ミ˖ジヌ　ナーリラン˥バ　˥ミズサライ　˖シー˥ヨー [˥midʑuna: ˖ki:nu-pa:˥nu ta˖mariti˥ mi˖ʤinu na:riram˥ba ˥midʑusarai ˖ʃi:˥jo:](溝の中に木の葉が溜まって水が流れないから、溝浚えをしなさいよ)。

ミ˖ズヌ˥カン [mi˖dʑunu˥kaŋ] 【名】海底地名。「澪(ミオ)の上」の義。˖ナーバレー [˖na:bare:](˖長い窪地＜割れ地＞」の義) の干瀬の内側 (礁内湖の側) からヤ˖マ˥タジル [ja˖ma˥taʤiru](浅瀬) へかけて延びる、幅約 100 メートル、長さ約 500 メートル、水深約 30 メートルの澪。

ミ˖ズ˥ノ [mi˖dʑu˥no] 【名】 (動) 魚の名。イワシの一種。和名、ミズン (体長約 15 センチ)。小イワシ。老年層はミ˖ズ˥ヌ [mi˖dʑu˥nu](小イワシ) ともいう。和名、ヤマトミズンは、ヤ˖マトゥミズ˥ヌ [ja˖matumidʑu˥nu] という。パ˖ダ˥ラ [pa˖da˥ra](トウゴロイワシ) と供に 8 月頃に島の海岸に寄ってくる。ム˖カ˥シェー　パ˖ダ˥ラン　ミ˖ズ˥ノン　ス˖クイ˥キー　ナ˖マ˥シ　˥キシティ　フ˖ナブ˥ヌ　˥シー　˥カキティ　ン˖コーッ˥タ [mu˖ka˥ʃe: pa˖da˥ram mi˖dʑu˥non sʉ˖kui˥ki: na˖ma˥ʃi ˥kiʃiti ɸu˖nabu˥nu ˥ʃi: ˥kąkiti ʔŋ˖ko:t˥ta](昔はトウゴロイワシもミズノも掬(スク)ってきて刺身に切って、九年母＜シークヮーサ＞の汁をかけて召し上がられた)。

ミ˖ズ˥ヤ [mi˖dʑu˥ja] 【名】水屋。茶器や食器類を入れる箪笥(タンス)様の家具。標準語からの借用語。戦後輸入され、使用されるようになった。台所のある三番座に置かれてあった。大小さまざまあるが、普通は奥行き約 45 センチ、幅約 80 センチ、高さ約 120 センチ程度のものがよく利用されていた。ミ˖ズヤ˥ン　ナ˖カ˥ナー　ッ˖ふ˥サタ　イ˖リ˥　シケーバ　ン˖ザ˥シ˖ミー [mi˖dʑuja˥n na˖ka˥na: f˖fu˥sata ʔi˖ri˥ʃi̥ke:ba ʔn˖dʑa˥ʃi˖mi:](水屋の中に黒砂糖を入れてあるから出してごらんよ)。

ミ˖ズ˥ル [mi˖dʑu˥ru] 【名】水色。青色。ミ˖ズ˥ルキン [mi˖dʑu˥rukiŋ](水色の着物)。ク˖ヌ˥　ミ˖ズル˥ヌ　˖タンムヌ˥シ　ナ˖チ˥キン　˖サース˥カー　イッ˖ケナ　カイ˥ヤンパジ [ku˖nu˥ mi˖dʑuru˥nu ˖tammunu˥ʃi na˖tʃi˥kin ˖sa:su˥ka: ʔik˖kena kai˥jampaʤi](この水色の反物で夏着を作る＜仕立てる＞と非常にきれいだろう)。

˥ミスン [˥misuŋ] 【他動】見せる。老年層の言葉。「見す (下二段活用)。～令視倍吉君之＜ミスベキキミノ＞～。万、166」の転訛したものか。若年層は使わない。ミサスンとも言う。ウ˖ナー˥　ムノープ˖スン˥　ミスンテー　サ˖ヌ˥　イッ˖カ˥　ミ˖ス˥ヌ [ʔu˖na:˥ muno: pʉ̥˖sum˥ misunte: sa˖nu˥ ʔik˖ka˥ mi˖su˥nu](自分の物は人に見せようとはしない。決して見せない)。ミ˖シ˥プサー　ア˖リ˥ブーンドゥ　マ˖ナ˥マー　˥ミス　˥クトー　ナ˖ラ˥ヌ [mi˖ʃi˥pʉ̥sa: ʔa˖ri˥bu:ndu ma˖na˥ma: ˥misu ˥kʉ̥to: na˖ra˥nu](見せたくはあるが、今は見せることは出来ない)。˥ミシェー　˥ミサムヌバ [˥miʃe: ˥misamunuba](見せればよいものを)。˖パー˥ク　˥ミシバ [˖pa:˥ku ˥miʃiba](早く見せろよ)。

ミ˖ダカー˥マ [mi˖daka:˥ma] 【名】めだか。若年層のことば。標準語からの借用語。ミ˖ダカー˥マー　˖パイタ˥ナール　˖ブー˥　パ˖トゥ˥マナーヤ　ブ˖ラーヌ [mi˖daka:˥ma: ˖paita˥na:ru ˖bu:˥ pą̥˖tu˥mana:ja bu˖ra:nu](メダカは西表島にが＜ぞ＞いる。鳩間島にはいない)。

ミ˖ダ˥スン [mi˖da˥suŋ] 【他動】乱す。混乱させる。心を迷わせる。かき回す。標準語からの借用語。イ˖フナムニバ˥＜イ˖ファナムニバ˥＞　シゥ˖カス˥カー　ク˖ク˥ル　ミ˖ダ˥スン˖ダー [ʔi˖ɸunamuniba˥＜ʔi˖ɸanamuniba˥＞ sʉ̥kasu˥ka: kʉ̥˖ku˥ru mi˖da˥sun˖da:](変なこと＜妙な噂話＞を聞かせると心を惑わせるよ)。ク˖ク˥ル　ミ˖ダサン˥ドーシ　ウ˖ティ˥シキティ　シ˖キ˥ヨー [kʉ̥˖ku˥ru mi˖dasan˥do:ʃi ʔu˖ti˥ʃi̥kiti ʃi̥˖ki˥jo:](心を乱さないで、落ち着いて聞きなさいよ)。ク˖ク˥ル　ミ˖ダ˥スクトー　˖ナーン˥ティ　ウ˖ムータ˥ヌ　ミ˖ダ˥シ　˖ナーン˥バン [kʉ̥˖ku˥ru mi˖da˥su ˥kʉ̥to: ˖na:n˥ti ʔu˖mu:ta˥nu mi˖da˥ʃi ˖na:m˥baŋ](心を乱すことはないと思ったが、乱してしまったよ)。ク˖ク˥ル　ミ˖ダ˥シェー　ナ˖ラ˥ヌ [kʉ̥˖ku˥ru mi˖da˥ʃe: na˖ra˥nu](心を乱してはならない)。˖マー˥ビン　ミ˖ダ˥シェー　˥ミサムヌ [˖ma:˥bim mi˖da˥ʃe: ˥misamunu](もっと乱せばいいのに)。ミ˖ダ˥シバ [mi˖da˥ʃiba](乱せよ)。

ミ˖タナブニ˥　マ˖ラソー˥リ [mi˖tanabuni˥ ma˖raso:˥ri] 【連】三棚船を新造され (加治工伊佐氏伝承)。この語は現在ではほとんど死語である。ティ˖ジリ˥ビー [ti˖ʤiri˥bi:] であった同氏が船浦の˥スラバ [˥suraba](造船所) の話をした際に、「昔の人はこう話された」述べた。「和船型の接ぎ舟か」『沖縄古語大辞典』とある。

ミ˖ダ˥ルン [mi˖da˥ruŋ] 【自動】乱れる。ばらばらになる。標準語からの借用語か。˖カントゥク˥ヌ　˥ムニ　シゥ˖カン˥カー　レ˖ツォー˥　ミ˖ダルン˥ドゥ　˥ムニ　シゥ˖ク˥カー　ミ˖ダラ˥ヌ [˖kantuku

˜nu ˜muni si̥˞kaŋ˜ka: re˞tso:˜ mi˞darun˜du ˜muni su̥˞ku˜ka: mi˞dara˜nu](監督の話し < 言葉。号令 > を聞かないと列は乱れるが、話 < 号令 > を聞いたら乱れない)。ミ˞ダ˜リ　˞ナー˜ヌ [mi˞da˜ri ˞na:˜nu](乱れてしまった)。ミ˞ダ˜ル　˜クトー　˞ナー˜ヌ [mi˞da˜ru ˜kuto: ˞na:˜nu](乱れることはない)。プ˞スム˜シ　ミ˞ダ˜レーラー　˞ノーサラ˜ヌ [pu̥˞sumu˜ʃi mi˞da˜re:ra: ˞no:sara˜nu](一度乱れたら直されない)。˞カッティニ˜　ミ˞ダリ˜リ [˞kattini˜ mi˞dari˜ri](勝ってに乱れろ)。

˜ミチ [˜mitʃi] 【名】 1道。道路。ウ˞ブ˜ミチ [ʔu˞bu˜mitʃi](大道路。大きな道)。ミ˞チェー˜マ [mi˞tʃe:˜ma](小道。小路)。ウ˞ブ˜マイミチ [ʔu˞bu˜maimitʃi](大前農道)。˞ナードーミチ [˞na:do:mitʃi](長堂道)。ヤ˞ラヌ˜ミチ [ja˞ranu˜ mitʃi](屋良の道)。タ˞チ˜バルミチ [ta˞tʃi˜barumitʃi](立原道)。ニ˞シ˜ドーミチ [ni˞ʃi˜do:mitʃi](西堂道)。˜カンドーミチ [˜kando:mitʃi](かんどう道)。シ˞マナカミチ [ʃi˞manakamitʃi](島中道)。フ˞クン˜ドーミチ [ɸu̥˞kun˜do:mitʃi](福堂道)。フ˞カバ˜カミチ [ɸu̥˞kaba˜kamitʃi](外ばか道)。フ˞ナ˜バルミチ [ɸu˞na˜barumitʃi](船原道)。ウ˞ブドゥマ˜ルミチ [ʔu˞buduma˜rumitʃi](大泊道) 等がある。ミ˞チ˜ヌ　˜ッサ　˜パライバ [mi˞tʃi˜nu ˜ssa ˜paraiba](道の草を刈りはらいなさいよ)。2人の踏み行うべき道。倫理道徳。ヨー˞ヨー˜　ノー˞ンシェー˜ル　˜バスン　プ˞スヌ˜　ミ˞チ˜　フ˞ミ˜　パ˞ラバ˜ル　ナル˞ダー [jo:˞jo:˜ no:˞ŋʃe:˜ru ˜basum pu̥˞sunu˜ mi˞tʃi˜ ɸu˞mi˜ pa˞raba˜ru naru˞da:](よくよく注意しなさいよ。如何なる時にも人間の正しい道を踏み行って行かなければならない < 踏み行わばぞなる >)。

ミ˞チアウ [mi˞tʃiʔau] 【名】みちづれ (道連れ)。道中仲間。連れ立って行く人。ミ˞チジリ [mi˞tʃidʒiri](道連れ) ともいう。ユネン˞バー˜キ　パ˞タキシグ˜トゥ　˞スー˜　ピンマー　ミ˞チアウヌ˜　ブ˞ラーン˜カー　ナ˞クラー˜ル [junem˞ba:˜ki pḁ˞takiʃigu˜tu ˞su:˜ pimma: mi˞tʃiʔaunu˜ bu˞ra:ŋ˜ka: na˞kura:˜ru](日暮れまで畑仕事をする時は、道連れがいないと怖い)。

ミ˞チアキ˜ナイ [mi˞tʃiʔaki˜nai] 【名】つじあきない (辻商い)。道端で店を出して商売すること。つじうり。ム˞カ˜シェーイ˞サナキ˜ナー　イ˞ズン˜　ヤサイン　ミ˞チアキ˜ナイ　˞ソー˜ル　プ˞スン　オーッタン˜ドゥ˞ナー [mu˞ka˜ʃe: ʔi˞sanaki˜na: ʔi˞dʑuŋ˜ ja-saim mi˞tʃiʔaki˜nai ˞so:˜ru pu̥˞suŋ ʔo:ttan˜du˞na:](昔は、石垣島では魚も野菜も辻商いをされる人もおられたのだがなあ)。

ミ˞チウクリ [mi˞tʃiʔukuri] 【名】葬送。葬式の行列に直接参加せず、四辻などで待って葬送の行列を送ること。「道送り」の義。パ˞カーバー˜ケー　ウ˞クリユーサンバ˜　ミ˞チウクリ　シー　オーサー [pḁ˞ka:ba:˜ke: ʔu˞kuriju:samba˜ mi˞tʃiʔukuri ʃi: ʔo:sa:](お墓まではお送り出来ないから、四辻で待ってお送りしましょう)。

ミ˞チウタ [mi˞tʃiʔuta] 【名】道行の歌。1豊年祭の道歌。豊年祭の˜トーピン [˜to:piŋ](当日)、午後一時頃になると各˜ウガン [˜ʔugaŋ](御嶽。お願) にいたピ˞キ [pi̥˞ki](血族) の者が、˞マイドゥマ˜ルウガン [˞maiduma˜ruʔugaŋ](前泊お願) のヒキの者はピ˞ナイ˜ウガン [pi˞nai˜ʔugaŋ](鬚川お願) へ行き、そこのヒキと合流して˞ウイヌ˜ウガン [˞ʔuinu˜ʔugaŋ](友利御嶽 < お願 >) へ行く。各お願を出発する際は、鼓の音に合わせて各お願の歌を歌う。ア˞ラ˜カーウガン [ʔa˞ra˜ka:ʔugaŋ](新川お願) のヒキの者は直接友利お願へ向かう。友利お願の前で待ち合わせ、揃って友利お願の中へ入るが、その際、友利お願のピキの者と向かい合って「ウブトゥムル」(大友利御嶽) の歌をうたう。この歌を歌い終えてから一同は˞パイ˜ディン [˞pai˜diŋ](拝殿) に進み、司やティジリビなどの神職者の後に蹲踞(ソンキョ)し、拝殿に向かって合掌礼拝(ガッショウレイハイ)する。その後˞マー˜ニ (クロツグ) の若葉を 80 本ほど神前に捧げて祈願し、これを˞カン˜シバ [˞kaŋ˜ʃiba](神芝) とし、2、3 本を繋いで集まった人々の頭に結わえさせる。その後に、次のミ˞チウタ [mi˞tʃiʔuta](道歌) を歌いながら˜サンシキ [˜saŋʃiki](桟敷) へと下りてくる。1 連/ヘイヤー　パトゥマユーヌ　ホー　ナウラバ　ヘイヤー　トゥムルユーヌ　ミキラバ/(ヘイヤー < 囃子 > 鳩間村 < 世 > がホー < 囃子 >　豊作になる < 稔る > と　ヘイヤー　友利御嶽神様の統べる村が実ると)、2 連/ヘイヤー　タルトゥユドゥ　ティユマス　ヘイヤー　ジリトゥユドゥ　ナトゥラス/(ヘイヤー < 囃子 > 誰と供にぞ鳴響ます　ヘイヤー　どなた < 何れの者 > と供にぞ　ホー　轟かす < 名を轟かそう > か)。3 連/ヘイヤー　マブルシュードゥ　ホー　ティユマス　ヘイヤー　ウヤガミドゥ　ホー　ナトゥラス/、4 連/ヘイヤー　マブルシューヌ　ホー　アトゥンヤー　ヘイヤー　ウヤガミヌ　ホー　アトゥンヤ　ー/、5 連/ヘイヤー　サカサキャードゥ　ホー　ティユマス　ヘイヤー　ティジリキャードゥ　ホー　ナトゥラス/、6 連/ヘイヤー

サカサキャーヌ　ホー　アトゥンニャーヘイヤー　ティジリキャーヌ　ホー　アトゥンニャー/、7連/ヘイヤー　ユムチキャードゥ　ホー　ティユマス　ヘイヤー　シマムチャードゥ　ホー　ナトゥラス/、8連/ヘイヤー　ユムチキャーヌ　ホー　アトゥンヤー　ヘイヤー　シマムチャーヌ　ホー　アトゥンヤー/、9連/ヘイヤー　バガケーラドゥ　ホー　ティユマス　ヘイヤー　ユスケーラドゥ　ホー　ナトゥラス/『鳩間誌』p.43。2お盆の道歌。˩ソー˥ラン [˩soː˥raŋ](お盆) の獅子舞いのとき、アンガマ隊が移動する際には、次の道歌が歌われる。/シーシェーマーヌ　オールンドー (獅子舞が来られるよ)、アンガマターヌ　オールンドー (アンガマター < 姉子踊り隊。入子踊り隊 > が来られるよ)。パダラヤ　ナマシ (トウゴロー鰯は刺身にして)。ナマシヤ　パイル (刺身には酢を)。パイルヤ　フナブ (酢は九年母)。オンガキーヤ　シーソヌパー (刺身の妻は紫蘇の葉を)。ソーランヤーヌ　アッパーター (精霊会の祖母たちよ)。ミーザンマーザン　オーショーリ (不味くても美味しくても召し上がれ)/。そしてイ˩リクヌ˥ティー [ʔi˩rikunu˥tiː](入子踊りの笛) が吹奏される。

ミ˩チェー˥マ [mi˩ʧeː˥ma] 【名】小路。路地。-マ [-ma] は美称、愛称の接尾辞 (指小辞)。グ˩マミチェー˥マ [gu˩mamiʧeː˥ma](「小さな小路」の義。人一人が通ることのできるような小道。畑の畦道)。ウ˩ブ˥マイミチェーラ　パ˩タキ˥ヌ　˥アザダーチ　ヤ˩ラヌ˥　パマ˩バー˥キ　ミ˩チェーマ˥ヌ　˩トゥー˥リ　ブ˩タン [ʔu˩bu˥maimiʧeːra pḁ˩taki˥nu ˥ʔadʑadaːʧi ja˩ranu˥ pama˩baː˥ki mi˩ʧeːma˥nu ˩tuː˥ri bu˩taŋ](大前の道から畑の畦道沿いに屋良の浜まで小路が通っていた)。˩ワッ˥テトゥ　˩バン˥テヌ　˩アイナ˥カナー　ミ˩チェーマ˥ヌ　˩アッ˥タン [˩wat˥tetu ˩ban ˥tenu ˩ʔaina˥kana: mi˩ʧeːma˥nu ˩ʔat˥taŋ](私の家と貴方の家の間に小路があった)。

ミ˩チクサイ [mi˩ʧikusai] 【名】道路修理。みちぶしん (道普請)。「みちこさえ (道拵え)」の義。お盆の送り日の翌日に井戸浚えと共に村中総出で行った。ム˩カ˥シェー　ム˩ラズーヌ˥　プ˩ス˥シル　ミ˩チクサイン　カーサライン　ソーッタ˥ル [mu˩kaˀʃeː mu˩radʑuːnu˥ pu̥˩suʃi˥ru mi˩ʧikusaiŋ kaːsarain soːtta ˥ru](昔は村中の人で道普請も井戸浚えもされたものだ)。

ミ˩チ˥シキ [mi˩ʧi˥ʃi̥ki] 【名】1満月。「満ち月」の転訛。˩キュー˥ヌ　˥シケー　ミ˩チ˥シキ　ナリ˩オーリ˥　ブーバン [˩kjuː˥nu ˥ʃi̥keː mi˩ʧi˥ʃi̥ki ˥nari˩ʔoːri˥ buːbaŋ](今宵 < 今日 > の月は満月になっておられるわい)。2月日が満ちること。妊娠等の月数が満ちること。˥シケー　タ˩ライ˥　ミ˩チ˥シキ　ナ˩リ˥ブーバ　ナスパジ˩ダー [˥ʃi̥keː ta˩rai˥ mi˩ʧi˥ʃi̥ki na˩ri˥ buːba nasupadʑi˩daː](月数は足りて、産み月に満ち足りているから産むはずよ)。

ミ˩チ˥スー [mi˩tsi˥suː] 【名】1上げ潮。差し潮。満ち潮。ミ˩チ˥スー　ナリ˩キー˥ブンダ　˩ヨイ˥ヤー　パ˩ジミ˥　ミサン [mi˩ʧi˥suː nari˩kiː˥bunda ˩joi˥ja pa˩dʑimi˥ misaŋ](上げ潮になってきているからお祝いは始めても良い)。2満潮。ミ˩チ˥スーナール　˥フネー　ミ˩ナトー˥ラ　ン˩ザサ˥リ [mi˩ʧi˥suːnaːru ˥ɸuneː mi˩natoː˥ra ʔn˩dʑasa˥ri](満潮時に < ぞ > 船は港から出されるのだ)。

ミ˩チ˥タライ [mi˩ʧi˥tarai] 【名】満足。満ち足りること。˥ヌーンクイ　ミ˩チ˥タライ　˩ブーユンダ　ノーン˥　プサ　˥ムノー　˩ナー˥ヌ [˥nuːŋkuim mi˩ʧi˥ tarai ˩buːjunda noːm˥ pu̥sa: ˥muno: ˩naː˥nu](何もかも満ち足りているから、何も欲しいものはない)。

ミ˩チッサーリ˥ムヌ [mi˩ʧissaːri˥munu] 【名】障害物。˩道塞(フサ)がりもの」の転訛。「道」に「擁、布左具 (ふさぐ)」『華厳経音義私記』が下接して形成だれた語。ミ˩チッサーリ˥ムノー　マ˩ダキ˥リバ [mi ˩ʧissaːri˥muno: ma˩daki˥riba](障害物 < 道塞がりもの > は取り除けよ)。

ミ˩チドゥミ [mi˩ʧidumi] 【名】道止め。通行禁止。伝染病が発生した時などに、一時的に通行止めをされることがあった。ウ˩マー˥ヤ　ミ˩チドゥミ˥　シ˩ラリ　ブーユンダ˥　パ˩ララ˥ヌ [ʔu˩maː˥ja mi˩ʧidumi ˥ʃi˩rari buːjunda˥ pa˩rara˥nu](そこへは、通行禁止になっているから行くことができない < 行かれない >)。

ミ˩チナカ [mi˩ʧinaka] 【名】みちなか (道中)。途中。˥ドク　シ˩ナー˥　ベーティ　キ˩ムイ˥ツァー　ミ˩チナカーバー˥キ　˩サーリギーティ˥　ヤー　˩ペー˥ル　˥ムヌ　ミ˩リトゥドゥ˥キティル　˩クータ˥ル [˥duku ʃi˩naː˥ beːti ki˩mui˥tsa: mi˩ʧinakaːbaː˥ki ˩saːrigiːti˥ jaː ˩peː˥ru ˥munu mi˩ritudu˥kitiru ˩kuːta˥ru](あまりにも幼くて可哀相で、途中まで連れて行って、家に入るのを見届けて < ぞ > 来たものだよ)。

ミ˩チナカー˥ラ [mi˩ʧinakaː˥ra] 【名】1行程の途中から。日程、旅程の途中から。ブ˩ガ˥リティ　ア˩ラキユーサン˥ベーティ　ミ˩チナカー˥ラ　ム˩ドゥ

˥リ　˥ケーツォー [bu˩gaˇriti ʔa˩rakijuːsamˇbeːti mi˩tʃinakaːˇra mu˩duˇri ˇkeːtsoː](疲れて歩けないので途中から戻って来たそうだ)。2発達段階の中途。青年期。子供から大人になる途中。プ˩ソー˥　ミ˩チナカー˥ラ　ヤ˩ブリ˥ルカー　˩ノーサラン˥ティ　ム˩カ˥シプソー　˩アゾーッ˥タ [pu̥˩soːˇ mi˩tʃinakaːˇra ja˩buriˇrukaː ˩noːsaranˇti mu˩kaˇʃipu̥soː ʔa˩ʤoːtˇta](人は、成人する途中＜青年期＞に身を持ち崩すと、直されないと昔の人はおっしゃった)。

ミ˩チ˥ヌ　ア˩ジ˥マー [mi˩tʃiˇnu ʔa˩ʤiˇmaː] 【連】十字路。四つ角。よつつじ (四辻)。道が十字形に交わっている所。ミ˩チ˥ヌ　˩ユーカドゥ [mi˩tʃiˇnu ˩juːkadu](道の四つ角) ともいう。˩ソー˥シケー　ミ˩チ˥ヌ　ア˩ジ˥マーナーティ　˩ティー˥ッサイ　ウ˩クリ　オーラ˥ス　˥クトゥン　˩アッ˥タン [˩soːˇʃi̥ke: mi˩tʃiˇnu ʔa˩ʤiˇmaːnaːti ˩tiːˇssai ʔu˩kuri ʔoːraˇsu ˇku̥tuŋ ˩ʔatˇtaŋ](葬式は、道の四つ角で手を合わせてお送りすることもあった)。

ミ˩チ˥ヌ　˥スバ [mi˩tʃiˇnu ˇsuba] 【連】道端。路傍。「道の側」の義。プ˩スヌ　トゥー˥ロール　˥バソー　ミ˩チ˥ヌ　˥スバー　˥ナリ　ア˩サビ˥バ˩ヨー [pu̥˩sunu tuːˇroːru ˇbasoː mi˩tʃiˇnu ˇsubaː ˇnari ʔa˩sabiˇba ˩joː](人が通られる時は道の側になって遊びなさいね)。

ミ˩チヌ˥プス [mi˩tʃinuˇpu̥su] 【名】通行人。道を通る人。「道の人」の義。イ˩サナケー˥　パルカー　ミ˩チヌプス˥ヌ　シ˩ギサ˥ヌ　ア˩ラカラン˥シェン [ʔi˩sanakeːˇ parukaː mi˩tʃinupusuˇnu ʃi˩gisaˇnu ʔa˩rakaraŋˇʃeŋ](石垣島へ行くと通行人が多くて歩けなかった)。

ミ˩チブー [mi˩tʃibuː] 【名】みちぶ (道夫)。道普請の際の夫役。道路作業に従事する人夫。ミ˩チブー˥ティ　˩シー　ヤーカー˥ジェーラ　˩タンガ˥ナー　ヤ˩ラバリ　パッタ˥ヤー [mi˩tʃibuːˇti ˩ʃiː jaːkaːˇʤeːra ˩taŋgaˇnaː ja˩rabari patˇtajaː](道路作業の人夫として各家＜家数＞から一人ずつ呼び出されていったさ)。

ミ˩チ˥ブー [mi˩tʃiˇbuː] 【連】沢山ある。いっぱいある。「満ちている」の義。˩ジン˥マー　ミ˩チ˥ブー [˩ʤimˇmaː mi˩tʃiˇbuː](お金は沢山ある＜満ちている＞)。

ミ˩チ　フムン [mi˩tʃi ɸumuŋ] 【連】正しい生き方をする。人としての正しい道を踏み行う。「道踏む」の義。神事や仏事が正しく実施され、継承されていること。サ˩クシ˥ヌ　˥ヤー　シ˩ギバル˥　ミ˩チェー˥　フ˩ム˥　サ˩クシ　ウス˥クミ　˩スー˥カー　ミ˩チェー˥　フ˩マントダー [sa˩kuʃiˇnu ˇjaː ʃi˩gibaruˇ mi˩tʃeːˇ ɸu˩muˇ sa˩kuʃi ʔusuˇkumi ˩suːˇkaː mi˩tʃeːˇ ɸu˩manˈdaː](長男が家を継げばこそ王道＜正しい跡継ぎの道＞を踏むのだ。長男を押し込め＜次男三男が家を継ぐこと＞ることをすると、家の跡継ぎの正しい道は踏めないぞ)。

ミ˩チマール [mi˩tʃimaːru] 【名】道草をくうこと。遊びまわること。「道回り」の義。˩イーシキラレー˥ル　シ˩グトー˥　サ˩ムティ˥　ナー˩イ˥　ミ˩チマールバ˥カー˩ニ　シェー˥ティ　˩アーキ˥バン˩ナー [˩ʔiːʃi̥kirareːˇru ʃi˩gutoːˇ sa˩mutiˇ naː˩iˇ mi˩tʃimaːrubaˇ kaː˩ni ʃeːˇti ˩ʔaːkiˇban˩naː](言いつけられた仕事はしないで、ただ道草を食って遊びまわってばかりいるんだねえ＜後が怖いぞ、叱られるぞ＞)。

ミ˩チマユイ [mi˩tʃimajui] 【名】みちまどい (道惑い)。道に迷うこと。マ˩ブローマ˥ヌ　ミ˩チマユイ　シー　アー˥クカー　˩カンヌ˥マイシ　カ˩ルイマー˥シ　˩サーリオー˥リ　マ˩ブ˥ル　ク˩ミ˥シミ　タ˩ボー˥リ [ma˩buroːmaˇnu mi˩tʃimajui ʃiː ʔaːˇkukaː ˩kannuˇ maiʃi ka˩ruimaːˇʃi ˩saːriʔoːˇri ma˩buˇru ku˩miˇʃimi ta ˩boːˇri](マブローマ＜生霊・霊魂＞が道に迷ってうろついていたら、神様の御手で囲いまわして連れ戻して下さって、生霊を体内に籠め＜マブル籠め、霊籠め＞させてくださいませ)。

ミ˩チミチ [mi˩tʃimitʃi] 【副】道すがら。歩きながら。～の途上。ム˩カ˥シプソー　ユネン˩バー˥キ　パ˩タラキティ˥　パ˩タ˥ケーラヌ　˩カイ˥ル　ミ˩チミチ˥　トゥ˩バラー˥マ　イ˩ゾーリ˥バ　˥ウマーカマーラー　˩カイ˥シ　イ˩ゾーッ˥タンティ˩ダー [mu˩kaˇʃipu̥soː junem˩baːˇki pḁ˩tarakitiˇ pḁ˩taˇkeːranu ˩kaiˇru mi˩tʃimitʃiˇ tu˩baraːˇma ʔi˩ʤoːriˇba ˇʔumaːkamaːra: ˩kaiˇʃi ʔi˩ʤoːtˇtanti˩daː](昔の人は、夕方まで働いて、畑からの帰り道の道すがらトゥバラーマ歌を歌われると、ここかしこからは、トゥバラーマの返しの歌を歌われたそうだよ)。

ミ˩チユドゥン [mi˩tʃijuduŋ] 【名】道草を食うこと。「道よどみ」の義。ミ˩チトゥナル　ナーパナシ　サンドー˥シ　ミ˩チユドゥン　サンドー˥シ　˩ダンダン˥シ　パ˩タ˥ケー　˥パリ [mi˩tʃitunaru naːpanaʃi sandoːˇ ʃi mi˩tʃijudun sandoːˇʃi ˩dandaŋˇʃi pḁ˩taˇkeː pari](道隣同士で長話しをしないで、道草をしないで、さっさと畑へ行きなさい)。

ミ˩チ˥ルン [mi˩tʃiˇruŋ] 【自動】満ちる。˩スー˥ヌ　ミ˩チ˥ルンケン　˥マティバ [˩suːˇnu mi˩tʃiˇruŋkem ˇmat-

iba](潮が満ちるまで待てよ)。˞スー˞ヌ　ミ˞チラン˞カー　˞フネー　ン˞ザサラ˞ヌ [˞suː˞nu mi˞tʃiraŋ˞kaː ˞ɸuneː ʔn˞ʥasara˞nu](潮が満ちないと船は出されない)。˞スー˞ヤ　˞ミチケーン [˞suː˞ja ˞mitʃikeːŋ](潮は満ちてきた)。バ˞タ˞ヌ　ミ˞チ˞ルンケン　ッ˞ふァイ˞バ [ba˞ta˞nu mi˞tʃi˞ruŋkeŋ f˞fai˞ba](お腹が満ちるまで食べなさいよ)。バ˞タ˞ヌ　ミ˞チ˞ル　˞クトー　˞ナー˞ヌ [ba˞ta˞nu mi˞tʃi˞ru ˞kʉto: ˞naː˞nu](満腹する < お腹が満ちる > ことはない)。ン˞メーマンツァン˞　ミ˞チ˞レー <˞ミチェー >　˞ミサムヌ [ʔm˞meːmantsam˞ mi˞tʃi˞reː <˞mitʃeː > ˞misamunu](少しでも満ちたらいいのに)。˞ウビシ　バター　ミ˞チ˞リ [˞ʔubiʃi ˞bata: mi˞tʃi˞ri](これで満腹せよ < お腹は満ちれよ >)。

ミ˞チン˞パタ [mi˞tʃim˞pata] 【名】みちばた (道端)。路傍。「道の端」の義。ヤ˞ラ˞ベー　ミ˞チン˞パタナー　ア˞サベーティル˞　フ˞ドゥブ˞ティムカーヤ [ja˞ra˞beː mi˞tʃim˞pa̤tana: ʔa˞sabeː˞tiru ɸu˞dubu˞ timukaːja](子供は道端で遊びながら成長するものだよ)。ミ˞チン˞パタヤーヤ　ン˞ガマ˞サン [mi˞tʃim˞ pa̤tajaːja ʔŋ˞gama˞saŋ](道端の家はうるさい)。

˞ミツァ [˞mitsa] 【名】粘土。泥土。水分の多い泥。ア˞ガミツァ [ʔa˞gamitsa](赤粘土。赤土)。「爾多 (ニタ) の水〜。」『出雲風土記』の転訛したものか。ム˞カ˞シェー　ア˞ガミツァ˞シル　ガ˞マ˞ジェー　ア˞ライヨーッタ˞ル [mu˞ka˞ʃeː ʔa˞gamitsa˞ʃiru ga˞ma˞ʥeː ʔa˞raijoːtta˞ru](昔は、赤粘土で髪は洗っておられたものだ)。˞ミツァー　ク˞ナシ˞　ユ˞チル˞ナ　˞ヌーシ˞　シ˞キティル　カー˞ラヤーヤ　フ˞コーッタ˞ル [˞mitsaː ku˞naʃi˞ ju˞tʃiru˞na ˞nuːʃi˞ ʃi̤˞kitiru ka:˞rajaːja ɸṳ˞koːtta˞ru](粘土を捏ねて、屋根の上のえつりに載せておいて < ぞ > 瓦 (カワラブキ) 葺 (フ) の屋根は葺かれたものだ)。˞ミツァカマチ [˞mitsakamatʃi](粘土で造った竈 (カマド))。

ミ˞ツァール [mi˞tsaːru] 【名】三人。「み・たり (三人)」の転訛したもの。プ˞スヌ˞　カジ　˞ユム　˞ピンマー　プ˞ス˞ル　フ˞タール˞　ミ˞ツァール˞　ユ˞タール˞ティル　ユム˞ダー [pṳ˞sunu˞ kaʥi ˞jumu ˞pimmaː pṳ˞su˞ru ɸṳ˞taːru˞ mi˞tsaːru˞ ju˞taːru˞tiru jumu˞daː](人の数を数えるときは、一人、二人、三人、四人と数えるのだよ)。

˞ミツァール [˞mitsaːru] 【名】上げ潮。潮が満ちてくるとき。「満ち上がり」の転訛したもの。˞スーミツァールサーリ　カ˞ジン　スー˞リ　˞アミン　ニ˞シクベーラ˞　ッ˞ふァガマーリ˞　タ˞タッ˞キ　˞フイ　˞キー˞シタ [˞suːmitsaːrusaːri ka˞ʥin suː˞ri ˞ʔamin ni ˞ʃikubeːra˞ f˞fagamaːri˞ ta̤˞tak˞ki ˞ɸui ˞kiː˞ʃi̤ta](上げ潮と共に風も強まり、雨も天の北壁から真っ暗になって、叩きつけて降ってきた)。

ミ˞ツァ˞ウティ [mi˞tsa˞ʔuti] 【名】泥かぶれ (気触 (カブ) れ)。泥やぬかるみ (泥濘) の中で長時間歩く際、足の指と指の間がかぶれて爛 (タダ) れること。泥負け。ドゥ˞ルヌ˞　ミーラ　ナ˞ガラク˞　ア˞ラ˞クカー　˞パン˞ヌ　˞マター　ミ˞ツァ˞ウティ　˞スン˞ダー [du˞runu˞ miːra na˞garaku˞ ʔa˞ra˞kuka: ˞pan˞nu ˞mata: mi˞tsa˞ ʔuti ˞sun˞daː](泥の中を長時間歩くと足の指の股が泥かぶれする <爛 (タダ) れる > ぞ)。

˞ミツァカマチ [˞mitsakamatsi] 【名】粘土で造った竈 (ヘッツイ)。土竈 (ツチカマド)。「Camado. カマド (竈 (カマド)) 鉄鍋とか大釜とかをかけるかまど」『邦訳日葡辞書』の義。˞ミツァカマチェー　˞シンマイ˞ナベー　ウ˞ブカマ˞チナ　˞イー˞ナビ　˞スー˞ナベー　ナ˞カカマ˞チナ　ヤ˞コン˞マー　カ˞マチェー˞マナ　シ˞キ˞　ビシティ˞　バ˞カソーッ˞タ [˞mitsakamatʃeː ˞ʃimmai˞nabeː ʔu˞bukama˞tʃina ˞ʔiː˞nabi ˞suː˞nabeː na˞kakama˞tʃina ja ˞kom˞maː ka˞matʃeː˞mana ʃi̤˞ki˞ bi˞ʃiti˞ ba˞kasoːt˞ta](土竈 (ツチカマド) は、四枚鍋の大鍋は大きい竈 (カマド) に、飯鍋 <羽釜 (ハガマ) > や汁鍋は中の竈に、湯沸し < 薬缶 > は小さな竈に据え置いて炊かれた)。

ミ˞ツァ˞クビ [mi˞tsa˞kubi] 【名】泥壁 (ドロカベ)。土壁 (ツチカベ)。竈の後ろの壁を粘土で塗り上げて防火用にしたもの。˞トーラ˞ヌ　カ˞マチヌ˞　ク˞ベー˞　ミツァシ　˞ヌーリティ˞　ミ˞ツァ˞クビ　ス˞ク˞リティル　˞ピー˞ヤ　˞モーソーッ˞タ [˞toːra˞nu ka˞matʃinu˞ ku˞beː˞ mitsaʃi ˞nuːriti˞ mi˞tsa˞kubi sṳ˞ku˞ritiru ˞piː˞ja ˞moːsoːt˞ta](炊事小屋の土竈の壁は、粘土で塗って土壁を作ってから < ぞ > 火は燃やされた)。

ミ˞ツァ˞スン [mi˞tsa˞suŋ] 【他動】満たす。˞カー˞ラ　ミ˞ジ˞　カ˞タ˞ミティ　˞カミ　ミ˞ツァ˞スンティ　˞スンドゥ˞　ミ˞ツァサラ˞ヌ [˞kaː˞ra mi˞ʥi˞ ka̤˞ta˞ miti ˞kami mi˞tsa˞sunti ˞sundu˞ mi˞tsasara˞nu](井戸から水を担いできて水甕を満たそうとするが、満たされない)。ア˞ツァバー˞キナ　ミ˞ツァ˞シ　˞ミサカー　ミ˞ツァ˞ス　˞クトー　˞ナルン [ʔa˞tsabaː˞kina mi˞tsa˞ʃi ˞misakaː mi˞tsa˞su ˞kʉto: ˞naruŋ](明日までに満たしてよければ、満たすことはできる)。˞パー˞ク　ミ˞ツァ˞シェー　˞ミサムヌ [˞paː˞ku mi˞tsa˞ʃeː ˞misamunu](早く満たせばいいのに)。ヤー˞ディン˞　ミ˞ツァ˞シ [jaː˞dim˞ mi˞tsa˞ʃi](必ず満たせ)。

˞ミツァパジン [˞mitsapaʥiŋ] 【名】(動) 蜂の一種。ツチバチ (土蜂)。泥を固めて巣を作る。˞ッふパジン [˞

ffupaʤiŋ](黒蜂) ともいう。刺されると毒性が強く、激しく痛む。˥ミツァパジンマー　ドゥ˩ク˥ヌ　˩スー˥ワンダ　ッ˩サ˥リカー　シ˩ヌ˥　プ˩スン　ブン˥ティ˩ダー [˥mitsapaʤimma: du˩ku˥nu ˩su:˥wanda s˩sa˥rika: ʃi˩nu˥ pṵ˩sum bun˥ti˩da:](土蜂は毒が強いから、刺されたら死ぬ人もいるそうだよ)。

ミ˩ツァムラ˥シ [mi˩tsamura˥ʃi] 【名】つちくれ (土塊)。ア˩ラシ˥　ア˩キ˥　シケール　パ˩タキ˥ヌ　ミ˩ツァムラ˥シェー　ク˩マークマー˥シ　ク˩ナシェー˥ティ　˩カイ˥シバ [ʔa˩raʃi˥ ʔa˩ki˥ ʃi̥ke:ru pḁ˩taki˥nu mi˩tsamura˥ʃe: ku˩ma:kuma:˥ʃi ku˩naʃe:˥ti ˩kai˥ʃiba](開墾してある畑の土塊は細かに砕いて耕しなさいよ)。

˩ミッカ [˩mikka] 【名】三日。˥プスイ　˩ミッカヌ˥　ピ˩ニチェー˥　ノー˩シン˥　イ˩トゥ˥マ　トゥ˩ラ˥リンヨー [˥pṵsui ˩mikkanu˥ pi˩nitʃe:˥ no:˩ʃiŋ˥ ʔi˩tu˥ma tu˩ra˥riŋjo:](一日、三日の日数は何とかして暇(イトマ) < 休日 > は取れるよ)。

˩ミッカジキ [˩mikkaʤiki] 【名】三日月。ム˩カ˥シプソー　˩ミッカジキヌ　アールン˥ケン　パ˩タキシグ˥トゥ　˩ソーッ˥タンツォー [mu˩ka˥ʃipṵso: ˩mikkaʤik-inu ʔa:ruŋ˥kem pḁ˩takiʃigu˥tu ˩so:t˥tantso:](昔の人は三日月が上るまで畑仕事をされたそうだ)。

˩ミッカラ [˩mikkara] 【名】(数) 三頭。三匹。「ミ・カシラ [mi-kasira](三頭)」の [k] と [s] の音位転倒 (メタテーゼ) によるものか。ウ˩シヌ　ミッカラトゥ　オー˥ヌ　˩ミッカラ˥　シゥ˩カ˥ナイ　˩ベー˥ンダ　˩ピッ˥チン　ピ˩マー　ナー˥ヌ [ʔu˩ʃinu mikkaratu ʔo:˥nu ˩mikkara˥ si̥˩ka˥nai ˩be:˥nda ˩pit˥tʃim pi˩ma: na:˥nu](牛三頭と豚三頭を飼っているから全く < 一つも > 暇がない)。

˩ミック [˩mikku] 【名】(数) 三個。ック　[kku](個) は、瓶や球形の物を数える際に用いる助数詞。イ˩バ˥チ　˩ミック [ʔi˩ba˥tʃi ˩mikku](飯初 < 円錐形に握ったおにぎり > 三個)。˥クビン　˩ミック [˥kubim ˩mikku](瓶三個 < 本 >)。˩コー˥マ　˩ミック [˩ko:˥ma ˩mikku](卵三個)。˩カン˥ビン　˩ミック [˩kam˥bim ˩mikku](かんびん < 燗壜 > 三個 < 本 >)。イ˩シ　ミックナー˥　ナ˩ラビ˥　シ˩ミ˥バ [ʔi˩ʃi mikkuna:˥ na˩rabi˥ ʃi˩mi˥ba](石を三個ずつ並べて積み上げなさいよ)。

˩ミッ˥クゥー [˩mik˥kwa:] 【名】目の不自由な人。「めくら (盲)。メクラ・メシヒ『類聚名義抄』」の転訛したもの。ウ˩レー˥　イ˩クサユー˥ヌ　˥アトゥナー　メ˩チルアルコール˥バ　˥ヌミティール　˩ミックゥー　ナリ˩ベー˥ダー [ʔu˩re:˥ ʔi˩kusaju:˥nu ˥ʔatuna: me˩tʃiruʔaruko:ru˥ba ˥numiti:ru ˩mik˥kwa: nari˩be:˥da:](彼は終戦後にメチルアルコールを飲んで盲人になっているのだよ)。

˩ミッ˥タニ [˩mit˥tani] 【副】めったに。むやみに。下に打ち消しの語を伴って、陳述副詞の機能「ほとんど〜ない」の意味を表す。˥アイブー　˩クゥッ˥チーテー　˩ミッ˥タニ　ッ˩ふァイ˥　ミ˩ラン˥シェン [˥ʔaibu: ˩kwat˥tʃi:te: ˩mit˥tani f˩fai˥ mi˩ran˥ʃeŋ](あのようなご馳走は滅多に食べたことはなかった < 食べてみなかった >)。

˩ミッ˥タマカッタマ [˩mit˥tamakattama] 【副】目を怒(イカ)らせて激しく怒るさま。ABCDEBCD 型の重言。強調表現。˥ドゥーカッティニ　˥ザイサンバ　˩カーシ　アー˥クンティ　˩シー˥　シザン　˩ミッ˥タマカッタマ　イ˩ザリ　ベー˥タ [˥du:kattini ˥ʤaisamba ˩ka:ʃiʔa:˥kunti ˩ʃi:˥ ʃiʤam ˩mit˥tamakattama ʔi˩ʤari be:˥ta](自分勝手に財産を売っているといって、兄に激しく怒られていた)。

˩ミッチン [mittʃiŋ] 【名】(数) 三個。三つ。三粒。コー˩シェー˥マー　˩ミッチンナー　パイ˥　トゥ˩ラ˥シバ [ko:˩ʃe:˥ma: ˩mittʃinna: pai˥ tu˩ra˥ʃiba](小さなお菓子を三個ずつ配ってやりなさいよ)。シン˩トゥ　ミッチンドゥ˥　ヌ˩カ˥レーバン [ʃin˩tu mittʃindu˥ nu˩ka˥re:ban](たった三個しか残っていない < 三個が残っている > わい)。

ミッ˩ティ [mit˩ti] 【副】十分。たくさん。いっぱい。かなり。˩ジン˥ヌン　ッ˩ふァイムヌン˥　ミッ˩ティ˥　ア˩リ˥ル　˥ブーバ　˩ソーヤ　ナー˥ヌ [˩ʤin˥nuŋ f˩faimunum˥ mit˩ti˥ ʔa˩ri˥ru ˥bu:ba ˩so:ja na:˥nu](お金も、食べ物も十分にあるから、心配はない)。

˩ミッ˥トー　˥アン [˩mit˥to: ˥ʔaŋ] 【連】見た目にもよい。見た目にも体裁がよい。バ˩カー˥ムヌン　˩デー˥カー　ウ˩リ˥　キ˩サバン　ミッ˥トー　˥アン [ba˩ka:˥munun ˩de:˥ka: ʔu˩ri˥ ki̥˩sabam mit˥to: ˥ʔaŋ](若者ならば、それを着ても体裁がよい < 見た目にもよい >)。

˩ミッ˥トー　˩ナー˥ヌ [˩mit˥to: ˩na:˥nu] 【連】みっともない。体裁(テイサイ)が悪い。世間体が悪い。「Mitomonai. ミトモナイ (見ともない)、見るのが嫌なこと、あるいは、見るに堪えないこと」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˩ミッ˥トー　˥アン [˩mit˥to: ˥ʔaŋ](見た目によい。体裁がよい) の対義語。バ˩カー˥ムヌン　˩デー˥カー　˩ミッ˥トー　アリ˩ゲ˥ラ　˩ウイプス˥ヌ　ア˩ガラパタラ˥シ　˩ミッ˥トー　˩ナー˥ヌ [ba˩

ka:˞munun ˞de:˞ka: ˞mit˞to: ʔari˞ge˞ra ˞ʔuipusu˞nu ʔa ˞garapatara˞ʃi ˞mit˞to: ˞na:˞nu](若者ならばみっともあるさ＜体裁もいいさ＞。年寄りが真っ赤な、派手な着物を着て、みっともないよ)。

˞ミッ˞ふァーン **[˞mif˞fa:ŋ]**【形】憎(ニク)い。憎らしい。老年層の言葉。若年層は、˞ニッ˞ふァーン [˞nif˞fa:ŋ](憎い) という。「吾こそは憎毛有目＜ニククモ・アラメ＞〜。万、1990」、「Nicui. ニクイ (憎い) 憎らしいこと、あるいは、嫌らしい (こと)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ウ˞レー˞　ユ˞コー˞ンダ　˞ミッ˞ふァーンドゥター　˞タシ˞キ　ッ˞ふィールンダ　ミッ˞ふァー　˞ナー˞ヌ [ʔu˞re:˞ ju˞ko:˞nda ˞mif˞fa:nduta: ˞taʃi̥˞ki f˞fi:runda mif˞fa: ˞na:˞nu](彼は欲張りだから憎らしいが、また、助けてくれるから憎くはない)。˞ミッふァー˞ヌ　ミ˞リ˞プサー　˞ナー˞ヌ [˞miffa:˞nu mi˞ri˞pu̥sa: ˞na:˞nu](憎くて見たくもない)。ウ˞リバー˞キ　˞ミッ˞ふァー　˞ナリ　˞ナー˞ヌ [ʔu˞riba:˞ki ˞mif˞fa: ˞nari ˞na:˞nu](彼まで憎くなってしまった)。˞ミッ˞ふァー　プ˞ソー˞　ブ˞ラーヌ [˞mif˞fa: pu̥˞so:˞ bu˞ra:nu](憎い人はいない)。˞アイニ　˞ミッ˞ふァーレーラー　ノー˞ン˞　ナ˞ラ˞ヌ [˞ʔaini ˞mif˞fa:re:ra: no:˞n˞ na˞ra˞nu](そんなに憎かったら何もできない)。

ミ˞ツ˞ム **[mi˞tsu˞mu]**【名】目に入ったごみ。目に入った異物。ミ˞ツム˞ヌ　˞ミーン˞ナカー　˞ペー˞リティ　ナ˞キ　ベー˞タ　˞ベー˞ティ　ブ˞ネーヌ　オー˞リ　シー˞バ　˞アーシ˞　イ˞リティル˞　トゥリ　ッ˞ふォーッ˞タ [mi˞tsumu˞nu ˞mi:n˞naka: ˞pe:˞riti na˞ki be:˞ta ˞be:˞ti bu˞ne:nu ʔo:˞ri ˞ʃi:˞ba ˞ʔa:ʃi˞ ʔi˞ritiru˞ turi f˞fo:t˞ta](異物＜ゴミ＞が目の中に入って泣いていたので、母親が来られて母乳を搾(シボ)り、目に入れてゴミを取り除いてくださった)。˞ミーナ　ミ˞ツム˞ヌ　˞ペー˞リティ　ヤ˞ミ˞シバ　˞ミー　パ˞タッキティ˞　イキ　フ˞キ˞カキティ　˞トゥリ　ッ˞ふォー˞リ [˞mi:na mi˞tsumu˞nu ˞pe:˞riti ja˞mi˞ʃiba ˞mi: pḁ˞takkiti˞ ʔiki ɸu̥˞ki˞kakiti ˞turi f˞fo:˞ri](目にごみが入って痛いので、目を開いて息を吹きかけて取ってください)。乳幼児の目糞＜目やに＞は母親が母乳を垂らして塵を流し、除去していた。

˞ミツン **[˞mitsuŋ]**【自動】満つ。「〜潮美弖婆＜ミテバ＞妻呼び交わす〜。万、3993」の転訛したもの。˞スー˞ヌ　˞ミツン [˞su:˞nu ˞mitsuŋ](潮が満つ)。ウ˞ビッ˞チン　ッ˞ふァイテー˞　バター　ミ˞ツァ˞ヌ [ʔu ˞bit˞tʃiŋ f˞faite:˞ bata: mi˞tsa˞nu](これっぽち食べては、腹は満たない)。˞バター　ミチ˞ナー˞ヌ [˞bata: mitʃi˞na:˞nu](お腹は満ちてしまった)。˞オーパ˞ヤー　˞スー˞ヌ　˞ミツ　˞クトー　˞ナー˞ヌ [˞ʔo:pa˞ja: ˞su:˞nu ˞mitsu ˞ku̥to: ˞na:˞nu](こんなに早く潮が満つことはない)。˞パー˞ク　˞ミチェー　˞ミサムヌ [˞pa: ˞ku ˞mitʃe: ˞misamunu](早く満てばいいのに)。˞ウビシ　˞バタ　˞ミチバ　˞メー [˞ʔubiʃi ˞bata ˞mitʃiba ˞me:](これだけ満腹しろよ＜腹満てよ＞もう)。

˞ミツンケン **[˞mitsuŋkeŋ]**【副】山ほど。たくさん。たくさん。「満つほど」の義。˞ヌーンクイン　˞ミツンケン　˞アン。˞プサ　˞モーラ　˞ムティ　˞パリ [˞nu:ŋkuim ˞mitsuŋkeŋ ˞ʔam。˞pu̥sa ˞mo:ra ˞mu-tipari](何もかもたくさんある。欲しい物から持って行きなさい)。

ミ˞トゥミ˞ルン **[mi˞tumi˞run]**【他動】認める。目にとめる。˞シキン　˞トゥー˞ルカー　ミ˞トゥミ˞ルンティ　ア˞ゾーッタ˞ヌ　マ˞ナ˞マー　ミ˞トゥミラン˞ツォー [˞ʃi̥kin ˞tu:˞ruka: mi˞tumi˞runti ʔa˞ɖo:tta˞nu ma˞na˞ma: mi˞tumiran˞tso:](試験に受かったら認めると言われたが、今は認めないそうだ)。˞タン˞ガー　ミ˞トゥ˞ミ　˞ミサン [˞taŋ˞ga: mi˞tu˞mi˞misaŋ](一人は認めてもよい)。˞ワーヨ˞　ミ˞トゥミ˞ル　˞クトー　ナ˞ラ˞ヌ [˞wa:jo:˞ mi˞tumi˞ru ˞ku̥to: na˞ra˞nu](君を認めることは出来ない)。˞パー˞ク　ミ˞トゥミ˞レー　˞ミサムヌ [˞pa:˞ku mi˞tumi˞re: ˞misamunu](早く認めれば良いのに)。˞パー˞ク　ミ˞トゥミ˞リ [˞pa: ˞ku mi˞tumi˞ri](早く認めろ＜認めれ＞)。

ミ˞ドゥ˞ム **[mi˞du˞mu]**【名】女。女の子。女性。「〜妻子等波＜メコドモハ＞乞う乞う泣くらむ〜。万897」の「め (妻)」に接尾語、-ドゥム [-dumu](ども＜等＞) が付いて転訛したもの。ミ˞ドゥ˞ム　˞ビキドゥムテー　˞ナー˞ヌ　マ˞リル˞　ッ˞ふァー˞ムー˞ル˞　タ˞カ˞ラ [mi˞du˞mu ˞bikidumute: ˞na:˞nu ma˞riru˞ f˞fa:˞ mu:˞ru˞ tḁ˞ka˞ra](女、男と区別することはない。生まれてくる子はみんな宝だ)。ミ˞ドゥム˞ヌ　マ˞レー˞ン [mi˞dumu˞nu ma˞re:˞ŋ](女が生まれた)。ミ˞ドゥ˞モー　ブ˞ラーヌ [mi˞du˞mo: bu˞ra:nu](女はいない)。ミ˞ドゥ˞ムン　シ˞ミリ [mi˞du ˞muŋ ʃi˞miri](女にさせなさい)。ミ˞ドゥム˞トゥア˞サブン [mi˞dumu˞tu ʔa˞sabuŋ](女と遊ぶ)。ミ˞ドゥ˞モーラ　シ˞ダキ˞　シ˞ミリ [mi˞du˞mo:ra ʃi˞daki ˞ʃi˞miri](女から先にさせなさい)。

ミ˞ドゥム˞ウヤ **[mi˞dumu˞ʔuja]**【名】母親。「女親」の義。「桂、女加豆良＜めかづら＞」『和名抄』の「女＜め＞」に接尾語、-ドゥム [-dumu](ども＜伴＞、複数) が付き、さらに名詞、˞ウヤ [˞ʔuja](親) が

付いて形成された複合名詞。ミ˞ドゥムˀウヤー　マ˞ナマーˀキン　˞オーˀルン˞ダー [mi˞dumuˀ?uja: ma˞na:maˀkiŋ ˞?oːˀrun˞da:](母親 < 女の親 > は今までも < 元気で > いらっしゃるよ)。

ミ˞ドゥムˀダチ [mi˞dumuˀdatʃi] 【名】女所帯。「女 < め > ども立ち」の義。ミ˞ドゥムˀダチ　ヤ˞ルンダ˜　ユ˞チˀクネー　ッ˞ふァイ　ユーサヌ [mi˞dumuˀ datʃi ja˞rundaˀ ju˞tʃiˀkune: f˞fai juːsanu](女所帯だから、裕福には生活 < 食べていくことは > できない)。

ミ˞トゥˀムン [mi˞tuˀmuŋ] 【他動】認める。「認め < 下二段活用 >」の四段活用化したもの。プ˞スヌ˜　イ˞コーラ˜　ミ˞トゥˀムンティ　ア˞ザバン˜　バー　イ˞ッカ˜　ミ˞トゥマˀヌ [pu̥˞sunuˀ ?i˞koːraˀ mi˞tuˀmunti ?a˞ʤabanˀ ba: ?ik˞kaˀ mi˞tumaˀnu](他人がいくら認めるといっても、私は決して認めない)。ク˞レー˜　ミ˞トゥˀミ　˜ミサン [ku˞reː˜ mi˞tuˀmi ˜misaŋ](これは認めてもよい)。˜カイブー　˜ムヌ　ミ˞トゥˀム　˜クトー　ナ˞ラˀヌ [˜kaibuː ˜munu mi˞tuˀmu ˜ku̥to: na˞raˀnu](こんなものを認めることは出来ない)。˞ピーˀチェー　ミ˞トゥˀメー　˜ミサムヌ [˞piːˀʧeː mi˞tuˀmeː ˜misamunu](一つは認めればよいのに)。ヤー˞ディン　ピーˀチェー　ミ˞トゥˀミ [jaː˞dim piːˀʧeː mi˞tuˀmi](必ず一つは認めよ)。

ミ˞ドゥˀリ [mi˞duˀri] 【名】芽。˜バイ [˜bai](芽。新芽)、ビ˞チˀル [bi˞ʧiˀru](新芽。茎) ともいう。カ˞ジフキヌ˜　アトゥ　ア˞ミˀヌ　˞フーˀター　˞キーˀヌ　ミ˞ドゥˀリーン　˜ンジケーン [ka˞ʤiɸu̥kinuˀ ?atu ?a˞miˀnu ˞ɸuːˀta: ˞kiːˀnu mi˞duˀriːŋ ˜?nʤikeːŋ](台風の後に雨が降ったので木の芽が出てきた)。

˜ミナ [˜mina] 【名】 (動)1巻貝の総称。ユ˞ナーミナ [ju˞naːmina](マルソデガイ)、˜サザミナ [˜saʤamina](さざえ)、ビ˞キミナ [bi˞kimina](タカセ貝)、˞ミー˜ミナ [˞miː˜mina](ヒロセ貝) など。ユ˞ナーミナー˜　ヤ˞ラヌ　インタヌ˜　ピ˞ザˀヌ　イ˞ノンヌ˜　ミーナ　˞イッˀパイ　ブ˞タンˀダー [ju˞naːminaˀ ja˞ranu ?intanuˀ pi˞ʤaˀnu ?i˞nonnuˀ miːna ˞?ipˀpai bu˞tanˀdaː](ユナーミナ < マツソデガイ > は屋良の西の浅瀬の砂中に沢山いたよ)。2和名、サラサバテイ。サザエ (栄螺) 貝など。「河貝子、美奈 < みな >」『類聚名義抄』の転訛したもの。˜サザミナ [˜saʤamina](サザエ < 栄螺 >) ともいう。˞ターˀミナ [˞taː˜mina](たにし < 田螺 >) は水田に棲息する巻き貝。ム˞カˀシェー　˞スーˀヌ　˜ピスカー　˜シンタヌ　˞ピーヌˀクシナ　イ˞ソー　シンテーナ˜　ミナー　プ˞サイ　クータˀル [mu˞kaˀʃeː ˞suːˀnu ˜pi̥suka: ˜ʃintanu ˞piːnuˀkuʃina: ?i˞soː ʃinteːnaˀ mina pu̥˞sai kuːtaˀru](昔は、潮が引くと島の後ろの干瀬で潮干狩りをしながらサザエ貝を拾って来たものだ)。

ミ˞ナー [mi˞naː] 【名】帆を引き上げる縄。イダフニ (サバニ) の帆桁の中央に結びつけ、帆柱の先端の穴カナミー [ka˞namiː] に通して帆を上下するのに用いる縄。「みなわ (水縄)」の転訛したもの。みづな。ミ˞ナー˜　パ˞ラーˀヌ　カ˞ナミーˀナ　ヌ˞キトゥーˀシティ　˞プーザンˀナ　フ˞バリティ　プー˜　ピ˞キˀバ [mi˞naː˜ pa˞raːˀnu ka˞namiːˀna nu˞ki tuːˀʃi̥ti ˞puːʤanˀna ɸu˞bariti puː˜ pi̥˞kiˀba](水縄を帆柱の先端の穴に抜き通して帆の桟に括(ククリ)り付けて帆を張り < 引き上げ > なさいよ)。

ミ˞ナˀカ [mi˞naˀka] 【名】庭。母屋の前の広場、空間。穀物を干したり、仕事をする所。稲の脱穀や米搗きをしたり、イ˞ガ [?i˞ga](烏賊) をシ˞ダˀル [ʃi˞daˀru](ススキを編んで作った簾) の上に並べて日干し乾燥するのに用いた空間。˞イーˀシ [˞?iːˀʃi](つのまた。海草) なども庭で干して乾燥させた。˞アンタヌ˜　ミ˞ナˀカ [˞?antanu˜ mi˞naˀka](東の庭)、˜マンタヌ　ミ˞ナˀカ [˜mantanu mi˞naˀka](前の庭) というが、後ろや西側には言わない。家の後方は、普通は菜園に利用され、西側には˞トーˀラ [˞toːˀra](炊事小屋) や畜舎、鶏舎、北西の隅には豚舎と便所が建てられたので、庭としての空間がとれなかったからであろう。˞キーヌパーˀヌ　˜ウティティ　ミ˞ナˀカ　シ˞ラーˀシ　˜シケーバ　ミ˞ナˀカ　˞ポーˀキ [˞kiːnupaːˀnu ˜?utiti mi˞naˀka ʃi˞raːˀʃi ˜ʃi̥keːba mi˞naˀka ˞poːˀki](木の葉が落ちて庭を散らして < 木の葉が散乱している > いるから、庭を掃きなさい)。

ミ˞ナカポーˀキ [mi˞nakapoːˀki] 【名】庭箒。庭を掃く箒。˞ポーˀキダキ [˞poːˀkidaki](箒竹(タケホウキ)、庭箒を作る竹) を四、五本束ねて作った箒。タ˞キポーキ [tḁ˞kipoːki](竹箒) ともいう。˞ポーˀキダキシル　タ˞キポーケー˜　ス˞クˀル [˞poːˀkidakiʃiru tḁ˞kipoːkeːˀ su̥˞kuˀru](箒竹で < ぞ > 庭箒 < 竹箒(タケボウキ) > は作る)。

ミ˞ナトーˀマ [mi˞natoːˀma] 【名】小さな川の川口。小さな湊。小湊。˞アーラパカヌ˜　ミ˞ナトーˀマ　˞クイティル　ケーˀダー　˜パル [˞?aːrapḁkanuˀ mi˞natoːˀma ˞kuitiru keːˀdaː ˜paru](「東はか」は地名。˜パカ [˜pḁka]< 稲を植えた水田地帯の一定部分の区域 > の義。東ハカ < 水田区域 > の小さな湊を越えてからケーダには行くのだ)。

ミ˞ナトゥ [mi˞natu] 【名】港。「湊、三奈止＜みなと＞」『和名抄』の転訛したもの。西表島の川口を、˞ユシ˜キダ ˜ミナトゥ [˞juʃi̥˜kida ˜minatu](ヨシキラ湊。ヨシキラ川の川口)、˞ケーダ ミナ˜トゥ [˞keːda mina˜tu](ケーダ湊。ケーダ川の川口)、˞クーラ ミナトゥ [˞kuːra minatu](クーラ湊。クーラ川の川口)、˞マーレー ミナトゥ [˞maːreː minatu](マーレー湊。マーレー川の川口) などのようにをいう。˞ケーダ ミナ˜トゥナ ˜フネー ˜シキティル ˞マイヤー˜ シ˞ムタル [˞keːda mina˜tuna ˜ɸuneː ˜ʃi̥kitiru ˞maijaː˜ ʃi˞mutaru](ケーダ湊に舟＜サバニ＞を横付けして稲を積みこんだものだ)。

ミ˞ナムトゥ [mi˞namutu] 【名】源。先祖。ユ˞ミ˜ トゥ˞ミ˜ルカー ミ˞ナムトゥ˜ タ˞ダ˜シティ ム˞カ˜シプソー ˞チャー˜ アイル ア˞ゾーッタ˜ル [ju˞mi˜ tu˞mi˜ruka: mi˞namutu˜ ta˞da˜ʃiti mu˞ka˜ʃipu̥soː ˞ʧaː˜ ʔairu ʔa˞ʤoːtta˜ru](嫁を娶(メト)る＜捜す＞なら、その源＜先祖＞を確認せよと、昔の人は常にそのようにいわれたものだ)。

ミ˞ニ [mi˞ni] 【名】棟木。棟桁(ムネケタ)。歌謡語。ム˞ニアギ [mu˞niʔagi](上棟(ムネアゲ)) の際に用いる桁材。ク˞ガニカニバ˜ ミニバシー～[ku˞ganikaniba˜ mi˞niba ʃiː～](黄金の鋼材を棟木にして～)「アーパーレー歌」。

˜ミヌ [˜minu] 【名】みの (蓑)。蓑笠(ミノカサ)。「～わが門に蓑笠着ずて来＜ケ＞る人や誰。万、3125」、「蓑、説文云蓑＜蘓和反 美乃＞雨衣也」『和名抄』の転訛したもの。しゅろ (棕櫚) の繊維で綯(ナ)った細い縄で蒲葵(クバ)(ビロウ) の葉を編みあげて作った一種の雨具。頭には蒲葵笠(クバガサ)を被り、肩から掛ける蓑と腰周りに着る蓑で雨を防ぐ百姓の雨具。軽くて通気性がよく、夏の炎天下でも酷熱(コクネツ)を防ぐので、農作業に適していた。ム˞カ˜シェー ク˞バヌパーバ˜ サキティ ミ˞ヌ˜バ ˜フミ ウ˞リバ˜ キ˞シェー˜ティル ナ˞チフユ ターシグ˜トー ˞ソーッタ˜ル [mu˞ka˜ʃeː ku˞banupaːba˜ sḁkiti mi˞nu˜ba ˜ɸumi ʔu˞riba˜ ki̥˞ʃeː˜tiru na˞ʧiɸuju taːʃigu˜toː ˞soːtta˜ru](昔は蒲葵(クバ)(ビロウ) の葉を裂いて蓑(ミノ)を編み、それを着て＜ぞ＞夏冬通して田圃仕事をされたものだ)。

ミ˞ヌ˜カサ [mi˞nu˜kasa] 【名】蓑。みのかさ (蓑笠) の義。ア˞ミ˜ヌ ˞フイン˜ギサバ ミ˞ヌ˜カサー ˜ムティティ パ˞タ˜ケー パリ˞ヨー [ʔa˞mi˜nu ˞ɸuiŋ˜ gisaba mi˞nu˜kasaː ˜mutiti pḁ˞ta˜keː pari˞joː](雨が降りそうだから蓑笠を持って畑に行きなさいよ)。

ミ˞ブ˜キ [mi˞bu˜ki] 【名】おかげ (御陰)。加護。恩恵。「おみぼけ (御みぼけ)、賜り物。お陰」『混効験集 (乾・言語)』の義。歌謡語。/キミヌ ミブキン タレアマリ カミンフトゥキン ウハチアギ スヌヌアマリヤ イタダケリ (囃子) イヤイーヤー ニングジョーノー ユリユトゥ ウサミティ カミンフトゥキン ウハチン アギユル アマリヌクリヤ ウザキウミキン シクリマラショリ ミチヌシマタニ ティサジメーウキ ウドゥイキョーギン ウムシルムヌサミ ナマヌパヤシニ クドゥキユミユミ/(国王の恩恵が余るほど国民の上に下され、神にも仏にも収穫のお初を供え、その余りは頂いた。＜囃子＞弥弥(イヨイヨ)年貢上納を楽に納めて神にも仏にもお初を供えます。その余り残りはお酒、お神酒に醸造し、道の四辻に手拭を頭に巻き締めて踊り狂言をし、楽しいものだ。今の囃子に口説きを歌おう)「鳩間口説」『鳩間島古典民謡古謡集』。

ミ˞マ˜ギ [mi˞ma˜gi] 【名】妻を娶ること。古謡語。現在は日常語としては使用されない。「婚、トツク・ツルブ・メマク・マク」『類聚名義抄』に尊敬の接頭辞ミ [mi] が上接したもの。ミ˞マ˜ギ ˜サバ トゥ˞ナルカラ˜ ミ˞マ˜ギョーリ [mi˞ma˜gi ˜saba tu˞narukara˜ mi˞ma˜gjoːri](妻を娶るなら隣から娶りなされよ)。

ミ˞ミ˜ジャー [mi˞mi˜ʤaː] 【名】(動) 魚名。和名、ひめふえだい (体長約 40 センチ)。鳩間島ではあまり釣れない。ミ˞ミジャー˜ヤ ˞ナン˜ゾー ˞ホーサラン˜シェン [mi˞miʤaː˜ja ˞nan˜ʤoː ˞hoːsaran˜ʃen](ヒメフエダイは、あまり釣れなかった)。

˞ミャーウ [˞mjaːu] (1)【感】猫の鳴き声。にゃおう。マ˞ヤ˜ヌ ˞ミャーウミャーウ˜シ ナ˞キ ベー [ma˞ja˜nu ˞mjaːumjaːu˜ʃi na˞ki beː](猫がにゃおうにゃおうと鳴いている)。 **(2)**【名】猫。幼児語。˜ウリウリ ˜ミャーウヌ クン˞ドー [˜ʔuriʔuri ˜mjaːunu kun˞doː](それそれ、猫がやってくるぞ)。

˞ミャーンガルン [˞mjaːŋgarun] 【自動】飛び上がる。思い上がる。˞舞い上がる」の転訛か。ター˞ン˜ フ˞ミラ˜リカー ˞ミャーン˜ガルンティ ウ˞ムーン˜ドゥ ˞ミャーンガラン˜ドーシ パ˞タラキ˜バ [taː˞n˜ ɸu˞miraˀrikaː ˞mjaːŋ˜garunti ʔu˞muːn˜du ˞mjaːŋ-garan˜doːʃi pḁ˞taraki˜ba](誰でも褒められると舞い上がるが、舞い上がらないで働けよ)。˞ミャーン˜ガリティ プ˞スヌ˜ ムニ シゥ˞カヌ [˞mjaːŋ˜gariti pu̥˞sunu˜ muni si̥˞kanu](思い上がって、他人のことば＜注意＞を聞かない)。

ミ˞ヤ˜ギ [mi˞ja˜gi] 【名】土産。若年層の言葉。標準語からの転訛。老年層は、˜シトゥ [˜ʃi̥tu](つと＜苞

>) という。ウ˩キ˥ナーラヌ　ミ˩ヤ˥ゲー (˥シトー)˩ヌーバ˥ル　˥ムティケーワ [ʔu˩ki˥naːranu mi˩ja˥geː(˥ʃi̥tu)˩nuːba˥ru ˥mutikeːwa](沖縄からの土産 (つと) は何を持ってきたのか)。

ミ˩ヤ˥ラビ [mi˩ja˥rabi] 【名】農村の未婚の娘。十六、七歲の乙女。歌謡語。「めわらべ (女童)」の転訛したもの。普通は、˩メーラ˥ビ [˩meːra˥bi](乙女) という。˥ウタナー　シ˩キ˥ヌ　˩カイ˥サー　ウ˩ブシキ˥ヌ　˥ユー　ミ˩ヤ˥ラビ　˩カイ˥サー　˩トゥー˥ナナツティル　アル˩ダー [˥ʔutanaː ʃi̥˩ki˥nu ˩kai˥saː ʔu˩buʃi̥ki˥nu ˥juː mi˩ja˥rabi ˩kai˥saː ˩tuː˥nanatsu-tiru ʔaru˩daː](歌に、「月が美しいのは満月の夜、乙女の美しいのは 17 歲ごろだ」と < ぞ > あるのだよ)。

˩ミュー˥トゥ [˩mjuː˥tu] 【名】めおと。夫婦。歌謡語。老年層のことば。若年層は、˩ミー˥トゥ [˩miː˥tu](夫婦)、トゥ˩ジミートゥ [tu˩ʤimiːtu](夫婦)、˩ミートゥン˥ダ [˩miːtun˥da](夫婦。< めおとら >) ともいう。˩ミュートゥ　カイ˥ヤー　ユ˩ミヌ˥　ッ˩ふァー˥ラティ　ム˩カ˥シムネー　アル˩ダー [˩mjuːtu kai˥jaː juˬminu˥ ˩fa:˥rati mu˩ka˥ʃimuneː ʔaru˩daː](夫婦中が良い < 美しい > のは、嫁子次第だと昔言葉にはあるよ)。

˩ミュートゥ˥イシ [˩mjuːtu˥ʔiʃi] 【名】 1地名。タチバルの浜に降り立つ直前の地名。2夫婦石。タチバルの浜に降り立つ直前の原野に大小の岩が二個たっている、その岩。若年層では、˩ミートゥ˥イシ [˩miːtu˥ʔiʃi]、˩ニートゥ˥イシ [˩niːtu˥ʔiʃi] という人もいる。タ˩チバル˥ヌ　˥パマー　˩ミュートゥイシ˥ヌ　˥スバーラル　˥ウリパルミー [tḁ˩ʧibaru˥nu ˥pamaː ˩mjuːtuʔiʃi˥nu ˥subaːraru ˥ʔuriparumiː](タチバル < 立原 > の浜へは夫婦石の側から下りて行くんでしょう?)。

˩ミュートゥ˥ダク [˩mjuːtu˥daku] 【名】 (動) つがい (番) の蛸。雌雄の蛸。「夫婦蛸」の義。一つの穴に雌雄の大きな蛸が棲息していることがある。島の後ろの干瀬でよく獲れた。若年層は、˩ミートゥ˥ダク [˩miːtu˥daku](番 (ツガイ) の蛸。夫婦蛸) ともいう。˩スー˥ヌ　ピ˩ス˥ター　˥シンタヌ　˩フンシキ˥ナー　イ˩ソーシン　ゲー˥タクトー　˩ミュートゥダク˥バ　トゥリケーン˩ツォー [˩suː˥nu pi̥˩su˥taː ˥ʃintanu ˩ɸuŋʃi̥ki˥naː ʔi˩soːʃiŋ geː˥takṵto: ˩mjuːtudaku˥ba turikeːn˩tso:](潮が引いたので、島の後ろの干瀬のフンシキに潮干狩りに行ったところ、夫婦蛸 < 番の蛸 > を獲ってきたのだよ)。

˩ミュー˥ナーキャームイ [˩mjuː˥naːkjaːmui] 【連】見なければならない。歌謡語。˥アーパーレー [˥ʔaː-paːreː](新室寿歌 < ナガミク >) で、/ウリユー　ミューナーキャームイ/(それを見なければならない) と歌われている。˥ムイ [˥mui] は「念を押す」助詞か。

˩ミュー˥マイ [˩mjuː˥mai] 【名】国王様。「みおまえ (み御前)」の義。「ミ」は尊敬の接頭辞。「御前」は「神仏や国王」を敬っていうことから転じて、間接的に「神仏や国王」をさす二重敬語。˩ミュー˥マイラヌ　˩ウイ˥シェー　マ˩ダカラ˥ヌ [˩mjuː˥mairanu ˩ʔui˥ʃeː ma˩dakara˥nu](国王様からの仰せごと < 命令 > は避けられない < 逆らえない >)。

˩ミョー˥ガ [˩mjoː˥ga] 【名】冥加 (ミョウガ)。名誉。栄誉。˩マイフナー　マリ˥　ウヤン　˩ミョー˥ガ　˥ナシ　˩ボー˥レー˩ドー [˩maiɸunaː mari˥ ʔujam ˩mjoː˥ga ˥naʃi ˩boː˥reː˩doː](立派に立身成功して、親も冥加にして立派な子だよ)。ッ˩ふァヌ　リッ˥シン　˩スー˥カー　ウ˩ヤ˥ヌ　˩ミョー˥ガ　˥ナルン [f˩fanu riʃ˥ʃin ˩suː˥kaː ʔu˩ja˥nu ˩mjoː˥ga ˥narun](子供が成功し、出世すると親の冥加になる)。

˩ミョー˥ジ [˩mjoː˥ʤi] 【名】名字。姓。家の名。˩ワー　ミョー˥ジェーッテ　˥ヌーティル　ア˩ズワ [˩waː mjoː˥ʤeːtte ˥nuːtiru ʔa˩ʤuwa](君の名字は、で、何と < ぞ > いうのか)。

˩ミョー˥ダイ [˩mjoː˥dai] 【名】名代。代理。標準語からの借用語。普通は、˩ダイカール [˩daikaːru](代理。「代替わり」の転訛したもの) という。ウ˩ヤ˥ヌ　˩ウーカラン˥ベーティ　˩バー˥ル　ウ˩ヤ˥ヌ　˩ミョー˥ダイティ　˩シー　ウン˥ネー　˩ヨイシー˥ムヌ　˥ムティ　˩ギー　オーシティ　クー˥タ [ʔu˩ja˥nu ˩ʔuːkaram˥beːti ˥baː˥ru ʔu˩ja˥nu ˩mjoː˥daiti ˩ʃiː ʔun˥neː ˩joiʃiː˥munu ˥muti ˩giː ʔoːʃiti kuː˥ta](親が動けないので、私が親の名代として、その家へ祝いの品を持参して差し上げてきた)。ウ˩ヤ˥ヌ　˩ダイカーロー˥　サ˩クシ˥ル　˩シービキ [ʔu˩ja˥nu ˩daikaːroː˥ sḁ˩kuʃi˥ru ˩ʃiːbiki](親の名代は嫡子がすべきだ)。

ミ˩ヨ˥シ [mi˩jo˥ʃi] 【名】みよし (舳)。舟の舳先の波を切るところ。ミ˩ヨシ˥ナー　˩リュー˥ヌ　カ˩タン˥　トゥ˩ルヌ˥　カ˩タン˥　カキティ　カ˩ザロー˥タン [mi˩joʃi˥naː ˩rjuː˥nu kḁ˩tan˥ tu˩runu˥ kḁ˩taŋ˥ kḁkiti ka˩ʤaroːt˥taŋ](みよしには竜の絵も鳥の絵も描いて飾られた)。

ミ˩ラ˥リン [mi˩ra˥riŋ] 【連】 1見ることができる。見える。˥ミルン [˥miruŋ](見る) の未然形に助動詞˥

リン [riŋ](れる) が下接して形成された可能動詞。˞トゥー˥ヤタンティン　˞バン˥ヌン　ミ˞ラ˥リン [˞tuː˥jatantim ˞ban˥num mi˞ra˥riŋ](遠くても私にも見える)。˞バン˥マー　ミ˞ララ˥ヌ [˞bam˥maː mi˞rara˥nu](私には見えない)。ミ˞ラ˥リ　˥クトー　ミ˞ラ˥リン [mi˞ra˥ri ˥kutoː mi˞ra˥riŋ](見えることは見える)。˞バン˥ヌン　ミ˞ラ˥リカ˞ナー [˞ban˥num mi˞ra˥rika˞naː](私にも見られたら＜見ることができたら＞なあ)。²他人に見られる。˥ミルン [˥miruŋ] の未然形に助動詞˥リン [riŋ](れる＜受身＞) が下接して形成された受身動詞。パ˞ダ˥カ　˥ナルカープ˞スン˥　ミ˞ラ˥リン˞ダー [pa˞da˥ka ˥naruka: pu̥˞sum˥ mi˞ra˥rin˞daː](裸になったら他人に見られるぞ)。

ミ˞リキン˥グ [mi˞rikiŋ˥gu] 【名】メリケン粉。輸入品の小麦粉。昔は、˥ムン [˥muŋ](麦) をイ˞ソーシ [ʔi˞soːʃi](石臼) で碾(ヒ)いて自家用の小麦粉を作った。麦を煎(イ)って石臼で碾(ヒ)いて作った粉は、ユ˞ナ˥ク [ju˞na ˥ku](麦焦がし) という。ユ˞ナ˥クに黒糖を削って混ぜると美味であり、「おやつ」として食した。茶碗に入れてもらったユナクをガ˞ジマル˥ヌ　˞パー [ga ˞ʤimaru˥nu ˞paː](ガジマルの葉) で掬(スク)って食べることは子供の喜びの一つであった。ミ˞リキン˥グ　˥タリティ　˞ティン˥プラ　ヤ˞キ˥バ [mi˞rikiŋ˥gu ˥tariti ˞tim˥pura ja˞ki˥ba](メリケン粉を水に溶(ト)いてテンプラを揚げ＜焼き＞なさいよ)。

ミ˞リパンツァ˥スン [mi˞ripantsa˥suŋ] 【他動】みそこなう (見損なう)。見損じる。見落とす。見逃す。「見外す」の義。˞パー˥ク　ミ˞ラン˥カー　ミ˞リパンツァ˥スン˞ダー˥ヌ　˞クン˥ドー　イッ˞カ˥　ミ˞リパンツァサ˥ヌ [˞paː˥ku mi˞raŋ˥ka: mi˞ripantsa˥sun˞daː˥nu ˞kun˥doː ʔik˞ka˥ mi˞ripantsasa˥nu](早く見ないと見損なうだろうが、今度は決して見損なわない)。シ˞バヤー˥　ミ˞リパンツァ˥ス　˥クトー　˞ナーヌ˥ヌ　˞クン˥ドー　ミ˞リパンツァ˥シ　˞ナー˥ヌ [ʃi˞baja:˥ mi˞tipantsa˥su ˥kutoː ˞naːnu˥nu ˞kun˥doː mi˞ripantsa˥ʃi ˞naː˥nu](芝居を見逃すことはないが、今度は見逃してしまった)。ミ˞リパンツァ˥シェー　˥ミサムヌ [mi˞ripantsa˥ʃe: ˥misamunu](見逃せばいいのに)。ミ˞リパンツァ˥シ [mi˞ripantsa˥ʃi](見逃せよ。見落とせ)。

ミ˞リ˥ムヌ [mi˞ri˥munu] 【名】見物。見物するもの。芝居。パ˞トゥ˥マナー　ミ˞リ˥ムヌテー　˞ナー˥ヌンドゥ　˞プー˥ル　˥キチゴンヌ　ブ˞ドゥル　ケングバ˥　ミリンティ　イ˞ラムテー˥ラン　ミ˞リプス˥ヌ　オーッ˥タン [pḁ˞tu˥mana: mi˞ri˥munute: ˞naː˥nundu ˞puː˥ru ˥ki̥ʧigonnu bu˞duru keŋguba˥ mirinti ʔi˞ramuteː˥ram mi˞ripu̥˞su˥nu ʔoːt˥taŋ](鳩間島には見物(ミモノ)はないが、豊年祭・結願祭の踊り狂言を見に西表島からも見物人が来られた)。

˥ミルカー　˥ミリティ [˥miruka: ˥miriti] 【連】これ見よがしに。見るなら見ろと言わんばかりに。˥ミルカー　˥ミリティ　˞シー˥　ッ˞ふァヌ˥　ブ˞ラーン˥ヤー　ッ˞ふァ˥マー　ピ˞キサーリ　パン˥ナ˞ヨー [˥miruka: ˥miriti ˞ʃiː˥ f˞fanu˥ bu˞raːn˥jaː f˞fa˥maː pi̥˞kisaːri pan˥na˞joː](これ見よがしに、子供のいない家に子や孫を引き連れて行くなよ)。

ミルク [mi˞ruku] 【名】弥勒神。弥勒菩薩。鳩間島では弥勒菩薩が神として信仰されている。豊年祭と結願祭に奉納される弥勒踊りは、豊年を予祝する踊である。弥勒踊りは、弥勒のお面をかぶった弥勒神が布袋の姿で大きな杖を持ち、世果報を掬い上げるように、軍配団扇(グンバイウチワ)をゆっくりと扇ぎながら舞う。神酒を盛った˞カン˥ビン [˞kam˥biŋ](瓶(ビン)) をささげ持ちながら踊り従う娘 (二人)、稲粟等の五穀を盛った籠(カゴ)を左右にささげ持ちつつ踊り従う娘 (二人) と、三角小旗を持って踊り従う娘 (八人) の供を引き連れてしずしずと舞われる。ミルクに扮する男性は、˥ウブシケー [˥ʔubusi̥ke:](大城家) の血を引く人に限られている。ミルクのお面は、ミ˞ルクン˥ヤー [mi˞rukuŋ˥jaː](「弥勒の家」の義。˞メー˥ケー [˞meː˥keː]＜大城家＞) に代々保管されてきた。ミ˞ルクブドゥロー　インヌムラヌ˥　ブ˞ドゥル˥、　カ˞ムラー˥マー　˞アンヌムラヌ˥　ブ˞ドゥル˥ティル　ア˞ザリ　ブー [mi˞rukubuduro: ʔinnumuranu˥ bu˞duru˥ ka˞muraː˥ma: ˞ʔannumuranu˥ bu˞duru˥tiru ʔa ˞ʤari buː](弥勒踊は西村の踊、カムラーマは東村の踊と＜ぞ＞いわれている)。

ミ˞ルクヌ　オン˥ギ [mi˞rukunu ʔoŋ˥gi] 【連】˞弥勒の扇」の義。豊年祭や結願祭の˞ゾーラキ [˞ʤoːraki](奉納舞踊。「常楽」の義か。弥勒菩薩が稲粟の穂を籠に入れて捧げ持つ美しい乙女等を従えて踊る奉納舞踊) の際に、弥勒菩薩が持って扇ぎながら舞う、軍配扇の形をした扇。˞インヌムラヌ˥　ミ˞ルコー˥　ミ˞ルクヌオンギ˥バ　˥ムティティ　ブ˞ドゥル　ソー˥ル [˞ʔinnumuranu˥ mi˞rukoː˥ mi˞rukunu ʔoŋgi ˥ba ˥mutiti bu˞duru soː˥ru](西村の弥勒菩薩は弥勒の軍配扇を持って踊られる)。

ミ˞ルクヌ˥　ミン [mi˞rukunu˥ miŋ] 【連】弥勒菩薩のような大きな耳たぶの耳。福相の大きな耳。˞ワー　ミン˥マー　ミ˞ルクヌ˥　ミン　ヤ˞ルンダ˥　ウ˞

ヤ˥キプス　˥ナルン [˩waː mimˬmaː miˬrukunu˥ miŋ jaˬrundaˬ ʔuˬjaˬkipu̥su ˬnaruŋ](君の耳は弥勒菩薩の耳のように大きな耳＜福相の耳＞だから金持ちになるよ)。

ミ˩ルクユー [miˬrukujuː] 【名】豊年満作の世。豊穣で平和な御世。「弥勒菩薩の世」の義。庶民の理想郷とされ、人々は常にそれを希求(キキュウ)していた。/ミリクユーヤ　イモチ　アシババン　アシビ　ブドゥラバン　ブドゥリ　ウユルシデムヌ　ウユルシデムヌ/(豊年満作の年＜弥勒の御世＞が迎えられ＜来られ＞て、遊んでもまた遊び、踊ってもまた踊れ、国王様のお許しだから)(みりくうた＜弥勒歌＞第2連)。/バガ　パトゥマユーヌ　ナウラバ　トゥムルユーヌ　ミキラバ　カムラマーヌ　アマイヤ　ミリクユーバ　タボラリ/(わが鳩間島が豊年満作になったら、友利御嶽の御世が豊年満作になったら、カムラーマ＜かむろみ「神漏美・かみむすひのかみ」の転訛か＞歓びは弥勒世を賜ることである)(カムラーマ歌)『鳩間島古典民謡古謡集』。

ミ˩ルクン˥ヤー [miˬrukuŋ˥jaː] 【固】「弥勒の家」の義。転じて「弥勒を祀ってある家」の屋号。昭和30年頃までは、˩メー˥ケー [˩meː˥keː](大城家の分家＜宮古家＞でミルク神の面を保管し、祀っていた家)といわれていた。ミ˩ルコー˥　ミ˩ルクン˥ヤーナー　マ˩チ˥シキティ　˩プー˥ル　キ˩チゴン˥ナールン˩ザ˥ソール [miˬrukoː˥ miˬrukuŋ˥jaːna: maˬtʃi˥ʃi̥kiti ˬpuː˥ru ki̥ˬtʃigon˥naːru ʔnˬʤaˬsoːru](弥勒神は弥勒の家に祀っておいて、豊年祭と結願際に＜ぞ＞出される)。

ミ˩ル˥トゥ　ス˩クトー˥　クティ [miˬru˥tu su̥ˬkutoː˥ ku̥ti] 【連】かげひなた(陰日向)のあること。人の見ている時と見ていない時で言行を違えること。「実際に見ている時と、見ないで話を聞く時は別人」の義。ウ˩ヌ˥　プ˩ソー˥　ミ˩ル˥トゥ　ス˩クトー˥　クティ˩ダー˥　ユー　˩キー˥　シ˩キ˥リ [ʔuˬnu˥ pu̥ˬsoː˥ miˬru˥tu su̥ˬkutoː˥ ku̥tiˬdaː˥ juː ˬkiː˥ ʃi̥ˬki˥ri](この人は陰日向のある人だよ、よく気をつけなさいよ)。

˥ミル　˥ミーン [˥miru ˥miːŋ] 【連】これ見よがしに。これ見よとばかりに。目に物をみせる。思い知らせる。「見る目に」の義。˥ミルミン [˥mirumiŋ] ともいう。/フノーラピトゥヌ　ミルミンヨー　ウイバルピトゥヌ　シクミンヨー　ウンシクリ　ミギラシヨー　アワシクリ　ナウラシヨー/(船浦人の見る目に＜これ見よがしに＞、上原人の聞く耳に＜これ聞けよがしに＞、芋を作って稔らせよ、粟を作って稔らせよ)(鳩間中岡＜中森＞)。シ˩ティティ　パッ˥タ　プ˩スヌ˥　ミルミーン　˩マイフナー　マリ˥　ミ˩シ˥リ˩ヨー [ʃi̥ˬtiti patˬta pu̥ˬsunu˥ mirumiːm ˩maiɸuna: mari˥ miˬʃi˥riˬjoː](捨てて去った人の目に物を見せて、立派に立身出世して見せなさいよ)。

˥ミルン [˥miruŋ] 【他動】1見る。目をとめる。「〜野守は不見哉＜ミズヤ＞〜。万、20」、眺める「〜外にも見之加＜ミシカ＞吾妹子が〜。万、474」、見物する「〜青馬を今日美流比等波＜ミルヒトハ＞〜。万、4494」。グ˩ジ˥ヌ　パ˩ナ˥バ　˥ミルンティ　˩ベー˥ンドゥ　˥クマーラー　ミ˩ララ˥ヌ [guˬʤi˥nu paˬnaˬba ˥mirunti ˩beː˥ndu ˥kumaːraː miˬraraˬnu](デイゴの花を見ようとしているが、ここからは見えない＜見られない＞)。˥ミリ　˥ミサカー　˥ミル　˥クトー　˥ナルン [˥miri ˥misakaː ˥miru ˥kutoː ˥naruŋ](見て良ければ見ることは出来る)。˩マー˥ビン　˥ミレー　˥ミサムヌ [˩maː˥bim ˥mire: ˥misamunu](もっと見れば良いのに)。˩パー˥ク　˥ミリバ [˩paː˥ku ˥miriba](早く見ろよ)。2世話をする。「世話をする。「桂に見るべきこと侍るを」『源氏物語＜松風＞』」の転訛したものか。˥ウヤー　˩タール˥　ミリ　˩ベー˥ワ [˥ʔujaː ˩taːru miri ˩beː˥wa](親は誰が世話をして＜見て＞いるか)。3補助動詞。動詞の連用形に下接して、「〜てみる」(試み)の意味を表す。ク˩レー˥　ドゥーシ　˥カキミルン [kuˬreː˥ duːʃi ˥kḁkimiruŋ](これは自分で書いてみる)。

˥ミン [˥miŋ] 【名】1耳。じだ(耳朶)。˩ミン˥ヌ　˥ヤムン [˩min˥nu ˥jamuŋ](耳が痛い＜病む＞)。˥バー　˥ミンナーン　シゥ˩カリ　ブー [˥baː ˥minnaːn si̥ˬkari buː](私の耳にも聞こえている＜情報を得ている＞)。ヤ˩ナ˥ムネー　˩ミン˥ヌ　フ˩ター　フイティ˥　ス˩クナ [jaˬnaˬmuneː ˩min˥nu ɸu̥ˬtaː ɸuiti˥ su̥ˬkuna](悪口は耳の栓をして＜耳の蓋を閉めて＞聞くな)。2耳状のもの。カ˩ツァヌ˥　ミン [kḁˬtsanu˥ miŋ](蚊帳のつり手)。カ˩ミ˥ヌ　˥ミン [kaˬmi˥nu ˥miŋ](甕の耳)。

˩ミン˥カー [˩miŋ˥kaː] 【名】耳の聞こえない人。聾人。つんぼ。「聾、美々之比(みみしひ)」『和名抄』の義。老年層は、˩ミントーリ˥ムヌ [˩minto:ri˥munu](つんぼ＜耳倒れ者＞)ともいう。˩ミン˥カー　˥ナリティ　プ˩スヌ˥　ムニ　シ˩キユーサヌ [˩miŋ˥kaː ˥nariti pu̥ˬsunu˥ muni ʃi̥ˬkiju:sanu](聾(ツンボ)になって人の話を聞くことができない)。

˩ミンガク˥ムン [˩miŋgaku˥muŋ] 【名】耳学問。聞

き覚え、習い覚えた知識。ミ˞ミガク˜ムン [mi˞mi-gaku˜muŋ](耳学問) ともいう。ム˞カ˜シプソー　˞ミンガク˜ムンシル　˜ウタン　˜ウブイ　˞ニン˜ガイニンガイヌ　ニ˞ガイ˜フチ　フ˞チカザルン˜　ウ˞キ˜トゥローッタツォー [mu˞ka˜ʃipu̥so: ˞miŋgaku˜muŋʃiru ˜ʔutan ˜ʔubui ˞niŋ˜gainiŋgainu ni˞gai˜ɸutʃi ɸu̥˞ʧikaʤaruŋ˜ ʔu˞ki˜turo:ttatso:](昔の人は耳学問で歌も覚え、各種祈願の祝詞や願い口も覚えられたそうだ)。

˞ミンカバッ˜サン **[˞miŋkabas˜saŋ]** 【形】耳の正常な者のこと。頭脳の明晰(メイセキ)な人。みみざとい (耳聡い)。˞ミンッサリ˜ムヌ [˞minssari˜munu](みみだれ < 耳垂れ・耳漏 > のある人。転じて「役に立たない無能力な者」の義) の対義語。優れた人の耳の匂いは香ばしいといわれていた。ウ˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　イッ˞ケナ　ミンカバッ˜サンティ　ス˞クタヌ　ナン˜ゾー　˞ミンカバッ˜サー　˞ナー˜ヌ [ʔu˞nu˜ f˞fa:˜ ʔik˞kena miŋkabas˜santi su̥˞kutanu nan˜ʤo: ˞miŋkabas˜sa: ˞na:˜nu](その子は非常に賢い < 耳聡い > と聞いたが、あまり賢くない)。

˞ミンキシ˜オー **[˞miŋkiʃi˜ʔo:]** 【名】耳が切り裂かれた子豚。「耳切れ豚」の義。転じて、「おどおどして落ち着かない者」の意。暴れる子豚は耳に穴をあけて綱を通してつないでおいたが、それを振り切って逃げるのもいた。以後その子豚は人を恐れて落ち着かないので、人間もおどおどして落ち着きのない者を、そのようにいう。˞ミンキシオー˜ヌ　˜カタチニ　プ˞スバ˜　ミルカー　ナー˞イ˜　ウ˞バイ˜カバイ　˞シェー˜ティ　˞アー˜ク [˞miŋkiʃiʔo:˜nu˜kḁtatʃini pu̥˞suba˜ miruka: na:˞i˜ ʔu˞bai˜kabai ˞ʃe:˜ti ˞ʔa:˜ku](耳切れ豚のように、人を見ると、ただびくびくおどおどしてばかりいるよ)。

˞ミン˜グイ **[˞miŋ˜gui]** 【名】海の中の海水の濁り。海水に濁りが生じると台風が襲来するといわれている。ス˞ナ˜カー　˞ミングイ˜ヌ　˜ンジティ　イ˞ゾー˜　ミ˞ララ˜ヌ　カ˞ジ˜ヌ　˜フク　サー˞レー [su˞na˜ka: ˞miŋgui˜nu ˜ʔnʤiti ʔi˞ʤo:˜ mi˞rara˜nu ka˞ʤinu˜ ɸu̥ku sa:˞re:](海中は濁りが生じて魚は見えない。台風が吹くぞこれは)。

˞ミンクジ˜ラー **[˞miŋkuʤi˜ra:]** 【名】耳の聞こえない人。つんぼ (聾) の卑称。˞ミンクジ˜ラー　ヤ˞ルンダ˜　ギュー˞ムシ˜　ヤ˞ラブバン˜　シゥ˞カヌ [˞miŋkuʤi˜ra: ja˞runda˜ gju:˞muʃi˜ ja˞rabuban˜ si̥˞kanu](つんぼ < 聾 > だから、何度呼んでも聞かない)。

˞ミンクジリ˜ムヌ **[˞miŋkuʤiri˜munu]** 【名】耳の聞こえない人。聾人。つんぼ (聾)。「耳崩れ者」の転訛したものか。˜トゥシ　トゥ˞ル˜ター　˞ミンクジリ˜ムヌ　˜ナリティ　プ˞スヌ˜　ムニ　シ˞キサヌ [˜tu̥ʃi tu˞ru˜ta: ˞miŋkuʤiri˜munu ˜nariti pu̥˞sunu˜muni si̥˞kisanu](年をとったので、つんぼになってしまって、人の言うことを聞き取れない)。

˞ミングラスン **[˞miŋgurasuŋ]** 【他動】ぐるぐる回す。「めぐらす (巡らす)」の転訛したもの。˞ティー˜バ　カ˞サミティ　ミングラスンティ　スンドゥ　ミングラサラヌ [˞ti:˜ba ka˞samiti miŋgurasunti sundu miŋgurasaranu](手を掴んでぐるぐる回そうとするが、回されない)。

˞ミングラスン **[˞miŋgurasuŋ]** 【他動】やっつける。ぶん殴る。ヤ˞ラビ˜バ　˞ミングラシ　ベー˜ヌ　˜アイニ　˞ミングラス˜　クトー　˞シェー˜　ナ˞ラ˜ヌ [ja˞rabi˜ba ˞miŋguraʃi be:˜nu ˜ʔaini ˞miŋgurasu˜ ku̥to: ˞ʃe:˜ na˞ra˜nu](子供をぶん殴っているが、あのようにぶん殴ることをしてはならない)。˞ウンザー　ミングラシェー˜　ミサムヌ [˞ʔunʤa: miŋguraʃe:˜ misamunu](あの野郎はぶん殴れば良いのに)。˞クンザー　ミングラシ [˞kunʤa: miŋguraʃi](この野郎はぶん殴れ)。

˞ミン˜グル **[˞miŋ˜guru]** 【名】きくらげ (木耳)。「耳の殻」の義。˞ゴーナ˜キ [˞go:na˜ki](桑の木) やガ˞ジ˜マル [ga˞ʤi˜maru](ガジマル。榕樹) に群生するのが食用に供された。˞ミン˜グロー　イ˞ズトゥ˜　カ˞ケー˜シティ　˜アバナー　イ˞ラ˜クカー　ン˞マー˜タン [˞miŋ˜guro: ʔi˞ʤutu˜ kḁ˞ke:˜ʃi̥ti ˜ʔabana: ʔi˞ra˜kuka: ʔm˞ma:˜taŋ](きくらげ < 木耳 > は魚と油で炒めるとおいしかった)。

˞ミングルン **[˞miŋguruŋ]** 【自動】1回る。巡る。˞マールンとも言う。カ˞ジヌ˜　フクカー　カ˞ジマーヤー˜ヤー　˞ミングルンドゥ˜　フ˞カン˜カー　˞ミングラヌ [ka˞ʤinu˜ ɸu̥kuka: ka˞ʤimaja:˜ja: ˞miŋgurundu˜ ɸu̥˞kaŋ˜ka: ˞miŋguranu](風が吹くと風車は回るが、吹かないと回らない)。2頭がぐるぐる回るような症状が現れる。ス˞ブ˜ロー　˞ミングリティ˜　タティ　˞ベーララ˜ヌ [su˞bu˜ro: ˞miŋguriti˜ tḁti ˞be:rara˜nu](頭がぐるぐる回って、ずっと立っておられない)。ス˞ブル˜ヌ　˞ミングル˜　ピンマー　タ˞トゥ˜ナ [su˞buru˜nu ˞miŋguru˜ pimma: tḁ˞tu˜na](頭がぐるぐる回る時は立つな)。˞マー˜ビン　˞ミングレー˜　ミサムヌ [˞ma:˜bim ˞miŋgure:˜ misamunu](もと回れば良いのに)。˞ミングリ [˞miŋguri](回れ)。

˥ミンサー [˥minsa:] 【名】木綿糸を藍などの染料で染めて、幅約 10 センチ、長さ約 120 センチに織り上げた帯。かつては若い女性が好きな男のために織って贈ったという。˩ミンサーフク˥ビ [˩minsa:ɸuku˥bi](ミンサー織りの帯) ともいう。マ˩ナ˥マー　˥ミンサー　ウ˩ル˥　プ˩スン˥　ブ˩ラーヌ [ma˩na˥ma: ˥minsa: ʔu˩ru˥ pu̥˩sum˥ bu˩ra:nu](今はミンサー帯を織る人もいない)。

˩ミン˥ザイ [˩min˥dʑai] 【名】みみだれ (耳垂れ。耳漏)。耳の穴から膿(ウミ)の出る症状。「Mimidare. ミミダレ (耳垂れ). 耳から膿汁(ノウジュウ)などが流れ出ること」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˩ミンザイ˥ヌ　˥ンジティ　ッ˩サー˥ンダ　イ˩サン˥ヤー　˩サーリ　ギー˥　ミ˩シ˥リ [˩mindʑai˥nu ˥ʔndʑiti s˩sa:˥nda ʔi˩saŋ˥ja: ˩sa:ri gi:˥ mi˩si˥ri](耳垂れが出て臭いから病院 < 医者の家 > へ連れて行って診せなさい)。

˥ミン　サ˩ラウン [˥min sa˩rauŋ] 【連】耳の穴を浚(サラ)う。耳をすませて聞く。注意して聞く。˩ミン˥バ　サ˩ライティ　シンシー˥ヌ　パ˩ナ˥シェー　シ˩キ [˩mim˥ba sa˩raiti ʃiŋʃi:˥nu pa˩na˥ʃe: ʃi̥˩ki](耳の穴を浚えて < よく注意して > 先生の話は聞け)。

˥ミンスクグル [˥minsu̥kuguru] 【名】 (動) リュウキュウコノハズク (木の葉木菟)。フクロウの一種。石垣方言からの借用語か。普通は単に、˥スクグル [˥su̥kuguru](フクロウ)、または˥マヤースクグル [˩maja:sukuguru](みみずく < 木菟 >。フクロウ) という。˩ミャー˥ウと鳴くので、その名があるという。˥ウガンヤマヌ　ッ˩ふァガマリ　ブー˥　トンナー　˥ミンスクグルヌ (˥マヤースクグル)　トゥ˩マリ˥　ブ˩タン˥ダー [˥ʔugaŋjamanu f˩fagamari bu:˥ tonna: ˥minsu̥kugurunu(˥maja:sukururunu)tu˩mari˥ bu˩tan˥da:](御嶽の森の暗がりの中で木の葉木菟 < フクロウ > がとまっていたよ)。

˥ミンスブ [˥minsubu] 【名】　耳が三つ付いた小さな油壷。耳のある小さな味噌壷。「耳壷」の転訛。ア˩バ˥スブ [ʔa˩ba˥subu](油壷) も耳のある壷で、豚脂 (ラード) や食油を入れて保管し、利用したりした。˩フー˥カラジナ [˩ɸu:˥karaʤina](クロツグの黒い繊維で綯った綱) で網状に編んで壷を巻き、壷を保護しつつ運搬に便利なようにしてあった。壷が˩ウッツァー˥スン [˩ʔuttsa:˥suŋ](打ち合わすので)、破損することを防ぐためであった。˥ミンスブナー　˩マイヌミー˥ス　イ˩リ˥シケーバ　˩サンジ˥ヌ　˩サー˥フキ　ン˩ザ˥シバ [˥minsubuna: ˩mainumi:˥su ʔi˩ri˥ʃi̥ke:ba ˩sanʤi˥ni ˩sa:˥ɸu̥ki ʔn˩ʤa˥ʃiba](味噌壷に米の味噌を入れてあるから三時の茶請けに出しなさいよ)。

˩ミン˥ター [˩min˥ta:] 【名】こめかみ。ム˩カ˥シェー　ガ˩マジ˥ヌ　˥ヤムカー　˩ミン˥ターナ　˩メンター˥ムティ　ア˩ズ　コーヤク˥バ　マ˩ミ˥<˩ヌーリ > ッ˩ふォーッ˥タン [mu˩ka˥ʃe: ga˩maʤi˥nu ˥jamuka: ˩min˥ta:na ˩menta:˥muti ʔa˩ʤu ko:jaku˥ba ma˩mi˥ < ˩nu:ri > f˩fo:t˥taŋ](昔は頭が痛いと、こめかみにメンタームという膏薬を塗ってくださった)。

˩ミン˥ダナー [˩min˥dana:] 【名】 (動) 魚の名。和名、メジロザメ (体長約 7 メートル)。

˩ミン˥タマ [˩min˥tama] 【名】 1めんたま。眼球。˩目玉」の義。˩ミン˥タマー　ピ˩カ˥リ　˩クン˥ゾー　˥ンジティ　イ˩ゾーッ˥タ [˩min˥tama: pi̥˩ka˥ri ˩kun˥ʤo: ˥ʔnʤiti ʔi˩ʤo:t˥ta](目玉をひん剥いて、目を怒らせ、腹をたてて < 根性を出して > 叱られた)。2眼球の大きな人。卑称。˩ウンザー　ミン˥タマ　ヤ˩ルンダ　ミーシキラ˥リカー　ナ˩クラーン˥ダー [˩ʔunʤa: min˥tama ja˩runda mi:ʃi̥kira˥rika: na˩kura:n˥da:](あいつは目玉の大きな奴だから、睨みつけられるとこわいよ)。

˩ミンダリ˥ムヌ [˩miŋdari˥munu] 【名】元気のない者。大人しい人。従順なひと。覇気のない者。だらしない者。「耳垂れ者」の義。˩ミンダリムン˥ドゥ　プ˩ソー˥　ッ˩ふ˥ティ　ア˩ザリ　ブー [˩mindarimun˥du pu̥˩so:˥ f˩fu˥ti ʔa˩ʤari bu:](大人しい、従順な者が時には主人に楯突(タテツ)く < 人を食う > といわれている)。˩ミンダリ˥ムノー　ウ˩リンツァン　シーユーサヌ [˩mindari˥muno: ʔu˩rintsaŋ ʃi:ju:sanu](やる気のない、だらし無い者はこれすらも出来ない)。

˥ミン　ッ˩サウン [˥min s˩sauŋ] 【連】耳をふ塞(フサ)ぐ。ン˩ガマ˥サカー　˥ミン　ッ˩サウン [ʔŋ˩gama˥saka: ˥min s˩sauŋ](やがまし < 喧しい > かったら耳を塞ぐ)。˥ミン　ッ˩サイティ˥　プ˩スヌ˥　ムニシゥ˩カヌ [˥min s˩saiti˥ pu̥˩sunu˥ muni si̥˩kanu](耳を塞いで他人の話を聞かない)。

˩ミンッサリ˥ムヌ [˩minssari˥munu] 【名】みみだれ (耳垂れ) のある者。「耳腐れ者」の義。転じて、無能な者の意。人を罵(ノノシ)るときに用いる。˩ウンザー　ミンッサリ˥ムヌ　ヤ˩ルンダ˥　ノー˩ン˥　ヤコータ˩タ˥ヌ [˩ʔunʤa: minssari˥munu ja˩runda˥ no:˩ŋ˥ jako: tḁ˩ta˥nu](あいつは無能な者だから、何の役にも立たない)。

˥ミン　˥ッサリルン [˥min ˥ssariruŋ] 【連】耳の中に膿ができる。中耳炎が悪化して化膿する。「耳腐れる」

の義。˺ミン　˺ッサリドゥ　˹ブー˺ユー　ウ˹リヌ　ミン˺マー　ッ˹サー˺ヌ　ン˹カーラヌ [˺min ˺ssaridu ˹buː˺juː ʔu˹rinu mim˺maː s˹saː˺nu ʔŋ˹kaːranu](耳が腐れているのか、彼の耳は臭くて顔が向けられない)。

˹ミン˺ドー [˹min˺doː] 【名】面倒。手数のかかること。物事をするのがわずらわしいこと。標準語からの借用語。ウ˹ヌ˺　クトゥシ　˹ワーバー˺キン　˹ミン˺ドー　˺カキ　フ˹コーラサ [ʔu˹nu˺ kʉtuʃi ˹waːba˺ kim ˹min˺doː ˺kʉki ɸʉ˹koːrasa](そのことで君にまで面倒をかけてしまい、申し訳ありません＜ありがとう＞)。

˹ミントー˺ラー [˹mintoː˺raː] 【名】耳が聞こえない人の卑称。つんぼ (聾)。「耳倒れ者」の義。ウ˹レー　ミントー˺ラー　˺ナリティ　プ˹スヌ˺　ムニ　シ˹キユーサンバン [ʔu˹reː mintoː˺raː ˺nariti pʉ˹sunu˺ muni ʃi˹kijuːsambaŋ](彼はつんぼ＜聾＞になってしまって、人のいうこと＜話＞を聞き取れないわい)。

˹ミントーリ˺ムヌ [˹mintoːri˺munu] 【名】耳の聞こえない人。つんぼ (聾)。「耳倒れ者」の義。˹ミントーリ˺ムヌ　ナ˹ル˺ター　プ˹スヌ˺　ムニ　シ˹キユーサンダ　ホー˺ル　キ˹シ˺ムヌ　˺ナリ　˹ベー [˹mintoːri ˺munu na˹ru˺taː pʉ˹sunu˺ muni ʃi˹kijuːsanda hoː˺ru kʉ˹ʃi˺munu ˺nari ˹beː](耳の聞こえない人になったので、人の話を聞くことが出来ないから、思慮分別のない者＜間抜け者。ぼんやり者＞のようになっている)。

˺ミン　˹トーリ˺ルン [˺min ˹toːri˺ruŋ] 【連】耳が聞こえなくなる。つんぼ (聾) になる。˺ミン　˹トー˺ルン [˺min ˹toː˺ruŋ](耳が遠くなる) ともいう。˺トゥシ　トゥ˹ル˺ター　˺ミン　˹トーリ˺ルンカヤーティ　ウ˹ムータ˺ヌ　˹ワー　ミン˺マー　˹トーリラン˺バン˹ナー [˺tuʃi tu˹ru˺taː ˺min ˹toːri˺ruŋkjaːti ʔu˹muːta ˺nu ˹waː mim˺maː ˹toːriram˺ban˹naː](年をとったので耳が聞こえなくなる＜聾になる＞かと思ったが、君の耳は聞こえなくならない＜聾にならない＞のだねえ)。

˹ミントゥー˺ワン [˹mintuː˺waŋ] 【形】耳が遠い。難聴である。若年層は˹ミントゥー˺ヤン [˹mintuː˺jaŋ] ともいう。˹ミントゥー˺ワンダ　ウ˹ブ˺クイシ　ア˹ザン˺カー　シ˹キトゥリユーサ˺ヌ [˹mintuː˺wanda ʔu˹bu˺kuiʃi ʔa˹ʤaŋ˺ka: ʃi˹kituriju:sa˺nu](耳が遠いから大声で言わないと聞き取れない)。˹ウイ˺プソー　˹ミントゥー˺ワ　ナ˹リ˺スンドゥ　˹ワー　ミントゥー˺ワ　˹ナーン˺バン˹ナー [˹ʔui˺pʉso: ˹mintuː˺wa na ˹ri˺sundu ˹waː mintuː˺wa ˹naːm˺ban˹naː](老人は耳が遠くなるが、君は耳が遠くないんだねえ)。˹ミントゥー˺ワ　プ˹ソー˺　ギュー˹ムシン　トゥイスクン [˹mintuː˺wa pʉ˹soː˺ gjuː˹muʃin tuisʉkuŋ](耳の遠い人は何度も問いただして聞く)。

˺ミン　トゥ˹ルッサイ˺ルン [˺min tu˹russai˺ruŋ] 【連】耳をそばだて＜敬(ソバダテ)＞る。聞き耳を立てる。˺ミン　トゥ˹ルッ˺サウン [˺min tu˹rus˺sauŋ](耳をそばだてる) ともいう。トゥ˹ルッサイ˺ルン [tu˹russai˺ruŋ](緊張する。ひきしまる。用心する)。˺ミン　トゥ˹ルッサイ˺ルンティ　˹スンドゥ˺　ン˹ガマサ˺ヌ　パ˹ナ˺シ　シゥ˹カラヌ [˺min tu˹russai˺runti ˹sundu˺ ʔŋ˹gamasa˺nu pa˹na˺ʃi sʉ˹karanu](耳をそばだてようとするが、うるさくて聞き取れない＜聞かれない＞)。˹シンシー˺ヌ　パ˹ナ˺シェー　˹ミン˺バ　トゥ˹ルッ˺サイ　シ˹キ˺バ [˹ʃiŋʃiː˺nu pa˹na˺ʃe: ˹mim˺ba tu˹rus˺sai ʃʉ˹ki˺ba](先生の話は耳を敬てて聞けよ)。

˺ミン　トゥ˹ルッ˺サウン [˺min tu˹rus˺sauŋ] 【連】耳をそ敬(ソバダテ)てる。聞き耳を立てる。注意して聞く。˹ミン˺バ　トゥ˹ルッ˺サイ　ス˹クン [˹mim˺ba tu˹rus˺sai sʉ˹kuŋ](耳をそばだてて聞く)。˺ミン　トゥ˹ルッサーン˺カー　シ˹キパンツァシス [˺min tu˹russaːŋ˺ka: ʃi˹kiantsaʃisu](耳をそばだてないと聞き逃してしまう)。

˹ミン˺ナー　ス˹クン [˹min˺naː sʉ˹kuŋ] 【連】小耳に挟(ハサ)む。ちらっと聞く。「耳に聞く」の義。ウ˹ヌ˺　クトー　˹バン˺ヌン　˹ミン˺ナー　シ˹キ˺　ブ˹レー　スン [ʔu˹nu˺ kʉto: ˹ban˺num ˹min˺naː ʃi˹kibureː suŋ](そのことは私も小耳に挟んでおりはする)。

ミン˹ナー˺マ [min˹naː˺ma] 【名】小さな耳。小耳。˺ミンスブヌ　ミン˹ナー˺マナー　˺シナー　˺カキティ　˹ピールン [˺minsubunu min˹naː˺mana: ˺ʃina: ˺kʉkiti ˹piːruŋ](耳壷の小耳に綱をかけ、引っさげて持ち運ぶ)。

˹ミン˺ナミンナ [˹min˺naminna] 【副】注意して見ながら。気にかけながら。注意して見ながら同時並行して別の作業をする。ヤ˹ラビ˺バ　˹トゥーシ˺ナ　ニ˹バシ˺　シケーバ　˹ミン˺ナミンナ　˹シェー˺ティ　パ˹トゥ˺ムヌ　ウ˹リ˺ヨー [ja˹rabi˺ba ˹tuːʃi˺na ni˹baʃi˺ ʃʉke:ba ˹min˺naminna ˹ʃeː˺ti pʉ˹tu˺munu ʔu˹ri˺joː](子供を縁側に寝かしてあるので、注意して見ながら機物＜布＞を織りなさいね)。

˹ミン˺ヌカー [˹min˺nukaː] 【名】じかく (耳殻)。じかい (耳介)。「耳の皮」の義。豚の耳殻は、˹ミン˺ガー [˹miŋ˺gaː](˹耳皮」の義) という。˹ミン˺ガーナ　ア˹

シボーマ˞ヌ　˞ンジ　˞ベー [˞miŋ˞ga:na ʔa˞ʃibo:ma˞nu ˞ʔndʑi ˞be:](耳殻に小さなお出来が出ている)。

˞ミン˞ヌ　シ˞タ˞ダル [˞min˞nu ʃi̥˞ta˞daru] 【連】みみたぶ (耳朶)。じだ。耳の下部の垂れ下がった肉。「耳の下垂れ」の転訛したもの。˞ミン˞ヌ　シ˞タ˞ダローラ　˞シーバ　アーシ˞　ン˞ザ˞シ　˞トゥリティ　シ˞ラ˞ビバ [˞min˞nu ʃi̥˞ta˞daro:ra ˞ʃi:ba ʔa:ʃi˞ ʔn˞ʑa˞ʃi turiti ʃi˞ra˞biba](みみたぶから血をへし＜圧し＞出して取って検査しなさいよ)。

˞ミン˞ヌッス [˞min˞nussu] 【名】みみあか (耳垢)。「耳糞、みみあか」『和名抄』の転訛したもの。ヤ˞ラビ˞ヌ　˞ミン˞ヌッス　˞トゥリ　ッ˞ふィーリ˞バ [ja˞rabi˞nu ˞min˞nussu ˞turi f˞fi:ri˞ba](子供の耳垢を取ってあげなさい＜取ってくれなさい＞よ)。

˞ミン˞ヌッふァ [˞min˞nuffa] 【名】鼓膜(コマク)。「耳の子」の義。フ˞カトゥー˞　ッ˞ス˞ミティ　˞ミン˞ヌッふァ　キ˞サシ˞ル　˞ミン˞カー　˞ナリ　˞アー˞クダ˞レー [ɸu̥˞katu:˞ s˞su˞miti ˞min˞nuffa ki̥˞saʃi˞ru ˞miŋ˞ka:˞nari ˞ʔa:˞kuda˞re:](深海を潜って、耳の鼓膜を切らして＜ぞ＞つんぼ＜聾＞になっているんだよ、あれは)。

˞ミン˞ヌフカ　˞ナシ　ス˞クン [˞min˞nuɸu̥ka ˞naʃi su̥˞kuŋ] 【連】よそ事に聞きなす。心ここに在らずに聞く。うわのそら (上の空) で聞く。ウ˞ヤ˞ヌ　˞トゥシ˞キン　˞ミン˞ヌフカ　ナ˞シ˞ル　ス˞クンダ˞　ノー˞ン˞　シ˞キ˞　ブ˞ラーヌ [ʔu˞ja˞nu ˞tuʃi̥˞kim ˞min˞nuɸu̥ka na˞ʃi˞ru su̥˞kunda˞ no:˞ŋ˞ ʃi̥˞ki˞ bu˞ra:nu](親の忠告も上の空で聞く＜よそ事に聞きなす＞から、本当は何も聞いてはいないよ)。

˞ミン˞バニ [˞mim˞bani] 【名】えらふた (鰓蓋)。魚のえら (鰓) を保護する骨質の薄い板。呼吸運動に合わせて開閉する。「耳羽」の義。カ˞ツヌ˞　ス˞ブ˞ル　バ˞リティ　ミン˞バニ　˞キシティ　˞スー　バ˞カシ˞バ [kḁ˞tsunu˞ su˞bu˞ru ba˞riti mim˞bani ˞ki̥ʃiti ˞su: ba˞kaʃi˞ba](カツオの頭を割って、鰓蓋(エラブタ)を切り落としてお汁を炊きなさい)。

˞ミンパヤー˞ン [˞mimpaja:˞ŋ] 【形】耳聡(ミミサト)い。耳が早い。早耳である。˞ミンパヤー˞　ッ˞ふァ˞　ヤ˞ルンダ˞　ッ˞サーク˞ヌ　˞クイシン　ウ˞ダラ˞キ　ウ˞キ˞ス [˞mimpaja:˞ f˞fa˞ ja˞runda˞ s˞sa:ku˞nu ˞kuiʃiŋ ʔu˞dara˞ki ʔu˞ki˞su](耳聡い子だから、咳の声でも驚いて目を覚ます＜起きる＞)。˞ミンパヤー˞ンティ　ス˞クタヌ　ナン˞ゾー　˞ミンパヤー　ナー˞ヌ [˞mimpaja:˞nti su̥˞kutanu nan˞ʑo: ˞mimpaja: na:˞nu](耳聡いとは聞いたが、あまり耳聡くない)。˞ドゥク　˞ミンパヤー˞ヌ　ウ˞リヌ˞　ニ˞ビ　ベー˞　スバナー　パ˞ナ˞シン　ナ˞ラ˞ヌ [˞duku ˞mimpaja:˞nu ʔu˞rinu˞ ni˞bi be:˞ subana: pa˞na˞ʃin na˞ra˞nu](あまりにも耳聡くて、彼が寝ている側では話も出来ない)。

˞ミン˞パル [˞mim˞paru] 【名】しんし (伸子)。布を織る際に、布の両端に差し止めて張り、縮まないようにする弓形の道具。洗い張りをする際にも用いる。タ˞カバ˞タナーン　ジ˞バ˞タナーン　˞ヌーヌ˞　ウ˞ル˞　ピンマー　ミ˞ンパ˞ル　˞ッシティル　ウ˞ルタル [tḁ˞kaba˞tana:n ʑi˞ba˞tana:n ˞nu:nu˞ ʔu˞ru˞pimma: ˞mim˞paru ˞ʃʃitiru ʔu˞rutaru](高機でも地機でも布を織る時は伸子を差して＜ぞ＞織った)。

˞ミン˞バン [˞mim˞baŋ] 【名】耳判。牧場の牛の耳に切り込みを入れて所属する家を示した印。˞ヤー˞バン [˞ja:˞baŋ](家判。所属する家の印) ともいう。˞インダヌ　マ˞キ˞ナーテー　ウ˞シヌ˞ヨイナー　ウ˞シヌ　ニン˞ガイ　シ˞ティ˞　アトゥ　ウ˞シヌッふァヌ˞　ミンナー　˞ミン˞バン　ス˞コーッ˞タツォー [˞ʔindanu ma˞ki˞na:te: ʔu˞ʃinu˞joina: ʔu˞ʃinu niŋ˞gai ʃi̥˞ti˞ ʔatu ʔu˞ʃinuffa˞nu ˞minna: ˞mim˞ban su̥˞ko:t˞tatso:](伊武田の牧場では牛の祝い＜祈願＞で牛の健康・繁盛の祈願をして後、子牛の耳に耳判 (家判) を付けられたそうだ)。

˞ミン　ユ˞グスン [˞miŋ ju˞gusuŋ] 【連】耳を汚す。不快にさせるような話を相手の耳にいれる。˞ウヌヨーヌ　ム˞ニ˞バ　イ˞ジ˞　シ˞キン˞ヌ　プ˞スヌ　ミン˞バ　ユ˞グシ˞　ヌーヤ　ウ˞レー [˞ʔunujo:nu mu˞ni˞ba ʔi˞ʑi˞ ʃi˞kin˞nu pu̥˞sunu mim˞ba ju˞guʃi˞ nu:ja ʔu˞re:](あのようなものをしゃべって、世間の人の耳を汚して何事だね、これは)。

ム

˥ム **[˥mu]** 【形式名】～もの。～の。˥クナー　˥アルム　˥トゥリバ [˥kuna: ˥ʔarumu ˥turiba](ここにあるものを取りなさいよ)。˥クナー　˥アルモー　シゥ˩カーラヌ [˥kuna: ˥ʔarumo: sɨ̥˩ka:ranu](ここにあるものは使えない)。˩ワー˥ムン　˩カーシ [˩wa:˥ muŋ ˩ka:ʃi](君のも売りなさい)。˩ワーム˥バ　トゥリ˩ナー˥ヌ [˩wa:mu˥ba turi˩na:˥nu](君のを取ってしまった)。˩ワー˥モーラ　˩バーム˥ル　マ˩シ [˩wa:˥mo:ra ˩ba:mu˥ru ma˩ʃi](君のものより僕のものが良い)。˥カイブムンツァン　˩シーサヌ [˥kaibumuntsaŋ ˩ʃi:sanu](こんなのさえも出来ない)。

˩ムー **[˩mu:]** 【名】喪。忌。親族に死者が出たときに、一定の期間、行動を慎むこと。ッ˩ふ˥ムー [f˩fu˥mu:](黒喪) ともいう。˩ムー˥　カ˩カ˥ルン [˩mu:˥ kạ˩ka˥ruŋ](喪に服する < かかる >)。˩ムー˥　カ˩カリ˥プソー　˩ヨイシー˥ヤー　パ˩ラ˥ヌ [˩mu:˥ kạ˩kari˥ pụso: ˩joiʃi:˥ja: pa˩ra˥nu](服喪中の人は祝儀の家には行かない)。

˩ムー **[˩mu:]** 【名】(数) 六。六つ。˩ティー [˩ti:](一つ)、˩ター [˩ta:](二つ)、˩ミー [˩mi:](三つ)、˩ユー [˩ju:](四つ)、˩イ˥チ [˩ʔi˥tsi](五つ)、˩ムー [˩mu:](六つ)、˩ナ˥ナ [˩na˥na](七つ)、˩ヤー [˩ja:](八つ)、ク˩ク˥ヌ [kụ˩ku˥nu](九つ)、˩トゥー [˩tu:](十) のように数える。

˩ムー˥ウチ **[˩mu:˥ʔutsi]** 【名】喪中。服喪中。親族の者が死んで四十九日忌が済むまで行動を慎む期間。˩ムーウチェー　ヨイシー˥ヤー　˩パン˥ナ˩ヨー [˩mu:ʔutʃe: joiʃi:˥ja: ˩pan˥na˩jo:](服喪中は、祝儀の家には行くなよ)。

˩ムーカビ˥ムヌ **[˩mu:kabi˥munu]** 【名】服喪中の者。˩ムーカビ˥ムノー　プ˩スン˥ヤー　˩パン˥ナティム˩カ˥シプソー　ア˩ゾーッ˥タ [˩mu:kabi˥muno: pụ˩suŋ˥ja: ˩pan˥nati mu˩ka˥ʃipụso: ʔa˩ʤo:t˥ta](服喪中の者は余所の家に行くなと昔の人は言われた)。

˩ムーガムーガ **[˩mu:gamu:ga]** 【副】もぐもぐ。歯のない老人が口中のものを噛みきれなくて、いつまでも口を動かすさま。˥アッパー　˩パー˥モー　˥ナリティ　˩ムーガムーガ˥シ　フ˩チェー　ウーカシ˥　パ˩シ˥シシ　カミティル　˥ムノー　ン˩コー˥ル [˥ʔappa: ˩pa:˥mo: ˥nariti ˩mu:gamu:ga˥ʃi pa˩ʃi˥ʃiʃi ˥kamitiru ˥muno: ʔŋ˩ko:˥ru](お祖母さんは歯抜けになって、もぐもぐと口を動かして歯茎で噛んで、ものを召し上がる)。

˩ムー˥ジ **[˩mu:˥ʤi]** 【名】(植) サトイモ (里芋) の総称。ッ˩サムー˥ジ [s˩samu:˥ʤi](ハスイモ。「白里芋」の義)、ア˩ガムージ [ʔa˩gamu:ʤi](トウノイモ (「赤里芋」の義)、˩ター˥ウン [˩ta:˥ʔuŋ < 田芋 >]) などがある。˩ムー˥ジェー　˩パイタ˥ナール　ス˩ク˥ローッタヌ　˩パーヌ˥　カ˩タチェー˥　ビ˩ロー˥サ　˩ニーブタ [˩mu:˥ʤe: ˩paita˥na:ru sụ˩ku˥ro:ttanu ˩pa:nu˥ kạ˩tatʃe:˥ bi˩ro:˥sa ˩ni:buta](サトイモは西表島で作られたが、葉の形はクワズイモに似ていた)。

˩ムージ˥ヌ　˥ニー **[˩mu:ʤi˥nu ˥ni:]** 【連】サトイモ (里芋)。サトイモの根茎 (実)。「里芋の根」の義。˩ター˥ウン [˩ta:˥ʔuŋ](田芋) ともいう。澱粉が多く、魚肉や蛸などと煮付けにして食すると美味である。祝儀の料理に欠かせない食材である。

˩ムーチ **[˩mu:ʧi]** 【名】(数) 六つ。六歳。六個。˩ワー　ギューチ˥ヤー [˩wa: gju:ʧi˥ja:](君は何歳 < いくつ > か)。˥バー　˩ムーチ˥　ナルン [˥ba: ˩mu:ʧi˥ naruŋ](私は六歳になる)。˩ムーチ˥　ヌ˩カ˥リ　˩ナー˥ヌ [˩mu:ʧi˥ na˩ka˥ri ˩na:˥nu](六つ残ってしまった < 残ってない >)。˩ムーチヌ˥　シ˩ナ [˩mu:ʧinu˥ ʃi˩na](六つの品。六品)。

˩ムーティナ˥ティ **[˩mu:tina˥ti]** 【名】六年前。˥アブジェー　˩ムーティナティ˥ヌ　パ˩チング˥チナール　˩トーカキ˥ヌ　˩ヨイ˥ヤー　˩ソーッ˥タ˩ナー [˥ʔabuʤe: ˩mu:tinati˥nu pạ˩ʧiŋgu˥ʧina:ru ˩to:kaki˥nu ˩joi˥ja: ˩so:t˥ta˩na:](お祖父さんは六年前の八月に < ぞ > とかき < 斗掻。米寿 > のお祝いはなさったねえ)。

˩ムーナンカ **[˩mu:naŋka]** 【名】六七日忌。死後六回目の法事。˩ムーナンカ˥　シ˩マ˥スカー　˥メー　˥シ

ンズクヌル　ˈオーˀル [ˈmuːnaŋkaˀ ʃiˈmaˀsukaː ˀmeː ˀʃindʑukunuru ˈʔoːˀru](六七日忌を済ませたら、もう四十九日忌 <7 回目の法事 > が来られる)。

ˈムームン [ˈmuːmuŋ] 【他動】 揉(モ)む。両手で挟んで、物を掴(ツカ)み上げるように指で押したり擦(コス)ったりする。「〜辛塩に　ここと毛美 < もみ >〜。万、3880」の転訛したもの。カˈタˀヌ　ˈコーˀリ　ˈベーˀティ　ˈムームンティ　スンドゥˀ　イッˈカ　ムーマサヌ [kąˈtaˀnu ˈkoːˀri ˈbeːˀti ˈmuːmunti sunduˀ ʔikˈka muːmasanu](肩が凝っているので、揉もうとするのだが一向に揉ませない)。ˈムーミˀ　ッˈふィーリˀティ　タˈナムタンˀドゥ　ˈムームˀ　プˈスヌˀ　ブˈラーンシェン [ˈmuːmiˀ fˈfiːriˀti taˈnamutanˀdu ˈmuːmuˀ pu̥ˈsunuˀ buˈraːŋʃeŋ](揉んでくれと頼んだが、揉む人がいなかった)。ˈマーˀビン　ˈムーメーˀ　ミサムヌ [ˈmaːˀbim ˈmuːmeːˀ misamunu](もっと揉めばいいのに)。ˈパーˀク　ˈムーミ [ˈpaːˀku ˈmuːmi](早く揉め)。

ムーˈル [muːˈru] 【名】全部。全体。みんな。総て。ムーˈル　イーˀリ　ˀミサン [muːˈru ʔiːˀri ˀmisaŋ](全部貰って良い)。ムーˈルˀ　クーバ [muːˈruˀ kuːba](皆来なさいよ)。ウˈレーˀ　ムーˈルヌˀ　ムヌ [ʔuˈreːˀ muːˈrunuˀ munu](それ < これ > は皆の物だ)。ムーˈルˀシ　ˈスーˀカー　ˀプスイシ　ˀナルン [muːˈru ˀʃi ˈsuːˀkaː ˀpu̥suiʃi ˀnaruŋ](皆でやれば一日でできる)。ムーˈローˀ　ナˈラˀヌ [muːˈroːˀ naˈraˀnu](全部はできない)。ムーˈルンˀ　シゥˈカスン [muːˈrunˀ si̥ˈkasuŋ](皆に教える < 聞かせる >)。

ムーˈルバーˀキ [muːˈrubaːˀki] 【副】総て。みな。ことごとく。「全部まで」の義。ウˈレーˀ　ムーˈルバーˀキ　ッˈふァイˀ　ミサン [kuˈreːˀ muːˈrubaːˀki fˈfaiˀ misaŋ](これは総て食べてもいい)。

ˈムーン [ˈmuːŋ] 【自動】燃える。「燃え、下二段」の四段活用化したもの。「〜心は母延農 < モエヌ >〜。万、897」の転訛したもの。クˈヌˀ　タˈムˀノー　イッˈケン　ムーン [kuˈnuˀ taˈmuˀno: ʔikˈkem muːŋ](この薪は非常によく燃える)。クˈレー　ナンˀゾー　ˈモーヌ [kuˈreː nanˀdʑoː ˈmoːnu](これはあまり燃えない)。ムーˈル　ムイ　ナーˀヌ [muːˈru muinaːˀnu](全部燃えてしまった)。タˈムヌˀヌ　ˈムーˀ　ピンマー　キˈボーシェーˀ　フˈチマラˀヌ [taˈmunuˀnu ˈmuːˀ pimmaː kiˈboːʃeːˀ ɸu̥ˈtʃimaraˀnu](薪が燃える時は煙はくすぶら < 燻ら > ない)。ˈマーˀビン　ˈムイヤーˀ　ミサムヌ [ˈmaːˀbim ˈmuijaːˀ misamunu](もっと燃えばよいのに)。ˈパーˀク　ˈムイˀバ [ˈpaːˀku ˈmui ˀba](早く燃えよ)。

ˀムーン [ˀmuːŋ] 【自動】生える。草木が芽をふく。「萌ゆ、下二段」の四段活用化したもの。「萌、キザス・モユ」『類聚名義抄』の転訛したもの。ˈムイˀルン [ˈmuiˀruŋ](生える) ともいう。パˈタˀキナ　ッˈサˀヌ　ˀムーン [pḁˈtaˀkina sˈsaˀnu ˀmuːŋ](畑に草が生える)。ˀクマナー　ˀッサー　ˈモーˀヌ [ˀkumanaːˀssaː ˈmoːˀnu](ここには、草は生えない)。ッˈサˀヌ　ˈムイパヤーˀン　ˀトンマー　ˈジーˀヤ　フˈキˀブ　ˀシジ [sˈsaˀnu ˈmuipajaːˀn ˀtommaː ˈdʑiːˀja ɸu̥ˈkiˀbu ˀʃidʑi](草の生えやすい所は土地が肥えているわけだ)。ˀウン　イˈビマーキ　ベーンˀケンマー　ˀッサー　ムイˈナーˀヌ [ˀʔuŋ ʔiˈbimaːki beːŋˀkemmaːˀssaː muiˈnaːˀnu](芋を植えかねているうちに草が生えてしまった)。ˈマーˀビン　ˈムイˀヤー　ˀミサムヌ [ˈmaːˀbim ˈmuiˀjaː ˀmisamunu](もっと生えればいいのに)。ˈパーˀク　ˀムイバ [ˈpaːˀku ˀmuiba](早く生えよ)。ピˈニˀ　ムーン [piˈniˀ muːŋ](鬚(ヒゲ)が生える)。

ˈムイ [ˈmui] 【接尾】人名に付く美称の接尾辞。「思い」の転訛したもの。大正期ごろまで、ヲナリ・ムイ、ニシ・ムイなどのように女性の名について愛称、美称の意味を添えて命名する風習があった。ムˈカˀシ　ˈバンˀテーナ　ニˈシムイˀティ　ˈスーˀ　プˈスヌ　オーッˀタン [muˈkaˀʃi ˈbanˀteːna niˈʃimuiˀti ˈsuːˀ pu̥ˈsunu ʔoːtˀtaŋ](昔私の家にニシムイという人がおられた)。

ˈムイˀウン [ˈmuiˀʔuŋ] 【名】ひこばえ (蘖) の芋。芋を収穫した後の芋畑に、掘り残した芋屑(イモクズ)から蔓(カズラ)が繁茂して稔った芋。「萌え芋」の転訛したものか。「萌え、キザス・モユ」『類聚名義抄』。イˈクサユーˀヌ　ˀアトゥ　ˈパイターˀラ　ˈカイˀリキーティ　ッˈふァイムヌヌ　ナーンˀベーティ　ˈムイˀウン　ˀプリ　ンˈコーˀル　プˈスン　オーッˀタン [ʔiˈkusajuːˀnu ˀʔatu ˈpaitaːˀra ˈkaiˀrikiːti fˈfaimununu naːmˀbeːti ˈmuiˀʔum ˀpuri ʔŋˈkoːˀru pu̥ˈsuŋ ʔoːtˀtaŋ](戦争の後、避難地の西表島から帰ってきて、食糧が無いので、ひこばえの芋を掘って食される人もおられたよ)。

ˈムイカ [ˈmuika] 【名】むいか (六日)。日数を数える際に用いる。ˀプスイ [ˀpu̥sui](一日)、ˈフシゥカ [ˈɸusi̥ka](二日)、ˈミーカ [ˈmiːka](三日)、ˈユッカ [ˈjukka](四日)、ˈイシゥˀカ [ˈʔisi̥ˀka](五日)、ˈムイカ [ˈmuika](六日)、ナˈヌˀカ [naˈnuˀka](七日)、ˈヤウカ [ˈjauka](八日)、クˈクヌˀカ [ku̥ˈkunuˀka](九日)、ˈトゥッカ [ˈtukka](十日) のように数える。クˈヌˀ　シˈグ

トー　タンガ˺シェー　˹ムイカ˺　カ˹カリ˺ス˹ナー [ku˹nu˺ ʃi˹guto: taŋga˺ʃe: ˹muika˺ kḁ˹kari˺su˹na:](この仕事は一人では六日かかるねえ)。

˹ムイカバ˺スン [˹muikaba˺suŋ] 【他動】繁茂する。覆(オオ)い被さるように繁茂する。生い茂る。「萌え被(カブ)す」の義。˹ティー˺リ　˹サン˺カー　ッ˹サ˺ヌ　˹ムイカバ˺スンティ　ス˹クタヌ˺　ッサー　˹ムイカバサン˺バン [˹ti:˺ri ˹saŋ˺ka: ˺ssa: ˹muikaba˺sunti su̥˹kutanu˺ ssa: ˹muikabasam˺baŋ](手入れをしないと雑草が生い茂る＜生え被せる＞と聞いたが、雑草は生い茂らないよ)。˹クンデー˺ル　˺ガヤー　ス˹ルタ˺ヌ　キ˹サーティ　ムイカバ˺シ　˹ナー˺ヌ [˹kunde: ˺ru ˺gaja: su˹ruta˺nu ki̥˹sa:ti muikaba˺ʃi ˹na:˺nu](この間が＜ぞ＞茅を苅ったのに、すでに生い茂ってしまったよ)。ッ˹サ˺ヌ　˹ムイカバ˺ス　˺トンマー　˹ニン˺イリ　ッ˹サ˺ヌ　˺ニー　˺トゥリ [s˹sa˺nu ˹muikaba˺su ˺tomma: ˹niŋ˺ʔiri s˹sa˺nu ˺ni: ˺turi](草が生い茂るところは念を入れて草の根を取れ)。ッ˹サ˺ヌ　˹ムイカバ˺シェーラー　˹ティー˺　シ˹キララ˺ヌ [s˹sa˺nu ˹muikaba˺ʃe:ra: ˹ti:˺ ʃi̥˹kirara˺nu](草が繁茂してからは手がつけられない)。˹パー˺ク　˹ムイカバ˺シ [˹pa:˺ku ˹muikaba˺si](早く生い茂れ＜萌え被せろ＞)。

˹ムイ˺カブン [˹mui˺kabuŋ] 【自動】生い茂る。覆いかぶすように生える。「萌え被さる」の義。ピ˹ニヌ　ムイ˺カブンケン　ス˹ラン˺ドーシ　˹ベー [pi˹ninu mui˺kabuŋken su˹ran˺do:ʃi ˹be:](鬚が顔を被いかぶすほど生えるまで剃らないでいる)。ミ˹ナ˺カー　ッ˹サ˺ヌ　˹ムイ˺カビ　˹ナー˺ヌ [mi˹na˺ka: s˹sa˺nu ˹mui˺kabi ˹na:˺nu](庭は草が生い茂ってしまった)。ッ˹サ˺ヌ　˹ムイカバン˺ケン　˹ソーリ˺バ [s˹sa˺nu ˹muikabaŋ˺ken ˹so:ri˺ba](草が生い茂らないうちに除草しなさいよ)。ッ˹サ˺ヌ　˹ムイ˺カブ　˺クトー　˹ナー˺ヌ [s˹sa˺nu ˹mui˺kabu ˺ku̥to: ˹na:˺nu](草が繁茂することはない)。˹マー˺ビン　˹ムイ˺カベー　˺ミサムヌ [˹ma:˺bim ˹mui˺kabe: ˺misamunu](もっと生い茂ればいいのに)。˹パー˺ク　˹ムイ˺カビ [˹pa:˺ku ˹mui˺kabi](早く生い茂れ)。

˹ムイ˺サン [˹mui˺saŋ] 【接尾】～したがる。～したがりである。～懐(ナツカ)しがる。～懐っこい。～思いである。「～思いさあり」の融合変化したもの。感覚形容詞の語幹、名詞や感動詞について複合形容詞をつくる。ッ˹ふァムイ˺サン [f˹famui˺saŋ](形)(子煩悩である。非常に子供を可愛がる。子供思いである)。ウ˹トゥザムイ˺サン [ʔu˹tuʤamui˺saŋ](形)(親戚思いである)。シザ˹ムイ˺サン [ʃiʤa˹mui˺saŋ](形)(兄思いである)。イ˹ミムイ˺サン [ʔi˹mimui˺saŋ](形)(夢見がちである。よく夢をみる)。˹キョーダイムイ˺サン [˹kjo:daimui˺saŋ](形)(兄弟思いである)。˺アツァムイサン [˺ʔatsamuisaŋ](形)(暑がりである)。˹ピー˺ヤムイサン [˹pi:˺jamuisaŋ](形)(寒がりである)。˺アガヨームイサン [˺ʔagajo:muisaŋ](形)(痛がりやである。痛がる)。ウ˹レー˺　イッ˹ケナ˺　ッ˹ふァムイ˺サン [ʔu˹re:˺ ʔik˹kena˺ f˹famui˺saŋ](彼は非常に子煩悩＜子供を可愛がる＞である)。˹ピッ˺チン　ッ˹ふァムイサー　ナー˺ヌ [˹pit˺ʧiŋ f˹famuisa: na:˺nu](ちっとも子供に愛情が無い)。˹シンダイ˺　ッ˹ふァムイ˺サ　˺ナルン [˹ʃindai˺ f˹famui˺sa ˺naruŋ](次第に子煩悩(ボンノウ)になる)。˺アイニ　ッ˹ふァムイ˺サ　プ˹ソー˺ブ˹ラーヌ [˺ʔaini f˹famui˺sa pu̥˹so:˺ bu˹ra:nu](あんなに子煩悩な人はいない)。

˹ムイ˺フクン [˹mui˺ɸu̥kuŋ] 【名】稲が成長しすぎて葉に暗色の斑点を現し、実を付けないで枯れる病気。いもちびょう (稲熱病) の一種。˹マイヤー　ムイ˺フクン　シ˹ティ˺　ヤ˹ブ˺リ　˹ナー˺ヌ [˹maija: mui˺ɸu̥kuŋ ʃi̥˹ti˺ ja˹bu˺ri ˹na:˺nu](稲は成長し過ぎて結実しなくなり＜いもち病にかかって＞、しくじって＜やぶれて＞しまった)。

˹ムイ˺フチ [˹mui˺ɸu̥tʃi] 【名】生え際(ギワ)。ガ˹マジ˺ヌ　˹ムイ˺フチェー　ッ˹サイ˺ヌ　˹ゴー˺ラー [ga˹maʤi˺nu ˹mui˺ɸu̥tʃe: s˹sai˺nu ˹go:˺ra:](髪の生え際は白髪が多い)。

˹ムイフチ [˹muiɸu̥tʃi] 【名】燃え出し。燃え始め。「燃え口」の義。ニ˹ビ　ベー˺タ　˹ベー˺ティ　˹ピー˺ヌ　˹ムイフチェー　ピッ˺チン　ッ˹サントツォー [ni˹bi be:˺ta ˹be:˺ti ˹pi:˺nu ˹muiɸutʃe: pit˺ʧin s˹san˺tso:](寝ていたので火の燃え出し＜燃え始め＞はちっとも＜一つも＞知らないんだよ)。

˹ムイルン [˹muiruŋ] 【自動】燃える。「～心は母延農＜モエヌ＞～万、897」の転訛したものか。サ˹リタムノー　ムイルンドゥ˺　ナ˹マタム˺ノー　˹ムイラヌ [sa˹ritamuno: muirundu˺ na˹matamu˺no: ˹muiranu](枯れた薪は燃えるが、生の薪は燃えない)。˹ムイ˺　パ˹ジミルン [˹mui˺ pa˹ʤimiruŋ](燃え始める)。ク˹リヌ　ムイル˺　クトー　˹ナー˺ヌ [ku˹rinu muiru˺ ku̥to: ˹na:˺nu](これが燃えることはない)。˹マー˺ビン　˹ムイレー (˹ムイヤー)˺　ミサムヌ [˹ma:˺bim ˹muire:(˹muija:)˺ misamunu](もっと燃えればいいのに)。˹パー˺ク　˹ムイリ [˹pa:˺ku ˹muiri](早く燃えろ)。ク˹レー˺　イッ˹ケン　ムイン˺ギサン [ku˹

reː˺ ʔikˈkem muiŋ˺gisaŋ](これは非常に燃えそうだ)。

˞ムイルン [˞muiruŋ] 【自動】籾磨(モミス)り臼がよく籾殻(モミガラ)を落とす (玄米にする)。ピˈキウシェー˺ イッˈケン ムイルンドゥ˺ パー タˈタン˺カー ˞ムイラヌ [pi̥ˈkiʔuʃeː˺ ʔikˈkem muirundu˺ paː tḁˈtaŋ˺kaː ˞muiranu](籾磨(モミスリ)臼はよく籾殻(モミガラ)を落とすが、臼の歯を立てないと籾殻を擦り落とせない)。˞ムイル˺ ウシシ ˞マイ˺ ピˈキ˺バ [˞muiru˺ ʔuʃiʃi ˞mai˺ pi̥ˈki˺ba](よく籾殻を摩り落とす臼で籾を挽(ヒ)いて玄米にしなさいよ)。

˞ムイルン [˞muiruŋ] 【自動】老眼になる。目がじらじらして焦点が定まらなくなる。˞グン˺ジュー シˈギ˺ルカー ˞ミー˺ヤ ˞ムイルンティ˺ スˈクタヌ˺ マˈダ ムイランバン [˞gun˺ʤuː ʃiˈgi˺rukaː ˞miː˺ja ˞muirunti˺ su̥ˈkutanu˺ maˈda muirambaŋ](五十歳を過ぎると目が老眼になると聞いたが、まだ老眼にならないよ)。˞ミー˺ヤ ˞ムイブー˺ティ アˈズンドゥ オーパ˺ヤー ˞ムイル˺ クトー ˞ナー˺ヌ [˞miː˺ja ˞muibuː˺ti ʔaˈʤundu ʔoːpa˺jaː ˞muiru˺ ku̥toː ˞naː˺nu](目は老眼になっているというが、そんなに早く老眼になることはない)。

˞ムイ˺ルン [˞mui˺ruŋ] 【自動】生える。˺ムーン [˞muːŋ](生える。萌える) ともいう。「萌、キザス・モユ」『類聚名義抄』。「春雨に毛延之 < モエシ > 柳か〜。万、3903」の転訛したもの。ウˈロイ˺ヌ ˞スー˺カー ˺マメー ˞ムイ˺ルンティ ウˈムータ˺ヌ マˈダ ムイラン˺バン [ʔuˈroi˺nu ˈsuː˺kaː ˺mameː ˞mui˺runti ʔuˈmuːta˺nu maˈda muiram˺baŋ](雨が降って潤い < 湿り気 > がすると豆は生える < 萌える > と思ったが、まだ生えないわい)。˞ムイ˺ パˈジミ˺ルン [˞mui˺ paˈʤimi˺ruŋ](生え始める)。˺カイブ ˺トンナー ˞ムイ˺ル ˺クトー ˞ナー˺ヌ [˺kaibu ˺tonnaː ˞mui˺ru kuto: ˞naː˺nu](こんな所に生えることはない)。˞パー˺ク ˞ムイ˺レー ˺ミサムヌ [˞paː˺ku ˞mui˺reː ˺misamunu](早く生えればいいのに)。˞マー˺ビン ˞ムイ˺リ [˞maː˺bim ˞mui˺ri](もっと生えよ)。

ムˈエー [muˈjeː] 【名】頼母子(タノモシコウ)講。無尽(ムジンコウ)講。「Moyai. モヤイ (舫ひ) 船と船とをつなぎ合わせること」『邦訳日葡辞書』の転訛、意味派生したもの。一定の人数 (12、3 名) の組で一定の掛け金を出して纏(マト)まった金額をつくり、一定の期日に抽籤(チュウセン)または入札によって所定の金額を落札させ、組員に金を融通(ユウズウ)する組織。カˈキ˺ムエー [kḁˈki˺mujeː](まだ掛け金を受け取らない頼母子)。ウˈクリムエー [ʔuˈkurimujeː](既に掛け金を受け取って債務を負った頼母子)。˞アッ˺タニ ウˈブジンマー˺ スˈコーララン˺ダ ムˈエーバ˺ トゥリティル ˞ガッコー˺ヌ ンˈザシ˺マイ ンˈザシタ˺ル [˞ʔat˺tani ʔuˈbuʤimmaː˺ su̥ˈkoːraranda˺ muˈjeːba˺ turitiru ˞gakkoː˺nu ʔnˈʤaʃi˺mai ʔnˈʤaʃi̥ta˺ru](急に大金は準備できないから、頼母子を取って < ぞ > 学校への納入金 < 入学金。出し前 > を出したものだ)。

˺-ムカーヤ [˺-mukaːja] 【終助】当然の意味をを表す。文末について、断定的な陳述を表す。〜だよ。〜というのだよ。「〜と思えば」の融合(ユウゴウ)変化した形。パˈナスカー ターˈン˺ シˈキスティ˺ムカーヤ [paˈna˺su̥kaː taːˈŋ˺ ʃi̥ˈkisuti˺mukaːja](話したら誰でも聞くというものだよ)。ミˈラ˺スカー ターˈン カイスティ˺ムカーヤ [miˈra˺su̥kaː taːˈŋ kaisuti˺mukaːja](見せたら誰だって買うものだよ)。

ムˈカ˺シ [muˈka˺ʃi] 【名】昔。過去のある時点。ウˈブムカ˺シ [ʔuˈbumuka˺ʃi](大昔。遠い過去)、˞ウームカシ [˞ʔuːmukaʃi]」ともいう。ナˈカムカ˺シ [naˈkamuka˺ʃi](曽祖父母の時代のころ) などと使い分けられている。ムˈカ˺シェーラ パˈトゥ˺マプソー ˞パイ˺ター ˞ギームドゥル シェー˺ティル ˞マイヤー˺ スˈク˺ローッタ [muˈka˺ʃeːra pḁˈtu˺mapu̥so: ˞pai˺taː ˞giːmuduru ʃeː˺tiru ˞maijaː˺ su̥ˈku˺roːtta](昔から鳩間の人は南端 < 西表島 > へ往き来しながら稲は作られた)。ムˈカシ˺ヌ ˺クトー ッˈサヌ [muˈkaʃi˺nu ˺ku̥toː sˈsanu](昔のことは知らない)。

ムˈカ˺シウタ [muˈka˺ʃiʔuta] 【名】古謡。昔の歌。タˈナ˺ドゥルアヨー ˞ユン˺タ ジˈラ˺バ アˈマン˺グイ ˞プール˺ウタンドーレーヌ ムˈカ˺シウター イˈジ˺ ッˈソー˺レーン [taˈna˺duruʔajoː ˞jun˺ta ʤiˈra˺ba ʔaˈmaŋ˺gui ˞puːru˺ʔutandoːreːnu muˈka˺ʃiʔutaː ʔiˈʤi˺ sˈsoː˺reːŋ](種取りアヨー、ユンタ、ジラバ、アマングイ、豊年祭の歌などの昔歌 < 古謡 > は歌うことがお出来になる)。

ムˈカ˺シクトゥ [muˈka˺ʃi̥kutu] 【名】昔の出来事。昔の事件。ムˈカ˺シクトゥバ マˈナ˺マドーレーラ フˈジッ˺クリ ンˈザ˺シティ ˞ヌー˺スワ [muˈka˺ʃiku̥tuba maˈna˺madoːreːra ɸuˈʤik˺kuri ʔnˈʤa˺ʃi̥ti ˞nuː˺suwa](昔の出来事を今頃から穿(ホジク)り出してどうするのか)。

ムˈカ˺シクトゥバ [muˈka˺ʃi̥kutuba] 【名】ことわざ(諺)。「昔言葉」の義。昔から教訓(キョウクン)や風刺(フウシ)として言い伝えられたことば等。ムˈカ˺シムニ [muˈka˺

ʃimuni](諺。「昔もの言い」の義) ともいう。ムˈカ˥シクトゥバー　スˈムカラ˥ヌ [muˈka˥ʃi̥kutuba: suˈmukara˥nu](昔から伝わる諺 < 昔言葉 > には背かれない < 諺には嘘偽りはない。諺にいわれていることは真理である >)。イˈシマシェー　コーリヌ˥プˈスマシェー　コーラヌ˥ティル　ムˈカ˥シクトゥバー　˥アル [ʔiˈʃimaʃe: koːrinu˥ pu̥ˈsumaʃe: koːranu ˥tiru muˈka˥ʃipanaʃe: ˥ʔaru](いしませ < 石籬。石垣 > は超えられるが、人垣 < 人籬。人格 > は超えられない < 人格は尊い > と昔の諺 < 昔言葉 > にいわれている)。

ムˈカ˥シナライ [muˈka˥ʃinarai] 【名】旧慣。旧習。古い仕来り。「昔慣わし」の義。ムˈカ˥シナライティ　˥シー˥　シˈティ˥ガラ　˥サンドー˥シ　ムˈカ˥シナライヌ　ナˈカヌ　ソートンマー˥　ナライˈツォー [muˈka˥ʃinaraiti ˥ʃiː˥ ʃi̥ˈti˥gara ˥sandoː˥ʃi muˈka˥ʃinarainu ˥soːtommaː˥ naraiˈtsoː](旧(フル)い習慣と言って貶(ケナ)して粗略(ソリャク)にしないで、旧習の中の良い点は学び < 習い > なさいってば)。

ムˈカ˥シパナシ [muˈka˥ʃipanaʃi] 【名】昔話。言い伝え。民話。ムˈカ˥シパナシナー　˥カー˥ラヤーヌトゥˈラー˥マー　˥コーコーヌムヌ˥ティ　アˈザリブー˥ダー [muˈka˥ʃipanaʃinaː ˥kaː˥rajaːnu tuˈraː˥maː ˥koːkoːnumunu˥ti ʔaˈʤari buː˥daː](昔話にすずめ < 雀。「瓦屋の小鳥」の義 > は親孝行な者だと言われているよ)。˥アッパー　ムˈカ˥シパナシ　ヤˈマシュ˥カ　ッˈソー˥レーン [˥ʔappaː muˈka˥ʃipanaʃi jaˈmassi̥˥ka sˈsoː˥reːŋ](お祖母さんは昔話をかなり沢山知っておられる)。

ムˈカ˥シプス [muˈka˥ʃipu̥su] 【名】昔の世の人 (先人)。昔気質の人。年老いた頑固な人。ムˈカ˥シプスヌ　˥ムネー　˥キムナー　シˈキシミリ˥ヨー [muˈka˥ʃipu̥sunu ˥muneː ˥kimunaː ʃi̥ˈkiʃimiri˥joː](昔の世の人 < 先人 > の言われた言葉は肝に銘じて < 聞き染めて > おきなさいよ)。˥アブジェー　ムˈカ˥シプス　ヤˈロー˥ルンダ　˥ガン˥ク　˥ナリティ　プˈスヌ˥　ムニ　スˈコーラ˥ヌ [˥ʔabuʤeː muˈka˥ʃipu̥su jaˈroː˥runda ˥gaŋ˥ku ˥nariti pu̥ˈsunu˥ muni su̥ˈkoːra˥nu](お祖父さんは昔(ムカシ)気質(カタギ)の人だから頑固になって人の言うことをお聞きにならない)。

ムˈカ˥シムニ [muˈka˥simuni] 【名】諺。金言。「昔の言葉」の義。ムˈカ˥シクトゥバ [muˈka˥ʃiku̥tuba](昔言葉。諺) ともいう。ムˈカ˥シムニナー　シˈキシティル˥　ムヌテー　˥ナー˥ヌ [muˈka˥ʃimunina: ʃi̥ˈkiʃi̥tiru˥ munute: ˥naː˥nu](昔の言葉 < 諺 > に聞き捨てにされるようなものはない)。

ムˈカ˥シムヌ [muˈka˥ʃimunu] 【名】古いもの。古物。昔から伝わるもの。「昔の物」の義。ムˈカ˥シムノー　˥ヌーンクイン　シュˈカイグリ˥サタンティン　アˈタラ˥サ　˥シー˥　シュˈカイ˥ヨー [muˈka˥ʃimuno: ˥nuːŋkuin si̥ˈkaiguri˥satantiŋ ʔaˈtara˥sa ˥ʃiː˥ si̥ˈkai˥joː](古物は何もかも使いにくくても、大事に < あたらし・可惜(アタラ)しく > 使いなさいよ)。

ムˈカ˥シユー [muˈka˥ʃijuː] 【名】昔の世。パˈトゥ˥マー　˥カンダカー˥　シマ　ヤˈレー˥ティ　ムˈカ˥シユーナー　˥ナン˥ヌ　˥ユーシ˥ケータンドゥ　˥カン˥ヌ　˥ティーシ　ムタイˈオー˥レーティ　ノーˈンナーン˥シェンツォー [pḁˈtu˥maː ˥kandakaː˥ ʃima jaˈreː˥ti muˈka˥ʃijuːna ˥nan˥nu ˥juːʃi˥keːtandu ˥kan˥nu ˥tiːʃi mutaiˈʔoː˥reːti noːˈn naːŋ˥ʃentsoː](鳩間島は神霊の高い島だから、昔の世に津波が押し寄せてきたけれど、神様が手で持ち上げられたので、何もなかったそうだ)。

ムˈキジ [muˈkiʤi] 【名】無傷(ムキズ)。損傷(ソンショウ)のないこと。カˈツブシェー˥　ムˈキジヌ˥　ムˈヌ˥ル　タˈカ˥ー　˥カーサリ [kḁˈtsubuʃeː˥ muˈkiʤinu˥ muˈnu˥ru tḁˈka˥: ˥kaːsari](カツオ節は無傷のものが高値で < 高く > 売れる)。

ムˈギ˥ワラ [muˈgi˥wara] 【名】麦藁(ムギワラ)。標準語からの借用語。鳩間島方言では、˥ムング˥ル [˥muŋ˥guru](麦藁。麦殻(ムギガラ)) というのが普通である。ムˈギワラボー˥シ [muˈgiwaraboː˥ʃi](麦藁帽子) 等が導入されるようになって使用された語であろう。しかし、島ではクˈバガサ [kuˈbagasa](クバ < 蒲葵 > の葉笠) が、農業、漁業の面で実用的であり、便利で多用された。˥ムン˥グルバラフタバル　ヤˈマトゥ˥ムニシェー　ムˈギ˥ワラティ　アˈゾー˥ルˈナー [˥muŋ˥gurubaraɸu̥tabaru jaˈmatu˥muniʃe: muˈgi˥warati ʔaˈʤoː˥ruˈnaː](麦殻の藁(ワラ)をば日本語 < 大和言葉 > では麦藁と言われるんだねえ)。

˥ムク [˥muku] 【名】婿。娘の夫。「爾雅云、女子之夫、為⊠婿。和名無古 (むこ)」『和名抄』の転訛したもの。「Muko.　ムコ (婿).　Mukouo toru(婿をとる)」『邦訳日葡辞書』。イˈチバン˥ムク [ʔiˈʧibam˥muku](長女の婿。「一番婿」の義)。˥ムクッふァ [˥mukuffa](婿。「婿子」の義) ともいう。˥ドゥー˥ヌッˈふァ˥ラン　ムˈクヌ˥ル　アˈタラ˥サル [˥duː˥nu fˈfa˥ram muˈkunu˥ru ʔaˈtara˥saru](自分の子よりも婿が可愛い)。

ムˈクイ [muˈkui] 【名】報(ムク)い。悪業の仕返し。返報。

「報、酬、校、ムクユ」『類聚名義抄』の転訛したもの。ウˈヤˀバ　ッˈソンツァー　スーˀカー　ムˈクイˀ　カブンˈダー [ʔuˈjaˀba sˈsontsa: suːˀka: muˈkuiˀ kabunˈda:](親を粗相(ソソウ)に扱うと報いを受ける＜被る＞ぞ)。ˈヌーˀヌ　ムˈクイバˀ　カˈビˀル　ˀカイニ　クˈロー　スーˀカヤー [ˈnuːˀnu muˈkuibaˀ kaˈbiˀru ˀkaini kuˈro: suːˀkaja:](何の報いを受けて＜被(コウム)って＞このような苦労をするのかねえ)。

ムˈクイカビˀムヌ [muˈkuikabiˀmunu] 【名】罰当(バチアタ)り。悪行の報(ムク)いをかぶった者。バˈカーンˀケン　ウˈヤˀバ　ッˈソーンツァー　シェーˀティル　マˈナˀマー　ウˈヤˀヌ　ムˈクイカビˀムヌ　ナリˈベーンˀティ [baˈkaːŋˀkeŋ ʔuˈjaˀba sˈsoːntsa: ʃeːˀtiru maˈnaˀma: ʔuˈjaˀnu muˈkuikabiˀmunu nariˈbeːnˀti](若い時に親を粗相に扱ったので、今は親の罰が当たって＜悪行の報いかぶり者になって＞いるさ)。

ˀムクイリ [ˀmukuʔiri] 【名】婿となって嫁の家に入籍すること。イˈリムク [ʔiˈrimuku](入り婿。婿養子) ともいう。ˈクンˀネナー　ビˈコーンッふァヌˀ　ブˈラーンタ　ベーˀティ　ˀアブジェー　ˈシーˀネーラ　ˀムクイリ　ˈソーˀレーツォー [ˈkunˀnena: biˈkoːnffanuˀ buˈraːnta beːˀti ˀʔabudʑeː ˈʃiːˀneːra ˀmukuʔiri ˈsoːˀreːtsoː](この家に男の子がいなかったので、お祖父さんが後ろ隣の家から婿入りしてこられたそうだ)。

ˀムクキョーダイ [ˀmukukjoːdai] 【名】婿兄弟。義兄弟。姉妹の夫。ˀムクキョーダイサ　ˈザーンˀナリ　ムˈチˀリティ　イッˈケナˀ　パˈタラクン [ˀmukukjoːdaisa ˈdʑaːnˀnari muˈʧˀiriti ʔikˈkenaˀ pḁˈtarakuŋ](婿兄弟同士が仲睦まじく、親しくして非常によく働く)。

ˀムクシザ [ˀmukuʃidʑa] 【名】年上の婿。兄婿。「婿兄者」の義。ˈワールˀ　ムクシザ　ヤˈローˀルンダ　ˀウヤダイリ　ˈソーˀリバ [ˈwaːruˀ mukuʃidʑa jaˈroːˀrunda ˀʔujadairi ˈsoːˀriba](貴方が年上の婿であられるから、親の代理をなさいましょ)。

ˀムクッふァ [ˀmukuffa] 【名】婿。「婿子」の義。婿を慈(イツク)しんでいう語。ˈバンˀテナン　ˀムクッふァティン　タˈボーラˀリ　イッˈケナˀ　サˈニˀヤン [ˈbanˀtenaːm ˀmukuffatin taˈboːraˀri ʔikˈkenaˀ saˈniˀjaŋ](我が家にも婿子が賜って、非常に嬉しいよ)。

ˀムクブザ [ˀmukubudʑa] 【名】婿殿。新郎。ˀムク [ˀmuku](婿) に接尾語ˀブザ [ˀbudʑa](百姓男子の尊称) が下接して形成された語。ˀブザ [ˀbudʑa] は、多くの場合、自身は働かず、命令や指図をする人に対していう。ムˈクˀブザ [muˈkuˀbudʑa] という時は、婿を大事に扱うことを意味する。ˀムクシゥカナイ [ˀmukusi̥kanai](婿接待。＜婿養い＞) ともいわれる。ンˈマーˀムヌ　バˈカシティˀ　ムクブザ　シゥˈカˀナイバ [ʔmˈmaːˀmunu baˈkaʃi̥tiˀ mukubudʑa si̥ˈkaˀnaiba](美味しい物を炊いて婿殿を接待しなさいよ)。

ムˈクˀミ [muˈkuˀmi] 【名】木目。ˈシンˀダンキーヌ　ˀイツァー　ムˈクミˀヌ　ˈカイˀヤンダ　ウˈリˀシ　ˈタンˀシ　スˈクˀローッタン [ˈsinˀdaŋkiːnu ˀʔitsa: muˈkumiˀnu ˈkaiˀjanda ʔuˈriˀʃi ˈtaŋˀʃi su̥ˈkuˀroːttaŋ](栴檀(センダン)の板は木目が美しいから、それで箪笥を作られた)。

ˀムクヨーシ [ˀmukujoːʃi] 【名】婿養子。娘の婿となった人で、娘の家の跡継ぎとなる人。ビˈコーンッふァヌˀ　ブˈラーン　ベーˀティ　ˀムクヨーシ　トゥˈランˀカー　ナˈランˀツォー [biˈkoːnffanuˀ buˈraːm beːˀti ˀmukujoːʃi tuˈraŋˀkaː naˈranˀtsoː](男の子がいないので、婿養子を取らないといけないそうだ)。

ムˈゲーラスン [muˈgeːrasuŋ] 【他動】沸騰(フットウ)させる。煮えたぎらせる。ˈユーˀヤ (ワ)　フˈトゥッツァˀシ　ムˈゲーラスンティ　スンドゥ　ピーˀヌ　ˈモーンダˀ　ムˈゲーラサラヌ [ˈjuːˀja(wa)ɸu̥ˈtuttsaˀʃi muˈgeːrasunti sundu piːˀnu ˈmoːndaˀ muˈgeːrasaranu](湯は沸騰させ、煮えたぎらせようとするが、火が燃えないので沸騰されない)。ムˈゲーラシˀ　シケー [muˈgeːraʃiˀ ʃi̥keː](煮えたぎらせてある)。ˈユーˀバ　ムˈゲーラスˀ　クトー　スˈナˀヨー [ˈjuːˀba muˈgeːrasuˀ ku̥to: suˈnaˀjoː](湯を煮えたぎらせることはするなよ)。ムˈゲーラシェーˀ　ミサムヌ [muˈgeːraʃeːˀ misamunu](沸騰させれば良いのに)。ムˈゲーラシ [muˈgeːraʃi](沸騰させよ)。

ムˈゲールン [muˈgeːruŋ] 【自動】沸騰する。煮えたぎる (滾(タギ)る)。怒り狂う。ˈユーˀヤ (ワ)　ムˈゲールン [ˈjuːˀja(wa)muˈgeːruŋ](湯が煮えたぎる)。ˀバター　ムˈゲールン [ˀbata: muˈgeːruŋ](怒りで腸(ハラワタ)が煮えたぎる)。ˀバター　ムˈゲーリ　ブンドゥˀ　ムˈゲーランコーラˀシ　バˈライベー [ˀbata: muˈgeːri bunduˀ muˈgeːraŋkoːraˀʃi baˈrai beː](腸は煮えたぎっているが、煮えたぎらないふりをして笑っている)。ˀバタ　ムˈゲールˀ　クトゥン　ˀアン [ˀbata muˈgeːruˀ ku̥tuŋ ʔaŋ](腸が煮えたぎることもある)。

ムˈサ [muˈsa] 【名】荒波。三角波。台風が接近すると波頭(ナミガシラ)が立ち、白波がたつようになる。波がぶつかり合って白波を生ずる波の峰。ムˈサヌˀ　ウ

ˈクリˀブーバ　ˈキューˀヤ (ワ)　ˀウケー　ンˈジララˀヌ [muˈsanuˀ ʔuˈkuriˀbuːba ˈkjuːˀja(wa) ˀʔukeː ʔn ˈʤirarаˀnu](荒波 < ムサ > が起きているから今日は沖には出られない)。ムˈサズーˀワン [muˈsaʤuːˀ waŋ](ムサ < 荒波 > が立っている < 三角波が強い >)。

ムサッˈトゥ [musatˈtu] 【副】ちっとも。少しも。全く。全然。さっぱり。一向に。文末の打ち消し表現と呼応して「少しも < ちっとも、一向に >～ない」のように、陳述副詞的に用いられる。老年層が多用する。ムシˈトゥ [muʃiˈtu](ちっとも。すこしも。さっぱり。いっこうに) に同じ。ムサッˈトゥˀ　プˈスヌˀ　ムニ　シゥˈカヌ [musatˈtuˀ pu̥ˈsunuˀ muni si̥ˈkanu](ちっとも他人の言うことを聞かない)。ムサッˈトゥˀ　ワˈカラˀヌ [musatˈtuˀ waˈkaraˀnu](全く < さっぱり > 分らない)。

ムˈサラカサˀラ [muˈsarakasaˀra] 【名】雑事。うぞうむぞう (有象無象) のこと。種々雑多な価値の低いもの。老年層は、ヌˈサラカサˀラ [nuˈsarakasaˀra](雑事。有象無象のこと) ともいう。ˈヤーˀナ　ˈベーˀティ　ムˈサラカサラˀヌ (ヌˈサラカサラˀヌ)　シˈグトゥバˀ　シˈミラリティ　ˈドゥーˀヌ　シˈグトーˀノーˈンˀ　シˈララヌ [ˈjaːˀna ˈbeːˀti muˈsarakasaraˀnu (nuˈsarakasaraˀnu)ʃiˈgutuˀba ʃiˈmirariti duːˀnu ʃi ˈguto:ˀ noːˈŋˀ ʃiˈraranu](家にいるので、つまらぬ雑事をさせられ < 負わされ > て、自分の仕事は何も出来ない)。

ムˈシ [muˈʃi] 【名】(動)1虫。「虫、和名無之 < むし >、鱗介惣名也」『和名抄』の転訛したもの。ˈキーˀヌ　ユˈダˀナー　ムˈシヌˀ　シディティ　キˈムフクレーˀヌ　ˈキーˀヌ　ッˈサーラーˀ　パˈララˀヌ [ˈkiːˀ nu juˈdaˀnaː muˈʃinuˀ ʃiditi kiˈmuɸu̥kureːˀnu ˈkiːˀnu sˈsaːraːˀ paˈraraˀnu](木の木枝に虫が発生 < 孵化 > して、気持ち悪くて木の下には行けない)。2回虫。寄生虫。ナˈツァーˀラ　ˀシジ　ヌˈマˀシティル　バˈタˀヌ　ムˈシェーˀ　クˈダシタ [naˈtsaːˀra ˀʃiʤi nuˈma ˀʃi̥tiru baˈtaˀnu muˈʃeːˀ kuˈdaʃi̥ta](海人草 < マクリ > を煎じて飲ませながら腹の虫 < 回虫 > を下(クダ)させた < 駆除した >)。3ある事に熱中する人。ウˈレーˀ　ブˈドゥルヌˀ　ムˈシˀ　ヤˈルンダ　サンシンヌˀ　ウˈトゥˀ　スˈクˀカー　シˈグˀ　タˈティˀス [ʔu ˈreːˀ buˈdurunuˀ muˈʃiˀ jaˈrunda saŋʃinnuˀ ʔuˈtuˀ su̥ˈ kuˀkaː ʃiˈguˀ tḁˈtiˀsu](彼は踊りの虫だから、三線の音が聞こえたら、すぐ立つ < 立って舞う >)。4強情者。ウˈレーˀ　ムˈシˀ　ヤˈルンダˀ　イˈコーラˀ　イˈザバンˀ　シゥˈカヌ [ʔuˈreːˀ muˈʃiˀ jaˈrundaˀ ʔiˈ koːraˀ ʔiˈʤabanˀ si̥ˈkanu](彼は強情だから、いくら叱っても聞かない)。

ムˈシ [muˈʃi] 【副】もし。もしも。仮に。ある事態を仮定して述べる。老年層は、ムˈシンガ [muˈʃiŋga](もしも。仮に)、ムˈシカ [muˈʃika](もしか)、ムˈシンドゥ [muˈʃindu](もしも。仮に) ともいう。接続助詞ˀカー [ˀkaː](～たら、～なら) と呼応して用いられ、仮定条件を表す条件文をつくる。ˈワーンドゥˀ　ムˈシˀ　パルカー　ˀバー　パˈラˀヌ [ˈwaːnduˀ muˈʃi ˀ paruka: ˀba: paˈraˀnu](君がもし行くなら私は行かない)。ˈムシカˀ　マˈチˀガイ　ˈナーˀト　ˈスーˀカー　ˈワー　デーˀジ　ˈダーˀメー [ˈmuʃi̥kaˀ maˈtʃiˀgai ˈ naːˀto ˈsuːˀkaː ˈwaː deːˀʤi ˈdaːˀ meː](もしも間違いなどしたら、君は大変だぞ、もう)。

ˈムˀシ [ˈmuˀʃi] 【助数】回。一回り。度。回数を表す。プˈスムˀシ [pu̥ˈsumuˀʃi](一回。一度)。フˈタムシ [ɸu̥ˈtamuʃi](二回。二度)。ˈミームシ [ˈmiːmuʃi](三回)、ˈユームシ [ˈjuːmuʃi](四回)、イˈチムˀシ [ʔiˈtʃimuˀʃi](五回)、ˈギュームシ [ˈgjuːmuʃi](何回。何度)。クˈトゥシェー　ワー　ギュームシˀ　イˈサンケー　ゲーˀター [ku̥ˈtuʃeː waː gjuːmuʃiˀ ʔiˈsaŋkeː geːˀtaː](今年は、君は何回石垣へ行ったか)。

ムˈジˀアン [muˈʤiˀʔaŋ] 【名】漁網の種類の一つ。目の細かい網。カツオ漁船の餌獲り用の網。約 1、5 ミリ四方の目の細かい網。ムˈジˀアンシル　カˈツシンヌˀ　バˈカザˀコーン　ˈシーˀラン　ヤˈナザˀコーン　トゥˈローッˀタ [muˈʤiˀʔaŋʃiru kḁˈtsuʃinnuˀ baˈ kaʤaˀkoːŋ ˈʃiːˀraŋ jaˈnaʤaˀkoːn tuˈroːtˀta](ムジアン < 目の細かい網 > で、カツオ漁船の撒餌のバカ雑魚もシーラ雑魚も穴雑魚も漁獲された)。

ˈムシカ [ˈmuʃi̥ka] 【副】もしか。もしも。ひょっとすると。そうなる可能性を予想しながら物事を推測する意味を示す。接続助詞ˀカー [ˀkaː](～なら) と呼応して用いられ、仮定条件や前提条件を表す。「もしも～ならば」の意。ユˈダン　シー　ベーˀティ　ˈムシカˀ　カˈジヌˀ　フクカー　ˈヌーˀスー　ˈカンˀガイヤー [juˈdaŋ ʃiː beːˀti muˈʃi̥kaˀ kaˈʤinuˀ ɸu̥kuka: ˈnuːˀsu: ˈkaŋˀgaijaː](油断していて、もしか台風でも吹くとどうするつもり < 考え > か)。

ムˈジˀクイ [muˈʤiˀkui] 【名】農作。農耕。耕作。「物作り」の義。歌謡語。日常の方言では、ムˈヌスクˀル [muˈnusu̥kuˀru](耕作。農耕。「物作り」の義) という。「Monotcucuri. モノツクリ (物作り) 田畑を上手に耕作する農民」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。

/イニヤ　シサクヌ　ユカディサミ　シグゥチ　ググゥチヌ　ナレヌレヤ　ヘイヤヘイヤトゥ　カリウサミ (囃子) イヤイヤー　ユタカナルユヌ　シルシサミエー　アミヤトゥカグシ　カジヤシジカニ　シクリ　ムジクイ　マンサクソーリバ　イヒンカタトゥキ　ユダンヤ　ナランサ　キットゥキバリヨ　ニセタ　ウムシルムヌサミ　ナマヌパヤシニ　クドゥキユミユミ/(稲は、荒打ち、二度うちの田仕事＜農作業。試作＞が良かったから、旧暦の4月5月になれば、実りの稲をヘイヤー、ヘイヤーと掛け声勇ましく刈り収める。＜囃子＞いよいよ＜弥弥＞豊かなる御世の兆候であることよ。降雨は十日越しに、風は静かにそよぎ、農耕作物は豊年満作をするので一時も片時も油断はできないものだ。きっと気張れよ若者たちよ、楽しいものだ、今の囃子に口説きを歌おう＜読もう＞)(鳩間口説)『鳩間島古典民謡古謡集』。

ムˈシククチ [muˈʃikukutʃi] 【名】むしけ (虫気)。回虫が腸に寄生して栄養不良状態になっているさま。「虫心地」の義。クˈヌッふァー　ヨーガリティ　アウガンˀ　ナリ　ˈベーˀヌ　ムˈシククチルˀ　ヤˈルˀユー　ˈソー　シーˀ　ナˈランˀサー [kuˈnuˀ fˈfaː joːgariti ʔauganˀ nari ˈbeːˀnu muˈʃikukutʃiruˀ jaˈruˀjuː ˈsoː ʃiːˀ naˈranˀsaː](この子は痩せて顔色も青白くなっているが、寄生虫がいるのか心配で堪らないよ)。

ムˈシクダシ [muˈʃikudaʃi] 【名】虫下し。駆虫剤。ナˈツァーˀラ [naˈtsaːˀra](海人草。＜マクリ＞の別称)は回虫駆除剤として、昭和40年頃まで、煎じて子供に飲ませていた。鳩間島沿岸では、ナˈツァーˀラがよく採取されたので、石垣島への輸出品とされた。ナˈツァーˀラー　ムˈシクダシˀ　ヤˈルンダˀ　シジティ　ヤˈラˀビンケーン　ˀユー　ヌˈマˀソーッタン [naˈtsaːˀraː muˈʃikudaʃiˀ jaˈrundaˀʃicʤiti jaˈraˀbiŋkeːŋ ˀjuː nuˈmaˀsoːttaŋ](海人草は虫下しだから、煎じて子供たちによく飲まされたものだ)。

ムシˈトゥ [muʃi̥ˈtu] 【副】ちっとも (些とも)。少しも。全く。皆目。さっぱり。老年層の人が多く用いる。文末に打ち消しの語を伴い、陳述副詞「ちっとも＜決して＞～ない」の意味に用いられる。ムッˈトゥ [mutˈtu](全く。決して。一向に) ともいう。ˈバンˀマー　ムシˈトゥˀ　アˈティンガーラヌ [ˈbamˀmaː muʃi̥ˈtuˀ ʔaˈtiŋgaːranu](私にはさっぱり＜全く＞見当が付か＜分から＞ない)。ˀヌーシタ　ムˈヌˀユー　クˈヌˀグロー　ˈバンˀテーン　ムシˈトゥクーˀヌ [ˀnuːʃi̥ta muˈnuˀjuː kuˈnuˀguroː ˈbanˀteːm muʃi̥ˈtu kuːˀnu](どうしたものか、この頃は私の家にも全く来ないよ)。

ムˈシヌ　ニンˀガイ [muˈʃinu niŋˀgai] 【連】害虫駆除の祈願。「虫の願い」の義。ˀカタ [ˀkata](いなご＜蝗虫＞) が異常発生して稲の葉を食荒らさぬよう、またウˈヤˀザ [ʔuˈjaˀʤa](鼠) が異常繁殖して田畑の作物を荒らさぬよう、祈願する行事。旧暦三月の壬に執り行われるˈユーニガイ [ˈjuːnigai](豊年・健康祈願＜世願い＞) の祭祀に祈願された (i) ˈユーニンガイ (世願い)、(ii) ムˈシヌ　ニンˀガイ (害虫駆除＜虫祓い＞の祈願)、(iii) ッˈサバーˀヌ　ˈニンˀガイ (稲の下葉の祈願)、(iv) ˈプーヌ　ソーˀジ (稲の出穂祈願)、(v) パˈマウリソーˀジ (浜下り精進する祈願) の一つ。ムˈシヌ　ニンガイˀヤー　ˈユーニンガイナーˀル　ˈウイヌˀウガンナーティ　ˈソーッˀタ [muˈʃinu niŋgaiˀjaː ˈjuːniŋgainaːˀru ˈʔuinuˀ ʔuganna:ti ˈsoːtˀta](害虫＞駆除の祈願は上の御願＜友利御嶽＞で執り行われた＜なされた＞)。

ムˈシバタ [muˈʃibata] 【名】むしばら (虫腹)。回虫等が寄生している腹。ウˈレーˀ　ムˈシバタˀ　ヤˈレーˀティル　ˀアイニ　ˈヨーガリン　シーˀ　バˈタˀヤンヌン　ウˈクˀルパジ [ʔuˈreːˀ muˈʃibataˀ jaˈreːˀtiru ˀʔaini ˈjoːgariŋ ʃiːˀ baˈtaˀjannuŋ ʔuˈkuˀrupaʤi](彼は虫腹＜回虫保有者＞だから＜ぞ＞あんなに痩せもし、腹の病も起こるはずだ)。

ムˈシブシ [muˈʃibuʃi] 【名】虫干し。ˈオーシキヌ　カイˀヤンダ　ˀキンカー　ンˈザˀシ　ムˈシブシ　サンˀノーレー [ˈʔoːʃikinu kaiˀjanda ˀkiŋkaː ʔnˈʤaˀʃi muˈʃibuʃi sanˀnoreː](天気が良いから、着物類は出して虫干しをしなさい＜しないかね＞)。

ムˈシフチˀル [muˈʃiɸu̥tʃiˀru] 【名】虫薬。回虫駆除剤。ムˈシングシˀル [muˈʃiŋguʃiˀru](虫薬) ともいう。クˈヌˀ　ッˈふァーˀ　ムˈシルˀ　ヤˈリンˀギサバ　ムˈシフチˀル　ヌˈマˀシ [kuˈnuˀ fˈfaːˀ muˈʃiruˀ jaˈriŋˀ gisaba muˈʃiɸu̥tʃiˀru nuˈmaˀʃi](この子は回虫がいるらしい＜回虫らしい＞から、虫薬を飲ませなさい)。

ムˈジョー [muˈʤoː] 【名】無情。沖縄本島方言からの借用語。普通は、ˀキモー (ˀシロー) ˈナーˀヌ [ˀkimoːˀʃiroː) ˈnaːˀnu](愛情＜肝・それに注ぐべき愛情＞。汁。だし汁＜愛情＞がない) という。ˀアイブ　ムˈジョーヌˀ　ウヤン　ナˈサˀリティ　キˈムイˀツァーダラˈナー [ˀʔaibu muˈʤoːnuˀ ʔujan naˈsaˀriti kiˈmuiˀtsaːdaraˈnaː](あんな無情＜薄情＞な親

に産み落とされて真に気の毒だなあ)。

ムˈシルン [muˈʃiruŋ] 【自動】千切れる。切れる。ムˈスン [muˈsuŋ](千切る。毟(ムシ)る)(他動)、キˈシˀル [kiˈʃiˀru](切れる) ともいう。ˀドゥク　ピˈキスクˀカー　ムˈシルンˀダー [ˀduku pi̥ˈkisu̥kuˀkaː muˈʃirunˀdaː](あまり引っ張ると千切れるよ)。ピˈキスクバンˀ　ムˈシラヌ [pi̥ˈkisu̥kubamˀ muˈʃiranu](引っ張っても千切れない)。クˈレーˀ　ムˈシ (リ)ˀ　パˈヤーˀン [kuˈreːˀ muˈʃi(ri)ˀ paˈjaːˀŋ](これは千切れやすい)。ˀクマーラ　ムˈシルˀ　クトー　ˈナーˀヌ [ˀkumaːra muˈʃiruˀ ku̥toː ˈnaːˀnu](ここから千切れることはない)。

ムˈジンˀクジン　ッˈサヌ [muˈʤiŋˀkuʤin sˈsanu] 【連】何が何だか分からない。訳がわからない。学歴がなく、道理が分からない。「文字も故事も知らない」の転訛したもの。ˀヌンティル　ˀアイ　ˈナッˀタユー　ムˈジンˀクジン　ムッˈトゥˀ　ワˈカラˀヌ [ˀnuntiru ˀʔai ˈnatˀtajuː muˈʤiŋˀkuʤim mutˈtuˀwaˈkaraˀnu](何故そうなったのか、何が何だかちっとも訳が分からない)。

ムˈシンドゥ [muˈʃindu] 【副】もしも。仮に。接続助詞「ˀカー [kaː](～なら)、ˈデーˀカー [ˈdeːˀkaː](～ならば)」と呼応して、事実に反する仮定や前提条件述べて条件文をつくる。ムˈシンドゥˀ　バー　ˈカール　ワーˀ　パリ　ッˈふィールンデーˀカー　ˀティマー　ギューˈサンˀ　プサスコー　ッˈふィールン [muˈʃinduˀ baː ˈkaːru waːˀ pari fˈfiːruˀkaː ˀtimaː gjuː ˈsamˀ pu̥sasu̥koː fˈfiːruŋ](もしも私の代わりに君が行ってくれるなら、手間賃はいくらでも欲しいだけあげる)。

ˀムス [ˀmusu] 【名】むしろ (筵)。筵の総称。「玉桙の～伊奈武侶 (イナムシロ)～。万、2643」の転訛したもの。筵には、パˈダˀムス [paˈdaˀmusu](ござ < 莫蓙 >。寝間に敷いて寝る上質の筵。「肌筵」の義)、ˀビームス [ˀbiːmusu](藺筵。藺草の茎で織った上質の筵)。ˈサーラˀムス [ˈsaːraˀmusu](三角藺草で織った簡単な筵)、アˈダンˀパームス [ʔaˈdamˀpaːmusu](阿壇 < タコノキ > の葉で編んだ筵)、タˈラˀマムス [taˈraˀmamusu](宮古多良間島産の筵。長さが九尺もあった) などがある。ˀムソー　シˈキティルˀ　ッˈふァーˀ　ニˈバストー ダー [ˀmusoː ʃi̥ˈkitiruˀ fˈfaːˀ niˈbasuˈdaː](筵を敷いてから < ぞ > 子供は寝かすものだよ)。

ˀムス [ˀmusu] 【名】(数) 六十。歌謡語。日常会話では、ルˈクˀズー [ruˈkuˀʤuː](六十) という。/ヘイヤー　クンヌウラヌ　ウチカラ　ヘイヤー　ミドゥガ　ムユス　クイトゥリ　ヘイヤー　ビフガ　ヤース　クイトゥリ/(へいや < 囃子 > 古見の浦の中から、女を六十人乞い寄せ、ヘイヤー男を八十人乞い取って～)(鳩間本ジラマ)。ムユスは、ムˈスˀユ [muˈsuˀju](六十を) の音位転倒 (メタテーゼ)。『鳩間島古典民謡古謡集』。

ムˈスシキˀニ [muˈsuʃi̥kiˀni] 【名】敷物。筵や畳類。寝具類。シˈキˀニ [ʃi̥ˈkiˀni](寝床。「敷寝」の義)。ムˈスシキˀニンツァン　ˈナーンˀ　ヤーナール　トゥˈマルタ [muˈsuʃi̥kiˀnintsan ˈnaːŋˀ jaːnaːru tuˈmaruta](寝具類さえない家に泊まった)。

ムˈスビクブ [muˈsubikubu] 【名】結び昆布。昆布を小さく結んだもの。多くは、イˈツァムスˀビ [ʔiˈtsamusuˀbi](板結び。水に浸けて洗い、ふやかした昆布を幅約 3 センチ、長さ約 10 センチに切り、中央部を昆布で引き締めて煮たもの。不祝儀の煮しめもの料理に多く出される) とˈマームスビ [ˈmaːmusubi](真結び。祝儀の煮しめもの料理に多く出される) として調理される。ウˈサイˀヤー　ˈオーˀヌ　サˈンマイニクˀトゥ　ムˈスビクブヌˀ　シˈミムヌˀル　イッˈチンˀ　ンˈマーˀタ [ʔuˈsaiˀjaː ˈʔoːˀnu ˈsammainikuˀtu muˈsubikubunuˀ ʃiˈmimunuˀru ʔitˈʧimˀ ʔmˈmaːˀta](ご馳走は、豚の三枚肉と結び昆布の煮しめものが一番美味しかった)。

ムˈスブン [muˈsubuŋ] 【他動】結ぶ。結わえる。「白玉のいほつ集いを手に牟須妣 < ムスビ >～。万、4105」の転訛したもの。ミˈドゥˀモー　フˈクˀベー　ˀマンタナ　ムˈスブンドゥˀ　ビˈキドゥモーˀ　ˀマンタナー　ムˈスバヌ [miˈduˀmoː ɸu̥ˈkuˀbeː ˀmantanaː muˈsubunduˀ biˈkidumoːˀ mantanaː muˈsubanu](女は帯を前に結ぶが、男は前に結ばない)。サˈバナーˀ　ムˈスビˀ　ミサカー　ムˈスブˀ　クトー　ˀナルン [saˈbanaːˀ muˈsubiˀ misakaː muˈsubuˀ ku̥toː ˀnaruŋ](鱶釣り用の縄は結び足してよければ、結ぶことはできる)。ˈマーˀビン　ムˈスベーˀ　ミサムヌ [ˈmaːˀbim muˈsubeːˀ misamunu](もっと結べばよいのに)。ˈパーˀク　ムˈスビˀバ [ˈpaːˀku muˈsubiˀba](早く結べよ)。

ムˈスン [muˈsuŋ] (1) 【他動】1むしる (毟(ムシ)る)。引きちぎる。「刮、摘、揃、ムシル」『類聚名義抄』の転訛したものか。ムˈチˀ　ムˈスンティ　スンドゥˀ　ムˈサラヌ [muˈʧiˀ muˈsuntiˀ sunduˀ muˈsaranu](餅を毟(ムシ)ろう < 引き千切ろう > とするが、毟られない)。ˈムチェーˀ　ムˈシˀトゥリ　ˀミサカー　ムˈスˀクトー

⌉ナルン [mu⌈ʧeː⌉ mu⌈ʃi⌉turi ⌉misakaː mu⌈su⌉ ku̥toː ⌉naruŋ](餅は毟りとってよければ、毟ることはできる)。⌈マー⌉ビン　ム⌈シェー⌉　ミサムヌ [⌈maː⌉bim mu⌈ʃeː⌉ misamunu](もっと毟ればよいのに)。⌈パー⌉ク　ム⌈シ⌉バ [⌈paː⌉ku mu⌈ʃi⌉ba](早く毟れよ)。つねる (抓る)。ウ⌈レー⌉　プ⌈ス⌉　ム⌈ス⌉　フ⌈シヌ⌉　アン [ʔu⌈reː⌉ pu̥⌈su⌉ mu⌈su⌉ ɸu̥⌈ʃinu⌉ ʔaŋ](彼は人をつねる＜抓る＞癖がある)。 **(2)**【自動】千切れる。ピ⌈キスク⌉カー　ム⌈スンダ⌉　ピ⌈キスクナ [pi̥⌈kisu̥ku ⌉kaː mu⌈suda⌉ pi̥⌈kisukuna](引っ張る＜引き付ける＞と千切れるから、引っ張るな)。

⌉ムタイサカイ **[⌉mutaisakai]**【名】1繁茂すること。繁り栄えること。ス⌈クリ⌉ムノー　⌉ムタイサカイ　⌈スン⌉ケン　サ⌈カリティ⌉　ウ⌈ラーミ⌉サン [su̥⌈kuri⌉munoː ⌉mutaisakai ⌈suŋ⌉ken sḁ⌈kariti⌉ ʔu⌈raːmi ⌉saŋ](作物は覆い被さるように繁茂して羨ましい)。2植物が生い茂るように子孫が繁盛すること。⌈ウン⌉ネーヤ　ッ⌈ふァ⌉マーン　⌉ムタイサカイ　⌈シー⌉　サ⌈カリ　ブー [⌈ʔun⌉neːja f⌈fa⌉maːm ⌉mutaisakai ⌈ʃiː⌉ sḁ⌈kari buː](その家は子孫も植物が生い茂るように大繁盛している)。

⌉ムタイスクイ **[⌉utaisukui]**【名】手の平＜掌＞にのせて大事に取り扱うこと。⌉ムタイスクイ　⌈シェー⌉ティ　ス⌈ダティラ⌉レール　ッ⌈ふァ⌉　ヤ⌈ルンダ　フンダイ　シー⌉ナ　ナ⌈ラ⌉ヌ [⌉mutaisu̥kui ⌈ʃeː ⌉ti su⌈datira⌉reːru f⌈fa⌉ ja⌈runda ɸundai ʃiː⌉na na⌈ra⌉nu](掌に載せて大事にされて育てられた子だから、我がまま放題で堪らない)。

ム⌈タイ⌉ルン **[mu⌈tai⌉ruŋ]**【他動】持ち上げる。「もたげ (擡げ)、下二段。かしらもたげて～。」『竹取物語』の転訛したもの。ス⌈ブ⌉ル　ム⌈タイ⌉ルンティ　⌈スンドゥ　キュー⌉ヤ (ワ) ス⌈ブ⌉ル　⌈グッふァ⌉ヌ　ム⌈タイララ⌉ヌ [su⌈bu⌉ru mu⌈tai⌉runti ⌈sundu kjuː ⌉ja(wa) su⌈bu⌉ru ⌈guffa⌉nu mu⌈tairara⌉nu](頭を持ち上げ＜もたげ＞ようとするが、今日は頭が重くて、持ち上げられない)。ス⌈ブ⌉ル　⌉ムタイ　⌉ミサカー　ム⌈タイ⌉ル　⌉クトー　ナ⌈ルン⌉ドゥ　フ⌈ルマーリスバン [su⌈bu⌉ru ⌉mutai ⌉misakaː mu⌈tai⌉ru ⌉ku̥toː na⌈run⌉du ɸu⌈rumaːrisubaŋ](頭を擡げてよければ擡げることはできるが、ふらつくわい)。⌈マー⌉ビン　ム⌈タイ⌉レー　⌉ミサムヌ [⌈maː⌉bim mu⌈tai⌉reː ⌉misamunu](もっと擡げればいいのに)。⌈パー⌉ク　ス⌈ブ⌉ル　ム⌈タイ⌉リ [⌈paː⌉ku su⌈bu⌉ru mu⌈tai⌉ri](早く頭を持ち上げ＜擡げ＞よ)。

⌉ムタウン **[⌉mutauŋ]**【他動】持ち上げる。もたげる (「擡ぐ」。下二段)。「Motague,uru,eta. モタゲ、グル、ゲタ (擡げ、ぐる、げた) 持ち上げる」『邦訳日葡辞書』の四段活用化したもの。ス⌈ブ⌉ル　⌉ムタウン [su⌈bu ⌉ru ⌉mutauŋ](頭を持ち上げる)。⌈ター⌉ラ　⌉ムタウンティ　⌈スンドゥ　タンガ⌉シェー　ム⌈ターラン⌉バ　⌈マーズン⌉シ　⌉ムタイ　ッ⌈ふィーリ [⌈taː⌉ra ⌉mutaunti ⌈sundu taŋga⌉ʃeː mu⌈taːram⌉ba ⌈maːʥuŋ⌉ʃi ⌉mutai f⌈fiːri](俵を持ち上げようとするが、一人では持ち上げられないので一緒に持ち上げてくれよ)。ウ⌈リ⌉　ムタウ　プ⌈ソー⌉　ブ⌈ラーヌ [ʔu⌈ri⌉ mutau pu̥⌈soː⌉ bu⌈raːnu](それを持ち上げる人はいない)。⌈マー⌉ビン　⌈ウンター⌉　ム⌈タイ⌉ヤー　⌉ミサムヌ [⌈maː⌉biŋ ⌈ʔuntaː⌉ mu⌈tai⌉jaː ⌉misamunu](もっと上へ持ち上げればいいのに)。ン⌈ベーマ⌉　ムタイバ [ʔm ⌈beːma⌉ mutaiba](少し持ち上げなさいよ)。

ム⌈タ⌉スン **[mu⌈ta⌉suŋ]**【他動】持たせる。支えさせる。保たせる。⌉ヤー　ム⌈タ⌉スン [⌉jaː mu⌈ta⌉suŋ](所帯を持たせる＜家を持たせる＞)。⌉フニ　ム⌈タ⌉スン [⌉ɸuni mu⌈ta⌉suŋ](操船させる＜船を持たせる＞)。⌉ティーナ　ム⌈タ⌉スン [⌉tiːna mu⌈ta⌉suŋ](手に持た＜所持さ。携帯さ＞せる)。ウ⌈リンマー⌉　ム⌈タサ⌉ヌ [ʔu⌈rimmaː⌉ mu⌈tasa⌉nu](彼には持たせない)。ク⌈リン⌉　ム⌈タシ⌉プサン [ku⌈rim⌉ mu⌈taʃi⌉pu̥saŋ](これも持たせたい)。ク⌈リンマー⌉　ジン　ム⌈タ⌉ス　⌉クトー　ナ⌈ラ⌉ヌ [ku⌈rimmaː⌉ ʤim mu⌈ta⌉su ⌉ku̥toː na⌈ra⌉nu](これ＜この人＞には、お金を持たせることは罷りならぬ)。ン⌈ベーマー⌉　ム⌈タ⌉シェー　⌉ミサムヌ [ʔm⌈beːmaː⌉ mu⌈ta⌉ʃeː ⌉misamunu](少しは持たせばよいのに)。⌉クベー　ヤー⌈ディン⌉　ム⌈タ⌉シ [⌉kubeː ja⌈dim⌉ mu⌈ta⌉ʃi](これだけは必ず持たせ＜持参させ＞よ)。

ム⌈タ⌉ブン **[mu⌈ta⌉buŋ]**【他動】いじる (弄る)。もてあそぶ (弄ぶ)。「Moteasobi, モテアソビ、ブ、ゥダ (翫び、ぶ、うだ) 楽しみ興ずる、あるいは、気慰みをする」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ム⌈タビ⌉ムヌ　ム⌈タ⌉ブン [mu⌈tabi⌉munu mu⌈ta⌉buŋ](玩具を弄る＜玩ぶ＞)。ム⌈タビ⌉ムヌ　ッ⌈ふィールバン⌉　ム⌈タバ⌉ヌ [mu⌈tabi⌉munu f⌈fiːrubam⌉ mu⌈taba ⌉nu](玩具を与えても弄らない＜玩ばない＞)。ム⌈タ⌉ビ　⌈ベー [mu⌈ta⌉bi ⌈beː](弄っている)。ム⌈タ⌉ブ　⌉ムヌン　⌈ナー⌉ヌ [mu⌈ta⌉bu ⌉munun ⌈naː⌉nu](弄るものもない)。ム⌈タ⌉ベー　⌉ミサムヌ [mu⌈ta⌉beː ⌉misamunu](弄ればいいのに)。ム⌈タ⌉ビバ [mu⌈ta⌉ biba](弄れよ)。

ム⌈タ⌉リン **[mu⌈ta⌉riŋ]**【自動】　持てる。持つことが

できる。ˀムトゥン [ˀmutuŋ](持つ) の未然形に可能の助動ˀリン [ˀriŋ](れる) が下接して形成された可能動詞。ウˈヌˀ　アˈタˀロー　ˈバンˀヌン　ムˈタˀリン [ʔuˈnuˀ ʔaˈtaˀroː ˈbanˀnuŋ muˈtaˀriŋ](それぐらいは私にも持て＜持たれ＞る)。アーˈイ　バンˀマー　ムˈタラˀヌ [ʔaːˈi bamˀmaː muˈtaraˀnu](いや、私には持てない)。ˀカイニ　ˈグッˀふァ　ˀムヌバ　ムˈタˀリ　ˀクトゥン　アˈリˀ　ブーバン [ˀkaini ˈgufˀfa ˀmunuba muˈtaˀri ˀkutuŋ ʔaˈriˀ buːbaŋ](こんなに重い物を持てることもある＜有りをる＞よ)。

ムˈタˀルン [muˈtaˀruŋ] 【自動】 1もたれる。寄りかかる。「凭(モタレ)る、下二段」の四段活用化したもの。ウˈレー　ビーˀルカー　ヤーˈディンˀ　プˈスˀナー　ムˈタˀルン [ʔuˈreː biːˀrukaː jaːˈdimˀ pu̥ˈsuˀnaː muˈtaˀruŋ](彼は酔うと必ず他人にもたれる)。プˈスˀナー　ムˈタランˀドーシ　ビˈリ [pu̥ˈsuˀnaː muˈtaranˀ doːʃi biˈri](他人にもたれないで座れ)。ˀパラーナ　ムˈタˀリティ　ニˈビ　ベー [ˀparaːna muˈtaˀriti niˈbi beː](柱にもたれて寝ている)。ビータˈルˀタンティン　プˈスˀナー　ムˈタˀル　ˀクトー　サˈヌ [biːta ˈruˀtantim pu̥ˈsuˀnaː muˈtaˀru ˀku̥toː saˈnu](酔っ払っても他人にもたれることはしない)。ˈマーˀビン　ムˈタˀレー　ˀミサムヌ [ˈmaːˀbim muˈtaˀreː ˀmisamunu](もっともたれればよいのに)。ˈマーˀビン　ムˈタリˀバ [ˈmaːˀbim muˈtariˀba](もっともたれよ)。2胃がもたれる。食物が消化されずに胃の中に残る。バˈタフクˀル　ˈスン [baˈtaɸu̥kuˀru ˈsuŋ](胃がもたれ＜凭(モタ)れ＞る) の意味に用いられる。ˈイーˀ　ムˈタˀリティ　ˈドゥーグッふァˀヌ　ナˈラˀヌ [ˈʔiːˀ muˈtaˀriti ˈduːguffaˀnu naˈraˀnu](胃が凭(モタ)れて、体が重くて堪らない)。

ムˈチ [muˈʧi] 【名】餅。ッˈスˀムチ [sˈsuˀmuʧi](白餅。主に法事の際に作る)、アˈガムチ [ʔaˈgamuʧi](赤餅。祝儀用の餅)、ˈキールムチ [ˈkiːrumuʧi](黄色い餅。祝儀用の餅)、ˈアンムˀチ [ˈʔammuˀʧi](餡餅(アンモチ))、バˈタムˀチ [baˈtamuˀʧi](餡の入った餅＜腹餅＞)、ˈアームˀチ [ˈʔaːmuˀʧi](粟餅)、ˈウンヌˀムチ [ˈʔunnuˀ muʧi](芋餅(イモモチ))、ˈプールˀムチ [ˈpuːruˀmuʧi](豊年祭に作る餅)、バˈサンˀパームチ [baˈsamˀpaːmuʧi](芭蕉の葉で包んだ餅。豊年祭に作る餅)、サˈミンパームチ [saˈmimpaːmuʧi](月桃の葉で包んだ餅。豊年祭に作る餅)、カˈサンˀパームチ [kḁˈsamˀpaːmuʧi](木の葉餅＜柏の葉餅。芋餅＞)。フˈチャˀギ [ɸu̥ˈʧaˀgi](十五夜の餅)、フˈカンˀガイ [ɸu̥ˈkaŋˀgai](十五夜に作るどろどろの餅。＜吹き上がり＞の転訛か) などがある。ムˈチェーˀ　ムˈチマイバˀ　フˈクラシティˀ　イˈソーシˀナ　ピˈキ　クーフクˀルナ　イˈリティˀ　ミˈジェーˀ　ピˈサˀシティ　ˈクーˀバ　バˈサンˀパーナ　ッˈスˀミティ　ˈクシˀキナ　ンˈブˀシティル　スˈクˀローッタ [muˈʧeːˀ muˈʧimaibaˀ ɸu̥ˈkuraʃi̥tiˀ ʔiˈsoːʃiˀna pi̥ˈki kuːɸu̥kuˀruna ʔiˈritiˀ miˈʤeːˀ pi̥ˈsaˀʃi̥ti ˈkuːˀba baˈsamˀpaːna sˈsuˀmiti ˈkuʃi̥ˀkina ʔmˈbuˀʃi̥tiru su̥ˈkuˀroːtta](餅は糯米(モチゴメ)を水に浸(ツ)け、ふやかして石臼で挽(ヒ)き、餅粉袋に入れて水を切り、澱粉を芭蕉の葉に包んで甑(コソキ)に蒸して作られた)。

ムˈチ [muˈʧi] 【名】1もち (黐)。「黐、毛知 (もち)」『和名抄』の転訛したもの。ムˈチンキー [muˈʧiŋkiː](モチノキ) の皮を搗き砕き水で洗って屑(クズ)や繊維を除去した粘りつよいもの。細い竿の先に塗りつけて小鳥を捕獲するのに用いた。ムˈチ　シッˀキティ　メˈジˀロ　シˈビシカˀデイー [muˈʧi ʃikˀkiti meˈʤiˀro ʃiˈbisi̥kaˀdiː](もち＜黐＞を搗いてメジロをくっつけよう＜捕獲しよう＞よ)。2漆喰。「黐、毛知 (もち)、」『和名抄』の転訛したものか。海中の枝珊瑚やテーブル珊瑚を採取して焼いてˈウールパイ [ˈʔuːrupai](粉末。「珊瑚の灰」) にし、稲藁を切って加え、水をかけて捏(コ)ね合わせたもの。ˈウールパイ [ˈʔuːrupai](石灰) は漆喰(シックイ)にする前の粉末をいう。鳩間島で最初のムˈチヌーリプス [muˈʧinuːripu̥su](左官屋。「黐塗り人」の義) は小浜真栄氏と鳩間昇氏で、石垣島で営業していた。昔は島人自身で漆喰を作って瓦葺の家に塗っていた。ˈカーˀラヤーヤヌ　ˈカーˀラー　ムˈチˀ　ッˈふァーサンˀカー　ˈタイˀフーナ　トゥˈバサリス [ˈkaːˀrajaːnu ˈkaːˀraː muˈʧiˀ fˈfaːsaŋˀkaː ˈtaiˀɸuːna tuˈbasarisu](瓦葺家の瓦は漆喰を塗らない＜喰わさない＞と台風で飛ばされてしまう)。

ムˈチームチーˀシ [muˈʧiːmuʧiːˀʃi] 【副】1粘っこく。ˈホーライマイˀヌ　ˈイーˀヤ　ムˈチームチーˀシティ　イッˈケナˀ　ンˈマーˀン　ˈザイレーマイˀヌ　ˈイーˀヤ　サˈバーˀンダ　ˈカイˀ　タˈクバルˀ　ンˈマー [ˈhoːraimaiˀnu ˈʔiːˀja muˈʧiːmuʧiːˀʃi̥ti ʔikˈkemˀ ʔmˈmaːˀn ˈʤaireːmaiˀnu ˈʔiːˀja sḁˈpaːˀnda ˈkaiˀ tḁˈkubaruˀ ʔmˈmaː](蓬莱米のご飯は粘っこくて非常に美味しい。在来米のご飯は粘り気がなく、さくい＜淡白である＞からお粥に炊いたほうが美味しい)。2むつまじく (睦まじく)。ˈキョーダイˀサ　ムˈチームチーˀシ　パˈナˀシ　ˈオーˀルン [ˈkjoːdaiˀsa muˈʧiːmuʧiːˀʃi paˈnaˀʃi ˈʔoːˀruŋ](兄弟で睦(ムツ)まじく話しておられる)。

ムˈチアー [muˈʧiʔaː] 【名】(植) もちあわ (糯粟)。粘り気のある粟。粳米(ウルチマイ)に混ぜて炊くと粘り気が出て美味しいご飯に炊き上がる。芋に糯粟(モチアワ)を混ぜてご飯に炊くと、芋の澱粉と粟の糯(モチ)みが溶け合い、適当に粘り気が出て美味しく炊き上がる。サˈクˉマイナー　ムˈチアーˉ　マˈザーˉシティ　バˈカスˉカー　ンˈマーˉンˈダー [sḁˈkuˉmainaː muˈʧiʔaːˉ maˈʤaːˉ ʃi̥ti baˈkasuˉkaː ʔmˈmaːˉnˈdaː](粳米に糯粟を混ぜて炊くと美味しいよ)。

ムˈチアーˉシ [muˈʧiʔaːˉʃi] 【名】石灰に藁屑を加えて搗き捏(コ)ねること。漆喰を搗くこと。ˈバンˉター　ヤˈラˉビ　ˈシェーンˉケン　パˈトゥˉマナーティ　ムˈチアーˉシ　シˈミラリ　ミッˉタン [ˈbanˉtaː jaˈra ˉbi ˈʃeːŋˉkem pḁˈtuˉmanaːti muˈʧiʔaːˉʃi ʃiˈmirari mit ˉtaŋ](私たちは子供の頃、鳩間島で漆喰搗き＜漆喰の捏(コネ)ね合わせ＞をさせられたことがある)。

ムˈチアーシˉプス [muˈʧiʔaːʃiˉpu̥su] 【名】左官。漆喰を作って屋根瓦に漆喰を塗る人。ムˈチアーシプスˉヌ　ブˈラーンダ　カーラˉヌ　ムˈチン　ヌーララヌ＜ッˈふァーサラヌ＞[muˈʧiʔaːʃipu̥suˉnu buˈraːnda kaːraˉnu muˈʧin nuːraranu＜fˈfaːsaranu＞](左官＜漆喰を塗る人＞がいないので、瓦に漆喰も塗られない)。

ˈムチ　アーˉスン [muˈʧi ʔaːˉsuŋ] 【連】漆喰を搗(ツ)く。石灰に稲藁を刻んで混ぜ合わせ、水を加えて搗き、漆喰にした。その漆喰を塗る。ˈカーˉラヤー　フˈコーˉル　ˉピンマー　ムˈチ　アーˉスンティ　プˈスˉ　タˈナˉモーッタン [ˈkaːˉraja: ɸu̥ˈkoːˉru ˉpimmaː muˈʧi ʔaːˉsunti pu̥ˈsuˉ taˈnaˉmoːttaŋ](瓦屋根を葺かれる時は、漆喰を搗く＜漆喰を合わせる＞とて、人手＜人＞を頼まれたものだ)。ムˈチ　アーˉシティ　ˈヌーリ [muˈʧi ʔaːˉʃi̥ti ˈnuːri](漆喰を搗いて塗りなさい)。

ムˈチ　アーラスン [muˈʧi ʔaːrasuŋ] 【連】餅を蒸し煮する。餅や蒸し菓子などを甑(コシキ)で蒸し上げる。ˈクシˉキナ　ムˈチカゴーˉ　イˈリティ　アーラシˉバ [ˈkuʃi̥ˉkina muˈʧikagoːˉ ʔiˈriti ʔaːraʃiˉba](甑に餅籠を入れて蒸し煮し＜蒸し上げ＞なさいよ)。

ムˈチアギˉルン [muˈʧiʔagiˉruŋ] 【他動】1持ち上げる。標準語から転訛したもの。普通は、ムˈタイˉルン [muˈtaiˉruŋ](持ち上げる) という。ˈティンマˉ　ムˈチアギˉルンティ　ˈスンドゥˉ　ムˈチアギララˉヌ [ˈtimmaˉ muˈʧiʔagiˉrunti ˈsunduˉ muˈʧiʔagirara ˉnu](伝馬船を持ち上げようとするが、持ち上げられない)。2他人を誉めそやす。盛んに誉める。プˈスバˉ　フˈミマラバˉシ　ムˈチˉアギ　ˈベーˉヌ　ˉイカーラ　ˉシジカヤー [pu̥ˈsubaˉ ɸuˈmimarabaˉʃi mu ˈʧiˉʔagi ˈbeːˉnu ˉʔikaːra ˉʃiʤikaja:](人を誉めそやし持ち上げているが、如何なるわけだろうか)。

ムˈチイズ [muˈʧiʔiʤu] 【名】(動) 魚の名。和名、フエフキダイ科、のこぎりだい (体長 20〜25 センチ)。「もち魚」の義。鳩間島のˈマイˉズニ [ˈmaiˉ ʤuni](前曽根) やˈクーˉシビー [ˈkuːˉʃibiː](南西の干瀬) では、体長約 20 センチのムチイズがよく釣れた。ムチイズはテーブルサンゴの下などに集まっていて、潮の干満によって移動する。熟達した漁師は魚巣を探し当てて魚釣りをした。ˉアミツァ [ˉʔamitsa](やどかり) を餌にするとよく釣れた。ˉアミツァ [ˉʔamitsa] の爪や、パˈローˉマ [paˈroːˉma](ツノメガニ。浜に棲息する蟹) を砂と混ぜて搗き潰(ツブ)し、撒餌(マキエ)にするとよく釣れた。ムˈチイズーˉ　アミツァバ　ˈムンˉダニ　ˈスーˉカー　イッˈケナ　ホーサリˉタン [muˈʧiʔiʤoːˉ ʔamitsaba ˈmunˉdani ˈsuːˉka ʔik ˈkena hoːsariˉtaŋ](のこぎりだいは、ヤドカリを餌(エサ)にるすと、よく釣れた)。煮魚にも蒲鉾(カマボコ)の原料にも重宝された。

ムˈチカˉサン [muˈʧikaˉsaŋ] 【形】むずかしい (難しい)。困難である。若年層の言葉。老年層は、ムˈチˉキサン [muˈʧiˉkisaŋ](難しい) という。シˈグトーˉ　ムˈチカˉサンドゥ　ナˈリˉルカー　ムˈチカサー　ナーˉヌ [ʃiˈgutoːˉ muˈʧikaˉsandu naˈriˉruka: muˈʧikasa: naːˉnu](仕事は難しいが、慣れたら難しくない)。ˈシンダイˉ　ムˈチカˉサ　ナˈリˉスンドゥ　ムˈチカˉサー (ル)　ˉクトー　ッˈシブター [ˈʃindaiˉ muˈʧika ˉsa naˈriˉsundu muˈʧikaˉsa(ru): ku̥to: ʃˈʃibuta](次第に難しくなるけれど、難しいことは知っていた)。ムˈチˉカサカー　ˈバンˉマー　ナˈラˉヌ [muˈʧiˉkasaka: ˈbamˉma: naˈraˉnu](難しかったら私には出来ない)。

ムˈチカシー [muˈʧikaʃiː] 【連体】むずかしい (難しい)。ムˈチカˉサンとも言う。ムˈチカシーˉ　クˈトゥˉヌ　ウˈクˉリ　ˈナーˉヌ [muˈʧikaʃiːˉ ku̥ˈtuˉnu ʔuˈ kuˉri ˈnaːˉnu](難しい問題＜難問＞が起きてしまった)。

ムˈチˉキサン [muˈʧiˉkisaŋ] 【形】むつかしい (難しい)。困難である。扱いにくい。厄介である。老年層の言葉。シˈケンˉマー　イッˈケンˉ　ムˈチˉキサン [ʃi̥ˉkemˉmaː ʔikˉkemˉ muˈʧiˉki̥saŋ](試験は非常に難しい)。ˉナラウカー　ムˈチキサナーˉヌ [ˉnarauka: muˈʧikisanaːˉnu](馴れたら難しくない)。ムˈチˉキサ

˺クトー　˹ナー˺ヌ [mu˹ʧi˺ki̥sa ˺ku̥to: ˹na:˺nu](難しいことはない)。ム˹チ˺キサカー　ヤ˹ミリ˺バ [mu˹ʧi˺ki̥saka: ja˹miri˺ba](難しかったら止めなさいよ)。

ム˹チ˺　ス˹ク˺ルン [mu˹ʧi˺ su̥˹ku˺ruŋ] 【連】餅を作る。˺アッパー　˹ソーニヨイヌ˺　ム˹チ˺　ス˹ク˺ルンティ　シ˹キ˺ウシ　フ˹ターチ˺　タティティ　ム˹チマイ˺　ッサウンティ　˹ベート ダー [˺ʔappa:˹so:ni-joinu˺ mu˹ʧi˺ su̥˹ku˺runti ʃi̥˹ki˺ʔuʃi ɸu̥˹ta:ʧi˺ tḁtiti mu˹ʧimai˺ ssaunti ˹be:⊦da:](お祖母さんの生年祝いの餅を作るといって、搗き臼を二台立てて、糯米(モチゴメ)を精(シラ)げようといているんだよ)。

ム˹チゾーグ [mu˹ʧiʥo:gu] 【名】餅上戸(モチジョウゴ)。餅をたくさん食べる人。ム˹チゾーゴー˺　バ˹タ˺ムチェーラン　ッ˹スムチ˺ル　ン˹マ˺ー　˹スート ダー [mu˹ʧiʥo:go:˺ ba˹ta˺mutʃe:ran s˹sumutʃi˺ru ʔm˹ma˺: ˹su:⊦da:](餅上戸は餡餅(アンモチ)< 腹餅。餅の腹に餡を入れたもの > よりも白餅を好む < 美味しくするんだ > よ)。

ム˹チッふァーシプス [mu˹ʧiffa:ʃipusu] 【名】漆喰を塗る人。左官。「漆喰食わせる (塗る) 人」の義。イ˹サナケーラ˺　ム˹チッふァーシプス˺　タ˹ナ˺ミキー　˹カー˺ラ　ム˹チ˺　ッ˹ふァーシタ [ʔi˹sanake:ra˺ mu˹ʧiffa:ʃipu̥su˺ ta˹na˺miki: ˹ka:˺ra mu˹ʧi˺ f˹fa:ʃi̥ta](石垣島から左官 < 漆喰を塗る人 > を頼んできて瓦に漆喰を塗っ < 喰わせた > た)。

ム˹チ˺　ッ˹ふァースン [mu˹ʧi˺ f˹fa:suŋ] 【連】漆喰を塗る < 喰わせる >。˹カー˺ラヤーヌ　˹カー˺ラー　ム˹チ˺　ッ˹ふァーサン˺カー　ウ˹ブカジ˺ナー　トゥ˹バサリスンダ˺　ム˹チ˺　ッ˹ふァースンティ　ベー˺ダー [˹ka:˺raja:nu ˹ka:˺ra: mu˹ʧi˺ f˹fa:saŋ˺ka: ʔu˹bukaʤi˺na: tu˹basarisunda˺ mu˹ʧi˺ f˹fa:sunti be:˺da:](瓦葺屋根の瓦は漆喰をを塗らないと台風で飛ばされるから、漆喰を塗ろうとしているところだよ)。

ム˹チナウ˺スン [mu˹ʧinau˺suŋ] 【他動】持ち直す。病状や状況が以前の状態に好転する。フ˹チル˺ヌ　ヌ˹マ˺リカー　ム˹チナウ˺スンティ　ウ˹モーリン˺ドゥ　ヌ˹マラン˺ダー　ム˹チナウサラ˺ヌ [ɸu̥˹ʧiru˺nu nu˹ma˺rika: mu˹ʧinau˺suntiŋ ʔu˹mo:rin˺du nu˹maran˺da: mu˹ʧinausara˺nu](薬が飲めたら持ち直すとも思われるが、飲めないから持ち直されない)。マ˹ナ˺マー　ム˹チナウ˺シ　˹ベート ダー [ma˹na˺ma: mu˹ʧinau˺ʃi ˹be:⊦da:](今は持ち直しているよ)。ム˹チナウ˺ス　˺クトゥン　ア˹リ˺ブーバン˹ナー [mu˹ʧinau˺su ˺ku̥tuŋ ʔa˹ri˺bu:ban˹na:](持ち直すこともあるのだねえ)。フ˹チ˺ル　˺ヌミティ　˹パー˺ク　ム˹チナウ˺シェー　˺ミサムヌ [ɸu̥˹ʧi˺ru ˺numiti ˹pa:˺ku mu˹ʧinau˺ʃe: ˺misamunu](薬を飲んで早く持ち直せばいいのに)。ヤー˹ディン˺　ム˹チナウ˺シ [ja:˹dim˺ mu˹ʧinau˺ʃi](必ず持ち直せ)。

ム˹チナウ˺ルン [mu˹ʧinau˺ruŋ] 【自動】回復する。「持ち直る」の義。フ˹チ˺ル　ヌ˹マ˺シェーチバ　˺ニチェー　˺アツァー　ム˹チナウ˺ルンティ　ア˹ゾーッタ˺ヌ　マ˹ダ˺　ム˹チナウラン˺バン [ɸu̥˹ʧi˺ru nu˹ma˺ʃe:ʧiba ˺niʧe: ˺ʔatsa: mu˹ʧinau˺runti ʔa˹ʥo:tta˺nu ma˹da˺ mu˹ʧinauram˺baŋ](薬を飲ませたから、熱は明日回復するといわれたが、まだ回復しないよ)。˹シンダイ˺　ム˹チナウ˺リ　˺ケーン [˹ʃindai˺ mu˹ʧinau˺ri ˺ke:ŋ](次第に回復してきた)。ム˹チナウ˺ル　˺クトー　ム˹チカ˺サン˹ダー [mu˹ʧinau˺ru ˺ku̥to: mu˹ʧika˺san˹da:](回復することは難しいよ)。ム˹チナウ˺レー　˺ミサムヌ [mu˹ʧinau˺re: ˺mis-amunu](回復すればいいのに)。ヤー˹ディン˺　ム˹チナウ˺リ [ja:˹dim˺ mu˹ʧinau˺ri](必ず回復せよ)。

ム˹チナ˺スン [mu˹ʧina˺suŋ] 【他動】移す。移転させる。場所を移す。移動する。˹ドングペン˺グ　ム˹チナ˺スンティ　ウ˹ムーン˺ドゥ　˹グッふァ˺ヌ　ム˹チナサラ˺ヌ [˹doŋgupeŋ˺gu mu˹ʧina˺sunti ʔu˹mu:n˺du ˹guffa˺nu mu˹ʧinasara˺nu](道具類を移動しようと思うが、重くて移動できない)。˹ニームチ　ム˹チナ˺シ　˺ミサカー　˹タンガ˺シン　ム˹チナ˺ス˺クトー　˺ナルン [˹ni:mu˺ʧi mu˹ʧina˺ʃi ˺misaka: ˹taŋga˺ʃim mu˹ʧina˺su ˺ku̥to: ˺naruŋ](荷物を移動してよければ、一人ででも移動することは出来る)。˹パー˺ク　ム˹チナ˺シェー　˺ミサムヌ [˹pa:˺ku mu˹ʧina˺ʃe: ˺misamunu](早く移せばいいのに)。˹マー˺ビン　カ˹マー˺　ム˹チナ˺シ [˹ma:˺biŋ ka˹ma:˺ mu˹ʧina˺ʃi](もっと向こうへ移しなさい)。˹タン˺シ　ム˹チナ˺スンティ　˹ベー˺ンドゥ　˹タンガ˺シェー　ム˹チナサラヌ [˹taŋ˺ʃi mu˹ʧina˺sunti ˹be:˺ndu ˹taŋga˺ʃe: mu˹ʧinasara˺nu](箪笥を移動しようとしているが、一人では移動させられない)。ム˹チナ˺シ　˺ミサカー　˹タンガ˺シン　ム˹チナ˺ス　˺クトー　˺ナルン [mu˹ʧina˺ʃi ˺misaka: ˹taŋga˺ʃim mu˹ʧina˺su ˺ku̥to: ˺naruŋ](移動して良ければ一人ででも移動する < 移す > ことはできる)。˹パー˺ク　ム˹チナ˺シェー　˺ミサムヌ [˹pa:˺ku mu˹ʧina˺ʃe: ˺misamunu](早く移動すれば良いのに)。˺ドゥーシ　ム˹チナ˺シバ [˺du:ʃi mu˹ʧina˺ʃiba](自分で移動させ < 移せ > よ)。

ム˹チ˺ナルン [mu˹ʧi˺naruŋ] 【自動】移る。場所を移る。

移転する。移動する。スˈバーˀ　ムˈチˀナルンティ　ˈスンドゥˀ　シˈバーˀヌ　ムˈチナーララˀヌ [suˈbaːˀ muˈʧiˀnarunti ˈsunduˀ ʃiˈbaːˀnu uˈʧinaːraraˀnu](側へ移ろうとするが、狭くて移られない)。ンˈベーマˀ　スˈバーˀ　ムˈチˀナリティ　ˈワンヌンˀ　ビˈラスンティ　スンドゥˀ　ムˈチˀナル　ˀクトー　ナˈランˀバン [ʔmˈbeːmaˀ suˈbaːˀ muˈʧiˀnariti ˈwannumˀ biˈrasunti sunduˀ muˈʧiˀnaru ˀkṵtoː naˈramˀbaŋ](少し側に移動して君も座らせようとするが、側に寄る＜移動する＞ことはできないわい)。ンˈベーマˀ　ムˈチˀナレー　ˀミサムヌ [ʔmˈbeːmaˀ muˈʧiˀnareːˀmisamuu](少し側に寄れ＜移動すれ＞ばいいのに)。ˀクマーラ　ˈパーˀク　ムˈチˀナリ [ˀkumaːra ˈpaːˀku muˈʧiˀnari](ここから早く移動せよ＜側に移れ＞)。

ムˈチヌーリ [muˈʧinuːri]【名】漆喰塗り。ˈカーˀラー　ムˈチヌーリ　サンˀカー　カˈジˀナ　トゥˈバサリス [ˈkaːˀraː muˈʧinuːri saŋˀkaː kaˈʤiˀna tuˈbasarisu](瓦は漆喰を塗らないと台風で飛ばされる)。

ムˈチヌーリˀピラ [muˈʧinuːriˀpira]【名】漆喰を塗るこて (鏝(コテ))。「漆喰塗り箆」の義。ムˈチヌーリピラˀヌ　ˈナーンˀカー　ムˈチェー　ヌーララヌ [muˈʧinuːripiraˀnu ˈnaːŋˀkaː muˈʧeː nuːraranu](漆喰を塗る鏝(コテ)がないと漆喰は塗れない)。

ムˈチヌーリプス [muˈʧinuːripṵsu]【名】左官。「漆喰を塗る人」の義。マˈナˀマー　ˈカーˀラヤーヌ　ˈナーンˀ　ナˈルˀター　ムˈチヌーリプスンˀ　ブˈラーンˀナリ　ˈナーˀヌ [maˈnaˀmaː ˈkaːˀrajaːnu ˈnaːnˀnaˈruˀtaː muˈʧinuːripṵsumˀ buˈraːnˀnari ˈnaːˀnu](今は瓦葺の家が無くなったので左官もいなくなってしまった)。パˈトゥˀマナーン　ムˈチヌーリプソー　オーッˀタン [pạˈtuˀmanaːm muˈʧinuːripṵsoː ʔoːtˀtaŋ](鳩間島にも漆喰を塗る人はおられた)。

ムˈチ　ヌールン [muˈʧi nuːruŋ]【連】漆喰を塗る。ムˈチˀ　ッˈふァースン [muˈʧiˀ fˈfaːsuŋ](漆喰を塗る＜喰わす＞) ともいう。ˈタイフーˀヌ　ˈクーンˀケン　ˈカーˀラナ　ムˈチ　ヌールンティ　カンˀガイˈベー [ˈtaiɸuːˀnu ˈkuːŋˀkeŋ ˈkaːˀrana muˈʧi nuːrunti kaŋˀgai ˈbeː](台風の来ないうちに瓦に漆喰を塗ろう＜喰わそう＞と考えている)。

ムˈチヌˀバ [muˈʧinuˀba]【名】(動) 魚の名。和名、ニセカエルウオ (雌)(体長約 10 センチ)。ムˈチヌˀバーティ　ˈスーˀ　イˈゾーˀ　バー　ッˈサンシェン [muˈʧinuˀbaːti ˈsuːˀ ʔiˈʤoːˀ baː sˈsaŋʃeŋ](ムチヌバーという魚は、私は知らなかった)。

ムˈチヌミーˀス [muˈʧinumiːˀsu]【名】餅で作った味噌。餅味噌。豊年祭に作ったバˈサンˀパームチ (芭蕉の葉餅) の食べ残りを集めてˈコージ [ˈkoːʤi](麹)を作り、それで作った美味しい味噌。ˈマイヌミーˀス [ˈmainumiːˀsu](米味噌) と同様、菓子代用の副食物となった。甕に詰めておき、時々酒を振りかけておくので酒の味がしみこんでおり、大人たちのお八つとして食されていた。ムˈチヌミーˀス　ˈサーˀフキ　ンˈザˀシバ [muˈʧinumiːˀsu ˈsaːˀɸṵki ʔnˈʤaˀʃiba](餅で作った味噌＜餅味噌＞を茶請けに出しなさいよ)。

ムˈチノーˀスン [muˈʧinoːˀsuŋ]【他動】持ち直す。病状などの状況が以前の状態に好転する。標準語からの借用語。老年層はムˈティナウˀスン [muˈtinauˀsuŋ](持ち直す) という。フˈチˀル　ヌˈマˀスカー　ムˈチノーˀスンティ　ウˈムーンˀドゥ　クˈヌブンˀシェー　ムˈチノーサンˀパジ [ɸṵˈʧiˀru nuˈmaˀsukaː muˈʧinoːˀsunti ʔuˈmuːnˀdu kuˈnubuŋˀʃeː muˈʧinoːsamˀpaʤi](薬を飲ませたら持ち直すと思うが、このぶんでは持ち直さないだろう＜はずだ＞)。ムˈチノーˀシ　ˀケーン [muˈʧinoːˀʃi ˀkeːŋ](持ち直してきた)。ムˈチノーˀス　ˀクトー　ˈナーˀヌ [muˈʧinoːˀsu ˀkṵtoː ˈnaːˀnu](持ち直すことはない)。ムˈチノーˀシェー　ˀミサムヌ [muˈʧinoːˀʃeː ˀmisamunu](持ち直せばいいのに)。フˈチˀル　ˀヌミティ　ムˈチノーˀシ [ɸṵˈʧiˀru ˀnumiti muˈʧinoːˀʃi](薬を飲んで持ち直せ)。

ムˈチマイ [muˈʧimai]【名】(植) もちごめ (糯米)。もちいね (糯稲) からとれる粘り気の強い米。餅の素材となる米。サˈクˀマイ [sạˈkuˀmai](うるち＜粳＞米) の対義語。ムˈチマイヌˀイー [muˈʧimainuˀʔiː](糯米の御飯) は、ˈソッˀコー [ˈsokˀkoː](法事・焼香) やˈソーˀラン [ˈsoːˀraŋ](お盆・精霊会) の時に炊飯され、お椀に二重盛りにして供えられた。ムˈチマイˀシル　ムˈチェーˀ　スˈクˀル　サˈクˀマイシェー　ムˈチェーˀ　スˈクララˀヌ [muˈʧimaiˀʃiru muˈʧeːˀ sṵˈkuˀru sạˈkuˀmaiʃeː muˈʧeːˀ sṵˈkuraraˀnu](糯米で餅は作る。粳米では餅は作られない)。ˈジーˀマイナーン　ムˈチマイヤーˀ　アンˈダー [ˈʤiːˀmainaːm muˈʧimaijaːˀ ʔanˈdaː](陸稲＜おかぼ＞にも、もちごめ＜糯米＞はあるよ)。ムˈチマイˀシル　ムˈチェーˀ　スˈクˀルンダ　ムˈチマイユンˀ　イˈバンˀカー　ナˈラˀヌ [muˈʧimaiˀʃiru muˈʧeːˀ sṵˈkuˀrunda muˈʧimaijuŋˀ ʔiˈbaŋˀkaː naˈraˀnu](糯米で餅を作るのだから糯米も植えないといけない)。

ムˈチマッˈサーン [muˈʧimasˈsaːŋ] 【形】むつまじい (睦まじい)。仲が良い。ˈウンˈネーヌ ˈキョーダイˈサー ムˈチマッˈサーンティ スˈクタヌ ナンˈゾー ムˈチマッサー ナーンˈバン [ˈʔunˈneːnu ˈkjoːdaiˈsa: muˈʧimasˈsaːnti sṵˈkutanu nanˈʤo: muˈʧimassa: naːmˈbaŋ](その家の兄弟は仲睦まじいと聞いたが、あまり睦まじくないわい)。チˈカˈグロー ムˈチマッˈサー ˈナリケーン [ʧi̥ˈkaˈguroː muˈʧimasˈsa: ˈnarikeːŋ](近頃は睦まじくなってきた)。ˈアイニ ムˈチマッˈサー (ル)ˈキョーˈダイテー ブˈラーヌ [ˈʔaini muˈʧimasˈsaː(ru)ˈkjoːˈdaiteː buˈraːnu](あんなに睦まじい兄弟とて他にはいない)。ˈマー ンˈベーマˈ ムˈチマッˈサーレー ˈミサムヌ [ˈmaː ʔmˈbeːmaˈ muˈʧimasˈsaːreː ˈmisamunu](もう少し仲睦まじければいいのに)。

ムˈチマッˈサ ˈスン [muˈʧimasˈsa ˈsuŋ] 【連】睦まじくする。親しくする。ユˈミザーンˈ イッˈケナˈ ムˈチマッˈサ ˈシーブン [juˈmiʤaːŋˈ ʔikˈkenaˈ muˈʧimasˈsa ˈʃiːbuŋ](嫁同士非常に仲睦まじくしている)。

ムˈチミー [muˈʧimiː] 【名】粘(ネバ)り気。「もちみ (糯味)」の義。サˈクˈマイ ヤˈルンドゥ ホーライマイˈヤー ˈザイˈレーラン ムˈチミーヌˈ アンダー <ˈアルンダ> ンˈマーˈン [sạˈkuˈmai jaˈrundu hoːraimaiˈja: ˈʤaiˈreːram muˈʧimiːnuˈ andaː<ˈarunda> ʔmˈmaːˈŋ](粳米ではあるが、蓬莱米は在来種の米よりも粘り気 < 糯味 > があるので美味しい)。

ムˈチˈルン [mutʃiruŋ] 【自動】移動する。移る。

ムˈチˈルン [muˈʧiˈruŋ] 【自動】睦(ムツ)まじくする。睦ぶ。親しく振舞う。まつわりつき、戯(タワム)れる。「Mutçubi. ムツビ (睦び) 親しい結びつき」『邦訳日葡辞書』、「～むつるるを～(睦れ)」『源氏物語 < 若菜下 >』の転訛したもの。ドゥˈシムチリ スン [duˈʃimutʃiri suŋ](友達と遊び惚(ホ)ける)。バˈカーˈ ピンマー ターˈンˈ ドゥˈシトゥˈ ムˈチˈルンティ ウˈムーンˈドゥ ウˈレーˈ ドゥˈシトゥンˈ ムˈチラˈヌ [baˈkaːˈ pimmaː taːˈnˈ duˈʃituˈ muˈʧiˈrunti ʔuˈmuːnˈdu ʔuˈreːˈ duˈʃitumˈ muˈʧiraˈnu](若い時は誰でも友と遊び惚(ホ)けると思うが、彼は友人とも睦ばない)。ˈユネン ˈナルカー ˈメーラˈビンケートゥ ムˈチˈリティ ˈヤーˈ カˈカラˈヌ [ˈjunen ˈnarukaː ˈmeːra ˈbiŋkeːtu muˈʧiˈriti ˈjaːˈ kạˈkaraˈnu](夜になると乙女達と遊び惚(ホ)けて家にいない <懸(カカ)らない >)。ドゥˈシトゥˈ ムˈチˈル ˈクトー ˈナーˈヌ [duˈʃituˈ muˈʧiˈru ˈkṵtoː ˈnaːˈnu](友人と睦ぶことはない)。バˈカーˈムヌトゥン ムˈチˈレー ˈミサムヌ [baˈkaːˈ munutum muˈʧiˈreː ˈmisamunu](若者とも親しく交われば < 睦べば > よいのに)。ドゥˈシンケーˈトゥン ムˈチˈリバ [duˈʃiŋkeːˈtum muˈʧiˈriba](友人達とも交わり < 睦び > なさいよ)。

ムˈチンキー [muˈʧiŋkiː] 【名】 (植) モチノキ (黐(モチ)の木)。樹皮からとりもち (鳥黐) を製する。ムˈチンキーヌˈ カー ˈパギ ˈシッˈキ アˈライティˈ ムˈチˈ スˈクˈラˈディー [muˈʧiŋkiːnuˈ kaː ˈpagi ˈʃikˈki ʔaˈraitiˈ muˈʧiˈ sṵˈkuˈraˈdiː](黐の木の樹皮を剥(ハ)いで搗(ツ)き、水で洗ってとりもち <黐(モチ)> をつくろうよ)。

ムˈチンダールン [muˈʧindaːruŋ] 【自動】ねばつく (粘着く)。粘っこくなる。ねばねばする。べたつく。ムˈチェーˈ ドゥク ˈネースˈカー ムˈチンダールンダˈ ムˈチンダーラサンˈヨーニ ムˈチナベーˈラ ピーˈヤ ピˈキ [muˈʧeːˈ dukuˈ ˈneːsuˈkaː muˈʧindaːrisundaˈ muˈʧindaːrasạˈjoːni muˈʧinabeːˈraˈpiːˈja pi̥ˈki](餅はあまり煮ると粘つくから、粘つかないように餅鍋から火を引け)。ムˈチンダーリ ナーˈヌ [muˈʧindaːri naːˈnu](粘ついてしまった)。ムˈチンダールˈ クトー ˈナーˈヌ [muˈʧindaːruˈ kṵtoː ˈnaːˈnu](粘つくことはない)。ˈマーˈビン ムˈチンダーレーˈラー ッˈふァーラヌ [ˈmaːbimˈ muˈʧindaːreːˈraː fˈfaːranu](もっと粘つくと食べられない)。

ムツァーˈムツァーˈシ [mutsaːˈmutsaːˈʃi] 【副】ねばねば (粘々) して。粘っこいさま。粘り気があるさま。べた付くさま。ムˈチマイヌ イーˈヤ ムツァーˈムツァーˈシティ イッˈケナˈ ンˈマーˈン [muˈʧimainu ʔiːˈja mutsaːˈmutsaːˈʃi̥ti ʔikˈkenaˈ ʔmˈmaːˈŋ](糯(モチコ)米のご飯は粘々して非常に美味しい)。ムˈチアメーˈ ムツァーˈムツァーˈシ ˈパーナ シビˈシゥカリティˈ ッˈふァイングリˈサン [muˈʧiʔameːˈ mutsaːˈmutsaːˈʃi ˈpaːna ʃiˈbisi̥karitiˈ fˈfaiŋguriˈsaŋ](飴(アメ)< 糯飴 > は粘(ネバ)っこくて歯にくっ付いて食べにくい <難(ニク)い >)。

ムˈツァールン [muˈtsaːruŋ] 【自動】ねばる (粘(ネバ)る)。べたついてからまる。「もつれる (縺(モツ)れる)、Motçureru, uru, eta. モツレ、ルル、レタ (縺れ、るる、れた) 物と物とが互いにからみつく、」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。ムˈチヌˈ ティーナ シˈビシゥカルˈカー ˈティーˈヤ ムˈツァールンドゥˈ クー ッˈふァースˈカー ムˈツァーラヌ [muˈʧinuˈ tiːna ʃiˈbisi̥karuˈkaː ˈtiːˈja muˈtsaːrunduˈ kuː fˈfaːsuˈkaː muˈtsaːranu](餅が手にくっつくと手が粘るが、

米粉を付ける＜喰わせる＞と粘らない)。ムˈツァーリ　ナーˈˈヌ [muˈtsa:ri naːˈnu](粘ってしまった)。ˈクー　ッˈふァースˈカー　ムˈツァールˈ　クトー　ˈナーˈˈヌ [ˈku: fˈfa:suˈka: muˈtsa:ruˈ kuto: ˈnaːˈnu](米粉を付ける＜喰わす＞と粘ることはない)。ˈティーˈヌ　ムˈツァーレーˈラー　ムˈチェーˈ　スˈクララˈヌ [ˈti:ˈnu muˈtsa:reːˈra: muˈtʃeːˈ suˈkuraraˈnu](手がべたついて粘ると餅は作られない)。

ムˈツァーˈン [muˈtsaːˈŋ] 【形】粘っこい。粘着力がある。ムˈチマイヤー　ネースˈカー　ムˈツァーˈン [muˈtʃimaija: neːsuˈka: muˈtsaːˈŋ](もち米は煮ると粘っこい)。ムˈツァーナーˈˈヌ [muˈtsa:naːˈnu](粘っこくない)。ムˈツァーˈ　ムヌ [muˈtsaːˈ munu](粘っこいもの)。ˈドゥク　ムˈツァーˈヌ　シゥˈカーラヌ [ˈduku muˈtsaːˈnu siˈka:ranu](あまりにも粘っこくて使えない)。ムˈツァーˈムヌ　イˈラˈビバ [muˈtsaːˈ munu ʔiˈraˈbiba](粘っこいものを選びなさい)。

ˈムッカー [ˈmukkaː] 【名】手足が欠損したもの。ˈキカイナー　ˈティー　ˈフッカーサˈリ　カˈタˈティー　キˈサˈリティ　ˈティームッカー　ナリˈナーˈˈヌ [ˈkiˈkaina: ˈti: ˈɸukka:saˈri kaˈtaˈti: kiˈsaˈriti ˈti:mukka: nariˈnaːˈnu](機会に手を挟まれ、片手を切られて手の欠損した者になってしまった)。

ˈムッカー [ˈmukkaː] 【接尾】～切れた者。限られた名詞に付いて、それが失われ＜切れ＞た人 (又は動物) を卑しめて言う意を表す。ˈティームッカー [ˈti:mukkaː](手が切断された人)。ˈズームッカー [ˈʤu:mukkaː](尻尾の切れた動物)。ˈシートーグルマˈナーティ　ˈティー　ˈフッカーサˈリ　キˈサˈリティ　ˈティームッカー　ˈナリ　ˈベー [ˈʃi:to:gu-rumaˈna:ti ˈti: ˈɸukka:saˈri kiˈsaˈriti ˈti:mukka: ˈnari ˈbeː](製糖車に手を巻き込まれ＜挟まれ＞、切断されて、手を切られた者になっている)。

ˈムッコー [ˈmukkoː] 【名】(動)藪蚊(ヤブカ)。ˈムッコーガザン [ˈmukko:gaʤaŋ](藪蚊) ともいう。ナˈチˈ　ナルカー　ˈムッコーヌ　シˈディˈルンダ　カˈツァˈ　ピˈカンˈカー　ニˈバランˈダー [naˈtʃiˈ naruka: ˈmukko:nu ʃiˈdiˈrunda kaˈtsaˈ piˈkaŋˈka: niˈbaranˈdaː](夏になると藪蚊が孵化(フカ)するから蚊帳(カチョウ)を吊(ツ)らないと眠れないよ)。タˈムˈヌ　プˈサインˈ　ヤˈマー　ペーッˈタ　ˈクトー　ˈムッコーン　ッˈふァーリティˈ　パˈダビューワˈヌ　ナˈラˈヌ [taˈmuˈnu puˈsaiŋˈ jaˈma: peːt ˈta ˈkuto: ˈmukko:ŋ fˈfa:ritiˈ paˈdabju:waˈnu naˈraˈnu](薪を拾いに山へ入ったところ、藪蚊に刺されて＜咬まれて＞、肌痒(ハダカユ)くて堪(タマラ)ない)。

ˈムッチン [ˈmuttʃiŋ] 【名】六つ。六個。六粒。ˈッチン [ˈttʃiŋ] は「小粒で丸いもの」を数える助数詞 (粒)。マˈミˈシジェー　シˈントゥ　ムッチンドゥˈ＜ˈミーシジドゥˈ＞　ヌˈカˈレーバン [maˈmiˈʃiʤeː ʃinˈtu muttʃinduˈ＜ˈmi:ʃiʤiduˈ＞ nuˈkaˈreːbaŋ](豆粒は、たったの六粒しか残っていない＜たった六粒ぞ残っている＞わい)。

ムッˈトゥ [mutˈtu] 【副】陳述副詞。ちっとも。少しも。いささかも。全く。さっぱり。老年層は、ムシˈトゥ [muʃiˈtu](ちっとも) ということが多い。下にくる打消しの助動詞と呼応して断定的意味「ちっとも＜少しも＞～ない」を表す。ウˈレーˈ　バー　アˈズˈ　ムニ　ムッˈトゥˈ　シゥˈカヌ [ʔuˈreːˈ baː ʔaˈʤuˈ muni mutˈtuˈ siˈkanu](彼は、私の言うことをちっとも聞かない)。ウˈヌスˈク　フˈチˈル　ˈシジヌˈマスンˈドゥ　ムッˈトゥ　ジーˈ　シゥˈカンバン [ʔuˈnusuˈku ɸuˈtʃiˈru ˈʃiʤi nuˈmasunˈdu mutˈtu ʤiːˈ siˈkambaŋ](あんなに漢方薬を煎じて飲ませるんだが、ちっとも薬効＜滋養＞が効かないんだよ)。

ˈムティ [ˈmuti] 【副助】ˈA すれば A する～ムティ」の形で用いられ、ˈ～ほどますます～。～につれて。～に応じて」の意味を表す。「もちて＜以て＞」の転訛したものか。動詞の連体形に接続し、上につく動詞の仮定形と呼応して、「～すればするほど、益々～」の意味を表す。パˈタラクˈカー　パˈタラクˈムティ　ユˈチˈク　ˈナルン [paˈtarakuˈka: paˈtarakuˈ muti juˈtʃiˈku ˈnaruŋ](働けば働くほど益々裕福になる)。ˈニガウカー　ˈニガウムティ　ユˈガフヌˈ　タˈボーラˈリン [ˈnigauka: ˈnigaumuti juˈgaɸunuˈ taˈboːraˈriŋ](祈れば＜願えば＞祈るほど世果報が頂ける＜賜られる＞)。ヤˈラˈベー　アˈタラˈサ　ˈスーˈカー　ˈスーˈムティ　ˈマイフナーˈ　マˈルン [jaˈraˈbeː ʔaˈtaraˈsa ˈsuːˈka: ˈsuːˈmuti ˈmaiɸunaːˈ ma ˈruŋ](子供は可愛がれば＜可惜(アタラ)しさすれば＞可愛がるほど＜可惜しさするほど＞立派な人に成長する＜生まれる＞)。イˈズˈカー　イˈズˈムティ　ˈピンˈドゥ　ˈスー [ʔiˈʤuˈka: ʔiˈʤuˈmuti ˈpinˈdu ˈsuː](叱れば叱るほど、すね＜拗ね＞、むくれて反抗する＜反抗ぞする＞)。

ˈムティアシカイ [ˈmutiʔasikai] 【名】取り扱い。手荒に扱われること。「持て扱い」の義。ˈトゥリアシゥカイ [ˈturiʔasikai](取り扱い) ともいう。シˈマˈバ　ˈトゥリティ　ˈナンギラーˈリ　グˈチˈホーニ　ˈムティアシゥカイ　シˈラリティルˈ　ドゥーヨーリ　ˈシー　ベー [siˈmaˈba ˈturiti ˈnaŋgiraːˈri guˈtʃi

˥ho:ni ˥muti?asi̥kai ʃiˈraritiru˥ du:jo:ri ˈʃi: be:](相撲をとって投げられ、手荒に取り扱いされて＜ぞ＞体を痛めている)。

ムˈディ˥アヤ [muˈdi˥?aja] 【名】縒(ヨ)り合わせた糸の模様。二色の糸を縒り合わせて織った布。ˈクントゥ˥アˈガイルヌ˥ ムˈディ˥アヤシ ウˈラリ ブー ヌーヌ˥ ヤˈルンダ カイ˥ヤン [ˈkuntu˥ ?aˈgairunu˥ muˈdi˥?ajaʃi ?uˈrari bu: nu:nu˥ jaˈrunda kai˥jaŋ](紺と赤色の縒(ヨ)り合せ糸で織った布だから美しい)。

ムˈティ˥ズク [muˈti˥ʤuku] 【名】結婚適齢期。所帯を持つ時期。動詞˥ムトゥン [˥mutuŋ](持つ) の連用形˥ムティ [˥muti](持ち) に接尾語˥ズク [˥ʤuku](～時期。～に適した頃) が下接して形成された語。ミˈドーン˥ッふァー ムˈティズク˥ヌ ˥クーカー ˈナンククˈル ˥タティパルンヨー [miˈdo:ŋ˥ffa: muˈtiʤuku˥nu ˥ku:ka: ˈnaŋkukuˈru ˥tą̥tiparuŋjo:](女の子は所帯を持つ時期になったら自然に嫁いで＜自立して＞いくよ)。

ムˈディッカー˥ルン [muˈdikka:˥ruŋ] 【自動】ねじける (拗(ネジ)ける)。ねじる (捻(ネ)じる)。捻じ曲がる。曲がりくねる。捩(ヨジ)る。「捩り」の転訛したものか。プˈニ˥ヌ ˈヤー˥ラーンダ ˈドゥー˥ヤ ムˈディッカー˥ルンティ スˈクタンドゥ ナン˥ゾー ムˈディッカーララン˥シェン [puˈni˥nu ˈja:˥ra:nda ˈdu:˥ja muˈdikka:˥runti sṵˈkutandu nan˥ʤo: muˈdikka:raŋ˥ʃeŋ](骨が柔らかいから体は捻じ曲がると聞いたが、あんまり捻じ曲がらなかった)。クˈヌ˥ イツァー ムˈディッカー˥リティ シゥˈカーラヌ [kuˈnu˥ ?itsa: muˈdikka:˥riti si̥ˈka:ranu](この板は捻(ネ)じ曲がって使えない)。ムˈディッカー˥ル ˥ムノー シˈティリ [muˈdikka:˥ru ˥muno: ʃi̥ˈtiri](捻じ曲がる物は捨てなさい)。ˈムディッカー˥レー ˥ミサムヌ [muˈdikka:˥re: ˥misamunu](捻じ曲がればいいのに)。ˈマー˥ビン ムˈディッカー˥リ [ˈma:˥bim muˈdikka:˥ri](もっと捻じ曲がれ)。

ムˈティットー˥ルン [muˈtitto:˥ruŋ] 【自動】重さに振り回され、ふらついて倒れる。重さに持ち堪えられなくて倒れる。能力以上のものごとをしようとして、責任の重さに潰(ツブ)される。シゥˈカラー ナー˥ムティ ˈターˈラ ˥ムタウカー ムˈティットールン˥ドゥ フˈタール˥シ ˥ムタウカー ムˈティットーラ˥ヌ [si̥ˈkara: na:˥muti ˈta:˥ra ˥mutauka: muˈtitto:run˥du ɸṵˈta:ru˥ʃi ˥mutauka: muˈtitto:ra˥nu](力も無いのに俵を持ち上げると、ふらついて倒れるが、二人で持ち上げるとふらついて倒れることはない)。ムˈティットー˥リ ˈナーヌ [muˈtitto:˥ri ˈna:˥nu](重さにふらついて倒れてしまった)。フˈタール˥シ ˥ムタウカー ムˈティットー˥ル ˥クトー ˈナーヌ [ɸṵˈta:ru˥ʃi ˥mutauka: muˈtitto:˥ru ˥kṵto: ˈna:˥nu](二人で持ち上げるとふらつき倒れることはない)。ムˈティットー˥レー ˥ミサムヌ [muˈtitto:˥re: ˥misamunu](ふらついて倒れればいいのに)。プˈスヌ˥ ムニ シゥˈカムティ˥ヒャー ムˈティットー˥リバ [pṵˈsunu˥muni si̥ˈkamuti˥ça: muˈtitto:˥riba](人の言うことを聞き入れないで、この野郎。＜重い物を持ち上げようとして＞ふらついて倒れちまえ)。

ムˈティナウ˥スン [muˈtinau˥suŋ] 【他動】持ち替える。持ちなおす。持つ手を変える。ˈニーリティーラ˥ ピˈダリ˥テー ムˈティナウ˥スンティ ˈスンドゥ グッふァ˥ヌ ムˈティナウサラ˥ヌ [ˈni:riti:ra˥ piˈdari˥te: muˈtinau˥sunti ˈsundu guffa˥nu muˈtinausara˥nu](右手から左手に持ち替えようとするが、重くて持ち替えられない)。ムˈティナウ˥シ ˥ミサカー ムˈティナウ˥ス ˥クトー ˥ナルン [muˈtinau˥ʃi ˥misaka: muˈtinau˥su ˥kṵto: ˥naruŋ](持ち替えてよければ、持ち替えることはできる)。ムˈティナウ˥シェー ˥ミサムヌ [muˈtinau˥ʃe: ˥misamunu](持ち替えればいいのに)。ムˈティナウ˥シバ [muˈtinau˥ʃiba](持ち替えろよ)。

ムˈティナ˥シ [muˈtina˥ʃi] 【名】接待。饗応。待遇。「もてなし (持て成し)」の転訛したもの。ムˈティナ˥スン [muˈtina˥suŋ](接待する) の連用形からの転成名詞。ˈウン˥ネーヤ プˈス˥ ムˈティナ˥シェー ˈゾー˥ジ [ˈ?un˥ne:ja pṵˈsu˥ muˈtina˥ʃe: ˈʤo:˥ʤi](あの家は客＜人＞の接待が上手である)。

ムˈティナ˥スン [muˈtina˥suŋ] 【他動】もてなす (持て成す)。接待する。歓待する。イˈサンケー˥ラヌ プˈスン˥ケー ムˈティナ˥スンティ ˈベー˥ンドゥ ˈオーシキヌ˥ ヤビティ ˈダーッ˥サ＜ダーˈシーダーシー˥＞ ムˈティナサラン˥バン [?iˈsaŋke:˥ranu pṵˈsuŋ˥ke: muˈtina˥suŋti ˈbe:n˥du ˈ?o:ʃi̥kinu˥ jabiti ˈda:s˥sa＜da:ˈʃi:da:ʃi:˥＞ muˈtinasaram˥baŋ](石垣島からの客＜人＞たちを接待しようとするんだが、天気が崩れて上手に接待できないよ)。ˈタンガ˥シ ムˈティナ˥シ ˈシェー˥カー ムˈティナ˥ス ˥クトー ˈスン˥ツォー＜˥ナルンツォー＞[ˈtaŋga˥ʃi muˈtina˥ʃi ˈʃe:˥ka: muˈtina˥su ˥kṵto: ˈsun˥tso:＜˥naruntso:＞](一人で接待できたら＜接待し得たら＞接待することはする＜できる＞そうだ)。˥ドゥーシ ムˈティナ˥シェー ˥ミサムヌ [˥du:ʃi muˈtina˥ʃe: ˥mis-

amunu](自分で接待すればいいのに)。ˈムールˈシ　ムˈティナˈシバ [ˈmu:ruˈʃi muˈtinaˈʃiba](皆で接待しなさいよ)。

ムˈティパンˈマイ [muˈtipamˈmai] 【名】手弁当。自身で弁当を持参すること。若年層は、ムˈティビンˈトー [muˈtibinˈto:](持ち弁当) ともいう。ムˈカˈシェー　ムˈティパンˈマイ　ˈシェーˈティル　ムˈラシグトー　ソーッˈタ [muˈkaˈʃe: muˈtipamˈmai ˈʃe:ˈtiru muˈraʃiguto: so:tˈta](昔は手弁当で村の共同作業をされた)。

ムˈディマーˈスン [muˈdima:ˈsuŋ] 【他動】ねじる (捻じネジる)。「捻じ回す」。ひねる (捻る)。「捻り回す」の義。ウˈディˈバ　ムˈディマーˈスンティ　ˈスーˈカー　ピˈジˈ　シˈガーシシバˈ　ムˈディマーサンˈブˈリˈバ [ʔuˈdiˈba muˈdima:ˈsunti ˈsu:ˈka: piˈʤiˈ ʃiˈga:ʃiʃibaˈ muˈdima:samˈ buˈriˈba](腕を捻じ回すと肘が脱臼(ダッキュウ)するから、捻じ回すな < 捻じ回さないでおれ > よ)。ヤˈナˈムニ　イˈズˈカー　フˈチェーˈ　ムˈディマーˈシ　シˈキˈリ [jaˈnaˈmuni ʔiˈʤuˈka: ɸu̥ˈʧe:ˈ muˈdima:ˈʃi ʃi̥ˈkiˈri](悪口を言うなら、その口を捻(ヒネ)り回しておきなさい)。ムˈディマーˈス　ˈクトー　ナˈラˈヌ [muˈdima:ˈsu ˈku̥to: naˈraˈnu](捻る < 捻り回す > ことはできない)。ムˈディマーˈシェー　ˈミサムヌ [muˈdima:ˈʃe: ˈmisamunu](捻ればいいのに)。ˈマーˈビン　ムˈディマーˈシ [ˈma:ˈbim muˈdima:ˈʃi](もっと捻れ)。

ムˈディˈムチ [muˈdiˈmuʧi] 【名】円筒形の餅の澱粉をひと捻(ヒネ)りして蒸しあげた餅。「捻じり餅(ネ)」の義。ˈズングˈヤーナール　ムˈディˈムチェー　スˈクˈローッタ [ˈʤuŋguˈja:na:ru muˈdiˈmuʧe: su̥ˈkuˈro:tta](十五夜に < ぞ >捻じり餅(ネ) <捻り餅(ヒネ) > は作られた)。

ムˈディˈルン [muˈdiˈruŋ] 【他動】ねぢる (捻じる)。ひねる。棒状のものの両端を掴んで逆方向にまわす。ˈシンˈダシ　フˈバリティˈ　ムˈディˈルンティ　ˈスンドゥˈ　ムˈディララヌ [ˈʃinˈdaʃi ɸuˈbaritiˈ muˈdiˈrunti ˈsunduˈ muˈdiraraˈnu](針金で縛って捻(ヒネ)ろうとするが、捻られない)。カˈラティーˈシェー　ˈシンˈダ　ムˈディˈル　ˈクトー　ナˈラˈヌ [kaˈrati:ˈʃe: ˈʃinˈda muˈdiˈru ˈku̥to: naˈraˈnu](素手では針金を捻じることはできない)。ˈマーˈビン　ˈスーˈワ　ムˈディˈレー　ˈミサムヌ [ˈma:ˈbim ˈsu:ˈwa muˈdiˈre: ˈmisamunu](もっと強く捻じればいいのに)。ギーッˈティˈ　ムˈディˈリ [gi:tˈtiˈ muˈdiˈri](ぎゅうっと捻(ネ)じれ)。

ˈムトゥ [ˈmutu] (1)【名】1元。本。根元。本家。ムˈトゥˈヌ　サˈカラバルˈ　ユˈダンˈ　サˈカル [muˈtuˈnu saˈkarabaruˈ juˈdanˈ sḁˈkaru](元 < 本家 > が栄えたらばこそ枝 < 分家 > も栄えるものだ)。ˈバンˈテーヤ　ˈムトゥヤー　ˈダー [ˈbanˈte:ja mutujaːˈda:](私の家は本家 < 元家 > だよ)。ˈヤームˈトゥ [ˈja:muˈtu](本家) と言うのが普通。ˈウイヌˈ　ウˈガンˈマー　ムˈトゥˈウガンツォー [ˈʔuinuˈ ʔuˈgamˈma: muˈtuˈʔugantso:](上の御願 < 友利御嶽 > は本(モト)御願だそうだ)。2木の根や幹。根本。ˈスラ [ˈsura](梢) に対する根元の義。ˈキーˈヌ　ˈニーˈムトーラ　ˈコーシˈバ [ˈki:ˈnu ˈni:ˈmuto:ra ˈko:ʃiˈba](木の根っこから引き抜きなさい)。ˈキーˈヌ　ˈムトーラ　ˈキシバ [ˈki:ˈnu ˈmuto:ra ˈkiʃiba](木の根幹部 < 根元 > から切りなさい)。3以前 < 元 >。ムˈトゥˈヌ　ˈヤーˈヤ　ˈクーˈシティ　ˈカーˈラヤー　スˈクルˈタツォー [muˈtuˈnu ˈja:ˈja ˈku:ˈʃi̥ti ˈka:ˈraja: su̥ˈkuruˈtatso](以前 < 元 > の家を取り壊して瓦葺の家を造ったそうだ)。ˈアブジェー　ˈムトー　ˈコーˈチョーシンシー　ヤˈローッˈタ [ˈʔabuʤe: ˈmuto: ˈko:ˈʧo:ʃiŋʃi: jaˈro:tˈta](お祖父さんは以前 < 元 > は校長先生であられた)。**(2)**【助数】植物や柱、箸など、棒状の細長いものを数える単位。本。プˈスムˈトゥ [pu̥ˈsumuˈtu](一本)。フˈタムトゥ [ɸu̥ˈtamutu](二本)。ˈゴーナˈキー　ˈミームトゥˈ　イˈビˈ　シケー [ˈgo:naˈki: ˈmi:mutuˈ ʔiˈbiˈʃi̥ke:](桑の木三本植えてある)。

ムˈトゥˈウガン [muˈtuˈʔugaŋ] 【名】友利御嶽。「本御願」の義。神職者のサˈカサ (司) やティジリビー (男性神職者) はˈムトゥ [ˈmutu](本御願) を多用されるが、一般の人は、ˈウイヌˈウガン [ˈʔuinuˈʔugaŋ](上の御願) というのが普通。『琉球国由来記』(1713 年。王府編) に「友利御嶽」と記録されており、神歌などでは「トゥムル」(友利御嶽) と歌われている。

ムˈトゥˈガヤー [muˈtuˈgaja:] 【名】茅葺屋根の下にある古い茅。「元茅」の義か。ムˈトゥガヤーˈヤ　ウˈラサンˈドーシ　ウˈヌ　ウイラ　ミーガヤーバˈ　カˈバˈシティ　フˈキˈバ [muˈtugaja:ˈja ʔuˈrasanˈ do:ʃi ʔuˈnu ʔuira mi:gaja:baˈ kaˈbaˈʃi̥ti ɸu̥ˈkiˈba](古い茅は屋根から下ろさないで、その上から新しい茅を被せて葺きなさいよ)。

ムˈトゥˈキン [muˈtuˈkiŋ] 【名】1元金。資本金。起業の元手。ムˈトゥキンˈヌ　ˈナーンˈカー　アˈキナイˈヤー　ナˈラˈヌ [muˈtukinˈnu ˈna:ŋˈka: ʔaˈkinaiˈja: naˈraˈnu](元金が無いと商売は出来ない)。2金銭貸借時のがんきん (元金)。カˈルタ　ジンˈヌ　ムˈトゥキンˈトゥ　リˈシトゥ　アーˈシティ　ˈギューˈサ

パˈラウˀワ [kaˈruta ʤinˀnu muˈtukinˀtu riˈʃitu ʔaːˀʃi̥ti ˈgjuːˀsa paˈrauˀwa](借りた金の元金と利子と合わせて幾ら払うのか)。

ムˈトゥˀゴイ [muˈtuˀgoi] 【名】元肥。シˈブル [ʃiˈburu](冬瓜) やカˈブッチ [kaˈbutʧi](かぼちゃ < 南瓜 >) を植える前に敷き詰める堆肥。シˈキゴイ [ʃi̥ˈkigoi](堆肥 < 敷き肥 >) ともいう。シˈブルンˀ カˈブッチンˀ ムˈトゥˀゴイ シˈキゴイˀ イˈリランˀカー ˈミーラヌ [ʃiˈburuŋˀ kaˈbutʧiŋˀ muˈtuˀgoi ʃi̥ˈkigoiˀ ʔiˈriraŋˀkaː ˈmiːranu](冬瓜も南瓜も元肥、敷き肥 < 堆肥 > を入れないと実は大きく稔らない)。

ムˈトゥサカˀサ [muˈtusakaˀsa] 【名】友利御嶽の司 (神女)。ムˈトゥˀウガン [muˈtuˀʔugaŋ](本お願。本御嶽) のサˈカサ [sḁˈkasa](司。神女) の義。代々仲底家の血を引く女性の中から、神前で祈願してウˈクˀジ [ʔuˈkuˀʤi](「御籤(オクジ)」の義。神前に供えた米粒を組み合わせて神意を占(ウラナ)う儀式) をバˈリティ [baˈriti](割って。卜占(ボクセン)して) 決められたホ。1992 年現在、加治工千代氏がムˈトゥサカˀサ (本司) を勤めている。古老の記憶に残る大正期の本司はˈダイˀケヌ アッパー [ˈdaiˀkenu ˀʔappaː](大工家のお祖母さん。大工ヨボシ氏。加治工家の血を引く。子宝に恵まれなかったので、後に加治工家の三女を養女に入れた。この人が大工定市氏の妻、大工良氏である) である。昭和初期には、花城家の血を引く、シˈマフˀケヌ ˀアッパー [ʃiˈmaɸuˀkenu ˀʔappaː](島袋家のお祖母さん。加治工家から仲底家へ嫁した女性と同じ血を引く女性が花城家に嫁した人の血を引くといわれている) が司を勤められた。昭和十年代から戦後の昭和三十年代の終わりごろまでは、仲底家の血を引く、フˈクˀマレーヌ ˀアンマー [ɸu̥ˈkuˀmareːnu ˀʔammaː](友利家のお母さん < 友利米氏 >) がその神職にあり、昭和四十年頃から昭和六十年頃までは加治工家の血を引く、加治工千代氏がその神職にあった。ムˈトゥサカサˀヌ ˀヤーナ サˈカサンˀケー アˈツァˀマローリティ ˈカンピューˀル キˈザルキザルヌ ピュールˀ クˈローッˀタ [muˈtusakasaˀnu ˀjaːna sḁˈkasaŋˀke: ʔaˈtsaˀmaroːriti ˈkampjuːˀru kiˈʤarukiʤarunu pjuːruˀ kuˈroːtˀta](本司の家に司の方々が集まられて、神行事の日程 < 日和 > を定め <繰(ク)> られた)。「女司 初代 西加治工モヤ、大工ユブシ、島袋マカト、兼久トナマ、大工ユブシ、友利米、加治工千代、通事ハル、鳩間アキ。テジリビ 初代 友利津久利、兼久宜舎、兼久伊佐、兼久屋真、兼久宜佐、兼久三戸、米盛富太郎。テジリビは昔から友利家の血統から送り出され、神ツカサは加治工家から出ることになっている」『蒲葵の下で』(田代浩著)。

ムˈトゥザリ [muˈtuʤari] 【名】根元から枯れる事。樹木などが根元から枯れること。クˈヌ キーˀヤ ッˈサールˀヌ ˈペーˀリティ ムˈトゥザリ シーベー [kuˈnu kiːˀja sˈsaːruˀnu ˈpeːˀriti muˈtuʤari ʃiːbeː](この樹木は白蟻が入って根元から枯れている)。「元枯れ」の義。チˈカˀグロー ムˈトゥザリ スーˀ マˈチˀヌ ˈゴーˀラー ˀナリ ˀキー ˈブーバント ナー [ʧi̥ˈkaˀguroː muˈtuʤari suːˀ maˈʧiˀnu ˈgoːˀraː ˀnari ˀki: ˈbuːbanˊnaː](近頃は立ち枯れする松が増えて < 多くなって > きているんだねえ)。

ムˈドゥˀシ [muˈduˀʃi] (1) 【名】つりせん (釣銭)。ヒャˈクˀエン ンˈザˀスカー ムˈドゥˀシェー ˈギューˀサ ナˈルˀワ [çaˈkuˀeŋ ʔnˈʤaˀsukaː muˈduˀʃeː ˈgjuːˀsa naˈruˀwa](百円出したらお釣りは幾らになるか)。**(2)** 【助数】回。度。ムˈドゥˀシ [muˈduˀʃi](戻し。動作を元へ戻す < 往復する > イメージを伴う) の転訛したもの。同じ行為を繰り返すことを表す単位。ˈケーˀラ [ˈkeːˀra](回。度。「返り」の類義語)。ˈケーˀラ [ˈkeːˀra] には、何度も試みる前向きの語感が伴う。プˈスムドゥˀシ フˈタムドゥシェーˀ ムˈドゥˀシティ ˈウンダˀ キˈミルバンˀ ミサン [pu̥ˈsumuduˀʃi ɸu̥ˈtamuduʃeːˀ muˈduˀʃi̥ti ˈʔundaˀ kiˈmirubamˀ misaŋ](一回二回は差し戻して、それから決めてもよい)。

ムˈトゥˀシゥカイ [muˈtuˀsi̥kai] 【名】本採用。本雇ホンヤトィ。イˈチンバーˀキン ˀギシ ˀナリ ブˈラーンドーˀシ ムˈトゥˀシゥカイ ˀナシー ッˈふォーˀル ˀクトー ナˈランˀカヤー [ʔiˈʧimbaːˀkiŋ ˀgiʃi ˀnari buˈraːndoːˀʃi muˈtuˀsi̥kai ˀnaʃiː fˈfoːˀru ˀku̥toː naˈraŋˀkajaː](いつまでも下男 < 下司 > になっていないで、本雇にして下さる事は出来ませんか < 本雇 < 本採用 > にしていただけませんか > ねえ)。

ムˈトゥˀシン [muˈtuˀʃiŋ] 【名】もとで (元手)。資本金。ムˈトゥシンˀヌ アˈリバˀル カˈツシンヌˀ ワザン シˈラリˀツォー [muˈtuʃinˀnu ʔaˈribaˀru kḁˈtsuʃinnuˀ waʤaŋ ʃiˈrariˀtsoː](元手があって始めて < あればぞ > カツオ漁業の事業もできるそうだ)。

ムˈドゥˀスン [muˈduˀsuŋ] 【他動】1戻す。返す。ムˈトゥˀヌ ˀトンナー ムˈドゥˀスンティ ˈスンドゥ グッふァˀヌ ムˈドゥサラˀヌ [muˈtuˀnu ˀtonnaː

muˈdu˥sunti ˈsundu guffa˥nu muˈdusara˥nu](元の所に戻そうとするが、重くて戻されない)。ムˈドゥ˥シ　˥ミサカー　ムˈドゥ˥ス　˥クトー　˥ナルン [muˈdu˥ʃi ˥misaka: muˈdu˥su ˥kʉto: ˥naruŋ](戻してよければ戻すことはできる)。ムˈドゥ˥シェー　˥ミサムヌ [muˈdu˥ʃe: ˥misamunu](戻せばよいのに)。ˈパー˥ク　ムˈドゥ˥シバ [ˈpa:˥ku muˈdu˥ʃiba](早く戻せよ)。²へどを吐く。嘔吐(オウト)する。ッˈふァイヤー˥　ムノー　ムーˈル˥　ムˈドゥ˥シ　ˈナー˥ヌ [fˈfaija:˥ muno: mu:ˈru˥ muˈdu˥ʃi ˈna:˥nu](食べたものを全部戻して＜嘔吐して＞しまった)。

ムˈトゥ˥ダイ [muˈtu˥dai]【名】原価。「元値(モトネ)」の義。マˈチヤーヌ˥　シˈナムヌ˥　ムˈトゥ˥ダイシ　ˈカース˥カー　ˈモー˥ケー　ンˈジラ˥ヌ [maˈtʃija:nu˥ ʃiˈnamunu˥ muˈtu˥daiʃi ˈka:su˥ka: ˈmo:˥ke: ʔnˈʤira˥nu](店の品物を原価で売ったら儲けは出ない)。

ムˈトゥドーリ [muˈtudo:ri]【名】根絶すること。根絶(ネダ)やしになること。「本倒れ」の義。ˈニー˥ヌ　˥ッサルカー　ˈキー˥ヤ　ムˈトゥドーリ　シース [ˈni: ˥nu ˥ssaruka: ˈki:˥ja muˈtudo:ri ʃi:su](根が腐れると木は根絶やしになる＜本倒れする＞)。

ムˈトゥドーリヤー [muˈtudo:rija:]【名】絶家。後継者の絶えた家。「本倒れ家」の義。ˈウン˥ネーヤ　˥アトゥシギヌ　ブˈラーン　ベー˥ティ　ムˈトゥドーリヤー˥　ナリ　ˈナー˥ヌ [ˈʔun˥ne:ja ˥ʔatuʃiginu buˈra:m be:˥ti muˈtudo:rija:˥ nari ˈna:˥nu](あの家は跡継ぎがいないので絶家＜本倒れ家＞になってしまった)。

˥ムトゥドゥール [˥mutudu:ru]【名】元通り。以前と同じ状態。ヤˈブ˥レーン　˥トンマー　˥ムトゥドゥール　ˈノー˥シ　シˈキ˥リバ [jaˈbu˥re:n ˥tomma: ˥mutudu:ru ˈno:˥ʃi ʃiˈki˥riba](破れ＜壊れ＞た所は元通りに直しておきなさいよ)。

ムˈトゥ˥ナー [muˈtu˥na:]【名】本縄。鱶釣り用のカˈシ˥ナー [kaˈʃi˥na:] で、海底に沈める本縄。両端に50キロの石を結わえ、中心点が海面に届くように撓(タワ)め、更にウˈキナー (浮き縄) を結わえて約3メートルの孟宗竹の浮きに結び、ムˈトゥ˥ナーを海底に沈める。ムトゥナーの片側に2本の枝縄を結び、釣り針には亀の手足、イルカの肉、猫などを掛けておいた。ムˈトゥ˥ナーナー　ユˈダナーン　ユームトゥナー　パー˥シティ　˥マヤンドーレーバ　ˈムン˥ダネー　ˈシール˥　サˈバー　ホーシ˥タ [muˈtu ˥na:na: juˈdana:ŋ ju:mutuna: pa:˥ʃi˥ti ˥majando:re:ba ˈmun˥dane: ˈʃi:ru˥ saˈba: ho:ʃi˥ta](本縄も4本ずつ出し＜延(ハ)え＞て、猫などを餌にして鱶を釣られた)。

ムˈトゥナカン˥テー [muˈtunakan˥te:]【名】屋号。空屋敷だが、仲本家の本屋敷といわれている。「本仲本家」の義。[muˈtu・nakan˥tuja:] → [muˈtunakan˥te:] と音韻変化したもの。

˥ムトゥナル [˥mutunaru]【名】もとなり (本生り)。植物の蔓や幹の、根に近いほうになる実。˥スラナル [˥suranaru](うらなり＜末生(ウラナ)り＞) の対義語。カˈブッチン˥　シˈブルン˥　ムトゥナルンドゥ　˥ナローˈマイ˥ヤˈダー [kaˈbuttʃiŋ˥ ʃiˈburum˥ mutunarundu ˥naro: ˈmai˥jaˈda:](南瓜も冬瓜も本成りが実は大きいんだよ)。

ムˈトゥ˥ニー [muˈtu˥ni:]【名】主根。地中へ真っ直ぐに伸びた植物の根。「元根」の義。ˈパイ˥ニー [ˈpai ˥ni:](支根＜延根(ハイネ)＞) の対義語。フˈクン˥　ヤˈラボー˥　ムˈトゥニー˥ル　ˈスー˥ワンドゥ　ガˈジ˥マロー　ˈパイニー˥ル　ˈスー˥ワ [ɸʉˈkuŋ˥ jaˈrabo:˥ muˈtu-ni:˥ru ˈsu:˥wandu gaˈʤi˥maro: ˈpaini:˥ru ˈsu:˥wa](福木やテリハボク＜ヤラブ＞は主根が強いが、ガジマル＜榕樹＞は支根が強い)。

ムˈトゥ˥バキ [muˈtu˥baki]【名】株分け。根株を分けること。「元分け」の義。˥ビラン　シˈビラン˥　ムˈトゥ˥バキ　ˈシー˥　イˈババル˥＜イˈビバル˥＞　サˈカルㅏツォー [˥biraŋ ʃiˈbiram˥ muˈtu˥baki ˈʃi:˥ ʔiˈbabaru˥＜ʔiˈbibaru˥＞ saˈkaruㅏtso:](にら＜韮＞も、ねぎ＜葱＞も株分けして植えたららばこそ繁茂＜栄える＞するんだよ)。

ムˈトゥ˥バ　˥シー [muˈtu˥ba ˥ʃi:]【連】基にして。基本にして。アー˥パーレー　キューヌ　ピー˥バ　ムˈトゥ˥バ　ˈシー [ʔa:ˈpa:re: kju:nu pi:˥ba muˈtu˥ba ˈʃi:](ああ、嬉し。今日の佳き日を基にして)(アーパーレー歌)。

ムˈトゥ˥ビライ [muˈtu˥birai]【名】古い付き合い。親しい交際。親密な交際。ˈウッツァ˥トー　ムˈトゥ˥ビライ　ˈシー˥　ケール　˥ナカ　ヤˈルンダ˥　ウナー　ノー˥ン˥　カˈク˥シ　˥ユクシェー　ˈナー˥ヌ [ˈʔuttsa˥to: muˈtu˥birai ˈʃi:˥ke:ru ˥naka jaˈrunda˥ ʔuna: no:ˈŋ˥ kaˈku˥ʃi ˥jukuʃe: ˈna:˥nu](彼らとは古い付き合い＜親密な交際＞をしてきた仲だから、そこには何にも隠し事や嘘偽(ウソイツワリ)ごとはない)。

ムˈトゥ˥ブ [muˈtu˥bu]【名】地名。沖縄本島北部の本部町字本部。パˈトゥマ˥ヌ　カˈツシンマー˥　ムˈトゥ˥ボーラ　ˈプーシンバ˥　ムˈトーリ˥ル　パˈジモーッ˥タツォー [paˈtuma˥nu kaˈtsuʃimma:˥ muˈtu

ˀboːra ˈpuːʃimbaˀ muˈtoːriˀru paˈʤimoːtˀtatsoː](鳩間島のカツオ漁船は、本部から帆船を持ってこられて始められたそうだ)。

ムˈトゥミˀルン [muˈtumiˀruŋ] 【他動】求める。手に入れようとして探す。欲しがる。「〜さ山田の翁が其の日に母等米＜モトメ＞安波受家牟。万、4015」の転訛したものか。ˀザイサン　ムˈトゥミˀルンティ　パˈタラキ　ベーンˀドゥ　ムˈトゥミランˀサー [ˀʤaisam muˈtumiˀrunti pḁˈraki beːnˀdu muˈtumiranˀsaː](財産を求めようとして働いているが、求められないよ)。ムˈトゥミ　ヤッˀサー　ˀトンナーティル　ムˈトゥミˀル　ˀクトー　ˀナル [muˈtumi jasˀsaː ˀtonnaːtiru muˈtumiˀru ˀku̥toː ˀnaru](求めやすい所でこそ求めることはできるものだ)。ˈマーˀビン　ムˈトゥミˀレー　ˀミサムヌ [ˈmaːˀbim muˈtumi ˀreː ˀmisamunu](もっと求めればよいのに)。ˈパーˀク　ˀザイサン　ムˈトゥミˀリ [ˈpaːˀku ˀʤaisam muˈtumiˀri](早く財産を求めなさい)。

ˀムトゥムトゥ [ˀmutumutu] (1)【名】もともと (元元)。本来。元来。イˈリクヌティーˀヌ　ˀムトゥムトゥヌ　イˈメーˀ　イˈレコノ　フエˀティ　ˈスーˀ　イˈミˀダー [ʔiˈrikunutiːˀnu ˀmutumutunu ʔiˈmeːˀ ʔiˈrekono ɸueˀti ˈsuːˀ ʔiˈmiˀdaː](ˈイリクヌティー」の本来の意味は、「入子の笛」という意味だよ)。 **(2)**【副】もとから。はじめから。ˀクマー　ˀムトゥムトーラ　ˈバンˀテヌ　ˈヤシˀキˈダー [ˀkumaː ˀmutumutoːra ˈbanˀtenu ˈjaʃiˀkiˈdaː](ここは始めから私の家の屋敷だよ)。

ムˈトゥˀムラ [muˈtuˀmura] 【名】本村。昔からの村。ムˈトゥˀムラー　ヤˈマˀヌ　ˈウイナーˀル　ˈアッˀタツォー [muˈtuˀmuraː jaˈmaˀnu ˈʔuinaːˀru ˈʔatˀtatsoː](本村は山の上にあったそうだ)。

ムˈトゥˀムン [muˈtuˀmuŋ] 【名】求める。手に入れようとして探す。欲しがる。「求め。下二段活用」の四段活用化したもの。プˈソー　ジンカニˀヌ　ˀアルカー　ˀザイサン　ムˈトゥˀムンティ　ˈスンドゥˀ　バーヤ　ˀアイブー　ˀムノー　ムˈトゥマˀヌ [pu̥ˈsoː ʤiŋkaniˀnu ˀʔarukaː ˀʤaisam muˈtuˀmunti ˈsunduˀ baːja ˀʔaibuː ˀmunoː muˈtumaˀnu](人は金があれば財産を求めるというが、私はあんなものは求めない)。ムˈトゥミˀ　グˈリˀサラバン　マˈナˀマ　ムˈトゥˀム　プˈスルˀ　カチˈダー [muˈtumiˀ guˈriˀ sarabam maˈnaˀma muˈtuˀmu pu̥ˈsuruˀ kḁtʃiˈdaː](求め辛くても今求める人が勝ちだ)。ˀプサカー　ˀドゥーシ　ムˈトゥˀメー　ˀミサムヌ [ˈpu̥sakaː ˀduːʃi muˈtuˀmeː ˀmisamunu](欲しければ自分で求めればいいのに)。ˈマーˀビン　ムˈトゥˀミ [ˈmaːˀbim muˈtuˀmi](もっと求めよ)。

ムˈトゥˀヤー [muˈtuˀjaː] 【名】本家。おおもとになる家。ˈヤーバカˀリ [ˈjaːbakaˀri](分家) の対義語。ˈバンˀテーヤ　ムˈトゥˀヤー　ヤˈルンダˀ　キˈザロー　スーˀワンˈダー [ˈbanˀteːja muˈtuˀjaː jaˈrundaˀ kiˈʤaroː suːˀwanˈdaː](私の家は本家だから伝統行事が多く厳しいよ)。

ムˈドゥリˀティダ [muˈduriˀtida] 【名】真夏の午後2時頃の厳しい暑さ。真昼時を過ぎて暑さが一段と増した炎熱(エンネツ)。「戻り太陽」の義。ナˈチヌˀ　ムˈドゥリティダˀヌ　ˀアツァー　ˈプーマキティˀ　ンˈブサリンギサˀル。アˈツァˀヌ　フˈシガラˀヌ [naˈtʃinuˀ muˈduritidaˀnu。ˀʔatsaː ˈpuːmakitiˀ ʔmˈbusariŋgisaˀru ʔaˈtsaˀnu ɸu̥ˈʃigaraˀnu](真夏の午後2時頃の暑さの厳しさは、熱気をおびて＜ほめいて・熱いて＞、蒸されそうだ。暑くて堪(タマ)らない)。

ムˈドゥリˀミチ [muˈduriˀmitʃi] 【名】帰途。帰り道。「戻り道」の義。パˈタˀケーラヌ　ムˈドゥリˀミチ　パˈタキˀヌ　ˀアザナー　ˈバンスルˀヌ　ˈウーˀミタリ　ˈベーˀタ　ˈベーˀティ　ˀブリ　ˈクータˀル [pḁˈtaˀke:ranu muˈduriˀmitʃi pḁˈtakiˀnu ˀʔaʤanaː ˈbansuruˀnu ˈʔuːˀmitari ˈbeːˀta ˈbeːˀti ˀburi ˈkuːtaˀru](畑からの帰り道に畑の畦にグヮバ＜蕃石榴＞が完熟していたので、もい＜捥い＞できたよ)。

ムˈドゥˀル [muˈduˀru] 【名】帰り。「戻り」の義。「Modori. モドリ (戻り) 帰り」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ムˈドゥˀルン [muˈduˀruŋ](戻る) の連用形、ムˈドゥˀリ [muˈduˀri](戻り) からの転成名詞。ˈパイˀターヌ　ˈギームドゥル [ˈpaiˀtaːnu ˈgiːmuduru](西表＜南端＞への往来＜行き戻り＞)。ˈパイˀターラヌ　ムˈドゥˀロー　ˈチャーˀ　タˈムˀヌ　ˀキシティ　ˀイダフネーラ　ˈヌーシ　オーッˀタン [ˈpaiˀtaːranu muˈduˀroː ˈʧaːˀ taˈmuˀnu ˀki̥ʃiti ˀʔidaɸuneːra ˈnuːʃi ʔoːtˀtaŋ](南端からの帰りは、いつも薪を伐って板舟＜サバニ＞から積んで来られた)。

ムˈドゥˀルン [muˈduˀruŋ]【自動】戻る。元のところへ帰る。回復する。ˀキューズーナ　ムˈドゥˀルンティ　シˈタンドゥˀ　シˈグトゥˀ　トゥˈズミランˀベーティ　ˈキューˀヤ　ムˈドゥラˀヌ [ˀkjuːʤuːna muˈduˀrunti ʃi̥ˈtanduˀ ʃiˈgutunuˀ tuˈʤumiraramˀbeːti ˈkjuːˀja muˈduraˀnu](今日中に戻るといったが、仕事が終えられないので、今日は戻らない)。ムˈドゥˀリ　ˀミサカー　ユネンˈバーˀキナ　ムˈドゥˀル　ˀ

クトー　⌝ナルン [mu⌜du⌝ri ⌝misaka: junem⌜ba:⌝kina mu⌜du⌝ru ⌝ku̥to: ⌝naruŋ](戻ってよければ、夕方までには戻ることはできる)。⌜マー⌝ビン　⌜パイ⌝サ　ム⌜ドゥ⌝レー　⌝ミサムヌ [⌜ma:⌝bim ⌜pai⌝sa mu⌜du⌝re: ⌝misamunu](もっと早くに戻ればいいのに)。⌜ワー⌝　ヤー⌜ディン⌝　キュー　ム⌜ドゥ⌝リ [⌜wa:⌝ ja:⌜diŋ⌝ kju: mu⌜du⌝ri](君は必ず今日戻れ)。

⌝ムトゥン [⌝mutuŋ] (1)【他動】**1**持つ。所持する。「〜み籠母乳＜モチ＞〜万 1。〜手に巻き母知弖＜モチテ＞〜万 3993」の転訛したもの。カ⌜ロー⌝　ムノーラ　⌝ティーナ　⌝ムトゥンティ　⌜スンドゥ　グッふァ⌝ヌ　ム⌜タラ⌝ヌ [ka⌜ro:⌝ muno:ra ⌝ti:na ⌝mutunti ⌜sundu guffa⌝nu mu⌜tara⌝nu](軽い物から手に持とうとするが、重くて持て＜持たれ＞ない)。⌝バー　⌝ムティミサカー　⌝ムトゥ　⌝クトー　⌝ナルン [⌝ba: ⌝mutimisaka: ⌝mutu ⌝kuto: naruŋ](私が持ってよければ持つことはできる)。⌜マー⌝ビン　⌝ムテー　⌝ミサムヌ [⌜ma:⌝bim ⌝mute: ⌝misamunu](もっと持てばよいのに)。ク⌜レー　ワー⌝　ムティ [ku⌜re: wa:⌝ muti](これは君が持て)。ブ⌜トゥ⌝　ムトゥン [bu⌜tu⌝ mutuŋ](嫁ぐ＜夫を持つ＞)。**2**治める。支配する。シ⌜マム⌝チ　⌜ユームチ [ʃi⌜mamu⌝tʃi ⌜ju:mutʃi](島を治める人。部落会長＜島持ち、世持ち＞)。⌜スー⌝タイ　⌝ムトゥン [⌜su:⌝tai ⌝mutuŋ](所帯を持つ)。**3**負担する。ク⌜リヌ　ダイヤー⌝　バー　⌝ムトゥン [ku⌜rinu daija:⌝ ba: ⌝mutuŋ](これの代金は私が負担する＜持つ＞)。**4**妊娠する。ブ⌜ネー⌝　ッ⌜ふァ⌝　ナシティ　⌜トゥーシキル⌝　ナ⌜ルン⌝ドゥ　キサー⌜ティ⌝　ム⌜ティ⌝ブー　⌝アイ　ヤ⌜レー⌝ティル　ク⌜ヌ⌝　ッ⌜ふァー　ウシトゥマ⌝キ　⌜シーブー [bu⌜ne:⌝ f⌜fa⌝ naʃiti ⌜tu:ʃikiru⌝ na⌜run⌝du kisa:⌜ti⌝ mu⌜ti⌝bu: ⌝ʔai ja⌜re:⌝tiru ku⌜nu⌝ f⌜fa: ʔuʃituma⌝ki ʃi:bu:](母親は出産して十月しかならない＜十月がなる＞が、既に妊娠している。それでこの子は弟負け＜おとみづわり。弟見悪阻＞して痩せているのだ)。 **(2)**【自動】保つ。持続する。⌜ジュー⌝ネン　⌝ムトゥン [⌜ʤu:⌝nem ⌝mutuŋ](十年間持つ)。ア⌜チ⌝ツァー　イ⌜チニン⌝＜プ⌜ス⌝トゥシ＞　ム⌜タ⌝ヌ [ʔa⌜tʃi⌝tsa: ʔi⌜tʃinim⌝ ＜pu⌜su⌝tuʃi＞ mu⌜ta⌝nu](下駄は一年持たない)。ウ⌜ヌ　キン⌝マー　⌜ナームティ⌝　サ⌜ヌ [ʔu⌜nu kim⌝ma: ⌜na:muti⌝ sa⌜nu](この着物は長持ちしない)。ウ⌜レー⌝　エン⌜バー⌝ケー　ム⌜タ⌝ヌ [ʔu⌜re:⌝ jem⌜ba:⌝ke: mu⌜ta⌝nu](これは来年までは持たない)。

⌝ムドゥン [⌝muduŋ]【他動】捻《ネジ》る。ひねる。⌜シン⌝ダシ　フ⌜バリティ⌝　ムディティ　シ⌜ミ⌝リバ [⌜sin⌝daʃi ɸu⌜bariti⌝ muditi ʃi⌜mi⌝riba](針金で縛って捻《ヒネ》って引き締めなさい)。⌜ペン⌝チシ　ア⌜ラン⌝カー　ム⌜ダラ⌝ヌ [⌜pen⌝tʃiʃi ʔa⌜raŋ⌝ka: mu⌜dara⌝nu](ペンチでないと捻じられない)。ムディ⌜シェー⌝カー　ムディバ [mudi⌜ʃe:⌝ka: ⌝mudiba](捻じることができたら＜捻じれるなら＞捻じれよ)。⌜マー⌝ビン　⌝ムデー　⌝ミサムヌ [⌜ma:⌝bim ⌝mude: ⌝misamunu](もっと捻じればいいのに)。

⌝ムナイ [⌝munai]【名】妊婦が何かに感応して胎児に影響を与えること。「物肖《ア》え」の転訛か。「肖、似也、アユ・アエタリ」『色葉字類抄』の転訛したもの。パ⌜ルミ⌝プソー　ウ⌜ティンガビ⌝ヌ　カ⌜ビ⌝　ヤ⌜ク⌝　ピー、　パ⌜カヌ⌝　フ⌜タ⌝　ア⌜ク⌝　ムヌ　⌝ミルカー　⌝ムナイ　⌜スン⌝ティ　ア⌜ザリブー⌝ダー [pa⌜rumi⌝pu̥so: ʔu⌜tiŋgabi⌝nu ka⌜bi⌝ ja⌜ku⌝ pi:、pḁ⌜kanu⌝ ɸu̥⌜ta⌝ ʔa⌜ku⌝ munu ⌝miruka: ⌝munai ⌜sun⌝ti ʔa⌜ʥari bu:⌝da:](妊婦は紙銭＜打ち紙＞の紙を焼く火、墓の蓋を開けるものを見ると胎児に感応して兎唇《トシン》になったり、顔面に赤い痣《アザ》がでるといわれているよ)。

⌝ムニ [⌝muni]【名】**1**ことば(言葉)。「賢しみと物言従者＜モノイフ＞よりは〜。万、341」の連用形、「モノイヒ(物言ひ)」より転訛したもの。⌝ムニ　イ⌜ズン [⌝muni ʔi⌜ʥuŋ](ものを言う＜話す＞)。⌝ムニ　⌜ヤー⌝ラーン [⌝muni ⌜ja:⌝ra:ŋ](言葉が優しい＜言葉が柔らかい＞)。⌝ムニ　⌜コー⌝ン [⌝muni ⌜ko:⌝ŋ](言葉が厳しい＜言葉が硬い。〜が強い＞)。⌝ムネー　チ⌜チシメー⌝ティ　イ⌜ジ⌝ヨー [⌝mune: tʃi̥⌜tʃiʃime:⌝ti ʔi⌜ʤi⌝jo:](言葉は慎み深くいいなさいよ)。**2**地名や国名に付いて、その国語、方言を表す。パ⌜トゥ⌝マムニ [pḁ⌜tu⌝mamuni](鳩間方言)、イ⌜サナキムニ [ʔi⌜sanakimuni](石垣方言)、⌜ヤイマムニ [⌜jaimamuni](八重山方言)、ウ⌜キナー⌝ムニ [ʔu⌜kina:⌝muni](沖縄方言)、イ⌜ツマン⌝ムニ [ʔi⌜tsumam⌝muni](糸満方言)。ヤ⌜マトゥ⌝ムニ [ja⌜matu⌝muni](大和言葉。日本語)。⌝トームニ [⌝to:muni](中国語)。ウ⌜ランタ⌝ムニ [ʔu⌜ranta⌝muni](英語。「オランダ語」の義で、西洋の外国語一般を表す)。

ム⌜ニアギ [mu⌜niʔagi]【名】棟上。「棟上、ムネアゲ、家の祝」『文明本節用集』の転訛。家屋建築の過程で、ナ⌜カ⌝バラー [na⌜ka⌝bara:](大黒柱＜中柱＞)を立て、⌝ムヤーバラー [⌝muja:bara:](母屋柱)を立てて、⌝キタ [⌝ki̥ta](桁材)を架けて棟木を上げる。ン⌜ニギー [ʔn⌜nigi:](棟木)には「天官賜福紫微鑾駕」と墨書し、ピ⌜ル [pi⌜ru](大蒜)と塩を包んでそれに

吊るす。棟上式は、潮の満ち時に合わせて行う。中柱の上と四隅のムヤーバラーの上には紅白の餅を供えて棟梁と家主が祈願する。祈願が終わると家主と棟梁が屋根から餅撒きをする。子供たちや村人たちが餅を拾いに集まってくる。福招きの行事だと言われている。ˈバンˀテヌ　ウˈブˀヤー　ムˈニアギ　ソーッˀタ　ˀバス　ˈイットゥˀヌ　ムˈチ　ポーローッˀタンツォー [ˈbanˀtenu ʔuˈbuˀja: muˈniʔagi so:tˀta ˀbasu ˈʔittuˀnu muˈʧi po:ro:tˀtantso:](私の家の棟上式には、一斗の糯米で作った餅を撒かれたそうだ)。

ˀムニ　アˈザˀケーン [ˀmuni ʔaˈʤaˀke:ŋ] 【連】言葉遣いが美しい。言葉遣いが上品である。「言葉が清潔である」の義。ミˈドーンˀッふァーˀ　ムネー　アˈザケーアザケーˀシ　アˈジバルˀ　プˈスンˀ　カˈナˀサ　シˈラリト ダー [miˈdo:ŋˀffa: ˀmune: ʔaˈʤake:ʔaʤake:ˀʃi ʔaˈʤibaruˀ pu̥ˈsuŋˀ ʔaˈtaraˀsa ʃi ˈrariト da:](女の子は言葉遣いを丁寧に＜上品に＞言ったほうが世間の人から可愛がられるものだよ)。ムネー　アˈザˀケーンドゥ　フˈヨーˀヌ　ムシˈトゥˀ　シゥˈカーラヌ [ˀmune: ʔaˈʤaˀke:ndu ɸuˈjoːˀnu muʃi̥ˈtuˀ si̥ˈka:ranu](言葉遣いは上品だが怠け者だから、ちっとも使えない)。

ˀムニ　アˈラーˀン [ˀmuni ʔaˈra:ˀŋ] 【連】言葉遣いが荒い。言葉が荒っぽい。ウˈレーˀ　ムニ　アˈラーˀンダ　ナˈクラーンˀダー [ʔuˈre:ˀ muni ʔaˈra:ˀnda naˈkura:nˀda:](彼は言葉が荒いから怖いよ)。ˈワーˀ　ムネー　アˈラーˀティ　イˈザリ　ベーˀン　ˀカタチニル　シゥˈカリンダˀ　ヤーˈラヤーラˀシ　ˀムニ　イˈジˀバ [ˈwa:ˀ mune: ʔaˈra:ˀti ʔiˈʤari be:ˀŋ ˀkḁtatʃiniru si̥ˈkarindaˀ ja:ˈraja:raˀʃi ˀmuni ʔiˈʤiˀba](君の言葉は荒っぽいので、叱られているように聞こえるから、柔らかく話せよ)。

ˀムニ　イˈジカンティ [ˀmuni ʔiˈʤikanti] 【連】言いかねること。言いにくく感じること。言葉で表現しづらく感ずること。ˀシマムニ　ˈバシキティˀ　パˈトゥˀマムニシ　ˀムニ　イˈジカンティー　シーベー [ˀʃimamuni ˈbaʃi̥kitiˀ pḁˈtuˀmamuniʃi ˀmuni ʔiˈʤikanti ʃi: be:](方言を忘れて、鳩間方言で言いかねて＜言うことができないで＞いる)。

ムˈニイジホーˀル [muˈniʔiʤiho:ˀru] 【名】話の要領。要領のいい表現。気配りのきいたものの言い方。ウˈレーˀ　ムˈニイジホールˀヌ　ˈナーˀンダ　マーˈンˀナーティン　ノーˈンティンˀ　ムニ　イˈジティルˀ　プˈスン　ニッˀふァー　シˈラリ　ブート ダー [ʔuˈre:ˀ muˈniʔiʤiho:ruˀnu ˈna:ˀnda ma:ˈnˀna:tin no:ˈntimˀ muni ʔiˈʤitiruˀ pu̥ˈsun nifˀfa: ʃiˈrari bu:ト da:](彼は話の要領を心得ていないから、どこでも、何とでも物を言うから他人に憎まれているのだよ)。

ムˈニイジマーˀシ [muˈniʔiʤima:ˀʃi] 【名】ことばの表現。ものの言いよう。ものの言い表し方。「もの言い回し」の義。ムˈニイジマーシˀヌ　カチˈブンダˀ　ウˈリットーˀ　カˈナーˀヌ [muˈniʔiʤima:ʃiˀnu kḁʧiˈbundaˀ ʔuˈritto:ˀ kaˈna:ˀnu](ものの言いようが優れて＜勝って＞いるから、彼にはかなわ＜敵わ＞ない)。

ˀムニ　イˈズン [ˀmuni ʔiˈʤuŋ] 【連】物を言う。話す。しゃべる。ミˈドゥˀモー　ヤーˈラヤーラˀシル　ˀムネー　イˈズˀダー [miˈduˀmo: ja:ˈraja:raˀʃiru ˀmune: ʔiˈʤuˀda:](女は柔らかく物を言うんだよ)。/ムニイザバ　チチシミ　フチヌ　フカユ　イダスナヨー　イダシカラー　マタトゥ　フクミヤ　ナラヌ　デンサー/(もしも物を言うときは慎み深くして、簡単に口外するなよ。一旦口外した言葉は二度と口の中へ含み直すことはできないものだよ、真に)(上原のデンサー節)。

ˀムニ　ウˈムッˀサン [ˀmuni ʔuˈmusˀsaŋ] 【連】話が面白い。「物言いが面白い」の義。ウˈレー　サッˀコー　ˀムニ　ウˈムッˀサンダ　シˈキプリル　スート ツォー [ʔuˈre: sakˀko: ˀmuni ʔuˈmusˀsanda ʃi̥ˈkipuriru su:ト tso:](彼は話が面白いから、聞きほれするんですよ)。

ˀムニ　ˈカイˀヤン [ˀmuni ˈkaiˀjaŋ] 【連】話が上品である。言語表現が熟(コナ)れて美しい。言い回しが上品である。ユˈヌˀ　クトゥ　ヤˈルンドゥˀ　イˈサナキムニˀシ　アˈズˀカー　ˀムニ　ˈカイˀヤンダˈナー [juˈnuˀ ku̥tu jaˈrunduˀ ʔiˈsanakimuniˀʃi ʔaˈʤuˀka: ˀmuni ˈkaiˀjandaˈna:](同じことであるが、石垣言葉で言うと話＜物言い＞が上品だよねえ)。

ˀムニクトゥバ [ˀmunikṵtuba] 【名】言葉。発言。「言葉」の強調表現。ˀムニ [ˀmuni](言葉。「物言い」の義) とクˈトゥˀバ [ku̥ˈtuˀba](言葉。沖縄方言からの借用語) を重ねた強調表現。ˈワー　ドゥーˀヌˀ　ムニクトゥバナー　ˀユー　ˈキーˀ　シˈキランˀカー　ナˈラˀヌ [ˈwa: du:ˀnu ˀmunikṵtubana: ˀju: ˈki:ˀ ʃi̥ˈkiraŋˀka: naˈraˀnu](君は自分の言葉遣い＜発言＞によく気をつけないといけない)。

ˀムニ　ˈコーˀン [ˀmuni ˈko:ˀŋ] 【連】言葉遣いがきつい。言葉が厳しい。「言葉が硬い」の義。ˈコーˀムニ

[˩koː˥muni](厳しい言葉。喧嘩腰の物言い。「強(コワ)・物言い」の義) はその名詞形。ウ˩リヌ˥ ムネー ˩コー˥ンダ ッ˩サン˥ プ˩ソー˥ イ˩ザリ ブーティル˥ ウムー˩ツォー [ʔu˩rinu˥ mune: ˩koː˥nda s˩sam˥ pu̥˩soː˥ ʔi˩ʤari buːtiru˥ ʔumuː˩tsoː](彼の言葉は厳しい＜喧嘩腰の物言いだ＞から、知らない人は叱られているように思うんだよ)。

ム˩ニダー˥ラ マ˩ラクン [mu˩nidaː˥ra ma˩rakuŋ] 【連】おしゃべりをする。しゃべりまくる。「おしゃべりの詰まった俵を丸く」の義。ミ˩ドゥ˥モー ア˩ツァ˥マルカー ム˩ニダー˥ラ マ˩ラキティ˥ シ˩グトゥン バシキ ウー˥ク ˥スコー ア˩ラ˥ヌ [mi˩du˥mo: ʔa˩tsa˥maruka: mu˩nidaː˥ra ma˩rakiti˥ ʃi˩gutum baʃikiti ʔuː˥ku ˥su̥ko: ʔa˩ra˥nu](女性たちは集まるとおしゃべりに花を咲かせて仕事も忘れ、とても働くどころではない)。

ム˩ニッ˥カー [mu˩nik˥kaː] 【名】口論。言い争い。くちげんか (口喧嘩)。˥アガイヤー! ッ˩ふァイムヌヌ ユン˥シ ム˩ニッ˥カー ˩サンドー˥シ ˩マータキナー˥ バキティ ッ˩ふァイ˥バ [˥ʔagaijaː! f˩faimununu juŋ˥ʃi mu˩nik˥kaː ˩saŋdoː˥ʃi ˩maːtakinaː˥ bakiti f˩fai˥ba](ああ何と卑しいことよ! 食べ物の件で＜食べ物故に＞言い争い＜口喧嘩＞なんぞしないで、等分に分けて食べなさいよ)。

˥ムニナサキ [˥muninasaki] 【名】愛情のこもったことば。思い遣りのある言葉。「言葉の情け」の義。イ˩コーラ ニッ˥ふァータンティン イ˩ジシティル˥ ムニ ヤ˩ルムヌ˥ ムニナサキバ ˥カキ ッ˩ふィーラバル˥ ウヤテー ア˩ザリ˥ダー [ʔi˩koːra nif˥faːtantiŋ ʔi˩ʤiʃi̥tiru˥ muni ja˩rumunu˥ muninasakiba ˥kaki f˩fiːrabaru˥ ʔujate: ʔa˩ʤari˥daː](いくら憎たらしくても、言って捨てる言葉だもの、思い遣りのある言葉を掛けてやってこそ＜遣ればぞ＞親とはいえるものだよ)。

ム˩ニ˥ヌ イ˩ジヨー [mu˩ni˥nu ʔi˩ʤijoː] 【連】言葉の言い回し。言葉の綾。言葉の巧みな表現。「もの言いの言い様」の義。ム˩ニ˥ヌ イ˩ジヨー˥ティ ˩スームン˥ ア˩リ˥ブンダ イ˩ジマーシェー˥ ユー ˩カンガイ˥ヤーティ パ˩ナ˥シバ [mu˩ni˥nu ʔi˩ʤijoː˥ti ˩suːmuŋ˥ ʔa˩ri˥bunda ʔi˩ʤimaːʃeː˥ juː ˩kaŋgai˥jaːti pa˩na˥ʃiba](「言葉の言い様」というのがあるから、表現＜言い回し＞はよく考えて話しなさい)。

ム˩ニ˥ヌ ˩ゴー˥ラーン [mu˩ni˥nu ˩goː˥raːŋ] 【連】多弁である。口数が多い。言葉が多い。˩ワー˥ ム˩ニ˥ヌ ˩ゴー˥ラーンダ ア˩ザン˥タンティン ˥ミサ ム˩ヌ˥ナー ˥ムネー イ˩ズナ ワー˥ ムニ イ˩ズ˥カー ˩カイ˥テー シ˩ルッ˥コー ナ˩リ˥ス [˩waː˥ mu˩ni˥nu ˩goː˥raːnda ʔa˩ʤan˥tantim ˥misa mu˩nu˥naː ˥mune: ʔi˩ʤuna waː˥ muni ʔi˩ʤu˥kaː ˩kai˥teː ʃi˩ruk˥koː na˩ri˥su](君は口数が多いから、言わなくてもよいことには、物を言うな。君が言うと却って台無し＜ぶち壊し＞になる)。

ム˩ニ˥ヌ ˩サール [mu˩ni˥nu ˩saːru] 【連】くちぐせ(口癖)。話すときに、決まって言い添えることば(口癖)。「言葉の連れ」の義。ウ˩ヌ˥ プ˩ソー˥ ドゥーフミ ˩スームル˥ ム˩ニ˥ヌ ˩サール˥ ヤ˩ルンダ˥ ウヌムティ ˩カンガイ˥ヤーティ パ˩ナ˥シバ˩ヨー [ʔu˩nu˥ pu̥˩soː˥ duːɸumi ˩suːmuru˥ mu˩ni˥nu ˩saːru˥ ja˩runda˥ ʔunumuti ˩kaŋgai˥jaːti pa˩na˥ʃiba˩joː](その人は自慢＜胴褒め＞するのが口癖だから、その旨を心得てか＜考えながら＞ら話し合いなさいね)。

˥ムニ バ˩カ˥ヤン [˥muni ba˩ka˥jaŋ] 【連】言うことが可笑しい。しゃべり方が滑稽である。ウ˩レー サッ˥コー ˥ムニ バ˩カ˥ヤンダ ウ˩リトゥ˥ パ˩ナ˥スカー バ˩カヤ˥ヌ バ˩ライル˥ シ˩ラリル [ʔu˩re: sak˥koː ˥muni ba˩ka˥janda ʔu˩ritu˥ pa˩na˥su̥ka: ba˩kaja˥nu ba˩rairu˥ ʃi˩rariru](彼は言うことが非常に可笑しいから、彼と話すと可笑しくて笑わずにはおられない＜笑いぞされる＞)。

ム˩ニパヤー˥ン [mu˩nipajaː˥ŋ] 【形】早口である。話すことが早い。「言葉＜物言い＞早い」の義。フ˩チパヤー˥ン [ɸu̥˩ʧipajaː˥ŋ](口が早い。早口である) ともいう。ドゥ˩ク˥ヌ ム˩ニパヤーン˥ドゥ ムッ˩トゥ˥ シ˩キトゥララヌ [du˩ku˥nu mu˩nipajaːn˥du mut˩tu˥ ʃi̥˩kituraranu](あまりにも早口である＜物言いが早いので＞、ちっとも聞き取れない)。シ˩ダケー˥ ム˩ニパヤー˥テイ シゥ˩カランシェヌ˥ マ˩ナ˥マー ム˩ニパヤー ナー˥ヌ [ʃi˩dakeː˥ mu˩nipajaː˥ti si̥˩karaŋʃenu˥ ma˩na˥maː mu˩nipajaː naː˥nu](最初は早口で聞き取れなかったが、今は早口で＜物言いが早く＞ない)。˥アイニ ム˩ニパヤー˥(フ˩チパヤー˥) プ˩ソー˥ ブ˩ラーヌ [˥ʔaini mu˩nipajaː˥(ɸu̥˩ʧipajaː˥)pu̥˩soː˥ bu˩raːnu](あんなに口の早い＜早口の。物言いの早い＞人はいない)。

˥ムニ パ˩ヤー˥ン [˥muni pa˩jaː˥ŋ] 【連】幼児が早く話せるようになる。幼児の言語獲得が早い。「物言いが早い」の義。˥ムニ サ˩ラー˥ン [˥muni sa˩raː˥ŋ](物言いが早い＜言語獲得が早く、上手に話せる＞) ともいう。ク˩ヌ˥ ッ˩ふァー˥ イッ˩ケナ˥

ムニ　パ˩ヤー˥ン　˩トゥーシキル˥　ナ˩ルン˥ドゥ　キ˩サーティ˥　ムネー　イ˩ジル　ブー [ku˩nu˥ f˩fa:˥ ʔik˩kena˥ muni pa˩ja:˥ŋ ˩tu:ʃi̥kiru˥ na˩run˥du ki̥˩sa:ti˥ mune: ʔi˩ʤiru bu:](この子は非常に言葉が早い。早く話せるようになった＜言語獲得が早い＞。誕生して十月しかならない＜十月ぞなる＞のに、既に物を言って＜話して＞いる)。

˥ムニ　フ˩キルン [˥muni ɸu̥˩kiruŋ] 【連】歯が抜けていて言語音がきちんと調音できない。「言葉＜物言い＞が抜ける」の義。トゥ˩シ˥バ　トゥリ　˩パー˥ヌ　˩ナーン˥　ナ˩ローッ˥ター　ア˩ゾー˥ル　˥ムニン　フ˩キ˥パリティ　˥ヌーティル　ア˩ジオー˥ルユー　ア˩ティンガーラヌ [tu˩ʃi˥ba ˥turi ˩pa:˥nu ˩na:n˥ na˩ro:t˥ta: ʔa˩ʤo:˥ru ˥muniŋ ɸu̥˩ki˥pariti ˥nu:tiru ʔa˩ʤiʔo:˥ruju: ʔa˩tiŋga:ranu](年を取って歯が無くなったので、おっしゃる言葉＜発音＞も抜けていって、何と言っておられるのか見当がつかない)。

˥ムニ　˩ヤー˥ラーン [˥muni ˩ja:˥ra:ŋ] 【連】言葉遣いが上品である。言葉が穏やか＜しなやか＞である。「物言いが柔らかい」の義。˥アッパー　˥ムネー　˩ヤー˥ラーンダ　イ˩ゾーッ˥タンティン　ナ˩クラー　ナー˥ヌヌ　˥アブジェー　˥ムネー　˩コー˥ンダ　イ˩ゾー˥ルカー　ナ˩クラー˥ン [˥ʔappa: ˥mune: ˩ja: ˥ra:nda ʔi˩ʤo:t˥tantin na˩kura: na:˥nunu ˥ʔabuʤe: ˥mune: ˩ko:˥nda ʔi˩ʤo:˥ruka: na˩kura:˥ŋ](御祖母さんの言葉＜物言い＞は穏やかだからお叱(シカ)りになっても怖(コワ)くないが、お祖父さんの言葉は厳(キビシ)しい＜強い。硬い＞からお叱(シカ)りになる＜叱られる＞と怖(コワ)い)。

˥ムニ　ヤ˩ニ˥ヤン [˥muni ja˩ni˥jaŋ] 【連】言葉遣いが下品である。言葉遣いが粗暴(ソボウ)である。「言葉が汚い」の義。若年層は、˥ムニ　˩ヤン˥ヤン [˥muni ja˩ɲ˥jaŋ](言葉が汚い) という。ウ˩リヌ˥　ムネー　ヤ˩ニヤ˥ヌ　シゥ˩カラヌ [ʔu˩rinu˥ mune: ja˩nija˥nu si̥˩karanu](彼の言葉は汚くて聞くに堪(タ)えない＜聞かれない＞)。

˥ムニユマー [˥munijuma:] 【名】おしゃべり。口数の多い者。他人の噂話を言いふらしたり、陰口をたたく者。他人の悪口をいう者。˩ウンザー˥　ムニユマー　ヤ˩ルンダ˥　ウ˩リヌ˥　ミンナー　シゥ˩カレー˥ラー　˥シキンズー　ピ˩ルマリ˥ス [˩ʔunʤa: ˥ munijuma: ja˩runda˥ ʔu˩rinu˥ minna: si̥˩kare:˥ra: ˥ʃi̥kinʤu: pi˩rumari˥su](あいつはおしゃべりだから、彼の耳に聞かれたら世間中に広まるよ)。

ム˩ニユミ˥クナー [mu˩nijumik˥kuna:] 【名】口論。口喧嘩(クチゲンカ)。言い争い。「物言いくら＜競＞」の義。˩ヌー˥ヌ　˩ユン˥シ　ユ˩ミザーン˥ナリ　ム˩ニユミッ˥クナー　˩シー　ベー˥ワ [˩nu:˥nu ˩juŋ˥ʃi ju˩miʤa:n˥ nari mu˩nijumik˥kuna: ˩ʃi: be:˥wa](何故に嫁同士で言い争い＜口論＞しているのか)。

ム˩ニユミ˥ムヌ [mu˩nijumi˥munu] 【名】おしゃべり。口数の多い者。駄弁(ダベン)を弄(ロウ)する者。悪い感情の語感をもつ語。˥ムニユマー [˥munijuma:](おしゃべりな奴) は卑(ヒ)下(ゲ)した表現。ム˩ニユミムヌン˥マー　˩ミシゥカムネー˥　シゥ˩カスナ˥ヨー [mu˩nijumimunum ˥ma: ˩misi̥kamune:˥ si̥˩kasuna˥jo:](おしゃべりには秘密の話＜ないしょ話。みそか話＞はするなよ)。

˥ムニ　˥ユムン [˥muni ˥jumuŋ] 【連】1しゃべる。不平不満をいう。文句をいう。˩ウン˥ネヌ　ユ˩メー˥　フ˩チカンスル˥　ナリティ　˩サッ˥コー　˥ムニ　˥ユムンティ　ス˩クタヌ˥　ア˩スン˥ケン　˥ムニ　ユ˩マン˥ワー˩ン˥ノー [˩ʔun˥nenu ju˩me:˥ ɸu̥˩ʧikansuru ˥ nariti ˩sak˥ko: ˥muni ˥jumunti su̥˩kutanu˥ ʔa˩suŋ˥ kem ˥muni ju˩maŋ˥wa:˩n˥no:](あの家の嫁は厳しい口調で＜口剃刀になって主張する＞、ひどくしゃべる＜ひどく不平不満をいう＞と聞いたが、それほど文句を言わないではないか)。2喧嘩する。ヨー˩ヨー˥　プ˩スン˥ヤートー　˥ムニ　ユ˩ム˥ナ˩ヨー [jo:˩jo:˥ pu̥˩suɲ˥ja:to: ˥muni ju˩mu˥na˩jo:](よくよく気をつけろよ、よそ＜他所＞の家とは喧嘩するなよ)。

˥ムニン　イ˩ザラヌ˥　パ˩ナン˥　プ˩サラ˥ヌ [˥muniŋ ʔi˩ʤaranu˥ pa˩nam˥ pu̥˩sara˥nu] 【句】うっかりものが言えない。相手の機嫌をとりつつ周囲にも気配りしないとものが言えない。「ものも言えない、くしゃみもできない」の義。イ˩メーマ˥　ヤ˩ラバン˥　イ˩ズ˥カー　シ˩グ˥　フ˩クリテイ˥　ア˩ミカビ　キー˥スンダ　ウ˩リンナー˥ネー　˥ムニン　イ˩ザラヌ˥　パ˩ナン˥　プ˩サラ˥ヌ [ʔi˩me:ma˥ ja˩rabaŋ˥ ʔi˩ʤu˥ka: ʃi˩gu˥ ɸu̥˩kuriti˥ ʔa˩mikabi ki:˥sunda ʔu˩rin-na:˥ne: ˥muniŋ ʔi˩ʤaranu˥ pa˩nam˥ pu̥˩suaru˥nu](少しでも叱ると、すぐ脹(フク)れっ面になって、のしかかるように反抗してくるから、彼にはうっかりものが言えない)。

˥ムニンビーン　˩ナー˥ヌ [˥munimbi:n ˩na:˥nu] 【連】うんともすんともない。何の反論も反抗もない。穏やかである。˥ムニン [˥muniŋ] は (物言い。意見。反論) の＜物言い＞の略語で、反論の「厭だ」の表現。˩ビー [˩bi:] は、「厭だ」の意味をを含む強い反抗表現˩ベー˥ル [˩be:˥ru](嫌だ) の略語で、並列助詞ン [ŋ](も) によって重ねられて強調表現となる。下

に打ち消しの語を伴って用いられる。ウ˩レー˥ ギュー˩サ˥ イ˩ザリタンティン˥ ムニンビーン ˩ナー˥ヌ [ʔu˩reː˥ gjuː˩sa˥ ʔi˩ʥaritantim˥ muniːm˩biːn naː˥nu](彼はどんなに叱られても、反対もしないし、反抗もしない。うんともすんともない)。

˥ムヌ [˥munu] 【名】1物。物体。˥ウナー ˥アル ˥ムノー ˥ヌーヤ [˥ʔunaː ˥ʔaru ˥munoː ˥nuːja](そこにある物は何か)。2者。人。卑下した表現。˥アイブ ˥ムノー ˥クナー ブ˩ラーヌ [˥ʔaibu ˥munoː ˥kunaː bu˩raːnu](あんな人はここにはいない)。プ˩リムヌ [pu˩rimunu](気違い。狂人)。3妖怪(ヨウカイ)。お化け。˩ユー˥ル ミ˩チェー˥ ン˩ジ˥ルカー ˥ムヌン マ˩ヤーサ˥リン [˩juː˥ru mi˩ʧeː˥ ʔn˩ʥi˥ruka: ˥munum ma˩jaːsa˥riŋ](夜道に出ると妖怪に惑わされる)。4ちゃんとしたもの。完成品。ク˩レー˥ ムヌ ナ˩リンギサ ナー˥ヌ [ku˩reː˥ munu na˩riŋgisaː naː˥nu](これはもの＜完成品＞になりそうにない)。5抽象的な事物や事柄。ウ˩レー˥ ターン˩ターン˥ ナル ˥ムノー ア˩ラ˥ヌ [ʔu˩reː˥ taː˩ntaːn˥ naru ˥munoː ʔa˩ra˥nu](それは誰にも出来るものではない)。6人の踏み行うべき道。道義。˩ジーヤ˥ ナライティ ˥ムノー ッ˩サヌ [˩ʥiːja˥ naraiti ˥munoː s˩sanu](学問は修めたが、人の踏み行うべき道＜もの＞を知らない)。

˥-ムヌ [˥-munu] 【接助】～のに。～ものを。理由を表す。活用語の連体形に付く。予期されることとは反対の事柄が起こることを表す、逆接の機能を果たす。ウ˩レー˥ バー ˩スームヌ˥ ヌンティ ˩ワーバー˥キ ˩スーワ [ʔu˩reː˥ baː ˩suːmunu˥ nunti ˩waːbaː˥ki ˩suːwa](これは私がするのに、何故に君までするのか)。˥バー ˥パルムヌ ˩ワー ˥ パ˩ラン˥タンティン ˥ミサンヨー [˥baː ˥parumunu ˩waː˥ pa˩ran˥tantim ˥misaŋjoː](私が行くのに＜行くものを＞、君は行かなくてもいいよ)。

˥ムヌ [˥munu] 【名】魔物。悪霊(アクリョウ)。成仏できずに迷っている霊。異常な死に方をしたり、˩ソッ˥コー [˩sok˥koː](法事。焼香) をしてくれる人のいない死霊。生きている人に憑依して害を加えたり、頼みごとをするといわれている。˥ムヌン マ˩ヤーサ˥リン [˥munum ma˩jaːsa˥riŋ](もの＜魔物＞に迷わされる)。˥ムヌン ム˩タ˥リン [˥munum mu˩ta˥riŋ](魔物に持たれる＜操(アヤツ)られ、魔境(マキョウ)歩(モテアソ)かされ弄(モテアソ)ばれる＞)。

ム˩ヌ˥アティ [mu˩nu˥ʔati] 【名】思慮(シリョ)。分別(フンベツ)。判断力。しっかりした考え。十分な判断力。ヤ˩ラ˥ベー ム˩ヌ˥アテー ˩ナー˥ンダ ヤ˩ラビ˥ヌ ˩ティー ナー˥ルン ˥トン ˩ナー˥トナー ˩カン˥スルン ˥ドーレーバ ˥シケー ナ˩ラント ダー [ja˩ra˥beː mu˩nu˥ʔateː ˩naː˥nda ja˩rabi˥nu ˩tiː naː˥run˥ton ˩naː˥tona ˥kan˥surun ˥doːreːba ˥ʃi̥ke: na˩ran˧daː](子供は思慮分別がないから、子供の手の届く＜手を伸ばす＞所などには、剃刀(カミソリ)等を置いてはならないよ)。˩ワー フン˥トー ム˩ヌ˥アテー ˩ナー˥ン ˥カイブー ヤ˩ラビ˥バ ˩タンガ˥シ パ˩ラシター [˩waː ɸun˥toː muˬnu˥ʔateː ˩naː˥ŋ ˥kaibuː ja˩rabi˥ba ˩taŋga˥ʃi pa˩raʃi̥taː](君は本当に無謀＜無分別＞だ。こんな子供を一人で行かせたのか)。

ム˩ヌ˥イリ [mu˩nu˥ʔiri] 【名】物入り。入費。出費。˥ソンガチシキトゥ ˩ソー˥ランシケー ム˩ヌイリ˥ヌ ˩スー˥ワンダ ˥チニヒグルヌ ˩スータイ˥ヤー ク˩メーキリ˥ヨー [˥soŋgatʃiʃi̥kitu ˩soː˥raŋʃi̥ke: mu˩nuʔiri˥nu ˩suː˥wanda ˥ʧiniçigurunu ˩suːtai˥jaː ku ˩meːkiri˥joː](正月月とお盆月は出費が大きいから、常日頃の家計は節約し＜贅沢(ゼイタク)せぬよう、こまごまときりつめ＞なさいよ)。

ム˩ヌイリ˥ムヌ [mu˩nuʔiri˥munu] 【名】物を入れる容器。入れ物。「物入れ物」の転訛したもの。˩ナーブ˥ク ム˩ミパク カイン˥ドーレール ム˩ヌイリ˥ムヌティ ア˩ズト ナー [˩naːbu˥ku mu˩mipaku kain˥doːreːru mu˩nuʔiri˥munuti ʔa˩ʥu˧naː](縄箱や籾箱、衣装箱＜笥＞などを物入れというのだね)。

ム˩ヌウ˥トゥ [mu˩nu˥ʔutu] 【名】物音。何かの音。ムー˩ル˥ ニ˩ビキスター˥ シーン˩ティ˥ シ˩ズ˥マリティ ム˩ヌ˥ウトゥ ˩ピッ˥チン サ˩ヌ [muː˩ru˥ni˩bikisutaː˥ ʃiːn˩ti˥ ʃi˩ʥu˥mariti mu˩nu˥ʔutu ˩pit˥ʧin sa˩nu](皆が総て眠りきったのでシーンと静まって、物音一つもしない)。ミ˩ナ˥カナー ム˩ヌウトゥ˥ヌ ス˩ヌ (˩スーヌ)˥ ヌーカヤー [mi˩na˥kanaː mu˩nuʔutu˥nu su˩nu＜˩suːnu＞˥ nuːkajaː](庭に物音がするが、何だろうか)。

ム˩ヌ˥ウバイ [mu˩nu˥ʔubai] 【名】ものおじ (物怖(モノオ)じ)。怖(コワ)がり。おびえ (怯(オビ)え) ること。「もの怯え」の義。「～諸人の協流麻低尓＜オビユルまでに＞～。万 199」、「Vobiye,uru,eta. ヲビエ、ユル、エタ (喝え、ゆる、えた) 驚いて我を忘れたようになる」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ク˩ヌ˥ ッ˩ふァー˥ ム˩ヌ˥ウバイ ˩シー˥ナー ナ˩ラ˥ヌ [ku˩nu˥ f˩faː˥ mu˩nu˥ʔubai ˩ʃiː˥naː na˩ra˥nu](この子は物怖じするので困る)。

ム˩ヌ˥ウブイ [mu˩nu˥ʔubui] 【名】物覚え。記憶。˥トゥシ トゥ˩ル˥ター ム˩ヌウブイ˥ヌ ˩ワッ˥サ ˥ナリティ ム˩ヌバシ˥キ ˩シー˥ナー ナ˩ラ˥ヌ [˥tuʃi tu˩ru˥taː mu˩nuʔubui˥nu ˩was˥sa ˥nariti mu˩nubaʃi˥

ki ˈʃiːˈnaː naˈraˈnu](年を取ったので物覚えが悪くなって、物忘れするのに困る＜物忘れして堪らない＞)。

ˈムヌ　ˈウムーン [ˈmunu ˈʔumuːŋ] 【連】1心配する。「物を思う」の義。ッˈふァヌˈ　クトゥシ　ˈカイニ　ˈムヌ　ˈウムーンテー　ウˈモーンˈシェン [fˈfanu ˈ kʉtuʃi ˈkaini ˈmunu ˈʔumuːnteː ʔuˈmoːŋˈʃeŋ](子供のことで、このように心配するとは思わなかった)。2深く考える。熟考する。イˈザリティˈ　ンˈベーマーˈ　ムヌ　ˈウムーンカヤーティ　ウˈムータンˈドゥ　ˈピッˈチン　ˈムヌ　ウˈモーˈヌ [ʔiˈʤariti ʔmˈbeːmaːˈ munu ˈʔumuːŋkajaːti ʔuˈmuːtanˈdu ˈpitˈʧim ˈmunu ʔuˈmoːˈnu](叱られて、少しは深く考えるかと思ったが、ちっとも熟慮(ジュクリョ)しない)。ˈカイブ　クˈトゥˈバ　ˈシー　ワー　フンˈトー　ˈムノー　ˈウムイ　ˈブン [ˈkaibu kʉˈtuˈba ˈʃiː waː ɸunˈtoː munoː ˈ ʔumui ˈbuŋ](こんなことをしでかして、君は本当に物事を深く考えているのか)。

ムˈヌˈウムイ [muˈnuˈʔumui] 【名】思いわずらう (煩う) こと。思い悩むこと。心配すること。憂いごと。ˈ物思い」の義。「～我にまさりて物念哉＜ものオモハメヤ＞。万、1892」の転訛したもの。ヤˈラˈビンケーン　フˈドゥビキスˈター　ムˈヌウムイˈヤー　ˈナーンˈティル　ウˈムータンˈドゥ　ッˈふァヌˈ　クトゥティ　ˈナルカー　ムˈヌウムイˈヌ　ˈキシテー　ˈナーˈヌ [jaˈraˈbiŋkeːŋ ɸuˈdubikʲsuˈtaː mu ˈnuʔumuiˈjaː ˈnaːnˈtiru ʔuˈmuːtanˈdu fˈfanu ˈ kʉtuti ˈnaruka: muˈnuʔumuiˈnu ˈkʲʃiteː ˈnaːˈnu](子供たちも成長しきったので、心配ごとはないと思ったが、子供のこととなると、憂いごとの切れることはない)。

ムˈヌウムイˈパダ [muˈnuʔumuiˈpada] 【名】思春期。「物思い肌＜年頃＞」の義。ムˈヌウムイˈパダーヤˈラˈベー　ˈアッˈタニ　アˈティブチニˈ　ムˈヌˈグトゥ　ˈスーˈ　クトゥン　アˈリˈブンダ　ˈユー　ウˈティシゥカシミˈル　クˈトゥˈル　ˈカンヌーˈダー [ʔuˈmuiˈpadaː jaˈraˈbeː ˈʔatˈtani ʔaˈtibutʃiniˈ muˈnu ˈgutu ˈsuːˈ kʉtuŋ ʔaˈriˈbunda ˈjuː ʔuˈtisʲikaʃimiˈru kʉ ˈtuˈru ˈkannuːˈdaː](思春期は、子供は急に、無鉄砲に＜後先考えずに＞行動することもあるから、よく落ち着かせることが肝要だよ)。

ムˈヌウムイˈヤン [muˈnuʔumuiˈjaŋ] 【名】恋の病。恋煩(コイワズライ)。物思いから生ずる病気。物思い病み。ノイローゼ。ˈアーˈネヌ　ジˈナンマーˈ　ムˈヌウムイヤンˈバ　ˈシールˈ　アイニ　ˈヨーガリ　アーˈクティバーヤ　キˈムイˈツァー [ˈʔaːˈnenu ʤiˈnammaːˈ mu ˈnuʔumuijamˈba ˈʃiːruˈ ʔaini ˈjoːgari ʔaːˈkutibaːja ki ˈmuiˈtsaː](東隣の家の次男坊は恋わずらいをして、あのように痩せているんだそうだよ、可哀相に)。

ˈムヌ　ウˈモーラˈヌ [ˈmunu ʔuˈmoːraˈnu] 【連】心配でどうしてよいか分からない。恐怖で状況判断ができない。「物思われない」の義。ヤˈマトゥˈナー　ウˈブナイˈヌ　ウˈクルˈタティ　シˈキティˈ　ヤˈラˈビンケヌ　クˈトゥˈバ　ˈソーシティˈ　ムヌ　ウˈモーランˈシェンˈダー [jaˈmatuˈnaː ʔuˈbunaiˈnu ʔuˈkuru ˈtati ʃʲiˈkitiˈ jaˈraˈbiŋkeːnu kʉˈtuˈba ˈsoːʃʲitiˈ munu ʔu ˈmoːraŋˈʃenˈdaː](本土＜大和＞で大地震が起ったと聞いて、子供たちのことを心配して、びっくり仰天してどうしてよいか分からなかったよ)。

ˈムヌ　ウˈモーˈリン [ˈmunu ʔuˈmoːˈriŋ] 【連】安堵する。一安心する。ほっとする。「物思われる」の義。ˈムヌ　ウˈモーリˈルン [ˈmunu ʔuˈmoːriˈruŋ](安堵(アンド)する。ほっとする) ともいう。バˈタˈヌ　フˈチˈル　ˈヌミティ　ˈヤンˈヌ　ピˈクターˈ　マˈナˈマー　ˈムヌ　ウˈモーˈリンˈダー　ワー [baˈtaˈnu ɸʉˈʧiˈru ˈnumiti ˈjanˈnu pʲiˈkutaːˈ maˈnaˈmaː ˈmunu ʔuˈmoːˈ rinˈdaː waː](腹痛の薬を飲んで痛みが引いたので、今は落ち着ける＜一安心できる＞よ、君)。

ムˈヌカンˈガイ [muˈnukaŋˈgai] 【名】いろいろと検討すること。考えること。熟慮すること。計画すること。「物考え」の義。ˈアトゥアトゥヌ　ˈクトゥン　ˈユー　ムˈヌカンˈガイ　シˈティˈ　アˈランˈカー　クˈレーˈ　パˈジミララヌ [ˈʔatuʔatunu ˈ kʉtuŋ ˈjuː muˈnukaŋˈgai ʃʲiˈtiˈ ʔaˈraŋˈkaː kuˈreːˈ paˈ ʤimiraranu](後々のことも、よく検討＜もの考え＞してでないと、これは始められない)。ˈワーˈ　アトゥアトゥヌ　ˈクトゥ　ムˈヌカンガイˈヤー　ˈシー　ブン [ˈwaːˈ ʔatuʔatunu ˈkʉtu muˈnukaŋgaiˈ jaː ˈʃiː buŋ](君は将来＜後々＞のことを計画＜物考え＞しているのか)。ˈソーシティ　バンˈマーノーˈンˈ　ムˈヌカンˈガイ　シˈララヌ [ˈsoːʃʲiti bam ˈmaː noːˈm muˈnukaŋˈgai ʃiˈraranu](心配して私には何も考えることができない)。

ムˈヌクーˈヤー [muˈnukuːˈjaː] 【名】物乞い。乞食。沖縄方言からの借用語。ムˈヌクイムヌˈバ　ウˈキナーˈムニシェー　ムˈヌクーˈヤーティ　アˈズˈナー [muˈnukuimunuˈba ʔukinaːˈmuniʃeː muˈnukuː ˈjaːti ʔaˈʤuˈnaː](乞食を沖縄方言でムˈヌクーˈヤーと言うんだね)。

ムˈヌクイˈムヌ [muˈnukuiˈmunu] 【名】物乞い。乞食(コジキ)

。「物乞い者」の義。ˈソーバˈ　イˈリˈ　パˈタラカンˈカー　ムˈヌクイˈムヌ　ナルンˈダー [ˈsoːbaˈ ʔiˈriˈ pa̠ˈtarakaŋˈkaː muˈnukuiˈmunu narunˈdaː](性根(ショウコン)を入れて働かないと物乞いになるぞ)。

ムˈヌˈグトゥ [muˈnuˈgutu] 【名】物事。あらゆる事柄。ムˈヌグˈトー　ノーˈンˈナーン　キˈマリˈティˈスーˈ　ムˈヌˈヌ　アˈリˈブンダ　ウˈリバˈ　ミレーティ　ˈサンˈカー　ナˈランˈダー [muˈnuguˈtoː noːˈnˈnaːŋ kiˈmariˈti ˈsuːˈ muˈnuˈ ʔaˈriˈbunda ʔuˈribaˈ mireːti ˈsaŋˈkaː naˈranˈdaː](物事には何においても決まり＜法則＞と言うものがあるから、それを見ながらしないと成功しない＜出来ない＞よ)。

ムˈヌˈ　クˈマーˈン [muˈnuˈ kuˈmaːˈŋ] 【連】1綿密(メンミツ)である。緻密(チミツ)である。入念で手抜かりが無い。ウˈレーˈ　ムˈヌˈ　クˈマーˈンダ　マˈチガイˈヤー　ˈナーˈヌ [ʔuˈreːˈ muˈnuˈ kuˈmaːˈnda maˈtʃigaiˈjaː ˈnaːˈnu](彼は緻密であるから間違いはない)。2つましい (約しい)。倹約である。「物細かい」の義。ユˈメーˈ　イッˈケナˈ　ムˈヌˈ　クˈマーˈンダ　シˈトゥウヤンˈ　アˈタラˈサ　シˈラリ　ブン [juˈmeːˈ ʔikˈkenaˈ muˈnukumaːˈnda ʃi̥ˈtuʔujaŋˈ ʔaˈtaraˈsa ʃiˈrari buŋ](嫁は非常に倹約(ケンヤク)である＜物細かい＞から姑にかわい可愛＜可惜(アタラ)し＞がられている)。ムˈヌˈ　クˈマーˈ　ユˈメー　スータイゾーˈジ [muˈnuˈ kuˈmaːˈ juˈmeː suːtaidʑoːˈdʑi](緻密で倹約な嫁は所帯持ち＜家計のやりくり＞が上手だ)。

ムˈヌˈサシ [muˈnuˈsasi] 【名】物差し。長さの単位の目盛りを刻んだ竹製の道具 (スケール)。標準語からの借用語。マˈナˈマー　ムˈヌˈサシシ　パˈカルˈヌ　ムˈカˈシェー　ˈバンゾンˈガニシル　パˈカˈローッタル [maˈnaˈmaː muˈnuˈsaʃiʃi pa̠ˈkaruˈnu muˈkaˈʃeː ˈbandʑoŋˈganiʃiru pa̠ˈkaˈroːttaru](今は物差しで計るが、昔はかねじゃく＜曲尺。番匠曲尺＞で計られたものだ)。

ムˈヌサバˈキ [muˈnusabaˈki] 【名】先祖供養や神事についての過不足をユˈタ [juˈta](巫女) に判定してもらうこと。「ものさばき (物捌(モノサバキ))」の義。ˈグゥンスグトゥˈヌ　タˈラーンˈユー　ムˈヌシリˈヌ　ˈヤー　ˈギーˈ　ムˈヌサバˈキ　シˈミリバルˈ　ナルˈサー [ˈgwansugutuˈnu taˈraːɲˈjuː muˈnuʃiriˈnu ˈjaː ˈgiːˈ muˈnusabaˈki ʃiˈmiribaruˈ naruˈsaː](先祖供養の法事が不足しているのか、ユタ＜物知り＞の家に行って判断＜判じ＞させてみないといけないな)。

ˈムヌ　シˈナーˈスン [ˈmunu ʃiˈnaːˈsuŋ] 【連】品物を取り揃える。取り合わせる。一対になるように組み合わせる。「品合わせる」の義か。ˈニンガイˈムヌ　シˈナーˈスンティ　ˈスンドゥˈ　イˈズンˈ　タクントゥˈラランˈユンダ　シˈナーサラヌ [ˈniŋgaiˈmunu ʃiˈnaːˈsunti ˈsunduˈ ʔiˈdʑunˈ ta̠kun tuˈraraŋˈjunda ʃiˈnaːsaraˈnu](祈願用の供物を取り揃えようとするが、魚も蛸も獲れないので、必要な供物を取り揃えることができない)。

ムˈヌシラˈシ [muˈnuʃiraˈʃi] 【名】神仏のお告げ。託宣。「物知らせ」の義。神仏が鶏や犬猫などに異常な鳴き声、または異常行動を起こさせることによって神仏の意思を人間に知らせること。音韻が融合変化して、ムˈヌッサˈシ [muˈnussaˈʃi](物知らせ) ともいう。ˈミードゥルˈヌ　ヤˈナナキ　シー　インˈヌ　ヤˈナナキ　スーˈカー　ムˈヌシラˈシティ　アˈザリ　ブー [ˈmiːduruˈnu jaˈnanaki ʃiː ʔinˈnu jaˈnanaki suːˈka: muˈnuʃiraˈʃiti ʔaˈdʑari buː](雌鳥が異常な鳴き方＜悪鳴き＞をし、犬が異常な鳴き方＜悪鳴き＞をすると、神仏のお告げだといわれている)。ムˈヌシラˈシェー　ˈアッˈタンˈダー [muˈnuʃiraˈʃeː ˈʔatˈtanˈdaː](神仏のお告げはあったよ)。

ムˈヌˈシリ [muˈnuˈʃiri] 【名】1博識。ˈアブジェー　ムˈヌˈシリ　ヤˈローˈルンダ　ッˈソーランˈ　ムノーˈナーˈヌ [ˈʔabudʑeː muˈnuˈʃiri jaˈroːˈrunda sˈsoːramˈ munoː ˈnaːˈnu](お祖父さんは博識でいらっしゃるから、お分かりにならないものはない)。2物知り。占い師。ふげき (巫覡)。ユˈタ [juˈta](巫女) やˈサンギンソー [ˈsaŋginsoː](三世相。易者)。ムˈヌシリˈヌ　ˈヤーナ　ˈギー　ウンキーˈ　クˈラˈシ　クーˈディー [muˈnuʃiriˈnu ˈjaːna ˈgiː ʔuŋkiːˈ kuˈraˈʃi ˈkuːˈdiː](易者の家に行って運気を繰らし＜運気を易の本で見立ててもらって＞て来ようよ)。

ムˈヌスクリパンˈタ [muˈnusu̠kuripanˈta] 【名】農繁期。農耕の繁多な時期。ˈマイイビパンタ [ˈmaiʔibipanta](田植えの農繁期) やˈマイカリパンタ [ˈmaikaripanta](稲刈りの農繁期)。ムˈヌスクリパンˈタナー　プˈスˈ　タˈナˈムンティ　ˈスーˈ　プˈリムヌˈヌ　マナー　ブˈラー (ˈブーワ)[muˈnusu̠kuripanˈtana: pu̠ˈsuˈ taˈnaˈmunti ˈsuːˈ puˈrimununuˈ manaː buˈraː(ˈbuːwa)](農繁期に人手を頼もうという馬鹿がどこにいるものか)。

ムˈヌスクˈル [muˈnusu̠kuˈru] 【名】耕作。農耕。稲、粟、麦、豆などの穀物や大根などの野菜類を作付けすること。「物作り」の義。ˈタースクˈリ [ˈtaːsu̠kuˈri](田作り)、パˈタˈキスクリ [pa̠ˈtaˈkisu̠kuri](畑作り)、ˈヤサイスクリ [ˈjasaisu̠kuri](野菜作り) 等があ

る。ˈユーニンガイˀナー　ˀイニ　ˀアー　ˀムン、ˀマミンドーレーヌ　ムˈヌスクルˀヌ　ˈニンˀガイ　ˈソーッˀタン [ˈjuːniŋgaiˀnaː ˀʔini ˀʔaː ˀmum、ˀmamindoːreːnu muˈnusu̥kuruˀnu ˈniŋˀgai ˈsoːtˀtaŋ](ユーニガイ＜世願い＞の祭りでは、稲、粟、麦、豆等の作物の豊年祈願をされた)。ムˈヌスクルˀトゥ　ヤˈラˀベー　ˈナイˀバーラ　サˈダミラリˀ　ブー [muˈnusu̥kuruˀtu jaˈraˀbeː ˈnaiˀbaːra saˈdamirariˀ buː](稲作＜農耕＞と子供は苗代から定まっている＜梅檀は双葉より芳し＞)。

ムˈヌスコーˀル [muˈnusu̥koːˀru] 【名】食べ物を作ること。調理。「もの造り」の義。ミˈドゥˀモー　パˈタˀケーラ　ˈカイˀリ　ˀキーティン　ˈユーボンˀヌ　ムˈヌスコーˀル　ˈスンティˀ　イッˈケナ　パンタˀサタン [miˈduˀmoː pa̯ˈtaˀkeːra ˈkaiˀri ˀkiːtiŋ ˈjuːboŋˀnu muˈnusu̥koːˀru ˈsuntiˀ ʔikˈkena pantaˀsataŋ](女は畑から帰ってきても夕飯の食事造り＜調理＞に大変忙しかった)。

ムˈヌソーˀダン [muˈnusoːˀdaŋ] 【名】相談。相談事。「もの相談」の義。ˀウチソーダン [ˀʔutʃisoːdaŋ](話し合い。うち相談) ともいう。パˈナシアーˀシ　ˈスンティ　スンドゥˀ　シˈグ　アイˀスンダ　ウˈリトーˀ　ムˈヌソーˀダン　ナˈラˀヌ [paˈnaʃiʔaːˀʃi ˈsuntisunduˀ ʃiˈgu ʔaiˀsunda ʔuˈritoːˀ muˈnusoːˀdan naˈraˀnu](話し合いをしようとするが、すぐ喧嘩をするので彼とは相談ができない)。

ムˈヌタクˀミ [muˈnutakuˀmi] 【名】悪企み。陰謀。「物企み」の義。ムˈヌタクˀミ　ˈスーˀ　プˈスバˀ　ムˈヌタクˀマーティ　パˈトゥˀマプソー　アˈズˀダー [muˈnutakuˀmi ˈsuːˀ pu̥ˈsubaˀ muˈnutakuˀmaːti pa̯ˈtuˀmapusoː ʔaˈʤuˀdaː](悪企みをする人をムˈヌタクˀマー [muˈnutakuˀmaː]＜陰謀者＞と鳩間の人は言うのだよ)。

ムˈヌˀダニ [muˈnuˀdani] 【名】作物の種子。稲、麦、豆、粟などの穀類や、野菜類の種子。「ものたね (物種)」の義。稲の場合は、タˈニˀムミ [taˈniˀmumi](種籾)、ˀサニマイ [ˀsanimai](種米) というのが普通。ˈエンˀヌ　ムˈヌˀダネー　ˀトゥリシキティ　ヌˈカルˀル　シゥˈカーリル [ˈjenˀnu muˈnuˀdaneː ˀturiʃi̥kitinuˈkaruˀru si̥ˈkaːriru](来年の種子の分は取っておいて、残りが使われる)。

ムˈヌタルガˀキ [muˈnutargaˀki] 【名】人に頼ること。人をあてにすること。依頼心。ウˈレーˀ　ドゥーシ　ˈスンテーˀ　サˈムティˀ　ムˈヌタルガˀキ　ˈシーナーˀル　ナˈラント ツォー [ʔuˈreːˀ duːʃi ˈsunteːˀ saˈmutiˀ muˈnutargaˀki ˈʃiːnaːˀru naˈranˊtsoː](彼は、自分ではしようとしないで、人を当てにするので困る＜たまらない＞んだよ)。

ムˈヌッサˀシ [muˈnussaˀʃi] 【名】神仏のお告げ。託宣。物知らせ。ムˈヌシラˀシ [muˈnuʃiraˀʃi](神仏のお告げ) の音韻が進行同化して変化した形。ムˈヌシラˀシ [muˈnuʃiraˀʃi] の項参照。

ムˈヌッふァイˀ　カˈダンˀサーン [muˈnuffaiˀ kaˈdanˀsaːŋ] 【連】偏食が激しくて食べるのが少ない。ムˈヌッふァイ [muˈnuffai](ものを食うこと) に、カˈダンˀサーン [kaˈdanˀsaːŋ](少ない。「かだむ＜釪(カダ)む＞。惜しむ。怠ける。控え目にする」、cada　カダ (かだ) 無精や怠慢のために、しなければならない事を果さないこと『邦訳日葡辞書』の義の転訛したもの) が付いて形成された語。老年層が使用する。若年層には死語。石垣方言からの借用語であろう。ウˈレー　サーラマキˀ　シˈティˀ　ムˈヌッふァイˀ　カˈダンˀサーンダル　ˀアイニ　ˈヨーガリ　ブートツォー [ʔuˈreː saːramakiˀ ʃiˈtiˀ muˈnuffaiˀ kaˈdanˀsaːndaru ˀʔainiˈ joːgari buːˊtsoː](彼＜それ＞は、つわり＜悪阻して＞で偏食が激しく、食べるのが少ないので、あのように痩せ衰えているのだよ)。

ムˈヌッふァイˀザク [muˈnuffaiˀʤaku] 【名】生活を維持するための仕事。職業。生業。「物食い仕事」の義。パˈトゥˀマナテー　ˈターシグˀトゥ　パˈタキシグˀトゥ　イˈソーシグトゥ　スーˀ　フカナー　ムˈヌッふァイˀザコー　ˈナーˀヌ [pa̯ˈtuˀmanateː ˈtaːʃiguˀtu pa̯ˈtakiʃiguˀtu ʔiˈsoːʃigutu suːˀ ɸu̥kanaː muˈnuffaiˀʤakoː ˈnaːˀnu](鳩間島では田仕事、畑仕事、漁業＜漁り仕事＞をすること以外には生業はない)。

ムˈヌッふァイダーˀラ [muˈnuffaitaːˀra] 【名】大食漢。大食い。青年期の、よく食べる子。ˈイーッふァイダーˀラ [ˈʔiːffaidaːˀra](大食い。飯食い俵)、ムˈヌッふァイターラˀグ [muˈnuffaitaːraˀgu](大食い。「物食い俵」の義) ともいう。ビˈコーンッふァーˀ　フˈドゥブターˀ　ムˈヌッふァイダーˀラ　ˀナリティ　プˈスˀキシ　ˈサンゴーˀヌ　ˀイーン　ッˈふァイス [biˈkoːŋffaːˀ ɸuˈdubutaːˀ muˈnuffaidaːˀra ˀnariti pu̥ˈsuˀkiʃi ˈsuŋgoːˀnu ˀʔiːŋ fˈfaisu](男の子は成長したので大食いになって、一食で三合の飯をも食べてしまう)。

ムˈヌッふァイˀプス [muˈnuffaiˀpu̥su] 【名】下宿人。客人。「物食い人」の義。ムˈヌンキˀプス [muˈnuŋkiˀpu̥su](客人。「物を召し上がるひと」の義) ともいう。宿屋や民宿の無かった頃、石垣島や沖縄本島か

らの客は、島の区長や郵便局長などの有力者の家に宿泊するのが常であった。ウˈキˈナーラ　ムˈヌッふァイプスˈヌ　ˈオーˈルンティ　ˈスンドゥ　ヌーˈシ　シゥˈカˈナイ　ˈオースˈユー　ˈバー　ˈソーシーˈ　ナˈラˈヌ [ʔuˈkiˈnaːra muˈnuffaipu̥suˈnu ˈʔoːˈrunti ˈsundu nuːˈʃi si̥ˈkaˈnai ˈʔoːsuˈjuː ˈbaː ˈsoː ʃiːˈ na ˈraˈnu](沖縄から客人がいらっしゃるというが、どのように接待して＜養って＞よいか、私は心配でならない)。

ムˈヌッふァイˈムシ [muˈnuffaiˈmusi] 【名】家畜。「物食い虫」の義。このムˈシ [muˈsi](虫) はイˈキムˈシ [ʔiˈkimuˈʃi](動物) の意。「虫、動物の総称。羽虫は鳥類、毛虫は獣類、甲虫は亀類、鱗虫は魚類、裸虫は人類のこと。」『学研　漢和大辞典』。ˈウンˈネーヤ　ˈンーˈマティバ　ウˈシˈティバ　ˈオーティバ　ウˈレーˈラ　トゥˈルバーˈキ　ムˈヌッふァイムシˈヌ　ˈゴーˈカジ　シゥˈカナイˈ　ブー [ˈʔunˈneːja ʔmːˈmatiba ʔuˈʃiˈtiba ˈʔoːtiba ʔuˈreːˈra tuˈrubaːˈki muˈnuffaimuʃiˈnu ˈgoːˈkadʑi si̥ˈkanaiˈ buː](あの家は、馬とか牛とか豚とか、それから鶏にいたるまで、家畜の数々を飼育している)。

ムˈヌッふァイˈムヌ [muˈnuffaiˈmunu] 【名】人。人間。食事をする人。「物食い者」の義。卑称の語感を伴う。自分の子供に対して言う場合は、「謙遜」の意味合いが強い。ˈヤーˈナー　ムˈヌッふァイムヌˈヌ　マˈティカンˈティ　ˈシー　ベーˈバ　ˈパーˈク　ムˈヌスコーˈル　ˈシンˈ　パˈランˈカー　ナˈラˈヌ [ˈjaːˈnaː muˈnuffaimunuˈnu maˈtikanˈti ˈʃiː beːˈba ˈpaːˈku muˈnusu̥koːˈru ˈʃimˈ paˈraŋˈkaː naˈraˈnu](家には食事をする人が待ちかねているから、早く食事支度をしに行かないといけない)。

ムˈヌナシˈキ [muˈnunaʃi̥ˈki] 【名】物事にかこつけること。言寄せること。口実にすること。～のふりをすること。ムˈヌナシˈキ　ˈシンテーナˈ　パルンティ　ウˈムータˈヌ　ˈナシキルムヌン　ナーˈヌ [muˈnunaʃi̥ˈki ˈʃinteːnaˈ parunti ʔuˈmuːtaˈnu ˈnaʃi̥kiru munun naːˈnu](物事に事寄せて＜かこつけて＞行こうと思ったが、口実にするものもない)。

ムˈヌナラーˈシ [muˈnunaraːˈʃi] 【名】教育。ものを教えること。「物習わせ」の義。「教える」ことを鳩間方言では、ナˈラーˈスン [naˈraːˈsuŋ](習わせる) という。相手を直接に教え導くのでなく、相手に働きかけて「習うようにさせる」の意である。チˈカˈグロー　ˈヤーˈナーティ　ウˈヤˈヌ　ムˈヌナラーˈシ　ˈサン　ユンダルˈ　ムヌ　ッˈサンˈ　バˈカーˈ　ムヌヌ　ゴーˈラーˈツォー [tʃi̥ˈkaˈguroː ˈjaːˈnaːti ʔuˈjaˈnu muˈnunaraːˈʃi ˈsaŋjundaruˈ munu sˈsamˈ baˈkaːˈmununu ˈgoːˈraːˈtsoː](近頃は家庭で親が教えないから＜ぞ＞、常識のない＜物事を知らない＞若者が多いんだよ)。

ムˈヌˈナライ [muˈnuˈnarai] 【名】 1学習。学ぶこと。学問すること。「物習ひ」の義。「学、モノナラフ」『類聚名義抄』の転訛したもの。プˈスバˈ　ウˈヤマイティ　チャーˈ　プˈソーˈラ　ムˈヌˈナライ　ˈスーカンガイˈバ　ˈムテーティ　ˈアーˈキˈダー [pu̥ˈsubaˈ ʔuˈjamaiti tʃaːˈ pu̥ˈsoːˈra muˈnuˈnarai ˈsuː kaŋgaiˈba ˈmuteːti ˈʔaːˈkiˈdaː](他人を敬って、常に他人から学ぶ＜物習いする＞心がけ＜考え＞を持っていなさいよ)。2宗教儀礼を学ぶこと。ˈサンギンソー [ˈsaŋginsoː](易者) やユˈタ [juˈta](かんなぎ＜巫女＞) から託宣を下ろしてもらい、先祖供養の不足や神事の執り行い方を習うこと。ユˈタンˈヤーナˈギーˈ　ムˈヌˈナライ　ˈシーˈ　クー [juˈtaŋˈjaːna ˈgiːˈ muˈnuˈnarai ˈʃiːˈ kuː](ユタの家に行って先祖供養のまつりごとを習ってきなさい)。

ムˈヌヌキˈムヌ [muˈnunukiˈmunu] 【名】まよけ (魔除け)。護符。死霊や生霊などの災厄を祓うもの。ˈムヌ [ˈmunu](魔物。悪霊) に、ヌˈキˈムヌ [nuˈkiˈmunu](祓え。魔除け、猪害、鳥害などを防ぐ案山子など。「退け物」の義) が付いて形成された複合語。ムˈカˈシェー　ˈシラヤーナ　シˈビナージナバˈ　パイティ　ヤˈラˈビ　ニˈバシˈ　シケー　ˈトンナーン　ˈサンˈバ　ˈユイティˈ　ムˈヌヌキˈムヌ　ˈソーッˈタ [muˈkaˈʃeː ˈʃiraja:na ʃiˈbinaːʤinabaˈ paiti jaˈraˈbi niˈbaʃiˈ ʃi̥keː ˈtonnaːŋ ˈsamˈba ˈjuitiˈ muˈnunukiˈ munu ˈsoːtˈta](昔は産屋に注連縄を張って、赤子を寝かせてある所にもサン [saŋ] を結っておいて魔除け＜護符＞にされた)。

ムˈヌˈヌ　ンˈマーˈン [muˈnuˈnu ʔmˈmaːˈŋ] 【文】食事が美味しい。食が進む。ムˈヌˈヌ　ンˈマーˈカーˈメー　ˈヤンマイˈヤ＜ˈヤンˈマー＞　ˈノーリˈブーヨー [muˈnuˈnu ʔmˈmaːˈkaː ˈmeː ˈjammaiˈjaː＜ˈjam ˈmaː＞ ˈnoːriˈbuːjoː](食事が美味しかったら、もう病気は治っているよ)。

-ムˈヌˈバ [-muˈnuˈba] 【接助】接続助詞。～のに。～ものを。強い不満の意を表す条件文について逆接を表す。活用語の連体形に付く。ノーˈシンクイシンスーˈ　ムˈヌˈバ　サˈヌサヌˈティ　アˈジェーˈティ　ˈアーˈク [noːˈʃiŋkuiʃin suːˈ muˈnuˈba saˈnusanuˈti

ʔaˈʤeːˈti ˈʔaːˈku](どうせするのに <～するものを > しないしないと言っているよ)。ˈキューズーナ カˈカンˈカー ナˈラˈン ムˈヌˈバ ナーˈイˈ ノーˈンˈ カˈカンˈドーシ ˈベー [ˈkjuːʤuːna kạˈkaŋˈkaː naˈramˈ muˈnuˈba naːˈjiˈ noːˈŋˈ kạˈkanˈdoːʃi ˈbeː](今日中に書かなければならないものを、ただ何も書かないでいる)。

ムˈヌˈ パクン [muˈnuˈ pạkuŋ] 【他動】口の中のものを吐く。吐き出す。嘔吐する。「物を吐く」の義。ウˈイˈビ フˈチンナカーˈ イˈルˈカー ムˈヌˈ パクン [ˈʔuiˈbi ɸụˈʧinnakaːˈ ʔiˈruˈkaː muˈnuˈ pạkuŋ](指を口の中へ入れると物を吐く < 嘔吐する >)。ムˈヌ パキˈプサン [muˈnu pakiˈpụsaŋ](嘔吐しそうだ)。ムˈヌˈパキ ˈベー [muˈnuˈ pạki ˈbeː](嘔吐している)。

ムˈヌバシˈキ [muˈnubaʃị̈ˈki] 【名】物忘れ。失念すること。ˈトゥシ トゥˈルˈター ムˈヌバシˈキ ˈシーˈナー ナˈランˈサー [ˈtụʃi tuˈruˈtaː muˈnubaʃị̈ˈki ˈʃiːˈnaː naˈranˈsaː](年を取ったので、よく物忘れをして < 物忘れするので > 堪らない < ならない > よ)。

ムˈヌパナˈシ [muˈnupanaˈʃi] 【名】話すこと。話し合い。世間話。話。物語。「物話」の義。ˈアボー ムˈヌパナシˈヌ ウˈムッˈサンダ ナーˈイˈ パˈナˈシ シˈキプリス [ˈʔaboː muˈnupanaʃiˈnu ʔuˈmusˈsanda naːˈjiˈ paˈnaˈʃi ʃị̈ˈkipurisu](お母さんの話は面白いから、ただずっと話しに聞きほれてしまう)。ˈウンˈネヌ プˈソーˈ ウˈヤッˈふァナリ イッˈケナˈ ムˈヌパナˈシ ˈソーˈルンˈダー [ˈʔunˈnenu pụˈsoːˈ ʔuˈjafˈfanari ʔikˈkenaˈ muˈnupanaˈʃi ˈsoːˈrunˈdaː](その家の人は親子同士で非常によく話し合いをなさる < される > よ)。

ムˈヌˈバライ [muˈnuˈbarai] 【名】物笑い。笑いもの。ˈアイブ クˈトゥˈバ ˈシーˈ シˈキンˈヌ ムˈヌˈバライ シˈラリナˈヨー [ˈʔaibu kụˈtuˈba ˈʃiːˈ ʃị̈ˈkinˈnu muˈnuˈbarai ʃiˈrarinaˈjoː](あんなことをして、世間の物笑いにされるなよ)。

ムˈヌピルマˈサン [muˈnupirumaˈsanŋ] 【形】物珍しい。不思議である。怪しい。いぶかしい。シケーˈバーˈキ プˈスヌˈ パル ˈクトー ムˈヌピルマˈサン ˈアッタンˈドゥ マˈナˈマー ノーˈンˈ ムˈヌピルマˈサー ˈナーˈヌ [ʃị̈keːˈbaːˈki pụˈsunu ˈparukụto: muˈnupirumaˈsaŋ ˈʔattanˈdu maˈnaˈmaː noːˈmˈ muˈnupirumaˈsaː ˈnaːˈnu](月まで人が行くのは不思議であった < 物珍しくもあった > が、今はちっとも不思議でない < 物珍しくない >)。ムˈヌピルマサˈヌ ナˈラˈヌ [muˈnupirimasaˈnu naˈraˈnu](不思議で < 物珍しくて > 堪らない)。ˈアイブー ˈムˈヌˈヌ ムˈヌピルマˈサ ˈクトー ˈナーˈヌ [ˈʔaibuː muˈnuˈnu muˈnupirumaˈsa ˈkụtoː ˈnaːˈnu](あんな物が不思議な < 物珍しい > ことはない)。

ムˈヌミーˈザン [muˈnumiːˈʤaŋ] 【形】食べ物が不味い。病後に食事が不味いと感じること。ˈヤンˈヌ ˈアトー ムˈヌミーザˈヌ ˈムヌ ッˈふァーラヌ [ˈjanˈnu ˈʔatoː muˈnumiːʤaˈnu ˈmunu fˈfaːranu](病気の後は食べ物が不味くて、食事がとれない < 食べられない >)。ヤˈムˈター フˈチェーˈ ヤˈブˈリティ ノーˈンˈ ッˈふァーバンˈ フˈチミーザˈヌ ˈムノー ッˈふァーラヌ [jaˈmuˈtaː ɸụˈʧeːˈ jaˈbuˈriti noːˈŋˈ fˈfaːbaŋˈ ɸụˈʧimiːʤaˈnu ˈmunoː fˈfaːranu](病気したので味覚障害 < 口が破れて > になって、何を食べても食事が不味くて食事 < もの > が食べられない)。

ムˈヌミジラˈサン [muˈnumiʤiraˈsaŋ] 【形】物珍しい。イˈクサˈユーナ パˈトゥˈマナー ˈスイジョーˈ ヒˈコーキˈヌ ウˈレータヌ ムˈヌミジラˈサーティ ˈシーˈ シマズーヌ プˈスヌˈ ウˈリˈミリン ˈオーˈレータン [ʔiˈkusaˈjuːna pạˈtuˈmanaː ˈsuiʤoːˈ ç̥ị̈ˈkoːkiˈnu ʔuˈreːtaˈnu muˈnumiʤiraˈsaːti ˈʃiːˈ ʃimaʤuːnu pụˈsunuˈ ʔuˈriˈ miriŋ ˈʔoːˈreːtaŋ](戦争中に、鳩間島に水上飛行機が下りことがあったが、物珍しいといって島中の人が見にいらっしゃったことがある)。ムˈカˈシェー ムˈヌミジラˈサン ˈアッタンˈドゥ マˈナˈマー ムˈヌミジラサーナーˈヌ [muˈkaˈʃeː muˈnumiʤiraˈsaŋ ˈʔattanˈdu maˈnaˈmaː muˈnumiʤirasaː naːˈnu](昔は物珍しかったが今は物珍しくない)。

ムˈヌミリˈプス [muˈnumiriˈpụsu] 【名】幽霊や化け物などの妖怪を見ることのできる人。霊能者(レイノウシャ)。霊媒(レイバイ)。「物見る人」の義。ウˈレーˈ サーダカマリ シˈティˈ ムˈヌミリˈプス ヤˈルンダˈ ナˈクラーˈヌ ウˈリトーˈ マーˈズンˈ アˈラカラˈヌ [ʔuˈreːˈ saːdakamari ʃị̈ˈtiˈ muˈnumiriˈpụsu jaˈrundaˈ naˈkuraːˈnu ʔuˈritoːˈ maːˈʤuŋˈ ʔaˈrakaraˈnu](あれ < 彼女。彼 > は霊力が高く生まれついていて、幽霊や化け物、妖怪を見ることができる人だから、怖くてあれとは一緒に < 道を > 歩かれない)。

ムˈヌˈ ミルン [muˈnuˈ miruŋ] 【連】妖怪を見ることができる。妖怪を見ることの出来る特殊な霊力がある。ウˈレーˈ ムˈヌˈ ミルンダ ˈユーˈロー ウ

ˈリヌˀ　トゥˈムバ　シェーˀティ　ˈアーカラˀヌ [ʔuˈreːˀ muˈnuˀ mirunda ˈjuːˀroː ʔuˈrinuˀ tuˈmuba ʃeːˀti ˈʔaːkaraˀnu](あの人＜彼＞は妖怪を見ることが出来るので、夜は彼のお供をしてはいられない)。

ムˈヌˀムチ [muˈnuˀmutʃi] 【名】財産家。資産家。金持ち。ˈ物持ち」の義。ˈウンˀネーヤ　カˈツシンバˀ　ウˈクシˀル　ムˈヌˀムチ　ナˈローˀレー　ˈギンˀサ＜ˀギサ＞ˈダー [ˈʔunˀneːja kạˈtsuʃimbaˀ ʔuˈkuʃiˀru muˈnuˀmutʃi naˈroːˀreː ˈginˀsa＜ˀgisa＞ˈdaː](其の家は鰹漁業を興(オコ)して財産家＜物持ち＞になられたようだ＜らしい＞よ)。

ムˈヌヤブˀリ [muˈnujabuˀri] 【名】物事が失敗すること。ぶち壊し。破談。「物破れ」の義。ムˈヌˀヤビ [muˈnuˀjabi](失敗。物破れ) ともいう。パˈナˀシェー　ˀナルンティ　ˈシーˀ　メッˈティˀ　マˈトゥミˀ　シケー　ˀムヌバ　ˈウンザヌˀ　キー　ムˈヌヤブˀリ　ˈシーナーˀヌ [paˈnaˀʃeː ˀnarunti ˈʃiːˀ metˈtiˀ maˈtumiˀ ʃi̥keː ˀmunuba ˈʔundzanuˀ kiː muˈnujabuˀri ˈʃiː naːˀnu](話は、可能だ＜出来る＞といって、きっちり纏(マト)めておいたものを、あの野郎が来て破談＜ぶち壊し＞にしてしまった)。

ˀムヌン [ˀmunuŋ] 【名】物忌(イ)み。斎戒(サイカイ)。一定期間、飲食や行為を慎(ツツシ)んで身を浄(キヨ)め、不浄(フジョウ)を避けて祈ること。タˈナドゥルˀヌ　ˀピンマー　ˀムヌンティ　ˈシーˀ　ビˈキドゥムンケーˀヤ　ピˈニンˀ　スˈローランˀシェン [taˈnaduruˀnu ˀpimmaː ˀmununti ˈʃiːˀ biˈkidumuŋkeːˀja piˈninˀ suˈroːraŋˀʃeŋ](種取祭の時は物忌みといって、男の人たちは鬚も剃られなかった)。

ムˈヌンˀグイウタ [muˈnuŋˀguiʔuta] 【名】物乞い歌。ˈソーˀラン [ˈsoːˀraŋ](お盆。「精霊会」の義) のˈアンˀガマ [ˈʔaŋˀgama](念仏踊りの「入れ子舞」。頬かぶりや仮面をかぶってする「姉御踊り」の義か) が仏間の庭先で踊られる前段に、念仏踊り隊の地方(ジカタ)(地謡(ジウタイ)) が三線を弾きながら必要な品物を出すよう要求して歌う盆踊り歌の一組。/**(1)** ムシルヌ　ンジラバ　ヨーホーハリ　ウマチ　ンダショーリ　ハリ　ウマチ　ンダショーリ (筵(ムシロ) が出たら、＜囃子＞火をお出しなさい＜囃子＞)、**(2)** ウマチヌ　ンジラバ　ヨーホーハリ　キシル　ンダショーリ　ハリ　キシル　ンダシ (火が出たら＜囃子＞煙管(キセル) をお出しなさい＜囃子＞)、**(3)** キシルヌ　ンジラバ　ヨーホーハリ　タバク　ンダショーリ　ハリ　タバク　ンダシ (煙管が出たら＜囃子＞煙草をお出しなさい＜囃子＞)、**(4)** タバクヌ　ンジラバ　ヨーホーハリ　ウミキ　ンダショーリ　ハリ　ウミキ　ンダシ (煙草が出たら＜囃子＞お神酒をお出しなさい＜囃子＞)、**(5)** ウミキヌ　ンジラバ　ヨーホーハリ　ウサイ　ンダショーリ　ハリ　ウサイ　ンダシ (お神酒が出たら＜囃子＞料理 (お菜) をお出しなさい＜囃子＞)、**(6)** ウサイヌ　ンジラバ　ヨーホー　ハリ　スナイ　ンダショーリ　ハリ　スナイ　ンダシ (お料理が出たら＜囃子＞蔬菜(ソサイ)をお出しなさい＜囃子＞)、**(7)** スナイヌ　ンジラバ　ヨーホー　ハリ　ブドゥル　ンダショーリ　ハリ　ブドゥル　ンダシ (蔬菜が出たら＜囃子＞踊りを出しなさい＜囃子＞)。『鳩間島誌』。

ムˈヌンマーˀン [muˈnuʔmmaːˀŋ] 【形】食事が美味しいと感じること。ムˈヌンマーˀンダ　ˈヤンマイˀヤー　ˈノーリˀブーヨー [muˈnuʔmmaːˀnda ˈjammaiˀja: ˈnoːriˀbuːjoː](食事が美味しいから、病気は治っているよ)。ˈピッˀチン　ムˈヌンマー　ナーˀヌ [ˈpitˀtʃim muˈnumma: naːˀnu](ちっとも食事が美味しくない)。

ˀムノー [ˀmunoː] 【連】物は。ものは。ˀムヌ [ˀmunu](もの) に取りたての係助詞ˀヤ [ja](は) が付いて、[-u] + [ja] → [-oː] の融合変化をおこしたもの。ˀトゥルムノー　ノーˈン　ナーˀヌ [ˀturu ˀmuno: noːˈn naːˀnu](取るものは何もない)。

ˀムノー　アˈラˀヌ [ˀmuno: ʔaˈraˀnu] 【連】1問題ではない。物ではない。取り立てていうほどのものでない。ˀタローサーギ　ˈブーˀカー　ˈウッˀツァー　ˈナーˀトー　ˀムノー　アˈラˀヌンドゥ [ˀtaroːsaːgi ˈbuːˀka: ˈʔutˀtsa: ˈnaːˀto: ˀmuno: ʔaˈraˀnundu](太郎さえおれば彼らなんぞ問題＜物の数＞ではないのだが)。2何とも処置できない。とんでもないことになった。台無しになった。ˀビータリティ　ミˈチˀナー　クˈルビˀ　ッスゴーダー　シˈティ　キンˀマー　ˀムノー　アˈラˀヌ [ˀbiːtariti miˈtʃiˀna: kuˈrubiˀ sˈsugoːˀda: ʃi̥ˈti kimˀma: ˀmuno: ʔaˈraˀnu](酔いつぶれて道に転んで糞まみれになって、着物は台無しになった)。

ˀムノー　ッˈふァイヤーˀティル　ノーˈンˀ　ナル [ˀmuno: fˈfaijaːˀtiru noːˈnˀnaru] 【連】生活が第一、生活できなければ何事も無意味だ。「物を食べてこそ何事もできるのだ」の義。＜諺＞。

ˀムバ [ˀmuba] 【接助】格助詞連語。～ものを。～のを。準体助詞ˀム [ˀmu](もの、の) に格助詞ˀバ [ˀba](～を) が付いた助詞連語。活用語の連体形に付く。ノーˈン　ヤラバンˀ　ミサバ　ˀカクムバ　ˀ

ムティ　˥クー [noːˈɲ jarabam˥ misaba ˥kakumuba ˥muti kuː](何でもよいから、書くのを持って来い)。アˈジサーギ　スー˥カー　˥バー　˥カクムバ　ノーˈンティン　ナーン˥　ユンダル　カˈカン˥　シジˈダー [ʔaˈʤisaːgi suː˥kaː ˥baː ˥kąkumuba noːˈntin naːŋ˥ jundaru kąˈkaŋ˥ʃiʤiˈdaː](言いさえすれば私が書くものを、何ともない＜何とも言わないから＞から書かないわけだよ)。

ムˈフン [muˈɸuŋ] 【名】謀反。石垣方言からの借用語か。主君に背くこと。アˈカハチェー　グイ˥フゾーノーヌ　ˈスー˥ワティル　ウスンガˈナ˥シェーマイニ　ムˈフンバ˥　ウˈクシタ˥ティˈダー [ʔaˈkahatʃeː guiˈɸuʤoːnoːnu ˈsuː˥watiru ʔusuŋgaˈna˥ʃeː-maini muˈɸumba˥ ʔuˈkuʃi̥˥tatiˈdaː](オヤケアカハチは人頭税＜御庸布・上納＞が厳しいかった＜強かった＞ので、首里国王＜御主加那志＞様に謀反を起こしたそうだよ)。

ムˈミ [muˈmi] 【名】籾。もみごめ (籾米)。穂から扱(コ)き落としたままの米。「糙、毛美与禰 (もみよね)」『和名抄』の転訛したもの。ˈマイ　アーシティ˥　ムˈミ˥　ニˈブ˥クナー　˥プシバ [ˈmai ʔaːʃi̥ti˥ muˈmi˥ niˈbu˥kunaː ˥pu̥ʃiba](稲を脱穀して籾(モミ)をニˈブ˥ク [niˈbu˥ku]＜稲掃(イナバ)き筵(ムシロ)＞で干しなさい)。ムˈミガラ [muˈmigara](籾殻) のついたままの米穀。ピˈキウシ [pi̥ˈkiʔuʃi](碾き臼) で挽いて玄米にするもの。ˈザイレー˥マイ [ˈʤaireː˥mai](在来種の米。˥ウシノー [ʔuʃinoː] やダˈネー˥マ [daˈneː˥ma] など) は、のげ (芒(ノギ)) が長いので、搗(ツキ)き臼で搗いて芒を除去した後に碾き臼で挽いて籾殻を除去し、玄米にした。昔は、その一連の作業を˥カトゥン [˥katuŋ](かつ＜搗くこと＞。「搗、ツク、カツ」『類聚名義抄』の転訛したもの) といった。従って芒の付いた籾を˥カティマイ [˥katimai](籾。搗く＜カツ＞ことを要する米) といった。ムˈミ˥　プス　˥ピンマー　ミˈナカ˥ナー　ニˈブ˥ク　シˈキティ　ウン˥ナー　ˈノー˥シ　ピˈルギティ˥　プˈソーッタ˥ヌ　トゥˈル　ウーンティ　ˈシッ˥パイ　ˈシーヨーッ˥タ [muˈmi˥ pu̥su ˥pimmaː miˈnaka˥naː niˈbu˥ku ʃi̥ˈkiti ʔun˥naː ˈnoːˈʃi piˈrugiti˥ pu̥ˈsoːtta˥nu tuˈru ʔuːnti ʃip˥pai ˈʃiːjoːt˥ta](籾を乾す時は庭にニブク＜稲掃き　筵(イナバキムシロ)　＞を敷いて、それに零(コボ)し広げて乾されたが、鶏を追うのに苦労＜精一杯＞しておられた)。

ムˈミガラ [muˈmigara] 【名】籾殻。籾米(モミゴメ)の外皮。籾(モミ)殻(ガラ)。籾糠。ムˈミガラ˥　アˈツァ˥ミティ　ˈモーシ [muˈmigara˥ ʔaˈtsa˥miti ˈmoːʃi](籾殻を集めて燃やせ)。籾殻は燃やしたり、畑に入れて肥料にしたりした。また十分に水洗いした後、乾燥して枕の中に詰めて利用することもあった。肩こりに効くという評判が立つほどだった。ムˈミガラー　パスコー˥ンドゥ　ˈゾー˥ブンニ　アˈライ˥　プシティ　ˈマッ˥ふァナ　イˈリティ˥　シゥˈカウ˥カー　ヌˈビシジ˥ヌ　ˈコー˥リナ　スˈクンティ˥　アˈザリブタ [muˈmigaraː pasu̥koː˥ndu ˈʤoː˥bunni ʔaˈrai˥ pu̥ʃiti ˈmafˈfana ʔiˈriti˥ si̥ˈkau˥kaː nuˈbiʃiʤi˥nu ˈkoː˥rina su̥ˈkunti˥ ʔaˈʤaributa](籾殻ははしかしい＜芒し。「苛、ハシカシ」『類聚名義抄』。むずがゆい、痛がゆい、こそばゆい＞が、十分に洗い、乾燥して枕に入れて使うと首筋の凝り＜肩こり＞に効くと言われていた)。

ムˈミガラマッふァ [muˈmigaramaffa] 【名】籾殻枕(モミガラ)。籾殻を洗って乾燥し、布袋いいれて枕に仕上げたもの。涼しくて熟睡できるといわれ、女性に愛用されていた。ムˈカ˥シェー　ムˈミガラマッふァ˥ティン　アˈリ˥ブタ [muˈkaʃeː muˈmigaramaffa˥tiŋ ʔaˈri˥buta](昔は、籾殻枕というのも＜とても＞あった＜あり居った＞)。

ムˈミパク [muˈmipaku] 【名】籾箱。籾(モミ)を入れて保管する箱。若年層は、モˈミバク [moˈmibaku](籾箱) ともう。幅約 3 尺、長さ約 6 尺、高さ約 5 尺の木箱。取り外し式の板で作られ、籾の減少につれて上段の板を取り外すようになっていた。普通は裏座に設置された。この籾箱から必要に応じて籾を取り出し、籾摺(モミス)りをして玄米にし、更に搗(ツ)き臼で精米して食した。ムˈメー˥　ティダナ　˥プシティ　ムˈミパク˥ナ　イˈリリ˥バ [muˈmeː˥ tidana ˥pu̥ʃiti muˈmipaku˥na ʔiˈriri˥ba](籾は太陽に干して籾箱に入れなさいよ)。

˥ムミン [˥mumiŋ] 【名】木綿。ワタの種子に付いている白い綿毛。きわた (生綿)。木綿糸。標準語からの借用語。老年層は、˥パナ [˥pana](綿) という。ムˈカ˥シェー　˥ムミンパナバ　スˈク˥リ　ウˈレー˥ラ　˥ムミン　トゥˈローッ˥タティˈダー [muˈkaʃeː ˥mumimpanaba su̥ˈku˥ri ʔuˈreː˥ra ˥mumin tuˈroːt˥tati ˈdaː](昔は綿花を栽培して＜作って＞、それから木綿糸を取られたそうだよ)。

˥ムミンイトゥ [˥mumiŋʔitu] 【名】木綿糸。マˈナ˥マー　ˈキンヌイ˥イトー　˥ムミンイトゥ　ヤˈルヌ˥　ムˈカ˥シェー　˥ブーシル　ヌイˈヨーッタ˥ル [maˈna˥maː ˈkinnui˥ʔitoː ˥mumiŋʔitu jaˈrunu˥ muˈka˥ʃeː ˥buːʃiru nuiˈjoːtta˥ru](今は着物の縫い糸は木綿糸で

あるが、昔は麻糸˩麻苧、乎＜を＞、一云阿佐＜あさ＞」『和名抄』で縫われた)。

˥ムミン˥カシ [˥mumiŋkaʃi] 【名】木綿糸。「木綿綛＜かせ＞」の義。˥ムミンカシバ ˩アイ˥ズミ シ˩ティ˥ プシ ˥シケー [˥mumiŋkaʃiba ˩ʔai˥ʤumi ʃi̥˩ti˥ pu̥ʃi ˥ʃi̥ke:](木綿の綛糸＜かせいと＞を藍染にして乾してある)。

˥ムミンパナ [˥mumimpana] 【名】木綿の花。ウ˩キナー˥ヌ ˥ムミンパナー ˩ウイニ˥ ン˩カイ˥ サクンダ ア˩ミ˥ヌ ˥フーカー ミ˩ジヌ˥ タ˩マリティ˥ ッサリスツォー [ʔu˩kina:˥nu ˥mumimpana: ˩ʔuini˥ ŋ˩kai˥ sḁkunda ʔa˩mi˥nu ˥ɸu:ka: mi˩ʤinu˥ ta˩mariti˥ ssarisutso:](沖縄の綿花は上に向かって咲くので雨が降ると水が溜まって腐れてしまうそうだ)。

ム˩ム [mu˩mu] 【名】桃。「桃、毛毛＜もも＞」『和名抄』、「桃、モモ・モモノキ」『類聚名義抄』の転訛したもの。鳩間島で植栽されていた桃の木は小粒の実をつけていた。パ˩トゥマ˥ヌ ム˩ムヌ˥ ナロー グ˩マーグマー˥シル ナ˩ル˥タ [pḁ˩tuma˥nu mu˩munu˥ naro: gu˩ma:guma:˥ʃiru na˩ru˥ta](鳩間の桃の実は小さく生ったものだ)。

ム˩ム [mu˩mu] 【名】 (数) 百。「百・佰、モモ・モモチ」『類聚名義抄』の転訛したもの。文語的な表現。普通は˩ピャー˥ク [˩pja:˥ku](百) という。˩ヤンマイ˥ヤー イ˩サ˥ヌヤー ム˩ムッケーラ˥ カ˩ユイル ノー˥シェーツォー [˩jammai˥ja: ʔi˩sa˥nuja: mu˩mukke:ra˥ ka˩juiru no:˥ʃe:tso:](病気は医者の家に百回通って治したそうだ)。

˥ムム [˥mumu] 【名】 腿(モモ)。脚の膝(ヒザ)から上、股までの部分。「股、～毛毛」『和名抄』、「～毛毛那賀＜股長＞～」『古事記上謡・6』の転訛したもの。ム˩ムッ˥タラ [mu˩mut˥tara](臀部(デンブ)の筋肉)。˥ムムナー ア˩シブ˥ヌ ˥ンジティ ˩ウー˥ミ ˩ゴーリ ベー [˥mumuna: ʔa˩ʃibu˥nu ˥ʔnʤiti ˩ʔu:˥miti ˩go:ri be:](腿にお出来ができて、化膿して筋肉が削がれている)。

ム˩ムッケーラ [mu˩mukke:ra] 【名】百回。百度。「百返り」の義。˩ワー˥ ム˩ムッケーラ˥ カ˩ヨーバン˥ ウ˩ヌ˥ ッ˩ふァー ワンマー˥ ッ˩ふォーラン˥パジ [˩wa:˥ mu˩mukke:ra˥ ka˩jo:baŋ˥ ʔu˩nu˥ f˩fa: wamma:˥ f˩fo:ram˥paʤi](君が百度通っても、その子を君には下さらないはずだよ)。

ム˩ムッ˥タラ [mu˩mut˥tara] 【名】太股。臀部の筋肉。˩アッ˥タニ カ˩キッツァー˥シ ˩パッ˥タ ˥クトー ム˩ムッ˥タラ ˩コー˥リティ ˥ヤミ ア˩ラカラ˥ヌ [˩ʔat˥tani kḁ˩kittsa:˥ʃi ˩pat˥ta ˥ku̥to: mu˩mut˥tara ˩ko:˥riti ˥jami ʔa˩rakara˥nu](急に駆け足で走ったところ、太股が凝(コ)って痛くて歩かれない)。

ム˩ム˥ヌキ [mu˩mu˥nuki] 【名】足が遠退(トオノ)くこと。疎遠(エン)になること。ウ˩ヌ˥スク ˩クー˥タ プ˩スヌ˥ ク˩ヌ˥グロー ク˩ヌ˥ヤー ˩パン˥ヌ ˩トゥーヌキ˥ ム˩ム˥ヌキ ˩シー ブーワ ヌー˥ヌ ˩アッ˥タカヤー [ʔu˩nu˥su̥ku ˩ku:˥ta pu̥˩sunu˥ ku˩nu˥guro: ku ˩nu˥ja: ˩pan˥nu ˩tu:nuki˥ mu˩mu˥nuki ˩ʃi: bu:wa nu:˥ nu ˩ʔat˥takaja:](あれほど来た人が、この頃はこの家に足が遠のき腿が遠のいているのは、一体何事があったのかね)。

ム˩ム˥ヤライ [mu˩mu˥jarai] 【名】足や股を交差させること。「ももやらい (股矢来)」の義か。「Yarai. ヤライ (矢来) ある場所を通らせないために作る垣. または、それに類した物.」『邦訳日葡辞書』。˥ムム [˥mumu](股) に、ヤ˩ラウン [ja˩rauŋ](X 型に竹や木を交差させる)、ヤ˩ラザウン [ja˩raʤauŋ](物を X 型に交差させる) の連用形が付いて形成された合成語。古謡にも見られる。ム˩ム˥ヤライ ˩シー˥ ニ˩ブン [mu˩mu˥jarai ˩ʃi:˥ ni˩buŋ](足を交差させて寝る)。

˥ムヤー [˥muja:] 【名】母屋。もや。「身屋、モヤ、俗用母屋」『伊呂波字類抄』の転訛したもの。ハ˩ギ [ha˩gi](軒＜接ぎ＞) の対義語。

˥ムヤージゥカ [˥muja:ʤi̥ka] 【名】 梁(ハリ)の上に立てて桁(ケタ)を支える短い支柱 (束柱(ツカバシラ))。普通は単にシゥ˩カ˥バラー [si̥˩ka˥bara:](束柱) という。˥ムヤージゥカー ˩ヤー˥ヌ ˩コーバイ˥トゥ ˩アーシ˥ル ス˩ク˥ル [˥muja:ʤi̥ka: ˩ja:˥nu ˩ko:bai˥tu ˩ʔa:ʃi˥ru su̥˩ku˥ru](束柱は家の勾配に合わせて作るのだ)。

˥ムヤージカ [˥muja:ʤika] 【名】 梁(ハリ)の上に立てて桁(ケタ)を支える短い支柱。束柱(ツカバシラ)。「母屋束」の義。単に、シゥ˩カ˥バラー [si̥˩ka˥bara:](束柱) ともいう。「Tçukabasira. ツカバシラ (束柱) 床板などの下に、それを支えるために立てる小さな柱、すなわち、支柱」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˩ヤー˥ヌ ˩コーバイ˥ヌ ˥アンダー ˥ムヤージカー ˩イッサ˥クブカラナール ˩ナイ˥ヤー ˥アル [˩ja:˥nu ˩ko:bai˥nu ˥ʔanda ˥muja:ʤika: ˩ʔissa˥kubukarana:ru ˩nai˥ja: ˥ʔaru](家＜屋根＞の勾配があるから、母屋束は一尺ぐらいずつの長さしかない＜一尺ぐらいの長さがある＞)。

˥ムヤーバラー [˥muja:bara:] 【名】母屋柱。家屋の主

要部分の柱。ハ˩ギバラー [ha˩gibaraː](庇の柱。「脛柱」の義か) の内側にある主要な構造体の柱。この柱は、ヌ˩キヤー [nu˩kijaː](貫き家) 建築構造の家の柱に対して言う。ア˩ナ˥プリヤー [ʔa˩na˥purijaː](穴掘り建て。掘っ立て小屋) の柱には言わない。普通は、フ˩クンキー [ɸu̥˩kuŋkiː](福木) を四寸角、五寸角の柱にして用いた。ヤ˩マー　ペー˥ル　アー˩シ˥　ムヤーバラー　プ˩スムトゥ˥ナー　˥キシ　ン˩ザ˥シ　˩クー˥タツォー [ja˩maː peː˥ru ʔaː˩ʃi˥ mujaːbaraː pu̥˩sumutu˥naː ˥ki̥ʃi ʔn˩ʤa˥ʃi ˩kuː˥tatsoː](山に入るたびに母屋柱を一本ずつ伐り出してきたそうだ)。

ム˩ヨー [mu˩joː] 【名】1模様。ク˩ヌ　キン˥ヌ　ム˩ヨーヤ˥　バ˩サ˥ヌパーヌ　カ˩タヌト ナー [ku˩nu kin ˥nu mu˩joːja˥ ba˩sa˥nupaːnu kḁ˩tanu˧naː](この着物の模様は芭蕉の葉の型だねえ)。2様子。マ˩ナ˥マー　˩ヌー˥シル　˩ブー˥ユー　ム˩ヨー˥　シ˩キ˥　キー˩ミー [ma˩na˥maː ˩nuːʃi˥ru ˩buː˥juː mu˩joː˥ ʃi̥˩ki˥kiː˩miː](今はどうしているのか、様子を聞いてきてみなさいよ)。

ム˩ヨースン [mu˩joːsuŋ] 【自動】もよおす (催す)。ある気持ちや生理的現象が起こる。兆候があらわれる。標準語からの借用語か。シ˩ラ˥ヌ　ア˩ガミティ˥　ニ˩チ˥ヌ　ム˩ヨーシー˥　ブ˩リン˥ギサバン [ʃi˩ra ˥nu ʔa˩gamiti˥ ni˩ʧi˥nu mu˩joːʃiː˥ bu˩riŋ˥gisabaŋ](顔が赤らんで発熱の兆候がある＜発熱を催している＞ようだよ)。˩キューブカ˥ラー　オ˩サン˥ヌ　ム˩ヨースンティ˥　ウ˩ムータ˥ヌ　マ˩ダ˥　ム˩ヨーサンバン [˩kjuːbuka˥raː ʔo˩san˥nu mu˩joːsunti˥ ʔu˩muːta ˥nu ma˩da˥ mu˩joːsambaŋ](今日あたり産気づく＜お産を催する＞と思ったが、まだ産気づか＜お産を催し＞ないよ)。

ム˩ラ [mu˩ra] 【名】村。集落。「村、和名無良 (むら)、野外聚居也」『和名抄』の転訛。˩インヌムラ [˩ʔinnumura](西村)。˩アンヌムラ [˩ʔannumura](東村)。˩ウイヌムラ [˩ʔuinumura](上の村。中道より上＜北側＞の方を指す)。ス˩ムヌムラ [su˩munumura](下の村。中道より下＜南側＞、海岸の方を指す)。˥ドゥームラプス [˥duːmurapusu](自分の村の人)。ム˩カ˥シェー　ムー˩ル˥　ドゥームララール　トゥ˩ジェー˥　クイ˩ヨーッ˥タ [mu˩kaʃeː muː˩ru˥ duːmuraraːru tu˩ʤeː˥ kui˩joːt˥ta](昔は皆自分の村から妻を娶られた＜妻を乞われた＞)。タ˩ムラプス [ta˩murapusu](よその村人)。タ˩ムラプスバ˥　トゥ˩ジ　サーロー˥レー　プ˩ソー　ナン˥ゾー　˩オーラ˥ヌ [ta˩murapusuba˥ tu˩ʤi saːroː˥reː pu̥˩soː nan˥ʤoː˩ʔoːra˥nu](よその村人を妻に迎えられた人はあまりおられない)。

ム˩ライルン [mu˩rairuŋ] 【他動】大盛りにする。山盛りにする。˥ズー　ム˩ライルンティ　スンドゥ˥　ウ˩ビッチン˥ヌ　˥ウサイシェー　ム˩ライララヌ [˥ʤuː mu˩rairunti sundu˥ ʔu˩bittʃin˥nu ˥ʔusaiʃeː mu˩rairaranu](お重を大盛りにしようとするが、これぽっちのお料理では盛られない)。タ˩ク˥トゥ　カ˩マブクヌ˥　アルカー　ム˩ライヤッ˥サンドゥ˩ナー [tḁ˩ku˥tu ka˩mabukunu˥ ʔaruka: mu˩raijas˥sandu ˩naː](蛸とかまぼこがあれば大盛りに盛り付けやすいのだがなあ)。˥ウビシン　ム˩ライル˥　クトー　˥ナルン [˥ʔubiʃim mu˩rairu˥ ku̥to: ˥naruŋ](これだけでも大盛りに盛り付けることはできる)。˩マー˥ビン　ム˩ライヤー˥　ミサムヌ [˩maː˥bim mu˩raijaː˥ misamunu](もっと盛り付ければいいのに)。ム˩ライリ [mu˩rairi](盛り付けよ)。

ム˩ラウイ [mu˩raʔui] 【名】村払い。村八分。「村追い」の義。ヤ˩ナクトゥ　スー˥カー　ム˩ラウイ˥　シ˩ラリン˥ダー [ja˩nakutu suː˥ka: mu˩raʔui˥ ʃi˩rarin ˥daː](悪事を働くと＜悪いことをすると＞村八分にされるぞ)。

ム˩ラウチ [mu˩raʔutʃi] 【名】村内。集落の内。ム˩ラウチ˥ナー　˩カー˥ラヤーヤ　ムー˩ル˥シ　˩ギューキブル˥　ア˩ル˥ワ [mu˩raʔutʃi˥naː ˥kaː˥rajaːja muː ˩ru˥ʃi ˩gjuːkiburu˥ ʔa˩ru˥wa](村内に瓦葺の家は全部で何軒あるか)。

ム˩ラギンミ [mu˩ragimmi] 【名】村吟味。部落会議。部落集会。

ム˩ラグトゥ [mu˩ragutu] 【名】村行事。˩プー˥ル　˥キチゴンヌ　˥フカナーン　ム˩ラグトー˥　アン˩ダー [˩puː˥ru ˥ki̥ʧigonnu ˥ɸu̥kanaːm mu˩raguto:˥ ʔan˩daː](豊年祭、結願祭の他にも村行事はあるよ)。

ム˩ラザライ [mu˩raʤarai] 【名】村の疫病神祓い。村の厄払い。「村浚(ムラサラ)え」の義。˥シチ [˥ʃi̥ʧi](節祭り) の際に、村中から疫病神や悪霊を追い払うこと。西村、東村のヤ˩ク˥サ [ja˩ku˥sa](村役人) たちが子供たちを集めて甕(カメ)の破片や瓦の破片を打ち鳴らし、˥イソー　パー˩レ˥パー˩レと唱えながら家々を回って疫病神を追い払い、最後は村井戸を回って海岸に下り、芭蕉の葉柄(ヨウヘイ)で作った小舟に鶏肉を載せ、これで疫病神を賺(スカ)し宥(ナダ)めて島から追い払うよう神に祈り、村の入り口の道路に大蒜(ニンニク)と塩を吊(ツ)るした注連縄(シメナワ)を張る儀式。各家の門にも注連縄を張り巡らした。夜は昼間と同じく、˩ユートーパー˥レー　˩ミー˥ソー

ッˈふァーと唱えながら疫病神祓えを行った。「ピーローˀ　イソーパーレーバ　「シー　ユーˀロー　「ユートーパーˀレー　「シールˀ　ムˈラザライ　ソーッˀタ [ˈpiːroːˀ ʔisoːpaːreːba ˈʃiː juːˀroː ˈjuːtoːpaːˀreː ˈʃiːruˀ muˈradʑarai soːtˀta](昼はイソーパーレーをし、夜はユートーパーレーをして村浚(ムラサラ)えをされた)。

ムˈラシ [muˈraʃi]【名】塊(クレ)。土塊(ツチクレ)。ムˈルシ [muˈruʃi](塊。土塊) ともいう。カˈタムラˀシ [kąˈtamuraˀʃi](肩の筋肉)。ˈシーシムラˀシ [ˈʃiːʃimuraˀʃi](筋肉。肉塊(ニクカイ)。力瘤(チカラコブ))。ˈジームラˀシ [ˈʤiːmuraˀʃi](土塊)。カˈニムラシ [kaˈnimuraʃi](鉄の塊)。アˈラシˀ　アˈキティ　ジームラˀシ　カˈナパイヌˀ　スˈブˀルシ　クˈマークマˀシ　バˈリ　カイˀシ　ˀシケー [ʔaˈraʃiˀ ʔaˈkiti ʤiːmuraˀʃi kaˈnapainuˀ suˈbuˀruʃi kuˈmaːkumaːˀʃi baˈri kaiˀʃi ˀʃi̥keː](開墾して土塊を鍬の頭で細々と割って耕してある)。シゥˈカラˀ　ンズカー　カˈタムラˀシェー　フˈクリ　キーˀス [si̥ˈkaraˀ ʔndʑukaː kaˈtamuraˀʃeː ɸu̥ˈkuri kiːˀsu](力を出すと肩の筋肉が膨(フク)れて出てくる)。

ムˈラシェーˀマ [muˈraʃeːˀma]【名】小さな塊。アˈミˀヌ　「フーˀター　「ジーˀヌ　ムˈラシェーˀマン　「ヤーラキティ　カイシヤッˀサン [ʔaˈmiˀnu ˈɸuːˀtaː ˈʤiːˀnu muˈraʃeːˀmaŋ ˈjaːrakiti kaiʃijasˀsaŋ](雨が降ったので土の小さな塊も軟らかくなって耕しやすい)。

ムˈラシˀ　スˈクˀルン [muˈraʃiˀ su̥ˈkuˀruŋ]【連】塊(カタマリ)を作る。「クーヤ　「ゾッふァスˀカー　ムˈラシˀ　スˈクˀルンˈダー [ˈkuːˀja ˈdʑoffasuˀkaː muˈraʃiˀ su̥ˈkuˀrunˈdaː](粉は濡らすと塊を作るよ)。「ンーニヌ　マーラー　シーシˀヌ　ムˈラシˀ　スˈクˀリティ　イッˈケナ　スーˀワン [ˈʔnːninu maːra: ʃiːʃiˀnuˀ muˈraʃiˀ su̥ˈkuˀriti ʔikˈkena suːˀwaŋ](胸の辺りに力瘤が出来て＜筋肉が塊を作って＞非常に力強い)。

ムˈラズー [muraˈdʑuː]【名】むらじゅう (村中)。ムˈラズーヌˀ　プˈスヌˀ　ンジティル　「プールˀヌ　「ゾーラキン　パーˀレーン　シˈナˀピキン　「ソーッˀタ [muˈradʑuːnuˀ pu̥ˈsunuˀ ʔndʑitiru ˈpuːruˀnu ˈdʑoːrakim paːˀreːŋ ʃiˈnaˀpi̥kin ˈsoːtˀta](村中の人が出て豊年祭の入子(イレコ)芸能＜常楽(ジョウラク)芸能＞も爬龍船(ハリュウセン)競漕も綱引きもなされた)。

ムˈラズリー [muˈradʑuriː]【名】村民集会。「村揃い」の義。ˈジョーカイ [ˈdʑoːkai](常会。標準語からの借用語) ともいう。ムˈカˀシェー　ˀソンガチヌ　ˀアトゥナー　ムˈラズリーバ　シールˀ　シマムラヌ　ˀクトー　ムーˈルˀ　キˈモーッˀタツォー [muˈkaˀʃeː ˀsoŋgatʃinu ˀʔatunaː muˈradʑuriːba ʃiːruˀʃimamuranu ˀku̥toː muːˈruˀ kiˈmoːtˀtatsoː](昔は正月の後に村民集会をして島村のことを総て決められたそうだ)。

ムˈラズルイ [muˈradʑurui]【名】村人の集会。「村揃い」の義。ムˈラズリー [muˈradʑuriː](村揃(ムラソロ)い) ともいう。ムˈカˀシェー　ムˈラヌˀ　クトー　ムˈラズルイ　シールˀ　ノーˈンˀ　キˈモーッˀタ [muˈkaˀʃeː muˈranuˀ ku̥toː muˈradʑurui ʃiːruˀ noːˈŋˀ kiˈmoːtˀta](昔は、村のことは村人が集会をして何事をもお決めなされたものだ)。

ムˈラˀスン [muˈraˀsuŋ]【他動】漏(モ)らす。洩(モ)らす。液体や気体を隙間や穴から外や内側に出す。フˈカスン [ɸu̥ˈkasuŋ](我慢していた尿や便を洩らす。失禁(シッキン)する) とは区別して用いられる。ˀイダフニ　サˈラスˀカーˀアカ　ムˈリˀルンティ　「シーバˀ　ムˈラサンˀヨーニ　サˈバヌˀ　アバ　ッˈふァーシˀバ [ˈʔidaɸuni saˈrasuˀkaː ˀʔaka muˈriˀrunti ˈʃiːbaˀ muˈrasaŋˀjoːni saˈbanuˀ ʔaba fˈfaːʃiˀba](サバニ＜板舟＞を陽に曝(サラ)すと淦(アカ)を洩れるというから、洩らさないように鱶(フカ)の油を塗り＜喰わせ＞なさいよ)。ムˈラˀシ　「ナーˀヌ [muˈraˀʃi ˈnaːˀnu](洩らしてしまった)。ムˈラˀスˀクトー　「ナーˀヌ [muˈraˀsu ˀku̥toː ˈnaːˀnu](洩らすことはない)。ンˈベーマーˀ　ムˈラˀシェー　ˀミサムヌ [ʔmˈbeːmaːˀ muˈraˀʃeː ˀmisamunu](少しは洩らせばいいのに)。ンˈベーマーˀ　ムˈラˀシバ [ʔmˈbeːmaːˀ muˈraˀʃiba](少しは洩らしなさいよ)。ウˈヌˀ　パˈナˀシェー　プˈスンナーˀネー　イッˈカˀ　ムˈラスˀナ [ʔuˈnuˀ paˈnaˀʃeː pu̥ˈsunnaːˀneː ʔikˈkaˀ muˈrasuˀna](この話は他人には決して洩らすな)。

ムˈラスン [muˈrasuŋ]【他動】盛らせる。盛り上げさせる。シˈキゴイˀ　イˈリティˀ　ジー　カˈバˀシ　ムˈラスンティ　スンドゥˀ　イˈシグーヌˀ　ンジクンダ　ˀジー　ムˈラサラヌ [ʃi̥ˈkigoiˀ ʔiˈritiˀ ʤiːmuˈrasunti sunduˀ ʔiˈʃiguːnuˀ ʔndʑikunda ˀʤiː muˈrasaranu](堆肥を入れて土を被せて土を盛ろうとするが、岩盤が出てくるので土は盛れない)。マˈカˀルナ　ˀイー　ムˈラシティ　ッふァーシˀバ [maˈkaˀruna ˀʔiː muˈraʃi̥tiˀ fˈfaːʃiˀba](お椀に飯を盛って食べさせなさい)。マˈカˀルナー　ムˈラスˀ　クトー　ナˈラˀヌ [maˈkaˀrunaː muˈrasuˀ ku̥toː naˈraˀnu](お椀には盛ることができない)。「マーˀビン　ムˈラシェーˀミサムヌ [ˈmaːˀbim muˈraʃeːˀ misamunu](もっと盛ればいいのに)。「マーˀビン　ムˈラシˀバ [ˈmaːˀbim muˈraʃiˀba](もっと盛れよ)。

ムˈラナカ [muˈranaka] 【名】村中。村の中。鳩間村は縦道に従って、東より 1〜7 班に分かれており、1〜4 班が東村、5〜7 班が西村を構成していた。シˈマッサルˀヌ ˀピン ˀイソーパーレーバ ˈシーティˀ ムˈラザライバ ソーˀリ ムˈラヌˀ ウˈリダˀチナー シˈビナージナバˀ パˈリティˀ パˈナシキヌ カンˀヌ ムˈラナカー ペーランˀスコーニ ˈニンˀガイ ˈソーッタ [ʃiˈmassaruˀnu ˀpiŋˀ ʔisoːpaːreːba ˈʃiːtiˀ muˈradʑaraiba soːˀri muˈranuˀ ʔu ˈridaˀtʃinaː ʃiˈbinaːɕinabaˀ paˈritiˀ paˈnaʃi̥kinu kanˀ nu muˈranakaː peːranˀsu̥koːni ˈniŋˀgai ˈsoːtˀta](シマッサル < シマクサラシ > 祭祀の時、イソーパーレーをして村の祓えごと <村浚え(ムラサラ) > をし、村の縦道の入り口 < 下り立ち > に注連縄(シメナワ)を張って、風邪 < 鼻付き > の神が村中に入らないように、祈願をされた)。

ムˈラヌ ペーラˀフチ [muˈranu peːriˀɸu̥tʃi] 【連】「村の入り口」の義。桟橋から中岡(ナカモリ)に通ずる縦道。村の奥から海岸に通ずる六本の縦道。東から四本目の縦道より東部を東村、西部を西村という。旧鳩間小学校校門に通じる沿岸道路と四本目の縦道の交差点をˈアイˀザムトゥ [ˈʔaiˀdʑamutu](出会いの座元) という。ムˈラヌ ペーラˀフチナー シˈビナージナヌˀ パˈラリ ベーˀヌ ˀヌンティカヤー [muˈranu peːraˀɸu̥tʃinaː ʃiˈbinaːɕinanuˀ paˈrari beːˀnu ˀnuntikajaː](村の入り口に注連縄が張られているが、何故だろうか)。

ムˈラバカリ [muˈrabakari] 【名】分村。「村別れ」の義。鳩間村は黒島や古見からの村別れといわれている。パˈトゥˀマー クˈルシマˀトゥ ˀクンラヌ ムˈラバカリˀティ アˈザリ ブー [pḁˈtuˀmaː kuˈruʃima ˀtu ˀkunranu muˈrabakariˀti ʔaˈdʑari buː](鳩間村は黒島と古見村からの村別れといわれている)。サˈキˀヤマムラン ˀッサブン パˈティルマーˀラヌ ムˈラバカリˀツォー [sḁˈkiˀjaman ˀssabum pḁˈtirumaːˀ ranu muˈrabakaˀritsoː](崎山村も白保村も波照間島からの村別れだそうだ)。

ムˈラバキ [muˈrabaki] 【名】村分け。分村。ムˈカˀシェー ˈグイˀフゾーノー ウˈサミˀルンティル ムˈラバキˀ シˈミラリタˀツォー [muˈkaˀʃeː ˈguiˀɸudʑoːnoː ʔuˈsamiˀruntiru muˈrabakiˀ ʃiˈmiraritaˀtsoː](昔は貢納布と貢納米 < 御用布上納 > を収めるために分村 < 村分け > させられたそうだ)。

ムˈラバンズ [muˈrabandʑu] 【名】村番所。村の役所(現在の公民館に相当する所)。ˈオーˀシ [ʔoːʃi] ともいう。ˈユンチュ [ˈjuntʃu](与人) 一人、ミˈザˀシ [miˈdʑaˀʃi](目差) 一人、ヤˈマピˀシャ [jaˈmapiˀʃa](杣山筆者) 一人、ˈコーサクピˀシャ [ˈkoːsakupiˀʃa](耕作筆者) 一人が配置されていたという。ムˈラバンズヌˀ アトゥナール パˈトゥマˀヌ ˈガッコーˀヤ スˈクˀローッタツォー [muˈrabandʑunuˀ ʔatunaːru pḁˈtumaˀnu ˈgakkoːˀja su̥ˈkuˀroːttatsoː](村番所の跡に鳩間の学校は建てら < 作られ > たそうだ)。

ムˈラプール [muˈrapuːru] 【名】村豊年祭 (豊年祭当日、村民総出で行われるゾーラキ < 奉納入子踊り・常楽祈願踊り > や西村と東村のˈパーˀレー < 爬竜舟競争 > による豊年祈願 < 世乞い > の祭祀、及び翌日のシˈナˀピキ < 綱引き > によって豊年を祈願し予祝する祭祀)。村中の人が出て祝う豊年感謝の祭り。ˀオンプール [ˀʔompuːru](豊年祭当日の前夜、神職者と村役人が御嶽に籠もって夜を徹して本年の豊年感謝の祈願と、来年の豊年 < 世乞い > の祈願をする行事。ˈユーングムˀル [ˈjuːŋgumuˀru]< 夜籠もり祈願 > ともいう) の対義語。ˀサンシキナーティ ˈソーˀル ˈプールˀル ムˈラプールティˀムカーヤ [ˀsaŋʃi̥kinaːti ˈsoːˀru ˈpuːruˀru muˈrapuːrutiˀ mukaːja](桟敷でなさる豊年祭が村豊年祭 < 村民総出の豊年祭 > というものだよ)。

ムˈラブザ [muˈrabudʑa] 【名】村役人。「村夫作」と表記される。琉球国時代に貢納布を監督して織らせたり、寄贈品を集めて役場に納入する下級役人『石垣方言辞典』というが、鳩間島では田畑を監督督励して耕作させ、貢納品を役場に納入する下級役人にもいう。ムˈラブザ [muˈrabudʑa] は、転じて、自らは働かなず、人に命令や指示だけする人をいう。怠け者の代名詞。ˀブザ [ˀbudʑa] ともいう。ˈウンザーˀ ムˈラブザˀ ナリティ ˈピッˀチン パˈタラカヌ [ˈʔundʑaːˀ muˈrabudʑaˀ nariti ˈpitˀtʃim pḁˈtarakanu](あの野郎は指図ばかりして、ちっとも働かない < 怠け者である >)。

ムˈラマール [muˈramaːru] 【名】役人の巡検(ジュンケン)。役人が村を巡視すること。「村回り」の義。ムˈカˀシェー ヤˈクニンˀマー ムˈラマール シールˀ ムーˈルˀ パˈタˀケー ˈウイパラˀソーッタツォー [muˈkaˀʃeː jaˈkunimˀmaː muˈramaːru ʃiːruˀ muːˈruˀ pḁˈtaˀkeː ˈʔuiparaˀsoːttatsoː](昔は、役人は村を巡視して皆を畑に追い出されたそうだ)。

ムˈラヤクサ [muˈrajakusa] 【名】村役人。村の祭祀を執り行うために選出された人たち。ムˈラヤクニン [muˈrajakuniŋ](村役人) ともいう。ˈスーˀダイ [ˈ

suːˀdai](総代) 一人。部落会長に相当する最高責任者。ヤˈクˀサ [jaˈkuˀsa](総代を補佐する村役人。西村と東村より各一人、合計二人選出される)。ˈジンバイ [ˈʤimbai](配膳係り。ヤˈクˀサ [jaˈkuˀsa] を補佐する最下級の村役人。十五・六歳の男子で、西村と東村より各二名、合計四人選出される。ˈ膳配り」の義。神行事の際に必要なˀグシパナ [ˀguʃipana]< 神酒や花米 > を徴収したり、什器類を借り受け、返済する仕事や、ヤクサと一緒に神事に必要な魚や蛸を漁獲する仕事に従事する) 等が村行事を取り仕切っていた。ムˈラヤクサンˀケーヌ　ˈウイヌˀウガンナーティ　ˈユードゥーシˀヌ　スˈコール　シー　ヨーˀル [muˈrajakusaŋˀkeːnu ˈʔuinuˀʔuganna:ti ˈjuːduːʃiˀnu sɥˈkoːru ʃiːjoːˀru](村役人の方々が友利御嶽で夜通し祈願の準備をしておられる)。

ムˈラングトゥ [muˈraŋgutu] 【名】村の神行事。村の公務。村の行事。村の年中行事。ムˈラグトゥ [muˈragutu] ともいう。ˈスーˀダイ　ˀパジミ　シˈマムˀチユームチヌ　ヤˈクˀサンケーシル　ムˈラングトーˀ　ノーˈン　ソーッˀタ [ˈsuːˀdai ˀpaʤimi ʃiˈmamuˀʧi juːmuʧinu jaˈkuˀsaŋkeːʃiru muˈraŋgutoːˀ noːˈn soːtˀta](総代はじめ、村役人 < 島持ち世持ち > のヤクサ達で村行事は何事も執行され < なされた > た)。

ムˈリイー [muˈriʔiː] 【名】握り飯。ˈ盛りご飯」の義。バˈコーシンˀカ [baˈkoːsiŋˀka](共同作業の人員) などに対して食器を使わずに、米飯やˈウンヌˀイー [ˈʔunnuˀʔiː](芋を炊いて捏ねて握った飯) を大きく握って配る飯。ヤˈマˀバコー　ˈソーˀル　バˈコーシンカˀヌ　ムˈリイーˀ　スˈコールンティ　トゥンナキンラˀ　ウキティ　ˈパンˀタ　ˈシー　ベーˀダー [jaˈmaˀbakoː ˈsoːˀru baˈkoːʃiŋkaˀnu muˈriʔiːˀ sɥˈkoːrunti tunnakinraˀ ʔukiti ˈpanˀta ˈʃiː beːˀdaː](建築用材伐り出しの共同作業をされる共同作業人員の握り飯を作るために鶏鳴の時刻から起きて繁忙を極めているよ)。握り飯を「握る」ことを、スˈブˀルン [suˈbuˀruŋ](絞る) という。

ムˈリカブシ [muˈrikabuʃi] 【名】すばるぼし (昴星)。石垣方言からの借用語。ブˈリブシ [buˈribusi](群星) ともいう。ムˈリカブシユンタˀティ　ˈスーˀウˈタˀヌ　ˀアン [muˈrikabusijuntaˀti ˈsuːˀ ʔuˈtaˀnu ˀʔaŋ](ムリカブシユンタという古謡 < 歌 > がある)。

ムˈリクバナ [muˈrikubana] 【名】 (植) マツリカ (茉莉花)。石垣方言からの借用語。イˈサナキプソーˀムˈリクバナバˀ　サーナ　イˈリティˀ　ヌˈモーˀルンティˈダーˀ　カˈバッˀサンツォー [ʔiˈsanakipusoːˀ muˈrikubanabaˀ saːna ʔiˈritiˀ nuˈmoːˀruntiˈdaːˀ kaˈbasaˀntsoː](石垣の人はマツリカをお茶に入れて飲まれるそうだ、香ばしいそうだ)。

ムˈリコーシ [muˈrikoːsi] 【名】盛り菓子。菓子皿に菓子や餅類を盛り合わせた供物。ˈソーˀラン [ˈsoːˀraŋ](お盆。精霊会) やウˈブソッˀコー [ʔuˈbusokˀkoː](大きな法事。「大焼香」の義) の供物。ˈジューˀサンニンキンドーレーヌ　ウˈブソッˀコーナー　ムˈリコーシンˀ　シˈキソーッˀタ [ˈʤuːˀsanniŋkindoːreːnu ʔuˈbusokˀkoːna: muˈrikoːʃiŋˀ ʃɥˈkisoːtˀta](十三年忌などの大きな法事には盛り菓子も供えられた)。

ムˈリˀッふァ [muˈriˀffa] 【名】お守りをして育てた子。「守り子」の義。かつては七、八歳の女の子が他家の乳児が歩けるようになるまでお守りをして手伝う習慣があり、その乳児との姉弟関係は生涯続いた。ˀバー　ムˈリッふァヌˀル　ˈマイフナーˀ　マˈリ　ウイヌ　ガッˀコー　ˈペーˀレーˈダー [ˀbaː muˈriffanuˀru ˈmaiɸunaːˀ maˈri ʔuinu akˀkoː ˈpeːˀreː ˈdaː](私の守り子が立派に成長して上級学校に合格した < 入った > よ)。

ムˈリブシ [muˈribuʃi] 【名】すばる (昴)。「群れ星」の義。多くの場合、歌謡の中で現れる語。話し言葉では、ブˈリブシ [buˈribusi](すばる < 昴 >) というのが普通。その項参照。

ムˈリマース [muˈrimaːsu] 【名】盛り塩。茶碗に盛って綺麗に成形した塩を大皿の中央に反転して移し、健康祈願の縁起物(エンギモノ)とした。正月や祝儀に盛り塩をして床の間に供え、家族や来客に与えた。普通は、シゥˈカラマース [sɨˈkaramaːsu](力塩) という。ˀソンガチヌ　ムˈリマース　ザーˀトゥクナー　シˈキリˀヨー [ˀsoŋgatʃinu muˈrimaːsu ʤaːˀtɥkunaː ʃɥˈkiriˀjoː](正月の盛り塩を床の間に供えなさいよ)。

ムˈリˀルン [muˈriˀruŋ] 【自動】洩れる。水や光などが自然に隙間から抜け出る。ˀムルンとも言う。クˈヌ　タンˀゴーラ　ミˈジヌˀ　ムˈリˀルンティスˈクタヌˀ　ムˈリランˀワーˈンˀノー [kuˈnu taŋgoːˀra miˈʤinuˀ muˈriˀrunti sɥˈkutanuˀ muˈriraŋˀwaːˈnˀno:](この水桶 < 担桶 > から水が漏れると聞いたが洩れないではないか)。キサーˈティˀ　ムˈリパジˀミ　ˈベー [kisaːˈtiˀ muˈripaʤiˀmi ˈbeː](すでに洩れ始めている)。ˈオーパˀヤー　ムˈリˀル　ˀクトーˈナーˀヌ [ˈʔoːpaˀjaː muˈriˀru ˀkɥtoː ˈnaːˀnu](そんなに早く洩れることはない)。ウˈビˀナー　ムˈリˀレー

ラ　ˈデーˀジˈゲˀラ [ʔuˈbiˀnaː muˈriˀreːra ˈdeːˀʤiˈgeˀra](こんなに洩れたら大変さ)。ˈマーˀビン　ムˈリˀリ [ˈmaːˀbim muˈriˀri](もっと漏れろ)。

ムˈル [muˈru] 【名】岡。盛り上がった所。ナˈカンˀブレ [naˈkamˀbure](中岡＜森＞) の下の、シˈマナカー [ʃiˈmanakaː](島中の畑地) に通じる道の斜面にある砂岩の盛り上がった所。/ムルムルヌ　タウ　ナルケ　タウタウヌ　イキ　ナルケ　ハーリ　アミタボリ　リューガナシ/(岡岡が平坦地になるまで、平地平地が池になるまで、ハーリ＜囃子＞雨を賜れ、竜神さま＜加那志＞)(雨乞い歌、ハヤミク 7 連)『鳩間島古典民謡古謡集』。

ˀムルー [ˀmuruː] 【名】 (動) 魚名。和名、イトフエフキ (体長約 20 センチ。糸満方言のイノームルー) やホオアカクチビ (体長約 30 センチ。糸満方言のオームルー) のこと。ˀムルーイズ [ˀmuruːʔiʤu](フエフキダイの仲間) ともいう。イˈツォーンˀプソー　ˀイノームルートゥ　ˈオームローˀ　バˈカシˀソールヌ　パˈトゥˀマプソー　バˈカサˀヌ [ʔiˈtsoːm ˀpu̥soː ˀʔinoːmuruːtu ˈʔoːmuroːˀ baˈkaʃiˀsoːrunu pḁˈtuˀmapu̥soː baˈkasaˀnu](糸満の人はイノームルーとオームルーは区別されるが、鳩間の人は区別しない)。

ムˈルウクジ [muˈruʔukuʤi] 【名】占ったコメの籤が対の組をなすもの。神意基づく「吉」の意味。その反対は「凶」。

ムˈルク [muˈruku] 【名】1植物が小さく群生している所。シˈトゥッˀチムルク [ʃi̥ˈtutˀʧimuruku](蘇鉄が群生している)。ˈユシˀキムルク [ˈjuʃi̥ˀkimuruku](ススキの群生している所)。2小さな岡。石積みの所。ムˈルック [muˈrukku](小さな岡。石積みの所) ともいう。パˈタキˀヌ　アˈザˀヌ　イˈシムルクˀナ　イˈシˀ　シˈミˀバ [pḁˈtakiˀnu ʔaˈʤaˀnu ʔiˈʃimurukuˀna ʔiˈʃiˀ ʃiˈmiˀba](畑の畦の石積み石垣に石を積みなさいよ)。

ムˈルシン [muˈruʃiŋ] 【名】小粒。小さな塊。ムˈラシン [muˈrasiŋ](小さな塊) ともいう。クˈシナカˀナー　アˈシブˀヌ　ˀクビブカラヌ　ムˈルシンˀ　スˈクˀリティ　ˈウーˀミ　ˈベー [ku̥ˈʃinakaˀnaː ʔaˈʃibuˀnu ˀkubibukaranu muˈruʃiŋˀ su̥ˈkuˀriti ˈʔuːˀmi ˈbeː](背中にお出来＜汗疹(アセモ)＞がこれぐらいの小さな塊(カタマリ)を作って化膿(カノウ)している)。

ムˈルスメー [muˈrusumeː] 【名】屋号。「盛島屋」の義。ムˈスメーヌ　カーˀメザーテー [muˈrusumeːnu kaːˀmeʤaːteː](盛島カメ氏宅) ともいう。「本年、八重山島鳩間村の盛島仁屋等の善行を褒嘉し烟草を賞賜す (大清道光拾五年乙未)」『球陽　読み下し編』とあり、昔は栄えた家であった。子孫は戦後石垣島へ移住した。ˈヨーˀカヤーヌ　ˈマイˀネール　ムˈルスメー　ヤッタ [ˈjoːˀkajaːnu ˈmaiˀneːru muˈrusumeː jatta](西原松氏宅の前隣が盛島家だった)。

ムˈルスン [muˈrusuŋ] 【名】丸損。利益が全くなく、全部損すること。マˈルスン [maˈrusuŋ](丸損) ともいう。ウˈブモーキ　スンティ　アーˀキ　ムˈルスン　シー　ナーˀヌ [ʔuˈbumoːki sunti ʔaːˀki muˈrusuŋ ʃiː naːˀnu](大儲けをしようとしていて、丸損してしまった)。

ムˈルック [muˈrukku] 【名】小さな岡。盛り上がっている所。石積みの所。ムˈルッコーˀマ [muˈrukkoːˀma](小さく盛り上がった所。小さな岡) ともいう。タˈチバルˀヌ　パˈタキˀヌ　ˀスバナ　ムˈルックヌˀアン [tḁˈtsibaruˀnu pḁˈtakiˀnu ˀsubana muˈrukkunu ˀʔaŋ](立原の畑の側に小さな岡がある)。

ムˈルッコーˀマ [muˈrukkoːˀma] 【名】石を小高く積み上げた所。非常に小さな岡。小さく盛り上がった岡。ムˈルク [muˈruku](石積みの所。小岡) の強調表現。ムˈルック [muˈrukku] に指小辞-マ [-ma] の付いた形。

ムˈルプー [muˈrupuː] 【名】二つの帆。「もろほ (諸帆)」の義『石垣方言辞典』。マˈシˀビカジ [maˈʃiˀbikaʤi](真艫吹く風) を受けて帆走する帆。カˈタˀプー [kḁˈtaˀpuː](片帆。横風を受けて帆走する帆) の対義語。ˈティンマーˀ　ムˈルプーˀ　ピˈキ　ジンプーˀ　マˈラシ　パッˀタヤー [ˈtimmaːˀ muˈrupuːˀ pi̥ˈki ʤimpuːˀ maˈraʃi patˀtajaː](伝馬船は二本マストの帆を揚げ＜諸帆を引き＞順風を帆にはらませ＜生ませて＞て帆走して行ったよ)。

ムˈルムル [muˈrumuru] 【名】供物の一種。お盆やウˈブソッˀコー [ʔuˈbusokˀkoː](大きな法事) の際に供える。「盛り物」の転訛したもの。ˈシンˀザ [ˈʃinˀʤa](砂糖きび) を 6、7 寸程の長さに切ったものを 7〜9 本ずつ束ね、その上下にマˈキカビ [maˈkikabi](巻き紙。約一寸幅の白紙に 8 分程の赤紙を貼ったもの) を巻き、それにフˈナˀブ [Fuˈnaˀbu](九年母。シークヮーサー)、キˈダヌˀナル [kiˈdanuˀnaru](黒檀＜黒木＞の実)、ˈバンˀスル [ˈbanˀsuru](蕃石榴＜クワバ＞の実) などを枝付きのまま挿して飾り、それをˀサンボー [ˀsamboː](三方) に載せ、シˈトゥッチˀヌナル [ʃi̥ˈtuttʃiˀnunaru](蘇鉄の実) やˀカニン [ˀ

kaniŋ](野葡萄の実)、ˈイーˀシ [ˈʔiːˀʃi](角又。海草)、バˈサンˀナル [baˈsanˀnaru](芭蕉の実。バナナ)、ユˈブˀシ [juˈbuˀʃi](ユˈブˀシの木の実) などをˀサンボーに盛って飾ったもの。トゥˈクニ [tu̥ˈkuni](仏壇) の左右に一対供えておく。それに、ˀグサン [ˀgusaŋ](杖) と称する、長さ約 3 尺の砂糖きびを一対添えた。これは一本はグサン (杖) にし、他の一本はˈアイˀク [ˈʔaiˀku](天秤棒。担い棒。おうご < 枂 > の転訛) の代用になるもので、祖霊たちが供物をˀシトゥ [ˀʃi̥tu](お土産) としてこの世からあの世へ担いで持ち帰る際に利用すると伝えられている。

ムˈルムルムチ [muˈrumurumutsi] 【名】ムˈルムルと一緒に仏壇に供える円錐形の餅と円盤状の餅。仏壇に向かって左側に供えるのは、ピンポン玉ほどの餅を約 20 個盛って円錐形に成形したもの。右側に供えるものは、丸みをおびた円盤状に成形したものである。ムˈルムルムチンˀ スˈクˀリ ˈカイˀキナ ビˈシティˀ カˈザリˀバ [muˈrumurumutʃimˀ su̥ˈkuˀri ˈkaiˀkina biˈʃitiˀ kaˈʤariˀba](ムルムル餅も作って皿に据えて供えなさい)。

ムˈルン [muˈruŋ] 【他動】盛る。「家にあれば笥に盛 < モル > る飯を〜。万、142」の転訛したもの。ˀズー ムˈルン [ˀʤuː muˈruŋ](お重を盛る。肴を重箱に盛り付ける)。ˈコーイーˀバ マˈカˀルナ ムˈルンティˀ ウˈムーンˀドゥ ムˈラランˀサー [ˈkoːʔiːˀba maˈkaˀruna muˈruntiˀ ʔuˈmuːnˀdu muˈraranˀsaː](強飯(コワイイ)をお椀に盛ろうと思うが盛られないよ)。マˈカˀルナ ムˈリˀミサカー ˀドゥーシ ムˈルˀクトー ˀナルン [maˈkaˀruna muˈriˀmisakaː ˀduːʃi muˈruˀkutoː ˀnaruŋ](お椀に盛ってよければ盛ることはできる)。ˈマーˀビン ムˈレーˀ ミサムヌ [ˈmaːˀbim muˈreːˀ misamunu](もっと盛ればいいのに)。タˈカータカーˀシ ムˈリˀバ [tḁˈkaːtakaːˀʃi muˈriˀba](高高と盛りなさい)。

ˀムルン [ˀmuruŋ] 【名】もろみ (諸味)。醸造して、まだ粕を濾(コ)さない酒や醤油。「醪(モロミ)、毛呂美 < もろみ >」『和名抄』の転訛したもの。サˈケーˀ ムˈルンˀバ ˀタリティル マˈラソーッタˀル [sḁˈkeːˀ muˈrumˀba ˀtaritiru maˈrasoːttaˀru](酒は諸味を蒸留して醸造された < 生まれさせられた > ものだ)。

ˀムルン [ˀmuruŋ] 【自動】漏(モ)れる。水や光などが隙間を通りぬけて出る。アˈミˀヌ ˀフーカー ˈヤーˀヤ ˀムルンティ スˈクタヌˀ ムˈランˀバン [ʔaˈmiˀnu ˀɸuːka: ˈjaːˀja ˀmurunti su̥ˈkutanuˀ muˈramˀbaŋ](雨が降ったら屋根が漏ると聞いたが漏らないよ)。クˈヌˀ フネー ムˈリズーワˀヌ ナˈラˀヌ ˀアイニ ˀムル ˀフネー ムˈタラˀヌ [kuˈnuˀ ɸuneː muˈriʤuːwaˀnu naˈraˀnu ˀʔainiˀ ˀmuru ˀɸuneː muˈtaraˀnu](この舟は水漏れがひどくて堪らない。あんなに洩る舟は操船できない)。ˈマーˀビン ˀムレー ˀミサムヌ [ˈmaːˀbim ˀmureː ˀmisamunu](もっと洩れればいいのに)。

ˀムルン [ˀmuruŋ] 【他動】もる (守る)。子守をする。古老の使用する語。「〜母之守為裳 < ははしモラスモ >。万、3000」の義。ナーˈイˀ ッˈふァバˀ ムリ アˈサビ ベー [naːˈjiˀ fˈfabaˀ muri ʔaˈsabi beː](ただ子供をお守りして遊んでいる)。ˀシザン ムˈラリˀル フˈドゥベーˀル [ˀʃiʤam muˈrariˀru ɸuˈdubeːˀru](姉に守られて成長したのだ)。クˈヌˀ ッˈふァˀ ムル プˈソー ターˀヤ [kuˈnuˀ fˈfaːˀ muru pu̥ˈsoː taːˀja](この子を守る人は誰か)。

ˀムレー [ˀmureː] 【名】子守。おもり (御守)。ッˈふァˀムレー [fˈfaˀmureː](子守) の略語。七、八歳の女の子が弟妹を負ぶって母親をたすけた。ˀムレー ˈスン [ˀmureː ˈsuŋ](お守りをする)。ミˈドーンˀッふァー ナˈナッチ ヤーˀチェーラー ˈウシトゥˀッふァ カˈサナイˀヤーティル ウˈヤˀヌ ˈテーˀナイ シˈタル [miˈdoːnˀffaː naˈnattʃi jaːˀʧeːra ˈʔuʃi̥tu ˀffa kḁˈsanaiˀjaːtiru ʔuˈjaˀnu ˈteːˀnai ʃi̥ˈtaru](女の子は七、八歳から弟妹を負ぶって親の手伝いをしたものだ)。

ムˈレーˀジ [muˈreːˀʤi] 【名】 (動) 魚の名。和名、グルクマ (体長約 30 センチ)。沖縄県の県魚、グルクンをいう。「群れ魚」からの転訛。初夏の頃に近海に群れて寄ってきた。その稚魚は、サˈネーˀラ [saˈneːˀra] といい、海底の魚巣にいるのをムˈジˀアン [muˈʤiˀaŋ](約 3 ミリ四方の細目の網) で掬って漁獲した。カツオ漁船では最高の撒き餌として重宝された。ムˈレーˀジェー ˀアバナ アˈギバルˀ ンˈマー [muˈreːˀʤeː ˀʔabana ʔaˈgibaruˀ ʔmˈmaː](グルクンは油で揚げたほうが美味しい)。

ˀムレー ˈスン [ˀmureː ˈsuŋ] 【連】子守をする。ˈバーˀル ウˈリヌˀ ムレー ˈシーˀ フˈドゥバシタ [ˈbaːˀru ʔuˈrinuˀ mureː ˈʃiːˀ ɸuˈdubaʃi̥ta](私があの子 < あれ > の子守をして大きくし < 成長させ > た)。

ムˈレーマ [muˈreːma] 【名】屋号。通事家。通事栄氏宅。旧鳩間国民学校の裏にあった。初めて上級学校 (沖縄工芸学校) に進学し、最初の鳩間島出身女性教師 (田代豊氏 < 旧姓通事 >) を出した家。ムˈレ

ーマ [muˈreːma] の語源は、「モリヤマ・ヤー」(盛山・家) が [murijamajaː] → [murjaːmaː] → [mureːma] のように音韻変化したものであろう。ムˈレーマˀナー ウˈブタンクˀヌ ˈアッˀタ ˈベーˀティ ウˈヌˀ ミˈジˀシ フˈカˀソール ˈサーˀヤ イッˈケンˀ ンˈマーˀタンツォー [muˈreːmaˀnaː ʔuˈbutaŋkuˀnu ˈʔatˀta ˈbeːˀti ʔuˈnuˀ miˈʤiˀʃi ɸu̥ˈkaˀsoːru ˈsaːˀja ʔikˈkemˀ ʔmˈmaːˀtantsoː](通事家には大きなコンクリート製の水タンクがあったので、その水で沸かされるお茶は非常に美味しかったそうだ)。

ˈムン [ˈmuŋ] 【名】門。普通は、ˈムングチ [ˈmuŋgutʃi](門口)、ˈペーラˀフチ [ˈpeːraˀFu̥tsi](門。入り口) という。ˀゾーンタヤー [ˀʤoːntajaː](屋根葺き門構えとして設けられた木造の建造物。「門の屋根」の義) は士族の家の門に設けられた。ˈムンˀナー ˀゾーンタヤーヌ ˀアル ˈヤーˀヤ パˈトゥˀマナー ˈナーˀヌ [ˈmunˀnaː ˀʤoːntaːjaːnu ˀʔaru ˈjaːˀja pḁˈtuˀmanaː ˈnaːˀnu](門に木造屋根の付いた建造物がある家は鳩間島には無い)。

ˈムン [ˈmuŋ] 【名】(植) 山桃。ナˈチˀ ナルカー ˈパイタˀナー ˈムンヌˀ ナˈルˀヌ ˈウーˀムンダ ウˈリ カースˀ プˈスン オーッˀタン [naˈʧiˀ narukaː ˈpaitaˀnaː ˈmunnuˀ naˈruˀnu ˈʔuːˀmunda ʔuˈri kaːsuˀ pu̥ˈsuŋ ʔoːtˀtaŋ](夏になると西表島 < 南端 > に山桃の実が熟れるので、それを売る人もおられた)。

ˀムン [ˀmuŋ] 【名】(植) 麦。「麦、牟岐 (むぎ)、今案、大小麦之惣名也、五穀之長也」『和名抄』の転訛したもの。ˈムンˀマー パˈトゥˀマナーン スˈクˀローッタン [ˈmumˀmaː pḁˈtuˀmanaːn su̥ˈkuˀroːttaŋ](麦は鳩間島にも作られた)。ˀパトゥザヌ ˈゴーˀラーティ マˈミˀヌ ˈアイナˀカナーン ˀムン マˈコーッˀタン [ˀpḁtuʤanu ˈgoːˀraːti maˈmiˀnu ˈʔainaˀkanaːm ˀmum maˈkoːtˀtaŋ](鳩が多いので、豆の間にも麦を撒かれた)。

ˀムン [ˀmuŋ] 【名】もの (物)。ˀムヌ [ˀmunu](もの) の転化したもの。クˈレー バーˀ ムン [kuˈreː baːˀ muŋ](これは私のものだ)。ˈターˀ ムンヤ [ˈtaːˀ muŋja](誰のものか)。

ˈムンˀグル [ˈmuŋˀguru] 【名】 1麦わら。「むぎから (麦稈)」の義。「～(音涓牟枝加良) 麦茎也」『和名抄』の転訛したもの。ˈムンˀグルクバガサ [ˈmuŋˀgurukubagasa](麦わらで作った笠)。ˈムンˀグルシスˈクラˀレール カˈサˀバ ˈムンˀグルクバガサティ アˈズ [ˈmuŋˀguruʃi su̥ˈkuraˀreːru kḁˈsaˀba ˈmuŋˀgurukubagasati ʔaˈʤu](麦わらで作られた笠を麦藁笠という)。2麦を刈り取った後の畑。ˈムンˀグル ˈカイˀシティ ˀマミ マカˈナー [ˈmuŋˀguru ˈkaiˀʃi̥tiˀmami makaˈnaː](麦を収穫した後の畑を耕して豆を播こうねえ)。ˈムンˀグルウン [ˈmuŋˀguruʔuŋ](名) 麦を収穫した後の畑に植えた芋。豆を収穫した後の畑に植える芋を、マˈミˀグルウン [maˈmiˀguruʔuŋ] といい、粟を収穫した後の畑に植えた芋を、ˈアーˀグルウン [ˈʔaːˀguruʔuŋ] という。マˈミˀグルウン [maˈmiˀguruʔuŋ](豆を収穫した後の芋) が最もよく稔るといわれている。ウˈブマイˀヌ ˈムンˀグルウンマー イッˈケナ ミーレーˀン [ʔuˈbumaiˀnu ˈmuŋˀguruʔumma: ʔikˈkena miːreːˀŋ](大前の畑の麦を収穫した後に植えた芋は非常に良く稔った)。

ˈムンˀグルクバガサ [ˈmuŋˀgurukubagasa] 【名】麦藁を編んで作った笠。ˈムンˀグルクバガサー ブˈドゥル スーˀ ピンル カˈブˀタ イˈチンマーˀ カˈバンˀシェン [ˈmuŋˀgurukubagasa: buˈduru suːˀ pinru kaˈbuˀta ʔiˈʧimmaːˀ kaˈbaŋˀʃeŋ](麦藁で編んだ笠は踊りをする時に被った。日頃 < いつも > は被らなかった)。

ˈムンˀジュル [ˈmunˀʤuru] 【名】古典舞踊の名。沖縄本島のˈムンˀジュルガサ [ˈmunˀʤurugasa](麦藁製の花笠) を被って演舞する伝統古典舞踊が伝えられたもの。クˈトゥシェー タール ムンˀジュル ˀブドゥル ˈスーワ [ku̥ˈtuʃeː taːru munˀʤuru ˀbuduru ˈsuːwa](今年は誰がムンジュル花笠踊りをするか)。

ˈムンˀダニ [ˈmunˀdani] 【名】餌。魚を釣る餌。イˈズムンダニ [ʔiˈʤumundani](魚肉を魚つりの餌に使用するもの)。ˀタクムンダニ [ˀtḁkumundani](蛸の手を魚つりの餌に使用するもの)。ˀドゥームンダニ [ˀduːmundani](魚つりの餌として魚肉を用いるもの。あまり釣れない)。イˈズホーシ ムンˀダネー ˀアミツァル イッˈチンˀ マˈシ [ʔiˈʤuhoːʃi munˀdaneːˀ ʔamitsaru ʔitˈʧimˀ maˈʃi](魚つり用の餌はヤドカリが一等良い)。

ˈムンタルン [ˈmuntaruŋ] 【他動】強く揉む。揉(モ)み潰(ツブ)して溶かす。「揉み垂る」の義か。ˈオーˀヌ ˈイーˀヤ ˈムンタリティˀ ッˈふァーシˀバ [ˈʔoːˀnu ˈʔiːˀja ˈmuntaritiˀ fˈfaːʃiˀba](豚の餌は揉み潰して溶かして与え < 食わせ > なさい)。ˈムンタルンティスンドゥˀ ムッˈトゥ ムンタララヌ [ˈmuntarunti sunduˀ mutˈtu muntararanu](揉み潰そうとするが、ちっとも揉み潰されない)。ˈムンタルˀ クトー

ナˌラˉヌ [ˌmuntaruˉ kṵto: naˌraˉnu](揉み潰すことは出来ない)。ˌムンタレーˉ　ミサムヌ [ˌmuntareːˉ misamunu](揉み潰せばいいのに)。ˌマーˉビン　ˌムンタリˉバ [ˌmaːˉbim ˌmuntariˉba](もっと揉み潰せよ)。

ˌムンツァークンˉツァー [ˌmuntsaːkunˉtsaː] 【名】もみくちゃ。両手でくしゃくしゃになるほどに揉み散らすこと。カˌベー　ムンツァークンˉツァー　ˌスーˉカー　ˌジーˉ　カˌカラˉヌ [kaˌbeː muntsaːkunˉtsaː ˌsuːˉkaː ˌʤiːˉ kạˌkaraˉnu](紙は揉みくちゃにすると文字が書けない)。

ˌムンツァースン [ˌmuntsaːsuŋ] 【他動】丸めて揉みくちゃにする。「揉み散らす」の義。「揉み散らす」の音韻変化したもの。「Momitate,uru,eta. モミタテ、ツル、テタ (揉み立て、つる、てた) 刺激する。〜」『邦訳日葡辞書』系統からの転訛も考えられる。ユˌグリブンˉ　トンマー　ミˌジˉナー　シˌキティ　ムンツァーシˉ　アˌライˉバ [juˌguribunˉ tommaː miˌʤiˉnaː ʃị̥ˌkiti muntsaːʃiˉ ʔaˌraiˉba](汚れている所は水に浸けて揉み散らして洗いなさいよ)。ˌムンツァースンティ　スンドゥ　ムンツァーサラヌ [ˌmuntsaːsunti sundu muntsaːsaranu](揉み散らそうするが、揉み散らされない)。ˉアイニ　ˌムンツァースˉ　ムˌノーˉ　アˌラˉヌ [ˉʔainiˌ muntsaːsuˉ muˌnoːˉ ʔaˌraˉnu](あんなに揉みくちゃにするものではない)。ˌマーˉビン　ˌムンツァーシェーˉ　ミサムヌ [ˌmaːˉbim ˌmuntsaːʃeːˉ misamunu](もっと揉みくちゃにすればいいのに)。ˌムンツァーシˉバ [ˌmuntsaːʃiˉba](揉みくちゃにしなさい)。

ˌムンッシˉイシ [ˌmuŋʃʃiˉʔiʃi] 【名】麦擦り石。キクメイシ。半球形の珊瑚石で表面には多数の凹凸があり、それに麦を擦り合わせて脱穀するのに用いたのでいう。ムˌカˉシェー　ˌムンッシˉイシシル　ˌムンˉマー　ˌアーシタル [muˌkaˉʃeː ˌmuŋʃʃiˉʔiʃiʃiru ˌmumˉmaː ˌʔaːʃitaru](昔は麦擦り石＜キクメイシ＞で＜ぞ＞麦は脱穀したものだよ)。

ˌムンˉドー [ˌmunˉdoː] 【名】口論。くちげんか (口喧嘩)。「Mondo ˈ. モンダウ (問答)　議論をする」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˌヤームンˉドー　ウˌクスˉナˌヨー [ˌjaːmunˉdoː ʔuˌkusuˉnaˌjoː](家族喧嘩を起こすなよ)。/アサニビショール　ミドゥム　アサピキショール　ミドゥム　ウリカラードゥ　キワミティ　ムンドーヤ　クヌミョール　デンサー/(朝寝坊をする女、朝になって朝食用の芋ほりをする女、それから＜ぞ＞家庭の喧嘩ははじまるものだ)、「デンサー節」。

ˌムンドーカンˉドー [ˌmundoːkanˉdoː] 【名】喧嘩口論。喧嘩の強調表現。ABCDEBCD 型の重言。ˌウンˉネーナー　ˌムンドーカンドーˉヌ　ˉパティテー　ˌナーˉヌ [ˌʔunˉnenaː ˌmundoːkandoːˉnu ˉpạ̥titeː ˌnaːˉnu](あの家には喧嘩口論の果てることがない)。

ˌムントースン [ˌmuntoːsuŋ] 【他動】強く揉む。もみほぐす (揉み解(ホグ)す)。「揉み倒す」の義。ヌˌビˉシジ　ˌムントーシˉ　ッˌふィーランˉノーレー [nuˌbiˉʃiʤi ˌmuntoːʃiˉ fˈfiːranˉnoːreː](首筋を揉み解してくれないか)。ˉカタ　ˌムントースンティ　スンドゥ　ティーˉヌ　ˉヤミ　ˌムントーサラヌ [ˉkạ̥ta ˌmuntoːsunti sundu tiːˉnu ˉjami ˌmuntoːsaranu](肩を揉み解そうとするが、手が痛くて揉み解されない)。ˌムントースˉ　クˌトゥˉヌ　ˉナルカー　ˌムントーシェーˉ　ミサムヌ [ˌmuntoːsuˉ kṵˌtuˉnu ˉnarukaː ˌmuntoːʃeːˉ misamunu](揉み解すことが出来たら揉み解せばいいのに)。ˌマーˉビン　ˌムントーシˉバ [ˌmaːˉbim ˌmuntoːʃiˉba](もっと揉み解せよ)。

ˌムンヌˉイー [ˌmunnuˉʔiː] 【名】麦ご飯。「麦の飯」の義。ˉイー [ˉʔiː] は、「家にあれば笥尓盛飯乎＜ケニモルイヒヲ＞〜。万、142」の転訛したもの。ムˌカˉシェー　ピˌサムンバ　ウンˉトゥ　マˌザーˉシティ　ˌウンヌˉイー　バˌカシˉ　ッˌふァーソーッˉタン [muˌkaˉʃeː pị̥ˌsamumba ʔunˉtu maˌʤaːˉʃị̥ti ˌʔunnuˉʔiː baˌkaʃiˉ fˈfaːsoːtˉtaŋ](昔は平麦を芋と混ぜて炊いて食べさせてくださった)。

ˌムンヌˉクー [ˌmunnuˉkuː] 【名】麦焦がし。はったい粉。「麦の粉」の義。大麦を炒りこがし、煎(イ)った麦を石臼で碾(ヒ)いて粉にしたもの。黒糖を削って混ぜて、お八つとして食したり、水や湯で練って食したりした。ˌムンヌˉクー　ˌサーˉフキ　ンˌザˉシバ [ˌmunnuˉkuː ˌsaːˉɸṵki ʔnˌʤaˉʃiba](麦焦がしをお茶(チャ)請(ウ)けに出しなさいよ)。クˌヌˉ　ムˌチェー　ムンヌˉクーバタ　ヤˌルンダˉ　ンˌマーンˉダー [kuˌnuˉ muˌʧeː munnuˉkuːbata jaˌrundaˉ ʔmˌmaːnˉdaː](この餅は麦焦がしの餡餅(アンモチ)＜麦焦がしを餡にして中に入れた餅＞だから美味しいよ)。

ˌムンヌˉクーバタ [ˌmunnuˉkuːbata] 【名】麦焦がし餡(アン)。餡餅の餡として入れる麦焦がし。ッˌふサタˉヌ　ˉアルカー　ˌムンヌˉクーバタ　スˌクラリˉヌˌナー [fˈfusataˉnu ˉʔarukaː ˌmunnuˉkuːbata sṵˌkurariˉnuˌnaː](黒糖があれば麦焦がし餡が作れるのだがなあ)。

ˌムンヌダーˉキ [ˌmunnudaːˉki] 【名】煮た芋に、大

麦を挽いた粉を混ぜて柔らかい粥状に炊いたもの。麦粉と芋ご飯の粥。˩ムンヌダー˥キ　バ˩カシ˥　シケーバ　˩バン˥テー　˩オー˥リ　ン˩コー˥リバ [˩munnudaː˥ki ba˩kaʃi˥ ʃi̥keːba ˩ban˥teː ˩ʔoː˥ri ʔŋ˩koː˥riba](麦粉と芋ご飯の粥を炊いてあるから、我が家へいらっしゃってお召し上がれませ)。

˥-ムンバ [˥-munba] 【接助】〜のに。〜ものを。˥ムヌバ [munuba](ものを) の変化形。活用語の連体形に接続し、逆接に用いられる。相手に対する不平、不満や反駁(ハンバク)の意味を表す前件を示し、それに反する後件に結びつける。˩タンガ˥シン　˥ナルムンバ　˥ヌンティ　プ˩ス˥　タ˩ナ˥ミ　˩アーク˥ワ [˩taŋga˥ʃin ˥narumumba ˥nunti pu̥˩su˥ ta˩na˥mi ˩ʔaːku˥wa](一人でも出来るものを、どうして他人を頼んでいるのか)。ノー˩シンクイシン˥　ドゥーシ　˩スームンバ˥　サ˩ヌサヌ˥ティ　ア˩ジェー˥ティ　˩アー˥ク [noː ˩ʃiŋkuiʃin˥ duːʃi ˩suːmumba˥ sa˩nusanu˥ti ʔa˩ʤeː˥ti ˩ʔaː˥ku](どっちみち < いずれにしても > 自分でするものを、しないしないと言っているよ)。

˩ムン˥ミ [˩mum˥mi] 【名】 (数) もんめ (匁)。重さを量る尺貫法の単位の一つ。一貫の千分の一。3、75グラム。イ˩チムン˥ミ [ʔi˩ʧimum˥mi](一匁)。ニ˩ムン˥ミ [ni˩mum˥mi](二匁)。˩サンムン˥ミ [˩sammum˥mi](三匁)。˩イッキンマー　ピャー˥ク　ル˩クジュームン˥ミツォー [˩ʔikkimmaː pjaː˥ku ru˩kuʤuːmum˥mitsoː](一斤は百六十匁だそうだ)。

メ

˥メー [˥me:] 【間助】もう。ねえ。なあ。勧誘や催促などの感情を表し、文頭や文中、文末に付く。˥メー　パ˖ライ [˥me: pa˖rai](もう、行こうね。行くよ)。˥バー　パ˖ライ˥　メー [˥ba: pa˖rai˥ me:](私は行こうねえ。行くよ)。˖パー˥ク　ッ˖ふァイ˥バ　˥メー [˖pa:˥ku f˖fai˥ba ˥me:](早く食べなさいよ、もう)。ク˖レー˥　メー　˖ワー　シー˥バ [ku˖re:˥ me: ˖wa: ʃi:˥ ba](これは、もう、君がやりなさいよ)。

˥メー [˥me:] 【名】広場。空間。座席。˖ヤー˥ヌ　˥マンタヌ　˥メーナーティル　ヤ˖ラ˥ビンケーヤ　ア˖サブタル [˖ja:˥nu ˥mantanu ˥me:na:tiru ja˖ra˥ biŋke:ja ʔa˖sabutaru](家の前の広場で子供たちは遊んだものだ)。キ˖チゴンヌ˥　ピンマー　˥メー　˥トゥリ　シゥ˖カン˥カー　˖キョン˥ギン　ミ˖ララン < ミ˖ララ˥ンシェン >ト ダー [ki̥˖tʃigonnu˥ pimma: ˥me: ˥turi si̥˥kaŋ˥ka: ˖kjoŋ˥gim mi˖raran < mi˖rara˥ŋʃen >ト da:](結願祭の時は奉納芸観覧の場所を取っておかないと狂言 < 芸能 > は観覧でき < 見られ > ないよ < 見られなかったよ >)。˥ウナー　˥ヤー　ス˖クラ˥リ　˥ブカラヌ　˖メー˥ヌ　˥アンカヤー [˥ʔuna: ˥ja: su̥˖kura˥ri ˥bukaranu ˖me:˥nu ˥ʔaŋkaja:](そこには家が造られる程の空地があるのかね)。

˥-メー [˥-me:] 【接尾】～ども < 共 >。～ら。人間の複数を表す卑称の接尾語。相手を罵っていう際に用いられる。˥ワンザンメーヤ　カ˖マー˥　パリ [˥wandzamme:ja ka˖ma:˥ pari](貴様らはあちらへ行け)。˖クンザンメー [˖kundzamme:](こいつら。この野郎ども)。˖ウンザンメー [˖ʔundzamme:](そいつら。あいつら)。ク˖レー˥　タンザンメーヌ　˖シェー˥ル　ワザヤー [ku˖re:˥ tandzamme:nu ˖ʃe:˥ru ˥ wadzaja:](これはどいつらがした仕業か)。

˖メー [˖me:] 【接尾】 1～たち < 達 >。目下の者の複数を表す接尾語。1名詞に格助詞˥-ヌ [˥-nu](の) を介して、˥～ヌメー [˥～me:](～たち < 達 >) のように用いられる。「～の前」が転訛したもの。˥ウナー　˖シートゥ˥ヌメーヌ　ア˖ツァ˥マリ　˖ベー˥タン [˥ʔuna: ˖ʃi:tu˥numeːnu ʔa˖tsa˥mari ˖be:˥taŋ](そこには生徒達が集まっていた)。2卑称の人代名詞や卑称の指示代名詞に格助詞˥ヌ [nu](の) を介して、˥-ンメー [˥-mme:](～たち < 達 >) のように用いられる。˥ワンザンメーヤ　カ˖マー˥　パリ [˥wandzamme:ja ka˖ma:˥ pari](貴様ら < 達 > はむこうへ行け)。˖ウンザンメーヤ˥　シ˖トゥ˥ナイバ [˖ʔundzamme:ja˥ ʃi̥˖tu˥naiba](そいつらはぶちのめして < ぶん殴って > やれ)。ク˖レー˥　タンザンメーヌ　˖シーワザ˥ヤー [ku˖re:˥ tandzamme:nu ˖ʃi:wadza˥ja:](これはどやつ < 何奴ら > めの仕業か)。

˥メー [˥me:] 【感】1もう。すでに。事態が完了したことを表す。˥メー　˥フネー　キサー˖ティ˥　パレーン <˥ンジパレーン >[˥me: ˥ɸune: ki̥sa:˖ti˥ pare:ŋ < ˥ʔndʒipare:ŋ >](もう、舟は既に出発し < 行ってしまっ > たよ)。2もはや。一定の基準をこえたという気持ちを表す。˥メー　˥ウビシ　ミサ˖ル˥　メー [˥me: ˥ʔubiʃi mi˖sa˥ru ˥me:](もう、それだけでいいよ、もう)。

˖メー˥カン [˖me:˥kaŋ] 【名】女性の用いる褌。形状は「もっこ褌、もっこべこ」に似た褌。ム˖カシ˥ヌ　ミ˖ドゥムンケー˥ヤ　˖メーカンバ˥ル　キ˖シソーッ˥タツォー [mu˖kaʃi˥nu mi˖dumuŋke:˥ja ˖me:kamba˥ru ki̥˖so:t˥tatso:](昔の女性たちはメーカン < もっこ褌 > を着用されたそうだ)。

˖メーガン˥ター [˖me:gan˥ta:] 【名】たてがみ (立髪)。成年男子の髪型。七三に分ける男子のハイカラな髪型。イ˖クサユー˥ヌ　˖マイ˥ヤー　˖ザン˥ギリ　˖ヤッタヌ˥　ア˖ミリカ˥ユー　˖ナッ˥ター　ム˖ル　メーガン˥ター　˥ナリ　˖ナーン˥シェン [ʔi˖kusaju:˥nu ˖mai˥ja: ˖dzaŋ˥giri ˖jattanu˥ ʔa˖mirika˥ju: ˖nat˥ta: mu:˖ru me:gan˥ta: ˥nari ˖na:ŋ˥ʃeŋ](戦前は散切り頭であったが、アメリカ統治下になったらば皆ハイカラなたてがみ < 立髪 > の髪型になってしまったのだった)。

˞メーク [˞me:ku] 【名】宮古島。˞メークプス [˞me:kupusu](宮古島の人)。˞メークムニ [˞me:kumuni](宮古方言。「宮古物言い」の義)。ニ˞シ˜ドーウガンマー　˞メークヌ　タンカー˜　ン˞カイル˜　ス˞クラ˜リ　˞ブー˜ツォー [ni˞ʃi˜do:ʔugamma: ˞me:kunu taŋka:˜ ʔŋ˞kairu˜ sʊ̥˞kura˜ri ˞bu:˜tso:](西堂御嶽は宮古島の方向に向いて建造されているそうだ)。˞メークムネー˜　パ˞トゥ˜マムニトゥ　˞ニーブー˜ダー [˞me:kumune:˜ pḁ˞tu˜mamunitu ˞ni:bu:˜da:](宮古方言は鳩間方言と似ているよ)。

˞メー˜ク [˞me:˜ku] 【名】脈。˜イサー　ヤー˞ディン　メー˜ク　トゥ˞リ˜ソーッタ [˜ʔisa: ja:˞dim me:˜ku tu ˞ri˜so:tta](医者は必ず脈を取られた)。˞メー˜ク　カ˞サムン [˞me:˜ku kḁ˞samuŋ](脈を取る＜つかむ＞)ともいう。

˞メークプス [˞me:kupʊ̥su] 【名】宮古島の人 (宮古人)。˞メークプソー　ジンモーキゾー˜ジ [˞me:kupʊ̥so: ʤimmo:kiʤo:˜ʤi](宮古人は金儲け上手である)。

˞メークムニ [˞me:kumuni] 【名】宮古方言。宮古言葉。「宮古物言い」の義。˜バー　˞メークムニ˜　シ˞キシェーン˜ダー [˜ba: ˞me:kumini˜ ʃi̥˞kiʃe:n˜da:](私は宮古方言が理解できる＜聞き得る。聞くことが出来る＞よ)。

˞メークヤー [˞me:kuja:] 【固】宮良家。宮良長康氏宅。「宮古屋」の義。宮良ヲナリ氏は大城サカイ氏と共に西村の産婆役を務められた。˞メークヤーヌ˜　アッパー　˞ナーヤ˜　ブ˞ナ˜レンマーティ　ア˞ゾーッタ˜ヌ　˞サンバカッティ˜ヌ　ア˞ローッ˜タン [˞me:kuja:nu˜ ʔappa: ˞na:ja˜ bu˞na˜remma:ti ʔa ˞ʤo:tta˜nu ˞sambakatti˜nu ʔa˞ro:t˜taŋ](宮古屋のおばあさんは、名前はブナレンマーとおっしゃったが、産婆＜とりあげばば＞の経験があられた)。

˞メー˜ケー [˞me:˜ke:] 【固】大城弘一氏宅。ミ˞ルクン˜ヤー [mi˞rukuŋ˜ja:](ミルクの家) ともいわれ、「弥勒神」の「面」を保管し、伝えている家。˞メー˜ケーヌ　イ˞チバンザー˜ヌ　˞アンタナー˜ル　ミ˞ルコー˜　マ˞チ˜　ス˞コー˜レータ [˞me:˜ke:nu ʔi˞ʧibanʤa:˜nu ˞ʔantana:˜ru mi˞ruko:˜ ma˞ʧi˜ sʊ̥˞ko:˜re:ta](メーケー＜大城家＞の一番座の東に弥勒神の面は祀(マツ)っておかれていた)。ミ˞ルクン˜ヤー [mi˞rukuŋ˜ja:](弥勒神の面を保管している家) ともいう。戦争中、大城貞夫氏の両親がマラリアに罹患して死去された。戦後大城貞夫氏が本家の大城サカイ氏に引き取られて育てられた後、一門の大城弘一氏が同家の跡を継がれて現在に至っている。˞メー˜ケーヌ　イ˞チバンザー˜ヌ　˞アンタナー˜ル　ミ˞ルコー˜　カ˞キン˜グ　˞シー˜　ス˞コー˜レータ [˞me:˜ke:nu ʔi˞ʧibanʤa:˜nu ˞ʔantana:˜ru mi˞ruko:˜ kḁ˞kiŋ˜gu ˞ʃi:˜ sʊ̥˞ko:˜re:ta](メーケー＜宮古家＞の一番座の東側に弥勒神のお面は安置され、保管＜格護＞されていた)。

˞メーコン˜ザ [˞me:kon˜ʤa] 【固】人名。慶田城家の先祖の名。˞ミヤク [˞mijaku](人名) に˞オン˜ザ [˞ʔon˜ʤa](士族男子の尊称) が付いて形成された合成語。ム˞カ˜シ　˞カンザトゥ˜ヤーナ　˞メーコン˜ザティ　ア˞ゾー˜ル　プ˞スヌ　オーッ˜タンツォー [mu˞ka˜ʃi ˞kanʤatu˜ja:na ˞me:kon˜ʤati ʔa˞ʤo:˜ru pʊ̥˞sunu ʔo:t˜tantso:](昔、慶田城家にメーコンザとおっしゃる方が居られたそうだ)。

˞メーデー [˞me:de:] 【名】公務。琉歌・組踊り語の「みおやだいり (御親内裏)」が「お主がなし　みやだいり　夜昼もしやべむ　天の世の　しのぐ　ゆるちたばうれ」『琉歌全集、2616』の「みやだいり」へと転訛し、再転訛して˞メーデー [˞me:de:](公務。奉公) となったもの。/ギニヤユタカヌ　パトゥマムラ　シマヌナガリユ　ミワタシヂバ　ルクヌイチジニ　チカクアリ　＜囃子＞イヤイーヤー　ウシューミヘテイ　ガラミチ　オラリティ　ウヤクチョーデー　トゥジックゥ　ヤシナティ　ムラトゥン　ワブクニ　ワルビトゥシユリ　カンカ　クドゥクヌ　ムチキナムヌマディ　ンゾーサショーリバ　ティンヌ　ミグミヌ　ウヤキ　パンジョー　アラシミシェユサ　ナマヌハヤシニ　クドゥキユミユミ/(げに＜実に＞豊かな鳩間村、島の流れ＜屋根から軒までの傾斜＞を見渡すと、禄＜六＞の一字の＜に＞字画＜近く＞あり。＜囃子＞弥弥(イヤイヤ)　国王の公務を勤めておられて、親子兄弟妻子を養って、村の衆とも和睦にし、子供から年寄り鰥寡(カンカ)男(オドコ)＜寡婦(ヤモメ)・鰥夫(ヤモオ)＞の無食な者まで無蔵さして＜可愛がって＞いるので、天の恵みの裕福で子孫繁盛をあらしめてくださるのだ。今の囃子で口説きを歌おうよ)(鳩間口説き)。

˜メーティ [˜me:ti] 【連】十分と。結構と。それ以上は不要であるの意味。ギュー˞サ˜　ッ˞ふァーサバン˜　メーッティ　ア˞ザヌ [gju:˞sa˜ f˞fa:sabam˜ me:ti ʔa˞ʤanu](いくら食わせても、十分＜もう結構＞とは言わない)。

˞メー˜トゥルオン [˞me:˜turuʔoŋ] 【固】宮鳥御嶽。石垣島の字石垣にある、四箇字発祥の地といわれる御嶽。˞メー˜トゥルオンヌ　˜スバナー　ウ˞トゥザ

ン˥ヤーヌ　˩アッ˥タン [˩meː˥turuʔonnu ˥subanaː ʔu ˩tuʤaŋ˥jaːnu ˩ʔat˥taŋ](宮鳥御嶽の側に親戚の家があった)。

˩メー˥　トゥルン [˩meː˥ turuŋ] 【連】広い面積を占め < 要す > る。˩面積を取る」の義。˩マイ˥　プシ　˩イー˥シ　˥プシェー　˩メー˥　トゥルンダ　シ˩バーン˥　トンナー　プ˩サラ˥ヌ [˩ʔiː˥ʃi ˥pu̥ʃi ˩mai˥ pu̥ʃeː ˩meː˥ turunda ʃi˩baːn˥ tonnaː pu̥˩sara˥nu](籾干しや角又干しには広い面積を要するから、狭い所では干せない)。

˩メー˥ヌイズ [˩meː˥nuʔiʤu] 【名】(動) 魚の名。和名、ジャバアイゴ (体長約 30 センチ)。˩オン˥デー [˩ʔon ˥deː] という人もいる。

˩メー˥ヌ　˥ウチ [˩meː˥nu ˥ʔutʃi] 【連】敷地。屋敷の内。˩メー [˩meː] は、一定の広さの敷地、広場の意味をもつ。「シ˩ルウチ」[ʃi˩ruʔutʃi](屋敷内) の対語。古謡語。/シルウチヌ　メーヌウチ　ヤーバ　スクリ　アンティスー/(代内の屋敷内に家を造ってあるという)˥アーパーレー (新室寿ぎ歌)」『鳩間島古典民謡古謡集』。

˩メーラ [˩meːra] 【名】(地) 石垣市字宮良。˩メーラムラー˥　ム˩カシ˥ヌ　ウ˩ブナン˥ヌ　˥アトゥ　ク˩モーマー˥ラ　ム˩ラバキ　シール˥　タ˩トー˥レーティ˩ダー [˩meːramuraː˥ mu˩kaʃi˥nu ʔu˩bunan˥nu ˥ʔatu ku˩moːmaː˥ra mu˩rabaki ʃiːru˥ tḁ˩toː˥reːti˩daː](宮良村は昔の大津波の後に小浜島から村分けをして村立てされたそうだよ)。

˩メーラ˥アカマター [˩meːra˥ʔakamataː] 【名】宮良集落の秘密結社によるアカマター神事。豊年祭の時に出現する来訪神で、豊年を寿ぐ神と言われている。その神事組織は極秘に守られている。小浜島、古見村のアカマター祭りと共通する面が認められる。転じて、宮良集落のあだ名『石垣方言辞典』といわれている。

˩メーラガーラ [˩meːragaːra] 【名】宮良川。宮良集落と大浜集落の間を流れる川。˩メーラガーラール　ヤイヤマ˥ナー　イッ˩チン˥　ナ˩ガー˥ティ　ア˩ザリブー [˩meːragaːraru jaijama˥naː ʔit˩ʧin˥ na˩gaː˥ ti ʔa˩ʤari buː](宮良川が八重山では一番長いといわれている)。

˩メーラドゥンチ [˩meːraduntʃi] 【固】宮良殿内。琉球国時代の宮良間切りの頭 (かしら) 職の家。最後の頭職の人の家は石垣市字大川にあり、文化財に指定されている。˩メーラドゥンチヌ　ペーラ˥フチナー　˥ゾーンタヤーン　アン˩ダー [˩meːraduntʃinu peːra˥ɸu̥ʧina: ˥ʤoːntajaːŋ ʔan˩daː](宮良殿内の門 < 入り口 > には屋根付きの木造の門もあるよ)。

˩メーラ˥ビ [˩meːra˥bi] 【名】十五、六歳から二十歳ごろの女性。ミ˩ヤラ˥ビ [mi˩jara˥bi](乙女) ともいう。鳩間島では、トゥ˩バラー˥マ [tu˩baraː˥ma](トゥバラーマ節) で、/シキヌカイシャー　トゥカミッカー　ミヤラビカイシャー　トゥーナナチー/(月の美しさは十三夜の月、乙女の美しさは十七歳ごろだ) と歌われている。

˩メーラ˥ビンケー [˩meːra˥biŋkeː] 【連】乙女達。˩メーラ˥ビンケーヌ　ア˩ツァ˥マリティ　˩プールゾーラキ˥ヌ　ブ˩ドゥル˥　ナラウンティ　˩ベー [˩meːra˥biŋkeːnu ʔa˩tsa˥mariti ˩puːruʤoːraki˥nu bu˩duru˥ naraunti ˩beː](乙女達が集まって豊年祭のゾーラキ [ʤoːraki] 上楽踊り <˩入子踊り」の義か > を習おうとしている)。

メッ˩ティ [met˩ti] 【副】すっかり。ことごとく。完全に。˥ヌーンクイン　˩ヨイ˥ヌ　ス˩コーロー˥　メッ˩ティ˥　ス˩コーラリ　ブー [˥nuːŋkuiŋ ˩joi˥nu su̥ ˩koːroː˥ met˩ti˥ su̥˩koːrari buː](何もかもお祝いの準備はすっかり用意されている)。

モ

˥モー [˥moː] 【連】〜のは。準体助詞˥-ム [˥-mu](〜の。〜もの) に取立ての係助詞˥-ヤ [˥-ja](は) が付いて融合変化したもの。˥バー　˥カクモー　˥ヌーヤ [˥baː ˥kạkumoː ˥nuːja](私が書くのは何か)。ウ˩リヌ˥　パ˩ナ˥シェー　ス˩クモー˥　ア˩ラ˥ヌ [ʔu˩rinu˥ pa˩na˥ ʃeː sụ˩kumoː˥ ʔa˩ra˥nu](彼 < あれ > の話は聞くものではない)。ッ˩ふーモー　ナー˥ヌ [f˩fuːmoː naː˥ nu](食べるのはない)。

˥モー [˥moː] 【名】(植) 海草の一種。藻。˩タイフー˥ヌ　˥アトー　パ˩マ˥ナー　˩モー˥ヌ　˩ユーリクー˥タン [˩taɸuː˥nu ˥ʔatoː pa˩ma˥naː ˩moː˥nu ˩juːrikuː˥taŋ](台風の後に浜には藻草が流れ寄ってきた)。

˩モー˥キ [˩moː˥ki] 【名】儲け。利益。「Movqe　マゥケ (儲け)　利得」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ク˩トゥシヌ　イーシ˥ヌ　˩モー˥ケー　˩ギュー˥サブカラ　ア˩ル˥ワ [kụ˩tuʃinu ʔiːʃi˥nu ˩moː˥keː ˩gjuː˥ sabukara ʔa˩ru˥wa](今年の角又の儲けは幾らほどあるか)。˩モーキ˥ヌ　˩ナーン˥カー　˩カースナ˧ヨー [˩moːki˥nu ˩naːŋ˥kaː ˩kaːsuna˧joː](儲けが無ければ売るなよ)。

˩モーキザ˥ク [˩moːkiʤa˥ku] 【名】金儲けの仕事。職業。「儲け仕事」の義。˩モーキズ˥ク [˩moːkiʤu˥ku](儲け仕事) ともいう。マ˩ナ˥マー　˩ヌー˥ヌ　˩モーキザク˥バ　˩シー　アーク˥ワ [ma˩na˥maː ˩nuː˥nu ˩moːkiʤaku˥ba ˩ʃiː ʔaːku˥wa](今はどんな < 何の > 仕事 < 儲け仕事 > をしているのか)。マ˩ナ˥マー　˩モーキザク˥ヌ　˩ナーン˥ベーティ　イ˩ズバ˥　トゥリ　タ˩ク˥バ　トゥ˩リ˥ル　˩カーシ　ブー [ma˩na˥ maː ˩moːkiʤaku˥nu ˩naːm˥beːti ʔi˩ʤuba˥ turi tạ˩ku˥ ba tu˩ri˥ru ˩kaːʃi buː](今は仕事が無いので、魚を獲り、蛸を獲って売っている)。

˩モーキ˥ルン [˩moːki˥ruŋ] 【他動】儲ける。˩モー˥クン [˩moː˥kuŋ](儲ける) ともいう。「Movqe,uru,eta. マゥケ、クル、ケタ (儲け、くる、けた) 利益を得る、または、取得する」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。カ˩ツシンバ　シー　モーキ˥ルンティ　˩スンドゥ　モーキラ˥ラ˥ヌ [kạ˩tsuʃimba ʃiː moːki˥runti ˩sundu moːkira˥ra˥nu](カツオ漁業をして儲けようとするが、儲けられない)。カ˩ツシンラ　モー˥キティル　˩カー˥ラヤーン　ス˩ク˥ローッタ [kạ˩tsuʃinra moː˥kitiru ˩kaː˥rajaːn sụ˩ku˥roːtta](カツオ漁業から儲けて瓦葺の家も造られた)。˩モーキ˥ル　プ˩ソー　マー˥ビン　˩モーキ˥レー　˥ミサムヌ [˩moːki˥ru pụ˩soː maː˥bim ˩moːki˥reː ˥misamunu](儲ける人はもっと儲ければいいのに)。˩マー˥ビン　˩イッ˥パイ　˩モー˥キリ [˩maː˥bim ˩ʔip˥pai ˩moːki˥ri](もっとたくさん儲けろ)。

˩モー˥クン [˩moː˥kuŋ] 【他動】儲ける。˥ジン　˩モー˥クンテー　ウ˩モーン˥ドゥ　˩モーカン˥カーター　ッ˩ふァイ˥　パ˩ラ˥ヌ [˥ʤim ˩moː˥kunteː ʔu˩moːn˥du ˩moːkaŋ˥kaːtaː f˩fai˥ pa˩ra˥nu](金を儲けようとは思わないが、儲けないと、また、暮らして < 食べて > いけない)。˥ジン　˩モー˥キン　ウ˩キ˥ナー　˩パッ˥タ [˥ʤim ˩moː˥kiŋ ʔu˩ki˥naː ˩pat˥ta](金を儲けに沖縄へ行った)。˩モー˥ク　プ˩ソー　モー˥キティ　˩ナーン˥　プ˩スン˥　バキ　ッ˩ふァーシ˥バ [˩moː˥ku pụ˩soː moː˥kiti ˩naːm˥ pụ˩sum˥ baki f˩faːʃi˥ ba](儲ける人は儲けて、< 金の > 無い人に分けて食べさせなさいよ)。˩モー˥キ　˥ミサカー　˩マー˥ビン　˩モー˥ケー　˥ミサムヌ [˩moːki˥ misakaː ˩maː˥ bim ˩moː˥keː ˥misamunu](儲けてよければもっと儲ければいいのに)。˩ワンヌン　パー˥ク　˩モー˥キバ [˩wannum paː˥ku ˩moː˥kiba](君も早く儲けろよ)。

˩モー˥サ [˩moː˥sa] 【名】(人) 女性の名前。モウシ。モーシャー、ムヲシヤ、と表記されることが多い。「真ウシ」の転訛したもの。石垣の士族の血を受け継ぐ子供に多く命名された。˩モー˥サンマー [˩moː˥ samma:](モーシ姉さん)。˩モー˥サティ　˩ナー˥　シ˩キラ˥リ　˩オー˥ル　プ˩ソー　メイジヌ˥　マ˩リル　ゴー˥ラー˩ナー [˩moː˥sati ˩naː˥ ʃi˩kira˥ri ˩ʔoː˥ru pụ˩soː meiʤinu˥ ma˩riru goː˥ra˩naː](モーサと名づけられておられる人は明治の生まれが多いねえ)。

˹モー˺サンマー **[˹moː˺samma:]** 【名】人名。名称。呼称。モーサ姉さん。˹カン˺ネーヌ　˹モー˺サンマー　˹ウシ˺トー　˹ター˺　ヤ˹ロール˺ワ [˹kan˺ne:nu ˹moː˺samma: ˹ʔuʃi̥˺to: ˹ta:˺ ja˹ro:ru˺wa](あの家のモーサ姉さんの妹は誰ですか)。

˹モーシェー **[˹moːʃe:]** 【名】(人) 女性の名前。同輩、目下に対する呼び名。˹モーシェー　マー　パッ˺ター [˹moːʃe: ma: pat˺ta:](モウシは何処へ行ったか)。

˹モー˺シェンマー **[˹moː˺ʃemma:]** 【名】(人) モウシ姉さん (尊敬)。名称、呼称にも用いる。˹モー˺シェンマー　フ˹タール　オール˺ヌ　ク˹ヌ˺　プ˹ソー　タッ˺テヌ　˹モー˺シェンマーヤ [˹moː˺ʃemma: ɸu̥˹ta:ru ʔo:ru˺nu ku˹nu˺ pu̥˹so: tat˺tenu ˹moː˺ʃemma:ja](モウシ姉さんは二人おられるが、この人は、どこの家のモウシ姉さんか)。

˹モーシムヌ **[˹moːʃimunu]**【名】薪。燃料。燃やすもの。タ˹ム˺ヌ [ta˹mu˺nu](薪。雑木の生木を切り、斧で割って乾燥したもの)、˹ユシ˺キキー [˹juʃi̥˺kiki:](枯れたススキ)、ウ˹ジ˺ル [ʔu˹ʤi˺ru](枯れた雑木の小枝)、フ˹ク˺ジ [ɸu̥˹ku˺ʤi](枯れ葉や塵類) など。˹モーシムヌ˺　ミルカー　ウ˹ヌ　ヤー˺ヌ　キ˹ナイヤー˺　ワ˹カ˺ルンツォー [˹moːʃimunu˺ miruka: ʔu˹nu ja:˺nu ki˹naija:˺ wa˹ka˺runtso:](薪などの燃料を見ればその家の家庭状況がわかるそうだ)。

˹モースン **[˹moːsuŋ]** 【他動】燃やす。もす。「〜心は母要奴 < モエヌ >〜。万、3962」の他動詞化したもの。タ˹ム˺ヌ　˹モースン [ta˹mu˺nu ˹moːsuŋ](薪を燃やす)。アー˹イ　モーサヌ [ʔa:˹ji moːsanu](否だ。燃やさない)。˺クナー　˹モーシ˺　ミサカー　˹モース˺　クトー　ナ˹ルン˺ドゥ　˹モーシェー˺　ナ˹ラン˺ティ　˹スンダ　モースナ [˺kuna: ˹moːʃi˺ misaka: ˹moːsu˺ ku̥to: na˹run˺du ˹moːʃe:˺ na˹ran˺ti ˹sunda moːsuna](ここで燃やしてよければ燃やすことは出来るが、燃やしてはいけないというので、燃やすな)。˹パー˺ク　˹モーシ˺バ [˹pa:˺ku ˹moːʃi˺ba](早く燃やせよ)。

˹モー˺スン **[˹moː˺suŋ]**【他動】生やす。ピ˹ニ　モー˺スン [pi˹ni moː˺suŋ](鬚を生やす)。˺バー　ピ˹ニ　モーサ˺ヌ [˺ba: pi˹ni moːsa˺nu](私は鬚を生やさない)。ピ˹ニ　モーシ˺　プサン [pi˹ni moːʃi˺ pu̥saŋ](鬚を生やしたい)。ピ˹ニ　モー˺ス　プ˹ソー˺　ブ˹ラーヌ [pi˹ni moː˺su pu̥˹soː˺ bu˹ra:nu](鬚を生やす人はいない)。ピ˹ニ　モー˺シェー　˺ミサムヌ [pi˹ni moː˺ʃe: ˺misamunu](鬚を生やせば良いのに)。ピ˹ニ　モー˺シバ [pi˹ni moː˺ʃiba](鬚を生やせよ)。

˹モー˺ヤー˹ **[moː˺ja:]** 【名】手踊り。舞踊の小道具を用いないで、歩きながら両手をこねり、上体をなよりして < くねらして > 踊る早踊り。沖縄本島から伝わったもの。[maɸi・ja:] → [mawi・ja:] → [moːja:] と音韻変化したもので、「この御酒 (みき) を醸 (かみ) けむ人は舞ひつつ〜」(旋回しつつ〜)「記紀歌謡四十」の転訛したものか。沖縄本島の「˹モーヤー」[˹moːja:] 舞踊は「旋回する」ことが中心で、鳩間島の舞踊は、ブドゥル [bu˹duru](跳躍する動作) から発達したものか。「〜立乎杼利 < タチヲドリ > 足すり叫び〜。万、904」参照。˹ヨイ˺ヌ　˺アトー　ムー˹ル　サンシン˺ナー　˹アー˺シ　˹モー˺ヤー　˹シール˺　トゥ˹ズモーッ˺タ [˹joi˺nu ˺ʔato: mu:˹ru saŋʃin˺na: ˹ʔa:˺ʃi ˹moː˺ja: ˹ʃi:ru˺ tu˹ʤu˺moːtta](お祝いの後は皆三味線に合わせて < モーヤー > をして終了された)。

˹モー˺ヤンマー **[˹moː˺jamma:]** 【名】人名。モーヤ姉さん。˹モー˺ヤンマー　˹タッ˺テヌ　プ˹ス˺　ヤ˹ロッ˺タカヤー [˹moː˺jamma: ˹tat˺tenu pu̥˹su˺ ja˹ro:t˺takaja:](モーヤ姉さんは何処の家の人であられたのかねえ)。

ヤ

˥-ヤ [˥-ja] 【係助】〜は。取り立て強意を表す。名詞、代名詞、副詞、助詞、活用語の連用形につく。上接語の末尾の音節構造と母音によっていろいろな融合変化を起こし、次のような異形態をとる。**(1-1)** 音節構造が/CVCV/で、末尾母音が [a] の場合、CVCV+ja(は)→-a:(CVCa:) となる。˥カサー ˩カイ˥ヤン [˥kasa: ˩kai˥jaŋ](傘はきれいだ＜美しい＞)。˥パナー ˥サクン [˥pana: ˥sḁkuŋ](花は咲く)。˥クナー シゥ˩カラ˥ヌ [˥kuna: si̥˩kara˥nu](ここには置けない)。**(1-2)** 音節構造が/CVCV/で、末尾母音が [i] の場合、CVCV + [ja](は)→ [-e:](CVCe:) となる。˥フネー ˥シケーン [˥ɸune: ˥ʃi̥ke:ŋ](船は着いた)。ティ˩ガ˥メー マ˩ダ クー˥ヌ [ti˩ga˥me: ma˩da ku:˥nu](手紙はまだ来ない)。サ˩ケー˥ ヌ˩マ˥ヌ [sḁ˩ke:˥ nu˩ma˥nu](酒は飲まない)。**(1-3)** 音節構造が/CVCV/で、末尾母音が [u] の場合、CVCV + [ja] → [o:](CVCo) となる。パ˩コー˥ イツァシル ス˩ク˥ル [pḁ˩ko:˥ ʔitsaʃiru su̥˩ku˥ru](箱は板で＜ぞ＞造る)。˥アボー ア˩ツァブカ˥ラ ˩オー˥ルンカヤー [˥ʔabo: ʔa˩tsabuka˥ra ˩ʔo:˥ruŋkaja:](お母さんは明日あたり来られるかなあ)。シ˩グトー˥ サ˩ムティ˥ ア˩サビ ベー [ʃi˩guto:˥ sa˩muti˥ ʔa˩sabi be:](仕事はしないで遊んでいる)。˥クゾー ˩マイヤー˥ イッ˩ケン ノー˥レータン [˥kudʑo: ˩maija:˥ ʔik˩ken no:˥te:taŋ](去年は、稲＜米＞は非常によく稔った)。**(2-1)** 音節構造が CVCVV で、末尾母音が [ai] の場合、CVCai + [ja] → [aija:](CVCaija) となる。˩カイヤー˥ ッ˩ふァーシ˥ ミサン [˥kaija:˥ f˩fa:ʃi˥ misaŋ](お粥は食べさせてもよい)。˩マイヤー ナウ˥レーン＜˩ノー˥レーン＞[˩maija: nau˥re:ŋ＜˩no:˥re:ŋ＞](稲＜米＞は稔った)。˩ナイ˥ヤー イッ˩ケナ スー˥レーン [˩nai˥ja: ʔik˩kena su:˥re:ŋ](苗は非常によく成長して＜伸びて＞いる)。**(2-2)** 末尾母音が [ui] の場合、CVCui + [ja] → [uija:](CVCuija) となる。˩クイ˥ヤー タ˩カー˥ンドゥ ˩クイブリヨーヌ˥ドゥ ˩ダッ˥サー ˩ナー˥ヌ [˥kui˥ja: tḁ˩ka:˥ndu ˩kuiburijo:nu˥du ˩da:s˥sa: ˩na:˥nu](声は高いが、節回しが良くない)。**(3-1)** 音節構造が CVV で、末尾母音が [u:] の場合、Cu + [ja] → [uwa](CVVSV) となる。ム˩チヌ クー˥ワ ピ˩ケーン˥カヤー [mu˩tʃinu ku:˥wa pi̥˩ke:ŋ˥kaja:](餅を造るための餅粉は挽いたかねえ)。˩ワー グー˥ワ ˩ター˥ヤ [˩wa: gu:˥wa ˩ta:˥ja](君の相棒は誰か)。˩スー˥ワ マ˩ダ˥ ピ˩サ˥ヌ [˩su:˥wa ma˩da˥ pi̥˩sa˥nu](潮はまだ引かない)。˩フー˥ワ イッ˩ケナ˥ ア˩リ˥ブー [˩ɸu:˥wa ʔik˩kena˥ ʔa˩ri˥ bu:](運は非常に良かった＜運は非常に有りおる＞)。**(3-2)** 末尾母音が [au] の場合、Cau + [ja] → [kauwa](CVVSV) となる。˩カウワー˥ シキ タ˩ティ˥リバ [˩kauwa:˥ ʃi̥ki tḁ˩ti˥riba](線香は点けて立てなさいよ)。ク˩ビン˥ヌ ˩ザウ˥ワー カ˩ビ˥シル ス˩ク˥ル [ku˩bin˥nu ˩dʑau˥wa: ka˩biʃiru su̥˩ku˥ru](瓶の栓は紙で＜ぞ＞作る)。キ˩チゴン˥ナー ˩バウ˥ワー ウ˩タ˥ヌ [ki̥˩tʃigon˥na: ˩bau˥wa: ʔu˩ta˥nu](結願祭には棒踊りはしない＜棒は打たない＞)。**(4)** 音節構造が CVN の場合、CVN + [ja] → CVNma(CVNCV) となる。˩アン˥マー ウ˩ラシ˥ティ ˩スー˥ヌ ˥ピスムヌ ˥マティ ˩ベー [˩ʔam˥ma: ʔu˩raʃi̥˥ti ˩su:˥nu ˥pi̥sumunu ˥mati ˩be:](網は下ろして潮の引くのを待っている)。˩カン˥マー ˩オー˥ルン˩ダー [˩kam˥ma: ˩ʔo:˥run˩da:](神様はいらっしゃるよ)。˩サン˥マー ˩ユイ˥ シ˩キ˥リ [˩sam˥ma: ˩jui˥ ʃi̥˩ki˥ri](魔除けのサンは結んでおきなさい)。˩キン˥マー キ˩シ˥バ [˩kim˥ma: ki̥˩ʃi˥ba](着物は着なさいよ)。

˥-ヤ [˥-ja] 【終助】〜か。疑問、尋問の意味を表す。1疑問詞「誰、何、何故、どうして、幾ら」などと呼応する形で用いられる。ク˩ヌ˥ プ˩ソー ター˥ヤ [ku˩nu˥ pu̥˩so: ta:˥ja](この人は誰か)。˥カナー ˥アル ˥ムノー ˥ヌーヤ [˥kana: ˥ʔaru ˥muno: ˥nu:ja](あそこにあるのは何か)。˩ワー˥ トゥシェー ˩ギューチ˥ヤー [˩wa:˥ tu̥ʃe: ˩gju:tʃi˥ja:](君の年はいくつか)。˩ワー˥

パ˩ラン˥モー　˥ヌンティヤー [˩waː˥ pa˩ram˥moː˥ nuntijaː](君が行かないのは何故か)。シ˩ナムヌヌダイヤー　ギュー˥サヤー [ʃi˩namununu daijaː gjuː˥ sajaː](品物の値段は幾らか)。˥キュー　˥パルン　˩トン˥マー　˥マーヤ [˥kjuː ˥parun ˩tom˥maː ˥maːja](今日行く所は何処か)。2疑問詞に副助詞˥-ブカラ [˥-bukara](～ぐらい) の付いた形に下接して程度の尋問を表す。˥アツァ　シゥ˩カウ　ムノー　ヌーン˥ブカラヤ [˥ʔatsa si̥˩kau munoː nuːm˥bukaraja](明日使うものはどれぐらい＜いか程＞か)。

˥ヤー [˥jaː] 【名】いえ (家)。家屋。住宅。建物。「～さすや河邊に構る屋之＜ヤノ＞～。万、3820」の転訛したもの。˩カー˥ラヤー [˩kaː˥rajaː](瓦葺の家)。˥ガヤヤー [˥gajajaː](茅葺の家)。ヌ˩キヤー [nu˩kijaː](貫き家。本建築の家)。ア˩ナ˥プリヤー [ʔa˩na˥purijaː](穴掘り家。掘っ立て小屋)。ア˩ラヤー [ʔa˩rajaː](新築家屋)。˩ドゥーン˥ヤー [˩duːɲ˥jaː](自分の家)。プ˩スン˥ヤー [pu̥˩suɲ˥jaː](よその家)。ッ˩ふ˥ヤー [f˩fu˥jaː](古い家。古屋)。ヒ˩ラヤー [çi˩rajaː](平屋。一階建ての家)。˥ニカイヤー [˥nikaijaː](二階建ての家)。ウ˩シン˥ヤー [ʔu˩ʃiɲ˥jaː](牛の家。牛舎)。˩オー˥ヌヤー [˩ʔoː˥nujaː](豚舎)。˩キー˥ヤー [˩kiː˥jaː](木屋。建築用材を乾燥させる小屋) などがある。˩ヤー˥ヤ　˥マナーティ　イ˩チ˥　ス˩クル˥ワ [˩jaː˥ja ˥manaːti ʔi˩ʧi ˥ su̥˩kuru˥wa](家は、いつ、どこで造るか)。

˩ヤー˥ウチ [˩jaːˀʔuʧi] 【名】家の内。家庭の内。˩ヤー˥ウチ　キ˩ナイウチ˥ナー　˩ノーンヌ˥　ビーンサビーン　ア˩ラ˥シミ　タ˩ボーン˥ナ [˩jaːˀʔuʧi ki˩naiʔuʧi ˥naː ˩noːnnu˥ biːnsabiːŋ ʔa˩ra˥ʃimi ta˩boːn˥na](家の内、家庭内に如何なる＜何の錆(サビ)も、茶渋(チャシブ)も＞災いも起こさせること＜有らしめ＞賜いますな)。

˩ヤーウチ˥リ [˩jaːʔuʧi˥ri] 【名】家移り。転居。引越し。「いへうつり (家移り)」『蜻蛉日記 (中)』の転訛したもの。˩ミーヤーン˥　ス˩ク˥ローレーンティシ˩ティテー˥　ワ˩ター˥　イ˩チル　ヤーウチ˥リ　˩ソール˥ワ [˩miːjaːn˥ su̥˩ku˥roːreːnti ʃi̥˩titeː˥ wa˩taː˥ ʔi˩ʧiru jaːʔuʧi˥ri ˩soːru˥wa](新しい家を造られたというのに、して貴方がたは、いつ転居＜家移り＞されるのですか)。

˩ヤーカー˥ジ [˩jaːkaːˀʤi] 【名】家ごと。各家。「家の数」の義。ナ˩チ˥　ナルカー　˩ヤーカー˥ジ　˩マイカリ　シンン　パイ˥ター　˩オーッ˥タ [na˩ʧi˥ naruka: ˩jaːkaːˀʤi ˩maikari ʃim pai˥ta: ˩ʔoːt˥ta](夏になると各家稲刈りをしに西表＜南端＞へ行かれた)。˩ヤーカー˥ジェーラ　グ˩サーク˥マイ　ン˩ザ˥ソーッタン [˩jaːkaːˀʤeːra gu˩saːku˥mai ʔn˩ʤa˥soːttaŋ](各家から五勺米を出された)。

˥ヤー　カ˩カラ˥ヌ [˥jaː kḁ˩kara˥nu] 【連】落ち着いて家にいない。外出ばかりすること。遊蕩にふけること。「家に懸からない」の義。ウ˩レー　ピッ˥チン　˩ヤー　カ˩カラ˥ヌ　˥フカナーティ　˩ヌー˥バ　˩シーブン˥サー　ピ˩ルマサ˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ [ʔu˩reː pit ˥ʧiɲ ˩jaː kḁ˩kara˥nu ˥ɸu̥kanaːti ˩nuː˥ba ˩ʃiːbun˥saː pi ˩rumasa˥nu na˩ra˥nu](あれ＜彼＞はちっとも家に落ち着か＜懸から＞ない。外で何をしているのか、不思議で＜珍しくて＞堪らない)。

˩ヤー˥カジ [˩jaːˀkaʤi] 【名】台風の吹き込み。台風時に家の中に吹き込む強い風。˩クンドゥ˥ヌ　カ˩ジフケー˥　パ˩マバ˥タヤーヤ　˩ヤーカジ˥ヌ　˩スー˥ワティ　イッ˩ケナ˥　ナ˩クラー˥タン [˩kundu˥nu ka ˩ʤiɸu̥keː˥ pa˩maba˥tajaːja ˩jaːkaʤi˥nu ˩suː˥wati ʔik˩kena˥ na˩kuraː˥taŋ](今度の台風は、海岸端の家では台風の吹込みが強くて非常に怖かった)。˩ヤーカジ˥ヌ　˩ペーラン˥ヨーニ　カ˩ザンガマイ　シー˥　シ˩キ˥リ [˩jaːkaʤi˥nu ˩peːraŋ˥joːni ka˩ʤaŋgamai ʃiː˥ ʃi̥˩ki˥ri](台風の吹き込みが入らないように暴風対策＜風構え＞をしておきなさい)。

˥ヤーカラー [˥jaːkaraː] 【名】借家人。「家借り者」の義。多少見下した表現。˩ヤーカリ˥ムヌとも言う。˩ドゥー˥ヌ　˥ヤー　ス˩ク˥ルンテー　サ˩ムティ˥ナー˩イ˥　ヤーカラー　˥ナリ　˩ベー [˩duː˥nu ˥jaː su̥˩ku˥runte: sa˩muti˥ na:˩ji˥ jaːkaraː ˥nari ˩beː](自分の家を造ろうとはしないで、ただずっと借家人になっている)。

˩ヤーカリ˥ムヌ [˩jaːkari˥munu] 【名】借家人。「家借り者」の義。多少見下した表現。˥ヤーカラー [˥jaːkaraː](家を借りる人) ともいう。イ˩チンバー˥キン　˩ヤーカリ˥ムヌ　˥ナリ　˩アーカン˥ドーシ　˩パー˥ク　˩ドゥー˥ヌ　˥ヤー　ス˩ク˥リバ [ʔi˩ʧimbaː ˥kiɲ ˩jaːkari˥munu ˥nari ˩ʔaːkan˥doːʃi ˩paː˥ku ˩duː˥nu ˥jaː su̥˩ku˥riba](いつまでも借家人になっていないで、早く自分の家を造れよ)。

˩ヤー˥キシキン [˩jaːˀki̥ʃikiŋ] 【名】普段着。家庭着。「家で着る衣」の義。フ˩タ˥キシキン [ɸu̥˩ta˥ki̥ʃikiŋ](着たっきりの着物) ともいう。˩ヤー˥キシキンマー　˩ギューックビン˥　ア˩リ˥スヌ　フ˩タ˥キシキンマープ˩スックビ˥ル　˥アルンダ　˩ピーズ˥　ユ˩ヌキンバ˥ル　キ˩ス [˩jaːki̥ʃikimmaː ˩gjuːkkubiŋ˥ ʔa˩ri˥sunu ɸu̥˩ta˥ki̥ʃikimmaː pu̥˩sukkubi˥ru ˥ʔarunda ˩piːʤu˥ ju ˩nukimba˥ru ki̥˩su](家庭着は何着もあるが、何時も

着る＜着たっきりの＞普段着は一着＜ぞある＞しかないので、いつも同じ着物を着る)。

˹ヤー˺キナイ [˹ja:˺kinai] 【名】家庭。˹ヤーキナイ˺ヤー　ユ˹チ˺クニ　ナ˹リバ˺ル　ッ˹ふァ˺マーン　サ˹カラサリ˺ダー [˹ja:kinai˺ja: ju˹ʧi˺kuni na˹riba˺ru f˹fa˺ma:n sḁ˹karasari˺da:](家庭が豊かになってこそ子孫も繁栄させられるのだよ)。

˹ヤーキブル [˹ja:kiburu] 【名】(数) 八軒。˺クナー　˹ヤーキブルヌ　ヤー˺ヌ　˹アッ˺タンツォー [˺kuna: ˹ja:kiburunu ja:˺nu ˹ʔat˺tantso:](ここに八軒の家があったそうだ)。

˹ヤー˺クシ [˹ja:˺kuʃi] 【名】引越し。「家越し」の義。˹ヤーウチ˺リ [˹ja:ʔutʃi˺ri](引越し。「家移り」の義)ともいう。˹ヤー˺クシェー　イ˹チ　ソール˺ワ [˹ja:˺kuʃe: ʔi˹ʧi so:ru˺wa](引越しは何時なさいます＜されます＞か)。

˹ヤー˺クブ [˹ja:˺kubu] 【名】1(動) クモ (蜘蛛) の一種。家に棲息する蜘蛛。ヤ˹マ˺クブ [ja˹ma˺kubu](ジョロウグモ＜女郎蜘蛛＞) の対義語。˹ヤークブ˺ヌ　˺シー　˺トゥリバ [˹ja:kubu˺nu ˺ʃi: ˺turiba](蜘蛛の巣を取って捨てろ)。2引き籠もりの人。家の中に閉じこもって世間と交流しない人。˹クーズメー [˹ku:ʤume:](引き籠もり。海岸の岩にくっ付いて離れない貝の一種) ともいう。ウ˹レー　ヤー˺クブ　˺ナリティ　プ˹スピライ　シーユーサヌ [ʔu˹re: ja:˺kubu ˺nariti pu̥˹supirai ʃi:ju:sanu](それ＜彼＞は家に引きこもって＜家蜘蛛になって＞人付き合いできない)。

˹ヤーグマ˺リ [˹ja:guma˺ri] 【名】家の中に引き籠もること。ヤ˹ム˺ター　˹ヤーグマ˺リ　シ˹ティ　ピッ˺チン　˺フカー　ン˹ジラ˺ヌ [ja˹mu˺ta: ˹ja:guma˺ri ʃi̥˹ti pit˺ʧiŋ ˺ɸu̥ka: ʔn˹ʤira˺nu](病気したので、家の中に引き籠って、ちっとも外出しない)。

˹ヤーケーラ [˹ja:ke:ra] 【名】八回。八度。八往復。プ˹スケーラ˺　フ˹タケーラー˺　ア˹ラ˺ヌ　˹ヤーケーラン˺　カ˹ユータンドゥ　ソー˺ダン　ナ˹ラン˺シェン [pu̥˹suke:ra˺ ɸu̥˹take:ra:˺ ʔa˹ra˺nu ˹ja:ke:ra:ŋ˺ ka˹ju:tandu so:˺dan na˹raŋ˺ʃeŋ](一度や二度ではない。八回も通ったが相談＜交渉＞が出来なかった)。

˹ヤーザイ˺ク [˹ja:ʤai˺ku] 【名】建築大工。大工の棟梁。「家細工」の義。家を造る大工のこと。パ˹トゥ˺マプスヌ　パ˹ジミティヌ　˹ヤーザイ˺コー　カ˹ザケヌ˺　ス˹ク˺レザー　ヤ˹ローッ˺タツォー　˺ウブシケー　パ˹ナシケー　ユージェーヤ　ウ˹ヌプスヌ˺　ス˹ク˺ローレーティ˹ダー [pḁ˹tu˺mapu̥sunu pa˹ʤimitinu ja:ʤai˺ko: ka˹ʤakenu˺ su̥˹ku˺reʤa: ja˹ro:t˺tatso: ˺ʔubuʃi̥ke: pa˹naʃi̥ke:˺ ju:ʤe:ja ʔu˹nupu̥sunu˺ su̥˹ku˺ro:re:ti˹da:](鳩間人で初めての大工の棟梁は加治工家の津久利氏だったそうだ。大城家、花城家、松竹家は、その人が作られたそうだよ)。

˹ヤー˺サカーサ [˹ja:˺saka:sa] 【副】空腹なさま。ひもじいさま。ABCDBC 型の重言。強意を表す。ヤ˹ラ˺ビンケーヤ　˹ヤー˺サカーサ　シ˹ムンドー˺シ　シゥ˹カ˺ナイ　フ˹ドゥバシ˺ヨー [ja˹ra˺biŋke:ja ˹ja:˺saka:sa ʃi˹mundo:˺ʃi si̥˹ka˺nai ɸu˹dubaʃi˺jo:](子供たちはひもじい思いをさせないで、育てなさい＜養育して成長させなさい＞よ)。

˹ヤー˺サカチリ [˹ja:˺sakaʧiri] 【名】飢餓に苦しむこと。「やわさ (飢さ)・かつゑ (餓ゑ)」の転訛したもの。「ヤワシ (飢)」の語幹に「飢極、カツヱコウジタリ」『文明本節用集』の「カツヱ (饉)」が付いて形成された合成語。飢え苦しむこと。イ˹クサユー˺ヌ　˺アトー　ムー˹ル　ヤー˺サカチリバ　˹シェー˺ティル　イキケー˹ダー [ʔi˹kusaju:˺nu ˺ʔato: mu:˹ru ja:˺sakaʧiriba ˹ʃe:˺tiru ʔikike:˹da:](戦後は皆飢餓に苦しんで生きてきたのだよ)。

˹ヤー˺サクチサ [˹ja:˺saku̥ʧisa] 【名】空腹の苦しさ。食糧難の苦しさ。イ˹クサユー˺ヌ　˹ヤー˺サクチサー　˹バシケー˺　ナ˹ラ˺ヌ [ʔi˹kusaju:˺nu ˹ja:˺saku̥ʧisa: ˹baʃi̥ke:˺ na˹ra˺nu](戦争中＜戦世＞の空腹の苦しさは忘れてはならない)。

˹ヤー˺サクンゾー [˹ja:˺sakunʤo:] 【名】空腹時には立腹しやすいこと。空腹時の腹立ち。˹ヤー˺サクンゾーティル　˺アルンダ　˹パー˺ク　ン˹マー˺ムヌ　ッ˹ふァーシ˺バ [˹ja:˺sakunʤo:tiru ˺ʔarunda ˹pa:˺ku ʔm˹ma:˺munu f˹fa:ʃi˺ba](˹空腹時の腹立ち」と言われているから、早く美味しいものを食べさせてやりなさいよ)。

˹ヤー˺サ　˹スン [˹ja:˺sa ˹suŋ] 【連】ひもじい思いをする。飢える。˹ゾー˺ブンニ　ム˹ヌスク˺ル　˹サン˺カー　フ˹ユヌ˺　シチナー　˹ヤー˺サ　˹スン˺ダー [˹ʤo:˺bunni mu˹nusuku˺ru ˹saŋ˺ka: ɸu˹junu˺ ʃi̥ʧina: ˹ja:˺sa ˹sun˺da:](しっかりと耕作しないと冬の季節になって飢える＜ひもじい思いをする＞ぞ)。

˹ヤーサ˺ッふァイ [˹ja:sa˺ffai] 【名】むさぼり食うさま。飢えた者のようにがつがつと食うこと。「飢え食い」の義。˺アイニ　˹ヤーサ˺ッふァイ　˹サン˺タンティン　ピ˹ナラヌ˺＜˹ナーンナラ˺ヌ＞。トゥ˹クットゥ˺シ　ッ˹ふァイ˺バ [˺ʔaini ˹ja:sa˺ffai ˹san˺tantim pi˹naranu˺＜˹na:nnara˺nu＞。tu̥˹kuttu˺ʃi f˹fai

˺ba](そんなにむさぼり食わなくても減らないよ＜無くならないよ＞。落ち着いて食べなさい)。

˹ヤーサ˺ニジ [˹jaːsa˺niʤi] 【名】空腹を我慢すること。ひだるさを我慢すること。ひもじいのを我慢すること。˹ヤーサ˺ニジ　˹スンティ˺　ミ˹ジバ˺　ヌミ˹ベー [˹jaːsa˺niʤi ˹sunti˺ mi˹ʤiba˺ numi ˹beː](空腹を我慢しようと水を飲んでいるよ)。

˹ヤーサノー˺シ [˹jaːsanoː˺ʃi] 【名】むしおさえ (虫押え)。空腹を一時凌ぐための軽食。˹ユー˺ボンスコールヌ　˺ナルンケンマー　ガ˹シ˺タクンツァン　˺キシ　ッ˹ふァーシ　ヤーサノー˺シ　シ˹ミラン　˺ノーレー [˹juː˺bonsu̥ko:runu ˺naruŋkemmaː ga˹ʃi˺ takoːntsaŋ ˺ki̥ʃi ˺fa:ʃi jaːsanoː˺ʃi ʃi˹miran˺noːreː](夕食の準備が出来るまで燻製蛸でも切って食べさせて空腹の一時凌(シノ)ぎにさせてくれないか)。

˹ヤー˺サバタ [˹jaː˺sabata] 【名】空腹。空きっ腹。˹ヤー˺サバタナー　ノー˹ン˺　ン˹マー˺ン [˹jaː˺sabatanaː noː˹m˺ ˺m˹maː˺ŋ](空きっ腹には何でも美味しい)。

˹ヤーサ˺バタ [˹jaːsa˺bata] 【名】空きっ腹。空腹。˹ヤーサ˺バタナー　サ˹キヌマス˺ナ˹ヨー [˹jaːsa˺batanaː sḁ˹ki˺ nu˹masu˺na˹joː](空きっ腹に酒を飲ませるなよ)。˹ヤーサ˺バター　˹クンゾー˺バタ [˹jaːsa˺bataː ˹kunʤoː˺bata](空きっ腹になると怒りやすい)。

˹ヤー˺サ　˺バタッふァ [˹jaː˺sa ˺bataffa] 【連】空腹のときは怒りっぽい。˹ヤー˺サ　˺バタッふァティル　˺アルンダ　ノー˹ン　ヤラバン　パー˺ク　ス˹コーリ˺　ッ˹ふァーシ˺バ [˹jaː˺sa ˺bataffatiru ˺ʔarunda noː˹ɲ jarabam paː˺ku su̥˹koːri˺ ˺fa:ʃi˺ba](空腹の時は怒りっぽいと言われているから、何でもよいから早く作って食べさせなさいよ)。

˹ヤー˺サマーサ [˹jaː˺samaːsa] 【名】空腹の時は何でも美味しく感ずること。˹ヤー˺サマーサティ　ア˹ズヌ˺　ヌーンクイン　ン˹マーン˺ティ　˹シー˺　ムー˹ル　ホイナ˺キ　˹ナー˺ヌ [˹jaː˺samaːsati ʔa˹ʤunu˺ nuːŋkuim ʔm˹maːn˺ti ˹ʃiː˺ muː˹ru hoina˺ki ˹naː˺nu](空腹時の美味さと言うが、何もかもが美味しいといって全部掻っ込んでしまったよ)。

˹ヤー˺ザライ [˹jaː˺ʤarai] 【名】家の厄(ヤクバラ)払い。家の祈祷。家のお祓(ハラ)い。「家浚(サラ)え」の義。塩や海の渚(ナギサ)からナ˹ミヌ˺パナ [na˹minu˺ pana](波の花。海水。潮水) を汲んできて家の中や屋敷の隅々スミズミに撒(マ)いて家の厄払い＜お祓い＞をした。また、人の足跡の付いていない渚の砂を運んできて屋敷内の隅々に撒いてお祓いをした。シ˹チ˺ヌ　˺ピンマー　˺イソーパーレーバ　˹シー　インヌムラアンヌムラヌ˺　ム˹ラザライバ　シー　ヤー˺ザライン˹シーソーッ˺タ [ʃi˹ʧi˺nu˺pimmaː˺ʔisoːpaːreːba ˹ʃiː ʔinnumura ʔannumuranu˺ mu˹raʤaraiba ʃiː jaː˺ʤaraiŋ ˹ʃiːsoːt˺ta](節祭りの日にはイソーパーレーをして西村、東村のお祓い＜村浚え＞をし、各家のお祓い＜家浚え＞もなされた)。

˹ヤー˺サン [˹jaː˺saŋ] 【形】ひもじい。ひだるい。空腹である。「飢 (ヤワシ) かし時に生 (む) めし児を～」『日本書紀　神代上』、「やわし (飢し)」『東大寺諷誦文稿』の転訛したものか。˺イー　ッ˹ふァーン　˺カー　˹ヤー˺サンダー　ノー˹ンヤラバン˺　ッ˹ふァイ˺バ [˺ʔiː ˺fa:ŋ˺kaː ˹jaː˺sanda noː˹ɲjarabaŋ˺ ˺fai˺ba](ご飯を食べないとひもじいから、何かでも食べなさいよ)。˹ワーヤ　ヤー˺サー　˹ナーン˺　パジ　˹ダー˺ヌ　˺バー　˹ヤーサ˺ヌ　ナ˹ラ˺ヌ [˹waːja jaː˺sa ˹naːm˺ paʤi˹daː˺nu ˺baː ˹jaːsa˺nu na˹ra˺nu](君はひもじくないだろうが、私はひもじくて堪らない)。˹シンダイ　ヤー˺サ　˺ナリケーン [˹ʃindai jaː˺sa ˺narikeːŋ](次第にひもじくなってきた)。˹ヤー˺サ　˺クトー　˹ナー˺ヌ [˹jaː˺sa ˺ku̥toː ˹naː˺nu](ひもじいことはない)。˺アイニ　˹ヤー˺サレーラー　ター˹ン˺　ナ˹キス˺ヨー [˺ʔaini ˹jaː˺sareːraː taː˹n˺ na˹kisu˺ joː](あんなにひもじければ誰でも泣くよ)。

˹ヤー˺シー [˹jaː˺ʃiː] 【名】住まい。住宅。「家巣」の義。˹ワー　オーパ˺ヤー　˹ヤー˺シーティン　ア˹ラ˺シ　˹マイフナー　ユン [˹waː ʔoːpa˺jaː ˹jaː˺ʃiːtiŋ ʔa˹raʃi ˹maiɸunaː juŋ](君は、そんなに早く住宅も建築し＜有らし＞て立派＜利口者＞だ)。

˹ヤー˺シキ [˹jaː˺ʃi̥ki] 【名】家屋敷。家屋と屋敷。住むべき家や屋敷。˹ヤーヤシ˺キ [˹jaːjaʃi̥˺ki](家屋敷) ともいう。˹ヤーシキ˺ヌ　ア˹リバ˺ル　トゥ˹ジッふァン˺　シゥ˹カナイラリ˺ル [˹jaːjaʃi̥ki˺nu ʔa˹riba˺ru tu˹ʤiffan˺ si̥˹kanairari˺ru](家屋敷があればこそ妻や子供を養うことが出来るというものだ)。

˹ヤー˺シキ [˹jaː˺ʃiki] 【名】犬や猫などが飼い主の家に住み慣れること。住み着くこと。ク˹ヌ˺　マヤー　ムッ˹トゥ　ヤー˺シキ　˹サン˺サー [ku˹nu˺ majaː mut˹tu jaː˺ʃi̥ki ˹san˺saː](この猫は一向に家に住み慣れない＜家に住み着かない＞よ)。

˹ヤーシキ˺パル [˹jaːʃi̥ki˺paru] 【名】茅葺き家の屋根葺き用のしめ縄を屋上の屋根ふきとやり取りする矛。「家突き針」の義。˹ヤーフキ˺パル [˹jaːɸu̥ki˺paru] ともいう。パ˹ルシキ˺プス [pa˹ruʃi̥ki˺pu̥su](家突き針を使う人) が室内から声をかけて屋根へ矛を突き出すと屋根葺きが矛の穴に締め縄を通して合図を

する。すると室内の矛の使い手がそれを内へ引き込み、垂木にかけて再度屋根上へ突き出して屋根葺きに届けると、屋根ふきが締め縄を引き締めて屋根を葺いていく。

˹ヤーシク˺チ [˹jaːʃi̥ku˺ʧi] 【名】家庭内作業。「家仕事」の義。˹ヤーシグ˺トゥ [˹jaːʃigu˺tu](家仕事) ともいう。畑作業の出来ない雨天の日や出漁できない時化の日などに、˹トー˺ラ [˹toː˺ra](炊事小屋) で縄を綯(ナ)ったり、トウヅルモドキの皮で˺ティル [˺tiru](さる < 笊 >) を編んだり、ア˹ダン˺パームス [ʔa˹dam˺paːmusu](アダン葉筵) を編んだりする作業をいう。日頃からそのための材料の準備をしておく人が˹ジン˺ブンムチ [˹ʤim˺bummuʧi](知恵のある人。「存分持ち」) といわれた。˺チニヒージェーラ　ア˹ミフイ˺ヌ　˺ピンヌ　˹ヤーシクチ˺ヌ　ス˹コール　˹シー˺　シゥ˹カン˺カー　プ˹ソー˺　プ˹リアサビル　スート ダー [˺ʧiniçiːʤe:ra ʔa˹miɸui˺nu ˺pinnu ˹jaːʃi̥kuʧi˺nu su̥˹koːru ʃiː˺ si̥˹kaŋ˺kaː pu̥˹soː˺ pu˹riʔasabiru suː꞉daː](常日頃から雨降りの日の家庭内作業の準備をしておかないと、人は馬鹿遊びをするだけだぞ)。

˹ヤーシグ˺トゥ [˹jaːʃigu˺tu] 【名】家にいてする仕事。炊事、洗濯、裁縫、掃除、養豚などの作業。パ˹タキシグ˺トゥ [pḁ˹takiʃigu˺tu](畑仕事)、˹ターシグ˺トゥ [˹taːʃigu˺tu](田仕事)、ヤ˹マシグ˺トゥ [ja˹maʃigu˺tu](山仕事) などの˺フカシグトゥ [˺ɸu̥kaʃigutu](外仕事) に対していう。˹ヤーシグトゥ˺ヌ　˺アルユンダ　マー˹ン˺　パ˹ララ˺ヌ [˹jaːʃigutu˺nu ˺ʔarujunda maː˹m˺ pa˹rara˺nu](家での仕事があるので、どこにも行けない)。

˹ヤージ˺シ [˹jaːʤi˺ʃi] 【名】他人の家で寝た時に眠れないこと。なれない家で寝る時になかなか寝付けないこと。˺バー　プ˹スン˺ヤーナ　ニ˹ブ˺ピンマー　˹ヤージ˺シ　˹シティ˺　ムッ˹トゥ˺　ニ˹バラヌ [˺baː pu̥˹suŋ˺jaːna ni˹bu˺ pimmaː ˹jaːʤi˺ʃi ˹ʃi̥˹ti˺ mut˹tu˺ ni˹baranu](私は余所の家に寝る時は、一向に落ち着かず眠れない)。

˺ヤー　˹スーラ˺スン [˺jaː ˹suːra˺suŋ] 【連】家の強化改装工事をする。「家を強くする」の義。˺パラー　トゥ˹リ˺カイ　ヤ˹ドゥパシ˺ルン　ス˹クリ˺カイティ　˺ヤー　˹スーラ˺スンティ　˹ベー [˺paraː tu˹ri˺kai ja˹dupaʃi˺run su̥˹kuri˺kaiti ˺jaː ˹suːra˺sunti ˹beː](柱を取替え、戸も作り変えて家を強化改装工事をしようとしている)。

˹ヤースク˺リ [˹jaːsu̥ku˺ri] 【名】家屋建築。家を建てること。「家造り」の義。「Yazzucuri.　ヤヅクリ (家造り) 家の建物.　Yazzukuriuo suru(家造りをする) 家を建築する」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˹ドゥーン˺　ヤーヌ　˹ヤースク˺リ　˹シーバル˺　ビ˹キドゥモー˺　イ˹チニン˺マイティ　ム˹カ˺シェーラ　ア˹ザリ　ブー [˹duːŋ˺ jaːnu ˹jaːsu̥ku˺ri ˹ʃiːbaru˺ bi˹kidumoː˺ ʔi˹ʧinim˺maiti mu˹ka˺ʃeːra ʔa˹ʤari buː](自宅 < 自分の家 > の新築をしてはじめて < 家造りをすればぞ > 男は一人前だと昔からいわれている)。˹ヤースクリ˺プス [˹jaːsu̥kuri˺pu̥su](新建築する人)。

˹ヤースクリ˺ヤー [˹jaːsu̥kuri˺jaː] 【名】新築する家。家屋を建築中の家。˺アチャー (˹アー˺ヤー)　˹ヤースクリ˺ヤー　˹テー˺ナイ　˹シン　オーッ˺タ [˺ʔatʃaː(˹ʔaː˺jaː)˹jaːsu̥kuri˺jaː ˹teː˺nai ˹ʃiŋ ʔoːt˺ta](お父さんは、新築する家の手伝いに行かれた)。

˹ヤー˺スクン [˹jaː˺su̥kuŋ] 【自動】動物が飼い主の家に住み慣れる。家に居つく。˹イン˺マー　シゥ˹カ˺ナウカー　シ˹グ　ヤーシゥクン˺ドゥ　˺マヤー　˹ヤーシゥカ˺ヌ [˹ʔim˺maː si̥˹ka˺nauka: ʃi˹gu jaːsi̥kun˺du ˺maja: ˹jaːsi̥ka˺nu](犬は飼うと家に居つくが、猫は居つかない)。˹ヤーシキ˺　パヤーン [˹jaːʃi̥ki˺ pa-jaːŋ](家に居つき早い)。マ˹ヤ˺ヌ　˹ヤー˺スク　˺クトー　˹ナー˺ヌ [ma˹ja˺nu ˹jaː˺si̥ku ˺kutoː ˹naː˺nu](猫が家に居つくことはない)。

˹ヤータ˺シ [˹jaːta˺ʃi] 【副】やがて。間もなく。過去のある時点を基準にして、それから「間もなく、やがて、しばらくして」の短時間内に起きることを表現する。従って「ヤータシ」を受ける文末表現は過去形である。ヤ˹ガティ [ja˹gati](やがて) は現在の時点を基準にして未来の短い時間の「やがて」を表す。˹ワー˺　パ˹タ˺ケー　˺パリティ　˹ヤータ˺シ　ッ˹ふァー˺　ウキティ　ナ˹キ　ベー˺タ [˹waː˺ pḁ˹ta˺keː ˺pariti ˹jaːta˺ʃi f˹faː˺ ʔukiti na˹ki beː˺ta](君が畑へ行って間もなく子供が起きて泣いていたよ)。

˹ヤー˺タティ [˹jaː˺tati] 【名】一家を構えさせること。所帯を持たせること。「家建て」の義。トゥ˹シ˺グル　ナ˹ル˺ター　˹ウシトゥン˺ケーン　˹ヤー˺タティ　シ˹ミ˺　パ˹ラシ˺ター [tu̥˹ʃi˺guru na˹ru˺taː ˹ʔuʃi̥tuŋ˺keːŋ ˹jaː˺tati ʃi˹mi˺ pa˹raʃi̥˺taː](年頃になったので弟達に所帯を持たせていかせた)。

˹ヤータン˺カー [˹jaːtaŋ˺kaː] 【名】家の真向かい。˹ウン˺ネートー　˹ヤータン˺カー　˺ナリ　˹ブー [˹ʔun˺neːto: ˹jaːtaŋ˺kaː ˺nari ˹buː](あの家とは家が向き合って < 真向かいになって > いる)。

˹ヤーチ [˹ja:tsi] 【名】八つ。八歳。˹ヤーチナー˺ トゥリバ [˹ja:ʧina:˺ turiba](八つずつ取れよ)。ム˹カ˺シェー ヤ˹ラ˺ベー ˹ヤーチ˺ ナルカー ˹ガッ˺コー ン˹ズ˺タン [mu˹ka˺ʃe: ja˹ra˺be: ˹ja:ʧi˺ naruka: ˹gak˺ko: ʔn˹ʤu˺taŋ](昔は、子供は八歳になると学校に入学した＜出た＞)。

˹ヤー˺チン [˹ja:˺ʧiŋ] 【名】家賃。標準語からの転訛。イ˹サナキ˺ナーヤ ˺シキシキヌ ˹ヤーチン˺バ パ˹ライ˺ヤーティル ˹ヤー˺ヤ カ˹リ ブー [ʔi˹sanaki˺ na:ja ˺ʃi̥kiʃi̥kinu ˹ja:ʧim˺ba pa˹rai˺ja:tiru ˹ja:˺ja ka˹ri bu:](石垣島では月々の家賃を払いつつ家を借りている)。

˹ヤーッ˺カラダキ [˹ja:k˺karadaki] 【名】頑丈な竹。歌謡語。˹ヤーッ˺カラダキバ キ˹チ˺バシー～[˹ja:k˺karadakiba ki̥˹ʧi˺baʃi:～](頑丈な竹を垂木にして～)。˹ヤーッ˺カラ [˹ja:k˺kara](頑健な。頑丈な) にタ˹キ [tḁ˹ki](竹) が下接して合成語を造る際に [t] → [d] の音韻変化が起きた (連濁現象) もの。「アーパーレー歌」。

˹ヤーックビ [˹ja:kkubi] 【名】(数) 着物八着。ユ˹ヌ キン˺ヌ ˹ヤーックビ˺ ア˹リ˺ブバ プ˹スッ˺クベー ˹ワン˺ ッ˹ふィーラ˺ナー [ju˹nu kin˺nu ˹ja:kkubi ˺ʔa˹ri˺buba pu̥˹suk˺kube: ˹waŋ˺ f˹fi:ra˺na:](同じ着物が八着あるから、一着は君にくれようね)。

˹ヤーッサー˺ク [˹ja:ssa:˺ku] 【名】家でする仕事。「家仕事」の義。˹ヤーッサーク˺ヌサーギ ˺アルカー ア˹ミ˺ヌ ˹ホー˺バン ア˹サブ˺ クトー ˹ナー˺ヌ [˹ja:ssa:ku˺nusa:gi ˺ʔaruka: ʔa˹mi˺nu ˹ho:˺baŋ ʔa˹sabu˺ ku̥to: ˹na:˺nu](家でする仕事＜家仕事＞がさえあれば雨が降っても遊ぶことはない)。

˹ヤー˺ッシ [˹ja:ʃ˺ʃi] 【名】草葺屋根の補修。古くなった屋根の茅や台風で剥(ハキ)ぎ取られた屋根の茅を臨時的に補修すること。一束ずつ茅の先端を折り曲げて根元を下にし、右手で屋根茅の下に差し込んで雨漏りを防ぐ。臨時的な補修であるので、茅の根元の重みを利用して風に吹き飛ばされない工夫をしたもの。

ヤー˹ディン [ja:˹diŋ] 【副】必ず。きっと。間違いなく。「否(イヤ)でも」の転訛したものか。˹ワンヌン˺ ヤー˹ディン˺ クー˹ダー [˹wannuŋ˺ ja:˹diŋ˺ ku:˹da:](君も必ず来いよ)。ヤー˹ディン˺ ˺ドゥーシ ˹シー [ja:˹din˺ du:ʃi ˹ʃi:](必ず自分でしなさい)。

˹ヤードー˺リ [˹ja:do:˺ri] 【名】絶家。「家倒れ」の義。相続人がいなくなること。イ˹クサ˺ユーナ ˺アトゥシギヌ ˹マーラシティ ヤードー˺リ ˹シーナー˺ヌ [ʔi˹kusa˺ju:na ˺ʔatuʃiginu ˹ma:raʃiti ja:do:˺ri ˹ʃi:na:˺nu](戦争で後継ぎが亡くなって、絶家になってしまった)。

˹ヤートゥナ˺ル [˹ja:tuna˺ru] 【名】隣の家。隣家。隣近所。「家隣」の転訛。˹ヤートゥナ˺ル ˺ナリ ˹ベー˺ティ ˹ヨイ˺ヌ ˺クトゥン ッサン˹コーラ˺シェー ブ˹ララヌ [˹ja:tuna˺ru ˺nari ˹be:˺ti ˹joi˺nu ˺kutun ssaŋ˹ko:ra˺ʃe: bu˹raranu](隣近所になっていて、お祝いのことも黙って＜知らん振りで＞はおられないよ)。

˹ヤー˺ドゥル [˹ja:˺duru] 【名】鶏。「家鳥」の義。「～雉はおよむ家鳥＜イヘツトリ＞～。万、3310」の転訛したもの。転じて家の中に引き籠もっている子供。ナー˹イ ヤー˺ドゥル ˺ナリ ブ˹ラーンドー˺シ ˹ヤー˺ヌ ˺フカーン ˺ンジ ドゥ˹シンケー˺トゥン ア˹サビ˺バ [na:˹i ja:˺duru ˺nari bu˹ra:ndo: ˺ʃi ˹ja:˺nu ˺ɸu̥ka:n ˺nʤi du˹ʃiŋke:˺tuŋ ʔa˹sabi˺ba](ただじっと家の中に引き籠もって＜家鳥になって＞いないで、家の外にも出て友達とも遊びなさいよ)。

˹ヤー˺ナー [˹ja:˺na:] 【名】童名。伝統的な命名法に基づいて付けられた名前。ヤ˹ラビ˺ナー [ja˹rabi˺na:](童名) シ˹マ˺ナー [ʃi˹ma˺na:](童名。島名) ともいう。˹ガッコー˺ナー [˹gakko:˺na:](学校で呼ばれる戸籍上の名) に対立する名前。長男は祖父の名を付け、長女は祖母の名を付ける。次男は母方の祖父の名を、二女は母方の祖母の名を付けるのが習慣であった。˹ワー ヤーナー˺ヤ ˺ヌーティ ア˹ル˺ワ [˹wa: ja:na:˺ja ˺nu:ti ʔa˹ru˺wa](君の童名＜家の名＞は何という＜ある＞か)。

˹ヤー˺ナライ [˹ja:˺narai] 【名】家庭内での習慣や躾。家庭教育。˺フカナライ [˺ɸu̥kanarai](外＜世間＞の習慣や躾) の対義語。˹ヤーナライ˺ル ˺フカナライティ ˺アル ヤ˹ナナラーシ˺ ス˹ナ [˹ja:narai˺ru ˺ɸu̥kanaraiti ˺ʔaru ja˹nanara:ʃi˺ su˹na](「家庭内での習慣が世間に出ても現れる＜外での習慣となる＞ものだ」といわれている。悪い習慣をつけさせるな＜家庭教育を厳しくせよ＞)。

˹ヤーニン˺ズ [˹ja:nin˺ʤu] 【名】家族。「家人数」の義。「Niu. ニンジュ (人数)Fitocazu.(人かず) 人々の数、」『邦訳日葡辞書』の転訛したものが、上接語の˹ヤー [˹ja:](家) に付いて形成された合成語。˹ヤーニンズ˺ヌ ˺ドゥパダニンガイ ˹シー˺ ッ˹ふォー˺リ [˹ja:ninʤu˺nu ˺du:padaniŋgai ˹ʃi:˺ f˹fo:˺ri](家族の健康祈願をしてください)。

⌜**ヤー⌝ヌ　カ⌜キ [⌜ja:⌝nu kḁ⌜ki]** 【連】家の垣根。新しく家を構えた人などが屋敷の囲いとして竹垣や木の柵で囲いを作ったもの。板垣で囲う人もいたが、古い家は総て石垣で屋敷を囲ってある。⌜ヤー⌝ヌ　カ⌜ケー⌝　イツァシ　ス⌜ク⌝リ　⌝シケー [⌜ja:⌝nu kḁ⌜ke:⌝ ʔitsaʃi sṳ⌜ku⌝ri ⌝ʃi̥ke:](家の垣根は板で造ってあるよ)。

⌜**ヤー⌝ヌ　カ⌜ク [⌜ja:⌝nu kḁ⌜ku]** 【連】屋敷。「家の囲い」の義。⌜ンーナカク [⌜ʔn:nakaku](空屋敷。人家のない屋敷。⌜ンーナヤシキ [⌜ʔn:najaʃiki]< 空屋敷 >ともいう)。⌝シンタヌ　⌜ヤー⌝ヌ　カ⌜ク⌝ナー　⌝バサ　イ⌜ビ⌝バ [⌝ʃintanu ⌜ja:⌝nu kḁ⌜ku⌝na: ⌝basa ʔi⌜bi⌝ba](家の後ろの屋敷に芭蕉を植えなさいよ)。⌜ヤー⌝ヌ　カ⌜ク⌝ナ　ヤ⌜ラブ⌝　イ⌜ブムノー⌝　ア⌜ラ⌝ヌ [⌜ja:⌝nu kḁ⌜ku⌝na ja⌜rabu⌝ ʔi⌜bumuno:⌝ ʔa⌜ra⌝nu](屋敷内にヤラブ < てりはぼく > を植えるものではない)。

⌜**ヤー⌝ヌシ [⌜ja:⌝nuʃi]** 【名】家主。ク⌜ヌ　ヤー⌝ヌ　⌜ヤー⌝ヌシェー　⌜ター⌝　ヤ⌜ロール⌝ワ [ku⌜nu ja:⌝nu ⌜ja:⌝nuʃe: ⌜ta:⌝ ja⌜ro:ru⌝wa](この家の家主はどなたでいらっしゃいますか)。

⌜**ヤー⌝ヌ　⌝ゾー [⌜ja:⌝nu ⌝dʑo:]** 【連】家の前の道。⌜バン⌝テヌ　⌜ヤー⌝ヌ　⌝ゾーヤ　ヤ⌜ラ⌝ビンケーヌ　ア⌜サビントン　ヤッタト ダー [⌜ban⌝tenu ⌜ja:⌝nu ⌝dʑo:ja ja⌜ra⌝biŋke:nu ʔa⌜sabintoɲ jatta˫da:](我が家の前の道は子供たちの遊び場だったよ)。

⌜**ヤー⌝ヌ　⌝ッシスクライ [⌜ja:⌝nu ⌝ʃʃisṳkurai]** 【連】草葺き屋根の補修。屋根の茅の減った所や、台風で剥ぎ取られた部分の茅を補充して雨漏りを防ぐ作業。⌜ヤー⌝ヌ　⌝ッシスクライ　⌜サン⌝カー　ナ⌜ラン⌝ベーティ　ガ⌜ヤー⌝　スリン　⌜パッ⌝タヤー [⌜ja:⌝nu ⌝ʃʃi:sṳkurai ⌜saŋ⌝ka: na⌜ram⌝be:ti ga⌜ja:⌝ surim ⌜pat⌝taja:](草葺き屋根の臨時的補修をしなければならないので、茅を刈りにいったよ)。

⌜**ヤー⌝ヌ　⌜ナー [⌜ja:⌝nu ⌜na:]** 【連】**1**家の名。屋号。カ⌜ザケーヌ　ヤー⌝ヌ　⌜ナーヤ⌝　ウ⌜ブバ⌝カヤーティル　⌜アッ⌝タツォー [ka⌜dʑake:nu ja:⌝nu ⌜na:ja⌝ ʔu⌜buba⌝kaja:tiru ⌜ʔat⌝tatso:](加治工家の屋号は「大若家」とあったそうだ)。ナ⌜カン⌝テーヌ　⌜ヤー⌝ヌ　⌜ナーヤ⌝　フ⌜シ⌝マヤーティル　アル⌜ダー [na⌜kan⌝te:nu ⌜ja:⌝nu ⌜na:ja⌝ ɸṳ⌜ʃi⌝maja:tiru ʔaru⌜da:](仲本家の屋号は⌜黒島家」とあるよ)。**2**童名。⌜ガッコー⌝ナー [⌜gakko:⌝na:](学校の名前。戸籍上の名前) に対する、伝統的命名法に基づいて家庭で呼び習わされている名前。⌜ガッコー⌝ヌ　⌜ナーヤ　シンイチヤー⌝ヌ　⌜ナーヤ⌝　ス⌜ク⌝レーティル　アル⌜ダー [⌜gakko:⌝nu ⌜na:ja ʃinʔitʃi ⌜ja:⌝nu ⌜na:ja⌝ sṳ⌜ku⌝re:tiru ʔaru⌜da:](学校の名前は真市、童名は津久利とがあるよ)。

⌜**ヤー⌝ヌ　⌝バン [⌜ja:⌝nu ⌝baŋ]** 【連】留守番。「家の番」の義。ヤ⌜ラビ⌝ヌメー　⌜タンガ⌝シ　⌜ヤー⌝ヌ　⌝バン　シ⌜ミティ⌝　ウヤ　フ⌜ターロー　ターシグ⌝トゥ　⌜シン　パイ⌝ター　⌜オー⌝リ　⌜ナー⌝ヌ [ja⌜rabi⌝nume: ⌜taŋga⌝ʃi ⌜ja:⌝nu ⌝baŋ ʃi⌜miti⌝ ʔuja ɸṳ⌜ta:ro: ta:ʃigu⌝tu ⌜ʃiŋ pai⌝ta: ⌜ʔo:⌝ri ⌜na:⌝nu](子供たちだけで留守番 < 家の番 > をさせて、親二人は田仕事をしに南端 < 西表島 > へ行かれてしまった)。

⌜**ヤー⌝ヌ　ピ⌜サ [⌜ja:⌝nu pi̥⌜sa]** 【連】屋根。屋根の斜面。「家の平」の義。「平」は「泉津平坂、此れをば余母都比羅佐可 (よもつひらさか) といふ」『日本書紀　神代上』の「比羅」から転訛したもの。[pira] → [pisa] → [ɸi̥sa] → [ssa] と音韻変化を起こす音韻法則の中間形態。⌜ユーピサヤー [⌜ju:pisaja:](四つ平家。寄棟の家)。フ⌜タピサヤー [ɸṳ⌜tapisaja:](二平家。切妻屋根) などという。⌝マンタヌ　ピ⌜サ [⌝mantanu pi̥⌜sa](前の屋根 < 平 >)、⌝シンタヌ　ピ⌜サ [⌝ʃintanu pi̥⌜sa](後ろの屋根 < 平 >)、⌜アンタヌ⌝　ピ⌜サ [⌜ʔantanu⌝ pi̥⌜sa](東の屋根 < 平 >)、⌜インタヌ⌝　ピ⌜サ [⌜ʔintanu⌝ pi̥⌜sa](西の屋根 < 平 >)。⌜タイフー⌝ヌ　スー⌝ワンダ　⌜ヤー⌝ヌ　ピ⌜サー⌝　ピ⌜コーピコー⌝シ　ス⌜クラ⌝リ　⌜ブー [⌜taiɸu:⌝nu ⌜su:⌝wanda: ⌜ja:⌝nu pi̥⌜sa:⌝ pi̥⌜ko:piko:⌝ʃi sṳ⌜kura⌝ri ⌜bu:](台風が強いから屋根 < 家の平 > は低く造られている)。

⌜**ヤーバカ⌝リ [⌜ja:baka⌝ri]** 【名】分家。「家別れ」の義。本家から次男、三男などが分家して自立すること。ジ⌜ナン　サンナン⌝マー　⌝ニービキ　⌜スー⌝カー　イ⌜チンバー⌝キン　⌜ヤー⌝ナ　シ⌜キララン⌝ダ　⌜パー⌝ク　⌜ヤーバカ⌝リ　シ⌜ミリト ヨー [dʒi⌜nan sannam⌝ma: ⌝ni:biki ⌜su:⌝ka: ʔi⌜tʃimba:⌝kiɲ ⌜ja:⌝na: ʃi̥⌜kiraran⌝da ⌜pa:⌝ku ⌜ja:baka⌝ri ʃi⌜miri˫jo:](次男三男は結婚したら、いつまでも家に置けないから、早く分家させなさいよ)。

⌜**ヤー⌝バリ [⌜ja:⌝bari]** 【名】家の壁や建具(タテグ)類を壊して暴れること。「家割り」の義。ク⌜ヌ⌝　プ⌜ソー⌝　サ⌜キ⌝ヌムカー　⌜ヤー⌝バリ　⌜スー⌝　フ⌜シヌドゥ⌝　アル⌜ツォー [ku⌜nu⌝ pṳ⌜so:⌝ sḁ⌜ki⌝ numuka: ⌜ja:⌝bari ⌜su:⌝ ɸṳ⌜ʃinudu⌝ ʔaru⌜tso:](この人は酒を飲むと家の壁や家具類を壊し割る癖があるんだよ)。

⌜**ヤー⌝バン [⌜ja:⌝baŋ]** 【名】留守番。家の番。「家番」の

義。マ˹ナ˺マー　˹タール　ヤー˺バン　˹シー　ベー˺ワ [ma˹na˺ma: ˹ta:ru ja:˺baŋ ˹ʃi: be:˺wa](今は誰が留守番＜家番＞をしているのか)。

˹ヤー˺パン [˹ja:˺paŋ] 【名】家のしるし。家の印。「家判」の義。家具類、農具類に付けた家の印。牛の耳を切って所属する家を示した印。ウ˹シェー　ミン˺バ　˺キシティ　˹ヤー˺パン　˺シキ　˹ドングペン˺ゴー　˹ユイ˺ナー　カ˹タ˺ナシ　キ˹ジティ　ヤー˺パン　ス˹コーッ˺タ [ʔu˹ʃe: mim˺ba ˺kiʃiti ˹ja:pa˺ŋ ˺ʃiki ˹doŋgupeŋ˺go: ˹jui˺na: ka˹ta˺naʃi ki˹ʤiti ja:˺paŋ su˹ko:t˺ta](牛は耳を切って家判を付け、道具類は柄に包丁＜刀＞で削って家判を付けられた)。

˹ヤーバンニンガイ [˹ja:banniŋgai] 【名】「八番願い」の義。豊年祭の当日の朝の 10 時頃、友利御嶽でプールムチを供えて執り行われる祈願。˹プール˺ヌ　˺トーピンヌ　シ˹トゥム˺ティ　˹ウイヌ˺ウガンナーティ　˹プール˺ムチ　シ˹キティ　ヤーバンニンガイ　ニン˺ガイ　˹ヨー˺ルン [˹pu:ru˺nu ˺to:pinnu ʃi˹tumu˺ti ˹ʔuinu˺ʔuganna:ti ˹pu:ru˺mutʃi ʃi˹kiti ja:banniŋgai niŋ˺gai ˹jo:˺ruŋ](豊年祭の朝、友利御嶽で豊年祭の餅を供えてヤーバンニガイ＜八番祈願＞を祈願される)。

˹ヤー˺フキ [˹ja:˺ɸuki] 【名】家葺き。茅葺の屋根を葺くこと。瓦葺の家には、˹カー˺ラ　˹ヌースン [˹ka: ˺ra ˹nu:suŋ](瓦を載せる) という。˹ヤーフキ˺ヌ　˺ピンマー　˹ガースリ˺プスン　タ˹ナマン˺カー　ナ˹ラヌ˺ヌ　˹ヌー˺スワ [˹ja:ɸuki˺nu ˺pimma: ˹ga:suri ˺pusun ta˹namaŋ˺ka: na˹ranu˺nu ˹nu:˺suwa](茅葺の屋根葺きの日には、茅を刈る人も頼まなければならないが、どうしようか)。

˹ヤーフキ˺ジナ [˹ja:ɸuki˺ʤina] 【名】屋根葺き用の藁縄 (綱)。直径約 1,5 センチの太い藁縄。屋根葺き用にに太めに強く綯った藁縄 (綱)。˺アチャーバ˹ラフ˺タシ　˹ヤーフキ˺ジナ　˺ヌイ　ス˹コー˺レーン [˺ʔatʃa: ba˹raɸu˺taʃi ˹ja:ɸuki˺ʤina ˺nui su˹ko:˺re:ŋ](お父さんは、稲藁で家葺き綱を綯っておかれている)。

˹ヤーフキ˺パル [˹ja:ɸuki˺paru] 【名】茅葺の屋根葺き用の竹矛＜竹槍＞。˹ヤーシキ˺パル [˹ja:ʃiki˺paru](「家突き針」の義)、˺パル [˺paru](針) ともいう。直径約 3 センチ、長さ約 4 メートルの竹竿の先端を鋭角に切り、切り口に穴を開けて、シ˹ミ˺ナー [ʃi ˹mi˺na:](屋根葺きの締め縄) が通せるようにした竹製の矛。パ˹ルシキ˺プソー　ナ˹カー˺ラ　˹ヤーフキ˺パル　シ˹キンザシ˺バ　フ˹キプソー　ウン˺ナ　シ˹ミ˺ナー　ヌ˹キティ　アイ˺ジ　˹スー˺カー　˹クン˺ドー　˺パロー　ウ˹チンター˺　ピ˹キヌイティ˺　タ˹ル˺キナ　ダ˹カシティ˺　シ˹キンザシタ˺ル [pa˹ruʃiki˺pusoː na˹ka:˺ra ˹ja:ɸuki˺paru ʃi˹kiʔnʤaʃi˺ba ɸu˹kipusoː ʔun˺na ʃi˹mi˺na: nu˹kiti ʔai˺ʤi ˹su:˺ka: ˹kun˺do: ˺paro: ʔu˹ʧinta:˺ pi˹kinuiti˺ ta˹ru˺kina da˹kaʃiti˺ ʃi˹kiʔnʤaʃita˺ru](屋根葺きの竹矛＜竹槍＞使いが家の中から家葺き針を突き出せば、屋根葺きはそれに締め縄を貫きさして合図をすると、今度は針を内側へ引き抜き、垂木に縄を抱かせて上へ突き出したものだ)。

˹ヤーフキ˺プス [˹ja:ɸuki˺pusu] 【名】屋根葺き。屋根葺き担当の人。「家葺き人」の義。昭和 30 年頃まで、鳩間島の大人は誰でも茅葺屋根を葺くことはできた。新築の際は部落民総出で屋根葺きをした。いわゆる˹ヤースクリ˺バコー [˹ja:suuri˺bako:](家造り共同作業) であったから、力のある青年、壮年の男子が進んでその任に当たった。長老たちは地上から屋根葺きの模様を眺めて細かな助言を与えつつ、作業を進行させた。茅の束を屋根まで投げ上げる作業も腕力のある若い人が分担した。屋根の下には、˺パル　シ˹キプス [˺paru ʃi˹kipusu](長い竹製の屋根葺き用の矛＜針＞を突く人) がいて、屋根の上の屋根葺き人と声を掛け合いながら竹矛を上へ突き出して屋根葺き綱を矛に通してもらい、それを内側へ引き込んで垂木を跨(マタ)げて再び屋根の上に突きだして屋根葺き人に引き締めてもらい、屋根葺き作業を進めたものである。˹ヤーフキプス˺トゥ　˺パル　シ˹キプソー　クイ˺バ　˺カケーティル　˹ヤー˺ヤ　˹フコーッ˺タ [˹ja:ɸukipusu˺tu ˺paru ʃi˹kipusoː kui˺ba ˺kake:tiru ˹ja:˺ja ɸu˹ko:t˺ta](屋根葺きと矛を突き刺す人は声を掛けあいながら屋根を葺かれたものだ)。

˹ヤー˺フジ [˹ja:˺ɸuʤi] 【名】閉門。家の戸を閉め立てること。謹慎のため、厳格に戸締りをすること。˺クマー　˹ヤー˺フジ　サ˹リ　ベー [˺kuma: ˹ja:˺ɸuʤi sa˹ri be:](ここは厳格に家の戸が締めたてられ＜閉門され＞ている)。

˹ヤーフジ˺ル [˹ja:ɸuʤi˺ru] 【名】家捜し。家の中を探し回ること。「家・抉(クジ)り」の転訛したもの。˹ジン˺バカ˹ザミフカ˺シティ　ウ˹リ˺　トゥ˹ミ˺ルンティ　˹ヤーフジ˺ル　˹シー　ベー [˹ʤim˺ba ka˹ʤamiɸuka ˺ʃiti ʔu˹ri˺ tu˹mi˺runti ˹ja:ɸuʤi˺ru ˹ʃi: be:](お金を隠しすぎて＜放下して＞、それを捜そうとして家捜し＜家抉(クジリ)＞している)。

˞ヤーポー˜キ **[˞jaːpoː˜ki]** 【名】座敷箒。室内箒。「家箒」の義。ウ˞チポーキ [ʔu˞ʧipoːki](内箒) ともいう。ミ˞ナカポー˜キ [mi˞nakapoː˜ki](庭箒) の対義語。わらしべ (藁稭) で作った箒。バ˞ラフタ˜ヌ ˜シン ˜ヌイティ ˞ヤーポー˜キ ス˞クル˜タ [ba˞raɸu̥ta˜nu ˜ʃiŋ ˜nuiti ˞jaːpoː˜ki su̥˞kuru˜ta](藁しべ < 藁の芯 > を抜いて座敷箒を作った)。

˞ヤー˜マ **[˞jaː˜ma]** 【名】小屋。小さな家。トゥ˞ルンヤー˜マ [tu˞ruɲ jaː˜ma](鶏小屋)。ピ˞ビザンヤー˜マ [pi˞biʤaɲ jaː˜ma](山羊小屋)。ウ˞シンヤー˜マ [ʔu˞ʃiɲ jaː˜ma](牛小屋)。˜アブジェー パ˞タキ˜ヌ ˜アザナー ˞ヤー˜マ ス˞ク˜リティ ˜ウナール ˞ユー˜クイ ˞ヨーッ˜タ [˜ʔabuʤeː pḁ˞taki˜nu ˜ʔaʤanaː ˞jaː˜ma su̥˞ku˜riti ˜ʔunaːru ˞juː˜kui ˞joːt˜ta](お祖父さんは畑の畦に小屋を作って、そこで憩(イコ)われた。「息、休、憩、活、慰、イコフ」『類聚名義抄』の転訛か)。

˞ヤーマー˜ル **[˞jaːmaː˜ru]** 【名】他人の家を歩き回って遊ぶこと。「家回り」の義。各戸を訪問すること。ナー˞イ ヤーマー˜ル ˞タン˜ガー ˞サンドー˜シ ˞ダンダン˜シ シ˞グトゥ シー [naː˞ji jaːmaː˜ru ˞taŋ˜gaː ˞sandoː˜ʃi ˞dandaŋ˜ʃi ʃi˞gutu ʃiː](ただ他人の家回りだけして遊ばないで <〜家回りだけしないで >、さっさと仕事をしなさい)。

˞ヤーマー˜レー **[˞jaːmaː˜reː]** 【名】他人の家を歩き回る人。自分の家に落ち着かず、いつも他人の家ばかり回り歩く者。ウ˞レー ヤーマー˜レー ˜ナリティ ˞ピッ˜チン ˞ヤー˜ナー カ˞カラ˜ヌ [ʔu˞reː jaːmaː˜reː ˜nariti ˞pit˜ʧiɲ ˞jaː˜naː kḁ˞kara˜nu](彼 < それ > はいつも他人の家を歩き回る人になってしまって、ちっとも家にいない < かからない >)。

˞ヤーマイ˜フナー **[˞jaːmai˜ɸunaː]** 【名】家のことをよくやる律義者。正直でよく働く者。従順で親の教えを守り、よく働く者。˜フカマイフナー [˜ɸu̥ka-maiɸunaː](世間で律儀(リチギ)に働く者で、家庭内ではずぼらなひと。外での働き者で、家庭では不精な人) の対義語。ク˞ヌ˜ ッ˞ふァー ヤーマイ˜フナー ヤ˞ルンドゥ ガッ˜コーナーテー ˞ナン˜ゾー ア˞ラ˜ヌ [ku˞nu˜ ˞ffa: jaːmai˜ɸunaː ja˞rundu gak˜koːnaːteː ˞nan˜ʤoː ʔa˞ra˜nu](この子は家庭では律義者で働き者だが、学校ではあまり < 成績が > 良くない)。

˞ヤーマカル **[˞jaːmakakaru]** 【名】1大食漢。大食い。「八碗」の義。お碗の八杯食う人の義。ア˞ブバタ [ʔa˞bubata](大食い。「穴腹」の義) と同じ。ウ˞レー ヤーマカル˜ ヤ˞ルンダ˜ ギュー˞サ˜ ッ˞ふァーサバン˜ イッ˞カ トーティ˜ ア˞ザヌ [ʔu˞reː jaːmakaru˜ ja˞runda˜ gjuː˞sa˜ ˞ffaːsabaŋ˜ ʔik˞ka toːti˜ ʔa˞ʤanu](彼 < それ > は大食漢だから、いくら食べさせても、いっこうに十分ですとはいわない)。2八杯。八碗。˞ヤーマカル˜ ッ˞ふァイシェー˜ プ˞ソー˜ ブ˞ラーヌ [˞jaːmakaru˜ ˞ffaiʃeː˜ pu̥˞soː˜ bu˞raːnu](お碗の八杯も食べきれる < 食べ得る > 人はいない)。

˞ヤームシ **[˞jaːmuʃi]** 【名】(数) 八回。八度。˜プスイシ ˞ヤームシナー˜ プ˞スヌ テー˜ナイ ˞シンゲー˜タン [˜pu̥suiʃi ˞jaːmuʃinaː˜ pu̥˞sunu teː˜nai ˞ʃiŋ geː˜taŋ](一日に八回も他人の手伝いに行った < ことがある >)。

˞ヤームチ˜ナリ **[˞jaːmuʧi˜nari]** 【名】引越し。転居。「家移り」の義。ク˞トゥシズー˜ナー ˞ヤームチ˜ナリ ˞サン˜カー ナ˞ラ˜ヌ [ku̥˞tuʃiʤuː˜naː ˞jaːmuʧi˜nari ˞saŋ˜kaː na˞ra˜nu](今年中に引越し < 転居 > しないとならない)。

˞ヤー˜ムティ **[˞jaː˜muti]** 【名】1所帯をもつこと。結婚すること。ッ˞ふァンケー˜ヤ ムー˞ル ヤー˜ムティ キ˞ナイムティ シー˜ パレーン [˞ffaŋkeː ˜ja muː˞ru jaː˜muti ki˞naimuti ʃiː˜ pareːŋ](子供たちは皆所帯をもっていった)。2生計を立てること。家計をやりくりすること。ユ˞メー ヤームティ˜ヌ ˞ゾー˜ジ ヤ˞ルンダ ソーヤ ナー˜ヌ [ju˞meː jaːmuti˜nu ˞ʤoː˜ʤi ja˞runda soːja naː˜nu](嫁は家計のやりくりが上手だから心配はない)。

˞ヤームティ˜ジブン **[˞jaːmuti˜ʤibuŋ]** 【名】女性の婚期。「家持ち時分」の義。˞ヤームティ˜ジブン ナ˞リ˜ブンドゥ ア˞ティン˜クティン ˞ナーント ツォー。˞ヌー˜スーカヤー メー ˞ソー シー˜ ナ˞ラ˜ヌ [˞jaːmuti˜ʤibun na˞ri˜bundu ʔa˞tiŋ˜kutin ˞naːnˈtsoː。˞nuː˜ suːkaja: ˜meː ˞soː ʃiː˜ na˞ra˜nu](婚期になっているが、何の音沙汰 < 心当て > も無いんだよ。どうしようかなあ、もう。心配で堪らないよ)。

˞ヤームティドン˜グ **[˞jaːmutidoŋ˜gu]** 【名】所帯道具。一家を構えて生活するのに必要な道具類。˜ナビカマーラ マ˞カ˜ルドング ˞タン˜シン ˜ドーレール ˞ヤームティドン˜グ ˞ダー [˜nabikamaːra ma˞ka˜rudoŋgun ˜doreːru ˞jaːmutidoŋ˜gu ˞daː](鍋釜かナベカマら、まがり <鋺(ワン)> 道具、箪笥の類などが < ぞ > 所帯道具だよ < であるよ >)。

˞ヤームティマイ˜フナー **[˞jaːmutimai˜ɸunaː]** 【名】家庭を治めることの上手な人。家計の遣り繰り上手な女。ミ˞ドーン˜ッふァー ˞ヤームティマイフナー˜ル ˞カンユート ダー [mi˞doːŋ˜ffaː ˞jaːmutimaiɸunaː

˞ru ˞kaŋjuːꜜdaː](女の子は家計の遣り繰り上手が肝要だよ)。

˞ヤー˞ムトゥ [˞jaː˞mutu] 【名】本家。宗家。元祖を祭る家。「家元」の義。˞ヤームトゥ˞ヌ　サ˞カラバル˞　ユ˞ダパーン˞　サ˞カル [˞jaːmutu˞nu sḁ˞karabaru˞ ju˞dapaːn˞ sḁ˞karu](本家が栄えたらばこそ枝葉＜分家＞も栄える)。

˞ヤームトゥ [˞jaːmutu] 【名】1八本。˞マチキーヌ　˞ヤームトゥ˞　ムイ　˞ベー˞ン [˞matʃikiːnu ˞jaːmutu˞ mui ˞beː˞ŋ](松の木が八本生えている)。2箸などの八対。タ˞キパシ　ヤームトゥ˞　ス˞クルン [ta̠˞kipaʃi jaːmutu˞ su̥˞ku˞ruŋ](竹箸を八対作る)。

˞ヤー˞　ムトゥン [˞jaː˞ mutuŋ] 【連】所帯を持つ。結婚して分家する。ミ˞ドーン˞ッふァー　トゥ˞シ˞グル　˞ナルカー　˞ヤー˞　ムトゥンダー　マ˞ナ˞マーラ　ウ˞ヌ˞　ス˞コール　シー˞　シキバ [mi˞doːŋ˞ ffaː tu̥˞ʃi˞guru ˞naruka: ˞jaː˞ mutunda ma˞na˞maːra ʔu˞nu˞ su̥˞koːru ʃiː˞ ʃi̥kiba](女の子は年頃＜結婚適齢期＞になったら結婚して所帯を持つから、今からその準備をしておきなさいよ)。

˞ヤームン˞ドー [˞jaːmun˞doː] 【名】家庭内のいさかい (諍い)。親子喧嘩や兄弟げんか。内輪もめ。˞ウン˞ネーヤ　˞ザイサンヌ　˞クトゥシ　˞ヤームン˞ドー　ウ˞ク˞シ　˞ベー [˞ʔun˞neːja ˞ʤaisannu ˞ku̥tuʃi ˞jaːmun˞doː ʔu˞ku˞ʃi ˞beː](あの家は財産のことで家庭内の諍いを起こしている)。

˞ヤーヤシ˞キ [˞jaːjaʃi̥˞ki] 【名】家屋敷。住むべき家と屋敷。˞ヤーヤシ˞キン　ア˞ラ˞シェーチバ　ノー˞ン　ソーヤ　ナー˞ヌ　˞パー˞ク　ユ˞ミ　サーリ˞クーバ [˞jaːjaʃi̥˞kiŋ ʔa˞raʃeːʧiba noː˞n soːja naː˞nu ˞paː˞ku ju˞mi saːri˞kuːba](家屋敷も持てた＜有らした＞から何の心配も無い。早く嫁を連れてこいよ)。

˞ヤーラーヨー [˞jaːraːjoː] 【名】節歌の名。弥勒節の最終連に「ヤーラーヨー」が歌われる。この連は曲想が一転してテンポが早くなる。この曲が流れると歌舞の終了を意味し、参加者は退場の準備をした。ミ˞ルク˞ウター　˞ヤーラーヨー　イ˞ゾー˞ルカー　˞ウビシ　シ˞マイト ダー　˞メー [mi˞ruku˞ʔutaː ˞jaːraːjoː ʔi˞ʤoː˞ruka: ˞ʔubiʃi ʃi˞maiꜜdaː meː](弥勒節は、ヤーラーヨーを歌われたら、それで宴は終わりだよ、もう)。

˞ヤー˞ラーン [˞jaː˞raːŋ] 【形】柔らかい。「和、ヤハシヌ」『類聚名義抄』、「抜、ヤハス」『類聚名義抄』の語幹「ヤハ」に接辞「ラ」が付いて、「海原の根夜波良＜ヤハラ＞小菅〜。万、3498」が形成され、更に「有り」が付いて転訛したもの。ク˞ヌ˞　ム˞チェー　ヤー˞ラーン [ku˞nu˞ mu˞ʧeː jaː˞raːŋ](この餅は柔らかい)。˞ナン˞ゾー　˞ヤーラーナー˞ヌ [˞nan˞ʤoː ˞jaːraːnaː˞nu](あまり柔らかくない)。˞ドゥク　˞ヤーラー˞ヌ　ッ˞ふァーラヌ [˞duku ˞jaːraː˞nu f˞faːranu](あまりにも柔らかくて食べられない)。˞シンダイ　ヤー˞ラー　˞ナリ　˞ケーン [˞ʃindai jaː˞raː˞nari ˞keːŋ](次第に柔らかくなってきた)。˞ヤー˞ラー　˞ムノー　シゥ˞カイヤッ˞サン [˞jaː˞raː ˞munoː si̥˞kaijas˞saŋ](柔らかいものは使いやすい)。˞マー˞ビン　˞ヤー˞ラーカー　ミサムヌ˞ナー [˞maː˞biɲ ˞jaː˞raːkaː misamunu˞naː](もっと柔らかければいいのになあ)。˞ヤー˞ラーリバル　シゥ˞カーリン　スー˞　ヌーヤ　ウ˞レー [˞jaː˞raːribaru si̥˞kaːrin suː˞ nuːja ʔu˞reː](柔らかければこそ使われもすれ＜使われもする＞、何だよ、これは)。2ひ弱である。病弱である。ウ˞レー˞　マ˞リットーラ˞　イッ˞ケナ　ヤー˞ラーン [ʔu˞reː˞ ma˞ritto:ra˞ ʔik˞kena jaː˞raːŋ](彼は生まれつき非常にひ弱である)。ウ˞レー　ヤーラマリ [ʔu˞reː jaːramari](彼は虚弱体質の人だ)。

˞ヤーラアミ [˞jaːraʔami] 【名】しとしとと降る雨。小止みなく降るこさめ (小雨)。「柔ら雨」の義。ウ˞ルズン˞ヌ　˞ヤーラアミナー˞ル　ス˞クリ˞ムノー　サ˞カル˞ツォー [ʔu˞ruʤun˞nu ˞jaːraʔaminaː˞ru su̥˞kuri˞muno: sḁ˞karu˞tsoː](晩春から初夏にかけてのしとしとと降る小雨に＜ぞ＞農作物は生い茂る＜盛る＞ものだそうだ)。

˞ヤーラカスン [˞jaːrakasuŋ] 【他動】1柔らかくする。ウ˞シヌ˞　ニコー　˞コー˞ンダ　˞マンズイ˞ヌ　˞ナル　イ˞リティ　ネーシ　ヤーラカスンティ　ベー˞ンドゥ　˞ヤーラカサラヌ [ʔu˞ʃinu˞ niko: ˞koː˞nda ˞manʤui˞nu ˞naru ʔi˞riti neːʃi jaːrakasunti beːn˞du ˞jaːrakasaranu](牛の肉は硬いのでパパイヤの実を入れて煮て柔らかくしようとするが、柔らかく出来ない)。ウ˞レー　ヤーラカシ　ヤッ˞サン [ʔu˞reː jaːrakaʃi jas˞saŋ](それは柔らかくしやすい)。˞ヤーラカス　ムノー　パー˞ク　˞ヤーラカシェー˞　ミサムヌ [˞jaːrakasu munoː paː˞ku ˞jaːrakaʃeː˞ misamunu](柔らかくするものは、早く柔らかくすればいいのに)。˞ヤーラカシ˞バ [˞jaːrakaʃi˞ba](柔らかくせよ)。2耕させる。土塊を打ち砕かせる。開墾させる。˞ター　˞ヤーラカスン [˞taː ˞jaːrakasuŋ](田圃を耕させる。開墾させる)。ア˞ラシムラシ　ヤーラカシ [ʔa˞raʃimuraʃi jaːrakaʃi](開墾した所の土塊を

打ち砕かせよ)。

˹ヤーラガンズー [˹ja:rangandʑu:] 【名】外見は弱々しいが、案外丈夫な人。「柔ら頑丈」の義。˹ヤーラガンズー˺ティ ˹シー˺ アボー ˹チョーミガフー˺ シ˹キ˺ル ˹オーッ˺タ [˹ja:rangandʑu:˺ti ˹ʃi:˺ ʔabo: ˹ʧo:migaɸu:˺ ʃi̥˹ki˺ru ˹ʔo:t˺ta](弱々しい者が却って丈夫だという訳で、お母さんは長寿の果報を受けておられた)。

˹ヤーラキルン [˹ja:rakiruŋ] 【他動】やわらげる。柔らかくする。叩いて柔らくする。耕して柔らかくする。「～鬼神の心をやわらげ～。『源氏物語 若菜 下』」の転訛したものか。˹ヤーラクンとも言う。カ˹ナパイ˺シ ア˹ラシコーシ ヤーラキルンティ ベーン˺ドゥ ˹ヤーラキララヌ [ka˹napai˺ ʃi ʔa˹raʃiko:ʃi ja:rakirunti be:n˺du ˹ja:rakiraranu](鍬で、開墾した畑の土塊を砕いて柔らかく耕そうとするが、細かに耕されない)。˺キューズーナ ˹ヤーラキル˺ クトー ナ˹ラ˺ヌ [˺kju:dʑu:na ˹ja:rakiru˺ ku̥to: na˹ra˺nu](今日中に細かく耕すことは出来ない)。

˹ヤーラクン [˹ja:rakuŋ] **(1)**【自動】柔らかくなる。ミ˹ジ˺ナ シ˹キ˺ スクカー ˹ヤーラクン˺カヤー [mi˹ʤi˺na: ʃi̥˹ki˺ su̥kuka: ˹ja:rakuŋ˺kaja:](水に浸けておくと柔らかくなるかなあ)。アー˹イ ヤーラカヌ [ʔa:˹ji ja:rakanu](いや、柔らかくならない)。ミ˹ジ˺ナ ス˹クター ヤーラキナー˺ヌ [mi˹ʤi˺na su̥˹sukuta: ja:rakina:˺nu](水に浸けたら柔らかくなって＜やわらいで＞しまった)。˺プスイシ ˹ヤーラク˺ クトー ˹ナー˺ヌ [˺pu̥suiʃi ˹ja:raku˺ ku̥to: ˹na:˺nu](一日で柔らかくなる＜やわらぐ＞ことはない)。˹パー˺ク ˹ヤーラケー˺ ミサムヌ [˹pa:˺ku ˹ja:rake:˺ misamunu](早く柔らかくなればいいのに)。 **(2)**【他動】1叩いて柔らかくする。やわらげる。2水田を耕す。打って捏ねる。˺ター ˹ヤーラクンティ シッ˺パイ ˹シーベー [˺ta: ˹ja:rakunti ʃip˺pai ˹ʃi:be:](水田を耕そうと一生懸命にやっている)。˺ター ˹ヤーラクンティ˺ ウ˹ムーン˺ドゥ ア˹ミ˺ヌ ˺フイ ˹ヤーラカラヌ [˺ta: ˹ja:rakunti˺ ʔu˹mu:n˺du ʔa˹mi˺nu ˺ɸui ˹ja:rakaranu](水田を粗打ち＜荒ごなし＞して耕そうと思うが、雨が降って耕されない)。3殴る。打ち据える。ウ˹ヤ˺ヌ ˺ムニ シゥ˹カンバ ヤーラキ˺ トゥ˹ラ˺シ [ʔu˹ja˺nu ˺muni si̥˹kamba ja:raki˺ tu˹ra˺ʃi](親の言うことを聞かないから打ち据えてくれ)。˺アイニ ˹ヤーラク˺ クトー ナ˹ラ˺ヌ [˺ʔaini ˹ja:raku˺ ku̥to: na˹ra˺nu](あのように打ち据えることはいけない)。˹マー˺ビン ˹ヤーラケー˺ ミサムヌ [˹ma:˺bin ˹ja:rake:˺ misamunu](もっと打ち据えればいいのに)。˹パー˺ク ˹ヤーラキ [˹pa:˺ku ˹ja:raki](早く打ち据えなさい)。

˹ヤーラビーラ [˹ja:rabi:ra:] 【名】病弱者。˺トゥシ トゥ˹ル˺ター ˹ヤーラビーラー˺ ナリティ ナー˹イ˺ ニ˹ビトゥーシル ブー˺ パ˹タラキ ユーサヌ [˺tu̥ʃi tu˹ru˺ta: ˹ja:rabi:ra:˺ nariti na:˹ji˺ ni˹bitu:ʃiru bu:˺ pḁ˹taraki ju:sanu](年を取ったので、ずっと病弱で寝てばかりいる。働くことが出来ない＜働けない＞)。

ヤー˹ラマ˺シ [ja:˹rama˺ʃi] 【副】そっと。やわらかに。おだやかに。ギッ˹ティ˺ カ˹サマンドー˺シ ヤー˹ラマ˺シ カ˹サミ˺バ [git˹ti˺ ka˹samando:˺ʃi ja:˹rama˺ʃi ka˹sami˺ba](ぎゅっと強く掴まないで、そっと、柔らかく掴みなさいよ)。

˹ヤーラムタイ [˹ja:ramutai] 【名】ゆっくりと持ち上がること。徐々に成長すること。アッ˹タムタイ [ʔat˹tamutai](急激に持ち上げること。急成長) の対義語。アッ˹タスーリ [ʔat˹tasu:ri](急成長) の対義語。˹ヤーラムタイドゥ マームタイ˺ティ ア˹ズンダ アッ˺タニ ˹スーラン˺ドーシ ˹ヨーンナー スー˺リ ˺クー ˺ムヌル ˹ソームヌ [˹ja:ramutaidu ma:mutai˺ti ʔa˹ʤunda ʔat˺tani ˹su:ran˺do:ʃi ˹jo:nna: su:ri˺ ku: ˺munuru ˹so:munu](ゆっくり成長する＜持ち上げる＞のが本当の成長＜諺＞というから、急激に成長しないで、ゆっくり成長してくるものが本物だよ)。

˹ヤーラムヌ [˹ja:ramunu] 【名】1柔らかい物。柔らかい食べ物。˹コー˺ムノー ッ˹ふァイユーサンバ ヤーラムヌ˺ ス˹コーリ˺ ッ˹ふィーリ [˹ko:˺muno: f˹faiju:samba ja:ramunu˺ su̥˹ko:ri˺ f˹fi:ri](硬いものは食べることが出来ないから、柔らかい食べ物を作ってくれ)。2病弱者。ウ˹ブヤン˺ カ˹カ˺リティ ˹ウンヌ˺ アトーラー ˹ヤーラムヌ˺ ナリ シ˹グトー シーユーサンバン [ʔu˹bujaŋ˺ kḁ˹ka˺riti ˹ʔunnu˺ ʔato:ra: ˹ja:ramunu˺ nari ʃi˹guto: ʃi:ju:sanu](大病に罹って、その後からは病弱者になって、仕事は出来ない＜し得ない＞わい)。

ヤー˹ラヤーラー˺シ [ja:˹raja:ra:˺ʃi] 【副】柔らかく。柔らかに。優しく。「やわやわ (柔柔) と」の義。「～若やかにおほどかにて、やはやは＜柔柔＞とぞたをやぎたまへりし」『源氏物語 玉鬘』の転訛したものか。˹コー˺ムネー イ˹ザンドー˺シ ヤー˹ラヤ

ーラ˺シ　˺ムネー　イ˞ジ˺バ [˞koː˺muneː ʔi˞ʤando: ˺ʃi jaː˞rajaː˞ra˺ʃi ˺muneː ʔi˞ʤi˺ba](荒々しい物言い＜「磽、己波志　コハシ」『新選字鏡』・物言い＞をしないで優しく話しなさいよ)。

ヤー˞ラヤーラヌ [jaː˞rajaːranu] 【連体】柔らかな。軟らかい。ヤー˞ラヤーラヌ˺　ムヌ　イ˞ラ˺ビ　˺トゥリバ [jaː˞rajaːranu˺ munu ʔi˞ra˺bi ˺turiba](軟らかい物を選んで取りなさい)。

˞ヤーラヤン [˞jaːrajaŋ] 【名】だらだらと寝たり起きたりする病気。「柔ら病み」の義。ウ˞ブヤンマー˺　ア˞ラヌ˺ヌ　˞ヤーラヤンバ　シー˺ル　ナー˞イ˺　ニ˞ビッタリ˺＜ニ˞ビッタル˺＞　ウ˞キッ˺タリ＜ウ˞キッ˺タル＞　˞シー　ヨー˺ル [ʔu˞bujammaː ˺ ʔa˞ranu˺nu ˞jaːrajamba ʃiːru˺ naː˞ji˺ ni˞bittari˺＜ni ˞bittaru˺＞ ʔu˞kit˺tari＜ʔu˞kit˺taru＞ ˞ʃiːjoː˺ru](重病ではないが、だらだら病をして、ただ寝たり起きたりしておられる)。

˞ヤーングマ˺リ [˞jaːŋguma˺ri] 【名】家に閉じこもること。引きこもり。「やこもり (家籠)」の義。バ˞カー˺ムヌヌ　˺アイニ　˞ヤーングマ˺ル　˞サンドー˺シ　ドゥ˞シピライユン　シー˺バ [ba˞kaː˺mununu ˺ ʔaini ˞jaːŋguma˺ru ˞sandoː˺ʃi du˞ʃibiraijuŋ ʃiː˺ba](若者だのに、あんなに家に閉じこもら＜引き籠もら＞ないで友達付き合いもしなさいよ)。

ヤイッ˞クラサー [jaik˞kurasaː] 【感】えいこらさ。やっこらさ。重いものを力んで持ち上げる際に発することば。バ˞カー˺ムヌンケーヤ　ル˞クトゥダー˺ラン　ヤイッ˞クラサー˺ティ　ヤ˞グイバ˺　イ˞レー˺ティ　カ˞タ˺ミ　パ˞リ˺シタル [ba˞kaː˺mununŋkeːja ru˞kutudaː˺raŋ jaik˞kurasaː˺ti ja˞guiba˺ ʔi˞reː˺ti kạ˞ta ˺mi pa˞ri˺ʃitaru](若者たちは六斗俵も、えいこらさと掛け声をかけ＜入れ＞ながら担いで行ったものだよ)。

ヤイッ˞ティ [jait˞ti] 【副】えいっと。さっと。がばっと。グ˞タイ˺ヌ　˺カナイ　˞ブンダ˺　ノー˞ンシェー˺ル　˺ムヌン　ヤイッ˞ティ˺　カ˞タ˺ミ　パ˞リ˺ス [gu˞tai˺nu ˺kanai ˞bunda˺ noː˞ŋʃeː˺ru ˺munuŋ jait˞ti˺ kạ˞ta˺mi pa˞ri˺su](体力＜五体＞が強い＜叶っている＞から、どのような物でも、えいっと担いでいくよ)。

˞ヤイブー [˞jaibuː] 【名】舳先(へサキ)に張る小さな帆。やほ (弥帆)。ナ˞カ˺プー [na˞ka˺puː](中帆) ともいう。三本マストの帆船によってカツオ漁業が操業された頃の小型の帆。「やほ (弥帆)」の転訛したもの。˞プーシンヌ˺　パ˞ナイ˺ナー　タ˞ティ˺ル　˞プーバル　ヤイブー˺ティ　˞スート ダー＜ア˞ズト ダー＞[˞puːʃinnu˺ pa˞nai˺naː tạ˞ti˺ru ˞puːbaru jaibuː˺ti ˞suːト daː＜ʔa˞ʤuト daː＞](帆船の舳先に立てる帆をヤイブーというのだよ)。

˞ヤイマ [˞jaima] 【名】(地) 八重山。八重山群島。˞ヤイマプス [˞jaimapụsu](八重山の人)。˞ヤイマムニ [˞jaimamuni](八重山言葉)。˞ヤイマ˺ナー　イ˞サナキ˺　タ˞キ˺ドゥン　ク˞ル˺シマ　ク˞モーマ˺　イ˞ラムティ˺　パ˞トゥ˺マ　パ˞ティルマ˺　パ˞ナ˺リ　ユ˞ノン˺ドーレーヌ　シ˞マ˺ヌ　˺アン [˞jaima˺naː ʔi ˞sanaki˺ tạ˞ki˺duŋ ku˞ru˺ʃima ku˞moːma˺ ʔi˞ramuti˺ pạ˞tu˺ma pạ˞tiruma˺ pa˞na˺ri ju˞non˺doːreːnu ʃi˞ma˺ nu ˺ʔaŋ](八重山には石垣島、竹富島、黒島、小浜島、西表島、鳩間島、波照間島、新城島、与那国島などがある)。

˞ヤイマピジルー [˞jaimapiʤiruː] 【名】八重山人の渾名。「八重山人は薄情 (冷淡) だ」という意味で、沖縄本島の人々が八重山人を揶揄した表現。ウ˞キナー˺プソー　˞ヤイマピジルー˺ティ　バ˞ライヨール˺ヌ　˞ヤイマプスル˺　キ˞ムアツァート ダー [ʔu˞kinaː˺ pụso: ˞jaimapiʤiruː˺ti ʔa˞ʤoːru˺nu ˞jaimapụsuru˺ ki ˞muʔatsaːト daː](沖縄の人は、「八重山薄情」と笑われるが、八重山人の方が人情は篤い＜肝が篤い＞のだよ)。

˞ヤイマプス [˞jaimapusu] 【名】八重山の人。˞ヤイマプスヌ˺　ムネー　˞ナン˺ゾー　フ˞シェー　ナーン˺ティ　ア˞ザリ　ブー [˞jaimapụsunu˺ muneː ˞nan˺ ʤoː ɸụ˞ʃeː naːn˺ti ʔa˞ʤari buː](八重山の人の言葉＜物言い＞には、あまり訛り＜癖＞がないといわれている)。

˞ヤイマムニ [˞jaimamuni] 【名】八重山の言葉 (物言い)。八重山方言。˺ムニ [˺muni](ことば。物言い) は、「賢しみと物言従者＜モノイフヨリハ＞〜。万、341」の連用形「モノイヒ」が転訛したもの。˞ヤイマムネー˺　シマジマ　ム˞ラカージ　カウリス˺　イ˞サナキムネー˺　シマカージヌ　プ˞スン˺　シ˞キシェー˺ン [˞jaimamuneː˺ ʃimaʤima mu˞rakaːʤi kaurisunu˺ ʔi˞sanakimuneː˺ ʃimakaːʤinu pụ˞suŋ˺ ʃị˞ kiʃeː˺ŋ](八重山方言は島々、村ごとに変わるが、石垣方言は、島ごとの人が理解できる＜聞き得る＞)。

˞ヤイヤイ˺シ [˞jaijai˺ʃi] 【副】せっせと。さっさと。掛け声を掛けながら一生懸命に働くさま。バ˞カー˺ムンケーヤ　˞ヤイヤイ˺シ　キ˞モーッ˺サ　˞マイカリ　シー　ベー [ba˞kaː˺muŋkeːja ˞jaijai˺ʃi ki˞moːs˺

sa ˞maikari ʃiːbeː](若者たちはエイヤエイヤと掛け声を掛けながら、気持ちよさそうに一生懸命に稲刈りをしている)。

˞ヤイルパン [˞jairupaŋ] 【名】八尋半の帆。八尋半の帆を有する大型帆船 (櫂船)。

˞ヤイルプー [˞jairupuː] 【名】八尋帆。大型帆船 (櫂船) の八尋帆。˞ヤイルプーバ˜　ピ˞キル˜　ウ˞キナー˜タビ　˞ソーッ˜タツォー [˞jairupuːba˜ pi̥˞kiru˜ ʔu˞kinaː˜tabi ˞soːt˜tatsoː](八尋帆を掛けて沖縄航海の旅をされたそうだ)。

˜ヤカ [˜jaka] 【格助】～より。～よりか。歌謡語。˜ヨーカ [˜joːka](より。よりか) ともいう。沖縄本島方言の転訛した形。普通の話し言葉では、˜ラー [˜raː](より。から) という。/インダ　フクハマ　シタハナリ　フノーラジーヤカ　マシヌジー/(伊武田、福浜、下離、舟浦地やか＜より＞ましぬ地)。鳩間節八連。『宮良當壮全集　18』。

ヤ˞カ˜タ [ja˞ka˜ta] 【名】傍ら。そば (側)。わき (脇)。ウ˞ブヤー˜ヌ　ヤ˞カ˜タナ　˞トー˜ラ　ス˞ク˜リバ [ʔu˞bujaː˜nu ja˞ka˜tana ˞toː˜ra su̥˞ku˜riba](母屋の側に炊事小屋を作りなさいよ)。˞ドゥー˜ヌ　ヤ˞カタ˜ヌ　ヤム˞サー [˞duː˜nu ja˞kata˜nu jamu˞saː](体＜胴体＞の脇が痛むよ)。˞ワー˜　ヤ˞カ˜タナ　˞ベー˜　プ˞ソー　ター˜ヤ [˞waː˜ ja˞ka˜tana ˞beː˜ pu̥˞soː taː˜ja](君の傍らにいる人は誰か)。

ヤ˞カタ˜バタ [ja˞kata˜bata] 【名】わきばら (脇腹)。横腹。ミ˞ザーバタ [mi˞ʤaːbata](脇腹) ともいう。ウ˞シン˜　ヤ˞カタ˜バタ　キ˞ラ˜リティ　˜ヤミ　ナ˞ラ˜ヌ [ʔu˞ʃiŋ˜ ja˞kata˜bata ki˞ra˜riti ˜jami na˞ra˜nu](牛に脇腹を蹴られて痛くて堪らない)。

ヤ˞カタ˜ブニ [ja˞kata˜buni] 【名】人間の肋骨。あばらぼね。牛や豚など、家畜の肋骨に対しては、特に˞ソーキ˜ブニ [˞soːki˜buni](家畜の肋骨) という。˜キーラ　˜ウティティ　ヤ˞カタ˜ブニ　˜ブリ　シ˞ティナー˜ヌ [˜kiːra ˜ʔutiti ja˞kata˜buni ˜buri ʃi̥˞tinaː˜nu](木から落ちて肋骨を骨折して＜折って＞しまった)。ビ˞キドゥモー˜　ヤ˞カタ˜ブニ　プ˞スム˜トゥ　タ˞ラーン˜ティ　ア˞ザリブー [bi˞kidumoː˜ ja˞kata˜buni pu̥˞sumu˜tu ta˞raːn˜ti ʔa˞ʤaribuː](男は肋骨が一本足りない＜男は女性にだらしない＞といわれている)。

ヤ˞ガティ [ja˞gati] 【副】やがて。すぐさま。間もなく。現在の発話時点から未来にかけて時間的に短いことを表す。過去のある時点から未来に向けて、時間的に短いことを表す場合は、˞ヤーティ [˞jaːti](やがて) という。シ˞ナムノー˜　タ˞ナ˜ミ　˜シケーバ　ヤ˞ガティ˜　クーンパジ [ʃi˞namunoː˜ ta˞na˜mi ˜ʃi̥keːba ja˞gati˜ kuːm ˜paʤi](品物は頼んで＜注文して＞あるから、やがてクルでしょう＜来るはずだ＞)。

ヤ˞ガマ˜サン [ja˞gama˜saŋ] 【形】1やかましい (喧しい)。うるさい。カ˞サマ˜サン [kḁ˞sama˜saŋ](かしましい。騒々しい)、ン˞ガマ˜サン [ʔŋ˞gama˜saŋ](やかましい) ともいう。ヤ˞ラビ˜ヌ　ウ˞ヤー˜リ　˞アイッツァー˜シティ　ヤ˞ガマサ˜ヌ　ナ˞ラ˜ヌ [ja˞rabi˜nu ʔu˞jaː˜ri ˞ʔaittsaː˜ʃi̥ti ja˞gamasa˜nu na˞ra˜nu](子供が大声で喧嘩して、喧(ヤカマ)しくて堪(タマ)らない)。ヤ˞ラビ˜ヌ　ナ˞ク˜カー　ヤ˞ガマ˜サン [ja˞rabi˜nu na˞ku˜kaː ja˞gama˜saŋ](子供が泣くとうるさい)。マ˞ナ˜マー　ヤ˞ガマサ　ナー˜ヌ [ma˞na˜maː ja˞gamasa naː˜nu](今はうるさくない)。ヤ˞ガマ˜サー　ッ˞ふァー˜　ミ˞ナ˜カー　ン˞ザ˜シ [ja˞gama˜saː f˞faː˜ mi˞na˜kaː ʔn˞ʤa˜ʃi](うるさい子供は庭に出しなさい)。2気むずかしい。厳(キビ)しい。˜アイニ　ヤ˞ガマ˜サカー　˞マーズン˜　ブ˞ララヌ [˜ʔaini ja˞gama˜sakaː ˞maːʤum˜ bu˞raranu](あんなに気むずかしかったら一緒に居れない)。

ヤ˞カリン [ja˞kariŋ] 【自動】1受身 (焼かれる)。˜ドゥク　˞フンダイ　シーベー˜ティ　ヤ˞ブン˜　ヤツ　ヤ˞カリティ˜　ナ˞キベー [˜duku ˞ɸundai ʃiː beː˜ti ja˞buŋ˜ jatsu ja˞kariti˜ na˞kibeː](あまりにも我が儘＜勝手放題＞をしているので、藪医者にお灸を据えられ＜焼かれ＞て泣いている)。2可能 (焼ける。焼くことができる)。ヌ˞ブシヌ˜　ヤツォー　˞バン˜ヌン　ヤ˞カリン [nu˞buʃinu˜ jatsoː ˞ban˜nuŋ ja˞kariŋ](のぼせ＜逆上せ＞症に効くお灸は私にも据(ス)えられる＜焼かれる＞)。

˜ヤガンマテー [˜jagammateː] 【名】屋号。西原信一氏宅。「ヤガ姉さん宅」の義。˞インタパナシケーヌ　シー˜ネーナール　˜ヤガンマテーヤ　˞アッ˜タ [˞ʔintapanaʃi̥keːnu ʃiː˜neːnaːru ˜jagammateːja ˞ʔat˜ta](西の花城家の後ろ隣に＜ぞ＞西原信一氏宅はあった)。

ヤ˞キ [ja˞ki] 【名】熱病。マラリア。高熱を発し、体が激しく震える病気。「焼け」の義。イ˞クサ˜ユーナ　˞パイ˜タナー　ヒ˞ナンバ　シーベー˜ティ　ヤ˞キ˜　カ˞カ˜リ　˞マーラシェー˜　プ˞スン˜　ヤ˞マシゥ˜カ　˞オー˜ルン [ʔi˞kusa˜juːna ˞pai˜tana: çi˞namba ʃiː beː˜ti ja˞ki˜ kḁ˞ka˜riti ˞maːraʃeː˜ pu̥˞suŋ˜ ja˞masi̥˜ka ˞ʔoːru˜ŋ](戦争中に西表島＜南端＞に避難をしてい

て熱病＜マラリア＞に罹って亡くなられた人も多数おられる)。

ヤ˞キイシ [ja˞ki?iʃi] 【名】やきいし (焼石)。おんじゃく (温石)。焼いた石を芭蕉の葉で包み、さらに布で巻いて患部を温めたり、産後の女性の腹部や腰部を温めたりした。ヤ˞キイシバ˥ ッ˞スˬミティッ˞ふァナシプスˬヌ ˬバタ タ˞ディ ッふィーリˬバ [ja˞ki?iʃibaˬ s˞suˬmiti f˞fanaʃipu̥suˬnu ˬbata ta˞diffi:riˬba](焼き石を包んで、産婦のお腹を湿布して＜温めて＞やりなさいよ)。

ヤ˞キイン [ja˞ki?iŋ] 【名】焼印。鉄火箸を焼いて家具や農具類に印をつけたもの。ヤ˞キバン [ja˞kibaŋ](焼き判) ともいう。˞ドングペンˬグナー ムー˞ルˬ ヤ˞キインˬ シ˞キラˬリ ˞ベー [˞doŋgupeŋˬguna: mu:˞ruˬ ja˞ki?iŋˬ ʃi̥˞kiraˬri ˞be:](道具類には総て焼き印がつけられている)。

ヤ˞キクガスン [ja˞kikugasuŋ] 【他動】焼き焦がす。˞ピーˬヌ ˞スーˬワカー ヤ˞キクガスンダˬ ヤ˞キクガサンˬヨーニ ˬピー ピ˞キ [˞pi:ˬnu ˞su:ˬwaka: ja˞kikugasundaˬ ja˞kikugasaŋˬjo:ni ˬpi: pi̥˞ki](火が強いと焼き焦がすから、焼き焦がさないように火を弱くせ＜火を引け＞よ)。イ˞チンマーˬ ヤ˞キクガスˬ クトー ˞ナーヌˬヌ ˞クンˬドー ヤ˞キクガシ ナーˬヌ [?i˞tʃimma:ˬ ja˞kikugasuˬ ku̥to: ˞na:nuˬnu ˞kunˬdo: ja˞kikugaʃi na:ˬnu](いつもは焼き焦がすことはないが、今度は焼き焦がしてしまった)。˞マーˬビン ヤ˞キクガシェーˬ ミサムヌ [˞ma:ˬbiŋ ja˞kikugaʃeˬ misamunu](もっと焼き焦がせばいいのに)。˞パーˬク ヤ˞キクガシ [˞pa:ˬku ja˞kikugaʃi](早く焼き焦がせ)。

ヤ˞キクガラスン [ja˞kikugarasuŋ] 【他動】胸を焦がす。思い焦がす。思い悩ませる。˞タンガˬッふァ イ˞クˬサナ トゥ˞ラˬリティ ブ˞ネーヤˬ キ˞ムˬバ ヤ˞キクガラシル オーˬル [˞taŋgaˬffa ?i˞kuˬsana tu˞raˬriti bu˞ne:jaˬ ki˞muˬba ja˞kikugaraʃiru ?o:ˬru](一人息子を戦争で失って＜取られて＞、母親は胸＜肝＞を焦がしておられる)。ッ˞ふァヌˬ ブ˞ラーンˬ ナルカー ター˞ンˬ キモー ヤ˞キクガラスン。ˬキム ヤ˞キクガラサンˬ ウヤー ˞オーラˬヌ [f˞fanuˬ bu˞ra:nˬ naruka: ta:˞ŋˬ kimo: ja˞kikugarasuŋˬ。kimu ja˞kikugarasaŋˬ ?uja: ˞?o:raˬnu](子供が死ぬ＜いなくなる＞と誰でも胸を焦がすものだ。肝を焦がさない親は居られない)。

ヤ˞キジマ [ja˞kiʤima] 【名】マラリアの風土病がある島。かつて西表島や石垣島の北部一帯にマラリアが蔓延していた。ム˞カˬシェー ヤ˞キジマーˬ パルカー ヤ˞キˬ カ˞カリˬシタル [mu˞kaˬʃe: ja˞kiʤima:ˬ paruka: ja˞kiˬ kḁ˞kariˬʃi̥taru](昔は西表島や裏石垣へ行くとマラリアに罹患したものだ)。

ヤ˞キダマ [ja˞kidama] 【名】焼玉機関。一気筒の焼玉エンジンと二気筒の焼玉エンジンがあった。軽油を燃料とする漁船のエンジン。パ˞トゥˬマプソー ˞ショーワヌˬ パ˞ジミグルˬラ ヤ˞キダマバスイシキティˬ カ˞ツシン ソーッˬタツォー [pḁ˞tuˬmapu̥so: ʃo:wanuˬ pa˞ʤimiguruˬra ja˞kidamabasuiʃi̥kitiˬ kḁ˞tsuʃin so:tˬtatso:](鳩間島の人は昭和のはじめ頃から焼玉機関を据え付けてカツオ漁業を操業されたそうだ)。

ヤ˞キバイ [ja˞kibai] 【名】ススキの原野を焼き払って枯らしたススキ。これを刈り取って燃料に使用した。ススキの原野は焼き払っても、後から新芽が出てくる。焼畑開墾をする際、まずススキの原野を焼き払い、˞ユシˬキムトゥ [˞juʃi̥ˬkimutu](ススキの根株) を˞コーシティ [˞ko:ʃi̥ti](掘り起こして) からア˞ラシ [?a˞raʃi](新開地) を˞アコーッˬタ [?a˞ko:tˬta](開墾された＜開けられた＞)。ヤ˞キバイˬ スリクーバ [ja˞kibaiˬ suriku:ba](焼き払った原野のススキを刈り取ってきなさいよ)。

ヤ˞キパシ [ja˞kipasi] 【名】焼き箸。法事のウ˞ティンˬガビ [?u˞tiŋˬgabi](紙銭) を燃やす際に用いる、生のススキで作った箸。ヤ˞キパシˬシ パ˞サˬミティ ウ˞ティンˬガビ ヤ˞キˬ ア˞ギオーシ [ja˞kipaʃiˬʃi pḁ˞saˬmiti ?u˞tiŋˬgabi ja˞kiˬ ?a˞gi?o:ʃi](焼き箸で挟んで紙銭を焼いて差し上げなさい)。

ヤ˞キバル [ja˞kibaru] 【名】やきばり (焼鍼)。焼き針。焼針療法。ひばり (火針)。ヤ˞キパル [ja˞kiparu](焼き針) ともいう。腫れ物を潰(ツブ)す際に用いる灼熱(シャクネツ)した針。針の先を炎で焼いて消毒したもの。糸満からのヤ˞ブカティ [ja˞bukati](民間療法の経験) のある寄留漁民によってもたらされた民間療法。フ˞チヌ ナーˬン ア˞シˬボー ヤ˞キバルˬシ ˞ピッˬキ ˞アーシˬバ [ɸu̥˞tʃinu na:ˬŋ ?a˞ʃiˬbo: ja˞kibaruˬʃi ˞pikˬki ˞?a:ʃiˬba](口のない腫れ物は、焼き針で突いて潰(ツブ)しなさいよ)。

ヤ˞キバン [ja˞kibaŋ] 【名】焼き判。ヤ˞キイン [ja˞ki?iŋ](焼き印) ともいう。ク˞レー バンˬテヌ ヤ˞キバンˬ シ˞キラˬリ ˞ベーˬンダ ˞バンˬテヌ ˞ドングˬユン [ku˞re: banˬtenu ja˞kibaŋˬ ʃi̥˞kiraˬri ˞be:ˬnda ˞banˬtenu ˞doŋguˬjuŋ](これは、私の家の焼き判が付けられているから、私の家の道具だよ)。

ヤ˞キマース [ja˞kima:su] 【名】焼き塩。焼いた塩をピ˞ル [pi˞ru](大蒜) と混ぜて潰し、臍に被せて腹痛や下痢の薬としたり、それを傷口に添えて包み、破傷風の予防薬とした。民間療法の一つ。ヤ˞キマーストゥ˥ ピ˞ル シッ˥キティ キ˞ジフチ˥ナー ア˞ティティ˥ ッ˞ス˥ミ ˥スクカー キ˞ジェー ノー˥ルン [ja˞kima:sutu˥ pi˞ru ʃik˥kiti ki˞ʤiɸu̥tʃi˥na: ʔa˞titi˥ s˞su˥mi ˥su̥kuka: ki˞ʤe: no:˥ruŋ](焼き塩と大蒜を搗き潰して傷口に当てて包んでおくと傷は治るよ)。

ヤ˞キムチ [ja˞kimutʃi] 【名】焼餅。焼いた餅。˞プール ˥ムチ ヤ˞キティ˥ ヤ˞キムチ スー˥カー ン˞マー˥ン [˞pu:ru˥mutʃi ja˞kiti˥ ja˞kimutʃi su:˥ka: ʔm˞ma:˥ŋ](豊年祭の餅を焼いて焼餅にすると美味しいよ)。

ヤ˞キ˥ムヌ [ja˞ki˥munu] 【名】焼き物。陶器。マ˞カ˥ル ˥サバンドーレーヌ ヤ˞キ˥ムノー ウ˞キ˥ナーラル ˞カイヨーッ˥タ [ma˞ka˥ru ˥sabando:re:nu ja˞ki˥muno: ʔu˞ki˥na:raru ˞kaijo:t˥ta](飯碗、茶碗などの焼き物 < 陶器 > 類は、沖縄から < ぞ > 買われた)。

ヤ˞キ˥ムヌヤー [ja˞ki˥munuja:] 【名】陶磁器店。陶器工房。「焼き物屋」の義。パ˞トゥ˥マナー ヤ˞キ˥ムヌヤーヤ ˞ナー˥ヌ [pḁ˞tu˥mana: ja˞ki˥munuja:ja˞na:˥nu](鳩間島には焼き物屋はない)。

˥ヤギラー [˥jagira:] 【名】1痩せっぽち。ひどく痩せた人。多少卑下した表現。˞ヨーガラー [˞jo:gara:](痩せた人) よりも痩せた人。˞ヨーガラー [˞jo:gara:](痩せた人)、˞ヨーガレー [˞jo:gare:](痩せた人) ともいう。ム˞カ˥シェー ˥ヤギラー ˞ヤッタヌ˥ マ˞ナ˥マー ˥カイニ ˥パンタレー ˥ナリティ ˞ミーッサラ˥ヌ [mu˞ka˥ʃe: ˥jagira: ˞jattanu˥ ma˞na˥ma: ˥kaini ˥pantare: ˥nariti ˞mi:ssara˥nu](昔はひどく痩せたやせっぽちだったが、今はこんなに太っちょになって、誰だか見分けられない < 見知られない。判別できない >)。2固有名詞。˞ウン˥ネナー ˥ヤギラザーティ ˞スー˥ プ˞スヌ オーッ˥タン [˞ʔun˥nena: ˥jagiraʤa:ti ˞su:˥ pu̥˞sunu ʔo:t˥taŋ](あの家にヤギラー兄さんという人がおられた)。

ヤ˞ギルン [ja˞giruŋ] 【自動】痩せる。普通は、˞ヨーガルン [˞jo:garuŋ](痩せる) という。˥イー ッ˞ふァーン˥カー ヤ˞ギルンダ˥ ヤ˞ギラン˥ヨーニ イ˞ジン˥ジ ˞クンキシキ˥ムヌ ッ˞ふァイト ツォー [˥ʔi: f˞fa:ŋ˥ka: ja˞girunda˥ ʔi˞ʤin˥ʤi ˞kuŋkiʃi̥ki˥munu f˞fai⊢tso:](ご飯を食べないと痩せるから、痩せないように、頑張って < 意地を出して > 滋養物を食べなさいよ)。ヤ˞ギリティ ウーキユーサ˥ヌ [ja˞giriti ʔu:kiju:sa˥nu](痩せて動けない)。ン˞マー˥ムヌ ッ˞ふァーバン˥ ヤ˞ギル˥ クトー ア˞リ˥ブ [ʔm˞ma:˥munu f˞fa:baŋ˥ ja˞giru˥ ku̥to: ʔa˞ri˥bu](美味しいものを食っても痩せることはあるよ)。˞マー˥ビン ヤ˞ギレー˥ ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ja˞gire:˥ misamunu](もっと痩せればいいのに)。˞パー˥ク ヤ˞ギリ [˞pa:˥ku ja˞giri](早く痩せろ)。

˥ヤク [˥jaku] 【名】1役に立つ。有効に働く。使って効果がある。˞ウンザー˥ スブットゥ ヤ˞ルンダ˥ ヤコー タ˞タ˥ヌ [˞ʔunʤa:˥ subuttu ja˞runda˥ jako: tḁ˞ta˥nu](あいつは怠け者だから役に立たない)。2役職。役目。˞クン˥ドー ˞ヌー˥ヌ ヤ˞ク˥バ タ˞ボーラ˥レーカヤー [˞kun˥do: ˞nu:˥nu ja˞ku˥ba ta˞bo:ra ˥re:kaja:](今度は何の役職を頂いたのかなあ)。

˥ヤク [˥jaku] 【名】かい (櫂)。船具の一つ。巾約 10 センチ。長さ約 100 センチの、舟を漕ぐ道具。上半分を丸くけずり、下半分を平たく削ったもの。トゥ˞ム˥ヤク [tu˞mu˥jaku](艫の櫂。舵取りの機能を持つ大きな櫂)、˞マイ˥ヤク [˞mai˥jaku](前乗りの使う櫂。トゥ˞ム˥ヤクより一回り小さな櫂)、ヤ˞コー˥マ [ja˞ko:˥ma](小さな櫂。˞ピーヌール [˞pi:nu:ru]<舳乗(へノリ)> が使う櫂)、˞パーレー˥ヤク [˞pa:re:˥jaku](爬竜船漕ぎの櫂) などがある。˥バー ˥ヤク クイ˞シェー˥ン [˥ba: ˥jaku kui˞ʃe:˥ŋ](私は櫂で舟が漕げる < 櫂を漕ぐことができる >)。

ヤ˞グイ [ja˞gui] 【名】掛け声。田を耕す時に掛ける掛け声。「や声」『太平記』の転訛したもの。棒術の演武の際に発する掛け声。老年層は˞ヤングイ [˞jaŋgui](掛け声) ともいう。˥ユージェヌ ˥イーヤー ˥ター ˞カイ˥ソール ˥ピンマー ˞ヘイヤー ヘイヤアー˥ティ ヤ˞グイバ˥ カケーティル ˞カイ˥ソーッタ˞ダー [˥ju:ʤe:nu ˥ʔi:ja: ˥ta: ˞kai ˥so:ru ˥pimma: ˞heija: heija:˥ti ja˞guiba˥ kḁke:tiru ˞kai˥so:tta˞da:](松竹のお父さんたちは、田圃を耕される時は、ヘイヤーヘイヤーと掛け声を掛けて < ぞ > 耕されたものだ)。˥バウ ウ˞トー˥ル ˥ピンマー ˞ヒ˥ヤー ˞ユイ˥ティル ヤ˞グイヤー˥ カ˞コーッ˥タ [˥bau ʔu˞to:˥ru ˥pimma: ˞çi˥ja: ˞jui˥tiru ja˞guija:˥ kḁ˞ko:t˥ta](棒術を演武さ < 棒を打た > れる時はヒヤーユイと掛け声を掛れたものだ)。

ヤ˞クˇサ [ja˞ku˥sa] 【名】村役人の役職名。˞スー˥ダイ [˞su:˥dai](˞総代」の義。部落会長に相当する) の下で村行事に従事する人。西村、東村からそれぞれ一人

ずつ選出され、その年の村行事、神行事の一切を、その部下の˞ザーアタˀル [˞ʤa:ʔataˀru](座敷係)、˞ジンバイ [˞ʤimbai](お膳係) などと一緒に、彼らを指導しながら執り行った。神事に必要な供物の諸準備、後片付けなどは仕事の中でも重要なものであった。ヤ˞クˀサンケーヤ　グ˞サークマイˀヤー　˞ヌンガーリˀソーッタ [ja˞kuˀsaŋke:ja gu˞sa:kumaiˀja: ˞nuŋga:riˀso:tta](ヤクサの方々は神事用の五勺米は免除(メンジョ)されておられた)。

ヤ˞グサミ [ja˞gusami] 【名】やもめ (寡。寡婦)。やもお (寡男)。男女の独身者。「〜寡婦 < 和名夜毛女 >」『和名抄』の転訛したものか。沖縄本島方言からの借用語。ブ˞トゥヌˀ　ブ˞ラーンˀ　ミ˞ドゥˀム　トゥ˞ジヌˀ　ブ˞ラーンˀ　ビ˞キドゥムバˀル　ヤ˞グサミˀティ　ア˞ズト ダー [bu˞tunuˀ bu˞ra:mˀ mi˞duˀmu tu˞ʤinuˀ bu˞ra:mˀ bi˞kidumubaruˀ ja˞gusamiˀti ʔa˞ʤuɫ-da:](夫を失った女、妻を失った男を < ぞ > ヤグサミ < やもめ > というのだよ)。

ヤ˞クスク [ja˞kusu̥ku] 【名】約束。「Yacusocu. ヤクソク (約束)　約束、あるいは、協定.　Yacusoku suru(約束する)」『邦訳日葡辞書』の転訛。ˀクズ　カ˞ラシタ　ジンˀマー　ア˞ツァバーˀキナ　˞カイˀス　ヤ˞クスクˀ　ヤ˞リバ　バスクナˀダー [ˀkuʤu ka˞raʃi̥ta ʤimˀma: ʔa˞tsaba:ˀkina ˞kaiˀsu ja˞kusu̥kuˀ ja˞riba basu̥kunaˀda:](去年貸したお金は明日までに返す約束だから、忘れるなよ)。

ˀヤク　ˀタトゥン [ˀjaku ˀtḁtuŋ] 【連】役に立つ。バ˞カーンˀケンナ　シゥ˞カイトゥ　ビンキョー　シーˀ　スクカー　ˀアトゥアトー　イッ˞ケナˀ　ヤク　タトゥン˞ダー [ba˞ka:ŋˀkenna: si̥kai˞tu biŋkjo: ʃi:ˀ su̥kuka: ˀʔatuato: ʔik˞kenaˀ jaku tatun˞da:](若い時にしっかり勉強しておくと、あとあと非常に役に立つよ)。

ヤ˞クˀドゥシ [ja˞kuˀduʃi] 【名】厄年。「厄、ヤク、十三、二十五、三十七、四十九、六十一、七十三、八十五、九十七、之を厄年と謂ふ」『色葉字類抄』の転訛したもの。ヤ˞クドゥシˀヌ　プ˞ソーˀ　ユー　チ˞チシメーˀティル　ノー˞ン　スーˀダー [ja˞kuduʃiˀ nu pu̥˞soːˀ ju: ʧi̥˞ʧiʃimeːˀtiru no:˞n suːˀda:](厄年の人は、慎み深くして何事をもするのだよ)。

ヤ˞クˀニン [ja˞kuˀniŋ] 【名】役人。ヤ˞クニンˀマー　˞オーデーˀル　ˀプスティン　ア˞ゾーˀリ　イ˞サナキプスンドゥ　ゴーˀラー　ナ˞ローッˀタ [ja˞kinimˀma: ˞ʔo:deːˀru ˀpu̥sutiŋ ʔa˞ʤoːˀri ʔi˞sanakipu̥sundu goːˀra: na˞roːtˀta](役人は、内裏人 < 役所勤務人 > ともいわれ、石垣の人が多く就任され < なられ > た)。

ヤ˞クヌンガーˀリ [ja˞kunuŋgaːˀri] 【名】めんえき (免役)。免職。退職。「役免(ヤクマヌガ)れ」の義。˞ウイˀプスナ˞ローッˀター　ヤ˞クヌンガーˀリ　˞シー　オーˀルツォー [˞ʔuiˀpu̥su na˞rotˀta: ja˞kunuŋgaːˀri ˞ʃi: ʔoːˀrutsoː](年寄りになられたので退職しておられるそうだ)。

ヤ˞クˀバ [ja˞kuˀba] 【名】役場。パ˞トゥˀマプスナー　ヤ˞クバˀヌ　ジョ˞ヤクバーˀキ　シ˞トゥˀモーレープ˞ソーˀ　マイクメーヌ　˞セイショーザー　タンˀガ˞ダー [pḁ˞tuˀmapu̥suna: ja˞kubaˀnu ʤo˞jakubaːˀki ʃi̥˞tuˀmoːre: pu̥˞soːˀ maikumeːnu ˞ʃeiʃoːʤa taŋˀga˞daː](鳩間の人で役場の助役まで勤められた人は、前小浜家の正昌兄さんただ一人だよ)。

ヤ˞クˀバライ [ja˞kuˀbarai] 【名】厄払い。厄は、単独ではˀヤフ [ˀjaɸu](厄) というが、複合語では、ヤ˞クˀバライ [ja˞kuˀbarai](厄払い) となって、原音の [ku] が現れる。ア˞フ [ʔa˞ɸu](灰汁。「灰汁、阿久 < あく >」『和名抄』) がア˞クヌキ [ʔa˞kunuki](灰汁抜き) となるのも同じ。サ˞カサヌˀ　アッパー　タ˞ナˀミティ　ヤ˞クバライˀヌ　˞ニンˀガイ　シ˞ミオーシ [sḁ˞kasanuˀ ʔappa: ta˞naˀmiti ja˞kubaraiˀnu ˞niŋˀgai ʃi˞miʔoːʃi](司 < 神職者 > のおばあさんを頼んで厄払いの祈願をして頂きなさい < させて差し上げなさい >)。

ヤ˞クˀメー [ja˞kuˀmeː] 【名】兄貴。兄さん。老年層のことば。老年層の男性同士が飲酒の座で互いを呼び合う際に使用していた。「親雲上」の転訛した語であろう。ヤ˞クメーˀ　ヌ˞モーˀラ˞ツォー [ja˞kumeːˀ nu˞moːˀra˞tsoː](兄貴、飲みましょうよ)。

ヤ˞クン [ja˞kuŋ] 【他動】 1焼く。「〜野をばな夜吉曾 < やきそ >〜。万、3452」の義。「焚、保須、阿夫留、又、也久 (やく)」『新選字鏡』の転訛したもの。パ˞タキˀヌ　ˀッサ　ヤ˞キティ　カイˀシバ [pḁ˞takiˀnu ˀssa ja˞kiti kaiˀʃiba](畑の草を焼いて耕しなさいよ)。ˀッサ　ヤ˞クˀ　ピンマー　ア˞ザˀバライ　˞シーˀヨー [ˀssa ja˞kuˀ pimma: ʔa˞ʤaˀbarai ˞ʃiːˀjoː](草を焼く時は畦の草刈をしなさいよ)。˞マーˀビン　ヤ˞ケーˀ　ミサムヌ [˞maːˀbiŋ ja˞keːˀ misamunu](もっと焼けばいいのに)。˞パーˀク　ヤ˞キˀバ [˞paːˀku ja˞kiˀba](早く焼けよ)。2お灸を据える < 焼く >。ˀヤツ　ヤ˞クンティ　スンドゥ　バンˀマー　ˀヤツォー　ヤ˞カラヌ [ˀjatsu ja˞kunti sundu bamˀma: ˀjatsoː ja˞karanu](お灸を据えよう < 焼こう > とするが、私

にはお灸を据えられ＜焼かれ＞ない)。

ヤ˞ケーラ [ja˞keːra] 【名】マラリア患者の、腫れて硬くなった肝臓。ヤ˞ケーラ˥ ウ˞ク˥リティ バ˞タ˥ヌ ˥ッシ ヤム˞サー [ja˞keːra˥ ʔu˞ku˥riti ba˞ta˥nu ˥ʃʃi jamu˞saː](マラリアの病気＜焼き腹＞が発症し＜起こっ＞てお腹が差し込むように痛むよ)。

˥ヤコー タ˞タ˥ヌ [˥jakoː tạ˞ta˥nu] 【連】役に立たない。˞ウンザー ンーナッふァイ˥ カー˞ニ˥ シ˞ティ˥ ヤコー タ˞タ˥ヌ [˞ʔundʒaː ʔnːnaffai˥ kaː˞ni˥ ʃi̥˞ti˥ jakoː tạ˞ta˥nu](あいつは無駄飯だけ食って約に立たない)。

ヤ˞コー˥マ [ja˞koː˥ma] 【名】小さな櫂(カイ)。˞ピーヌール [˞piːnuːru](舳先(へサキ)に乗る人。˞舳乗」の転訛したものか)や、˞パー˥レー [˞paː˥reː](爬龍船) の漕ぎ手たちが使う小型の櫂。˞パーレー˥ヤコー ヤ˞コーマ˥ルシゥ˞カイヨー˥ル [˞paːreː˥jakoː ja˞koːma˥ru si̥˞kaijoː˥ru](爬龍船の櫂は小型の櫂を使われる)。

˥ヤゴーマー [˥jagoːmaː] 【名】歪んだもの。ク˞ヌキー˥ヤ ˥ヤゴーマー ˥ナリティ シゥ˞カーラヌ [ku˞nu kiː˥ja ˥jagoːmaː ˥nariti si̥˞kaːranu](この木は曲りものになって使えない)。

ヤ˞ゴーマスン [ja˞goːmasuŋ] 【他動】歪める。「歪ます」の義。フ˞チ˥ ヤ˞ゴーマスンティ スンド˥ ヤ˞ゴーマサラヌ [ɸu̥˞tʃi˥ ja˞goːmasunti sundu˥ ja˞goːmasaranu](口を歪めようとするが、歪められない)。ヤ˞ゴーマシ˥ ミサカー ヤ˞ゴーマス˥ クトー ˥ナルン [ja˞goːmaʃi˥ misakaː ja˞goːmasu˥ kṵtoː˥naruŋ](歪めてもよければ歪めることはできる)。˞マー˥ビン ヤ˞ゴーマシェー˥ ミサムヌ [˞maː˥biŋ ja˞goːmaʃeː˥ misamunu](もっと歪めればいいのに)。˞パー˥ク ヤ˞ゴーマシ˥バ [˞paː˥ku ja˞goːmaʃi˥ba](早く歪めなさいよ)。

ヤ˞ゴーミ˥カゴーミ [ja˞goːmi˥kagoːmi] 【副】曲がりくねって。ぐにゃぐにゃに歪んで。ABCDEBCD 型の重言。ヤ˞ゴーミ˥カゴーミ ス˞ク˥リ ˥シケール˥ムヌ ˥ミルカー ˞サッ˥コー ˞ティー˥ フ˞コー˥バン ˥ヌヤー [ja˞goːmi˥kagoːmi sṵ˞ku˥ri ˥ʃi̥keːru˥munu ˥miruka: ˞sak˥koː ˞tiːɸṵkoː˥ban ˥nujaː](曲がりくねって造ってあるのを見ると、ひどい下手くそだよ。なんてこともない)。

ヤ˞ゴームン [ja˞goːmuŋ] 【自動】歪む。曲がる。「喎、ユガム」『類聚名義抄』の a、u 音位転倒により、[juga・amu] → [jagu・amu] → [jagoːmuŋ] と転訛したものか。フ˞チェー˥ ヤ˞ゴーミティ˥ナ˞キ ベー [ɸu̥˞tʃeː˥ ja˞goːmiti˥ na˞ki beː](口は歪んで泣いている)。シ˞ラ˥ヌ ヤ˞ゴームン˥ケン ピ˞キスクンドゥ˥ ヤ˞ゴーマヌ [ʃi˞ra˥nu ja˞goːmuŋ˥kem pi̥˞kisṵkundu˥ ja˞goːmanu](顔＜面＞が歪むほど引っ張るが、歪まない)。ヤ˞ゴーム˥ クトー ˞ナー˥ヌ [ja˞goːmu˥ kṵtoː ˞naː˥nu](歪むことはない)。ヤ˞ゴーメー˥ ミサムヌ [ja˞goːmeː˥ misamunu](歪めばいいのに)。ヤ˞ゴーミ [ja˞goːmi](歪め)。

˥ヤコン [˥jakoŋ] 【名】1やかん (薬缶)。湯沸し。˥ヤッコン [˥jakkoŋ](薬缶) ともいう。カ˞ニヤコン [ka˞nijakoŋ](鉄製の湯沸かし)、˥ブラヤコン [˥burajakoŋ](法螺貝で作った湯沸し)、˞サー˥ブラ [˞saː˥bura](法螺貝の湯沸し) などがある。˥ヤコンナー ˞ティンシー˥ イ˞リティ˥ ユー フ˞カ˥シ [˥jakonnaː ˞tiŋʃiː˥ ʔi˞riti˥ juː ɸṵ˞ka˥ʃi](薬缶に天水を入れて湯を沸かせ)2大きな睾丸。フィラリアに罹(カカ)って睾丸が肥大化したもの。˥クサ カ˞カ˥リティ ˥ヤコン ˥ナリ ˞ベー [˥kṵsa kạ˞ka˥riti ˥jakon ˥nari ˞beː](フィラリアに罹患(リカン)して大きな睾丸になっている)。

˥ヤサイ [˥jasai] 【名】野菜。標準語からの借用語。普通は、˞アウナー [˞ʔaunaː](青菜)、˞ナーン˥パー [˞naːm˥paː](菜っ葉) のようにいう。˞パーヤサイ [˞paːjasai](葉野菜) のなかには、タ˞マ˥ナー [ta˞ma˥naː](キャベツ)、シ˞マ˥ナー [ʃi˞ma˥naː](たかな)、ハ˞ク˥サイ [hạ˞ku˥sai](白菜)、˞パン˥ダマ [˞pan˥dama](すいぜんじな)、˞シー˥ソー [˞ʃiː˥soː](紫蘇)、˞ニン˥ジンキョー [˞nin˥dʒiŋkjoː](ウイキョウ＜茴香＞)、サ˞クナ [sạ˞kuna](長命草)、ン˞ガ˥ナ [ŋ˞ga˥na](苦菜)、˞ソーキナー [˞soːkinaː](不断草)、˥チサ [˥tʃi̥sa](ちしゃ)、˞シンギ˥ク [˞ʃiŋgi˥ku](しゅんぎく)、˥ウンツァイ [˥ʔuntsai](えんさい)、シ˞ビラ [ʃi˞bira](わけぎ＜分葱＞)、˥ビラ [˥bira](にら) などがある。その他に、˞クース [˞kuːsu](唐辛子)、ピ˞ル [pi˞ru](にんにく)、˞ラッ˥キョー [˞rak˥kjoː](らっきょう)、シ˞ブル [ʃi˞buru](冬瓜)、カ˞ブッチ [ka˞buttʃi](南瓜)、ナ˞ベー˥ラ [na˞beː˥ra](ヘチマ＜糸瓜＞)、˞ウー˥ル [˞ʔuː˥ru](きゅーり＜瓜＞)、ナ˞サ˥ビ [na˞sa˥bi](なす＜茄子＞)、˞ゴー˥ヤ [˞goː˥ja](苦瓜)、˞ダイ˥クニ [˞dai˥kuni](大根)、˞キンダイクニ [˞kindaikuni](にんじん＜人参＞)、などがある。˥ヤサイパタキ [˥jasaipataki](野菜畑)。˞パーヤサイ [˞paːjasai](葉野菜)。ナ˞リ˥ムヌヤサイ [na˞ri˥munujasai](生り物野菜) などがある。˥シンタヌ カ˞ク˥ナー ˥ヤサイ ス˞ク˥リ ˥シケー [˥ʃintanu kạ˞ku˥naː ˥jasai sṵ˞ku˥ri ˥ʃi̥keː](後ろの屋敷に野菜を作ってある)。

˥ヤシ [˥jaʃi] 【名】椰子。ナ˞カン˥ブレーナ ヤ˞シ˥ヌ

シン˩トゥ˥ プ˩スム˥トゥ ˥ムイ ˩ベー˥ン [na˩kam˥bureːna ja˩ʃi˥nu ʃin˩tu˥ pu̥˩sumu˥tu ˥mui ˩beː˥ŋ](中岡 < 中森 > に椰子の木がたった一本生えている)。

ヤ˩シーヤシー [ja˩ʃiːjaʃiː] 【名】易々と。たやすく。ウ˩レー˥ ム˩チ˥カサー ˩ナー˥ヌ ˩バン˥ヌン ヤ˩シーヤシー˥ ナルン [ʔu˩reː˥ mu˩ʧi˥kasaː ˩naː˥nu ˩ban˥nuŋ ja˩ʃiːjaʃiː˥ naruŋ](それは難しくは無い、私にもたやすくできる)。

ヤ˩シカー˥シ [ja˩ʃikaː˥ʃi] 【名】安売り。シ˩ティカー˥シ [ʃi̥˩tikaː˥ʃi](捨て売り) ともいう。˩タイロー スー˥ ピンマー ヤ˩シカー˥シ ˩サン˥カー ナ˩ラン˥ユンダ ˩パー˥ク ˩レイトー˥コー ス˩クラン˥カー ナ˩ラ˥ヌ [˩tairoː suː˥ pimmaː ja˩ʃikaː˥ʃi ˩saŋ˥kaː na˩raŋ˥junda ˩paː˥ku ˩reitoː˥koː su̥˩kuraŋ˥kaː na˩ru˥nu](大漁をする時は安売りしなければならないから、早く冷凍庫を作らないといけない)。ク˩トゥシェー イーシ˥ヌ ˩ダイヤー˥ ム˩タ˥ヌ ヤ˩シカーシ˥ル ˥ナル [ku̥˩tuʃeː ʔiːʃi˥nu ˩daijaː˥ mu˩ta˥nu ja˩ʃikaːʃi˥ru ˥naru](今年は角又の値段は値上がりしない < 持たない >、安売りしか出来ない < 安売りぞできる >)。

ヤ˩シ˥カイ [ja˩ʃi˥kai] 【名】安買い。安値で買うこと。イ˩サナキフニヌ ダーブルバ˥ ヤ˩シ˥カイ ˩シー˥ キー ˩ドゥー˥ヌ ˥フニナー ˩スイシキ˥ シケー [ʔi˩sanakiɸuninu daːburuba˥ ja˩ʃi˥kai ˩ʃiː˥ kiː ˩duː˥nu ˥ɸunina: ˩suiʃi̥ki˥ ʃi̥keː](石垣の船の二個シリンダーエンジン < ダブル > を安買いしてきて、自分の船に据えつけてある)。

˩ヤシ˥キ [˩jaʃi̥˥ki] 【名】屋敷。ウ˩ブヤシ˥キ [ʔu˩bujaʃi̥˥ki](大きな屋敷)。ヤシ˩ケー˥マ [jaʃi̥˩keː˥ma](小さな屋敷)。˥サンカクヤシキ [˥saŋkakujaʃi̥ki](三角屋敷。この屋敷は風水が良くないといわれているので、三角の頂点部を切って台形にしていた)。˩ヤーヤシ˥キティン ア˩ラ˥シ ˩マイフナー [˩jaːjaʃi̥˥kitiŋ ʔa˩ra˥ʃi ˩maiɸunaː](家屋敷という財産も作り < 有らして >、立派 < 働き者 > だ)。

˩ヤシキ˥チン [˩jaʃi̥ki˥ʧiŋ] 【名】屋敷賃。屋敷を借りる際の賃料。鳩間島では屋敷賃を取る人はいなかったが、都会の石垣島へ行くと屋敷賃を支払う必要があった。パ˩トゥ˥マナーテー ˩ヤシキ˥チン ˥トゥル プ˩ソー˥ ブ˩ラーンシェン [pḁ˩tu˥manaːte: ˩jaʃi̥ki˥ʧin ˥turu pu̥˩soː˥ bu˩raːŋʃeŋ](鳩間島では屋敷賃を取る人はいなかった)。

˩ヤシキ˥ヌ ˥カン [˩jaʃi̥ki˥nu ˥kaŋ] 【連】屋敷の神様。屋敷を守護する神様。屋敷の˩ユーカドゥ [˩juːkadu](四隅)、˩ペーラ˥フチ [˩peːra˥ɸu̥ʧi](入り口。門) には、それぞれの神様がおられると信じられている。特に、フ˩ル˥ヌ ˥カン [ɸu˩ru˥nu ˥kaŋ](便所の神様。屋敷の北西に位置する) は、マ˩サー˥ン [ma˩saː˥ŋ](霊験あらたか。正し) といわれている。戸外でヤ˩ナ˥カジ [ja˩na˥kaʤi](「悪風」の義。悪霊) に当った時は、便所へ行って寝ている豚を起こすと、憑き物が落ちるといわれている。

˩ヤシキ˥ヌ ˩ニン˥ガイ [˩jaʃi̥ki˥nu ˩niŋ˥gai] 【連】屋敷の祈願。屋敷を守護しておられる神々に対する祈願。˩ペーラ˥フチ [˩peːra˥ɸu̥ʧi](門。入り口) の神、˩ユーカドゥ [˩juːkadu](四隅 < 四つ角 >) の神、˥フル [˥ɸuru](便所) の神、ナ˩カ˥バラー [na˩ka˥baraː](大黒柱。中柱) の神に対して、˥ヌーディマリ [˥nuːdimari](何年生まれ) のビ˩キジマリ [bi˩kiʤimari](男生まれ)、あるいはブ˩ナジマリ [bu˩naʤimari](女生まれ) の～(実名を入れる) が˩フンダメー˥ル [˩ɸundameː˥ru](基礎固めをした < 踏み固めた >) 屋敷内、家内の中にヤ˩ナ˥カジ [ja˩na˥kaʤi](悪風、悪霊)、ア˩マリ˥カジ [ʔa˩mari˥kaʤi](余り風。悪霊) が入らぬようにと祈願する。

ヤ˩シ˥ダイ [ja˩ʃi˥dai] 【名】安値。「安い代金」の義。タ˩カダイ [tḁ˩kadai](高値。˩高い代金 (値段)」の義) の対義語。イ˩コーラ˥ ヌー˩ン ヤラバン˥ カイブ ヤ˩シ˥ダイシェー ˥ムノー ˩カーサラヌ [ʔi˩koːra˥ nuː˩ŋ jarabaŋ˥ kaibu ja˩ʃidai˥ʃeː ˥munoː ˩kaːsaranu](いくら何でも、こんな安値では品物は売れない)。

ヤ˩シナイウヤ [ja˩ʃinaiʔuja] 【名】養い親。実際に養うのではなく、幼い子が病弱なときや母子の相性が悪いとき、日を定めて特定の道の辻に立っていて、最初に出会った人に子供を抱いてもらい、養い親になってもらう風習があった。また運搬船が入港する際に最初に下船した人に子供を抱かせて養い親になってもらったり、船のあか (淦) を掬(スク)い、子供の額につけてもらって、生涯に亘(ワタ)る親戚付き合いをすることもあった。˩ビョー˥ザール ッ˩ふァー˥ ヤ˩シナイウヤン˥ ダ˩カシ˥ティ ア˩ザリ ブタ [˩bjoː˥ʤaːru f˩faː˥ ja˩ʃinaiʔujan˥ da˩kaʃi˥ti ʔa˩ʤari buta](病弱な子は養い親に抱かせなさいといわれていた)。

ヤ˩シナイッふァ [ja˩ʃinaiffa] 【名】˩養い子」の義。仮親を持つことが必要な子。病弱で母子の相性が悪い子。˩イーリ˥ッふァ [˩ʔiːri˥ffa](貰い子) ともいう。

˩ビョー˥ザー　ヤ˩タンドゥ˥　バー　ヤ˩シナイッふァ˥　ナ˩ル˥ター　イッ˩ケナ　ガン˥ゾー　˥ナリ　˩スー˥リケーン [˩bjoː˥ʤaː ja˩tandu˥ baː ja˩ʃinaiffa˥ na˩ru˥taː ʔik˩kena gan˥ʤoː ˥nari ˩suː˥rikeːŋ](病弱であったが、私の養い子になって非常に健康になり成長してきた)。

ヤ˩シマラ˥ヌ [ja˩ʃimara˥nu] 【連】安心できない。我慢できない。看過できない。黙っておれない。「休まらぬ」の義。「おとづれも聞かぬ見つめらぬあれば思ひ安まらぬ旅の空や」『表音評釈　琉歌全集839』の転訛したもの。ウ˩ヌ　ソー˥　ス˩クタンティン˥　キモー　ヤ˩シマラ˥ヌ [ʔu˩nu soː˥ sʉ˩kutantiŋ˥ kimmoː ja˩ʃimara˥nu](その便り＜さう。「左右」の転訛したもの＞を聞いても、心は安心できない)。ウ˩リ˥　ス˩クター˥　ヤッ˩トゥ˥シ　キモー　ヤ˩シマ˥リン [ʔu˩ri˥ sʉ˩kutaː˥ jat˩tu˥ʃi ˥kimoː ja˩ʃima˥riŋ](それを聞いて、やっとで心は安心できる)。キ˩ムヌ　ヤ˩シマリ˥ル　˥ピンティン　˩ナーヌ [ki˩mu˥nu ja˩ʃimari˥ru ˥pintin ˩naː˥nu](心が安心できる＜肝が休まれる＞時とてもない)。

ヤ˩ジマル [ja˩ʤimaru] 【名】うまずめ (石女)。子を産めない女。ッ˩ふァ˥　ナシ˩サン˥　ミ˩ドゥム˥バ　ヤ˩ジマル˥ティ　ア˩ゾーッ˥タ [f˩fa˥ naʃi˩sam˥ mi˩dumu˥ba ja˩ʤimaru˥ti ʔa˩ʤoːt˥ta](子供を産むことが出来ない女をジャジマル＜石女＞といわれた)。

ヤ˩シ˥ミ [ja˩ʃi˥mi] 【名】休み。休暇。˩ガッコー˥ヌ　ヤ˩シ˥メー　イ˩チェー˥ラ　パ˩ジマルワ [˩gakkoː ˥nu ja˩ʃi˥meː ʔi˩ʧeː˥ra pa˩ʤimaruwa](学校の休暇は何時から始まるか)。

ヤ˩シ˥ミーアン [ja˩ʃi˥miːʔaŋ] 【名】網目の大きな網。大きさ約 2 センチ角の網目の網で、大型の魚を漁獲する際に用いた。「八十目網」の義か。˩クス˥ク　ガ˩ラシ˥アン [˩kusʉ˥ku ga˩raʃi ˥ʔaŋ](クスクの魚群を網で巻いて漁獲する網)、˩ボー˥ダ　ガ˩ラシ˥アン [˩boː˥da ga˩raʃi˥ʔaŋ](キツネブダイの魚群を巻いて漁獲する網)、フ˩チマチル˥　ガ˩ラシ˥アン [ɸʉ˩ʧimatʃiru˥ ga˩raʃi˥ʔaŋ](フチマチルを巻いて漁獲する網) は網目の大きなヤ˩シ˥ミーアン [ja˩ʃi˥miːʔaŋ] を用いた。ヤ˩シ˥ミーアンシ　シ˩ヌマー˥ル　ガ˩ラ˥シ　クー˩ディー [ja˩ʃi˥miːʔaŋʃi ʃi˩numaː˥ru ga˩ra˥ʃi kuː˩diː](網目の大きな網でテングハギ＜シヌマール＞を漁獲し＜懸からせ＞てこようよ)。

ヤ˩シミ˥ルン [ja˩ʃimi˥ruŋ] 【他動】値段を安くする。値引きする。「安める」の義。タ˩カーニ　カウ˥プ˩ス˥ネー　˩ダイヤー˥　ヤ˩シミルン˥ドゥ　ン˩ベーマ　カウ˥　プ˩スンマー˥　ヤ˩シミラ˥ヌ [tạ˩kaːni kau˥ pʉ˩su˥neː ˩daijaː˥ ja˩ʃimirun˥du ʔm˩beːma kau˥ pʉ˩summaː˥ ja˩ʃimira˥nu](沢山買う人には値段は安くするが、少し買う人には値引きしない)。˩ダイ˥　ヤ˩シ˥ミ　˥ミサカー　ヤ˩シミ˥ル　˥クトー　ナ˩ルン˥ドゥ　˩モーキララ˥ヌ [˩dai˥ ja˩ʃi˥mi ˥misakaː ja˩ʃimi˥ru ˥kʉtoː na˩run˥du ˩moːkirara˥nu](値段は、値引きして＜安めて＞よければ値引きすることは出来るが、儲からない)。ヤ˩シミ˥レー　˥ミサムヌ [ja˩ʃimi˥reː ˥misamunu](値引きすればいいのに)。ヤ˩シミ˥リ [ja˩ʃimi˥ri](値引きせよ)。

ヤ˩シ˥ムヌ [ja˩ʃi˥munu] 【名】1安物。安価なもの。ヤ˩シ˥ムヌ　˩カウ˥カー　ヤ˩ブリパヤー˥ンダー　˩カイ˥テー　˩スン˥ドウ　˩スー [ja˩ʃi˥munu ˩kau˥kaː ja˩buripajaː˥nda: ˩kai˥teː ˩sun˥du ˩suː](安物を買うと壊れやすいから、却って損をする)。2易しいこと。簡単なこと。ウ˩ヌ˥　ア˩タ˥ロー　ヤ˩シムヌ˥ル　ヤ˩ル　バン˥ヌン　˥ナルン [ʔu˩nu˥ ʔa˩ta˥roː ja˩ʃimunu ˥ru ja˩ru ban˥nuŋ ˥naruŋ](それぐらいは簡単だ＜易しいものだ。簡単なこと。易物である＞。私にも出来るよ)。

ヤ˩シ˥ムン [ja˩ʃi˥muŋ] (1)【自動】休む。休息する。標準語から転訛したもの。普通は、˩ユー˥クーン [˩juː˥kuːŋ](憩う。休む) という。ン˩ベーマ˥　ヤ˩シ˥ムンティ　˩スンドゥ˥　ヤ˩シマラ˥ヌ [ʔm˩beːma˥ ja˩ʃi˥munti ˩sundu˥ ja˩ʃimara˥nu](少し休もうとするが、休まれない)。ヤ˩シ˥ミ　˥ミサカー　ヤ˩シ˥ム˥クトー　˥ナルン [ja˩ʃi˥mi misakaː ja˩ʃi˥mu ˥kʉtoː ˥naruŋ](休んでよければ休むことは出来る)。˩マー˥ビン　ヤ˩シ˥メー　˥ミサムヌ [˩maː˥biŋ ja˩ʃi˥meː ˥misamunu](もっと休めばいいのに)。˩パー˥ク　ヤ˩シ˥ミ [˩paː˥ku ja˩ʃi˥mi](早く休め)。**(2)**【他動】欠勤する。シ˩トゥ˥ミ　ヤ˩シ˥ムン [ʃị˩tu˥mi ja˩ʃi˥muŋ](欠勤する＜勤めを休む＞)。

ヤ˩シ˥ル [ja˩ʃi˥ru] 【名】やすり (鑢)。「鑢子、～漢語抄云鑢子　夜須利」『和名抄』の転訛したもの。ヤ˩シ˥ルシ　ヌ˩キル˥ヌ　˥パー　タ˩ティ˥ルンティ　˩シー　ベー [ja˩ʃi˥ruʃi nu˩kiru˥nu ˥paː tạ˩ti˥runti ˩ʃiː beː](鑢(ヤスリ)で鋸(ノコ)の歯を立てようとしている)。

ヤ˩シン˥ザ [ja˩ʃin˥ʤa] 【名】こいつめ。あいつめ。憎しみ、怒りを込めていう『石垣方言辞典』という。歌謡語。/変(カワ)ティイクスヤ　ヤシンザヌ　ククル/(変わりゆくものは野心家の心ばかりだ) トゥバラーマ節『八重山民謡誌』の説がある。ヤ˩シン˥ザは、

「イヤシ・ンザ」の転訛したものと考えられ、「蔑、伊也志牟 (いやしむ)」『新撰字鏡』に遡源される語であろう。「ンザ」の語源は、ン˞ザッ˥ふァ [n˞ʤaf˥fa](下人。糸満の漁師に身売りされた子供) の˥ンザ [nʤa](下人) に求められるであろう。

˥ヤス [˥jasu] 【名】八十。歌謡語。普通は、パ˞チ˥ジュー [pḁ˞ʧi˥ʤu:](八十) という。

ヤ˞スンジ˥ルン [ja˞sunʤi˥ruŋ] 【自動】1安んじる。安心する。満足する。「安んじる (上一段)」の転訛したもの。˞ヤン˥マー　˞ノー˥ルンティ　シ˞キティ˥　ヤ˞スンジキシ˥ル　˞ブンドゥ˥　ヤ˞スンジララン˥　クトゥン　˥アン [˞jam˥ma: ˞no:˥runti ʃi̥˞kiti˥ ja˞sunʤiki̥ʃi˥ru ˞bundu˥ ja˞sunʤiraraŋ˥ku̥tuŋ ˥ʔaŋ](病気は治ると聞いて安心しきっているが、安心できない＜安んじられない＞こともある)。パ˞ナ˥シシ˞キティ˥　ヤ˞スンジ˥　プサンドゥ　ヤ˞スンジ˥ル　ク˞トゥ˥ヌ　ナ˞ラ˥ヌ [pa˞na˥ʃi ʃi̥˞kiti˥ ja˞sunʤi˥ pu̥sandu ja˞sunʤi˥ru ku̥˞tu˥nu na˞ra˥nu](話を聞いて安心したいが、安心することができない)。ヤ˞スンジ˥レー　˥ミサムヌ [ja˞sunʤi˥re: ˥misamunu](安心すればいいのに)。ヤ˞スンジ˥リバ [ja˞sunʤi˥riba](安心しろよ)。2諦める。ウ˞ビ˥ヌ　˞ミー˥ティ　˞シー˥　ヤ˞スンジ˥ル　˥フカー　˞ナー˥ヌ [ʔu˞bi˥nu ˞mi:˥ti ˞ʃi:˥ ja˞sunʤi˥ru ˥ɸu̥ka: ˞na:˥nu](それだけの寿命(ジュミョウ)として諦(アキラ)めるほかはない)。

ヤ˞スン˥ズン [ja˞sun˥ʤuŋ] 【自動】安んじる。安心する。諦める。ヤ˞スンジ˥ルン [ja˞sunʤi˥ruŋ](安心する) に同じ。「やすんず」(サ変) の転訛したもの。

ヤ˞タンティン [ja˞tantiŋ] 【連】だったとしても。であったとしても。逆態接続の意味を表す。指定の助動詞˞ヤン [˞jaŋ](である) の完了・過去の終止形ヤ˞タン [ja˞taŋ](だった。であった) に、逆態接続助詞˥ティン [˥tiŋ](ても) の付いた形。˞ウシ˥トゥ　ヤ˞タンティン˥　ムヌ　ッ˞シェー˥ル　プ˞ソー˥ラー　ナ˞ラーン˥カー　ナ˞ラ˥ヌ [˞ʔuʃi̥˥tu ja˞tantim˥ munu ʃ˞ʃe:˥ru pu̥˞so:˥ra: na˞ra:ŋ˥ka: na˞ra˥nu](年下の弟であったとしても、知恵のある＜物事を知っている＞人からは習わないといけない)。˥ウビブカラ　ヤ˞タンティン˥　ミサンダ　˥バキ　ッ˞ふィーリ˥バ [˥ʔubibukara ja˞tantim˥ misanda ˥baki f˞fi:ri˥ba](これぐらいであってもよいから、分けてやり＜くれ＞なさいよ)。

ヤ˞ダン˥ブレ [ja˞dam˥bure] 【名】(動) 貝の名。ヤドゥンバレ [ja˞dum˥bare](スイジガイ) ともいう。和名サソリガイやスイジガイの仲間の総称。長さ約15センチ、幅約9センチで、周りに長い牛角状の突起が数本曲がって延びている。鳩間島の後方の˥ピー [˥pi:](干瀬) やˇイノー [˥ʔino:](礁内湖)、珊瑚礁の砂地に多く棲息していて、いつでも、どこでも漁獲できた。身は煮ると美味である。殻口は美しい肉色、オレンジ色を呈している。これが女陰を連想させるといい、形状の特異さから魔除けの力を有する呪符として豚舎や家の壁などに吊るされた。また竈(カマド)の上に吊(ツ)るして、自在鉤の代用にも利用された。ヤ˞ダン˥ブレー　˥サイ　シ˞キ˥ルカー　ヤ˞ナ˥ムノー　˞ペーラ˥ヌティ　ア˞ザリ　ブー [ja˞dam˥bure: ˥sai ʃi̥˞ki˥ruka: ja˞na˥muno: ˞pe:ra˥nuti ʔa˞ʤari bu:](スイジガイを吊るしておくと魔物は入らないといわれている)。

ヤ˞チリルン [ja˞ʧiriruŋ] 【自動】やつれる。痩(ヤ)せ衰える。憔悴(ショウスイ)する。ナ˞ガヤン　スー˥カー　プ˞ソー˥　ヤ˞チリルンダ　ジーシキ˥ムヌ　ッ˞ふァーシ˥ヨー [na˞gajan su:˥ka: pu̥˞so:˥ ja˞ʧirirunda ʤi:ʃi̥˥kiˇmunu f˞fa:ʃi˥jo:](長患(ナガワズラ)いをすると、人はやつれるから滋養分のあるのを食べさせなさいよ)。ヤ˞チリ　ナー˥ヌ [ja˞ʧiri na:˥nu](やつれてしまった)。ヤ˞チリル˥　クトー　˞ナー˥ヌ [ja˞ʧiriru˥ ku̥to: ˞na:˥nu](やつれることはない)。

˥ヤツ [˥jatsu] 【名】やいと。お灸(キュウ)。ヨモギの葉を乾燥して灸のモグサ (艾) にする。「Yaitô. ヤイトウ (やいとう)　ある乾かした草ですえる灸」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ウ˞ブ˥ヤツ [ʔu˞bu˥jatsu](大きなやいと)、ヤ˞ツォー˥マ [ja˞tso:˥ma](腹痛の際にすえる小さなやいと) がある。ス˞ブシ˥ナ　˥ヤツ　ヤ˞クン [su˞buʃi˥na ˥jatsu ja˞kuŋ](三里にお灸をすえる＜焼く＞)。ヤ˞ラビ˥ヌ　˞フンダイ　シー˥　ナ˞ク˥カー　シ˞ビ˥ナ　˥ヤツ　ヤ˞コーッ˥タン [ja˞rabi˥nu ˞ɸundai ʃi:˥ na˞ku˥ka: ʃi˞bi˥na ˥jatsu ja˞ko:t˥taŋ](子供が我がままのし放題で泣くと、お尻にお灸をすえられ＜焼かれ＞たものだ)。

ヤ˞ツォー˥マ [ja˞tso:˥ma] 【名】小さなお灸。˥ドゥク　ナ˞ク˥　ッ˞ふァー˥　シ˞ビ˥ナ　ヤ˞ツォー˥マ　ヤ˞キ˥バ [˥duku na˞ku˥ f˞fa:˥ ʃi˞bi˥na ja˞tso:˥ma ja˞ki˥ba](ひどく泣く子はお尻に小さなお灸をすえて懲らしめなさい＜お灸を焼きなさい＞)。

˞ヤッ˥カイ [˞jak˥kai] 【名】1やっかい (厄介)。世話。˥バー　イ˞サナキヌ˥　ウ˞トゥザ˥ヌ　˞ヤッ˥カイ　カ˞カ˥リティル　˞コー˥コー　ン˞ズ˥タ [˥ba: ʔi˞sanakinu˥ ʔu˞tuʤa˥nu ˞jak˥kai kḁ˞ka˥ritiru ˞ko:˥ko: ʔn˞ʤu˥ta](私は石垣の親戚の家の世話で高校をで

た)。²面倒なこと。迷惑なこと。˩クン˥ドー　˩バン˥テヌ　˥クトゥシ　˩ワーバー˥キン　˩ヤッ˥カイ　˥カキ　˩ナー˥ヌ [˩kun˥do: ˩ban˥tenu ˥kṵtuʃi ˩wa:ba:˥kiŋ ˩jak˥kai ˥kạki ˩na:˥nu](この度は私の家のことで貴方にまでも迷惑＜厄介＞をかけてしまった)。

˩**ヤッカラ [˩jakkara]** 【名】(数) 八匹。イ˩ゾー　ヤッカラ　ホー˥シェーン [ʔi˩ʤo: jakkara ho:˥ʃe:ŋ](魚は八匹釣った)。

˩**ヤッカラムヌ [˩jakkaramunu]** 【名】力の強い者。強力な男。手腕のある有能な者。˩ウン˥ネーナー　˩ヤッカラムヌヌ˥　バ˩カー˥ムヌヌ　˥スルイ　˩ブンダ˥　イッ˩ケナ˥　ウ˩ラーミ˥サン [˩ʔun˥ne:na: ˩jakkaramununu˥ ba˩ka:˥mununu ˥surui ˩bunda˥ ʔik˩kena˥ ʔu˩ra:mi˥saŋ](あの家には強力な男の若者が揃っているから非常に羨ましい)。

˩**ヤック [˩jakku]** 【名】(数) 八個。トゥ˩ルヌ　コー˥マー　˩ヤック˥　ナシェーン [tu˩runu ko:˥ma ˩jakku˥ naʃe:ŋ](鶏が卵を八個産んだ)。

˩**ヤッ˥サマール [˩jas˥sama:ru]** 【名】やすき (易き) に付く。安まわり。安易な方法。努力を怠って手軽な方法を選ぶこと。˥スブットゥ　ヤ˩ルンダ　ギーバルンテー˥　サ˩ムティ˥　タ˩ダーイ　ヤッ˥サマール　˩カーニル　スー [˥subuttu ja˩runda gi:barunte:˥ sa˩muti˥ ta˩da:i jas˥sama:ru ˩ka:niru su:](怠け者だから頑張ることはしないで、ただ、容易(タヤス)い方法だけを選ぶ＜する＞)。

˩**ヤッ˥サン [˩jas˥saŋ]** 【形】 ¹安い。安価である。ク˩レー　ダイヤ　ヤッ˥サン [ku˩re: daija jas˥saŋ](これは値段は安い)。˩ナン˥ゾー　˩ヤッサー　ナー˥ヌ [˩nan˥ʤo: ˩jassa: na:˥nu](あまり安く無い)。˩ヤッ˥サ　˥ムノーラ　イ˩ラ˥ビバ [˩jas˥sa ˥muno:ra ʔi˩ra˥biba](安い物から選びなさいよ)。˥アイニ　˩ヤッ˥サレーラー　˩カーサラヌ [˥ʔaini ˩jas˥sa:re:ra: ˩ka:saruanu](あんなに安ければ売れない)。²補助形容詞。易しい。し易い。動詞や受身、使役の助動詞の連用形に付いて、˩～し易い˩の意味を表す。ク˩レー˥　カ˩キヤッ˥サン [ku˩re:˥ kạ˩kijas˥saŋ](これは書きやすい)。トゥ˩リヤッ˥サン [tu˩rijas˥saŋ](取りやすい)。パ˩タラカシヤッ˥サン [pạ˩tarakaʃijas˥saŋ](働かせやすい)。フ˩ヨー˥ンダル　イ˩ザリヤッ˥サ˩ダー [ɸu˩jo:˥ndaru ʔi˩ʤarijas˥sa˩da:](怠惰だから＜ぞ＞叱られやすいのだよ)。

˩**ヤッシェー [˩jaʃʃe:]** 【名】かけや (掛矢)。じつき (地搗き) 用の丸太。建築に取り掛かる前にじがため (地固め) をするのに用いる、じぎょう (地形) 用の道具。直径約 20～30 センチ、長さ約 1 メートルの丸太に数本の柄をつけ、それを数人で引き上げ、礎石を据えるために砂利を敷いた上に落として地固めをした。また、櫓(ヤグラ)に掛矢を吊るし、滑車に掛けた吊(ツル)し縄を数人で引いて掛矢を上げたり落としたりして地固めをした。˥ヤッシェーシ　˥ジーカ˩タミティ˥　ウ˩ヌ　ウイナー˥ル　イ˩シジ˥　ビ˩ソーッ˥タ [˥jaʃʃe:ʃi ˥ʤi: kạ˩tamiti˥ ʔu˩nu ʔuina:˥ru ʔi˩ʃiʤi˥ bi˩so:t˥ta](地搗き丸太のかけや＜掛矢＞で地固めをして、その上に＜ぞ＞礎石を据えられた)。

˩**ヤッタ [˩jatta]** 【連】であった。断定の助動詞˩ヤン [˩jaŋ](～である) の過去形。パ˩トゥ˥マー　ム˩カ˥シェー　カ˩ツシンマー　シェイダイ　ヤッタ [pạ˩tu ˥ma: mu˩kaʃe: kạ˩tsuʃimma: ʃeidai jatta](鳩間島は、昔はカツオ漁業は盛んで＜盛大で＞あった)。

˩**ヤットゥカッ˥トゥ [˩jattukat˥tu]** 【副】ようやく。やっと。辛うじて。˩ヤットゥ˩の強調表現。ABCDBC 型の重言。˩ヤットゥカッ˥トゥシ　˥ウカー　パ˩ライ˥ヤン [˩jattukat˥tuʃi ˥ʔuka: pa˩rai˥jaŋ](ようやく＜やっとのことで＞借金は払った)。

ヤッ˩トゥ˥シ **[jat˩tu˥ʃi]** 【副】やっとのことで。ようやく。かろうじて。ク˩マーバー˥ケー　ヤッ˩トゥ˥シ　ア˩ラ˥キ　キ˩ラ˥リン [ku˩ma:ba:˥ke: jat˩tu˥ʃi ʔa˩ra˥ki ki˩ra˥riŋ](ここまではかろうじて＜やっとのことで＞歩いて来られる)。

ヤ˩ツ˥ヌ　ス˩ブ **[ja˩tsu˥nu su˩bu]** 【連】灸点。お灸をすえる場所。お灸の壺。バ˩タ˥ヤンヌ　ヤ˩ツ˥ヌ　ス˩ブ˥　ナライティ　˥ヤツ　ヤ˩キ˥バ [ba˩ta˥jannu ja˩tsu˥nu su˩bu˥ naraiti ˥jatsu ja˩ki˥ba](腹痛の灸点を習ってお灸をすえなさいよ)。

˩**ヤッパルン [˩japparuŋ]** 【自動】頑張る。粘る。老年層のことば。あまり使用しない。普通は˩ギーバルン [˩gi:baruŋ](頑張る) ということが多い。˩ヤッパルンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　ク˩ヌ　ウイ　ヤッパル˥　プ˩ソー˥　ブ˩ラーヌ [˩japparunti˥ ʔu˩mu:n˥du ku˩nu ʔui japparu˥ pṵ˩so:˥ bu˩ra:nu](頑張ろうと思うが、これ以上頑張る人はいない)。˩ヤッパリ˥　プサンドゥ　˩ヤッパララヌ [˩jappari˥ pṵsandu ˩jappararanu](頑張りたいが頑張れない)。˩マー˥ビン　˩ヤッパレー˥　ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ˩jappare:˥ mis-amunu](もっと頑張ればいいのに)。˩ヤッパリ˥バ [˩jappari˥ba](頑張れよ)。

˥**ヤツフチ [˥jatsuɸṵʧi]** 【名】もぐさ (艾)。ヨモギの葉を乾燥して綿のように精製したもの。˥フチ [˥ɸṵʧi] は「よもぎ (蓬)」のこと。「灸の蓬」の義。˥ヤツ

フチ ˩カイ˥キー ク˩シ˥ナー ヤツ ヤ˩キ˥ ッ˩ふィーリ [˥jatsuɸu̥tʃi ˩kai˥ki: ku̥˩ʃi˥na: ˥jatsu ja˩ki˥ f˩fi:ri](もぐさ＜艾＞を買ってきて腰に灸を据えて＜焼いて＞くれ)。

˥ヤツ ヤ˩クン [˥jatsu ja˩kuŋ] 【連】1治療の灸を据える。フ˩タイ˥ナー ˥ヤツ ヤ˩クン [ɸu̥˩tai˥na: ˥jatsu ja˩kuŋ](額に灸を据える)。2懲らしめる。懲罰を与える。˥ドゥク ナ˩ク˥カー シ˩ビ˥ナー ˥ヤツ ヤ˩キ˥バ [˥duku na˩ku˥ka: ʃi˩bi˥na: ˥jatsu ja˩ki˥ba](あんまり我がまま放題で泣いたらお尻にお灸を据えて懲らしめてやりなさい)。

ヤ˩トゥ [ja˩tu] 【名】(海底地名)。外洋部から干瀬の方へ深く切り込むように形成された渓谷状の珊瑚礁の裂け目。大潮の夜の干潮時に村人たちはヤ˩トゥ [ja˩tu](珊瑚礁の裂け目) に来て、パ˩シ˥ナー [pḁ˩ʃi˥na:](イットウダイの仲間) やビ˩キパシナー [bi˥kipaʃina:](スミツキエビス)、˩ミーパシ˥ナー [˩mi:paʃi˥na:](トガリエビス) などを釣り上げた。「鎌倉に、いりいりをやつとなづく。さて、谷の字をやつとよめる心如何」『名語記』五、「湿地の意のアイヌ語ヤチからか『東方言語史叢考』」『日本国語大辞典』と関係あるか。

˥ヤドゥ [˥jadu] 【名】宿。宿屋。旅先で泊まる場所。「君が行く海辺の夜杼＜ヤド＞に〜。万、3580」の転訛。イ˩ツォーン˥プソー ム˩カ˥シェーラ ˩ベー˥ナー ヤ˩ド˥バ トゥ˩リ˥ル イ˩ガメー˥ ン˩ゾー ッ˥タ˩ダー [ʔi˩tso:m˥pu̥so: mu˩ka˥ʃe:ra ˩be:˥na: ja˩du ˥ba tu˩ri˥ru ʔi˩game:˥ ʔn˩ʤo:t˥ta˩da:](糸満漁師は昔から我が家に宿にとって＜ぞ＞イカ釣り漁に出られたものだよ)。

˥ヤドゥ [˥jadu] 【名】戸。家の戸。雨戸。「夕さらば屋戸＜ヤド＞あけまけて〜。万 744」の転訛したもの。イ˩ツァ˥ヤドゥ [ʔi˩tsa˥jadu](板戸)。トゥ˩ルッ˥クビ [tu˩ruk˥kubi](「取り壁」の義。草戸。取り外し式の茅で作った戸)。˥ヤドゥ ア˩クン [˥jadu ʔa˩kuŋ](戸を開ける)。˥ヤドゥ ˩フーン [˥jadu ˩ɸu:ŋ](戸を閉める)。˩ナー˥ヤドゥ [˩na:˥jadu](長い戸)。˩パン˥ヤドゥ [˩paŋ˥jadu](半戸。高窓の戸)。

˥ヤトゥーン [˥jatu:ŋ] 【他動】雇う。「Yatoi,tô,ôta. ヤトイ、ゥ、ゥタ (雇ひ、ふ、うた) 賃銭を出して人などを雇う」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。バ˩コーシン˥カ ˥ヤトゥーンティ ウ˩ムーン˥ドゥ ˩パンタ˥サンダ マ˩ナ˥マー ヤ˩トー˥ヌ [ba˩ko:ʃiŋ ˥ka ˥jatu:nti ʔu˩mu:n˥du ˩panta˥sanda ma˩na˥ma: ja ˩to:˥nu](共同作業の人足を雇おうと思うが、忙しいから今は雇わない)。ヤ˩トゥイ˥ プサカー ヤ˩トゥイ˥ヤー ˥ミサムヌ [ja˩tui˥ pu̥saka: ja˩tui˥ja: ˥misamunu](雇いたければ雇えばいいのに)。˥ヤトゥー ˥ピンマー ヤー˩ディン˥ カ˩リ˥ ヤトゥイ˩ヨー [˥jatu: ˥pimma: ja:˩diŋ˥ ka˩ri˥ jatui˩jo:](雇う時は必ずあれ＜彼＞を雇えよ)。

˥ヤトゥーン [˥jatu:ŋ] 【他動】移植する。圃場(ホジョウ)に種蒔(タネマキ)して苗に育てた後、本圃場に移植する。カ˩ブッチ˥ヌ ˥ナイ ˥ヤトゥーンティ ˩ベー˥ンドゥ ク˩マー˥ヤ ヤ˩トーラ˥ヌ [ka˩buttʃinu˥ nai ˥jatu:nti ˩be: ˥ndu ku˩ma:˥ja ja˩to:ra˥nu](南瓜の苗を移植しようとしているが、ここには移植できない＜されない＞)。マ˩ナ˥マ ˥ヤトゥイ ˥ミサカー ˥ヤトゥー ˥クトー ˥ナルン [ma˩na˥ma ˥jatui ˥misaka: ˥jatu: ˥ kuto: ˥naruŋ](今移植してよければ、移植することはできる)。˥クナー ヤ˩トゥイ˥ヤー ˥ミサムヌ [˥ kuna: ja˩tui˥ja: ˥misamunu](ここに移植すればいいのに)。˩ナイ˥ヤー ˩パー˥ク ˥ヤトゥイバ [˩nai˥ja: ˩pa:˥ku ˥jatuiba](苗は早く移植しなさいよ)。

˥ヤドゥ ˩スン [˥jadu ˩suŋ] 【連】宿を取る。宿泊する。˩ワッ˥テナー ˥ヤドゥ シ˩ミ˥ ッ˩ふォーラン˥カヤー [˩wat˥tena: ˥jadu ʃi˩mi˥ f˩fo:raŋ˥kaja:](貴方の家に宿泊させ＜宿にさせて。宿を取らせて＞くださいませんか)。

ヤ˩ドゥ˥チン [ja˩du˥ʧiŋ] 【名】宿賃。イ˩サナキヌ˥ ヤ˩ドゥ˥ヤーナ トゥ˩マル˥カー ヤ˩ドゥチン˥マー ˩ギューサ˥ナー パ˩ラウ˥ワ [ʔi˩sanakinu˥ ja˩du ˥ja:na tu˩maru˥ka: ja˩duʧim˥ma: ˩gju:sa˥na: pa˩rau˥ wa](石垣の宿屋に泊まると宿賃はいくらずつ支払うか)。

ヤ˩ドゥ˥ヌ ˥サン [ja˩du˥nu ˥saŋ] 【連】雨戸の桟。雨戸の外枠。横三尺、縦六尺の企画で作った。ヤ˩ドゥ˥ヌ ˩サン˥マー シ˩ギキー˥シル ス˩クラ˥リ ˩ブー [ja˩du˥nu ˩sam˥ma: ʃi˩giki:˥ʃiru su̥˩kura˥ri ˩ bu:](雨戸の桟は杉木で作られている)。

ヤ˩ドゥパシ˥ル [ja˩dupaʃi˥ru] 【名】戸。雨戸。引き戸。ヤ˩ドゥパシ˥ル ˩スーラ˥スン [ja˩dupaʃi˥ru ˩su:ra˥ suŋ](雨戸を強化する)。

˥ヤドゥ ˩フーン [˥jadu ˩ɸu:ŋ] 【連】戸をたて(閉(タテ))る。戸を閉める。戸を閉め切る。˥ユネン ˥ナルカー ˥ヤドゥ ˩フーン [˥junen ˥naruka: ˥jadu ˩ɸu:ŋ](夜になると戸を閉める)。

ヤ˩ドゥ˥フイ [ja˩du˥ɸui] 【名】戸締り。戸を閉めること。˥ヌンティ ヤ˩ドゥ˥フイ ˩シー˥ シケーワ [˥nunti ja˩du˥ɸui ˩ʃi:˥ ʃi̥ke:wa](どうして戸締りして

あるのか)。

ヤ˞ドゥ˥フジ [ja˞duˀɸuʤi] 【名】戸締りをすること。˥ヤドゥ [ˀjadu](戸) は、「屋戸」の義。「〜屋戸＜ヤド＞開け負けて吾待たむ〜。万、744」の転訛したもの。戸締りをする際に、二人で競争して戸を閉めるのを嫌った。葬式の際、出棺した後に二、三人で大急ぎで戸締りをし、死者の霊が家に戻らぬようにして葬列(ソウレツ)に従ったことから、それを忌む風習がある。˥ヤドー　ウ˞トゥ˥　タ˞トゥン˥ヨーニ＜タ˞タン˥ヨーニ＞　˞ヤーラマ˥シ　˞フイ˥　フ˞タール˥シ　˞キッ˥スー　˞シー˥　ヤ˞ドゥ˥フジ　˞スーナ [ˀjado: ʔu˞tu˥ tḁ˞tuɲ˥jo:ni＜tḁ˞taɲ˥jo:ni＞ ˞ja:rama˥ʃi ˞ɸui˥ ɸu̥˞ta:ru˥ʃi ˞kis˥su ˞ʃi:˥ ja˞du˥ɸuʤi ˞su:na](戸は音を立てないようにゆっくり閉めなさい。二人で急いで＜競争して＞戸締りするな)。˥ヌンティ˥アイニ　ヤ˞ドゥ˥フジ　˞シー˥　シケーワ　˥ヤドゥ　ア˞キリ [ˀnunti ˥ʔaini ja˞du˥ɸuʤi ˞ʃi:˥ ʃi̥ke:wa ˥jadu ʔa˞kiri](何故、あのように戸を閉め切ってあるのか。戸を開けろ)。

ヤ˞ドゥ˥フチ [ja˞duˀɸu̥ʧi] 【名】戸口。「〜君来まさむと知らませば　門にも屋戸＜ヤド＞にも珠敷かましを。万、1013」の義。ヤ˞ドゥ˥フチナー　˥タティティ　˥フカンター　˥ミリ　˞ベー [ja˞du˥ɸu̥ʧina: ˥tḁtiti ˥ɸu̥kanta: ˥miri ˞be:](戸口に立って外の方を見ている)。ヤ˞ドゥ˥フチ　ッ˞サウナ [ja˞du˥ɸu̥ʧi s˞sauna](戸口を塞(フサ)ぐな)。

ヤ˞ドゥ˥ヤー [ja˞du˥ja:] 【名】宿屋。イ˞サナキ˥ナー　ヤ˞ドゥ˥ヤー　˥トゥミ　シ˞キ˥リ [ʔi˞sanaki˥na: ja˞du˥ja: ˥tumi ʃi̥˞ki˥ri](石垣島で宿屋を探しておきなさい)。

ヤ˞ドゥ˥リ [ja˞du˥ri] 【名】宿。旅の宿。宿泊するところ。「〜荒津の濱に屋取＜ヤドリ＞するかも。万、3215」の転訛したもの。ウ˞キ˥ナー　˥パルカー　ウ˞トゥ˥ザン　˞オーラン˥ムヌ　˥マナール　ヤ˞ドゥ˥リ　˞スーワ [ʔu˞ki˥na: ˥paruka: ʔu˞tu˥ʤaŋ ˞ʔo:ram˥munu ˥mana:ru ja˞du˥ri ˞su:wa](沖縄へ行ったら親戚もいらっしゃらないのに、どこで宿泊＜宿り＞をするのか)。

ヤ˞ドゥル˥ガン [ja˞duru˥gaŋ] 【名】 (地) 西表島の北部、˞クーラ [ˀku:ra](久浦) の西にある˥シザバナリ [ˀʃiʤabanari](下離) 岬の先端部の南側、ナ˞ダラ [na˞dara](ナダラ川の北岸一帯) に昔の˥スラバ [ˀsuraba](造船所) の跡があったという。そこから採掘された石炭を燃やして造船用の平釘を鍛冶屋で作ったという。六反帆の地舟を造ったが、˥カシンキー [ˀkaʃiŋki:](樫の木) 一本から一枚の板を削り出したという。従って舟は、˥アシン　ビ˞リシタ [ˀʔaʃim bi˞riʃi̥ta](喫水(キッスイ)も深かった) という。この舟で˞ゾー˥ノー [˞ʤo:˥no:](上納米や御用布) を石垣島へ運んだという。時化の時は干瀬の外海へ出られないから、ガ˞バナレー [ga˞banare:](赤離) の˥ピザダーチ [ˀpiʤada:ʧi](海岸沿い) をサ˞ライティ [sa˞raiti](浚渫(シュンセツ)して)、そこから舟を通して˥ユチン [ˀjuʧiŋ] の˥バター [ˀbata:](湾) を回ってユ˞ノーラミズ [ju˞no:ramiʤu](ユノーラ澪・海峡) を渡したという。

ヤ˞ナ [ja˞na] 【接頭】悪い。「嫌」の義。ヤ˞ナ˥イジ [ja˞na˥ʔiʤi](どなりつけること。どやすこと。悪しざまに叱ること)。ヤ˞ナ˥カジ [ja˞na˥kaʤi](悪霊。＜悪い風＞)。ヤ˞ナキム [ja˞nakimu](悪心。悪意。悪い気持ち)。ヤ˞ナクイ [ja˞nakui](悪い声)。ヤ˞ナシー [ja˞naʃi:](粗雑な仕事)。ヤ˞ナッサーク [ja˞nassa:ku](悪質な咳。性質の悪い咳)。ヤ˞ナソー [ja˞naso:](悪い知らせ。＜悪い左右＞)。ヤ˞ナ˥ムニ [ja˞na˥muni](悪口)。ヤ˞ナ˥ムヌ [ja˞na˥munu](悪霊。悪もの)。ヤ˞ナプス [ja˞napu̥su](悪人)。

˥ヤナ [ˀjana] 【名】魚の巣。˥アナ [ˀʔana](穴) の転訛したもの。ヤ˞ナザ˥コー [ja˞naʤa˥ko:](海底の巣＜穴＞に棲息(セイソク)する雑魚(ザコ)。カツオの餌(エサ)となる小魚)。サ˞ネー˥ラーヤ　フ˞カトゥー˥ヌ　˥ヤナナール　˞ブンダ˥　ウマーラ　˞ウイ˥　ン˞ザ˥シティル　ム˞ジ˥アンシ　ス˞クータ [sa˞ne:˥ra:ja ɸu̥˞katu:˥nu ˥janana:ru ˞bunda˥ ʔuma:ra ˞ʔui˥ ʔn˞ʤa˥ʃi̥tiru mu˞ʤi˥ʔaŋʃi su̥˞ku:ta](カツオの最高の餌であるサネーラは深い海の穴場にいるから、そこから追い出して、網目の細かいム˞ジ˥アン [mu˞ʤi˥ʔaŋ]＜ムジ網＞で掬った)。

ヤ˞ナー [ja˞na:] 【名】悪いもの。劣悪(レツアク)な物。悪質なもの。˥アイブー　ヤ˞ナーヤ˥　シュ˞カーラヌ [ˀʔaibu: ja˞na:ja˥ si̥˞ka:ranu](あんな劣悪な物は使えない)。

ヤ˞ナアサビ [ja˞naʔasabi] 【名】悪い遊び。˥タンザンドゥ　˥バー　ッ˞ふァン˥　ヤ˞ナアサビバ˥　ナ˞ラーシ˥ター [ˀtanʤandu ˥ba: f˞faŋ˥ ja˞naʔasabiba˥ na˞ra:ʃi̥˥ta:](どいつ＜何奴＞が私の子に悪い遊びを教えたのか)。

ヤ˞ナアシュカイ [ja˞naʔasi̥kai] 【名】酷使(コクシ)。ひどい(酷い) 扱い方。「悪い扱い」の義。˞ピー˥タイナー　ヤ˞ナアシュカイ˥　サ˞リティル˥＜シ˞ラリティル˥＞　ドゥー　ヤ˞マ˥シ　˥シケー [˞pi:˥taina: ja˞naʔasi̥kai ˥sa˞ritiru˥＜ʃi˞raritiru˥＞ du: ja˞ma˥ʃi ˥ʃi̥ke:](兵役＜兵隊＞で酷く扱われて病気になっている＜体を病

ましてある >)。

ヤ˞ナイジ [ja˞naʔiʤi] 【名】罵倒(バトウ)すること。激しく叱ること。ヤ˞ラ˥ベー　ヤ˞ナイジ　シー˥　ナ˞ラー˥スモー　ア˞ラ˥ヌ　˞カシカーシマー˥シェーティル　イ˞ジ˥　ナ˞ラー˥ス [ja˞ra˥be: ja˞na˥ʔiʤi ˞ʃi:˥ na˞ra:˥sumo: ʔa˞ra˥nu ˞kaʃi̥ka:ʃima:˥ʃe:tiru ʔi˞ʤi˥ na˞ra:˥su](子供は罵倒して教えるものではない。なだめ < 宥め > すかし < 賺し >、機嫌をとりながら言い含めて教える < 習わせる > ものだ)。

ヤ˞ナイビ [ja˞naʔibi] 【名】雑な植え方。整然(セイゼン)としない植え方。˞マイヤー˥　ヤ˞ナイビ　サンドー˥シカ˞シーカシー˥　イ˞ビ˥バ [˞maija:˥ ja˞naʔibi sando: ˥ʃi ka˞ʃi:kaʃi:˥ ʔi˞bi˥ba](稲は乱雑な植え方をしないで、整然 < しっかり > と植えなさいよ)。

ヤ˞ナイミ [ja˞naʔimi] 【名】悪夢。悪い夢。不吉な夢。˞ソーイミ [˞so:ʔimi](良い夢) の対義語。サ˞カイミ [sḁ˞kaʔimi](逆夢(サカユメ))、˞マーイミ [˞ma:ʔimi](正夢) などがある。ク˞ヌ˥グロー　ヤ˞ナイミヌ˥　ミ˞ラリ˥ヌ　˥ヌンティカヤー　ウ˞ヤプスン˥マイ　˞ティー˥ッサイ　シ˞キ˥リバ˞ヨー [ku˞nu˥guro: ja˞naʔiminu˥ mi˞rari˥nu ˥nuntikaja: ʔu˞japusu˥numai ˞ti:˥ssai ʃi̥˞ki ˥riba˞jo:](この頃は悪い夢が見られるのだが、何故だろうか。ご先祖さまに手を合せて拝んで < 合掌(ガッショウ)して > おきなさいよ)。

ヤ˞ナウヤーリ [ja˞naʔuja:ri] 【名】絶叫(ゼッキョウ)。大声で叫ぶこと。「悪叫び」の義。ウ˞ヤー˥リ [ʔu˞ja:˥ri](大声で叫ぶ) は、「〜天仰ぎ叫於良妣 < オラビ > 足ずりし〜。万、1809」の「おらび」の転訛したものか。˥ワンザーヒャー　˞アッ˥タニ　ヤ˞ナウヤーリ　シー˥　プ˞スバ˥　ウ˞ダラカ˥シ　˥ヌーヤ　ウ˞レー [˥wanʤa:ça: ˞ʔat˥tani ja˞naʔuja:ri ʃi:˥ pu̥˞suba˥ ʔu ˞daraka˥ʃi ˥nu:ja ʔu˞re:](お前って野郎は、急に絶叫して人を驚かせて、いったい何ごとだね、それは)。

ヤ˞ナオーシキ [ja˞naʔo:ʃi̥ki] 【名】悪天候。悪い天気。˞オーシキ [˞ʔo:ʃi̥ki](天気) は「おはつき」(天気)『ウムイ』の転訛したもの。ヤ˞ナオーシキヌ˥　シ˞ジキティ˥　イ˞ソー˥　ン˞ジララ˥ヌ [ja˞naʔo:ʃi̥kinu˥ ʃi˞ʤikiti˥ ʔi˞so:˥ ʔn˞ʤirara˥nu](悪天候が続いて漁に出られない)。

ヤ˞ナカーギ [ja˞naka:gi] 【名】不美人。シ˞ラカタ˥チェー　ヤ˞ナカーギ˥　ヤ˞ルンドゥ˥　キモー　˞カイ˥ヤン [ʃi˞rakata˥ʧe: ja˞naka:gi˥ ja˞rundu˥ kimo: ˞kai˥ jaŋ](容姿 < 顔形 > は不美人だが、心は美しい)。

ヤ˞ナカコー [ja˞nakako:] 【副】変に。変な具合に。悪い恰好(カッコウ)。˞ワー˥　ス˞クˇルカー　˞カイ˥テー　ヤ˞ナカコー˥　ナ˞リ˥ス [˞wa:˥ su̥˞ku˥ruka: ˞kai˥te: ja˞nakako:˥ na˞ri˥su](君が作ったら却(カエ)って変な具合になってしまう)。

ヤ˞ナカザ [ja˞nakaʤa] 【名】悪臭(アクシュウ)。悪いにおい (臭い)。˥クマー　ヤ˞ナカザヌ　スーヌ　ヌー˥ヌ　˥ッサリ　˞ベー˥カヤー [˥kuma: ja˞nakaʤanu su:nu nu: ˥nu ˥ssari ˞be:˥kaja:](ここは悪臭がするのだが、何が腐っているのかなあ)。

ヤ˞ナ˥カジ [ja˞na˥kaʤi] 【名】悪い風。それに当たると寒気立って妖怪(ヨウカイ)にまよわされる魔風(マフウ)。普通はヤ˞ナ˥カジ　ア˞マリ˥カジ [ja˞na˥kaʤi ʔa˞mari˥kaʤi](悪い風、余り風) のようにいう。˞ユー˥ル　˞タンガ˥シ　ミ˞チェー˥ラ　ア˞ラ˥キ　˞アー˥クンケン　ヤ˞ナ˥カジナー　ア˞タリティ˥　マ˞ヤーサ˥リ　˞アーク˥タツォー [˞ju:˥ru ˞taŋga˥ʃi mi˞ʧe:˥ra ʔa˞ra˥ki ˞ʔa:˥kuŋkeŋ ja˞na˥kaʤina ʔa˞tariti˥ ma˞ja:sa˥ri ˞ʔa:ku ˥tatso:](夜一人で道を歩いていたら魔風に当たって、迷わされていたそうだ)。

ヤ˞ナカジ [ja˞nakaʤi] 【名】悪い風。台風。暴風。ヤ˞ナカジヌ˥　フキティ　ス˞クリ˥ムノー　ムー˞ルトーサ˥リ　˞ナー˥ヌ [ja˞nakaʤi˥nu ˥ɸu̥kiti su̥˞kuri˥ muno: mu:˞ru to:sa˥ri ˞na:˥nu](暴風が吹き荒れて作物は総て倒されてしまった)。

ヤ˞ナカンガイ [ja˞nakaŋgai] 【名】悪い考え。愚かな考え。パ˞タラケー˥　サ˞ムテイ˥　プ˞スバ˥　ダ˞マシティ˥　ジン　˞モー˥クンティ　˞スー˥　ヤ˞ナカンガイヤ˥　ス˞ナ˥ヨー [pḁ˞atarake:˥ sa˞muti˥ pu̥˞suba˥ da˞maʃi̥ti˥ ʤim ˞mo:˥kunti ˞su:˥ ja˞nakaŋgaija: ˥ su˞na˥jo:](働きはしないで、他人を騙して金を儲けようとする悪い考えは持つな < するな > よ)。

ヤ˞ナ˥ギ [ja˞na˥gi] 【名】(植) 柳。パ˞トゥ˥マナー　ヤ˞ナギ˥ヌ　イ˞バリ < イ˞ビラリ >　ブー　ヤー˥ヤ　˞ナー˥ヌ [pḁ˞tu˥mana: ja˞nagi˥nu ʔi˞bari < ʔi˞bi-rari > bu: ja:˥ja ˞na:˥nu](鳩間島に柳が植えられている家はない)。

ヤ˞ナギゴー˥リ [ja˞nagigo:˥ri] 【名】柳行李。標準語からの借用語。戦前には、台湾や本土へ出稼ぎに行く人に、旅行用の衣類入れとして重用された。ヤ˞ナギゴー˥リナール　˥キンカーン　タ˞ベー˥ラヌ　˥シトゥン　イ˞リティ˥　ム˞トーッタ˥ル [ja˞nagigo: ˥rina:ru ˥kiŋka:n ta˞be:˥ranu ˥ʃi̥tuŋ ʔi˞riti˥ mu˞to:tta˥ ru](柳行李に < ぞ > 衣類も、旅からのお土産 < つと。苞 > も入れて持ってこられたものだ)。

ヤ˞ナキム [ja˞nakimu] 【名】悪心。悪い心。悪事を

働く心。˥アイブー　ヤ˞ナキムバ˥　ムティ　˞ブー˥　プ˞ソー˥　ミリ　ミ˞ラ˥ヌ [˥ʔaibu: ja˞nakimuba˥ muti ˞bu:˥ pu̥˞so:˥ miri mi˞ra˥nu](あんなに悪心を持っている人は、見たことがない＜見て見ない＞)。

ヤ˞ナキン [ja˞nakiŋ]【名】粗末な着物。古着。着古して破れた着物。ム˞カ˥シェー　ヤ˞ナキンバ＜ッ˞ふキン˥バ＞　パンツァシティル˥　シ˞ビシケー˥ヤ　ス˞コールタル [mu˞ka˥ʃe: ja˞nakimba＜f˞fukim˥ba＞ pantsaʃi̥tiru˥ ʃi˞biʃi̥ke:˥ja su̥˞ko:rutaru](昔は、古着を解いてオムツを用意したものだ)。

ヤ˞ナクンゾー [ja˞nakundʑo:]【名】ひどく立腹しやすい性格。激昂(ゲキコウ)(激高) する性格。˞ウンザー˥　ヤ˞ナクンゾー˥　ヤ˞ルンダ　クン˥ゾー　˥ンズカー　ナ˞クラーン˥ダー [˞ʔundʑa:˥ ja˞nakundʑo:˥ ja˞runda kun˥dʑo: ˥ʔndʑuka: na˞kura:n˥da:](あいつは激高する性格だから、怒る＜根性が出ると＞と怖いぞ)。

ヤ˞ナザ˥コー [ja˞nadʑa˥ko:]【名】カツオの餌で、海底の魚巣＜穴＞に棲息する、サ˞ネー˥ラ [sa˞ne:˥ra] などの小魚。ヤ˞ナザ˥コー　˥ムティパルカー　˞タイロー　スン [ja˞nadʑa˥ko: ˥mutiparuka: ˞tairo: suŋ](ヤナザコーを餌として持っていくと大漁する)。

ヤ˞ナシー [ja˞naʃi:]【名】悪い仕方。悪い仕事。粗雑な仕方。シ˞グトゥバ˥　ヤ˞ナシー　スー˥カー　˥ウヌ　˥ブンマー　˞ドゥー˥ヌ　˥マイニル　˞カイ˥リ　˥クー˞ダー [ʃi˞gutuba˥ ja˞naʃi: su:˥ka: ˥ʔunu ˥bumma: ˞du:˥nu ˥mainiru ˞kai˥ri ˥ku:˞da:](仕事を粗雑にすると、その分は自分の方＜前＞に返ってくるものだよ)。

ヤ˞ナシー [ja˞naʃi:]【名】悪い血。ヌ˞ブシヌ　スーワ˥トゥ　カ˞タコーリ˥ヌ　˞スー˥ワンダ　˞ブー˥ブーシ　ヤ˞ナシー˥　トゥ˞ラン˥カー　ナ˞ラン˥ツォー [nu˞buʃinu su:wa˥tu kḁ˞tako:ri˥nu ˞su:˥wanda ˞bu:˥bu:ʃi ja˞naʃi:˥ tu˞raŋ˥ka: na˞ran˥tso:](逆上(ノボセ)が強いのと、肩こりが強いので瀉血(シャケツ)で悪い血を取らないといけないそうだ)。

ヤ˞ナシゥカイ [ja˞nasi̥kai]【名】金銭の悪用。無駄遣い。悪い方向に使うこと。˞ナン˥ギクロー　˞シー˥　タ˞メー˥ル　˞ジン˥マー　ヤ˞ナシゥカイ　サンドー˥シ　˞ジー˥マシ　˞カイ˥バ [˞naŋ˥gikuro: ˞ʃi:˥ ta˞me:˥ru ˞dʑim˥ma: ja˞nasi̥kai sando:˥ʃi ˞dʑi:˥maʃi ˞kai˥ba](難儀苦労をして貯めた金は無駄遣いしないで、土地財産を買いなさいよ)。

ヤ˞ナシゥカラ [ja˞nasi̥kara]【名】ばかぢから (馬鹿力)。くそぢから (糞力)。ウ˞レー˥　ミ˞ドゥムンケー˥ヌ　˥マイナーテー　ヤ˞ナシカラ˥　ン˞ザ˥シ　ノー˞シェー˥ル　˥ムヌン　ピ˞キムタイ˥　カ˞タ˥ムン [ʔu˞re:˥ mi˞dumuŋke:˥nu ˥maina:te: ja˞nasi̥kara˥ ʔn˞dʑa˥ʃi no:˞ŋʃe:˥ru ˥munum pi̥˞kimutai˥ kḁ˞ta˥muŋ](彼＜あれ＞は、女性たちの前では馬鹿力を出して、如何なる物でも引き持ち上げて担ぐ)。

ヤ˞ナシムチ [ja˞naʃimutʃi]【名】悪意。悪い心がけ。悪い精神。不愉快な気持ち。「悪気持ち」の義。ヤ˞ナシムチヌ˥　アルカー　イ˞カーラ˥　ン˞マー˥ムヌ　ッ˞ふァーシタンティン　ピッ˥チン　ン˞マー　ナー˥ヌ [ja˞naʃimutʃinu˥ ʔaruka: ʔi˞ka:ra˥ ʔm˞ma: ˥munu f˞fa:ʃitantim pit˥tʃim ʔm˞ma: na:˥nu](悪意があると、いくら美味しいものを食べさせたとしても、ちっとも＜ひとつも＞美味しくない)。

ヤ˞ナスクリ [ja˞nasu̥kuri]【名】粗雑な作りかた。下手な作り。粗雑な製法。˞ドゥー˥ヌ　˥ムノー　ク˞メーキ˥　ス˞ク˥リティ　プ˞スヌ˥　ムノー　ヤ˞ナスクリ　シー˥　シケー [˞du:˥nu ˥muno: ku˞me:ki˥ su̥˞ku˥riti pu̥˞sunu˥ muno: ja˞nasu̥kuri ʃi:˥ ʃi̥ke:](自分のものは細かく入念に作っておいて、他人の物は粗雑な作りにしてある)。

ヤ˞ナソー [ja˞naso:]【名】旅からの悪い知らせ。旅からの悪い便り。旅からの訃報。旅からの凶報。˞ソー [˞so:] は、「其のさう＜左右＞を今や今やと待ちける所に～」『太平記』、「sŏ. サウ (左右) 左の方と右の方と. また、知らせ、また、便り」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。タ˞ビ˥ナーテー　˥ドゥーゾーシ　パ˞タラキティ˥　ヤ˞ナソー˥　シゥ˞カサンドー˥シ　˞チャー　イーソー˥　カー˞ニ˥　シゥ˞カシト ヨー [ta˞bi˥na:te: ˥du:dʑo:ʃi pḁ˞tarakiti˥ ja˞naso:˥ si̥˞kasando: ˥ʃi ˞tʃa: ʔi:so:˥ ka:˞ni˥ si̥˞kaʃiトjo:](旅では健康で＜胴強く＞働いて、悪い知らせを聞かせないで、常に良い知らせを送り＜聞かせ＞なさいよ)。

ヤ˞ナタクマ [ja˞natakuma]【名】悪巧(ワルダクミ)。奸知の働く人。悪知恵の人。ウ˞レー˥　ヤ˞ナタクマ˥　ヤ˞ルンダ˥　ウ˞リトー　マーズンマー˥　シ˞グトー˥　シ˞ララヌ [ʔu˞re:˥ ja˞natakuma˥ ja˞runda˥ ʔu˞rito: ma:dʑumma:˥ ʃi˞guto:˥ na˞ra˥nu](彼は奸知の働く人だから、彼とは一緒には仕事は出来ない)。

ヤ˞ナッふァ [ja˞naffa]【名】悪い子。悪童。「悪子等」の転訛したもの。ヤ˞ビッ˥ふァ [ja˞bif˥fa](性格の曲がった子) ともいう。マ˞リットーラヌ˥　ヤ˞ナッふァ˥　ヤ˞ビッ˥ふァテー　ブ˞ラーヌ [ma˞ritto:ranu˥ ja˞naffa˥ ja˞bif˥fate: bu˞ra:nu](生まれつきの悪童、性格のひん曲がった子供は＜とては＞いない)。

ヤ˞ナナキ [ja˞nanaki] 【名】動物の不吉な鳴き声。犬や鶏などの異常な鳴き声。「悪鳴き」の義。˞インˉヌン　トゥ˞ルンˉ　ヤ˞ナナキ　スーˉカー　ウ˞リヌˉ　ン˞カウˉ　トンナー　ヤ˞ナクトゥヌˉ　ウ˞クˉルンティ˞ダー [˞ʔinˉnun tu˞ruŋˉ ja˞nanaki suːˉkaː ʔu˞rinuˉ ŋ˞kauˉ tonnaː ja˞nakutunuˉ ʔu˞kuˉrunti˞daː](犬も鶏も不吉な鳴き方をすると、それが向く所に凶事＜悪いこと＞が起きるそうだよ)。

ヤ˞ナナラーシ [ja˞nanaraːʃi] 【名】悪いしつけ。悪い習慣。ヤ˞ナナラーシ　シーˉ　ス˞ダティラˉレール　ッ˞ふァˉ　ヤ˞ルンダ　マーパカラーサ　ナーˉヌ [ja˞nanaraːʃi ʃiːˉ su˞datiraˉreːru f˞faˉ ja˞runda maːpakaraːsa naːˉnu](悪い躾をして育てられた子供だから、真っ当さ＜信頼のおけるまともさ、思慮深さ＞がない)。

ヤ˞ナナライ [ja˞nanarai] 【名】悪い習慣。悪癖。「悪習」の義。ˉナライ [ˉnarai](習慣) は「Narai. ナライ (習ひ) 例、Naraino michi.(習いの道) 何か物事を学び習う方法」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞タンガˉッふァティ　˞シーˉ　ヤ˞ナナラーシˉ　シ˞ラリティˉ　マ˞ナˉマ　シ˞キˉティン　ア˞サニビˉヌ　ヤ˞ナナライヤーˉ　マ˞ダ　ナウラˉヌ [˞taŋgaˉffati ˞ʃiːˉ ja˞nanaraːʃiˉ ʃi˞rarit̪iˉ ma˞naˉma ʃi̥˞kiˉtiŋ ʔa˞sanibiˉnu ja˞nanaraijaːˉ ma˞da naura˜nu](一人っ子とて悪い習慣＜躾け＞を付けさせられて、今日に至るまで朝寝坊の悪い習慣は、まだ直っていない)。

ヤ˞ナバタ [ja˞nabata] 【名】悪心。悪事をしようとする心。立腹しやすい人。性悪(ショウワル)。ウ˞レーˉ　ヤ˞ナバタˉ　ヤ˞ルンダ　ヌーˉ　スーユー　ワ˞カラˉヌ [ʔu˞reːˉ ja˞nabataˉ ja˞runda nuːˉ suːjuː wa˞karaˉnu](あれ＜彼＞は性悪だから何をするか分らない)。

ヤ˞ナフシ [ja˞naɸu̥ʃi] 【名】悪い癖。悪癖。悪い習慣。ウ˞レーˉ　サ˞キˉ　ヌムカー　プ˞スンナーˉニ　ヌ˞リカブˉ　ヤ˞ナフシヌˉ　アルンダ　˞キーˉ　シ˞キˉリ [ʔu˞reːˉ sḁ˞kiˉ numukaː pu̥˞sunnaːˉni nu˞rikabuˉ ja˞naɸu̥ʃinuˉ ʔarunda ˞kiːˉ ʃi̥˞kiˉri](彼は酒を飲むと他人に口論を吹っかける悪癖があるので、気を付けなさいよ)。

ヤ˞ナフチ [ja˞naɸu̥ʧi] 【名】悪口。悪口をいう性癖。口汚く罵ること。ウ˞リヌˉ　ヤ˞ナフチェーˉ　マ˞ナˉマ　シ˞キˉティン　˞ノーラˉヌ [ʔu˞rinuˉ ja˞naɸu̥ʧeːˉ ma˞naˉma ʃi̥˞kiˉtin ˞noːraˉnu](彼の悪口＜悪口をいう性癖＞は、未だに＜今もって＞直らない)。

ヤ˞ナマリ [ja˞namari] 【名】1悪い性格。憎まれっ子の性質。ユ˞ヌ　キョーˉダイ　ヤ˞ルンドゥˉ　ウ˞リ　タンˉガー　ˉアイニ　ヤ˞ナマリバ　シー　ブートツォー [ju˞nu kjoːˉdai ja˞runduˉ ʔu˞ri taŋˉgaːˉ ʔaini ja˞namariba ʃiː buːトtsoː](同じ兄弟だが、彼＜あれ＞一人だけは憎まれっ子の生まれつきをしているんだよ)。2悲運な生まれつき。˞ヌーˉヌ　バ˞チˉバ　カ˞ビˉル　ˉカイブー　ヤ˞ナマリˉ　シ˞タˉカヤー [˞nuːˉnu ba˞ʧiˉba ka˞biˉru ˉkaibuː ja˞namariˉ ʃi̥˞taˉkajaː](何の因果で＜罰を被って＞このような悲運な生まれつき＜悪い生まれ＞をしたのかなあ)。

ヤ˞ナミジ [ja˞namiʤi] 【名】洗濯汚水。台所の汚水。生活汚水。(下水など。「悪い水」の義)。ヤ˞ナミジˉ　ヤ˞ラバンˉ　シ˞ティランドーˉシ　ˉヤサイナー　カ˞キˉリ [ja˞namiʤiˉ ja˞rabaŋˉ ʃi̥˞tirandoːˉʃi ˉjasainaː kḁ˞kiˉri](生活汚水＜悪い水＞でも捨てないで、野菜にかけなさい)。

ヤ˞ナミチ [ja˞namiʧi] 【名】悪い道 (道路)。ム˞カˉシェー　ア˞ミˉヌ　ˉフーカー　ミ˞ジヌˉ　タ˞マルˉ　ヤ˞ナミチˉ　ヤ˞タンドゥト ナー [mu˞kaˉʃeː ʔa˞miˉnu ˉɸuːkaː mi˞ʤinuˉ ta˞maruˉ ja˞namiʧiˉ ja˞tanduトnaː](昔は、雨が降ると水が溜まる悪い道だったがなあ)。2あくどう (悪道)。悪い行い。ヤ˞ナドゥシトゥˉ　ム˞チˉルカー　ヤ˞ナミチェー　サンガリントダー [ja˞naduʃituˉ mu˞ʧiˉruka: ja˞namiʧeː saŋgarinトdaː](悪友と睦(ムツ)ぶと悪道に引っ張られるぞ)。

ヤ˞ナムシ [ja˞namuʃi] 【名】害虫。悪い虫。˞ナーンˉパーナ　ヤ˞ナムシヌˉ　シディティ　ムー˞ルˉ　ッ˞ふァイキサリ　ナーˉヌ [˞naːmˉpaːna ja˞namuʃinuˉ ʃiditi muː˞ruˉ f˞faikisari naːˉnu](菜っ葉に害虫が発生＜孵化して＞、全部食い尽くされてしまった)。

ヤ˞ナムニ [ja˞namuni] 【名】悪い言葉。下品な言葉。ˉムネー　イ˞ジヨーヌˉ　ア˞リˉブー　ヤ˞ナムネーˉ　シゥ˞カーンドーˉシ　˞マーˉビン　˞ソームニˉ　シゥ˞カイˉバ [ˉmuneː ʔi˞ʤijoːnuˉ ʔa˞riˉbuː ja˞namuneːˉ si̥˞kaːndoːˉʃi ˞maːˉbin ˞soːmuniˉ si̥kaiba](言葉には言い様がある。悪い言葉＜悪い表現＞は使わないで、もっと上品な＜立派な＞言葉を使いなさいよ)。

ヤ˞ナˉムニ [ja˞naˉmuni] 【名】わるくち (悪口)。他人を罵(ノノシ)ること。人を悪く言うこと。あっく (悪口)。ヤ˞ナˉムニ　イ˞ズˉカー　ˉムニン　ッ˞ふァーリンˉティ　ア˞ジバˉ　ムネー　˞カイカイˉシ　イ˞ジトヨー [ja˞naˉmuni ʔi˞ʤuˉka: ˉmuniŋ f˞faːrinˉti ʔa˞ʤibaˉmuneː ˞kaikaiˉʃi ʔi˞ʤiトjoː](悪口＜他人を悪しざまに言うこと＞をいうと、その言葉に喰われるというから、言葉＜物言い＞は美しく、丁寧に言いな

さいよ)。

ヤ˞ナムヌ [ja˞namunu] 【名】悪いもの。粗悪品。˞ソームヌ [˞soːmunu](本物。「正物」の義) の対義語。˞ソームヌン　デー˥カー　˞カーサバン˥　ミサヌ　˥カイブー　ヤ˞ナムノー　カーシェー˥　ナ˞ラ˥ヌ [˞soːmunun deː˥kaː ˞kaːsabam˥ misanu ˥kaibuː ja ˞namunoː kaːʃeː˥ na˞ra˥nu](本物なら売ってもよいが、こんなに悪い物は売ってはならない)。

ヤ˞ナ˥ムヌ [ja˞na˥munu] 【名】1悪者。悪人。ウ˞リタンガ˥バ　ヤ˞ナ˥ムヌ　˥ナシティ　ヌ˞カ˥ロー　˞ピン˥ギパリ　˞ナー˥ヌ [ʔu˞ri taŋga˥ba ja˞na˥munu ˥naʃi̥ti nu˞ka˥roː ˞piŋ˥gipari ˞naː˥nu](彼だけ＜一人＞を悪者になして、残りは逃げていってしまった)。2魔物。悪霊。お化け。˞ペーラ˥フチェーラ　ヤ˞ナムヌ˥ヌ　˞ペーラン˥ヨーニ　˞ヤーカー˥ジ　シ˞ビナージナ˥　パイ　ス˞コー˥レーンティ [˞peːra˥ɸu̥tʃeːra ja˞namunu˥nu ˞peːraŋ˥joːni ˞jaːkaː˥ʤi ʃi˞binaːʤina˥ pai su̥˞koː˥reːnti](門＜入り口＞から魔物が入らぬように、家ごとに注連縄を張ってあるさ)。

ヤ˞ナヤン [ja˞najaŋ] 【名】悪い病気。悪疫。ク˞トゥシヌ˥　フ˞ヨー˥　ヤ˞マトゥ˥ナー　ヤ˞ナヤンヌ˥　パ˞ヤー˥リ　˞ブー˥ティバン˞ナー [ku̥˞tuʃinu˥ ɸu˞joː˥ ja˞matu˥naː ja˞najannu˥ pa˞jaː˥ri ˞buː˥tiban˞naː](今年の冬は、本土＜大和＞では悪疫が流行っているそうだねえ)。

ヤ˞ナリクッチ [ja˞narikuttʃi] 【名】悪知恵。「悪理屈」の転訛したもの。˞ウンザー˥　パ˞タラケー˥　サ˞ムティ˥　ナー˞イ˥　ヤ˞ナリクッチェー˥　ッ˞ふァイティ˥　プ˞スバ˥　ダ˞マシ　ベー [˞ʔundʑaː˥ pḁ˞tarakeː˥ sa˞muti˥ naː˞ji˥ ja˞narikuttʃeː˥ f˞faiti˥ pu̥˞suba˥ da˞maʃi beː](あいつは、働きはしないで、ただ悪知恵を働かせて人を騙している)。

ヤ˞ナワザ [ja˞nawadʑa] 【名】1悪い仕事。きつい仕事。苦労の多い仕事。シ˞ティワザ [ʃi̥˞tiwadʑa](肉体労働の厳しい仕事。きつい仕事) ともいう。ア˞ガティダン˥　プ˞サ˥リティ　˞スー˥　ナ˞チヌ　ターシグ˥トゥ　パ˞タキシグ˥トー　˞フン˥トー　ヤ˞ナシグトゥティル˥　ウ˞モー˥リ [ʔa˞gatidam˥ pu̥˞sa˥riti ˞suː˥ na˞tʃinu taːʃigu˥tu pḁ˞takiʃigu˥toː ˞ɸun˥toː ja ˞naʃigututiru˥ ʔu˞moː˥ri](夏の酷熱の太陽に干されてする夏の田仕事や畑仕事は、本当に悪い仕事＜きつい仕事＞だと思われるよ)。2危お険な仕事。法に触れる悪事。ヤ˞ナワザバ　シー˥　ジン　˞モー˥クンティ　˞アーク˥ナ˞ヨー [ja˞nawadʑaba ʃiː˥ ʤim ˞moː˥kuniti ˞ʔaːku˥na˞joː](危険な仕事や法に触れる悪事をして、金を儲けようとしている＜あるく＞なよ)。

ヤ˞ナング˥チ [ja˞naŋgu˥tʃi] 【名】悪口。ヤ˞ナングチ˥ヌ　˞ゴー˥カジ　イ˞ザリ　ベー [ja˞naŋgutʃi˥nu ˞goː˥kaʤi ʔi˞ʤari beː](悪口のありったけ＜ありったけの悪口をたたかれている＞を言われている)。

ヤ˞ナンゴーリ˥ミジ [ja˞naŋgoːri˥miʤi] 【名】濁った水。「濁り水」の義。ヤ˞ナンゴーリ˥ミジ　˥ヌムカー　˥バタ　ヤ˞ブ˥ルン [ja˞naŋgoːri˥miʤi ˥numukaː ˥bata ja˞bu˥ruŋ](濁った水を飲むと腹痛を起こす＜お腹を壊す。破る＞)。

ヤ˞ナンゴー˥ルン [ja˞naŋgoː˥ruŋ] 【自動】にごる (濁る)。若年層は、ユ˞ヌンゴー˥ルン [ju˞nuŋgoː˥ruŋ](濁る) ともいう。˞カーヌ˥　ミ˞ジェー˥　カ˞ニシル˥シ　フ˞ム˥カー　ヤ˞ナンゴー˥ルンダ　ヤ˞ナンゴーラサン˥ヨーニ　ク˞バンパーシル˥シ　フ˞ミ˥バ [˞kaːnu˥ miʤeː˥ ka˞niʃiru˥ʃi ɸu˞mu˥kaː ja˞naŋgoː˥runda ja ˞naŋgoːrasaŋ˥joːni ku˞bampaːʃiru˥ʃi ɸu˞mi˥ba](井戸の水は鉄板製の釣瓶で汲むと濁るから、濁らさないようにクバの葉製の釣瓶で汲みなさい)。ヤ˞ナンゴー˥リ　˞ナー˥ヌ [ja˞naŋgoː˥ri ˞naː˥nu](濁ってしまった)。ヤ˞ナンゴー˥ル　˥クトー　˞ナー˥ヌ [ja˞naŋgoː˥ru ˥ku̥toː ˞naː˥nu](濁ることはない)。˞マー˥ビン　ヤ˞ナンゴー˥レー　˥ミサムヌ [˞maː˥biŋ ja˞naŋgoː˥reː ˥misamunu](もっと濁ればいいのに)。ヤ˞ナンゴー˥リ [ja˞naŋgoː˥ri](濁れ)。

ヤ˞ナンザ [ja˞nandʑa] 【名】悪い奴。「悪・奴婢 (ぬひ)」の転訛したもの。ンザ [ndʑa] は、昔、糸満漁師に売られた子供のこと。ム˞カ˥シェー　ユ˞メー˥　ヤ˞ナンザヌ˥　カタチニ　˞アシゥカーリ　ブー˥　プ˞スン˥　ブ˞タン˥ツォー [mu˞kaʃeː juˈmeː˥ ja˞nandʑanu˥ kḁtatʃini ˞ʔasi̥kaːri buː˥ pu̥˞sum˥ bu˞tan˥tsoː](昔は、嫁は奴婢のようにひどく扱われる人もいたそうだ)。

ヤ˞ニーヤニー˥シ [ja˞niːjaniː˥ʃi] 【副】1汚そうに。若年層は、ヤニ˞ヤーヤニヤー˥シ [jani˞jaːjanijaː˥ʃi](汚そうに) ともいう。ヤ˞ニーヤニー˥シ　˞ムシゥ˥カイ　˞ベー [ja˞niːjaniː˥ʃi ˞musi̥˥kai ˞beː](汚そうに取り扱っている＜弄(イジ)っている＞)。2憎憎(ニクニク)しげに。憎たらしそうに。˥アイニ　ヤ˞ニーヤニー˥シ　プ˞ス　ミン˥ナ [˥ʔaini ja˞niːjaniː˥ʃi pu̥˞su min˥na](あのように憎憎しげに＜汚そうに＞人を見るな)。

ヤ˞ニ˥ヤン [ja˞ni˥jaŋ] 【形】汚い。不潔である。若年層は˞ヤン˥ヤン [˞jaŋ˥jaŋ](汚い) ともいう。ウ˞レー˥　イッ˞ケナ˥　ヤ˞ニ˥ヤンティ　ス˞クタヌ　ナ

ン˥ゾー　ヤ˞ニヤー　ナー˥ヌ [ʔu˞re:˥ ʔik˞kena˥ ja˞ni˥janti sʉ˞kutanu nan˥ʤo: ja˞nija: na:˥nu](それは非常に汚いと聞いたが、あまり汚くない)。˞シンダイ˥　ヤ˞ニ˥ヤ　˥ナリ　˥ケーン [˞ʃindai˥ ja˞ni˥ja ˥nari ˥ke:ŋ](次第に汚くなってきた)。˥ガバー　˥フイ　ヤ˞ニヤ˥ヌ　キ˞サラヌ [˥gaba: ˥ɸui ja˞nija˥nu ki˞˞saranu](垢が付いていて、汚くて着られない)。ヤ˞ニ˥ヤ　˥ムノー　シ˞ティリ [ja˞ni˥ja ˥muno: ʃi˞˞tiri](汚(キタナ)いものは捨てろ)。ヤ˞ニ˥ヤカー　˞イー˥ル　プ˞ソー˥　ブ˞ラーヌ [ja˞ni˥jaka: ˞ʔi:˥ru pʉ˞so:˥ bu˞ra:nu](汚かったら貰う人はいない)。

ヤ˞バーヤバー˥シ [ja˞ba:jaba:˥ʃi] 【副】巧みに。器用に。見事に。ウ˞ビッチン˥ヌ　ヤ˞ラ˥ビ　ヤ˞ルヌ˥　ヤ˞バーヤバー˥シ　˞ジー˥　カク˞ツォー [ʔu˞bittʃin ˥nu ja˞ra˥bi ja˞runu˥ ja˞ba:jaba:˥ʃi ˞ʤi:˥ kʉ˞kku˞tso:](あんな小さな子供だのに、巧みに文字を書くんですよ)。

ヤ˞バー˥ン [ja˞ba:˥ŋ] 【形】1手仕事が上手である。手わざが巧みである。しっくりと成しとげる。「和、ヤハシヌ」『類聚名義抄』の転訛したもの。マ˞ダ˥　ヤ˞ラビ˥ル　ヤ˞ルンドゥ˥　シ˞グトー˥　ヤ˞バー˥ン [ma˞da˥ ja˞rabi˥ru ja˞rundu˥ ʃi˞guto:˥ ja˞ba:˥ŋ](まだ子供だが、仕事は上手である)。ヤ˞ラビ˥ヌ　ヤ˞バーヤバー˥シ　ブ˞ドゥル　スントダー [ja˞rabi˥nu ja˞ba:jaba:˥ʃi bu˞duru sunt̪da:](子供が実に巧みに踊るよ)。2危なっかしい。戦後流行り出した若年層の言葉。

ヤ˞バー˥ン [ja˞ba:˥ŋ] 【形】1柔らかい。柔軟である。弱々しい。タ˞キブネー˥　ヤ˞バー˥ンティ　ウ˞ムータ˥ヌ　˞ナン˥ゾー　ヤ˞バー　ナー˥ヌ [tʉ˞kibune:˥ ja˞ba:˥nti ʔu˞mu:ta˥nu ˞nan˥ʤo: ja˞ba: na:˥nu](竹の芯<骨>は柔らかで弱いと思ったが、あまり柔らかくない)。˞オーシケー　シンダイ˥　ヤ˞バー˥　ナリケーン [˞ʔo:ʃʉ˞ke: ʃindai˥ ja˞ba:˥ narike:ŋ](天気は次第に良く<柔らかに>なってきた)。ク˞レー˥　ヤ˞バー˥ヌ　シゥ˞カーラヌ [ku˞re:˥ ja˞ba:˥nu sʉ˞ka:ranu](これは弱くて使えない)。2器用である。巧みである。細やかである。ウ˞レー　ティーシグ˥トー　イッ˞ケナ˥　ヤ˞バー˥ン [ʔu˞re: ti:ʃigu˥to: ʔik˞kena˥ ja˞ba:˥ŋ](彼は、手仕事は非常に器用である<細やかである>)。

˥ヤバン [˥jabaŋ] 【名】野蛮。教養がなく、粗暴な人。標準語からの借用語。˞ウンザー˥　チ˞カ˥グロー　˥ヤバン　˥ナリティ　ムッ˞トゥ˥　ウチソーダンユン　ナ˞ラ˥ヌ [˞ʔunʤa:˥ ʧʉ˞ka˥guro: ˥jaban ˥nariti mut˞tu˥ ʔutʃiso:daɲjun na˞ra˥nu](あいつは、近頃は野蛮になってしまって、ちっとも内輪<内内の>の相談ができない)。

˥ヤハンメー [˥jahamme:] 【名】恋の成就を祈願して深夜にお参りをする女性。「夜半参り」の転訛したものという。沖縄の伝統芝居が石垣島で上演されたことから、石垣方言を経て伝播してきた沖縄方言。˥ヤハンメーヤ　ウ˞キナー˥　ムニ　˞ダー˥　パ˞トゥ˥マムネー　ア˞ラ˥ヌ [˥jahamme:ja ʔu˞kina:˥ muni ˞da:˥ pʉ˞tu˥mamune: ʔa˞ra˥nu](ヤハンメーは沖縄方言<物言(モノイ)い。ことば>だよ。鳩間方言<物言い。ことば>ではない)。

ヤ˞ビカタ˥チ [ja˞bikata˥ʧi] 【名】不恰好。醜い格好。非常識な姿格好。˥アイブ　ヤ˞ビカタ˥チ　˞サンドー˥シ　プ˞スナミヌ˥　カ˞タチバ　シー　アー˥キ [˥ʔaibu ja˞bikata˥ʧi ˞sando:˥ʃi pʉ˞sunaminu˥ kʉ˞tatʃiba ʃi: ʔa:˥ki](あんな非常識な姿格好をしていないで、人並みの格好をしておりなさい<してあるきなさい>)。

ヤ˞ビスク˥リ [ja˞bisʉ˞ku˥ri] 【名】作り損ない。作り損なったもの。出来損ないのもの。失敗作。「破れ作り」の義。ク˞ヌ˥　カメー　˞ター˥ル˥　ス˞クル˥タユー　ヤ˞ビスク˥リ　シ˞ラリ　ベー [ku˞nu˥ kame: ˞ta:ru˥ sʉ˞kuru˥taju: ja˞bisʉ˞ku˥ri ʃi˞rari be:](この甕(カメ)は誰が作ったのか、作り損じの作品だ<出来損ないの作品>にされている)。

ヤ˞ビ˥マイ [ja˞bi˥mai] 【名】いもちびょう(稲熱病)に糴(カカ)った稲。稔(ミノ)らない稲。「破れ米」の義。ク˞ズ˥ヌ　ヤ˞ビマイ˥ヤー　バ˞ラフ˥ターラ　ムー˞ル˥　ヤ˞キシティティル˥　ク˞トゥシェー　マイ˥　ス˞クル˥タ [ku˞ʤu˥nu ja˞bimai˥ja: ba˞raɸʉ˥ta:ra mu:˞ru˥ ja˞kiʃʉ˞titiru˥ kʉ˞tuʃe: mai˥ sʉ˞kuru˥ta](去年の稲熱病(イモチビョウ)に糴った稲は、稲藁から全部焼着捨てて<ぞ>今年は稲を作付けした)。

ヤ˞ビ˥マリ [ja˞bi˥mari] 【名】奇形。身体障害の人。「破れ生まれ」の義。パ˞ルミプス˥ヌ　パ˞ナシキヌ˥　イ˞フナ˥　フ˞チル˥バ　˥ヌムカー　ヤ˞ビマリ˥ヌ　マ˞リルンティ˥　ア˞ザリ　ブー˥ダー [pa˞rumi-pusu˥nu pa˞naʃikinu˥ ʔi˞ɸuna˥ ɸʉ˞ʧi˥ru ˥numuka: ja˞bimari˥nu ma˞rirunti˥ ʔa˞ʤari bu:˥da:](妊婦が妙な風邪薬を飲むと障害児が生まれるといわれているよ)。

ヤ˞ビ˥ムヌ [ja˞bi˥munu] 【名】悪者。ろくでなし。「破れ者」の義。ヤ˞ナドゥシトゥ˥　ム˞チ˥リティ　ヤ˞ビ˥ムヌ　˥ナリ　ムッ˞トゥ　ヤー˥　カ˞カラ˥ヌ [ja˞

naduʃituˀ muˀtʃiˀriti jaˀbiˀmunu ˀnariti mutˀtu jaːˀ kąˀkaraˀnu](悪友と睦んで、ろくでなし＜不良＞になって、ちっとも家に寄り付か＜かから＞ない)。

ヤ˞ビ˜ルン [jaˀbiˀruŋ] 【自動】悪くなる。悪化する。破れる。˜ヤブン [ˀjabuŋ](悪くなる) ともいう。カ˞タ˜ピキ ˞スー˜カー ヤ˞ラ˜ベー ˜キム ヤ˞ビ˜ルン [kąˀtaˀpi̥ki ˞suːˀkaː jaˀraˀbeː ˀkimu jaˀbiˀruŋ](片方に贔屓(ヒイキ)すると子供は感情を害する＜肝が悪くなる。心が破れる＞)。ア˞ツァー˜ラ ˞オーシケー˜ ヤ˞ビ˜ルンティ ス˞クタヌ˜ ク˞ヌ ブン˜シェー ˞オーシケー˜ ヤ˞ビラン˜ナー [ʔaˀtsaːˀra ˞ʔoːʃi̥keːˀ jaˀbiˀrunti sṵˀkutanuˀ kuˀnu buŋˀʃeː ˞ʔoːʃikeːˀ jaˀbiranˀnaː](明日から天気が崩れ＜破れ＞ると聞いたが、この分では崩れないねえ)。˞オーシケー˜ ヤビ˞ナー˜ヌ [˞ʔoːʃi̥keːˀ jabi ˞naːˀnu](天気は崩れてしまった)。˞オーシキヌ˜ ヤ˞ビ˜ル ˜ピンマー シ˞グトー˜ ナ˞ラ˜ヌ [˞ʔoːʃikinuˀ jaˀbiˀru ˀpimmaː ʃiˀgutoːˀ naˀraˀnu](天気が崩れる時は仕事が出来ない)。˞マー˜ビン ヤ˞ビ˜レー ˜ミサムヌ [˞maːˀbiŋ jaˀbiˀreː ˀmisamunu](もっと天気が崩れればいいのに)。ヤ˞ビ˜ルカー ˞パー˜ク ヤ˞ビ˜リ [jaˀbiˀrukaː ˞paːˀku jaˀbiˀri](＜天気が＞崩れるなら早く崩れろよ)。

˜ヤフ [ˀjaɸu] 【名】厄。災い。災難。「厄、ヤク、十三、二十五、三十七、四十九、六十一、七十三、八十五、九十七、之を厄年と謂ふ」『色葉字類抄』の転訛したもの。˜ヤフ カ˞カリ˜プソー ˞ウンキニン˜ガイ ˞シー˜ ヤフ ウ˞タ˜シバ [ˀjaɸu kąˀkariˀpṵsoː ˞ʔuŋkiniŋˀgai ˞ʃiːˀ jaɸu ʔuˀtaˀʃiba](厄にかかっている人は運気＜五運六気＞の祈願をして厄を落としなさいよ)。マ˞リドゥシェー˜ ヤフティ ア˞ザリブンダ˜ ミス˞コー ミスコー˜シ ˞シェー˜ティ ア˞ラ˜キ (˞アー˜キ)[mariˀduʃeːˀ jaɸuti ʔaˀʤaribundaˀ misṵˀkoː misṵkoːˀʃi ˞ʃeːˀti ʔaˀraˀki(˞ʔaːˀki)](生まれ年は厄年と云われているから、細心の注意を払って＜畏(カシコ)まって＞過ごしなさい＜あるきなさい＞)。

ヤ˞ブ [jaˀbu] 【名】やぶいしゃ (藪医者)。「野坐医、ヤブヰ」『書言字考』の転訛したものか。沖縄本島の糸満や奥武島からの寄留民漁師の中に民間療法の心得のある者が鳩間島の人々に鍼灸(シンキュウ)医療を施(ホドコ)して尊敬されていたという。昭和二十年代まで、˞ウー˜マレーウスマイ [˞ʔuːˀmareːʔusumai](ウーマレー老人＜御主前＞)、シ˞ラ˜ガーウスマイ [ʃiˀraˀgaːʔusumai](金城次郎＜白髪御主前＞) などと呼ばれて、終戦直後の島人の病気治療に当たり、島人から敬愛されていた。肩こり、腹痛、腰痛、頭痛、下痢止め等の鍼灸や解熱剤としてのヨモギの青汁、虫下し薬としての、ナ˞ツァー˜ラ [naˀtsaːˀra](海人草) の煎じ薬の服用など、ヤ˞ブ [jaˀbu](藪医者) から習得したものという。

˜ヤフ カ˞カ˜リ [ˀjaɸu kąˀkaˀri] 【連】厄にかかること。˜ヤフ カ˞カ˜リティ ˜ヤミ ニ˞ビ ベー˜バ ヤ˞ク˜バライ＜ヤ˞フ˜バライ＞ シ˞ミリ [ˀjaɸu kąˀkaˀriti ˀjami niˀbibeːˀba jaˀkuˀbarai＜jaˀɸuˀbarai＞ʃiˀmiri](厄に罹って病気して寝ているから、厄払いをさせなさい)。

ヤ˞フ˜ドゥシ [jaˀɸuˀduʃi] 【名】厄年。陰陽道で、災厄に会うから忌み慎むべきとされる年齢。男は、二十五、四十二、六十一歳、女は、十九、三十三、三十七歳をいう。特に四十二歳と三十三歳を大厄として恐れ慎む。ヤ˞フ˜ドゥシナー ウ˞ブシグトー サンドー˜シ ˜ユー チ˞チシメー˜ティ ˞アー˜キ˞ヨー [jaˀɸuˀduʃinaː ʔuˀbuʃiguto: sandoːˀʃi ˀjuː tʃi̥ˀtʃiʃimeːˀti ˞ʔaːˀkiˀjoː](厄年には大きな仕事はしないで、よくよく注意して、慎み深くして過ごしなさい＜あるきなさい＞よ)。ヤ˞フ˜ドゥシ ア˞タル˜ ピンマー ˜ユー チ˞チシメー˜ティ ˞アー˜キ˞ヨー [jaˀɸuˀduʃi ʔaˀtaruˀ pimmaː ˀjuː tʃi̥ˀtʃiʃimeːˀti ˞ʔaːˀkiˀjoː](厄年に当たる時はよくよく行動を慎みながら生活しなさいよ)。

ヤ˞フ˜バライ [jaˀɸuˀbarai] 【名】厄払い。ク˞トゥシェー ワー˜ ヤ˞フ˜ドゥシ ア˞タリ ブーバ˜ ヤ˞フ˜バライ シ˞ミリ˞ヨー [kṵˀtuʃeː waːˀ jaˀɸuˀduʃi ʔaˀtari buːbaˀ jaˀɸuˀbarai ʃiˀmiri˞joː](今年は、君は厄年に当たっているから、厄払いをさせなさいよ)。

ヤ˞ブヨーゾー [jaˀbujoːʤoː] 【名】藪医者による治療 (養生)。「野坐医・養生」の転訛したものか。イ˞サ˜ヌ ˞オーラ˜ン ˜シマ ヤ˞ルンダ˜ ヤ˞ブヨーゾーバ シール˜ ヌチェー ムイケー˞ダー [ʔiˀsaˀnu ˞ʔoːraˀŋ ˀʃima jaˀrundaˀ jaˀbujoːʤoːba ʃiːruˀ nutʃeː muikeːˀdaː](医者のおられない島だからヤブ養生をして命を紡(ツム)いで＜萌えて。生きながらえて＞きたものだよ)。

ヤ˞ブリッツァー˜ルン [jaˀburittsaːˀruŋ] 【自動】散々に破れる。ばらばらに破損する。「破れ散らかる」の転訛したもの。ヤ˞リッツァー˜ルン [jaˀrittsaːˀruŋ](破れ散らかる) ともいう。˞ソージヌ˜ カ˞ビン˜ ヤ˞ブリッツァー˜リティ キ˞ムイツァー˜ヌ ミ˞ララ˜ヌ [˞soːʤinuˀ kaˀbiŋˀ jaˀburittsaːˀriti kiˀmuitsaː

˥nu mi˞rara˥nu](障子の紙も破れ散らかって、見るに耐えない＜見られない＞)。マ˞ダ˥　ヤ˞ブリッツァーラ˥ヌ [ma˞da˥ ja˞burittsaːra˥nu](まだ破れ散らからない)。ヤ˞ブリッツァー˥ル　˥クトー　˞ナー˥ヌ [ja˞burittsaː˥ru ˥kʉto: ˞naː˥nu](破れ散らかることはない)。˞マー˥ビン　ヤ˞ブリッツァー˥レー　˥ミサムヌ [˞maː˥biŋ ja˞burittsaː˥reː ˥misamunu](もっと破れ散らかればいいのに)。˞パー˥ク　ヤ˞ブリッツァー˥リ [˞paː˥ku ja˞burittsaː˥ri](早く破れ散らかれ)。

ヤ˞ブリ˥ムヌ [ja˞buri˥munu]【名】1壊れ物。破れている物。出来損ない。「破れ物」の義。ク˞ヌ　ドン˥ゴー　ヤ˞ブリ˥ムヌ　˥ナリティ　シゥ˞カーラヌ [ku˞nu doŋ˥go: ja˞buri˥munu ˥nariti si̥˞kaːranu](この道具は壊れていて＜壊れ物になって＞使えない)。2性格の歪んだ人。ヤ˞ブリ˥ムヌ　˥ナリティ　ムッ˞トゥ˥　ウ˞ヤ˥ヌ　˥ムニ　シゥ˞カヌ [ja˞buri˥munu ˥nariti mut˞tu˥ ʔu˞ja˥nu ˥muni si̥˞kanu](性格の歪んだ者＜不良＞になってしまって、ちっとも親のいうことを聞かない)。

ヤ˞ブリ˥ルン [ja˞buri˥ruŋ]【自動】1破れる。壊れる。˞ソージカベー　ウイ˥ビシ　˞ピッ˥クカー　ヤ˞ブリルン˥ドゥ　ビ˞ニー˥ルカベー　˞ピック˥バン　ヤ˞ブリラ˥ヌ [˞soːʤikabeː ˞ʔujiˀbiʃi ˞pik˥kukaː ja˞burirun˥du bi˞niː˥rukabeː ˞pikku˥baŋ ja˞burira˥nu](障子紙は指で突き刺すと破れるが、ビニール紙は突き刺しても破れない)。ク˞レー˥　ヤ˞ブリ　パヤー˥ン [ku˞reː˥ ja˞buri pajaː˥ŋ](これは破れ易い＜破れ早い＞)。ヤ˞ブリ˥ル　˥クトー　˞ナーン˥パジ [ja˞buri˥ru ˥kʉto: ˞naːm˥ paʤi](破れることは無いはずだ)。˞マー˥ビン　ヤ˞ブリ˥レー　˥ミサムヌ [˞maː˥biŋ ja˞buri˥reː ˥misamunu](もっと破れればいいのに)。˞パー˥ク　ヤ˞ブリ˥リ [˞paː˥ku ja˞buri˥ri](早く破れろ)。2性格がひん曲がる＜破綻する＞。ヤ˞ラ˥ベー　トゥ˞シ˥グルナー　ム˞ヌ˥ウムイ　シ˞ミル˥カー　ヤ˞ブリ˥ルン˞ダー [ja˞ra˥be: tu˞ʃi˥guruna: mu˞nu˥ʔumui ʃi˞miru˥ka: ja˞buri˥run˞daː](子供は、年頃になってひどく心労させると＜もの思いさせると＞性格が曲がってしまうよ)。

ヤ˞ブ˥ルン [ja˞bu˥ruŋ] (1)【他動】1破る。壊す。裂く。「～石もち都追伎破夫利＜ツツキヤブリ＞～。万、3880」の転訛したもの。ク˞ヌ˥　カ˞ビ˥　ヤ˞ブ˥ルンティ　˞スンドゥ˥　ウ˞ムイツァー˥ヌ　ヤ˞ブララ˥ヌ [ku˞nu˥ ka˞bi˥ ja˞bu˥runti ˞sundu˥ ʔu˞muitsaː˥nu ja˞burara˥nu](この紙を破ろうとするが、惜しくて破られない)。ヤ˞ブ˥リ　ミサン˞ダー [ja˞bu˥ri misan˞daː](破っていいよ)。ヤ˞ブ˥ル　˥クトー　ナ˞ラ˥ヌ [ja˞bu˥ru ˥kʉto: na˞ra˥nu](破ることは出来ない)。ン˞ベーマー˥　ヤ˞ブ˥レー　˥ミサムヌ [ʔm˞beːmaː˥ ja˞bu˥reː ˥misamunu](少しは破ればいいのに)。˞パー˥ク　ヤ˞ブ˥リ [˞paː˥ku ja˞bu˥ri](早く破れ)。2他人の気持ちを害する。ン˞マー˥ムヌ　ミ˞サ˥シティ　ッ˞ふァーサン˥カー　ヤ˞ラビ˥ヌ　˥キム　ヤ˞ブ˥ルン˞ダー [ʔm˞maː˥munu mi˞sa˥ʃi̥ti f˞faːsaŋ˥kaː ja˞rabi˥nu ˥kimu ja˞bu˥run˞daː](美味しいのを見せて食べさせないと子供の気持ちを損ねるよ)。 **(2)**【自動】破れる。カ˞ベー˥　アミナー　˞ゾッふァス˥カー　ヤ˞ブ˥ルン˞ダー [ka˞beː˥ ʔamina: ˞ʤoffasu˥ka: ja˞bu˥run˞daː](紙は雨に濡らすと破れるよ)。

˥ヤブン [˥jabuŋ] (1)【他動】破る。壊れる。悪くする。駄目にする。プ˞スヌ　ドン˥グ　カ˞ル˥カー　ヤ˞バン˥ドーシル　˞カイ˥ス　˞ドン˥グ　˥ヤビ　シ˞ティティ˥　ヌーヤ　ウ˞レー [pu̥˞sunu doŋ˥gu ka˞ru ˥kaː ja˞ban˥doːʃiru ˞kai˥su ˞doŋ˥gu ˥jabi ʃi̥˞titi˥ nuːja ʔu˞reː](他人の道具を借りたら、壊さないで返すのであって、道具を壊してしまって何事だ、これは)。˞ドン˥グ　˥ヤブ　プ˞スン＜プ˞スヌ＞　ブン [˞doŋ˥gu ˥jabu pu̥˞sum＜pu̥˞sunu＞ buŋ](道具を壊す人もいる)。˞マー˥ビン　˥ヤベー　˥ミサムヌ [˞maː˥biŋ ˥jabeː ˥misamunu](もっと壊せばいいのに)。˥ヤビバ [˥jabiba](壊しなさいよ)。プ˞スヌ˥　シ˞ムチ˥　ヤ˞ブン˥ナ＜ヤ˞ブ˥ナ＞[pu̥˞sunu˥ ʃi˞mutʃi˥ ja˞bun˥na＜ja˞bu˥na＞](他人の気持ちを害するな)。ン˞マー˥ムヌ　ミ˞ラ˥スカー　ヤ˞ラビ˥　ヌ　シ˞ムチ˥　ヤブン˞ダー [ʔm˞maː˥munu mi˞ra˥suka: ja˞rabi˥nu ʃi˞mutʃi˥ jabun˞daː](美味しいのを見せると子供の感情をがいする＜気持ちを破る＞よ)。 **(2)**【自動】破れる。壊れる。ウ˞ヌ˥　ムニシ　シ˞ムチヌ˥　ヤブンテー　ウ˞モーン˥シェン [ʔu˞nu˥ muniʃi ʃi˞mutʃi˥nu ˥jabunte: ʔu˞moːŋ˥ʃeŋ](その言葉で感情を害する＜気持ちが破れる＞とは思わなかった)。

˥ヤフンガイ [˥jaɸuŋgai]【名】(動) 貝の名。ヤコウガイ (「夜久貝＜やくがひ＞」『枕草子』) の転訛したもの。夜光貝と表記される。原始腹足目・リュウテン科。形はサザエ貝に似る。殻の内側は真珠光沢に輝く。屋久島から献上されたので「屋久貝」という。食用のほかに殻(カラ)は螺鈿細工(ラデンザイク)に利用される。正倉院の御物の中にもこの貝で作った工芸品がある『原色沖縄海中動物生態図鑑』という。˥ヤフンガイヤー　˥サザミナ　˞ニー　ブー [˥jaɸuŋgaija: ˥saʤamina ˞ni: buː](ヤコウガイはサザエ貝に似てい

る)。

˥ヤマ [˥jama] 【名】1山。ティ˫ドゥ˥クヤマーラ　ユ˫チルダキ˥　キ˫ソーッ˥タ [ti˫du˥kujama:ra ju˫ʧirudaki˥ kḭ˫so:t˥ta](西表島のティドゥク山からエツリ用の竹を伐られた)。2森。˥ウガンヤマーラ　˫マー˥ニ　˥キスカー　˫カントゥン˥ガー　ア˫ティラリン˥ティ˫ダー [˥ʔugaŋjama:ra ˫ma:˥ni ˥kḭsuka: ˫kantuŋ˥ga: ʔa˫tirarin˥ti˫da:](御嶽の森 < 杜 > からマーニを切ると神罰 <神罪科(カミトガ)> を与えられるってよ)。3林。˫ター˥ヌ　˫ウイヤー˥　タ˫キヤマ˥　ヤ˫ルンダ˥　ウマーラル　タ˫ケー˥　キ˫ソーッタ˥ル [˫ta:˥nu ˫ʔuija:˥ tạ˫kijama˥ ja˫runda˥ ʔuma:raru tạ˫ke:˥ kḭ˫so:tta˥ru](田圃の上は竹林だから、そこから < ぞ > 竹は切られたものだよ)。4やぶ (藪)。雑草の生い茂ったところ。パ˫タキ˥バ　プ˫ス˥トゥシ　シ˫ティ˥シケータ　˥クトー　ムー˫ル˥　ッ˫サ˥ヌ　˫ムイカバ˥シ　ヤ˫マ˥　ナリ　˫ベー [pạ˫taki˥ba pṵ˫su˥tuʃi ʃḭ˫ti˥ ʃḭke:ta ˥kṵto: mu:˫ru˥ s˫sa˥nu ˫muikaba˥ʃi ja˫ma˥ nari ˫be:](畑を一年捨てておいたところ、雑草が生い茂って藪になっているよ)。

˥ヤマ [˥jama] 【名】 (数) 御嶽 (御願所) などを数える単位。プ˫ス˥ヤマ [pṵ˫su˥jama](一御嶽)、フ˫タヤマ [ɸṵ˫tajama](二御嶽)、˫ミーヤマ [˫mi:jama](三御嶽)、˫ユーヤマ [˫ju:jama](四御嶽)、イ˫チ˥ヤマ [ʔi˫ʧi˥jama](五御嶽) と数える。˫ウイヌ˥　ウガンナーティ　ウ˫トゥー˥シ　˫シー　ニン˥ガイ　˫ヨー˥ル　˥ピンマー　イ˫チヤマ˥ヌ　ク˫ムチ˥　クバン　ス˫コーリル　ニン˥ガイ　˫ヨーッ˥タ [˫ʔuinu˥ ʔuganna:ti ʔu˫tu:˥ʃi ˫ʃi: niŋ˥gai ˫jo:˫ru ˥pimma: ʔi˫ʧijama˥nu ku˫mutʃi˥ kuban sṵ˫ko:riru niŋ˥gai ˫jo:t˥ta](友利御嶽 < 上の御願 > でお通しの祈願をされる時は、五御嶽 < 五山 > の供物、クバンを用意して祈願された)。

˥ヤマ [˥jama] 【名】鋤(スキ)。からすき (犂(スキ))。牛耕用の農具。人工的に工夫された器具。ウ˫シヌ˥　ヤマ [ʔu˫ʃinu˥ jama](牛に曳かせて田や畑の土を鋤く農具)。床木の先端を削り、それに鉄製の犂を付け、床木の後部に軸木を立て、軸木から床木と平行に腕木を出し、床木との間に梁を渡して固定した鋤。腕木から綱を出して牛の˥ッふァ [˥ffa](鞍) に連結し、犂を曳かせて田や畑の土を鋤き起こす。ウ˫シヌ˥　ヤマ　ピ˫カシティ˥　パ˫タ˥キ　˫カイ˥シ [ʔu˫ʃinu˥ jama pḭ˫kaʃiti˥ pạ˫ta˥ki ˫kai˥ʃi](犂を曳かせて畑を耕せ)。

˥ヤマ [˥jama] 【名】1わな (罠(ワナ))。˥カマイヤマ [˥kamaijama](猪(イノシシ)を捕獲(ホカク)するために作る装置で、餌に誘導されて装置の中に猪が入ると仕掛けが落ちて圧死させる装置)。˥カマイヤマ　˫アイ˥　シケーバ　˫ミーマー˥ル　˫シー˥　クー˫ディー [˥kamaijama ˫ʔai˥ ʃḭke:ba ˫mi:ma:˥ru ˫ʃi:˥ ku:˫di:](猪捕獲の装置を仕掛けてあるから、見回りをして来ようよ)。2針金で輪を作り、獣道(ケモノミチ)に仕掛けておいて、猪の足を縛り上げて捕獲する罠(ワナ)。カ˫マイ˥ヌ　˫トゥーリ˥ミチナー　˥ヤマ　˫アイ˥　シケー [ka˫mai˥nu ˫tu:ri˥mitʃina: ˥jama ˫ʔai˥ ʃḭke:](猪の通り道に罠を仕掛けてある)。

˥ヤマ [˥jama] 【名】糸車。˫ウー˥モーレール　˫ブー˥ヤ　˥ヤマナー　˥カキティ　フ˫ドー˥シナ　マ˫キ˥　トゥ˫ローッ˥タ [˫ʔu:˥mo:re:ru ˫bu:˥ja ˥jamana: ˥kạkiti ɸu˫do:˥ʃina ma˫ki˥ tu˫ro:t˥ta](績(ウ)ん <紡(ツム)い > だ麻糸を糸車にかけて竹管に巻き取った)。

ヤ˫マ˥アウ [ja˫ma˥ʔau] 【名】山仕事の仲間。深山には一人で入ることを慎んだ。必ず複数の仲間と共に入山した。˥アウ [˥ʔau](仲間。連れ。相手) は、「⊠撃、アヒ」『和名抄』の転訛したものか。ヤ˫マアウ˥ヌ　ブ˫ラバル˥　ヤ˫マー˥ヤ　˫ペーラリ˥ル [ja˫maʔau ˥nu bu˫rabaru˥ ja˫ma:˥ja ˫pe:rari˥ru](山入りの仲間が居れば < ぞ > 山へは入れるものだ。仲間がいないと山へは入れない)。

ヤ˫マ˥イシ [ja˫ma˥ʔiʃi] 【名】山石。山から出る岩石。石灰岩や珊瑚石など。˥インダヌ　˫シーヌウチヌ˥　カ˫ケー˥　ヤ˫マイシ˥バ　シ˫ミティル˥　ス˫クローッタツォー [˥ʔindanu ˫ʃi:nuʔutʃinu˥ kạ˫ke:˥ ja˫maiʃi˥ba ʃi˫mitiru˥ sṵ˫ku˥ro:ttatso:](伊武田のシーヌウチの猪垣は山石を積んで < ぞ > 作られたそうだ)。

ヤ˫マイルン [ja˫mairuŋ] 【自動】泣き止む。ヤ˫ムン [ja˫muŋ](止む) ともいう。ウ˫ヌ˥　ヤ˫ラ˥ベー　ナ˫キ˥　ヤ˫マイルン˥カヤーティ　ウ˫ムータ˥ヌ　マ˫ダ˥　ヤ˫マイランバン [ʔu˫nu˥ ja˫ra˥be: na˫ki˥ ja˫mairuŋ ˥kaja:ti ʔu˫mu:ta˥nu ma˫da˥ ja˫mairambaŋ](あの子供は泣き止むかと思ったが、まだ泣き止まないよ)。ウ˫リヌ˥　ナ˫キヌ˥　ヤ˫マイル˥　クトゥン　˥アンカヤー [ʔu˫rinu˥ na˫kinu˥ ja˫mairu˥ kṵtuŋ ˥ʔaŋkaja:](あの子 < あれ > の泣き < 泣くこと > の止むことがあるのかなあ)。

ヤ˫マ˥イン [ja˫ma˥ʔiŋ] 【名】 (動) 猟犬。猪狩猟のために飼育している犬。ム˫カ˥シェー　パ˫トゥ˥マプスン　˥フコー　カ˫タ˥ミティ　ヤ˫マイン˥バ　ギュッ˫カラン　サーリティ˥　カマイ　˥トゥリン　˫オーッ˥タ [mu˫ka˥ʃe: pạ˫tu˥mapṵsuŋ ˥ɸṵko: kạ˫ta˥miti ja˫maim˥ba gjuk˫karan sa:riti˥ kamai ˥turiŋ ˫ʔo:t˥ta](昔は鳩間の人も矛を担いで猟犬 < 山犬 > を何匹も連れて、猪狩猟に行かれた)。

ヤ˩マ˥ウク [ja˩ma˥ʔuku] 【名】山の奥。深山。普通は、ヤ˩マ˥ヌ　ス˩ク [ja˩ma˥nu sṵ˩ku](山の底)、ス˩クヤマ [sṵ˩kujama](奥山) という。˩キャーンギン˥　ク˩ル˥キーン　ヤ˩マ˥ウコー　˩ペーラン˥カー　˩ソーキーヤ˥　トゥ˩ミララン˥ツォー [˩kja:ŋgi:ŋ˥ ku˩ru˥ki:ŋ ja˩ma˥ʔuko: ˩pe:raŋ˥ka: ˩so:ki:ja˥ tu˩miraran˥tso:](イヌマキ＜槙＞も黒檀＜黒木＞も山奥に入らないと立派な木は探されないそうだ)。

ヤ˩マ˥ウン [ja˩ma˥ʔuŋ] 【名】(植) 芋の種類。山芋(ヤマイモ)。「暑預、山伊母(ヤマイモ)」『新撰字鏡』の転訛したもの。芋は大型で形は一定しない。西表島の田圃の周辺の畑に作付けされていた。祝儀、不祝儀に煮物、揚げ物にして供される。ヤ˩マウン˥マー　フ˩ノー˥ラ　˩ウイバル˥ナール　˥ユー　ス˩ク˥ローッタル [ja˩maʔum˥ma: ɸu˩no:˥ra ˩ʔuibaru˥na:ru ˥ju: sṵ˩ku˥ro:ttaru](山芋は船浦、上原で＜ぞ＞よく作られたものだよ)。

ヤ˩マカシ˥ラ [ja˩makaʃi˥ra] 【名】急ごしらえ＜急拵え＞の旗頭。本物の旗頭の代わりに、木の枝などを竿の先に括りつけて作ったもの。シ˩ナピキ˥ヌ　˥ピンマー　˩メーメーヌ˥　カ˩ツシンヌ˥　ヤ˩マカシ˥ラン　˥タテーティル　˥ヨイ　˩ソーッタ˥ル [ʃi˩napiki˥nu ˥pimma: ˩me:me:nu˥ kạ̣˩tsuʃinnu˥ ja˩makaʃi˥ran ˥tạ̣te:tiru ˥joi ˩so:tta˥ru](綱引きの時は銘銘の漁船のヤマカシラ＜旗頭＞を立てて祝いをされたものだ)。

ヤ˩マ˥カブン [ja˩ma˥kabuŋ] 【自動】1雑草が繁茂する。雑草が山のように生い茂る。田畑に雑草が繁茂して荒れ果てる。パ˩タ˥キ　˩ティー˥リ　˩サン˥カー　ッ˩サ˥ヌ　ヤ˩マ˥カブンティ　˩スンダ˥　ヤ˩マカバン˥ケン　˥ッサ　˩ソーリ˥バ [pạ̣˩ta˥ki ˩ti:˥ri ˩saŋ˥ka: s˩sa˥nu ja˩ma˥kabunti ˩sunda˥ ja˩makabaŋ˥ken ˥ssa ˩so:ri˥ba](畑を手入れしないと草が繁茂するというから、繁茂しないうちに除草しなさい＜草を箆でさくれ。決(サク)れ＞よ)。ッ˩サ˥ヌ　ヤ˩マ˥カビティ　˩カイサラ˥ヌ [s˩sa˥nu ja˩ma˥kabiti ˩kaisara˥nu](草が繁茂して耕されない)。ッ˩サ˥ヌ　ヤ˩マ˥カブ　˥トンマー　シ˩ティリ˥バ [s˩sa˥nu ja˩ma˥kabu˥tomma: ʃi̥˩tiri˥ba](草が繁茂する所は捨てなさい)。˩マー˥ビン　ヤ˩マ˥カベー　˥ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ja˩ma˥kabe: ˥misamunu](もっと雑草が繁茂すればいいのに)。2毛髪がぼうぼうに生える。˩ワー˥　ス˩ブ˥ロー　ガ˩マジ˥ヌ　ヤ˩マ˥カビティ　˩ミーヌッサ˥ヌ　ミ˩ララ˥ヌ [˩wa:˥ su˩bu˥ro: ga˩maʤi˥nu ja˩ma˥kabiti ˩mi:nussa˥nu mi˩rara˥nu](君の頭は髪の毛がぼうぼうに生えて、見苦しくて見て居られない)。

ヤ˩マ˥カマイ [ja˩ma˥kamai] 【名】1「山猪」の義。猪のこと。ヤ˩マ˥カマイン　˩マイヤー˥　ッ˩ふァーリ　ナー˥ヌ [ja˩ma˥kamaim ˩maija:˥ f˩fa:ri na:˥nu](山猪に稲は食われてしまった)。2向こう見ずな人。猪突猛進する人。乱暴な人に対して、多少の卑しめの感情を籠めていう場合に用いる。˥ウリウリー　ヤ˩マカマイ˥ヌ　イ˩キ˥フキ　クン˩ドー [˥ʔuriʔuri: ja˩makamai˥nu ʔi˩ki˥ɸṵki kun˩do:](ほらほら、猪のような人が息を切らして＜息を吹き吹き。息せき切って＞、やって来るぞ)。

ヤ˩マ˥カミ [ja˩ma˥kami] 【名】(動) セマルハコガメ。「山亀」の義。ヤ˩マカメー˥マ [ja˩makame:˥ma](山の小亀)、ヤ˩メーマ [ja˩me:ma](セマルハコガメ。山小亀) ともいう。ム˩カ˥シェー　ヤ˩マカミ˥バ　シゥ˩カ˥ミティ　˥ユー　ア˩サブタン [mu˩ka˥ʃe: ja˩makami˥ba si̥˩ka˥miti ˥ju: ʔa˩sabutaŋ](昔は山亀を捕まえてよく遊んだ)。

ヤ˩マカン˥スル [ja˩makan˥suru] 【名】山看守。西表の山林から木材を盗伐するのを厳しく監視した役人。ヤ˩マカンスル˥ヌ　˩マーリ　オー˥ル　˥ピンマー　ヤ˩マー　ペーラン˥シェン [ja˩makansuru˥nu ˩ma:ri ʔo:˥ru ˥pimma: ja˩ma: pe:raraŋ˥ʃeŋ](山看守が巡検に＜回って＞来られる時は、山には入れなかった)。

ヤ˩マ˥キルン [ja˩ma˥kiruŋ] 【自動】激しく怒る。やけ＜自棄(ヤケ)＞になって暴れる。粗暴になる。「山気(ヤマキ)・る」の転訛、派生したものか。ヤ˩マ˥キスン [ja˩ma˥ki̥suŋ](激しく怒る。暴れる) ともいう。˥ウムイドゥール　ナ˩ラン˥カー　ヤ˩マ˥キルン [˥ʔumuidu:ru na˩raŋ˥ka: ja˩ma˥kiruŋ](思い通りにならないと自棄になって暴れる)。˩ドゥー˥ヌ　˥ウムイドゥール　ナ˩ラン˥ティ　˩シー˥　ヤ˩マ˥キリ　˩オールン˥ドゥ　ヤ˩マ˥キル　プ˩スンドゥ　ワッ˥サル [˩du:˥nu ˥ʔu-muidu:ru na˩ran˥ti ˩ʃi:˥ ja˩ma˥kiri ˩ʔo:run˥du ja˩ma˥kiru pṵ˩sundu was˥saru](自分の思い通りに出来ないといって、やけになって暴れておられるが、暴れる人が悪いのだ)。˥アイニ　ヤ˩マキラン˥ドーシ　ウ˩ティ˥シキ˩ツォー [˥ʔaini ja˩makiran˥do:ʃi ʔu˩ti˥ʃi̥ki˩tso:](そんなに自棄になって暴れないで落ち着けってば)。˩マー˥ビン　ヤ˩マ˥キレー　˥ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ja˩ma˥kire: ˥misamunu](もっと暴れたらいいのに)。˩マー˥ビン　ヤ˩マ˥キリ [˩ma:˥biŋ ja˩ma˥kiri](もっと暴れろ)。

ヤ˩マ˥クブ [ja˩ma˥kubu] 【名】(動) くも (蜘蛛) の一種。ジョロウグモ (女郎蜘蛛)。木の枝や樹間に網を張

って昆虫を捕食する。ヤ˩マクブ˥ヌ　˩シー˥ヌ　˩ワー˥　ガ˩マ˥ジナ　˩フシゥ˥カリ　˩ベー [ja˩makubu˥nu ˩ʃiː˥nu ˩waː˥ ga˩ma˥ʤina ˩ɸusi̥˥kari ˩beː](ジョロウグモの巣が君の髪の毛にくっ付いている)。

ヤ˩マ˥サー [ja˩ma˥saː] 【名】山師。山奥から˩キャーンギ [˩kjaːŋgi](イヌマキ＜槙＞) やク˩ル˥キ [ku˩ru˥ki](黒檀) 等の名木を伐り出して生活する人。˩ターパタ˥ケー　ス˩クラ˥ムティ　フ˩ユ˥バ　˩シー˥　ヤ˩マ˥サー　˥ナリ　˩アー˥ク [˩taːpata˥keː su̥˩kura˥muti ɸu˩ju˥ba ˩ʃiː˥ ja˩ma˥saː ˥nari ˩ʔaː˥ku](田畑を耕作しないで、怠惰をして山師などをしている＜してあるく＞よ)。

˥ヤマザー [˥jamaʤaː] 【名】人名。名称、呼称。ヤマさん。˥ヤマ・アーザー [˥jama・ʔaːʤaː](ヤマ・兄さん) が縮約した形。˩クシケー˥ナーン　ア˩ザテー˥ナーン　ク˩メー˥ナーン　˥ヤマザー　˩オーッ˥タン˩ナー [˩kuʃi̥keː˥naːŋ ʔa˩ʤateː˥naːŋ ku˩meː˥naːŋ ˥jamaʤaː ˩ʔoːt˥tan˩naː](小底家にも東里家にも小浜家にも、ヤマ兄さんはおられたよねえ)。

ヤ˩マ˥シゥカ [ja˩ma˥si̥ka] 【副】沢山。数量や回数の多いさま。ク˩ヌタベー　ジン˥マー　ヤ˩マ˥シゥカ　˩モー˥ケーンツォー [ku˩nutabeː ʤim˥maː ja˩ma˥si̥ka ˩moː˥keːntsoː](今回は、お金を沢山儲けたそうだ)。

ヤ˩マシゥ˥カ [ja˩masi̥˥ka] 【副】沢山。どっさり。そうとうに。しこたま。˥シゥカ [˥si̥ka] は九州方言の接尾語＜ほど。ばかり＞の意か」とする説がある『石垣方言辞典』。ウ˩キ˥ナーラ　˩ジン˥バ　ヤ˩マシゥ˥カ　˩モー˥キ　˥ケーンツォー [ʔu˩ki˥naːra ˩ʤim˥ba ja˩masi̥˥ka ˩moː˥ki ˥keːntsoː](沖縄からお金を沢山儲けてきているそうだ)。

ヤ˩マシグ˥トゥ [ja˩maʃigu˥tu] 【名】山仕事。山でする仕事。グ˩タイ˥ヌ　˩ナーン˥カー　ヤ˩マシグ˥トー　˩シーユーサヌ [gu˩tai˥nu ˩naːŋ˥kaː ja˩maʃigu˥toː ˩ʃiːjuːsanu](体力がないと山仕事はできない＜なし得ない＞)。

ヤ˩マシダ˥ミ [ja˩maʃida˥mi] 【名】(動) ヤマカタツムリ (山蝸牛)。ヤ˩マシダミ˥ヌ　˥シディティ　˩パーヤサイヤー˥　ムー˩ル˥　ッ˩ふァーリ　ナー˥ヌ [ja˩maʃidami˥nu ˥ʃiditi ˩paːjasaijaː˥ muː˩ru˥ f˩faːri naː˥nu](ヤマカタツムリが異常発生＜異常に孵化＞して、青野菜は全部喰われてしまった)。

ヤ˩マ˥ジマ [ja˩ma˥ʤima] 【名】山の多い島。ヤ˩マグニ [ja˩ma˥guni](山の多い島) ともいう。イ˩ラムテー˥　ヤ˩マ˥ジマ　ヤ˩ルンダ˥　イ˩ラムティプソー　タースクル˥バ　ム˩トゥ˥バ　シー　オー˥ル [ʔi˩ramuteː˥ ja˩ma˥ʤima ja˩runda ˥ ʔi˩ramutipu̥soː taː-su̥kuru˥ba mu˩tu˥ba ˩ʃiː ʔoː˥ru](西表島は山の多い島だから、西表村の人は水田耕作＜田作り＞を基幹産業＜基本＞にしておられる)。

ヤ˩マ˥ジミ [ja˩ma˥ʤimi] 【名】山積み。山のように積むこと。˩マイカリジブン　カーチーバイ˥ヌ　˥フキティ　˩ウーアミヌ˥　フーカー　˩ニーバンザー˥ヌ　タ˩タメー˥　ウ˩コー˥シティ　˥ウナール　˩マイヤー˥　ヤ˩マ˥ジミ　˩シー　カーラカソーッ˥タ [˩maikariʤibuŋ kaːʧiːbai˥nu ˥ɸu̥kiti ˩ʔuːaminu˥ ɸuːkaː ˩niːbanʤaː˥nu tḁ˩tameː˥ ʔu˩koː˥ʃi̥ti ˥ʔunaːru ˩maijaː˥ ja˩ma˥ʤimi ˩ʃiː kaːrakasoːtˢta](稲刈り時分に夏至の嵐が吹いて大雨が降ると、二番座敷の畳を起こして、そこに米を山積みして乾かされたものだ)。タ˩ム˥ヌ　バ˩リティ˥　ミ˩ナ˥カナー　ヤ˩マ˥ジミ　˩シー˥　シケー [ta˩mu˥nu ba˩riti˥ mi˩na˥kanaː ja˩ma˥ʤimi ˩ʃiː˥ ʃi̥keː](薪を割って庭に山積みしてある)。

ヤ˩マ˥スク [ja˩ma˥su̥ku] 【名】山奥。「山底」の義。ス˩クヤマ [su̥˩kujama](奥山) ともいう。˩キャーンギキー˥　ク˩ルキー˥ヌ　˩ソームノー˥　ヤ˩マ˥スコー　˩ペーラン˥カー　トゥ˩ミララ˥ヌ [˩kjaːŋgikiː˥ ku˩rukiː˥nu ˩soːmunoː˥ ja˩ma˥su̥koː ˩peːraŋ˥kaː tu˩mirara˥nu](犬槙や黒木＜黒檀＞の上質の木は山奥へ入らないと探されない)。

ヤ˩マ˥スン [ja˩ma˥suŋ] 【他動】痛める。傷つける。「Yamaxe,suru,eta. ヤマセ, スル, セタ (やませ, する, せた) 人に平手打ちをくわせる」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。˩カイ˥リティ　˥ドゥー　ヤ˩マ˥シ　˥シケー [˩kai˥riti ˥duː ja˩ma˥ʃi ˥ʃi̥keː](転倒して体を傷つけて＜病まして＞ある)。˥ドゥー　ヤ˩マ˥スンケン　パ˩タラクナ˥　ドゥー　ヤ˩マサン˥ドーシ　˩ヨーンナー˥　パ˩タラキ˥バ [˥duː ja˩ma˥suŋkem pḁ˩tarakuna˥ duː ja˩masan˥doːʃi ˩joːnnaː˥ pḁ˩taraki˥ba](体を損ねる＜痛める＞ほどに働くな。体を痛めないでゆっくり働けよ)。˥ドゥー　ヤ˩マ˥ス　˥クトー　ス˩ナ˥ヨー [˥duː ja˩ma˥su ˥ku̥toː su˩na˥joː](体を痛めることはするなよ)。˩マー˥ビン　ヤ˩マ˥シェー　˥ミサムヌ [˩maː˥biŋ ja˩ma˥ʃeː ˥misamunu](もっと傷つければいいのに)。˩マー˥ビン　ヤ˩マ˥シ [˩maː˥biŋ ja˩ma˥ʃi](もっと傷つけろ＜病ませ＞)。

ヤ˩マ˥ダー [ja˩ma˥daː] 【名】山の谷間にある田圃。山の近くにある田圃。˩ヌー˥ター [˩nuː˥taː](原野の中にある田圃) の対義語。カ˩マイ˥ヌ　˩ブンダ˥　ヤ

˞マ˜ダーナー　˞ザイレーマイ˜バ　ス˞ク˜ローッタ [ka˞mai˜nu ˞bunda˜ ja˞ma˜da:na: ˞ʤaire:mai˜ba sɯ˞ku˜ro:tta](猪がいるので、山の谷間の水田には芒の長い在来種の稲を作られた)。

ヤ˞マタカ˜ビ [ja˞mataka˜bi] 【名】祭祀の名。「やまたかべ (山祟べ)」の義か。旧暦二月一日に祈願された。ヤ˞マタカビ˜ヌ　˞ニン˜ガイ [ja˞matakabi˜nu ˞niŋ˜gai](やまたかべの祈願) ともいう。村人が生活のために山入りする際に、刃物や毒蛇によって人畜に危害が及ばないよう祈願するものである。今日では祭祀簡略化のため、実施されていない。昭和 30 年代に廃止されたという。ヤ˞マタカ˜ビティ　˞スー　ニンガイ˜ヤー　マ˞ナ˜マー　˞ナー˜ヌ [ja˞mataka˜biti ˞su: niŋgai˜ja: ma˞na˜ma: ˞na:˜nu](山祟べという祈願祭りは、今はない)。

ヤ˞マタカビ˜ヌ　˞ニン˜ガイ [ja˞matakabi˜nu ˞niŋ˜gai] 【連】やまたかべ (山祟べ) の祈願。ヤ˞マタカ˜ビ [ja˞mataka˜bi] ともいう。旧暦二月一日に執り行われる祭祀。虫祓い (害虫祓い) の祈願や、山入りの際に毒蛇や刃物による危害が人畜に及ばないように祈願するもの。˞ウイヌ˜ウガン [˞ʔuinuʔugaŋ](˞上のお願」の義。友利御嶽のこと) で執り行われる。御嶽では蛇のことを、˞ナー˜ムヌ [˞na:˜munu](長物) といい、直接的に˞パブ [pa˞bu](蛇) ということを避ける。一種の隠語。

ヤ˞マ˜タジル [ja˞ma˜taʤiru] 【名】 (海底地名)。タ˞カ˜ビ [tɑ̥˞ka˜bi] の津口から鳩間桟橋へ通じる澪の中間の陸地側に、ア˞ガジル [ʔa˞gaʤiru](海底に赤い藻草の生えた浅い砂地) があるが、その向かい (南側) にある浅瀬。˞アー˜ヤブイ [˞ʔa:˜jabui](寄合三戸氏が立てた航路標識のある曽根) の北側、ミ˞ズヌ˜カン [mi˞ʤunu˜kaŋ](澪の上) の手前にある曽根。カツオ漁船の餌とり場であった。˞ウンパンシン˜マー　ア˞ガジルトゥ˜　ヤ˞マ˜タジルヌ　フ˞タナカー˜ラル　˞ペーラ˜シ　˞クー˜タ [˞ʔumpaŋʃim˜ma: ʔa˞gaʤirutu˜ ja˞ma˜taʤirunu ɸu̥˞tanaka:˜raru ˞pe:ra˜ʃi ˞ku:˜ta](運搬船はアガジルとヤマタジルの間から入港し < 入れて > てきた)。

ヤ˞マッサー˜ク [ja˞massa:˜ku] 【名】山仕事。山でする仕事。グ˞タイ˜ヌ　˞ヨー˜　プ˞ソー˜　ヤ˞マッサー˜コー　˞シーユーサヌ [gu˞tai˜nu ˞jo:˜ pu̥˞so:˜ ja˞massa:˜ko: ˞ʃi:ju:sanu](体力の弱い人は山仕事はできない)。

ヤ˞マ˜トゥ [ja˞ma˜tu] 【名】 (地) 大和。日本本土。サ˞ク˜シェー　ヤ˞マトゥ˜ヌ　˞ガッ˜コー　ン˞ザシ˜タ [sɑ̥˞ku˜ʃe: ja˞matu˜nu ˞gak˜ko: ʔn˞ʤaʃi̥˜ta](長男は本土の学校に入学させた < 出させた >)。/ウフヤマトゥ　ハズミョウリヨー　カンヤマトゥ　ハズミヨウリヨウ　ハーリ　アミタボリ　リュウガナシ～/(大大和の国を始めなされ、神の大和の国を始めなされて < 囃子 >　雨を賜りませ竜神様) ア˞マン˜グイ [ʔa˞maŋ˜gui](雨乞い歌)『鳩間島古典民謡古謡集』。

ヤ˞マトゥウー˜ル [ja˞matuʔu:˜ru] 【名】 (植) スイカ (西瓜)。「大和・瓜 (宇利波米婆 < ウリハメバ >～。万、801)」の義。ム˞カ˜シェー　˞ウイ˜プソー　˞スイカ˜バ　ヤ˞マトゥウー˜ルティル　ア˞ゾーッ˜タツォー [mu˞ka˜ʃe: ˞ʔui˜pu̥so: ˞suika˜ba ja˞matuʔu:˜rutiru ʔa˞ʤo:t˜tatso:](昔は、年寄りは西瓜をヤマトゥウール < 大和瓜 > といわれたそうだ)。

ヤ˞マトゥウスッ˜ふァイ [ja˞matuʔusuf˜fai] 【名】風呂敷。大型の風呂敷。「大和風呂敷」の義。普通は、ウ˞スッ˜ふァイ [ʔu˞suf˜fai](風呂敷)、フ˞ル˜シキ [ɸu ˞ru˜ʃi̥ki](風呂敷) という。˜ウゾー　タ˞ク˜ミティ　ヤ˞マトゥウスッ˜ふァイシ　ッ˞ス˜ミバ [˜ʔuʤo: tɑ̥˞ku˜miti ja˞matu˜ ʔu˞suf˜faiʃi s˞su˜miba](布団は畳んで大型の風呂敷で包みなさいよ)。

ヤ˞マトゥ˜カウ [ja˞matu˜kau] 【名】大和線香。上品な香ばしい線香。ウ˞キナー˜カウ [ʔu˞kina:˜kau](沖縄線香)。ピ˞サカウ [pi˞sakau]< 平香 >、タ˞キカウ [tɑ̥˞kikau]< 竹の線香 > の対義語。チ˞カ˜グロー　ヤ˞マトゥカウ˜ル　シゥ˞カウ˜　ウ˞キナーカウ˜ヤー < ウ˞キナーカウ˜ワー >　シゥ˞カイ˜　ミ˞ラン˜バン [ʧi̥˞ka˜guro: ja˞matukau˜ru si̥˞kau˜ ʔu˞kina:kau˜ja: < ʔu˞kina:kau˜wa: > si̥˞kai˜ mi˞ram˜baŋ](近頃は大和線香を < ぞ > 使う、沖縄線香 < 平香、竹香 > は使ったことない < 使ってみない > よ)。

ヤ˞マトゥ˜サキ [ja˞matu˜sɑ̥ki] 【名】日本酒。清酒。「大和酒」の義。˜バー　ヤ˞マトゥ˜サケー　ン˞マーナー˜ヌ　˞アームルン˜ドゥ　ン˞マー [˜ba: ja˞matu˜sɑke: ʔm˞ma:na:˜nu ˞ʔa:murun˜du ʔm˞ma:](私は日本酒は美味しくない。< 沖縄の > 泡盛がおいしい)。

ヤ˞マトゥ˜サジ [ja˞matu˜saʤi] 【名】にほんてぬぐい (日本手拭)。普通は、単に˜サジ [˜saʤi](手拭) といった。ム˞カ˜シェー　ヤ˞マトゥサジ˜ル　シゥ˞カウタル˜　ビ˞チ˜ヌ　˜サジェー　˞ナーン˜シェン [mu˞ka˜ʃe: ja˞matusaʤi˜ru si̥˞kautaru˜ bi˞ʧi˜nu ˜saʤe: ˞na:ŋ˜ʃeŋ](昔は日本手拭を < ぞ > 使ったものだ。他 < 別 > の手拭はなかった)。

ヤ˩マトゥシキ˥ムヌ [ja˩matuʃi̥ki˥munu] 【名】沢庵漬け。「大和漬物」の義。ヤ˩マトゥシキ˥ムノー ˩ガッ˥コーラ ˥ナライティ ˩ダイ˥クニ ス˩ク˥リティ ス˩クタル [ja˩matuʃi̥ki˥muno: ˩gak˥ko:ra ˥naraiti ˩dai˥kuni sṵ˩ku˥riti sṵ˩kuta2ru](沢庵漬は学校で習って、大根を作って漬けたものだ)。

ヤ˩マトゥシタ˥フ [ja˩matuʃi̥ta˥ɸu] 【名】和装。本土式の服装。「大和支度」の義。ウ˩キナーシタ˥フォー アッパター˩バーキ˥ル ˩ソー˥レール マ˩ナ˥マー ムー˩ル˥ ヤ˩マトゥシタフ˥ル ˩ソー˥ル [ʔu ˩kina:ʃi̥ta˥ɸo: ʔappata:˩ba:ki˥ru ˩so:˥re:ru ma˩na˥ma: mu:˩ru˥ ja˩matuʃi̥taɸu˥ru ˩so:˥ru](琉装 < 沖縄式の服装 > はお祖母さんたちまでが < ぞ > なされた。今はみんな和装 < 大和式の服装 > を < ぞ > される)。

ヤ˩マトゥスー˥ベー [ja˩matusu:˥be:] 【名】(動) 魚の名。和名、ニセクロホシフエダイ (体長約 25 センチ)。ヤマ˩トゥスー˥ベーティ ˩スー˥ イ˩ズン ブントダー [ja˩matusu:˥be:ti ˩su:˥ ʔi˩ʤum bun˩da:](ニセクロホシフエダイという魚もいるよ)。

ヤ˩マトゥ˥タビ [ja˩matu˥tabi] 【名】大和旅。日本本土への旅。ヤ˩ラ˥ベー ヤ˩マトゥ˥タビ シ˩ミティ ガッ˥コー ン˩ザ˥シ ˥シケー [ja˩ra˥be: ja˩matu˥tabi ʃi˩miti gak˥ko: ʔn˩ʤa˥ʃi ˥ʃi̥ke:](子供は本土へ旅させて、学校に出している)。

ヤ˩マトゥ˥ナー [ja˩matu˥na:] 【名】戸籍上の名前。˩ガッコー˥ナー [˩gakko:˥na:](学校での名前) ともいう。明治 29 年 6 月 16 日、鳩間島に大川尋常小学校鳩間分校が設置され、児童生徒に大和式の名前が学籍簿に記載されるようになった。˥バー ˩ガッコーナー˥ヤ ˩カジク シンイチ˥ ヤ˩ルヌ ヤーナー˥ヤ ス˩ク˥レーティル アル˩ダー [˥ba: ˩gakko:na: ˥ja ˩kajiku ʃiŋitʃi˥ ja˩runu ja:na:˥ja sṵ˩ku˥re:tiru ʔaru ˩da:](私の大和式の学校名は加治工真市だが、家の名 < 童名 > は津久利と < 命名されて > あるんだよ)。

ヤ˩マトゥ˥ナー [ja˩matu˥na:] 【名】本土産の野菜。「大和菜」の義。ハ˩クサイ、タ˩マ˥ナー ˥チサンドーレーヤ ヤ˩マトゥ˥ナーティ ア˩ザリブー [hḁ˩ku˥sai ta˩ma˥na: ˥tʃisando:re:ja ja˩matu˥na:ti ʔa˩ʤari bu:](白菜、キャベツ、チシャ < 萵苣。レタス > 等は本土産の野菜といわれている)。

ヤ˩マトゥ˥ヌ ク˩カル [ja˩matu˥nu kṵ˩karu] 【連】未詳語。「大和の九家老 (かろう)」の義か。屋敷の祈願で唱える祝詞のことば。˩トー˥ヌ ˩ハッ˥シン [˩to:˥nu ˩haʃ˥ʃiŋ](唐の八神) の対語として用いられる。

ヤ˩マトゥ˥パカ [ja˩matu˥pḁka] 【名】大和墓。平家落人の墓といわれている。˥インダヌ ˩ナーパマヌ˥ ガ˩マ˥ナー ヤ˩マトゥパカ˥ヌ アンティ˩ダー [˥ʔindanu ˩na:pamanu˥ ga˩ma˥na: ja˩matupaka˥nu ʔanti˩da:](伊武田の長浜のガマ < 洞窟 > には大和墓があるそうだ)。

ヤ˩マトゥ˥プス [ja˩matu˥pṵsu] 【名】日本本土の人。「大和人」の義。ヤ˩マ˥トゥ [ja˩ma˥tu] は、「日本、此をば耶麻騰 (やまと) といふ」『日本書紀神代上』の転訛したもの。ウ˩ラウ˥チヌ ウ˩タ˥ラタンコーナー ヤ˩マトゥプス˥トゥ ˩チョーセンジンヌ イッ˥パイ パ˩タラカサリ オーッ˥タンツォー [ʔu˩raʔutʃi ˥nu ʔu˩ta˥rataŋko:na: ja˩matupṵsu˥tu ˩tʃo:ʃenʤinnu ʔip˥pai pḁ˩tarakasari ʔo:t˥taŋtso:](浦内の宇多良炭鉱には日本人と朝鮮人が沢山働かされておられた)。

ヤ˩マ˥ドゥミ [ja˩ma˥dumi] 【名】山に入るのを禁ずること。山の樹木を伐ることを禁ずること。「山止め」の義。˥クンヤマー ヤ˩マ˥ドゥミ シ˩ラリブンダ˥ ウマーラー ˩キー˥ヤ キ˩サラン˥ツォー [˥kuŋjama: ja˩ma˥dumi ʃi˩rari bunda˥ ʔuma:ra: ˩ki:˥ ja ki̥˩saran˥tso:](古見岳は山止め < 入山伐木を禁止 > されているから、そこからは木は伐り出されないそうだ)。

ヤ˩マトゥミズ˥ヌ [ja˩matumiʤu˥nu] 【名】(動) 魚の名。イワシ (鰯) の仲間。和名、ヤマトミズン (体長約 25 センチ)。鳩間島に寄ってくるのは、体長 15〜20 センチ程度のものがおおい。ヤ˩マトゥミズヌ˥ヌ ˩ユーリ˥ ケーティ ˥アンシ ス˩クイ˥ トゥ˩ローッ˥タツォー [ja˩matumiʤunu˥nu ˩ju:ri˥ ke:ti ˥ʔaŋʃi sṵ˩kui˥ tu˩ro:t˥tatso:](イワシ < やまとみずん > が寄ってきたので、網で掬って捕獲されたそうだ)。

ヤ˩マトゥ˥ムニ [ja˩matu˥muni] 【名】大和言葉。内地の言葉。日本語。国語。標準語。˥バー ヤ˩マトゥ˥ムニ ˩シー˥ ッ˩シェー˥ン [˥ba: ja˩matu˥muni ˩ʃi:˥ ʃ˩ʃe:˥ŋ](私は日本語 < 標準語 > が使える < し得る >)。˩ワー˥ ヤ˩マトゥ˥ムネー ˩ゾージ˥ユン˩ナー [˩wa:˥ ja˩matu˥mune: ˩ʤo:ʤi˥jun˩na:](君は日本語 < 標準語 > が上手だねえ)。

ヤ˩マトゥ˥ユー [ja˩matu˥ju:] 【名】日本国の統治時代。「大和世」。˩トー˥ヌ ˩ユー [˩to:˥nu ˩ju:](中国 < 明朝、清朝 > に朝貢していた時代) に対する明治以降の沖縄県の時代。ウ˩キ˥ナーナー ˩トー˥ヌ

˞ユー˺ラ　ヤ˞マトゥ˺ユーナリ　イ˞クサユーヌ˺　アトー　ア˞ミリカ˺ユー　˺ナリ　マ˞タ˺　ヤ˞マトゥ˺ユー　˺ナレール　レ˞キシ˺ヌ　アン˞ダー [ʔu˞ki˺naːna: ˞toː˺nu ˞juː˺ra ja˞matu˺juː ˺nari ʔi˞kusajuː˺nu ˺ʔato: ʔa˞mirika˺juː ˺nari ma˞ta˺ ja˞matu˺juː ˺nareːru re˞kiʃi˺nu ʔan˞daː](沖縄には、唐の世＜時代＞から大和の世＜時代＞になり、戦争時代の後にアメリカ統治時代になり、また日本の時代になった歴史があるよ)。

ヤ˞マ˺ドゥル [ja˞ma˺duru]【名】山鳥。山にいる鳥。˞パイタ˺ナーテー　˞ユー˺ル　˺ナルカー　ヤ˞マドゥル˺ヌ　˺ユー　ナ˞クタン [˞paita˺naːte: ˞juː˺ru ˺naruka: ja˞maduru˺nu ˺juː na˞kutaŋ](西表島＜南端＞では夜になると、山鳥がよく鳴いた)。

ヤ˞マ˺　ナルン [ja˞ma˺ naruŋ]【連】1藪(ヤブ)になる。雑草が繁茂する。密林になる。パ˞タ˺ケー　シ˞ティ˺シケーター　ヤ˞マ˺　ナリティ　ス˞クララ˺ヌ [pḁ˞ta˺keː ʃi̥˞ti˺ʃi̥keːta: ja˞ma˺ nariti su̥˞kurara˺nu](畑は、放置して置いたらば藪になって耕作できない)。2転じて、手がつけられないほど乱雑になる。散らかる。散乱する。˞ヤーン˺　ナカー　ヤ˞マ˺ナリティ　パ˞ダカウワ˺ヌ　˞ペーララ˺ヌ [˞jaːn˺ naka: ja˞ma˺nariti pa˞dakauwa˺nu ˞peːrara˺nu](家の中は物が散乱していて、肌がむずがゆくなるほどで、中へは入れない)。

ヤ˞マニン˺ズ [ja˞manin˺ʤu]【名】一つの御嶽 (お願) に所属して、そこの神を信仰する血統＜血族＞の数。「山人数」の義か。ピ˞ナイウガン˺ヌ　ヤ˞マニン˺ゾー　カ˞ザケー˺　パ˞ナシケー　トゥー˺ジェー　ユ˞レー˺　ユージェーヌ　プ˞スンケー˺ル　˺ムトゥ　ヤ˞ローッ˺タ˞ナー [pi˞naiʔugan˺nu ˺jamaninʤoː ka˞ʤakeː˺ pa˞naʃi̥keː tuː˺ʤeː juːʤeːnu pu̥˞suŋkeː˺ru ˺mutu ja˞roːt˺ta˞naː](鬚川御嶽を信仰する血統は、加治工家、花城家、通事家、寄合家、松竹家が中心でありましたねえ)。

ヤ˞マ˺ヌ　˺アシ [ja˞ma˺nu ˺ʔaʃi]【連】山の裾。ヤ˞マ˺ヌ　ティ˞ジ [ja˞ma˺nu ti˞ʤi](山の頂上) の対義語。ティ˞ドゥ˺クヤマヌ　˺アシナール　˞ユシ˺キダー　˞ケー˺ダー　˞アーラバカ˺　トゥ˞マダーヌ　ター˺ヤ　アル˞ダー [ti˞du˺kujamanu ˺ʔaʃinaːru ˞juʃi̥˺kidaː ˞keː˺daː ˞ʔaːrabaka˺ tu˞madaːnu taː˺ja ʔaru ˞daː](ティドゥク山の山裾に、ユシキダー、　ケーダー、　アールバカ、　トゥマダー、の田圃はあるのだよ)。

ヤ˞マ˺ヌ　˺カン [ja˞ma˺nu ˺kaŋ]【連】山の神様。「山の神」の義。山仕事で、山へ出入りする際に、˞ブー˺ヌ [˞buː˺nu](斧) やヌ˞キ˺ル [nu˞ki˺ru](鋸)、ヤ˞マンガラ˺シ [ja˞maŋgara˺ʃi](山刀) などで怪我をせぬよう、また˞ナー˺ムヌ [˞naː˺munu](毒蛇。＜長物＞の義) の害が及ばぬよう、山の神に祈願して入山した。˞マーパブ [˞maːpabu](毒蛇。「真蛇」の義) やパ˞ブ [pa˞bu](蛇) という語は神願いの場では不吉な語としてタブーとされていた。ヤ˞マー　ペー˺ロール　˺ピンマー　ヤ˞マヌ˺　カンニ　フ˞チカザル　シーティル　ペー˺ローッタ [ja˞maː peː˺roːru ˺pimmaː ja˞manu˺ kanni ɸu̥˞ʧikaʤaru ʃiːtiru peː˺roːtta](山に入られる時は、山の神様に呪文＜口飾り。小声で唱える願文＞を唱えてから＜ぞ＞入られた)。

ヤ˞マヌキ˺ル [ja˞manuki˺ru]【名】山鋸(ヤマノコ)。山林伐採用の鋸。山に入って建築用材を伐ったり、薪用の雑木を伐ったりするのに用いる鋸。軽くてよく切れる。幅約 10 センチ、長さ約 50 センチで、鋸歯は一般に大きく、作業や運搬に安全で便利なように、˺シー [˺ʃiː](鞘。巣。収納ケース) に納めて腰に差し、ヤ˞マンガラ˺シ [ja˞maŋgara˺ʃi](山刀) と共に持ち歩いた。ヤ˞マヌキル˺ヌ　˺パー　タ˞ティ˺ルンティ　˞ベー [ja˞manukiru˺nu ˺paː tḁ˞ti˺runti ˞beː](山鋸の刃を＜鑢(ヤスリ)で＞立てようとしている)。ヤ˞マヌキ˺ロー　ヤ˞マー　ペー˺ル　˺マイナー　ヤ˞シ˺ルシ　˺パー　タ˞ティ˺シタ [ja˞manuki˺roː ja˞maː peː˺ru ˺mainaː ja˞ʃi˺ruʃi ˺paː tḁ˞ti˺ʃi̥ta](山鋸は、山へ入る前に鑢(ヤスリ)で削(ケズ)って歯を立てた)。

ヤ˞マヌシ˺トゥル [ja˞manuʃi̥˺turu]【名】山賊。山の樹木を盗む者。「山盗人」の義。ヤ˞マサー˺ヌ　ヤ˞マヌシ˺トゥル　˞シーベー˺ティ　ヤ˞マカン˺スルン　カ˞サマリタ˺ツォー [ja˞masaː˺nu ja˞manuʃi̥˺turu ˞ʃiː beː˺ti ja˞makan˺suruŋ kḁ˞samarita˺tsoː](山仕事をする人が山泥棒＜無許可で樹木を伐採すること＞をしているので、山看守に逮捕されたそうだ)。

ヤ˞マ˺ヌ　ティ˞ジ [ja˞ma˺nu ti˞ʤi]【連】山の頂上。山頂。ヤ˞マ˺ヌ　ティ˞ジ　ヌーリミッ˺タン [ja˞ma˺nu ti˞ʤi nuːrimit˺taŋ](山の頂上に登ってみた)。

ヤ˞マ˺ヌ　ナ˞ダ˺カ [ja˞ma˺nu na˞da˺ka]【連】山の高さ。山のようにうずたかく。山ほどにたくさん。˞マイヤー˺　カ˞リティ˺　ヤ˞マ˺ヌ　ナ˞ダ˺カ　フ˞ナ˺ジン　˞シー˺　シ˞ミ˺　シケー [˞maijaː˺ ka˞riti˺ ja˞ma˺nu na˞da˺ka ɸu˞na˺ʤiŋ ˞ʃiː˺ ʃi˞mi˺ ʃi̥keː](稲は刈って、山のように船積みして積んである)。

ヤ˞マ˺ヌ　パ˞タ [ja˞ma˺nu pḁ˞ta]【連】山の側。「山の端」の義。˞マーレーヌ˺　ヤ˞マ˺ヌ　パ˞タナー˺

ル　ピ˞ナイサーラー˥　アルミー [˞ma:re:nu˥ ja˞ma˥nu pḁ˞tana:˥ru pi˞naisa:ra:˥ ʔarumi:](マーレーの山の側に＜ぞ＞ピナイ滝はあるんでしょう?)。

ヤ˞マ˥バコー [ja˞ma˥bako:] 【名】山での共同作業。建築用材を伐り出すための共同作業。「山博労(ヤマバクロウ)」の転訛したものか。建築用材を伐採するために家主は予めヤ˞マ˥フミ [ja˞ma˥ɸumi](山踏み) をしておいて、良材の伐採できる所を調べておく。日時を決めて村人に結いによる共同作業を依頼する。˥バコー [˥bako:](共同作業) の当日は、伐採する人はヌ˞キ˥ル [nu˞ki˥ru](鋸) とヤ˞マンガラ˥シ [ja˞maŋgara˥ʃi](山刀) を持って参加し、材木を粗削りする人はヤ˞マブー˥ヌ [ja˞mabu:˥nu](山斧) とヌ˞キ˥ル [nu˞ki˥ru](鋸)、ヤ˞マンガラ˥シ [ja˞maŋgara˥ʃi](山刀) を持参した。当家の人は、15〜16 人程の男の朝食と昼食、午後 3 時の˞サー˥フキ [˞sa:˥ɸu̥ki](茶受けの餅)、˥サー [˥sa:](お茶) を用意した。賄い方として 2、3 人の若い女性も依頼した。作業員たちは早朝に、3〜4 艘の˥イダフニ [˥ʔidaɸuni](サバニ) に分乗して目的地へ渡り、共同作業を実施した。夕方には鳩間島に帰り、ブ˞ガリノー˥シ [bu˞garino:˥ʃi](骨休め。＜疲れ直し＞) として、当家で夕食を取り、酒食の持て成しを受けた。ヤ˞マ˥バコー　˞スー˥　ピンマー　˥マイムティ　ヤ˞マ˥フミ　˞サン˥カー　ナ˞ラ˥ヌ [ja˞ma˥bako: ˞su:˥pimma: ˥maimuti ja˞ma˥ɸumi ˞saŋ˥ka: na˞ra˥nu](ヤマバコー＜山での共同作業＞をする時は、前もって山踏み＜山の事前調査＞をしなければならない)。

ヤ˞マ˥バン [ja˞ma˥baŋ] 【名】山番。盗伐(トウバツ)を監視する役職の人。山の番人。ヤ˞マカン˥スロー　ヤ˞マ˥バン　˞スームル˥　ス˞クブン [ja˞makan˥suro: ja˞ma˥ban ˞su:muru˥ su̥˞kubuŋ](山看守は山の番をするのが職分＜役目＞である)。

ヤ˞マ˥ピニ [ja˞ma˥pini] 【名】無精ひげ。鬚(ヒゲ)を剃らずに伸び放題にしてあるもの。種取祭の時は、苗代に播種して苗が順調に生育するまで鬚を剃ることはタブーとされていた。タ˞ナドゥル˥ヌ　˥マーラー　ビ˞キドゥムンケー˥ヤ　˞パイター˥ラ　ヤ˞マ˥ピニ　˞モー˥シティル　パ˞トゥ˥マー　˞オーッ˥タ˞ダー [ta˞naduru˥nu ˥ma:ra: bi˞kidumuŋke:˥ja ˞paita:˥ra ja˞ma˥pini ˞mo:˥ʃi̥tiru pḁ˞tu˥ma: ˞ʔo:t˥ta˞da:](種取り祭の頃は、男の人たちは南端から無精ひげを生やして鳩間島に来られたのだよ)。

ヤ˞マヒビ˥キ [ja˞maçibi˥ki] 【名】やまびこ (山彦)。山や谷などで人の声や音が反響すること。˞ニンブ˥ツァー [˞nimbu˥tsa:](念仏歌) などに歌われている歌謡語。日常は使わない。

ヤ˞マ˥ピル [ja˞ma˥piru] 【名】 (動) 山に生息する蛭。山蛭。体長 2〜3 センチ。前後に吸盤があり、人や獣類について吸血する。山中を歩くと、足に飛びついてくる。˞パイタ˥ナー　タ˞ム˥ヌ　˥キシン　˞アチャン　˞サーラリティ˥　ヤ˞マー　ペー˥ルカー　ヤ˞マピル˥ヌ　トゥ˞ビ˥　キーティ　˞ティー˥パンナー　フ˞シゥカル˥タン [˞paita˥na: ta˞mu˥nu ˥ki̥ʃiŋ ˥ʔatʃan ˞sa:rariti˥ ja˞ma: pe:˥ruka: ja˞mapiru˥nu tu˞bi˥ ki:ti ˞ti:˥panna: ˞ɸusi̥˞karu˥taŋ](西表島＜南端＞で薪を伐りに、お父さんに連れられて山へ入ると、山蛭が飛んできて手足にくっ付いたものだ)。

ヤ˞マピンギ˥ムヌ [ja˞mapiŋgi˥munu] 【名】山の中へ逃げ込んだ者。特に西表島浦内の野田炭鉱から逃亡した労務者。戦時中炭鉱から逃亡した労務者がティドゥク山を越えて鳩間島の島民が避難している田圃小屋のところへ逃げてきた。鳩間の人は、握り飯と煮芋を与えて、官憲が来ぬうちに逃がしていた。翌日巡査が警察犬を連れて捜索に来ていたが、あまりにも気の毒に思われたので、知らないと答えていた。ヤ˞マピンギムヌ˥ヌ　˞クー˥ター　˞イー˥バ　ッ˞ふァーシティ　ピンガシ˥タ [ja˞mapiŋgimunu˥nu ˞ku:˥ta: ˞ʔi:˥ba f˞fa:ʃi̥ti piŋgaʃi̥˥ta](炭鉱逃亡者が来たので、ご飯を食べさせて逃がした)。

ヤ˞マブー˥ヌ [ja˞mabu:˥nu] 【名】山斧。山で建築用材を切り出し、角材に粗削りするのに用いる斧。鋭利な斧で、薪割り斧と比べて軽い。平常は使用しない。ヤ˞マ˥サー [ja˞ma˥sa:](山師。山から˞キャーンギ [˞kja:ŋgi]＜イヌマキ＞などの名木を伐り出して売りさばく人) などは、斧の刃の部分を取り外して保管していた。ヤ˞マブー˥ノー　イッ˞ケン˥　キ˞シ˥ルン [ja˞mabu:˥no: ʔik˞keŋ˥ ki̥˞ʃi˥ruŋ](山斧は非常によく切れる)。

ヤ˞マフジ˥ル [ja˞maɸuʤi˥ru] 【名】山や林の中を歩き回って名木を探したり、木の実や果物の実を探すこと。「山漁(ヤマアサ)り」の義。パ˞タキ˥ヌ　˞カイ˥ルナ　ヤ˞マフジ˥ル　˞シー　バン˥スル　˥ブリ　˥キー　ヤ˞ラ˥ビン　ッ˞ふァーシ˥バ [pḁ˞taki˥nu ˞kai˥runa ja˞maɸuʤi˥ru ˞ʃi: ban˥suru ˥buri ˥ki: ja˞ra˥biŋ f˞fa:ʃi˥ba](畑からの帰りに山漁り＜野山の木の実を探しまわって＞をして、グアバ＜蕃石榴＞を捥(モ)いできて、子供に食べさせなさいよ)。

ヤ˞マ˥フダ [ja˞ma˥ɸuda] 【名】入山の鑑札。国有林などに入って建築用材を伐る許可証。鳩間島の人

々は西表島の北岸一帯の山に入って建築用材を伐り出していた。自宅の建築用材であれば、ヤ˞マ˩フダ [jaˠmaˠɸuda](入山の鑑札) は昔から必要としなかった。入会権があったからであろう。˞ドゥー˩ヌ ˩ヤー スˠクˠルンティル ヤ˞マ˩ヌ ˩キー ˩キスンダ ムˠカˠシェーラ ヤ˞マ˩フダー トゥ˞ラン˩シェン [˞duː˩nu ˩jaː sɥˠkuˠruntiru jaˠmaˠnu ˩kiː ˩kᵢsunda muˠkaˠʃeːra jaˠmaˠɸudaː tuˠraŋˠʃeŋ](自分の家を造るとて < ぞ > 山の木を伐るんだから、昔から入山鑑札は取らなかった)。

ヤ˞マフナ˩ブ [jaˠmaɸunaˠbu] 【名】 (植) 山の蜜柑 < 九年母 >。山の中にあるヒラミレモン。普通は、フ˞ナ˩ブ [ɸuˠnaˠbu](九年母) という。˞シークゥー˩サー [˞ʃiːkwaː˩saː](ヒラミレモン) は沖縄本島方言からの借用語。クˠトゥシェー˩ ヤ˞マフナブ˩ヌ イッˠケナ˩ ナレーンツォー [kɥˠtuʃeː˩ jaˠmaɸunabu˩nu ʔikˠkena˩ nareːntsoː](今年は山の九年母が非常によく稔った <生(ナ)った > そうだ)。

ヤ˞マ˩フミ [jaˠmaˠɸumi] 【名】「山踏み」の義。家屋新築の際、建築用材を伐り出すために、戸主が西表島の山に入り、共同作業に適した場所、木材を多く切り出せる場所を予め探しておく必要がある。そのために山入りをすることをいう。ナˠダラヤマ [naˠdarajama](ナダラ山) やティˠドゥクヤマ [tiˠduˠkujama](ティドゥク山)、˞マーレーヤマ [˞maːreːjama](マーレー山)、˩クンヤマ [˩kuŋjama](古見山) などの山々にヤマフミをした。ヤ˞マ˩バコー ˞スー˩ マイナー ヤ˞マ˩フミ ˞サン˩カー ナ˞ラン˩シェン [jaˠmaˠbakoː ˞suː˩ mainaː jaˠmaˠɸumi ˞saŋ˩kaː naˠraŋˠʃeŋ](山の共同作業をする前に山踏みをしなければならなかった)。

ヤ˞ママー˩ル [jaˠmamaː˩ru] 【名】1山の見回り。˞アー˩ヤー ˞ターシグトゥ˩ヌ ピˠマピマー˩ ヤ˞ママー˩ル ˞ソーッ˩タン [˞ʔaː˩jaː ˞taːʃigutu˩nu piˠmapimaː˩ jaˠmamaː˩ru ˞soːtˠtaŋ](お父さんは田仕事の暇暇(ヒマヒマ)に山の見回りをされた)。2山林巡検の役人。ムˠカ˩シェー ヤ˞ママール˩ヌ ˞マーリ オーッ˩タンツォー [muˠkaˠʃeː jaˠmamaːru˩nu ˞maːri ʔoːtˠtantsoː](昔は山林巡検の役人が回って来られたそうだ)。

ヤ˞マ˩ママヤー [jaˠmaˠmajaː] 【名】 (動) 野良猫。「山猫」の義。ヤ˞ママヤー˩ヌ ˞ゴー˩ラー ˩ナリティ ガˠシ˩イズン プˠシイ˩ガン ˞サンギ˩パリ ナ˞ラ˩ヌ [jaˠmamajaː˩nu ˞goː˩raː ˩nariti gaˠʃiˠʔidʑum pɥˠʃiˠʔigan ˞saŋgi˩pari naˠraˠnu](野良猫が増えて、火に炙(アブ)って燻製(クンセイ)にした魚も、天日乾燥(テンピカンソウ)した烏賊(イカ)も盗んで引きずっていくので堪(タマ)らない)。

ヤ˞マ˩ミジ [jaˠmaˠmiʤi] 【名】山から流れ出る生水。˞パイタ˩ナーティ ヤ˞マ˩ミジ ˩ヌムカー ˞プーキ˩ カˠカ˩ルンティˠダー [˞paitaˠnaːti jaˠmaˠmiʤi˩numukaː ˞puːki˩ kᵢˠkaˠruntiˠdaː](西表島 < 南端 > で山の生水を飲むと風土病 < 風気 > に罹るそうだよ)。

ヤ˞マ˩ミチ [jaˠmaˠmitʃi] 【名】山道。人や牛が通る小さな道。ムˠカ˩シェー ˞パイタ˩ナー ヤ˞マ˩ミチ ˞タンガ˩ル ˞アッタ˩ル アˠスファルトドー˩ロー ˞ナーン˩シェン [muˠkaˠʃeː ˞paitaˠnaː jaˠmaˠmitʃi ˞taŋgaˠru ˞ʔattaˠru ʔaˠsuɸarutodoː˩roː ˞naːŋˠʃeŋ](昔は、西表島 < 南端 > には山道だけがあったのだ。アスファルト道路はなかった)。

ヤ˞マヤー˩サ [jaˠmajaː˩sa] 【名】山仕事中の空腹感。ヤ˞マヤー˩サー ˞アウ˩ユン ッˠふンティル˩ ムˠカ˩シムネー ˩アル [jaˠmajaː˩saː ˞ʔau˩juŋ fˠfuntiru˩ muˠkaˠʃimuneː ˩ʔaru](山仕事中の空腹感は山仲間をも食うと、昔の言葉にいわれている < 昔言葉にある >)。

ヤ˞マンガラ˩シ [jaˠmaŋgaraˠʃi] 【名】 1山刀。タˠム˩ノー ヤ˞マンガラ˩シシル ˞ケー˩ル [taˠmuˠnoː jaˠmaŋgaraˠʃiʃiru ˞keː˩ru](薪は山刀で < ぞ > たたき切るものだ)。2腕白者(ワンパクモノ)。きかんぼう (利(キ)かん坊)。ビˠコーンッふァー˩ ヤ˞マンガラ˩シ ˩ナリティ イッˠカ˩ プˠスヌ˩ ムニ スˠクンティ˩ サˠヌ [biˠkoːŋffaː˩ jaˠmaŋgaraˠʃi ˩nariti ʔikˠkaˠ pɥˠsunu˩ muni sᵢˠkunti˩ saˠnu](男の子は腕白坊主になって、一向(イッコウ)に他人の言うことを聞こうとしない)。

ヤ˞マン˩ギ [jaˠmaŋˠgi] 【名】(動) 毒毛虫の名。クヌギカレハチョウの幼虫『石垣方言辞典』。蚕より大きくて、毒の刺を持つグロテスクな毛虫。西表の山のアˠゴ˩チキー [ʔaˠgoˠʧiki:] などの木の葉に這っていた。ヨー˞ヨー˩ ヤ˞マン˩ギン ッˠサリ˩ナˠダー [joː ˞joː˩ jaˠmaŋˠgin sˠsari˩naˠdaː](よく気をつけろよ。ヤマンギ毒虫に刺されるなよ)。

ヤ˞マン˩グ [jaˠmaŋˠgu] 【名】わんぱくもの (腕白者)。いたずら者。若年層は、ヤ˞マ˩グ [jaˠmaˠgu] ともいう。クˠヌ˩ ヤˠラ˩ベー ヤ˞マン˩グ ˩ナリティ プˠストゥ˩ アイナー ナˠラ˩ヌ [kuˠnu˩ jaˠraˠbeː jaˠmaŋˠgu ˩nariti pɥˠsutu˩ ʔainaː naˠraˠnu](この子は腕白者になって、他人としょっちゅう喧嘩するので困る < 喧嘩するので、全く堪(タマ)らない >)。

ヤ˞マング˩パダ [jaˠmaŋguˠpada] 【名】腕白盛り。腕白する年頃。ヤ˞マング˩パダー ビˠコーンッふァ

ー˥ パ˩ダキネー˥ンダ ˥ユー ˥ドゥー ヤ˩マ˥スン [ja˩maŋ˥gupada: bi˩ko:ŋffa:˥ pa˩dakine:˥nda ˥ju: ˥du: ja˩ma˥suŋ](腕白盛りは、男の子はよく暴れるから、よく体に傷つける＜胴を病ます＞)。

ヤ˩マングマ˥リ [ja˩maŋguma˥ri] 【名】山籠り。西表島の田圃小屋に長期宿泊して稲作に従事すること。タ˩ナドゥル˥ヌ ˥ピンマー ˩パイタ˥ヌ ˩ター˥ヤーナ ˩トゥッカ アマンナー˥ トゥ˩マリ˥ ヤ˩マングマ˥リ ˩シー˥ ピ˩ニン ボーボー˥シ ˩モー˥シェーティル ˩マイヤー˥ ス˩ク˥ローッタ [ta˩naduru˥nu ˥pimma: ˩paita˥nu ˩ta:˥ja:na ˩tukka ʔamanna:˥ tu˩mari˥ ja˩maŋguma˥ri ˩ʃi:˥ pi˩nim bo:bo:˥ʃi ˩mo:˥ʃe:tiru ˩maija:˥ sɥ˩ku˥ro:tta](種取り祭りの時は、西表島＜南端＞の田圃小屋に十日余りも泊まって、山籠もりをして、稲は作られた)。

ヤ˩マンゴー˥マ [ja˩maŋgo:˥ma] 【名】腕白小僧。悪戯っ児(イタズラッコ)。小腕白。˥パープジヌ ˥ドゥク ア˩タラ˥サ ˩ソー˥ルンダ ヤ˩マンゴー˥マ ˥ナリティ ˩ヨー˥ゾー シ˩キララ˥ヌ [˥pa:puʤinu ˥duku ʔa˩tara ˥sa ˩so:˥runda ja˩maŋgo:˥ma ˥nariti ˩jo:˥ʤo: ʃi˩kirara ˥nu](祖父母があまりにも可愛がるので、腕白小僧になって手がつけられない＜養生できない＞)。

ヤ˩マン˥ゴーン [ja˩maŋ˥go:ŋ] 【形】1腕白である。悪戯っ子である。暴れん坊である。ウ˩ヌ˥ ッ˩ふァー˥ ヤ˩マン˥ゴーンダ ヤ˩マンゴーナーン˥ ッ˩ふァトゥル˥ ア˩サバサリル [ʔu˩nu˥ f˩fa:˥ ja˩maŋ˥go:nda ja˩maŋgo:na:ŋ˥ f˩faturu˥ ʔa˩sabasariru](あの子は腕白だから、腕白でない子とが＜ぞ＞遊ばされる)。ア˩マ˥ヌ ヤ˩マン˥ゴーティ プ˩スンマー アシキララ˥ヌ [ʔa˩ma˥nu ʔa˩maŋ˥go:ti pɥ˩summa: ʔaʃi˩kirara˥nu](あまりにも腕白なので他人には預けられない)。ヤ˩ラ˥ビ ˩シェーン˥ケン ヤ˩マン˥ゴー(ル) ッ˩ふァー˥ フ˩ドゥブ˥カー ˩マイフナー˥ マ˩ルン˥ツォー [ja˩ra˥bi ˩ʃe:ŋ˥keŋ ja˩maŋ˥go:(ru) f˩fa:˥ ɸu˩dubu˥ka: ˩maiɸuna:˥ na˩ruŋ˥tso:](子供の頃に腕白な子は成長すると立派な人になるそうだ)。2おんなたらし(女誑(オンナタラシ))である。ウ˩ヌ˥ プ˩ソー˥ ヤ˩マン˥ゴーンティバ ˩キー˥ シ˩キ˥リ˩ヨー [ʔu ˩nu˥ pɥ˩so:˥ ja˩maŋ˥go:ntiba ˩ki:˥ ʃi˩ki˥ri˩jo:](あの人＜彼＞は女誑(オンナタラ)しだというから、気をつけろよ)。

ヤ˩マン˥ミー [ja˩mam˥mi:] 【名】1雑木林の中。森の中。山の中。ヤ˩マン˥ミーナ ˩ペーリ˥ル ˩キャーンギキーヤ˥キ˩ソーッタ [ja˩mam˥mi:na ˩pe:ri˥ru ˩kja:ŋgiki:ja˥ kɥ˩so:t˥ta](森の中に入ってから＜ぞ＞いぬまき＜犬槙＞は伐られた)。2叢(クサムラ)の中。藪(ヤブ)の中。ヤ˩マン˥ミーナ カ˩ク˥シ ˥シケー [ja˩mam˥mi:na kɥ˩ku˥ʃi ʃi˩ke:](山の中に隠してある)。

ヤ˩ミ [ja˩mi] 【名】闇商売(ヤミ)。標準語からの借用語。イ˩クサユー˥ヌ ˥アトゥナー ˩タイパン˥トゥ ヤ˩ミソーバイ ソーッ˥タン [ʔi˩kusaju:˥nu ˥ʔatuna: ˩taipan˥tu ja˩miso:bai so:t˥taŋ](戦後＜戦世の後＞に台湾と闇商売をされたことがある)。

ヤ˩ミウチ [ja˩miʔutʃi] 【名】闇討(ヤミウチ)。暗殺。石垣島で公演された沖縄芝居から伝播(デンパ)した語。ウ˩レー˥ ヤ˩ナクトゥ˥ カー˩ニ シーベー˥ティル ヤ˩ミウチ˥ シ˩ラリタ˥ツォー [ʔu˩re:˥ ja˩nakɥtu˥ ka:˩ni ʃi:be:˥ tiru ja˩miʔutʃi˥ ʃi˩rarita˥tso:](彼は悪いことがかりしていたので闇討ちされたそうだ)。

ヤ˩ミ˥プス [ja˩mi˥pɥsu] 【名】病人。「病み・人」の義。キ˩ナイ˥ナー ヤ˩ミプス˥ヌ ン˩ジ˥ルカー ウ˩ヌ トゥン˥ザク ˩スンティ デー˥ジ˩ダー [ki ˩nai˥na: ja˩mipɥsu˥nu ʔn˩ʤi˥ruka: ʔu˩nu tunʤa˥ku ˩sunti de:˥ʤi˩da:](一家＜家内＞に病人が出ると、その看病をするとて大変だよ)。

ヤ˩ミルン [ja˩miruŋ] 【他動】やめる(止める)。サ˩キン˥ タ˩バ˥クン ヤ˩ミルンティ スンドゥ˥ ヤ˩ミララヌ [sɥ˩kin˥ ta˩ba˥kuŋ ja˩mirunti sundu˥ ja ˩miraranu](酒も煙草も止めようとするが、止められない)。˩フン˥トー ヤ˩ミ˥ プサカー ヤ˩ミル˥ クトー ˥ナルン [˩ɸun˥to: ja˩mi˥ pɥsaka: ja˩miru˥ kɥto: ˥naruŋ](本当に止めたかったら、止めることはできる)。˩パー˥ク ヤ˩ミレー˥ ミサムヌ [˩pa:˥ ku ja˩mire:˥ misamunu](早く止めればいいのに)。ムー˩ル˥ ヤ˩ミリ˥バ [mu:˩ru˥ ja˩miri˥ba](全部＜総て＞止めろよ)。

˥ヤムン [˥jamuŋ] 【自動】1いたむ(痛む)。トゥ˩シ˥ トゥルカー ˥マーンクマーン ˩ドゥー˥ヌ ˥ヤムン [tɥ˩ʃi˥ turuka: ˥ma:ŋkuma:n ˩du:˥nu ˥jamuŋ](年を取るとあっちこっち＜どこもそこも＞体が痛む)。˥バー マー˩ン˥ ヤ˩マ˥ヌ [˥ba: ma:˩ɲ˥ ja˩ma˥nu](私はどこも痛くない)。ク˩シヌ˥ ヤミティ ˩ウーカラ˥ヌ [kɥ˩ʃinu˥ jamiti ˩ʔu:kara˥nu](腰が痛んで動けない)。˥ヤム ˥クトー ヤ˩ムン˥ドゥ ニ˩ジラ˥リン [˥jamu ˥kɥto: ja˩mun˥du ni˩ʤira˥riŋ](痛むことは痛むが、我慢できる)。˩マー˥ビン ˥ヤメー ˥ミサムヌ [˩ma:˥biɲ ˥jame: ˥misamunu](もっと痛めばいいのに)。2病む。病気になる。「～年長く夜美志＜ヤミシ＞渡れば～。万、897」の転訛したもの。˥ヤミティ ニ˩ビ ベー [˥jamiti ni˩bi be:](病気して＜病んで＞寝ている)。˩マー˥ビン ˥ヤミバ [˩ma:˥biŋ

˥jamiba](もっと病気になれ＜病め＞よ)。

ヤ˩ムン [ja˩muŋ] (1)【自動】止む。止まる。「～浦吹く風の止時＜ヤム時＞なかれ。万、606」の転訛したもの。ヤ˩ミルンとも言う。カ˩ジェー˥　キューズーナ　ヤ˩ム˥クトー　ヤ˩ムンドゥ　ナン˥マー　ビ˩ラヌ [ka˩ʤe:˥ kju:ʤu:na ja˩mu˥ kʉto: ja˩mundu nam˥ ma: bi˩ranu](台風は、今日中には止むことは止むが、高波は引か＜座ら＞ない)。カ˩ジェー˥　マ˩ダ˥　ヤ˩マヌ [ka˩ʤe:˥ ma˩da˥ ja˩manu](風は、まだ止まない)。カ˩ジヌ　イットゥ˥キ　ヤ˩ム˥　ピンマー　˩カイシ˥ヌ　フクン˩ダー [ka˩ʤinu ʔittu˥ki ja˩mu˥ pimma: ˩kaiʃi˥nu ɸʉkun˩da:](台風が一時止むときは、返しの風が吹くよ)。˩パー˥ク　ヤ˩メー˥　ミサムヌ [˩pa:˥ku ja˩me:˥ misamunu](早く止めばいいのに)。**(2)**【他動】止む。止める。シ˩グトゥ˥　ヤ˩ミ˥　プサンドゥ　マ˩ナ˥マー　ヤ˩マラヌ [ʃi˩gutu˥ ja˩mi˥ pʉsandu ma˩na˥ma: ja˩maranu](仕事を止めたいが、今は止められない)。ヤ˩ム˥　クトー　ヤ˩ムンドゥ˥　マ˩ナ˥マー　ヤ˩マヌ [ja˩mu˥ kʉto: ja˩mundu˥ ma˩na˥ma: ja˩manu](止めることは止めるが、今はやめない)。˩パー˥ク　ヤ˩メー˥　ミサムヌ [˩pa:˥ku ja˩me:˥ misamunu](早くやめればいいのに)。˩ワンヌン˥　ヤ˩ミ˥バ [˩wannuŋ˥ ja˩mi˥ba](君も止めろ)。

ヤ˩メーマ [ja˩me:ma]【名】(動) セマルハコガメ。「山小亀」の義。西表島の山中に棲息する小型の亀。ム˩カ˥シェー　˩パイター˥ラ　ヤ˩メーマバ˥　シゥ˩カ˥ミ　˥キー　ヤ˩ラビ˥ヌ　ム˩タビ˥ムヌ　シ˩ミブタト ナー [mu˩ka˥ʃe: ˩paita:˥ra ja˩me:maba˥ si̥˩ka˥mi˥ki: ja˩rabi˥nu mu˩tabi˥munu ʃi˩mibutaɺ-na:](昔は西表＜南端＞からセマルハコガメを捕まえてきて、子供のおもちゃ＜弄(モテアソ)び物＞にしていたなあ)。

ヤ˩メーマ [ja˩me:ma]【名】スナホリガニ。カ˩メーマ [ka˩me:ma](小さな亀) ともいう。体長約 1、5 センチ、幅約 1 センチの亀の形をした蟹。渚の砂の中に生息していて、足で砂を掻くと這いだしてくる。お汁にすると美味しい。子供が海水浴をしながらヤメーマを掘り出して遊んだ。ダ˩シ˥ヌ　˩ナーン˥　ピンマー　ヤ˩メーマトゥ˥　パ˩モール˥バ　˥カキキー　˥スー　バ˩カソーッ˥タ [da˩ʃi˥nu ˩na:m˥ pimma: ja˩me:matu˥ pa˩mo:ru˥ba ˥kąkiki: ˥su: ba˩kaso:t˥ta](出し汁になるものがないときは、ヤメーマと蛤を掻き出してきてお汁を炊かれた)。

ヤ˩ラ [ja˩ra]【名】(地) 屋良。鳩間島の南西の海岸一帯及び畑地。細長い浜が形成されている。潮干狩りに出たり、魚つりをしたりするところ。˩バン˥テヌヤ˩ラヌ˥　パ˩タ˥ケー　˩ウン˥マー　˩ミールタン [˩ban˥tenu ja˩ranu˥ pḁ˩ta˥ke: ˩ʔum˥ma: ˩mi:rutaŋ](私の家の屋良の畑は、芋はよく稔った)。

ヤ˩ライ˥ルン [ja˩rai˥ruŋ]【他動】交差させる。X 字型に組む。竹やススキを X 字型に交差させて組み、垣根や茅葺家の壁及びトゥ˩ル˥クビ [tu˩ru˥kubi](取り外し式の茅製の戸) を作った。普通は、ヤ˩ラザイルン [ja˩raʤairuŋ](交差させる)、ヤ˩ラザウン [ja˩raʤauŋ](交差させる)、ヤ˩ラウン [ja˩rauŋ](交差させる) ともいう。「Yarai. ヤライ (矢来) ある場所を通らせないために作る垣、または、それに類したもの」『邦訳日葡辞書』の動詞へ転訛したもの。ウ˩ディ˥バ　ヤ˩ライ　パン˥バ　ヤ˩ライティ˥　シ˩マ˥トゥルン [ʔu˩di˥ba ja˩rai pam˥ba ja˩raiti˥ ʃi˩ma˥turuŋ](腕を交差させて組み、足を交差させて組んで相撲を取る)。タ˩キバ˥　ヤ˩ライルンティ　スンドゥ˥　ヤ˩ライララヌ [tą̥˩kiba˥ ja˩rairunti sundu˥ ja˩rairaranu](竹を交差させて組もうとするが、交差されない)。ヤ˩ライヤッ˥サン [ja˩raijas˥saŋ](交差させやすい)。

ヤ˩ラザイルン [ja˩raʤairuŋ]【他動】互いに交差させる。タ˩キヌ　ニー˥トゥ　˥スラー　ヤ˩ラザイルン [tą̥˩kinu ni:˥tu ˥sura: ja˩raʤairuŋ](竹の根本と梢を交差させる)。ヤ˩ラザイラヌ [ja˩raʤairanu](交差させない)。ヤ˩ラザイル˥　クトゥ [ja˩raʤairu˥ kʉtu](交差させること)。ヤ˩ラザイ˥　ミサン [ja˩raʤai˥ misaŋ](交差させてもよい)。ヤ˩ラザイレー˥　ミサムヌ [ja˩raʤaire:˥ misamunu](交差させればいいのに)。ヤ˩ラザイリ [ja˩raʤairi](交差させよ)。

ヤ˩ラザウン [ja˩raʤauŋ]【他動】交差させる。根元と梢(コズエ)を交互に交差させる。竹やススキの根本と梢を交互に交差させてシ˩ダ˥ル [ʃi˩da˥ru](すだれ) やユ˩チル [ju˩tsiru](えつり) 等を編む。ユ˩チル˥　フム　˥ピンマー　タ˩キヌ　ニー˥トゥ　˥スラー　ヤ˩ラザイティ˥　フミバ [ju˩tʃiru˥ ɸumu ˥pimma: tą̥˩kinu ni:˥tu ˥sura: ja˩raʤaiti˥ ɸumiba](えつりを編むときは竹の根本と梢を交互に交差させて編みなさいよ)。˩ニー˥トゥ　˥スラー　ヤ˩ラザウンティ　スンドゥ˥　ヤ˩ラザーラヌ [˩ni:˥tu ˥sura: ja˩radaunti sundu˥ ja˩raʤa:ranu](根と梢を交互に交差させようとするが交差させられない)。ク˩レー˥　ヤ˩ラザウ　ムノー˥　ア˩ラ˥ヌ [ku˩re:˥ ja˩raʤau muno:˥ ʔa˩ra˥nu](これは交差させる物ではない)。˩ピーチンゴーシ˥ナー　ヤ˩ラザイヤー˥　ミサムヌ [˩pi:tʃiŋgo:ʃi˥na: ja˩raʤaija:˥ misamunu](一つ置きに交差させればいい

のに)。ヤ˩ラザイ˥バ [ja˩raʤai˥ba](交差させなさい)。

ヤ˩ラスン [ja˩rasuŋ] 【他動】1よこす (寄越す)。こちらへ来させる。˩ワー˥ ムティ ˩ベー˥ ムノー ク˩マー ヤ˩ラシ [˩waː˥ muti ˩beː˥ munoː ku˩maː˥ ja˩rasi](君が持っているものをこちらへ寄越せ)。パ˩ジメー˥ プ˩ス˥ タ˩ナ˥ミ ヤ˩ラスンティ˥ シ˩タヌ˥ マ˩ナ˥マー ヤ˩ラサン˥ツォー [pa˩ʤimeː˥ pu̥˩su˥ ta˩na˥mi ja˩rasunti˥ ʃi̥˩tanu˥ ma˩na˥maː ja˩rasan˥tsoː](初めは人を頼んで寄越すといったが、今は寄越さないそうだ)。2遣(ツカワ)す。使いを遣(ヤ)る。渡す。˥アツァー ˩ワーン˥ トン シゥ˩カイ˥ ヤ˩ラスン˥ミー˩ナー [˥ʔatsa˩ waːn˥ ton si̥˩kai˥ ja˩rasum˥miː˩naː](明日君のところへ使を遣るさねえ)。˥クマーラー シゥ˩カイヤー˥ ヤ˩ラサン˥タンティン ˥ミサン ヤ˩ラシ˥ミサカー ヤ˩ラス˥ クト˥ナルン [˥kumaːraː si̥˩kaijaː˥ ja˩rasan˥tantim ˥misaŋ ja˩raʃi˥ misakaː ja˩rasu˥ ku̥toː ˥naruŋ](ここから使いを遣らなくてもよい。使いを遣ってよければ遣ることはできる)。ヤ˩ラシェー˥ ミサムヌ [ja˩raʃeː˥ misamunu](遣ればよいのに)。˩パー˥ク ヤ˩ラシ [˩paː˥ku ja˩raʃi](早く遣れ＜よこせ＞)。

ヤ˩ラヌ˥パマ [ja˩ranu˥pama] 【名】(地) 屋良の浜。ヤ˩ラン˥パマ [ja˩ram˥pama](屋良の浜) ともいう。ヤ˩ラン˥パマナーティ ˥ユー イ˩ズ ホーシ˥タン [ja˩ram˥pamanaːti ˥juː ʔi˩ʤu hoːʃi̥˥taŋ](屋良の浜でよく魚を釣った)。

ヤ˩ラ˥ビ [ja˩ra˥bi] 【名】子供。「童」の義。˩Varabe.Varambe. ワラベ、または、ワラムベ (童)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ヤ˩ラ˥ベー ウ˩ヤ˥ヌ ˩ミー˥タキ ˥ナルカー ˩ティー˥カケー ナ˩ラ˥ヌ イ˩ジル˥ ナ˩ラー˥ス [ja˩ra˥beː ʔu˩ja˥nu ˩miː˥tḁki naruka˩tiː ˥kḁkeː na˩ra˥nu ʔi˩ʤiru˥ na˩raː˥su](子供は親の身の丈に成長したら、叩いて＜手にかけて＞教えてはならない。叱って教えるものだ)。

ヤ˩ラビアシゥ˥カイ [ja˩rabiasi̥˥kai] 【名】子供扱い。˩ドゥー˥ヌ ッ˩ふァ˥ ヤ˩ラバン˥ アイニ ヤ˩ラビアシゥ˥カイ ˩ソーン˥ナ˩ツォー˥ イ˩チンバー˥キン ヤ˩ラ˥ベー ア˩ラン˥ダー [˩duː˥nu f˩fa˥ ja˩rabaŋ˥ ʔaini ja˩rabiʔasi̥˥kai ˩soːn˥na˩tsoː˥ ʔi˩ʧimba˥ kiŋ ja˩ra˥beː ʔa˩ran˥daː](自分の子供ではあっても、あのように子供扱いなさいますなって。いつまでも子供ではありませんよ)。

ヤ˩ラビッふァー˥マ [ja˩rabiffaː˥ma] 【名】幼児。「童子(ワラベッコ)供」の義。˥アッパー マ˩ナ˥マ シ˩キ˥ティン ˩バイ˥ヨー ˩シンチャン˥ティル ヤ˩ラボー˥ル˩ツォー˥ イ˩チンバー˥キン ヤ˩ラビッふァー˥マティル ウムイ˩ヨー˥ル パジ˩ダー [˥ʔappaː ma˩na˥ma ʃi̥˩ki˥tim ˩bai˥joː ˩ʃintʃan˥tiru ja˩raboː˥ru˩tsoː˥ ʔi˩ʧimba˥ kiŋ ja˩rabiffaː˥matiru ʔumui˩joː˥ru paʤi˩daː](お祖母さんは、いまだに＜今においても＞私をシンチャンと＜ぞ＞呼ばれるんですよ。いつまでも幼児と思っておられるはずだよ)。

ヤ˩ラビ˥ナー [ja˩rabi˥naː] 【名】わらべな (童名)。先祖代々の命名法に基づいて命名された子供の頃の名前。長男は祖父の名前、長女は祖母の名前、次男は母方の祖父の名前、次女は母方の祖母の名前を受け継ぐものとされていた。˥バー ヤ˩ラビナー˥ヤ ス˩ク˥レーティル ア˩ルダー ガッコーナー˥ヤ ˩シンイチ ゲ˥ラ [˥baː ja˩rabinaː˥ja su̥˩ku˥reːtiru ʔaru˩daː gakkoːnaː˥ja ʃinʔitʃige˥ra](私の童名はスクレー＜津久利＞と＜ぞ＞あるよ。学校の名前は真市さ)。

ヤ˩ラビ˥パダ [ja˩rabi˥pada] 【名】子供の頃。幼少の時期。ヤ˩ラ˥ビパダー ˩ターン˥ヤーヌ ッ˩ふァン˥ ビ˩コーンッふァー˥ パ˩ダキネー˥ル ˥アル ˩ソー˥ ス˩ナ˥ヨー [ja˩ra˥bipadaː ˩taːŋ˥jaːnu f˩fam˥ bi˩koːŋffaː˥ pa˩dakineː˥ru ˥ʔaru ˩soː˥ su˩na˥joː](幼少期は、どこの家の子も男の子は暴れん坊＜腕白＞だよ。心配するなよ)。

ヤ˩ラ˥ビンケー [ja˩ra˥biŋkeː] 【名】子供たち。子供ら。ヤ˩ラ˥ビンケーヤ ムー˩ル ガッ˥コー ン ˩ザ˥シェーン [ja˩ra˥biŋkeːja muː˩ru gak˥koː ʔn˩ʤa˥ʃeːŋ](子供たちは皆学校卒業させた)。

ヤ˩ラブ [ja˩rabu] 【名】てりはぼく (照葉木)。オトギリソウ科の常緑高木。高さ約 25 メートル。沖縄ではフクギと共に防風林とされる。木材は建築、器具用に利用される。ア˩ラ˥カーウガン [ʔa˩ra˥kaːʔugaŋ](新川御嶽) には幹の周り約 3 メートルのヤラブの大木が数本生えている。ヤ˩ラボー˥ ナ˩マ˥キーン ˩ムイルンダ ヤー˥ヌ カ˩ク˥ナー イ˩バンセン [ja˩raboː˥ na˩ma˥kiːm ˩muirunda jaː˥nu kḁ˩ku˥naː ʔi˩baŋʃeŋ](ヤラブは生木も燃えるので屋敷＜家の郭＞には植えなかった)。材質が良いので箪笥やお膳等の家具類、挽物に利用された。樹脂が多く、生木のまま燃えるので、屋敷内に植えることを禁じられていた。ヤ˩ラボー ヤー˥ヌ カ˩ク˥ナー イ˩ビルナ˥ティル ナ˩ラー˥ソーッタ [ja˩raboː jaː˥nu kḁ˩ku˥naː ʔi˩biruna˥tiru na˩raː˥soːtta](テリハボクは屋敷内に植えるなと＜ぞ＞教えられたもの

だ)。

ヤ˞ラ˺ブザキ [ja˞ra˺budʑaki] 【固】(地) 屋良部崎。石垣島の西南部にある半島の岬の名。航海の難所として知られている。石垣島の屋良部半島の崎。ヤ˞ラ˺ブザケー　ナ˞ミヌ˺　ア˞ラー˺ンティ˞ダー [ja˞ra˺budʑake: na˞minu˺ ʔa˞ra:˺nti˞da:](屋良部崎は波が荒いそうだよ)。ヤ˞ラ˺ブザケー　ム˞カ˺シェーラ　˺フニ　ム˞ティングリ˺サン　˺トンティ　ア˞ザリブー [ja˞ra˺budʑake: mu˞ka˺ʃe:ra ˺ɸuni mu˞tiŋguri˺san ˺tonti ʔa˞dʑari bu:](屋良部崎は昔から操船しにくい所といわれている)。

ヤ˞ラブン [ja˞rabuŋ] 【他動】呼ぶ。「～叫び於良妣＜オラビ＞～。万、1809」の転訛したものか。˺ウヤ　ヤ˞ラビ˺　ミサカー　ヤ˞ラブンドゥ˺　マ˞ナ˺マー　ヤ˞ラバヌ [˺ʔuja ja˞rabi˺ misaka: ja˞rabundu˺ ma˞na˺ma: ja˞rabanu](親を呼んでよければ呼ぶが、今は呼ばない)。ヤ˞ラブ˺　プ˞ソー　パー˺ク　ヤ˞ラベー˺　ミサムヌ [ja˞rabu˺ pu̥˞so: pa:˺ku ja˞rabe:˺ misamunu](呼ぶ人は早く呼べばよいのに)。ムー˞ル˺　ヤ˞ラビ˺バ [mu:˞ru˺ ja˞rabi˺ba](皆呼びなさいよ)。

ヤ˞ラベー˺マ [ja˞rabe:˺ma] 【名】小さな子供。可愛い子供。ヤ˞ラ˺ビ [ja˞ra˺bi](子供＜童＞) に愛称の接尾辞、-マ [-ma] が付いた形。˞ウン˺ネーナー　フ˞ターチ　ミーチブカラヌ˺　ヤ˞ラベーマ˺ヌ　˞ブン˺ダー [˞ʔun˺ne:na: ɸu̥˞ta:tʃi mi:tʃibukaranu˺ ja˞rabe:ma˺nu ˞bun˺da:](あの家には、二、三歳ぐらいの可愛い子供がいるよ)。

ヤ˞リ- [ja˞ri-] 【接頭】破れ。ヤ˞リ˺ルン [ja˞ri˺ruŋ](破れる) の連用形、˺ヤリ [˺jari](破れ) が名詞に上接して複合名詞をつくる。ヤ˞リ˺キン [ja˞ri˺kiŋ](破れた着物。襤褸(ボロ))。ヤ˞リ˺サナ [ja˞ri˺sana](破れ傘)。ヤ˞リ˺プー [ja˞ri˺pu:](破れた帆)。ヤ˞リ˺カコー [ja˞ri˺kako:](ぼろ＜襤褸＞) など。プ˞スバカヤヌ˺　ヤ˞リキン˺マー　キ˞スナト ヨー [pu̥˞subakajanu˺ ja˞rikim ˺ma: ki̥˞sunat-jo:](外聞が悪い＜人目が恥ずかしい＞から、破れた着物は着るなよ)。

ヤ˞リ [ja˞ri] 【名】槍。標準語からの借用語。普通は、˺フク [˺ɸu̥ku](矛。「～白鷺の桙＜ホコ＞啄ひ持ちて～。万、3831」の転訛したもの)。「矛は鎌倉以前、槍は南北朝以後に実用された」『岩波古語辞典』という。タ˞キヤリ˺シ　˞ティップートゥ˺　ン˞カイバ˺　カナウ　˺ワケー　˞ナー˺ヌ [tḁ˞kijari˺ʃi ˞tippu:tu˺ ʔŋ˞kaiba˺ kanau ˺wake: ˞na:˺nu](竹槍で鉄砲に立ち向ったら、適(カナ)う訳がない)。

ヤ˞リ˺カコー [ja˞ri˺kako:] 【名】ぼろ (襤褸)。破れた着物。雑巾。「巾祭、残帛也、也不礼加々不＜やぶれかかふ＞」『新撰字鏡』の転訛したもの。ム˞カ˺シェー　ヤ˞リ˺カコーシル　シ˞ビ˺シケー　ス˞ク˺ローッタ [mu˞ka˺ʃe: ja˞ri˺kako:ʃiru ʃi˞bi˺ʃi̥ke: su̥˞ku˺ro:tta](昔は破れた着物＜襤褸＞で子供のおむつ＜お襁褓。尻敷き＞を作られた)。

ヤ˞リ˺キー [ja˞ri˺ki:] 【接続】だから。そういうわけで。それゆえ。老年層の使用語。若年層は、ヤ˞リベー˺ティ [ja˞ribe:˺ti](であるから)、ヤ˞リバ [ja˞riba](であるから。「であれば」の義) の類義表現を多用する。前件が後件の原因・理由となることを表す。˞ヤン [˞jaŋ](である) の已然形ヤ˞リ [ja˞ri] に原因・理由を表す順態接続の助詞˺キー [˺ki:](ので) が付いて形成さてたもの。˺キー [˺ki:](ので) は、形容詞には直接に下接しない。ク˞レー˺　タ˞カー˺ン。ヤ˞リ˺キー　˞ワンマー　カーラヌ [ku˞re:˺ tḁ˞ka:˺ŋ。ja˞ri ˺ki: ˞wamma: ka:ranu](これは値段が高い。だから君には買えない)。

ヤ˞リ˺キン [ja˞ri˺kiŋ] 【名】破れた着物。幣衣(ヘイイ)。「破れ衣」の義。ウ˞レー˺　シンピーズ　ヤ˞リ˺キン　カー˞ニル˺　キ˞ス　ソーキンマー˺　キ˞サヌ [ʔu˞re:˺ ʃimpi:dʑu ja˞ri˺kiŋ ka:˞niru˺ ki̥˞su so:kimma:˺ ki̥˞sanu](彼は年中、いつも破れた着物だけを＜ぞ＞着る。上質の＜立派な＞着物は着ない)。

˺ヤリ　シ˞ティルン [˺jari ʃi̥˞tiruŋ] 【連】破って捨てる。「破り捨てる (下一段)」の義。˞ユー˺ゾー　˞ナーン˺　ムノー　˺ヤリ　シ˞ティルンティ˺　ウムイ˞ベー [˞ju:˺dʑo: ˞na:m˺ muno: ˺jari ʃi̥˞tirunti˺ ʔumui ˞be:](利用価値のない物は破ってすてようと思っている)。

˺ヤリ　シ˞トゥン [˺jari ʃi̥˞tuŋ] 【連】破って捨てる。「破り捨つ (下二段)」の義。˺ヤリ　シ˞トゥン˺カヤーティ　ウ˞ムーン˺ドゥ　ウ˞ムイツァー˺ヌ　˺ヤリ　シ˞ティララヌ [˺jari ʃi̥˞tuŋ˺kaja:ti ʔu˞mu:n˺du ʔu˞muitsa:˺nu ˺jari ʃi̥˞tiraranu](破り捨てようかなあと思うが、惜しくて破り捨てられない)。

ヤ˞リッツァー˺スン [ja˞rittsa:˺suŋ] 【他動】散々に破る。破り捨てる。「破り散らす」の義。ウ˞ヌ˺　ティ˞ガ˺メー　ヤ˞リッツァー˺スンティ　ウ˞ムータン˺ドゥ　ウ˞ムイ˺ツァー　˺ナリ　ヤ˞リッツァーサラ˺ヌ [ʔu˞nu˺ ti˞ga˺me: ja˞rittsa:˺sunti ʔu˞mu:tan˺du ʔu˞mui˺tsa: ˺nari ja˞rittsa:sara˺nu](その手紙は破り捨てようと思ったが、惜しくなって、破り捨てられない)。ヤ˞リッツァー˺シ　˞ナー˺ヌ [ja˞rittsa:˺ʃi ˞na:

˥nu](破り散らしてしまった)。ク˞リ˥　ヤ˞リッツァー˥ス　˥クトー　ナ˞ラ˥ヌ [ku˞ri˥ ja˞rittsa:˥su ˥kʉto: na˞ra˥nu](これを破り散らすことはできない)。˞マー˥ビン　ヤ˞リッツァー˥シェー　˥ミサムヌ [˞ma:˥ biŋ ja˞rittsa:˥ʃe: ˥misamunu](もっと破り捨てればいいのに)。˥クベー　ムー˞ル˥　ヤ˞リッツァー˥シバ [˥kube: mu:˞ru˥ ja˞rittsa:˥ʃiba](これだけは全部破り散らしなさいよ)。

ヤ˞リッツァー˥ルン [ja˞rittsa:˥ruŋ] 【自動】散々に破れる。ばらばらに破損する。「破れ散らかる」の義。ヤ˞ブリッツァー˥ルン [ja˞burittsa:˥ruŋ](破れ散らかる) ともいう。ピ˞キスク˥カー　ヤ˞リッツァー˥ルンティ　˞スンドゥ˥　ヤ˞リッツァーラ˥ヌ [pi̥˞kisʉku˥ka: ja˞rittsa:˥runti ˞sundu˥ ja˞rittsa:ra˥nu](引っ張ったら散々に破れる < 破れ散らかる > というが、散々に破れない)。ヤ˞リッツァー˥リ　˞ナー˥ヌ [ja˞rittsa:˥ri ˞na:˥nu](散々に破れてしまった)。ヤ˞リッツァー˥ル　˥ムノー　シ˞ティリ [ja˞rittsa:˥ru ˥muno: ʃi̥˞tiri](散々に破れるものは捨てろ)。˞マー˥ビン　ヤ˞リッツァー˥レー　˥ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ja˞rittsa:˥re: ˥misamunu](もっと散々に破れればいいのに)。ムー˞ル˥　ヤ˞リッツァーリ˥リ [mu:˞ru˥ ja˞rittsa:ri˥ri](全部散々に破れろ)。

ヤ˞リ˥パク [ja˞ri˥paku] 【名】壊れた箱。「破れ箱」の義。˥カイブー　ヤ˞リ˥パコー　ノー˞ン˥　シゥ˞カイユーゾー　ナー˥ヌ [˥kaibu: ja˞ri˥pako: no:˞n˥ si̥˞kaiju:ʤo: na:˥nu](こんな壊れた箱 < 破れ箱 > は何の使い道 < 使い養生 > もない)。

ヤ˞リ˥フチ [ja˞ri˥ɸʉʧi] 【名】破れ目。「破れ口」の義。ク˞ビッチン˥ヌ　ヤ˞リ˥フチェーラル　ウ˞ブヤレー　スンダ˥　ヤ˞リ˥フチェー　ギッ˞ティ˥　ヌイ　シ˞キ˥リ [ku˞bittʃin˥nu ja˞ri˥ɸʉʧe:raru ʔu˞bujare: sunda˥ ja˞ri˥ɸʉʧe: git˞ti˥ nui ʃi̥˞ki˥ri](これぽっちの小さな裂け目 < 破れ目 > から < ぞ > 大破するので、破れ目はしっかりと < ぎゅっと > 縫っておきなさい)。

ヤ˞リフン [ja˞riɸuŋ] 【名】がなり立てること。大声でがみがみ言うこと。声を張り上げて厳しく叱ること。「やりこむ (下二)」の転訛したものか。ウ˞ヌ˥　プ˞ソー˥　ヤ˞リフン　シェー˥ティ　プ˞ス˥　シゥ˞カウンダ˥　ウ˞リトー˥　シ˞グトゥ　シープサー　ナー˥ヌ [ʔu˞nu˥ pʉ˞so:˥ ja˞riɸuŋ ʃe:˥ti pʉ˞su˥ si̥˞kaunda˥ ʔu˞rito:˥ ʃi˞gutu ʃi:pusa: na:˥nu](あの < その > 人はがなり立てながら人を使うから、彼とは仕事をしたくない)。

ヤ˞リ˥ルン [ja˞ri˥ruŋ] 【自動】破れる。「〜衣こそは　それ破者 < ヤレヌレバ >〜。万、3330」「〜吾が裳は破 < ヤレヌ > 玉の緒の〜。万、1280」の転訛したもの。ピ˞キスク˥カー　˞キン˥マー　ヤ˞リ˥ルンダ　ヤ˞リラン˥ヨーニ　˞ユージ˥バ [pi̥˞kisʉku˥ka: ˞kim˥ma: ja˞ri˥runda ja˞riraŋ˥jo:ni ˞ju:ʤi˥ba](引っ張ったら着物は破れるから、破れないように、こちらへ寄りなさいよ)。˥ヤリ　˞ナー˥ヌ [˥jari ˞na:˥nu](破れてしまった)。ヤ˞リ˥ル　˥ムノー　シ˞ティリ [ja˞ri˥ru ˥muno: ʃi̥˞tiri](破れるものは捨てなさい)。˞マー˥ビン　˥ヤレー　˥ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ˥jare: ˥misamunu](もっと破れたらいいのに)。˞マー˥ビン　ヤ˞リ˥リ [˞ma:˥ biŋ ja˞ri˥ri](もっと破れろ)。

ヤ˞ルヌ [ja˞runu] 【接】だが。であるが。しかし。けれども。指定の助動詞˞ヤン [˞jaŋ](だ。である) の連体形に接続助詞˞ヌ [˞nu](が) の付いた形。ウ˞レー　ワー˥　アズ　˞トゥー˥ル　ヤ˞ルヌ˥　ビ˞チ˥ヌ　˥クトゥン　˞カンガイラ˥リン [ʔu˞re: wa:˥ ʔaʤu ˞tu:˥ ru ja˞runu˥ bi˞ʧi˥nu ˥kʉtuŋ ˞kaŋgaira˥riŋ](それは君のいう通りだがしかし、別のことも考えられる)。

˥ヤルン [˥jaruŋ] 【他動】破る。引きちぎって破る。「〜疾 < と > く破りてん」『土佐日記 < 二月十六日 >』、「〜斯くのみ破らせ給ふ、〜」『源氏物語 < 浮舟 >』の転訛したもの。カ˞ビ˥　ヤルンティ　シ˞タヌ˥　ウ˞ムイ˥ツァーティ　ヤ˞ラン˥シェン [ka˞bi˥ jarunti ʃi̥˞tanu˥ ʔu˞mui˥tsa:ti ja˞raŋ˥ʃeŋ](紙を破ろうとしたが、惜しいので破らなかった)。ク˞ヌ˥　カ˞ベー˥　ヤリ　˥ミサカー　˥ヤル　˥クトー　˥ナルン [ku˞nu˥ ka˞be:˥ jari ˥misaka: ˥jaru ˥kʉto: ˥naruŋ](この紙は、破ってよければ、破ることはできる)。˞マー˥ビン　˥ヤレー　˥ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ˥jare: ˥misamunu](もっと破ればいいのに)。˞ワンヌン　パー˥ク　˥ヤリバ [˞wannuŋ pa:˥ku ˥jariba](君も早く破れよ)。

ヤ˞ルンダ [ja˞runda] 【接続】であるから。だから。前に述べたことを理由として、その帰結を述べる。指定の助動詞˞ヤン [˞jaŋ](である) の連体形に˞ンダ [nda](の・だ。の・で) が付いて形成された品詞 (接続詞)。原因・理由などの条件を示し、順態接続を表す。ウ˞レー˥　ムー˞ル　ワー˥　ムヌ　ヤ˞ルンダ　ワール˥　トゥ˞リ　ビ˥キ [ʔu˞re:˥ mu:˞ru wa:˥ munu ja˞runda wa:ru˥ tu˞ri bi˥ki](それは全部君のものだから、君が取るべきだ)。

ヤ˞ルンドゥ [ja˞rundu] 【接続】であるが。だが。指定の助動詞˞ヤン [˞jaŋ](である) の連体形ヤ˞ル [ja˞ru](である) に˞ンドゥ [ndu](のだが) が付いて形成

されたもの。逆態接続を表す。若年層は、ヤ˞ルヌ [ja˞runu](だが) ともいう。˞ワー˜　ムニ　ス˞クˇカー　ˇアイ　ヤ˞ルンドゥ˜　プ˞スヌ˜　パ˞ナˇシン　シゥ˞カンˇカー　ナ˞ラˇヌ [˞waːˇ muni su̥˞kuˇkaː ˇʔai ja˞runduˇ pu̥˞sunuˇ munin si̥˞kaŋˇkaː na˞raˇnu](君の話をきくと、＜なるほど＞そうであるが、他人の話も聞かなければならない)。

ヤ˞ローˇルン [ja˞roːˇruŋ] 【連】～であられる。～でいらっしゃる。˞ヤン [˞jaŋ](である) の尊敬語。ˇクマー　˞コーˇチョーシンシー　ヤ˞ロールンˇドゥ　イッ˞ケナ˜　バ˞カーローˇルン [ˇkumaː ˞koːˇʧoːʃiŋʃiː ja˞roːrunˇdu ʔik˞kenaˇ ba˞kaːroːˇruŋ](こちらは校長先生でいらっしゃるが、非常に若くあられる)。

˞ヤン [˞jaŋ] 【助動】である。「である」の転訛した形。[de･aru] → [djaːn] → [ʤaːn] → [jaŋ](である) と変化しとも。客観的に指定する表現。ˇユン [ˇjuŋ](である。なるほど～である＜軽い詠嘆＞) という特殊な終止形もある。ウ˞ヌ˜　パ˞ナˇシェー　˞フンˇトー　˞ヤンˇユー　ア˞ランˇユー＜ヤ˞ランˇユー＞　シ˞キ˜　ミリ˞ミー [ʔu˞nuˇ pa˞naˇʃeː ˞ɸunˇtoː ˞jaŋˇjuː ʔa˞raŋˇjuː＜ja˞raŋˇjuː＞ ʃi̥˞kiˇ miri˞miː](その話は本当であるのか、でないのか、聞いてみてごらん)。ˇアイ　ヤ˞リキーˇル　シ˞ラˇビミリティ　ア˞ズˇティ　ˇムカーヤ [ˇʔai ja˞rikiːˇru ʃi˞raˇbi ˇmiriti ʔa˞ʤuˇti ˇmukaːja](そうだから、調べてみろというんだよ)。˞フンˇトー　ヤ˞ル˜　クトー　˞ナーˇヌ [˞ɸunˇtoː ja˞ruˇ ku̥toː ˞naːˇnu](本当であることはない)。˞フンˇトー　ヤ˞ルˇカー　˞ヌーˇスワ [˞ɸunˇtoː ja˞ruˇkaː ˞nuːˇsuwa](本当だったらどうするか)。˞フンˇトー　ヤ˞レー˜　ミサムヌ [˞ɸunˇtoː ja˞reːˇ misamunu](本当であればいいのに)。アイユン˞ナー˜　ウ˞レー　ワー˜　アズ　˞トゥール˜　ユン [ʔaijun˞naːˇ ʔu˞reː waːˇ ʔaʤu ˞tuːruˇ juŋ](そうだねえ。それは君が言うとおりだよ)。

ˇヤン [ˇjaŋ] 【名】病気。「～年長く夜美志＜ヤミシ＞渡れば～。万、897」の「夜美」が転訛したもの。バ˞タˇヌ　ˇヤン [ba˞taˇnu ˇjaŋ](腹の病気)。˞ミーˇヌ　ˇヤン [˞miːˇnu ˇjaŋ](目の病＜眼病＞)。バ˞タˇヌ　ˇヤンヌ　ウ˞クˇリティ　カ˞ミラˇリ　ˇヤムサー [ba˞taˇnu ˇjannu ʔu˞kuˇriti ka˞miˇrari jamu˞saː](腹の病が起こって、差し込むようにいたむんですよ)。

˞ヤンガマーラˇサン [˞jaŋgamaːraˇsaŋ] 【形】病気がちである。ク˞ヌ˜　ッ˞ふァー˜　マ˞リットーラ　ヤンガマーラˇサティ　シ˞グトー　シー　ユーサヌ [ku˞nuˇ f˞faːˇ ma˞ritto:ra jaŋgamaːraˇsati si˞guto: siːjuːsanu](この子は生まれつき病気がちなので、仕事は出来＜し得＞ない)。チ˞カˇグロー　˞ヤンガマラーˇサンティ　ス˞クタヌ　ヌーˇシカヤー [ʧi̥˞kaˇguroː ˞jaŋgamaraːˇsanti su̥˞kutanu nuːˇʃikajaː](最近は病気がちだと聞いたが、どうだろうか)。˞ヤンガマラーˇサ　プ˞ソー˜　ニ˞ビ˜　ミサン [˞jaŋgamaraːˇsa pu̥˞soːˇ ni˞biˇ misaŋ](病気がちな人は寝てもよい)。

˞ヤングイ [˞jaŋgui] 【名】掛け声。やごえ。ヤ˞グイ [ja˞gui](掛け声。や声) ともいう。ム˞カˇシェー　ˇヘイヤー　ˇヘイヤーティ　˞ヤングイバ˜　カケーティル　˞ターˇユン　˞カイˇソーッタ [mu˞kaˇʃeːˇheijaːˇheijaːti ˞jaŋguibaˇ kakeːtiru ˞taːˇjuŋ ˞kaiˇsoːtta](昔はや声＜掛け声＞を掛けながら＜かけてぞ＞田圃も耕された)。

˞ヤングˇトゥ [˞jaŋguˇtu] 【名】病気ごと。病気。「病ごと」の義。˞ヤングトゥˇヌ　ウ˞クランˇヨー　ˇドゥーパダニンガイ　˞シー　オースン [˞jaŋgutuˇnu ʔu˞kuraŋˇjoːˇduːpadaniŋgai ˞ʃiː ʔoːsuŋ](病気が起きないように、身体健康祈願をして差し上げる)。

ˇヤンゴー [ˇjaŋgoː] 【名】病弱。病弱な者。ˇヤミ・コハシ「磽、己波志＜こはし＞」『新撰字鏡』の義。[jami・koɸaʃi] → [jaŋ・gowaʃi] → [jaŋgowaʃi] → [jaŋgoː] のように音韻変化したものか。ˇヤンゴーˇナリティ　ナー˞イ˜　ニ˞ビタリ˜　ウ˞キˇラリ　カー˞ニ　シー　ベー [ˇjaŋgoːˇ nariti naː˞iˇ ni˞bitariˇ ʔu˞kiˇtari ka:˞ni ʃiːbeː](病弱になって、ただ寝たり起きたりだけしているよ)。

˞ヤンザスー [˞janʤasuː] 【名】陰暦 2、3 月頃の夜間の干潮。大潮の夜間の干潮。島の女たちは夜間の干潮時に誘い合わせて、月明かりのもと、蛸捕りに出かけた。干潮時には虫がジージージーと鳴くので、それを合図に夜中にして、島の後ろの干瀬にでかけた。ミ˞ドゥムンケーˇヤ　˞ヤンザスーヌ˜　ア˞タルˇカー　タ˞ク˜　トゥリンドゥ　˞オーッ˜タ [mi˞dumuŋkeːˇja ˞janʤasuːˇnu ʔa˞taruˇkaː ta˞kuˇturindu ˞ʔoːtˇta](島の女性たちは、夜の大干潮に当たると、蛸捕りに行かれた)。

˞ヤンスクˇライ [˞jansukuˇrai] 【名】仮病。「病み・繕ひ＜格好をつける。よそおう＞」の義。˞～院に聞こし召さむこともいとほし。このころばかり繕はんと思せど～。『源氏物語　若菜上』」の転訛したものか。˞ウンザー˜　スブットゥ　ˇナリティ　˞ヤンスクライˇバ　˞シー˜　ムッ˞トゥ˜　パ˞タラカヌ [˞ʔunʤaːˇ subuttu ˇnariti ˞jansukuraiˇba ˞siːˇ mut˞tuˇ

pḁ˹tarakanu](あいつは怠け者になって、仮病を使って、ちっとも働かない)。

˺ヤンズメー [˺jandʑume:] 【名】(植) 和名、シマヤマヒハツ。鳩間島の˹ナードーヤマ [˹na:do:jama](長堂、「長窪地」の義。西村とヤラ＜屋良＞の中間にある窪地の海岸側の林) の中の雑木に混じって自生している潅木。葉はガジマルの葉に似て柔らかい。米粒大の実が野葡萄の房のように生り、未熟の実は緑色で完熟すると赤紫、黒紫色になって美味である。ヤ˹ラ˺ビ　˹シェーン˺ケンマー　フ˹チヌ˺　ア˹ガムン˺ケン　˺ヤンズメ　˺ブリ　ッ˹ふータン [ja˹ra˺bi ˹ʃe:ŋ˺kemma: ɸu̥˹tʃinu˺ ʔa˹gamuŋ˺keɲ ˺jandʑume ˺buri f˹fu:taŋ](子供は口が赤く染まるほどヤンズメを捥(モ)いで食べた)。

˹ヤンツァン [˹jantsaŋ] 【係助】～でさえ。～でさえも。～ですら。～だにも。動詞の連用形語尾、名詞の語尾が連母音の場合は、˹-ヤンツァン [˹-jantsaŋ]、その他の場合は、˹-ンツァン [-ntsaŋ] の形をとる。助動詞˹ヤン [˹jaŋ](である) に、係助詞˹ツァン [˹tsaŋ](さえも。すらも。だにも) が付いて形成されたもの。下に来る打ち消し＜否定＞の表現と呼応したり、仮定条件と呼応したりして、当然予想されることや願望を打ち消す表現に用いることが多い。˺ツァン [˺tsaŋ](さえも。すらも。だにも) は、「だに」*[ndani]　→　[ndʑaŋ](さえも)＜石垣方言＞　→　[ntsaŋ](さえも。すらも。だにも)＜鳩間方言＞のように音韻変化したものと考えられる。バ˹ライヤンツァン˺　サ˹ヌ [ba˹raijantsan˺ sa˹nu](笑いすらしない)。バ˹ラインツァン　サヌ [ba˹raintsan sanu](笑いさえもいない) ともいう。ッ˹ふァイヤンツァン˺　サ˹ヌ [f˹faijantsan˺ sa˹nu](食べること＜食らい＞さえしない)。ッ˹ふァインツァン　サヌ [f˹faintsan sanu](食べすらしない) ともいう。˺カキンツァン　サ˹ヌ [˺kḁKintsan sa˹nu](書くこと＜書き＞すらもしない)。シ˹ントゥ˺　プ˹ス˺ルンツァン　タ˹ナマラ˺ヌ [ʃin˹tu˺ pu̥˹su˺runtsan ta˹namara˺nu](たった一人すらも頼まれない)。

˺ヤンパナシキ [˺jampanaʃi̥ki] 【名】病気や風邪。「病み・鼻風邪」の義。フ˹ヨー˺　ヤンパナシキヌ　パ˹ヤー˺ルンダ　˹キン˺マー　ア˹チーアチー˺シキ˹シ　アー˺キ˹ヨー [ɸu˹jo:˺ jampanaʃi̥kinu pa˹ja:˺ runda ˹kim˺ma: ʔa˹tʃi:ʔatʃi:˺ʃi ki̥˹ʃi ʔa:˺ki˹jo:](冬は病気や風邪が流行るから、着物は厚く着込んでいなさいよ)。

˹ヤン˺バラー [˹jam˺bara:] 【名】山原の人。沖縄本島国頭地方の人。少し卑しめた言い方。˹ヤン˺バルプソー　イ˹ジヌ　スー˺ワンダ　˺スイハナプソーラ　˹ヤン˺バラーティ　ア˹ザリ　ブー [˹jam˺barupu̥so: ʔi˹dʑinu su:˺wanda ˺suinahapuso:ra ˹jam˺bara:ti ʔa˹dʑari bu:](山原の人は意気地(イクジ)が強いから、首里那覇の人からヤンバラーといわれている)。

˹ヤンバラ˺イシ [˹jambara˺ʔiʃi] 【名】海中に発達した珊瑚石。˺グー [˺gu:](海岸から海中にかけて発達した珊瑚礁) の一種。˹ヤンバライシ˺ヌ　˺アルン　˺トンマー　˹キー˺　シキ　˺フネー　˺ムティ [˹jambaraʔiʃi˺nu ˺ʔarun ˺tomma: ˹ki:˺ ʃi̥ki ˺ɸune: ˺muti](海中に発達した珊瑚石のある所は気をつけて操船し＜舟を持ち＞なさい)。

˹ヤン˺バル [˹jam˺baru] 【名】やんばる (山原)。沖縄本島の国頭地方。ナ˹ゴーラ　ウイヤー˺　ムー˹ル　ヤン˺バルティ　ア˹ズ˺ミー [na˹go:ra ʔuija:˺ mu:˹ru jam˺baruti ʔa˹dʑu˺mi:](名護から上の方は総て山原というんでしょうねえ)。

˹ヤンバルゴー˺ラー [˹jambarugo:˺ra:] 【名】腿や膝から下にできる、治りにくい悪性のしゅよう (腫瘍)。悪性のできもの。膿が出ると患部が穴のように落ち込み、筋肉が再生するのに半年ほど要する。治癒後に大きなカンパチ (赤く光るはげ。傷跡) が残る。˺パンナー　ウ˹ブアシブ˺ヌ　˺ンジティ　˹ウー˺ミ　˹ゴーリティ　ヤンバルゴー˺ラー　˺ナリ　˹ベー [˺panna: ʔu˹buʔaʃibu˺nu ˺ʔndʑiti ˹ʔu:˺mi ˹go:riti jambarugo:˺ra: ˺nari ˹be:](足に大きなできものが出て、化膿してヤンバルゴーラーになっている)。

˹ヤンバル˺シン [˹jambaru˺ʃiŋ] 【名】ヤンバル船 (山原船)。山原地区と沖縄本島各地との往来や物資の運搬に用いられた帆船。ヤ˹マトゥピーグル˺マ [ja˹matupi:guru˺ma](大和蒸気船) が就航する以前は、沖縄本島と八重山の往来にも用いられた。˺マーランブニ [˺ma:rambuni](馬艦船) ともいう。ム˹カ˺シェー　ウ˹キナー˺タベー　˹ヤンバル˺シンシル　˹ギームドゥル　ソーッ˺タツォー [mu˹ka˺ʃe: ʔu˹kina:˺ tabe: ˹jambaru˺ʃiŋʃiru ˹gi:muduru so:t˺ta ˺tso:](昔は、沖縄旅はヤンバル船で往来＜行き戻り＞されたそうだ)。

˹ヤンピカ˺リ [˹jampika˺ri] 【名】病気で痩せ衰えること。病み衰え。「病み引かれ」の義『石垣方言事典』。˹ヤンピカ˺レー　˹シー˺　ア˹ラキユーサン˺バン [˹jampi̥ka˺re: ˹ʃi:˺ ʔa˹rakiju:sam˺baŋ](病み衰えて歩くことが出来ない＜歩き得ない＞わい)。

˩ヤン˥マ **[˩jam˥ma]** 【名】兄嫁。石垣方言からの借用語。石垣島の本家筋の兄嫁。˥トゥヌスクヌ　˩ヤン˥マーン　パ˩ナ˥シ　ッ˩サリ˥バ [˥tunusu̥kunu ja˩m˥ma:m pa˩na˥ʃi s˩sari˥ba](石垣島の登野城の兄嫁にお話申し上げなさいよ)。

˩ヤン˥マイ **[˩jam˥mai]** 【名】やまい (病)。病気。「〜身疾 < ヤマヒ > あらせず　すむやけくかへし給はね〜。万、1021」の転訛したもの。˩ヤンマイ˥ヌ　˩ナーン˥クトゥル　ニガウ˩ダー [˩jammai˥nu ˩na:ŋ˥ ku̥turu nigau˩da:](病気に罹らない < 病気のない > ことを祈願するのだよ)。フ˩チェー　ヤンマイ˥ヌ　˥ムトゥ [ɸu̥˩tʃe: jammai˥nu ˥mutu](口は病の本だ)。˥ドゥク　サ˩キ˥　ヌムカー　˩ヤン˥マイ　シ˩キ˥ルン˩ダー [˥duku sḁ˩ki˥ numuka: ˩jam˥mai ʃi̥˩ki˥ run˩da:](あんまり酒を飲むと病気になる < 病が付く > よ)。

˩ヤンマイ˥ムチ **[˩jammai˥mutʃi]** 【名】病気持ちの人。持病のある人。ウ˩レー˥　ス˩ブル˥ヤンヌ　˩ヤンマイ˥ムチ　ヤ˩ルンダ˥　パ˩タキシグ˥トー　˩シーユーサヌ [ʔu˩re:˥ su˩buru˥jannu ˩jammai˥mutʃi ja˩runda˥ pḁ˩takiʃigu˥to: ˩ʃi:ju:sanu](彼は頭痛の持病がある < 頭痛の病気持ち > だから、畑仕事はできない)。

ユ

˩-ユ [˩-ju] 【格助】〜を。歌謡語 (文語) に多く用いられる。カ˩レー　バン˥ター　˩ナー˥トー˥　プ˩スユ˥　プ˩ス˥ティン　ウ˩モーヌ [ka˩reː ban˥taː ˩naː˥toː pu̥˩suju˥ pu̥˩su˥tiŋ ʔu˩moː˥nu](あれ < 彼 > は私などを、人間扱いしない < 人を人とも思わない >)。

˩ユー [˩juː] 【終助】〜ますよ。尊敬、丁寧の意味を表す。活用語の終止形、名詞及び準体助詞につく。˥バーラ　˩ワッ˥テヌ　˥ウヤンケーニ　ア˩ジ˥　ッ˩サルント ユー [˥baːra ˩wat˥tenu ˥ʔujaŋkeːni ʔa˩ʤi˥ s˩saruɲt-juː](私からお宅の親御さんに申し上げますよ)。ク˩レー　バー˥　ムヌ˩ユー [ku˩reː baː˥ munu˩juː](これは私のものです)。

˥ユー [˥juː] 【名】湯。ア˩チ˥ユー [ʔa˩ʧi˥juː](熱湯)。「〜さし鍋に湯和可世 < ユワカセ > 子等〜。万、3824」の義。˥ユー　フ˩カ˥シティ　˥サー　˩サイ˥　クーバ [˥juː ɸu̥˩ka˥ʃi̥ti ˥saː ˩sai˥ kuːba](お湯を沸かして、お茶を注いできなさいよ)。

˥ユー [˥juː] 【名】舟に溜まる水。˥アカ [˥ʔaka](淦) ともいう。フ˩ニ˥ヌ　˥ユー　フ˩ミティ˥　ヤ˩ミプス˥ヌ　フ˩タイ˥　ナディ　ッ˩ふィーリ˥バ [ɸu˩ni˥nu ˥juː ɸu˩miti˥ ja˩mipusu˥nu ɸu̥˩tai˥ nadi f˩fiːri˥ba](舟の淦を汲んで病人の額を撫でてあげなさい)。フ˩ニ˥ヌ　˥ムリティ　˩ユー˥ヌ　タ˩マリ　ベー [ɸu˩ni˥nu ˥muriti ˩juː˥ nu ta˩mari beː](舟が漏れて湯が溜まっている)。˥ユー　フ˩ミ˥　シ˩ティリ [˥juː ɸu˩mi˥ ʃi̥˩tiri](舟に溜まった水を汲み取れ < 捨てれ >)。

˥ユー [˥juː] 【名】夜。「〜さ寝し欲能 < ヨの > いくだもあらねば〜。万、804」の転訛したもの。˩ユー˥ル [˩juː˥ru](夜) ともいう。ア˩ツァ˥ヌ　˩ユー˥ヤ　˩ムール˥シ　˥ヨイ　˩ソー˥ラ [ʔa˩tsa˥nu ˩juː˥ja ˩muːru˥ʃi ˥joi ˩soː˥ra](明日の夜は皆でお祝いをいましょう)。˩ユー˥ヤ　ガ˩レー˥ン [˩juː˥ja ga˩reː˥ŋ](夜は明けた)。

˩ユー [˩juː] 【名】世。「〜うつせみの　余乃許等和利止 < ヨの理と >〜。万、4106」の転訛したもの。マ˩ナマ˥ヌ　˩ユーヤ˥　ター˩ン　ガッ˥コー　ン˩ジラ˥リン [ma˩nama˥nu ˩juːja˥ taː˩ŋ gak˥koː ʔn˩ʤira˥riŋ](現代 < 今の世 > は誰でも学校に出ることができる)。ア˩ミリカ˥ユーラ　ヤ˩マトゥ˥ユーティ　˩ユーヌ˥　ウ˩ツリカー˥リ　˥ミリ　˥ケーン [ʔa˩mirika˥juːra ja˩matu˥juːti ˩juːnu˥ ʔu˩tsurikaː˥ri ˥mirikeːŋ](アメリカ世 < 統治時代 > から日本の世 < 日本復帰 > への世の変遷を見てきた)。

˩ユー [˩juː] 【名】豊年。豊作。˩パー˥レー　˥クイ　˩ユー˥　ア˩ゴー˥ルン [˩paː˥reː ˥kui ˩juː˥ ʔa˩goː˥ruŋ](爬龍船を漕いで豊年を迎えられ < 上げられ > る)。˩ユーニンガイソー˥ルン [˩juːniŋgai soː˥ruŋ](豊年祈願祭をされる)。˩ノーリ˥ユー　ン˩カイラレー˥ン [˩noːri˥juː ŋ˩kairareː˥ŋ](豊年 < 稔りの世 > を迎えられた)。

˩ユー [˩juː] 【名】四。四つ。˩ユーシジ [˩juːʃiʤi](四粒)。˩ユーチ [˩juːʧi](四つ)。˩ユーティ [˩juːti](四年)。˩ユームシ [˩juːmuʃi](四回)。˩ティー [˩tiː](一つ)、˩ター [˩taː](二つ)、˩ミー [˩miː](三つ)、˩ユー [˩juː](四つ)、˩イ˥チ [˩ʔi˥ʧi](五つ)、˩ムー [˩muː](六つ)、˩ナ˥ナ [˩na˥na](七つ)、˩ヤー [˩jaː](八つ)、ク˩ク˥ヌ [ku̥˩ku˥nu](九つ)、˩トゥー [˩tuː](十) と数える数詞。

˥ユー [˥juː] 【副】よく (善く、良く、能く)。十分に。˩コー˥　ムノー　˥ユー　˩カン˥ザリ　ッ˩ふァイ [˩koː˥ muno: ˥juː ˩kan˥ʤari f˩fai](硬いものは良く噛み砕いて食べなさい)。ッ˩サンター˥　ユー　˥ミリ　ア˩ラ˥キ [s˩santaː˥ juː ˥miri ʔa˩ra˥ki](下は、よく見て歩け)。ウ˩リトー˥　ユー　ア˩サブタン [ʔu˩ritoː˥ juː ʔa˩sabutaŋ](彼 < あれ > とは良く遊んだものだ)。˥ユー　˩カンガイ˥リ [˥juː ˩kaŋgai˥ri](よく考えなさい)。

˥ユー [˥juː] 【副助】〜か。疑問を表す語、˥ヌー [˥nuː](何)、ヌンティ [nunti](どうして。何故) と呼応して不確かな意味を表す。ウ˩レー˥　ヌーユー　ワ˩カラ˥ヌ [ʔu˩reː˥ nuːjuː wa˩kara˥nu](それは何なのか、分からない)。˥ヌンティ　˩クーン˥ユー　˥バー　ッ˩サヌ [˥nunti ˥kuːŋ˥juː ˥baː s˩sanu](何故来ない

のか、私は分から＜知ら＞ない)。

˥ユー [˥juː] 【並立】～か。～のか。～なのか。1名詞について、肯定・否定の関係にあるものを並べ、どれかを選ぶ意。A か B の形で選択を表す。いくつかの事物を列挙した中から一つを選択する意味を表す。ウ˩レー˥　ム˩チマイ˥ユー　サ˩ク˥マイユー　シ˩ラ˥ビ　˩ミー [ʔu˩reː˥ mu˩ʧimai˥juː sḁ˩ku˥ maijuː ʃi˩ra˥bi ˩miː](これは糯米(モチゴメ)か粳米(ウルチマイ)か調べてみなさい)。2活用語の肯定形と打消し形を並べたものの中から一つを選ぶ意味を表す。シ˩グトー˥　アンユー　˩ナーン˥ユー　˩トゥイ˥　シ˩キ˥　ミリバ [ʃi ˩gutoː˥ ʔaŋjuː ˩naːŋ˥juː ˩tui˥ ʃi̥˩ki˥ miriba](仕事はあるのか、無いのか、問いたずねてごらんよ)。カ˩レー˥　カクンユー　カ˩カン˥ユー　ムッ˩トゥ˥　ア˩ティンガーラヌ [ka˩reː˥kḁkuŋjuː kḁ˩kaŋ˥juː mut˩tu˥ ʔa˩tiŋgaːranu](彼は書くのか書かないのか、ちっとも検討がつかない)。

˥ユー　ア˩カスン [˥juː ʔa˩kasuŋ] 【連】夜を明かす。徹夜する。˩ヨイ˥ヌ　˥ウサイ　ス˩コールンティ　ベーン˥ケン　˥ユー　ア˩カシ　ナーン˥シェン [˩joi˥nu ˥ʔusai su̥˩koːrunti beːŋ˥keŋ ˥juː ʔa˩kaʃi naːŋ˥ʃeŋ](お祝いのご馳走＜お采＞の準備をしているうちに、夜を明かし＜徹夜し＞てしまった)。

˩ユーアギジラマ [˩juːʔagiʤirama] 【名】古謡の名。「世上げジラマ」(豊年迎えのジラマ) の義。豊年祭の˩パー˥レー [˩paː˥reː](爬竜船競争) の舟漕ぎ競争が済んで、爬竜舟を浜に陸揚げした後、漕ぎ手、神職者、応援した村人全員で舟を回りながら歌う古謡。竜宮から豊年を迎えるさまを、予祝儀礼として歌う祭祀歌謡である。/**(1)** インスクヌ　ヨーホー　マブルシュー　マイバマヌ　ヨーホー　ウヤンガミ　**(2)** バガパトゥマニ　ヨーホー　アガリョーリ　クリトゥムルニ　ヨーホー　ウツリョーリ/(**(1)** 海の底＜竜宮＞のヨーホー＜囃子＞守護神様、前の浜のヨーホー親神＜祖先神＞様、**(2)** 我が鳩間島にヨーホー上がってください。ここ友利＜御嶽＞に移りおはしませ)。

˩ユーアキドゥー˥シ [˩juːʔakiduː˥ʃi] 【名】夜通し。一晩中。夜っぴて。夜もすがら。˩ユーアキドゥー˥シ　˩サンシンバ˥　ピ˩キ˥　ヨイ　˩ソーッ˥タ [˩juːʔakiduː˥ʃi ˩sanʃimba˥ pi̥˩ki˥ joi ˩soːt˥ta](夜通し三線を弾いてお祝いをされた)。

˩ユーアサ˥ビ [˩juːʔasa˥bi] 【名】夜遊び。青年男女が夜集まって三味線を弾いて歌い遊ぶこと。ム˩カ˥シェー　バ˩カー˥ムンケーヤ　˩ユー˥ル　ア˩ツァ˥マリティ　˩ユーアサ˥ビ　˩スームル˥　タ˩ヌ˥シミ　˩ヤッタ˥ツォー [mu˩ka˥ʃeː ba˩kaː˥muŋkeːja ˩juː˥ru ʔa˩tsa˥mariti ˩juːʔasa˥bi ˩suːmuru˥ ta˩nu˥ʃimi ˩jatta˥tsoː](昔は、若者たちは夜集まって夜遊びをするのが楽しみだったそうだ)。

˩ユー˥アミ [˩juː˥ʔami] 【名】夜降る雨。「よあめ」の義。「よさめ (夜雨)」のこと。夜雨は農民にとって慈雨と考えられていた。/ミリクユーヌ　シルシトゥカグシヌ　ユアミ　カキブサイ　ミショリシマヌアルジ　シマヌアルジ/(弥勒世の兆候＜印＞は十日越しに降る夜雨です。お恵みください島の主様、島の守り神様)「弥勒節 3 連」『鳩間島古典民謡古謡集』。

˩ユーカ [˩juːka] 【名】四日。若年層は、˩ユッカ [˩jukka](四日) ともいう。ッ˩ふァヌ˥　マ˩リティ　ユーカ˥　ナルカー　˩ユーカジラ　ソーッ˥タン [f ˩fanu˥ ma˩riti juːka˥ naruka: ˩juːkaʤira soːt˥taŋ](子供が生まれて四日になると、産婦と新生児の健康祈願並びに産屋地炉の安全祈願をされた)。

˩ユーカジラ [˩juːkaʤira] 【名】産後四日目の日に執り行われる行事。うぶや (産屋) の˥ジル [˥ʤiru](地炉) の祈願をした。産屋を清め祓い、˩カウ [˩kau](線香) をプ˩ス˥カー [pu̥˩su˥kaː](沖縄香一枚。線香六本)、シゥ˩カン˥パナ [si̥˩kam˥pana](白米＜一掴みの花米＞)、˩カン˥ビン [˩kam˥biŋ](燗壜。瓶) 二本の˥グシ [˥guʃi](酒) を産屋に供えて母子の健康と嬰児の成長を祈願し、仏壇の祖先へ報告した。

˩ユーカソージ [˩juːkasoːʤi] 【名】産後四日目に執り行う清め祓いの祈願。「四日精進」の義。˩ユーカジラ [˩juːkaʤira] とおなじ。˩ユーカジラ˥ナー　˩ニン˥ガイ　˩オー˥ル　˥ムヌル　˩ソー˥ジ　˥ナル　˥シジ˩ナー [˩juːkaʤira˥naː ˩niŋ˥gai ˩ʔoː˥ru ˥munuru ˩soː˥ʤi naru ʃiʤi˩naː](産後四日目に祈願されるものが祈願＜精進＞になるわけですね)。

˩ユーカタ [˩juːkata] 【名】四方。東・西・南・北の四つの方角。周囲。˩イーラ　アーラ˥　ニ˩シェー˥　パ˩ヤー˥ヌ　˩ユーカタ˥ナー　シ˩ルシヌ　キー˥バ　イ˩ビ˥　シケー [˩ʔiːra ʔaːra˥ ni˩ʃeː˥ pa˩jaː˥nu ˩juːkata˥ naː ʃi˩ruʃinu kiː˥ba ʔi˩bi˥ ʃi̥ke:](西、東、北、南の四方に印の木を植えてある)。

˩ユーカドゥ [˩juːkadu] 【名】四隅。四つ角。˩ユーシヌ [˩juːʃinu](四つ角) ともいう。˩ヤー˥ヌ　˩ユーカドゥヌ˥　パラー　フ˩クンキー˥　シゥ˩カイ˥バ [˩jaː˥nu ˩juːkadunu˥ paraː ɸu̥˩kuŋkiː˥ si̥˩kai˥ba](家の四隅の柱は福木を使いなさいよ)。

˹ユーカナ˺ティ [˹juːkana˺ti] 【名】さきおととい (一昨昨日)。さきおとつい。˺キノー　˹ブシトゥイ˺ヌ　˺クトゥ　˹ヤッタ˺カヤーティ　ウ˹ムータ˺ヌ　ア˹ラ˺ヌ　˹ユーカナティ˺ヌ　ク˹トゥ˺ル　ヤ˹レー˺バン [˺kinoː ˹buʃi̥tui˺nu ˺ku̥tu ˹jatta˺kajaːti ʔu˹muːta ˺nu ʔa˹ra˺nu ˹juːkanati˺nu ku̥˹tu˺ru ja˹reː˺baŋ](昨日、一昨日のことだったかと思ったが、いや違う＜そうでない＞、一昨昨日のことだったんだよ)。

˹ユーガラ˺サ [˹juːgara˺sa] 【名】夜烏。夜鳴く烏。「暁と夜烏雖鳴＜ヨガラスなけど＞〜。万、1263」の転訛したもの。夜烏が鳴くと不吉なことが起きるといって、搗き臼を叩いて追い払った。˹ユーガラサ˺ヌ　ナ˹ク˺カー　イ˹ナシ˺キシ　シ˹キウシ˺バ　˹シッ˺ケーティ　˺ナーマヤーヌ　ッ˹ふァー˺マ˹ドー˺ティル　ウ˹ヤールタ˺ル [˹juːgarasa˺nu na˹ku˺kaː ʔi ˹na˺ʃi̥kiʃi ʃi̥˹ki˺ʔuʃi˺ba ˹ʃik˺keːti ˺naːmajaːnu f˹faː˺ma˹ doː˺tiru ʔu˹jaːruta˺ru](夜烏が鳴くと杵＜稲搗き＞で搗き臼を搗き鳴らしながら、ナーマヤーヌ　ッふァーマドー＜長間家の子孫だよ＞と叫んだものだ)。

˹ユー˺キ [˹juː˺ki] 【名】夜更かし。夜遅くまで起きること。「夜起き」の転訛したもの。˺ドゥク　˹ユー˺キ　˹スー˺カー　ア˹サ˺ニビ　˹スンダー　パー˺ク　ニ˹ビ [˺duku ˹juː˺ki ˹suː˺kaː ʔa˹sa˺nibi ˹sundaː paː ˺ku ni˹bi](あまり夜更かしすると朝寝坊するから、早く寝なさい)。ヤ˹ラビ˺ヌ　˹トゥンザ˺ク　˹スンティ　ユー˺キ　˹シー　ニフター˺ヌ　ナ˹ラ˺ヌ [ja˹rabi˺nu ˹tundʑa˺ku ˹sunti juː˺ki ˹ʃiː niɸu̥taː˺nu na˹ra˺nu](子供の看病をするとて夜更かしをして、眠たくて堪らない)。

˹ユー˺キカーキ [˹juː˺kikaːki] 【名】夜更かし。「夜起き」の ABCDBC 型の重言。「夜更かし」の強調表現。嫌な夜更かし。不要な夜更かし。サ˹キヌミ˺プスン　˹ユー˺キカーキ　シ˹ミラリ　トーリンギサ˺ル [sḁ˹kinumi˺pu̥suŋ ˹juː˺kikaːki ʃi˹mirari toːriŋgisa˺ru](酒飲みに夜更かしをさせられて、倒れそうだ)。

˹ユー˺クーン [˹juː˺kuːŋ] 【自動】休む。休息する。「憩う」の義。˺ユクーン [˺jukuːŋ](「休まれる」。丁寧語) ともいう。「息舌、伊己不 (いこふ)」『新撰字鏡』、「息、休、イコフ」『類聚名義抄』の転訛したもの。˺バー　˹ユー˺クーンティ　シ˹タヌ˺　ウ˹レー　ピッ˺チン　˹ユーコーン˺シェン [˺baː ˹juː˺kuːnti ʃi̥˹tanu˺ ʔu˹reː pittʃi˺ɲ ˹juːkoːn˺ʃeŋ](私は休もうとしたが、彼はちっとも休まなかった)。˹ユー˺クイ　˺ミサカー　˹ユー˺クー　˺クトー　˺ナルン [˹juː˺kui ˺misakaː ˹juː˺kuː ˺ku̥toː ˺naruŋ](休んでよければ、休むことはできる)。ン˹ベーマー　ユークイ˺ヤー　˺ミサムヌ [ʔm˹beːmaː juːkui˺jaː ˺misamunu](少しは休めばいいのに)。˹ワー　ユー˺クイバ [˹waː juː˺kuiba](君は休めよ)。

˹ユー˺クイ [˹juː˺kui] 【連】豊穣をこいねがう (希う) こと。豊年、豊作を祈願すること。˹世を乞う」の義。豊年祭に歌われる古謡に、˹ユークイジラ˺マ [˹juːkuidʑira˺ma](豊年祈願のジラバ) がある。/1、パトゥマユーヌ (鳩間村が)　囃子＜ヨーホ＞　トゥムルユーヌ　ナウラバ (友利御嶽の神々が鎮座ます村が豊穣を迎えたら)　囃子＜ヨーホ＞　スイナウレ (それ、稔れ)/2、タルトゥユドゥ (誰とぞ)　囃子＜ヨーホ＞　ジリトゥユドゥ　ティユマス (誰＜何れ＞と共に称えよう＜響まそう＞)　囃子＜ヨーホ＞　スイナウレ (それ稔れ)/3、マブルシュドゥ (守り神を)　囃子＜ヨーホ＞　ウヤガミドゥ　ナトゥラス (おやがみ＜祖神＞を称えます＜名を上げる＞)　囃子＜ヨーホ＞　スイナウレ (それ稔れ)/以下曲調変わる (早め句)。/パトゥマユーヌ　ナウラバ (鳩間村が豊穣を迎えると)　囃子＜ヨー　サーユイユイ＞/トゥムルユーヌ　ミギラバ (友利御嶽の神々が守護されます村が稔ると)　囃子＜ヨー　ハイヨー　シュラヨー (はれよ、真に麗しい)/『鳩間島古典民謡古謡集』。

˹ユークイジラ˺マ [˹juːkuidʑira˺ma] 【名】古謡の名。「世乞いジラマ」(豊年を祈願するジラマ) の義。˹パーレー˺フニ [˹paːreː˺ɸuni](爬竜船) がスタートラインに着くまでに歌う予祝儀礼の祭祀歌謡。/**(1)** パトゥマユーヌ　ヨーホー　トゥムルユーヌ　ナウラバ　ヨーホー　スイナウレ　**(2)** タルトゥユドゥ　ヨーホー　ジリトゥユドゥ　ティユマス　ヨーホー　スイナウレ　**(3)** マブルシュドゥ　ヨーホー　ウヤガミドゥ　ナトゥラス　ヨーホー　スイナウレ　**(4)** 早め句。パトゥマユーヌ　ナウラバ　ヨー　サーユイユイ/(**(1)** 鳩間世が　ヨーホ＜囃子＞、友利御嶽の世が稔ると、ヨーホー　スイナウレ＜囃子＞　**(2)** 誰と共に　ヨーホー　何方(ドナタ)と共に鳴響まそうか　ヨーホースイナウレ＜囃子＞　**(3)** 守護神をぞ　ヨーホー　祖先神ををぞ讃える＜轟かせる＞ヨーホースイナウレ　**(4)** 早め句。鳩間世が、稔ると、ヨー　サーユイユイ＜囃子＞)。**(4)** の「早め句」を歌い終わるのがスタートの合図であったという。西村のユークイジラマは早め句の

囃子「サーユイユイ」が欠落しているので、スタートが一瞬早くなり、祭祀として、西村が常勝する構造になっていたという。西村が勝利すると、ユ˞ガフ [juˈgaɸu](豊年) になると信じられていたからである。

˞ユーケーラ [ˈjuːkeːra] 【名】 (数) 四回。回数を表す。四往復。「ただひとかへり舞ひて入りぬるは〜」『源氏物語　若菜下』の転訛したもの。˞ユッケーラ [ˈjukkeːra](四回。四往復) ともいう。プ˞スケー˞ラ [pu̥ˈsukeːra](一回。一往復)。フ˞タケーラ [ɸu̥ˈtakeːra](二回。二往復)。˞ミーケーラ [ˈmiːkeːra](三回。三往復)。イ˞チケー˞ラ [ʔiˈtʃikeːra](五回。五往復)。˞ムーケーラ [ˈmuːkeːra](六回。六往復)。ナ˞ナケー˞ラ [naˈnakeːra](七回。往復)。˞ヤーケーラ [ˈjaːkeːra](八回。往復)。ク˞ヌケー˞ラ [kuˈnukeːra](九回。往復)。˞トゥーケーラ [ˈtuːkeːra](十回。往復)。

˞ユーコー˞スン [ˈjuːkoːsuŋ] 【他動】休ませる。シ˞グトゥ　ユーコー˞スンティ　˞スンドゥ　キュー˞ヤ　˞ユーコーサン˞ツォー [ʃiˈgutu juːkoːsunti ˈsundu kjuː˞ja ˈjuːkoːsan˞tsoː](仕事を休ませようとするが、今日は休ませないそうだ)。˞ユーコー˞シ　˞ミサカー　˞ユーコー˞ス　˞クトー　˞ナルン [ˈjuːkoːʃi˞misakaː ˈjuːkoːsu˞ku̥toː˞naruŋ](休ませてよければ休ませることはできる)。˞ユーコー˞シェー　˞ミサムヌ [ˈjuːkoːʃeː˞misamunu](休ませばいいのに)。˞ユーコー˞シ [ˈjuːkoːʃi](休ませろ)。

˞ユーザスン [ˈjuːʤasuŋ] 【他動】寄させる。寄せさせる。自動詞˞ユーズン [ˈjuːʤuŋ](寄る) の未然形に使役の助動詞˞スン [˞suŋ](せる。させる) が付いて形成された使役動詞。「〜濱波はいやしくしくに高く与須礼騰 < ヨスレド >。万、4411」の転訛したものか。˞ニー˞ヤ　ク˞マー　ユーザスンティ　スンドゥ　ユーザサラヌ [ˈniː˞ja kuˈmaː juːʤasunti sundu juːʤasaranu](荷物はここへ寄せようとするが、寄せられない)。˞ユーザシ˞ミサカー　˞ユーザス˞クトー　˞ナルン [ˈjuːʤaʃi˞misakaː ˈjuːʤasu˞ku̥toː˞naruŋ](寄させてよければ、寄させることはできる)。˞マー˞ビン　˞ユーザシェー˞　ミサムヌ [ˈmaː˞biɲ ˈjuːʤaʃeː˞misamunu](もっと寄させればいいのに)。ン˞ベーマ　ユーザシ [ʔmˈbeːma juːʤaʃi](少し寄させなさい)。

˞ユー　˞サン˞カー [˞juː ˈsaŋ˞kaː] 【連】ひょっとしたら。もしかしたら。「よく (善く) せずは」の転訛か。˞タール˞　シ˞タ˞ユー　ッ˞サヌヌ˞　ユー　˞サン˞カー　ウ˞リル　シェー˞ユー　ッ˞サン˞サー [ˈtaːru˞ʃi̥ˈta˞juː sˈsanunu˞juː ˈsaŋ˞kaː ʔuˈriru ʃeː˞juː sˈsan˞saː](誰がしたのか知らないが、ひょっとしたら彼がした < してある > のかも知れないなあ)。

˞ユー　˞サン˞トー [˞juː ˈsan˞toː] 【連】ひょっとしたら。下手すると。「良くしないと」の義。ユー˞サン˞カー [juːˈsaŋ˞kaː](ひょっとしたら) ともいう。「〜風まもり好爲而 < ヨクシテ > いませ〜。万、381」の転訛したものか。˞ユーサン˞トー　マ˞ニアー˞ンダ　イ˞ソー˞　ン˞ジパザ˞クンユー　ッ˞サン˞サー [˞juː ˈsan˞toː maˈniʔaː˞nda ʔiˈsoː˞ ʔnˈʤipaʤa˞kuŋjuː sˈsan˞saː](ひょうっとしたら、間に合わないから、漁に出損ねるかも知れないなあ)。

˞ユージェー [˞juːʤeː] 【名】屋号。松竹三戸氏宅 (現、松竹実氏宅)。˞ユザヤー [˞juʤajaː](松竹家。「寄合家」の音韻変化により、転訛したものと考えられる)。普通は、˞ユージェー [˞juːʤeː](松竹家) という。松竹家は、ユ˞レー [juˈreː](寄合家) からの分家といわれている。「ヨリアイ」のイ段音に中舌母音 [i̞] が残っていた時代に、[juri̞ai](寄り合い)→　[juʤi̞jeː]　→　[juʤeː]　→　[˞juːʤeː](「松竹家」) と転訛したもの。一方、中舌母音 [i̞] が前舌狭母音 [i] に変化した後に、連母音 [ai] が融合して [eː] となり、[joriai]　→　[jureː](寄り合い) と規則的に音韻変化して現在の「寄合家」の新方言ユ˞レー [juˈreː](寄合家) が生成されたものである。この音韻現象は、古い時代の鳩間方言に中舌母音 [i̞] が存在したことを証明する。˞ユージェーヤ　ユ˞レーヌ˞　バ˞カ˞リ　ヤ˞ロー˞リ　ユ˞レーヤ˞　カ˞ザケーラヌ˞　バ˞カ˞リ　ヤ˞ロー˞ルティ　ス˞クタン [˞juːʤeːja juˈreːranu˞ baˈka˞ri jaˈroː˞ri juˈreːja˞ kaˈʤakeːranu˞ baˈka˞ri jaˈroː˞ruti su̥ˈkutaŋ](松竹家は寄合家からの分家であられ、寄合家は加治工家からの分家であられると聞いたことがある)。

˞ユー　˞シェー˞ン [˞juː ˈʃeː˞ŋ] 【連】よくやった。でかしたぞ。よく出来た。ク˞トゥシェー˞　イ˞チ˞バン˞ナリ　˞マイフナート ドー。˞ユー　˞シェー˞ン [ku̥ˈtuʃeː˞ ʔiˈtʃi˞ban˞nari ˈmaiɸunaːꜜdoː。˞juː ˈʃeː˞ŋ](今年は一番になって、お利口さん。でかしたぞ)。

˞ユーシギ˞ロールン [ˈjuːʃigi˞roːruŋ] 【自動】お亡くなりになる。「世・過ぎ・おわす < 在す >」の義。「過ぎる」は原義から転じて、「死ぬ」の敬語として用いられる。高齢者や身分の高い人の逝去(セイキョ)に対していう。「〜立つ霧の思ひ須疑米夜 < スギメヤ >〜。万、4000」の転訛したものか。˞アブジェー　˞ユーシギ˞ローリ　˞ナー˞ヌ [˞ʔabuʤeːˈjuːʃigi˞roːri ˈnaː˞nu](お

祖父さんは亡くなられてしまった)。˺アブジェー　˹ユーシギ˺ロールンケン　パ˹タラキ　トゥーシル　オーッ˺タ　˹ユーシギ˺ローランケン　ウ˹キ˺ナー　シゥ˹カシ　キー˺　プサタン [˺ʔabuʤe: ˹ju:ʃigi˺ro:ruŋkem pḁ˹tarakitu:ʃiru ʔo:t˺ta ˹ju:ʃigi˺ro:raŋkeŋ ʔu˹ki˺na: si̥˹kaʃi ki:˺ pu̥satаŋ](お祖父さんは亡くなられるまで働き通しであった。亡くならないうちに沖縄にお連れしたかった)。˹オーパ˺ヤー　˹ユーシギ˺ローレー　ナ˹ラ˺ヌ [˹ʔo:pa˺ja: ˹ju:ʃigi˺ro:re: na˹ra˺nu](こんなに早く亡くなられてはなりません)。

˹ユーシグ˺トゥ [˹ju:ʃigu˺tu]【名】夜なべ。夜業。夜の仕事。˹ブー˺バ　˹ウー˺ミ　˹ユーシグ˺トゥ　˹シール˺　ウ˹ビ˺ヌ　ッ˹ふァン˺ケー　ス˹ダ˺トーッタ [˹bu:˺ba ˹ʔu:˺mi ˹ju:ʃigu˺tu ˹ʃi:ru˺ ʔu˹bi˺nu f˹faŋ˺ke: su˹da˺to:tta](お < 苧・麻 > を績(ウ)んで夜なべをして < ぞ > あれだけの子供たちを育てられたものだ)。

˹ユー˺シッタイ [˹ju:˺ʃittai]【感】ざま見ろ。いい気味だ。それみたことか。相手に対し、注意をしたのに聞き入れないで失敗したときに咎(トガ)めていう。˹ユー˺シタイ [˹ju:˺ʃi̥tai](ざま見ろ)、˺シッタイヒャー [˺ʃittaiça:](ざま見ろ) ともいう。˺アイブ　ヤ˹ナクトゥ　スンダル˺　ウ˹ドゥ˺クティ　˺ムカーヤ　˺ユーシッタイ [˺ʔaibu ja˹nakutu sundaru˺ ʔu˹du˺kuti ˺muka:ja ˺ju:ʃitai](あんな悪事をするからこそ欠損するんだよ。ざま見ろ)。

˹ユーシヌ [˹ju:ʃinu]【名】四つ角。ウ˹ブヤー˺ヌ　˹ユーシヌヌ˺　パラー　˹キャーンギ˺　シゥ˹カイ˺バ [ʔu˹buja:˺nu ˹ju:ʃinunu˺ para: ˹kja:ŋgi˺ si̥˹kai˺ba](母屋の四つ角の柱は槙の木を使用しなさいよ)。よつじ。道が四つに分かれている辻。ミ˹チ˺ヌ　˹ユーシヌ˺ナー　プ˹スヌ˺　タティ　˹ベー [mi˹ʧi˺nu ˹ju:ʃinu˺na: pu̥˹sunu˺ tḁti ˹be:](道の四つ角に人が立っている)。

˹ユーシバ˺ル [˹ju:ʃiba˺ru]【名】寝小便。夜尿症。「˹ユー [˹ju:](夜)」に「Ibari. イバリ (尿)、尿、あるいは、小便。例、Ibariuo suru(尿をする)」『邦訳日葡辞書』の付いた形の転訛したもの。シ˹バ˺ルカメー [ʃi˹ba˺rukame:](夜尿症の子供) ともいう。ク˹ヌ˺　ッ˹ふァー　ユーシバ˺ル　˹シー˺ナー　ナ˹ラ˺ヌ [ku˹nu˺ f˹fa: ju:ʃiba˺ru ˹ʃi:˺na: na˹ra˺nu](この子は寝小便をして困る < 堪らない >)。

˹ユーシミ [˹ju:ʃimi]【名】四隅。四つ角の内側。˹ユーシヌ [˹ju:ʃinu](四つ角。四隅の角の部分) ともいう。˹ヤシキ˺ヌ　˹ユーシミ˺ナー　˹キャーンギキー˺　イ˹ビ˺シケー [˹jaʃi̥ki˺nu ˹ju:ʃimi˺na: ˹kja:ŋgiki:˺ ʔi˹bi˺ʃi̥ke:](屋敷の四隅に槙の木を植えてある) の。

˹ユー˺シュー [˹ju:˺ʃu:]【名】夜露。夜間におりる露。バ˹カー˺ムヌヌ　サ˹キバ˺　ヌミティ　˹ユー˺シューナ　ウ˹タ˺リ　ニ˹ビアーキ˺ル　˹ヤン˺マイ　カ˹カ˺レーティ˹ダー [ba˹ka:˺mununu sḁ˹kiba˺ numiti ˹ju:˺ʃu:na ʔu˹ta˺ri ni˹biʔa:ki˺ru ˹jam˺mai kḁ˹ka˺re:ti˹da:](若者が酒を飲んで夜露に打たれて寝ていて < ぞ > 病に罹ったそうだ)。

˹ユーシルン [˹ju:ʃiruŋ] (1)【自動】打ち寄せる。近づく。˹ナン˺ヌ　˹ユーシルン˺ティ　シ˹タヌ　ユーシラン˺ツォー [˹nan˺nu ˹ju:ʃirun˺ti su̥˹kutanu ju:ʃiran˺tso:](津波 < 大波 > が寄せると聞いたが、寄せないそうだ)。ム˹カ˺シ　イ˹サナキ˺ナー　˹ナン˺ヌ　˹ユーシ˺　ケータンツォー [mu˹ka˺ʃi ʔi˹sanaki˺na: ˹nan˺nu ˹ju:ʃi˺ ke:tantso:](昔、石垣島に津波が寄せてきたそうだ)。パ˹トゥ˺マー　˹カンダカー˺ティ　˹ナン˺ヌ　˹ユーシル˺　ピンマー　˹カン˺ヌ　˹ティーヌ˺ピサナー　˹ヌーシ˺　ムタイ˹ヨー˺ルツォー [pḁ˹tu˺ma: ˹kandaka:˺ti ˹nan˺nu ˹ju:ʃiru˺ pimma: ˹kan˺nu ˹ti:nu˺pi̥sana: ˹nu:ʃi˺ mutai˹jo:˺rutso:](鳩間島は霊験あらたかな < 神霊高い > 島なので、津波が寄せる時は、神の掌(テノヒラ)に(ノ)載せて持ち上げられるそうだ)。**(2)**【他動】寄せる。ニ˹ム˺チ　˹ワーン˺　トン　˹ユーシルンティ˺　ウ˹ムーン˺ドゥ　˹グッふァ˺ヌ　ムッ˹トゥ　ユーシララヌ [ni˹mu˺ʧi ˹wa:n˺toŋ ˹ju:ʃirunti˺ ʔu˹mu:n˺du ˹guffa˺nu mut˹tu ju:ʃiraranu](荷物を君の所に寄せようと思うが、重くて、一向に < 少しも > 寄せられない)。

˹ユー˺ズ [˹ju:˺ʥu]【名】1用事。用件。用向き。所要。仕事。˹ユーズ˺ヌ　˹ナーン˺　プ˹ソー　ヤー˺　パリ˺ミサン [˹ju:ʥu˺nu ˹na:m˺ pu̥˹so: ja:˺ pari ˺misaŋ](用事のない人は、家に帰ってよい)。˹ワッ˺テナー　˹ユーズ˺ヌ　ア˹リ˺ル　ケー˹ダー [˹wat˺tena: ˹ju:ʥu˺nu ʔa˹ri˺ru ke:˹da:](お宅に用事があって来ましたよ)。2祭祀。˹ワッ˺テヌ　˹ユー˺ゾー　イ˹チ˺ヤー [˹wat˺tenu ˹ju:˺ʥo: ʔi˹ʧi˺ja:](貴方の家の法事はいつですか)。

˹ユー˺ズキザル [˹ju:˺ʥukiʥaru]【名】祭祀。行事。年中行事。パ˹トゥ˺マー　ム˹カ˺シェー　˹ユー˺ズキザルヌ　˹ゴー˺ラータ　˹ベー˺ティ　˹ニンガイ˺グトー　マ˹ナ˺マー　˹パンブン˺マー　キ˹サ˺リ　˹ブー˺ツォー [pḁ˹tu˺ma: mu˹ka˺ʃe: ˹ju:˺ʥukiʥaru˺nu ˹go:˺ra:ta ˹be:˺ti ˹niŋgai˺guto: ma˹na˺ma: ˹pambum˺ma: ki̥˹sa˺ri ˹bu:˺tso:](鳩間島は昔は年中行事が多かった

ので、今は、半分は廃止され＜切られ＞ているそうだ)。

˹ユーズピー˺ズ [˹ju:ʤupi:˺ʤu] 【名】重要な祭祀行事。神事や法事。大事な用事。大きな行事。ABCDBC 型の重言。˹ユーズピーズ˺ヌ　アルン˹グトゥ˺　プ˹ス˺　タ˹ナ˺ミン　パ˹ラン˺カー　ナ˹ラ˺ヌ [˹ju:ʤupi:ʤu ˺nu ʔaruŋ˹gutu˺ pu̥˹su˺ ta˹na˺mim pa˹raŋ˺ka: na˹ra˺nu](重要な祭祀行事や仕事がある度に人を頼みに行かなければならない)。

˹ユー˺ズヤー [˹ju:˺ʤuja:] 【名】祭祀や行事のある家。祝い事や法事が執り行われる家。特別な行事のある家。トゥ˹ナル˺ナー　˹ユーズヤー˺ヌ　˺アリ　˹ベー˺ティ　˺アボー　˹テー˺ナイ　˹シン　オーッ˺タ [tu˹naru˺na: ˹ju:ʤuja:˺nu ˺ʔari ˹be:˺ti ˺ʔabo: ˹te:˺nai ˹ʃiŋ ʔo:t˺ta](隣にお祝いのある家があるので、お母さんは手伝いに行かれた)。

˹ユースン [˹ju:suŋ] 【他動】寄せる。近づける。「～与西＜ヨセ＞綱延へて与須礼＜ヨスレ＞ども～。万、3411」の転訛したもの。˹マー˺ビン　ク˹マー　ユースンティ˺　ウムーカー　˹ユーサリスヌ　ユーシ˺　ミサンカヤー [˹ma:˺biŋ ku˹ma: ju:sunti˺ ʔumu:ka: ˹ju:sarisunu ju:ʃi˺ misaŋkaja:](もっとこちらへ寄せようと思えば寄せられるが、寄せてよいでしょうかねえ)。˹ユース˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [˹ju:su ˺ku̥to: na˹ra˺nu](寄せることは罷(マカ)りならぬ)。ン˹ベーマー　ユーシェー˺　ミサムヌ [ʔm˹be:ma: ju:ʃe:˺ misamunu](少しは寄せればいいのに)。˹マー˺ビン　ク˹マー　ユーシ [˹ma:˺biŋ ku˹ma: ju:ʃi](もっとここへ寄せなさい)。

˹ユー˺スン [˹ju:˺suŋ] 【助動】～しえる＜得る＞。～出来る。しきれる。おおせ＜果(オオ)せ＞る。はたす。可能の助動詞として動詞の連用形に付き、「～し得る」の意を表す。「～数え衣受＜エズ＞盡しもかねつ～。万、4094」の転訛したもの。ムー˹ル˺　カ˹キユー˺スンカヤーティ　ウ˹ムータ˺ヌ　カ˹キユーサン˺バン [mu:˹ru˺ kḁ˹kiju:˺suŋkaja:ti ʔu˹mu:ta˺nu kḁ˹kiju:sam ˺baŋ](全部書ける＜書き得る＞かと思ったが、書けない＜書き得ない＞わい)。カ˹キユー˺ス　˺クトー　˹ナー˺ヌ [kḁ˹kiju:˺su ku̥to: ˹na:˺nu](書きおおせ＜果せ＞ることはない)。

˹ユーズン [˹ju:ʤuŋ] 【自動】寄る。近寄る。接近する。「沖つ藻は辺には誉戻＜ヨレ＞ども～。紀、神代下　歌謡」、「～天地の依相＜ヨリアヒ＞の極み～。万、167」の転訛したもの。鳩間方言に中舌母音が残っていた頃の言語で、*[jorɨaɸi]　→　*[juʤɨ̥awi]　→　[ju:ʤe:]　のように音韻変化したものと考えられる。これは松竹家の屋号を˺ユージェー [˺ju:ʤe:](寄合家の分家) ということからも証明される。˹ワーン˺　トン　˹ユーズンティ˺　ウ˹ムーン˺ドゥ　˹ユーザラヌ [˹wa:n˺toŋ ˹ju:ʤunti˺ ʔu˹mu:n˺du ˹ju:ʤaranu](君の所に寄ろうと思うが、寄られない)。ク˹マー　ユージ˺　クー˹ツォー [ku˹ma: ju:ʤi ˺ku:˹tso:](ここへ寄って来いってば)。ン˹メーマ　ヤラバン　ユーズ˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [ʔm˹me:ma jarabaŋ ju:ʤu˺ ku̥to: na˹ra˺nu](少しでも寄ってはならない)。˹マー˺ビン　˹ユージェー˺　ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ˹ju:ʤe:˺ misamunu](もっと寄ればいいのに)。˹パー˺ク　˹ユージ˺バ [˹pa:˺ku ˹ju:ʤi˺ba](早く寄れよ)。ウ˹マ˺ー　˹ユーズンティ　スンドゥ　ユーザラヌ [ʔu˹ma˺: ˹ju:ʤunti sundu ju:ʤaranu](そこへ寄ろうとするが、寄られない)。˹ユージ˺　ミサカー　˹ユーズ˺　クトー　˺ナルン [˹ju:ʤi˺ misaka: ˹ju:ʤu˺ ku̥to: ˺naruŋ](近寄って良ければ、近寄ることはできる)。ン˹ベーマ　ユージェー˺　ミサムヌ [ʔm˹be:ma ju:ʤe:˺ misamunu](少し寄ればいいのに)。˹マー˺ビン　カ˹マー　ユージ˺バ [˹ma:˺biŋ ka˹ma: ju:ʤi˺ba](もっと向こうへ寄れよ)。

˹ユー˺ゾー　˹ナー˺ヌ [˹ju:˺ʤo: ˹na:˺nu] 【連】何の役にも立たない。無駄である。利用価値がない。手当てがつけられない。「養生・ない」から転訛したものか。˺アイブ　ム˹ヌ˺バ　トゥ˹グ˺タンティン　˹ユー˺ゾー　˹ナー˺ヌ [˺ʔaibu mu˹nu˺ba tu˹gu˺tantiɲ ˹ju:˺ʤo: ˹na:˺nu](あんなものを持ってきても何の役にも立たない)。˹ユー˺ゾー　˹ナー˺ヌ　シ˹ティリ [˹ju:˺ʤo: ˹na:˺nu ʃi̥˹tiri](役に立たない。捨てなさい)。

˹ユーチ [˹ju:tsi] 【名】1四つ。「～四舶＜ヨツノフネ＞々能倍奈良倍＜フネノヘナラベ＞～。万、4264」の転訛したもの。˹タンガ˺シ　˹ユーチナー˺　トゥリ　˺ミサン [˹taŋga˺ʃi ˹ju:ʧina:˺ turi ˺misaŋ](一人で四つずつ取ってもよい)。2四歳。サ˹ク˺シェー　˺トゥシェー　˹ユーチ˺　ナルン [sḁ˹ku˺ʃe: ˺tu̥ʃe: ˹ju:ʧi˺ naruŋ](長男＜嫡子＞は、年は四歳になる)。

˹ユーチヌ　ピー˺チ [˹ju:ʧinu pi:˺ʧi] 【連】四分の一。「四つの一つ」の義。˹ジン˺マー　ユ˹タール˺シ　˹ユーチヌ　ピーチ˺ナー　˺バキ　˹イー˺リバ˹ヨー [˹ʤim˺ma: ju˹ta:ru˺ʃi ˹ju:ʧinu pi:ʧi˺na: ˺baki ˹ʔi:˺riba ˹jo:](お金は四人で四分の一ずつに分けて貰いなさいね)。

˹ユーチバリ [˹ju:ʧibari] 【名】四つ割り。四等分にする

こと。クˬヌ˭　フˬクンキーヤ　ユーチバリ˭　サˬバン　ゾーˬブンニ　˹ヨンスンカクヌ˭　パラー　トゥˬラ˭リン [kuˬnu˭ ɸu̥ˬkuŋkiːja juːʧibari˭ saˬban ʤoː˭bunni ˬjonsuŋkakunu˭ paraː tuˬra˭riŋ](この福木は四つ割りにしても十分に四寸角の柱が取れる)。

˹ユーˬチミー [ˬjuː˭ʧimiː] 【名】眼鏡を掛けた人。「四つ目」の義。˹ユーˬチミーヌ　˹オーˬルンˬドー [ˬjuː˭ʧimiːnu ˬʔoː˭runˬdoː](眼鏡を掛けた人 < 四つ目 > が来られるぞ)。

˹ユーチング [ˬjuːʧiŋgu] 【名】最高の料理。ご馳走。ふるまい。「世つ組」の義。四品の料理を組み合わせたお膳。米飯、魚肉 (或いは、豚肉、鶏肉) と野菜のお汁、魚の刺身、香の物が基本。˹ウーˬザラ [ˬʔuː˭ʤara](大皿) や、重箱詰めのてんぷら (天麩羅) やカマブク [kaˬmabuku](蒲鉾)、ンˬブシˬムヌ [ʔmˬbuʃi˭munu](煮物、蒸し物) 等も出された。˹ユーチングヌ˭　ウˬサイˬヤー　˹ヨイˬヌ　ˬピン　マˬタ˭　ソンガチ　˹プーˬル　キˬチゴンˬドーレーヌ　キˬザルトゥ　ソーˬラン　˹ソーッˬコーナール　ッˬふァイ　ミッˬタル [ˬjuːʧiŋgunu˭ ʔuˬsai˭jaː ˬjoi˭nu ˭pim maˬta˭ soŋgaʧi ˬpuː˭ru ki̥ˬʧigon˭doːreːnu kiˬʤarutu soː˭ran ˬsok˭koːnaːru fˬfai mitta˭ru](四品のご馳走はお祝いの時、また正月、豊年祭、結願祭などの祭祀行事とお盆や法事 < 焼香 > の時にしか食べなかった <〜時にぞ食べてみたのだ >)。

˹ユー˭　ッスン [ˬjuː˭ ssuŋ] 【連】お湯を注ぐ。ˬアチャー　ˬサバンナー　˹ユー˭　ッシ　˹オーシˬバ [ˬʔatʃaː ˭sabannaː ˬjuː˭ ʃʃi ˬʔoːʃi˭ba](お父さんの茶碗にお湯を注いで差し上げなさい)。

˹ユーティ [ˬjuːti] 【名】四年。ウˬキˬナー　ˬパレーラー　˹ユーティ˭　ナˬルンˬドゥ　マˬダ˭　プˬスムˬシンツァン　˹カイˬリ　˹クーˬヌ [ʔuˬki˭naː ˭pareːraː ˬjuːti˭ naˬrun˭du maˬda˭ pu̥ˬsumu˭ʃintsaŋ ˬkai˭ri ˬkuː˭nu](沖縄へ行って四年なるが、まだ一度も帰ってこない)。2明明後年。再来年の次の年。˹マー　ユーˬティ　サˬバル　カイラˬリツォー [ˬmaː juː˭ti saˬbaru kaira˭ritsoː](あと四年経ったら < したらばぞ > 帰られるそうだ)。

˹ユーティナˬティ [ˬjuːtina˭ti] 【名】一昨昨年。「四年なりて」の転訛したものか。˹ワー　ヨイˬヤー　˹ユーティナˬティナール　˹シェーˬバン [ˬwaː joi˭jaː ˬjuːtina˭tinaːru ˬʃeː˭baŋ](君のお祝いは一昨昨年にしたのだった)。

˹ユートーパーˬレー [ˬjuːtoːpaː˭reː] 【名】旧暦 10 月頃に執り行われる、シˬマッサˬル [ʃiˬmassa˭ru](島くさらし。流行病祓(ハラエ)の祈願) の夜に行われる行事。村役人が子供たちを引き連れて、甕(カメ)の破片や瓦の破片をカチカチ打ち鳴らし、銅鑼(ドラ)を叩(タタ)いて、˹ユートーパーˬレー　˹ミーˬソー　ッˬふァー [ˬjuːtoːpaː˭reː ˬmiː˭soː fˬfaː](夜の祓えだ、味噌を食おう) と唱えながら村中の家々を祓えまわった。各家からは子供たちに米味噌が与えられた。

˹ユードーˬフ [ˬjuːdoː˭ɸu] 【名】おぼろ豆腐。豆腐の固まりかけのもの。にがり (苦汁) を加えて鍋(ナベ)や椀(ワン)に汲(ク)み取ったもの。「湯豆腐」の義。首里方言の˹ユシドーフ [ˬjuʃidoːɸu](おぼろ豆腐) のこと。パˬトゥˬマナーテー　˹ユードーˬフ　ッˬふァイ˭　ミˬランˬシェン [pḁˬtu˭manateː ˬjuːdoː˭ɸu fˬfai˭ miˬraŋ˭ʃeŋ](鳩間島ではおぼろ豆腐を食べたことはなかった < 食べてみなかった >)。

˹ユーˬドゥ [ˬjuː˭du] 【副】よくぞ。ようこそ。よくまあ。˹ユーˬドゥ　˹ワー˭　パˬラン˭　ブˬレーˬル　˹パッˬタカー　シˬニブレーˬル [ˬjuː˭du ˬwaː˭ paˬram˭ buˬreː˭ru ˬpat˭taka: ʃiˬnibureː˭ru](よくぞ君は行かなかったよ。行っていたら死んでいたよ)。

˹ユードゥーˬシ [ˬjuːduː˭si] 【名】1夜通し。一晩中。フˬチルˬヌ　˹ナーンˬベーティ　ッˬふァヌ˭　ニチ　サˬマˬスンティ　˹ユードゥーˬシ　ˬウキ　スˬブˬルヒˬヤシタˬル [ɸu̥ˬʧiru˭nu ˬnaːm˭beːti fˬfanu˭ niʧi saˬma˭sunti ˬjuːduː˭ʃi ˭ʔuki suˬbu˭ru çiˬjaʃi̥ta˭ru](薬がないので、子供の熱を冷まそうと、夜通し起きて頭を冷やしたものだ)。2豊年祭や結願祭の初日の夜に神職者たちが友利御嶽に籠(コ)もって夜通し祈願すること。˹プーˬル　ˬキチゴンヌ　˹ユードゥーˬシ　˹ソーˬル　ˬピンマー　˹ウイヌˬウガンナーティ　サˬカサンˬケー　ティˬジリˬビーンケーム˹ラヤクサンˬケー　アˬツァˬマローリ　ウˬタˬイジ　˹サンシン˭　ピˬケーˬティ　˹ニンˬガイ　˹ヨーッˬタ [ˬpuː˭ru ˭ki̥ʧigonnu ˬjuːduː˭ʃi ˬsoː˭ru ˭pimmaː ˬʔuinu˭ʔuganna:ti sḁˬkasaŋ˭ke: tiˬʤiri˭biːŋke: muˬra-jakusaŋ˭ke: ʔaˬtsa˭maroːri ʔuˬta˭ʔiʤi ˬsaŋʃim˭ pi̥ˬkeː˭ti ˬniŋ˭gai ˬjoːt˭ta](豊年祭、結願祭の夜通しの祈願をなさる時は友利御嶽に司の方々、手擦り部の方々、村役人の方々が集まられ、歌を歌い、三線を弾いて祈願をされた)。

˹ユードゥマˬリ [ˬjuːduma˭ri] 【名】外泊すること。「夜泊まり」の義。ヤˬラˬベー　プˬスンˬヤーナ　˹ユードゥマˬリ　シˬミルˬカー　ヤˬナナライ　スント ダー [jaˬra˭beː pu̥ˬsuŋ˭jaːna ˬjuːduma˭ri ʃiˬmiru˭kaː jaˬnanarai sunˊdaː](子供は他所の家に外泊させると、

悪い習慣＜悪い習い＞が付くぞ)。

˹ユー˺ドゥリ [˹juː˺duri] 【名】夕凪(ユウナギ)。夕方の無風状態。ア˹サ˺ドゥリ [ʔa˹sa˺duri](朝凪(アサナギ)) の対義語。˹ユードゥリ˺ヌ ˹サン˺ケン ˹マイ˺ トゥ˹バシ [˹juːduri˺nu ˹saŋ˺kem ˹mai˺ tu˹baʃi](夕凪が起きないうちに脱穀した籾(モミ)を風で飛ばして籾と塵を分け＜米を飛ばせ＞よ)。

˹ユー˺トゥル [˹juː˺turu] 【名】船のあか (淦) を汲(ク)み取る道具。船底に溜まった水を汲み出す道具。松の幹を半月形に刳(ク)り、取っ手を削(ケズ)り出して掴(ツカ)み、船底を傷めないように軽くスライドさせて淦を汲み取る船具。「⊠、由土利」『和名抄』、「⊠、ユトリ」『類聚名義抄』の転訛したもの。ア˹カ˺トゥル [ʔa˹ka˺turu](淦取り) ともいう。カ˹ザケーヌ˺ ウスマイヌ ス˹ク˺ロール ˹ユー˺トゥロー カ˹タチン カイ˺ヤーリ イッ˹ケナ˺ シゥ˹カイ ヤッ˺サタンツォー [ka˹ʤakenu˺ ʔusumainu sɥ˹ku˺roːru ˹juː˺turoː kạ˹tatʃiŋ kai˺jaːri ʔik˹kena˺sị˹kai jas˺satantsoː](加治工家の伊佐ウスマイが造られるユートゥル＜淦取り＞は、形も綺麗で、使いやすくもあったそうだ)。

˹ユー˺ナキ [˹juː˺naki] 【名】1夜鳴き。子供が夜泣くこと。ク˹ヌ˺ ッ˹ふァー˺ ユ˹ナ˺カ ˺ウキティ ˹ユー˺ナキ ˹スーヌ˺ ヌンティカヤー [ku˹nu˺ f˹faː˺ ju˹na˺ka ˺ʔukiti ˹juː˺naki ˹suːnu˺ nuntikajaː](この子は夜中に起きて夜泣きするが、どうしてかなあ)。2夜鳴き。鳥獣が夜鳴くこと。˹インヌ イ˹ファナ˺ カコーニ ˹ユー˺ナキ ˹スー˺カー ウ˹ソー˺ヌ ミ˹チェー˺ ン˹ジララ˺ヌ [˹ʔin˺nu ʔi˹ɸana˺ kạkoːni ˹juː˺naki ˹suː˺kaː ʔu˹soː˺nu mi˹ʧeː˺ ʔn˹ʤirara˺nu](犬が異常な夜鳴きをすると、薄気味悪(ウスキミワル)くて道に出られない)。

˹ユーナンカ [˹juːnaŋka] 【名】よなのか (四七日)。四七日忌。死後四週間目の法事。˹ウン˺ネヌ ˹ソッコー˺ヤ フ˹タナンカ ユーナンカ ムーナンカー ヤーニン˺ズ ˹カーニ˺シル シ˹マ˺ソーッタ [˹ʔun˺nenu ˹sokkoː˺ja ɸụ˹tanaŋka juːnaŋka muːnaŋkaː jaːnin˺ʤu ˹kaːni˺ʃiru ʃi˹ma˺soːtta](あの家の法事は、二七日忌、四七日忌、六七日忌は家族だけで済まされた)。

˹ユーニンガイ [˹juːniŋgai] 【名】「世願い」の義。若年層は˹ユーニガイ [˹juːnigai] ともいう。旧暦三月のミ˹ジニー [mi˹ʤiniː](壬) の日に執り行われる祭祀。友利御嶽で、サ˹カサ [sạ˹kasa](司。女性神職者) やティ˹ジリ˺ビー [ti˹ʤiri˺biː](手擦り部。男性神職者) が村の豊年豊作と村人の健康祈願をし、友利御願、西堂御願、新川御願、鬚川御願、前泊御願、ミ˹ルクン˺ヤー [mi˹rukuŋ˺jaː](弥勒家) へと順次移動しながら祈願した。祈願の内容は、˹ニンガチニン˺ガイ [˹niŋgatʃiniŋ˺gai](二月祈願) で祈願された (i) ˹ゾーシキ˺ヌ ˹ニン˺ガイ [˹ʤoːʃị̥ki˺nu ˹niŋ˺gai](村役人の祈願。祭祀がスムースに執り行われるよう祈願する＜˹雑色(ゾウシキ)」の転訛か＞)、(ii) ˺アカカラジヌ ˹ニン˺ガイ [˺ʔakakaraʤinu ˹niŋ˺gai](一般百姓たちのための健康祈願)、(iii) イ˹ニアー˺ヌ ˹ニン˺ガイ [ʔi˹niʔaː˺nu ˹niŋ˺gai](稲粟の豊作祈願)、(iv) ア˹ミニン˺ガイ [ʔa˹miniŋ˺gai](十日、十五日ごとに夜雨の降雨を祈願する)、(v) マ˹ミ˺ヌ ˹ニン˺ガイ [ma˹mi˺nu ˹niŋ˺gai](豆の豊年祈願)、(vi)˹ミー˺シキパナシキヌ ˹ニン˺ガイ [˹miː˺ʃị̥kipanaʃị̥kinu ˹niŋ˺gai](流行り病の祈願)、(vii) ˹マイ ムン˺ヌ ッ˹サバー˺ヌ ˹ニン˺ガイ [˹mai mun˺nu s˹sabaː˺nu ˹niŋ˺gai](稲、麦の草＜下＞葉の祈願) の総括的な祈願であった。この˹ニンガチニン˺ガイは、祭祀祈願の数が重複していて数が多いとの理由で、昭和35年頃に廃止され、˹ユーニンガイ [˹juːniŋgai] の祭祀に統合された。それ以後は、ユーニンガイ (世願い) においては (i)〜(vii) の総括的祈願と、(vii) ム˹シヌニンガイ [mu˹ʃinu niŋ˺gai](虫払いの祈願) が行われた。そして、同じく旧暦三月の庚の日に、(ix) パ˹マウリソー˺ジ [pa˹maʔurisoː˺ʤi](浜下り精進) と (x) ˹プーヌソー˺ジ [˹puːnusoː˺ʤi](稲の出穂(シュッスイ)祈願の精進) が執り行われたが、最後まで稲作を続けられた友利三益氏の石垣島移住と人口激減に伴い、(ix)、(x) の祈願も廃止されている。

˹ユー˺ヌ ˹アールン [˹juː˺nu ˹ʔaːruŋ] 【連】湯が沸いて吹き上がる。ム˹チ [mu˹ʧi](餅) やア˹ラシコーシ [ʔa˹raʃikoːʃi](蒸し菓子) 等が蒸しあがることをいう。˹ユー˺ヌ ˹アールン˺ケン ム˹チェー アーラシバル˺ ナル [˹juː˺nu ˹ʔaːruŋ˺kem mu˹ʧeː ʔaːraʃibaru˺naru](湯が沸いて吹き上がるまで餅は蒸し煮しなければならない＜蒸し煮すればぞできる＞)。

˹ユー˺ヌ ア˹キルン˺ケン [˹juː˺nu ʔa˹kiruŋ˺keŋ] 【連】夜が明けるまで。徹夜して。普通は、˹ユー˺ヌ ガ˹ルン˺ケン [˹juː˺nu ga˹ruŋ˺keŋ](夜が明けるまで) という。˺ニービキヨイヤー ウ˹トゥザマリ˺ スルイティ ˹ユー˺ヌ ア˹キルン˺ケン ˹ソーッ˺タン [˺niːbikijoija: ʔu˹tuʤamari˺ suruiti ˹juː˺nu ʔa˹kiruŋ˺ken ˹soːt˺taŋ](結婚祝いは親戚揃って夜通し＜夜が明けるまで＞なされた)。

˹ユー˺ヌ カー˹ジ [˹juː˺nu kaː˹ʤi] 【連】夜毎に。毎夜。

˩ユール˥ヌ　カー˩ジ [˩juːru˥nu kaː˩ʤi](夜毎に) ともいう。ク˩ヌ˥グロー　˩ユー˥ヌ　カー˩ジ˥　マ˩ヤ˥ヌ　˥フヤー　˩シー˥　ナ˩クントゥォー [ku˩nu˥guroː ˩juː˥nu kaː˩ʤi˥ ma˩ja˥nu ˥ɸujaː ˩ʃiː˥ na˩kun˧tso](近頃 < この頃 > は夜毎に猫が発情して鳴くんだよ。うるさくて困る)。

˩ユーヌ˥　ス˩ビ [˩juːnu˥ su˩bi] 【連】旧暦 12 月に行われる、一年間のすべての祭祀祈願に対する感謝の祭祀祈願。普通は、ス˩ビニンガイ [su˩biniŋgai](神へ感謝する祈願。「首尾願い」の義) という。カ˩ツシンヌ˥　ウ˩ワール˥カー　˩カンナン˥ドーナーティ　ス˩ビニンガイ　ソーッ˥タン [kạ˩tsuʃinnu˥ ʔu˩waːru ˥kaː ˩kannan˥doːnaːti su˩biniŋgai soːt˥taŋ](カツオ漁船が操業を終えると石垣島の観音堂で感謝の祈願 < 首尾願い > をされた)。

˩ユー˥ヌ　ナ˩マ˥シキ [˩juː˥nu na˩ma˥ʃi̥ki] 【連】ゆあか (湯垢)。風呂や薬缶などに付く湯の垢。ア˩ガサビ [ʔa˩gasabi](赤錆) ともいう。ヤ˩コン˥ヌ　˩ユー˥ヌ　ナ˩マシ˥キ (ア˩ガサビ˥)˥ガジ　ウ˩タ˥シ [ja˩kon˥nu ˩juː˥nu na˩maʃi̥˥ki < ʔa˩gasabi˥ > ˥gaʤi ʔu˩ta˥ʃi](薬缶の湯垢を擦(コス)って落としなさい)。

˩ユー˥バイ [˩juː˥bai] 【名】めかけ (妾)。愛人。若年層は˩ユー˥ベー [˩juː˥beː](妾) という。ウ˩レー　ユーベー˥トゥヌ　˥ナカナーン　ッ˩ふァー　ブントゥダー [ʔu˩reː juːbeːtu˥nu ˥nakanaːŋ f˩faː bun˧daː](彼は妾との間にも子供がいるよ)。

˩ユーバイ˥プシ [˩juːbai˥pu̥ʃi] 【名】流れ星。老年層の言葉。「よばいぼし (夜這星)」『枕草子 254』の転訛したもの。˩ユー˥バイ [˩juː˥bai] は、「〜長谷小国に夜延為 < ヨバヒセス >〜。万、3312」の転訛したもの。流星は不吉なことの前兆として忌(イ)み嫌(キラ)われた。ム˩カ˥シプソー　˩ユー˥バイプシヌ　ン˩ジ˥ルカー　トゥッ˩ふェ˥　トゥッ˩ふェ˥ティ　˩チン˥チ　˥パキティ　ア˩ゾーッ˥タ [mu˩ka˥ʃipu̥soː ˩juː˥baipu̥ʃinu ʔn˩ʤi˥ruka: tuf˩fe˥ tuf˩fe˥ti ˩ʧin˥ʧi ˥pḁkiti ʔa˩ʤoːt˥ta](昔の人は流星が現れる < 出る > と、ペッペッと唾(ツバ)を吐(ハ)けといわれた)。

˩ユーパナ˥シ [˩juːpana˥ʃi] 【名】夜話。夜話しをすること。˩ユーボン˥ヌ　˥アトー　˥アッパター　ア˩ツァ˥マリ　˩ユーパナ˥シ　˩ソーッ˥タン [˩juːbon˥nu ˥ʔatoː ˥ʔappataː ʔa˩tsa˥mari ˩juːpana˥ʃi ˩soːt˥taŋ](夕飯の後、お祖母さんたちは集まって夜話をされた)。

˩ユー˥ピキ [˩juː˥pi̥ki] 【名】湯掻(ユガ)くこと。ゆびく (湯引く) こと。「Yubiqi, ユビキ、ク、イタ (湯引き、く、いた) 野菜や魚などを、湯の中に通してすぐに取り出す」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。野菜のあくを抜くために熱湯にしばらく浸した後に取り上げて絞り、水分を切って刺身の妻にしたり、お汁のあしらいにした。˩ナーンパー˥ヤ　˩ユー˥ピキ　シ˩ティ˥　ス˩ブ˥リティ　ナ˩マ˥シナ　˥シキバ [˩naːmpaː ˥ja ˩juː˥pi̥ki ʃi̥˩ti˥ su˩bu˥riti na˩ma˥ʃina ˥ʃi̥kiba](菜っ葉は湯掻いてから搾って刺身につけなさいよ)。

˩ユーピサヤー [˩juːpi̥saja:] 【名】寄棟造の屋根。屋根が四つの斜面 (平) からなる家。「四平家 < よ・ひらや >」の義。カ˩タピサ˥ヤー [kạ˩tapi̥sa˥ja:](片流れの屋根)、フ˩タピサヤー [ɸu̥˩tapi̥saja:](切妻屋根) 構造の屋根がある。ウ˩ブヤー˥ヤ　ムー˩ル　ユーピサヤー　トー˥ラー　フ˩タピサヤー　ヤッタル [ʔu˩bu˥ja:ja muː˩ru juːpi̥saja: toː˥raː ɸu̥˩tapi̥saja: jattaru](母屋はみんな寄棟造り、炊事小屋は切妻屋根だったよ)。

˩ユー˥フル [˩juː˥ɸuru] 【名】風呂。「湯風呂」の義。風呂のある家は二、三軒にすぎなかった。海水浴することが入浴であった。ス˩ナ˥カー　˩クァン˥ヌ　˩ユー˥フル [su˩na˥ka: ˩kwan˥nu ˩juː˥ɸuru](海は官 < 公 > の湯風呂だ < 無料で入れる風呂だ >)< 諺 >。

˩ユーフル˥チン [˩juːɸuru˥ʧiŋ] 【名】風呂賃。˩ユーフル˥チン　˩イー˥リ　˥クー [˩juːɸuru˥ʧiŋ ˩ʔiː˥ri ˥kuː](風呂賃を貰ってきなさい)。

˩ユー˥フルヤー [˩juː˥ɸuruja:] 【名】風呂屋。パ˩トゥ˥マナー　˩ユー˥フルヤーヤ　˩ナーン˥シェン [pḁ˩tu˥mana: ˩juː˥ɸuruja:ja ˩naːŋ˥ʃeŋ](鳩間島には、風呂屋はなかった)。

˩ユー˥ベー [˩juː˥beː] 【名】めかけ (妾)。愛人。若年層の言葉。老年層は˩ユー˥バイ [˩juː˥bai](妾) という。プ˩スヌ　ユー˥ベー　ナ˩ル˥ナ˩ヨー [pu̥˩sunu juː˥beː na˩ru˥na˩joː](他人の妾になるなよ)。

˩ユーベー˥ブシ [˩juːbeː˥buʃi] 【名】流れ星。「Yobaiboxi. ヨバイボシ (婚星・流星) 空中で燃える閃光で、星が花火のように見えるもの」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。若年層は、ナ˩ガリ˥ブシ [na˩gari˥buʃi](流星) ともいう。ム˩カ˥シプスンケーヤ　ナ˩ガリブシ˥ヨー　˩ユーベー˥ブシティ　ア˩ゾーッタ˥ル [mu˩ka˥ʃipu̥suŋkeːja na˩garibuʃi˥joː ˩juːbeː˥buʃiti ʔa˩ʤoːtta˥ru](昔の人々は流れ星をユーベーブシといわれたものだ)。

˩ユー˥ボン [˩juː˥boŋ] 【名】夕食。「夕飯」の義。「夕」に、「飯、翁班尼」『琉球館訳語』、「飯　'om・par(n)i」『語音翻訳』、「みおばに　おはに　美飯のことなり」『混効験集』の付いた形の転訛したもの。˩ユー˥キ [˩juː

˺ki](夕飯。「夕餉(ユウゲ)」の転訛したもの) ともいう。˹ユーボン˺マー　˹マーズン˺シ　ッ˹ふァイティ˺　パリバ [˹juːbom˺maː ˹maːʤuŋ˺ʃi f˹faiti˺ pariba](夕飯は一緒に食べてから行きなさい)。

˹ユー˺ボンジブン [˹juː˺bonʤibuŋ] 【名】夕食時。夕食時分。˹ユー˺ボンジブン　ナ˹リ˺ブバ　˹パー˺ク　˹ヤー˺　パリ [˹juː˺bonʤibun na˹ri˺buba ˹paː˺ku ˹jaː˺ pari](夕食時になっているから早くお家に帰りなさい＜行け＞)。

˹ユー˺ボンプシ [˹juː˺bompu̥ʃi] 【名】宵の明星。夕方西方の空に見える金星。ゆうずつ (夕星)。「夕飯星」の義。˹ダイ˺ケーヌ　˹アー˺ヤプシ [˹dai˺keːnu ˹ʔaː˺japu̥ʃi](大工家のお父さん星) ともいう。ム˹カ˺シェー　˹ユー˺ボンプシヌ　ン˹ジ˺ルンケン　パ˹タ˺キナール　˹オーッ˺タ [mu˹ka˺ʃeː ˹juː˺bombuʃinu ʔn˹ʤi˺ruŋkem pḁ˹ta˺kinaːru ˹ʔoːt˺ta](昔は宵の明星が出るまで畑に＜ぞ＞おられた)。

˹ユーマー˺ル [˹juːmaː˺ru] 【名】 1夜回り。夜警。ム˹カ˺シェー　˹ヒョーシギ˺バ　˺ウテーティ　˹ユーマー˺ル　˹ソーッ˺タン [mu˹ka˺ʃeː ˹çoːʃigi˺ba ˺ʔuteːti ˹juːmaː˺ru ˹soːt˺taŋ](昔は拍子木を打ちながら夜回りをされたものだ)。2夜遊び。青年たちが夜外へ出て遊ぶこと。ム˹カ˺シェー　バ˹カー˺ムノー　ター˹ン　ユーマー˺ル　˹シーシタ [mu˹ka˺ʃeː ba˹kaː˺munoː taː˹ɲ juːmaː˺ru ˹ʃiːʃi̥ta](昔は、若者は誰も夜遊びをしたよ)。

˹ユーマー˺レー [˹juːmaː˺reː] 【名】夜遊びする者。「夜回り者」の義。˹ウンザー　ユーマー˺レー　˺ナリティ　ムッ˹トゥ˺　シ˹グトゥ　サンバン [˹ʔunʤaː juːmaː˺reː ˺nariti mut˹tu˺ ʃi˹gutu sambaŋ](あいつは夜遊びする者になって、ちっとも仕事をしないわい)。

˹ユーマキ [˹juːmaki] 【名】不作。特に稲、粟、麦等の穀類の不作に対していう。年によって収穫量が落ちること。年年の気象条件によって作柄(サクガラ)が悪くなること。「世負け」の義か。明治生まれの老年層の使用語彙。若年層では死語となっている。˹ザイレーマイ˺ヤー　˹ユーマキ　サンドゥ　ホーライマイ˺ヌ　˺スコー　トゥ˹ララ˺ヌ [˹ʤaireːmai˺jaː ˹juːmaki sandu ˹hoːraimai˺nu ˺su̥koː tu˹rara˺nu](在来種の稲は不作にならない＜作柄(サクガラ)は悪くならない＞が、蓬莱米(ホウライマイ)ほどには収穫量は取れない)。

˹ユー˺ミジ [˹juː˺miʤi] 【名】湯。湯水。˹ピーリ˺ミジ [˹piːri˺miʤi](冷水) の対義語。˹ユー˺ミジェー　˺タライナー　イ˹リティ　ピーリ˺ミジシ　˹バイティ˺　ヤ˹ラ˺ビ　ミ˹ジ˺　ア˹マシ˺バ [˹juː˺miʤeː ˺taraina: ʔi˹riti piːri˺miʤiʃi ˺baiti˺ ja˹ra˺bi mi˹ʤi˺ ʔa˹maʃi˺ba](お湯を盥(タライ)に入れて、冷や水でうすめて＜割って＞子供を入浴させなさい＜水を浴びせなさい＞)。

˹ユー˺ミチ [˹juː˺mitʃi] 【名】夜道。˹ユー˺ミチェー　˹ふァガマリティ˺　ガ˹ル˺　シゥ˹カン˺カー　ア˹ラカラ˺ヌ [˹juː˺mitʃeː f˹fagamariti˺ ga˹ru˺ si̥˹kaŋ˺kaː ʔa˹rakara˺nu](夜道は真っ暗な状態に＜暗がりに＞なって、明かりを灯(トモ)さないと歩かれない)。

˹ユームシ [˹juːmuʃi] 【名】 (数) 四回。四度。˹ムシ [˹muʃi](回数) は人間の行動を含めた固体資料の出現する頻度を表すのに対し、˹ケー˺ラ [˹keː˺ra](回数) は「人間が意図的に行う往復回数＜試行＞」のニュアンスが伴う。ユ˹ヌ˺　ム˹ニ˺バ　˹ユームシ˺　ア˹ジ˺　シゥ˹カスンドゥ˺　ウ˹ブイユーサン˺バン [ju˹nu˺ mu˹ni˺ba ˹juːmuʃi˺ ʔa˹ʤi˺si̥˹kasundu˺ ʔu˹buiju:sam˺baŋ](同じ言葉を四度話して聞かせるのだが覚えきれないワイ)。

˹ユームチ [˹juːmutʃi] 【名】˹世持ち˺の義。˹スー˺ダイ [˹suː˺dai](総代。部落総代。部落会長。公民館長に相当) をシ˹マム˺チユームチ [ʃi˹mamu˺tʃiju:mutʃi](島持ち世持ち。島最高の村役人) という。˹スー˺ダイ [˹suː˺dai](総代) は一人。ヤ˹ク˺サ [ja˹ku˺sa](東村、西村より各一人 (計二人) 選出され、˹スー˺ダイの補佐役となる)、˹ザーアタ˺ル [˹ʤaːʔata˺ru](座当＜座席係＞は東村、西村より各一人 (計二人) 選出され、ヤクサの補佐役となる)、˹ジンバイ [˹ʤimbai](膳配り＜配膳係り＞も東村、西村より各一人 (計二人) 選出され、ヤクサの補佐役となる) らが村役人であった。豊年祭の「みちうた (道歌)」に/ヘイヤ　ティジリキャーヌ　ホー　アトゥンヤ (ヘイヤー手擦り部たち＜男性神職者＞の後には)/ヘイヤー　ユムチキャードゥ　ホー　ティユマス (ヘイヤー総代以下の村役人たちを讃える＜響ます＞)/ヘイヤー　シマムチャードゥ　ホー　ナトゥラス (ヘイヤー島持ち世持ちたちを讃える)/とある。

˹ユー˺ヤキ [˹juː˺jaki] 【名】夕焼け。標準語の転訛したもの。ア˹サヤ˺キ [ʔa˹saja˺ki](朝焼け) の対義語。˹ユーヤキ˺ヌ　˹スー˺カー　˹ナーツァー　オシケーノー˺ルンツォー [˹juːjaki˺nu ˹suː˺kaː ˹naːtsaː ʔoʃi̥keː noː˺runtsoː](夕焼けが起きると翌日は、天気はよくなるそうだ)。

˹ユー˺リー [˹juː˺riː] 【名】幽霊。死者の魂。若年層は、˹ユー˺レー [˹juː˺reː](幽霊) ともいう。ウ˹ヌ　ン

ーナカクˈナー　ˈユーˈル　ˈナルカー　ˈユーリーˈヌ　ンˈジˈルンツォー [ʔuˈnu ʔnːnakakuˈnaː ˈjuːˈru ˈnaruka: ˈjuːriːˈnu ʔnˈʤiˈruntsoː](その空き屋敷には、夜になると幽霊が出るそうです)。

ˈユーリキー [ˈjuːrikiː] 【名】流木。「寄り木」の義。ムˈカˈシェー　カˈジフキヌˈ　アトー　ˈユーリキーヌ　ユーリ　クーˈタン [muˈkaˈʃeː kaˈʤiɸu̥kinuˈ ʔatoː ˈjuːrikiːnu juːri kuːˈtaŋ](昔は台風＜風吹き＞の後には流木が流れ寄ってきたものだ)。

ˈユーリシキ [ˈjuːriʃi̥ki] 【名】うるうづき (閏月(ウルウヅキ))。太陰暦で同じ月が二度続いてある月。「寄り月」の義。「Yorizzuqi. ヨリヅキ (寄月)　Vruzzuqi(閏月) という方がまさる. 日本人が三年ごとに年に増し加える月」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。クˈトゥシェー　ニンガチˈヌ　ˈユーリシキヌˈ　アンティˈダー [ku̥ˈtuʃeː niŋgatʃiˈnu ˈjuːriʃi̥kinuˈ ʔantiˈdaː](今年はニ月の閏月があるそうだよ)。

ˈユーリッサ [ˈjuːrissa] 【名】流れ草。「寄り草」の義。パˈマˈナー　ˈユーリッサヌ　ナーˈリ　ˈケーバ　パˈタˈケー　カˈタˈミ　ˈパリバ [paˈmaˈnaː ˈjuːrissanu naːriˈkeːba pḁˈtaˈkeː kḁˈtaˈmi ˈpariba](浜には流れ草が流れてきているから、畑へ担いで行きなさいよ＜畑に搬入しなさいよ＞)。

ˈユーリトゥシ [ˈjuːrituʃi] 【名】うるうどし (閏年(ウルウドシ))。閏のある年。「寄り年」の義。クˈトゥシェー　ユーリトゥシˈ　ヤˈルンダˈ　ユˈヌシキˈヌ　フˈタムシˈ　クーンˈダー [ku̥ˈtuʃeː juːrituʃiˈ jaˈrundaˈ juˈnuʃi̥kiˈnu ɸu̥ˈtamuʃiˈ kuːnˈdaː](今年は閏年だから、同じ月が二度やって来るよ)。

ˈユーリムヌ [ˈjuːrimunu] 【名】流れ物。漂流物。ムˈカˈシェー　ヤˈシˈヌナルンドーレール　ˈユーリムヌ　ヤッタヌˈ　マˈナˈマー　ˈペットボトˈル　ビˈニーˈルンドーレール　ˈゴーˈラー [muˈkaˈʃeː jaˈʃiˈnunarundoːreːru ˈjuːrimunu jattanuˈ maˈnaˈmaː ˈpettobotoˈru biˈniːˈrundoːreːru ˈgoːˈraː](昔は椰子の実などが漂流物であったが、今はペットボトルやビニールなどが多い)。

ˈユーˈル [ˈjuːˈru] 【名】こより (紙縒(コヨリ)) 縄。アダナシの気根の繊維を細かく裂いて綯(ナ)い、細い縄にしたもの。凧の糸＜縄＞にしたり、ˈアンˈスク [ˈʔanˈsu̥ku](網袋。獲物入れ。弁当入れ) を編むのに用いた。「搓、与留＜よる＞」『新撰字鏡』、「～糸をぞ吾が搓＜ヨル＞～。万、1987」の転訛したものか。アˈダナˈシユールシ　アˈンˈスク　ˈフミティ　イˈソーンˈ　パˈタˈケーン　ウˈリバˈ　ムˈティˈル　ˈオーッˈタ [ʔaˈdanaˈʃijuːruʃi ˈʔanˈsu̥ku ˈɸumiti ʔiˈsoːmˈ pḁˈtaˈkeːŋ ʔuˈribaˈ muˈtiˈru ˈʔoːtˈta](アダンの繊維で綯ったこより縄でアンスク網袋を編んで、潮干狩りにも畑にもそれを持って行かれた)。

ˈユーˈル [ˈjuːˈru] 【名】夜。ˈピール [ˈpiːru](昼。＜比流＞万、3732) の対義語。「茜草さす比流波＜ヒルは＞もの思ひ～欲流波＜ヨルは＞～。万、3732」の「欲流」が転訛したもの。ˈユールˈヌ　ニˈブˈミーン　ニˈバナー　ブーˈバ　ˈウーˈミ　ウˈリティルˈ　キンパダーン　ˈヌイ　キˈサシタ [ˈjuːruˈnu niˈbu ˈmiːn niˈbanaː buːˈba ˈʔuːˈmi ʔuˈritiruˈ kimpadaːn ˈnui ki̥ˈsaʃi̥ta](夜の寝る暇も寝ずに、麻を績んで、それを織って＜ぞ＞着物も縫って着せたものだ)。

ˈユールピーˈル [ˈjuːrupiːˈru] 【名】昼夜。日夜。夜も昼も絶え間なく。ABCDBC 型の重言。「夜＜用流＞万、807・昼＜比流＞万、4089」の義。「吾が恋は夜晝不別＜ヨルヒルわかず＞～。万、2902」の転訛したもの。ˈユールピーˈルティ　ˈナーˈン　パˈタラキトゥーシティˈ　ヤッˈトゥˈシ　ˈウカー　パˈライˈキシェーン [ˈjuːrupiːˈruti ˈnaːˈm pḁˈtarakituːʃitiˈ jatˈtuˈʃi ˈʔukaː paˈraiˈki̥ʃeːŋ](夜昼となく働いて、借金はすべて返済した＜払いきった＞)。

ˈユールユナˈカ [ˈjuːrujunaˈka] 【名】夜の夜中。真夜中。ˈユールユナˈカーラ　サˈキヌミˈプスン　ウˈコーサˈリティ　スズーˈコ　オスˈク　シˈラリ　ミッˈタン [ˈjuːrujunaˈkaːra sḁˈkinumiˈpu̥suŋ ʔuˈkoːsaˈriti sudzuːˈko ʔosu̥ˈku ʃiˈrari mitˈtaŋ](夜の夜中から酔っ払いに起こされて、非常に迷惑をこうむった＜迷惑させられてみた＞)。

ˈユールン [ˈjuːruŋ] 【自動】1寄る。近寄る。ˈワーンˈ　トン　ˈユールンティ　スンドゥ　ユーララヌ [ˈwaːnˈ toŋ ˈjuːrunti sundu juːraranu](君の所へ寄ろうとするが、寄られない)。ˈクマンター　ˈユーリˈミサカー　ˈユールˈ　クトー　ˈナルン [ˈkumantaː ˈjuːriˈmisakaː ˈjuːruˈ ku̥toː ˈnaruŋ](こちら側へ寄ってよければ寄ることはできる)。ˈカマンター　ˈユーレーˈ　ミサムヌ [ˈkamantaː ˈjuːreːˈ misamunu](あちら側へ寄ればいいのに)。ˈマーˈビン　ˈユーリ [ˈmaːˈbiŋ ˈjuːri](もっと寄れ)。2流れ寄る。漂流する。ˈユーリキーヌ　ユーリˈ　クーン [ˈjuːrikiːnu juːriˈ kuːŋ](流木が流れてくる＜流れ寄ってくる＞)。

ˈユーˈレー [ˈjuːˈreː] 【名】幽霊。死者の霊がある形をとって人間界に現れるもの。死者の魂。浮遊して歩くといわれている。ˈユーˈレーが出現するのは、それが成仏できずにさ迷っているためで、人に何か

を頼むためだといわれている。˞ユーレー˞ヤ　˞ヨー˞　タ˞ナミグトゥ˞ヌ　アレーティル　ン˞ジ˞ルティ˞ダー [˞juːreː˞ja ˞joː˞ ta˞namigutu˞nu ˞ʔareːtiru ʔn˞ʤi˞ruti˞daː](幽霊はねえ、頼みごとがあるので出現するそうだよ)。

ユー˞ロー　˞ピール˞　ナスン [˞juː˞roː ˞piːru˞ nasuŋ] 【成】夜を昼になす。よ (夜) を日に継ぐ。昼夜を分かたず働いて。˞ユー˞ロー　˞ピール˞　ナシ　パ˞タラキ　モー˞ケール　˞ジン˞カニ　˞ンーナシゥカイ　シェー˞　ナ˞ラ˞ヌ [˞juː˞roː ˞piːru˞ naʃi ˞moː˞keːru ˞ʤiŋ˞kani ˞ʔnːnasi̥kai ʃeː˞ na˞ra˞nu](夜を日に継いで儲けたお金を無駄遣いしてはならない)。

˞ユーン [˞juːŋ] 【他動】結う。むすぶ。束ねる。縛る。くくる。「〜額髪結在＜ユヘル＞染木綿の〜。万、2496」、「〜見しし野邊には之米由布倍之母＜標ユフ・べしも＞。万、4509」の転訛したもの。ガ˞マ˞ジ　˞ユーン [ga˞ma˞ʤi ˞juːŋ](髪を結う)。˞ヨーヌ [˞joːnu](結わない)。˞ユシキ˞ヌ　˞フキシ　˞サン　˞ユーンティ　ベータン˞ドゥ　ウ˞リ˞シェー　˞ヨームティ˞　ガヤーシ　˞ユイ　ベー [˞juʃi̥ki˞nu ˞ɸu̥kiʃi ˞saŋ ˞juːnti beːtan˞du ʔu˞ri˞ʃeː ˞joːmuti˞ gajaːʃi ˞jui beː](ススキの茎でサンを結おうとしていたが、それでは結わないで、茅で結っている)。˞マイタブル　ユームノー˞　バ˞ラフタ˞ル　シゥ˞カウ˞ダー [˞maitaburu juː munoː˞ ba˞raɸu̥ta˞ru si̥˞kau˞daː](稲束を結うのは稲藁を使うのだよ)。タ˞ブ˞ル　˞ユイヤー˞　ミサムヌ [ta˞bu˞ru ˞juijaː˞ misamunu](稲束を結えばいいのに)。˞マイタブル　˞ユイ˞バ [˞maitaburu jui˞ba](稲束を結えよ)。

˞ユーンガール [˞juːŋgaːru] 【名】世代わり。˞ユーンガール　シー˞　ア˞ミリカ˞ユー　˞ナッ˞ター　ミ˞ジラ˞サ　ッ˞ふァイムヌ˞　カー˞ニル˞　アル [˞juːŋgaːru ʃiː˞ ʔa˞mirika˞juː ˞nat˞taː mi˞ʤira˞sa f˞faimunu ˞ kaː˞niru˞ ʔaru](世代わりして、アメリカ世になったので、珍しい食べ物ばかりが＜ぞ＞ある)。

˞ユーングマ˞ル [˞juːŋguma˞ru] 【名】よごもり (夜籠もり)。豊年祭や結願祭に、祭り当日の前夜から夜を徹して友利御嶽の神々に祈願すること。˞ユードゥー˞シ [˞juːduː˞ʃi](夜通し) ともいう。˞プー˞ル　˞キチゴンナー　˞カン˞プスンケー　ヤ˞ク˞サンケー　ムー˞ル　ウイヌ˞ウガンナー　˞ユーングマ˞ル　˞シール　ニン˞ガイ　˞オーッ˞タ [˞puː˞rukiʧʃigonnaː ˞kam˞pu̥suŋke: ja˞ku˞saŋke: muː˞ru ʔuinu˞ʔuganna: ˞juːŋguma˞ru ˞ʃiːru niŋ˞gai ˞ʔoːt˞ta](豊年祭、結願祭には神職者＜サカサ、ティジリビ＞の方々、村役人＜ヤクサ＞の方々が皆友利御嶽に夜籠もりして＜ぞ＞祈願されたものだ)。

˞ユイ [˞jui] 【名】え (柄)。「柄、器物茎柯也。衣 (え)、一云賀良 (から)」『和名抄』の義。ヤ˞マンガラシ˞ヌ　˞ユイヤー˞　ブリ　˞ナー˞ヌ [ja˞maŋgaraʃi˞nu ˞juijaː˞ buri ˞naː˞nu](山刀の柄は折れてしまった)。ヌ˞キル˞ヌ　˞ユイ [nu˞kiru˞nu ˞jui](鋸の柄)。˞ガッケ˞ヌ　˞ユイヤー˞　ブ˞リ　ヤッ˞サン [˞gakke˞nu ˞juijaː˞ bu˞rijas˞saŋ](鎌の柄は折れやすい)。カ˞ナパイヌ　ユイヤー˞　カシンキーシル　ス˞ク˞ローッタ [ka ˞napainu juijaː˞ kḁʃiŋkiːʃiru su̥˞ku˞roːtta](鍬の柄は樫(カシ)の木で作られた)。

˞ユイ [jui] 【名】ゆい (結い)。共同作業に互いの労力を提供し合って助け合うこと。田植えや稲刈り等の共同作業に「結い」をした。˞結い」で一定の労力の提供を受けたら、それを返す義務があった。農繁期などには、よく結いが行われた。˞トーサ˞　トゥリン　˞マイカリン　ユイ　スー˞カー　˞ナン˞ゲー　˞ナーン˞シェン [˞toːsa˞ turim ˞maikariŋ jui suː ˞kaː ˞naŋ˞geː ˞naːŋʃeŋ](田草取りも稲刈りも結いをすると難儀苦労はなかった)。˞ユイ˞　シゥ˞カウ˞カー　ウ˞ヌ　カイ˞シ　˞サン˞カー　ナ˞ラ˞ヌ [˞jui˞ si̥ ˞kau˞kaː ʔu˞nu kai˞ʃi ˞saŋ˞kaː na˞ra˞nu](結いを使うと、その返しをしなければならない)。カ˞ジェー　ユイ˞　カ˞バ˞ヌ [ka˞ʤeː jui˞ ka˞ba˞nu](台風は結いの恩を被(カブ)らない＜必ず返しの風が吹く＞＜諺＞)。

˞ユイ [˞jui] 【名】理由。わけ (訳)。ゆえ (故)。「〜淀めらば故霜＜ユヱしも＞あるごと〜。万 1379」の転訛したもの。˞イカール　˞ユイシル　˞アウ˞ター [˞ʔikaːru ˞juisiru ˞ʔau˞taː](いかなる理由で喧嘩したのか)。˞ワー˞　ムニ　ス˞クタ　ユイ˞シル　˞バーイ˞ザレー˞ダー [˞waː˞ muni su̥˞kuta jui˞ʃiru ˞baː ʔi˞ʤareː˞ daː](君の言うことを聞いたわけ＜故に、理由＞で私は叱られたのだ)。

˞ユイ [˞jui] 【名】 (数) 束。線香などの束を数える単位。老年層の言葉。「〜然れども由比氐之＜ユヒテシ＞紐を〜。万、3948」の「由比」が転訛したものか。若年層はタ˞ブ˞ル [ta˞bu˞ru](束) という。˞カウ˞　プ˞スユイ　˞シキ　˞オーシ [˞kau˞ pu̥˞su˞jui ˞ʃi̥ki ˞ʔoːʃi](線香を人束＜一結い＞焚(タ)いて＜点けて＞差し上げなさい)。フ˞タユイ [ɸu̥˞tajui](二束)。˞ミーユイ [˞miːjui](三束)。

˞ユイカウ [˞juikau] 【名】イ˞ツァ˞カウ [ʔi˞tsa˞kau](板香)。六本の線香を束ねたもの。板状に製造された線香。沖縄線香を一束＜一結い＞にしたもの。˞

ユイカウˀ　シキ　タˈティˀリバ [ˈjuikauˀ ʃi̥ki tḁˈtiˀriba](結い香＜板香＞を焚いて＜点けて＞立てなさい)。

ˈユイˀ　カブン [ˈjuiˀ kabuŋ] 【連】結いの義務を負う。共同作業で他人から労力の提供を受けた場合、それを返す義務を負うこと。ˈタンガˀシン　ˀナル　シˈグトー　ユイˀ　カブンティ　ˈアーˀコーラー　ˈユイˀ　カˈバンˀモー　マˈシ [ˈtaŋgaˀʃin ˀnaru ʃiˈgutoː juiˀ kabunti ˈʔaːˀkoːraː ˈjuiˀ kaˈbamˀmoː maˈʃi](一人ででも出来る仕事は、結いの義務を負うよりも、結の義務を負わないのがましだ)。

ˈユイˀサー [ˈjuiˀsaː] 【感】1民謡の囃子。よいさ。間＜合い＞の手。2掛け声。豊年祭の巻き踊りに、旗頭を持ち上げてながら、ヒーヤユイサ　ヒーヤユイサと掛け声をかけて踊る。シˈナˀピキ　ˈソーˀル　ˀピンマー　ˈヨイˀサー　ˈヨイˀサーティ　ˈシーˀ　ピˈキスコーッˀタ [ʃiˈnaˀpi̥ki ˈsoːˀru ˀpimmaː ˈjoiˀsaː ˈjoiˀsaːti ˈʃiːˀ pi̥ˈkisu̥koːtˀta](綱引きされる時はヨイサーヨイサーと掛け声をかけて引っ張られた)。

ˈユイシンカ [ˈjuiʃiŋka] 【名】結いの仲間。共同作業の仲間。ˈユイシンカヌˀ　スルイティ　シˈグトゥ　スーˀカー　トゥˈキユドゥマˀナー　ウˈワーリス [ˈjuiʃiŋkanuˀ suruiti ʃiˈgutu suːˀkaː tu̥ˈkijudumaˀnaː ʔuˈwaːrisu](結い＜共同作業＞の仲間が揃って仕事を始めると、間もなく＜時淀まずに。時を要せず＞仕事は終わるよ)。

ˈユイプス [ˈjuipu̥su] 【名】ˈ結い人」の義。新築儀礼のˀアーパーレー [ˀʔaːpaːreː](新室寿ぎ歌)の際に、家の守護神として造られる、茅を結って作った人形。ˈユイプスンガナシ [ˈjuipu̥suŋganaʃi] ともいう。屋根葺きが終了して新築が完了した夜、新築に参加した人々と共に新室でアーパーレーを歌って厄払いの儀式を行う。その際に施主が「結い人」の人形を抱いて、ˈワンヌン　ビーˀティ　ˈバンヌン　ビーˀティ　シッˈトゥイ　シットゥイ [ˈwannumbiːˀti ˈbannumbiːˀti ʃi̥tˈtui ʃittui](貴方も酔い、私も酔って、あな尊や)と叫んで酒を棟木に投げかけ、以後この家の守り神として御座しませといい、ˈ結い人」を中柱に結わえておく。

ˈユイマール [ˈjuimaːru] 【名】ˈユイ [ˈjui](ˈ結い」の共同作業を回り順番＜輪番＞に行うこと)。「結い回り」の義。バˈカーˀムンケーヤ　ˈユイマールバ　シェーˀティ　アˈラシˀ　アˈクンダˀ　イッˈケナˀ　ウˈムッˀサ　パˈタラクン [baˈkaːˀmuŋkeːja ˈjuimaːruba ʃeːˀti ʔaˈraʃiˀ ʔaˈkundaˀ ʔikˈkenaˀ ʔuˈmusˀsa pḁˈtarakuŋ](若者たちは結い回りをして開墾するから、非常に楽しそうに働くよ)。

ˈユイラ [ˈjuira] 【名】四枚。ˈイラ」は、*[pira] → [ɸira] → [wira] → [jira] → [ira](枚。片)と転訛したもの。薄くて平らなものを数える単位。「屏風のひとひら畳まれるより〜」『源氏物語　東屋』。プˈスイˀラ [pu̥ˈsuiˀra](一枚)。フˈタイラ [ɸu̥ˈtaira](二枚)。ˈミーラ [ˈmiːra](三枚)。ˈユイラ [ˈjuira](四枚)。イˈチーˀラ [ʔiˈʧiːˀra](五枚)。ˈムイラ [ˈmuira](六枚)。ナˈナイˀラ [naˈnaiˀra](七枚)。ˈヤイラ [ˈjaira](八枚)。クˈヌイˀラ [kuˈnuiˀra](九枚)。ˈトゥイラ [ˈtuira](十枚)。ˈカイˀキ　ˈユイラˀ　ンˈザˀシバ [ˈkaiˀki ˈjuiraˀ ʔnˈʤaˀʃiba](皿を四枚出しなさい)。

ユˈガフ [juˈgaɸu] 【名】豊年。「世果報」と表記される。歌謡ではˈユンガフ [juŋgaɸu](世果報)と歌われる。「世(〜聖の御世＜ミヨ＞ゆ〜。万、29)・果報(＜幸運＞『風姿花伝』)」の合成語で、ˈ豊年満作の年」を意味する。ˈナウリˀユー [ˈnauriˀjuː](稔(ミノリ)の世)の対語として用いられる。ユˈガフユーˀ　ンˈカイヨーˀラ [juˈgaɸujuːˀ ʔŋˈkaijoːˀra](豊年満作の世をお迎えしましょう)。/ダイククヌ　ミルク　バガ　パトゥマニ　イモチ　クトゥシカラ　パトゥマ　ユンガフデムヌ　ユンガフデムヌ　サーンサーン　ユ(グ)ーヤー　サーサーサー(大国の弥勒神様が我が鳩間島にいらっしゃって、今年から鳩間島は豊年満作であるよ、囃子)。弥勒歌＜節＞/『鳩間島古典民謡古謡集』。

ユˈガフアミ [juˈgaɸuʔami] 【名】豊年満作をもたらす雨。ˈ世果報雨」の義。十日おきに夜雨が降ると豊年の前兆と歌われている。/ミルクユーヌ　シルシ　トゥカグシヌ　ユーアミ　カキブサイミソリ　シマヌアルジ　シマヌアルジ(弥勒菩薩の御世の前兆は十日ごとに降る夜雨です。その夜雨を降らせかけてくださいませ、島の守護神様)弥勒歌/『鳩間島古典民謡古謡集』。

ユˈガフドゥシ [juˈgaɸuduʃi] 【名】豊年。稔りの年。「世果報年」の義。ウˈルˀズンナー　アˈミˀヌ　ˈゴーˀラーレーンダ　クˈトゥシェーˀ　ユˈガフドゥシˀ　マˈチˀガイ　ˈナーˀヌ [ʔuˈruˀʤunnaː ʔaˈmiˀnu ˈgoːˀraːreːnda ku̥ˈtuʃeːˀ juˈgaɸuduʃiˀ maˈʧiˀgai ˈnaːˀnu](初夏に降雨が多かったから、今年は豊年＜世果報年＞間違いないよ)。

ユˈガマスン [juˈgamasuŋ] 【他動】歪める。「歪ます」の義。普通は、ヤˈゴーマスン [jaˈgoːmasuŋ](歪

める) という。˥ティーシ　˥セン　ピ˞ク˥カー　ユ˞ガマスンダ˥　ユ˞ガマサン˥　ヨーニ　シ˞ミ˥ナーシ　˞パン˥キティ　ピ˞キ˥バ [˥ti:ʃi ˥ʃem pi̥˞ku˥ka: ju˞gamasunda˥ ju˞gamasaŋ˥ jo:ni ʃi˞mi˥na:ʃi ˞paŋ˥ki̥ti pi̥˞ki˥ba](手で線を引くと歪めるから、墨縄で弾いて引きなさいよ)。ユ˞ガマシ　ナー˥ヌ [ju˞gamaʃi na:˥nu](歪めてしまった)。ユ˞ガマス˥　クトー　ナ˞ラ˥ヌ [ju˞gamasu˥ ku̥to: na˞ra˥nu](歪めることは、してはならない)。ユ˞ガマシェー˥　ミサムヌ [ju˞gamaʃe:˥ misamunu](歪めればいいのに)。ユ˞ガマシ [ju˞gamaʃi](歪めろ)。

ユ˞ガミルン [ju˞gamiruŋ] 【他動】歪める。ねじれまがらせる。悪くする。老年層は、ヤ˞ゴーマスン [ja˞go:masuŋ] という。アイニ　イ˞ズ˥カー　プ˞スヌ˥　シ˞ムチ˥　ユ˞ガミルンダ˥　ユ˞ガミラン˥ヨーニ　パ˞ナ˥シバ [˥ʔaini ʔi˞ʤu˥ka: pu̥˞sunu˥ ʃi˞mutʃi˥ ju˞gamirunda˥ ju˞gamiraŋ˥jo:ni pa˞na˥ʃiba](そんなに叱ったら人の気持ちを悪くする＜歪める＞から、気持ちを悪くしない＜歪めない＞ように話せよ)。シ˞ムチ˥　ユ˞ガマシ　ナー˥ヌ [ʃi˞mutʃi˥ ju˞gamaʃi na:˥nu](機嫌を損ねて＜歪めて＞しまった)。プ˞スヌ˥　シ˞ムチ˥　ユ˞ガミル˥　クトー　ス˞ナ [pu̥˞sunu˥ ʃi˞mutʃi˥ ju˞gamiru˥ ku̥to: su˞na](他人の気持ちを損なう＜歪める＞ことはするな)。˞マー˥ビン　ユ˞ガミリ˥バ [˞ma:˥biŋ ju˞gamiri˥ba](もっとゆがめろよ)。

ユ˞カム˥チ [ju˞kamu˥ʧi] 【名】ねだ (根太)。床の敷板を支える横木。「床持ち」の義。イ˞ツァフン˥ツァ [ʔi˞tsaɸun˥tsa](板床) は、このユ˞カム˥チ [ju˞kamu˥ʧi](根太) に˥サン [˥saŋ](桟) をわたして釘を打ち込む。タ˞キフンツァ [tḁ˞kiɸuntsa](竹床) の場合は、ユカムチ (根太) にわたした桟に˞ヌシ˥トゥル [˞nuʃi̥˥turu](竹竿。ユカムチの下に掛ける竹竿) に締め縄を掛けて引き締めながら床竹を編み上げる。ユ˞カム˥チナー　ヌ˞シ˥トゥロー　˥カキティ　カ˞ジン˥　ム˞タイラン˥ヨーニル　タ˞キフンツァー˥　フム˞ダー [ju˞kamu˥ʧina: ˞nuʃi̥˥turo: ˥kḁkiti ka˞ʤim˥ mu˞tairaraŋ˥jo:niru tḁ˞kiɸuntsa:˥ ɸumu˞da:](根太にヌシトゥル＜載せ取り。竹桟＞竹を引っ掛けて、床が台風で持ち上げられないように竹床は編むものだよ)。

ユ˞ガムン [ju˞gamuŋ] 【自動】歪む。捻じれ曲がる。「喎、ユガム」『類聚名義抄』の転訛したもの。老年層は、ヤ˞ゴームン [ja˞go:muŋ](歪む。捻じれ曲がる) という。ン˞ガフチ˥ル　ヌ˞マシ˥ター　フ˞チェー˥　ユ˞ガミティ˥　ナ˞キ　ベー [ʔŋ˞gaɸu̥ʧi˥ru nu˞maʃi̥˥ta: ɸu̥˞ʧe:˥ ju˞gamiti˥ na˞ki be:](苦い薬を飲ませたらば、口を歪めて泣いている)。ン˞ガー˥カー　フ˞チ˥　ユ˞ガムン [ʔŋ˞ga:˥ka: ɸu̥˞ʧi˥ ju˞gamuŋ](苦かったら口は歪む)。˞ウスクタンティン˥　ユ˞ガマヌ [˞ʔusu̥kutantiŋ˥ ju˞gamanu](押しても歪まない)。˥クマーラ　ユ˞ガム˥　クトー　˞ナー˥ヌ [˥kuma:ra ju˞gamu˥ ku̥to: ˞na:˥nu](ここから歪むことはない)。˞マー˥ビン　ユ˞ガメー˥　ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ju˞game:˥ misamunu](もっと歪めばいいのに)。˞マー˥ビン　ユ˞ガミ˥バ [˞ma:˥biŋ ju˞gami˥ba](もっと歪めよ)。

ユ˞カラスク [ju˞karasu̥ku] 【副】十分に。たっぷりと。よほど。かなり。ずいぶん。相当。「よかる・しこ (四顧)＜付近。あたり＞」の転訛したものか。˞クン˥ドー　ユ˞カラスコー　モー˥ケーンテイバーヤ [˞kun˥do: ju˞karasu̥ko: mo:˥ke:ntiba:ja](今度はかなり儲けたそうだよ)。ユ˞カラスコー˥　イ˞ザレーントダー [ju˞karasu̥ko:˥ ʔi˞ʤare:nˈda:](相当に＜かなり＞叱られたよ)。

ユ˞カラ˥プス [ju˞kara˥pu̥su] 【名】士族。「良かる人」の義。˥ブザ [˥buʤa](平民の指導者)、˥アカカラジ [˥ʔakakaraʤi](百姓) の対義語。パ˞トゥ˥マナー　ユ˞カラ˥プステー　˞オーラヌ˥ヌ　ユ˞カラプス˥ヌ　˞グンボー˥ヤ　˞オー˥ルン [pḁ˞tu˥mana: ju˞kara˥pu̥sute: ˞ʔo:ranu˥nu ju˞karapu̥su˥nu ˞gumbo:˥ja ˞ʔo:˥ruŋ](鳩間島には士族はおられないが、士族の落胤＜グンボー。士族男子と平民女性の間の庶子(ショシ)＞はおられる)。

ユ˞カラ˥プスグンボー [ju˞kara˥pu̥sugumbo:] 【名】石垣の士族の庶子。石垣の士族が鳩間島の役人として赴任し、その任期中の賄(マカナ)い女性との間に出来た庶子。˞バン˥テヌ　˥アンマー　イ˞サナキヌ˥　ア˞ラカーヌ˥　ユ˞カラ˥プスグンボー　˞ヤッタ　ベー˥ティ　˞ソー˥ラン　˥ソンガチヌ　˞シーボー˥　カ˞カソーラン˥シェン [˞ban˥tenu ˥ʔamma: ʔi˞sanakinu˥ ʔa˞raka:nu˥ ju˞kara˥pu̥sugumbo: ˞jatta be:˥ti ˞so:˥ran ˥soŋgatʃinu ˞ʃi:bo:˥ kḁ˞kaso:raŋ˥ʃeŋ](私の母親は石垣島字新川の士族の庶子＜グンボー＞であったので、お盆の中元や正月のお歳暮は欠かされなかった)。

ユ˞カル [ju˞karu] 【形】良い。良かる。「良い」のカリ活用の連体形が慣用的用法として認められたもの。沖縄本島方言からの借用語が転訛したもの。˞キュー˥ヌ　ユ˞カル˥　ヒー　マ˞サル˥　ピーナ　ニ˞ガイ˥シキ　˞オーサバ˥　シ˞キウキ˥　タ˞ボー˥リ [˞kju:˥nu ju˞karu˥ çi: ma˞saru˥pi:na ni˞gai˥ʃi̥ki ˞ʔo:saba˥ ʃi̥˞

kiʔukiˀ taˀboːˀri](今日の良き日に、勝る日にお祈り申し上げますから、お聞き届け賜れ)。ユ˞カラˀヌ　ˀクトゥ　˞カンガイˀヤー　ナ˞ラˀヌ [juˀkaraˀnu ˀkʷtu ˀkaŋgaiˀjaː naˀraˀnu](良からぬことを考えてはならぬ)。ユ˞カラスコー　モーˀケーン [juˀkarasʷkoː moːˀkeːŋ](沢山＜良かるほど。かなり＞儲けた)。

ユ˞キー [juˀkiː] 【形動】余計。余計に。標準語からの借用語が転訛したもの。普通は、˞ワーバˀグトゥ [˞waːbaˀgutu](余計なこと) という。˞ワー˜　ア˞ズˀカー　ユ˞キー＜˞マーˀビン＞　ワッサˀル　ˀナル [˞waː˜ ʔa˞ʤuˀkaː juˀkiː＜˞maːˀbiŋ＞ wassaˀru ˀnaru](君が言うと余計悪くなる)。ユ˞キーナˀ　クトー＜˞ワーバˀグトー＞　˞シー　ッふィンナ [ju˞kiːnaˀ kʷtoː＜˞waːbaˀgutoː＞ ˞ʃiː ffinna](余計なことはしてくれるな)。

ユ˞キーユキーˀシ [juˀkiːjukiːˀʃi] 【副】1ゆったりと。十分に余裕をもって。十分に。「余計・余計」の転訛したもの。˞キンˀマー　ユ˞キーユキーˀシ　キ˞シアーˀキバ [˞kimˀmaː juˀkiːjukiːˀʃi kʲˀʃi ʔaːˀkiba](着物はゆったりとしたものを着ていなさい＜着てあるけ＞よ)。2裕福に。ゆとりのある。ッ˞ふァイムノーˀ　ユ˞キーユキーˀシ　ッ˞ふァイ　アークン [f˞faimunoːˀ juˀkiːjukiːˀʃi f˞faiʔaːkuŋ](生活は裕福に暮らしている＜食べ物は十分に食べている＞か)。˞ウンˀネーヤ　ユ˞キーユキーヌˀ　キ˞ナイ　ヤッタ [˞ʔunˀneːja juˀkiːjukiːnuˀ ki˞nai jatta](あの家は裕福な家庭であった)。

ˀユク [ˀjuku] 【名】欲。欲望。ˀユク　ˀスクン [ˀjukuˀ sʷkuŋ](欲張る＜欲付く＞)。ユ˞クˀヌ　˞ナーンˀ　ユンダ　ˀヌーンクイン　プ˞スンˀ　ッ˞ふィー　ナーˀヌ [juˀkuˀnu ˞naːnˀjunda ˀnuːŋkuim pʷˀsuŋˀ f˞fi naːˀnu](欲がないから、何もかも他人にやって＜与えて＞しまった)。˞ミーˀヌ　ˀユコー　シゥ˞カˀバン　˞ティーˀヌ　ˀユコー　ˀシケー　ナ˞ラˀヌ [˞miːˀnu ˀjukoː sʲˀkaˀban ˞tiːˀnu ˀjukoː ˀʃʲke: naˀraˀnu](見るだけなら良いが、取る欲を出してはならない＜目の欲はついても、手の欲はついてはならない＞)＜諺＞。

ユ˞ク [juˀku] 【名】横。「〜彼にも与己佐母＜ヨコサモ＞〜。万、4132」の転訛したもの。普通は、ˀナイ [ˀnai](縦)、シ˞マー [ʃi˞maː](横) という。ˀタティユク　˞マータキナーˀ　キシバ [ˀtatijuku ˞maːtakinaːˀ kʲʃiba](縦横同じ長さに切りなさい)。

ユ˞ク [ju˞ku] 【名】別。別のもの。ユ˞クˀ　ムヌ　ˀクトゥ　ムノー　ア˞ラˀヌ　ク˞リルˀ　プサ [ju˞ku ˀmunu ˀkʷumunoː a˞raˀnu ku˞riruˀ pʷsa](別のもの、他の物ではない。これが＜ぞ＞欲しいのだ)。

ˀユクーン [ˀjukuːŋ] 【自動】休まれる。˞眠る」の敬語。「憩う」の義。「息舌、伊己不 (いこふ)」『新撰字鏡』の転訛したもの。ユ˞ナˀカ　ナ˞ルˀター　ˀユクーンティ　˞ソールンˀドゥ　ン˞ガマサˀヌ　ユ˞コーラランˀツォー [juˀnaˀka na˞ruˀtaː ˀjukuːnti ˞soːrunˀ du ʔŋ˞gamasaˀnu ju˞koːraranˀtsoː](夜中になったので、寝ようとされるが、うるさくて眠られないそうだ)。ˀメー　ˀユクイ　˞ヨーˀリ　˞ナーˀヌ [ˀmeː ˀjukui ˞joːˀri ˞naːˀnu](もうお休みになってしまわれた)。マ˞ナˀマ　ˀユクー＜ユクイ˞ヨーˀル＞　プ˞ソー　オーラˀヌ [ma˞naˀma ˀjukuː＜jukui˞joːˀru＞ pʷ˞soː ʔoːraˀnu](今お休まれる＜眠られる＞人はおられない)。˞パーˀク　ユ˞クイˀヤー＜ユクイ˞ヨーˀレー＞　ˀミサムヌ [˞paːˀku ju˞kuiˀjaː＜jukui˞joːˀreː＞ ˀmisamunu](早く休まれればいいのに)。ˀメー　ˀユクイバ＜ユクイ˞ヨーリˀバ＞[ˀmeː ˀjukuiba＜jukui˞joːriˀba＞](もうお休みなさいよ)。

ˀユクイ　˞オーˀルン [ˀjukui ˞ʔoːˀruŋ] 【連】お休みになる。「休む。寝る」の敬意表現。「息、休、憩、活、慰、イコフ」『類聚名義抄』の連用形に「おはし」が付いて転訛したもの。ˀアブジェー　イ˞チンマーˀ　クナール　ˀユクイ　˞オールンˀドゥ　˞キューˀヤ　マ˞ダˀ　ユクイ　˞オーラˀヌ [ˀʔabuʤeː ʔi˞ʧimmaːˀ kunaːru ˀjukui ˞ʔoːrunˀdu ˞kjuːˀja ma˞daˀ jukui ˞ʔoːraˀnu](お祖父さんは、いつもはここで＜ぞ＞お休みになるが、今日はまだお休みになっていない)。

ユ˞クカタ [ju˞kukata] 【名】別のところ。他のところ。別所。ユ˞クントン [ju˞kuntoŋ](別所) ともいう。ウ˞レーˀ　ユ˞クカタˀナ　シ˞キˀリ [ʔu˞reːˀ ju˞kukata ˀnaː ʃʲˀkiˀri](それは別のところに置きなさい)。

ユ˞クキム [ju˞kukimu] 【名】わきごころ (脇心)。あだしごころ。他の男、または女に惹かれている心。「横肝」の義。ク˞トゥˀキム [kʷ˞tuˀkimu](別心。脇心) ともいう。ユ˞クキムバˀ　ムトゥ　ˀバー　ア˞ランˀダー [ju˞kukimubaˀ mutu ˀbaː ʔa˞ranˀdaː](脇心＜あだしごころ＞を持つ私ではありませんよ)。

ユ˞クザˀキ [ju˞kuʤaˀki] 【名】かぎ裂き。着物の布地などが横に引き裂かれること。˞キンˀヌ　ユ˞クˀザキ　˞シーˀ　シケーン　ˀトンマー　ˀクー　˞シーˀ　シ˞キˀリ˞ヨー [˞kinˀnu ju˞kuˀʤaki ˞ʃiːˀ ʃʲke:n ˀtomma: ˀku: ˞ʃiːˀ ʃʲˀkiˀri˞joː](着物のかぎ裂きにしてある所は、つぎを当てて置きなさいよ)。

ユ⌜ク⌝シ [ju⌜ku⌝ʃi] 【名】嘘。虚言。「讒、与己須<よこす>」『新撰字鏡』、「人言の讒乎聞而<ヨコスヲキキテ>〜。万、2871」の転訛したもの。⌜ワー⌝　ムネー　ユ⌜ク⌝シ [⌜wa:⌝ mune: ju⌜ku⌝ʃi](君の話は嘘だ)。ユ⌜ク⌝シ　ス⌜ナ [ju⌜ku⌝ʃi su⌜na](嘘をつくな<するな>)。ユ⌜ク⌝シェー　ア⌜ラ⌝ヌ　⌜フン⌝トー⌜ダー [ju⌜ku⌝ʃe: ʔa⌜ra⌝nu ⌜ɸun⌝to:⌜da:](嘘ではない。本当だよ)。

ユ⌜クシキカー⌝シキ [ju⌜kuʃi̥kika:⌝ʃi̥ki] 【副】欲張って。欲張りついて。ABCDEFCD 型の重言。ユ⌜クシキカー⌝シキ　⌜シー⌝　マティ　⌜ベーン⌝ケン　⌜ダイヤー⌝　サ⌜ガ⌝リティ　ウ⌜ドゥ⌝キ　⌜ナー⌝ヌ [ju⌜kuʃi̥kika:⌝ʃi̥ki ⌜ʃi:⌝ mati ⌜be:ŋ⌝ken ⌜daija:⌝ sa⌜ga⌝riti ʔu⌜du⌝ki ⌜be:](欲張って<値段の上がるのを>待っているうちに、値段は下がって大損しているよ)。

ユ⌜クジマー [ju⌜kuʥijma:] 【名】横の方向。横向き。違った方向。よこしまなこと。「横様」の義。「僻、ヨコサマ」『類聚名義抄』の転訛したもの。イ⌜ザリティ⌝　ユ⌜クジマー⌝　ン⌜カウタター⌝ナ　⌝ムニン　イ⌜ザヌ [ʔi⌜ʣariti⌝ ju⌜kuʤima:⌝ ʔŋ⌜kauta ta:⌝na ⌝muniŋ ʔi⌜ʣanu](叱られて横向きになったまま、ものも言わない)。ユ⌜クジマー⌝ニ　⌝ムネー　イ⌜ズナ [ju⌜kuʤima:⌝ni ⌝mune: ʔi⌜ʣuna](道理に合わないことを言うな<横道に逸して物言いをするな>)。

ユ⌜クジマカー⌝ジマ [ju⌜kuʤimaka:⌝ʤima] 【副】違った方向に。横道に逸れて。曲解して。とんでもない方向。ABCDEFCD 型の重言。プ⌜スン⌝ヤヌ　ク⌜トゥ⌝バ　ユ⌜クジマカー⌝ジマ　⌝ナシ　パ⌜ナ⌝シェー　ナ⌜ラ⌝ヌ [pu̥⌜suɲ⌝janu ku̥⌜tu⌝ba ju⌜kuʤimaka:⌝ʤima ⌝naʃi pa⌜na⌝ʃe: na⌜ra⌝nu](他所の家のことを歪曲して<横道に逸らして>話してはならない)。

ユ⌜クシ⌝ムニ [ju⌜kuʃi⌝muni] 【名】嘘。虚言。「讒・与己須<よこす>」『新撰字鏡』の転訛したもの。「よこし・ものいひ」の転訛か。ウ⌜リヌ⌝　ア⌜ズ⌝ムネー　ムー⌜ル⌝　ユ⌜クシ⌝ムニ　ヤ⌜ルンダ⌝　ス⌜クナ [ʔu⌜rinu⌝ ʔa⌜ʣu⌝ mune: mu:⌜ru⌝ ju⌜kuʃi⌝muni ja⌜runda⌝ su̥⌜kuna](あれ<彼>の言うことは、すべて嘘<虚言>だから、聞くなよ)。

ユ⌜クシ⌝ムニ　⌜シームヌ [ju⌜kuʃi⌝muni ⌜ʃi:munu] 【連】嘘吐き。ウ⌜レー⌝　ユ⌜クシ⌝ムニ　⌜シームヌ⌝　ヤ⌜ルンダ⌝　ウ⌜リヌ⌝　ムネー　ス⌜クナ⌝ヨー [ʔu⌜re:⌝ ju⌜kuʃi⌝muni ⌜ʃi:munu⌝ ja⌜runda⌝ ʔu⌜rinu⌝ mune: su̥⌜kuna⌝jo:](彼は嘘吐だから、彼のいうことは聞くなよ)。

ユ⌜ク⌝ジン [ju⌜ku⌝ʤiŋ] 【名】欲張り。強欲な人。イ⌜カス⌝ク　⌜モーカ⌝バン　ユ⌜ク⌝ジン　ヤ⌜ルンダ⌝　ク⌜ビッチン⌝マーンツァン　⌝バキ　ッ⌜ふィーラヌ [ʔi⌜kasu̥⌝ku ⌜mo:ka⌝baŋ ju⌜ku⌝ʤiŋ ja⌜runda⌝ ku⌜bittʃim⌝ ma:ntsam ⌝baki f⌜fi:ranu](どんなに儲けても欲張りだから、これぽっちすらも分けてくれない)。

ユ⌜ク⌝　スクン [ju⌜ku⌝ su̥kuŋ] 【連】欲張る。欲を掻く。「欲付く」の義。ユ⌜ク⌝　スクンティ　⌜アー⌝キ　⌜カイ⌝テー　⌜スンカブ⌝リ　⌜シー　ナー⌝ヌ [ju⌜ku⌝ su̥kunti ⌜ʔa:⌝ki ⌜kai⌝te: ⌜suŋkabu⌝ri ⌜ʃi: na:⌝nu](欲張ろう<欲付こう>として、却って欠損してしまった)。

ユ⌜グスン [ju⌜gusuŋ] 【他動】汚す。汚くする。けがす。ドゥ⌜ル⌝　ム⌜タ⌝ブカー　⌝キン　ユ⌜グスンㅏダー [du⌜ru⌝ mu⌜ta⌝buka: ⌝kiɲ ju⌜gusunㅏda:](泥をいじると<弄ぶ>と着物を汚すよ)。⌜キン⌝マー　ユ⌜グサンドー⌝シ　キ⌜シ [⌜kim⌝ma: ju⌜gusando:⌝ʃi ki̥⌜ʃi](着物は汚さないで着なさい)。ドゥ⌜ルゴー⌝ダー　⌜シー⌝　ユ⌜グシ　ナー⌝ヌ [du⌜rugo:⌝da: ⌜ʃi:⌝ ju⌜guʃi na:⌝nu](泥まみれになって、汚してしまった)。ユ⌜グス⌝　プ⌜ソー⌝　ドゥーシ　ア⌜ラシティ⌝ヨー [ju⌜gusu⌝ pu̥⌜so:⌝ du:ʃi ʔa⌜raʃi̥ti⌝jo:](汚す人は自分で洗いなさいよ)。⌜マー⌝ビン　ユ⌜グシェー⌝　ミサムヌ [⌜ma:⌝biɲ ju⌜guʃe:⌝ misamunu](もっと汚せばいいのに)。⌜パー⌝ク　ユ⌜グシ⌝バ [⌜pa:⌝ku ju⌜guʃi⌝ba](早く汚しなさいよ)。

ユ⌜クターラスン [ju⌜kuta:rasuŋ] 【他動】横たえる。「横、ヨコタフ<下二段>」『類聚名義抄』の転訛したもの。⌝クナー　⌜マイダーラ⌝　ユ⌜クターラスン [⌝kuna: ⌜maida:ra⌝ ju⌜kuta:rasuŋ](ここに米俵を横たえる)。パ⌜ラー⌝ヤ　ユ⌜クターラサンドー⌝シ　タ⌜ティ⌝リ [pa⌜ra:⌝ja ju⌜kuta:rasando:⌝ʃi tḁ⌜ti⌝ri](柱は横たえないで立てなさい)。ナー⌜イ⌝　ユ⌜クターラシ⌝　シケーバン [na:⌜ji⌝ ju⌜kuta:raʃi⌝ ʃi̥ke:baŋ](ただ横たえて放って置いてあるわい)。シ⌜バーン⌝　トンナー　ユ⌜クターラス⌝　クトー　ナ⌜ラ⌝ヌ [ʃi⌜ba:n⌝ tonna: ju⌜kuta:rasu⌝ ku̥to: na⌜ra⌝nu](狭い所に横たえることはできない<ならぬ>)。ユ⌜クターラシェー⌝　ミサムヌ [ju⌜kuta:raʃe:⌝ misamunu](横たえればいいのに)。⌜ビー⌝プソー　⌝クナー　ユ⌜クターラシ [⌜bi:⌝pu̥so: ⌝kuna: ju⌜kuta:raʃi](酔っ払いはここに横たえ<て寝かせ>なさい)。

ユ⌜クタールン [ju⌜kuta:ruŋ] 【自動】横たわる。横になる。横に臥す。「いたう気色ばみよこたはれる松のこたかき〜」『源氏物語　藤裏葉』の転訛したもの。ブ⌜ガ⌝リティ　⌝クナー　ユ⌜クタールン

ティ　スンドゥ˥　シ˞バー˥ヌ　ユ˞クターララヌ [bu˞gaˀriti ˥kuna: ju˞kuta:runti sundu˥ ʃi˞baːˀnu ju˞kuta:raranu](疲れて、ここに横たわろうとするが、狭くて横たわれない)。ユ˞クターリ˥　ミサカー　˥クナー　ユ˞クタール˥　クトゥン　˥ナルン [ju˞kuta:ri˥ misaka: ˥kuna: ju˞kuta:ru˥ kʉ̥tun ˥naruŋ](横たわってよければ、ここに横たわることも出来る)。˥カナー　ユ˞クターレー˥　ミサムヌ [˥kana: ju˞kuta:reː˥ misamunu](あそこで横たわればいいのに)。˞パー˥ク　ユ˞クターリ˥バ [˞paːˀku ju˞kuta:riˀba](早く横たわれよ)。

ユ˞クタイルン [ju˞kutairuŋ] 【他動】横たえる。横にする。横に伏せる。˥バウ　ユ˞クタイルン [˥bau ju˞kutairuŋ](棒を横たえる)。˞バウ˥ワー　ユ˞クタイランドー˥シ　タ˞ティ˥リ [˞bauˀwa: ju˞kutairandoː˥ ʃi tɐ̥˞tiˀri](棒は横たえないでたてろ)。ユ˞クタイ˥　ミサカー　ユ˞クタイル˥　クトー　˥ナルン [ju˞kutai˥ misaka: ju˞kutaiˀru ˥kʉ̥to: ˥naruŋ](横たえてよければ、横たえることはできる)。ユ˞クタイヤー˥　ミサムヌ [ju˞kutaija:˥ misamunu](横たえたらいいのに)。ユ˞クタイリ [ju˞kutairi](横たえろ)。

ユ˞クタウン [ju˞kutauŋ] 【他動】横たえる。横にする。横に伏せる。˥バウ　ユ˞クタウン [˥bau ju˞kutauŋ](棒を横たえる)。˥バウ　ユ˞クタイティ˥＜ユ˞クタイトー˥シティ＞　ミチ　ッ˞サイベー [˥bau ju˞kutaiti˥＜ju˞kutaito:˥ʃiti＞ mitʃi s˞sai be:](棒を横たえて道を塞(フサ)いでいる)。˞バウ˥ワー　ユ˞クターヌ [˞bauˀwa: ju˞kuta:nu](棒は横たえない)。˥バウ　ユ˞クタウ˥　クトー　ナ˞ラ˥ヌ [˥bau ju˞kutau˥ kʉ̥to: na˞raˀnu](棒を横たえることはいけない)。˞マー˥ビン　ユ˞クタイヤー˥　ミサムヌ [˞maːˀbiɲ ju˞kutaija:˥ misamunu](もっと横たえればいいのに)。ン˞ベーマ˥　ユ˞クタイリ [ʔm˞beːma˥ ju˞kutairi](少し横たえなさい)。

ユ˞クタニ [ju˞kutani] 【名】種違い。父違い＜妻の連れ子＞。「別＜ユク＞種」の義か。˞ウン˥ネヌ　シ˞ザッ˥ふァー　ユ˞クタニ˥　ヤ˞ルンダ　ウシトゥ˥ル　˥アトー　シ˞グ˥　パジ [˞ʔunˀnenu ʃi˞ʤaf˞fa: ju˞kutani˥ ja˞runda ʔuʃi̥tuˀru ˥ʔato: ʃi˞guˀ paʤi](あの家の上の子は種違いだから、弟が跡を継ぐはずだ)。

ユ˞クトン [ju˞kutoŋ] 【名】別所。別の所。ユ˞クントン [ju˞kuntoŋ](別の所) ともいう。ウ˞レー˥　ユ˞ヌ˥トンナー　シ˞キラン˥ドーシ　ユ˞クトン˥ナー　シ˞キ˥リ [ʔu˞reː˥ ju˞nuˀtonna: ʃi̥˞kiranˀdo:ʃi ju˞kuton˥na: ʃi̥˞kiˀri](それは、同じところに置かないで、別の所に置きなさい)。

ユ˞クニ [ju˞kuni] 【名】腿(モモ)の付け根。よこね (横根)。そけい (鼠径) リンパ節の炎症によって起る腫物。「Yocone. ヨコネ (横根)鼠蹊部(ソケイブ)にできるある腫物(ハレモノ)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞ピングル˥ヌ　˞ペー˥リティ　ユ˞クニ˥ナー　タ˞ニ˥バ　ス˞ク˥リ　˥ヤミ　ア˞ラカラ˥ヌ [˞piŋguruˀnu ˞peːˀriti ju˞kuniˀna: ta˞niˀba sʉ̥˞kuˀri ˥jami ʔa˞rakaraˀnu](傷口から細菌が入って＜冷気が入って＞、横根にぐりぐり＜種＞を作って、痛くて歩かれない)。

ユ˞クニヌ˥　タニ [ju˞kuninu˥ tani] 【連】腿(モモ)の付け根のぐりぐり。リンパ腺腫脹(センシュチョウ)などで出来るぐりぐり。ユ˞クニヌ˥　タ˞ニ˥ヌ　ン˞ジ˥ルカー　˞ダイ˥パーナ　ピ˞ル　シッ˥キティ　˞マー˥ス　マ˞ザー˥シティ　˥ドゥー　ピ˞キットーシ˥　ッ˞ふォーッ˥タン [ju˞kuninu˥ ta˞niˀnu ʔn˞ʤiˀruka: ˞daiˀpa:na pi˞ru ʃikˀkiti ˞maːˀsu ma˞ʤaːˀʃiti ˥du: pi̥˞kitto:ʃi˥ f˞fo:t˥taŋ](腿の付け根＜横根＞のぐりぐりが出来ると、擂鉢(スリバチ)に大蒜(ニンニク)を搗いて塩を混ぜて、それを体に擦(ス)り付けて、上から下へと擦り下ろされたものだ)。

ユ˞クニビ [ju˞kunibi] 【名】横臥(オウガ)。横に寝ること。「Yokone. ヨコネ (横寝) 横向きになって寝ること」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。

ユ˞クヌドゥ [ju˞kunudu] 【名】気管。「横＜別＞喉」の義。˞食道とは別の喉」のこと。ア˞バティティ˥ヌ˥ムˀタクトー　˞サー˥バ　ユ˞クヌドー˥　ウ˞タ˥シティ　ン˞ツァイ　ベー [ʔa˞batiti˥ nu˞muˀta ˥kʉ̥to: ˞saːˀba ju˞kunudoː˥ ʔu˞taˀʃi̥ti ʔn˞tsai be:](急いで飲んだところ、お茶を気管に落として、むせって＜咽(ムセ)って＞咳き込んでいる)。

ユ˞クヌ˥　˥マタサカ [ju˞kuˀnu ˥matasaka] 【成】欲を張りすぎて損をする。「欲の熊鷹＜くまたか＞股を裂く」の転訛したもの。プ˞ス˥ケンナー　フ˞ターチ　ミーチ　モーキ˥グトゥ　˞スンティ　アー˥キ　ユ˞クヌ　˥マタサカ　˥ナリ　˞ベー [pʉ̥˞su˥kenna: ɸʉ̥˞ta:ʧi mi:ʧi moːkiˀgutu ˞sunti ʔaːˀki ju˞kuˀnu ˥matasaka ˥nari ˞be:](一度に二つ三つ儲けごとをしようとして、欲を張りすぎて欠損しているよ)。

ユ˞クバタ [ju˞kubata] 【名】脇腹。よこばら。「横腹」の義。ウ˞シヌ˥　ッサ　ッ˞ふァースンティ　ベーン˥ケン　˥アトゥパンシ　ユ˞クバタ˥　キ˞ラ˥リティ　˥ヤミ　ナ˞ラ˥ヌ [ʔu˞ʃinu˥ ssa f˞fa:sunti be:ŋ˥keŋ˥ ʔatupaŋʃi ju˞kubata˥ ki˞raˀriti ˥jami na˞raˀnu](牛の

まぐさ＜秣＞を与えよう＜喰わせよう＞としている時に、＜牛の＞後ろ足で脇腹を蹴られて、痛くて堪らない)。

ユ˞クミチ [ju˞kumitʃi] 【名】 1別の道。違った道。脇道。パ˞リンテン˺マー　ク˞ヌ˺　ミチェーラ　˞ギーティ　カイ˺レー　ユ˞クミチェー˺ラ　クーバ˞ヨー [pa˞rintem˺ma: ku˞nu˺ mitʃe:ra ˞gi:ti kai˺re: ju˞kumitʃe:˺ra ku:ba˞jo:](行く時はこの道から行って、帰りは別の道から来なさいねえ)。2横道。タ˞ティミチ˺トゥ　ユ˞クミチヌ˺　ア˞ジ˺マー　˺ナリ　˞ブン˺トン [tạ˞timitʃi˺tu ju˞kumitʃinu˺ ʔa˞ʤi˺ma: ˺nari ˞bun˺toŋ](縦道と横道の交差している所)。

ユ˞クムニ [ju˞kumuni] 【名】別の言葉。関係のない言葉。話題を逸らした言葉。マ˞タ˺　ユ˞ク˺ムニ　ク˞トゥムニ˺バ　イ˞ズバン˺　マ˞ナ˺マー　ウ˞ヌ˺　パ˞ナ˺シェー　ア˞ラ˺ヌ [ma˞ta˺ ju˞kumuni˺ kụ˞tumuni˺ba ʔi˞ʤubam˺ ma˞na˺ma: ʔu˞nu˺ pa˞na˺ʃe: ʔa˞ra˺nu](また関係のない話をする＜言う＞よ。今はその話ではない)。

ユ˞クムニ˺クティムニ [ju˞kumuni˺kụtimuni] 【名】別の言葉。関係のない言葉。ユ˞クムニ [ju˞kumuni](別語) の重言 (畳語)。ユ˞クムニ˺クティムネー　ア˞ズナ [ju˞kumuni˺kụtimune: ʔa˞ʤuna](別の言葉は言うな)。

ユ˞クムヌ [ju˞kumunu] 【名】別の物。他の物。ユ˞クムヌ˺　ク˞トゥ˺ムヌン　˞デー˺カー　カ˞ラサリスヌ˺　ク˞レー˺　カ˞ラサラヌ [ju˞kumunu˺ kụ˞tu˺mu-nun ˞de:˺ka: ka˞rasarisunu ku˞re:˺ ka˞rasaranu](別の物、他の物ならば貸せるが、これは貸せない)。

ユ˞クヤン [ju˞kujaŋ] 【名】余病。別の病気。ウ˞リヌヤン˺マー　˞ピー˺チェー　ア˞ラ˺ヌ　ユ˞クヤン˺マ˞ザーリ˺ル　˞ブー [ʔu˞rinu jam˺ma: ˞pi:˺tʃe: ʔa˞ra˺nu ju˞kujam˺ ma˞ʤa:ri˺ru ˞bu:](あれ＜彼＞の病気は一つではない。余病＜他の病＞も混じっている)。アー˞イ˺　ウ˞ヌ　ヤン˺マー　ア˞ラ˺ヌ　ユ˞クヤンドゥ˺　ヤ˞リン˺ギサバン [ʔa:˞ji˺ ʔu˞nu jam˺ma: ʔa˞ra˺nu ju˞kujandu˺ ja˞riŋ˺gisabaŋ](否、その病ではない。別の病であるらしい＜でありそうだ＞よ)。

ユ˞グリ [ju˞guri] 【名】 1汚れ。汚れること。ユ˞グルン [ju˞guruŋ](汚れる) の転成名詞。ユ˞グリティー [ju˞guriti:](汚れた手)。ユ˞グリパン [ju˞guripaŋ](汚れた足)。˞ドゥー˺ヌ　ユ˞グレー˺　オンダー　シ˞ティ˺　ウ˞タ˺シバ [˞du:˺nu ju˞gure:˺ ʔonda: ʃị˞ti˺ ʔu˞ta˺ʃiba](体の汚れは海水浴をして落としなさいよ)。2不浄(フジョウ)。穢(ケガ)れ。˞ソーシキ˺ヌ　˺アトー　パ˞マ˺ナー˺ウリ　˞スー˺ミジシ　˞ティー˺パン　ア˞ライティ˺　ユ˞グリ˺　ウ˞タ˺シティル　˞ヤー˺ヤ　˞オーッタ˺ル [˞so:ʃị˺ki˺nu ˺ʔato: pa˞ma˺na: ˺ʔuri ˞su:˺miʤiʃi ˞ti:˺paŋ ʔa˞raiti˺ ju˞guri˺ ʔu˞ta˺ʃị˺tiru ˞ja:˺ja ˞ʔo:tta˺ru](葬式の後は浜に下りて潮水で手足を洗って穢(ケガ)れを落として＜ぞ＞家へはいらっしゃった＜行かれた＞ものだ)。

ユ˞グリティー˺パン [ju˞guriti:˺paŋ] 【名】汚れた手足。ユ˞グリティーパン˺マー　パ˞マ˺ナ　˞ギー　スー˺ミジシ　ア˞ラシティティ˺　クーバ [ju˞guriti:pam˺ma: pa˞ma˺na ˞gi: su:˺miʤiʃi ʔa˞raʃị˺titi˺ku:ba](汚れた手足は浜に行って潮水で洗ってきなさい)。

ユ˞グリハイカラー [ju˞gurihaikara:] 【名】下品なおしゃれ。厚化粧や派手な服装をすること。「汚れ・highcollar」の義。過度な化粧や服飾をすることを皮肉ったことば。ユ˞グリハイカラーバ　シー　アーク˺ヌ　˞ミーヌッサ˺ヌ　ミ˞ララ˺ヌ [ju˞guri-haikara:ba ʃi: ʔa:ku˺nu ˞mi:nussa˺nu mi˞rara˺nu](下品なおしゃれをしているが、見苦しくて見ていられない)。

ユ˞グリムヌ [ju˞gurimunu] 【名】汚れ物。ユ˞グリムノー˺　ア˞ラシタン˺カー　シゥ˞カーラヌ [ju˞gurimuno:˺ ʔa˞raʃị˺taŋ˺ka: sị˞ka:ranu](汚れ物は洗わないと使えない)。

ユ˞グリルン [ju˞guriruŋ] 【自動】汚れる。「よごれる＜下一段＞」の転訛したもの。ク˞ヌ˺　シ˞グトゥ　スー˺カー　ユグ˞リルンダ˺　ユ˞グリラン˺　シ˞グトゥル　シー˺プサ [ku˞nu˺ ʃi˞gutu su:˺ka: ju˞gurirunda˺ ju˞guriraŋ˺ ʃi˞guturu ʃi:˺pụsa](この仕事をすると汚れるから、汚れない仕事を＜ぞ＞したい)。ユ˞グリ　ヤッ˺サン [ju˞guri jas˺saŋ](汚れやすい)。ウ˞リ˺シ　ユ˞グリル˺　パジェー　˞ナー˺ヌ [ʔu˞ri˺ʃi ju˞guriru˺ paʤe: ˞na:˺nu](それで汚れるはずはない)。ユ˞グリレー˺　ミサムヌ [ju˞gurire:˺ misamunu](汚れればいいのに)。ユ˞グリリ [ju˞guriri](汚れろ)。

ユ˞グルン [ju˞guruŋ] 【自動】汚れる。「よごる＜下二段＞」の転訛したもの。˞ジー˺ナー　ビ˞ル˺カー　シ˞ベー˺　ユ˞グルンドゥ˺　ス˞デー˺　カラウカー　ユ˞グラヌ [˞ʤi:˺na: bi˞ru˺ka: ʃi˞be:˺ ju˞gurundu˺ su˞de:˺ karauka: ju˞guranu](地面に座ると尻は汚れるが、袖は捲(マク)り上げる＜絡(カラケ)げる＞と汚れない)。ユ˞グリ　ナー˺ヌ [ju˞guri na:˺nu](汚れてしまった)。ユ˞グル˺　クトー　˞ナー˺ヌ [ju˞guru˺ kụto: ˞na:˺nu](汚れることはない)。˞マー˺ビン　ユ˞グレー˺　ミサムヌ

[˞maːˀbiŋ ju˞gureːˀ misamunu](もっと汚れたらいいのに)。˞パーˀク　ユ˞グリˀバ [˞paːˀku ju˞guriˀba](早く汚れろ)。

ユ˞クン [ju˞kuŋ] 【副】余計に。さらに。いっそう。もっと。条件文をうけて、˞< ある状態が > ますます、もっと、かえって、余計〜になる」の意を表す。ˀアイニ　イ˞ズˀカー　ユ˞クン　シンギンˀ　ナ˞リˀスンダ　イ˞ズナ [ˀʔaini ʔi˞ʤuˀkaː ju˞kuŋ ʃiŋginˀ na˞riˀsunda ʔi˞ʤuna](あのように叱ったら、余計に悪くなるから、叱るな)。

ˀユクン [ˀjukuŋ] 【名】もり (銛)。やす (箆)。魚や蛸を刺して漁獲する漁具。ˀガルユクン [ˀgarujukuŋ](先端部に鉤のあるやす < 箆 >。蛸を漁獲するのに用いる漁具) と˞シーˀメーユクン [˞ʃiːˀmeːjukuŋ](先端部が尖って、鉤のない銛。魚を突き刺すのに用いる銛) がある。女性が潮干狩りに持参するのは、ˀガルユクン [ˀgarujukuŋ](鉤のある箆) である。ミ˞ドゥムンケーˀヤ　ˀガルユクンバ　ˀムティティル　タ˞クˀトゥリン　イ˞ソー　オーッˀタ [mi˞dumuŋkeːˀja ˀgarujukumba ˀmutitiru tạ˞kuˀ ruriŋ ʔi˞soː ʔoːtˀta](女性たちは鉤のある箆を持って蛸を捕りに干瀬へ行かれた)。

ユ˞クンツァˀミー [ju˞kuntsaˀmiː] 【名】床下。床下の空間。「床下穴」の義。若年層は、ユ˞クンツァˀメー [ju˞kuntsaˀmeː](床下) ともいう。ユ˞クンツァˀミーナ　シ˞ブルˀ　カ˞ブッチバˀ　イ˞リティˀ　タ˞ブイヨーッˀタ [ju˞kuntsaˀmiːna ʃi˞buruˀ ka˞buttʃibaˀ ʔi˞ritiˀ ta˞buijoːtˀta](床下に冬瓜や南瓜を入れて保管された)。

ユ˞コー [ju˞koː] 【名】裏座。奥座敷の総称。イ˞チバンウラˀザ [ʔi˞tʃibaŋʔuraˀʤa](一番裏座)、˞ニーバンウラˀザ [˞niːbaŋʔuraˀʤa](二番裏座) の総称。トゥ˞シˀグル　ˀナルカー　ビ˞コーンッふァーˀ　ユ˞コーˀナール　ニ˞ビˀウキ　˞スータル [tu˞ʃiˀguru ˀnaruka: bi ˞koːŋffaːˀ ju˞koːˀnaːru niˀbiˀʔuki ˞suːtaru](年頃になると男の子は裏座 < 一番裏座 > で寝起きしたものだ)。二番裏座は物置や、ˀシラ [ˀʃira](産屋。産室) に利用された。ク˞レーˀ　ユ˞コーˀナー　カ˞ザˀミシ˞キˀリ [ku˞reːˀ ju˞koːˀna: ka˞ʤaˀmi ʃi̥ˀkiˀri](これは裏座に隠しておきなさい)。

ユ˞コーˀマ [ju˞koːˀma] 【名】押入れ。小部屋。老年層の言葉。˞ウイˀプスンケーヤ　オ˞シイレˀバ　ユ˞コーˀマティ　ア˞ゾーッタˀル [ˀʔuiˀpu̥suŋkeːja ʔo˞ʃiʔireˀba ju˞koːˀmati ʔa˞ʤoːttaˀru](年寄たちは押入れをユコーマと言われたものだ)。

ユ˞コーˀン [ju˞koːˀŋ] 【形】欲深い。強欲である。ウ˞ヤˀキプソー　ユ˞コーˀンティ　ス˞クタヌˀ　ウ˞レーˀ　ユ˞コーナーンˀシェン [ʔu˞jaˀkipu̥soː ju˞koːˀnti su̥˞kutanuˀ ʔu˞reːˀ ju˞koːnaːŋˀʃeŋ](金持ちは欲深いと聞いたが、彼は欲深くなかった)。ˀドゥク　ユ˞コーˀヌ　˞ジンˀマー　カ˞ララヌ [ˀduku ju˞koːˀnu ˞ʤimˀma: ka˞raranu](余りに欲深いので金は借りられない)。˞シンダイˀ　ユ˞コーˀ　ナリ　˞ナーˀヌ [˞ʃindaiˀ ju˞koːˀ nari ˞naːˀnu](次第に欲深くなってしまった)。ˀアイニ　ユ˞コーˀ　プ˞ソーˀ　ブ˞ラーヌ [ˀʔaini ju˞koːˀ pu̥˞soːˀ bu˞raːnu](あんなに欲深い人はいない)。ˀマー　ン˞ベーマーˀ　ユ˞コーˀレー　ˀミサムヌ [ˀmaː ʔm˞beːmaːˀ ju˞koːˀreː ˀmisamunu](もう少しは欲深ければいいのに)。˞マーˀビン　ユ˞コーˀカー　˞デーˀジ˞ゲˀラ [˞maːˀbiŋ ju˞koːˀka: ˞deːˀʤi˞geˀra](もっと欲張りだったら大変 < 大事 > だよ)。

ˀユサ [ˀjusa] 【名】夜。普通は、ˀアサンユサン [ˀʔasaŋjusaŋ](朝も夜も) と畳語的に用いられる。単独用法はない。ッ˞ふァバˀ　シ˞ナシティˀ　ブ˞ネーヤˀ　アサンユサン　ナ˞キトゥーシル　オーˀル [f˞fabaˀ ʃi˞naʃitiˀ bu˞neːjaˀ ʔasaŋjusan na˞kituːʃiru ʔoːˀru](子供を失って < 死なして > 母親は朝も夜も泣き通しておられる)。

ユ˞シアシ [ju˞ʃiʔaʃi] 【名】善し悪し。良い悪い。善悪。プ˞スヌˀ　ユ˞シアシェーˀ　ピライ　ミ˞ランˀカー　ワ˞カラˀヌ [pu̥˞sunuˀ ju˞ʃiʔaʃeːˀ pirai mi˞raŋˀ ka: wa˞karaˀnu](人の良し悪しは交際してみないと分からないものだ)。

˞ユシˀキ [˞juʃi̥ˀki] 【名】 (植) すすき (薄・芒)。「めひ < 婦負 > の野の須々吉 < ススキ > 押し靡べ〜。万、4016」、「薄、ススキ」『類聚名義抄』の転訛したものか。˞ユシˀキキー [˞juʃi̥ˀkiki:](すすき) ともいう。˞ユシˀキシ　シ˞ダˀル　ˀフムン [˞juʃi̥ˀkiʃi ʃi˞daˀru ˀɸumuŋ](ススキで簾を編む)。ミ˞ナˀカナー　˞ユシˀキシダル　ˀパイティ　˞ウンˀナー　イ˞ガˀ　プシバ [mi˞naˀkana: ˞juʃi̥ˀkiʃidaru ˀpaiti ˞ʔunˀna: ʔi˞gaˀ pu̥ʃiba](庭にススキの簾(スダレ)を延(ノ)べて、それに烏賊を日干し乾燥しなさいよ)。

˞ユシˀキシダル [˞juʃi̥ˀkiʃidaru] 【名】ススキを編(ア)んで作った簾(スダレ)。長さ約 2 メートルのススキを、葉を除去して藁縄(ワラナワ)で編み、庭先に広げて烏賊を干すのに用いる。イ˞ガヤマで干した半乾燥の烏賊をこれで 2、3 日干して完成品に仕上げた。˞ユシˀキシダルナ　イ˞ガˀ　プシバ [˞juʃi̥ˀkiʃidaruna ʔi˞gaˀ pu̥ʃiba](ススキ簾に烏賊を干しなさいよ)。

˩ユシ˥キシンザ **[˩juʃi̥˥kiʃindʑa]** 【名】(植) 砂糖きびの一種。「薄甘蔗(ススキカンショ)」の義。糖度が比較的に低く、幹の太さも比較的に小さい。˩コー˥シシンザ [˩koː˥ʃiʃindʑa](菓子砂糖きび。糖度が高く、大きな砂糖きび。「菓子甘蔗」の義) の対義語。チ˩カ˥グロー　˩ユシ˥キシンザル　˩ゴー˥ラー　ス˩クラ˥リ　˩ブー [tʃi̥˩kaˬguroː ˩juʃi̥˥kiʃindʑaru ˩goːˬraː sṵ˩kuraˬri ˩buː](近頃はユシキシンザ < 薄甘蔗 > が多く作付けされている)。

˩ユシ˥キダー **[˩juʃi̥˥kidaː]** 【名】(地) 古文書では、ミナミヨシキダとある。昔から美田地帯といわれていたが、西表北部一周道路建設のために、突然何の予告もなしにブルトーザーで埋め立てられて問題化した。工事を一時中断して沖縄県土木課八重山支所と交渉した結果、沖縄県が補償金を支払って解決した。˥ウブシケヌ　˥ター [˥ʔubuʃi̥kenu ˥taː](大城家の田)、カ˩ザケヌ˥　ター [ka˩dʑakenu˥ taː](加治工家の田)、ニ˩シムレーヌ˥　ター [ni˩ʃimureːnu˥ taː](米盛家の田)、キ˩ダシケーヌ˥　ター [ki˩daʃi̥keːnu˥ taː](石嶺家の田)、˩メークヤーヌ˥　ター [˩meːkujaːnu˥ taː](宮良家の田)、˩メー˥ケーヌ˥　ター [˩meː˥keːnu ˥taː](大城家の田)、カ˩ナ˥ケーヌ˥　ター [ka˩naˬkaːnu ˥taː](兼久家の田)、ク˩メーヌ˥　ター [ku˩meːnu˥ taː](小浜家の田)、˩クシケーヌ˥　ター [˩kuʃi̥keː˥nu ˥taː](小底家の田) 等がある。

˩ユシ˥キダミナトゥ **[˩juʃi̥˥kidaminatu]** 【名】地名。ユシキダ湊。˩ユシ˥キダタバル [˩juʃi̥˥kidatabaru](ミナミヨシキダ田袋) の小底家の水田とウ˩ブ˥ミジ [ʔu˩bu˥miʤi](大見謝川) の間を流れる川の川口。川口付近は浜砂が堆積して浅くなり、干潮時には歩いて渡れる。˩ユシ˥キダミナトー　˩スー˥ヌ　˥ピスカー　˥フネー　ン˩ザサラ˥ヌ [˩juʃi̥˥kidaminatoː ˩suː˥nu ˥pi̥suka: ˥ɸune: ʔn˩dʑasaraˬnu](ユシキダ湊は潮が引くと船は出されない)。

˩ユシ˥キパシ **[˩juʃi̥˥kipḁʃi]** 【名】ススキで作った箸。法事の際に紙銭を焼くのに用いる箸。生のススキで作るのが慣わしであった。ウ˩ティン˥ガビ　ア˩ギオーシル˥　ピンマー　˩ユシ˥キパシシル　パ˩サ˥メーティ　ヤ˩クタル [ʔu˩tiŋ˥gabi ʔa˩giʔoːʃiru˥ pimma: ˩juʃi̥˥kipḁʃiʃiru pḁ˩saˬmeːti ja˩kutaru](打ち紙 < 紙銭 > を焼いて差し上げる際は、ススキ箸で挟みながら焼いたものだ)。

ユ˩シグトゥ **[ju˩ʃigutu]** 【名】教訓。忠告。沖縄本島方言からの借用語。「諭し・言」の転訛か。ウ˩ヤ˥ヌ　ユ˩シグトー˥　イッ˩カ　バシケー˥　ナ˩ラ˥ヌ [ʔu˩jaˬnu ju˩ʃiguto: ˥ʔik˩ka baʃi̥keː˥ na˩raˬnu](親の教訓は決して < 一向に > 忘れてはならない)。

ユ˩シ˥ザン **[ju˩ʃi˥dʑaŋ]** 【名】足し算。「寄せ算」の義。標準語からの借用語。明治 29 年 6 月 16 日に学校教育が開始された後に借用されたものであろう。˩ムール˥シ　˩ギュー˥サ　˥ナルユー　ユ˩シ˥ザン　˩シー˥　ミリ˩ミー [˩muːruˬʃi ˩gjuːˬsa ˥naruju: ju˩ʃi˥dʑaŋ ˩ʃiː˥ miri˩miː](全部でいか程になるか、足し算してごらん)。

ユ˩シドーフ **[ju˩ʃidoːɸu]** 【名】おぼろ豆腐。汲み豆腐。豆腐製造の過程で、固まりかけのもの。沖縄本島方言からの借用語。パ˩トゥ˥マナー　ユ˩シドーフ˥　ス˩ク˥ル　プ˩ソー　オーラン˥シェン [pḁ˩tu ˥mana: ju˩ʃidoːɸu˥ sṵ˩kuˬru pṵ˩so: ʔoːraŋ˥ʃeŋ](鳩間島ではユシドフを造る人はおられなかった)。

ユ˩ジルン **[ju˩ʤiruŋ]** 【他動】譲(ユズ)る。自分のものを他に与える。˥ザイサンマー　サ˩ク˥シン　ユ˩ジルンティ　カン˥ガイ　˩ベー˥ンドゥ　マ˩ダ˥　ユ˩ジララヌ [˥dʑaisamma: sḁ˩ku˥ʃiŋ ju˩ʤirunti kaŋ˥gai ˩beːn ˥du ma˩da˥ ju˩ʤiraranu](財産は嫡子に譲ろうと考えているが、まだ譲られない)。ユ˩ジリ˥　ミサカー　イ˩チン˥　ユ˩ジル˥　クトー　˥ナルン [ju˩ʤiri˥ misaka: ʔi˩tʃiŋ˥ ju˩ʤiru˥ kṵto: ˥naruŋ](譲ってよければ、いつでも譲ることはできる)。˩パー˥ク　ユ˩ジレー˥　ミサムヌ [˩paː˥ku ju˩ʤireː˥ misamunu](早く譲ればいいのに)。˩マー˥ビン　ユ˩ジリ [˩maː˥biŋ ju˩ʤiri](もっと譲れ)。

˥ユシン **[˥juʃiŋ]** 【名】(植) イスノキ。蚊母樹。高木。西表島の山中に自生する。重硬で建築用材、器具材、楽器材として重用される。薪炭材としても重宝される。˥ユシンキー [˥juʃiŋkiː] ともいう。芯材は紅褐色、堅硬(ケンコウ)で耐朽(タイキュウ)保存性が高い『図鑑琉球列島有用樹木誌』。フ˩クントゥ˥　ユシンシ　˥ムヤーバラー　ス˩ク˥ルンティ　ウ˩ムー˥ヌ　˩ヌー˥シカヤー [ɸṵ˩kuntu˥ juʃiŋʃi ˥mujaːbaraː sṵ˩kuˬrunti ʔu˩muː ˥nu ˩nuː˥ʃikaja:](福木の材木とユシン材で母屋柱を作ろうと思うがどうでしょうか)。

ユ˩スグン **[ju˩suguŋ]** 【他動】ゆすぐ (濯ぐ)。揉み洗いをした後、盥に水を入れ、衣類を動かしてざっと汚れを落とす。ざっと洗う。「濯・滌、ススグ」『類聚名義抄』の転訛したものか。˩キン˥マー　ユ˩スグンティ　スンドゥ˥　ミ˩ジヌ　ナー˥ンダ　ユ˩スガラヌ [˩kimˬma: ju˩sugunti sundu˥ mi˩ʤinu naː ˥nda ju˩sugaranu](着物は濯(ススグ)ごうとするが、水が無いので濯がれない)。ユ˩スギ˥　ミサカー　ユ˩スグ

˺　クトー　˺ナルン [ju˹sugi˺ misaka: ju˹sugu˺ ku̥to: ˺naruŋ](濯いで良ければ濯ぐことは出来る)。ユ˹スゲー˺　ミサムヌ [ju˹suge:˺ misamunu](濯げば良いのに)。˹パー˺ク　ユ˹スギ [˹pa:˺ku ju˹sugi](早く濯げ)。

ユ˹タ [ju˹ta] 【名】口寄せをする巫女。かんなぎ (巫・覡)。生まれつきセジ＜霊力＞高く、神仏の霊意を感得できる能力を持つという巫女。稀に男のユタもいる。沖縄本島方言からの借用語。鳩間島では、巫女がフ˹ダマルン [ɸu˹damaruŋ](神がかりする) ことによって神意を託宣 (神託) されていた。ユ˹ターラ　グヮンスグトゥ˺ヌ　˺ンジェーティ　˹シー˺　ウ˹リ˺　サ˹バカ˺スンティ　˹パッ˺タツォー [ju˹ta:ra gwansugutu˺nu ˺ʔnʤe:ti ˹ʃi:˺ ʔu˹ri˺ sa˹baka ˺sunti ˹pat˺tatso:](ユタから元祖の法事に関することが出たといって、それをさばかせ＜捌かせ＞に行ったそうだ)。

ユ˹ダ [ju˹da] 【名】1枝。「肢、衣太＜えだ＞」『和名抄』の転訛したもの。˹キー˺ヌ　ユ˹ダ [˹ki:˺nu ju˹da](木の枝)。2分家。本から分かれたもの。ム˹トゥ˺ヌ　サ˹カラバル˺　ユ˹ダパニン˺　サ˹カル [mu˹tu˺nu sḁ˹karabaru˺ ju˹dapanin˺ sḁ˹karu](本家＜根本＞が栄えてこそ＜盛らばぞ＞分家＜枝羽根＞も栄える＜盛る＞)。

ユ˹ダーリムヌ [ju˹da:rimunu] 【名】仕事が無く、ぶらぶらして遊び暮らす者。無為徒食(ムイトショク)の輩(ヤカラ)。いぐい。˹ウンザー˺　シ˹グトゥン˺　サ˹ムティ˺　ナー˹イ˺　ユ˹ダーリムヌ˺　ナリ　˹ベー [˹ʔunʥa:˺ ʃi˹gutun˺ sa˹muti˺ na:˹i˺ ju˹da:rimunu˺ nari ˹be:](あいつは仕事もしないで、ただぶらぶらして無為徒食の輩になっている)。

ユ˹ダパー [ju˹dapa:]【名】枝葉。枝と葉。˹ニー˺ヌ　˹スーラバ˺ル　ユ˹ダパーン˺　サ˹カル [˹ni:˺nu ˹su:raba˺ru ju˹dapa:n˺ sḁ˹karu](根元が強くなってこそ枝葉も繁茂する)。

ユ˹ダム˺チ [ju˹damu˺ʧi] 【名】枝振り。えださし。枝の出ぐあい。「枝持ち」の義。サッ˹ティー˺　ウ˹シヌウガン˺ヌ　マ˹チ˺ヌ　ユ˹ダムチ˺ヌ　˹カイ˺ヤー˹ヨー [sat˹ti:˺ ʔu˹ʃinuʔugan˺nu ma˹ʧi˺nu ju˹damuʧi˺nu ˹kai˺ja:˹jo:](なんとまあ＜さてもまあ＞、牛の御嶽＜伊武田の牛牧場の御願。拝所＞の松の枝振りが美しいことよ)。

ユ˹タムニ [ju˹tamuni] 【名】ユタ (口寄せする巫女) のことば。信用できないことば (物言い)。˺アイブ　ユ˹タムネー˺　ア˹ズナ [˺ʔaibu ju˹tamune:˺ ʔa˹ʥuna](あんなユタ＜口寄せする巫女＞の話し＜言葉＞を言うな)。

ユ˹ダヤー [ju˹daja:] 【名】よく涎(ヨダレ)を垂(タ)らす人。よだれくり (涎繰(ヨダレク)り)。涎垂らし。ヤ˹ラ˺ビ　˹シェーン˺ケンマー　ユ˹ダヤー　ヤッタヌ˺ナー　マ˹ナ˺マー　˹ノーリ˺　ブーバン [ja˹ra˺bi ˹ʃe:ŋ˺kemma: ju˹daja: jattanu˺na: ma˹na˺ma: ˹no:ri˺bu:baŋ](子供の頃＜子供であった時＞は涎垂らしであったがなあ、今は治っているよ)。

ユ˹ダヤー˺ニーバル [ju˹daja:˺ni:baru] 【名】(動) 魚の名。和名、マダラハタ (体長約 60 センチ。濃い灰色を基調とし、鰓(エラ)から背部、背びれ尾びれにかけて白の斑点がまだら模様に付いている)。

ユ˹ダ˺リン [ju˹da˺riŋ]【自動】1(可能動詞)茹(ユ)でられる。他動詞˺ユドゥン [˺juduŋ](茹でる) の未然形に、受身・可能の助動詞˺リン [˺riŋ](〜れる) が下接して形成されたもの。ク˹リンデー˺カー　˹バン˺ヌン　ユ˹ダ˺リン [ku˹rinde:˺ka: ˹ban˺nuŋ ju˹da˺riŋ](これなら私にも茹でられる)。˹バン˺マー　ユ˹ダラ˺ヌ [˹bam˺ma: ju˹dara˺nu](私には茹でられない)。2(受身動詞) 茹でられる。˺クナー　˹ベー˺ルカー　ア˹チ˺ユーシ　ユ˹ダ˺リン˹ダー [˺kuna: ˹be:˺ruka: ʔa˹ʧi˺ju:ʃi ju˹da˺rin˹da:](ここにいると熱湯で茹でられるぞ)。アー˹イ˺　ユ˹ダラ˺ヌ [ʔa:˹ji˺ ju˹dara˺nu](否、茹でられ＜茹だれ＞ないよ)。ユ˹ダリ˺プサカー　˺クナー　˹ベー˺リ　ミサン [ju˹dari˺ pu̥saka: ˺kuna: ˹be:˺ri misaŋ](茹でられ＜茹れ＞たければ、ここに居てもよい)。ク˹トゥヤッ˺サ＜ヤ˹シーヤシー˺＞　ユ˹ダリ˺ル　˺クトー　˹ナーン˺　パジ [ku̥˹tujas˺sa＜ja˹ʃi:jaʃi:˺＞ ju˹dari˺ru ˺ku̥to: ˹na:m˺ paʤi](易々(ヤスヤス)と茹(ユ)でられ＜茹だれ＞ることはないはずだ)。ン˹ベーマー˺　ユ˹ダ˺レー　˺ミサムヌ [ʔm˹be:ma:˺ ju˹da˺re: ˺misamunu](少しは茹れたらいいのに)。˺ワンザー　˺クナー　˹ベー˺ティ　ユ˹ダ˺リバ [˺wanʥa: ˺kuna: ˹be:˺ti ju˹da˺riba](お前は、ここに居て茹れろよ)。

ユ˹ダル [ju˹daru] 【名】よだれ (涎)。「涎、ヨダリ」『類聚名義抄』、「Yodare. ヨダレ (涎) 口から出る涎」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ヤ˹ラビ˺ヌ　ユ˹ダル˺　ピ˹キ　ベー˺バ　ッ˹スリ˺　ッ˹ふィーリ˺バ [ja˹rabi˺nu ju˹daru˺ pi̥˹ki be:˺ba s˹suri˺ f˹fi:ri˺ba](子供が涎を垂らしているから、拭いてやりなさい)。

ユ˹ダルッス [ju˹darussu]【名】粘液便(ネンエキベン)。「涎糞(ヨダレクソ)」の義。バ˹タ˺バ　ヤ˹ブ˺リ　ク˹ダシティ˺　ユ˹ダルッス˺マリ˺シケー [ba˹ta˺ba ja˹bu˺ri ku˹daʃi̥ti˺ ju˹dasussu˺mari˺ʃi̥ke:](お腹をこわして、下痢をして粘液便＜

涎糞＞を排便(ハイベン)し＜マル。放(マ)っ＞てある)。

ユ˞ダルパキ [ju˞darupaki] 【名】涎掛(ヨダレカケ)。幼児の頤(オトガイ)の下に掛けて涎を取る布。「Yodarecaqe. ヨダレカケ (涎掛)、鎧(ヨロイ)の頸(クビ)のところにつける喉輪(ノドワ). また幼児につける涎受(ヨダレウケ)」『邦訳日葡辞書』の転訛。ヤ˞ラ˥ベー　ユ˞ダルパキ˥　カクカー　˞キン˥マー　ユ˞グサヌ [ja˞ra˥be: ju˞darupaki˥ kąkuka: ˞kim˥ma: ju˞gusanu](子供は涎掛けを掛けると、着物は汚さない)。

ユ˞ダルムシ [ju˞darumuʃi] 【名】(動) ナメクジ。「蛞蝓」の義。シ˞ミッケー˥リ　˞ブン˥　トンナール　ユ˞ダルムシェー˥　ン˞ジ˥ル [ʃi˞mikke:˥ri ˞bun˥ tonna:ru ju˞darumuʃe:˥ ?n˞ʤi˥ru](湿った所に＜ぞ＞ナメクジは出るものだ)。

ユ˞ダン [ju˞daŋ] 【名】油断。不注意。「油断、ユダン、又作ニ油断-」『文明本節用集』の転訛したもの。カ˞ジェー　スーラ˥ヌティ　ユ˞ダン　シー　ベーン˥ケンマー　˞ウーカジヌ˥　フキティ　ス˞クリ˥ムノー　˞ザー˥パイ　˞シー　ナー˥ヌ [ka˞ʤe: su:ra˥nuti ju˞daŋ ʃi: be:ŋ˥ kemma: ˞?u:kaʤinu˥ ɸ̥ukiti sṵ˞kuri˥ muno: ˞ʤa:˥pai ˞ʃi: na:˥nu](風は強まらないと油断していると、台風が吹いて農作物は酷(ヒド)い損害をうけて＜めちゃめちゃになって＞しまった)。

ユ˞ダン˥カダン [ju˞daŋ˥kadaŋ] 【名】油断。油断を強めた言い方。ABCDBC 型の重言。イ˞バリティ˥　ユ˞ダン˥カダン　˞シー　ベーン˥ケン　プ˞スン　ウイヌカリントダー [?i˞bariti˥ ju˞daŋ˥kadaŋ ˞ʃi: be:ŋ˥kem pṵ˞suŋ ?uinukarin˧da:](威張って油断していると、他人に追い抜かれるぞ)。ユ˞ダン˥カダン　˞サンドー˥シ　˞キッス　˞シー˥　パ˞タラキ [ju˞daŋ˥kadan ˞sando:˥ʃi ˞kis˥su: ˞ʃi:˥ pą̣˞taraki](決して油断をしないで、一生懸命＜競って＞働きなさい)。

ユ˞ダン˥サーン [ju˞dan˥sa:ŋ] 【形】油断しがちである。よく油断する。ウ˞レー˥　ユ˞ダン˥サーンダ　シュ˞カーラヌ˥ティ　ス˞クタヌ˥　アイニ　ユ˞ダン˥サー　˞ナー˥ヌ [?u˞re:˥ ju˞dan˥sa:nda sḭ˞ka:ranu˥ti sṵ˞kutanu˥ ?aini ju˞dan˥sa: ˞na:˥nu](彼はよく油断しがちだから使えないと聞いたが、そんなに油断しがちではないよ)。ウ˞レー˥　ユ˞ダンサー˥ヌ　ナ˞ラ˥ヌ [?u˞re:˥ ju˞dansa:˥nu na˞ra˥nu](彼はよく油断するので堪らない)。ユ˞ダン˥サー (ル)　プ˞スンマー˥　スーヨーヌ　˥クトー＜ウ˞ブシグ˥トー＞　タ˞ナマラ˥ヌ [ju˞dan˥sa:(ru) pṵ˞summa:˥ su:jo:nu ˥kṵto:＜?u˞buʃigu˥to:＞ ta˞namara˥nu](油断しがちな人には重要な＜枢要な＞ことは頼まれない)。

ユ˞チアシ [ju˞ʧi?aʃi] 【名】四つ足。獣類(ジュウルイ)。「Yotçuaxi. ヨツアシ (四足) 四足の獣」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˞カンニン˥ガイナー　ユ˞チアシ˥ヌ　ク˞ムチェー˥　ス˞コーラン˥ティバン˞ナー [˞kanniŋ˥gaina: ju˞ʧi?aʃi˥nu ku˞muʧe:˥ sṵ˞ko:ran˥tiban˞na:](神願い＜神事＞には四つ足の供物は供えられないそうですね)。

ユ˞チ˥ク [ju˞ʧi˥ku] 【名】富んで生活が豊かなこと。裕福。富裕。ク˞ヌ˥　ム˞ラー˥　ユ˞チク˥ヌ　ム˞ラ [ku˞nu˥ mu˞ra:˥ ju˞ʧiku˥nu mu˞ra](この村は裕福な村だ。豊かな村だ)。

ユ˞チ˥クニ [ju˞ʧi˥kuni] 【副】豊かに。裕福に。マ˞ナ˥マー　˥ムヌン　ユ˞チ˥クニ　ッ˞ふァイ˥　ク˞ラサリ　ブーヌ˥　ム˞カ˥シェー　イッ˞ケナ˥　キ˞ビッ˥サタンツォー [ma˞na˥ma: ˥munuŋ ju˞ʧi˥kuni f˞fai˥ ku˞rasari bu:nu˥ mu˞ka˥ʃe: ?ik˞kena˥ ki˞bis˥satantso:](今は食べ物も豊かに食べて暮らせて＜暮らされて＞いるが、昔は非常に厳しかった＜酷かった＞そうだ)。

ユ˞チダキ [ju˞ʧidaki] 【名】四竹(ヨツダケ)。舞踊の小道具の名。パ˞トゥ˥マナカムリ [pą̣˞tu˥manakamuri](鳩間中岡節) のような古典舞踊の際に用いられる小道具。直径約 5 センチの孟宗竹を割って、長さ約 10 センチに切り、赤く染め、二枚一組で両手に挟んで打ち鳴らすようにした小道具。パ˞トゥ˥マナカムリン　˞クンノー˥ラン　ユ˞チダキバ　ナーラセー˥ティル　ブ˞ドゥル　ソー˥ルンダ　イッ˞ケナ˥　ウ˞ムッ˥サタンダ˞ナー [pą̣˞tu˥manakamuriŋ ˞kunno:˥raŋ ju˞ʧidakiba na:raʃe:˥tiru bu˞duru so:˥runda ?ik˞kena˥ ?u˞mus˥satanda˞na:](鳩間中岡節も古見の浦節も四竹を鳴らしながら踊りをされるので、非常に面白かったよねえ)。

ユ˞チ˥ラー　˞ナー˥ヌ [ju˞ʧi˥ra: ˞na:˥nu] 【連】役に立たない。無益である。頼り甲斐がない。ウ˞ヌス˥ク　˞ナンギ˥バ　˞シー　モー˥ケール　˥ジン　ヤ˞ルヌ　アッタ˥ニ　˞ジン˥ヌ　カ˞チヌ˥　サ˞ガ˥リ　ユ˞チ˥ラー　˞ナー˥ヌ [?u˞nu˥sṵku ˞naŋgi˥ba ˞ʃi: mo:ke:˥ru ˥ʤiŋ ja˞runu ?at˥tani ˞ʤin˥nu ką̣˞ʧinu˥ sa˞ga˥ri ju˞ʧi˥ra: ˞na:˥nu](あんなに難儀苦労をして儲けたお金だが、急激に金の価値が下がって＜金は頼り甲斐がない＞役に立たない)。ウ˞リバ˥　ア˞ティ　シー　ベー˥タ　˥ムヌ　ユ˞チ˥ラー　˞ナー˥ヌ [?u˞riba˥ ?a˞ti ʃi: be:˥ta ˥munu ju˞ʧi˥ra: ˞na:˥nu](彼を当てにしていたのに、全く頼り甲斐がない)。

ユ˞チル [ju˞ʧiru] 【名】えつり (桟)。茅葺(カヤブ)き屋根や

瓦葺(カワラブ)き屋根の垂木(タルキ)の上に竹を横に並べて編み、ふきしたじ (葺下地) とした建築用材。「枌、屋乃衣豆利」『新撰字鏡』の転訛したもの。ユ˞チルダキを˞ニー [˞ni:](根) と˥スラ [˥sura](梢(コズエ)) を交互にヤ˞ラザイティ [ja˞radʑaiti](交差させて)˞クー˥ジ [˞ku:˥ʤi](トウヅルモドキ) で編み上げる。瓦葺の場合は 1 ミリ間隔に密に編み、茅葺の場合は 1 センチ間隔に粗に編み上げる。ユ˞チルダキ˥シ　ユ˞チル˥　フミティル　˥ガヤーヤーン　˞カー˥ラヤーン　フ˞コーッ˥タ [ju˞ʧirudaki˥ʃi ju˞ʧiru˥ ɸumitiru ˥gaja:ja:ŋ ˞ka:˥raja:ŋ ɸu̥˞ko:t˥ta](えつり竹でえつりを編んで < ぞ > 茅葺屋根も瓦葺屋根も葺かれたものだ)。/ヤー　タマシダリ　ユチルバ　シー　ヤーバ　スクリ　アンティスー/(ああ、玉簾をえつりにして家を造ってあるという)「あーぱーれー」(新室寿ぎ歌)『鳩間島古典民謡古謡集』。

ユ˞チルダキ [ju˞ʧirudaki] 【名】えつりだけ。「枌、屋乃衣豆利 < やのえつり >」『新撰字鏡』、「蘆藿、哀都利 < えつり >」『日本書紀　顕宗即位前』、の「えつり」に用いる竹の転訛したもの。˞パイタ˥ヌ　ティ˞ドゥ˥クヤマーラル　˞カー˥ラヤーヌ　ユ˞チルダケー˥　キ˞ソーッ˥タ [˞paita˥nu ti˞du˥kujama:raru ˞ka:˥raja:nu ju˞ʧirudake:˥ ki̥˞so:t˥ta](西表島のティドゥク山から < ぞ > 瓦葺家のえつり竹は伐り出された)。

˥ユチン [˥juʧiŋ] 【名】地名。よちん (由珍) と表記される。西表島東北岸、高那の東にあった村。雍正 10(1732) 年に小浜島からの寄せ百姓によって村建てされたという。ユ˞チン˥マー　ク˞モーマ˥ラヌ　バ˞カ˥リツォー [ju˞ʧim˥ma: ku˞mo:ma˥ranu ba˞ka˥ritso:](ユチン村は小浜島からの分村だそうだ)。

˥ユチンガーラ [˥juʧiŋga:ra] 【名】ユチン湾に注ぐ川。˥ユチンガーラ　バ˞タリティル˥　クン　˞オーッ˥タツォー [˥juʧiŋga:ra ba˞taritiru˥ kuŋ ˞ʔo:t˥tatso:](ユチン川を渡って古見村へ行かれたそうだ)。

˥ユチンワン [˥juʧiŋwaŋ] 【名】地名。よちん (由珍) 湾。˥ユチンワン [˥juʧiŋwaŋ] は良港で、琉球国時代の大型帆船の系留地であったという。

˞ユッカ [˞jukka] 【名】舟の床板。サバニの床板。˞マイユッ˥カ [˞maijuk˥ka](前床板)、ナ˞カユッ˥カ [na˞ka-juk˥ka](中床板)、トゥ˞ムユッ˥カ [tu˞mujuk˥ka](艫床板)、トゥ˞ムユッカー˥マ [tu˞mujukka:˥ma](小さい艫床板。船頭の座る艫床板) 等がある。˥イダフネー　˞ユッカ˥ナ　ビ˞リティル˥　ヤコー　˥クー [˥ʔidaɸune: ˞jukka˥na bi˞ritiru˥ jako: ˥ku:](サバニ < 板舟 > は床板に座って櫂(カイ)をこぐのだ)。˞シン˥ドー　トゥ˞ムユッカー˥マナール　ビ˞ル [˞ʃin˥do: tu ˞mujukka:˥mana:ru bi˞ru](船頭は小さな艫床板(トモユカイタ)に < ぞ > 座る)。

˞ユッキ [˞jukki] 【名】よき。小型の斧。「斧、与岐」『倭名類聚鈔』の転訛したもの。石工が石材を削ったりする際に用いる工具。˞ユッキ˥シ　ク˞マ˥ヌ　˥カドゥ　キ˞ジト ミー [˞jukki˥ʃi ku˞ma˥nu ˥kadu ki˞ʤit-mi:](よき < 小型斧 > でこの角を削ってごらんよ)。

ユ˞ディコー˥マ [ju˞diko:˥ma] 【名】茹(ユ)で卵。鶏卵を殻のまま茹でたもの。ユ˞ディコーマ˥ヌ　ガ˞ラー˥　パギティ　˞マー˥ス　˞ポーリティ˥　ッ˞ふァイ˥バ [ju˞diko:ma˥nu ga˞ra:˥ pagiti ˞ma:˥su ˞po:riti˥ f˞fai ˥ba](茹で卵の殻を剥ぎ取って、塩を振って食べなさいよ)。

ユ˞ディ˥タク [ju˞di˥tạku] 【名】1茹蛸(ユデタコ)。ユ˞ディタク˥ヌ　˥ティー　˥キシ　˥キー　ヤ˞ラ˥ビンケン　ッ˞ふァーシ˥バ [ju˞ditaku˥nu ˥ti: ˥ki̥ʃi ˥ki: ja˞ra˥biŋkeŋ f˞fa:ʃi˥ba](茹で蛸の手を切ってきて子供たちに食べさせなさいよ)。2酔って顔を真っ赤にし、だらりとした様子。サ˞キバ˥　ヌミ　ユ˞ディ˥タク　˥ナリティ　˞ウーキユーサ˥ヌ [sạ˞kiba˥ numi ju˞di˥tạku ˥nariti ˞ʔu:kiju:sa˥nu](酒を飲んで、茹蛸(ユデタコ)のようになって < 顔を真っ赤にし、だらりとなって > 動けない)。

ユ˞ディ˥ルン [ju˞di˥ruŋ] 【他動】茹でる。˥ユドゥン [˥juduŋ](茹でる) ともいう。「煠、以菜入涌湯曰煠煮也　奈由豆」『新撰字鏡』の転訛したもの。˞ナーン˥パー　ユ˞ディ˥ルンティ　ウ˞ムータン˥ドゥ　ユ˞ディラン˥タンティン　˥ミサンツォー [˞na:m˥pa: ju˞di˥runti ʔu˞mu:tan˥du ju˞diran˥tantim ˥misantso:](菜っ葉を茹でようと思ったが、茹でなくてもよいそうだ)。˥ユディ　˞ナー˥ヌ [˥judi ˞na:˥nu](茹でてしまった)。ユ˞ディ˥ル　˥ムノー　˥ヌーヤ [ju˞di˥ru ˥muno: ˥nu:ja](茹でる物は何か)。˞マー˥ビン　˥ユデー　˥ミサムヌ [˞ma:˥biŋ ˥jude: ˥misamunu](もっと茹でればいいのに)。ク˞レー　パー˥ク　˥ユディバ [ku˞re: pa˥ku ˥judiba](これは早く茹でなさい)。

ユ˞ドゥマ˥ナー [ju˞duma˥na:] 【副】ほどなく。やがて。すぐに。間もなく。時を移さず。「淀まずに」から転訛したもの。「淀、ヨドム」『類聚名義抄』の未然形に打ち消しの助動詞˥ヌ [˥nu](～ない) の連用形˥ナー [na:](～ずに) が付いた形。トゥ˞キユドゥマ˥ナー [tu̥˞kijuduma˥na:](時をうつさず。間も

なく) ともいう。˜クーティ　˞アイ˜ジ　シ˞ター˜　ユ˞ドゥマ˜ナー　˞カイ˜リ　˞キー˜　ブー [˜ku:ti ˞ʔai ˜ʤi ʃi̥˞ta:˜ ju˞duma˜na: ˞kai˜ri ˞ki:˜bu:](来いと連絡＜合図＞をしたらば、間もなく帰ってきている)。

ユ˞ドゥ˜ムン [ju˞du˜muŋ] 【自動】淀む。流水が止まる。止まって動かない。とどこおる。「殿、ヨドム・ヨドミ・ヨド」『類聚名義抄』。「～磐に觸れ与杼賣類与杼尓＜ヨドメルヨドニ＞～。万、1714」の転訛したもの。シ˞キム˜トゥ　ッ˞サウ˜カー　ミ˞ジェー˜　ユ˞ドゥムン˜ドゥ　ア˞ミ˜ヌ　˜フーカー　ユ˞ドゥマ˜ヌ　˞ナーラサリ˜ス [ʃi̥˞kimu˜tu s˞sau˜ka: mi˞ʤe:˜ ju˞dumun˜du ʔa˞mi˜nu ˜ɸu:ka: ju˞duma˜nu ˞na:rasari˜su](せきもと＜堰元＞を塞ぐと流れは淀むが、雨が降ると淀まない。流される)。ン˞ベーマー˜　アシ　ユ˞ドゥ˜ミティ　˞カンガイ˜リ [ʔm ˞be:ma:˜ ʔaʃi ju˞du˜miti ˞kaŋgai˜ri](少しは足を止めて考えよ＜れ＞)。˞カーラヌ˜　ミ˞ジヌ˜　ユ˞ドゥ˜ム　˜クトー　˞ナー˜ヌ [˞ka:ranu˜ mi˞ʤinu˜ ju˞du˜mu ˜kṵto: ˞na:˜nu](川の水が淀むことはない)。˞カーラヌ˜　ミ˞ジヌ　ユ˞ドゥ˜メー　ナ˞ラ˜ヌ [˞ka:ranu˜ mi˞ʤinu˜ ju˞du˜me: na˞ra˜nu](川の水が淀んではならない)。

˜ユドゥン [˜juduŋ] 【他動】茹(ユ)でる。「茹(ユ)で。＜由豆＞下二段」の四段活用化したもの。˞ナーン˜パー　˜ユドゥンティ　˜ウムーカー　ク˞ヌ˜　ナビナー　ユ˞ダン˜ドーシ　˞スー˜ナビナ　イ˞リティ˜　ユディバ [˞na:m˜pa: ˜judunti ˜ʔumu:ka: ku˞nu˜ nabina: ju˞dan˜do:ʃi ˞su:˜nabina: ʔi˞riti˜ judiba](菜っ葉を茹でようと思うならば、この鍋では茹でないで、汁鍋に入れて茹でなさいよ)。˜ユドゥ　˜ムノー　ムー˞ル˜　ユデー　˜ミサムヌ [˜judu ˜muno: mu:˞ru˜ jude: ˜misamunu](茹でる物は全部茹でればいいのに)。˜ユディ　˜ミサン [˜judi ˜misaŋ](茹でてもよい)。

˜ユドゥン [˜juduŋ] 【名】赤潮。初夏、˞スー˜マン　˜ボースー [˞su:˜mam ˜bo:su:](小満、芒種(ボウシュ)) の頃、赤潮が発生して海岸の海水が真っ赤に染まる現象。生臭い臭いが海辺に漂う。ユ˞ドゥン˜ヌ　˞ユーリティ˜　ス˞ナ˜カー　ア˞ガーアガー˜シ　ス˞マリベー [ju˞dun˜nu ˞ju:riti˜ su˞na˜ka: ʔa˞ga:ʔaga:˜ʃi su˞mari be:](赤潮が発生して＜寄って＞、海は真っ赤に染まっている)。

˜ユナ [˜juna] 【名】(植) 木の名。オオハマボウ。˜ユナキー [˜junaki:] ともいう。島の海岸に自生する小高木。防風林、防潮林として植樹された。黄色の清楚(セイソ)な花を咲かせる。葉は円心形でお皿の代用に利用されたり、トイレットペーパー代用に利用された。樹皮の繊維質は縄の代用に利用され、乾燥した木質部は˜ピナー [˜pina:](火縄) の芯(シン)に利用された。灰は藍汁(アイジル)に使われ、日常生活に重宝された。ム˞カ˜シェー　ユ˞ナ˜ヌ　˞パー˜シル　シ˞ビ　ヌシ˜トーッタル [mu˞ka˜ʃe: ju˞na˜nu ˞pa:˜ʃiru ʃi˞bi nuʃi̥˜ to:ttaru](昔は、ユナの葉で尻を拭(ヌグ)われたものだ)。

ユ˞ナーミナ [ju˞na:mina] 【名】(動) 貝の名。イモガイ科の仲間。殻(カラ)は厚く、殻の長さは約 6 センチ。表面は茶色がかった色を呈する。鳩間島の西海岸、屋良の海岸の海底砂地などに生息している。煮て中身を抜き取り汁に入れて食すると美味である。ユ˞ナーミナー˜　プ˞サイ˜　クー˞ディー [ju˞na:mina:˜ pṵ˞sai˜ ku:˞di:](ユナーミナーを拾って来ようよ)。

ユ˞ナ˜カ [ju˞na˜ka] 【名】夜中。夜半。ユ˞ナカー˜ラ　バ˞タ˜ヌ　˜ヤミティ　サ˞ギットゥバ˜シ　˞ベー [ju˞naka:˜ra ba˞ta˜nu ˜jamiti sa˞gittuba˜ʃi ˞be:](夜中からお腹が痛んで、下痢(ゲリ)して＜下げ飛ばして＞いる)。

ユ˞ナカ˜イー [ju˞naka˜ʔi:] 【名】夜食。「夜中・飯」の義。夕食後に一仕事ある時は、午後 11 時頃に夜食を取った。カツオ漁船が大漁して夕方に帰港すると、鰹節製造工場では、ニ˞コミ [ni˞komi](煮込み)、バ˞ラ˜ヌギ [ba˞ra˜nugi](刺を抜く作業。「ばら＜茘枝(バラ)＞・抜き」の義)、˞バイ˜カン [˞bai˜kaŋ](焙乾) の夜業が続いたので、夜食が必要であった。˜ユベー　カ˞ツシンヌ　タイロー˜　シ˞ター˜　ユ˞ナカ˜イー　ッ˞ふァイティ˜　ガ˞ルン˜ケン　シ˞グトゥ˜　シ˞タン˜ダー [˜jube: kạ˞tsuʃinnu tairo:˜ ʃi̥˞ta:˜ ju˞naka˜ ʔi: f˞faiti˜ ga˞ruŋ˜keŋ ʃi˞gutu˜ ʃi̥˞tan˜da:](昨夜は鰹漁船が大漁したので、夜食を食べて夜が明けるまで仕事をしたよ)。

ユ˞ナカサナ˜カ [ju˞nakasana˜ka] 【名】真夜中。「夜中最中」の義。ABCDBC 型の重言。ユ˞ナカサナ˜カーラ　ッ˞ふァヌ˜　ニ˞チ˜バ　ン˞ザ˜シティ　ウ˞リ　トゥンザ˜ク　˞スンティ˜　プ˞ス˜ミーンツァン　ニ˞バランシェン [ju˞nakasana˜ka:ra f˞fanu˜ ni˞ʧi ˜ba ʔn˞ʤa˜ʃi̥ti ʔu˞ri tunʤa˜ku ˞sunti˜ pṵ˞su˜mi:ntsan ni˞baraŋʃeŋ](真夜中から子供が熱を出して、それを看病するとて一睡＜一目＞さえも出来＜眠れ＞なかった)。

ユ˞ナカソッ˜コー [ju˞nakasok˜ko:] 【名】夜中焼香。迎えの焼香。大きな法事の前夜、午後十時ごろに供養すべき霊をお迎えして行われる焼香。ン˞カイソッコー [ʔŋ˞kaisokko:](迎え焼香) ともいう。仏教

語の「しゅくき (宿忌)」のこと。ウ˞クリソッコー [ʔu˞kurisokkoː](送り焼香) の対義語。ユ˞ナカソッコー˥ヤ　ウ˞ブソッ˥コーナール　˞ソー˥ルミー [ju˞nakasokkoː˥ja ʔu˞busok˥koːnaːru ˞soː˥rumiː](夜中焼香は大きな法事 < 焼香 > でなさるんでしょうね)。

ユ˞ナカッサー˥ク [ju˞nakassaː˥ku] 【名】夜中に発作的に起きる咳。˥アッパー　ユ˞ナカッサー˥ク　˞ソー˥ルンダ　˞ピッ˥チン　ニ˞ボーララン˥パジ˞ダー [˥ʔappaː ju˞nakassaː˥ku ˞soː˥runda ˞pit˥tsin ni˞boːraram˥ pa˩ʒi˞daː](お祖母さんは夜中に発作的に咳をされるから、ちっともお眠りになれないはずだよ)。

ユ˞ナカ˥ヌ　˥パイ [ju˞naka˥nu ˥pai] 【連】夜中の祈願。「夜中の拝」の義。˞ユードゥー˥シ [˞juːduː˥ʃi](夜通し祈願する神事) の際に、夜中に行われる祈願 (拝)。友利御嶽のウ˞ブ˥ヤー [ʔu˞buːjaː](本殿。母屋) で執り行われる。サ˞カサ (司) は麻製の白衣裳を羽織るように着、ティジリビー (男性神職者) は麻製の˞クンジキン [˞kun˩ʒikiŋ](紺地の着物) にカ˞クフク˥ビ [kḁ˞kuɸu̥˥ku˥bi](角帯) を締めて祈願する。ユ˞ナカ˥ヌ　˞パイ˥ヌ　˥アトー　˞サンシンバ˥　ピ˞キ˥　ウ˞タ˥バ　イ˞ジェー˥ティル　シ˞トゥムティ˥ヌ　˥パイ　マ˞トー˥ル [ju˞naka˥nu ˞pai˥nu ˥ʔatoː ˞saŋʃimba˥ pi̥˞ki˥ ʔu˞ta˥ba ʔi˞ʒeː˥tiru ʃi̥˞tumuti˥nu ˥pai ma˞toː˥ru](夜中の拝 < 祈願 > の後は三線を弾き歌を歌いながら朝の祈願をお待ちになる)。

ユ˞ナ˥ク [ju˞na˥ku] 【名】むぎこがし (麦焦がし)。はったいこ。大麦を炒りこがし、石臼で碾いて粉にしたもの。黒砂糖を削って混ぜ、˞サー˥フキ [˞saː˥ɸu̥ki](茶請け) にしたり、湯で練って食したりした。美味である。˞カイ˥キ [˞kai˥ki](皿) に盛ったものや、˥サバン [˥sabaŋ](茶碗) に盛ったものを、ガ˞ジ˥マル [ga˞ʒi˥maru](榕樹) の葉をスプーンの代わりに使用して食した。老人は水に溶かして食することもあった。若年層でユ˞ヌ˥ク [ju˞nu˥ku](麦焦がし) ともいう人もいる < 一種の母音調和か >。ユ˞ナ˥ク˥サジシ　ス˞クイティ˥　ッ˞ふァーシ˥バ [ju˞na˥ku ˥sa˩ʒiʃi su̥˞kuiti˥ ˞fːfaːʃi˥ba](麦焦がしを匙で掬って食べさせなさいよ)。

ユ˞ナ˥グ [ju˞na˥gu] 【名】女。女性。「嬢、婦人美也、美女也、良女也、肥大也、乎美奈 < をみな >」『新撰字鏡』、「〜老人も女童兒毛 < ヲミナワラハモ >〜。万、4094」の転訛したもの。沖縄本島方言からの借用語。歌謡語。話し言葉では、ミ˞ドゥ˥ム [mi˞du˥mu](女) という。/アサニシヨル　ユナグ　アサピキ　シヨル　ミドゥン　ウリカラドゥ　キハミティ　ブトゥヤユダン　シミユル (朝寝坊の女性と朝食用の芋堀に行く婦人の家庭では夫は常に油断がちで家運は衰退する)/(デンサ節)『八重山民謡誌』。

ユ˞ナ˥デー [ju˞na˥deː] 【名】与那田家。鳩間島で始めて郵便局が設置された家という。当家の男子が早世したので与那田家は大正初期に絶家した。女子の一人 (与那田マイツ。明治 16 年 8 月 10 生) が加治工津久利へ嫁し、一人は大工家へ、もう一人は吉川家へ嫁した。イ˞ラ˥カマイ [ʔi˞ra˥kamai](ウ˞ブ˥マイ [ʔu˞bu˥mai] の農道の南側の林) の西側に、同家のフ˞ジマレーパカ [ɸu˞ʒimareːpaka](カ˞ソーライシ [kḁ˞soːraʔiʃi]< テーブルサンゴ > で石槨を作り、周囲を石を円く積み上げて作った古い墓) が残っている。

ユ˞ナ˥デヌ　イ˞ズヌ˥ヤー [ju˞na˥denu ʔi˞ʒunu˥jaː] 【連】 (海底地名)。「与那田家の魚の家」の義。フ˞ナ˥バルパマ [ɸu˞na˥barupama](舟原浜) とナ˞ラ˥リパマ [na˞ra˥ripama](ナラリ浜) の中間にある礁内湖 (魚の巣 < 家 >)。与那田家の人が網を入れて漁獲したところという。

ユ˞ナバル [ju˞nabaru] 【固】与那原家。イ˞サナキヌ˥　ユ˞ナバル˥ナー　ブ˞バーマ˥ヌ　˞オール˥ン [ʔi˞sanakinu˥ ju˞nabaru˥naː bu˞baːma˥nu ˞ʔoː˥ruŋ](石垣の与那原家には叔母がいらっしゃる)。(地名) 与那原。ユ˞ナバルヌ　アーラキナー˥ル　チ˞ネンコーコー˥ヤ　˥アルンダ　˥バー　˥ウナーティン　プ˞ス˥トゥシェー　シ˞トゥ˥ミ　ミッ˥タン [ju˞nabarunu ʔaːrakinaː˥ru ʧi˞neŋkoːko˥ja ˥ʔarunda ˥baː ˥ʔunaːtim pu̥˞su˥tuʃeː ʃi̥˞tu˥mi ˞mit˥taŋ](与那原の東側に知念高校はあるから、私はそこにも一年は勤めてみたことがある)。

ユ˞ナラミズ [ju˞naramiʒu] 【名】(海底地名) 西表島東部の野原崎、由布島と小浜島の間の海峡。「ユナラ澪」の義。ユ˞ノーラミズ [ju˞noːramiʒu] ともいう。干満の差による海流が早く、海の難所の一つであった。大型の˥カマンタ [˥kamanta](マンタ。オニイトマキエイ) や˥ザン [˥ʒaŋ](ジュゴン < 儒艮 >) が遊泳することで有名である。ム˞カ˥シェー　˥イダフネーラ　ユ˞ナラミズ < ユ˞ノーラミズ >　クイルンティ˥　イッ˞ケナ　ナン˥ギ　˞ソーッ˥タンツォー [mu˞ka˥ʃeː ˥ʔidaɸuneːra ju˞naramiʒu<ju˞noːramiʒu> kuirunti˥ ʔik˞kena naŋ˥gi ˞soːt˥tantsoː](昔は板舟でユナラ海峡を越えるの

に大変苦労されたそうだ)。

ユ˞ナ˜ルン [ju˞na˜ruŋ] 【自動】日が暮れる。夜になる。「ゆふ＜由布佐礼婆～。万 3666>」の「ゆふ」に「なり <～由布幣尓奈礼婆～。夕べにナレバ～。> 万、904」の「なり」が付いた形。ユ˞ナ˜ルンケン パ˞タ˜キ ˞カイ˜スンティ ˞ベー [ju˞na˜ruŋkem pḁ ˞ta˜ki ˞kai˜sunti ˞be:](日が暮れるまで畑を耕して＜耕そうとして＞いる)。ユ˞ナラン˜ケン ˞ヤー˜ パリ [ju˞naraŋ˜keŋ ˞ja:˜ pari](日が暮れないうちに家に帰れ)。キサー˞ティ˜ ユ˞ナ˜リ ˞ナー˜ヌ [ki̥sa:˞ti˜ ju˞na˜ri ˞na:˜nu](既に日が暮れてしまった)。ユ˞ナ˜ル ˜ピンマー ˜プシェー ミ˞ラリ˜ス [ju˞na˜ru˜ pimma: ˜pu̥ʃe: mi˞rari˜su](日が暮れるときは、星が見える)。˞パー˜ク ユ˞ナ˜レー ˜ミサムヌ [˞pa:˜ku ju˞na˜re: ˜misamunu](早く日が暮れればいいのに)。

ユ˞ナン [ju˞naŋ] 【名】四男。四番目の男子。˞サン˜ナン カ˞キマカラー˜ ユ˞ナン˜ラー ˜ザイサンマー ˞ナー˜ヌ [˞san˜naŋ kḁ˞kimakara:˜ ju˞nan˜ra: ˜ʤaisamma: ˞na:˜nu](三男は欠けたお碗しか貰えず、四男からは財産はない) といわれている。

ユ˞ニ [ju˞ni] 【名】す (洲)。海流や水流により土砂や砂利が堆積して水面に出来た砂洲、または砂利の島。最近は略地図に˞バラス島」と記されているが、伝統的な正式名称は「ユニ」である。終戦後は、鳩間島に来た糸満漁師の方言の影響で、ユ˞ニ˜グゥー [ju˞ni˜gwa:](小洲) と言う人もいた。鳩間島と西表島上原の中間、鳩離島の西の海上に浮かぶ珊瑚の砂利で出来た島。この海域は潮の干満による潮の流れが大きい。ム˞カ˜シェー ユ˞ニヌ˜ スバナーティ カ˞ツシンヌ˜ ザコー トゥ˞ローッ˜タン [mu˞ka˜ʃe: ju˞ninu˜ subana:ti kḁ˞tsuʃinnu˜ ʤako: tu˞ro:t˜taŋ](昔はユニの側でカツオ漁船の餌＜ザコー＞を採取された)。

ユ˞ニチ [ju˞nitsi] 【名】 1(数詞) 四日。四つの日数。日を表す単位。˜キサー ˞ヤイマー˜ラ ˞トーキョーバー˜キ ˜フネーラ ユ˞ニチ˜ カ˞カリ˜シタ [˜ki̥sa: ˞jaima:˜ra ˞to:kjo:ba:˜ki ˜ɸune:ra ju˞nitʃi˜ kḁ˞kari˜ʃi̥ta](以前は、八重山から東京まで船で＜行くのに＞四日かかった)。2月の第四日。˞グンガチ˜ヌ ユ˞ニチナー˜ル ˞ヨイ˜ヤー ˞スー˜ツォー [˞guŋgatʃi˜nu ju˞nitʃina:˜ru ˞joi˜ja: ˞su:˜tso:](五月の四日にお祝いはするそうだ)。

ユ˞ニドゥシ [ju˞niduʃi] 【名】米寿。「よねどし (米年)」の義。八十八歳。「よね (米) 歳」から類推派生したものであろう。普通は、˞トー˜カキ [˞to:˜kaki](米寿の祝い) という。˞アー˜ヤー <˜アチャー> ユ˞ニドゥシヌ ヨイ˜ヤー イ˞チル ソール˜ワ [˞ʔa:˜ja:<˜ʔatʃa:> ju˞niduʃinu joi˜ja: ʔi˞tʃiru so:ru˜wa](お祖父さんの米寿のお祝いは何時＜ぞ＞なさるのですか)。

ユ˞ヌ [ju˞nu] 【連体】同じ。同程度。ウ˞レー バン˜トゥ ユ˞ヌ˜トゥシ [ʔu˞re: ban˜tu ju˞nu˜tuʃi](彼は私と同じ年＜同年＞だ)。ユ˞ヌ˜ ムニ パ˞ナス˜ナ＜ア˞ズナ＞[ju˞nu˜ muni pa˞nasu˜na＜ʔa˞ʤuna＞](同じ話＜物言い＞を話すな)。ユ˞ヌ˜ピンナー ˜ヨイ ˞ソーッ˜タ [ju˞nu˜ pinna: ˜joi ˞so:t˜ta](同じ日にお祝いをされた)。

ユ˞ヌ˜ク [ju˞nu˜ku] 【名】麦焦がし。老年層は、ユ˞ナ˜ク [ju˞na˜ku](麦焦がし) という。「湯の子」(底鍋に焦げ付いた飯を用いて作る湯漬(ユヅケ)) の転訛したものか。ユ˞ヌ˜ク ピ˞キティ˜ ヤ˞ラ˜ビンケーン マ˞ドゥヌ˜ムヌ ス˞ク˜リ ッ˞ふァーシ˜バ [ju˞nu˜ku pi̥˞kiti˜ ja˞ra˜biŋke:m ma˞dunu˜munu su̥˞ku˜ri ɸ˞fa:ʃi˜ba](麦焦がしを碾(ヒ)いて子供たちにお八つを作って食べさせなさいよ)。

ユ˞ヌ˜クバタ [ju˞nu˜kubata] 【名】餡として餅に入れる黒糖を混ぜた麦焦がし。麦焦がし餡。はったいこ餡。ユ˞ナ˜クバタ [ju˞na˜kubata](はったいこ餡) ともいう。ユ˞ヌ˜クバタヌ ˞アンム˜チェー イッ˞ケナ˜ ン˞マー˜ン [ju˞nu˜kubatanu ˞ʔammu˜tʃe: ʔik˞kena˜ ʔm˞ma:˜ŋ](麦焦がし餡の餡餅は非常に美味しいよ)。

ユ˞ヌ˜ザー [ju˞nu˜ʤa:] 【名】同じ座敷。同室。同席。˞バン˜ヌン ˞ワットゥ˜ ユ˞ヌ˜ザーナ ˞ベー˜タ ˞ベー˜ティ ウ˞ヌ˜ パ˞ナ˜シェー シゥカイ˞トゥ˜ ス˞クタン [˞ban˜nuŋ ˞wattu˜ ju˞nu˜ʤa:na ˞be:˜ta ˞be:˜ti ʔu˞nu˜ pa˞na˜ʃe: ʃi̥kai˞tu˜ su̥˞kutaŋ](私も貴方と同じ座敷にいたので、その話はしっかりと聞いたことがある)。

ユ˞ヌ˜シリ [ju˞nu˜ʃiri] 【名】同年輩。同輩。同年生。同じ年の子供。同じ年頃の友人。同級生。ユ˞ヌ [ju˞nu](同じ) に、˜シリ [˜ʃiri](連れ、同伴者) が付いて形成された語。˞ウッ˜ツァー ユ˞ヌ˜シリンケーヤ ˞ゴー˜ラーン˞ダー [˞ʔut˜tsa: ju˞nu˜ʃiriŋke:ja ˞go:˜ra:n˞da:](彼らの同級生は多いよ)。

ユ˞ヌ˜スク [ju˞nu˜su̥ku] 【名】1同じ程度。同程度。同レベル。ヤ˞ラビ˜トゥ ユ˞ヌスク˜ル ˜アルユンダ ヤ˞ラビ˜トゥン ˞アイ˜ス [ja˞rabi˜tu ju˞nusu̥ku˜ru˜ ʔarujunda ja˞rabi˜tuŋ ˞ʔai˜su](子供と同じ程度しか

ない＜同じ程度ぞある＞から、子供とも喧嘩をする)。2同じ分量。ウ˩リトゥ˥　ユ˩ヌ˥スクブカラー　ア˩リバ˥ル　ナル˩ナー [ʔu˩ritu˥ ju˩nu˥su̥kubukara ʔa˩riba˥ru naru˩naː](それと同じ程度ないといけないねえ＜同じ程度あればぞなるなあ＞)。ウ˩リトゥ˥　ユ˩ヌ˥スク　ッ˩ふァーソー˥リ [ʔu˩ritu˥ ju˩nu˥ su̥ku ɸ˩faːso:˥ri](彼と同じくらい＜分量＞、食べさせて下さい)。

ユ˩ヌ˥タキ [ju˩nu˥taki] 【名】1同じ高さ。ウ˩ヤ˥トゥ　ユ˩ヌ˥タキ　ア˩リ˥　ブー [ʔu˩ja˥tu ju˩nu˥tą̥ki ʔa˩ri˥ buː](親と同じ高さになっている)。ユ˩ヌ [ju˩nu](同じ) に˥タキ [˥tą̥ki](身長。「丈、長」) が付いて形成だれたもの。2同じ程度。同等。ヤ˩ラビ˥トゥ　ユ˩ヌ˥タキ　˥ナリティ　˩アウ˥ナ [ja˩rabi˥tu ju˩nu˥tą̥ki ˥nariti ˩ʔau˥na](子供と同じレベルになって喧嘩(ケンカ)するな)。

ユ˩ヌ˥トゥシ [ju˩nu˥tu̥ʃi] 【名】同年。同じ年。ユ˩ヌトゥシ˥ヌ　ユ˩ヌ˥シキナ　マ˩レー˥　プ˩ス˥　トゥミ　˥クー [ju˩nutuʃi˥nu ju˩nu˥ʃi̥kina ma˩reː˥ pu̥˩su˥ tumi ˥kuː](同じ年の同じ月に生まれた人を捜してきなさい)。

ユ˩ヌ˥ナイ [ju˩nu˥nai] 【名】同じ長さ。ユ˩ヌナイ˥ヌ　サ˩ギ˥ヤーダキバ　フ˩タムトゥ˥　イダフニナー　˥サイティル　˩マイダーラ˥　シ˩モーッタ [ju˩nunai˥nu sa˩gi˥jaːdakiba ɸu̥˩tamutu˥ ʔidaɸunina: ˥saitiru ˩maidaːra˥ ʃi˩moːt˥ta](同じ長さのフロート＜下げ吊るす竹竿＞をサバニに下げ、イダフニを安定させて米俵を積まれた)。

ユ˩ヌナカ [ju˩nunaka] 【名】世の中。世間。ユ˩ヌナカヌ˥　プ˩スヌ˥　タ˩ミ　スール　ニンギン˥ヌ　ス˩クブン [ju˩nunakanu˥ pu̥˩sunu˥ ta˩mi suːru niŋgin˥nu su̥˩kubuŋ](世の中の人のために尽くす＜する＞ことが人間の努め＜職分＞だ)。

ユ˩ヌナダ˥カ [ju˩nunada˥ka] 【名】同じ高さ。同程度。同じ背丈。ヤ˩ラ˥ベー　キサー˩ティ˥　ウ˩ヤ˥トゥ　ユ˩ヌナダ˥カ　フ˩ドゥビ　ブー [ja˩ra˥beː ki̥sa:˩ti˥ ʔu˩ja˥tu ju˩nunada˥ka ɸu˩dubi buː](子供はすでに親と同じ背丈に成長している)。˩トゥーヌ˥　ウ˩ヤ˥ベー　ユ˩ヌナダ˥カー　˩ナー˥ヌ [˩tuːnu˥ ʔu˩ja˥beː ju˩nunada˥ka: ˩naː˥nu](十本の指は同じ高さではない＜諺＞。ものには夫々にその特徴があるものだ)。

ユ˩ヌ　ナッ˥チン [ju˩nu nat˥ʧiŋ] 【連】同じ大きさの小粒のもの。˩ター˥ヌ　˥スバナー　ユ˩ヌナッチン˥ヌ　˩ターヤー˥ヌ　˩ミーキブル　アッ˥タン [˩taː˥nu ˥subana: ju˩nunatʧin˥nu ˩taːja:˥nu ˩miːkiburu ʔat˥taŋ](田の側に同じ大きさの田圃小屋が三軒＜三煙＞あった)。

ユ˩ヌ˥　ナドゥ [ju˩nu˥ nadu] 【連】同じ長さ。˩ガッ˥コー　˩バー˥キ　ユ˩ヌ˥　ナ˩ドゥ˥ヌ　˥ミチ　フ˩タムシナー˥　カ˩ユイシタ [˩gak˥koː˩baː˥ki ju˩nu˥ na˩du ˥nu ˥mitʃi ɸu̥˩tamuʃina:˥ ka˩juiʃi̥ta](学校までの、同じ長さの道を二回ずつ通った)。

ユ˩ヌ˥　パンシ [ju˩nu˥ paŋʃi] 【連】途中で休まないで。同じ歩調で。そのまま。「同じ足で」の義。ミ˩チナカ˥ナー　˩ユーコーン˥ドーシ　ユ˩ヌ˥パンシ　タダー˩イ˥　ア˩ラ˥キパリ [mi˩ʧinaka˥na: ˩juːko:n ˥doːʃi ju˩nu˥paŋʃi tadaː˩ji˥ ʔa˩ra˥kipari](道の途中で休まないで、ただずっと＜同じ歩調で＞歩いて行きなさい)。

ユ˩ヌ˥プス [ju˩nu˥pu̥su] 【名】同じ人。同一人物。ク˩ヌ˥　プ˩ソー˥　キノー　ミ˩ル˥タ　プ˩ストゥ˥　ユ˩ヌ˥プソー　ア˩ラ˥ヌ [ku˩nu˥ pu̥˩so:˥ kino: mi˩ru˥ta pu̥˩sutu˥ ju˩nu˥pu̥so: ʔa˩ra˥nu](この人は昨日会った＜見た＞人と同一人物ではない)。ユ˩ヌ˥プスンカー˩ニ˥　シ˩グトゥ˥　シ˩ミルナ [ju˩nu˥pu̥suŋ ka:˩ni˥ ʃi˩gutu˥ ʃi˩miruna](同じ人にだけに仕事をさせるな)。

ユ˩ヌ˥ムヌ [ju˩nu˥munu] 【名】同じもの。同一物。同様なもの。˥シザ　˩ウシ˥トゥ　ユ˩ヌムヌ˥バキ˩サシ˥　シケー [˥ʃidza ˩ʔuʃi̥˥tu ju˩numunu˥ba ki̥˩saʃi˥ ʃi̥ke:](兄と弟に同じ着物＜もの＞を着せている)。ユ˩ヌ˥ムヌ　カー˩ニ　カウナ [ju˩nu˥munu ka:˩ni kauna](同じものだけを買うなよ)。˩クッ˥ツァー　ムー˩ル˥　ユ˩ヌ˥ムヌ [˩kut˥tsa: mu:˩ru˥ ju˩nu ˥munu](これらは全部同じものだ)。

ユ˩ヌ˥レー [ju˩nu˥reː] 【名】一周忌。一年忌。˩タンカーソッコー [˩taŋka:sokkoː](一周忌) ともいう。˥アッパー　ユ˩ヌレー˥ヌ　˩ソッコー˥ヤ　イ˩チ˥ヤー [˥ʔappa: ju˩nureː˥nu ˩sokkoː˥ja ʔi˩ʧi˥ja:](お祖母さんの一周忌の法事はいつか)。

ユ˩ヌング˥トゥ [ju˩nuŋgu˥tu] 【名】同じこと。マ˩ナ˥マ　˩サンタンティン˥　ミサン。˥アトーラン　˩サン˥カー　ナ˩ラン˥ユンダー　ユヌングトゥ [ma˩na˥ma ˩santantim˥ misaŋ。˥ʔatoːran ˩saŋ˥ka: na˩raŋ ˥junda: ju˩nuŋgu˥tu](今しなくても良い。後からもしなくてはならないのだから、同じことだ)。

ユ˩ヌング˥トゥ [ju˩nuŋgu˥tu] 【副】同じように。同様に。結局。プ˩スヌ˥　ムニ　˥ユー　シゥ˩カン˥カー　ユ˩ヌング˥トゥ　マ˩チガイ˥ス [pu̥˩sunu˥ muni ˥ju: si̥˩kaŋ˥ka: ju˩nuŋgu˥tu ma˩ʧigai˥su](他人の忠告

＜話＞をよく聞かないと、また同じように間違える)。

ユ˞ヌンゴーラ˞スン [ju˞nuŋgo:ra˞suŋ] 【他動】濁らす。濁す。˞ガンガンシルシ　ミ˞ジ˞　フ˞ム˞カー　˞カーヌ　ミジ˞　ユ˞ヌンゴラ˞スン˞ダー [˞gaŋgaŋʃiruʃi mi˞ʤi˞ ɸu˞mu˞ka: ˞ka:nu miʤi˞ ju˞nuŋ-go:ra˞sun˞da:](ブリキ板製の釣瓶で水を汲むと井戸の水を濁らせるぞ)。ユ˞ヌンゴーラサン˞ヨーシク˞バンパーシル˞シ　フ˞ミ˞バ [ju˞nuŋgo:rasaŋ˞jo:ʃi ku˞bampa:ʃiru˞ʃi ɸu˞mi˞ba](濁らさないように蒲葵(クバ)の葉製の釣瓶(ツルベ)で汲みなさい)。ユ˞ヌンゴーラ˞ス　˞クトー　サ˞ヌ [ju˞nuŋgo:ra˞su ˞ku̥to: sa˞nu](濁らすことはしない)。ユ˞ヌンゴーラ˞シェー　˞ミサムヌ [ju˞nuŋgo:ra˞ʃe: ˞misamunu](濁らせば良いのに)。ユ˞ヌンゴーラ˞シ [ju˞nuŋgo:ra˞ʃi](濁らせろ)。

ユ˞ヌンゴーリ˞ミジ [ju˞nuŋgo:ri˞miʤi] 【名】濁(ニゴ)り水。ユ˞ヌンゴーリ˞ミジェー　ヌ˞マン˞ドーシ　シ˞マ˞シテーラ　ヌミバ˞ヨー [ju˞nuŋgo:ri˞miʤe: nu˞man˞do:ʃi ʃi˞ma˞ʃi̥te:ra numiba˞jo:](濁った水は飲まないで、澄ましてから飲みなさいね)。

ユ˞ヌンゴー˞ルン [ju˞nuŋgo:˞ruŋ] 【自動】濁る。ヤ˞ナンゴー˞ルン [ja˞naŋgo:˞ruŋ](濁る) ともいう。˞カーヌ˞　ミ˞ジェー˞　ユ˞ヌンゴー˞リ　˞ナー˞ヌ [˞ka:nu˞ mi˞ʤe:˞ ju˞nuŋgo:˞ri ˞na:˞nu](井戸の水は濁ってしまった)。シ˞ル˞シ　フ˞ム˞カー　ユ˞ヌンゴールン˞ドゥ　˞ペー˞ラシ　フ˞ムンダ˞　ユ˞ヌンゴーラ˞ヌ [ʃi˞ru˞ʃi ɸu˞mu˞ka: ju˞nuŋgo:run˞du ˞pe:˞raʃi ɸu˞munda˞ ju˞nuŋgo:ra˞nu](釣瓶で汲むと濁るが、瓢＜ヒョウタン。「杓、比左古」『和名抄』＞の柄杓(ヒシャク)で汲むから濁らない)。ユ˞ヌンゴー˞ル　˞クトー　˞ナー˞ヌ [ju˞nuŋgo:˞ru ˞ku̥to: ˞na:˞nu](濁ることはない)。ン˞ベーマー˞　ユ˞ヌンゴー˞レー　˞ミサムヌ [ʔm˞be:ma:˞ ju˞nuŋgo:˞re: ˞misamunu](少しは濁ればいいのに)。

˞ユネン [˞juneŋ] 【名】夕方＜暗くなって＞から夜の8時頃まで。日暮れより8時ごろまで。「由布佐礼婆＜ユフサレバ＞秋風寒し～。万、3666」の転訛したもの。˞ユネン　˞ナルカー　˞パー˞ク　˞ヤー˞　パリ [˞junen ˞naruka: ˞pa:˞ku ˞ja:˞ pari](夕暮れ＜日が暮れて暗くなった時刻＞になったら早く家に帰りなさい)。

˞ユネンガタ [˞juneŋgata] 【名】夕方。日没頃。˞タイロー˞　シ˞ター˞　ユネンガターラ　ユ˞ナカバー˞キ　˞シーゾー˞ヤーナ　イ˞ズ　ネースンティ　ベー [˞tairo:˞ ʃi̥˞ta:˞ juneŋgata:ra ju˞nakaba:˞ki ˞ʃi:ʤo:˞ ja:na ʔi˞ʤu ne:sunti be:](大漁したので夕方から夜中まで鰹節製造工場で魚を煮ている)。

˞ユネン　シ˞キ˞ティ [˞juneŋ ʃi̥˞ki˞ti] 【連】夕暮れになって。夕方にかけて。宵の刻まで。シ˞トゥム˞ティ　˞パイ˞サーラ　イ˞ブタ　ター˞ヤ　˞ユネン　シ˞キ˞ティン　マ˞ダ˞　イ˞ビキサランバン [ʃi̥˞tumu˞ti ˞pai˞sa:ra ʔi˞buta ta:˞ja ˞juneŋ ʃi̥˞ki˞tim ma˞da˞ ʔi˞bikisarambaŋ](朝早くから植えた田圃は、夕方になっても、まだ植えつくされないわい)。

˞ユネンティダ [˞junentida] 【名】夕方の太陽。暑気の緩んだ西日。˞イーリティダ [˞ʔi:ritida](西日)、ム˞ドゥリ˞ティダ [mu˞duri˞tida](戻り太陽) ともいう。˞ユネンティダ　˞ナルカー　シ˞グトー˞　イッ˞ケナ˞　ナ˞ツァグントツォー [˞junentida ˞naruka: ʃi˞guto:˞ ʔik˞kena˞ na˞tsagunトtso:](太陽が西日になったら仕事は非常に捗(ハカド)るんですよ)。

ユ˞ネン˞ヌ　カー˞ジ [ju˞nen˞nu ka:˞ʤi] 【連】夕方のたんびに。夕方毎に。毎夕。ユ˞ネン˞ヌ　カー˞ジ˞　ピ˞ビザヌ˞　ッサ　カ˞リン　パッ˞タ [ju˞nen˞nu ka:˞ʤi˞ pi˞biʤanu˞ ssa ka˞rim pat˞ta](夕方のたんびに山羊の草刈に行った)。

ユ˞ネン˞ヌ　˞サー [ju˞nen˞nu ˞sa:] 【連】夕方のお茶。夜のお茶。夜に飲む茶。ユ˞ネン˞ヌ　˞サー˞ヤ　カ˞タサー˞　ア˞ランタ˞ンティン　˞ミーコーリ˞ムヌ˞ダー [ju˞nen˞nu ˞sa:˞ja kḁ˞tasa:˞ ʔa˞ran˞tantim ˞mi:ko:ri˞munu˞da:](夕方に飲むお茶は、濃い茶でなくても目が冴えて不眠症の原因となる＜目を強張(コワバ)らせる＞ものだよ)。

ユ˞ネン˞ヌパイ [ju˞nen˞nupai] 【名】宵の頃 (午後8時ごろ) の祈願 (拝)。˞ユードゥー˞シ [˞ju:du:˞ʃi](夜通しの祈願＜拝＞) が行われる豊年祭や結願祭には、ユ˞ネン˞ヌパイ [ju˞nen˞nupai](宵の祈願＜拝＞)、ユ˞ナカ˞ヌパイ [ju˞naka˞nupai](夜中の祈願＜拝＞)、シ˞トゥムティ˞ヌパイ [ʃi̥˞tumuti˞nupai](朝＜つとめて＞の祈願＜拝＞) が行われる。サ˞カサ (司)、ティ˞ジリ˞ビー [ti˞ʤiri˞bi:](手摺り部。男性神職者)、バ˞キサカ˞サ (脇司。司の補佐役)、村役人、及び有志の方々が集まって、祈願の合間合間に三線を弾き、歌を歌って神殿＜ウブヤー＞を賑(ニギ)やかにし、夜を徹して祈願をする。

ユ˞ネンノー˞リ [ju˞nenno:˞ri] 【名】夕晴れ。夕方に天候が回復すること。「夕・直り」の義。シ˞トゥム˞テー　ア˞ミカジ˞ヌ　˞スー˞ワタンドゥ　ユ˞ネンノー˞リ　˞シー　ブンダ˞　アツァー　イ˞ソー˞　パ˞ラ˞リンパジ [ʃi̥˞tumu˞te: ʔa˞mikaʤi˞nu ˞su:

˜watandu ju˞nenno:˜ri ˞ʃi: bunda˜ ʔatsa: ʔi˞so:˜ pa˞ra ˜rim ˜paʤi](朝は雨風が強かったが、夕晴れしているから、明日は漁に出られるだろう＜はずだ＞)。

ユ˞ネン˜ヤキ [ju˞neŋ˜jaki] 【名】夕焼け。˞インタヌティンヌ˜　ユ˞ネン˜ヤキ　˞スー˜カー　˞オーシケー　ノー˜ルンティ　ム˞カ˜シェーラ　ア˞ザリ　ブー [˞ʔintanu tinnu˜ ju˞neŋ˜jaki ˞su:˜ka: ˞ʔo:ʃike: no:˜ runti mu˞ka˜ʃe:ra ʔa˞ʤari bu:](西の空＜天＞が夕焼けがすると天候は良くなると昔からいわれている)。

ユ˞ノーラミズ [ju˞no:ramiʤu] 【名】地名。海峡の名。小浜島と西表島東部の由布島の間に位置する海峡(水脈・澪)。干潮から満潮に、満潮から干潮に至る間の潮の流れが早く、操船する者に恐れられている海峡である。ユ˞ノーラミゾー　スー˜ヌ　˞ナーリ˜ヌ　パ˞ヤー˜ンダ　シ˞トゥ˜ケー　ア˞テー˜ティ˜フネー　ムティ˞ヨー [ju˞no:ramiʤo: su:˜nu ˞na:ri˜ nu pa˞ja:˜nda ʃi̥˞tu˜ke: ʔa˞te:˜ti ˜ɸune: muti˞jo:](ユノーラ海峡は潮流が速いから、潮時を見計らって＜当てて＞操船しなさい＜船を持ちなさい＞よ)。

ユ˞ノー˜レー [ju˞no:˜re:] 【名】一年忌。一周忌。˞タンカーソッコー [˞taŋka:sokko:](一周忌) ともいう。˜アッパー　ユ˞ノーレー˜ヌ　˞ソッコー˜ヤ　イ˞チ˜カヤー [˜ʔappa: ju˞no:re:˜nu ˞sokko:˜ja ʔi˞ʧi˜kaja:](お祖母さんの一周忌の法事は何時かねえ)。

ユ˞ノン [ju˞noŋ] 【名】(地) 与那国島。ユ˞ノン˜ラー˞タイ˜パン　ミ˞ラ˜リン˞ダー [ju˞non˜ra ˞tai˜pam mi ˞ra˜rin˞da:](与那国から台湾が見られるよ)。ユ˞ノンプソー　キー˜　パ˞ツァー˜ン [ju˞nompu̥so: ki:˜ pḁ˞tsa:˜ŋ](与那国の人は勝気である)。ユ˞ノンムネー˜　ムッ˞トゥ˜　シゥ˞カラヌ [ju˞nommune:˜ mut˞tu˜ si̥˞karanu](与那国方言＜与那国ことば＞はちっとも聞いて理解できない＜聞かれない＞。)。

ユ˞ノン˜アブター [ju˞noŋ˜ʔabuta:] 【名】与那国のおっかあ。与那国から嫁入りしてきた人。与那国方言では、母親のことをアブ˞た [abu˞t'a] というので、その難しい発音を揶揄(ヤユ)して「与那国人のアブた」という。パ˞トゥ˜マナーン　ユ˞ノン˜　アブターヌ　˞オーッ˜タン [pḁ˞tu˜mana:ŋ ju˞noŋ˜ ʔabuta:nu ˞ʔo:t˜taŋ](鳩間島にも˞与那国のおっかあ」がおられた)。

˜ユビ [˜jubi] 【名】ゆうべ。昨夜。ユ˞ビ˜ヌ　˞ヨイ˜ヤー　ニッ˞カバー˜キ　˜ウタサンシンヌ　シゥ˞カリ˜　ブ˞タヌ˜　ナンドゥキンナール　ウ˞ワールタ˜カヤー [ju˞bi˜nu ˞joi˜ja: nik˞kaba:˜ki ˜ʔutasaŋʃinnu si̥ ˞kari˜ bu˞tanu˜ nandukinna:ru ʔu˞wa:ruta˜kaja:](昨夜のお祝いは深夜まで歌三線が聞こえていたが、何時頃に終わったのかねえ)。

ユ˞ビザスン [ju˞biʤasuŋ] 【他動】吸い出す。「呼び出す」の義。「詔、奈豆久＜なづく＞又　与不＜よぶ＞」『新撰字鏡』の「与不」の連用形に「出す」が付いて転訛したもの。ア˞ガッふァーマ˜ヌ　パ˞ナドゥル˜　フ˞チ˜シ　ユ˞ビザスンティ　スンドゥ˜　ユ˞ビザサラヌ [ʔa˞gaffa:ma˜nu pa˞naduru˜ ɸu̥˞ʧi˜ʃi ju ˞biʤasunti sundu˜ ju˞biʤasaranu](赤子の洟を口で吸い出そうとするが、吸いだされない)。フ˞チ˜シ　ユ˞ビザシ˜　ミサカー　ユ˞ビザス˜　クトー　˜ナルン [ɸu̥˞ʧi˜ʃi ju˞biʤaʃi˜ misaka: ju˞biʤa˜su ˜ku̥to: ˜naruŋ](口で吸い出してよければ、吸い出すことはできる)。ユ˞ビザシェー˜　ミサムヌ [ju˞biʤaʃe:˜ misamunu](吸い出せばいいのに)。ユ˞ビザシ˜バ [ju ˞biʤaʃi˜ba](吸い出しなさいよ)。

ユ˞ビター [ju˞bita:] 【名】深い田圃。「吸い込む田」の義。膝から腿のところまで泥の中に沈む田。ガ˞タダー [ga˞tada:](浅い田圃。「潟田」の義) の対義語。ユ˞ビター˜ナーヤ　ドゥ˞ルヌ˜　ナ˞カ˜ナー　˞キー˜バ　シ˞キ　フンケー˜ティル　˞ターヤ　ス˞ク˜ローッタ [ju˞bita:˜na:ja du˞runu˜ na˞ka˜na: ˞ki:˜ba ʃi̥˞ki ɸuŋke:˜tiru ˞ta:˜ja su̥˞ku˜ro:tta](深い田圃には、泥の中に木を敷き、それを踏みながら田圃は作られた)。

ユ˞ビダシコーヤク [ju˞bidaʃiko:jaku] 【名】吸出し膏薬(コウヤク)。腫れ物の膿を吸い出す膏薬。民間療法として、シ˞ダフ˜カ [ʃi˞daɸu̥˜ka](ハマユウ＜浜木綿＞)の生葉を火にあぶり、腫物(ハレ)に貼(ハ)って吸出し膏薬代用に利用していた。ユ˞ビダシコーヤク　カイ˜キー　ア˞シ˜ブナー　˜シキ　パ˞リ˜バ [ju˞bidaʃiko:jaku kai˜ki: ʔa˞ʃi˜buna: ˜ʃi̥ki pa˞ri˜ba](吸出し膏薬を買ってきて腫れ物＜あせも＞に塗(ヌリ)り付け＜貼(ハ)り＞なさいよ)。

˜ユブ [˜jubu] 【名】(地) 由布島。西表東部にある小島の名。干潮時には美原海岸から歩いて渡れる。牛車で渡る観光スポットとして賑わっている。戦後の一時期は小学校も設置される人口を擁していたが、西表島のマラリア撲滅に伴い、住民は農耕に便利な対岸の美原に移住して集落を形成した。˜ユブナー　˞ガッ˜コーン　˞アッ˜タン˞ダー [˜jubuna: ˞gak˜ko:ŋ ˞ʔat˜tan˞da:](由布島には学校もあったよ)。

ユ˞フードゥ [ju˞ɸu:du] 【副】よほど (余程)。かなり。ずいぶん。相当。よっぽど。標準語からの借用語。ユ˞フードゥ＜イッ˞ケナ＞　ビンキョー　サ

ン˥カー　シ˩キン˥マー　カ˩カラ˥ヌ [ju˩ɸu:du＜ik˩kena＞ biŋkjo: saŋ˥ka: ʃi̥˩kim˥ma: kḁ˩kara˥nu](よほど勉強しないと試験に合格しない＜かからない＞)。

ユ˩ファスン [ju˩ɸasuŋ] 【他動】余す。余らす。余裕をもたせる。ア˩マ˥スンとも言う。ン˩ベーマー˥　ユ˩ファスンティ˥　ウ˩ムータン˥ドゥ　ユ˩ファサランバン [ʔm˩be:ma:˥ ju˩ɸasunti˥ ʔu˩mu:tan˥du ju˩ɸasarambaŋ](少し余そうと思ったが余されない)。ユ˩ファシ˥　プサカー　ユ˩ファス˥　クトー　ナルン˩ダー [ju˩ɸaʃi˥ pu̥saka: ju˩ɸasu˥ ku̥to: narun˩da:](余したければ余すことは出来るよ)。ン˩ベーマー˥　ユ˩ファ˥シェー　˥ミサムヌ [ʔm˩be:ma:˥ ju˩ɸaʃe:˥ misamunu](少しは余せばいいのに)。˩ピー˥チェー　ユ˩ファシ˥バ [˩pi:˥ʧe: ju˩ɸaʃi˥ba](一つは余しなさいよ)。

ユ˩ファラスン [ju˩ɸarasuŋ] 【他動】あます (余す)。余裕をもたせる。パ˩マイヤー˥　ユ˩ファラスンティ˥　ウ˩ムーン˥ドゥ　ユ˩ファラサランバン [pa˩maija:˥ ju˩ɸarasunti˥ ʔu˩mu:n˥du ju˩ɸarasarambaŋ](飯米は余そうと思うが、余せない)。ユ˩ファラシ˥　プサカー　ユ˩ファラス˥　クトー　˥ナルン [ju˩ɸaraʃi˥ pu̥saka: ju˩ɸarasu˥ ku̥to: ˥naruŋ](余したければ、余すことはできる)。ン˩メーマ˥　ヤ˩ラバン˥　ユ˩ファラシェー˥　ミサムヌ [ʔm˩me:ma˥ ja˩rabaŋ˥ ju˩ɸaraʃe:˥ misamunu](少しでも余せばよいのに)。˩マー˥ビン　ユ˩ファラシ [˩ma:˥biŋ ju˩ɸaraʃi](もっと余せ)。

ユ˩ファラムヌ [ju˩ɸaramunu] 【名】余計なもの。余ったもの。不要のもの。ユ˩ファラムヌバル˥　タ˩ミ˥　シケーバン [ju˩ɸaramunubaru˥ ta˩mi˥ ʃi̥ke:baŋ](余計な＜不要な＞物を貯めてあるよ)。

ユ˩ファルン [ju˩ɸaruŋ] 【自動】余裕が出る。ゆとりが出来る。金銭や物質面で余りができる。˩ジン˥マー　˥イミ　˩シー˥　シュ˩カウ˥カー　ユ˩ファルンダー˥ヌ　ウ˩ビッチン˥ナーシェー　ユ˩ファラヌ [˩ʤim˥ma: ˥ʔimi ˩ʃi:˥ si̥˩kau˥ka: ju˩ɸarunda:˥nu ʔu˩bittʃin˥na:ʃe: ju˩ɸaranu](お金は節約して使うと余裕がでるだろうが、これぽっちでは余裕が出ない)。ン˩メーマー˥　ユ˩ファリ˥　ケーン [ʔm˩me:ma:˥ ju˩ɸari˥ ke:ŋ](少しはゆとりが出来てきた)。ウ˩ビッ˥チンシェー　ユ˩ファル˥　クトー　˩ナー˥ヌ [ʔu˩bit˥ʧiŋʃe: ju˩ɸaru˥ ku̥to: ˩na:˥nu](これぽっちでは、余裕ができることはない)。ン˩メーマンツァン˥　ユ˩ファレー˥　ミサムヌ [ʔm˩me:mantsaŋ˥ ju˩ɸare:˥ misamunu](少しでもゆとりができればいいのに)。

ユ˩ブ˥サ [ju˩bu˥sa] 【名】(固) 女子の名。「ヨボシ」と表記されている。˩ダイ˥ケヌ　˥アッパー　˩ナーヤ˥　ユ˩ブ˥サーティ　ア˩ロー˥リティ　˩ウイヌ˥　ウ˩ガン˥ヌ　サ˩カサバ　シーオーッ˥タツォー [˩dai˥kenu ˥ʔappa: ˩na:ja˥ ju˩bu˥sa:ti ʔa˩ro:˥riti ˩ʔuinu˥ ʔu˩gan˥nu sḁ˩kasaba ʃi:ʔo:t˥tatso:](大工家のお祖母さんの名前はユブサーとおっしゃって＜であられて＞、友利御嶽の司をしておられたそうだ)。

ユ˩ブ˥サンマー [ju˩bu˥samma:] 【名】(固) 女子の名。大工良氏の名前。「ユブサ姉さん」の義。加治工家に生まれた女児を、子供のなかった大工家のヨボシお祖母さんが養子として貰い、自分の名前を付けて養育したという。ユ˩ブ˥サンマー　˥アッパー　˩イーリ˥ッふァ　ヤ˩ローッ˥タティバン˩ナー [ju˩bu˥samma: ˥ʔappa: ˩ʔi:ri˥ffa ja˩ro:t˥tatiban˩na:](ユブサ姉さんは、お祖母さんの養子＜貰い子＞であられたそうだねえ)。

ユ˩ブ˥シ [ju˩bu˥ʃi] 【名】(植) 蔓性植物の実。お盆のム˩ルムル [mu˩rumuru](約 5 寸の長さに切った甘蔗(カンショ)を束ねて木の実をさして飾り、果物を三方(サンボウ)に載(ノ)せ添えた供物) に添える植物の実。ユ˩ブシヌ˥　ナロー　フ˩クンドー˥ヌ　˥シンタヌ　ヤ˩マン˥ミーラ　˥ブリ　˩クー˥タン [ju˩buʃinu˥ naro: ɸu̥˩kundo: ˥nu ˥ʃintanu ja˩mam˥mi:ra ˥buri ˩ku:˥taŋ](ユブシの実は、福堂の北東の雑木林の中からもい＜挽(モ)い＞できた)。

ユ˩ブン [ju˩buŋ] 【他動】吸う。吸い込む。「〜不召尓＜ヨハナクニ＞門に至りぬ〜。万、1738」の「呼ぶ」の転訛したものか。˥イキ　ユ˩ブン [˥ʔiki ju˩buŋ](息を吸う)。˥イキ　ユ˩バンドー˥シ　トゥ˩ミリ [˥ʔiki ju˩bando:˥ʃi tu˩miri](息を吸わないで、＜息を＞止めなさい)。˥イキ　ユ˩ビ˥　ミサカー　ユ˩ブ˥　クトー　˥ナルン [˥ʔiki ju˩bi˥ misaka: ju˩bu˥ku̥to: ˥naruŋ](息を吸って良ければ吸うことはできる)。˩マー˥ビン　ユ˩ベー˥　ミサムヌ [˩ma:˥biŋ ju˩be:˥ misamunu](もっと吸えば良いのに)。˥イキ　ユ˩ビ˥バ [˥ʔiki ju˩bi˥ba](息を吸えよ)。ム˩カ˥シプソー　ア˩ガッふァーマ˥ヌ　パ˩ナダロー˥　フ˩チ˥シル　ユ˩ビ˥　トゥ˩ローッタ˥ル [mu˩ka˥ʃi ˥pu̥so: ʔa˩gaffa:ma˥nu pa˩nadaro:˥ ɸu̥˩ʧi˥ʃiru ju˩bi˥ tu˩ro:tta˥ru](昔の人は、赤子の洟(ハナ)は口で＜ぞ＞吸い取られたものだ)。

˥ユミ [˥jumi] 【名】(数) 織物の縦糸の数を表す単位。縦糸八十本を、プ˩ス˥ユミ [pu̥˩su˥jumi](ひとよみ＜

一読み >) とする。ナ˩ナ˥ユミ [na˩na˥jumi](七読み。縦糸 560 本)、ハ˩タユミ [hḁ˩tajumi](二十読み。縦糸 1600 本) などと織物の粗密(ソミツ)を表現する。

ユ˩ミ [ju˩mi] 【名】嫁。「婦、子之妻為⊠婦、和名与女 < よめ >」『和名抄』の転訛したもの。ユ˩ミッふァ [ju˩miffa](嫁子) ともいう。˩バン˥テナー　ユ˩ミ　サールンティ˥　ス˩コーリ　ベー˥ダー [˩ban˥tena: ju˩mi sa:runti˥ su̥˩ko:ri be:˥da:](我が家では、嫁を迎えよう < 連れよう > と準備しているよ)。

ユ˩ミザーン [ju˩mizʤa:ŋ] 【名】嫁同士。˩ウン˥ネヌ　ユ˩ミザーン˥　ブ˩ドゥル　スームヌ　カイ˥ヤー˩ヨー [˩ʔun˥nunu ju˩miʤa:m˥ bu˩duru su:munu kai˥ja:˩jo:](あの家の嫁同士で踊りをするのが美しいことよ)。

ユ˩ミシトゥ [ju˩miʃi̥tu] 【名】嫁姑。嫁と姑。˩ウン˥ネヌ　ユ˩ミシトゥヌ˥　ナカー　イッ˩ケナ　カイ˥ヤンダ　ウ˩ラーミ˥サン [˩ʔun˥nenu ju˩miʃi̥tunu˥ naka: ʔik˩kena kai˥janda ʔu˩ra:mi˥saŋ](あの家の嫁姑の仲は非常に良い < 美しい > から羨ましい)。

ユ˩ミッふァ [ju˩miffa] 【名】嫁。嫁子。嫁をいとおしんで言うことば。˩バン˥テヌ　ユ˩ミッふァ˥　マ˩ラシ˥　タ˩ボー˥リ [˩ban˥tenu ju˩miffa˥ ma˩raʃi˥ ta˩bo:˥ri](我が家の嫁子を誕生させてください < 賜れ >)。

ユ˩ミンザ [ju˩minʤa] 【名】嫁の奴(ヤッコ)。嫁を卑しめていうことば。˥ンザ [˥nʤa] は、「奴婢(ヌヒ)。下僕(ゲボク)。召使」の意味であるから、嫁を奴婢と同じようにこき使う者と表現されている。昔は嫁の地位は極めて低く、姑(シュウトメ)や舅(シュウト)に酷使(コクシ)されたという。ム˩カ˥シェー　˩スー˥ワル　˥ヤーナーテー　ユ˩メー˥　ン˩ザッふァ˥ヌ　˥カタチニ　シゥ˩カーリタ˥ティ˩ダー [mu˩ka˥ʃe: ˩su:˥waru ˥ja:na:te: ju˩me:˥ ʔn˩ʤaffa˥nu ˥kątatʃini si̥˩ka:rita˥ti˩da:](昔は、厳しい家では、嫁は奴婢(ヌヒ)のように扱(コ)き使われたそうだよ)。

ユ˩ム [ju˩mu] 【接頭】悪罵(アクバ)、嫌悪の意を表す。口汚(クチキタナ)く罵(ノノシ)ること。1形容詞を修飾して悪罵(アクバ)、嫌悪(ケンオ)の意を強調する。「嫌(イヤ)な～。憎い～。憎たらしい。」の意。˥ワンザー　˥ムネー　ユ˩ムカサマサ˥ヌ　カ˩マー˥　パリ [˥wanʤa: ˥mune: ju˩mukasamasa˥nu ka˩ma:˥ pari](お前の話は糞うるさい。あちらへ行きやがれ)。ユ˩ムニッター˥ヌ　˩ウンザヌ˥　シラー　ミ˩リプサ　ナー˥ヌ [ju˩munitta:˥nu ˩ʔunʤanu˥ ʃira: mi˩ripusa na:˥nu](糞憎らしくて、あ奴の顔は見たくもない)。2名詞を修飾して、最悪のものを表す。ユ˩ム˥ジラー [ju˩mu˥ʤira:](憎たらしい顔 < 面 >)。˩ウンザー˥　ユ˩ムミドゥム˥ヌ　ウ˩ヤン˥ナーニ　フ˩チガイ　シー　アー˥ク [˩ʔunʤa:˥ ju˩mumidumu˥nu ʔu˩jan˥na:ni ɸu̥˩ʧigai ʃi: ʔa:˥ku](あ奴は女だてらに < 憎たらしい女のくせに > 親に反抗している)。

ユ˩ムカサマ˥サーン [ju˩mukasama˥sa:ŋ] 【形】糞うるさい。酷(ヒド)くやかましく < 喧し > い。˩ウンザヌ˥　ケーラー　ユ˩ムカサマ˥サンダ　˥ウナー　ブ˩ララヌ [˩ʔunʤanu˥ ke:ra: ju˩mukasama˥sanda ˥ʔuna: bu˩raranu](あいつが来たら糞うるさいから、ここには居られない)。ユ˩ムカサマサ˥ヌ　˥ウナー　ブ˩ララヌ [ju˩mukasamasa˥nu ˥ʔuna: bu˩raranu](酷(ヒド)く喧(ヤカマ)しくて、そこには居られない)。

ユ˩ムカタ˥チ [ju˩mukata˥ʧi] 【名】憎たらしい姿。嫌な姿格好。バ˩カー˥ムヌヌ　˥ビータレーティ　˩アー˥ク　ユ˩ムカタ˥チ　˥ミルカー　˥メー　˩クンゾー˥ル　ン˩ジ˥ル [ba˩ka:˥mununu ˥bi:tare:ti ˩ʔa:˥ku ju˩mukata˥ʧi ˥miruka: ˥me: ˩kunʤo:˥ru ʔn˩ʤi˥ru](若者が酔いつぶれている嫌な姿格好を見ると、もう怒り < 根性 > が出てくる)。

ユ˩ムクン˥ゾー [ju˩mukun˥ʤo:] 【名】腹立ち紛れに怒ること、またその人。見さかいなく立腹すること、またその人。ヤ˩ナクンゾー [ja˩nakunʤo:](怒り狂うこと。腹立ち紛れに怒ること) と同じ。˥アイブ　ユ˩ムクンゾー˥トー　ム˩ヌパナ˥シェー　ナ˩ラ˥ヌ [˥ʔaibu ju˩mukunʤo:˥to: pa˩na˥ʃe: na˩ra˥nu](あんな怒りん坊 < 腹立ち紛れにする人 > とは話し出来ない)。

ユ˩ム˥ジラー [ju˩mu˥ʤira:] 【名】憎たらしい面(ツラ)。見たくない嫌な顔。˥アイブ　˩ニンギン˥マー　ユ˩ム˥ジラー　˩ポー˥キ　トゥ˩ラ˥シバ [˥ʔaibu ˩niŋgim˥ma: ju˩mu˥ʤira: ˩po:˥ki tu˩ra˥ʃiba](あんな人間は憎たらしい面など張り飛ばせよ)。

ユ˩ムニッ˥ターン [ju˩munit˥ta:ŋ] 【形】憎たらしい。糞憎(クソニク)らしい。あまりにも憎らしい。˩ウンザン˥　イ˩ザリティ˥　ユ˩ムニッター˥ヌ　ナ˩キル˥　シ˩ラリタル [˩ʔunʤaŋ˥ ʔi˩ʤariti˥ ju˩munitta:˥nu na˩kiru˥ ʃi˩raritaru](あいつに叱られて、糞憎らしくて泣けてきた < 泣きぞされた >)。イ˩ザリ˥　ピンマー　ユ˩ムニッ˥ターンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　˥ター　˥アトーケー　˩ドゥー˥ヌ　タ˩ミル˥　ナル˩ツォー [ʔi˩ʤari˥ pimma: ju˩munit˥ta:nti ʔu˩mu:n˥du ˥ta: ˥ʔato:ke: ˩du:˥nu ta˩miru˥ naru˩tso:](叱られるときは糞憎たらしいと思うのだが、また、後になると < それが > 自分のためになるんだってば)。

ユ˞ムユム˥トゥ [ju˞mujumu˥tu]【副】1すごすごと。ス˞ビ˥バ　˞ホー˥シェータンドゥ　ス˞ビ˥ナー　キ˞サ˥シティ　ユ˞ムユム˥トゥ　˞ンーナシン˥シ　˞カイ˥リ　ケー˞ダー [su˞bi˥ba ˞ho:˥ʃe:tandu su˞bi˥na: ki̥˞sa˥ʃi̥ti ju˞mujumu˥tu ˞ʔn:naʃiŋ˥ʃi kai˥ri ke:˞da:](マグロを釣ったが鮪釣り縄を切らしてしまって、どうにもならず、空船ですごすごと帰ってきたのだよ)。2むざむざと。目前に確認していながら、どうにもならない、もどかしいさま。みすみす (見す見す)。˞ドゥー˥ヌ　˞モーキ˥バ　˞カシカー˥シ　トゥ˞ラ˥リティ　ユ˞ムユム˥トゥ　˞カイ˥リ　クー˞ター [˞du:˥nu ˞mo:ki˥ba ˞kaʃi̥ka:˥ʃi tu˞ra˥riti ju˞mujumu˥tu ˞kai˥ri ku:˞ta:](自分の儲けを騙されて取られて、むざむざと < 見す見す > 帰ってきたのか)。

˥ユムン [˥jumuŋ]【他動】1読む。「〜右近に言葉読ませて〜」『源氏物語　東屋』。「Yomi,u,ôda. ヨミ、ム、ゥダ (読み、む、うだ)。また、数える」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ス˞ム˥チ　˥ユムン [su˞mu˥ʧi ˥jumuŋ](本 < 書物 > を読む)。˥バー　ス˞ム˥チ　ユ˞マ˥ヌ [˥ba: su˞mu˥ʧi ju˞ma˥nu](私は本を読まない)。˞ワー˥　ク˞ヌ　ジー˥　ユミ˞シェーン [˞wa:˥ku˞nu ʤi:˥ jumi˞ʃe:ŋ](君はこの字を読めるか)。˥ユム　˥クトー　ユ˞ムン˥ドゥ　カキ˞サヌ [˥jumu ˥ku̥to: ju˞mun˥du kḁki˞sanu](読むことは読むが書けない)。˥ドゥーシ　˥ユメー　˥ミサムヌ [˞du:ʃi ˥jume: ˥misamunu](自分で読めばいいのに)。ク˞リ˥　ユミバ [ku˞ri˥ jumiba](これを読めよ)。2数える。「〜幾夜經と余美都追 < ヨミツツ > 妹は〜。万、4072」の転訛したもの。˥クナー　˥パシェー　˞ギュームトゥ˥　アルユー　ユミ˞ミー [˥kuna: ˥paʃe: ˞gju:mutu˥ ʔaruju: jumi˞mi:](ここに箸は何本あるか、数えてごらんよ)。3しゃべる。口論する。˞サッ˥コー　ム˞ニ˥　ユムン [˞sak˥ko: mu˞ni˥ jumuŋ](非常によくしゃべる)。ウ˞レー˥　ム˞ニ˥　ユミナー　ナ˞ラ˥ヌ [ʔu˞re:˥ mu˞ni˥ jumina: na˞ra˥nu](彼はよく口論するので堪らない)。

˥ユライ [˥jurai]【名】集まり。会合。集会。村の集会。「寄り合い」の転訛したもの。ム˞カ˥シェー　˥ソンガチ　シ˞マ˥スカー　˥ユライ　˞シーティル˥　ム˞ラグトー˥　キ˞モーッ˥タツォー [mu˞kaʃe: ˥soŋgatʃi ʃi˞ma˥suka: ˥jurai ˞ʃi:tiru˥ mu˞raguto:˥ ki˞mo:t˥tatso:](昔は正月を済ませたら村の集会をして村行事は決められたそうだ)。

˥ユライ　˞オー˥ルン [˥jurai ˞ʔo:˥ruŋ]【連】お集まりになる。˞ユーニンガイヌ˥　アトー　˞カン˥プスンケーヌ　˥ユライ　˞オー˥リ　˞カン˥ツァーアサビ　˞ソーッ˥タツォー [˞ju:niŋgainu˥ ʔato: ˞kam˥pu̥˞suŋke:nu ˥jurai ˞ʔo:˥ri ˞kan˥tsa:ʔasabi ˞so:t˥tatso:](ユーニンガイの後に神職者たちがお集まりになって、神歌遊びをされたそうです)。

ユ˞ライズ [ju˞raiʤu]【名】集会所。「寄合所」。

ユ˞ライ˥ズ [ju˞rai˥ʤu]【名】集会所。ム˞カシ˥ヌ　ム˞ラヌ˥　ユ˞ライ˥ゾー　˞オー˥シェー　˞ヤッタ˥ツォー [mu˞kaʃi˥nu mu˞ranu˥ ju˞rai˥ʤo: ˞ʔo:˥ʃe: ˞jatta˥tso:](昔の村の集会所は˞オー˥シェー [˞ʔo:˥ʃe:]< 村番所 > だったそうだ)。

ユ˞ラシ [ju˞raʃi]【名】ふるい (篩)。直径約 40 センチ、深さ約 4 センチの竹製の荒目の篩。ピ˞キウシ [pi̥˞ki̥ʔuʃi](碾き臼。籾摺り臼) で籾摺りをして玄米にするが、籾と玄米を篩い分けるのに用いる農具。小麦粉や米粉を篩うのに用いるのは、˥シノー [˥ʃino:](篩) という。ユ˞ラシ˥シ　˞マイ˥　ユ˞ラシティ˥　ア˞ラム˥トゥ　プ˞サイ˥バ [ju˞raʃi˥ʃi ˞mai˥ ju˞raʃi̥ti˥ ʔa˞ramu˥tu pu̥˞sai˥ba](篩で玄米を篩って、あらもと < 粡。屑米。籾> を拾い出しなさいよ)。

ユ˞ラシヌ˥　ミー [ju˞raʃinu˥ mi:]【連】篩いの目 (穴)。篩いの格子状の目。ア˞ラム˥トー　ユ˞ラシヌ˥　ミーラ　フ˞キラヌ [ʔa˞ramu˥to: ju˞raʃinu˥ mi:ra ɸu̥˞kiranu](あらもと < 粡・☒ > は篩いの目からふけ落ちない < 通過しない >)。

ユ˞ラ˥スン [ju˞ra˥suŋ]【他動】許す。罪科を赦免する。許可する。若年層はユ˞ル˥スン [ju˞ru˥suŋ](許す) という。ヤ˞ナクトゥ　スー˥カー　イッ˞カ˥　ユ˞ラサ˥ヌ [ja˞nakutu su:˥ka: ʔik˞ka˥ ju˞rasa˥nu](悪事を働く < する > と、決して許さない)。ヤ˞ナクトー　サンバ˥　ユ˞ラ˥シ　ッ˞ふォー˥リ [ja˞nakuto: samba˥ ju˞ra˥ʃi f˞fo:˥ri](悪事はしませんから許してください)。˥バーヤ　ユ˞ラ˥スンティ　ウ˞ムーン˥ドゥ　マ˞ナ˥マー　ユ˞ラ˥ス　˥クトー　ナ˞ラン˥ツォー [˥ba:ja ju˞ra˥sunti ʔu˞mu:n˥du ma˞na˥ma: ju˞ra˥su ˥ku̥to: na˞tan˥tso:](私は許そうと思うが、今は許すことは出来ないそうだ)。ユ˞ラ˥シェー　˥ミサムヌ [ju˞ra˥ʃe: ˥misamunu](許せば良いのに)。˞パー˥ク　ユ˞ラ˥シ [˞pa:˥ku ju˞ra˥ʃi](早く許せ)。

ユ˞ラスン [ju˞rasuŋ]【他動】1ふるう (篩う)。ユ˞ラシ˥シ　ユ˞ラスンティ　スンドゥ　グッふァ˥ヌ　ユ˞ラサラヌ [ju˞raʃi˥ʃi ju˞rasunti sundu guffa˥nu ju˞rasaranu](篩いで篩おうとするが、重くて篩われない)。ユ˞ラシ˥　ミサカー　ユ˞ラス˥　クトー　˥ナル

ン [ju˹raʃi˺ misaka: ju˹rasu˺ ku̥to: ˺naruŋ](篩ってよければ篩うことはできる)。˹マー˺ビン　ユ˹ラシェー˺　ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ju˹raʃe:˺ misamunu](もっと篩えばいいのに)。˹パー˺ク　ユ˹ラシ [˹pa:˺ku ju˹raʃi](早く篩え)。2ゆすぶる。揺さぶる。˹ヨイ˺サーナ　˹ヌーシティ˺　ユ˹ラスン [˹joi˺sa:na ˹nu:ʃi̥ti˺ ju˹rasuŋ](ブランコに載せて揺する)。ッ˹ふァ˺　カ˹サ˺ナイティ　˺ドゥク　ユ˹ラサン　ブリ˺バ [f˹fa˺ kḁ˹sa˺naiti ˺duku ju˹rasamburi˺ba](子供を負ぶって、あまり揺さぶるなよ)。

˺ユリー [˺juri:]　【名】 1許可。許し。ヤ˹ク˺バーラ　ユ˹リー˺ヌ　ウ˹リラバ˺ル　シ˹グトー˺　パ˹ジミラリ˺ツォー [ja˹ku˺ba:ra ju˹ri:˺nu ʔu˹riraba˺ru ʃi˹guto:˺ pa˹ʤimirari˺tso:](役場から許可が下りて初めて＜下りたらばぞ＞仕事は始められるそうだ)。ヤ˹ク˺バーラ　ユ˹リー˺ヌ　ウ˹リラン˺カー　ク˹ヌ˺　シ˹グトー˺　パ˹ジミラヌ [ja˹ku˺ba:ra ju˹ri:˺nu ʔu˹riraŋ˺ka: ku˹nu˺ ʃi˹guto:˺ pa˹ʤimiraranu](役場から許可が下りないとこの仕事は始められない)。2休暇をとること。ユ˹リー˺バ　˹イー˺リティル　˹プー˺ル　˹シン˺　ケータ [ju˹ri:˺ba ˹ʔi:˺ritiru ˹pu:˺ru ˹ʃiŋ˺ ke:ta](許可を貰って豊年祭をしにきていた)。

ユリー˹ユリー [juri:˹juri:]　【副】ゆっくり。急がずに。ゆるゆる。ゆるりと。くつろいで。ABCABC 型の重言。「Yururito.　ユルリト (ゆるりと) 副詞　ゆったりと、または、気ままに.　例、Yururito gozare.(ゆるりとござれ) 気楽にして居なさい」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。キ˹ザルン˺　ウ˹チナ˺ソーレーチバ　˺メー　ユリー˹ユリートゥ　ソー˺リバ [ki˹ʥaruŋ˺ ʔu˹ʧina˺so:re:ʧiba ˺me: juri:˹juri:tu so:˺riba](祭祀行事も無事に済まされたから、もう、ゆったりとくつろいでくださいよ)。

ユ˹リットゥ [ju˹rittu]　【副】ゆるりと。ゆっくりと。ゆったりと。˹キュー˺ヤ　マ˹ルケーティナ　オー˺レーバ　˺クナーティ　ユ˹リットゥ　ソー˺リ˹ヨー [˹kju:˺ja ma˹ruke:tina ʔo:˺re:ba ˺kuna:ti ju˹rittu so:˺ri˹jo:](今日は偶(タマ)さかにいらっしゃった＜稀に来られた＞から、ここでゆるりとなさいましね)。

ユ˹ルーユルー˺シ [ju˹ru:juru:˺ʃi]　【副】ゆるく (緩く)。緩めて。緩くして。弱めて。締め方が足りず、ゆるゆるして。「釈、トク、ユルス、クツロク、ユルケタリ」『類聚名義抄』の転訛したもの。パ˹ルミプス˺ヌ　フ˹ク˺ベー　ギーッ˹ティ˺　シ˹ミラン˺ドーシ　ユ˹ルーユルー˺シ　˺シミバ [pa˹rumipu̥su˺nu ɸu̥˹ku˺be: gi:t˹ti˺ ʃi˹miran˺do:ʃi ju˹ru:juru:˺ʃi ˺ʃimiba](妊婦の帯はきつく締めないで、緩く締めなさいよ)。

ユ˹ル˺クビ [ju˹ru˺kubi]　【名】喜び。嬉しく思うこと。慶事。˺マーッふァーン　マ˹リサカリ˺　ク˹ヌ　ウイヌ˺　ユ˹ル˺クビテー　˹ナー˺ヌ [˺ma:ffa:m ma˹risakari˺ ku˹nu ʔuinu˺ ju˹ru˺kubite: ˹na:˺nu](子孫も繁盛し＜生まれ栄え＞て、これ以上の喜びはない)。

ユ˹ル˺クブン [ju˹ru˺kubuŋ]　【自動】喜ぶ。「蟋蟀(シツシュツ)の待歓＜マチヨロコブル＞～。万、2264」『国語音韻史の研究』の転訛したもの。˺イー　ッ˹ふァース˺カー　ユ˹ル˺クブンカヤーティ　ウ˹ムータン˺ドゥ　˹ミー˺ザティ　ユ˹ルクバン˺シェン [˺ʔi: f˹fa:su˺ka: ju˹ru˺kubuŋkaja:ti ʔu˹mu:tan˺du ˹mi:˺ʥati ju˹rukubaŋ˺ʃeŋ](ご飯を食べさせたら喜ぶかなあと思ったが、不味いので喜ばなかった)。˹ワー˺　ユ˹ル˺クビ　˺ミサン [˹wa:˺ ju˹ru˺kubi ˺misaŋ](君は喜んでも良い)。˺ウビシ　ユ˹ル˺クブ　˺クトー　ナ˹ラ˺ヌ [˺ʔubiʃi ju˹ru˺kubu ˺ku̥to: na˹ra˺nu](それだけで喜ぶことはできない)。˹マー˺ビン　ユ˹ル˺クベー　˺ミサムヌ [˹ma:˺biŋ ju˹ru˺kube: ˺misamunu](もっと喜べばいいのに)。ユ˹ル˺クビバ [ju˹ru˺kubiba](喜べよ)。

ユ˹ル˺シ [ju˹ru˺ʃi]　【名】許可。許し。恕し。ユ˹ルシ˺ヌ　ン˹ジ˺ルンケンマー　˺クナーティ　マ˹タン˺カー　ナ˹ラ˺ヌ [ju˹ruʃi˺nu ʔn˹ʤi˺ruŋkemma: ˺kuna:ti ma˹taŋ˺ka: na˹ra˺nu](許可＜許し＞が出るまでは、ここで待たなければならない)。

ユ˹ル˺スン [ju˹ru˺suŋ]【他動】許す。罪科を赦免する。許可する。老年層は、ユ˹ラ˺スン [ju˹ra˺suŋ](許す) という。˹トゥン˺ガー　ユ˹ル˺スンティ　ウ˹ムーン˺ドゥ　マ˹ナ˺マー　ユ˹ルサ˺ヌ [˹tuŋ˺ga: ju˹ru˺sunti ʔu˹mu:n˺du ma˹na˺ma: ju˹rusa˺nu](罪科を許そうと思うが、今は許さない)。ユ˹ル˺シ　˺ミサカー　イ˹チン˺　ユ˹ル˺ス　˺クトー　˺ナルン [ju˹ru˺ʃi ˺misaka: ʔi˹ʧiŋ˺ ju˹ru˺su ˺ku̥to: ˺naruŋ](許して良ければ、いつでも許すことは出来る)。˹パー˺ク　ユ˹ル˺シェー　˺ミサムヌ [˹pa:˺ku ju˹ru˺ʃe: ˺misamunu](早く許せばいいのに)。ヤー˹ディン˺　ユ˹ル˺シ [ja:˹diŋ˺ ju˹ru˺ʃi](必ず＜きっと＞許せ)。

ユ˹ルミ˺ルン [ju˹rumi˺ruŋ]　【他動】緩める。引き締めた力をゆるやかにする。˺シナー　ユ˹ルミ˺ルンティ　˹スンドゥ˺　ピ˹キシキティ˺　ユ˹ルミラ˺ヌ [˺ʃina: ju˹rumi˺runti ˹sundu˺ pi̥˹kiʃi̥kiti˺ ju˹rumira˺nu](綱を緩めようとするが、引っ張って緩めない)。ク˹レー˺　ユ˹ル˺ミ　˺ミサン [ku˹re:˺ ju˹ru˺mi ˺misaŋ](これは緩めてもよい)。マ˹ナ˺マー　ユ˹ル

ミ˞ル　˞クトー　ナ˞ラ˞ヌ [ma˞na˞ma: ju˞rumi˞ru ˞kʉto: na˞ra˞nu](今は緩めることは出来ない)。ン˞ベーマ˞　ユ˞ルミ˞レー　˞ミサムヌ [ʔm˞be:ma:˞ ju˞rumi˞re: ˞misamunu](少しは緩めればいいのに)。˞パー˞ク　ユ˞ルミ˞リ [˞pa:˞ku ju˞rumi˞ri](早く緩めろ＜れ＞)。

ユ˞ル˞ムン [ju˞ru˞muŋ] 【自動】緩む。しまる力が弱くなる。「慢、由流比弖＜ゆるひて＞」『類聚名義抄』、「〜恋すれば吾が帯緩＜ユルブ＞〜。万、3262」の転訛したもの。ガ˞タガタ˞シ　˞ウーカ˞スカー　˞ニジェー　ユ˞ル˞ムンティ　シ˞タヌ˞　ユ˞ルマン˞バン [ga˞tagata˞ʃi ˞ʔu:ka˞suka: ˞niʤe: ju˞ru˞munti ʃi̥˞tanu˞ ju˞rumam˞baŋ](がたがたと動かすとネジ＜螺子＞が緩むといったが、緩まないよ)。ギッ˞ティ˞　フ˞バリ˞　シケータヌ　ユ˞ル˞ミ　˞ナー˞ヌ [git˞ti ˞ɸu˞bari˞ ʃi̥ke:tanu ju˞ru˞mi ˞na:˞nu](ぎゅっと縛っておいたが、緩んでしまった)。ユ˞ル˞ム　˞クトー　˞ナー˞ヌ [ju˞ru˞mu ˞kʉto: ˞na:˞nu](緩むことはない)。

ユ˞レー [ju˞re:] 【名】屋号。寄合三戸氏宅。ユ˞レーヌ˞　ヌ˞バ˞ルブザマー　カ˞ザケーヌ　グゥンス˞ヌ　˞ナーバ˞　シ˞キラ˞リ　˞オー˞ルティ˞ダー [ju˞re:nu˞ nu˞ba˞rubuʤama: ka˞ʤake:nu gwansu˞nu ˞na:ba˞ ʃi̥˞kira˞ri ˞ʔo:˞ruti˞da:](寄合の野原叔父さん＜寄合徹氏＞は加治工家の先祖の名を付けられておられるそうだよ)。ユ˞レーヤ˞　カ˞ザケーラヌ˞　バ˞カ˞リティ　ア˞ザリブー [ju˞re:ja˞ ka˞ʤake:ranu˞ ba˞ka˞riti ʔa˞ʤaribu:](寄合家は加治工家の分れといわれている)。

ユ˞レ ー ヌ˞　ス˞ク˞レ ザ ー テ ー [ju˞re:nu˞ sʉ˞ku˞ reʤa:te:] 【連】屋号。寄合博氏宅。˞ウン˞ネーヤ　トゥ˞ムレーヌ˞　イサーザーテーヌ　˞アー˞ネー [˞ʔun˞ne:ja tu˞mure:nu˞ ʔisa:ʤa:te:nu ˞ʔa:˞ne:](その家は友利正安氏宅の東隣の家だ)。

ユ˞レ ー ヌ˞　ハ˞ツ ォ ー ザ ー テ ー [ju˞re:nu˞ hą̊˞ tso:ʤa:te:] 【連】屋号。寄合初男氏宅。ユ˞レーヌ˞　ハ˞ツォーザテーン　ショーザンマル˞ヌ　˞シーゾーヤー˞ヌ　˞シンタナール　˞アッ˞タ [ju˞re:nu˞ hą̊˞tso:ʤate:ŋ ʃo:ʤammaru˞nu ˞ʃi:ʤo:ja:˞nu ˞ʃintana:ru ˞ʔat˞ta](寄合初男氏宅も正山丸のカツオ節製造工場の後ろに＜ぞ＞あった)。

ユ˞レーヌ　マー˞サザーテー [ju˞re:nu ma:˞saʤa:te:] 【連】屋号。寄合常夫氏宅。˞ウン˞ネーヤ　ヌ˞バ˞ルブザマテーヌ　˞シー˞ネー [˞ʔun˞ne:ja nu˞ba˞rubuʤa-mate:nu ˞ʃi:˞ne:](その家は寄合徹氏宅の後ろ隣の家だ)。

˞ユン [˞juŋ] 【名】弓。˞ユン　ピ˞クン [˞jum pi̥˞kuŋ](弓を引く。反抗する)。˞ユン˞ヌ　イ˞ヤ [˞jun˞nu ʔi˞ja](弓の矢)。ビ˞コーンッふァヌ˞　マ˞ル˞カー　˞ユン˞トゥ　イ˞ヤバ˞　ス˞ク˞リティ　ピ˞サシ˞ナー　ヌ˞キ˞　ス˞コーッ˞タ [bi˞ko:ŋffanu˞ ma˞ru˞ka: ˞jun˞ tu ʔi˞jaba˞ sʉ˞ku˞riti pi̥˞saʃi˞na: nu˞ki˞ sʉ˞ko:t˞ta](男の子が生まれると弓と矢を作って、軒に差して置かれた)。

˞ユン [˞juŋ] 【名】(植) ユリ (百合)。テッポーユリ。˞ユン˞ヌ　パ˞ナ˞ヌ　˞サケーン [˞jun˞nu pa˞na˞nu ˞są̊ke:ŋ](百合の花が咲いた)。

˞ユン [˞juŋ] 【助動】〜であります (丁寧表現＜目上に＞)。˞ヤン [˞jaŋ](〜である＜同輩、目下に＞)と同じ意味の第二終止形。待遇表現に差異がある。˞ヤン [˞jaŋ](である) の連用形ヤリ [ja˞ri] に˞ウン [uŋ](をり) が下接して　[jari]　+　[uŋ]　→　[jarjuŋ]　→　[jajuŋ]　→　[juŋ]　と変化したものであろう。ウ˞レー　トー˞フマミ　˞ユントユー　ア˞ガマメー˞　ア˞ラントユー [ʔu˞re: to:˞ ɸumami ˞juɲ˩ju: ʔa˞gamame:˞ ʔa˞raɲ˩ju:](それは大豆でありますよ。小豆ではありませんよ＜目上に対して＞)。˞ヤン˞ヨー　˞ワー˞　ア˞ズ　トゥー˞ル [˞jaɲ˞jo: ˞wa:˞ ʔa˞ʤu tu:˞ru](そうだよ＜であるよ＞。君の言う通りだ＜同輩に対して＞)。˞ドゥーン　˞ピン˞ソー　ヤ˞リティ　ピン˞ソー　ア˞ラ˞ン˞コーラ˞シ　ム˞ニ˞バ　イ˞ジ　ベー [˞du:m ˞pin˞so: ja˞riti pin˞so ʔa˞ra˞ŋ˞ko:ra˞ʃi mu˞ni˞ba ʔi˞ʤi be:](自分＜己＞も貧乏であって、貧乏でないふりをして話をしている)。ウ˞ヤ˞キプス　ヤ˞ル˞クトー　ッ˞シ　ブー [ʔu˞ja˞kipʉ̥su ja˞ru˞ kʉto: ʃ˞ʃi bu:](金持ちであることは知っている)。˞アイ　ヤ˞レー˞　ミサムヌ [˞ʔai ja˞re:˞ misamunu](そうであれば良いのに)。

˞ユン [˞juŋ] 【係助】〜をも。〜も。本来格助詞である˞ユ [˞ju](を) が係助詞˞ン [ŋ](も) に上接することによって強調表現となり、格助詞の意味機能が希薄になって失われ、係助詞化したもの。˞クン˞ゾー　ウ˞ク˞ルカー　˞ワーユン˞　イ˞ジス [˞kun˞ʤo: ʔu˞ku˞ruka: ˞wa:juŋ˞ ʔi˞ʤisu](怒ったら君＜を＞も叱る)。˞アツァー　˞バー˞ユン　˞クーティル　ア˞ゾー˞ル˞ツォー [˞ʔatsa: ˞ba:˞juŋ ˞ku:tiru ʔa˞ʤo:˞ru˞tso:](明日は私＜を＞も来いといわれるんですよ)。

˞ユングトゥ [˞juŋgutu] 【名】古歌謡の形態の一つ。豊年予祝の物語歌謡である「伊武田ユングトゥ」、機織の苦しい作業過程を歌いこんだ労働歌謡であ

る「シナンナギヌユングトゥ」などがある。「ユングトゥ [ˈjuŋgutu] は、よごと (寿詞・吉言)、「巨勢大臣をして賀＜ヨコト＞奉らしめて曰く」『日本書紀　白雉元年二月』の転訛したもの。ˈインダユングトー　ˈイニアーバ　スˈクˈリ　ˈノーラˈシティ　アˈワˈムリ　アˈワザキˈバ　マˈラシ　オーシター　ウイˈラーン　スˈムˈラーン　フˈミラリˈタティヌ　ムˈカˈシウタ　ダˈレー [ˈʔindajuŋguto: ˈʔiniʔaːba sɯ̥ˈkuˈri ˈnoːraˈʃi̥ti ʔaˈwaˈmuri ʔaˈwaˈʤakiˈba maˈraʃi ʔoːʃi̥ta: ʔuiˈraːn suˈmuˈraːŋ ɸuˈmirariˈtatinu muˈkaˈʃiʔuta daˈreː](伊武田ユングトゥは、稲粟を作り稔らせて、泡盛粟酒を醸造して、お上へ献上(ケンジョウ)したら、お上からも下からも褒(ホ)められたとの昔歌なんだよ)。

「ユンˈタ [ˈjunˈta] 【名】八重山民謡の形態の一つ。三線楽器による無伴奏の労働歌。農業生活を中心とした叙事的歌謡。「パトゥマブナピトゥユンタ」が伝わっている。ムˈカˈシウター　ˈアヨー　「ユンˈタ　ジˈラˈバティ　「シー　サンシンマーˈ　ピˈカンドーˈシ　ミˈドゥˈム　ˈビキドゥム　「カールガール　ティーˈバ　ˈウテーティル　ˈウター　イˈゾーッˈタツォー [muˈkaˈʃiʔutaː ˈʔajoː ˈjunˈta ʤiˈraˈbati ˈʃiː saŋʃimmaːˈ pi̥ˈkandoːˈʃi miˈduˈmubikidumu ˈkaːrugaːˈru ˈtiːˈba ˈʔuteːtiru ˈʔutaː ʔiˈʤoːtˈtatsoː](昔の歌は、アヨー、ユンタ、ジラバといって、三線は弾かずに、男女が交互に手を打ちながら歌を歌われたそうだ)。

ˈユンダ [ˈjunda] 【接助】～ので。～だから。～故に。丁寧表現。老年層の言葉。若年層はˈンダ [ˈnda](～ので。＜ぞんざいな表現＞) ともいう。活用語の連体形に下接して、原因、理由を表す。「タンガˈシ　ˈカクユンダル　ˈキューズーナ　ナˈランˈ　シˈジˈル　ヤˈルˈ　フˈターˈルシ　ˈカクカー　ˈナルンヨー [ˈtaŋgaˈʃi ˈkɯ̥kujundaru ˈkjuːʤuːna naˈraŋˈ ʃiˈʤiˈru jaˈruˈ ɸu̥ˈtaːruˈʃi ˈkɯ̥kukaː ˈnaruŋjoː](一人で書くから今日中に出来ないのであって、二人で書けば出来るよ)。「タンガˈシ　ˈカクンダル　「ナンˈギン　「スーˈティムカーヤ [ˈtaŋˈgaʃi ˈkɯ̥kundaru ˈnaŋˈgin ˈsuːˈtimukaːja](一人で書くからこそ難儀もするのというものだ)。ˈアイ　ヤˈルンダˈ　ウˈヤˈヌ　ˈムニ　シˈキト ツォー [ˈʔai jaˈrundaˈ ʔuˈjaˈnu ˈmuni ʃi̥ˈkiɟtsoː](そうだから親の言うこと＜言葉＞を聞きなさいってば)。ウˈヤˈヌ　ˈムニ　シゥˈカンユンダルˈ　スン　「シェーˈティ　「アーˈクˈダー [ʔuˈjaˈnu ˈmuni si̥ˈkaŋjundaruˈ suŋ ˈʃeːˈti ˈʔaːˈkuˈdaː](親のいうことを聞かないから＜ぞ＞損をしているのだよ)。

「ユンˈタク [ˈjunˈtaku] 【名】おしゃべり (お喋り)。喋りまくること。ミˈドゥムˈヌ　アˈツァˈマルカー　「ユンˈタク　「シーˈ　フˈシガラˈヌ [miˈdumuˈnu ʔaˈtsaˈmarukaː ˈjunˈtaku ˈʃiːˈ ɸu̥ˈʃigaraˈnu](女が集まると、ひどくお喋りをして堪らない)。

「ユンˈタクカンタク [ˈjunˈtakukantaku] 【名】酷(ヒド)くしゃべること。喋り捲(マク)ること。ABCDEBCD 型の重言。「ユンˈタクカンタク　「サンドーˈシ　「ダンダンˈシ　パˈタラキ [ˈjunˈtakukantaku ˈsandoːˈʃi ˈdandaŋˈʃi pḁˈtaraki](喋り捲らないで、さっさと働け)。

「ユンチュ [ˈjuntʃu] 【名】ユンチュ (与人)。琉球国時代の宮古、八重山の政庁の役職名。カシラ (頭) 織の下の役職。「シュリウフヤク [ˈʃuriʔuɸujaku](首里大屋子) の次の位。各座 (ˈザー [ˈʤaː]) の主任で、その担当事務の責任者。村番所の主任で行政事務の責任者。パˈトゥˈマナー　「ユンチュ　ソーˈレー　プˈソー　オーラント ナー [pḁˈtuˈmanaː ˈjuntʃu soːˈreː pɯ̥ˈsoː ʔoːranɟnaː](鳩間島にはユンチュをされた人はおられないねえ)。

「ユンツァーˈスン [ˈjuntsaːˈsuŋ] 【他動】喋り捲る。喋り散らかす。苦情を言いまくる。「読み散らす」の義。ウˈヌˈ　クトゥ　ウˈリンˈ　シゥˈカレーラ　ユンツァーˈスンダ　「ユンツァーサランˈ　ヨーニ　「シーˈバ [ʔuˈnuˈ kɯ̥tu ʔuˈrinˈ si̥ˈkareːra juntsaːˈsunda ˈjuntsaːsaraŋˈ joːni ˈʃiːˈba](そのことが彼に聞かれたら、苦言を言いまくる＜喋り捲る＞から、苦言を言いまくられないようにしなさいよ)。ˈキューン　「ユンツァーˈシ　「ベー [ˈkjuːŋ ˈjuntsaːˈʃi ˈbeː](今日も喋り捲っている)。ˈアイニ　「ユンツァーˈス　プˈソーˈ　ブˈラーヌ [ˈʔaini ˈjuntsaːˈsu pɯ̥ˈsoːˈ bu ˈraːnu](あのように喋り捲る人はいない)。「ユンツァーˈシェー　ˈミサムヌ [ˈjuntsaːˈʃeː misamunu](喋り捲ればいいのに)。「マーˈビン　「ユンツァーˈシ [ˈmaːˈbiŋ ˈjuntsaːˈʃi](もっと喋り捲れ)。

「ユンナーˈリ [ˈjunnaːˈri] 【名】弓なり (弓形)。弦を張った弓のような形。ゆみがた。「ユンナーˈル [ˈjunnaːˈru](弓なり) ともいう。クˈシェーˈ　シンターニ　「ユンナーˈリ　マˈガリティˈ　ピˈナッカイˈルンˈダー [kɯ̥ˈʃeːˈ ʃintaːni ˈjunnaːˈri maˈgaritiˈ piˈnakkaiˈrunˈdaː](腰は後方に弓なりに曲がって、ひっくり返る＜後転する＞よ)。

「ユンマーˈルン [ˈjummaːˈruŋ] 【他動】いろいろと理由をつけて断る。婉曲(エンキョク)に断る。「読み＜弁解し

＞回る」の義。直截(チョクセツ)に断るのでなく、いろいろと理由付けをして遠回しに断る意。ウ˹レー　ユンマー˺ルンダ　˹ユンマーラン˺　プ˹ソーラ˺　カ˹リ˺バ [ʔu˹reː jummaː˺runda ˹jummaːram˺ pu̥˹soːra˺ ka˹ri˺ba](彼は婉曲に断るから、婉曲に断らない人から借りなさい)。˹ユンマー˺リ　˹ベー˺カー　ウ˹レー˺ラー　カ˹ララヌ [˹jummaː˺ri ˹beː˺kaː ʔu˹reː˺raː ka˹raranu](婉曲に断っているなら彼からは借りられない)。˹ユンマー˺リ　˺ミサカー　˹ユンマー˺ル˺クトー　˺ナルン [˹jummaː˺ri ˺misakaː ˹jummaː˺ru ˺ku̥toː ˺naruŋ](婉曲に断ってよければ断ることはできる)。˹ユンマー˺レー　˺ミサムヌ [˹jummaː˺reː ˺misamunu](婉曲に断ればいいのに)。˹ユンマー˺リバ [˹jummaː˺riba](婉曲に断れよ)。

˹ユンマー˺ルン **[˹jummaː˺ruŋ]** 【自動】弓なりに曲がる。弓なりに＜弓形に＞そる＜反る＞。ウ˹ヌ　キー˺ヤ　˹ユンマー˺リ　˹ブンダ˺　シゥ˹カーラヌ [ʔu˹nu kiː˺ja ˹jummaː˺ri ˹bunda˺ si̥˹kaːranu](この木は弓なりに曲がっているから使えない)。˹パン˺マー　˹ユンマー˺リティ　ア˹ラカラ˺ヌ [˹pam˺maː˹jummaː˺riti ʔa˹rakara˺nu](足は弓なりに曲がって歩かれない)。

˹ユンマカ˺スン **[˹jummaka˺suŋ]** 【他動】言い負かす。説き伏せる。折伏(セツフク)する。「読み負かす」の融合変化したもの。フ˹チヌ˺　カ˹ナイ˺ヤンダ　ター˹ン　ユンマカ˺スンティ　ウ˹ムータン˺ドゥ　ウ˹レー　ユンマカサラン˺シェン [ɸu̥˹tʃinu˺ ka˹nai˺janda taː˹ɲ jummaka˺sunti ʔu˹muːtan˺du ʔu˹reː jummakasaraŋ˺ʃeŋ](口が達者だから、誰でも説き伏せると思ったが、彼は説き伏せられなかった)。˹ユンマカ˺シ˹ナー˺ヌ [˹jummaka˺ʃi ˹naː˺nu](説き伏せてしまった)。ウ˹リ　ユンマカ˺ス　プ˹ソー˺　ブ˹ラーヌ [ʔu˹ri jummaka˺su pu̥˹soː˺ bu˹raːnu](彼を説き伏せる人はいない)。˹ワー˺シ　˹ユンマカ˺シェー　˺ミサムヌ [˹waː˺ʃi ˹jummaka˺ʃeː ˺misamunu](君で説き伏せればいいのに)。˹ユンマカ˺シバ [˹jummaka˺ʃiba](説き伏せよ)。

ヨ

˥ヨー **[˥joː]** 【名】1動詞の連用形に付いて、仕方。仕様、方法の意を表す。イ˩ビヨー [ʔi˩bijoː](植え方)、カ˩キ˥ヨー [kąʲ˩ki˥joː](書き方)、フ˩キヨー [ɸu̥˩kijoː](葺き方)、˩ヌーリヨー [˩nuːrijoː](塗り方)、ム˩ティ˥ヨー [mu˩ti˥joː](操船の仕方。持ち方) など。˥ムネー　イ˩ジヨーヌ˥　アルカー　シ˩キヨーヌ˥　アン [˥mune: ʔi˩ʤijoːnu˥ ʔaruka: ʃi̥˩kijoːnu˥ ʔaŋ](言葉は言いようがあれば聞きようもある < 同じことでも、言いようによっては受け取り方も異なる >。諺)。2名詞や代名詞について、ありさま、様子、形状、体裁、の意を表す。˥ウヌヨーヌ　ヤ˩ラビ˥バ　ユ˩ナカー˥ラ　シゥ˩カイ˥　ヤ˩ラシ˥　ヌーヤ　ウ˩レー [˥ʔunujoːnu ja˩rabi˥ba ju˩nakaːra si̥˩kai˥ ja˩raʃi˥ nuːja ʔu˩reː](あんな小さな < あの様な > 子供を夜中に < から > 使いに出す < 遣る > とは何事だね、一体)。

˥ヨー **[˥joː]** 【名】ゆおう (硫黄)。˩ヨー˥ヌ　カ˩ザヌ　スン˥トンマー　パ˩ボー　クーン˥ツォー [˩joː˥nu ka˩ʤanu sun˥tomma: pa˩bo: kuːn˥tsoː](硫黄の臭いのする所へは蛇は来ないそうだ)。

˩ヨー **[˩joː]** 【助】係助詞 (をば)。格助詞ユ [ju](を) に係助詞ヤ [ja](は) が付いて、[ju] + [ja] → [joː](をば) のように融合変化して形成されたもの。˩ワイヨー˥<˩ワーヨー˥> イッ˩カ˥ シゥ˩カイヨーラ˥ヌ ˥バー˩タンガ˥ル シゥ˩カイヨー˥ル [˩waijoː˥ <˩waːjoː˥> ʔik˩ka˥ si̥˩kaijoːra˥nu ˥baː ˩taŋga˥ru si̥˩kaijoː˥ru](君をば決して使いなさらない。私だけ < 私一人 > をお使いなさるのだ)。˩ワイヨー˥<˩ワーヨー˥> フミティ ˩バイ˥ヨー <˩バー˥ヨー > イ˩ジル ソー˥ル [˩waijoː˥ <˩waːjoː˥> ɸumiti ˩bai˥joː <˩baː˥joː> ʔi˩ʤiru soː˥ru](君を褒(ホ)めて私を叱(シカリ)りなさる)。

˩ヨー **[˩joː]** 【終助】1よ。動詞の命令形や終助詞につく。ヤー˩ディン˥ クー˩ヨー [jaː˩diŋ˥ kuː˩joː](必ず < きっと > 来いよ)。マ˩ナ˥マー ˩クー˥ナ˩ヨー [ma˩na˥maː ˩kuː˥na˩joː](今は来るなよ < 禁止 >)。2活用語の終止形について、よ。さ。ね (念押し) の意を表す。˥アツァー ヤー˩ディン˥ ˩クンヨー [˥ʔatsaː jaː ˩diŋ˥ kuŋ˩joː](明日は必ず < きっと > 来るよ)。˩キュー˥ヤ パ˩ラン˥タンティン ˥ミサンヨー [˩kjuː˥ja pa˩ran˥tantim ˥misaŋjoː](今日は行かなくてもいいよ)。3名詞、転成名詞について断定・強調を表す。˥アイヨー ˩ワー˥ アズ ˩トゥー˥ルヨー [˥ʔaijoː ˩waː˥ ʔaʤu ˩tuː˥rujoː](そうだよ、君の言うとおりだよ)。

ヨ˩ー **[jo˩ː]** 【感】ねえ。よいか。念押し、確認の意味を表す。ヨ˩ー˥ ウ˩ヤ˥ヌ ア˩ゾー˥ル ˥ムネー　シゥカイ˩トゥ˥ キ˩ム˥ナー イ˩レー˥ティ ˩バスクナ˥ダー [jo˩ː˥ ʔu˩ja˥nu ʔa˩ʤoː˥ru ˥mune: si̥˩kai˩tu˥ ki˩mu˥na: ʔi˩reː˥ti ˩basu̥kunaꜜda:](いいか、親の言われることはしっかりと肝に銘じ < 入れ > て、忘れるなよ)。ヨー˩ヨー バスクナꜜダー [jo:˩jo: basu̥kunaꜜda:](ねえ、いいか。忘れるなよ)。

˩ヨー˥カ **[˩joː˥ka]** 【名】サバニの中に溜まった水。ふなゆ。「湯(ユ)・淦(アカ)」の転訛したものか。転じて、ふなゆを排出する孔の˩ヨーカ˥ミー [˩joːka˥miː](湯淦孔)の意味に用いる。

˩ヨー˥ガー **[˩joː˥gaː]** 【名】弱体。弱々しい体質。バ˩カーン˥ケンマー ˩スー˥バー ˩ヤッタヌ˥ ヤ˩ム˥ター ˩ヨー˥ガー ˥ナリティ マ˩ガリ ベー [ba˩kaːŋ˥kemma: ˩suː˥baː ˩jattanu˥ ja˩mu˥taː ˩joː˥gaː ˥nariti ma˩gari beː](若い頃は頑健(ガンケン)だったが、病気したので弱体になって、ねじけて < 曲がって > いる)。

˩ヨー˥カーピーカー **[˩joː˥kaːpiːkaː]** 【副】夜も昼も。ム˩カ˥シェー ˩カン˥プスンケーヤ ˩ヨー˥カヤーナーティ ˩ヨー˥カーピーカー ˩カン˥ツァーアサビ ˩ソーッ˥タツォー [mu˩ka˥ʃe: ˩kam˥pu̥-suŋke:ja ˩joː˥kaja:na:ti ˩jo:ka:piː˥kaː ˩kan˥tsaːʔasabi ˩soːt˥tatsoː](昔は神職者 < 司やティジリビー > たちはヨーカヤー < 西原家本家 > で夜昼かけて˩カン˥ツァーアサビ [˩kan˥tsaːʔasabi](神歌を習う神遊び)をされたそうです)。これが西原家 (ヨーカヤー) の語源といわれている。

˩ヨーガーペー˥ガー **[˩joːgaːpeː˥gaː]** 【副】弱々しいさま。ABCDEFCD 型の重言。ウ˩レー　ヨーガーペー˥ガー　˥ナリティ　プ˩スタルガキ˥　ナ˩ラ˥ヌ [ʔu˩reː joːgaːpeː˥gaː ˥nariti pu̥˩sutarugaki˥ na˩ra˥nu](彼は体がひ弱にナって、当てにならない＜頼りにならない＞)。

˩ヨーカ˥ミー **[˩joː˥kamiː]** 【名】　サバニの中に入った水 (湯) を排出する穴。あか (淦) を流す穴。排水孔。「湯淦穴」の転訛したもの。˩ヨーカ˥ミーラ　˥アカー　パ˩ラ˥シバ [˩joːka˥miːra ˥ʔakaː pa˩ra˥ʃiba](排水孔から淦を流しなさい)。

˩ヨー˥カヤー **[˩joː˥kajaː]** 【名】屋号。西原松氏宅。˩ヨー˥カヤーの東の庭に霊威の高いビ˩チ˥ル [bi˩ʧi˥ru](びんずる＜賓頭蘆＞) がある。友利御嶽に通ずる˩カン˥ヌ　˥ミチ [˩kan˥nu ˥mitʃi](神の道) がそこに通じていると伝えられている。昭和の初期頃までは、友利御嶽で行われる神事祈願の後、司やティジリビー達は必ず˩ヨー˥カヤーのビ˩チ˥ル [bi˩ʧi˥ru](賓頭蘆) に集まってア˩マイヨーッ˥タ [ʔa˩maijoːt˥ta](神遊びされた) という。˥アイ　˩ヤー˥ティル　˥ウマー　˩カンダカー˥ツォー [˥ʔai ˩jaː˥tiru ˥ʔumaː ˩kandakaː˥tsoː](それで、そこは神霊が高いそうだ)。˥ウブシケーヌ　˩マイ˥ネール　˩ヨー˥カヤー [˥ʔubuʃi̥keːnu ˩mai˥neːru ˩joː˥kajaː](大城博氏宅の前隣が西原松氏宅だ)。

˩ヨー˥カヤーヌ　ウ˩キ˥ナザーテー **[˩joː˥kajaːnu ʔu˩ki˥naʤaːteː]** 【連】屋号。西原茂氏宅。˩ヨー˥カヤーヌ　ウ˩キ˥ナザーテーヤ　パ˩ナシケーヌ˥　マンタナール　˥アル [˩joː˥kajaːnu ʔu˩ki˥naʤaːteːja pa˩naʃi̥keːnu˥ mantanaːru ˥ʔaru](西原茂氏宅は花城家の前に＜ぞ＞ある)。

˩ヨー˥カヤーヌ　˥マチャーヒーテー **[˩joː˥kajaːnu ˥matʃaːçiːteː]** 【連】屋号。西原松氏宅。˥ウトンマーテー [˥ʔutommaːteː](ウト氏＜姉さん＞の家) ともいう。西原ウト氏は金城次郎氏の娘で、長年自宅屋敷の隅に家を建てて金城二郎氏夫妻を住まわせていた。˩イー˥ネヌ　˥アッパートゥ　シ˩ラ˥ガーウスマイヌ　ナ˩カ˥ヌ　ッ˩ふァル　ヨー˥カヤーヌ　ウトンマー˩ゲ˥ラ [˩ʔiː˥nenu ˥ʔappatu ʃi˩ra˥gaːʔusumainu na˩ka˥nu f˩faru joː˥kajaːnu ʔutommaː˩ge˥ra](西隣の家のお祖母さんと金城次郎氏との仲の子供がウトンマー＜ウト姉さん＞さ)。˩ヨー˥カヤーヌ　˥マチャーヒーテーヌ　カ˩コー˥　シ˩ラ˥ガーウスマイル　˩ティン˥ガラシ　イ˩シバ˥　バ˩リ　コーシェー˥ティル　ス˩ク˥ローレーティ˩ダー [˩joː˥kajaːnu ˥matʃaːçiːteːnu kḁ˩koː˥ ʃi˩ra˥gaːʔusumairu ˩tiŋ˥garaʃi ʔi˩ʃiba˥ ba˩ri koːʃeː˥tiru su̥˩ku˥roːreːti˩daː](西原松氏宅の屋敷は金城次郎氏がかなてこ＜鉄梃＞で石を割り掘り起こして＜ぞ＞作られたそうだよ)。

˩ヨーガラー **[˩joːgaraː]** 【名】やせっぽち (痩せっぽち)。ひどく痩せている人 (卑語)。˥パンタレー [˥pantareː](太っているひと。太っちょ) の対義語。ウ˩レー　ヨーガラー˥　ヤ˩ルンドゥ˥　シゥ˩カラー　スー˥ワン˩ダー [ʔu˩reː joːgaraː˥ ja˩rundu˥ si̥˩karaː suː˥wan˩daː](彼は痩せっぽちであるが、力は強い)。

˩ヨーガリカー˥ガリ **[˩joːgarikaː˥gari]** 【副】痩せ細って。ひどく痩せて。ABCDEFCD 型の重言。˥ヤミティル　˩ヨーガリカー˥ガリ　˩シェー˥ティ　˩アー˥ク　ダ˩レー [˥jamitiru ˩joːgarikaː˥gari ˩ʃeː˥ti ˩ʔaː˥ku da˩reː](病気して＜ぞ＞痩せ細っているんだよ、彼は)。

˩ヨーガリムヌ **[˩joːgarimunu]** 【名】痩せっぽち。痩せた人。˩ヨーガリムヌ˥　ヤ˩ルンドゥ˥　シゥ˩カラー　スー˥ワン [˩joːgarimunu˥ ja˩rundu˥ si̥˩karaː suː˥waŋ](痩せっぽちだが力は強い)。

˩ヨーガルン **[˩joːgaruŋ]** 【自動】痩せる。「飢＜ヤワシ＞かし時～『日本書紀神代上』」の語幹に˩燥、加留＜カル。かわく＞」『新撰字鏡』が付いて形成された合成語か。˥ムヌ　ッ˩ふァーン˥カー　˩ヨーガルンダ　ヨーガラン˥ヨーニ　イ˩ジン˥ジ　ッ˩ふァイ˥ヨー [˥munu f˩faːŋ˥kaː ˩joːgarunda joːgaraŋ˥joːni ʔi˩ʤi˥ʔnʤi f˩fai˥joː](食物を食べないと痩せるから、痩せないように、しっかり＜意地をだして＞食べなさいよ)。˩ヨーガリ　ナー˥ヌ [˩joːgari naː˥nu](痩せてしまった)。˩ヨーガル˥　ワケー　˩ナー˥ヌ [˩joːgaru˥ wakeː ˩naː˥nu](痩せる訳がない)。˩パー˥ク　˩ヨーガレー˥　ミサムヌ [˩paː˥ku ˩joːgareː˥ misamunu](早く痩せればいいのに)。ン˩ベーマー　ヨーガリ˥バ [ʔm˩beːmaː joːgari˥ba](少しは痩せろよ)。

˩ヨーガレー **[˩joːgareː]** 【名】やせっぽち (痩せっぽち)。ひどく痩せている人 (卑語)。˩ヨーガラー [˩joːgaraː](痩せっぽち) と同じ。痩せた人のニックネーム。

˩ヨーコイ **[˩joːkoi]** 【名】午後 3 時頃から夕方まで。夏の太陽が傾いて暑気が衰えるころ。「夕影」の転訛。「～生ひたるやどの暮陰尓＜ユフカゲに＞～。万、2159」の転訛したもの。˩プーマキティ˥　ア˩ツァ˥ヌ　ナ˩ラ˥ヌ　˩ヨーコイ˥　ナ˩ラバ˥ル　パ˩タ˥ケー

ヤ　パ˹ラ˺リ [˹puːmakiti˺ ʔa˹tsa˺nu na˹ra˺nu ˹joːkoi˺ na˹raba˺ru pḁ˹ta˺keːja pa˹rari˺ru](ほてって < ほめいて >、熱くて堪らない。夕陰にならないと畑にはいけない < 夕陰になればぞ畑には行ける >)。

˹ヨー˺シ **[˹joː˺ʃi]** 【名】養子。標準語からの借用語。竹富町の、明治 15 年の戸籍簿に˹養子˺の語彙が記録されている。鳩間方言では、˹イーリ˺ッふァ [˹ʔiːri˺ffa](貰い子)、シゥ˹カナイ˺ッふァ [si̥˹kanai˺ffa](養い子) というのが普通である。ッ˹ふァヌ˺　ブ˹ラーン　ベー˺ティ　˹ヨーシ˺バ　˹サーリ˺　ケーツォー [f˹fanu˺ bu˹raːm beː˺ti ˹joːʃi˺ba ˹saːri˺ keːtsoː](子供がいないので養子を連れてきてあるそうだ)。

˹ヨー˺シ **[˹joː˺si]** 【名】様子。模様。有様。˹ウン˺ネーヤ　プ˹スヌ˺　ア˹ツァ˺マリティ　˹ヨイ˺バ　˹ソーリン˺ギサル　˹ヨー˺シ [˹ʔun˺neːja pu̥˹sunu˺ ʔa˹tsa˺mariti ˹joi˺ba ˹soːriŋ˺gisaru ˹joː˺ʃi](あの家は、人が集まって、お祝いをされそうな様子だ)。

˹ヨー˺ジ **[˹joː˺ʤi]** 【名】 1ようじ (楊枝)。お菓子楊枝。カ˹ツヌ　ズーブニバ˺　パ˹マ˺ナー　ウ˹ズミティ˺　シ˹ダ˺シティ　˹ヨー˺ジ　ス˹ク˺リバ [kḁ˹tsunu ʤuːbuniba˺ pa˹ma˺naː ʔu˹ʤumiti˺ ʃi˹da˺ʃi̥ti ˹joː˺ʤi su̥˹ku˺riba](カツオの尾びれを浜に埋めて、孵化(フカ)させ < 潮水に曝(サラ)して > て楊枝に作りなさいよ)。2歯の間に挟まった物を除去するのに用いる具。普通は、˹パーヨー˺ジ [˹paːjoː˺ʤi](歯楊枝。歯ブラシ) という。˹ヨー˺ジシ　˹パー˺ヌッス　˺トゥリバ [˹joː˺ʤiʃi ˹paː˺nu ˺ssu ˺turiba](楊枝で歯糞を取りなさい)。˹パーヨー˺ジシ　フ˹チ˺　ア˹ライ˺バ [˹paːjoː˺ʤiʃi ɸu̥˹ʧi˺ ʔa˹rai˺ba](歯ブラシで口を洗い < 歯磨きし > なさい)。

˹ヨー˺ゾー **[˹joː˺ʤoː]** 【名】 1養生。イ˹ジ˺ンジ　ン˹マー˺ムヌン　ッ˹ふァイヤー˺ティ　˹ヨー˺ゾー　˹シー˺バ˹ヨー [ʔi˹ʤi˺ndʒi ʔm˹maː˺munuŋ f˹faija˺ti ˹joː˺ʤoː ˹ʃiː˺ba˹joː](一生懸命美味しいものも食べながら養生しなさいね)。2看護。病後の手当て。ミ˹ドーン˺ッふァヌ　˺カナイ　˹ブンダ˺　イッ˹ケナ　ヨー˺ゾー　˹シー˺　ッ˹ふィールン [mi˹doːŋ˺ffanu ˺kanai ˹bunda˺ ʔik˹kena joː˺ʤoː ˹ʃiː˺ f˹fiːruŋ](女の子がしっかりしている < 叶っている > から、非常によく看護してくれる)。

˹ヨーゾーウク˺リ **[˹joːʤoːʔuku˺ri]** 【名】養生遅れ。病気治療の手遅れ。イ˹サ˺ヌ　˹オーラン˺　シマヤ˹ルンダ˺　ヤ˹ミプス˺バ　イ˹サナケー˺　シゥ˹カシ˺　パルンケンマー　˹ヨーゾーウク˺リ　˺ナリ　˹ナーン˺シェンツォー [ʔi˹sa˺nu ˹ʔoːraŋ˺ ʃima ja ˹runda˺ ja˹mipusu˺ba ʔi˹sanakeː˺ si̥˹kaʃi˺ paruŋkemma: ˹joːʤoːʔuku˺ri ˺nari ˹naːŋ˺ʃentsoː](医者のおられない島だから、病人を石垣島へお連れて行くうちに治療の手遅れになってしまっていたそうだ)。

˹ヨー˺ソロー **[˹joː˺soroː]** 【感】よろしい。微速前進。操船で船頭がオ˹モ˺カジー [ʔo˹mo˺kaʤiː](面舵)、ト˹リ˺カジー [to˹ri˺kaʤiː](取舵) の必要がなく、船の進行方向へ真っ直ぐに、ゆっくり進め (slow) の号令。「ようそろ (宜候)」の義で帝国海軍の操船用語からの借用語という。

˹ヨー˺チ **[˹joː˺ʧi]** 【名】かんざし (簪)。女性用の真鍮製(シンチュウセイ)、鼈甲製(ベッコウセイ)、木製の簪。先端部は尖り、根っこは小さな匙状(サジジョウ)になっている。サ˹カサヌ˺アッパター　˹ヨー˺チ　˺ッシティル　˺ウガンマー　˹オーッ˺タ [sḁ˹kasanu˺ ʔappataː ˹joː˺ʧi ˺ʃʃitiru ˺ʔugammaː ˹ʔoːt˺ta](司のお婆さんたちは、簪(カンザシ)を挿(サ)して御嶽 < お願 > へいらっしゃった)。キ˹ガ˺ズーヨーチ [ki˹ga˺ʤuːjoːʧi](真鍮製(シンチュウ)の簪(カンザシ))、カ˹ミヌ˺クーヨーチ [ka˹minu˺kuːjoːʧi](鼈甲製の簪)。˺キーヨーチ [˺kiːjoːʧi](木製の簪) がある。

˹ヨーッタバスン **[˹joːttabasuŋ]** 【他動】揺り動かす。たごおけ < 担桶 > の水を揺らす。ウ˹ブ˺マタシ　ア˹ラ˺クカー　˹タング˺ヌ　ミ˹ジェー　ヨーッタバスンダ　ヨーッタバサン˺スコー　˹ヨーンナー˺　ア˹ラ˺キバ [ʔu˹bu˺mataʃi ʔa˹ra˺kuka: ˹taŋgu˺nu mi˹ʤeː joːttabasunda joːttabasan˺su̥koː ˹joːnnaː˺ ʔa˹ra˺kiba](大股で歩くと担桶の水を揺らすから、揺らさないように、ゆっくりと歩きなさいよ)。˹タング˺ヌ　ミ˹ジェー　ヨーッタバシ　ナー˺ヌ [˹taŋgu˺nu mi˹ʤeː joːttabaʃi naː˺nu](担桶(タゴオケ)の水は揺らしてしまった)。ミ˹ジェー　ヨーッタバス˺　クトー　ナ˹ラ˺ヌ [mi˹ʤeː˹joːttabasu˺ ku̥toː na˹ra˺nu](たごおけの水を揺らしてはならぬ)。ン˹ベーマ　ヨーッタバシェー˺　ミサムヌ [ʔm˹beːma joːttabaʃeː˺ misamunu](少しは揺らせばいいのに)。˹マー˺ビン　˹ヨーッタバシ [˹maː˺biɲ ˹joːttabaʃi](もっと担桶の水を揺らせなさい)。

˹ヨーッタビカーッ˺タビ **[˹joːttabikaːt˺tabi]** 【副】よろよろと。よたよたと。足運びが不安定なさま。ABCDEFGCDE 型の重言。強調表現。˹ウイプス˺ヌ　˹ヨーッタビカーッ˺タビ　˹シェー˺ティ　ア˹ラ˺キ　˹オー˺ル　˺ムヌ　˺ミルカー　キ˹ムイ˺ツァーン [˹ʔuipusu˺nu ˹joːttabikaːt˺tabi ˹ʃeː˺ti ʔa˹ra˺ki ˹ʔoː˺rumu ˺miruka: ki˹mui˺tsaːŋ](年寄りがよたよたと歩いておられるのを見ると、可哀想 < 肝痛し > であ

る)。˩ビー˥プソー　˩ヨーッタビカーッ˥タビ　˩シェー˥ティン　˩ヤーバー˥キ　ア˩ラ˥キ　パ˩リ˥ス˩ツォー˥カー [˩biː˥pu̥soː ˩joːttabikaːt˥tabi ˩ʃeː˥tiɲ ˩jaːba˥ki ʔa˩ra˥ki pa˩ri˥su˩tsoː˥kaː](酔っ払いは、よたよたとよろめきながらも、家まで歩いて帰るってば)。

˩ヨーッタブン **[˩joːttabuŋ]** 【自動】よろめく (蹌踉めく)。ふらつく。よろける。よたよたする。千鳥足であるく。(強調表現)。˩ヨータブン [˩joːtabuŋ](よろめく) ともいう。フ˩ドゥヌ˥　グ˩マー˥ンダ　ミ˩ジタング˥　カ˩タ˥ムカー　˩ヨーッタブンドゥ˥　カ˩ラタング˥　ヤ˩ルンダ　ヨーッタバヌ [ɸu˩dunu˥ gu˩maː˥nda mi˩ʤitaŋ˥gu kḁ˩ta˥muka: ˩joːttabundu˥ ka˩rataŋgu˥ ja˩runda joːttabanu](体格が小さいから、たごおけ < 担桶 > を担ぐとよろめくが、空の担桶だからよろめかない)。˩ヨーッタビティ˥　カ˩タミユーサ˥ヌ [˩joːttabiti˥ kḁ˩tami juːsa˥nu](よろけて担(カツ)げない)。˩ヨーッタブ˥　クトー　˩ナー˥ヌ [˩joːttabu˥ ku̥to: ˩naː˥nu](よろめくことはない)。˩マー˥ビン　˩ヨーッタベー˥　ミサムヌ [˩maː˥biɲ ˩joːttabeː˥ misamunu](もっとよろめけばいいのに)。˩ヨーッタビ˥バ [˩joːttabi˥ba](よろめけよ)。

˩ヨーッタヨーッタ **[˩joːttajoːtta]** 【副】1よたよた。よろめく様子。˥ビーティ　˩ヨーッタヨーッタ˥シ　ア˩ラ˥キ　˥クーンティ [˥biːti ˩joːttajoːtta˥ʃi ʔa˩ra˥ki˥ kuːnti](酒に酔ってよたよたとよろめいて歩いてくるさ)。2ゆらゆら揺れる様。˩キーアイ˥クシ　ミ˩ジ˥　カ˩タ˥ムカー　˩タング˥ヌ　ミ˩ジェー　ヨーッタヨーッタ˥シティ　ウ˩キ˥　イ˩ラン˥カー　ク˩バリ˥ス [˩kiːʔai˥kuʃi mi˩ʤi˥ kḁ˩ta˥muka: ˩joːttajoːtta˥ʃi̥ti ʔu˩ki˥ ʔi˩raŋ˥ka: ˩taŋgu˥nu mi˩ʤe: ku˩bari˥su](木のおうこ < 朽 > でたご <担桶(タゴ)> を担ぐとゆらゆらと揺れて、浮き草を入れないと水が担桶よりこぼれるよ)。

˥ヨーナ **[˥joːna]** 【助動】〜のような。˥ヨーヌ [˥joːnu](ような) ともいう。類似の事柄を例示して性質、状態を述べる意を表す < 比況 >。˥ヨーニ [joːni](〜のように〜)< 連用形 >。˩ワンヌン˥　パルヨーニ　ス˩コール　シー˥ヨー [˩wannum˥ parujoːni su̥˩koːru ʃiː˥joː](君も行くように準備しなさいよ)。˥ヨーナ [˩joːna](〜のような〜)。˩ワーヤ˥　ウヌ　˥ヨーナ　˥クトー　イッ˩カ　シェー˥　ナ˩ラ˥ヌ [˩waːja˥ ʔunu˥joːna ˥ku̥to: ʔik˩ka ʃeː˥ na˩ra˥nu](君は、そのようなことは決してしてはならない)。カ˩リン˥　パルヨーナ (ヌ)　パ˩ナ˥シェー　˩サンシェン [ka˩rim˥ parujoːna(nu) pa˩na˥ʃeː ˩saŋʃeŋ](彼も < あれ > 行くような話しはしなかった)。

ヨー˩ニ **[joː˩ni]** 【副】容易に。たやすく。なかなか。滅多に。「容易に」の転訛したもの。ク˩トゥヤッ˥サ [ku̥˩tujas˥sa](容易く) が肯定陳述を要求するのに対し、ヨー˩ニ [joː˩ni] は、常に文末にの打ち消しの陳述表現と呼応する。˩ウン˥ネーヤ　ヨー˩ニ˥　サ˩バカラ˥ヌ [˩ʔun˥neːja joː˩ni˥ sa˩bakara˥nu](あの家は、なかなか探し当てら <捌(サバ)か > れない)。ウ˩レー˥　ヨー˩ニ˥　ムニン　イ˩ザヌ [ʔu˩reː˥ joː˩ni˥ muniŋ ʔi˩ʤanu](彼はなかなかものも言わない)。

˩ヨー˥バー **[˩joː˥baː]** 【名】弱い者。意気地なし。弱虫。ウ˩レー　ヨー˥バー　ヤ˩ルンダ˥　シ˩グ　ピン˥ギ　パ˩リ˥ス [ʔu˩reː joː˥baː ja˩runda˥ ʃi˩gu piŋ˥gi pa˩ri˥su](彼 < それ > は弱虫だから、すぐ逃げていってしまうよ)。

˩ヨーパイ˥ル **[˩joːpai˥ru]** 【名】弱い酢。ミ˩ジパイ˥ル [mi˩ʤipai˥ru](水になった酢) ともいう。キ˩シパイ˥ローヌ˩マラン˥バ　ミ˩ジ˥シ　˩バイティ　ヨーパイ˥ル　ス˩クリバ [ki̥˩ʃipai˥ro: nu˩maram˥ba mi˩ʤi˥ʃi˩baiti joːpai˥ru su̥˩ku˥riba](強い酢は飲めないから、水で割って弱い酢を作りなさいよ)。

˩ヨー˥ピー **[˩joː˥piː]** 【名】弱火。とろ火。˩イー˥ヤー　フ˩トゥッ˥チ　フ˩キカバ˥スカー　タ˩ム˥ノー　ピ˩キティ　ヨー˥ピーシ　ン˩ブ˥シバ [˩ʔiː˥ja ɸu̥˩tut˥ʧi ɸu̥˩kikaba˥su̥ka: ta˩mu˥no: pi̥˩kiti joː˥piːʃi ʔm˩bu˥ʃiba](ご飯は沸騰(フットウ)して吹き零(コボ)れたら、薪を引き出して、弱火で蒸しなさいよ)。

˩ヨーフキカー˥フキ **[˩joːɸu̥kikaː˥ɸu̥ki]** 【副】弱々しく顔色が青ざめているさま。˩ワー˥　ヌースンティ　˩ヨーフキカー˥フキ　˩シー　ベー˥ワ [˩waː˥ nuːsunti ˩joːɸu̥kikaː˥ɸu̥ki ˩ʃiː beː˥wa](君はどうして顔色が青ざめているのか)。

˩ヨー˥ベー **[˩joː˥beː]** 【名】弱虫。弱いもの。粗悪品。少し卑下した表現に用いる。˥アイブ　˩ヨーベー˥バ　˩カイティ˥　ウ˩ル˥キ　˩ベーン˥ティ [˥ʔaibu ˩joːbeː˥ba ˩kaiti˥ ʔu˩ru˥ki ˩beːn˥ti](あんな粗悪品を買って欠損しているさ、ほらごらんよ)。

˩ヨー˥マルン **[˩joː˥maruŋ]** 【自動】1弱くなる。弱まる。カ˩ジェー　ヨー˥マルンティ　シ˩タヌ˥　マ˩ダ　ヨーマラン˥バン [ka˩ʤeː joː˥marunti ʃi̥˩tanu˥ ma˩da joːmaram˥baŋ](風は弱まるといったが、まだ弱まらないわい)。˩シンダイ　ヨー˥マリ　˥パルン [˩ʃindai joː˥mari ˥paruŋ](次第に弱まっていく)。カ˩ジェー　ヨー˥マル　˥クトー　˩ナー˥ヌ [ka˩ʤeː joː˥maru ˥ku̥to: ˩naː˥nu](風は弱まることはない)。˩パ

ー˥ク　「ヨー˥マレー　˥ミサムヌ [ˈpaː˥ku ˈjoː˥mareː ˥misamunu](早く弱まればいいのに)。「ヨー˥マリ [ˈjoː˥mari](弱まれ。弱くなれ)。2老衰する。˥トゥシェー　˥トゥリティ　「ヨーマリ˥ル　「オー˥ル [ˈtu̥ʃeː ˥turiti ˈjoːmari˥ru ˈʔoː˥ru](年を取って衰弱して＜弱まって＞おられる)。

「ヨー˥ミ **[ˈjoː˥mi]** 【名】弱点。弱み。ドゥ「シン　ヨー˥ミ　カ「サマリティル˥　ピ「キマーサレー˥ティ　「アー˥ク　ダ「レー [duˈʃiɲ joː˥mi kḁˈsamaritiru˥ pi̥ˈkimaːsareː˥ti ˈʔaː˥ku daˈreː](友人に弱点を握られ＜掴まれ＞て引き回されているんだよ)。

「ヨー˥ミ　イ「ルン **[ˈjoː˥mi ʔiˈruŋ]** 【連】外傷を受ける。弱みが入る。病弱となる。体内に物理的、精神的に重い外傷が入る。ウ「レー˥　バ「カーン˥ケンナー　ヤ「マー˥ラ　ク「ルビ˥　ウティティル　˥ドゥーナ　「ヨー˥ミ　イ「レー˥ダ「レー [ʔuˈreː˥ baˈkaːŋ ˥kennaː jaˈmaː˥ra kuˈrubi˥ ʔutitiru ˥duːna ˈjoː˥mi ʔiˈreː˥daˈreː](彼は若い時に山から転げ落ちて＜ぞ＞、体内に外傷を受けた＜弱みが入った＞のだよ)。

「ヨーミ˥サン **[ˈjoːmi˥saŋ]**【形】畏(オソレ)れ多い。主として神や高貴な人に対して用いられる。畏れ多くて、お側近くへ寄ることが憚(ハバカ)られる時に用いられる。ウ「ヤミ˥サン [ʔuˈjami˥saŋ] がぞんざいにに発音されて、ウ「ヤミ˥サン [ʔuˈjami˥saŋ](畏れ多い)→　[ˈjoːmi˥saŋ](畏れ多い) のように変化したもの。「ゴー˥サナガラ　「ヨーミ˥サナガラ　ウ「ス˥バユリ　ウ「ガミトゥー˥シ　ア「ギル˥　ニ「ガイ˥ヤー～[ˈgoː˥sanagara ˈjoːmi˥sanagara ʔuˈsu˥bajuri ʔuˈgamituː˥ʃi ʔaˈgiru˥ ni ˈgai˥jaː～](畏(オソ)れ多いことながら、この身は憚(ハバカ)り多いことですが、お側に寄り、拝み通し上げます願いは～)。˥ドゥク　「ヨーミサ˥ヌ　ウ「ス˥バー　ユ「ララヌ [ˈduku ˈjoːmisa˥nu ʔuˈsu˥baː juˈraranu](あまりにも畏れ多くてお側に寄れない)。「ヨーミサ　ナー˥ヌ [ˈjoːmisa naː˥nu](畏れ多くない)。「ヨーミ˥サール　「カンヌ˥マイナー [ˈjoːmi˥saːru ˈkannu˥mainaː](畏れ多い神様の御前に)。

「ヨーミ˥ルン **[ˈjoːmi˥ruŋ]** 【他動】弱める。弱くする。弱らせる。˥ドゥク　シ「ミシゥカン˥ドーシ　「ヨーミ˥ルンティ　「スンドゥ　ヨーミラ˥ヌ [ˈduku ʃiˈmisi̥kan˥doːʃi ˈjoːmi˥runti ˈsundu joːmirara˥nu](あまり締め付けないで弱めようとするが、弱められない)。「ヨー˥ミ　˥ミサカー　「ヨーミ˥ル　˥クトー　˥ナルン [ˈjoːmi˥ misakaː ˈjoːmi˥ru ˥ku̥toː ˥naruŋ](弱めてよければ、弱めることは出来る)。ン「ベーマ　ヨーミ˥レー　˥ミサムヌ [ʔmˈbeːma joːmi ˥reː ˥misamunu](少し弱めればいいのに)。「マー˥ビン　「ヨーミ˥リ [ˈmaː˥biɲ ˈjoːmi˥ri](もっと弱めろ)。

「ヨー˥ムン **[ˈjoː˥muŋ]** 【自動】弱くなる。弱む。弱る。「ウーカジ˥ナー　「ヤー˥ヤ　「ヨー˥ミ　「ナー˥ヌ [ˈʔuːkadʒi˥naː ˈjaː˥ja ˈjoː˥mi ˈnaː˥nu](台風で家は弱ってしまった)。カ「ジ˥ナー　「ヨー˥ムンカヤーティ　ウ「ムータン˥ドゥ　「ヨーマン˥シェン [kaˈdʒi˥naː ˈjoː˥muŋkajaːti ʔuˈmuːtan˥du ˈjoːnaŋ˥ʃeŋ](台風で家は傷む＜弱む。弱る＞だろうと思ったが、痛ま＜弱ら＞なかった)。ウ「ヌアタル˥ヌ　カ「ジ˥ナー　「ヨー˥ム˥クトー　「ナー˥ヌ [ʔuˈnu˥ ʔaˈtaru˥nu kaˈdʒi˥naː ˈjoː˥mu ˥ku̥toː ˈnaː˥nu](その程度の台風で弱ることはない)。ン「ベーマ　ヨー˥メー　˥ミサムヌ [ʔmˈbeːmaː joː˥meː ˥misamunu](少しは弱くなればいいのに)。「パー˥ク　「ヨー˥マリ [ˈpaː˥ku ˈjoː˥mari](早く弱まれ)。

「ヨーヤ˥ク **[ˈjoːja˥ku]** 【副】ようやく (漸く)。やっとで。かろうじて。「徐、ヤウヤク」『類聚名義抄』の転訛したもの。ン「ザシ˥マイ　ア「ツァ˥ミカツァミ　「ヨーヤ˥ク　タ「ラーシ˥　ム「タ˥シ　パ「ラシ˥タ [ʔnˈdʒaʃi˥mai ʔaˈtsa˥mikatsami ˈjoːja˥ku taˈraːʃi˥ muˈta˥ʃi paˈraʃi̥˥ta](出費＜出し前＞を、あちこちから集めて、ようやく金額を満たして＜足らして＞持たせてやった＜行かせた＞よ)。

ヨー「ヨー **[joːˈjoː]** 【感】きっと。必ず。注意を促す時に用いる念押しの言葉。「能く能く」の義。「能能、ヨクヨク」『文明本節用集』の転訛したもの。ヨー「ヨー˥　ウ「ティシキ˥リ「ダー [joːˈjoː˥ ʔuˈtiʃi̥ki˥ri ˈdaː](きっと＜よくよく＞落ち着けよ)。ヨー「ヨー˥　ウ「レー˥　イッ「カ˥　パ「ナ˥シェー　ナ「ラン˥ダー [joːˈjoː˥ ʔuˈreː˥ ʔikˈka˥ paˈna˥ʃeː naˈran˥daː](きっと＜よくよく＞だぞ。それは決して話してはならないよ)。

「ヨー˥ラ **[ˈjoː˥ra]** 【名】腰。わきばら。横っぱら。「ヨーラ˥ヌ　グ「マー˥　ミ「ドゥ˥モー　ア「バ˥レーン [ˈjoːra˥nu guˈmaː˥ miˈdu˥moː ʔaˈba˥reːŋ](腰の小さい女は美しい)。

「ヨーラ˥サー **[ˈjoːra˥saː]** 【名】(動) ホシゴイ。ゴイサギ (五位鷺)。夜烏。夜鳴く烏。不吉の鳥といわれている。「ユーガラ˥サー [ˈjuːgara˥saː](夜烏) ともいう。「暁と夜烏＜ヨカラス＞鳴けど～。万、1263」の転訛したもの。*[juːkarasa]　→　*[juːharasa]　→　[joːrasa]　のように音韻変化したものであろう。「ヨーラサー˥ヌ　ナ「ク˥カー　カ「ラウシ　シッ˥キ

ティ　˺ナーマヤーヌ　ッ˹ふァー˺マ˹ドー˺ティ　ウ˹ヤール˺タ [˹joːrasaː˺nu na˹ku˺kaː ka˹raʔuʃi ʃik˺kiti ˺naːmajaːnu f˹faː˺ma˹doː˺ti ʔu˹jaːru˺ta](夜烏が鳴くと空臼(カラウス)を杵(キネ)で叩いて、˹ナーマヤー (長間家) の子孫だよ」と大声で叫んだ)。

˹ヨー˺リカーリ **[˹joː˺rikaːri]** 【副】動作が弱々しく老衰したさま。年老いてよぼよぼしているさま。ABCDBC 型の重言。˹ウン˺ネヌ　˺アブジェー　˹アッ˺タニ　˹ヨー˺リカーリ　˹ソー˺リ˹ナー˺ヌ [˹ʔun˺nenu ˺ʔabuʤe: ˹ʔat˺tani ˹joː˺rikaːri ˹soː˺ri˹naː˺nu](あの家のお祖父さんは急に年老いてよぼよぼしてしまわれた)。

˹ヨー˺ルン **[˹joː˺ruŋ]** 【自動】弱くなる。体力、気力が衰える。弱る。「〜二三日になりぬるに、むげに弱るやうにし給ふ」『源氏物語　夕顔』の転訛したもの。トゥ˹シ˺　トゥルカー　ク˹シン　ヨー˺ルンティ　˹スンドゥ˺　バー　マ˹ナ˺マートー　˹ヨーラ˺ヌ [tu̥˹ʃi˺ turukaː ku̥˹ʃiŋ joː˺runti ˹sundu˺ baː ma˹na˺maːto: ˹joːra˺nu](年を取ると腰も弱るというが、私はまだまだ＜今など＞弱らないよ)。トゥ˹シ˺トー　カ˹ナー˺ヌ　˹ティー˺パン　˹ヨー˺リ　˹ナー˺ヌ [tu̥˹ʃi˺to: ka˹naː˺nu ˹tiː˺paŋ ˹joː˺ri ˹naː˺nu](年には勝てない。手足が弱ってしまった)。˹オーパ˺ヤー　˹ヨー˺ル　˺クトー　˹ナー˺ヌ [˹ʔoːpa˺jaː ˹joː˺ru ˺ku̥to: ˹naː˺nu](そんなに早く弱ることはない)。ン˹ベーマー　ヨー˺レー　˺ミサムヌ [ʔm˹beːma: joː˺reː ˺misamunu](少しは弱ればいいのに)。˹ワー˺　メー　ン˹ベーマ　ヨーリ˺リ [˹waː˺ me: ʔm˹beːma joːri˺ri](君はもう、少しは弱れ＜れ＞よ)。

˹ヨー˺ルン **[˹joː˺ruŋ]** 【補動】(動詞の連用形に付いて)、〜ていらっしゃる。**(1)** 上接語の末尾が CVV の音節構造の場合、˹ヨー˺ルン [˹joː˺ruŋ](〜ていらっしゃる) となる。イッ˹ケナ˺　バ˹ライヨー˺ルン [ʔik ˹kena˺ ba˹raijoː˺ruŋ](よくお笑いになる)。ア˹ライヨー˺ルン [ʔa˹raijoː˺ruŋ](お洗いになる)。**(2)** 上接語の末尾が CVCV の音節構造の場合、˹オー˺ルン [˹ʔoː˺ruŋ](〜ていらっしゃる) となる傾向が強い。˹アー˺ヤン　˺カキ˹オー˺ルン [˹ʔaː˺jaŋ kḁki˹ʔoː˺ruŋ](お父さんも書いていらっしゃる)。ユミ˹オー˺ルン [jumi ˹ʔoː˺ruŋ](読んでいらっしゃる)。

˹ヨーン **[˹joːŋ]** 【名】暗闇。闇夜。「〜夜は燭し居る吾を也未＜ヤミ＞にや〜。万、3669」の転訛したもの。ッ˹ふァヨーン [f˹fajoːŋ](暗闇(クラヤミ))。˹ヨーンヌ˺　ミーラ　˹ワー　ヌー˺シル　ア˹ラ˺キ　キ˹ラリ˺ター [˹joːnnu˺ miːra ˹waː nuː˺ʃiru ʔa˹ra˺ki ki˹rari˺taː](暗闇の中を君はどうやって歩いて来れたのか)。˹ヨーンヌ˺ユー　˺ナリティ　ア˹ラカラ˺ヌ [˹joːnnu˺juː ˺nariti ʔa˹rakara˺nu](闇夜になって歩かれない)。

˹ヨー˺ン **[˹joː˺ŋ]** 【形】弱い。「〜片緒に縒りて緒を弱弥＜ヨワミ＞〜。万、3081」の転訛したものか。バ˹ラフ˺タジナー　˹ヨー˺ン [ba˹raɸu̥˺taʤina: ˹joː˺ŋ](藁(ワラ)縄は弱い)。˹フー˺カラジナー　˹ヨーナー˺ヌ [˹ɸuː ˺karaʤinaː ˹joːnaː˺nu](棕櫚(シュロ)縄は弱くない)。カ˹ラダ˺ヌ　˹ヨー˺ヌ　シゥ˹カラシグトー　シーユーサヌ [ka˹rada˺nu ˹joː˺nu si̥˹karaʃiguto: ʃiːjuːsanu](体が弱くて力仕事は出来ない)。カ˹ジェー　シンダイヨー˺　ナリケーン [ka˹ʤeː ʃindai joː˺ narikeːŋ](風は次第に弱くなってきた)。˺ドゥク　˹ヨー˺　ムノー　シゥ˹カウナ [˺duku ˹joː˺ munoː si̥˹kauna](あまり弱いものは使うな)。˺アイニ　˹ヨー˺カー　シゥ˹カーラヌ [˺ʔaini ˹joː˺kaː si̥˹kaːranu](あんなに弱ければ使えない)。

˹ヨーンナー **[˹joːnnaː]** 【副】ゆっくり (緩り)。急がずに。˹ヨーンナー˺　ア˹ラ˺キバ [˹joːnnaː˺ ʔa˹ra ˺kiba](ゆっくり歩きなさいよ)。ア˹バタンドー˺シ　˹ヨーンナー˺　パ˹ナシバ˺ル　ワ˹カ˺ル˹ダー [ʔa ˹batandoː˺ʃi ˹joːnnaː˺ pa˹naʃiba˺ru wa˹ka˺ru˹daː](あわて＜慌て＞ないで、ゆっくり話したらば＜ぞ＞分かるのだよ)。

˹ヨーン˺　ナスン **[˹joːn˺ nasuŋ]** 【連】暮れさせる。夜になす。真っ暗になす。「闇になす」の義。˹ユーボン˺ヌン　ッ˹ふァイ　ヨーン˺　ナシテーラ　˹ヤー˺　パ˹ラ˺バン　ミ˹サ˺ルムヌ [˹juːbon˺nuŋ f˹fai joːn˺ naʃi̥teːra ˹jaː˺ pa˹ra˺bam mi˹sa˺rumunu](夕飯も食べて、日も暮れさせてから家に帰って＜行って＞もよいのに)。

˹ヨーン˺　ナルン **[˹joːn˺ naruŋ]** 【連】日が暮れて暗くなる。真っ暗になる。「闇になる」の義。˹ヨーン˺　ナルンケン　˹タンガ˺シ　パ˹タ˺キナー　˹アーク˺ナ [˹joːn˺ naruŋken ˹taŋga˺ʃi pḁ˹ta˺kinaː ˹ʔaːku ˺na](日が暮れて暗くなるまで一人で畑にいる＜あるく＞な)。

˹ヨーンヌ˺　ミー **[˹joːnnu˺ miː]** 【連】暗闇の中。闇夜(ヤミヨ)の中。˹ヨーンヌ˺　ミー　˺ナリティ　ッ˹ふァー˺ヌ　ノー˹ン˺　ミ˹ララ˺ヌ [˹joːnnu˺ miː ˺nariti f˹faː˺nu noː˹m˺ mi˹rara˺nu](真っ暗闇になって、暗くて何も見え＜見られ＞ない)。˹ヨーンヌ˺　ミーラ　ア˹ラ˺キ　˹クーター [˹joːnnu˺ miːra ʔa˹ra˺ki ˹kuːtaː](暗闇の中を歩いてきたのか)。

˹ヨーンヌ˺　ユー **[˹joːnnu˺ juː]** 【連】闇の夜。闇夜。˹

ヨーンヌ˥　ユーラ　ヤ˩ラビ˥バ　˩タンガ˥シ　シゥ˩カイ˥　ヤ˩ラサリ˥　キ˩ムイ˥ツァー [˩joːnnu˥ juːra ja˩rabi˥ba ta˩ŋga˥ʃi sᵢ˩kai˥ ja˩rasari˥ ki˩mui˥tsaː](闇夜の中から子供一人で使いに遣られて気の毒なことよ)。

˩ヨーンバイ [˩joːmbai] 【名】遅き夕餉(ユウゲ)。日暮れまで夕食の準備が遅れること。「ユー (夕方)・ンバイ (化膿する)」の義か。正常な日常生活時間の配分が仕事の都合により日没時までずれ込むことから意味派生したものと考えられる。シ˩グトゥブリバ　シー　ベーン˥ケン　˩ヨーンバイ　シー˥　ヤ˩ラ˥ビンケン　˩ヤー˥サ　シ˩ミナー˥ヌ [ʃi˩gutuburiba ʃiː beːŋ˥keŋ ˩joːmbai ʃiː˥ ja˩ra˥biŋkeŋ ˩jaː˥sa ʃi˩mi naː˥nu](仕事に夢中になって＜仕事惚(ホ)れして＞いるうちに、日没まで夕食の準備が遅れてしまい、子供たちにお腹を空かさせてしまった)。

˥ヨイ [˥joi] 【名】祝い。˩ウン˥ネーナ　˩ヌー˥ヌ　˩ヨイ˥ヌ　˥アルカヤー [˩ʔun˥neːnaː ˩nuː˥nu ˩joi˥nu ˥ʔarukajaː](あの家に何のお祝いがあるのかねえ)。˥ニービキヨイ　˩スンティ˥　ス˩コーリ　オー˥ルツォー [˥niːbikijoi ˩sunti˥ sᵤ˩koːri ʔoː˥rutsoː](結婚祝いをするといって準備しておられるそうだ)。˩ソーニヨイヤー˥　イ˩チ˥カヤー [˩soːnijoijaː˥ ʔi˩tʃi˥kaja:](生年祝いはいつかねえ)。チ˩カ˥グロー　˩トーカキ˥ヌ　˥ヨイラール　˩ソー˥ル˩ナー [tʃᵢ˩ka˥guroː ˩toːkaki˥nu ˥joiraːru ˩soː˥ru˩naː](最近は米寿＜斗掻の祝い＞からなさるねえ)。

˩ヨイグ˥トゥ [˩joigu˥tu] 【名】祝い事。慶事。˥アイ　サ˩ニ˥ヤワ˩レー˥　ク˩トゥシェー　バン˥テナー　˩ヨイグトゥ˥ヌ　シ˩ジクン˥ティ˩ダー [˥ʔai sa˩ni ˥jawa˩reː˥ kᵤ˩tuʃeː ban˥tenaː ˩joigutu˥nu ʃi˩ʤikun˥ti˩daː](何とまあ嬉しいことか。今年は、私の家には祝い事が続くそうだよ)。

˩ヨイ˥サー [˩joi˥saː] 【名】ぶらんこ (鞦韆(シュウセン))。ふらこ (古語)。「☒　韆、ユサバリ」『類聚名義抄』の転訛したものか。ム˩カ˥シェー　˩キー˥ヌ　ッ˩サーラ˥ナーティ　˥ユー　˩ヨイ˥サー　˥クイ　ア˩サブタン [mu˩ka˥ʃeː ˩kiː˥nu s˩saːra˥naːti ˥juː ˩joi˥saː ˥kui ʔa˩sabutaŋ](昔は木の下でよくブランコを漕いで遊んだ)。ヤ˩ラ˥ビンケーヤ　ミ˩ナ˥カナー　˩ヨイ˥サー　˥クイ　ア˩サビベー [ja˩ra˥biŋkeːja mi˩na˥kanaː ˩joi˥saː ˥kui ʔa˩sabi beː](子供たちは庭でブランコをこいで遊んでいる)。

˩ヨイ˥サー [˩joi˥saː] 【感】掛け声。よいしょ。綱引きをする時や、重い物を引っ張る際に発する掛け声。˩プール˥ヌ　シ˩ナ˥ピケー　˩ヨイ˥サー˩ヨイ˥サーティ　˩シー˥　ヤ˩グイバ˥　カケーティル　˥シナー　ピ˩コーッタ˥ル [˩puːru˥nu ʃi˩naᵢ˩pᵢke: ˩joi˥saː˩joi ˥saːti ˩ʃiː˥ ja˩guiba˥ kᵤke:tiru ˥ʃinaː pᵢ˩koːtta˥ru](豊年祭の綱引きは、ヨイサーヨイサーと掛け声をかけながら＜ぞ＞綱を引かれたものだ)。

˩ヨイ˥ザー [˩joi˥ʤaː] 【名】祝いの座。祝いの座敷。˩ヨイ˥ザーナー　˩サンシンピキプスヌ˥　ブ˩ラーン˥カー　ナ˩ラン˥バ　˥ジー　˩シープス˥　シゥ˩カシ˥　クー [˩joi˥ʤaːna: ˩saŋʃimpᵢ˩kipᵤsunu˥ bu˩raːŋ˥kaːna˩ram˥ba ˥ʤi: ˩ʃiːpᵤsu˥ sᵢ˩kaʃi˥ kuː](祝いの座では三線引きがいないと困るから、地謡(ジウタイ)をする人をご案内して＜お連れして＞きなさい)。

˩ヨイシ˥キン [˩joiʃi˥kiŋ] 【名】祝い着。祝い用の着物。礼服。式服。「祝い・し・衣」の義。˩ワー　ヨイシキン˥マー　˥アボー　イ˩サナケー˥ラ　キサー˩ティ　カイヨー˥レーン [˩waː joiʃikim˥maː ˥ʔaboː ʔi ˩sanakeː˥ra kᵢsaː˩ti kaijoː˥reːŋ](君の祝い着はお母さんが石垣から既に買ってこられた＜買ってこられてある＞)。

˩ヨイシ˥プス [˩joiʃi˥pᵤsu] 【名】祝い客。祝いをする人。「祝い・し・人」の義。˩ヨイシ˥プソー　ギュ˩ター　オール˥ワ [˩joiʃi˥pᵤsoː gju˩taːru ʔoːru˥wa](祝い客は何人＜幾人＞おられるか)。

˩ヨイシ˥ムヌ [˩joiʃi˥munu] 【名】祝い物。祝いの品。祝い酒や祝いの料理に必要な糯米、野菜類、魚類を事前に贈る習慣があった。˩シー˥ネーヌ　˥アッパー　˩ソーニヨイヌ　ヨイシ˥ムノー　˩ヌー˥ル　マ˩シ˥ユー　˩トゥイ˥　シ˩キ˥ミリ˩ヨー [˩ʃiː˥nenu ˥ʔappaː ˩soːnijoinu joiʃi˥munoː ˩nuː˥ru ma˩ʃi˥juː ˩tui˥ ʃᵢ˩ki˥miri˩joː](後ろ隣のお祖母さんの生年祝いの祝い物は何が良いか、問い尋ねて＜聞いて＞みなさいね)。

˩ヨイシ˥ヤー [˩joiʃi˥jaː] 【名】祝いのある家。「祝い・し・家」の義。˩ヨイシ˥ヤーヌ　˩ヨイヌ˥　ムノース˩コーレーン˥カヤー [˩joiʃi˥jaːnu ˩joinu˥ munoː sᵤ˩koːreːŋ˥kajaː](祝いのある家への御祝儀の品は準備できたかねえ)。

˩ヨイシン˥カ [˩joiʃiŋ˥ka] 【名】祝い客。祝い客のグループ。ク˩マ˥ヌ　˩ヨイシン˥カー　˩ニーバン˥ザー　˩トゥー˥シ　˩オーラ˥シバ [ku˩ma˥nu ˩joiʃiŋ˥kaː ˩niːban˥ʤaː ˩tuː˥ʃi ˩ʔoːra˥ʃiba](ここの祝い客は二番座にお通しいなさいよ)。

˥ヨイ　˩スン [˥joi ˩suŋ] 【連】1お祝いをする。˥マーッふァヌ　˩タンカーヨイ　スンティ　ベート ダー [

˥maːffanu ˩taŋkaːjoi sunti beːꜜdaː](孫の誕生祝いをしようとしているよ)。2結婚する。˩ワーテー˥ イ˩チル˥ ヨイ ˩スーワ [˩waːteː˥ ʔi˩ʧiru˥ joi ˩suːwa](君は、それで、いつ＜ぞ＞結婚式を挙げるのか)。

˩ヨイ˥ヌ ˥マク **[˩joi˥nu ˥maku]** 【連】お祝いの幕。˩トーカキ˥ヌ ˩ヨイ˥ヌ ˥マクーン ˩サーソー˥レーン [˩toːkaki˥nu ˩joi˥nu ˥makuːn ˩saːsoː˥reːŋ](米寿＜斗搔(トカキ)＞の祝いの幕も新調された)。

˩ヨイヌ˥ムヌ **[˩joinu˥munu]** 【名】1祝いの物。お祝いに贈る品物。酒や花米。˩ヨイヌ˥ムヌ ス˩コーレー˥カー ˩パー˥ク ˥ムティ ˩ギー オーシ˥ クー [˩joinu˥munu su̥˩koːreː˥kaː ˩paː˥ku ˥muti ˩giː ʔoːʃi˥ kuː](祝いの品が用意できたのなら、早く持って行って差し上げてきなさい)。2お祝いの席で頂く料理。祝いのご馳走(チソウ)。˩ヨイヌ˥ムヌ ヤ˩リバ˥ ムー˩ル˥シ ˥バキ ッ˩ふァイティ アイカー˥リ [˩joinu˥munu ja˩riba˥ muː˩ru˥ʃi ˥baki f˩faiti ʔaikaː˥ri](お祝いの品＜調理＞だから、皆で分けて食べて肖りなさい)。

˥ヨイユーズ **[˥joijuːʤu]** 【名】祝い事。祝いの行事。「祝い用事」の義。ク˩トゥシェー ベー˥ナー ˥ヨイユーズヌ ˩ゴー˥ラーンダ ˩ジンカニ˥ヌ ス˩コールン マイカニ˥テーラ ˩サン˥カー ナ˩ラ˥ヌ [ku̥˩tuʃeː beː˥naː ˥joijuːʤunu ˩goː˥raːnda ˩ʤiŋkani˥nu su̥˩koːrum maikani˥teːra ˩saŋ˥kaː na˩ra˥nu](今年は、我が家では祝い事が多いから、お金＜銭・金＞の用意も事前に＜予てから＞しなければならない)。

ヨ˩ツワリ **[jo˩tsuwari]** 【名】四つ割り。四等分にすること。カツオを三枚に下ろして、更にそれぞれを脊椎に沿って二分し、背肉の部分を˩ウー˥ブシ [˩ʔuː˥buʃi](雄節)、腹部の身を˩ミー˥ブシ [˩miː˥buʃi](雌節) にする。カツオ節製造工場の導入に伴い、鹿児島、宮崎、高知あたりの日本語からの借用語。カ˩ツォー˥ ピ˩サー˥ ウ˩コー˥シティ ナ˩カ˥ブネー˥トゥリ ヨ˩ツ˥ワリ ˩シーティル ネーシ˥ カ˩ツブシェー˥ ス˩ク˥ローッタ [kḁ˩tsoː˥ pi̥˩saː˥ ʔu˩koː˥ʃi̥ti na˩ka˥buneː ˥turi jo˩tsu˥wari ˩ʃiːtiru˥ kḁ˩tsubuʃeː˥ su̥˩ku˥roːtta](カツオを三枚に下ろし＜平を起こし＞て中骨を取り除き、四つ割りにしてから＜ぞ＞、煮てカツオ節を造られた)。

ラ

˥ラ **[˥ra]** 【格助】〜から。1空間的な出どころ＜起点＞を表す。カラ [kara](から)→ ハラ [hara](から)→ [˥ra](〜から) のように音韻変化したもの。˥カマーラ ˥クー プ˩ソー ター˥ヤ [˥kama:ra ˥ku: pu̥˩so: ta:˥ja](あそこから来る人は誰か)。係助詞˥-ヤ [˥-ja](〜は) が付いて、とりたて強調を表す。˩クン˥ネーラーヤ ター˩ン クーン˥シェン [˩kun˥ne:ra:ja ta:˩ŋ ku:ŋ˥ʃeŋ](この家からは誰も来なかった)。係助詞˥ン [˥-ŋ](〜も) が付いて累加的強調表現を表す。˥クマーラン ˥カマーラン ア˩ツァ˥マリ ˥クーン [˥kuma:raŋ ˥kama:raŋ ʔa˩tsa˥mariku:ŋ](ここからもあそこからも集まってくる)。˩クン˥ネーラー ˩カーヌ [˩kun˥ne:ra: ˩ka:nu](この家からは買わない)。副助詞˩バー˥キ [˩ba:˥ki](〜まで) が付いて、極端なものを例示して、他を暗示する。˩ピンソー˥ムノーラ ˩バー˥キン ˩ゾー˥ノー トゥ˩リ˧スー [˩pinso:˥muno:ra ˩ba:˥kin ˩ʤo:˥no: tu˩ri˧su:](貧乏者からまでも税金を取るのか)。2時間的な基点を表す (〜から)。ア˩ツァー˥ラー ˥キー ˥ミサン [ʔa˩tsa:˥ra: ˥ki: ˥misaŋ](明日からは来てもいい)。マ˩ナ˥マーラー ˩クーン˥タンティン ˥ミサン [ma˩na˥ma:ra: ˩ku:n˥tantim ˥misaŋ](今からは来なくてもよい)。副助詞˥ツァン [˥-tsaŋ](〜すら。〜だに。〜でも) が付いて極端な事柄を提示して他の事柄を暗示する。マ˩ナ˥マーランツァン パ˩ラン˥カー ナ˩ラ˥ヌ [ma˩na˥ma:rantsam pa˩raŋ˥ka: na˩ra˥nu](今からでも行かなくてはならない)。副助詞˩-ナー˥ト [˩-na:˥to](〜など。〜なんど) が付いて否定的な表現と呼応し、否定の意味を強める。マ˩ナ˥マーラ ˩ナー˥ト ˥ケー ナ˩ラン˥ダー [ma˩na˥ma:ra ˩na:˥to ˥ke: na˩ran˥da:](今後一切＜今からなどは＞来てはならないよ)。3比較の基準を表す (〜から。〜より)。ク˩レー˥ラー カ˩リル˥ マ˩シ [ku˩re:˥ra: ka˩riru˥ ma˩ʃi](これよりもあれがよい＜増しだ＞)。ウ˩リヌ˥ パダー カ˩ベー˥ラン ッ˩ソー˥ル ˥アル [ʔu˩rinu˥ pada: ka˩be:˥ran s˩so:˥ru ˥ʔaru](あれの肌色は紙よりも白い＜白くぞある＞)。副助詞˥-ツァン [˥-tsaŋ](〜すら。〜だに。〜さえ) が付いて比較の最低基準を表す。ビ˩ケーヌ˥ ウヤーランツァン タ˩カー˥カー ˥ミサムヌ˩ナー [bi˩ke:nu˥ ʔuja:rantsan tḁ˩ka:˥ka: ˥misamunu˩na:](＜せめて＞男の親よりさえ＜も＞高ければ良いのになあ)。4手段を表す (〜で。〜から)。ム˩カ˥シェー ˥フネーラル ウ˩キ˥ナー ˩パッ˥タ [mu˩ka˥ʃe: ˥ɸune:raru ʔu˩ki˥na: ˩pat˥ta](昔は船から＜で＞沖縄へ行った)。マ˩ナ˥マー ヒ˩コー˥ケーラン ウ˩キ˥ナー パ˩ラ˥リン [ma˩na˥ma: çi̥˩ko:˥ke:raŋ ʔu˩ki˥na: pa˩ra˥riŋ](今は飛行機で＜から＞も沖縄へ行ける)。˥フネーラン ˩デー˥カー ˥バー パ˩ラ˥ヌ [˥ɸune:ran ˩de:˥ka: ˥ba: pa˩ra˥nu](船から＜である＞なら私は行かない)。

˥ラー **[˥ra:]** 【接助】〜と。〜すると。*[kara] → *[hara] → [ra:] のように音韻変化したもの。動詞の已然形について確定条件を表す。ウ˩リヌ˥ サ˩キ˥ ヌメーラー ˩ユーアキドゥー˥シヌ˩ミ˥ス˩ダー [ʔu˩rinu˥ sḁ˩ki˥ nume:ra: ˩ju:ʔakidu:˥ʃinu˩mi˥su˩da:](彼が酒を飲むと夜を徹して飲むぞ)。˥アブジェー ˩クン˥ゾー ウ˩ク˥ローレーラー ナ˩クラーン˧ダー [˥ʔabuʤe: ˩kun˥ʤo: ʔu˩ku˥ro:re:ra: na˩kura:n˧da:](お祖父さんが怒られたら怖いぞ)。

ラー˩シーラーシー **[ra:˩ʃi:ra:ʃi:]** 【副】立派に。きちんと。それらしく上等に。若年層は、ダー˩シーダーシー [da:˩ʃi:da:ʃi:](立派に。きちんと。それらしく) ともいう。˩キン˥ユン ラー˩シーラーシー˥シ キ˩シェー˥ティ ˩アー˥キ˥ツォー [˩kiɲ˥jun ra:˩ʃi:ra:ʃi:˥ʃi ki̥˩ʃe:˥ti ˩ʔa:˥ki˩tso:](着物もそれらしくきちんと着ていなさいよ＜着てあるきなさいってば＞)。シ˩グトー スー˥カー ラー˩シーラーシール スー˥ヌーヤ ク˩レー [ʃi˩guto: su:˥ka: ra:˩ʃi:ra:ʃi:ru su:˥ nu:ja ku˩re:](仕事をするならきちんと立派にするのであって。何だね、このざまは＜此れは＞)。

˩ラーッ˥サン **[˩ra:s˥saŋ]** 【形】優れている。良い。立派である。「それらしい。〜らしくある」の転訛

か。上等である。老年層は、˞ダーッ˞サン [˞da:s˞saŋ](立派である) という。ウ˞レー˞ イッ˞ケナ ラーッ˞サンティ スˇクタヌ˞ ウ˞ヌ˞ ウ˞ヤ˞ヌ ッ˞ふァティン˞ ウ˞モーラ˞ヌ ˞ラーッ˞サー ˞ナー˞ヌ [ʔu˞re:˞ ʔik˞kena ra:s˞santi sụ˞kutanu˞ ʔu˞nu˞ ʔu˞ja˞nu f˞fatim˞ ʔu˞mo:ra˞nu ˞ra:s˞sa: ˞na:˞nu](彼は非常に優秀だと聞いたが、その親の子供とも思えない。良くない)。シ˞ナムヌヌ ラーッ˞サカー ˞カウバン˞ ミサン [ʃi˞namununu ra:s˞saka: ˞kaubam˞ misaŋ](品物が良ければ買ってもよい)。˞シンダイ ラーッ˞サー ˞ナリ ˞ケーン [˞ʃindai ra:s˞sa: ˞nari ˞ke:ŋ](次第に良くなって来た)。˞ラーッ˞サー(ル) プ˞ソー˞ プ˞ス˞ローンツァン ブ˞ラーヌ [˞ra:s˞sa:(ru) pụ˞so:˞ pụ˞su˞ro:ntsam bu˞ra:nu](立派な人は一人さえもいない)。˞ラーッ˞サーレー ˞ミサムヌ [˞ra:s˞sa:re: misamunu](まともで < 立派で > あればよいのだが)。

˞ラーッ˞サン [˞ra:s˞saŋ] 【接尾】〜らしい。〜相応しい。「らしさあり」の義。ウ˞レー ピッ˞チン ビ˞キドゥムラーッ˞サー ˞ナー˞ヌ [ʔu˞re: pit˞ʧim bi˞kidumura:s˞sa: ˞na:˞nu](彼はちっとも男らしくない)。ミ˞ドゥ˞モー ミ˞ドゥ˞ムラーッサー アˇリバ˞ル アˇタラ˞サン シ˞ラリ˞ダー [mi˞du˞mo: mi˞du˞mura:ssa: ʔa˞riba˞ru ʔa˞tara˞saŋ ʃi˞rari˞da:](女は女らしくあればこそ、可愛がられもするぞ)。ウ˞ヤ˞キプスラーッサン [ʔu˞ja˞kipụsura:ssaŋ](金持ちらしい)。ウ˞ブ˞プスラーッサー ˞ムニ イ˞ズン [ʔu˞bu˞pụsura:ssa: ˞muni ʔi˞ʤuŋ](大人っぽく < 大人びいて。大人らしく > ものを言う)。

˞ラク [˞raku] 【名】1楽。心身が安らかで楽しいこと。˞ワー˞ ラ˞ク˞ヌ マ˞リバシー˞ ウ˞ラーミ˞サワレー [˞wa:˞ ra˞ku˞nu ma˞riba ʃi:˞ ʔu˞ra:mi˞saware:](君は楽な生まれつきをしていて、羨ましいことよ)。2たやすいこと。やさしいこと。スブットー˞マーシ˞ノ ラ˞ク˞ヌ シ˞グトゥバ˞ カー˞ニ˞ イ˞ラビ˞ル ˞スー [subutto:˞ma:ʃi˞no ra˞ku˞nu ʃi˞gutuba˞ ka:˞ni˞ ʔi˞rabi˞ru ˞su:](怠け者野郎 < 怠け者の猿め > が、楽な仕事をだけ選んで < ぞ > するよ)。

ラ˞クダイ [ra˞kudai] 【名】落第。鳩間島に学校教育が開始された明治 29 年以降に借用された語。˞キュウダイ [˞kju:dai](及第) の対義語。˞ガッコー˞ヌ パ˞ジマルタ˞ ジ˞ブンマー˞ ラ˞クダイ スー˞ プ˞スンド ゴー˞ラータツォー ˞キューダイ スー シー˞トー ワ˞ジカ˞ル < ン˞メーマル > ブ˞タ˞ティバーヤ [˞gakko:˞nu pa˞ʤimaruta˞ ʤi˞bumma:˞ ra˞kudai su:˞ pụ˞sundu go:˞ra:tatso: ˞kju:dai su: ʃi:˞ to: wa˞ʤika˞ru < ʔm˞me:maru > bu˞ta˞tiba:ja](学校が始まった頃は落第する人が多かったそうだ。及第する生徒はわずかしかいなかった < 僅かぞいた > ってよ)。

ラ˞クラクー˞トゥ [ra˞kuraku:˞tu] 【副】楽々と。ゆったりして。安らかに。「Racuracuto. ラクラクト(楽々と) 心のままに、あるいは、安らかに.」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ッ˞ふァンケー˞ヌ フ˞ドゥビ クー˞ター マ˞ナ˞マー ラ˞クラクー˞トゥ ク˞ラシ オー˞ルン˞ダー [f˞faŋke:˞nu ɸu˞dubi ku:˞ta ma˞na˞ma: ra˞kuraku:˞tu ku˞raʃi ʔo:˞run˞da:](子供たちが成長してきたので、今は楽々と暮らしておられるよ)。

˞ラッ˞キョー [˞rak˞kjo:] 【名】らっきょう (薤)。ユリ科ネギ属の多年生作物。地下に白色の鱗茎(リンケイ)をつくる。独特の臭気を有するが、大蒜(ニンニク)ほどの臭気(シュウキ)はない。鱗茎を甕(カメ)に入れ、塩漬けにして保存した。ム˞カ˞シェー ピ˞ルン ラッ˞キョーン ス˞ク˞リ ブ˞レー˞ンダ イ˞サ˞ヌ フ˞チ˞ル カ˞カラン˞シェン [mu˞ka˞ʃe: pi˞run rak˞kjo:n sụ˞ku˞ri bu˞re:˞nda ʔi˞sa˞nu ɸụ˞ʧi˞ru ka˞karaŋ˞ʃeŋ](昔は大蒜もラッキョウも作っていたから、医者の薬の世話にならなかった < 薬にかからなかった >)。˞ラッキョー˞ヌサーギ˞アルカー カ˞ティ˞ムノー ˞ナーン˞タンティン˞ミサン [˞rakkjo:˞nusa:gi ˞ʔaruka: ka˞ti˞muno: ˞na:n˞tantim ˞misaŋ](ラッキョーがさえあれば、おかずは無くてもよい)。

˞ラ˞リン [˞ra˞riŋ] 【助動】〜られる。カ変、サ変動詞˞スン [˞suŋ](する) の連用形シ [ʃi](せ < 為 >) について、受身、可能、自発の意味を表す。˞アツァー キ˞ラ˞リン [˞ʔatsa: ki˞ra˞riŋ](明日は来られる)。ク˞レー バン˞ヌン シ˞ラリン [ku˞re: ban˞nuŋ ʃi˞rariŋ](これは私にも出来る < せられる >)。˞アツァー キ˞ララ˞ヌ [˞ʔatsa: ki˞rara˞nu](明日は来られない)。˞バン˞マー シ˞ララヌ [˞bam˞ma: ʃi˞raranu](私には出来ない < せられない >)。キ˞ノー˞ヤ キ˞ラリ˞タン [ki˞no:˞ja ki˞rari˞taŋ](昨日は来られた < 来れた >)。ク˞レー バン˞ヌン シ˞ラリタン [ku˞re: ban˞nuŋ ʃi˞raritaŋ](これは私にもできた < せられた >)。˞キー ˞ミサンティ ア˞ザバル˞ キ˞ラリ˞ル [˞ki:˞ misanti ʔa˞ʤabaru˞ ki˞rari˞ru](来てもいいと言ったらばこそ来られる)。˞アツァー キ˞ラ˞リ プ˞ソー ター˞ヤ [˞ʔtsa: ki˞ra˞ri pụ˞so: ta:˞ja](明日来られる人は誰か)。˞シー˞ ミサンティ ア˞ザバル˞ シ˞

ラリル [ʃiː misanti ʔaɕabaru ʃirariru](してもよいと言ったらば＜ぞ＞することができる＜為れる＞)。シラリ　プソー　シーバ [ʃirari pu̥so: ʃiːba](できる＜為れる＞人はしなさいよ＜為よ＞)。

ランガサ [raŋgasa] 【名】こうもり傘(カサ)。洋式の傘。首里方言のランガサ [raŋgasa](蘭傘(ランガサ)) からの借用語。ダンガサ [daŋgasa](こうもり傘) ともいう。男子のハイカラの象徴とされていた。普通は、サナ [sana](傘。蛇(ジャ)の目傘(メガサ)) という。アミヌ　フーカー　ランガサ　カビティ　パリバヨー [ʔami nu ɸu:ka: raŋgasa kabiti paribajo:](雨が降ったらこうもり傘を差して＜被(カブ)って＞行きなさいね)。

ランプ [rampu] 【名】ランプ (lamp＜洋灯＞オランダ語からの借用語)。石油ランプ。ダンプ [dampu](洋灯) ともいう。老年層はトゥール [tuːru](灯籠(トウロウ)) という。ランプヌ　カサ [rampunu kasa](ランプの笠)、ランプヌ　フヤ [rampunu ɸuja](ランプの火屋(ホヤ)。ランプの火をおおうガラス製の筒(ツツ))、ランプヌ　トゥージン [rampunu tuːɕiŋ](ランプの芯。灯芯(トウシン))。ゴブランプ [gobu rampu](灯芯が五分のランプ)、ハチブランプ [haʔtʃibu rampu](灯芯が八分のランプ。光度が最も明るいランプ) があった。ランプヌ　フヤ　ッスリティ　アバスブナー　シキユー　イリル　シグトゥル　ランプヌ　ソージ　ヤッタル [rampunu ɸuja sʳsuriti ʔa baʳsubuna: ʃi̥ʳkiʳju: ʔiʳriru ʃiʳguturu rampunu ʳsoːʳ ɕi ʳjattaru](ランプの火屋の煤(ススス)を拭(フ)いて油壺に石油を入れる仕事がランプの掃除だったよ)。

ランボー [ramboː] 【名】乱暴(ランボウ)。粗暴(ソボウ)なこと。暴力を働くこと。荒々しい振る舞いをすること。標準語からの借用語。普通はダンボー [damboː](乱暴) という。ウレー　サキ　ヌムカー　ランボー　スー　ヤナフシヌ　アンダー [ʔuʳreːʳ sḁʳki numuka: ʳramboː ʳsuːʳ jaʳnaɸu̥ʃinu ʔanʳdaː](彼＜あれ＞は酒を飲むと乱暴をする悪い癖(クセ)があるよ)。

ランボームヌ [ramboːmunu] 【名】乱暴者。「乱暴する者」の義。ダンボームヌ [dambo:ʳmunu](乱暴者) ともいう。ボーキラー [boːkiraː](乱暴者) の類義語。ヤラビ　シェーンケンマー　イットーッふァ　ヤッタンドゥ　ナカヤビ　シティ　ランボームヌ　ナリ　ナーンバン [jaʳraʳbi ʳʃeːŋ kemma: ʳʔitto:fʳfa ʳjattanduʳ naʳkaʳjabi ʃiʳti ramboːʳ munu ʳnari ʳnaːmʳbaŋ](子供の頃は良い子だったのだが、青年期にぐれて＜青少年期に非行化して。中破れ＞、乱暴者になってしまったよ)。

リ

˥リ **[˥ri]** 【名】里。距離を測る単位。3.9273 キロメートル。パ˥トゥ˥マーラ　˥ウイバルバー˥ケー　イ˥チ˥リティ　ア˥ザリ　ブー˥ダー [pḁ˥tu˥ma:ra ˥ʔuibaruba: ˥ke: ʔi˥tʃi˥riti ʔa˥ʤari bu:˥da:](鳩間島から上原までは一里といわれているよ)。

˥リー **[˥ri:]** 【名】1例。先例。˥リーヌ　ナーン˥　クトー　˥サンムル˥　マ˥シ [˥ri:nu na:ŋ˥ ku̥to: ˥sammuru ˥ ma˥ʃi](先例のないことはしないほうがよい＜増しだ＞)。2慣習。習慣。˥アル　˥リー˥ヤ　˥トース˥ナ　˥ナー˥ン　˥リー˥ヤ　タ˥ティル˥ナ [˥ʔaru ˥ri:˥ja ˥to:su˥na ˥na:˥n ˥ri:˥ja tḁ˥tiru˥na](ある例＜慣習＞は倒す＜捨てる＞な、ない例＜先例のないこと＞は立てる＜新設する＞な。＜諺＞)。

˥リー **[˥ri:]** 【名】利率。利子。利息。カ˥ルター　ジン˥ヌ　˥リー˥ユン　パ˥ライユーサン˥ベーティ　˥ザイサンマー　ウ˥サーリ＜ウ˥ソーリ＞　ナーン˥ツォー [ka˥ruta: ʤin˥nu ˥ri:˥jum pa˥raiju:sam˥be:ti ˥ʤaisamma: ʔu˥sa:ri＜ʔu˥so:ri＞ na:n˥tso:](借りた金の利子をも払えないので、財産は差し押さえられてしまったそうだ)。

˥リーギ **[˥ri:gi]** 【名】礼儀。作法。「礼儀」の転訛したもの。プ˥スヌ　オーリ˥バン　˥アイシチン　シーユーサン˥カー　˥リーギ˥　ッ˥サン　ムヌ˥ティ　˥シー˥　プ˥スン˥　バ˥ラーリントダー [pu̥˥sunu ʔo:ri ˥baŋ ˥ʔaiʃi̥tʃiŋ ʃi:ju:saŋ˥ka: ˥ri:gi˥ s˥sam munu˥ti ˥ʃi:˥ pu̥˥sum˥ ba˥ra:rin˧da:](人がいらっしゃっても挨拶も出来なかったら、礼儀を知らない者といって、人様に笑われるぞ)。

リ˥クッ˥チ **[ri˥kut˥tʃi]** 【名】1理屈。若年層は、ディ˥クッ˥チ [di˥kut˥tʃi](理屈) ともいう。˥ワー˥　ア˥ズ˥　リ˥クッ˥チェー　ユ˥ヌナカ˥ナー＜˥シキンナー＞　˥トゥーラ˥ヌ [˥wa:˥ ʔa˥ʤu˥ ri˥kut˥tʃe: ju˥nunaka ˥na:＜˥ʃikinna:＞ ˥tu:ra˥nu](君のいう理屈は世の中には通用しない)。2道理。理論。ガ˥クムン　˥シー˥　リ˥クッ˥チ　ッ˥サン˥カー　キ˥カイ˥ヤー　˥マーサラヌ [ga˥ku˥muŋ ˥ʃi:˥ ri˥kut˥tʃi s˥saŋ˥ka: ki̥˥kai˥ja: ˥ma:saranu](勉強＜学問＞して理論を知らないと機械は運転できない＜回されない＞)。3悪知恵(ワルガシコ)。悪賢(ワルヂエ)くなる。シ˥ナムヌヌ˥　キ˥ス˥ター　˥ダイヤー˥　ア˥ガルンティ˥　リ˥クッ˥チェー　ッ˥ふァイティ　カーサンバン [ʃi˥namununu˥ ki̥˥su˥ta: ˥daija: ˥ ʔa˥garunti˥ ri˥kut˥tʃe: f˥faiti ka:sambaŋ](品物が切れたので、値段が上がると悪賢くなって＜理屈を食って。企(タクラ)んで＞売らないよ)。

リ˥クッ˥チ　ッ˥ふン **[ri˥kut˥tʃi f˥fuŋ]** 【連】悪賢くなる。悪知恵を働かす。「理屈を食う」の義。ク˥ヌ˥ヤ˥ラ˥ベー　カ˥サナーリ　トゥー˥シ　˥ケーティ　リ˥クッ˥チェー　ッ˥ふァイ˥　ア˥ラカサラ˥ヌ [ku˥nu˥ ja˥ra˥be: kḁ˥sana:ri tu:˥ʃi ˥ke:ti ri˥kut˥tʃe: f˥fai˥ ʔa ˥rakasara˥nu](この子は負んぶされ通してきたので、悪知恵がついて歩かされない)。

リ˥クッ˥チャー **[ri˥kut˥tʃa:]** 【名】悪賢い人。「理屈屋」の義。若年層は、ディ˥クッ˥チャー [di˥kut˥tʃa:](悪賢い人) ともいう。ウ˥レー˥　リ˥クッ˥チャー　ヤ˥ルンダ　ドゥー˥ヌ　˥マイ　カー˥ニル˥　ス˥ルバンマー　パン˥ク　˥スン　˥スー˥　クトー　サ˥ヌ [ʔu˥re:˥ ri˥kut˥tʃa: ja˥runda du:˥nu ˥mai ka:˥niru˥ su ˥rubamma: paŋ˥ku ˥sun ˥su:˥ ku̥to: sa˥nu](彼は悪賢いから自分の利益だけを考える＜自分の前にだけソロバンをはじく＞、損をすることはしない)。

リ˥シ **[ri˥ʃi]** 【名】利子。金利。標準語からの借用語。カ˥ルタ　ジン˥ヌ　リ˥シ˥　パ˥ライユーサン˥　ベーティ　˥ザイサン　ウ˥ソーリ　ナー˥ヌ [ka˥ruta ʤin˥nu ri˥ʃi˥ pa˥raiju:sam˥ be:ti ˥ʤaisaŋ ʔu˥so:ri na: ˥nu](借りた金の利子を払うことが出来ないので、財産を差し押さえられてしまった)。

˥リッ˥シン **[˥riʃ˥ʃiŋ]** 【名】立身。出世。ッ˥ふァ　リッ˥シン　シ˥ミルンティル˥　ウヤー　˥ナン˥ギ　˥アワリン　˥スー˥ダー [f˥fa riʃ˥ʃiŋ ʃi˥miruntiru˥ ʔuja: ˥naŋ˥gi ˥ʔawarin ˥su:˥da:](子供を立身出世させようとして＜ぞ＞親は難儀苦労もするのだよ)。

˥リッ˥パ **[˥rip˥pa]** 【形動】立派だ。標準語からの借用

語。˹ディッ˺パ [˹dip˺pa] ともいう。普通は、˹ジョー˺トゥ [˹ʤo:˺tu](上等) という。˺カキサーギ　˹シーシェー˺カー　˺メー　˹リッ˺パヨー [˺kạkisa:gi ˹ʃi:ʃe:˺ka: ˺me: ˹rip˺pajo:](書きさえ出来れば、もう立派だよ)。ヤ˹ラ˺ベー　˹リッ˺パニ　シゥ˹カ˺ナイ　フ˹ドゥバシ˺ヨー [ja˹ra˺be: ˹rip˺pani sị˹ka˺nai ɸu˹dubaʃi˺jo:](子供は立派に養育して成長させなさいよ)。˺ウビ　カキ˹シェー˺カー　˹リッパ˺ナ　˺ムヌヨー　ター˹ン˺　アイヤー　カ˹キユーサ˺ヌ [˺ʔubi kạki˹ʃe:˺ka: ˹rippa˺na ˺munujo: ta:˹ŋ˺ ʔaija: kạ˹kiju:sa˺nu](それだけ書けたら立派なものだよ。誰もそのようには書けないよ)。

˹リュー [˹rju:] 【名】 (動) 想像上の動物。竜。竜神。水の神様として信仰されている。/ウマンチュヌニガイヤヨー　アカカラジヌ　ニガイヤヨー　ハーリ　アミタボリ　リューガナシ (民衆の願いはヨー、百姓の願いはヨー　ハーリ＜囃子＞　雨を賜れ竜神様)/(ア˹マン˺グイ [ʔa˹maŋ˺gui]＜雨乞い歌＞)『鳩間島古典民謡古謡集』。

˹リュー [˹rju:] 【名】ろ (艪・櫓)。艪床(ロドコ)にある˺マラ [˺mara](艪杭(ログイ)) に艪の˹ピー [˹pi:](艪臍(ロベソ)) をはめ、舷(フナベリ)に結んだハ˹ヨー [ha˹jo:](早緒(ハヤオ)) を艪の腕に掛け、艪を漕いで舟を進める船具。˹プーシンジダイヌ˺　カ˹ツシン˺ナー　˺ハッチョーリューティ　˹シー　リューヤ　ヤーチナ˺　ムティティ　˹リューバ　クイ˺ル　カ˹ツォー　ホー˺ソーッタティ˹ダー [˹pu:ʃinʤidainu˺ kạ˹tsuʃin˺na: ˺hattʃo:rju:ti ˹ʃi:rju:ja ja:ʧina:˺ mutiti ˹rju:ba kui˺ru kạ˹tso: ho:˺so:t-tati˹da:](帆船時代のカツオ漁船には八挺艪(ハッチョウロ)といって、艪は八挺ずつ持って、艪を漕(コ)いで＜ぞ＞カツオは釣られたそうだよ)。

˹リューグー˺ヌカン [˹rju:gu:˺nukaŋ] 【名】水神。海神。˹竜宮の神様˺」の義。ス˹ナカ˺ナーティ　˹ミー˺ウティ　˹シェー˺　プ˹ソー　リューグー˺ヌカン　˹ナー˺ニ　˹ニン˺ガイ　ッ˹サリティ　ジーヌギ　ソーッ˺タ [su˹naka˺na:ti ˹mi:˺ʔuti ˹ʃe:˺ pụ˹so: rju:gu:˺nukan ˹na:˺ni ˹niŋ˺gai s˹sariti ʤi:nugi so:t˺ta](海で死んだ人は、竜宮の神様に祈願申し上げて、ジーヌギ＜死人の霊を抜いて、霊を解放してもらう祈願＞をされた)。˹リューグー˺ヌカン　˹トゥー˺シ　˹ニン˺ガイ　ッ˹サリバル˺　ナル [˹rju:gu:˺nukan ˹tu:˺ʃi ˹niŋ˺gai s˹saribaru˺ naru](竜宮の神様へ通して祈願申し上げないといけない＜祈願申し上げればぞなる＞)。

˹リューグーマチ˺リ [˹rju:gu:maʧi˺ri] 【名】海神祭。˹竜宮祭り˺」の義。カツオ漁業者が行う安全祈願と豊漁感謝の祈願を行うこと。石垣島の観音堂へ参詣して祈願した。大漁旗を立てて祈願し、祝った。イカ漁に従事する人も安全祈願と豊漁感謝の祈願を島の御嶽で執り行った。カ˹ツシンマー　リューグーマチ˺リ　˹シーティル˺　フネー　パ˹マ˺ナー　˹アイヨーッ˺タ [kạ˹tsuʃimma: rju:gu:maʧi˺ri ˹ʃi:tiru˺ ɸune: pa˹ma˺na: ˹ʔaijo:t˺ta](カツオ漁船は竜宮祭りをしてから、船は浜に陸揚げされた)。

˹リョーバーヌキル [˹rjo:ba:nukiru] 【名】両刃鋸(リョウバノコギリ)。大工が使用する鋸で、鋸歯(キョシ)の片側はもくめ (木理) に沿って切る、タ˹テ˺ビキ [tạ˹te˺biki](縦挽鋸歯(タテビキキョシ))、片側はもくめ (木理) と直角に切る、ヨ˹コビキ [jo˹kobiki](横挽(ヨコビキ)鋸歯) になっている。˹サイ˺コー　˹リョーバーヌキルバ˺　シゥ˹カイル˺　イツァーバ˹コー˺ル [˹sai˺ko: ˹rjo:ba:nukiruba˺ sị˹kairu˺ ʔitsa: ba˹ko:˺ru](大工は両刃鋸を使わって＜ぞ＞板を切り分けられる)。

˹リョーン˺グ [˹rjo:ŋ˺gu] 【名】仏前に供える食膳。˹ドーン˺グ [˹do:ŋ˺gu](仏前に供える食膳。霊供(リョウグ)) と訛っていう人もいる。那覇方言の影響であろう。˹ソーラン˺ヌ　ウ˹クリヌ　リョーン˺ゴー　ス˹コーリ˺　マ˹チ˺ヨー [˹so:ran˺nu ʔu˹kurinu rjo:ŋ˺go: sụ˹ko:ri˺ ma˹ʧi˺jo:](お盆の送りの日の仏前に供える食膳は準備して供え＜祀り＞なさいよ)。

˹リョーング˺ブン [˹rjo:ŋgu˺buŋ] 【名】仏前に食事を供えるためのお膳一式。一汁七采の料理を盛るお膳。˹ウン˺ネヌ　˹ソッ˺コーヤ　ム˹カシ˺ヌ　˺カタチニ　˹リョーング˺ブン　ス˹コーリ˺　シ˹キソー˺ル [˹ʔun˺nenu ˹sokko:˺ja mu˹kaʃi˺nu ˺kạtatʃini ˹rjo:ŋgu˺bun sụ˹ko:ri˺ ʃị˹kiso:˺ru](あの家の法事＜焼香＞は、昔のように仏前に食事を供えるお膳一式を準備なさってお供えなさる)。

˹リ˺ルン [˹ri˺ruŋ] 【助動】～られる。一、二段活用系の動詞、ウ˹キ˺ルン [ʔu˹ki˺ruŋ](起きる)、ナ˹ラビルン [na˹rabiruŋ](並べる)、サ˹ギルン [sa˹gi˺ruŋ](下げる)、ユ˹ディ˺ルン [ju˹di˺ruŋ](茹でる)、˹ヌーシルン [˹nu:ʃiruŋ](載せる)、ア˹ツァミ˺ルン [ʔa˹tsami˺ruŋ](集める)、˹カンガイ˺ルン [˹kaŋgai˺ruŋ](考える)、˹クイルン [˹kuiruŋ](越える) などの未然形について、受身、可能の意味を表す。˹リンとも言う。シ˹グトゥ　サン˺カー　˺ティマー　サ˹ギラリ˺ルンティ˹ダー [ʃi˹gutu saŋ˺ka: ˺tima: sa˹girari˺runti˹da:](仕事をしないと手間賃を下げられるそうだよ＜受身＞)。˹ダイヤー˺　ク˹マーバー˺ケー　サ˹ギラリルン˺ドゥ

˹マービン˺マー　サ˹ギララ˺ヌ [˹daija:˺ ku˹ma:ba:˺ke: sa˹girarirun˺du ˹ma:bim˺ma: sa˹girara˺nu](値段は、ここまでは下げられるが、これ以上は下げられない＜可能＞)。サ˹ギラリ˺ル　˺クトー　˹ナーン˺　パジ [sa˹girari˺ru ˺kʉto: ˹na:m˺ paʤi](下げられることはないはずだ＜受身＞)。サ˹ギラリ˺レー　˺ミサムヌ [sa˹girari˺re: ˺misamunu](下げられたらいいのに＜可能＞)。˺ウナー　˹ベー˺ルカー　ア˹チ˺ユーシ　ユ˹ディラリ˺ルン˹ダー [˺ʔuna: ˹be:˺ruka: ʔa˹ʧi˺ju:ʃi ju˹durari˺run˹da:](ここにいると熱湯で茹でられる＜火傷する＞ぞ＜受身＞)。˹ソーミン˺マー　˹バン˺ヌン　ユ˹ディラリ˺ルン [˹so:mim˺ma: ˹ban˺nuɲ ju˹dirari˺ruŋ](素麺(ソウメン)は私にも茹(ユデ)られる＜素麺チャンプルーは私にも調理できる＞＜可能＞)。

˹リン [˹riŋ] 【助動】～れる。四段活用形動詞の未然形について、受身、可能、自発の意味を表す。ク˹レー　バン˺ヌン　カ˹カ˺リン [ku˹re: ban˺nuŋ kạ˹ka˺riŋ](これは私にも書かれる＜可能＞)。カ˹リン˺　シ˹ダキ˺　カ˹カ˺リ　˹ナー˺ヌ [ka˹riŋ˺ ʃi˹daki˺ kạ˹ka˺ri ˹na:˺nu](彼に先に書かれてしまった＜受身＞)。˹ギューム˺シン˺　カキ　˺ナラウカー　˹ナンククル　˹ゾー˺ブンニ　カ˹カ˺リンヨー [˹gju:muʃiŋ˺ kạki˺ narauka: ˹naŋkuku˺ru ˹ʤo:˺bunni kạ˹ka˺riɲjo:](何度も練習する＜書き習う＞と自ずから上手に書かれる＜自発＞よ)。パ˹ガ˺リン [pa˹ga˺riŋ](剥がれる)。トゥ˹バリン [tu˹bariŋ](飛ばれる)。マ˹タ˺リン [ma˹ta˺riŋ](待たれる)。サ˹リン [sa˹riŋ](される＜できる＞)。ア˹ザリン [ʔa˹ʤariŋ](言われる＜いえる＞)。ユ˹マ˺リン [ju˹ma˺riŋ](読まれる＜読める＞)。シ˹ナリン [si˹nariŋ](死なれる＜死ねる＞)。トゥ˹ラ˺リン [tu˹ra˺riŋ](取られる＜取れる＞)。カ˹カラ˺ヌ [kạ˹kara˺nu](書かれない)。˹ワン˺　カ˹カリ˺ル　˺クトー　˹ナー˺ヌ [˹waŋ˺ kạ˹kari˺ru ˺kʉto: ˹na:˺nu](君に書かれる＜書ける＞ことはない)。˹マー˺ビン　カ˹カ˺リカー　˺ミサムヌ [˹ma:˺biŋ kạ˹ka˺rika: ˺misamunu](もっと書かれたら＜書けたら＞よいのに)。

˹リン˺キ [˹riŋ˺ki] 【名】りんき (悋気)。情事に関する嫉妬(シット)。やきもち。ウ˹リヌ˺　トゥ˹ジェー　サッ˺コー　˹リン˺キ　˹スンダ˺　ミ˹ドゥムンケー˺ヤ　ウ˹リトー˺　パ˹ナ˺シェー　ナ˹ラ˺ヌ [ʔu˹rinu˺ tu˹ʤe: sak˺ko: ˹riŋ˺ki ˹sunda˺ mi˹dumuŋke:˺ja ʔurito:˺ pa˹na˺ʃe: na˹ra˺nu](彼の妻が非常に悋気をするので、女性たちは、彼とは話が出来ない)。

˹リン˺ビョー [˹rim˺bjo:] 【名】淋病(リンビョウ)。標準語からの借用語。戦時中に兵役に就いた人が経験したという。˹ピー˺タイナ　˹ギーティル　リン˺ビョー　カ˹カル˺タティ˹ダー [˹pi:˺taina: ˹gi:tiru rim˺bjo: kạ˹karu˺tati ˹da:](兵隊に行って淋病に罹患(リカン)したそうだよ)。

ル

˥**-ル [˥-ru]** 【接尾】接尾語。たり (人) の転訛したもの。一人から四人までの人を数える接尾語。五人以上は、˩ニン [˩niŋ](人) を用いる。プ˩ス˥ル [pu̥˩su˥ru](一人)、フ˩タール [ɸu̥˩ta:ru](二人)、ミ˩ツァール [mi˩tsa:ru](三人)、ユ˩タール [ju˩ta:ru](四人)。ギュ˩タール [gju˩ta:ru](何人。「幾たり」の転訛したもの)。ッ˩ふァー˥　ギュ˩ター˥　ナシェーワ [f˩fa:˥ gju˩ta:ru˥ naʃe:wa](子供は何人生んだか)。

˥**-ル [˥-ru]** 【係助】係助詞 (ぞ)。取立て強調する。上接語の末尾が子音 N で終わる場合、˥-ル [˥-ru](ぞ) は、˥-ドゥ [˥-du](ぞ) となる。**(1)** 名詞について、下に続く動詞と係り結びの関係をつくる。˥-ドゥ [˥-du](ぞ) は、その異形態。ア˩ツァ˥ル　˥クー　˩キュー˥ヤ (ワ)　˩クー˥ヌ [ʔa˩tsa˥ru ˥ku: ˩kju:˥ja(wa)˩ku:˥nu](明日 < ぞ > 来る、今日は来ない)。˩ワール　ワッ˥サ　ター˩ン　ワッ˥サー　˩ナー˥ヌ [˩wa:ru was˥sa ta:˩ŋ was˥sa: ˩na:˥nu](君が悪い、誰も悪くは無い)。ク˩レー　バー˥ル　˥カク [ku˩re: ba:˥ru ˥kḁku](これは私が < ぞ > 書く)。**(2)** 活用語の連用形につき、下に係って連体形で結ぶ。˩バン˥ヌン　カ˩キ˥ル　˩スー˥　ア˩サベー˥　サ˩ヌ [˩ban˥nuŋ kḁ˩ki˥ru ˩su:˥ ʔa˩sabe:˥ sa˩nu](私も書く < 書きぞする >、遊びはしない)。**(3)** 活用語の連体形につく。˩パー˥ク　カ˩ク˥ル　マ˩シ [˩pa:˥ku kḁ˩ku˥ru ma˩ʃi](早く書くのが < 書くぞ > 増しだ)。˩パー˥ク　˩スール˥　マ˩シト ダー [˩pa:˥ku ˩su:ru˥ ma˩ʃi-da:](早くするのがいい < 増しだ >)。**(4)** 形容詞の語幹につく。˩ワー˥　バーラン　タ˩カー˥ル　˥アル　ピ˩コー　ナー˥ヌ [˩wa:˥ ba:ran tḁ˩ka:˥ru ˥ʔaru pi̥˩ko: na:˥nu](君は僕よりも高い < 高くぞある >。低くはない)。**(5)** 格助詞につく。˩ヌーヌ˥ル　˩ワッ˥サユー　ムシ˩トゥ˥　ア˩ティンガーラヌ [˩nu:nu˥ru ˩was˥saju: muʃi̥˩tu˥ ʔa˩tiŋga:ranu](何が < ぞ > 悪いのか、全く分から < 見当がつか > ない)。˥マナール　ア˩ル˥ワ [˥mana:ru ʔa˩ru˥wa](何処に < ぞ > あるか)。˩ワーヌーバ˥ル　˩カウワ [˩wa: nu:ba˥ru ˩kauwa](君は何を < ぞ > 買うか)。˩キュー˥ヤ (ワ)˩タットゥル　パッ˥タ [˩kju:˥ja(wa)˩tatturu pat˥ta](今日は誰と < ぞ > 行ったのか)。˩ワーニ˥ル　ア˩ズ˥　プ˩ス˥ネー　ア˩ザヌ [˩wa:ni˥ru ʔa˩ʣu˥ pu̥˩su˥ne: ʔa˩ʣanu](君にが < ぞ > 言う、他人には言わない)。˥マーラル　˩クー˥タ [˥ma:ranu ˩ku:˥ta](何処から < ぞ > 来たのか)。˩マー˥ティル　˩パッ˥タ [˩ma:˥tiru ˩pat˥ta](何処へと < ぞ > 行ったのか)。˥アンシル　イ˩ゾー˥　ガ˩ラ˥ス [˥ʔaŋʃiru ʔi˩ʣo:˥ ga˩ra˥su](網で < ぞ > 魚は漁獲する)。˩ドゥーバ˥ル　ヤ˩マ˥シ　˥シケーティバン [˩du:ba˥ru ja˩ma˥ʃi ˥ʃi̥ke:tibaŋ](体 < 胴 > を < ぞ > 痛めて < 病まして > おいてあるそうだとよ)。格助詞˩-ン [˩-ŋ](に。目的格) や語末に N がたつ語につくときは、-ル [-ru](ぞ) は-ドゥ [-du](ぞ) に替変する。シ˩グトゥ　シンドゥ　パッ˥タ [ʃi˩gutu ʃindu pat˥ta](仕事をしに < ぞ > 行った)。**(6)** 接続助詞˥-バ [˥-ba](～ば) が付いて強調表現を作る。˥ウヤ　ヤ˩リバル　ソーユン　スー˥　ウ˩リンツァン˥　ッ˩サヌ [˥ʔuja ja˩ribaru so:jun su:˥ ʔu˩rintsan˥ s˩sanu](親なればこそ < ぞ > 心配もする。それも知らないのか)。**(7)** 副助詞に付いて限定強調し、次に続く事柄を推量させる。ヤ˩ラビ˥ヌサーギル　ッ˩スメーティ　˥タクーン　˥トゥル　ウ˩ブビキドゥム˥ヌ　ナ˩ラン˥　クトー　˩ナー˥ヌ [ja˩rabi˥nusa:giru s˩su˥me:ti ˥tḁku:n ˥turu ʔu˩bubikidumu˥nu na˩raŋ˥ ku̥to: ˩na:˥nu](子供がさえ < ぞ > 潜りながら蛸をも漁獲する。大の男が出来ないことはない)。シン˩トゥ˥　クビカー˩ニル˥　ヌ˩カ˥レール [ʃin˩tu˥ kubika:˩niru˥ nu˩ka˥re:ru](たったこれだけが < ぞ > 残っている。< たったこれだけしか残っていない >)。

˥**ルガイ [˥rugai]** 【名】(植) アロエ。˥ドゥガイ [˥dugai] ともいう。観賞用、薬用に栽培する。火傷や打ち傷、腫物(ハレ)に効く。多肉の葉を割いて葉肉部を患部に当てて包み治療した。ろかい (蘆薈)。˩パン˥ヌ　˥シミナ　イ˩シバ˥　ウ˩タ˥シティ　ッ˩ふォーッふォー˥シ　ウ˩チ˥シ　イ˩リティ˥　ヤミ　ナ˩ラン˥シ

ェンドゥ　˥ルガイ　アˈティティ˥　ッˈス˥ミ　˥シケータ　˥プスイシ　ˈノー˥レータン [ˈpan˥nu ˥ʃimina: ʔiˈʃiba˥ ʔuˈtaʃi̥˥ti fˈfo:ffo:˥ʃi ʔuˈtʃi˥ʃi ʔiˈriti˥ jami naˈraŋ˥ʃendu ˥rugai ʔaˈtiti˥ sˈsu˥mi ˥ʃi̥ke:ta: ˥pu̥suiʃi ˈno:˥re:taŋ](足の爪に石を落として、真っ黒に打ち身をいれて＜内出血させて＞しまって、痛くて堪らなかったが、アロエの葉を割いて幹部に当てて包んでおいたら一日で治った＜経験がある＞よ)。

˥ルク [˥ruku] 【名】数の名。六。ルˈクンガ˥チ [ruˈkuŋ˥gatʃi](六月)。˥トシェー　ルˈク˥ジュー　ナˈルン˥ドゥ　˥ムヌ　ッˈサヌ [˥tu̥ʃe: ruˈku˥ʤu: naˈrun˥du ˥munu sˈsanu](年は六十歳になるが、ものごとの道理が分からない＜ものを知らない＞)。ルˈクサク˥ボー [ruˈkusaku˥bo:](六尺棒。東村の勇壮(ユウソウ)な棒踊りの一種)。ビˈコーンッふァー˥　カーˈニ˥　ルˈク˥ニン　˥ナシェーン [biˈko:ŋffa:˥ ka:ˈni˥ ruˈku˥nin ˥naʃe:ŋ](男の子だけ六人産んだ＜産んである＞)。

ルˈクサク˥ボー [ruˈkusaku˥bo:] 【名】六尺棒。豊年祭の奉納芸能の一つ。西村の演目の一つで、六尺もある護身用の棒を振り回して勇壮に踊る棒踊り。ˈインヌムラヌ˥　ルˈクサクボー˥ヤ　ガˈマ˥クイˈリティ˥　ウトゥンダ　イッˈケナ˥　ウˈムッ˥サン [ˈʔannumuranu˥ ruˈkusakubo:˥ja gaˈma˥ku ʔiˈriti˥ ʔutunda ʔikˈkena˥ ʔuˈmus˥saŋ](西村の六尺棒踊りはガマク <waist> を入れて打つから非常に面白い)。

ルクジューイˈチ˥ヌ　˥ヨイ [rukuʤu:ʔiˈtʃi˥nu ˥joi] 【連】還暦の祝い。「六十一歳の祝い」の義。かつては盛大に祝ったが、今日では床の間で健康祈願をするだけである。ムˈカ˥シェー　ルクジューイˈチ˥ヌ　ˈヨイ˥ヤー　マˈギーマギー˥シ　ˈソーッ˥タン [muˈka˥ʃe: rukuʤu:ʔiˈtʃi˥nu ˈjoi˥ja: maˈgi:magi:˥ʃi ˈso:t˥taŋ](昔は還暦の祝いは盛大に＜大きく＞なさったものだ)。

ルˈクンガ˥チ [ruˈkuŋga˥tʃi] 【名】六月。ルˈクンガチ˥ヌ　シˈキ˥ヌ　˥タトゥカー　ˈプールン˥ドゥ　ˈオー˥ルˈナー [ruˈkuŋgatʃi˥nu ʃi̥ˈki˥nu ˥tḁtuka: ˈpu:run˥du ˈʔo:˥ruˈna:](六月の月が立つと豊年祭がいらっしゃるよねえ)。

ルˈクンガ˥チ　シˈティグジ [ruˈkuŋga˥tʃi ʃi̥ˈtiguʤi] 【連】六月の捨てデイゴ (諺)。旧暦の六月は梅雨の時期で、˥グジ [˥guʤi](デイゴ) は切り捨てておくだけでも自然に根付き、発芽(ハツガ)することから、挿(サ)し木に最適の時期とされている。˥グジ [˥guʤi](デイゴ) は石垣方言の˥ズグ [˥ʤugu] の音位転倒したもの。

˥ルッカ˥ク [ˈrukka˥ku] 【名】六角形。ˈルッカク˥バウ [ˈrukkaku˥bau](六角棒)。ˈルッカクピキ˥ダマ [ˈrukkakupiki˥dama](六角の凧(タコ)) などがある。シˈバヤー˥ナ　ˈルッカク˥バウ　ムˈティプス˥ヌ　˥ンジキーティ　ナˈクラー˥タン [ʃiˈbaja:˥na ˈrukkaku˥bau muˈtipusu˥nu ˥ʔnʤiki:ti naˈkura:˥taŋ](芝居で六角棒を持った人が出てきて、怖かったよ)。

ˈルッ˥プ [ˈrup˥pu] 【名】ロープ。カツオ漁船の綱。錨(イカリ)に繋(ツナグ)ぐ太い綱。英語の rope(綱) の借用語が転訛したもの。ˈルッ˥プジナ [ˈrup˥puʤina](ロープ) ともいう。ˈルッ˥プシ　˥フネー　ˈサンバ˥シナ　シˈナ˥イ　˥シキバ [ˈrup˥puʃi ˥ɸune: ˈsamba˥ʃina ʃiˈnai˥ ʃi̥kiba](ロープで船を桟橋(サンバシ)に繋(ツナ)いでおきなさいよ)。

レ

˩-レー [˩-reː] 【終助】 1〜ものか。〜か。(疑問、反語)。名詞や動詞の終止形に付く。ウ˩レー˥　プ˩スレー [ʔu˩reː˥ pu̥˩sureː](あれは人間なものか)。˥アイブー　ムヌ˩ナー˥トー　カ˩クンレー [˥ʔaibuː munu˩naː˥ toː kḁ˩kunreː](あんな物などを書くものか、書かないよ)。2疑問の終助詞˩ナー [˩naː](〜ね) について、˩ナーレ˥ー [˩naːre˥ː](〜かねえ。〜だろうねえ。< 疑問、確認 >) のように用いられる。˩ナー・ウレ˥ー [˩naː-ʔure˥ː](なあ・それは) が縮まって形成されたものと考えられる。˥アツァー　クン˩ナーレ˥ー [˥ʔatsaː kun˩naːre˥ː](明日は来るだろうねえ < 確認 >)。

ロ

˥ロー **[˥roː]** 【名】ろうそく (蝋燭)。˥ロー˥スク [˥roː˥suku](蝋燭) ともいう。標準語からの借用語。˥ロー˥ヌ　˥ッス　˥トゥリ　シ˥ティリ˥バ [˥roː˥nu ˥ssu ˥turi ʃi̥˥tiri˥ba](蝋の燃え屑を取って捨てなさい)。シ˥キー˥ナ　˥ロー˥バ　˥ッシ　˥ヌーリ˥　スクカー˥ヤドー　ア˥キフイ　シーヤッ˥サン [ʃi̥˥kiː˥na ˥roː˥ba ˥ʃʃi ˥nuːri˥ su̥kuka: ˥jado: ʔa˥kiɸui siːjas˥saŋ](敷居に蝋を擦り付けておくと、戸 < 屋戸 > は開け締めし易い)。

˥ロー˥スク **[˥roː˥su̥ku]** 【名】蝋燭。˥ロー˥スコー　˥チョー˥チンナー　イ˥リティ˥　トゥ˥クニ˥ナー˥サイバ [˥roː˥su̥ko: ˥tʃoː˥tʃinna: ʔi˥riti˥ tu̥˥kuni˥na: ˥saiba](蝋燭は提灯に入れて、仏壇に吊るし < 下げ > なさいよ)。

ワ

˺-ワ [˺-wa] 【終助】1〜か。動詞の連体形に下接し、文頭の疑問詞と呼応して疑問、質問の意を表す。˹ワー˺　ヌンティ　カ˹ク˺ワ [˹waː˺ nunti kạ̊˹ku˺wa](君はどうして＜何故＞書くか)。˺ヌンティ　カ˹カン˺ワ [˺nunti kạ̊˹kaŋ˺wa](どうして書かないか)。˺ヌンティ　カ˹カン˺シェワ [˺nunti kạ̊˹kaŋ˺ʃewa](どうして書かなかったか)。˹ワー˺　クナーティ　˹ヌー˺ヌ　シ˹グトゥ　シー　ブーワ [˹waː˺ kunaːti ˹nuː˺nu ʃi˹gutu ʃiː buːwa](君はここで何の仕事をしているか)。2〜なあ。なんと〜ことよ。形容詞の連体形について、詠嘆、感動の意を表す。パ˺ナ˺ヌ　˹カイ˺ヤ˹ワー [pa˹na˺nu ˹kai˺ja˹waː](花が美しいなあ。花の何と美しいことよ)。グイ˹ユー˺　アイ　ア˹バ˺レーワレー [gui˹juː˺ ʔai ʔa˹ba˺reːware:](何とまあ、あんなに美しいことよ＜女性が美しい。男性には言わない＞)。シ˹バヤー˺　ミリン　イ˹サナケー˺　パ˹リ˺プサワ˹ナー [ʃi˹baja:˺ miriŋ ʔi˹sanakeː˺ pa˹ri˺ pusawa˹na:](芝居を見に石垣島へ行きたいものだなあ)。

˹ワー [˹waː] 【代】君。あなた。二人称単数形。男、女の区別なく用いられ、同輩、目上の人に対して用いられる。老年層は、ワ˹ヌ [wa˹nu](君。あなた)ともいう。˹ワー [˹waː](君。あなた) は、「爾(ナンジ)、此をば飫例＜おれ＞と云ふ＜神武即位前＞」『日本書紀』の「おれ」が　ore　→　ora　→　ura(ura「語音翻訳」『海東諸国紀』、「你、烏喇哇」＜ウラワ＞『琉球館訳語』) と転訛したもの。更に、[ʔura](西表租納方言) は　→　[vva](宮古方言)→　[uva](黒島方言)→　[uwa](川平方言)→　[waː](鳩間方言) のように音韻変化する。˹ワーター˺ヤ [˹waː taː˺ja](君は誰か)。˹ワー　ナーヤ˺ヌーティ　ア˹ズワ [˹waː naːja˺ nuːti ʔa˹ʤuwa](君の名は何というか)。複数形は、ワ˹ター (˹ワーター)[wa˹taː(˹waːtaː)](君たち。貴方方)。ワ˹ター˺　マープスヤ [wa˹taː˺ maːpu̥suja](君たちは何処の島の人か)。卑称は、˺ワンザ [˺wanʤa](お前奴。貴様)。

˹ワーシブテー [˹waːʃibuteː] 【名】屋号。泉川二郎氏宅。泉川氏は沖縄本島からの寄留漁民であった。沖縄本島の民間療法を伝えた。終戦後のマラリア患者、その他の患者に民間療法を施して治療した。˹ワーシブン˺　ヤツ　ヤ˹カシティ　クー˺タ [˹waːʃibuɲ˺ jatsu ja˹kaʃi̥ti kuː˺ta](泉川二郎氏に灸を据え＜灸を焼い＞てもらってきた)。

˹ワーター [˹waːtaː] 【代】君たち。対称 (二人称) の代名詞。複数形。ワ˹ター [wa˹taː](君たち) ともいう。˹バン˺ター　イ˹ソー˺　パ˹ル˺ヌ　˹ワーター　ヌー˺スワ [˹ban˺taː ʔi˹soː˺pa˹ru˺nu ˹waːtaː nuː˺suwa](私たち＜聞き手を含まない＞は漁に行くが、君たちはどうするのか)。

ワーッ˹ティ [waːt˹ti] 【副】わっと。大声で泣き崩れるさま。ウ˹ダラ˺キティ　ワーッ˹ティ˺　ナ˹キ　ナーン˺シェン [ʔu˹dara˺kiti waːt˹ti˺ na˹ki naːŋ˺ʃeŋ](驚いてわっと泣いてしまった)。

˹ワーバ [˹waːba] 【名】余分。余計なもの。「おわば何事も本より外之事を申也」『混効験集』とある。

˹ワーバグトゥ [˹waːbagutu] 【名】余計な事。しなくてもよい事。余計なお世話。[ʔuwaba]　→　[ʔwaːba]　→　[waːba]　と転訛したもの。˹ワーバ　グトゥバ　シー˺　プ˹スン˺　イ˹ザレー˺ティ　˹アー˺ク [˹waːbagutuba ʃiː˺ pu̥˹suŋ˺ ʔi˹ʤareː˺ti ˹ʔaː˺ku](余計なことをして、他人に叱られているよ)。

˹ワーバシグトゥ [˹waːbaʃigutu] 【名】余計な仕事。無駄な仕事。賃金の貰えない仕事。˺ティマー　˹イーララ˺ムティ　˹ワーバシグトゥバ˺　シ˹ミラリタ˺ツォー [˺timaː ˹ʔiːrara˺muti ˹waːbaʃigutuba˺ ʃi ˹mirarita˺tsoː](手間賃は貰えないで、余計な仕事をさせられたそうだ)。

˹ワーバジン [˹waːbaʤiŋ] 【名】無駄なお金。余計なお金。不必要な金。˹ワーバジン˺　ム˹タ˺スカーッ˹ふァ˺　プ˹ラスン˺ダー [˹waːbaʤim˺ mu˹ta˺su̥kaː f˹fa˺ pu˹rasun˺daː](不必要な、余計なお金を持たせると子供を馬鹿＜ふれもの。狂れ者＞にするぞ)。

˞ワーバムニ [˞waːbamuni] 【名】余計な言葉。おせっかい (御節介) をやくこと。頼まれもしないのに、他人のことに口を挟むこと。˞ワーバムニバ˺ イ˞ズンティ アー˺キ ˞カイ˺テー パ˞ナ˺シ ア˞ザーラ˺シ ˞ナー˺ヌ [˞waːbamuniba˺ ʔi˞ʤunti ʔaː˺ki ˞kai˺teː pa˞na˺ʃi ʔa˞ʤaːra˺ʃi ˞naː˺nu](余計な口を挟もうとして < 余計なものを言おうとして >却(カエ)って話をこじらせ <拗(コジ)らせ。混乱させ > てしまった)。

˞ワウワウ˺シ [˞wauwau˺si] 【副】犬の泣き声 (擬声語) のさま。わんわんと。プ˞スヌ˺ クーカー ˞ウン˺ネヌ ˞イン˺マー ˞ワウワウ˺シ ˺カマイティ ナ˞クラーン˺ダー [pu̥˞sunu˺ kuːkaː ˞ʔun˺nenu ˞ʔim˺maː ˞wauwau˺ʃi ˺kamaiti na˞kuraːn˺daː](他人が来ると、あの家の犬はワンワンと吠えて、怖いよ)。

˺ワキ [˺waki] 【名】1訳。理由。˞ヌー˺シル ワ˞キ˺ヌ ˺アルユー パ˞ナ˺シ ˺ミリ [˞nuː˺ʃiru wa˞ki˺nu ˺ʔaruju: pa˞na˺ʃimiri](如何なる訳があるのか、話してごらん < 話してみれ >)。2侘び。˞ワール ワッ˺サバ ˞ワー˺ラ ˺ワキ サ˞バル˺ ナル [˞waːru was˺saba ˞waː˺ra ˺waki sa˞baru˺ naru](君が悪いから、君から侘びをしなければならない < 侘びをすればぞなる >)。

˺ワキ ˞スン [˺waki ˞suŋ] 【連】あやまる (謝る)。詫びる。「言い訳をする」の義。ヤ˞ラ˺ビザーン ˺アイティ ˞ウン˺ネヌ ッ˞ふァヌ˺ ドゥー ヤ˞マ˺シ ˺シケーティ ˺ワキ ˞シン ギーティ クー˺タ [ja˞ra˺biʤaːŋ ˺ʔaiti ˞ʔun˺nenu f˞fanu˺ duː ja˞ma˺ʃi ˺ʃi̥keːti ˺waki ˞ʃiŋ giːti kuː˺ta](子供同士で喧嘩して、あの家の子供に怪我させて < 胴を病まして > あるので、謝りに行ってきた)。

˺ワザ [˺waʤa] 【名】1しわざ (仕業)。行為。所業。ク˞レー˺ タンザヌ ˞シェー˺ル ˺ワザヤー [ku˞reː˺ tanʤanu ˞ʃeː˺ru ˺waʤaja:](これはどいつのなせる仕業か)。2仕事。職業。パ˞トゥ˺マプソー ム˞カ˺シェーラ ˞ターパタ˺キン ス˞ク˺リ カ˞ツシンラ˺ イ˞ガメーヌ˺ ウ˞ミ˺ワザン ˞シール オー˺レー˞ダー [pḁ˞tu˺mapu̥so: mu˞ka˺ʃeːra ˞taːpata˺kin su̥˞ku ˺ri kḁ˞tsuʃinra˺ ʔi˞gameːnu˺ ʔu˞mi˺waʤaŋ ˞ʃiːru ʔoː˺reː˞daː](鳩間人は昔から田畑も作り、カツオ漁業からイカ漁の海の仕事 < 漁業 > もしてこられたのだよ)。

ワ˞ザ˺ク [wa˞ʤa˺ku] 【名】からかい。いたずら (悪戯)。ヤ˞ナヤラビン˺ パ˞タ˺ケー ˞フンツァーサリ˺ ワ˞ザ˺ク シ˞ラリティル クン˺ゾー ˺ンジ イ˞ジ˺ シケー˞ダー [ja˞najarabim˺ pḁ˞ta˺keː ˞ɸuntsaːsaritiru kun˺ʤoː ˺ʔnʤi ʔi˞ʤi˺ ʃi̥keː˞daː](悪童に畑を踏み荒らされて酷いことをされて、怒って叱っておいてあるんだよ)。悪ふざけ。邪魔(ジャマ)。他人に迷惑をかけること。「横着(オウチャク)」の転訛したもの。石垣方言からの借用語。普通は、˞オス˺ク [˞ʔosu̥˺ku](悪戯(イタズラ)。悪ふざけ) という。プ˞ス˺ ワ˞ザ˺ク ス˞ナト ツォー [pu̥˞su˺ wa˞ʤa˺ku su˞naɫ-tsoː](他人に悪戯するなってば)。

ワ˞ザトゥ [wa˞ʤatu] 【副】わざと。故意に。わざわざ。強調して、ワ˞ザットゥ [wa˞ʤattu](わざと) ということもある。˞クンドゥ˺ヌ ˞スー˺ボー ワ˞ザットゥ˺ マ˞キリ˺ティ ア˞ゾーッ˺タ˞ベー˺ティ ドゥ˞シン˺ カ˞ツァシ˺タ [˞kundu˺nu ˞suː˺boː wa˞ʤatu˺ ma˞kiri˺ti ʔa˞ʤoːt˺ta˞beː˺ti du˞ʃiŋ˺ ka˞tsaʃi˺ta](今度の勝負はわざと負けろといわれたので、友人に勝たせた)。

˺ワザムチ [˺waʤamutʃi] 【名】1特殊技能を持っている人。ウ˞レー サイク˺ヌ ˺ワザムチ ヤ˞ルンダ˺ ッ˞ふァイパザキ スー˺ クトー ˞ナー˺ヌ [ʔu˞reː saiku˺nu ˺waʤamutʃi ja˞runda˺ f˞faipaʤaki suː˺kutoː ˞naː˺nu](あれ < 彼 > は大工の技術を持っているから食い逸(ハグ)れすることはない)。2芸能に優れた人。˺スブットゥ ヤ˞ルンドゥター˺ デー˞ジ˺ヌ ワザムチ˞ダー サンシンヌ シース˺ティバーヤ [˺subuttu ja˞runduta:˺ deː˞ʤi˺nu wazamutʃi˞daː saŋʃinnu ʃiːsu˺tibaːja](怠け者だが、大変な芸能保持者だよ。三線の師匠だってさ)。ウ˞ヌ˺ プ˞ソーデージ˺ヌ ワザムチ˞ダー [ʔu˞nu˺ pu̥˞soː deːʤi˺nu waʤamutʃi˞daː](この人は大変に技芸に優れた人だよ)。

ワ˞ザワイ [wa˞ʤawai] 【名】災い。災難。不幸なできごと。サ˞ワリグトゥ [sa˞warigutu](障り。支障) ともいう。˞カンヌ˺マイ ウ˞ヤプス˺ヌマイニ ノー˞ンヌ˺ サ˞ワリグトゥ˺ ワ˞ザワイグトゥン˺ ア˞ラ˺シ タ˞ボーン˺ナティル ˺ニガイ ッ˞サルタ [˞kannu˺mai ʔu˞japusu˺numaini noː˞nnu˺ sa˞warigutu˺ wa˞ʤawaigutuŋ˺ ʔa˞ra˺ʃi ta˞boːn˺natiru ˺nigai s˞saruta](神様、ご先祖様に、何の障りごとも災いもありませんように < 有らせ賜るな > とお祈り申し上げた)。

ワ˞ザワザ [wa˞ʤawaʤa] 【副】わざわざ。特にそのために。標準語からの借用語。老年層は、˺シンニン [˺ʃinniŋ](わざわざ。もっぱら。「Xennen. センネン (専念)Mopparani vomô(専らに念ふ)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの) ともいう。˞キュー˺ヤ ˺アドーラ ワ˞ザワザ˺ バー ˺クトゥ ˞スンテ

ィ˥　キー　ッ˩ふィーッター [˩kjuː˥ja ˥ʔadoːra wa˩ʤawaʤa˥ baː ˥kʷtu ˩sunti˥ kiː f˩fiːttaː](今日は、あんなに遠い所から、わざわざ私のことをするために、来てくれたのか)。

ワ˩ジ˥カ [wa˩ʤi˥ka] 【副】わずか (僅か)。少々。ほんの少し (量が少ないさま)。「僅、小也、和豆可尓 < わづかに >」『華厳経音義私記』の転訛したもの。老年層は、ン˩メーマ˥ナー [ʔm˩meːma˥naː](少しずつ) という。ワ˩ジカ˥ナー < ン˩メーマ˥ナー >　˩ジン˥バ　タ˩メー˥ティル　˩カー˥ラヤーン　ス˩クルタ˥ル [wa˩ʤika˥naː < ʔm˩meːma˥naː > ˩ʤim˥ba ta˩meː˥tiru ˩kaː˥rajaːn sʷ˩kuruta˥ru](僅かずつお金を貯めながら瓦葺(カワラブキ)の家を造ったのだ)。ワ˩ジ˥カ < シン˩トゥ >　˩イットゥ˥キ　ウ˩クリティル˥　フニ　˩ヌーリ　パンツァシェー˥ダー [wa˩ʤi˥ka < ʃin˩tu > ˩ʔittu˥ki ʔu˩kuritiru˥ ɸuni ˩nuːri pantsaʃeː˥daː](わずか一時 < ほんの一時 > 遅れて、船に乗り損ねたのだよ)。ワ˩ジカ˥ヌ < ン˩メーマ˥ヌ >　˩ジン˥ヌ˥クトゥシ　˩キョーダイ˥サザーン　˩アウ˥ナ [wa˩ʤika˥nu < ʔm˩meːma˥nu > ˩ʤin˥nu ˥kʷtuʃi ˩kjoːdai˥ saʤaːŋ ˩ʔau˥na](僅かのお金のことで兄弟同士喧嘩するな)。

ワ˩ター [wa˩taː] 【代】1君ら。君たち。二人称代名詞の複数。˩バン˥ター [˩ban˥taː](聞き手を含まない、私たち。僕ら) の対義語。˩ワーター [˩waːtaː](君たち。貴方方) ともいう。ワ˩ター˥　マーラ　˩クー˥タ [wa˩taː˥ maːra ˩kuː˥ta](君たちは何処から来たのか)。ワ˩ター˥　ムノー　˥ヌーヤ [wa˩taː˥ munoː ˥nuːja](君たちのものはどれ < 何 > か)。ワ˩ター˥ラ　パ˩ジミリ [wa˩taː˥ra pa˩ʤimiri](君たちから始めなさい)。2貴方がた (尊敬の複数形)。ワ˩ター˥　マーラ　˩オーッ˥タ [wa˩taː˥ maːra ˩ʔoːt˥ta](貴方方は何処から来られましたか)。

ワ˩タ˥クサー [wa˩ta˥kʷsaː] 【名】へそくり。沖縄本島方言からの借用語。「手の中の荒るるを厭はず、わたくしを拵へ」『西鶴・諸艶大鑑三』の「わたくし (親方に内緒でする仕事。内職)」の転訛したものか。ミ˩ドゥ˥モー　ン˩メーマ˥ナーン　ワ˩タ˥クサー　タ˩ミ˥　シゥ˩カバ˥ル　ナル˩ダー [mi˩du˥moː ʔm˩meːma˥naːŋ wa˩ta˥kʷsaː ta˩mi˥ siʷ˩kaba˥ru naru˩daː](女は少しずつでも、へそくりを貯めておかないといけないよ)。

ワ˩タン˥ジャー [wa˩tan˥ʤa] 【名】渡し場。首里方言からの借用語が転訛したものか。浦内川の渡し場。ウ˩ラッ˥チナー　ワ˩タンジャー˥ヌ　˩アッ˥タン˩ダー [ʔu˩rat˥ʧina: wa˩tanʤaː˥nu ˩ʔat˥tan˩daː](浦内には渡し場があったよ)。

ワ˩チラースン [wa˩ʧiraːsuŋ] 【他動】わずらわせる。面倒をかける。ほねをおらせる。ウ˩ヌ˥　クトゥシ　ワ˩ター˥　ティー　ワ˩チラーシ˥　シ˩マ˥ヌ　クトゥ˩ユー [ʔu˩nu˥ kʷtuʃi wa˩taː˥ tiː wa˩ʧiraːʃi˥ ʃi˩ma˥nu kʷtu˩juː](そのことであなた方の手を煩わせて申し訳ありません < 相済まないことです >)。

ワ˩チラウン [wa˩ʧirauŋ] 【自動】てこずる (梃子摺る)。処置に困る。難儀する。病む。「〜かにかくに思ひ和豆良比 < ワヅラヒ > ねのみし泣かゆ。万、897」の転訛したもの。˩ヤン˥マイ　ワ˩チラウン [˩jam˥mai wa˩ʧirauŋ](病を患(ワズラ)う)。˩ヤン˥マイ　ワ˩チライ　ベー [˩jam˥mai wa˩ʧirai beː](病を患っている)。サ˩キヌミ˥プスン　ワ˩チラーサリティ　キーユーサン˥シェン [sa˩kinumi˥pʷsuŋ wa˩ʧiraːsariti kiːjuːsaŋ˥ʃeŋ](酒飲みにてこずらられて、これなかった)。˥アイニ　˥ウヤ　ワ˩チラース˥　ッ˩ふァー˥　ブ˩ラーヌ [˥ʔaini ˥ʔuja wa˩ʧiraːsu˥ f˩faː˥ bu˩raːnu](あんなに親をてこずらせる < 患わせる > 子供はいないよ)。˩マー˥ビン　ワ˩チライヤー˥　ミサムヌ [˩maː˥biŋ wa˩ʧiraijaː˥ misamunu](もっと患えばいいのに)。サ˩キカーニ˥　ウ˩チッ˥クライティ　˩ヤン˥マイ　ワ˩チライ˥バヒャー [sa˩kika:ni˥ ʔu˩ʧik˥kuraiti ˩jam˥mai wa˩ʧirai˥baça:](酒だけ打ち食らっていて、病を患いっちまえヒャー)。

˩ワッ˥サン [˩was˥saŋ] 【形】悪い。よくない。老年層はバ˩ラ˥サン [ba˩ra˥saŋ](悪い) ともいう。「劣、ワルシ、ワロシ」『色葉字類抄』の転訛したもの。˥バーヤ　˩ワッ˥サンティ　ウ˩ムーン˥ドゥ　˩ワーヤ　ワッ˥サー　˩ナー˥ヌ [˥baːja ˩was˥santi ʔu˩muːn˥du ˩waːja was˥saː ˩naː˥nu](私は悪いと思うが、君は悪くない)。ク˩レー˥　カ˩タチヌ　ワッサ˥ヌ　˩カーサラヌ [ku˩reː˥ kʷ˩taʧinu wassa˥nu ˩kaːsaranu](これは形が悪くて売れない)。˩オシケー　ワッ˥サ　˥ナリキー　˩ナー˥ヌ [˩ʔoʃʲke: was˥sa ˥nariki: ˩naː˥nu](天気は悪くなってきてしまった)。˩ワッ˥サ (ル)　˥クトー　˩シー˥　ミ˩ラ˥ヌ [˩was˥sa(ru) ˥kʷtoː ˩ʃiː˥ mi˩ra˥nu](悪いことはしたことがない < してみない >)。カ˩タチヌ　ワッ˥サカー　˩カーサラヌ [kʷ˩taʧinu was˥saka: ˩kaːsaranu](形が悪ければ売れない)。

˩ワッ˥テー [˩wat˥teː] 【名】君の家。貴方の家。御宅(オタク)。˩ワッ˥テヌ　˥アボー　˩マー　オーッ˥ター [˩wat˥tenu ˥ʔabo: ˩ma: ʔoːt˥taː](お宅 < 君の家 > のお母さんは何処へ行かれたのか)。˩ワッ˥テーヤ　˥マナー

アˏルˏワ [˞watˏteːja ˏmanaː ʔa˞ruˏwa](君の家は何処にあるか)。˞ワッˏテーラン　˞バンˏテール　˞ヤーニンˏゾー　˞ゴーˏラー (ル)[˞watˏteːram ˞banˏteːru ˞jaːninˏʤoː ˞goːˏraː(ru)](君の家よりも私の家の方が家族 < 家人数 > は多い)。

ワ˞ビ **[wa˞bi]** 【名】謝罪(シャザイ)。謝(アヤマ)ること。ワ˞ビ　スン [wa˞bi suŋ](謝罪する。詫びをする < 謝る >)。

ワ˞ビルン **[wa˞biruŋ]** 【自動】詫びる。謝る。謝罪する。若年層のことば。老年層は˞アイˏマルン [˞ʔaiˏmaruŋ](謝る) という。ワ˞ビルンティˏ　ウ˞ムーンドゥˏ　ワ˞ビララヌ [wa˞birontiˏ ʔu˞muːnˏdu wa˞biraranu](謝ろうと思うが謝れない)。ˏバーラ　ワ˞ビˏ　ミサカー　ワ˞ビルˏ　クトー　ナルン˞ダー [˞baːra wa˞biˏ misakaː wa˞biruˏ kṵtoː narun˞daː](私から謝って良ければ謝ることはできるよ)。ワ˞ビレーˏ　ミサムヌ [wa˞bireːˏ misamunu](謝れば良いのに)。ワ˞ビリ [wa˞biri](謝れ)。

ワラワ˞ラーッティ **[warawa˞raːtti]** 【副】めらめらと。怒りの感情や衝動が燃え上がるさま。ウ˞リバˏ　シ˞キティˏ　シラー　ア˞ガミˏ　ワラワ˞ラーッティ　クンˏゾー　ウ˞クˏリティ　イ˞ゾーッˏタ [ʔu˞ribaˏ ʃi̥˞kitiˏ ʃiraː ʔa˞gamiˏ warawa˞raːtti kunˏʤoː ʔu˞kuˏriti ʔi˞ʤoːtˏta](それを聞いて、顔を赤らめ、めらめらと怒りくるって叱られた)。

ワ˞リˏヤイ **[wa˞riˏjai]** 【名】割合。標準語からの借用語。ミ˞ジトゥˏ　サ˞タˏトゥ　ミ˞リキンˏゴー　˞ギューサˏヌ　ワ˞リˏヤイシ　マ˞ザーˏシ　カ˞ケースˏワ [mi˞ʤituˏ sḁ˞taˏtu mi˞rikiŋˏgoː ˞gjuːsaˏnu wa˞riˏjaiʃi ma˞ʤaːˏʃi kḁ˞keːsuˏwa](水と砂糖とメリケン粉は幾らの割合で混ぜてかき混ぜるのか)。

ˏワンザ **[ˏwanʤa]** 【代】お前め。貴様。お前野郎。二人称単数の卑称。ˏワンザー　ˏヌンティ　シ˞グトーˏ　サ˞ムティˏ　ア˞サビ　ベーˏワ [ˏwanʤaːˏnunti ʃi ˞gutoːˏ sa˞mutiˏ ʔa˞sabi beːˏwa](貴様 < お前め > は何故仕事をしないで遊んでいるのか)。

ˏワンザンメー **[ˏwanʤammeː]** 【代】貴様ら。お前めら。お前野郎ども。二人称複数の卑称。ˏワンザンメーヤ　カ˞マーˏ　パリ [ˏwanʤammeːja ka˞maːˏ pari](貴様ら < お前めら > はあっちへ行け)。

˞ワンダーッˏサン **[˞wandaːsˏsaŋ]** 【形】優しい。性格がおとなしい。柔和(ニュウワ)である。ウ˞ヌˏ　プ˞ソーˏ　イッ˞ケナ　ワンダーッˏサン [ʔu˞nuˏ pṵ˞soːˏ ʔik˞kena wandaːsˏsaŋ](この人は非常に大人しい)。˞ワンダーッˏサル　プ˞スˏ　ヤ˞ルンダ　クンˏゾー　ウ˞クラˏヌ [˞wandaːsˏsaru pṵ˞suˏ ja˞runda kunˏʤoː ʔu˞kuraˏnu](大人しい人だから、怒らない)。マ˞ナˏマー　˞ワンダーッサ　ナ˞リˏブ [ma˞naˏmaː ˞wandaːsˏsa na˞riˏbu](今は大人しくなっている)。

ン

˥ン **[˥ŋm、n、ŋ、ŋ]** 【格助】に。1動作の目的を表す。˥ホン˩(ス˥ムˬチ)　カ˥インˬ　パラ˥ディー [˥hoŋ˩(su˥mu ˬtʃi) kai˥mˬ para˥diː](本 (書物) を買いに行こうよ)。シ˥グトゥ　シン　クーˬタ [ʃi˥gutu ʃiŋ kuːˬta](仕事をしに来た)。˥ウシˬトゥン　˥パンˬブン　ˬバキ　ッ˥ふィーリ [˥ʔuʃi̥tum ˥pamˬbum ˬbaki f˥fiːri](弟に半分分けてやれ)。2動作の相手を表す。˥ナーˬニ [˥naːˬni](～に。～に対して) ということが多い。ˬウヤン　ティ˥ガˬミ　ˬカキバ [ˬʔujan ti˥gaˬmi ˬkq̥kiba](親に手紙を書けよ)。ウ˥ヤンˬナーニ　ティ˥ガˬミ　ˬカキバ [ʔu˥janˬnaːni ti˥gaˬmi ˬkq̥kiba](親に < 当てて。対して > 手紙を書きなさい)。3受身、使役の相手 (動作主) を表す。ˬウヤン　イ˥ザリティˬ　ナ˥キ　ベー [ˬʔujaŋ ʔi˥ʤaritiˬ na˥ki beː](親に叱られて泣いている)。ナ˥クˬカー　プ˥スンˬ　バ˥ラーリンˬダー [na˥kuˬkaː pu̥˥sumˬ ba˥raːrinˬdaː](泣いたら他人に笑われるよ)。ア˥ミˬカジン　フ˥カˬリティ　シ˥グトーˬ　ナ˥ラˬヌ [ʔa˥miˬkaʤiŋ ɸu̥˥kaˬriti ʃi˥gutoːˬ na ˥raˬnu](雨風 < 台風と大雨 > に吹かれて仕事ができない)。˥ウシˬトゥン　シ˥ダキˬ　シ˥ミリˬバ [˥ʔuʃi̥ ˬtuŋ ʃi˥dakiˬ ʃi˥miriˬba](弟に先にさせなさいよ)。

˥ン **[˥ŋm、n、ŋ、ŋ]** 【係助】も。類似したものの中から取り上げて付け加え、並べ立てる意味を表す。「も」を受ける活用語は終止形でむすぶ。**(1)** 名詞に付く。ウ˥ブˬプスン　ヤ˥ラˬビン　ア˥ツァˬマルン [ʔu˥buˬpu̥sun ja˥raˬbiŋ ʔa˥tsaˬmaruŋ](大人も子供も集まる)。**(2)** 動詞の連用形、形容詞の語幹につく。˥ジーヤˬ　ユミン　サ˥ヌ [˥ʤiːjaˬ jumin sa˥nu](字は読みもしない)。˥ピッˬチン < ノー˥ン >　˥カイˬヤン　˥ナーˬヌ [˥pitˬtʃiŋ < noː˥ŋ > ˥kaiˬjan ˥naːˬnu](ちっとも美しくもない)。**(3)** 格助詞-ラ [-ra](から) につく。ˬウマーラン　ˬカマーラン　プ˥スヌˬ　クーン [ˬʔumaːraŋ ˬkamaːram pu̥˥sunuˬ kuːŋ](そこからも、あそこからも人が来る)。**(4)** 格助詞-ヌ [-nu](が) に付く。ク˥レー　バンˬヌン　ˬナルン [ku˥reː ban ˬnun ˬnaruŋ](これは私 < が > も出来る)。**(5)** 格助詞-ユ [-ju](を) に付く。ウ˥リユンˬ　カ˥リユン　ターティナーˬン　イ˥ジッツァーシ　ベー [ʔu˥rijuŋ ˬ ka˥rijun taːtinaːˬŋ ʔi˥ʤittsaːʃi beː](この人をも、彼をも、誰彼となく叱り飛ばして < 叱り散らして > いる)。**(6)** 格助詞ˬ-ナー [ˬ-naː](に) に付く。パ˥トゥˬマナーン　イ˥サナキˬナーン　˥サンバˬシェー　ˬアン [pq̥˥tuˬmanaːŋ ʔi˥sanakiˬnaːn ˥sambaˬʃeː ˬʔaŋ](鳩間島にも石垣島にも桟橋はある)。**(7)** 格助詞ˬ-シ [ˬ-ʃi](で) に付く。ˬキーシン　タ˥キˬシン　ス˥クラˬリン [ˬkiːʃin tq̥˥kiˬʃin su̥˥kuraˬriŋ](木でも竹でも作れる)。**(8)** 格助詞ˬ-トゥ [ˬ-tu](と) に付く。˥バンˬトゥン　˥ワットゥンˬ　パ˥ナサˬリン [˥banˬtuŋ ˥wattum ˬ pa˥nasaˬriŋ](私とも君とも話せる < 話される >)。**(9)** 副助詞˥-バーˬキ [˥-baːˬki](まで) につく。˥スーˬヤ　ク˥マバーˬキン　˥ヌールン [˥suːˬja ku˥mabaːˬkin ˥nuːruŋ](津波 < 潮 > はここまでも上昇する < 上る >)。

˥ンー **[ʔŋː]** 【感】ええっと。思案する時に発することば。ˬンー　ウ˥レーˬ　ヌーティ　ア˥ズタˬメー　˥バシキ　ナーンˬサー [ˬʔŋː ʔu˥reːˬ nuːti ʔa˥ʤutaˬmeː ˥baʃi̥ki naːnˬsaː](ええっと、それは何と言ったっけ、忘れてしまったよ)。

˥ンˬー **[˥ʔŋˬː]** 【感】うん。そうだ。同等及び目下の者に対する応諾の返事。ˬクビシ　ミ˥サン [ˬkubiʃi mi ˥saŋ](これだけでいいのか?)。˥ンˬー　ˬクビシ <ˬウビシ >　ミサン˥ダー [˥ʔŋˬː kubiʃi <ˬʔubiʃi > misan ˥daː](うん、これだけで < それだけで > いいよ)。˥ワンヌンˬ　パ˥ルン [˥wannumˬ pa˥ruŋ](君も行くか?)。˥ンˬー　˥バンˬヌン　˥マーズンˬ　パルン [˥ʔmˬː ˥banˬnum ˥maːʤumˬ paruŋ](うん、僕も一緒にいくよ)。

˥ンーナ **[˥ʔnːna]** 【接頭】から (空)。何も無いこと。「～丈夫や无奈之久 < ムナシク > あるべき～。万 4164」の形容詞「むなしく」の語幹が転訛したもの。˥ンーナムヌ [˥ʔnːnamunu](空っぽのもの)。˥ンーナティー [˥ʔnːnatiː](何も持たない手。素手。お土産を持た

ないこと)。ンーナドゥー [ʔnːnaduː](身一つ。土産を持参しないこと)。ンーナヤー [ʔnːnajaː](空き家。人の住まない家)。ンーナヤシキ [ʔnːnajaʃi̥ki](空き屋敷)。ンーナムニ [ʔnːnamuni](むなごと＜空言＞。空約束。実行を伴わない言葉。「〜小野に標結う空言毛＜ムナゴトモ＞〜。万、3063」の転訛したものか)。ンーナティル [ʔnːnatiru](空っぽの笊(ザル))。イソーラ ンーナフニ カイリ ケーン [ʔiso:ra ʔnːnaɸuni kairi ke:ŋ](漁から空舟＜一匹も漁獲しない＞で帰ってきた)。

ンーナ [ʔnːna] 【名】うんち。乳幼児の糞便。乳幼児の両腿を前向きに抱いて便器に向かい、排便を促す時にいう語。ンーナ ンーナ [ʔnːna ʔnːna] と力んで言いながら排便を促す。

ンーナー [ʔnːnaː] 【名】(幼児語) ねんね。寝ること。ンーナーヨー ンーナーヨー [ʔnːnaːjoː ʔnːnaːjoː](寝んねしな、寝んねしな) といいながら、母親は子供の肩を軽くたたいたり、さすったりして寝せつけた。

ンーナアーリ [ʔnːnaʔaːri] 【名】空騒ぎ。騒ぎ立てるだけで何の効果もないこと。「空(カラ)・慌(アワ)て」の義。ンーナアーリ サンドーシ ユー ウティシキティ トゥンザク シーバ [ʔnːnaʔaːri sandoːʃi juː ʔuti̥ʃi̥kiti tundʑaku ʃiːba](空騒ぎしないで、よく落ち着いて看病しなさいよ)。

ンーナアウリ [ʔnːnaʔauri] 【名】徒労。無駄な苦労。むだぼねおり (無駄骨)。アドーラ シンニン フチル カインティ ケーンドゥ シナギリ シティ カーラヌ ンーナアウリ シー ナーヌ [ʔadoːra ʃinniŋ ɸu̥tʃiru kaintiʔ keːndu ʃinagiriʔ ʃi̥ti kaːranu ʔnːnaʔauri ʃiː naːnu](あんなに遠くから、わざわざ薬を買いに来たけど、品切れして買えない。無駄骨折になってしまった)。

ンーナイキ [ʔnːnaʔiki] 【名】こん睡状態。意識がなく、ただ呼吸だけしている状態。「空しい息＜空息(カライキ)＞」の義。カライキ [karaʔiki](空息。こん睡状態) ともいう。ナーイ ンーナイキバル シー オール ナガムテー ソーラン パジ [naːji ʔnːnaʔikibaru ʃiː ʔoːru nagamuteː soːramʔpadʑi](意識がなく、ただ呼吸だけを＜ぞ＞しておられる。最期が近い＜長持ちはされない＞はずだ)。

ンーナイバリ [ʔnːnaʔibari] 【名】からいばり (空威張り)。実力がないのに、強がること。虚勢を張ること。カライバリ [karaʔibari](空威張り) ともいう。ジーヤ ユミサムティ シザ ヤルバティ シー ンーナイバリカーニ シー ベー [dʑiːja jumisamutiʔ ʃidʑa jaruba ti ʃiː ʔnːnaʔibari kaːni ʃiː beː](文字は読めないのに、年上だからといって、空威張りだけしているよ)。ヤコー タタムティ フチブシ ナリ ンーナイバリ シェーティ アーク [jakoː tḁta muti ɸu̥tʃibuʃi nari ʔnːnaʔibari ʃeːti ʔaːku](何の役にも立たないくせに、くちだっしゃ＜口達者。「口武士」の義＞になって、虚勢(キョセイ)を張って＜空威張りして＞いる)。

ンーナウムイ [ʔnːnaʔumui] 【名】報いられない愛情。報いられない思い。空しい愛情。プスヌ ッふァ ウムイヤー ンーナウムイティル ムカシパナシェー アルダー [pu̥sunu ffa ʔumui ja: ʔnːnaumuitiru mukaʃipanaʃeː ʔarudaː](他人の子供を慈しみ可愛がるのは報いられない愛情だと昔の言葉にはあるよ)。

ンーナカク [ʔnːnakaku] 【名】空き屋敷。「空郭」の義。シンタヌ ンーナカクナー バサ イビ シケー [ʃintanu ʔnːnakakuna: basa ʔibi ʃi̥keː](後ろの空き屋敷に芭蕉を植えてある)。キサー ンーナカコー ナンゾー ナーンシェンドゥ プスヌ ピナルター マナマー ンーナカクンドゥ ゴーラー [ki̥sa: ʔnːnakakoː nanʔdʑoː naːŋʃendu pu̥sunu piʔnarutaː maʔnaʔmaː ʔnːnakakundu goːʔraː](以前は空き屋敷は、あまりなかったが、人が減ったので、今は空き屋敷が多い)。プスヌ ブラーン ヤシキバ ムカシプソー ンーナカクティ アゾーッタ [pu̥sunu buraːɲ jaʃi̥kiʔba mukaʃipu̥soː ʔnːnakakuʔti ʔadʑoːtʔta](人のいない屋敷を昔の人はンーナカクといわれた)。

ンーナガラ [ʔnːnagara] 【名】ぬけがら (抜け殻)。中身のない、空っぽの殻。サザミナー ネーシ ミーヤ ンザシ トゥリ ッふァイティ ンーナガランʔ＜ンーナグルンʔ＞ アツァミティ カーシタン [ʔsadʑaminaː neːʃi miːjaʔ ʔndʑaʃi turi ffaːti ʔnːnagaraŋʔ＜ʔnːnaguruŋʔ＞ ʔatsaʔmiti kaːʃi̥taŋ](さざえ＜栄螺＞貝は煮て中身を取り出して食べて、空っぽの貝殻も集めて売ったものだ)。

ンーナキム [ʔnːnakimu] 【名】愛情のない心。誠意のない心や気持ち。「空＜ムナ＞肝」の義。ンーナキムシ フチヌ パタシ パナスンダ ウリヌ ムネー シンヨー ナラヌ [ʔnːnakimuʃi ɸu̥tʃinuʔ pḁtaʔʃi paʔnaʔsunda ʔurinuʔ muneː ʃiŋjoːʔ naraʔnu](誠意のない心で、口先だけで話すから、彼の話は信用できない)。

˹ンーナグル [˹ʔnːnaguru] 【名】身の抜けた貝殻。空っぽの甲羅(コウラ)。マキガイの殻(カラ)。中身の入っていない殻。˹ンーナガラ [˹ʔnːnagara](抜(ヌ)け殻(ガラ)) ともいう。ム˹カ˺シェー ヤ˹ラ˺ビンケーヤ シ˹ダミ˺ヌ ˹ンーナグルバ˺ ア˹ツァ˺ミティ シ˹ビバ アー˺シティ ˹ピッツァ˺シ ア˹サブタン [mu˹ka˺ʃeː ja˹ra˺biŋkeːja ʃi˹dami˺nu ˹ʔnːnaguruba˺ ʔa˹tsa˺miti ʃi˹biba ʔaː˺ʃi̥ti ˹pittsa˺ʃi ʔa˹sabutaŋ](昔は、子供たちはカタツムリ＜蝸牛＞の抜け殻を集めて、蝸牛の尻を突っつき合わせて、潰しあって遊んだものだ)。˺アミツァヌ ˹ンーナグル [˺ʔamitsanu ˹ʔnːnaguru](ヤドカリの抜け殻)。

˹ンーナサー [˹ʔnːnasaː] 【名】からちゃ (空茶)。茶だけだすこと。˹サー˺フキ [˹saː˺ɸu̥ki](茶請け)、茶の子の出ないお茶。ノー˹ン ナーヌ˺ヌ ˹ンーナサーンツァン˺ ヌミティ ˹オー˺リバ [noː˹n naːnu˺nu ˹ʔnːnasaːntsan˺ numiti ˹ʔoː˺riba](何もありませんが、からちゃ＜空茶＞だけでも飲んでお帰りなさいませ＜おわしませ＞)。

˹ンーナサニヤ [˹ʔnːnasanija] 【名】ぬかよろこび (糠喜(ヌカヨロコ)び)。あてがはずれて、喜びが無駄になること。˺シケン カ˹カ˺レーンティ シ˹キティ˺ サ˹ニヤ シー ベータン˺ドゥ カ˹カラン˺シェンティバーヤ プ˹スバ ンーナサニヤ˺ シ˹ミティ˺ ヌーヤ ウ˹レー [˺ʃi̥keŋ kḁ˹ka˺reːnti ʃi̥˹kiti˺ sa˹nija ʃiː beːtan˺du kḁ˹karaŋ˺ʃeːntibaːja pu̥˹suba ʔnːnasanija˺ ʃi˹miti˺ nuːja ʔu˹reː](試験に合格した＜かかった＞と聞いて喜んでいたが、合格し＜かから＞なかったそうな。人を糠喜びさせて何事か)。

˹ンーナジー [˹ʔnːnaʤiː] 【名】空き地。耕作してない土地。さらち (更地)。˹アッ˺タル パ˹タキ˺バ ˹ンーナジー˺ ナ˹サン˺ドーシ ˺ウン ヤ˹ラバン˺ イ˹ビ˺バ [˹ʔat˺taru pḁ˹taki˺ba ˹ʔnːnaʤiː˺ na˹san˺doːʃi ˺ʔuŋ ja˹rabaŋ˺ ʔi˹bi˺ba](もったいない＜可惜(アタラ)。あたら＞畑を空き地にしておかないで、芋でも植えなさいよ)。

˹ンーナシゥカイ [˹ʔnːnasi̥kai] 【名】1無駄遣い。ウ˹リン˺ ジン ム˹タ˺スカー ˹ンーナシゥカイル スンダ˺ ム˹タス˺ナ˹ヨー [ʔu˹rin˺ ʤim mu˹ta˺sukaː ˹ʔnːnasi̥kairu sunda˺ mu˹tasu˺na˹joː](彼にお金を持たせると無駄遣いをするので、持たせるなよ)。2ただ使い (徒使い)。無報酬で使用すること。ウ˹ヌ˺ ッ˹ふァー˺ マ˹チヤー˺ナ ˹ンーナシゥカイ˺ シ˹ラリ ベー [ʔu˹nu˺ ɸ˹faː˺ ma˹ʧijaː˺na ˹ʔnːnasi̥kai˺ ʃi˹rari beː](その子はお店でただづかい＜徒使い。無報酬で使用＞させられている)。

˹ンーナシゥカナイ [˹ʔnːnasi̥kanai] 【名】無益な養育。養い甲斐のない養育。役に立たない飼育。「空・養い」の義。˹コー˺マ ナ˹サ˺ン トゥ˹ルバ ンーナシゥカナイ シーベー [˹koː˺ma na˹sa˺n tu˹ruba ʔnːnasi̥kanai ʃiːbeː](卵を産まない鶏を無駄に飼育している)。ウ˹ヤ˺ヌ ブ˹ラーン˺ ッ˹ふァバ˺ ア˹タラ˺サ ˹シー˺ シゥ˹カ˺ナイ フ˹ドゥバシェーン˺ドゥ ムー˹ル˺ ンジパリティ ˹ンーナシゥカナイ˺ ナリ ˹ナー˺ヌ [ʔu˹ja˺nu bu˹raːn˺ ɸ˹faba˺ ʔa˹tara˺sa ˹ʃiː˺ si̥˹ka˺nai ɸu˹dubaʃeːn˺du muː˹ru˺ ʔnʤi-pariti ˹ʔnːnasi̥kanai˺ nari ˹naː˺nu](親のいない子供を可愛がって養い育てたが、みんな出て行ってしまって、無益な養育になってしまった)。

˹ンーナシニ [˹ʔnːnaʃini] 【名】むだじに (無駄死に)。いぬじに。徒死(トシ)。「むなしに (空死に)」の義。˹アウ˺リ ˹シー モー˺ケール ˹ジン˺マー シゥ˹カームティ˺ マ˹ナ˺マ シ˹ヌ˺カー ˹ンーナシニゲ˺ラ [˹ʔau˺ri ˹ʃiː moː˺keːru ˹ʤim˺maː si̥˹kaːmuti˺ ma˹na˺ma ʃi˹nu˺kaː ˹ʔnːnaʃinige˺ra](難儀苦労をして儲けたお金を使わずに、今死んだら無駄死にさ)。

˹ンーナシマ [˹ʔnːnasima] 【名】無人島。「むな＜空＞島」の義。イ˹クサ˺ユーナー パ˹トゥ˺マプソー ムー˹ル パイ˺ター ヒ˹ナン˺ シ˹ミラリティ˺ シマー ˹ンーナシマ˺ ナ˹リ˺ ブタル [ʔi˹kusa˺ juːnaː pḁ˹tu˺mapu̥soː muː˹ru paiˀ˺taː çi˹naŋ˺ ʃi˹mirariti˺ ʃimaː ˹ʔnːnaʃima˺ na˹ri˺ butaru](戦争中に鳩間島の人はみんな西表島北岸に避難させられて、島は無人島＜空島＞になっていたよ)。

˹ンーナシル [˹ʔnːnaʃiru] 【名】からじる (空汁)。実のないお汁。具のないお汁。澄まし汁。おすまし。重湯。˹スー˺ヌ ˹ミーヤ˺ ッ˹ふァイキサリティ ンーナシル タン˺ガ ヌ˹カ˺リ ˹ベー [˹suː˺nu ˹miːja˺ ɸ˹faikisariti ʔnːnaʃiru taŋ˺ga nu˹ka˺ri ˹beː](お汁の実は食べつくされて、澄まし汁＜空汁＞だけが残っている)。

˹ンーナシン [˹ʔnːnaʃiŋ] 【名】手ぶら。素手。手に何も持たずに他人の家に行くこと。土産を持参しないこと。ア˹バティティ ンーナシンル˺ ケー˹ダー˺ アトーラル ˹ヨイヌ˺ ムノー ˺ムティ キ˹ラリ˺ル [ʔa˹batiti ʔnːnaʃinru˺ keː˹daː˺ ʔatoːraru ˹joinu˺ munoː ˺muti ki˹rari˺ru](急いだので＜慌てて＞手ぶらで来ましたよ。後から＜ぞ＞お祝いのものは持ってきます＜持って来られる＞)。

˹ンーナソー [˹ʔnːnasoː] 【名】取り越し苦労。無駄な

心配。杞憂(キユウ)。プˈスヌ　ンーナソー　サンドーˈシ　ˈドゥーˈヌ　ˈミーˈヌ　ˈマイヌ　クˈトゥˈバ　ˈカンガイˈリ [pu̥ˈsunu ʔnːnasoː sandoːˈʃi ˈduːˈnu ˈmiːˈnu ˈmainu ku̥ˈtuˈba ˈkaŋgaiˈri](他人の取り越し苦労をしないで、自分の目の前のことを考えなさい＜考えれ＞)。

ˈンーナタルガキ [ˈʔnːnatarugaki] 【名】むなだのみ(空頼み)。そらだのみ。「Soradanomi. ソラダノミ (空頼み)　空しい期待」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ウˈリヌˈ　ムˈニˈバ　シˈキティˈ　タˈルガキ　ベーンˈドゥ　ˈンーナタルガキˈ　ナˈランˈカヤー　ˈナーレー [ʔuˈrinuˈ muˈniˈba ʃi̥ˈkitiˈ taˈrugaki beːnˈdu ˈʔnːnatarugakiˈ naˈraŋˈkajaː ˈnaːreː](彼の言葉を真に受けて＜聞いて＞、当てにしているが、当て外れ＜むなだのみ。空頼み＞になるのではないのかな、それは)。

ˈンーナッふァイ [ˈʔnːnaffai] 【名】無駄飯を食うこと。徒食。ムˈカˈシェー　トゥˈシˈ　トゥリティ　ˈウーキユーサンˈ　ナルカー　ˈンーナッふァイ　シームヌˈティ　シー　イˈザリˈ　バスン　ˈアッˈタンティˈダー [muˈkaˈʃeː tu̥ˈʃiˈ turitiˈ ʔuːkijuːsanˈ narukaː ˈʔnːnaffai ʃiːmunuˈti ˈʃiːˈ ʔiˈʤariˈ basuŋ ˈʔatˈtantiˈdaː](昔は年を取って働けなくなると、無駄飯食いをする者と叱られる時もあったそうだよ)。

ˈンーナテイー [ˈʔnːnatiː] 【名】むなで (空手)。何も持たない手。手ぶら。すで。「倶(トモ)に利を得ず。空手＜むなて＞にして帰る」『日本書紀　神代下』の転訛したもの。ˈンーナティーˈシェー　ˈヨイ　ˈシンマーˈ　パˈララˈヌ　ノーˈン　ヨイヌˈムヌ　スˈコーリルˈ　パˈラˈリ [ˈʔnːnatiːˈʃeː ˈjoi ˈʃimmaːˈ paˈrara ˈnu noːˈɲ joinuˈmunu su̥ˈkoːriruˈ paˈraˈri](手ぶらではお祝いをしには行かれない。何か祝儀＜祝いのもの＞を準備して＜ぞ＞行かれる)。

ˈンーナティー [ˈʔnːnatiː] 【名】手ぶら。すで (素手)。むなで (空手)。からて。手に何も持たないで余所の家を訪ねる際にいう。「〜岩間の真菰＜まこも＞刈りかねてむなで＜空手＞に過ぐる〜。」『山家集上』の転訛したものか。ドゥˈクˈヌ　サˈニˈヤティ　アˈバティティ　ンーナティールˈ　ケーˈダー [duˈku ˈnu saˈniˈjati ʔaˈbatiti ʔnːnatiːruˈ keːˈdaː](余りの嬉しさに、急いで手ぶらで来てしまったのですよ)。

ˈンーナドゥー [ˈʔnːnaduː] 【名】手ぶら。何も持たない体。何も持参しない体 (胴)。「むな (空)・胴」の義。アˈマˈヌ　サˈニˈヤティ　アˈバティティ　ンーナドゥールˈ　ケーˈダーˈ　アトーラル　ˈヨイヌˈ　ムノー　ˈオーサリル [ʔaˈmaˈnu saˈniˈjati ʔaˈbatiti ʔnːnaduːruˈ keːˈdaːˈ ʔatoːraru ˈjoinuˈ munoː ˈʔoːsariru](あまりの嬉しさで、慌てて取り敢えず、手ぶらで来たんですよ。後から＜ぞ＞お祝いのものは差し上げます)。

ˈンーナトン [ˈʔnːnatoŋ] 【名】空き地。何もない所。プˈスヌ　ヤーˈヌ　ノーˈン　ナーンˈ　トンーナール　ˈヤーˈバ　スˈクˈリ　ˈシケーバンˈナー [pu̥ˈsunu jaːˈnu noːˈn naːnˈ tonnaːru ˈjaːˈba su̥ˈkuˈri ˈʃi̥keːbanˈ naː](人の家が何もない所に家を造ってあるのだ＜わい＞ねえ)。

ˈンーナナキ [ˈʔnːnanaki] 【名】そらなき (空泣き)。うそ泣き。泣くまね。ヤˈラˈビザーン　パˈナンˈギ　ˈシーティル　ンーナナキ　シー　ベーˈカヤーティ　ウˈムータンˈドゥ　ˈソーナキル　シー　ベーˈバン　ˈヌヤー [jaˈraˈbiʤaːm paˈnaŋˈgi ˈʃiːtiru ʔnːnanaki ʃiː beːˈkajaːti ʔuˈmuːtanˈdu ˈsoːnakiru ʃiː beːˈban ˈnujaː](子供同士で悪戯して＜ぞ＞空泣きしているかと思ったのに、本当に泣いているんだわい。なあんだよ)。

ˈンーナナダ [ˈʔnːnanada] 【名】そらなみだ (空涙)。見せ掛けだけの涙。ˈソーナキ　シー　ベーˈン　ˈコーラˈシ　ˈンーナナダˈ　ウˈタˈシ　ˈベーンˈティ　ミリˈミー [ˈsoːnaki ʃiː beːˈŋ ˈkoːraˈʃi ˈʔnːnanadaˈ ʔuˈtaˈʃi ˈbeːnˈti](本当に泣いているふりして、空涙を流し＜落とし＞ているさ、見てごらんよ)。

ˈンーナナンギ [ˈʔnːnanaŋgi] 【名】徒労(トロウ)。無駄骨(ムダボネ)。「むな (空)・難儀」の義。ˈナンˈギ　ˈシーˈ　ガˈラˈシ　ˈケー　イˈズン　カーサラムティˈ　ッサラシ　ˈンーナナンギ　シーナーˈヌ [ˈnaŋˈgi ˈʃiːˈ gaˈraˈʃi ˈkeː ʔi ˈʤuŋ kaːsaramutiˈ ssaraʃi ˈʔnːnanaŋgi ʃiːnaːˈnu](難儀して網で漁獲してきた魚も腐らせてしまって、無駄骨を折ってしまった)。

ˈンーナニガイ [ˈʔnːnanigai] 【名】無駄な願いごと。役に立たない頼みごと。ウˈリンナーˈニ　タˈナムˈタンティン　ˈンーナニガイルˈ　ヤˈルンダˈ　タˈナマンˈモー　マˈシ [ʔuˈrinnaːˈni taˈnamuˈtantin ˈʔnːnanigairuˈ jaˈrundaˈ taˈnamamˈmoː maˈʃi](彼に頼んでも無駄な願いごとだから、頼まないのが増しだ)。

ˈンーナバタ [ˈʔnːnabata] 【名】空腹。空きっ腹。「むな (空)・腹」の義。ˈンーナバタˈナー　サˈキˈ　ヌˈマˈス　ˈムノー　アˈラˈヌ　ヤーˈディンˈ　カˈティˈムノー　ッˈふァーシェーˈティル　ヌˈマˈスˈダー [ˈʔnːnabataˈna: sḁˈkiˈ nuˈmaˈsu ˈmunoː ʔaˈraˈnu jaːˈ

diŋ˺ kạ˹ti˺muno: f˹fa:ʃe:˺tiru nu˹ma˺su˹da:](空(ス)きっ腹に酒を飲ませるものではない。必ずおかず＜かてもの (糅(カ)て物) の義。「雑、マジフ・カサヌ・カツ」『類聚名義抄』の転訛したものか＞を食べさせながら＜ぞ＞飲ませるのだよ)。

˹ンーナパタラキ **[˹ʔn:napataraki]** 【名】徒労(トロウ)。ただ働き。無駄骨。「むな (空)・働き」の義。ヤ˹ラ˺ビ　˹シェーン˺ケンマー　グ˹ニンヌ˺アイ　ウ˹ヤカタ˺ヌ　˺ヤーナ　˹ンーナパタラキバ　シー　ベー˺タ [ja˹ra˺bi ˹ʃe:ŋ˺kemma: gu˹ninnu˺ ʔai ʔu˹jakata˺nu ˺ja:na ˹ʔn:napatarakiba ʃi: be:˺ta](子供の頃は、五年間親方の家でただ働きをしていた)。

˹ンーナパナシ **[˹ʔn:napanaʃi]** 【名】無駄話。何の役にも立たない話。「むな (空)・話」の義。ウ˹レー　ミーヌ˺　アル　パ˹ナ˺シェー　サ˹ムティ　ンーナパナシ˺　カー˹ニル　スート ツォー [ʔu˹re: mi:nu˺ ʔaru pa˹na˺ʃe: sa˹muti ʔn:napanaʃi˺ ka:˹niru su:ɾtso:](彼は中身のある＜内容のある＞話はしないで、無駄話だけするんですよ)。

˹ンーナバライ **[˹ʔn:nabarai]** 【名】意味のない笑い。薄笑(ウスワラ)い。「むな (空)・笑い」の義。˺ヌーテー　˹ナー˺ナー　˹ンーナバライバ　シー　ベー˺ヌ　˹ソープス˺カヤー [˺nu:te: ˹na:˺na: ˹ʔn:nabaraiba ʃi: be:˺nu ˹so:pụsu˺kaja:](訳も分からず＜何とはなしに＞薄笑いをしているが、まとも＜真面(マトモ)＞な人だろうか)。

˹ンーナフチ **[˹ʔn:naɸụtʃi]** 【名】よそ (余所) から来た人に何も食べさせないで帰すこと。「むな (空)・口」の義。アガ˹ヤー˺　アドーラ　˺ケー　˺ムヌバ　ノー˹ン˺　ッ˹ふァーサナ　ンーナフチル˺　パ˹ラシター [ʔaga˹ja:˺ ʔado:ra ˺ke: ˺munuba no:˹ŋ˺ f˹fa:sana: ʔn:naɸụtʃiru˺ pa˹raʃị̈ta:](ああ、可哀相に、あんなに遠い所から来たのに、何も食べさせないで＜空口＞で帰したのか)。

˹ンーナブンギ **[˹ʔn:nabuŋgi]** 【名】無益な恩義。「むな (空)・恩義」の義。˺アイニ　フ˹コーラサ　ソーラン˺　ブ˹リ˺バ　˹カイ˺テー　˹ンーナブンギバ˺　カ˹バ˺シ　˹オーラ˺シ　˹ナーン˺ムヌ　˹ソール˺　シ˹ラリバン˺メー [˺ʔaini ɸụ˹ko:rasa so:ram˺ bu˹ri˺ba: ˹kai˺te: ˹ʔn:nabuŋgiba˺ ka˹ba˺ʃi ˹ʔo:ra˺ʃi ˹na:m˺munu ˹so:ru˺ ʃi˹raribam˺me:](そんなにお礼をなさらないで下さい。却って無益な恩義をお掛けして＜被らせて＞しまったようで＜ものを＞、心配で＜心配がされま＞すよ、もう)。タ˹ナマン˺シェータカー　˺ミサタムヌ　˹ンーナブンギ˺　カビ　˹ザーパイ　˺ユン [ta˹namaŋ˺ʃe:taka: ˺misatamunu ˹ʔn:nabuŋgi˺ kabi ˹ʤa:pai˺juŋ](頼まなかったらよかったのに、無益な恩義を被ってしまって困ったものだ)。

˹ンーナマーリ **[˹ʔn:nama:ri]** 【名】空回り。「むな (空)・回り」の義。ク˹マ˺ヌ　˺ニジェー　シ˹マ˺リ　ブ˹ラーンバン　ンーナマリル＜カ˹ラマーリル＞　シー　ベー˺バン [ku˹ma˺nu ˺niʤe: ʃi˹ma˺ri bu˹ra:mban ʔn:nama:riru＜ka˹rama:riru＞ ʃi: be:˺baŋ](ここのネジ＜螺子＞は締まっていないよ。空回り＜ぞ＞しているわい)。

˹ンーナマギー **[˹ʔn:namagi:]** 【名】うどのたいぼく (独活(ウド)の大木)。身体だけ大きくて役に立たない人や物。ウ˹レー˺　フ˹ドー　マイ˺ヤンドゥ　˹ンーナマギール˺　ヤ˹ル˺　ノー˹ン　シーサヌ [ʔu˹re:˺ ɸu˹do: mai˺jandu ˹ʔn:namagi:ru˺ ja˹ru˺ no:˹ŋ ʃi:sanu](彼は体は大きいが、図体だけが大きいのであって、何の役にも立たない＜何も出来ない＞)。

˹ンーナマティ **[˹ʔn:namati]** 【名】まちぼうけ (待(マ)ち惚(ボウ)け)。待っていた人が遂に来ないこと。「むな (空)・待ち」の義。˹イー　ピントーバ˺　ウ˹ヤーンチ˺ジ　˺マティ　˹ベータン˺ドゥ　˹パン˺クリ　˹ナーン˺ティバン　˹ンーナマティバル　シー˺　ブ˹レー˺バン [˹ʔi: pinto:ba˺ ʔu˹ja:ntʃi˺ʤi ˺mati ˹be:tan˺du ˹paŋ ˺kuri ˹na:n˺tiban ˹ʔn:namatibaru ʃi:˺ bu˹re:˺baŋ](良い返事を念願して待っていたが、断られ＜跳ね返っ＞てしまったそうだ。待ち惚(ボウ)けを食らって＜無駄な期待で待って＞いたようだ)。

˹ンーナムドゥル **[˹ʔn:namuduru]** 【名】手ぶらで戻ること。何も釣れないで漁から戻ること。出漁して空船で戻ること。「空戻(カラモド)り」。イ˹ソー　パッタ˺ヌ　˹ンーナムドル　シー˺　ケーバン [ʔi˹so: patta˺nu ˹ʔn:namuduru ʃi:˺ ke:baŋ](漁に行ったが手ぶらで戻ってきているわい)。

˹ンーナムニ **[˹ʔn:namuni]** 【名】無駄口。お喋り。中身のない話。そらごと (空言)。˹ンーナムニ˺　カー˹ニ˺　ア˹ザンドー˺シ　˹パー˺ク　パ˹タラキ [˹ʔn:namuni˺ ka:˹ni˺ ʔa˹ʤando:˺ʃi ˹pa:˺ku pạ˹taraki](無駄口ばかりたたかないで、早く働け)。ウ˹レー　ンーナムニ˺　カー˹ニル˺　ア˹ズ　ピッ˺チン　˺キモー　˹ナー˺ヌ [ʔu˹re: ʔn:namuni˺ ka:˹niru˺ ʔa˹ʤu pit˺ʧiŋ ˺kimo: ˹na:˺nu](彼は内容の伴わない言葉だけをいう。ちっとも心がこもってい＜肝が＞ない)。

˹ンーナムヌ **[˹ʔn:namunu]** 【名】空っぽの物。中身が何もないもの。「むな (空)・物」の義。˺バー　˹ジンフク˺ロー　˹ンーナムヌ˺＜カ˹ラフクル˺＞

ナリ　ˈナー˥ヌ [˥baːˈʤiŋɸu̥ku˥roːˈʔnːnamunu˥ < kaˈraɸukuru˥ > nari ˈnaː˥nu](私の財布 < 銭袋 > は空っぽになってしまった)。クˈレー　ンーナムヌ [kuˈreː ʔnːnamunu](これは中身が無い < 空っぽだ >)。ˈンーナムヌバ˥　プˈスン˥　ッˈふィー˥　シケー [ˈʔnːnamunuba˥ pu̥ˈsuŋ˥ fˈfiː˥ ʃi̥keː](空っぽのものを人にあげ < 呉れて > てある)。

ˈンーナムン [ˈʔnːnamuŋ] 【名】からむぎ (殻麦)。殻のついたままの大麦。ˈボージャー˥ムン [ˈboːʤaː˥muŋ] ともいう。「殻麦」を「空麦」と誤解して受容した語彙であろう。多収量品種で、味噌の材料として利用され、粉を挽いてテンプラを揚げるのに重宝されたという。ˈンーナムンヌ˥　クーシル　ˈティン˥プラー　ヤˈコーッ˥タツォー [ˈʔnːnamunnu˥ kuːʃiruˈtim˥puraː jaˈkoːt˥tatsoː](殻麦(カラムギ)< 大麦 > の粉でテンプラは揚げた < 焼かれた > そうだ)。

ˈンーナヤー [ˈʔnːnajaː] 【名】空き家。人の住んでない家。プˈスヌ˥　パˈトゥ˥マーラ　イˈサナケー˥　クˈシパッ˥ター　ˈンーナヤーヌ　ゴー˥ラー　˥ナリ　ˈナー˥ヌ [pu̥ˈsunu˥ pḁˈtu˥maːra ʔiˈsanakeː˥ ku̥ˈʃipat˥taː ˈʔnːnajaːnu goː˥raː ˥nari ˈnaː˥nu](人が石垣島へ越していったので、空き家が多くなってしまった)。イˈサンケー˥　クˈシパッ˥ター　シˈマ˥ナー　ˈンーナヤー < アˈキヤー > ル˥　ヌˈカ˥レー [ʔiˈsanakeː˥ ku̥ˈʃipat˥taː ʃiˈma˥naː ˈʔnːnajaː < ʔaˈkijaː > ru˥ nuˈka˥ reː](石垣島へ引っ越していったので、島には空き家が残っている)。ˈンーナヤー˥　ナˈサン˥ドーシ　プˈスン˥　カˈラシ˥バ [ˈʔnːnajaː˥ naˈsan˥doːʃi pu̥ˈsuŋ˥ kaˈraʃi˥ba](空屋にしないで他人に貸しなさい)。

ˈンーナヤシキ [ˈʔnːnajaʃi̥ki] 【名】空き屋敷。ˈンーナカク [ˈʔnːnakaku](空き屋敷) ともいう。ムˈカ˥シェー　ˈンーナヤシキ˥テー　ˈナーン˥シェンドゥ　マˈナ˥マー　ˈンーナヤシキンドゥ　ゴー˥ラー [muˈka˥ʃeː ˈʔnːnajaʃi̥ki˥teː ˈnaːŋ˥ʃendu maˈna˥maː ˈʔnːnajaʃi̥kindu goː˥raː](昔は空き屋敷とてなかったが、今は空き屋敷が多い)。老年層は、ˈンーナカク [ˈʔnːnakaku](空き屋敷) という。ˈンーナヤシキ˥ナ　カˈブッチ˥　イˈビ˥シケーター　イッˈケン˥　ナレーンˈダー [ˈʔnːnajaʃiki˥na kaˈbuttʃi˥ ʔiˈbi˥ʃi̥keːtaː ʔikˈken˥ nareːnˈdaː](空屋敷に南瓜を植えて置いたらば非常に良く稔ったよ)。

ˈンーニ [ˈʔnːni] 【名】1胸。胸部。ˈンニ [ˈnni](胸) ともいう。「胸・臆、訓並、牟禰 (むね)」『華厳音義私記』の転訛したもの。ˈンーニヌ　マイ˥ヤン [ˈʔnːninu mai˥jaŋ](胸が大きい)。˥パトゥンニ [˥pḁtunni](鳩胸)。ˈンーニヌ˥　ヤムン [ˈʔnːninu˥ jamuŋ](胸が痛む)。プˈスヌ　ンーニウチェー˥　ワˈカラ˥ヌ [pu̥ˈsunu ʔnːniʔutʃeː˥ waˈkara˥nu](他人の胸中 < 心の内 > は分らない)。クˈルビティ　ンーニバ˥　ウティティ　ヤˈカタ˥ブニ　˥ブリ　˥シケー [kuˈrubiti ʔnːniba˥ ʔutiti jaˈkata˥buni ˥buri ˥ʃi̥keː](転んで胸を打って、肋骨を骨折して < 折って > ある)。2胸元。襟元。襟首。ˈンーニ˥　ウˈサースン [ˈʔnːni˥ ʔuˈsaːsuŋ](襟元を合わせる)。3心。精神。「〜朝夕に魂ふれど吾が牟祢伊多之 < ムネイタシ >〜。万、3767」の転訛したもの。ˈンーニヌ˥　サˈキ˥ルンケン　ッˈふァヌ˥　クˈトゥ˥バ　˥ウムイ　ナˈキ　ベー [ˈʔnːninu˥ sḁˈki˥ruŋkem fˈfanu˥ ku̥ˈtu˥ba ˥ʔumui naˈki beː](心 < 胸 > が張り裂(サケ)けるほど子供のことを思って泣いている)。ビˈキドゥムヌ˥　クˈトゥ˥バ　˥ウムイ　ˈンーニ˥　クˈガラシ　ベー [biˈkidumunu˥ ku̥ˈtu˥ba ˥ʔumui ˈʔnːni˥ kuˈgaraʃi beː](男のことを思って胸を焦(コ)がしている)。

ˈンーニ˥　ウトゥン [ˈʔnːni˥ ʔutuŋ] 【連】動悸(ドウキ)がする。胸がどきどきする。「胸打つ」の義。ウˈキ˥ナーラヌ　ˈサウバ˥　シˈキティ　ソー　シー　ンーニ˥　ウティ　ナˈラント ツォー [ʔuˈki˥naːranu ˈsauba˥ ʃi̥ˈkiti soː ʃiː ʔnːni˥ ʔuti naˈranトtsoː](沖縄からの便りを聞いて、心配して、動悸がしてならないそうだ)。

ˈンーニ˥　スクン [ˈʔnːni˥ su̥kuŋ] 【連】胸につかえる。しゃく (癪) などで胸が締めつけられて苦しむ。胸がふさがる。˥スクン [˥su̥kuŋ] は、「Xocuga tçucayuru(食が痞ゆる) もう腹一杯で、それ以上胃がもちこたえ得ないほどである」『邦訳日葡辞書』の転訛したものか。ˈンーニ˥　スクンケン　˥イー　ッˈふァイティ　ビーバキン˥　ギˈサ˥ル [ˈʔnːni˥ su̥kuŋkeŋ ˥ʔiː fˈfaiti biːbakiŋ˥ giˈsa˥ru](胸に痞(ツカ)えるほどご飯を食べて、嘔吐(オウト)しそうだ)。

ˈンーニヌ˥　バˈルン˥ケンバˈリルン˥ケン [ˈʔnːninu˥ baˈruŋ˥keŋbaˈriruŋkeŋ] 【連】胸が張り裂けんばかり。胸が張り裂けるほど。「胸が割れるほど」の義。ˈンーニヌ˥　バˈルン˥ケン　ウˈヤー˥リ　ナˈキ　ベー [ˈʔnːninu˥ baˈruŋ˥keŋ ʔuˈjaː˥ri naˈkibeː](胸が張り裂けるほど大声を出して泣いている)。ˈンーニヌ˥　バˈリルン˥ケン　ウˈヤー˥リ　ウˈタ˥バ　イˈジベーン˥ドゥ　シˈキグトゥユン [ˈʔnːninu˥ baˈriruŋ˥keŋ ʔuˈjaː˥ri ʔuˈta˥ba ʔiˈʤi beːn˥du ʃi̥ˈkigutu juŋ](胸が張り裂けるほど大声を出して歌っているが、見事 < 聞きごと > だ)。

˹ンーニ˺　ビ˹スン [˹ʔnːni˺ bi˹suŋ] 【連】落ち着く。「胸を据(ス)える < 置く。座(スワ)らせる >」の義。普通は、˺キム　ビ˹スン [˺kimu bi˹suŋ](落ち着く。肝を据(ス)える) という。˹イッ˺タン　˺カイティ　キ˹メーラー˺　キモー　ビ˹シティ˺　プ˹スヌ˺　ノー˹ンティン˺　ア˹ゾーラ˺バン　シゥ˹カヌ [˹ʔit˺taŋ ˺kaiti ki˹meːra˺ kimoː bi˹ʃiti˺ pu̥˹sunu˺ noː˹ntiŋ˺ ʔa˹ʤoːra˺ban si̥˹kanu](一旦、そうと決めたら、おちついて < 肝を据えて > 他人が何と言われようとも聞かない)。

˹ンーニ˺　ヤ˹クン [˹ʔnːni˺ ja˹kuŋ] 【連】心配事で親の胸を痛める。親に心配をかける。苦悩する。ッ˹ふァヌ˺　ナ˹カ˺ヤビ　シ˹ター˺ル˺　ウヤー　˺アイニ　˹ンーニ˺　ヤ˹キ　オー˺ル˹ダー [f˹fanu˺ na˹ka˺jabi ʃi̥˹taːru˺ ʔujaː ˺ʔaini ˹ʔnːni˺ ja˹ki ʔoː˺ru˹daː](子供が青年期の中途でぐれてしまったので、親はあのように胸を痛めておられるのですよ)。

˺ンーネ [˺ʔnːne] 【名】姉。若年層の言葉。老年層は、˺アンマ [˺ʔamma](姉) という。˺ンーネ [˺ʔnːne](姉) は黒島方言のッンーナ [ʔnːna](姉) の転訛したもの。ンー˹ネー　イー˺　ッ˹ふァー˺ソーリ [ʔnː˹neː ʔiː˺ f˹faː˺soːri](姉さん、御飯頂戴 < 下さい >)。

˹ンー˺バ [˹ʔmː˺ba] 【感】否だ。否定の気持ちを表すこと。いやだ。承諾しないこと。アー˹イとも言う。˹ンー˺バ˹ユー [˹ʔmː˺ba˹juː](いやです。< 目上に対して >)。ウ˹リン　ンー˺バ　ク˹リン　ンー˺バティ　ア˹ズ˺カー　˹ヌー˺スワメー [ʔu˹rim ʔmː˺ba ku˹rim ʔmː˺bati ʔa˹ʤu˺kaː ˹nuː˺suwameː](あれ < それ > も否、これも否だとすれば、一体どうするのか、もう)。˹ンー˺バティ　ア˹ザンドー˺シ　パ˹ナ˺シェー　ウ˹キ˺リ [˹ʔmː˺bati ʔa˹ʤando:˺ʃi pa˹naʃeː ʔu˹ki˺ri](否だと言わないで、話を受けなさい)。˹ン˺バ [˹ʔm˺ba](嫌)、˹ン˺パ [˹ʔm˺pa](嫌)、˹ンー˺パ [ʔmː˺pa](いや) ともいう。˹ンー˺バ˹ユー˺　ウ˹リトー˺　マー˹ズンマー˺　シ˹グトー˺　ナ˹ラ˺ヌ˹ユー [˹ʔmː˺ba˹juː˺ ʔu˹ritoː˺ maː˹ʤummaː˺ ʃi˹gutoː˺ na˹ra˺nu˹juː](嫌です。彼と一緒には仕事は出来ません)。

˹ンー˺パ˹ンー˺パ　˹スン [˹ʔmː˺pa˹ʔmː˺pa ˹suŋ] 【連】幼児語。いやいやする。プ˹ス　ミーッ˺シティ　˹ンー˺パ˹ンー˺パ　˹シー˺　ダ˹カラヌ [pu̥˹su miːʃ˺ʃiti ˹ʔmː˺pa˹ʔmː˺pa ˹ʃiː˺ da˹karanu](人見知りをして、嫌々をして、他人に抱かれない)。

˹ンー˺マ [˹ʔmː˺ma] 【名】(動) 馬。˹ミーンー˺マ [˹miːʔmː˺ma](雌(メ)馬)。ビ˹キンーマ [bi˹kiʔmːma](牡(オ)馬)。鳩間島には馬は育たないという伝説がある。昔から鳩間島には一頭の馬もいなかったという。鳩間島は˹カンダカー˺ル [˹kandakaː˺ru](神高い < 神霊の高い >) 島といわれており、神様は常に乗馬して˺ウガン [˺ʔugaŋ](御嶽 < お願 >) からウガンへと通っておられるので、人間が馬に乗って行くと˹カンアタ˺ル [˹kaŋʔata˺ru](神当たり < 神罰を受けること >) すると信じられている。パ˹トゥ˺マー　˹カンダカー˺ティ　˹ンー˺マー　シゥ˹カナーラン˺ツォー [pḁ˹tu˺maː ˹kandakaː˺ti ˹ʔmː˺maː si̥˹kanaːran˺tsoː](鳩間島は神霊の高い島だから馬は飼育できないそうだ)。

˹ンーマ [˹ʔmː˺ma] 【名】1(動) 馬。パ˹トゥ˺マナー　˹ンー˺マー　ブ˹ラーヌ [pḁ˹tu˺mana: ˹ʔmː˺maː bu˹raːnu](鳩間島には、馬はいない)。鳩間島では馬は育たないという伝承がある。2駒(コマ)。˹サンシンヌ　ンー˺マー　タ˹キ˺シ　ス˹ク˺リバ [˹saŋʃinnu ʔmː˺maː tḁ˹ki˺ʃi su̥˹ku˺riba](三線の駒は竹で作りなさいよ)。

ンー˹マー˺マ [ʔmː˹maː˺maː] 【名】子馬。˹パイタ˺ナー　ンー˹マーマ˺ヌ　マ˹レーン˺ツォー [˹paita˺naː ʔmː˹maːma˺nu ma˹reːn˺tsoː](南端 < 西表島北岸一帯 > に子馬が生まれたそうだ)。

˹ンーマガー˺タ [˹ʔmːmagaː˺ta] 【名】肩車(カタグルマ)。子供を両肩に跨(マタガ)らせて担(カツ)ぐこと (遊び)。ヤ˹ラビ˺バ　˹ンーマガー˺タ　˹シェー˺ティ　ア˹サバシ　ベー [ja˹rabi˺ba ˹ʔmːmagaː˺ta ˹ʃeː˺ti ʔa˹sabaʃi beː](子供を肩車をして遊ばしている)。ム˹カシ˺ヌ　ヤ˹ラ˺ベー　˺ユー　˹ンーマガー˺タ　˹シー˺　ア˹サブタン˺ダー [mu˹kaʃi˺nu ja˹ra˺beː ˺juː ˹ʔmːmagaː˺ta ˹ʃiː˺ ʔa˹sabu-tan˺daː](昔の子供たちは、よく肩車をして遊んだよ)。

˹ンーマ˺ヌ　カ˹タ [˹ʔmːma˺nu kḁ˹ta] 【連】馬の絵。歌謡語。˹ヤー˺　ク˹ヌ　ヤー˺ヌ　ウ˹チ˺ナカー　˹ンーマ˺ヌ　˺カタ　˺アンティ　˺スー [˹jaː˺ ku˹nu jaː˺nu ʔu˹ʧi˺naka: ˹ʔmːma˺nu ˺kḁta ˺ʔanti ˺suː](ああ、この家の中に馬の絵があるという)(アーパーレー歌)。

˹ンーマ˺ヌ　˺クラ [˹ʔmːma˺nu ˺kura] 【連】馬の鞍。若年層の使用語彙。老年層は˹ンーマ˺ヌ　˺ッふァ [˹ʔmːma˺nu ˺ffa](馬の鞍) という。

˹ンーマ˺ヌ　˺シヌ [˹ʔmːma˺nu ˺ʃinu] 【連】馬の角。あり得ないこと。˹ンーマ˺ヌ　シ˹ヌ˺トゥ　ユ˹ヌ˺ムヌ　˺マナール　˺アイブー　ク˹トゥ˺ヌ　ア˹ル˺ワ [˹ʔmːma˺nu ʃi˹nu˺tu ju˹nu˺munu ˺manaːru ˺ʔaibu ku̥˹tu˺nu ʔa˹ru˺wa](馬の角と同じで、何処(ドコ)にそんなことがあるものか < 有り得ない >)。

ˈンーマˈヌ　ˈシラ **[ˈʔmːmaˈnu ˈʃira]**【連】馬面(ウマヅラ)。馬のように長い顔。「馬の顔」の義。ウˈリヌˈ　シラー　ˈンーマˈヌ　ˈシラ [ʔuˈrinuˈ ʃiraː ˈʔmːmaˈnu ˈʃira](彼の顔は馬面だ)。

ˈンーマˈヌ　ˈッふァ **[ˈʔmːmaˈnu ˈffa]**【連】馬の鞍。ˈッふァ [ˈffa](鞍) は、[kura]　→　[fura]　→　[ffa]　のように音韻変化したもの。ˈンーマˈヌ　ˈッふァ　カˈキランˈカー　ˈヌーリグリˈサン [ˈʔmːmaˈnu ˈffa kąˈkiraŋˈkaː ˈnuːriguriˈsaŋ](馬の鞍をかけないと乗りにくい)。

ˈンーマˈヌ　ッˈふァ **[ˈʔmːmaˈnu fˈfa]**【連】1馬の子。子馬。ˈンーマˈヌ　ッˈふァーˈ　アˈタラˈサン [ˈʔmːmaˈnu fˈfaːˈ ʔaˈtaraˈsaŋ](子馬は可愛い)。2親離れ＜乳離れ＞しない子。いつも母親の側を離れない子。ˈンーマˈヌ　ッˈふァヌˈ　カタチニ　ナーˈイˈ　ウˈヤˈヌ　シˈビバ　ウイ　アーˈク [ˈʔmːmaˈnu fˈfanuˈ kątatʃini naːˈiˈ ʔuˈjaˈnu ʃiˈbiba ʔui ʔaːˈku](馬の子のように、ずっと親の後＜尻＞を追ってあるく)。

ˈンーˈミ **[ˈʔmːˈmi]**【名】士族のお祖母さん。祖母。石垣島の親類筋の人に対して言った。ˈトゥヌスクヌ　ˈンーˈミ [ˈtunusu̥kunu ˈʔmːˈmi](石垣市字登野城のお祖母さん＜佐村家のお祖母さん＞)、アˈラカーヌ　ンーˈミ [ʔaˈrakaːnu ʔmːˈmi](石垣市字新川のお祖母さん＜宮良家のお祖母さん＞) のようにいう。鳩間島では、ˈアッパー [ˈʔappaː] という。

ンーˈンー **[ʔŋːˈŋː]**【感】いや。否。軽い否定の意味を表す。強く否定する場合は、ンーˈンーˈンー [ʔŋːˈŋːˈŋː](いや。否。いや違う) という。ˈワーˈ　ッˈシェーン [ˈwaːˈ ʃˈʃeːŋ](君は知っているか)。ンーˈンーˈ　ˈバー　ノーˈンˈ　ッˈサヌ [ʔŋːˈŋːˈ baː noːˈnˈ sˈsanu](いや、私は何も知らない)。

ˈンーンー **[ʔŋːʔŋː]**【感】豚を呼ぶ声。ˈンーンーˈシ　ˈオーˈバ　ヤˈラビ　ベー [ʔŋːʔŋːˈʃi ˈʔoːˈba jaˈrabi beː](うんうんと豚を呼んでいる)。

ˈンーンーˈシ **[ˈʔŋːʔŋːˈʃi]**【副】うんうんと。力を入れたり、苦しがったりしていきむ声。ˈプーキˈ　カˈカˈリティ　ˈニチェー　スˈブˈロー　アˈガリティ　ンーンーˈシ　タˈキˈリ　ˈベーˈタ [ˈpuːkiˈ kąˈkaˈriti ˈnitʃe: suˈbuˈro: ʔaˈgariti ʔŋːʔŋːˈʃi tąˈkiˈri ˈbeːˈta](マラリア＜風気。風土病＞に罹って、熱は頭に上がって、うんうんと唸って＜嗷哮(ゴウコウ)、タケル、サケフ、ホユ。『類聚名義抄』＞いる)。

ンˈガ **[ʔŋˈga-]**【接頭】厳しい。酷(ヒド)い。形容詞ンˈガーˈン [ʔŋˈgaːˈŋ](にがい＜苦＞) の語幹。ンˈガˈティダ [ʔŋˈgaˈtida](酷熱(コクネツ)の太陽)。ンˈガˈナキ [ʔŋˈgaˈnaki](号泣。死なんばかりに大声で泣くこと)。ンˈガˈナチ [ʔŋˈgaˈnaʃi](酷暑(コクショ)の夏。猛暑の夏)。ンˈガピラˈク [ʔŋˈgapiraˈku](極寒(ゴクカン)。厳寒)。

ンˈガー **[ʔŋˈgaː]**【名】(動) 魚の名。和名、ナガタチカマス (体長約 1、2 メートル)。ンˈガーˈティ　ˈスーˈ　イˈゾー　ナンˈゾー　ˈミリ　ˈミランˈシェン [ʔŋˈgaːˈti ˈsuːˈ ʔiˈʤo: nanˈʤo: ˈmiri miˈraŋˈʃeŋ](ンガーという魚はあまり見たことはなかった)。

ンˈカースン **[ʔŋˈkaːsuŋ]**【他動】向ける。向かわせる。会わせる。フˈターローˈ　ンˈカーシˈ　ビˈラスナ [ɸu̥ˈtaːroːˈ ʔŋˈkaːʃiˈ biˈrasuna](二人は対座させ＜向き合わせて座らせ＞るな)。ˈパンター　ンˈカースンティ　スンドゥˈ　ンˈカーサラヌ [ˈpantaː ʔŋˈkaːsunti sunduˈ ʔŋˈkaːsaranu](南の方へ向けようとするが、向けられない)(南の方に向ける)。ンˈカースˈ　クトー　ナˈラˈヌ [ʔŋˈkaːsuˈ ku̥to: naˈraˈnu](向けることは出来ない)。ンˈカーシェーˈ　ミサムヌ [ʔŋˈkaːʃeːˈ misamunu](向かわせればよいのに)。ヤーˈディンˈ　ンˈカーシ [jaːˈdiŋˈ ʔŋˈkaːʃi](必ず向かわせよ)。

ンˈガーˈン **[ʔŋˈgaːˈŋ]**【形】苦い。苦味がある。「〜甘美の果を、これによりて皆減損して苦く＜ニガク＞渋くして〜」『金光明最勝王経音義』、「nigai. ニガイ (苦い) 苦い (もの)」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ˈゴーヤーˈヌ　ˈシロー　ンˈガーˈンドゥ　ンˈガーナーˈヌティ　アˈジ　アーˈク [ˈgoːjaːˈnu ˈʃiro: ʔŋˈgaːnˈdu ʔŋˈgaːnaːˈnuti ʔaˈʤi ʔaːˈku](苦瓜の汁は苦いのに、苦くないといっている)。ンˈガーˈヌ　ヌˈマラˈヌ [ʔŋˈgaːˈnu nuˈmaraˈnu](苦くて飲めない)。ˈシンダイˈ　ンˈガーˈ　ナルン [ˈʃindaiˈ ʔŋˈgaːˈ naruŋ](次第に苦くなる)。ンˈガーˈ　ムヌル　フˈチˈロー　ˈスク [ʔŋˈgaːˈ munuru ɸu̥ˈʧiˈroː ˈsu̥ku](苦いものが薬効がある＜薬として効く＞)。ˈマーˈビン　ンˈガーˈカー　ˈミサムヌ [ˈmaːˈbiŋ ʔŋˈgaːˈkaːˈ misamunu](もっと苦ければいいのに)。

ンˈガアキˈリ **[ʔŋˈgaʔakiˈri]**【名】嫌になるほど飽きること。飽きはてること。食傷気味になること。ˈピントゥルピン　ウンヌˈイー　カーˈニˈ　ッˈふァーサリティˈ　ンˈガアキˈリ　ˈシー　ナーˈヌ [ˈpinturupiŋ ʔunnuˈʔiː kaːˈniˈ fˈfaːsaritiˈ ʔŋˈgaʔakiˈri ˈʃiː naːˈnu](毎日芋のご飯だけ食べさせられて食傷気味になってしまった)。ˈシンピーズ　ユˈヌˈムニ　ˈタンˈガ　シゥˈカサリティˈ　ンˈガアキˈリ　ˈシース [ˈʃimpiːʤu juˈnuˈmuni ˈtaŋˈga si̥ˈkasaritiˈ ʔŋˈgaʔakiˈ

ri ˈʃiːsu](毎日毎日、同じ言葉だけ聞かされてうんざりする＜食傷気味になる＞)。

ンˈカイカジ [ʔŋˈkaikaʤi] 【名】逆風。「向かい風」の義。ンˈカイカジヌˀ フクンダ ˀフネー マˈギˀブニ ˈシェーˀティル パˈラサリˀル [ʔŋˈkaiʤinuˀ ɸu̥kunda ˀɸuneː maˈgiˀbuni ˈʃeːˀtiru paˈrasariˀru](向かい風が吹くから、船は曲げ船＜ジグザグ走行＞させながらしか走行させられない＜曲げ舟してぞ走らされる＞)。

ンˈカイコーシ [ʔŋˈkaikoːʃi] 【名】「迎え菓子」の儀。お盆の精霊迎えの日に供える菓子。ンˈカイコーシˀ マˈチティˀ ウˈヤˀプスンケー ンˈカイ オーシ [ʔŋˈkaikoːʃiˀ maˈʧitiˀ ʔuˈjaˀpusuŋkeː ʔŋˈkai ʔoːʃi](迎え菓子を供えて＜祀って＞祖霊たちをお迎えして差し上げなさい)。

ンˈガˀイシ [ʔŋˈgaˀʔiʃi] 【名】踏みつけると傷を負わせる石。毒石。「苦石」の義。ンˈガイシˀバ ˈフンクタˀユー ˈパンˀヌ バˈタˀヌ ˀヤムサー [ʔŋˈgaʔiʃi ˀba ˈɸuŋkuˀtajuː ˈpanˀnu baˈtaˀnu ˀjamusaː](毒石を踏んだのだろうか、足裏＜足の腹＞が痛むよ)。

ンˈカイジラ [ʔŋˈkaiʤira] 【名】対面早々。出会いがしら。顔を合わせるなり。初っ端(ショッパナ)から。「迎え面」の義。ンˈカイジラーラˀ ヌーテー ˈナーˀンプˈスバˀ イˈジˀ ヌーヤ ウˈレー [ʔŋˈkaiʤiraːraˀ nuːteː ˈnaːˀm pu̥ˈsubaˀ ʔiˈʤiˀ nuːja ʔuˈreː](対面早々、初っ端から訳もなく＜何とてもなく＞人を叱って、何だねそれは)。

ンˈカイズーシ [ʔŋˈkaiʤuːʃi] 【名】「迎え雑炊」の義。お盆の初日の夕方、祖霊を迎えて供えるために作る雑炊 (五目御飯)。豚肉、魚肉、かまぼこ等を賽(サイ)の目状に切り、醤油で味付けして炊き込んだ雑炊。ウˈヤプスˀン ˀマイ ンˈカイズーシˀ シˈキˀ マˈチˀバ [ʔuˈjapusuˀm ˀmai ʔŋˈkaiʤuːʃiˀ ʃi̥ˈkiˀ maˈʧiˀba](先祖様の前に祖霊迎えの五目御飯＜迎え雑炊＞を供え祀りなさいよ)。

ンˈカイバナ [ʔŋˈkaibana] 【名】出会いがしら。「迎え端」の義。ンˈカイバナーラˀ プˈスˀ イˈズナトツォー [ʔŋˈkaibanaːraˀ pu̥ˈsuˀ ʔiˈʤunaꜜtsoː](出会いがしら＜対面早々＞に人を叱るなってば)。

ンˈカイビー [ʔŋkaibiː] 【名】お盆の精霊迎えの日。「迎え日」の義。旧暦 7 月 13 日の夕方に門で稲藁(イナワラ)におき (熾火(オキビ)) を入れて燻(クスブ)らせて祖霊(ソレイ)を迎える風習があった。現在は線香を焚いて祖霊を迎えるようになっている。祖霊迎えの日には、仏壇を拭いたり、位牌を洗ったりして準備をする。ムルムルを供えて仏壇を飾り終えると、先祖の霊を迎えるために門の西側で藁束に熾火を入れて燻らせた。祖霊たちは、この煙を伝って各家に下りてくるといわれている。ˈソーランˀヌ ンˈカイビーヤˀ ユネンガタ ˀナルカー ˈモンˀナー ˈカウバˀ シキティル ウˈヤˀプソー ンˈカイル [ˈsoːranˀnu ʔŋˈkaibiːja ˀ juneŋgata ˀnarukaː ˈmonˀnaː ˈkaubaˀ ʃi̥kitiru ʔuˈja ˀpu̥soː ʔŋˈkairu](お盆の迎え日には、夕方になると門に線香を立てて先祖の霊を迎える)。

ンˈカイルン [ʔŋˈkairuŋ] 【他動】迎える。「～櫻の花は迎＜むかへ＞けらしも。万、1430」の転訛したもの。ンˈカウンとも言う。イˈサナキプスˀ ンˈカイルンティˀ ウˈムーンˀドゥ ˈキューˀヤ (ワ) ンˈカイララヌ [ʔiˈsanakipu̥suˀ ʔŋˈkairuntiˀ ʔuˈmuːnˀdu ˈkjuːˀja(wa) ʔŋˈkairaranu](石垣からの人を迎えようと思うが、今日は迎えられない)。ˀバー ンˈカイˀ ミサカー ンˈカイルˀ クトー ナルンˈダー [ˀba: ʔŋˈkaiˀ misakaː ʔŋˈkairuˀ ku̥toː narunˈdaː](私が迎えてよければ、迎えることは出来るよ)。ˀドゥーシ ンˈカイヤーˀ ミサムヌ [ˀduːʃi ʔŋˈkaijaːˀ misamunu](自分で迎えればいいのに)。ヤーˈディンˀ ンˈカイリ [jaːˈdiŋˀ ʔŋˈkairi](必ず迎えなさい)。

ンˈカウン [ʔŋˈkauŋ] 【他動】 1むかう (向かう)。向き合う。「～東男は出で牟可比＜ムカヒ＞～。万、4331」の転訛したもの。ˈタンカーˀ ンˈカイˀ ビˈルンティ スンドゥˀ ンˈカーラヌ [ˈtaŋkaːˀ ʔŋˈkaiˀ biˈrunti sunduˀ ʔŋˈkaːranu](正面に向き合って座ろうとするが、向かわれない)。ˈタンカーˀ ンˈカウン [ˈtaŋkaːˀ ʔŋˈkauŋ](正面に向きあう)。ˈイーラーˀ ンˈカウˀ クトー ナˈラˀヌ [ˈʔiːraːˀ ʔŋˈkauˀ ku̥toː naˈraˀnu](西方へ向かうことは出来ない)。パˈヤーˀ ンˈカイヤーˀ ミサムヌ [paˈjaːˀ ʔŋˈkaijaːˀ misamunu](南方へ向かえばいいのに)。クˈマーˀ ンˈカイˀバ [kuˈmaːˀ ʔŋˈkaiˀba](ここへ向きなさいよ)。2迎える。ˀフネーラ パˈリˀバ ˀアツァ シˈトゥムˀティ ンˈカイˀ ッˈふィーリ [ˀɸuneːra paˈriˀba ˀʔatsa ʃi̥ˈtumuˀti ʔŋˈkaiˀ fˈfiːri](船で＜から＞行くから明朝迎えてくれ)。ˈバーˀル ˈワーˀ ンˈカインˀ パルˈダー [ˈbaːˀru ˈwaːˀ ʔŋˈkaimˀ paruˈdaː](私が君を迎えに行くよ)。

ンˈガˀカザ [ʔŋˈgaˀkaʤa] 【名】臭(クサ)い体臭。ウˈリヌˀ ンˈガˀカザ カˈブˀカー ˈビーバキンˀギサ ナˈリˀス [ʔuˈrinuˀ ʔŋˈgaˀkaʤa kaˈbuˀkaː ˈbiːbakiŋˀgisa naˈriˀsu](彼の臭い体臭を嗅ぐと嘔吐＜酔ひ・吐き＞しそうだ)。

ンˈカˀザ [ʔŋˈkaˀʤa] 【名】 (動) むかで (百足)。「蜈蚣、‥名百足、無加天 (むかで)」『和名抄』の転訛したもの。ンˈカˀザン　ッˈサˀリティ　ヤˈミˀス [ʔŋˈkaˀʤan sˈsaˀriti jaˈmiˀsu](百足に刺されて痛む)。

ˈンガサ [ˈŋgasa] 【係助】何か～ないか。疑問代名詞について、文末の打ち消し疑問の陳述と呼応し、詰問の意味を込めて「何か～ないか」のように用いられる。「～山ほととぎす奈尓加伎奈可奴 < ナニカ　キナカヌ >。万、4050」に類似した表現法。ノーˈンガサˀ　ッˈふァーリ　ムノーˀ　ナーˈヌー [noːˈŋgasaˀ fˈfaːri munoːˀ naːˈnuː](何か食べられる物はないか)。ターˈンガサ　タシˀキ　ッˈふィールˀ　プˈソーˀ　ブˈラーヌー [taːˈŋgasa taʃi̥ˀki fˈfiːruˀ pu̥ˈsoːˀ buˈraːnuː](誰か助けてくれる人はいないか)。

ンˈガˀジル [ʔŋgaˀʤiru] 【名】胃液。胃から口の中へ逆流してくる黄色い液体。「にがじる (苦汁)」の義。フˈナイˀバ　ˈシーˀ　ムーˈルˀ　パキ　ンˈザˀシティ　ˀアトー　ンˈガˀジル　ˈバーˀキ　ˀパキ　ˀシケー [ɸuˈnaiˀba ˈʃiːˀ muːˈruˀ pḁki ʔnˈʤaˀʃi̥ti ˀʔatoː ʔŋˈgaˀʤiru ˈbaːˀki ˀpḁki ˀʃi̥keː](船酔いをして、全部吐き出して、後は胃液まで吐いてある)。

ンˈガˀスク [ʔŋˈgaˀsu̥ku] 【名】一番深い底。どん底。一番奥。ˈジーˀヌ　ンˈガˀスクナー　ウˈナイˀヌ　ˈウーˀクンダル　ˈナイˀヤー　ウˈクˀルツォー [ˈʤiːˀnu ʔŋˈgaˀsu̥kunaː ʔuˈnaiˀnu ˈʔuːˀkundaru ˈnaiˀjaː ʔuˈkuˀrutsoː](大地の深い底で鰻が動くので地震が起こるそうだ)。ヤˈマˀヌ　ンˈガˀスコーラール　ˈキャーンギキーˀ　キシ　ンˈザˀシ　ˈクーˀタ [jaˈmaˀnu ʔŋˈgaˀsu̥koːraːru ˈkjaːŋgikiːˀ kj̥ʃi ʔnˈʤaˀʃi ˈkuːˀta](山奥 < 山の奥底 > から < ぞ > 槙の木を伐り出してきた)。

ンˈガˀスン [ʔŋˈgaˀsuŋ] 【他動】 1逃がす。ˈタールˀ　ウˈシˀ　ンˈガシˀタ [ˈtaːruˀ ʔuˈʃiˀ ʔŋˈgaʃi̥ˀta](誰が牛を逃がしたか)。バˈツァマンˀカー　ウˈシˀ　ンˈガˀスンˈダー [baˈtsamaŋˀkaː ʔuˈʃiˀ ʔŋˈgaˀsunˈdaː](鼻綱を結わえておかないと、牛を逃がすよ)。ˀクマーラ　ンˈガˀス　ˀクトー　ˈナーˀヌ [ˀkumaːra ʔŋˈgaˀsu ˀku̥toː ˈnaːˀnu](ここから逃がすことはない)。ンˈガˀシェー　ˀミサムヌ [ʔŋˈgaˀʃeː ˀmisamunu](逃がせばいいのに)。ˈパーˀク　ンˈガˀシ [ˈpaːˀku ʔŋˈgaˀʃi](早く逃がせ)。2逃げられる。ウˈシバ　ピンガˀシティル　ウˈリˀ　トゥˈミˀルンティ　ˈアーˀクˈダー [ʔuˈʃiba piŋgaˀʃi̥tiru ʔuˈriˀ tuˈmiˀrunti ˈʔaːˀkuˈdaː](牛を逃がして < 逃げられて >、それを探そうとしているのだよ)。

ンˈガˀダキ [ʔŋˈgaˀdaki] 【名】(植) 竹の一種。マダケ。メダケ。「ニガタケ」の義。竹の子に苦味があることからいう。「Nigataqe. ニガタケ (苦竹)　竹の一種で、菅の細長いもの」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ンˈガˀダケー　ˈヤーˀラーンダ　ウˈリˀシル　ˈバーˀケー　フˈモーッˀタ [ʔŋˈgaˀdakeː ˈjaːˀraːnda ʔuˈriʃiˀru ˈbaːˀkeː ɸuˈmoːtˀta](マダケ < 苦竹 > は柔らかいから、それで竹笊(タケザル)を編まれた)。

ンˈガˀティー [ʔŋˈgaˀtiː] 【名】1料理を作るのが下手な手。「苦手」の義。アˈバˀティー [ʔaˈbaˀtiː](油手。料理上手の手) の対義語。ンˈガˀティー　ヤˈルンダˀ　ウˈリヌˀ　バˈカス　ムノーˀ　ンˈマー　ナーˀヌ [ʔŋˈgaˀtiː jaˈrundaˀ ʔuˈrinuˀ baˈkasu munoːˀ ʔmˈmaː naːˀnu](料理下手の手 < 苦手 > だから、あれ < 彼女 > が炊く < 作る > 料理 < もの > は美味(オイ)しくない)。2その手で叩(タタ)かれると大きな傷を負わせるような手。「毒手」の義。ˈワー　ティーˀヤ　ンˈガˀティー　ヤˈルンダˀ　ウˈリˀシ　ッˈふァ　クˈラスナ [ˈwaː tiːˀja ʔŋˈgaˀtiː jaˈrundaˀ ʔuˈriˀʃi fˈfaˀ kuˈrasuna](君の手は毒手だから、それで子供を叩く < 打つ > な)。

ンˈガˀティダ [ʔŋˈgaˀtida] 【名】 酷熱(コクネツ)の太陽。烈日(レツジツ)。ナˈチヌˀ　ンˈガˀティダナ　プˈサˀレーティ　ˈイーˀシ　ˀプスンティ　ˈアーˀキ　ブˈチˀクン　ˈスンティ　アークˀタˈダー [naˈʧinuˀ ʔŋˈgaˀtidana pu̥ˈsaˀreːti ˈʔiːˀʃi ˀpu̥sunti ˈʔaːˀki buˈʧiˀkun ˈsunti ʔaːkuˀtaˈdaː](夏の炎天下(エンテンカ)で酷熱の太陽に干されて角又を干そうとして、気絶するところだった < 気絶しようとしていた > よ)。

ンˈガˀトゥシ [ʔŋgaˀtu̥ʃi] 【名】凶年(キョウネン)。凶作(キョウサク)の年。「苦年」の義。ガˈシトゥシ [gaˈʃitu̥ʃi](飢饉(キキン)の年) ともいう。ˈタイフーˀトゥ　ˈペーレーヌˀ　シˈジキティルˀ　ンˈガˀトゥシ　ˀナリ　ˈブー [ˈtaiɸuːˀtu ˈpeːreːnuˀʃiˈʤikitiruˀ ʔŋˈgaˀtuʃi ˀnari ˈbuː](台風と旱魃(カンバツ)が続いたので凶作の年になっているのだ)。

ンˈガˀナー [ʔŋˈgaˀnaː] 【名】 (植) ホソバワダン。「苦菜」の義。路傍や畑に自生していた。医者のいない鳩間島では、胃の薬として苦菜の生の汁を絞って飲んだり、魚と煮て食したりした。子供には黒糖を混ぜて飲ませた。バˈタˀヌ　ˀヤムカー　ンˈガナーˀバ　ˈダイˀパーナ　ˈシッˀキティ　ˀシル　スˈブˀリティ　ヌˈマˀソーッタ [baˈtaˀnu ˀjamukaː ʔŋˈganaːˀba ˈdaiˀpaːna ˈʃikˀkiti ˀʃiru suˈbuˀriti nuˈmaˀsoːtta](お腹が痛むと苦菜を擂鉢(スリバチ)で搗(ツ)いて汁を絞(シボ)って飲まされた)。

ンˈガナー [ʔŋˈganaː] 【名】どもり (吃音(キツオン)者) の卑称(ケン)。喧

嘩等のときに相手を罵っていう語。ンˈガナーˈティ ˈシーˈ マˈタˈ プˈスバˈ ウˈサイ ベーˈバン [ʔŋˈganaːˈti ˈʃiːˈ maˈtaˈ pu̥ˈsubaˈ ʔuˈsai beːˈbaŋ](どもりめ、といって、また人を馬鹿にしているよ)。

ンˈガˈナキ [ʔŋˈgaˈnaki] 【名】号泣。死なんばかりに大声で泣くこと。ヤˈラビˈヌ ンˈガˈナキ ˈスーˈカー ˈヤンマイˈヌ ˈアルンダ ˈイサン ミˈシˈリˈダー [jaˈrabiˈnu ʔŋˈgaˈnaki ˈsuːˈkaː ˈjammaiˈnu ˈʔarundaˈ ˈʔisam miˈʃiˈriˈdaː](子供が号泣すると病気があるのだから、医者に診せなさいよ)。

ンˈガˈナチ [ʔŋˈgaˈnatʃi] 【名】酷暑の夏。炎熱の夏。猛暑の夏。最も暑い時期の夏。ˈカイブー ンˈガˈナチナー ˈヨイˈヤー ナˈラˈヌ [ˈkaibuː ʔŋˈgaˈnatʃinaː ˈjoiˈjaː naˈraˈnu](こんな酷暑の夏には、祝い事はできないよ)。

ンˈガニ [ʔŋˈgani] 【名】どもること (吃音)。どもり (吃音者)。ウˈレーˈ ンˈガニˈ ヤˈルンドゥˈ ウタ イˈズˈ ピンマー ンˈガネーˈ サˈヌˈ ウター ˈピッˈチン カˈカランˈダー [ʔuˈreːˈ ʔŋˈganiˈ jaˈrunduˈ ʔuta ʔiˈʤuˈ pimmaː ʔŋˈganeːˈ saˈnuˈ ʔutaː ˈpitˈtʃiŋ kḁˈkaranˈdaː](彼はどもり < 吃音者 > だが、歌を歌うときは吃らない。歌はちっとも引っかからないよ)。

ンˈガニ スン [ʔŋˈgani suŋ] 【連】どもる。「どもり (吃音)・する」の義。ンˈガニヌ マービ スーˈカー ンˈガニ スンˈティˈダー [ʔŋˈganinu maːbi suːˈkaː ʔŋˈgani sunˈtiˈdaː](どもり < 吃音 > の真似をすると、どもるそうだよ)。

ンˈガˈバライ [ʔŋˈgaˈbarai] 【名】苦笑い。苦笑。「Nigauarai. ニガワライ (苦笑ひ) 心からではなくて、ひややかに笑うこと.」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。カˈタフチピケーˈシ [kḁˈtaɸutʃipi̥keːˈʃi](片口笑い)。カˈタフチˈバライ [kḁˈtaɸutʃiˈbarai](片口笑い) よりも当惑したような微笑。ˈヌーティ アˈザバルˈ マˈシˈユー ˈピントー シーマーキˈナーˈイˈ ンˈガˈバライ ˈシー ベーˈタ [ˈnuːti ʔaˈʤabaruˈ maˈʃiˈjuː ˈpintoː ʃiːmaːkiˈ naːˈjiˈ ʔŋˈgaˈbarai ˈʃiː beːˈta](何と言えば良いの < 増し > か、返答をしかねて、ただ苦笑いしていた)。

ンˈガピラˈク [ʔŋˈgapiraˈku] 【名】極寒。最も厳しい寒さ。大寒。クˈトゥシヌˈ ンˈガピラˈクナー スˈナカˈヌ イˈズンˈ シˈニティˈ ウˈケーリ キーˈシタ [ku̥ˈtuʃinuˈ ʔŋˈgapiraˈkunaː suˈnakaˈnu ʔiˈʤuŋˈ ʃiˈnitiˈ ʔuˈkeːri kiːˈʃi̥ta](今年の極寒には海の魚も死んで浮いてきたものだ)。

ンˈガˈプス [ʔŋˈgaˈpu̥su] 【名】厳格な人。厳しい人。怒りっぽい人。ˈウンˈネヌ ˈアブジェー クˈビッチンˈヌ ユˈグリーンツァン ヌンガーラˈソーラヌ ンˈガˈプス ヤˈローッˈタ [ˈkunˈnenu ˈʔabuʤeː kuˈbittʃinˈnu juˈguriːntsan nuŋgaːraˈsoːranu ʔŋˈgaˈpu̥su jaˈroːtˈta](あの家のお祖父さんは、ちょっとの汚れも許されない厳格な人でいらっしゃった)。

ンˈガプスˈマ [ʔŋˈgapusuˈma] 【名】酷熱の真昼間。炎熱の真昼間。ナˈチヌˈ ンˈガプスˈマナー パˈタˈケー ˈパル プˈリムヌヌ ブントˈツォー [naˈʧinuˈ ʔŋˈgapusuˈmanaː pḁˈtaˈkeː ˈparu pu̥ˈsunu bunˈtsoː](夏の、炎熱の真昼間に畑へ行く馬鹿がいるものですか)。

ンˈガˈフチ [ʔŋˈgaˈɸu̥tʃi] 【名】毒舌。毒舌家。極めて厳しい批評をする人。アˈマフチ [ʔaˈmaɸu̥tʃi](甘口。おべっか) の対義語。ウˈレー サッˈコー ンˈガˈフチ ヤˈルンダˈ ウˈリヌˈ ムネー シュˈカラヌ [ʔuˈreː sakˈkoː ʔŋˈgaˈɸu̥tʃi jaˈrundaˈ ʔuˈrinuˈ muneː si̥ˈkaranu](彼は大変な毒舌家だから、彼の言葉は聞いておれない < 聞かれない。聞くに耐えられない >)。

ンˈガフチˈル [ʔŋˈgaɸu̥tʃiˈru] 【名】苦い薬。「苦薬」の義。ンˈガˈナー [ʔŋˈgaˈnaː](苦菜) は、ンˈガフチˈル [ʔŋˈgaɸu̥tʃiˈru](苦薬。胃腸薬の効能がある薬草) といって、家庭菜園で栽培していた。フˈチンˈパー [ɸu̥ˈtʃimˈpaː](よもぎば。蓬の葉) も苦薬だが、蓬の葉をˈダイˈパー [ˈdaiˈpaː](擂鉢) で擂って汁液を解熱剤として飲ませた。ナˈツァーˈラ [naˈtsaːˈra](海人草) も苦薬で、これは、ムˈシクダシ [muˈʃikudaʃi](回虫駆除剤) として煎じて服用させた。ンˈガフチˈロー イッˈケナˈ スˈクントˈダ [ʔŋˈgaɸu̥tʃiˈroː ʔikˈkenaˈ su̥ˈkuntˈdaː](苦薬は非常によく効くよ)。

ンˈガマˈサン [ʔŋˈgamaˈsaŋ] 【形】やかましい (喧しい)。騒がしい。うるさい (煩い)。ヤˈガマˈサン [jaˈgamaˈsaŋ](喧しい。気難しい。厳しい) ともいう。ウˈヤーˈルカ ンˈガマˈサンダ ンˈガマサ ナーンˈヨーニ グˈマˈクイシ パˈナˈシ [ʔuˈjaːˈrukaː ʔŋˈgamaˈsanda ʔŋˈgamasa naːɲˈjoːni guˈmaˈkuiʃi paˈnaˈʃi](大声で叫ぶと喧しいから、喧しくないように小声で話せ)。ンˈガマサˈヌ ナˈラˈヌ [ʔŋˈgamasaˈnu naˈraˈnu](喧しくて堪らない)。ˈシンダイˈ ンˈガマˈサ ˈナリ ˈケーン [ˈʃindaiˈ ʔŋˈgamaˈsa ˈnariˈkeːŋ](次第に喧しくなってきた)。ンˈガマˈサ ˈクトー ˈナーˈヌ [ʔŋˈgamaˈsa ˈku̥toː ˈnaːˈnu](喧しいことはない)。ンˈガマˈサカー カˈマーˈ パリバ

[ʔŋˈgamaˈsakaː kaˈmaːˈ pariba](喧しかったら、あそこへ行きなさいよ)。

ンˈガˈミン [ʔŋˈgaˈmiŋ] 【名】耳の中が常にじくじくして湿っている人。「苦耳」の義。ウˈリヌ　ミンˈマー　ンˈガˈミン　ヤˈルンダˈ　トゥˈキドゥˈケー　ˈミンˈザイ　ンˈジˈル　ˈピンヌン　ˈアン [ʔuˈrinu mimˈmaː ʔŋˈgaˈmiɲ jaˈrundaˈ tụˈkiduˈkeː ˈminˈ ʤai ʔnˈʤiˈru ˈpinnuŋ ˈʔaŋ](彼の耳はじくじく湿った耳だから、時々は耳垂れが出ることもある)。

ンˈガˈムニ [ʔŋˈgaˈmuni] 【名】苦言。毒舌。ウˈレーˈ　ンˈガˈムニ　カーˈニルˈ　アˈズˈ　イッˈカˈ　アˈバˈムネー　アˈザヌ [ʔuˈreːˈ ʔŋˈgaˈmuni kaːˈniruˈ ʔaˈʤuˈ ʔikˈkaˈ ʔaˈbaˈmuneː ʔaˈʤanu](彼は苦言だけをいう。決してお世辞はいわない)。

ンˈガˈユー [ʔŋˈgaˈjuː] 【名】不作の年。凶作の年。「にがよ (苦世)」の義。アˈマユー [ʔaˈmajuː](豊年。甘世)の対義語。ムˈカˈシェー　ンˈガユーˈヌ　シˈジキティˈ　ムˈヌッふァイマーˈキ　ˈシー　オーッˈタツォー [muˈkaˈʃeː ʔŋˈgajuːˈnu ʃiˈʤikitiˈ muˈnuffaimaːˈki ˈʃiː ʔoːtˈtatsoː](昔は凶作の年が続いて、食べることさえ出来なくて＜食べかねて＞おられたそうだ)。

ンˈガヨーン [ʔŋˈgajoːŋ] 【名】真っ暗闇。ンˈガヨーンヌˈ　ミーラ　ˈティーサドゥˈリー　ˈシェーˈティ　ヤッˈトゥˈシ　クˈマーバーˈキ　アˈラˈキ　ˈクーˈタ [ʔŋˈgajoːnnuˈ miːra ˈtiːsaduˈriː ˈʃeːˈti jatˈtuˈʃi kuˈmaːbaːˈki ʔaˈraˈki ˈkuːˈta](真っ暗闇の中を＜中から＞手探りしながら、やっとのことで此処まで歩いてきたよ)。

ンˈガˈリ [ʔŋˈgaˈri] 【名】にがり (苦汁)。豆腐を製造する際に凝固剤(ギョウコザイ)として用いる。普通は海水を汲んできて用いた。ˈトーˈフ　マˈラスˈピンマー　ンˈガˈリ　イˈリバルˈ　ナルˈダー [ˈtoːˈɸu maˈrasuˈ pimmaː ʔŋˈgaˈri ʔiˈribaˈru naruˈdaː](豆腐を造る＜自然に生まらせる＞時は、苦汁(ニガリ)を入れないといけない＜入れたらばぞなる＞よ)。

ンˈギ [ʔŋˈgi] 【名】1のぎ (芒)。のげ。稲の外殻にある針のような堅い毛。「芒、乃木＜のぎ＞、禾穂の芒なり」『和名抄』。イˈナˈピニ [ʔiˈnaˈpini](芒(ノギ)) ともいう。ˈザイレーマイˈヌ　ˈプーˈヤー　ンˈギヌˈ　ナˈガーˈンダ　ˈウシナー　ˈカティティル　ムˈメーˈ　ピˈキウシˈシ　ピˈコーッタˈル [ˈʤaireːmaiˈnu ˈpuːˈja: ʔŋˈginuˈ naˈgaːˈnda ˈʔuʃina: ˈkatitiru muˈmeːˈ pị̈ˈkiʔuʃiˈʃi pị̈ˈkoːttaˈru](在来米の穂はノギ＜芒＞が長いので、臼で搗いてから＜ぞ＞碾き臼で籾を挽(ヒ)いて籾殻を除去されたものだ)。2刺(トゲ)。喉に刺(サ)さった魚の骨 (のぎ＜鯁＞)。「喉 (のみど) に鯁ありて、物え食はず」『古事記　神代』の転訛したもの。ンˈギˈナ　ッˈサˈリティ　ヤˈミˈス [ʔŋgiˈna sˈsaˈriti jaˈmiˈsu](刺(トゲ)に刺されて痛む)。ヤˈラビˈヌ　ˈヌドゥナー　ンˈギヌˈ　カˈカルˈカー　ˈサバンナー　ˈパシシ　アˈジˈマー　ˈカキティ　ミˈジˈ　ヌˈマˈソーッタ [jaˈrabiˈnu ˈnuduna: ʔŋˈginuˈ kạˈkaˈruka: ˈsabanna: ˈpạʃiʃi ʔaˈʤiˈma: ˈkạkiti miˈʤiˈ nuˈmaˈsoːtta](子供の喉に魚の刺がささると、茶碗に箸で十字を掛け、その間水を飲まされた)。

ンˈギˈウシ [ʔŋˈgiˈʔuʃi] 【名】牧場や牛舎から逃げた牛。牛の鼻綱を切って逃げた牛。「逃げ牛」の義。ˈピンギˈウシ [ˈpiŋgiˈʔuʃi](逃亡牛) ともいう。ンˈギˈウシ　ˈトゥミン　ˈパッˈタ [ʔŋˈgiˈʔuʃi ˈtumim ˈpatˈta](逃げた牛を捜しに行った)。

ンˈキコーˈマ [ʔŋˈkikoːˈma] 【名】むき卵。ˈコーˈマ　ˈユディティ　ンˈキコーˈマ　スˈクˈリティ　ッˈふァーシˈバ [ˈkoːˈma ˈjuditi ʔŋˈkikoːˈma sụˈkuˈriti fˈfaːʃiˈba](卵を茹(ユ)でて、むき卵にして＜むき卵を作って＞食べさせなさいよ)。

ˈンˈギサン [ˈŋˈgisaŋ] 【助動】～そうだ。～らしい。～ようだ。動詞、助動詞の連用形、形容詞の語幹に付いて、様子、気配などの様態を表す。形容詞型活用をしめす。語源的には、「～げ [nge]・さ・あり (～気・さ・あり)」が融合変化して形成されたものと考えられる。ギ [gi] は、「家の人出で入り、にくげ＜ゲ＞ならず」『土佐日記　二月十五日』、「～聞えまほしげ＜ゲ＞なることは、ありげ＜ゲ＞なるを～」『源氏物語　桐壺』の「～ゲ」の転訛したもの。ˈジーˈ　カˈキンˈギサン [ˈʤiːˈ kạˈkiŋˈgisaŋ](字を書きそうだ)。アーˈイˈ　カˈキンˈギサー　ˈナーˈヌ [ʔaːˈjiˈ kạˈkiŋˈgisaː ˈnaːˈnu](いや、書きそうにない)。カˈキンˈギサタン [kạˈkiŋˈgisataŋ](書きそうだった)。カˈキンˈギサ　プˈソー　ターˈヤ [kạˈkiŋˈgisa pụˈsoː taːˈja](書きそうな人は誰か)。

ンˈギˈプス [ʔŋˈgiˈpụsu] 【名】離縁された女性。出戻り女。家出女。「逃げ人」の義。フˈルシˈケーッスンˈ　ˈピーˈチ　ˈムティティ　ンˈギˈプス　ˈナリキーˈ　ˈベー [ɸuˈruˈʃị̈keːssum ˈpiːˈʧi ˈmutiti ʔŋˈgiˈpụsu ˈnariki: ˈbeː](風呂敷包み一個持って出戻り女＜家出女＞になってきている)。

ンˈキˈルン [ʔŋˈkiˈruŋ] 【自動】むける (剥ける)。皮が自然に剥ける。フˈユˈ　ナリティ　ˈカンˈソー　ˈスーˈカー　ˈティーˈヌ　ˈカーˈヌ　ンˈキˈルン [ɸuˈju

ˉ nariti ˈkanˉso: ˈsuːˉkaː ˈtiːˉnu ˈkaːˉnu ʔŋˈkiˉruŋ](冬になって乾燥すると手の皮が剥ける)。クˈトゥシェーˉ　ンˈキランˉシェン [kṵˈtuʃeːˉ ʔŋˈkiraŋˉʃeŋ](今年は剥けなかった)。ンˈキヤッˉサン [ʔŋˈkijasˉsaŋ](剥けやすい)。ˈティーˉヌ　ˈカーˉヌ　ンˈキˉル　ˉピンマー　フˈチˉル　ˈヌーリˉバ [ˈtiːˉnu ˈkaːˉnu ʔŋˈkiˉru ˉpimmaː ɸṵˈʧiˉru ˈnuːriˉba](手の皮が剥ける時は薬を塗りなさい)。

ンˈギˉルン [ʔŋˈgiˉruŋ] 【自動】 (牛馬が) 逃げる。逃走する。ウˈシェーˉ　バˈツァマンˉカー　ンˈギˉルンダ　ンˈギランˉヨーニ　バˈツァˉミ　ˉシキ [ʔuˈʃeːˉ baˈtsamaŋˉkaː ʔŋˈgiˉrunda ʔŋˈgiraŋˉjoːni baˈtsaˉmi ˉʃi̥ki](牛は鼻綱を木に結わえておかないと逃げるから、逃げないように鼻綱を木に結わえておけ)。ˉンギパリ　ˈナーˉヌ [ˉʔŋgipari ˈnaːˉnu](逃げていってしまった)。ˉクマーラ　ンˈギˉル　ˉクトー　ˈナーˉヌ [ˉkumaːra ʔŋˈgiˉru ˉkṵto: ˈnaːˉnu](ここから逃げることはない)。ンˈギˉレー　ˉミサムヌ [ʔŋˈgiˉreːˉmisamunu](逃げればいいのに)。ンˈギˉリ [ʔŋˈgiˉri](逃げろ)。

ンˈクビ [ʔŋˈkubi] 【名】にきび。「痤、邇岐美 (にきみ)、小癤(ショウセツ)也」『和名抄』の転訛したもの。ンˈクビヌˉ　ンˈジˉルン [ʔŋˈkubinuˉ ʔnˈʤiˉruŋ](にきびが出る)。ˈアッˉパリ　ˉンクビ　ˈウッˉカイ　ˉッサバヤーティル　ムˈカˉシムネー　アルˈダー [ˈʔapˉpari ˉʔŋkubi ˈʔukˉkai ˉssabajaːtiru muˈkaˉʃimune: ʔaruˈdaː](ˈ美しいニキビ＜ニキビは若者の象徴で美しいが＞、醜いはたけ＜皮膚病のハタケは醜い＞」と諺＜昔の言葉＞にいわれているよ)。

ンˈグムン [ʔŋˈgumuŋ] 【自動】いきむ (息む)。息を込めて腹に力を入れる。力む。ッˈスˉ　マルンティ　ンˈグムンティ　スンドゥˉ　ンˈグマラヌ [sˈsuˉ marunti ʔŋˈgumunti sunduˉ ʔŋˈgumaranu](排便しようと＜糞をまるとて＞力もうとするが、力まれない)。ンˈグミˉ　ミサカー　ンˈグムˉ　クトーˉナルン [ʔŋˈgumiˉ misakaː ʔŋˈgumuˉ kṵto: ˉnaruŋ](息(イキ)んでよければ、息(イキ)むことは出来る)。ˈマーˉビン　ンˈグメーˉ　ミサムヌ [ˈmaːˉbiŋ ʔŋˈgumeːˉ misamunu](もっと息めばいいのに)。ˈパーˉク　ンˈグミˉバ [ˈpaːˉku ʔŋˈgumiˉba](早く息めよ)。

ングˈリˉサン [ˈŋguriˉsaŋ] 【助動】～づらい。～(し) づらい。～(し) にくい。形容詞型活用。ˈグリˉサン [ˈguriˉsaŋ](～にくい。～づらい) ともいう。1動詞の連用形 (音節構造が CVCV の場合) を受ける時は、ˈングリˉサン [ˈŋguriˉsaŋ](～づらい。～にくい) となることが多い (老年層)。例、カˈキングリˉサン [kạˈkiŋguriˉsaŋ](書きにくい)。2動詞の連用形 (語幹の音節構造が CVV の場合) を受ける時は、バˈライグリˉサン [baˈraiguriˉsaŋ](笑いにくい) のように鼻音 N が脱落することが多い (若年層)。クˈリˉシェー　カˈキングリˉサンカヤーティ　ウˈムータンˉドゥ　ˈナンˉゾー　カˈキングリサナーンˉバン [kuˈriˉʃeː kạˈkiŋguriˉsaŋkajaːti ʔuˈmuːtanˉdu ˈnanˉʤo: kạˈkiŋgurisa naːmˉbaŋ](これでは書きづらいかと思ったが、あまり書きづらくないわい)。カˈキングリˉサ　ˉムノー　ˈナーˉヌ [kạˈkiŋguriˉsa ˉmuno: ˈnaːˉnu](書きづらいものはない)。カˈキングリˉサカー　カˈクˉナ [kạˈkiŋguriˉsaka: kạˈkuˉna](書きづらかったら書くな)。

ˈングリˉサン [ˈŋguriˉsaŋ] 【助動】～しづらい (し辛い)。～しにくい。～することが困難である。動詞の連用形について形容詞型の活用を示す助動詞。カˈキングリˉサン [kạˈkiŋguriˉsaŋ](書きにくい)。ユˈミングリˉサン [juˈmiŋguriˉsaŋ](読みづらい)。クˈレーˉ　カˈキングリˉサンドゥ　ユˈミングリˉサー　ˈナーˉヌ [kuˈreːˉ kạˈkiŋguriˉsandu juˈmiŋguriˉsaː ˈnaːˉnu](これは書きづらいが、読みづらくはない)。カˈキングリサˉヌ　ˉカク　プˈソーˉ　ブˈラーヌ [kạˈkiŋgurisaˉnu ˉkạku puˈsoːˉ buˈraːnu](書き辛いので、書く人はいない)。カˈキングリˉサー　ˉクトー　ˈナーンˉ　パジ [kạˈkiŋguriˉsaː ˉkṵto: ˈnaːmˉ paʤi](書きづらいことはないはずだ)。

ˉンクン [ˉʔŋkuŋ] 【他動】むく (剥く)。表面を覆(オオ)っているものを除去し中身を表す。フˈナˉブ　ˉンキティ　ッˈふァイˉバ [ɸuˈnaˉbu ˉʔŋkiti fˈfaiˉba](みかん＜九年母の実＞を剥(ム)いて食べなさい)。ˈシンザˉヌ　ˉカー　ˉンクンティ　ˈスンドゥ　コーˉヌ　ンˈカラˉヌ [ˈʃinʤaˉnu ˉkaː ˉʔŋkunti ˈsundu koːˉnu ʔŋˈkaraˉnu](サトウキビ＜甘蔗(カンシャ)＞の皮を剥こうとするが、堅くて剥かれない)。ˈパーˉヌ　ˈヨーˉティ　ˈシンザˉヌ　ˉカー　ˉンク　ˉクトゥン　ナˈラˉヌ [ˈpaːˉnu ˈjoːˉti ˈʃinʤaˉnu ˉkaː ˉʔŋku ˉkutun naˈraˉnu](歯が弱いので甘蔗の皮を剥くこともできない)。ˉドゥーシ　ˉンケー　ˉミサムヌ [ˉduːʃi ˉʔŋkeː ˉmisamunu](自分で剥けばいいのに)。ˈパーˉク　ˉンキバ [ˈpaːˉku ˉʔŋkiba](早く剥けよ)。

ˉングン [ˉʔŋguŋ] 【自動】 (牛馬が) 逃げる。クˈヌˉ　ウˈシェーˉ　ングンカヤーティ　ウˈムータンˉドゥ　ンˈガンˉバン [kuˈnuˉ ʔuˈʃeːˉ ʔŋguŋkajaːti ʔuˈmuːtanˉdu ʔŋˈgamˉbaŋ](この牛は逃げるかなあと

思ったが、逃げないよ)。˥ンギ　˥パレーン [˥ʔŋgi ˥pareːŋ](逃げていってしまった)。˥ング　˥クトー　˩ナー˥ヌ [˥ʔŋgu ˥kṵtoː ˩naː˥nu](逃げることはない)。˥ンゲー　˥ミサムヌ [˥ʔŋgeː ˥misamunu](逃げればいいのに)。˥ンギバ [˥ʔŋgiba](逃げろよ)。

˩ンケー˥リ [˩ʔŋkeː˥ri] 【接尾】～に熱中する。～に夢中になる。粘っこく入念に～する。～熟睡する。擬態語や擬声語、状態を表す語等の限られた語につく。˩ネーランケー˥リ　˩ブー˥バ　˩ウー˥ミ　˩オー˥ル [˩neːraŋkeː˥ri ˩buː˥ba ˩ʔuː˥mi ˩ʔoː˥ru](粘っこく入念に麻糸を紡(ツム)いでいらっしゃる)。˩ゴーンケー˥リ　ニ˩ビ　ベー [˩goːŋkeː˥ri ni˩bi beː](すやすやとぐっすりと寝ている)。サ˩ニンケーリ˥　パ˩ナ˥シ　˩ベー [saˡniŋkeːri˥ paˡna˥ʃi ˩beː](さも嬉しそうに話している)。˩ナーンパー˥ヤ　グ˩ダランケー˥リ　サ˩カリベー [˩naːmpaː˥ja gu˩daraŋkeː˥ri sạ˩kari beː](菜っ葉は青々と生い茂っている)。

ン˩コー˥ルン [ʔŋ˩koː˥ruŋ] 【他動】召し上がる。ッ˩ふン [f˩fuŋ～fuŋ](食う) の尊敬語。˥アブジェー　˩イー˥ヤ　ン˩コー˥ルンツォー [˥ʔabudʒeː ˩ʔiː˥ja ʔŋ˩koː˥runtsoː](おじいさんは、ご飯 <飯(イヒ)> は召し上がられるそうだ)。ン˩コーラ˥ヌ [ʔŋ˩koːra˥nu](召し上がらない)。ン˩コー˥リ　˥ミサカー　ン˩コー˥ル　˥クトー　˥ナルン　パジ˩ダー [ʔŋ˩koː˥ri ˥misakaː ʔŋ˩koː˥ru ˥kṵtoː ˥narum paʤi˩daː](召し上がってよければ、召し上がることは出来るはずだよ)。˩マー˥ビン　ン˩コー˥レー　˥ミサムヌ [˩maː˥biŋ ʔŋ˩koː˥reː ˥misamunu](もっと召し上がればいいのに)。˩パー˥ク　ン˩コー˥リ [˩paː˥ku ʔŋ˩koː˥ri](早く召し上がれ)。ッ˩ふン [f˩fuŋ](食う) の敬語。「にきやかうれ」『混効験集 (坤・言語)』の転訛したもの。˥イー　ン˩コー˥ルンカヤーティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　ン˩コーラン˥バン [˥ʔiː ʔŋ˩koː˥ruŋkajaːti ʔu˩muːtan˥du ʔŋ˩koːram ˥baŋ](ご飯を召し上がるかと思ったが、召し上がらないよ)。ン˩コー˥リ˥ミサン [ʔŋ˩koː˥ri ˥misaŋ](召し上がってよい)。ン˩コー˥ル　プ˩ソー　オーラ˥ヌ [ʔŋ˩koː˥ru pṵ˩soː ʔoːra˥nu](召し上がる人はおられない)。

ン˩ゴーンゴー [ʔŋ˩goːŋgoː] 【感】赤子をあやす時にいう言葉。なんご (喃語)。ン˩クーンクー [ʔŋ˩kuːŋkuː](喃語) ともいう。ア˩ガッふァー˥マ　ダ˩キティ˥　ン˩ゴーンゴー˥シ　ア˩マイラシ　ベー [ʔa˩gaffaː˥ma da˩kiti˥ ʔŋ˩goːŋgoː˥ʃi ʔa˩mairaʃi beː](赤子を抱いて、ンゴーンゴーといって笑わせ < 喜ばせ > ている)。

˥ンザ [˥ʔnʤa] 【名】1奴。ぬひ (奴婢)。「奴婢、ヌビ、下人」『黒本本節用集』、「NVbi. ヌビ (奴婢) 奉公人の男、または女」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˩ウン˥ネナーティ　ン˩ザ˥シゥカイ　シ˩ラリ　ベー˥タ [˩ʔun˥nenaːti ʔn˩ʤa˥sḭkai ʃi˩rari beː˥ta](あの家で下男扱いに使用されていた)。2下男、下女の蔑称(ベッショウ)。˩ウン˥ネーヤ　˩ピン˥ソー　ヤ˩レー˥ティ　イ˩ツォンプス˥ヌ　ン˩ザッ˥ふァン　˩カーサリタ˥ツォー [˩ʔun˥neːja ˩pin˥soː ja˩reː˥ti ʔi˩tsoːmpṵsu˥nu ʔn˩ʤaf˥faŋ ˩kaːsarita˥tsoː](あの家は貧乏だったので、糸満漁師の下男に売られたそうだ)。

ン˩ザ˥シペーラシ [ʔn˩ʤa˥ʃipeːraʃi] 【名】出し入れ。˩ドーング˥ヌ　ン˩ザ˥シペーラシ　˩シー　グリ˥サン [˩doːŋgu˥nu ʔn˩ʤa˥ʃi ˥peːraʃi ˩ʃiː guri˥saŋ](道具の出し入れがしにくい)。

ン˩ザシ˥マイ [ʔn˩ʤaʃi˥mai] 【名】出し前。割り当てられた金額、または米や酒類の物品。˩ニンズーヌ˥　キ˩ザルキザルヌ˥　ン˩ザシマイ˥ヤー　カ˩カサンドー˥シ　ン˩ザシ˥　ブタ [˩ninʤuːnu˥ ki˩ʤarukiʤarunu˥ ʔn˩ʤaʃimai˥jaː kạ˩kasandoː˥ʃi ʔn˩ʤaʃi˥ buta](年中の祭祀ごとの出し前は欠かさずに出していた)。

ン˩ザシ˥ミー [ʔn˩ʤaʃi˥miː] 【名】出し分。分担すべき花米など。村の祭祀用の費用。「出し前」の義。˩ヤーニンズー˥ヌ　グ˩サークマイ˥ヌ　ン˩ザシ˥マイ　ン˩ザ˥シバ [˩jaːninʤuː˥nu gu˩saːkumai˥nu ʔn˩ʤaʃi˥mai ʔn˩ʤa˥ʃiba](家族の、五勺米の出し分を出しなさいよ)。

ン˩ザ˥スン [ʔn˩ʤa˥suŋ] 【他動】出す。いだす。「Idaxi,su,aita. イダシ、ス、イタ (出だし、す、いた) 取り出す、あるいは外へほうり出す」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。˩ヤー˥ラ　ン˩ザ˥スンティ　˩スンドゥ˥　ン˩ザサラ˥ヌ [˩jaː˥ra ʔn˩ʤa˥sunti ˩sundu˥ ʔn˩ʤasara˥nu](家から出そうとするが、出されない)。˥フカンター　ン˩ザ˥シ　˥ミサカー　ン˩ザ˥ス　˥クトー　˥ナルン [˥ɸṵkanta: ʔn˩ʤa˥ʃi ˥misakaː ʔn˩ʤa˥su ˥kṵtoː ˥naruŋ](外へ出してよければ、出すことは出来る)。˩パー˥ク　ン˩ザ˥シェー　˥ミサムヌ [˩paː˥ku ʔn˩ʤa˥ʃeː ˥misamunu](早く出せばいいのに)。˩マー˥ビン　ン˩ザ˥シ [˩maː˥bin ʔn˩ʤa˥ʃi](もっと出せ)。

ンジェー˩ペーリペー˥リ [ʔnʤeː˩peːripeː˥ri] 【副】出たり入ったり。せわしなく <忙(セワ)しなく > 出入りするさま。「出ては入り入り」の義。˩ウン˥ネーヤ　プ˩スヌ˥　ンジェー˩ペーリペー˥リ　˩シー　ヨイヌ˥ル　ア˩リン˥ギサ˩サー [˩ʔun˥neːja pṵ˩sunu˥ ʔnʤeː˩

pe:ripe:˥ri ˩ʃi: joinu˥ru ʔa˩riŋ˥gisa˩sa:](あの家は忙(セワ)しなく人が出入りして、祝い事がありそうだよ)。

ン˩ジ˥パー **[ʔn˩ʤi˥pa:]**【名】出羽。古典舞踊の出だしの舞踊。ピ˩キバー [pi̥˩kiba:](入り端＜引き端＞。古典舞踊における退場の場面の舞踊) の対義語。ウ˩ブブドゥ˥ロー　ン˩ジ˥パー　ナ˩カブドゥ˥ル　ピ˩キパー˥ティ　˩シー˥　ブ˩ドゥルヌ　ティー˥バ　˩カイヤー˥ティ　ブ˩ドゥル　ソーッ˥タ [ʔu˩bubudu˥ro: ʔn˩ʤi˥pa: na˩kabudu˥ru pi̥˩kiba:˥ti ˩ʃi:˥ bu˩durunu ti: ˥ba ˩kaija:˥ti bu˩duru so:t˥ta](古典舞踊＜大踊り＞は出羽、中踊り、入り端＜引き端＞といって、踊りの手を変えて踊りをされた)。/～(囃子) イヤイーヤー　ムカシミルクヌ　シルシサミエー　ウテーモーテー　スディワ　スラニティ　ウムシルムヌ　サミ　ナマヌ　ピキバヤ　ウタユカワシバ/(真に目出度い、昔の弥勒菩薩の御世が到来する前兆だ。歌って舞って、袖を連ねて楽しいものだ。今の入り端＜引き場＞は歌を交わせよ)(鳩間口説　第九連)『鳩間島古典民謡古謡集』。

ン˩ジ˥バナ **[ʔn˩ʤi˥bana]**【名】でばな (出花)。煎茶などが最も香味のよいとき。煎茶の最盛期。ク˩ヌサー˥ヤ　マ˩ナマ˥ル　ン˩ジ˥バナ　ヤ˩ルンダ˥　イッ˩ケナ˥　ン˩マー˥ン　˩オーソー˥リバ [ku˩nu sa:˥ja ma˩nama˥ru ʔn˩ʤi˥bana ja˩runda˥ ʔik˩kena˥ ʔm˩ma: ˥ŋ ˩ʔo:so:˥riba](このお茶は今が出花(デバナ)だから、非常に美味しい＜旨い＞。お召し上がりなさいませな)。

ン˩ジ˥フチ **[ʔn˩ʤi˥ɸu̥ʧi]**【名】出口。ン˩ジ˥フチ　ッ˩サーリティ˥　ン˩ジララ˥ヌ [ʔn˩ʤi˥ɸu̥ʧi s˩sa:riti˥ ʔn˩ʤirara˥nu](出口を塞がれて出られない)。

ン˩ジ˥フニ **[ʔn˩ʤi˥ɸuni]**【名】出船。「Defune. デフネ (出船) まさに出帆、あるいは、出港しようとしている船」『邦訳日葡辞書』の転訛したもの。ウ˩キ˥ナーヌ　ン˩ジ˥フネー　イ˩チル˥　ア˩ル˥ワ [ʔu˩ki˥na:nu ʔn˩ʤi˥ɸune: ʔi˩ʧiru˥ ʔa˩ru˥wa](沖縄への出船はいつ出る＜いつぞある。何日にある＞か)。

˥ンジペーリ **[˥ʔnʤipe:ri]**【名】出入り。来客。˩ウン˥ネーヤ　プ˩スヌ˥　ンジペーリヌ　˩スー˥ワン [˩ʔun˥ne:ja pu̥˩sunu˥ ʔnʤipe:rinu ˩su:˥waŋ](あの家は人の出入りが多い＜強い＞)。

ン˩ジ˥マイ **[ʔn˩ʤi˥mai]**【名】出費。支出すべき分担金。村の祭祀に納める花米や酒類。ン˩ジ˥ミー [ʔn˩ʤi˥mi:](出費) ともいう。˩ヤーニンズー˥ヌ　˩ゴー˥ラーユンダ　ン˩ジ˥マイン　˩マーン˥ラン　˩スー˥ワン [˩ja:ninʤu:˥nu ˩go:˥ra:junda ʔn˩ʤi˥maim ˩ma:n˥ran ˩su:˥waŋ](家族が多いから、出費も何処よりも多い＜強い＞)。

ン˩ジ˥ムヌ **[ʔn˩ʤi˥munu]**【名】おでき (御出来)。できもの。はれもの。ふきでもの。ム˩カ˥シェー　ン˩ジ˥ムノー　ガ˩ジマル˥ヌ　シ˩ル˥バ　ア˩シブ˥ヌ　パ˩ター˥ラ　˩ヌーリティ˥　シミティ　シ˩ラソーッ˥タダー [mu˩ka˥ʃe: ʔn˩ʤi˥muno: ga˩ʤimaru˥nunu ʃi ˩ru˥ba ʔa˩ʃibu˥nu pa˩ta:˥ra ˩nu:riti˥ ʃimiti ʃi˩raso:t˥ta ˩da:](昔は、御出来はガジマルの樹液を御出来の周囲から塗りつけて、御出来が化膿するのを締め付けて散らされたものだ)。

ン˩ジ˥ルン **[ʔn˩ʤi˥ruŋ]**【自動】出る。「あしひきの山より出流＜イヅル＞月待つと～。万、3002」の転訛したもの。˥フネー　˩キュー˥ヤ　ン˩ジ˥ルンカヤーティ　ウ˩ムータン˥ドゥ　ン˩ジラン˥ティバーヤ [˥ɸune: ˩kju:˥ja ʔn˩ʤi˥ruŋkaja:ti ʔu˩mu:tan˥du ʔn ˩ʤiran˥tiba:ja](船は、今日は出港する＜出る＞だろうと思ったが、出ないそうだ＜出ないって＞よ)。˩ヤー˥ラ　˥ンジ　˥ミサカー　ン˩ジ˥ル　˥クトー　˥ナルン [˩ja:˥ra ˥ʔnʤi ˥misaka: ʔn˩ʤi˥ru ˥ku̥to: ˥naruŋ](家から出てよければ、出ることはできる)。˩パー˥ク　˥ンジェー　˥ミサムヌ [˩pa:˥ku ˥ʔnʤe: ˥misamunu](早く出ればいいのに)。ヤー˩ディン˥クマーラ　ン˩ジ˥リ [ja:˩diŋ˥ kuma:ra ʔn˩ʤi˥ri](必ずここから出なさい)。

˥ンズン **[˥ʔndʑuŋ]**【自動】出る。シ˩キ˥ヌ　˥ンズン [ʃi̥ ˩ki˥nu ˥ʔndʑuŋ](月が出る)。˥シケー　マ˩ダ˥　ン˩ザ˥ヌ [˥ʃi̥ke: ma˩da˥ ʔn˩dʑa˥nu](月はまだ出ない)。˩ヤー˥ヌ　ナ˩カー˥ラ　プ˩スヌ　˥ンジ　˥クーン [˩ja:˥nu na˩ka:˥ra pu̥˩sunu˥ ʔnʤi ˥ku:ŋ](家の中から人が出てくる)。ム˩カ˥シェー　˩ガッ˥コー　˥ンズ　プ˩ソー˥　ブ˩ラーンシェン [mu˩ka˥ʃe: ˩gak˥ko: ˥ʔndʑu pu̥˩so:˥ bu˩ra:ŋʃeŋ](昔は学校に出る＜入学する＞人はいなかった)。˩マー˥ビン　˥ンジェー　˥ミサムヌ [˩ma:˥bin ˥ʔnʤe: ˥misamunu](もっと出ればいいのに)。˩パー˥ク　˥ンジバ [˩pa:˥ku ˥ʔnʤiba](早く出なさい＜出で＞よ)。

ン˩ゾ˥サカナサ **[ʔn˩ʤo˥sakanasa]**【連】非常に可愛がること。老年層の言葉。「むぞさ (無慚さ)・かなさ (愛しさ)(哭、ナク、カナシブ)『類聚名義抄』」の転訛したもの。˥アッパー　ユ˩ミバ　ドゥー˥ヌ　ッ˩ふァン˥　カタチニ　ン˩ゾ˥サカナサ　˩シー˥　ッ˩ふォーッ˥タン [˥ʔappa: ju˩miba du:˥nu f˩faŋ˥ kạtatʃini ʔn˩ʤo˥sakanasa ˩ʃi:˥ f˩fo:t˥taŋ](お祖母さんは嫁を自分の子のように非常に可愛がってくださった)。

˥ンター **[˥ʔnta:]**【名】糞。大便。うんち。うんこ。幼

児語。乳幼児に排便を促す際は、乳幼児の両腿を掴(ツカ)んで後ろから抱き上げ、˥ンター ˩スン˥ドー ˩ンーンー [˥ʔnta: ˩sun˥do: ʔn:ʔn:](うんちをするよ、うん うん < 力んで排便を促す擬態語 >) といった。

˥ンダー [˥ʔnda:] 【感】どれどれ。さあさあ。相手に物事をこちらへ寄越すよう、要求することば。˥ンダー ク˩レー˥ バン トゥ˩ラ˥シ [˥ʔnda: ku˩re:˥ ban tu˩ra˥ʃi](どれどれ、これは私に渡しなさい < 取らせよ >)。˥ンダー ˩バー˥ ムノー ˥ヌーヤ [˥ʔnda: ˩ba:˥ muno: ˥nu:ja](どれ、寄越しなさい。私のものはどれか)。˥ンダ ク˩レー˥ バーン ッ˩ふィーリ [˥ʔnda ku˩re:˥ ba:n f˩fi:ri](どれ、これは私にあげなさい < 呉れよ >)。

ン˩ダマルン [ʔn˩damaruŋ] 【自動】相手を睨んでじっと押し黙る。息んでおし黙る。˥ムネー イ˩ザムティ˥ ン˩ダマリ ベー [˥mune: ʔi˩ʤamuti˥ ʔn˩damari be:](物は言わずに息んで押し黙っている)。ン˩ダマランドー˥シ ˩ピントー シー˥バ [ʔn˩damarando: ˥ʃi ˩pinto: ʃi:˥ba](息んで押し黙らないで返事をしなさいよ)。ウ˩リヌ˥ ン˩ダマル˥ ピンマー ナ˩クラーントダー [ʔu˩rinu˥ ʔn˩damaru˥ pimma: na˩kura:nˈda:](彼が息んでおし黙る時は怖いよ)。ン˩ダマレー˥ ミサムヌ [ʔn˩damare:˥ misamunu](息んでおし黙ればいいのに)。ン˩ダマリ˥バ [ʔn˩damari ˥ba](息んで押し黙れよ)。

ン˩ダミルン [ʔn˩damiruŋ] 【他動】構える。支柱を構えて固定する。固定して支える。カ˩ジバナ˥ ヤ˩ルンダ˥ パ˩ラー˥ヤ シゥ˩カイ˥ イ˩リティ˥ ン˩ダミルンティ˥ ウ˩ムーン˥ドゥ ン˩ダミララヌ [ka˩ʤibana˥ ja˩runda˥ pa˩ra:˥ja si̥˩kai˥ ʔi˩riti˥ ʔn˩damirunti˥ ʔu˩mu:n˥du ʔn˩damiraranu](風の通り道だから柱は支柱を入れて構えようとするが、構えられない)。ン˩ダミ˥ ミサカー フ˩タントン˥ラ ン˩ダミ˥ル ˥クトー ˥ナルン [ʔn˩dami˥ misaka: ɸu̥˩tanton˥ra ʔn˩damiru˥ ku̥to: ˥naruŋ](支柱で固定して構えてよければ、二箇所から固定し構えることはできる)。ン˩ダミレー˥ ミサムヌ [ʔn˩damire: ˥ misamunu](支柱で固定すればよいのに)。˥クマーラ ン˩ダミリ [˥kuma:ra ʔn˩damiri](ここから支柱で構えて固定せよ)。

ン˩ダムン [ʔn˩damuŋ] 【他動】構える。固定して支える。ン˩ダムン [ʔn˩damuŋ](構える。固定して支える)。ン˩ダマヌ [ʔn˩damanu](構えない。固定して支えない)。ン˩ダミ˥ シケー [ʔn˩dami˥ ʃi̥ke:](構えてある。固定して支えてある)。ン˩ダム˥ クトゥ [ʔn˩damu˥ ku̥tu](構えること。固定して支えること)。ン˩ダメー˥ ミサムヌ [ʔn˩dame:˥ misamunu](構えればいいのに。固定して支えればいいのに)。ン˩ダミ˥バ [ʔn˩dami˥ba](固定して支えなさいよ < 構えよ >)。

˥ンチャ [˥ʔntʃa] 【感】まことに。なるほど (成程)。いかにも。合点がいった時、相手の言うことを肯定して相づちを打ち、まさにその通りだ、の意を表す。沖縄本島方言からの借用語。老年層は、˥ンチャ ˩アイ˥ユンシェー ˩ワー˥ ア˩ズ トゥール˥ユン [˥ʔntʃa ˩ʔai˥juŋʃe: ˩wa:˥ ʔa˩ʤu tu:ru˥juŋ](成程、そうだなんだ。君がいう通りなんだよ)。

ン˩ツァイルン [ʔn˩tsairuŋ] 【自動】むせる (噎(ム)せる。咽(ム)せる)。飲食物や煙で喉を詰まらせて咳き込む。むせる。「〜涙をのごひ牟世比都々 < ムセビツツ >〜。万、4398」の転訛したもの。ミ˩ジ˥ ユ˩クヌドゥ˥< ユ˩クヌドー˥> ウ˩タ˥スカー ン˩ツァイルントダー [mi˩ʤi˥ ju˩kunudu˥ <ju˩kunudo:˥> ʔu˩ta˥ suka: ʔn˩tsairunˈda:](水を気管 < 別喉 > に落とすと噎(ムセ)ぶよ)。ン˩ツァイランドー˥シ ˩ヨーンナー˥ ヌミバ [ʔn˩tsairando:˥ʃi ˩jo:nna:˥ numiba](噎ばない < 喉を詰まらさない > ように、ゆっくり飲めよ)。ン˩ツァイ ナー˥ヌ [ʔn˩tsai na:˥nu](噎んで < 喉を詰まらせて > しまった)。ン˩ツァイル˥ クトー ˩ナー˥ヌ [ʔn˩tsairu˥ ku̥to: ˩na:˥nu](噎(ムセ)ぶことはない)。ワ˩ザットゥ˥ ン˩ツァイヤー˥ ミサムヌ [wa˩ʤattu˥ ʔn˩tsaija:˥ misamunu](わざと噎べば < むせば > いいのに)。ン˩ツァイ˥バ [ʔn˩tsai˥ba](噎べよ)。

ン˩ツァウン [ʔn˩tsauŋ] 【自動】むせる (噎せる。咽る)。飲食物や煙で喉を詰まらせてせき込む。

˩ンツァン [˩ntsaŋ] 【係助】˩だにも、すらも、さえも」の意味に対応する。「も・だに」が、*[mo-dani] → [muʤaŋ] → [nʤaŋ] → [ntsaŋ] のように音韻変化したものか。名詞や動詞の連用形、形容詞の終止形などに付く。1なし得る最小限のもの、可能性の最小限のものを例示して、それ以上のものを類推させる語。文末の打ち消し疑問の陳述と呼応して用いられる。ク˩リンツァン˥ カキ˩サヌ [ku˩rintsaŋ˥ kḁki˩sanu](これすらも書けないのか)。ヤ˩ラ˥ビンツァン カ˩キ˥スムヌ ウ˩ブプス˥ヌ カキ˩サヌ [ja˩ra˥bintsaŋ kḁ˩ki˥sumunu ʔu ˩bupu̥su˥nu kḁki˩sanu](子供ですら書くのに、大人が書けないのか)。˥カキンツァン ˩シーサ˩ヌー [˥kḁkintsaŋ ˩ʃi:sa˩nu:](書きすらも出来ないのか)。2仮

定条件と呼応し、条件が満たされる意味を表す。ˈカイˈヤンツァン　ˈアルカー　ˈミサムヌ [ˈkaiˈjantsaŋ ˈʔaruka: ˈmisamunu](< せめて > 綺麗 < 美しい > でさえあれよいのだが < 願望 >)。

ンˈツン [ʔnˈtsuŋ] 【自動】むせる (噎せる)。飲食物や煙で喉が詰まらされて咳き込む。ンˈツァイルン [ʔnˈtsairuŋ](咳き込む) ともいう。「～心のみ咽乍有尓 < ムセツツアルニ >～。万、546」の転訛したものか。アˈバテーˈティ　ミˈジˈ　ヌムカー　ンˈツンダˈ　ンˈツァーンˈヨーニ　ˈヨーンナˈ　ヌミバ [ʔaˈbateːˈti miˈʤiˈ numuka: ʔnˈtsundaˈ ʔnˈtsaːɲˈjoːni ˈjoːnnaˈ numiba](慌てて水を飲むと噎(ム)せるから、噎せないようにゆっくり飲めよ)。タˈムˈノー　フˈチˈマリティ　キˈボーシˈナ　ンˈチティˈ　イキ　ˈシーマーキ　ベー [taˈmuˈno: ɸu̥ˈʧiˈmariti kiˈboːʃiˈna ʔnˈʧitiˈ ʔiki ˈʃiːmaːki beː](薪が燻(クスブ)って、煙に噎せんで < むせて > 息をし兼ねている)。キˈボーシˈシンˈツˈ　クトゥンˈアン [kiˈboːʃiˈʃi ʔnˈtsuˈ ku̥tuŋˈ ʔaŋ](煙で噎すこともある)。ンˈチェーˈ　ミサムヌ [ʔnˈʧeːˈ misamunu](噎(ムセ)べばいいのに)。ンˈチˈバ [ʔnˈʧiˈba](噎よ)。

ˈンテーˈナ [ˈnteːˈna] 【接助】～ながら。～のついでに。～がてら。動詞の連用形に付いて、動作の同時進行の意味を表す。ˈカイムヌ　シンテーナˈ　イˈサンケー　パッˈタ [ˈkaimunu ʃinteːnaˈ ʔiˈsaŋkeː patˈta](買い物をしがてら石垣島へ行った)。ˈイー　ッふァインテーˈナー　ˈシンˈブン　ユˈムˈナ [ˈʔiː ffainteːˈna: ˈʃimˈbuŋ juˈmuˈna](飯を食いながら新聞を読むな)。ˈジーˈ　カˈキンテーˈナ　ムˈニˈユムカー　マˈチガイˈス [ˈʤiːˈ kḁˈkinteːˈna muˈniˈjumuka: maˈʧigaiˈsu](字を書きながら話すと間違える)。

ンˈドーシ [nˈdoːʃi] 【連】～ずに。～ないで。動詞の未然形を受けて、打消しの意を伴って文を中止したり、連用修飾する。ナˈカンドーˈシ　ッˈふァイˈバ [naˈkandoːˈʃi fˈfaiˈba](泣かずに食べなさいよ)。ˈワーˈ　パˈランˈドーシ　ˈクナー　ヌˈカˈリ [ˈwaːˈ paˈranˈdoːʃi ˈkuna: nuˈkaˈri](君は行かないで、ここに残れ)。

ˈ-ンドーレー [ˈ-ndoːreː] 【副助】～など。～なんか。～なんど。1いろいろな語句に付いて、それに類する事物を示す。アˈミˈヌ　ˈフインˈギサバ　ˈカサンドーレー　ˈバシキルナˈヨー [ʔaˈmiˈnu ˈɸuiŋˈgisaba ˈkasandoːreː ˈbaʃi̥kirunaˈjoː](雨が降りそうだから、傘などを忘れるなよ)。2さらに副助詞ˈ-ナーˈト [ˈ-naːˈto](～など。～なんど) が付く。ˈカサンドーレー　ˈナーˈトー　ˈバシケーラー　ザーˈパイ　ˈスンˈダー [ˈkḁsandoːreː ˈnaːˈto: ˈbaʃi̥keːraː ʤaːˈpai ˈsunˈdaː](傘などを忘れたら面倒なこと < 大変な事、始末に終えない面倒なこと > になるぞ)。3さらに格助詞ˈ-ヌ [ˈ-nu](～が < 主格 >)、格助詞ˈ-バ [ˈ-ba](～を)、格助詞ˈ-ニ [ˈ-ni](～に)、格助詞ˈ-ラー [ˈ-raː](～から) が付く。ヤˈラˈビンドーレーヌ　アˈツァˈマリ　ˈクーカー　ˈデーˈジ　ˈダー [jaˈraˈbindoːreːnu ʔaˈtsaˈmari ˈkuːkaː ˈdeːˈʤi ˈdaː](子供たちなどが集まってきたら大変だぞ)。ˈウッˈツァンドーレーン　シゥˈカレーラ　デーˈジ　ˈダー [ˈʔutˈtsandoːreːn si̥ˈkareːraː deːˈʤi ˈdaː](彼らなんぞに聞かれたら大変 < 大事 > だぞ)。ˈアイブー　ˈムヌンドーレーバ　アˈツァˈミティ　ˈヌーˈ　スワ [ˈʔaibuː ˈmunundoːreːba ʔaˈtsaˈmiti ˈnuːˈ suwa](あんな物なんぞを集めてどうするのか)。ˈカイブー　ˈムヌンドーレーラル　シˈダキˈ　シˈティルˈティムカーヤ [ˈkaibuː ˈmununduːreːraru ʃiˈdakiˈ ʃi̥ˈtiruˈtimukaːja](こんな物などからが < ぞ > 先に捨てるというものだよ)。

ˈ-ンˈドゥ [ˈ-nˈdu] 【接助】～ので。～の故に。～のために。動詞、形容詞の連用形について、条件節の原因・理由を表し、主節へ順態接続する。接続助詞ˈ-ヌ [ˈ-nu](～が) に強意の係助詞ˈ-ドゥ [ˈ-du](ぞ) が付いて形成されたもの。[nudu] → [ndu](～ので < がぞ >) のように音韻変化したもの。アˈマˈヌ　パˈタラキンドゥˈ　ドゥー　ヤˈマˈシェール [ʔaˈmaˈnu pḁˈtarakinduˈ duː jaˈmaˈʃeːru](働きすぎて < あまりにも働くので > 体を壊し < 病まし > たのだ)。ヤˈラビˈヌ　アˈマˈヌ　ナˈキンドゥ　ソーˈシˈティˈ　イˈサンˈヤー　ˈサーリパッˈタˈダー [jaˈrabiˈnu ʔaˈmaˈnu naˈkindu soːˈ ʃi̥ˈtiˈ ʔiˈsaŋˈja: ˈsaːri patˈtaˈdaː](子供があまりにも泣くので、心配して病院 < 医者の家 > へ連れていったのだよ)。ドゥˈクˈヌ　カˈジヌ　スーヤン < スーワン >ˈドゥˈフネー　ンˈザサランˈ　ブˈレーˈル [duˈkuˈnu kaˈʤinu suːjan < suːwan >ˈdu ˈɸune: ʔnˈʤasaramˈ buˈreːˈru](あまりにも風が強いので、船は出されなかったのであろうよ)。

ˈンドゥン [ˈnduŋ] 【副助】～でも。～にでも。名詞、代名詞、助詞、に付く。ˈアツァンドゥン　パˈラˈリカー　ˈヨイˈヤー　マˈニヤウンˈドゥˈナー [ˈʔatsandum paˈraˈrika: ˈjoiˈja: maˈnijaunˈduˈnaː](明日にでも行けたらお祝いには間に合うんだがなあ)。ˈバーン

ドゥン　シ˩ミ˥　ッ˩ふォー˥ルカー　イッ˩カ　スン˥マー　シ˩ミ　オーラサ˥ヌ [˥baːnduŋ ʃi˩mi˥ f˩foː ˥rukaː ʔik˩ka sum˥maː ʃi˩mi ʔoːrasa˥nu](私にでもさせて下さるなら、決して損はお掛けいたし＜損をさせまいらせ＞ません)。カ˩ナパイ˥シンドゥン　˩カイサ˥リカー　˩カイスン˥ドゥ˩ナー [ka˩napai˥ ʃinduŋ ˩kaisa˥rikaː ˩kaisun˥du˩naː](鍬ででも耕されたら、耕すんだがなあ)。

˩-ンナー˥ニ [˩-nnaː˥ni] 【格助】～に。～に対して。-ン [-n](～に) の項参照。

ン˩ニ [ʔn˩ni] 【名】棟。屋根の頂上の水平部分。「棟宇　上都弄反、(略) 倭言　牟年」『新訳華厳経音義私記』の転訛したもの。ム˩ニ [mu˩ni](棟) ともいう。˩ヤー˥ヌ　ン˩ニ˥　フ˩クン [˩jaː˥nu ʔn˩ni˥ ɸu̥˩kuŋ](家の棟を葺く)。

ン˩ニ [ʔn˩ni] 【名】嶺。山の高く尖った所。「～見れどもあやし弥祢太可美 (ミネダカミ)～。万、4003」の転訛か。/カイサ　ムイタル　ムニンヌ　クバ　タカサ　ムイタル　ティジヌクバ (美しく生えた棟(ムネ)の蒲葵(キバ)、高く生えた頂上の蒲葵)/『鳩間島古典民謡古謡集』ともいう。

ン˩ニアギ [ʔn˩niʔagi] 【名】棟上。棟上式。ム˩ニアギ [mu˩niʔagi](棟上式) の項目参照。

ン˩ニウチ [ʔn˩niʔutʃi] 【名】胸中。胸のうち。「胸内」の義。バ˩タ˥ウチ [ba˩ta˥ʔutʃi](腹の内) ともいう。プ˩スヌ˥　ン˩ニウチェー˥　バ˩タン˥　ナカー　˩ペーラン˥カー　ワ˩カラ˥ヌ [pu̥˩sunu˥ ʔn˩niʔutʃeː˥ ba˩tan˥naka: ˩peːraŋ˥kaː wa˩kara˥nu](他人の胸中の思いは、腹の中に入ってみないと分からないものだ)。

ン˩ニギー [ʔn˩nigiː] 【名】むなぎ (棟木)。家を建てる際、柱・梁(ハリ)などを組み立てて、その上に棟木(ムナギ)を上げる、その材木。ン˩ニギタ [ʔn˩nigita](棟桁) ともいう。棟木には、「天官賜福紫微鸞駕」と墨書(ボクショ)し、ピ˩ル [pi˩ru](大蒜) と塩を包んで、棟木に吊(ツル)る す。上棟式(ジョウトウシキ)は満ち潮に合せて行う。四隅の˥ムヤーバラー [˥mujaːbaraː](母屋柱) の上には、紅白の餅を供え、ナ˩カ˥バラー [na˩ka˥baraː](中柱、大黒柱) の上にも紅白の餅を供えて、安全・健康・繁盛の祈願をし、建築の施主と棟梁が屋根から餅撒きをする。子供たちや村人たちが餅を拾うためにたくさん集まってくる。˩バン˥テヌ　ウ˩ブヤー˥ヌ　ム˩ニアギ　ソーッ˥タ　˥バス　トゥ˥ムレーヌ˥　ウブザール　ン˩ニギー˥ナ　˩テンカン˥　シフク　シビランガー˥ティ　カ˩コーッ˥タ˩ダー [˩ban˥ tenu ʔu˩bujaː˥nu mu˩niʔagi soːt˥ta ˥basu tu˩mureːnu˥ ʔubudʑaːru ʔn˩nigiː˥na ˩teŋkaŋ˥ ʃiɸuku ʃi˩biraŋgaː˥ ti kḁ˩koːt˥ta˩daː](私の家の母屋の棟上式をされたとき、友利家の˥ウボーザー [˥ʔuboːdʑaː](大兄＜田代浩氏＞) が棟木に「天官賜福紫微鸞駕」と書かれたよ)。

ン˩ニギタ [ʔn˩nigita] 【名】棟桁。ン˩ニギー [ʔn˩nigiː](棟木) ともいう。棟の柱と柱の上に掛け渡した桁材。「～板田の橋の壊れなば従桁＜ケタヨリ＞行かむ～。万、2644」の転訛したもの。ン˩ニギー [ʔn˩nigiː](棟木) の項参照。

ン˩ニタラーシ [ʔn˩nitaraːʃi] 【名】寛恕(カンジョ)。相手の欠点をひろい心で許すこと。赦免(シャメン)する。「胸足らし」の義。キ˩ムタラー˥シ [ki˩mutaraː˥ʃi](許すこと。赦免する。「肝足らし」の義) と同義語で対句的に用いられる。˩クン˥ゾーン　ン˩ゾーリ˥ス　パジ˩ダー˥ヌ　ン˩ニタラーシ˥　キ˩ムタラー˥シ　˩シー˥　タ˩ボー˥レーティ　ナ˩ラー˥シ　タ˩ボー˥ラナー˩ラ＜タ˩ボー˥リ＞[˩kun˥dʑoːn ʔn˩dʑoːri˥su padʑi˩daː˥nu ʔn˩niaraːʃi˥ ki˩mutaraː˥ʃi ˩ʃiː˥ ta˩boː˥reːti na˩raː˥ʃi ta˩boː˥ranaː˩ra＜ta˩boː˥ri＞](お腹立ちもなさるはずでしょうが、ご寛恕たまわって、広い心でお許し賜って、教え導き下さいませ)。

ン˩ニブニ [ʔn˩nibuni] 【名】鎖骨(サコツ)。「むなぼね (胸骨)」の義。˩ンーニブニ [˩ʔnːnibuni](鎖骨。むなぼね＜胸骨＞) ともいう。シ˩マ˥バ　˥トゥリティ　˩ナンギラーリ˥タ　˩ピョー˥シナー　˩ンーニブニ˥　ブリシ˩ティナー˥ヌ [ʃi˩ma˥ba ˥turiti ˩naŋgiraːri˥ta ˩pjoː˥ ʃinaː ˩ʔnːnibuni˥ buri ʃi̥˩tinaː˥nu](相撲をとって、投げられた拍子に鎖骨(サコツ)を折ってしまった＜折って捨ててない＞)。

˩ンノーン [˩n˥noːŋ] 【副助】～でも。～だけでも。一部を挙げて他を暗示する、「せめて～でも」の意味を表す。名詞、代名詞、動詞の連用形などに付く。˥ジンノーン　˥アルカー　ン˩マー˥ムヌン　˩カーリスンドゥ [˥dʑinnoːŋ ˥ʔaruka: ʔm˩maː˥munuŋ ˩kaːrisundu](お金でも有れば美味しいのが買えるのだが)。ウ˩リン˥ノーン　˩カイル˥　シトゥ　シ˩ラリル [ʔu˩rin˥noːŋ ˩kairu˥ ʃi̥tu ʃi˩rariru](これでも買ってお土産にしよう＜お土産にしなければなるまい＞)。パ˩タラキン˥ノーン　˩シーシェー˥カー　˩ドゥー˥ヌ　ッ˩ふァイ˥フチェー　˩モーキラリ˥　スンドゥ˩ナー [pḁ˩tarakin˥noːŋ ˩ʃiːʃeː˥kaː ˩duː˥nu f˩fai ˥ɸu̥tʃeː ˩moːkirari˥ sundu˩naː](働きでもすることができたら＜せめて働ければ＞自分のくいぶち＜食

扶持 > は儲けられる < する > んだがなあ)。

˞ン˜パー　˞スン **[˞m˜paː˞suŋ]**【連】〜たがらない。〜なくする。〜嫌がる。動詞の未然形に付く。˞ジー˜　カ˞カ˜スンティ　˞スンドゥ˜　カ˞カン˜パー　˞シー˜　ムッ˞トゥ˜　カ˞カサラ˜ヌ [˞ʤiː˜ kạ˞ka˜sunti ˞sundu˜ kạ˞kam˜paː ˞ʃiː˜ mut˞tu˜ kạ˞kasara˜nu](文字を書かせようとするが、書きたがらなくて、一向に書かされない)。

ン˞バイムヌ **[ʔm˞baimunu]**【名】食べると傷や腫れ物が化膿したり、悪化するもの。˜シラプソー　˞マンズイ˜ヌ　˜ナル　ナ˞マ˜イズンドーレーヤ　ン˞バイムヌ˜ティ　˞シー˜　ッ˞ふァーソーラン˜シェン [˜ʃirapụso: ˞manʤui˜nu ˜naru na˞ma˜ʔiʤundoːreːja ʔm˞baimunu˜ti ˞ʃiː˜ f˞faːsoːraŋ˜ʃeŋ](産婦には、パパイヤの実や生の魚などは傷を化膿(カノウ)させるものとして、食べさせられなかった)。

ン˞バイルン **[ʔm˞bairuŋ]**【自動】化膿する。傷やおできの (御出来) 等が特定の食物によって化膿が促進される。ビ˞トゥラー˜　ムヌ　ッ˞ふー˜カー　ン˞バイルン˜ティ　ス˞クタヌ˜　ン˞バイランバント ナー [bi˞turaː˜ munu f˞fuː˜kaː ʔm˞bairun˜ti sụ˞kutanu˜ ʔm˞bairambanˈna:](脂っこいものを食べると傷が化膿すると聞いたが、化膿しないんだねえ)。ン˞バイ　ヤッ˜サン [ʔm˞bai jas˜saŋ](化膿しやすい)。ッ˞ふァイムヌ˜シ　ン˞バイル˜　クトゥン　˜アン [f˞faimunu˜ʃi ʔm˞bairu˜ kụtuŋ ˜ʔaŋ](食べ物で傷が化膿することもある)。ン˞ベーマー˜　ン˞バイレー˜　ミサムヌ [ʔm˞beːmaː˜ ʔm˞baire:˜ misamunu](少しは化膿すればいいのに)。

ン˞バウン **[ʔm˞bauŋ]**【自動】化膿する。傷やおできの < 御出来 > 等が脂肪分の多い特定の食物によって化膿が促進される。ビ˞トゥ˜ラー　˜ムヌ　ッ˞ふー˜カー　キ˞ジェー˜　ン˞バウントダー [bi˞tu˜raː ˜munu f˞fuː˜kaː ki˞ʤeː˜ ʔm˞baunˈda:](脂っこいものを食べると傷は化膿するぞ)。アー˞イ˜　ン˞バーヌ [ʔaː˞i˜ ʔm˞baːnu](いや、化膿しない)。ン˞バイ　ナー˜ヌ [ʔm˞bai naː˜nu](化膿してしまった)。ン˞バウ˜　クトー　˞ナー˜ヌ [ʔm˞bau˜ kụtoː ˞naː˜nu](化膿することはない)。ン˞バイヤー˜　ミサムヌ [ʔm˞baijaː˜ misamunu](化膿すれば良いのに)。

ン˞バウン **[ʔm˞bauŋ]**【他動】奪(ウバ)う。強奪(ゴウダツ)する。ウ˞バウン [ʔu˞bauŋ](奪う) ともいう。プ˞スヌ˜　ム˞ヌ˜バ　ン˞バイ˜　トゥ˞ル˜ナ [pụ˞sunu˜ mu˞nu˜ba ʔm˞bai˜ tu˞ru˜na](他人のものを奪い取るな)。˜バー　ン˞バーヌ [˜baː ʔm˞baːnu](私は奪わない)。ン˞バウンティ　スンドゥ˜　ン˞バウ˜　クトー　ナ˞ラン˜バン [ʔm˞baunti sundu˜ ʔm˞bau˜ kụtoː na˞ram˜baŋ](奪おうとするが、奪うことが出来ないよ)。ン˞バイヤー˜　ミサムヌ [ʔm˞baijaː˜ misamunu](奪えば良いのに)。˞パー˜ク　ン˞バイ˜バ [˞paː˜ku ʔm˞bai˜ba](早く奪えよ)。

ン˞バウン **[ʔm˞bauŋ]**【自動】傷やおできの (御出来) が化膿し悪化する。ッ˞ふァイムヌ˜シン　キ˞ジェー˜　ン˞バウンドゥ˜　ギラー　ン˞バーンシェン [f˞faimunu˜ʃiŋ ki˞ʤeː˜ ʔm˞baundu˜ giraː ʔm˞baːŋʃeŋ](食べ物でも傷は化膿するが、シャコ貝は化膿しなかった)。ン˞バイ　ヤッ˜サン [ʔm˞bai jas˜saŋ](化膿しやすい)。ン˞バウ˜　ムノー　ッ˞ふーナ [ʔm˞bau˜ muno: f˞fuːna](化膿するものは食べるな)。ン˞バイヤー˜　ミサムヌ [ʔm˞baijaː˜ misamunu](化膿すれば良いのに)。

ン˞パルン **[ʔm˞paruŋ]**【自動】おくび (噯気)。げっぷをする。ン˞パイルン [ʔm˞pairuŋ] ともいう。カ˞クラー˜キ [kạ˞kuraː˜ki](胸焼け) をする時に喉が詰まるようになって、げっぷをする。古老が用いる。ほとんど死語化している。カ˞クラー˜キ　˞スー˜カー　ン˞パ (イ) ルントダー [kạ˞kuraː˜ki ˞suː˜kaː ʔm˞pa(i)runˈda:](胸焼けするとげっぷするよ)。

˜ンブー **[˜ʔmbuː]**【名】幼児語。牛。˜ウリウリ　˜カマーラ　˜ンブーヌ　クン˞ドー [˜ʔuriʔuri ˜kamaːra˜ ʔmbuːnu kun˞doː](ほらほら、向こうから牛が来るよ)。

ン˞ブ˜サー **[ʔm˞bu˜saː]**【名】蒸し物。蒸して作る料理。煮しめもの。タ˞ク˜トゥ　カ˞マブクトゥ˜　ク˞ブ˜トゥ　˞ダイクン˜ヌ　ン˞ブサー˜ヌ　ア˞ジェー　バシキララヌ [tạ˞ku˜tu ka˞mabukutu˜ ku˞bu˜tu ˞daikun˜nu ʔm˞busaː˜nu ʔa˞ʤeː baʃị̈kiraranu](蛸(タコ)と蒲鉾(カマボコ)と昆布と大根の煮しめものの味は忘れられない)。

ン˞ブサ˜リン **[ʔm˞busa˜riŋ]**【連】蒸(ム)される。ン˞ブ˜スン [ʔm˞bu˜suŋ](蒸す) の未然形ン˞ブサ [ʔm˞busa] に、受身、可能の助動詞˜リン [˜riŋ](〜れる) が付いて形成された派生動詞。˞クシ˜キナ　イ˞リティ˜　ン˞ブ˜スカー　ン˞ブサ˜リンティ　ウ˞ムータ˜ヌ　ン˞ブサラン˜バン [˞kuʃị̈˜kina ʔi˞riti˜ ʔm˞bu˜sụka: ʔm˞busa˜rinti ʔu˞muːta˜nu ʔm˞busaram˜baŋ](甑(コシキ)に入れて蒸すと蒸されると思ったが、蒸されないよ)。˞クシ˜キシル　ン˞ブサリ˜ル [˞kuʃị̈˜kiʃiru ʔm˞busari˜ru](甑でしか < ぞ > 蒸されない < 蒸される >)。

ン˞ブシ **[ʔm˞buʃi]**【名】おもし (重石)。漬物のおもし。「錘、オモシ・ハカリノヲモシ」『類聚名義抄』

の転訛したもの。ウˈムシ [ʔuˈmuʃi](重石) ともいう。ムˈチヌ˥　クー　ピˈサ˥スンティ　ˈシー˥　イˈソーシバ˥　ウˈムシ　シー　ウシキ˥　シケー [muˈʧinu˥ ku: pi̥ˈsa˥sunti ˈʃi:˥ ʔiˈso:ʃiba˥ ʔuˈmuʃi ʃi: ʔuʃi̥ki˥ ʃi̥ke:](一晩水につけた糯米を水を加えつつ石臼で挽き、メリケン袋に入れた糯粉の水分を水切りするために、餅粉を入れたメリケン袋に石臼を重石にして押してあるもの)。

ンˈブシ˥ナビ [ʔmˈbuʃi˥nabi] 【名】蒸し鍋。ンˈブシ˥ナビナ　ˈクシ˥キ　ビˈシティ˥　ムˈチ　ネーシ [ʔmˈbuʃi˥nabina ˈkuʃi˥ki biˈʃiti˥ muˈʧi ne:ʃi](蒸し鍋に甑を据えて餅を蒸かせ＜蒸し煮しなさい＞)。

ンˈブシ˥ムチ [ʔmˈbuʃi˥muʧi] 【名】蒸し餅。甑や蒸篭で蒸しあげて作る餅。パˈトゥ˥マナテー　シˈキム˥チェー　スˈク˥ローランシェン　ンˈブシムチ˥ル　スˈク˥ローッタ [pḁˈtu˥manate: ʃi̥ˈkimu˥ʧe: su̥ˈku˥ ro:ranʃeŋ ʔmˈbuʃimuʧi˥ru su̥ˈku˥ro:tta](鳩間島では搗き餅は作られなかった。蒸し餅を＜ぞ＞作られた)。

ンˈブシ˥ムヌ [ʔmˈbuʃi˥munu] 【名】蒸し物。行事食の一つ。一度煮た魚や大根類、パパイヤ (蕃瓜樹)、芋(イモ)、蛸(タコ)、蒲鉾(カマボコ)などを蒸篭(セイロ)に入れて蒸し煮したもの。祭祀行事の際に作られた料理。ンˈブ˥サー [ʔmˈbu˥sa:](蒸し煮した料理。大味なるをもって良しとする)。ンˈブシ˥ムノー　スˈコーレーン˥カヤー [ʔmˈbuʃi˥muno: su̥ˈko:re:ŋ˥kaja:](蒸し物は作ったかねえ)。

ンˈブ˥スン [ʔmˈbu˥suŋ] 【他動】蒸す。湯気をとおして熱する。ふかす。甘藷(カンショ)を煮る際に甘藷の上に芭蕉の葉でナˈカ˥フタ [naˈka˥ɸu̥ta](中蓋(ナカブタ)。内蓋) をしてその上に餅や蒲鉾等をおいて蒸した。ムˈチ˥　ンˈブ˥スンティ　˥シケー [muˈʧi˥ ʔmˈbu˥sunti ˥ʃi̥keː](＜硬くなった＞餅を蒸そうとおいてある)。イˈゾー˥　ンˈブサン˥ドーシ　ミˈジネー˥シ　ˈシー˥バ [ʔiˈʤo:˥ ʔmˈbusan˥do:ʃi miˈʤine:˥ʃi ˈʃi:˥ba](魚は蒸さないで、水煮にしなさいよ)。ˈクシ˥キシ　ンˈブ˥シミサカー　ンˈブ˥ス　˥クトー　˥ナルン [ˈkuʃi̥˥kiʃi ʔmˈbu˥ʃi ˥misaka: ʔmˈbu˥su ˥ku̥to: ˥naruŋ](甑で蒸してよければ蒸すことは出来る)。ˈマー˥ビン　ンˈブ˥シェー　˥ミサムヌ [ˈma:˥bim ʔmˈbu˥ʃe: ˥misamunu](もっと蒸せばいいのに)。クˈレー　パー˥ク　ンˈブ˥シ [kuˈre: pa:˥ku ʔmˈbu˥ʃi](これは、早く蒸しなさい)。

ンˈブニー [ʔmˈbuni:] 【名】重荷。重い荷物。カˈタマラ˥ン　ンˈブニー˥バ　カˈタ˥ムンティ　ˈシー˥　ッˈスフカサ˥リ　˥スコー　ˈアウ˥リ　ˈシー　ミッ˥タン [kḁˈtamara˥m ʔmˈbuni:˥ba kḁˈta˥munti ˈʃi:˥ sˈsuɸu̥kasa˥ri ˥su̥ko: ˈʔau˥ri ˈʃi: mit˥taŋ](担がれない重荷を担ごうとして、非常に苦労した＜脱糞させられるほどの難儀をした＞ことがある)。

ンˈブリ˥ルン [ʔmˈburi˥ruŋ] 【自動】蒸(ムサ)れる。蒸される。蒸し暑くなる。「o、可志久　又宇牟須」『新撰字鏡』の転訛したもの。ˈマー˥　ンˈベーマ˥　スカー　ムˈチェー˥　ンˈブリ˥ルン　パジˈダー [˥ma: ʔmˈbe:ma˥ su̥ka: muˈʧe:˥ ʔmˈburi˥rum paʤiˈda:](もう少ししたら餅は蒸されるはずだよ)。マˈダ˥　ンˈブリラ˥ヌ [maˈda˥ ʔmˈburira˥nu](まだ蒸されない)。ˈオーパ˥ヤー　ンˈブリ˥ル　˥パジェー　ˈナーヌ˥ヌ　ンˈブ˥リ　˥タリ　ˈベー [ˈʔo:pa˥ja: ʔmˈburi˥ru ˥paʤe: ˈna:nu˥nu ʔmˈbu˥ri ˥tari ˈbe:](こんなに早く蒸されるはずはないが、すでに蒸されて溶けて＜垂れて＞いる)。ˈパー˥ク　ンˈブ˥レー　˥ミサムヌ [ˈpa:˥ku ʔmˈbu˥re: ˥misamunu](早く蒸されたらいいのに)。ドゥˈク˥ヌ　˥アツァティ　ンˈブリ˥ルンティ　ˈアーク˥タˈドー˥スカーヤ [duˈku˥nu ˥ʔatsati ʔmˈburi˥runti ˈʔa:ku˥taˈdo:˥ su̥ka:ja](あまりの暑さに蒸される＜蒸されようとしている＞ところだったよ)。

ンˈブ˥ルン [ʔmˈbu˥ruŋ] 【自動】蒸(ム)れる。蒸される。蒸し暑くなる。他動詞、ンˈブ˥スン [ʔmˈbu˥suŋ](蒸す。「宇牟須」『新撰字鏡』) の自動詞化したもの。クˈヌ　クシ˥ケー　˥イチジカンシ　ンˈブ˥ルンティ　スˈクタンドゥ˥　マˈダ˥　ンˈブラン˥バン [kuˈnu kuʃi̥˥ke: ˥ʔitʃiʤikaŋʃi ʔmˈbu˥runti su̥ˈkutandu˥ maˈda˥ ʔmˈburam˥baŋ](この甑(コシキ)は一時間で蒸しあがると聞いたんだが、まだ蒸しあがらないよ)。˥ティダナカナー　シˈグトゥ　シー　ベー˥ティ　ンˈブ˥リティ　˥シラー　アˈガミ　ベー [˥tidanakana: ʃiˈgutu ʃi: beː˥ti ʔmˈbu˥riti ˥ʃira: ʔaˈgami be:](炎天下で仕事をしていて、蒸(ム)れて顔は赤くなっている)。˥ティダナカナーティ　ンˈブ˥ル　˥プソー　˥カイナカー　ˈサーリ　ギー˥　ミˈジ˥　ヌˈマシ˥タ [˥tidanakana:ti ʔmˈbu˥ru ˥pu̥so: ˥kainaka: ˈsa:ri gi:˥ miˈʤi˥ nuˈmaʃi̥˥ta](炎天下で蒸れるときは、日陰に連れていって水を飲ませた)。

˥ンベー [˥ʔmbe:] 【名】1幼児語。山羊。˥ンベー　˥ミリン　パラˈナー [˥ʔmbe: ˥mirim paraˈna:](山羊を見に行こうねえ)。2擬声語。山羊の鳴き声。ピˈビザー　ヤー˥サーティ　ンˈベー˥　ンˈベー˥ティ　ナˈキ　ベー [piˈbiʤa: jaː˥sa:ti ʔmˈbe:˥ ʔmˈbeː˥ti naˈki be:](山羊はひもじいのでンベーンベーと鳴いてい

る)。

ンˈベーマ [ʔmˈbeːma] 【副】少し。わずか。ちょっと。ンˈメーマ [ʔmˈmeːma](少し)、イˈベーマ [ʔiˈbeːma](少し) ともいう。ˈイー˥ヤー　ンˈベーマ˥ナー　ッˈふァーリントダー　メー [ˈʔiː˥jaː ʔmˈbeːma˥naː fˈfaːrin˧daː ˥meː](ご飯は少しずつは食べられるよ、もう)。

ンˈベールン [ʔmˈbeːruŋ] 【自動】食べ物が古くなって悪くなる。腐れかかる。石垣方言からの借用語。イˈゾー˥　ンˈベーリティ˥　ッˈふァーラヌ [ʔiˈʥoː˥ʔmˈbeːriti˥ fˈfaːranu](魚は腐れかかって食べられない)。

ンˈベー˥　ンˈベー [ʔmˈbeː˥ ʔmˈbeː] 【感】めえめえ。山羊の鳴き声 (擬声語)。ンˈベー˥　ンˈベー˥ティ　ピˈビザ˥　ナˈカス˥カー　ムˈラズーヌ˥　プˈス˥ニ˥バー　˥スブットゥ　フˈユ˥ニンˈドー˥ティ　ウˈヤー˥リ　ˈベー˥ムヌトゥ　ユˈヌ˥ムヌティ　˥アチャー　イˈジ˥　ナˈラー˥ソーッタˈダー [ʔmˈbeː˥ ʔmˈbeː˥ti piˈbiʥa˥ naˈkasu̥˥kaː muˈraʥuːnu˥ pu̥ˈsu˥ni ˥baː˥ subuttu ɸuˈju˥ninˈdoː˥ti ʔuˈjaː˥ri ˈbeː˥ munutu juˈnu˥munuti ˥ʔatʃaː ʔiˈʥi˥ naˈraː˥soːttaˈdaː](めえめえと山羊を鳴かすと、村中の人に対してˈ私は怠け者、役に立たない者＜不用人＞ですと、大声で怒鳴っているのと同じことだ」とお父さんは＜私を＞叱って教えられたよ)。

ンˈボー˥マ [ʔmˈboː˥ma] 【名】1幼児語。子牛。˥カナー　ンˈボーマ˥ヌ　ˈベー˥ン [˥kanaː ʔmˈboːma˥nu ˈbeː˥ŋ](あそこに子牛がいるよ)。2貝の名。和名、ハナマルユキ。タカラガイ (宝貝) やコヤスガイのこと (幼児語)。長楕円形で鶏卵大の大きさの貝。茶褐色に黒の斑点があり、腹部は白色を呈する。網の重しに用いられたが、食べなかった。格好(カッコウ)が子牛に似ることからいう。子供は、それを玩具にして遊んだ。ンˈボー˥マー　ヤˈラビ˥ヌ　ムˈタビ˥ムヌ　ˈヤッタ [ʔmˈboː˥maː jaˈrabi˥nu muˈtabi˥munu ˈjatta](ンボーマ＜宝貝＞は子供の玩具(ガング)であった)。

ンˈボー˥ン [ʔmˈboː˥ŋ] 【形】重い。老年層の言葉。ˈグッ˥ふァン [ˈgufˈfaŋ](重い) ともいう。シˈトゥ˥ケーン [ʃi̥ˈtu˥keːŋ](乳児などが発育して重い) は乳児に対してのみ用いる。˥ミルカー　ンˈボーン˥ギサタンドゥ　˥ムタイ　ˈミッ˥ター　ˈナン˥ゾー　ンˈボー　ナーン˥シェン [˥miruka: ʔmˈboːŋ˥gisatandu˥mutai ˈmit˥taː ˈnan˥ʥoː ʔmˈboː naːŋ˥ʃeŋ](見ると重そうだったが、持ち上げてみたらあまり重くなかった)。ˈシンダイ˥　ンˈボー˥　ナルン [ˈʃindai˥ ʔmˈboː˥ naruŋ](次第に重くなる)。˥ドゥク　ンˈボー˥ムノー　ムˈタラ˥ヌ [˥duku ʔmˈboː˥ munoː muˈtara˥nu](あまり重いものは持たれ＜持ち上げられ＞ない)。

˥ンマ [˥ʔmma] 【名】うま (午)。十二支の第七番目。ンˈマヌ˥パーカジヌ　˥フクン [ʔmˈmanu˥paːkaʥinu˥ɸu̥kuŋ](午の方の風＜南の風＞が吹く)。ウˈレー˥　ンˈマ˥ディプス　ヤˈレー˥ティル　˥アイニ　ˈピャーンカ　ピャーンカ˥シ　パˈニッケー˥レーティ　ˈアー˥ク [ʔuˈreː˥ ʔmˈma˥dipu̥su jaˈreː˥tiru ˥ʔaini ˈpjaːŋka pjaːŋka˥ʃi paˈnikkeː˥reːti ˈʔaː˥ku](彼は午年生まれだから、あのようにピョンコピョンコと跳(ハ)ね回っている＜あるく＞のだ)。

ンˈマー˥ムヌ [ʔmˈmaː˥munu] 【名】ご馳走。「おいしい物」の義。ウˈレー˥　ンˈマー˥ムヌ　ッˈふァイナライティ　バン˥ター　バˈカス　イー˥ヤ　プˈス˥フチンツァン　ッˈふァーヌ [ʔuˈreː˥ ʔmˈmaː˥munu fˈfainaraiti ban˥taː baˈkasu ʔiː˥ja pu̥ˈsu˥ɸu̥ʧintsaŋ fˈfaːnu](彼はご馳走を食べなれて、私らの炊くご飯は一口さえも食べない)。

ンˈマー˥ン [ʔmˈmaː˥ŋ] 【形】美味しい。美味である。「飯喫めど味母不在＜ウマクモアラズ＞〜。万、3875」、「〜此れをば于麻時＜うまし＞といふ」『日本書紀　神代上』の転訛したもの。カˈツナマシェー˥　ンˈマー˥ンドゥ　イˈラブ˥チナマシェー　ˈナン˥ゾー　ンˈマー　ナー˥ヌ [kḁˈtsunamaʃeː˥ ʔmˈmaː˥ndu ʔiˈrabu˥ʧinamaʃeː ˈnan˥ʥoː ʔmˈmaː naː˥nu](カツオの刺身は美味しいが、ブダイの刺身は、あまり美味しくない)。˥ドゥク＜アˈマ˥ヌ＞　ンˈマー˥ティ　ヤˈミララヌ [˥duku＜ʔaˈma˥nu＞ ʔmˈmaː˥ti jaˈmiraranu](あまりにも美味しいので止められない)。ˈシンダイ˥　ンˈマー˥　ナルン [ˈʃindai˥ ʔmˈmaː˥ naruŋ](次第に美味しくなる)。ガˈシ˥タコー˥カムカー　カムˈアーシル˥　ンˈマー˥　ナル [gaˈʃi˥tako: ˥kamuka: kamuˈʔaːʃiru˥ ʔmˈmaː˥ naru](焙乾(バイカン)した蛸(タコ)は噛めば噛むほど美味しくなる)。ノー˥ン˥　ンˈマー˥　ムノー　ˈナーヌー [noːˈm˥ ʔmˈmaː˥ munoː ˈnaːnuː](何か美味しいものはないか)。ンˈマー˥カー　ッˈふンティン˥　ウˈモー˥リン [ʔmˈmaː˥ka: fˈfuntiŋ˥ ʔuˈmoː˥riŋ](美味しかったら食べようとも思える)。味がよい。「飯喫めど味母不在＜ウマクモアラズ＞〜。万、3857」の転訛したもの。ˈイー˥ヤ　ンˈマー˥ンドゥ　ˈスー˥ヤ　ンˈマーナー˥ヌ [ˈʔiː˥ja ʔmˈmaː˥ndu ˈsuː˥ja ʔmˈmaːnaː˥nu](ご飯は美味しいが、お汁は美味しくない)。クˈレー˥　ンˈマー˥ヌ

プˈスンマーˉ　ッˈふァーサラヌ [kuˈreːˉ ʔmˈmaːˉ nu pu̥ˈsummaːˉ fˈfaːsaranu](これは美味しくて他人には食べさせられない)。ンˈマーˉ　ムノーラ　イˈラˉビ　ッˈふァイˉバ [ʔmˈmaːˉ munoːra ʔiˈraˉbi fˈfaiˉba](美味しいものから選んで食べなさいよ)。ンˈマーˉカー　ˈバンˉヌン　ッˈふァーシ [ʔmˈmaːˉkaː ˈbanˉnuŋ fˈfaːʃi](美味しかったら私にも食わせろ)。

ンˈマーˉンギサン [ʔmˈmaːˉŋgisaŋ] 【連】美味しそうだ。形容詞の語幹に様態の助動詞ˉンˉギサン [ˈŋˉgisaŋ](～しそうだ) が付いた形。ˉミルカー　ンˈマーンˉギサンドゥ　ˈピッˉチン　アˈジェー　ナーˉヌ [ˉmirukaː ʔmˈmaːŋˉgisandu ˈpitˉʧiŋ ʔaˈʤeː naːˉnu](見ると美味しそうだが、ちっとも味がない)。カˈキンˉギサン [kḁˈkiŋˉgisaŋ](書きそうだ)。クˈレー　バンˉヌン　トゥˈラリンˉギサン [kuˈreː banˉnun tuˈrariŋˉgisaŋ](此れは私にも取られそうだ)。

ンˈマーンマーˉシ　ニˈブン [ʔmˈmaːʔmmaːˉʃi niˈbuŋ] 【連】熟睡(ジュクスイ)する。美味(オイ)しそうに眠る。ンˈマーンマーˉシ　ニˈビ　ベーˉバ　ウˈコースˉナˈヨー [ʔmˈmaːʔmmaːˉʃi niˈbi beːˉba ʔuˈkoːsuˉnaˈjoː](熟睡している＜美味しそうに寝ている＞から、起こすなよ)。

ンˈマˉカザ [ʔmˈmaˉkaʤa] 【名】おいしい匂い。おいしそうな匂い。ˈティンプラˉヌ　ンˈマカザˉヌ＜カˈバッˉサ　カˈバヌ＞　ˈスン [ˈtimpuraˉnu ʔmˈmakaʤaˉnu＜kaˈbasˉsa kaˈbanu＞ ˈsuŋ](テンプラのおいしい匂いがする)。

ンˈマˉサカバサ [ʔmˈmaˉsakabasa] 【名】衣食住の生活が豊かなこと。特に食生活が豊かであること。ウˈヤプスˉヌマイ　ˈカンヌマイˉヌ　カˈルイˉシキ　タˈボーッˉタ　ウˈカˉギシ　ˉカイニ　ンˈマˉサカバサ　タˈボーラˉリ　フˈコーラサト ユー [ʔuˈjapusuˉnumai ˈkannumaiˉnu kaˈruiˉʃi̥ki taˈboːtˉta ʔuˈkaˉgiʃi ˉkaini ʔmˈmaˉsakabasa taˈboːraˉri ɸu̥ˈkoːrasaɻju:](ご先祖様、神様がご加護＜嘉例付け＞くださったお陰で、このように美味しく豊かに食べて暮らすことのできる生活を賜り、有難うございます)。

ンˈマザˉキ [ʔmˈmaʤaˉki] 【名】馬酒。暴れ酒。飲酒すると暴れる癖のある酒の飲み方。

ンˈマˉディマリ [ʔmˈmaˉdimari] 【名】午年生まれ。ンˈマˉディマリヌ　ミˈドーンˉッふァー　ˈヤームティグリˉサンティ　アˈザリブー [ʔmˈmaˉdimarinu miˈdoːŋˉffaː ˈjaːmutiguriˉsanti ʔaˈʤari buː](丙午年うまれの女の子は結婚し＜家庭を持ち＞にくいといわれている)。

ンˈマˉニー [ʔmˈmaˉniː] 【名】うま (午) の日。ˈキューˉヤ (ワ)　ンˈマˉニー　ヤˈルンダ　ワーˉ　マˈリビーˉ　アˈタリ　ブー [ˈkjuːˉja(wa) ʔmˈmaˉniː jaˈrunda waːˉ maˈribiːˉ ʔaˈtari buː](今日は午の日だから、君の誕生日＜生まれ日＞に当たっている)。

ンˈマヌーˉル [ʔmˈmanuːˉru] 【名】馬乗り。ˈピンソーˉヌ　ˉカン　ンˈマヌーˉル　シˈラリティˉ　ヌビーン　ˉピキーン　ナˈラˉヌ [ˈpinsoːˉnu ˉkam ʔmˈmanuːˉru ʃiˈrarit̬iˉ nubiːm ˉpikiːn naˈraˉnu](貧乏の神に取り付かれて＜馬乗りされて＞、身動きが取れない＜伸びをすることも、引くこともできない＞＜諺＞)。

ンˈマヌˉパー [ʔmˈmanuˉpaː] 【名】午の方角。南の方角。カˈジェーˉ　ウリティ　ンˈマヌˉパーラルˉフキ　ˈクーˉバン [kaˈʤeːˉ ʔuriti ʔmˈmanuˉpaːraruˉɸu̥ki ˈkuːˉbaŋ](風は下りて南の方角から涼風(リョウフウ)が吹いてくるよ)。

ンˈマˉムヌ [ʔmˈmaˉmunu] 【名】うまいもの。美味なもの。特別に美味しいものの意味を表す。「飯喫めど味母不在＜ウマクモアラズ＞～。万、3857」の転訛したもの。イˈラˉボー　ˈクンキˉ　シˈキˉムヌン　ヤˈリˉ　ンˈマˉムヌン　ˈヤンˉダー [ʔiˈraˉboː ˈkuŋkiˉʃi̥ˈkiˉmunuŋ jaˈriˉ ʔmˈmaˉmunuŋ ˈjanˉdaː](エラブウナギは滋養食品＜根気付け。精力増進食品＞でもあり、味も美味いものだよ)。

ˉンミ [ˉʔmmi] 【名】(植) 梅。鳩間島には、梅は栽培されていない。歌謡語として用いられる。「烏梅能波奈＜ウメノハナ＞～。万、825」の転訛したもの。ンˈミˉヌ　ˉパナ [ʔmˈmiˉnu ˉpana](梅の花)/サクラバナ　ブナレーマ　ンミカバシャ　ミヤラビ　イチン　ハナサカリ (桜花のような豊艶なブナレマよ。梅の匂いのする可愛い乙女よ。何時も色香は春花のようだ)。「古見の浦節」/『八重山民謡誌』。

ンˈミブシ [ʔmˈmibuʃi] 【名】梅干。石垣方言からの借用語。梅は、鳩間島には産しない。梅干は石垣島から買ってきた。バˈタˉヤビ　ˈスーˉ　ピンマー　ンˈミブシˉ　ッˈふァーソーッˉタ [baˈtaˉjabi ˈsuːˉpimma: ʔmˈmibuʃiˉ fˈfaːsoːtˉta](腹痛の腹壊(ハラコワシ)し＜下痢する＞時は梅干を食べさせられた)。

ンˈメーマ [ʔmˈmeːma] 【副】少し。ちょっと。物量や時間量の少ないことを表す。ンˈベーマ [ʔmˈbeːma](少し) ともいう。古老のなかには、イˈメーマ [ʔiˈmeːma](少し) という人もいる。この場合の [m] と [b] は、自由変異。クˈレーˉ　ンˈメーマーˉ　トゥリ　ˉミサン [kuˈreːˉ ʔmˈmeːmaːˉ turi ˉmisaŋ](此

れは、少しは取っていい)。ンˈメーマンツァン˥　バˈキラ˥ヌ [ʔmˈmeːmantsam˥ baˈkira˥nu](ほんの少しさえも分けない)。ンˈメーマ˥　カーˈニル˥　ッˈふー [ʔmˈmeːma˥ kaːˈniru˥ fˈfuː](少ししか食べない < 少しだけが食う >)。

ンˈメーマ˥スカー [ʔmˈmeːma˥sɯ̥kaː] 【連】副。1少ししたら。しばらくしたら。˥マー　ンˈメーマ˥スカー　ˈイー˥ヤ　ˈニーシバ˥　マティバ [˥maː ʔmˈmeːma ˥sukaː ˈʔiː˥ja ˈniːʃiba˥ matiba](もうしばらくしたらご飯は炊け < 煮え > るから、待ちなさいよ)。2もうちょっとで。すんでのところで。˥マー　ンˈメーマ˥スカー　ˈデー˥ジ　ˈスンティ　アーク˥タ [˥maː ʔm ˈmeːma˥sɯ̥kaː ˈdeː˥ʤi ˈsunti ʔaːku˥ta](すんでの所で < もう少しのところで > 大変なことになるところだった)。

ンˈメーマ˥ナー [ʔmˈmeːma˥naː] 【連】少しずつ。ンˈメーマ [ʔmˈmeːma](少し) に、副助詞˥ナー [˥naː](ずつ。一定量のものを均等に割り当てること) の付いた形。プˈス˥フチシ　プˈス˥ケンナー　ッˈふァーンドー˥シ　ンˈメーマ˥ナー　クˈバ˥メーティ　ッˈふァイ˥バ [pɯ̥ˈsu˥ɸutʃiʃi pɯ̥ˈsu˥kenna: fˈfaːndoː˥ʃi ʔm ˈmeːma˥na: kuˈba˥meːti fˈfai˥ba](一口で、一度に食べないで、少しずつ小分けして食べなさい)。

後書き

本辞典は国立国語研究所所長田窪行則先生、副所長木部暢子先生のご厚意により国立国語研究所より出版されることになったものである。複雑な辞典出版の実務を担当してくださった中川奈津子先生には鳩間方言の動詞や助動詞活用の細目にわたって点検して頂いた。膨大な量の音声を録音するにあたっては、木部暢子先生とセリック・ケナン先生から技術的指導を受けた。後述するように、國學院大學久野マリ子教授には本辞典の原稿資料『プリント版鳩間方言辞典』の作成および国立国語研究所への紹介をしていただいた。

本辞典が出版されるにあたって、多くの先達・先輩・友人からのご指導とご協力を受けることができた。ここに記して感謝の意を表する。まず、1962 年、琉球大学卒業と同時に研究生として畏友野原三義君と共に主任教授仲宗根政善先生のもとで 1 年間研究生生活を送ったが、その際に「鳩間島の文化の総体を記録した方言辞典を残せ」との指導を受けた。そこで、先輩中本正智氏に倣って、同氏所有の『第二次稿本今帰仁方言辞典対照奥武方言集』を大学ノート 10 冊に筆写した。1963 年、研究生課程終了に伴って教職に就くことになり、『今帰仁方言対照鳩間方言集』を仲宗根政善先生に提出した。これが本辞典の種本である。

1972 年、最後の現職高校教師研修制度を利用し、パスポートを持参して東京都立大学大学院修士課程に留学した。大学院は平山輝男先生の研究室に在籍して、大島一郎先生、大久保忠利先生、奥津敬一郎先生、中本正智先生、非常勤の村山七郎先生から方言学を学び、国立国語研究所地方研究室長の上村幸雄先生のもとにも通って方言研究法を学んだ。その際に役立ったのが琉球大学屋比久浩教授担当の英語学の授業であった。琉球大学在学当時、米留帰りの屋比久教授が担当された英語学の授業では、初年度が Leonard Bloomfield の “Language” をテキストに指定され、二年度は、Hockett の “A Course in Modern Linguistics” を、三年度は、Gleason の “An Introduction to Descriptive Linguistics” をテキストにして講義された。私は同じ講義を三回連続して受講した。服部四郎博士の『言語学の方法』が出版された時期と重なっていたので大いに勉強になった。

平山輝男先生はフィールドワークを重視して奄美諸方言、宮古諸方言、八重山諸方言の徹底的分析指導を実施された。私もその過程で少しずつ成長したと思っている。その間も両親が健在であったので、私は鳩間方言を収集し続けながら『石垣方言辞典』の監修者として、石垣方言の録音から『石垣方言辞典』編集の作業まで協力し、辞典づくりの経験を積んだ。

鳩間方言の収集作業が一段落ついた 2016 年 4 月、國學院大學の久野マリ子教授から『鳩間方言辞典』編集援助の有難い申し出があり、さっそく方言資料を USB におとして送ったところ、12 月には全編プリントアウトされ、1 冊 100 頁ずつ 33 冊に仮製本して返送してくださった。これらの作業は大学院生の森越由貴氏、佐藤貴史氏を中心に推進されたという。得難い貴重な協力であった。これによって校正作業が一段と進捗した。

沖縄には、消滅の危機に瀕した方言が、特に離島に残っている。これら諸方言の辞典を作って後世に残す必要がある。この事業を国立国語研究所にお願いしたいと思っている。

加治工　真市　（かじく　しんいち）

1938 年（昭和 13 年）	8 月 13 日	沖縄県八重山郡竹富町鳩間 34 番地に 父伊佐、母もうしやの長男として出生（6 姉弟の 4 番目）。
1951 年（昭和 26 年）	3 月	鳩間小学校卒業。
1954 年（昭和 29 年）	3 月	鳩間中学校卒業。
〃（　〃　）	4 月	八重山高等学校入学。
1957 年（昭和 32 年）	3 月	八重山高等学校卒業。
〃（　〃　）	4 月	鳩間小学校助教諭として赴任（1958 年 1 月 31 日辞職）。
1958 年（昭和 33 年）	4 月	琉球大学文理学部国語国文科入学。方言研究クラブ入部。
1959 年（昭和 34 年）	10 月	琉球方言研究クラブ長（1961 年 9 月まで）。
1962 年（昭和 37 年）	3 月	琉球大学文理学部国文科卒業。
〃（　〃　）	4 月	琉球大学文理学部国語国文科研究生（指導教授　仲宗根政善）。
1963 年（昭和 38 年）	4 月	琉球政府立知念高等学校（定時制）へ赴任。
〃（　〃　）	9 月	琉球政府立宮古水産高等学校へ赴任。
1964 年（昭和 39 年）	4 月	琉球政府立南部農林高等学校へ赴任。
1967 年（昭和 42 年）	4 月	琉球政府立浦添高等学校へ赴任。
1970 年（昭和 45 年）	4 月	琉球政府立沖縄工業高等学校（定時制）へ赴任。
1972 年（昭和 47 年）	4 月	東京都立大学大学院人文科学研究科国文専攻（修士課程）入学。
1974 年（昭和 49 年）	3 月	東京都立大学大学院人文科学研究科国文専攻（修士課程）修了。 文学修士の学位取得。
〃（　〃　）	4 月	琉球政府立沖縄工業高等学校（定時制）へ復職。
1976 年（昭和 51 年）	4 月	東京都立大学大学院人文学部助手。国語学講座、大学院学生指導兼任。
1977 年（昭和 52 年）	4 月	武蔵野美術大学非常勤講師。言語学担当。
1978 年（昭和 53 年）	4 月	国立山口大学教育学部助教授（1984 年 3 月まで）。
1984 年（昭和 59 年）	4 月	中華人民共和国山東大学外文学部日本語科勤務。 中国人学生に対する日本語教育、中古漢語音韻論研究に従事（1985 年 3 月まで）。
1985 年（昭和 60 年）	4 月	山口大学教育学部へ復職。
〃（　〃　）	12 月	沖縄県立芸術大学美術工芸学部教授（文部省教員組織審査）。
1986 年（昭和 61 年）	10 月	沖縄県立芸術大学美術工芸学部教授赴任。
1993 年（平成 5 年）	7 月	沖縄県立芸術大学付属研究所所長を兼任（1999 年 6 月まで 3 期 6 年）。
〃（　〃　）	7 月	沖縄県立芸術大学評議員（1999 年 6 月まで）。
1995 年（平成 7 年）	7 月	『沖縄古語大辞典』（角川書店、共著）
2003 年（平成 15 年）	9 月	『石垣方言辞典』（宮城信勇著、加治工真市監修）
2004 年（平成 16 年）	3 月	沖縄県立芸術大学　定年退職。
〃（　〃　）	4 月	沖縄県立芸術大学　名誉教授。
2012 年（平成 24 年）	3 月	『久高島方言基礎語彙辞典』（福治友邦・加治工真市共著）
2021 年（令和 3 年）	3 月	琉球新報活動賞（出版活動部門）受賞。

NINJAL Language Variation Division

10-2 Midori-cho Tachikawa City, Tokyo, 190-8561 JAPAN

Hatoma-Japanese Dictionary

Author: Shinichi Kajiku

Editor: Natsuko Nakagawa

Published in Tokyo, Japan by Language Variation Division, National Institute for Japanese Language and Linguistics

Printed in Tokyo, Japan by Junbunsha

鳩間方言辞典

発行日	2020 年 3 月 20 日 (初版)
	2021 年 3 月 20 日 (第 2 版)
著　者	加治工　真市（かじく　しんいち）
編　者	中川　奈津子（なかがわ　なつこ）
出版者	国立国語研究所　言語変異研究領域
	190-8561 東京都立川市緑町 10-2
	0570-08-8595
	https://www.ninjal.ac.jp
印刷所	絢文社
ISBN	978-4-910257-02-0
	C3581